諸橋轍次著

大漢和辭典

巻四

修訂版

大修館書店

修訂者

東京教育大学名誉教授
文学博士　鎌田　正

財団法人静嘉堂文庫長　米山寅太郎

表紙背模様
引縄直
「程氏墨苑」（明版）巻十所載
（静嘉堂文庫蔵）

表紙平模様
唐千秋萬歳鉄鑑
「宣和博古図録」（明版）巻三十所載
（静嘉堂文庫蔵）

背文字
田代秋鶴筆

扉文字
諸橋轍次筆

装幀　山崎　登

巻四所載

總文字

部首順による檢字

親文字の下に記した洋數字は其の文字の番號。和數字は其の文字を掲載した頁。

寸部

一畫

寸 7411 一

𡬝 7412 三

二畫

对 7413 四

三畫

寺 7414 四

寻 7415 六

四畫

寽 7416 六

𡬦 7417 六

寿 7418 六

対 7419 六

寿 7419′ 六

五畫

𥝌 7420 六

导 7421 六

尀 7422 六

肘 7423 六

𡬷 7424 六

𡬱 7425 六

六畫

封 7426 六

𡬸 7427 一二

村 7428 一二

𡬺 7429 一二

射 7430 一三

𡬼 7431 一三

𠕂 7432 一三

七畫

専 7433 一三

射 7434 一三

尅 7435 一八

𡭂 7436 一八

将 7437 一八

将 7437′ 一八

八畫

將 7438 一八

專 7439 二四

尉 7440 二八

㝵 7441 三〇

𡭃 7442 三〇

𡭄 7443 三〇

𡭅 7444 三〇

九畫

尊 7445 三〇

𡭆 7446 三六

尋 7447 三六

尌 7448 三九

𡭇 7449 三九

對 7450 三九

尉 7451 三九

十畫

𡭋 7452 三九

對 7453 三九

𡭍 7454 三九

𡭎 7455 三九

十一畫

𡭌 7456 三九

對 7457 三九

𡭏 7458 四五

壽 7459 四五

十二畫

𦼮 7460 四五

𧻓 7461 四五

𨋵 7462 四五

對 7463 四五

導 7463′ 四五

十三畫

對 7464 四五

導 7465 四五

𡭡 7466 四六

十四畫

𡭢 7467 四六

導 7468 四六

十五畫

𡭣 7469 四六

十六畫

𢖍 7470 四六

十七畫

𡭤 7471 四六

十八畫

𡭥 7472 四六

小部

小 7473 四六

一畫

尐 7474 八九

少 7475 八九

𡭔 7476 九八

二畫

尒 7477 九八

尔 7478 九八

尔 7479 九八

三畫

尖 7480 九八

𡭗 7481 九九

示 7482 九九

尗 7483 九九

尘 7484 九九

𡭕 7485 九九

当 7486 九九

四畫

𡭖 7487 九九

𡭝 7488 九九

𡭞 7489 九九

𡭠 7490 九九

𡭡 7491 九九

𡭢 7492 一〇〇

五畫

尙 7493 一〇〇

尚 7493′ 一〇九

𡭦 7494 一〇九

𡭧 7495 一一〇

𡭨 7496 一一〇

六畫

𡭩 7497 一一〇

𡭪 7498 一一〇

𡭫 7499 一一〇

𡭬 7500 一一〇

𡭭 7501 一一〇

𡭮 7502 一一〇

𡭯 7503 一一〇

七畫

𡭰 7504 一一〇

𡭱 7505 一一〇

𡭲 7506 一一〇

𡭳 7507 一一〇

𡭴 7508 一一〇

八畫

𡭵 7509 一一〇

𡭶 7510 一一〇

𡭷 7511 一一〇

𡭸 7512 一一〇

𡭹 7513 一一〇

𡭺 7514 一一〇

𡭻 7515 一一〇

𡭼 7516 一一〇

九畫

𡭽 7517 一一〇

𡭾 7518 一一〇

𡭿 7519 一一〇

𡮀 7520 一一〇

𡮁 7521 一一〇

十畫

𡮂 7522 一一〇

𡮃 7523 一一一

𡮄 7524 一一一

十一畫

𡮅 7525 一一一

𡮆 7526 一一一

𡮇 7527 一一一

𡮈 7528 一一一

十二畫

𡮉 7529 一一一

𡮊 7530 一一一

𡮋 7531 一一一

十三畫

𡮌 7532 一一一

⿰系京 7533 一二二

十四畫

簀 7534 一二二

十五畫

⿰甚某 7535 一二二

⿰監少 7536 一二二

十八畫

⿰黽少 7537 一二二

尢部

尢 7538 一二二
尢 7539 一二二
⿱厶尢 7540 一二三
⿱厶尢 7541 一二三
尣 7542 一二三

一畫

尤 7543 一二三

二畫

尥 7544 一二四
无 7545 一二四
⿺尢又 7546 一二四
⿺尢厶 7547 一二四
⿺尢刂 7548 一二四

三畫

⿺尢勺 7549 一二四
⿺尢壬 7550 一二四
⿺尢壬 7550′ 一二四
⿺尢⿱⺈巳 7551 一二四
⿺尢壬 7552 一二四
⿺尢夂 7553 一二四

四畫

尨 7554 一二四
⿺尢止 7555 一二五
⿺尢木 7556 一二五
尫 7557 一二五
尪 7558 一二五
尩 7559 一二五
尬 7560 一二五
⿺尢公 7561 一二五
⿺尢水 7562 一二五
⿺尢且 7563 一二五
⿺尢反 7564 一二五
⿺尢目 7565 一二五
⿺尢勿 7566 一二五

五畫

⿺尢包 7567 一二五
⿺尢左 7568 一二六
⿺尢去 7569 一二六
⿺尢皮 7570 一二六
⿺尢石 7571 一二六

六畫

⿺尢从 7572 一二六
⿺尢舌 7573 一二六
⿺尢危 7574 一二六
⿺尢艮 7575 一二六
⿺尢夾 7576 一二六
⿺尢旨 7577 一二六
⿺尢吕 7578 一二六
⿰术尤 7579 一二六

七畫

⿺尢夋 7580 一二六
⿺尢坐 7581 一二六
⿺尢肖 7582 一二六
⿺尢圭 7583 一二六
⿺尢良 7584 一二六

八畫

⿰谷尤 7585 一二六
⿺尢奄 7586 一二六
⿺尢咅 7587 一二六
⿺尢果 7588 一二六
⿺尢卓 7589 一二六
⿺尢委 7590 一二七
⿺尢奇 7591 一二七
⿺尢咅 7592 一二七
⿺尢酒 7593 一二七

九畫

尰 7594 一二七
⿺尢畏 7595 一二七
⿺尢頁 7596 一二七
⿺尢是 7597 一二七
就 7598 一二七
就 7599 一二七
⿺尢扁 7600 一二九
⿺尢烏 7601 一二九
⿺尢酋 7602 一二九
⿺尢睪 7603 一二九

十畫

⿺尢兼 7604 一二九
⿺尢差 7605 一二九
⿺尢䍃 7606 一三〇
⿺尢奚 7607 一三〇
⿺尢員 7608 一三〇
⿺尢臭 7609 一三〇

十一畫

⿺尢崔 7610 一三〇
⿺尢婁 7611 一三〇
⿰黑尤 7612 一三〇
⿺尢鳥 7613 一三〇

十二畫

尵 7614 一三〇
⿰虘尤 7615 一三〇
⿺尢喬 7616 一三〇
⿺尢童 7617 一三〇
就 7618 一三〇
⿰尌尤 7619 一三〇

十三畫

⿺尢盧 7620 一三〇
就 7621 一三〇
⿰猷尤 7622 一三〇
⿰叕尤 7623 一三〇

十四畫

尷 7624 一三〇
就 7625 一三〇

十八畫

⿺尢雚 7626 一三〇

十九畫

⿺尢嬴 7627 一三〇

二十二畫

⿺尢囊 7628 一三〇

尸部

尸 7629 一三〇
尸 7630 一三一

一畫

尹 7631 一三一
尺 7632 一三一

二畫

戸 7633 一三二
尻 7634 一三二
尼 7635 一三二
⿸尸乙 7636 一三二
⿸尸又 7637 一三二
⿸尸人 7638 一三二
⿸尸丁 7639 一三二

三畫

⿸尸旦 7640 一三二
⿸尸口 7641 一三三
尽 7642 一三三
⿸尸乂 7643 一三三
⿸尸弓 7644 一三三
⿸尸子 7645 一三三
⿸尸川 7646 一三三
⿸尸工 7647 一三三
⿸尸巾 7648 一三三
⿸尸丑 7649 一三三

四畫

尾 7650 一三三
尿 7651 一三五
⿸尸夫 7652 一三五
局 7653 一三五
屁 7654 一三七
⿸尸吕 7655 一三七
⿸尸元 7656 一三七
⿸尸殳 7657 一三七
⿸尸孔 7658 一三七

五畫

⿸尸乏 7659 一三七
⿸尸弗 7660 一三七
⿸尸兄 7661 一三八
⿸尸夌 7662 一三八
居 7663 一三八
⿸尸立 7664 一四三
⿱亠⿸尸口 7665 一四三
屆 7666 一四三
届 7667 一四四
⿸尸甲 7668 一四四
屈 7669 一四四
⿸尸世 7670 一四九
⿸尸矢 7671 一四九
⿸尸比 7672 一四九

尾 7673 一四九
屌 7674 一四九
声 7675 一四九
屏 7676 一四九
层 7677 一四九
扇 7678 一四九
居 7679 一四九

六畫

屆 7680 一四九
屐 7681 一四九
屙 7682 一四九
眉 7683 一四九
屋 7684 一四九
屌 7685 一五二
屇 7686 一五二
屖 7687 一五二
屍 7688 一五二
屎 7689 一五三
屡 7690 一五三
屢 7691 一五三
屏 7692 一五三
屑 7693 一五三
屑 7694 一五三
屎 7695 一五三
屛 7696 一五三
屆 7697 一五三
屍 7698 一五三
尾 7699 一五三
声 7700 一五三
屆 7701 一五三
屍 7702 一五三
孱 7703 一五三
妮 7704 一五三
昼 7705 一五三

七畫

屄 7706 一五四
屖 7707 一五四
屐 7708 一五四
屑 7709 一五四
屒 7710 一五五
屘 7711 一五五
尿 7712 一五五
屓 7713 一五五
砒 7714 一五五
展 7715 一五五
屖 7716 一五七
屡 7717 一五七
屣 7718 一五七
屍 7719 一五七
站 7720 一五七
屄 7721 一五七
屎 7722 一五八
屍 7723 一五八
屣 7724 一五八
屄 7725 一五八

八畫

屙 7726 一五八
屙 7727 一五八
屜 7728 一五八
屎 7729 一五八
屗 7730 一五八
扇 7731 一五八
屡 7732 一五八
屟 7733 一五八
屏 7734 一五八
屜 7735 一六一
屌 7736 一六一
屋 7737 一六一
屝 7738 一六一
屐 7739 一六一
阻 7740 一六一
屋 7741 一六一
屈 7742 一六一
乳 7743 一六一
屁 7744 一六一
屄 7745 一六一
屬 7746 一六一
犀 7747 一六一
屎 7748 一六一

九畫

屆 7749 一六一
屣 7750 一六一
屐 7751 一六一
屆 7752 一六一
層 7753 一六一
屬 7754 一六三
屎 7755 一六三
屎 7756 一六三
屋 7757 一六三
層 7758 一六三
屖 7759 一六三
屆 7760 一六三
屠 7761 一六三
扁 7762 一六四
跩 7763 一六五
站 7764 一六五
屝 7765 一六五
屐 7766 一六五
屁 7767 一六五
屁 7768 一六五
屖 7769 一六五
屡 7770 一六五

十畫

屆 7771 一六五
屐 7772 一六五
屁 7773 一六五
屐 7774 一六五
屎 7775 一六五
屏 7776 一六五
屐 7777 一六五
屎 7778 一六五
屎 7779 一六五
屍 7780 一六五
屆 7781 一六五
屋 7782 一六五
扁 7783 一六五
屁 7784 一六五
屐 7785 一六五
屐 7786 一六五

十一畫

屢 7787 一六五
層 7788 一六六
屁 7789 一六六
屋 7790 一六六
屣 7791 一六六
屡 7792 一六六
屡 7793 一六六
屋 7794 一六六
屡 7795 一六六
屆 7796 一六六
屆 7797 一六六

十二畫

層 7798 一六六
履 7799 一六八
屐 7800 一七一
屢 7801 一七一
屋 7802 一七一
屏 7803 一七一
屎 7804 一七一
屆 7805 一七一
屆 7806 一七一
屏 7806′ 一七一

十三畫

屆 7807 一七一
屓 7808 一七一

十四畫

屖 7810 一七二
屢 7811 一七二

十五畫

屩 7812 一七二
屎 7813 一七二
屋 7814 一七二

十六畫

屩 7815 一七二
展 7816 一七二
屋 7817 一七三
屓 7818 一七三
屖 7819 一七三

十七畫

羸 7820 一七三

十八畫

屬 7821 一七三

十九畫

屜 7822 一七六

二十一畫

屭 7823 一七六
屭 7824 一七六

屮部

屮 7825 一七六

屮	7826	一七〇
屯	7827	一七〇
一畫		
屯	7828	一七〇
㞢	7829	一八〇
㞢	7830	一八〇
二畫		
芈	7831	一八〇
㞷	7832	一八〇
三畫		
屰	7833	一八〇
𡴂	7834	一八〇
艸	7835	一八〇
𢁒	7836	一八〇
𡴅	7837	一八〇
四畫		
芬	7838	一八〇
宍	7839	一八〇
𡴎	7840	一八〇
甹	7841	一八〇
五畫		
毐	7842	一八〇
命	7843	一八〇
𡴑	7844	一八〇
六畫		
省	7845	一八〇
𡴕	7846	一八一
草	7847	一八一
希	7848	一八一
夸	7849	一八一
七畫		
毒	7850	一八一
𡴛	7851	一八一
𡴜	7852	一八一
𡴝	7853	一八一
八畫		
毒	7854	一八一
𡴞	7855	一八一
九畫		
𡴟	7856	一八一
𡴠	7857	一八一
𡴡	7858	一八一
𡴢	7859	一八一
𡴣	7860	一八一
十畫		
𡴤	7861	一八一
𡴥	7862	一八一
十二畫		
𡴦	7863	一八一
𡴧	7864	一八一
𡴨	7865	一八一
嵓	7866	一八一
十八畫		
𡴩	7867	一八一
二十一畫		
𡴪	7868	一八一
山部		
山	7869	一八一
一畫		
乢	7870	二一一
𡵂	7871	二一一
𡵄	7872	二一一
二畫		
𡵆	7873	二一一
屳	7874	二一一
𡵋	7875	二一一
屴	7876	二一一
屼	7877	二一二
𡵔	7878	二一二
𡵕	7879	二一二
𡵝	7880	二一二
岂	7881	二一二
屵	7882	二一二
𡵟	7883	二一二
𡵘	7884	二一二
岀	7885	二一二
𡵙	7886	二一二
三畫		
屸	7887	二一二
𡵓	7888	二一二
屹	7889	二一二
𡵥	7890	二一二
屺	7891	二一二
𡵧	7892	二一三
𡶏	7893	二一三
岉	7894	二一三
𡶊	7895	二一三
𡶄	7896	二一三
岏	7897	二一三
屽	7898	二一三
屾	7899	二一三
𡵮	7900	二一三
岔	7901	二一三
岙	7902	二一三
岃	7903	二一三
𡵸	7904	二一三
𡵼	7905	二一三
四畫		
𡶠	7906	二一三
𡶐	7907	二一三
𡶓	7908	二一三
𡶘	7909	二一三
岜	7910	二一三
岄	7911	二一三
岫	7912	二一三
炭	7913	二一三
岅	7914	二一三
𡶗	7915	二一三
岆	7916	二一三
𡶖	7917	二一三
岠	7918	二一三
岇	7919	二一四
岉	7920	二一四
岈	7921	二一四
岉	7922	二一四
岎	7923	二一四
岕	7924	二一四
岊	7925	二一四
岋	7926	二一四
岻	7927	二一四
岌	7928	二一四
岌	7929	二一四
岍	7930	二一四
岦	7931	二一四
岐	7932	二一四
岎	7933	二一五
岾	7934	二一五
岏	7935	二一五
岐	7936	二一五
岑	7937	二一七
岒	7938	二一八
岓	7939	二一八
岸	7940	二一八
岙	7941	二一九
岦	7942	二一九
岸	7943	二一九
岔	7944	二一九
岸	7945	二一九
岖	7946	二一九
岦	7947	二一九
宋	7948	二一九
岧	7949	二一九
岴	7950	二一九
岚	7951	二一九
岣	7952	二一九
岀	7953	二一九
岚	7954	二一九
岭	7955	二一九
岷	7956	二一九
五畫		
岩	7957	二一九
岝	7958	二一九
岟	7959	二一九
岘	7960	二一九
岠	7961	二一九
岡	7962	二二〇
岶	7963	二二二
岠	7964	二二二
岂	7965	二二二
峃	7966	二二二
峡	7967	二二二
岢	7968	二二二
岢	7969	二二二
岣	7970	二二二
岖	7971	二二四
宊	7972	二二四
岤	7973	二二四
岩	7974	二二四
岥	7975	二二四

崦 7976 二三四
岦 7977 二三四
⿱丕山 7978 二三四
⿰山𠂢 7979 二三四
⿰山戊 7980 二三四
岧 7981 二三四
岹 7982 二三四
岙 7983 二三四
岨 7984 二三四
岩 7985 二三四
⿱不石 7986 二三五
⿰山石 7987 二三五
⿰山未 7988 二三六
⿱山弗 7989 二三六
岪 7990 二三六
岫 7991 二三六
岬 7992 二三六

岭 7993 二三六
岮 7994 二三六
岯 7995 二三七
岰 7996 二三七
岱 7997 二三七
⿰山出 7998 二三八
岲 7999 二三八
⿱山兄 8000 二三八
岳 8001 二三八
岴 8002 二四一
岵 8003 二四一
⿰山加 8004 二四一
岶 8005 二四一
⿰山尼 8006 二四一
岷 8007 二四一
⿰山甘 8008 二四二
岸 8009 二四二

岺 8010 二四三
⿶凵山 8011 二四三
妛 8012 二四三
⿱罒山 8013 二四三
⿱禾山 8014 二四四
峀 8015 二四四
⿱犮山 8016 二四四
岻 8017 二四四
峒 8018 二四四

六畫

峆 8019 二四四
峇 8020 二四四
峈 8021 二四四
峉 8022 二四四
⿱白山 8023 二四四
⿱山自 8024 二四四
⿵冂凶 8025 二四四

⿰山删 8026 二四四
⿰山羊 8027 二四四
峋 8028 二四四
峌 8029 二四四
⿰山毛 8030 二四四
⿰山聿 8031 二四四
⿰山兑 8032 二四四
⿱山艮 8033 二四四
峏 8034 二四四
⿰山囟 8035 二四四
峐 8036 二四四
⿱山至 8037 二四五
峒 8038 二四五
峝 8039 二四五
峓 8040 二四五
⿰山老 8041 二四五
⿱山老 8042 二四五

⿰山衮 8043 二四五
⿰山⿱⺍木 8044 二四五
⿱山旨 8045 二四五
⿱丕出 8046 二四五
峖 8047 二四五
峗 8048 二四五
峞 8049 二四五
峘 8050 二四六
⿰亘山 8051 二四六
岍 8052 二四六
峙 8053 二四六
⿱山⿱丰土 8054 二四六
⿰岁刂 8055 二四六
⿱山㕣 8056 二四六
⿱尸出 8057 二四六
⿱此山 8058 二四六
⿱夲山 8059 二四六

⿱山有 8060 二四六
⿱山圭 8061 二四六
⿰山字 8062 二四六
⿱屾山 8063 二四七
⿱山⿰冊冊 8064 二四七
⿰山⿴冂工 8065 二四七
⿰山吴 8066 二四七
⿱吅山 8067 二四七
峠 8068 二四七
峡 8068′ 二四七

七畫

⿰山坐 8069 二四七
⿰山尾 8070 二四七
峨 8071 二四七
峩 8072 二四八
峪 8073 二四八
⿰山車 8074 二四八

⿰山完 8075 二四八
⿰山⿰月刂 8076 二四八
⿰山那 8077 二四八
⿰山⿰冊阝 8078 二四八
⿱山旨 8079 二四八
⿰山旱 8080 二四八
崖 8081 二四八
⿱山旡 8082 二四八
峬 8083 二四八
⿰山求 8084 二四九
峭 8085 二四九
峮 8086 二五〇
⿱山君 8087 二五〇
⿰山卒 8088 二五〇
⿰山忌 8089 二五〇
⿰山孚 8090 二五〇
⿰山弄 8091 二五〇

⿰山兌 8092 二五〇
峯 8093 二五〇
峰 8094 二五一
⿰山希 8095 二五一
⿰犭吾 8096 二五一
⿰⿱山禾刂 8097 二五一
峲 8098 二五三
⿰扌⿱山又 8099 二五三
⿱山夜 8100 二五三
⿰山肙 8101 二五三
⿰山⿸虍七 8102 二五三
⿱山忌 8103 二五三
⿰山良 8104 二五三
⿱山良 8105 二五三
峴 8106 二五三
⿰山宏 8107 二五三
島 8108 二五三

峷 8109 二五四
⿰山咸 8110 二五四
峹 8111 二五四
⿰山余 8112 二五四
⿰山妥 8113 二五四
⿰山吳 8114 二五四
峺 8115 二五四
峻 8116 二五四
⿱山吉 8117 二五六
峼 8118 二五六
⿱即山 8119 二五六
⿰山夸 8120 二五六
⿰山含 8121 二五六
峽 8122 二五六
⿰氵岳 8123 二五八
⿰山巠 8124 二五八
峿 8125 二五八

⿰山芒 8126 二五八
⿱乖山 8127 二五八
⿱山关 8128 二五八
⿰山孛 8129 二五八
⿱山成 8130 二五八
⿱山夸 8131 二五八
⿰山免 8132 二五八
⿱山免 8133 二五八
⿱山⿱旦又 8134 二五八
⿱山豆 8135 二五八
⿵冂⿱夫山 8136 二五八
⿱山住 8137 二五八
⿵冂⿱山貝 8138 二五八
⿰山足 8139 二五八
⿱山舌 8140 二五八
⿰山𠕁 8141 二五八
⿱艹出 8142 二五八

峇	8143	二五八
岡	8144	二五八
峰	8145	二五八
八畫		
崆	8146	二五八
幽	8147	二五九
崶	8148	二五九
崵	8149	二五九
崂	8150	二五九
崃	8151	二五九
崇	8152	二五九
崈	8153	二六六
崉	8154	二六六
嵐	8155	二六六
崊	8156	二六六
崼	8157	二六六
崹	8158	二六六
㟶	8159	二六六
崻	8160	二六六
崋	8161	二六六
崾	8162	二六六
崸	8163	二六六
崺	8164	二六六
崓	8165	二六六
崷	8166	二六六
崌	8167	二六六
崍	8168	二六六
崎	8169	二六七
崏	8170	二六七
崟	8171	二六七
崐	8172	二六七
崑	8173	二六七
崱	8174	二七一
崒	8175	二七一
崪	8176	二七一
崮	8177	二七一
崔	8178	二七一
崕	8179	二八〇
崖	8180	二八〇
崤	8181	二八二
崘	8182	二八二
崙	8183	二八二
崚	8184	二八二
崛	8185	二八二
崫	8186	二八三
崜	8187	二八三
崰	8188	二八三
崞	8189	二八三
崣	8190	二八三
崛	8191	二八三
崀	8192	二八三
崄	8193	二八三
崴	8194	二八三
崿	8195	二八三
崝	8196	二八三
崞	8197	二八三
崦	8198	二八三
崟	8199	二八四
崠	8200	二八四
崡	8201	二八四
崒	8202	二八四
崢	8203	二八四
崝	8204	二八四
崣	8205	二八四
崤	8206	二八四
崥	8207	二八五
崦	8208	二八五
崧	8209	二八五
崨	8210	二八五
崩	8211	二八五
崩	8212	二八五
崩	8212′	二八六
崩	8213	二八六
崚	8214	二八六
崣	8215	二八六
崟	8216	二八六
崘	8217	二八六
崋	8218	二八六
崝	8219	二八六
崗	8220	二八六
崗	8221	二八七
崵	8222	二八七
崿	8223	二八七
崌	8224	二八七
崼	8225	二八七
崮	8226	二八七
崕	8227	二八七
崇	8228	二八七
崊	8229	二八七
崋	8230	二八七
崏	8231	二八七
崑	8232	二八七
崤	8233	二八七
崓	8234	二八七
崘	8235	二八七
崐	8236	二八七
崧	8237	二八七
崮	8238	二八七
九畫		
崱	8239	二八七
崡	8240	二八七
崵	8241	二八七
崲	8242	二八七
崳	8243	二八七
崴	8244	二八七
崵	8245	二八八
崵	8246	二八八
嵳	8247	二八八
嵳	8248	二八八
嵥	8249	二八八
嵦	8250	二八八
嵧	8251	二八八
嵨	8252	二八八
嵃	8253	二八八
嵊	8254	二八八
嵄	8255	二八八
嵅	8256	二八八
嵆	8257	二八八
嵵	8258	二八八
嵂	8259	二八八
嵬	8260	二八八
嵔	8261	二八八
嵑	8262	二八八
嵒	8263	二八八
嵓	8264	二八九
嵕	8265	二八九
嵁	8266	二八九
嵂	8267	二八九
嵃	8268	二八九
嵄	8269	二八九
嵛	8270	二八九
嵗	8271	二八九
嵆	8272	二八九
嵇	8273	二九〇
嵉	8274	二九〇
嵈	8275	二九〇
嵉	8276	二九〇
嶮	8277	二九〇
嵋	8278	二九〇
嵌	8279	二九〇
嵍	8280	二九一
嵎	8281	二九一
嵏	8282	二九一
嵕	8283	二九一
嵔	8284	二九一
嵏	8285	二九一
嵕	8286	二九一
嵃	8287	二九一
嵏	8288	二九一
嵐	8289	二九一
嵒	8290	二九二
嵑	8291	二九二
嵔	8292	二九二
嵏	8293	二九三
嵒	8294	二九三
嵓	8295	二九三
嵙	8296	二九三
嵛	8297	二九三
嵘	8298	二九三
嵞	8299	二九三
嵟	8300	二九三
嵡	8301	二九三
嵑	8302	二九三
嵛	8303	二九三
嵤	8304	二九三
嵣	8305	二九三
嵞	8306	二九三
嵥	8307	二九三
嵦	8308	二九三
嵧	8309	二九三

⿱山辰	8310	二九三
⿰山盈	8311	二九三
⿰山幽	8312	二九三
⿰阝⿱左山	8313	二九三
⿰山看	8314	二九三
⿱山叟	8315	二九三
⿰山昏	8316	二九三
⿰山宣	8317	二九三
嵖	8318	二九四
崴	8319	二九四

十畫

嵊	8320	二九四
⿱金山	8321	二九四
⿰山彖	8322	二九四
⿰山舀	8323	二九四
⿰山益	8324	二九四
⿰山責	8325	二九四
⿰山冥	8326	二九四
⿱山⿸厂肥	8327	二九四
嵟	8328	二九四
嵠	8329	二九四
⿰山䍃	8330	二九四
嵡	8331	二九四
嵢	8332	二九四
⿰阝宰	8333	二九四
⿰山務	8334	二九四
嵣	8335	二九五
⿰阝⿱山夌	8336	二九五
⿱⿰止止山	8337	二九五
嵥	8338	二九五
⿴囗幽	8339	二九五
⿰山羔	8340	二九五
⿰山窋	8341	二九五
⿱山原	8342	二九五
嵦	8343	二九五
⿰豸岈	8344	二九五
⿱𡨄山	8345	二九五
嵧	8346	二九五
嵨	8347	二九五
嵩	8348	二九五
嵪	8349	二九七
⿰山栗	8350	二九七
⿰山夏	8351	二九七
⿰山耆	8352	二九七
⿰山奉	8353	二九七
嵫	8354	二九七
嵬	8355	二九八
⿰山鬼	8356	二九八
⿰身弱	8357	二九八
⿱臤山	8358	二九八
嵭	8359	二九八
⿰山眞	8360	二九八
⿰山真	8361	二九八
⿱山眞	8362	二九八
嵯	8363	二九八
嵳	8364	二九九
嵰	8365	二九九
嵱	8366	二九九
嵲	8367	二九九
⿱山臬	8368	二九九
⿰山晉	8369	二九九
豈	8370	二九九
⿱山軍	8371	二九九
嵴	8372	二九九
⿱山戔	8373	二九九
⿰山⿸厂辰	8374	二九九
⿵冂⿱山丰	8375	二九九
⿰山皋	8376	二九九

十一畫

⿱山陵	8377	二九九
⿰山⿱山夋	8378	二九九
⿰山盖	8379	二九九
⿱山郭	8380	二九九
嵷	8381	二九九
⿱山從	8382	三〇〇
⿰弓⿱山虫	8383	三〇〇
嵺	8384	三〇〇
⿱山翏	8385	三〇〇
嵻	8386	三〇〇
⿱山康	8387	三〇〇
⿱𡴭軍	8388	三〇〇
⿰山虘	8389	三〇〇
⿰山卿	8390	三〇〇
嵽	8391	三〇〇
⿰山室	8392	三〇〇
⿱山巢	8393	三〇〇
⿰山畢	8394	三〇〇
⿰山莫	8395	三〇〇
⿰山庶	8396	三〇〇
⿰山⿱亼酉	8397	三〇一
嵾	8398	三〇一
⿰山參	8399	三〇一
⿰山國	8400	三〇一
⿱山貢	8401	三〇一
⿰豸多	8402	三〇一
⿰山雩	8403	三〇一
⿸厂⿱林山	8404	三〇一
⿰山麻	8405	三〇一
⿱⿰口口岩	8406	三〇一
⿱癶⿱口山	8407	三〇一
嶁	8408	三〇一
⿱山婁	8409	三〇一
嶂	8410	三〇一
⿱斬山	8411	三〇一
嶃	8412	三〇一
嶄	8413	三〇二
嶅	8414	三〇二
⿱山敖	8415	三〇二
⿰山票	8416	三〇二
⿰山衰	8417	三〇二
⿰山曼	8418	三〇二
⿰山⿱𠂉品	8419	三〇二
⿱山族	8420	三〇二
⿰山庸	8421	三〇二
⿰山莽	8422	三〇二
嶆	8423	三〇二
⿱山累	8424	三〇二
⿰山累	8425	三〇二
嶇	8426	三〇二
⿰山扈	8427	三〇三
⿰山爽	8428	三〇三
⿱山將	8429	三〇三
⿰山崔	8430	三〇三
摧	8431	三〇三
⿱山祭	8432	三〇三
⿱鳥山	8433	三〇三
嶋	8434	三〇三
嶌	8435	三〇三
⿱奋山	8436	三〇三
⿱動山	8437	三〇三
⿰山華	8438	三〇三
⿰山⿴山絲	8439	三〇三
⿱山帶	8440	三〇三
⿱⿰氵岥女	8441	三〇三
嶍	8442	三〇三

十二畫

⿰彳⿱山复	8443	三〇三
⿱山⿸厂⿰⿱白匕巴	8444	三〇三
⿰山單	8445	三〇三
⿱宀⿱𥘅糸	8446	三〇三
⿱山隆	8447	三〇四
⿰山象	8448	三〇四
⿱山敬	8449	三〇四
⿱山就	8450	三〇四
⿰山⿸广卷	8451	三〇四
⿱山湯	8452	三〇四
⿰山喜	8453	三〇四
⿰山閒	8454	三〇四
⿱啓山	8455	三〇四
⿰山閏	8456	三〇四
⿰山童	8457	三〇四
嶒	8458	三〇四
⿰山粤	8459	三〇四
⿱山⿱冖粤	8460	三〇四
⿰山虛	8461	三〇四
⿱山覃	8462	三〇四
嶓	8463	三〇四
嶔	8464	三〇四
⿰山奧	8465	三〇五
⿰山頓	8466	三〇五
嶕	8467	三〇五
嶣	8468	三〇五
嶠	8469	三〇五
⿱山欺	8470	三〇五
⿱敖⿱口山	8471	三〇五
⿱隹⿱山木	8472	三〇五
⿰山集	8473	三〇五
⿰山翕	8474	三〇五
嶗	8475	三〇五
⿰禾⿱山夌	8476	三〇五

嶙 8477 三〇五
嶚 8478 三〇五
嶛 8479 三〇六
⿰山皐 8480 三〇六
嶜 8481 三〇六
嶝 8482 三〇六
嶴 8483 三〇六
⿱𦥯号 8484 三〇六
⿱吅⿲口山口 8485 三〇六
⿰阝⿱有山 8486 三〇六
嶟 8487 三〇六
嶠 8488 三〇六
⿱山喬 8489 三〇六
嶡 8490 三〇六
嶢 8491 三〇七
嶤 8492 三〇七
⿰山曼 8493 三〇七
嵭 8494 三〇七
⿰山菐 8495 三〇七
甜 8496 三〇七
⿰山朝 8497 三〇七
⿱山路 8498 三〇七
⿱山甹 8499 三〇七
⿱山系 8500 三〇七

十三畫

嶦 8501 三〇七
嶧 8502 三〇七
嶨 8503 三〇八
嶔 8504 三〇八
嶩 8505 三〇八
嶪 8506 三〇八
嶫 8507 三〇八
⿰山會 8508 三〇八
⿰山⿸虍缶 8509 三〇八
嶬 8510 三〇九
⿱義山 8511 三〇九
嶁 8512 三〇九
⿸屵非 8513 三〇九
⿰山⿰專刂 8514 三〇九
⿰山臯 8515 三〇九
⿱享辛 8516 三〇九
⿱山辥 8517 三〇九
⿱山皷 8518 三〇九
⿰阝⿱㥯山 8519 三〇九
嶮 8520 三〇九
嶭 8521 三一〇
⿱山敫 8522 三一〇
⿺辶⿱山軍 8523 三一〇
嵮 8524 三一〇
嶯 8525 三一〇
嶰 8526 三一〇
⿰阝嵬 8527 三一〇
⿰山萬 8528 三一〇
⿰山屬 8529 三一〇
⿰山葛 8530 三一〇
⿱山賁 8531 三一〇
嶲 8532 三一〇
⿰山當 8533 三一〇
⿱山蓋 8534 三一〇
⿸广參 8535 三一〇
⿸厂歐 8536 三一一
⿱僉山 8537 三一一
磪 8538 三一一
嵳 8539 三一一
⿱山鹵 8540 三一一
⿲木山木 8541 三一一
⿱圂山 8542 三一一
⿰山奧 8543 三一一

十四畫

⿰山蒙 8544 三一一
⿱山疑 8545 三一一
⿰山豪 8546 三一一
⿱山警 8547 三一一
嶸 8548 三一一
⿰山壽 8549 三一一
⿰山蒿 8550 三一一
⿱山踣 8551 三一一
⿰山廖 8552 三一一
⿱山領 8553 三一一
⿸厂頻 8554 三一三
⿰山⿱⺈兔 8555 三一三
⿱山⿸厂戲 8556 三一三
⿰山翟 8557 三一三
⿰山對 8558 三一三
⿱山對 8559 三一三
⿰山厭 8560 三一三
嶼 8561 三一三
⿱山與 8562 三一三
⿱與山 8563 三一三
⿰山舜 8564 三一三
⿰山蒦 8565 三一四
嶽 8566 三一四
⿱獄山 8567 三一六
嶾 8568 三一六
⿱山憲 8569 三一六
⿱山襄 8570 三一六
⿰山齊 8571 三一六
⿸广崑 8572 三一六
⿱山⿱冖⿱冖示 8573 三一六
⿱⿰山山号 8574 三一六
⿰木⿱山旁 8575 三一六
⿱山競 8576 三一六
⿰木⿱山羕 8577 三一六
⿱山臧 8578 三一六

十五畫

⿰山賛 8579 三一六
⿰山⿸厂曼 8580 三一六
巀 8581 三一六
⿱山數 8582 三一六
⿰山慮 8583 三一六
⿱山⿰谷頁 8584 三一六
⿰山廣 8585 三一六
⿰山⿱宀弱 8586 三一六
⿰山摩 8587 三一六
⿰山厲 8588 三一六
⿰山畾 8589 三一七
⿱山畾 8590 三一七
⿰山⿸广無 8591 三一七
⿱⺮東 8592 三一七
⿱山湯 8593 三一七
⿰山齒 8594 三一七
⿱山寫 8595 三一七

十六畫

⿰山⿱亠韋 8596 三一七
⿰山盧 8597 三一七
⿱山龍 8598 三一七
⿱龍山 8599 三一七
⿱吅⿱山畾 8600 三一七
⿱宀⿱屾木 8601 三一七
⿺嵬疑 8602 三一七
⿰山⿱吅隹 8603 三一七
⿰山襄 8604 三一七
⿱山襄 8605 三一七
⿰山褱 8606 三一七
⿰山羲 8607 三一七
⿰山韱 8608 三一七
巂 8609 三一七
⿸虍⿱品山 8610 三一七
⿱山縣 8611 三一七
⿱山薛 8612 三一八

十七畫

巆 8613 三一八
巇 8614 三一八
⿰山鮮 8615 三一八
⿰阝⿱山㥯 8616 三一八
⿰革⿱山匊 8617 三一八
巉 8618 三一八
⿰山⿺辶虘 8619 三一八
⿱山彌 8620 三一八
巊 8621 三一八
巋 8622 三一八
⿰山薛 8623 三一九
⿸广嵒 8624 三一九
巖 8624′ 三一九

十八畫

⿰山壘 8625 三一九
巍 8626 三一九
⿺嵬彖 8627 三一九
⿱魏山 8628 三一九
⿰山雙 8629 三一九
巏 8630 三一九
⿱山⿰鬲頁 8631 三二〇
⿰山豐 8632 三二〇
⿰糸⿱山會 8633 三二〇
⿰崟鬼 8634 三二〇
⿱山⿰糸隹 8635 三二〇

十九畫

⿰山夒 8636 三二〇
⿰山羅 8637 三二〇
巑 8638 三二〇

巎 8639 三二〇
巒 8640 三二〇
[illegible] 8641 三二〇
[illegible] 8642 三二〇
[illegible] 8643 三二〇
巔 8644 三二〇
[illegible] 8645 三二一
[illegible] 8646 三二一
[illegible] 8647 三二一
[illegible] 8648 三二一

二十畫

巖 8649 三二一
巗 8650 三二五
巘 8651 三二五
巚 8652 三二五

二十一畫

巙 8653 三二五
[illegible] 8654 三二五
[illegible] 8655 三二五
[illegible] 8656 三二五
[illegible] 8657 三二五
[illegible] 8658 三二五
[illegible] 8659 三二五
[illegible] 8660 三二五

二十二畫

[illegible] 8661 三二五

二十三畫

[illegible] 8662 三二五

二十四畫

[illegible] 8663 三二六
[illegible] 8664 三二六
[illegible] 8665 三二六
[illegible] 8666 三二六

二十六畫

[illegible] 8667 三二六

二十九畫

[illegible] 8668 三二六

巛部

巛 8669 三二六
巛 8670 三二六
𡿨 8671 三二六
巜 8672 三二六
川 8673 三二六
[illegible] 8674 三三一

一畫

[illegible] 8675 三三一

三畫

[illegible] 8676 三三一
[illegible] 8677 三三一
州 8678 三三一
巟 8679 三三四
[illegible] 8680 三三四
巡 8680′ 三三四

四畫

巠 8681 三三四
[illegible] 8682 三三四
[illegible] 8683 三三四
巡 8684 三三四
[illegible] 8685 三三七

五畫

[illegible] 8686 三三七
[illegible] 8687 三三七

六畫

[illegible] 8688 三三七
[illegible] 8689 三三七
[illegible] 8690 三三七
[illegible] 8691 三三七
[illegible] 8692 三三八

七畫

[illegible] 8693 三三八
[illegible] 8694 三三八

八畫

[illegible] 8695 三三八
巢 8696 三三八
巣 8696′ 三四〇
[illegible] 8697 三四〇
[illegible] 8698 三四〇

九畫

[illegible] 8699 三四〇

十一畫

[illegible] 8700 三四〇
[illegible] 8701 三四〇

十二畫

[illegible] 8702 三四〇
[illegible] 8703 三四〇

十三畫

[illegible] 8704 三四〇

十四畫

[illegible] 8705 三四〇

十五畫

[illegible] 8706 三四〇

十六畫

[illegible] 8707 三四〇
[illegible] 8708 三四〇

十七畫

[illegible] 8709 三四〇

十九畫

[illegible] 8710 三四〇
[illegible] 8711 三四〇

二十一畫

[illegible] 8712 三四〇

二十六畫

[illegible] 8713 三四〇

工部

工 8714 三四〇

一畫

五 8715 三四五
王 8716 三四五
[illegible] 8717 三四五
[illegible] 8718 三四五
[illegible] 8719 三四五

二畫

左 8720 三四五
巧 8721 三六六
巨 8722 三六九
[illegible] 8723 三七四
[illegible] 8724 三七四
[illegible] 8725 三七四

三畫

巩 8726 三七四

四畫

[illegible] 8727 三七四
巫 8728 三七四
[illegible] 8729 三七七
[illegible] 8730 三七七

六畫

[illegible] 8731 三七七

七畫

差 8732 三七七
[illegible] 8733 三八一

八畫

[illegible] 8734 三八一

九畫

[illegible] 8735 三八一

十二畫

[illegible] 8736 三八一
[illegible] 8737 三八一
[illegible] 8738 三八一

十三畫

[illegible] 8739 三八一
[illegible] 8740 三八一

十六畫

[illegible] 8741 三八一

己部

己 8742 三八一
已 8743 三八三
巳 8744 三八五

一畫

巴 8745 三八五

二畫

巵 8746 三九一
[illegible] 8747 三九一

三畫

[illegible] 8748 三九一
[illegible] 8749 三九一
[illegible] 8750 三九一

四畫

巵 8751 三九一

五畫

[illegible] 8752 三九一
巹 8753 三九一

六畫

[illegible] 8754 三九一
[illegible] 8755 三九一
巷 8756 三九一
巸 8757 三九三
巹 8758 三九三

巺 8759 三九三
巻 8759′ 三九三
七畫
巹 8760 三九三
八畫
⿱𢀸具 8761 三九三
巷 8762 三九三
⿱龹巳 8763 三九三
⿱山巻 8764 三九三
九畫
巽 8765 三九三
⿱𢀸廾 8766 三九四
十二畫
⿱𢀸兵 8767 三九四
十三畫
⿰牛⿱皿巳 8768 三九四
十四畫
⿰⿱巳皿⿱巛电 8769 三九四
十五畫
⿱畾巳 8770 三九四

巾部

巾 8771 三九四
一畫
巿 8772 三九七
帀 8773 三九七
币 8774 三九七
二畫
市 8775 三九七
⿰巾几 8776 四〇三
⿰巾匕 8777 四〇三
布 8778 四〇三
⿸丆巾 8779 四一二
⿱⺈巾 8780 四一二
帄 8781 四一三
三畫
⿰巾刃 8782 四一三
⿰巾勺 8783 四一三
⿰巾大 8784 四一三
⿱宀巾 8785 四一三
⿰巾干 8786 四一三
帆 8787 四一三
⿰巾彡 8788 四一三
⿰巾巨 8789 四一三
⿻彐巾 8790 四一三
⿱夂巾 8791 四一三
⿱乂布 8792 四一三
⿰巾亏 8793 四一三
⿰巾亡 8794 四一三
⿰巾氏 8795 四一三
⿰巾勿 8796 四一三
吊 8797 四一三
⿰巾弓 8798 四一三
⿱夕巾 8799 四一三
师 8800 四一三
四畫
⿰巾及 8801 四一三
帉 8802 四一三
⿱分巾 8803 四一三
⿰巾比 8804 四一三
⿰巾欠 8805 四一三
⿱尹巾 8806 四一四
⿰巾夫 8807 四一四
帊 8808 四一四
⿱氏巾 8809 四一四
⿰巾介 8810 四一四
⿰巾內 8811 四一四
⿰巾夬 8812 四一四
希 8813 四一四
⿱爻巾 8814 四一七
⿱耂巾 8815 四一七
帍 8816 四一七
⿰巾少 8817 四一七
⿰巾爪 8818 四一七
⿱今巾 8819 四一七
⿰巾今 8820 四一七
⿰巾日 8821 四一八
⿰巾尤 8822 四一八
⿱父巾 8823 四一八
⿰巾夭 8824 四一八
⿱丘巾 8825 四一八
⿰巾木 8826 四一八
⿸厂⿱丷巾 8827 四一八
⿰巾支 8828 四一八
⿰巾斤 8829 四一八
⿰巾冈 8830 四一八
⿰巾公 8831 四一八
⿱文巾 8832 四一八
⿱乄布 8833 四一八
五畫
⿰巾冬 8834 四一八
⿱召巾 8835 四一八
⿰巾布 8836 四一八
⿰巾宁 8837 四一八
帑 8838 四一八
⿰巾必 8839 四一八
⿰巾召 8840 四一九
⿰巾正 8841 四一九
⿰巾弗 8842 四一九
帒 8843 四一九
帓 8844 四一九
⿱此巾 8845 四一九
帔 8846 四一九
⿰巾句 8847 四一九
帕 8848 四一九
帖 8849 四二〇
帗 8850 四二一
帘 8851 四二一
帙 8852 四二一
㡀 8853 四二一
帚 8854 四二一
帛 8855 四二三
⿱令巾 8856 四二三
⿰巾乍 8857 四二三
⿰巾玄 8858 四二三
⿰巾幼 8859 四二三
⿰巾付 8860 四二三
⿱立巾 8861 四二三
⿱⿱亠口巾 8862 四二三
⿰巾市 8863 四二三
⿰由巾 8864 四二三
六畫
帝 8865 四二三
⿰巾夸 8866 四三〇
帞 8867 四三〇
⿰巾劦 8868 四三〇
⿰巾式 8869 四三〇
⿱列巾 8870 四三〇
⿰巾列 8871 四三〇
⿰巾夷 8872 四三〇
帟 8873 四三〇
⿰巾㐬 8874 四三〇
⿰巾宗 8875 四三〇
⿱宀⿱丝巾 8876 四三〇
⿰巾匈 8877 四三〇
⿱白⿰巾弓 8878 四三〇
帡 8879 四三〇
帢 8880 四三〇
帣 8881 四三〇
⿰巾同 8882 四三一
⿰巾共 8883 四三一
帤 8884 四三一
⿰巾危 8885 四三一
帥 8886 四三一
⿰巾多 8887 四三三
⿱非巾 8888 四三三
⿰帛卩 8889 四三三
⿰巾全 8890 四三三
⿱⿱亠口帀 8891 四三三
⿰巾毛 8892 四三三
⿰巾曳 8893 四三三
⿱亠⿱丷⿻冂巾 8894 四三三
帬 8895 四三三
⿱⺍⿻冖巾 8896 四三三
⿱㚢巾 8897 四三三
⿱⺊⿱日巾 8898 四三三
⿱⿰丬夕巾 8899 四三三
七畫
帮 8900 四三三
⿰巾瓦 8901 四三三
⿰巾肙 8902 四三三
⿰巾谷 8903 四三三
帨 8904 四三三
⿰巾免 8905 四三三
⿰巾每 8906 四三三
⿰巾志 8907 四三三
⿰巾咸 8908 四三三
⿰巾冏 8909 四三三
帩 8910 四三三
⿰巾合 8911 四三三

帯	8912	四三三
帨	8913	四三三
帪	8914	四三三
帤	8915	四三三
師	8916	四三三
帠	8917	四四〇
㡛	8918	四四〇
𢃔	8919	四四〇
帬	8920	四四〇
㡓	8921	四四〇
帟	8922	四四〇
㡏	8923	四四〇
㡋	8924	四四〇
㡊	8925	四四〇
席	8926	四四〇
帍	8927	四四三
𢄍	8928	四四三
帶	8929	四四三
帰	8930	四四三

八畫

𢅄	8931	四四三
㡢	8932	四四三
𢃿	8933	四四四
㡖	8934	四四四
𢃘	8935	四四四
𢃽	8936	四四四
𢃤	8937	四四四
帡	8938	四四四
帳	8939	四四四
㟣	8940	四四五
𢃳	8941	四四五
𢃵	8942	四四五
帴	8943	四四六
𢅁	8944	四四六
㡉	8945	四四六
𢃥	8946	四四六
𢄂	8947	四四六
㡍	8948	四四六
帵	8949	四四六
帶	8950	四四六
𢃰	8951	四四九
㡋	8952	四五〇
㡔	8953	四五〇
帷	8954	四五〇
常	8955	四五一
㡇	8956	四六二
𢃹	8957	四六二
帺	8958	四六二
㡤	8959	四六二
㡈	8960	四六二
𢃲	8961	四六二
㡐	8962	四六二
㡙	8963	四六二
㡭	8964	四六二
㡠	8965	四六三
𢃭	8966	四六三
帣	8967	四六三
𢃼	8968	四六三

九畫

㡏	8969	四六三
㡑	8970	四六三
帽	8971	四六三
帽	8972	四六三
𢂇	8973	四六三
㡡	8974	四六四
帾	8975	四六四
㡛	8976	四六四
㡈	8977	四六四
𢄊	8978	四六四
㡑	8979	四六四
㡙	8980	四六四
㡌	8981	四六四
幀	8982	四六四
㡜	8983	四六四
𢄼	8984	四六四
㡤	8985	四六四
幉	8986	四六四
𢄳	8987	四六四
㡓	8988	四六四
𢄒	8989	四六四
𢄕	8990	四六四
𢄆	8991	四六四
㡖	8992	四六四
幃	8993	四六四
幄	8994	四六五
幅	8995	四六五
㡫	8996	四六六
𢃼	8997	四六六
帮	8998	四六六
幇	8999	四六六
𢂽	9000	四六六
𢄐	9001	四六六
𢄑	9002	四六六
㡢	9003	四六六
帶	9004	四六六
𢄹	9005	四六六
㡂	9006	四六六
𢄎	9007	四六六
𢄏	9008	四六七
𢄓	9009	四六七

十畫

㡁	9010	四六七
帶	9011	四六七
𢄵	9012	四六七
㡚	9013	四六七
㡝	9014	四六七
㡜	9015	四六七
幊	9016	四六七
𢅃	9017	四六七
㡧	9018	四六七
幋	9019	四六七
𢄸	9020	四六七
㡣	9021	四六七
幌	9022	四六七
幍	9023	四六七
幎	9024	四六八
幐	9025	四六八
幏	9026	四六八
㡁	9027	四六八
㡗	9028	四六八
幈	9029	四六八
𢄶	9030	四六八
幠	9031	四六八
㡚	9032	四六八
𢄷	9033	四六八
𢄺	9034	四六八
幤	9035	四六八
𢄻	9036	四六八
㡫	9037	四六八

十一畫

𢅊	9038	四六八
㡖	9039	四六九
㡦	9040	四六九
幑	9041	四六九
𢅎	9042	四六九
幒	9043	四六九
𢅏	9044	四六九
𢅦	9045	四六九
𢅐	9046	四六九
幓	9047	四六九
𢅋	9048	四六九
𢅑	9049	四六九
幔	9050	四六九
幕	9051	四七〇
幙	9052	四七二
幖	9053	四七二
㡘	9054	四七二
𢅥	9055	四七二
𢃯	9056	四七二
幗	9057	四七二
幘	9058	四七二
𢅒	9059	四七三
𢅓	9060	四七三
㡧	9061	四七三
𢅔	9062	四七三
𢃻	9063	四七三
𢅕	9064	四七三
幡	9065	四七三
㡩	9066	四七三
幢	9067	四七三

十二畫

幜	9068	四七三
幯	9069	四七三
𢅧	9070	四七三
𢅪	9071	四七三
㡬	9072	四七三
𢅰	9073	四七三
幝	9074	四七三
𢅱	9075	四七三
㡧	9076	四七三

⿰巾喬 9077 四七三
⿰巾焦 9078 四七三
幞 9079 四七四
幟 9080 四七四
幠 9081 四七四
⿱無巾 9082 四七四
⿰巾散 9083 四七四
⿱尋巾 9084 四七四
⿰巾貳 9085 四七四
幡 9086 四七四
幢 9087 四七五
幣 9088 四七六
⿰鬲巾 9089 四七七
⿱市⿰市市 9090 四七七
⿰帛兒 9091 四七七
⿰巾會 9092 四七七
⿰巾覃 9093 四七七
⿰巾屩 9094 四七七
⿱亭巾 9095 四七七
⿰帛帛 9096 四七七
幫 9097 四七七
十三畫
⿱寒巾 9098 四七七
⿰巾敫 9099 四七七
幦 9100 四七七
⿰巾廉 9101 四七八
幧 9102 四七八
幨 9103 四七八
⿰巾僉 9104 四七八
⿰巾燕 9105 四七八
⿰巾亶 9106 四七八
⿰巾昜 9107 四七八
蔕 9108 四七八
幩 9109 四七八
⿰巾著 9110 四七八
⿰巾遂 9111 四七八
⿰巾過 9112 四七八
⿰⿱立巾𢀖 9113 四七八
⿰帛彔 9114 四七八
⿱啓巾 9115 四七八
⿰帚帚 9116 四七九
⿰⿱厶巾⿱匕匕 9117 四七九
⿰巾廉 9118 四七九
⿰巾賫 9119 四七九
十四畫
⿰巾㥯 9120 四七九
⿰巾疑 9121 四七九
幪 9122 四七九
⿰巾賓 9123 四七九
⿸厂幦 9124 四七九
⿱封帶 9125 四七九
⿰巾監 9126 四七九
幬 9127 四八〇
⿰⿳士冖巾殳 9128 四八〇
⿺走帚 9129 四八〇
⿰巾蓋 9130 四八〇
⿰帛是 9131 四八〇
⿰𠂤帚 9132 四八〇
十五畫
幭 9133 四八〇
幮 9134 四八〇
幯 9135 四八〇
⿰巾罷 9136 四八〇
⿰巾感 9137 四八〇
幰 9138 四八〇
十六畫
⿰巾賴 9139 四八〇
⿱敫巾 9140 四八〇
⿰巾奮 9141 四八〇
⿰巾閲 9142 四八一
⿰巾慮 9143 四八一
⿰巾熏 9144 四八一
⿰巾餞 9145 四八一
十七畫
⿱敏巾 9146 四八一
幱 9147 四八一
⿰巾登 9148 四八一
⿰巾韱 9149 四八一
⿰巾龠 9150 四八一
十八畫
⿰巾嬰 9151 四八一
⿰巾夒 9152 四八一
⿰巾雙 9153 四八一
⿰巾⿱賏大 9154 四八一
十九畫
⿱䜌巾 9155 四八一
⿰巾羅 9156 四八一
⿰巾壘 9157 四八一
⿰巾麓 9158 四八一
二十畫
⿰巾夔 9159 四八一
⿰巾夒 9160 四八一
⿰巾⿰𤔔刂 9161 四八一
二十一畫
⿰巾蘭 9162 四八二
⿰言幕 9163 四八二
二十四畫
⿰帛囊 9164 四八二

干部

干 9165 四八二
二畫
⿱丷干 9166 四八七
平 9167 四八七
三畫
年 9168 五一二
幵 9169 五二〇
并 9170 五二〇
四畫
⿰干丁 9171 五二〇
⿺乏干 9172 五二〇
⿱丿再 9173 五二〇
⿸户干 9174 五二〇
五畫
幷 9175 五二〇
幸 9176 五二三
⿱大⿱丷干 9177 五二四
六畫
竿 9178 五二四
七畫
⿰吾干 9179 五二四
⿱羽幵 9180 五二四
九畫
⿰⿱夂干⿱夂干 9181 五二四
⿰咼干 9182 五二四
十畫
幹 9183 五二四
⿱幵果 9184 五二六
⿰冊幷 9185 五二六
十二畫
⿱罒⿰冂幷 9186 五二六
十三畫
⿰⿱乡干⿱罒干 9187 五二六
⿱罒⿰干束 9188 五二六

幺部

幺 9189 五二七
一畫
幻 9190 五二七
⿱幺十 9191 五二八
⿱一幺 9192 五二八
二畫
幼 9193 五二九
⿱幺力 9194 五三一
⿰幺丁 9195 五三一
三畫
𢆶 9196 五三一
四畫
⿰幺少 9197 五三一
⿶凵𢆶 9198 五三一
⿺乏幺 9199 五三一
五畫
⿱幺光 9200 五三一
⿱𢆶女 9201 五三一
⿰幺⿱小丿 9202 五三一
⿰⿱丿幺⿱丿幺 9203 五三一
六畫
⿱⿴冂幺女 9204 五三三
幽 9205 五三三
七畫
⿱⿴冂幺十 9206 五四三
八畫
⿰兹卩 9207 五四三
九畫
幾 9208 五四三
⿰幺曷 9209 五四六
⿱𢆶大 9210 五四六
十畫
⿰幺⿱丿曷 9211 五四六
⿰享幺 9212 五四六

十一畫

⿱巛幽 9213 五四六
⿱𢆶女 9214 五四六
⿱𢆶皿 9215 五四六
⿶凵𢆶 9216 五四六

十二畫

⿰幾乞 9217 五四七
⿱𢆶出 9218 五四七

十三畫

⿰幾气 9219 五四七

十九畫

⿱𢆶蠡 9220 五四七

广部

广 9221 五四七

二畫

庀 9222 五四七
庁 9223 五四七
庂 9224 五四七
広 9224′ 五四七

三畫

⿸广乇 9225 五四七
⿸广下 9226 五四七
⿸广女 9227 五四七
⿸广弋 9228 五四七
⿸广子 9229 五四七
庉 9230 五四七
庆 9231 五四八
⿸广午 9232 五四八
⿸广亡 9233 五四八
庄 9234 五四八
庅 9235 五四八
⿸广口 9236 五四八
⿸广毛 9237 五四八
⿸广几 9238 五四八

四畫

庇 9239 五四八
庈 9240 五四八
⿸广电 9241 五四八
床 9242 五四九
⿸广犬 9243 五四九
⿸广永 9244 五四九
庋 9245 五四九
庌 9246 五四九
庍 9247 五四九
庎 9248 五四九
⿸广车 9249 五四九
庒 9250 五四九
庞 9251 五四九
⿸广戈 9252 五五〇
序 9253 五五〇
⿸广氐 9254 五五三
⿸广去 9255 五五三
⿸广开 9256 五五三
⿸广反 9257 五五三
⿸广亢 9258 五五三
⿸广攵 9259 五五三
⿸广户 9260 五五三
⿸广乏 9261 五五三

五畫

底 9262 五五三
⿸广立 9263 五五四
⿸广令 9264 五五四
⿸广只 9265 五五四
庖 9266 五五四
店 9267 五五五
⿸广本 9268 五五六
床 9269 五五六
⿸广乍 9270 五五六
⿸广皮 9271 五五六
⿸广布 9272 五五六
⿸广⿴囗㐅 9273 五五六
庘 9274 五五六
⿸广由 9275 五五六
庙 9276 五五六
废 9277 五五六
庚 9278 五五六
⿸广且 9279 五五七
⿸广旦 9280 五五七
⿸广世 9281 五五八
庛 9282 五五八
府 9283 五五八
⿸广币 9284 五六一
⿸广冬 9285 五六一
⿸广乏 9286 五六一
⿸广匠 9287 五六一
⿸广向 9288 五六一
⿸广矢 9289 五六一
⿸广氏 9290 五六一
⿸广毛 9291 五六一
⿸广㠯 9292 五六一
⿸广瓜 9293 五六一
⿸广此 9294 五六一
⿸广召 9295 五六一

六畫

⿸广先 9296 五六一
⿸广合 9297 五六一
庠 9298 五六一
⿸广曳 9299 五六一
⿸广聿 9300 五六一
⿸广艮 9301 五六三
⿸广同 9302 五六三
⿸广缶 9303 五六三
⿸广有 9304 五六三
⿸广衣 9305 五六三
⿸广旁 9306 五六三
庢 9307 五六三
⿸广兆 9308 五六三
⿸广束 9309 五六三
庤 9310 五六三
⿸广林 9311 五六三
⿸广多 9312 五六三
度 9313 五六三
⿸广自 9314 五六六
⿸广危 9315 五六六
⿸广⿺几虫 9316 五六六
⿸广有 9317 五六六
⿸广爻 9318 五六六

七畫

座 9319 五六六
⿸广夾 9320 五六八
⿸广孝 9321 五六八
⿸广呂 9322 五六八
⿸广困 9323 五六八
⿸广艮 9324 五六八
⿸广奈 9325 五六八
⿸广肚 9326 五六八
⿸广求 9327 五六八
⿸广豆 9328 五六八
⿸广皮 9329 五六八
庫 9330 五六八
⿸广吉 9331 五七一
⿸广矣 9332 五七一
⿸广⿰虍彡 9333 五七一
⿸广東 9334 五七一
⿸广夋 9335 五七一
庳 9336 五七一
庭 9337 五七一
庮 9338 五七五
⿸广弄 9339 五七五
庯 9340 五七五
⿸广囱 9341 五七六
⿸广韋 9342 五七六
⿸广里 9343 五七六
⿸广見 9344 五七六
⿸广夆 9345 五七六
⿸广盾 9346 五七六
⿸广身 9347 五七六
⿸广肖 9348 五七六

八畫

庰 9349 五七六
⿸广悤 9350 五七六
⿸广隹 9351 五七六
⿸广乖 9352 五七六
⿸广京 9353 五七六
⿸广奇 9354 五七六
⿸广夌 9355 五七六
⿸广空 9356 五七六
⿸广來 9357 五七六
⿸广虎 9358 五七六
⿸广車 9359 五七六
⿸广畀 9360 五七七
⿸广念 9361 五七七
⿸广卓 9362 五七七
⿸广面 9363 五七七
⿸广隶 9364 五七七
⿸广卒 9365 五七七
⿸广戔 9366 五七七
⿸广昏 9367 五七七
⿸广侈 9368 五七七

庵	9369	五七七
⿸广取	9370	五七七
⿸广或	9371	五七七
⿸广雨	9372	五七七
庶	9373	五七七
⿸广夾	9374	五八一
⿸广朋	9375	五八一
康	9376	五八一
⿸广官	9377	五八八
庸	9378	五八八
⿸广舍	9379	五九一
⿸广欣	9380	五九一
⿸广克	9381	五九一
⿸广金	9382	五九一
⿸广桼	9383	五九一
⿸广虎	9385	五九一
⿸广亩	9386	五九一
⿸广炎	9387	五九一
⿸广乳	9388	五九一
⿸广兔	9389	五九一
⿸广亟	9390	五九一
⿸广青	9391	五九一
⿸广垂	9392	五九一
九畫		
⿸广建	9392′	五九一
⿸广怱	9393	五九二
⿸广者	9394	五九二
庽	9395	五九二
⿸广畏	9396	五九二
⿸广扁	9397	五九二
庾	9398	五九二
⿸广裉	9399	五九四
庿	9400	五九四
⿸广禹	9401	五九四
⿸广侯	9402	五九四
⿸广胡	9403	五九四
⿸广英	9404	五九四
⿸广凉	9405	五九四
⿸广夌	9406	五九四
⿸广栗	9407	五九四
⿸广函	9408	五九四
⿸广离	9409	五九四
廁	9410	五九四
⿸广彖	9411	五九五
⿸广軍	9412	五九五
⿸广眉	9413	五九五
⿸广刺	9414	五九六
⿸广音	9415	五九六
廂	9416	五九六
⿸广柴	9417	五九六
⿸广隶	9418	五九六
⿸广垔	9419	五九六
⿸广冡	9420	五九六
⿸广是	9421	五九六
⿸广冥	9422	五九六
⿸广豈	9423	五九六
⿸广區	9424	五九六
廃	9425	五九六
十畫		
⿸广隼	9426	五九六
廅	9427	五九六
⿸广馬	9428	五九七
廆	9429	五九七
⿸广虒	9430	五九七
⿸广展	9431	五九七
⿸广萬	9432	五九七
⿸广鳥	9433	五九七
廇	9434	五九七
廈	9435	五九七
廉	9436	五九七
廊	9437	六〇二
廋	9438	六〇三
⿸广高	9439	六〇三
⿸广坙	9440	六〇三
⿸广隻	9441	六〇三
⿸广道	9442	六〇三
麻	9443	六〇三
⿸广農	9444	六〇三
⿸广然	9445	六〇三
⿸广習	9446	六〇三
⿸广寅	9447	六〇三
⿸广象	9448	六〇三
十一畫		
⿸广頁	9449	六〇三
⿸广惡	9450	六〇三
⿸广深	9451	六〇三
⿸广虘	9452	六〇三
⿸广殷	9453	六〇三
廐	9454	六〇四
⿸广章	9455	六〇四
廑	9456	六〇四
⿸广從	9457	六〇五
⿸广莫	9458	六〇五
⿸广殹	9459	六〇五
廒	9460	六〇五
廓	9461	六〇五
廔	9462	六〇六
廕	9463	六〇六
廖	9464	六〇七
⿸广帶	9465	六〇八
鹿	9466	六〇八
⿸广朐	9467	六〇八
⿸广雍	9468	六〇九
⿸广⿰彳隹	9469	六〇九
⿸广隺	9470	六〇九
⿸广張	9471	六〇九
⿸广兟	9472	六〇九
⿸广厥	9473	六〇九
⿸广焦	9474	六〇九
⿸广緊	9475	六〇九
十二畫		
⿸广番	9476	六〇九
⿸广衮	9477	六〇九
廙	9478	六〇九
廚	9479	六〇九
⿸广責	9480	六一〇
⿸广爲	9481	六一〇
⿸广散	9482	六一一
廛	9483	六一一
⿸广屠	9484	六一一
⿸广賁	9485	六一一
⿸广森	9486	六一一
廝	9487	六一一
⿸广欽	9488	六一三
廟	9489	六一三
廠	9490	六一六
廡	9491	六一六
廢	9492	六一七
廣	9493	六二〇
⿸广喬	9494	六三三
⿸广柬	9495	六三三
⿸广侖	9496	六三三
⿸广韋	9497	六三三
廎	9498	六三四
⿸广原	9499	六三四
⿸广詹	9500	六三四
⿸广畐	9501	六三四
十三畫		
⿸广害	9502	六三四
⿸广壹	9503	六三四
⿸广勱	9504	六三四
廥	9505	六三四
⿸广虜	9506	六三四
⿸广雋	9507	六三四
⿸广辟	9508	六三四
廧	9509	六三四
廨	9510	六三四
⿸广歛	9511	六三四
⿸广僉	9512	六三四
⿸广歆	9513	六三五
⿸广擘	9514	六三五
廩	9515	六三五
⿸广惠	9516	六三六
⿸广㱿	9517	六三六
十四畫		
⿸广彝	9518	六三六
⿸广夔	9519	六三六
⿸广塞	9520	六三六
⿸广虛	9521	六三六
⿸广齊	9522	六三七
⿸广稟	9523	六三七
十五畫		
⿸广魯	9524	六三七
⿸广膠	9525	六三七
⿸广審	9526	六三七
⿸广齒	9527	六三七
⿸广憂	9528	六三七
⿸广賡	9529	六三七
⿸广磊	9530	六三七
⿸广齎	9531	六三七

十六畫
廠 9533 六三七
⿸广穌 9534 六三七
廬 9535 六三七
⿸广穌 9536 六四〇
廡 9537 六四〇
鷹 9538 六四〇
⿸广樊 9539 六四〇
⿸广穌 9540 六四〇
十七畫
廞 9541 六四〇
⿸广冀 9542 六四〇
廮 9543 六四〇
廯 9544 六四〇
⿸广戲 9545 六四〇
⿸广鄉 9546 六四〇
⿸广壽 9547 六四〇

⿸广齊 9548 六四〇
⿸广憂 9549 六四〇
⿸广夒 9550 六四〇
韡 9551 六四〇
廰 9552 六四〇
十八畫
⿸广瞿 9553 六四〇
廱 9554 六四〇
十九畫
⿸广離 9555 六四一
⿸广夔 9556 六四一
⿸广麗 9557 六四一
⿸广蘇 9558 六四一
二十畫
⿸广縣 9559 六四一
⿸广麋 9560 六四一
二十一畫

⿸广麗 9561 六四一
二十二畫
廳 9562 六四一
二十三畫
⿸广龜 9563 六四二
二十四畫
⿸广靈 9564 六四二
⿸广䜌 9565 六四二

廴部

廴 9566 六四二
三畫
⿺廴止 9567 六四二
⿺廴巛 9568 六四二
四畫
延 9569 六四二
延 9570 六四八

廷 9571 六四八
五畫
⿺廴㐱 9572 六五二
⿺廴囘 9573 六五二
六畫
建 9574 六五二
⿺廴回 9575 六六〇
廼 9576 六六三
七畫
⿺廴囬 9577 六六三
八畫
⿺廴致 9578 六六三
九畫
⿺廴首 9579 六六三
十畫
⿺廴晉 9580 六六三
十一畫

⿰馬延 9581 六六三
⿰罷延 9582 六六三

廾部

廾 9583 六六三
卄 9584 六六三
𠬞 9585 六六三
一畫
廿 9586 六六四
⿱丿廾 9587 六六四
二畫
弁 9588 六六四
⿱人廾 9589 六六五
⿱亠廾 9590 六六五
三畫
异 9591 六六五
⿻廾凶 9592 六六五

⿱乃廾 9593 六六五
四畫
弃 9594 六六五
⿱幺廾 9595 六六五
弄 9596 六六五
⿱癶廾 9597 六六八
⿱廾廾 9598 六六八
⿱关廾 9599 六六八
⿱罒廾 9600 六六八
⿱夳廾 9601 六六八
并 9602 六六八
五畫
奔 9603 六六八
⿱𡗗廾 9604 六六八
⿱夫卉 9605 六六八
⿰井井 9606 六六八
⿱夲廾 9607 六六八

⿰卉卉 9608 六六八
六畫
畁 9609 六六八
弇 9610 六六八
弈 9611 六六九
⿱乔廾 9612 六六九
舁 9613 六六九
⿱各廾 9614 六六九
⿱岀廾 9615 六六九
⿱歹廾 9616 六六九
⿱㓞廾 9617 六六九
七畫
⿱臾廾 9618 六七〇
⿱卓廾 9619 六七〇
⿱奉廾 9620 六七〇
⿱弜廾 9621 六七〇
⿱乖廾 9622 六七〇

⿱阜廾 9623 六七〇
⿱享廾 9624 六七〇
八畫
⿱罝廾 9625 六七〇
⿱券廾 9626 六七〇
庯 9627 六七〇
⿱癶卉 9628 六七〇
⿱㕯廾 9629 六七〇
⿱卑廾 9630 六七〇
九畫
⿱東廾 9631 六七〇
⿱敄廾 9632 六七〇
⿱負廾 9633 六七〇
⿱彖廾 9634 六七〇
⿱亭廾 9635 六七〇
⿱埶廾 9636 六七〇
十畫

⿱奥廾 9637 六七〇
⿱寿廾 9638 六七〇
十一畫
⿱將廾 9639 六七〇
⿱豸廾 9640 六七〇
⿱罟廾 9641 六七〇
⿱卷廾 9642 六七〇
⿰車廾 9643 六七〇
十二畫
弊 9644 六七〇
⿱冥廾 9645 六七三
十三畫
⿱黍廾 9646 六七三
⿱敝开 9647 六七三
⿱畢廾 9648 六七三
⿱睪廾 9649 六七三
⿱𦥑畀 9650 六七三

十四畫
⿱卑廾 9651 六七三
⿱覃廾 9652 六七三
十九畫
⿱䜌廾 9653 六七三
二十四畫
⿱鷹廾 9654 六七三
⿱變廾 9655 六七三

弋部

弋 9656 六七三
七 9657 六七四
一畫
弌 9658 六七四
⿹弋八 9659 六七四
⿹弋乙 9660 六七四
二畫

弍 9661 六七四

三畫

弎 9662 六七四
式 9663 六七四
杙 9664 六七六

四畫

⿹弋爿 9665 六七六
⿹弋肖 9666 六七六
⿹弋凶 9667 六七六
⿹弋日 9668 六七六
⿹弋爻 9669 六七六

五畫

⿹弋叱 9670 六七六
⿹弋可 9671 六七六

六畫

⿹弋至 9672 六七六
⿹弋同 9673 六七六
⿹弋耒 9674 六七六
⿹弋朱 9675 六七六
⿹弋自 9676 六七六
⿹弋竹 9677 六七六

七畫

⿹弋杏 9678 六七六

八畫

⿹弋金 9679 六七六

九畫

⿹弋柔 9680 六七七
⿹弋食 9681 六七七

十畫

⿹弋哥 9682 六七七
⿹弋原 9683 六七七
⿹弋留 9684 六七七
⿹弋栗 9685 六七七

十一畫

⿹弋異 9686 六七七

十二畫

⿹弋飧 9687 六七七

十三畫

⿹弋然 9688 六七七

十四畫

⿹弋曷 9689 六七七

十五畫

⿹弋齒 9690 六七七

十八畫

⿹弋瞿 9691 六七七

弓部

弓 9692 六七七
弓 9693 六八一
弓 9694 六八二
⿱弓弓 9695 六八二

一畫

⿻弓丶 9696 六八二
⿻弓丨 9697 六八二
弔 9698 六八二
引 9699 六八四

二畫

⿻弓丿 9700 六九一
⿻弓十 9701 六九一
弖 9702 六九一
⿱弓一 9703 六九一
⿰弓乀 9704 六九一
⿰弓人 9705 六九一
⿻弓冂 9706 六九一
⿰弓又 9707 六九一
弗 9708 六九一
弘 9709 六九二
⿻弓二 9710 六九六
⿱亼弓 9711 六九六
⿱口弓 9712 六九六
⿰弓几 9713 六九六
⿰弓九 9714 六九六
⿻弓木 9715 六九六

三畫

弙 9716 六九六
⿰弓亏 9717 六九六
⿰弓亐 9718 六九六
⿰弓干 9719 六九六
⿰弓丸 9720 六九六
⿰弓从 9721 六九六
⿰弓勺 9722 六九六
⿱⺈弔 9723 六九六
弛 9724 六九六
弜 9725 六九八
⿰弓巾 9726 六九八
⿻弓又 9727 六九八
⿻弗丨 9728 六九八
⿱弓大 9729 六九八
⿻弓巾 9730 六九八

四畫

⿰弓方 9731 六九八
⿰弓厷 9732 六九八
⿰弓互 9733 六九八
弝 9734 六九八
⿰弓夬 9735 六九八
弞 9736 六九八
弟 9737 六九八
⿰弓介 9738 七〇〇
⿰弓予 9739 七〇〇
⿱弓火 9740 七〇〇
弦 9741 七〇〇
⿱今弓 9742 七〇〇
⿰弓引 9743 七〇〇
⿰弓斤 9744 七〇〇

五畫

弡 9745 七〇〇
⿰弓古 9746 七〇〇
⿰弓㐌 9747 七〇〇
⿰弓发 9748 七〇〇
弣 9749 七〇〇
⿱册弓 9750 七〇〇
弤 9751 七〇〇
⿰弓民 9752 七〇〇
弥 9753 七〇〇
⿰弓玄 9754 七〇〇
⿰弓且 9755 七〇三
⿰弓皮 9756 七〇三
弧 9757 七〇三
弨 9758 七〇四
⿰弓区 9759 七〇四
弩 9760 七〇四
⿰弓易 9761 七〇五
⿰弓矢 9762 七〇五
⿰弓占 9763 七〇五
⿰弓四 9764 七〇五

六畫

⿰弓亘 9765 七〇五
⿰弓亞 9766 七〇五
⿱𠂉弓 9767 七〇五
弭 9768 七〇五
弮 9769 七〇六
⿰弓同 9770 七〇六
⿱弜弓 9771 七〇六
⿱弓亏 9772 七〇六
⿰弓幵 9773 七〇六
⿱弓共 9774 七〇六
弢 9775 七〇六
⿸弓囟 9776 七〇六
⿰弓合 9777 七〇六
⿰弓羊 9778 七〇六
⿱弓弓 9779 七〇六
⿱弗衣 9780 七〇七
⿰弓百 9781 七〇七
⿰礻弗 9782 七〇七
⿰弓多 9783 七〇七
⿰弓丞 9784 七〇七
⿲弓冫弓 9785 七〇七
⿰弓两 9786 七〇七

七畫

⿰弓夋 9787 七〇七
⿰弜攵 9788 七〇七
弰 9789 七〇七
⿰弓旱 9790 七〇七
弱 9791 七〇七
弱 9791′ 七一〇
⿰弓肙 9792 七一〇
⿰弓矣 9793 七一〇
⿰弓角 9794 七一〇
⿱折弓 9795 七一〇
⿴囗弓 9796 七一〇
⿱夸弓 9797 七一〇
⿰弓坐 9798 七一〇
⿰弓㐬 9799 七一〇

八畫

⿰弓𣶒 9800 七一〇
⿰弓妾 9801 七一〇
⿰弓虎 9802 七一〇
⿰弓爭 9803 七一〇
⿰弓兒 9804 七一〇
⿰弓柰 9805 七一〇

𢐆 9806 七一〇
𢏺 9807 七一〇
弴 9808 七一〇
𢐞 9809 七一〇
𢐍 9810 七一〇
𢐗 9811 七一〇
張 9812 七一〇
弶 9813 七五九
𢐧 9814 七五九
強 9815 七五九
𢐏 9816 七六五
弸 9817 七六五
𢐖 9818 七六五
張 9819 七六五
𢐈 9820 七六五
𢏴 9821 七六五

九畫

强 9822 七六五
𢐻 9823 七六五
𢐥 9824 七六五
弼 9825 七六五
弻 9826 七六五
𢐦 9827 七六六
𢐲 9828 七六六
𢐽 9829 七六六
𢐪 9830 七六六
𢑁 9831 七六六
𢐯 9832 七六六
𢐣 9833 七六六
𢐤 9834 七六六
弱 9835 七六六
𢐱 9836 七六六
弾 9836′ 七六六

十畫

𢐿 9837 七六六
𢑃 9838 七六六
𢑀 9839 七六六
𢑅 9840 七六六
𢑂 9841 七六六
𢑆 9842 七六六
𢑄 9843 七六六
彀 9844 七六六
𢑐 9845 七六七
𢑑 9846 七六七
𢑏 9847 七六七

十一畫

彈 9848 七六七
𢑒 9849 七六七
𢑓 9850 七六七
𢑚 9851 七六七
𢑔 9852 七六七
彄 9853 七六七
𢑕 9854 七六七
𢑖 9855 七六七
𢑗 9856 七六七
彆 9857 七六七
𢑘 9858 七六七

十二畫

𢑙 9859 七六七
𢑛 9860 七六八
彇 9861 七六八
𢑜 9862 七六八
𢑝 9863 七六八
𢑨 9864 七六八
彈 9865 七六八
𢑦 9866 七七一
彉 9867 七七一
𢑧 9868 七七一
𢑩 9869 七七一

十三畫

𢑪 9870 七七一
𢑫 9871 七七一
彊 9872 七七一
𢑬 9873 七七四
彋 9874 七七四
𢑭 9875 七七四
𢑮 9876 七七四

十四畫

彌 9877 七七四
𢑯 9878 七七七
𢑰 9879 七七七
𢑱 9880 七七七

十五畫

彍 9881 七七七
𢑲 9882 七七七
𢑳 9883 七七七
𢑴 9884 七七七
𢑵 9885 七七七

十六畫

𢑶 9886 七七七
𢑷 9887 七七七
𢑸 9888 七七七
𢑹 9889 七七七
𢑺 9890 七七七
𢑻 9891 七七七
𢑼 9892 七七七

十七畫

𢑽 9893 七七七
𢑾 9894 七七八
彇 9895 七七八
𢑿 9896 七七八
𢒀 9897 七七八
彲 9898 七七八

十八畫

𢒁 9899 七七八
𢒂 9900 七七八
𢒃 9901 七七八
𢒄 9902 七七八
𢒅 9903 七七八

十九畫

彎 9904 七七八
𢒆 9905 七七八

二十畫

彏 9906 七七八

二十二畫

𢒇 9907 七七八

彐部

彐 9908 七七八

彑 9909 七七九

二畫

归 9909′ 七七九

三畫

𢀳 9910 七七九
⺕ 9911 七七九
𢑐 9912 七七九
当 9913 七七九

四畫

𢑑 9914 七七九

五畫

𢑒 9915 七七九
𢑓 9916 七七九
𢑔 9917 七七九
彔 9918 七七九

六畫

𢑕 9919 七七九
彖 9920 七七九
彔 9921 七七九
彖 9922 七七九

七畫

录 9923 七七九
𢑖 9924 七八〇
𢑗 9925 七八〇
𢑘 9926 七八〇

八畫

彗 9927 七八〇
𢑙 9928 七八〇
𢑚 9929 七八〇
𢑛 9930 七八〇

九畫

𢑜 9931 七八〇
𢑝 9932 七八一
𢑞 9933 七八一
𢑟 9934 七八一

十畫

𢑠 9935 七八一
彙 9936 七八一
彚 9937 七八二
𢑡 9938 七八二

十一畫

𢑢 9939 七八二
𢑣 9940 七八二
𢑤 9941 七八二
𢑥 9942 七八二
𢑦 9943 七八二

十二畫

𢑧 9944 七八二
𢑨 9945 七八二

十三畫

𢑩 9946 七八二

彚 9947 七八二
彜 9948 七八二
十四畫
彝 9949 七八二
十五畫
彞 9950 七八二
播 9951 七八四
豬 9952 七八四
褫 9953 七八四
十六畫
彙 9954 七八四
彙 9955 七八四
彗 9956 七八四
十九畫
豩 9957 七八四
彝 9958 七八四
二十畫
曝 9959 七八四
二十三畫
彠 9960 七八四
彙 9961 七八四

彡部

彡 9962 七八四
二畫
㐱 9963 七八四
彤 9964 七八四
三畫
珍 9965 七八四
乏 9966 七八四
㐱 9967 七八四
㣺 9968 七八四
四畫
形 9969 七八四
形 9970 七八八
彣 9971 七八八
形 9972 七八八
五畫
形 9973 七九〇
亘 9974 七九〇
彰 9975 七九〇
㣍 9976 七九〇
杉 9977 七九〇
彬 9978 七九〇
彥 9979 七九〇
六畫
彦 9980 七九〇
彦 9981 七九三
形 9982 七九三
七畫
彧 9983 七九三
浦 9984 七九三
㣎 9985 七九三
彩 9986 七九三
徒 9987 七九三
豹 9988 七九三
彩 9989 七九三
八畫
彫 9990 七九三
彬 9991 七九三
彩 9992 七九三
彪 9993 七九五
彪 9994 七九五
彫 9995 七九五
彫 9995′ 七九七
彬 9996 七九七
彧 9997 七九七
影 9998 七九七
彫 9999 七九七
彰 10000 七九七
九畫
彬 10001 七九七
彭 10002 七九七
彭 10003 七九八
影 10004 八〇三
彰 10005 八〇三
彰 10006 八〇三
參 10007 八〇三
影 10008 八〇四
十畫
㳙 10009 八〇四
彩 10010 八〇四
劉 10011 八〇四
彰 10012 八〇四
影 10013 八〇四
十一畫
彰 10014 八〇四
彰 10015 八〇四
彪 10016 八〇五
徙 10017 八〇五
彰 10018 八〇五
十二畫
影 10019 八〇五
澋 10020 八〇七
潯 10021 八〇七
彰 10022 八〇七
彰 10023 八〇七
嘭 10024 八〇七
參 10025 八〇七
十三畫
彩 10026 八〇七
鹹 10027 八〇七
雍 10028 八〇八
髮 10029 八〇八
彪 10030 八〇八
十四畫
彫 10031 八〇八
十五畫
影 10032 八〇八
十七畫
響 10033 八〇八
影 10034 八〇八
十九畫
麗 10035 八〇八
彪 10036 八〇八

彳部

彳 10037 八〇八
一畫
彳 10038 八〇八
二畫
㣔 10039 八〇八
行 10040 八〇八
㣕 10041 八〇八
三畫
代 10042 八〇八
彴 10043 八〇八
彵 10044 八〇八
执 10045 八〇九
往 10046 八〇九
四畫
彶 10047 八〇九
㣘 10048 八〇九
徔 10049 八〇九
㣒 10050 八〇九
衲 10051 八〇九
彷 10052 八〇九
㣖 10053 八〇九
彸 10054 八〇九
㣗 10055 八〇九
𢓡 10056 八〇九
役 10057 八〇九
彺 10058 八一一
仰 10059 八一一
㣛 10060 八一一
㣜 10061 八一一
㣝 10062 八一一
五畫
冉 10063 八一一
作 10064 八一一
徇 10065 八一一
彼 10066 八一一
位 10067 八一三
佔 10068 八一三
低 10069 八一三
伶 10070 八一三
彿 10071 八一三
伷 10072 八一三
往 10073 八一三
徃 10074 八一六
伾 10075 八一七
仳 10076 八一七
征 10077 八一七
徂 10078 八一九
徔 10079 八二〇
佟 10080 八二〇
径 10080′ 八二〇
六畫
侗 10081 八二〇
佫 10082 八二〇

字	番號	頁
⿰彳兆	10083	八二一
⿰彳合	10084	八二一
待	10085	八二一
⿰彳刪	10086	八二三
⿰彳丞	10087	八二三
⿰彳戎	10088	八二三
⿰彳州	10089	八二三
徆	10090	八二三
徇	10091	八二三
⿰彳先	10092	八二四
很	10093	八二四
徉	10094	八二五
徊	10095	八二五
⿰彳夷	10096	八二五
律	10097	八二五
後	10098	八二九
徍	10099	八四九
⿰彳夸	10100	八四九
⿰彳兊	10101	八四九
⿰彳吉	10102	八四九
⿰彳⿱𠂉王	10103	八四九
⿰彳⿱夂彡	10104	八四九
七畫		
徎	10105	八四九
⿰彳矣	10106	八四九
⿰彳辛	10107	八四九
⿰彳希	10108	八四九
徏	10109	八四九
徐	10110	八四九
⿰彳夋	10111	八六七
⿰彳肖	10112	八六七
⿰彳弟	10113	八六七
⿰彳廷	10114	八六七
⿰彳妥	10115	八六七
⿰彳夾	10116	八六七
⿰彳夆	10117	八六七
徑	10118	八六七
⿰彳吾	10119	八六九
⿰彳甹	10120	八六九
徒	10121	八六九
⿰彳⿱日夂	10122	八七三
⿰彳秀	10123	八七三
⿰彳甬	10124	八七三
⿰彳⿰冊卩	10125	八七三
⿰彳⿱⺌王	10126	八七三
⿰彳⿱⺕⿱冖又	10127	八七三
⿰彳豕	10128	八七三
⿰彳谷	10129	八七三
⿰彳⿱厶夫	10130	八七三
⿰彳忩	10131	八七三
⿰彳⿱日己	10132	八七三
従	10133	八七三
八畫		
⿰彳夌	10134	八七三
⿰彳奄	10135	八七三
徖	10136	八七三
得	10137	八七三
⿰彳戔	10138	八七八
⿰彳叟	10139	八七九
⿰彳卓	10140	八七九
徘	10141	八七九
徙	10142	八七九
徚	10143	八八〇
⿰彳⿱从一	10144	八八〇
⿰彳匋	10145	八八〇
⿰彳函	10146	八八〇
⿰彳𢀖	10147	八八〇
徛	10148	八八〇
徜	10149	八八〇
⿰彳知	10150	八八〇
徝	10151	八八〇
從	10152	八八〇
徟	10153	八八七
⿰彳松	10154	八八七
徠	10155	八八七
⿰彳卑	10156	八八八
御	10157	八八八
⿰彳侍	10158	九〇一
⿰彳委	10159	九〇一
⿰彳肴	10160	九〇一
徤	10161	九〇一
⿰彳⿱丷圭	10162	九〇一
⿰彳受	10163	九〇一
⿱⿵冂彳丂	10164	九〇一
⿰彳卷	10165	九〇一
⿰彳⿰丨⿱攵彡	10166	九〇一
⿰彳⿰⿱𠂉止卩	10167	九〇一
徣	10168	九〇一
⿰彳⿱𠂊易	10169	九〇一
九畫		
徥	10170	九〇一
⿰彳爰	10171	九〇一
⿰彳重	10172	九〇一
徦	10173	九〇一
徧	10174	九〇一
⿰彳柔	10175	九〇三
⿰彳⿱亠⿱日夂	10176	九〇三
⿰彳皆	10177	九〇三
徨	10178	九〇三
⿰彳兪	10179	九〇三
⿰彳面	10180	九〇三
⿰彳貞	10181	九〇三
⿰彳咠	10182	九〇三
復	10183	九〇三
⿰彳畟	10184	九〇八
⿰彳胃	10185	九〇八
⿰彳⿸尸羊	10186	九〇八
循	10187	九〇八
⿰彳屏	10188	九一〇
⿰彳⿱罒寸	10189	九一〇
從	10190	九一〇
⿰彳者	10191	九一〇
徫	10192	九一〇
⿰彳⿰缶卩	10193	九一〇
⿰彳屖	10194	九一〇
⿰彳垂	10195	九一〇
⿰彳亟	10196	九一〇
十畫		
⿰彳留	10197	九一〇
⿰彳蚤	10198	九一〇
⿰彳胥	10199	九一〇
徬	10200	九一〇
徭	10201	九一〇
⿰彳⿰缶阝	10202	九一一
微	10203	九一一
徯	10204	九一七
⿰彳冓	10205	九一七
⿰彳⿱目寸	10206	九一七
⿰彳⿱从隹	10207	九一七
⿰彳鬲	10208	九一七
⿰彳咸	10209	九一七
⿰彳⿱𠂉廷	10210	九一七
⿰彳⿱口韋	10211	九一七
⿰彳員	10212	九一七
⿰彳⿰从⿱从止	10213	九一七
十一畫		
⿰彳單	10214	九一七
⿰彳旋	10215	九一七
⿰彳率	10216	九一七
⿰彳⿱亠复	10217	九一七
徱	10218	九一七
徲	10219	九一七
⿰彳區	10220	九一七
⿰彳章	10221	九一七
⿰彳悉	10222	九一七
⿰彳參	10223	九一七
⿰彳⿱覀巳	10224	九一七
⿰彳責	10225	九一七
⿰彳⿰⿱山⿱一王攵	10226	九一八
⿰彳⿱亠奇	10227	九一八
⿰彳崔	10228	九一八
⿰彳盈	10229	九一八
⿰彳⿱貝寸	10230	九一八
⿰彳⿱𠂉复	10231	九一八
⿰彳⿰⿱𠂉缶卩	10232	九一八
⿰彳逢	10233	九一八
⿰彳悳	10234	九一八
⿰彳敖	10235	九一八
⿰彳⿰丨⿱攵良	10236	九一八
⿰彳⿰⿱山糸攵	10237	九一八
徳	10237′	九一八
⿰彳昜	10238	九一八
徴	10238′	九一八
十二畫		
徵	10239	九一八
⿰彳喬	10240	九二一
徹	10241	九二一
徶	10242	九二一
德	10243	九二一
徸	10244	九二一

徹 10245 九三二
⿰彳敢 10246 九三三
⿰彳啻 10247 九三三
⿰彳覃 10248 九三三
⿰彳尊 10249 九三三
⿰彳复 10250 九三三
⿲彳未攵 10251 九三三
⿰彳夏 10252 九三三
⿰彳爲 10253 九三三

十三畫

⿲彳育攴 10254 九三三
徻 10255 九三三
⿰彳達 10256 九三三
⿰彳歲 10257 九三三
⿰彳亶 10258 九三三
⿰彳詹 10259 九三三
⿰彳睘 10260 九三三
徼 10261 九三三
⿰彳戠 10262 九三四
⿰彳辟 10263 九三四
⿰彳菐 10264 九三四
徵 10265 九三四

十四畫

⿰彳寧 10266 九三五
徽 10267 九三五
⿰彳⿱羽疋 10268 九三六
⿰彳翟 10269 九三六
⿲彳隹攵 10270 九三六
⿰彳壽 10271 九三六
⿲彳音攵 10272 九三六
⿰彳睿 10273 九三六

十五畫

⿰彳賣 10274 九三七
⿰彳廡 10275 九三七
⿰彳賛 10276 九三七
⿰彳憂 10277 九三七
⿰耒從 10278 九三七

十六畫

⿰彳龍 10279 九三七
⿰彳憲 10280 九三七
⿰彳歷 10281 九三七
⿲彳⿱山壬攵 10282 九三七

十七畫

⿰彳暴 10283 九三七
⿰彳韱 10284 九三七
⿰彳毚 10285 九三七
⿰彳繇 10286 九三七
⿰彳襄 10287 九三七
黴 10288 九三七

十八畫

忂 10289 九三七
⿰彳⿱䀠夫 10290 九三七
⿰彳顋 10291 九三七

十九畫

⿰彳靡 10292 九三七

二十畫

⿰彳矍 10293 九三七

二十二畫

⿰彳囊 10294 九三七

心部

心 10295 九三七
心 10296 九五一
忄 10297 九五一
⺗ 10298 九五一

一畫

必 10299 九五一
⿰忄乚 10300 九五二

二畫

忇 10301 九五二
忈 10302 九五二
⿱人心 10303 九五二
⿱刀心 10304 九五二
忉 10305 九五三
⿰忄匕 10306 九五三
⿰忄卩 10307 九五三
忊 10308 九五三

三畫

忋 10309 九五三
忌 10310 九五三
⿰忄乇 10311 九五四
忍 10312 九五五
忍 10312′ 九五七
⿰忄刃 10313 九五七
忎 10314 九五七
忏 10315 九五七
忐 10316 九五七
忑 10317 九五七
⿰忄下 10318 九五七
忒 10319 九五七
忓 10320 九五七
⿰忄于 10321 九五七
⿰忄亏 10322 九五七
忔 10323 九五七
忥 10324 九五八
忕 10325 九五八
忖 10326 九五八
⿰忄女 10327 九五八
⿱夂心 10328 九五八
⿱工心 10329 九五八
⿰忄工 10330 九五八
志 10331 九五八
⿰忄弓 10332 九六三
忘 10333 九六三
忙 10334 九六四
⿰忄小 10335 九六五
⿰忄叉 10336 九六五
⿰忄弋 10337 九六五
忚 10338 九六五
⿰忄勺 10339 九六五
⿱小夂 10340 九六五
⿰忄夕 10341 九六五
⿰心刃 10342 九六五
⿱弓心 10343 九六五
忛 10344 九六五
⿱小心 10345 九六五
⿱口心 10346 九六五
⿱亼心 10347 九六五
応 10347′ 九六五

四畫

忝 10348 九六五
⿱天心 10349 九六六
忞 10350 九六六
忟 10351 九六六
⿰忄内 10352 九六六
忠 10353 九六六
忡 10354 九七五
⿱五心 10355 九七六
⿱及心 10356 九七六
忣 10357 九七六
忤 10358 九七六
⿱仌心 10359 九七六
忦 10360 九七六
⿱气心 10361 九七六
忧 10362 九七六
⿰忄方 10363 九七六
⿰忄匀 10364 九七六
忨 10365 九七六
忩 10366 九七七
忪 10367 九七七
⿰忄巴 10368 九七七
快 10369 九七七
⿰忄市 10370 九七九
忬 10371 九八〇
忭 10372 九八〇
⿱屯心 10373 九八〇
⿱丏心 10374 九八〇
忮 10375 九八〇
⿰忄反 10376 九八〇
忯 10377 九八〇
⿰忄殳 10378 九八〇
⿱元心 10379 九八〇
⿰忄夭 10380 九八〇
⿰忄卆 10381 九八一
忱 10382 九八一
⿱亢心 10383 九八一
⿰忄冗 10384 九八一
忲 10385 九八一
⿰忄丰 10386 九八一
⿰忄心 10387 九八一
忳 10388 九八一
忴 10389 九八一
念 10390 九八一
⿰忄云 10391 九八三
忷 10392 九八三
⿱与心 10393 九八三
⿰忄牙 10394 九八三
⿱歹心 10395 九八三
怲 10396 九八四
忸 10397 九八四

怐	10398	九八四
忹	10399	九八四
忺	10400	九八四
忻	10401	九八四
㤁	10402	九八四
忼	10403	九八四
忟	10404	九八五
忽	10405	九八五
㤈	10406	九八七
忾	10407	九八七
忩	10408	九八七
㤋	10409	九八八
忹	10410	九八八
忕	10411	九八八
怀	10412	九八八
岂	10413	九八八
患	10414	九八八
㣺	10415	九八八
忷	10416	九八八
忌	10417	九八八
忍	10418	九八八
㤇	10419	九八八
忴	10420	九八八
忝	10421	九八八

五畫

㤌	10422	九八八
怽	10423	九八八
怇	10424	九八八
怈	10425	九八八
怉	10426	九八八
怊	10427	九八八
忯	10428	九八八
怌	10429	九八八
怍	10430	九八九
怎	10431	九八九
怈	10432	九八九
恐	10433	九八九
怏	10434	九八九
怐	10435	九八九
思	10436	九八九
怨	10437	九八九
怑	10438	九九〇
怒	10439	九九〇
悠	10440	九九一
怓	10441	九九一
悔	10442	九九二
㤗	10443	九九二
㤃	10444	九九二
怔	10445	九九二
㤓	10446	九九二
忬	10447	九九二
怕	10448	九九二
𢗾	10449	九九二
怖	10450	九九二
怗	10451	九九三
㤐	10452	九九三
怘	10453	九九三
怙	10454	九九三
㤦	10455	九九三
㤑	10456	九九三
怚	10457	九九四
怛	10458	九九四
㤅	10459	九九四
命	10460	九九四
怜	10461	九九四
恖	10462	九九四
怞	10463	一〇〇一
㤉	10464	一〇〇一
𢘍	10465	一〇〇一
悴	10466	一〇〇一
体	10467	一〇〇一
怟	10468	一〇〇一
怠	10469	一〇〇一
怡	10470	一〇〇三
怢	10471	一〇〇四
怷	10472	一〇〇四
怤	10473	一〇〇四
㤱	10474	一〇〇四
急	10475	一〇〇四
怦	10476	一〇〇七
𢘉	10477	一〇〇七
性	10478	一〇〇七
怨	10479	一〇一一
㤫	10480	一〇一四
怩	10481	一〇一四
㤴	10482	一〇一四
怪	10483	一〇一四
㤐	10484	一〇一六
𢘗	10485	一〇一六
怫	10486	一〇一六
㤉	10487	一〇一七
怬	10488	一〇一七
怭	10489	一〇一七
怮	10490	一〇一七
怯	10491	一〇一七
怰	10492	一〇一八
㤆	10493	一〇一八
怱	10494	一〇一八
怲	10495	一〇一八
怳	10496	一〇一八
怴	10497	一〇一八
怵	10498	一〇一八
𢘐	10499	一〇一九
怶	10500	一〇一九
㤙	10501	一〇一九
恮	10502	一〇一九
恧	10503	一〇一九
㤷	10504	一〇一九
㤚	10505	一〇一九
㤨	10506	一〇一九
㤩	10507	一〇一九
㤪	10508	一〇一九
㤳	10509	一〇一九
㤏	10510	一〇一九
𢘐	10511	一〇一九
您	10512	一〇一九
怺	10513	一〇一九

六畫

恀	10514	一〇一九
𢘕	10515	一〇一九
㤠	10516	一〇一九
恕	10517	一〇一九
恁	10518	一〇一九
㤐	10519	一〇二〇
恂	10520	一〇二〇
恃	10521	一〇二〇
恄	10522	一〇二一
㤞	10523	一〇二一
㤟	10524	一〇二一
恘	10525	一〇二一
恅	10526	一〇二一
恒	10527	一〇二一
恆	10528	一〇二四
恇	10529	一〇二四
恈	10530	一〇二五
𢘹	10531	一〇二五
恉	10532	一〇二五
㤀	10533	一〇二五
㤑	10534	一〇二五
恊	10535	一〇二五
𢙇	10536	一〇二五
恋	10537	一〇二五
㤦	10538	一〇二五
㤥	10539	一〇二五
㤤	10540	一〇二五
恌	10541	一〇二五
患	10542	一〇二五
恖	10543	一〇二五
㤠	10544	一〇二五
㤡	10545	一〇二五
恍	10546	一〇二五
恑	10547	一〇二六
息	10548	一〇二六
恎	10549	一〇二六
㤢	10550	一〇二六
恙	10551	一〇二六
恐	10552	一〇二六
㤨	10553	一〇二七
㤬	10554	一〇二七
㤭	10555	一〇二七
恑	10556	一〇二七
恓	10557	一〇二七
恔	10558	一〇二八
㤮	10559	一〇二八
恝	10560	一〇二八
𢘿	10561	一〇二八
恩	10562	一〇二八
恗	10563	一〇二八
恘	10564	一〇二八
恙	10565	一〇二八

恚	10566	一〇二九
㤓	10567	一〇二九
恛	10568	一〇二九
𢘿	10569	一〇二九
恜	10570	一〇二九
恝	10571	一〇二九
恞	10572	一〇二九
恟	10573	一〇二九
恠	10574	一〇三〇
𢙀	10575	一〇三〇
㤞	10576	一〇三〇
恢	10577	一〇三〇
㤥	10578	一〇三〇
㤟	10579	一〇三一
恣	10580	一〇三一
恔	10581	一〇三一
㤦	10582	一〇三一
恤	10583	一〇三二
恶	10584	一〇三三
耻	10585	一〇三三
恦	10586	一〇三三
恧	10587	一〇三三
恨	10588	一〇三三
恉	10589	一〇三四
恳	10590	一〇三四
恩	10591	一〇三四
恪	10592	一〇三九
㤩	10593	一〇四〇
恫	10594	一〇四〇
恬	10595	一〇四〇
恭	10596	一〇四一
恭	10597	一〇四五
㤨	10598	一〇四五
㤧	10599	一〇四五
恮	10600	一〇四五
息	10601	一〇四五
㤳	10602	一〇四八
恰	10603	一〇四八
念	10604	一〇四九
恱	10605	一〇四九
㤑	10606	一〇四九
㤢	10607	一〇四九
𢙊	10608	一〇四九
𢙏	10609	一〇四九
怨	10610	一〇四九
怜	10611	一〇四九
恚	10612	一〇四九
恲	10613	一〇四九
㤼	10614	一〇四九
恧	10615	一〇四九
𢙝	10616	一〇四九
恴	10617	一〇四九
悔	10617′	一〇四九
恓	10618	一〇四九
恵	10618′	一〇四九

七畫

怨	10619	一〇四九
㤶	10620	一〇四九
恿	10621	一〇四九
悀	10622	一〇四九
悁	10623	一〇五〇
㤹	10624	一〇五〇
悃	10625	一〇五〇
㹞	10626	一〇五〇
悄	10627	一〇五〇
㥈	10628	一〇五一
悅	10629	一〇五一
悦	10629′	一〇五三
𢙇	10630	一〇五二
㥖	10631	一〇五二
悆	10632	一〇五三
悇	10633	一〇五三
悈	10634	一〇五三
悉	10635	一〇五三
㤅	10636	一〇五四
悊	10637	一〇五四
悯	10638	一〇五四
𢚩	10639	一〇五四
悋	10640	一〇五四
𢚧	10641	一〇五四
悌	10642	一〇五四
悍	10643	一〇五五
𢘅	10644	一〇五六
恐	10645	一〇五六
㤴	10646	一〇五六
悎	10647	一〇五六
𢚓	10648	一〇五六
𢘾	10649	一〇五六
悏	10650	一〇五六
𤞞	10651	一〇五六
㤿	10652	一〇五六
悑	10653	一〇五六
怯	10654	一〇五六
悒	10655	一〇五六
𢙸	10656	一〇五六
𢘽	10657	一〇五六
悓	10658	一〇五六
悔	10659	一〇五七
𢛗	10660	一〇五八
悕	10661	一〇五八
𢙴	10662	一〇五八
悖	10663	一〇五八
悗	10664	一〇五九
㤴	10665	一〇五九
㥷	10666	一〇五九
𢙁	10667	一〇五九
𢙺	10668	一〇五九
𢘥	10669	一〇五九
悙	10670	一〇五九
恗	10671	一〇五九
悚	10672	一〇五九
㤷	10673	一〇六〇
悛	10674	一〇六〇
悜	10675	一〇六〇
㤗	10676	一〇六〇
𢙷	10677	一〇六〇
悝	10678	一〇六〇
悞	10679	一〇六〇
悟	10680	一〇六〇
悠	10681	一〇六一
𢚈	10682	一〇六二
㤵	10683	一〇六二
㤱	10684	一〇六二
㤦	10685	一〇六二
㤭	10686	一〇六三
𢚮	10687	一〇六三
𢚦	10688	一〇六三
悡	10689	一〇六三
悢	10690	一〇六三
患	10691	一〇六三
𢙿	10692	一〇六四
悤	10693	一〇六四
𢚿	10694	一〇六四
悥	10695	一〇六四
𢙲	10696	一〇六四
恭	10697	一〇六四
𢙋	10698	一〇六四
恖	10699	一〇六四
𢚤	10700	一〇六四
㤾	10701	一〇六四
悻	10702	一〇六四
虑	10703	一〇六四
𢛨	10704	一〇六四
𢘸	10705	一〇六四
𢙵	10706	一〇六四
𢙫	10707	一〇六五
㤻	10708	一〇六五
𢙐	10709	一〇六五
㥕	10710	一〇六五
𢙹	10711	一〇六五
您	10712	一〇六五
𢙥	10713	一〇六五
𢙬	10714	一〇六五
惄	10715	一〇六五
惱	10716	一〇六五
恼	10716′	一〇六五
悪	10717	一〇六五

八畫

悰	10718	一〇六五
悱	10719	一〇六五
悲	10720	一〇六五
㥇	10721	一〇六八
𢛉	10722	一〇六八
㥁	10723	一〇六八
悳	10724	一〇六八
惪	10725	一〇六八
悴	10726	一〇六八
悵	10727	一〇六九
㥀	10728	一〇六九
悶	10729	一〇六九

閄	10730	一〇七〇
⿰忄門	10731	一〇七〇
悷	10732	一〇七〇
悸	10733	一〇七〇
悹	10734	一〇七〇
悺	10735	一〇七〇
⿱制心	10736	一〇七〇
悻	10737	一〇七一
悼	10738	一〇七一
⿱𠧪心	10739	一〇七一
⿱各心	10740	一〇七一
恇	10741	一〇七一
⿰忄固	10742	一〇七三
㥄	10743	一〇七三
悽	10744	一〇七三
⿰忄受	10745	一〇七三
悾	10746	一〇七三
⿰忄系	10747	一〇七三
⿰忄隶	10748	一〇七三
惀	10749	一〇七三
惁	10750	一〇七三
惂	10751	一〇七三
惃	10752	一〇七三
慈	10753	一〇七三
⿰忄兹	10754	一〇七三
惄	10755	一〇七三
情	10756	一〇七四
情	10756′	一〇七八
惆	10757	一〇七八
⿱周心	10758	一〇七八
惇	10759	一〇七八
惈	10760	一〇七九
⿰忄戔	10761	一〇七九
⿰氵⿱占心	10762	一〇七九
⿱怗心	10763	一〇七九
⿱帖心	10764	一〇七九
⿰忄垂	10765	一〇七九
⿰忄委	10766	一〇七九
惊	10767	一〇七九
⿰忄咅	10768	一〇七九
⿰忄朋	10769	一〇七九
⿰⿱句心刂	10770	一〇七九
惋	10771	一〇七九
惌	10772	一〇八〇
⿱依心	10773	一〇八〇
惍	10774	一〇八〇
⿰忄匋	10775	一〇八〇
惎	10776	一〇八〇
⿰忄其	10777	一〇八〇
⿰忄⿱亼心	10778	一〇八〇
⿰忄知	10779	一〇八〇
⿰忄兩	10780	一〇八〇
⿰忄⿷匚反	10781	一〇八〇
⿰忄⿱𡗗木	10782	一〇八〇
⿱拘心	10783	一〇八〇
⿰忄松	10784	一〇八〇
惏	10785	一〇八〇
⿱林心	10786	一〇八〇
⿰忄東	10787	一〇八一
惐	10788	一〇八一
惑	10789	一〇八一
⿱和心	10790	一〇八一
⿱⿰禾刃心	10791	一〇八一
⿰忄典	10792	一〇八一
⿰忄函	10793	一〇八二
⿱巷心	10794	一〇八二
惓	10795	一〇八二
愈	10796	一〇八二
⿰忄劵	10797	一〇八二
⿰忄肴	10798	一〇八二
⿰忄夸	10799	一〇八二
惔	10800	一〇八二
悪	10801	一〇八二
⿱辰心	10802	一〇八二
惕	10803	一〇八三
⿱易心	10804	一〇八三
⿰忄采	10805	一〇八三
惗	10806	一〇八三
⿰忄奇	10807	一〇八三
⿰忄牲	10808	一〇八三
惘	10809	一〇八三
惙	10810	一〇八三
惚	10811	一〇八三
惛	10812	一〇八四
⿰忄有	10813	一〇八四
惜	10814	一〇八四
惝	10815	一〇八六
⿰氵⿱尸心	10816	一〇八六
⿱旦心	10817	一〇八六
惞	10818	一〇八六
⿰忄卑	10819	一〇八六
惟	10820	一〇八六
⿱隹心	10821	一〇八九
惠	10822	一〇八九
⿰忄亞	10823	一〇九三
惡	10824	一〇九三
⿱亩心	10825	一〇九九
惢	10826	一〇九九
⿰忄卯	10827	一〇九九
悁	10828	一〇九九
惣	10829	一〇九九
⿰忄亟	10830	一〇九九
⿰氵⿱民心	10831	一〇九九
⿱壴心	10832	一〇九九
⿸尸⿱王心	10833	一〇九九
⿱⿰夕犬心	10834	一〇九九
⿰忄忿	10835	一〇九九
⿱侖心	10836	一〇九九
⿱宓心	10837	一〇九九
⿱⿰夕夂心	10838	一〇九九
⿱牧心	10839	一〇九九
⿱朼心	10840	一〇九九
⿱叟心	10841	一〇九九
恪	10842	一〇九九
⿱炘心	10843	一〇九九
聡	10844	一〇九九
⿰忄玆	10845	一〇九九
⿱昆心	10846	一〇九九
⿰忄居	10847	一〇九九
惧	10848	一〇九九
⿱亞心	10849	一一〇〇
惨	10850	一一〇〇
⿱征心	10851	一一〇〇
情	10852	一一〇〇

九畫

⿰忄臾	10853	一一〇〇
愜	10854	一一〇〇
惰	10855	一一〇〇
惱	10856	一一〇一
惲	10857	一一〇一
想	10858	一一〇二
惴	10859	一一〇三
⿰忄胃	10860	一一〇三
惵	10861	一一〇三
⿱⿱艹丗心	10862	一一〇三
惶	10863	一一〇三
惷	10864	一一〇四
⿰忄孚	10865	一一〇四
惹	10866	一一〇四
⿰忄若	10867	一一〇五
惺	10868	一一〇五
惻	10869	一一〇五
⿱則心	10870	一一〇六
⿰忄省	10871	一一〇六
惼	10872	一一〇六
⿰忄度	10873	一一〇六
⿰忄卿	10874	一一〇六
惽	10875	一一〇六
⿰忄某	10876	一一〇六
⿱甚心	10877	一一〇六
⿰忄弇	10878	一一〇六
悛	10879	一一〇六
⿰忄禹	10880	一一〇六
⿰忄咠	10881	一一〇六
惿	10882	一一〇六
⿰忄拏	10883	一一〇六
愀	10884	一一〇六
愁	10885	一一〇七
⿱⿰火犬心	10886	一一〇九
⿰忄壴	10887	一一〇九
⿰忄彖	10888	一一〇九
⿰忄⿱⺈豕	10889	一一〇九
⿱勃心	10890	一一〇九
愃	10891	一一〇九
愄	10892	一一〇九
⿰忄侯	10893	一一〇九
⿰忄矦	10894	一一一〇
⿰忄姿	10895	一一一〇
⿱⿰夕刃心	10896	一一一〇
⿰忄柔	10897	一一一〇

字	編號	頁
愅	10898	二一〇
㥦	10899	二一〇
惩	10900	二一〇
惩	10901	二一〇
愇	10902	二一一
惰	10903	二一一
愈	10904	二一一
愉	10905	二一一
愉	10905′	二一二
惊	10906	二一二
悔	10907	二一二
㥛	10908	二一二
㥲	10909	二一二
𢡟	10910	二一二
惐	10911	二一二
㥢	10912	二一二
㥟	10913	二一二
惸	10914	二一二
𢠽	10915	二一二
愊	10916	二一二
愋	10917	二一二
愌	10918	二一三
愍	10919	二一三
愎	10920	二一三
意	10921	二一三
悥	10922	二一七
𢠳	10923	二一七
𢟩	10924	二一七
愐	10925	二一七
𢟴	10926	二一八
愑	10927	二一八
𢡒	10928	二一八
𢝺	10929	二一八
𢠲	10930	二一八
㥐	10931	二一八
𢜰	10932	二一八
愒	10933	二一八
𢝶	10934	二一八
㥸	10935	二一八
愓	10936	二一八
愔	10937	二一八
愰	10938	二一九
愕	10939	二一九
愖	10940	二一九
𢜬	10941	二一九
𢝊	10942	二一九
愘	10943	二一九
𢡃	10944	二一九
㥔	10945	二一九
愚	10946	二一九
愛	10947	二二三
𢤋	10948	二三一
𢡆	10949	二三一
愝	10950	二三一
𢢯	10951	二三一
㤿	10952	二三一
感	10953	二三一
愠	10954	二三五
㥚	10955	二三五
惚	10956	二三五
㥪	10957	二三五
𢠭	10958	二三五
𢞿	10959	二三五
㥕	10960	二三六
𢡠	10961	二三六
恇	10962	二三六
㥦	10963	二三六
𢡁	10964	二三六
㥐	10965	二三六
㥠	10966	二三六
𢟷	10967	二三六
𢟍	10968	二三六
𢡊	10969	二三六
㭰	10970	二三六
𢞄	10971	二三六
𢡅	10972	二三六
僾	10973	二三六
𢞯	10974	二三六
㥜	10975	二三六
𢜵	10976	二三六
𢟹	10977	二三六
𢡣	10978	二三六
𢢀	10979	二三六
𢡕	10980	二三六
慈	10980′	二三六
十畫		
㥷	10981	二三六
愧	10982	二三六
𢣊	10983	二三七
慎	10984	二三七
愪	10985	二三八
愫	10986	二三八
㒉	10987	二三八
愬	10988	二三八
愭	10989	二三八
愮	10990	二三八
愹	10991	二三八
㥮	10992	二三八
㥬	10993	二三八
㥣	10994	二三八
愰	10995	二三八
㥡	10996	二三八
憲	10997	二三八
㥦	10998	二三八
㾴	10999	二三八
㥳	11000	二三八
㥰	11001	二三八
𢡱	11002	二三八
㥲	11003	二三九
𢞝	11004	二三九
㥶	11005	二三九
𢡖	11006	二三九
㥵	11007	二三九
愴	11008	二三九
慉	11009	二三九
𢢡	11010	二三九
慯	11011	二三九
𢣅	11012	二三九
𢢘	11013	二三九
𢣃	11014	二三九
愷	11015	二三九
慇	11016	二四〇
㥯	11017	二四〇
愰	11018	二四〇
㥧	11019	二四〇
𢡧	11020	二四〇
愺	11021	二四〇
㥫	11022	二四〇
愻	11023	二四〇
慎	11024	二四〇
愼	11024′	二四三
𢠵	11025	二四三
𢢞	11026	二四三
愮	11027	二四三
慱	11028	二四三
愾	11029	二四三
愿	11030	二四三
慊	11031	二四四
㥥	11032	二四四
㥷	11033	二四四
傒	11034	二四四
𢝖	11035	二四四
慖	11036	二四四
㥿	11037	二四四
寨	11038	二四四
𢞋	11039	二四四
慥	11040	二四四
慃	11041	二四四
慄	11042	二四四
慅	11043	二四五
慆	11044	二四五
慇	11045	二四五
慠	11046	二四六
慞	11047	二四六
慈	11048	二四六
慉	11049	二五〇
慼	11050	二五〇
慊	11051	二五〇
態	11052	二五一
慯	11053	二五一
㥶	11054	二五一
𢠀	11055	二五一
慔	11056	二五一
慌	11057	二五一
慂	11058	二五一
慍	11059	二五三
慱	11060	二五三
慁	11061	二五三
慈	11062	二五三
愲	11063	二五三

惜	11064	一二五三
愼	11065	一二五三
悳	11066	一二五三
𢝰	11067	一二五三
傯	11068	一二五三
㦔	11069	一二五三
㥹	11070	一二五三
慉	11071	一二五三
憲	11072	一二五三
𢞊	11073	一二五三
憂	11074	一二五三
悠	11075	一二五三
㥾	11076	一二五三
㿯	11077	一二五三
𢞖	11078	一二五三
飄	11079	一二五三
㥷	11080	一二五三
㥵	11081	一二五三
十一畫		
慒	11082	一二五三
㦜	11083	一二五三
慓	11084	一二五三
𢠬	11085	一二五三
慔	11086	一二五三
𢢋	11087	一二五三
慕	11088	一二五三
㦡	11089	一二五五
慖	11090	一二五五
𢢏	11091	一二五五
㥦	11092	一二五五
慗	11093	一二五五
慘	11094	一二五五
慙	11095	一二五七
慚	11096	一二五八
𢢔	11097	一二五八
慛	11098	一二五八
慜	11099	一二五八
𢢨	11100	一二五八
𢡦	11101	一二五八
慞	11102	一二五九
慟	11103	一二五九
𢣀	11104	一二五九
𢢼	11105	一二五九
慠	11106	一二五九
𢥞	11107	一二五九
𢡫	11108	一二五九
㥲	11109	一二五九
慢	11110	一二五九
慣	11111	一二六一
慤	11112	一二六一
慹	11113	一二六一
慥	11114	一二六一
𢢛	11115	一二六一
慧	11116	一二六一
㥯	11117	一二六四
㥡	11118	一二六四
𢡃	11119	一二六四
𢡗	11120	一二六四
𢢀	11121	一二六四
慨	11122	一二六四
𢢗	11123	一二六五
𢢘	11124	一二六五
慩	11125	一二六五
慪	11126	一二六五
慫	11127	一二六五
㦂	11128	一二六五
慬	11129	一二六五
慎	11130	一二六五
慭	11131	一二六五
慮	11132	一二六五
慯	11133	一二六六
慇	11134	一二六六
慰	11135	一二六六
𢡖	11136	一二六七
慱	11137	一二六七
慲	11138	一二六八
蕙	11139	一二六八
慳	11140	一二六八
𢠿	11141	一二六八
𢡕	11142	一二六八
慴	11143	一二六八
慵	11144	一二六八
慶	11145	一二六八
慷	11146	一二七三
𢢟	11147	一二七三
㦗	11148	一二七四
慹	11149	一二七四
𢤂	11150	一二七四
㦚	11151	一二七四
𢢃	11152	一二七四
㦆	11153	一二七四
慺	11154	一二七四
𢞿	11155	一二七四
𢣚	11156	一二七四
𢡟	11157	一二七四
慼	11158	一二七四
慽	11159	一二七四
𢤭	11160	一二七四
𢤏	11161	一二七五
𢣁	11162	一二七五
慾	11163	一二七五
𢤀	11164	一二七五
憣	11165	一二七五
𢣎	11166	一二七五
憀	11167	一二七五
𢢯	11168	一二七五
𢣦	11169	一二七五
憂	11170	一二七五
𢢝	11171	一二七八
憃	11172	一二七八
慌	11173	一二七八
德	11174	一二七八
懜	11175	一二七八
𢠩	11176	一二七八
憆	11177	一二七八
𢣐	11178	一二七八
𪐴	11179	一二七八
𢢖	11180	一二七八
𢥒	11181	一二七八
㥾	11182	一二七九
𢢲	11183	一二七九
𢢆	11184	一二七九
𢣏	11185	一二七九
𢡈	11186	一二七九
甜	11187	一二七九
𢢱	11188	一二七九
憎	11188′	一二七九
十二畫		
𢡭	11189	一二七九
𢢖	11190	一二七九
𢣶	11191	一二七九
𢤎	11192	一二七九
𢣉	11193	一二七九
憉	11194	一二七九
𢛳	11195	一二七九
𢛬	11196	一二七九
憋	11197	一二七九
𢢾	11198	一二七九
𢤇	11199	一二七九
𢣧	11200	一二八〇
憍	11201	一二八〇
懀	11202	一二八〇
𢤱	11203	一二八〇
懌	11204	一二八〇
憏	11205	一二八〇
憐	11206	一二八〇
𢣷	11207	一二八一
㦕	11208	一二八一
𢣭	11209	一二八一
憑	11210	一二八一
憒	11211	一二八三
憓	11212	一二八三
憔	11213	一二八三
憕	11214	一二八三
㦥	11215	一二八四
憖	11216	一二八四
閟	11217	一二八四
憘	11218	一二八四
憙	11219	一二八四
𢣥	11220	一二八四
𢤥	11221	一二八四
憚	11222	一二八四
𢤦	11223	一二八六
憛	11224	一二八六
憜	11225	一二八六
憨	11226	一二八六
憿	11227	一二八六
慄	11228	一二八六
𢣦	11229	一二八六
㦏	11230	一二八六

懕	11231	一二八六
㦽	11232	一二八六
[illegible]	11233	一二八六
[illegible]	11234	一二八六
[illegible]	11235	一二八六
憢	11236	一二八六
憣	11237	一二八七
[illegible]	11238	一二八七
憒	11239	一二八七
[illegible]	11240	一二八八
憦	11241	一二八八
憧	11242	一二八八
[illegible]	11243	一二八八
憨	11244	一二八八
憿	11245	一二八九
憩	11246	一二八九
憇	11247	一二八九
懏	11248	一二八九
[illegible]	11249	一二八九
[illegible]	11250	一二八九
憪	11251	一二八九
憫	11252	一二八九
[illegible]	11253	一二九〇
[illegible]	11254	一二九〇
[illegible]	11255	一二九〇
憬	11256	一二九〇
憙	11257	一二九〇
憭	11258	一二九〇
憮	11259	一二九〇
憯	11260	一二九一
[illegible]	11261	一二九一
[illegible]	11262	一二九一
憰	11263	一二九一
[illegible]	11264	一二九一
憱	11265	一二九一
慞	11266	一二九一
憖	11267	一二九一
憝	11268	一二九一
憲	11269	一二九二
憲	11269′	一二九四
[illegible]	11270	一二九四
[illegible]	11271	一二九四
[illegible]	11272	一二九四
[illegible]	11273	一二九四
[illegible]	11274	一二九四
[illegible]	11275	一二九四
[illegible]	11276	一二九四
[illegible]	11277	一二九四
[illegible]	11278	一二九四
[illegible]	11279	一二九四
[illegible]	11280	一二九四
[illegible]	11281	一二九四
[illegible]	11282	一二九四
[illegible]	11283	一二九四
[illegible]	11284	一二九四
蕙	11285	一二九四
[illegible]	11286	一二九四
[illegible]	11287	一二九四
[illegible]	11288	一二九四
慙	11289	一二九五
[illegible]	11290	一二九五
[illegible]	11291	一二九五
[illegible]	11292	一二九五

十三畫

憴	11293	一二九五
[illegible]	11294	一二九五
憶	11295	一二九五
[illegible]	11296	一二九五
憷	11297	一二九六
[illegible]	11298	一二九六
憸	11299	一二九六
[illegible]	11300	一二九六
[illegible]	11301	一二九六
[illegible]	11302	一二九六
[illegible]	11303	一二九六
憹	11304	一二九六
憺	11305	一二九六
憻	11306	一二九七
[illegible]	11307	一二九七
憼	11308	一二九七
[illegible]	11309	一二九七
[illegible]	11310	一二九七
[illegible]	11311	一二九七
憾	11312	一二九七
[illegible]	11313	一二九七
[illegible]	11314	一二九七
[illegible]	11315	一二九七
[illegible]	11316	一二九七
[illegible]	11317	一二九七
[illegible]	11318	一二九七
懁	11319	一二九七
懂	11320	一二九八
懃	11321	一二九八
懄	11322	一二九八
[illegible]	11323	一二九八
懅	11324	一二九八
懆	11325	一二九八
懇	11326	一二九八
懇	11327	一二九九
懈	11328	一二九九
[illegible]	11329	一二九九
應	11330	一二九九
[illegible]	11331	一三〇七
懊	11332	一三〇七
懋	11333	一三〇八
懌	11334	一三〇九
懍	11335	一三〇九
憤	11336	一三〇九
懎	11337	一三〇九
懏	11338	一三〇九
[illegible]	11339	一三〇九
[illegible]	11340	一三〇九
[illegible]	11341	一三〇九
愨	11342	一三〇九
[illegible]	11343	一三〇九
[illegible]	11344	一三〇九
[illegible]	11345	一三〇九
[illegible]	11346	一三〇九
[illegible]	11347	一三〇九
[illegible]	11348	一三〇九
[illegible]	11349	一三〇九
[illegible]	11350	一三〇九
懐	11351	一三一〇

十四畫

[illegible]	11352	一三一〇
[illegible]	11353	一三一〇
[illegible]	11354	一三一〇
[illegible]	11355	一三一〇
[illegible]	11356	一三一〇
懨	11357	一三一〇
懖	11358	一三一〇
[illegible]	11359	一三一〇
[illegible]	11360	一三一〇
[illegible]	11361	一三一〇
[illegible]	11362	一三一〇
[illegible]	11363	一三一〇
[illegible]	11364	一三一〇
懙	11365	一三一〇
[illegible]	11366	一三一〇
[illegible]	11367	一三一〇
[illegible]	11368	一三一〇
懚	11369	一三一〇
[illegible]	11370	一三一一
懛	11371	一三一一
懜	11372	一三一一
[illegible]	11373	一三一一
懝	11374	一三一一
懞	11375	一三一一
懟	11376	一三一一
懠	11377	一三一一
[illegible]	11378	一三一一
[illegible]	11379	一三一一
[illegible]	11380	一三一一
[illegible]	11381	一三一二
懢	11382	一三一二
[illegible]	11383	一三一三
[illegible]	11384	一三一三
[illegible]	11385	一三一三
懤	11386	一三一三
[illegible]	11387	一三一三
[illegible]	11389	一三一三
懦	11390	一三一三
[illegible]	11391	一三一三
[illegible]	11392	一三一三
[illegible]	11393	一三一三
[illegible]	11394	一三一亖
懧	11395	一三一亖
[illegible]	11396	一三一亖
[illegible]	11397	一三一亖
[illegible]	11398	一三一亖

懺 11398′ 三二三
㦰 11399 三二三
懲 11399′ 三二三

十五畫

懩 11400 三二三
⿰忄遠 11400′ 三二三
懪 11401 三二三
⿰忄閭 11402 三二三
⿰忄察 11403 三二三
⿸厤心 11404 三二三
⿰忄摩 11405 三二三
懫 11406 三二三
⿰忄慮 11407 三二三
⿸广慮 11408 三二三
懭 11409 三二三
⿱與心 11410 三二三
⿰亻⿱㬎心 11411 三二三
⿰忄樂 11412 三二三
懮 11413 三二三
⿱黎心 11414 三二四
⿱瞟心 11415 三二四
憁 11416 三二四
⿱敷心 11417 三二四
⿱𤇾帶 11418 三二四
⿰忄厲 11419 三二四
⿰忄罵 11420 三二四
懰 11421 三二四
懱 11422 三二四
⿱篤心 11423 三二四
⿱徽心 11424 三二四
⿱適心 11425 三二五
⿰忄輿 11426 三二五
⿰忄節 11427 三二五
⿱鉛心 11428 三二五
⿱歊心 11429 三二五
⿱搹心 11430 三二五
⿱覃心 11431 三二五
⿱劉心 11432 三二五
憲 11433 三二五
⿱𨸏心 11434 三二五
懦 11435 三二五
⿰忄熏 11436 三二五
⿱蕑心 11437 三二五
⿱殸心 11439 三二六

十六畫

⿰忄韋 11440 三二六
⿱徼心 11441 三二六
⿰忄薑 11442 三二六
⿱⿰豸頁心 11443 三二六
⿰忄螢 11444 三二六
⿰忄歷 11445 三二六
⿱歖心 11446 三二六
⿰忄遂 11447 三二六
⿰忄舉 11448 三二六
⿰忄奮 11449 三二六
懍 11450 三二六
⿰忄曹 11451 三二六
⿰忄憲 11452 三二六
⿰忄閱 11453 三二六
⿰忄頼 11454 三二六
懶 11455 三二六
懷 11456 三二七
⿰忄雋 11457 三三四
⿰忄罄 11458 三三四
⿱繇心 11459 三三四
⿰忄龍 11460 三三四
⿱龍心 11461 三三四
懸 11462 三三四
⿰忄資 11463 三二九
⿲辛心辛 11464 三二九
⿱⿰其其心 11465 三二九
⿱鬆心 11466 三二九
⿱篤心 11467 三二九
⿰忄諸 11468 三二九
⿱夢心 11469 三二九
⿱疑心 11470 三二九
⿰忄朁 11471 三二九
⿰亻⿱覀心 11472 三二九
⿱山冓 11473 三二九

十七畫

⿰忄鮮 11474 三二九
⿰忄闌 11475 三二九
⿰忄襄 11476 三二九
⿰𢣜刂 11477 三二九
⿰忄韱 11478 三二九
⿰忄隱 11479 三三〇
⿰忄賣 11480 三三〇
⿰忄營 11481 三三〇
⿰忄冀 11482 三三〇
⿰忄舊 11483 三三〇
⿰忄檁 11484 三三〇
⿱熒心 11485 三三〇
⿰忄燮 11486 三三〇
⿰忄尌 11487 三三〇

十八畫

懼 11488 三三〇
⿱雔心 11489 三三一
⿰忄巂 11490 三三一
⿱辟心 11491 三三一
懠 11492 三三一
⿱𡨄心 11493 三三一
⿱𡨄木 11494 三三一
⿰忄嬰 11495 三三一
⿰忄蟲 11496 三三一
懽 11497 三三一
懾 11498 三三一
⿰忄㬥 11499 三三二
⿰忄雙 11500 三三二
懿 11501 三三二
⿰忄爂 11502 三三二

十九畫

⿰忄贊 11503 三三三
戀 11504 三三三
⿱難心 11505 三三四
⿱⿰韋欠心 11506 三三四
⿰忄羅 11507 三三四
⿰忄靡 11508 三三四
⿱願心 11509 三三四
⿱⿰⿱𥫗目頁心 11510 三三四
⿱𢇁心 11511 三三四

二十畫

⿰忄農 11512 三三四
⿱籌心 11513 三三四
⿰忄黨 11514 三三四
戄 11515 三三五
⿰忄𣋪 11516 三三五
⿱毄心 11517 三三五
⿰忄⿵門哥 11518 三三五

二十一畫

⿰忄霸 11519 三三五
⿰忄黿 11520 三三五
⿱⿰竟頁心 11521 三三五
⿱⿰黑票心 11522 三三五
⿰忄蠡 11523 三三五

二十四畫

⿰忄靈 11524 三三五
⿱贛心 11525 三三五
⿰忄贛 11526 三三五

二十五畫

⿰忄鹽 11527 三三六
⿱觀心 11528 三三六

二十七畫

⿱蘴心 11529 三三六

總畫順による檢字

親文字の下に記した和數字は其の文字を掲載した頁。

一畫
く 三六

二畫
巜 三六
马 六三

三畫
寸 一
小 四六
尢 二
尣 二
兀 三
尸 二〇
尸 三三
中 一六
屮 一七
屯 一七
山 八二
巛 三六
川 三六
巜 三二
工 二〇
己 二八一
已 二八三
巳 二八五
巾 二八四
干 四八二
幺 五二七
广 五四七
廴 六〇二
廾 六〇三
廾 六〇三
弋 六〇二
七 六二四
弓 六〇七
弓 六〇一
彐 七八
彑 七九
彡 七四
彳 八〇八
心 九五一
忄 九五一

四畫
寸 三
尐 八九
少 八九
不 九八
允 二三
允 二三
尢 二三
尹 三二
尺 二六
屯 一七
屮 一〇
屮 一〇
屹 三二
屺 三二
岂 三二
巛 三二
五 二四五
王 二四五
玊 二四五
壬 二四五
玎 二四五
巴 二八五
市 二九七
市 二九七
币 二九七
幻 五二七
乡 五二八
玄 五二八
卄 六〇三
廿 六〇四
廾 六〇四
弌 六〇四
弍 六〇四
乇 六〇四
弓 六〇二
弓 六〇二
弓 六〇二
弔 六〇二
引 六〇四
弖 六〇一
弓 六〇一
弓 六〇一
弖 六〇一
弘 六〇一
孔 八〇八
心 九五七
小 九五一
忄 九五一

五畫
对 四
尒 八九
尔 八九
尔 八九
尥 一二四
无 一二四
尪 一二四
尬 一二四
尥 一二四
户 二〇
尻 二〇
尼 三二
㞋 三二
戹 三二
尺 三二
屵 三二
半 一〇
生 一〇
火 三二
岙 三二
宍 三二
屶 三二
屼 三二
岉 三二
屺 三二
岂 三二
岜 三二
屳 三二
屵 三二
屶 三二
岀 三二
巧 二六六
巨 二七九
叫 二七四
巩 二七四
齐 二七四
厄 二九一
邑 二九一
市 二九七
帆 四〇三
帄 四〇三
布 四〇三
帀 四二一
帋 四二一
帄 四二一
平 四八七
平 四八七
幼 五二九
务 五二一
幻 五二一
庀 五四七
庁 五四七
庆 五四七
広 五四七
弁 六〇四
弁 六〇五
弁 六〇五
式 六〇四
弘 六〇一
弔 六〇一
弢 六〇一
弗 六〇一
弘 六〇二
弓 六〇六
令 六〇六
弖 六〇六
弘 六〇六
弘 六〇六
弟 六〇六
归 七九
彑 七四
彤 七四
彳 八〇八
行 八〇八
彻 八〇八
必 九五一
忉 九五二
忉 九五二
忆 九五二
忋 九五二
忊 九五二

六畫
寺 四
寻 六
尖 八九
尚 八九
示 八九
尗 八九
尘 八九
尗 八九
当 八九
尥 一二四
尪 一二四
尩 一二四
尨 一二四
屇 三二
屉 三二
尽 三二
屃 三二
屆 三二
屌 三二
屎 三二
屍 三二
屏 三二
屐 三二
屔 一〇
屖 一〇
屘 一〇
屚 一〇
屛 一〇
屜 三二
屝 三二
屟 三二
屠 三二
屢 三二
屣 三二
层 三二
屦 三二
屩 三二
屪 三二
屫 三二
岔 三二
岙 三二
屺 三二
岂 三二
岜 三二
巛 三二六
尚 三二一
多 三二一
州 三二一
亲 三二四
巛 三二四
巡 三二四
巩 二七四
弖 二九一
邑 二九一
厄 二九一
帉 四一三
帊 四一三
帋 四一三
帍 四一三
帏 四一三
帆 四一三
帐 四一三
帑 四一三
帒 四一三
帓 四一三
帔 四一三
帕 四一三
帖 四一三
帗 四一三
帘 四一三
帙 四一三
帚 四一三
帛 四一三
师 四一三
年 五二三
幵 五二〇
并 五二〇
丝 五二一
庀 五四七
庁 五四七
庂 五四七
庅 五四七
庆 五四七
庇 五四八
庈 五四八
庉 五四八
床 五四八
庋 五四八
庌 五四八
庍 五四八
庎 五四八
延 六〇二
廵 六〇二
异 六〇五
弐 六〇五
弇 六〇五
弎 六〇四
式 六〇四
弑 六〇六
弓 六〇六
弓 六〇六
弓 六〇六
弓 六〇六
弘 六〇六
弛 六〇六
弜 六〇六
弝 六〇六
弞 六〇六
弟 六〇六
弟 六〇六
弡 六〇六
弢 六〇六
弣 七九
弤 七九
弥 七九
当 七九
彩 七四
彰 七四
彲 七四
彳 七四
代 八〇八
彴 八〇八
他 八〇八
彶 八〇九
彷 八〇九
忌 九五三
忍 九五三
忎 九五三
忏 九五三
忐 九五四
忑 九五七
忒 九五七
忓 九五七
忔 九五七
忕 九五七
忖 九五七
志 九五七
忘 九五八

七畫
守 六
寿 六
对 六
寿 六
寿 六
尨 八九
尬 八九
尭 八九
尮 八九
尯 八九
尰 一〇〇
尳 一〇〇
尴 一二四
尵 一二五
尶 一二五
尷 一二五
尸 一二五
尹 一二五
尺 一二五
尻 一二五
忖 九五八
忕 九五八
忖 九五八
志 九五三
忙 九五四
忚 九五五
忛 九五五
応 九五五
忝 九五五
忞 九五五
忟 九五五
忠 九五五
尩 一二五
尪 一二五
尾 二三二
尿 二三五
屁 二三五
局 二三五
屁 二三七
屃 二三七
屄 二三七
居 二三七
屆 二三七
屇 二三七
屈 二三七
岔 二〇
岕 二〇
岖 二〇
岗 二〇
岘 三二三
岙 三二三
岚 三二三
岛 三二三
岜 三二三
岝 三二三
岞 三二三
岟 三二三
岠 三二三
岡 三二三
岢 三二三
岣 三二四
岤 三二四
岥 三二四
岦 三二四
岭 三二四
岪 三二四
岫 三二四
岬 三二四
岮 三二四
岯 三二四
岰 三二四
岲 三二四
岴 三二四
岵 三二五
岶 三二五
岷 三二五
岸 三二五
岹 三二七
岺 三二八
岻 三二八
岼 三二八
岽 三二九
岾 三二九
岿 三二九
峀 三二九
峁 三二九
峂 三二九
峃 三二九
峄 三二九
峅 三二九
峆 三二九
峇 三二九
峈 三二九
峉 三二九
峊 三二九
峋 三二九
坙 三二四
忝 三二四
㞕 三二四
巡 三二四
㠯 三二七
巩 三二七四
巫 三二七四
孚 三二七
戸 三二七
巵 三九一
岋 四一三
岎 四一三
帉 四一三
帊 四一三
帋 四一四
帍 四一四
帎 四一四
帏 四一四
帐 四一四
帑 四一四
帒 四一四
帓 四一四
帔 四一四
帕 四一七
帖 四一七
帗 四一七
帘 四一七
帙 四一七
帚 四一七
帛 四一七
帜 四一八
帝 四一八
帞 四一八
帟 四一八
帠 四一八
帡 四一八
帢 四一八
帣 四一八
帤 四一八
帥 四一八
带 四一八
帧 四一八
帨 四一八
帩 五二〇
帪 五二〇
师 五二〇
帬 五二〇
帮 五二一
帯 五二一
帰 五二一
帱 五四八
帲 五四八
帳 五四八
帴 五四九
帵 五四九
帶 五四九
帷 五四九
常 五四九
帹 五四九
帺 五四九
帻 五四九
帼 五四九
帽 五四九
戊 五五〇
序 五五〇
底 五五三
庝 五五三
庰 五五三

庋 五五二
庑 五五二
庎 五五二
庐 五五二
応 五五二
延 六四二
延 六四八
廷 六四八
弃 六六五
斉 六六五
弄 六六五
弇 六六八
井 六六八
弅 六六八
异 六六八
弃 六六八
弁 六六八
戕 六七六
肓 六七六
武 六七六
武 六七六
式 六七六
弜 六九八
弦 六九八
弤 六九八
弝 六九八
弡 六九八
弞 六九八
弟 六九八
弚 六九八
弙 六九八
灵 六九八
弦 六九八
弖 七〇〇

引 七〇〇
弤 七〇〇
灸 七一九
形 七八四
形 七八八
彣 七八八
彤 七八八
彶 八〇九
彴 八〇九
从 八〇九
彵 八〇九
彾 八〇九
彷 八〇九
徇 八〇九
彸 八〇九
彼 八〇九
征 八〇九
役 八〇九
往 八一二
仰 八一二
徃 八一二
彽 八一二
仵 八一二
忌 九五三
忍 九五五
忍 九五七
忎 九五七
忐 九五七
忑 九五七
忒 九五七
忥 九五八
忞 九五八
忐 九五八
志 九五八

忘 九六三
炎 九六五
灸 九六五
忌 九六五
忐 九六五
忌 九六五
念 九六五
応 九六五
忮 九六六
怲 九六六
忡 九七五
忣 九七六
忤 九七六
忦 九七六
忧 九七六
忷 九七六
忨 九七六
忪 九七六
忚 九七七
快 九七七
㤄 九七七
忬 九七九
忭 九八〇
忮 九八〇
忛 九八〇
忯 九八〇
忟 九八〇
忺 九八〇
忰 九八一
忱 九八一
忨 九八一
忲 九八一
忭 九八一

忉 九八一
忳 九八一
忴 九八一
忶 九八三
忷 九八三
㤉 九八三
怲 九八四
忸 九八四
忷 九八四
任 九八四
忺 九八四
忻 九八四
忼 九八四
忟 九八五
物 九八七
忾 九八七
份 九八八
任 九八八
伏 九八八
怀 九八八
怏 九八八
忴 九八八

八畫

村 六
寻 六
尀 六
时 六
尃 六
射 六
尙 一〇〇
尚 一〇九
尐 一〇九
尖 一一〇

俊 一一〇
尥 一一五
尩 一一五
尪 一一五
尰 一一六
尬 一一六
尫 一一六
屄 一三八
屁 一三八
居 一三八
屋 一四二
屆 一四二
届 一四二
届 一四四
届 一四四
屈 一四四
屉 一四九
屄 一四九
屁 一四九
尾 一四九
屌 一四九
屆 一四九
屏 一四九
屋 一四九
屚 一四九
居 一四九
峀 一八〇
岺 一八〇
岦 一八〇
岝 二三九
岞 二三九
峡 二三九
岷 二三九
岠 二三九

岡 二三〇
岶 二三三
岠 二三三
岂 二三三
峃 二三三
峡 二三三
峕 二三三
岢 二三三
岣 二三三
岉 二三四
岝 二三四
岲 二三四
岤 二三四
岥 二三四
崦 二三四
岦 二三四
岙 二三四
岷 二三四
峸 二三四
岩 二三四
岹 二三四
岧 二三四
岨 二三四
岩 二三四
岙 二三五
岵 二三五
岻 二三六
岸 二三六
岪 二三六
岫 二三六
岬 二三六
岭 二三六
岮 二三六
岯 二三七

岰 二三七
岱 二三七
岴 二三八
岘 二三八
兕 二三八
岳 二三八
岓 二四一
岵 二四一
岈 二四一
岶 二四一
屔 二四一
岷 二四一
岵 二四二
岸 二四三
岑 二四三
岧 二四三
岦 二四三
岡 二四三
岙 二四四
岩 二四四
岻 二四四
峒 二四四
巠 二四四
巹 三三七
卺 三三七
巸 三九一
巵 三九一
帓 四一八
帍 四一八
帑 四一八
帔 四一八
帒 四一八
帕 四一八
帛 四一九

帎 四一九
帗 四一九
帓 四一九
帠 四一九
帔 四一九
帇 四一九
帕 四一九
帖 四一九
帗 四二〇
帘 四二二
帙 四二二
帒 四二二
帚 四二二
帛 四二二
帑 四二三
帡 四二三
帨 四二三
帔 四二三
帞 四二三
帝 四二三
帘 四二三
希 四二三
帥 四二三
帇 四二三
幷 五三〇
幸 五三三
卒 五三四
幼 五五一
幾 五五一
紗 五五一
絲 五五一
底 五五三
庍 五五四
庈 五五四

庈 五五四
庖 五五四
店 五五五
床 五五六
床 五五六
庤 五五六
庞 五五六
庴 五五六
庮 五五六
府 五五六
庙 五五六
庙 五五六
庚 五五六
庚 五五六
庙 五五七
庛 五五七
府 五五八
府 五五八
庎 五五八
庎 五六一
庅 五六一
庄 五六一
庉 五六一
庌 五六一
庛 五六一
庬 五六一
庮 五六一
庛 五六一
庛 五六一
庢 五六一
廸 六五三
廻 六五三
弇 六六八

弆 六六八
弇 六六八
弉 六六八
弃 六六八
弉 六六八
弌 六七六
弍 六七六
弤 七〇〇
弦 七〇〇
弢 七〇〇
弥 七〇〇
弢 七〇〇
弧 七〇〇
弦 七〇〇
弥 七〇〇
弡 七〇〇
張 七〇〇
弦 七〇三
弢 七〇三
弧 七〇三
弨 七〇四
弩 七〇四
弶 七〇四
弬 七〇五
弢 七〇五
弣 七〇五
弧 七〇五
希 七一九
彔 七一九
彔 七一九
彔 七一九
彔 七一九
彤 七九〇
彥 七九〇

彭 七九〇
彬 七九〇
彩 七九〇
彧 七九〇
彦 七九〇
彿 八一一
作 八一一
徇 八一一
彼 八一一
位 八一三
徂 八一三
徊 八一三
徉 八一三
彿 八一三
徊 八一三
往 八一三
徍 八一六
徑 八一七
征 八一七
征 八一七
徂 八一九
徆 八二〇
佟 八二〇
徑 八二〇
忝 九六五
忝 九六六
忞 九六六
忠 九六六
忢 九七六
忩 九七六
忿 九七六
氣 九七六
忩 九七七
忠 九八〇

忑 九八〇
忎 九八〇
忠 九八一
念 九八一
急 九八三
忞 九八三
忽 九八四
忿 九八五
忿 九八七
忠 九八八
忠 九八八
忞 九八八
怭 九八八
忌 九八八
忌 九八八
忝 九八八
怈 九八八
怯 九八八
怈 九八八
怉 九八八
怊 九八八
怋 九八八
怌 九八八
怍 九八九
怏 九八九
快 九八九
怐 九八九
怑 九九〇
怓 九九一
怔 九九三
怕 九九三
怖 九九三
怗 九九三

怕 九九三
佟 九九三
怖 九九三
怗 九九三
怙 九九三
怙 九九三
怘 九九三
怚 九九四
怛 九九四
命 九九四
怜 九九四
怞 一〇〇一
怦 一〇〇一
怦 一〇〇一
怤 一〇〇一
体 一〇〇一
怟 一〇〇一
怡 一〇〇三
怢 一〇〇四
怤 一〇〇四
怦 一〇〇七
怚 一〇〇七
性 一〇〇七
怩 一〇一四
怪 一〇一四
怳 一〇一六
怫 一〇一六
怬 一〇一七
怭 一〇一七
怮 一〇一七
怯 一〇一七
怯 一〇一七
怰 一〇一八
怲 一〇一八

怲 一〇一八
悅 一〇一八
悈 一〇一八
悦 一〇一八
悖 一〇一九
悓 一〇一九
悙 一〇一九
悆 一〇一九
悧 一〇一九
悜 一〇一九
悚 一〇一九

九畫

封 六
尃 一三
尅 一三
尋 一三
射 一三
尌 一三
尉 一三
尔 一一〇
尛 一一〇
尜 一一〇
尗 一一〇
尞 一一〇
尟 一一〇
尠 一一〇
尣 一一五
尢 一一六
尥 一一六
尦 一一六
尨 一一六
尪 一一六
尬 一一六

尳 一一六
屇 一四九
屆 一四九
屃 一四九
屇 一四九
屋 一四九
屆 一五一
屈 一五一
屎 一五一
屇 一五一
屏 一五二
屌 一五二
屏 一五二
屑 一五二
屖 一五二
屙 一五二
屗 一五二
屘 一五二
屄 一五二
尾 一五二
屌 一五二
屍 一五二
屎 一五二
屏 一五二
屓 一五二
屗 一五二
屔 一八〇
屋 一八一
岸 一八一
峚 一八一
峑 一八一
峆 二四四
峇 二四四

峈 二四四
峉 二四四
峊 二四四
峕 二四四
岡 二四四
峬 二四四
峷 二四四
峋 二四四
峌 二四四
峔 二四四
峍 二四四
峵 二四四
崀 二四四
峏 二四四
崡 二四四
峐 二四四
峑 二四五
峒 二四五
峝 二四五
峓 二四五
峗 二四五
峔 二四五
峪 二四五
峄 二四五
峕 二四五
岯 二四五
峖 二四五
峗 二四五
峞 二四五
峘 二四六
岫 二四六
岍 二四六
峙 二四六
峚 二四六

峛 二四六
峇 二四六
峀 二四六
峕 二四六
峷 二四六
峟 二四六
峀 二四六
峸 二四六
峃 二四七
崙 二四七
屸 二四七
峿 二四七
岊 二四七
峠 二四七
峡 二四七
巤 三三七
甾 三三七
巢 三三七
巠 三三七
巡 三三八
差 三七七
巵 三九一
巸 三九一
巷 三九一
配 三九三
巹 三九三
巽 三九三
巻 三九三
帝 四三三
帢 四三〇
帞 四三〇
帹 四三〇
帓 四三〇
帬 四三〇

帴 四三〇
帙 四三〇
帟 四三〇
帨 四三〇
帳 四三〇
帘 四三〇
帕 四三〇
帛 四三〇
帲 四三〇
帢 四三〇
帣 四三〇
帞 四三二
帺 四三二
帤 四三二
帨 四三二
帥 四三二
帗 四三二
帣 四三三
帍 四三三
帢 四三三
帝 四三三
帋 四三三
帙 四三三
帟 四三三
帬 四三三
帒 四三三
帑 四三三
帍 四三三
帑 四三三
芈 五二四
㓜 五三三
幽 五三三
庬 五六一
庴 五六一

庠 五五一
庚 五五一
庫 五五一
㡯 五五三
庝 五五三
庴 五五三
庯 五五三
庡 五五三
庰 五五三
庢 五五三
庛 五五三
康 五五三
庤 五五三
庥 五五三
㢊 五五三
度 五五三
庮 五五六
庬 五五六
庣 五五六
庯 五五六
庋 五五六
建 六五三
迴 六六〇
廼 六六三
畀 六六八
弇 六六八
弈 六六九
奔 六六九
舁 六六九
弆 六六九
拜 六六九
弊 六六九
契 六六九
弍 六七六

弍 六七六
栻 六七六
弑 六七六
貳 六七六
弒 六七六
弶 七〇五
弳 七〇五
弯 七〇五
弫 七〇五
弮 七〇六
弴 七〇六
弩 七〇六
弯 七〇六
弸 七〇六
巽 七〇六
張 七〇六
㢧 七〇六
弨 七〇六
㢸 七〇六
弯 七〇六
弮 七〇七
弭 七〇七
弸 七〇七
弶 七〇七
弳 七〇七
弱 七〇七
弰 七〇七
彖 七七九
彔 七七九
彖 七七九
彥 七九〇
彦 七九三
形 七九三
徊 八二〇

佫 八二〇
佻 八二二
佮 八二二
待 八二二
徝 八二三
徑 八二三
彼 八二三
洲 八二三
徆 八二三
徇 八二三
㣥 八二四
很 八二四
徉 八二五
徊 八二五
徏 八二五
律 八二五
後 八二九
往 八四九
徛 八四九
徔 八四九
徍 八四九
征 八四九
彾 八四九
怎 九八九
恐 九八九
思 九八九
怨 九八九
怒 九九〇
悠 九九一
恖 九九二
恣 九九二
怘 九九三
忐 九九三
悬 九九四

思 九九四
怣 一〇〇一
怠 一〇〇四
怤 一〇〇四
急 一〇〇四
怨 一〇一一
㤀 一〇一四
㤔 一〇一四
恚 一〇一六
怱 一〇一八
恋 一〇一九
恵 一〇一九
㤅 一〇一九
态 一〇一九
悲 一〇一九
恗 一〇一九
恁 一〇一九
您 一〇一九
恀 一〇一九
㤚 一〇一九
恁 一〇二〇
恂 一〇二〇
恃 一〇二〇
恄 一〇二一
恜 一〇二一
㤺 一〇二一
恘 一〇二一
恅 一〇二一
恒 一〇二一
恆 一〇二四
恇 一〇二四
恎 一〇二五
㤻 一〇二五
恉 一〇二五

忼 一〇二五
悄 一〇二五
恊 一〇二五
恷 一〇二五
侘 一〇二五
侎 一〇二五
恌 一〇二五
例 一〇二五
恍 一〇二五
恦 一〇二六
恎 一〇二六
使 一〇二七
㤪 一〇二七
恑 一〇二七
恓 一〇二七
恔 一〇二八
㤘 一〇二八
恗 一〇二八
惏 一〇二八
悚 一〇二九
恛 一〇二九
恜 一〇二九
恞 一〇二九
恟 一〇二九
恠 一〇三〇
恷 一〇三〇
恢 一〇三〇
㤥 一〇三〇
怢 一〇三一
悷 一〇三一
恤 一〇三一
恂 一〇三三
恨 一〇三三
悒 一〇三四

恪 一〇三九
恫 一〇四〇
恬 一〇四〇
恭 一〇四五
怗 一〇四五
恮 一〇四五
怕 一〇四八
恰 一〇四八
悅 一〇四九
恾 一〇四九
依 一〇四九
惱 一〇四九
怜 一〇四九
恲 一〇四九
悔 一〇四九
恓 一〇四九

十畫

專 三
射 三
尅 八
尋 八
將 八
将 八
兌 一一〇
泉 一一〇
尙 一一〇
妙 一一〇
家 一一〇
尥 一一六
尨 一一六
尫 一一六
尪 一一六
尳 一一六

尵 一一六
戻 一五四
屖 一五四
屐 一五四
屑 一五四
屒 一五三
屘 一五三
屎 一五三
屓 一五三
屔 一五三
展 一五三
屖 一五七
屡 一五七
屣 一五七
屄 一五七
岾 一五七
屉 一五七
屍 一五八
屛 一五八
屆 一五八
屃 一五八
峖 一八二
峯 一八二
峊 一八二
峹 一八二
峑 二四七
峎 二四七
峨 二四七
峩 二四八
峪 二四八
峬 二四八
峵 二四八
峢 二四八
峫 二四八

峫 二四八
㟜 二四八
峘 二四八
崖 二四八
崑 二四八
峬 二四八
峸 二四九
峭 二四九
峮 二五〇
峮 二五〇
峔 二五〇
峎 二五〇
峟 二五〇
峽 二五〇
峴 二五〇
峯 二五〇
峰 二五一
峬 二五一
猎 二五一
峟 二五一
峲 二五三
峳 二五三
峻 二五三
峭 二五三
巃 二五三
忠 二五三
峎 二五三
崀 二五三
峴 二五三
峵 二五三
島 二五三
峷 二五四
峸 二五四
峹 二五四

峹 二五四
峻 二五四
峿 二五四
峺 二五四
峻 二五四
峼 二五六
峼 二五六
岊 二五六
峷 二五六
峆 二五六
峽 二五六
峾 二五八
峌 二五八
峿 二五八
峗 二五八
岙 二五八
㟠 二五八
峙 二五八
崁 二五八
岑 二五八
峧 二五八
峞 二五八
豈 二五八
豈 二五八
崮 二五八
崔 二五八
崗 二五八
崆 二五八
峚 二五八
嵛 二五八
茁 二五八
峇 二五八
岡 二五八
峧 二五八

巢 三三八
巣 三三八
差 三七七
𢀩 三八一
巹 三九三
帮 四三三
帆 四三三
帩 四三三
帢 四三三
帨 四三三
帵 四三三
帺 四三三
帹 四三三
㡖 四三三
帼 四三三
帩 四三三
帢 四三三
带 四三三
帨 四三三
帳 四三三
帑 四三三
師 四三三
帟 四四〇
帽 四四〇
帮 四四〇
帬 四四〇
帬 四四〇
帣 四四〇
帪 四四〇
帹 四四〇
帾 四四〇
席 四四〇
帡 四四三
帑 四四三

帶 四四三
帰 四四三
訐 五二四
羿 五二四
宰 五四三
座 五六六
庲 五六八
庨 五六八
㡾 五六八
庮 五六八
㢈 五六八
庩 五六八
庣 五六八
㡻 五六八
㡷 五六八
庪 五六八
庫 五六八
庮 五七一
㡹 五七一
庬 五七一
康 五七一
庱 五七一
庳 五七一
庭 五七一
庮 五七五
庰 五七五
庸 五七五
庿 五七六
庫 五七六
厘 五七六
㢉 五七六
庴 五七六
㡽 五七六
㢃 五七六

庯 五五六
迴 六六三
舁 六七〇
弆 六七〇
𢍰 六七〇
畀 六七〇
𢍲 六七〇
𢍂 六七〇
𢍣 六七〇
弑 六七六
發 七〇七
弢 七〇七
弰 七〇七
弾 七〇七
弱 七〇七
弱 七一〇
弲 七一〇
弿 七一〇
弻 七一〇
弯 七一〇
圓 七一〇
弯 七一〇
弳 七一〇
弮 七一〇
彔 七七九
㣇 七八〇
㣈 七八〇
彖 七八〇
彧 七九三
浦 七九三
彭 七九三
彰 七九三
徒 七九三
彨 七九三

彩 七九三　徎 八四九　俟 八四九　倖 八四九　俙 八四九　徏 八四九　徐 八四九　俊 八六七　俏 八六七　俤 八六七　徑 八六七　俗 八六七　俠 八六七　俸 八六七　徑 八六七　俉 八六九　俾 八六九　徒 八六九　復 八七三　誘 八七三　俑 八七三　徧 八七三　徃 八七三　侵 八七三　傢 八七三　俗 八七三　徯 八七三　徭 八七三　很 八七三　從 八七三　怋 一〇一九　怨 一〇一九　恁 一〇一九　恣 一〇二五

恙 一〇二五　患 一〇二五　思 一〇二五　烈 一〇二五　恴 一〇二六　怒 一〇二六　恙 一〇二六　恐 一〇二六　恐 一〇二六　恕 一〇二八　㤻 一〇二八　恖 一〇二八　恙 一〇二八　恚 一〇二九　恩 一〇二九　恝 一〇二九　恠 一〇三〇　逶 一〇三一　恣 一〇三一　惡 一〇三三　恥 一〇三三　恶 一〇三三　恳 一〇三四　恩 一〇三四　急 一〇四〇　恭 一〇四一　恭 一〇四五　息 一〇四五　念 一〇四九　㤉 一〇四九　怨 一〇四九　患 一〇四九　悉 一〇四九　㥯 一〇四九

惄 一〇四九　意 一〇四九　惠 一〇四九　恾 一〇四九　悀 一〇四九　悁 一〇五〇　侳 一〇五〇　悃 一〇五〇　悄 一〇五〇　㤣 一〇五一　悅 一〇五一　悦 一〇五二　侶 一〇五二　恉 一〇五三　悇 一〇五三　悈 一〇五三　惘 一〇五四　恪 一〇五四　悋 一〇五四　悌 一〇五四　悍 一〇五五　恒 一〇五六　悎 一〇五六　悏 一〇五六　愀 一〇五六　悑 一〇五六　怯 一〇五六　悒 一〇五六　悭 一〇五六　悓 一〇五六　悔 一〇五七　悕 一〇五八　恬 一〇五八　悖 一〇五八

悗 一〇五九　便 一〇五九　佤 一〇五九　恅 一〇五九　悙 一〇五九　恗 一〇五九　悚 一〇五九　恰 一〇六〇　悛 一〇六〇　悜 一〇六〇　侹 一〇六〇　悒 一〇六〇　悝 一〇六〇　悞 一〇六〇　悟 一〇六〇　侳 一〇六二　㤷 一〇六二　㤱 一〇六二　㤜 一〇六二　㤶 一〇六三　㤪 一〇六三　悧 一〇六三　悢 一〇六三　㥽 一〇六四　悻 一〇六四　恉 一〇六四　倪 一〇六四　侵 一〇六四　悾 一〇六四　悟 一〇六五　㤭 一〇六五　㥶 一〇六五　侏 一〇六五　惱 一〇六五

惱 一〇六五

十一畫

將 一八　專 二四　尉 二八　寡 三〇　尉 三〇　尌 三〇　尌 三〇　眘 一一〇　礼 一一〇　尭 一一〇　堂 一一〇　齒 一一〇　鼻 一一〇　卑 一一〇　龠 一一〇　追 一一六　就 一一六　棭 一一六　棓 一一六　棵 一一六　棹 一一六　楼 一一七　椅 一一七　尯 一一七　屚 一五八　屙 一五八　屋 一五八　屎 一五八　㞓 一五八　屚 一五八　豕 一五八

屃 一五八　屏 一五八　屜 一六一　屚 一六一　屋 一六一　屝 一六一　屐 一六一　阻 一六一　屋 一六一　屈 一六一　屍 一六一　㞕 一六一　屖 一六一　㞙 一六一　犀 一六一　㞒 一六一　毒 一八一　容 一八一　崆 一五八　幽 一五九　峒 一五九　嵩 一五九　峽 一五九　崍 一五九　崇 一五九　㟧 一六六　嵴 一六六　嵐 一六六　崊 一六六　峼 一六六　㟚 一六六　㟭 一六六　㟥 一六六　華 一六六

峬 一六六　崀 一六六　崏 一六六　崓 一六六　嵌 一六六　崌 一六六　崃 一六六　崎 一六七　崏 一六七　崁 一六七　崐 一六七　崑 一六七　崱 一七一　崒 一七一　崪 一七一　崮 一七一　崔 一七一　崕 一八〇　崖 一八〇　峈 一八二　崘 一八二　崙 一八二　崚 一八二　崛 一八二　崫 一八三　崜 一八三　嵤 一八三　崬 一八三　崈 一八三　崛 一八三　峊 一八三　峴 一八三　嵊 一八三　㟝 一八三

崝 一八三　崞 一八三　崺 一八三　崟 一八三　崠 一八四　崡 一八四　嵮 一八四　崢 一八四　崋 一八四　崾 一八四　崤 一八四　崥 一八五　崦 一八五　崧 一八五　崨 一八五　嵒 一八五　崩 一八五　崩 一八六　崩 一八六　㟅 一八六　㟆 一八六　巻 一八六　崰 一八六　事 一八六　峅 一八六　崗 一八六　崗 一八七　峊 一八七　嵃 一八七　迠 一八七　峒 一八七　崮 一八七　峌 一八七　定 一八七

㠉 一八七　宴 一八七　㟷 一八七　啓 一八七　峪 一八七　峒 一八七　崯 一八七　㠋 一八七　崁 一八七　崮 一八七　𡿺 三一八　巢 三一八　巢 三四〇　𢦏 三四〇　邕 三四〇　叕 三八一　巽 三九三　巷 三九三　巷 三九三　巻 三九三　㡙 四四三　幘 四四三　幤 四四三　㡆 四四四　㠷 四四四　帽 四四四　帹 四四四　帡 四四四　帳 四四四　㠾 四四五　㡏 四四五　㡖 四四五　帴 四四六　帢 四四六

幍 四四六　㡄 四四六　㡑 四四六　幅 四四六　帵 四四六　帶 四四六　帑 四四九　㡌 四五〇　㡘 四五〇　帷 四五〇　常 四五一　幝 四六二　幕 四六二　㠶 四六二　帿 四六二　幀 四六二　㡁 四六二　帢 四六二　帎 四六二　㡬 四六二　幘 四六三　帿 四六三　帽 四六三　幡 四六三　翁 四六三　庰 五七六　㡴 五七六　廅 五七六　庛 五七六　廎 五七六　㡿 五七六　庱 五七六　㡰 五七六　庲 五七六

虒 五七六　庫 五七六　庳 五七七　㢜 五七七　庨 五七七　庿 五七七　庚 五七七　座 五七七　㡯 五七七　庴 五七七　㢋 五七七　庵 五七七　㢘 五七七　㡾 五七七　㢱 五七七　庶 五七七　庹 五八一　㢢 五八一　康 五八一　㡩 五八八　庸 五八八　㡿 五九一　㢅 五九一　廣 五九一　㡳 五九一　廛 五九一　㢛 五九一　㢏 五九一　廧 五九一　㢈 五九一　㡣 五九一　廆 五九一　㢕 五九一　庯 五九一

庀 五九一　廸 六六三　穽 六七〇　弇 六七〇　㢡 六七〇　彛 六七〇　舁 六七〇　舁 六七〇　弑 六七六　弸 七一〇　發 七一〇　號 七一〇　弾 七一〇　弲 七一〇　弜 七一〇　彂 七一〇　弸 七一〇　弴 七一〇　弾 七一〇　強 七一〇　弡 七一〇　張 七一〇　㢶 七五九　彊 七五九　強 七五九　彌 七六五　弸 七六五　弦 七六五　張 七六五　㢥 七六五　弱 七六五　彗 七八〇　㣒 七八〇　彘 七八〇

衮 七八〇　皐 七九三　彩 七九三　彩 七九五　彪 七九五　彪 七九五　彫 七九五　彫 七九七　彬 七九七　彭 七九七　影 七九七　彫 七九七　彰 七九七　後 八七三　俺 八七三　徖 八七三　得 八七三　後 八七九　傻 八七九　徫 八七九　徘 八七九　徒 八七九　徚 八八〇　徝 八八〇　徇 八八〇　徑 八八〇　徑 八八〇　徛 八八〇　徜 八八〇　御 八八〇　徝 八八〇　從 八八〇　徟 八八〇　彸 八八〇

徠 八八七　俾 八八八　御 八八八　待 九〇一　倭 九〇一　徭 九〇一　徤 九〇一　徍 九〇一　役 九〇一　甹 九〇一　徭 九〇一　修 九〇一　御 九〇一　借 九〇一　衕 九〇一　愬 一〇四九　恩 一〇四九　恁 一〇五〇　念 一〇五三　悉 一〇五三　憂 一〇五四　㤿 一〇五四　悿 一〇五六　悬 一〇五六　恐 一〇五六　悪 一〇五六　恣 一〇五六　愁 一〇五六　憲 一〇五六　悤 一〇五六　慂 一〇五九　㦖 一〇五九　悠 一〇六一　㥏 一〇二三

患 一〇五三　惣 一〇五四　恩 一〇五四　恴 一〇五四　恭 一〇五四　恩 一〇五四　悳 一〇五四　㥏 一〇五四　惪 一〇五四　急 一〇五五　惣 一〇五五　愍 一〇五五　怨 一〇五五　悠 一〇五五　悤 一〇五五　恕 一〇五五　悪 一〇五五　惊 一〇六五　悱 一〇六八　惈 一〇六八　㤿 一〇六八　㥀 一〇六八　悴 一〇六八　悵 一〇六九　㝵 一〇六九　悶 一〇七〇　悷 一〇七〇　悸 一〇七〇　悺 一〇七〇　悻 一〇七一　悼 一〇七一　惟 一〇七一　惆 一〇七二　悽 一〇七二

㥎 一〇七二
悾 一〇七三
悿 一〇七三
㥛 一〇七三
惀 一〇七三
惂 一〇七三
惃 一〇七三
㥍 一〇七三
情 一〇七四
情 一〇七八
惆 一〇七八
惇 一〇七八
惈 一〇七九
㥇 一〇七九
㥀 一〇七九
㥨 一〇七九
悰 一〇七九
㤶 一〇七九
㥊 一〇七九
惋 一〇七九
惍 一〇八〇
㥒 一〇八〇
𢜬 一〇八〇
惗 一〇八〇
㤽 一〇八〇
悄 一〇八〇
㤓 一〇八〇
㤹 一〇八〇
㤝 一〇八〇
惏 一〇八〇
㥉 一〇八一
惐 一〇八一
㥏 一〇八一
㥢 一〇八二

惓 一〇八二
㥬 一〇八二
㤿 一〇八二
㤩 一〇八二
惔 一〇八二
惕 一〇八二
㥽 一〇八三
惗 一〇八三
㥓 一〇八三
㤥 一〇八三
惘 一〇八三
惙 一〇八三
惚 一〇八三
惛 一〇八四
惰 一〇八四
惜 一〇八四
惝 一〇八六
㥅 一〇八六
㥞 一〇八六
惟 一〇八六
㥷 一〇九三
㤸 一〇九九
㥜 一〇九九
𢛆 一〇九九
㥔 一〇九九
㥤 一〇九九
㥍 一〇九九
惦 一〇九九
惧 一〇九九
慘 一一〇〇
情 一一〇〇

十二畫

尊 三〇

㝷 三六
尋 三六
封 三九
尊 三九
對 三九
尉 三九
尞 一一〇
𡭽 一一〇
當 一一〇
𡮼 一一〇
𡮢 一一〇
𡯾 一一七
尰 一一七
𡯲 一一七
尰 一一七
尳 一一七
就 一一七
就 一一七
尳 一一九
尵 一一九
尵 一一九
𡰪 一一九
屆 一一九
屍 一六一
屐 一六一
屚 一六一
屠 一六一
属 一六三
屟 一六三
屎 一六三
屋 一六三
層 一六三
屖 一六三
屑 一六三

屠 一六三
屬 一六四
䶵 一六五
岾 一六五
屙 一六五
服 一六五
肶 一六五
屁 一六五
屖 一六五
屢 一六五
嶨 一八一
嵙 一八一
峷 一八一
峚 一八一
嵒 一八一
崱 二八七
嵊 二八七
嵋 二八七
崲 二八七
嵛 二八七
嵗 二八七
崵 二八八
嵑 二八八
崋 二八八
崟 二八八
崶 二八八
嵴 二八八
嵆 二八八
嵮 二八八
崹 二八八
崯 二八八
嵃 二八八
𡾊 二八八
峼 二八八

嵵 二八八
崼 二八八
崽 二八八
𡸳 二八八
㟐 二八八
崿 二八八
𡹃 二八九
崕 二八九
嵁 二八九
𡹋 二八九
嵃 二八九
嵄 二八九
𡸆 二八九
嵗 二八九
𡸣 二八九
嵇 二八九
嵓 二九〇
嵈 二九〇
嵉 二九〇
嶮 二九〇
嵋 二九〇
嵌 二九〇
嵆 二九〇
嵎 二九一
㟴 二九一
嵊 二九一
嶇 二九一
𡸧 二九一
嵕 二九一
嶐 二九一
嵏 二九一
嵐 二九一
𡹎 二九二
嵑 二九二

嵔 二九二
㟪 二九三
嵒 二九三
㠋 二九三
嵁 二九三
嶄 二九三
𡶴 二九三
嵩 二九三
嶦 二九三
嵸 二九三
嵎 二九三
崩 二九三
嵍 二九三
嵧 二九三
嵛 二九三
𡹵 二九三
嵱 二九三
嵠 二九三
嵟 二九三
嵤 二九三
嵫 二九三
嶞 二九三
嵴 二九三
嵏 二九三
㟯 二九三
𡹉 二九三
嵯 二九四
嵗 二九四
戯 三四〇
珏 三八一
巽 三九三
巺 三九四
㡏 四六三
㡡 四六三

帽 四六三
帽 四六三
𢄡 四六三
𢄜 四六四
𢃽 四六四
幒 四六四
幅 四六四
帑 四六四
㡑 四六四
𢄋 四六四
帿 四六四
幀 四六四
幄 四六四
幁 四六四
幡 四六四
幉 四六四
幉 四六四
幝 四六四
帤 四六四
幞 四六四
帊 四六四
㡖 四六四
幃 四六五
幄 四六五
幅 四六六
幆 四六六
𢄉 四六六
帬 四六六
幇 四六六
㡀 四六六
𢄓 四六六
粗 四六六
㡤 四六六
帶 四六六

𢅷 四六六
𢅥 四六六
帗 四六六
𢂼 四六七
𩂓 四六七
𢆦 五二四
𢆟 五二四
幾 五四三
𢆶 五四六
𢆰 五四六
𢉂 五九二
𢉺 五九二
㢊 五九二
㢐 五九二
𢈕 五九二
廋 五九二
廊 五九四
廇 五九四
㢉 五九四
㢀 五九四
𢉗 五九四
㡼 五九四
㡾 五九四
庱 五九四
㢞 五九四
廇 五九四
㢌 五九四
㢋 五九四
㢏 五九五
庫 五九五
庮 五九五
廁 五九六
庴 五九六
廂 五九六

康 五九六
廉 五九六
㢣 五九六
㢉 五九六
廆 五九六
廋 五九六
㢐 五九六
𢊁 五九六
廃 五九六
𢌊 六六三
𢍹 六七〇
弊 六七〇
𢍻 六七〇
𢍷 六七〇
𢍳 六七〇
𢍸 六七〇
弑 六七七
弒 六七七
强 七六五
𢐍 七六五
𢏗 七六五
粥 七六五
弼 七六五
弻 七六六
𢐊 七六六
弼 七六六
𢐜 七六六
弶 七六六
㢮 七六六
弽 七六六
𢐇 七六六
弱 七六六
弼 七六六
弾 七六六

𢑟 七八〇
𢑡 七八一
彘 七八一
彙 七八一
彬 七九七
彭 七九七
彭 七九八
𢒉 八〇三
𧉃 八〇三
彰 八〇三
㣑 八〇三
𢒝 八〇四
徥 九〇一
𢓱 九〇一
𢔦 九〇一
徦 九〇一
徧 九〇一
𢔵 九〇三
𢔶 九〇三
偕 九〇三
徨 九〇三
徾 九〇三
𢔑 九〇三
徝 九〇三
𢔖 九〇三
復 九〇三
𢔌 九〇八
𢔠 九〇八
徲 九〇八
循 九〇八
𢔋 九一〇
得 九一〇
從 九一〇
𢓭 九一〇

徫 九一〇
御 九一〇
𢔏 九一〇
𢓤 九一〇
䢇 九一〇
悲 一〇六五
惪 一〇六八
悳 一〇六八
悶 一〇六九
悶 一〇七〇
㥹 一〇七〇
𢛾 一〇七〇
𢛳 一〇七一
惫 一〇七一
惁 一〇七三
慈 一〇七三
惄 一〇七三
𢛞 一〇七八
惉 一〇七九
恔 一〇七九
惦 一〇七九
𢛐 一〇七九
惌 一〇八〇
㥋 一〇八〇
惎 一〇八〇
𢛓 一〇八〇
㥁 一〇八〇
惑 一〇八一
恕 一〇八一
𢝉 一〇八一
惷 一〇八二
愈 一〇八二
惡 一〇八二
愿 一〇八二

惖 一〇八三
𢛿 一〇八六
㥃 一〇八六
𢛺 一〇八九
惠 一〇八九
惡 一〇九三
悳 一〇九九
惢 一〇九九
惣 一〇九九
𢜒 一〇九九
𢜏 一〇九九
𢜓 一〇九九
愆 一〇九九
㥌 一〇九九
𢜸 一〇九九
㤬 一〇九九
惷 一〇九九
愁 一〇九九
愛 一〇九九
㤲 一〇九九
𢛭 一〇九九
㥁 一〇九九
惠 一一〇〇
悳 一一〇〇
惸 一一〇〇
愜 一一〇〇
惰 一一〇〇
惱 一一〇一
惲 一一〇一
惴 一一〇三
㥜 一一〇三
惵 一一〇三
惶 一一〇三
惇 一一〇四

𢜭 一一〇五
惺 一一〇五
惻 一一〇五
惰 一一〇六
惼 一一〇六
㥮 一一〇六
𢝟 一一〇六
㥯 一一〇六
㥑 一一〇六
惨 一一〇六
愎 一一〇六
㥬 一一〇六
愲 一一〇六
惿 一一〇六
㥕 一一〇六
愀 一一〇六
㦤 一一〇九
㦅 一一〇九
𢤌 一一〇九
愃 一一〇九
愄 一一〇九
㥏 一一〇九
㤿 一一一〇
𢜲 一一一〇
㥙 一一一〇
㦆 一一一〇
愇 一一一一
𢝞 一一一一
㥐 一一一一
愉 一一一三
㥟 一一一三
𢜐 一一一三
𢜬 一一一三
㥣 一一一三

㥝 一一一三
𢞉 一一一三
愮 一一一三
𢝹 一一一三
𢝏 一一一三
愊 一一一三
愋 一一一三
愌 一一一三
愎 一一一三
𢞁 一一一三
愐 一一一七
㥲 一一一七
𢝗 一一一八
㥭 一一一八
𢝌 一一一八
𢠶 一一一八
愭 一一一八
愒 一一一八
愪 一一一八
愓 一一一八
愔 一一一八
慌 一一一九
愕 一一一九
愖 一一一九
㥧 一一一九
𢛸 一一一九
𢝎 一一一九
𢜨 一一三一
愝 一一三一
𢞊 一一三一
𢝄 一一三一
愠 一一三五
𢝦 一一三五
𢛩 一一三五

愢 一一三五
𢞶 一一三六
𢞨 一一三六
慉 一一三六
𢞫 一一三六
愰 一一三六
𢞹 一一三六
㥪 一一三六
𢞑 一一三六
愣 一一三六

十三畫

尌 三九
尌 三九
尋 三九
導 三九
尟 一一〇
尠 一一一
𡮥 一一一
樵 一一九
槎 一一九
㯯 一二〇
檧 一二〇
楤 一二〇
槵 一二〇
屆 一六五
䠂 一六五
屢 一六五
屢 一六五
屜 一六五
屛 一六五
屨 一六五
屚 一六五
屎 一六五
屍 一六五

屆一六五　屋一六五　屚一六五　屘一六五　屒一六五　屐一六五　峑一八一　嶲一八一　嵊二五四　崙二五四　嵃二五四　峪二五四　嵫二五四　嵿二五四　嵮二五四　嵬二五四　崔二五四　嵕二五四　嵠二五四　嵡二五四　嵢二五四　嵟二五四　嵍二五四　嵣二五五　嵕二五五　峇二五五　嶫二五五　嵧二五五　嵲二五五　嵱二五五　嵻二五五　嵦二五五　豻二五五　寋二五五

嵧二九五　嶋二九五　嵩二九五　嵪二九七　嵥二九七　嵕二九七　嵖二九七　峰二九七　嵫二九七　嵬二九八　嵬二九八　嵶二九八　堅二九八　嶗二九八　嵮二九八　嵿二九八　嵮二九八　嵯二九八　嵳二九九　嵰二九九　嵱二九九　嵲二九九　嵮二九九　嶍二九九　嵦二九九　崋二九九　嵴二九九　嶯二九九　嶁二九九　嵎二九九　嵲二九九　幌四六七　帣四六七　嶓四六七

幍四六七　幉四六七　幏四六七　幓四六七　幁四六七　幋四六七　幏四六七　幌四六七　幍四六七　幎四六八　幐四六八　幏四六八　幌四六八　幏四六八　幏四六八　幬四六八　幠四六八　幨四六八　幑四六八　幣四六八　帬四六八　幗四六八　幹五三四　葉五三六　斢五三六　猲五四六　弴五四六　庳五五六　廬五五六　庽五五七　廆五五七

廘五五七　廕五五七　廌五五七　廌五五七　廇五五七　廈五五七　廉五五七　廊六〇二　廋六〇三　廧六〇三　廅六〇三　廋六〇三　廆六〇三　麻六〇三　廆六〇三　廕六〇三　廇六〇三　廃六〇三　廖六〇三　遁六〇三　奧六七〇　彝六七〇　戨六七七　戫六七七　戩六七七　弒六七七　搒七六六　彃七六六　號七六六　彇七六六　彋七六六　彍七六六　彏七六六　彀七六六

彄七六七　彉七六七　彊七八一　彙七八一　彙七八二　鶇七八二　彌八〇四　彩八〇四　劉八〇四　彪八〇四　彰八〇四　徭九一〇　徬九一〇　徯九一〇　徰九一〇　徲九一〇　徵九一一　徯九一一　徯九一七　徳九一七　徬九一七　德九一七　徶九一七　徹九一七　徲九一七　徸九一七　徼九一七　從九一七　想一二〇三　惷一二〇三　惷一二〇四　惹一二〇四　愳一二〇六

惎一二〇六　愁一二〇七　愂一二〇九　慂一二〇九　慇一二一〇　慁一二一〇　愆一二一〇　愆一二一〇　愈一二一一　愻一二一二　愍一二一三　意一二一三　意一二一七　愨一二一七　愫一二一八　愬一二一八　愿一二一九　愁一二一九　愙一二一九　愚一二二三　愛一二二三　慇一二二三　感一二二三　慂一二二五　慈一二二五　怯一二二六　慈一二二六　愬一二二六　慁一二二六　慂一二二六　愬一二二六　怨一二二六　慆一二二六　慁一二二六

慂一二二六　慄一二二六　愳一二二六　慈一二二六　慌一二二六　愧一二二七　慎一二二八　慎一二二八　慊一二二八　慉一二二八　慆一二二八　惱一二二八　慏一二二八　慅一二二八　慀一二二八　愯一二二八　慌一二二八　慓一二二八　慉一二二八　愰一二二九　愭一二二九　慅一二二九　慉一二二九　慉一二二九　愴一二二九　愵一二二九　愲一二二九　慉一二二九　愷一二二九　愱一二四〇　愧一二四〇　慀一二四〇　慏一二四〇

慆一二四〇　慎一二四〇　慎一二四三　慒一二四三　愽一二四三　慍一二四三　慀一二四三　慘一二四四　慷一二四四　慄一二四四　慀一二四四　慄一二四四　慄一二四四　慉一二四四　慄一二四五　慆一二四五　慠一二四六　慊一二四六　慉一二五〇　慊一二五〇　慯一二五一　慱一二五一　慌一二五一　慍一二五一　慉一二五三　慉一二五三　慔一二五三　慉一二五三　慔一二五三　慉一二五三　慉一二五三　慔一二五三　慉一二五三　慉一二五三

愶一二五三　慄一二五三

十四畫

尌二九　對二九　榯四五　壽四五　㓱一二一　綵一二一　紗一二一　覍一二一　榷一三〇　樓一三〇　猷一三〇　鳩一三〇　屢一六五　屬一六六　屜一六六　屢一六六　屣一六六　廖一六六　屧一六六　屧一六六　屢一六六　駒一六六　屬一六六　崚二九九　巇二九九　嵯二九九　鄣二九九　嵷二九九　從三〇〇　彊三〇〇

嵺三〇〇　寥三〇〇　嵊三〇〇　康三〇〇　崋三〇〇　嶁三〇〇　嶍三〇〇　嶂三〇〇　崆三〇〇　巢三〇〇　嶈三〇〇　嶀三〇〇　嶕三〇〇　嵧三〇一　參三〇一　嵺三〇一　嵧三〇一　嶺三〇一　嵺三〇一　嶚三〇一　歷三〇一　巊三〇一　碞三〇一　碆三〇一　嶁三〇一　婁三〇一　嶂三〇一　暫三〇一　嶄三〇二　嶄三〇二　嶅三〇二　嶅三〇二　嶚三〇二　嶬三〇二

嶁三〇二　臨三〇二　族三〇二　嶹三〇二　嶙三〇二　嶆三〇二　嶀三〇二　螺三〇二　嶇三〇二　嶇三〇二　峽三〇二　將三〇二　嶊三〇三　摧三〇三　嵥三〇三　島三〇三　鳴三〇三　蔦三〇三　崙三〇三　塹三〇三　嶂三〇三　嶒三〇三　嶙三〇三　帶三〇三　婆三〇三　嶍三〇三　巢三四〇　巢三四〇　幓四六八　幡四六九　幅四六九　幑四六九　幣四六九　幒四六九　幢四六九

幍四六九　嵷四六九　幓四六九　嶄四六九　肆四六九　幔四六九　幕四七〇　幙四七二　幖四七二　幓四七二　幘四七二　幑四七二　幗四七二　幘四七二　嶚四七三　澝四七三　幢四七三　幣四七三　幋四七三　幓四七三　幘四七三　幓四七三　幃四七三　幑五四六　幒五四六　鑒五四六　鬱五四六　廣六〇三　廎六〇三　廑六〇三　廬六〇三　廏六〇三　廐六〇四　廑六〇四

廑六〇四　廕六〇五　廙六〇五　廏六〇五　廏六〇五　廓六〇五　廔六〇六　廕六〇六　廖六〇七　廚六〇八　廘六〇八　廐六〇八　廱六〇九　廐六〇九　廑六〇九　廐六〇九　廐六〇九　廕六〇九　廕六〇九　廡六〇九　廕六〇九　獎六七三　獎六七三　弊六七〇　羿六七〇　羿六七〇　弇六七〇　斬六七〇　貳六七七　彈七六七　彌七六七　彉七六七　彏七六七　彄七六七

彇七六七　彉七六七　彌七六七　彍七六七　彎七八二　肄七八二　彔七八二　彗七八二　彰八〇四　彯八〇四　彰八〇五　彲八〇五　彭八〇五　徲九一七　徱九一七　徲九一七　徶九一七　徸九一七　徺九一七　徾九一七　徹九一七　徽九一七　徹九一七　徳九一七　徵九一八　徛九一八　徫九一八　徭九一八　得九一八　復九一八　御九一八　徸九一八

德九一八　徹九一八　徼九一八　徵九一八　德九一八　徬九一八　徵九一八　慗一二二七　愬一二二八　憲一二二八　瘱一二二八　慇一二二八　思一二二九　慇一二二九　慁一二二九　慁一二二九　愬一二四〇　惡一二四〇　孫一二四〇　慝一二四三　慇一二四三　愿一二四三　慁一二四四　寋一二四四　寨一二四四　慂一二四四　慇一二四五　慈一二四六　慼一二五〇　態一二五一　愢一二五一　慫一二五一　慗一二五一　愿一二五三

慦 一二五三　意 一二五三　獖 一二五三　𢢃 一二五三　愸 一二五三　惠 一二五三　憂 一二五三　悠 一二五三　飆 一二五三　慒 一二五三　惓 一二五三　慓 一二五三　惀 一二五三　慔 一二五三　㦙 一二五五　慖 一二五五　㥼 一二五五　慘 一二五五　慚 一二五八　𢢱 一二五八　慛 一二五八　㥾 一二五八　慞 一二五九　慟 一二五九　𢢽 一二五九　慠 一二五九　悏 一二五九　慢 一二五九　慣 一二六一　慥 一二六一　㥧 一二六四　懷 一二六四　惱 一二六四　㦂 一二六四

慨 一二六四　㦀 一二六五　慩 一二六五　慪 一二六五　慬 一二六五　慎 一二六五　慯 一二六六　慆 一二六七　慱 一二六七　慲 一二六八　慳 一二六八　㥶 一二六八　慴 一二六八　慵 一二六八　慊 一二七三　慸 一二七四　㥣 一二七四　㥫 一二七四　憏 一二七四　慺 一二七四　悻 一二七四　𢣃 一二七四　𢠽 一二七四　㤿 一二七四　㤻 一二七四　㦌 一二七五　𢣙 一二七五　𢣐 一二七五　𢢕 一二七五　憀 一二七五　㦬 一二七五　㥸 一二七五　慌 一二七八　憥 一二七八

𢣊 一二七八　㥗 一二七八　㥜 一二七八　㦅 一二七八　㥵 一二七九　㥽 一二七九　㥷 一二七九　𢣅 一二七九　𢢞 一二七九

十五畫

尊 四五　尌 四五　𨋍 四五　對 四五　導 四五　尟 一一一　尠 一一一　纍 一一一　尵 一二〇　尷 一二〇　尶 一二〇　𡯹 一二〇　就 一二〇　層 一六八　履 一六八　屨 一七一　𡳠 一七一　屦 一七一　屟 一七一　屧 一七一　𡳊 一七一　屫 一七一

屩 一七二　嶌 一八二　嵾 一八二　嶨 一八二　嵓 一八二　𡾂 三〇三　嶏 三〇三　㠎 三〇三　㠑 三〇三　嶐 三〇四　嶑 三〇四　嶘 三〇四　嶡 三〇四　嶊 三〇四　潟 三〇四　嘻 三〇四　嵰 三〇四　谾 三〇四　𡽳 三〇四　嶂 三〇四　嶒 三〇四　嶀 三〇四　𡻕 三〇四　嘘 三〇四　嵬 三〇四　嶓 三〇四　嶔 三〇四　㠦 三〇五　嶺 三〇五　嶕 三〇五　嶣 三〇五　嶋 三〇五　嵌 三〇五　嶅 三〇五

巢 三〇五　嶪 三〇五　嵡 三〇五　嶗 三〇五　嶘 三〇五　嶙 三〇五　嶚 三〇五　嶛 三〇六　嶂 三〇六　嶒 三〇六　嶝 三〇六　嵸 三〇六　嶨 三〇六　嵓 三〇六　嶞 三〇六　嶟 三〇六　嶠 三〇六　嶠 三〇六　嶡 三〇六　嶢 三〇七　嶤 三〇七　嶘 三〇七　㠋 三〇七　嶫 三〇七　𡽡 三〇七　嶆 三〇七　𡾦 三〇七　嶴 三〇七　𡿉 三〇七　巤 三四〇　𢀊 三四〇　巻 三八一　巰 三八一　爾 三八一

巽 三九四　幜 四七三　𢅰 四七三　幪 四七三　㡡 四七三　幰 四七三　㡢 四七三　幝 四七三　幭 四七三　㡧 四七三　𢅥 四七三　𢅸 四七三　幞 四七四　幟 四七四　幠 四七四　𢅏 四七四　幤 四七四　幥 四七四　𢅔 四七四　幡 四七四　幢 四七五　幣 四七六　歸 四七七　幊 四七七　覞 四七七　幯 四七七　𢅩 四七七　幆 四七七　幬 四七七　幋 四七七　幫 四七七　𢆟 五三六　鬆 五四七　䀇 五四七

𢊷 六〇九　㢑 六〇九　廙 六〇九　廚 六〇九　𢋟 六一〇　𢋄 六一〇　㢒 六一一　廛 六一一　㢌 六一一　𢋔 六一一　㢏 六一一　廝 六一一　廞 六一二　廟 六一三　廠 六一六　廡 六一六　廢 六一七　廣 六二〇　𢋒 六三三　廪 六三三　廬 六三三　廗 六三三　廎 六三四　廫 六三四　𢋈 六三四　廇 六三四　弊 六七〇　𢍎 六七二　䬳 六七七　彆 七六七　彏 七六八　彇 七六八　㢣 七六八　𢑅 七六八

𢐑 七六八　彈 七六八　𢐚 七七一　彉 七七一　彌 七七一　𢐖 七七一　𢑲 七八二　𢑶 七八二　𢑢 七八二　影 八〇五　𢒮 八〇七　𢒫 八〇七　𢒰 八〇七　彰 八〇七　𢒢 八〇七　𢒉 八〇七　徵 九一八　𢕾 九二二　㣜 九二二　𢖞 九二二　德 九二二　徸 九二二　徹 九二二　徹 九二三　𢕶 九二三　𢖑 九二三　𢖄 九二三　徬 九二三　𢖏 九二三　𢖍 九二三　𢕟 九二三　慕 一二五三　慕 一二五三　愿 一二五五

𢡟 一二五五　慙 一二五七　慜 一二五八　慝 一二五八　𢡠 一二五九　慗 一二五九　㥸 一二五九　慇 一二六二　𢣖 一二六二　㦐 一二六二　慧 一二六二　㦔 一二六四　𢢔 一二六五　慫 一二六五　𢢡 一二六五　愁 一二六五　慮 一二六五　𢣚 一二六六　慰 一二六六　蒠 一二六八　應 一二六八　慶 一二六八　慸 一二七三　慹 一二七四　㦒 一二七四　慼 一二七四　慾 一二七五　憑 一二七五　憂 一二七五　𢡔 一二七八　憃 一二七八　悳 一二七八　黙 一二七八　㦕 一二七八

𢣿 一二七九　憠 一二七九　憩 一二七九　㦇 一二七九　㦤 一二七九　𢣋 一二七九　𢢤 一二七九　憉 一二七九　㦿 一二七九　㥰 一二八〇　憍 一二八〇　憎 一二八〇　懌 一二八〇　㦡 一二八〇　憐 一二八〇　𢡷 一二八一　憒 一二八三　憓 一二八三　憔 一二八三　憕 一二八三　憘 一二八四　㦦 一二八四　㥮 一二八四　憚 一二八四　憛 一二八六　憜 一二八六　憞 一二八六　慄 一二八六　𢣛 一二八六　𢤎 一二八六　㦽 一二八六　憡 一二八六　㥉 一二八六　𢤀 一二八六

憢 一二八六　憣 一二八七　𢣷 一二八七　憤 一二八七　憦 一二八八　憧 一二八八　𢤺 一二八八　㦖 一二八九　𢣕 一二八九　𢣣 一二八九　憸 一二八九　憪 一二八九　憫 一二八九　㦣 一二九〇　𢢷 一二九〇　憬 一二九〇　憭 一二九〇　憮 一二九〇　𢣴 一二九〇　憯 一二九一　㦓 一二九一　憰 一二九一　㦟 一二九一　𢣳 一二九一　㦗 一二九一　憗 一二九四　㤲 一二九四　𢤗 一二九四　𢤤 一二九四　㦛 一二九四　㥥 一二九四　懐 一二九四　㦍 一二九四　㥴 一二九四

𢤹 一二九四　𢣈 一二九四　憽 一二九五

十六畫

對 四五　導 四五　尌 四六　𡭝 一一一　𡮿 一一一　𡰎 一二〇　就 一二〇　𡰅 一二〇　𡰀 一二〇　𡳝 一七一　𡳞 一七一　嶦 三〇七　嶧 三〇七　𡾷 三〇八　𡾋 三〇八　𡾛 三〇八　𡾵 三〇八　㠗 三〇八　𡽹 三〇八　𡾫 三〇八　嶬 三〇八　𡾽 三〇九　嶁 三〇九　𡾙 三〇九　𡾞 三〇九　𡿀 三〇九　𡽰 三〇九　嶭 三〇九　𡿁 三〇九

𨻸 三〇九　嶮 三〇九　𡾧 三一〇　𡾊 三一〇　𡽌 三一〇　嵮 三一〇　嶯 三一〇　嶰 三一〇　𨼇 三一〇　𡼏 三一〇　𡾲 三一〇　嶱 三一〇　𡿆 三一〇　嶲 三一〇　𡿛 三一〇　𡿅 三一〇　嵺 三一〇　𡿂 三一一　𡽬 三一一　嶉 三一一　嵳 三一一　𡼤 三一一　𡹦 三一一　𡾚 三一一　嶼 三一一　𡿝 三四〇　𢀷 三八一　𢀶 三八一　𢆢 三九四　𢅷 四七七　㡠 四七七　幦 四七七　㡘 四七八　幧 四七八

幨 四七八　𢅺 四七八　𢅻 四七八　㡖 四七八　𢅼 四七八　𢆀 四七八　𢅽 四七八　𢅾 四七八　㡒 四七八　幗 四七八　𢅅 四七八　𢅎 四七八　𢅭 四七八　𢅐 四七九　𢅋 四七九　𢅪 四七九　幘 四七九　𢆭 五三六　𢆪 五三六　㡭 五四七　𢌈 六三四　廤 六三四　勵 六三四　廥 六三四　𢋴 六三四　𢋼 六三四　廦 六三四　廧 六三四　廨 六三四　𢋥 六三四　㢔 六三四　𢋩 六三五　摩 六三五　廩 六三五

𢋹 六三六　廖 六三六　𢍶 六七二　𢍴 六七二　𢍺 六七二　𢍸 六七二　𢍰 六七二　𢏷 七六七　𢐉 七七一　𢐀 七七一　彊 七七一　𢐋 七七四　彋 七七四　𢐧 七七四　𢐣 七七四　𢑱 七八二　彙 七八二　彝 七八二　𢒼 八〇七　𢒽 八〇七　𢒾 八〇八　𢒯 八〇八　𢒦 八〇八　𢖫 九二三　𢖨 九二三　㣵 九二三　𢕲 九二三　𢕰 九二三　𢖯 九二三　㣛 九二三　徼 九二三　𢖟 九二四　𢕦 九二四　𢖲 九二四

徵 九三四
懋 一一七九
憊 一一七九
憊 一一七九
憋 一一七九
鍯 一一八〇
𢤱 一一八二
憝 一一八二
憑 一一八二
慭 一一八四
慗 一一八四
閟 一一八四
憙 一一八四
𢣬 一一八六
慗 一一八六
懕 一一八六
𢥈 一一八八
憨 一一八八
憩 一一八九
懖 一一八九
濦 一一九〇
意 一一九〇
默 一一九一
懟 一一九一
憲 一一九二
憲 一一九四
應 一一九四
憖 一一九四
憁 一一九四
愢 一一九四
蔥 一一九四
慂 一一九四
閡 一一九四

懇 一一九四
懟 一一九五
惡 一一九五
憓 一一九五
憴 一一九五
憶 一一九五
懌 一一九五
懂 一一九六
懘 一一九六
儉 一一九六
懒 一一九六
憾 一一九六
懰 一一九六
懤 一一九六
憹 一一九六
懀 一一九六
懭 一一九七
懏 一一九七
懲 一一九七
懔 一一九七
懍 一一九七
憾 一一九七
憿 一一九七
儶 一一九七
懒 一一九七
儈 一一九七
懞 一一九七
懁 一一九七
懂 一一九八
懄 一一九八
㥞 一一九八
懅 一一九八
懆 一一九八
懈 一一九九

懊 一三〇七
懌 一三〇九
懍 一三〇九
憤 一三〇九
憘 一三〇九
儁 一三〇九
懢 一三〇九
㦧 一三〇九
憯 一三〇九
懷 一三一〇

十七畫

膊 四六
導 四六
貕 一一一
鑑 一三〇
就 一三〇
騾 一七二
屨 一七二
嵥 三一一
嶷 三一一
嶫 三一一
嚳 三一一
嶸 三一一
嶹 三一一
嶠 三一一
嶝 三一一
嵺 三一一
嶺 三一一
巔 三一三
巉 三一三
巀 三一三
嶩 三一三
嶄 三一三

對 三一三
嶍 三一三
嶼 三一三
嶼 三一三
嶨 三一三
嶙 三一三
嶬 三一四
嶽 三一四
獄 三一六
嶾 三一六
嶰 三一六
嶎 三一六
嶫 三一六
嶸 三一六
嶪 三一六
嵺 三一六
嶺 三一六
嵥 三一六
崴 三一六
巢 三一六
巃 三四〇
幰 三九四
嶷 四七九
幪 四七九
幘 四七九
厤 四七九
幫 四七九
嵦 四七九
嶹 四七九
殼 四八〇
鬆 四八〇
嵦 四八〇
禔 四八〇

歸 四八〇
廨 六三六
廈 六三六
廛 六三六
廬 六三六
膺 六三七
廩 六三七
弊 六七二
弊 六七二
䰟 六七七
彌 七七四
彍 七七七
闕 七七七
彝 七七七
繇 七八二
彯 八〇八
德 九三五
徽 九三五
徵 九三六
徹 九三六
徽 九三六
徲 九三六
徹 九三六
衢 九三六
懸 一一九七
憨 一一九七
憨 一一九七
懃 一一九八
懇 一一九八
懇 一一九九
懈 一一九九
應 一一九九
憼 一二〇七
懋 一二〇八

隱 一三〇九
憨 一三〇九
毅 一三〇九
瞿 一三〇九
懸 一三〇九
懇 一三〇九
聰 一三〇九
憼 一三〇九
懵 一三〇九
懘 一三一〇
懫 一三一〇
㦙 一三一〇
懩 一三一〇
懨 一三一〇
懱 一三一〇
懡 一三一〇
懊 一三一〇
懂 一三一〇
懚 一三一〇
懆 一三一一
懍 一三一一
懜 一三一一
懝 一三一一
懞 一三一一
懠 一三一一
懥 一三一一
懕 一三一一
懻 一三一一
懢 一三一一
懶 一三一三
懤 一三一三
懦 一三一三
懄 一三一三
㦗 一三一三

懽 一三一三
懞 一三一三
懺 一三一三

十八畫

膊 四六
鬴 一一一
鬹 一一一
屨 一七二
屩 一七二
屢 一七二
嶸 三一六
巍 三一六
巀 三一六
巔 三一六
巇 三一六
嶺 三一六
巑 三一六
巉 三一六
巕 三一六
巘 三一六
巊 三一七
巆 三一七
巙 三一七
巗 三一七
巎 三一七
巁 三一七
巂 三一七
巢 三四〇
疊 三九四
巇 四八〇
巊 四八〇
巘 四八〇
巏 四八〇

懱 四八〇
懢 四八〇
磨 六三七
廖 六三七
廧 六三七
廬 六三七
廈 六三七
廣 六三七
廬 六三七
廢 六三七
獻 六七七
彍 七七七
鬻 七七七
蕭 七七七
鬻 七七七
蕭 七七七
彝 七八二
播 七八四
豬 七八四
虢 七八四
影 八〇八
儥 九三七
儦 九三七
儥 九三七
優 九三七
縱 九三七
厭 一三二〇
舔 一三二〇
辮 一三二〇
慈 一三二〇
濦 一三二〇
懇 一三二〇
舉 一三二〇
懟 一三二〇

懸 一三二一
懟 一三二一
維 一三二一
貌 一三二二
濾 一三二二
懿 一三二二
懇 一三二二
懃 一三二三
聰 一三二三
懇 一三二三
懟 一三二三
懱 一三二三
懲 一三二三
懮 一三二三
懹 一三二三
懩 一三二三
懪 一三二三
懰 一三二三
懨 一三二三
懭 一三二三
懫 一三二三
懬 一三二三
懆 一三二三
優 一三二三
憶 一三二四
懥 一三二四
懨 一三二四
劉 一三二四
懱 一三二四
懊 一三二五
懨 一三二五
懦 一三二五

十九畫

衜 四六
屬 一七二
屨 一七二
屬 一七三
屩 一七三
騾 一七三
嶧 三一七
嚧 三一七
龍 三一七
龐 三一七
巔 三一七
巓 三一七
巒 三一七
巑 三一七
嶼 三一七
巎 三一七
巍 三一七
巃 三一七
巉 三一七
巋 三一七
巚 三一七
巙 三一八
巗 三一八
巖 三四〇
巕 三四〇
壐 三八一
巘 四八〇
巎 四八〇
巑 四八〇
巊 四八一
巏 四八一
巉 四八一
巇 四八一
廠 六三七

麻 六三七
廬 六三七
廨 六四〇
麻 六四〇
雋 六四〇
麋 六四〇
麻 六四〇
彊 七七七
彏 七七七
彍 七七七
彌 七七七
鬥 七七七
靈 七七七
衛 七七七
韋 七八四
靈 七八四
彗 七八四
徿 九三七
德 九三七
徵 九三七
徹 九三七
麼 一三一三
麿 一三一三
懇 一三一三
儇 一三一三
黎 一三一四
嘿 一三一四
敷 一三一四
爕 一三一四
纂 一三一四
懲 一三一四
遼 一三一五
饍 一三一五
懟 一三一五

攄 一三一五
罽 一三一五
劉 一三一五
寨 一三一五
懇 一三一五
懲 一三一五
懇 一三一五
懤 一三一六
懂 一三一六
懱 一三一六
懥 一三一六
懰 一三一六
懳 一三一六
懀 一三一六
懍 一三一六
懵 一三一六
懆 一三一六
懬 一三一六
懪 一三一六
懶 一三一六
懶 一三一六
懷 一三一七
懏 一三二四
懱 一三二四
懽 一三二四
懭 一三二九
辮 一三二九
懦 一三二九
懵 一三二九

二十畫

騗 四六
贏 一七三
嶒 三一八

巇 三一八
巋 三一八
巚 三一八
巙 三一八
巕 三一八
巒 三一八
巑 三一八
嶸 三一八
巘 三一八
巔 三一九
巖 三一九
巕 三一九
巖 三四〇
黻 四八一
幣 四八一
巘 四八一
巕 四八一
巇 四八一
輪 六四〇
廞 六四〇
廣 六四〇
廈 六四〇
麻 六四〇
廠 六四〇
廓 六四〇
廧 六四〇
麝 六四〇
廈 六四〇
廢 六四〇
譜 六四〇
廳 七七七
彊 七七八
灑 七七八
蕭 七七八

彎 七七八
彌 七七八
響 八〇八
彭 八〇八
徹 九三七
徵 九三七
徹 九三七
徽 九三七
懷 九三七
徽 九三七
衞 一三一六
懇 一三一六
懿 一三一六
懸 一三二四
龍 一三二四
懸 一三二四
懋 一三二九
聲 一三二九
懣 一三二九
懥 一三二九
鬆 一三二九
儼 一三二九
嶭 一三二九
懈 一三二九
懶 一三二九
懹 一三二九
懺 一三二九
懚 一三三〇
懫 一三三〇
懵 一三三〇
懠 一三三〇
懵 一三三〇
懔 一三三〇
懞 一三三〇

懺 一三三〇

二十一畫

對 四六
齣 一一一
權 一三〇
屬 一七三
巖 一八一
巊 三一九
巍 三一九
巍 三一九
魏 三一九
巒 三一九
巏 三一九
巔 三三〇
巕 三三〇
繙 三三〇
巍 三三〇
雜 三三〇
嚶 三三〇
懮 四八一
懮 四八一
懱 四八一
懞 四八一
麾 六四〇
靡 六四〇
戳 六七七
彊 七七八
彈 七七八
藸 七七八
灑 七七八
鳶 七七八
瞿 九三七
僕 九三七

儷 九三七
劚 一三九
[illegible] 一三〇
懼 一三〇
[illegible] 一三〇
[illegible] 一三一
[illegible] 一三一
[illegible] 一三一
懽 一三一
懾 一三一
懪 一三三
[illegible] 一三三
[illegible] 一三三

二十二畫

[illegible] 一七六
[illegible] 三三〇
巑 三三〇
[illegible] 三三〇
巒 三三〇
[illegible] 三三〇
[illegible] 三三〇
[illegible] 三三〇
巔 三三〇
[illegible] 三三一
[illegible] 三三一
[illegible] 三三一
[illegible] 三三一
[illegible] 三四〇
[illegible] 三四〇
[illegible] 四八一
[illegible] 四八一
[illegible] 四八一
[illegible] 四八一
[illegible] 五四七
廱 六四一
廮 六四一
廲 六四一
[illegible] 六四一
[illegible] 六七三
彎 七七八
[illegible] 七七八
[illegible] 七八四
[illegible] 七八四
彲 八〇八
[illegible] 八〇八
[illegible] 九三七
[illegible] 一三一
[illegible] 一三一
[illegible] 一三一
[illegible] 一三一
懿 一三二
[illegible] 一三三
[illegible] 一三四
[illegible] 一三四

二十三畫

[illegible] 一三〇
巖 三三一
[illegible] 三三五
巘 三三五
[illegible] 三三五
[illegible] 三三五
[illegible] 四八一
[illegible] 四八一
[illegible] 四八一
[illegible] 六四一
[illegible] 六四一
彏 七七八
[illegible] 七八四
[illegible] 九三七
戀 一三三
[illegible] 一三四
[illegible] 一三四
[illegible] 一三四
[illegible] 一三四
[illegible] 一三四
[illegible] 一三四
戄 一三五
[illegible] 一三五
[illegible] 一三五

二十四畫

屭 一七六
[illegible] 一七六
[illegible] 一八一
[illegible] 三三五
[illegible] 三三五
[illegible] 三三五
[illegible] 三三五
[illegible] 三三五
[illegible] 三三五
[illegible] 三三五
[illegible] 三三五
[illegible] 三四〇
[illegible] 四八二
[illegible] 四八二
[illegible] 六四一
[illegible] 一三四
[illegible] 一三五
[illegible] 一三五
[illegible] 一三五
[illegible] 一三五

二十五畫

[illegible] 三三五
廳 六四一
[illegible] 七七八
[illegible] 九三七
[illegible] 一三五
[illegible] 一三五

二十六畫

[illegible] 一三〇
[illegible] 三三五
[illegible] 六四二
[illegible] 七八四
[illegible] 七八四

二十七畫

[illegible] 三三六
[illegible] 三三六
[illegible] 三三六
[illegible] 三三六
[illegible] 四八二
[illegible] 六四二
[illegible] 六四二
[illegible] 六七二
[illegible] 六七二
[illegible] 一三五
[illegible] 一三五

二十八畫

戇 一三五
[illegible] 一三六

二十九畫

[illegible] 三三六
[illegible] 三四〇
[illegible] 一三六

三十一畫

[illegible] 一三六

三十二畫

[illegible] 三三六

大漢和辭典

諸橋轍次著

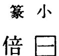
寸部

【寸】7411

㊀ソン〔集韻〕村困切　ㄘㄨㄣˋ　ts'uen⁴　願

㊁ソン〔集韻〕取本切　阮

慣スン


小篆

㊀❶すん。尺度の名。一分の十倍。〔說文〕寸、十分也、人手卻㆓一寸㆒動𧖴、謂㆓之寸口㆒、从㆓又一㆒。〔大戴禮、主言〕布㆑指知㆑寸。〔漢書、律歷志〕度者、分寸尺丈引也、所㆔以度㆓長短㆒也、本起㆓黃鐘之長㆒、以㆓子穀秬黍中者㆒、一黍之廣、度㆑之九十分、黃鐘之長、一爲㆓一分㆒、十分爲㆑寸、十寸爲㆑尺。❷**ゆび一本のはば**。〔禮、投壺〕室中五扶、〔注〕鋪㆓四指㆒曰㆑扶、一指案寸。〔公羊、僖、三十一〕膚寸而合。〔注〕側㆑手爲㆑膚、案指爲㆑寸。❸**わづか。すこし。いささか**。〔史記、蘇秦張儀傳〕無㆑有㆓分寸之功㆒。〔梁簡文帝、奉㆓請上開講㆒啓〕慺慺寸志。❹**經脈の一部位**。寸口。〔難經〕脈㆔部寸開尺。❺**こころ**。〔王僧孺、爲㆓南平王妃㆒拜㆓改封㆒表〕奉㆑命深慙、有㆓灼丹寸㆒。❻**姓**。〔正字通〕寸、姓、明嘉靖中、梓潼令寸居敬。㊁**はかる**。忖(**4**－**10326**)に通ず。〔集韻〕忖、度也、或省。〔詩、小雅、巧言〕予忖㆓度之㆒、釋文〕忖、本又作㆑寸、同。邦❶**とき**。時の省畫。❷**き**。馬の丈をはかる語。馬は四尺を定尺とし、それより以上を一き、二きと數へる。

名乘　チカ。

解字　指事。又(人手)と一との合字。一は場所を指示す。手くびから脈の打つ處(寸口といふ)までの距離をいふ。其の距離十分にあたる。故に十分の長さをいふ。〔說文通訓定聲〕寸、十分也、人手卻㆓一寸㆒動𧖴、謂㆓之寸口㆒、从㆓又一㆒指事、按、十髮爲㆑程、而當㆓一分㆒、十分爲㆑寸。

【寸意】1（スンイ）　聊かのこころ。微意。寸志。〔齊諧記〕丹心寸意、愁㆓君未㆑知。

【寸陰】2（スンイン）　わづかの時間。少し許りの時間。〔淮南子、原道訓〕聖人不㆑貴㆓尺之璧㆒、而重㆓寸之陰㆒、時難㆑得而易㆑失也。〔向秀、思舊賦〕寄㆓餘命於寸陰㆒。〔通俗編、時序、寸陰自惜〕司馬法、不㆑寶㆓咫尺玉㆒、而愛㆓寸陰旬㆒。

【惜㆓寸陰㆒】3（スンインヲヲシム）　僅かの時間をしむ。時をしんで無駄にせぬことをいふ。〔晉書、陶侃傳〕常語㆑人曰、大禹聖者、乃惜㆓寸陰㆒、至㆓於衆人㆒、當㆑惜㆓分陰㆒、豈可㆓逸遊荒醉㆒。〔綦毋潛、送㆓章彝下第㆒詩〕三十名未㆑立、君還惜㆓寸陰㆒。

【寸陰若㆑歲】4（スンインサイノゴトシ）　僅かな時間が長く感じられる。待ち望むことの切な喩。〔北史、韓禽傳〕又下㆓優語於禽弼㆒曰、班師凱入、誠知㆑非㆑遠、想思之甚、寸陰若㆑歲。

【寸恩】5（スンオン）　わづかな恩德。

【寸暇】6（スンカ）　少しのひま。寸隙(27)に同じ。

【寸罅】7（スンカ）　少しのすきま。〔何先異同記〕譬㆓彼長堤㆒、寸罅必塞。

【寸毫】8（スンガウ）　甚だわづか。秋毫(**8**－**24940‥46**)に同じ。

【寸函】9　ts'uen⁴ han²　簡單な手紙。

【寸柬】10　ts'uen⁴ chien³　手紙。書翰。口上書。

【寸閑】11（スンカン）　僅かのひま。寸隙。

【寸緘】12　ts'uen⁴ chien¹　短い手紙。簡單な手紙。

【寸簡】13（スンカン）　短い手紙。簡は書札。寸書。寸楮。

【寸喜】14（スキ）　姓氏。〔和爾雅〕。

【寸晷】15（スンキ）　僅かの光陰。短晷。寸陰。〔潘尼、贈㆔陸機出爲㆓吳王郎中令㆒詩〕寸晷難㆑寶、豈無㆓璵璠㆒。

【寸晷風簷】16（スンキフウエン）　科擧の試驗場で、僅かの時間を惜んで苦しむこと。風簷は風の吹き通ふのきば、讀書の場所をいふ。風簷(**12**－**43756‥51**)を見よ。〔眉山秀傳奇〕償㆔不㆑盡寸晷風簷苦㆓拈題㆒。

【寸義】17（スンギ）　僅かな義理。〔呂溫、送㆔段九秀才歸㆓澧州㆒詩〕寸義薄㆓聯組㆒、片誠敵㆓兼金㆒。

【寸許】18（スンキヨ）　一寸ばかり。僅かばかり。〔喬于、遊㆓攝山㆒記〕殿後有㆓石浮圖㆒數丈、極精巧、鑿㆓釋像於上㆒、寸許者、眉髮皆具。

【寸芹】19　ts'uen⁴ ch'in²　少し許りの粗末な品。芹は、せり。粗末な品に喩へる。

【寸金】20（スンキン）　淀の名。河南省開封縣の北。黃河泛溢の水の匯るところ。宋の端平元年に、趙葵が汴に入るや、蒙古軍は之を決潰して宋軍に灌いだ。〔讀史方輿紀要、直隸、大名府、滑縣、濮渠〕寸金潭、在㆓縣東北㆒、舊爲㆓大河經流處㆒、宋宣和二年、王黼言、河流自㆓韓村㆒埽衝至㆓寸金潭㆒、自成㆓直河㆒、卽此、今涸。

【寸金羹】21（スンキンカウ）　黃金に似た色の羹。〔尺素往來〕寸金羹。

【寸金地】22　ts'uen⁴ chin¹ ti⁴　人口稠密で高價な土地。

【寸懷】23（スンクワイ）　僅かな思ひ。己が思ひの謙稱。

【寸管】24（スンクワン）　小さい律管。度量衡の基本となるもの。律(**4**－**10097**)を見よ。〔陸機、演連珠〕是以寸管下傃、天地不㆑能㆓以㆑氣欺㆒。

【寸脛】25（スンケイ）　みじかい脛。轉じて、みじかいものにいふ。〔陸雲、愁霖賦〕望㆓曾雲之萬仞㆒兮、想㆓白日之寸脛㆒。

【寸景】26（スンケイ）　わづかなひかり。〔謝朓、和㆓劉潺陸㆒詩〕徒願㆓尺波旋㆒、終憐㆓寸景戢㆒。

【寸隙】27（スンゲキ）　少しのひま。寸暇。寸閑。〔薛蕙、對㆑酒詩〕畏途有㆓千慮㆒、勞生無㆓寸隙㆒。

【寸劇】28（スンゲキ）　演壇や座敷で演ずる短い茶番狂言。

【寸口】29（スンコウ）　手首の脈どころ。兩手の掌の下一寸の動脈。氣口。寸脈。〔說文〕寸、十分也、人手卻㆓一寸㆒動𧖴、謂㆓之寸口㆒。〔段注〕卻、猶㆑退也、距㆓手十分㆒動𧖴之處、謂㆓之寸口㆒。〔史記、扁鵲倉公傳論〕寸口脈之大會。〔素問、六節藏象論〕寸口一盛、病在㆓厥陰㆒。〔王叔和、脈經〕從㆓魚際㆒至㆓高骨㆒、卻行一寸、其中名㆓寸口㆒。

【寸功】30（スンコウ）　少しのてがら。〔史記、李廣傳〕然終無㆓尺寸之功㆒、以得㆓封邑㆒。〔裴度、中和節詔賜㆓公卿尺㆒詩〕共仰㆓裁成德㆒、將㆑酬㆓分寸功㆒。

【寸紅】31　ts'uen⁴ hung²　慶賀に使用する名刺。

【寸刻】32（スンコク）　僅かの時間。寸時。

【寸莎】33（スサ）　漆喰の龜裂を防ぐために混和する

纖維質の材料。苆。つたともいふ。荒苆・市皮苆・油苆・赤苆・濱苆等の種類がある。〔番匠往來〕苧苆・紙苆・綱揉寸莎。

【寸草】34 スンサウ ㊀短い草。〔南史、王彧傳〕千仞之木、既摧二于斧斤一、一寸之草、亦悴二于踐蹋一。㊁僅かな喩。寸草春暉を見よ。

〖寸草心〗35 スンサウノココロ わづかの心。父母の恩愛に報いようとする心。寸草春暉に同じ。〔還魂記、訓女〕嬌鶯欲レ語、眼見春如許、寸草心、怎報二的春光一二一。

〖寸草春暉〗36 スンサウシュンキ 父母の恩愛は萬分の一も報い難い喩。寸草は、子供の親に報いんとする僅かの心。春暉は、父母の廣大なる恩愛を春日に比していふ。〔孟郊、遊子吟〕慈母手中線、遊子身上衣、臨レ行密密縫、意恐遲遲歸、誰言寸草心、報二得三春暉一。

【寸札】37 スンサツ 小札。又、短い手紙。短簡。〔王僧孺、與二何炯一書〕倘不下以二垢累一、時存中寸札上、則雖レ先二犬馬一、猶二松喬一焉。

【寸山】38 スンザン こやま。小さい山。低い山。〔道潛、次三韻順上人登二壽寧閣一詩〕楚楚但喬木、萋萋無二寸山一。

【寸子】39 ts‘uen^{4} tzŭ 俳優の用ひる女の靴。

【寸志】40 スンシ ㊀僅かの志。己が意志の謙稱。寸意。微衷。〔梁簡文帝、奉二請上開講一啓〕僂僂寸志、重敢披祈。㊁心ばかりのお禮。進物の包紙の上に書く語。

【寸私】41 スンシ 少しの心。〔福惠全書、稟啓附、賀二學臺新正一〕値二茲大節一、曷展二寸私一。

【寸枝】42 スンシ わづかのえだ。短いえだ。〔宋之問、題二老松樹一詩〕百尺無二寸枝一、一生自孤直。

【寸紙】43 スンシ 少しの紙。紙ぎれ。紙片。寸楮。〔北堂書鈔〕善書寸紙不レ遺。

【寸絲】44 スンシ 少しのいと。寸縷。寸絲不レ挂を見よ。

〖寸絲不レ挂〗45 スンシカケズ 少しの累ひもないこと。〔傳燈錄〕尼元機往參二雪峯一、雪峯曰、機日織多少、曰、寸絲不レ挂、遂退、雪峯曰、袈裟角拖レ地也、機回レ首、雪曰、大好寸絲不レ挂。

【寸字】46 ts‘uen^{4} tzŭ^{4} 簡單な手紙。寸楮。寸函。寸柬。寸緘。

【寸時】47 スンジ 僅かの時間。寸隙。寸刻。

【寸謝】48 スンシャ 心ばかりのお禮。進物の包紙の上に書く語。薄謝。菲儀。

【寸情】49 スンジャウ 少しのなさけ。〔范雲、望二織女一詩〕寸情百重結、一心萬處懸。

【寸壤】50 スンジャウ 僅かの土地。寸土。〔李德裕、蚍蜉賦〕覩二封穴一而知レ雨、驗二寸壤一而得レ泉。

【寸攘】51 スンジャウ 僅かづつ敵を逐ひはらふ。寸攘尺取を見よ。

〖寸攘尺取〗52 スンジャウシャクシュ 僅かづつ敵を逐ひはらひ、僅かづつ土地を奪ひ取る。

【寸尺】53 スンシャク ㊀長さの單位。寸と尺。尺寸。〔漢書、律歷志上〕度者分寸尺丈引也、所三以度二長短一也。㊁すこし。わづか。尺寸(**4－7632・・41**)の㊀に同じ。㊂長さ。たけ。

【寸株】54 スンシュ 小さい木のかぶ。〔王勃、平臺祕略論、幼俊八〕寸株尺蘖、擢二梢雲蔽景之幹一。

【寸旬】55 スンジュン 僅かの時間。〔左思、魏都賦〕量二寸旬一、涓二吉日一、陟二中壇一、卽二帝位一。〔注〕善曰、旬、時也。

【寸書】56 スンショ 寸簡(13)に同じ。

【寸心】57 スンシン こころ。方寸。〔陸機、文賦〕吐二滂沛乎寸心一。〔沈約、鍾山詩應二西陽王教一詩〕所レ願從レ之遊、寸心於レ此足。〔何遜、夜夢二故人一詩〕相思不レ可レ寄、直在二寸心中一。〔錢起、逢二俠者一詩〕寸心言不レ盡、前路日將レ斜。

〖寸心樓〗58 スンシンロウ 清、顧日新(**12－43689・・281**)の室名。

〖寸心知室〗59 スンシンチシツ 清、湯金釗(**7－17874・・16**)の室名。

【寸忱】60 ts‘uen^{4} ch‘en^{2} ㊀名刺。㊁赤誠。㊂寸志。

【寸進】61 スンシン 少し進む。〔柳宗元、法華寺石門精室三十韻詩〕跼蹐疲二魍魎一、寸進諒何營。〔王起、黑子廻車朝歌賦〕諒無レ阻二於寸進一、實自懲二於跬步一。

〖寸進尺退〗62 スンシンシャクタイ 一寸進んで一尺退く。得る所が少く、失ふ所が多い。〔老子、六十九〕不二敢進レ寸而退一レ尺。〔韓愈、上二兵部李侍郎一書〕進寸退尺、卒無レ所レ成。

【寸刃】63 スンジン みじかいはもの。〔韓愈、月蝕效二玉川子作一詩〕臣有二一寸刃一、可レ刳二凶蟇腸一。

【寸數】64 スンスウ 數寸に同じ。〔漢書、嚴助傳〕以二地圖一察二其山川要塞一、相去不レ過二寸數一、而間獨數百千里。

【寸寸】65 スンスン ㊀一寸毎に。〔枚乘、奏レ書諫二吳王一書〕夫銖銖而稱レ之、至レ石必差、寸寸而度レ之、至レ丈必過。〔蘇軾、稼說送二張琥一文〕共二百畝之田一、寸寸而取レ之。㊁ずたずたに。〔晉書、郗超傳〕超取視、寸寸毀裂。㊂少しづつ。〔唐太宗、賦二得白日半西山一詩〕岑霞漸漸落、溪陰寸寸生。

【寸誠】66 スンセイ 少しのまこと。自分の眞心の謙辭。寸丹。微衷。〔韓愈、學三諸進士作二精衞銜レ石塡一レ海詩〕鳥有二償レ冤者一、終年抱二寸誠一。

【寸截】67 スンセツ きれぎれにたちきる。〔白居易、江樓夜吟二元九律詩一成二三十韻一詩〕寸截金爲レ句、雙雕玉作レ聯。

【寸節】68 スンセツ 僅かのみさを。小節操。〔戎昱、賦二得鐵馬鞭一詩〕爲憐持二寸節一、長擬レ靜二三邊一。

【寸絕】69 スンゼツ きれぎれにたつ。〔戰國、燕策〕子腸亦且二寸絕一、境吏恐而赦レ之。

【寸牋】70 スンセン みじかい手紙。〔福惠全書、涖任部、待游客〕祇費二寸牋半刺一。

【寸箋】71 スンセン みじかい手紙。簡單な書信。

【寸善】72 スンゼン 少しの善。寸善尺魔を見よ。

〖寸善尺魔〗73 スンゼンシャクマ 善い事はとかくさまたげが多くて成りがたい喩。〔甲陽軍鑑、九下〕寸善尺魔と申して、善には必ず邪魔出來して、調ひ兼ね申すものにて候間。

【寸袋】74 スンブクロ 刀劍の鞘を包む革の袋。〔雍州府志、七〕刀袋、俗倭漆革大小縫レ之爲レ袋、裹二刀室一、是謂二寸袋一。

【寸磔】75 スンタク ずたずたにさく。磔は、さく。〔桃花扇、草檄〕皆思下寸二磔馬阮一、以謝中先帝上。

【寸丹】76 スンタン わづかのまごころ。寸誠。〔陳旅、詩〕宜下向二明時一瀝中寸丹上。

【寸斷】77 スンダン ㊀一寸程の長さに切る。きちんと切ること。〔後漢書、陸續傳〕母嘗截レ肉、未二嘗不一レ方、斷レ葱以レ寸爲レ度。〔胡天游、寓レ館食レ蟹戲二主人一詩〕開レ緘曉試膳夫手、寸斷日送先生盤。㊁ずたずたにさく。寸裂。

【寸地】78 スンチ ㊀少しの土地。寸土。尺寸地。〔唐書、李光弼傳〕李光弼曰、兩軍相敵、尺寸地必爭。〔杜甫、洗兵馬行〕寸地尺天皆入貢、奇祥異瑞爭來送。㊁心をいふ。寸府。〔列子、仲尼〕噫、吾見二子之心一矣、方寸之地虛矣、幾聖人也。

【寸籌】79 スンチウ すこしの工夫。〔福惠全書、涖任部、馭衙役〕寸籌莫レ展。

【寸長】80 スンチャウ 少しく技能あること。一寸したとりえ。〔宋史、婁機傳〕機稱二奬人才一、不レ遺二寸長一。

【寸腸】81 スンチャウ 僅かの眞心。〔杜甫、贈二特進汝陽王二一十韻詩〕寸腸堪二繾綣一、一諾豈驕矜。

【寸衷】82 スンチュウ 寸志。寸心。〔福惠全書、編審部、設誓〕豈寸衷之無レ畏。

【寸楮】83 スンチョ 名刺をいふ。又、短い手紙。楮はかうぞ。轉じて、紙。寸紙。寸簡。寸牘。〔蒿庵閒話〕寸楮往來、始二於崇禎一、以三嚴二禁請託一、於二投揳一爲レ便也。

【寸鐵】84 スンテツ 小さい武器。小さい刃物。〔盧仝、月蝕詩〕臣心有二一寸鐵一、可レ刳二妖蟇癡腸一。〔白居易、答二箭鏃一詩〕勿レ言分寸鐵、爲レ用乃長兵。〔蘇軾、聚星堂雪詩〕當時號令君聽取、白戰不レ許持二寸鐵一。

〖寸鐵殺レ人〗85 スンテツヒトヲコロス 一寸した刃物で人を殺す。簡單な警語や警句で人の急所をつく喩。〔鶴林玉露、地、殺人手段〕宗杲論レ禪云、譬如三人載二一車兵器一、弄二了一件一、又取二出一件一來弄、便不二是殺レ人手段一、我則只有二寸鐵一、便可レ殺レ人、朱文公亦喜二其說一、蓋自二吾儒一言レ之、若二子貢之多聞一、弄二一車兵器一者也、曾子之守約、寸鐵殺レ人者也。

〖不レ帶二寸鐵一〗86 スンテツヲオビズ 僅かの武器をも持たぬこと。丸腰。

【寸田】87 スンデン ㊀方寸の田地。轉じて、心をいふ。〔蘇軾、和二飲酒一詩〕寸田無二荆棘一、佳處正在レ茲。〔海錄碎事、人事、形相〕三丹田各方一寸、故曰二寸田一。㊁眉間をいふ。寸田尺宅の㊁を見よ。

〖寸田尺宅〗88 スンデンシャクタク ㊀少しの資產。〔蘇軾、游二羅浮山一一首示二兒子過一詩〕玉堂金馬久流落、寸田尺宅今誰耕。㊁寸田は眉間、尺宅は面の稱。〔黃庭經〕寸田尺宅可レ治レ生。〔注〕寸田、兩眉間爲二上丹田一、心爲二絳宮田一、臍下三寸爲二下丹田一。

【寸土】 89スンド 僅小の地。寸地。寸壤。〔宋史、地理志五〕民勤二耕作一、無二寸土之曠一。

【寸牘】 90スントク 寸楮(83)に同じ。牘は書札。

【寸馬】 91スンバ 遠くから小さく見える馬。寸馬豆人を見よ。

〔寸馬豆人〕92スンバトウジン 畫中の遠景の人馬の形容。〔荊浩、畫二山水一賦〕凡畫二山水一、意在二筆先一、丈山尺樹、寸馬豆人、遠人無レ目、遠樹無レ枝、遠山無レ皴、隱隱似レ眉、遠水無レ波、高與レ雲齊、此其訣也。

【寸白】 93スンパク ❶雲南の鄉兵。〔元史、兵志一〕又有二云云雲南之寸白軍、福建之畬軍一、則皆不三出二戍他方一者、蓋鄉兵也。❷スバク 女の腰の痛む病の總稱。〔榮華物語、鳥邊野〕くすしに語り聞かすれば、すばくにおはしますなり。

〔寸白蟲〕94 ts‘uen^{4} pai^{2} ch‘ung^{2} 人の小腸中に寄生し、養料を吸收して人を衰弱せしめる蟲の名。條蟲。さなだむし。

【寸帛】 95スンパク 僅かな絹布。〔江木鰐水、尙レ儉文〕不レ用二寸帛一。

【寸法】 96スンパフ ❶律呂で長さを定める法。〔律呂新書〕三者絲法也、九二其三一得二二十七一則毫法也、九二其二十七一得二二百四十三一則釐法也、九二其二百四十三一得二二千一百八十七一則分法也、九二其二千一百八十七一得二一萬九千六百八十三一則寸法也。❷長短の度。ながさ。

【寸府】 97スンプ 方寸の府の略。心をいふ。寸地。〔菅原文時、爲二小一條左大臣一辭二右大臣一第三表〕臣苟露二寸府一、忝塵二九圍一。

【寸分】 98スンプン ❶尺度の名。寸と分。〔漢書、律歷志〕度者分寸尺丈引也。❷わづか。いささか。

【寸兵】 99スンペイ 少しの武器。〔王炎、豐年謠〕洞丁傜戶盡歸レ耕、篁竹無三人弄二寸兵一。

〔寸兵尺鐵〕100スンペイシヤクテツ 少しの兵器。〔蘇軾、策略五〕不レ用二寸兵尺鐵一、而天下屛息、莫二敢或一レ爭。

【寸碧】 101スンペキ 少しのみどり。〔韓愈・孟郊、城南聯句〕遙岑出二寸碧一、遠目增二雙明一。〔范成大、過二平望一詩〕寸碧闖二高浪一、孤墟明二夕陽一。

〔寸碧堂〕102スンペキダウ 明、汪膺(**6－17154**・・140)の室名。

〔寸碧樓〕103スンペキロウ 奧野純の號。奧野小山(**3－5985**・・100)を見よ。

〔寸碧山堂〕104スンペキサンダウ 清、李汝龍(**6－14459**・・1488)の室名。

〔寸碧岑樓〕105スンペキシンロウ 清、譚嗣同(**10－35978**・・63)の室名。

【寸步】 106スンポ 少しのあゆみ。一足。〔盧照鄰、釋疾文序〕寸二步千里一、咫二尺山河一。〔杜甫、九日寄二岑參一詩〕寸步曲江頭、難レ爲二一相就一。

〔寸步不レ離〕107スンポハナレズ 夫婦仲睦しく、一步も離れないこと。陸東が妻朱氏と常に離れなかつた故事。〔通俗編、行事、寸步不レ離〕述異記、吳黃龍中、海鹽陸東與二妻朱氏一相重、寸步不二相離一、時人號二比肩人一。

〔寸步外皆闇夜〕108スンポノホカミナアンヤ 一寸先は闇。行く先の豫測出來ぬこと。〔近古史談、德篇、台德公美事〕浮生如レ夢、寸步外皆闇夜矣。

〔寸步不レ能二自致一〕109スンポモミヅカライタスアタハズ 自分では一步も步くことが出來ない。他の力をからねばならぬ喩。〔韓愈、代二張籍一與二李浙東一書〕胷中雖レ有二知識一、家無二錢財一、寸步不レ能二自致一。

【寸補】 110スンポ 少しのおぎなひ。〔范梈、晚登二南樓一眺二烏石九仙方山諸峯一詩〕祿食無二寸補一、遠遊何當レ還。

【寸眸】 111スンボウ 眼をいふ。寸は、小さい形容。〔左思、魏都賦〕八極可レ圍二於寸眸一、萬物可レ齊二於一朝一。〔注〕翰曰、八極之地、可レ入二於寸目一。

【寸木】 112スンボク 一寸の木。一寸四方の木。寸木岑樓を見よ。

〔寸木岑樓〕113スンボクシンロウ 寸木と岑樓。差違の甚しい喩。寸木は方寸の木で、至つて低く、食色に喩へる。岑樓は山のやうに高い樓で、至つて高く、禮に喩へる。〔孟子、告子下〕不レ揣二其本一而齊二其末一、方寸之木、可レ使レ高二於岑樓一。〔集注〕方寸之木至卑、喩二食色一、岑樓、樓之高銳似レ山者、至高、喩レ禮。

〔寸木難レ支大廈頽〕114スンボクササヘガタシタイカノクヅルルヲ 一寸の材木では大きな家の倒れるのを支へる事はできない。國家の亡びようとする程の大事は、到底一人の力では支へきれない喩。〔文中子、事君〕大廈將レ顚、非二一木所一レ支也。〔廣瀨淡窓、謁二加藤公廟一詩〕寸木難レ支大廈頽、丹心抵レ死未二曾灰一。

【寸脈】 115スンミヤク 手首の脈どころ。寸口(29)に同じ。〔素問、平人氣象論〕欲レ知三寸口太過與二不及一、寸口之脈中手短者曰二頭痛一、寸口脈中手長者曰二足脛痛一、寸口脈中手促上擊者曰二肩背痛一。〔史記、扁鵲傳論〕寸口脈之大會。

【寸餘】 116スンヨ 一寸あまり。〔皮日休、魯望戲題二書印囊一奉和次韻詩〕金篆方圓一寸餘、可レ憐銀艾未レ思レ渠。

【寸量】 117スンリヤウ 少しの分量。又、少しの長さをはかる。寸量銖稱を見よ。

〔寸量銖稱〕118スンリヤウシユシヨウ 一寸の長さも量り、一銖のめかたも稱（ハカ）る。細事まで調べる喩。〔蘇洵、史論下〕又欲三寸量銖稱以摘二其失一、則煩不レ可レ舉。

【寸縷】 119スンル 少しの絲すぢ。寸絲。〔元好問、秋蠶詩〕室人筐中無二寸縷一、一箔秋蠶課二諸女一。

【寸裂】 120スンレツ ずたずたにさく。寸斷。〔抱朴子、廣譬〕寸裂之錦黻、未レ若二堅完之常布一。

【寸祿】 121スンロク 少しの俸祿。薄祿。〔晉書、吳隱之傳〕妻子不レ霑二寸祿一。〔左思、詠史詩〕外望無二寸祿一、內顧無二斗儲一。〔唐書、李守德傳〕故主無二寸祿一、請二解レ官授一レ之。〔朱熹、梵天觀レ雨詩〕持レ身乏二古節一、寸祿久棲遲。

【寸關尺】 122スンクワンシヤク 手首の脈どころ。〔脈經〕從二魚際一至二高骨一、郤行一寸、其中名曰二寸口一、其骨自高、從レ寸至レ尺、名曰二尺澤一、故曰レ尺、寸後尺前、名曰レ關、陽出陰入、以レ關爲レ界。〔脈經、診將差難已脈〕師曰、寸關尺大小遲疾浮沉同等、雖レ有二寒熱不一レ解者一、此脈陰陽爲二平復一、當二自愈一。

【寸食蟲】 123 ts‘uen^{4} shih^{2} ch‘ung^{2} 條蟲。寸白蟲(94)に同じ。

【寸澤嵐】 124スアラシ 相模國の地名。

【寸璧堂】 125スンペキダウ 明、汪膺(**6－17154**・・140)の室名。

【詘レ寸信レ尺】 126スンヲクツシテシヤクヲノブ 小利を捨てて大利を得る喩。詘は屈、信は伸。〔淮南子、氾論訓〕詘レ寸而伸レ尺、聖人爲レ之、小枉而大直、君子行レ之。〔文心雕龍、附會〕宜下詘レ寸以信レ尺、枉レ尺以直レ尋、棄二偏善之巧一、學中具美之績上。

【進レ寸退レ尺】 127スンヲススメシヤクヲシリゾク 一寸を進めて一尺を退く。得る所が少く、失ふ所の多い喩。寸進尺退。〔老子、六十九〕用レ兵有レ言、吾不二敢爲一レ主而爲レ客、不二敢進一レ寸而退レ尺、是謂二行無一レ行。〔韓愈、上二兵部李侍郎一書〕進レ寸退レ尺、卒無レ所レ成。

【得レ寸得レ尺】 128スンヲエシヤクヲウ 少しでも得てみな我が有とする。〔戰國、秦策〕范雎獻二書秦王一曰、王不レ如二遠交而近攻一、得レ寸則王之寸、得レ尺亦王之尺也。〔性理大全〕聖人教レ人不レ過、返而求二之至近至小之中一、使下之得レ寸則守二其寸一、得レ尺則守中其尺上。

【寸指以測レ淵】 129スンシモツテフチヲハカル 一寸の指で淵をはかる。愚かな喩。不可能の喩。〔孔叢子、答問〕子立二尺表一以度レ天、植二寸指一以測レ淵。

【寸之玉必有二瑕瓋一】 130スンノタマニモカナラズカテキアリ 小さい玉にも必ずきずがある。完全なものはない喩。〔呂覽、擧難〕尺之木必有二節目一、寸之玉必有二瑕瓋一。

【寸膠不レ能レ治二黃河一】 131スンカウクワウガヲヲサムルアタハズ 僅かの膠では黃河の濁流を清めることは出來ない。少しの力では大事を成すことの出來ぬ喩。膠は水の濁りを止める。〔抱朴子、嘉遯〕欲下推二短才一以躄二雷同一、仗二獨是一以彈中衆非上、寸膠不レ能レ治二黃河之濁一、尺水不レ能レ卻二蕭邱之熱一、是以身名竝全者甚稀、而先笑後號者多有也。

【寸而度レ之至レ丈必差】 132スンニシテコレヲハカレバヂヤウニイタリテカナラズタガフ 一寸づつ量れば一丈に至つて必ず差違を生ず。〔淮南子、泰族訓〕寸而度レ之、至レ丈必差、銖而稱レ之、至レ石必過。〔枚乘、上書諫二吳王一書〕夫銖銖而稱レ之、至レ石必差、寸寸而度レ之、至レ丈必過、石稱丈量、徑而寡レ失。

一畫

【寸】 7412 トウ 等(**8－25992**)の俗字。〔篇海類編〕寸、俗等字。

二畫

【対】7413 タイ

對(4－7457)の俗字。〔宋元以來俗字譜〕對、通俗小說作レ対。

三畫

【寺】7414 シ ジ 〔集韻〕祥吏切 寘 ㄙ ssŭ4

小篆

❶**つかさ。やくしよ。**〔說文〕寺、廷也、有二法度一者也、从レ寸出聲。〔釋名、釋宮室〕寺、嗣也、治レ事者、相嗣續二於其內一也。〔廣雅、釋室〕寺、官也。〔一切經音義、十四〕寺、治也、官舍也。〔漢書、元帝紀〕城郭官寺。〔注〕師古曰、凡府庭所レ在、皆謂二之寺一。〔漢書、何並傳〕令下騎奴還至二寺門一、拔レ刀剝中其建鼓上。〔注〕師古曰、諸官曹之所、通呼爲レ寺。❷**九卿の政務を執る官處**。〔左氏、隱、七〕發二幣于公卿一。〔注〕如三今計獻詣二公府卿寺一。〔疏〕自レ漢以來、三公所レ居謂二之府一、九卿所レ居謂二之寺一。❸**やかた**。〔華嚴經音義、下〕寺、館舍也。❹**てら**。〔正字通〕漢明帝時、攝摩騰自二西域一白馬馱レ經來、初止二鴻臚寺一、爲創二立白馬寺一、後遂名二浮屠居一曰レ寺。〔通俗編、居處、寺〕羅壁志餘、漢設二鴻臚寺一、待二四方賓客一、永平中、佛法入二中國一、館二摩騰法蘭于鴻臚寺一、次年勅洛陽城西雍門外立二白馬寺一、以三鴻臚非二久居之館一、故別建レ處之、其仍以レ寺名者、以丁僧爲二西方之客一、若丙待以乙賓禮甲也、此中國有二僧寺一之始。❺**そばづかひ**。寺人。宦官。侍(1－589)に通ず。〔說文通訓定聲〕寺、叚借爲レ侍。〔詩、大雅、瞻卬〕時維婦寺。〔傳〕寺、近也。〔陳奐傳疏〕寺、古文侍、傳云レ近者、言二暱近一也。〔周禮、天官、序官〕寺人。〔注〕寺之言、侍也。〔左氏、僖、二十四〕寺人披請レ見。〔釋文〕寺、本又作レ侍。❻或は⿵門寺(11－41307)に作る。〔集韻〕寺、或从レ門。❼**姓**。〔元和姓纂〕古寺人之後有二寺氏一、有二寺人氏一。

【寺幽】1（ジイウ） 寺がしづか。〔朱慶餘、送三僧遊二縉雲一詩〕寺幽堪二講律一、月冷稱二當禪一。

【寺域】2（ジヰキ） 寺の境內。

【寺印】3（ジイン） 寺の印。〔禪林象器箋、九〕。

【寺院】4（ジヰン） てら。〔宋史、禮志十二〕元豐五年、作二景靈宮十一殿一、城門大道、大宮觀、寺院。〔宋史、食貨志上二〕諸寺院之多產者類請二求貴臣一、改爲二墳院一、冀レ免二科歛一、則所レ科歸二之下戶一。

【寺宇】5（ジウ） てら。〔唐書、辛替否傳〕今疆場危駭、倉廩空虛、卒輸不レ克、士賞不レ及、而大建二寺宇一、廣造二第宅一、伐レ木空レ山、不レ給二棟梁一、運レ土塞レ路、不レ克二牆壁一。〔宋史、張知白傳〕知白九歲、其父終二邢州一、殯二于佛寺一、及二契丹寇一、河北寺宇多頹廢、殯不レ可レ辨。

【寺影】6（ジエイ） 寺のかげ。〔喩鳧、早秋寺居酬二張侍御六韻見レ寄詩〕山光紫衣陟、寺影白雲凝。

【寺下】7（ジカ） 寺の下。寺のほとり。〔杜甫、涪城縣香積寺官閣詩〕寺下春江深不レ流、山腰官閣迥添レ愁。

【寺家】8（ジカ ジケ） ❶寺に屬從する家。寺戶。轉じて、僧をいふ。〔唐書、食貨志二〕中下田給二寺家奴婢丁壯者一。❷佛（ジケ） 叡山の役名。執當ともいふ。山門の僧事・法會・威義・回文等の事を掌る。〔圓光行狀翼贊、九〕執當猶如二知事一、亦名二寺家一、執二務山門僧事及法會威義並回文等一。

【寺號】9（ジガウ） 寺院の名。寺の稱號。

【寺格】10（ジカク） てらのくらゐ。寺院の格式。

【寺閣】11（ジカク） 寺のたかどの。〔周賀、贈二朱慶餘校書一詩〕寺閣連二官舍一、行吟過二幾層一。

【寺額】12（ジガク） 寺にかかげた額。〔宋史、任澤傳〕卒贈二崇信軍節度使一、謚曰二恭僖一、賜二墓寺寺額一、爲レ旌レ孝。

【寺監】13（ジカン） 寺と監とをいふ。寺は太常寺・太僕寺等の類。監は祕書監・殿中監の類。轉じて、役所をいふ。〔唐書、選擧志下〕諸臺省・寺監・軍衞・坊府之胥史六千餘人。

【寺卿】14（ジキヤウ ジケイ） 達官の稱。漢の太常・光祿勳・衞尉・太僕・廷尉・大鴻臚・宗正・大司農・少府を九寺大卿といふ。〔事物紀原、九寺卿少部、九卿〕禮記曰、夏后氏百官始置二九卿一、漢九卿俱不二以レ卿名レ官、梁武天監七年、始加二卿字一。〔王禹偁、贈二衞尉宋卿二十二丈一詩〕謫官歸來髮更斑、徊翔猶在二寺卿閒一。

【寺禽】15（ジキン） 寺に宿る小鳥。〔杜荀鶴、舟行晚泊二江上寺一詩〕日沈山虎出、鐘動寺禽歸。

【寺外】16（ジグワイ） 寺院の外。〔大集月藏經〕擯二出國土一、及在二寺外一。

【寺官】17（ジクワン） 寺院の役人。〔比丘尼傳〕告二寺官一、寺官共視。

【寺宦】18（ジクワン） 宦官をいふ。

【寺館】19（ジクワン） 寺のやかた。〔魏書、源子恭傳〕輟二創禮之重一、資二不急之費一、廢二經國之功一、供二寺館之役一、求二之遠圖一、不二亦闕一矣。

【寺觀】20（ジクワン） 佛寺と道觀。寺は僧の居處、觀は道士の居處。〔魏書、釋老志〕何必縱二其盜一、竊レ資營二寺觀一。〔唐書、百官志一〕凡國忌廢レ務日、內教三太常停二習樂一、兩京文武五品以上、及清官七品以上、行二香於寺觀一。〔韓愈、論二佛骨一表〕伏惟、睿聖文武皇帝陛下、云云、卽不レ許三度レ人爲二僧尼道士一、又不レ許三創二立寺觀一。〔宋史、符昭壽傳〕廣羅二黍稻一、未レ及二成熟一者、亦取レ之、悉貯二寺觀中一、久レ之損敗、卽勒二道釋一償レ之。

〖寺觀庵院〗21（ジクワンアンヰン） 庵は尼僧の居處、院は女道士の居處。寺觀を見よ。〔明律、戶律、戶役、私刱庵院及私度僧道〕凡寺觀庵院、除二見在處所一外、不レ許二私自刱建增置一、違者杖一百、還二俗僧道一、發二邊遠充軍一、尼僧女冠、入レ官爲レ奴。

【寺磬】22（ジケイ） 寺の磬。磬は、寺院に吊してある樂器。〔周賀、尋二北岡韓處士一詩〕逆風沈二寺磬一、初日曬二鄰桑一。

【寺戶】23（ジコ） 寺に屬從する家。寺家。

【寺庫】24（ジコ） 質物を扱ふ處。質屋。古の寺は多く之を設けたからいふ。〔南史、甄彬傳〕(甄彬)嘗以二一束苧一就二州長沙一、寺庫質錢、後贖レ苧還、於二苧束中一得二五兩金一、彬得二送還一、寺庫道人輒以二金半一仰酬、往復十餘、堅不レ受。

【寺互】25（ジゴ） 漢代、水を治める官。〔漢書、百官公卿表上〕中尉、秦官、云云、武帝太初元年、更名二執金吾一、屬官有二中壘・寺互・武庫・都船四令丞一。〔注〕如淳曰、漢儀注、有二寺互都船獄令一、治水官也。

【寺谷】26（テラヤツ） 上總國の地名。

【寺鏁】27（ジサ） 寺門のぢやう。鏁は鎖に同じ。〔皮日休、宿二報恩寺水閣一詩〕寺鏁雙峯寂不レ開、幽人中夜獨裴回。

【寺曹】28（ジサウ） 役所。官衙。〔羅隱、裴庶子除二太僕卿一因賀詩〕宮省舊推二皇甫謐一、寺曹今得二夏侯嬰一。

【寺參】29（テラマヰリ） 寺院に參詣する。〔傾城島原蛙合戰、三〕寺參なされしか。

【寺子】30（テラコ） 寺子屋の生徒。〔夏山雜談、四〕手習、云云、子供を寺子と云ふも。

〖寺子屋〗31（テラコヤ） 明治維新以前、兒童に庶民教育である讀書・算術・習字などを教へた私塾。中古、兒童教育は專ら僧侶の手にあつたから此の名が出た。寺小屋。〔菅原傳授手習鑑、一〕寺子屋が折檻の机。

【寺司】32（ジシ） 寺に關する事務を取り扱ふ處。今の社寺局の類。〔元亨釋書、二十〕。

【寺祠】33（ジシ） 寺と神社。寺社に同じ。

【寺寺】34（ジジ） 諸所の寺。てらでら。〔杜牧、念二昔遊一詩〕秋山春雨閑吟處、倚遍江南寺寺樓。

【寺侍】35（テラザムラヒ） 昔、格式の高い寺院に從屬した武人。

【寺社】36（ジシヤ） てらとやしろ。神社佛閣。社寺。

〖寺社方〗37（ジシヤガタ） 寺社奉行、又は其の部下。〔憲教類典、二、五、御役〕寬永十二年十一月十日、寺社方幷遠國訴訟人事。

〖寺社溜〗38（ジシヤダマリ） 昔、勸進相撲の興行場で、寺社

方が場內取締りのために出張してゐた所。

〖寺社奉行〗39ジシャブギャウ　徳川時代の三奉行の一、神社佛寺のことを掌る役人。寺社方。〔職掌錄〕寺社奉行、當職四員。

【寺舍】40ジシャ　㊀官舍。〔漢書、陳遵傳〕詣二寺舍一白レ遵。〔後漢書、光武紀下〕陛下識二知寺舍一、每レ來輒加二厚恩一。〔注〕寺、司也、諸官府所レ止皆曰レ寺。〔後漢書、馬援傳〕歸二守寺舍一。〔注〕寺舍、官舍也。㊁僧の居所。〔宋書、天竺迦毘黎國傳〕諸寺舍子、皆七寶形像、衆妙供具、如二先王法一。〔魏書、釋老志〕比丘不レ在二寺舍一、遊二涉村落一。

【寺主】41ジシュ　㊀㋑寺の住職。寺院三綱の一。〔釋氏要覽〕寺主起二於東漢白馬寺一、於レ時雖レ無二寺主之名一、而有二知レ事者一、東晉以來、此職方盛、故梁武造二光宅寺一、名二法雲一爲二寺主一、創二立僧制一、唐六典、每寺上座一人、寺主一人。㋺天台宗にて三綱の一なる僧官の稱。㊁テラジュ　仁和寺にて三綱の一なる僧官の稱。〔僧侶官位志〕寺主、云云、御室には天良需と訓ずるなり。

【寺處】42ジショ　寺のある處。〔方干、寄二石溢清越上人一詩〕寺處唯高僻、雲生二石枕前一。

【寺署】43ジショ　役所。官衙。〔後漢書、蔡邕傳〕遠則門垣、近在二寺署一。〔潘岳、西征賦〕營宇寺署。

【寺鐘】44ジショウ　寺のかね。〔顧況、寄二江南鶴林寺石冰上人一詩〕忽憶二秋江月一、如レ聞二古寺鐘一。〔宋史、李筠傳〕旦食撞二寺鐘一爲レ期。

【寺寢】45ジシン　寢廟を掌る役所。〔夏侯湛、東方朔畫贊〕徘二徊寺寢一。〔注〕向曰、寺、司也、言下其有二官司一、主中其寢廟上也。

【寺人】46ジジン　㊀君側に仕へる小臣。後宮の事を掌る官。宦官。〔詩、秦風、車鄰〕未レ見二君子一、寺人之令。〔傳〕寺人、內小臣也。〔詩、小雅、巷伯〕寺人孟子、作二爲此詩一。〔左氏、襄、二十六〕寺人惠牆伊戾爲二大子內師一。〔穀梁、襄、二十九〕閽、門者也、寺人也、不レ稱二名姓一、閽不レ得レ齊二於人一、不レ稱二其君一、閽不レ得レ君二其君一也。㊁周官の名。天官の屬。內人・女官の戒令を掌る。〔周禮、天官、寺人〕寺人、掌二王之內人及女官之戒令一。〔後漢書、宦者傳序〕寺人掌二女宮之戒一。㊂複姓。〔萬姓統譜〕寺人、掌二府寺一之官、宋寺人惠牆之後。

【寺請】47テラウケ　寺請狀の略。〔大學或問〕今の寺請は何の用にも立たず。

〖寺請狀〗48テラウケジヤウ　徳川時代、耶蘇教の改宗者が、檀那寺の住持から自己が檀家たる證明を得て、奉行所に差出した書面。寺手形。寺證文。〔大江俊光記、元祿五年二月九日〕爲二後日一寺請狀如レ件。

【寺錢】49テラセン　博弈する場所を貸した報酬金。〔公裁隨筆、禮〕博弈一件吟味心得方、廻り筒之博弈、云云、てら錢貰ひ請け候もの。

【寺前】50ジゼン　㊀寺の前。〔王建、宮前早春詩〕酒幔高樓一百家、宮前楊柳寺前花。〔李紳、江南暮春寄レ家詩〕劍水寺前芳草合、鏡湖亭上野花開。㊁鎭の名。陝西省澄城縣の東南。寺頭鎭ともいふ。明の嘉靖中、城を築き、遵義堡といふ。〔澄城縣志〕寺頭鎭在二縣東南四十里一、卽寺前鎭。

【寺僧】51ジソウ　寺の僧。〔舊唐書、李訓傳〕訓謀レ誅二宦官一、事不レ濟、走入二終南山一、投二寺僧宗密一。〔宋史、查道傳〕遊二五臺一、將二落髮爲一レ僧、一夕震雷破レ柱、道坐二其下一、了無二怖色一、寺僧異レ之、咸勸二以仕一。

【寺塔】52ジタフ　寺の塔。〔唐書、五行志三〕太和八年六月癸未、暴風壞二長安縣署及經行寺塔一。

【寺中】53ジチユウ　佛㊀寺のうち。〔行事鈔、下、二〕僧住二寺中一過二初夜一。㊁寺內の支坊。塔頭タッチュウ。

【寺庭】54ジテイ　役所の庭。〔宋書、符瑞志下〕晉孝武帝、太元十一年八月乙酉、白烏集二江州寺庭一、羣烏翔衞。

【寺田】55ジデン　寺の田地。〔唐書、食貨志二〕兩京悲田養病坊給二寺田十頃一、諸州七頃、主以二耆壽一。

〖寺田林菴〗56テラダリンアン　臨川の父。名は正茂。字は知還。號は林菴。〔先哲叢談、續、七〕。

〖寺田臨川〗57テラダリンセン　安藝の人。名は革・高通。字は士豹・鳳翼。通稱は立革・半藏。號は臨川。味木立軒を師とす。官は廣島藩儒・講道館總督。詩文に巧。延享元年十一月四日歿す、年六十七。著に韓館酬和集・藝藩諸士系譜・藝藩諸士系譜附錄・藝藩諸士系譜目錄・藝備古城志・臨川集・二孝子傳・臨川全集がある。〔先哲叢談、續、七〕・〔近代著述目錄、後篇〕。

【寺奴】58ジド　㊀僧をいふ。〔稱謂錄、僧、寺奴〕建業實錄、陳後主自賣二身於佛寺一爲レ奴。〔墨莊漫錄、六〕梁武帝之奉レ佛、可レ謂レ篤矣、至三捨レ身爲二寺奴一。〔唐書、姚崇傳〕梁武帝身爲二寺奴一、齊胡太后以二六宮一入レ道。㊁寺のしもべ。〔稱謂錄、僧僕、寺奴〕寺奴、非レ僧也、猶二今所謂道菩薩一耳。

【寺東】59ジトウ　役所の東。〔大業雜記〕東朝堂南第三街、第一司隸臺、臺東連二光祿寺一、寺東連二左監門府一。

【寺頭】60ジトウ　鎭の名。寺前(50)の㊁に同じ。

【寺內】61ジナイ　寺院の內。〔宋書、王僧達傳〕乃遣二主簿顧曠一率二門義一、刦二寺內沙門竺法瑤一、得二數百萬一。

【寺尼】62ジニ　女僧。尼僧。〔宋書、天竺迦毘黎國傳〕諸寺尼出二入宮掖一、交二關妃后一、此制竟不レ能レ行。

【寺入】63テライリ　㊀寺子屋に入門すること。入學。〔艷狩劍本地、信濃下〕六つで寺入り。㊁室町時代以後、武士などの罪過を犯した者が、寺又は虛無僧寺に駈け込んで、追捕を免れ、或は宥免されること。〔甲陽軍鑑、十二、品第三十九〕改易の科をば寺入に仰せつけられ候。

【寺背】64ジハイ　寺の後面。寺の裏。〔佐藤一齋、日光山行記〕寺背有二華表一。

【寺傍】65ジバウ　役所のかたはら。〔魏書、薛慶之傳〕廷尉寺鄰二接北城一、曾夏日於二寺傍一執二得一狐一。

【寺畔】66テラナハテ　豐前國の地名。

【寺碑】67ジヒ　寺にある碑。〔宋史、呂陶傳〕一日同遊二僧舍一、共讀二寺碑一。

【寺壁】68ジヘキ　㊀寺の壁。〔鄭谷、題二水部李羽員外招國里居一詩〕畫僧依二寺壁一、栽レ葦學二江村一。㊁寺の壁に畫くこと。〔古畫品錄、第四品、五人〕蘧道愍・章繼伯並善二寺壁一、兼長二畫扇一、人馬分レ數、毫釐不レ失、別體之妙、亦爲二入神一。

【寺務】69ジム　㊀寺院の事務。〔古今著聞集、一、北野宰相〕寺務のあるべき次第。㊁佛僧官の名。〔職原抄〕僧官位、寺務。

【寺門】70ジモン　㊀役所の門。〔漢書、何並傳〕令下騎奴還至二寺門一、拔レ刀剝中其建鼓上。〔後漢書、張湛傳〕建武初、爲二左馮翊一、後告二歸平陵一、望二寺門一而步。㊁寺の門。山門。〔崔國輔、宿二法華寺一詩〕松雨時復滴、寺門淸且涼。〔張籍、哀二孟寂一詩〕今日風光君不レ見、杏華零落寺門前。〔白居易、三月三十題二慈恩寺一詩〕慈恩春色今朝盡、盡日徘二徊倚寺門一。㊂近江の三井寺・園城寺。延曆寺の山門に對していふ。

〖寺門靜軒〗71テラカドセイケン　常陸の人。名は良。字は子溫。通稱は五郎左衞門。號は靜軒。初、江戸に塾を開く。天保中、江戸繁昌記を著して法に觸れ、江戸を逐はる。詩文に巧。明治元年二月二十四日歿す、年七十三。著に江戸繁昌記・江戸繁昌後記・江頭百詠・行墨餘瀋・靜軒一家言・靜軒詩撰（小谷田重範編）・靜軒詩文鈔・靜軒百詩・靜軒漫筆・太平記・痴談・頳肩瓦囊・新潟繁昌記・新潟富史・敝囊遺塵がある。〔近代著述目錄、後篇〕・〔埼玉名家著述目錄〕。

【寺裏】72ジリ　寺の內。〔李端、荊門歌〕琵琶寺裏響二空廊一、熨斗陂前溼二荒戍一。

【寺領】73ジリヤウ　寺院の領地。〔古今著聞集、七〕寺領も豐饒也。

【寺樓】74ジロウ　寺のたかどの。〔岑參、陪二羣公龍岡寺一泛レ舟詩〕漢水天一色、寺樓波底淸。〔王建、昭應官舍詩〕斜對二寺樓一分二寂寂一、遠從二溪路一借二潺潺一。〔薛逢、早發二剡山一詩〕南巖氣爽橫二郛郭一、天姥雲晴拂二寺樓一。

【寺籠】75テラゴモリ　寺に籠つて佛を念ずること。

【寺衙門】76ジガモン　寺と名づけられる官署をいふ。〔清國行政法汎論、官廳、備考〕凡於二清國法一、普通稱二衙門一者、指二該當官廳一之語也、府部院寺等語亦同、或連二用是等字樣一、有二府衙門・部衙門・院衙門・寺衙門之語一。

【寺手形】77テラテガタ　寺請狀(48)に同じ。〔地方落穗集、十二〕宗門改、云云、寺手形取置申候。

【寺證文】78テラジヨウモン　寺請狀をいふ。〔地方落穗集、十三〕宗門改、云云、寺證文取り置き候事。

【寺小屋】79テラコヤ　寺子屋(31)に同じ。

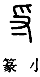
【寺小姓】80テラコシヤウ　寺僧の側に仕へる少年。〔好色一代女、二〕御寺小姓。

【寺納豆】81 テラナットウ 歳暮に寺院の僧から檀家へ贈る濱名納豆。〔嬉遊笑覽、十、上〕今の寺納豆も、法論味噌、坐禪納豆の遺製。

【寻】7415 ユウ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕寻、音裕。

四畫

【寽】7416 リツ リチ 〔集韻〕劣戌切 ［質］


小篆

❶**とる。つまむ。**〔說文〕寽、五指寽也、从㆑𠬪一聲、讀若㆑律。〔段注〕凡今俗用㆓五指㆒持㆑物、引取㆑之曰㆑寽、云云、聲疑衍。❷捋(**5-12140**)に通ず。〔正字通〕寽、經傳皆作㆑捋。

【⿱冖寸】7417 グワン 刓(**2-1895**)に同じ。〔字彙〕⿱冖寸、同㆑刓。

【寿】7418 ジュ 壽(**3-5672**)の俗字。〔辭海〕寿、壽俗字。

【対】7419 タイ 對(**4-7457**)の略字。

【寿】7419′ ジュ 壽(**3-5672**)の略字。

五畫

【村】7420 シュク 叔(**2-3154**)の古字。〔字彙〕村、古叔字。

【㝵】7421 🈩ガイ 〔集韻〕牛代切 ［隊］ 🈔トク 〔廣韻〕多則切 ［職］

🈩**さまたげる。**礙(**8-24542**)に同じ。〔集韻〕礙、說文、止也、南史引㆓浮屠書㆒作㆑㝵。🈔**とる。**㝵(**10-34804**)に同じ。〔廣韻〕㝵、說文、取也、今作㆑㝵、同。

［名乘］ チカ。

【尀】7422 ハ 〔字彙〕普火切 ㄆㄛˇ p'o^{3} ［哿］

できぬ。叵(**2-3254**)に同じ。〔字彙〕尀、尀耐。〔正字通〕尀、同㆑叵。

【尀耐】1 p'o^{3} nai^{4} 勘忍のならぬこと。〔字彙〕尀、尀耐。〔水滸傳、一回〕尀耐無禮、戲弄下官。

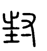
【⿰耳寸】7423 シャク 爵(**7-19711**)に同じ。〔字彙補〕⿰耳寸、漢隸釋與㆑爵同。

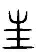
【⿰冊寸】7424 ダ 義未詳。〔龍龕手鑑〕⿰冊寸、音那。

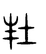
【⿰車寸】7425 シャ 義未詳。〔篇海〕⿰車寸、音射。

六畫

【封】7426 🈩ホフ フ 〔集韻〕方容切 ㄈㄥ fêng^{1} ［冬］ 🈔ホウ フ 〔集韻〕芳用切 ［宋］ 🈪ヘン 〔集韻〕陂驗切 ［豔］ ［慣］フウ


小篆


古文


籒文

🈩🈔❶**領地。**諸侯が天子から與へられた土地。〔說文〕封、爵㆓諸侯㆒之土也、从㆓之土㆒从㆑寸、寸、守㆓其制度㆒也、公侯百里、伯七十里、子男五十里。〔周禮、地官、大司徒〕諸公之地、封疆方五百里、諸侯四百里、諸伯三百里、諸子二百里、諸男百里。❷**ほうずる。**諸侯に任命して土地を與へる。〔一切經音義、二十二〕建㆑國以㆓土地㆒曰㆑封。〔禮、樂記〕封㆓黃帝之後於蘇㆒。〔左氏、定、四〕封㆓魯於少皞之虛㆒。❸**さかひ。**土を盛りあげたさかひ。土界。〔小爾雅、廣詁〕封、界也。〔左氏、襄、三十〕田有㆓封洫㆒。〔注〕封、疆也。〔莊子、齊物論〕夫道未㆓始有㆑封。〔注〕道無㆑不㆑在、有㆓何封域㆒也。❹**さかひする。**土を盛つてさかひとする。〔周禮、地官、大司徒〕制㆓其畿疆㆒而溝㆓封之㆒。〔注〕封、起㆓土界㆒也。❺**つく。土を盛る。**㋑壇を作る。〔周禮、地官、封人、掌㆑設㆓王之社壝㆒、注〕聚㆑土曰㆑封。㋺塚をきづく。〔禮、檀弓上〕古也墓而不㆑墳、云云、於㆑是封㆑之崇四尺。〔注〕聚㆑土曰㆑封。〔禮、樂記〕封㆓比干之墓㆒。〔注〕積㆑土爲㆑封。❻**つか。**〔廣雅、釋邱〕封、冢也。〔禮、檀弓上〕吾見㆓封之若㆑堂者㆒矣。❼**高山の頂に土を盛り壇を築いて天に告祭する儀式。**天子卽位の時に行ふ。〔大戴禮、保傅〕封㆓泰山㆒而禪㆓梁甫㆒。〔後漢書、祭祀志論〕封者謂㆔封㆑土爲㆑壇、柴祭告㆓天代興成功㆒也。❽**つちかふ。**土をかける。〔國語、吳語〕今天王既封㆓殖越國㆒。〔注〕壅㆑本曰㆑封。❾**つく。**附着する。〔張協、七命〕雲雪寫㆓其根㆒、霏霜封㆓其條㆒。〔注〕善曰、封、著也。❿**つち。**〔方言、十〕封、場也。〔注〕楚郢以南、蟻土謂㆓之封㆒。〔儀禮、士喪禮〕北面指㆓中封㆒而筮。〔注〕中封、中央壤也。⓫**ひろい。ひろめる。**〔白虎通、封禪〕封、廣也。⓬**たかい。たかめる。**〔漢書、武帝紀〕登封㆓泰山㆒。〔注〕孟康曰、封、崇也、助㆓天之功㆒也。⓭**くに。**邦(**11-39310**)に通ず。〔說文通訓定聲〕封、段借爲㆑邦。〔國語、楚語下〕鄭幾不㆑封。〔注〕封、國也。⓮**大きい。大いに。**豐(**10-36304**)に通ず。〔說文通訓定聲〕封、段借爲㆑豐。〔廣雅、釋詁一〕封、大也。〔詩、周頌、烈文〕無㆔封靡㆓于爾邦㆒。〔傳〕封、大也。〔淮南子、脩務訓〕封豨脩蛇。〔注〕封、大也。⓯**あつい。あつくする。**〔國語、楚語下〕是勤㆑民以自封也。〔注〕封、厚也。⓰**とむ。**〔史記、貨殖傳〕無㆓秩祿之奉、爵邑之入㆒、而樂與㆑之比者、命曰㆓素封㆒。⓱**ふうじる。とぢる。**〔廣雅、釋宮〕封、塗也。〔字彙〕封、緘也。〔漢書、平帝紀〕封以㆓御史大夫印㆒。〔南史、劉孝綽傳〕寫㆓別本㆒、封至㆓東宮㆒。〔王安石、杏花詩〕垂楊一徑紫苔封。⓲**封書。書狀。**密封して上奏する書。〔漢書、魏相傳〕先發㆓副封㆒。〔韓愈、左遷至㆓藍關㆒示㆓姪孫湘㆒詩〕一封朝奏九重天。⓳**みね。**峯。〔李商隱、鏡檻詩〕取㆑酒一封駝。〔注〕大月氏國出㆓一封橐駝㆒。⓴**地の廣さの單位。**百里平方の地の十倍。〔漢書、刑法志〕同、方百里、同十爲㆑封、封十爲㆑畿。㉑**州名。**封州(93)を見よ。〔集韻〕封、亦州名。㉒古は⿱丰土(**3-4929**)・⿰丰土(**3-5067**)に作る。〔集韻〕封、古作㆓⿱丰土・⿰丰土㆒。㉓**姓。**〔廣韻〕封、亦姓、望出㆓渤海㆒、本姜姓、炎帝之後、封㆑鉅爲㆓黃帝師㆒、又望出㆓河南㆒、後魏官氏志云、是賁氏後改爲㆓封氏㆒。㉔［現］さしおさへる。🈪**うづめる。**窆(**8-25459**)に同じ。〔說文通訓定聲〕封、段借爲㆑窆。〔集韻〕

窆、說文、葬下レ棺也、引二周禮及レ窆執レ斧、或作レ封。〔易、繫辭下〕不レ封不レ樹。〔虞注〕穿レ土稱レ封、封、古窆字也。邦**ポンド**。斤量の單位。約百二十一匁。pound のあて字。

解字 會意。之と土と寸との合字。之はゆく・ゆかしむ、土は諸侯たるべき土、寸は法度・制度をいふ。故に本義を諸侯を爵命して其の土にゆき統治させる意とする。段注によれば之は是の意。諸侯を爵命して統治させるのに是の土地を以てする意。〔說文繫傳〕封、爵二諸侯一之レ土也、從二土之寸一、寸、其制度也、云云、臣鍇曰、此會意、各之二其土一也。〔說文、封、段注〕謂下爵二命諸侯一以中是土上也、云云、然則之土言二是土一也。▽ （金文）會意。地面に植物の立つ字形に寸を加へ、手で植物を植ゑて境を限る意を表はす。

參考 我が國で、ふうじるの意に用ひる時はフウと讀む。

【封押】1 フウアフ 封じ口に書判をする。〔福惠全書、編審部、立局親審〕將二本日審過戶單若干張一封押。

【封姨】2 fēng¹ i² 風神の異名。十八姨の一。封家姨(14)を見よ。

【封懿】3 ホウイ 後魏の人。孚の弟。初、慕容寶に仕へ、後、魏に歸す。官は給事黃門侍郎。著に燕書がある。〔魏書、三十二〕・〔北史、二十四〕。

【封域】4 ホウヰキ 國境。封界。領地。〔周禮、春官、保章氏〕以二星土一辨二九州之地所一レ封、封域皆有二分星一、以觀二妖祥一。〔注〕封、猶レ界也。〔史記、秦始皇紀〕諸侯各守二其封域一。〔漢書、王莽傳下〕恐新室憂、不レ在二匈奴一、而在二封域之中一也。〔說苑、脩文〕諸侯祭二封域之內一。〔吳志、陸抗傳〕以三長川峻山、限二帶封域一。〔謝惠連、祭二古冢一文〕上無二封域一。

【封邑】5 ホウイフ 諸侯の領地。封地(137)に同じ。〔周禮、夏官、遼師〕物之可二以封邑一者。〔史記、管仲傳〕有二封邑一者十餘也。〔論衡、禍虛〕然終無二尺土之功一、以得二封邑一者、何也。

【封印】6 フウイン ❶開封を防ぐため、封じ目に押す印。封璽。〔晉書、陶侃傳〕軍資・器仗・牛馬・舟船、皆有二定簿一、封二印倉庫一。〔世說新語補、德行〕吏至二巨源一、於二梁上一得レ絲、已數年、塵埃封印如レ故。❷官印を封鎖すること。明・清代に、十二月下旬から次年正月中旬まで、各官廳の公務を停止する制度をいふ。〔西湖游覽志〕除夕、官府封印、不二復簽押一、新正三日、始開。〔清稗類鈔、時令類〕。❸判檢事・執達吏が、法規によつて財產・物品を差押へる時に附する印。

〔封印附〕7 フウインツキ ❶すべて封印してあるものをいふ。❷德川時代、兩替店が封印した一包の通貨の稱。

【封奕】8 ホウエキ 前燕、渤海の人。字は子專。諡は匡。初め慕容廆に屬して軍國機要に預かつたが、慕容皝が燕王と稱するに及んで、其の相國となり、武平侯に封ぜられ、太尉に進み、中書監を領した。〔晉書、一百九〕。

【封淵】9 ホウエン 淵の名。大きな淵。〔山海經、大荒北經〕帝俊竹林在焉、大可レ爲レ舟、竹南有二赤澤水一、名曰二封淵一、有二三桑無枝一。

【封演】10 ホウエン 唐、蓚の人。貢擧。官は吏部郞中・御史中丞。著に封氏聞見記がある。〔四庫提要、一百二十〕。

【封翁】11 ホウヲウ 子孫の榮達に因つて封典を受けた父祖。封君(54)の❷に同じ。

【封河】12 フウカ 冬季、河水が氷結して、船舶の交通が絕えること。

【封家】13 ホウカ 封侯の家。〔徐陵、詠レ柑詩〕萬室擬二封家一、千株挺二荆國一。

〔封家姨〕14 ホウカイ 風神の異名。封姨。〔合璧事類〕崔元徽月夜遇二數美人一、曰二楊氏・李氏・陶氏一、又緋衣少女曰二石措措一、又有二封家十八姨來一、石措措曰、諸女伴皆住二苑中一、每下被二惡風一所上レ撓、常求二十八姨一相庇、處士每歲旦興、作二一朱旛一、圖二日月五星一、則免矣、崔許レ之、其日立レ旛、東風刮レ地、折レ木飛レ花、而苑中花不レ動、崔方悟二衆花之精一、封家姨乃風神也、出二博異記一。

【封鵝】15 ホウガ 鵝を用ひて雨雪を祈る一種の祈禱。〔玉海、食貨、農書、賈思勰齊民要術〕宋朝天禧四年、云云、又出二繪龍封鵝祈禳秘法一、令三長吏遵二行之一、劭レ農之道備矣。〔淵鑑類函、鳥部、鵝〕宋祈二雨雪一法、擇二靈祠一爲レ壇、取二白鵝一、割レ項盛レ血、幷レ鵝奠レ之、次日、俱於二壇前一瘞レ之、志林云、鵝能警レ盜、又能却レ蛇、且有二祈レ雨之厄一、悲夫。

【封界】16 ホウカイ 土を盛つて築いた國境。封境。封域。又、區別。〔荀子、正論〕天下之大隆、是非之封界、分職名象之所レ起、王制是也。〔管子、小匡〕正二其封界一。〔杜甫、論二巴蜀安危一表〕臣子所レ守封界、接二連梓州一、正可レ爲二成都東鄙一。

【封交】17 フウカウ 封じて渡す。封緘して交付する。〔清會典事例、內閣、諭旨〕辦事之侍讀中書、從無下封二交兵部一發遞事件上。

【封港】18 フウカウ 敵の港を封鎖すること。

【封誥】19 フウカウ 封をした政府の諭告。〔還魂記、腐歎〕妄沾二封誥一有二何功一。

【封衡】20 ホウカウ 三國、魏の隴西の人。字は君達。老莊の學に通ず。山に入つて藥を采り、常に一青牛に駕す。人、其の名を知らず、因つて青牛道士と號す。武帝に養生の大略を問はる。著に養氣術・隱形法・衞生經がある。〔後漢書、一百十二下〕・〔神仙傳、十〕。

【封敖】21 ホウガウ 唐、蓚の人。字は碩夫。元和の進士。官は平盧興元節度使・尚書右僕射。〔唐書、一百七十七〕・〔舊唐書、一百六十八〕。

【封號】22 ホウガウ 封ぜられた稱號。〔琵琶記、書館悲逢〕應須レ有二封號、金花紫誥一。

【封緘】23 フウカン ふうじる。とぢる。又、ふう。封。〔李適之、法觀大禪寺碑〕永淳歲有二三婆羅門一、寄二金銀珠寶千師一、復置二牀簀一、而歸二西域一、其後有レ賊劫レ房、此珠寶獨在、出入三載、主乃東來、各以還レ之、封緘如レ故。〔金史、禮志三〕南東西皆有レ門、云云、中垣之外、東北、冊寶殿也、太常官一人季視二其封緘一、謂二之點寶一。

【封碱】24 フウカン ❶とぢた石の函。〔黃滔、登二雲黃山一詩〕重華秩二山川一、盛典軼二封碱一。❷石の函をとぢる。〔宋史、禮志七〕封禪玉冊、用二石碱一藏レ之、爲二石泥一封レ碱。

【封圻】25 ホウキ 王城を中心とする千里四方をいふ。天子の畿內。圻は、王畿千里。封畿。〔漢書、文帝紀〕封圻之內、勤勞不レ處。〔孔叢子、巡狩〕天子封圻千里。〔孫逖、登二越州城一詩〕封圻滄海合、鄽市碧湖明。

【封軌】26 ホウキ 後魏の人。回の族叔。字は廣度。博く經傳に通ず。官は征虜將軍。〔魏書、三十二〕。

【封記】27 フウキ 封をしたるし。〔福惠全書、蒞任部、查交代〕其無二封記一、須二逐件驗明一。

【封寄】28 fēng¹ chi⁴ 民國政事堂公文の形式。國務卿が大總統に面會して各部院に與へる公文は、封寄又は交片を以てこれを行ふ。

【封豨】29 ホウキ ❶神獸。〔楚辭、天問〕封豨是䠶。〔注〕封豨、神獸也、䠶、一作レ射。❷大きなゐのこ。封豕。〔後漢書、馬融傳〕獄二豶熊一、抾二封豨一。〔張協、七命〕蹷二封豨一、僨二馮豕一。〔注〕善曰、小雅曰、封、大也、方言曰、南楚人、謂レ豬爲レ豨。〔左思、吳都賦〕封豨䝁、神螭掩。〔注〕向曰、封豨、大豬也。❸星の名。奎(**3－5911**)の別名。〔漢書、天文志〕奎曰二封豨一、爲二溝瀆一。

〔封豨脩蛇〕30 ホウキシウダ 封豕長蛇(84)に同じ。〔淮南子、脩務訓〕吳爲二封豨脩蛇一、蠶二食上國一。〔注〕封・脩、皆大也、豨・蛇、喩レ貪也。

【封畿】31 ホウキ 天子の畿內。封圻。〔詩、小雅、四月、盡瘁以仕、箋〕今王盡二病其封畿之內一、以二兵役之事一。〔史記、孝文紀〕封畿之內、勤勞不レ處。〔漢書、匈奴傳贊〕先王度二土中一立二封畿一。〔班固、西都賦〕封畿之內、厥土千里。

【封丘】32 ホウキウ 縣名。❶古の封父の國。漢、封丘縣を置く。金代、河水に湮沒したので、治を新城に遷す。元初、新城はまた河水に壞され、再び故城に還る。今、河南省陽武縣の東。〔漢書、地理志上〕陳留郡、縣十七、封丘。〔讀史方輿紀要、河南、開封府〕封邱縣、古封父國、左傳、賜二封父之繁弱一、是也、漢置二封邱縣一屬二陳留郡一、後漢初平四年、袁術屯二封邱一、曹操自二堙城一引レ兵擊走レ之、晉屬二陳留國一、大興三年、祖逖遣二其將韓潛一屯二于此一、既而石勒遣二石虎一引レ兵南侵、城二封邱一而還、後魏仍屬二陳留郡一、北齊省、隋復置、屬二滑州一、唐屬二汴州一。〔清史稿、地理志〕河南、衞輝府、縣九、封邱。❷南朝宋、置き、今、缺く。安徽省の境。

【封牛】33 ホウギウ 牛の一。項上に隆起肉のあるもの。峯牛。犎牛。〔漢書、西域傳〕(罽賓國)出二封牛・水牛一。〔注〕師古曰、封牛、項上隆起者也。〔後漢書、

順帝紀〕疏勒國獻㆓師子・封牛㆒。〔注〕封牛、其領上肉隆起者若㆑封然、因以名㆑之、卽今之峯牛。〔後漢書、西域、條支國傳〕犀牛封牛。

【封畺】34 ホウキャウ 封疆の㊀に同じ。〔漢書、天文志〕故候㆓息耗㆒者、入㆓國邑㆒視㆓封畺田疇之整治、城郭室屋門戶之潤澤㆒。

【封境】35 ホウキャウ 國境。領地のうち。〔新書、階級〕守衞捍敵之臣、誠死㆓城郭封境㆒。

【封疆】36 ホウキャウ ㊀境界。國境。封畺。〔周禮、地官、大司徒〕諸公之地、封疆方五百里。〔禮、月令〕皆修㆓封疆㆒。〔左氏、成、三〕帥㆓偏師㆒以脩㆓封疆㆒。〔孟子、公孫丑下〕域㆑民不㆑以㆓封疆之界㆒、固㆑國不㆑以㆓山谿之險㆒。〔荀子、子道〕封疆不㆑削。〔管子、小匡〕正㆓其封疆㆒。㊁總督巡撫をいふ。明・清の語。〔陳用光、前湖南巡撫李公神道碑銘〕後多㆘歷㆓卿貳㆒任㆓封疆㆒者㆖。

〔封疆臣〕37 ホウキャウシン 國境を守る將帥。〔禮、樂記〕石聲磬、磬以立㆑辨、辨以致㆑死、君子聽㆓磬聲㆒、則思㆘死㆓封疆㆒之臣㆖。〔唐書、車鼻可汗傳〕永徽元年、高侃伐㆓車鼻可汗㆒擒㆑之、以㆓其衆㆒處㆓鬱督軍山㆒、建㆓新黎州㆒使㆑領㆓其衆㆒、於㆑是突厥盡爲㆓封疆臣㆒矣。

【封鉅】38 ホウキョ 上古の人。黃帝の師。〔史記、孝武紀〕風后・封鉅・岐伯、令㆘黃帝封㆓東泰山㆒、禪㆗凡山㆖。〔注〕集解曰、應劭曰、封鉅、黃帝師。〔元和姓纂〕封鉅爲㆓黃帝師㆒、胙㆑土命㆑氏。

【封洫】39 ホウキョク 田地の境界。封は土を盛ること。洫はみぞ。〔左氏、襄、三十〕田有㆓封洫㆒、廬井有㆑伍。〔注〕封、疆也、洫、溝也。

【封金】40 フウキン 封をした金子。

【封禁】41 fêng¹ chin⁴ ㊀封印する。㊁禁制。

【封具】42 ホウグ 複姓。〔通志、氏族略、以㆑名爲㆑氏〕封具氏、姬姓、鄭公子具食㆓采於開封㆒、因氏焉、鄭城父大夫封具狐父。

【封禺】43 ホウグウ 封隅を見よ。

【封隅】44 ホウグウ 二山の名。封山と隅山。浙江省永康縣の東。封禺。〔國語、魯語下〕防風氏、何守也、仲尼曰、汪芒氏之君也、守㆓封隅之山㆒者也。〔注〕封、封山、隅、隅山、在㆓今吳郡永安縣㆒。

【封火】45 fêng¹ huo³ ㊀火をいける。火をうづめる。㊁火をおとす。看板にする。

【封貨】46 fêng¹ huo⁴ ㊀入札。商品を競賣入札する。㊁貨物に封をする。

【封回】47 ホウクワイ 後魏の人。玄之の族孫。謚は孝宣。官は、孝明の時、度支都官の二尙書・光祿大夫。孝莊の初、河陰で殺さる。〔魏書、三十二〕・〔北史、二十四〕。

【封外】48 ホウグワイ 王畿の外。畿外。〔荀子、正論〕封內甸服、封外侯服。〔注〕畿外也。

【封完】49 フウクワン 完全に封ずる。〔言志後錄〕審讀一過、而後封完。

〔封完如㆑故〕50 フウクワンモトノゴトシ 封じ目がもとのままで違はないこと。〔先哲叢談、前編、熊澤蕃山〕是君之所㆑遺、故來還呈、封完如㆑故。

【封還】51 フウクワン 封じてかへす。〔後漢書、順帝紀〕遠獻㆓大珠㆒、以求㆓幸媚㆒、今封以還㆑之。〔琅琊代醉編、封還〕邵博聞見錄、唐制、惟給事中、得㆔封㆓還制書㆒。

【封關】52 フウクワン ㊀關所をとざす。〔後漢書、隗囂傳〕元遂說㆑囂曰、元謂、以㆓一丸泥㆒、爲㆓大王㆒東封㆓函谷關㆒、此萬世一時也。㊁fêng¹ kuan¹ 稅關の役人の休暇。

【封觀】53 ホウクワン 後漢、南頓の人。字は孝起。志節あり、孝廉に擧げられたが、兄がまだ世に出てゐないので、先づ祿を受くるを恥ぢ、遂に風疾と稱し、啞となる。後、兄が擧げらるるや、仕へて郡功曹となる。太守趙謙に從つて黃巾を擊ち、敗死す。〔後漢書、七十五〕。

【封君】54 ホウクン ㊀諸侯に封ぜられた君。大名。領主。〔韓非子、和氏〕不㆑如㆑使㆘封君之子孫、三世而收㆓爵祿㆒、絕㆓滅百吏之祿秩㆒、損㆓不急之枝官㆒、以奉㆗選練之士㆖。〔史記、平準書〕自㆓天子㆒以至㆓於封君湯沐邑㆒、皆各爲㆓私奉養㆒焉。〔漢書、食貨志下〕封君皆氐首仰㆑給焉。〔注〕師古曰、封君、受㆓封邑㆒者、謂㆓公主及列侯之屬㆒也。㊁婦人の、君號に封ぜられたもの。〔通典、職官典、內官〕至㆓秦漢㆒、婦人始有㆓封君之號㆒。〔注〕蔡邕獨斷曰、漢異姓婦人、以㆓恩澤㆒封者曰㆑君、比㆓長公主㆒、史記曰、漢有㆓平原君㆒、卽景帝王皇后之母也、修成君、卽武帝母王太后前夫人金氏之女也、後漢書曰、崔駰曾祖母師氏、能通㆓經學百家之言㆒、王莽賜㆓號儀成夫人㆒、金印紫綬、文軒丹轂、顯㆓於新室之世㆒、又鄧后臨㆑朝、爵㆓其太夫人㆒爲㆓新野君㆒、萬戶供㆓湯沐邑㆒、薨贈㆓長公主赤綬㆒、謚曰㆓敬君㆒、又梁冀妻孫壽、封爲㆓襄城君㆒。〔事物紀原、嬪御命婦部、封君〕戰國時、列國臣子有㆑功者、時皆封㆑君、秦孝公封㆓公孫鞅㆒爲㆓商君㆒、是也、蓋未㆑有㆓婦人而封㆑君者㆒、漢始有㆑之、疑取㆓春秋小君之義㆒爾。㊂子孫が顯貴となり、其の父祖が封典を受けるもの。封翁。〔歐陽脩、瀧岡阡表〕皇曾祖府君、累㆓贈金紫光祿大夫太師中書令㆒、曾祖妣、累㆓封楚國太夫人㆒、皇祖府君、累㆓贈金紫光祿大夫太師中書令兼尙書令㆒、祖妣、累㆓封吳國太夫人㆒、皇考崇公、累㆓贈金紫光祿大夫太師中書令兼尙書令㆒、皇妣、累㆓封越國太夫人㆒、今上初郊、皇考賜㆑爵爲㆓崇國公㆒、太夫人進㆓號魏國㆒。

【封圭】55 ホウケイ 始めて封ぜられた時に賜はる圭。〔穀梁、定、八〕寶玉者、封圭也。〔注〕始封之圭。〔亢倉子、政道〕鄭有㆓胡之封圭戎弓㆒、異時失㆓同於荆㆒、荆曰、必得㆓封圭戎弓㆒、不㆑然臨㆓兵於汝㆒。

【封橋】56 フウケウ 楓橋をいふ。江蘇省吳縣閶門の西、寒山寺の附近。〔豹隱紀談〕楓橋、舊名㆓封橋㆒、後因㆓張繼詩江楓漁火句㆒改㆓楓橋㆒、今天平寺藏經多㆓唐人書㆒、背有㆓封橋常住字㆒。

【封繳】57 フウケウ ふうじかへす。〔福惠全書、蒞任部、上堂規〕將㆓口供㆒呈㆑堂判㆑日封㆓繳案上㆒。

【封穴】58 フウケツ 穴を封ずる。穴に土を盛る。〔埤雅、螘〕易占所謂、蟻封㆓其穴㆒、大雨將㆑至、是也。〔爾雅翼、螘〕易林、震之㆑蹇、蟻封㆓穴戶㆒、大雨將㆑集。

【封鐍】59 フウケツ 錠をかける。〔福惠全書、刑名部、賊盜上、緝捕〕其所㆑居戶牖、皆封鐍。

【封篋】60 フウケフ 固く封じたはこ。〔後漢書、祭祀志上、注〕檢㆑石長三尺、廣六寸、狀如㆓封篋㆒。〔高啓、得㆓家書㆒詩〕燈前看㆓封篋㆒、題字有㆓平安㆒。

【封建】61 ホウケン ㊀天子が土地を分けて諸侯を建てる制。封建制度の略。中國に於ては、三代の世、天子の都を中心に千里四方を王畿といつてこれを天子の公領とし、其の他は諸侯を封じて各其の地を私領せしめた。秦に至つて諸侯を建てず、郡縣の制を採用した。我が國に於ては、上古は封建の制の如くであつたが、孝德天皇の大化より郡縣の制となり、鎌倉時代に及んで漸く封建の制が兆し、室町・江戶の頃に全く封建の制度となつたが、明治に至つて郡縣の制に變つた。〔詩、商頌、殷武〕天命降監、下民有㆑嚴、不㆑僭不㆑濫、不㆓敢怠遑㆒、命㆓于下國㆒、封㆓建厥福㆒。〔左氏、僖、二十四〕昔周公弔㆓二叔之不㆒㆑咸、故封㆓建親戚㆒、以藩㆓屛周㆒。〔後漢書、孔融傳〕不㆔以封㆓建諸侯㆒。〔魏志、明帝紀〕古之帝王封㆓建諸侯㆒。〔文獻通考、封建考〕秦旣幷㆓天下㆒、丞相綰請㆔分㆓王諸子㆒、廷尉斯請㆘罷㆓封建㆒置㆗郡縣㆖、始皇從㆑之、自㆑是諸儒之論㆓封建郡縣㆒者、歷㆓千百年㆒而未㆑有㆓定說㆒、其論㆑之最精者、如㆓陸士衡曹元首㆒、則主㆑綰者也、李百藥・柳宗元、則主㆑斯者也、二說互相排詆、而其所㆓發明㆒者、不㆑過㆓公與㆑私而已、曹與㆑陸之說曰、唐虞三代、公㆓天下㆒以封㆓建諸侯㆒、故享㆑祚長、秦私㆓天下㆒以爲㆓郡縣㆒、故傳㆑代促、柳則反㆑之曰、封建者、爭之端、亂之始、篡殺之禍、莫㆑不㆑由㆑之、李斯之論、當㆑爲㆓萬世法㆒、而世之醇儒、力詆㆑之、以爲、二氏以㆓反理之評、詭道之辨㆒、而妄議㆓聖人㆒、然則後之立㆑論者、宜㆓何從㆒、以㆓封建㆒爲㆑非邪、是帝王之法、所㆔以禍㆓天下後世㆒也、以㆓封建㆒爲㆑是邪、則柳蘇二子之論、其剖㆓析利害㆒、指㆓陳得失㆒、莫㆑不㆓切當㆒、不㆑可㆑廢也、愚嘗因㆓諸家公私之論㆒、而折㆓衷之㆒曰、封建郡縣、皆所㆓以分㆑土治㆑人、未㆑容㆔遽曰㆓此公而彼私㆒也、然必有㆘公㆓天下㆒之心㆖、然後能行㆓封建㆒、否則莫㆑如㆓郡縣㆒、無㆘公㆓天下㆒之心㆖、而欲㆑行㆓封建㆒、是授㆑之以㆓作㆑亂之具㆒也、嗚呼、封建之難㆑行久矣。〔事物紀原、官爵封建部、封建〕沿革曰、黃帝分㆑州畫㆑野、得㆓百里之國㆒萬區、唐虞列爲㆓五等㆒、此封建之始也、帝王世記曰、炎帝之世、有㆓諸侯夙沙氏㆒、史記曰、神農氏世衰、諸侯相侵、則炎帝時、已有㆓諸侯㆒、至㆓黃帝㆒始大封也、陸士衡五等諸侯論略曰、五等之制、始㆓於黃唐㆒、謂㆓黃帝唐堯㆒也。㊁亭の名。湖北省武昌縣の南の梅亭山。明の太祖が第六子を楚に封じた時建つ。

〖封建論〗62 ホウケンロン　文章の篇名。唐、柳宗元作。封建は人民の起原と共に始まつたのだから、聖人の意志で如何とも爲難いといふのが論旨で、周秦以下各代の史實を引いて之を詳論し、篇を通じて勢の字が字眼になつてゐる。河東集巻三・唐宋八大家文巻七に載る。白居易にも議二封建一論二郡縣一の文があるが、論旨は柳宗元と同じく封建を否定してゐる。宋になると劉敞・畢仲游の封建論、李綱の論封建郡縣は、何れも封建を是認してゐる。〔柳宗元、封建論〕天地果無レ初乎、不二得而知レ之也、生人果有レ初乎、吾不二得而知レ之也、然則孰爲レ近、曰、有レ初爲レ近、孰明レ之、由二封建一而明レ之也、彼封建者、更二古聖王堯舜禹湯文武一、而莫二能去一レ之、蓋非レ不レ欲レ去レ之也、勢不可也、勢之來、其生人之初乎、不レ初無三以有二封建一、封建非二聖人意一也。

〖封建時代〗63 ホウケンジダイ　封建制度の時代。我が國では、鎌倉時代から明治維新に至るまで。

〖封建制度〗64 ホウケンセイド　君主が自己の直轄地以外の領土を諸侯・領主に封土として與へ、それを世襲せしめる制度。我が國では、鎌倉時代から明治維新まで、中國では、上古三代、西洋では、九世紀から中世末まで、この制度が行はれた。

【封絢】65 ホウケン　唐の人。敖の女孫。殷保晦の妻。字は景文。草隷を善くす。黃巢、長安に入るや、絢の容貌を悅んで、娶らんとしたが、絢に罵られたので之を殺す。〔唐書、二百五〕。

【封檢】66 フウケン　ふう。封印。〔陸龜蒙、和三皮日休酎二茅山廣文一詩〕自拂二煙霞一安二筆格一、獨開二封檢一試二砂床一。

【封狐】67 ホウコ　大きなきつね。〔楚辭、宋玉、招魂〕封狐千里些。〔注〕封狐、大狐也。〔張衡、西京賦〕赴二洞穴一探二封狐一。

【封胡】68 ホウコ　❶上古の人。黃帝の將。〔漢書、古今人表〕力牧・風后・鬼臾區・封胡。〔先天紀〕黃帝得二封胡一爲レ將、作二五牙旗、及烽火戰攻之具一。❷封胡羯末を見よ。

〖封胡羯末〗69 ホウコカツマツ　晉の謝氏一門の傑れた人物。封は謝韶（謝歆）の幼名、胡は謝朗の幼名、羯は謝玄の幼名、末は謝川の幼名。轉じて、人の兄弟を稱していふ。〔晉書、列女、王凝之妻謝氏傳〕一門叔父、則有二阿大中郎、羣從兄弟一、復有二封胡羯末一、云云、封謂二謝韶一、胡謂二謝朗一、羯謂二謝玄一、末謂二謝川一、皆其小字也。〔晉書、謝萬傳〕時謝氏、尤彥秀者、稱二封胡羯末一、封謂レ韶、胡謂レ朗、羯謂レ玄、末謂レ川、皆其小字也、韶朗川幷早卒、惟玄以二功名一終。〔書言故事、兄弟類〕稱二人兄弟一、封胡羯末。

【封戶】70 フゴ　❶昔、皇族及び三位以上又は參議以上の官にある臣下が、朝廷から賜はつた民戶。其の租稅を所得とした。〔賦役令〕凡封戶者、皆以二課戶一充、調庸全給、其田租爲二二分一、一分入レ官、一分給レ主。❷フベ　豐前國の地名。

【封口】71 フウコウ　口をとぢる。〔秦觀、題二楊康功醉道士石一詩〕風吹二化石一楚山阿、藤蔓纏レ身蘚封レ口。

【封侯】72 ホウコウ　諸侯に封ずる。封ぜられた諸侯。〔戰國、趙策〕貴戚父兄、皆可三以受二封侯一。〔呂覽、孟夏〕封レ侯慶賜。〔管子、霸形〕寡人不レ愛二封侯之君一焉。〔淮南子、天文訓〕立二封侯一出二貨財一。〔漢書、衞青傳〕青常從入至二甘泉居室一、有二一鉗徒一、相レ青曰、貴人也、官至二封侯一、青笑曰、人奴之生、得レ無二笞罵一、卽足矣、安得二封侯事一乎。〔後漢書、梁竦傳〕大丈夫居レ世、生當レ封レ侯、死當二廟食一。

〖封侯骨〗73 ホウコウノコツ　大名に封ぜられる骨相。〔漢書、翟方進傳〕蔡父大奇二其形貌一、謂曰、小史有二封侯骨一、當下以二經術一進上。

【封堠】74 ホウコウ　諸侯の領分の境を表示した塚。〔丹鉛錄〕王子年云、禹治レ水所二穿鑿一處、皆有二青泥封一、記二其所一、使三玄熊升二其上一、此封堠之始、按、北堂抄引二山海經一、黃帝遊二幸天下一、有二記里鼓一、道疏有二記里堆一、則堠起二黃帝一、非レ始二于禹一、崔豹古今注、畫レ界者、村上爲レ臺、以表二識疆境一也、馬縞云、爲二堠埒一、以畫レ界分レ程也、十里雙堠、五里隻堠。

【封國】75 ホウコク　國土に封ずる。又、その國。〔周禮、夏官、大司馬〕制レ畿封レ國、以正二邦國一。〔漢書、諸侯王表序〕立レ爵五等、封レ國八百。〔日知錄、禮制、封國〕唐宋以下、封國但取二空名一、而不レ有二其地一。

【封鮓】76 フウサ　賢母をいふ。晉の陶侃が潯陽縣吏となつて魚梁を監したとき、官の蚶鮓を母に贈つたところ、母が鮓を封じて送り還し、之を戒めた故事。〔晉書、列女、陶侃母湛氏傳〕侃少爲二潯陽縣吏一、嘗監二魚梁一、以二一蚶鮓一遺レ母、湛氏封二鮓及書一責レ侃曰、爾爲レ吏、以二官物一遺レ我、非二唯不一レ能レ益レ我、乃以增二我憂一矣。

【封鎖】77 フウサ　❶とざして出入させぬこと。又、敵を圍んで外部との交通を絕つ行爲。❷錠をおろす。〔福惠全書、蒞任部、頭門告示〕每晚起更以後、卽行二封鎖一。

【封妻】78 ホウサイ　妻が封號を賜はること。夫が高官にのぼれば、其の妻も夫に從つて朝廷から封祿をさづかるをいふ。〔水滸傳、一百十九回〕正要三衣レ錦還レ鄕、圖二箇封妻蔭子一。〔剪燈新話、愛卿傳〕宮袍製レ錦、要レ待二封レ妻拜一レ母。

【封藏】79 フウザウ　封じてをさめたくはへる。〔魏志、張魯傳〕魯曰、寶貨倉庫、國家之有、遂封藏而去。

【封冊】80 ホウサク　天子が諸侯を封ずる時に賜はる文書。國王とする辭令を記した詔書。冊書（**2－1515**‥19）の❶を見よ。〔文體明辯、冊〕四曰、封冊、封二諸王一用レ之。

〖裂二封冊一〗81 ホウサクヲサク　豐臣秀吉が、明の封冊に封レ爾爲二日本國王一の語あるを怒り、之を裂いた故事。〔日本外史、德川氏前記、豐臣氏中〕承兌不二敢聽一、乃入、讀二冊于秀吉之傍一、至レ曰三封レ爾爲二日本國王一、秀吉變レ色、立脫二冕服一、拋二之地一、取二冊書一扯二裂之一。〔賴山陽、裂二封冊一詩〕史官讀到日本王、相公怒裂明冊書、欲レ王則王吾自了、朱家小兒敢爵レ予、吾國有レ王誰覬覦、叱咤再蹀八道血、鴨綠之水鞭可レ絕、地上阿鈞不二相見一、地下空唾恭獻面。

【封山】82 ホウザン　❶山名。㋑河北省邢臺縣の西。邢侯の封ぜられた處といふ。西山ともいひ、太行に接す。〔讀史方輿紀要、直隸、順德府、邢臺縣〕封山、府西二十里、志云、以二邢侯初封一レ此而名、亦謂二之西山一、今自二封山一以西、綿延數百里、直接二太行一、皆西山矣、五代梁開平五年、晉王存勖、自二柏鄉一乘レ勝攻二邢州一、全忠遣二將徐仁溥一、帥レ兵自二西山一夜入二邢州一、助二保義師王檀城守一、蓋乘レ高而下、則晉兵不レ及レ備也、又西十里曰二孤山一、斗絕多レ石、其旁平坦可二以耕藝一。㋺山東省蒙陰縣。石炭を產す。㋩福建省將樂縣の東北。其の山は高大で群峯環拱し、一邑の鎭をなす。宋の楊時が歸休の處といふ。㊁浙江省武康縣の東。〔國語、魯語下〕防風氏、何守也、仲尼曰、汪芒氏之君也、守二封隅之山一者也。〔注〕封、封山、隅、隅山、在二今吳郡永安縣一。〔太平寰宇記〕防風山、在二縣東十八里一、先名二封禺山一、唐天寶六年改。❷縣名。㋑晉、置き、今、缺く。安南省の境。㋺南齊、封山郡を置き、梁陳の時、縣とす。故治は、廣東省合浦縣の西北。〔讀史方輿紀要、廣東、廉州府、合浦縣〕封山廢縣、漢合浦縣地、南齊置二封山郡一、治二安全縣一、蕭梁兼置二封山縣一。❸清、劉鳴玉（**2－2224**‥1335）の字。

【封豕】83 ホウシ　❶大きなぶた。封豨。轉じて、豚の如くむさぼり食ふ喩。封豕長蛇を見よ。〔國語、周語中〕翟、封豕豺狼也、不レ可レ厭也。〔山海經、海內經〕有二封豕一。〔注〕大豬也、羿射殺レ之。〔揚雄、長楊賦〕昔有二彊秦一、封二豕其土一、窫二窳其民一。〔後漢書、左雄傳〕什伍相司、封二豕其民一。❷星の名。奎（**3－5911**）の別名。〔史記、天官書〕奎曰二封豕一、爲二溝瀆一。

〖封豕長蛇〗84 ホウシチヤウダ　大きい豚と長い蛇。殘忍貪慾な人の喩。封豨脩蛇。〔左氏、定、四〕吳爲二封豕長蛇一、以荐二食上國一。〔注〕言三吳貪害如二蛇豕一也。〔新序、節士〕吳爲二無道行一、封豕長蛇、蠶二食天下一。〔後漢書、張綱傳〕專爲三封豕長蛇、肆二其貪叨一。

【封祀】85 ホウシ　山上に壇を築いて神をまつること。封禪。〔柳宗元、爲二裴中丞一賀レ破二東平一表〕封祀之山、隔成二異域一。

【封斯】86 ホウシ　縣名。漢、置く。侯國。今、河北省趙縣の西北。〔漢書、地理志上〕常山郡、縣十八、封斯。

【封紫】87 ホウシ　清、張道渥（**4－9812**‥1329）の號。

【封諡】88 ホウシ　封は、在世中に爵祿を受けること。諡は、歿後に褒贈を賜はること。〔明律、吏律、職制、注〕生受二爵祿一曰レ封、死賜二褒贈一曰レ諡。

【封識】89フウシ 封印をいふ。密封した上に誌す。〔柳宗元、段大尉逸事狀〕泚取視、其封識具存。

【封事】90フウジ 文體の名。機密を主とし、皀嚢中に封入して、天子御一人の御覽に供する上章。封奏。封章。漢代に始まり、唐宋に入つて盛に行はれた。我が國では、大化元年に臣連以下の意見を徵せられたことがあり、大寶令には封事進上の規定がある。〔正字通〕封、漢制、臣下奏事、皁嚢封板、以防二宣泄一、謂二之封事一。〔漢書、魏相傳〕又故事、諸上書者、皆爲二二封一、署二其一一曰レ副、領二尚書一者、先發二副封一。〔漢書、霍光傳〕上令二吏民得レ奏二封事一。〔漢官儀〕密奏以二皀嚢一封レ之、不レ使二人知一、故曰二封事一。〔後漢書、光武紀下〕百僚並上二封事一、無レ有二隱諱一。〔後漢書、明帝紀〕在レ位者皆上二封事一、各言二得失一。〔揚雄、劇秦美新〕上二封事皇帝陛下一。〔杜甫、春宿二左省一詩〕明朝有二封事一、數問夜如何。〔文體明辯、奏疏〕七曰封事、曰彈事。

【上二封事一稱レ旨】91フウジヲタテマツリテシニカナフ 奉つた封事が君の意に適ふ。〔舊唐書、杜正倫傳〕正倫與二御史大夫韋挺・秘書少監虞世南・著作郎姚思廉等一咸上二封事一、稱レ旨、太宗爲レ之設レ宴。

【封璽】92フウジ 封印。〔呂覽、孟冬〕戒二門閭一修二楗閉一、愼二關籥一固二封璽一。〔注〕璽、印封也。〔淮南子、時則訓〕愼二管籥一、固二封璽一。〔注〕封璽、印封也。〔獨斷〕天子璽以レ玉、蟠虎紐、古者、尊卑共レ之、月令曰、固二封璽一。

【封州】93ホウシウ 州名。隋、置く。今の廣東省封川縣。〔讀史方輿紀要、廣東、肇慶府、德慶州〕封川縣、漢蒼梧郡廣信縣地、梁析二置梁信縣一、爲二梁信郡治一、兼二置成州治一焉、隋平レ陳郡廢、改レ州曰二封州一。

【封獸】94ホウジウ 象をいふ。大きな獸の意。〔後漢書、西南夷傳論〕賨幏・火毳・馴禽・封獸之賦、軨二積於內府一。〔注〕封獸、象也。

【封實】95フウジツ しかとふうずる。〔福惠全書、蒞任部、酬答書札〕用二圖章一封實。

【封章】96フウシヤウ 封事に同じ。〔揚雄、趙充國頌〕營平守レ節、屢奏二封章一。〔揮塵餘話〕王文穆守二杭州一、錢塘一老尉、蒼顏華髮、詢二其履歷一、乃同年生、遂封二章於朝一、詔特改二京秩尉一。

【封上】97フウジヤウ 封じて奉る。〔後漢書、蔡邕傳〕特詔問曰、此災變互生、云云、具對二經術一、以二皁嚢一封上。

【封壤】98ホウジヤウ 國境。〔謝朓、與二江水曹一至二濱干戲一詩〕別後能相思、何嗟異二封壤一。〔西征記〕至二陳留一、乃張子房所レ封之壤也。

【封爵】99ホウシヤク 土地に封じ、官爵を授ける。〔漢書、高惠高后文功臣表〕封爵之誓。〔後漢書、孫程傳〕襲二封爵一定著二乎令一。〔傅亮、爲二宋公一求三加二贈劉前軍一表〕每三議及二封爵一、輒深自抑絕。

【封守】100ホウシユ 封域のまもり。〔書、畢命〕愼固二封守一、以康二四海一。〔左氏、襄、二十八〕必使下而君棄二而封守一、跋二涉山川一、云云、以逞中君心上。

【封授】101ホウジユ 土地に封じ官を授ける。〔晉書、苻堅載記上〕王侯以下皆徙二於長安一、封授有レ差。〔魏書、食貨志〕役有二土居者一、依レ法封授。

【封樹】102ホウジユ 土を高く盛つて墳となし、墓のしるしとして樹を植ゑる。士以上の葬禮をいふ。〔易、繫辭下〕不レ封不レ樹。〔禮、王制〕庶人縣封、葬不二爲レ雨止一、不レ封不レ樹。〔注〕封、謂二聚レ土爲レ墳、不レ封レ之、不レ樹レ之、又爲三至卑無レ飾也、周禮曰、以二爵等一爲二丘封之度與二其樹數一、則士以上乃得二封樹一。〔疏〕庶人既卑小、不レ須二顯異一、不二積レ土爲レ封、不二標レ墓以樹一。〔史記、匈奴傳〕無二封樹喪服一。〔後漢書、馬援傳〕脩二封樹一、起二祠堂一。〔魏志、文帝紀〕山林封樹之制、非二上古一也。

【封戎】103ホウジユウ 散り亂れるさま。〔莊子、應帝王〕紛而封哉、〔釋文〕崔本作レ戎、云、封戎、散亂也。

【封祝】104ホウシユク 華の封人が堯帝の前途を祝福したこと。〔莊子、天地〕堯觀二乎華一、華封人曰、嘻、聖人、請レ祝二聖人一、使二聖人壽一、堯曰、辭、使二聖人富一、堯曰、辭、使三聖人多二男子一、堯曰、辭。

【封肅】105ホウシユク 後魏の人。回の兄の子。字は元邕。經史に通ず。官は尙書左中兵郎中。嘗て還園の賦を爲り、辭甚だ美。〔魏書、八十五〕。

【封述】106ホウジユツ 北齊の人。軌の子。字は君義。官は魏の御史。後に北齊の殿中尙書となる。〔北齊書、四十三〕・〔北史、二十四〕。

【封濬】107ホウシユン 清、南豐の人。字は禹成。號は位齋。明經を以て鄉に擧げらる。門下の士百人。年四十、更に謝文洊に事ふ。〔清史列傳、六十六〕・〔國朝耆獻類徵、四百〕・〔碑傳集、一百三十六〕。

【封詢】108ホウジユン 北齊の人。述の弟。字は景文。官は濟南太守。〔北齊書、四十三〕。

【封書】109フウシヨ 封を施した書狀。信書。封じぶみ。〔史記、越世家〕朱公不レ得レ已、而遣二長子一、爲二一封書一、遺二故所レ善莊生一。〔白居易、江南送二北客一因憑寄二徐州兄弟書一詩〕今日因レ君訪二兄弟一、數行鄉淚一封書。

【封植】110ホウシヨク ❶諸侯に封ずる。〔後漢書、公孫瓚傳〕不レ恤二國難一、廣自封植。〔曹冏、六代論〕漢鑒二秦之失一、封二植子弟一。〔北史、于宣敏傳〕樹二建藩屛一、封二植子孫一。❷土を盛つて植ゑる。〔白居易、養レ竹記〕人愛二惜之一封二植之一。

【封殖】111ホウシヨク ❶培養して生長させる。又、富強にする。〔左氏、襄、三十〕王子相二楚國一、將二善是封殖一而虐レ之。〔左氏、昭、二〕既享、宴二於季氏一、有二嘉樹一焉、宣子譽レ之、武子曰、宿敢不下封二殖此樹一、以無上忘二角弓一。〔注〕封、厚也、殖、長也。〔會箋〕封是培殖之培、言三長二養此樹一也。〔國語、吳語〕今天王既封二殖越國一、以明二聞於天下一。〔注〕封殖、以二草木一自喩也、壅レ本曰レ封、殖、立也。❷財物を聚斂する。〔盧思道、勞生論〕紆レ青佩レ紫、牧レ州典レ郡、冠レ幘劫レ人、厚自封殖。

【封津】112ホウシン 後魏、渤海の人。字は醜漢。謚は孝惠。少時、連坐の刑を受けて宮中に給事す。善く時情を候ひ、機悟を以て稱せられた。官は開府儀同。〔魏書、九十四〕・〔北史、九十二〕。

【封畛】113ホウシン 田のあぜ。領地の境界。畛は界。〔小爾雅、廣詁〕封畛際限疆略界也。〔左氏、定、四〕封畛土略。〔會箋〕畛、亦界也、封畛、謂二封而界一レ之。〔陸機、五等諸侯論〕五等之禮、不レ革二於時一、封畛之制、有レ隆レ焉爾者、豈玩二二王之禍一、而闇二經世之算一乎。

【封進】114フウシン 封緘して進獻する。〔公式令〕凡有レ事陳二意見一、欲二封進一者、卽任封上。

【封襯】115 fêng¹ chen⁴ 加勢すること。たいこもち。幇閒。

【封人】116ホウジン ❶封疆を守る官。〔左氏、隱、元〕潁考叔爲二潁谷封人一。〔論語、八佾〕儀封人請レ見。〔莊子、則陽〕多有レ似二封人之所一レ謂。〔荀子、堯問〕繒丘之封人。〔潘岳、藉田賦〕封人壝レ宮。❷周官の名。地官の屬。壇埒及び國の境界を作ることを掌る。〔周禮、地官、封人〕封人掌下設二王之社壝一、爲二畿封一而樹上レ之。❸複姓。〔通志、氏族略、以レ官爲レ氏〕封人氏、守二封畿一之官、其後爲レ氏、左傳、晉有二蕭封人一、漢有二司空掾封人嬰一。

【封崇】117ホウスウ 地を高く築く。〔國語、周語下〕封二崇九山一、決二汨九州一。〔注〕封、大也、崇、高也、除二其壅塞之害一、通二其水泉一、使レ不二墮壞一、是謂二封崇一。

【封井】118 fêng¹ ching³ 年末、井戶に茶・酒・果子などを供へて祭を行ふこと。江蘇・蘇州地方の風習。

【封川】119ホウセン 縣名。隋、置く。今、廣東省德慶縣の西北。縣城は、西江の北岸に瀕す。〔讀史方輿紀要、廣東、肇慶府、德慶州〕封川縣、漢蒼梧郡廣信縣地、云云、隋平レ陳郡廢、改レ州曰二封州一、開皇十八年、又改レ縣曰二封川縣一。〔清史稿、地理志〕廣東、肇慶府、縣九、封川。

【封簽】120フウセン 封じて署名する。〔福惠全書、蒞任部、承事上司〕恐有二低假封簽字跡一。

【封壇】121ホウゼン 封禪の❶に同じ。〔春秋繁露、三代改制質文〕主レ地法レ夏而王、云云、先レ亨而後用レ聲、正刑二天法一、封二壇於下位一。〔注〕壇、當レ作レ禪、與レ禪通。

【封禪】122ホウゼン ❶天子が行ふ祭で、封は、土を盛つて壇を造り天を祭ること。禪は、地をはらつて山川を祭ること。封祀。封禮。封壇。昔、天子が巡狩して四岳に至ると、太山に封じて天を祭り、小山に禪して山川を祭つた。後世は、ただ人主が其の國威を中外に誇示するために、封禪の儀式を行ふこととなつた。封禪の說は古く管子に見え、無懷氏が始めて泰山を封じ、云云に禪し、次に伏羲・神農・炎帝・黃帝以下、皆之を行つたといふ。文中子には、秦漢に始まるとある。〔禮、禮器〕因二名山一升二中于天一。〔注〕孝經說曰、封二乎泰山一、考レ績燔燎、禪二乎梁甫一、刻レ石紀レ號也。〔疏〕封二乎泰山一者、謂二封レ土爲レ壇、在二於泰山

之上一、禪二乎梁甫一者、禪讀爲レ墠、謂二除レ地爲レ墠、在二於梁甫一。〔大戴禮、保傅〕封二泰山一而禪二梁父一。〔管子、封禪〕桓公既霸、會二諸侯於葵丘一、而欲二封禪一。管仲曰、古者、封二泰山一禪二梁父一者七十二家、而夷吾所レ記者十有二焉。云云、周成王封二泰山一、禪二社首一、皆受レ命、然後得二封禪一。〔史記、封禪書、注〕正義曰、泰山上、築レ土爲レ壇以祭レ天、報二天之功一。故曰レ封、泰山下小山上、除レ地報二地之功一。故曰レ禪、言レ禪者、神レ之也、白虎通云、或曰、封者金銀繩、或曰、古泥金繩封之印璽也、五經通義云、易レ姓而王、致二太平一、必封二泰山一禪二梁父一、荷二天命一以爲レ王、使下理二羣生一、告二太平於天一、報中羣神之功上。〔孔叢子、巡狩〕我生獨不レ及二帝王封禪之世一。〔孔安國、古文尙書序、疏〕韓詩外傳稱、古封二太山一禪二梁甫一者萬餘人、仲尼觀焉、不レ能二盡識一。〔後漢書、祭祀志上〕言、九世封禪。〔文心雕龍、封禪〕昔黃帝神靈、克膺二鴻瑞一、勒二功喬岳一、鑄二鼎荆山一、大舜巡レ岳、顯二乎虞典一、成康封禪、聞二之樂緯一、及二齊桓之霸一、爰窺二王跡一、夷吾譎陳、距以二怪物一、固知三玉牒金鏤專在二帝皇一也、然則西鶼東鰈、南茅北黍、空談非レ徵、勳德而已、是以史遷八書、明述二封禪一者、固禋祀之殊禮、名號之祕祝、祀レ天之壯觀矣、秦皇銘レ岱、文自二李斯一、法家辭氣、體乏二弘潤一、然疎而能壯、亦彼時之絶采也、鋪二觀兩漢隆盛一、孝武禪二號於肅然一、光武巡二封於梁父一、誦レ德銘レ勳、乃鴻筆耳、觀二相如封禪一、蔚爲二唱首一、爾其表二權輿一、序二皇王一、炳二玄符一、鏡二鴻業一、驅二前古於當今之下一、騰二休明於列聖之上一、歌レ之以二禎瑞一、讚レ之以二介邱一、絶二筆茲文一、固維新之作也。〔文中子、王道〕子曰、封禪之費、非レ古也、徒以夸二天下一、其秦漢之侈心乎。〔大學衍義補、秩二祭祀一、祭告祈禱之禮下〕文中子曰、封禪非レ古也、其秦漢之侈心乎、馬端臨曰、太史公作二封禪書一、以爲、古受命帝王、未三嘗不二封禪一、且引下管仲答二齊桓公一之語上、以爲、古封禪七十二家、自二無懷氏一至二三代一、皆有レ之、蓋出二於齊魯陋儒之說一、詩書所レ不レ載、非二事實一也、當下以二文中子之言一爲上レ正、梁天監中、有下請二封禪一者上、著作佐郎許懋建議曰、舜柴二岱宗一、是爲二巡守一、而鄭玄引二孝經鉤命決一云、封二于泰山一、考績燔燎、禪二於梁父一、刻レ石記レ號、此緯書之曲說、七十二君燧人之前、世質民淳、安得二泥レ金檢レ玉、結繩而治、安得二鐫レ文告レ成、妄亦甚矣、若二聖王一、不レ須二封禪一、若二凡主一、不レ應二封禪一、秦始皇嘗封二泰山一、孫皓嘗封二國山一、皆由下主好二名於上一、而臣阿中旨於下上、非二盛德之事一、不レ可レ爲レ法也、胡寅曰、封禪之事、漢唐之君、往往行レ之、曾無下一人建議明白如二許懋一者上、賢哉懋乎、其學可レ謂レ正矣、漢唐以來、緯書行而經學弛、重以二鄭玄博聞寡要一、不レ知三折二衷于聖人一、而惟緯書之信、世無下稽古大儒、稽二古言一以祛中羣惑上、遂使下有二天下一者、於二無レ事時一、肆二其侈心一、千乘萬騎、巡狩侈費、登レ山琢レ石、夸中大功德上、或有三祕祝以祈二不死一、取二笑當代一、貽二譏後來一。❷白虎通の篇名。

〖封禪書〗123 ホウゼンショ　史記の八書の一。〔史記、太史公自序〕受レ命而王、封禪之符罕レ用、用則萬靈罔レ不二禋祀一、追二本諸神名山大川禮一、作二封禪書一。

〖封禪文〗124 ホウゼンブン　文章の名。漢、司馬相如作。封禪の事を記錄した書。〔史記、司馬相如傳〕相如既病免、家二居茂陵一、天子曰、司馬相如病甚、可三往從悉取二其書一、若不レ然、後失レ之矣、使二所忠往一、而相如已死、家無レ書、問二其妻一、對曰、云、長卿未レ死時、爲二一卷書一曰、有二使者來求レ書、奏レ之、無二他書一、其遺札書、言二封禪事一、奏二所忠一、忠奏二其書一。

【封禮】125 ホウゼン　封禪に同じ。〔漢書、武帝紀贊〕協二音律一、作二詩樂一、建二封禮一、禮二百神一、紹二周後一。

【封租】126 ホウソ　王朝時代、封戶から納める田租。〔日本後紀、十三〕延曆二十四年十二月壬寅、諸家封租、暫停二舂米一、交二易輕貨一。

【封疏】127 フウソ　密封して奉る上奏文。

【封奏】128 フウソウ　他見を憚り、固く密封して上書する。又、其の書。封事。〔晉書、職官志〕謹封二奏其姓名一。〔白居易、鄭覃可二給事中一制〕給事中之職、凡制敕有下不レ便二於時一者上、得三封二奏之一、刑獄有下未レ合二於理一者上、得三駮二正之一。〔六部成語訂正、封奏、注解〕凡有二奏事之權一者、遇有下必須二愼密一之事上、皆可レ用二封奏一、不三必限二定御史一。

【封贈】129 ホウゾウ　封典を受ける。封は生存者に、贈は死者に賜ふこと。〔容齋三筆、司封贈典之失〕前所レ書司封失二典故一、偶復憶二一事一、尤爲レ可レ笑、紹興二十八年郊祀赦恩、資政殿學士樓炤父已贈二少師一、乞二加贈一、司封以下資政殿學士、係三只封二贈一代一、父既至二少師一、不上レ合二加贈一、獨改二封其母范氏歐陽氏一、爲二秦國魏國夫人一、蓋樓公雖三嘗爲二執政一、而見居二官職一、須三大學士乃恩及二二代一、故但用二侍從常格一、資政殿學士施鉅父仲說、已贈二太子太保一、加爲二宮傅一、亦不レ及レ祖也、乾道六年、仲兄以二端明殿學士一知二太平州一、是年郊赦、伯兄已贈レ祖爲二太保一、而轉運司移二牒太平州一云、準二吏部牒一取レ會、本路曾任二執政官一、合三封二贈一代一者、仲兄既具以報、又再行下時、祖母及父母已至二極品一、于レ是以レ祖爲レ言、遂復贈二太傅一、命詞給告、殊非二端殿所一レ當レ得、不レ知二省部一時何所レ據也。〔野客叢書〕唐制封贈、雖二宰相一止及二其父一。〔陔餘叢考、封贈〕洪景盧云、封二贈先世一、自二晉宋一以來有レ之。〔清國行政法汎論、封贈〕給二存者一曰レ封、賜二歿者一曰レ贈。

〖封贈官〗130 ホウゾウクヮン　子孫の官品に因つて其の父祖に追贈される官品。〔明律、名例〕封贈官、與二正官一同。

【封束】131 フウソク　ふうじてゆはひつける。〔福惠全書、刑名部、賊盜上、審盜〕判レ日封束、帶二入內衙一。

【封存】132 フウゾン　封印して保管する。貨物を封じて出さぬこと。

【封袋】133 フウタイ　ふくろ。〔福惠全書、錢穀部、催徵、遴二收役一〕其盛レ銀封袋、用二棉紙一雙層糊裱。

【封敦】134 ホウタイ　周代の器。周公の居攝三年十二月に、康叔を衞に封じて敦を作る。封は康叔の名。敦は黍稷を盛つて神に供へる禮器。銘が四十四字ある。銘中、封の字を敦に作る。〔兩罍軒彝器圖釋〕。

【封題】135 フウダイ　封緘して表書を書くこと。〔白居易、與二微之一書〕封題之時、不レ覺欲レ曙。

【封套】136 フウタウ　狀袋。ふうづつ。封筒。〔福惠全書、筮仕部、寫二稟啓封套一式〕正印官、詳稟封套、止列レ銜不レ書レ名、但新選未レ到レ任、亦有レ書レ名者、臨レ時酌用。〔六部成語、兵部、磨擦封套〕於二路上一磨二擦裝公文之封套一而壞レ之。

【封地】137 ホウチ　諸侯の領地。封土。封邑。封畔。〔戰國、趙策〕韓魏皆可レ使レ致二封地湯沐之邑一。〔戰國、楚策〕君之封地、不レ可レ不二早定一也。〔吳越春秋、句踐伐吳外傳〕收二其妻子一、封二百里之地一。

【封秩】138 ホウチツ　諸侯に封じて祿高を與へる。又、諸侯の祿高。〔魏志、武帝紀、注〕自レ古三代胙レ臣以レ土、受レ命中興、封二秩輔佐一、皆所三以褒レ功賞レ德、爲二國藩衞一也。〔南史、蕭惠開傳〕爲レ父起二四寺一、謂二國僚一曰、封秩鮮、而兄弟甚多。

【封廚】139 フウチユウ　かたく封じた文箱。〔晁補之、張傑以二龍茶一換二蘇帖一詩〕它日封廚失二雙牘一、應二隨レ凝顧レ畫俱飛一。

【封貯】140 ホウチヨ　收めたくはへる。〔夢溪筆談、人事一〕郭進有二材略一、累有二戰功一、嘗刺二邢州一、今邢州城、乃進所レ築、其厚六丈、至レ今堅完、鎧仗精巧、以至二封貯一、亦有二法度一。

【封冢】141 ホウチヨウ　死後其の墓に追封すること。〔漢書、張賀傳〕上追二思賀恩一、欲下封二其冢一、爲中思德侯上、置二守冢二百家一。〔注〕師古曰、身死追封、故云二封冢一也。

【封寵】142 ホウチヨウ　寵愛する者を封ずる。〔後漢書、梁皇后紀〕太后又溺二於宦官一、多レ所二封寵一。〔魏志、蔣濟傳〕封寵慶賞。

【封泥】143 フウデイ　上古、竹簡縑帛を用ひた時、往復の書函を繩で縛り、繩の結び目を泥で封ずること。其の上に印章をおして私拆をふせいだ。泥封。

【封條】144 ホウデウ　❶枝につく。〔張協、七命〕雲雪寫二其根一、霏霜封二其條一。〔注〕向曰、封、著也。❷フウデウ　物を封じるしるしに用ひる細長い紙の札。封じがみ。

【封垤】145 ホウテツ　ありづか。蟻垤。〔本草、蟻、集解〕時珍曰、狀其如二封垤墣冢一也。〔柳貫、謝無疑將レ歸二延平一留レ詩爲レ別次韻〕微哉一封垤、欲下等二嵩華一看上。

【封典】146 ホウテン　朝廷より功臣及び其の先祖に爵位名號を賜給する榮典。晉宋に始まり、唐に至つて其の制が備はつた。〔顏延之、自陳表〕臣班叨二首卿一、位尸二封典一。

【封傳】147 ホウデン　旅行券。驛券。〔史記、孟嘗君傳〕更二封傳一、變二名姓一以出レ關。〔注〕索隱曰、封傳、

今之驛券也。

【封土】148ホウド ❶土を高く盛り上げて祭壇とする。〔禮、祭法、去レ祖爲レ壇、去レ壇爲レ墠、注〕封レ土曰レ壇、除レ地曰レ墠。〔白虎通、社稷〕封レ土立レ社。❷領地。采邑。〔漢書、杜鄴傳〕高昌侯宏去レ蕃自絶、猶受二封土一。

【封度】149ポンド Pound のあて字。❶英國の通貨。又、磅の字を用ひ、符號として£と書く。❷目方の名。我が約百二十一匁。字解の邦を見よ。

【封筒】150フウトウ 書翰を入れるふくろ。狀袋。封套。

【封滕】151フウトウ 封じとぢる。〔後漢書、方術傳序〕關二扃於明靈之府一、封二滕於瑤壇之上一者、靡二得而闚一也。

【封內】152ホウナイ・ホウダイ 領地の內。〔左氏、成、二〕使三齊之封內、盡東二其畝一。〔公羊、文、九〕亦知下諸侯於二其封內一、三年稱上レ子也。〔大戴禮、少閒〕諸侯脩二禮於封內一、以事二天子一。〔戰國、秦策〕田單將二齊之良一、以レ兵橫二行於中一十四年、終身不三敢設レ兵以攻二秦折一レ韓也、而馳二於封內一。〔史記、商君傳〕發二教封內一。〔荀子、彊國〕土地之大、封內千里。〔韓非子、亡徵〕簡二法禁一、而務二謀慮一、荒二封內一而恃二交援一者、可レ亡也。〔管子、幼官〕封內之財物。〔漢書、嚴助傳〕故古者、封內甸服。〔春秋繁露、王道〕諸侯祭二社稷一、諸山川、不レ在二封內一不レ祭。

【封納】153フウナフ 封じてをさめる。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕不レ得二冊名封納一。

【封拜】154ホウハイ 大名に封ずることと官に任ずること。封は地を授ける、拜は官に任ずる。〔後漢書、鄧禹傳〕光武見レ之甚歡、謂曰、我得レ專二封拜一、生遠來、寧欲レ仕乎。〔論衡、初稟〕上天封拜之命也。

【封背】155 fêng¹ pei⁴ 封筒の裏面。

【封賣】156 fêng¹ mai⁴ 入札に附して賣る。

【封駮】157フウバク 上書して事の非を駁擊する。詔敕のよくない者を封還して、其の反駁意見を申達するもの。〔舊唐書、文宗紀下〕開成元年、以二給事中郭承嘏一爲二華州防禦使一、給事中盧載以、承嘏公正守レ道、屢有二封駮一、不レ宜レ置二之外郡一、乃封二還詔書一、復以二承嘏一爲二給事中一。〔宋史、職官志一〕故事、詔旨皆付二銀臺司一封駮。〔日知錄、政事、封駮〕明代雖レ罷二門下省長官一、而獨存二六科給事中一、以掌二封駮之任一。

【封髮】158フウハツ 唐の賈直言の妻董が、夫の貶謫せられる時、頭髮を封じて其の還るを待った故事。〔唐書、列女、賈直言妻董傳〕直言坐レ事貶二嶺南一、以二妻少一乃訣曰、生死不レ可レ期、吾去可二亟嫁一無レ須也、董不レ答、引レ繩束レ髮、封以レ帛、使二直言署一曰、非二君手一不レ解、直言貶二十年乃還、署帛宛然、及二湯沐一髮墮無レ餘。

【封畔】159ホウハン 封地をいふ。〔新書、壹通〕小大駮躒、遠近無レ衰、天子諸侯、封畔之無レ經也、至無狀也。

【封皮】160 fêng¹ p'i² ❶封筒。包みの皮。帶封。❷封印。

【封臂】161フウヒ 臂を封じて使へぬやうにすること。〔圖繪寶鑑〕戴琬工二翎毛花竹一、嘗得二入閣供奉一、後因求者甚衆、徽宗聞レ之、封二其臂一、不レ令二私畫一、故傳レ世者鮮。

【封彌】162フウビ 唐・宋時代、試驗官の不公平を防ぐため、受驗者の名を糊で封じ、暗號で答案を出させたこと。彌封。〔宋史、選擧志一〕試卷內臣收レ之、付二編排官一、去二其卷首鄉貫狀一、別以二字號一第レ之、付二封彌官一、謄寫校勘用二御書院印一、付二考官定等一畢、復封彌送二覆考官再定等一。〔蘇軾、議二學校貢擧一劄子〕或欲下擧二唐室故事一、兼採二譽望一而去中封彌上。〔事物紀原、學校貢擧部、封彌〕按二選擧志一、唐初擇レ人以二身言書判一、六品以下集試、初試選人皆糊レ名、令二學士考判一、又張說傳曰、永昌中、武后策二賢良一、詔二李景諶一糊レ名考覆、國史異纂曰、武后以二吏部一選レ人多不レ實、乃令三試日自糊二其名一、暗考以定二其等第一、蓋糊レ名考校、自レ唐始也、今貢擧發解、皆用二其事一曰二封彌一。

【封靡】163ホウビ ❶大いに累はす。〔詩、周頌、烈文〕無三封靡二于爾邦一。〔傳〕封、大也、靡、累也。❷利益を獨占しておごること。〔詩、周頌、烈文、集傳〕封靡之義、未レ詳、或曰、封、專レ利以自封殖也、靡、汰侈也。

【封孚】164ホウフ 南燕、渤海の人。字は處道。謚は文穆。初、慕容寶に仕へ、後、南燕に入り、外は機事を總べ、內は密謀に參す。〔晉書、一百二十八〕。

【封閉】165フウヘイ 封ずる。とぢこめる。〔史記、項羽紀〕封二閉宮室一、還二軍霸上一、以待二大王來一。〔吳志、呂蒙傳〕財寶皆封閉以待レ權。

【封表】166ホウヘウ ❶土を盛り上げて土界の目標を立てる。〔管子、問〕所三封表以益二人之生利一者何物也。〔纂詁〕封、起二土界一也、云云、表、標也、凡有二利レ民者一、標而示レ之。❷墓に土をもり重ねて表彰すること。〔漢書、陳湯傳〕國家追二錄其功一、封二表其墓一、以勸二後進一也。

【封父】167ホウホ ❶古、夏の時の諸侯の名。又、國名ともいふ。〔禮、明堂位〕崇鼎・貫鼎・大璜・封父龜、天子之器也。〔注〕崇・貫・封父、皆國名。〔左氏、定、四〕分二魯公一以二大路・大旂・夏后氏之璜・封父之繁弱一云云。〔注〕封父、古諸侯也。〔漢書、王莽傳上〕封父之繁弱。❷複姓。〔萬姓統譜〕封父、夏商國名。

【封墓】168ホウボ 墓に土を盛り重ねて、恩命を加へること。〔書、武成〕釋二箕子囚一、封二比干墓一。〔傳〕封、益二其土一。〔疏〕增二封其墓一也。〔後漢書、周擧傳〕封レ墓軾レ閭、以光二賢哲一。

【封民】169ホウミン 清、湯綬名(**7**－**17874**‥180)の字。

【封面】170フウメン ❶封筒の表面。❷書籍のとびら。新聞紙の第一面。又、雜誌の表紙。❸入棺後、面部だけを現はし、後、紅綢で死者の面部を蔽ひ包むこと。浙江海寧地方の風習。

【封門】171ホウモン ❶地名。廣東省鬱南縣の西南。岑溪縣の七山隘口と界し、羅定縣に通ず。明、萬曆五年、守禦千戶所を置く。❷ fêng¹ men² ㋑門戶を封印する。㋺閉店する。

【封陽】172ホウヤウ 縣名。漢、置く。廣西省賀縣の東南。〔漢書、地理志下〕蒼梧郡、縣十、封陽。〔注〕應劭曰、在二封水之陽一。

【封養】173ホウヤウ 漢代、西羌の種族の名。〔後漢書、西羌傳〕先零羌與二封養牢姐種一、解レ仇結レ盟。

【封熊】174ホウユウ おほ熊。〔張協、七命〕封熊之蹯、翰音之跖。〔注〕濟曰、封、大也。

【封狼】175ホウラウ 大きな狼星。〔後漢書、張衡傳〕射二嶓冢之封狼一。〔注〕封、大也、狼、星名。

【封蠟】176フウラフ 書狀・小包又は瓶詰などの封じ目を確實にするために塗る、粘氣強い樹脂質の混合物。

【封巒】177ホウラン 漢の宮殿の名。〔司馬相如、封禪文〕喩以二封巒一、披レ藝觀レ之。〔揚雄、甘泉賦〕封巒石關。

【封略】178ホウリヤク 國境。封疆。封域。封畛(113)を見よ。〔左氏、昭、七〕封略之內、何非二君土一。〔令狐楚、謝宣慰狀〕師人輯睦、封略乂安。

【封龍】179ホウリヨウ 山名。河北省獲鹿縣の南。元氏縣の界。一に飛龍山といふ。風景絶佳、奇勝と稱せらる。もと、山上に封龍書院あり、漢の李躬が授業の所と傳ふ。唐の郭震、宋の李昉・張蟠叟、元の李治・安熙等、皆嘗て此處で學を講じた。〔史記、趙世家〕趙武靈王攻二中山一、取二石邑封龍一。〔晉書、懷帝紀〕大破二石勒於飛龍山一。〔太平寰宇記〕飛龍山、一名封龍山。〔讀史方輿紀要、直隸、眞定府、元氏縣〕封龍山、縣西北五十里、史記、趙武靈王伐二中山一、取二封龍一、蓋因レ山以名レ邑、唐十道志、封龍、河北之名山也、本名飛龍山、山勢如下伏龍欲二飛擧一狀上、峯巒泉石、回環錯列、稱爲二奇勝一、其最著者爲二龍首・熊耳・華蓋諸峯一、晉永嘉三年、幽州都督王浚、遣二其將祁宏一、率二鮮卑一擊二石勒一、戰二於飛龍山一、勒大敗、退屯二黎陽一、括地志云、封龍山在二鹿泉縣西南四十五里一、蓋山當二兩邑之交一也。

【封倫】180ホウリン 唐、渤海の人。封德彝(196)を見よ。

【封靈】181 fêng¹ ling² 葬儀の發引前一日、親戚友人等が弔慰すること。順天地方の風習。

【封祿】182ホウロク 諸侯の扶持。〔戰國、楚策〕飯二封祿之粟一、而戴二方府之金一。〔後漢書、朱祐等傳論〕以二寬科一完二其封祿一、莫レ不下終以二功名一延中慶于後上。

【封偉伯】183ホウヰハク 後魏の人。軌の長子。字は君良。蕭寶夤の亂に義兵を擧げんとして殺さる。博學經史に通ず。官は太常博士。著に封氏本錄、六卷がある。〔魏書、三十二〕。

【封延伯】184ホウエンパク 南齊、東海の人。字は仲璉。學行あり。官は梁郡太守。〔南齊書、五十五〕・〔南史、七十三〕。

【封孝琰】185ハウカウエン 北齊の人。隆之の姪。字は士光。官は散騎常侍・尙書左丞。後、直諫を以て死す。〔北齊書、二十一〕。

【封君達】186ホウクンタツ 後漢の仙人の名。名は衡、字は君達。一に靑牛道士といふ。〔後漢書、方術、甘始

傳〕甘始・東郭延年・封君達三人者、皆方士也、率能行下容成公御二婦人一術上、云云、君達號二青牛師一。〔注〕漢武帝內傳曰、封君達、隴西人、初服二黃連一五十餘年、入二鳥舉山一、服二水銀一百餘年、還二鄉里一如二二十者一、常乘二青牛一、故號二青牛道士一、云云、二百餘歲、乃入二玄丘山一去。〔庾信、和二宇文內史春日遊レ山詩〕道士封君達、仙人丁令威。〔神仙傳〕封衡、字君達。

【封玄之】187（ホウゲンシ）　後魏の人。懿の子。事に坐し、誅せられんとして刑に臨むや、弟の子、磨奴の早くより孤なるを憐み、其の命を全うせしめんことを乞ひて聽かれ、己は四子と共に殺さる。〔魏書、三十二〕。

【封子繪】188（ホウシクワイ）　北齊の人。隆之の子。字は仲藻。謚は簡。文宣帝の時の尙書右僕射。〔北齊書、二十一〕。

【封使君】189（ホウシクン）　漢の宣城の太守、封邵をいふ。〔述異記上〕漢宣城郡守封邵亘、化爲レ虎、食二郡民一、呼レ之曰二封使君一、因去不二復來一、故時語曰、無レ作二封使君一、生不レ治レ民、死食レ民。

【封祠祀】190（ホウジテシシス）　土を盛り壇を築いて祭ること。〔史記、秦始皇紀〕遂上二泰山一、立レ石封祠祀。

【封常清】191（ホウジヤウセイ）　唐、蒲州の人。孤貧。高仙芝に從ふ。官は范陽節度副大使。安祿山を破り、退いて潼關を守つたが、邊令誠に構へられて軍中に斬らる。人多く之を哀しむ。〔唐書、一百三十五〕・〔舊唐書、一百四〕。

【封神傳】192（ホウシンデン）　小說の名。明人の作。撰者の名を著さず。又、封神演義ともいふ。凡そ一百回。武王が紂を討つた時、仙佛が皆來り助けることを記す。

【封椿庫】193（ホウタウコ）　財寶を貯へおくくら。宋の太祖の時作る。軍族の救助又は饑饉に備へた。〔宋史、食貨志下一〕元祐三年、改二封椿錢物庫一、爲二元祐庫一、未レ幾、分二元豐庫一爲二元豐南北庫一、數月、以四北庫爲三司空呂公著解二封椿一、並附二南庫一。

【封卓妻】194（ホウタクノツマ）　後魏、彭城の人。姓は劉氏。嫁して一夕、卓、官事を以て京師に赴き、事を以て法に伏するや、劉氏、憤死す。〔魏書、九十二〕。

【封敕文】195（ホウチヨクブン）　後魏、代の人。官は鎭西將軍・秦益二州刺史。爵は天水公。〔魏書、五十一〕・〔北史、三十七〕。

【封德彝】196（ホウトクイ）　唐、渤海の人。名は倫。字を以て世に知らる。謚は明。後、繆と改謚す。初、隋に事へて內史舍人となり、後、唐に降り、太宗の時、尙書右僕射に遷る。〔唐書、一百〕・〔舊唐書、六十三〕。

【封隆之】197（ホウリユウシ）　後魏の人。回の子。字は祖裔。謚は宣懿。齊に事へて、五帝に歷事し、四たび侍中となり、再度、吏部尙書となり、一たび僕射となり、四度、冀州の刺史となり、終始名を完うす。世に博大長者と稱す。〔北齊書、二十一〕・〔北史、二十四〕。

【封固寄呈】198　fêng¹ ku⁴ chi⁴ ch'êng²　固く封じて送呈する。

【封十爲レ畿】199（ホウジフヲキトナス）　古、行政區劃の制。封は、方一百里の地。畿は封の十倍、卽ち方千里。天子直轄の地域をいふ。〔漢書、刑法志〕因二井田一而制二軍賦一、地方一里爲レ井、井十爲レ通、通十爲レ成、成方十里、成十爲レ終、終十爲レ同、同方百里、同十爲レ封、封十爲レ畿、畿方千里。

【封賞之科】200（ホウシヤウノクワ）　賞を與へ領土に封ずるおきて。〔漢書、景武昭宣元成功臣表序〕故至二孝景一、始欲レ侯二降者一、丞相周亞夫守レ約而爭、帝黜二其議一、初開二封賞之科一。

【封氏聞見記】201（ホウシブンケンキ）　書名。十卷。唐、封演撰。甚しく殘缺す。第一卷から六卷までは多く掌故を述べ、七・八の二卷は多く古迹雜論を記し、末の二卷は皆唐代の軼事を載せ、考證の資となるものが多い。〔四庫提要、子、雜家類〕。

『參考書』【封氏聞見記校證】十卷 附引得、民國、趙貞信撰。

【⿰尗寸】 7427　シユク　叔(2−3154)の古字。〔集韻〕叔、古作レ⿰尗寸。

【⿰尗寸】 7428　シユク　叔(2−3154)に同じ。〔集韻〕叔、或从レ寸。

【⿱㓞寸】 7429　ケイ　契(3−5917)に同じ。〔字彙補〕⿱㓞寸、卽契字、見二漢史晨祀孔廟奏銘一。

【⿰舟寸】 7430　ゴツ　義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿰舟寸、五骨切。

【⿰血寸】 7431　タイ　耐(9−28879)に同じ。〔龍龕手鑑〕⿰血寸、同レ耐。

【⿰冊寸】 7432　サン　刪(2−1917)に同じ。〔龍龕手鑑〕⿰冊寸、同レ刪。

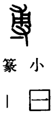
七畫

【專】 7433

曰フ　〔集韻〕芳無切　虞

二フホ　〔集韻〕博故切　遇

三フ　〔集韻〕斐父切　麌


小篆

曰❶しく。敷(5−13328)・敷(5−13359)に同じ。〔說文〕專、布也、从レ寸甫聲。〔王注〕專、今字作レ尃、經典皆作レ敷。〔段注〕凡敷岐必有二法度一而後行、故从レ寸。〔正字通〕專、敷本字、楷譌作レ敷。〔史記、封禪書〕雲專霧散。❷あまねし。〔玉篇〕專、偏也。❸或は溥(7−17957)に作る。〔集韻〕專、或作レ溥。二あまねし。佈(1−497)に同じ。〔集韻〕佈、偏也、古作レ專。三❶もと。〔集韻〕專、本也。❷はらふ。〔集韻〕專、拂也。

參考 專(4−7439)は別字。

【射】 7434

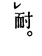
曰シヤ ジヤ　〔集韻〕神夜切　禡　ㄕˊ shih²

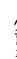
二セキ ジヤク　〔集韻〕食亦切　陌　ㄕㄜˋ shê⁴

三エキ ヤク　〔集韻〕夷益切　陌　ㄧˋ i⁴

四ヤ　〔集韻〕寅謝切　禡　ㄧㄝˋ yeh⁴

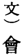
慣シヤ


小篆


古文

曰❶**弓をいる術**。古の六藝の一。䠶(10−38069)に同じ。〔說文〕䠶、弓弩發二於身一而中二於遠一也、从レ矢从レ身、射、篆文䠶、从レ寸、寸、法度也、亦手也。〔周禮、地官、大司徒〕禮、樂射御書數。〔注〕射、五射之法也。〔禮、射義〕射者、男子之事也。❷射宮(36)の略稱。辟雍。〔禮、燕義〕秋合二諸射一。〔注〕射、射宮也。❸**山名**。藐姑射(9−32267・・17)の❶を見よ。❹**姓**。〔蜀志、先主傳、從事中郎軍議中郎將臣射援、注〕三輔決錄注曰、射援、字文雄、扶風人也、其先本姓謝、與二北地諸謝一同族、始祖謝服爲二將軍一出征、天子以三謝服非二令名一改爲レ射、子孫氏焉。〔通志、氏族略、以レ名爲レ氏〕射氏、晉大夫號射之後。二❶**いる**。䠶(10−38069)に同じ。〔集韻〕䠶、弓弩發也、或从レ寸。〔增韻〕射、以二弓弩矢一射レ物也。〔左氏、成、十六〕蹲レ甲而射レ之、徹二七札一焉。〔論語、述而〕弋不レ射レ宿。❷**さしとる**。〔增韻〕指レ物而取曰レ射。❸**あてる**。〔列子、說符〕博者射。〔注〕凡戲爭能取レ中者曰レ射。❹**とがる**。**突きでる**。〔周禮、考工記、玉人〕射四寸。〔注〕射、琰出者也。❺**かたどる**。〔淮南子、人閒訓〕百射二重戒一。〔注〕射、象也。三❶**いと**

ふ。斁（5－13406）に通ず。〔說文通訓定聲〕射、叚借爲レ斁。〔爾雅、釋詁〕射、厭也。〔詩、周頌、淸廟〕無レ射二於人一斯。〔傳〕不レ見レ厭二於人一矣。㊁**つづく**。繹（8－27975）に通ず。〔禮、玉藻、卜人定レ龜、注〕謂二靈射之屬、所レ當用者一。〔疏〕謂レ卜二祭天用レ靈、祭レ地用レ射、射則繹也。㊂**おこなふ**。〔楚辭、天問〕皆歸二射鞫一、而無レ害二厥躬一。〔注〕射、行也。㊃**つくす**。殬（6－16584）に通ず。〔說文通訓定聲〕射、叚借爲レ殬。春秋繁露郊祀、耗二射下土一。㊄**十二律の一**。無射（7－19113：65）の㊀を見よ。〔集韻〕射、無射、九月律名、射、出也、言、陽氣上升、陰氣收藏、不二復出一也、孔穎達說。㊅**木の名**。射干（24）の㊁を見よ。㊆亦（1－293）に通ず。〔穀梁、桓、九〕世子射姑來朝。〔注〕射、靡氏作レ亦。〖四〗㊀**秦の官名**。**僕射**。〔集韻〕射、僕射、官名、射者武事、古者重レ武、以レ主レ射名レ官、關中語轉爲二此音一。㊁夜（3－5763）に通ず。〔春秋、文、六〕晉狐射姑出奔レ狄。〔釋文〕射、音亦、一音夜。〔穀梁、文、六〕夜姑殺者也。〔釋文〕左氏作二射姑一。㊂**木の名**。〖三〗の㊅に同じ。

〖解字〗會意。本義は、弓をいる術。古文、䠶につくる。身と矢との合字。矢の身より發して遠きに中るをいふ。後、矢を寸にかへ、矢をはなつに身必ず法度に從ふを示す。寸は法度をいふ。又、寸は又に同じくして、手を意味し、矢を身より發するに必ず手を用ひる意といふ。或は、ヨは右の手、一は矢、卽ちヨは矢を持てる右手を表はし、䠶は右の手に矢を持てる身の將に其の矢を放たんとするを意味す。斁・睪・殬等に假借する。〔說文、射、段注〕謂下用二弓弩一、發二矢於身一而中中於遠上也、云云、射者小篆、則䠶者古文、云云、从レ寸之意、射必依二法度一、故从レ寸、寸同レ又、射必用レ手、故从レ寸。 ▽（金文）會意。弓に矢をつがへた形に寸を加へ、手で弓をいる意を表はす。

【射鴨】1（セキアフ） 鴨を射る。又、其の遊戲。〔王建、御獵詩〕新教二內人唯射一レ鴨、長隨二天子苑東遊一。〔五代史、唐莊宗紀下〕（同光三年二月）乙酉、射二鴨於郭泊一。〔五代史、晉出帝紀〕（開運三年二月）壬午、射二鴨於板橋一。

【射意】2（シヤイ） 賭博の名。意錢。攤錢（5－13033：14）の㊀に同じ。〔後漢書、梁冀傳、意錢之戲、注〕何承天纂文曰、詭億、一曰二射意一、一曰二射數一、卽攤錢也。

【射遺】3（イノコシ） 正月十七日の射禮に不參した四衞府の者が、翌十八日、建禮門に集まって射を行ふ儀式。〔年中行事祕抄、正月十七日、射禮事〕明日射禮事、差二遺參議一人一、右衞門左兵衞所レ射也、或昨日不參府遺レ之、射遺宰相事、賭弓之日二度下器之後、遺二宰相一人於弓場一、令レ行二射遺之事一、外記奏二事由一。

【射影】4（セキエイ シヤエイ） 鼈に似た蜮（イサゴムシ）といふ三足の怪蟲。水に棲み人の影を射、又、砂を含んで人を射る。射られたものは傷病するといふ。短狐。射工（50）を見よ。〔詩、小雅、何人斯〕爲レ鬼爲レ蜮。〔疏〕正義曰、洪範五行傳云、蜮如レ鼈三足、生二於南越一、南越婦人多淫、故其地多レ蜮、淫女或亂之氣所レ生也、陸機疏云、一名射影、江淮水皆有レ之、人在二岸上一、影見二水中一、投二人影一則殺レ之、故曰二射影一、南人將レ入レ水、先以二瓦石一投二水中一、令二水濁一、然後入、或曰、含レ沙射二人皮肌一、其瘡如レ疥、是也。

〖射影燈〗5 shê^4 ying^3 têng^1 幻燈。影畫燈。

【射殪】6（セキエイ） 射たふす。射殺する。〔國史略、正親町天皇〕手射二殪數人一。

【射翳】7（マフシ） 鳥獸等を射るために、柴などを折って身を隱すもの。〔倭名類聚抄、術藝部、射藝具〕射翳、末布之、所三以隱二射者一也。

【射妖】8（シヤエウ） 射の妖。妖は、禍の前兆。〔漢書、五行志下之上〕皇之不極、是謂二不建一、云云、禮、春而大射、以順二陽氣一、上微弱、則下奮動、故有二射妖一。

【射越】9（セキエツ） ㊀發散して遠くに及ぶ。〔曹植、七啓〕滋味旣殊、遺芳射越。〔注〕銑曰、射越、言レ及レ遠也。㊁（イノコシ）姓氏。〔日用重寶記〕。

【射筵】10（イムシロ） 弓を射る時に敷くむしろ。〔年中行事歌合〕今日のまとゐのいむしろ。

【射屋】11（イテヤ） 姓氏。〔和爾雅〕。

【射界】12（シヤカイ） 彈丸の到着する範圍。

【射向】13（イムケ） 鎧の左側のこと。弓を射るとき左側を敵に向けるのでいふ。〔平治物語、待賢門軍事〕重盛の射向の袖にはたと中りて。

〖射向袖〗14（イムケノソデ） 鎧の左の袖。弓を射る時、左を敵に向けるからいふ。〔平治物語、待賢門軍事〕射向の袖にはたと中りて。

【射江】15（シヤカウ） ㊀川の名。梓潼水をいふ。〔元和志〕射洪縣有二梓潼水一、與二涪江一合流、急如レ箭、奔二射涪江口一、蜀人謂二水口一曰レ洪、因名二射江一。㊁縣名。西魏、置く。北周、射洪と改む。射洪（52）の㊀を見よ。

【射倖】16（シヤカウ セキカウ） 偶然の利益を得ようとする。まぐれあたりを目あてとする。射幸數跌（134）を見よ。

〖射倖心〗17（シヤカウシン） まぐれあたりを願ふ心。

〖射倖契約〗18（シヤカウケイヤク） 全部又は一部の效力が、偶然の事實にかかる契約。保險契約の類。

【射蛟】19（セキカウ） 蛟を射る。蛟は鮫に同じ。漢の武帝が、揚子江で蛟を射た故事。〔漢書、武帝紀〕元封五年、冬、行レ南巡狩、云云、自二尋陽一浮レ江、親射二蛟江中一獲レ之。〔李白、永王東巡歌〕祖龍浮レ海不レ成レ橋、漢武尋陽空射レ蛟。

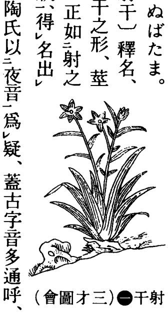
【射鮫】20（セキカウ） 大魚を射る。射蛟に同じ。〔漢紀、孝武紀五〕自二潯陽一浮レ江、親射二鮫魚于江中一獲レ之。

【射角】21（シヤカク） 彈丸發射の時に於ける銃身が水平線と成す角度。

【射革】22（セキカク） 堅い犀革の盾を射る。弱い矢で堅い革を射ること。必ず貫き得ぬのをいふ。〔楚辭、東方朔、七諫、謬諫〕菎蕗雜二於黀蒸一兮、機二蓬矢一以射レ革。〔注〕矢、箭也、言、張二強弩之機一、以二蓬蒿之箭一以射二犀革之盾一、必摧折而無レ所二能入一也、言、使二愚巧任一レ政、必致二荒亂無一レ所二能成一也。

【射合】23（セキガフ） 射あてる。〔孔叢子、對魏王〕徼幸者、內則射二合主心一、外則挻二主之非一。

【射干】24（エキカン ヤカン） ㊀草の名。ひあふぎ。葉は扇形をなし、黃赤色の花を開き、黑い實を結ぶ。からすあふぎ。ぬばたま。〔本草、射干〕釋名、頌曰、射干之形、莖梗疎長、正如二射之長竿之狀一、得レ名出レ此爾、而陶氏以二夜音一爲レ疑、蓋古字音多通呼、若二漢官僕射主二射事一、而亦音夜、非レ有二別義一也。〔宋玉、高唐賦〕靑荃射干、揭車苞拜。㊁木の名。㋑西方の高山に生ずるといふ短木。〔荀子、勸學〕西方有レ木焉、名曰二射干一、莖長四寸、生二於高山之上一、而臨二百仞之淵一、木莖非二能長一也、所レ立者然也。〔注〕本草藥名有二射干一、一名烏扇、陶弘景云、花白莖長、如二射人之執一レ竿、又引二阮公詩一云、射干臨二層城一、是生二于高處一也、據二本草一在二草部中一、又生二南陽川谷一、此云二西方有一レ木、未レ詳、或曰、長四寸、卽是草、云レ木誤也、蓋生二南陽一、亦生二西方一也、射音夜。㋺高大な木。〔本草、射干〕集解、藏器曰、射干之名有レ三、阮公云、射干臨二層城一者、是樹殊有二高大者一。㊂惡獸の名。野干。〔本草、射干〕集解、藏器曰、射干之名有レ三、佛經射干貂獄、此是惡獸、似二靑黃狗一、食レ人、能緣レ木。〔司馬相如、子虛賦〕其上則有二鵷雛孔鸞、騰遠射干一。〔注〕善曰、張揖曰、射干、似レ狐能緣レ木。〔漢書、司馬相如傳上、王先謙補注〕沈欽韓曰、射干、蓋佛書所謂野干。



射干㊀（三才圖會）

〖射干玉〗25（ヌバタマ） ㊀射干の果實。圓くて黑い。㊁（ヌバタマノ）黑・夜・闇又は月・夢・妹などの枕詞。〔古事記、上〕ぬばたまの黑きみけし。〔萬葉集、五〕ぬばたまの夜の夢。〔萬葉集、十七〕ぬばたまの月に向ひて。

【射杆】26（ヤカン） 射干の㊁に同じ。〔一切經音義、六〕廣志曰、射杆巢二於絕巖高木一也。

【射捍】27（シヤカン） ゆごて。射韝。〔太平御覽、兵部、射捍〕音汗、字與レ鞁同、射鞁以レ皮鞁レ臂也、云云、括地圖曰、羿、年五歲、父母與入レ山、其母處二之大樹下一、待二蟬鳴一還欲レ取レ之、羣蟬俱鳴、遂捐去、羿爲二山閒所一レ養、羿年二十能習二弓矢一、仰レ天歎曰、我將レ射二遠方一、矢至二吾門一止、因レ捍卽射、

矢摩レ地截レ草、經至ニ羿門一隨レ矢去。

【射魃】28 セキキ　桃又は金玉で作った魔除け。〔急就篇〕射魃辟レ邪除ニ羣凶一。〔注〕射魃、謂ニ大剛卯一也、以ニ金玉及桃木一刻而爲レ之、一名殺改、其上有レ銘、而旁穿レ孔、系以ニ綵絲一、用係レ臂焉、亦所ニ以逐ニ精魅一也。

【射器】29 シャキ　弓矢をいふ。〔周禮、地官、鄉師〕黨共ニ射器一、州共ニ賓器一。〔儀禮、大射儀〕命ニ有司一納ニ射器一。

【射機】30 シャキ　いし弓。〔墨子、備水〕城上爲ニ射機一。

【射騎】31 シャキ　馬上から弓を射る。〔史記、李牧傳〕習ニ射騎一、謹ニ烽火一。

【射義】32 シャギ　㊀射の意義。〔白虎通、鄉射〕射義非レ一也。㊁禮記の篇名。〔禮、射義、疏〕案、鄭目錄云、名曰ニ射義一者、以下其記ニ燕射大射之禮一、觀ニ德行一、取ニ於士一之義上、此於ニ別錄一屬ニ吉事一。

【射儀】33 シャギ　射術の儀式。弓射るかた。大射の儀式。〔周禮、夏官、射人〕以ニ射灋一治ニ射儀一。〔疏〕射儀、卽大射之儀。

【射牛】34 セキギウ　牲牛を射る禮。古は、天子宗廟を祭れば、必ず自ら之を行ふ。〔漢書、郊祀志上〕羣儒采ニ封禪尙書周官王制之望祀射牛事一。〔注〕師古曰、天子有レ事ニ宗廟一、必自射レ牲、蓋示ニ親殺一也、事見ニ國語一也。

【射鄉】35 シャキヤウ　鄉射と鄉飲酒との禮。〔禮、仲尼燕居〕射鄉之禮、所ニ以仁ニ鄉黨一也。〔疏〕射、謂ニ鄉射一、鄉、謂ニ鄉飲酒一也。〔史記、樂書〕射鄉食饗。

【射宮】36 シャキユウ　弓を射る宮。辟雍をいふ。射室。〔禮、射義〕古者、天子之制、諸侯歲獻ニ貢士於天子一、天子試ニ之於射宮一。〔穀梁、昭、八〕其餘與ニ士衆一以習ニ射於射宮一。〔張衡、東京賦〕攝提運レ衡、徐至ニ於射宮一。〔注〕綜曰、射宮、謂ニ辟雍一也。

【射御】37 シャギヨ　弓を射ることと、馬を使ふこと。六藝の中の射御の二類。又、之を掌る官。〔書、秦誓〕射御不レ違。〔周禮、地官、大司徒〕三曰、六藝、禮樂射御書數。〔禮、王制〕凡執レ技以事レ上者、祝史射御醫卜及百工。〔左氏、襄、二十六〕教ニ之乘レ車射御驅侵一。〔國語、楚語上〕教ニ之射御一。〔應貞、晉武帝華林園集詩〕射御茲器。

【射禽】38 セキキン　鳥を射る。〔隋書、禮儀志三〕後齊春蒐禮、天子乘レ馬、從ニ南旌門一入、親射レ禽。〔王建、羽林行〕出來依レ舊屬ニ羽林一、立在ニ殿前一射ニ飛禽一。

【射具】39 シャグ　弓道具。

【射獲】40 シャクワク　矢が人に中ること。〔儀禮、鄉射禮〕無ニ射獲一、無ニ獵獲一。〔注〕射獲、謂ニ矢中レ人也。〔疏〕人謂ニ獲者一。

【射官】41 セキクワン　役人となる。官位を得る。〔鹽鐵論、復古〕入レ穀射レ官、救レ急贍ニ不給一。

【射稽】42 シャケイ　古の歌に巧みな人。〔韓非子、外儲說左上〕宋王與レ齊仇也、築ニ武宮一、謳ニ癸倡一、行者止觀、築者不レ倦、王聞、召而賜レ之、對曰、臣師射稽之謳、又賢ニ於癸一、王召ニ射稽一使ニ之謳一、行者不レ止、築者知レ倦。

【射藝】43 シャゲイ　弓をいるわざ。〔唐書、泉男生傳〕奏對敏辯、善ニ射藝一。

【射戟】44 セキゲキ　後漢の呂布が戟を射て紀靈と劉備との兵を和解させた故事。〔後漢書、呂布傳〕術遣ニ將紀靈等步騎三萬一以攻レ備、備求ニ救於布一、諸將謂レ布曰、將軍常欲レ殺ニ劉備一、今可レ假ニ手於術一、布曰、不レ然、術若破レ備則北連ニ太山一、吾爲レ在ニ術圍中一、不レ得レ不レ救也、便率ニ步騎千餘一、馳往赴レ之、靈等聞ニ布至一、皆斂レ兵而止、布屯ニ沛城外一、遣レ人招レ備、幷請ニ靈等與共饗飮一、布謂レ靈曰、玄德布弟也、爲ニ諸君所レ困、故來救レ之、布性不レ喜ニ合鬬一、但喜レ解レ鬬耳、乃令三軍候植ニ戟於營門一、布彎レ弓顧曰、諸君觀三布射ニ戟小支一、中者當ニ各解レ兵、不レ中可ニ留決鬬一、布卽一發正中ニ戟支一、靈等皆驚言、將軍天威也、明日復歡會、然後各罷。

【射擊】45 シャゲキ　㊀弓を射る。㊁小銃を打つ。

【射月】46 シャゲツ　つけゑくぼ。〔騈雅、釋服食〕射月、粉靨也。〔酉陽雜俎、黥〕近代粧尙三靨如ニ射月一、曰ニ黃星靨一。

【射犬】47 シャケン　城の名。㊀河南省許昌縣。〔水經、濮水注〕濮水又南逕ニ射犬城東一、卽鄭公孫射犬城也。㊁漢の射犬聚。故城は、今の河南省沁陽縣の東北。後漢の光武帝が青犢大彤の諸賊を破つたところ。〔水經、淸水注〕長明溝水又東逕ニ射犬城北一。〔後漢書、光武紀上〕赤眉別帥與ニ大彤・青犢十餘萬衆一、在ニ射犬一。〔注〕續漢志曰、野王縣有ニ射犬聚一、故城在ニ今懷州武德縣北一也。

【射言】48 shê⁴ yen² 冗談をいふ。欺く。

【射虎】49 セキコ　㊀虎を射る。〔漢書、李廣傳〕李廣所レ居郡聞レ有レ虎、常自射レ之、及レ居ニ右北平一、射レ虎、虎騰傷レ廣、廣亦射ニ殺之一。〔魏志、曹眞傳〕常獵爲ニ虎所レ逐、顧射レ虎、應レ聲而倒。㊁シャコ ㋑川の名。山西省五臺縣の東北。下流は淸水河に入る。淸の聖祖、西巡して還り、長城に循つて東し、親ら虎を林中に射、射虎川の名を賜ふ。㋺谷の名。甘肅省天水縣の西。後漢の建寧二年、段熲が叛羌を破つた所。〔後漢書、段熲傳〕羌衆潰東奔、復聚ニ射虎谷一。

【射工】50 シャコウ セキコウ　いさご蟲の異名。短狐。蜮(10－33176)・射影(4)を見よ。〔埤雅、蜮〕蜮、短狐也、似レ鼈三足、含レ水射レ人、一曰ニ含沙一、射ニ人之影一、其瘡如レ疥、稽聖賦所謂、蛺旋ニ於影一、蜮射ニ於光一、是也、一名射工、一名溪毒。〔漢書、五行志下之上〕莊公十八年秋、有レ蜮、劉向以爲、蜮生ニ南越一、越地多ニ婦人一、男女同レ川、淫女爲レ主、亂氣所レ生、故聖人名レ之曰レ蜮、蜮、猶レ惑也、在ニ水旁一、能射レ人、射レ人有レ處、甚者至レ死、南方謂ニ之短狐一。〔注〕師古曰、卽射工也、亦呼ニ水弩一。〔博物志、異蟲〕江南山谿中、水射工蟲、甲類也、長一二寸、口中有ニ弩形一、氣射ニ人影一、隨ニ所レ著處一發レ瘡、不レ治則殺レ人、今鸂鶒蟲溺ニ人影一、亦隨ニ所レ著處一生レ瘡。〔抱朴子、登涉〕吳楚之野有ニ短狐一、一名蜮、一名射工、一名射影、其實水蟲也。

【射侯】51 シャコウ セキコウ　㊀矢を射るまと。侯は十尺四方のまと、中に鵠を畫く。〔周禮、天官、司裘〕天子大射、則共ニ虎侯・熊侯・豹侯一、設ニ其鵠一、諸侯則共ニ熊侯・豹侯一、卿大夫則共ニ麋侯一、皆設ニ其鵠一。〔韓非子、八說〕狸首射侯、不レ當ニ強弩趨發一。㊁まとを射る。〔詩、齊風、猗嗟〕終日射レ侯、不レ出レ正兮。㊂天子の行ふ大射の禮。〔禮、射義〕天子之大射、謂ニ之射侯一、射侯者、射爲ニ諸侯一也。〔釋文〕射、食亦反。

【射洪】52 シャコウ　㊀縣名。西魏、射江縣を置き、北周、射洪と改む。今、四川省三臺縣の東南、涪江の西南岸。石油を產す。〔讀史方輿紀要、四川、潼川州〕射洪縣、漢廣漢郪二縣地、西魏置ニ射江縣一、後周改曰ニ射洪一、屬ニ昌城郡一、隋屬ニ梓州一、唐宋因レ之。〔淸史稿、地理志〕四川、潼川府、縣八、射洪。㊁唐、陳子昂(11－41698・・893)の號。

【射鉤】53 セキコウ シャコウ　帶金を射る。春秋、齊の管夷吾(管仲)が、小白(桓公)を射て其の帶金に中てた故事。轉じて、管仲をいふ。〔左氏、僖、二十四〕齊桓公置ニ射鉤一、而使ニ管仲相一。〔國語、齊語〕桓公曰、夫管夷吾射ニ寡人一中レ鉤、是以濱ニ於死一。〔史記、齊世家〕高國先陰召ニ小白于莒一、魯亦發レ兵送ニ公子糾一、而使三管仲別將レ兵遮ニ莒道一、射中ニ小白帶鉤一。〔後漢書、第五種傳〕遺ニ其亡逃之行一、赦ニ其射鉤之讎一。〔劉琨、重贈ニ盧諶一詩〕重耳任ニ五賢一、小白相ニ射鉤一。

【射韝】54 シャコウ　ゆごて。射捍。〔龍龕手鑑〕韝、射韝、臂捍也。〔儀禮、鄉射禮、袒決遂、注〕遂、射韝也、以レ韋爲レ之、所ニ以遂レ絃者也。〔漢書、東方朔傳、董君綠幘傳レ韝、注〕韋昭曰、韝形如ニ射韝一、以縛ニ左右手一、于レ事便也、師古曰、卽今之臂射也、韝、音工侯反。

【射策】55 セキサク　漢代の士を試みる一科。經書又は政治上の疑問を策に書し、解答者をして其の得る所に隨つて解釋せしめ、これによつて其の人の優劣を決める試驗。〔漢書、蕭望之傳〕以ニ射策甲科一爲レ郎。〔注〕師古曰、射策者、謂下爲ニ難問疑義一、書ニ之於策一、量ニ其大小一、署爲ニ甲乙之科一、列而置レ之、不レ使ニ彰顯一、有ニ欲レ射者一、隨三其所ニ取得一而釋レ之、以知中優劣上、對策者、顯問以ニ政事經義一、令ニ各對レ之、而觀ニ其文辭一、定ニ高下一也。〔漢書、兒寬傳〕以ニ郡國選一詣ニ博士一、受ニ業孔安國一、以ニ射策一爲ニ掌故一。

【射殺】56 シャサツ　弓や鐵砲でいころす。〔史記、項羽紀〕楚挑レ戰三合、樓煩輒射ニ殺之一。〔史記、李廣傳〕李廣上レ馬、與ニ十餘騎一、犇射ニ殺胡白馬將一。〔漢書、文三王、梁懷王劉揖傳〕坐三射ニ殺其尉一、有司請レ誅。

【射山】57 シャザン　㊀藐姑射山の略。上皇・法皇の御所の異稱。仙洞。藐姑射(9－32267・・17)の㊁を見よ。〔東鑑、六〕文治二年二月四日、貴僧一人奉ニ干御枕上一、射山事尤可レ奉レ重。㊁明、陸嘉淑(11－41708・・271)の號。

【射死】58 shê⁴ ssŭ³ 弓で射殺す。

【射師】59 シャシ 射の師匠。射人師(72)を見よ。

【射室】60 シャシツ 弓射場。弓場。射宮。〔漢書、韓延壽傳〕延壽坐二射室一、騎吏持レ戟、夾レ陛列立。〔注〕李奇曰、都試二射堂一也。

【射蝨】61 セキシツ しらみを射る。紀昌が飛衞に射を學んだ故事。〔列子、湯問〕紀昌者、又學二射於飛衞一、云云、昌以レ氂懸二蝨於牖一、南面而望レ之、旬日之間、浸大也、三年之後如二車輪一焉、以覩二餘物一、皆丘山也、乃以二燕角之弧、朔蓬之簳一射レ之、貫二蝨之心一、而懸不レ絕。

【射日】62 セキジツ 日を射る。羿が九日を射落した故事。〔淮南子、本經訓〕堯之時十日並出、焦二禾稼一、殺二草木一、而民無レ所レ食、猰貐・鑿齒・九嬰・大風・封豨・脩蛇、皆爲二民害一、堯乃使下羿誅二鑿齒於疇華之野一、殺二九嬰於凶水之上一、繳二大風於青丘之澤一、上射二十日一、而下殺二猰貐一、斷二脩蛇於洞庭一、擒中封豨於桑林上、萬民皆喜、置レ堯以爲二天子一。

【射者】63 シャシャ 射手。〔左氏、襄、二十九〕范獻子來聘、拜レ城レ杞也、公享レ之、展莊叔執レ幣、射者三耦、公臣不レ足、取二於家臣一。〔五代史、周知裕傳〕知裕聞二梁已亡一、欲二自殺一、爲二賓客故人一止レ之、乃降レ唐、莊宗尤寵二待之一、諸將嫉二其寵一、因レ獵射レ之、知裕走以免、莊宗爲殺二射者一、以二知裕一爲二房州刺史一。

【射者仁之道】64 シャハジンノミチ 射は仁者の道である。〔禮、射義〕射者仁之道也、射求レ正二諸己一。

【射者正レ己而後發】65 シャハオノレヲタダシクシテノチニハッス 弓を射るには、己れの身を正しくして後に矢を放つ。〔孟子、公孫丑上〕仁者如レ射、射者正レ己而後發、發而不レ中、不レ怨二勝レ己者一、反求二諸己一而已矣。

【射雀】66 セキジャク ❶雀を射る。〔北史、魏河陽王曜傳〕曜嘗射二雀于道武前一中レ之、帝驚歎焉、及レ長、武藝絕レ人、與二陽平王熙等一、並督二諸軍一講レ武、衆咸服二其勇一。〔帝王世紀〕帝羿有窮氏與二吳賀一北遊、賀使二羿射レ雀、羿曰、生レ之乎、殺レ之乎、賀曰、射二其左目一、羿引レ弓射レ之、誤中二右目一、羿抑首而愧、終身不レ忘。❷唐の高祖の妃、竇皇后の父の毅は、二羽の孔雀を屛間に畫き、婚を乞ふ者に之を射させ、心の中で目に中つたものに許さうと考へた。高祖は射て、各〻の一目に中てたので竇氏が高祖に歸嫁したといふ故事。〔唐書、后妃傳〕高祖太穆順聖皇后竇氏、云云、后生、髮垂過レ頸、三歲與レ身等、讀二女誡列女等傳一、一過輒不レ忘、武帝愛レ之、養二宮中一、異二它甥一、云云、(父毅)常謂レ主曰、此女有二奇相一、且識不レ凡、何可二妄與一レ人、因畫二二孔雀屛間一、請レ昏者使レ射二二矢一、陰約、中レ目則許レ之、射者閱二數十一、皆不レ合、高祖最後射、中二各一目一、遂歸二於帝一。

【射手】67 シャシュ ❶弓を射る人。いて。射者。射夫。〔紀効新書〕凡弩手射手、俟三鳥銃打放將レ完賊至二六十步之內一、起レ火放、方許下繼二銃後一射ヲ箭、無レ令不レ許二擅發一。❷鐵砲を打つ人。

【射出】68 シャシュツ ❶發し出る。打ち出す。❷一點から放射狀に出ること。

【射出髓】69 シャシュツズイ 樹木の幹の木質部の中心から、諸方に射出した細線。

【射術】70 シャジュツ 射法(107)の❶❷に同じ。

【射人】71 シャジン ❶周官の名。夏官の屬。射法・射儀を掌る。〔周禮、夏官、射人〕射人掌二國之三公・孤・卿・大夫之位一、三公北面、孤東面、卿大夫西面、其摯、三公執レ璧、孤執二皮帛一、卿執レ羔、大夫鴈、諸侯在レ朝、則皆北面、詔二相其灋一、若有二國事一、則掌二其戒令一、詔二相其事一。❷セキジン 人を射る。射工(50)を見よ。〔爾雅翼、蜮〕短狐狀似レ鼈、含レ沙射レ人。

【射人師】72 シャジンシ 射人の長。射師。〔禮、檀弓上〕扶レ君、卜人師扶レ右、射人師扶レ左。

【射數】73 シャスウ 賭博の名。意錢(4－10921・・100)・射意(2)を見よ。

【射正】74 シャセイ ❶射の威儀をいふ。〔周禮、夏官、射人〕佐二司馬一治二射正一。〔注〕射正、射之法儀也。〔疏〕射之威儀、乃是禮之正、故名二射儀一爲二射正一也。❷司射の長。〔儀禮、大射儀〕射正蒞レ之。〔注〕射正、司射之長。

【射生】75 シャセイ 生物を射取ること。又、その人。〔唐書、兵志〕擇下便二騎射一者上、置二衙前射生手千人一、亦曰二供奉射生官一。〔王建、宮詞〕射生宮女宿紅妝、請得新弓各自張。

【射生將】76 シャセイシャウ 唐代、射生の官の將校。〔唐書、韓游瓌傳〕游瓌爲二邠州刺史一、會子欽緒以二射生將一衞二京師一、與二妖人李廣弘一謀反、謀泄奔二邠州一、中人捕斬。

【射精】77 シャセイ 精液の射出せられる現象。精液を射出すること。

【射精管】78 シャセイクワン 精液を射出する管をいひ、輸精管の一部である。人間では貯精囊の開口から精阜に至るまでをいふ。

【射聲】79 セキセイ 官名。射聲校尉の略。漢の武帝、置く。八校尉の一。待詔射聲の士を掌る。士の射に巧な者は、冥冥の中に聲を聞いて、之を射れば當るから名づけた。〔漢書、百官公卿表上〕射聲校尉、掌二待詔射聲士一。〔注〕服虔曰、工レ射者也、冥冥中聞レ聲則中レ之、因以名也、應劭曰、須二詔所レ命而射、故曰二待詔射一也。〔謝惠連、祭二古冢一文〕射聲垂レ仁、廣漢流レ渥。

【射招】80 セキセウ 的をいる。招はまと。〔呂覽、別類〕射レ招者欲二其中小一也。〔注〕招、埻藝也、中小、謂二剖微不レ失二毫分一、射レ之工也。

【射節】81 シャセツ 射に合せて奏する樂。〔周禮、春官、大師〕大射帥レ瞽而歌二射節一。〔注〕射節、王歌二騶虞一。

【射線】82 シャセン 彈丸の進行する線。

【射戰】83 シャセン 弓を射て戰ふこと。弓の戰。〔日本外史、源氏正記、源氏下〕上レ架射、射戰良久。

【射垜】84 シャダ ❶あむづち。あづち。土を塀のやうに築いて、弓を射る的をかけるもの。射堋。〔玉篇〕垜、射垜。❷山名。河北省井陘縣の東南。秦の王翦が趙を伐つた時、此處に射垜を置いたので名づけらる。〔讀史方輿紀要、直隸、眞定府、井陘縣、城山〕井陘射垜山、在二縣東南六十里一、秦王翦伐レ趙、嘗射二垜於此一。

【射蛇】85 セキダ 南朝宋の武帝が蛇を射た故事。〔南史、宋武帝紀〕後伐二荻新洲一、見二大蛇長數丈一、射レ之傷、明日復至二洲裏一、聞レ有二杵臼聲一、往覘レ之、見下童子數人皆青衣、於二榛中一擣ヲ藥、問二其故一、答曰、我王爲二劉寄奴所レ射、合散傳レ之。〔方回、重陽吟〕射蛇馬戲老劉郞、不レ爲三乾坤滅二戰場一。

【射堂】86 シャダウ ❶弓を射る室。〔晉書、成帝紀〕帝常欲下於二後園一作中射堂上、計用二四十金一、以二勞費一乃止。〔庾信、春賦〕拂レ塵看二馬埒一、分レ朋入二射堂一。〔韻府引、隋煬帝、明下童曲〕徘徊射堂頭、望レ門不レ欲レ歸。❷字號。㋑明、吳夢暘(2－3365・・868)の號。㋺清、金史(11－40152・・488)の號。

【射團】88 セキダン 端午節に團子を射て食べる行事。〔開元天寶遺事、射團〕宮中每レ到二端午節一、造二粉團角黍一、貯二於金盤中一、以二小角一造二弓子一、纖妙可レ愛、架レ箭射二盤中粉團一、中者得レ食、蓋粉團滑膩而難レ射也、都中盛二於此戲一。

【射雉】89 セキチ 雉を射る。〔左氏、昭、二十八〕昔賈大夫惡、娶レ妻而美、三年不レ言不レ笑、御以如レ皐、射レ雉獲レ之、其妻始笑而言。

【射雉戲】90 セキチギ 雉錢を射る遊戲。〔泉志〕顧烜曰、雉錢小者徑六分、重二銖半、世有二射雉戲一、用二此錢一也。

【射雉賦】91 セキチノフ 賦の名。晉、潘岳作。〔潘岳、射雉賦、注〕善曰、射雉賦序曰、余徙二家于琅邪一、其俗實善レ射、聊以二講肆之餘暇一、而習二媒翳之事一、遂樂而賦レ之也、濟曰、岳既徙二琅邪一、其俗善射レ雉、因賦レ之、終以自戒也。

【射場】92 シャヂャウ ❶射術を習ふ所。いば。〔拾遺記、晉時事〕於二樓下一開二馬埒射場一、周廻四百步。❷バイ 姓氏。〔古抄本下學集〕。

【射場殿】93 イバドノ 古、弓を射るために皇城內に設けた所。〔江家次第、十、射場始〕射場殿欄內。

【射中】94 セキチュウ 射中てる。〔史記、項羽紀〕項王伏レ弩、射二中漢王一、漢王傷、走入二成皐一。

【射程】95 シャテイ 銃口から目標に至るまでの距離。

【射鳥】96 セキテウ 周官の名。夏官の屬。祭祀・賓客會同等に鳥を射ることを掌る。〔周禮、夏官、射鳥氏〕掌レ射レ鳥、祭祀以二弓矢一敺二烏鳶一、凡賓客會同軍旅亦如レ之。

【射潮】97 セキテウ ❶吳越の錢鏐が海塘を築かうとして潮に防げられた時、これを射ると、潮が退き、遂に其の基礎を定めた故事。〔北夢瑣言〕杭州連歲潮頭直打二羅刹石一、吳越錢尙父俾下張二弓弩一候二潮至一逆而射ヲ之、由レ是漸退、羅刹石化而爲二陸地一、遂列二廛庚一焉。〔蘇軾、八月十五日看レ潮詩〕安得二夫差水犀手一、三千彊弩射レ潮低。〔桃花扇、撫兵〕旗捲軍牙、射潮弩發鯨鯢怕。❷後漢の

馬援が廣州の海中で潮を射た故事。〔兩般秋雨菴隨筆〕廣州海中、常有レ浪、三日連レ珠而起、聲若二雷轟一、名二三口浪一、相傳、舊有二九口一、馬伏波射滅二其六一、屈翁山有二射潮歌一。

【射雕】98 セキテウ　わしを射る。雕は鷲。鷲は射落し難い鳥であることから、射の巧なことにいふ。〔史記、李將軍傳〕勒二習兵一、擊二匈奴一、中貴人將二騎數十一縱、見二匈奴三人一與戰、三人還射、傷二中貴人一、殺二其騎一且レ盡、中貴人走レ廣、廣曰、是必射レ雕者也。〔注〕集解曰、文穎曰、雕、鳥也、故使二善射者射一也、索隱曰、案、服虔云、雕、鶚也、說文云、似レ鷲黑色、多子、一名鷲。〔唐書、康承訓傳〕党項破二射雕軍洛源鎭一、悉俘二其人一。

【射雕館】99 セキテウクワン　清、應寶時(4－11330・・279)の室名。

【射鵰手】100 セキテウシユ　❶わしを射落す弓の名人。北齊の斛律光が射に巧なのを稱した語。〔北齊書、斛律光傳〕嘗從二世宗於洹橋一校獵、見二一大鳥雲表飛颺一、光引レ弓射レ之正中二其頸一、此鳥形如二車輪一、旋轉而下、至レ地乃鵰也、邢子高見歎曰、此射鵰手也。❷名手。名人。〔陳充、九僧詩序〕姚合集二群工之作一、爲二射鵰手一、今以二九上人一爲二琢玉工一。

【射的】101 シヤテキ　❶まと。射帖。〔稗史類編〕射的、俗亦曰二射帖一。〔後漢書、馬援傳、爲二天下表的一、注〕言レ爲二標準一、爲二射的一也。❷山名。會稽に在り。まとの形に似てゐるので名づく。〔水經、漸江水注〕會稽又有二射的山一、遠二望山的一、狀若二射侯一、故謂二射的一、射的之西有二石室一、名レ之爲二射堂一、年登否常占二射的一、以爲二貴賤之準一、的明則米賤、的闇則米貴、故諺云、射的白斛米百、射的玄斛米千。〔張正見、石賦〕韜二神弓于射的一、產二利劍于昆吾一。〔李白、送二紀秀才遊レ越詩〕仙人居二射的一、道士住二山陰一。❸セキテキ　まとを射る。〔韓非子、內儲說上〕李悝爲二魏文侯上地之守一、而欲二人之善射一也、乃下レ令曰、人之有二狐疑之訟一者、令二之射レ的、中レ之者勝、不レ中者負。

【射的場】102 シヤテキヂヤウ　陸軍で小銃の射擊を練習するところをいふ。

【射帖】103 シヤテフ　❶まと。射的の❶を見よ。❷セキテフ　まとを射る。〔孫伏伽、諫二馬射一表〕臣竊聞、陛下猶自走レ馬射レ帖、娛二樂近臣一、此乃無禁乘危、竊爲二陛下一有レ所レ不レ取也、何者、一則非レ光二史册一、二則未レ足二顯揚一、又非四所三以遵二養聖躬一、亦不レ可三以垂二範後代一。

【射天】104 セキテン　啇(殷)王の武乙が革囊を作つて血を盛り、之を天神として仰いで射て僇辱した故事。又、戰國、宋の康王が韋囊に血を盛つて、懸けて天を射るに擬して之を射て僇辱した故事。〔史記、殷紀〕帝武乙無道、爲二偶人一、謂二之天神一、與レ之博、令二人爲行一、天神不レ勝、乃僇二辱之一、爲二革囊一盛レ血、仰而射レ之、命曰レ射レ天。〔史記、宋微子世家〕君偃十一年、自立爲レ王、云云、盛レ血以二韋囊一、縣而射レ之、命曰レ射レ天。

【射田】105 シヤデン　中古、射藝奬勵のために諸衞府に充て置いた不輸租田。射騎田。〔續日本紀、十九〕天平勝寶六年十月己卯、仰二畿內七道諸國一、令レ置二射田一。

【射筒】106 シヤトウ　竹の一種。節が無く、射筒ヤヅツを作るに適す。〔左思、吳都賦〕其竹則篔簹箖箊、桂箭射筒。〔注〕劉曰、射筒、竹細小通長、長丈餘、無レ節。〔異物志〕射筒、竹細小、通長無レ節、出二交趾一。

【射法】107 シヤハフ　❶弓を射る法。〔周禮、夏官、射人〕以二射灋一治二射儀一。〔漢書、鼂錯傳〕習二民於射法一。❷鐵砲をうつ法。

【射乏】108 ヤフセギ　板・革等で衝立の如く作り、的の邊に立てて矢を防ぐに用ひるもの。〔倭名類聚抄、術藝部、雜藝類、射乏〕夜布世岐、以レ革爲レ之、護執旍者之禦レ矢也。

【射夫】109 セキフ　弓を射る人。射手。〔詩、小雅、車攻〕射夫既同、助レ我擧レ柴。

【射覆】110 セキフ　❶物を覆うて其の何物なるかを中てる法。あてもの。〔漢書、東方朔傳〕上嘗使二諸數家射覆一、置二守宮盂下一射レ之、皆不レ能レ中。〔注〕於二覆器之下一置二諸物一、令三闇射二之一、故云二射覆一。❷酒令(11－39776・・317)の一。〔酒令叢鈔〕今酒座所謂射覆、又名二射雕覆一者、以二上一字一爲レ雕、下一字爲レ覆、設二注意酒字一、則言二春字漿字一、使二人射一レ之、蓋言二春酒、酒漿一也、射者言二某字一、彼此會意也。

【射服】111 シヤフク　えびら。服は箙。〔史記、衞康叔世家〕去射二鴻於囿一、二子從レ之、公不レ釋二射服一與レ之言、二子怒如レ宿。

【射屛】112 セキヘイ　唐の高祖が孔雀屛を射て竇毅の女を娶つた故事。射雀(66)の❷を見よ。〔剪燈餘話、瓊奴傳〕古人有二射レ屛牽レ絲設レ席等事一。

【射父】113 シヤホ　麝香獸。かをりじか。〔本草、麝〕釋名、射父、香麞。

【射堋】114 シヤホウ　土を築いて的を懸けるもの。あづち。射垜。〔資治通鑑、宋紀〕順帝昇明元年、領軍腹大、是佳二射堋一。〔注〕射堋、今言二射垜一也。

【射罔】115 シヤマウ　毒藥の名。烏頭の煎汁。矢につけて禽獸を殺すに用ひる。〔本草、烏頭〕釋名、烏喙・草烏頭・土附子、汁煎名二射罔一、集解、弘景曰、今采用二四月一、亦以二八月一、采擣二搾莖汁一、日煎爲二射罔一、獵人以傅レ箭射二禽獸一、十步卽倒、中レ人亦死。

【射陽】116 シヤヤウ　❶湖の名。江蘇省寶應縣の東。湖の西北を淮安といふ。鹽城・阜寧・寶應と界を分つ。古の射陂。〔漢書、廣陵厲王胥傳〕相勝之奏奪二王射陂草田一、以賦二貧民一。〔注〕張晏云、射水之陂、在二射陽縣一。❷縣名。漢、置く。江蘇省淮安縣の東南。〔漢書、地理志上〕臨淮郡、縣二十九、射陽。

【射狼】117 セキラウ　後唐の宮中で狼を射たこと。射は石に通じるので、晉の石氏が起る讖とした。〔五代史補〕晉高祖尙二唐明宗女一、謂二之石郞一、及レ將レ起レ兵、時宮中多レ狼、命二諸班能レ射者一、分投捕逐、謂二之射狼一、未レ幾高祖至、蓋射、亦石也。

【射利】118 セキリ　利益を目あてとする。利益のみに目をかける。〔唐書、食貨志四〕江淮豪賈射レ利、或時倍レ之。〔朱熹、陳師德墓誌銘〕士不レ知レ學、或者務爲二剽掠纂組之工一、以希レ名射レ利。

【射柳】119 セキリウ　古の遊戲の名。端午の日に柳の枝を毬場にめぐらし、馬を馳せて之を射るもの。〔演繁露〕射柳、本古之躤柳、折レ柳環二插毬場一、軍士馳レ馬射レ之、其鏃甚闊、射レ之卽斷。

【射陵】120 シヤリヨウ　清、宋曹(3－7078・・102)の號。

【射陵逸史】121 シヤリヨウイツシ　清、宋曹(3－7078・・102)の號。

【射禮】122 シヤレイ　❶弓を射る禮式。大射・賓射・燕射・鄕射の四禮がある。❷ジヤライ　古、正月十七日、建禮門で、親王以下五位以上、並びに六衞府の者共に行はしめた弓術の公事。〔續日本紀〕天平寶字四年正月己卯、饗二文武百官主典已上於朝堂一、是日內射、因召二蕃客一、令レ觀二射禮一。

【射獵】123 シヤレフ　弓を射て鳥獸を捕へること。〔史記、匈奴傳〕使二萬民耕織射獵衣食一。〔漢書、賈山傳〕馳敺射獵。〔新書、數寧〕射獵之娛與二安危之機一。

【射和】124 イザワ　伊勢國の地名。

【射鬼箭】125 セキキセン　遼の酷刑。人を縛し、叢射して之を斃す。敵の間諜を捕へたとき、多く此の刑を用ひた。〔遼史、刑法志上〕又爲二梟磔・生瘞・射鬼箭・砲擲・支解之刑一。

【射橋集】126 シヤケウシフ　地名。河南省汝南縣の東北。舊名、射子鎭。〔清一統志〕九域志、汝陽有二射子鎭一、今縣東五十里射橋集、卽射子鎭。

【射踏子】128 シヤタフシ　ゆがけ。射沓。轉じて、たこの異名。ゆがけに似るから名づける。〔嶺表錄異〕章擧有二小者一、兩足如レ帶、曝乾後、似二射踏子一、故南人呼爲二射踏子一。

【射分錢】129 シヤフンセン　弓場始めの儀式の時、臣下から獻ずる金錢。〔雲圖抄、下〕弓場始次第、云云、次獻二射分錢一。

【射目人】131 イメビト　❶狩に弓を射る人。又、其の群。〔播磨國風土記、揖保郡〕立二射目人於餝磨射目前一。❷イメビトノ　ふしみ(伏見)の枕詞。〔萬葉集、九〕いめ人の伏見が田井。

【射熊館】132 セキユウクワン　漢の別館の名。長楊宮中にある。〔漢書、揚雄傳下〕載以二檻車一、輸二長楊射熊館一。〔三輔黃圖、一、秦宮〕長楊宮、在二今盩厔縣東南三十里一、本秦舊宮、云云、宮中有二乘楊數畝一、因爲レ宮名レ門曰二射熊觀一、秦漢游獵之所。

【射鷹樓】133 セキヨウロウ　清、林昌彝(6－14551・・350)の室名。

【射幸數跌】134 セキカウハシバシバツマツク　僥倖を賴んで射る矢は、あたらないことが多い。〔蜀志、譙周傳〕諺曰、射幸數跌、不レ如二審發一。

【射匱可汗】135 シヤキカカン　唐の時の西突厥の主。達頭可汗の孫。土宇を開拓し、玉門以西の諸國は皆之に役屬した。〔唐書、二百十五〕。

【射鵰都將】136 シヤシトシヤウ　魏の拓跋幹をいふ。射に長じ、嘗て太宗の出遊に從ひ、雙鵰を射たので此の稱を得た。〔魏書、秦明王翰傳〕良弟幹、機悟沈

勇、善㆓弓馬㆒、少有㆓父風㆒、太宗卽位、拜㆓內將軍都將㆒、入㆓備禁中㆒、太宗出㆓遊於白登之東北㆒、幹以㆑騎從、有㆓雙鵰㆒飛㆓鳴於上㆒、太宗命㆓左右㆒射㆑之、莫㆓能中㆒、鵰旋飛稍高、幹自請射㆑之、以㆓二箭㆒下㆓雙鵰㆒、太宗嘉㆑之、賜㆓御馬弓矢金帶一㆒、以旌㆓其能㆒、軍中於㆑是號曰㆓射鵰都將㆒。

【射石飲羽】137（セキセキインウ） 石を虎と思つて射たところ、やばねまで沒したこと。楚の熊渠子・養由基、漢の李廣・北周の李遠の故事。熱誠の心は何事をも成就する喩。〔論衡、儒增〕儒書言、楚熊渠子出見㆓寢石㆒、以爲㆓伏虎㆒、將㆑弓射㆑之、矢沒㆓其衞㆒、或曰、養由基見㆓寢石㆒、以爲㆑兕也、射㆑之矢飲㆑羽、或言、李廣、熊渠・養由基・李廣、主名不㆑審、無㆑實也、或以爲㆑虎、或以爲㆑兕、兕虎俱猛、一實也、或言㆑沒㆑衞、或言㆑飲㆑羽、羽則衞、言不㆑同耳、要取㆘以㆓寢石似㆒虎兕㆒、畏懼加㆑精、射㆑之入深㆖也、夫言㆘以㆓寢石㆒爲㆑虎、射㆑之矢入㆖可也、言㆓其沒㆑衞、增㆑之也。〔陔餘叢考、射石沒羽有㆓四人㆒〕北史、李遠出獵、有㆑石在㆓叢薄中㆒、疑爲㆓伏虎㆒射㆑之、鏃入寸餘、視㆑之乃石。

【射澤老農】138（シヤタクラウノウ） 宋、廉布(**4**−9436··101)の「號。

【射賓之圃】139（シヤヒンノホ） 來賓の弓を射る場所。〔歐陽脩、眞州東園記〕敞㆓其中㆒、以爲㆓清讌之堂㆒、闢㆓其後㆒、以爲㆓射賓之圃㆒。

【射不㆑主㆑皮】140（シヤハヒヲシユトセズ） 射はただ皮に中るを以て善とせず、兼ねて和容を尙ぶをいふ。一說に、ただ中るを主として、革を貫くを主とせざるをいふ。皮は、まとの中央に張る革。〔儀禮、鄉射禮〕禮射不㆑主㆑皮、主㆑皮之射者、勝者又射、不㆑勝者降。〔注〕禮射、謂㆘以㆓禮樂㆒射㆖也、大射・賓射・燕射、是矣、不㆑主㆑皮者、貴㆘其容體比㆓於禮㆒、其節比㆗於樂㆖、不㆑待㆑中爲㆑雋也。〔論語、八佾〕子曰、射不㆑主㆑皮、爲㆓力不㆑同㆑科、古之道也。〔集解〕馬融曰、射有㆓五善㆒焉、一曰和志、體和也、二曰和容、有㆓容儀㆒也、三曰主皮、能中㆑質也、四曰和頌、合㆓雅頌㆒也、五曰興武、與㆑舞同、天子三侯、以㆓熊虎豹皮㆒爲㆑之、言、射者不㆘但以㆓中皮㆒爲㆖善、亦兼取㆓和容㆒也。〔集注〕射不㆑主㆑皮、鄉射禮文、爲㆓力不㆑同㆑科、孔子解㆑禮之意如㆑此也、皮、革也、布㆑侯而棲㆓革於其中㆒以爲㆑的、所謂鵠也、科、等也、古者射以觀㆑德、但主㆓於中㆒、而不㆑主㆓於貫㆑革、蓋以㆘人之力有㆓強弱㆒不㆖㆑同㆑等也、記曰、武王克㆑商、散㆑軍郊射、而貫革之射息、正謂㆑此也、周衰禮廢、列國兵爭、復尙㆑貫㆑革、故孔子歎㆑之。〔劉寶楠正義〕凡禮射主㆑皮、但主㆓於中㆒、不㆑尙㆓貫革㆒、故鄉射禮不㆑貫不㆑釋、鄭注、貫、猶㆑中也、明㆓中卽是貫㆒、非㆑如㆔賈疏以爲㆓貫穿㆒也、不㆑貫不㆑釋、爲㆓主皮㆒、若不㆑主㆑皮者、則以㆓人力或弱㆒、不㆑能㆑及㆑侯、則不㆑中㆑皮、而比㆓於禮樂㆒、亦必取㆑之也、樂記言、武王克㆑殷、貫革之射息、此車射貫穿、不㆑可㆔以說㆓禮射㆒。

【射姑仙人侍者】141（シヤコセンニンジシヤ） 清、孫原湘(**3**−6987··395)の號。

【尅】7435 コク 剋(**2**−2009)に同じ。〔正字通〕尅、同㆑剋。

參考 熟語は剋(**2**−2009)を見よ。

【㝵】7436 トク 得(**4**−10137)の古字。〔玉篇〕㝵、古文得。

【将】7437 シヤウ 將(**4**−7438)に同じ。〔中華大字典〕将、同㆑將、韓勅碑陰、孔宙季將。

【将】7437′ シヤウ 將(**4**−7438)の略字。

八畫

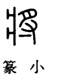
【將】7438

一 シヤウ サウ 〔集韻〕資良切 ㄐ一ㄤ chiang¹ 陽

二 シヤウ サウ 〔集韻〕卽亮切 ㄐ一ㄤˋ chiang⁴ 漾

三 ヤウ 〔集韻〕余章切 陽

四 シヤウ サウ 〔集韻〕子兩切 養



小篆

一 ❶**まさに云云せんとす。**近く豫想する辭。且(**1**−29)に同じ。〔集韻〕將、有㆑漸之辭也。〔經傳釋詞、八〕將、論衡知實篇曰、將者、且也、常語也。〔古書虛字集釋〕將、幾然、尙未㆑然之詞也。〔易、繫辭上〕是以君子將㆑有㆑爲也、將㆑有㆑行也。〔儀禮、士喪禮、重鬲、注〕鬲、將㆑縣㆓於重㆒者也。〔疏〕以㆓其事未㆑至、故言㆑將也。〔禮、檀弓下〕斯道也將㆑亡矣。〔疏〕將㆑亡者、未㆑絕之辭。〔漢書、兒寬傳〕將㆑建㆓大元本瑞㆒。〔注〕蘇林曰、將、甫始之辭也。〔讀書作文譜、文中用字法〕將、未㆑然而將㆑然則用㆑之。❷**まさに云云すべし。**當の意。〔古書虛字集釋〕將、猶㆑當也。〔左氏、隱、三〕君㆑人者將㆓禍是務去㆒。〔左氏、襄、三十〕王子相㆓楚國㆒、將㆓善自封殖㆒。❸**なんぞ。**何の意。〔古書虛字集釋〕將、猶㆑何也。〔左氏、昭、三〕將得㆑已乎。〔說苑、貴德〕夫以㆓一麑㆒而不㆑忍、又將能忍㆓吾子㆒乎。❹**なほ。**尙の意。〔古書虛字集釋〕將、猶㆑猶也、尙也。〔列子、說符〕既爲㆑盜矣、仁將焉在。❺**ただ。**惟の意。〔古書虛字集釋〕將、猶㆑惟也。〔左氏、襄、三〕寡人將君是望。❻**もし。**あるひは。若の意。〔古書虛字集釋〕將、猶㆑如也、若也。〔左氏、昭、二十七〕令尹將必來辱、爲㆑惠已甚。❼**これ。**此の意。〔古書虛字集釋〕將、猶㆑此也。〔左氏、昭、十二〕將何事也、且可㆑飾乎。❽**それ。**輕く感動する辭。〔經傳釋詞、八〕將、猶㆑其也、隱元年左傳曰、君將若㆑之何、莊十四年傳曰、君其若㆑之何、成二年傳曰、國將若㆑之何、昭十二年傳曰、國其若㆑之何、其義一也、將與㆑其同義、故二字可㆓以互用㆒。❾**はた。また。そも。そも。あるひは。**轉換する辭。〔玉篇〕將、或也。〔經傳釋詞、八〕將、猶㆑抑也。〔孟子、滕文公上〕將爲㆓君子㆒焉、將爲㆓野人㆒焉。〔楚辭、卜居〕吾寧悃悃款款以忠乎、將送㆑往勞㆑來斯無㆑窮乎。❿**すなはち。そこで。**乃の意。〔經傳釋詞、八〕將、猶㆑乃也、宣六年左傳曰、使㆘疾㆓其民㆒以盈㆗其貫㆖、將可㆑殪也、墨子尙賢篇曰、云云、然后國之善㆓射御㆒之士、將可㆓得而衆㆒也、將字竝與㆑乃同義。⓫**ほとんど。**〔孟子、滕文公上〕今滕絕㆑長補㆑短、將五十里也。⓬**かつ。**且の意。〔詩、小雅、谷風〕將恐將懼。〔箋〕將、且也。〔莊子、知北遊〕夫道窅然難㆑言哉、將爲㆑汝言㆓其崖略㆒。⓭**と。**與の意。〔古書虛字集釋〕將、猶㆑與也。〔說苑、辨物〕賜欲㆑知㆓死人有㆔知將㆓無知㆒也。〔庾信、春賦〕眉將㆑柳而爭㆑綠、面共㆑桃而競㆑紅。⓮**て。しかうして。**而の意。〔古書虛字集釋〕將、猶㆑而也。〔孟子、滕文公上〕使㆓民盻盻然將終歲勤動㆒。〔戰國、魏策〕君之㆑楚、將奚爲㆓北面㆒。⓯**ともに。ともなふ。**〔增韻〕將、與偕也。〔左氏、莊、二十一〕鄭伯將㆑王、自㆓圉門㆒入。⓰**もつて。もちひて。もちひる。**〔古書虛字集釋〕將、猶㆑以也。〔戰國、秦策〕蘇秦始將㆓連橫㆒、說㆓秦惠王㆒。〔李商隱、雜纂、不㆑達㆓時宜㆒〕將㆓主人酒食㆒作㆓人情㆒。⓱**ねがはくは。ねがふ。**〔詩、衞風、氓〕將子無㆑怒。〔傳〕將、願也。⓲**なす。**爲の意。〔古書虛字集釋〕將、猶㆑爲也。〔論語、子罕〕固天縱㆑之將㆑聖。〔呂覽、誠廉〕吾聞、西方有㆓偏伯㆒焉、似㆑將㆓有道者㆒。⓳**うる。**得の意。〔古書虛字集釋〕將、猶㆑得也、左傳襄二十七、求㆓逞志㆒而棄㆑信、志將㆑逞乎。〔陶潛、神釋詩〕日

醉或能忘、將㆑非㆓促齡具㆒。〔李商隱、碧城詩〕收㆓將鳳紙㆒寫㆓相思㆒。⓴**たすける**。〔廣雅、釋言〕將、扶也。〔詩、周南、樛木〕福履將㆑之。〔箋〕將、猶㆓扶助㆒也。〔詩、商頌、烈祖〕我受㆑命溥將。〔箋〕將、猶㆑助也。㉑**まもる**。〔漢書、兒寬傳〕寬爲㆑人溫良有㆑廉、知㆓自將㆒。〔注〕師古曰、將、衞也。㉒**おくる**。〔爾雅、釋詁〕將、送也。〔詩、召南、鵲巢〕百兩將㆑之。〔傳〕將、送也。㉓**すすむ**。〔詩、周頌、敬之〕日就月將。㉔**すすめる**。〔詩、小雅、無將大車〕無㆑將㆓大車㆒。〔箋〕將、猶㆓扶進㆒也。㉕**やる**。〔史記、田叔傳〕爲㆑人將㆑車。〔注〕索隱曰、將㆑車、猶㆑御㆑車也。㉖**いたす**。〔儀禮、聘禮記〕束帛加㆑書將㆑命。〔注〕將、猶㆑致也。㉗**つたへる**。〔儀禮、士相見禮〕請還㆓贄於將㆑命者㆒。〔注〕將、猶㆑傳也。㉘**行ふ**。〔書、允征〕奉㆓將天罰㆒。〔傳〕將、行也。㉙**ささげる**。〔周禮、春官、小宗伯〕以㆑時將㆓瓚祼㆒。〔注〕將、猶㆑奉也。㉚**とる**。〔爾雅、釋言〕將、資也。〔荀子、成相〕吏謹將㆑之。㉛**もつ**。〔荀子、成相〕吏謹將㆑之無㆓鈹滑㆒。〔注〕將、持也。㉜**やしなふ**。〔詩、大雅、桑柔〕天不㆓我將㆒。〔箋〕將、養也。〔呂覽、音律〕以將㆓陽氣㆒。〔注〕將、養也。㉝**さる**。〔荀子、賦〕聖人共手、時幾將矣。〔注〕將、去也。㉞**したがふ**。〔莊子、庚桑楚〕備㆑物以將㆑形。〔釋文〕將、順也。〔漢書、禮樂志〕九夷賓將。〔注〕師古曰、將、猶㆑從也。㉟**のぞむ**。**ほつする**。〔廣雅、釋詁一〕將、欲也。㊱**こふ**。〔詩、小雅、正月〕將㆑伯助㆑予。〔傳〕將、請也。㊲**さからふ**。〔漢書、叔孫通傳〕人臣無㆑將。〔注〕臣瓚曰、將、謂㆑爲㆓逆亂㆒也。㊳**ととのへる**。**たつ**。戕(**5-11562**)に通ず。〔說文通訓定聲〕將、叚借爲㆑戕。〔詩、小雅、楚茨〕或肆或將。〔傳〕將、齊也。㊴**すべる**。〔集韻〕將、領也。㊵**老いる**。〔太玄經、玄衝〕盛壯、將老也。㊶**大きい**。奘(**3-5928**)に通ず。〔說文通訓定聲〕將、叚借爲㆑奘。〔爾雅、釋詁〕將、大也。〔方言、一〕將、大也、燕之北鄙、齊楚之郊、或曰㆑將。〔詩、豳風、破斧〕亦孔之將。〔傳〕將、大也。㊷**さかん**。壯(**3-5643**)に通ず。〔說文通訓定聲〕將、叚借爲㆑壯。〔詩、小雅、北山〕鮮我方將。〔傳〕將、壯也。㊸**うつくしい**。〔廣雅、釋詁一〕將、美也。㊹**ながい**。〔楚辭、嚴忌、哀時命〕哀㆓余壽之弗㆒㆑將。〔注〕將、猶㆑長也。㊺**ほとり**。傍(**1-948**)に通ず。〔說文通訓定聲〕將、叚借爲㆑傍。〔詩、大雅、皇矣〕在㆓渭之將㆒。〔傳〕將、側也。㊻**みづ**。漿(**7-18185**)に通ず。〔周禮、春官、鬯人、山川四方用㆑蜃、注〕蚌曰㆓合將㆒也。〔釋文〕將、本又作㆑漿。㊼**めひつじ**。牂(**7-19774**)に通ず。〔禮、內則〕炮取㆓豚若將㆒。〔注〕將、當㆑作㆑牂、牂、牡羊也。㊽**純色でない玉の名**。［三］を見よ。㊾古、⿰爿手(**5-11844**)に作る。〔玉篇〕⿰爿手、今作㆑將、㊿**姓**。〔通志、氏族略、平聲〕將氏、石趙堂山太守將容、見㆓姓苑㆒、又有㆓將先生㆒、出㆓道語㆒。［二］❶**ひきゐ手**。引率者。〔說文〕將、帥也、从㆑寸醬省聲。〔呂覽、執一〕軍必有㆑將。〔注〕將、主也。❷**ひきゐる**。〔史記、秦始皇紀〕將㆑軍擊㆑趙。〔注〕正義曰、將、猶㆑領也。❸**君**。〔廣雅、釋詁一〕將、君也。［三］**純色でない玉の名**。〔周禮、考工記、玉人〕伯用㆑將。〔注〕將、雜名也。〔疏〕雜名者、謂㆓玉之雜名㆒、此亦含㆓雜色㆒。〔釋文〕司農音、將如㆑字、劉音陽。［四］**すすめる**。奬(**3-5997**)に同じ。〔集韻〕奬、勸也、助也、或作㆑將。

［名乘］スケ。ノブ。マサ。モチ。ユキ。

【將愛】1 シャウアイ　やしなひ大切にする。保養。〔魏志、華佗傳〕好自將愛、一年便健。

【將位】2 シャウヰ　大將の位。〔史記、天官書〕後聚一十五星蔚然、曰㆓郎位㆒、傍一大星、將位也。

【將威】3 シャウヰ　六韜、龍韜の篇名。

【將引】4 シャウイン　助け引く。〔剪燈餘話、芙蓉屛記〕煢嫠賴㆓將引㆒、芙蓉顏色嬌。

【將印】5 シャウイン　大將の印璽。〔舊唐書、王忠嗣傳〕佩㆓四將印㆒、控㆓制萬里㆒、勁兵重鎭皆歸㆓掌握㆒。

【將于】6 シャウウ　樂器の名。形は瓦缶に似、簴に懸け、上に獸形をした蓋の如きものがある。周官に見える錞于の變體であるといふ。〔文獻通考、樂考、金之屬〕周官有㆓錞于之制㆒、蓋樂作則鳴㆑之、與㆑鼓相和、五代後周已亡㆓其制㆒、將于蓋當時宮縣內無㆑算、樂中用㆑之、豈錞于之變體歟。〔注〕形如㆓瓦缶㆒、以㆑簴縣㆑之、上有㆓獸形㆒如㆑蓋。

【將家】7 シャウカ　❶將軍の家柄。〔史記、項羽紀〕項氏世世將家、有㆑名㆓於楚㆒。〔周曇、張軌詩〕益信用㆑賢由㆓拔擢㆒、穰苴不㆓是將家生㆒。❷一家をひきつれる。〔元結、賊退示㆓官吏㆒詩〕將㆑家就㆓魚麥㆒、歸老江湖邊。

【將家子】8 シャウカノコ　大將の家の子。〔晉書、石弘載記〕大雅愔愔、殊不㆑似㆓將家子㆒。〔通俗編、武功、將家子〕五代史唐家人傳、明宗謂㆓從榮㆒曰、汝將家子、文章非㆓素習㆒、必不㆑能㆑工。

【將行】9 シャウカウ　❶行列をとりしまる役目。〔韓非子、內儲說上〕中山之將樂池、以㆓車百乘㆒使㆑趙、選㆘其客之有㆓智能㆒者㆖、以爲㆓將行㆒、中道而亂。〔注〕將㆓主行道㆒之人、以爲㆓行位㆒。❷官名。秦、置き、漢の景帝に至つて大長秋と改めた。皇后宮を掌る。〔漢書、百官公卿表上〕將行秦官、景帝中六年、更㆓名大長秋㆒、或用㆓中人㆒、或用㆓士人㆒。〔注〕應劭曰、皇后卿也。

【將校】10 シャウカウ　❶軍隊の指揮官。軍官の總稱。〔史記、吳王濞傳〕諸賓客皆得㆑爲㆓將校尉侯司馬㆒。〔後漢書、王允傳〕公卿將校。❷少尉以上の武官の總稱。

【將校生徒】11 シャウカウセイト　もと士官學校・兵學校等で將來將校たるべき教育を受けた生徒。

【將校斥候】12 シャウカウセキコウ　將校を長とする斥候。

【將校偵察】13 シャウカウテイサツ　將校が敵の模樣をさぐること。

【將器】14 シャウキ　大將たるべき器量。又、其の人。〔心書、將器〕將之器、其用大小不㆑同。

【將棊】15 シャウギ　二人で將棊盤に相對し、各〻同數の將棊駒を並べて、交互に駒を鬪はし、早く相手の王將を擒にした方を勝とする一種の遊戲。將棊駒・將戲を見よ。〔園大曆〕大炊御門大納言入道、同入來有㆓將棊興㆒。

【將棊駒】16 シャウギノコマ　將棊をさすに用ひる小片。王將・角行・飛車各〻一個づつ、金將・銀將・桂馬・香車各〻二個づつ、步兵九個の二組。將戲を見よ。

【將棊倒】17 シャウギダフシ　將棊駒を少しづつ閒を隔てて一行に並べ立て、其の一端を推して次第に崩し倒す遊戲。轉じて、一方が崩れるにつれ、全體の崩れ倒れること。〔太平記、二十七、田樂事〕田樂の將棊倒しの棧敷には。

【將棊盤】18 シャウギバン　將棊をさすに用ひる盤。盤面上に縱橫各〻九行、合はせて八十一の枡目がある。將戲を見よ。

【將戲】19 シャウギ　將棊に同じ。〔和漢三才圖會、嬉戲類、將戲〕按、將戲、未㆑知㆑肇㆓於何世㆒、不㆑載㆓倭名抄㆒、蓋近世盛行矣、而此與㆓中華象戲㆒大異也、其方罫縱橫各九閒、總計八十一、馬數四十枚、一方王加㆑點如㆓玉字㆒、金將極官、在㆓左右㆒、銀將亞㆑之、飛車如㆓大將㆒、角行如㆓副將㆒、前三閒爲㆓我陣㆒、向三閒爲㆓敵陣㆒、如入㆓敵陣㆒者、銀將以下至㆓步兵㆒、皆飜成㆑金、飛車成㆓龍王㆒、角行成㆓龍馬㆒、唯金將極官、故不㆑易耳、凡擒㆓捕敵馬㆒、復用爲㆓我黨㆒、故千變萬化無㆑盡也。

【將鉅】20 シャウキョ　複姓。〔尙友錄〕將鉅姓、將鉅卽將具氏之訛也。

【將鉅子】21 シャウキョシ　戰國の人。著に將鉅子五篇がある。〔漢書、藝文志〕。

【將御】22 シャウギョ　すべをさめる。統御(**8-27447··14**)に同じ。〔資治通鑑、漢紀〕(獻帝、初平二年)承㆑

制以レ馥爲二奮威將軍一、而無レ所二將御一。〔注〕將御、猶レ言二統御一也。

【將近】23 chiang¹ chin⁴ ㊀程なく。すぐに。㊁殆ど云云になる。

【將具】24 シヤウグ 複姓。〔通志、氏族略、以レ名爲レ氏〕將具氏、姜姓、英賢傳、齊太公子將具之後、見二國語一。

【將官】25 シヤウクワン 舊陸海軍の武官で、大將・中將・少將の總稱。

【將軍】26 シヤウグン ㊀一軍の總大將。㋑中國に於ては、古代は專官が無く、漢代、始めて左右・前後・車騎・驃騎等の號を加へたが、常置せず。而して大司馬大將軍は國の執政で最も權位が高かつた。晉の諸州の刺史は多く將軍を以て充て軍事を都督した。南北朝の將軍は名號が尤も多い。唐以後は上將軍・大將軍・將軍を置き、並びに環衞の官、及び武職の官階とした。清は東三省に三將軍、伊犁に一將軍、其の他江甯・荊州・福州・杭州・山西・西安・寧夏・成都に八將軍を置いて地方の軍政を掌つた。民國に至つて上將・中將・少將と改め、ついで將軍府を設けて大總統に直屬し、軍政を會議し、陸海軍を檢閱する。〔孟子、告子下〕魯欲レ使三愼子爲二將軍一。〔管子、立政〕將軍大夫以朝。〔老子、三十一〕是以偏將軍處レ左、上將軍處レ右。〔墨子、天志上〕有二將軍大夫一之、將軍大夫竭レ力從レ事。〔史記、馮唐傳〕將軍制レ之。〔漢書、百官公卿表上〕元狩四年、初置二大司馬一以冠二將軍之號一。〔通典、職官典、武官上、將軍總敍〕三代之制、天子六軍、其將皆命卿、故夏書曰、大戰二於甘一、乃召二六卿一、蓋古之天子寄二軍政於六卿一、居則以田、警則以戰、所謂入使レ理レ之、出使レ長レ之之義、其職在レ國、則以二比長・閭胥・族師・黨正・州長・鄕大夫一爲レ稱、其在レ軍、則以二卒伍司馬將軍一爲レ號、所三以異二軍國之名一、諸侯之制、大國三軍、次國二軍、小國一軍、其將亦命卿也、晉獻公初作二二軍一、公將二上軍一、則將軍之名起二於此一也、魏獻子衞文子並居二將軍之號一、自二戰國一置二大將軍一、周末又置二前後左右將軍一、至レ秦將軍之言多矣、漢興置二大將軍・驃騎將軍一、位次二丞相一、車騎將軍・衞將軍・左右前後將軍、皆金印紫綬、位次二上卿一、掌二京師兵衞、四夷屯警一、孝武征二閩越東甌一、又有二伏波・樓船一、及レ伐二朝鮮・大宛一、復置二横海・度遼・貳師一、宣帝增以二蒲類破羌一、權時之制、若レ此非レ一、亦不二常設一、光武中興、諸將軍皆稱レ大、及二天下已定一、武官悉省、四征興二於漢代一、四安起二於魏初一、四鎭通二於柔遠一、四平止二於喪亂一、云云、大唐武德初、秦王既平二王世充及竇建德一、高祖以下秦王功殊二今古一、自レ昔位號、不上足二以爲レ稱、乃特置二天策上將軍一以拜焉、位在二王公上一、及レ升二儲宮一、遂廢二天策府一、二年七月、高祖以丁天下未レ定、事資二武力一、將丙舉二關中之衆一、以臨乙四方甲、乃置二十二軍一、分二關中諸府一以隸焉、每軍將一人、副一人、取二威名素重者一爲レ之、督二耕戰之備一、自レ是士馬強勁、無レ敵二於天下一、五年省、七年以二突厥寇掠一、復置二十二軍一、後又省レ之、其後定レ制、有二左右衞・左右驍・左右武・左右威・左右領軍・左右金吾・左右監門・左右千牛凡十六衞一、大將軍各一人、將軍總三十人、左右羽林・左右龍武・左右神武六軍、大將軍各一人、將軍各三人、皆有二衞署一、其餘驃騎・輔國・鎭軍・冠軍四大將軍、雲麾・勇武・壯武・宣威・明威・定遠・寧遠・游騎・游擊等九將軍、並爲二五品以上武散官一。〔事物紀原、環衞中貴部、將軍〕周禮、天子六軍、軍萬二千五百人、其將皆命卿、蓋在レ國稱二大夫一、在レ軍稱二將軍一、自三晉獻公作二二軍一、而公將二上軍一、故將軍之名、特出二於此一、左傳閻沒汝寬偕謂二魏獻子一爲二將軍一、後漢百官志云、初漢武將軍始レ自二秦晉一、以爲二卿號一、七國皆有二其事一。〔歷代職官表、各省駐防將軍等官、國朝官制〕西安將軍一人、副都統二人。㋺我が國に於ては、勅命を奉じて軍隊を率ゐ、叛徒を討伐し、又は外夷を征服する職名。初め四道將軍・陸奥鎭東將軍等のやうに其の職掌を冠稱したが、源賴朝が征夷大將軍に任ぜられて以來、將軍は征夷大將軍の專稱となり、幕府主宰の常職となつた。明治以後は陸・海軍の將官をいふ。㊁植物の名。荔枝の一種。〔宋玨、荔枝譜、述蔡〕浪齋便錄曰、蔡君謨守レ泉日、書二荔枝譜於安靜堂一、有二鄭熊者一、亦記二廣中荔枝凡二十二種一、以附二蔡譜之末一、曰玉英子、曰焦核、曰沈香、曰丁香、曰紅羅、曰透骨、曰牂牁、曰僧耆頭、曰水母子、曰蒺藜、曰大將軍、曰小將軍、曰大獵、曰小蠟、曰松子、曰蛇皮、曰青荔枝、曰銀荔枝、曰不意子、曰火山、曰野山、曰五色荔枝。〔蔡襄、荔枝譜〕將軍荔枝、五代間、有下爲二此官一者上種レ之、後人以二其官一號二其樹一、而失二其姓名之傳一、出二福州一。㊂山名。㋑福建省雲霄縣の西。山の形が挺拔で、大將が帷幄に據るに似てゐるので名づく。〔讀史方輿紀要、福建、漳州府、漳浦縣〕雲霄山、縣西八十里、以三高聳二雲漢一而名、舊志、山形端重、一作二大臣山一、亦名二大神山一、其據二漳水北岸一、與二大臣一相對者、曰二將軍山一、山形挺拔、如三大將據二幃幄中一也、宋蔡如松云、古閩越王號二力騶等一爲二呑漢將軍一、使下之南據二險要一以拒上漢、因名。㋺湖南省澧縣の東南。山上の紀信廟は漢の紀信の居つた所と傳ふ。〔讀史方輿紀要、湖廣、岳州府、澧州、大浮山〕將軍山在二州南六十里一、志云、高一百餘丈、同三十里、相傳、漢紀將軍信曾寓二於此一。㋩湖南省益陽縣。アンチモニーを產した。㋥陝西省澄城縣の北。白起が邑を食んだ所といふ。〔讀史方輿紀要、陝西、西安府、同州、澄城縣、壺梯山〕又十里爲二將軍山一、秦封二白起武安君於此一、因名。㊃寨の名。山西省晉城縣の西南。宋の紹興中、岳飛が張所の部將となり、新鄕を復し、轉戰して大いに捷つた後、梁興をして河を渡つて敵を沁水に破らしめ、此の寨を築かせた。㊄複姓。〔通志、氏族略、以レ官爲レ氏〕將軍氏、世本、衞靈公子昭生レ郢、郢生レ文、文生二才芳一、爲二將軍氏一。

【將軍家】27 シヤウグンケ 幕府をいふ。又、征夷大將軍をもいふ。公家（**2**－1452··56）の對。〔東鑑、三十八〕寶治元年八月一日、恆例贈物事、可二停止一之由、被レ觸二諸人一、令レ進二將軍家一之條、猶兩御後見之外者、禁制。

【將軍市】28 シヤウグンシ 地名。江西省東鄕縣の西北、將軍嶺の南麓、進賢縣の界。往來の要路に當る。

【將軍柱】29 シヤウグンチユウ 大黑柱。

【將軍礮】30 シヤウグンハウ 機械で石を發射し城を攻める具。〔唐書、李密傳〕密攻二王世充於東都一、以レ機發レ石、爲二攻城械一、號二將軍礮一。〔庭聞述略〕土木之變、虜犯二城下一、于肅愍放二大銅將軍一以擊レ虜。〔清禮記圖式〕天聰五年、造二紅衣大礮一、名曰二天佑助威大將軍一、崇德八年、又造二神威大將軍礮一、康熙十五年、又造二神威無敵大將軍礮一、二十八年、又造二武成永固大將軍礮一。

【將軍府】31 シヤウグンフ ㊀將軍の役所。〔薩都剌、京城春日詩〕旌旗日暖將軍府、絃管春深宰相家。㊁官署の名。民國、置く。大總統に直隸する軍事上の最高顧問機關。上將軍・將軍・參謀等の役員がある。

【將軍令】32 シヤウグンレイ 將軍の命令。〔史記、絳侯周勃世家〕軍中聞二將軍令一、不レ聞二天子詔一。〔元稹、寄二楊員外一詩〕衝レ街不レ避將軍令、跋レ敕兼題宰相名。

【將軍嶺】33 シヤウグンレイ 山名。㊀河南省靈寶縣の西南。上に隋の竇建德の塚がある。㊁江西省東鄕縣の西北。其の南麓に將軍市がある。

【將迎】34 シヤウゲイ ㊀送ることと迎へること。送迎。〔莊子、知北遊〕爲二能與レ人相將迎一。〔莊子、大宗師〕其爲レ物、無レ不レ將也、無レ不レ迎也、無レ不レ毀也、無レ不レ成也、其名爲二攖寧一、攖寧也者、攖而後成者也。〔謝靈運、初去レ郡詩〕負心二十載、於レ今廢二將迎一。㊁やしなひそだてる。將養。〔列子、湯問〕不レ待二殺戮一而夭、不レ待二將迎一而壽。

【將監】35 シヤウゲン 近衞府の判官。行幸を警衞し、又、正月の賭弓の事を掌る。〔近衞府式〕將監・將曹。

【將護】36 シヤウゴ たすけまもる。〔後漢書、王昌傳〕昔遭二趙氏之禍一、因以二王莽篡殺一、賴三知レ命者將二護朕躬一、解二形河濱一、削二迹趙魏一。〔吳志、孫策傳、注〕吳歷曰、策既被レ創、醫言可レ治、當二好自將護、百日勿レ動。「字。

【將侯】37 シヤウコウ 清、魏承柷（**12**－**45872**··232）の

【將轂】38 chiang¹ kou⁴ どうかかうか足りる。かすかす足りる。

【將佐】39 シヤウサ 高級の武官の稱。〔晉書、劉琨傳〕劉琨每レ見二將佐發レ言慷慨一、悲二其道窮一。

【將才】40 シヤウサイ 大將たる器量。將材。

【將材】41 シヤウザイ 大將たるべき器量。將才。〔唐書、韓愈傳〕愈大聲曰、天子以レ公爲レ有二將帥材一。〔六部成語、兵部、將材、注解〕是說二此人材料可レ爲二

大將一。

【將曹】42シャウサウ　近衞府の主典。〔近衞府式〕將監・將曹。

【將喪】43シャウサウ　喪を扶持して行ふ。持喪に同じ。〔蜀志、魏延傳〕丞相雖レ亡、吾自見在、府親官屬、便可二將喪還葬一。

【將作】44シャウサク　官名。將作少府といふ。秦、置く。宮室の造營を掌る。周の考工の職。漢の景帝の中元六年、將作大匠と改め、後漢、之に因り、宗廟・路寢・宮室・陵園の土木の工を掌る。魏・晉も亦之に因り、東晉・宋・齊には事ある每に置く。梁・陳には大匠卿と稱し、北齊には其の官を將作大匠、官署を將作寺と稱す。後周には匠師中大夫があり、城郭宮室の制を掌り、別に司木中大夫を置いて土木の政を掌る。隋には將作監と稱し、官を將作大監・少監、或は將作大匠・小匠と號す。唐は大體、將作監と呼び、又、繕工監・營繕監と稱したこともあり、土木工匠の政令を掌り、左校・右校・甄官・中校の四署を領す。宋・遼を經て、金には省く。元には將作院があるが、其の掌る所は金・玉・犀・象等の服飾、刺繡の製造で、土木等のことは繕工司・修內司・祇應司等が掌る。明・清には營繕司を置く。〔漢書、百官公卿表〕將作少府、秦官、掌レ治二宮室一、有二兩丞・左右中候一、景帝中六年、更二名將作大匠一、屬官有二石庫・東園主章・左右前後中校・七令丞一。〔通典、職官典、諸卿下、將作監〕今將作亦少皞氏、以二五雉一爲二五工正一、以利二器用一、唐虞共工、周官考工之官、蓋其職也、秦有二將作少府一、掌レ治二宮室一、漢景帝中元六年、更二名將作大匠一、後漢位次二河南尹一、中元二年省、以二謁者一領レ之、章帝建初元年、復置、初以二任隗一爲レ之、掌丙修二作宗廟・路寢・宮室・陵園・木土之功一、幷樹二桐梓之類一、列乙於道側甲、魏晉因レ之、江左至二宋齊一、皆有レ事則置、無レ事則省、而梁改爲二大匠卿一、陳因レ之、後魏亦有レ之、北齊有二將作寺一、其官曰二大匠一、後周有二匠師中大夫一、掌二城郭宮室之制一、又有二司木中大夫一、掌二木工之政令一、隋與二北齊一同、至二開皇二十年一、改レ寺爲レ監、大匠爲二大監一、初加二置副監一、煬帝改二大監・小監一爲二大匠・小匠一、五年、又改爲二大監・小監一、十三年、又改二大令少令一、大唐復皆爲レ匠、龍朔二年、改二將作一爲二繕工監一、咸亨元年、復レ舊、光宅元年、改爲二營繕監一、神龍元年、復レ舊、大匠一人、小匠一人、天寶中、改二大匠一爲二大監一、小匠爲二小監一、領二左校・右校・甄官・中校四署一。〔續通典、職官典、諸卿下、將作監〕宋初制二判監事一人一、以二朝官以上一充、凡土木工匠之政、京都繕修隸二三司一修造、案、本監但掌二祠祀之事一、元豐官制行、始置二監一人、小監一人一、監掌二宮室・城郭・橋梁・舟車・營繕之事一、少監爲二之貳一、遼南面官將作監有二太監・少監等官一、金不レ設二將作監一、云云、元將作院置二院使七人、同知二人、同僉二人、院判二人、經歷一人、都事一人、照磨管勾一人一、掌レ成二金玉・珠翠・犀象・寶貝・冠佩・器皿・織造・刺繡・緞疋・紗羅・異樣百色造作一、銜號同、而職掌與レ古異焉、其昭功萬戶都總使司所屬有二繕工司一、卿一人、少卿二人、丞二人、經歷・知事・照磨・提控案牘・管勾・承發架閣、各一人、掌二人匠營造之事一、大都留守司所屬有二修內司一、提點一人、大使一人、副使一人、直長一人、吏目照磨各一人、云云、掌二內府及諸王邸第、異巧工作、脩禳應辨、寺觀營繕一、領二工匠七百戶一、上都留守所屬修內司、大使一人、副使三人、直長三人、掌下營二修內府一之事上、祇應司、大使一人、副使二人、直長三人、掌二粧鑾・油染裱・褙之事一、明宮殿・陵寢・城郭・壇場・祠廟・廨宇・營房・王府邸第之役、掌二於工部營繕司一、不レ設二將作監一。

【將作監】45シャウサクカン　㊀將作少府を隋・唐・宋では將作監といふ。將作を見よ。〔歐陽脩、太尉文正王公神道碑銘〕以二將作監丞一居二於家一。㊁木工寮の唐名。〔職原抄〕木工寮、唐名、將作監。

【將作少府】46シャウサクセウフ　官名。將作を見よ。〔史記、孝景帝紀〕更命二將作少府一、爲二將作大匠一。

【將作大匠】47シャウサクタイシャウ　官名。㊀將作を見よ。㊁木工頭の唐名。〔拾芥抄〕木工頭、將作大匠。

【將纔】48 chiang^1 tsʻai^2　今しがた。

【將士】49シャウシ　將校と兵士。將卒。〔吳子、論將〕停久不レ移、將士懈怠、其軍不レ備、可二潛而襲一。〔後漢書、袁紹傳〕將士思レ奮。〔魏志、蔣濟傳〕今二賊未レ滅二將士一。

【將仕】50シャウシ　仕へようとする。〔論語、陽貨〕孔子曰諾、吾將レ仕矣。

【將仕郎】51シャウシラウ　文散官の名。隋・唐、置く。從九品。〔通典、職官典、文散官〕光祿大夫以下、將仕郎、隋置、散官、大唐因レ之。〔唐書、百官志一〕吏部郎中、云云、凡文散階二十九、云云、從九品上曰二文林郎一、從九品下曰二將士郎一。〔韓愈、與二于襄陽一書〕將仕郎守國子四門博士韓愈、謹奉二書尚書閣下一。

【將指】52シャウシ　手の中指、又は足の大指。他の指より擢んでて大きいからいふ。將は大。〔說文〕拇、將指也。〔段注〕將指、謂二手中指一也。〔左氏、宣、四〕子公之食指動、〔疏〕足以二大指一爲二將指一、手以二中指一爲二將指一。〔左氏、定、十四〕闔廬傷二將指一、取二其一屨一。〔注〕其足大指見レ斬、遂失レ屨、姑浮取レ之。

【將次】53シャウジ　㊀殆んど。〔周密、謁二金門一詞〕屈指一春將次盡。〔助字辨略〕凡云レ次者、當レ前舍止之處、言、行且將レ及レ之也、將二欲及レ之而猶レ未レ及レ之、故云二將次一。㊁漸次に。〔朱子語類〕若能時習、將次自曉得。

【將事】54シャウジ　㊀事を行ふ。〔左氏、成、十三〕晉侯使二郤錡來乞一レ師、將レ事不レ敬。〔左氏、哀、十五〕有二朝聘而終、以レ尸將レ事之禮一。㊁良將の教へる事。〔吳子、治兵〕每レ變皆習、乃授二其兵一、是謂二將事一。

【將就】55シャウシウ　㊀間に合はせる。〔詩、周頌、訪落〕將レ予就レ之、繼レ猶判渙。〔集傳〕將レ使二予勉強以就一レ之。㊁chiang^1 chiu^4　我慢する。こらへる。〔燕子箋、駝泄〕只是雲娘再將就他些二兒便好。㊂どうにかかうにか。辛うじて。

【將車】56シャウシャ　車を御すること。〔史記、田叔傳〕少孤貧、爲レ人將レ車。〔注〕索隱曰、將レ車、猶レ御レ車也。

【將匠】57シャウシャウ　㊀官名。將作大匠の㊀の略。㊁複姓。〔通志、氏族略、以レ官爲レ氏〕將匠氏、風俗通、漢官有二將匠少府一、因レ官爲レ氏、吳中散大夫將匠、或、曲陽令將匠熙、晉侍御史將匠進、梁太末令將匠道李。

【將相】58シャウシャウ　將軍と宰相。大將と大臣。〔戰國、秦策〕乃資二萬金一、使下東遊二韓魏一、入中其將相一、北遊二燕趙一、而殺中李牧上。〔墨子、法儀〕雖レ至下士之爲二將相一者上、皆有レ法。〔史記、陳涉世家〕王侯將相寧有レ種乎。〔漢書、武帝紀〕其令丙州郡察乙吏民有二茂才異等一、可下爲二將相一及使中絕國上者甲。

【將相器】59シャウシャウノキ　大將や宰相たるべき器量のある人物。〔晉書、王導傳〕謂二其從兄敦一曰、此兒容貌志氣、將相之器也。

【將相之具】60シャウシャウノグ　將相器に同じ。〔李陵、答二蘇武一書〕其餘佐レ命立レ功之士、賈誼亞夫之徒、皆信命世之才、抱二將相之具一。

【出二入將相一】61シャウシャウニシユツニフス　出でては將となり、入つては相となる。〔歐陽脩、相州書錦堂記〕故能出二入將相一、勤二勞王家一。

【將將】62シャウシャウサウサウ　㊀玉の鳴る聲。佩玉の聲。鏘鏘。〔詩、鄭風、有女同車〕將翺將翔、佩玉將將。〔傳〕將將、鳴レ玉而後行。〔釋文〕將將、玉珮聲。〔詩、秦風、終南〕佩玉將將、壽考不レ忘。〔集傳〕將將、佩玉聲也。㊁聲の集まりやはらぐさま。〔詩、周頌、執競〕鍾鼓喤喤、磬筦將將。〔傳〕將將、集也。㊂鐘をうつ聲。鎗鎗。〔詩、小雅、鼓鐘〕鼓鐘將將、淮水湯湯。〔傳〕將將、聲也。〔陳奐、傳疏〕說文、鎗、鐘聲也、重言曰二鎗鎗一、將將、古文假借。㊃馬のくつわにつけた鈴の聲。瑲瑲。鏘鏘。〔詩、小雅、庭燎〕鸞聲將將。〔傳〕將將、鸞鑣聲也。㊄かまびすしいさま。〔荀子、賦〕讒口將將。〔久保愛、增注〕將將、讙貌。㊅嚴正なさま。〔詩、大雅、緜〕廼立二應門一、應門將將。〔傳〕將將、嚴正也。㊆盛に美しいさま。〔詩、魯頌、閟宮〕白牡騂剛、犧尊將將。〔陳奐、傳疏〕王肅、將將訓二美盛一。〔管子、形勢解〕將將鴻鵠、貌之美者也。〔易林、革之二大有一〕南山之楊、華葉將將。〔張衡、東京賦〕濟濟焉將將焉。㊇廣く大きいさま。〔說苑、權謀〕將將之臺。㊈高いさま。〔枚乘、七發〕莘莘將將。〔注〕善曰、將將、高貌也。㊉シャウニシャウタリ　大將の大將となる。能く大將を御すること。〔史記、淮陰侯傳〕陛下不二善將レ兵、而善將レ將。

【將將的】63 chiang^1 chiang^1 tê　丁度。

【將レ將之君】64シャウニシャウタルノキミ　大將の大將になる才能ある君主。〔李衞公問對、下〕太宗曰、漢高祖能將レ將、其後韓・彭見レ誅、蕭何下レ獄、何故如レ此、

靖曰、臣觀二劉項一、皆非二將レ將之君一。

【將レ將之才】65（シヤウニシヤウタルノサイ） 大將の大將になるやうな才能。〔李衞公問對、下〕雖レ有二能將レ將之才一、豈爲二漢用一哉。

〔將將朶朶〕66（シヤウシヤウタタ） 手を引いて小兒に步行を敎へること。〔雞肋編〕世俗以レ手引二小兒一學レ行、謂二之將將朶朶一。

【將種】67（シヤウシユ） 大將の家がらに生れた者。將軍の子孫。〔史記、齊悼惠王世家〕臣將種也。〔漢書、高五王、齊哀王襄傳〕自請曰、臣將種也。

【將衆】68（シヤウシユウ） 大勢をひきゐる。〔淮南子、兵略訓〕或將レ衆而用レ寡者、勢不レ齊也、將レ寡而用レ衆者、用レ力諧也。

【將叔】69（シヤウシユク） 宋、畢仲愈(**7**－**21829**··111)の字。

【將宿】70（シヤウシユク） 物を送つて行つて宿ること。〔管子、五輔〕便二關市一愼二將宿一。〔注〕將二送貨財一、必愼二止宿一。

【將順】71（シヤウジユン） 受けしたがふ。從つて行ふ。將養。〔釋名、釋飮食〕漿、將也、飮レ之寒溫多少、與レ體相將順也。〔孝經、事君章〕將二順其美一、匡二救其惡一。〔注〕將、行也、君有レ美、則順而行レ之。〔史記、管晏傳贊〕語曰、將二順其美一、匡二救其惡一、故上下能相親也。〔漢書、外戚下、孝成趙皇后傳〕且褒二廣將三順君父之美一、匡二救銷三滅既往之過一、古今通義也。

【將食】72（シヤウシヨク） 食を進める。〔儀禮、士相見禮〕若有二將レ食者一、則俟二君之食一然後食。

【將身】73（シヤウシン） 己の身を行ふ。身を持する。行爲。〔孔子家語、五儀解〕若二夫智士仁人一、將レ身有レ節、動靜以レ義。

【將帥】74（シヤウスイ） 軍をひきゐる將軍。軍隊のかしら。大將。將領。〔禮、月令〕(孟秋之月)天子乃命二將帥一、選レ士厲レ兵、簡二練桀俊一。〔戰國、秦策〕當二此之時一、秦之士卒、以二軍中一爲レ家、將帥爲二父母一、不レ約而親、不レ謀而信、一レ心同レ力、死不レ旋レ踵。〔呂覽、介立〕韓・荊・趙、此三國者之將帥貴人、皆多驕矣。〔管子、重令〕將帥不二嚴威一。〔六韜、虎韜、動靜〕敵人將帥恐懼。〔史記、樂書〕君子聽二鼓鼙之聲一、則思二將帥之臣一。〔後漢書、安帝紀〕擧下武猛堪二將帥一者各五人上。

【將雛】75（シヤウスウ） 雛をたづさへる。子を携へて行く。〔成公綏、嘯賦〕似下鴻鴈之將レ雛、羣鳴號中乎沙漠上。〔杜甫、淸明詩〕十年蹴踘將雛遠、萬里鞦韆習俗同。〔注〕將雛、謂二挈レ子而行一。

【將星】76（シヤウセイ） ❶大將の象ある星。〔隋書、天文志上〕大將星搖、兵起大將出。〔儲光羲、哥舒大夫頌德詩〕神武建二皇極一、文昌開二將星一。❷將軍の異稱。

〔將星隕〕77（シヤウセイオツ） 大將が陣歿すること。轉じて、偉人英雄の死をいふ。三國、蜀の諸葛孔明が五丈原に歿した時、赤色の大星が其の陣營の中に落ちた故事。〔蜀志、諸葛亮傳、其年八月、亮疾病、卒二于軍一、時年五十四、注〕晉陽秋曰、有レ星、赤而芒角、自二東北一而西南流、投二于亮營一、三投再還、往大還小、俄而亮卒。

【將聖】78（シヤウセイ） 將に聖人の域に達せんとする。ほとんど聖人に近い。一說に、大聖の義。將は大。〔論語、子罕〕大宰問二於子貢一曰、夫子聖者與、何其多能也、子貢曰、固天縱二之將聖一、又多能也。〔集解〕孔曰、言、天固縱二大聖之德一、又使二多能一也。〔集注〕將、殆也、謙若レ不二敢知一之辭。〔劉寶楠正義〕注以三固天縱二之將聖一爲レ句、亦通、大聖、卽將聖也、錢氏大昕潛研堂文集、詩有娍方將、我受レ命溥將之將、並訓爲レ大、然則將聖者大聖也、案、荀子堯問篇、然則孫卿懷二將聖之心一、亦謂二大聖一也、論衡實知篇、子貢曰、故天縱レ之將レ聖、將者且也、不レ言二已聖一、言レ且レ聖者、以爲、孔子聖未レ就也、孔子從レ知二天命一、至二耳順一、學就知明、成聖之驗也。

【將攝】79（シヤウセツ） 養生する。休息する。將は養。將息。將養。〔隋書、薛道衡傳〕高祖愴然改レ容曰、爾光陰晩暮、侍奉誠勞、朕欲レ令三爾將攝兼二撫萠俗一。〔北史、張彝傳〕因レ得二偏風一、手腳不レ便、然志性不レ移、善自將攝、稍朝拜。

【將送】80（シヤウソウ） おくる。裝送。〔後漢書、循吏、劉寵傳〕母疾、棄レ官去、百姓將送塞レ道、車不レ得レ進、乃輕服遁歸。

【將息】81（シヤウソク） ❶養生する。將は養。息は生。送別の際、又は書翰の末尾などに用ひる語。將攝。養息。〔韓愈、與二崔羣一書〕大江之南、風土不レ並二以北一、將息之道、當三先理二其心一。〔朱子語類、論學〕將息不レ到、然後服レ藥、將息到、則自無レ病。〔李淸照、聲聲慢詞〕乍暖還寒時候、最難二將息一。〔范仲淹、家書、與二中舍一〕將息將息、愼而勿レ動二臟腑一也。〔司馬光、與レ姪帖〕時熱、且二各自將息一。〔五燈會元〕石霜圓辭二李遵勖一、臨レ行曰、好將息。❷休息しようとする。〔管子、弟子職〕先生將レ息、弟子皆起、敬奉二枕席一、問レ所二何趾一。〔楚辭、王褒、九懷、蓄英〕將レ息二兮蘭皐一、失レ志兮悠悠。〔注〕且欲三中休二止芳澤一也。

【將卒】82（シヤウソツ） ❶將校と兵卒。將士。〔漢書、南粤王傳〕將卒居二宮外一、酒行。〔淮南子、泰族訓〕當二此之時一、無二將卒以レ行列レ之、各致二其死一。❷（シヤウスイ） 將率の❷に同じ。〔史記、建元以來侯者年表序〕將卒以レ次封矣。

【將率】83（シヤウソツ・シヤウシユツ） ❶ひきゐる。〔韓非子、初見秦〕昔者紂爲二天子一、將二率天下甲兵百萬一。❷（シヤウスイ） 軍のかしら。全軍をひきゐる大將。將帥。將卒。〔荀子、富國〕守レ時力レ民、進レ事長レ功、和二齊百姓一、使二人不レ偸、是將率之事也。〔注〕將率、猶二主領一也、若二今宰守一。〔集解〕兪樾曰、此言下足二天下之道上、前後皆言二農事一、而此云二是將率之事一、楊注曲爲二之說一、未レ爲レ得也、蓋古之爲二將率一者、其平時卽州長黨正之官、從二其在レ軍之名一而稱レ之曰二將率一。〔呂覽、孟冬〕天子乃命二將率一。〔史記、馮唐傳贊〕馮公之論二將率一、有レ味哉。〔漢書、兒寬傳贊〕奉使則張騫・蘇武、將率則衞靑・霍去病。

【將帶】84（シヤウタイ） ひきゐる。〔蘇軾、杭州召還乞レ郡狀〕將二帶吏卒一、就二湖州一追攝、如レ捕二寇賊一。

【將臺】85（シヤウダイ） 指揮する臺。〔水滸傳、七十六回〕童貫中軍、立二起攢木將臺一。

【將道】86（シヤウダウ） 唐、徐齊聃(**4**－**10110**··523)の字。

【將旦】87（シヤウタン） 日出の時。〔列子、湯問〕將旦昧爽之交、日夕昏明之際、北面而察レ之、淡淡焉、若レ有二物存一、莫レ識二其狀一。

【將馬】88（シヤウバ） 牝馬。將は牸の誤。〔韓非子、解老〕戎馬乏、則將馬出。〔集解〕顧廣圻曰、將、當レ作レ牸、形近之誤、云云、戎馬不レ足、牸牝入レ陣。

【將妄】89（シヤウバウ） 疑つて決せぬ辭。將毋(95)に同じ。〔莊子、庚桑楚〕是其於レ辯也、將妄鑿二垣牆一而殖二蓬蒿一也。

【將伯】90（シヤウハク） 長者に請ふ。長上に助を請ふ。將は請。一說に、賢者に告げる。〔詩、小雅、正月〕載輸二爾載一、將レ伯助レ予。〔傳〕將、請、伯、長也。〔疏〕請二長者助レ我則晩矣。〔陳奐、傳疏〕請、猶レ告也、長、謂二賢者一也。

〔將伯之助〕91（シヤウハクノジヨ） 他人の助力をいふ。將伯を見よ。〔唐宋八家文讀本、凡例〕十閱月告レ成、中間斟酌參訂、兩君爲二將伯之助一。

【將美】92（シヤウビ） 美を助ける。將は助。〔漢書、杜欽傳〕補レ過將レ美、皆此類也。

【將父】93（シヤウフ） 父をやしなふ。將は養。〔詩、小雅、四牡〕王事靡レ盬、不レ遑レ將レ父。〔傳〕將、養也。

【將府】94（シヤウフ） 將軍の役所。〔庾信、周大將軍琅琊莊公司馬裔墓誌〕朝廷以二漢之功臣一、須レ開二上將之府一、晉之代胄、宜レ紹二琅琊之國一。

【將毋】95（シヤウブ） 問を發する聲。疑つて決しない辭。云々せんとするか、然らざるかの意。將妄。〔韓詩外傳、四〕客有下見二周公一者上、應二之於門一曰、何以道レ旦也、客曰、在レ外卽言レ外、在レ內卽言レ內、入乎將毋、周公曰請入、客曰、立卽言レ義、坐卽言レ仁、坐乎將毋、周公曰請坐、客曰、疾言則翁翁、徐言則不レ聞、言乎將毋。〔助字辨略〕入乎將毋者、言、將レ入乎、抑猶未レ可乎、疑辭也。

【將兵】96（シヤウヘイ） ❶兵を率ゐる。〔公羊、莊、十、觕者曰レ侵、注〕將レ兵至レ竟。❷兵に將たること。大將として兵士を治めること。〔史記、淮陰侯傳〕信曰、陛下不レ能レ將レ兵、而善將レ將。❸將校と兵士。

【將弁】97（シヤウベン） 武官の冠。轉じて、武職の通稱。弁は冠。武弁。〔淸會典事例、兵部、武科、武生童考試二〕卽令三該管將弁詳請二開除一。

【將母】98（シヤウボ） 母を養ふ。將は養。〔詩、小雅、四牡〕王事靡レ盬、不レ遑レ將レ母。〔傳〕將、養也。

【將蜂】99（シヤウホウ） 蜂の一種。黑色蜂。外に出て働かずに巢を守るもの。相蜂。〔陰陽變化錄〕蜂、每歲三四月生、黑色蜂名曰二將蜂一、又名二相蜂一、相蜂不レ能レ採レ花、但能釀レ蜜。

【將牧】100（シヤウボク） 大將と地方の長官。〔晉書、姚興載記上〕下書令三羣公卿士將牧守宰各降二一等一。

【將命】101（シヤウメイ） ❶取次ぐ。將は行。〔儀禮、聘禮〕將二命於朝一。〔注〕將、猶レ奉也。〔禮、少儀〕陳レ酒執レ脩以將レ命。〔論語、憲問〕闕黨童子將レ命。〔集

注〕將ㇾ命、謂ㇾ傳二賓主之言一。㊁大將の命令。

【將命者】102シヤウメイシヤ　主人と客との言葉を取次ぐ者。〔禮、少儀〕某因ㇾ願ㇾ聞二名於將ㇾ命者一。〔疏〕將ㇾ命、謂ㇾ傳ㇾ辭、出入通二客主之言語一者也。〔書言故事、妓女類〕回簡云、以復二將ㇾ命者一。

【將明】103シヤウメイ　㊀行ひ明かにする。將は行。〔詩、大雅、烝民〕肅肅王命、仲山甫將ㇾ之、邦國若否、仲山甫明ㇾ之。〔傳〕將、行也。〔漢書、刑法志〕有司無二仲山父將明之材一。㊁宋、王黼(7－20823‥963)の字。

【將門】104シヤウモン　大將の家柄。將門有ㇾ將を見よ。〔王維、李陵詠詩〕漢家李將軍、三代將門子。

【將門有ㇾ將】105シヤウモンシヤウアリ　大將の家柄には大將が出る。〔史記、孟嘗君傳〕文聞、相門必有ㇾ相、將門必有ㇾ將。〔魏志、陳思王植傳〕相門有ㇾ相、將門有ㇾ將。〔南史、王鎭惡傳〕宋武帝伐二廣固一、鎭惡時爲二天門郡臨澧令一、人或薦ㇾ之、武帝召與語異ㇾ焉、因留宿、旦謂二諸佐一曰、鎭惡、王猛孫、所謂將門有ㇾ將。

【將養】106シヤウヤウ　㊀養ひそだてる。將も養。將迎。將攝。〔墨子、非命上〕食ㇾ飢衣ㇾ寒、將二養老弱一。〔閒詁〕兪謂、將養爲二持養之誤一。〔淮南子、原道訓〕是故聖人將二養其神一、和二弱其氣一、平二夷其形一、而與ㇾ道浮沈俛仰。〔說苑、貴德〕聖人之於二天下百姓一也、其猶二赤子一乎、云云、將ㇾ之養ㇾ之、育ㇾ之長ㇾ之。〔陶潛、飲酒詩〕將養不ㇾ得ㇾ節。㊁うけしたがふ。將順。〔漢書、衡山王賜傳〕賓客來者、微知三淮南衡山有二逆計一、皆將養勸ㇾ之。

【將欲】107シヤウヨク　願ひ望む。將は願。〔老子、二十九〕將三欲取二天下一而爲ㇾ之者、吾見二其不ㇾ得已。〔墨子、非攻下〕中情將丁欲求丙興二天下之利一、除乙天下之害甲。〔柳宗元、封建論〕將下欲利二其社稷一以一中其人之視聽上。

【將來】108シヤウライ　㊀未來。前途。〔漢書、匈奴傳下〕開二將來之隙一。〔揚雄、長楊賦〕延二光于將來一。〔後漢書、馮衍傳上〕要二將來之心一。〔魏文帝、又與二鍾繇一書〕有ㇾ稱二疇昔一、流二聲將來一。〔杜預、春秋左氏傳序〕明二將來之法一。㊁もちきたす。もたらす。〔左氏、昭、三〕我欲ㇾ得ㇾ齊、而遠二其寵一、寵將來乎。

【將牢】109シヤウラウ　堅く執り守つて動かぬこと。持牢。〔晉書、姚萇載記〕諸將咸曰、若値二魏武王一、不ㇾ令二此賊至一ㇾ今、陛下將牢太過耳。

【將樂】110シヤウラク　縣名。三國吳、置く。今、福建省南平縣の西、金溪の北岸。〔晉書、地理志下〕建安郡、吳置、統縣建安・吳興・東平・建陽・將樂。〔淸史稿、地理志〕福建、延平府、縣六、將樂。

【將吏】111シヤウリ　武官と文官。大將と役人。〔尉繚子、攻權〕將吏士卒、動靜一身。〔漢書、武五子傳贊〕秦將吏外畔。〔唐律、捕亡〕諸罪人逃亡、將吏已受ㇾ使追捕。〔疏議〕謂下見ㇾ任二武官一爲ㇾ將、文官爲ㇾ吏、已受ㇾ使追中捕罪人上。

【將理】112シヤウリ　尉繚子の篇名。

【將離】113シヤウリ　芍藥(9－30674‥6)の別名。將に別離せんとする時に芍藥を贈るといふ。〔太平御覽、藥部、當歸〕崔豹古今注曰、牛亨問曰、將二離相別一、贈以二芍藥一何也、答曰、芍藥、一名將離、故將ㇾ別贈以二芍藥一、猶三相招則贈以二蘼蕪一、蘼蕪、一名當歸也。

【將梁】114シヤウリヤウ　複姓。〔史記、秦紀贊〕秦之先爲二嬴姓一、其後分封、以ㇾ國爲ㇾ姓、有二將梁氏一。

【將領】115シヤウリヤウ　㊀將帥(74)に同じ。領は、すべる。〔魏志、陳思王植傳評〕任城武藝壯猛、有二將領之氣一。〔隋書、楊玄感傳〕陰求二將領一。㊁ひきゐすべる。〔元結、宿二洞溪翁宅一詩〕老翁八十猶能行、將二領兒孫一行拾ㇾ稼。〔唐律、衞禁〕卽將二領人一入二宮殿內一。〔張玄晏、授二龐從武寧難軍節度使一制〕居然將領之才、邈爾深沈之度。

【將領主司】116シヤウリヤウシユシ　官名。人を率ゐて宮中に出入することを掌る。唐代では折衝府及び諸衞の判兵官が之に任じた。〔唐律、衞禁、因ㇾ事入ㇾ宮輒宿〕將領主司、知者各減二闌入罪一等一、入者知又減二五等一、不ㇾ知者不ㇾ坐。

【將略】117シヤウリヤク　大將としてのはかりごと。兵を用ひるはかりごと。〔蜀志、諸葛亮傳評〕連年動ㇾ衆、未ㇾ能ㇾ成ㇾ功、蓋應變將略、非二其所一ㇾ長歟。〔晉書、桓沖傳〕謝安之有二廟堂之量一、不ㇾ閑二將略一。

【將閭】118シヤウリヨ　複姓。〔通志、氏族略、複姓〕將閭氏、漢書藝文志、將閭子、名菟、著ㇾ書。

【將閭仰天】119シヤウリヨギヤウテン　蒙求の標題。秦の二世胡亥が趙高の謀を信じて公子の將閭を囚へ、使者を遣して、不臣の罪により死刑に處すと宣告させた。將閭は使者に、如何なる不臣の事ありしやと問うたが、答へられなかつたので、天を仰いで嘆息し、天なる哉、吾に罪なしといつて自殺した故事。〔史記、秦始皇紀〕六公子戮二死於杜一、公子將閭昆弟三人囚二於內宮一、議二其罪一獨後、二世使三使令二將閭一曰、公子不臣、罪當ㇾ死、吏致ㇾ法焉、將閭曰、闕廷之禮、吾未二嘗敢不一ㇾ從二賓贊一也、廊廟之位、吾未二嘗敢失一ㇾ節也、受ㇾ命應ㇾ對、吾未二嘗敢失一ㇾ辭也、何謂二不臣一、願聞ㇾ罪而死、使者曰、臣不ㇾ得ㇾ與ㇾ謀、奉ㇾ書從ㇾ事、將閭乃仰ㇾ天大呼ㇾ天者三、曰、天乎、吾無ㇾ罪、昆弟三人皆流ㇾ涕、拔ㇾ劍自殺。

【將陵】120シヤウリヨウ　縣名。隋、置く。山東省德縣治。〔讀史方輿紀要、山東、濟南府、德州〕廢陵縣、在二州東一、漢平原郡安德縣地、隋開皇十六年、析二置將陵縣一、仍屬二平原郡一、唐屬二德州一、宋屬二景州一、金因ㇾ之、元升爲二陵州一、屬二濟南路一、尋改屬二河閒路一、明初、降爲ㇾ縣。

【將令】121シヤウレイ　尉繚子の篇名。

【將禮】122シヤウレイ　將を拜する禮。〔蘇頲、同餞三陽將軍兼二源州都督御史中丞一詩〕將禮登ㇾ壇盛、軍容出ㇾ塞華。

【將ㇾ有ㇾ日】123マサニヒアラントス　近日中にあるの意。〔阪谷朗廬、春窓記〕鞋韈之行、或將ㇾ有ㇾ日。

【將歸操】124シヤウキサウ　琴曲の名。一に陬操といふ。孔子は趙に聘せられたが、途中、竇鳴犢の殺されたことを聞き、己の用ひられざるを知つて陬に歸り、哀しんで作る。〔史記、孔子世家〕孔子既不ㇾ得ㇾ用二於衞一、將三西見二趙簡子一、至二於河一、而聞二竇鳴犢・舜華之死一也、臨ㇾ河而歎曰、美哉水、洋洋乎、丘之不ㇾ濟、此命也夫、子貢趨而進曰、敢問何謂也、孔子曰、竇鳴犢・舜華、晉國之賢大夫也、趙簡子未ㇾ得ㇾ志之時、須二此兩人一而後從ㇾ政、及二其已得一ㇾ志殺ㇾ之、云云、夫鳥獸之於二不義一也、尙知ㇾ辟ㇾ之、而況乎丘哉、乃還息二乎陬鄉一、作二爲陬操一以哀ㇾ之。〔樂府詩集、琴曲歌辭、將歸操〕一曰陬操、琴操曰、將歸操、孔子所ㇾ作也、孔叢子曰、趙使ㇾ聘二夫子一、夫子聞下鳴犢與二竇犨一之見一ㇾ殺也、回ㇾ輿而旋、爲ㇾ操曰將ㇾ歸、史記世家曰、孔子既不ㇾ得ㇾ用二於衞一、將三西見二趙簡子一、至二於河一、而聞二竇鳴犢・舜華之死一、臨ㇾ河而嘆曰、美哉水、洋洋乎、丘之不ㇾ濟、此命也夫、子貢曰、何謂也、孔子曰、竇鳴犢舜華、晉國之賢大夫也、趙簡子未ㇾ得ㇾ志之時、須二此兩人一而后從ㇾ政、及二其已得一ㇾ志殺ㇾ之、乃從ㇾ政、夫鳥獸之不義也、尙知ㇾ辟ㇾ之、況乎丘哉、乃還息二乎陬鄉一、作二爲陬操一、以哀ㇾ之、徐廣曰、竇鳴犢・舜華或作二鳴鐸竇犨一、王肅曰、陬操、琴曲名也、翺二翔于衞一、復二我舊居一、從二吾所一ㇾ好、其樂只且。

【將ㇾ鼓ㇾ之】125マサニコレニコセントス　將に戰爭をしかけようとすること。戰の法に於ては、攻める時に鼓を打ち、退く時鉦を打つ。〔左氏、莊、十〕公將ㇾ鼓ㇾ之、劌曰未ㇾ可、齊人三鼓、劌曰、可矣。

【將進酒】126シヤウシンシユ　漢の鐃歌の名。十八曲の一。古詞は大略飲酒放歌のことを述ぶ。宋の何承天の將進酒は朝會進酒のことを述べ、酒に醉つて本性を失ひ、志をすさませることを戒めとして居る。梁の昭明太子、唐の李白・元稹・李賀等にも此の作があり、皆、遊樂飲酒のことを述べてゐる。〔樂府詩集、鼓吹曲辭、漢鐃歌、將進酒〕古詞曰、將進酒、乘大白、大略以二飲酒放歌一爲ㇾ言、宋何承天將進酒篇曰、將二進酒一慶二三朝一、備二繁禮一薦二嘉肴一、則言二朝會進酒一、且以二濡首荒志一爲ㇾ戒、若三梁昭明太子云二洛陽輕薄子一、但敍二遊樂飲酒一而已。〔梁昭明太子、將進酒〕洛陽輕薄子、長安遊俠兒、宜城溢二渠盌一、中山浮二羽巵一。〔李白、將進酒〕君不ㇾ見黃河之水天上來、奔流到ㇾ海不二復廻一、君不ㇾ見高堂明鏡悲二白髮一、朝如二青絲一暮成ㇾ雪、人生得意須ㇾ盡ㇾ歡、莫ㇾ使二金樽空對一ㇾ月、天生二我材一必有ㇾ用、千金散盡還復來、烹ㇾ羊宰ㇾ牛且爲ㇾ樂、會須二一飲三百杯一、岑夫子・丹丘生、進ㇾ酒君莫ㇾ停、與ㇾ君歌二一曲一、請君爲ㇾ我側ㇾ耳聽、鐘鼓饌玉不ㇾ足ㇾ貴、但願二長醉一不ㇾ願ㇾ醒、古來聖賢皆寂寞、惟有三飲者留二其名一、陳王昔時宴二平樂一、斗酒十千恣二讙謔一、主人何爲言ㇾ少ㇾ錢、徑須二沽取對ㇾ君酌一、五花馬千金裘、呼ㇾ兒將出換二美酒一、與ㇾ爾同銷二萬古愁一。

【將然形】127シヤウゼンケイ　文法用語。將然段に同じ。

【將然言】128シヤウゼンゲン　文法用語。將然段の語。助動

詞を添へて、未來又は否定等を表はす。

【將然段】129（シャウゼンダン） 文法用語。動詞・形容詞・助動詞の活用の第一段。これに助動詞をそへて、未來・假定・推量・否定などをあらはす形。未然形。將然形。

【將仲子】130（シャウチュウシ） 詩經、鄭風の篇名。鄭の莊公を刺つた詩。一說に、淫奔者の辭といふ。〔詩、鄭風、將仲子序〕將仲子、刺二莊公一也、不レ勝二其母一、以害二其弟一、弟叔失レ道、而公弗レ制、祭仲諫、而公弗レ聽、小不レ忍、以致二大亂一焉。〔集傳〕莆田鄭氏曰、此淫奔者之辭。

【將無レ同】131（ハタオナジキコトナカランヤ） 相同じといふこと。晉の阮瞻が王戎に聖人の名教と老莊の自然の道との異同を問はれた時、將無同と答へて任用せられ、時人に三語掾と稱せられた故事。〔晉書、阮瞻傳〕王戎問曰、聖人貴二名教一、老莊明二自然一、其旨同異、瞻曰、將無レ同、戎咨嗟良久、卽命辟レ之、時人謂二之三語掾一。〔通俗編、語辭、將無同〕升菴集、阮瞻曰、將無レ同、解者不レ一、云云、晉人語言務レ簡、且爲二兩可之辭一、將無、疑詞、言二畢竟同一也。

【將計就計】132 chiang^1 chi^4 chiu^4 chi^4 謀の裏をかく。

【將錯就錯】133（シャウサクシウサク） 過の上塗りをする。過失をそのまま續ける。〔五燈會元〕楊次公辭世偈、將錯就錯、西方極樂。

【將者死官】134（シャウナルモノハシクワンナリ） 大將は命の危い役目である。〔尉繚子、武議〕兵者凶器也、爭者逆德也、將者死官也。

【將レ如二之何一】135（マサニコレヲイカンセントス） 之をどうしようとするのか。〔左氏、定、四〕吾子欲レ復二文武之略一、而不レ正二其德一、將レ如二之何一。

【將信將疑】136（ハタシンジハタウタガフ） 半信半疑。〔李華、弔二古戰場一文〕人或有レ言、將信將疑、悁二悁心目一、寤寐見レ之。

【將屯將軍】137（シャウトンシャウグン） 駐屯の軍をすべる將軍。將は領。〔史記、韓長孺傳〕大行王恢爲二將屯將軍一。〔注〕正義曰、李奇云、監二主諸屯一。〔漢書、文帝紀〕屬國悍爲二將屯將軍一。

【將本求利】138 chiang^1 pen^3 ch'iu^2 li^4 資本を貸し付けて利殖を計る。

【將本圖利】139 chiang^1 pen^3 t'u^2 li^4 將本求利に同じ。

【將レ落之日】140（マサニオチントスルノヒ） 西山に入らうとしてゐる夕日。人の老いて死に近づく喩。落は歿。〔言志耋錄〕七十八十、如二將レ落之日一。

【斬レ將刈レ旗】141（シャウヲキリハタヲカル） 敵の將を斬り敵の旗を倒す。〔史記、項羽紀〕爲二諸君一潰レ圍、斬レ將刈レ旗、令四諸君知三天亡レ我非二戰之罪一也。

【將レ有レ事二于西疇一】142（マサニセイチウニコトアラントス） 西の方の耕地で田畑の仕事が始まらうとする。疇は田又は畑。〔陶潛、歸去來辭〕農人告レ余以二春及一、將レ有レ事二於西疇一。

【將閒送老之堂】143（シャウカンソウラウノドウ） 淸、楊峴(6－15112‥130)の室名。

【爲レ將三世必敗】144（シャウタルコトサンセイナレバカナラズヤブル） 大將たること三世に及べば、其の子孫は必ず敗北を取る。先世多殺の報といふ。〔史記、王翦傳〕秦使二王翦之孫王離擊レ趙、云云、客曰、不レ然、夫爲レ將三世者必敗、必敗者何也、以下其所二殺伐一多上矣、其後受二其不祥一、今王離已三世將矣、居無レ何、項羽救レ趙擊二秦軍一、果虜二王離一、王離軍遂降二諸侯一。

【將在レ軍君命有レ所レ不レ受】145（シャウグンニアレバクンメイモウケザルトコロアリ） 將軍が戰に臨むや、天子は之に特權を授けるので、戰場に在つては、天子の命令にも從はないことがある。〔孫子、九變〕地有レ所レ不レ爭、君命有レ所レ不レ受。〔史記、孫子傳〕孫子曰、臣既已受レ命爲レ將、將在レ軍、君命有レ所レ不レ受、遂斬二隊長二人一以徇。〔史記、信陵君傳〕將在レ外、主令有レ所レ不レ受。

【專】7439

小篆

一セン 〔集韻〕朱遄切 ㄓㄨㄢ chuan^1 先

二タン ダン 〔集韻〕徒官切 寒

一❶長さ二尺六寸の笏。手びかへの木板。〔說文〕專、六寸簿也、从レ寸叀聲。〔段注〕說文無レ簿有レ薄、蓋後人易レ艸爲レ竹、以分二別其字一耳、六寸薄、蓋笏也、云云、徐廣車服儀制曰、古者貴賤皆執レ笏、卽今手版也、云云、六寸未レ聞、疑上奪二二尺字一、玉藻曰、笏度二尺有六寸、此法度也、故其字從レ寸。❷つむぐ。いとまき。〔說文〕專、一曰、專、紡專。〔段注〕小雅、乃生二女子一、載弄二之瓦一、毛曰、瓦、紡專也、云云、今專之俗字、作二甎・塼一。❸もつぱら。もつぱらにする。嫥(3－6662)に通ず。〔說文、專、紡專、段注〕今以レ專爲二嫥壹之嫥一。㋑ほしいまま。ほしいままにする。〔左氏、桓、十五〕祭仲專、鄭伯患レ之。〔淮南子、主術訓〕所下以制二有司一使上レ無二專行一也。〔注〕專、擅也。〔後漢書、樊鯈傳〕如令二陛下子一、臣等專誅而已。〔注〕專、謂レ不レ請也。㋺ひとり。〔國語、晉語八〕非レ起也、敢專承レ之。〔注〕專、獨也。㋩わたくし。〔荀子、王制〕不三敢專二造家一。〔注〕專造、私造也。㊁ひとりじめにする。〔國語、周語上〕夫榮公好レ專レ利。〔注〕專、擅也。㋭おもひあがる。〔漢書、五行志中之上〕子容專。〔注〕師古曰、專、自是也。㋬まじらぬ。〔易、繫辭上〕其靜也專。〔注〕專、專一也。㋣こる。まとまる。一つになる。〔淮南子、精神訓〕血氣能專二於五藏一。〔注〕專、一也。❹つかさどる。〔禮、檀弓下〕爾專レ之。〔注〕專、猶レ司也。❺まかせる。〔素問、解精微論〕夫心者五藏之專精也。〔注〕專、任也。❻ひとしい。〔廣雅、釋言〕專、齊也。❼まこと。〔廣韻〕專、誠也。❽ただす。〔廣韻〕專、政也。❾ひとへ。一枚。重ねない。〔禮、曲禮上〕有レ喪者專レ席而坐。〔注〕專、單也。❿みちる。〔郭璞、江賦〕紫蚢如レ渠、洪蚶專レ車。〔注〕善曰、賈逵曰、專、滿也。⓫あつい。〔增韻〕專、純篤也。〔儀禮、士虞禮〕用二專膚一爲二折俎一。〔注〕專、猶レ厚也。⓬おもい。〔戰國、秦策〕孰與二文信君一專。〔注〕專、權重也。⓭まはる。轉(10－38507)に通ず。〔說文通訓定聲〕專、叚借爲レ轉。〔廣雅、釋言〕專、轉也。⓮兵車八十一乘の稱。〔左氏、昭、元〕專爲二右角一。〔服注〕八十一乘爲レ專。⓯古は叀(2－2801)に作る。〔篇海〕叀、音專、義同、古文。⓰或は叀(2－3083)に作る。〔玉篇〕專、亦爲レ叀。⓱姓。〔姓氏考略〕吳有二專諸一。二まるい。團(3－4834)に通ず。〔說文通訓定聲〕專、叚借爲レ團。〔集韻〕團、周禮作レ專。〔周禮、地官、大司徒〕其民專而長。〔注〕專、圜也。邦たうめ。たくめの音便。㋑もつぱら。專一。㋺老女。專ら家事を司るからいふ。㋩老狐。いがたうめの上略。

名乘 モロ。

參考 ❶專(4－7433)は別字。❷熟語は顓(12－43600)を併せ見よ。

【專愛】1（センアイ） もつぱら愛する。或るものだけを特別に愛する。殊愛。〔曹植、平陽懿公主誄〕專二愛一官一、取二玩聖皇一。

【專案】2 chuan^1 an^4 專用の公文。

【專庵】3（センアン） 字號。❶上月信敬の號。❷平住周道の號。平住專庵(4－9167‥768)を見よ。

【專意】4（センイ） 心を一事に向ける。專心。〔管子、君臣上〕專レ意一レ心、守レ職而不レ勞、下之事也。〔韓非子、有度〕古者世治之民、奉二公法一、廢二私術一、專レ意一レ行、具以待レ任。〔漢書、貢禹傳〕古者不下以二金錢一爲上レ幣、專二意於農一。

【專爲】6（センヰ） ほしいままにする。〔莊子、山木〕無二肯專爲一、一上一下、以レ和爲レ量。

【專有】7（センイウ） 一人で所有する。もつぱらにする。獨占。〔列子、力命〕田恆專二有齊國一。〔後漢書、

荀彧傳〕操譬レ之曰、昔介子推有レ言、竊二人之財一、猶謂二之盜一、況君奇謨拔出、興亡所レ係、可三專二有之一邪。〔注〕操不レ專レ功、欲レ分二之於彧一也。

【專一】8 センイツ ❶もつぱら。ひたすら。唯々一事にはげんで他を顧みぬこと。專壹。〔列子、天瑞〕氣專志一。〔孫子、軍爭〕人既專一、則勇者不レ得二獨進一、怯者不レ得二獨退一。〔淮南子、主術訓〕心不二專一一、不レ能二專誠一。〔史記、太史公自序〕道家使二人精神專一一。〔漢書、文帝紀〕今大臣雖レ欲レ爲レ變、百姓弗レ爲レ使、其黨寧能專一耶。〔列女傳、母儀、棄母姜嫄傳〕棄姜嫄性、清靜專一。❷專ら一樣で變化がないこと。專壹の❷に同じ。

【專一不レ移】9 センイツニシテウツラズ 心が專一で外に移らない。〔白虎通、情性〕信者誠也、專一不レ移也。

【專壹】10 センイツ ❶もつぱら。ひたすら。專一。〔漢書、元后傳〕忠誠專壹、有二舊恩一。〔韓愈、荊潭唱和詩序〕憔悴專壹。❷專ら一樣で變化がないこと。〔左氏、昭、二十〕若二琴瑟之專壹一、誰能聽レ之。〔會箋〕言下琴瑟專一、唯有二一聲一、不上レ得レ成レ樂。

【專員】11 センヰン ❶專任官吏。專司。〔清國行政法汎論、行政區劃及地方官廳〕兼二按察使之銜一、不レ置二專員一。❷chuan^{1} yüan^{2} ㋑專務員。㋺特派員。

【專運】12 chuan^{1} yün^{4} 專門に運搬して來ること。直輸入。

【專要】13 センエウ 最も大切なところ。

【專屋】14 センヲク 小さい室。專室(62)に同じ。〔鹽鐵論、鹽鐵取下〕夫高堂邃宇、廣厦洞房者、不レ知二專屋狹廬、上漏下濕者之瘤一也。

【專家】15 センカ ❶專門に或る種の學術を研究する人。專門家。專門名家(153)を見よ。〔清史稿、儒林傳序〕後如下孔廣森之於二公羊春秋一、張惠言之於中孟虞易說上、云云、皆專家孤學也。❷專門店。

【專价】16 chuan^{1} chieh^{4} 特別の使者。

【專行】17 センカウ ❶ひとりで行ふ。勝手にふるまふ。〔左氏、宣、十二〕其三師者、專レ行不レ獲、聽而無レ上、衆誰適從。〔淮南子、主術訓〕所下以制二有司一使中無二專行一也。❷[佛] センギヤウ 餘法を棄てて專ら一法を行ずること。〔教行信證、六〕專行者、專二修一善一、故曰二專行一。

【專學】18 センガク ❶專門の學問。〔經學歷史、經學復盛時代〕阮元云、張惠言之虞氏易、孔廣森之公羊春秋、皆孤家專學也。❷新論の篇名。

【專函】19 chuan^{1} han^{2} 特に或る一事件のために送る手紙。

【專氣】19′ センキ 氣を專らにして散らさぬ。〔老子、十〕專レ氣致レ柔、能爲二嬰兒一乎。

【專鄉】20 センキヤウ 專饗に同じ。〔漢書、文帝紀〕十四年春、詔曰、夫以二朕之不德一、而專鄉獨美二其福一、百姓不レ與焉、是重二吾不德一也、其令二祠官致レ敬、無レ有レ所レ祈。

【專饗】21 センキヤウ 專ら饗應する。又、專ら享受する。專鄉。〔魏志、武帝操傳〕興平十二年、令曰、天下雖レ未二悉定一、吾當レ要下與二賢士大夫一共定上レ之、而專饗二其勞一、吾何以安焉、其促定レ功行レ封。

【專居】22 センキヨ 獨りで居る。專は獨。〔呂覽、辯土〕樹レ肥無レ使二扶疏一、樹レ墝不レ欲二專生一而族居、肥而扶疏則多レ粃、墝而專居則多レ死。

【專謹】23 センキン 心が專一でつつしみぶかい。〔北史、崔浩傳〕丘堆雖レ無二大用一、然在レ公專謹。

【專愚】24 セング 甚だ愚か。大馬鹿もの。〔後漢書、朱穆傳〕其父常以爲二專愚一。〔梁元帝、玄覽賦〕前踰二繫象之外一、聲高二洙泗之右一、伊二俯己之專愚一、謬二聯尊於天衢一。

【專科】25 センクワ ❶專門の學科。❷各種の學校に於て、或る學術・技藝に限つて學習させる爲に特別に設けた科。專修科。

【專科生】26 センクワセイ 專科の生徒。專科の學生。專科の❷を見よ。

【專科正教員】28 センクワセイケウヰン もと小學校の科目中、圖畫・唱歌・體操・裁縫・手工・英語・農業・商業の一科目、又は數科目を限つて教授する資格ある教員。

【專管】29 センクワン 一手でとりしまる。專管居留地を見よ。

【專管居留地】30 センクワンキヨリウチ 一國の領事が主として管理する居留地。〔清國天津日本居留地取極書及同續約、第一條〕專管居留地。〔清國廈門日本專管居留地取極書、第一條〕專管居留地。

【專敬】31 センケイ 專ら一人を敬ふこと。〔北夢瑣言、三〕王文公凝、清修重德、冠二絕當時一、云云、琅邪知レ之、謂二其專敬一、愈重レ之。

【專經】32 センケイ ❶心を經術に專らにすること。經學を專攻する。〔魏書、李瑒傳〕士大夫學問、稽二博古今一而罷、何用二專經一爲二老博士一也。〔周書、樊深傳〕深既專レ經、又讀二諸史及倉雅篆籀陰陽卜筮之書一。〔南史、王儉傳〕宋孝武好二文章一、天下悉以二文采一相尚、莫下以二專經一爲上レ業、儉弱年便留二意三禮一、尤善二春秋一。❷專ら經書で士を試みること。〔宋史、選擧志一〕凡專經進士、須レ習二兩經一。

【專決】34 センケツ 一人で勝手にきめる。專斷。專裁。〔史記、太史公自序〕專決二於名一、而失二人情一。〔宋史、仁宗紀四〕須下與二僚屬一參議、公事毋中專決上。

【專缺】35 センケツ 特定の身分の者に限つて任用せられる官職。〔清會典、吏部〕從九品內、分州吏目一項、府廳照磨一項、另爲二專缺一。〔清國行政法汎論、文官缺〕然或在二官缺中一、有下限二特定之員一、許二與之一者上、謂二之專缺一。

【專業】36 センゲフ 專門の學問。又、專門の仕事・事業。〔顏氏家訓、雜藝〕自レ古儒士、論二天道一定二律曆一者、皆學通レ之、然可二以兼明一、不レ可二以專業一。〔韻府引、書、選擧志〕律學生以二律令一爲二專業一。〔李嶠、上二巡察覆囚使歷城張明府一書〕嶠西垂之賤吏耳、技非二專業一。

【專檢】37 センケン 專門學校入學者檢定試驗の略。もと中等學校を卒業しないものに對し、專門學校入學の資格を授ける檢定試驗。

【專權】38 センケン 權をもつぱらにする。權力を一人で握る。〔戰國、趙策〕先王之時、奉陽君相、專レ權擅レ勢、蔽二晦先王一、獨制二官事一。〔史記、齊太公世家〕慶封爲二相國一專レ權。〔漢書、五行志中之下〕遂專レ權自恣。〔白虎通、封公侯〕爲三其專レ權擅レ勢、傾二覆國家一。

【專己】39 センコ 專ら己の偏見を固執すること。〔漢書、劉歆傳〕若必專レ己守レ殘。〔注〕師古曰、專執二己所レ偏見一。

【專固】40 センコ 專一で固い。〔顏氏家訓、勉學〕音辭鄙陋、風操蚩拙、相與專固、無レ所二堪能一。

【專攻】41 センコウ ❶專ら責めたてる。一途に責めたてる。〔漢書、谷永傳〕前後所レ上四十餘事、略相反覆、專攻三上身與二後宮一而已。❷一事を專門に修め習ふ。專修。專習。專門。〔韓愈、師說〕聞レ道有二先後一、術業有二專攻一。

【專候】42 chuan^{1} hou^{4} ひたすら待つ。

【專閫】43 センコン 地方の軍務。武人が國門の外にて專ら軍事を掌ること。〔史記、馮唐傳〕閫以內者、寡人制レ之、閫以外者、將軍制レ之。〔注〕集解曰、韋昭曰、此郭門之閫也、門中橛曰レ閫、正義曰、閫、謂二門限一也。〔燕子箋、防胡〕高牙專閫丹心耿。

【專懇】44 chuan^{1} kʻen^{3} 偏へに懇願仕候。書翰文用語。

【專差】45 センサ 緊急事件に對し特に派遣する。〔清會典、都察院〕每年春秋二季造レ冊、專差咨送稽二察宗人府衙門一。

【專裁】46 センサイ 專決(34)に同じ。

【專想】47 センサウ [佛] 專ら一境を觀じて心を散らさぬこと。〔觀無量壽經〕專想不レ移。

【專策】48 センサク 專斷の策略。〔潘岳、關中詩〕將無二專策一、兵不二素肄一。

【專殺】49 センサツ ほしいままに殺す。〔孟子、告子下〕無三專二殺大夫一。〔漢書、刑法志〕專レ殺者勝レ任、奉レ法者不レ治。〔白虎通、攷黜〕誅罰刑、賜以二鈇鉞一、使レ得二專殺一。

【專司】50 センシ 係員。專任官吏。專員ともいふ。〔福惠全書、蒞任部、清査之法〕地丁之外、凡有二錢糧一、倶作二雜項一、各有二專司一、若係二全書會計額欵一、亦令下經承照二造四柱一開送上。

【專此】51 chuan^{1} tzʻŭ^{3} 先は右まで。右要用のみ。書翰文用語。

【專此奉候】52 chuan^{1} tzʻŭ^{3} fêng^{4} hou^{4} 先は右御伺ひまで。書翰文用語。

【專志】53 センシ 專心。一心。〔徐照、送二奭上人化緣一詩〕專レ志事皆成、期二師此一行一。

【專使】54 センシ ❶特別に派遣した使者。特使。〔白居易、與二吐蕃宰相鉢闡布一敕書〕自レ議二三州一已來、此亦未レ發二專使一。❷chuan^{1} shih^{4} ㋑特命全權大使。特命全權公使。㋺特派員。

【專侈】55 センシ おごりを專らにする。〔張衡、東京賦〕思下專二其侈一、以莫中己若上。

【專思】56 センシ 專心。專念。〔後漢書、曹襃傳〕晝夜

研精、沈吟專思、寢則懷二抱筆札一、行則誦二習文書一。

【專恣】57（センシ）わがまま。ほしいまま。專横。專擅。〔春秋緯考異郵〕后妃專恣、刑二殺無辜一、則天雨レ雹。〔漢書、楚元王傳〕是後尹氏世レ卿而專恣。〔列女傳、續列女、梁夫人嫕傳〕欲三專恣害二外家一。〔後漢書、五行志一〕是時梁冀、秉レ政專恣。

【專祠】58（センシ）民間の功勞ある者を特に祀る祠。〔清會典事例、禮部、羣祀、功臣專祠〕順治十一年諭、定南武壯王孔有德、在二瀋陽一時、率レ衆航海來歸、屢建二功績一、迨三朕平二定天下一、有德勦二巨寇一、靖二南服一、開二闢廣西一、勳勞懋著、不レ意桂林之役、衆寡不レ敵、精忠自矢、竟以レ身殉、義烈允彰、稽二考舊典一、有二立レ祠致レ祭之例一、爾部詳察具奏。

【專州】59（センシウ）州の事を專らにすること。轉じて、地方長官の稱。〔後漢書、馬嚴傳〕刺史太守、專レ州典レ郡。

【專售】60 chuan^1 shou^4 ❶專賣。一手販賣。❷專門に賣る。

【專修】61（センシウ）❶もつぱら一事を修める。專攻。❷佛（センジユ）淨土教にて極樂に往生するために、ひたすら稱名念佛の行を專ら修すること。〔教行信證、六〕就二專修一有二二種一、一者唯稱二佛名一。

【專室】62（センシツ）小さい室。專屋。〔淮南子、本經訓〕民之專室蓬廬、無レ所二歸宿一。〔注〕專室、小室也。〔淮南子、脩務訓〕獨守二專室一、而不レ出レ門。〔鹽鐵論、輕重〕內藏二於專室土圜之中一。

【專執】63（センシツ）獨斷でとらへる。勝手にとらへる。〔公羊、定、元〕大夫之義、不レ得二專執一也。

【專習】64（センシフ）もつぱら一事をならふ。專門にまなぶ。專修。專攻。〔宋史、高宗紀五〕選レ兵專二習弓弩一、立レ格按レ試。

【專車】65（センシヤ）❶車いつぱいになる。大きな物の形容。〔國語、魯語下〕吳伐レ越、墮二會稽一獲レ骨焉、節專レ車、吳子使三來好聘、且問二之仲尼一、曰、無三以二吾命一、賓發二幣於大夫一及二仲尼一、仲尼爵レ之、既徹レ俎而宴、客執レ骨而問、曰、敢問骨何爲レ大、仲尼曰、丘聞レ之、昔禹致二羣神於會稽之山一、防風後至、禹殺而戮レ之、其骨節專レ車、此爲レ大矣。〔注〕骨一節、其長專レ車、專、擅也。〔曾祺注〕專車、滿二一車一也。〔史記、孔子世家〕吳伐レ越、墮二會稽一得レ骨、節專レ車。❷車の座席を獨占して乘る。〔晉書、和嶠傳〕嶠遷二中書令一、帝深器二遇之一、舊監令共レ車入朝、時荀勖爲レ監、嶠鄙二勖爲一レ人、每二同乘一高抗、專レ車而坐、乃使二監令異一レ車、自レ嶠始也。〔任昉、王文憲集序〕長輿追二專車之恨一、公曾甘二鳳池之失一。❸chuan^1 ch'ê^1 ㋑特別列車。臨時列車。㋺特別仕立ての車。㋩同車する。

【專章】66 chuan^1 chang^1 專賣特許條例。

【專城】67（センジヤウ）地方長官の稱。其の權力、一城を專らにするからいふ。〔古樂府、陌上桑〕三十侍中郞、四十專城居。〔孟浩然、送三韓使君除二洪州都曹一詩〕往來看レ擁レ傳、前後賴二專城一。

【專城伯】68（センジヤウハク）地方長官。郡守をいふ。〔蘇頲、餞二唐州高使君赴一レ任詩〕勿レ言行路遠、所レ貴專城伯。〔稱謂錄、知府、專城伯〕案、專城伯、昔爲二郡守一也。

【專主】69 chuan^1 chu^3 自分の思ふ通りにする。「專斷。

【專諸】70（センシヨ）春秋、吳の堂邑の人。專は一に剸に作り、又、鱄に作り、又、鱄設諸ともいふ。吳の公子光のために王僚を殺さんとし、匕首を炙魚の腹中に藏して進み、立ちどころに之を刺し殺したが、己も亦、左右に殺された。〔史記、八十六〕。

【專心】71（センシン）心を專らにする。心を一つの事に向ける。專念。專思。專意。〔孟子、告子上〕今夫弈之爲レ數小數也、不二專レ心致一レ志、則不レ得也。〔荀子、性惡〕專レ心一レ志。〔後漢書、馬援傳〕願足下往觀レ之、於二汝意一可、卽專レ心矣。〔潘岳、射雉賦〕厲二耿介之專心一兮。

【專心一意】72（センシンイチイ）心を一つの事に向ける。〔漢書、翟方進傳〕其專心一意毋レ怠、近二醫藥一以自持。〔新語、懷慮〕專心一意、身無二境外之交一。

【專心向公】73（センシンオホヤケニムカフ）心を一つにして公につくす。〔魏志、杜恕傳〕不レ結二交援一、專心向レ公。

【專人】74 chuan^1 jen^2 特に人を遣はす。特に人「に命ずる。

【專生】75（センセイ）獨り生ずる。專は獨。〔呂覽、辯土〕樹レ肥無レ使二扶疏一、樹レ墝不レ欲二專生一而族居。〔注〕專、獨也。

【專制】76（センセイ）❶獨斷で事を行ふ。勝手氣儘に處置する。政事を恣にする。又、其のこと。〔韓詩外傳、七〕行無二專制一。〔大戴禮、本命〕婦人者伏二於人一者也、是故無二專制之義一、有二三從之道一。〔國語、楚語上〕既得レ道、猶不二敢專制一。〔韓非子、亡徵〕大臣專レ制、樹二羈族一以爲レ黨。〔史記、孝文紀〕擅レ權專レ制。〔漢書、袁盎傳〕大臣顓レ制。〔注〕師古曰、顓、與レ專同。〔淮南子、道應訓〕國人皆知三殺戮之專制在二子罕一也。〔淮南子、氾論訓〕周公事二文王一也、行無二專制一。〔注〕專、獨、制、斷也。〔春秋繁露、天地之行〕委レ身致レ命、事無二專制一、所二以爲一レ忠也。❷官吏が勝手に法文を增加することをいふ。〔管子、立政〕考レ憲而有下不レ合二于太府之籍一者上、侈曰二專制一、不レ足曰二虧令一、罪死不レ赦。〔劉績補注〕侈曰二專制一、謂レ增レ之、不レ足曰二虧令一、謂レ損レ之。❸專制政治の略。

【專制國】77（センセイコク）專制政體の國。

【專制政體】78（センセイセイタイ）政體の一。國權の行動を立法・司法・行政の三種に區別することなく、同一者の手に三權を混同して掌握させる政體。

【專制政治】79（センセイセイヂ）專制政體によつて施行せられる政治。

【專制之瑕穢】80（センセイノカワイ）專制政治の缺點や弊害。〔袁大總統誓詞〕滌二盪專制之瑕穢一。

【專征】81（センセイ）❶天子の命を受けて征伐を專らにする。〔竹書紀年、上〕王錫二命西伯一、得レ專二征伐一。〔白虎通、攷黜〕好惡無レ私、執レ義不レ傾、賜以二弓矢一、使レ得二專征一。〔陶潛、命レ子詩〕桓桓長沙、伊勳伊德、天子疇レ我、專二征南國一。〔岑參、送三郭僕射節二制劍南一詩〕明主親授レ鉞、丞相欲二專征一。❷天子の命令を待たないで勝手に征伐する。〔資治通鑑、周紀〕幽厲失レ德、周道日衰、綱紀散壞、下陵下替、諸侯專レ征、大夫擅レ政、禮之大體、什喪二七八一矣。

【專政】82（センセイ）❶一人で政治を專らにする。獨斷で政治を行ふ。〔左氏、襄、二十一〕以二范氏一爲下死二桓主一而專上レ政矣。〔史記、趙世家〕成兌專レ政。〔漢書、張禹傳〕王氏專レ政。〔後漢書、天文志〕梁氏專レ政。❷專制の政治。壓制改治。

【專勢】83（センセイ）權勢を專らにする。又、其のこと。〔晉書、庾敳傳〕象後爲二太傅主簿一、任レ事專レ勢。

【專精】84（センセイ）❶專一で純粹。又、其のもの。〔素問、解精微論〕夫心者五藏之專精也。〔淮南子、天文訓〕陰陽之專精爲二四時一、四時之散精爲二萬物一。〔白虎通、災變〕陰氣專精。❷精神を一事に專らにする。〔漢書、禮樂志〕專レ精厲レ意。〔王褒、四子講德論〕閉レ門距レ躍、專レ精趨レ學。〔後漢書、李育傳〕少習二公羊春秋一、沈レ思專レ精。〔論衡、儒增〕儒書言、董仲舒讀二春秋一、專レ精一レ思、志不レ在レ他。〔魏志、楊阜傳〕宜下深有中以二專精一應答上。❸佛（センジヤウ）心を一つにする。〔別譯雜阿含經、一〕心無二放逸一、專精行道。

【專誠】85（センセイ）❶まことでもつぱら。〔淮南子、主術訓〕心不二專一一、不レ能二專誠一。〔仲長統、辨祉主篇〕天至尊無レ物、以稱二專誠一。❷chuan^1 ch'êng^2 專ら。態々。

【專席】86（センセキ）❶席を一重にする。敷物を一枚にする。專は單。〔禮、曲禮上〕有レ喪者專レ席而坐。〔注〕降二居處一也、專、猶レ單也。〔疏〕吉時貴賤有二重席之禮一、若二父母始喪一、寢レ苫無レ席、卒哭後乃有、芐翦不レ納、自二齊衰一以下、始喪而有レ席、並不レ重、降二居處一也。❷獨りで席を占める。獨りで坐持ちをする。〔風俗通、過譽〕坐則專レ席。〔陳鴻、長恨歌傳〕與レ上行同レ室、宴專レ席、寢專レ房。

【專責】87（センセキ）責任。〔福惠全書、蒞任部、馭衙役〕皂快民壯人等、亦有二犇走專責一。

【專說】88 chuan^1 shuo^1 專らいふ。

【專節】89（センセツ）みさををもつぱらにする。みさをを一つにして變へない。又、其のこと。〔晉書、山濤傳〕參議以爲、無二專節之尙一、違二至公之義一。

【專占】90（センセン）一人で所有する。獨占。

【專專】91（センセン）專らにする。專一にする。〔楚辭、宋玉、九辯〕計專專之不レ可レ化兮、願遂推而爲レ臧。〔注〕我心匪レ石、不レ可レ轉也。〔朱熹集注〕言、我但能專二一於君一而不レ可レ化。〔韓愈、復志賦〕始專二專於講習一兮。

【專擅】92（センセン）ほしいままにする。獨斷獨行して命令にしたがはぬこと。專恣。〔漢書、蕭望之傳〕專二擅權勢一。〔後漢書、李雲傳〕梁冀雖三持レ權專擅、虐二流天下一、今以レ罪行レ誅、猶下召二家臣一搤中殺之上耳。〔吳志、孫休傳〕專二擅國勢一。〔抱

朴子、良規〕事無㆓專擅㆒、請而後行。

【專綜】93（センソウ）　獨りですべ治める。〔晉書、石季龍載記上〕聽辯明斷、專綜㆓機密之任㆒。

【專總】94（センソウ）　ほしいままにすべ治める。〔後漢書、宦者傳序〕而竇憲兄弟、專㆓總權威㆒。

【專足】95 chuan^1 tsu^2　特別に派遣せられた急飛脚。專差。

【專屬】96（センゾク）　それにのみ附き從ふ。つききり。

〖專屬管轄〗97（センゾククワンクワツ）　其の管轄に專ら附屬すること。

〖專屬裁判籍〗98（センゾクサイバンセキ）　訴訟事件の專屬する裁判籍。

【專對】99（センタイ）　獨斷で自由にうけこたへする。〔論語、子路〕誦㆓詩三百㆒、授㆑之以㆑政、不㆑達、使㆓於四方㆒、不㆑能㆓專對㆒、雖㆑多亦奚以爲。〔注〕專、猶㆑獨也。〔漢書、王吉傳〕光祿勳匡衡、亦擧㆔駿有㆓專對材㆒。〔注〕師古曰、專對、謂㆓見㆑問卽對、無㆑所㆑疑也。〔後漢書、馬援傳〕四子、廖・防・光・客卿、幼而岐嶷、年六歲能應㆓接諸公㆒、專㆓對賓客㆒。〔吳志、孫登傳〕辯捷有㆓專對之材㆒。

【專當】100（センタウ）　❶專ら其の事に當る。〔類聚三代格、二〕承和三年五月九日、別當之僧、專㆓當其事㆒。❷古昔、莊園・社寺等で專ら其の雜務を擔當した職。〔朝野羣載、二十二〕專當安曇安信。

【專道】101（センダウ）　道を行くに人を避けぬこと。〔禮、雜記上〕專㆑道而行。〔注〕專㆑道、人辟㆑之。〔疏〕既夕禮云、屬㆑引、鄭注、古者人引㆑柩專㆑道行、謂㆓喪在㆑路不㆑辟㆑人也。

【專達】102（センタツ）　獨斷で政事を行ひ、之を王に通達すること。〔周禮、天官、小宰〕一曰天官、其屬六十、掌㆓邦治㆒、大事則從㆓其長㆒、小事則專達。〔孫詒讓正義〕士昏禮注云、達、通達也、此專達、亦謂㆘修㆓其職事㆒、以自通㆗達於王㆖。

【專斷】103（センダン）　獨りでとりきめる。自分一己の意見でほしいままにとりきめる。又、其のこと。專決。獨斷。〔韓詩外傳、四〕大臣以㆓專斷㆒圖㆑私。〔史記、儒林傳〕諸侯擅專斷不㆑報。〔漢書、王莽傳上〕莽既說㆓衆庶㆒、又欲㆓專斷㆒。

【專治】104（センチ）　獨斷で政治を行ふ。〔史記、禮書〕今大國專㆑治異㆑政、不㆑稟㆓京師㆒。

【專知】105（センチ）　知を專らにする。〔莊子、漁父〕專㆑知擅㆑事。

【專長】106 chuan^1 chang^3　❶課長。❷特長。獨特の技能。

【專場】107（センヂヤウ）　其の場を獨りで專らにする。匹敵する者の無いことをいふ。獨擅場。擅場。〔張正見、雉子班〕雊㆑麥旦專場、排花聊勇戰。〔韓愈、贈㆓崔立之評事㆒詩〕子時專㆑場誇㆓觜距㆒、余始張㆑軍嚴㆓韅靮㆒。

【專注】108 chuan^1 chu^4　專ら其の事に傾注する。又、專斷。

【專女】109（タウメ）　❶年老いた女。老女は專ら家事を掌るからいふ。〔倭名類聚抄、人倫部、男女類、專〕日本紀私記云、專領。〔注〕多宇女・乎佐女、今案、俗呼㆓老女㆒爲㆑專。❷老いた狐。老狐。〔百練抄、九〕延久四年十一月七日、藤原仲季勘㆓罪名㆒配㆓流土佐國㆒、於㆓齋宮邊㆒依㆔射㆓殺白專女㆒也。

【專寵】110（センチヨウ）　寵愛を一身に引き受ける。專愛。〔漢書、五行志中之下〕其後趙蜚燕得㆑幸、立爲㆓皇后㆒、弟爲㆓昭儀㆒、姊妹專㆑寵。〔後漢書、竇武傳〕內官專㆑寵。〔五代史、唐家人、次妃曹氏傳〕曹氏封㆓晉國夫人㆒、後生㆑子、是謂㆓莊宗㆒、太祖奇㆑之、曹氏由㆑是專㆑寵。

【專直】111（センチヨク）　もつぱら。專一。〔列子、仲尼〕衎衎然、若㆓專直而存㆑雄者㆒。〔鬳齋口義〕專直、一也。

【專條】112 chuan^1 t'iao^2　條約の一種。特別條例。

【專輒】113（センテフ）　もつぱら行ふ。勝手にふるまふ。又、其のこと。輒は車の箱の兩側の板で、人の身體をよせるもの。凡そ人は倚恃する所があると、とかく專斷になり勝ちなことから引伸して、輒も專の意に用ひる。〔說文、輒、車兩輢、段注〕凡專輒用㆓此字㆒者、此引申之義、凡人有㆑所㆓倚恃㆒而妄爲㆑之、如㆔人在㆑輿之倚㆓於輢㆒也。〔晉書、劉弘傳〕敢引㆓覆餗之刑㆒、甘㆓受專輒之罪㆒。〔晉書、王濬傳〕案、春秋之義、大夫出㆑疆、由有㆓專輒㆒。

【專佃】114（センデン）　もつぱら耕作する。又、農業專門の者。佃は田を治めること。〔福惠全書、保甲部、漁埠編保〕若無㆓專佃㆒、必有㆓魚戶㆒。

【專電】115 chuan^1 tien^4　特電。特派員・特約員からの電報。

【專等】116 chuan^1 têng^3　專ら待つ。

【專董】117 chuan^1 tung^3　公司專任董事。我が國の事務取締役に相當する。

【專督】118（セントク）　もつぱら取りしまる。〔宋史、曹瑋傳〕願㆔專㆓督軍旅㆒、帝不㆑欲㆔遽更㆓守臣㆒、以㆓密詔㆒諭㆑之。

【專獨】119（センドク）　自己の思ふままにする。〔孔子家語、入官〕專獨者、事之所㆓以不㆑成也。

【專任】120（センニン）　專ら其の事務にたづさはる。又、其の者。かかり。〔荀子、仲尼〕主專㆓任之㆒、則拘守而詳。〔後漢書、董卓傳〕使㆔專㆓任軍政㆒。〔魏志、杜恕傳〕若使㆔法可㆓專任㆒、則唐虞可㆑不㆑須㆓稷契之佐㆒、殷周無㆑貴㆓伊呂之輔㆒矣。

〖專任理事〗121（センニンリジ）　法人團體に於ける事務の專任者。

【專佞】122（センネイ）　ほしいままでよこしまなこと。〔楚辭、離騷〕椒專佞以慢慆兮、樧又欲㆑充㆓夫佩幃㆒。

【專念】123（センネン）　❶一途に其の事のみを思ふ。專心。❷［佛］一心に佛を念ずること。專修念佛。〔觀經疏散善義〕一心專㆓念彌陀名號㆒。

【專能】124 chuan^1 nêng^2　むやみに。〔紅樓夢、九回〕專能造言誹謗主人。

【專派】125（センパ）　特に派遣する。〔淸會典、都察院〕專㆓派司員一人㆒管理。

【專牌】126 chuan^1 p'ai^2　外國商人が本國で登錄を經ない商標で、專ら中國に於て貿易又は製造する商品に使用する商標。

【專賣】127（センバイ）　❶一手で品物を賣りさばく。專售。❷財政上の收入を得る目的で國家が獨占して經營する經濟的企業。❸他人の自由競爭を禁じて自分のみ其の利益を獨占する經濟的企業。

〖專賣局〗128（センバイキヨク）　大藏大臣の管理の下に、烟草・鹽及び樟腦・樟腦油の製造・耕作・檢查・收納・販賣・輸入・輸出・試驗・鑑定及び取締に關する事務を掌る官廳。

〖專賣權〗129（センバイケン）　或る物品に限り專賣し得る權利。

〖專賣特許〗130（センバイトクキヨ）　發明品等に對して、其の模造を防ぐため、政府が特に發明者に與へる或る期間內の專賣權。

【專房】131（センバウ）　室を獨占する。轉じて、妻妾が寵愛を一身に集めるをいふ。專寵。〔後漢書、皇后下、閻皇后紀〕后專㆑房妒忌。〔魏志、荀彧傳、注〕曹洪女有㆓美色㆒、粲於㆑是聘焉、容貌帷帳甚麗、專㆑房歡宴歷㆑年。〔陳鴻、長恨歌傳〕與㆑上行同㆑室、宴專㆑席、寢專㆑房。

〖專房之寵〗132（センバウノチヨウ）　婦人が君主の寵幸を專らにすること。〔晉書、胡貴嬪傳〕胡貴嬪名芳、云云、然芳最蒙㆓愛幸㆒、殆有㆓專房之寵㆒焉。

【專美】133（センビ）　美名を獨占する。〔書、說命下〕爾尙明保㆑予、罔㆑俾㆔阿衡專㆓美有商㆒。〔書言故事、評論類、專美〕獨專㆓美好㆒。

【專愊】134（センピヨク）　ひたすらせまる。〔後漢書、董卓傳〕帝忌㆓操專愊㆒、乃密詔㆓董承㆒、使㆘結㆓天下義士㆒共誅㆖之。

【專愎】135（センピヨク）　我がままで理にもとる。〔史記、伍子胥傳〕子胥專愎彊諫。〔宋史、張康國傳〕帝惡㆓京專愎㆒。〔金史、高德基傳〕海陵爲㆑相、專愎自用。

【專膚】136（センプ）　厚いきり肉。〔儀禮、士虞禮〕用㆓專膚㆒爲㆓折俎㆒、取㆓諸脰膉㆒。

【專武】137（センブ）　武事に心を專らにする。專文を見よ。

【專文】138（センブン）　文事に心を專らにする。〔資治通鑑、唐紀〕（玄宗、開元十九年）臣光曰、豈孔子專㆑文、而太公專㆑武乎。

【專平】139（センペイ）　公平なこと。〔史記、酷吏、張湯傳〕湯雖㆔文深意忌不㆓專平㆒、然得㆓此聲譽㆒。

【專柄】140（センペイ）　權力を勝手に用ひる。〔漢書、佞幸、石顯傳〕擅㆑權專㆑柄、在㆓掌握㆒。

【專辦】141（センベン）　一手に取扱ふ。專門に扱ふ。〔淸國行政法汎論、宗人府、職權、備考〕額駙不㆑兼㆓職任㆒者處分、由㆓府專辦㆒。

【專封】142（センポウ）　恣に領地を與へて治めさせる。〔公羊、僖、元〕諸侯之義、不㆑得㆓專封㆒也。〔白虎通、嫁娶〕諸侯不㆑得㆓專封㆒。

【專務】143（センム）　一事を主としてつとめる。又、一事を主として取りしまる。〔史記、秦始皇紀〕專務㆓肅莊㆒、端直敦忠、事業有㆑常。

〖專務取締役〗144（センムトリシマリヤク）　多數の取締役中、特定せられて、專ら其の事務に當る一人若しくは

數人の者。

【專名】145 chuan^{1} ming^{2} 固有名詞をいふ。專有名詞の略。本名(6−14421・・322)の㊁に同じ。公名の對。

【專命】146（センメイ） 自分で勝手に命令する。又、命令を待たず勝手に事を行ふ。〔左氏、閔、二〕師在レ制レ命而已、稟レ命則不レ威、專レ命則不レ孝、故君之嗣適、不レ可二以帥一レ師。〔史記、晉世家〕稟レ命則不レ威、專レ命則不レ孝、故君之嗣適不レ可二以帥一レ師。〔宋史、常楙傳〕郡有二水災一、發二社倉粟一、以活二饑民一、官吏難レ之、楙先發而後請二專命之罪一。

【專門】147（センモン） ㊀或る一種の經書を限って研究すること。顓門。〔漢書、儒林傳〕(嚴)彭祖・(顏)安樂、各顓門教授。〔注〕師古曰、顓、與レ專同。〔後漢書、儒林傳贊〕塗分流別、專門並興。〔北史、儒林傳序〕雖レ曰二專門一、亦皆相祖習也。㊁專ら一學科又は一事項のみを修め又は營むこと。

【專門家】148（センモンカ） 專ら一學科又は一つの事柄を修め又は營む人。

【專門語】149（センモンゴ） 術語。技藝や學術上などで特に使用する語。

【專門纖補】152 chuan^{1} men^{2} hsien^{1} pu^{3} 衣類の破れを繕ふこと。滿洲並に華北で染房、卽ち染物洗張屋の看板と並んでゐることが多い。

【專門名家】153（センモンメイカ） 或る一種の經書の研究に著名な者。〔資治通鑑、漢紀〕(桓帝、延熹七年)經師易レ遇。〔注〕經師、謂下專門名家、教授有二師法一者上。〔國朝經師經義、詩〕訓詁聲音以二爾雅一爲レ主、草木蟲魚以二陸疏一爲レ則、可レ謂二專門名家一矣。

【專門學務局】154（センモンガクムキョク） もと文部省の一局。帝國大學及び各種の高等學校・專門學校、及び是等の學校に準ずべき各種の學校に關する事項、天文臺・氣象臺・測候所・測地學委員會・震災豫防調査會・學術會・學士會院に關する事項、學術・技藝の保護・調査及び學位並に之に類する稱號に關する事項、醫術開業試驗及び藥劑師試驗に關する事項を掌る。

【專夜】155（センヤ） 妻妾が一人で一夜寵愛を受けること。〔禮、內則、故妾雖レ老、年未レ滿二五十一、必與二五日之御一、注〕次夫人專レ夜則五日也。〔白居易、長恨歌〕承レ歡侍レ宴無二閑暇一、春從二春遊一夜專レ夜。

【專用】156（センヨウ） それのみをもつぱら用ひる。其の人のみが其の物を使用する。又、其のこと。〔沈約、恩倖傳論〕外無二逼主之嫌一、內有二專用之功一。

【專用權】157（センヨウケン） 特定の人のみが使用して他人の使用を排斥する權利。特許權・版權意匠專用權等の類。

【專欲】158（センヨク） きまま。我がまま。專欲難レ成を見よ。

【專欲難レ成】159（センヨクナリガタシ） 我がまま勝手は成功しない。衆人を敵とし、一人で利を占めることは成り難い。〔左氏、襄、十〕子產曰、衆怒難レ犯、專欲難レ成、合二二難一以安レ國、危之道也。

【專欄】160（センラン） ㊀宋代の稅務所。〔宋史、食貨志下八〕私立二稅場一、算及緡錢・斗米・束薪・菜茹之屬、擅用二稽察措置一、添置二專欄一收檢。㊁chuan^{1} lan^{2} 新聞雜誌等で專用の區域の欄。

【專利】161（センリ） ㊀利益を獨占する。又、其のこと。〔國語、周語上〕榮公好レ專レ利、而不レ知二大難一。㊁もつぱらでするどい。專一銳利。〔顏氏家訓、勉學〕人生小幼、精神專利、長成已後、思慮散逸。㊂chuan^{1} li^{4} 專賣特許權。

【專利權】162 chuan^{1} li^{4} chʻüan^{2} 一人で利益を獨占し得る特權。一定の期限內他人が之を侵すことを禁止するもの。發明或は創作物の種類等に依つて期限に長短がある。

【專戮】163（センリク） 誅戮を專らにする。勝手に誅戮する。〔左氏、襄、六〕司城子罕曰、同罪異罰、非レ刑也、專二戮於朝一、罪孰大レ焉。

【專領】164（センリヤウ） 一人で有する。自分勝手に領有する。〔白居易、除二李絳平章事一制〕專二領財賦一、未レ逾二周月一、亦有二成績一。

【專力】165（センリヨク） 力を一事に向ける。〔唐書、甄權傳〕以二幸有一レ功、一藥偶得二他味一相制、弗レ能レ專レ力、此難レ愈之驗也。

【專厲】166（センレイ） もつぱらではげしい。〔漢書、趙廣漢傳〕專厲彊壯蠭氣、見レ事風生、無レ所二回避一。

【專泐】167 chuan^{1} le^{4} 此の事のみを記す。右要用のみの意。書簡文用語。

【專祿】168（センロク） 祿を專らにする。〔左氏、襄、二十六〕臣之祿、君實有レ之、義則進、否則奉レ身而退、專レ祿以周旋、戮也。

【專橫】169（センワウ） ほしいまま。わがまま。專恣。〔日本政記、後村上天皇〕弟師泰亦專橫、至下發二菅原氏墳墓一以營中別莊上。

【專照單】170 chuan^{1} chao^{4} tan^{1} 一種の特許證。外國の商品を中國內地に輸入するに、貨物の通過する稅關で發行する釐金稅免除の證明書。貨物の奧地輸入に際して該貨物に添付せられる。

【專解本票】171 chuan^{1} chieh^{2} pen^{3} pʻiao^{4} 商業手形の一種。主として上海で通行し、手形面に特定銀行の商號を記入するもの。支拂人はただ特定の銀行にのみ支拂をする。

【專言之仁】171′（センゲンノジン） 仁を仁・義・禮・智の諸德の總合と見る場合にいふ。偏言之仁に對する。〔論語、學而、孝弟也者爲レ仁之本與、集注〕仁者、愛之理、心之德。〔輯疏〕偏二言之一、則曰二愛之理一、專二言之一、則曰二心之德一。

【專棲之雄】172（センセイノユウ） 巢を專有する雄雞の雄々しさをいふ。〔海錄碎事、鳥獸、鷄鴨〕抱朴子、詩、鷄有二專レ棲之雄一、蟻有二兼レ弱之智一、蜂有二攻レ寡之計一。

【專摺具奏】173（センセフグソウ） 清代、刑部のみで單獨に行ふ案件。死罪の裁判は刑部及び都察院・大理寺が會同して擬律上奏するを定則とする。〔清會典事例、刑部、刑律斷獄、有司決囚等第二〕如死係二父祖子孫、及服屬期新一者、俱改爲二專摺具奏一。

【尉】

7440

小篆

〔一〕ヰ 〔集韻〕紆胃切 ㄨㄟˋ wei^{4} 〔未〕

〔二〕ウツ ウチ 〔集韻〕紆勿切 ㄩˋ yü^{4} 〔物〕

〔一〕〔二〕のす。火でのばす。㊀㷉(7−19065)・尉(4−7451)・熨(7−19346)に同じ。〔正字通〕尉、本作レ㷉、或作レ尉、俗从レ小作レ尉。〔說文〕㷉、从レ上按レ下也、从二𡰥又持一レ火、所二以申一レ繒也。〔廣韻〕尉、俗作レ熨。㊁ひのし。火斗。〔廣韻〕尉、通俗文曰、火斗曰レ尉、俗作レ熨。㊂なぐさめる。慰(4−11135)の古字。〔漢書、韓安國傳〕以尉二士大夫心一。〔注〕師古曰、古尉安之字、正如レ此、其後流俗乃加レ心耳。〔漢書、車千秋傳〕尉二安衆庶一。〔注〕師古曰、尉安之字、本無レ心也。〔漢書、胡建傳〕所三以尉二薦走卒一。〔注〕師古曰、尉者、自レ上安レ之也。㊃うかがふ。〔廣韻〕尉、候也。㊄あみ。罻(9−28351)に通ず。〔荀子、禮論〕以象二菲帷幬尉一也。〔注〕尉、讀爲レ罻、罻、網也。㊅官名。賊を討ち、獄を斷ずる官。〔左氏、閔、二〕羊舌大夫爲レ尉。〔注〕尉、軍尉氏、討レ姦之官。〔淮南子、時則訓〕八月官レ尉。〔注〕尉、戎官也。〔後漢書、光武紀上〕廷尉岑彭。〔注〕廷尉、秦官也、聽レ獄必質二於朝廷一、與レ衆共レ之、尉、平也、故稱二廷尉一。〔後漢書、賈復傳〕調二補部尉一。㊆姓。〔漢書、地理志、注〕鄭大夫尉氏、亦以レ掌レ獄之官、故爲レ族耳。〔北齊書、尉景傳〕尉景、字士眞、無善人也、秦漢置二尉候官一、其先有下居二此職一者上、因以氏焉。〔通志、氏族略、入聲〕尉氏、音鬱、亦作レ尉、鄭有二尉止・尉翩一、古賢有二尉繚一、著レ書號二尉繚子一、又河南官氏志、尉遲氏、魏孝文改爲二尉氏一、近有二朝請大夫尉大廉一、未レ知二何許人一、宋初有二尉昭敏一、爲二節度使一、又有二尉春一登レ科、永靜人。〔邦〕じよう。㋑古の衞門府・兵衞府・檢非違使等の判官。㋺おきな。老翁。㋩炭火の白い灰。

〔名乘〕 ヤス。

〔解字〕 會意。𡰥と又と火との合字。本義は火を手

にし、上から下を抑へて繒を平に伸ばす意。故に字、𡰪卽ち仁（親の義）と、また手の義の又とを合し、下に更に火を加へる。又と寸とは通用する。又、ひのしをいふ。轉じて、凡そ上より下を抑へ安んずる義に用ひ、又假借して尉に用ひる。〔說文、㷉、段注〕按者、抑也、百官公卿表應劭注曰、自レ上安レ下曰レ尉、武官悉以爲レ稱、云云、會意、𡰪、古文仁、𡰪又、猶二親手一也、云云、手持レ火之意也、字之本義如レ此、引二申之一爲二凡自レ上按レ下之稱一、通俗文曰、火斗曰レ尉。

【尉安】1 ヰアン　なぐさめやすんずる。慰安（**4**−**11135**‥2）に同じ。〔漢書、車千秋傳〕思下欲寬二廣上意一、尉中安衆庶上。〔注〕師古曰、尉安之字、本無レ心也、是以漢書往往存二古體字一焉。〔漢書、王莽傳中〕宜レ令三州郡且尉二安之一。

【尉聿】2 ヰイツ　後魏の人。古眞の族玄孫。字は成興。官は明帝の時、武衞將軍。後、東涼州刺史。〔魏書、二十六〕。

【尉解】3 ヰカイ　新羅人が襦をいふ。襦は短衣。〔南史、東夷傳〕新羅、云云、其冠曰二遺子禮一、襦曰二尉解一、袴曰二柯半一、靴曰レ洗。

【尉廨】4 ヰカイ　斷獄の官の役所。〔魏志、武帝操傳、注〕軍還二洛陽一、更修二治北部尉廨一、令レ過二於舊一。

【尉魚】5 ヰギヨ　鮪（**12**−**46126**）の異名。〔爾雅、釋魚、鮪、疏〕今東萊遼東人、謂レ之爲二尉魚一、或謂二之仲明一。

【尉瑾】6 ヰキン　北齊の人。字は安仁。官は武成の時、吏部尙書・右僕射。〔北齊書、四十〕・〔魏書、二十六〕・〔北史、二十〕。

【尉官】7 ヰクワン　もと、陸海軍の武官たる大・中・少尉の總稱。

【尉景】8 ヰケイ　北齊、善無の人。字は士眞。初、神武と共に爾朱榮に歸し、太保太傅に進む。亡人を匿すに坐して黜けられ、尋いで大司馬となる。齊の受禪するや、長樂王に追封せらる。〔北齊書、十五〕・〔北史、五十四〕。

【尉眷】9 ヰケン　後魏の人。諾の子。謚は壯。蠕蠕・赫連昌及び吐谷渾の諸部を征す。封は源陽公。〔魏書、二十六〕。

【尉元】10 ヰゲン　後魏、代の人。字は苟仁。謚は景桓。官は獻文の時、持節都督東道諸軍事。宋將張永等を伐ち敗り、司徒に遷る。封は山陽郡開國公。太和中、致仕して、三老に拜せらる。〔魏書、五十〕・〔北史、二十五〕。

【尉候】11 ヰコウ　都尉の官と物見の官。一尉（**1**−**1**‥26）・一候（**1**−**1**‥620）を見よ。〔王融、三月三日曲水詩序〕一二尉候於西東一、合二車書於南北一。

【尉止】12 ヰシ　春秋、鄭の大夫。嘗て子駟と爭つたが、子駟が國政に當るや、遂に衆を聚めて執政を西宮に攻めて子駟を殺し、鄭伯を劫して北宮に如かしめ、子產・子蟜に敗れて殺さる。〔左氏、襄、十〕。

【尉氏】13 ヰシ　㊀刑獄を掌る官。司寇。〔左氏、襄、二十一〕將三歸二死於尉氏一。〔注〕尉氏、討レ姦之官也。〔會箋〕周禮司寇之屬無二尉氏之官一、蓋周室既衰、官名改易、於レ時有二此官一耳、晉之軍尉、亦糾察之官、悼公命二羊舌赤一殺二魏絳一、以三其爲二軍尉一也、云云、鄭之獄官亦曰二尉氏一、漢以二廷尉一主二刑名一、蓋因二於此一。㊁縣名。㋑秦・漢、置く。今の河南省開封縣朱仙鎭の西南。春秋、鄭の邑。〔漢書、地理志上、注〕應劭曰、古獄官曰二尉氏一、鄭之別獄也、故名、臣瓚曰、鄭大夫尉氏之邑、遂以爲レ邑。〔讀史方輿紀要、河南、開封府〕尉氏縣、春秋鄭大夫尉氏邑、秦置レ縣、漢屬二陳留郡一、云云、北齊省、隋復置、屬二許州一。〔淸史稿、地理志〕河南、開封府、縣十一、尉氏。㋺晉、置く。隋、六合と改む。今の江蘇省六合縣の治。〔讀史方輿紀要、江南、江寧府〕六合縣、春秋時、楚之棠邑、云云、漢爲二棠邑縣一屬二臨淮郡一、云云、三國時、爲二吳魏分界處一、晉復屬二臨淮郡一、惠帝永興元年、分立二棠邑郡一、太元四年、苻秦寇二淮南一、遣二將毛安之一率レ衆屯二棠邑一、卽此、安帝改爲二秦郡一、又改置二尉氏縣一、宋因レ之、齊永明初、罷二秦郡一、以二尉氏縣一屬二齊郡一、梁仍屬二秦郡一、或亦謂二之新秦一、侯景置二西兗州於此一、又追二其黨郭元建一爲二北道行臺一鎭二新秦一、是也、尋改置二秦州一、北齊亦曰二秦州一、又爲二瓦梁郡一、陳曰二義州一、後周曰二方州一、又改レ郡爲二六合郡一、隋初郡廢、以二尉氏縣一爲二六合縣一。㋩南朝宋、置く。今、缺く。安徽省の境。

【尉史】14 ヰシ　斷獄を掌る官。〔史記、韓長孺傳〕單于怪レ之攻二烽燧一、得二武州尉史一。

【尉藉】15 ヰシヤ　なぐさめ安んずる。慰藉（**4**−**11135**‥15）に同じ。尉は慰、藉は安んずる。〔後漢書、竇融傳〕帝復遣三席封賜二融・友書一所三以尉二藉之一甚備。〔資治通鑑、漢紀〕（光武帝、建武六年）所三以尉二藉之一甚厚。〔注〕尉、與レ慰同、尉、安也、藉、薦也、尉以安二於身上一、藉以安二於身下一。

【尉升】16 ヰシヨウ　湖の名。安徽省壽縣の西南。水經注には熨湖に作る。〔壽州志〕今有二西湖一、在二州西門外一、水集則淮肥合流數十里、卽熨湖也。

【尉薦】17 ヰセン　なぐさめ安んずる。慰藉。一說に、なぐさめてすすめ用ひしめる。薦は薦達の意。〔漢書、胡建傳〕貧亡二車馬一、常步與二走卒一起居、所三以尉二薦走卒一、甚得二其心一。〔注〕師古曰、尉者、自レ上安レ之也、薦者、擧籍也。〔王先謙補注〕王念孫曰、趙廣漢傳、其尉二薦待三遇吏一、殷勤甚備、如淳曰、尉、亦薦藉也、師古曰、尉薦、謂三安尉而薦二達之一、案、如說是也、薦・藉、一聲之轉、尉薦、猶二尉藉一耳、匈奴傳、慰薦撫循、漢紀作二慰藉一、是其證、慰與レ尉通、若以レ薦爲二擧薦一、則上與二尉字一不二相比附一、下與下甚得二其心一、及殷勤甚備之文上、皆不二相連屬一矣。〔漢書、趙廣漢傳〕廣漢爲二二千石一、以二和顏一接レ士、其尉二薦待三遇吏一、殷勤甚備。〔注〕如淳曰、尉、亦薦藉也、師古曰、尉薦、謂三安尉而薦二達之一。〔曾國藩、求闕齋讀書錄〕尉薦、猶二尉藉一也、尉者、以レ火尉レ繒、從レ上按レ下也、薦、草之深厚者、可三以爲レ席、從レ下藉レ上也、皆體二貼人心一、曲意安撫之辭、如淳說近レ之、師古以レ薦爲二薦達一、非也、韓延壽傳、引見尉薦、郡中翕然、胡建傳、尉二薦士卒一、皆無二達之意一。

【尉佗】18 ヰダ　漢の南粤王趙佗。初、任囂に繼いで南海尉となつたから尉佗といふ。趙佗（**10**−**37171**‥271）を見よ。〔史記、文帝紀〕南越王尉佗自立爲二武帝一、然上召貴二尉佗兄弟一、以レ德報レ之、佗遂去レ帝稱レ臣。〔史記、南越王尉佗傳〕南越王尉佗者、眞定人也。〔盧思道、祭二漅湖一文〕收二尉佗之黃屋一、納二孫皓之靑蓋一。

【尉諾】19 ヰダク　後魏の人。古眞の弟。道武の寵あつく、封は遼西公、官は幽州刺史に至る。〔魏書、二十六〕。

【尉遲】20 ヰチ ウツチ　複姓。〔通志、氏族略、代北複姓〕尉遲氏、與二後魏一同起、號二尉遲部一、如二中華之諸侯國一、孝文改爲二尉遲氏一、崇甯登科、有二尉遲繹一、濰人。

【尉遲偓】21 ヰチ アク　南唐の史官。著に中朝故事がある。〔四庫提要、一百四十〕。

【尉遲運】22 ヰチ ウン　北周の人。綱の子。謚は忠。官は右宮正。衞剌王直の亂を敗る。爵は盧國公。〔周書、四十〕・〔北史、六十二〕。

【尉遲綱】23 ヰチ カウ　北周の人。迥の弟。字は婆羅。謚は武。驍勇、射を善くす。封は吳國公。〔周書、二十〕・〔北史、六十二〕。

【尉遲恭】24 ヰチ キヨウ　唐の人。尉遲敬德（32）を見よ。

【尉遲迥】25 ヰチ ケイ　北周の人。俟兜の子。字は薄居羅。魏の文帝の女、金明公主に尙す。孝閔の時、蜀を平げ、蜀公に封ぜらる。隋の文帝の將に簒奪せんとするや、兵を擧げて匡復を圖り、敗れて自殺す。〔周書、二十〕・〔北史、六十二〕。

【尉遲后】26 ヰチ コウ　北周の宣帝の皇后。迥の孫女。名は熾繁。美色あり。初、杞國公亮の子溫に嫁す。宗婦の例を以て入朝するや、宣帝逼つて之を幸す。亮が反逆を謀るに及び、溫を誅して后を宮に入る。大象中、立てて天左太后と爲す。帝の崩後、尼となり、名を華首と改む。〔周書、九〕・〔北史、十四〕。

【尉遲勝】27 ヰチ シヨウ　唐の人。もと于闐王珪の長子。天寶中、來朝し、右威衞將軍を授けられ、高仙芝と薩毘播仙とを破る。至德の初、弟の曜をして國事を行はしめ、兵を率ゐて安祿山の難に赴く。廣德中、驃騎大將軍・于闐王となり、武都王に封ぜらる。〔唐書、一百十〕・〔舊唐書、一百四十四〕。

【尉遲杯】28 ヰチ ハイ　詞牌の名。平韻・仄韻の兩體があり、仄韻は柳永の樂章集、平韻は晁補之の琴趣外篇に見える。〔詞品〕伯堅丞相樂府、與二彥高東山樂府一、多二入レ選者一、卽名二吳蔡體一者是也、獨推下其銀屛小語、私分二麝月一、春心一點上、乃伯堅尉遲杯也。

【尉遲樂】29 ヰチ ラク　唐、知嚴（**5**−**14010**‥59）の姓「名。

【尉遲乙僧】30 ヰチ イツソウ　唐代、于闐國の人。畫を以

て太宗に仕へ、宿衞を授けられ、郡公に封ぜらる。父の跋質那また畫を善くし、大尉遲・小尉遲と稱せられた。〔歷代名畫記〕。

【尉遲屈密】31 ヰチクツミツ 唐代、于闐の王。貞觀六年使を遣つて唐に玉帶を獻じ、同十三年、更に子を遣つて入侍せしめた。〔舊唐書一百九十八〕・〔唐書二百二十一〕。

【尉遲敬德】32 ヰチケイトク 唐、善陽の人。名は恭。字を以て行はる。諡は忠武。隋末、唐に歸し、太宗の潛邸に在つた時、右府參軍となり、竇建德・王世充・劉黑闥を伐つ。封は鄂國公。〔唐書、八十九〕・〔舊唐書、六十八〕。

【尉遲德誠】33 ヰチトクセイ 元、絳州の人。字は信甫。仁宗に愛せられ、官は河東山西道宣慰司同知・遼東廉訪使となる。〔元史、一百七十六〕。

【尉遲跋質那】34 ヰチバツチナ 唐の畫家。尉遲乙僧の父。隋の時、于闐より來朝す。外國故實・佛像・鳥獸等の繪を善くす。唐初、宿衞官を授けられ、郡公に封ぜらる。〔歷代名畫記〕。

【尉遲伏師戰】35 ヰチフクシセン 唐代、于闐の王。開元十六年、玄宗より于闐王に封ぜられ、數〻使を遣つて唐に朝貢す。〔舊唐書、一百九十八〕・〔唐書、二百二十一〕。

【尉斗】36 ヰト ひのし。熨斗(**7－19346**‥9)の❶に同じ。〔資治通鑑、陳紀〕(宣帝、太建十二年)穆使渾奉㆓尉斗於堅㆒。〔注〕尉斗、今之熨斗、毛晃曰、火斗、熨器、篆文作レ㷉、從レ𡰥從レ火從レ又、又偏旁手字、持レ火所㆓以申レ繒也、今文作レ尉、俗加レ火作レ熨。

【尉頭】37 ヰトウ 漢代、西域の國名。南、疏勒に接し、西、損毒に接す。王治は尉頭谷。三國及び後魏の時は龜茲に屬し、唐は尉頭州を置く。今の新疆省烏什縣の地。〔漢書、西域上、尉頭國傳〕尉頭國王、治㆓尉頭谷㆒。〔後漢書、西域、疏勒傳〕東北經㆓尉頭・溫宿㆒云云。

【尉撥】38 ヰハツ 後魏、代の人。諡は敬。和龍・吐谷渾を討ち、晉昌・杏城・懸瓠に鎭將となる。爵は獻文の朝、安城侯。〔魏書、三十〕・〔北史、二十五〕。

【尉犂】39 ヰリ ❶漢代、西域の國名。南は鄯善・且末と接す。三國の時、焉耆に屬す。今の新疆尉犂縣の北、庫勒城の東、羅布泊以北の地。〔漢書、西域傳〕尉犂國王、治㆓尉犂城㆒。❷縣名。民國、置く。漢の尉犂の地。清初、喀喇沙爾の管轄地。土名は什尼戛。光緒中、新平縣を置いたが、民國、今の名に改め、治を孔雀河に移した。新疆省焉耆縣の南、博斯騰爾の西南、孔雀河の北岸に當る。

【尉黎】40 ヰリ 尉犂に同じ。〔漢書、西域傳序〕危須・尉黎。〔後漢書、西域、焉耆國傳〕危須・尉黎。

【尉律】41 ヰリツ 漢の廷尉の守る律令。〔許愼、說文解字敍〕漢興有㆓艸書尉律㆒。〔注〕謂㆓漢廷尉所レ守律令㆒也、百官公卿表曰、廷尉秦官、掌㆓刑辟㆒、藝文志曰、漢興、蕭何草レ律、刑法志所謂蕭何捃㆓摭秦法㆒、取㆘其宜㆓於時㆒者㆖、作㆓律九章㆒也。

【尉律學】42 ヰリツノガク 尉律の學問。〔北史、江式傳〕漢興有㆓尉律學㆒、復敎以㆓籀書㆒、又習㆓八體㆒、試レ之課最、以爲㆓尙書史㆒、吏人上書、省字不レ正、輒擧劾焉。

【尉繚】43 ウツレウ 周、尉氏の人。兵家。魏の惠王の時に生る。賢名あり、商鞅の學を治む。或は魏人、司馬錯と同人といひ、或は齊人、鬼谷子の弟子といふ。著に尉繚子がある。〔史記、六〕。

【尉繚子】44 ウツレウシ 書名。五卷。周、尉繚撰。漢書藝文志には三十一篇とあり、今本には二十四篇がある。兵法を論ずること頗る精粹で、孫子十三篇の祕略と匹敵すべきものが少くない。胡應麟は、尉繚子は孫武以下、與に匹する者なしと言つてゐるが、其の實を得たものといふべきである。其の言は多く正に近く、戰國の權謀と頗る異なる。張載嘗て之に注したが今傳はらず。其の內容は天官・兵談・制談・戰威・攻權・守權・十二陵・武議・將理・原官・治本・戰權・重刑令・五制令・分塞令・束伍令・經卒令・勒卒令・將令・踵軍令・兵數上下・兵令上下。〔四庫提要、子、兵家類〕。

《參考書》【尉繚子直解】五卷 明、劉寅撰。〔四庫未收書目提要、五〕。

【尉古眞】45 ヰコシン 後魏、代の人。道武帝の賀蘭部に在る時、賀染干の之を刺殺せんとするを知り、古眞、密かに馳せて帝に告ぐ。後、帝に從つて中原を平げ、束州侯の爵を賜はり、明元帝の時、鴻飛將軍となつて、越勒部を破り、定州刺史に除せらる。〔魏書、二十六〕・〔北史、二十〕。

【尉興敬】46 ヰコウケイ 北齊の人。長命の子。諡は閔莊。初、帳內都督となり、戰功により爵集中侯を賜はる。後、周の文帝と邙山に戰ひ、流矢に中つて死す。〔北齊書、十九〕。

【尉山堂】47 ヰザンダウ 清、萬斛泉(**9－31339**‥581)の室名。

【尉地干】48 ヰチカン 後魏の人。眷の弟。諡は惠。射を善くす。官は太武の時、庫部尙書。〔魏書、二十六〕。

【尉長命】49 ヰチヤウメイ 北齊、狄那の人。諡は武壯。神武に從つて四胡を韓陵に破り、樊子鵠を兗州に破る。官は車騎大將軍・幽州刺史。〔北齊書、十九〕・〔北史、五十三〕。

【𡬶】7441 シユ 守(**3－7071**)の古字。〔正字通〕𡬶、古文守。

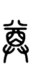
【㝷】7442 ジン 尋(**4－7447**)に同じ。〔字彙補〕㝷、同レ尋。

【𡬷】7443 ケイ 京(**1－299**)に同じ。〔篇海〕𡬷、舊藏作レ京。

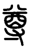
【𡭊】7444 ヘン 義未詳。〔海篇〕𡭊、音貶。

九畫

【尊】7445 ソン 〔集韻〕祖昆切 元 ㄗㄨㄣ tsuen¹

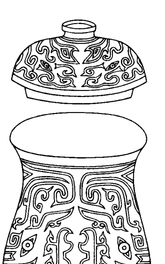


小篆



或體

❶**たる。さかだる。** 尊(**4－9633**)・樽(**6－15500**)に同じ。〔說文〕尊、酒器也、从レ酋、廾㠯奉レ之、周禮六尊、犧尊・象尊・著尊・壺尊・大尊・山尊、㠯待㆓祭祀賓客之禮㆒。尊、尊或从レ寸。〔集韻〕尊、通作㆓樽・罇㆒。〔一切經音義、十四〕尊、字書作レ樽。〔禮、明堂位〕尊用㆓犧象山罍㆒。〔淮南子、繆稱訓〕猶㆓中衢而致レ尊邪。〔注〕尊、酒器也。❷**たつとい。**〔廣韻〕尊、貴也。❸**たかい。**〔廣雅、釋詁四〕尊、高也。〔易、繫辭上〕天尊地卑。〔呂覽、必己〕尊則虧。〔注〕尊、高也。❹**おもい。**〔淮南子、說林訓〕名尊㆓於實㆒。〔注〕尊、重也。❺**たつとぶ。** ㋑うやまふ。〔廣雅、釋詁一〕尊、敬也。〔禮、曲禮上〕夫禮者、自卑而尊レ人。㋺あがめる。〔論語、堯曰〕尊㆓五美㆒。〔皇疏〕尊、崇重也。㋩おもんじる。大切にする。〔孟子、盡心上〕尊レ德樂レ義。〔呂覽、審爲〕可レ謂㆓能尊レ生矣。〔注〕尊、重也。❻**たかくする。** 位をすすめる。〔中庸〕尊㆓其位㆒、重㆓其族㆒。〔史記、高祖紀〕項羽乃佯尊㆓懷王㆒爲㆓義帝㆒。❼**尊者。** 天子・君・父兄など。〔華嚴經音義、上〕尊、可レ尊也。〔禮、喪服小記〕養レ尊者必易レ服。〔注〕尊、謂㆓父兄㆒。〔孟子、公孫丑下〕天下有㆓達尊三㆒、爵一、齒一、德一。〔江淹、雜體、謝臨川遊山詩〕山嶠備㆓盈缺㆒。〔注〕善曰、春秋元命包曰、日月盈而闕者、詘㆓鄉尊㆒、宋均曰、詘、還也、尊、君也。❽**官吏。**〔蜀志、秦宓傳〕宜㆘一來與㆓州尊㆒相見㆖。❾**他人に關する敬稱に用ひる。**〔蜀志、馬



商蜼尊（博古圖）

良傳〕尊兄應レ期贊レ世。〔稱謂錄、尊稱、尊〕顏氏家訓、凡與レ人言、稱二彼祖父母世父母父母及長姑一、皆加二尊字一、自二叔父母一以下、則加二賢字一、尊卑之差也。❿はしる。おもむく。撙(5－12712)に通ず。〔後漢書、光武十王傳贊〕沛獻尊レ節。〔注〕尊、音祖本反、禮記曰、恭敬撙節、鄭玄注云、撙、趍也。⓫遵(11－39118)に通ず。〔墨子、備城門〕君尊二用之一。〔墨子閒詁〕兪云、尊、讀爲レ遵、古字通也。⓬姓。〔姓氏急就篇〕尊氏、風俗通云、尊盧氏之後。⓭現神佛の像等を數へる語。一座を一尊といふ。邦**みこと**。神又は貴人の敬稱。

解字 會意。酋と廾との合字。酋は清酒、廾は兩手を合す。兩手を合せてさかだるを奉ずること。後、寸に從ふ。寸に從ふは酒尊を奉ずるに法式あるをいふ。寸は法度ある意。酒をくむものは必ず尊者からうけることから、尊卑の意に轉じ、たつといを義とし、酒尊の義の場合は更に字を樽・罇に作る。〔說文、尊、段注〕凡酒必實二於尊一、以待二酌者一。鄭注レ禮曰、置レ酒曰レ尊、凡酌レ酒者必資二於尊一、故引申以爲二尊卑字一、猶下貴賤本謂二貨物一而引中申之上也、自三專用爲二尊卑字一而別製二罇樽一爲二酒尊字一矣、廾者、竦手也、奉者、承也、設レ尊者、必竦レ手以承レ之。

【尊媼】1（ソンアウ） 老母の敬稱。

【尊安】2（ソンアン） たふとく安らか。〔管子、版法〕凡人君所二以尊安一者賢佐也。〔韓非子、和氏〕禁二游宦之民一、而顯二耕戰之士一、孝公行レ之、主以尊安、國以富強、八年而薨。〔史記、蘇秦傳〕夫去二尊安一而取二危卑一。

【尊異】3（ソンイ） たつとんで特別に待遇する。〔史記、夏侯嬰傳〕近レ我以尊二異之一。〔魏志、荀攸傳〕其見二尊異一如レ此。〔韻府引、列仙傳〕司馬承正隱二于天台一、唐睿宗屢加二尊異一。

【尊意】4（ソンイ） 他人の意志の敬稱。御意志。〔樂府詩集、郊廟歌辭、唐武氏享二先廟一樂章〕追崇懼乖二尊意一。

【尊彝】5（ソンイ） ❶古の禮器。六尊六彝をいふ。六尊とは犧尊・象尊・箸尊・壺尊・大尊・山尊、六彝とは雞彝・鳥彝・黃彝・虎彝・蜼彝・斝彝。何れも酒を受ける器。〔周禮、春官、司尊彝〕司尊彝、掌二六尊・六彝之位一、詔二其酌一、辨三其用與二其實一。春祠夏論、祼用二雞彝・鳥彝一、皆有レ舟、其朝踐用二兩獻尊一、其再獻用二兩象尊一、皆有レ罍、諸臣之所レ昨也、秋嘗冬烝、祼用二斝彝・黃彝一、皆有レ舟、其朝獻用二兩著尊一、其饋獻用二兩壺尊一、皆有レ罍、諸臣之所レ昨也、凡四時之閒祀・追享・朝享、祼用二虎彝・蜼彝一、皆有レ舟、其朝踐用二兩大尊一、其再獻用二兩山尊一、皆有レ罍、諸臣之所レ昨也、凡六彝六尊之酌、鬱齊獻酌、醴齊縮酌、盎齊涚酌、凡酒脩酌、大喪存二奠彝一、大旅亦如レ之。〔國語、周語中〕出二其尊彝一、陳二其鼎俎一。〔注〕尊彝、皆受レ酒之器也。❷清、吳鼎(2－3365‥322)の字。

【尊位】6（ソンヰ） ❶たふとい位。〔易、大有〕彖曰、大有柔得二尊位一。〔管子、立政〕不レ可レ加二于尊位一。〔墨子、尚賢上〕雖下在二於厚祿尊位一之臣上、莫レ不二敬懼而施一。〔史記、莊子傳〕千金重利、卿相尊位也。〔新序、節士〕乃設以二貴爵重祿尊位一、終不レ聽。〔漢書、周勃傳〕君受二厚賞一處二尊位一。❷天子の位。〔史記、公孫弘傳〕朕宿昔庶幾、獲レ承二尊位一、懼レ不レ能レ寧。〔漢書、佞幸傳序〕及三帝卽二尊位一、彭祖以二舊恩一封二陽都侯一。

【尊威】7（ソンヰ） 他人の威光の敬稱。御威光。

【尊畏】8（ソンヰ） うやまひおそれる。畏敬。〔唐書、朱子奢傳〕子奢有二儀觀一、夷人尊二畏之一。〔唐書、韋安石傳〕安石性方重、不レ茍二言笑一、其政尚二清嚴一、吏民尊畏。

【尊優】9（ソンイウ） 尊んで手厚くもてなす。尊敬優遇する。〔柳宗元、陸文通先生墓表〕是歲嗣天子踐祚而理、尊二優師儒一、先生以疾聞、臨レ問加レ禮。

【尊一】10（ソンイツ） 清、吳嗣爵(2－3365‥626)の字。

【尊飮】11（ソンイン） 他人の飮酒の敬稱。又、尊貴の人の飮む酒。〔神仙傳、七、麻姑〕信傳二餘杭姥一、答言、恐二地上酒不レ中二尊飮一耳。

【尊詠】12（ソンエイ） 他人又は神佛などの詠んだ詩歌の敬稱。〔謠曲、舟辨慶〕尊詠の僞りなくば。

【尊榮】13（ソンエイ） たつとくさかえる。又、たつといさかえ。榮達。〔孟子、盡心上〕其君用レ之、則安富尊榮。〔史記、蘇秦傳〕不レ能三以取二尊榮一。〔漢書、張安世傳〕朝廷尊榮。〔列女傳、母儀、齊女傅母傳〕子之家世世尊榮。〔論衡、非韓〕貪官尊榮。

【尊榮則逸樂】14（ソンエイナレバイツラクス） 尊く榮える地位に在ればあそび樂しむ。〔列子、楊朱〕有レ名則尊榮、亡レ名則卑辱、尊榮則逸樂、卑辱則憂苦、憂苦犯レ性者也、逸樂順レ性者也。

【尊影】15（ソンエイ） たつとい寫眞、又は肖像。〔最明寺殿百人上﨟、上〕故右大將賴朝卿の尊影。

【尊要】16（ソンエウ） たつとくて大切なこと。〔後漢書、黃香傳〕又惟機密端首、至爲二尊要一。

【尊偃】17（ソンエン） おごりたかぶる。〔急就篇〕虞尊偃。〔注〕尊偃、偃仰自尊高也。

【尊淵】18（ソンエン） 清、陳涵(11－41698‥107)の字。

【尊翁】19（ソンヲウ） 他人の父の敬稱。〔釋親考〕尊公、類書纂要、稱二人父一曰二尊公一、又曰二尊翁・云云一。

【尊屋】20（ソンヲク） 立派な家。又、他家の敬稱。〔劉安、屛風賦〕等二化器類一、庇二陰尊屋一。

【尊恩】21（ソンオン） 他人から受けた恩の敬稱。〔運步色葉集〕尊恩。

【尊下】22（ソンカ） 書狀などの脇付に用ひる敬稱。尊「丈。

【尊家】23（ソンカ） 他家の敬稱。尊宅。貴家。

【尊駕】24（ソンガ） 天子の乘物。又、他人の乘物の敬稱。其の人を直指せず、其の車騎を指していふ語。大駕。台駕。〔晉書、王鑒傳〕愚謂、尊駕宜三親二幸江州一、然後方召之臣、其力可二得而宣一。

【尊价】25 tsuen^1 chieh^4 人の使者に對する敬稱。

【尊骸】26（ソンガイ） 貴人の死骸の敬稱。

【尊行】27（ソンカウ） ❶尊い行ひ。〔老子、六十二〕尊行可二以加一レ人。❷先輩。尊長。目上。〔釋親考、續編〕尊行、齊家寶要。❸tsuen^1 hang^2 他人に輩行を問ふ語。

【尊幸】28（ソンカウ） 尊び寵愛する。〔史記、佞幸、鄧通傳〕文帝說焉、尊二幸之一日異、通亦愿謹、不レ好二外交一。

【尊庚】29 tsuen^1 kêng^1 あなたのお年。他人の年の敬稱。

【尊高】30（ソンカウ） 尊く高い。又、其の身分。〔易、漸、鴻漸二于陵一、疏〕九五、進二于中位一、處二於尊高一、故曰鴻漸二于陵一。〔管子、宙合〕尊高滿大。〔孔子家語、觀周〕我雖二尊高一、人弗二我害一。

【尊號】31（ソンガウ） ❶たつとんで呼ぶ稱號。天子・上皇・太上皇の類。後には上皇・太上皇などの上に美しい德名を加へて、それをも併せて尊稱と稱した。〔史記、秦始皇紀〕臣等昧死上二尊號一、王爲二泰皇一。〔史記、高祖紀〕羣臣皆曰、高祖平二定天下一、爲二漢太祖一功最高、上二尊號一爲二高皇帝一。〔漢書、宣帝紀〕奏請宜レ加二尊號一。〔後漢書、光武紀上〕於レ是諸將議レ上二尊號一。〔後漢書、梁竦傳〕漢家舊典、崇二貴母氏一、而梁貴人親育二聖躬一、不レ蒙二尊號一、求二得申議一。〔舊唐書、太宗紀下〕夏四月丁酉、御二順天門一、軍吏執二頡利一以獻レ捷、自レ是西北諸蕃、咸請上二尊號一爲二天可汗一。〔石林燕語〕唐武后天授中、加二尊號一曰二聖神皇帝一、中宗神龍初、加二尊號一曰二應天皇帝一、明皇又以レ年冠レ之、稱二開元皇帝一、其後更相衍多至二十餘字一、此乃生而爲レ謚、果何禮哉。〔事物紀原、朝廷注措部、尊號〕項峻始學篇曰、天地立有二天皇一、號曰二天靈一、卽帝王尊號之始也、堯曰二放勳一、舜曰二重華一、禹曰二文命一、或以謂二三帝之號一、周列國或有レ之、如下楚郟敖祀二東樓公一、莒茲平公上是也、秦有二天下一、李斯王綰請上二尊號一曰二泰皇一、至二唐高宗上元二年九月壬辰一、始稱二天皇一、中宗神龍元年十月、上二尊號一曰二應天皇帝一、景龍元年八月丙戌、加二號應天神龍一、玄宗開元已後、宰相始率二百官一上二尊號一、以爲二常制一、宋朝神宗熙寧中、上以二舊名無實一、遂罷レ之也。〔六部成語、禮部、請レ上二尊號一、注解〕尊號者、美名也、如二慈禧端佑之類一、係下由二大臣請一加二上於太上皇皇太后皇帝一者上、然有レ允有二不允一、又在二太上皇帝一曰二尊號一、皇太后曰二徽號一、若二薨後所レ上、統曰二尊謚一。❷tsuen^1 hao^4 貴店の意。寶號ともいふ。問屋に對しては寶棧、錢莊に對しては寶莊、小賣店に對しては寶店といふ。

【尊客】32（ソンカク） 尊い客人。身分高い客。〔禮、曲禮上〕尊客之前、不レ叱レ狗。

【尊感】33（ソンカン） 人の所感の敬稱。〔徐陵、爲二梁貞陽侯一與二王太尉僧辨一書〕無レ改二曩懷一、尊感彌篤。

【尊翰】34（ソンカン） 尊簡に同じ。〔運步色葉集〕尊翰。

【尊簡】35 ソンカン 他人の書翰の敬稱。お手紙。尊書。尊翰。

【尊顏】36 ソンガン 他人の顏の敬稱。おかほ。尊面。〔楞伽經〕不レ愧二尊顏一。

【尊紀】37 tsuen¹ chi⁴ 他人の召使を稱する語。

【尊記】38 ソンキ [佛]佛が弟子に佛道を成ずべきことを豫言し給ふ記を尊んでいふ。授記。〔法華經、譬諭品〕大智舍利弗、今得レ受二尊記一。

【尊貴】39 ソンキ たつとい。又、たつとい人。高貴。〔周禮、天官、大宰〕六曰尊貴。〔韓詩外傳、一〕尊貴及レ已而仕也。〔戰國、齊策〕使者不レ說曰、臣奉レ使使二威后一、今不レ問レ王、而先問二歲與一レ民、豈先レ賤而後二尊貴一者乎。〔管子、七法〕大族尊貴大臣。〔顏延之、還至二梁城一作詩〕尊貴誰獨聞。

【尊貴之色】40 ソンキノイロ たつとい樣子。〔孔叢子、陳士義〕今臣亦請三君去二其尊貴之色一而已。

【尊諱】41 ソンキ ❶尊敬の餘り、其の名稱を用ひることを憚るをいふ。〔聞見後錄〕蜀人見二其遺像一、心拜、又刻レ石著二皋名一者、皆鑱二去其文一、尊二諱之一。❷尊いいみ名。〔蔡邕、光武濟陽宮碑〕有二嘉禾一、一莖生二九穗一、長二于凡禾一、因爲二尊諱一。

【尊儀】42 ソンギ [佛]❶尊貴の儀容。佛菩薩の形態、又は貴人の眞影靈牌など。尊形。〔尊勝經、序〕伏乞大慈大悲普覆令レ見二尊儀一。〔南海寄歸傳、二〕普就二尊儀一、蹲踞合掌。❷香奠をいふ。尊儀に奠するからいふ。

【尊議】43 tsuen¹ i⁴ 御說。貴下の仰せ。

【尊形】44 ソンギャウ [佛]尊儀の❶に同じ。〔大日經、六〕彼二種尊形、成二就二種事一。

【尊寓】45 tsuen¹ yü⁴ 貴下の寓居。御宿。

【尊光】46 ソンクヮウ 元、吳謙(**2**－**3365**‥163)の字。

【尊官】47 ソンクヮン たふとい役。〔韓非子、姦劫弑臣〕國有二無レ功得レ賞者一、則民不三外務二當レ敵斬一レ首、內不レ急二力田疾作一、皆欲下行二貨財一、事二富貴一、爲二私善一、立二名譽一、以取中尊官厚俸上。〔史記、日者、司馬季主傳〕尊官厚祿、世之所レ高也、賢才處レ之。〔漢書、張良傳〕大王尊官之令。〔新序、節士〕尊官顯位。〔司馬遷、報二任少卿一書〕取二尊官厚祿一。

【尊款】48 tsuen¹ k'uan³ 貴下の金子。尊項。

【尊管】49 tsuen¹ kuaen³ 貴下の執事。又、御使。御召使。

【尊君】50 ソンクン 他人の父の尊稱。又、他人の敬稱。あなた。尊公。〔晉書、王述傳〕坦之乃辭以二他故一、(桓)溫曰、此尊君不レ肯耳。〔資治通鑑、晉紀〕晉人于二人子之前一、稱二其父一曰二尊君一。〔稱謂錄、稱二人之父一、尊君〕晉書王述傳、此尊君不レ肯耳。

【尊卦】51 ソンケ ソンクヮ 乾の卦の異名。諸卦の中、第一の卦であるからいふ。〔漢書、五行志下之上〕蒙二尊卦一用レ事。〔注〕孟康曰、尊卦、乾卦也。

【尊兄】52 ソンケイ ❶親友の敬稱。〔蜀志、馬良傳〕尊兄應レ期贊レ世、配レ業光レ國。〔注〕良故呼レ亮、爲二尊兄一耳。〔稱謂錄、尊稱、尊兄〕游宦紀聞、士大夫謁見刺字有下觀敬賀二子允學士尊兄一、高郵秦觀手狀上。❷己の兄、又、人の兄の敬稱。尊老(205)の❷を見よ。〔通俗編、稱謂、尊兄〕按、古惟自稱二其兄一爲二尊兄一、云云、今則爲二朋友通稱一。

【尊敬】53 ソンケイ たふとびうやまふ。又、其のこと。崇敬。尊崇。〔禮、曲禮上〕侍三坐於所二尊敬一。〔戰國、楚策〕勢爲二王妻一、以臨二於楚一、王惑二於虞樂一、必厚尊二敬親三愛之一、而忘レ子、子益賤而日疏。〔韓非子、外儲說右上〕尊二敬社稷一者、社稷之臣也、焉可レ誅也。〔新書、立後〕明二尊敬一而不レ讓。〔說苑、至公〕尊二敬社稷一者、社稷之臣也。

【尊經】54 ソンケイ 經書を尊ぶ。又、其のこと。〔宋之問、遊二雲門寺一詩〕維舟探二靜域一、作レ禮事二尊經一。〔宋史、選擧志二〕以見二尊經之意一。〔經學歷史、經學極盛時代〕尊經之效、已有二明徵一。

【尊經閣】55 ソンケイカク ❶學校の藏書の建物をいふ。〔山左金石志〕濟寧州州學、有二元時大德三年所レ立尊經閣碑一。〔盛時泰、蒼潤軒帖跋〕天發神讖碑、舊在二紫巖山一、後歸二天禧寺一、又移二府學櫺星門一、近歲復徙入二尊經閣下一。❷舊加賀藩、前田侯爵家の文庫の名。和漢の圖書を藏す。

【尊經堂】56 ソンケイダウ 林忠の號。林羅山(**6**－**14551**‥444)を見よ。

【尊教】57 ソンケウ をしへをたふとぶ。又、おをしへ。〔謝靈運、答二僧維問一〕夫尊レ教而推レ宗者、雖レ不二永用一、當レ推之時、豈可レ不二蹔令一レ無耶。

【尊見】58 ソンケン 父母に遇ふこと。〔宣和遺事、前集下〕尊見無二憑說一假二王金盞一、免三公婆責二罰臣妾一。

【尊拳】59 ソンケン 他人の拳骨の敬稱。〔晉書、劉伶傳〕嘗醉與二俗人一相忤、其人攘レ袂奮レ拳而往、伶徐曰、雞肋不レ足三以安二尊拳一、其人笑而止。

【尊萱】60 ソンケン 他人の母の敬稱。

【尊賢】61 ソンケン ❶賢人をたふとぶ。〔管子、幼官〕尊レ賢授レ德則帝。〔史記、李斯傳〕凡古之所レ爲レ尊レ賢者、爲二其貴一也。〔孔叢子、巡狩〕養レ老尊レ賢。〔賈誼、過秦論上〕尊レ賢而重レ士。〔孔子家語、賢君〕在三於尊レ賢而賤二不肖一。❷尊くて賢い。又、其の人。〔說苑、脩文〕再適謂二之尊賢一。〔鮑照、行藥至二城東橋一詩〕尊賢永照灼。❸說苑の篇名。

【尊顯】62 ソンケン 位地が高く名聞が著はれる。又、たふとびあらはす。又、其の身分。其の人。〔韓非子、姦劫弑臣〕當二此之時一、秦民習丁故俗之有レ罪可二以得一レ免、無レ功可丙以得乙尊顯甲也、故輕犯二新法一。〔管子、形執解〕如二符節之相得一也、則主尊顯。〔史記、孝武紀〕其後子孫以尊顯。〔漢書、高帝紀〕賢士大夫、有二肯從レ吾游者一、吾能尊二顯之一。〔論衡、自紀〕夫命厚祿善、庸人尊顯。

【尊嚴】63 ソンゲン たつとくおごそか。〔荀子、致仕〕尊嚴而憚、可二以爲一レ師。〔司馬相如、封禪文〕是以湯武至尊嚴。〔後漢書、爰延傳〕上下媟黷、有レ虧二尊嚴一。〔孔子家語、入官〕上者尊嚴而危。

【尊嚴若神】64 ソンゲンカミノゴトシ 尊くおごそかなことが神のやうである。〔漢書、成帝紀贊〕臨レ朝淵嘿、尊嚴若レ神。

【尊古】65 ソンコ ❶古をたふとぶ。崇古。〔莊子、外物〕夫尊レ古而卑レ今、學者之流也。❷清、黃鼎(常熟の人)(**12**－**47926**‥676)の字。

【尊姑】66 ソンコ しうとめの尊稱。尊章(96)を見よ。

【尊壺】67 ソンコ さかつぼ。尊は樽。〔禮、少儀〕尊者以二酌者之左一爲二上尊一、尊壺者面二其鼻一。

【尊五】68 ソンゴ 清、吳貫勉(**2**－**3365**‥513)の字。

【尊悟】69 ソンゴ [佛]貴人のさとり。〔讚阿彌陀偈〕尊悟歡喜地。

【尊公】70 ソンコウ ❶他人の父の敬稱。尊大人。尊君。尊老(205)の❷を見よ。〔晉書、簡文帝紀〕帝謂レ之曰、致二意尊公一、家國之事、遂至二於此一。〔晉書、陳壽傳〕丁儀丁廙有二盛名於魏一、壽謂二其子一曰、可下覓二千斛米一見上與、當下爲二尊公一作中佳傳上。〔書言故事、父母類〕稱二人父一曰二尊公一。〔釋親考〕尊公、類書纂要稱二人父一曰二尊公一。❷他人を呼ぶ敬稱。あなた。貴公。〔剪燈餘話、月夜彈琴記〕自二尊公大君子修葺之後一、蹔一下降。

【尊侯】71 ソンコウ ❶他人の父の敬稱。〔顏氏家訓、風操〕嘗有レ甲設二讌席一、請レ乙爲レ賓、而旦於二公庭一見二乙之子一、問レ之曰、尊侯早晚顧レ宅。❷清、施琅(**5**－**13629**‥119)の字。

【尊閫】72 ソンコン 他人の妻の敬稱。閫は、門のしきみ。門內にあつて外に出ぬことから婦人をいふ。〔釋親考〕尊閫、類書纂要、稱二人妻一曰二尊閫一。

【尊壼】73 tsuen¹ k'uen³ 御令閨。奧樣。

【尊裁】74 tsuen¹ ts'ai² ❶貴下の御裁斷。貴意。❷御處置。

【尊相】75 ソンサウ 尊い姿。〔源平盛衰記、四十、法輪寺事〕尊相嚴然として。

【尊嫂】76 ソンサウ 自分の嫂、又、他人の嫂の尊稱。嫂はあによめ。尊老(205)の❷を見よ。

【尊像】77 ソンザウ ❶天子のおからだ。〔白虎通、崩薨〕天子曰レ崩、大二尊像一。❷有德の人の像。〔元好問、二十五日鶴詩〕九龍崗上玄元祠、人言尊像神所レ遺。〔蘇悉地經、二〕置二閼伽於尊像前一。

【尊札】78 ソンサツ 他人の手紙の敬稱。〔運步色葉集〕尊札。

【尊旨】79 ソンシ 他人の意志の敬稱。尊意④に同じ。〔運步色葉集〕尊旨。

【尊刺】80 tsuen¹ tz'ŭ⁴ 御手紙。

【尊師】81 ソンシ ❶師を尊ぶ。〔呂覽、尊師〕此十聖人六賢者、未レ有二不レ尊レ師者一也。〔漢書、孔光傳〕太后詔曰、云云、書曰、無レ遺二耇老一、國之將レ興、尊レ師而重レ傳。〔通俗編、倫常、尊師重傳〕漢書孔光傳、太后詔書、國之將レ興、尊レ師而重レ傳。❷道士の尊稱。〔王昌齡、武陵開元觀黃鍊師院詩〕松間白髮黃尊師、童子燒香禹步時。❸呂覽、孟夏紀の篇名。

【尊祠】82 ソンシ たつとびまつる。〔史記、孝武紀〕天旱、意乾レ封乎、其令三天下尊二祠靈星一焉。

【尊紙】83 ソンシ 他人の手紙の敬稱。

【尊賜】84 ソンシ 賜はることの尊稱。〔漢書、鼂錯傳〕尊二賜孝悌一、農民不レ租、明二詔軍師一、愛二士大夫一。

【尊齒】85 ソンシ ❶高齢者を尊ぶこと。齒はよはひ。〔孔子家語、王言解〕上尊レ齒則下益レ悌。❷tsuen^{1} ch'ih^{3} 貴下の御年齢。

【尊謚】86 ソンシ たつとんでおくりなする。又、たつといおくりな。〔後漢書、順帝紀〕夏六月乙酉追尊二謚皇妣李氏一、爲二恭愍皇后一。

【尊事】87 ソンジ 尊びつかへる。〔詩、大雅、行葦序〕内睦二九族一外尊二事黄耇一。〔越絶書、越絶外傳本事〕尊二事周室一。〔漢書、郊祀志下〕天子尊二事天地一、修二祀山川一、古今通禮也。〔後漢書、明帝紀〕尊二事三老一。

【尊慈】88 ソンジ 他人の母の敬稱。〔沈約、爲二柳世隆一讓二封公一表〕及レ顧二溫凊之館一、懼レ結二尊慈之懷一。

【尊周】89 ソンシウ 周の王室をたふとびうやまふ。〔穀梁、莊、十六〕會二齊侯・宋公・陳侯・衞侯・鄭伯・許男・曹伯・滑伯・滕子一、同二盟于幽一、同者有レ同也、同尊レ周也。〔疏〕所謂同尊レ周也者、諸侯推レ桓爲レ伯、使三翼二戴天子一、卽是尊レ周之事。

【尊修】90 ソンシウ たふとびをさめる。〔漢書、宣元六王、東平思王宇傳〕尊二修經術、親二近仁人一。

【尊酬】91 ソンシウ 他人の返事の敬稱。

【尊實】92 ソンジツ 樽に盛るもの。尊は樽、祭に供へる酒器。樽實。〔春秋繁露、祭義〕宗廟之祭、物之厚無レ上也、春上二豆實一、夏上二尊實一、秋上二机實一、冬上二敦實一、豆實韭也、春之所二始生一也、尊實醴也、夏之所二受初一也、机實黍也、秋之所二先成一也、敦實稻也、冬之所二畢熟一也。

【尊者】93 ソンシャ ソンジャ ❶たふといもの。目上のもの。〔禮、玉藻〕士於二尊者一、先拜進面。〔公羊、閔、元〕春秋爲二尊者一諱。〔管子、弟子職〕毋レ倍二尊者一。〔白虎通、姓名〕明レ不三敢諱二於尊者前一也。❷［佛］有德の者。德・行・智の具備した者。又、高齢有德の者。〔行事鈔、下三〕下座稱二上座一爲二尊者一、上座稱二下座一爲二慧命一。〔無量壽經〕其名曰二尊者了二本際一。〔注〕浮影云、有レ德可レ尊、故曰二尊者一。❸㋑昔、大臣大饗の時、正座に坐する人。親王又は品位の高い人を選ぶ。〔榮華物語、樣樣悅〕大饗、云云、一條の右のおとど尊者に參り給へる。㋺裳著の時の腰ゆひの役をする人。〔源氏物語、若菜上〕尊者の大臣の御引出物。

『爲二尊者一諱レ恥』94 ソンジャノタメニハヂヲイム 春秋の筆法で、位の尊い人の爲に、恥になることは忌んで書かないこと。〔公羊、閔、元〕春秋爲二尊者一諱、爲二親者一諱、爲二賢者一諱。〔穀梁、成、九〕爲二尊者一諱レ恥、爲二賢者一諱レ過、爲二親者一諱レ疾。〔疏〕春秋諱有二四事一、一曰爲二尊者一諱レ恥、二曰爲レ魯諱レ敗、三曰爲二賢者一諱レ過、四曰爲二同姓一諱レ疾。

【尊尙】95 ソンシヤウ たふとぶ。尙もたふとぶ。〔墨子、尙賢中〕故古者聖王甚尊二尙賢一、而任二使能一。〔魏書、楊椿傳〕椿國之老成、方所二尊尙一。〔唐書、韋嗣立傳〕尊二尙師儒一、發揚勸奬。

【尊章】96 ソンシヤウ 夫の父母をいふ。舅姑。尊嫜。〔漢書、廣川惠王越傳〕背二尊章一、嫖以忽。〔注〕師古曰、尊章、猶レ言二舅姑一也、今關中俗、婦呼レ舅爲レ鍾、鍾者、章聲之轉也。〔韓愈、扶風郡夫人墓誌銘〕協二于尊章一。

【尊嫜】97 ソンシヤウ 尊章に同じ。〔剪燈餘話、至正妓人行〕尊嫜殂沒藁砧亡。

【尊奬】98 ソンシヤウ たふとびたすける。〔蜀志、法正傳〕上可下以傾二覆寇敵一、尊中奬王室上。

【尊上】99 ソンジヤウ ❶人の母の敬稱。〔宋書、何子平傳〕尊上年實未二八十一、親故所レ知。❷目上の人を尊ぶ。〔韓非子、六反〕重レ命畏レ事、尊レ上之民也。❸tsuen^{1} shang^{4} 他人の下僕に對して、其の主人を稱する語。

【尊攘】100 ソンジヤウ 尊王攘夷(215)の❶の略。王室を尊んで夷狄をはらふ。〔論語、憲問、一二匡天下一、集注〕匡、正也、尊二周室一、攘二夷狄一、皆所三以正二天下一也。

【尊讓】101 ソンジヤウ 尊んでゆづる。又、其のこと。〔禮、鄉飮酒義〕所三以致二尊讓一也。〔淮南子、泰族訓〕恭儉尊讓者、禮之爲也。〔孔子家語、儒行解〕其尊讓有二如レ此者一。

【尊爵】102 ソンシヤク ❶たつとい爵位。高貴な位。〔孟子、公孫丑上〕夫仁天之尊爵也。〔莊子、讓王〕今世之人、居二高官尊爵一者、皆重レ失レ之。〔韓非子、八姦〕功大者有二尊爵一、受二重賞一。〔管子、立政九敗解〕不レ然則尊爵重祿也。〔史記、蔡澤傳〕尊爵必賞。❷宋、塗近正(**3－5338‥84**)の字。

【尊酒】103 ソンシユ 樽に盛った酒。樽酒。たるざけ。尊は樽。〔漢書、張禹傳〕加二賜黄金百斤・養牛・上尊酒一。〔高適、贈二別沈四逸士一詩〕耿耿尊酒前、聯鴈飛二愁音一。

『尊酒相逢』104 ソンシユアヒアフ 相逢うて樽酒を酌みかはす。〔韓愈、贈二鄭兵曹一詩〕尊酒相逢十載前、君爲二壯夫一我少年、尊酒相逢十載後、我爲二壯夫一君白首。

【尊種】105 ソンシユ 尊貴のうまれ。〔李華、東都聖善寺無畏三藏碑〕釋宮尊種、龍扶出池。

【尊壽】106 tsuen^{1} shou^{4} 貴下の御年齢。尊庚(29)に同じ。

【尊宿】107 ソンシユク ［佛］佛徒の參學師事すべき學德ある老年の高僧。尊老。耆宿。〔觀經序分義〕德高曰レ尊、耆年曰レ宿。〔景德傳燈錄、五、司空山本淨禪師〕佛之與レ道、俱是假名、十二分敎、亦應レ不レ實、何以從前尊宿、皆言レ修レ道。

【尊書】108 ソンシヨ 他人の書狀の敬稱。〔運步色葉集〕尊書。

【尊處】109 tsuen^{1} ch'u^{4} 貴處。貴鄉。御所。御國。

【尊稱】110 ソンシヨウ 尊い稱號。たふとんで呼ぶ名稱。〔左氏、宣、元〕三月遂以二夫人婦姜一至レ自レ齊、尊二夫人一也。〔注〕遂不レ言二公子一、替二其尊稱一。〔穀梁、哀、十三〕王尊稱也、子卑稱也、辭二尊稱一而居二卑稱一。

【尊信】111 ソンシン たふとんで信頼する。あがめて歸「依する。

【尊神】112 ソンシン 神をたふとぶ。敬神。〔禮、表記〕殷人尊レ神、率レ民以事レ神。

【尊親】113 ソンシン ❶たつとび親しむ。〔中庸、凡有二血氣一者、莫レ不二尊親一。❷親をたふとぶ。〔漢書、禮樂志〕乃立二祖廟一、敬明レ尊レ親。❸他人の親の尊稱。〔後漢書、獨行、范式傳〕與二汝南張劭一爲レ友、劭字元伯、二人並告二歸鄉里一、式謂二元伯一曰、後二年當レ還、將下過二拜尊親一、見中孺子上焉。

【尊人】114 ソンジン ❶人をたふとぶ。〔禮、曲禮上〕夫禮者自卑而尊レ人、雖二負販者一、必有レ尊也、而況富貴乎。❷たふとい人。

【尊崇】115 ソンスウ ソンソウ 尊び敬ふ。尊敬。〔春秋、僖、五、秋八月諸侯盟二于首止一、杜注〕齊桓行レ霸、翼二戴天子一、尊二崇王室一。〔雜阿含經、五十〕尊二崇佛法僧一。

【尊正】116 ソンセイ 他人の夫人の敬稱。御夫人。奥さん。おくさま。〔釋親考〕尊閫、類書纂要、稱二人妻一曰二尊閫一、又曰二令正・令眷・尊正・相正一。

【尊生】117 ソンセイ 生命を尊重する。〔管子、戒〕無レ翼而飛者聲也、無レ根而固者情也、無レ方而富者生也、公亦固レ情謹レ聲、以レ嚴尊レ生。〔呂覽、審爲〕太王亶父可レ謂二能尊一レ生矣、能尊レ生、雖二貴富一不二以レ養傷一レ身、雖二貧賤一不二以レ利累一レ形。〔注〕尊、重也。

『尊生老人』118 ソンセイラウジン 清、沈金鼇(**6－17189‥475**)の號。

【尊姓】119 tsuen^{1} hsing^{4} 他人の姓の敬稱。貴下の御姓。

【尊盛】120 ソンセイ 位高く勢さかんなこと。〔漢書、霍光傳〕宣帝自レ在二民間一、聞二知霍氏尊盛一日久。〔說苑、敬愼〕祿位尊盛、而守以レ卑者貴、人衆兵强、而守以レ畏者勝。

【尊聖】121 ソンセイ 五代の時、南詔の肅恭帝(楊干眞)の年號。(928－936)

【尊勢】122 ソンセイ 地位尊く勢あること。又、其の人。〔晉書、石崇傳〕苟尊勢所レ驅、何所不レ至、望二奉レ法之直繩一、不レ可レ得也。

【尊照】123 tsuen^{1} chao^{4} 御寫眞。

【尊醮】124 ソンセウ 酒を酌む。尊は酒樽、醮は返杯のない酒事。〔晏子、雜、上〕乃令二糞灑一改レ席、尊醮而禮レ之。

【尊戚】125 ソンセキ たつとい血すぢ。尊い身うち。貴戚。戚はみうち、親戚。〔後漢書、鮑永傳〕帝叔父趙王良、尊戚貴重。

【尊節】126 ソンセツ ❶大節をたつとぶ。〔楚辭、嚴忌、哀時命〕願尊レ節而式レ高兮。❷節義に循ひおもむく。尊は撙で、趣く意。撙節。〔後漢書、光武十王傳贊〕沛獻尊レ節、楚英流放。〔注〕禮記曰、恭敬撙レ節、鄭玄注云、撙、趨也。

【尊前】127 ソンゼン ❶酒だるの前。樽前(**6－15500‥8**)に同じ。〔杜牧、贈別詩〕多情却似總無レ情、唯覺尊前笑不レ成。〔曾鞏、虞美人草詩〕當年遺事久成レ空、慷二慨尊前一爲レ誰舞。❷神又は貴人のまへ。

『尊前集』128 ソンゼンシフ 書名。二卷。撰者未詳。毛

晉の跋に明、顧梧芳の作とす。唐人の小詞を錄す。趙崇祚の花間集と並び行はれた。〔四庫提要、集、詞曲類〕。

【尊俎】129 ソンソ 尊と俎。尊は樽で、酒器をいひ、俎は牲を載せる器。轉じて、宴席をいふ。樽俎。〔禮、樂記〕陳二尊俎一列二籩豆一。〔後漢書、馬融傳、注〕仲尼聞レ之曰、起二於尊俎之閒一。

〖尊俎折衝〗130 ソンソセツシヨウ 敵の使臣と宴席の裡に外交談判をなし、其の氣勢を挫いて勝を占め國威を輝かすこと。〔戰國、齊策〕千丈之城、拔二之尊俎之閒一、百尺之衝、折二之衽席之上一。

【尊祖】131 ソンソ ㊀祖先をたふとぶ。〔禮、大傳〕敬レ宗尊レ祖之義也。〔漢書、武五子、戾太子據傳〕故降二其父母一、不レ得レ祭二尊祖之義一也。〔漢書、韋玄成傳〕所下以明二尊レ祖敬レ宗著中親親上也。㊁人の祖先の敬稱。〔剡溪漫筆〕蘇林稱二庾峻祖一曰二尊祖一。

【尊族】132 ソンゾク 尊屬に同じ。

【尊屬】133 ソンゾク 目上の親族。尊族。尊屬親。卑屬の對。〔家禮、儀節〕尊屬、謂二伯叔祖父母・伯叔父母之類一。

〖尊屬親〗134 ソンゾクシン 尊屬に同じ。

〖尊屬犯〗135 ソンゾクハン 自己より目上の親族を傷害する行爲に因つて生ずる犯罪。

【尊待】136 ソンタイ 尊んでもてなす。〔公羊、隱、八、諸侯皆有二湯沐邑一焉、注〕當三沐浴絜齊、以致二其敬一、故謂二之湯沐邑一也、所下以尊二待諸侯一、而共中其費上也。

【尊體】137 ソンタイ 他人の身體の敬稱。又、像などの敬稱。〔朱熹、答二呂伯恭一書〕比日庚伏暑盛、竊計尊體日益清安矣。

【尊大】138 ソンダイ おごりたかぶる。〔後漢書、馬援傳〕因辭歸、謂レ囂曰、子陽井底蛙耳、而妄自尊大、不レ如レ專二意東方一。

〖尊大君〗139 ソンタイクン 人の父の敬稱。〔晉書、謝鯤傳〕溫嶠謂二鯤子尙一曰、尊大君、豈惟識量淹遠。

〖尊大人〗140 ソンタイジン 古は人の父母の敬稱として用ひ、今は人の父の敬稱にのみ用ひる。〔稱謂錄、稱二人之父一、尊大人〕案、王應麟困學紀聞載、陸士龍答二車茂安一書、稱二其母一曰二尊大人一、而今皆以レ此稱二人之父一、不レ得三以レ此稱二人之母一矣、然不レ可レ謂レ非二古稱一也、古稱二其父一曰二大人一、說苑載二曾子事一、已有二此稱一、於二大人上一加二一尊字一、卽顏之推云下稱二人父母一宜上加二尊字一之意。

【尊臺】141 ソンダイ 己より稍〻目上の人の敬稱。

【尊堂】142 ソンダウ 他人の母の敬稱。令堂。尊母。〔陸雲、答二車茂安一書〕尊堂憂灼、賢姊涕泣、上下愁勞、擧家慘慼、何可レ爾耶。

【尊道】143 ソンダウ ㊀道をたふとぶ。〔老子、五十一〕是以萬物莫レ不二尊レ道而貴一レ德。〔管子、戒〕尊レ道而賤レ物。〔孔子家語、王言解〕德者所二以尊一レ道也。㊁字號。㋑宋、趙伉夫（**10－37171**‥437）の字。㋺淸、朱搴（**6－14424**‥272）の號。

〖尊道先生〗144 ソンダウセンセイ 淸、陸世儀（**11－41708**‥369）の謚。

【尊宅】145 ソンタク 他人の家の敬稱。

【尊答】146 ソンタフ 他人の答の敬稱。おこたへ。御返事。〔運步色葉集〕尊答。

【尊憚】147 ソンタン 尊びはばかる。敬憚。尊崇畏憚。〔漢書、張安世傳〕天子甚尊二憚大將軍一、然內親二安世一、心密二於光一焉。

【尊譚】148 ソンタン 高尙なはなし。高尙にすぎて現實性のないはなし。〔管子、侈靡〕辟レ之若二尊譚一、未レ勝二其本一、亡流而下。〔管子纂詁〕尊譚、高談也、所レ談高二於所一レ能也、不レ用二三堯一者、譬レ之若二徒高談者一、未レ能レ堪二所一レ談之本一、相與失亡流移而下耳。

【尊長】149 ソンチヤウ 目上の者。〔禮、少儀〕尊長於レ己踰レ等、不三敢問二其年一。〔孔叢子、執節〕所丁以敬二尊長一而不丙敢遂乙其私甲也。

【尊賬】150 tsuen^1 chang^4 貴下の勘定。

【尊丈】151 ソンヂヤウ 手紙などの宛名の下に記す敬語。尊下。書翰文用語。

【尊嫡】152 ソンチヤク 人の嫡子を尊んでいふ語。〔賴山陽、上二樂翁公一書〕今茲尊嫡君侯、膺二幕府一、入朝謝二大拜之恩一。

【尊中】153 ソンチユウ 樽の中。尊は樽。〔詩、大雅、旱麓、淸酒既載、箋〕既載、謂三已在二尊中一也。〔李白、江上吟〕美酒尊中置二千斛一、載レ妓隨レ波任二去留一。

〖尊中酒不レ空〗154 ソンチユウサケムナシカラズ 樽の中に酒が常に滿ちてゐる。〔世說新語補、豪爽〕孔北海居レ家失レ勢、賓客日滿二其門一、愛レ才樂レ士、常若レ不レ足、每歎曰、坐上客常滿、尊中酒不レ空、吾無レ憂矣。

【尊重】155 ソンチヨウ ㊀たふとび重んずる。又、たふとび重んぜられる。〔禮、冠義〕行二之於廟一者、所三以尊二重事一、而不三敢擅二重事一。〔史記、張叔傳〕景帝時尊重、常爲二九卿一。〔漢書、郊祀志下〕王者莫レ不二尊重親祭一。〔白虎通、社稷〕尊二重之一、故自祭也。㊁身分がたふとく權勢が重い。〔史記、李斯傳〕故身尊而勢重也、云云、故生則有二尊重之勢一、死則有二賢明之謚一也。㊂tsuen^1 chung^4 貴くて莊重な。

【尊寵】156 ソンチヨウ たふとんで目をかける。〔墨子、號令〕守レ身尊寵。〔史記、孟子荀卿傳〕高門大屋尊二寵之一。〔漢書、萬石君石奮傳〕人君尊寵。

【尊邸】157 ソンテイ 他人の邸宅の敬稱。

【尊帖】158 tsuen^1 t'ieh^1 御手紙。

【尊天】159 ソンテン 天を尊ぶ。〔孔子家語、賢君〕尊レ天敬レ鬼、則日月當レ時、崇レ道貴レ德、則聖人自來。

【尊篆】160 tsuen^1 chuan^4 貴下のあざな。

【尊特】161 ソンドク 佛盧舍那佛の異稱。〔法華玄義、十〕尊特之身、猶如二虛空一、爲二法性身菩薩一說レ法。〔四教儀集注、上〕盧舍那翻二淨滿一、謂諸惡都盡故淨、衆德悉圓故滿、亦翻二光明遍照一、亦名二尊特一、名二勝應一。

【尊任】162 ソンニン たふとびまかせる。〔漢書、劉向傳〕皆領二尙書事一、甚見二尊任一。〔後漢書、隗囂傳〕尊二任殘賊一。

【尊年】163 ソンネン としより。高年。老年。〔後漢書、章帝紀〕三老尊年也、孝悌淑行也、力田勤勞也。

【尊報】164 ソンパウ 他人の返事の敬稱。御返事。おかへし。〔運步色葉集〕尊報。

【尊貌】165 ソンバウ 尊いすがた。又、人の容貌の敬稱。尊容。〔詩、周頌、淸廟序、疏〕祭法注、宗廟者、先祖之尊貌也、孝經注、宗、尊也、廟、貌也、四時祭レ之、若レ見二鬼神之容貌一。〔禮記、祭法、設二廟祧壇墠一而祭レ之、注〕廟之言、貌也、宗廟者、先祖之尊貌也。

【尊白】166 ソンパク 宋、虞儔の書齋の名。白居易を慕ひ、其の名に取つて名づけた。尊白堂集を見よ。

〖尊白堂〗167 ソンパクダウ 宋、虞儔（**9－32723**‥117）の室名。

〖尊白堂集〗168 ソンパクダウシフ 書名。六卷。宋、虞儔撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【尊伯】169 ソンパク 他人の伯父の尊稱。尊老（205）の㊁を見よ。

【尊範】170 tsuen^1 fan^4 あなたのお顏。尊顏。

【尊卑】171 ソンピ 尊いことと卑しいこと。又、尊い身分と卑しい身分。尊い者と卑しい者。貴賤。〔禮、曲禮上〕尊卑垂レ帨。〔禮、明堂位〕明堂也者、明二諸侯之尊卑一也。〔戰國、齊策〕今死生榮辱、尊卑貴賤、此其一時也。〔管子、乘馬〕辨二於爵列之尊卑一。〔漢書、爰盎傳〕尊卑有レ序。〔白虎通、謚〕謚者別二尊卑一彰二有德一也。〔隋書、禮儀志六〕幘、尊卑貴賤皆服レ之。

〖尊卑爲レ婚〗172 ソンピコンヲナス 喪服關係にある尊者と卑者とが婚姻を結ぶ。周制以來、同宗及び同姓の婚姻を禁じ、又、外姻閒にあつても喪服關係を有し、かつ尊卑の關係を有する者は婚姻を禁じた。〔明律、戶律、婚姻、尊卑爲レ婚〕凡外姻有レ服、尊屬卑幼共爲二婚姻一、及娶二同母異父姊妹、若妻前夫之女一者、各以レ姦論。

〖尊卑先後天地之行〗173 ソンピセンゴハテンチノカウナリ 尊い者が先になり、卑しい者が後から從ふのは、天地の自然の順序である。〔莊子、天道〕君先而臣從、父先而子從、兄先而弟從、長先而少從、男先而女從、夫先而婦從、夫尊卑先後、天地之行也、故聖人取レ象焉、天尊地卑、神明之位也、春夏先、秋冬後、四時之序也。

【尊祕】174 ソンピ たふとく奧ぶかい。〔宋書、五行志五〕夫禁庭尊祕之處、今賤人徑入、而門衞不レ覺者、宮室將二虛而下人踰レ之之妖也。

【尊轡】175 ソンピ 天子の馬のたづな。〔潘岳、西征賦〕距二華蓋于壘和一、案二乘輿之尊轡一。

【尊筆】176 ソンピツ 他人の筆跡などの敬稱。〔運步色葉集〕尊筆。

【尊夫】177 ソンプ 尊い人。貴人。〔呂覽、壹行〕不レ可レ知、則知下無二安君一、無二樂親一矣、無二榮兄一、無二親友一、無中尊夫上矣。

〖尊夫人〗178 ソンプジン 人の母の敬稱。今は人の妻の

敬稱。〔援鶉堂筆記〕今人稱二人妻一曰二尊夫人一、誤也、古人以稱二人母一、如一レ唐書鄭善果傳、竇建德將王琮獲二善果一、謂レ之曰、公隋室大臣也、自二尊夫人亡一、淸稱益衰、昌黎孟東野墓誌、亦稱二其母一爲二尊夫人一、宋韓元吉答二朱元晦一書、聞丙尊夫人已畢乙大事甲、皆指二其母一而言。〔通俗編、婦女、夫人〕按、所レ云家夫人・尊夫人、皆其母也、今但以稱二人妻一非矣。

【尊父】179 ソンプ ❶人の父の敬稱。尊府。尊公。〔顏氏家訓、風操〕凡與レ人言、稱二彼祖父母・世父母・父母及長姑一、皆加二尊字一、自二叔父一已下、則加二賢字一、尊卑之差也。❷父を尊ぶ。〔宋史、樂志十四〕名レ母兮兼得レ儷レ我、尊レ父億載無レ極。

【尊府】180 ソンプ ❶人の父の敬稱。尊父。〔韓愈、送二湖南李正字一序〕李生之尊府、以二侍御史一管二汴之鹽鐵一。❷他人の家の敬稱。尊門。〔桃花扇、偵戲〕就送二二百金一到二尊府一。

【尊服】181 ソンプク 喪服關係に於て排行の高い服喪。〔儀禮、喪服子夏傳〕爲二人後一者、傳曰、何以三年也、受レ重者必以二尊服一服レ之、何如而可レ爲二之後一、同宗則可レ爲二之後一、何如而可三以爲二人後一、支子可也。

【尊冪】182 ソンベキ 酒樽を覆ふ布。尊は樽、冪はおほひ布。〔儀禮、士昏禮〕贊者徹二尊冪一、擧者盥、出除レ冪擧レ鼎、入陳二于阼階南一西面。

【尊便】183 tsuen^1 pien^4 御自由にといふ意。どうぞ。〔水滸傳、十一回〕請尊便上馬。

【尊甫】184 tsuen^1 fu^3 人の父の敬稱。御尊父。

【尊母】185 ソンボ 人の母の敬稱。尊堂。令堂。〔顏氏家訓、風操〕凡與レ人言、稱二彼祖父母・世父母・父母及長姑一、皆加二尊字一。

【尊慕】186 ソンボ 尊びしたふ。〔史記、蔡澤傳〕質レ仁秉レ義、行レ道施レ德、得二志於天下一、天下懷樂敬愛而尊二慕之一、皆願三以爲二君王一。

【尊奉】187 ソンポウ 尊びいただく。たふとびしたがふ。〔後漢書、獨行、王烈傳〕遭二黃巾・董卓之亂一、乃避二地遼東一、夷人尊二奉之一。

【尊墨】188 ソンボク 他人の筆跡の敬稱。〔運步色葉集〕尊墨。

【尊法】189 ソンポフ 唐の高僧。西印度人。梵名は伽梵達磨。永徽中、中國に來る。著に大悲心陀羅尼經の譯がある。〔宋高僧傳、二〕。

【尊孟】190 ソンマウ 孟子を尊び、其の說に贊同すること。孟子の書は、漢の景帝の時、論語・孝經・爾雅と共に學官に立てられ、博士を置かれたが、武帝に至つて廢せられ、爾後、朝廷ではさのみ尊崇せられなかつた。司馬遷は之を尊んで孟荀列傳を作り、揚雄も法言吾子篇に於て、古者楊墨塞レ路、孟子辭而闢レ之廓如也と推稱し、程曾・趙岐・鄭玄・高誘等、之を推崇して注解を施した。魏晉六朝には綦母邃の注があり、唐に及んで楊綰・韓退之・皮日休等が共に之を尊崇し、宋の眞宗に至つては、孫奭に命じて孟子を校せしめ、新たに孟子音義を刊行してから、陳振孫の直齋書錄解題が始めて之を經部に列し、更に二程子が大學・中庸・論語に配して四書に列し、朱熹が之に集注を加へて以來、永く經書として尊崇されるに至つた。一方、荀子の非十二子、論衡の刺孟等以來、孟子を非議する刺孟派に對しては、宋の余允文の尊孟辨、朱熹の讀尊孟辨、劉章の刺刺孟等があり、互に激論を鬭はしてゐる。我が國では藪孤山が崇孟を著はして刺孟派を駁し、伊藤仁齋も孟子は論語の義疏なりとして尊崇した。孟子(**3**－**6960**‥106)を見よ。〔陔餘叢考、尊孟子〕孟子書、漢以來雜二於諸子中一、少レ有二尊崇者一、自二唐楊綰一、始請丙以二論語・孝經・孟子一兼爲乙一經甲、未レ行、韓昌黎又推二崇之一、其後皮日休請下立二孟子一爲中學科上、其表略云、聖人之道、不レ過二乎經一、經之降不レ過二乎史一、史之降不レ過二乎子一、不レ異レ道者孟子也、捨レ是而子者、皆聖人之賊也、請下廢二莊老之書一、以二孟子一爲レ主、有上能通二其義一者上、其科選同二明經一、則宋人之尊二孟子一、其端發二於楊綰・韓愈一、其說暢二於日休一也、日休又嘗請下以二韓文公一配中享太學上、則尊二昌黎一、亦自二日休一始。

〖尊孟辨〗191 ソンマウベン 書名。二卷。宋、余允文撰。司馬光・李覯・鄭厚叔三家の孟子を駁詰する詞を取つて一々之を辨ず。〔四庫提要、經、四書類〕。

【尊名】192 ソンメイ ❶立派な名譽。たふとい評判。〔史記、越世家〕久受二尊名一不祥。〔韓非子、難二〕惠公沒、文公授レ之、圍レ衞取レ鄴、城濮之戰、五敗二荊人一、取二尊名於天下一、亦此人之用也。〔呂覽、貴直〕成二尊名於天下一。❷帝號。〔戰國、趙策〕臣以三齊致二尊名於王一、天下孰敢不レ致二尊名於王一。❸名を尊ぶ。〔史記、楚世家〕寡人患二楚之不レ祭二於尊レ名也。❹他人の名の敬稱。御名前。

【尊命】193 ソンメイ ❶四時の政教の命令を尊ぶ。〔禮、表記〕夏道尊レ命。〔疏〕言下夏之爲レ政之道、尊二重四時政教之命一、使中人勸レ事樂上レ功也。❷貴下の仰せ。御命令。御申付けの件。

【尊妙】194 ソンメウ 尊くて靈妙なこと。〔雲笈七籤〕斯文尊妙、不レ譬二於常一。

【尊面】195 ソンメン おかほ。尊顏(36)に同じ。〔運步色葉集〕尊面。

【尊門】196 ソンモン 他人の家の敬稱。お宅。尊府。〔吳志、劉繇傳〕王朗遺二策書一曰、劉正禮、昔初臨レ州、未レ能二自達一、實賴二尊門一、爲二之先後一、用能濟レ江成レ治。〔通俗編、居處、尊門〕晉書傳咸傳、經二過尊門一、冠蓋車馬、塡二塞衢巷一、按、今指二稱他人之門一、則曰二尊門一、亦曰二貴門一。

〖屈二尊門下一〗197 ソンモンカニクツス 尊貴の身を屈して門下に至る。〔後漢書、趙壹傳〕冀承二淸誨一、以釋二遙悚一、今旦外白レ有二一尉兩計吏一、不レ道レ屈二尊門下一、更啓、乃知二已去一。

【尊問】198 ソンモン 他人の問又は訪問の敬稱。〔運步色葉集〕。尊問。

【尊恙】199 tsuen^1 yang^4 御病氣。

【尊養】200 ソンヤウ 尊び養ふ。〔漢書、賈山傳〕故以二天子之尊一、尊二養三老一、視レ孝也。

【尊譽】201 ソンヨ 尊くて名譽あること。〔史記、日者傳〕相引以レ勢、相導以レ利、比周賓レ正、以求二尊譽一以受二公奉一。

【尊用】202 ソンヨウ ❶尊び用ひる。貴重のものとして使用する。一說に、專用するの意といひ、又、尊は遵に同じで、したがひ用ひる意ともいふ。〔墨子、備城門〕守者必善、而君尊二用之一、然後可二以守一也。〔閒詁〕蘇云、尊用、猶二專用一也、兪云、尊、讀爲レ遵、古字通也。〔史記、李斯傳贊〕可レ謂二尊用一矣。❷明、潘榮(龍谿の人)(**7**－**18236**‥5)の字。

【尊容】203 ソンヨウ 尊いすがた。又、他人の容貌の敬稱。おすがた。尊貌。〔往生要集、中〕擧レ目合掌、見二彌陀尊容一。

【尊來】204 ソンライ 他人の來ることの敬語。おいで。御來臨。光來。賁臨。

【尊老】205 ソンラウ ❶自分の母の敬稱。〔南史、孝義、何子平傳〕何子平事レ母至孝、揚州辟二從事史一、月俸得二白米一、輒貨二市粟麥一、人曰、所レ利無二幾何一、足レ爲レ煩、子平曰、尊老在レ東、不レ辦レ得レ米、何心獨饗二白粲一。❷己の父、又、他人の父の敬稱。〔陔餘叢考、尊老尊兄令弟〕杭州人自稱二其父一曰二尊老一、徽州人自稱二其兄嫂一曰二尊兄尊嫂一、他處則稱二人之父一曰二尊公尊老一、稱二人之兄嫂一曰二尊兄尊嫂一、按、晉書載記、劉淵謂二傳祇之子暢一曰、尊公雖レ不レ達二天命一、然各忠二其主一、南史、何子平之母、年未レ及二終養一、而籍注有レ誤、年例已滿、子平卽便去レ官、顧愷之謂曰、尊上年實未二八十一、親故所レ知、何卽辭レ祿、吉翂之父犯二重罪一、翂乞二代レ父死一、蔡法度誘レ之曰、上知二尊侯無レ罪、行當二自釋一、北史、楊播與二北海王詳一議論不レ屈、詳顧二播姪昱一曰、尊伯性剛不レ服レ理、唐書、李林甫恐二嚴挺之大用一、乃謂二其弟損之一曰、上待二尊兄一意甚厚、盍レ爲レ見二上策一、此皆稱二人之父母伯叔一爲レ尊、而非三以自稱二其父母伯叔一也、然以レ之自稱、亦有レ所レ本、何子平爲二揚州從事一、月俸得二白米一、輒易二粟麥一、人曰、所レ利無レ幾、何足レ爲レ煩、子平曰、尊老在レ東、不レ辦レ得レ米、何心獨享二白粲一、是自稱二其父一曰二尊老一也。❸父母の通稱。〔稱謂錄、父母總稱、尊老〕右軍十七帖、此間士人皆有二尊老一案、尊老、父母之通稱。❹身分高く年老いたること。又、其の人。〔北史、万俟晉傳〕神武以二其父晉尊老一、特崇二禮之一。❺佛 佛徒の參學師事すべき學德ある高僧。尊宿(107)に同じ。〔南海寄歸傳、三〕尊老之處、多座須レ安。

【尊覽】206 ソンラン 他人の閲覽の敬稱。高覽。

【尊立】207 ソンリツ 尊び立てる。天子を立てる。〔漢書、武五子傳〕先日諸呂陰謀二大逆一、劉氏不レ絕若レ髮、賴三絳侯等誅二討賊亂一、尊二立孝文一、以安二宗廟一。

【尊慮】208 ソンリヨ 他人の考の敬稱。御心づかひ。御心配。御配慮。

【尊隣】209 tsuen¹ lin² 貴下の御近所。

【尊禮】210 ソンレイ ❶禮を尊ぶ。〔國語、越語下〕卑レ辭尊レ禮、玩二好女樂一、尊レ之以レ名。❷尊び禮する。尊敬して禮遇する。〔史記、孟子荀卿傳〕昭王擁レ彗先驅、請下列二弟子之座一而受上レ業、築二碣石宮一、身親往師レ之、作二主運一、其游二諸侯一見二尊禮一如レ此。

【尊靈】211 ソンレイ ソンリヤウ たふといみたま。貴人の靈魂。〔張衡、上二順帝一封事〕尊靈見レ罔、豈能無レ怨。〔文心雕龍、指瑕〕武帝誄云、尊靈永蟄。

【尊魯】212 ソンロ 清、朱右曾(6－14424‥646)の字。

【尊盧】213 ソンロ ❶太古の帝號。〔左思、魏都賦〕尊盧赫胥。〔梁書、許懋傳〕七十二君、夷吾所レ記、此中世數、裁可レ得二二十餘主一、伏羲・神農・女媧・大庭・柏皇・中央・栗陸・驪連・赫胥・尊盧・混沌・昊英・有巢・朱襄・葛天・陰康・無懷・黃帝・少昊・顓頊・高辛・堯・舜・禹・湯・文・武、中間乃有三共工霸二有九州一、非帝之數、云何得レ有二七十二君一。〔舊唐書、武延基傳〕驪連・栗陸之辰、尊盧・大庭之日、時猶朴略、未レ著二圖書一。❷複姓。〔萬姓統譜〕尊盧姓、尊盧、古太昊時諸侯。

【尊王】214 ソンワウ 帝王を尊ぶ。王室を尊重する。朝廷を尊ぶ。〔周禮、春官、大宗伯、夏見曰レ宗、注〕宗、尊也、欲二其尊レ王。〔史記、太史公自序〕佐レ文尊レ王、卒爲二晉輔一。〔獨斷〕上者、尊二位所レ在也、太史令司馬遷記事、當レ言レ帝則依違但言レ上、不三敢渫瀆言二尊號一、尊レ王之義也。〔陳傅良、送二宋國博參議江東一分レ韻得二夜字一詩〕武皇好レ少臣已老、孟子尊レ王君尚レ霸。

【尊王攘夷】215 ソンワウジヤウイ ソンノウジヤウイ ❶王室を尊び夷狄をはらふ。〔春秋尊王發微〕齊威攘二夷狄一、救二中國一之功、漸見、少進レ之也、春秋尊二天子一、貴二中國一、貴二中國一所三以賤二夷狄一也、尊二天子一所三以黜二諸侯一也、云云、嗚呼其旨微哉、其旨微哉。〔論語、憲問〕子曰、晉文公譎而不レ正、齊桓公正而不レ譎。〔集注〕二公皆諸侯盟主、攘二夷狄一以尊二周室一者也。〔經學歷史、經學變古時代〕但尊王攘夷、雖二春秋大義一、而王非二唯諾趨伏之可レ尊、夷非二一身兩臂之可レ攘。❷德川時代の末世、志士などの唱へた主義。卽ち皇室の式微を慨し、德川幕府の政事及び政權を非認し、且外國との交通を杜絕せんとしたこと。尊攘。

【尊勝經】216 ソンシヨウキヤウ 佛尊勝陀羅尼經(233)の略。

【尊勝法】217 ソンシヨウホフ 佛尊勝佛頂尊を念じ、息災、除病のために尊勝陀羅尼を誦する修法。尊勝佛頂とは一に除障佛頂といひ、釋迦如來五佛頂の一。〔本朝高僧傳、尊意傳〕延長三年夏旱、宣二於延歷寺一、修二祈雨法一、意率二六僧一修二佛頂尊勝法一、四日雨降、擧朝嘉嘆、從レ此尊勝法嚮二於朝廷一。

【尊水園】218 ソンスイエン 清、盧世漼(8－23050‥256)の室名。

【尊拙堂】219 ソンセツダウ 明、丁元薦(1－2‥251)の室名。

【尊先君】220 ソンセンクン 他人の亡父の敬稱。〔稱謂錄、稱二人亡父一、尊先君〕白帖載、荀勖謂二解系一曰、我與二尊先君一親厚、蓋自稱二其父一曰二先君一、而人稱二其父一、當レ曰二尊先君一矣。

【尊足山】221 ソンソクセン 佛山名。雞足(11－42124‥112)の❷の㋩の異名。摩訶迦葉入定の處。〔大唐西域記、九〕屈屈吒播陀山、唐言二雞足一、亦謂二窶盧播陀山一、唐言二尊足一、尊者大迦葉波居レ中寂滅、不二敢指言一、故云二尊足一。

【尊那經】222 ソンナキヤウ 佛書名。一卷。趙宋、法賢譯。佛尊那尊者に對して七種の布施と七種の發心を說いたもの。〔大藏經、宙帙、八〕。

【尊璞堂】223 ソンハクダウ 清、程庭鷺(8－25081‥264)の室名。

【尊美堂】224 ソンビダウ 明、黃焯(12－47926‥460)の室名。

【尊聞堂】225 ソンブンダウ 清、陳廷敬(11－41698‥1142)の室名。

【尊洛堂】226 ソンラクダウ 清、謝文洊(10－35827‥362)の室名。

【尊而不親】227 タツトビテシタシマズ ❶尊敬はするが、親愛の情は十分でない。尊敬の念を主とし、親愛の情は至らない。〔禮、表記〕母親而不レ尊、父尊而不レ親、水之於レ民也、親而不レ尊、火尊而不レ親、土之於レ民也、親而不レ尊、天尊而不レ親、命之於レ民也、親而不レ尊、鬼尊而不レ親。❷タツトバレテシタシマレズ 尊敬はされるが、親愛はされない。〔禮、表記〕厚二於仁一者、薄二於義一、親而不レ尊、厚二於義一者、薄二於仁一、尊而不レ親、母親而不レ尊、父尊而不レ親。

【尊レ主澤レ民】228 シユヲタツトクシタミヲウルホス 天子を尊んでその威勢を盛にし、人民に恩德を及ぼす。〔蘇軾、與二李公擇一書〕遇レ事有下可二尊レ主澤レ民者上、便忘レ軀爲レ之。

【尊聞居士】229 ソンブンコジ 清、羅有高(9－28397‥292)の號。

【尊無二二上一】230 ソンニジヤウナシ 最上の尊いものに二つはない。〔禮、坊記〕子云、天無二二日一、土無二二王一、家無二二主一、尊無二二上一。

【降レ尊就レ卑】231 ソンヲクダシテヒニツク 尊禮を降して卑禮につく。三獻の禮に君が席を一重にすること。〔禮、郊特牲〕三獻之介、君專レ席而酢焉、此降レ尊以就レ卑也。

【尊勝陀羅尼】232 ソンシヨウダラニ 佛佛頂尊勝陀羅尼。尊勝佛頂尊の陀羅尼。善住天子に今から七度畜生惡道の身を受くべき業因のあるのを憫んだ帝釋天が、祇園精舍に詣でて佛に救濟の法を請うた時、佛はために此の陀羅尼を說いて之を誦せしめた。〔尊勝陀羅尼經〕佛告二天帝一、此佛頂尊勝陀羅尼、若有レ人聞、一經二於耳一、先世所レ造一切地獄惡業、皆悉消滅。

【尊勝陀羅尼經】233 ソンシヨウダラニキヤウ 佛書名。五譯がある。❶佛頂尊勝陀羅尼經。一卷。唐、杜行顗譯。〔大藏經、成帙、五〕。❷佛頂最勝陀羅尼經。一卷。唐、地婆訶羅譯。〔大藏經、成帙、五〕。又、最勝佛頂陀羅尼淨除業障經。一卷。地婆訶羅重譯。〔大藏經、閏帙、六〕。❸佛頂尊勝陀羅尼經。一卷。唐、佛陀波利譯。〔大藏經、閏帙、六〕。❹佛頂尊勝陀羅尼經。一卷。唐、義淨譯。〔大藏經、成帙、五〕。❺尊勝大明王經。一卷。宋、施護譯。以上の五譯(重譯を入れて六譯)の中、不空三藏の弟子法崇は第三譯の佛陀波利本に就いて疏二卷を作り、これが世に流行した。

【尊勝大明王經】234 ソンシヨウダイミヤウワウキヤウ 佛書名。一卷。宋、施護譯。

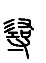
【𡬶】7446

㊀セン 〔集韻〕荀緣切 先
㊁セイ シヤウ 〔集韻〕先命切 敬
㊂エン 〔集韻〕余專切 先

㊀㊁㊂❶をさめる。〔玉篇〕𡬶、修也。❷あらはす。〔集韻〕𡬶、博雅、表也、一曰、手循。

【尋】7447

シン ジン 〔集韻〕徐心切 侵 ㄒㄧㄣˊ hsin² ㄒㄩㄣˊ hsün²


小篆

❶たづねる。㋑すぢみちを繰る。さぐる。もと𢒫(4－10021)に作る。〔正字通〕尋、說文作レ𢒫。〔說文〕𢒫、繹レ理也、从二工口一、从二又寸一、工口、亂也、又寸、分二理之一也、彡聲、此與レ𤕦同意。〔段注〕謂二抽繹而治一レ之、凡治レ亂、必得二其緒一、而後設レ法治レ之。〔宋書、天文志〕詳二尋前說一。〔資治通鑑、宋紀〕文帝、元嘉六年、宋文帝戒二江夏王義恭一曰、豈可レ不三感二尋王業一。〔注〕感三念致二王室之艱難一、而尋二繹爲レ治之理一也。㋺きただす。〔北史、儒林、孫靈暉傳〕研精尋問。㋩かんがへる。〔謝靈運、登二歸瀨三瀑布一望二兩溪一詩〕退尋二平常時一。㋥さぐる。〔正字通〕尋、探求也。〔陶潛、歸去來辭〕既窈窕以尋レ壑。㋭さがす。〔魏知古、尋二李先生一不レ遇詩〕羽客今何在、空尋伊洛閒。❷つぐ。㋑ひきつぐ。〔公羊、成、三〕尋二舊盟一也。〔注〕尋、猶二尋繹一也。㋺かさねる。〔左氏、哀、十二〕曰、必尋レ盟、若可レ尋也、亦可レ寒也。〔注〕尋、重也。㋩頻りにつづく。〔梁書、劉孝綽傳〕殿下降二情白屋一、存問相尋。❸もちひる。〔小爾雅、廣詁〕尋、用也。〔左氏、昭、元〕日尋二干戈一。〔注〕尋、用也。〔漢書、郊祀志上〕浸二尋於泰山一矣。〔注〕鄭玄曰、尋、用也。〔孔子家語、觀周〕毫末不レ札、將レ尋二斧柯一。〔注〕尋、用也。❹うつ。〔國語、周語中〕夫三軍之所レ尋。

〔注〕尋、討也。㊄つく。いたる。およぶ。〔漢書、郊祀志上〕寖尋二於泰山一矣。〔注〕晉灼曰、尋、遂往之意也、師古曰、尋、就也。㊅よる。〔陸機、悲哉行〕蔓葛亦有レ尋。〔注〕善曰、尋、猶レ緣也。㊆あたためる。燖(7−19430)に通ず。〔正字通〕尋、與レ燖義通。〔儀禮、有司徹、燅二尸俎一、注〕燅、溫也、古文、燅皆作レ燖、記或作レ燖、春秋傳曰、若可レ燖也、亦可レ寒也。〔左氏、哀、十二〕曰、必尋レ盟、若可レ尋也、亦可レ寒也。〔服注〕尋、溫也。㊇俄かに。ついで。まもなく。〔正字通〕尋、俄也。〔羊祜、讓二開府一表〕以レ身誤二陛下一、辱二高位一、傾覆亦尋而至。〔晉書、羊祜傳〕疾漸篤、乃擧二杜預一自代、尋卒。㊈ふかい。深(7−17687)に通ず。〔說文通訓定聲〕尋、叚借爲レ深。〔淮南子、繆稱訓〕其憂尋。〔注〕尋、深也。㊉ながい。〔方言、一〕尋、長也、云云、海岱大野之閒曰レ尋、云云、自レ關而西、秦晉梁益之閒、凡物長謂二之尋一。⑪たかい。〔左思、魏都賦〕碩果灌叢、園木竦尋。⑫ひろ。橫の一ひろ。八尺。又、七尺ともいふ。〔說文〕㝷、度二人之兩臂一爲レ尋、八尺也。〔說文通訓定聲〕按、程氏瑤田云、度レ廣曰レ尋、度レ深曰レ仞、皆伸二兩臂一爲レ度、度レ廣則身平臂直、而適得二八尺一、度レ深則身側臂曲、而僅得二七尺一、其說精覈、尋仞皆以二兩臂一度レ之、故仞亦或言二八尺一、尋亦或言二七尺一也。〔小爾雅、度〕倍レ仞謂二之尋一、尋、舒二兩肱一也。〔詩、魯頌、閟宮〕是尋是尺。〔傳〕八尺曰レ尋。〔儀禮、公食大夫禮記〕加二萑席尋・玄帛純一。〔注〕丈六尺曰レ常、半レ常曰レ尋。〔史記、張儀傳〕蹄閒三尋。〔注〕索隱曰、七尺曰レ尋。⑬ものさし。〔柳宗元、梓人傳〕所レ職、尋引規矩繩墨。⑭つね。なみ。〔字彙〕尋、尋常、言二庸常一也。⑮古文は𡬶(4−7454)に作る。〔字彙補〕𡬶、古文尋字。⑯姓。〔正字通〕姓、晉尋會、唐劉黑闥將尋相。〔通志、氏族略、以レ邑爲レ氏〕尋氏、亦作レ鄩、曹姓、古斟鄩之後、或言與レ夏同姓、今濰州東五十里、尙有二鄩亭一、京相璠云、斟鄩去二鄩亭一七里、周有二鄩肸一。⑰現㋑與へる。㋺儲ける。

名乘 チカ。ツネ。ノリ。ヒツ。ヒロ。ミツ。

解字 會意形聲。段注によれば理(すぢめ)を抽繹して治めることから、たづねるを本義とする。工口と又寸とを合す。工口は亂、又は手、寸は法度、又寸は法度にて分理すること。古文、㝷に作る。彡は音符。故に、亂を治めるには其の緒を得て然る後、法を設けて之を治めるをいふ。轉じて、長の義とする。一說に、度數を本義とし、たづねるの義を轉義とする。左と右と寸との合字。寸は法度。左右の手を法度にしたがつて平かにひろげた長さ、八尺をいふ。彡は音符。〔說文、㝷、段注〕謂二抽繹而治一レ之、凡治亂必得二其緒一而後設レ法治レ之、引伸之義爲レ長。〔說文通訓定聲〕㝷、繹レ理也、从レ工从レ口从レ又从レ寸、會意、工口、亂也、又寸、分二理之一、彡聲、此與レ𤔔同意、度二人之兩臂一爲レ尋、八尺也、按、據二艸部蕁下重文一、當下補二或體㝷一从上爻、今隸作レ尋、俗字亦作レ⿸尸示、又吳作レ㝷、又按、此字當下以二度數一爲中本義上、轉注爲レ繹。

參考 長さについては仞(1−379)を見よ。

【尋案】1 ジンアン 尋ね考へる。〔魏志、孫禮傳〕一朝決レ之者、緣下有二解レ書圖レ畫、可上得二尋案樀校一也。

【尋幽】2 ジンイウ ㊀佳勝の地を尋ねもとめる。〔司空圖、詩品〕可レ人如レ玉、步屧尋レ幽。㊁深い道理を究める。〔北史、楊伯醜傳〕時有二張永樂者一、賣二卜京師一、云云、伯醜輒爲分二析爻象一、尋レ幽入レ微。

【尋引】3 ジンイン ものさし。尺度。〔柳宗元、梓人傳〕所レ職、尋引規矩繩墨、云云、梓人而不レ知二繩墨之曲直、規矩之方圓、尋引之短長一。

【尋繹】4 ジンエキ ㊀繰り返して行ふ。再三復習する。〔陶潛、己酉歲九月九日詩〕萬化相尋繹、人生豈不レ勞。㊁事理を段々たづねる。たづねきはめる。〔漢書、循吏、黃霸傳〕吏民見者、語次尋繹。〔注〕師古曰、繹、謂二抽引而出一也。〔謝惠連、雪賦〕王乃尋繹吟翫、撫覽扼腕。〔談錄〕初得二董子繁露數卷一、錯亂顚倒、伏讀歲餘、尋繹綴次、乃稍完復。

【尋鄔】5 ジンヲ ㊀縣名。民國、置く。漢の雩都縣の地。江西省會昌縣の南。縣の東に尋鄔水があるから名づける。故名は富森林。㊁川の名。江西省尋鄔縣の東。源は尋鄔堡。水源水・馬蹄江・河嶺の諸川を合し、廣東省興寧縣の界に入つて杜田河となる。〔讀史方輿紀要、江西、贛州府、長寧縣〕尋鄔堡水、縣東五十里、流入二廣東龍川縣之赤石渡一、又縣南十里有二河嶺水一、下流合二於尋鄔堡水一。

【尋香】6 ジンカウ ㊀花をさがす。〔李義府、堂堂詞〕春風別有レ意、密處也尋レ香。㊁にほひをさがす。香氣をたづねる。〔歐陽脩、憎二蒼蠅一賦〕逐レ氣尋レ香、無二處不一レ到、頃刻而集、誰相告報。㊂佛 Gandharvaの譯。俳優をいふ。生業を事とせず、只飲食の香氣を尋ねて樂を作して乞求するからいふ。乾闥婆。〔二十唯識述記、上〕西域呼二俳優一、亦云二尋香一、此等不レ事二王侯一、不レ作二生業一、唯尋二諸家飲食等香氣一、便往二其門一、作二諸伎樂一、而求二飲食一。㊃hsin^{2} hsiang^{1} 女に狂ふ。尋花。

【尋壑】7 ジンガク ㊀たにまをたづねる。〔陶潛、歸去來辭〕或命二巾車一、或棹二孤舟一、既窈窕以尋レ壑。㊁清、李繩遠(6−14459··1507)の號。

【尋求】8 ジンキウ ㊀たづねる。さがす。搜索。〔法苑珠林〕經律幷闕、志勵尋究。㊁hsin^{2} chʻiu^{2} 懇願する。

【尋究】9 ジンキウ たづねきはめる。尋討。〔梁元帝、洞林序〕海中之書、略皆尋究、巫咸之說、偏得二研究一。〔殷紹、上二四序堪輿一表〕尋究經レ年、粗擧二綱要一。

【尋釁】10 hsin^{2} hsin^{4} 爭を求める。挑戰する。

【尋矩】11 ジンク のり。法則。〔唐書、十一宗諸子、懷懿太子湊傳〕少雅裕有二尋矩一。

【尋花】12 ジンクワ ㊀花をさがす。〔貢性之、暮春詩〕吳娃二八正嬌容、鬭レ草尋レ花趁二暖風一。㊁hsin^{2} hua^{1} 女に狂ふ。尋芳。尋香。

【尋花問柳】13 ジンクワモンリウ ㊀花をたづね柳をとうて、春の景色を玩賞すること。〔杜甫、嚴中丞枉レ駕見レ過詩〕元戎小隊出二郊坰一、問レ柳尋レ花到二野亭一。㊁hsin^{2} hua^{1} wen^{4} liu^{3} 遊廓に通ふ。

【尋桂】14 ジンケイ 八尺の桂樹。〔張協、雜詩〕尺燼重二尋桂一、紅粒貴二瑤瓊一。

【尋景】15 ジンケイ 景色をたづねる。〔張衡、西京賦〕乃有二迅羽輕足一、尋レ景追レ括、鳥不レ暇レ擧、獸不レ得レ發。

【尋陝】16 ジンケフ 地名。今の廣東省曲江縣。漢の武帝の時、楊僕が南越を征して陷れた處。又、尋陿に作る。〔史記、南越尉佗傳〕先陷二尋陝一。〔注〕索隱曰、姚氏云、尋陝、在二始興西三百里一、近二連口一也。

【尋檢】17 ジンケン たづねしらべる。〔南史、沈不害傳〕每レ製レ文、操レ筆立成、曾無二尋檢一。〔白居易、病中逢レ秋招レ客夜酌詩〕合二和新藥草一、尋二檢舊方書一。

【尋源】18 ジンゲン ㊀事の源をたづねる。〔虞世南、結客少年場行〕尋レ源博望侯、結レ客遠相求。〔蘇軾、王維吳道子畫詩〕交柯亂葉動無數、一一皆可レ尋二其源一。㊁清、朱雲爔(6−14424··674)の號。

【尋査】19 hsin^{1} chʻa^{1} 調査する。

【尋找】20 hsin^{1} chao^{3} 尋ねる。〔紅樓夢、一回〕再使幾人去尋找。

【尋爭】21 ジンサウ 口論をしかける。尋鬧。〔琵琶記、再報二佳期一〕他反與レ我尋爭尋鬧。

【尋想】22 ジンサウ たづねおもふ。〔蔡邕、濟北相崔君夫人誄〕尋二想遊靈一、焉識レ所レ徂。

【尋察】23 ジンサツ 尋ね察する。〔後漢書、孟嘗傳〕乃誣レ婦厭二苦供養一、加二鴆其母一、列二訟縣庭一、郡不レ加二尋察一、遂結二竟其罪一。

【尋死】24 hsin^{2} ssŭ^{3} 自殺をはかる。死なうとする。

【尋死覓活】25 hsin^{2} ssŭ^{3} mi^{4} huo^{2} どうしても。是非。必ず。人騷がせをする。

【尋枝】26 ジンシ 長さ八尺の枝。長い枝。〔淮南子、齊俗訓〕深谿峭岸、峻木尋枝、猨狖之所レ樂也。

【尋思】27 ジンシ 心を沈めて思考する。たえず思索

する。〔後漢書、劉矩傳〕民有二爭訟一、矩常引二之于前一、提レ耳訓告、以爲忿恚可レ忍、縣官不レ可レ入、使二歸更尋思一。〔張侹、寄レ人詩〕倚レ杜尋思倍惆悵、一場春夢不二分明一。〔王昌齡、長信秋詞〕眞成薄命久尋思、夢見二君王一覺後疑。

【尋師】28 ジンシ ❶軍隊を用ひる。戰をする。尋は、用ひる。〔左氏、僖、五〕三年將レ尋レ師焉。〔注〕尋、用也。❷先生を尋ねる。〔後漢書、李固傳〕少好レ學、常步行尋レ師、不レ遠二千里一。〔梁昭明太子、錦帶書十二月啓、夷則七月〕負レ笈尋レ師、罕二逢見日一。〔李中、寄二廬山白大師一詩〕長憶二尋レ師處、東林寓泊時一。

【尋詩】29 ジンシ 詩人が風景に流連して、其の風景等を題材として作詩すること。〔高啓、次二張仲和春日漫興一詩〕獨騎二款段一尋レ詩去。

【尋罳】30 ジンシ 西域の城名。尋罳は、西域の語で、肥の意。今のソ連邦ウズベク共和國のサマルカンド。〔耶律楚材、懷古一百韻寄二張敏之一詩〕感レ恩承二聖敕一、寄住到二尋罳一。〔自注〕尋罳虔、西域城名、西人云、尋罳、肥也、虔、城也、通謂二之肥城一。

【尋事】31 hsin^{2} shih^{4} 干涉する。

【尋事團】32 ジンジダン 蜀國の軍隊の名。〔王氏見聞錄〕僞蜀有二尋事團一、亦曰二中團小院使一、蕭懷武主レ之、蓋軍巡之屬也。

【尋章】33 ジンシヤウ 一章ごとに尋ねる。尋章摘句を見よ。

【尋章摘句】34 ジンシヤウテキク 細かい章句の末を穿鑿する。〔吳志、孫權傳、注〕咨曰、雖下有二餘閒一、博中覽書傳歷史上、藉二操奇異一、不レ效二諸生尋章摘句一而已。〔李賀、南園詩〕尋章摘句老雕蟲、曉月當レ簾挂二玉弓一。

【尋常】35 ジンジヤウ ❶僅かな距離、又は廣さ。尋は八尺、常は一丈六尺。〔左氏、成、十二〕諸侯貪冒、侵欲不レ忌、爭二尋常一、以盡二其民一。〔注〕八尺曰レ尋、倍レ尋曰レ常、言下爭二尺丈之地一、以相攻伐上。〔國語、周語下〕不レ過二墨丈尋常之閒一。〔注〕八尺爲レ尋、倍レ尋爲レ常。〔史記、李斯傳〕布帛尋常、庸人不レ釋。〔注〕索隱曰、八尺曰レ尋、倍レ尋曰レ常、以言二其少一也。〔淮南子、人閒訓〕內二之尋常一而不レ塞。〔張華、鷦鷯賦〕翔二集尋常之內一。〔韓愈、應二科目一時與レ人書〕蓋尋常尺寸之閒耳。❷なみなみ。普通。平凡。平常。〔字彙〕尋、尋常、言二庸常一也。〔新書、禮〕尋常之室、無二奧阼之位一。〔杜甫、丹青引贈二曹將軍霸一詩〕卽今漂泊干戈際、屢貌尋常行路人。〔孟貫、寄二山中高逸人一詩〕煙霞多放曠、吟嘯是尋常。❸㋑しとやか。きやしや。〔古今著聞集、十二〕いとなまやかにて、聲けはひより初めて、世に尋常なる男。㋺物の細小なるさまにいふ。㋩殊勝なこと。けなげ。〔平治物語、常磐六波羅參事〕尋常に出で立たせて。㋥すぐれたこと。立派なこと。〔平家物語、十一、扇的事〕尋常に飾りたる小舟。

【尋常一樣】36 ジンジヤウイチヤウ 普通で、格別他とかはりがない。〔杜耒、寒夜詩〕寒夜客來茶當レ酒、竹爐湯沸火初紅、尋常一樣窗前月、纔有二梅花一便不レ同。

【尋常警察】37 ジンジヤウケイサツ 平時の通常警察の稱。非常警察(**12**−**42585**‥74)の對。

【尋常之高】38 ジンジヤウノタカサ 僅かの高さ。〔蜀志、秦宓傳〕貪二尋常之高一、而忽二萬仞之嵩一。

【尋常之室】39 ジンジヤウノシツ なみなみの室。〔孔子家語、王言解〕人君先立二仁於己一、然後大夫忠而士信、民敦而樸、男愨而女貞、六者教之致也、布二諸天下四方一而不レ怨、納二諸尋常之室一而不レ塞。

【尋常小學校】41 ジンジヤウセウガクカウ もと、小學校の一。滿六歲以上の兒童に、修業年限を六ケ年とする普通義務教育を施す所。教科目は、修身・讀方・算術・國史・地理・理科・圖畫・書方・唱歌・手工・體操等。女兒には裁縫を課した。

【尋常百姓家】42 ジンジヤウヒヤクセイノイヘ 普通の民家。又、おちぶれて庶民となつた者。〔劉禹錫、烏衣巷詩〕朱雀橋邊野草花、烏衣巷口夕陽斜、舊時王謝堂前燕、飛入二尋常百姓家一。〔書言故事、禽獸比喩類〕一旦流落、曰二尋常百姓家一。

【尋常高等小學校】43 ジンジヤウカウトウセウガクカウ もと、尋常小學校と高等小學校とを併置した小學校。

【尋常之溝無二呑舟之魚一】44 ジンジヤウノミゾニハドンシウノウヲナシ 狹い溝には舟を呑むやうな大魚は住まない。狹小の地には大豪傑のない喩。〔莊子、庚桑楚〕夫尋常之溝、巨魚無レ所レ還二其體一。〔淮南子、繆稱訓〕尋常之溝無二呑舟之魚一。〔賈誼、弔二屈原一文〕彼尋常之汙瀆兮、豈能容二夫呑舟之巨魚一、橫二江湖一之鱣鯨兮、固將レ制二於螻蟻一。

【尋尺】45 ジンシヤク ❶八尺と一尺。〔詩經、魯頌、閟宮〕是尋是尺。❷わづかな喩。尋は八尺。尋常。〔國語、晉語八〕能行二諸侯之賄一、而無二尋尺之祿一。

【尋春】46 ジンシユン 春をたづねる。〔戴益、探レ春詩〕盡日尋レ春不レ見レ春、杖レ藜踏破幾重雲。〔剪燈新話、翠翠傳〕自怜二賦命之屯一、不レ恨二尋レ春之晚一。

【尋濬】47 ジンシユン 淸、上睿(**1**−**13**‥25)の字。

【尋誦】48 ジンシヨウ 書を誦して其の意を探究する。〔後漢書、鄭玄傳〕玄日夜尋誦、未二嘗怠倦一。

【尋蹤】49 ジンシヨウ あとを探したづねる。蹤は、あしあと。〔謝翶、正三立春詩〕明日金華洞、牧羊尋二故蹤一。

【尋聲】50 ジンセイ 聲をたづねる。音聲にしたがふ。〔魏志、夏侯玄傳〕夫當二宜レ改之時一、留二殷勤之心一、令發之日、下之應也、猶二響尋レ聲耳。

【尋討】51 ジンタウ たづねさぐる。尋究。〔袁紹、與レ瓚書〕足下不三尋二討禍源一、克レ心罪レ己。

【尋鬧】52 ジンダウ 尋爭(21)に同じ。〔琵琶記、再報二佳期一〕佳人與レ他不レ要、別的見二了媒婆一、歡歡喜喜、他反與レ我尋爭尋鬧。

【尋探】53 hsin^{2} t'an^{4} 探る。搜す。

【尋竹】54 ジンチク 山に生える一種の竹。〔山海經、大荒北經〕有岳之山、尋竹生焉。〔張協、七命〕尋竹竦莖、蔭二其壑一。

【尋逐】55 ジンチク 後をおひたづねる。〔水經、穀水注〕張璠漢記曰、山多二峭坂一、以象二二崤一、積二金玉一、採二捕禽獸一、以充二其中一、有下人殺二苑兔一者上、迭相尋逐、死者十三人。〔楞嚴經〕我以レ心推窮尋逐。

【尋丈】56 ジンヂヤウ 長さの單位。尋は八尺、丈は一丈。〔文子、精誠〕故君子者、其猶レ射者也、於レ此毫末、於レ彼尋丈矣。〔管子、明法〕有二尋丈之數一者、不レ可三差以二長短一。

【尋樗】57 ジンチヨ 多くの客が、門前に樗木のある劉泰娘の家を尋ねた故事。轉じて、來客の多い喩。〔西谿叢話〕劉泰娘門前有二樗樹一、時人贈レ詩云、尋常凡木最輕レ樗、今日尋レ樗桂不レ如。

【尋趁】58 ジンチン たづね逐ふ。〔洪覺範、詩〕富貴功名苦二尋趁一。

【尋甸】59 ジンデン 縣名。民國、置く。雲南省嵩明縣の東北。烏蒙山麓。漢の滇國の地。唐時、蒙氏の居所にて仁地部といひ、元は仁德府を置き、明は尋甸府に改む。

【尋橦】60 ジンドウ 竹竿によぢのぼる。橦は竹竿。遊戲の名。〔張衡、西京賦〕烏獲扛レ鼎、都盧尋レ橦。〔注〕善曰、漢書曰、武帝享二四夷之客一、作二巴俞都盧一、音義曰、體輕善緣レ橦。〔王建、尋橦歌〕人閒百戲皆可レ學、尋橦不レ比二諸餘樂一。〔東城老父傳〕角觝萬夫、跳劍尋橦。

【尋念】61 ジンネン たづねおもふ。〔江淹、雜體、潘黃門岳述哀詩〕俯仰未レ能レ弭、尋念非二但一一。

【尋芳】62 ジンパウ ❶花をたづねる。〔姚合、遊二陽河岸一詩〕尋レ芳愁二路盡一、逢レ景畏二人多一。〔李中、和二夏侯秀才春日見レ寄詩〕尋レ芳懶向桃花塢、垂レ釣空思杜若汀。❷hsin^{2} fang^{1} 女に狂ふ。尋花。

【尋訪】63 ジンパウ 人をおとづれる。訪問。〔後漢書、梁鴻傳〕曾誤遺レ火、延二及它舍一、鴻乃尋二訪燒者一、問レ所二去失一。〔晉書、鮑靚傳〕其父母尋訪得二李氏一。

【尋風】64 hsin^{2} fêng^{1} 賊の手足となつて見張りをする者。

【尋病】65 ジンペイツイデヤム 其のうちに病氣になつた。一說にはかに病む。〔陶潛、桃花源記〕聞レ之、欣然親往未レ果、尋病終。

【尋覓】66 hsin^{2} mi^{4} 要求する。搜索する。

【尋木】67 ジンボク 大木。〔左思、吳都賦〕小大之相絕也、亦猶三棘林螢燿、而與二夫尋木龍燭一也。〔注〕劉曰、山海經曰、尋木長千里、翰曰、尋木、大木。

【尋味】68 ジンミ ❶深い趣をさぐり求める。〔世說新語、文學〕支道林在二白馬寺一、中將馮太常共語、因及二逍遙一、支卓然標二新理於二家之表一、立二異義於衆賢之外一、皆是諸名賢尋味之所レ不レ得。❷文詞の意味深長なこと。

【尋夢】69 ジンム 前に見た夢を尋ねる。〔還魂記、尋夢〕膩臉朝雲罷レ盥、倒二犀簪一斜插二雙鬟一。〔通俗編、交際、尋夢〕李賀詩、大江翻瀾神曳レ烟、楚魂尋夢風颸然、按、湯玉茗劇尋夢二字、本レ此。

【尋盟】70 ジンメイ 舊盟を溫める。尋は燖、あたためる。又、重ねる意ともいふ。〔左氏、哀、十二〕公會二吳于橐皋一、吳子使二大宰嚭請一レ尋レ盟、公不レ欲、使二子貢對一曰、盟所二以周一レ信也、云云、寡君以爲、苟

有レ盟不レ可レ改也、云云、若可レ尋也、亦可レ寒也。〔注〕尋、重也。〔疏〕少牢有司徹云、乃尋二尸俎一、鄭玄云、尋、溫也、引二此若可レ尋也、亦可レ寒也一、則諸言レ尋レ盟者、皆以前盟已寒、更溫レ之使レ熱、溫レ舊卽是重義、故以レ尋爲レ重。〔書言故事、評論類〕尋二舊約一曰二尋盟一。

【尋問】71ジンモン　たづねとふ。見舞ふ。訪問。〔北史、儒林上、孫惠蔚傳〕靈暉少明敏、有二器度一、得二惠蔚手錄章疏一、研精尋問、更求二師友一、三禮・三傳、皆通二宗旨一。

【尋陽】72ジンヤウ　❶郡名。晉、置き、隋、改めて九江といひ、唐、再び尋陽とす。今の江西省九江縣。〔讀史方輿紀要、江西、九江府〕德化縣、附郭、漢廬江郡尋陽縣地、後漢及晉因レ之、永興初、置二尋陽郡一、云云、唐武德四年、復曰二尋陽一。❷縣名。漢、置く。晉の永興の初、尋陽郡を置く。故城は湖北省黃梅縣の北。大江の北。漢の武帝が舟を長江に浮べて蛟を射た處。後、江南にうつす。唐の時、郡縣の名を共に潯陽と改む。〔漢書、武帝紀〕自二尋陽一浮レ江、親射二蛟江中一獲レ之。〔漢書、地理志上〕廬江郡、縣十二、尋陽。〔地理通志〕朱文公曰、漢九江郡、本在二江北一、後以二江北之尋陽一併二柴桑一而立レ郡、又自二江北一徙二治江南一、故江南得レ有二尋陽之名一。

【尋約】73ジンヤク　八尺の繩。尋は八尺、約は繩。〔左氏、哀、十一〕公孫揮命二其徒一曰、人尋約、吳髮短。〔注〕約、繩也、八尺爲レ尋、吳髮短、欲三以レ繩貫二其首一也。

【尋來】74ジンライ　たづね來る。〔還魂記、尋夢〕尋來尋去、都不レ見了。

〔尋來津〕75ヒロキツ　姓氏。〔新撰姓氏錄考證〕。

【尋例】76ジンレイ　義例をたづねる。〔國朝漢學師承記、凌廷堪〕披レ文摘レ句、尋レ例析レ辭。

【尋歷】77ジンレキ　たづねまはる。〔趙至、與二嵆茂齊一書〕尋二歷曲阻一、則沈思紆結、乘レ高遠眺、則山川悠隔。

【尋論】78ジンロン　古の賢人が議論した迹を尋ねる。〔千字文〕求レ古尋レ論。

【尋休兒】79 hsin² hsiu² êrh　行き暮れて朋友の家に泊り込む。

【尋支瓜】80ジンシクワ　西域の末祿國に産する瓜の名。〔唐書、西域下、大食國傳〕東有二末祿一、小國也、有二尋支瓜一、大者十人食乃盡。〔文獻通考、四裔考、大食〕瓜大者名二尋支一、十餘人飡二一顆一輒足。

【尋親記】81ジンシンキ　明の傳奇の名。汲古閣六十種曲の一。撰者未詳。一に敎子記といふ。周羽の子、瑞隆が職を棄てて親を尋ねることを記したもの。

【尋樂翁】82ジンラクヲウ　明、習經(**9－28672**··28)の號。

【尋樂齋】83ジンラクサイ　清、戴有祺(**5－11685**··150)の號。

【尋樂堂】84ジンラクダウ　清、竇克勤(**8－25695**··67)の「室名。

【尋行數墨】85ジンカウスウボク　❶字數や行數になづんで文章を作るに苦心すること。〔輟耕錄、評帖〕潭乃僧希白所レ模、有二江左風味一、工二於摹字一、拙二於尋行數墨一、文理錯謬、云云、如レ難レ讀何。❷文字になづんで道理に明らかでないこと。〔傳燈錄〕不レ解二佛法圓通一、徒勞二尋行數墨一。〔朱熹、易詩〕須レ知二三絕韋編一者、不二是尋レ行數レ墨人一。〔明儒學案、郝楚望先生學案、四書攝提〕博士家終日尋行數墨、靈知蒙閉、沒レ齒無レ聞。

【尋根究底】86 hsin¹ ken¹ chiu⁴ ti³　十分に研究する。十分に吟味する。

【尋消問息】87ジンセウモンソク　樣子をたづねとふ。〔西湖志餘〕周美成製意難レ忘云、又恐伊尋消問息、瘦二減容光一。

【尋碗正經茶飯】88 hsin² wan³ chêng⁴ ching ch'a² fan⁴　正業によつて衣食する。

【尌】7448

小篆

[一] シユ ジユ　〔集韻〕殊遇切　遇

[二] チユ ヂユ　〔集韻〕廚遇切　遇

[一][二] ❶**たてる。たつ。**樹(**6－15496**)に通ず。〔說文〕尌、立也、从レ壴从レ寸、寸、持レ之也、讀若レ駐。〔段注〕今字通二用樹一爲レ之。〔廣韻〕尌、立也。❷**き。**たちき。樹(**6－15496**)に通ず。〔集韻〕樹、說文、生植之總名也、古作レ尌。❸**わらは。しもべ。**〔正字通〕尌、僮僕曰二尌子一。❹或は侸(**1－649**)・⿰亻壴(**1－845**)・⿰足尌(**10－37859**)に作る。〔集韻〕尌、或作二侸・⿰亻壴・⿰足尌一。❺**姓。**〔正字通〕尌、姓、左傳、鄭大夫尌拊。

解字　會意。壴と寸との合字。壴は立てる、寸は手。手で物を立てる意。

【⿱𠆢㝵】7449

シユ　守(**3－7071**)の古字。〔字彙補〕⿱𠆢㝵、古文守字。

【酎】7450

ケン　義未詳。〔龍龕手鑑〕酎、音堅。

十畫

【⿰⿸厂示寸】7451

ヰ　尉(**4－7440**)に同じ。〔正字通〕尉、本作レ㷉、或レ尉。

【⿰首寸】7452

ダウ　道(**11－39010**)の古字。〔說文〕道、⿰首寸、古文道从二𦣻寸一。〔集韻〕道、古作レ⿰首寸。

【⿰豆寸】7453

ガウ　剅(**2－2124**)の譌字。〔正字通〕⿰豆寸、剅字之譌。

【㝷】7454

ジン　尋(**4－7447**)の古字。〔字彙補〕㝷、古文尋字、見二字義總略一。

【⿱⿱𠂉目寸】7455

ヘン　義未詳。〔五音篇海〕⿱⿱𠂉目寸、方撿切。

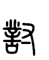
十一畫

【⿰票寸】7456

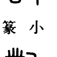
ヘウ　剽(**2－2160**)の俗字。〔正字通〕⿰票寸、俗剽字。

【對】7457

タイ ツイ　〔集韻〕都內切　隊　ㄉㄨㄟˋ tuei⁴



小篆



或體

❶**こたへる。**對(**4－7464**)に同じ。〔說文〕對、譍無レ方也、从二丵口一从レ寸、對、對或从レ士、漢文帝㠯爲、責對而面言、多非二誠對一、故去二其口一、㠯从レ士也。〔詩、大雅、桑柔〕聽レ言則對。〔箋〕對、答也。〔儀禮、聘禮〕對曰、非レ禮也、敢辭。〔注〕對、答問也。〔禮、仲尼燕居〕子貢越レ席而對。〔注〕對、應也。❷**あたる。**〔廣雅、釋詁三〕對、當也。❸**むかふ。**〔廣雅、釋詁四〕對、嚮也。〔史記、石奮傳〕對レ案不レ食。❹**あふ。たぐふ。**〔後漢書、周黃徐姜申屠傳贊〕貞期難レ對。〔注〕對、偶也。❺**あはせる。たぐへる。**〔詩、周頌、淸廟〕對二越在天一。〔箋〕對、配也。〔疏〕釋詁云、配・合・會、對也、是對爲レ配之義。❻**あひ。あひて。**㋑配偶者。〔詩、大雅、皇矣〕帝作レ邦作レ對。〔傳〕對、配也。〔疏〕釋詁云、妃、對也、則對是相配之義。〔後漢書、梁鴻傳〕擇レ對不レ嫁。㋺敵對者。〔吳志、陸遜傳〕劉備天下知名、曹操所レ憚、今在二境界一、此彊對也。〔南史、任昉傳〕時琅邪王融有二才雋一、自謂無レ對。❼**つい。そろひ。**〔金史、輿服志上〕袞、云云、上下襟、華蟲火各六對、虎蜼各六對。❽**ひとしい。**〔呂覽、審時〕本大而莖葉格對。〔注〕對、等也。❾**つひに。**〔爾雅、釋言〕對、遂也。〔郝懿行義疏〕遂者、申也、進也、達也、通也、倶與二對答一義近。〔詩、大雅、江漢〕對揚二王休一。〔傳〕對、遂也。遂稱二

揚王之德美一。❿**あげる**。盛んにする。〔廣雅、釋詁四〕對、揚也。⓫**をさめる**。〔廣雅、釋詁三〕對、治也。⓬**上書の一體**。天子の下問について意見を述べるもの。奏對。〔文體明辯、奏疏〕三曰、對、四曰、啓、云云、至二於疏・對・啓・狀・箚五者一、又皆以二奏字一冠レ之、以別二於臣下私相對答往來之稱一。⓭**姓**。〔萬姓統譜〕對、見二姓苑一。〔畿輔通志〕明對慶長、萬曆丙子科擧人。⓮現㋑つきあはせる。㋺しらべる。㋩まぜる。わる。㋥とぢる。㋭定める。立てる。㋬正しい。㋣氣があふ。むつまじい。

解字 會意。もと對（**4－7464**）に作る。丵と口と寸との合字。本義を自由自在に應對する意とする。丵は草木の叢生すること。口を加へて、言語の盛んなるをいひ、寸は法度、よく法度にしたがふをいふ。又、對に作る。丵と士と寸との合字。士は男子の美稱。又、士は事、事をとつて誠實なる意。字解❶を見よ。〔說文、對、段注〕按、對荅古通用、云二應無一レ方者、所謂善待レ問者、如レ撞レ鐘、叩以レ大者、則大鳴、叩以レ小者、則小鳴也、無レ方、故從二丵口一、寸、法度也、丵口而一歸二於法度一也、云云、鍇曰、士、事也、取レ事實也、按、篇韵皆作レ士、未レ知二孰是一。

【對揖】1（タイイフ） 答禮するをいふ。〔漢官儀〕尙書郞俯伏奏事、黃門郞對揖跪受。

【對印】2 tuei⁴ yin⁴ 合判。あひはん。符印ともいふ。

〔對印兒〕3 tuei⁴ yin⁴ êrh 紙幣手形などの眞僞を鑑定すること。

【對飮】4（タイイン） 向きあつて飮む。〔吳志、魯肅傳〕乃獨引レ肅還、合レ榻對飮。〔杜甫、客至詩〕肯與二鄰翁一相對飮、隔レ籬呼取盡二餘杯一。

【對雨】5（タイウ） 雨に對する。〔陳普、得レ雨詩〕得レ意如レ心卽勝遊、不レ妨對レ雨作二遨頭一。〔范成大、泊二衡州一詩〕客裏仍哦對雨吟、夜來星月曉還陰。

〔對雨樓〕6（タイウロウ） 淸、繆荃孫（**8－27855**‥66）の室名。

【對蔚】7（タイウツ） 林木の茂るさま。〔後漢書、馬融傳上〕豐彤對蔚、崟雒槮爽。〔注〕並林木貌也。

【對艞】8（タイエウ） 江中の大船。艞は大舟。〔集韻〕䑬、大舟、或作レ艞。〔事物異名錄、舟車、舟〕集韻、對艞江中大船。

【對弈】9（タイエキ） 相對して圍碁などの勝負事をする。〔雲煙過眼錄、下〕古畫二一、作二五丁開山一、一作二帝仙對弈一、上有二飛鬼一、下有二神馬一、疑是石恪畫。

【對越】10（タイエツ） 天地神明に答へる。越は於で、對二於天地一の略。〔詩、周頌、淸廟〕濟濟多士、秉二文之德一、對二越在天一。〔箋〕對、配、越、於也。〔晉書、元帝紀〕臣聞、天生二蒸民一、樹レ之以レ君、所下以對二越天地一、司中牧黎民上。〔劉琨、勸進表〕對二越天地一。

【對於】11 tuei⁴ yü² 云々に對しては。

【對應】12（タイオウ） ❶互に向きあふ。相對する。❷相手に應じて事をすること。❸雙方相等しいこと。つりあふこと。❹相似直線形の相等しい角、又は相等しい角に對する邊、及び對稱圖形の互に對稱の位置にある點・面等について、之を對應するといふ。

〔對應邊〕13（タイオウヘン） 相似多角形の相等しい角の「間の邊。

【對屋】14（タイノヤ） 平安朝時代、禁裏・貴人などの邸で、寢殿に對して斜に造つた別棟の建物。多くは廊で通じ、女房の住む所。〔下學集、上、家屋門〕對屋。

【對家】15（タイカ） ❶あひて。〔魏文帝、典論自序〕以レ單攻レ複、每爲レ若レ神、對家不レ知レ所レ出。❷麻雀で、胴親と相對席した人をいふ。

〔對家頭〕16 tuei⁴ chia¹ tʻou² 金融上の振替制度に於て、取引上の顧客から振替へによる授受を依賴せられた二つの錢莊が、夫々帳簿上の照合授受を行ふこと。主として寧波に於ける俗稱。

【對歌】17（タイカ） 向ひあつてうたふ。〔詩、陳風、東門之池〕彼美淑姬可二與晤歌一。〔箋〕言二淑姬賢女、君子宜二與對歌相切化一也。

【對價】18（タイカ） 他人から受けた利益の封酬として、これに交付する利益。

【對鰕】19（タイカ） 乾した五色蝦。二つづつ乾す故にいふ。閩中で產する。〔本草、海鰕〕集解、時珍曰、閩中有二五色鰕一、亦長尺餘、彼人兩兩乾レ之、謂二之對鰕一、以充二上饌一。

【對開】20（タイカイ） ❶雙方共に同じ方向に避けること。❷店などを向ひ合せに開くこと。❸相向つて出發すること。

【對交】21 tuei⁴ chiao¹ 雙方で豫め協議して、交易を同時に履行すること。

【對向】22（タイカウ） さしむかひ。〔論衡、程材〕精闇不レ及、意疏不レ密、臨レ事不レ識、對向謬誤、拜起不レ便、進退失レ度。

【對抗】23（タイカウ） ❶互にはりあふ。相對して互に抵抗する。❷むかひあふ。❸權利の內容又は事實を、相手方に承諾させるやうに主張すること。〔民法、第九十六條〕。

〔對抗運動〕24（タイカウウンドウ） ❶相手に對抗して行ふ運動。❷軍隊を二軍に分けて、雙方互に一方を敵と假定して行ふ實地運動。

【對膠】25（タイカウ） 墨を作る法。居彥實が、一度作りそこなつた墨を烹てもとの膠を出し、再び新しい膠を加へて良墨を得た法。〔何薳墨記〕沈珪、嘉禾人、每云、韋仲將法、止用二五十兩之膠一、至二李氏渡一レ江、始用二對膠一、而祕不レ傳、爲レ可レ惜、一日、與二張處厚一於二居彥實家一造レ墨、而出二灰池一失レ早、墨皆斷裂、彥實以二所レ用墨料精佳一、惜不レ忍レ棄、遂烝浸以出二故膠一、再以二新膠一和レ之、墨成、其堅如二玉石一、因悟二對膠法一、故其墨銘云、沈珪對膠、十年如レ石、一點如レ漆者、此是佳者也。

【對講】26（タイカウ） ❶向ひ合つて講義する。〔後漢書、劉寬傳〕每行レ縣止二息亭傳一、輒引二學官祭酒及處士諸生一、執レ經對講。❷tuei⁴ chiang³ 直接相談する。協議。

【對號】27（タイガウ） ❶番號と引合せる。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕折レ封對レ號、流水查擦。❷tuei⁴ hao⁴ 符牒。記號。チエツクマーク。

【對壕】28（タイガウ） 敵寨に迫るために、敵の射擊を避ける目的で造つた散兵壕。

【對角】29（タイカク） 相對する角。對角線を見よ。

〔對角線〕30（タイカクセン） 多角形の相隣接せぬ二つの角の頂點を結びつける直線。又、多面體の同一面にない二つの頂點を結びつける直線。〔幾何要法、論二方形一、界說〕凡作二平行線一、方形若於二兩對角一、作二一直線一、其直線爲二對角線一也。

【對客】31（タイカク） ❶客に答へる。〔左氏、昭、十九〕子產不レ待、而對レ客曰、鄭國不天。❷客に向ふ。〔王維、過二沈居士山居一哭レ之詩〕野花愁對レ客、泉水咽迎レ人。〔李白、憶二舊遊一詩〕對レ客小垂レ手、羅衣舞二春風一。

【對捍】32（タイカン） 制使又は官吏に對抗して其の命を拒むこと。對抗拒捍の略。〔唐律、職制〕對二捍制使一、而無二人臣之禮一者、絞。

【對勘】33（タイカン） 利害を異にする兩人を突き合はせてしらべる。對質。〔夢溪筆談、象數二〕司天占レ狀、方到以二兩司奏狀一、對勘以防二虛僞一。

【對岸】34（タイガン） 向ふ岸。〔水經、河水注〕灘水又東北逕二石門口一、山高險峻絕、對岸若レ門、故峽得二厥名一矣。〔吳志、周魴傳〕魴當下從二南對岸歷口一爲上レ應。〔晉書、地理志上〕明帝常居二廣陵一、南與二京口一對岸。〔水滸傳、三十一回〕從二這城濠裡一、過二對岸一。

〔對岸火災〕35（タイガンノクワサイ） 川向ふの火災。自己には何等の痛痒を感じない喩。

【對眼】36（タイガン） ❶對ひ合つて看る。〔冷齋夜話、二、安世高請二福邦亭廟一、秦少游宿レ此夢天女求レ贊〕天女以レ詩戲二少游一曰、云云、聞道詩詞妙二天下一、廬山對眼可レ無レ言。❷tuei⁴ yen³ 眼にかなふ。眼を樂しませる。

【對顏】37（タイガン） 顏を會はせる。面會する。〔法苑珠林〕異境對顏。

【對巖】38（タイガン） ❶むかひあつてゐる岩。〔李嶠、劉侍讀見レ和山邸十篇重申レ此贈詩〕對巖龍岫出、分壑雁池深。❷淸、秦松齡（**8－24995**‥235）の號。

【對碁】39（タイキ） 差し向ひで棊を打つ。對局。〔白居易、池上二絕詩〕山僧對レ碁坐、局上竹陰淸。

【對供】40 tuei⁴ kung¹ 對審。

【對境】41（タイキヤウ） ❶國境の向ひ側。〔宋史、王抃傳〕兩朝通レ好自有二常禮一、使人何得二妄生一レ事、已牒二知對境一。❷客觀の事物。對象。〔指月錄〕惠能沒二伎倆一、不レ斷二百思想一、對境心數起、菩提作麼

長。〔雲笈七籤〕對境先從㆑欲。

【對蘧】42 タイキヨ　さしむかひに前肢をついてうづくまる。〔芳野金陵、登㆓久能山㆒〕其下石狻猊對蘧。

【對曲】43 タイキヨク　異方向の山脈が互に相接すること。

【對局】44 タイキヨク　さし向ひで棊をうつ。棊をたたかはせる。局は棊盤。對棊。〔北史、魏收傳〕及㆔一臨㆓邊事㆒、凡經㆓五年㆒、未㆓嘗對局㆒。

【對琴】45 タイキン　❶琴に向ふ。〔韋應物、贈㆓蕭河南㆒詩〕對㆑琴無㆓一事㆒、新興復何如。❷清、汪棣(6－17154‥110)の號。

【對禁】46 タイキン　皇宮と東宮との二つの禁中。〔顏延之、直㆓東宮㆒答㆓鄭尚書㆒詩〕兩闈阻㆓通軌㆒、對禁限㆓清風㆒。〔注〕向曰、兩闈、謂㆓皇宮・皇太子宮㆒也、俱在㆓禁省㆒、故云㆓對禁㆒也。

【對襟】47 tuei⁴ chin¹　立襟。上衣の胸の中央でボタンを止めるやうになつた支那服。

【對襟衣】48 タイキンイ　陣羽織の類。罩甲。〔日知錄、雜事、對襟衣〕太祖實錄、洪武二十六年三月、禁㆔官民步卒人等服㆓對襟衣㆒、惟騎馬許㆑服、以㆑便㆓於乘馬㆒故也、其不㆑應㆑服而服者、罪㆑之、今之罩甲、對襟衣也。

【對句】49 ツイク　詩・文の句に、對偶あるもの。對句は漢詩文の特徵である。文では、書經堯典の、九族既睦、平㆓章百姓㆒、百姓昭明、協㆓和萬邦㆒に始まり、詩では、書經益稷の、股肱喜哉、元首起哉、百工熙哉、に始まり、易經・老子等にも散見する。後漢以後、一般に婉麗を好んで多く對偶を用ひるやうになり、六朝に至つて益〻盛になつた。唐代には律詩の一體がおこり、必ず對句を用ひた。卽ち、五七兩律に就いていへば、第三第四と第五第六には對句を用ひた。唐の王績の野望の詩の、樹樹皆秋色、山山惟落暉、宋の呂與叔の送㆓劉戶曹㆒詩の、學如㆓元凱㆒方成㆑癖、文似㆓相如㆒反類㆑俳、の類。古來、其の種類を論ずるもの多く、互に異同がある。文心雕龍には言・事・反・正の四對を擧げ、二中歷には平・奇・同・異・字・聲・正・側の八對を擧げ、詩苑類格には正名・同類・連珠・雙聲・疊韻・雙擬の六對、又、的名・異類・雙聲・疊韻・聯綿・雙擬・回文・隔句の八對を擧げ、拾芥抄には的名・異類・雙擬・聯綿・隔句・當句・互成の七對を擧げてゐる。又、文鏡祕府論には諸說を網羅して、的名・隔句・雙擬・聯綿・互成・異類・賦體・雙聲・疊韻・廻文・意・平・奇・同・字・聲・側・鄰近・交絡・當句・含境・背體・偏・雙虛實・假・切側・雙聲側・疊韻側・總不の二十九對を擧げ、詩法詳論も亦、流水・層折・句中・背面・分裝・借(假)・倒裝・反裝・折腰・走馬・實眼・虛眼・雙眼・寔字・虛字・奇健・錯綜・連珠・人物・鳥獸・花木・數目・功變・情景・懷古・三折・就句の二十七對を擧げてゐる。古詩では、押韻しない句を出句といひ、押韻した句を對句といふ。對偶法を見よ。〔文心雕龍、麗辭〕劉琨詩言、宣尼悲㆓獲麟㆒、西狩泣㆓孔丘㆒、若㆑斯重出、卽對句之駢枝也。

【對偶】50 タイグウ　❶二つ揃つたもの。兩兩相對する詩文の對句。四六文の類。〔容齋續筆、天生對偶〕舊說、以㆓紅生白熟、腳色手紋、寬焦薄脆之屬㆒爲㆓天生對偶㆒。〔詩家直說〕東晳補亡詩、對偶精切、詞語流麗。❷㋑とも。たぐひ。なかま。㋺一定理に對し、其の終結及び假設を否定したものを假設及び終結としたものの稱。其の一定理が眞なれば、對偶も亦眞である。

【對偶法】51 タイグウハフ　文章法の名。同一の句法によつて、事物の種類・性質の同じいもの、又は反對のものを相對して駢敍するをいふ。此の法は雙關法と同じく、莊重・莊麗・富贍・豐潤を要する場合に用ひる。之に一意貫通と兩意雙進との二法がある。六經諸子は皆此の法を用ひ、時に三句一對を用ひる。又、漢魏六朝の諸家は、通篇此法を用ひ、駢儷體、又は駢體と稱せられる。一に對句・對法・偶句・排句ともいふ。對句(49)を見よ。

【對偶聲律】52 タイグウセイリツ　對句の韻脚をそろへた漢文の一體。〔蘇軾、上㆓梅直講㆒書〕學㆑爲㆓對偶聲律之文㆒、求㆓斗升之祿㆒、自度、無㆔以進㆓見於諸公之間㆒。

【對耦】53 タイグウ　對等のつれあひ。夫婦。伉儷。〔左氏、昭、二〕非㆓伉儷㆒也、〔疏〕言、少姜是妾、非㆓敵身對耦之人㆒也。

【對火】54 タイクワ　❶火に向ふ。〔趙長卿、霜夜詩〕對火怯㆓夜冷㆒、猛飲消㆓漏長㆒。❷tuei⁴ huo³　火を借りる。

【對過】55 タイクワ　❶おさらひする。復習する。〔桃花扇、傳歌〕快快溫習、待㆓你師父對過㆒。❷tuei⁴ kuo⁴　向ひ側。眞向ひ。

【對過兒】56 tuei⁴ kuo⁴ êrh　向ひの。

【對臥】57 タイグワ　互に向きあつて寢る。〔韓愈、含江亭詩〕波濤夜俯聽、雲樹朝對臥。

【對外】58 タイグワイ　外部又は外國に對すること。

【對外硬】59 タイグワイカウ　外國又は外部に對して態度の強硬なこと。

【對外軟】60 タイグワイナン　外國又は外部に對して態度の軟弱なこと。

【對光】61 tuei⁴ kuang¹　❶顏を合はせる。❷雙方つきあはせる。❸レンズの度を合はせる。

【對換】62 タイクワン　取り換へる。交換する。〔宋史、孝宗紀一〕乾道二年癸未、降㆓會子交子於鎭江建康務場㆒、令㆓江淮之人對換㆒。

【對款】63 タイクワン　相對して懇談すること。〔棠陰比事、下〕對以㆔數月前、鬻狀馬生者、有㆑所㆑貸而弗㆑與、頗積㆓怨言㆒、於㆑是密以㆓他事㆒攝㆓馬生㆒至、對款。

【對軍】64 タイグン　向ひ合つて陣を構へること。〔日本政記、土御門天皇〕親與㆓平氏㆒對軍者、富士川一次而已。

【對勁】65 タイケイ　仲が好い。氣に入る。〔紅樓夢、八十四回〕託㆓孫親家㆒那邊有㆓對勁的提一提㆒。

【對景】66 タイケイ　❶景色に對する。〔韓琦、和㆓春卿學士柳枝㆒詞〕對㆑景似㆑嫌春意老。〔耶律楚材、河中遊㆓西園㆒詩〕對㆑景怕㆑看紅日暮。❷tuei ching　㋑ふさはしい。相當する。㋺符合する。

【對溪】67 タイケイ　清、何宗韓(1－511‥325)の字。

【對決】68 タイケツ　裁判で、原告・被告を相對せしめて審理裁決すること。對質。

【對月】69 タイゲツ　❶月に向ふ。〔張正見、有所思〕看㆑花憶㆓塞草㆒、對㆑月想㆓邊秋㆒。〔李白、將進酒〕人生得意須㆑盡㆑歡、莫㆑使㆓金樽空對㆑月。❷tuei⁴ yüeh⁴　結婚後一箇月を經て、新婦が里方に歸ること。

【對月期條】70 tuei⁴ yüeh⁴ ch'i² t'iao²　日附けが一箇月先の約束手形。若し賣主が直ちに現金を要求する場合には、月利若干を割引きして支拂ふ。

【對言】71 タイゲン　相對して言ふ。〔明律、刑律、斷獄〕雇倩明與㆓自殺㆒對言。

【對口】72 タイコウ　❶頸の後部。對口疽を見よ。❷tuei⁴ k'ou³　裁判に第三者を呼び出し、其の口供を聽取すること。證言。

【對口疽】73 タイコウソ　腫物の名。又、玉枕疽・癉疽・腦後疽ともいふ。枕骨の下に生じ、口と相對するから名づく。〔瘡瘍全書、對口疽〕此毒因㆔虛陽上攻熱入㆓於腦㆒、故生㆓此疽㆒、正近㆓咽喉之所㆒、諸陽之會閒速宜㆓調治㆒。

【對紅】75 tuei⁴ hung²　幸運にあたる。

【對國】76 タイコク　相對する國。相手國。〔史記、天官書〕上而疾、未㆑盡㆓其日㆒過㆓參天㆒、疾㆓其對國㆒。

【對坐】77 タイザ　向ひあつてすわる。〔搜神記、四〕嘆㆘孫賓不㆑識㆓天子㆒、與㆑帝對坐㆖。

【對賽】78 tuei⁴ sai⁴　競爭する。對抗仕合ひする。

【對作】79 タイサク　論衡の篇名。

【對策】80 タイサク　文體の名。漢代、官吏の登用試驗に當つて、政事上や經義上の問題を發し、受驗者をして之に答へしめた。其の文章を對策といふ。策は問題を書いた札。賈誼の治安策、鼂錯の賢良策に始まり、武帝の建元元年、董仲舒の上つた賢良對策が最も有名である。對詔。〔史記、平津公主父傳〕太常令㆓所㆑徵儒士各對策㆒、百餘人。〔漢書、董仲舒傳〕武帝卽㆑位、擧㆓賢良文學之士㆒、前後百數、而仲舒以㆓賢良㆒對策焉。〔漢書、魏相傳〕以㆓對策高弟㆒、爲㆓茂陵令㆒。〔文體明辯、策〕按、說文云、策者謀也、漢書音義曰、作㆓簡策難問㆒例、置㆓案上㆒、在㆓試者意㆒、投射取而答㆑之、謂㆓之射策㆒、若㆘錄㆓政化得失㆒、顯而問㆖之、謂㆓之對策㆒、劉勰云、射策者探㆑事而獻㆑說也、以㆓甲科㆒入仕對策者、應㆑詔而陳㆑政也、以㆓第一㆒登庸、皆選㆑賢之要術也、夫策士之制、始㆓於漢文㆒、鼂錯所㆑對、蔚爲㆓擧首㆒、自㆑是而後、天子往往臨㆑軒策㆑士、而有司亦以㆑策擧㆑人、其制迄㆑今用㆑之、又學士大夫、有㆓私自議㆑政而上進者㆒、三者均謂㆓

之策一而體各不レ同、故今彙而辯レ之。

【對攢】81（タイサン） あはせあつめる。攢は、あつむ。〔水滸傳、十三回〕渾身亂二掃胭脂一、兩耳對二攢紅葉一。

【對山】82（タイザン） 字號。❶明、康海(4－9376··15)の號。❷清、章大來(8－25761··220)の號。❸清、毛祥麟(6－16772··286)の號。

〖對山集〗83（タイザンシフ） 書名。十卷。明、康海撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

〖對山書屋〗84（タイザンシヨヲク） 清、毛祥麟(6－16772··286)の室名。

【對子】85 tuei^4 tzŭ 對聯(213)の❷に同じ。

〖對子馬〗86 tuei^4 tzŭ ma^3 結婚の行列に附き隨ふ二人の騎馬者。

〖對子荷包〗87 tuei^4 tzŭ hê^2 pao^1 帶に下げる一組の巾着。

〖對子毛藍布〗88 tuei^4 tzŭ mao^2 lan^2 pu^4 藍色の木綿。

【對事】89（タイジ） 質問に答へる。〔剪燈新話、永州野廟記〕地府屈レ君對事、卽挽二其臂一以往。

【對兒】90 tuei^4 êrh あいて、敵、一對。〔桃花扇、眠香〕我們都配成對兒、也去睡罷。

【對式】91 tuei^4 shih^4 相應な。ふさはしい。

【對膝】92（タイシツ） 膝を交へて相對する。〔新書、勸學〕親與二巨賢一連レ席而坐、對膝相視。〔劉琨、答二盧諶一詩序〕時復相與擧レ觴對膝。

【對質】93（タイシツ） 裁判所で、被告人・證人などをつき合せてしらべること。對勘。對審。對決。〔福惠全書、刑名部、逃人、拿獲〕及二其對質一、狡口狺狺。

【對日】94（タイジツ） 日に向つて天文のことを論じる。後漢の黃婉が、幼年にして日蝕を論じた故事。〔庾信、傷二王司徒褒一詩〕靑衿已對レ日、童子卽論レ天。〔白孔六帖〕後漢黃婉年七歲、詔問曰、日蝕多少、對曰、日蝕之餘、如二月之初一。

【對者】95（タイシヤ） あひて。對手。

【對牀】96（タイシヤウ） 床を相對する。床をつらねる。對牀風雪を見よ。〔蘇軾、初秋寄二子由一詩〕雪堂風雨夜、已作二對牀聲一。〔蘇轍、舟次二磁湖一云云詩〕夜深魂夢先飛去、風雨對レ床聞二曉鐘一。

〖對牀風雪〗97（タイシヤウフウセツ） 終夜床をつらねて相語ること。〔韋應物、示二全眞元常一詩〕寧知風雪夜、復此對レ牀眠。

〖對牀夜雨〗98（タイシヤウヤウ） 兄弟などの同居すること。〔白居易、雨中招二張司業一宿詩〕能來同宿否、聽レ雨對レ牀眠。〔蘇軾、東府雨中作示二子由一詩〕對レ牀空悠悠、夜雨今蕭瑟。

〖對牀夜語〗99（タイシヤウヤゴ） 書名。五卷。宋、范晞文撰。漢魏から宋に至るまでの詩を論じて品評す。〔四庫提要、集、詩文評類〕。

【對掌】100（タイシヤウ） 相對して事をつかさどる。〔南史、孔珪傳〕珪與二江淹一對二掌辭筆一。

【對象】101（タイシヤウ） 精神活動の目的物。客觀の事物。欲求、若しくは認識の目的物。對境。

【對狀】102（タイジヤウ） ❶様子を述べる。審問を受ける時、其の情形を申述べる。〔漢書、爰盎傳〕盎夜見二竇嬰一、爲言二吳所三以反一、願至レ前、口對狀。❷tuei^4 chuang^4 申立書。

【對讓】103 tuei^4 jang^4 互に讓り合ふ。

【對酌】104（タイシヤク） むきあつて互に酒を酌みかはす。〔李白、山中與二幽人一對酌詩〕兩人對酌山花開、一杯一杯復一杯。〔三夢記〕命レ酒對酌甚歡。

【對手】105（タイシユ） 相手。技倆の相等しい相手。對者。〔舊唐書、宣宗紀〕日本國王子入朝、貢二方物一、王子善レ棋、帝令二待詔顧師言與レ之對手一。〔拍案驚奇〕二十年間張レ弓追討、矢無二虛發一、不三曾撞二箇對手一。〔陔餘叢考、對手〕凡相角伎藝、彼此均者曰二對手一、舊唐書宣宗紀、日本國王子入朝、王子善レ碁、帝令二待詔顧師言與レ之對手一。

〖對手拳〗106 tuei^4 shou^3 ch'üan^2 拳を打つとき、兩人共に拳頭を出すこと。寶一對(3－7376··341)に同じ。

【對酒】107（タイシユ） ❶酒に向ふ。〔魏武帝、短歌行〕對レ酒當レ歌、人生幾何、譬如二朝露一、去日苦多。〔阮籍、詠懷詩〕對レ酒不レ能レ言、悽愴懷二酸辛一。〔北史、李孝貞傳〕每二暇日一輒引二賓客一、絃歌對レ酒、終日爲レ歡。❷樂府、相和歌辭、相和曲の名。一に對酒行に作る。魏の武帝作。王者の德澤廣被し、政理成り、人和し、萬物みな遂ぐるをいふ。梁の范雲・張率、陳の張正見・岑之敬、周の庾信、唐の崔國輔・李白等に歌辭がある。〔樂府詩集、相和歌辭、相和曲〕樂府解題曰、魏樂、奏二武帝所レ賦對酒歌太平一、其旨、言二王者德澤廣被、政理人和、萬物咸遂一、若二梁范雲對レ酒心自足一、則言四但當三爲レ樂勿二徇レ名自欺一也。〔魏武帝、對酒〕對酒歌、太平時、吏不レ呼レ門、王者賢且明、宰相股肱、皆忠良、咸禮讓、民無レ所レ爭訟一、三年耕、有二九年儲一、倉穀滿盈、班白不二負戴一、雨澤如レ此、百穀用成、卻二走馬一以糞二其土田一、爵公侯伯子男、咸愛二其民一、以黜二陟幽明一、子養有レ若二父與レ兄、犯二禮法一、輕重隨二其刑一、路無二拾遺之私一、囹圄空虛、冬節不レ斷レ人、耄耋皆得二以レ壽終一、恩澤廣及二草木昆蟲一。〔范雲、對酒詩〕對レ酒心自足、故人來扶持、方悅羅衿解、誰念髮成レ絲、徇レ性良爲レ達、求レ名本自欺、追二君當レ歌日、及二我傾レ樽時。

【對樹】108（タイジユ） 向ひ合はせて植ゑる。對植。〔韓愈、藍田縣丞廳壁記〕對二樹二松一。

【對準】109 tuei^4 chuen^3 ❶正しく合はせる。❷度を合はせる。度を定める。「字。

【對初】110（タイシヨ） 清、陳萬策(11－41698··1210)の

【對松】111（タイシヨウ） 清、湯世昌(7－17874··182)の號。

【對稱】112（タイシヨウ） ❶つり合ふ。かなふ。❷文法上の語。自己と相對するものの稱。第二人稱。❸一直線を折り目として、或る圖形の一部分を折り返し、之を他の部分の上に重ねたとき、全く相合せしめることを得れば、其の圖形は該直線に關して對稱であるといふ。

〖對稱代名詞〗113（タイシヨウダイメイシ） 第二人稱の代名詞。そなた・あなた・汝・君など。

【對證】114（タイシヨウ） ❶病によくかなふこと。對證之藥を見よ。❷tuei^4 chêng^4 證據。

〖對證之藥〗115（タイシヨウノクスリ） 病氣に適當した藥。轉じて、缺點などを矯正するに適當する處置手段。證、一に症に作る。〔柳宗元、贈二李睦州一詩序〕序簡而能詳、筆力斬斬、是亢漫者對證之藥。〔日本政記、陽成天皇〕對症之藥、每用得レ效者、亦終貽レ害遺レ毒也。

【對鐘】116 tuei^4 chung 時計を合はせる。

【對色】117 tuei^4 sê^4 同様の色。

【對食】118（タイシヨク） ❶さしむかひで食ふ。〔杜甫、夏日歎詩〕對食不レ能レ餐、我心殊未レ諧。❷宮人同志で夫婦となるもの。〔漢書、外戚、趙皇后傳〕房與レ宮對食。〔注〕應劭曰、宮人自相與爲二夫婦一名二對食一、甚相妬忌也。

【對植】119（タイシヨク） 向ひ合せてうゑる。對樹。〔姚合、奉二和四松一詩〕四松相對植、蒼翠映二中臺一。

【對審】120（タイシン） 原告と被告とを向ひ合せてしらべる。對決。對勘。對質。〔大日本帝國憲法、第五十九條〕。

〖對審判決〗121（タイシンハンケツ） 對席判決(139)に同じ。〔大日本帝國憲法、第五十九條〕。

【對人】122（タイジン） 人に向ひ合ふ。〔王維、雜詩〕對レ人傳二玉腕一、映レ竹解二羅襦一。

〖對人權〗123（タイジンケン） 特定の人に對抗し得る權利。

〖對人信用〗124（タイジンシンヨウ） 債務者の品性德望又は地位等に對する債權者の信用。對物信用の對。

〖對人擔保〗125（タイジンタンポ） 對人信用を、債務の擔保とすること。

【對汎】126 tuei^4 hsün^4 兩國の境界に互に兵士を派遣して巡視せしめること。

【對數】127（タイスウ） Logarithm の譯。a を正の實數。x を任意の實數とし、$a^x = y$ とするとき、x を a を底とする y の對數といひ、これを $x = \log_a y$ と記す。實用上には10を底とするものが行はれ、これを實用對數といひ、其の値は對數表に記されてゐる。又理論上には、

$$e = \underset{n=\infty}{Lim}\left(1+\frac{1}{1!}+\frac{1}{2!}+\frac{1}{3!}+\cdots\cdots\frac{1}{n!}\right)$$

を底とするものが行はれ、これを自然對數と呼び、此の場合には底を記さず、單に $x = \log\cdot y$ と記す。一般に同じ底を持つ對數に於ては、積の對數は因數の對數の和に等しく、商の對數は被除數の對數より除數の對數を減じたものに等しく、根の對數は其の數の對數を根指數で除した商に等しい。

〖對數表〗128（タイスウヘウ） 數の常用對數を記載した表。

【對生】129（タイセイ） 莖・幹の各節から二枚の葉が互に向き合つて生ずること。互生の對。〔本草、牛膝〕釋名、時珍曰、其葉似レ莧、其節對生、故俗有二山莧對節之稱一。

〖對生葉〗130 タイセイエフ　二枚の葉が向ひ合つて生ずる植物。對生を見よ。

【對青】131 タイセイ　竹の名。竹が黃色で溝が青く、毎節の青色が溝を中にして相對する故にいふ。〔東齋記事〕成都古今記云、對青竹、竹黃而溝青、故毎節若二開出一云、此竹、今浙中亦有レ之、唯會稽頗多、彼人呼二黃金間碧玉一。

【對清】132 タイセイ　さつぱりとひきあはせる。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕逐二圖里甲一對清。

【對詔】133 タイセウ　官吏登用試驗の文體の名。對策(80)に同じ。〔唐書、員半千傳〕客二晉州一、州擧二童子一、房玄齡異レ之、對詔高第、已能講二易・老子一。

【對照】134 タイセウ　❶彼と此とてらし合せて參考する。くらべ見る。對比。〔清國行政法汎論、內閣、副本庫〕聽候覆答、逐一對照。❷英語 Contrast の譯語。反對の比較。釣り合つた反對。

〖對照表〗135 タイセウヘウ　二種類以上の複雜した事實を搜集し、各〻其の性質、數量等を考へて、表記して以て比較するもの。

【對銷】136 tuei hsiao　互に帳消しにする。帳消し。

【對樵】137 タイセウ　清、莊綸渭(**9**－**31035**・・192)の字。

【對席】138 タイセキ　❶向ひあひに設けた席。〔儀禮、少牢饋食禮〕司宮設二對席一、乃四人養。❷雙方同時に同一場所に出る。

〖對席判決〗139 タイセキハンケツ　雙方を共に法廷に出席させて訴訟當事者を審理する判決。對審判決。

【對折】140 タイセツ　五割引。五掛け。半額。

〖對折出售〗141 tuei chê ch'u shou　五割引發賣。

【對說】142 tuei^4 shuo^1　答へていふ。

【對戰】143 タイセン　兩軍相對して戰ふ。〔後漢書、劉梁傳〕鄢陵之役、晉楚對戰。

【對送】144 tuei^4 sung^4　互に送り物をする。

【對打】145 tuei^4 ta^3　互に打ち合ふ。

【對待】146 タイタイ　❶兩々向ひあつて立つ。對立。〔張憲、登二齊政樓一詩〕萬古晨昏常對待、兩丸日月自雙飛。❷tuei tai　あしらふ。待遇する。對抗する。

〖對待給付〗147 タイタイキフフ　反對給付。〔國民政府民法、債權篇、第二百六十四條〕。

【對對】148 タイタイ　對等。ごぶごぶ。

【對當】149 タイタウ　❶相對する。❷つりあふ。相當。❸論理學上、同一の主辭及び賓辭を有して、互に質と量とを異にする指定命題相互眞妄の關係。❹tuei^4 tang^1　競爭。

〖對當額〗150 タイタウガク　或ものに相當する額。

【對答】151 タイタフ　こたへる。こたへ。〔嵇康、幽憤詩〕對答鄙訊、縶二此幽阻一。

【對單】152 tuei^4 tan^1　爲替手形。

【對談】153 タイダン　向ひ合つて話す。對話。〔天中記〕婦姑各在二東西室一對談。〔黃庭堅、謝三王炳之惠二石香鼎一詩〕一炷聽二秋雨一、何時許二對談一。

【對峙】154 タイヂ　向ひ合つて高くそばだつ。對立。〔楊炯、浮漚賦〕排二雨足一而分規、擘二波心一而對峙。

〖對峙河汎〗155 タイヂガジン　汎（河水がそそぐ所）の名。湖北省竹山縣の東北、對峙河が堵水に入る口。房縣の界に接し、もと外委駐防を置く。

【對持】156 タイヂ　互に大事をとつて動かない。

【對軸】157 タイヂク　一對の畫軸。二幅對。〔格古要論〕名畫無二對軸一、李成・范寬・蘇東坡・米南宮父子、皆高尚大夫、以レ畫自娛、人家遇二其適レ興、則留二數筆一、豈有二對軸一哉、今人以二孤軸一爲レ嫌、不レ足二與レ之言一畫矣。

【對賬】158 tuei^4 chang^4　勘定書をつきあはす。帳面をつきあはせて錯誤がないやうにする。

【對仗】159 タイヂヤウ　❶護衞の兵に向き合ひ對すること。唐代、奏請承旨の時、機密をまもる爲にした。〔唐書、百官志二〕許敬宗・李義府爲レ相、奏請多畏二人之知一也、命二起居郎・舍人一、對仗承レ旨、仗下、與二百官一皆出、不三復聞二機務一。〔資治通鑑、唐紀〕(玄宗、開元五年)皆令二對仗奏聞一。〔注〕唐制、天子御二正殿一、則左右皆俯レ陛而聽、有レ命則退而書レ之、若仗在二紫宸內閤一、則夾二香案一分二立殿下一、自二永徽之後一、唯得二對仗承レ旨、仗下之後、謀議皆不レ得二預聞一。❷詩賦の對偶をいふ。

【對陳】160 タイヂン　敵と向ひ合つて陣取る。〔後漢書、竇武傳〕與レ武對陳。〔魏志、夏侯淵傳〕與二淵軍一對陳。

【對調】161 タイテウ　官吏の任所を更換する。〔清國行政法汎論、文官任命形式、調〕又有二對調者一、更二換官吏任所一之意。

【對條】162 tuei^4 t'iao^2　手形。兌條。

【對敵】163 タイテキ　❶敵に向ふ。〔周禮、春官、車僕、車僕掌二苹車之萃一、注〕所レ用對レ敵自蔽隱之車也。〔南史、梁武帝諸子、蕭確傳〕臨レ陣對レ敵。❷相手となる。敵手。〔魏志、王基傳〕上疏曰、今與二賊家一對敵、當二不レ動如一レ山。〔元稹、廳前柏詩〕我本顚狂躭酒人、何事與レ君爲二對敵一。

【對點】164 タイテン　圓又は球の直徑の兩端にある一雙の點。

〖對點子〗165 tuei^4 tien^3 tzŭ　人の名號又は兄弟長幼の順序が、相同じき者をいふ。

【對等】166 タイトウ　上下輕重の差別がない。對對。同等。

〖對等條約〗167 タイトウデウヤク　彼此の國際關係に於て、互に權利義務の對等な條約。

【對頭】168 タイトウ　❶敵。敵手。仇。〔新方言、釋言〕今人謂二相惡一曰二作對一、所レ疾曰二對頭一。〔水滸傳、八回〕林沖和二太尉一是對頭、今奉二著太尉鈞旨一、教下將二這十兩金子一、送中與二位上。❷tuei^4 t'ou^2　㋑反對。反抗。㋺反對の方向。前方。

【對同】169 タイドウ　官文書の文字を對照校合すること。〔明律、吏律、公式〕首領官失二於對同一、減二一等一。〔福惠全書、錢穀部、比較〕以二對同小印一封レ之。

〖對同圖書〗170 tuei^4 t'ung^2 t'u^2 shu^1　同業者間の通帳、其の他に誤謬がない事を表示する捺印。

【對拜】171 タイハイ　相對して拜禮すること。〔事物紀原、學校貢擧部、對拜〕筆談曰、禮部貢院試二進士一日、設二香案於堦下一、主司與二擧人一對拜、此唐禮也。

【對牌】172 tuei^4 p'ai^2　證據とする木牌。

【對方】173 tuei^4 fang^1　相手。

【對放】174 tuei^4 fang^4　銃を打ち合ふ。

【對法】175 タイハフ　對偶法(51)を見よ。

〖對法藏〗176 タイホフザウ　佛❶三藏の一。一切の論部を總稱していふ。❷書名。世親の作つた倶舍論。梵名、阿毘達磨倶舍の譯。〔倶舍論、一〕由二彼對法論中勝義入レ此攝一、故此得二藏名一。

【對半】177 tuei^4 pan^4　一半。

【對比】178 タイヒ　❶對する。❷くらべる。❸對照(134)の❶に同じ。

【對匹】179 タイヒツ　つれあひ。配偶。〔後漢書、任延傳〕駱越之民、無二嫁娶禮法一、各因二淫好一、無二適對匹一。

【對付】180 タイフ　❶敵對する。對抗する。〔福惠全書、刑名部、賊盜上、緝捕〕那得三許多天兵天將對二付之一乎。❷相當する。適當する。❸かけあふ。あしらふ。❹引合はせわたす。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕午刻掛レ號、對付承發。

【對扶】181 タイフ　むかひあつて扶ける。〔晉書、職官志〕御登殿與二散騎常侍一對扶。

【對服】182 tuei^4 fu^2　宥める。慰める。

【對物】183 タイブツ　物に對する。〔翼莊〕夫自任者對レ物、而順レ物者與レ物無レ對。

〖對物信用〗184 タイブツシンヨウ　質物や抵當物に對する信用。對人信用(124)の對。

〖對物擔保〗185 タイブツタンポ　財物を債務の擔保とすること。

【對文】186 ツイブン　對の文句。〔孔穎達、尙書正義序〕若二其言必託レ數、經悉對文一、斯乃鼓二怒浪於平流一、震二驚飆於靜樹一。

【對平】187 tuei^4 p'ing^2　天秤。平均を取る。

【對枰】188 タイヘイ　圍棋をいふ。〔山房隨筆〕永嘉余德鄰與二聶碧牕一弈棋、余屢北、有下賣二地仙丹一者上、國手也、余呼レ之至、紿レ聶云、某有レ僕能レ棋、欲レ試二數著一、不レ敢、聶命二對枰一、連敗數局、余以二片紙一書二十字一、可レ憐道士碧、不レ識二地仙丹一、聶大笑曰、吾固疑二其不凡一。

【對表】189 tuei^4 piao^3　懷中時計の時刻を合せること。

【對票】190 tuei^4 p'iao^4　支票や莊票を錢莊に示し、其の引受けを求めること。

【對保】191 tuei^4 pao^3　保護人を立てる。

【對簿】192 タイボ　❶文書によつて事實を勘合する。ひきあはせる。〔史記、李將軍傳〕大將軍使二長史急責レ廣、之二幕府一對簿。〔福惠全書、蒞任部、忍性氣〕與二諸欠戶一對簿。❷法廷で審問する。

【對捧】193 タイホウ　向ひささげる。〔韋莊、使院黃葵花詩〕薄妝新著澹黃衣、對捧金爐侍レ醮遲。

【對本】194 タイホン　本に向つて讀む。背誦(**9**－**29363**・・

51)の對。〔容齋三筆、僧道科目〕念經讀經之異、疑爲㆔背誦與㆓對本㆒云。

【對馬】195 タイマ ❶雙方同一の駒數で將棊をさすこと。❷將棊の技倆に優劣のないこと。❸ツシマ ㋑國の名。㋺姓氏。㋩島の名。長崎縣に屬す。

【對脈】196 タイミャク 脈を診ること。〔唐語林〕宣宗微疾、召㆓醫工梁新㆒對脈。〔原注〕禁中以㆑診㆑脈爲㆓對脈㆒。

【對命】197 タイメイ ❶君に對へることと、君から命ぜられること。〔禮、玉藻〕史進㆓象笏㆒、書㆓思・對・命㆒。〔注〕對、所㆓以對㆑君者也、命、所㆑受㆓君命㆒者也。❷tuei ming 命懸けで。

【對明】198 タイメイ ひきあはせる。〔福惠全書、編審部、定推收〕彼收將㆓姓名田地數目㆒對明登㆑冊。

【對面】199 タイメン ❶顏をあはせる。面會。〔顏氏家訓、風操〕乃有㆓對面以相戲者㆒。〔唐書、房玄齡傳〕每爲㆓吾兒㆒陳㆑事、千里外猶㆓對面語㆒。〔李衞公問對、中〕敵雖㆓對面㆒莫㆑測㆓吾奇正所㆒在。❷tuei^4 mien^4 向う側。

【對面所】200 タイメンジョ 來客に相見えるところ。應接室。〔東鑑、十八〕承元元年七月十九日、大風、御對面所顚倒。

〖對面房〗201 tuei^4 mien^4 fang^2 正房と倒座との二棟から成つた家。

〖對面不㆓相識㆒〗202 タイメンアヒシラズ 心を知り合はなければ、顏を向ひ合せて居ても、見ず知らずの者と同様である。〔景德傳燈錄、二十八、越州大珠慧海和尙〕今見著衣喫飯、行往坐臥、對面不㆑識、可㆑謂㆓愚迷㆒。

【對門】203 タイモン ❶門に對する。〔王維、田園樂詩〕一瓢顏回陋巷、五柳先生對㆑門。❷門向ひ。向ひ合ひ。〔宣和遺事、前集下〕這對門誰氏之家。

【對問】204 タイモン ❶向ひ合つて問ひ合ふ。〔吳志、闞澤傳〕性謙恭篤愼、官府小吏、呼召對問。❷原被兩告若しくは同犯者を、相對せしめて訊問すること。〔明律、刑律、斷獄〕若起㆓內應㆒合㆓對問㆒。❸問ひに對へる。〔宋玉、對㆓楚王問㆒〕楚襄王、問㆓於宋玉㆒曰、先生其有㆓遺行㆒與、何士民衆庶、不㆑譽之甚也、宋玉對曰、唯。

【對揚】205 タイヤウ ❶君命にこたへて其の意を天下にあらはす。對颺。〔書、說命下〕敢對㆓揚天子之休命㆒。〔傳〕對、答也、答㆓受美命㆒、而稱㆓揚之㆒。〔詩、大雅、江漢〕虎拜稽首、對㆓揚王休㆒。〔禮、祭統〕對揚以辟㆑之、勤㆓大命㆒、施㆓于烝彝・鼎㆒。〔漢書、郊祀志下〕敢對㆓揚天子丕顯休命㆒。〔魏志、武帝紀〕對㆓揚我高祖之休命㆒。❷［佛］㋑佛の說法の會坐に於て、佛に對して問答等を發し、以て佛意を擊發揚動して利益を成辨すること。〔碧巖錄、十六則〕對揚遭㆓貶剝㆒。㋺法會に散華の式を行ふとき、偈を終へて後、佛法世法の常住安穩を希ふ偈文を擧げること。

【對理】206 tuei^4 li^3 對審(120)に同じ。

【對流】207 タイリウ 液體・氣體が熱にあつておこす循環運動。

【對立】208 タイリツ 相向つて立つ。相對して存在する。對待。對峙。

〖對立義務〗209 タイリツギム 權利と對する義務。卽ち、契約履行の義務の類。孤立義務(**3**－**6966**‥263)の對。

【對鄰】210 tuei^4 lin^2 向ひあひの家。あたり近所。

【對壘】211 タイルイ 敵に對してとりでを構へる。〔晉書、宣帝紀〕帝復書曰、亮志大而不㆑見㆑機、多㆑謀而少㆑決、好㆑兵而無㆑權、雖㆑提㆓卒十萬㆒、已墮㆓吾畫中㆒、破㆑之必矣、與㆑之對壘百餘日、會亮病卒、諸將燒㆑營遁走。

【對了】212 tuei^4 la 左樣です。全くです。間違ひありません。

【對聯】213 ツイレン ❶對句(49)に同じ。〔日損齋集〕今人作㆑詩、多從㆓中對聯㆒起。❷二幅對の掛物。詩、又は名文佳句等を書いたもので、家の入口、門などに掲げる。對子。〔紅樓夢、一回〕兩邊又有㆓一副對聯㆒、道是、假作㆑眞時眞亦假、無爲㆑有處有還無。

【對路】214 tuei^4 lu^4 ふさはしい。注文にかなふ。

【對論】215 タイロン ❶向ひあつての議論。〔景德傳燈錄、五、慧能大師〕暮夜風颺㆓刹旛㆒、聞㆓二僧對論㆒、一云㆓旛動㆒、一云㆓風動㆒。❷或物に對する論。

【對話】216 タイワ 向ひあつて話す。對談。會話。〔薩都剌、夜泊㆓釣臺㆒詩〕山僧對話夜未㆑央、不㆑知風露濕㆓衣裳㆒。

【置㆑對】217 タイヲオク 共に議論して相對すること。〔劉歆、移㆑書讓㆓太常博士㆒文〕諸儒博士、或不㆑肯㆑置㆑對。〔注〕善曰、言、諸博士、既不㆑肯㆑立㆓左氏㆒、而又不㆑肯㆓與㆑歆論議相對㆒也。

【對哈納】218 トイハナ 清、滿洲正藍旗人。姓は鈕祜祿氏。諡は文端。官は刑部尙書・文華殿大學士。〔清史列傳、六〕・〔國朝耆獻類徵、二二〕。

【對魏王】219 タイギワウ 孔叢子の篇名。

【對玉梳】220 タイギヨクソ 元曲選百種中の一。元、賈仲名作。題目は顧玉香雙美錦堂歡、正名は荊楚臣重對玉梳記。松江の官妓顧玉香と、揚州の秀才荊楚臣との情事を演ず。〔元人百種曲、壬集上〕。

【對世權】221 タイセイケン 社會一般の人に對抗し得る權利。物權・人權など。

【對雪亭】222 タイセツテイ 清、張洲(**4**－**9812**‥362)の室名。

【對節菜】223 タイセツサイ 野菜の名。やぶしらみ。ゐのくつな。葉が對生するからいふ。〔本草、牛膝〕釋名、牛莖・百倍・山莧菜・對節菜、時珍曰、其葉似㆑莧、其節對生、故俗有㆓山莧對節之稱㆒。

【對頂角】224 タイチヤウカク 相交はる二直線のなす角の相對するもの。交角ともいふ。

【對得起】225 tuei^4 tê ch'i^3 すむ。申譯がたつ。對不起に對す。

【對讀官】226 タイドククワン 元・明・清代、鄉試に謄錄生が謄寫し畢つた答案を、對讀所で讀み合せて誤りを正すことを掌る役。〔稱謂錄、外簾官、對讀官〕元史選擧志、諸對㆓讀試卷㆒官、不㆓躬親㆒而輒令㆓人吏對讀㆒、其對讀訖而差誤有㆑礙、考校者有㆑罰。〔明會典、禮部〕擧人作㆑文畢、送㆓受卷官㆒、收受類、送㆓彌封官㆒、撰㆓字號㆒封記、送㆓謄錄所㆒、謄錄畢、送㆓對讀官㆒、對讀畢、送㆓內簾㆒。〔清會典、禮部〕康熙二一年題准、各省印卷、收掌・受卷・彌封・謄錄・對讀等官、以㆓府佐貳首領、並州縣正佐內㆒由㆓正途出身各官㆒選用。〔六部成語、禮部、對讀所、注解〕謄錄既畢、送㆓對讀所㆒、取㆓原卷㆒對讀一過、字無㆓過差㆒、乃送㆓收卷官㆒、上㆓呈主試㆒。

【對包廂】227 tuei^4 pao^1 hsiang^1 芝居の大向。

【對筆跡】228 tuei^4 pi^3 chi^4 筆跡を鑑定する。

【對不起】229 tuei^4 pu ch'i^3 すみません。失禮しました。氣の毒な。對不住。

【對不過】230 tuei^4 pu kuo^4 ❶氣の毒に思ふ。面目ない。❷かなはない。

【對不住】231 tuei^4 pu chu^4 申譯ない。氣の毒な。對不起。

【對連華】232 tuei^4 lien^2 hua^2 二船體から成り、前後同一のものを連結して一隻としたもの。河南省の潁水に最も多く、專ら雜穀の運送に用ひる。

【對盧沛】233 タイロハイ 高麗の官名。〔海錄碎事、地、夷狄〕高麗國、其官有㆓對盧沛者㆒。

【對合子利】234 tuei^4 hê^2 tzŭ^3 li^4 倍の利益。

【對牛彈琴】235 タイギウダンキン 牛に對して琴を彈く。愚人に對して道を說くも益のない喩。馬の耳に念佛。對驢撫㆑琴。〔通俗編、獸畜、對㆑牛彈㆑琴〕按、五燈會元、惟簡答㆓僧問㆒直云、對㆑牛彈㆑琴。

【對症發藥】236 tuei^4 chêng^4 fa^1 yao^4 病症に應じて適當に藥を與へる。對證之藥(115)を見よ。

【對症療法】237 タイシヤウレウハフ 病源を治さずに、ただ病狀に對して療治する法。發熱に解熱劑を與へ、疼痛に鎭痛處置を行ふ類。

【對佃喫租】239 tuei^4 tien^4 ch'ih^1 tsu^1 地主が現に他人に賃貸してゐる不動產を指定して借錢すること。

【對品調用】240 タイヒンテウヨウ 品級同等の官の任地をかへること。〔六部成語、吏部、對品調用、注解〕品級同等之官、互㆓易地方㆒。

【對佛說話】241 tuei^4 fo^2 shuo^1 hua^4 釋迦に說法。

【對本對利】242 tuei^4 pen^3 tuei^4 li^4 元金と同額の利息。

【對驢撫琴】243 タイロブキン 對牛彈琴に同じ。

【對阿斯打斯】244 ヂアスターゼ Diastase 各種植物中に廣く分布せられるほか、動物體中の肝臟、及び唾液中にも含まれる酵素。アミラーゼともいふ。澱粉を分解して、麥芽糖とする作用がある。藥劑として消化促進に用ひる。

【對天之閎休】245 タイテンノクワウキウ 天の德にならぶ程の大幸福。閎は大、休は吉祥。〔韓愈、潮州刺史謝上表〕鋪㆓張對天之閎休㆒、揚㆓厲無前之偉蹟㆒。

【⿰木㝵】7458　トク　〔五音集韻〕多則切　職。

よわいさま。〔五音集韻〕⿰木㝵、弱貌。

【壽】7459　ジユ　壽(3-5672)に同じ。〔辭海〕壽、同レ壽。

十二畫

【⿱艹尊】7460　ソン　尊(4-7445)に同じ。〔川篇〕尊、同レ尊。

【⿺是寺】7461　シ　義未詳。〔篇海〕⿺是寺、音是。

【⿰專內】7462　セン　義未詳。〔字彙補〕⿰專內、照川切、音專。

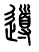
【對】7463　リウ　劉(2-2224)に同じ。〔字彙補〕對、與レ劉同、出二周憬碑一。

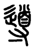
【導】7463′　ダウ　導(4-7465)の略字。

十三畫

【對】7464　タイ　對(4-7457)の古字。〔廣韻〕對、古作レ對、漢文、責二對而面言、多謂レ非二誠對一、故去二其口一、以從レ士也。

【導】7465　タウ　ドウ　慣ダウ　〔集韻〕大到切　號。　ㄉㄠˇˋ　tao$^{3\cdot4}$


小篆（說文）


小篆（段注本）

㊀**みちびく**。㋑道しるべをする。〔說文〕導、引也、从レ寸道聲。〔孟子、離婁下〕君使二人導レ之出一レ疆。㋺いざなふ。〔論語、爲政〕導レ之以レ政。〔皇疏〕導、謂二誘引一也。㋩さきだつ。〔呂覽、適威〕忠信以導レ之。〔注〕導、猶レ先也。㋥をしへる。さとす。〔周禮、春官、大司樂〕興道風誦言語。〔注〕道、讀曰レ導、導者、言レ古以剴レ今也。〔國語、周語上〕則德以導二諸侯一。〔注〕導、訓也。〔淮南子、繆稱訓〕心之精者、可二以神化一、而不レ可二以導一レ人。〔注〕導、教也。㋭いさめる。〔淮南子、兵略訓〕導二於左右一。〔注〕導、諫也。㋬とほす。〔國語、周語上〕爲レ川者決レ之使レ導。〔注〕導、通也。㋣ひらく。〔國語、周語上〕將三導レ利而布二之上下一者也。〔注〕導、開也。㋠とげる。〔國語、周語下〕夫天道導レ可而省レ否。〔注〕導、達也。〔國語、晉語六〕導二前志一以佐二先君一。〔注〕導、達也。㋷ひきのばす。〔釋名、釋言語〕導、陶也、陶二演己意一也。㋦かたる。〔廣雅、釋詁一〕導、語也。㋸をさめる。〔論語、學而〕導二千乘之國一。〔皇疏〕導、猶レ治也。㋾わたる。〔呂覽、察今〕嚮二其先表之時一可レ導也。〔注〕導、涉也。㊁**みちびき**。㋑みちあんない。〔國語、周語中〕候人爲レ導。㋺をしへ。〔晉書、安平獻王孚傳〕光導弘訓。㋩さきがけ。先驅。〔五代史、安重誨傳〕誤衝二其先導一。㊂**けすぢたて**。櫛の一種。〔釋名、釋首飾〕導、所下以導二櫟鬢髮一、使上入二幘巾之裏一也。㊃**えらぶ**。〔後漢書、光武紀下〕導擇之勞。〔注〕導、亦擇也。㊄**行ふ**。やる。〔國語、楚語下〕而導レ之以二訓辭一。〔注〕導、行也。㊅道(11-39010)に通ず。〔詩、大雅、蕩、天生二烝民一、箋、其教二道之一、釋文〕道、本亦作レ導。㊆或は衜(10-34075)に作る。〔集韻〕導、或作レ衜。㊇古は導(4-7468)に作る。〔字彙補〕導、古文導字。㊈**姓**。〔萬姓統譜〕北魏導龍、華州刺史、時伏德與二梁景叡一反二關中一、龍討平レ之。

名乘　ミチ。ヲサ。

【導誘】1 ダウイウ　みちびきいざなふ。誘導。〔詩、周頌、烈文、四方其訓レ之、傳〕訓、道也、疏〕教訓者、所三以導二誘人一、故訓爲レ道也。

【導引】2 ダウイン　㊀道案內。〔南史、梁高祖紀〕帝所レ乘艦、恆有二兩龍導引一、左右莫レ不レ見。㊁大氣をみちびいて體內に引き入れる道家の養生法。一種の深呼吸で、之に依つて心を鎭め欲を制する。吐納。又、道引に作る。〔素問、異法方宜論〕其治宜二導引按蹻一。〔注〕導引、謂下搖二筋骨一動中支節上也。〔史記、龜策傳〕江傍家人、常畜レ龜飮二食之一、以爲二能導引致一レ氣、有レ益二於助一レ衰養レ老。〔後漢書、方術下、華陀傳〕古之仙者爲二導引之事一、熊經鴟顧、引二挽腰體一、動二諸關節一、以求レ難レ老、吾有二一術一、名二五禽之戲一、一曰虎、二曰鹿、三曰熊、四曰猨、五曰鳥、亦以除レ疾、兼利二蹏足一、以當二導引一。〔抱朴子、別旨〕或伸屈、或俛仰、或行臥、或倚立、或躑躅、或除步、或吟或息、皆導引也。〔書言故事、神仙類〕擊二運脩養一爲二導引一。㊂詞牌の名。〔詞譜〕按、宋鼓吹四曲、悉用二教坊新聲一、車駕出入奏二導引一、此調是也。㊃もみれうぢ。按摩。〔老の教〕導引は惡しからず、心に任すべし。

【導引之術】3 ダウインノジユツ　導引の㊁・道引(11-39010··14)の㊀を見よ。

【導驛】4 ダウエキ　驛馬を發して道案內する。漢書には導譯に作る。〔史記、大宛傳〕遣レ騫爲發二導驛一、抵二康居一。〔注〕索隱曰、發導、謂四發レ驛令三人導引而至二康居一也。

【導演】5 tao^{2} yen^{3}　指導。演劇または映畫の監督。

【導演家】6 tao^{2} yen^{3} chia^{1}　指導者。舞臺監督。

【導音】7 ダウオン　長音階の第七音。主音を導く働きをするからいふ。Leading note

【導呵】8 ダウカ　しかりみちびく。〔白居易、唐故武昌軍節度處置等使云云河南元公墓誌銘〕二年、改二御史大夫浙東觀察使一、將レ去、同同之者幼鰥獨、泣戀如レ別二慈父母一、遮レ道不レ可レ通、詔使二導呵一、揮レ鞭有二見レ血者一、路闢而後得レ行。

【導河】9 ダウカ　縣名。民國、置く。漢の枹罕縣、元の河州路、明の河州衞。甘肅省臨夏縣。

【導江】10 ダウカウ　縣名。新の王莽、置く。故城は四川省灌縣の東。〔讀史方輿紀要、四川、成都府、灌縣〕導江廢縣、在二縣東二十里一、蜀漢置二都安縣一、又在二故縣東一、晉移二縣於灌口一、後周、縣廢、唐初、復二於灌口一、置二盤龍縣一、又改曰二導江一、咸通十年、南詔寇二邛州一、定邊節度使竇滂、棄レ州走二導江一、宋仍爲二導江縣一、屬二永康軍一、元至元十三年、省入二灌州一、今爲二導江鋪一。

【導騎】12 ダウキ　案內の騎士。〔後漢書、范式傳〕式行レ部、到二新野一、而縣選レ嵩爲二導騎一迎レ式。

【導火】13 ダウクワ　㊀火藥を爆發させるに用ひる火。㊁事件の生ずる動機。

【導火線】14 ダウクワセン　㊀くちび。みちび。㊁事件を起す直接の原因。できごとの發端。きつかけ。

【導官】15 ダウクワン　官名。漢、置き、少府に屬す。米を擇んで祭祀に供することを掌る。〔漢書、百官公卿表上〕少府秦官、云云、屬官有二導官一。〔注〕師古曰、導官、主レ擇レ米。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕大官導官。〔注〕導官、主三擇レ米以供二祭祀一。

【導管】16 ダウクワン　㊀導く管。㊁植物體の根から莖葉に滋養分を送る機關。

【導窾】17 ダウクワン　牛を割くに、骨節の空處に刀を導き入れること。窾は骨節の空處。〔莊子、養生主〕依二乎天理一、批二大郤一、導二大窾一、因二其固然一。〔疏〕窾、空也、骨節空處。

【導訓】18 ダウクン　みちびきをしへる。訓導。〔國語、周語上〕宣王欲レ得下國子之能導二訓諸侯一者上。

【導化】19 ダウケ　佛衆生を導き教化すること。〔無量壽經、上〕如來導化、各能宣化。

【導迎】20 ダウゲイ　みちびきむかへる。〔隋書、音樂志上〕聖人造レ樂、導二迎和氣一。

【導言】21 ダウゲン 仲媒の言葉。なかうどぐち。〔楚辭、離騷〕恐二導言之不一レ固。〔注〕又恐下媒人弱鈍、達二言於君一、不レ能二堅固一、復使中回移上也。

【導口】22 イフナラク いふことには。道說。〔壒囊抄〕。

【導示】23 ダウシ みちびき示す。〔顏氏家訓、序致〕有レ仁無レ威、導示不レ切。

【導師】24 ダウシ 佛❶人を導いて正道に入らしめる者。佛菩薩の通稱。〔釋氏要覽、上〕導師、十住斷結經云、號二導師一者、令三衆生類示二其正道一故。❷死者に引導をわたす僧。また法要のとき、中心をなす僧。〔僧史略中、國師〕江南唐國署二文遂一爲二國大導師一也、導師之名而含二二義一、若下法華經中商人白二導師一言上、此卽引レ路指レ迷也、若二唱導之師一、此卽表白也。

【導習】25 ダウシフ みちびきならはせる。〔顏氏家訓、教子〕師保固明二仁智禮義一、導二習之一矣。

【導車】26 ダウシヤ 機械の他の部分に動力を與へる車輪。

【導者】27 ダウシヤ 手引きする人。

【導從】28 ダウジユウ さきどもとあとども。前後のともびと。〔後漢書、輿服志上〕公卿以下至二縣三百石長一、導從置二門下五吏一。〔南齊書、陳顯達傳〕顯達建武、世心懷二不安一、深自貶匿、車乘朽故、導從鹵簿、皆用二羸小一、不レ過二十數人一。

【導騶】29 ダウスウ 先導者と隨行者。〔福惠全書、刑名部、賊盜上、緝捕〕出則導騶擁レ纛。

【導泄】30 ダウセツ みちびいて流し去る。〔梁昭明太子、止二三郡丁民就レ役疏〕開二漕溝渠一、導二泄震澤一。

【導線】31 ダウセン 電氣の兩極を連絡する銅又は他の金屬線。

【導體】32 ダウタイ 電氣や溫熱をみちびき傳へる物質。

【導擇】33 ダウタク えらぶ。えりわける。導も、えらぶ意。〔後漢書、光武紀下〕詔曰、往年已勅二郡國一、異味不レ得レ有レ所二獻御一、今猶未レ止、非三徒有二豫養導擇之勞一、至下乃煩二擾道上一、疲中費過所上、其令三大官勿二復受一。

【導達】34 ダウタツ 導き達せしめる。〔後漢書、西域傳論〕導達之功、靡レ所二傳述一。〔晉書、天文志上〕所下以導二達泉源一、疏レ盈瀉レ溢、通中溝洫上也。

【導服】35 ダウフク 禫祭に着る服。禫は、父母の喪の明けた時に行ふ祭。〔說文、禫、段注〕按、說文一書三言、讀若二三年導服之導一、考二士虞禮注一曰、古文禫或爲レ導。

【導穆】36 ダウボク 後魏、薛和(**9－32123‥41**)の字。

【導民】37 ダウミン 民を導く。〔漢書、武帝紀〕詔曰、古之立レ教、鄕里以レ齒、朝廷以レ爵、扶レ世導レ民、莫レ善二於德一。

【導揚】38 ダウヤウ 導き發揚する。道揚。〔漢書、敍傳下〕擁二毓孝昭一、末命導揚。〔注〕劉德曰、武帝臨終之命、霍光能導達顯揚也。〔任昉、爲二齊明皇帝一作レ相讓二宣城郡公一第一表〕導二揚末命一。

【導養】39 ダウヤウ 導き養ふ。〔嵇康、養生論〕至三於導養得レ理、以盡二性命一。

【導譯】40 ダウヤク 案內者と通譯者。〔史記、大宛傳〕烏孫發二導譯一送レ騫還、騫與二烏孫遣使數十人馬數十匹一報謝。

【導諛】41 ダウユ へつらふ。諂諛。又、其の者。〔史記、越世家〕吳已殺二子胥一、導諛者衆。〔淮南子、人閒訓〕親二近導諛一。〔魏志、明帝紀〕導二諛時君一、妄建二非正之號一、以干二正統一。

【導翊】42 ダウヨク みちびき助ける。翊は輔。〔剪燈餘話、長安夜行錄〕二公導翊之暇、惟從二容於詩酒中一。

【導吏】43 ダウリ 先導者。先驅者。〔岑參、送二顏平原一詩〕海風掣二金戟一、導吏呼二鳴騶一。

【導路】44 ダウロ 導案內する。〔庾信、謝三趙王賚二犀帶等一啓〕馬前驅而導レ路。〔北史、西域傳序〕恆發レ使導レ路。

【導行費】45 ダウカウヒ 漢の靈帝の時、郡國に珍寶を貢獻さす爲に與へた奬勵金。〔後漢書、呂強傳〕每二郡國貢獻一、先輸二中署一、名爲二導行費一。〔注〕中署、內署也、導、引也、貢獻外、別有レ所レ入、以爲二所レ獻希之導引一也、劉攽曰、注希之、案レ文、希當レ作レ物。

【導生制】46 ダウセイセイ 教育學の用語。教師が優秀な生徒に先づ教授し、其の生徒をして他の生徒に教授させる法。領斑制。相互教學法。互教法。

【⿰貿寸】7466 ボウ 貿(**10－36721**)に同じ。〔字彙補〕⿰貿寸、同レ貿、出二漢隷熊碑一。

十四畫

【⿸厂尃】7467 セン ⿰卮尃(**4－7469**)の譌字。〔正字通〕⿸厂尃、⿰卮尃字譌省。

【導】7468 ダウ 導(**4－7465**)の古字。〔字彙補〕導、古文導字。

十五畫

【⿰卮尃】7469 ㊀セン ゼン 〔集韻〕豎兗切 銑 ㊁スイ 〔集韻〕主縈切 紙

小篆

㊀㊁**とつてと蓋のある小さいさかづき**。或は⿰卮耑(**9－28893**)に作る。〔說文〕⿰卮尃、小卮有二耳蓋一者、从レ卮專聲。〔段注〕有二耳蓋一、謂二有レ耳有レ蓋也。〔集韻〕⿰卮尃、或从レ專。

十六畫

【⿱衟寸】7470 ダウ 導(**4－7465**)の古字。〔字彙〕⿱衟寸、石鼓文導字。

十七畫

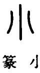
【⿱⿰彳同寸】7471 チ 治(**6－17256**)に同じ。〔字彙〕⿱⿰彳同寸、石鼓文治。

十八畫

【⿱與寸】7472 ヘウ 剽(**2－2160**)に同じ。〔字彙補〕⿱與寸、與レ剽同。

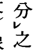
小部

【小】7473 セウ 〔集韻〕思兆切 篠 ㄒㄧㄠˇ hsiao³


小篆

❶**こまかい**。〔說文〕小、物之微也、从レ八、丨見而八二分之一。〔字彙〕小、微也。〔晉書、謝安傳〕不レ存二小察一。❷**ちひさい**。〔論語、八佾〕管仲之器小哉。〔皇疏〕小者不レ大也。〔後漢書、陳忠傳〕小者大之源。❸**すこし**。**すこしく**。いささか。〔荀子、議兵〕小齊則治二鄰敵一。〔注〕小、謂レ不レ能二大備一也。❹**ちひさくする**。**又、ちひさくなる**。〔晉書、段灼傳〕枝分葉布、稍自削小。❺**ちひさしとする**。あなどる。みくびる。〔左氏、桓、十三〕必小レ羅。❻**ちひさいもの**。**又、ちひさいこと**。〔中庸〕語レ小、天下莫二能破一焉。❼**ほそい**。〔玉篇〕小、細也。〔周禮、考工記、輪人〕轂小而長則柞、大而短則摯。❽**みじかい**。〔莊子、逍遙遊〕小年不レ及二大年一。❾**すくない**。〔易、繫辭下〕力小而任重。❿**かるい**。〔史記、魯仲連傳〕亡二南陽一之害小。⓫**せまい**。〔書、仲虺之誥〕好レ問則裕、自用則小。〔禮、表記〕有二長

短大小一。〔疏〕小、謂二所レ施狹近一也。⓬**ひくい**。格式が下る。〔禮、玉藻〕然後適二小寢一釋レ服。〔注〕小寢、燕寢也。⓭**いやしい**。〔韓詩外傳、五〕小臣、國之賤臣也。⓮**つたない**。〔新論、觀量〕何者術小故也。⓯**をさない**。いとけない。〔詩、大雅、板〕小子蹻蹻、箋〕如小子不レ聽二吾言一。〔疏〕小子、是幼弱無知之稱。⓰**幼兒**。〔北史、楊逸傳〕老小殘疾。⓱**小人**。〔漢書、劉向傳〕衆小在レ位。⓲**賤者**。〔晉書、張重華傳〕好與二羣小一游戲。⓳**妾**。〔詩、邶風、柏舟〕慍二于羣小一。〔集傳〕羣小、衆妾也。⓴**つつしむ**。うやうやしい。注意する。〔禮、表記〕小心而畏レ義。〔杜甫、洗兵馬行〕成王功大心轉小。㉑**陰曆で三十日に滿たぬ月**。今は陽曆の二十八・二十九・三十日の月。〔後漢書、律曆志中〕章帝復發二聖恩一、云云、以爲二月當レ先レ小、云云、梵等以爲レ當レ先レ大。㉒**陰**。〔易、泰〕小往大來。〔蜀才注〕小、謂レ陰也。㉓**接頭語**。細卑僅少、また謙讓の意を示す。〔書、湯誓〕非二台小子、敢行レ稱レ亂。〔白居易、江樓偶宴贈二同座一詩〕西樓小宴時。㉔**姓**。〔萬姓統譜〕小、見二姓苑一。［邦］❶**せう**。㋑脇差。刀に對す。㋺雄鷹。雌は雄より大きい。❷**接頭語**。さ・こ・をと訓み、發語の辭とす。小夜、小男鹿、小高し、小暗し、小舟、小止むの類。

［解字］　會意。八と丨との合字。丨は、微細の物を示す。八は、分離すること。微細な物を更に分別離析すれば愈〻微細となる。故に、本義をこまかい意とする。〔說文、小、段注〕八、別也、象二分別之形一、故解从レ八爲レ分之、丨才見而輒分レ之、會意也。　▽ （甲骨文）　象形。小さな點のさまに象る。

【小娃】1（セウアイ）　美しい少女。〔李沇、方響歌〕寶瓶下レ井轆轤急、小娃弄レ索傷二清冰一。

【小襖】2 hsiao² ao³　短い上衣。小襦襖(651)を見よ。

【小櫻】3（コザクラ）　花の細小な櫻の一種。

〖小櫻革〗4（コザクラガハ）　藍染の地に櫻花を白く小さく染め出した革。〔東鑑、三〕壽永三年正月十七日、廣常之甲、云云、小櫻皮縅。

〖小櫻縅〗5（コザクラヲドシ）　❶小櫻革で縅した鎧。〔源平盛衰記、三十五、高綱渡二宇治川一事〕小櫻縅の腹卷。❷白に紅を混じて縅した鎧。

【小惡】6（セウアク）　少しの惡。小さな惡事。大惡(**3－5831**‥4)の❶の對。〔易、繫辭下〕以二小惡一爲レ无レ傷而弗レ去也。〔公羊、隱、十〕春秋錄レ內而略レ外、於レ外、大惡書、小惡不レ書、於レ內、大惡諱、小惡書。〔淮南子、道應訓〕恐其有二小惡一也。〔新書、連語〕故小惡大惡一類也。〔雲笈七籤〕小惡不レ懼、必成二大禍一。

【小押】7 hsiao³ ya¹　官許を經ない小さい質屋。利子は四分、三日以內に質受けしないときは、典物を轉質する。押當鋪。小押局。

〖小押局〗8 hsiao³ ya¹ chü²　小押に同じ。

【小鴨】9（ヲカヱ）　姓氏。〔和爾雅〕。

【小安】10（セウアン）　❶少しく安らか。少しく安んずる。小康。大安(**3－5831**‥6)の❶の對。〔詩、大雅、民勞〕民亦勞止、汔可二小安一。❷小事に安んずる。

〖小安殿〗11（コアドノ）　大極殿の後方にある御殿。〔名目抄〕。

〖小安樂窩〗12（セウアンラクワ）　清、張海珊(**4－9812**‥857)の室名。

【小晏】13（セウアン）　宋、晏幾道(**5－13914**‥64)をいふ。

【小庵】14（セウアン）　小さいいほり。狹い庵室。〔翁卷、石門菴詩〕嵐蒸二空寺一壞、雪壓二小庵一清。

【小衣】15（セウイ）　俗に袴をいふ。ズボン。袴子。〔急就篇、二〕褌衣蔽膝布母縛、〔補注〕黃氏曰、江東謂二鶊鶊一爲二布母一、布母縛、小衣也、猶二犢鼻一耳。〔直語補證〕俗呼レ袴曰二小衣一、急就篇、布母縛、王應麟補注、小衣也、猶二犢鼻一耳。

〖小衣裳〗16 hsiao³ i¹ shang　ズボン。褲子。

〖小衣裳兒〗17 hsiao³ i¹ shang êrh　子供の衣服。

【小姨】18（セウイ）　妻の妹。大姨(**3－5831**‥14)の對。小姨夫を見よ。

〖小姨子〗19 hsiao³ i² tzŭ　妻の妹。小姨に同じ。

〖小姨夫〗20（セウイフ）　妻の妹婿。大姨夫の對。大姨(**3－5831**‥14)を見よ。〔事文類聚〕文忠公先娶二長女一、拱辰娶二其次一、後文忠再娶二其妹一、故宣徽有下舊女婿爲二新女婿一、大姨夫作二小姨夫一之戲上。

【小異】21（セウイ）　❶少しのちがひ。わづかのちがひ。小違。〔北齊書、文襄紀〕雖二復權勢參差、寒暑小異一、丞相司徒鴈行而已。❷清、管嗣復(**8－26162**‥186)の字。

【小意】22（セウイ）　小さいといふ意味。〔釋名、釋姿容〕窶數、猶二局縮一、皆小意也。

〖小意思〗23 hsiao³ i⁴ ssŭ　寸志。微意。僅かの贈物。

【小意智】24（セウイチ）　小利巧な。目先の小智。〔通俗編、性情、小意智〕朱子語錄、管子書有二說得太卑一、直是小意智處、不レ應二管仲如レ此之陋一。

【小尉】25（コジョウ）　越前國の地名。

〖小尉遲〗26（セウヰチ）　❶元曲選百種の一。題目は、老尉遲鞭對鞭當場賭勝。正名は、小尉遲將鬬對認父歸朝。尉遲保林が父の歸朝を認めることを演ず。〔元人百種曲〕。❷宋、呼延贊(**2－3471**‥3)をいふ。

【小違】27（セウヰ）　わづかのちがひ。小異。〔後漢書、董卓傳〕雖二小違一要レ當二大同一。〔孫綽、喩道論〕明其雖三小二違于此一、而大二順于彼一矣。

〖小違銀〗28（セウヰギン）　清代、關稅の徵收に、月の大小に拘らず一箇月を三十日に計算し、其の月が二十九日又は三十一日なれば、一日の差を生ず、この差に對する稅金の過不足をいふ。

【小遺】29（セウヰ）　ゆばり。小便。〔漢書、東方朔傳〕朔嘗醉入二殿中一、小二遺殿上一。〔注〕師古曰、小遺者、小便也。〔水滸傳、七回〕喫了八九杯酒、因要小遺、起身。

【小友】30（セウイウ）　年若の友達。幼い友。少友。〔唐書、李泌傳〕九齡驚改レ容謝レ之、因呼二小友一。

【小有】31（セウイウ）　石川凹の號。石川丈山(**8－24024**‥479)を見よ。

〖小有堂〗32（セウイウダウ）　清、葉奕苞(**9－31387**‥163)の室名。

〖小有天〗33（セウイウテン）　道家で傳へる洞府の名。河南省濟源縣の西、王屋山上。大天の內に洞三十六所あり、第一王屋山の洞は周圍萬里、名づけて小有清虛の天といふ。〔茅君內傳〕大天之內、有二洞三十六所一、第一王屋山之洞、圍二萬里一、名曰二小有清虛之天一。〔唐樞、遊王屋山錄〕有二清虛宮一、遠在二東偏一、是爲二小有洞天一。〔杜甫、秦州雜詩〕萬古仇池穴、潛通二小有天一。

〖小有腴山館〗34（セウイウユサンクワン）　清、吳大廷(**2－3365**‥752)の室名。

【小酉】35（セウイウ）　山名。湖南省沅陵縣の西北。一名、烏速山。又、酉陽山。二酉山(**1－247**‥14)の❶を見よ。〔荊州記〕小酉山石穴中、有二書千卷一、相傳、秦人於レ此學、因扃レ之、梁湘東王謂レ訪二酉陽之逸典一、是也。〔方輿勝覽〕小酉山、在二酉溪口一、昔秦人避レ地之所、堯時善卷・唐時張果、皆嘗隱二居於內一。

〖小酉館〗36（セウイウクワン）　明、王世貞(**7－20823**‥1763)の室名。

〖小酉山房〗37（セウイウサンバウ）　室名。❶清、黃輔辰(**12－47926**‥1319)の室名。❷清、丁杰(**1－2**‥55)の室名。

〖小酉腴山館〗38（セウイウユサンクワン）　清、吳大廷(**2－3365**‥752)の室名。

【小一】39（セウイツ）　❶至つて小さなこと。至小。大一(**3－5831**‥51)の對。〔莊子、天下〕至大無レ外、謂二之大一一、至小無レ內、謂二之小一一。❷（コイチ）　芝居のますの名。舞臺のすぐ下の平土間の第一列の稱。あまおち。上方では、かぶりつきといふ。

【小乙】40（セウイツ）　殷、第十九代の王。小辛の弟。小辛崩じて卽位す、在位二十八年。竹書紀年には、小乙、名は斂、卽位して殷に居り、六年、世子昭、卽ち武丁を河に居らしめ、甘盤に學ばしめ、十年崩ずとある。〔史記、三〕。

【小邑】41（セウイフ）　小さい村里。小さい封邑。鄉曲。大邑(**3－5831**‥54)の❶の對。〔穀梁、襄、二十五〕古者、大國過二小邑一、小邑必飾レ城而請レ罪、禮也。

【小揖】42セウイフ　敬禮の一種。腰を折るだけで、別にうつむき伏すことをしない法式。閑揖。〔侍中羣要、二一、奏二吉書一事〕左手に文を取り、右手に文夾を取天小揖。

【小尹】43セウイン　㊀小官の長。下級官吏の長。大尹(3－5831‥56)の㊀の對。〔書、立政〕虎賁・綴衣・趣馬・小尹。〔蔡傳〕小尹、小官之長。㊁清、伊湯安(1－432‥165)の字。

【小引】44 hsiao^{2} yin^{3}　短いはしがき。著作の由來を述べ、下文を引き起すもの。小序。

【小印】45 hsiao^{4} yin^{4}　私人の印章。私印。

【小飮】46セウイン　㊀酒をすこしのむ。小さいさかもり。小人數の人で酒宴を催すこと。小宴。小酌。〔李白、魯郡堯祠送二竇明府薄華還二西京一詩〕高陽小飮眞瑣瑣、山公酩酊何如我。〔曹唐、紫河張休眞詩〕東風小飮人皆醉、從レ聽黃龍枕レ水眠。㊁清、陸飛(11－41708‥218)の號。

【小隱】47セウイン　㊀小德の隱者。世を厭ひ逃れてはゐるが、まだ徹底せぬ隱者。大隱(3－5831‥63)の㊀の對。〔王康琚、反招隱詩〕小隱隱二陵藪一、大隱隱二朝市一、伯夷竄二首陽一、老聃伏二柱史一。〔李白、秋夜懷二故山一詩〕小隱慕二安石一、遠遊學二子平一。〔許渾、遊二錢塘青山李隱居西齋一詩〕小隱西亭爲レ客開、翠蘿深處遍蒼苔。㊁小さい隱宅。〔林逋、小隱自題詩〕竹樹繞二吾廬一、清深趣有レ餘。

【小院】48セウヰン　小さい書齋。〔杜牧、卽事詩〕小院無レ人雨長レ苔、滿庭脩竹閒二疎槐一。〔司馬光、夏日西齋卽事詩〕小院地偏人不レ到、滿庭鳥迹印二蒼苔一。

【小韻】49セウヰン　詩の八病の一。五言絶句の韻脚を除き、九字中に他の同韻の字を二つ用ひるものをいふ。但し、疊字の使用は例外である。大韻(3－5831‥78)の㊀の對。〔事物原始、聲韻〕詩病小韻、除二本韻一字一外、九字中不レ得二兩字同韻一、如二遙條同レ句、是也。〔唐音癸籤〕謂下詩句中犯二雙聲一之病上也、如下五言詩除レ韻外、但九字中有中相二犯同聲一者上、皆是。

【小迂】50セウウ　字號。㊀清、袁沛(10－34152‥125)の字。㊁清、孫銓(3－6987‥200)の號。㊂清、程兆熊(8－25081‥266)の號。

【小雨】51セウウ　㊀少し雨が降る。大雨(3－5831‥83)の對。〔史記、天官書〕風從二南方一來、大旱、云云、西北、戎菽爲、小雨、趣レ兵。〔漢書、京房傳〕丙戌小雨。㊁少し降る雨。こまかな雨。こさめ。〔爾雅、釋天〕小雨、謂二之霢霂一。〔杜甫、夜雨詩〕小雨夜復密、回風吹二早秋一。〔晁端友、宿二西門外一詩〕小雨愔愔人假寐、臥聽三疲馬齕二殘芻一。㊂コザメ　上野國の地名。

【小烏】52コガラス　㊀小さい烏。烏の雛。〔太秦廣隆寺牛祭文〕堂塔の檜皮喰ひめく大烏小烏め。㊁平家重代の寶刀。小烏丸。〔平治物語、二、待賢門軍〕重盛、云云、小烏といふ太刀を佩き。

【小耘】53セウウン　清、鄧瑤(11－39630‥13)の字。

【小雲】54セウウン　㊀細かく切れた雲。雲の切れはし。ささぐも。〔詩、曹風、候人〕薈兮蔚兮南山朝隮、〔箋〕薈蔚之小雲、朝升二於南山一、不レ能レ爲二大雨一。㊁清、徐用儀(4－10110‥645)の號。

〖小雲霧〗55セウウンム　山名。湖南省漵浦縣の西北、烏龜山と對峙す。黃栗坑水の源。山下の水氣が上騰して、時に雲霧瀰漫するが故に名づく。安化縣の雲霧山と別けて小といふ。山中、鉛を産し、山面には黃鐵鑛が露出す。鉛鑛の發掘は清の光緒三十二年より始まり、現に彎曲して丘狀をなして居るものに、砂坪坡・錫牙灣・巖溪坑・飛水巖・磺坑灣・打礦灣・汪家嶺・高友灣・老黃界・大界上・打鼓冲等の十餘處がある。

〖小雲廬〗56セウウンロ　清、朱壬林(6－14424‥870)の室名。

〖小雲石海涯〗57セウウンセキカイガイ　元、貫雲石(10－36681‥73)の本名。

【小運】58セウウン　星命家の語。一年每に改まる運。小行年。流年。大運(3－5831‥100)の對。〔三命通會、論小運〕夫大運司二十年之休咎一、小運掌二一歲之災祥一、是小運者、補二大運之不レ足而立レ名也。

【小韞】59セウウン　清、汪端(6－17154‥103)の號。

【小郢】60セウエイ　季節の名。〔管子、幼官〕十二小郢至、德。〔纂詁〕郢、讀爲レ盈、夏陽氣盈溢、故以レ郢爲二節名一、德、恩也、此氣至、行二恩惠一。

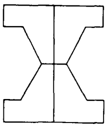
【小穎】61セウエイ　清、吳應枚(2－3365‥453)の號。

【小營】62セウエイ　小さい陣營。大營(3－5831‥109)の對。〔李衞公問對、中〕大營包二小營一。

【小瀛】63セウエイ　清、岳起(4－8001‥11)の號。

【小幼】64セウエウ　子供の歌うたひ。〔名義考〕歌童、俗謂二之小幼一、柔曼溢二於女德一、或謂二能侑飮一爲二小侑一、不レ知三幼之名有二自來一、卽漢所謂孺也、高之藉孺、惠之閎孺、皆以二婉媚一與レ上起臥、藉閎其名孺、則幼小而可二親慕一也。

【小要】65セウエウ　㊀小さい腰。細腰。小腰。こごし。小腰を見よ。〔名物圖、一、服、小腰〕合二四衽一成二小要形一、故小要取レ名焉。㊁漢人が深衣のすそさきをいふ。〔禮、玉藻、衽當レ旁、注〕衽、謂三裳幅所二交裂一也、凡衽者、或殺而下、或殺而上、是以小要取レ名焉。〔名物圖、一、服、小腰〕鄭注云、凡衽者、或殺而下、或殺而上、是以小要取レ名焉、衽屬レ衣、則垂而放レ之、屬レ裳、則縫レ之以合二前後一、上下相變、案、衣有二四衽一、二衽屬レ衣、二衽屬レ裳、其用布及裁法竝同、合二四衽一成二小要形一、故小要取レ名焉、小要者、棺上合縫之木、亦名爲レ衽、疏家祇知三衣有二兩衽一、或謂、深衣與二喪服一相對爲二小要一、或謂、合三喪服與二朝祭服一爲二小要一、竝假二他服一相對爲レ衽、穿鑿甚矣。㊂器材の合際に嵌入する所の、兩頭が廣く、中央の小さい具。〔釋名、釋喪制〕棺束曰レ緘、古者、棺不レ釘也、旁際曰二小要一、又謂二之衽一、衽、任也、任二制際會一、使レ不レ解也。〔禮、檀弓上、棺束縮二衡三衽每束一、疏〕衽、小要也、其形、兩頭廣、中央小也、既不レ用レ釘棺、但先鑿二棺邊一、及二兩頭合際處一作二坎形一、則以二小要一連レ之、令二固レ棺竝相對一、云云、漢時、呼レ衽爲二小要一也。〔名物圖、一、服、小腰〕小要者、棺上合縫之木、亦名爲レ衽。



小要㊂
(名物圖)

【小腰】66セウエウ　㊀女の腰の細いさま。細腰。〔戰國、楚策〕昔者、先君靈王好二小腰一、楚士約レ食、馮而能立、式而能起。〔管子、七臣七主〕夫楚王好二小腰一、而美人省レ食、吳王好レ劍、而國士輕レ死。〔墨子、兼愛下〕昔、荊靈王好二小腰一。㊁三角形の底邊に對する他の二邊の小さい方をいふ。大腰(3－5831‥115)の對。〔周禮、地官、保氏、孫詒讓正義〕孔廣森云、旁要、卽今三角法也、凡三角必有二三邊一、其兩斜邊、謂二之大腰・小腰一。㊂小要の㊂に同じ。〔名物圖、一、服、小腰〕。

【小謠】67コウタヒ　番謠の短い一部分を拔き出してうたふもので、其の席、又は氣節に應じたものをうたふ。〔狂言記、寢聲〕、都には面白いこうたひがはやりました。

【小驛】68セウエキ　小さい宿場。〔孫覿、崇仁縣詩〕小驛香醪如二雪汁一。〔陸游、十二月初一日得二梅一枝一絶奇戲作二長句一今年於レ是四賦二此花一矣詩〕孤城小驛初飛レ雪、斷角殘鐘半掩レ門。

【小葉】69セウエフ　小さい葉。〔劉孝綽、棲隱寺碑〕中枝小葉、各隨二業根一。〔杜甫、爲レ農詩〕圓荷浮二小葉一、細麥落二輕花一。

〖小葉麥門冬〗70 hsiao^{3} yeh^{4} mai^{4} men^{2} tung^{1}　野菜の名。りゆうのひげ。りようのひげ。づくたま。

【小衍】71セウエン　大衍の數五十に對して、十をいふ。大衍(3－5831‥136)を見よ。〔關氏易傳、注〕小衍則十、蓋小耦爾、今言二大耦則五十一、是大衍也。

【小宴】72セウエン　小さいさかもり。小人數のさかもり。ささやかなさかもり。小飮。〔白居易、江樓偶宴贈二同座一詩〕南浦閑行罷、西樓小宴時。

【小烟】73セウエン　清、潘時敏(7－18236‥167)の號。

【小燕】74セウエン　小さい燕。〔韻府引、拾遺記〕蝙蝠黑者如レ鳥、至二千歲一形如二小燕一。

【小閹】75セウエン　宮中につかへる宦者。閹豎。〔唐國史補上〕李白在二翰林一多沈飮、云云、上命二小閹一排二出之一。

【小艷】76セウエン　美しい少女。〔陳陶、泉州刺桐花詠兼呈二趙使君一詩〕猗猗小艷夾二通衢一、晴日薰風笑二越姝一。

【小宛】77セウエン　㊀漢魏時代の史書に見える西域の國名。城市を扞零城といひ、且末國の南方、三日の行程にあり、西域南道に沿はぬものと傳へられる。且末は今のチエルチエン(Cherchen)に當てられるから、之よりチエルチエン河を遡り、南方のツアイダム(Zaidam)に於ける婼羌國に至る山谷間にあつた國と認められる。〔漢書、西域傳〕小宛國王、治二扞零城一、去二長安一七千二百一十里、戶百五十、口千五十、勝兵二百人、輔國

侯・左右都尉、各一人、西北至二都護治所一、二千五百五十八里、東與二婼羌一接、辟レ南不レ當レ道。㊁詩經、小雅、節南山之什の篇名。周の幽王を刺つた詩。〔詩、小雅、小宛序〕小宛、大夫刺二幽王一也。㊂字號。㋑清、沈欽韓(6－17189‥476)の號。㋺清、楊无咎(6－15112‥788)の號。

【小宛齋】78セウエンサイ　清、陸元輔(11－41708‥318)の號。

【小宛堂】79セウエンダウ　明、趙宧光(10－37171‥392')の室名。

【小垣】80コガキ　小さいかきね。

【小怨】81セウエン　わづかな怨み。少しのうらみ。大怨(3－5831‥154)の對。〔詩、小雅、谷風〕忘二我大德一、思二我小怨一。〔國語、周語中〕以二小怨一置二大德一也。

【小園】82セウエン　㊀小さい花園。小圃。〔庾信、小園賦〕若二夫一枝之上一、巢父得二安巢之所一。〔杜甫、春水詩〕接レ縷垂二芳餌一、連レ筒灌二小園一。㊁橋本張の號。橋本蝨菴(6－15526‥70)を見よ。

【小圓】83セウエン　㊀小さい圓。〔呂令則、義井賦〕向レ晨露欹、映二大天之小圓一。㊁球心でない所を通過する平面が球面と交はつて生ずる圓をいふ。大圓(3－5831‥156)の對。

【小遠】84セウエン　隋の僧慧遠(4－11116‥8)の別稱。隋の淨影寺の慧遠を、東晉の廬山の慧遠に對して小遠といふ。

【小轅】85コナガエ　牛車の一部の名。鴟尾ノトビヲ(12－46805‥28)の㊂に同じ。〔倭名類聚抄、舟車部、車類、轅〕轅、車轅也、音園、奈加江、俗在レ前謂二之轅一、在レ後謂二之鴟尾一、或云二小轅一。

【小汙】86セウヲ　㊀すこしく卑しい。〔孟子、公孫丑上〕汙不レ至レ阿二其所一レ好、〔趙注〕汙、下也、言、三人雖二小汙不平一、亦不レ至レ阿二其所一レ好。㊁病氣及び死亡をいふ。〔後漢書、蔡邕傳〕邕上二封事一曰、明堂月令、天子以二四立及季夏之節一、迎二五帝於郊一、清廟祭祀、養老辟雍、皆帝者之大業、祖宗所二祗奉一也、而有司數以二蕃國疏喪、宮內產生、及吏卒小汙一、屢生二忌故一。〔注〕小汙、謂二病及死一也。

【小塢】87セウヲ　小さなとりで。塢は、小さい城。〔蜀志、張嶷傳〕嶷以二邵郛宇頹壞一、更築二小塢一。

【小歐】88セウオウ　唐の書家、歐陽詢を大歐といふに對して、歐陽通をいふ。小歐陽。〔金石史〕率更碑版尙有二數種一、而蘭臺止存二一道因法師碑一、蘭臺父子齊レ名、號二大小歐陽一。

【小歐陽】89セウオウヤウ　唐、歐陽通(6－16185‥88)をいふ。小歐。

【小屋】90セウヲク　㊀小さい家。大屋(3－5831‥166)の對。〔左氏、襄、九〕火所レ未レ至、徹二小屋一、塗二大屋一。〔魏志、管寧傳、注〕寒貧者、云云、獨二居窮巷小屋一、無二親里一。〔南史、劉凝之傳〕登二高嶺一、絕二人迹一、爲二小屋一居レ之。㊁コヤ　㋑粗造の建物。小さく粗末な家。〔拾遺和歌集、冬〕葦の葉に隱れて住みし津の國の、こやもあらはに。㋺住宅の傍に設け、農產物、其の他の器具雜品を入れるところ。㋩興行物の建物。芝居小屋の略。㋥藩主の藩邸。又、城中にあつた藩士の住宅。㋭家の天井と屋根との間の部分。

【小屋者】91コヤモノ　非人・穢多など。

【小屋組】92コヤグミ　小屋のくみたて。

【小屋貝】93ヲヤカヒ　姓氏。〔姓名錄抄〕。

【小可】94 hsiao^2 k'ê^3　㊀小さい事。些細な事。〔長生殿、驛備〕這是上用欽工、非レ同二小可一。〔元曲、金錢記〕這開元通寶、非同小可、你要仔細。㊁それがし。わたくし。自分。〔水滸傳、十二回〕小可數年前、到東京。〔元曲、黑旋風〕小可是這火爐店上一個賣酒的。

【小可的】95 hsiao^2 k'ê^3 tê　くだらない者。平凡な人。〔西廂記、張君瑞害二相思一雜劇〕雖然是假意兒、小可的難到此。

【小河】96セウカ　橋の名。河北省三河縣の東、泃河の支流にあり。東は錯橋、西は金鷄塘に達し、又、通薊兩縣に境し、往來の要道。もと浮橋であつたが、明の正德中、石橋を建つ。

【小河口】97セウカコウ　地名。㊀湖南省永興縣の西。棲鳳水が來江に入る處。一に西河口に作る。㊁陝西省山陽縣。銅を產した。㊂滿洲遼寧省本溪縣の東。鉛銅を產す。㊃滿洲遼寧省遼陽縣。銅を產す。

【小河兒】98 hsiao^3 hê^2 êrh　小川。

【小河立所】99ヲガハリツシヨ　京都の人。名は成章。字は伯達、又、茂實。通稱は茂七郎。號は立所。伊藤仁齋の學を奉じ、京都に塾を開いて教授す。元祿九年七月十七日、歿す。年四十八。著に論語國語解・伐柯篇・聖教錄學論・文集がある。〔先哲叢談、後、二〕・〔近代著述目錄後篇〕。

【小苛】100セウカ　わづらはしくうるさい。細苛。〔史記、汲黯傳〕黯時與レ張論議、湯辯常在二文深小苛一。

【小哥】101 hsiao^3 kê　あにき。〔琵琶記、張公遇レ使〕小哥、你從那裏來。

【小家】102セウカ　㊀小說家の、一家言をなす者。諸子百家の一。〔荀子、正名〕小家珍說之所レ願皆衰矣。㊁小さな家。貧しい家。大家(3－5831‥184)の㊀の對。〔白居易、鹽商婦詩〕本是揚州小家女、嫁得西江大商客。〔范成大、光福塘上詩〕鷄聲人語小家樂、木葉草花深巷香。㊂hsiao^3 chia^1　小兒。㊃コヤケ　㋑姓氏。㋺ヲヤケ　姓氏。〔新撰姓氏錄考證〕。

【小家氣】103 hsiao^3 chia^1 ch'i^4　俗詩を作る一派。小家派に同じ。〔紅樓夢、三十七回〕終是小家氣。

【小家子】104セウカシ　微賤の者。身分賤しく、才學の無いものを謗つていふ。他人に對して小僧などと言ふ類。〔漢書、霍光傳〕任宣謂二霍禹一曰、云云、使樂成小家子、得レ幸二將軍一、至二九卿封侯一。〔俚言解〕誚二人庸賤微薄一爲二小家子一。

【小家女】105セウカヂヨ　貧賤な家の女。〔孫綽、情人碧玉歌〕碧玉小家女、不三敢攀二貴德一、感二郎千金意一、慚レ無二傾城色一、碧玉破瓜時、郎爲二情顚倒一、感レ君不二羞赧一、廻レ身就二郎抱一。

【小家派】106 hsiao^3 chia^1 p'ai^4　俗詩を作る一派。小家氣。〔紅樓夢、三十七回〕偺們別學那小家派。

【小家門】107 hsiao^3 chia^1 men^2　貧しい家。下賤の人。〔燕子箋、誤認〕奴是小家門、爹媽都沒也。

【小家子氣】108 hsiao^3 chia^1 tzŭ ch'i^4　公明正大でないこと。

【小家碧玉】109セウカヘキギヨク　貧家の美しい娘。〔孫綽、情人碧玉歌〕碧玉小家女、不三敢攀二貴德一。

【小舸】110セウカ　小さいはやぶね。〔大業拾遺記〕作二小舸子一、長八尺。

【小荷】111セウカ　小さいはちす。小蓮。〔蘇軾、南堂詩〕一聽二南堂新瓦響一、似レ聞二東塢小荷香一。

【小荷物】112コニモツ　㊀小さく荷造りした荷物。㊁鐵道等で扱ふ容積・重量共に小さな荷物。

【小暇】113セウカ　少しのひま。小閑。寸暇。〔范梈、奉下同棟應奉訪二友人一不上レ遇詩〕翰林小暇出二西城一、京國餘秋晚更明。

【小瑕】114セウカ　少しのきず。いささかのきず。微瑕。大瑕(3－5831‥203)の對。〔新論、妄瑕〕量小不レ足三以包二大形一、器大無レ分二小瑕一也。〔舊唐書、昭宗紀〕勿下以二小瑕一遂妨中大禮上。

【小歌】115セウカ　㊀小さい歌。亂辭と同じく、詩歌の終りに附して全篇を總括反覆する小詩歌。〔荀子、賦〕其小歌曰、念二彼遠方一、何其塞矣、仁人詘約、暴人衍矣、忠臣危殆、讒人服矣。〔注〕此下一章、卽其反辭、故謂二之小歌一、總二論前意一也。㊁コウタ　㋑民間の卑俗な歌。民謠・流行歌の類を上流貴族社會に取り用ひたもの。大歌所で教習する大歌に對する語。平安朝時代には十一月の五節などに歌はれ、室町時代にも僧侶・武士などの間で盛に行はれ、江戶時代の初期には隆達の小唄が名高い。はやり小唄。〔琴歌譜〕自餘小歌、同二十一月節一。〔雲圖抄、裏書〕次大歌發二歌笛一、小歌相和。㋺短い謠ひもの。長歌に對する語。端歌。〔長歌古今集〕。㋩江戶時代の末から現代にかけて行はれてゐる俗曲の一種。田村派・小唄派・堀派等の流派あり。〔東海道名所記〕立楊の小歌をうたふ。

【小霞】116セウカ　明、沈襄(6－17189‥195)の字。

【小疋】117セウガ　清、丁杰(1－2‥55)の字。

【小我】118セウガ　ちひさい自我。自分といふ小なる心。大我(3－5831‥206)の對。

【小犽】119セウガ　小兒。赤子。〔新方言、釋言〕今揚州鎭江、通謂二小兒一爲二小犽一。

【小雅】120セウガ　㊀詩經の六義の一。雅を大雅・小雅に分ける。雅は正、雅樂に用ひるから名づける。又、宵雅ともいふ。毛詩(6－16772‥91)・大雅(3－5831‥208)の㊀を見よ。〔詩、大序〕雅者正也、言、王政之所二由廢興一也、政有二小大一、故有二

小雅一焉、有二大雅一焉。〔詩、小雅、集傳〕小雅二一、雅者正也、正樂之歌也、其篇本有二大小之殊一、而先儒説、又各有二正變之別一、以レ今考レ之、正小雅、燕饗之樂也、正大雅、會朝之樂、受レ釐陳レ戒之辭也、故或歡欣和悅、以盡二羣下之情一、或恭敬齊莊、以發二先王之德一、詞氣不レ同、音節亦異、多周公制作時所レ定也、及二其變一也、則事未二必同一、而各以二其聲一附レ之、其次序時世、則有二不レ可レ考者一矣。〔詩經原始〕雅有二大小之分一、自來諸儒未レ有二確論一、故或主二政事一、或主二道德一、或主二聲音一、皆非、然則大小之分、究何以別レ之、曰、此在二氣體輕重、魄力厚薄、詞意淺深、音節豐殺者一辨レ之而已、大略、小雅多二燕饗贈答感事述懷之作一、大雅多二受釐陳戒天人奧蘊之旨一。㊁書名。一に小爾雅に作る。〔漢書、藝文志〕小雅一篇。〔補注〕宋祁曰、小字下、邵本有二爾字一、錢大昕曰、李善文選注引二小爾雅一、皆作二小雅一、此書依二附爾雅一而作、本名二小雅一、後人僞二造孔叢一、以二此篇一竄入、因有二小爾雅之名一、失二其舊一矣、邵本亦俗儒增入、不レ可レ据。㊂清、丁杰(**1**－**2**‥55)の字。

【小駕】121 セウガ 天子車駕の一。略式の乘物。大駕(**3**－**5831**‥216)の對。〔後漢書、輿服志上〕行祠二天郊一以二法駕一、祠二地明堂一、省二什三一、祠二宗廟一尤省、謂二之小駕一。〔隋書、禮儀志三〕獵日、侍中三奏、一奏、搥二一鼓一爲レ嚴、三嚴訖、引レ仗爲二小駕鹵簿一。

【小介】122 セウカイ 小使。使丁。小价。〔魏武帝、與二小府孔融一書〕往聞三二君有二執レ法之平一、以爲二小介一。

【小价】123 セウカイ 小使。小介に同じ。

【小海】124 セウカイ ㊀鎭の名。㋑江蘇省東臺縣の東北、王家港の西南。㋺江蘇省南通縣の東南、新港・竹行二鎭の中間。海門縣に通ずる道がある。㊁字號。㋑明、馮觀(**12**－**44579**‥51)の號。㋺清、張文治(**4**－**9812**‥1477)の號。㋩清、劉中理(**2**－**2224**‥1186)の號。㊂ミヲ 讚岐國の地名。

【小海鷗】125 セウカイオウ 椀の名。〔清異錄、器具〕小海鷗耀州陶匠創造二一等平底深盌一、狀簡古、號二小海鷗一。

【小海唱】126 セウカイシヤウ 歌の名。春秋楚の伍子胥が、罪なくして呉王夫差に殺されたのを悼んで、國人が歌つたもの。〔晉書、夏統傳〕伍子胥諫二呉王一、言不二納用一、見レ戮投レ海、國人痛二其忠烈一、爲作二小海唱一。

【小海損】127 セウカイソン 海損の一種。運賃以外の一切の費用と損害とを包括していふ。引水費、燈塔税、入港費等の如し。

【小楷】128 セウカイ 細字の楷書。魏晉以來、鍾繇・鍾會・王羲之・王獻之等、始めて小楷を創作す。〔玉海、小學、漢三體書法〕如三邈書見二古帖一者、自是小楷也。〔黄庭堅、次二韻王炳之惠王版紙一詩〕小楷多傳樂毅論、高詞欲レ奏雲門曲。

【小解】129 hsiao^2 chieh^3 小便する。

【小蟹】130 セウカイ ㊀やどかりの一種。又、蟹の一種。〔述異記、下〕南海有二水蟲一名曰レ筯、蚌蛤之類也、其小蟹大如二楡莢一、筯開レ甲食、則蟹亦出食、筯合レ甲、蟹亦還入、爲レ筯取レ食以終始、生死不二相離一。〔廣志〕蛹、小蟹、大如二貨錢一。㊁ササガニ ㋑蜘蛛(**10**－**3134**‥2)の異名。〔古今和歌集、戀五〕ささがにの衣にかかり。㋺ササガニノ 蜘蛛、又は絲に冠する枕詞。〔古今集、戀哥四〕わがせこがくべきよひなりささがにの、くものふるまひかねてしるしも。〔後拾遺和歌集、雜三〕ささがにのくもらぬ空。

【小厓】131 セウガイ 清、顧成天(**12**－**43689**‥300)の號。

【小害】132 セウガイ すこしの害。輕微な害。僅かの損害。〔淮南子、人間訓〕堯戒曰、戰戰慄慄、日愼二一日一、人莫レ蹪二於山一、而蹪二於垤一、是故、人皆輕二小害一、易二微事一、以多レ悔、患至而後憂レ之。

【小蓋】133 セウガイ 小さなかさ。〔後漢書、陰識傳〕操二持小蓋一、障二翳風雨一。

【小蓋鐘】134 hsiao^3 kai^4 chung^1 ふたのある茶碗。ふたつき茶碗。〔紅樓夢、六回〕盤内一小蓋鐘、鳳姐也不接茶。

【小巧】135 セウカウ こざいく。巧みに取りまはす。〔呉志、陸遜傳〕建昌侯慮於二堂前一作二鬪鴨欄一、頗施二小巧一。〔楊萬里、和二秋戲作山居離興俳體十二解一詩〕雜英小巧亦欣レ人。

【小巧之物】136 hsiao^2 ch'iao^3 chih^1 wu^4 精巧な細工物。

【小巧別致】137 hsiao^2 ch'iao^3 pieh^2 chih^4 手のこんだ細工。〔紅樓夢、三回〕悉皆小巧別致、不似方纔那邊軒峻壯麗。

【小江】138 セウカウ 川の名。㊀江西省信豐縣の南。東西二源を合して小江と稱し、小江口を經て桃江に入る。〔讀史方輿紀要、贛州府、信豐縣、綿水〕又有二小河一、亦在二縣南一、有二上龍・箬坑二水一流合焉、入二於桃江一。㊁廣東省合浦縣の東北。源は小江墟、南流して廣西省博白縣の界の川となり、馬口に至つて西門江に入る。㊂雲南省騰衝縣の西北。源は知子羅行政委員の管轄境。西南流して滾馬河を會し、北、恩梅開江に入る。一に峨窮卡と呼ぶ。

【小江河】139 セウカウガ 四川省平武縣の南より發し、南流して江油縣の西を經て、彰明縣の西にて涪江に入る。青漪江・平通江ともいふ。古の廉讓水。廉讓(**4**－**9436**‥48)の㊁を見よ。

【小江墟】140 セウカウキヨ 地名。㊀廣東省合浦縣の東北。小江水の源。もと千總駐防があつた。㊁廣東省陽山縣の西北湟水の上流。もと外委把總駐防があつた。

【小江口】141 セウカウコウ 鎭の名。㊀江西省豐城縣の東北。豐水が贛江に入る口に當り、水路の要衝。㊁江西省信豐縣の南。油阬水が小江水に入る口に當り、龍南縣に通ずる要道。㊂四川省雲陽縣の西、彭溪水が江に入る處。

【小江渡】142 セウカウト 渡津の名。雲南省會澤縣の西北。銅を運ぶ要路。清の乾隆中、踏雪橋を建てたが、後、火に燒かれて重修す。嘉慶中、修めて、また毀れ、遂に渡を設く。

【小行】143 セウカウ ㊀小さなおこなひ。大行(**3**－**5831**‥260)の㊂の對。〔莊子、繕性〕小行傷レ道。〔荀子、子道〕入孝出弟、人之小行也。㊁hsiao^3 hang^2 私の商賣。商人が自己の商賣をいふ謙稱。弊店。

【小行箱】144 hsiao^3 hsing^2 hsiang^1 革袋。手提鞄の類。旅行鞄。

【小行人】145 セウカウジン 周官の名。秋官の屬。賓客のことを掌る。〔周禮、秋官、小行人〕掌二邦國賓客之禮籍一、以待二四方之使者一。

【小行星】146 hsiao^3 hsing^2 hsing^1 太陽を環つて運行し、其の軌道が火星と木星との間にある星。其の數甚だ多く、今已に測り知るもの四百一。武女星・壽女星・火女星等の類がある。

【小行燈】147 コアンドン 小さい行燈。大行燈の對。〔日次紀事、七月〕金燈籠・草提灯・小行燈、是中元夜所二點燈一也。

【小行年】148 セウカウネン 一年毎に改まる運命。小運(58)を見よ。〔張籍、贈二任道士一詩〕欲レ得三定知二身上事一、憑レ君爲算小行年。〔方岳、陪二呉總一侍二集研山一用二趙端明送レ行韻一詩〕官滿只稱前進士、路貧休レ問小行年。

【小行李】149 セウカウリ 軍隊の戰鬪中に必要な軍需品を搭載した輜重。大行李(**3**－**5831**‥263)の㊀の對。

【小亨】150 セウカウ 元、楊弘道(**6**－**15112**‥531)の號。

【小亨集】151 セウカウシフ 書名。六卷。元、揚宏道撰。元好問、集序を作り、其の唐人を以て指歸とせるを極めて推賞す。〔四庫提要、集、別集類〕。

【小孝】152 セウカウ 小人の孝の意より轉じて、庶人の孝。一般人民の孝。〔禮、祭義〕孝有レ三、小孝用レ力、中孝用レ勞、大孝不レ匱。

【小庚】153 セウカウ 清、葉申薌(**9**－**31387**‥209′)の字。

【小巷】154 セウカウ 小さなちまた。路次。〔東京夢華錄、一、朱雀門外街巷〕直抵二宜男橋一、小巷南去、卽南薰門。

【小降】155 コブリ 雨雪等のすこし降ること。

【小香】156 セウカウ 清、李可玖(**6**－**14459**‥906)の號。

【小香居士】157 セウカウコジ 清、宗元鼎(**3**－**7106**‥297)の號。

【小校】158 セウカウ 小組頭・小使の頭等をいふ。小もの。〔梅堯臣、韻語答二永叔内翰一詩〕黄昏走二小校一、寄二我東郭阪一。〔北夢瑣言〕魏博帥羅弘信、初爲二本軍歩射小校一、掌二牧圉之事一。

【小耗】159 セウカウ ㊀叢神の名。歳中虚耗の神。運動出入興販經營造作等に凶なりといふ。常に歳の前五辰に居り、子の年には巳に在り、丑の年には午に在る。大耗の後一辰に在るので、小耗といふ。〔協紀辨方書、義例一、死符〕經曰、小耗者、歳中虚耗之神也、所レ理之方、不レ宜三運動出入、興販經營、及有二造作一、犯レ之者、當レ有二遺亡虚驚之事一、明時總要曰、常居二歳前五辰一、曹震圭曰、小耗者、小損也、乃太歳氣絕之辰、故曰二小耗一、假令寅年、寅旺・卯衰・辰病・巳死・午墓・未絕也、與二

死符㆓同㆑病、餘倣㆑此、考原曰、小耗常居㆓大耗後一辰㆒、未㆑至㆓于大耗㆒、故曰㆓小耗㆒。❷味の惡い酢。味の惡い醬は臺所の大耗となり、味の惡い酢は小耗となる故に言ふ。〔淸異錄、饌羞、八珍主人〕醬、八珍主人也、醋、食總管也、反㆑是爲㆓惡醬㆒爲㆓廚司大耗㆒、惡醋爲㆓小耗㆒。

【小康】160 セウカウ ❶政治が行きとどき、教化が行はれて、安泰に治まること。文武周公の治の類。大同(3－5831・・1789)の❷を見よ。〔禮、禮運〕禹・湯・文・武・成王・周公、由㆑此其選也、此六君子者、未㆑有㆘不㆑謹㆓於禮㆒者㆖也、以著㆓其義㆒、以考㆓其信㆒、著㆑有㆑過、刑㆑仁講㆑讓、示㆓民有㆒㆑常、如有㆘不㆑由㆑此者㆖、在㆑勢者去、衆以爲㆑殃、是謂㆓小康㆒。❷少しく賦役を省いて民を安息させること。〔詩、大雅、民勞〕民亦勞止、汔可㆓小康㆒。〔箋〕康、安也、今周民罷勞矣、王幾可㆓以小安㆒㆑之乎。❸世の中の少しをさまること。しばらく無事なこと。小安。〔新書、憂民〕五歲小康、十歲一凶。❹多少の資產があつて生活にさしつかへないこと。

〖小康之家〗161 hsiao^3 k'ang^1 chih^1 chia^1 中產階級。

【小塙】162 ヲバナハ 常陸國の地名。

【小糠】163 コヌカ 米のぬか。粉糠。

〖小糠雨〗164 コヌカアメ 細かに降る雨。微雨。

【小毫】165 セウガウ 小さい筆。こふで。〔鄭谷、溫處士能畫㆓鷺鷥㆒以㆓四韻㆒換㆑之詩〕聞說小毫能縱逸、敢憑㆓輕素㆒寫㆓幽奇㆒。

【小號】166 セウガウ ❶小わけした部分の名。〔儀禮、士冠禮、題疏〕儀禮者、一部之大名、士冠禮者、當篇之小號。❷hsiao^3 hao^4 ㋑私の店。弊店。㋺私の屋號。㋩私の號。

【小角】167 セウカク ❶小さいつの。〔埤雅〕蝸頭有㆓小角㆒、故一名㆓蝸牛㆒。❷㋑（ツノ）角の先の中にある小骨。㋺（クダノフエ）管の形に造つた小さい笛。古昔、戰場などで用ひた。〔倭名類聚抄、十三、征戰具〕角、小角、久太能布江。

【小客】168 セウカク 蕃國諸侯の使臣をいふ。〔周禮、秋官、小行人〕凡四方之使者、大客則擯、小客則受㆓其幣㆒、而聽㆓其辭㆒。〔疏〕小客、謂㆓蕃國諸侯之使臣㆒也、云云、蕃國之使臣、本是夷人、不㆑能㆑行㆑禮、故直聽㆓其辭㆒而已。

【小鬲】169 セウカク 山名。江蘇省灌雲縣の東北。漢初、田橫兄弟が亂を避けて此に居る。〔元和志〕三面絕㆑塵、皆百餘仞、惟東南一道容㆓人行㆒、田橫兄弟避㆑亂所㆑居也。

【小摑】170 ヲヅカミ 頭に、手で摑み得るばかり毛の生えたこと。〔古事談、三〕首をづかみと云ふ程に生ひたる法師。

〖小摑頭〗171 ヲヅカミガシラ 小摑みするほどの髮の頭。

【小閣】172 セウカク ❶小さいたかどの。〔南史、謝莊傳〕莊與㆓大司馬江夏王義恭牋㆒、自陳、云云、今之所㆑止、唯在㆓小閣㆒。〔白居易、香爐峰下新卜㆓山居㆒草堂初成偶題㆓東壁㆒詩〕日高睡足猶慵㆑起、小閣重㆑衾不㆑怕㆑寒。❷婦女の部屋。〔燕子箋、授畫〕侍焚㆑香、把㆓金經㆒頌揚、小閣中梅花磬響。

【小鶴】173 セウカク 字號。❶淸、端木百祿(8－25806・・183)の字。❷淸、丁子復(1－2・・258)の號。

【小樂】174 セウガク ❶古樂で人數の少い樂の稱。大樂の對。〔花蕊夫人、宮詞〕梨園子弟簇㆓池頭㆒、小樂攜來候㆓宴游㆒。❷雅樂曲の小曲に同じ。〔木師抄〕。

〖小樂正〗175 セウガクセイ 樂を司る人。〔儀禮、大射儀〕小樂正立㆓于西階東㆒、乃歌㆓鹿鳴㆒三終。

【小學】176 セウガク ❶古代、公宮の傍に置かれ、太子、王子、諸侯の子、並に公卿大夫元士の嫡子に、小節・小義を教へた學校。大學・小學の二者は古典に既に其の名が現れ、有虞氏は小學を下庠といひ、夏后氏は西序といひ、殷には左學といひ、周には虞庠といはれた。小學の位置に就いては古來種々の說があり、唐の孔穎達・賈公彥、淸の顧千里は、天子の王宮の東に虞夏殷三代の制を備へた一大學があり、國都の西郊に有虞氏の庠制を備へた一小學が設けられたといひ、魏の王肅等は、天子の王宮の東に一大學があり、四郊卽ち都を去る近郊五十里四方に四小學が設けられたといひ、又、淸の金榜は、大學は王宮の東であるが、小學は遠郊百里四方の四郊に置かれたといひ、淸の段玉裁・孫志祖・阮元等は、大學は辟雍であつて郊に在り、小學は王宮の四門に在つたといふ。入學年齡に就いては、尙書大傳には、十三、小學に入り、二十、大學に入るとあり、新書には、九歲、小學に入り、十五、大學に入るとあり、大戴禮・白虎通等には、八歲、小學に入り十五、大學に入る等の諸說がある。其の教科目は概ね小道・小節・小藝を學ぶのであつて、所謂禮・樂・射・御・書・數が之にあたる。大學(3－5831・・316)の❶を見よ。

時代	學校名	種類	位置
有虞氏	上庠	大學	西郊
	下庠	小學	國中王宮之東
夏后氏	東序	大學	國中王宮之東
	西序	小學	西郊
殷代	右學	大學	西郊
	左學	小學	國中王宮之東
周代	東膠	大學	國中王宮之東
	虞庠	小學	西郊說・四郊說

〔禮、王制〕小學在㆓公宮南之左㆒、大學在㆑郊、天子曰㆓辟廱㆒、諸侯曰㆓頖宮㆒。〔禮、王制〕有虞氏、養㆓國老於上庠㆒、養㆓庶老於下庠㆒、夏后氏、養㆓國老於東序㆒、養㆓庶老於西序㆒、殷人、養㆓國老於右學㆒、養㆓庶老於左學㆒、周人、養㆓國老於東膠㆒、養㆓庶老於虞庠㆒、虞庠在㆓國之西郊㆒。〔注〕皆學名也、異者、四代相變耳、或上㆑西、或上㆑東、或貴㆑在㆑國、或貴㆑在㆑郊、上庠・右學、大學也、在㆓西郊㆒、下庠・左學、小學也、在㆓國中王宮之東㆒、東序・東膠亦大學、在㆓國中王宮之東㆒、西序・虞庠亦小學也、西序在㆓西郊㆒、周立㆓小學於西郊㆒、膠之言、糾也、庠之言、養也、周之小學、爲㆓有虞氏之庠制㆒、是以名㆑庠云、其立㆓鄉學㆒亦如㆑之。〔禮、祭義〕天子設㆓四學㆒、當㆑入㆑學而大子齒。〔注〕四學、謂㆓周四郊之虞庠㆒也。〔顧千里、周立學古義考〕周大學小學之古義有㆑二、一、鄭君三禮注、天子大學、一在㆓王宮之東㆒、備㆓虞夏殷三代大學之制㆒、小學、一在㆓西郊㆒、爲㆓有虞氏之庠制㆒、是所謂周立㆓四代之學㆒、是所謂天子設㆓四學㆒、諸侯與㆓天子㆒相變、大學在㆓西郊㆒、小學在㆓公宮南之左㆒、用㆓殷制㆒、倶有㆓明文㆒、此一義也、大戴禮保傅、大學東・南・西・北・中五學、亦見㆓賈子新書・漢書賈誼傳㆒、而蔡邕集明堂月令論、言㆔此五學皆在㆓明堂辟雍之內㆒者尤詳、其小學及諸侯大小學之制、未㆑有㆓明文㆒、此又一義也、二義不㆑同、家法固然、又何足㆑怪、云云、唯賈孔二君、卓然遠見、據㆓經注正文㆒定㆓鄭義㆒、爲㆘周天子大學東膠在㆓王宮之東㆒、小學虞庠在㆗西郊㆖、凡三禮內關㆓涉此事㆒者、貫串交通了、無㆓異說㆒。〔段玉裁、經韻樓集、禮記四郊小學疏證〕王制曰、云云、虞庠在㆓國之四郊㆒、按、四、孔本作㆑西、而祭義、天子設㆓四學㆒、注、四學謂㆓周四郊之虞庠㆒也、系㆑用㆓王制語㆒、彼以㆑四釋㆑四、則此必是四字、確然無㆑疑、經必特著㆔周之虞庠在㆓四郊㆒者、以㆘其不㆑在㆓國中王宮之東㆒、亦不㆔專在㆓西郊㆒、與㆓前三代㆒迥異㆖、故特明㆑之、注曰、云云、西序在㆓西郊㆒、周立㆓小學於四郊㆒、孔本作㆓於西郊㆒、非也、虞上庠、殷右學、皆在㆓西郊㆒、故併言㆑之、夏西序・周虞庠、一在㆓西郊㆒、一則在㆓四郊㆒、故分別言㆑之、倘經文作㆔虞庠在㆓國之西郊㆒、則注於㆓西序虞庠亦小學也之下㆒、祇云㆑在㆓西郊㆒三字已足、何煩㆘分別、作㆗西序在㆓西郊㆒、周之小學在㆓西郊㆒十二字㆖、複贅不㆓已甚㆒乎、蓋因㆓經文四譌㆒㆑西、故注文亦四譌㆑西、而孔疏不㆑辨耳、祭義、天子設㆓四學㆒、注云、四學、謂㆓周四郊之虞庠㆒也、二注若㆑合㆓符節㆒、亦可㆓憭然㆒矣、云云、四郊小學之說、其由來古矣、大戴禮保傅篇曰、及㆔大子少長知㆓妃色㆒、則入㆓於小學㆒、小者所㆑學之宮也、引㆘學禮帝入㆓東學㆒上㆑親而貴㆑仁、帝入㆓南學㆒上㆑齒而貴㆑信、帝入㆓西學㆒上㆑賢而貴㆑德、帝入㆓北學㆒上㆑貴而尊㆖爵、案、大戴先云㆑入㆓小學㆒、下卽列㆓此四學㆒、後乃言㆔帝入㆓大學㆒、然則此四學者、卽所謂小學、卽王制、祭義、四郊之學也、故劉芳本之表云、大學在㆑國、四小在㆑郊、引㆔保傅篇帝入㆓東學・西學・南學・北學・大學㆒、而總㆑之曰㆓周之五學㆒、於㆑此彌彰、崔靈恩亦本㆓大戴禮㆒而云、凡立學之法、有㆓四郊及國中㆒、在㆓東郊㆒曰㆓東學㆒、在㆓西郊㆒曰㆓西學㆒、在㆓南郊㆒曰㆓南學㆒、在㆓北郊㆒曰㆓北學㆒、竝方名㆑之、在㆓國中㆒謂㆓之大學㆒、盧辯注㆓大戴禮㆒亦言、四郊之學、文王世子、凡語㆓於郊㆒者、疏引㆓舊

說㆒徧在㆓四郊㆒、此經皇侃云、四郊皆有㆓虞庠㆒、劉芳引㆓王肅禮記注㆒云、天子四郊有㆑學、去㆑都五十里、鄭氏則不㆑云㆓遠近㆒、案、王制移㆑郊、注、郊在㆓鄕界之外㆒、爲㆑習㆓禮於郊學㆒、合㆘諸周禮百里內爲㆓六鄕㆒、外爲㆗六遂㆖、然則鄭謂、郊學在㆓遠郊百里㆒、在㆓六鄕鄕學之外、六遂遂學之內㆒、故王制云、不㆑變左右鄕互移、又不㆑變移㆓之郊㆒、又不㆑變移㆓之遂㆒、是自㆑內移㆑外、自㆑近移㆑遠、鄕學蓋在㆓五十里近郊㆒、郊學蓋在㆓百里遠郊㆒、遂學蓋在㆓遠郊之外二百里㆒、爲㆓野之內百五十里之處㆒、鄭說甚明、而孔疏乃云、鄕學在㆓近郊之外㆒、郊學在㆓近郊㆒、誤矣、王肅云、郊學在㆓近郊五十里㆒、與㆑鄭異、而云㆔小學在㆓四郊㆒則同、且王制移㆑郊、鄭注、習㆓禮郊學㆒、不㆑云㆓西郊㆒、文王世子語㆑郊、鄭注亦不㆑云㆓西郊㆒、是鄭意、明謂㆓四郊皆有㆑學也、云云、愚又案、周小學・大學皆有㆑四、小學有㆑四、則王制・內則之虞庠、在㆓國之四郊㆒、大戴禮之東學・西學・南學・北學、是也、大學有㆑四、蔡邕月令章句曰、明堂者、言㆓其正室之皃㆒則曰㆓大廟㆒、取㆓其尊崇㆒則曰㆓太室㆒、取㆓其堂㆒則曰㆓明堂㆒、取㆓其四時之學㆒則曰㆓太學㆒、取㆓其周水圓如㆑璧則曰㆓璧雍㆒、各異㆑名而同㆑實也、是也、是小學・大學、各有㆓東西南北四學㆒、祭義、天子設㆓四學㆒、注、謂㆓四郊之虞庠㆒也、言㆓小學㆒也、若㆘文王世子注、云㆔周立㆓三代之學㆒、鄕射禮注、云㆛周立㆚四代之學於國㆙、此二注正是一義、四代者虞夏殷周、離㆑周言之、則云㆓三代㆒、鄭所㆑云四代之學、不㆘與㆓蔡邕㆒同㆖。〔孫志祖、讀書脞錄續編、王制四郊當㆑作㆓四郊㆒〕禮記王制、周人養㆓國老於東膠㆒、養㆓庶老於虞庠㆒、虞庠在㆓國之西郊㆒、據㆔北史劉芳傳引作㆓四郊㆒、蓋西字誤也、四郊小學、卽東西南北之四學、豈應㆔偏置㆓於西郊㆒、祭義又云、天子設㆓四學㆒、當㆑入㆑學而太子齒、注云、四學、謂㆓周四郊之虞庠㆒也、正義引㆓皇氏㆒云、四郊虞庠、以㆔四郊皆有㆓虞庠㆒、其爲㆓四郊之譌㆒無㆑疑。〔金榜、禮箋、大學〕周立㆓三代之學㆒、夏后氏之東序在㆓東郊㆒、殷之瞽宗、有虞氏之上庠在㆓西郊㆒、皆大學也、云云、辟雍者、大學之統名、周立㆓三代之學㆒、通名曰㆓辟雍㆒、猶㆔五帝之學通名㆓成均㆒矣、目㆓辟雍㆒爲㆓周學㆒、上與㆓虞夏殷㆒名㆓四學㆒者、說㆑禮者之末失也、明堂位、米廩、有虞氏之庠也、序、夏后氏之序也、瞽宗、殷學也、泮宮、周學也。〔公羊、僖、十、奚齊卓子者、驪姬之子也、荀息傅焉、注〕禮、諸侯之子、八歲受㆓之少傅㆒、教㆑之以㆓小學㆒、業㆓小道㆒焉、履㆓小節㆒焉、十五受㆓大傅㆒、教㆑之以㆓大學㆒、業㆓大道㆒焉、履㆓大節㆒焉。〔大戴禮、保傅〕古者年八歲而出就㆓外舍㆒、學㆓小藝㆒焉、履㆓小節㆒焉。〔補注〕外舍、一作㆓小學㆒。〔大戴禮、保傅、古者年八歲而出就㆓外舍㆒學㆓小藝㆒焉履㆓小節㆒焉、注〕尙書大傳曰、公卿之太子、大夫元士之嫡子、年十三始入㆓小學㆒、見㆓小節㆒焉。〔新書、容經〕古者、年九歲入就㆓小學㆒、蹍㆓小節㆒焉、業㆓小道㆒焉。〔白虎通、辟雍〕古者、所㆔以年十五入㆓大學㆒何、以爲、八歲毀齒、始有㆓識知㆒、入㆑學學㆓書計㆒、七八十五陰陽備、故十五成童志明、入㆓大學㆒、學㆓經術㆒。〔漢書、藝文志〕古者、八歲入㆓小學㆒、故周官保氏、掌㆑養㆓國子㆒。〔漢書、食貨志上〕八歲入㆓小學㆒、學㆓六甲・五方・書計之事㆒、始知㆓室家長幼之節㆒。〔許愼、說文敍〕周禮、八歲入㆓小學㆒、保氏教㆓國子㆒以㆓六書㆒。〔班昭、女誡〕禮、八歲始教㆓之書㆒。〔毛奇齡、四書賸言〕但周制、小學專習㆓寫字㆒、所㆑云周禮八歲入㆓小學㆒、保氏教以㆓六書㆒、而白虎通諸書多云、入㆓小學㆒而學㆓書計㆒、則兼㆓書數㆒耳、然則小學本天子諸侯世子之學、而所㆑學又止㆓書數㆒。〔太平御覽、皇親部、太子〕尙書大傳曰、古之帝王者、必立㆓大學小學㆒、使㆘王太子王子羣后之子、以至㆓公卿大夫、元士之嫡子㆒、十有三年始入㆓小學㆒、見㆓小節㆒焉、踐㆓小義㆒焉、年二十入㆓大學㆒、見㆓大節㆒焉、踐㆗大義㆖焉、故入㆓小學㆒、知㆓父子之道、長幼之序㆒、入㆓大學㆒、知㆓君臣之義、上下之位㆒、小師取㆓小學之賢者㆒登㆓之大學㆒、大師取㆓大學之賢者㆒登㆓之天子㆒、天子以爲㆓左右㆒。〔儀禮經傳通解、卷九、學制第十六〕尙書大傳曰、使㆘公卿之太子、大夫元士之適子、十有三年始入㆓小學㆒、見㆓小節㆒焉、踐㆓小義㆒焉、年二十入㆓大學㆒、見㆓大節㆒焉、踐㆗大義㆖焉、故入㆓小學㆒、知㆓父子之道、長幼之序㆒、入㆓大學㆒、知㆓君臣之義、上下之位㆒、故爲㆑君則君、爲㆑臣則臣、爲㆑父則父、爲㆑子則子。〔大戴禮、保傅、古者年八歲而出就㆓外舍㆒學㆓小藝㆒焉履㆓小節㆒焉、注〕小學、謂㆓庠門師㆒、庠門、一作㆓虎門㆒、保之學也、云云、白虎通曰、八歲入㆓小學㆒、十五入㆓太學㆒、是也、此太子之禮、尙書大傳曰、公卿之太子、大夫元氏嫡子、年十三始入㆓小學㆒、見㆓小節㆒而踐㆓小義㆒、年二十入㆓大學㆒、見㆓大節㆒而踐㆓大義㆒、此王子入學之期也、又曰、十五年入㆓小學㆒、十八入㆓大學㆒者、謂㆘諸子姓既成者、至㆓十五㆒入㆓小學㆒、其早成者、十八入㆗大學㆖。❷文字の形象・訓詁・音韻等を研究する學問。古の小學は、教へるに六藝を以てした。故に禮樂射御書數を小學といつたが、漢になつて始めて專ら文字の學を小學といふ。漢書藝文志の小學十家に收める書は、皆、訓詁の類である。〔漢書、藝文志〕古者、八歲入㆓小學㆒、故周官保氏、掌㆑養㆓國子㆒、教㆓之六書㆒、謂㆓象形・象事・象意・象聲・轉注・假借㆒、造字之本也。〔漢書、食貨志〕八歲入㆓小學㆒、學㆓六甲・五方・書計之事㆒、始知㆓室家長幼之節㆒。〔許愼、說文敍〕今雖㆑有㆓尉律㆒不㆑課、小學不㆑脩。〔段注〕謂㆑不㆘以㆓八體㆒試㆖之也、漢志、自㆓史籀十五篇㆒、下至㆓杜林倉頡故一篇㆒、總㆑之爲㆓小學十家四十五篇㆒、謂㆓之小學㆒者、八歲入㆓小學㆒所㆑教也。〔隨意錄〕漢時、稱㆓文字學㆒以爲㆓小學㆒。〔四庫提要、經、小學類〕古小學所㆑教、不㆑過㆓六書之類㆒、故漢志以㆓弟子職㆒附㆓孝經㆒、而史籀等十家四十五篇、列爲㆓小學㆒、隋志增以㆓金石刻文㆒、唐志增以㆓書法書品㆒、已非㆓初志㆒、自㆘作㆓小學㆒以配㆗大學㆖、趙希辨讀書附志、遂以㆓弟子職之類㆒、併㆓入小學㆒、又以㆓蒙求之類㆒相參竝列、而小學益多岐矣。❸灑掃應對進退の節と、愛親敬長等の道とをいふ。宋人の說。〔朱熹、題㆓小學㆒〕古者小學、教㆑人以㆓灑掃應對進退之節、愛親敬長隆㆑師親㆑友之道㆒、皆所㆕以爲㆔脩㆑身齊㆑家治㆑國平㆓天下㆒之本。〔朱熹、大學章句序〕人生八歲、則自㆓王公㆒以下、至㆓庶人之子弟㆒、皆入㆓小學㆒、而教㆑之以㆓灑掃應對進退之節、禮樂射御書數之文㆒。❹書名。六卷。舊本は、宋の朱子撰と題するも、實は門人劉子澄が朱子の指授によつて纂述す。一に小學書といふ。內外篇に分け、內篇は、立教・明倫・敬身・稽古、外篇は、嘉言・善行の諸目を立て、灑掃・應對・進退の節から、修身道德の格言、忠臣孝子の事迹等を集め、學童課程の書とした。〔四庫提要、子、儒家類〕。

〘參考書〙【小學集注】六卷 明、陳選撰。〔四庫提要、子、儒家類〕。【小學句讀】六卷 明、陳選撰。【小學集說】六卷 明、程愈撰。【小學集解】六卷 清、張伯行撰。〔四庫提要、子、儒家類存目〕。【小學集解】六卷 清、黃澄撰。〔四庫提要、子、儒家類存目〕。【小學分節】二卷 清、高熊徵撰。〔四庫提要、子、儒家類存目〕。【小學集解】六卷 清、蔣永修撰。〔四庫提要、子、儒家類存目〕。【小學纂注】六卷 清、高愈撰。〔四庫提要、子、儒家類存目〕。【小學句讀記】六卷 清、王建常撰。〔四庫提要、子、儒家類存目〕。【小學集解】貝原篤信撰。【小學纂說】六卷 增島固撰。【小學書欄外書】一卷 佐藤坦撰。【小學書合纂】四卷 昌谷碩撰。

【小學菴】177 セウガクアン　清、錢馥(**11**－**40563**··192)の號。

【小學校】178 セウガクカウ　義務教育制度の基礎をなし、兒童の心身の發達に應じて初等普通教育を施す學校。修業年限六年。

【小學書】179 セウガクショ　書名。小學の❹を見よ。

【小學生】180 セウガクセイ　小學の生徒。〔文獻通考、選舉考、小學〕徽宗政和四年、小學生近㆓千人㆒、尙有㆓繼至者㆒、分㆓十齋㆒處㆑之、增㆓教諭俸㆒、不㆑許㆑受㆓束脩㆒。

【小學堂】181 セウガクダウ　小學校に同じ。〔周禮政要、廣學〕今西國定制、無㆑論㆓城鄕㆒、三十戶而設㆓小學堂㆒。

【小學彙函】182 セウガクヰカン　叢書の名。清、鍾謙鈞編。古經を解した諸書を類聚したもの。其の目は、第一冊、輶軒使者絕代語釋別國方言十三卷(漢、揚雄)。第二冊、釋名八卷(漢、劉熙)。第三冊、廣雅十卷(魏、張揖)。第四冊、匡謬正俗八卷(唐、顏師古)。第五・六冊、急就篇四卷(漢、史游)。第七―十冊、說文解字十五卷(漢、許愼)。第十一―十六冊、說文解字通釋四十卷(南唐、徐鍇)。第十七冊、說文解字繫傳校勘記三卷。第十八・十九冊、說文解字篆韻譜五卷(南唐、徐諧)。第二十―二十二冊、大廣益會玉篇三卷(梁、顧野王)。第二十三冊、干祿字書一卷(唐、顏元孫)・五經文字三卷(唐、張參)・九經字樣一卷(唐、唐玄度)。第二十四―二十八冊、大宋重修

廣韻五卷（宋、陳彭年等）。第二十九—三十二冊、廣韻五卷（宋、陳彭年等）。

【小學鉤沈】183 セウガクコウチン　書名。十九卷。清、任大椿撰。王念孫校。字書四十種を校輯す。顧震福の續編八卷あり。清史稿、藝文志に著錄せらる。

【小學紺珠】184 セウガクコンジユ　書名。十卷。宋、王應麟撰。天道・律曆・地理・人倫・性理・人事・藝文・歷代・聖賢・名臣・氏族・職官・治道・制度・器用・儆戒・動植の十七類に分け、名數によつて編次し、小學の者の便にす。〔四庫提要、子、類書類〕。

【小黠】185 セウカツ　少しくわるがしこいこと。〔抱朴子、道德〕凡人多以㆓小黠㆒而大愚。〔日本政記、花山天皇〕何有㆓於此猥瑣小黠之輩㆒哉。

【小甲】186 セウカフ　殷、第七代の王。太庚の子。在位十九年。史記三代世表には太庚の弟となつてゐるが、恐らくは然らず。竹書紀年には、小甲、名は高、卽位して亳に居り、十七年にして崩ずとある。〔史記、三〕。

【小榼】187 セウカフ　小さいさかだる。〔白居易、過㆓李生㆒詩〕行攜㆓小榼㆒出、逢㆑花輒獨傾。

【小盒】188 セウガフ　小さいはこ。〔開元天寶遺事、蛛絲卜巧〕帝與㆓貴妃㆒每㆑至㆓七月七日夜㆒、在㆓華清宮㆒遊宴、時宮女輩、陳㆓瓜花酒饌㆒、列㆓於庭中㆒、求㆓恩於牽牛織女星㆒也、又各捉㆓蜘蛛㆒閉㆓于小盒中㆒、至㆑曉開視㆓蛛網稀密㆒、以爲㆓得㆑巧之候㆒、密者言㆓巧多㆒、稀者言㆓巧少㆒、民閒亦效㆑之。

【小汗】189 セウカン　少しく汗ばむこと。〔孔武中、舍㆓馬轎㆒而步詩〕行行及㆓前堆㆒、小汗已霡霂。

【小旱】190 セウカン　少しくひでりする。大旱（**3**－**5831**··342）の對。〔史記、天官書〕風從㆓南方㆒來、大旱、西南、小旱。

【小咸】191 セウカン　山名。〔山海經、北山經〕小咸之山無㆓草木㆒、冬夏有㆑雪。

【小看】192 hsiao^3 kʻan^4　見下げる。見くびる。輕蔑する。小瞧。

【小寒】193 セウカン　二十四氣の一。陽曆一月六日、或は七日に當る。大寒（**3**－**5831**··349）の❷の對。〔漢書、律曆志下〕玄枵初婺女八度、小寒。〔逸周書、時訓解〕小寒之日、鴈北向。

【小寒食】194 セウカンシヨク　寒食の前或は後の日。冬至から數へて一百四日、或は一百六日をいふ。寒食（**3**－**7239**··217）・大寒食（**3**－**5831**··350）を見よ。

【小寒山子】195 セウカンサンシ　明、陳函輝（**11**－**41698**··708）の號。

【小寒在三九】196 セウカンサンキウニアリ　小寒は冬至後二十七日目に來るもの。奉天地方に行はれる農歌の一句。〔中華全國風俗志、奉天、瀋陽農家之歌謠〕小寒在㆓三九㆒、大寒就過㆑年。

【小閑】197 セウカン　少しのひま。少閑。小暇（113）に同じ。〔謝莊、與㆓江夏王義恭㆒牋〕今之所㆑希、唯在㆓小閑㆒。

【小間】198 セウカン　❶少しのすきま。小閑。〔說苑、雜言〕夫智者何以樂㆑水也、曰、泉源潰潰、不㆑釋㆓晝夜㆒、其似㆓力者㆒、循㆑理而行、不㆑遺㆓小間㆒、其似㆓持㆑平者㆒。❷hsiao^3 chien^1　とりまき。又、とりまきの類の意で、自分を卑下していふ語。〔水滸傳、七十二回〕燕青扮爲小間、只留李逵看房。〔水滸傳、七十二回〕相煩姐姐、請媽媽出來。小間自有話說。❸ヲハサマ　㋑姓氏。㋺ヲマサマ　姓氏〔姓名錄抄〕。

【小間結】199 コマムスビ　緖の結び方の名。こまかむすび。まむすび。

【小間遣】200 コマヅカヒ　禁中、又は德川幕府の下役で、手廻りの雜用に使はれるもの。〔倭訓栞〕。

【小間使】201 コマヅカヒ　主人の傍にあつて用を足す女。

【小間物】202 コマモノ　婦人の化粧品、其の他日用裝飾用のこまごました物品。細物。

【小幹】203 セウカン　少しの用事。幹は、仕事や用事。〔剪燈餘話、武平靈怪錄〕是歲有㆓小幹㆒往㆓福州㆒、爲㆑人留㆑館者數載。

【小憾】204 セウカン　些細なうらみ。〔張纘、妬婦賦〕室怒小憾、反目私言。

【小諫】205 セウカン　官名。唐代、拾遺（**5**－**12014**··1）の別名。〔容齋四筆、官稱別名〕唐人好以㆓他名㆒標㆓牓官稱㆒、云云、拾遺爲㆓小諫㆒。

【小檻】206 セウカン　小さい手すり。〔吳融、涼思詩〕松間小檻接㆑波平、月澹煙沈暑氣清。

【小簡】207 セウカン　❶小さい竹札。〔周禮、考工記、弓人〕凡相㆑筋、欲㆓小簡而長、大結而澤㆒。❷短い手紙。簡單な書信文。〔老學庵筆記、三〕宣和間、雖㆔風俗已尙㆓諂諛㆒、然猶趣㆓簡便㆒、久㆑之、乃有㆘以㆓駢儷牋啓㆒與㆓手書㆒俱行者㆖、主㆓於牋啓㆒、故謂㆓手書㆒爲㆓小簡㆒。

【小鴈】208 セウガン　小さい鴈。〔沈約、郊居賦〕其水禽則大鴻小鴈、天狗澤虞。

【小顏】209 セウガン　唐、顏師古（**12**－**43591**··157）をいふ。顏遊秦を大顏といふの對。〔史記、魏其侯傳、魏其者沾沾自喜耳多㆑易、注〕索隱曰、小顏云、沾、音他兼反。

【小巖】210 セウガン　字號。❶清、徐鑑亭（**4**－**10110**··366）の字。❷清、林汝霖（**6**－**14551**··361）の字。

【小己】211 セウキ　卑少の人。個人をいふ。〔史記、司馬相如傳贊〕大雅言㆓王公大人㆒、而德逮㆓黎庶㆒、小雅譏㆓小己之得失㆒、其流及㆑上。〔注〕索隱曰、張揖云、己、詩人自謂也、己小有㆓得失㆒、不㆑得㆓其所㆒、作㆑詩流言以諷㆓其上㆒也、故詩緯云、小雅譏㆓己得失㆒、及㆓之於上㆒也。

【小忌】212 ヲミ　❶大嘗會・新嘗祭などの時、特に齋戒を嚴にし、小忌衣を著けて親しく神事に奉仕すること。〔西宮記、新嘗會〕小忌、王卿以下著㆓青摺布袍、幷日影縵淺履等㆒。❷小忌衣の略。〔源氏物語、幻〕小忌にて、青摺の姿ども、清げに目やすくて。❸小忌人の略。

【小忌衣】213 ヲミゴロモ　大嘗祭・新嘗祭・五節・豐明節會等に、上卿・宰相・辨官、又は近衞司及びそれに與かる女官・舞妓等の小忌人が、裝束の上に著る單の服。白布の青摺で、形は狩衣に似、被の中央に紙捻をつけ、右肩に赤紐二條をつけて、袍の上に着る。〔後拾遺和歌集、雜五〕をみごろも豐の明りにかくれなき世に。

【小忌人】214 ヲミビト　大嘗會・新嘗會などに、卜に合つて神事に奉仕する官人。

【小紀】215 セウキ　鎭の名。江蘇省泰縣の西北。華陀港の北岸。一名。小郲鎭。清代、寧鄉鎭巡司を駐在せしめた。

【小氣】216 hsiao^3 chʻi^4　氣が小さい。けちな。小器。

【小氣味】217 コキミ　きみ。氣持。〔心中天網島、上〕小氣味の惡い女郎ぢや。

【小鬼】218 セウキ　❶人の靈魂。〔漢書、郊祀志上〕社主、故周之右將軍、其在㆓秦中㆒、最小鬼之神者也。〔注〕師古曰、其鬼雖㆑小、而有㆓神靈㆒也。❷子供を驚かす惡鬼。〔搜神記、十六〕昔顓頊氏有㆓三子㆒、死而爲㆓疫鬼㆒、一居㆓江水㆒爲㆓瘧鬼㆒、一居㆓若水㆒爲㆓魍魎鬼㆒、一居㆓人宮室㆒、善驚㆓人小兒㆒、爲㆓小鬼㆒。❸haiao kuei　陰險でこせこせした人を罵る語。

【小鬼頭】219 セウキトウ　小僧。こびと。人を罵る語。〔山居新語〕名妓曹秀娥、呼㆓鮮于伯機㆒爲㆓伯機㆒、鮮于佯怒曰、小鬼頭、焉敢如㆑此無禮。〔通俗編、神鬼、小鬼頭〕揮麈後錄、王和父尹㆓開封㆒、有㆘誣㆑首㆓人謀亂㆒者㆖、和父訊㆑之曰、小鬼頭沒㆓三思㆒至㆑此。

【小鬼大鬼】220 セウキタイキ　小さい鬼と大きな鬼。大小の鬼。〔秋山玉山、鍾馗掣㆑鬼圖詩〕十圍腰間三尺劍、小鬼大鬼肝膽寒。

【小飢】221 セウキ　少しの饑饉。平歲より三分の一收穫の減じた年をいふ。〔漢書、食貨志上〕小飢則收㆓百石㆒。〔注〕張晏曰、平歲百畮之收、收㆓百五十石㆒、今小飢收㆓百石㆒、收㆓三分之二㆒也。

【小喜】222 セウキ　❶遼、趙安仁（**10**－**37171**··391）の字。❷hsiao^3 hsi^3　流產。

【小槻】223 ヲツキ　姓氏。〔日用重寶記〕。

【小器】224 セウキ　❶小さいうつは。小さい器具。〔陸倕、刻漏銘〕盤盂小器、猶其昭㆑德記㆑功。❷小さな器量。又、其の人。大器（**3**－**5831**··387）の❷の對。〔論語、八佾〕管仲之器小哉。〔法言、先知〕或曰、齊得㆓夷吾㆒而霸、仲尼曰、小器、請㆓問大器㆒。〔後漢書、馬援傳〕援曰、朱勃小器速成、智盡㆑此耳。❸hsiao^3 chʻi^4　氣が小さい。

【小器作】225 hsiao^3 chʻi^4 tsuo^4　指物師。指物屋。

【小器易盈】226 セウキミチヤスシ　器量の小さいこと。〔吳質、在㆓元城㆒與㆓魏太子㆒牋〕小器易㆑盈、先取㆓沈頓㆒、醒寤之後、不㆑識㆑所㆑言。

【小璣】227 セウキ　小さくて圓くない珠。璣は、珠の圓くないもの。〔呂覽、重己〕蒼璧小璣。〔注〕珠之不㆑圜者曰㆑璣。

【小諱】228 セウキ　小さい時のなまへ。〔南齊書、武帝紀〕世祖武皇帝、小諱、龍兒、生㆓于建康青溪宅㆒、其夜陳皇后、劉昭后、同夢㆔龍據㆓屋上㆒、故字焉。

【小饑】228′ セウキ　小飢（221）に同じ。

【小伎】229セウギ　いささかの藝。わづかな腕まへ。小技。〔杜甫、貽二華陽柳少府一詩〕文章一小伎、於レ道未レ爲レ尊。〔注〕趙曰、後漢楊賜傳云、造二作賦說一、以二史篆小伎一見レ寵二於時一。

【小妓】230セウギ　年若い藝娼妓。雛妓。少妓。〔李白、出二妓金陵子一呈二盧六一詩〕南國新豐酒、東山小妓歌。〔白居易、寄二明州于駙馬使君一三絕句詩〕何郞小妓歌喉好、嚴老呼爲二一串珠一。

【小義】231セウギ　❶小さな正しい道。僅かの義理。大義(3－5831··401)の❶の對。〔淮南子、說山訓〕此行二大不義一、而欲レ爲二小義一者。〔史記、伍子胥傳〕棄二小義一雪二大恥一、名垂二於後世一、悲夫。❷梧桐(6－14872··27)の異名。〔事物異名錄、樹木、梧桐〕小義、淸異錄、劉靖家兄弟不レ異レ居、西廊梧桐生二穀枝一、鄕人號レ桐爲二小義一。

【小疑】232セウギ　すこしのうたがひ。〔尉繚子、戰威〕令者一二衆心一也、衆不レ審則數變、數變、則令雖レ出衆不レ信矣、故令之法、小過無レ更、小疑無レ中。

【小儀】233セウギ　❶唐代、禮部員外郞(一說に禮部主事)の別名。禮部員外郞(8－24844··203)を見よ。〔容齋四筆、官稱別名〕唐人好以二他名一標二牓官稱一云云、禮部爲二小儀一、爲二南省舍人一、今曰二南宮一。〔鄭谷、寄二同年禮部趙郞中一詩〕仙步徐徐整二羽衣一、小儀澄澹轉二中儀一。❷冠位十二階の第十位。推古天皇十一年制定。❸小規模の儀式。少儀。大儀(3－5831··408)の❶の對。

『小儀節會』234セウギノセチヱ　節會の一。元日、蹈歌等の節會。大夫以上之に預る。小節(793)の❷㋑に同じ。

【小戲】235セウギ　❶つまらぬいたづら。〔楊維楨、綠衣使圖詩〕殿上袞衣誰小戲、宮中錦棚搖二虎翅一。❷子供芝居。〔紅樓夢、十四回〕這日伴宿之夕、裡面兩班小戲、並耍百戲的、與二親朋堂客一伴宿。

【小丘】236セウキウ　小高いをか。こやま。〔柳宗元、至二小丘西小石潭一記〕從二小丘一西行百二十步、隔二篁竹一聞二水聲一、如レ鳴二佩環一、心樂レ之。〔朱熹、雲谷二十六詠、雲莊詩〕小丘橫二翠几一、層嶂復嵯峨。

『小丘山房』237セウキウサンバウ　明、喬世寧(2－3990··80)の室名。

【小休】238セウキウ　少しくやすむ。こやすみ。〔詩、大雅、民勞〕民亦勞止、汔可二小休一。〔箋〕休、止息也。

【小球】239セウキウ　小さな美玉。尺二寸の鎭圭をいふ。一說に、小國・大國が贄として天子に獻ずる玉。又、球は捄、法をいふ。卽ち大法小法。大球(3－5831··416)を見よ。〔詩、商頌、長發〕受二小球大球一、爲二下國綴旒一。〔箋〕湯旣爲二天所レ命、則受二小玉一、謂二尺二寸圭一也。〔傳疏〕奐謂、毛詩亦皆訓爲レ法、法有二小大一、猶三政有二小大一。

【小舅】240セウキウ　❶母の弟。をぢ。〔晉書、成帝紀〕帝怒曰、大舅已亂二天下一、小舅復欲レ爾邪。〔釋親考續編〕母弟曰二小舅一。❷配偶者の兄弟をいふ。こじうと。〔水滸傳、二回〕小王都大尉慶二誕生辰一、分二付府中一、安二排筵宴一、專請二小舅端王一。

『小舅子』241 hsiao^3 chiu^4 tzŭ　妻の弟。

『小舅子媳婦』242 hsiao^3 chiu^4 tzŭ hsi^2 fu^4　妻の弟の妻。

【小舊】243キヲ　姓氏。〔姓林全書〕。

【小菊】244コギク　❶花の細かい菊。❷下等の和紙。鼻紙の一種。〔好色一代男、七〕こぎくの鼻紙。

【小吃】245 hsiao^3 ch'ih^1　一品料理。

【小匡】246セウキヤウ　管子の篇名。

【小鄕】247セウキヤウ　❶縣名。後魏、置く。故城は山西省翼城縣の西。〔讀史方輿紀要、山西、平陽府、翼城縣〕小鄕城、在二縣西南一、後魏末置二小鄕縣一、屬二南絳郡一、隋初、縣屬二絳州一、又改爲二汾東縣一、大業初、省、義寧初、復置、屬二翼城郡一、唐初屬二澮川一、尋屬二絳州一、武德九年、省入二翼城縣一。❷セウカウ　㋑姓氏。㋺サウカウ　姓氏。〔姓林全書〕。

【小鄕宦】248セウキヤウクワン　鄕士。〔紅樓夢、四回〕這個被レ打之人、乃是本地一個小鄕宦之子。

【小脚】249セウキヤク　米糧を運送する役夫。〔六部成語、戶部、小脚、注解〕挑二送米糧一之役夫也。

『小脚婦女』250セウキヤクフヂヨ　纏足した女子。

【小圄】251セウギヨ　小さい獄舍。〔尉繚子、將理〕今夫決レ獄、小圄不レ下二十數一、中圄不レ下二百數一、大圄不レ下二千數一。

【小魚】252セウギヨ　こざかな。大魚(3－5831··474)の對。〔六韜、文韜、文師〕太公曰、緡微餌明、小魚食レ之。〔白居易、寄二皇甫七一詩〕鄰女偸二新果一、家僮漉二小魚一。〔蘇軾、讀二孟郊一詩〕初如レ食二小魚一、所レ得不レ償レ勞。

【小漁】252′セウギヨ　明、唐汝楫(2－3709··446)の號。

【小共】253セウキヨウ　小玉。小球。小拱。大球(3－5831··416)を見よ。〔詩、商頌、長發〕受二小共大共一、爲二下國駿厖一。〔箋〕小共大共、猶下所二執搢一小球大球上也。〔集傳〕共珙通、合珙之玉也。

【小供】254コドモ　こども。小兒。子供の誤用。

【小拱】255セウキヨウ　小共に同じ。〔孔子家語、弟子行〕孔子和レ之以レ文、說レ之以レ詩曰、受二小共大共一、而爲二下國駿厖一。

【小恐】256セウキヨウ　小さいおそれ。小懼。〔莊子、齊物論〕小恐惴惴、大恐縵縵。

【小恭】257 hsiao^3 kung^1　小便。

【小曲】258セウキヨク　❶すこしくまがる。〔水經、河水注〕百里一小曲。❷俗曲。俚歌。大曲(3－5831··487)の❷の對。〔馬融、長笛賦〕聽二簉弄一者遙二思於古昔一、〔注〕善曰、簉弄、蓋小曲也。〔樂府詩集、舞曲歌辭〕晉傅玄、又有二十餘小曲一、名爲二舞曲一。〔通俗編、俳優、小曲〕按、漢樂府滿歌行等篇、謂二之大曲一、小曲當下對二大曲一言上レ之、非レ若二今之小曲一也。

『小曲兒』259 hsiao^2 ch'ü^3 êrh　小唄。流行唄。俚謠。〔水滸傳、三回〕父親自小教得奴家些二小曲兒一、來這里酒樓上、趕座子。

【小極】260セウキヨク　やまひ。病氣。〔晉書、顧和傳〕和嘗詣二王導一、導小極、對レ之疲睡。

【小玉】261セウギヨク　❶吳王夫差の女の名。〔白居易、霓裳羽衣歌〕吳妖小玉飛作レ煙、越豔西施化爲レ土。〔注〕小玉、夫差女名。❷楊貴妃の侍兒をいふ。〔白居易、長恨歌〕金闕西廂叩二玉扃一、轉教三小玉報二雙成一。❸唐の名妓。霍小玉(12－42321··58)を見よ。

『小玉銀』262コダマギン　江戶時代の圓形部厚の銀貨。豆板銀。〔敎令類纂、初、六十五、金銀〕專らに小玉銀を相用ひ。

【小金】263セウキン　山名。江蘇省江都縣の北門外。四圍、水を環らし、附近の地に鐵鑊を埋む。古、水を治める者が此を以て水を壓したといふ。俗に李王鍋といふ。〔揚州名勝錄〕。

『小金川』264セウキンセン　❶川の名。金川(11－40152··714)の❶㋑を見よ。❷土司の名。漢の西南の諸蠻。唐代、吐蕃の有となる。明代、金川寺といひ、演化禪師と稱す。淸の順治七年、歸附して職を授けられ、金川と同姓となる。蕃人は金川を稱して促浸といひ、小金川を儹拉といつた。促浸は大河の濱、儹拉は小河の濱の意味で、居住の地を示す。乾隆三十九年、之を討ち平ぐ。御製平定金川勒銘美諾の碑がある。其の地に美諾廳を設く。今の四川省懋功縣。金川(11－40152··714)の❷を見よ。〔淸史稿、地理志〕四川、懋功屯務廳、大小金川土司地、順治七年、小金川歸附。

『小金蓮』265 hsiao^3 chin^1 lien^2　婦人の纏足した小足をいふ。

【小琴】266セウキン　琴の一種。絃の五筋あるもの。〔宋史、三佛齊國傳〕樂有二小琴小鼓一。〔文獻通考、樂考、絲之屬〕大琴・中琴・小琴。

【小釿】267コテウナ　羽前國の地名。

【小禽】268セウキン　ことり。小鳥。〔周禮、夏官、大司馬〕大獸公レ之、小禽私レ之。

【小錦】269 hsiao^2 chin^3　中國回敎徒の間に用ひるアラビヤ文字。

【小謹】270セウキン　わづかのつつしみ。又、小事をつつしむこと。細謹。〔淮南子、氾論〕故小謹者無二成功一。〔唐書、杜牧傳〕牧剛直有二奇節一、不レ爲二齪齪小謹一。

『小謹不二大立一』271セウキンハタイリツセズ　小さなことに拘つてばかりゐては、大なる成功は出來ない。〔管子、形勢解〕是故、其所レ謹者小、則其所レ立亦小、其所レ謹者大、則其所レ立亦大、故曰、小謹者不二大立一。

【小句】272セウク　❶短い文。〔韻府引、陸游、詩〕排レ悶與レ兒聯二小句一、破レ閒留レ客戰二枯棊一。❷名詞句・副詞句・形容詞句等をいふ。

【小屨】273セウク　小さいくつ。〔孟子、滕文公上〕巨屨小屨同レ賈、人豈爲レ之哉。

【小懼】274セウク　小さいおそれ。大懼(3－5831··522)の對。小恐(256)に同じ。〔司馬法、嚴位〕凡戰擊二其微靜一、避二其強靜一、擊二其倦勞一、避二其閑窕一、擊二其大懼一、避二其小懼一、自レ古之政也。

【小寓】275セウグウ　拙宅。私の宅。

【小隅】276 セウグウ 清、計芬(10－35220··74)の號。

【小屈】277 セウクツ 少しく屈して他日の大成を待つこと。大申(3－5831··1196)の對。〔南史、張岱傳〕無レ謂二小屈一、終當二大申一也。

【小屈必有二大申一】278 セウクツカナラズタイシンアリ 小しく身を屈すれば、後に必ず大いに伸びることがある。〔南史、張岱傳〕今欲下用レ卿爲中子鸞別駕總二刺史一之任上、無レ謂二小屈一、終當二大申一也。

【小窟】279 セウクツ 小さないはや。〔杜牧、早春寄二岳州李使君一詩〕棊翻小窟勢、壚撥凍醪醅。

【小火】280 セウクワ わづかの火。〔元稹、過二王十一館居一詩〕密宇深房小火爐、飯香魚熟近中廚。〔後主李煜、詩〕爐開小火深回レ暖、溝引二新流一幾曲聲。

【小花】281 セウクワ ㊀小さい花。〔隋書、禮儀志七〕首飾花、自二皇后一以下、小花並如二大花之數一。〔李咸用、庭竹詩〕更期春共看、桃映二小花一紅。㊁hsiao^3 hua^1 小計。

【小花臉】282 hsiao^3 hua^1 lien^3 男の道化役者。三面・三花臉・小面ともいふ。文丑(5－13450··675)に同じ。

【小花粥】283 ヲバナガユ 黑燒の薄ススキをまぜた粥。古、禁中で、八朔に食した。尾花粥。〔海人藻芥〕八月朔日に小花粥、內裏仙洞以下令レ用給。

【小花石】284 セウクワセキ 地名。湖南省湘潭縣の西南。湘江にのぞみ、石炭を產す。さきには湖南鑛務局に屬し、今は漢治萍公司に合併せらる。

【小花面】285 hsiao^3 hua^1 mien^4 劇、脚色の一種。俗に丑を曰ふ。

【小花樣】286 hsiao^3 hua^1 yang^4 小模樣。小紋。

【小華】287 セウクワ ㊀山名。〔山海經、西山經〕華山之首曰二錢來之山一、云云、西六十里、曰二太華之山一、云云、西八十里、曰二小華之山一。〔注〕卽小華山。㊁清、郭敏盤(11－39474··401)の字。

【小窠】288 セウクワ 綾織物類の格子模樣の細かいもの。窠は格子の形にしきつたもの。〔唐書、車服志〕三品以上服綾、以三鶻銜二瑞草一爲レ文、六品以下、小窠無レ文。〔裴說、薔薇詩〕一架長條萬朶春、嫩紅深綠小窠勻。

【小過】289 セウクワ ㊀小さなあやまち。すこしのあやまち。小失。小愆。大過(3－5831··539)の㊁の對。〔管子、五輔〕宥二小過一。〔尉繚子、戰威〕小過無レ更。㊁易、六十四卦の一。小事に可なりといふ象。䷽（艮下震上）。〔易、小過〕小過、亨、利レ貞、可二小事一、不レ可二大事一、云云、彖曰、小過、小者過而亨也、云云、象曰、山上有レ雷小過。〔疏〕雷之所レ出、當レ出二於地一、今出二山上一、過二其本所一、故曰二小過一。

【小過年】290 hsiao^3 kuo^4 nien^2 陰曆十二月二十三日、又は二十四日、竈神を祭る日。小年節(1011)を見よ。

【赦二小過一擧二賢才一】291 セウクワヲユルシテケンサイヲアグ 小さな過失は許して妄りに刑せず、賢德良才ある者を登用する。〔論語、子路〕仲弓爲二季氏宰一、問レ政、子曰、先二有司一、赦二小過一、擧二賢才一。〔集注〕大者、於レ事或有レ所レ害、不レ得レ不レ懲、小者赦レ之、則刑不レ濫而人心悅矣、賢有レ德者、才有レ能者、擧而用レ之。

【小寡】292 セウクワ 國が小さく民のすくない國。弱小國。老子下篇の小國寡民と同じ意。〔左氏、僖、二十一〕崇二明祀一保二小寡一、周禮也。〔會箋〕小寡、謂二小國寡民一也。

【小錁】293 セウクワ 銀塊の一種。饅頭形をしたもので、重さ一二兩から四五兩位なもの。〔燕京歲時記、元旦〕以二金銀小錁、及寶石等一藏レ之。

【小窾】294 セウクワ 小さいあな。窾はあな。〔書、舜典、在二璿璣玉衡一以齊二七政一、蔡傳〕又爲二小窾一、以受二玉衡要中之小軸一。

【小快】295 セウクワイ 小さい快事。〔史記、齊世家〕夫劫而許レ之、而倍レ信殺レ人、愈二一小快一耳。〔淮南子、繆稱〕小快害レ道、斯須害レ儀。〔淮南子、泰族〕小快害レ義、小慧害レ道、小辯害レ治。〔說苑、談叢〕夫小快害レ義。

【小塊】296 セウクワイ 小さいかたまり。〔說文〕[illegible]、[illegible]商、小塊也。

【小會】297 セウクワイ 小さな會合。少人數のあつまり。〔傅玄、辟雍鄉飲酒賦〕時皇帝親枉二萬乘之尊號一、以幸二乎辟雍一、鹵簿齊列、官正二其容一、乃延二鄉士一、乃命二王公一、定二小會之常儀一兮。

【小會同】298 セウクワイドウ 小さな會同。諸侯が其の臣を來朝せしめたとき、王が卿大夫をして行はしめる會同の禮をいふ。〔周禮、春官、小祝〕凡外內小祭祀・小喪紀・小會同・小軍旅、掌レ事焉。〔疏〕小會同、謂四諸侯遣レ臣來、王使三卿大夫與レ之行二會同之禮一。

【小黃】299 セウクワウ 縣名。㊀漢、置く。戰國、魏の邑。晉、魏の廢帝を陳留王とし、治を此處に移す。故城は河南省陳留縣の東北。〔漢書、地理志上〕陳留郡、縣十七、小黃。〔讀史方輿紀要、河南、開封府、陳留縣〕小黃城、縣東北三十里、漢縣屬二陳留郡一。㊁晉、置き、唐、廢す。故治は安徽省壽縣の西北。〔讀史方輿紀要、江南、鳳陽府、壽州〕黃城、寰宇記、晉義熙十二年、置二小黃縣一、在二安豐城西北三十里一、或卽黃城也。㊂晉、譙縣を改めて置き、隋また譙縣とす。今、安徽省亳縣の治。〔讀史方輿紀要、江南、鳳陽府、亳州〕譙縣、劉宋亦置二譙郡一、又僑二置陳留郡一、治小黃縣、云云、隋大業三年、改二小黃縣一爲二譙縣一。

【小黃香】300 セウクワウカウ 蠟梅(10－33786··43)の異名。〔事物異名錄、花卉、蠟梅〕楊廷秀詩、來レ從二眞蠟國一、自號二小黃香一。

【小黃魚】301 セウクワウギヨ 魚の名。くち。いしもち。石首魚。〔張如闌、鰉魚鮝魚銘序〕海味索隱曰、鰉魚黃魚各有二一種一、肉與レ味亦自不レ同、卽如二吾郡梅魚一、比二黃魚一極小、肉與レ味正相似、閩中呼爲二小黃魚一、其鱗色燦爛金星、如二火黃魚一也。

【小黃花】302 カセンサウ 草の名。みせんぎく。おやまをぐるま。菊科に屬する宿根草で山野に自生し、夏、黃色の花を開く。

【小黃門】303 セウクワウモン 初めて侍從と爲つたものの稱。〔後漢書、靈帝宋皇后紀〕諸常侍小黃門在二省闥一者、皆憐二宋氏無辜一。〔文獻通考、職官考、內侍省〕凡內侍初補、曰二小黃門一。

【小壙】304 セウクワウ 死骸を埋葬する小さな穴。小さな墓穴。壙は墓の穴。〔宋史、杜衍傳〕衍病革、戒二其子努力忠孝一、斂以二一枕一席一、小壙庳冢以葬。

【小黌】305 セウクワウ 地名。〔水經、巨馬河注〕淶水、又北逕二小黌東一。

【小虢】306 セウクワク 周代の國名。平王が東遷するや、西虢も亦上陽に從つたが、其の岐に留まつたものを小虢といひ、後、秦に滅さる。〔史記、秦紀〕十一年、初縣二杜鄭一、滅二小虢一。

【小官】307 セウクワン ㊀位のひくい役人。小役人。大官(3－5831··581)の㊀の對。又、官吏の自稱。卑官。微官。〔孟子、公孫丑上〕柳下惠不レ羞二汙君一、不レ卑二小官一。〔韓詩外傳、三〕至二柳下惠一則不レ然、不レ羞二汙君一、不レ辭二小官一。〔漢書、董仲舒傳〕小材雖レ累レ日、不レ離二於小官一。〔後漢書、馮衍傳下〕久棲二遲於小官一、不レ得レ舒二其所懷一。㊁hsiao^3 kuan^1 茶館の給仕人。

【小官人】308 セウクワンジン ㊀小役人。小官に同じ。〔通俗編、稱謂、小官人〕澠水燕談錄、李文定以レ女妻二孫明復一、孫固辭、文定曰、吾女不レ妻二先生一、不レ過レ爲二一小官人妻一、先生德高、天下幸壻、李氏榮貴、莫レ大二于此一。㊁hsiao^3 kuan^1 jen^2 若旦那。

【小冠】309 セウクワン 小さい冠。〔陸游、初夏詩〕室無二長物一惟空榻、頭不レ加レ巾但小冠。

【小冠者】310 コクワンジヤ 年若の冠者。小さい若者。冠者は、元服して冠をつけた若者の稱。〔源平盛衰記、三十六、鷲尾一谷案內者事〕子息の小冠者。

【小冠子夏】311 セウクワンシカ 漢の杜欽の綽名。子夏は其の字。杜鄴を大冠子夏(3－5831··588)といふ對。〔漢書、杜欽傳〕欽字子夏、少好二經書一、家富而目偏盲、故不レ好レ爲レ吏、茂陵杜鄴、與レ欽同二姓字一、倶以二材能一稱二京師一、故衣冠謂レ欽爲二盲杜子夏一、以相別、欽惡三以レ疾見レ詆、迺爲二小冠一、高廣財二寸、由レ是京師更謂レ欽爲二小冠杜子夏一、而鄴爲二大冠杜子夏一云。

【小還】312 セウクワン ㊀太陽が西南方の鳥次山に至る時刻をいふ。今の天文學でいふ回歸線を太陽が通過する時刻。王念孫の說によれば、還は遷字の譌といふ。〔淮南子、天文訓〕日出二于暘谷一、云云、至二于昆吾一、是謂二正中一、至二于鳥次一、是謂二小還一、至二于悲谷一、是謂二餔時一、至二于女紀一、是爲二大還一。〔王念孫注〕念孫案、小還大還、當レ爲二小遷大遷一、字之誤也、遷之爲レ言西也、日至二昆吾一、謂二之正中一、至二鳥次一則小西矣、故謂二之小遷一、至二女紀一則大西矣、故謂二之大遷一、白虎通義曰、西方者、遷方也、萬物遷落也、是遷與レ西同義、若作二小還大還一、則義不レ可レ通矣、舊本北堂書鈔天部一、及藝

文類聚・初學記天部上・太平御覽天部二、引レ此並作二小遷大遷一。❷仙藥の名。小還丹をいふ。〔張籍、贈二辟レ穀者一詩〕學得餐霞法、逢レ人與二小還一。〔項斯、題二太白山隱者一詩〕從下服二小還一後上、自疑二身解飛一。

【小鬟】313 セウクワン　小さなまげの意。轉じて、婢女。腰元。了鬟。〔李賀、追三賦畫二江潭苑一詩〕小鬟紅粉薄、騎馬佩珠長。〔梅堯臣、聽二文都知吹レ簫詩〕欲下買二小鬟一試教上レ之。

【小頑】314 セウグワン　私の腕白者。こせがれ。自己の子供をいふ謙辭。〔釋親考續編〕類書纂要、自稱レ子曰二賤息一、又曰二小兒・蠢頑・頑兒・小頑一。〔水滸傳、二回〕既是肯教二小頑一時、使二一棒一何妨。

【小君】315 セウクン　諸侯の臣が君主の妻を呼ぶ稱。少君。後、轉じて、妻の通稱。細君。〔儀禮、喪服子夏傳〕妻則小君也。〔春秋、文、十七〕夏四月癸亥、葬二我小君聲姜一。〔穀梁、莊、二十二〕葬二我小君文姜一、小君非レ君也、云云、以三其爲二公配一、可二以稱レ君也。〔論語、季氏〕邦君之妻、云云、邦人稱レ之曰二君夫人一、稱二諸異邦一曰二寡小君一。〔集解〕孔安國曰、小君、君夫人之稱。〔劉寶楠、正義〕小君者、比二於君一爲レ小也、春秋書レ葬二我小君一、是小君卽君夫人之稱、於二本國一稱二小君一、於二異邦一稱二寡小君一、猶下稱二其君一、於二本國一曰レ君、於二異邦一曰中寡君上也。〔後漢書、齊武王縯傳〕宗尊爲二小君一。

【小醺】316 セウクン　ちよつと酒にゑふこと。ほろゑひ。醺は酒にゑふこと。微醺。〔楊萬里、暮春小雨詩〕宿酒微醒尙小醺、似レ癡如レ病不二多欣一。

【小軍】317 セウグン　小勢の軍隊。大軍(**3－5831**・・619)の❶の對。

〖小軍機〗318 セウグンキ　清代、章京(**8－25761**・・59)の別名。軍機處の事務官。

〖小軍旅〗319 セウグンリョ　王自ら出陣せず、卿大夫を將として行はしめる征伐。〔周禮、春官、小祝〕凡外內小祭祀・小喪紀・小會同・小軍旅、掌レ事焉。〔疏〕小軍旅者、王不二自行一、遣二卿大夫一征伐。

【小郡】320 セウグン　❶小さい郡。大郡(**3－5831**・・621)の❶の對。〔梁知微、詩〕符竹紆二小郡一、江湖被二德聲一。❷大化の制で三里、大寶の制で二里以上四里以下の郡をいふ。〔日本書紀、孝德紀〕大化二年正月甲子朔、凡郡以二四十里一爲二大郡一、三十里以下四里以上爲二中郡一、三里爲二小郡一。〔戶令〕凡郡以二二十里以下十六里以上一爲二大郡一、十二里以上爲二上郡一、八里以上爲二中郡一、四里以上爲二下郡一、二里以上爲二小郡一。

【小刑】321 セウケイ　❶小さい刑罰。〔周禮、地官、司市〕市刑、小刑憲罰、中刑徇罰、大刑扑罰。❷小さい劍。小劍。〔越絶書、越絶外傳記寶劍〕歐治乃因二天之精神一、悉二其伎巧一、造爲二大刑三、小刑二一、一曰湛盧、二曰純鈞、三曰勝邪、四曰魚腸、五曰巨闕。❸五月をいふ。〔淮南子、天文〕陰生二於午一、故五月爲二小刑一、薺麥亭歷枯、冬生草木必死。

【小形】322 セウケイ　小さい形。こがた。〔急就篇、三〕水蟲、科斗、鼃、蝦蟇。〔注〕鼃、一名螻蟈、色青、小形而長股。

【小型】323 コガタ　小さい型。

〖小型映畫〗324 コガタエイグワ　小型フイルムで撮影した映畫。フイルムの幅、十六ミリ・八ミリを普通とする。多く家庭用・研究用として使用せられる。

【小扃】325 セウケイ　小さな鼎のみづる。扃は鉉。〔周禮、考工記、匠人〕闈門、容二小扃參个一。〔注〕小扃、膷鼎之扃。

【小計】326 セウケイ　❶小さな計算。僅かばかりの利害の打算。〔管子、霸言〕夫爭二天下一者、必先爭レ人、明二大數一者得レ人、審二小計一者失レ人、得二天下之衆一者王、得二其半一者霸。❷一部分のしめだか。總計(**8－27844**・・46)の對。〔周禮、天官、小宰〕月終則以二官府之敘一受二羣吏之要一。〔注〕主二每月之小計一。〔疏〕言二小計一、對三下經歲會爲二大計一也。

【小奚】327 セウケイ　十四五歲の年齡で、勞役に服するもの。若いしもべ。奚は隸役。召使。小者。〔唐書、李賀傳〕每旦日出、騎二弱馬一、從二小奚奴一、背二古錦囊一、遇レ所レ得、書投二囊中一。

〖小奚奴〗328 セウケイド　年少の下僕。〔稱謂錄、僕、小奚奴〕李商隱李賀詩集序、恆從二小奚奴一騎二駏驢一、背二一破錦囊一。

【小徑】329 セウケイ　小さなみち。こみち。小逕。〔王勃、贈二李十四一詩〕小逕偏宜レ草、空庭不レ厭レ花。〔李材、遊二山寺一詩〕細泉分二別澗一、小逕入二他山一。

〖小徑岐出〗330 セウケイキシユツ　小みちがわかれ出ること。〔齋藤拙堂、山房觀レ楓記〕小徑岐出、使二人迷一。

【小桂】331 セウケイ　地名。今の廣東省連縣の治。漢の桂陽縣。三國吳のとき、もと桂陽に屬したことから小桂といふ。〔讀史方輿紀要、廣東、廣州府、連州〕桂陽廢縣、輿地志云、連州桂陽縣、漢屬二桂陽郡一、因謂二之小桂一。

【小荊】332 セウケイ　藥草の名。はましきみ。はまかつら。濱椿。はま豆。牡荊(**7－19933**・・10)の異稱。〔本草、牡荊〕釋名、黃荊、小荊。

【小畦】333 セウケイ　二十五畝をいふ。五十畝を大畦といふ對。〔孟子、滕文公下、病二於夏畦一、劉注〕今俗以二二十五畝一爲二小畦一、以二五十畝一爲二大畦一也。

【小袿】334 コウチギ　昔の婦人の禮服。小袖の如く袖廣く、地は浮織で平絹の裏をつけたもの。小褂。〔台記別記〕久安四年八月二十一日、著二唐衣一之時、不レ著二小褂一、著二小褂一之時、不レ著二唐衣一、是禮也、詣二神社一及奉幣之時、著二唐衣一不レ著二小褂一。

【小卿】335 セウケイ　官名。大卿の副。少卿。〔周禮、天官、序官、治官之屬、大宰卿一人、小宰中大夫二人、〔疏〕又云下自二大宰一至二旅下士一、轉相副貳、皆王臣也上者、大卿一人、小卿則二人、已下皆去レ上一倍者、是轉相副貳也。

【小惠】336 セウケイ　少しばかりのめぐみ。〔左氏、莊、十〕對曰、小惠未レ徧、民弗レ從也。〔陳琳、檄二吳將校部曲一文〕懷二寶小惠一。

【小揭】337 セウケイ　僅かばかり裳をかかげること。〔蘇軾、正月二十四日與二兒子過・賴仙芝・王原秀才・僧曇穎・行全・道士何宗一一同游二羅浮道院及栖禪精舍一過作レ詩和二其韻一寄二邁迨一一首〕斷橋尋二勝踐一、脫レ屨欣二小揭一。

【小愒】338 セウケイ　少しく息む。愒は息。小憩。少憩。〔詩、大雅、民勞〕民亦勞止、汔可二小愒一。〔傳〕愒、息。

【小景】339 セウケイ　小さい景色。規模の小さい繪畫。〔圖繪寶鑑、三〕智永成都僧工二小景一、長二于傳模一、宛然亂レ眞。

【小溪】340 セウケイ　鎭の名。❶浙江省鄞縣の南。唐初、鄮縣の治。元、巡司を駐め、後、廢す。清、巡司を駐む。〔讀史方輿紀要、浙江、寧波府、鄞縣〕句章城、晉隆安四年、孫恩作レ亂、劉牢之等討レ之、改築二勾章城於小溪鎭一、卽此城也。❷四川省富順縣の西。威遠・榮縣の境に近い樓。

〖小溪墟〗341 セウケイキヨ　地名。江西省雩都縣の西南、小溪水の東岸。なほ小溪水の源は二つあり、一は馬嶺、一は桑坑から出る。

【小經】342 セウケイ　卷數の少い經書。周易・尙書・春秋公羊傳・穀梁傳等。大經(**3－5831**・・639)の❸・中經(**1－73**・・225)の❷の對。〔唐書、選擧志上〕凡禮記・春秋左氏傳爲二大經一、詩・周禮・儀禮爲二中經一、易・尙書・春秋公羊傳・穀梁傳爲二小經一。〔宋史、楊億傳〕億生有レ毛被レ體、長尺餘、經レ月乃落、能言、母以二小經一口授、隨卽成レ誦。

【小慧】343 セウケイ　小さいちゑ。こざかしいちゑ。小才。〔論語、衞靈公〕子曰、羣居終日、言不レ及レ義、好行二小慧一、難矣哉。〔鄭注〕小慧、謂二小小之才智一。〔淮南子、泰族〕小快害レ義、小慧害レ道、小辯害レ治。〔說苑、談叢〕小慧害レ道。〔後漢書、韋彪傳〕雖下曉二習文法一、長中於應對上、然察察小慧、類無二大能一。

【小憩】344 セウケイ　ちよつとやすむ。又、こやすみ。小愒。少憩。〔許謙、遊二鍾山一詩〕巖回屐欲レ倦、小憩倚二脩竹一。

【小髻】345 セウケイ　小さいもとどり。轉じて、婢女をいふ。〔羅虬、比紅兒詩〕輕梳二小髻一號慵來、巧中二君心一不レ用レ媒。〔周秦行紀〕中有二小髻一、出責二黃衣一。

【小薊】346 セウケイ　藥草の一種。こあざみ。あきあざみ。〔本草、大薊小薊〕集解、恭曰、小薊生二平澤一、不レ能レ消レ腫、而俱能破レ血。

【小雞】347 セウケイ　雞の雛。ひよこ。〔燕京歲時記、太陽糕〕二月初一日、市人以二米麪一團二成小餅五枚一、二層上貫以二寸餘小雞一、謂二之太陽糕一。

〖小雞兒〗348 hsiao^3 chi^1 êrh　雞の雛。

【小觿】349 セウケイ　小さいつのぎり。象牙で造り、佩びて結び目を解くに用ひる。童子の腰におびる物。〔禮、內則〕左佩二紛帨・刀礪・小觿・金燧一。〔注〕小觿、解二小結一也、觿貌如レ錐、以二象骨一爲レ之。

【小藝】350 セウケイ　❶禮樂射御書數をいふ。小學(176)

の㊁を見よ。〔大戴禮、保傅〕古者八歲而出就二外舍一、學二小藝一焉。㊁ちよつとしたわざ。〔沈約、梁武帝集序〕雕蟲小藝、無レ累二大道一。

【小喬】351（セウケウ）　三國吳の周瑜の妻。一に、小橋に作る。小橋の㊂・二喬（1－247・・273）を見よ。〔唐彥謙、漢代詩〕王氏憐二諸謝一、周郎定二小喬一。

【小橋】352（セウケウ）　㊀小さい橋。こばし。〔庾信、詠レ畫二屛風一詩〕小橋飛二斷岸一、高花出二迴樓一。〔王冕、梅花詩〕吹二徹瑤笙一鶴未レ歸、小橋流水碧潺潺。㊁驛の名。四川省巫山縣の東南。大江にのぞみ、四川省に入る要道に當る。明の萬曆中、小橋公館を改めて巴中馬驛を置き、清の康熙中、小橋驛と改む。後、廢して鋪とす。〔讀史方輿紀要、四川、夔州府、巫山縣、高唐驛〕萬曆三年、改二小橋公館一、建二巴中驛一。㊂三國吳の大橋の女弟。周瑜の妻。一に、小喬に作る。〔吳志、九〕。㊃（ヲバセ）攝津國の地名。

【小橋截レ綠】353（セウケウミドリヲタツ）　小さい橋が綠色の流水を橫にたちきる。綠は橋下の溪水の色。〔林鶴梁、靜古館記〕苟有レ溪、則水落石出、苔碧沙明、扁舟繫レ灣、小橋截レ綠。

【小轎】354（セウケウ）　小さいかご。小轎子を見よ。

【小轎子】355 hsiao³ chiao⁴ tzŭ　小形で頂子を附けず、二人或は三人の轎夫でかつぐ一般用の轎。〔宋史、曹輔傳〕政和後、帝多微行乘二小轎子一。

【小隙】356（セウゲキ）　㊀ちよつとのすきま。少しの間隙。小隙沈レ舟を見よ。㊁ちよつとした仲違ひ。

【小隙沈レ舟】357（セウゲキフネヲシヅム）　ちよつとしたすきまでも舟を沈めることがある。小事をつつしむべき喩。〔關尹子、九藥〕勿レ輕二小事一、小隙沈レ舟。

【小覡】358（セウゲキ）　年少の男子のみこ。〔元稹、賽神詩〕去年大巫死、小覡又妖言。

【小決】359（セウケツ）　すこしきりひらく。大決（3－5831・・669）の對。〔左氏、襄、三十一〕然猶レ防レ川、大決所レ犯、傷レ人必多、吾不レ克レ救也、不レ如二小決使レ道。

【小缺】361（セウケツ）　小さな缺點。〔管子、宙合〕苟大意得、不下以二小缺一爲上傷。

【小結】362（セウケツ）　㊀受驗の時などに用ひる同鄉官の身元保證書。〔清會典事例、禮部、貢擧、繕卷條規〕小結用レ蓋、大結用レ抑。㊁（コムスビ）相撲で、關脇の次位、三役の最下位。

【小結大結】363（セウケツダイケツ）　八股文の形式の一つ。束語結語は大結小結から成り、小結は起講と相應じて結び、大結は破題・承題と相應じて之を結ぶ。八股文（2－1450・・173）を見よ。

【小歇】364（セウケツ）　小休する。小休憩。小愒。〔楊萬里、贈二相士蓑衣道人杜霈一詩〕坐來小歇過レ眉拄。

【小月】365（セウゲツ）　㊀小の月。陰曆で日數二十九日の月。陽曆では三十日の月。但し、二月は二十八日か二十九日。大月（3－5831・・675）の㊁の對。〔書、洪範、二曰月、疏〕二曰月、從レ朔至レ晦、大月三十日、小月二十九日、所三以紀二一月一也。〔呂覽、明理〕有三小月承二大月一。〔獨斷〕閏月者、所下以補二小月之減日一以正中歲數上、故三年一閏、五年再閏。㊁小月氏の略。〔梁簡文帝、從軍行〕先平二小月陣一、却滅二大宛城一。㊂hsiao³ yüeh⁴　流產。

【小月氏】366（セウゲツシ）　漢時代の西域の國名。月氏（5－14330・・145）を見よ。〔史記、衞青傳〕遂過二小月氏一、攻二祁連山一、得二酋涂王一。

【小狹】367（セウケフ）　小さくせまい。〔後漢書、鍾離意傳〕竊見、北宮大作、人失二農時一、此所謂宮室榮也、自レ古非レ苦二宮室小狹一、但患三人不二安寧一、宜三且罷止以應二天心一。

【小狹野屋】368（ササノヤ）　歌人、望月長好の號。

【小脇】369（コワキ）　脇。小は接頭語。〔平治物語、待賢門軍事〕弓をば小脇に搔い挾み。

【小脇差】370（コワキザシ）　脇差の小さなもの。九寸五分までのものをいふ。〔甲陽軍鑑、七〕小脇差をもつて利を得たる者は、小脇差をすき候。

【小業】371（セウゲフ）　小さな仕事。とるに足らぬ商賣。大業（3－5831・・679）の㊀の對。〔史記、貨殖傳〕行賈丈夫賤行也、而雍樂成以饒、販レ脂辱處也、而雍伯千金、賣レ漿小業也、而張氏千萬。

【小犬】372（セウケン）　㊀小さい犬。こいぬ。〔高啓、宮女圖詩〕小犬隔レ花空吠レ影、夜深宮禁有レ誰來。㊁hsiao² ch'üan³　私の伜。謙語。

【小犬座】373（セウケンザ）　南天星座の一つ。こいぬざ。雙子座の南、オリオン座の東にある星座。

【小見】374（セウケン）　㊀僅かに見る。又、小さな見解。小察。〔淮南子、泰族〕小義破レ道、小見不レ達。〔新書、修政語上〕然可二以小見一、而不レ可二以大知一。㊁略式の謁見。〔史記、梁孝王世家補〕諸侯王朝二見天子一、漢法、凡當二四見一耳、始到、入小見。

【小建】375（セウケン）　小の月。陰曆の二十九日で終る月。大建（3－5831・・685）の對。小建銀を見よ。

【小建銀】376（セウケンギン）　清代、各省で關稅を徵收するには月の大小の區別なく、均しく三十日分を徵收し、二十九日分を中央政府に解送した、そのこと。〔六部成語、戶部、小建銀、注解〕凡徵二收關稅一、無レ論二月大月小一、均按二三十日一徵收、而按二二十九日一解レ部、謂二之小建銀一。

【小倦】377（セウケン）　少しくつかれる。〔世說新語、賞譽〕王丞相招二祖約一夜話、至レ曉不レ眠、明旦有レ客、公頭鬢未レ理、亦小倦。

【小倦游閣】378（セウケンイウカク）　清、包世臣（2－2506・・157）の室名。

【小峴】379（セウケン）　㊀山名。安徽省合肥縣の東。含山縣の界。昭關山ともいふ。南齊の永元二年、蕭懿が裴叔業を壽陽に討ち、步軍に將として屯した所。〔讀史方輿紀要、江南、名山、峴山〕峴山有レ二、大峴山在二和州含山縣東北十三里一、小峴山在二含山縣北二十里一、輿地志、小峴在二合肥之東一、大峴在二小峴之東一、是也、胡三省曰、六朝都二建康一、自二歷陽一西趨二壽陽一、自二壽陽一東向二建康一、小峴爲二往來要路一、而小峴尤爲二險扼一。㊁清、秦瀛（8－24995・・6）の字。

【小軒】380（セウケン）　小さな家。〔蘇軾、再和二楊公濟梅花十絕一詩〕白髮思レ家萬里回、小軒臨レ水爲レ花開。㊀清、吳長慶（2－3365・・773）の號。

【小乾】381（セウケン）　清、李仲元（6－14459・・1733）の字。

【小圈】382（セウケン）　㊀球の中心を通過しない平面が、球となす交線。大圈（3－5831・・687）の㊀の對。〔新法曆書、天漢〕渾天衆圈、有レ大有レ小、云云、如二冬夏二至一、圈常見常隱、圈各距等、凡與レ地不レ同レ心者、皆小圈也。㊁小さい國。大圈（3－5831・・687）の㊁の對。〔大玄經、交〕大圈閎閎、小圈交レ之。㊂小さい圈點。〔朱文公校昌黎先生集、凡例〕小圈下、今按、云云、並是考異全文。

【小嫌】383（セウケン）　少し嫌ふ。幾分嫌ひな。些かな嫌惡。〔唐書、尉遲敬德傳〕引二見臥內一曰、丈夫以レ氣相許、小嫌不レ足レ置二胸中一。

【小愆】384（セウケン）　小さなあやまち。わづかなあやまち。小過。〔福惠全書、刑名部、賊盜上、遴捕役〕偶有二小愆一、而又破レ格優二容之一。

【小絹】385（セウケン）　幅のせまい絹。〔魏書、辛穆傳〕遂敕二汝陽一郡一、聽下以二小絹一爲上調。

【小遣】386（コヅカヒ）　小遣錢の略。〔浮世床、初編下〕小づかひの二三百。

【小遣錢】387（コヅカヒゼニ・コヅカヒセン）　小買物などに費す錢。〔好色一代女、五〕小遣錢くるる人あり。

【小遣帳】388（コヅカヒチヤウ）　仕拂ひの小遣錢を記しおく帳面。

【小劍】389（セウケン）　㊀ちひさいかたな。あひくち。〔周禮、考工記、桃氏〕身長三、其莖長重五鋝、謂二之下制一、下士服レ之、疏〕云二此今之匕首也一者、漢時名二此小劍一爲二匕首一也。㊁城の名。四川省昭化縣の西南。〔元和志〕云二大劍戍一四十里、謂二之劍閣道一、自二縣西南一踰二小山一入二大劍口一、卽秦使二張儀・司馬錯伐一レ蜀所レ由路也、亦謂二之石牛道一、又有二古道一、自二縣東南一經二益昌戍一、又東南入二劍州普安縣界一、卽鍾會伐レ蜀之路也。

【小縣】390（セウケン）　㊀小さい縣。〔晉書、石苞傳〕苞見二吏部侍郎許允一、求レ爲二小縣一。〔北堂書鈔〕名人屈二臨小縣一、甚不レ宜爾。㊁（ヲアガタ）縣の小さなもの。大縣（3－5831・・698）の㊀の對。〔古事記、中〕亦定二賜國國之堺、及大縣小縣之縣主一也。㊂（チヒサガタ）信濃國の郡名。

【小譴】391（セウケン）　僅かなとがめだて。小さな罪。少譴。〔唐書、太宗皇后長孫氏傳〕時房玄齡小譴就レ第。

【小驗】392（セウケン）　すこしのしるし。すこしの效驗。〔謝枋得、文〕此亦可三以見二其小驗一。

【小言】393（セウゲン）　㊀口先だけで巧みに話す。又、口達者に話す言葉。〔列子、黃帝〕彼所二小言一、盡人毒也。〔莊子、列禦寇〕彼所二小言一、盡人毒也。〔注〕細巧入レ人爲二小言一。〔釋文〕小言、言不レ入レ道、故曰二小言一。㊁さして重要でない言葉。小事に關す

る言葉。小語。大言(3－5831‥712)の❶の對。〔禮、表記〕子曰、事レ君大言入、則望二大利一、小言入、則望二小利一、故君子不下以二小言一受中大祿上、不下以二大言一受中小祿上。〔注〕大言可三以立二大事一也、小言可三以立二小事一也。〔疏〕小言、謂下立二小事一之言上、小言進入受二於君一、則望二小利一也。〔莊子、齊物論〕大言炎炎、小言詹詹。〔疏〕儒墨小言、滯二於競辯一、徒有二詞費一、無レ益二教方一。❸（ゴト）わづかのことをいひ立てて人を叱責すること。又、その言葉。叱言。〔狂言記、宗論〕こごとを言はずとも、其方も說かしませ。

【小阮】394（セウゲン）　❶晉の阮籍の姪、阮咸(11－41569‥7)の❷をいふ。〔陳師道、上二晁主客一詩〕從レ昔竹林須二小阮一、只今未レ可レ棄二山王一。❷他人の姪をいふ。叔父を大阮(3－5831‥718)の❷といふに對。〔李白、送三楊山人歸二天台一詩〕我家小阮賢、剖レ竹赤城邊。〔李嘉祐、送下工牧往二吉州一謁中使君叔上詩〕使君鄰二小阮一、應レ念倚門愁。〔書言故事、宗族類〕姪曰二小阮一。❸字號。㋑清、顧予咸(12－43689‥373)の字。㋺清、張聽咸(4－9812‥1303)の字。

〖小阮主人〗395（セウゲンシユジン）　清、汪玉軫(6－17154‥202)の號。

【小絃】396（セウゲン）　琴のほそい絲。大絃(3－5831‥722)の對。〔韓詩外傳、一〕治レ國者、譬若二乎張レ琴然、大絃急、則小絃絕矣。〔史記、田敬仲世家〕夫大絃濁以春溫者君也、小絃廉折以清者相也。〔淮南子、泰族〕張レ瑟者、小絃急而大絃緩。〔白居易、琵琶行〕大絃嘈嘈如二急雨一、小絃切切如二私語一。

【小戶】397（セウコ）　❶小さい家。貧しい家。又、貧乏人。〔薩都剌、曉起詩〕矮窻小戶坐終日、覓レ茶繞レ坐松風生。❷酒量のすくない人。下戶。大戶(3－5831‥724)の❷の對。〔杜荀鶴、雪中別二詩友一詩〕酒寒無二小戶一、請酌滿二行杯一。〔餘冬序錄〕小戶雖レ不レ入レ口、亦澆灌取レ盡。〔稱謂錄、酒、小戶〕清異錄、席間健飲客曰二大戶一、量小者曰二小戶一。

〖小戶木〗398（コヘキ）　伊勢國の地名。

〖小戶人家〗399　hsiao^3 hu^4 jen^2 chia　貧乏人。小身代の家。小家子。

【小姑】400（セウコ）　❶夫の妹。こじうとめ。大姑(3－5831‥730)の對。〔古詩、爲二焦仲卿妻一作〕新婦初來時、小姑始扶レ牀。〔古樂府、青溪小姑曲〕開二門白水一、側近二橋梁一、小姑所レ居、獨處無レ郎。〔王建、新嫁娘詞〕未レ諳二姑食性一、先遣二小姑嘗一。〔稱謂錄、夫之妹、小姑〕案、婦謂二夫之妹一曰二小姑一。〔釋親考〕夫之女弟爲二女妹一、丘氏曰、自レ唐以來、稱爲二小姑一、故詩有下先遣二小姑嘗一之句上、家禮考證、李白去婦詞、回レ頭語二小姑一、莫レ嫁レ如二兄夫一、王仲初、新嫁娘詩、未レ諳二姑食性一、先遣二小姑嘗一、是小姑者、夫之妹也。❷山名。小孤山。俗に訛つて小姑に作る。小孤の❷を見よ。

〖小姑子〗401　hsiao^3 ku^1 tzŭ　夫の妹。

【小孤】402（セウコ）　山名。❶滿洲吉林省伊通縣の西南。遼寧省開原縣に通ずる路がある。❷江西省彭澤縣の北、安徽省宿松縣の東。長江中に屹立し、高峻秀麗、俗に髻山といふ。彭蠡湖の大孤と區別して小孤と稱し、俗に訛して小姑に作る。〔歸田錄、二〕江南有二大小孤山一、在二江水中一、巍然獨立、而世俗轉レ孤爲レ姑、江側有二一石磯一、謂二之澎浪磯一、遂轉爲二彭郎磯一、云二彭郎一者、小姑壻也。〔小孤山志〕宿松縣東有レ山、在二水中央一、爲二小孤山一、鄰二彭澤閒一、突兀巑岏、一柱直插二天半一、舊云二髻山一、相沿日久、遂指二小孤一謂二小姑一、非也、山以二特立不倚一、故名、其云レ小者、則從二彭澤之大孤一別言レ之耳。

〖小孤山人〗403（セウコサンジン）　宋、林同(6－14551‥201)の號。

【小狐】404（セウコ）　❶小さなきつね。子ぎつね。〔易、未濟〕小狐汔濟、濡二其尾一。❷複姓。小戎の❸に同じ。〔路史、後紀、注〕世本有二大狐氏・小狐氏一、溱爲二大狐氏一、射姑爲二小狐氏一。

【小股】405　hsiao^2 ku^3　拂込株金。

〖小股憑票〗406　hsiao^2 ku^3 p‘ing^2 p‘iao^4　株金拂込證書。

【小故】407（セウコ）　小さな事柄。小さな理由。大故(3－5831‥740)の❸の對。〔墨子、經說上〕小故有レ之不二必然一、無レ之不二必然一。〔新書、鑄錢〕凡治不レ得レ應二天地一、星辰有レ動、非二小故一也。〔蔡邕、上二封事一陳二政要七事一疏〕任二禁忌之書一、拘二信小故一、以虧二大典一。

【小瓠】408（コフクベ）　枇杷(6－14528‥1)の異名。

【小袴】409（コバカマ）　❶指貫の袴の異名。〔榮華物語、木綿四手〕小袴きて、足駄はかせ給ひて。❷武家で素袍（スハウ）の下に用ひた袴。〔源平盛衰記、十六、三位入道歌等事〕鎧をば脫ぎ置きて、直垂・小袴計り也。❸後世、半袴の一名。

【小壺】410（コツボ）　❶狹い中庭。壺は坪に通じ、殿中の建物の閒、又は垣の內の庭などの稱。小坪。〔明月記〕寬喜二年六月二十四日、東小壺有レ蛇、以二友村一令二取棄一。❷小さいつぼ。

【小湖】411（セウコ）　❶湖の名。江蘇省吳縣に在る。〔吳地記〕越伐レ吳、禦二之笠澤一、其江之源、連二接太湖一、一江、東南流五十里入二小湖一、一江、東北二百六十里入二於海一、一江、西南流入二震澤一、此三江之口也。❷字號。㋑清、高不騫(12－45313‥1315)の號。㋺清、沈維鐈(6－17189‥415)の號。㋩清、李聯琇(6－14459‥2012)の字。

【小鼓】412（セウコ）　樂器の名。羯鼓(9－28537‥3)の變製で、一面だけに皮を張つた鼓。一名、單皮鼓。俗に腷鼓といひ、又、崩子鼓ともいふ。〔唐書、儀衞志下〕鼓吹部有二掆鼓・大鼓・金鉦・小鼓・長鳴・中鳴一。〔宋史、三佛國傳〕樂有二小琴・小鼓一。

【小午】413（セウゴ）　清、袁保恒(10－34152‥237′)の字。

【小吾】414（セウゴ）　清、鍾浩(11－40672‥12)の號。

【小浯】414′（セウゴ）　清、湯蠖(7－17874‥141)の號。

【小語】415（セウゴ）　❶ちよつとした言葉。小言。大語(3－5831‥757)の❶の對。〔傅咸、小語賦〕楚襄王登二雲陽之臺一、景差・唐勒・宋玉侍、王曰、能爲二小語一者處二上位一。❷論理學用語。小辭(571)に同じ。

【小口】416（セウコウ）　❶小さい口。又、小さい入口。〔禮、少儀、小飯而亟レ之、疏〕小飯、謂二小口而飯一。〔陶潛、桃花源記〕山有二小口一、髣髴若レ有レ光。❷細民。〔後漢書、南蠻傳〕歲令三大人輸二布一匹一、小口二丈、是謂二賨布一。❸（コグチ）㋑きりくち。きりはし。横斷面。㋺はし。いとぐち。㋩こわけ。小區分。㋥小額。小量。㋭小口彫の略。㋬小口當座の略。㋣取引所用語。少額の賣買。小額の取引き。又、其の賣買、取引きをする人。

〖小口袴〗417（コグチバカマ）　括りのある大口袴。紅染綾で作り、冬は綿を入れ、夏は生絹（スズシ）で單にする。さしぬき。〔西宮記、二十〕小口袴、冬時主上著レ之、深紅入レ綿、或打レ之。

〖小口廠〗418　hsiao^2 k‘ou^2 ch‘ang^3　小工場。

〖小口書〗419（コグチガキ）　物の小口に、其の物の性質內容などを書き記すこと。又、そのもの。

〖小口彫〗420（コグチボリ）　版木の材の横斷面に施す彫刻。

【小工】421　hsiao^3 kung^1　人夫。人足。苦力。

【小公】422（セウコウ）　大名や貴族の子の尊稱。若殿。若君。大公(3－5831‥767)の對。〔季瓊日錄〕延德二年五月二十三日、小公御劍、山名小次郎量重持レ之、侍二左邊一云云、大公御劍、大館次部大輔賴綱持レ之。

〖小公子〗423（セウコウシ）　大名や貴族の子で、年少のもの。

【小孔】424（セウコウ）　小さいあな。〔漢書、趙廣漢傳、教下吏爲二缿筩一、乃得上校レ書、注〕缿、若二今盛錢藏缾一、爲二小孔一、可レ入而不レ可レ出、用二受書一令レ投二于其中一也。〔後漢書、光武十王、東平王蒼傳〕遺二宛馬一匹一、血從二前髆上、小孔中一出。

【小功】425（セウコウ）　❶喪服の名。五服の一。五箇月の喪服。功は喪服の布をつくるわざ。小は緻密の意。この服は、大功に比して、布が緻密なので小功といふ。本宗が曾祖父母・伯叔祖父母・堂伯叔父母・左室の祖姑・堂姑・已に嫁したる堂姉妹・嫡孫婦（本宗の妻は以上の者の爲に均しく緦麻を服す）・兄弟の妻・堂姪・姪孫・在室の堂姪女・姪孫女（本宗の妻は以上の者の爲に均しく夫の服に從ふ）・從堂兄弟・在室の從堂姉妹（本宗の妻は以上の者の爲に均しく服無し）の爲に、嫡孫・衆孫が庶祖母の爲に、妾が家長祖父母の爲に、已に嫁したる女が曾祖父母・堂兄弟・已に嫁したる姑姉妹・姪女・在室の堂姉妹の爲に、外親が外祖父母・母舅・母姨の爲に孰れも之を服す。大功(3－5831‥771)の❶の對。〔儀禮、喪服〕小功。〔禮、曲禮上〕大功小功不レ諱。〔韻會〕功、大功小功、喪服名、謂三治レ布功有二精麤之分一。❷小さいてがら。大功(3－5831‥771)の❷の對。〔戰國、魏策〕說二文王之義一、以示二天下一、豈小功也哉。

【小拘】426（セウコウ）　小さい事に拘はる。小節にこだはる。〔史記、荀卿傳〕荀卿嫉下濁世之政、亡國亂君相屬、云云、鄙儒小拘、如ニ莊周等一、又猾稽亂上俗。

【小狗】427 hsiao^{2} kou^{3}　愚者。人を罵る語。

〖小狗兒的〗428 hsiao^{2} kou^{3} êrhtê　子供を罵る語。

【小侯】429（セウコウ）　㊀小國の大名。子爵・男爵の國の殿樣。大侯(3－5831‥781)の㊁の對。〔禮、曲禮下〕庶方小侯、入ニ天子之國一曰ニ某人一、於レ外曰レ子、自稱曰レ孤。〔注〕謂ニ戎狄子男君一也。〔疏〕小侯、謂ニ四夷之君一、非ニ爲レ牧者一也。〔管子、大匡〕管仲又請ニ曰、云云、小侯以ニ鹿皮一報、云云、小侯以レ犬報、云云、小侯既服、大侯既附。〔史記、漢興以來諸侯年表序〕大國不レ過ニ十餘城一、小侯不レ過ニ數十里一。㊁列侯でないのに寵遇せられて列侯同樣の待遇を受けるもの。又、年少で封地を得たもの。〔後漢書、明帝紀〕爲ニ四姓小侯一開ニ立學校一、置ニ五經師一。〔注〕又爲ニ外戚樊氏・郭氏・陰氏・馬氏諸子弟一立レ學、號ニ四姓小侯一、置ニ五經師一、以レ非ニ列侯一、故曰ニ小侯一。〔顏氏家訓、書證〕漢明帝紀、爲ニ四姓小侯一立ニ學校一、桓帝加ニ元服一、又賜ニ四姓及梁鄧小侯帛一、是知ニ皆外戚一也、明帝時、外戚有ニ樊氏・郭氏・陰氏・馬氏一、爲ニ四姓一、謂ニ之小侯一者、或以ニ年小獲レ封、故須レ立レ學耳、或以ニ侍祠猥朝、侯非ニ列侯一、故曰ニ小侯一。

【小紅】430（セウコウ）　㊀喪服の名。小功(425)の㊀に同じ。紅は功。一說に、えりの緣を紅にするからといふ。〔史記、文帝紀〕服ニ大紅一十五日、小紅十四日。〔注〕集解曰、服虔曰、當レ言ニ大功小功布一也、云云、應劭曰、紅者、中祥大祥、以レ紅爲ニ領緣一也、索隱曰、劉德云、紅亦功也、男功非レ一、故以ニ工刀一爲レ字、而女工唯在ニ於絲一、故以ニ糸工一爲レ字。〔後漢書、禮儀志下〕葬、大紅十五日、小紅十四日。㊁宋の范成大の婢の名。才色文藝があつた。後、成大は之を姜夔に送つた。〔姜夔、過ニ垂虹一詩〕自作ニ新詞一韻最嬌、小紅低唱我吹レ簫。㊂小さい紅色の果實。〔杜甫、雨晴詩〕塞柳行ニ疎翠一、山梨結ニ小紅一。

〖小紅旗〗431（セウコウキ）　紅色の小旗。傳令のしるし。〔長生殿、偵報〕小生扮ニ探子一、執ニ小紅旗一上。

〖小紅豆先生〗432（セウコウトウセンセイ）　清、惠棟(4－10822‥105)の異稱。清の惠周惕の邸に紅豆が有つたので、周惕を老紅豆先生といひ、其の子、士奇を紅豆先生といひ、孫、棟を小紅豆先生といつた。〔國朝漢學師承記、惠周惕〕初研溪先生、由ニ東渚郵一、遷ニ居郡城東南香溪之北一、郡城東禪寺有ニ紅豆一株一、相傳、白鴿禪師所レ種、老而枯矣、至ニ是時一、復生ニ新枝一、研溪先生、移ニ一枝一植ニ堦前一、生意郁然、僧睿目存爲繪ニ紅豆新居圖一、自題ニ五絕句一、又賦ニ紅豆詞十首一、和者二百餘人、四方名士過ニ吳門一者、必停レ舟訪焉、因自號ニ紅豆主人一、所以鄉人稱ニ研溪先生一曰ニ老紅豆先生一、半農先生曰ニ紅豆先生一、松崖先生曰ニ小紅豆先生一。

【小荀】433（セウコウ）　晉の荀晞の弟、荀純をいふ。荀晞を大荀といふに對す。〔晉書、荀晞傳〕頓丘太守魏植、爲ニ流人所レ逼、衆五六萬、大掠ニ兗州一、晞出屯ニ無鹽一、以ニ弟純一領ニ靑州一、刑殺更甚ニ於晞一、百姓號三小荀酷ニ於大荀一。

【小寇】434（セウコウ）　小さなあだ。小部隊の外敵。〔徐陵、爲ニ陳主一與ニ周冢宰宇文護一論ニ邊境事一書〕江陵小寇、既爾虔劉、前至之言、或相誣罔。〔宋史、兵志四〕至三於平日保レ境備ニ禦小寇一、卽須三專ニ用極邊土人一。

【小溝】435（セウコウ）　小さなみぞ。こみぞ。〔周禮、考工記、匠人〕廣二尺、深二尺、謂ニ之遂一。〔注〕遂者夫閒小溝、遂上亦有レ徑。

【小興】436（セウコウ）　北周、王懋(7－20823‥980)の字。

〖小興安嶺〗437（セウコウアンレイ）　山脈の名。滿洲黑龍江省の南と西の兩境を劃す。內興安嶺の東支をなし、東興安嶺ともいふ。北は伊勒呼里山脈に接し、庫穆爾山といひ、東南は黑龍江右岸の嫩江に至る。又、嫩江と璦琿と通ずる道に當り、山頂に興安の廢城がある。又、黑龍江・松花江・嫩江の三大川の分水嶺をなし、東に走つて佛思亨山となり、混同江口に至り、江底を伏行して、南、完達山と接す。此の一帶の山脈は金鑛甚だ多く、觀音山金鑛、都魯河金鑛等がある。〔淸史稿、地理志〕。

〖小興凱湖〗438（セウコウガイコ）　湖の名。滿洲吉林省密山縣の東南。南、興凱湖と溝によつて通ず。湖の長さ六十里、廣さ十九里。水甚だ淺く、小黑河・成子河・黎樹溝河の三河が注ぐ。

【小鴻】439（セウコウ）　鳥の名。白色で鳧に似る。〔禽經〕小鴻、如レ鳧白色。

【小谷】440（セウコク）　㊀小さい谷。〔文子、十守、守弱〕飄風暴雨不レ終レ日、小谷不レ能ニ須臾盈一、飄風暴雨行ニ強梁之氣一、故不レ能レ久而滅、小谷處ニ強梁之地一、故不レ得レ不レ奪。㊁字號。㋑明、岑用賓(4－7937‥51)の字。㋺清、鄭獻甫(11－39647‥363)の號。㊂㋑相模國の地名。㋺肥後國の地名。㋩信濃國の地名。又、姓氏。㋥琉球の地名。

〖小谷口〗441（セウコクコウ）　清、鄭元慶(11－39647‥366)の號。

〖小谷巢松〗442（ヲタニサウシヨウ）　伊勢の人。名は薰。字は德孺。通稱は左金吾。號は巢松。津坂東陽に師事す。官は津藩儒、伊賀崇廣堂講官。安政元年歿す、年六十七。著に友松存稿・三體標記・周易標記・巢松詩文集がある。〔慶長以來諸家著述目錄〕。

【小國】443（セウコク）　㊀小さい國。土地が狹く人民の少ない國。國力の乏しい國。小邦。大國(3－5831‥802)の對。〔書、多士〕肆爾多士、非三我小國敢弋ニ殷命一。〔左氏、昭、元〕大國令、小國共。〔老子、六十一〕大國以下ニ小國一。〔管子、法法〕凡大國之君尊、小國之君卑。㊁子爵男爵の國。〔周禮、夏官、司馬〕大國三軍、次國二軍、小國一軍。〔疏〕上公爲ニ大國一、侯伯爲ニ次國一、子男爲ニ小國一也。〔孟子、萬章下〕公侯皆方百里、伯七十里、子男五十里、凡四等、云云、大國地方百里、云云、次國地方七十里、云云、小國地方五十里。〔孝經、孝治章〕不三敢遺ニ小國之臣一、而況ニ於公侯伯子男一乎。〔疏〕案、五等、公爲ニ上等一、侯伯爲ニ次等一、子男爲ニ下等一、則小國之臣、謂ニ子男卿大夫一。

【小黑】444（セウコク）　川の名。雲南省瀾滄縣の西北。源は耿馬孟定土司の地。猛猛土司の地を繞つて東流し、瀾滄江に入る。

〖小黑冠〗445（セウコククワン）　第三十六代孝德天皇の大化三年に御制定になつた冠位十三階の第十二位。

【小縠】446（セウコク）　清、王履端(7－20823‥2166)の字。

【小劫】447（セウゴフ）　㊀道家では三千六百周を小劫とする。〔雲笈七籤、二一、道敎三洞宗元〕九天一周、則六天之氣、皆還ニ上三天一、云云、三千六百周、則爲ニ小劫一。㊁［佛］倶舍論に依れば、人壽八萬歲から百年毎に一年を減じて十歲に至り、又、人壽十歲から百年毎に一年を增して八萬歲に至る。この增劫又は減劫の一つ一つを小劫と名づける。又、智度論に依れば、此の一增一減の二つを合せて小劫とする。〔隋書、經籍志四〕大木大火大風之災、一切除去而更立、生人又歸ニ淳朴一、謂ニ之小劫一、每ニ一小劫一、一佛出レ世。〔法華經、化城喩品〕諸佛法不ニ現在一前、如レ是一小劫乃至十小劫。〔法苑珠林〕此四時中、各分ニ二十小劫一、總爲ニ八十小劫一。

【小砂】448（コイサゴ）　下野國の地名。

〖小砂子〗449（チイサゴ）　北海道渡島國の地名。

〖小砂利〗450（コジヤリ）　小さい砂利。砂利は小石。砂礫。

【小差】451（セウサ）　㊀すこしのちがひ。大差(3－5831‥826)の㊀の對。㊁小官を派遣する。又、其の使。〔福惠全書、郵政部、總論〕有ニ承舍賚奏本章、佐僚代捧慶賀大計表冊一、是謂ニ小差一。〔淸會典事例、戶部、關稅考覈〕至ニ一年報レ滿之小差一、養ニ廉本屬一無レ多、所レ值又豐歉不レ一、若以ニ贏餘短少一、輒令三折ニ變房產一。

【小瑣】452（セウサ）　わづか。些細。瑣小。〔歐陽脩、通進司上書〕小瑣目前之利、既不レ足レ爲。

【小樝】453（セウサ）　淸、董桂敷(9－31433‥195)の號。

【小坐】454（セウザ）　宮中の休息室。〔資治通鑑、梁紀〕小坐、盛暑未ニ嘗褰レ袒。〔注〕小坐、宮中便坐也。

【小才】455（セウサイ）　少しばかりの才智。又、その人。小材。小慧。大才(3－5831‥829)の對。〔後漢書、桓譚傳〕今諸巧慧小才伎數之人、增ニ益圖書一、矯ニ稱讖記一。〔白居易、常樂里閑居云云詩〕小才難ニ大用一、典校在ニ祕書一。

〖小才覺〗456（コザイカク）　少しのはたらき。ちよつとした才智。小利口。

【小妻】457（セウサイ）　妾をいふ。少妻。〔漢書、枚乘傳〕乘在レ梁時、取ニ皐母一爲ニ小妻一。〔漢書、佞幸傳序〕爲ニ其小妻所レ毒薨。〔後漢書、趙孝王良傳〕私娉ニ小妻一。〔注〕小妻、妾也。〔魏志、文德郭皇后傳〕還ニ鄕里一求ニ小妻一。〔陔餘叢考、如夫人小妻傍妻下妻少妻庶妻〕左傳、齊桓公多ニ內嬖一、有下如ニ夫人一者六人上、後世稱ニ人之妾一爲ニ如夫人一、本レ此也、後漢書

竇融傳、融女弟爲二大司空王邑小妻一、又宗室四王三侯傳、趙惠王乾居二父喪一、私娉二小妻一、注、小妻、妾也、孫鑛據レ此謂、小妻之稱、起レ自二范史一、然前漢書外戚恩澤侯表、陽都侯張彭祖爲二小妻所レ殺、枚乘傳、乘在レ梁時、取二皐母一爲二小妻一、孝成許皇后傳、后姊孊寡居、與二定陵侯淳于長一私通、因爲二之小妻一、孔光傳、定陵淳于長小妻迺始等六人、則小妻之稱、前漢已有レ之、後漢書、陳王鈞取二掖庭出女李嬈一爲二小妻一、樂成王黨娶二中山王傳婢李羽生一爲二小妻一、又、梁王暢傳、臣小妻三十七人、其無レ子者、聽レ還二本家一、此又小妻之稱之見二於范史一者也、亦謂二之傍妻一、云云、又謂二之下妻一、云云、又謂二之少妻一、云云、又謂二之庶妻一、云云、小妻・傍妻・下妻・少妻・庶妻、皆妾之稱也。

【小柴】458（コシバ）　細く小さい柴。〔萬葉集、二十〕庭なかのあすはの神にこしば插し。

〖小柴垣〗459（コシバガキ）　小柴で造った垣根。〔源氏物語、若紫〕小柴垣のもとに立ち出で給ふ。

【小宰】460（セウサイ）　❶周官の名。天官の屬。大宰の副。宮中の刑罰政令を掌る。後世之を少宰といふ。〔周禮、天官、小宰〕小宰之職、掌下建二邦之宮刑一、以治中王宮之政令上。❷邑宰をいふ。邑のをさ。村長。〔後漢書、章帝紀〕子遊武城之小宰。〔後漢書、卓茂傳論〕卓茂斷斷小宰、無二他庸能一、而首加二聘命一、優レ辭重レ禮。

〖小宰羊〗461（セウサイヤウ）　豆腐（**10**―**36245**・・69）の異名。〔清異錄、官志、小宰羊〕時戢爲二青陽丞一、潔レ己勤レ民、肉味不レ給、日市二豆腐數箇一、邑人呼二豆腐一爲二小宰羊一。

【小祭】462（セウサイ）　❶小さなまつり。小祭祀。大祭（**3**―**5831**・・840）の❷の對。〔周禮、天官、酒正〕大祭三貳、中祭再貳、小祭壹貳、皆有二酌數一。〔注〕鄭司農云、小祭、五祀、玄謂、小祭者、王服二希冕玄冕一所レ祭也。❷皇室の祭祀の一。歲旦祭・祈年祭・賢所御神樂・天長節祭・先帝以前三代の例祭・先后の例祭・皇妣たる皇后の例祭、及び綏靖天皇以下先帝以前四代に至る歷代天皇の式年祭の稱。〔皇室祭祀例、第二條〕。

〖小祭祀〗463（セウサイシ）　小さなまつり。小祭の❶に同じ。〔周禮、地官、小司徒〕凡小祭祀奉二牛牲一、羞二其肆一。

【小歲】464（セウサイ）　❶臘の祭（冬至の後第三の戌の日に行ふ祭）の翌日。正月元日に對して小歲といひ、酒食を設け、賀詞を交して祝ふ。〔崔寔四民月令、小歲〕臘明日謂二小歲一、進二酒尊長一、修レ刺賀二君師一。〔荊楚歲時記、注〕按、四民月令云、過レ臘一日、謂二之小歲一。〔雲麓漫鈔〕小歲則用二之漢朝一、元正則行二之晉一也、蓋漢嘗以二十月一爲二歲首一也。〔盧照鄰、元日述懷詩〕人歌小歲酒、花舞大唐春。❷北斗七星中の第五星から第七星までをいふ。〔淮南子、天文〕斗杓爲二小歲一、云云、小歲東南則生、西北則殺、不レ可レ迎也。〔注〕斗第一星至二第四一爲レ魁、第五至二第七一爲レ杓也。

〖小歲賀〗465（セウサイガ）　小歲の日に朝賀すること。〔北史、魏孝文帝紀〕大和十五年十一月戊寅、考二諸牧守一、詔假二通直散騎常侍李彪一、聘二於齊一丙戌、初罷二小歲賀一。〔魏書、高祖紀下〕（太祖十五年十一月）丙戌、初罷二小歲賀一。〔徐爰家儀〕蜡本施祭、故不レ賀、其明爲二小歲賀一。

【小齋】466（セウサイ）　❶小さな室。〔朱熹、四時讀書樂詩〕新竹壓レ簷桑四圍、小齋幽敞明二朱曦一。〔剪燈新話、金鳳釵記〕卽令下搬二挈行李一、於二門側小齋一安泊上。❷字號。㋑元、劉塤（**2**―**2224**・・458）の號。㋺清、徐錫祉（**4**―**10110**・・477）の字。❸（ミヲ）小忌（212）の❶に同じ。

【小材】467（セウザイ）　少しの才能。小才。〔漢書、董仲舒傳〕小材雖レ累レ日、不レ離二於小官一、賢材雖レ未レ久、不レ害レ爲二輔佐一。

【小罪】468（セウザイ）　小さなつみ。五刑の中に入らぬ程のつみ。微罪。大罪（**3**―**5831**・・850）の對。〔書、康誥〕人有二小罪一、非レ眚乃惟終。〔國語、齊語〕小罪、讁以二金分一。〔注〕小罪、不レ入二於五刑一者。

【小倉】469（セウサウ）　❶山名。江蘇省江寧縣の北、清涼山の支阜。清の袁枚は、隨園を此處に築き、其の室を小倉山房といった。❷㋑（ヲグラ）山城國の地名。又、姓氏。㋺（コクラ）豐前國の地名。㋩（コゴイ）姓氏。〔老牛餘喘〕。

〖小倉三省〗470（ヲグラサンセイ）　土佐の人。本姓は高畑。名は克。字は政義・政實。號は三省。通稱は彌右衞門。谷秦山に師事し、經學は程朱を主とし、實踐を旨とす。官は高知藩の執政。承應三年七月十五日歿す、年五十一。著に遺稿・周易大傳硏幾八冊がある。〔土佐人物志〕・〔國書解題〕・〔先哲叢談、後、一〕。

〖小倉山房〗471（セウサウサンバウ）　清、袁枚（**10**―**34152**・・126）の室名。

〖小倉色紙〗472（ヲグラノシキシ）　山城國小倉の山莊で、藤原定家（一說に、宇都宮賴綱）が百人一首の和歌を選んだ際に、一人一首を各個に記した百枚の色紙。〔日本永代藏、四〕。

〖小倉尙齋〗473（ヲグラシヤウサイ）　山口の人。名は貞。字は子操・季操。通稱は彥兵衞。號は尙齋。伊藤坦庵・林鳳岡に師事し、經學は程朱を宗とす。官は萩藩儒。元文二年十一月歿す、年六十一。著に唐詩趣・八江紀聞・兩關唱和集二卷がある。〔慶長以來諸家著述目錄〕・〔國書解題〕。

〖小倉山房外集〗474（セウサウサンバウグワイシフ）　書名。六卷。補遺一卷。清、袁枚撰。枚の四六文を收錄す。嘉慶十九年、吳郡の山淵堂で刻す。首に李英の序、蔣士銓の題詩がある。卷一は表・序、卷二は序、卷三は序・祭文、卷四は書、卷五は啓、卷六は碑・墓誌、補遺は序・啓・墓誌・銘。末に穀芳の後序、萬應磬の題辭がある。枚は詩文を兼ね、特に四六文に最も長じ、六朝の體格を得てゐる。〔隨園三十種、第二十四―二十六冊〕。

〖小倉山房詩集〗475（セウサウサンバウシシフ）　書名。三十七卷。附續二卷。清、袁枚撰。首に弟子薛起鳳の序、蔣士銓・趙翼・李憲喬等の題辭、總目がある。其の詩は皆古今體で、丙辰（康熙十五年）から丁巳（乾隆二年）に至る六十二年間の詩を編年に編次したもの。總數四千二百一首。續集卷一は癸丑（康熙十二年）から丙午（雍正四年）に至る刪除改剩の作、卷二は歲次を記さない。凡て二百八首。其の詩は古を師とせず、專ら新奇を逐ふ。〔隨園三十種、第十二―二十三冊〕。

【小草】476（セウサウ）　❶草書の一種。〔陸深、書輯上〕羲獻之書、謂二之今草一、構結微眇者、謂二之小草一。❷藥草の名。ひめはぎ。遠志（**11**―**39047**・・142）の異稱。〔爾雅、釋草、葽繞蕀蒬、注〕今遠志也、似二麻黃一、赤華、葉銳而黃二其上一、謂二之小草一、廣雅云。〔世說新語、排調〕謝公始有二東山之志一、云云、始就二桓公司馬一、于レ時有レ餉二桓公藥草一、中有二遠志一、公取以問レ謝、此藥又名二小草一、何一物而有二二稱一、謝未二卽答一、時郝隆在レ座、應レ聲答曰、此甚易レ解、處則爲二遠志一、出則爲二小草一、謝有二愧色一。❸（ヲグサ）細い草。〔曾丹集〕庭の小草も片迷ひせり。

〖小草齋〗477（セウサウサイ）　明、謝肇淛（**10**―**35827**・・336）の號。

〖小草堂〗478（セウサウダウ）　明、謝肇淛（**10**―**35827**・・336）の室名。

〖小草齋稾〗479（セウサウサイカウ）　書名。一卷。明、謝肇淛撰。小草齋文集中の一篇である。〔四庫提要、集、別集類、存目〕。

〖小草生月〗480（ヲグサオヒヅキ）　陰曆二月の異名。〔藏玉集、十二月異名〕二、小草生月。

〖小草齋詩話〗481（セウサウサイシワ）　書名。五卷。明、謝肇淛撰。莊子に擬して內篇一卷、外篇・雜篇各二卷に分つ。內篇は主として詩法を論じ、外・雜の二篇は主として唐宋から明までの詩を論ず。明詩を崇ぶ餘り杜詩を駁するやうな偏見もあるが、概ね剴切である。〔明史、藝文志〕。

〖小草齋文集〗482（セウサウサイブンシフ）　書名。二十八卷。續集三卷。明、謝肇淛の詩文集。文集は東海の徐𤊹輯、續集は肇淛の弟肇湘肇澍校。今、首の三卷を佚す。正集の目は、卷四から六まで序、以下、記四卷・傳一卷・志三卷・論一卷・碑一卷・行狀一卷・墓誌一卷・說一卷・啓一卷・書一卷・疏一卷・贊一卷・跋一卷・銘一卷・祭文一卷・書事一卷・奏疏一卷。終に肇淛の墓誌銘行狀を附す。續集は詩で、其の目は、過里稿一卷・粤西稿一卷・滇中稿一卷。〔千頃堂書目〕。

【小窗】483（セウサウ）　小さな窓。こまど。〔蘇軾、端午遍二遊諸寺一得二禪字一詩〕微雨止還作、小窗幽更姸。

【小喪】484（セウサウ）　夫人（天子の妾）以下士の身分に至る者の喪をいふ。大喪（**3**―**5831**・・867）の❶の對。〔周禮、天官、宰夫〕大喪小喪、掌二小官之戒令一。〔注〕大喪、王后世子也、少喪、夫人以下小官士也。

〖小喪紀〗485（セウサウキ）　夫人以下の喪。小喪に同じ。〔周禮、春官、小祝〕小祭祀小喪紀。〔疏〕小喪紀者、王后以下之喪。

【小棗】486　hsiao^2 tsao^3　北京で、乾棗をいふ。

【小巣】487（セウサウ） 清、徐來鳳(4－10110‥650)の字。

〖小巣菜〗488（セウサウサイ） 荳科に屬する顯花・被子・雙子葉類植物。雀の豌豆。

【小像】489（セウザウ） 小さな肖像。彫刻・繪畫等にいふ。〔李賀、答贈詩〕沈香燻二小像一、楊柳伴二啼鴉一。〔陸游、和二范待制秋興一詩〕佛屋紗燈明二小像一、經奩魚蠹蝕二眞文一。

【小藏】490（コソエ） 姓氏。〔古抄本下學集〕。

【小作】491（コサク） 借地料を拂つて他人の田畑を耕作すること。又、その人。古くは下作・請作・掟作・入作等といふ。〔地方凡例錄、四〕小作の事を下作・入作・請作・掟作・卸作とも唱へ。

〖小作料〗492（コサクレウ） 小作人が土地使用の對價として地主に支拂ふもの。〔民法、第二百七十條〕。

〖小作爭議〗493（コサクサウギ） 小作の條件の維持改善に就いて、地主と小作人との間に起る經濟的法律的紛議。

〖小作調停法〗494（コサクテウテイハフ） 大正十三年、小作爭議調停を目的として制定せられた法律。小作爭議に當つて、申立てにより地方裁判所は調停委員會を開き、互讓協定に則つて調停すべきことを規定す。〔大正十三年七月二十二日、法律第十八號〕。

【小岞】495（セウサク） 山名。福建省東安縣の東南。北は黄崎に對し、南は大岞山を控ふ。縣境の諸山の東海に趨る者は此處に至つて止まる。頂に城塞がある。〔讀史方輿紀要、福建、泉州府、惠安縣〕始築二沿海五城一、曰崇武、曰獺窟、曰小岞。曰黄崎、曰峯尾。

【小削】496（セウサク） すこしそぎ除くこと。〔易、剝、剝牀以レ辨蔑レ貞凶、疏〕初六蔑レ貞、但小削而已、六二蔑レ貞、是削之甚極。

【小策】497（セウサク） ❶小さいむち。〔丁復、贈二樊秀才一詩〕慈特遲鳴犢、小策揮柔青。❷大局に目を注がず、細部だけにかかはるはかりごと。小細工の策議。小術。小刀細工。

【小冊】498（セウサツ） 小さい手帳。又、小さい本。〔資治通鑑、宋紀〕以二方寸小冊一記二兵及糧一。〔癸辛雜識〕於二所レ佩夾袋中一、取二小冊一進呈。

〖小冊子〗499（セウサツシ） 小形の書物。パンフレット。

【小札】500（コサツ） ❶以前に通用した、額面壹圓以下の小額の紙幣。十錢・二十錢・五十錢の紙幣をいふ。❷（コザネ） 鐵又は革などで造つた小さい板。鎧を製するに用ひる。〔難波戰記、木村長門守討死事〕金銀一枚まぜの小札の鎧。

〖小札草摺〗501（コザネクサズリ） 全部、小札で作つた草摺。

【小察】502（セウサツ） ❶せまい觀察。小さな知識。小見。〔管子、七臣七主〕從狙而好二小察一。❷こまかくくだくだしい。こまかく煩はしい。又、そのこと。察は苛。〔呂覽、貴公〕處二大官一者、不レ欲二小察一。〔注〕察、苛也。〔晉書、謝安傳〕鎭以二和請一、御以二長算一、德政既行、文武用レ命、不レ存二小察一、弘以二大綱一。〔北史、韋崇傳〕何用二小察一、以傷二大道一。

〖好二小察一而不レ通二乎大理一〗503（セウサツヲコノンデタイリニツウゼズ） せまい觀察を好んで大きな道理に通達しない。自己の小さな見識に拘はれて大局に達しないこと。〔呂覽、別類〕高陽應將レ爲二室家一、匠對曰、未レ可也、木尚レ生、加二塗其上一、必將レ撓、以レ生爲レ室、今雖レ善、後將二必敗一、高陽應曰、緣二子之言一、則室不レ敗也、木益枯則勁、塗益乾則輕、以二益勁一任二益輕一、則不レ敗、匠人無二辭而對一、受レ令而爲レ之、室之始成也善、其後果敗、高陽應好二小察一而不レ通二乎大理一也。

【小衫】504 hsiao^3 shan^1 肌着。下着。

〖小衫子〗505 hsiao^3 shan^1 tzŭ 下襯。はだぎ。

【小參】506（セウサン） [佛]禪家で住持が臨時に方丈において僧を集めて行ふ示誨、說教。〔祖庭事苑、八〕禪門、詰旦升堂、謂二之早參一、日晡念誦、謂二之晩參一、非時說法、謂二之小參一。

【小產】507（セウサン） 流產をいふ。一に消產に作る。半產。〔景岳全書、男女論、安胎總論、小產〕小產之證、有二輕重一、有二遠近一、有二稟賦一、有二人事一、由二稟賦一者、多以二虛弱一、由二人事一者、多以二損傷一、凡正產者、出二於熟落之自然一、小產者、由二於損折之勉強一、此小產之所二以不一レ可レ忽也。〔儒門事親〕婦人半產、呼曰二小產一。〔書言故事節用集、五〕小產、或作二消產一、半產也。

【小蒜】508（セウサン） 菜草の名。のびる。〔本草、蒜〕集解、別錄曰、蒜、小蒜也、五月五日采レ之、弘景曰、小蒜生レ葉時、可二煑和食一、至二五月一葉枯、取レ根名二亂子一、正爾、噉レ之亦甚熏臭、李時珍曰、家蒜有二二種一、根莖俱小而瓣少、辣甚者、蒜也、小蒜也。〔古今注、草木〕蒜、卵蒜也、俗人謂二之小蒜一。

【小山】509（セウザン） ❶小さい山。こやま。大山(3－5831‥909)の對。〔爾雅、釋山〕大山宮、小山霍。❷淮南王小山をいふ。淮南王安を大山といふの對。大山小山(3－5831‥912)の❶を見よ。❸梁、何胤をいふ。何點を大山といふの對。大山小山(3－5831‥912)の❷を見よ。❹明、安滙をいふ。睦欅を大山といふの對。〔陔餘叢考、三大小山〕明周肅王之後、睦欅安滙俱有二學行一、人稱二睦欅一爲二大山一、安滙爲二小山一。❺字號。㋑宋、晏幾道(5－13914‥64)の號。㋺宋、蕭泰來(9－32012‥462)の號。㋩元、張可久(4－9812‥840)の號。㋥明、宗書(3－7106‥155)の號。㋭明、李源(6－14459‥321)の字。㋬清、鄒一桂(11－39562‥69)の號。㋣清、鄭敦謹(11－39647‥524)の號。㋠清、白鎔(8－22678‥1128)の字。㋷清、王時翔(7－20823‥1611)の號。㋦清、繆荃孫(8－27855‥66)の號。㋸奥野純の號。奥野小山(3－5985‥100)を見よ。

〖小山薑〗510（セウザンキヤウ） 清、田同之(7－21723‥406)の號。「名。

〖小山居〗511（セウザンキヨ） 清、何琪(1－511‥35)の室

〖小山詞〗512（セウザンシ） 書名。一卷。宋、晏幾道撰。〔四庫提要、集、詞曲類〕。

〖小山堂〗513（セウザンダウ） 清、趙昱(10－37171‥10)の室名。

〖小山樓〗514（セウザンロウ） 明、汪道會(6－17154‥302)の室名。

〖小山樂府〗515（セウザンガフ） 書名。六卷。元、張可久撰。小山は可久の號。張可久の詞は新清不豔(清新の氣に滿ちて華美でない)と稱せられたが、其の集を佚してゐた。明の宋濂・方孝儒に至り、各一卷を得、鏤版して張小山小令といつた。これが四庫所收本である。後、近人、任中敏は元の寫本である張小山北曲聯樂府を得、改編して小山樂府といふ、卽ちこの書である。

〖小山畫譜〗516（セウザングワフ） 書名。二卷。清、鄒一桂撰。花草を畫く法を論じたもの。〔四庫提要、子、藝術類〕。

〖小山杉溪〗517（ヲヤマサンケイ） 備中の人。名は尙陶。字は猶存。號は杉溪。昌平黌に學び、又、蘭學を修む。官は高田藩儒。廢藩後、塾を開いて教授す。明治二十九年四月一日歿す、年七十八。著に話多兒婁魯戰記、雷繫統がある。〔北越名流遺芳〕。

〖小山春山〗518（ヲヤマシユンザン） 下野の人。名は朝弘。字は遠士。號は春山。會澤正志齋・藤森天山に師事す。官は史官試補・大宮縣權大參事。明治二十四年一月一日歿す、年六十五。著に春山遺稿・春山樓文選・留丹稿がある。

〖小山類稿〗519（セウザンルイカウ） 書名。二十卷。明、張岳撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【小子】520（セウシ） ❶こども。小兒。童子。成人に對していふ。〔易、隨〕係二小子一失二丈夫一。〔書、酒誥〕文王誥二教小子一。〔傳〕小子、民之子孫也。〔蔡傳〕小子、少子之稱、以二其血氣未一レ定、尤易二縱レ酒喪一レ德、故文王專誥二教之一。〔詩、大雅、思齊〕肆成人有レ德、小子有レ造。〔疏〕小子、是後生未成之名。〔列子、黃帝〕逆旅小子對曰、其美者自美、吾不レ知二其美一也。❷自分を卑下する稱。わたくし。古は天子自ら稱して予小子といふ。〔書、湯誓〕非二台小子敢行一レ稱レ亂。〔書、顧命〕眇眇予末小子。〔論語、堯曰〕予小子履、敢以二玄牡一、敢昭告二于皇皇后帝一。〔劉寶楠、正義〕稱二小子一者、王者父レ天母レ地、爲二天之子一、湯告レ天、故謙言二小子一也。❸尊者が卑者を呼ぶ稱。〔書、康誥〕王若曰、孟侯、朕其弟小子封。〔吳棫注〕先儒謂、康叔受レ封時尙幼者、以三此書稱二小子一之故、康叔與二武王・周公一皆太姒之子、安得レ爲二尙幼一、今陝右之俗、凡尊命レ卑、貴命レ賤、雖二長且老者一、亦以二小子一呼レ之、表二見親愛一之辭、此所謂小子亦然。❹師が門人を呼ぶ稱。弟子。門人。〔禮、檀弓上〕子貢曰、說二驂於舊館一、無二乃已重一乎、夫子曰、云云、予惡二夫涕之無一レ從也、小子行レ之。〔論語、公冶長〕吾黨之小子狂簡、斐然成レ章。〔集注〕吾黨小子、指二門人之在レ魯者一。〔論語、泰伯〕吾知レ免夫、小子。〔集解〕小子、弟子也。〔論語、先進〕小子鳴レ鼓攻レ之可也。〔集解〕鄭玄曰、小子、門人也。❺小人。德の修まらぬ人。〔易、漸〕

小子厲有レ言、无レ咎。〔疏〕小人之言、未レ傷ニ君子之義一、故曰レ无レ咎也。❻周官の名。夏官の屬。祭祀の小事を司る卑しい官。〔周禮、夏官、序官、小子、注〕小子、主ニ祭祀之小事一。〔周禮、夏官、小子〕小子、掌ニ祭祀羞ニ羊肆羊殽肉豆一。❼小僧つ子。他を輕んじ慢る稱。〔世說新語、方正〕王爽與ニ司馬大傅一飮酒、太傅醉、呼ニ王爲ニ小子一、王曰、亡祖長史與ニ簡文皇帝一爲ニ布衣之交一、亡姑亡姊伉ニ儷二宮一、何小子之有。❽hsiao tzŭ ㋑男子。㋺しもべ。僕。

【小子房】521 セウシバウ 宋、楊揆（6－15112‥28）をいふ。

『小子後生』522 セウシコウセイ 年若く學問修業中のもの。年少後進の徒。〔韓愈、送ニ溫處士赴ニ河陽軍一序〕小子後生、於レ何考レ德而問レ業焉。

【小史】523 セウシ ❶周官の名。春官の屬。國の記錄系譜等を掌る。〔周禮、春官、小史〕小史、掌ニ邦國之志一、奠ニ繫世一、辨ニ昭穆一。〔儀禮、大射儀〕釋レ獲者命ニ小史一、小史命ニ獲者一。❷下級の書記。〔漢書、谷永傳〕永少爲ニ長安小史一。❸侍童。小姓。近侍。〔徐陵、鴛鴦賦〕未レ若ニ宋王之小史、含レ情而死一。〔老學庵筆記、二〕趙廣、云云、本李伯時家小史、伯時作レ畫、每使レ侍ニ左右一、久レ之遂善レ畫。❹自分の雅號の下につける語。❺簡單な歷史。稗史。〔宋伯仁、酒小史〕。

『小史埭』524 セウシタイ 堰の名。安徽省壽縣の東南、肥水の北に曲る處。一に小峴埭といふ。太平寰宇記に、小史何文憲によつて名を得たとある。〔南齊書、垣崇祖傳〕虜分ニ軍東路一、肉薄攻ニ小城一、崇祖著ニ白紗帽一、肩輿上レ城、云云、決ニ小史埭一、水勢奔下、云云、溺死數千人。

【小市】525 セウシ 小さいいち。小取引。大市（3－5831‥939）の對。〔杜甫、題ニ忠州龍興寺院壁一詩〕小市常爭レ米、孤城早閉レ門。

【小至】526 セウシ 冬至の一日前。小冬日。〔杜甫、小至詩、天時人事日相催冬至陽生春又來、注〕沈約宋書曰、魏晉冬至日、受ニ萬國及百寮稱レ賀、因小會、其儀亞ニ於歲朝一、甫稱ニ小至一、當レ謂レ是也、或曰、陽爲レ大、陰爲レ小、冬至陰極、故曰ニ小至一、春秋元命苞曰、冬至百八十日、春夏成レ道、宋均曰、冬至陽用レ事、歷レ春至レ夏、百八十二日八分之五、而陽道成也、孝經援神契曰、冬至陽氣萌。〔猗覺寮雜記〕杜子美有ニ小至詩一、說者謂ニ冬至前一日一爲ニ小至一。〔唐庚、立冬後作詩〕醅中小至香。

【小志】527 セウシ ❶小さいこころざし。又、志の小さいこと。大志（3－5831‥944）の對。〔後漢書、黃香傳〕以畢ニ臣香螻蟻小志一。❷小さい記錄。〔董醇、甘棠小志〕。

【小沚】528 セウシ 水中にある小さな洲。〔爾雅、釋水〕水中可レ居者曰レ洲、小洲曰レ陼、小陼曰レ沚、小沚曰レ坻。

【小使】529 セウシ ❶つまらぬ使者。身分のひくい使者。〔呂覽、行論〕因乃發ニ小使一。〔注〕小使、微者也。❷人の使役に供する者。こづかひ。小廝。〔淮南子、人閒訓〕豎陽穀擧レ酒而進レ之、注〕豎、小使也。〔唐書、宦者上、竇文場傳〕捕ニ詰小使一問レ狀、誅ニ數十人一。

『小使車』530 セウシシヤ 車の名。坐乘する四頭立ての馬車。大使車（3－5831‥949）の對。〔後漢書、輿服志上〕大使車立乘、駕レ駟、云云、小使者不ニ立乘一。〔晉書、輿服志〕大使車立乘、駕レ四、赤帷裳、騶騎導從、小使車不ニ立乘一、駕レ四、輕車之流也。

【小姊】531 セウシ 年少のあね。若い方の姊。〔蜀志、龐統傳、注〕德公、字山民、亦有ニ令名一、娶ニ諸葛孔明小姊一。〔楊維楨、麗人行〕就中小姊最嬌強、雌雄雙飛觀者惱。〔襄陽記〕娶ニ諸葛孔明小姊一。

【小枝】532 セウシ 小さい枝。こえだ。細枝。〔爾雅、釋木〕小枝上繚爲レ喬。〔注〕謂ニ細枝翹繚上句者一、名爲ニ喬木一。〔易林、謙之第十五、遯〕桃雀竊レ脂、來ニ于小枝一。〔白居易、自題ニ小草亭一詩〕鷦鷯占ニ小枝一。

【小祀】533 セウシ ❶小さなまつり。大祀（3－5831‥954）の❶の對。〔周禮、春官、肆師〕立ニ小祀一用レ牲。〔注〕鄭司農云、小祀、司命已下、玄謂、小祀又有ニ司中風師雨師山川百物一。❷大寶の制で神祇官が常典として行ふ祭祀の一。大忌祭・鎭火祭の類。〔神道名目抄〕。

【小指】534 セウシ こゆび。第五指。五指中の最小指。季指。〔倭名類聚抄、形體部、手足類〕儀禮云、季指、野王案、小指、第五指也。〔和漢三才圖會、支體、指〕季指、小指也。

【小師】535 セウシ ❶周官の名。春官の屬。音樂を掌る。一に少師（4－7475‥121）に作る。〔周禮、春官、小師〕小師、掌レ教ニ鼓・鼗・柷・敔・塤・簫・管・弦・歌一。❷佛沙門の謙稱。具足戒を受けて十年に滿たぬ者。また弟子の自稱。〔許渾、送ニ太昱禪師一詩〕結社多ニ高客一、登壇盡ニ小師一。❸師匠の謙稱。〔古今著聞集、十五〕年來孝道をば、小師に附け參らせたる事にて候。

『小師道人』536 セウシダウジン 淸、方士庶（5－13620‥526）の號。

【小疵】537 セウシ すこしのきず。わずかな缺點。小失。小過。〔易、繫辭上〕悔吝者、言ニ乎其小疵一也。〔孟子集注、序說〕韓子曰、孟氏醇乎醇者也、荀與レ揚、大醇而小疵。〔漢書、平帝紀〕不下以ニ小疵一妨中大材上。〔孔叢子、陳士義〕不下以ニ小疵一妨中大行上。

【小眥】538 セウシ 目尻。めじり。〔雲笈七籤〕以ニ手指一捻ニ目大小眥一。

【小祠】539 セウシ ❶小さいまつり。〔後漢書、禮儀志上〕凡齋、天地七日、宗廟山川五日、小祠三日。❷小さいほこら。〔國史略、白河天皇〕應德二年、京師民每レ街建ニ小祠一、榜曰ニ福德神一、或曰ニ長福神一、貴賤競集置酒、敕ニ檢非違使一毀レ之。

【小紙】540 セウシ 小形の紙。〔晉書、何曾傳〕性奢豪、以ニ小紙一爲レ書者、勅ニ記室一勿レ報。〔宋史、晏殊傳〕帝每訪以レ事、率用ニ方寸小紙一細書。

【小笥】541 セウシ こばこ。小さい箱。珠玉を入れる小さい箱。〔左氏、哀、二十、與ニ之一簞珠一、注〕簞、小笥。

【小紫】542 コムラサキ 野鞭草科に屬する木。山野に自生し、夏に花をつける。

『小紫冠』543 セウシクワン 冠位十三階の第六位。第三十六代孝德天皇の大化三年に制定。

【小試】544 セウシ ❶少し試す。ちよつとためしてみる。小試驗。〔史記、孫子傳〕闔廬曰、子之十三篇、吾盡觀レ之矣、可ニ以小試勒レ兵乎。❷府縣及び學政の考試。〔大學衍義補、正ニ百官一、淸ニ入仕之路二〕提學憲臣之小試、殆又有ニ甚レ焉者一。〔淸會典事例、禮部〕是童生不レ得レ應ニ小試一。

【小詩】545 セウシ 短い詩。小篇の詩。俗詩の類。〔杜甫、存歿口號詩〕席謙不レ見近彈棊、畢耀仍傳舊小詩。〔韓愈、奉ニ和僕射裴相公感レ恩言レ志詩〕擺落遺ニ高論一、雕鐫出ニ小詩一。〔老學庵筆記、一〕楊廷秀在ニ高安一、有ニ小詩一云、近紅草看失ニ燕支一、遠白宵明雪色奇、花不レ見レ桃惟見レ李、一生不レ曉退之詩、予語レ之曰、此意古人已道、但不レ如ニ公之詳一耳、廷秀愕然問、古人誰曾道、予曰、荊公所謂積レ李兮縞レ夜、崇レ桃兮炫レ晝、是也、廷秀大喜曰、便當三增ニ入小序中一。

【小資】546 セウシ わづかのもとで。小資本。〔韓非子、內儲說下〕靖郭君相レ齊、與ニ故人一久語、則故人富、懷ニ尉左右一、則左右重、久語懷尉小資也、猶以成レ富、況於ニ吏勢一乎。

【小廝】547 セウシ めしつかひ。こもの。小使。廝はこもの。賤役者。〔觚不觚錄〕正德中、一大臣投ニ書劉瑾一、自稱ニ門下小廝一。

『小廝兒』548 hsiao^3 ssŭ^1 こせがれ。〔西廂記、張君瑞鬧道場雜劇〕一箇小廝兒、喚做歡郎。

【小字】549 セウジ ❶幼少の時の呼び名。幼名。小名。少字。又乳名といふ。魏の武帝の小字は阿瞞、蜀の後主の小字は阿斗の類。〔後漢書、傅燮傳〕燮慨然而歎、呼ニ幹小字一。❷小さい文字。細字。〔海岳名言〕凡大字要レ如ニ小字一、小字要レ如ニ大字一、褚遂良小字如ニ大字一、其後經生祖述、有ニ造レ妙者一、大字如ニ小字一、未ニ之見一也。❸コアザ 小部落。字は町村を小分けした區域。

『小字本』550 セウジボン 刊本の名。小本（1176）、又は細字本をいふ。大字本（3－5831‥970）の對。〔書林淸話、宋司庫州軍郡府縣書院刻書〕當時所謂小字本、今傳者有ニ脉經一種一。

『小字錄』551 セウジロク 書名。一卷。宋、陳思撰。補錄一卷は明、沈宏正撰。唐の陸龜蒙の小名錄に漏れた歷代人物の小字を、史傳に本づいて集めたもの。宏正はまた思の遺すところを拾ふ。〔四庫提要、子、類書類〕。

【小次】552 セウジ 小さな幕。次は幄。春分に日を拜し、五帝を祀つた後、退きまつところ。大次（3－5831‥974）の對。〔周禮、天官、掌次〕朝レ日祀ニ五帝一、則張ニ大次小次一、設ニ重帟重案一、合ニ諸侯一亦如レ之。〔注〕次、謂レ幄也、大幄、初往所ニ止居一也、小幄、既接レ祭退俟之處。

【小事】553 セウジ 小さな事柄。些細なことがら。細

事。些㆓事㆒。大事(**3－5831**··977)の❶の對。〔易、睽〕睽、小事吉。〔周禮、天官、小宰〕大事則從㆓其長㆒、小事則專達。〔禮、表記〕大事有㆓時日㆒、小事無㆓時日㆒、有㆑筮。〔荀子、王制〕小事殆㆓乎遂㆒。〔晏子、諫、下〕小事之成、不㆑若㆓大事之廢㆒。〔漢書、王莽傳上〕親省㆓小事㆒。

【小事情】554 hsiao^3 shih^4 ch'ing ❶小事件。小さな事柄。❷小さな仕事。又、小營業。

〖勿㆑輕㆓小事㆒〗555（セウジヲカロンズルナカレ） 小事であるからといつて侮つてはならぬ。〔關尹子、九藥〕勿㆑輕㆓小事㆒小隙沈㆑舟、勿㆑輕㆓小物㆒小蟲毒㆑身。

【小侍】556（コザムラヒ） ❶身分の低い士。つまらぬ武士。悋勤(**4－10592**··8)の❸の㋺に同じ。〔平治物語、賴朝遠流事〕小侍一人、附けられけり。❷鎌倉・室町時代、常に幕府に宿衞し、將軍の外出に扈從警衞する者。三世勤仕の者の子弟を擇んで之に充て、兼ねて弓馬・管絃・蹴鞠等を學習せしめた。❸小侍所別當の略。〔北條九代記、下、文永元年甲子〕時宗、云云、爲㆓小侍㆒。

〖小侍所〗557（コザムラヒドコロ） 承久元年の創設で、小侍の伺候する所。別當・所司の職を置く。〔東鑑、三十〕嘉禎元年十月二日、參㆓御所㆒、令㆑候㆓小侍所㆒。

〖小侍別當〗558（コザムラヒノベツタウ） 小侍所の長官。小侍奉行。〔東鑑、二十四〕承久元年七月二十八日、今日所㆔始補㆓小侍別當㆒也。

【小兒】559（セウジ・セウニ） ❶ちひさい子。こども。幼者。〔列子、湯問〕孔子東游、見㆓兩小兒辯鬬㆒。〔史記、淮陰侯傳〕王素嫚無禮、今拜㆓大將㆒、如㆑呼㆓小兒㆒耳。〔漢書、西域下、車師後長城國傳〕殺㆓校尉刁護及子男四人諸昆弟子男㆒、獨遺㆓婦女小兒㆒。❷自分の子をいふ謙辭。〔吳志、孫皓傳、注〕小兒無㆑德致㆑客、學者多㆑貧、故爲㆓廣被㆒、庶可㆑得㆘與㆓氣類㆒接㆖也。〔北史、元行恭傳〕父文遙嘗謂㆓盧師道㆒曰、小兒比日微有㆑所㆑知、是大弟之力。〔類書纂要〕自稱㆑子曰㆓賤息㆒、又曰㆓小兒・蠢頑・頑兒・小頑㆒。❸人を賤しめていふ語。つまらぬもの。小人。〔晉書、陶潛傳〕吾豈能折㆑腰、向㆓鄉里小兒㆒耶。〔老學庵筆記、六〕晉語、兒人二字通用、云云、陶淵明不㆑欲㆔束帶見㆓鄉里小兒㆒、亦是以㆓小人㆒爲㆓小兒㆒耳、故宋書云㆓鄉里小人㆒也。❹小さい方の子。弟をいふ。轉じて、人物のすぐれた幼者をいふ。大兒(**3－5831**··984)の對。〔後漢書、禰衡傳〕(禰衡)常稱曰、大兒孔文擧、小兒楊德祖、餘子碌碌、莫㆑足㆑數也。〔杜甫、徐卿二子歌〕大兒九齡色清徹、秋水爲㆑神玉爲㆑骨、小兒五歲氣食㆑牛、滿堂賓客皆廻㆑頭。❺唐代、給役の人をいふ。めしつかひ。こもの。〔資治通鑑、唐紀〕(順宗、永貞元年)如㆓宮市五坊小兒之類㆒。〔注〕小兒者、給㆓役五坊㆒者也、唐時給役者、多呼爲㆓小兒㆒、如㆓苑監小兒・飛龍小兒・五坊小兒㆒是也。

〖小兒醫〗560（セウニイ） 子供の病を療治する醫者。小兒科の醫者。〔史記、扁鵲傳〕聞㆔秦人愛㆓小兒㆒、卽爲㆓小兒醫㆒。

〖小兒科〗561（セウニクワ） 主として子供の病氣を療治する醫術の一科。小兒醫。小方脈科。

〖小兒神〗562（セウニシン） 神の名。姓は項。名は託。周末、魯の人。八歲にして孔子に其の人物を賞揚されたが、十歲で死し、時人之を祀つて小兒神といふ。蝗災に靈驗があるといふ。〔雙槐歲鈔〕滿城縣西門有㆓先聖大王祠㆒、父老言、遇㆑蝗禱㆑之、立應、神姓項、名託、周末魯人、年八歲、孔子見而奇㆑之、十歲而亡、時人尸而祝㆑之、號㆓小兒神㆒。

〖小兒輩〗563（セウニハイ） 小供等。小僧ども。靑二才。人を輕んじていふ語。〔世說新語、雅量〕謝公與㆑人圍㆑棊、俄而謝玄淮上信至、看㆑書竟、默然無㆑言、徐向㆑局、客問㆓淮上利害㆒、答曰、小兒輩大破㆑賊、意色擧止、不㆑異㆓於常㆒。

〖小兒學士〗564（セウニガクシ） 北周の宗懍をいふ。宗懍は幼少から讀書を好み、よく古事を引く。世人、稱して小兒學士といふ。〔北史、宗懍傳〕宗懍字元懍、南陽涅陽人也、云云、少聰敏好㆓讀書㆒、晝夜不㆑倦、語輒引㆓古事㆒、鄉里呼爲㆓小兒學士㆒。

〖小兒痲痺〗565（セウニマヒ） 病の名。腦、或は脊髓の運動神經細胞の破壞に因つて起り、四肢が強直又は弛緩して痲痺する病症。

〖小兒擊甕圖〗566（セウニゲキヲウノヅ） 宋の司馬溫公が、幼時甕を割つて溺れた子供を救つた樣子を畫いた繪畫。〔冷齋夜話、三〕司馬溫公、童稚時、與㆓羣兒㆒戲㆓于庭㆒、庭有㆓大甕㆒、一兒登㆑之、偶墮㆓水甕中㆒、云云、公則以㆑石擊㆑甕、水因㆑穴而迸、兒得㆑不㆑死、云云、至㆑今京洛間、多爲㆓小兒擊甕圖㆒。

〖小兒常病傷㆑飽〗567（セウニノジヤウビヤウハアクニキズツク） 童兒の大抵の病氣は飽食に原因する。〔潛夫論、忠貴〕嬰兒常病傷㆑飽也、貴臣常禍傷㆑寵也。

〖小兒衞生總微論方〗568（セウニヱイセイソウビロンパウ） 書名。二十卷。撰者未詳。宋、嘉定丙午、太醫局の刻本。病を論ずること一百條。小兒の諸症を初生から成童に至るまで一々詳しく記し、每條處方を附す。〔四庫提要、子、醫家類〕。

【小時】569（セウジ） ❶幼い時。少時。小時了了を見よ。❷舊習で、一日を十二時に分け、一時を二分した時間をいふ。今の一時間に當る。❸時の名。月建。〔淮南子、天文訓〕太時則咸池也、小時者建也。

〖小時了了〗570（セウジレウレウ） 幼時、物の曉りの良いこと。後漢の孔融が、幼時、李膺に會つたとき、膺は其の異才を嘆じた。たまたま陳韙が後れて至り、融の話を聞いて、神童必ずしも偉人とならずと言つたところ、融は聲に應じて、想ふに君は小時必ず了了たる可しと答へた。因つて韙は大いに恥ぢたといふ。〔世說新語、言語〕孔文擧年十歲、隨㆑父到㆑洛、時李元禮有㆓盛名㆒、爲㆓司隸校尉㆒、詣㆑門者皆儁才淸稱、及㆓中表親戚㆒乃通、文擧至㆑門謂㆑吏曰、我是李府君親、旣通前坐、元禮問曰、君與㆑僕有㆓何親㆒、對曰、昔先君仲尼與㆓君先人伯陽㆒有㆓師資之尊㆒、是僕與㆑君、奕世爲㆓通好㆒也、元禮及賓客、莫㆑不㆑奇㆑之、太中大夫陳韙後至、人以㆓其語㆒語㆑之、韙曰、小時了了、大未㆓必佳㆒、文擧曰、想、君小時必當㆓了了㆒、韙大踧踖。〔注〕續漢書曰、孔融、字文擧、魯國人、孔子二十四世孫也、高祖父尙、鉅鹿太守、父宙泰世都尉、融別傳曰、融四歲、與㆑兄食㆑梨、輒引㆓小者㆒、人問㆓其故㆒、答曰、小兒法、當㆑取㆓小者㆒、年十歲、隨㆑父詣㆓京師㆒、河南尹李膺有㆓重名㆒、融欲㆑觀㆓其爲㆑人、遂造㆑之、膺問、高明父祖嘗與㆑僕周旋乎、融曰、然、先君孔子與㆓君先人李老君㆒、同㆑德比㆑義、而相師友、則融與㆑君累世通家也、衆坐莫㆑不㆓歎息㆒、僉曰、異童子也、太中大夫陳韙後至、同坐以告、韙曰、人小時了了者、長大未㆓必能奇㆒、融應㆑聲曰、卽如㆑所㆑言、君之幼時豈實慧乎、膺大笑、顧謂㆑融曰、長大必爲㆓偉器㆒。

【小辭】571（セウジ） 論理學用語。三段論法に於て、斷案の主辭となる概念、卽ち小概念を言語に表はしたもの。小名辭。小語。Minorterm の譯。

【小舟】572（セウシウ） ❶小さな舟。こぶね。小舠。小船。大舟(**3－5831**··993)の❶の對。〔說文新附〕艇、小舟也。〔杜甫、短歌行〕君今起㆑柁春江流、余亦沙邊具㆓小舟㆒。〔唐庚、與㆓舍弟㆒棹㆓小舟㆒詩〕獨木小舟輕似㆑紙、一尊促㆑席穩㆓于床㆒。❷字號。㋑淸、黃玉衡(**12－47926**··1044)の字。㋺小永井岳の號。小永井小舟(1598)を見よ。

【小秋】573（セウシウ） ❶秋のはじめ。初秋。〔許渾、送㆓鄭寂上人南行㆒詩〕離怨故園思、小秋梨葉紅。❷唐代、刑部侍郞(**2－1886**··118)の別名。〔括異志〕杜紫微頊、於㆓宰執處㆒求㆓一小儀㆒不㆑遂、請㆓一小秋㆒又不㆑遂。〔容齋四筆、官稱別名〕唐人好以㆓他名㆒標㆓牓官稱㆒、云云、吏部郞爲㆓小選㆒、云云、刑部爲㆓小秋㆒。

【小袖】574（セウシウ） ❶小さいその衣服。大袖(**3－5831**··1003)の❶の對。〔漢書、王莽傳下〕以㆓唐尊㆒爲㆓太傅㆒、尊曰、國虛民貧、咎在㆓奢泰㆒、乃身短衣小褎。〔南史、高昌國傳〕國人辮髮垂㆓之于背㆒、著㆓長身小袖袍縵襠袴㆒。❷（コソデ） ㋑男女の著る小さい下著。大袖(**3－5831**··1003)の❷の對。〔東鑑、三〕元曆元年十一月二十一日、只今殊刷㆓行粧㆒、著㆓小袖十餘領㆒。㋺禮服の大袖の下に著る服。〔雅亮裝束抄、二、禮服のやう〕こそで、くびかみあり、紐をさしたり。㊇絹布の綿入れをいふ。布子(**4－8778**··111)の對。〔永正五年正月狂歌合〕正月小袖。㊁鎧の袖の一種。大袖より幅狹く小形のもの。大袖(**3－5831**··1003)の❶の對。

〖小袖幕〗575（コソデマク） 昔、花見などに、小袖をぬぎ、之を紐に連ねかけて幕としたもの。〔好色五人女、二〕花見衆も藤山吹はなんとも思はず、これなる小袖幕の內ゆかし。

【小溲】576（セウシウ・セウサウ） 小便。溲は小便。〔素問、調經論〕形有㆑餘則腹脹、涇溲不㆑利。〔注〕涇、大便、溲、小便也。〔儒門事親、證婦人帶下赤白錯分寒熱解〕白帶雖㆑愈、則小溲必不㆑利。

【小醜】577（セウシウ） 小人の類。小人のともがら。醜は類。〔國語、周語上〕密康公母曰、王猶不㆑堪、況

爾小醜乎。〔注〕醜、類也、王者至尊、且猶不レ堪、況女小人之類乎。〔後漢書、黃香傳〕臣香小醜、少爲二諸生一、典レ郡從レ政、固非レ所レ堪。

【小繡】578 セウシウ セウシユ 小繡冠の略。〔國史略、孝德天皇〕大化三年、制二七色冠一、定二位十三階一、云云、其小繡以上、服色深紫。

〖小繡冠〗579 セウシウクワン セウシユクワン 冠位十三階の第四位。第三十六代孝德天皇の大化三年に制定。

【小獸】580 セウジウ 小さいけもの。〔魏志、管輅傳〕輅曰、當レ獲二小獸一、復非二食禽一。

【小識】581 セウシキ 少しの知識。僅かばかりの知識。〔莊子、繕性〕小識傷レ德、小行傷レ道。

【小失】582 セウシツ 小さなあやまち。些細な過失。小過。大失(**3**－**5831**‥1011)の對。〔後漢書、馬武傳〕帝雖三制二御功臣一、而每能回容、宥二其小失一。〔後漢書、李固傳〕長水司馬武宣・開陽城門侯羊迪等、無二他功德一、初拜便眞、此雖二小失一、而漸壞二舊章一。

【小室】583 セウシツ 小さいへや。狹い部屋。小房。大室(**3**－**5831**‥1012)の㊁の對。〔南史、到漑傳〕漑終身蔬食、別營二小室一。〔盧照鄰、釋疾文序〕宛二轉匡牀一、婆二娑小室一。

〖小室節〗584 コムロブシ 昔、江戸吉原に通った馬子などの謠った小唄。〔續猿蓑、春〕春の日や茶の木の中の小室節。

【小瑟】585 セウシツ 樂器の名。小さな瑟。〔禮、明堂位〕拊搏・玉磬・揩擊・大琴・大瑟・中瑟・小瑟、四代之樂器也。

【小膝】586 コヒザ 膝。小は接頭語。〔平治物語、待賢門軍事〕小膝を折りてどうと伏す。

【小實】587 チベザネ 樺太の地名。

【小集】588 セウシフ 鎭の名。㊀河北省豐潤縣の東南。樂亭縣に通ずる道。清代、把總の駐所。㊁河北省滄縣の東南。鹽山・南皮兩縣往來の道。

〖小集棉〗589 hsiao³ chi² mien² 河北省東部に產する棉花。

【小摺】590 セウシフ 小さい折り紙。〔福惠全書、筮仕部、立號簿〕立二小摺一、記二明大略一。

【小車】591 セウシヤ ㊀小さな車。駟馬車(四頭立の車)をいふ。田車・兵車・乘車の類。大車(**3**－**5831**‥1018)の㊀の對。〔論語、爲政〕大車無レ輗、小車無レ軏、其何以行レ之哉。〔集解〕包咸曰、小車、駟馬車也。〔集注〕小車、謂二田車・兵車・乘車一。〔漢書、車千秋傳〕年老、上優レ之、朝見得下乘二小車一入中宮殿中上。〔後漢書、廉范傳〕麟乘二小車一、塗深馬死、不レ能二自進一。㊁hsiao chʻê 一輪車。㊂ヲグルマ 菊科に屬する草。山野に自生し、夏の頃、菊に似た細瓣の花をつける。

〖小車子〗592 hsiao³ chʻê¹ tzŭ 小車。一輪車。

〖小車梅〗593 ヲグルメ 姓氏。〔日用重寶記〕。

【小姐】594 セウシヤ 未婚の女子の通稱。むすめ。こむすめ。又、人の娘に對する敬稱。お孃さん。宋代は宮婢・妓女の稱に用ひた。〔朱有燉、元宮詞〕簾前三寸弓鞵露、知是㜮㜮小姐來。〔陔餘叢考、小姐〕今南方搢紳家女、多稱二小姐一、在二宋時一、則閨閤女稱二小娘子一、而小姐乃賤者之稱耳、錢惟演玉堂逢辰錄、記下營二王宮一、火起二於茶酒一、宮人韓小姐、謀中於レ火私奔上、是宮婢稱二小姐一也、東坡亦有下成伯席上贈二妓人楊姐一詩上、夷堅志、傳九者好二狎遊一、常與二散樂林小姐一綢繆、約二竊而逃一、不レ得レ遂、與二林小姐一共縊死、又建康女倡楊氏、死現レ形、與二蔡五一爲レ妻、一道士來、杖レ劍逐去、謂レ蔡曰、此建康倡女、楊小姐也、此妓女稱二小姐一也。

【小社】595 セウシヤ ㊀社格の低い神社。大社(**3**－**5831**‥1024)の㊂・中社(**1**－**73**‥411)の㊀の對。〔長寬勘文、勘申〕神有二三等一、大社・中社・小社、是也、大神宮爲レ大、以レ如二加茂社・住吉一爲レ中、餘皆小。〔法曹至要抄、上、顯二入神社一〕稱二大社一者、伊勢大神宮・八幡宮也、中社者、加茂・住吉社之類也、自餘小社也。〔類聚神祇本源、十一、大中小社差別〕太政官符、神祇官拜二五畿七道諸國司一、云云、正一位・正三位以上爲二大社一、從三位・從四位以上爲二中社一、正五位・從五位以上爲二小社一、一大社四至限二九町一、云云、一中社四至限二八町一、云云、一小社四至限二四町一。㊁小さい社。ほこら。叢祠。〔神道名目類聚抄、一、宮社〕ほこら、云云、世俗には小社を云ふやうに心得たり。

〖小社曾根〗596 ヲコソネ 伊勢國の地名。

【小舍】597 セウシヤ ㊀小さい家。大舍(**3**－**5831**‥1025)の㊀の對。〔趙師秀、盧中之載二酒舟中一分レ韻得二明字一詩〕小舍寧容レ客、同舟卻向レ城。㊁明代、軍衛の子弟で父兄の官を襲ぐべきものを應襲舍人といひ、其の舍人は幼少であるから、俗に之を小舍といふ。明の太祖の義子の周舍・道舍・柴舍等は皆小舍の類である。〔明史、何文輝傳〕太祖初起、多蓄二義子一、及レ長、命偕二諸將一、分二守諸路一、周舍守二鎭江一、道舍守二寧國一、馬兒守二婺州一、柴舍眞童守二處州一、金剛奴守二衢州一、皆義子也。㊂新羅の官等の名。第十三等。〔隋書、新羅傳〕其官有二十七等一、其一曰二伊罰千一、貴如二相國一、次伊尺千、次迎千、次破彌千、次大阿尺千、次阿尺千、次乙吉千、次沙咄千、次及伏千、次大奈摩千、次奈摩、次大舍、次小舍、次吉士、次大鳥、次小鳥、次造位。

〖小舍人〗598 コドネリ ㊀藏人所に屬して、侍臣の雜事に驅使せられ、又、納殿の御物を出納し、雜用を務める者。みくらこどねり。〔職原抄〕藏人所、小舍人。㊁近衛の中・少將などの召し連れる童。こどねりわらは。〔宇津保物語、藏開中〕わらは御供に、こどねりにて有りしを召して。㊂武家の侍所の下司。

【小者】599 コモノ ㊀年若い人。小柄な人。〔太平記、九、六波羅攻事〕己れ程の小者と組んで、勝負はすまじきぞ。㊁武家で驅使の用に供する童。轉じて、賤しい召使。〔丹波與作、上〕若黨仲間・あらしこ・小者に至るまで。

【小赦】600 セウシヤ 特典で罪人を赦す際、其の及ぶ範圍の小さなもの。小範圍の恩赦。大赦(**3**－**5831**‥1037)の㊁の對。〔史記、天官書〕風從二西北一來、必以二庚辛一、一秋中五至大赦、三至小赦。

【小謝】601 セウシヤ ㊀晉、謝靈運の族弟、惠連をいふ。靈運を大謝(**3**－**5831**‥1041)といふの對。〔鍾嶸、詩品、中、宋法曹參軍謝惠連〕小謝才思富捷、云云、秋懷擣衣之作、雖二復靈運銳レ思、何以加レ焉。㊁齊、謝朓をいふ。〔李白、宣州謝朓樓餞二別校書叔雲一詩〕蓬萊文章建安骨、中間小謝又清發。

【小蛇】602 セウシヤ 小さい蛇。大蛇(**3**－**5831**‥1044)の對。〔杜甫、太平寺泉眼詩〕青白二小蛇、幽姿可二時覯一、如レ絲氣或上、爛漫爲二雲雨一。

【小匠】602′ コタクミ 紀伊國の地名。

【小姓】603 コシヤウ ㊀こども。少年。小冠者。㊁貴人のそば近く仕へる少年。㊂武家の職名。江戸幕府では若年寄の支配に屬し、將軍の日常坐臥の雜務をつとめた。

〖小姓組〗603′ コシヤウグミ 德川幕府が殿中に設けた近習の兵隊。〔吏徵、上〕御小姓組三百人、云云、一組五十人。

【小相】604 セウシヤウ 君の禮をたすける世話役。小は謙辭。〔論語、先進〕宗廟之事、如會同、端章甫、願爲二小相一焉。〔鄭注〕小相、謂レ相二君之禮一。〔集注〕相二贊君之禮一者、言レ小、亦謙辭。

〖小相公嶺〗605 セウシヤウコウレイ 山名。四川省越嶲縣の南。麓から頂まで十五里、けはしい石の坂道があり、三國、蜀漢の諸葛武公の開く所と傳ふ。其の地は涼山の北境で、匪賊の橫行したところである。〔讀史方輿紀要、四川、越嶲衛軍民指揮使〕小相公嶺、衞南五十里、山勢高聳、石磴崎嶇、自レ麓至レ頂十五里、武侯所レ開也。

【小唱】606 セウシヤウ ㊀小聲でとなへること。小聲でうたふ。〔梁簡文帝、上三武帝菩提樹頌一啓〕臣聞、繫レ轅小唱、有レ慕二風雅一、巴人淺曲、實仰二陽春一。㊁宋代の樂曲で、慢曲・引・近等の種目をいふ。法曲・大曲等の長篇に對して、慢曲以下は小品の歌曲であるからいふ。〔輟耕錄、雜劇曲名〕唱曲門戶・小唱・寸唱・慢唱・壇唱・步虛。

【小商】607 セウシヤウ 橋の名。河南省臨潁縣の南。小㶏河に架す。隋の開皇年間に建てた。今、京漢鐵道が通つてゐる。〔讀史方輿紀要、河南、許州、臨潁縣〕小商橋、在二縣南小㶏水上一。

〖小商人〗608 コシヤウニン こあきうど。小規模經營の商人。行商により、或は道路で物品を賣買する商人。現行商法では資本金額二千萬圓未滿で會社組織でないものをいふ。〔商法、第八條〕。

【小將】609 セウシヤウ 大將の下に在つて、一部隊の指揮・統率を掌る將軍。少將。〔墨子、迎敵祠〕凡望レ氣有二大將氣一、有二小將氣一。〔史記、灌嬰傳〕嬰身生二得左司馬一人一、所レ將卒斬二其小將十人一。

【小祥】610 セウシヤウ　人の死後一年目に行ふ祭。一周忌。一年祭。期祭。二年後に行ふ祭を大祥(**3-5831**‥1063)といふの對。〔儀禮、士虞禮〕期而小祥、曰、薦二此常事一。又期而大祥、曰、薦二此祥事一。〔疏〕自レ祔以後、至二十三月一小祥。〔禮、閒傳〕父母之喪、既虞卒哭、疏食水飮、不レ食二菜果一、期而小祥、云云、又期而大祥。〔釋名、釋喪制〕期而小祥、亦祭名也、孝子除二首服一、服二練冠一也、祥、善也、加二小善之飾一也。

〖小祥忌〗611 セウシヤウキ　小祥に同じ。〔尺素往來〕一周忌謂二之小祥忌一、三周忌謂二之大祥忌一耳。

【小笙】612 セウシヤウ　笙の小さなもの。一名、和。〔儀禮、鄕射禮〕三笙一和而成レ聲、疏〕爾雅釋樂云、小者謂二之和一、注云、和、小笙、是也。

【小象】613 セウシヤウ　易卦の六爻に對する象傳をいふ。卦に對する象傳を大象(**3-5831**‥1066)といふの對。〔易、乾、潛龍勿レ用陽在レ下也、疏〕自レ此以下、至二盈不レ可レ久、是夫子釋二六爻一之象辭、謂二之小象一。

【小鉦】614 セウシヤウ　樂器の名。鐃の屬。小さい銅鑼。奏樂及び軍中に用ひる。〔說文〕鐃、小鉦也、云云、軍灋卒長執レ鐃。

【小障】615 セウシヤウ　小さいささへ。〔宋史、夏守贇傳〕平時小障、屯二兵馬一不レ及二千餘一、賊盛、至二固守不レ暇、安能出鬭耶。

【小觴】616 セウシヤウ　小さいさかづき。小杯。小鍾。〔李賀、同二沈駙馬一賦二得御溝水一詩〕別館驚二殘夢一、停レ盃泛二小觴一。

【小城】617 セウジヤウ　❶小さい城。こじろ。大城(**3-5831**‥1081)の❶の對。〔梁書、韋叡傳〕魏初分二築東西小城一、夾二合肥一、叡先攻二二城一。〔杜甫、潼關吏詩〕士卒何草草、築レ城潼關道、大城鐵不レ如、小城萬丈餘。❷地名。㋑ヲギ　肥前國の地名。㋺ヲグスク　琉球の地名。

〖小城子〗618 セウジヤウシ　地名。❶滿洲遼寧省梨樹縣の東北。懷德縣に通ずる道あり、戍兵を置く。❷滿洲吉林省磐石縣の北。吉林縣に通ずる路がある。❸滿洲吉林省舒蘭縣の東南。額穆縣の通路に當る。

【小常】619 セウジヤウ　❶唐代、太常少卿(**3-5831**‥1090)の別名。〔容齋四筆、官稱別名〕唐人好以二他名一標二牓官稱一、云云、太常卿爲二樂卿一、少卿爲二小常一。❷鎭の名。山西省太谷縣の東北。北、楡次縣の界に接し、もと堡あり。〔淸一統志〕小常堡・胡村堡、俱在二縣東北一、皆民堡也。

【小讓】620 セウジヤウ　少しくゆづる。わづかな謙讓。大讓(**3-5831**‥1095)の對。〔禮、儒行〕大讓如レ慢、小讓如レ僞。〔史記、項羽紀〕樊噲曰、大行不レ顧二細謹一、大禮不レ辭二小讓一。〔阮籍、爲二鄭沖一勸二晉王一牋〕何必勤勤小讓也哉。

【小尺】621 セウシヤク　長さの單位。尺の一種。大寶令の制で、小尺一尺二寸を以て、大尺卽ち高麗尺の一尺にあてる。大尺は地を度り、銀銅穀を量るだけに用ひ、其の他は小尺を用ひる。〔雜令、義解〕十寸爲レ尺、一尺二寸爲二大尺一尺一。

【小彴】622 セウシヤク　小橋。小さな丸木橋。かけわたし。彴はまるきばし、一本橋。〔蔡襄、詩〕巖曲疏鍾答、村前小彴通。

【小汋】623 セウシヤク　小便をいふ。〔釋名、釋形體〕自レ臍以下曰二水腹一、小汋所レ聚也。

【小酌】624 セウシヤク　❶ささやかなさかもり。小人數で酒を飮むこと。小飮。小宴。〔本事詩、徵異第五〕時白尙書在レ京、與二名輩一遊二慈恩一、小二酌花下一。❷ちよつと酒を飮む。一酌。小斟。〔醉古堂劍掃、十二〕一軒明月花影參差、席レ地偏宜二小酌一。

【小釋】625 セウシヤク　すこしくとける。〔陳書、虞寄傳〕虞公病勢漸篤、言多二錯謬一、寶應意乃小釋。

【小嚼】626 セウシヤク　こまかくかみくだく。〔蘇軾、紫團參寄二王定國一詩〕蠶頭試小嚼、龜息變方騁。

【小癪】627 コシヤク　❶小ざかしく生意氣なこと。さかしら。〔浦島年代記、三〕ええ、小癪な。❷かんしやく。

【小弱】628 セウジヤク　❶ちひさくて力がよわい。又、其の人。其の國。弱小。強大(**4-9815**‥144)の對。〔呂覽、順說〕小弱可三以制二彊大一矣。〔戰國、趙策〕小弱顧能得二之強大一乎。〔史記、始皇紀贊〕天下非二小弱一也。〔史記、孔子世家〕魯小弱。〔史記、倉公傳〕其脈深小弱。〔新書、過秦上〕且夫天下非二小弱一也。❷幼弱なこと。小弱弟を見よ。

〖小弱弟〗629 セウジヤクテイ　幼少な弟。〔柳宗元、桐葉封レ弟辯〕古之傳者有レ言、成王以二桐葉一與二小弱弟一、戲曰、以封レ汝。

【小雀】630 セウジヤク　❶小さいすずめ。こすずめ。〔晉書、王育傳〕卿往年爲二二千石一、吾所レ敬也、今吾儕耳、何故不レ見レ迎、欲下以二小雀一遇上我。❷コガラ　燕雀類に屬する鳥。腹と背とは白く、翅と尾とは黑い。〔新撰六帖、二〕冬野にはこがら山がら飛び散りて。

【小手】631　❶hsiao^2 shou^3 すり。掏摸。❷コテ　㋑兩臂を被ふ鎧の具。〔平治物語、待賢門軍事〕左右の小手をさして。㋺擊劍の時、手指から肘に穿つもの。籠手。㋩弓を射る時の具。革で作り、左の臂に掛けるもの。ゆごて。射韝。〔倭名類聚抄、術藝部、射藝具、射韝〕說文云、韝、多末岐、一云、小手。㊁肘から先をいふ。高手(肘から肩まで)の對。

〖小手槍〗632 hsiao^2 shou^3 ch'iang^1 ピストル。

〖小手冊〗633 セウシユサツ　小冊子。パンフレット。

〖小手先〗634 コテサキ　手のはし。手先。小は接頭語。

〖小手調〗635 コテシラベ　手さきの調子を整へるために行ふわざ。

【小主】636 セウシユ　❶年若い主君。年少の主人。❷秦の出子をいふ。〔呂覽、當賞〕秦小主夫人用奄變、羣賢不レ說自匿。〔注〕小主、秦君也。〔許維遹、呂氏春秋集釋〕畢沅曰、以二史記秦本紀一攷レ之、小主、卽出子也。

〖小主人〗637 hsiao^2 chu^3 jen^2 若檀那をいふ。

【小朱】638 セウシユ　うすべに。〔飛燕外傳〕爲二薄眉一號二遠山黛一、施二小朱一號二慵來粧一。

【小取】639 セウシユ　墨子の篇名。

【小首】640 コクビ　❶くび。かしら。かうべ。小は接頭語。〔古今著聞集、十二〕こくびを強く打ちて。❷衣服の襟。〔催馬樂、夏引〕麻衣、云云、こくびやはらに從ひきせめかも。❸こくびぜめ。相手の首に手を掛けて攻めつけること。

【小珠】641 セウシユ　小さなたま。〔白居易、琵琶行〕嘈嘈切切錯雜彈、大珠小珠落二玉盤一。

【小酒】642 セウシユ　春から秋にかけて出來る一宿酒。一夜酒。酤。〔戎昱、駱家亭子納涼詩〕生衣宜二水竹一、小酒入二詩篇一。〔宋史、食貨志下七〕自レ春至レ秋醞成卽鬻、謂二之小酒一。

【小須】643 セウシユ　しばらく待つ。しばらくおくらせる。少須。〔晉書、王沈傳〕愚以爲、告レ下之事、可二小須後一。

【小豎】644 セウジユ　人をさげすんで呼ぶ稱。小僧。靑二才。豎子。豎は子供。〔後漢書、朱儁傳〕以レ君召レ臣、義不レ俟レ駕、況天子詔乎、且傕汜小豎、樊稠庸兒、無二他遠略一。〔南史、梁武帝諸子、邵陵攜王綸傳〕侯景小豎、頗習二行陣一。

〖小豎子〗645 セウジユシ　人をいやしんで呼ぶ稱。こども。こわつぱ。あをにさい。〔史記、平原君傳〕白起小豎子耳、率二數萬之衆一、興レ師以與レ楚戰、一戰而擧二鄢郢一、再戰而燒二夷陵一、三戰而辱二王之先人一、此百世之怨、而趙之所レ羞。

【小儒】646 セウジユ　器量の小さい儒者。又、諸侯の士大夫をいふ。小人儒。大儒(**3-5831**‥1117)の對。〔荀子、儒效〕公脩而才、可レ謂二小儒一矣、云云、大儒者、天子三公也、小儒者、諸侯大夫士也。〔江淹、雜體詩、魏文帝丕遊宴〕高文一何綺、小儒安足レ爲。〔注〕孫卿子曰、小儒者謂二大夫士一、良曰、高文綺靡通達之才、非二一經小儒之所一レ爲。

【小樹】647 セウジユ　❶小さい樹木。〔白居易、東坡種レ花詩〕小樹低數尺、大樹長丈餘。❷淸、金虞(**11-40152**‥265)の號。

〖小樹軒〗648 セウジユケン　淸、金虞(**11-40152**‥265)の室名。

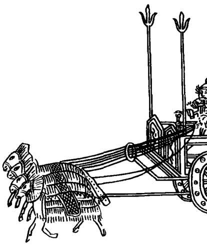
【小濡】649 セウジユ　川の名。濡水から北に分れた支流。〔水經、濡水注〕濡水、又逕二故城南一、分爲二二水一、北水枝出、世謂二之小濡水一。

【小襦】650 セウジユ　小さい短衣。〔杜甫、別二李義一詩〕憶昔初見時、小襦繡二芳蓀一。

〖小襦襖〗651 セウジユアウ　短い下衣と上衣。〔北史、任城王雲傳〕帝復幸レ鄴、見二公卿一曰、朕昨入レ城、見下車上婦人冠レ帽、而著二小襦襖一者上、尙書何爲不レ察。

【小衆】652 セウシユウ　小人數の人。少數の民衆。〔公羊、桓、十六〕十有一月、衞侯朔出二奔齊一、衞侯朔何以名、絕、曷爲絕レ之、得二罪于天子一也、其得二罪于天子一奈何、見レ使レ守二衞朔一、而不レ能レ使二衞小衆一、越

在二岱陰齊一。



秦小戎❶(三才圖會)

【小戎】653 セウジュウ ❶兵車の名。大を元戎といふに對し、小を小戎といふ。〔詩、秦風、小戎〕小戎俴收。〔傳〕小戎、兵車也。〔箋〕此羣臣之兵車、故曰二小戎一。〔國語、齊語〕故五十人爲二小戎一、里有司帥レ之。〔注〕小戎、兵車也、此有司之所レ乘、故曰二小戎一。〔管子、小匡〕故五十人爲二小戎一、里有司率レ之。〔惠棟、九經古義〕七十二人爲二大戎一、五十人爲二小戎一。❷詩經、秦風の篇名。秦の襄公が能く西戎を討つたのをほめた詩。〔詩、秦風、小戎序〕小戎、美二襄公一也、備二其兵甲一、以討二西戎一、西戎方彊、而征伐不レ休、國人則矜二其車甲一、婦人能閔二其君子一焉。❸複姓。小狐氏(404)の❷に同じ。〔左氏、莊、二十八〕大戎狐姬生二重耳一、小戎子生二夷吾一。〔注〕小戎、允姓之戎子女也。

【小絨】654 hsiao^3 jung^2 フランネルの類。

【小銃】655 セウジュウ 小さい鐵砲。こづつ。一人で携帯使用の出來る鐵砲。

【小叔】656 セウシュク こじうと。夫の弟。〔史記、蘇秦傳〕見二季子位高金多一。〔注〕索隱曰、按、其嫂呼二小叔一爲二季子一耳。

〖小叔子〗657 hsiao^3 shu^2 tzŭ 夫の弟。

【小宿】658 コヤド ❶ちよつとした宿。かりそめに宿る家。❷江戸時代、男女の密會する宿。〔好色一代男、二〕後は物縫の小宿、板橋のたはれ女も見のこさず。

【小祝】659 セウシュク 周官の名。春官の屬。大祝の次官。小祭祀を掌る。〔周禮、春官、小祝〕掌二小祭祀一、將二事侯・禳・禱・祠之祝號一。

【小淑】660 セウシュク 明、徐媛(**4**−**10110**··26)の字。

【小熟】661 hsiao^3 shou^2 江蘇省太倉縣地方の棉花以外の雜穀。

【小術】662 セウジュツ 小さい術數。つまらぬはかりごと。くだらぬくはだて。小策。小數。小細工。〔唐書、李德裕傳〕以二小術一欺二聰明一、如二文成五利一者也。〔李衞公問對、上〕多是以二小術一而勝二無術一。

【小春】663 セウシュン こはる。❶陰曆十月の異稱。十月は氣候溫暖で、春のやうであるからいふ。〔荊楚歲時記〕十月、天氣和暖似レ春、故曰二小春一。〔事文類聚〕十月暖如レ春、故謂二之小春一。〔歲時事要〕十月、天時和暖似レ春、花木重レ花、故曰二小春一。❷陰曆八月の異稱。〔筍譜〕八月謂二之小春一、熱欲レ去、寒欲レ來、氣至而涼、故曰二小春一。〔田家五行〕八月中旬作レ熱、名二八月小春一、冬初和暖、謂二之十月小春一。

〖小春牛〗664 セウシュンギウ 土牛を作つて寒氣を送つた周時代の儀を承けて、俗間に於て立春の時、春牛と名づける土牛を作つて農耕の時節の來たことを示したが、此の祭儀に際し、百姓が此の土牛に因んで小牛形を作つて賣り、土牛の祥福を分け享けしめんとしたもの。春牛(**5**−**13844**··139)を見よ。〔東京夢華錄、六、立春〕立春前一日、開封府進二春牛一入二禁中一鞭レ春、開封祥符兩縣、置二春牛於府前一、至日絕早、府寮打レ春、如二方州儀一、府前左右、百姓賣二小春牛一、往往花裝欄坐、上列二百戲人物一、春幡雪柳、各相獻遺。〔山西志書、襄垣縣〕立春日迎春時、民攜二小兒一、轉二春牛身上下一、以禳二兒疹一、鞭レ牛時、拾二剝土一、以禳二牛瘟一。

〖小春日和〗665 コハルビヨリ 陰曆十月の頃のうららかな天氣。

【小楯】666 コダテ 假の楯。楯に代へて身を寄せるもの。〔源平盛衰記、三十三、兼康板藏城戰事〕大木をこだてにして敵を待つ處に。

【小胥】667 セウショ 周官の名。春官の屬。樂官の屬で、大胥を輔け、學生の徵令・校比・徵罰を掌る。〔周禮、春官、小胥〕掌二學士之徵令一而比レ之、觵二其不敬者一、巡二舞列一、而撻二其怠慢者一、正二樂縣之位一。〔禮、王制〕將レ出レ學、小胥・大胥・小樂正、簡二不レ帥レ教者一、以告二于大樂正一。

【小暑】668 セウショ 二十四氣の一。太陽の黃經が一〇五度に達する時刻。陰曆の六月の節に當り、陽曆では七月七日・八日頃に當る。此の頃から暑さ漸く加はるといふ。大暑(**3**−**5831**··1163)の❶の對。〔禮、月令〕小暑至、螳蜋生、鵙始鳴、反舌無レ聲。〔呂覽、仲夏〕小暑至、螳蜋生。〔注〕小暑、夏至後六月節也。〔逸周書、時訓解〕五日小暑至、苦菜不レ秀。〔管子、幼官〕十二小暑終。〔漢書、律歷志下〕鶉火初柳九度小暑、中張三度大暑。〔淮南子、天文訓〕指レ丁則小暑。

【小嶼】669 セウショ 福建省莆田縣の東南、嵩山の南の海中に在る島の名。一に猴嶼といふ。戶數千餘。もと巡司を置く。明の嘉靖年間、民自ら城を築いて衞とす。〔讀史方輿紀要、福建、興化府、莆田縣〕嵩山、府東南三十里、峭二拔海濱一、其南有二小嶼一、在二海中一、潮退有二石橋一可レ渡、居民千餘家、唐觀察使柳冕、監二羣牧於此一、有レ德二於民一、民建二柳侯廟一、俗因呼爲二侯嶼一、久レ之訛爲二猴嶼一。

【小覰】670 hsiao^3 ch'ü^4 ばかにする。あなどる。みさげる。覰は覷。〔水滸傳、二回〕如何敢小覰我、不伏俺點視。

【小序】671 セウジョ ❶詩經は各篇の初に書經と同じく序があり、之を大序と小序とに分つ。而して大序小序の別に就ては、諸說區々であつて、一、關雎の序全文を大序とし、葛覃以下の各篇の序を小序とするもの、二、關雎の序のみに就て大小を分ち、㋑關雎后妃之德也以下の四句を小序とし、風風也から以下全部を大序とするもの、㋺詩者志之所レ之から詩之至也までを大序とし、其の餘の首尾を小序とするもの、三、各篇の序に就て大小を分ち、㋑每序發端の語、例へば關雎后妃之德也を小序とし、以下を大序とするもの、㋺之と反對に首を大序、以下を小序とするもの等がある。而して小序の作者に就ても、古來數說があり、或は子夏・毛公の合作といひ、或は衞宏の潤色する所といひ、又、衞宏の作ともいひ、或は子夏に非ずといひ、或は孔子・毛公の作といひ、或は詩人の作といひ、或は野人の作にして信ず可からずといふ。蓋し、小序は今日は各篇に分屬せられてゐるが、當初は一つに纒まつてゐたものらしく、其の作者に就ても大体漢以後一經師の作と考へるのが穩當であらう。詩序(**10**−**35427**··106)・大序(**3**−**5831**··1168)を見よ。〔經義考、詩、卜子商詩序〕後漢書、衞宏、字敬仲、東海人、初九江謝曼卿善二毛詩一、迺爲二其訓一、宏從二曼卿一受レ學、因作二毛詩序一、善得二風雅之旨一、於レ今傳二於世一、沈重曰、按二鄭詩譜一、大序、子夏作、小序、子夏・毛公合作、隋志、先儒相承謂、毛詩序、子夏所レ創、毛公及衞敬仲、又加二潤益一、陸德明曰、孔子最先刪レ詩、以授二於子夏一、子夏遂作レ序焉、口以相傳、未レ有二章句一、又曰、關雎、后妃之德也、至レ用二之邦國一焉、名二關雎序一、謂二之大序一、此以下則小序也、大序、是子夏作、小序、是子夏・毛公合作、卜商意有レ未レ盡、毛更足二成之一、孔穎達曰、詩三百一十一篇、子夏作レ序、韓愈曰、子夏不レ序レ詩、成伯璵曰、學者以、詩大小序、皆子夏所レ作、未レ能レ無レ惑、如二關雎之序一、首尾相結、冠二束二南一、故昭明太子亦云、大序、是子夏全制、編二入文什一、其餘衆篇之小序、子夏惟裁二初句一耳、至二也字一而止、葛覃、后妃之本也、鴻雁、美二宣王一也、如レ此之類、是也、其下皆是大毛公、自以二詩中之意一、而繫二其辭一也、後人見二序下有一レ注、又曰、東海衞宏所レ作、事雖二兩存一、未レ爲二允當一、當下是鄭玄於二毛公傳下一、卽得レ稱レ箋、於二毛公序末一、略而爲上レ注耳、毛公作レ傳之日、漢興已亡二其六篇一、但據二亡篇之小序一、惟有二一句一、毛既不レ見二詩體一、無二由得一レ措二其辭一也、又、高子是戰國時人、在二子夏之後一、當二子夏之世一、祭皆有レ尸、靈星之尸、子夏無二爲取一レ引、一句之下、多是毛公、非二子夏一明矣、歐陽脩曰、或問、詩之序、卜商作乎、衞宏作乎、非二一人之作一、則作者其誰乎、應レ之曰、書・春秋皆有レ序、而著二小名氏一、故可レ知二其作者一、詩之序、不レ著二其姓氏一、安得而知レ之乎、雖レ然非二子夏之作一、則可二以知一也、王安石曰、詩序、詩人所二自製一、蘇轍曰、孔子之序レ書也、擧三其所二爲作一書レ之、故其贊レ易也、發下其可二以推易一之端上、未三嘗詳二言之一也、非レ不レ能レ詳、以爲レ詳レ之則隘、是以常擧二其略一、以待二學者自推一レ之、故其言曰、仁者見レ之謂二之仁一、知者見レ之謂二之知一、夫惟不レ詳、故學者有二以推而自得一レ之、今毛詩之序、何其詳之甚也、世傳以爲レ出二於子夏一、予竊疑レ之、子夏嘗言二詩於仲尼一、仲尼稱レ之、故後世之爲レ詩者、附レ要之、豈必子夏爲レ之、其亦出二於

孔子、或弟子之知詩者與、然使誠出於孔氏也、則不若是詳矣、孔子刪詩、而取三百十一篇、今其亡者六焉、詩之序、未嘗詳也、詩之亡者、經師不得見矣、雖欲詳之、而無由、其存者、將以解之、故從而附益之、以自信其說、是以其言時有反覆煩重、類非一人之辭者、凡此皆毛氏之學、而衞宏之所集錄也、東漢儒林傳曰、衞宏從謝曼卿受學、作毛詩序、善得風雅之旨、至今傳於世、隋經籍志曰、先儒相承謂、毛詩序、子夏所創、毛公及衞敬仲、又加潤益、古說本如此、故予存其一言而已、曰、是詩言是事也、而盡去其餘、獨采其可者見於今傳、其尤不可者、皆明著其失、以爲此孔氏之舊也。❷文體の名。詩文の前に著作の意を略述したもの。〔文體明辯、小序〕按、小序者、序其篇章之所由作、對大序而名之也、漢班固云、孔子纂書凡百篇、而爲之序、言其作意、此其序之所由始也。

【小敍】672 hsiao^3 hsü^4　小話。

【小松】673（セウショウ）❶小さい松。〔杜甫、寄題江外草堂詩〕尙念四小松、蔓草易拘纏。❷字號。㋑明、朱纓(**6**−**14424**‥48)の號。㋺清、黃易(**12**−**47926**‥51)の字。

『小松園閣』674（セウショウエンカク）清、程庭鷺(**8**−**25081**‥264)の室名。

『小松山人』675（セウショウサンジン）明、朱纓(**6**−**14424**‥48)の號。

『小松石齋』676（セウショウセキサイ）清、趙允懷(**10**−**37171**‥408)の號。

【小訟】677（セウショウ）小さい訴訟事。小さい事件のうつたへ。〔周禮、地官、司市〕胥師賈師、涖于介次、而聽小治小訟。

【小稱】678（セウショウ）管子の篇名。〔管子、小稱、注〕稱、擧也、小擧其過、則當權而改之。

【小鍾】679（セウショウ）小さいさかづき。鍾はさかづき。つぼの形をしたもの。小觴。〔福惠全書、刑名部、人命下、驗各種死傷〕以小鍾陸續灌盡。

【小鐘】680（セウショウ）小さいかね。〔隋書、音樂志下〕編鐘、小鐘也、各應律呂大小、以次、編而懸之、上下皆八、合十六鐘、懸于一簨簴。

【小宂】681 hsiao^2 jung^3　せはしい。多忙。〔水滸傳、七回〕林沖答道、小弟小宂、不曾探得師兄。

【小乘】682（セウジョウ）［佛］大乘の對。小根の人が所乘とする佛教。この教に於ては、教理、修行者の見解など狹小で、煩瑣な理論に走り、束縛の多いものであるから、これに反對して起つた積極的教派の人々は自らを大乘といひ、前者を小さな乘物といふ意で小乘といつた。小法。小乘教を見よ。〔法華經、方便品〕佛自在大乘、如其所得法、定慧力莊嚴、以此度衆生、自證無上道大乘平等法、若以小乘、乃至化一人、我則墮慳貪。〔庾肩吾、奉和太子解講詩〕小乘開治道、大覺拯蒼民。

『小乘戒』683（セウジョウカイ）［佛］小乘の律藏に說く所の戒律。比丘の二百五十戒、比丘尼の三百四十八戒をいふ。〔太平記、十五、園城寺戒壇の事〕南都は又聲聞の小乘戒を立つ。

『小乘經』684（セウジョウキャウ）［佛］四諦十二因緣の理を說き空寂の涅槃を詮はすもの。四部の阿含經等の類。

『小乘教』685（セウジョウケウ）［佛］小乘の教。聲聞乘・緣覺乘・菩薩乘の三乘の教の中、菩薩乘は高遠深大な成佛を理想としているので大乘教といひ、之に對して聲聞乘・緣覺乘は共に灰身滅智、卽ち身心共に滅無に歸すといふ空寂の涅槃を目的とするので小乘教といふ。

【小蒸】686（セウジョウ）鎭の名。江蘇省青浦縣の西南。一名、貞溪。其の西を大蒸といひ、漢の濮陽王の墓がある。墓を築く時、土を蒸して作つたところから此の名があるといふ。明代、巡司を置く。〔讀史方輿紀要、江南、松江府、青浦縣〕小蒸鎭、在縣西南四十五里、云云、大蒸志云、鎭西四里、有古濮陽王大小二墓、蒸土築之、因名。

『小蒸氣船』687（コジョウキセン）小形の蒸氣船。

【小繩】688（セウジョウ）紐。ひも。〔左氏、昭、十九、紡焉以度而去之、疏〕以此小繩度城而去之。

【小食】689（セウショク）❶定つた食事の前後に食ふこと。又、そのもの。間食。茶菓。點心。〔梁書、昭明太子傳〕京師穀貴、太子因命、菲衣減膳、改常饌爲小食。〔搜神記、二〕（管輅謂趙顏曰）吾卯日小食時、必至君家。❷すこし食ふ。又、量の少い食事。少食。

『小食調』690（セウショクテウ）樂曲の名。小石調を見よ。〔唐書、禮樂志十二〕俗樂者二十有八調、云云、有雙調・小食調。〔冊府元龜〕天寶十三年、改諸樂名、林鐘商時號小食調。

『小食土』691（ヤサシド）上總國の地名。

【小職】692（セウショク）❶ひくい官職。〔後漢書、杜詩傳〕臣詩蒙恩尤深、義不敢苟冐虛請、誠不勝至願、願退大郡受小職。❷官職にある人の謙稱。

【小辱】693（セウジョク）すこしのはぢ。わづかのはぢ。大辱(**3**−**5831**‥1194)の對。〔史記、陳餘傳〕今見小辱、而欲死一吏乎。〔淮南子、說林訓〕管子以小辱爲大榮。

【小心】694（セウシン）❶小さい心。せまい心。小さいきもだま。〔詩、小雅、正月〕哀我小心、癙憂以痒。❷注意ぶかい心。こまかい事にまでよく行きとどく心。細心で謹み深い。小心翼翼を見よ。〔禮、表記〕有君民之大德、有事君之小心。〔荀子、不苟〕小心則畏義而節。〔漢書、谷永傳〕洞洞屬屬、小心畏忌。❸心を小さくする。氣を付ける。注意する。用心する。〔禮、表記〕卑己而尊人、小心而畏義、求以事君。〔長生殿、春睡〕我與爾須要小心伺候。〔福惠全書、蒞任部、親查閱〕嚴諭禁卒、小心火燭。❹唐、劉子翼(**2**−**2224**‥978)の字。

『小心齋』695（セウシンサイ）明、顧憲成(**12**−**43689**‥260)の號。

『小心文』696（セウシンブン）文體の名。細微の點にまで周到の注意をなし、精錬微妙の筆力を以て綿密に議論した文體。宋の謝枋得は文章軌範を編して、其の第三・四・五・六・七の各卷に小心文をあつめた。放膽文(**5**−**13133**‥195)の對。〔文章軌範、三、小心文〕議論精明而斷制、文勢圓活而婉曲、有抑揚、有頓挫、有擒縱、場屋程文論、當用此樣文法。

『小心眼兒』697 hsiao^3 hsin^1 yen^3 êrh　氣が小さい。量見が狹い。小膽。

『小心謹愼』698（セウシンキンシン）謹み深く細事に注意する。〔漢書、霍光傳〕出入禁闥二十餘年、小心謹愼、未嘗有過、甚見親信。〔後漢書、光武郭皇后紀〕帝善況、小心謹愼。

『小心銀色』699 hsiao^3 hsin^1 yin^1 sê^4　銀の色に注意せよといふこと。錢莊で用ひる言葉。

『小心翼翼』700（セウシンヨクヨク）恭敬の心を以てつつしむさま。翼は敬。〔詩、大雅、大明〕維此文王、小心翼翼。〔箋〕小心翼翼、恭愼貌。〔疏〕人度量欲其心之大、謹愼欲其心之小。〔詩、大雅、烝民〕令儀令色、小心翼翼。〔管子、弟子職〕朝益暮習、小心翼翼。

【小臣】701（セウシン）❶身分の低い家來。こもの。又、臣下の謙稱。〔書、康誥〕惟厥正人、越小臣諸節、乃別播敷、造民大譽。〔禮、禮運〕君位危、則大臣倍、小臣竊。〔左氏、成、十〕小臣有晨夢負公以登天。❷周官の名。夏官の屬。王の雜用を辨ずるもの。〔周禮、夏官、小臣〕小臣、掌王之小命、詔相王之小灋儀。〔注〕小命、時事所勅問也、小灋儀、趨行拱揖之容。❸宮中の雜事に供する卑しい閹人。內小臣をいふ。〔左氏、僖、四〕予小臣、小臣亦斃。〔國語、晉語二〕飮小臣酒、亦斃。〔注〕小臣、官名、掌陰事陰命、閹士也。❹小人の臣下。小才を弄する臣。〔韓詩外傳、五〕小臣、國之賤臣也。〔史記、伍子胥傳〕王獨奈何以讒賊小臣、疏骨肉之親乎。❺殷の湯王の臣、伊尹をいふ。〔墨子、尙賢下〕禹有皋陶、湯有小臣。〔呂覽、尊師〕禹師大成贄、湯師小臣。〔注〕小臣、謂伊尹。〔楚辭、天問〕何乞彼小臣、而吉妃是得。〔注〕小臣、謂伊尹也。

『小臣正』702（セウシンセイ）小臣の長。正は長。〔儀禮、大射儀〕小臣正辭、賓升成拜。〔注〕正、長也。

【小身】703（セウシン）身分の低い者。僅かの俸給を取る人。大身(**3**−**5831**‥1197)の❶の對。〔室町殿日記〕四箇國の大身小身。

【小辛】704（セウシン）❶草の名。うすばさいしん。ひきのひたひ。細辛(**8**−**27344**‥183)の異名。少辛。〔本草、細辛〕釋名、小辛、少辛。❷殷の第十八代の王、盤庚の弟。盤庚崩じて卽位したが、殷、是に於て四度衰へ、百姓盤庚の德を懷ひ、盤庚三篇を作つたといふ。竹書紀年には小辛、名は頌、卽位して殷に居り、三年にして崩ずとある。漢書古今人表に小辛を盤庚の子としたのは恐くは非。〔史記、三〕。

『小辛集』705（セウシンシフ）地名。河北省衡水縣の西。も

と張六堡といふ。邑人に張六といふ者あり、衆を率ゐて寇を拒いだ處と傳ふ。

【小信】706 セウシン　㊀小さなまこと。わづかな信義。小諒。大信（3－5831・・1201）の㊀の對。〔左氏、莊、十〕公曰、犧牲玉帛、弗二敢加一也、必以レ信、對曰、小信未レ孚、神弗レ福也。〔管子、大匡〕博二於糧一、多二小信一。㊁冠位十二階の第八位。第三十三代推古天皇の十一年に制定。

『小信成則大信立』707 セウシンナレバスナハチタイシンタツ　小さな信義が成就するときは大きな信義も從つて成り立つ。〔韓非子、外儲說左上〕小信成則大信立、故明主積二於信一。

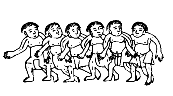
【小神】708 ヲコ　越中國の地名。

【小斟】709 セウシン　すこし酒をくむ。小酌。淺斟。〔趙寬、詩〕村釀小斟狂不レ醉、野雲閒臥俗猶レ仙。

【小寢】710 セウシン　㊀天子諸侯の居所を寢といひ、中央にある正殿を路寢といひ、その東西兩側に在る便殿を小寢といふ。やすむ室。勝手の閒。燕寢。少寢。一說に、夫人の居閒といふは非。〔禮、玉藻〕大夫退、然後適二小寢一釋レ服。〔注〕小寢、燕寢也。〔春秋、僖、三十三〕乙巳、公薨二于小寢一。〔左氏、僖、三十三〕反、薨二于小寢一、卽レ安也。〔注〕小寢、夫人寢也。〔公羊、僖、二十〕西宮者何、小寢也。㊁天子の高祖以下のみたまやの奧殿（奧の院）をいふ。始祖に大寢といふの對。〔周禮、夏官、隸僕〕大喪復二于小寢大寢一。〔注〕小寢、高祖以下廟之寢也、始祖曰二大寢一。

【小人】711 セウジン　㊀しもじも。たみ。庶民。小民。〔書、無逸〕其在二高宗時一、舊勞二于外一、爰曁二小人一。〔蔡傳〕與二小民一出入同レ事。〔論語、里仁〕君子懷レ德、小人懷レ土、君子懷レ刑、小人懷レ惠。〔集說〕物茂卿云、君子・小人、以レ位言。〔論語、顏淵〕君子之德風、小人之德草、草尙二之風一必偃。〔皇疏〕君子、人君也、小人、下民也。〔論語、子路〕小人哉樊須也。〔集注〕小人、謂二細民一、孟子所謂小人之事者也。〔論語、陽貨〕君子有レ勇而無レ義爲レ亂、小人有レ勇而無レ義爲レ盜。〔集注〕皆以レ位而言者也。〔孟子、滕文公上〕有二大人之事一、有二小人之事一。〔注〕孟子言、人道自有二大人之事一、謂三人君行二教化一也、小人之事、謂二農工商一也。〔孟子、滕文公下〕其小人簞食壺漿、以迎二其小人一。〔集注〕小人、謂二細民一也。㊁德の無い者。修養の無い人。心の邪な人。小夫。小兒。〔易、泰〕小人道消也。〔易、繫辭下〕小人不レ恥二不仁一、不レ畏二不義一。〔書、大禹謨〕君子在レ野、小人在レ位。〔傳〕廢二仁賢一、任二姦佞一。〔論語、爲政〕君子周而不レ比、小人比而不レ周。〔管子、立政〕寧過二於君子一、而毋レ失二於小人一。〔荀子、勸學〕小人之學也、入二乎耳一出二乎口一。㊂めしつかひ。奴僕。〔論語、陽貨〕唯女子與二小人一爲レ難レ養也。〔集注〕此小人、亦謂二僕隸下人一也。㊃自己の謙稱。わたくし。小子。小生。〔左氏、隱、元〕穎考叔對曰、小人有レ母、皆嘗二小人之食一矣。〔通俗編、稱謂、小人〕錢氏私誌、燕北風俗、不レ問二士庶一、皆自稱二小人一。㊄こびと。體軀の短小な人。小人國を見よ。㊅㋑わかうど。少年。若衆。〔義經記、七、判官北國落事〕山伏の同道にはせうじんの樣にこそ作りなし參らせ候はんずれ。㋺武家時代に、使役の用に供せられた卑しい役。

『小人革』712 コビトガハ　古、中國から船來したもので、革足袋などに作つた革。〔我衣〕革たび、云云、小人皮薄く肌こまかにて柔かなり。


小人國（山海經圖）

【小人國】713 セウジンコク　こびとの國。體軀の非常に小さい人の住むといふ國。〔史記、大宛傳、安息國、注〕正義曰、括地志云、小人國、在二大秦南一、人纔三尺。〔山海經、大荒東經〕東海之外、大荒之中、有二小人國一、名二靖人一。〔注〕詩含神霧曰、東北極有レ人、長九寸、殆謂二此小人一也。〔箋疏〕懿行案、說文云、靖、細皃、蓋細小之義、故小人名二靖人一也、淮南子作二竫人一、列子作二諍人一、竝古字通用、列子湯問篇云、東北極有レ人、名曰二諍人一、長九寸、與二郭引詩含神霧一同。

『小人儒』714 セウジンノジユ　名と利とを求めて人に誇らうとする學者。德のない學者。一說に、喪禮など宗教的儀禮執行の專門家をいふ。小儒。〔論語、雍也〕女爲二君子儒一、無レ爲二小人儒一。〔集注〕儒、學者之稱、程子曰、君子儒爲レ己、小人儒爲レ人。

【小人組】715 コビトグミ　德川時代に、將軍家に屬し、卑賤の役をつとめた小人の屬してゐた組をいふ。〔吏徵下〕。

『小人島』716 コビトジマ　小人の住むといふ想像上の島。

『小人物』717 セウジンブツ　度量の狹く品位の卑しい人物。

『遠二小人一』718 セウジンヲトホザク　德のない人を遠ざける。〔易、遯〕君子以遠二小人一、不レ惡而嚴。

『小人革レ面』719 セウジンメンヲアラタム　小人は心を一變して善に遷ることは出來ないけれども、明君が上に立てば、其の外貌を革めて、上の風に從ひ、惡を肆にせぬやうになる。〔易、革〕上六、君子豹變、小人革レ面、象曰、小人革レ面、順以從レ君也。

『小人之學』720 セウジンノガク　小人のする學問。利を目的とする學。小人儒の學問。〔法言、學行〕大人之學也爲レ道、小人之學也爲レ利、子爲レ道乎爲レ利乎。

『小人之勇』721 セウジンノユウ　血氣にはやる小勇。匹夫之勇。〔荀子、榮辱〕輕レ死而暴、是小人之勇也。

『小人徇レ財』722 セウジンハザイニシタガフ　小人は身を犧牲にしてまでも財利を求める。〔莊子、盜跖〕小人徇レ財、君子徇レ名。〔疏〕夫殉レ利謂二之小人一、殉レ名謂二之君子一。

『小人目付』723 コビトメツケ　江戸幕府の職名。御徒目付に屬して、牢屋敷の見廻、普請場の巡視等に任じた下役。〔吏徵、下〕御目見以下、御小人目付。

『小人有レ始無レ終』724 セウジンハジメアリテヲハリナシ　小人の交際は始は情誼があるが、終始一貫して終を全うすることがない。〔晉書、劉聰載紀〕輕薄小人、不レ能レ無三逆レ意以勸二太弟之心一、小人有レ始無レ終、不レ能レ如二貫高之流一也。

『小人窮斯濫矣』725 セウジンキユウスレバココニランス　小人は貧窮すれば、其の境涯に安んずることが出來ないので、常道をすてて惡事を行ふ。濫は禮儀法度の外に出ること。〔論語、衞靈公〕子在レ陳絕レ糧、從者病、莫二能興一、子路慍見曰、君子亦有レ窮乎、子曰、君子固窮、小人窮斯濫矣。

『小人之過必文』726 セウジンノアヤマチヤカナラズカザル　小人は己の過を覺つても、改めることをしないで、却つてそれをとりつくらふ。〔論語、子張〕子夏曰、小人之過也必文。

『小人不レ可レ作レ緣』727 セウジンハエンヲナスベカラズ　身分の卑しい人とかかりあひを作らぬがよい。〔世說新語、方正〕劉眞長・王仲祖共行、日旰未レ食、有二相識小人一、貽二其餐一、肴案甚盛、眞長辭レ焉、仲祖曰、聊以充レ虛、何苦辭、眞長曰、小人都不レ可二與作レ緣。

『先二小人一後二君子一』728 セウジンヲサキニシクンシヲノチニス　利を先にし義を後にする。小人を利といひ、君子を義といふは、論語、里仁篇の君子喩二於義一、小人喩二於利一に本づく。

『小人閒居爲二不善一』729 セウジンカンキヨシテフゼンヲナス　小人は獨居すれば、人の見ぬを幸として善からぬ行をする。〔大學〕小人閒居爲二不善一、無レ所レ不レ至、見二君子一而后厭然揜二其不善一、而著二其善一。

『小人之交甘若レ醴』730 セウジンノマジハリハアマキコトレイノゴトシ　小人同志の交際は、私情に本づいて狎れ親しみ、親密に過ぎる。醴はあまざけ。〔禮、表記〕故君子之接如レ水、小人之接如レ醴、君子淡以成、小人甘以壞、小雅曰、盜言孔甘、亂是用餤。〔莊子、山木〕且君子之交淡若レ水、小人之交甘若レ醴。

『小人之學進二於利一』731 セウジンノガクハリニススム　小人が學問をする目的は、利をはかるにある。〔文中子、天地〕子曰、君子之學進二於道一、小人之學進二於利一。

『嫌三小人而踏二高位一』732 セウジンニシテカウキヲフムヲキラフ　其の德がなくして高位を踏むのを惡む。〔賈島、王鳳凰賦〕嫌三小人而踏二高位一、鶴有レ乘レ軒、惡三利口之覆二邦家一、雀能穿レ屋。

『小人用レ壯君子用レ罔』733 セウジンハサウヲモチヒクンシハマウヲモチフ　小人の剛に過ぎたものは力を恃んで強壯を恣にし、君子の剛に過ぎたものは志に任せて事を蔑視して憚るところがない。〔易、大壯〕九三、小人用レ壯、君子用レ罔、貞厲、羝羊觸レ藩、羸二其角一。

『小人見二人之厄一則幸レ之』734 セウジンヒトノヤクヲミレバスナハチコレヲサイハヒトス　小人は人の災厄を見て却つて之をよろこぶ。〔公羊、宣、十五〕華元曰、吾聞レ之、君子見二人之厄一則矜レ之、小人見二人之厄一則幸レ之。

『小人非二公侯腹心干城一』735 セウジンハコウコウノフクシンカンジヤウニアラズ　不德の者は公侯にとつて腹心となり、又は干とも城ともなつて主君をまもるものでない。〔鹽鐵

論、備胡〕好レ事之臣、求二其義一、責二之禮一、使二中國干戈至レ今未レ息、萬里設レ備、此兎罝之所レ刺、故小人非二公侯腹心干城一也。

【以二小人之腹一爲二君子心一】736（セウジンノハラヲモツテクンシノココロトナス）　不德の者が、己の考で、君子の心を推し測る。己の拙い考で、他人の心を推測する喩。〔左氏、昭、二十八〕願下以二小人之腹一爲中君子之心上、屬厭而已。〔國語、晉語九〕二人同レ辭對曰、吾小人也、貪二饋之始至一、懼二其不一レ足、故歎、中食而自咎也、曰、豈主之食而有レ不レ足、是以再歎、主之既食、願以二小人之腹一爲二君子之心一、屬厭而已、是以三歎。

【小人溺二於水一君子溺二於口一】737（セウジンハミヅニオボレクンシハクチニオボル）　小人は常に身近になれたことに油斷するために水に溺れるが、君子は其の得意とする口のため禍に遭つて失敗する。君子・小人各〻其のなれあなどる事のために身を滅ぼす。〔禮、緇衣〕子曰、小人溺二於水一、君子溺二於口一、大人溺二於民一、皆在二其所一レ褻也、夫水近二於人一而溺レ人、德易レ狎而難レ親也、易二以溺一レ人、口費而煩、易レ出難レ悔、易二以溺一レ人、夫民閉二於人一而有二鄙心一、可レ敬不レ可レ慢、易二以溺一レ人、故君子不レ可二以不一レ愼也。

【小仁】738（セウジン）　❶小さい仁德。大仁（3－5831‥1243）の❶の對。〔說苑、貴德〕夫大仁者、愛レ近以及レ遠、及二其有一レ所レ不レ諧、則虧二小仁一以就二大仁一。❷冠位十二階の第四位。推古天皇の十一年に制定。

【小盡】739（セウジン）　陰曆によれば、小の月は二十九日で終る。之を小盡といふ。大盡（3－5831‥1256）の❶の對。〔歲華紀麗、一、晦日〕大餔小盡。〔注〕月有二小盡一、有二大盡一、三十日爲二大盡一、二十九日爲二小盡一。〔嬾眞子錄〕中國以二二十九日一爲二小盡一。

【小水】740（セウスイ）　❶少しの水。小さいながれ。大水（3－5831‥1257）の❶の對。〔呂覽、有始〕小水萬數。〔後漢書、句驪傳〕依二小水一爲レ居、因名曰二小水貊一。❷小便。ゆばり。〔景岳全書、論治〕服二分利一既多、而小水愈不レ通者、此必下竭之證。

【小水鴨】741 hsiao^{2} shuei^{3} ya^{1}　小鴨。

【小水魚】742（セウスイノウヲ）　僅かしかない水の中に棲む魚。生命の旦夕に迫る喩。〔出曜經〕是日已過、命則衰滅、如二小水魚一、斯有二何樂一。

【小水不レ容二大舟一】743（セウスイタイシウヲイレズ）　小さい川には大きな舟は浮べられない。愚かな人民は、大才の人をして十分に力を發揮せしめるに足りない諺。〔晉書、桓謙傳〕及二振敗一、謙奔二于姚興一、云云、興曰、小水不レ容二大舟一。

【小垂】744（セウスイ）　伎樂の名。小垂手を見よ。〔馬祖常、次二前韻一四首詩〕樂部韋娘舞二小垂一、病來能召翰林醫。

【小垂手】745（セウスイシユ）　樂府雜曲歌辭の名。大垂手（3－5831‥2488）を見よ。梁の吳均に歌辭がある。〔樂府詩集、雜曲歌辭、大垂手〕樂府解題曰、大垂手・小垂手、皆言三舞而垂二其手一也。〔吳均、小垂手〕舞女出二西秦一、躡影舞二陽春一、且復小垂手、廣袖拂二紅塵一、折レ腰應二兩笛一、頓レ足轉二雙巾一、蛾眉與二曼臉一、見二此空愁人一。

【小綏】746（セウスイ）　綏は緌字の誤といふ。小緌は諸侯の田獵に立てる旗。大綏に似て小なるもの。大綏（3－5831‥1268）を見よ。〔禮、王制〕天子殺、則下二大綏一。諸侯殺、則下二小綏一。〔注〕綏、當レ爲レ緌、緌、有虞氏之旌旗也。〔疏〕綏字是糸旁妥、是登車之索、緌字是糸旁委、是旌旗之名。〔說苑、脩文〕諸侯殺、則下二小綏一。

【小棰】747（セウスイ）　小さい鞭。〔孔子家語、六本〕小棰則待レ過、大杖則逃走。

【小醉】748（セウスイ）　すこし醉ふ。ほろよひ。微醺。〔蘇軾、東樓詩〕小醉易レ醒風力軟、安眠無レ夢雨聲新。〔陸游、山行詩〕小醉未レ應風味減、滿盤青杏伴二朱櫻一。

【小數】749（セウスウ）　❶わづかなわざ。小術。〔孟子、告子上〕今夫奕之爲レ數、小數也。〔注〕數、技也。〔淮南子、原道訓〕夫釋二大道一而伍二小數一。〔集解〕文典謹按、御覽九百五十一引、任二小數一作レ任二小技一。〔漢書、藝文志〕牽二於禁忌一、泥二於小數一。〔後漢書、宋弘傳論〕先二遠業一後二小數一。❷一より小さいかず。整數（6－13394‥35）の對。〔算法統宗、算義總、小數〕分・釐・毫・絲・忽・微。

【小數點】750（セウスウテン）　數を記すに、整數と小數との分界の處に記す點。

【小正】751（セウセイ）　❶詩經の小雅をいふ。〔左氏、襄、二十九、爲レ之歌二小雅一、注〕小雅、小正。〔會箋〕雅者正也、故注云二小正一、而明人造二申公詩說一者、遂于二小雅大雅一易二其目一、爲二小正大正一矣。❷辰星の七名の一。辰星（10－38682‥32）を見よ。〔史記、天官書〕兔七命、曰二小正・辰星云云一。

【小生】752（セウセイ）　❶新學後進の者をいふ。人を責めて呼ぶ稱。又、自己の謙稱。私。僕。拙者。〔漢書、張禹傳〕新學小生、亂レ道誤レ人、宜レ無二信用一。〔漢書、朱雲傳〕薛宣爲二丞相一、雲往見レ之、宣備二賓主禮一、從容謂レ雲曰、在二田野一亡レ事、且留二我東閤一、可三以觀二四方奇士一、雲曰、小生乃欲二相吏一耶、宣不二敢復言一。〔注〕師古曰、小生、謂二其新學後進一、言欲三以レ我爲レ吏乎。〔韓愈・孟郊、雨中寄二孟刑部幾道一聯句〕小生何足レ道、積愼如レ觸レ蠆。〔陔餘叢考、小生〕漢書朱雲傳、雲罷レ官過二薛宣一、宣曰、君且留二我東閤一、可三以觀二四方奇士一、雲曰、小生乃欲二相吏一耶、師古注、小生、謂二其新學後進一、乃欲三以レ我爲レ吏乎、小生之名、始見レ此、然非三自稱作二謙辭一也、其以レ之自稱者、唐李陽冰、自稱二其篆書一、謂三斯翁之後直至二小生一、又元稹上二令狐相公一曰、白居易能レ詩、或爲二千言一、或爲二五百言律詩一、以相投寄、小生自審、不レ能レ有二以過一レ之、往往戲排二舊韻一、別創二新調一、名爲二次韻一、此文士自稱二小生一之始也、朱晦翁和二劉秀野一詩、有下小生自愧二衰頽早一之句上、則二字弁入二之詩一矣。❷戲劇の脚色の名。正生の副となる役者。若旦那・青年などに扮す。〔燕子箋、謁汧〕梨園子弟、小生戎服、率レ衆登レ城介。〔世事通考〕梨園子弟、有二生・旦・丑・淨・末・貼旦・小生・老旦一。❸（コモ）伊勢國の地名。

【小生意】753 hsiao^{3} shêng^{1} i　小營業。こあきなひ。

【小生理】754 hsiao^{3} shêng^{1} li^{3}　こあきなひ。小生意に同じ。

【小成】755（セウセイ）　わづかな出來上り。些細な成就。一應の完成。大成（3－5831‥1287）の❸の對。〔易、繫辭上〕十有八變而成レ卦、八卦而小成。〔禮、學記〕七年視二論レ學取一レ友、謂二之小成一。〔唐玄宗、孝經註序〕是以道隱二小成一、言隱二浮僞一。

【小成都】756（セウセイト）　四川省の充城をいふ。〔邵雍、充城詩〕自レ昔充城號二奧區一、蜀人喚作二小成都一。

【小青】757（セウセイ）　❶侍婢の稱。〔海錄碎事、人事、奴婢〕施肩吾詩、鋤レ藥顧二老叟一、焚レ香呼二小青一。〔杜牧、隋苑詩、定子當レ筵睡臉新、注〕定子、牛相小青。❷草の名。葉は藥になる。〔本草、小青〕集解、頌曰、小青生二福州一、三月生レ花、彼土人當月采レ葉用レ之。❸蛇の名。〔元史、呂思誠傳〕天旱、道士持二青蛇一、曰二盧師谷小青一、謂レ龍也、禱レ之卽雨、思誠以二其惑一レ人、殺レ蛇逐二道士一、雨亦隨至。❹川の名。河南省淯川縣の西門外。はじめ大沼の水を受け、南流して城の西南に至り、東流して淯水に注ぐ。清の康熙中、重ねて小青河をさらつて水患の慮を絕ち、人民其の利に賴る。❺清の人。姓は馮。杭人馮生姬との同名を諱み、字を以て稱せらる。詩並びに音律を善くす。大婦に容れられず、孤山の別業に居り、年僅かに十八にして憂鬱の裡に死す。今、西湖の孤山にその墓がある。

【小青樹】758 hsiao^{3} ch'ing^{1} shu^{4}　樹の名。からたちばな。ささたちばな。

【小星】761（セウセイ）　❶小さい星。轉じて、妾をいふ。〔詩、召南、小星〕嘒彼小星、三五在レ東、肅肅宵征、夙夜在レ公。❷詩經、召南の篇名。夫人に妬忌の行が無く、惠の衆妾に及ぶをいふ。〔詩、召南、小星序〕小星、惠及レ下也、夫人無二妬忌之行一、惠及二賤妾一、進二御於君一、知三其命有二貴賤一、能盡二其心一矣。

【小清】762（セウセイ）　❶川の名。㋑山東省に在りて、新舊二つに分れ、新小清河は上源を濼水といひ、濟南の趵突泉より出で、章丘・齊東・鄒平を經て高苑縣の南に至り、舊小清河に通じ、博興を經て、廣饒の小清河口より海に入る。舊小清河は上源を獺河といひ、山東省章丘縣の東南の野狐嶺より出づ。東北流して鄒平・桓臺を經て淄河に會し、廣饒の淄河口より海に入る。〔讀史方輿紀要、山東、大川、濟水〕又、小清河、一名濼水、源出二濟南齊城西南、趵突泉一。㋺山東省の大汶河は、東平縣の東南の戴村壩より、西北に出でて大清河となり、其の分支は小清河。並に西北流して東平縣治を夾んで再び合し、黃河に注ぐ。㊇滿洲遼寧省開原縣の南。大清河と合流し、又、西遼河に入る。〔讀史方輿紀要、遼東都指揮

使司、鐵嶺衞〕小清河、衞南六十里、源出二廢貴德州南山中一、西流經二懿路城南一、又西入二於遼河一。㊁滿洲遼寧省鐵嶺縣の懿路河。もと、小清河といふ。❷hsiao^{3} ch'ing^{1} 小勘定。小口に計算する。

〖小清明〗764セウセイメイ 三月をいふ。一說に、十月三日。〔柳亭詩話〕將樂・歸化二邑、以二三月一爲二小清明一、八月爲二大清明一、展墓者、或廢レ小而不二敢廢レ大、詳見二閩小志一、或曰、將樂以二十月三日一爲二小清明一。

〖小聖樂〗765セウセイガク 詞牌の名。金の元好問が製したもの。一に驟雨打新荷ともいふ。〔詞譜〕金元好問自度レ曲、因三詞中前結有二驟雨過打偏新荷句一、更名二驟雨打新荷一。

【小勢】766コゼイ すくない人數。人數の少ない軍勢。小軍。大勢の對。

【小聲】767コゴエ 低い聲。小さい聲。大聲の對。

〖小聲兒〗768 hsiao^{3} shêng^{1} êrh 小聲。囁き聲。

【小霽】769セウセイ すこしはれる。〔驂鸞錄〕雪滿二于山一、江色澄碧、夜小霽、風急寒甚。

【小小】770セウセウ ❶極めて小さい。僅かばかり。些少。〔司馬相如、子虛賦〕臣之所レ見、蓋特其小小者耳。〔晉書、庾翼傳〕豈以二小小一計レ之。〔范仲淹、與二韓魏公一尺牘〕三州各有二小小結構一。〔歐陽脩、唐人臨帖〕雖二小小轉寫失レ眞、不レ害レ爲二佳物一。❷年がすくない。若い。〔李白、宮中行樂詞〕小小生二金屋一、盈盈在二紫微一。〔杜荀鶴、顧雲侍御出二二子一請レ詩因遺二一絕一詩〕二雛毛骨秀仍奇、小小能吟大大詩。〔祖詠、望二薊門一詩〕小小雖レ非二投レ筆吏一、論レ巧還欲レ請二長纓一。❸妓女の名。蘇小小の類。〔白居易、楊柳枝詞〕若解多情尋二小小一、綠楊深處是蘇家。〔成式・鄭符・張希復、小小寫眞聯句〕如レ生二小小眞一、猶自未レ棲レ塵。

〖小小子〗771 hsiao^{3} hsiao tzŭ 男の子をいふ。潘陽地方の語。

〖小小吹〗772 hsiao^{3} hsiao ch'uei^{1} 雀をいふ。安徽地方の語。

〖小小的〗773 hsiao^{3} hsiao tê 微小な。

〖小小年紀〗774 hsiao^{3} hsiao nien^{2} chi^{4} 若い年配。少年時代。

【小招】775セウセウ ❶楚辭の招魂をいふ。〔楚辭、招魂序、招魂者宋玉之所レ作也、注〕李善以二招魂一爲二小招一、以レ有二大招一故也。❷西藏の拉薩に在る寺の名。大招寺の北。唐の文成公主の建立と傳ふ。一說に、吐蕃の贊普の妾巴勒布國王の女の建立といふ。小召・小詔・巴漢招にも作る。又、喇木契といふ。

【小峭】776セウセウ 蜂の異名。〔事物異名錄、昆蟲、蜂〕清異錄、蜂爲二小峭一。

【小照】777 hsiao^{3} chao^{4} 小形の寫眞。

【小瞧】778 hsiao^{3} ch'iao^{2} 見下げる。小看。

【小石】779セウセキ 小さい石。こいし。〔釋名、釋山〕山多二小石一曰レ磝。〔易、說卦〕爲二經路一、爲二小石一。〔莊子、秋水〕吾在二於天地之間一、猶三小石小木之在二大山一。

〖小石角〗780セウセキカク 燕樂角聲七調の第五運をいふ。一に、正角に作る。〔樂府雜錄、上聲角七調〕第一運越角調、第二運大石角調、第三運高大石角調、第四運雙角調、第五運小石角調、亦名二正角調一、第六運歇指角調、第七運林鍾角調。

〖小石調〗781セウセキテフ 商聲樂調の名。もと小食調に作る。番語を以て樂調の名としたもの。宋代、燕樂の小石調は、高五・高凡・高工・尺上・高一・下四・六合の九聲を用ひた。〔冊府元龜〕天寶十三年、改二諸樂名一、林鍾商時號二小食調一。〔唐荊川稗編〕宋樂與二古樂一差二一律、故俗呼二仲呂商一爲二小石調一、蕤賓商爲二中管小石調一。

〖小石帆亭著錄〗782セウセキハンテイチヨロク 書名。五卷。清、翁方綱撰。主として王漁洋・趙秋谷の詩論を著錄し、自己の意見を添加す。其の目は、古詩平仄論・聲調前譜・後譜・五言詩平仄舉隅・七言詩平仄舉隅・七言詩舉隅。

【小席】784 hsiao^{3} hsi^{2} 小宴會。

【小切】785コギレ 反物のきれはし。

〖小切手〗786コギツテ 振出人が第三者をして一定金額を支拂はしめることを約する流通證券。

【小雪】787セウセツ ❶立冬の次の氣節。陰曆の十月中頃。陽曆の十一月二十二日頃。〔詩、鄘風、定之方中、疏〕定星昏而正中、謂二小雪時一、小雪者、十月之中氣。〔逸周書、時訓解〕小雪之日、虹藏不レ見。〔後漢書、律曆志下〕小雪・大雲。❷僅かの雪。少し降つてゐる雪。少ししか降り積もつてゐない雪。こゆき。〔後漢書、張宗傳〕以二張將軍之衆一當二百萬之師一、猶下以二小雪一投中沸湯上。

【小說】788セウセツ ❶取るに足りない議論。〔莊子、外物〕飾二小說一以干二縣令一。〔疏〕夫修二飾小行一、矜二持言說一、以求二高名一。❷漢書藝文志に見える諸子十家の一なる小說家の傳へた話、或は其れを記した文。❹及び小說家を見よ。〔四庫提要、子、小說家類一〕張衡西京賦曰、小說九百、本自二虞初一、漢書藝文志、載二虞初周說九百四十三篇一、注稱二武帝時方士一、則小說興二於武帝時一矣、故伊尹說以下九家、班固多注二依託一也、然屈原天問雜二陳神怪一、多莫レ知レ所レ出、意、卽小說家言、而漢志所レ載青史子五十七篇、賈誼新書保傅篇中先引レ之、則其來已久、特盛二於虞初一耳、迹二其流別一、凡有二三派一、其一敍二述雜事一、其一記二錄異聞一、其一綴二輯瑣語一也、唐宋而後作者彌繁、中間誣謾失レ眞、妖妄熒聽者、固爲レ不レ少、然寓二勸戒一、廣二見聞一、資二考證一者、亦錯二出其中一、班固稱二小說家流蓋出二於稗官一、如淳注謂、王者欲レ知二閭巷風俗一、故立二稗官一使三稱二說之一、然則博採旁蒐、是亦古制、固不下必以二冗雜一廢上矣、今甄下錄其近二雅馴一者上、以廣二見聞一、惟猥鄙荒誕、徒亂二耳目一者、則黜不レ載焉。❸作者の想像によつて事實を構成し、世態人情等を寫し、又は史實を敷衍した文章。戲作。〔兩般秋雨盦隨筆〕小說起二于宋仁時一、太平已久、國家閒暇、日進二一奇怪之事一以娛レ之、名曰二小說一、而今之小說則紀載矣、傳奇者、裴鉶著二小說一多二奇異一、可二以傳示一、故號二傳奇一、而今之傳奇、則曲本矣。❹中國小說の起源は既に先秦時代に見られ、莊子等に記載する寓言的神怪談は小說家の言であり、又、桓譚新論或は漢書藝文志に言ふ所の漢代小說は民間の傳說俗話を集めたものである。中國の小說は二種類に大別される。一は六朝に發達し、李唐に盛行し、其の餘波が明清に及び、文語體を用ひ、其の多くは短篇で、唐代に傳奇小說と稱せられたものであり、一は唐宋に淵源し、明清に盛行し、餘流が今日に及び、口語體を用ひ、多くは長篇で、宋代に諢詞小說又は平話と稱せられたものである。漢代の書は今に傳はらず、現存の物では魏晉南北朝時代の作が最も古い。神異經等は小說を雜錄したものであるが、漢武內傳は一篇の纒つた短篇小說の形式である。唐代には短篇の傳奇小說が盛行し、特に人情小說は注目すべきものがある。この系統の文語小說は後世にも作られ、中にも宋の夷堅志、明の剪燈新話、清の聊齋志異・新齊諧等が著名で、又、閱微草堂筆記の類の筆記小說も流行したが、宋以後、白話體が起り、文語小說は餘り重んぜられなくなつた。口語體の小說は講談の類から發達したもので、南宋時代には說話に四種の專門があつた。小說家の話を筆錄した話本が、白話短篇小說の源であり、京本通俗小說の類がある。講史書家の話を筆錄した平話が白話長篇小說の源で、五代史平話の類がある。宋代の話本は以上の他に清平山堂話本・雨窓欹枕集本があり、明に編刊された三言二拍は短篇小說として著名で、三言中には宋代の話本がかなり採られてゐる。平話の直系を引いて演義小說が發達し、元末明初の三國志通俗演義は演義小說中の白眉である。平話から稍〻變じて其の旁系と見られるものに忠義水滸傳があり、此の類の中、平妖傳が尤も名高い。說經類に擬す可きものに大唐三藏取經詩話があり、後來の西遊記の先驅として著名である。西遊記は固より說經の流を汲むものではなく、神怪小說に屬し、此の類では明人の封神演義が名高い。人情小說の長篇は金瓶梅が現存の最古であり、第一の傑作として知られてゐる。其の他に明末清初の人情小說として玉嬌梨・平山冷燕・好逑傳等があるが、清の乾隆中、紅樓夢が出るに及び、金瓶梅の踵に接するものとして稱せられ、更に社會小說とも見られるものに、清の乾隆中の吳敬梓の儒林外史があり、結構に於て一種の新體をなし、紅樓夢と並稱され、清代小說の雙璧とすべきものである。清初の李漁以來、三國志演義・水滸傳・西遊記・金瓶梅を四大奇書としてゐるが、紅樓夢・儒林外史を加へて中國小說の六大奇書とも爲すべきである。

尙、此の類に屬すべきものに官場現形記・二十年目覩之怪現狀・老殘遊記があり、並びに淸末社會の側面を描寫したものである。此の外に武俠小說として淸の康熙中の夏聲の野叟曝言、道光中の文康の兒女英雄傳がある。

〖參考書〗【中國小說史略】一冊魯迅撰。【中國小說史】一冊范煙橋撰。【中國小說研究】一冊胡懷琛撰。【文學大綱】四冊鄭振鐸撰。【小說叢考】二卷錢靜方撰。【小說考證】十卷附一卷蔣瑞藻撰。【小說考證續編】五卷蔣瑞藻撰。【中國通俗小說書目】十二卷孫楷第撰。❺我が國では、明治以後、作者の想像力によつて構想し、又は事實を脚色した、主として散文體の物語をいふ。近代的意味に於ける此の語は、坪內逍遙が「小說神髓」の中に、英語novel の譯語として用ひたのに始まる。❻セウエツ 小さな喜悅。〔呂覽、疑似〕褒姒之敗、乃令下幽王好二小說一以致中大滅上。

〖小說家〗789 セウセツカ ❶漢書藝文志、諸子十家の一。街談巷語し道聽塗說して、或る說話を語り傳へ、或はそれを文に書き殘した人々の總稱。小說の❷・❹を見よ。〔漢書、藝文志〕小說家者流、蓋出二稗官一、街談巷說、道聽塗說者之所レ造也。〔注〕如淳曰、細米爲レ稗、街談巷說、其細碎之言也、王者欲レ知二閭巷風俗一、故立二稗官一、使三稱二說之二。〔江淹、雜體、李都尉從軍詩、袖中有二短書一、注〕善曰、桓子新論曰、若其小說家、合二叢殘小語一、近取二譬論一、以作二短書一、治レ身治レ家、有二可レ觀之辭一。❷小說の❺を作る人をいふ。

〖小說考證〗790 セウセツカウシヨウ 書名。一冊。民國、蔣瑞藻撰。正・續・拾遺の三部より成り、小說に關する考證を記す。

〖小說叢考〗791 セウセツソウカウ 書名。二冊。民國、錢靜芳撰。小說戲曲に關する雜考を錄す。

〖小說十二樓〗792 セウセツジフニロウ 淸の李漁の作つた小說十二篇をいふ。原名は覺世名言。其の內容は合影樓・奪錦樓・三與樓・夏宜樓・歸正樓・萃雅樓・拂雲樓・十卺樓・鶴歸樓・奉先樓・聞過樓・生我樓。

【小節】793 セウセツ ❶小さな事柄。些細な義理。いささかな節操。大節の對。〔戰國、齊策〕效二小節一者、不レ能レ行二大威一、惡二小恥一者、不レ能レ立二榮名一。〔荀子、王制〕君レ人者、欲レ安、則莫レ若二平レ政愛レ民矣。欲レ榮、則莫レ若二隆レ禮敬レ士矣、欲レ立二功名一、則莫レ若二尙レ賢使レ能矣、是君レ人者之大節也、三節者當、則其餘莫レ不レ當矣、三節者不レ當、則其餘雖二曲當一、猶將レ無レ益也、孔子曰、大節是也、小節是也、上君也、大節是也、小節一出焉、一入焉、中君也、大節非也、小節雖二是也一、吾無レ觀二其餘一矣。〔列子、力命〕我不レ羞二小節一。〔史記、韓安國傳〕小節苛禮。❷㋑小儀の節會をいふ。㋺小さいふし。元日の節會と踏歌の節會との稱。㊇一つの樂譜中の各單縱線と其の鄰の單縱線との間の部分。

〖小節夜〗794 セウセツヤ 禁中で陰曆十二月二十四日をいふ。〔乾淳歲時記〕禁中以二臘月二十四日一爲二小節夜一。

〖規二小節一者不レ能レ成二榮名一〗795 セウセツニタダサルモノハエイメイヲナスアタハズ 小さな禮節に縛られて之を墨守するものは、大なる名譽を成就することはできない。即ち、偉大な人物になることはできない。〔史記、魯仲連鄒陽傳〕規二小節一者、不レ能レ成二榮名一、惡二小恥一者、不レ能レ立二大功一。

【小癤】796 hsiao³ chieh¹ にきび。にきみ。

【小竊】797 hsiao³ ch'ieh⁴ 小盜人。掏兒の類。

【小妾】798 セウセフ ❶年若い下婢。又、年若いめかけ。〔國語、鄭語〕府之小妾生レ女、而非二王子一也、懼而棄レ之。❷婦人の謙稱。〔國語、晉語四〕姜氏言二于公子一曰、昔管敬仲有レ言、小妾聞レ之。

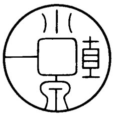
【小浹】799 セウセフ 川の名。浙江省鎭海縣の南。竹嶼山海口より分流して支江となり、西流して鄞縣に至り、甬江に合して東錢湖に瀉ぐ。〔海防說〕小浹、港內通二東江一、出二穿レ山所一、達二寧波城一、極險要、明嘉靖中、倭人由レ此內犯。

【小川】800 セウセン 小さい川。をがは。〔周禮、地官、川衡〕每二大川一、下士十有二人、中川、下士六人、小川、下士二人。〔論衡、別通〕大川相間、小川相屬、東流歸レ海、故海大也。

〖小川心齋〗801 ヲガハシンサイ 越後の人。名は弘。字は道甫。號は心齋・北海野史。明治三年七月十四日歿す。年五十五。安積艮齋に師事し、程朱を宗とす。尤も力を國史に致す。又、文章に長じ、書に巧。新發田藩に仕ふ。著に鎌倉史（五十卷）・古歌韻解（三卷）・國邑誌（六十卷）・策府（八卷）・北越春秋（二十九卷）・北海遺稿がある。〔北越名流遺芳〕。

〖小川泰山〗802 ヲガハタイザン 相模の人。大山の麓に生る。名は信成。字は誠甫。號は泰山。通稱は藤吉郎。山本北山に師事し、經學は折衷を主とす。天明五年五月二十二日歿す、年十七。著に墨子闡說（六卷）・泰山經子遺說（一卷）・四十首稿（一卷）がある。〔先哲叢談、後、七〕・〔近代著述目錄後篇〕。

【小泉】803 セウセン ❶小さい泉。〔孟郊、擢レ第後東歸云云詩〕天矯大空鱗、曾爲二小泉蟄一。〔皮日休、魯望昨以二五百言一見レ貽云云詩〕堆書塞二低屋一、添研涸二小泉一。❷新の王莽の鑄造した錢の一種。小形の錢の意。大泉(**3－5831**··1414)の❶・小錢(806)を見よ。



新王莽小泉
（金石索）

【小賤】804 セウセン 身分の低いこと。微賤。卑賤。〔史記、秦始皇紀〕今高素小賤、陛下幸稱擧、令下在二上位一管中中事上。

〖小賤人〗805 セウセンジン 若い下僕。人を嘲罵する語。〔西廂記、張君瑞害二相思一雜劇〕小賤人不レ來怎麽。

【小錢】806 セウセン ❶小さい錢。大錢(**3－5831**··1423)の❶の對。〔漢書、王莽傳中〕乃更作二小錢一、徑六分重一銖、文曰、小錢直一。〔後漢書、獻帝紀〕董卓壞二五銖錢一、更鑄二小錢一。❷少しの錢高。こぜに。

〖小錢不去大錢不來〗807 hsiao³ ch'ien² pu⁴ ch'ü⁴ ta⁴ ch'ien² pu⁴ lai² 小錢が出ねば大錢は來ぬ。蒔かぬ種は生へぬ。

【小戰】808 セウセン ちひさいたたかひ。こぜりあひ。

【小鮮】809 セウセン 小さい魚。烹二小鮮一を見よ。

〖烹二小鮮一〗809′ セウセンヲニル 政をなすには煩瑣を避くべき喩。小魚を煮る時、あまりかき亂せば、肉がこはれて味を損ずる。大國を治める場合にも、無爲にしてかき亂さぬがよいとの喩。北宋道藏本老子は、烹二小鱗一に作る。〔老子、六十〕治二大國一若レ烹二小鮮一。〔韓非子、解老〕烹二小鮮一而數撓レ之、則賊二其澤一。

【小船】810 セウセン 小さいふね。〔小爾雅、廣器〕小船謂二之艇一。〔杜甫、與二任城許主簿一遊二南池一詩〕秋水通二溝洫一、城隅進二小船一。〔蘇軾、金橙徑詩〕須是松江烟雨裏、小船燒レ薤擣二香虀一。

【小選】811 セウセン 唐代、吏部郞の別名。〔容齋四筆、官稱別名〕唐人好以二它名一標二牓官稱一、云云、吏部郞爲二小選一。

【小前】812 コマヘ ❶貧民。細民。大宅（オホヤケ）（金持）の對。❷小作人。

〖小前提〗813 セウゼンテイ 三段論法で、小概念を有する前提の稱。Minor premise の譯。

【小善】814 セウゼン すこしばかりの善。又、小さい善行。〔易、繫辭下〕小人以二小善一爲レ無レ益而弗レ爲也。〔謝朓、拜二中軍記室一辭二隨王一牋〕抽二揚小善一。

【小祖】815 セウソ 高祖以下の廟。〔禮、檀弓上〕君復二於小寢・大寢・小祖・大祖・庫門・四郊一。〔疏〕小祖、高祖以下廟也。

〖小祖宗兒〗816 shiao³ tsu¹ tsung¹ êrh 嗣子。「あとつぎ」。

【小租】817 セウソ ❶わづかの租稅。〔管子、山國軌〕巨家重二葬其親一者服二重租一、小家菲二葬其親一者服二小租一。❷hsiao³ tsu¹ 敷金。

〖小租兒〗818 hsiao³ tsu¹ êrh 家を借りる時、家主に給與する茶錢。

〖小租錢〗819 hsiao³ tsu¹ ch'ien² 小作人が地主に小作料以外に納める金。

【小姐】820 セウシヤ こむすめ。南方地方で、人の娘に對する敬稱。宋代は宮婢・妓女の稱に用ひられた。〔朱有燉、元宮詞〕簾前三寸弓鞵露、知是嫉嫮小姐來。〔陔餘叢考、小姐〕今南方搢紳家女、多稱二小姐一、在二宋時一則閨閣女稱二小娘子一、而小姐乃賤者之稱耳、錢惟演玉堂逢辰錄、記下營二王宮一火起二於茶酒一、宮人韓小姐謀中放レ火私奔上、是宮婢稱二小姐一也、東坡亦有下成伯席上贈二妓人楊姐一詩上、夷堅志、傅九者好二狎遊一、常與二散樂林小姐一綢繆、約二竊而逃一、不レ得レ遂、與二林小姐一共縊死、又建康女娼楊氏、死現レ形、與二蔡五一爲レ妻、一道士來杖レ劍逐去、謂レ蔡曰、此建康娼女、楊小姐也、此妓女稱二小姐一也。

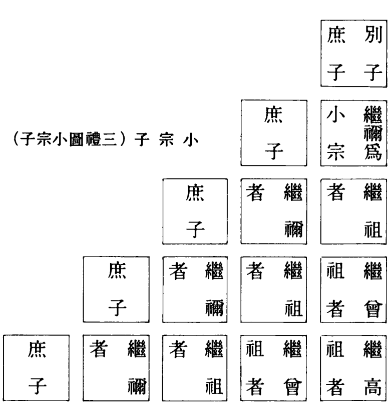
【小素】821 セウソ 黃鐘の少宮。素は本。〔管子、地員〕以レ是生二黃鐘小素之首一以爲レ宮。〔纂詁〕素、本

也、小本、謂㆓黃鐘少宮㆒。

【小蘇】822 セウソ ❶宋の蘇轍をいふ。轍は洵の子、軾の弟。洵を老蘇、軾を大蘇といふ。❷すこしくよみがへる。〔陸游、書ㇾ喜詩〕歲收儉薄雖㆓中熟㆒、民得㆓蠲除㆒已小蘇。❸山名。〔蘇軾、遊㆓淨居寺㆒詩序〕寺在㆓光山縣南四十里、大蘇山之南、小蘇山之北㆒。

【小宋】823 セウソウ ❶弱小なる宋の國の意で、戰國、宋をいふ。〔戰國、宋策〕夫救㆓於小宋㆒、而惡㆓大齊㆒、此王之所ㇾ憂也。❷宋の宋祁をいふ。宋庠を大宋といふの對。〔宋史、宋祁傳〕弟祁、字子京、與㆓兄庠㆒同時擧㆓進士㆒、云云、人呼曰㆓二宋㆒、以㆓大小㆒別ㇾ之。❸元の宋子貞をいふ。宋知柔を大宋といふの對。〔元史、宋子貞傳〕子貞、與㆓族兄知柔㆒同補㆓太學生㆒、俱有ㇾ名㆓於時㆒、人以㆓大小宋㆒稱ㇾ之。

【小宗】824 セウソウ 別子に子二人以上有る場合に、父に繼いで宗となるものを大宗といひ、其の餘の庶子を禰といひ、禰の嫡長子を小宗といふ。大宗は小宗を統べ、小宗は禰から出でたる族人を統ぶ。俗に分家をいふ。大宗(**3－5831**‥1456)の❷の對。〔儀禮、喪服傳〕婦人雖ㇾ在ㇾ外、必有㆓歸宗㆒、曰㆓小宗㆒。〔禮、喪服小記〕別子爲ㇾ祖、繼ㇾ別爲ㇾ宗、繼ㇾ禰者爲㆓小宗㆒。〔注〕別子、庶子之長子、爲㆓其昆弟㆒爲ㇾ宗也、謂㆓之小宗㆒者、以㆓其將ㇾ遷也。



小宗子（三禮圖小宗子）

〖小宗伯〗826 セウソウハク 周官の名。春官の屬。大宗伯を輔佐して邦國の祭祀、典禮等の事を掌り、禮官の屬を統理す。後世は禮部侍郎を稱していふ。〔周禮、春官、小宗伯〕小宗伯之職、掌ㇾ建㆓國之神位㆒。

〖小宗大宗〗827 セウソウタイソウ 小宗と大宗。大宗は嫡子の繼いだ本家。〔禮、喪服小記〕別子爲ㇾ祖、繼ㇾ別爲ㇾ宗、繼ㇾ禰者爲㆓小宗㆒。〔注〕諸侯之庶子、別爲㆓後世㆒、爲㆓始祖㆒也、謂㆓之別子㆒者、公子不ㇾ得ㇾ禰㆓先君㆒、別子之世長子、爲㆓其族人㆒爲ㇾ宗、所謂百世不ㇾ遷之宗、別子、庶子之長子、爲㆓其昆弟㆒爲ㇾ宗也、謂㆓之小宗㆒者、以㆓其將ㇾ遷也。

【小走】828 コバシリ ❶小股に急ぎ歩くこと。❷古、武家に仕へて、雜事を辨じた下僕・下婢。❸明治になつてからは、村役場などに使はれて、主として使ひ走りをする者をいふ。

【小窓】829 セウソウ 小さな窓。こまど。〔蘇軾、端午偏遊㆓諸寺㆒得㆓禪字㆒詩〕微雨止還作、小窓幽更妍。

【小僧】830 セウソウ ❶年わかい僧。雛僧。〔黃庭堅、題㆓默軒㆒和㆓遵老㆒詩〕松風佳客共、茶夢小僧圓。❷㋑コゾウ 商店で使用するわかもの。丁稚。㋺少年を賤しんでいふことば。孺子。

【小束】832 コタバ 小さいたば。小把。

【小息】833 セウソク 少しく休む。〔詩、大雅、民勞〕民亦勞止、汔可㆓小息㆒。

【小則】834 セウソク 小さい法則。大則の對。〔禮、儒行〕大讓如ㇾ慢、小讓如ㇾ僞、大則如ㇾ威、小則如ㇾ愧。

【小粟】835 セウゾク 小さい穀粒。粟は、米・麥などの實をいふ。〔南方草木狀、上、良耀草〕秋結ㇾ子、如㆓小粟㆒。

【小族】836 セウゾク 身分のひくい家柄。身分のいやしい家系。〔蔡邕、讓㆓高陽鄕侯㆒章〕非㆓臣小族陋宗、器量褊狹、所ㇾ能㆓堪勝㆒。

【小賊】837 セウゾク ❶こぬすびと。こどろばう。❷とるに足らぬ惡者。轉じて、人を罵つていふ語。〔魏志、武帝紀、注〕公將ㇾ過ㇾ河、前隊適渡、超等掩至、矢下如ㇾ雨、云云、公大笑曰、今日幾爲㆓小賊所ㇾ困乎。

【小村】838 セウソン ❶小さい村。戶口少い村。小邑。〔日本外史、新田氏前記、楠氏〕余數往㆓來攝播閒㆒、訪㆓所謂櫻井驛者㆒、得㆓之山崎路㆒、一小村耳。❷コムラ 姓氏。

【小儺】839 セウナ 中古、禁中の追儺の式に、紺の布衣、緋の末額(マツカウ)を著て、大儺に從つて內裏の四門を廻つたわらべ。大儺(**3－5831**‥1493)を見よ。〔儀式、十、十二月大儺儀〕小儺今良著㆓紺布衣、紺末額㆒、持㆓桃弓・葦矢・桃杖・碎瓦㆒、儺長稱ㇾ儺、小儺及分配人等隨、卽同稱遍驅㆓宮中㆒、出ㇾ自㆓十二門㆒付㆓京職㆒。

【小隊】840 セウタイ ❶小人數の一くみ。〔杜甫、嚴中丞枉ㇾ駕見ㇾ過詩〕元戎小隊出㆓郊坰㆒、問ㇾ柳尋ㇾ花到㆓野亭㆒。〔宋史、兵志九〕合㆓二小隊㆒、爲㆓一中隊㆒。❷舊陸軍の部隊編成の一單位で、數箇分隊から成り、中・少尉を以て長とし、數箇小隊で一箇中隊を編成した。中隊・大隊の對。

〖小隊子〗841 hsiao^3 tuei^4 tzŭ 護衞兵。守備兵。

【小腿】842 セウタイ 脛をいふ。大腿(**3－5831**‥1499)の對。〔正字通〕腿、俗謂㆓股大腿、腓小腿㆒。

〖小腿骨〗843 hsiao^2 t‘uei^3 ku^3 小腿內の骨。膝蓋骨・脛骨・腓骨の三枚。

【小態】844 hsiao^3 t‘ai^4 そぶり。樣子。

【小戴】845 セウタイ 漢の戴聖をいふ。戴德を大戴といふの對。〔漢書、儒林傳〕(戴)德號㆓大戴㆒、爲㆓信都太傅㆒、(戴)聖號㆓小戴㆒、以㆓博士㆒論㆓石渠㆒、至㆓九江太守㆒、由ㇾ是禮有㆓大戴小戴慶氏之學㆒。

〖小戴記〗846 セウタイキ 漢初の禮家に戴德・戴聖の二人があり、戴德を大戴といひ、戴聖を小戴といふ。因つて戴德の編次した禮を大戴記といひ、戴聖の編次した禮を小戴記といふ。小戴記は卽ち今の禮記である。禮記(**8－24844**‥31)を見よ。〔隋書、經籍志〕漢初、河閒獻王又得㆓仲尼弟子及後學者所ㇾ記一百三十一篇㆒獻ㇾ之、時亦無㆓傳ㇾ之者㆒、至㆔劉向考㆓校經籍㆒、檢得㆓一百三十篇㆒、向因第而敍ㇾ之、而又得㆓明堂陰陽記三十三篇・孔子三朝記七篇・王氏史氏記二十一篇・樂記二十三篇㆒、凡五種、合㆓二百十四篇㆒、戴德刪㆓其煩重㆒、合而記ㇾ之、爲㆓八十五篇㆒、謂㆓之大戴記㆒、而戴聖又刪㆓大戴之書㆒、爲㆓四十六篇㆒、謂㆓之小戴記㆒、漢末、馬融遂傳㆓小戴之學㆒、融又足㆓月令一篇・明堂位一篇・樂記一篇㆒、合四十九篇、而鄭玄受㆓業於融㆒、又爲㆓之注㆒、今周官六篇、古經十七篇、小戴記四十九篇、凡三種、唯鄭注立㆓於國學㆒、其餘並多散亡、又無㆓師說㆒。

〖小戴禮〗847 セウタイレイ 小戴記に同じ。〔後漢書、章帝紀〕至㆓建武中㆒、復置㆓顏氏嚴氏春秋・大小戴禮博士㆒。〔經義考、禮記、戴氏禮記〕陳振孫曰、唐魏徵嘗以㆓小戴禮綜彙不ㇾ倫、更作㆓類禮二十篇㆒。

【小體】848 セウタイ ❶耳目の類をいふ。心を大體といふの對。〔孟子、告子上〕孟子曰、從㆓其大體㆒爲㆓大人㆒、從㆓其小體㆒爲㆓小人㆒。〔集注〕小體、耳目之類也。❷小さなからだ。〔周禮、考工記、梓人〕銳喙決吻、數目顧脰、小體騫腹、若ㇾ是者謂㆓之羽屬㆒。❸コテイ 生活などの質素なこと。こぢんまりしてゐること。

【小大】849 セウダイ 小と大。又、小も大も皆。身分の高い人も低い人も皆。上下。大小。〔易、繫辭上〕齊㆓小大㆒者、存㆓乎卦㆒。〔書、仲虺之誥〕小大戰戰。〔書、微子〕殷罔ㇾ不㆔小大、好㆓艸竊姦宄㆒。〔詩、大序〕政有㆓小大㆒。〔論語、學而〕先王之道斯爲ㇾ美、小大由ㇾ之。〔逸周書、程典解〕小大有ㇾ度。〔莊子、逍遙遊〕此小大之辨也。

〖小大兒〗850 hsiao^3 ta^4 êrh わかもの。〔宣和遺事、前集下〕是箇小大兒、這人是誰。

〖小大姐〗851 hsiao^3 ta^4 chieh^3 妓樓の少婢をいふ。南方花柳界の語。

〖小大爺〗852 hsiao^3 ta^4 yeh^2 わかだんな。〔紅樓夢、六回〕只聽二門上小廝們回說、東府裡小大爺。

〖小大之家〗853 セウダイノイヘ 大家と小家。貴賤。〔莊子、秋水〕女惡知㆓貴賤之門、小大之家㆒。

〖小大之獄〗854 セウダイノゴク 大小の訴訟事件。〔左氏、莊、十〕公曰、小大之獄、雖ㇾ不ㇾ能ㇾ察、必以ㇾ情。

【小刀】855 セウタウ 小さいかたな。こがたな。〔陳書、世祖紀〕世祖乃密袖㆓小刀㆒。

〖小刀會〗856 セウタウクワイ 清代の祕密結社の一。排外思想團の一派。流儀は概ね紅槍會・大刀會に似、白蓮教を信奉す。光緖中、獨逸が膠州灣を占領したことに對して起り、山東人が多くこれに加はつた。

〖小刀圭〗857セウタウケイ　牛酪の清純なもの。醍醐。〔清異錄、二〕高麗博學記云、酥名二大刀圭一、醍醐名二小刀圭一、酪名二水刀圭一、乳腐名二草創刀圭一。

〖小刀子〗858 hsiao^3 tao^1 tzŭ　小刀。ナイフ。

〖小刀自〗859コトジ　古、酒造司にあつた酒壺の一。〔續古事談、一、王道后宮〕。

【小盜】860セウタウ　こぬすびと。狗盜。竊盜。〔莊子、胠篋〕絕レ聖棄レ知、大盜乃止、擿レ玉毀レ珠、小盜不レ起。〔後漢書、光武紀上〕多爲二小盜一。

【小桃】861セウタウ　桃の一種。〔馮取洽、摸魚兒詩〕但對レ酒思レ君呼レ兒、爲レ我頻唱二小桃句一。〔老學菴筆記、四〕歐陽公・梅宛陵・王文恭集、皆有二小桃詩一、歐詩云、雪裏花開人未レ知、摘來相顧共驚疑、便須二索レ酒花前醉一、初見今年第一枝、初但謂三桃花有二一種早開者一耳、及レ遊二成都一、始識下所謂小桃者、上元前後卽著レ花、狀如中垂絲海棠上、曾子固雜識云、正月二十開二天章閣一、賞二小桃一、正謂レ此也。

〖小桃紅〗862セウタウコウ　鳳仙花の異名。〔羣芳譜〕鳳仙、一名海蒳、一名小桃紅、一名染指甲草。

【小舠】863セウタウ　こぶね。小舟。〔王禹偁、寒食詩〕妓女穿二輕屐一、笙歌泛二小舠一。

【小棠】864セウタウ　小さい甘棠の樹。〔詩、召南、甘棠序、美二召伯一也、疏〕決二訟於小棠之下一。

【小糖】866 hsiao^3 t'ang^2　菓子の一種。粟おこしの類。

【小道】867セウダウ　❶小さな道。こみち。❷異端、諸子百家をいふ。一說に、農圃・醫卜など、すべて技藝の道をいふ。大道(**3**－**5831**··1545)の❶の對。〔論語、子張〕子夏曰、雖二小道一必有二可レ觀者一焉、致レ遠恐泥、是以君子不レ爲也。〔集解〕何晏曰、小道、謂二異端一。〔義疏〕小道、謂二諸子百家之書一也。〔集注〕小道、如二農圃醫卜之屬一。❸狹小な道義。つまらぬ道德。〔穀梁、隱、元〕已廢二天倫一、而忘二君父一、以行二小惠一、曰二小道一也。〔漢書、東平思王宇傳〕小辯破レ義、小道不レ通。❹道士の自稱。〔紅樓夢、二十九回〕看著小道是八十多歲的人。

〖小道具〗868コダウグ　❶小さい道具。こまごました道具。❷刀劍の附屬品。鍔(バツ)・目貫(メヌキ)の類。❸芝居で、舞臺に使用するこまごました道具の總稱。

〖小道具方〗868′コダウグカタ　芝居で小道具を扱う人をいふ。

〖小道具付〗868″コダウグツケ　芝居で狂言に必要な小道具を一場毎に列記した書付。

〖小道具屋〗868‴コダウグヤ　小道具を賣る家。又、その人。

【小宅】869セウタク　❶小さい家。又、自家の謙辭。〔白居易、自詠詩〕洛中有二小宅一、渭上有二別墅一。❷ヲヤケ　姓氏。

【小澤】870セウタク　小さいさは。〔周禮、地官、序官、澤虞〕小澤小藪、如二小川之衡一。

【小脫】871コヌケ　芝居の鬘(カツラ)の一種。

【小塔】872セウタフ　小さい塔。〔南史、扶南國傳〕阿育王佛塔、晉元帝初、度レ江更修二飾之一、至二簡文咸安中一、使三沙門安法程二造小塔一。〔陸游、蔬圃詩〕聚レ甓起二浮屠一、〔注〕拾二園中瓦礫一作二小塔一。

【小丹】873セウタン　山名。浙江省奉化縣の西、四明山の南。上に二洞があり、五六十人を容れる。雲笈七籤に所謂丹山の赤水は是れである。

【小旦】874セウタン　役者の女形。娘・侍女などに扮す。〔莊岳委談、下〕元樸劇、旦有二數色一、所謂裝旦卽正旦也、小旦卽今副旦也、或以レ墨點二其面一、謂二之花旦一。〔紅樓夢、二十二回〕賈母深愛下那作二小旦一、與中一個做二小丑一的上。

〖小旦那〗875コダンナ　若旦那をいふ。大旦那の對。

【小膽】876セウタン　膽力が乏しい。臆病で氣が小さい。大膽の對。〔韋莊、詩〕小膽空房怯、長眉滿鏡愁。

【小男】877セウダン　小さい男の子。大男の對。〔李商隱、詠レ懷寄二祕閣舊僚一二十六韻詩〕小男方嗜レ栗、幼女漫憂レ葵。〔李郢、南池詩〕小男供レ餌婦搓レ絲、溢レ榼香醪倒接レ羅。

〖小男鹿〗878サヲシカ　男鹿に同じ。牡鹿。小は接頭語。

【小談】879セウダン　小さい事柄に關するはなし。〔韓非子、難言〕纖計小談、以二具數一言、則見二以爲レ陋。

【小池】880セウチ　❶小さい池。〔沈佺期、酬下蘇員外味道夏晚寓二直省中一見上レ贈詩〕小池殘暑退、高樹早涼歸。〔韓愈、盆池詩〕老翁眞箇似二童兒一、汲レ水埋レ盆作二小池一。〔許渾、題二鄒處士隱居一詩〕浪衝二高岸一響、潮入二小池一渾。❷驛の名。安徽省太湖縣の北。もと巡司を設く。後、廢して驛を置く。淸の咸豐九年、多隆阿が鮑超に檄して小池驛に屯し、大いに洪楊と戰つた處。〔讀史方輿紀要、江南、安慶府、太湖縣、白沙鎭〕小池巡司、在二縣東四十里一、明初置。

【小知】881セウチ　❶些細なことを知る。〔論語、衞靈公〕子曰、君子不レ可二小知一、而可二大受一也、小人不レ可二大受一、而可二小知一也。❷少しの知識。又、すこしばかりの知慧。小智。〔莊子、逍遙遊〕小知不レ及二大知一。〔淮南子、人閒訓〕此察二於小知一、而塞二於大道一也。〔法言、問明〕小知之師亦賤矣。

【小治】882セウチ　❶こまかいまつりごと。〔周禮、天官、冢宰〕凡邦之小治、則冢宰聽レ之。❷少しく治まる。〔史記、秦紀〕由余曰、夫自下上聖黃帝作二爲禮樂法度一、身以先レ之、僅以小治。

【小智】883セウチ　❶少しの智惠。大智の對。〔管子、大匡〕小白之爲レ人無二小智一。〔淮南子、主術訓〕有二小智一者、不レ可三任以二大功一。〔賈誼、鵩鳥賦〕小智自私。❷冠位十二階の第十二位。推古天皇十一年制定。

【小恥】884セウチ　小さなはぢ。わづかなはぢ。〔戰國、齊策〕效二小節一者、不レ能レ行二大威一、惡二小恥一者、不レ能レ立二榮名一。

【小呢】885 hsiao^3 ni^2　織物の一種。カシユミヤの類。

【小丑】886セウチウ　道化のかたき役者。〔紅樓夢、二十二回〕賈母深愛下那作二小旦一的、與中一個作二小丑一的上。

【小忠】887セウチユウ　小さい忠。つまらない忠。大忠の對。忠は、まごころを盡す・忠實・忠愛。小忠大忠之賊・行二小忠一則大忠之賊を見よ。

〖小忠大忠之賊〗888セウチユウタイチユウノゾク　小さな忠は大きな忠をそこなふ。低次な忠は、却つて相手をそこなひ、迷惑をかけることになるから、本當の忠にはならない。〔呂覽、權勳〕小忠、大忠之賊也。〔說苑、敬愼〕小忠、大忠之賊也。

〖行二小忠一則大忠之賊〗888′セウチユウヲオコナフハスナハチタイチユウノゾク　小さい忠を盡すことは、却つて大きな忠をそこなふ因となる。小忠・小忠大忠之賊を見よ。〔韓非子、十過〕豎穀陽之進レ酒、不三以讎二子反一也、其心忠二愛之一、而適足二以殺レ之、故曰、行二小忠一則大忠之賊也。

【小竹】889セウチク　❶小さい竹。〔水經、沁水注〕小竹細筍、被二于山渚一、蒙籠茂密、奇爲二翳薈一也。〔黃庭堅、墨竹詩〕小竹扶疎大竹枯、筆端眞有二造化鑪一。❷古代の尺八の稱。〔小竹笛音調學初傳〕。

〖小竹帚〗890 hsiao^3 chu^2 chou^3　茶筌。

【小畜】891セウチク　易六十四卦の一。䷈（乾下巽上）。少しく蓄へるの象。〔易、小畜〕小畜亨、密雲不レ雨、自二我西郊一。〔釋文〕小畜、本又作レ蓄、同、敕六反、積也、聚也、卦內皆同、鄭、許六反、養也。

〖小畜集〗892セウチクシウ　書名。三十卷、外集七卷。宋、王禹偁撰。禹偁、嘗つて易を以て自ら筮し、小畜の卦を得て集に名づけた。賦二卷、詩十一卷、文十七卷から成る。外集七卷は其の曾孫汾の編。現存本は殘闕して七卷から十三卷まで、合して七卷である。凡て詩四十四篇、雜文八篇、論議五篇、傳三篇、箴・贊・頌九篇、代擬二十篇、序十二篇。宋は五代の後を承けて、文體纖儷。禹偁が始めて古雅簡淡の文を作り、其の奏疏は尤も剴切である。〔四庫提要、集、別集類〕。

〖小畜生〗893 hsiao^3 ch'u^4 shêng　こんちくしやう。人を罵る語。

【小築】894セウチク　小さくて立派な家。〔詞苑叢談〕賀方回、本山陰人、徙二姑蘇之醋坊橋一、有三小築在二橫塘一、嘗往二來其閒一。

【小衄】895セウヂク　少しく挫ける。少しのまけ。小敗北。〔曹植、求二自試一表〕東軍失レ備、師徒小衄。〔注〕衄、猶二挫折一也。

【小茶】896セウチヤ　小女の美稱。唐代の語。〔元好問、德華小女五歲能誦二予詩數首一云云詩〕牙牙嬌女總堪レ誇、學レ念二新詩一似二小茶一。〔注〕唐人以レ茶爲二小女美稱一。

【小帳】897セウチヤウ　小さいとばり。〔詩、大雅、抑、相レ在二爾室一、尙不レ愧二于屋漏一、箋〕屋、小帳也。〔海錄碎事、服用、簾幙〕小帳也、形如レ覆。

【小腸】898セウチヤウ　十二指腸から迂曲して大腸に通ずる消化器。〔太平御覽、人事部、形體〕韓詩外傳曰、大腸轉輸之府、小腸受レ成之府。〔白虎通、情性〕大腸・小腸・心・肺、府也。〔和名抄、形體部、臟腑類〕中黃子云、小腸、保會和太、爲二受盛之府一。

〖小腸氣〗899 hsiao^3 ch'ang^2 ch'i^4　疝氣をいふ。

〖小腸串氣〗900 hsiao^3 ch'ang^2 ch'uan^4 ch'i^4

罣丸の膨れる病。

【小賬】901 hsiao^3 chang^4　月月の會計決算。又、徒弟に與へる祝儀にもいふ。

【小聽】902 セウチヤウ　小さな謀に從ふこと。〔司馬法、定爵〕軍無二小聽一、戰無二小利一。

【小廳】903 セウチヤウ　小座敷。小應接所。大廳(**3－5831**‥1607)の對。〔西溪叢語、下〕按、述異記云、房陵定山有二朱仲李三十六所、許昌節度使小廳一、是故魏景福殿。

【小杖】904 セウヂヤウ　小さな杖。又、少しくむちうつ。大杖(**3－5831**‥1608)の❶の對。〔後漢書、隗囂傳〕昔虞舜事レ父、大杖則走、小杖則受。

【小娘】905 セウヂヤウ　❶幼女をいふ。〔正字通、孃〕今俗稱二幼女一曰二小娘一。❷妓女をいふ。〔元好問、續小娘歌〕唱得小娘相見曲、不レ解離レ鄉去レ國情。

〖小娘貨〗906 hsiao^3 niang^2 huo^4　毀れ易い品物。

〖小娘子〗907 セウヂヤウシ　❶自己の娘の稱。〔韓愈、祭二女挐女一文〕祭二于第四小娘子挐子之靈一。❷人の娘の稱。〔歐陽脩、答二連元禮一簡〕承賢郎小娘子見レ過、故人有二佳兒女一、朋友當二共慶一也。〔西廂記、張君瑞鬧二道場一雜劇〕老僧同二小娘子一看一遭便來。

〖小娘婢〗908 hsiao^3 niang^2 pei^4　下女などをいふ。浙江地方の語。

【小場】909 セウヂヤウ　小試驗。科擧で秀才資格認定の試驗。

【小釀】910 セウヂヤウ　少量の酒。〔李群玉、旅泊詩〕短篇纔遣レ悶、小釀不レ供レ愁。

【小邾】911 セウチユ　春秋の國名。曹姓にて子爵。顓頊の裔、曹挾の後なる夷父顏、周に功あり、子の友、郳に封ぜられて魯の附庸となる。春秋莊公五年に、郳の犂來來朝す、とある。犂來は友の曾孫。その故城は山東省滕縣の東南。齊の桓公の時、子爵に進み、始めて諸侯に列す。之を小邾子といふ。戰國の時、楚に滅さる。〔左氏、莊、五、郳犂來來朝、注〕未下受二爵命一、爲中諸侯上也、傳發二附庸稱レ名例一也、其後數從二齊桓一以尊二周室一、王命以爲二小邾子一。

【小注】912 セウチユウ　注釋。注解。〔古文析義、凡例〕是編小注內有下逐句解釋之下、或遇二段落一應二總解一者上、恐レ致二相混一、必加二一小圈一別レ之。

【小蟲】913 セウチユウ　小さいむし。こむし。〔周禮、考工記、梓人〕以レ脰鳴者、以レ注鳴者、以レ旁鳴者、以レ翼鳴者、以レ股鳴者、以レ胷鳴者、謂二之小蟲之屬一。〔關尹子、九藥〕勿レ輕二小物一、小蟲毒レ身。

【小住】914 セウヂユウ　すこしの閒たちどまる。暫時逗留する。〔後漢書、薊子訓傳〕薊先生小住。

【小猪】915 セウチヨ hsiao^3 chu^1　子豚。豚の子。

【小儲】916 セウチヨ　少しのたくはへ。〔唐書、陸贄傳〕散二小儲一成二大儲一、捐二小寶一固二大寶一也。

【小女】917 セウヂヨ　❶わかい女。又、小さい娘。小さい方の娘。大女の對。〔史記、倉公傳〕於レ是小女緹縈、傷二父之言一。〔漢書、外戚上、孝宣許皇后傳〕是時霍將軍有二小女一。❷大寶の制に於て、三歲以上、十六歲以下の女子の稱。〔東大寺正倉院文書、二十二、美濃國大寶二年戶籍〕兒守部志祁多賣、年十六、小女。❸hsiao^2 nü^3　私の娘。自己の娘を謙稱する語。

〖小女淵〗918 ヲナブチ　姓氏。

〖小女人〗919 hsiao^2 nü^3 jen^2　妾をいふ。

〖小女童〗920 コメラハ　娘。小女。こむすめ。

【小除】921 セウヂヨ　❶大晦日の前日。〔北京歲華記〕先二除夕一一日曰二小除一、人家置酒宴、往來交謁、曰二別歲一。❷hsiao^3 ch'u^2　小の月の終りをいふ。

〖小除夕〗922 セウヂヨセキ　陰曆十二月二十九日の夜、又は十二月二十四日の夜をいふ。小除を見よ。〔江南志書、大冶縣〕十二月二十四日爲二小除夕一、祀レ竈用レ巫。〔北京指南、禮俗〕先二除夕一一日、則曰二小陰夕一、家置酒宴、往來招邀、曰二別歲一、又曰二辭歲一。

〖小除目〗923 コヂモク　古、大臣を陞敍した臨時の除目。〔江家次第、四、直物〕次若有二小除目一者、自二御所一被レ下二申文等一。

【小懲】924 セウチヨウ　少しくこらす。〔易、繫辭下〕不レ威不レ懲、小懲而大誡、此小人之福也。

【小陣】925 セウヂン　小さな陣。〔李衞公問對、中〕大陳包二小陳一。

【小槌】925′ コヅチ　小さい槌。

【小通】926 セウツウ　❶春氣の發動するをいふ。〔韓詩外傳、一〕男八月生レ齒、八歲而齠齒、十六而精化、小通、女七歲而齓、十四而精稱、小通。❷小便。尿。〔一日土堤〕。

〖小通事〗927 hsiao^3 t'ung^1 shih^4　飜譯係の見習生。

【小痛】928 セウツウ　小さいいたみ。少しのいたみ。〔新論、利害〕然而爲レ之者、以二小痛來而大痛滅、則細害至、巨害除一也。

〖小痛在レ體而長利在レ身〗929 セウツウタイニアレバチヤウリミニアリ　小さな苦しみは却つて身の爲になるといふ意。〔韓非子、安危〕扁鵲之治二其病一也、以レ刀刺レ骨、故小痛在レ體、而長利在レ身。

【小弟】930 セウテイ　❶年少のおとうと。小弱弟。弱弟。〔樂府詩集、橫吹曲辭、木蘭詩〕小弟聞二姊來一、磨レ刀霍霍向二豬羊一。〔楊維楨、吳城怨詩〕吳兵夜入レ郢、小弟驕二父兄一。〔王昌齡、別二李浦之レ京詩〕小弟鄰莊尙漁獵、一封書寄數行啼。❷hsiao^3 ti^4　他人に對していふ自稱。小生。

〖小弟兄〗931 hsiao^3 ti^4 hsung　浮浪人が其の同類をいふ。兄弟分。弟分。

【小底】932 セウテイ　❶幼小の人。大底(**3－5831**‥1675)の❶の對。〔王銍默記〕王介甫家、小底不レ如二大底一、謝師宰家、大底不レ如二小底一。❷役使せられる者。小吏。奴僕。轉じて、人民が官に對し、或は下僕などが主人に對する自稱となる。小的。〔康熙字典〕凡供二役使一者、曰二小底一。〔晉公談錄〕皇城使劉承規、在二太祖朝一爲二黃門小底一。❸五代の時の軍官の名。〔舊五代史、周太祖紀三〕辛未詔、相州節度使李筠權知二潞州軍州事一、丙子以二小底都指揮使漢州刺史李重進一、爲二大內都點檢兼馬步都軍頭領恩州團練使一、以二內殿直都知駙馬都尉張永德一、領二和州刺史一、充二小底第一軍都指揮使一。〔事物紀原、軍伍名額部、小底〕宋朝會要曰、至道二年九月、帝閱二試前所レ擇兵士驍騎一、試二弓箭一中者六十人、以二殿前小底一爲二軍額一。❹遼時、承應小底局伺候の小臣をいふ。〔遼史、百官志二〕承應小底局、筆硯小底、寢殿小底、佛殿小底、司藏小底、習馬小底、鷹坊小底、湯藥小底、尙飮小底、盥漱小底、尙膳小底、尙衣小底、裁造小底。

【小定】933 セウテイ　少しく定まる。〔晉書、懷帝紀〕關中小定。

【小亭】934 セウテイ　小さいちん。小さい四阿（アヅマヤ）。〔吳融、山居卽事詩〕小亭前面接二青崖一。

【小庭】935 セウテイ　❶小さい庭。〔張纘、秋雨賦〕周二小庭一而密下、泣二高枝一而疎落。〔韓偓、疎雨詩〕疎雨從レ東送二疾雷一、小庭涼氣淨二莓苔一。❷コニハ　古、清涼殿の南庭の稱。紫宸殿の大庭に對していふ。

【小釘】936 hsiao^3 ting^1　鋲。小釘。

【小艇】937 セウテイ　こぶね。小舟。〔北史、張亮傳〕亮乃備二小艇百餘一、皆載二長鎖一。〔夢溪筆談、人事二〕林逋常汎二小艇一、遊二西湖諸寺一。

【小埕】938 セウテイ　寨の名。明初、置く。福建省連江縣の東の海中。〔籌海說〕小埕、北連二烽火一、南接二南日連江一、爲二福郡門戶一、而小埕又連江之門戶也。

【小蹄子】939 hsiao^3 ti^2 tzŭ　婦人を罵る語。

【小鳥】940 セウテウ　❶小さい鳥。ことり。〔管子、輕重丁〕翡燕小鳥皆歸レ之。〔張華、鷦鷯賦〕鷦鷯小鳥也。❷新羅の官名。小舍(597)の❸を見よ。

【小貂】942 セウテウ　唐代、散騎常侍の別名。〔容齋四筆、官稱別名〕唐人好以二他名一標二牓官稱一、云云、散騎常侍爲二小貂一。

【小碟】943 hsiao^3 tieh^2　小皿。

【小調】944 hsiao^3 tiao^4　方言で唄ふ曲調。小唄(こうた)。田舍唄。

【小潮】945 セウテウ　こしほ。潮差の最小な時の潮汐。通常、月の上弦又は下弦の後一二日で小潮となる。大潮の對。

【小的】947 hsiao^3 tê　小底の音轉。❶小兒をいふ。〔水滸傳、一回〕大尉尋思道、這小的如何盡知此事。❷下僕などが其の主人に對して自己を稱する語。❸平民が官府に對して自稱する語。

【小敵】948 セウテキ　小人數の敵。力の弱い敵。〔後漢書、光武紀上〕劉將軍平生見二小敵一怯、今見二大敵一勇、甚可レ怪也。

〖小敵堅大敵擒〗949 セウテキノケンハタイテキノトリコ　小人數の敵が堅守してゐると、やがて力が盡きて、遂に大敵に擒にせられる。〔孫子、謀攻〕小敵之堅、大敵之擒也。〔注〕李筌曰、小敵不レ量レ力而堅戰者、必爲二大敵所一レ擒也。〔史記、衞將軍傳〕小敵之堅、大敵之禽也。

【小姪】950 セウテツ　❶甥。をひ。〔杜牧、冬至日寄二小姪阿宜一詩〕小姪名阿宜。❷hsiao^3 chih^2　父の親友に對して用ひる自稱。

【小店】951セウテン 小さい店。こみせ。〔南史、劉休傳〕明帝憎二婦人妬一、阜休妻王氏亦妬、帝聞レ之、賜二休妾一、敕與二王氏二十杖一、令下休於二宅後一開中小店上、使三王氏親賣二皂莢掃箒一、以レ此辱レ之。〔王安石、詩〕落帆江口月黃昏、小店無レ燈欲レ閉レ門。

【小腆】952セウテン 小國をいふ。〔書、大誥〕殷小腆、誕敢紀二其叙一、天降レ威、知二我國有レ疵。〔鄭注〕腆、小國也。〔蔡傳〕腆厚、誕大、敍緒、疵病也、言下武庚以二小厚之國一、乃敢大紀中其既亡之緒上。

〖小腆紀傳〗953セウテンキデン 書名。六十五卷、補二卷。清、徐鼒撰。明の福唐桂三王の始末を敍す。南都の立國から臺灣の鄭氏に至つて止まる。大旨は明末死節の諸臣を表章するに在る。〔清史稿、藝文志〕。

【小踮】954 hsiao^3 tien^4 小刻みに歩む。〔文志〕。

【小篆】955セウテン 漢字の書體の名。篆字の一。秦の始皇の時、宰相李斯、倉頡篇を作り、中車府令趙高、爰歷篇を作り、大史令胡毋敬、博學篇を作り、皆、大篆の畫を省いて小篆となし、天下に頒行した。一說に、李斯作の大篆の畫を省いて程邈が作つたものといふ。〔許愼、說文序〕秦始皇帝初兼二天下一、丞相李斯乃奏同レ之、罷乙其不下與二秦文一合上者甲、斯作二倉頡篇一、中車府令趙高作二爰歷篇一、大史令胡毋敬作二博學篇一、皆取二史籀大篆一、或頗省改、所謂小篆者也、云云、秦書有二八體一、一曰大篆、二曰小篆、三曰刻符、四曰蟲書、五曰摹印、六曰署書、七曰殳書、八曰隸書、云云、及二亡新居攝一、使三大司空甄豐等、校二文書之部一、自以爲レ應二制作一、頗改二定古文一、時有二六書一、一曰古文、孔子壁中書也、二曰奇字、卽古文而異者也、三曰篆書、卽小篆、下杜人程邈所レ作也、四曰左書、卽秦隸書、五曰繆篆、所二以摹レ印也、六曰鳥蟲書、所三以書二幡信一也。

【小篁】956セウテン 小さい篁。篁は、竹・葦などで作つた敷物。〔琵琶記、琴訴二荷池一〕素質生レ風、小篁琅玕展。

【小點】957セウテン 小さい點。〔張昱、題二吳綵鸞寫韻圖一詩〕小點紅鸞欲レ下遲。

【小田】958ヲダ 田をいふ。「を」は接頭語。〔萬葉集、七〕ゆだね蒔くあらきの小田を求めむと。

〖小田切〗959ヲダギリヲタギ 姓氏。

〖小田刈月〗960ヲダカリヅキ 陰曆九月の異名。

〖小田穀山〗961ヲダコクザン 越後の人。名は煥章・敏。字は子文。通稱は五兵衞。號は穀山。私諡は適清先生。文化元年六月六日歿す、年六十三。片山兼山に師事し、江戸に居住す。著に越風石臼歌一卷・穀山子三卷・穀山先生文集初編二卷・穀山先生文集二編三卷・周易古傳考三卷・邇言解一卷・尙書古傳考六卷・駿府詩選一卷・駿府詩選二編・三編五卷・駿府文選一卷・說林二卷・說林後編二卷・毛詩古傳考六卷・論語翼大成二十卷がある。〔近代著述目錄後篇〕・〔北越名流遺芳〕。

〖小田原提燈〗962ヲダハラヂヤウチン 使用する每に延べひろげ、不用の時はたたんで腰にさせるやうにつくつた提燈。

〖小田原評定〗963ヲダハラヒヤウヂヤウ 豐臣秀吉の小田原征伐の際、小田原城で秀吉に降るべきか否かの評定がいつまでも決しなかつたことから、轉じて長びいてなかなか決しない相談をいふ。

【小殿】964セウデン 小さい宮殿。〔越絕書、越絕內經九術〕竊爲三小殿有二餘財一、再拜獻レ之。〔許渾、題二冲治上人院一詩〕小殿燈千盞、深爐水一瓶。

〖小殿原〗965コトノバラ ❶古、春盤クヒツミ 卽ち蓬萊かざりに用ひたごまめの稱。❷年の若いとのばら。〔甲陽軍鑑、四〕近習・小姓・小殿原・若黨・小人。

【小傳】966セウデン ❶事蹟の一部分を書いた傳記。人の履歷のあらましを書いたもの。略傳。唐の李商隱の李賀小傳、宋の陸游の姚平小傳の類。〔金史、王鬱傳〕久レ之爲レ文、法二柳宗元一、歌詩俊逸效二李白一、嘗作二王子小傳一以自敍。❷各家の詩文を彙刻するに、作者の里居・官閥・事蹟を略述したもの。或は篇首姓名の下に附し、或は書の前後に彙錄する。〔增注三體詩〕作者小傳。

【小斗】967セウト ちひさいます。大斗の對。〔史記、田敬仲完世家〕田常復脩二釐子之政一、以二大斗一出貸、以二小斗一收。

【小杜】968セウト 晚唐の詩人、杜牧をいふ。杜甫を老杜といふの對。〔唐書、杜牧傳〕牧於レ詩情致豪邁、人號二小杜一、以別二杜甫一云。

〖小杜律〗969セウトリツ 漢の杜延年の造つた法律。父杜周に對して小といふ。〔後漢書、郭躬傳〕父弘習二小杜律一、太守寇恂以レ弘爲二決曹掾一、斷獄至二三十年一、用レ法平、諸爲二弘所レ決者、退無二怨言一。〔注〕前書、杜周斷獄深刻、少子延年亦明二法律一、對レ父、故言レ小。

【小肚】970 hsiao^3 tu^4 臍の下部。小腹。

〖小肚子〗971 hsiao^3 tu^4 tzŭ 小腹。臍の下部。

【小徒】972 hsiao^3 t'u^2 小僧。徒弟。

【小都】973セウト 卿の采地。大都(**3－5831**··1750)の❶の對。〔周禮、地官、載師〕以二小都之田一任二縣地一。〔注〕小都、卿之采地。

【小奴】974セウド 年若いしもべ。小者。小僧。〔杜甫、縛雞行〕小奴縛レ雞向レ市賣、雞被レ縛急相喧爭。〔劉克莊、弔二錦雞一詩〕置二諸後園中一、小奴司二啄飮一。

【小怒】975セウド 小事に對するいかり。くだらぬことについて怒ること。〔管子、問〕小利害レ信、小怒傷レ義。

【小豆】976セウトウ ❶粒の小さい豆。色々の種類がある。〔本草、赤小豆〕釋名、時珍曰、王禎云、今之赤豆・白豆・綠豆・豋豆、皆小豆也。〔吳志、趙達傳〕取二小豆數斗一。❷セウヅ あづき。細長く皮の赤い一種の豆。主として赤飯に炊ぎ、又は餡に造る。

〖小豆島〗977セウドジマ ❶瀬戸內海にある島。❷アヅキシマ 姓氏。

〖小豆腐兒屋子〗978 hsiao^3 tou^4 fu êrh wu^1 tzŭ 一膳飯屋。

【小偸】979セウトウ 小盜人。こそこそ泥棒。〔漢書、張敞傳〕置酒、小偸悉來賀且飮醉。

【小頭】980コガシラ 大頭の下に屬する一部の長。〔甲陽軍鑑、末書〕。

〖小頭兒〗981 hsiao^3 t'ou^2 êrh ❶こがしら。小親方。❷小心者。

〖小頭首〗982セウトウシユ 佛禪寺で侍者をいふ。〔禪苑清規〕院中小頭首、堂頭侍者與二聖僧侍者一。

〖小頭痛〗983セウトウツウ 罽賓國にある山の名。〔漢書、西域上、罽賓國傳〕大頭痛・小頭痛之山。

〖小頭目〗984 hsiao^3 t'ou^2 mu^4 ❶こがしら。小親分。❷小役人。

【小東】985セウトウ 東方の小國。〔詩、小雅、大東〕小東大東、杼柚其空。〔集傳〕小東大東、東方小大之國也。

【小兜】986 hsiao^3 tou^1 竹籠の小さなものをいふ。

【小鬪】987セウトウ こぜりあひ。少しばかりの爭。

【小同】988セウドウ 後漢の鄭玄の孫の名。其の手の文(筋の樣相)が祖父の玄に似て居るから名づけた。〔後漢書、鄭玄傳〕玄唯有二一子益恩一、云云、益恩有二遺腹子一、玄以二其手文似レ己、名レ之曰二小同一。

〖小同行〗989 hsiao^3 t'ung^2 hang^2 上海の錢莊中の小さい兩換店の別名。

〖小同事〗990 hsiao^3 t'ung^2 shih^4 番頭見習。

【小筒】991コヅツ ❶小さい火砲。鳥銃。大筒の對。〔武道傳來記、一〕。❷エササ 酒を入れる器。竹筒。〔東鑑、二十一〕建曆三年五月三日、爲レ潤レ喉尋レ水之處、葛西六郎取二副小筒一與レ盞勸レ之。

【小童】992セウドウ ❶わらべ。こども。〔莊子、徐無鬼〕黃帝曰、異哉小童。〔呂覽、必己〕與隸姻媾小童無レ不レ敬。〔杜甫、與二李十二白一同尋二范十隱居一詩〕入レ門高興發、侍立小童清。❷國君の妻たる夫人の謙稱。〔禮、曲禮下〕自稱二於其君一曰二小童一。〔論語、季氏〕夫人自稱曰二小童一。❸先代の忌中に在る時の王の自稱。〔左氏、僖、九〕凡在レ喪、王曰二小童一、公侯曰レ子。

【小胴】993コドウ 小鼓の異稱。こつづみ。

【小僮】994セウドウ 年少のしもべ。〔范成大、四時田園雜興詩〕小僮一棹舟如レ葉、獨自編レ欄鴨陣歸。

【小動】995セウドウ 少しうごく。〔淮南子、覽冥訓〕此明二於小動之迹一。

【小得】996セウトク すこし得る。又、少しの取得。〔易、坎〕九二、坎有レ險、求二小得一。

【小督】997コガウ 高倉天皇の寵妃。平氏に嫉まれ、嵯峨の民舍に匿れ、後、召されて益〻寵愛せられた。後、清盛に捕へられ尼となる。小督局。

【小德】998セウトク ❶小節をいふ。瑣末的な行爲。大德の對。〔論語、子張〕子夏曰、大德不レ踰レ閑、小德出入可也。〔集注〕大德・小德、猶レ言二大節・小節一。❷宇宙造化の作用の部分的に表現されたもの。大德の對。〔中庸〕小德川流、大德敦化。〔章句〕小德者、全體之分、大德者、萬殊之本。❸冠位十二階の第二位。推古天皇十一年制定。

〖小德出入〗999 hsiao^3 tê^2 ch'u^1 ju^4 惡所通ひ

すること。惡い場所に出入りする。小德を見よ。

【小牘】1000 hsiao³ tu² 日常往復の手紙。

【小獨】1001 セウドク 山の名。〔水經、漸江水注〕上虞江縣之東郭外有二漁浦一、湖中有二大獨・小獨二山一。

【小咄】1002 コバナシ ㊀短い話。一口話。㊁特に落語の枕に用ひる短い話。

【小頓】1003 セウトン 中休み。小休み。〔客越志〕出二靈橋門一、過二浮橋一、小二頓補陀寺一。

【小內】1004 セウナイ 天子の私財を司る官。〔史記、景帝紀〕置二左右內官一屬二大內一、〔注〕索隱曰、主二天子之私財一曰二小內一。小內、屬二大內一也。

【小腦】1005 セウナウ 腦髓の後部。大腦の下に位する腦。隨意筋の動作を調節する。

【小囊】1006 セウナウ 小さいふくろ。〔宋史、外國五、勃泥國傳〕以二數重小囊一緘二封之一。

【小尼】1007 セウニ 尼の自稱。

【小佞】1008 セウネイ ちよつとした佞。大佞の對。佞は、辯舌が巧みで、うまく人にとり入ること。〔論衡、荅佞〕大佞易レ知、小佞難レ知。

【小年】1009 セウネン ㊀一箇年程の月日。〔唐庚、醉眠詩〕山靜似二太古一、日長如二小年一。㊁短い壽命。大年の對。〔莊子、逍遙遊〕小年不レ及二大年一。㊂年の少いこと。少年。〔杜甫、醉歌行〕陸機二十作二文賦一、汝更小年能綴レ文。㊃陰曆十二月二十四日をいふ。此の日、竈を祀る。〔江南志書、潛山縣〕十二月二十四日爲二小年一、設レ席焚レ香、迓二祖先一祀二竈神一、分二食衆家一。

〖小年下〗1010 hsiao³ nien² hsia⁴ 小年節に同じ。

〖小年節〗1011 hsiao³ nien² chieh² 河南省南陽地方で、陰曆十二月二十三日に、戶每に竈祭りをすることをいふ。小年の㊃を見よ。

〖小年朝〗1012 hsiao³ nien² chao¹ 正月三箇日をいふ。又、江蘇省蘇州地方では、正月五日を小年朝とし、此日は地を掃かず、火を乞はず、水を汲まないのを常とす。

〖小年夜〗1013 セウネンヤ ㊀十二月二十四日をいふ。小節夜(794)に同じ。〔文天祥、吟嘯集、二十四日詩〕春節前三日、江鄉正小年。〔注〕二十四日、俚語謂二之小年夜一。㊁除夜の前一日、卽ち陰曆十二月二十九日の夜。㊂浙江海寧地方で正月二日をいふ。

【小念】1014 セウネン 佛小聲で念佛すること。〔大集日藏經、念佛三昧品〕小念見レ小、大念見レ大。

【小農】1015 セウノウ 僅かの田地を所有し、殆ど他人を使役せず、其の一家族だけで耕作する農夫。小百姓。

〖小農組織〗1016 セウノウソシキ 耕作地が狹小に區劃せられ、一般に小農の行はれる組織。

【小巴】1017 セウハ 山名。四川省南江縣の東北。山南は、卽ち春秋の巴國。大巴よりも高峻である。〔讀史方輿紀要、四川、保寧府、巴州〕小巴山、州東北二百九十里、其北有二大巴山一。

【小坡】1018 セウハ 宋の蘇過をいふ。父軾を大坡といふの對。〔宋史、蘇過傳〕有二斜川集二十卷一、其思子臺賦、颶風賦、早行二於世一、時稱爲二小坡一、蓋以レ軾爲二大坡一也。

【小波】1019 セウハ 小さいなみ。さざなみ。漣。〔爾雅、釋水〕小波曰レ淪。

【小馬】1020 セウバ ㊀小さな馬。〔淮南子、說山訓〕小馬大目不レ可レ謂二大馬一。㊁hsiao² ma³ 罪人逮捕の小吏。

〖小馬兒〗1021 hsiao² ma³ êrh ㊀小使。小走り役。人夫。㊁小馬。㊂ヲハサマ 姓氏。

【小婆】1022 hsiao³ p'o² 妾。めかけ。

〖小婆子〗1023 hsiao³ p'o² tzŭ めかけの俗稱。

【小坏】1024 セウハイ 山名。江蘇省溧陽・宜興二縣の境。〔吳會志〕大坏・小坏山、在二洮湖中溧陽・宜興之界一、二山相望、水環若レ浮、故亦名二大浮・小浮一。

【小沛】1025 セウハイ 漢代の地名。卽ち沛縣。沛郡に屬したからいふ。劉備が豫州の刺史となり、小沛に屯した。今の江蘇省沛縣の東。〔蜀志、先主劉備傳〕先主爲二豫州刺史一屯二小沛一。

【小拜】1026 セウハイ 輕く頭を下げる禮式。〔江家次第一、正月〕酒正來亦跪返レ之、跪先二左膝一、乍レ居小拜立、返レ盞後取レ笏。

【小杯】1027 セウハイ 小さな杯。〔後漢書、禮儀志下〕瓦小杯二十、容二二升一。

【小旆】1028 セウハイ 小さなはた。〔蘇轍、競渡詩〕長鯨破レ浪聊堪レ比、小旆迎レ風殊未レ收。

【小敗】1029 セウハイ ㊀小さな凶敗。〔史記、天官書〕有レ日無レ雲不レ風、當二其時一者、稼有レ敗、如食頃、小敗、熟二五斗米一頃、大敗。㊁少し敗れる。僅かな敗績。〔五代史、梁臣、王重師傳〕重師遣二其將張君練西攻二邠鳳一、而不二先請一、君練兵小敗。

【小牌】1030 セウハイ 小さい札。〔花鏡〕菊、每本揷二一小牌一、上寫二花之名色一。

【小貝】1032 セウバイ ㊀小さな貝。〔爾雅、釋草、莔、貝母、注〕根如二小貝一、圓而白。㊁コガヒ 漢字の部首の名。頁 オホガヒ に對して貝をいふ。

【小唄】1033 コウタ 三味線に合せて歌ふ短い俗歌。はうた。

【小梅】1034 セウバイ 小さい梅。〔秦韜玉、春雪詩〕惹砌任他香粉妬、縈叢自學小梅嬌。〔段克己、紅梅詩〕小梅初破月團圓、戲蝶游蜂未二敢干一。

【小買】1035 コガヒ 品物を少し買入れること。小取引。

〖小買賣〗1036 hsiao² mai³ mai⁴ 小商人。

【小賣】1037 コウリ 品物を卸賣商から卸賣値段で買入れ、これを消費者に賣ること。卸賣の對。

〖小賣兒〗1038 hsiao³ mai⁴ êrh 格式通りでない料理。大菜(**3**－**5831**··843)の㊁の㋑を見よ。

【小方】1039 セウハウ ㊀小將軍といふほどの意。後漢の黃巾の賊帥なる張角が其の配下の大衆を三十六の集團に區分し、其の各〻に置いた渠帥を方と稱し、萬以上の衆の長を大方、六七千の衆の長を小方と呼んだ。〔後漢書、皇甫嵩傳〕連二結郡國一、自二青・徐・幽・冀・荊・揚・兗・豫八州之人一、莫レ不二畢應一、遂置二三十六方一、方猶二將軍號一也、大方萬餘人、小方六七千、各立二渠帥一。㊁方術の類。〔史記、武帝紀〕上使三先驗二小方一。㊂小兒科をいふ。小方脈に同じ。〔事物紀原、伎術醫卜部、小方〕孫思邈千金方曰、小兒六歲以下、黃帝無レ說、中古有二巫妨一、始撰二顱顖經一、以占二壽夭一、自レ茲始有二小方一、則小兒方藥、始二於巫妨一也。

〖小方杌〗1040 hsiao³ fang¹ wu⁴ 小さい腰掛臺。

〖小方脈〗1041 セウハウミャク 醫の一派。小兒科醫をいふ。大小方脈(**3**－**5831**··1354)を見よ。〔輟耕錄、醫科〕醫有二十三科一、考二之聖濟總錄一、大方脈雜醫科・小方脈科・風科・產科、兼二婦人雜病科一、眼科・口齒兼二咽喉科一、正骨兼二金鏃科・瘡腫科・鍼灸科・祝由科一、則通兼言。

〖小方壺齋〗1042 セウハウコサイ 清、王錫祺の齋の名。錫祺は清河の人。刻書に小方壺齋輿地叢鈔、及び補編再補編があり、採輯する所の書は極めて多い。

〖小方生意〗1043 hsiao³ fang¹ shêng¹ i⁴ 小營業。こあきなひ。

【小包】1044 コヅツミ 小さいつつみ。

〖小包郵便〗1045 コヅツミイウビン 禁制品以外の物に限り、包裝して送達する郵便物。

【小邦】1047 セウハウ 小さい國。小國。大邦の對。〔書、武成〕大邦畏二其力一、小邦懷二其德一。

【小寶】1050 セウハウ 小さいたからもの。又、比較的價値の少いたからもの。大寶の對。〔唐書、陸贄傳〕散二小儲一成二大儲一、捐二小寶一固二大寶一也。

【小卯】1051 セウバウ 節氣の名。〔管子、幼官〕十二小卯、出耕。〔纂詁〕十二小卯・十二小郢諸說、不レ知二何謂一、疑是節氣名目、如二穀雨驚蟄之類一、衡謂、卯位在レ東、主レ春、故以名レ節、此蓋管仲所二自創一、或古有二此法一而述レ之也。

【小房】1052 セウバウ 小部屋。小室。大房の對。

【小茅】1053 セウバウ 山名。㊀江蘇省宜興縣の東。武進縣の界。其の西麓に分水墩鎭がある。㊁江蘇省江陰縣の西南。一名、秦望山。西麓に焦店鎭があり、武進縣の界と接す。

【小帽】1054 セウバウ ㊀小さい帽子。〔五代史、前蜀王建世家〕王氏晚年、俗競爲二小帽一、僅覆二其頂一。㊁秋から冬春にかけて一般に冠る中國帽。〔日知錄、雜事〕豫章漫鈔曰、今人所レ戴小帽、以二六瓣一合縫、下綴以二簷一如レ甬、閭憲副閎謂レ予言、亦太祖所レ製、若レ曰二六合一統一云爾。

〖小帽子兒〗1055 hsiao³ mao⁴ tzŭ êrh 子供の帽子。

【小白】1056 セウハク ㊀齊の桓公の名。襄公の弟。春秋五霸の首となる。〔春秋、莊、九〕齊小白入二于齊一。〔列子、力命〕小白善用レ能者。〔袁宏、三國名臣序贊〕三賢進而小白興。〔注〕向曰、小白、齊桓公名。〔劉琨、重贈二盧諶一詩〕重耳任二五賢一、小白相二射鉤一。㊁旗の名。〔逸周書、克殷解〕適二二女之所一、乃既縊、王又射レ之、三發、乃右擊レ之以二輕呂一、斬レ之以二玄鉞一、縣二諸小白一。〔注〕小白、旗名也。㊂山名。長白山の支脈。松花江と瑚爾哈河との間

に位す。一に溫德亭山といひ、上に望祭殿があり、望祭山ともいふ。東南は長白山の正脈英額嶺に接し、西走して備牙鑾哈達嶺となり、折れて北に趨る。連峯勢を接し二三百里に亘る。是を老嶺とす。森林茂密し、納穆窩集、及び塞齊窩集がある。又東を海蘭窩集とし、瑪延窩集と畢展窩集とに接す。淸一統志に、小白山は寧古塔（今の寧安縣）の西北に在り、巖岫嶔巇、冰雪夏積むといふは、長白山の主峯である。

〖小白臉〗1057 hsiao^3 po^2 lien^3 色白の顏。美少年。

【小伯】1058 セウハク 小都の長。〔書、立政〕大都小伯、藝人表臣百司。〔蔡傳〕呂氏曰、大都小伯者、謂二大都之伯、小都之伯一也。

【小陌】1059 セウハク こみち。〔陸游、馬上作詩〕平橋小陌雨初收、淡日穿レ雲翠靄浮。

【小貉】1060 セウハク 中國北方に居た蠻族の一種。〔公羊、宣、十五〕什一者天下之中正也、多二乎什一一、大桀・小桀、寡二乎什一一、大貉・小貉。〔孟子、告子下〕欲レ輕二之於堯舜之道一者、大貉・小貉也。

【小蘖】1071 セウハク 落葉小灌木の名。其の枝葉は藥用に供せられ、皮は黃色の染料として用ひられる。めぎ。〔本草、小蘖〕集解、弘景曰、子蘖、樹小、狀如二石榴一、其皮黃而苦。

【小麥】1072 セウバク むぎの一種。こむぎ。麪類・パン・醬油等の原料となる。〔本草、小麥〕釋名、麥、集解、頌曰、大小麥、秋種、冬長、春秀、夏實、具二四時中和之氣一、故爲二五穀之貴一。〔後漢書、五行志一〕桓帝之初、天下童謠曰、小麥靑靑、大麥枯。

【小法】1073 セウハフ ❶些細な法律。些細な罰則。〔史記、汲黯傳〕黯坐二小法一、會レ赦免レ官。❷佛小乘(682)に同じ。〔法華經、方便品〕鈍根樂二小法一。

【小半】1074 セウハン 三分の一をいふ。大半(3－5831··1941)の對。〔漢書、高帝紀〕今漢有二天下大半一。〔注〕韋昭曰、凡數三分有レ二爲二大半一、有二一分一爲二小半一。

〖小半時〗1075 コハントキ 半時の二分の一。今の三十分。

〖小半蔀〗1076 コハジトミ 小さい半蔀。〔枕草子、一〕唐衣ども、云云、こはじとみの御簾より押し出したる。

【小范】1077 セウハン ❶宋の范仲淹(9－30834··239)をいふ。范雍(9－30834··123)を大范といふ對。〔宋名臣言行錄、范仲淹〕小范老子、胸中自有二數萬甲兵一、不レ比二大范老子可一レ欺也。❷宋の范祖禹(9－30834··223)をいふ。〔蘇軾、次三韻范淳父送二秦少章一詩〕小范眞可人、獨肯勤二收羅一。❸字號。㋑明、安希范(3－7072··528)の字。㋺明、蔣勸善(9－31820··137)の字。

〖小范老子〗1078 セウハンラウシ 宋の范仲淹(9－30834··239)をいふ。老子は、西方の俗語で、父の意。小范の❶を見よ。〔老學庵筆記、一〕予在二南鄭一、見三西郵俚俗、謂レ父曰二老子一、雖二年十七八一、有レ子亦稱二老子一、乃悟西人所謂大范老子・小范老子、蓋尊レ之以爲レ父也、建炎初、宗汝霖留二守東京一、羣盜降附者百餘萬、皆謂二汝霖一曰二宗爺一、蓋此比也。

【小班】1079 hsiao^3 pan^1 藝者屋。〔桃花扇、媚座〕舍下小班、日日得閒。

【小販】1080 hsiao^3 fan^4 小商人。ぼてふり。

【小飯】1081 セウハン ❶少しづつ食ふ。〔禮記、少儀〕小飯而亟レ之。〔疏〕小飯、謂二小レ口而飯一。❷ささやかな食膳。〔史記、淮陰侯傳、令二其裨將傳レ餐、注〕索隱曰、如淳曰、小飯曰レ飡。

〖小飯大歠〗1082 セウハンタイセツ 少しく飯を食つて大いに酒を飲むこと。歠は、すする、飲む。〔枚乘、七發〕小飯大歠、如二湯沃レ雪。〔注〕良曰、歠、飲也、如二湯沃レ雪、言二食レ之易一也。

【小樊】1083 セウハン 唐の妓、樊素(6－15414··48)をいふ。〔劉禹錫、寄二贈小樊一詩〕花面丫頭十三四、春來綽約向レ人時。

【小弁】1084 セウバン 詩經、小雅、節南山之什の篇名。周の幽王は、申后を娶つて太子宜咎を生んだが、又、褒姒を娶つて子伯服を生むや、申后をしりぞけて宜咎を廢した。そこで宜咎の傅が此の詩を作り、其の非怨の情を敍して幽王を刺つた。〔詩、小雅、小弁序〕小弁、刺二幽王一也、太子之傅作焉。〔釋文〕小弁、步千反、樂也。〔孟子、告子下〕小弁、小人之詩也。

【小判】1085 コバン 昔の金貨。楕圓形で、一枚一兩に通用する。大判(3－5831··1945)の對。〔心中萬年草、中〕紅の花のような小判。

【小番】1086 コバン 室町時代、近習の稱。小番衆を見よ。

〖小番衆〗1087 コバンシユウ 武家の近侍。〔建內記〕嘉吉元年十月二十五日、參二室町殿一、云云、次武家小番衆、依レ爲二內人一御對面。

【小盤】1088 セウバン 小さな盤。〔杜甫、歸來詩〕洗レ杓開二新醞一、低レ頭拭二小盤一。

【小蠻】1089 セウバン 唐の妓の名。白居易の妾となる。〔本事詩、事感第二〕白尙書姬人樊素善歌、妓人小蠻善舞、嘗爲レ詩曰、櫻桃樊素口、楊柳小蠻腰。〔白居易、晚春酒醒尋二夢得一詩〕還攜二小蠻一去、試覓二老劉一看。〔野客叢書、樂天姬侍〕隨筆云、世言、樂天侍兒、惟小蠻・樊素二人、予讀二集中一云、則知樂天姬侍、又有二本集所レ不レ言者一。

【小毖】1090 セウヒ 詩經、周頌、閔予小子之什の篇名。成王が臣の助けを求めた詩。〔詩、周頌、小毖序〕小毖、嗣王求レ助也。〔鄭注〕毖、愼也、天下之事、當レ愼二其小一、小時而不レ愼、後爲レ禍大、故成王求下忠臣早輔二助己一爲レ政以救中患難上。

【小婢】1091 セウヒ 小さいはしため。年若い下女。こをんな。〔白居易、自在詩〕小奴搥二我足一、小婢搔二我背一。

【小扉】1092 セウヒ 小さなとびら。〔馬祖常、寄二舒眞人一詩〕竹裏開二長逕一、池邊蔽二小扉一。

【小費】1093 セウヒ ❶僅かの費用。❷hsiao^3 fei^4 手數料。チツプ。

【小眉】1094 セウビ 淸、吳應棻(2－3365··455)の字。

【小微】1095 セウビ ❶小さい。弱小。〔史記、陳杞世家〕杞小微、其事不レ足二稱述一。❷川蟬の古語。〔物類稱呼、二〕魚狗、かはせみ、一名、小微。

〖小微雲君〗1096 セウビウンクン 淸、秦光第(8－24995··212)の號。

【小謬】1097 セウビウ 小さなあやまり。〔魏書、律曆志下〕大歸略二其中閒小謬一、如レ此曆便可レ行。

【小馮】1098 セウヒヨウ 漢、馮立(12－44579··151)の綽名。兄の野王を大馮君といふの對。〔漢書、馮立傳〕吏民嘉三美野王立相代爲二太守一、歌レ之曰、大馮君小馮君、兄弟繼レ踵相因循、聰明賢知惠二吏民一、政如二魯衞一德化鈞、周公康叔猶二二君一。

【小品】1099 セウヒン ❶小さい製作品。短い文章。短篇。小品文を見よ。❷佛セウボン 羅什が譯した摩訶般若波羅蜜經の異名。大品の對。大品經(3－5831··2545)を見よ。〔釋氏辨空經〕詳者爲二大品一、略者爲二小品一。〔世說新語、文學〕有二北來道人一、與二林公一相二遇于瓦官寺一、講二小品一。

〖小品文〗1100 セウヒンブン ちよつとした物事を書いた短い文章。短文。

【小濱】1101 コバマ 琉球の地名。

〖小濱菊〗110 コハマギク 草の名。きく科の宿根草で、海濱に自生し、秋の末、白色の花を開く。

【小旻】1103 セウビン 詩經、小雅、節南山之什の篇名。大夫が幽王をそしつた詩。〔詩、小雅、小旻序〕小旻、大夫刺二幽王一也。

【小夫】1104 セウフ つまらない人間。小人。大丈夫(3－5831··2507)の對。〔莊子、列禦寇〕小夫之知、不レ離二苞苴竿牘一。

〖小夫人〗1105 セウフジン めかけ。妾。大夫人の對。〔釋法顯、佛國紀〕恆水上流有二一國王一、王小夫人生二一肉胎一、大夫人妒レ之。〔水滸傳、一百三回〕他是張管營小夫人的同胞兄弟。

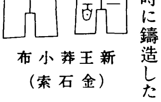
〖小夫愞臣〗1106 セウフダシン 才能が淺くて怯懦な者をいふ。〔漢書、息夫躬傳〕小夫愞臣之徒、憒眊不レ知レ所レ爲。

〖小夫婦人〗1107 セウフフジン 小人と婦人。無智で賤しい者の喩。〔曾鞏、撫州顏魯公祠堂記〕至レ今、雖二小夫婦人一、皆知二公之爲レ烈也。

【小父】1108 ヲジ ❶父母の兄弟。伯父・叔父の稱。又、俗に自分の父に當る位の年輩の他人をもいふ。〔倭名類聚抄、人倫部、父母類、伯父、箋注〕按、乎遲、小父之義。❷おきな。ぢぢ。老翁。

【小付】1109 コヅケ 荷物の上に更に添へる荷物。〔後撰和歌集、賀〕重荷には、いとどこづけをこりも添へなん。

【小布】1110 セウフ 貨幣の名。新の王莽の時に鑄造したもの。小形の布幣。〔漢書、食貨志下〕小布、長寸五分、重十五銖、文曰二小布一百一、云云、是爲二布貨十品一。〔注〕師古曰、布、亦錢



新王莽小布
（金石索）

耳、謂㆓之布㆒者、言㆓其分布流行㆒也。

【小布施】1111 ヲフセ 姓氏。〔姓名錄抄〕。

【小巫】1112 セウフ 未熟な巫。轉じて、未熟な者にいふ。大巫の對。小巫見㆓大巫㆒を見よ。

〖小巫見㆓大巫㆒〗1113 セウフタイフヲミル 未熟な巫が老熟な巫を見れば茅を拔いて去る。學問技藝の未熟な者が秀でた者に出會つて氣力を全く失ふこと。〔通俗編、藝術、小巫見㆓大巫㆒〕莊子逸篇、小巫見㆓大巫㆒、拔㆑茅而棄、此其所㆓以終身弗㆒㆑如。〔吳志、張紘傳、注〕吳書曰、紘見㆓柟榴枕㆒、愛㆓其文㆒爲作㆑賦、陳琳在㆑北見㆑之、以示㆑人曰、此吾鄉里張子綱所㆑作也、後、紘見㆔陳琳作㆓武庫賦・應機論㆒、與㆓琳書㆒深歎㆓美之㆒、琳答曰、自㆔僕在㆓河北㆒、與㆓天下㆒隔、此閒率少㆓於文章㆒、易㆑爲㆓雄伯㆒、故使㆔僕受㆓此過差之譚㆒、非㆓其實㆒也、今景興在㆑此、足下與㆓子布㆒在㆑彼、所謂小巫見㆓大巫㆒、神氣盡矣。

【小斧】1114 セウフ 小さいをの。

〖小斧劈〗1115 セウフヘキ 畫家の皴法の一つ。宋の劉松年・李唐から始まる。唐寅・周東邨・沈石田等皆之を用ひた。〔珊瑚網畫繼、皴石法〕小斧劈皴、李將軍・劉松年。〔齋藤正謙、下㆓岐蘇川㆒記〕皴率作㆓大小斧劈㆒、閒有㆘作㆓荷葉披麻㆒者㆖。

【小阜】1116 セウフ 小さいをか。〔安井息軒、讀書餘適〕後庭平地上、小阜隆㆓起於東西㆒。

【小婦】1117 セウフ ㊀めかけ。妾。大婦(**3－5831**‥2019)の對。〔漢書、元后傳〕王鳳知㆓其小婦弟張美人已嘗適㆑人、託以爲㆓宜子㆒、内㆓之後宮㆒。〔注〕師古曰、小婦、妾也。〔梁簡文帝、從軍行〕小婦趙人能鼓㆑瑟、侍婢初笄解㆓鄭聲㆒。㊁わかい女子。年若の婦人。少婦。〔王昌齡、青樓曲〕樓頭小婦鳴㆑箏坐、遙見飛塵入㆓建章㆒。

〖小婦人〗1118 hsiao^3 fu^4 jen^2 婦人が他に對する自謙の稱。

【小傅】1119 セウフ 帝者の師。小師・小保と共に三公（太師・太傅・太保）に次ぐ官。少傅とも書く。〔許穆、子思子〕秦幷㆓六國㆒、召拜㆓小傅㆒。

【小敷】1120 セウフ 清、沈豫(**6－17189**‥380)の字。

【小舞】1121 セウブ 幼少の時にならふ初等の舞。帗舞・羽舞・皇舞・旄舞・干舞・人舞の類をいふ。〔周禮、春官、樂師〕掌㆓國學之政㆒、以教㆓國子小舞㆒、凡舞、有㆓帗舞㆒、有㆓羽舞㆒、有㆓皇舞㆒、有㆓旄舞㆒、有㆓干舞㆒、有㆓人舞㆒。

【小蔀】1122 コジトミ ㊀小さな蔀(**9－31748**)のある窓。㊁清涼殿の殿上の間と晝御座（ヒルノゴザ）との間にあつて、主上が殿上の間の樣子を御覽ぜられる爲に作つてある小蔀のある窓。〔大鏡、上、左大臣時平〕帝、小蔀より御覽じて。

【小封】1123 セウフウ 小さいつつみ。〔六部成語、戶部、小封、注解〕民人交㆓納正項錢㆒之外、仍有㆓應㆑交火耗雜項㆒、另作㆓小封㆒以交納、小封之外、隨有㆓小包數分㆒、以充㆓使費㆒、曰㆓隨包㆒。

【小風】1124 セウフウ そよかぜ。微風。〔蘇軾、淮上早發詩〕澹月傾㆑雲曉角哀、小風吹㆑水碧鱗開。

【小服】1125 セウフク 刀劍等にかぶせる一種の鞘。〔周禮、春官、巾車〕小服皆疏。〔注〕服、讀爲㆑箙、小箙、刀劍短兵之衣。

【小腹】1126 セウフク 人體の臍以下をいふ。したばら。少腹(**4－7475**‥263)を見よ。〔釋名、釋形體〕自㆑臍以下曰㆓水腹㆒、又曰㆓少腹㆒、少、小也、比㆓於臍以上㆒爲㆑小也。〔金匱要略、八味丸〕腳氣上入、小腹不仁。〔福惠全書、刑名部、人命中、自盡〕腹臍・小腹・玉莖。

【小物】1127 セウブツ ㊀つまらぬもの。些細な品物。大物(**3－5831**‥2060)の㊀の對。〔資治通鑑、周紀二〕夫繁纓小物也、而孔子惜㆑之。㊁小さな事。些細な事柄。大事(**3－5831**‥977)の㊀の對。〔書、畢命〕惟公懋㆑德、克勤㆓小物㆒。〔國語、晉語七〕柔㆓惠小物㆒而鎭㆓定大事㆒。〔國語、晉語九〕夫君子能勤㆓小物㆒。〔墨子、魯問〕世俗之君子、皆知㆓小物㆒而不㆑知㆓大物㆒。〔呂覽、愼小〕恣則輕㆓小物㆒。〔注〕小物、凡小事也。㊂コモノ 小さい物。こまごました物。〔源平盛衰記、四十二、與一射㆑扇事〕斯樣の小物。

〖小物成〗1128 コモノナリ 田畑以外の產物、及び工產物などに課する稅。雜租入。〔增補家忠日記〕五萬石は、小物成共に、云云。

【小忿】1129 セウフン 少しのいかり。わづかのいきどほり。〔左氏、僖、廿四〕兄弟雖㆑有㆓小忿㆒、不㆑廢㆓懿親㆒。〔國語、周語中〕今以㆓小忿㆒棄㆑之。

〖小忿蒙㆓舊德㆒〗1130 セウフンキウトクヲオホフ 曾て施した恩德も少しの怒で打ち消される。蒙は覆。〔左氏、定、六〕今將㆘以㆓小忿㆒蒙㆗舊德㆖、無㆓乃不可㆒乎。〔注〕蒙、覆也。

【小粉】1131 hsiao^2 fen^3 澱粉をいふ。

【小分】1132 セウフン 小さくわかれる。又、小さくわける。

〖小分龍〗1133 セウフンリヨウ 四月二十日をいふ。分龍(**2－1853**‥408)を見よ。〔占候書〕兩浙以㆓四月二十㆒爲㆓小分龍㆒、五月二十爲㆓大分龍㆒、池俗以㆓五月二十九㆒爲㆓分龍㆒、閩俗以㆓夏至後㆒爲㆓分龍㆒。〔燕京歲時記、分龍兵〕按、宋陸佃埤雅云、云云、宋謂㆓四月二十日㆒爲㆓小分龍㆒、五月二十日爲㆓大分龍㆒。

【小文】1134 セウブン ㊀短い文章。〔曹植、與㆓楊德祖㆒書〕昔丁敬禮、常作㆓小文㆒、使㆔僕潤㆓飾之㆒、僕自以㆓才不㆑過㆓若人㆒、辭不㆑爲也。〔南史、西昌侯藻傳〕西昌侯藻、性謙退、不㆑求㆓聞達㆒、尤好㆓古體㆒、善屬㆑文、自㆑非㆓公宴㆒、未㆓嘗妄有㆑所㆑爲、縱有㆓小文成㆒、輒棄㆑本。㊁細かい法令。〔漢書、蕭育傳〕拜㆑育爲㆓南郡太守㆒、上曰、太守之官、其於㆑爲㆑民、除㆑害安㆓元元㆒而已、亡㆑拘㆓於小文㆒。

〖小文次〗1135 コモンシ 姓氏。〔姓名錄抄〕。

【小平】1136 セウヘイ 宋代の貨幣の名。折二錢(**5－11890**‥237)に對して、一個一文の錢をいふ。〔宋史、食貨志下二〕錢有㆓銅鐵二等㆒、而折二折三當五折十、則隨㆑時立㆑制、行㆑之久者、唯小平錢。

〖小平津〗1137 セウヘイシン 今の河南省孟津縣の北。漢の靈帝は黃巾の賊に備へる爲に八關都尉を置いたが、其の八關の一つ。〔後漢書、靈帝紀、中平元年〕置㆓八關都尉官㆒。〔注〕八關、謂㆓函谷・廣城・伊闕・大谷・轘轅・旋門・小平津・孟津㆒也。〔讀史方輿紀要、河南、孟津縣〕小平城、在㆓今縣西北㆒、舊志云、漢平陰縣城北有㆓河津㆒、曰㆓小平津㆒、津上有㆑城、靈帝時河南八關之一也。

【小兵】1138 セウヘイ ㊀小さい兵事。又、小人數の兵士。〔禮、月令〕（孟冬之月）行㆓秋令㆒、則雪霜不㆑時、小兵時起、土地侵削。㊁コヒヤウ ㋑弓勢の弱いこと。精兵(**8－26997**‥235)の對。〔平家物語、十一、那須與一〕小兵といふ條、十二束三つ伏せ。㋺身體の小さいこと。大兵(**3－5831**‥2069)の對。〔柳樽、二十四〕小兵でも坂東一の菩薩なり。

【小柄】1139 コヅカ ㊀脇差のさやに添へた小刀。〔男色大鑑、七〕當座に小柄を貰ふもあり。㊁コガラ ㋑體格の小さいこと。こづくり。㋺模樣、しまなどの小さいこと。

【小屏】1140 hsiao^3 pʻing^2 小屏風。小さな衝立。

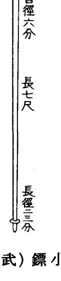
〖小屏風〗1141 コビヤウブ 小形の屏風。〔續千載和歌集、折句〕こ屏風・硯箱。

【小聘】1142 セウヘイ 諸侯が每年大夫を遣して天子又は諸侯を聘問させること。大聘(**3－5831**‥2077)の對。〔儀禮、聘禮〕小聘曰㆑問。〔禮、王制〕諸侯之於㆓天子㆒也、比年一小聘、三年一大聘、五年一朝。〔注〕小聘、使㆓大夫㆒、大聘、使㆑卿。

【小米】1143 セウベイ ㊀小さな米。米粒の小さなこと。〔呂覽、審時〕後㆑時者、小莖而麻長、短穗而厚糠、小米鉗而不㆑香。㊁俗に、粟をいふ。〔王逢、浦東女詩〕鵓鳩呼㆑雨棟花紫、大麥飲㆑香勝㆓小米㆒。㊂宋の米友仁(**8－26832**‥102)をいふ。父の米芾を大米といふ對。〔宋史、米芾傳〕子友仁、字元暉、力㆑學嗜㆑古、亦善㆓書畫㆒、世號㆓小米㆒。〔虞集、題㆓長江萬鴉圖㆒詩〕郭熙平遠無㆓散地㆒、小米蒼茫託㆓天趣㆒。㊃清の米漢雯(**8－26832**‥106)をいふ。㊄清、汪遠孫(**6－17154**‥173)の號。㊅コゴメ 米を搗きしらげる時に、くだけたもの。粉米。

【小票】1144 hsiao^3 pʻiao^4 北京の錢莊等で發行する手形引換に支拂ふ約束手形。その金額は小額である。

【小鏢】1144′ セウヘウ 矛の頭に似た一種の武器。旅行者などが護身の爲に携帶し、遠くから投げて人を擊つに用ひる。小標。小鑣。



小鏢（武備志）

【小廟】1145 セウベウ 太祖の太夫人の廟。太廟(**3－5834**‥2086)の對。〔隋書、禮儀志二〕小廟、太祖太夫人廟也、非㆑嫡、故別立㆑廟、皇帝每㆑祭㆓太廟㆒、訖乃詣㆓小廟㆒、亦以㆓一太牢㆒、如㆓太廟禮㆒。

【小辟】1146 セウヘキ 死刑外の刑。大辟(**3－5831**‥2089)の對。〔周禮、秋官、掌囚〕及㆓刑殺㆒、告㆓刑于王㆒。〔注〕其死罪、則曰㆔某之罪在㆓大辟㆒、其刑罪、則曰㆔某之罪在㆓小辟㆒。

【小別】1147（セウベツ） ❶山名。湖北省漢川縣の東南の漢江の濱。甑山ともいふ。東晉の初、王廙が荊州の刺となつて杜曾等に拒がれた時、退いて甑山を保つた。〔左氏、定、四〕乃濟漢而陳、自小別至於大別。〔讀史方輿紀要、湖廣、漢陽府、漢川縣〕縣南十里、山形如甑、亦名甑山、云云、東晉初、王廙刺荊州、爲杜曾等所拒、退保甑山。❷（コワケ） 小さく別けること。

【小偏】1148（セウヘン） ❶兵車九乘をいふ。〔左氏、成、七、舍偏兩之一焉、注〕司馬法、百人爲卒、二十五人爲兩、車九乘爲小偏、十五乘爲大偏。❷hsiao³ p'ien¹ 妻をいふ。

【小篇】1149（セウヘン） 短い文章。短篇。〔梅堯臣、答裴送序意詩〕我於詩言豈徒爾、因事激風成小篇。

【小騙】1150（セウヘン） かたり。〔稱謂錄、拐騙、小騙〕琵琶記載有此齣。

【小變】1151（セウヘン） 小さい變化。大變(**3－5831**・・2102)の對。〔漢書、天文志〕夫天運三十歲一小變、百年中變、五百年大變、三大變一紀、三紀而大備、此其大數也。

【小便】1152（セウベン） ゆばり。尿。小水。小溲。大便(**3－5831**・・2105)の對。〔左氏、襄、十五、師慧過宋朝將私焉、注〕私、小便。〔左氏、定、三、夷射姑旋焉、注〕旋、小便。〔漢書、張安世傳〕郎有醉小便殿上。〔後漢書、甘始傳〕或飲小便。

〖小便閉〗1153（セウベンヘイ） 小便つまり。〔素問、標本病論〕脾病、身痛體重、一日而脹、二日、少腹腰脊痛、脛痠、三日、背脰筋痛、小便閉、十日不已死。

【小俛】1154（セウベン） 少しく首を下げる。〔禮、曲禮上、國君撫式、注〕撫、猶據也、據式、小俛崇敬也。

【小辨】1155（セウベン） ❶つまらぬ分別。又、小辯(1158)に通ず。小辯害義(1159)をも見よ。〔說苑、談叢〕小快害義、小慧害道、小辨害治、苟心傷德。❷大戴禮の篇名。

〖小辨齋偶存〗1156（セウベンサイグウソン） 書名。八卷。明、顧允成撰。多く書簡を載す。〔四庫提要、集、別集類〕。

【小辮】1157 hsiao³ p'ien⁴ 小さな辮髮。〔紅樓夢、三回〕都結成小辮、紅絲結束。

【小辯】1158（セウベン） ❶くだらぬ辯說。〔荀子、非相〕小辯不如見端。〔淮南子、泰族訓〕孔子曰、小辯破言、小利破義。〔左思、魏都賦〕安得齊給守其小辯也哉。❷つまらぬ分別。小辯害義を見よ。

〖小辯害義〗1159（セウベンギヲガイス） くだらぬ辯說は義理を害する。小辯は又、小辨(1155)に通ず。〔漢書、東平思王宇傳〕小辯破義、小道不通。〔孔子家語、好生〕小辯害義、小言破道。

【小甫】1160（セウホ） 清、兪廷瑛(**1－1437**・・123)の字。

【小圃】1161（セウホ） 小さいはたけ。小園。〔蘇軾、送千乘千能兩姪還鄉詩〕清江入城郭、小圃生微瀾。〔蘇軾、種德亭詩〕小圃傍城郭、閉門芝朮香。〔李文淵、賦得四月清和雨乍晴詩〕小圃香銷雨乍停、陰陰新綠遍郊坰。

【小畝】1162 hsiao² mu³ 滿洲一帶に行はれる面積の單位。小畝は二百四十弓。之に對して中畝は二百八十八弓、大畝は三百五十弓。

【小補】1163（セウホ） すこしのおぎなひ。小利益。〔孟子、盡心上〕豈曰小補之哉。〔曹植、上疏陳審擧之義〕雖無大益、冀有小補。

【小母】1164（ヲバ） 父母の姊妹。伯母・叔母の稱。又、俗に己の母の年輩に當る女をもいふ。〔字鏡〕姨母、乎婆。

〖小母婿〗1165（ヲバムコ） ❶父方のをばの夫。姑夫。❷母方のをばの夫。姨夫。

【小簿】1166 hsiao³ pu⁴ 手帳。

〖小簿子〗1167 hsiao³ pu⁴ tzŭ 手帳。

【小鳳】1168（セウホウ） 唐代には中書舍人をいふ。中書省に鳳池があるからいふ。宋代には其の稱を襲いで紫薇舍人をいふ。〔祥異記〕李揆未相之前、忽見一大蝦蟇、占之曰、蝦蟇天使、吉兆也、未幾、果拜小鳳。〔枕譚、小鳳小儀〕唐人以中書舍人爲小鳳、蓋以中書省爲有鳳池也、云云、見鄭谷集、宋人猶襲之、張天覺自小鳳拜右揆、是也。

〖小鳳凰〗1169（セウホウワウ） 羅浮仙蝶の異名。廣東羅浮山に產する美麗な蝶。羅浮仙蝶(**9－28397**・・235)を見よ。

【小篷】1170（セウホウ） 小舟のとま。〔楊萬里、詩〕苦雨丁杙小篷。

【小木】1171（セウボク） 小さい木。〔莊子、秋水〕吾在於天地之間、猶小石小木之在大山也。

〖小木子〗1172（セウボクシ） 清、朱休度(**6－14424**・・714)の號。

〖小木匠〗1173 hsiao³ mu⁴ chiang 指物師。

〖小木奴〗1174（セウボクド） 橘(**6－15551**)の異名。〔元稹、酬樂天東南行詩〕綠綴新菱實、金丸小木奴。

【小僕】1175（セウボク） 年少のしもべ。〔王禹偁、青猿詩〕小僕如猿狖、貧家備指呼。

【小本】1176（セウホン） ❶小さい書物。小形の本。〔朱熹、昌黎先生集序、注〕苟是矣、則雖民間近出小本、不敢違。❷わづかな資本。小資。〔福惠全書、雜課部、門攤稅〕然此皆窮民小本、藉此爲糊口計。

〖小本生意〗1177（セウホンセイイ） 僅かなもとでのなりはひ。〔福惠全書、蒞任部、定買辦〕小本生意皆係窮民。

【小磨】1178（セウマ） 小さな石うす。〔五代史、李茂貞傳〕宮中設小磨、遣宮人自屑豆麥以供御。

【小妹】1179（セウマイ） 小さい妹。又、自分の妹をいふ。〔南史、劉孝綽傳〕攜小妹於華省、棄老母於下宅。

〖小妹妹〗1180 hsiao³ mei⁴ mei 幼妹。私の妹。〔王維、偶然作詩〕小妹日成長、兄弟未有娶。

【小毛】1181 hsiao³ mao² 小銀貨。

〖小毛公〗11 2（セウマウコウ） 漢の毛萇をいふ。大毛公(**3－5831**・・2166)に對していふ。

〖小毛賊〗1183 hsiao³ mao² tsei² 小盜人。小賊。

〖小毛雞兒〗1184 hsiao³ mao² chi¹ êrh 雞の雛。

【小孟】1185（セウマウ） 清、于鈺(**1－252**・・28)の號。

【小末】1186（セウマツ） 中國の芝居に於ける端役の一つ。〔焦循、劇說〕有正末、又有沖末・副末・小末、貨郎兒沖末扮李彥、小末扮李春郎、是也、小末亦稱小末尼、東堂老末同小末尼上、是也。

〖小末因由兒〗1187 hsiao³ mo⁴ yin¹ yu² êrh 小さいこと。末節。

【小滿】1188（セウマン） ❶節候の名。二十四氣の一つ。陰曆四月の中。陽曆五月二十一日・二十二日頃。〔逸周書、時訓解〕小滿之日、苦菜秀。〔太平御覽、時序部、立夏〕孝經緯曰、立夏後十五日、斗指巳、爲小滿。〔嬾眞子、十二〕小滿、四月中、謂麥之氣至此方小滿而未熟也。〔三統曆〕小滿者、言物長於此、小得盈滿。❷宋末、一官の任期の名。三年。宋の文帝の元嘉の時、一官の滿期を六年としたが、久しきに過ぎるので改めて三年とし、それを小滿と稱した。〔文獻通考、選擧考、考課〕宋、文帝、元嘉時、守宰以六期爲斷、及宋末、以治民之官六年過久、乃以三年爲斷、謂之小滿。

〖小滿動三車〗1189（セウマンサンシヤヲウゴカス） 小滿の日に三車（絲車・油車・田車）を動かせば、其の年は良いといふ。蘇州地方の諺。〔浙江志書、嘉興縣〕小滿動油車・絲車・水車、謂之動三車。

〖小滿不滿芒種不管〗1190（セウマンミタザレババウシユクワンセズ） 小滿節が十分でなければ、芒種節には構はない。湖北農家の俚諺。〔直隸志書、饒陽縣〕諺曰、小滿不滿、芒種莫管、東風主、五日內有雨、南風主、有火災、西風主、五穀不滋、北風主、有盜賊。

【小民】1191（セウミン） しもじも。賤しい人民。下民。〔書、召誥〕其丕能誠于小民。〔書、君牙〕小民惟曰怨咨。〔左氏、桓、十三〕君撫小民以信。〔孟子、滕文公上〕人倫明於上、小民親於下。〔韓非子、亡徵〕羣臣爲學、門子好辯、商賈外積、小民右仗者、可亡也。〔後漢書、和帝紀〕咎罰既至、復令災及小民。

【小名】1192（セウメイ） ❶つまらぬ名。つまらぬ名譽。〔盧綸、宴席賦得姚美人拍箏歌〕遙知禁曲難翻處、猶是君王說小名。❷幼時の呼稱。生後一箇月後に父母の命名するもの。幼名。小字(549)の❶に同じ。〔琅琊代醉編、小名小字〕古人有小名、必有小字、離騷、名予曰正則兮、字予曰靈均、蓋屈子、名原、字平、而正則・靈均、則小名・小字也。〔宣和遺事、前集下〕東京角妓、姓李、小名師師。❸㋑（セウミヤウ） 領地の小さい諸侯。小諸侯。大名(**3－5831**・・2177)の❽の㋩の對。〔元和令、武家諸法度〕國國大名小名幷諸給人。㋺（コナ） 町村などのあざな。小字。〔地方凡例錄、二〕。

〖小名辭〗1193（セウメイジ） 論理學用語。小概念を言語に表はしたもの。小辭。

〖小名錄〗1194（セウメイロク） 書名。二卷。唐、陸龜蒙撰。

郡齋讀書志には三卷に作る。秦から南北朝に至るまでの古人の小名を錄す。〔四庫提要、子、類書類〕。

【小命】1195（セウメイ） ㊀小事の命令。〔周禮、夏官、小臣〕小臣、掌王之小命。〔注〕小命、時事所敕問也。㊁若くて死ぬこと。夭壽。〔莊子、列禦寇〕達小命者遭。〔疏〕小命、小年也。㊂小さい天命。〔逸周書、命訓解〕大命世罰、小命罰身。〔注〕遺大命則世受罰、犯小命則罰身。

【小明】1196（セウメイ） 詩經、小雅、谷風之什の篇名。大夫が亂世に仕へたのを悔いた詩。〔詩、小雅、小明序〕小明、大夫悔仕於亂世也。〔後漢書、楊震傳〕朝無小明之悔。

〖小明武解〗1197（セウメイブカイ） 逸周書の篇名。

【小面】1198（セウメン） hsiao^3 mien^4 戲劇で丑の別稱。三面ともいひ、又、三花臉・小花臉といふ。臉譜(9－29954‥20)を見よ。

【小汶】1199（セウモン） 川の名。源は山東省新泰縣の東北の龍亭山。西南流して泰安縣の東南から徂來山の南麓を繞り、西流して汶河に合す。所謂、大汶口である。清會典圖に柴汶河といふ。〔讀史方輿紀要、山東、泰安州、新泰縣〕小汶河、縣東北三十里、源出東北四十里之龍池、池在龍亭山下。

【小門】1200（セウモン） 小さい門。こもん。〔爾雅、釋宮〕宮中之門謂之闈。〔注〕謂相通小門也。〔左氏、閔、二〕共仲使卜齮賊公于武闈。〔注〕宮中小門、謂之闈。〔溫庭筠、偶遊詩〕曲巷斜臨一水閒、小門終日不開關。

【小門下】1201（セウモンカ） 門下侍郎(11－41208‥25)をいふ。〔通典、職官典、宰相、侍中〕門下侍郎、秦官有黃門侍郎、漢因之、云云、齊亦管知詔令、呼爲小門下。

〖小門生〗1202（セウモンセイ） 門生の門生。また弟子。〔稱謂錄、小門生、小門生〕七修類藁、以弟子復傳於人、爲門生、是則今之小門生耶。

【小紋】1203（コモン） ㊀小さい紋。㊁織物などに施した極めて小さい模樣。

【小問】1204（セウモン） 管子の篇名。

【小夜】1205（ヨサ） 夜(3－5763)に同じ。〔萬葉集、三〕さよ更けにけり。

〖小夜衣〗1206（サヨゴロモ） 夜着る衾。〔新古今和歌集、釋教〕重きが上のさよごろも。

〖小夜中〗1206′（サヨナカ） よなか。〔萬葉集、九〕さよ中と夜は更けぬらし。

【小野】1207（セウヤ） 明、倪宗正(1－792‥61)の號。

〖小野君山〗1207′（ヲノクンザン） 江戸の人。名は明。字は子彝。通稱は五郎・善菴。號は君山。片山兼山に師事す。書・篆刻に巧。歿年は未詳。著に印典・君山印譜・君山詩稿・古今印典・古印編がある。〔近代著述目錄後篇〕。

〖小野湖山〗1208（ヲノコザン） 近江國の人。本姓は横山。名は卷。又の名は長愿。字は懷之・士達、又、舒公。號は湖山、又、晏齋・玉池仙史・侗翁・狂狂生老夫。通稱は僊助・侗之助。大岡松堂・梁川星巖に師事す。官は吉田藩儒。安政の大獄に、吉田に幽閉せらる。後、明治元年の徵士・權辨事、豐橋藩の權小事參事、兼時習館督學。從五位。明治四十三年四月十九日、歿す。年九十七。著に鴨西寓樓雜詩・鴨西唱和・感舊淚餘・歸展小稿・清人兪陳二家精選・湖山詩・湖山老後詩・湖山樓詩鈔・湖山樓十種（火後憶得詩・湖山近稿・同續集・湖詩消閑集・湖山樓詩稿・湖山樓詩屛風・鄭繪餘意・北遊剩稿・蓮塘唱和・同續集）・湖山樓百律・賜硯樓詩・新撰三體詩がある。

【小爺】1209（セウヤ） 太子をいふ。〔稱謂錄、太子古稱、小爺〕明史、瘋人持梃入東宮、事發、陸夢龍訊之具供、云不知姓名、老公拳我已三年、令我打上宮門、打得小爺、喫有著有、小爺者太子也。

【小羊】1210（セウヤウ） 山名。江蘇省銅山縣の東北、利國驛の傍。鐵を產す。其の鑛質は、鐵分六二・九八、砂分五・六四、硫分〇・一五、燐分〇・〇八。鐵質の佳きこと、利國驛の諸坑中第一。利國驛(2－1932‥57)を見よ。

【小洋】1211 hsiao^3 yang^2 十錢・二十錢の銀貨。

〖小洋銀〗1211′ hsiao^3 yang^2 yin^2 大洋銀一元に對する補助銀貨。五角・二角・一角・半角の四種がある。一角は我が十錢に相當する。

【小恙】1212（セウヤウ） 少しのわづらひ。少しの病氣。微恙。〔剪燈餘話、瓊奴傳〕偶童氏小恙、苕郎入問疾。〔燕子箋、入闈〕老身只有一箇小女、這幾日有些小恙。

【小揚】1213（コアゲ） 船から荷物をあげる。又、其の人夫。〔吏徵、下、御目見以下〕淺草御藏小揚之者。

〖小揚歌〗1214（コアゲウタ） 小揚げの時に、人夫などの謠ふ歌。

〖小揚州〗1215（セウヤウシウ） 揚州の小規模なものといはれる土地。繁華の地の形容。〔廣瀨淡窓、發長崎詩〕鬖鬖橋頭二分月、瓊江也是小揚州。

〖小揚人足〗1216（コアゲニンソク） 雇はれて小揚げを業とするもの。

【小陽】1217（セウヤウ） 小春(663)に同じ。十月十五日の下元節をいふ。小陽春を見よ。

〖小陽春〗1218（セウヤウシュン） 陰曆十月をいふ。小春日。〔初學記〕十月天時暖似春、故曰小春、十月爲陽月、故又名小陽春。〔五雜組、天〕十月多暖、有桃李生華者、俗謂之小陽春。

〖小陽山人〗1219（セウヤウサンジン） 唐、楊炎(6－15112‥27)の號。

〖小陽先生〗1220（セウヤウセンセイ） 宋、陽岊(11－41725‥174)の尊稱。

【小楊】1221（セウヤウ） 樹木の名。柳の一種。〔說文〕柳、小楊也。〔詩、王風、揚之水、不流束蒲、疏〕蒲柳有兩種、皮正青者曰小楊、其一種皮紅者曰大楊、其葉皆長、廣於柳葉、皆可以爲箭幹。

〖小楊枝〗1222（コヤウジ） くろもじの木を二三寸ばかりに細くけづつたやうじ。つまやうじ。

〖小楊山人〗1223（セウヤウサンジン） 唐、楊炎(6－15112‥27)の號。

【小樣】1224（セウヤウ） ㊀おほよその有樣。〔貴耳集〕辛卯歲、北來人數百輩、暫寓于襄陽府光孝寺、有一人題詩于壁曰、縱跡大綱王粲傳、情懷小樣杜陵詩。㊁hsiao^3 yang^4 見本。雛形。

〖小樣雲〗1225（セウヤウウン） 五代唐、愍帝の清泰年間に流行した冠の飾り。〔清異錄、衣服、小樣雲〕士人暑天不欲露髻、則頂矮冠、清泰閒、都下星貨鋪賣一冠子銀、謂之五朵平雲、作三層、安置、計止是梁朝物、匠者遂依倣造小樣雲求售。

〖小樣子〗1226 hsiao^3 yang^4 tzŭ 小さい見本。

〖小樣高三分〗1227 hsiao^3 yang^4 kao^1 san^1 fên^1 實物よりよい品を見本とする習慣。

【小躍】1228（コヲドリ） 喜んで躍り立つこと。

【小愈】1229（セウユ） 病氣の少しく癒ゆること。〔孟子、公孫丑下〕今病小愈、趨造於朝。〔韓詩外傳、八〕官怠於有成、病加於小愈、禍生於懈惰、孝衰於妻子、察此四者、愼終如始。

【小楡】1230（セウユ） 季節の名。〔管子、幼官〕十二小楡、賜予。〔纂詁〕楡、當爲揄、揄、垂也、仲冬日南至、垂於赤道一萬五千里、故取以名節。

【小勇】1231（セウユウ） 一人に敵する力。血氣の勇。匹夫の勇。大勇(3－5831‥2237)の對。〔孟子、梁惠王下〕王請無好小勇、夫撫劍疾視曰、彼惡敢當我哉、此匹夫之勇、敵一人者也、王請大之。〔集注〕小勇、血氣所爲、大勇、義理所發。

【小餘】1232（セウヨ） 曆法上のことば。每年朔法至法の計算の日數に依つて、各六十甲子を用ひて之を除し、其の餘つた日數の中、一日の零分に滿たぬものをいふ。大餘(3－5831‥2248)を見よ。〔史記、歷書〕小餘三百四十八。〔注〕索隱曰、太初歷法、一月之日、二十九日九百四十分日之四百九十九、每兩月合成五十九日、又餘五十八、今十二月合餘六箇五十八、得此三百四十八數、故云小餘、者月也、正義曰、未滿日之分數也、其分每滿九百四十、則成一日、卽歸上成五十日矣、大餘五十四日、每歲除小月六日、則成三百五十四日、除五甲三百日、猶餘五十四日、爲未滿六十日、故稱大餘五十四也、小餘三百四十八者、其大數五十四之外、更餘分三百四十八、故稱小餘三百四十八也、此大小餘、是月朔甲子日朔、以出閏月之數、一歲則有三百五十四日三百四十八分、每六十日之餘、爲未滿六十日、故有大小餘也、是太初元年奇日奇分也。

〖小餘綾〗1233（コヨロギ） ㊀地名。㊁姓氏。〔姓林全書〕。

【小輿】1234（セウヨ） 小さい輿。こごし。小行幸に用ひる。〔唐書、襄邑王神符傳〕令乘小輿入紫微殿上、三衞挾輿以升。〔事物紀原、輿駕羽衞部、小輿〕通典曰、按、小輿今犢車軿車之流、宋制、小輿、形如軺車、小行幸則乘之。

【小用】1235（セウヨウ） ㊀少しのつひえ。わづかの用。小

財用。〔周禮、天官、職幣〕以詔二上之小用賜予一。〔沈約、擧二胡元秀一表〕摧レ鋒犯レ鏑、亦資二小用一。㊁小さく用ひる。つまらぬ使ひ方をする。大用(3−5831‥2251)の對。〔史記、孔子世家〕非三小二用之一、將三大二用之一。〔韓詩外傳、五〕齊之用二管仲一、楚之用二孫叔敖一、可レ爲三小二用之一矣。㊂（コヨウ）こよう。小便。〔膝栗毛、四〕

【小用筒】1236（コヨウヅツ）　德川將軍が參內の時、携へられた筒形の小便器。〔瀨田問答〕御參內の節、云云、小用筒を持つ役目也。

【小用小效】1237（セウヨウスレバセウカウアリ）　小さく用ひればそれに應じて小さい効果がある。用ひ方によつて結果も之に應ずる意。〔川田甕江、報德記序〕小用小効、大用大効。

【小鷹】1238（セウヨウ）　小さいたか。こたか。〔松窗雜記〕上戎服臂二小鷹一。

【小鷹狩】1239（コタカガリ）　秋の鷹狩。〔源氏物語、手習〕八月十日餘りの程に、小鷹狩のついで。

【小慾】1240（セウヨク）　少しの慾。慾が少い。〔沙石集、九上〕小慾の人は貧しといへども富めり。

【小羅】1241（セウラ）　州名。元、置き、尋いで廢す。故治は貴州省貴陽縣城の南。俗に爾溪街といふ。〔讀史方輿紀要、貴州、貴陽軍民府、貴定縣〕小羅廢縣、在二府城南一、元置、尋廢、俗名二爾溪街一。

【小羅浮草堂】1242（セウラフサウダウ）　清、馮敏昌(12−44579‥277)の室名。

【小羅浮山館】1243（セウラフサンクワン）　清、顧壽楨(12−43689‥287)の室名。

【小鑼】1244（セウラ）　樂器の名。沙鑼に同じ。銅で鑄た盤形のもので、中間が凸起し、直徑六、七寸、薄い木板を以て擊つて音をだすもの。沙鑼(6−17212‥233)の㊀を見よ。

【小來】1245（セウライ）　少年をいふ。〔李商隱、鄠杜馬上念二漢書一詩〕小來惟射獵、興罷得二乾坤一。〔事物異名錄、玩戲、少年〕按、小來謂二少年一也。

【小來川】1246（ヲコロカハ）　下野國の地名。

【小牢】1247（セウラウ）　羊と豕との牲（イケニヘ）を備へた馳走。大牢(3−5831‥2272)の對。少牢(4−7475‥291)に同じ。

【小牢子】1247′ hsiao^3 lao^2 tzŭ　押丁。監獄の屬官。

【小郎】1248（セウラウ）　婦が夫の弟をいふ。〔晉書、王澄傳〕昔夫人臨終、以二小郎一屬二新婦一、不下以二新婦一屬中小郎上。〔陔餘叢考、夫弟稱二小郎一〕女呼二夫之弟一曰二小郎一、是六朝人語、晉書、謝道韞爲二小郎一解レ圍、世說、王衍妻使二婢擔レ糞、王澄諫レ之、嫂曰、太夫人臨終、以二小郎一囑二新婦一、不下以二新婦一囑中小郎上、南史孫棘傳、棘與二弟薩一欲二相代死一、棘妻許氏、亦寄二語棘一曰、君當二門戶一、豈可レ委二罪小郎一、且大家臨レ亡、以二小郎一屬レ君、謝述奏二兄純之喪一、還二經西塞一、遇レ風喪レ舫、漂不レ知レ所レ在、述乘二小舟一、尋求、經二純妻庾舫一過、庾遣レ人謂曰、小郎去、必無レ及、寧可二存亡俱盡一耶、述不レ聽。

【小郎君】1249（セウラウクン）　他人の子をいふ。〔稱謂錄、稱二人之子一、小郎君〕碑版廣例、東魏敬史君碑、稱二太守敬忻之子一爲二小郎君一。

【小亂】1250（セウラン）　小さい亂。大亂(3−5831‥2280)の對。〔呂覽、原亂〕亂必有レ第、大亂五、小亂三、訓亂三。

【小亂聲】1251（セウランジヤウ）　笛の曲名の亂聲の一。始めと終りの詞だけを取つて、短く且つ急速に奏する笛の曲。〔樂家錄、二十五〕小亂聲、新樂亂聲、取二始終之詞一而短奏レ之、故有二此名一、則新樂也。

【小吏】1252（セウリ）　小役人。したづかさ。少吏。〔史記、萬石傳〕時奮年十五、爲二小吏一侍二高祖一。〔史記、李斯傳〕年少時爲二郡小吏一。〔漢書、汲黯傳〕公孫弘張湯爲二小吏一。〔後漢書、章帝紀〕小吏豪右。〔魏志、張既傳〕年十六爲二郡小吏一。〔韓愈、上二張僕射一書〕有下小吏持二院中故事節目十餘事一來示上レ愈。

【小利】1253（セウリ）　すこしの利益。大利(3−5831‥2284)の對。〔論語、子路〕子曰、無レ欲レ速、無レ見二小利一、欲レ速則不レ達、見二小利一則大事不レ成。〔管子、法法〕凡赦者、小利而大害者也。〔淮南子、泰族訓〕小利破レ義。〔管子、問〕小利害レ信、小怒傷レ義。

【小利大利殘】1254（セウリハタイリノソコナヒ）　小利をはかるは大利の害となる。殘は、そこなふ意。〔呂覽、權勳〕小利大利之殘也。〔韓非子、十過〕一曰、行二小忠一則大忠之賊、二曰、顧二小利一則大利之殘。〔說苑、敬愼〕小忠、大忠之賊也、小利、大利之殘也、好戰之臣、不レ可レ不レ察也。

【貪二小利一失二大利一】1255（セウリヲムサボリタイリヲウシナフ）　小さい利益を貪つて、却つて大利を失ふ。〔呂覽、權勳〕達子又帥二其餘卒一、以軍二於秦周一、無二以賞一、使三人請二金於齊王一、齊王怒曰、若殘豎子之類、惡能給二若金一、與二燕人一戰、大敗、達子死、齊王走レ莒、燕人逐レ北入レ國、相與爭二金於美唐一、甚多、此貪二於小利一以失二大利一者也。〔新論、貪愛〕昔蜀侯性貪、秦惠王、聞而欲レ伐レ之、兵路不レ通、乃琢レ石爲レ牛、多與二金白一置二牛後一、號二牛糞一レ之、云云、蜀侯使三五丁力士以迎二石牛一、秦人帥レ師隨レ後而至、滅レ國亡レ身、爲二天下所一レ笑、以レ貪二小利一失二其大利一也。

【不下以二小利一加中大罪上】1256（セウリヲモツテタイザイヲクハヘラレズ）　人民は僅かな利益を得るぐらゐの事で大罪を加へられることを欲しない。〔韓非子、六反〕所謂重刑者、姦之所レ利者細、而上之所レ加焉者大也、民不下以二小利一加中大罪上、故姦必止者也。

【見二小利一則大事不レ成】1257（セウリヲミレバスナハチダイジナラズ）　目前の小利を見てそれに迷はされるやうでは、大きな事業を成し遂げることが出來ない。〔論語、子路〕子夏爲二莒父宰一問レ政、子曰、無レ欲レ速、無レ見二小利一、欲レ速則不レ達、見二小利一則大事不レ成。

【不レ去二小利一則大利不レ得】1258（セウリヲサラザレバスナハチタイリハエラレズ）　小利を棄てなければ大利を得がたい。〔呂覽、權勳〕不レ去二小利一則大利不レ得、不レ去二小忠一則大忠不レ至。

【小李】1259（セウリ）　すり。掏摸。小綹。〔水東日記〕京師小李之類、取二人腰藏於稠衆中一如二己物一、小李云者、意其爲二昔時此盜之首一、猶二健訟者所レ云鄧思賢一耳。

【小李將軍】1260（セウリシヤウグン）　㊀唐の李昭道をいふ。繪畫に巧な人。大李小李(3−5831‥2289)を見よ。〔圖繪寶鑑、二、李昭道〕世稱二思訓一爲二大李將軍一、昭道爲二小李將軍一。㊁五代、前蜀の李昇をいふ。〔宣和畫譜、道釋三〕李昇、唐末成都人也、云云、初得二思訓筆法一、云云、蜀人亦呼爲二小李將軍一。

【小里】1261（セウリ）　鎭の名。㊀河北省容城縣の西南。安新縣の界に接し、萍河の濱に當る。四圍皆水で、市街殷盛である。㊁山西省永濟縣の東南。小李にも作る。

【小柳】1262（ヲヤナギ コヤナギ）　姓氏。

【小柳津】1263（コヤイツ）　㊀姓氏。㊁（ヲヤツ）駿河國の地名。

【小柳筒】1263′（ヲヤイヅツ）　姓氏。〔日用重寶記〕。

【小柳舍人】1264（セウリウシヤジン）　唐、柳璟(6−14662‥89)をいふ。大柳舍人(3−5831‥2610)を見よ。

【小流】1265（セウリウ）　小さな川の流。をがは。細流。〔荀子、勸學〕不レ積二小流一、無三以成二江海一。

【小綹】1266（セウリウ）　掏摸。すり。小李。小擄。〔朝市叢載〕街頭雜亂屬二今年一、小綹幾萬千。

【小立】1267（セウリツ）　ちよつと立ち止まる。〔楊萬里、夏夜追レ涼詩〕夜熱依然午熱同、開レ門小立月明中。

【小笠】1268（コガサ）　小さい笠。

【小笠懸】1269（コガサガケ）　鎌倉時代から行はれた射式の一。遠く小笠を懸けて置き、馬を驅つて其の上から之を射るもの。〔東鑑、三〕壽永三年五月十九日、於二杜戶松樹下一有二小笠懸一、是土風也。

【小笠原流】1270（ヲガサハラリウ）　㊀足利義滿の時、小笠原長秀のはじめた禮法の一派。㊁射術及び馬術の一派。源賴朝の臣小笠原長清、騎射に長じ、射法を定め、七世の孫貞宗に至つて大成せられたもの。〔武術流祖傳、射術〕小笠原流、小笠原信濃守源貞宗。㊂兵法の流儀の一。小笠原宮內大輔氏隆の創めたもの。〔同志茶話、六〕。

【小笠山樵】1271（セウリフセンセウ）　中井敬義の號。中井董堂(1−73‥912)を見よ。

【小粒】1275（セウリフ）　㊀粒の小さいもの。こつぶ。㊁（コツブ）二朱又は一朱の貨幣。〔天明集成絲綸錄、四十四〕小判小粒は相貯へ候樣に相成り。

【小亮】1276（セウリヤウ）　わづかの信義。小諒。〔曾鞏、書二魏鄭公傳一〕大公至正之道、非下滅二人言一以掩二己過一、取二小亮一以私中其君上。

【小梁】1277（セウリヤウ）　清、朱鴻(6−14424‥291)の號。

【小梁州】1277′（セウリヤウシウ）　詞調の名。〔升庵集〕梁米出二於蜀漢一、香美逾二於諸梁一、號二竹根黃一、梁州得レ名以レ此、秦地之西、燉煌之閒、亦產二梁米一、土沃類レ蜀、故號二小梁州一、爲二西音一也。〔西廂記、張君瑞鬧二道場一雜劇〕小梁州、可レ喜娘的龐兒淺淡妝。

【小量】1278（セウリヤウ）　㊀わづかなかさ。少量。㊁度量の

小さいこと。

【小椋】1279 ヲグラ　姓氏。〔和爾雅〕。

【小諒】1280 セウリヤウ　小さい信義に拘泥すること。小信。〔後漢書、皇甫嵩傳論〕舍二格天之大業一、蹈二匹夫之小諒一。

【小掠】1281 hsiao^{3} lüeh^{4}　掏摸。小絡(1266)に同じ。

【小龍】1282 セウリユウ　❶小さな龍。〔文獻通考、物異考、龍蛇之異〕大中祥符六年、云云、上清宮先天節道場香奩中、獲二小龍一、背有二金衫三道一、尾有レ翠、丈寸餘。❷龍圖閣待制をいふ。〔稱謂錄、内閣各官古稱、小龍〕方勺泊宅編、舊制、直龍圖閣、謂二之假龍一、龍圖閣待制、謂二之小龍一、龍圖閣直學士、謂二之大龍一、龍圖閣學士、謂二之老龍一。

〖小龍牙〗1283 セウリユウガ　草名。おほへびいちご。蛇含(**10―32964**・・17)の異名。〔本草、蛇含〕釋名、蛇銜、威蛇、小龍牙、時珍曰、其葉似二龍牙一而小、背紫色、故俗名二小龍牙一。

〖小龍瞑山人〗1284 セウリユウメイサンジン　清、闕嵐(**11―41456**・・52)の號。

【小呂】1285 セウリヨ　十二律の一。中呂をいふ。〔周禮、春官、大司樂〕乃奏二夷則一、歌二小呂一、舞二大濩一、以享二先妣一。〔注〕小呂、一名中呂。〔通典、樂典、十二律〕中呂、又云二小呂一、四月之時、陽氣盛長、陰助功微、故謂二之小呂一。

〖小呂宋〗1285′ hsiao^{2} lü^{3} sung^{4}　フイリツピン島。

【小凌】1286 セウリヨウ　川の名。遼寧省錦縣の大凌河の西。古の參柳水。源は滿洲熱河省土默特左翼の明安哈喇山。東南流して縣城の西南を經、曲折廻旋するのが錦に類するので錦川ともいふ。〔元史、羅壁傳〕以レ漕レ舟至二遼陽一、浮レ海抵二錦州小凌河一。〔讀史方輿紀要、山東、遼東都指揮使司、廣寧左屯衞〕小凌河、衞東南十五里、出二廢大寧衞界一、云云、或曰、小凌河與二諸水一回合如レ錦也。

【小隴】1287 セウリヨウ　山名。隴山をいふ。甘肅省清水縣に在り。〔讀史方輿紀要、陝西、鞏昌府、秦州、清水縣〕小隴山、在二縣西南三十五里一、有二小隴山口一、爲二縣境之要隘一、俗名二坂坡峽一。〔清一統志〕按、隴山延亙二隴州、鎭原、清水諸州縣一、隨レ地異レ名、然其實一隴山耳、自二後魏一以下、始有二大小之分一。

【小吝】1288 セウリン　少しの悔。〔易、萃〕往无レ咎、小吝。

【小輪】1289 セウリン　❶小さな輪。❷輪仕掛の釣道具。〔皮日休、魯望以二輪鉤一相示緬懷高因作二三篇一詩〕盡日悠然舴艋輕、小輪聲細雨冥冥。❸hsiao^{3} lun^{2} 小輪船の略。小蒸汽。

【小鱗】1290 セウリン　小さい魚。〔元稹、四皓廟詩〕雲卷二左孤岫一、龍潛爲二小鱗一。

【小累】1291 セウルイ　一寸した罪。〔唐書、潘好禮傳〕擢二監察御史一、坐二小累一、下除二芮城令一。

【小令】1292 セウレイ　❶晉の王珉をいふ。王獻之を大令といふの對。〔晉書、王珉傳〕謂二獻之一爲二大令一、珉爲二小令一。❷詞曲家の短調の名稱。宋人の草堂詩餘を、小令・中調・長調の三類に分錄してから例となつた。遂に五十八字以内のものを小令とし、五十九字から九十字に至るものを中調、九十一字以上を長調とした。〔萬樹、詞律發凡〕自三草堂詩餘有二小令、中調、長調之目一、後人因レ之、詞綜所レ云、以二臆見一分レ之、後遂相沿、殊屬二牽率一者也、錢唐毛氏云、五十八字以内爲二小令一、五十九字至二九十字一爲二中調一、九十一字以外爲二長調一、古人定例也、此亦就二草堂詩餘所一レ分而拘二執之一、所謂定例、有二何所一レ據、故本譜但敍二字數一、不レ分二小令、中、長之名一。〔花庵詞客〕僧仲殊、本安州進士、妻以レ藥毒レ之、遂爲レ僧、時食レ蜜以解二其毒一、東坡呼爲二蜜殊一、每於二禁烟時一、置二酒待二賓客一、謂二之看花局一、其塡詞甚多、小令爲レ最、小令中、訴二衷情一爲レ最。〔徐釚、詞苑叢談〕唐人長短句皆小令、一名可三演爲二中調長調一、或系レ之以二犯近慢一、不レ能下以二字數一分上。❸散曲の一種。〔元燕南芝菴論曲〕樂府不レ可レ似二街市小令一。〔周德清、中原音韻〕樂府小令兩途、樂府語可レ入二小令一、小令語不レ可レ入二樂府一。〔王驥德、曲律〕周氏謂二樂府小令兩途一、云云、所謂小令、蓋市井所レ唱小曲也。

【小例】1293 セウレイ　小さく分類した例示。〔書品〕小例而九、引レ類相附、大等而三。

【小禮】1294 セウレイ　❶一寸した禮儀。〔漢書、楚元王傳〕申公白生強起レ之曰、獨不レ念二先王之德一與、今王一旦失二小禮一、何足レ至レ此。❷冠位十二階の第六位。推古天皇の十一年に制定す。

〖小禮拜〗1295 hsiao^{2} li^{3} pai^{4}　水曜日。

〖小禮堂主人〗1296 セウレイダウシユジン　清、鄭珍(**11―39647**・・223)の號。

【小櫪】1297 コトチ　大和國の地名。

【小廉】1298 セウレン　節を忽にせぬ程の廉潔。大廉(**3―5831**・・2365)の對。〔管子、小匡〕小廉而苛忕。〔史記、魯仲連傳〕此二士者、非レ不レ能下成二小廉一而行中小節上也。〔新書、益壤〕故大人者、不レ怵二小廉一、不レ牽二小行一。

〖小廉曲謹〗1299 セウレンキヨクキン　小さなこまかい事について廉潔謹愼をつとめること。徒らに小節に拘泥して之を務めること。〔宋史、王回傳〕不下爲二小廉曲謹一、以求中名譽上。〔愼思錄、一〕雖三平日有二小廉曲謹一、不レ足レ觀而已。

【小憐】1300 セウレン　北齊の妃の名。〔北史、馮淑妃傳〕妃名小憐、大穆后從婢也、穆后愛衰、以二五月五日一進レ之、號曰二續命一。

【小蓮】1301 セウレン　❶小さな蓮。小荷。〔杜牧、朱坡詩〕小蓮娃欲レ語、幽筝稚相攜。❷字號。㋑清、戈宙襄(**5―11530**・・53)の號。㋺清、陳字(**11―41698**・・301)の號。

【小輦】1302 セウレン　小さな手ぐるま。〔漢書、張敞傳〕國輔大臣未レ褒、而昌邑小輦先遷。

【小斂】1303 セウレン　人が死んだ翌日、尸を堂中に移し、衣衾を改め加へること。大斂(**3―5831**・・2371)の對。〔周禮、春官、小宗伯〕大斂小斂。〔儀禮、既夕禮〕小斂辟レ奠不レ出レ室。〔禮、檀弓上〕小二斂於戶内一。〔左氏、隱、元〕公不レ與二小斂一。〔荀子、禮論〕始卒之未二小斂一也、一也。〔史記、禮書〕始絕之未二小斂一也、一也。

【小簾】1304 セウレン　❶小さい簾。〔陸龜蒙、眠詩〕一簟臨レ窗薤葉秋、小簾風蕩半離鉤。❷スヲ すだれをいふ。〔萬葉集、七〕玉垂の小簾のま通り。

【小路】1305 セウロ　小さい路。細みち。こみち。〔李羣玉、南莊春晚詩〕南村小路桃花落、細雨斜風獨自歸。〔雍陶、城西訪二友人別墅一詩〕澧水橋西小路斜、日高猶未レ到二君家一。

〖小路頃〗1306 ヲヂゴロ　但馬國の地名。

【小魯】1307 セウロ　孔子が東山に登つて魯を小とした故事。〔孟子、盡心上〕孟子曰、孔子登二東山一而小レ魯、登二泰山一而小二天下一。

〖小魯庵〗1308 セウロアン　酒泉弘の號。酒泉竹軒(**11―39776**・・190)を見よ。

【小廬】1309 セウロ　❶山名。湖南省益陽縣の南。一名、清修山。上に香爐峯・瀑布泉がある。〔方輿勝覽〕縣有二小廬山一、以レ似二九江廬山一、故名。❷清、錢繹(**11―40563**・・16)の號。

【小櫓】1310 セウロ　車上の蔽ひ。楯の類。〔六韜、虎韜、軍用〕提翼小櫓扶胥一百四十具。

【小驢】1311 セウロ　きねずみ。〔爾雅、釋獸〕鼰鼠、身長須而賊、秦人謂二之小驢一。

【小樓】1312 セウロウ　❶小さいたかどの。小さい樓。〔蜀志、周羣傳〕於二庭中一作二小樓一、家富多レ奴、常令三奴更直二於樓上一。〔王績、晚年敍レ志示二翟處士一詩〕望レ氣登二重閣一、占レ星上二小樓一。❷清、費丹旭(**10―36717**・・100)の號

〖小樓羅〗1313 セウロウラ　宋の張思均をいふ。其の體軀は小さいが極めて精悍で、征討に功があつた。嘗て太祖が之を樓羅と稱してより、人呼んで小樓羅といふ。樓羅は僂儸に同じく、役に立つ人をいふ。〔宋史、張思鈞傳〕思鈞起二行伍一、征討稍有レ功、質狀小而精悍、太宗嘗稱二其樓羅一、自レ是人目爲二小樓羅一焉。

【小祿】1315 セウロク　❶わづかの祿高。大祿(**3―5831**・・2386)の對。〔禮、表記〕故君子不下以二小言一受中大祿上、不下以二大言一受中小祿上。〔沈約、與二徐勉一書〕望レ得二小祿一、傍レ此東歸。❷クウル 琉球の地名。

【小錄】1316 セウロク　❶科擧の題名錄。〔石林燕語〕試院官舊不レ爲二小錄一、崇寧初、霍端友牓安樞密惇知二貢擧一、始創爲レ之、自後遂爲二故事一、小錄具二月日時一者、敍レ齒也。❷一寸した記錄。〔唐書、藝文志〕馬總當年小錄八卷。〔柳貫、跋二胡古愚鑾坡小錄一〕古愚所レ次小錄、殆孫志也。

【小麓】1317 セウロク　明、湯護(**7―17874**・・48)の號。

【小和】1318 セウワ　少しくひびき鳴る。〔莊子、齊物論〕冷風則小和、飄風則大和。

〖小和清水〗1319 コハシミヅ　越前國の地名。

〖小和卓木〗1319′ セウワタクボク　清、霍集占(**12―42321**・・55)の一名。

【小話】1320 セウワ　ちよつとしたはなし。こばなし。

〔程史、鼈渡橋〕雍公受レ卮起立曰、某去則不レ妨、然記二得一小話一。

【小王】1321セウワウ ㊀晉の王獻之をいふ。王羲之を大王といふの對。〔張懷瓘、書估〕逐以二王羲之一爲二標準一、如二大王草書眞字一直一百、五字乃敵二一行一、云云、如二小王書所一レ貴。㊁複姓。〔左氏、定、十四〕小王桃甲入二于朝歌一。〔通志、氏族略〕小王氏、衞大夫小王桃甲之後也。

〖小王子〗1322セウワウシ 韃靼族の酋長。元の子孫。もと可汗と稱したが、汗號を去つて小王子といふ。明の英宗の時、脫不花の子、麻兒可兒より始めて稱す。

〖小王爺〗1322′ hsiao^2 wang^2 yeh 酒(**11−39776**)の異名。

〖小王右軍〗1323セウワウイウグン 明、王逢年(**7−20823**・・2103)をいふ。

【小惑】1324セウワク 少しのまどひ。大惑(**3−5831**・・2412)の對。〔莊子、駢拇〕夫小惑易レ方、大惑易レ性。

【小灣】1325クワン 琉球の地名。

【小扒】1326ヲイリ 尾張國の地名。

【小笹】1327ヲザサ 笹をいふ。小は接頭語。〔千載和歌集、戀四〕わけ來つる小笹が露の繁ければ。

【小俣】1329ヲマタ 姓氏。〔日用重寶記〕。

【小鞋兒】1330 hsiao^3 hsieh^2 êrh 子供の穿く小さい靴。

【小爲替】1332コガハセ 舊制で、二十圓以下の郵便爲替。

【小由基】1333セウイウキ ㊀射術の名人。宋の陳堯咨(陳堯佐の弟)が自ら號した語。古の弓術の名人養由基に比していふ。〔宋名臣言行錄、陳堯佐〕堯咨精二於孤矢一、自號二小由基一。㊁五代吳越、朱行先(**6−14424**・・690)をいふ。

【小遊星】1335セウイウセイ 火星と木星との間にあつて、太陽の周圍をめぐる小星。小惑星。

【小宇宙】1337セウウチウ 人と宇宙との間に全く類似と代表との關係が成立すると考へられた時、宇宙に對して、人を小宇宙といふ。microcosm の譯。

【小么兒】1338 hsiao^3 yao^1 êrh 召使。

【小徭役】1339セウエウエキ 雜小の勞務に使用する夫役。〔唐律、戶婚〕諸應レ受二復除一而不レ給、不レ應レ受而給者、徒二一年、其小徭役者笞五十。

【小鹽竈】1340コシホガマ 草名。ごまのはぐさ科の一年草で、山野に自生し、秋、白色の花を開く。

【小茄子】1341コナスビ いぬほほづきの古名。

【小夏侯】1342セウカコウ 漢の夏侯建をいふ。尙書を修めた人。其の學を小夏侯氏學といふ。夏侯勝を大夏侯といふの對。〔漢書、張山拊傳〕事二小夏侯建一、爲二博士一、論二石渠一、至二少府一。〔後漢書、孫期傳〕勝傳二從兄子建一、建別爲二小夏侯氏學一。

〖小夏侯尙書〗1343セウカコウシヤウショ 小夏侯の尙書の學をいふ。〔後漢書、楊倫傳〕東海王良習二小夏侯尙書一。

【小價錢】1345 hsiao^3 chia^4 ch'ien 安い價。

【小峨眉】1346セウガビ 山名。河南省郟縣の西北。其の形、蜀の峨眉山に類す。宋の蘇軾が汝州に左遷せられた時、葬地と爲さんとしてこの名を表はす。後、軾が常州に卒するや、其の子、卜して此に葬る。〔宋史、蘇過傳〕過葬二軾汝州郟城小峨眉山一。〔明一統志〕蘇軾亦葬レ之。

【小衙內】1347セウガナイ 大官の子をいふ。わかさま。〔水滸傳、五十一回〕只見屛風背後轉出一箇小衙內來、方年四歲、生得端嚴美貌。

【小開解】1348セウカイカイ 逸周書の篇名。

【小開門】1349セウカイモン 婚禮の日、彩輿が嫁の家に着いた時要求する一種の門開け祝儀。南京の風習。〔中華全國風俗志、江蘇〕小開門者、彩輿至二女宅一所レ索開門錢也。

【小孩子】1350 hsiao^3 hai^2 tzŭ 小兒。子供。

【小孩兒】1351セウガイジ 小兒。子供。〔南部新書〕陳嶠數擧不レ第、暮年獲二一第一、鄕里以二儒家女一妻レ之、合巹之夕、自成レ詩云、彭祖尙年八百歲、陳郎猶是小孩兒、客皆爲レ之絕倒。

【小向田】1352ヲイナタ 姓氏。〔姓名錄抄〕。

【小漢子】1354 hsiao^3 han^4 tzŭ 小男。こをとこ。

【小雁蕩】1355セウガンタウ 浙江省の五泄山に在る溪瀑の名。〔方輿勝覽〕五泄山在二諸暨縣西南四十里一、沿歷五級、始下注二溪壑一、故曰二五泄一、飛沫如レ雪、淙激之聲、雄二於雷霆一、俗謂二之小雁蕩一。

【小企業】1356セウキゲウ 企業家自身が勞働を兼ねるか、又は少數の助手を使つてする企業。

【小九九】1357 hsiao^2 chiu^2 chiu^3 ㊀加法の九九。小九數に同じ。㊁冬日の室內に備ふる寒暖日割表。

【小九數】1358 hsiao^2 chiu^3 shu^4 加法の九九。

【小牛螺】1359セウギウラ かたつぶり。ででむし。蝸牛。〔莊子、則陽、有二所謂蝸者一、釋文〕李云、蝸蟲有二兩角一、俗謂二之蝸牛一、三蒼云、小牛螺也、一云、俗名黃犢。

【小競合】1360コゼリアイ 小合戰。小部隊の衝突。小さなもめごと。〔新撰信長記〕小ぜり合ひ雖二打勝一。

【小弓弓】1361セウキユウキユウ 婦人の靴の曲つたさま。〔宣和遺事、前集下〕鳳鞋半折小弓弓、鶯語一聲嬌滴滴。

【小御衣】1362コオンソ 小さい御衣の意。小さい寢卷。〔運步色葉集〕小御衣。

【小御所】1363コゴシヨ ㊀禁中、清涼殿の東北に當る御殿。幕府の使者または所司代などに謁見を賜はつたところ。㊁將軍家の世子の住所。又、其の世子をいふ。大御所(**3−5831**・・465)の對。〔東鑑、九〕文治五年正月九日、若君御方弓始也、射手十人、於二小御所南面一有二此儀一。㊂足利時代、宮中に設け、將軍參內の折、衣を更め休息した所。〔足利治亂記〕參內の時、云云、休息殿あり、是れを禁中の上下、小御所と申しあへり。

【小御門】1364コミカド ㊀小門の敬稱。大御門の對。〔宇治拾遺、三〕小御門より出でん。㊁地名。㋑京都にあり。㋺下總國香取郡にあり。

【小凝菜】1365イギス 海草の名。其の色青く、細い枝あり、亂髮の如し。故に海髮とも書く。〔倭名類聚抄、菜蔬部、藻類〕海髮、崔禹食經云、海髮、伊岐須、揚氏抄云、小凝菜。

【小錦冠】1366セウキンクワン 冠位十三階の第八位。第三十六代、孝德天皇の大化三年に制定。

【小錦枝】1367セウキンシ 草の名。うはばみさう。赤車使者(**10−36993**・・151)の異名。〔本草、赤車使者〕釋名、小錦枝。

【小錦屛】1368セウキンペイ 山名。四川省蒼溪縣の南。閬中縣の錦屛山に似て、諸峯羅列し、大江を俯瞰す。小屛山ともいふ。石崖に唐の杜甫の題する小屛山の三字を刻す。〔讀史方輿紀要、四川、保寧府、蒼溪縣、大獲山〕小錦屛山、在二縣治南一、臨レ江高崎奇秀、與二閬中之錦屛山一相似、因名。

【小具足】1369コグソク ㊀鎧の小手・臑當、及び脇楯の稱。又、これらの武具を著用したこと。〔東鑑、二〕治承四年九月十七日、著二紺村濃直垂一、加二小具足一。㊁柔術の取手、卽ち捕縛術。こしまはり。〔武術流祖錄〕。

【小貨屋】1370 hsiao^3 huo^4 wu^1 山に產する貨物を販賣する店。

【小貨行】1371セウクワカウ 宋代、汴京の街路の名。裝身具などを賣る店がある。〔東京夢華錄、二、酒樓〕楊樓以北、穿馬行街東西兩巷、謂二之大小貨行一、皆工作伎巧所レ居、小貨行通二鷄兒巷妓館一、大貨行通二牋紙店一。

【小貨店】1372 hsiao^3 huo^4 tien^4 荒物屋。

【小夥子】1373 hsiao^2 huo^3 tzŭ 若者。若衆。

【小蝸廬】1374セウクワロ 清、吳其泰(**2−3365**・・488)の室名。

【小挂千】1375セウクワイセン 北平の商店などで、年末に迎歲の爲、黃紙の三寸位、紅紙の一寸位なのに、吉祥の語句を書きつらねて貼り出すもの。〔燕京歲時記、挂千〕挂千者、用二吉祥語一、鐫二於紅紙之上一、長尺有咫、粘二之門前一、與二桃符一相輝映、其上有二八仙人物一者、乃佛前所レ懸也、是物民戶多用レ之、世家大族、鮮二用レ之者一、其黃紙長三寸、紅紙長寸餘者、曰二小挂千一、乃市肆所レ用也。

【小茴香】1376セウクワイカウ ㊀大茴香の小さなもの。茴香(**9−30913**・・1)を見よ。㊁蒔蘿(**9−31546**・・7)の異稱。〔本草、蒔蘿〕釋名、慈謀勒、小茴香。

【小京官】1377セウケイクワン 清代、京師に設けられた七八品の官吏。〔清會典事例・吏部、漢員銓選、漢中書小京官京察記名〕道光元年奏准、京察一等記名外用之漢中書・小京官、各以二應レ升之同知・通判・注冊一、於下俸滿記二名人員一之前上、先行二論俸一升二用一人一。

【小嬌孫】1378セウケウソン 祖父が孫をいふ語。〔白居易、池上早夏詩〕慵閑無二一事一、時弄二小嬌孫一。

【小劇場】1379セウゲキヂヤウ 演劇用語。規模の小さい劇場。簡單な芝居を演ずるに適した劇場。

【小拳子】1380セウケンシ 僧了軌の號。僧雲室を見よ。

【小健山】1381ヲタケヤマ 越前國に在る山。

【小沽河】1383 セウコガ 河の名。源を山東省の馬鞍山に發し、萊陽縣の西南を經て、大沽河に合する。古、尤水・沈水・治水などいふ。

【小衕衕】1384 セウドウドウ 小さいまち。小路。路次。〔還魂記、索元〕大街都無二人應一、小衕衕叫去。

【小忽雷】1385 セウコツライ 清代傳奇の名。孔尙任が立案し、顧彩が塡詞したもの。小忽雷とは、唐代の樂器の名。琵琶に似て二絃あり。唐の文宗の時、梁厚本と鄭注の妹盈盈とが結婚するに至る始末を演じ、中間に白居易の琵琶行を副說したもの。〔戲曲槪論〕。

【小墾田】1386 ヲハリダ ヲハタ 大和國高市郡の古名。又、小治田に作る。

〖小墾田宮〗1387 ヲハリダノミヤ 第三十三代、推古天皇の大和國の宮號。又、小治田宮に作る。

【小崑崙】1388 セウコンロン 山名。西海のほとりに在るといふ。〔博物志、水〕張騫渡レ海至二大秦一、西海之濱、有二小崑崙一、高萬仭、方八百里。〔楊維楨、詩〕見說崑田生二玉子一、海西還有二小崑崙一。

【小崽子】1389 hsiao^{2} tsai^{3} tzŭ 人を罵る語。こん畜生奴。犬ころ野郎。

【小菜場】1390 hsiao^{3} ts'ai^{4} ch'ang^{3} 小賣市場。

【小財主】1391 hsiao^{3} ts'ai^{2} chu 小金持。

【小蒼頭】1392 セウサウトウ めしつかひ。奴。〔剪燈餘話、賈雲華還魂記〕呼二家僕脫歡、小蒼頭宜童一。

【小雜種】1393 hsiao^{3} tsa^{2} chung^{3} 人を罵ることば。

【小酸茅】1395 セウサンバウ 草の名。かたばみ。酢漿草（11−39824‥2）の異名。〔本草、酢漿草〕釋名、酸漿・三葉酸・三角酸・酸母・酣母・酸箕・鳩酸・雀兒酸・雀林草・小酸茅。

【小止觀】1397 セウシクワン 佛書名。二卷。天台大師撰。修習止觀坐禪法要の異名。又、童蒙止觀ともいふ。

【小司空】1398 セウシクウ 周官の名。冬官の屬。司空の貳官。又、少司空といふ。後世は工部侍郎をいふ。〔歷代職官表、工部、三代〕謹案、周禮事官之屬已亡、其職制不レ可二復見一、惟大宰謂下建二其正一、立二其貳一、設中其考上者、五官之數並同、則冬官當二亦無レ異、以レ例推レ之、知レ爲二大司空卿一人、小司空中大夫二人一。

【小司寇】1399 セウシコウ 官名。周官の名。秋官の屬。司寇の貳官。又、少司寇といふ。後世は刑部侍郎をいふ。〔周禮、秋官、小司寇〕小司寇之職、掌二外朝之政一。

【小司徒】1400 セウシト 周官の名。地官の屬。司徒の貳官。又、少司徒といふ。後世は戶部侍郎をいふ。〔周禮、地官、小司徒〕小司徒之職、掌レ建二邦之敎灋一。

【小司馬】1401 セウシバ ❶周官の名。夏官の屬。司馬の貳官。又、少司馬といふ。後世は兵部侍郎をいふ。〔周禮、夏官、小司馬〕小司馬之職、掌二凡小祭祀會同饗射師田喪紀一、掌二其事一如二大司馬之灋一。❷唐、司馬貞（**2−3257**‥297）をいふ。

【小四海】1402 セウシカイ 小天下の義。殆ど四海中の珍味を集めたこと。〔清異錄、饌羞、小四海〕孫承祐在二浙右一、嘗饌レ客、指二其盤筵一曰、今日坐中、南之蝤蛑、北之紅羊、東之蝦魚、西之果菜、無レ不二畢備一、可レ謂三富有二小四海一矣。

【小四方】1403 コジホ 三方の一種。脚の四面に孔のあるもの。〔故實拾要、六〕供御の物を載せ持ち通ふ物を小四方と云ふ也、小さき臺也、地下に用ふる向詰などの如くなる細長き臺也。

【小此木】1404 ヲコノキ ❶上野國の地名。❷姓氏。〔明治新撰姓氏錄〕。

【小絲魚】1405 コイトイ 北海道膽振國の地名。

【小爾雅】1406 セウジガ 書名。漢書藝文志に、小爾雅一篇とあり、撰者の氏名が無い。今傳へる本は孔叢子の第十一篇を鈔出したもので、漢志の舊本ではない。其の書は、廣詁・廣言・廣訓・廣義・廣名・廣服・廣器・廣物・廣鳥・廣獸の十章に分れ、ますに度量衡を以てして十三章とす。頗る考據に資すべきものがある。〔四庫提要、經、小學類存目〕。

〖參考書〗【小爾雅訓纂】六卷清、宋翔鳳撰。〔皇清經解續篇、第九十二冊〕。【小爾雅疏證】五卷清、葛其仁撰。〔咫進齋叢書、第九冊〕。【小爾雅義證】十三卷清、胡承珙撰。〔聚學軒叢書、第二七・二八冊〕。【小爾雅校證】二卷清、錢東垣撰。

【小修武】1407 セウシウブ 地名。今の河南獲嘉縣の境。漢の高祖が韓信の軍を奪つた處。〔漢書、高帝紀上〕出二成皋玉門一、北渡レ河宿二小修武一。

【小沙彌】1408 セウシヤミ 小僧。〔紅樓夢、四回〕本是葫蘆廟內一個小沙彌。

【小射正】1409 セウシヤセイ 大射の際、射を司る官。大射正（**3−5831**‥1036）を見よ。〔儀禮、大射儀〕小射正一人、取二公之決拾於東坫上一。

【小斜川】1410 セウシヤセン 宋、蘇過（**9−32427**‥41）の邸名。

【小寫字】1411 hsiao^{2} hsieh^{3} tzŭ^{4} 普通の數字。一二三四五の類。

【小釋迦】1412 セウシヤカ 唐、慧寂（**4−11116**‥47）の號。

【小昌明】1414 セウシヤウメイ 毒草の名。草烏頭（**9−30945**‥19）の異名。〔清異錄、藥、藥譜〕小昌明、草烏頭。

【小娼婦】1415 hsiao^{3} ch'ang^{1} fu^{4} 婦人を罵る語。ばいた。〔紅樓夢、二十回〕罵襲人、忘了本的小娼婦。

【小樟浦】1416 コクヌギウラ 越前國の地名。

【小上坆】1417 セウジヤウバイ 劇脚本の一種。一名、祿敬榮歸。山東卽墨の劉祿敬が、進士に登第はしたが未だ任官せずして京に留まるうち、內妻の母舅李大公が奸策を弄して其の留守宅を苦しめる。此の時、劉が知縣となつて錦を故鄕に飾るといふ筋。

【小上﨟】1418 コジヤウラフ 古、公卿の女で、宮仕へして、唐衣・表著を著ることを許されたもの。〔禁祕抄、下〕小上﨟、不レ謂二善惡一、公卿女號二小上﨟一、著二織物併表著一也、侍臣女依レ儀、公達女勿論、諸大夫公卿孫或爲二小上﨟一。

【小逡巡】1420 セウシユンジユン 刀の隱語。〔清異錄、武器、小逡巡〕王建初起、軍中隱語、代二器械之名一、以二犯者一爲二不祥一、至二孟氏時一、猶有二能道一、其略者、劍曰二奪命龍一、刀曰二小逡巡一。

【小荀子】1421 セウジユンシ 書名。五卷。漢、荀悅撰。一に申鑒といふのは、書中、政體篇に、前鑒既明、後復申レ之、云云、謂二之申鑒一とあるから名づけた。後世、荀子と別けて小荀子といふ。明、黃省曾の注がある。申鑒（**7−21726**‥18）を見よ。

【小書兒】1422 hsiao^{3} shu^{1} êrh 三字經・百家姓・千字文等の小兒の讀物。

【小徐妃】1423 セウジヨヒ 前蜀、花蕊夫人（**9−30734**‥29）の號。

【小織冠】1424 セウシヨククワン セウシキクワン 冠位十三階の第二位。第三十六代、孝德天皇の大化三年に制定。

【小秦君】1425 セウシンクン 唐の秦景通と其の弟の暐とが、兄弟共に才名あり、當時、兄を大秦君、弟を小秦君と稱した。〔舊唐書、儒學傳〕秦景通與二弟暐一、尤精二漢書一、當時習二漢書一者宗二師之一、常稱、景通爲二大秦君一、暐爲二小秦君一、若不レ經二其兄弟指授一、則謂二之不レ經二師匠一。

【小秦王】1426 セウシンワウ ❶唐の太宗をいふ。〔琵琶記、春宴二杏園一〕我好似二小秦王三跳レ澗。❷詞牌の名。又、丘家箏・陽關曲ともいふ。四句三平韻の七言絕句をなす。唐の敎坊記に小秦王曲あり、秦王小破陣樂のことで、坐部伎に屬す。〔柳塘詞話〕唐人絕句作二樂府歌曲一、皆七言而異二其名一、如二無名氏之小秦王、一名丘家箏一者。〔漁隱叢話〕唐初、歌舞多二五七言詩一、後漸變爲二長短句一、今止存二瑞鷓鴣小秦王二闋一、瑞鷓鴣是七言八句詩、猶依レ字易レ歌、小秦王是七言絕句、必須三雜以二虛聲一、乃可レ歌耳。

〖小秦王草〗1427 セウシンワウサウ 草の名。鹿蹄草の異名。鹿蹄（**12−47586**‥101）の❶を見よ。いちやくさう。〔本草、鹿蹄草〕釋名、小秦王草・秦王試劍草。

【小嬸兒】1428 hsiao^{2} shen^{3} êrh 弟の妻。

【小性兒】1429 hsiao^{2} hsing^{4} êrh 短氣。氣が小さい。又、吝嗇な。〔紅樓夢、三十回〕皆因姑娘小性兒、常要歪派。

【小聖樂】1430 セウセイガク 詞牌の名。〔輟耕錄、萬柳堂〕京城外萬柳堂、亦一宴游處也、野雲廉公一日於レ中置レ酒、招二疎齋盧公・松雪趙公一同飮、時歌兒劉氏名二解語花一者、左手折二荷花一、右手執レ盃行レ酒、歌二小聖樂一云、綠葉陰濃偏二池亭一云云、元遺山所レ製、而名姬多歌レ之、俗以爲二驟雨打新荷一者、是也。

【小聖人】1431 セウセイジン 清の孫若群を鄕里の人が稱揚した號。〔先正事略、孫若羣事略〕孫若羣者、淄川人也、少勵二品學一、言動皆有レ則、鄕里稱二小聖人一。

【小鮹魚】1432 スルメ 鰑。〔倭名類聚抄〕。

【小舌兒】1433 hsiao^{3} shê^{2} êrh のどびこ。

【小川馬】1434 セウセンバ 馬の一種。馬と驢とから生れ

たもの。〔閩雜記〕興化人以㆓牡馬未㆑騸者㆒配㆓牝驢㆒生㆑駒、體小㆓於馬㆒、亦不㆓甚高㆒、俗名㆓士駒子㆒、又名㆓小川馬㆒。

【小宣旨】1435 コセンジ 辨官が傳宣し、史が之を奉じて在京の諸司に下す宣旨。小事件で、大臣宣を要しないもの。大宣旨の對。〔西宮記、臨時、一、宣旨様〕小宣旨、左辨官(下某司)某事、右某事某事、依㆑例所㆑請如㆑件、宜㆓承知宛行㆒者、年月日、左大史姓名、少辨朝臣姓名。

【小禪房】1436 セウゼンバウ 小さい禪房。〔葛子琴、冬日遊㆓野寺㆒詩〕一局手談何處熟、山茶花下小禪房。

【小孫屠】1437 セウソント 明代戲曲の名。永樂大典本戲文三種の一。開封の孫必達・孫必貴兄弟の事を演じたもの。孫必貴が屠者を業としてゐたので、人呼んで小孫屠といふ。

【小巽他】1438 セウスンダ 群島の名。南洋群島の一部。爪哇以東の餘脈。Little Sunda

【小拿兒】1439 hsiao^3 na^2 êrh 葬式の時、棺前にあつて死者の衣服帽子等を持ち、哭泣して歩む八人の男。

【小太清】1440 セウタイセイ 夏の衣服の名。太清氅(**3－5834**··294)を見よ。〔清異錄、衣服、小太清〕臨川上饒之民、以㆓新智㆒掤作㆓醒骨紗㆒、用㆓純絲蕉骨㆒、相兼撚織、夏月衣㆑之、輕涼適㆑體、陳鳳閣喬始以爲㆓外衫㆒、號㆓太清氅㆒、又爲㆓四褛肉衫子㆒、呼㆓小太清㆒。

【小太刀】1441 コダチ 太刀の小さいもの。脇差の太刀。大太刀(**3－5831**··2500)の❶の對。〔平家物語、十一、弓流事〕こだち・大なぎなたに、かなはじとや思ひけん。

【小太平】1442 セウタイヘイ 心身の快適なことをいふ。〔清異錄、作用、小太平〕郭尙賢常云、服餌導引之餘、有㆓二事㆒、乃養生大要、梳頭洗脚、是也、尙賢毎夜先㆑髮後㆑脚、方㆑寢自曰、梳㆑頭浴㆑脚長生事、臨㆑臥之時小太平。

【小奶奶】1443 hsiao^2 nai^3 nai 妾。めかけ。

【小臺盤】1444 コダイバン 小さい臺盤。〔江家次第、一、正月、供㆓御藥㆒〕後取飲畢、以㆑坏出㆓於殿上㆒、置㆓於小臺盤下㆒。〔禁祕抄、上、朝夕御膳〕殿上臺盤、侍臣以下行㆑之、上古、公卿著㆓小臺盤㆒、用㆓土器㆒、近代不㆑然。

【小淘綾】1445 コユルギ コヨロギ 相模國の國府津から大磯・小磯附近の海岸をいふ。

【小脫空】1446 セウダツクウ 紙で作り、彩色を施した人形。喪式の時に使用する。〔清異錄、喪葬、大小脫空〕長安人物繁、習俗侈、喪葬陳㆓拽寓像㆒、其表以㆓綾綃金銀㆒者曰㆓大脫空㆒、楮外而設㆑色者曰㆓小脫空㆒。

【小檀欒】1447 セウダンラン 清、屠倬(**4－7761**··53)の室名。

『小檀欒室』1448 セウダンランシツ 清、胡培系(**9－29400**··596)の室名。

【小妮子】1449 セウヂツシ ❶こしもと。婢。下女。〔詞品〕山東人目㆑婢曰㆓妮子㆒、其語亦古。〔王通叟詞〕十三妮子綠窗中。❷藝妓などを指す稱。

【小妞兒】1450 hsiao^3 niu^1 êrh 小娘。小女。

【小妯娌】1451 hsiao^3 chou^2 li 小じうと。〔紅樓夢、三十五回〕讓他們小妯娌伏侍、倆在那裡坐了。

【小長安】1452 セウチヤウアン 城名。河南省南陽縣の南。一名、小長安聚。〔後漢書、光武紀上〕與㆓王莽前隊大夫甄阜・屬正梁丘賜㆒戰㆓於小長安㆒。〔注〕續漢書曰、淯陽縣有㆓小長安聚㆒、故城在㆓今鄧州南陽縣南㆒。

【小長谷】1453 ヲハセ コハセ ❶姓氏。〔日用重寶記〕。❷コハセベ 姓氏。〔明治新撰姓氏錄〕。

【小長刀】1454 コナギナタ 大長刀に對して、普通のなぎなたをいふ。

【小丈夫】1455 セウヂヤウフ ❶心のいやしい男。賤丈夫。〔孟子、公孫丑下〕予豈若㆓是小丈夫㆒然哉。❷ちひさい男。丈の低い小さな男。〔史記、孟嘗君傳〕孟嘗君過㆑趙、趙平原君客㆑之、趙人聞㆓孟嘗君賢㆒出觀㆑之、皆笑曰、始以㆓薛公㆒爲㆓魁然㆒也、今視㆑之乃眇小丈夫耳、孟嘗君聞㆑之怒。

【小孃孃】1456 セウヂヤウヂヤウ 子が母をいふ語。〔稱謂錄、子稱㆑母、小孃孃〕蘇軾龍川雜記、仁宗謂㆓劉氏㆒爲㆓大孃孃㆒、楊氏爲㆓小孃孃㆒。

【小搦頭】1456′ ヲカラミ 越後國の地名。

【小重山】1457 セウチユウサン 詞牌の名。〔詞譜〕宋史樂志雙調、李邴詞名㆓小沖山㆒、姜夔詞名㆓小重山令㆒、韓淲詞有㆓點染煙濃柳色新句㆒、名㆓柳色新㆒。〔堯山堂外紀〕韋莊畱㆑蜀、蜀主奪㆘其姬之善㆓詞翰㆒者㆖、入㆑宮、莊念㆑之、因作㆓小重山詞㆒、一閉昭陽春又春、夜寒宮漏永、夢㆓君恩㆒云云、流傳入㆑宮、姬聞㆑之、不㆑食死。〔話腴〕武穆賀講和赦表云、莫㆑守㆓金石之約㆒、難㆑充㆓谿壑之求㆒、故作㆓小重山詞㆒云、欲㆘將㆓心事㆒付㆗瑞琴㆖、知音少、絃斷有㆓誰聽㆒、蓋指㆓和議之非㆒也。

『小重山房』1457′ セウチユウサンバウ 清、張祥河(**4－9812**··1162)の室名。

【小重陽】1458 セウチヨウヤウ ❶重陽の翌日。九月十日。〔輦下歲時記〕京師士庶、多於㆓重九後一日㆒再會、謂㆓小重陽㆒。❷閏九月九日。〔日貫齋塗說〕孟宗獻、字友之、大定三年、鄉府省試皆第一、號㆓孟四元㆒、見㆓金史楊伯仁傳㆒、其閏九日詩有㆑云、俚諺難㆑逢兩寒食、閏餘今値㆓小重陽㆒、載㆓中州集㆒。

【小褚公】1459 セウチヨコウ 南齊、何戢(**1－511**··93)をいふ。

【小冢宰】1460 セウチヨウサイ 後周の官名。周官の小宰に當る。〔資治通鑑、陳紀〕(宣帝、太建十二年)昉又求㆓小冢宰㆒。〔注〕後周置㆓小冢宰㆒、上大夫也、六命、按㆓爾雅㆒、冢、大也、鄭玄曰、冢、大之上也、冢宰之上、不㆑宜㆑加㆓小字㆒、故周官止曰㆓小宰㆒。

【小帝青】1461 セウテイセイ 青鹽(**12－42564**··52)の異名。〔清異錄、藥、藥譜〕小帝青、青鹽。

【小蹄子】1462 hsiao^3 t'i^2 tzŭ 婦人を罵る語。又、こぞう子。〔紅樓夢、三十七回〕沒見世面的小蹄子。

【小釣雪】1463 セウテウセツ 菊池桐孫の號。菊池五山(**9－31153**··94)を見よ。

【小朝韡】1464 セウテウクワ 御殿風の子供ぐつ。〔紅樓夢、三回〕登㆓著青緞粉底小朝韡㆒。

【小朝廷】1465 セウテウテイ ❶規模が朝廷に同じいこと。唐の鄭從讜の河東節度使の幕府を、時人が稱した語。〔唐書、鄭從讜傳〕唐鄭從讜爲㆓河東節度使㆒、自擇㆓參佐㆒、皆一時之選、京師士人、比㆓太原㆒爲㆓小朝廷㆒。❷つまらぬ朝廷。屈辱に甘んじて弱小の國となること。〔胡銓、上㆓高宗㆒封事〕臣有㆘赴㆓東海㆒而死㆖、寧能處㆓小朝廷㆒求㆑活耶。

【小朝拜】1466 コテウハイ 古、清涼殿の東庭で、正月元旦に殿上人などが拜賀した儀式。〔西宮記、一〕小朝拜。

【小徹里】1468 セウテツリ 地名。雲南省車里宣慰司の東、小車里をいふ。〔明一統志〕車里別部曰㆓小車里㆒、嘉靖間、車里附㆓於緬㆒、外有㆓二宣慰司㆒、在㆓大車里㆒者應㆑緬、在㆓小車里㆒者應㆑漢。

【小鐵官】1469 セウテツクワン 鐵を鑄る役所。〔史記、平準書〕郡不㆑出㆑鐵者、置㆓小鐵官㆒。〔注〕集解曰、鄧展曰、鑄㆓故鐵㆒。〔漢書、食貨志下〕郡不㆑出㆑鐵者、置㆓小鐵官㆒。

【小天地】1470 セウテンチ 狹い境遇。狹い所。

【小添倉】1471 セウテンサウ 陰暦正月二十日に、灰畫窖を用ひて五穀を中に置き、明朝、倉內に收入するをいふ。〔直隸志書、元氏縣〕正月二十日、用㆓灰畫窖㆒、置㆓五穀於中㆒、明晨收㆓入倉內㆒、謂㆓之小添倉㆒。

【小土器】1471′ コカハラケ 小さいかはらけ。〔東鑑、七〕文治三年八月十五日、以㆓小土器㆒挾㆓于五寸之串㆒、三被㆑立㆑之、盛澄亦悉射畢。

【小冬日】1472 セウトウジツ 冬至の前日。小至。〔冊府元龜〕遂改用㆓小冬至日㆒受㆑朝。〔唐會要〕冬至日、祀㆓圜丘㆒、遂用㆓小冬日㆒視㆑朝。

【小登科】1473 セウトウクワ 新妻を娶ること。〔袁士元、送㆓方元成巡檢歸㆑里成㆑姻詩〕紫邏將軍初發㆑軔、錦衣公子小登科。〔鐵保、題㆓袁枚恩假歸娶圖㆒詩〕詔恩歸娶興如何、白髮朱顏鏡裏過、我向㆓隨園㆒稱㆓後輩㆒、廿年前亦小登科。〔燕子箋、辨奸〕大小登科、一齊成㆓就了門生㆒罷。〔清稗類鈔、婚姻、袁子才乞假歸娶〕錢塘袁子才枚以㆓翰林庶吉士㆒歸娶、繪圖紀㆑事、滿洲鐵冶亭少宗伯保、典㆓試江南㆒、事竣、訪㆑袁、袁出㆓歸娶圖㆒求㆑題、鐵題云、詔恩歸娶興如何、白髮朱顏鏡裏過、我向㆓隨園㆒稱㆓後輩㆒、廿年前亦小登科、蓋冶亭亦於㆓庚寅鄉擧後㆒完㆑姻、都人謂㆑完㆑姻爲㆓小登科㆒也。

【小藤花】1474 コトウケ 姓氏。

【小洞天】1475 セウドウテン 神仙の居る處。〔剪燈餘話、田洙遇㆓薛濤㆒聯句記〕路入㆓桃源小洞天㆒、亂紅飛處遇㆓嬋娟㆒。

【小桐廬】1476 セウドウロ 清、袁景輅(**10－34152**··186)の室名。

【小南強】1477 セウナンキヤウ 草の名。毛輪花。茉莉(**9－30841**··1)の異名。〔清異錄、花、小南強〕毎見北人

盛誇㆓嶺海之強㆒、世宗遣㆑使入㆑嶺、館接者遺㆓茉莉㆒、文㆓其名㆒曰㆓小南強㆒。

【小楠公】1478（セウナンコウ） 楠木正行をいふ。正成を大楠公といふ對。〔廣瀨旭莊、詠史詩〕堂堂源中將、應㆑愧㆓小楠公㆒。

【小二哥】1478′ hsiao^3 êrh^4 kê^1 番頭。〔西廂記、張君瑞鬧道場雜劇〕店小二哥那裏。

【小把柴】1479（セウハサイ） 小束の薪。〔通俗編、草木、小把柴〕劍南詩集自注、鄕市小把柴、謂㆓之溪柴㆒、蓋自㆓若耶溪㆒來也。

【小破産】1480（セウハサン） 破産財團に屬する財産が一萬圓未滿の破産。〔破産法、第三百五十八條〕。

【小跛翁】1481（セウハオウ） 清、萬經(**9**－**31339**‥105)の號。

【小壩集】1482（セウハシフ） 地名。河南省商丘縣の西北。古の葛國の地。もと黃河にのぞみ、要津であつたが、河道改まつて後、沃野となつた。今、隴秦豫海鐵路が通過す。

【小婆子】1483 hsiao^3 p‘o^2 tzŭ 妾。

【小放牛】1484（セウハウギウ） 劇脚本の一種。一名、杏大村。村娘と牧童とが、俚歌を唄ひながら踊り廻る野調のもの。

【小匏菴】1485（セウハウアン） 清、吳仰賢(**2**－**3365**‥499)の號。

【小望月】1486（コモチヅキ） 陰曆十四日。卽ち望月の前夜。

【小八件】1487（セウハチケン） 菓子の名。大八件(**3**－**5831**‥2529)を見よ。〔朝市叢載〕。

【小灋儀】1488（セウハフギ） 小さい法儀。趨行拱揖の類をいふ。〔周禮、夏官、小臣〕詔㆓相王之小灋儀㆒。〔注〕小灋儀、趨行拱揖之容。

【小板敷】1489（コイタジキ） 禁中、殿上の間の南面の小庭から殿に昇る處の板敷。清涼殿南庇の殿上、東南にあり。疊を敷き、藏人・職事の候する所。〔江家次第、八、乞巧奠〕行事藏人、終夜束帶監臨、候㆓小板敷㆒。

【小比肩】1491（セウヒケン） 三國、吳の陸弘と其の妻張氏とは、夫婦の情愛が極めて深かつた。父の陸東美夫妻を比肩といふに對して小比肩といふ。比肩人(**6**－**16743**‥56)を見よ。〔誠齋雜記〕海鹽陸東美妻朱氏、有㆓容止㆒、夫妻相重、寸步不㆑離、時人號爲㆓比肩人㆒、後死合葬、塚上生㆓雙梓㆒、同根、二身相抱、而合成㆓一樹㆒、每有㆓雙燕㆒常宿㆓於上㆒、孫權封㆓其里㆒曰㆓比肩㆒、墓曰㆓雙梓㆒、後子弘與㆓妻張氏㆒亦相愛慕、吳人又呼爲㆓小比肩㆒。

【小被兒】1492 hsiao^3 pei^4 êrh 赤子を臥かす小さい蒲團。

【小賓客】1493（セウヒンカク） 諸侯の使臣をいふ。〔周禮、地官、小司徒〕小賓客、令㆓野脩㆑道委積㆒。〔注〕小賓客、諸侯之使臣。

【小不㆑平】1494（スコシクタヒラカナラズ） 身體の調子が少し惡いこと。〔資治通鑑、漢紀〕(武帝、征和二年)上嘗小不㆑平。〔注〕小不㆑平者、體中微有㆑不㆑適也。

【小阜街】1495（セウフガイ） 地名。湖北省京山縣の北。西、小富水にのぞみ、東は隨縣と界す。一名、小富街。

【小普請】1496（コブシン） 德川時代、小破損の普請人足を、旗本の非役者に課した稱。

〖小普請金〗1497（コブシンキン） 德川時代に、人足を出す代りに、扶持高百石に付、一兩二分宛の率で出金せしめた金。

〖小普請組〗1498（コブシングミ） 德川時代に、旗本の非役の者の編入せられた組。

【小伏低】1499（セウフクテイ） 妾。〔還魂記、冥誓〕怕你嶺南歸客路途、賒㆑是做㆓小伏低㆒難㆑說。

【小苗兒】1500 hsiao^3 miao^2 êrh 苗。

【小劈斧】1501（セウヘキフ） 畫家の皴法の一。小斧劈(1115)を見よ。

【小編笠】1502（コアミガサ） 德川時代に行はれた、腰高にあんだ饅頭形のかさ。〔我衣〕小あみ笠、云云、子供笠なり。

【小步馬】1503（セウホバ） 馬の一種。細步をよくする馬。〔漢書、西域上、烏秅國傳〕累石爲㆑室、民接㆑手飮、出㆓小步馬㆒。〔注〕師古曰、小、細也、細步、言㆓其能蹀足㆒、卽今所謂百步千跡者也。

【小戊子】1504（セウボシ） 宋の程文惠公と龐穎公とは共に戊子に生れたので、官位の低い方を小戊子、高い方を大戊子といつた。〔魏泰、東軒筆錄〕程文惠公與㆓龐穎公㆒同生㆓戊子㆒、程已貴而龐尙爲㆓小官㆒、嘗戲㆑龐曰、君乃小戊子耳、後穎公大拜、文惠致㆑書賀曰、今大戊子卻爲㆓小戊子㆒矣、穎公笑㆑之。

【小牡丹】1505（セウボタン） 芍藥。〔埤雅、釋草、芍藥〕華有㆘至㆓千葉㆒者㆖、俗呼㆓小牡丹㆒。

【小蓬臺】1506（セウホウダイ） 元、楊維楨(**6**－**15112**‥417)の室名。

【小蓬萊】1507（セウホウライ） 築山などを假りにいふ。〔張寧、詩〕鬼斧鑿穿生㆓混沌㆒、神鞭驅出小蓬萊。

〖小蓬萊閣〗1508（セウホウライカク） 清、黃易(**12**－**47926**‥51)の室名。

〖小蓬萊閣金石文字〗1509（セウホウライカクキンセキモンジ） 書名。不分卷。清、黃易撰。家藏の宋搨の石經殘字、及び成陽靈臺魏元丕朱龜譙敏王稚子范式の諸刻等、世間稀有の珍本を雙鉤を以て版にす。後に陵苕館續刻を附す。續刻は、清、高學治撰。清史稿、藝文志に著錄せらる。

【小痲油】1510 hsiao^3 ma^2 yu^2 主として滿洲に産する線痲、小痲の種から搾つた油。

【小蔴子】1511 hsiao^3 ma^2 tzŭ ❶藥草。茴香。うゐきやう。❷痘面。あばたの人。

【小網代】1512（コアジロ） 相模國の地名。

【小萬卷】1513（セウマングワン） 宋、朱昂(**6**－**14424**‥77)をいふ。

〖小萬卷齋〗1513′（セウマングワンサイ） 清、朱琦(**6**－**14424**‥425)の藏書室名。曾祖の培風閣の藏書三萬三千卷、松竹軒の藏書七千餘卷、其の兄靜齋も藏書を好み、幷せて十萬餘卷あり。

〖小萬卷樓〗1514（セウマングワンロウ） 清、錢培名の藏書樓。培名は金山の人、熙祚の從子。熙祚は守山閣叢書を刻したが、培名は更に其の缺を補ひ、小萬卷樓叢書をつくる。刻未だ竣らずして粵寇の亂に遭ひ、僅かに十七種を刻成した。其の中、越絕書・申鑒・中論・陸士衡集の如きは、札記を附して校勘が頗る精密である。

〖小萬卷樓叢書〗1515（セウマングワンロウソウショ） 叢書の名。清、錢培名の撰。小萬卷樓を見よ。

【小幔亭】1516（セウマンテイ） 清、柯崇樸(**6**－**14658**‥48)の室名。

【小眠齋】1517（セウミンサイ） ❶小憩の室。〔南齊書、豫章文獻王嶷傳〕往歲收合得㆓少雜材㆒、幷蒙㆑賜㆓故板㆒、啓榮內許㆑作㆓小眠齋㆒、始欲㆓成就㆒、皆補接爲㆑辦、無㆓乖㆑格製㆒。❷字號。㋑清、史承謙(**2**－**3249**‥226)の號。㋺清、汪沆(**6**－**17154**‥19)の號。

【小無絃】1518（セウムゲン） 宮澤雉の號。宮澤雲山(**3**－**7156**‥264)を見よ。

【小鳴稿】1519（セウメイカウ） 書名。十卷。明、秦王朱誠泳撰。八卷は詩、一卷は文、末の一卷は恩賜勝覽錄を載す。〔四庫提要、集、別集類〕。

【小油嘴】1520 hsiao^3 yu^2 tsuei^3 おしやべり。〔長生殿、禊遊〕小油嘴、偏儞沒有寶貝。

【小熊座】1521（コグマザ） 北天星座の一。主星七、斗狀をなすにより、小北斗と名づく。斗柄の北端は、卽ち二等星にして、北極星これなり。

【小螺鈿】1522（コラデン） 高倉宮の持たせられた琵琶の名器。〔江談抄、三、雜事〕小螺鈿、高倉宮琵琶也。

【小蠃子】1523（シタダミ） きさご貝の古名。〔倭名類聚抄、龜貝部、龜貝類〕小蠃子、崔禹食經云、小蠃子、漢語抄云、細螺、之太太美。

【小老婆】1524 hsiao^2 lao^3 p‘o 妾。

〖小老婆子〗1525 hsiao^2 lao^3 p‘o tzŭ 婦人を罵る語。

【小瑯嬛】1527（セウラウクワン） 清、南匯の顧秉源に藏書が多かつたことから、世人が稱した名。

【小闌干】1528（セウランカン） 詞牌の名。眼兒媚・少年游ともいふ。〔詞譜〕左譽詞有㆓斜月小闌干句㆒、名㆓小闌干㆒、韓淲詞有㆘東風拂㆓檻露㆒猶寒句㆖、名㆓東風寒㆒、陸游詞名㆓秋波媚㆒。

【小蘭陔】1529（セウランガイ） 清、謝道承(**10**－**35827**‥319)の號。

【小欖墟】1530（セウランキヨ） 地名。❶廣東省治の西北。南海縣の地。三水縣の界。❷廣東省中山縣の西北、順德縣の界。清代、香山巡司を置く。其の地に小欖山・大欖山がある。

【小六壬】1531（セウリクジン） 占法の一種。大安・留連・連喜・赤口・小吉・空亡の六辰を以て吉凶を分つもの。〔晁氏讀書志〕六壬課鈐一卷、以㆓六十甲子㆒加㆓十二時㆒、成㆓七百二十二課㆒、以占㆓吉凶㆒。

【小零兒】1533 hsiao^3 ling^2 êrh 端數。はした。

【小靈石】1534（セウレイセキ） 縣名。元初、靈石縣を分けて小靈石縣を置く。尋いで介休に倂せらる。山西省靈石縣の北。

【小遼水】1535（セウレウスイ） 河の名。滿洲遼寧省の境。渾河をいふ。又、瀋水といふ。滿語で瑚努呼河と

いふ。源は新賓縣の東北。太子河を合せ、遼河に入る。〔讀史方輿紀要、山東、遼東都指揮使司、定遼中衞、自在州〕渾河、在二司西北一、一名、小遼水、源出二塞外一、西南流至二瀋陽衞一、合二沙河一、又西南流至二都司城西北一、入二於太子河一。

【小嘍囉】1537 hsiao³ lou² luo² 小ぬす人。手下。〔水滸傳、二回〕聚集着五七百小嘍囉、打家刦舍。

【小亞細亞】1539 セウアジヤ 地名。アジヤ洲の西境に突出せる大半島。現在のトルコ國の地。

【小弇山人】1540 セウエンサンジン 清、王昭麟(**7**－**20823**・・1793)の號。

【小鷗波館】1541 セウオウハクワン 室名。㊀清、管筠(**8**－**26162**・・5)の室名。㊁清、潘曾瑩(**7**－**18236**・・193)の室名。

【小開武解】1542 セウカイブカイ 逸周書の篇名。

【小茭蘆館】1543 セウカウロクワン 清、黃丕烈(**12**－**47926**・・1296)の室名。

【小漢仗兒】1544 hsiao³ han⁴ chang⁴ êrh 小男。

【小龜勤齋】1545 コカメキンサイ 京都の人。名は益英。字は叔華。號は勤齋。歿年は未詳。著に韻鏡九算指南・韻鏡祕事・韻鏡祕事大全・韻鏡祕事諺解・韻鏡祕事諺解大全・韻鏡相傳書・改正半切字彙訓附・周易蓍祕事・小學諺解・正字韻鏡・大學諺解・由來物語がある。〔近代著述目錄後篇〕。

【小灰皂兒】1546 セウクワイサウジ 北京人の愛養する鳩の一種。〔燕京歲時記、花兒市〕按、居易錄、京師花兒市鬻二黃鴿一、二毛羽作二黃金色一、索價甚高、云云、京師多好蓄レ鴿、種類亟繁、云云、小灰皂兒。

【小怯大勇】1547 セウケフタイユウ 小敵を恐れて大敵を畏れぬ。後漢の光武帝の故事。〔東觀漢記〕劉將軍平生見二小敵一怯、今見二大敵一勇、甚可レ怪也。

【小彥長老】1548 セウゲンチヤウラウ 台州の瑞巖師彥をいふ。幼にして出家し、巖頭に師事して大法を悟るといふ。後、丹丘の瑞巖に居り、時人、小彥長老と稱した。〔禪林口實混名集、上〕

【小三司使】1550 セウサンシシ 唐代、大疑獄のあつたとき、刑部員外郎・御史大夫・大理寺官が協議して審決すること。〔古今事文類聚、新集卷十五〕。

【小慙小好】1551 セウザンセウカウ 自分が恥ぢるやうな文章を書けば、俗人が喜ぶ。〔韓愈、與二馮宿一論レ文書〕時時應レ事作二俗下文字一、下レ筆令二人慙一、及レ示レ人、則人以爲レ好矣、小慙者亦蒙レ謂二之小好一、大慙者卽必以爲二大好一矣。

【小慙小好大慙大好】1552 セウザンセウカウタイザンタイカウ 世間といふものは考へた程むつかしいものでない喩。小慙小好を見よ。

【小獅子狗】1553 hsiao³ shih¹ tzŭ kou³ 北京の哈巴狗を指して斯く呼ぶ。南支那の人の語。

【小襄毅公】1554 セウジヤウキコウ 清、藍元枚(**9**－**32258**・・101)をいふ。

【小守護代】1556 コシユゴダイ 鎌倉時代に、守護・地頭の代理となつて事を行つた役。

【小受大走】1557 セウジユタイソウ 昔、舜が父から責められた時、小杖ならば、打たれ、大杖ならば逃げたといふ故事。轉じて、少しのことならば我慢する喩。〔後漢書、隗囂傳〕昔虞舜事レ父、大杖則走、小杖則受。

【小出永菴】1558 コイデエイアン 尾張國の人。名は立庭。字は不見。通稱は內記。號は永菴。熊谷治水に師事す。官は名古屋藩儒、木下侯儒。貞亨元年十月二十七日、歿す。著に孝經講草鈔・江村紀行・御製五倫書・語孟集注序說・倭語鈔・周易句解・性理大全書・大學倭語鈔・中庸倭語鈔・忠經鈔・南都紀行・蒙求首書がある。〔近代著述目錄後篇〕。

【小出愼齋】1559 コイデシンサイ 尾張國の人。名は孝承。通稱は周八。號は愼齋・求放舍・停車園。寶曆九年十月十三日、歿す。年三十九。著に有木屑がある。〔尾張名家誌〕。

【小出侗齋】1560 コイデトウサイ 尾張國の人。名は敬迋。字は若眞。號は侗齋。淺見絅齋に師事す。官は名古屋藩儒。元文三年六月二十二日、歿す。年七十三。著に朝鮮略說がある。〔尾張名家誌〕。

【小遂初堂】1561 セウスイシヨダウ 清、潘眉(**7**－**18236**・・82)の室名。

【小篠東海】1562 ササトウカイ 石見國の人。名は敏・御野。字は興龍。通稱は十助。號は東海。文化年間の人。官は濱田藩儒。和學にも精通す。著に易翼詳解・公事根元私考・三禮旁注・周易蠡測・周易證象・周禮諺解・詩書旁注・篠舍漫錄・續日本紀考證・日本書紀考證・禮記傍注・令義解私考がある。〔近代著述目錄〕・〔國書解題〕。

【小千頃堂】1563 セウセンケイダウ 清、黃丕烈(**12**－**47926**・・1296)の室名。

【小千世界】1564 セウセンセカイ 佛 一世界を千個あつめたもの。〔宗統編年〕如レ此一千世界、一千日月、一千須彌山、一千四天下、一千四天王天、一千三十三天、一千夜摩天、一千兜率天、一千樂變化天、一千他化自在天、一千梵世天、總爲二第二禪天所レ覆、名二小千世界一。

【小題襟館】1565 セウダイキンクワン 清、錢璞(**11**－**40563**・・172)の室名。

【小題大做】1566 hsiao³ tʻi² ta⁴ tsuo⁴ 小さな事を大仰にする。針小棒大。

【小島成齋】1567 コジマセイサイ 備後國の人。名は知足。字は子節。通稱は五一。號は成齋・不惑道人・靜齋。官は福山藩儒。書に巧。文久二年十月十八日、歿す。年六十七。著に酣中清話・千祿字書辨僞・急就章文字考・說文段注補正・成齋題跋・讀令札記・讀令私記、律校定札記がある。〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕。

【小島梅外】1568 コジマバイグワイ 江戶の人。名は筠。字は克從。通稱は西之助。號は梅外。市河寬齋に師事す。歿年は未詳。著に梅外詩鈔がある。〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕。

【小潭大夫】1570 セウタンタイフ 清、譚吉璁(**10**－**35978**・・49)をいふ。

【小長蘆館】1571 セウチヤウロクワン 清、嚴信厚(**2**－**4589**・・293)の室名。

【小町玉川】1573 コマチギヨクセン 武藏國の人。名は成。字は溫卿。通稱は雄八。號は玉川。文政年間の人。著に玉川百首・兩總風雅・自修編がある。〔近代著述目錄後編〕。

【小桐陰閣】1575 セウドウインカク 清、倪文蔚(**1**－**792**・・67)の室名。

【小讀書堆】1576 セウドクシヨタイ 清、顧之逵(**12**－**43689**・・272)の室名。

【小南栗齋】1577 コミナミリツサイ 江戶の人。名は寬。字は士栗。通稱は常八郞。號は栗齋・古學道人。官は壬生藩儒。萬延元年十月十日、歿す。年九十。著に江戶竹枝詞・江戶竹枝詞二編・經學文章論・四書談・崇議左袒・聖學・道德仁義說・栗齋詩稿・栗齋文稿・老易大數・和漢文明記がある。〔近代著述目錄後篇〕。

【小八梢魚】1579 クジラ 鯨をいふ。

【小幡太室】1580 ヲバタタイシツ 京都の人。名は文華。字は君英。通稱は杏仙。號は太室。龍草廬に師事し、醫を業とす。又、詩文に巧。著に太室詩集がある。〔慶長以來諸家著述目錄〕。

【小浮山人】1581 セウフサンジン 清、潘曾沂(**7**－**18236**・・194)の號。

【小拇指頭】1582 hsiao² mu³ chih² tʻou 小指。

【小謨觴館】1583 セウボシヤウクワン 清、彭兆蓀(**4**－**10003**・・194)の室名。

【小牧櫻泉】1584 コマキアウセン 鹿兒島の人。名は昌業。字は偉卿。號は櫻泉。橫山鶴汀・鹽谷宕陰に師事す。官は鹿兒島藩儒・太政官大書記官・內閣書記官長・奈良縣知事兼帝室博物館長・貴族院議員・錦雞閒祇候・宮內省御用掛・宮中顧問官。正三位勳二等。文學博士。經學は程朱を固守し、漢學をも陸王をも雜えなかつた。大正十一年十月二十五日、歿す。年八十。著に櫻泉文集・順聖公事蹟がある。

【小藥王廟】1587 セウヤクワウベウ 北京名所の一。東直門內路北に在る。〔燕京歲時記、小藥王廟北藥王廟〕小藥王廟、在二東直門內路北一、北藥王廟、在二舊鼓樓大街一、自二正月一起、每朔日望日、有二廟市一、市皆婦女零用之物、無二甚可一レ觀。

【小林西嶽】1589 コバヤシセイガク 出羽國の人。名は重德。一に重眞に作る。字は風卿。通稱は滿架・佐哲。號は西嶽。入江南溟に師事し、荻生徂徠の學を奉ず。官は秋田藩儒。安永八年、歿す。著に西嶽稿・大學定本必傳・論語古傳・論語集注辨誤がある。〔近代著述目錄後篇〕・〔慶長以來諸家著述目錄〕。

【小林東山】1590 コバヤシトウザン 號は東山。生地・歿年は未詳。著に書經古注諺解・詩經國字辨・列子國字解・論語集解圖辨・老子國字辨がある。〔慶長以來諸家著述目錄〕。

【小靈官廟】1591 セウレイクワンベウ 北京の近郊に在る觀音

廟。每月一日と十五日とに緣日があり、二月十九日は一年一回の大祭で、婦女の遊ぶ者が非常に多い。

【小爐兒匠】1592 hsiao^3 tu^2 erh chiang^4 鑄掛屋。

【小往大來】1593（セウユキダイキタル） 天氣が下降し地氣が上昇して、陰陽が相交り和す。小は小さく少い意で、之を人事に比すれば、臣下・小人・妻たる者。大は大きく多い意で、君上・君子・夫たる者。君は誠心もて臣下に任じ、臣下は誠を盡して君に事へれば、上下の志が通じ天下安泰である。〔易、泰〕泰、小往大來、吉亨、彖曰、泰、小往大來、吉亨、則是天地交而萬物通也、上下交而其志同也、內陽而外陰、內健而外順、內二君子一而外二小人一、君子道長、小人道消也。

【小畑詩山】1594（ヲバタシザン） 陸前國の人。名は行簡。字は居敬。通稱は良卓。號は詩山・眞隱・居敬堂。江戶に住し、醫を業とす。詩に巧。明治八年七月四日、歿す。年八十二。著に瘟疫論發揮・孝經・韓客筆盟・居敬堂隨筆・詩山遺稿・詩山雜咏・詩山詩草・詩山堂詩話・詩山堂叢書・詩山文草・熱病指揮・傷寒論精奧・傷寒論諺解・種子良法・雪月華咏・雪月奇談・說文・東海道中詩・難病發明・梅瘡祕訣・傍譯春秋左氏傳・百人一首詩咏・福惠全書校刊・漫遊詩草・孟子湯雪解・論語湯雪解がある。〔近代著述目錄後篇〕・〔慶長以來諸家著述目錄〕・〔國書解題〕。

【顧レ小失レ大】1595（セウヲカヘリミテダイヲウシナフ） 小利を思つて大利を失ふ。〔易林、賁之レ蒙〕顧レ小失レ大、福逃二墻外一。

【貪レ小失レ大】1595′（セウヲムサボリテダイヲウシナフ） 小利を貪つて大利を失ふ。貪二小利一失二大利一(1255)を見よ。

【小芋香山館】1596（セウウカウサンクワン） 清、李杭(**6**－**14459**··112)の室名。

【小永井小舟】1598（コナガヰセウシウ） 下總國の人。本姓は平野氏。諱は岳。字は君山。號は小舟。通稱は八郞。官は一橋侯侍講・名古屋藩儒。明治二十一年十二月、歿す。年六十。著に漢史一斑・無絃琴・獨鶴清唳・濠西小築・代畫小說・天放集・清史略若干卷・小舟廬詩文稿若干卷・論語講義がある。

〔慶長以來諸家著述目錄〕。

【小宮山桂軒】1599（コミヤマケイケン） 江戶の人。名は昌嶠。字は偉長。通稱は次郞右衞門・本次郞。號は桂軒・忍亭。林整字に師事す。官は水戶藩儒。享保十九年、歿す。年四十五。著に江都賦・音樂考・樂器考・韓客唱和・桂軒遺稿・私擬策がある。〔水戶文籍考〕。

【小宮山謙亭】1600（コミヤマケンテイ） 江戶の人。名は昌世。字は君延。通稱は杢之進。號は謙亭。太宰春臺に師事し、徂徠の學を奉ず。又、故實に精通す。歿年は未詳。著に享保小金御鹿狩圖・享保通鑑・享元聞見志・謙亭遺集・謙亭漫筆・東都事略・發蒙書柬式・有職玉の枝・龍溪小說がある。〔近代著述目錄後篇〕・〔慶長以來諸家著述目錄〕・〔國書解題〕。

【小宮山南梁】1601（コミヤマナンリヤウ） 水戶の人。名は昌玄。字は伯龜。通稱は綏介。號は南梁。小宮山楓軒・潤野秋齋に師事す。官は水戶藩儒・弘道館教授。後、東京に塾を開いて教授す。古事類苑の纂修に與り、又、帝國大學史料編纂官。明治二十九年十二月二十四日、歿す。年六十八。著に韓非子講義・古樵逸話・東京城建置考・東京地理志・德川太平記・南梁過夏錄・南梁剳記・南梁年錄・二苑紀略・抱月廬詩存・吹上訪古錄・暮朝典故叢鈔・義花庵雜著・老子・吳子・孫子・列子講義がある。〔水戶文籍考〕。

【小宮山楓軒】1602（コミヤマフウケン） 水戶の人。名は昌秀。字は子寶。通稱は造酒之介・次郞右衞門。號は楓軒。立原翠軒に師事す。官は水戶藩儒・文公侍讀・郡宰・留主・市尹・側用人。博覽にして典故に精通す。其の郡宰の任に在るや、勸農を以て自ら任じ、治績大いに擧がる。天保十一年三月二日、歿す。年七十七。著に赤人考・異稱日本傳補遺・威公年譜・威公採餘・盈筐錄・續盈筐錄・閱書日錄・江戶日記・燕石錄・歐魚表・九族圖考・耆舊得聞・義公年譜・義公年譜採餘・近聞復讎記・懷寶日牘・黃簡編・郡官年表・皇事記・郡官轉除例・郡廳掌記・貫針錄・貫針續錄・元寇始末・諼草小言・憲法記・御三家記・小宮山氏家集・小宅氏存笥稿・御陵記・三量管見・重修投化記・實賓錄・師貞吉記・珠塵・朱文恭遺事・史林年表・水城金鑑・水城金鑑補遺・垂統紀事・垂統大記・水府志料(後稱、水戶領地理誌・御料地理誌)・水府志料附錄・水府志料續錄・西州投化記・井田集覽・旌表錄・消簡錄・大典質疑・多能・天保年記・德潤遺事增補・日本史異名抄・日本史人名抄・農政座右・船渡西域記・八代考證・常陸三家譜・楓軒記談・楓軒偶記・楓軒史料・楓軒史料二集・楓軒叢記・楓軒年錄・楓軒文稿・水戶地方考・浴溫泉記・吉田神社考・落英捃摭・良公就藩記がある。〔水戶文籍考〕。

【小西涯居士】1603（セウセイガイコジ） 清、法式善(**6**－**17290**··374)の號。

【小西湖漁者】1604（セウセイコギヨシヤ） 明、錢鈞(**11**－**40563**··55)の號。

【小停雲山館】1605（セウテイウンサンクワン） 清、洪頤煊(**6**－**17402**··219)の室名。

【小八千卷樓】1606（セウハツセンクワンロウ） 清、丁丙(**1**－**2**··185)の室名。

【小野寺鳳谷】1607（ヲノデラホウコク） 陸奧國の人。名は謙篤。字は君鳴。通稱は謙治・謙吉。號は鳳谷。初、志田郡松山邑主茂庭氏の世臣。後、仙臺藩儒・養賢堂教授。慶應二年四月十三日、歿す。年五十七。著に石卷港圖・蝦夷圖・海防策・鑛山小誌・茂庭氏傳記・西遊記・仙臺孝義錄・仙臺復讐傳・東藩野乘・東海蝦夷・海程圖・鳳谷詩文集・北遊日箋・松島圖・耶馬溪圖がある。〔慶長以來諸家著述目錄〕。

【小嫏嬛福地】1608（セウラウクワンフクチ） 清、張燮(**4**－**9812**··485)の室名。

【小琅環仙館】1609（セウラウクワンセンクワン） 清、阮元(**11**－**41569**··13)の室名。

【小笠原雲溪】1610（ヲガサハラウンケイ） 山城國の人。名は龍麟。字は子魯。通稱は玄蕃。號は雲溪。略稱は笠原雲溪、原雲溪。伊藤仁齋に師事す。詩名一世に高く、來り學ぶ者日に多し。享保年中、年六十餘にして歿す。著に詩法入門・千家詩・桐葉編・桐葉編附錄・唐詩法律・唐詩訓解がある。〔先哲叢談續、三〕・〔近代著述目錄後篇〕。

【小笠原冠山】1611（ヲガサハラクワンザン） 肥前國の人。名は謙。字は益卿。通稱は仲。號は冠山。山本北山に師事す。文政四年歿す、年五十九。著に學庸愚解・閒散錄・閒散續錄・五象小言・周易集解補注・周易象義約說・周易選說・談易隨筆・樂易堂雜抄・李氏易解補・論孟獨見がある。〔近代著述目錄後篇〕・〔慶長以來諸家著述目錄〕。

【小笠原敬齋】1612（ヲガサハラケイサイ） 播磨國の人。名は棟敬。字は義卿。通稱は敬二郞。號は敬齋・直方軒・白馬山人。小倉藩主棟幹の弟。學校を掌り、藩政に參與す。經學は程朱を宗とす。文久三年九月十四日歿す、年三十六。著に強國要議・擎天管語・詩文稿・新策辨がある。〔楠本碩水選傳〕。

【小綠天菴僧】1613（セウリヨクテンアンソウ） 清、達受(**11**－**39011**··65)の號。

【小玲瓏山館】1614（セウレイロウサンクワン） 清、馬曰琯(**12**－**44572**··700)の亭名。

【小玲瓏山樵】1615（セウレイロウサンセウ） 清、楊鳳苞(**6**－**15112**··785)の號。

【小鹿觸二心頭一】1616（セウロクシントウニフル） 胸がどきどきする。〔通俗編、獸畜、小鹿觸二心頭一〕稗編、梁武帝相貌威嚴、侯景入見、出曰、爲レ帝迫困、于レ斯見レ之、汗濕二衣襟一、若三小鹿之觸二吾心頭一。

【小雲石脫忽憐】1617（セウウンセキダツコツリン） 元、畏吾の人。太祖の時、其の父と共に來り歸し、回回國を征し、睿宗に潛邸に事へて本路斷事官となる。〔元史、一百三十四〕。

【小胡盧山書屋】1618（セウコロサンシヨヲク） 清、馬思贊(**12**－**44572**··797)の室名。

【小長蘆舊史氏】1619（セウチヤウロキウシシ） 清、馮登府(**12**－**44579**··275)の號。

【小不レ忍亂二大謀一】1620（セウシノバザレバタイボウヲミダル） 小事を忍ぶことができなければ、大事を成しとげることはできない。〔論語、衞靈公〕巧言亂レ德、小不レ忍、則亂二大謀一。〔集注〕小不レ忍、如二婦人之仁、匹夫之勇一皆是。

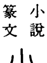
【小逆在レ心而久福在レ國】1621（セウギヤクココロニアルモキウフククニニアリ） 諫言といふものは、一時は小癪と心に思ふけれど、それを忍べば國に永久の幸福を來す。〔韓非子、安危〕聖人之救二危國一也、以レ忠拂レ耳、云云、故小逆在レ心、而久福在レ國。

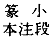
一畫

【尐】 7474

㊀セツ セチ 〔集韻〕子列切 屑

㊁シツ シチ 〔集韻〕子悉切 質


小篆（說文）

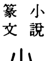

小篆（段注本）

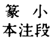
㊀❶**すくない**。〔說文〕尐、少也、从レ小ㄟ聲、讀若レ輟。❷**ちひさい**。〔玉篇〕尐、小也。❸**かく**。少なくする。節(**8−26243**)に通ず。〔六書本義〕尐、少レ之也、今借レ節。〔正字通〕尐、當是節損義、爲二撙尐之尐一、經史炏从レ節。㊁**蟲の名**。あやのある雌蟬。或は蚻(**10−32906**)に作る。〔方言、十一〕蟬有レ文者、謂二之蜻蜻一、其雌蜻、謂二之尐一。〔集韻〕尐、或从レ虫。

【少】 7475

㊀セウ 〔集韻〕始紹切 ㄕㄠˇ shao³ 篠

㊁セウ 〔集韻〕失照切 ㄕㄠˋ shao⁴ 嘯


小篆（說文）


小篆（段注本）

㊀❶**すくない**。すこし。〔說文〕少、不レ多也、从レ小丿聲。〔易、繫辭下〕陽卦多、〔注〕夫少者、多之所レ宗。❷**すこしく**。わづか。やや。〔儀禮、鄕射禮〕賓少進。〔注〕少進、差在レ前也。〔國語、周語下〕少光二王室一。〔注〕少、猶レ裁也。❸**すくなしとする**。不足に思ふ。〔史記、曹相國世家〕豈少レ朕與。〔注〕索隱曰、少者、不レ足之詞。❹**そしる**。**かろんずる**。〔正字通〕少、訾レ人曰レ少、猶二稱レ人曰一レ多之也。〔史記、蘇秦傳〕素習二知蘇秦一、皆少レ之。〔注〕索隱曰、劉氏云、少、謂レ輕レ之。〔晉書、王濟傳〕儕類以レ此少レ之。❺**しばらく**。しばらくする。しばらくあつて。〔孟子、萬章上〕少則洋洋焉。〔疏〕少頃則洋洋然。❻**おとる**。〔管子、海王〕大男食鹽五升少半。〔注〕少半、猶二劣薄一也。❼**かすか**。**おとろへる**。〔太玄經、玄衝〕少、微也。❽**へる**。〔後漢書、章帝紀〕墾田減少。❾**かく**。〔史記、平原君傳〕約下與二食客門下二十人一偕上、不二外索一、今少二一人一。〔王維、九月九日、山中憶二兄弟一詩〕遍插二茱萸一少二一人一。㊁❶**をさない**。〔玉篇〕少、幼也。〔國語、晉語七〕午之少也。〔注〕少、穉也。❷**わかい**。〔左氏、昭、三十〕敝邑之少卿也。〔注〕少、年少也。〔南史、劉苞傳〕苞少好レ學。❸**三十以前**。〔論語、季氏〕少之時、血氣未レ定。〔皇疏〕少、謂二三十以前一也。❹**わかもの**。**こども**。〔晉書、王羲之傳〕王氏諸少皆佳。❺**そへ**。**つぎ**。〔書、周官〕少師・少傅・少保。〔傳〕此三官、名曰二三孤一。〔疏〕以レ孤副二貳三公一。❻**ちひさい**。小(**4−7473**)に通ず。〔左氏、定、十四〕從レ我而朝二少君一。〔釋文〕少君、本亦作二小君一。〔左思、蜀都賦〕亞以二少城一。〔注〕劉曰、少城、小城也。❼**姓**。〔萬姓統譜〕少、少昊之後。〔正字通〕少、姓、漢下邳令少年唯。邦**せう**。㋑諸省の次官。大輔に次ぐ少輔の意。㋺大寶の制で三歲以上十六歲以下をいふ。少子。〔戶令〕凡男女三歲以下爲レ黃、十六以下爲レ少。

名乘　マレ。ヲ。

參考　少(**8−16254**)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕少音撻、步字从レ此。少、多少・老少。

【少阿】1 セウア　王莽の時の官名。〔漢書、王莽傳上〕少阿羲和劉歆、與二博士諸儒七十八人一、皆曰、居攝之義、所下以統二立天功一、云云、安中輯海內上也。

【少安】2 セウアン　❶少しくやすらか。小安。〔蘇軾、論二養士一文〕此其所三以少安而不二卽亡一也。❷小事に安んずる。小安。〔左氏、昭、四〕晉君少安、不レ在二諸侯一。〔注〕安二於少小一。❸明、謝東山(**10−35827**‥343)の字。

【少菴】3 セウアン　清、永珵(**6−17088**‥146)の號。

【少伊】4 セウイ　宋、許景衡(**10−35298**‥272)の字。

【少姨】5 セウイ　少室山の神の名。〔楊炯、少室山少姨廟碑〕臣謹按、少姨廟者、則漢書地理志、嵩高少室之廟也、其神爲二婦人像一者、則故老相傳云、啓母、塗山之妹也。

【少尉】6 セウヰ　❶典史の古稱。知縣の屬官。〔清國行政法汎論、行政區劃及地方官廳、官職古名〕典史、捕廳・右堂・少尉・少尹・廉捕・少府。❷舊制の陸海軍の士官の一階級の名。將校中の最下位。

【少友】7 セウイウ　幼い友。年若の友。小友。〔海錄碎事、人事、朋友〕孔融謂二太史慈一曰、卿吾之少友也。

【少有】8 shao² yu³　あまりない。稀にある。

【少游】9 セウイウ　字號。❶宋、秦觀(**8−24995**‥68)の字。❷宋、鍾佃(**11−40672**‥85)の字。❸清、秦光第(**8−24995**‥212)の字。

『不レ愧二少游一』10 セウイウニハヂズ　足るを知つて求めることなきをいふ。少游は後漢の馬援の弟の名。〔書言故事、自足類〕知レ足無レ求、曰下不レ愧二少游一足矣上、漢馬援弟少游云、士生二一世一、但取二衣食纔足一、乘二下澤車一、騎二欵段馬一、使三鄉里稱爲二善人一足矣、致レ求二贏餘一苦耳。

【少逸】11 セウイツ　後梁、張策(**4−9812**‥327)の字。

【少尹】12 セウイン　官名。❶唐の開元以後、諸都に尹一人、少尹二人を置く。南宋の初、臨安府にも亦置き、後、廢す。俗に州縣の次官をいふ。〔資治通鑑、唐紀〕(順宗、永貞元年)以二倉部郎中判度支案陳諫一爲二河中少尹一。〔注〕唐諸都各置二尹一人、少尹二人一、從四品下、掌下貳二府州之事一、歲終則更次入計上。❷少詹事をいふ。〔唐書、百官志四上〕詹事府、太子詹事一人。〔注〕龍朔二年、曰二端尹府一、詹事曰二端尹一、小詹事曰二少尹一。

【少陰】13 セウイン　❶易で八の數をいふ。換言すれば、占ふ場合、筮竹が初一揲は五又は九、第二揲は四又は八、第三揲は四又は八が殘る。此の場合、二回は數が少く、一回は數の多い時(五・四・八、又は四・四・九)。くはしくは老陽(**9−28842**‥429)を見よ。〔易、繫辭上、十有八變而成レ卦、疏〕正義曰、十有八變而成レ卦者、每二一爻一有二三變一、謂二初一揲、不レ五則九、是一變也、第二揲不レ四則八、是二變也、第三揲、亦不レ四則八、是三變也一、云云、若兩少一多、爲二少陰一、謂下初與二二三之間一、或有レ四或有レ五而有中八也、或有二二箇四一而有二一箇九一、此爲二兩少一多一也。〔易學啓蒙〕兩儀之上、各生二一奇一耦一、而爲二二畫一者四、是謂二四象一、其位則太陽一、少陰二、少陽三、太陰四、其數則太陽九、少陰八、少陽七、太陰六。❷人體經脈の名。腎經をいふ。其の脈は小趾の下から起つて斜に足心に趨り、內踝の後に循つて上行し、脊を貫き膀胱に絡はる。〔素問、陰陽離合論〕太陰之後、名曰二少陰一、少陰根二起於涌泉一、名曰二陰中之少陰一。〔注〕少陰乃一陰初生之氣、故爲二陰中之少陰一。〔靈樞經、動輸〕黃帝曰、足少陰何因而動、岐伯曰、衝脈者、十二經之海也、與二少陰之大絡一、起二於腎下一、出二於氣街一、循二陰股內廉一、邪入二膕中一、循二脛骨內廉一、並二少陰之經一、下入二內踝之後一、入二足下一、其別者、邪入レ踝、出屬二跗上一、入二大指之間一、注二諸絡一、以溫二足脛一、此脈之常動者也。〔史記、倉公傳〕又灸二其少陰脈一。〔傷寒論〕少陰之爲レ病、脈微細、但欲レ寢也。❸相術家の語。右の眼瞼の端をいふ。流年運氣を見よ。

【少隱】14 セウイン　宋、周紫芝(**2−3441**‥692)の字。

【少迂】15 セウウ　字號。❶清、袁沛(**10−34152**‥125)の字。❷清、孫銓(**3−6987**‥200)の號。

【少雨】16 セウウ　すこしの雨。こさめ。又、雨が少い。小雨。〔北史、附國傳〕其土高、氣候涼、多レ風少レ雨。

【少雲】17 セウウン　字號。❶宋、丁世雄(**1−2**‥278)の字。❷清、余鵬翀(**1−515**‥123)の字。

【少蘊】18 セウウン　宋、葉夢得(**9−31387**‥271)の字。

【少英】19 セウエイ　後漢、魏朗(**12−45872**‥143)の字。

【少穎】20 セウエイ　宋、林之奇(**6−14551**‥337)の字。

【少焉】21 シバラク　❶しばらくして。暫時。〔蘇軾、前赤壁賦〕少焉、月出二於東山之上一。❷病氣がすこしな

ほる。〔五代史、雜傳〕疾少焉、以爲二左衞大將軍一。

【少翁】22セウヲウ ❶字號。㋑漢、韋玄成(12−43108··182)の字。㋺漢、貢禹(10−36665··2)の字。❷漢、籍少公(8−26676··30)の一名。

【少音】23セウオン 漢、王吉(7−20823··226)の字。

【少恩】24セウオン 恩情が少ない。恩情を缺いてゐる。〔史記、老莊申韓傳贊〕引二繩墨一、切二事情一、明二是非一、其極、慘礉少レ恩。〔史記、商君傳贊〕亦足三發二明商君之少レ恩矣。〔論衡、雷虛〕是天少レ恩而人多レ惠也。

【少溫】25セウヲン 唐、李陽冰(6−14459··1968)の字。

【少嘉】26セウカ 宋、何大猷(1−511··329)の字。

【少海】27セウカイ ❶天子を大海に比し、太子を少海に比す。〔海錄碎事、帝王、儲嗣〕天子比二大海一、太子比二少海一。〔常袞、代宗讓二皇太子一表〕取二法於地一、覗二少海之朝宗一。❷東方の海の名。〔淮南子、墬形訓〕東方曰二大渚一、曰二少海一。〔山海經、東山經〕無皐之山、南望二幼海一。〔注〕卽少海也、淮南子曰、東方有レ渚曰二少海一。❸明、任瀚(1−416··32)の字。

【少偕】28セウカイ 明、李時行(6−14459··1351)の字。

【少開】29セウカイ 支出額の甚だ少いこと。〔六部成語、戶部、少開、注解〕開銷之數短少也。

【少艾】30セウガイ わかくて美しい。又、その人。男色・女色の兩方にいふ。幼艾。〔說文通訓定聲〕艾、叚借爲レ外、按、孟子、則慕二少艾一、晉語、國君好レ艾大夫殆、好レ內適子殆、齊策、王不三以與二工、乃與二幼艾一、楚辭少司命、從二長劍一兮擁二幼艾一、皆卽內嬖外嬖之外、男色也。〔孟子、萬章上〕人少則慕二父母一、知二好色一則慕二少艾一。〔注〕人少、年少也、艾、美好也。〔集注〕楚辭・戰國策、所謂幼艾、義與レ此同。

【少愷】31セウガイ 清、王焯(7−20823··544)の字。

【少好】32セウカウ ❶少ないものを立派にする。〔齊民要術、雜說〕凡人家營レ田、須レ量二己力一、寧可二少好一、不レ可二多惡一。❷このみをすくなくする。〔王令、答二東微之索一詩〕世味久已諳、多レ惡竟少レ好。❸若くて美しいさま。〔詩、周南、桃夭、桃之夭夭、集傳〕夭夭、少好貌。

【少岡】33セウカウ 明、謝皐(10−35827··196)の字。

【少昊】34セウカウ 上古の帝。金天氏。名は玄囂、又は摯。帝摯ともいふ。黃帝の子、母は嫘祖。太昊庖犧氏の法を修めたので少昊といふ。其の卽位の時、鳳鳥が現れたので、官に名づけるに鳥名を以てした。金德を以て王となつたので、後世、秋を司る神とす。窮桑に邑して窮桑氏と號し、青陽に國して青陽氏といひ、雲陽に葬つて雲陽氏といふ。曲阜に都す。在位八十四年。一に少皞に作る。〔越絕書、計倪內經〕故少昊治二西方一、蚩尤佐レ之。〔孔安國、尙書序〕少昊・顓頊・高辛・唐虞之書、謂二之五典一。〔漢書、古今人表〕少昊帝金天氏。〔路史、疏仡紀〕小昊、青陽氏、紀姓名質、是爲レ摯。〔注〕少昊幣文作レ小、周書亦作二小顥一。〔劉恕外紀〕五帝少昊金天氏、名摯、姓己、黃帝之子玄囂也。母曰二嫘祖一、感下大星如レ虹下二臨華渚一之祥上、而生レ帝、黃帝之世、降居二江水一、邑二於窮桑一、故號二窮桑氏一、國二於青陽一、因號二青陽氏一、以二金德一王二天下一、遂號二金天氏一、能修二太昊之法一、故曰二少昊一、都二曲阜一、少昊之立也、鳳鳥適至、因以レ鳥紀レ官、云云、少昊氏衰、九黎亂レ德、天下之人、相懼以レ神、相感以レ怪、家爲二巫史一、民瀆二于祀一、災禍薦至、帝崩、在位八十四年、壽一百歲、葬二於雲陽一、故後世又曰二雲陽氏一。

少皞金天氏
（三才圖會）

〖少昊陵〗35セウカウノリヨウ 金天氏の陵の名。帝、崩じて雲陽に葬らる。今、山東省曲阜縣の東北。〔劉恕外紀〕少昊氏、葬二於雲陽一、故後世又曰二雲陽氏一。〔注〕雲陽山名、在二曲阜縣一。〔兗州府志〕少昊陵、在二曲阜縣東北八里一。

【少香】36セウカウ 清、朱啓鴻(6−14424··733)の字。

【少校】37セウカウ 民國陸海軍の第六級。

【少康】38セウカウ ❶夏の王。帝相の子。奡が、帝相を殺すや、嗣いで立ち、奡を過に滅す。夏の統、中絕すること四十年、少康に至つて中興す。在位二十二年。〔史記、二〕。❷唐の高僧。蓮宗の第五祖。俗姓は周。睦州の烏龍山に至つて淨土道場を開く。時人、後善導といふ。〔佛祖統紀〕。

【少皞】39セウカウ 上古の帝。少昊に同じ。〔禮、月令〕孟秋之月、云云、其帝少皞。〔注〕少皞、金天氏。〔左氏、昭、十七〕(郯子曰)我高祖少皞摯之立也、鳳鳥適至、故紀二於鳥一、爲二鳥師一而鳥名。〔國語、楚語下〕及二少皞之衰一也、九黎亂レ德、神民雜糅、不レ可二方物一。〔帝王世紀〕少皞帝、名摯、字青陽、姬姓也、降居二江水一、有二聖德一、邑二於窮桑一、以登二帝位一、都二曲阜一、故或謂二之窮桑一、卽圖讖所謂白帝朱宣者也、故稱二少皞一、號二金天氏一。

〖少皞司〗40セウカウシ 刑部をいふ。刑罰を主る官。〔稱謂錄、刑部、少皞司〕韓愈酬二鄆州馬尙書一詩、仍遷二少皞司一、注、秋帝少皞主レ刑、刑部古之秋官也。

【少客】41セウカク 位の低い客をいふ。下客。〔韓非子、內儲說上〕今臣君之少客也、夫從レ少正レ長、從レ賤治レ貴、而不レ得下操二其利害之柄一以制上レ之、此所二以亂一也。〔翼毳〕少客、猶レ云二下客一、云云、少長非二年之少長一、謂二坐位之上下一也。

【少鶴】42セウカク 字號。❶清、徐頲(4−10110··232)の字。❷清、李憲喬(6−14459··1142)の號。❸清、王拯(7−20823··609)の號。

〖少鶴山人〗43セウカクサンジン 明、朱顯槐(6−14424··753)の號。

【少額】44セウガク 少しばかりのたか。多額の對。

【少嶽】45セウガク 明、項元淇(12−43343··64)の號。

〖少嶽山人〗46セウガクサンジン 明、項元淇(12−43343··64)の號。

【少閑】47セウカン ❶すこしのひま。少閒に同じ。❷後漢、魏譚(12−45872··116)の字。

【少閒】48セウカン ❶すこしのひま。少頃。又、しばらくして。〔禮、曲禮上〕侍二坐於君子一、若有二告者一曰、少閒、願有レ復也。〔注〕言レ欲下須二少空閒一、有上レ所レ白也。❷病のやや癒えたこと。〔列子、周穆王〕疾並少閒。〔五代史、雜、孫德昭傳〕疾少閒、以爲二左衞大將軍一。❸少しのすきま。空罅。〔姑溪題跋、一、跋二塡伯筠書一〕戶外之屨、至レ無二少閒一。❹すこしくやすむ。〔國語、晉語八〕枝葉益長、本根益茂、是以難レ已也、今若大二其柯一、去二其枝葉一、絕二其本根一、可二以少閒一。

【少沂】49セウキ 清、伊念曾(1−432··170)の字。

【少季】50セウキ 漢、諸葛豐(10−35743··43)の字。

【少妓】51 shao^4 chi^4 雛妓。おしやく。半玉。小妓。

【少儀】52セウギ ❶唐代、禮部員外郎をいふ。〔避暑錄話〕唐人謂二禮部員外郎一爲二少儀一。❷禮記の篇名。〔禮、少儀、疏〕案、鄭目錄云、名曰二少儀一者、以三其記二相見及薦羞之少威儀一、少、猶レ小也、此於二別錄一屬二制度一。❸字號。㋑清、張鳳孫(4−9812··1516)の字。㋺清、閔鶚允(11−41251··44)の字。

〖少儀外傳〗53セウギグワイデン 書名。二卷。宋、呂祖謙撰。幼童の習ふべき禮を記す。〔四庫提要、子、儒家類〕。

【少汲】54セウキフ 宋、胡直孺(9−29400··561)の字。

【少彊】55セウキヤウ すこしのあまり。〔晉書、天文志〕黃道日之所レ行也、半在二赤道外一、半在二赤道內一、與二赤道一東交二于角五少弱一、西交二于奎十四少彊一。

【少宮】56セウキユウ ❶音樂の調子の名。宮の八度上の音。上宮ともいふ。清宮(7−17695··175)の❶に同じ。〔張協、七命〕啓二中黃之少宮一、發二蓐收之變商一。❷琴の第六絃をいふ。一に文絃ともいふ。〔詩名物疏〕琴有二五絃一、文王增二二絃一、曰二少宮・少商一。

【少許】57セウキヨ すこしばかり。少少許。〔陶潛、飮酒詩〕傾身營二一飽一、少許便有レ餘。〔世說新語、賞譽〕簡文道二王懷祖一、才既不レ長、於二榮利一又不レ淡、直以二眞率少許一、便足レ對二人多多許一。

【少虛】58セウキヨ 字號。❶宋、莫將(9−31078··36)の字。❷明、李萬實(6−14459··1874)の字。

【少玉】60セウギヨク 清、任玥(1−416··63)の字。

【少欽】61セウキン 明、朱賡(6−14424··81)の字。

【少愚】62セウグ 宋、張愈(4−9812··698)の字。

【少華】63セウクワ ❶山名。㋑江西省德興縣の東。一に三清山といふ。饒・信・衢三州に跨がり、巖洞幽奇、最高峯を玉京峯といひ、天氣清朗なれば匡廬・彭蠡を望む。㋺陝西省華縣の東南。太華と相連なつて稍〻低いから少華と名づく。東南

は秦嶺に接す。又、小華といふ。〔水經、渭水注〕華山西南有二少華山一也。〔元和志〕少華山、在二鄭縣東南十里一。〔宋史、神宗紀二〕熙寧五年、少華山崩。❷字號。㋑明、詹泮(10-35458・・33)の字。㋺清、溫常綬(7-17968・・267)の號。㋩清、張熙純(4-9812・・901)の號。❷清、李山(長洲の人)(6-14459・・363)の字。

【少華山人】64 セウクワサンジン　明、許宗魯(10-35298・・345)の號。

【少懷】65 セウクワイ　清、戴鴻慈(5-11685・・174)の字。

【少廣】66 セウクワウ　❶巖穴の名。一に山名。又、西方空界の名といふ。〔莊子、大宗師〕西王母得レ之坐二乎少廣一。〔釋文〕少廣、司馬云、穴名、崔云、山名、或云、西方空界之名。❷算法九章の一。開方の法。九章算術(1-167・・333)の❶を見よ。〔周禮、地官、保氏、六曰、九數、注〕鄭司農云、九數、方田・粟米・差分・少廣・商功・均輸・方程・贏不足・旁要。〔義疏〕少廣以御二積冪方員一。

【少廣補遺】67 セウクワウホヰ　書名。一卷。清、陳世仁撰。算法の書。一面尖堆・方底・三角底・六角底・尖堆・各半堆等の題を以て十二法となし、又、抽奇・抽偶の諸目あり。〔四庫提要、子、天文算法類〕

【少宦】68 セウクワン　若いときから仕官する。〔史記、蒙恬傳〕毅對曰、以レ臣不レ能レ得二先主之意一、則臣少宦、順幸沒レ世、可レ謂レ知レ意矣。

【少換】69 shao³ huan⁴　安く兩換する。

【少君】70 セウクン　❶諸侯の夫人をいふ。小君(4-7473・・315)に同じ。〔左氏、定、十四〕從レ我而朝二少君一。〔疏〕少君、猶二小君一也、君爲二大君一、夫人爲二小君一。❷をさない君主。少主。幼君。〔左氏、哀、六〕少君不レ可二以訪一、是以求二長君一。❸漢の方士の名。少君術を見よ。❹字號。㋑漢、蔡千秋(9-31818・・207)の字。㋺漢、鄭寛中(11-39647・・350)の字。㋩漢、竇廣國(8-25695・・64)の字。㋥漢、翼奉(9-28818・・61)の字。㋭後漢、鮑宣の妻の字。〔後漢書、列女傳〕鮑宣妻者、桓氏之女也、字少君。㋬明、呉孺子(2-3365・・651)の字。❺shao³ chüen¹　他人の子をいふ。坊ちやん。

【少君術】71 セウクンジユツ　亡魂を招く法。少君は李姓、漢の方士で能く招魂の術を行ふ。〔漢武帝內傳〕帝思二李夫人一、得二李少君之術一、以招二致其魂一。

【少頃】72 セウケイ　しばらく。少しの間。暫時。又、しばらくして。少しの間に。〔荀子、王制〕不レ可三少頃舍二禮義一之謂也。〔呂覽、重言〕少頃、東郭牙至。〔陸佃、商南亭記〕雲霞無レ定、其彩五色、少頃百變。

【少卿】73 セウケイ　❶大卿の副。小卿(4-7473・・335)に同じ。〔左氏、昭、三十〕敝邑之少卿也。❷官名。後魏、置く。各省次官の職。〔魏書、官氏志〕太和十五年十二月、置二少卿官一。〔事物紀原、九寺卿少部、少卿〕後魏官氏志云、太和十五年、初置二少卿一、以レ卿爲二大卿一。❸野鴨(11-40133・・3)の異稱。〔瑯嬛記〕鳧、一名少卿。❹字號。㋑漢、何比干(1-511・・358)の字。㋺漢、龔遂(12-48837・・37)の字。㋩漢、周燕(2-3441・・36)の字。㋥漢、周堪(2-3441・・75)の字。㋭漢、任安(1-416・・2)の字。㋬漢、丙吉(1-35・・3)の字。㋣漢、李陵(6-14459・・799)の字。㋠漢、劉辟疆(2-2224・・1314)の字。㋷後漢、郭丹(11-39474・・161)の字。㋦陳、程文季(8-25081・・285)の字。㋸清、曾鑄(5-14299・・82)の字。㋾清、傅澤鴻(1-939・・195)の字。

【少溪】74 セウケイ　明、王延陵(7-20823・・1206)の號。

【少溪主人】75 セウケイシユジン　明、項篤壽(12-43343・・82)の號。

【少憩】77 セウケイ　すこしやすむ。暫くやすむ。小憩。〔王惲、苦熱歎詩〕簟紋燎炎輝、側レ脅能少憩。

【少欠】78 shao³ ch'ien⁴　不足する。缺乏する。

【少見】79 セウケン　❶見聞の少いこと。〔荀子、脩身〕少見曰レ陋。〔漢書、匡衡傳〕寡聞少見。❷shao³ chien⁴　久しくお目にかからない。御無沙汰してゐる。

【少見多怪】80 セウケンタククワイ　見聞狹く、何事をも不思議に思ふこと。〔牟子〕牟子曰、諺云、少レ所レ見、多レ所レ怪、見二橐駝一謂二馬腫背一。

【少健】81 セウケン　年若く強健なこと。〔白居易、春寢詩〕細思少健日、甘寢常自恣。

【少譴】82 セウケン　僅かなとがめだて。小さな罪。小譴。〔晉書、向雄傳〕嘗以二非罪一笞レ雄、及三呉奮代レ毅爲二太守一、又以二少譴一繫二雄于獄一。

【少元】83 セウゲン　明、皇甫涍(8-22701・・221)の號。

【少言】84 セウゲン　ことばがすくない。寡言。〔後漢書、臧宮傳〕光武察二宮勤力少言一、甚親二納之一。〔陶潛、五柳先生傳〕閑靖少レ言、不レ慕二榮利一。

【少監】85 セウゲン　太宰府の判官。唐名は都督錄事・參軍事。〔職員令〕太宰府、云云、少監二人、掌同二大監一。

【少監物】86 セウケンモツ　中務省の職員。下位の監物。唐名は城門郎・文主監。〔職原抄〕中務省、監物、相當大從六位、少正七位下、唐名、城門郎、又、文主監。

【少嚴】87 セウゲン　宋、李彥仙(6-14459・・1198)の字。

【少姑】88 セウコ　婦が夫の庶母をいふ。〔爾雅、釋親〕婦、云云、謂二夫之庶母一爲二少姑一。〔郝懿行義疏〕因三夫有二母名一、故婦有二姑名一也。

【少姑爺】89 shao⁴ ku¹ yeh²　息子の娘の夫。

【少姑奶奶】90 shao⁴ ku¹ nai³ nai　息子の娘が嫁に行つて後の稱。

【少孤】91 セウコ　❶幼少の孤兒。又、幼少の時に孤兒になる。〔禮、檀弓上〕孔子少孤、不レ知二其墓一。〔韓愈、祭二十二郎一文〕嗚呼、吾少孤、及レ長不レ省二所怙一。❷晉、孟陋(3-6960・・285)の字。

【少寤】92 セウゴ　すこし了解する。〔郭璞、山海經序〕羣惑者、亦可二以少寤一乎。

【少公】93 セウコウ　唐代、縣尉(8-27784・・1)の別稱。〔容齋四筆、官稱別名〕唐人好以二他名一標二牓官稱一、云云、尉曰二少府・少公・少仙一。

【少候】94 shao³ hou⁴　❶しばし待つ。❷無沙汰する。

【少贛】95 セウコウ　後漢、鄭興(11-39647・・139)の字。

【少谷】96 セウコク　字號。❶明、周之冕(2-3441・・683)の字。❷明、張文介(4-9812・・1475)の號。❸明、鄭善夫(11-39647・・487)の號。

【少谷全集】97 セウコクゼンシフ　書名。二十一卷。明、鄭善夫撰。卷一は騷・賦・四五言古、卷二は五言古、卷三は七言古・五言律、卷四―六は五言律・五言排、卷七は七言律、卷八は七言律・七言排・五六七言絕、卷九は序、卷十は記、卷十一は傳、卷十二は誌銘、卷十三は祭文、卷十四は疏、卷十五は雜著、卷十六は跋、卷十七―二十は書、卷二十一は諸家の作つた墓誌銘集序等。〔明史、藝文志〕。

【少刻】98 セウコク　しばらくのあひだ。少時。暫時。又、しばらくして。〔水滸傳、十四回〕少刻、莊客捧二出盤饌酒食一。

【少懇】99 セウコン　すこしのねがひ。〔剪燈餘話、長安夜行錄〕某有二少懇一、欲三託レ公以白二於世一。

【少些】100 shao³ hsieh　すこし。わづか。些少。

【少佐】101 セウサ　舊陸海軍の武官。佐官の最下位。大尉の上に位す。

【少沙】102 セウサ　古の地名。〔管子、山國軌〕周壽陵而東至二少沙一者、中田也。

【少才】103 セウサイ　❶劣小の才能。僅かな才。〔新序、雜事一〕姦臣欺詐、空二虛府庫一、以二其少才一覆二塞其惡一、賢人逐、姦邪貴、而君不レ悟。❷宋、范子長(9-30834・・178)の字。

【少妻】104 セウサイ　妾をいふ。小妻(4-7473・・457)に同じ。〔後漢書、董卓傳〕卓朝服升レ車、既而馬驚墮レ泥、還入更レ衣、其少妻止レ之。〔魏志、胡質傳〕此士無レ讐、而有二少妻一所二以死一乎。〔陔餘叢考、如二夫人・小妻・傍妻・下妻・少妻・庶妻一〕小妻・傍妻・下妻・少妻・庶妻、皆妾之稱也。

【少采】105 セウサイ　天子の大采中、玄黃の二色を省いた他の三色を以て彩つた禮服。一說に、其の模樣の玉の敷物。大采(3-5831・・834)を見よ。〔國語、魯語下〕天子大采朝レ日、少采夕レ月。〔注〕或云、少采、黼衣也、昭謂、朝レ日以二五采一、則夕レ月其三采也。

【少宰】106 セウサイ　❶官名。㋑春秋の時の官名。もと楚の官。後、宋にも之を置く。大宰を輔けて國政を統理することを掌る。〔左氏、宣、十二〕楚少宰如二晉師一。〔注〕少宰、官名。〔左氏、成、十五〕向帶爲二太宰一、魚府爲二少宰一。㋺宋の徽宗の政和年中、尙書省の左僕射を改めて大宰といひ、右僕射を少宰といふ。〔宋史、職官志一〕政和中、詔曰、云云、仰惟二前代一、以二僕臣之賤一、充二宰相之任一、可下改二左僕射一爲二大宰一、右僕射爲中少宰上。㋩明・清では、吏部侍郎を呼んで少宰といふ。〔傳

習錄、中〕答二羅整庵少宰一書。㊁星の名。〔丹元子、步天歌〕小宰・上輔・次少輔。〔宋史、天文志二〕紫微垣東蕃八星、第二星爲二上宰一、三星曰二少宰一。〔注〕石氏云、少宰一星、少輔二星、三孤也。

【少壯】107 年がわかくて血氣さかんなこと。としわか。わかざかり。〔管子、問〕少壯而未レ勝二甲兵一者幾何人。〔列子、天瑞〕大化有レ四、嬰孩也、少壯也、老耄也、死亡也。〔漢書、戾太子劉據傳〕少壯詔受二公羊春秋一。〔後漢書、明德馬皇后紀〕吾少壯時、但慕二竹帛一、志不レ顧レ命。〔後漢書、魯女生傳〕魯女生數說二顯宗時事一甚明了、〔注〕漢武內傳曰、云云、初餌二胡麻及木一、絕レ穀八十餘年、日少壯、色如二桃花一。

〖少壯心〗108 少壯の時の心。血氣さかんな時の心。〔紀平洲、過二飲冠峯老人松水隱居一詩〕朱絃不レ改舊知音、白髮空嗟少壯心。

〖少壯有爲〗109 血氣旺盛で、將に大いに爲すあらんとすること。將來の活動を屬目すべき人のこと。

〖少壯幾時兮奈レ老何〗110 少壯の時は幾ばくもなく、直ちに老境に入るを奈何ともなしがたい。〔漢武帝、秋風辭〕歡樂極兮哀情多、少壯幾時兮奈レ老何。

〖少壯不二努力一老大徒傷悲〗111 少壯の時に勉強しなければ、老大に至つて、悲しんでも如何ともし難くなるだらう。〔古樂府、長歌行〕青青園中葵、朝露待レ日晞、陽春布二德澤一、萬物生二光輝一、常恐秋節至、焜黃華葉衰、百川東到レ海、何時復西歸、少壯不二努力一、老大徒傷悲。

【少滄】112 清、仇巨川(1—355··65)の字。

【少山】113 ㊀山名。山西省昔陽縣の西南。淮南子の揭戾山、水經注の漳山、鹿谷山、元和志の河逢山をいふ。〔山海經、北山經〕又東北百二十里曰二少山一、其上有二金玉一、其下有レ銅、淸漳之水出焉。㊁字號。㋑隋、杜臺卿(6—14477··362)の字。㋺明、戴鰲(5—11685··70)の號。

【少參】114 參議をいふ。〔稱謂錄、各道、少參〕李攀龍有下送三羅大參之任二山西一詩上、吳國倫有下送三徐行父少參赴二關內一詩上、案、大參卽參政、少參卽參議也。

【少算】115 shao^{3} suan^{4} 價を負ける。

【少士】116 shao^{4} shih^{4} 文官の官秩の一。中士の下に位する。

【少子】117 ㊀最も弱年の子。末の子。〔戰國、趙策〕張孟談乃行、其妻之レ楚、長子之レ韓、次子之レ魏、少子之レ齊、四國疑而謀敗。〔史記、孟嘗君傳〕田嬰者、齊威王少子。〔漢書、昭帝紀〕孝昭皇帝、武帝少子也。㊁書名。五卷。今は散佚して一卷のみ。南齊、張融撰。道佛を會通して、其の源を明かにせんとしたもの。〔玉函山房輯佚書、第八十八冊〕。㊂字號。㋑漢、胡常(9—29400··174)の字。㋺漢、白光(8—22678··323)の字。㋩後漢、承宮(5—11852··44)の字。

【少使】118 漢の女官の名。供使を主る。〔漢書、外戚傳序〕妾皆稱二夫人一、又有二美人・良人・八子・七子・長使・少使之號一焉、云云、少使視二四百石一、比二公乘一。

【少思】119 ㊀思慮を少くすること。〔文中子、事君〕子曰、惡レ衣薄レ食、少レ思寡レ欲、今人以爲レ詐、我則好レ詐焉。㊁思慮の淺いこと。〔資治通鑑、唐紀〕(憲宗、元和五年)居易言雖二少思一、志在レ納レ忠。〔注〕少思、猶二今人言レ欠二人思慮一也。

【少施】120 複姓。〔萬姓統譜〕少施、姬姓、魯惠公子施父之後。

【少師】121 ㊀官名。三孤の一。少傅・少保と共に三公に屬す。三公の貳。〔書、周官〕少師・少傅・少保、曰二三孤一。〔蔡傳〕孤、特也、三少雖二三公之貳一、而非二其屬官一、故曰レ孤。〔漢書、百官公卿表序〕又立二三少一爲二之副一、少師・少傅・少保。〔新書、傅職〕凡此之屬、少師之任也。㊁樂官。大師の次位。小師(4—7473··535)の㊀に同じ。〔儀禮、大射禮〕僕人師相二少師一。〔注〕大師・少師、工之長也。〔論語、微子〕少師陽、擊磬襄、入二於海一。〔集注〕少師、樂官之佐。㊂士の致仕した者をいふ。〔稱謂錄、紳、少師〕儀禮鄉飲酒禮、古者年七十而致仕者、大夫名曰二父師一、士名曰二少師一。㊃複姓。〔萬姓統譜〕少師、見二英賢傳一、少師慶魯人。

【少字】122 をさな名。小字(4—7473··549)の㊀に同じ。

【少次】123 しばらくとどまる。〔說苑、脩文〕日舍少次、制二十二管一。

【少兒】124 こども。小兒。〔方言、一〕朝鮮洌水之間、少兒泣而不レ止曰レ咺。〔注〕少兒、猶レ言二小兒一。

【少時】125 ㊀年少の時代。幼少の時。〔史記、荊軻傳〕其少時、與レ丹驩。〔漢書、楚元王傳〕少時嘗與二魯穆生・白生・申公一、俱受二詩於浮丘伯一。〔孔子家語、致思〕吾少時好レ學。㊁しばらく。暫時。少刻。〔資治通鑑、晉紀〕(安帝、隆安二年)雖二共事少時一、意好不レ協。〔注〕少時、言レ不二多時一也。〔戴叔倫、湘南卽事詩〕沅湘日夜東流去、不下爲二愁人一住少時上。

【少慈】126 宋、鄭應龍(11—39647··310)の字。

【少洲】127 明、馮惟訥(12—44579··161)の號。

【少修】128 明、袁中道(10—34152··230)の字。

【少溲】129 ゆばり。小便。〔國語、晉語四〕少二溲于豕牢一、而得二文王一。〔注〕少、小也、溲、便也。

【少室】130 ㊀山名。河南省登封縣の北、嵩山の西峯、太室山の西。潁水の發源地。達磨が九年間面壁した處。〔淮南子、墬形訓〕少室太室、在二冀州一。〔沈約、游二鐘山一詩應二西陽王教一〕少室邇二王城一。〔祖庭事苑〕嵩山少林、初祖面壁之處、西域記云、其山東爲二太室一、西謂二少室一、高八百六十丈、上方十里、少室與二太室一相望、但小耳。〔明一統志〕嵩山有二三尖峯一、東曰二太室一、西曰二少室一。㊁複姓。〔萬姓統譜〕少室、國語、少室周爲二趙簡子戎右一。

〖少室山人〗131 字號。㊀唐、李筌(6—14459··523)の號。㊁唐、李渤(6—14459··752)の號。

〖少室山房〗132 明、胡應麟(9—29400··410)の室名。

〖少室先生〗133 明、錢允治(11—40563··252)の號。

〖少室石闕銘〗134 河南省登封縣にあり、嵩山三闕の一。漢の安帝の時、朱寵の建てたもの。字體は篆書陽文。今、書銘は盡く泐して辨ぜられず、僅かに一石に諸人の爵里姓名數十字を存してゐる。此の石は啓母廟闕の姓名と同じものであるから、同時に立てたものであらう。〔金石文字記、少室神道石闕銘〕篆書、今在二登封縣西十里一、葉封嵩陽石刻記云、凡二十一行、行四字、其所レ列丞薛政等、與二啓母廟一同、其爲二一時所レ立無レ疑也。

〖少室山房類稿〗135 書名。一百二十卷。明、胡應麟撰。應麟は記誦の淹博を以て名高い。此の集、舊は寓燕・還越・計偕・巖栖・臥游・抱膝・三洞・兩都・蘭陰・畸園の諸集二十餘卷。清の朱彝尊の明詩綜によれば、別に邯鄲・華陽・養痾・婁江・白榆・湖上・青霞等の集がある。蓋し應麟在世中、隨作隨刻、別本として單行したものであらう。〔四庫提要、集、別集類〕。

〖少室山人索レ價高〗136 地步を占めることの高いこと。唐の李渤が少室山に隱れ、高官を以て招いたが應じなかつた故事。〔韓愈、寄二盧仝一詩〕勸下參二留守一謁中大尹上、言語纔及輒掩レ耳、水北山人得二名聲一、去年去作二幕下士一、水南山人又繼往、鞍馬僕從塞二閭里一、少室山人索レ價高、兩以二諫官一徵不レ起。〔注〕孫曰、李渤、字濬之、刻二志於學一、與二仲兄涉一偕隱二廬山一、久之徙二終南少室山一、元和元年、以二左拾遺一召、不レ至、四年、河南尹遣レ吏持レ詔敦促、又不レ赴、公爲二河南令一、遺二渤書一、譬說、渤善二公言一、始出家二于東都一。

〖少室山房筆叢正集〗137 書名。三十二卷、外に續集十六卷。明、胡應麟撰。大抵皆考證の文。其の目は、【正集】第一—三冊、經籍會通四卷。第四—六冊、史書佔畢六卷。第七・八冊、九流緒論三卷。第九・十冊、四部正僞三卷。第十一冊、三墳補逸二卷。第十二・十三冊、二酉綴遺三卷。第十四・十五冊、華陽博議二卷。第十六・十七冊、莊嶽委談二卷。第十八・十九冊、玉壺遐覽四卷。第二十冊、雙樹幼鈔三卷。【續集】第二十一—二十四冊、丹鉛新錄八卷。第二十五—二十八冊、藝休學山八卷。〔四庫提要、子、雜家類〕。

【少質】138 明、劉繪(2—2224··207)の字。

【少日】139 しばらく。わづかの日數。しばらくして。數日で。〔通鑑綱目、二十四〕少日自解歸。

【少習】140 ㊀年少の時習ふ。又、年少の時の

習慣。〔管子、小匡〕少而習焉、其心安焉、不見異物而遷焉。❷山名。陝西省商縣の東。今、武關の地。〔左氏、哀、四〕不然將通於少習以聽命。〔注〕少習、商縣武關也。〔江永、春秋地理考實〕武關在少習山下、故亦名少習。

〘少習若天性〙141 セウシフハテンセイノゴトシ　年少の時の習慣は、やがて天性のやうになつてしまふ。少成若天性(172)に同じ。

【少者】142 セウシヤ　わかいもの。又、己より十歳以上若いものをいふ。〔歐陽脩、吉州學記〕少者扶其羸老、壯者代其負荷於道路。〔朱子全書、禮〕少者、謂少於己十歳以下者。

【少匠】143 セウシヤウ　官名。唐、置く。建築・土木を掌る。少監。〔唐書、百官志三〕將作監、監一人從三品、少監二人從四品下、掌土木工匠之政。〔注〕大匠曰大監、少匠曰少監。

【少商】144 セウシヤウ　❶琴の音律の名。〔帝王世紀〕神農始作五絃之琴、以具宮・商・角・徵・羽之音、至文王復增二絃、曰少宮・少商。〔夢溪筆談、樂律二〕如今之調琴、須先用管色合字定宮絃、乃以宮絃下生徵、徵絃商上、上下相生、終於少商。❷人體の經穴の名。大指の內側の端、爪甲の近くにあり。〔靈樞經、本輸篇〕肺脈出於少商、少商者、手大指端內側也。〔靈樞經、經脉、注〕分寸歌、少商大指端內側、相去爪甲韭葉許。

【少將】145 セウシヤウ　❶主將の下にあつて一部隊の軍を指揮するもの。小將(**4－7473**‥609)に同じ。〔史記、吳王濞傳〕吳少將桓將軍說王曰、吳多步兵。❷㋑古の近衛府の次官。中將の次位。〔倭名類聚抄、五〕次官、近衛府曰中少將已上皆須介。㋺舊陸海軍の武官。將官の最下位。大佐の上に位する。

【少章】146 セウシヤウ　字號。❶宋、朱弁(**6－14424**‥544)の字。❷宋、秦觀(**8－24995**‥79)の字。❸清、陳景雲(**11－41698**‥783)の字。

【少城】147 セウジヤウ　城の名。今の四川省成都の西城で、東は太城の西墉に接す。秦の惠王の二十七年、張儀が太城を築き、後一年、又少城を築く。周圍四里、清の康熙五十七年、重ねて築く。周圍四里、清の滿洲駐防の居る所。〔左思、蜀都賦〕亞以少城、接於其西。〔華陽國志〕秦惠王二十七年、張儀與張若城成都。〔太平寰宇記〕少城、在縣南一百步、李膺記云、與太城同築、惟西南北三壁、其東卽太城之西墉、故蜀都賦云、亞以少城、接乎其西。

【少襄】148 セウジヤウ　明、龐尙鴻(**12－48824**‥56)の字。

【少弱】149 セウジヤク　すこし不足。〔晉書、天文志上〕黃道日之所行也、半在赤道外、半在赤道內、與赤道東交於角五少弱、西交於奎十四少彊。

【少主】150 セウシユ　幼少の君主。少君。〔史記、汲黯傳〕輔少主、守城深堅。〔漢書、蕭望之傳〕願以漢外孫元貴靡爲嗣、得復尙少主。

〘少主鈴〙151 セウシユレイ　中務省の職員。大主鈴の次位。唐名は符寶郎。〔職原抄〕中務省、主鈴、大少、唐名、符寶郎。

【少須】152 セウシユ　しばらく待つ。〔左氏、成、二〕子不少須、衆懼盡。〔會箋〕須之言、待也。

【少孺】153 セウジユ　漢、枚皐(**6－14554**‥2)の字。

【少衆】154 セウシユウ　六韜、豹韜の篇名。

【少從】155 セウジユウ　❶使者に隨つて外國に行く者。〔史記、大宛傳〕其少從、率多進熟於天子。〔注〕集解曰、漢書音義曰、少從、不如計也、或云、從行之微者也。❷明、盧龍雲(**8－23050**‥294)の字。❸令制に於ける、親王・內親王家の職名。大從の下。大從と共に家事を檢校することを掌る。〔令義解、家令職員〕親王・內親王准此、云云、少從一人、掌同大從。〔職原抄〕親王執柄大臣家、大從・少從。❹shao³ ts'ung² 海軍士官候補生。

【少述】156 セウジユツ　宋、孫侔(**3－6987**‥276)の字。

【少胥】157 セウシヨ　しばらく待つ。〔管子、大匡〕管仲曰、姑少胥、其自及也。〔注〕胥、待也。

【少處】158 shao³ ch'u⁴ すくない。

【少食】159 セウシヨク　すこし食ふ。少量の食。小食。〔墨子、兼愛中〕乃若夫少食惡衣、殺身而爲名、此天下百姓之所皆難也。〔管子、地員〕其人輕直、省事少食。

【少稷】160 セウシヨク　宋、尹穡(**4－7631**‥52)の字。

【少身】161 セウシン　祿高の少いこと。身代の小さいこと。又、其の人。小祿。小身。大身(**3－5831**‥119)の對。〔甲陽軍鑑、二〕もとより家康は少身にて御入り候。

【少辛】162 セウシン　藥草の名。細辛(**8－27344**‥183)の異名。〔廣雅、釋草〕少辛、細辛也。〔山海經、中山經〕浮戲之山、汜水出焉、而北流注於河、其東有谷、因名曰蛇谷、上多少辛。〔注〕細辛也。

【少進】163 セウシン　すこしすすむ。すこしすすめる。〔西廂記、張君瑞慶團圞雜劇〕飮食少進。

【少寢】164 セウシン　燕息の室。小寢(**4－7473**‥710)に同じ。〔左氏、哀、二十六〕乃盟少寢之庭。〔會箋〕少寢、小寢也、猶小君曰少君。

【少嵩】165 セウスウ　宋の高僧。字は亞愚。著に漁父詞集句がある。〔四庫提要、一百七十四〕。

【少數】166 セウスウ　すくない數。大數(**3－5831**‥1274)の對。

【少正】167 セウセイ　❶副官。次官。〔書、酒誥〕厥誥毖庶邦庶士、越少正御事、朝夕曰、祀茲酒。〔蔡傳〕少正、官之副貳也。❷春秋時代の官名。執政に亞ぐ官。鄭の子產、嘗て此の官となる。〔左氏、襄、二十二〕鄭人使少正公孫僑對。〔注〕少正、鄭卿官也、公孫僑、子產。〔會箋〕少正之職、蓋亞於執政、古正與政通。❸複姓。〔萬姓統譜〕少正、魯有大夫少正卯、仲尼誅之。〔通志、氏族略、以官爲氏〕少生氏、韓詩內傳、魯大夫有少正卯、仲尼誅之。

〘少正卯〙168 セウセイバウ　春秋、魯の人。天下の五大惡を兼ね、孔子が魯の相となり、政を攝するや、政を亂すものとして誅した。〔史記、孔子世家〕於是誅魯大夫亂政者少正卯。〔孔子家語、始誅〕天下有大惡者五、而盜竊不與焉、一曰、心逆而險、二曰、行僻而堅、三曰、言僞而辨、四曰、記醜而博、五曰、順非而澤、云云、少正卯皆兼有之。

〘少正御事〙169 セウセイギヨジ　各官の副長官。〔書、酒誥〕厥誥毖庶邦庶士、越少正御事。

【少西】170 セウセイ　複姓。〔續通志、氏族略、複姓〕少西、姓氏辨證曰、出自嬀姓、陳公子夏之後、別爲少西氏。

【少成】171 セウセイ　年少の時のならはし。少成若天性を見よ。

〘少成若天性〙172 セウセイハテンセイノゴトシ　年少の時の習慣は、やがて天性になる。少習若天性。〔大戴禮、保傅〕孔子曰、少成若性、習貫之爲常。〔新書、保傅〕少成如天性、習慣如自然。〔孔子家語、七十二弟子解〕少成則若性也、習慣若自然也。〔顏氏家訓、教子〕孔子云、少成若天性、習慣如自然、是也。

【少壻】173 セウセイ　年少のむこ。〔史記、蘇秦傳〕今燕雖弱小、卽秦王之少壻也。

【少霽】174 セウセイ　すこしくはれる。又、機嫌がすこし直る。小霽。〔宋史、范純仁傳〕純仁曰、輙所論、事與時也、非人也、哲宗爲之少霽。

【少小】175 セウセウ　年の若い人。年少。老大(**9－28842**‥276)の對。〔班固、與竇憲牋〕此大將軍少小時所服、今賜固。〔謝靈運、擬魏太子鄴中集詩、劉楨〕少小長東平。〔賀知章、回鄉偶書詩〕少小離家老大回、鄉音無改鬢毛催。〔白居易、琵琶行序〕自敍少小時歡樂事。

【少少】176 セウセウ　すこし。すこしばかり。わづか。些少。瑣小。小小。〔墨子、非攻下〕少少有神、來告曰、夏德大亂、往攻之。〔孔叢子、嘉言〕以少少之衆、立大大之功。〔後漢書、度尙傳〕所亡少少、何足介意。

〘少少許〙177 セウセウキヨ　すこしばかり。少許。〔通俗編、數目、少少許〕莊子以少少許、勝人多多許。

〘少少的〙178 shao³ shao tê 極めて小さい。

【少雪】179 セウセツ　すこしのゆき。こぶりの雪。又、雪が少い。〔唐書、五行志一〕長慶二年冬、少雪、水不氷凍、草木萌荑、如正月。

【少說】180 セウセツ　明、秦嘉楫(**8－24995**‥198)の字。

〘少說話〙181 shao³ shuo¹ hua⁴ ひかへ目に話す。

【少節】182 セウセツ　後漢、毛義(**6－16772**‥36)の字。

【少仙】183 セウセン　❶唐代、縣尉をいふ。〔容齋四筆、縣尉爲少仙〕杜詩有野望因過常少仙一篇、云云、縣尉謂之少府、而梅福爲尉、有神仙之稱、少仙二字、尤爲清雅、與今俗呼爲仙尉不侔矣。〔容齋四筆、官稱別名〕唐人好以他名標牓官稱、云云、尉曰少府・少公・少仙、此已見前筆。❷清、朱文治(**6－14424**‥983)の號。

【少泉】184 セウセン 字號。❶清、蔣珣(9－31820‥58)の字。❷清、田寶臣(7－21723‥411)の字。

【少荃】185 セウセン 清、李鴻章(6－14459‥1228)の字。

【少僊】186 セウセン 清、朱文治(6－14424‥983)の號。

【少詹】187 セウセン ❶官名。唐、置く。詹事府の佐官。〔事物紀原、持憲儲闈部、少詹〕唐始於㆓詹事府㆒置㆓少詹事一人㆒、以貳㆓詹事㆒。❷宋、丁希亮(1－2‥238)の字。

【少潛】188 セウセン 宋、丘耒(1－33‥110)の字。

【少選】189 セウセン しばらく。須臾。又、しばらくして。しばらくの閒に。〔呂覽、本味〕少選之閒而志在㆓流水㆒。〔注〕少選、須臾之閒也。〔呂覽、執一〕吳起默然不㆑對、少選曰、與㆑子。〔注〕少選、須臾也。〔晉書、郭奕傳〕少選復往。

【少錢】190 shao³ chien² ❶金を借りる。❷金が不足する。

【少宗】191 セウソウ 古の官名。〔稱謂錄、禮部、少宗〕逸周書嘗麥解、命㆓太宗㆒序㆓天時㆒、少宗祠㆓風雨百享㆒。

【少息】192 セウソク しばらく休息する。〔班固、西都賦〕草木塗㆑地、山淵反覆、蹂㆓躪其十二三㆒、乃拗㆑怒而少息。

【少卒】193 セウソツ 少數の兵。〔史記、魏世家〕趙不㆑聽、韓不㆑悅、以㆓其少卒㆒夜去。

【少待】194 shao³ tai⁴ しばらく待つ。

【少退】195 セウタイ すこし退く。〔儀禮、鄉飲酒禮〕主人坐取㆑爵實㆑之、賓之席前西北面獻㆑賓、賓西階上拜、主人少退、賓進受㆑爵以復㆑位。

【少戇】196 セウタウ すこしく愚かなこと。戇は、馬鹿正直で才の鈍いこと。〔漢書、周勃傳贊〕陳平智有㆑餘、王陵少戇、可㆓以佐㆑之。

【少男】197 セウダン 年少の男。〔易、說卦〕艮三索而得㆑男、故謂㆓之少男㆒。

〖少男風〗198 セウダンフウ 雨の降らんとする時、急に吹く風。雨の降らんとする前に吹く微風を、少女風と言ふに對す。〔魏志、管輅傳、注〕清河旱、倪輅言、樹上已有㆓少女微風㆒、樹閒又有㆓陰鳥和鳴㆒、又少男風起、衆鳥和翔、其應至矣、須臾果有㆓艮風鳴鳥㆒、日未㆑入、東南有㆓山雲樓起㆒。

【少知】199 セウチ 知惠の少ないこと。又、莊子に見える擬人名。〔莊子、則陽〕少知問㆓於大公調㆒曰、何謂㆓丘里之言㆒。〔疏〕智照狹劣、謂㆓之少知㆒。

【少冑】200 セウチウ 晉、馮紞(12－44579‥117)の字。

【少長】201 セウチャウ ❶年少者と年長者。〔左氏、隱、五〕辨㆓等列㆒、順㆓少長㆒。〔呂覽、審分〕少長相越、萬邪並起。〔王羲之、三月三日蘭亭詩序〕羣賢畢至、少長咸集。❷やや年たける。少しく生長する。〔漢書、匈奴傳〕兒能騎㆑羊、引㆑弓射㆓鳥鼠㆒、少長則射㆓狐兔㆒肉食。

〖少長有禮〗202 セウチャウレイアリ 長幼の閒に禮儀あること。〔左氏、僖、二十八〕少長有㆑禮、其可㆑用也。〔潘勖、冊㆓魏公九錫㆒文〕少長有㆑禮、上下咸和。

【少張】203 セウチャウ 後漢、許荆(10－35298‥66)の字。

【少中】204 セウチュウ 明、檀良翰(6－15632‥74)の字。

【少仲】205 セウチュウ 清、勒方錡(2－2386‥72)の號。

【少女】206 セウヂョ 年の若いをんな。をとめ。又、年少のむすめ。妹娘。〔易、說卦〕兌三索而得㆑女、故謂㆓之少女㆒。〔史記、趙世家〕翟以㆓其少女㆒妻㆓重耳㆒。〔淮南子、墬形訓〕少女建疵。〔後漢書、南蠻傳〕又妻以㆓少女㆒。

〖少女風〗207 セウヂョフウ 雨の降らんとする前に吹く微風。やはらかい風。少男風(198)を見よ。

【少通】208 セウツウ 漢、崔廣(4－8178‥58)の字。

【少弟】209 セウテイ 年若い弟。小弟。〔史記、楚元王世家〕楚元王劉交者、高祖之同母少弟也。〔漢書、卜式傳〕有㆓少弟壯㆒、式脫㆑身出、獨取㆓畜羊㆒百餘、田宅財物盡與㆑弟。

【少帝】210 セウテイ ❶年若い天子。〔李白、上皇西巡㆓南京㆒歌〕少帝長安開㆓紫極㆒、雙懸㆓日月㆒照㆓乾坤㆒。❷幼主の號。㋑前漢、第三代の帝。第四代の少帝と區別して少帝恭といふ。劉恭(2－2224‥180)を見よ。㋺前漢、第四代の帝。第三代の少帝と區別して少帝弘といふ。劉弘(2－2224‥275)を見よ。㋩後漢、第七代の帝。劉懿(2－2224‥6)を見よ。㋥後漢、第十四代の帝。劉辯(2－2224‥600)を見よ。㋭南朝宋、劉義符(2－2224‥798)をいふ。㋬五代晉、石重貴(8－24024‥992)をいふ。㋣安南陳朝の第十二王。順宗の長子。名は安火。黎季犛に簒奪せられて陳朝亡ぶ。〔欽定越史通鑑綱目、十二〕。

【少停】211 セウテイ しばし待つ。又、しばしとどまる。〔倪瓚、八月廿三日芙蓉花下酉㆓南宮岳山人㆒飲云云詩〕芙容著㆑花已爛熳、濁酒彈㆑琴聊少停。

【少禘】212 セウテイ 地名。春秋衞の地。〔左氏、哀、十二〕殯㆓於鄖㆒、葬㆓於少禘㆒。〔注〕鄖・少禘、皆衞地也。

【少典】213 セウテン ❶上古の人。有熊國の君。黃帝の父。一說に、國號。〔史記、五帝紀〕黃帝者、少典之子。〔注〕集解曰、譙周曰、有熊國君少典之子也、索隱曰、少典者、諸侯國號、非㆓人名㆒也、又按、國語云、少典娶㆓有蟜氏女㆒而生㆓黃帝・炎帝㆒、然則炎帝亦少典之子、炎黃二帝雖㆔則承㆓帝王代紀㆒、中閒凡隔㆓八帝五百餘年㆒、若以㆓少典㆒是父名、豈黃帝經㆓五百餘年㆒而始代㆓炎帝㆒、後爲㆓天子㆒乎、何其年之長也、又按、秦本紀云、顓頊氏之裔孫曰㆓女脩㆒、吞㆓玄鳥之卵㆒而生㆓大業㆒、大業娶㆓少典氏㆒而生㆓栢翳㆒、明少典是國號、非㆓人名㆒也、黃帝即少典氏後代之子孫。〔國語、晉語四〕昔少典取㆓于有蟜氏㆒、生㆓黃帝・炎帝㆒。〔注〕賈侍中云、少典、黃帝・炎帝之先、有蟜、諸侯也、炎帝、神農也、虞唐云、少典、黃帝・炎帝之父。〔揚雄、劇秦美新〕紹㆓少典之苗㆒、著㆓黃虞之裔㆒。〔注〕向曰、黃帝、少典之子也。❷太宰府の主典。大典の次官。〔官位令〕正八位、云云、太宰少典。

〖少典鑰〗214 セウテンヤク 中務省の職員。大典鑰の次位。唐名は門僕。〔職員令〕中務省、云云、少典鑰二人、掌同㆓大典鑰㆒。〔職原抄〕中務省、典鑰、大少、唐名、門僕。

【少度】215 セウド 宋、劉季裴(2－2224‥775)の字。

【少等】216 shao² têng³ しばらく待つ。

【少董】217 セウトウ 宋、畢良史(7－21829‥120)の字。

【少頭】218 shao³ t'ou² ねびき。減價。割引。

〖少頭缺尾〗219 shao³ t'ou² ch'üeh¹ wei³ 物の始と終とが缺けた。不完全な。

【少童】220 セウドウ ❶幼い子供。〔北史、李先傳〕年九十餘、顏如㆓少童㆒。❷ワタツミ 海を領する神。海神。〔日本書紀、神代紀上〕少童、此云㆓和多都美㆒。

〖少童命〗221 ワタツミノミコト 海神をいふ。

【少得】222 セウトク ❶すこしの利得。❷僅かな善德。〔續近思錄、小量者有㆓三病㆒〕自矜者、足㆓於少得㆒、不㆑能㆓遜志以進㆑德。

【少內】223 セウナイ 漢代の、幣賦を掌る所。〔周禮、天官、序官、職內、注〕職內主㆑入也、若㆔今之泉所㆑入、謂㆓之少內㆒。〔疏〕漢之少內、亦主㆓泉所㆑入、案、王氏漢官解云、小官嗇夫、各擅㆓其職㆒、謂㆓倉庫少內嗇夫之屬㆒、各自擅㆔其條理所㆓職主㆒。

〖少內記〗224 セウナイキ 中務省の職員。下位の內記。大內記の次位。詔勅を草し、禁中の動靜を錄す。能文の人、之に任ず。唐名は著作郎。〔類聚三代格、五〕太政官符、云云、少內記二人、右定㆓正七位上官㆒。〔職原抄〕中務省、內記、少二人、唐名、著作郎。

【少南】225 セウナン 字號。❶宋、陳鵬飛(11－41698‥1257)の字。❷明、陳謙壽(11－41698‥815)の號。❸明、龐尚鵬(12－48824‥57)の字。

【少貳】226 セウニ 古の太宰府の次官。大貳の次位。唐名は都督少卿。〔職原抄〕太宰府、少貳、唐名、都督少卿。

【少年】227 セウネン ❶年の若い者。わかもの。若年。〔戰國、秦策〕恆思有㆓悍少年㆒、請㆓與㆑叢博㆒。〔史記、淮陰侯傳〕淮陰屠中少年、有㆓侮㆑信者㆒。〔漢書、田儋傳〕儋陽爲㆑縛㆓其奴㆒、從㆓少年㆒之㆑廷、欲㆓謁殺㆑奴。〔江淹、別賦〕乃有㆓劍客慙㆑恩少年報㆑士。❷僅かな年月。〔後漢書、西南夷傳〕景毅爲㆓太守㆒、討㆑定之、毅初到㆑郡、米斛萬錢、漸以㆓仁恩㆒、少年閒、米至㆓數十㆒云。

〖少年游〗228 セウネンイウ 詞牌の名。又、曲牌の名。南曲は大石調引に入る。〔詞譜〕調見㆓珠玉集㆒、因㆘詞有㆗長似㆓少年時㆒句㆖、取以爲㆑名、樂章集注、林鍾商調、韓淲詞有㆓明窗・玉蠟・梅枝好句㆒、更名㆓玉蠟梅枝㆒、薩都剌詞名㆓小闌干㆒。〔古今詞譜〕黃鍾宮曲、林君復・蘇東坡、倶有㆑之、亦不㆓一體㆒、其更變倶在㆓換頭㆒也。

〖少年行〗229 セウネンカウ 樂府雜曲の歌辭。行は歌詞の一體。もと結客少年場行に本づく。多く肥馬に乘り、輕裘を衣、都大路を驅逐して樂しみを盡す少年を詠ず。其の後、唐の李白に少年行あり、又、梁の何遜等に長安少年行、唐の李益に漢宮少年行、崔國輔に長樂少年行、崔顥に渭城少年行、高適に邯鄲少年行がある。〔樂府詩集、雜曲歌辭、結客少年場行〕後漢書曰、祭遵嘗爲㆓部吏所㆑侵、結㆑客殺㆑人、曹植結客篇曰、結客少年

場、報レ怨洛北邙、樂府解題曰、結客少年場行、言三輕レ生重レ義、慷慨以立二功名一也、廣題曰、漢長安少年、殺レ吏受レ財報レ仇、相與探レ丸爲レ彈、探得二赤丸一斫二武吏一、探得二黑丸一殺二文吏一、尹賞爲二長安令一盡捕レ之、長安中爲レ之歌曰、何處求二子死一、桓東少年場、生時諒不レ謹、枯骨復何葬、按、結客少年場、言下少年時結二任俠客一、爲二遊樂之場一、終而無レ成、故作二此曲一也。〔李白、少年行〕擊レ筑飮二美酒一、劍歌易水湄。〔王維、少年行〕新豐美酒斗十千、咸陽遊俠多少年。〔王昌齡、少年行〕西陵俠少年、送レ客過二長亭一。

〖少年期〗230（セウネンキ） 七八歲から十四五歲までをいふ。

〖少年團〗231（セウネンダン） 嘗て小學校の上級生を中心として、地方的に組織せられた團體。訓練教育を主眼とする一種の社會教育團體。

〖少年場〗232（セウネンヂヤウ） 血氣盛で、俠氣に富んだ若者の集まる所。〔庾信、結客少年場行〕結客少年場、春風滿レ路香。

〖少年科第〗233 shao⁴ nien² k'ê¹ ti⁴ 少年の身で、科擧に及第すること。

〖少年易レ老學難レ成〗234（セウネンオイヤスクガクナリガタシ） 年月は過ぎ易く、學問は成就し難い。勸學詩の一句。〔朱熹、偶成詩〕少年易レ老學難レ成、一寸光陰不レ可レ輕、未レ覺池塘春草夢、階前梧葉已秋聲。

【少陪】235 shao³ p'ei² お暇致します。

【少梅】236（セウバイ） 字號。㊀清、載鑾元(10−38309‥85)の字。㊁清、瑞元(7−21131‥53)の號。

【少報】237 shao³ pao⁴ 實在高より少なく報告する。

【少房】238（セウバウ） 妾をいふ。〔黃縉、青樓居士鄭君墓銘〕娶二傳福一、字昌世、少房徐偉、字妙英、前レ君卒。〔稱謂錄、妾、少房〕宋濂撰方愚菴墓版、稱レ妾爲二少房一、黃梨洲金石要例載レ之。

【少望】239（セウバウ） すこしのぞみ。小さいのぞみ。〔史記、汲黯傳〕或尊用過レ之黯褊心、不レ能レ無二少望一。

【少白】240（セウハク） 字號。㊀宋、戚如琥(5−11594‥58)の字。㊁清、許正綬(10−35298‥331)の字。㊂清、周棠(2−3441‥354)の字。㊃清、孫琪(3−6987‥58)の字。㊄清、張宜尊(4−9812‥906)の號。㊅清、鄧傳密(11−39630‥186)の號。㊆清、潘諮(7−18236‥40)の字。

〖少白山人〗241（セウハクサンジン） 清、張宜尊(4−9812‥906)の號。

【少伯】242（セウハク） 字號。㊀春秋越、范蠡(9−30834‥131)の字。㊁唐、王昌齡(7−20823‥1631)の字。㊂清、張宜尊(4−9812‥906)の號。㊃清、鄧傳密(11−39630‥186)の號。

〖少伯山人〗243（セウハクサンジン） 清、張宜尊(4−9812‥906)の號。

【少帛】244（セウハク） 他色をまじへて織つたきぬ。雜帛。〔左氏、定、四〕分二康叔一以二大路・少帛・綪茷・旃旌、大呂、殷民七族、陶氏・施氏・繁氏・錡氏・樊氏・饑氏・終葵氏一。〔注〕少帛、雜帛也。

【少髮】245（セウハツ） 髮のすくないこと。〔易、說卦〕爲二寡髮一、〔疏〕如二人之少髮一、亦類二於此一、故爲二寡髮一也。〔新序、雜事二〕齊有二婦人一、云云、肥項少髮、折腰出胷、皮膚若レ漆。

【少半】246（セウハン） 三分の一。三分の二を大半といふ。〔史記、項羽紀〕漢有二天下大半一、〔注〕集解曰、韋昭曰、凡數三分有レ二、爲二大半一、一爲二少半一。〔管子、海王〕終月大男食レ鹽五升少半。〔纂詁〕少半、三分升之一也。

【少秕】247（セウヒ） しひなの少ないこと。〔蘇軾、稼說送二張琥一〕富人之稼、常美、少レ秕而多レ實、久藏而不レ腐。

【少婢】248（セウヒ） 幼いはしため。こをんな。〔虞通之、讓レ婚表〕聲影裁聞、則少婢奔迸、裙袂向レ席、則老醜叢來。

【少眉】249（セウビ） 清、馮承輝(12−44579‥243)の字。

【少微】250（セウビ） ㊀星の名。大微の西にある四星。小獅子座の四〇・四一・四二番星及び獅子座の m 星に當る。士大夫の位。處士。〔史記、天官書〕廷藩西有二隋星五一、曰二少微一、士大夫。〔注〕索隱曰、春秋合誠圖云、少微、處士位、又、天官占云、一名二處士星一也。〔漢書、天文志〕太微、三光之廷、庭藩西有二隨星四一、名曰二少微一。〔漢書、李尋傳〕少微處士、爲レ比爲レ輔。〔晉書、天文志上〕少微四星、在二太微西一、士大夫之位也、一名處士、亦天子副主。㊁小さくかすかなこと。〔歐陽脩、瀧岡阡表〕自二其家少微時一、治二其家一以二儉約一。㊂山名。浙江省麗水縣の東南。一名、大括山。所在の郡が少微處士星に當るから、山を少微といひ、州を處州といふ。山の西南の絕頂の眉巖は、下より之を望めば列眉の如しといふ。〔讀史方輿紀要、浙江、處州府、麗水縣、萬象山〕又有二大括山一、在二府城東七里一、亦曰二括蒼山一、又曰二少微山一、郡應二少微處士星一、故山名二少微一、州曰二處州一、山西南絕頂有二眉巖一、從レ下望レ之、如二列眉一然。㊃字號。㋑南朝宋、張暢(4−9812‥552)の字。㋺宋、陳煥(11−41698‥189)の字。㋩清、鄒元斗(11−39562‥87)の字。㋥清、譚學元(10−35978‥47)の字。㋭清、張德容(4−9812‥1422)の字。㋬清、陸翰(11−41708‥50)の字。㊄すこし。わづか。

〖少微先生〗251（セウビセンセイ） 宋、江贄(6−17140‥181)の賜號。

【少弼】252（セウヒツ） 古の彈正臺の次官。大弼の次位。唐名は御史中丞。〔職原抄〕彈正臺、大弼一人、唐名御史中丞、少弼一人、唐名同。

【少賓】253（セウヒン） 後漢、司馬均(2−3257‥242)の字。

【少濱】254（セウヒン） 明、丁惟寧(1−2‥216)の字。

【少府】255（セウフ） ㊀官名。㋑秦官九卿の一。山海池澤の稅を掌り、天子の私府に供養することを掌る。後漢には、宮中の服御諸物、衣服・寶貨・珍膳の屬を掌る。梁と後魏とでは少府卿といひ、隋、少府監と改む。明、廢して工部に併す。少府監の㊀を見よ。〔史記、平準書〕皆宜レ屬二少府一。〔史記、張湯傳〕徙爲二少府一。〔漢書、百官公卿表上〕少府、秦官、掌二山海池澤之稅一、以給二供養一。〔注〕應劭曰、名曰二禁錢一、以給二私養一、自別爲レ藏、少者小也、大司農、供二軍國之用一、少府以養二天子一也。〔漢書、王嘉傳〕少府錢十八萬萬。〔後漢書、百官志三〕後又屬二少府一。㋺縣尉の別稱。縣令を明府と稱し、尉は令に亞ぐ。〔容齋四筆、官稱別名〕唐人好以二他名一、標二牓官稱一、云云、尉曰二少府・少公・少仙一。〔稱謂錄、典史、少府〕清波雜志、古治二百里之邑一、令附二其俗一、尉督二其姦一、故令曰二明府一、尉曰二少府一。㊁人體の經穴の名。小指の第三節骨の接目の凹んだ部分。〔靈樞經、經脉、注〕經二陰郄神門一、入二掌內廉一至二少府一。㊂強弓の名。〔戰國、韓策〕天下之強弓勁弩、皆自レ韓出、谿子・少府・時力・距來、皆射二六百步之外一。㊃內藏寮の唐名。〔職原抄〕內藏寮、唐名、倉部、又云二少府一。

〖少府監〗256（セウフカン） 官名。㊀秦に將作少府あり、宮室を治める事を掌る。又別に少府あり、山海池澤の稅を掌り、以て供養に給す。漢、之に因る。景帝の時、將作少府を改めて將作大匠とし、章帝の時、少府卿一人を置く。晉・宋・齊・梁・陳、皆此の官あり。北齊は置かず。隋の煬帝に至つて、始めて太府少府監を分つ。唐の少府監は、百工伎巧の政令を掌り、中尙・左尙・右尙を總ぶ。將作監は土木工匠の政を掌り、左右中校甄官等の署を總ぶ。宋の少府は、監少を置いて百工伎巧の事を掌り、將作も亦監少を置いて城壁・宮室・橋梁・街道・舟車等の營造を掌る。中興後は廢し、紹興三年、將作監を復し、少府監のみを止む。元は將作監を省き、少府監を置き、少府は文思に併歸す。〔通典、職官典、諸卿、少府監〕少府、秦官、漢因レ之、是爲二九卿一、掌二山海池澤之稅一、以給二供養一、後漢、少府卿一人、掌二中服御之諸物、衣服寶貨珍膳之屬一、朝賀則給レ璧、凡中書謁者、尙書令僕侍中常侍黃門御史中丞以下皆屬レ焉、晉制二銀章青綬五時朝服進賢兩梁冠絳朝服佩水蒼玉一、哀帝末、省幷二丹陽尹一、孝武復置、宋少府領二左右上方御府東冶南冶平準等令丞一、齊又加二領左右銀鍛署一、梁少府爲二夏卿一、位視二尙書左右丞一、陳因レ之、後魏少府、謂二之六卿一、至二孝文太和中一易二制官品一、遂改二少府一爲二太府一、北齊無二少府一、其尙方等署、皆隷二太府一、至二隋煬帝大業五年一、又分二太府一爲二少府監一、置二監及少監一、復領二尙方織染等署一、後又改二監少監一並爲レ令、大唐武德初、置二軍器監一、廢二少府監一、貞觀元年五月、分二太府中・尙方・織染坊・掌治坊署一、置二少府監一、龍朔二年、改爲二內府監一、咸亨元年、復レ舊、光宅元年、改爲二尙方監一、神龍元年、復レ舊、監一人、少監二人、領二中尙・左尙・右尙・織染・掌治等五署一。〔文獻通考、職官考、少府監〕宋少府監、判監事一人、以二朝官一充、凡天子器玩、后妃服飾・雕文・錯彩・工巧之事、分二隷於文思院後苑造作所一、本監但掌二造門戟神衣

旌節郊廟諸壇、祭玉法物、鑄牌印朱記、百官拜表案褥之事㆒、諸州鑄錢監並屬㆓少府監㆒、官各一人、以㆓京朝官及三班使臣㆒充、元豐正㆓官制㆒、置㆓監少監丞主簿各一人㆒、掌㆓百工伎巧之政令㆒、所㆑隸官屬五。〔淵鑑類函、設官、少府監〕續文獻通考曰、金少府監、置㆓監正少監各一人丞二人㆒、尙方・織染・文思・裁造・文繡等署隸㆑焉、元世祖至元十九年、以㆓大都留守㆒兼㆓知少府監事㆒、二十一年、幷㆓少府監於留守司㆒、其屬亦備㆓於留守司㆒、而中尙監乃特立者、又創㆓監佩監㆒、明初、設㆓文思院等衙門㆒、掌㆓造作諸事㆒、後俱裁革、以㆓其事㆒歸㆓二部㆒、凡少府將作等監皆不㆑設。❷㋑內藏頭の唐名。〔職原抄〕內藏寮、頭一人、唐名、倉部郎、又、少府監、或尙衣奉御、又藏帑令。㋺內匠頭の唐名。〔職原抄〕內匠寮、頭一人、唐名、少府監、或中匠令。

〖少府丞〗257 セウフジヨウ 官名。❶漢、置く。少府の屬官。歷代之に因る。〔通典、職官典、諸卿、少府監〕少府丞、漢有㆓六人㆒、後漢省㆑五而有㆓一丞㆒、其後、歷代皆一人、大唐置㆓四人㆒。❷㋑內藏允の唐名。〔職原抄〕內藏寮、允、唐名、倉部丞・少府丞。㋺內匠允の唐名。〔職原抄〕內匠寮、允、唐名、少府丞。

〖少府主事〗258 セウフシユジ 內匠屬の唐名。〔職原抄〕內匠寮、屬、唐名、少府主事。

〖少府少監〗259 セウフセウカン 官名。❶隋、置く。少府監の次官。歷代之に因る。少府監の❶を見よ。❷內匠助の唐名。〔職原抄〕內匠寮、助、唐名、少府少監。

【少副】260 セウフ 古、神祇官の次官。大副の次位。すないすけ。唐名、太常少卿。〔職原抄〕神祇官、少副、唐名、太常少卿。

【少婦】261 セウフ 年わかい妻。新妻。〔李白、塞下曲〕玉關殊未㆑入、少婦莫㆓長嗟㆒。〔王昌齡、青樓曲〕樓頭少婦鳴㆑箏坐、遙見飛塵入㆓建章㆒。〔沈佺期、古意呈㆓補闕喬知之㆒詩〕盧家少婦鬱金堂、海燕雙棲玳瑁梁。

【少傅】262 セウフ 官名。三孤の一。少師・少保と共に三公に屬し、太傅に副貳して天子を傅相することを掌る。〔書、周官〕少師・少傅・少保、曰㆓三孤㆒、貳㆑公弘㆑化、寅亮㆓天地㆒、弼㆓予一人㆒。〔蔡傳〕孤、特也、三少雖㆓三公之貳㆒、而非㆓其屬官㆒、故曰㆑孤。〔禮、文王世子〕少傅奉㆓世子㆒、以觀㆓大傅之德行㆒、而審喩㆑之。〔左氏、襄、十九〕夙沙衞爲㆓少傅㆒。〔漢書、百官公卿表序〕又立㆓三少㆒爲㆓之副㆒、少師・少傅・少保。〔新書、傅職〕凡此之屬、少傅之任也。

【少腹】263 セウフク 臍から下。したはら。小腹。〔素問、六元正紀大論〕故民病㆓欬逆㆒、心脇滿引㆓少腹㆒。〔金匱要略、八味丸〕脚氣上入、小腹不仁。

【少汾】264 セウフン 明、洗桂奇（6―17379・・119）の號。

【少文】265 セウブン ❶文才がすくない。又、文飾がすくない。〔史記、高祖紀〕周勃重厚少㆑文。〔漢書、刑法志〕將相皆舊功臣、少㆑文多㆑質。❷字號。㋑南朝宋、宗炳（8―7106・・244）の字。㋺明、趙渙（10―37171・・130）の字。

【少聞】266 セウブン 見聞がすくない。〔荀子、脩身〕多聞曰㆑博、少聞曰㆑淺、多見曰㆑閑、少見曰㆑陋。

【少平】267 セウヘイ 字號。❶後漢、董宣（9―31433・・113）の字。❷宋、何坦（1―511・・152）の字。

【少兵】268 セウヘイ 小人數の兵士。小兵（4―7473・・1138）の❶に同じ。

【少楩】269 セウベン 明、盧柟（8―23050・・127）の字。

【少辨】270 セウベン 太政官の判官。左右の別があり、詔敕を草す。唐名は尙書。左右司郎。〔職原抄〕太政官、左右少辨二人、唐名、尙書・左右司郎。

【少保】271 セウホ 官名。三孤の一。少師・少傅と共に三公を輔佐す。〔書、周官〕少師・少傅・少保、曰㆓三孤㆒。〔新書、傅職〕凡此其屬、少保之任也。〔漢書、百官公卿表序〕又立㆓三少㆒爲㆓之副㆒、少師・少傅・少保。

【少甫】272 セウホ 字號。❶清、孫汝琦（3―6987・・446）の字。❷清、兪岳（1―1437・・15）の號。❸民國、劉師培（2―2224・・1009）の字。

【少輔】273 セウイウ 古の各省の次官。大輔の次に位する。すないすけ。〔源氏、浮舟〕彼少輔が家。〔源氏、浮舟〕式部の少輔をなん兼けたりける。〔貞丈雜記、四、官位〕大輔をたいふとよむは子細なし、少輔をしやういふと云はあやまり也、しやうと計云べし、少輔の字しやうふなるを音を引つらねてしやうと云也。

【少母】274 セウボ 子が父の妾をいふ。〔朱子全書、禮〕五峯稱㆓妾母㆒爲㆓少母㆒、南軒亦然、據㆔爾雅亦有㆓少姑之文㆒、五峯想是本㆑此。

【少蓬】275 セウホウ 唐代、祕書少監（8―24663・・57）の別稱。〔容齋四筆、官稱別名〕唐人好以㆓他名㆒、標㆓牓官稱㆒、云云、祕書監爲㆓大蓬㆒、少監爲㆓少蓬㆒。

【少穆】276 セウボク 字號。❶清、周京（2―3441・・138）の字。❷清、林則徐（6―14551・・378）の字。

【少妹】277 セウマイ 妾をいふ。〔稱謂錄、妾、少妹〕梁書劉孝綽傳、攜㆑妾入㆓官府㆒、其母猶停㆓私宅㆒、到洽爲㆓御史㆒劾㆑之云、攜㆓少妹於華省㆒、棄㆓老母於下宅㆒、高祖爲隱㆓其惡㆒、改㆑妹爲㆑姝。

【少民】278 セウミン 二十歲內外の民。〔商子、墾令〕壯民疾㆑農不㆑變、則少民學㆑之不㆑休。

【少明】279 セウメイ 字號。❶南朝宋、王悅（7―20823・・70）の字。❷宋、江常（6―17140・・209）の字。

【少溟】280 セウメイ 明、董鯤（9―31433・・73）の字。

【少爺】281 shao^4 yeh^2 ❶大家の息子。若旦那。❷shao^4 yeh 御令息。自分の息子。

【少陽】282 セウヤウ ❶東方をいふ。〔禮、祭統、天子親耕㆓於南郊㆒、諸侯耕㆓於東郊㆒、注〕東郊少陽、諸侯象也。〔疏〕天子太陽、故南、諸侯少陽、故東。〔史記、司馬相如傳〕邪絕㆓少陽㆒、而登㆓太陰㆒。〔注〕集解曰、漢書音義曰、少陽、東極。〔王延壽、魯靈光殿賦〕承㆓明堂於少陽㆒、昭列顯㆓於奎之分野㆒。〔注〕善曰、漢書曰、少陽、東方也。❷東宮をいふ。〔顏延之、三月三日曲水詩序〕正體毓㆓德於少陽㆒、王宰宣㆓哲於元輔㆒。〔注〕善曰、正體、太子也、少陽、東宮也。〔謝莊、慶㆓太子元服㆒表〕懋㆓三王之敎㆒、屬㆓少陽之重㆒。❸易で七の數をいふ。換言すれば、占ふ時、三揲の內、二回は數が多く、一回は數が少い場合（九・八・四、又は八・八・五）。一つの耦畫の上に一つの奇畫を重ねたもの ⚎ を以て示す。老陽（9―28842・・429）を見よ。〔易、繫辭上〕十有八變而成㆑卦、〔疏〕其兩多一少、爲㆓少陽㆒者、謂㆘三揲之間、或有㆓一箇九㆒、有㆓一箇八㆒、而有㆓一箇四㆒、或有㆓二箇八㆒、而有㆗一箇五㆖、此兩多一少也。〔易學啓蒙〕兩儀之上、各生㆓一奇一耦㆒、而爲㆓二畫㆒者四、是謂㆓四象㆒、其位、則太陽一、少陰二、少陽三、太陰四、其數、則太陽九、少陰八、少陽七、太陰六。❹人體の經脈の名。脈は目の銳眥に起り、耳後から耳中に入り、咽を挾んで頤頷に出づ。膽經。〔史記、倉公傳〕灸㆓其足少陽脈口㆒。〔素問、陰陽離合論〕厥陰之表、名曰㆓少陽㆒、少陽根起㆓於竅陰㆒、名曰㆓陰中之少陽㆒。〔注〕以㆔少陽居㆓厥陰之表㆒、故曰㆓陰中之少陽㆒。〔傷寒論〕少陽之爲㆑病、口苦・咽乾・目眩也。❺相術家の語。左の眼瞼の端をいふ。流年運氣（6―17431・・307）を見よ。❻山名。山西省交城縣の西南。〔山海經、北山經〕少陽之山、其上多㆑玉、其下多㆓赤銀㆒、酸水出焉。❼字號。㋑宋、許巽（10―35298・・156）の字。㋺宋、陳東（11―41698・・492）の字。

〖少陽魚〗283 セウヤウギヨ 魚の名。えい。〔本草、海鷂魚〕釋名、邵陽魚、食鑑作㆓少陽㆒。

〖少陽集〗284 セウヤウシフ 書名。十卷。宋、陳東撰。前五卷は遺文で、六卷以下は皆附錄である。〔四庫提要、集、別集類〕。

〖少陽毛〗285 セウヤウマウ 眉の異稱。〔事物異名錄、形貌、眉〕七修類藁、眉乃少陽之毛、屬㆓肝木㆒、木多㆓旁枝㆒、故側生。

【少約】286 セウヤク 宋、范該（9―30834・・13）の字。

【少兪】287 セウユ 上古の人の名。鍼藥を始む。〔雲笈七籤、軒轅本紀〕帝問㆓少兪鍼注㆒、乃制㆓鍼經明堂圖灸之法㆒、此鍼藥之始也。

【少瑜】288 セウユ 明、童佩（8―25775・・91）の字。

【少融】289 セウユウ 宋、鄭丙（11―39647・・253）の字。

【少來】290 セウライ 清、許重炎（10―35298・・360）の字。

【少牢】291 セウラウ 羊と豕との犧牲。又、其の饗應。太牢（3―5834・・509）の對。〔禮、王制〕天子社稷皆太牢、諸侯社稷皆少牢。〔注〕士薦㆑牲用㆓特豚㆒、大夫以上用㆑羔、所謂羔豚而祭。〔左氏、襄、二十二〕祭以㆓特羊㆒、殷以㆓少牢㆒、足㆓以共㆑祀。〔注〕四時祀以㆓一羊㆒、三年盛祭以㆓羊豕㆒、殷、盛也。〔大戴禮、曾子天圓〕大夫之祭牲、羊曰㆓少牢㆒。〔孔廣森補注〕少年、擧㆑羊以賅㆑豕。〔國語、楚語下〕卿擧以㆓少牢㆒。〔注〕少牢、羊豕。〔管子、事語〕大夫少牢。〔後漢書、禮儀志上〕祠㆓先蠶㆒禮以㆓少牢㆒。

〖少牢饋食禮〗292 セウラウキシレイ 儀禮の篇名。〔儀禮、少牢饋食禮、題疏〕鄭目錄云、諸侯之卿大夫、祭㆓其祖禰於廟㆒之禮、羊豕曰㆓少牢㆒、少牢、於㆓五禮㆒屬㆓吉禮㆒、大戴第八、小戴第十一、別錄第十六。

【少吏】293 セウリ 地位の卑い官吏。〔漢書、百官公卿表上〕百石以下、有二斗食佐史之秩一、是爲二少吏一。〔漢書、甯成傳〕以二郎謁者一事二景帝一、好レ氣、爲二少吏一必陵二其長吏一。

【少鵹】294 セウリ 鳥の名。西王母の使者。〔山海經、大荒西經〕西有二王母之山一、有二三靑鳥一、赤首黑目、一名曰二大鵹一、一名曰二少鵹一、一名曰二靑鳥一。〔注〕皆西王母所レ使也。

【少留】295 セウリウ 暫くとどまる。暫時の滯在。〔班彪、北征賦〕舊室滅以丘墟兮、曾不レ得二乎少留一。〔宋史、常秩傳〕安得レ不二少留一。

【少良】296 セウリヤウ 唐、裴遵慶（**10**－**34362**・・142）の字。

【少梁】297 セウリヤウ 地名。春秋の梁國。戰國の時、魏の邑。秦は梁の惠王と少梁に戰ひ、其の將公孫痤を虜にし、旋って少梁を取る。惠文王の時、更めて夏陽と名づく。陝西省韓城縣の南。〔史記、魏世家〕文侯六年、城二少梁一。〔漢書、地理志〕左馮翊、云云、夏陽、故少梁、秦惠文王十一年、更レ名。〔漢書、司馬遷傳〕司馬氏入二少梁一。〔注〕師古曰、少梁、本梁國也、爲二秦所一レ滅、號爲二少梁一。〔讀史方輿紀要、陝西、西安府、同州韓城縣〕少梁城、縣南二十二里、周梁國也、左傳僖十九年、梁伯好二土功一、民罷而弗レ堪、秦穆公取レ之、卽此、文十年、晉伐レ秦取二少梁一、魏世家、文侯六年、城二少梁一、梁惠王九年、與レ秦戰二少梁一、虜二我將公孫痤一、秦紀、秦取二魏少梁一、是也、惠文王十七年、更レ名曰二夏陽一、漢因置二夏陽縣一。

【少量】298 セウリヤウ すこしの分量。小量。

【少領】299 セウリヤウ 令制に於て、郡司の次官。すけのみやつこ。〔職員令〕大領、云云、少領一人、掌同二大領一。

【少呂】300 セウリヨ 宋、程渭老（**8**－**25081**・・152）の字。

【少慮】301 セウリヨ 氣が短い。短慮（**8**－**23978**・・197）の❷に同じ。〔漢書、地理志下〕愚悍少慮。

【少陵】302 セウリヨウ 古の地名。陝西省長安縣の杜陵の東南。少陵は、もと漢の宣帝の許后を葬った陵の名。宣帝の杜陵に比べてやや小さいから言ふ。唐の詩人杜甫は陵西に家を構へたので、杜陵布衣・少陵野老と號す。〔杜甫、哀江頭〕少陵野老呑レ聲哭、春日潛行曲江曲。〔注〕杜家二少陵一、自稱二杜陵老一、亦曰二少陵野老一。〔韓愈、石鼓歌〕少陵無レ人謫仙死、才薄將下奈二石鼓一何上。〔王嗣奭、杜詩臆〕長安城東有二霸陵一、文帝所レ葬、霸南五里、卽樂遊原、宣帝築以爲レ陵、曰二杜陵一、杜陵東南十餘里、又有レ陵、差小、許后所レ葬、謂二之少陵一、其東卽杜曲、陵西卽子美舊宅、自稱二少陵野老一以レ此。

【少陵原】303 セウリヨウゲン 地名。陝西省長安縣の南。漢の鴻固原。〔通典、州郡典、古雍州上〕萬年有二少陵原一、則漢宣許后陵。〔雍錄〕宣帝許后葬二杜陵南原一、顏師古曰、卽今謂二小陵一者也、他書皆作二少陵一、杜甫家レ焉、故自稱二杜陵老一、亦曰二少陵一也。〔陝西通志〕少陵原、乃樊川之北原、自二司馬村一起、至二何將軍山林一而盡。

【少陵體】304 セウリヨウタイ 唐の杜甫の詩體。〔滄浪詩話、詩體〕少陵體。

【少陵奇絕處】305 セウリヨウキゼツノトコロ 唐の杜甫の詩句の奇絕なところ。〔龔相聖詩〕欲レ識少陵奇絕處、初無二言句與レ人傳一。

【少林】306 セウリン ❶寺の名。㋑河北省薊縣の西北、盤山の紫蓋峯下。舊名は法興寺。元の至正中、建つ。其の東山上に多寶佛塔、其の西山上に華嚴洞がある。㋺河南省登封縣の西北。少室山の北麓。後魏、建つ。隋の文帝、陟岵と改め、唐、復た少林と名づく。寺の東廊の後の秦槐は、秦代封じて五品としたもの。又、面壁石と面壁庵とは、卽ち達磨九年面壁の處といふ。又、隋代、天竺の迦佛陀禪師が渡來し、隋帝が起した寺であるともいふ。後、其の徒曇宗以下十三人、唐の太宗が王世充を平げるを佐けて功あつて以來、僧徒が常に武事を習つたので、技擊に少林派が起つた。〔魏書、釋老志〕又有二西域沙門一、名跋陁、有二道業一、深爲三高祖所二敬信一、詔於二少室山一立二少林寺一而居レ之、公給二衣供一。〔續高僧傳、十六〕性愛二幽棲一、林谷是託、屢往二嵩岳一、高謝二人世一、有レ敕就二少室山一爲レ之造レ寺、今之少林、是也。〔明一統志、二十九〕河南府、少林寺在二登封縣西少室北麓一、後魏時、建、梁時、達磨居レ此面壁九年。〔日知錄、論兵、少林僧兵〕少林寺中、有下唐太宗爲二秦王一時、賜二寺僧一敎上、其辭曰、王世充叨二竊非據一、敢違二天常一、法師等竝能深悟二幾變一、早識二妙因一、擒二彼兇孽一、廓二茲淨土一、聞以欣尙、不レ可二思議一、今東都危急、旦夕殄除、並宜下勉二終茂功一以垂中令範上、是時立レ功十有三人、裴漼少林寺碑所レ稱志操・惠場・曇宗等、惟曇宗拜二大將軍一、餘不レ受レ官、賜二地四十頃一、此少林僧兵所レ起。❷字號。㋑後漢、王忳（**7**－**20823**・・861）の字。㋺淸、王嵩高（**7**－**20823**・・1749′）の字。

【少林無孔笛】306′ セウリンムクテキ 書名。六卷。侍者某編。元貞校定。京都五山の高僧東陽英朝禪師一代の語要・偈頌・像贊・道號・雜文・勅書などを蒐錄したもので、寶永六年に刊す。〔禪籍目錄〕・〔日本禪宗年表〕。

【少禮】307 セウレイ 禮を缺く。失禮する。〔長生殿、合圍〕諸將少禮。

【少連】308 セウレン ❶古の人の名。〔禮、雜記下〕少連・大連、善居レ喪。❷字號。㋑晉、解系（**10**－**35067**・・67）の字。㋺唐、朱敬則（**6**－**14424**・・737）の字。㋩明、謝陛（**10**－**35827**・・201）の字。❸唐、宋之問（**3**－**7078**・・291）の一名。

【少路】309 セウロ 漢、毛莫如（**6**－**16772**・・321）の字。

【少魯】310 セウロ 宋、嚴參（**2**－**4589**・・110）の字。

【少祿】311 セウロク わづかの祿。小祿。〔唐書、吳兢傳〕家貧不レ能レ具二紙筆一、願得二少祿一以終二餘功一。

【少和】312 セウワ 淸、陳少逸（**11**－**41698**・・1053）の字。

【愛レ少】313 セウヲアイス 年少者を愛する。〔新論、言苑〕人皆愛レ少而惡レ老、重レ榮而輕レ悴。

【少講義】314 セウカウギ 教導職の一。中講義の次位。正・權に別る。

【少韓子】315 セウカンシ 明、方孝孺（**5**－**13620**・・493）をいふ。〔明外史、方孝孺傳〕孝孺幼警敏、雙眸炯炯如レ電、讀レ書日盈レ寸、鄕人目爲二少韓子一。

【少外記】316 セウゲキ 太政官の職員。大外記の次。唐名は外史・門下錄事。〔職原抄〕太政官、外記、少三人、唐名、外史、或門下錄事。

【少國民】317 セウコクミン 年若い國民。

【少司成】318 セウシセイ 唐代、國子司業（**3**－**4798**・・260）をいふ。〔唐書、百官志三〕國子監主簿一人。〔注〕龍朔二年、改二國子監一曰二司成館一、祭酒曰二大司成一、司業曰二少司成一。

【少司徒】319 セウシト 倉場（糧米を收納する所）の官をいふ。〔稱謂錄、倉場、少司農・少司徒〕叩鉢齋官職攷、倉場侍郞、稱二少司農・少司徒一。

【少司農】320 セウシノウ 倉場の官をいふ。少司徒を見よ。

【少司命】321 セウシメイ ❶神の名。司命（**2**－**3257**・・409）の❷を見よ。❷楚辭、九歌の篇名。

【少上造】322 セウジヤウザウ 漢の爵名。第十五級。〔漢書、百官公卿表上〕十五少上造、十六大上造。〔注〕師古曰、言皆主二上造之士一也。

【少常伯】323 セウジヤウハク 尙書侍郞をいふ。尙書郞（**4**－**7493**・・89）を見よ。〔唐書、百官志一、尙書令一人、注〕龍朔二年、改二尙書省一曰二中臺一、廢二尙書令一、尙書曰二太常伯一、侍郞曰二少常伯一。

【少淨天】324 セウジヤウテン 佛色界第三禪の第一天の名。意識に淨妙の樂を受くる故に淨と名づけ、第三禪天の中に於て此天が最少なれば少と名づく。〔俱舍論頌疏、世閒品、一〕。

【少書吏】325 セウシヨリ 古、親王・攝政・關白の家の家司の一。大書吏の下にあり、大書吏と同じく文章を勘署することを掌る。〔家令職員令〕少書吏、掌同二大書吏一。

【少請安】326 shao^2 ch'ing^3 an^1 御無沙汰してゐます。

【少石子】327 セウセキシ 明、陸釴（**11**－**41708**・・240）の號。

【少賤齋】328 セウセンサイ 淸、賀裳（**10**－**36725**・・41）の號。

【少僧都】329 セウソウヅ 僧侶階級の一。律師の上、中僧都又は大僧都の次位。〔續日本紀、一〕文武天皇、二年三月壬午、智淵法師爲二少僧都一。

【少大夫】330 shao^4 ta^4 fu 文官官秩の一。中大夫の下、上士の上。

【少奶奶】331 shao^4 nai^3 nai 息子の妻。

【少納言】332 セウナゴン 太政官の判官。小事の奏宣、鈴印・傳符の請進、飛驛函鈴の進付、官印の監視を掌り、中務省の侍從を兼ねる職。後、奏宣の事は藏人に移る。すないものまうし。唐名は給事中。〔職員令〕太政官、少納言三人、掌下奏二宣小事一、請二進鈴印・傳符一、進二付飛驛函鈴一、兼監中官印上。〔職原抄〕太政官、少納言三人、唐名、給事中。

【少判事】333（セウハンジ） 刑部省の職員。罪人の裁判を掌り、中判事の次位。唐名は大理丞。〔職員令〕刑部省、云云、少判事四人、掌㆓同中判事㆒。〔職原抄〕刑部省、少判事二人、唐名、大理丞。

【少不的】334 shao³ pu tê ぜひとも。少不得。〔桃花扇、傳歌〕下官也少不的和韻一首。

【少不得】335 shao³ pu tê² なくてはならない。必要な。ぜひとも。

【少不了】336 shao³ pu liao³ なくてはならない。

【少吃儉用】337 shao³ c'ih¹ ch'ien³ yung⁴ 食べ物をひかへて儉約する。

【少喫無着】338 shao³ ch'ih¹ wu² chuo² 衣食に窮する。

【少墟先生】339（セウキヨセンセイ） 明、馮從吾(**12－44579**‥237)の尊稱。

【少原之壄】340（セウゲンノヤ） 仙人の居る野。壄は野に同じ。〔楚辭、賈誼、惜誓〕乃至㆓少原之壄㆒兮。〔注〕少原之壄、仙人所㆑居、壄、一作㆑野。

【少岷山人】341（セウビンサンジン） 明、曾璵(**5－14299**‥148)の號。

【少不㆑更㆑事】342（セウニシテコトヲヘズ） 年が若くて閲歷がすくない。〔隋書、李雄傳〕上謂㆑雄曰、吾兒既少、更㆑事未㆑多。

【少峯草堂】343（セウホウサウダウ） 明、林應亮(**6－14551**‥273)の室名。

【衆㆑少成㆑多】344（セウヲアツメテタヲナス） 僅かのものがつもりつもつて澤山となる。塵を積んで山となす。〔漢書、董仲舒傳〕臣聞、衆㆑少成㆑多、積㆑少致㆑鉅、故聖人莫㆑不㆓以㆑晻致㆑明、以㆑微致㆒㆑顯、是以堯發㆓於諸侯㆒、舜興㆓虖深山㆒、非㆓一日而顯㆒也、蓋有㆓漸以致㆒㆑之矣。〔通俗編、數目、積㆑少成㆑多〕困學紀聞、見㆓中庸㆒、按、今中庸無㆓此文㆒、惟論語、譬如㆑爲㆑山注中、有㆑之。

【少寡婦上墳】345（セウクワフジヤウフン） 清代、戲曲の名。今、其の小上墳の一齣が行はる。蕭素貞の夫劉祿敬、上京して多年歸らず、素貞、清明の節に上墳して、適〻夫の歸るに遇ひ、相擁して哭することを述ぶ。

【少信嘴胡說】347（セウシンシコセツ） いい加減のでたらめ。〔紅樓夢、二十二回〕大正月裡、少信嘴胡說。

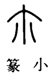
【少是觀音老是猴兒】348 shao³ shih⁴ kuan¹ yin¹ lao³ shih⁴ hou² êrh 若い時は觀音のやうな美人で、老いては猿のやうになる。

【小】7476 シ

示(**8－24623**)の古字。〔玉篇〕小、古文示。

二畫

【尒】7477 ジ ニ 〔集韻〕忍氏切 ㄦˇ êrh³ 紙


小篆

❶**しかり**。事の必然をあらはす助辭。〔說文〕尒、詞之必然也、从㆓丨八㆒、八、象㆓气之分散㆒、入聲。〔玉篇〕尒、詞之畢也。❷**わける**。〔玉篇〕尒、別也。❸**なんぢ**。爾(**7－19750**)・而(**9－28871**)に通ず。〔正字通〕尒、汝・與㆓爾・而㆒通、稱㆑人曰㆑尒。❹**ちかい**。**ちかづく**。邇(**11－39193**)に通ず。〔說文通訓定聲〕尒、叚借爲㆑邇、荀子禮論、尒則翫、哀公、不㆑可㆓以身尒㆒也。❺爾(**7－19750**)に通ず。〔玉篇〕尒、亦作㆑爾。❻通じて爾(**7－19753**)に作る。〔集韻〕尒、通作㆑爾。❼一に尓(**4－7479**)に作る。〔集韻〕尒、亦書作㆑尓。❽尔(**4－7478**)に同じ。〔字彙〕尔、同㆑尒。❾**姓**。〔廣韻〕尒、又虜姓。

【尒朱】1（ジシユ） 複姓。爾朱(**7－19750**‥38)に同じ。

【尔】7478 ジ

尒(**4－7477**)に同じ。〔字彙〕尔、同㆑尒。

【尓】7479 ジ

尒(**4－7477**)に同じ。〔集韻〕尒、亦書作㆑尓。

三畫

【尖】7480 セン 〔集韻〕將廉切 ㄐㄧㄢ chien¹ 鹽

❶**とがる**。**するどい**。鋟(**11－40474**)に同じ。〔集韻〕鋟、博雅、銳也、或作㆑尖。〔字彙〕尖、末銳也。〔杜甫、魏將軍歌〕華嶽峯尖見㆓秋隼㆒。❷**はげしい**。苛刻。〔姚合、和㆓座主相公卤亭秋日卽事㆒詩〕詩冷語多㆑尖。❸**ちひさい**。〔字彙〕尖、小也。❹**とがり**。**さき**。**すゑ**。〔劉翬、山薑詩〕柔尖帶㆓淺紅㆒。❺**いただき**。〔五代史、李崧傳〕爲㆓浮圖㆒者、必合㆓其尖㆒。❻**みね**。〔王安石、望㆓九華山㆒詩〕縹緲浮㆓青尖㆒。❼**ゆび**。〔楊維楨、學書詩〕玉尖搦㆑管蘸㆓香雲㆒。❽**こすむ**。圍碁の一手法。〔圍棋義例、詮釋〕尖、簽也、兩路斜簽而下、子曰㆑尖、使㆑有㆑覷之之意也。❾現旅行の中途、小憩して飲食するところ。俗に打尖ともいふ。

【尖銳】1（センエイ） ❶さきがするどくとがる。〔爾雅翼、釋魚、鰌〕鰌亦魚之類、首尖銳、色黃黑。❷㋑尖端的で銳いこと。㋺左翼的なこと。急進的なこと。❸chien¹ juei⁴ 甲高い聲。

【尖音】2 chien¹ yin¹ 尖團字(29)を見よ。

【尖牙】3 chien¹ ya² 犬齒。絲切齒。

【尖額】4（センガク） 出張つた額。おでこ。〔朱彧、可談〕廣顙尖額、面多㆓黑子㆒。

【尖巖】5（センガン） 先のとがつた岩。〔青山鐵槍齋、天橋立〕沙下有㆓尖巖㆒、長二千餘丈。

【尖巾】6（センキン） さきのとがつた頭巾。〔五代史、前蜀王衍世家〕好裹㆓尖巾㆒、其狀如㆑錐。

【尖刻】7 chien¹ k'ê⁴ 極めて苛刻なこと。

【尖叉】8（センサ） 詩の險韻をいふ。宋の蘇軾に雪後書㆓北臺壁㆒詩二首及び、謝㆓人見㆑和㆓前篇㆒詩二首があり、皆尖字と叉字とを用ひて韻とし、險韻の名作であるから此の稱がある。〔蘇軾、雪後書㆓北臺壁㆒詩〕黃昏猶作雨纖纖、夜靜無㆑風勢轉嚴、但覺衾裯如㆑潑㆑水、不㆑知庭院已堆㆑鹽、五更曉色來㆓書幌㆒、半夜寒聲落㆓畫簷㆒、試掃㆓北臺㆒看㆓馬耳㆒、未㆑隨㆓埋沒㆒有㆓雙尖㆒。城頭初日始翻㆑鴉、陌上晴泥已沒㆑車、凍合玉樓寒起㆑粟、光搖銀海眩生㆑花、遺㆑蝗入㆑地應千尺、宿麥連㆑雲有㆓幾家㆒、老病自嗟詩力退、空吟㆓冰柱㆒憶㆓劉叉㆒。〔蘇軾、謝㆓人見㆑和㆓前篇㆒詩二首〕已分㆓酒杯㆒欺㆓淺懦㆒、敢將㆓詩力㆒鬭㆓深嚴㆒、漁蓑句好眞堪㆑畫、柳絮才高不㆓道鹽㆒、敗履尙存東郭足、飛花又舞謫仙簷、書生事業眞堪㆑笑、忍㆑凍孤吟筆退尖。九陌淒風戰㆓齒牙㆒、銀杯逐㆑馬帶隨㆑車、也知不㆑作㆓堅牢玉㆒、無㆑奈能開頃刻花、得㆑酒彊歡愁底事、閉㆑門高臥定㆓誰家㆒、臺前日暖君須㆑愛、冰下寒魚漸可㆑叉。

【尖耍】9（センサ） 苛刻なこと。俊利。尖酸に同じ。〔篇海〕耍、尖耍、俊利也。

【尖酸】10 chien¹ suan⁴ 苛刻な。

〖尖酸刻薄〗11 chien¹ suan⁴ k'ê⁴ po 殘忍刻薄を極めること。

【尖山】12（センザン） ❶山名。㋑山西省平魯縣の北、威遠城の西。後唐の莊宗が嘗て雁を此の尖山に射る。㋺廣東省陽江縣の東南、那龍河の左岸。其の南に尖山塘がある。㋩滿洲黑龍江省巴彥縣の西北。鐵を產す。❷川の名。源は湖北省竹山縣の西北界の嶺坡。東南流して七里溝・大文峪河・東河の諸川を合し、竹谿縣の界に入つて縣河鋪河となり、又、南流して明家灣を逕て竹谿河に入る。❸縣名。魏、置く。故城は今の山西省神池縣。

〖尖山子〗13（センサンシ） 地名。❶滿洲遼寧省錦西縣の東北。石炭を產す。清の光緒中、開辨す。❷滿洲遼寧省興城縣の北。石炭を產す。清の光緒の末、開辨す。❸滿洲熱河省朝陽縣。石炭を產す。

【尖矢】14（センシ） さきのとがつた矢。とがりや。尖箭。

【尖兒】15 chien¹ êrh 尖つたさき。さき。

【尖岑】16（センシン） 頂上の銳く尖つた峯。岑はみね。〔宋濂、蟠桃核賦〕銳首聳兮尖岑、豐下揹兮墜星。

【尖新】17センシン　新しく流行の魁となるもの。〔海錄碎事、文學、文章〕世上文章士、誰爲㆓第一人㆒、老生誇㆓隱拙㆒、時輩毀㆓尖新㆒、李德裕詩。

【尖臍】18センセイ　をがに。蟹の牡は臍がとがつてゐるのでいふ。尖團(28)を見よ。男蟹。〔埤雅、釋魚、蟹〕蟹、八跪而二敖、水蟲、殼堅而脆、團臍者牝、尖者牡也。

【尖尖】19センセン　角立つたさま。銳くとがつたさま。〔章孝標、小松詩〕還似天台新雨後、小峯雲外碧尖尖。〔楊萬里、小池詩〕小荷纔露尖尖角。

【尖箭】20センセン　とがり矢。尖矢。

【尖纖】21センセン　とがつてほそい。〔白居易、裴常侍以題㆓薔薇架㆒十八韻㆖見㆑示云云詩〕散亂萎㆓紅片㆒、尖纖嫩㆓紫芒㆒。

【尖刀】22 chien^{1} tao^{1}　銳利な刃物。

【尖塔】23センタフ　先端のとがつた塔。〔仇遠、道場山詩〕勺泉淸徹涵㆓秋味㆒、尖塔孤撐界㆓夕陽㆒。

【尖站】24 chien^{1} chan^{4}　旅人が途中で食事を喫する爲に休憩する小驛。

【尖端】25センタン　㊀物の細くとがつたさき。とつさき。きつさき。㊁さきがけ。さき走り。最も新しいこと。

〔尖端人〕26センタンジン　思想方面・風俗方面等で好んで時流を逐ふ人。思想や流行の先驅者。

〔尖端的〕27センタンテキ　事物の流行等の先驅をなすこと。

【尖團】28センダン　尖臍と團臍。男蟹と女蟹。又、蟹の異名。尖臍(18)を見よ。〔蘇軾、丁公默送㆓蝤蛑㆒詩〕堪㆑笑吳興饞太守、一詩換得兩尖團。〔注〕母蟹之臍團、雄蟹之臍尖、尖團、名㆑蟹常語也。

〔尖團字〕29 chien^{1} tʻuan^{2} tzŭ^{4}　尖は舌尖音の字をいひ、團は喉內音の字をいふ。北方の音は團に偏し、南方の音は尖に偏する。ただ河南の語は尖團が最も分明である。

【尖頂】30センチヤウ　とがつたいただき。〔岑參、賦㆓得孤島石㆒送㆓李卿㆒詩〕綠窠攢㆓剝蘚㆒、尖頂坐㆓鸕鷀㆒。

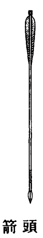
【尖的】31 chien^{1} tê　とつさきのもの。〔紅樓夢、三十九回〕留的尖的、孝敬姑奶奶姑娘們嘗嘗。

【尖頭】32セントウ　㊀とがつたあたま。尖頭奴の㊀を見よ。㊁とがつたさき。

〔尖頭鞾〕33セントウクワ　さきのとがつた細いかはぐつ。〔北俗錄〕著㆓尖頭鞾㆒。

〔尖頭靑〕34セントウセイ　筍の一種。〔釋眞一、筍譜〕最晚出、諸筍寥落、此筍方翠、筍無㆑不㆑有㆑尖、此筍更尖如㆑削、其味鮮。

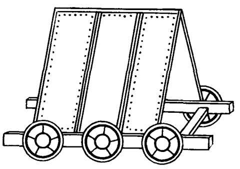
〔尖頭箭〕35セントウセン　先のとがつた箭。尖箭。〔淸會典圖、武備圖、尖頭箭〕尖頭箭、楊木笴、鐵族長一寸一分、如㆓梅鍼㆒而短、孔雀羽。



尖頭箭（淸會典圖）

〔尖頭奴〕36セントウド　㊀北魏の太武帝が古弼を怒り呼んだ語。〔北史、古弼傳〕太武大閱㆓將校㆒、獵㆓於河西㆒、弼留守、詔以㆓肥馬㆒給㆓騎人㆒、弼命給㆓弱者㆒、太武大怒曰、尖頭奴、敢裁㆓量朕㆒也、朕還㆑臺先斬㆓此奴㆒。㊁筆をいふ。〔事物原始、筆〕蒙恬載㆓毛穎㆒以歸、始皇封㆓諸管城㆒累㆓拜中書㆒、後人呼㆑筆爲㆓管城子㆒爲㆓中書君㆒、卽此因㆓筆頭之尖㆒、又呼爲㆓尖頭奴㆒。〔宋百家詩〕錢次公、以㆓墨四丸筆五枝㆒賜㆓楊時可㆒、楊乃作㆓一絕㆒云、尖頭奴有㆓五兄弟㆒、十八公生㆓四客卿㆒。

〔尖頭木驢〕37セントウモクロ　攻城の戰具。六輪車で、上に大木を橫たへて脊とし、屋根をとがらせたもの。〔武備志、頭木驢圖說〕右尖頭木驢、形如㆓轒轀車㆒、惟增㆓二輪㆒、上橫㆓大木㆒爲㆑脊、長一丈五尺、上銳下方、高八尺、以㆓生牛革㆒裹㆑之、內蔽㆓十人㆒、推㆓逼城下㆒、以攻㆑城作㆓地道㆒。



尖頭木驢（武備志）

〔尖頭盧家〕38セントウロカ　五代の盧氏の子孫に頭の尖つた者が多かつたのでいはれる。〔實賓錄〕尖頭盧家、五代盧舊祖父、仕㆑唐俱至㆓顯官㆒、子孫生而頭銳、時人號㆓尖頭盧家㆒。

【尖鼻】39センビ　とがつた鼻。〔拾遺記、二〕燃丘之國、云云、其國使者、皆豢頭尖鼻、衣㆓雲霞之布㆒。

【尖風】40センプウ　するどく吹く風。〔李商隱、蝶詩〕只知㆑防㆓皓露㆒、不㆑覺㆑逆㆓尖風㆒。

【尖兵】41センペイ　軍隊が警戒行軍を爲す際、本隊の先に在つて敵の斥候などを打ち掃ふ任務を持つ一隊の兵。

【尖米】42センベイ　㊀米が多くて、米囤の上より高いこと。〔六部成語、戶部、尖米、注解〕米多高㆓米囤之上㆒、曰㆓尖米㆒。㊁chien^{1} mi^{3}　細長く上下の尖つた米。秈米。

【尖劈】43 chien^{1} pʻi^{1}　くさび。楔。

【尖峯】44センボウ　とがつた峰。〔江淹、悼㆓室人㆒詩〕素沙匝㆓廣岸㆒、雄虹冠㆓尖峯㆒。

【尖鋒】45 chien^{1} fêng^{1}　㊀豚を殺す刀をいふ。屠獸者の語。㊁筆をいふ。書家の語。

【尖杙】46 chien^{1} i^{4}　さきの尖つたくひ。

【尖利】47 chien^{1} li^{4}　㊀銳利な。㊁伶俐な。

【尖量】48センリヤウ　米を量る時、斛より高く盛りあげること。〔六部成語、戶部、尖量、注解〕量㆑米高出㆓於斛㆒、曰㆓尖量㆒。

【尖首刀】49センシユタウ　古代貨幣の一種。刀形で、上部が尖銳なもの。圓首刀の對。

【尖足布】50センソクフ　古代貨幣の刀布の一種。正方形。

【尖溜溜的】51 chien^{1} liu^{1} liu tê　極めて銳利な。

【⿱⺌冂】7481　キ　貴(**10－36704**)の古字。〔集韻〕貴、古作㆑⿱⺌冂。

【示】7482　バ　マ　〔字彙〕莫可切　哿

ちひさい。〔字彙〕示、細小也。

【尗】7483　シユク　〔集韻〕式竹切　屋

尗　小篆

㊀**まめ。豆。**〔說文〕尗、豆也、尗、象㆓豆生之形㆒也。㊁菽(**9－31241**)に同じ。〔玉篇〕菽、豆名也、亦作㆑尗。㊂叔(**2－3154**)に通ず。〔字彙〕尗、又與㆑叔同、季父也。

解字　象形。地上に豆が芽をだして、子葉をもたげたかたちに象る。一は地に象り、小は其の根を、上は其の芽をあらはす。〔說文、尗、段注〕尗者、著㆓其形㆒也、豆之生也、所㆑種之豆、必爲㆓兩瓣㆒、而戴㆓於莖之頂㆒、故以㆑一象㆑地、下象㆓其根㆒、上象㆓其戴生之形㆒。

【尘】7484　チン　塵(**3－5388**)の古字。〔字彙補〕尘、古文塵字。

【⿱小廾】7485　キ　義未詳。〔龍龕手鑑〕⿱小廾、呼鬼切。

【当】7486　タウ　當(**7－21890**)の略字。

四畫

【⿱⺌尒】7487　ベイ　米(**8－26832**)の古字。〔字彙〕⿱⺌尒、古文米字。

【⿱小火】7488　サン　セン　〔集韻〕壯咸切　咸

するどい。〔集韻〕⿱小火、銳也。

【⿱⺌大】7489　サ　些(**1－268**)に同じ。〔集韻〕些、或作㆑⿱⺌大。

【⿱⺌乇】7490　タウ　當(**7－21890**)に同じ。〔字彙補〕⿱⺌乇、與㆑當同。

【⿱小夕】7491　レツ　義未詳。〔篇海類編〕⿱小夕、音劣。

【尖】7492 ハイ バイ 義未詳。〔龍龕手鑑〕尖、蒲買切。

五畫

【尙】7493 🈩シヤウ ジヤウ 〔集韻〕時亮切 ㄕㄤˋ shang⁴ 漾 🈔シヤウ ジヤウ 〔集韻〕辰羊切 陽

小篆

🈩❶**こひねがふ。こひねがはくは。**〔說文〕尙、曾也、庶幾也、从レ八向聲。〔爾雅、釋言〕庶幾、尙也。〔疏〕尙、謂三心所二希望一也。〔書、大禹謨〕爾尙一二乃心力一。〔疏〕尙、庶幾也。〔詩、小雅、菀柳〕有二菀者柳一、不レ尙息焉。〔箋〕尙、庶幾也。〔儀禮、特牲饋食禮〕尙饗。〔注〕尙、庶幾也。〔禮、大學〕尙亦有レ利哉。〔注〕尙、庶幾也。〔漢書、敍傳上〕尙粤其幾淪二神域一兮。〔注〕師古曰、尙、庶幾也、願也。❷**なほ。**㋑まだ。それでも。〔詩、小雅、小弁〕尙求二其雌一。〔箋〕尙、猶也。〔詩、大雅、蕩〕雖レ無二老成人一、尙有二典刑一。㋺かつ。〔枚乘、七發〕尙何及哉。〔注〕善曰、賈逵國語注曰、尙、且也。㋩かならず。〔孔子家語、三恕〕尙有レ說也。〔注〕尙、猶レ必也。❸**うへ。うへにする。**上(**1－13**)に通ず。〔說文通訓定聲〕尙、叚借爲レ上。〔禮、曲禮下〕操二幣圭璧一、則尙二左手一。〔疏〕尙、上也。〔左氏、襄、二十七〕尙矣哉。〔注〕尙、上也。❹**かみ。のぼる。**〔孟子、萬章下〕舜尙見レ堯。〔注〕尙、上也。❺**たかい。たかくする。**〔孟子、盡心上〕尙レ志。〔注〕尙、貴也。〔張衡、東京賦〕則大庭氏何以尙レ茲。〔注〕薛綜曰、尙、高也。❻**たつとぶ。**黨類の中、第一とする。〔字彙〕尙、又尊也。〔禮、檀弓上〕夏后氏尙レ黑、殷人尙レ白、周人尙レ赤。〔禮、祭義〕貴レ德而尙レ齒。〔注〕尙、謂三有レ事尊二之於其黨一也。〔漢書、楊王孫傳〕故聖王生易レ尙、死易レ葬也。〔注〕師古曰、尙、崇也。❼**よみする。**〔老子、三〕不レ尙レ賢。〔注〕尙者、嘉之名也。❽**このむ。このみ。**〔國語、晉語八〕剛而尙レ寵。〔注〕尙、好也。❾**したふ。**〔後漢書、張衡傳〕尙二前良之遺風一兮。〔注〕尙、慕也。❿**ほこる。**〔禮、表記〕君子不三自大二其事一、不三自尙二其功一。⓫**をさ。**〔水經、濁漳水注〕尙子、卽長子之異名也。⓬**あげる。ささげる。**〔楚辭、天問〕師何以尙レ之。〔注〕尙、擧也。〔司馬相如、長門賦〕得レ尙二君之玉音一。〔注〕善曰、尙、猶レ奉也。⓭**くはへる。**〔廣雅、釋詁二〕尙、加也。〔論語、里仁〕好レ仁者、無二以尙レ之。〔集解〕孔曰、難二復加一也。〔論語、顏淵〕草尙二之風一。〔皇疏〕尙、猶レ加也。⓮**かざる。**〔詩、齊風、著〕尙レ之以二瓊華一乎而。〔箋〕尙、猶レ飾也。⓯**つとめる。**〔公羊、襄、二十九〕尙速有レ悔二于予身一。〔注〕尙、猶二努力一。〔國語、楚語上〕子尙良食。〔注〕尙、猶レ強也。⓰**たすける。**〔爾雅、釋詁〕尙、右也。〔注〕紹介勸尙、皆相佑助。〔郝懿行義疏〕詩抑云、肆皇天弗レ尙、言三天命不二佑助一也。⓱**ひさしい。ふるい。とほい。**〔小爾雅、廣詁〕尙、久也。〔呂覽、古樂〕故樂之所二由來一者尙也。〔注〕尙、久也。〔史記、三代世表序〕五帝三代之記尙矣。〔注〕索隱曰、尙、猶二久古一也。〔後漢書、崔駰傳〕昔大庭尙矣。〔注〕尙、遠也。⓲**むかし。**〔尙書序、疏〕尙者、上也、言三此上代以來之書、故曰二尙書一。⓳**たつとぶことにつける辭。**〔詩、大雅、大明〕維師尙父。〔箋〕尙父、呂望也、尊稱焉。〔疏〕尊レ之爲作二此號一。⓴**公主をめとる。**天子の女をめとる。〔字彙〕尙、又尊也、娶二公主一謂二之尙一、言三帝王之女、尊而尙レ之、不二敢言レ娶。〔漢書、王吉傳〕漢家列侯尙二公主一、國人承二翁主一。〔注〕晉灼曰、娶二天子女一、則曰レ尙二公主一。㉑**あふ。あたる。あはせる。めあはせる。**當(**7－21890**)に通ず。〔說文通訓定聲〕尙、叚借爲レ當。〔易、泰〕得レ尙二于中行一。〔注〕尙、猶レ配也。〔史記、司馬相如傳〕卓王孫喟然而嘆、自以得レ使三女尙二司馬長卿一晚。〔注〕索隱曰、尙、配也。㉒**姓。**〔萬姓統譜〕尙、京兆高音、周太師尙父之後、又望出二清河上黨一。〔通志、氏族略〕以レ字爲レ氏、尙氏、姜姓、齊太公之後也、太公號二太師尙父一、因氏。国**かみ。**內侍所奉侍の女官の長。🈔❶**つかさどる。**掌(**5－12248**)に通ず。〔集韻〕尙、主也。〔說文通訓定聲〕尙、叚借爲レ掌。〔匡謬正俗、五〕尙者、主也、掌也。〔廣雅、釋詁三〕尙、主也。〔疏證〕尙之言、掌也。〔史記、呂后紀〕尙二符節一。〔注〕集解曰、張晏曰、尙、主也。〔漢書、惠帝紀〕宦官尙レ食比二郎中一。〔注〕應劭曰、尙、主也、云云、如淳曰、主二天子物一曰レ尙。❷尙書は、官名。〔廣韻〕尙、尙書、官名。

名乘 サネ。タカ。ナホ。ナリ。ヒサ。マシ。マス。

【尙安】1 シヤウアン ❶縣名。㋑三國吳、置く。晉、改めて熙平といふ。故治は廣東省連山縣の西。〔讀史方輿紀要、廣東、廣州府、連州、連山縣〕熙平廢縣、在二縣西一、三國吳置二尙安縣一、屬二始安郡一、晉太康初、改曰二熙平縣一。㋺隋、置き、唐、更めて萬全といふ。後、吐蕃に沒せらる。故治は甘肅省文縣の西北。〔讀史方輿紀要、陝西、鞏昌府、階州、文縣〕同昌城、隋開皇七年、改置二扶州一、治二尙縣一、唐至德二載、改曰二萬全縣一、後沒二於吐蕃一縣廢。❷清、宜綿(**3－7111‥80**)の原名。「を見よ。

【尙菴】2 シヤウアン 原瑜の號。原雙桂(**2－2973‥249**)

【尙衣】3 シヤウイ 官名。周官に司服があり、王の服を掌る。戰國に始めて尙衣・尙冠の職があり、秦・漢の御府は其の後身で、少府に屬す。北齊に始めて主衣局が置かれ、門下省に屬し、隋は改めて尙衣局といひ、殿內省に屬す。唐代、尙衣を奉冕と呼び、之に倣つて六局を設け、元には尙衣は侍正府に屬し、明は尙衣監を置き、宦官を之に任じた。清、廢す。〔漢書、孝武衞皇后傳〕帝起二更衣一、子夫侍二尙衣一。〔事物紀原、祕殿掌貳部、尙衣〕周有二司服一、爲二禮官之屬一、戰國始有二尙衣・尙冠之職一、北齊制二主衣一、隋復曰二尙衣一也、左氏曰、昔虞閼父爲二周陶正一、注云、陶、復陶也、陶正、主二君上之衣服一、此尙衣之始也。〔通典、職官典、諸卿、殿中監、尙衣〕尙衣局奉御、周官有二司服中士一、掌二王之服一、辨二其名物一、戰國有二尙衣・尙冠之職一、秦漢有二御府令丞一、掌レ供二御服一、而屬二少府一、後漢又掌下宦者典二官婢一作中中衣服上、魏因レ之、晉屬二光祿勳一、江東省、宋大明中、改二尙方一曰二左右御府一、各置二令丞一人一、後廢帝初、省二御府一、置二中署一、隸二右尙方一、其後又置、初宋氏用二三品勳位一、明帝改用二二品一、準二南臺御史一、掌二金銀綵帛、凡諸造作一、以供奉、及二妃主六宮一、梁陳其職隸在二尙方一、後魏有二掌服郎一、北齊門下省統二主衣局一、都統子統各二人一、後周有二司服一、上士二人、中士二人、隋分屬二殿內省一、其後又改爲二尙衣局一、置二奉御二人一、大唐因レ之、龍朔二年、改爲二奉冕大夫一、咸亨元年復レ舊、直長、隋置二八人一、大唐因レ之、減二二人一。〔續通典、職官典、諸卿、殿中監、尙衣〕尙衣局、唐置二奉御二人、直長四人一、掌レ供二冕服几案一、祭祀則奉二鎭圭於監一、而進二於天子一、大朝會設レ案、宋尙衣有二典御・奉御等官一、掌二衣服冠冕之事一、遼南面官殿中司有二尙衣局奉御一、金尙衣局有二提點使・副使・都監・直長・同監等官一、掌二御用衣服冠帶等事一、屬二宣徽院一、元侍正府有二尙衣奉二人、御副奉御二人、尙冠奉御二人、副奉御二人、尙鞶奉御二人、副奉御二人、尙休奉御二人、副奉御二人一、明尙衣監掌二於內侍一。

『尙衣局』4 シヤウイキヨク 官署の名。❶天子の衣服冠冕の事を掌る。尙衣を見よ。❷縫殿寮の唐名。〔職原抄〕縫殿寮、唐名、尙衣局。

『尙衣少監』5 シヤウイセウカン 官名。❶尙衣局の屬官。尙

衣を見よ。❷縫殿助の唐名。〔職原抄〕縫殿寮、助、唐名、尚衣少監。

〔尚衣直長〕6 シヤウイチョクチャウ　官名。❶尚衣局の屬官。尚衣を見よ。❷縫殿允の唐名。〔職原抄〕縫殿寮、允、唐名、尚衣直長。

〔尚衣奉御〕7 シヤウイホウギョ　官名。❶尚衣局の屬官。尚衣を見よ。❷㋑內藏頭の唐名。〔職原抄〕內藏寮、頭一人、唐名、倉部郎、又、少府監、或、尚衣奉御、又、藏帑令。㋺縫殿頭の唐名。〔職原抄〕縫殿寮、頭一人、唐名、尚衣奉御、或、腋庭令・彩縫監。

〔尚衣令史〕8 シヤウイレイシ　官名。❶尚衣局の屬官。尚衣を見よ。❷縫殿屬の唐名。〔職原抄〕縫殿寮、屬、唐名、尚衣令史。

【尚闈】9 シヤウヰ　後宮の闈司の長官。典闈・女孺の上に立つて管鑰出納のことに當る。みかぎのつかさのかみ。〔後宮職員令〕闈司、尚闈一人、掌二宮閣管鑰及出納之事一。

【尚友】10 シヤウイウ　❶上代の賢人を友とする。古人を友とする。〔孟子、萬章下〕孟子謂二萬章一曰、一鄉之善士、斯友二一鄉之善士一、一國之善士、斯友二一國之善士一、天下之善士、斯友二天下之善士一、以レ友二天下之善士一、爲レ未レ足、又尚論二古之人一、頌二其詩一讀二其書一、不レ知二其人一可乎、是以論二其世一也、是尚友也。❷元、劉將孫(2－2224‥1032)の字。

【尚友錄】11 シヤウイウロク　書名。二十二卷。明、廖用賢撰。續集、二十二卷。清、潘遵祁撰。周から明に至る人名錄。小傳を附す。正集は、世說新語・物潭氏族大全・百將傳・列仙傳中に在る人物を收め、續集は、正集に漏れた人を採錄す。〔四庫提要、子、類書類存目〕。

〔尚友山人〕12 シヤウイウサンジン　宋、洪天錫(6－17402‥264)の號。

【尚右】13 シヤウイウ　みぎをたつとぶ。尚レ左尚レ右(4－8720‥527)を見よ。〔孔叢子、問軍禮〕大師曰、將帥尚レ左、士卒尚レ右。

【尚優】14 シヤウイウ　たかくすぐれる。〔國朝漢學師承記、朱笥河先生〕朱筠、學問尚優、加レ恩授二編修一、在二四庫全書處一行走。

【尚鎰】15 シヤウイツ　明、汪憲(6－17154‥56)の字。

【尚遠】16 シヤウエン　久しく遠いこと。〔論衡、福虛〕難以三堯舜不レ賜レ年、桀紂不二夭死一、堯舜桀紂猶爲二尚遠一。

【尚可】17 シヤウカ　宋、謝安時(10－35827‥238)の字。「號。

【尚雅】18 シヤウガ　元、陳太倫(11－41698‥1101)の

【尚行】19 シヤウカウ　行を高尚にする。〔莊子、刻意〕刻レ意尚レ行、離レ世異レ俗。

【尚校】20 シヤウカウ　上と爭ふ。上に反抗する。校尚の意で、校は抗、尚は上。〔韓非子、外儲說右上〕夫犯レ法廢レ令、不三尊二敬社稷一者、是臣乘レ君而下尚校也、臣乘レ君則主失レ威、下尚校則上位危。〔集解〕先愼曰、此當レ作二下校尚一、傳寫誤倒耳、下校レ尚、謂二下亢レ上也。

【尚衡】21 シヤウカウ　明、同州の人。字は一中。弘治の進士。官は工科給事中。上書して佛塔を造るを諫止す。山西左參議に遷り、平陽の盜、王常が衆を西山に聚めてゐたのを、計を設けて擒殺し、其の餘黨を散ず。移つて漢陽の守となり、卒す。〔國朝獻徵錄、八十九〕。「字。

【尚樂】22 シヤウガク　北周、侯莫陳崇(1－633‥150)の

【尚希】23 shang^4 hsi^1　こひねがふ。

【尚奇】24 シヤウキ　普通と異つたことを好む。〔魏志、王粲傳〕時又有二譙郡嵇康一、文辭壯麗、好言二老莊一、而尚レ奇任俠。

【尚鬼】25 シヤウキ　死者の靈魂をたつとび崇める。〔宋史、黎州諸蠻傳〕夷俗尚レ鬼、謂二主レ祭者鬼主一、故其酋長、號二都鬼主一。

【尚基】26 シヤウキ　清、禹之鼎(8－24885‥89)の字。

【尚義】27 シヤウギ　❶義をたつとぶ。〔列子、周穆王〕貴レ勝而不レ尚レ義。〔孔叢子、陳士義〕脩レ仁尚レ義。❷設治局の名。察哈爾省に屬す。もと商都縣の地。治は大青溝。❸明、任禮(1－416‥198)の字。

【尚儀】28 シヤウギ　上古の人。常儀(4－8955‥54)の❷に同じ。〔呂覽、勿躬〕容成作レ曆、羲和作二占日一、尚儀作二占月一、后益作二占歲一。〔注〕尚儀、卽常儀。

【尚吉】29 シヤウキツ　清、禹之鼎(8－24885‥89)の字。

【尚饗】30 シヤウキヤウ　こひねがはくはうけよ。祭文の末に用ひる語。〔儀禮、特牲饋食禮〕孝孫某、筮二來日某一、諏二此某事一、適二其皇祖某子一、尚饗。〔注〕尚、庶幾也。〔韓愈、祭二十二郎一文〕嗚呼哀哉、尚饗。

【尚宮】31 シヤウキユウ　女官の名。唐、置く。宮官の長で、中宮を導引するを掌る。歷代、之に因り、清、廢す。〔唐書、百官志二〕宮官、尚宮局、尚宮二人、正五品、六尚皆如レ之、掌三導二引中宮一、總二司記・司言・司簿・司闈凡六尚一、事物出納文籍、皆涖二其印署一。〔續文獻通考、職官考、女官〕金宮人、女官職員、有二尚宮・尚儀・尚服・尚食・尚寢・尚功一、各二人、分二領二十四司一、又宮正二人、尚宮掌三導二引皇后一、管二司記・司言・司簿・司闈一、仍總二知五尚須物出納等事一。

【尚矩】32 シヤウク　明、董越(9－31433‥19)の字。

【尚絅】33 シヤウケイ　❶絅は單衣、卽ち薄絹、尚は加へること。錦を着た時、其の上に單衣を加へて其の美麗のめだつことを避ける。內を美にして、外形にあらはさない喩。〔中庸〕詩曰、衣レ錦尚レ絅、惡二其文之著一也。〔章句〕詩國風、衛碩人・鄭之丰、皆作二衣レ錦褧衣一、褧・絅同、禪衣也、尚、加也、古之學者爲レ己、故立レ心如レ此、尚レ絅、故闇然、衣レ錦、故有二日章之實一。❷字號。㋑明、姚張斌(3－6202‥184)の號。㋺明、張錦(4－9812‥218)の字。㋩明、鮑頫(12－46074‥26)の字。㋥清、尤錦(4－7543‥17)の字。

〔尚絅齋〕34 シヤウケイサイ　字號。❶元、李唐(6－14459‥551)の號。❷明、童冀(8－25775‥16)の號。

〔尚絅堂〕35 シヤウケイダウ　❶清、劉嗣綰(2－2224‥1015)の室名。❷雨森東の號。雨森芳洲(12－42210‥209)を見よ。「の室名。

〔尚絅廬〕36 シヤウケイロ　清、吳嘉賓(2－3365‥467)

〔尚絅齋集〕37 シヤウケイサイシフ　書名。五卷。明、童冀撰。金華・南行・霅川の三集には詩文を載せ、北遊集には詩があつて文が無い。〔四庫提要、集、別集類〕。

【尚卿】38 シヤウケイ　紙の神をいふ。〔致虛雜俎〕筆神曰二佩阿一、又曰二昌化一、硯神曰二淬妃一、墨神曰二回氏一、紙神曰二尚卿一。

【尚敬】39 シヤウケイ　敬をたつとぶ。〔詩、大雅、思齊〕肅肅在レ廟、〔箋〕羣臣助二文王養一レ老、則尚レ和、助二祭於廟一、則尚レ敬、言レ得二禮之宜一。

【尚稽】40 シヤウケイ　清、禹之鼎(8－24885‥89)の字。

【尚賢】41 シヤウケン　❶賢人をたつとぶ。〔易、大畜〕剛上而尚レ賢。〔老子、三〕不レ尚レ賢、使二民不一レ爭。〔莊子、天道〕宗廟尚レ親、朝廷尚レ尊、鄉黨尚レ齒、行事尚レ賢、大道之序也。〔孔叢子、論書〕敬レ可レ敬、則尚レ賢矣。〔後漢書、輿服志上〕禮服之興也、所二以報レ功章レ德、尊レ仁尚レ賢也。❷墨子の篇名。一に上賢に作る。上・中・下三篇ある。❸字號。㋑宋、劇可久(2－2218‥81)の字。㋺宋、張師德(4－9812‥1128)の字。㋩明、沈湝(6－17189‥226)の字。㋥明、祖述(8－24664‥73)の字。

【尚謙】42 シヤウケン　明、薛侃(9－32123‥24)の字。

【尚嚴】43 シヤウゲン　明、舒泰(9－30300‥56)の字。

【尚古】44 シヤウコ　昔の文物制度をたつとぶ。崇古。〔唐書、蕭穎士傳〕穎士數稱下班彪・皇甫謐・張華・劉琨・潘尼、能尚レ古、而混二流俗一不中自振上。

〔尚古堂〕45 シヤウコダウ　菅原正朝の號。菅原麟嶼(9－31142‥34)を見よ。

〔尚古主義〕46 シヤウコシユギ　古代の文物制度を模範とする主義。擬古主義。英語 Classicism の譯。

【尚湖】48 シヤウコ　湖の名。江蘇省常熟縣の西南。北、黃泗浦から出て江に入る。附近の虞山と共に奇勝と稱せられる。太公望呂尚が釣をした處と傳へるので尚といふ。別に又、西湖ともいふ。〔讀史方輿紀要、江南、蘇州府、常熟縣〕尚古、縣西南四里、長十五里、廣九里、虞山峙二其北一、東通二運河一、西出二江陰縣界一。

【尚工】49 シヤウコウ　官名。隋、置く。土木建築に關することを掌る。〔隋書、后妃傳序〕又採二漢晉舊儀一、置二六尚、云云一、云云、六曰、尚工、掌二營造百役一。

【尚功】50 シヤウコウ　てがらをほこる。〔禮、表記〕君子不三自大二其事一、不三自尚二其功一。

【尚黑】51 シヤウコク　黑色を崇めたつとぶ。尚赤(114)を見よ。〔禮、檀弓上〕夏后氏尚レ黑、大事斂用レ昏、戎事乘レ驪。

【尚左】52 シヤウサ　ひだりをたつとぶ。尚レ左尚レ右(4－8720‥527)を見よ。〔孔叢子、問軍禮〕大師曰、將帥尚レ左、士卒尚レ右。

〔尚左生〕53 シヤウサセイ　字號。❶元、鄭元祐(11－39647‥364)の號。專ら左手で事をする人といふ意。

〔太平淸話〕鄭元祐、脫二斬任一左手、號二尙左生一。❷淸、高鳳翰(12－45313‥1334)の號。

【尙佐】54 シヤウサ 淸、嵆璜(4－8272‥7)の字。

【尙宰】55 シヤウサイ 料理人の長。〔韓非子、內儲說下〕宰人頓首服二死罪一曰、竊欲レ去二尙宰人一也。

【尙齋】56 シヤウサイ 字號。❶三宅重固の號。三宅尙齋(1－12‥1238)を見よ。❷小倉貞の號。小倉尙齋(4－7473‥473)を見よ。

【尙早】57 シヤウサウ まだ早い。まだ其の時期でないこと。〔左氏、宣、二〕盛服將レ朝、尙早、坐而假寐。

【尙掃】58 シヤウサウ 後宮の掃司の長官。かもりづかさのかみ。〔職原抄〕掃司、尙掃一人、掌下供二奉床席灑掃鋪設一之事上。

【尙想】59 シヤウサウ こひねがひおもふ。〔袁宏、三國名臣序贊〕尙二想遐風一、載挹載味。〔注〕向曰、言三庶幾想二衆賢之遠風一也。

【尙藏】60 シヤウザウ 後宮の藏司の長官。くらのかみ。〔職原抄〕藏司、尙藏一人、掌二神璽關契、供御衣服、巾櫛服翫、及珍寶綵帛賞賜之事一。

【尙子】61 シヤウシ ❶長子をいふ。〔水經、濁漳水注〕尙子、卽長子之異名也。❷人名。尙長。字は子平。隱避して仕へず。子の嫁娶が畢つて後は家事に關係しなかつた。〔謝靈運、山居賦〕愧二班生之夙悟一、慙二尙子之晚研一。〔注〕班嗣本不レ染レ世、故曰二夙悟一、尙平未レ能レ去レ累、故曰二晚研一。〔謝靈運、初去レ郡詩〕畢レ娶類二尙子一、薄レ遊似二邴生一。〔注〕善曰、嵆康高士傳曰、尙長、字子平、河內人、隱避不レ仕、爲レ子嫁娶畢、勅二家事一斷レ之、勿二復相關一、當レ如二我死一矣。

【尙之】62 シヤウシ 字號。❶明、袁褧(10－34152‥51)の字。❷明、吳應賓(2－3365‥454)の字。❸淸、徐書受(4－10110‥490)の字。❹淸、李銳(6－14459‥58)の字。

【尙史】63 シヤウシ 書名。一百七卷。淸、李鍇撰。開闢から秦末までの事を記載し、馬驌の繹史と幷んで光を爭ふ。體例は史記に準じ、排纂の法は路史に倣つて稍〻異なる。其の目は、世系圖一卷・本紀六卷・世家十五卷・列傳五十八卷・繫六卷・表六卷・志十四卷・序傳一卷。〔四庫提要、史、別史類〕。

【尙孜】64 シヤウシ 隋、孫尙子(3－6987‥429)の一名。

【尙志】65 シヤウシ ❶こころざしを高くする。思意を高尙にする。〔孟子、盡心上〕王子墊問曰、士何事、孟子曰、尙レ志、曰、何謂レ尙レ志、曰、仁義而已矣。〔注〕尙、上也、士當三貴二上於用一志也。〔集注〕尙、高尙也、志者、心之所レ之也。❷明、同州の人。字は士行。字を以て行はる。五經に通ず。龍岡山に隱れ、學者、南岡先生といふ。孟暘に薦められ、本學訓導を授けらる。❸明、吳毅(2－3365‥94)の字。

【尙志堂】66 シヤウシダウ 淸、盧錫晉(8－23050‥234′)の室名。

【尙枲】67 シヤウシ 官名。枲耳を司る賤官。枲耳は菜の名。〔淮南子、覽冥訓〕瞽師庶女、位賤二尙枲一、權輕二飛羽一。〔注〕尙、主也、枲者、枲耳、菜名也、幽冀謂二之檀菜一、雒下謂二之胡枲一、主二是官一者、至微賤也。

【尙齒】68 シヤウシ よはひをたつとぶ。老人を尊敬する。齒は齡。上齒。尙年。〔禮、祭義〕有虞氏貴レ德而尙レ齒、夏后氏貴レ爵而尙レ齒、殷人貴レ富而尙レ齒、周人貴レ親而尙レ齒。〔注〕貴、謂二燕賜有レ加二於諸臣一也、尙、謂三有レ事尊二之於其黨一也。〔禮、祭義〕朝廷同レ爵則尙レ齒。〔注〕同レ爵尙レ齒、老者在レ上也。〔莊子、天道〕宗廟尙レ親、朝廷尙レ尊、黨鄕尙レ齒、行事尙レ賢、大道之序也。

【尙齒會】69 シヤウシクワイ シヤウシエ よはひを尙ぶ會。高年の人々が相會して宴を張る雅會。唐の白樂天の故事により、大抵七人相會するを常とし、七叟といふ。席次は年齡順による。又、多くの高年者を會して饗宴し、詠歌作詩などを催すにもいふ。〔白居易、胡・吉・鄭・劉・盧・張等六賢皆多二年壽一、予亦次レ焉偶於二弊居一合二成尙齒之會一七老相顧既醉甚歡靜而思レ之此會稀有因成二七言六韻一以紀レ之傳二好レ事者一詩〕七人五百七十歲、拖レ紫紆レ朱垂二白髮一、手裏無レ金莫二嗟歎一、樽中有レ酒且歡娛、詩吟二兩句一神還王、酒飲二三杯一氣尙麄、嵬峩狂歌敎二婢拍一、婆娑醉舞遣二孫扶一、天年高過二二疏傳一、人數多二於四皓圖一、除二卻三山五天竺一、人間此會更應レ無。〔注〕前懷州司馬安定胡杲年八十九、衞尉卿致仕馮翊吉皎年八十六、前右龍武軍長史榮陽鄭據年八十四、前慈州刺史廣平劉眞年八十二、前侍御史內供奉官范陽盧眞年七十二、前永州刺史淸河張渾年七十四、刑部尙書致仕太原白居易年七十四、已上七人、合五百七十歲、會昌五年三月二十一日、於二白家履道宅一同宴、宴罷賦レ詩、時祕書監狄兼謩河南尹盧貞以三年未二七十一、雖レ與レ會而不レ及レ列。

【尙侍】70 シヤウジ 古の後宮の女官。內侍司の長官。二人あり、常侍・奏請・傳宣等の事を掌る。以前は、女官を統べ、宮中の內事を執掌する敕任官。ないしのかみ。〔後宮職員令〕內侍司、尙侍二人、掌下供二奉常侍、奏請宣傳、檢二校女孺一、兼知二內外命婦朝參一、及禁內禊儀之事上。

【尙辭】71 シヤウジ 文辭のことをたつとぶ。〔魏志、高貴鄕公紀評〕高貴公、才慧夙成、好レ問尙レ辭、蓋亦文帝之風流也。

【尙州】72 シヤウシウ 朝鮮慶尙北道の郡名。

【尙質】73 シヤウシツ ❶質をたつとぶ。質は、文(外飾)に對して言ふ。〔白虎通、巡狩〕禹葬二會稽一、于レ時尙レ質、故死則止葬、不レ重二煩擾一也。❷字號。㋑後周、高行周(12－45313‥1070)の字。㋺宋、黃幹(12－47926‥159)の字。㊇明、方振文(5－13620‥553)の字。

【尙舍】74 シヤウシヤ ❶官名。天子の幄幕次舍の事を掌る。掌舍。〔唐書、百官志二〕上監、掌二天子服御之事一、其屬有二六局一、曰二尙食・尙藥・尙衣・尙乘・尙舍・尙輦一。❷明、黃子美(12－47926‥1116)の字。

【尙舍局】75 シヤウシヤキヨク 官署の名。❶天子の幄幕次舍等の事を掌る。周禮の掌舍の職。隋、尙舍局を置き、殿內省に屬す。唐、之に因り、龍朔二年、改めて奉扆大夫とし、咸亨元年、舊に復す。宋・遼、皆尙舍局を置き、元には中尙監といひ、明は司設監と改め、內侍省に屬す。〔通典、職官典、諸卿中、殿中監〕尙舍局、奉御、周禮有二掌舍一、掌二行所解止之處、帷幕幄帟之事一、漢少府屬官有二守宮令丞一、掌二宮殿陳設一、魏殿中監、掌二帳設監護之事一、晉宋以下、其職並在二殿中監一、隋煬帝置二殿內監一、改二殿內局一爲二尙舍局一、置二奉御二人一、大唐因レ之、龍朔二年、改爲二奉扆大夫一、咸亨元年、復レ舊、直長、隋置二八人一、大唐因レ之、而減二二人一。〔續通典、職官典、諸卿中、殿中監〕尙舍局、唐置二奉御二人、直長六人一、掌二殿庭祭祀張設湯沐燈燭汎掃一、行幸則設二三部帳幕一、有二古帳大帳次帳小次帳小帳凡五等各三部一、其外則蔽以二排城一、大朝會設二黼扆一施二躡席一薰レ爐、朔望設レ幄而已、宋尙舍局有二典御奉御等官一、掌二次舍幄帟之事一、遼南面官殿中司有二尙舍局奉御一、金儀鸞局提點等官、或以二少府監官一兼、或兼二少府監一、元中尙監掌レ供二內府陳設帳房帟幕車輿雨衣之用一、明司設監掌二於內侍一。❷主殿寮の唐名。〔職原抄〕主殿寮、唐名、尙舍局。

【尙舍丞】76 シヤウシヤジヨウ 官名。主殿允の唐名。〔職原抄〕主殿寮、允、唐名、尙舍丞。

【尙舍直長】77 シヤウシヤチヨクチヤウ 官名。❶尙舍局の屬官。尙舍局の❶を見よ。❷主殿助の唐名。〔職原抄〕主殿寮、助、唐名、尙舍直長。

【尙舍奉御】78 シヤウシヤホウギヨ 官名。❶尙舍局の屬官。尙舍局の❶を見よ。❷主殿頭の唐名。〔職原抄〕主殿寮、頭一人、唐名、尙舍奉御・殿中監。

【尙舍令史】79 シヤウシヤレイシ 官名。主殿屬の唐名。〔職原抄〕主殿寮、屬、唐名、尙舍令史。

【尙章】80 シヤウシヤウ 十干の癸の異名。昭陽。〔史記、歷書〕尙章大淵獻二年。〔注〕索隱曰、尙章、癸也、爾雅作二昭陽一也。

【尙若】81 シヤウジヤク 淸、張湝(磁州の人)(4－9812‥449)の字。

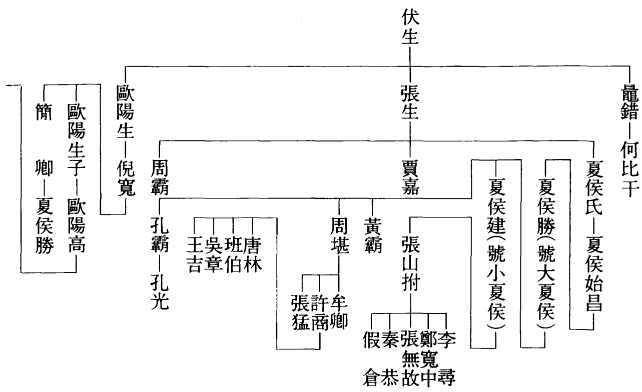
【尙主】82 シヤウシユ 公主に尙する。天子の女をめとること。〔漢書、王吉傳〕又漢家列侯尙二公主一。〔注〕晉灼曰、娶二天子女一、則曰レ尙二公主一。〔古今姓氏錄〕後魏穆觀子壽、壽子平國、平國子亮、亮子紹、五世尙レ主。〔權德輿、古樂府〕身年二八壻二侍中一、幼妹承レ恩兄尙レ主。

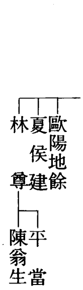
【尙酒】83 シヤウシユ 官名。後宮の酒司の長官。さけのかみ。〔職原抄〕酒司、尙酒一人、掌二釀レ酒之事一。

【尙且】84 shang^4 ch‘ieh^3 其の上に。尙且つ。云云ですら。

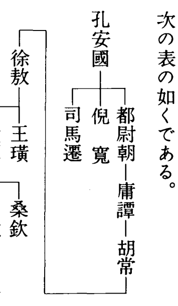
【尙書】85 シヤウシヨ ❶書名。書經をいふ。五經及び十三經の一。上古は單に書といひ、漢に至つて尙書といひ、宋代に又、書經といふ。虞書・夏書・商書・周書など、唐虞三代の記錄である。尙書

といふ名の由來に就いては、一、馬融の書傳序には、上古有虞の書の謂といひ、二、鄭玄の書贊には、孔子が撰した書を尙ぶ謂といひ、三、王肅は上のいふ所の謂といひ、四、孔安國の尙書序、及び經典釋文には、上古の書の謂といふ。蓋し、上古の書にして尙ぶべきものの意。尙書には四書・四要・六體・十例・大序・小序の體裁がある。四書とは虞書・夏書・商書・周書を、四要とは天文・地理・圖書・律呂を、六體とは典・謨・訓・誥・誓・命を、十例とは六體に征・貢・歌・範の四者を加へたものをいひ、序は各篇を作爲した所以を記す。大小序共に孔子の作とするのは非である。十例の中、典とは經法の意で堯典・舜典の二典、謨は大謀の意で、禹・皐陶・益稷の嘉謀を記す。訓は訓導の意で、無逸・伊訓の類、誥は諭告の意で、召誥・大誥の類、誓は誓告で、湯誓・牧誓の類、命は命令で、顧命・文侯之命の類、征は胤征、貢は禹貢、歌は五子之歌、範は洪範である。此の區別は皆文體に因るものであるが、一篇に二體三體を兼ねたものもある。尙書は又、二帝三王の授受政教の記錄であるから、經中の史といふべく、四千有餘年以前の事實や思想の大概を窺ふに足る。作者は夏の史官、商・周の史臣であつて、史官・史臣が當時の事を記錄して夏・商・周の三書を爲り、周末に至つて孔子が之を編纂したものであるといふ。緯書璇璣鈐に、孔子が黃帝以來秦の穆公に至る三千二百四十篇の書を得て、其の中の一百二十篇を取り、一百二篇を以て尙書を作り、十八篇を中候とし、三千一百二十篇を刪去したとあるのは、後人の誇張であらうが、孔子が上は唐虞から下は秦穆に至るまでの記錄凡そ一百篇を以て書を編纂したことは、史記・漢書以下諸儒の間に異論の無いところであつて、近來往々これを疑ふものもあるが、古來の說を否定すべき確證はない。但し、書序は林光朝・朱熹・陳櫟等が已に說破した如く、孔子の筆ではない。書とは、もと史官の記錄の稱呼である。何れの時代から史官が存在したかは明かでないが、孔子の編纂の際には、可なり多くの書が存在したらしい。而して孔子の編纂した書の篇數に就いては、一、緯書璇璣鈐・趙岐孟子注の一百二十篇說、二、張霸の百兩篇說、三、班固・孔安國・孔穎達・歐陽脩の一百篇說等の諸說がある。秦の始皇三十四年に、丞相李斯の上書に因る焚書の事があつたが、博士家の藏書のみは僅かに後世に傳へ得た。西漢の文帝の時、秦の博士であつた濟南の伏生が、壁中に藏してあつた書を求めて次の二十九篇を得た。堯典・皐陶謨・禹貢・甘誓・湯誓・盤庚・高宗肜日・西伯戡黎・微子・大誓・牧誓・洪範・金縢・大誥・康誥・酒誥・梓材・召誥・雒誥・多士・無逸・君奭・多方・立政・顧命・粊誓・呂刑・文侯之命・秦誓。これを今文尙書といふ。今文とは、當時の人に讀み易からしめる爲、漢代通用の隷書で記錄したものである。伏生の學系は次表の如くである。





然るに、景帝の時、魯の恭王が孔子の舊宅を壞して、又、尙書を得た。それは蝌蚪文を以て記してあつたから、之を古文といひ、武帝の時、博士孔安國が之を讀んだ。其の數は、凡そ五十八篇で、今文に無いものは舜典・汩作・九共・大禹謨・棄稷・五子之歌・允征・湯誥・咸有一德・典寶・伊訓・肆命・厚命・武成・旅獒・冏命の十六篇に過ぎない。然るに五十八篇と稱したのは、今文の盤庚と泰誓とを各〻三篇に分け、更に古文の九共を九篇に分け、顧命から康王之誥を分けて通算するからである。但し、泰誓に就いては、今文にもなく、河內女子の得る所とする說がある。又、其の孔安國序に增益二十四篇と稱するものは、此の古文十六篇と九共九篇とを併せたもので、其の四十五篇と稱するのは、此の十六篇と今文二十九篇（今文二十八篇と泰誓）とを合したものである。五十八篇を區別すれば、虞夏書十九篇・商書十三篇・周書二十六篇である。これを古文尙書といひ、或は後出の僞古文に對して眞古文、又は孔壁古文といふ。孔安國の傳統は次の表の如くである。



安國の古文は、平帝の朝に暫く學官に立てられたが、後、幾何もなく廢せられて其の傳を失つた。成帝の時、東萊の張霸が百兩篇の古文尙書を僞作して上つたのが僞古文尙書の現れた初である。當時、劉向が已に其の非を辯じてゐる。後漢に至つて、古文は大いに行はれ、賈逵は之が爲に訓を作り、馬融は傳を作り、鄭玄は注解を作つた。後、西晉の時、永嘉の亂によつて古來の經典が多く亡失したが、東晉の元帝の時、豫章の內史梅賾が、孔安國傳の尙書を得たと稱して僞古文尙書を獻上した。此が現存の古文尙書で、やがて學官に立つた。隋・唐に至つて、僞古文尙書は愈〻其の地位を固め、陸德明の經典釋文がこの書を取り、更に貞觀中、孔穎達が尙書正義を作るや、專ら梅氏の僞孔傳を採り、鄭注は張霸の僞作なりと妄斷して之を斥けた。是に於て漢代の古文の學は全く顧みられなくなつた。次で玄宗は古體文字を好まず、天寶三年、衞包に詔して、改めて開元文字に從はしめた。現今行はれる尙書は之以後のものである。其の今文二十八篇より多いものは、舜典・益稷・盤庚三篇・康王之誥（以上五篇は二十八篇の內から分立したもの）・大禹謨・五子之歌・胤征・仲虺之誥・湯誥・伊訓・太甲三篇・咸有一德・說命三篇・泰誓三篇・武成・旅獒・微子之命・蔡仲之命・周官・君陳・畢命・君牙・冏命費誓の諸篇である。宋の吳棫に至つて、始めて東晉の古文を疑ひ、同時に朱子も之を疑つた。併し宋代儒學に重んずる所謂虞廷傳心訣、其の他、心性に關する說語が多く古文の中に見えるので、輕々しくこれを論議しなかつたが、元の吳澄・王充耘、明の梅鷟を經て清の閻若璩に至り、古文尙書疏證八卷を著し、精確な考證一百十八條を以て古文尙書の僞作であることを論斷し、以て學界の公論を定め、吳棫以來の事業は此に大成した。然るに、毛奇齡は又之に反し、古文尙書冤詞八卷を著して古文を辯護しようとしたが、惠棟・江聲・王鳴盛等に反駁せられて、遂に僞古文の僞作なることは明かになつた。併し、僞古文は、多く先秦諸書に散見したものを採綴したものであるから、強ち僞作として捨つべきではなく、却つて今文よりも世教に有益なものが多い。尙書が我が國に傳來した時代は明かでないが、繼體天皇の七年に五經博士段楊爾が來朝し、同十年に五經博士高安茂が代り來つたことがある故、この時に尙書も傳へられたものであらう。令義解に依ると、尙書は孔傳鄭注を用ひ、陸善經注・王肅注は、倶に平安朝の初期に渡來したが用ひられず、宋儒の說を奉ずるに至つたのは元亨前後で

ある。當時は蔡傳は未だあまり多くは渡來してゐなかつたやうである。今文尙書（1－358··103）・古文尙書（2－3233··451）を見よ。〔四庫提要、經、書類〕。

原來之時代				新考證之時代			
虞夏	商	西周	春秋	西周	春秋	戰國	秦漢
堯典							堯典
皋陶謨							皋陶謨
禹貢						禹貢	
甘誓							甘誓
	湯誓						湯誓
	盤庚				盤庚		
	高宗肜日				高宗肜日		
	西伯戡黎				西伯戡黎		
	微子			微子			
		牧誓		牧誓			
		洪範				洪範	
		金縢					金縢
		大誥		大誥			
		康誥		康誥			
		酒誥		酒誥			
		梓材		梓材			
		召誥				召誥	
		洛誥		洛誥			
		多士		多士			
		無逸			無逸		
		君奭			君奭		
		多方			多方		
		立政			立政		
		顧命				顧命	
		康王之誥					康王之誥
		費誓		費誓			
		呂刑		呂刑			
			文侯之命		文侯之命		
			秦誓		秦誓		

『參考書』【尙書正義】二十巻漢、孔安國傳、唐、孔穎達疏。安國の傳は梅賾の依託であるけれども、訓詁に於て勝れ、其の疏は名物典制に於て考證家の取るべきものが多い。〔四庫提要、經、書類〕。【東坡書傳】十三巻宋、蘇軾撰。〔四庫提要、經、書類〕。【尙書全解】四十巻宋、林之奇撰。原本は洛誥より以下は皆佚す。此の書は頗る異說が多い。〔四庫提要、經、書類〕。【尙書講義】二十巻宋、史浩撰。注疏を以て主とし、諸說を融會す。〔四庫提要、經、書類〕。【尙書說】七巻宋、黃度撰。孔傳を主とし、往々先儒の舊義を交ふ。〔四庫提要、經、書類〕。【書集傳】六巻宋、蔡沈撰。蔡沈は朱熹の門人で其の女壻。沈の序に二典三謨は朱熹の校閱を經た旨を述ぶ。其の說はもと朱熹に出で、而も朱熹とは頗る異同がある。朱熹が書序を取らなかつたので、此の書も亦一括して後に置いたが、其の後、序を刪去した。〔四庫提要、經、書類〕。【尙書詳解】二十六巻宋、夏僎撰。注疏及び宋儒の說を纂輯し、林之奇に取るものが特に多い。〔四庫提要、經、書類〕。【尙書詳解】五十巻宋、陳經撰。古注疏を主とし、閒〻參するに新意を以てし、往々先儒の未だ發せぬところを發す。〔四庫提要、經、書類〕。【融堂書解】二十巻宋、錢時撰。伊訓・梓材・秦誓の三篇を闕き、大旨は書序を尊崇し、詮釋頗る明確、其の力めて錯簡を排する說は特識である。〔四庫提要、經書類〕。【尙書詳解】十三巻宋、胡士行撰。多く孔傳を以て主とし、諸說を後に列す。〔四庫提要、經、書類〕。【尙書精義】五十巻宋、黃倫撰。漢から宋までの諸說を集め、極めて賅博である。〔四庫提要、經、書類〕。【尙書要義】十七巻序說一巻。宋、魏了翁撰。九經要義の一つ。原本は二十巻。今、七・八・九の三巻を佚し、其の佚書三巻は未收書目提要一に見ゆ。此の書は注疏中の精要の語を摘出したもので、頗る循覽に便である。〔四庫提要、經、書類〕。【尙書集傳或問】一巻宋、陳大猷撰。先に尙書集傳を著はして、朱子の四書に注する例に仿ひ、又、或問を作り、諸說の意を去取するを明かにす。今、集傳は佚し、ただ或問のみ存す。〔四庫提要、經、書類〕。【尙書表注】二巻宋、金履祥撰。〔四庫提要、經、書類〕。【書疑】九巻宋、王栢撰。〔四庫提要、經、書類〕。【尙書釋地辨證】二巻宋、朔鳳撰。書經中の地名を考證したもの。【書纂言】元、吳澄撰、今文尙書の注である。案ずるに、漢代では今文古文は別々に行はれてゐた。本書は專門授受の例を示したものである。〔四庫提要、經、書類〕。【尙書集傳纂疏】六巻元、陳櫟撰。蔡傳の意を疏通するを以て疏といひ、諸家の說を採集するを以て纂といふ。〔四庫提要、經、書類〕。【尙書輯錄纂注】六巻元、董鼎撰。蔡傳を主とし、朱子の語錄を附して輯錄といひ、諸家の說を附して之を纂注といふ。〔四庫提要、經、書類〕。【讀書叢說】六巻元、許謙撰。尙書の名物典制を考證す。〔四庫提要、經、書類〕。【尙書通考】十巻元、黃鎭成撰。舊說を徵引して四代の名物典章を考へ、附するに論斷を以てしたもの。〔四庫提要、經、書類〕。【讀書管見】二巻元、王充耘撰。書經について述べたもの。蔡傳と異なるところがある。〔四庫提要、經、書類〕。【書蔡傳旁通】六巻元、陳師凱撰。凡て名物・典制等、蔡傳の遺すものは皆一一補注す。〔四庫提要、經、書類〕。【書義斷法】六巻元、陳悅道撰。經義に應擧する者の爲に作る。〔四庫提要、經、書類〕。【尙書纂傳】四十六巻元、王天與撰。朱子を宗とし、眞德秀の說を以て輔とし、兩家によつて以て注疏を去取す。〔四庫提要、經、書類〕。【尙書句解】十三巻元、朱祖義撰。幼學を啓迪する爲に作る。〔四庫提要、經、書類〕。【書義矜式】六巻元、王充耘撰。其の經義の程式は、以て其の時代の士を取る制を見るに足る。〔四庫提要、經、書類附錄〕。【書傳會選】六巻明、劉三吾等奉敕撰。蔡傳の誤りを刊定し、正す所凡て六十六條。字義字體の考證は尤も詳密である。〔四庫提要、經、書類〕。【書經大全】十巻明、胡廣等奉敕撰。陳櫟の尙書集傳纂疏、陳師凱の書、蔡傳の旁通等を勦襲す。五經大全の中では比較的優れたもの。〔四庫提要、經、書類〕。【書義卓躍】六巻明、陳雅言撰。〔四庫提要、經、書類存目〕。【書傳通釋】六巻明、彭勗撰。〔四庫提要、經、書類存目〕。【尙書直指】六巻明、徐善述撰。〔四庫提要、經、書類存目〕。【書經提要】明、章陬撰。〔四庫提要、經、書類存目〕。【尙書說要】五巻明、呂柟撰。〔四庫提要、經、書類存目〕。【書經指略】一巻明、王大用撰。〔四庫提要、經、書類存目〕。【尙書考異】五巻明、梅鷟撰。古文尙書を辨正す。其の立論は具さに根據がある。〔四庫提要、經、書類〕。【尙書譜】五巻明、梅鷟撰。〔四庫提要、經、書類存目〕。【書疇彝訓】一巻明、蔡悉撰。〔四庫提要、經、書類存目〕。【尙書疑義】五巻明、馬明衡撰。廣く古義を求め、兼ねて衆長を採る。〔四庫提要、經、書類〕。【尙書日記】十六巻明、王樵撰。蔡傳を宗とし、其の他は舊說を採つて補ふ。〔四庫提要、經、書類〕。【尙書砭蔡編】一巻明、袁仁撰。蔡傳を糾正する爲に作る。〔四庫提要、經、書類〕。【尙書注考】一巻明、陳泰交撰。蔡沈の書傳の譌りを考訂す。〔四庫提要、經、書類〕。【尙書疏衍】四巻明、陳第撰。古今の注疏を參取したもの。〔四庫提要、經、書類〕。【書經直解】十三巻明、張居正撰。〔四庫提要、經、書類存目〕。【書經說意】十巻明、沈偉撰。〔四庫提要、經、書類存目〕。【書經講義會編】十二巻明、申時行撰。〔四庫提要、經、書類存目〕。【書經疑問】十二巻明、姚舜牧撰。〔四庫提要、經、書類存目〕。【尙書要旨】三十巻明、王肯堂撰。〔四庫提要、經、書類存目〕。【尙書辨解】十巻明、郝敬撰。〔四庫提要、經、書類存目〕。【書傳會衷】十巻明、曹學佺撰。〔四庫提要、經、書類存目〕。【尙書傳翼】十巻明、陸鍵撰。〔四庫提要、經、書類存目〕。【尙書晚訂】十二巻明、史維堡撰。〔四庫提要、經、書類存目〕。

【尚書揆一】六巻明、鄒期楨撰。〔四庫提要、經、書類存目〕。【尚書葦籥】二十一巻明、潘士遴撰。〔四庫提要、經、書類存目〕。【書經集意】六巻明、萬嗣達撰。〔四庫提要、經、書類存目〕。【書經繹】六巻明、楊文彬撰。〔四庫提要、經、書類存目〕。【尚書講義】明、蔡璋撰。〔四庫提要、經、書類存目〕。【尚書解意】六巻明、李楨扆撰。〔四庫提要、經、書類存目〕。【欽定書經傳說彙纂】二十四巻清、聖祖仁皇帝敕撰。張廷玉・蔣廷錫等に命じて撰せしめたもの。蔡沈注を前に置き、衆說を次に列し、案を末に置き、其の得失を詳說して一家に偏しない。〔四庫提要、經、書類〕。【尚書集解】二十巻清、孫承澤撰。〔四庫提要、經、書類存目〕。【尚書近指】六巻清、孫奇逢撰。〔四庫提要、經、書類存目〕。【書經裨疏】四巻清、王夫之撰。名物を詮釋して新意が多い。〔四庫提要、經、書類〕。【尚書引義】六巻清、王夫之撰。〔四庫提要、經、書類存目〕。【古文尚書疏證】八巻清、閻若璩撰。東晉古文と孔安注の僞說とを辨じた書。清以來、尚書の傳本の眞僞を論ずるものは概ね之を宗とす。〔四庫提要、經、書類〕。【古文尚書冤詞】八巻清、毛奇齡撰。〔四庫提要、經、書類〕。【尚書廣聽錄】五巻清、毛奇齡撰。〔四庫提要、經、書類〕。【尚書體要】六巻清、錢肅潤撰。〔四庫提要、經、書類存目〕。【書經疏略】六巻清、張沐撰。〔四庫提要、經、書類存目〕。【尚書惜陰錄】六巻清、徐世沐撰。〔四庫提要、經、書類存目〕。【尚書口義】六巻清、劉懷志撰。〔四庫提要、經、書類存目〕。【尚書義疏】清、蔣家駒撰。〔四庫提要、經、書類存目〕。【書經詳說】清、冉覲祖撰。〔四庫提要、經、書類存目〕。【尚書通義】十四巻清、方葇如撰。〔四庫提要、經、書類存目〕。【尚書舉隅】六巻清、徐志遴撰。〔四庫提要、經、書類存目〕。【書經劄記】清、顧昺撰。〔四庫提要、經、書類存目〕。【尚書約旨】六巻清、楊方達撰。〔四庫提要、經、書類存目〕。【尚書通典略】二巻清、楊方達撰。〔四庫提要、經、書類存目〕。【尚書質疑】八巻清、王心敬撰。〔四庫提要、經、書類存目〕。【書經參義】六巻清、姜兆錫撰。〔四庫提要、經、書類存目〕。【尚書質疑】二巻清、顧棟高撰。〔四庫提要、經、書類存目〕。【書經提要】十巻清、徐鐸撰。〔四庫提要、經、書類存目〕。【尚書小疏】一巻清、沈彤撰。〔四庫提要、經、書類存目〕。【尚書讀記】一巻清、閻循觀撰。〔四庫提要、經、書類存目〕。【尚書埤傳】十七巻清、朱鶴齡撰。前に考異一巻があつて經文の同異を辨じ、後に逸篇僞書及び書說餘一巻があつて孔傳を眞と爲し、埤傳十五巻は義理を詮釋す。〔四庫提要、經、書類〕。【尚書私學】四巻清、朱鶴齡撰。〔四庫提要、經、書類存目〕。【尚書注解纂要】六巻清、吳蓮撰。〔四庫提要、經、書類存目〕。【尚書剩義】四巻清、黃璘撰。〔四庫提要、經、書類存目〕。【別本尚書大傳】三巻補遺一巻。清、孫之騄撰。〔四庫提要、經、書類存目〕。【尚書天地圖說】六巻清、潘咸撰。〔四庫提要、子、術數類存目〕。【尚書解義】一巻清、李光地撰。二典三謨禹貢洪範の七篇を解す。〔四庫提要、經、書類〕。【書經衷論】四巻清、張英撰。經文を載せず、ただ題だけ標げて說を繫く。凡て三百十四條。〔四庫提要、經、書類〕。【尚書地理今釋】一巻清、蔣廷錫撰。尚書にある地理を清朝の地名に當てて辨正す。〔四庫提要、經、書類〕。【尚書經師系表】一巻清、江聲撰。書經集注の音疏に附屬す。經義家の師傳系統を一目瞭然たらしめたもの。【古文尚書攷】二巻清、惠棟撰。僞作の古文尚書に就いて其の出典を疏明したもの。〔皇清經解、第八十九冊〕。【尚書集注音疏】十三巻清、江聲撰。古書に引用せられてゐる馬融・鄭玄等の注を取つて本經二十九篇の注釋を爲し、兼ねて東晉古文の僞託を辨じたもの。〔皇清經解、第九十五―一百一冊〕。【尚書後案】三十巻清、王鳴盛撰。馬融・鄭玄等の注を取る。末に後辨があり、僞託を論ずること精詳。〔皇清經解、第一百二―一百十七冊〕。【尚書釋天】六巻清、盛百二撰。尚書にある天文の解說書。〔皇清經解、第一百二十七―一百二十八冊〕。【古文尚書撰異】三十三巻清、段玉裁撰。漢初の今文尚書と古文尚書との經文の異同を考定したもの。〔皇清經解、第一百五十二―一百五十八冊〕。【禹貢錐指】二十巻清、胡渭撰。禹貢の水道地理を考證した書。〔四庫提要、經、書類〕。【尚書今古文注疏】三十巻清、孫星衍撰。馬融・鄭玄等の注を取る。本經の注釋は平允の見が多い。〔皇清經解、第二百二―二百六冊〕。【今文尚書經說攷】三十二巻清、陳喬樅撰。今文家の說を以て尚書を說く。〔皇清經解續編、第二百三十三冊―二百四十四冊〕。【尚書補疏】二巻清、焦循撰。〔皇清經解、第二百八十五冊〕。【禹貢錐指正誤】一巻清、丁晏撰。胡渭の禹貢錐指の誤謬を正した書。〔皇清經解續編、第一百九十四冊〕。【尚書今古文集解】三十巻清、劉逢祿撰。今文說を主とし、伏生の尚書大傳・大小夏侯・歐陽等の說を拾聚して說く。〔皇清經解續編、第七十九―八十二冊〕。【大誓答問】一巻清、龔自珍撰。眞大誓・漢大誓・僞大誓の三種あることを辨ず。〔皇清經解續編、第二百七冊〕。【尚書歐陽夏侯遺說攷】一巻清、陳喬樅撰。〔皇清經解續編、第二百三十三―二百四十四冊〕。【書古微】十二巻清、魏源撰。今文家の說を主とし、多く史文を徵引す。〔皇清經解續編、第二百八十五―二百八十七冊〕。【尚書孔傳參正】三十四巻清、王先謙撰。眞僞を通じて注釋を施し、孔傳の謬りを正す。【尚書王氏注】二巻清、馬國翰輯。【尚書繹解】六巻皆川愿撰。【尚書古今文管窺】二巻朝川同齋撰。【尚書精義】十二巻太田元貞撰。【古文尚書勤王師】三巻山本信有撰。【尚書漢注考】十八巻海保元備撰。【尚書欄外書】十巻佐藤坦撰。【書說摘要】寫本四冊安井衡撰。

❷官名。㋑秦代、少府から吏四人を遣はし、殿中に在つて文書を發することを掌らせた、之を尚書といふ。漢は尚書令・尚書僕射・督尚書曹郎理事を置き、其の後、大臣を以て之を領せしめ、平尚書事・錄尚書事等の名があり、清の軍機大臣の如き機要の位となつた。後漢の光武帝が卽位して後、天下の事は盡く尚書に入るに至つた。南朝宋の時、尚書令は機衡を總任し、僕射尚書は諸曹を分領した。隋・唐は均しく尚書省を置き、左右六部を以て六部を分管せしめ、元は尚書省を廢し、六部を以て中書省に歸し、明は中書省を廢し、六部尚書を以て獨立せしめ、清末には改めて六部に併せ、尚書を改めて大臣とした。尚書省(87)を見よ。〔漢書、昭帝紀〕大將軍光、秉㆑政領㆓尚書事㆒。〔後漢書、獻帝紀〕此歲、初置㆓尚書左右僕射㆒。〔魏志、武帝紀〕十一月、初置㆓尚書侍中六卿㆒。〔宋書、百官志〕尚書、古官也、舜攝㆓帝位㆒、龍作㆓納言㆒、卽其任也、秦世少府發㆓吏四人㆒、在㆓殿中㆒主㆓發書㆒、故謂㆓之尚書㆒、尚猶㆑主也。㋺我が國で辨官の唐名。〔職原抄〕辨七人、左右大辨一人、唐名、尚書・左右大丞。㋩我が國で後宮の書司の長官。ふみのつかさのかみ。〔職原抄〕書司、尚書一人、掌㆓供奉內典經籍及紙墨筆几案絲竹之事㆒。❸兵員を呼ぶ稱。〔避戎夜話〕郭京乃殿司龍衞營兵員、人皆呼爲㆓郭尚書㆒、蓋營寨俚俗呼㆓兵員㆒之稱也。❹星の名。〔晉書、天文志〕門內東南維五星曰㆓尚書㆒、主㆓納言㆒、夙夜諮謀、龍作㆓納言㆒、此之象也。

【尚書緯】86 シャウショヰ　尚書に關する緯書。尚書璇璣鈐・尚書考靈曜・尚書帝命驗（或は命令驗）・尚書帝驗期（驗、或は命に作る）・尚書刑德倣・尚書鉤命決・尚書運期授・尚書洛罪級・尚書中候・中候考河命・中候題期・中候立象・中候摘洛戒・中候握河紀・中候契握・中候敕省圖・中候運衡篇・中候準纖哲・中候洛予命・中候稷起・中候我應篇・中候儀明篇等があり、概ね散佚し、今、古微書及び玉函山房輯佚書に輯錄せらる。緯書(8―27682・・14)を見よ。〔經義考、毖緯〕尚書緯、隋志三巻、七錄六巻、佚。尚書璇璣鈐、鄭玄注、佚。尚書考靈曜、鄭玄注、佚。尚書帝命驗、或作㆓命令驗㆒、鄭玄・宋均注、佚。尚書帝驗期、驗或作㆑命、佚。尚書刑德倣、佚。尚書鉤命決、佚。尚書運期授、佚。尚書洛罪級、佚。尚書中候、宋均注、又隋志鄭玄注五巻、七錄八巻、佚。中候考河命・題期・立象、佚。中候摘洛戒、佚。中候握河紀、佚。中候契握、佚。中候敕省圖、佚。中候運衡篇、佚。中候準纖哲、佚。中候洛予命、佚。中候稷起、佚。中候我應篇、佚。中候儀明篇、佚。

【尚書省】87 シャウショシャウ　官署の名。漢代には尚書の曹名はあつたが官號はない。後漢の時、始めて尚書臺と號し、又、中臺ともいひ、少府に屬す。

晉に始めて尙書都省の名があり、南朝宋には尙書省といひ、一に尙書寺とも內臺ともいふ。梁以來、始めて尙書省が定稱となつた。唐宋には三省の一となり、その長を尙書令といひ、下に左右僕射があり、六部を統べ、國政を分理す。元には中書省に併合して、尙書省を廢す。尙書(85)の㊁及び尙書令(91)參照。〔隋書、百官志上〕梁尙書省、置㆓令・左右僕射各一人㆒、令總㆓統之㆒、僕射副㆑令、又與㆓尙書㆒分㆓領諸曹㆒、左右丞各一人、佐㆓令僕射㆒知㆓省事㆒、陳並遵㆓梁制㆒。〔唐書、百官志一〕尙書省、尙書令一人、正二品、掌㆔典㆓領百官㆒、其屬有㆓六尙書㆒、一曰吏部、二曰戶部、三曰禮部、四曰兵部、五曰刑部、六曰工部。〔通典、職官典、尙書省〕昔堯試㆓舜於大麓㆒、領㆑錄㆓天下事㆒、似㆓其任㆒也、周之司會、又其職焉、秦少府、遣㆘吏四人在㆓殿中㆒主㆗發書㆖、謂㆓之尙書㆒、尙猶㆑主也、漢承㆑秦置、武帝遊㆓宴後庭㆒、始用㆓宦者㆒主㆓中書㆒、以㆓司馬遷㆒爲㆑之、中間罷㆓其官㆒、以爲㆓中書之職㆒、成帝建始四年、罷㆓中書宦者㆒、置㆓尙書五人㆒、一人爲㆓僕射㆒、四人分爲㆓四曹㆒、通掌㆔圖書祕記章奏及封奏宣㆓示內外㆒而已、其任猶輕、後漢則爲㆓優重㆒、出㆓納王命㆒、敷㆓奏萬機㆒、蓋政令之所㆓由宣㆒、選擧之所㆓由定㆒、罪賞之所㆓由正㆒、斯文昌天府、衆務淵藪、內外所㆓折衷㆒、遠近所㆓稟仰㆒、李固云、陛下之有㆓尙書㆒、猶㆔天之有㆓北斗㆒、斗爲㆓天喉舌㆒、尙書爲㆓陛下喉舌㆒、斗斟㆓酌元氣㆒、運㆓平四時㆒、尙書出㆓納王命㆒、賦㆓政四海㆒、令及注丞、總㆓領綱紀㆒、無㆑所㆑不㆑統、僕射及右丞、分㆓掌廩假錢穀㆒、漢初尙書、雖㆑有㆓曹名㆒、不㆓以爲㆑號、靈帝以㆓侍中梁鵠㆒爲㆓選部尙書㆒、於㆑是始見㆓曹名㆒、總謂㆓尙書臺㆒、亦謂㆓中臺㆒、大事八座連㆑名、而有㆑不㆑合㆑得㆑建㆓異議㆒、二漢皆屬㆓少府㆒、魏置㆓中書省㆒、有㆓監令㆒、遂掌㆓機衡之任㆒、而尙書之權漸減矣、晉以後、所㆑掌略同、八座丞郎、初拜並集㆓都省㆒交㆑禮、遷職又解交、本㆓漢制㆒也、至㆓於晉宋㆒、唯八座解交、丞郎不㆓復解交㆒也、宋曰㆓尙書寺㆒、居㆓建禮門內㆒、亦曰㆓尙書省㆒、亦謂㆓之內臺㆒、每㆓八座以下入㆑寺、門生隨入者、各有㆓差等㆒、不㆑得㆔雜以㆓人士㆒、凡尙書官、大罪則免、小罪則遣出、遣出者百日、無㆓代人㆒聽㆑還㆓本職㆒、其令及二僕射出行分道之制、與㆓中丞㆒同、令僕各給㆓威儀十八人㆒、自㆑晉以後、八座及郎中、多不㆑奏㆑事、梁天監元年、詔曰、自㆓禮南陵替㆒、歷㆓茲永久㆒、郎署備員、無㆑取㆓職事㆒、糠㆓粃文案㆒、貴㆓尙虛閑㆒、空有㆓趨墀之名㆒、了無㆓握蘭之實㆒、曹郎可㆓依㆑昔奏㆑事、自㆑是始奏㆑事矣、又詔、尙書中有㆓疑事㆒、先於㆓朝堂㆒參議、然後啓聞、舊尙書官不㆓以爲㆑贈、唯朱异卒、特贈㆓右僕射㆒、武帝寵㆑之故也、自㆘魏晉重㆓中書之官㆒、居㆗喉舌之任㆖、則尙書之職、稍以疏遠、至㆓梁陳㆒擧國擬㆓八座㆒、謂㆓之八國㆒、各有㆓屬官㆒、分㆓尙書二十六曹㆒、及㆓諸外㆒置㆓令大夫㆒主㆑之、四年、又復㆓尙書二十六曹㆒、天賜元年、復罷㆓尙書三十六曹㆒、別置㆓武歸脩賜二職㆒、分主㆓省務㆒、至㆓神麚元年㆒、始置㆓僕射左右丞及諸曹尙書十餘人㆒、各居㆓別寺㆒、北齊尙書省、亦有㆓錄令僕射總理六尙書事㆒、謂㆓之都省㆒、尙謂㆓之北省㆒、後、濟北王、以㆓太子監國㆒、立㆓大都督府㆒、與㆓尙書省㆒分㆓理衆事㆒、仍開㆑府置㆑佐、後周無㆓尙書㆒、隋及大唐皆有、其制略同、凡尙書省、事無㆑不㆑總、龍朔二年、改㆓尙書省㆒爲㆓中臺㆒、咸亨初、復㆑舊、光宅元年、改爲㆓文昌臺㆒、垂拱元年、又改爲㆓都臺㆒、通天初、復㆑舊、長安三年、又改爲㆓中臺㆒、神龍初、復爲㆓尙書省㆒、都堂居㆑中、左㆓右分司㆒、都堂之東、有㆓吏部・戶部・禮部三行㆒、每行四司、左司統㆑之、都堂之西、有㆓兵部・刑部・工部三行㆒、每行四司、右司統㆑之、凡二十四司、分㆑曹共理、而天下之事盡矣、左右僕射各一人、左丞一人、右丞一人、左右司郎中各一人、員外郎各一人、尙書六人、侍郎九人、郎中二十八人、員外郎三十九人、都事六人。〔淵鑑類函、設官部、尙書總載〕續文獻通考曰、元世祖至元七年、立㆓尙書省㆒、八年、幷入㆓中書㆒、二十四年、復置、詔㆓天下㆒、除㆘行省與㆓中書㆒議行㆖、餘幷聽㆓尙書省㆒、從㆑便以聞、二十八年、復罷、武宗至大二年、復立、四年、復罷入㆓中書省㆒。

【尙書臺】88 シヤウシヨダイ 官名。尙書省を見よ。

【尙書郎】89 シヤウシヨラウ 官名。尙書省の郎官。漢は四人を置いて尙書の事を分掌せしめ、一人は匈奴單于營部を主り、一人は羌夷を主り、一人は吏民戶口墾田を主り、一人は財帛委輸を主る。後漢は尙書侍郎三十六人あり、文書の草案を作ることを掌る。魏の黃初年間、祕書を改めて中書となし、通事郎を置いて詔草を掌らしめ、尙書郎が二十三人あつたが、漢代の職任と異なる。晉の尙書郎は極めて地位が高く、大臣の副と號せられた。〔通典、職官典、尙書、歷代郎官〕郎官、謂㆓之尙書郎㆒、漢置㆓四人㆒、分㆓掌尙書事㆒、一人主㆓匈奴單于營部㆒、一人主㆓羌夷㆒、一人主㆓吏民戶口墾田㆒、一人主㆓財帛委輸㆒、後漢尙書侍郎三十六人、主㆓作㆑文書㆑草、取㆔孝廉年未㆓五十㆒、先試㆓牋奏㆒、選㆘有㆓吏能㆒者㆖爲㆑之、更㆓直五日於建禮門內㆒、尙書郎、初從㆓三署諸臺㆒試、初上㆑臺稱㆓守尙書郎中㆒、滿歲稱㆓尙書郎㆒、三歲稱㆓侍郎㆒、五歲遷㆓大縣㆒、其遷爲㆓縣令㆒、縣令秩滿、自占㆑縣、詔書賜㆔錢三萬與㆓三臺祖錢㆒、餘官則否、吏部典劇、多㆓起遷者㆒、鄭弘爲㆓僕射㆒、奏以㆓臺職㆒、任尊而賞薄、人無㆓樂者㆒、諸吏郎補㆓二千石㆒、自㆑此始也、八座受㆓成事㆒決㆓於郎㆒、不㆑筆爲㆓詔策㆒、出㆑言爲㆓詔命㆒、其入直、官供㆓青縑白綾被㆒、或以㆓錦縑㆒爲㆑之、給㆓帳帷茵褥通中枕㆒、太官供㆓食物㆒、湯官供㆓餅餌及五熟果實之屬㆒、五日一美食、下㆓天子一等㆒、給㆓尙書郎侍史二人、女侍史二人㆒、皆選㆓端正妖麗㆒、執㆓香爐香囊㆒護㆓衣服㆒、奏㆓事明光殿省㆒、省中皆以㆓胡粉㆒塗㆑壁、畫㆓古賢烈女㆒、以㆓丹朱㆒漆㆑地、故謂㆓之丹墀㆒、尙書郎口含㆓雞舌香㆒、以㆓其奏事答對㆒、欲㆑使㆓氣息芬芳㆒也、奏事則與㆓黃門侍郎㆒對揖、黃門侍郎稱已聞乃出㆓丞郎㆒、月賜㆓赤管大筆一雙隃麋墨一丸㆒、魏自㆓黃初㆒改㆓祕書㆒爲㆓中書㆒、置㆓通事郎㆒掌㆓詔草㆒、而尙書郎有㆓二十三人㆒、非㆓復漢時職任㆒、青龍二年、尙書令陳矯奏置㆓都官騎兵合凡二十五郎㆒、每㆓一郎缺㆒白、試㆘諸孝廉能結㆓文案㆒者五人㆖、謹封㆓奏其姓名㆒以補㆑之、晉尙書郎、選極清美、號爲㆓大臣之副㆒、武帝時有㆓三十四曹㆒、後又置㆓運曹㆒、爲㆓三十五曹㆒、爲㆓郎中二十三人㆒、更相統攝、或爲㆓三十六曹㆒、當㆓五王之難㆒、其都官中騎三曹郎、晝出督㆑戰、夜還理㆑事。

【尙書履】90 シヤウシヨリ 尙書の官吏の穿くくつ。後漢の王喬が、仙術によつて履を鳧に化せしめた故事。〔後漢書、王喬傳〕喬有㆓神術㆒、每㆓月朔望㆒、常自㆑縣詣㆑臺朝、帝怪㆓其來數而不㆑見㆓車騎㆒、密令㆔太史伺㆓望之㆒、言其臨㆑至、輒有㆓雙鳧㆒、從㆓東南㆒飛來、於㆑是候㆓鳧至㆒、擧㆑羅張㆑之、但得㆓一隻舃㆒焉、乃詔㆓尙方㆒診視、則四年中所㆑賜㆓尙書官屬㆒履也。〔蘇頲、夜發㆓三泉㆒卽事詩〕忝曳㆓尙書履㆒、叨兼㆓使臣節㆒。

【尙書令】91 シヤウシヨレイ 官名。秦、置く。漢代には少府の屬官、僕射は其の副となる。魏晉以後、其の職位は益〻重くなり、唐に及んでは眞宰相となつた。唐の太宗以後、敢へて此の職に居る者なく、唐代では左右僕射が之を兼任した。宋には尙書令を贈官として實職はない。明に及んで廢す。尙書(85)の㊁及び尙書省(87)參照。〔漢書、張安世傳〕上奇㆓其材㆒、擢爲㆓尙書令㆒。〔晉書、職官志〕尙書令秩千石。〔事始〕尙書令、續書曰、秦置、漢元鼎二年、以㆓張安世㆒爲㆓尙書令㆒、任安亦爲㆑之。〔通典、職官典、尙書、尙書令〕殷湯制㆑官有㆓冢宰㆒、君薨則百官總㆑己、以聽㆓於冢宰㆒、周之冢宰爲㆓天官㆒、掌㆓邦之理㆒、六卿之職總屬㆑焉、於㆓百官㆒無㆑所㆑不㆑主、至㆑秦置㆓尙書令㆒、尙、主也、漢因㆑之、銅印青綬、武帝用㆓宦者㆒更爲㆓中書謁者令㆒、成帝去㆓中書謁者令官㆒、更以㆓士人㆒爲㆓尙書令㆒、後漢衆務悉歸㆓尙書㆒、三公但受㆓成事㆒而已、尙書令、主㆓贊奏事㆒、總㆓領紀綱㆒、無㆑所㆑不㆑統、與㆓司隷校尉・御史中丞㆒朝會皆專㆑席而坐、京師號曰㆓三獨坐㆒、故公爲㆓令・僕射㆒者、朝會不㆑陛奏㆑事、天子封禪、則尙書令奉㆓玉牒檢㆒兼㆓藏封之禮㆒、魏晉印綬與㆑漢同、冠㆓進賢兩梁、納言幘㆒、五時朝服、佩㆓水蒼玉㆒、受拜則策㆓命之㆒、以㆑在㆓端右㆒故也、薨㆓於朝堂㆒發㆑哀、魏晉以下、任㆓總機衡㆒、事無㆓大小㆒咸歸㆓令・僕㆒、齊梁舊用㆓左僕射㆒、美㆑遷㆓司空㆒、梁陳竝有㆑之、後魏北齊掌㆓彈糾㆒、見㆑事與㆓御史中丞㆒更相廉察、隋亦總㆓領衆務㆒、大唐尙書令、朝服鷩鳥冕八旒七章三梁冠、武德初、太宗爲㆓秦王㆒時、嘗居㆑之、其後人臣莫㆓敢當㆒、故龍朔三年、制廢㆓尙書令㆒。〔淵鑑類函、設官部、尙書令〕容齋洪氏隨筆曰、中書尙書令、在㆓西漢時㆒爲㆓少府官屬㆒云云、魏晉以來浸以㆓華重㆒、唐初遂爲㆓三省長官㆒、居㆓眞宰相之任㆒、續文獻通考曰、明無㆓尙書令官㆒。

【尙書故實】92 シヤウシヨコジツ 書名。一卷。唐、李綽撰。尙書とは張嘉貞の玄孫であるが、其の名は明かでない。綽は嘗て其の家に遊び、其の言ふ所を

述べて此の書を作る。〔四庫提要、子、雜家類〕。

【尙書大傳】93 シヤウショタイデン 書名。四卷。漢、伏勝撰と題してゐるが、鄭玄の序文によれば、張生・歐陽生等が勝の遺說を錄したもの。鄭玄が之に注して四卷とす。書中、或は尙書を說き、或は尙書を說かず、大抵、易乾鑿度・春秋繁露の如く、經義と離合の閒に在る。清人の輯本中、陳壽祺の定本八卷が最も完備したものである。〔四庫提要、經、書類〕。

〔參考書〕【尙書大傳輯考】三卷 清、陳壽祺撰。〔皇清經解續篇、第八十三冊〕。

【領尙書事】94 リヤウシヤウショジ 錄尙書事（11－40519‥37）を見よ。

【聽二尙書履聲一】95 シヤウショノリセイヲキク 漢の哀帝が、尙書僕射鄭崇の諫諍に來るのを、其の履物の音によつてよく聞きわけた故事。貴賓の至るを待つ意。〔漢書、鄭崇傳〕哀帝擢爲二尙書僕射一、數求レ見諫爭、上初納二用之一、每レ見曳二革履一、上笑曰、我識二鄭尙書履聲一。

【尙書都官郞中】96 シヤウショトクワンラウチユウ 官名。尙書省中の刑部に屬する官。〔曾鞏、撫州顏魯公祠堂記〕尙書都官郞中知撫州聶君某。

【尙書屯田員外郞】97 シヤウショトンデンヰングワイラウ 官名。兵部に屬し、屯田を掌る員外郞。兵部尙書省の一部であるから、尙書の字を冠す。〔曾鞏、撫州顏魯公祠堂記〕尙書屯田員外郞通判撫州林君某。

【尙乘】98 シヤウジヨウ 官名。唐、置く。天子の乘物を掌る。〔唐書、百官志二〕上監、掌二天子服御之事一、其屬有二六局一、曰二尙書・尙藥・尙衣・尙乘・尙舍・尙輦一。

【尙乘局】99 シヤウジヨウキヨク 官名。天子の乘物のことを掌る。秦漢以來、其の職は太僕に屬し、隋は尙乘局を置き、唐は之に因り、龍朔二年、改めて奉扆大夫とし、咸亨元年、舊に復す。宋の殿中省には尙乘局がなく、御馬は太僕寺が掌つた。遼は殿中司に尙乘局があり、金は尙廐局といひ、元は尙乘局といふ。明には御馬監といひ、內侍省に屬す。〔通典、職官典、諸卿中、殿中監〕尙乘局、奉御、自二秦漢一以來、其職皆在二太僕一、北齊太僕驊騮署、有二奉御十人一、管二十二閑馬一、隋煬帝取レ之、置二尙乘局署奉御二人一、大唐因レ之、增二置奉御四人一、龍朔二年、改爲二奉駕大夫一、咸亨元年、復レ舊、開元中、減二二人一、先レ是、別置二廐使一、因隸レ焉、猶屬二殿中一、直長、隋置二十四人一、大唐減二四人一。〔續通典、職官典、諸卿中、殿中監〕尙乘局、唐置二奉御二人、直長十人一、掌二內外閑廐之馬、左右六閑一、凡外牧、歲進二良馬一、印以二三花飛鳳之字一、飛龍廐、日以二八馬一列二宮門之外一、號二南衙立仗馬一、仗下乃退、宋殿中省無二尙乘局一、凡御馬、皆掌二於太僕寺一、遼南面官殿中司有二尙乘局奉御一、金尙廐局、有二提點使副使等官一、掌二御馬調習牧養一、隸二殿前都點檢司一、元尙乘局、專掌二御馬一、明御馬監、掌二於內侍一。

【尙食】100 シヤウショク 官名。秦、置く。天子の御膳を掌る。後漢以後、其の職は太官・湯官に併せらる。北齊には尙食局があり、典御二人を置く。後周は內膳上士中士を置き、隋は典御を改めて奉御といひ、二人あり。唐は之に因り、龍朔中、奉膳大夫と改め、咸亨の初、舊に復す。明は尙膳監を置き、宦官を以て之を掌らしめた。〔史記、馮唐傳〕吾尙食監高祛、數爲レ我言二趙將李齊之賢一。〔事物紀原、祕殿掌貳部、尙食〕如淳曰、掌二天子之物一曰レ尙、秦置二六尙一、乃有二尙食一、則尙食秦官也。

【尙食局】101 シヤウショクキヨク 官名。❶天子の御膳を掌る。秦は六尙を置き、中に尙食があつた。後漢は其の職を太官・湯官に幷す。北齊には門下省に尙食局があり、典御二人を置く。隋は分つて殿內省に置き、典御を改めて奉御とす。唐の龍朔二年、改めて奉膳大夫とし、咸亨の初、舊に復し、殿中監に屬せしむ。宋・遼・金・元は、皆、尙食局を置き、明には尙膳監と改め、內侍省に屬す。〔通典、職官典、諸卿中、殿中監〕尙食局、奉御、始秦置二六尙一、有二尙食一焉、後漢以後、幷二其職於太官・湯官一、北齊門下省、又有二尙食局一、置二典御二人一、後周有二內膳上士中士一、凡進レ食先嘗レ之、隋分屬二殿內一、改二典御一爲二奉御一、有二二人一、大唐因レ之、龍朔二年、改爲二奉膳大夫一、咸亨初、復レ舊、直長、隋置二六人一、大唐因レ之、減置二五人一。〔續通典、職官典、諸卿中、殿中監〕尙食局、唐置二奉御二人、直長五人一、奉御掌二儲供一、直長爲二之貳一、進御必辨二時禁一先嘗レ之、百官賓客、則與二光祿一視二品秩一而供、凡諸陵月饗、視レ膳乃獻、宋尙食局、有二典御・奉御等官一、掌二膳羞之事一、遼南面官殿中司所レ屬、亦有二尙食局奉御一、金尙食局、屬二宣徽院一、元尙食局、亦屬二宣徽院一、明尙膳監、掌二於內侍一。❷內膳司の唐名。〔職原抄〕內膳司、唐名、尙食局。

【尙食史】102 シヤウショクシ 內膳令史の唐名。〔職原抄〕內膳司、令史、唐名、尙食史。

【尙食直長】103 シヤウショクチヨクチヤウ 官名。❶尙食局の屬官。尙食局の❶を見よ。❷內膳典膳の唐名。〔職原抄〕內膳司、典膳、唐名、尙食直長。

【尙食奉御】104 シヤウショクホウギヨ 官名。❶尙食局の屬官。尙食局の❶を見よ。❷內膳正及び奉膳の唐名。〔職原抄〕內膳司、正一人、唐名、尙食奉御、奉膳一人、唐名、同上。

【尙植】105 シヤウショク 明、樊良樞（6－15414‥111）の字。

【尙忱】106 シヤウシン 明、虞信（9－32723‥99）の字。

【尙信】107 シヤウシン 誠をたつとぶ。〔詩、大雅、下武、成二王之孚一、下土之式、箋〕王道尙レ信、則天下以爲レ法、勤行レ之。

【尙眞】108 シヤウシン 唐、李乂（6－14459‥108）の字。

【尙震】109 シヤウシン 朝鮮、木川の人。字は起夫。號は泛虛亭、又、松峴。謚は成安。性、寬仁重厚。明宗の時、領議政となる。〔人物考〕。

【尙親】110 シヤウシン 親戚をおもんずる。肉身關係を第一とする。〔莊子、天道〕宗廟尙レ親、朝廷尙レ尊。

【尙仁】111 シヤウジン ❶仁をたつとぶ。〔隋書、音樂志上〕咸池始奏レ德尙レ仁。❷字號。㋑宋、鄭敦義（11－39647‥523）の字。㋺明、蕭岐（9－32012‥60）の字。

【尙水】112 シヤウスイ 後宮の水司の長官。もひとりのつかさのかみ。〔職原抄〕水司、尙水一人、掌下進二漿水雜粥一之事上。

【尙崇】113 シヤウスウ たつとびあがめる。崇敬。尊崇。

【尙赤】114 シヤウセキ 赤色をたつとび用ひる。周及び漢の王朝は赤を尙んだ。蓋し赤は五行に於て火に配し、周と漢とは火德を以て王となる。故に赤色をたつとぶ。上赤。〔禮、檀弓上〕周人尙レ赤、大事斂用二日出一。〔疏〕夏尙レ黑、殷尙レ白、周尙レ赤、此之謂二三統一。〔管子、幼官〕旗物尙レ赤。

【尙席】115 シヤウセキ ❶官名。席を掌る官。一說に、軍中の幕を掌る官。〔史記、絳侯周勃世家〕景帝居二禁中一、召二條侯一賜レ食、獨置二大胾一、無二切肉一、又不レ置レ櫡、條侯心不レ平、顧謂二尙席一取レ櫡。〔注〕集解曰、應劭曰、尙席、主レ席者、索隱曰、顧氏按、輿服雜事云、尙席、掌二武帳帷幔一也。❷儒者の坐る席。儒席。〔顏延之、皇太子釋奠會作詩〕尙席函レ杖、丞疑奉レ帙。〔注〕翰曰、尙席、儒席也。

【尙節】116 シヤウセツ 字號。❶明、焦禮（7－19119‥120）の字。❷清、薛俊（9－32123‥80）の字。

【尙膳】117 シヤウゼン 後宮の膳司の長官。かしはでのかみ。〔職原抄〕膳司、尙膳一人、掌下知二御膳進食先嘗一、總二攝膳羞酒醴諸餠蔬菓一之事上。

【尙祚】118 シヤウソ 宋の人。景德中、副指揮使となつて勇名を轟かしたが、契丹と戰つて死す。〔宋史、三百八〕。

【尙達】119 シヤウタツ 明、同州の人。字は兼善。官は弘治の初、岳陽令。〔陝西通志〕。

【尙褫】120 シヤウチ 明、羅山の人。字は景福。正統の進士。南御史となり、剛正で人に阿らず。都御史の周銓に劾せられ、雲南の虛仁驛丞に謫せられたが、豐城縣の知に移り、成化の初、湖廣僉事に陞る。〔明史、一百六十四〕・〔萬斯同明史、二百十三〕・〔明史稿、一百五十〕。

【尙忠】121 シヤウチユウ 明、王恕（7－20823‥599）の字。

【尙重】122 シヤウチヨウ たふとび重んずる。

【尙殿】123 シヤウデン 後宮の殿司の女官の長。とのものかみ。とのもりのかみ。典殿・女孺の上に立つて、輿繖・膏沐・燈油・火燭・薪炭、其の他の事を掌る。〔後宮職員令〕尙殿一人、掌下供二奉輿繖・膏沐・燈油・火燭・薪炭一之事上。

【尙同】124 シヤウドウ 墨子の篇名。漢書藝文志には上同に作る。上・中・下三篇あり。

【尙德】125 シヤウトク ❶道德を重んずる。〔論語、憲問〕君子哉若人、尙レ德哉若人。〔孔叢子、記義〕貴レ義尙レ德、清素好レ儉。❷字號。㋑宋、陳普（11－41698‥526）の字。㋺明、朱驥（6－14424‥110）の字。㋩明、孟驥（8－6960‥48）の字。㋥明、李驥（郯城の人）（6－14459‥195）の字。㋭明、王驥（7

—20823··212)の字。㋩明、徐驥(4－10110··78)の字。

【尙德堂】126 シヤウトクダウ 清、江德新(6－17140··50)の室名。　「字。

【尙訥】127 シヤウトツ 明、陸宗善(11－41708··377)の

【尙寧】128 シヤウネイ 琉球の王。中山王尙眞王の孫。慶長十四年、島津氏の琉球征伐の時に捕虜となり、二年の後、國に歸り、元和六年、不遇の中に歿す。〔中山傳信錄〕・〔沖繩一千年史〕。

【尙年】129 シヤウネン 年齒をたふとぶ。老人をたふとぶ。尙齒(68)に同じ。〔左氏、定、四〕武王之母弟八人、周公爲二太宰一、康叔爲二司寇一、耼季爲二司空一、五叔無レ官、豈尙レ年哉。〔徐陵、丹陽上庸路碑〕蓋震惟擧レ德、非レ曰二尙年一。

【尙方】130 シヤウハウ ❶官名。漢、置く。少府の屬官。天子の御物を作り、又、之を藏することを掌る。又、上方といふ。漢末に分つて中左右の三尙方とし、唐には方の字を省いて中左右の三尙署があり、元は惟だ中尙監を置き、明は廢す。〔漢書、百官公卿表上〕少府屬官、有二鉤盾・尙方・御府一。〔注〕師古曰、尙方、主レ作二禁器物一。〔通典、職官典、諸卿下、少府監〕中尙署、周官爲二玉府一、秦置二尙方令一、漢因レ之、後漢掌下上手工作二御刀劍・玩好器物一、及寶玉作器上、兩漢又有二考工令一、主レ作二兵器一、其職稍同、漢末分二尙方一、爲二中左右三尙方一、魏晉因レ之、自二過江一、唯置二一尙方一、哀帝以隷二丹陽尹一、宋武踐祚、以二相府作部一配レ臺、謂二之左尙方一、而本署謂二之右尙方一、並掌レ造二軍器一、又以二相府細作一配レ臺、卽二其名一置二令一人一、隷二門下一、孝武大明中、改曰二御府一、後廢帝初、省二御府一置二中署一、隷二右尙方一、則漢之考工令、如二宋之尙方令一、尙方令如二宋中署一矣、齊置二左右尙方令各一人一、梁有二中左右尙方一、北齊亦有二三尙方一、隷二太府一、煬帝分隷二少府一、大唐省二方字一、有二中左右三尙署令丞各一人一。❷官名。藥品の調合を掌る。〔漢書、郊祀志上〕欒大、膠東宮人、故嘗與二文成將軍一同レ師、已而爲二膠東王尙方一。〔注〕師古曰、主二方藥一。❸天子の御物を納める倉。〔剪燈餘話、聯芳樓記〕洞庭金柑三寸黃、笠澤銀魚一尺長、東南佳味人知少、王食無レ由レ進二尙方一。❹複姓。〔萬姓統譜〕複姓錄有二尙方氏一。〔通志、氏族略、以レ官爲レ氏〕尙方氏、傳餘頗複姓錄有二尙方氏一。

【尙方禁】131 シヤウハウキン 漢の人。長安の豪族。朱博が左馮翊となるや、之を親信して耳目とす。〔前漢書、八十三〕。

【尙方劍】132 シヤウハウケン 尙方斬馬劍を見よ。〔劉基、詩〕先封二尙方劍一、按レ法誅二姦贓一。

【尙方令】133 シヤウハウレイ 官名。尙方の長官。〔後漢書、百官志三〕尙方令一人、六百石、本注曰、掌三上手工作二御刀劍諸好器物一。

【尙方斬馬劍】134 シヤウハウザンバノケン 尙方は官府で作つた名劍。銳利で、馬をも斬ることができるからいふ。漢の朱雲が嘗てこの劍を得て佞臣一人の頭を切り、以て餘を厲まさんと言つたことから、佞奸の臣を誅する意に用ひられる。尙方劍。〔漢書、朱雲傳〕臣願得二尙方斬馬劍一、斷二佞臣一人一、以厲二其餘一。〔後漢書、楊賜傳〕朱游欲下得二尙方斬馬劍一以理上レ之、固其宜也。

【尙寶】135 シヤウハウ 官名。明、置く。三種あり、一は尙寶司、前代の符寶郞で、長官を尙寶司卿といひ、又、外尙寶司といふ。二は尙寶監、宦官を任じ、其の長を掌印太監といふ。三は尙寶司、又、內尙寶司とも司寶司ともいひ、女官を任ずる。其の職は皆、寶璽・符牌・印章を守ることを掌る。〔明史、職官志三〕宦官十二監、每監各太監一員、云云、尙寶官、掌印一員、僉書・掌司無二定員一、掌二寶璽・敕符・將軍印信一、凡用レ寶、外尙寶司以二揭帖一赴レ監請レ旨、至二女官尙寶司一領取、監二視外司一用訖、存二號簿一繳進。〔續通典、職官典二、侍中、符寶郞〕元中統元年、始置二符寶郞二員一、掌二寶璽・金銀・符牌一、云云、明初設二符璽郞一、後改二尙寶司一、卿一人、少卿一人、司丞三人、掌二寶璽・符牌・印章一、而辨二其所レ用寶二十有四、舊寶十有七一。

【尙白】136 シヤウハク ❶白をたつとぶ。殷の王朝は白を尙んだ。尙赤(114)を見よ。〔禮、檀弓上〕殷人尙レ白、大事斂用二日中一、戎事乘レ翰、牲用レ白。❷清、施閏章(5－13629··156)の字。

【尙兵】137 シヤウヒヤウ 後宮の兵司の長官。典兵・女孺の上に立つて兵器供奉の事を掌る女官。つはもののつかさのかみ。〔後宮職員令〕兵司、尙兵一人、掌下供二奉兵器一之事上。

【尙賓】138 シヤウヒン ❶賓となることをこひねがふ。〔易、觀〕象曰、觀二國之光一、尙レ賓也。〔疏〕志意慕三尙爲二王賓一也。❷壻をいふ。〔老學庵筆記、九〕神霄帝、君之尙賓也。❸字號。㋑明、袁賓(10－34152··134′)の字。㋺明、黃觀(12－47926··313)の字。㋩明、徐觀(4－10110··107)の字。㋥明、馬貴(12－44572··101)の字。㋭明、王觀(7－20823··312)の字。

【尙敏】139 シヤウビン 明、謝訥(10－35827··187)の字。

【尙武】140 シヤウブ 武德をたつとぶ。武事を重んずる。實力を主とする。〔詩、小雅、鼓鍾、以レ雅以レ南、箋〕雅、萬舞也、周樂尙レ武、故謂二萬舞一爲レ雅、雅、正也。〔吳志、陸績傳〕今論者、不レ務二道德懷取之術一、而惟尙レ武、績雖二童蒙一、竊所レ未レ安也。〔杜甫、寄二張十二山人彪一詩〕此邦今尙レ武、何處且依レ仁。

【尙服】141 シヤウフク 官名。唐、置く。服のことを掌る。〔唐書、百官志二〕尙服局、尙服二人、掌三供二服用采章之數一。

【尙文】142 シヤウブン ❶文德をたつとぶ。❷元の深澤の人、保定に籍す。字は周卿。至元中、諸儒と朝儀を酌定す。太子詹事に拜せられ、泰定中、中書平章にて致仕す。卒年九十二。〔元史、一百七十〕。❸字號。㋑明、章敞(8－25761··96)の字。㋺明、陶華(11－41705··48)の字。㋩明、王徽(7－20823··210)の字。㋥明、武成(6－16273··233)の字。

【尙米】143 シヤウベイ 清、談友仁(10－35633··80)の號。

【尙父】144 シヤウホ 尙んで父の如くに扱ふ。又、さういふ風に扱はれる人に對する尊稱。例へば、周の武王に於ける太公望(3－5834··147)の❶の如し。〔詩、大雅、大明〕維師尙父。〔傳〕師、大師也、尙父、可レ尙可レ父。〔箋〕尙父、呂望也、尊二稱焉一。〔李康、運命論〕太公渭濱之賤老也、而尙二父於周一。〔注〕銑曰、太公、呂望也、周尊二太公一、故號爲二尙父一。〔唐書、李輔國傳〕代宗立、輔國等以二定策功一愈跋扈、云云、帝瞿然欲二翦除一、而憚二其握レ兵、因尊爲二尙父一。〔唐書、郭子儀傳〕德宗嗣レ位、詔還レ朝、攝二冢宰一、充二山陵使一、賜二號尙父一。

【尙縫】145 シヤウホウ 後宮の縫司の長官。ぬひのかみ。〔職原抄〕縫司、尙縫一人、掌下裁二縫衣服纂組一之事上、兼知二女功及朝參一。

【尙木】146 シヤウボク 明、宋徵璧(3－7078··369)の字。

【尙未】147 shang^{1} wei^{4} まだ云云しない。

【尙默】148 シヤウモク 字號。❶明、滕員(7－18036··4)の字。

【尙野】149 シヤウヤ 元の人。其の先は保定の人、徙つて滿城に居る。字は文蔚。諡は文懿。繼母に事へて孝。至元中、國史院編修に徵され、國子博士となり、集賢侍講學士兼國子祭酒に至る。〔元史、一百六十四〕。

【尙羊】150 シヤウヤウ たちもとほる。さまよふ。ぶらぶらする。尙佯。徜徉。倘佯。尙陽。又、常羊・相佯・相羊にも作る。〔淮南子、俶眞訓〕與二其有レ說也、不レ若三尙二羊物之終始一也。〔楚辭、賈誼、惜誓〕託二回颷乎尙羊一。〔注〕尙羊、遊戲也。

【尙佯】151 シヤウヤウ たちもとほる。さまよふ。尙羊に同じ。〔淮南子、覽冥訓〕尙二佯冀州之際一。

【尙陽】152 シヤウヤウ ❶たちもとほる。さまよふ。尙羊に同じ。〔黃香、九宮賦〕蕩翊翊而敝降、聊優游以尙陽。〔注〕一作二徜徉一。❷堡の名。滿洲遼寧省開原縣の東。一に上陽堡に作る。舊名、靖安堡。滿洲語では台尼堪。尼湛は漢人の意。清の康熙の時、雲南を平げ、吳三桂に附屬する滇人を悉く此に配戍した。

【尙藥】153 シヤウヤク 官名。❶天子或は東宮の侍醫。〔後漢書、蓋勳傳〕京兆高望、爲二尙藥監一。〔事物紀原、祕殿掌貳部、尙藥〕梁陳以來、皆爲二太醫兼職一、亦秦所レ置六尙之一也。〔唐書、百官志二〕上監、掌二天子服御之事一、其屬有二六局一、曰、尙食・尙藥・尙衣・尙乘・尙舍・尙輦、少監爲二之貳一。❷後宮の藥司の長官。くすりのかみ。〔職原抄〕藥司、尙藥一人、掌下供二奉醫藥一之事上。

【尙藥局】154 シヤウヤクキヨク 官署の名。❶天子或は東宮の侍醫が之に屬する。梁・陳以後、太醫が其の職を兼ね、隋には殿內省に屬す。唐は之に因り、龍朔二年、改めて奉醫大夫とし、咸亨の初、舊に復し、殿中監に屬す。宋・金には皆、尙藥局があり、元・明には太醫院に屬す。〔通典、職官典、諸卿

中、殿中監〕尚藥局、奉御、自二梁陳一以後、皆太醫兼二其職一、北齊門下省有二典御二人一、隋如二北齊之制一、後改爲二奉御一、而屬二殿內一、大唐因レ之、龍朔二年、改爲二奉醫大夫一、咸亨初、復レ舊、直長、隋置二四人一、大唐因レ之。〔續通典、職官典、諸卿中、殿中監〕尚藥局、唐置二奉御二人、直長二人一、掌下和二御藥一診視上、凡藥供御、中書門下長官及諸衞上將軍各一人、與二監奉御一涖レ之、藥成、醫佐以上先嘗、疏二本方一、具二歲月日一、涖者署、奉餌日、奉御先嘗、殿中監次レ之、宋尚藥有二典御奉御等官一、掌二和劑診候之事一、遼北面官、著帳戶司承應實達爾局、有二湯藥實達爾一、金尚藥局御藥院屬二宣徽院一、元明御用藥物、皆掌二於太醫院一。❷典藥寮の唐名。〔職原抄〕典藥寮、唐名、太醫署、又尚藥局。

【尚藥奉御】155 シヤウヤクホウギヨ 官名。❶尚藥局の屬官。尚藥局の❶を見よ。❷典藥頭の唐名。〔職原抄〕典藥寮、頭一人、唐名、太醫令・尚藥奉御。

【尚鏞】156 シヤウヨウ 明、習詔(**9**―28672‥59)の字。

【尚履】157 シヤウリ 明、應宗祥(**4**―11330‥271)の字。

【尚禮】158 シヤウレイ ❶禮をたつとぶ。〔禮、郊特牲〕器用二陶匏一、尚二禮然一也。〔注〕此謂二太古之禮器一也。〔疏〕此乃貴二尚古之禮一自然也。〔國語、晉語四〕民未レ知レ禮、盍三大蒐備レ師、尚レ禮以示レ之。❷明、李富(**6**―14459‥706)の字。

【尚輦】159 シヤウレン 官名。天子の乘輿を掌る。〔唐書、百官志二〕上監、掌二天子服御之事一、其屬有二六局一、曰二尚食・尚藥・尚衣・尚乘・尚舍・尚輦一、少監爲二之貳一。

【尚輦局】160 シヤウレンキヨク 官署の名。天子の乘輿を掌る。漢・魏・晉には皆、太僕の屬官に車府令があつて之を掌る。隋の煬帝は殿內省尚輦局を置き、唐は之に因り、龍朔二年、改めて奉輦大夫とし、咸亨元年、舊に復す。宋・遼・金・元は皆、尚輦局を置き、明は錦衣衞に於て之を掌る。〔通典、職官典、諸卿中、殿中監〕尚輦奉御、周官小司徒中大夫、掌二六畜車輦一、又宗伯巾車下大夫、掌二王后之五輅輦車組輓有翣羽蓋一、漢魏晉、並太僕屬官車府令掌レ之、東晉省二太僕一、遂隸二尚書駕部一、宋齊梁陳、車府乘黃令丞掌レ之、後魏北齊則乘黃車府令兼掌レ之、後周則司車輅主レ之、隋又乘黃車府令丞掌レ之、煬帝置二殿內省尚輦局奉御二人一、大唐因レ之、龍朔二年、改爲二奉輦大夫一、咸亨元年、復レ舊、直長、隋置、大唐因レ之。〔續通典、職官典、諸卿中、殿中監〕尚輦局、唐置二奉御二人、直長三人、尚輦二人一、掌二輿輦繖扇一、大朝會則陳二於庭一、大祭祀則陳二於廟一、皆繖二、翰一、扇一百五十有六、既レ事而藏レ之、宋尚輦局、有二典御奉御等官一、掌二輿輦之事一、遼南面官殿中司、有二尚輦局奉御一、金尚輦局、有二使副使等官一、掌二承奉輿輦等事一、有二直長職一、專典レ輿、屬二殿前都點檢司一、元侍正府、有二尚飾兼尚輦奉御二人、副奉御二人一、明輿輦之事、掌二於錦衣衞一。

【尚論】161 シヤウロン 昔にさかのぼつて古人の行事を論評する。〔孟子、萬章下〕以レ友二天下之善士一爲レ未レ足、又尚二論古之人一。〔集注〕尚・上同、言二進而上一也、云云、夫能友二天下之善士一、其所レ友衆矣、猶以爲レ未レ足、又進而取二於古人一、是能進二其取レ友之道一、而非三止爲二一世之士一矣。

【尚論堂】162 シヤウロンダウ 清、謝浦泰(**10**―35827‥364)の室名。

【尚論篇】163 シヤウロンヘン 書名。八卷。清、喩昌撰。醫書。原名は尚論張仲景傷寒論重編三百九十七法。〔四庫提要、子、醫家類〕。

【尚鞋行】164 shang^4 hsieh^2 hang^2 靴の底と表とを縫合はせる業。

【尚維昇】165 シヤウヰシヨウ 清、漢軍鑲藍旗人。謚は直烈。乾隆中、廣西右江鎭總兵となる。孫士毅に隨つて安南に出征し、戰死す。〔清史稿、三百四十〕・〔國朝耆獻類徵、三百五十六〕。

【尚有軒】166 シヤウイウケン 宋、張鎡(**4**―9812‥361)の室名。

【尚可喜】167 シヤウカキ 清、遼東の人。謚は敬。漢軍鑲藍旗に隸す。初、明の廣鹿島副將となり、後、清に歸して總兵官を授けられ、順治の初、關に入り、李自成を征し、平南王に封ぜられ、清初の四藩の一つとなつた。後、清に滅さる。〔清史稿、二百四十〕・〔清史列傳、七十八〕・〔碑傳集、六〕。

【尚可孤】168 シヤウカコ 唐、東部鮮卑宇文の別族。魚朝恩の養子となる。可孤は字。名は智德。後、姓を李、名を嘉勳と賜ふ。李希烈を伐ち、本姓名に復す。檢校尚書右僕射となり、馮翊郡王に封ぜられ、李懷光を討つて軍に卒す。〔唐書、一百十〕。〔舊唐書、一百四十四〕。

【尚亢齋】169 シヤウカウサイ 明、姚悅(**3**―6202‥12)の號。

【尚廐局】170 シヤウキウキヨク 官名。金、置く。御馬調習牧養を掌る。〔金史、百官志二〕尚廐局、掌二御馬調習牧養一、以奉二其事一。

【尚結贊】171 シヤウケツサン 唐、吐蕃の大相。材略あり、渾瑊を助けて朱泚を破る。德宗が約に爽つて地を與へなかつたので、吐蕃は之を怨み、遂に涇・隴・邠・寧等の州に寇したが、李晟に破らる。幾くもなく吐蕃が鹽夏を陷れ、結贊は鳴沙に屯したが饋餉に數〻困しみ、馬燧に因つて和を乞うたので、唐は遂に渾瑊に命じて復た平涼に盟はせた。併し結贊は精騎三萬を伏せて瑊等を擒にせんとし、長驅入寇したので、盟に及び、瑊は僅かに脫るるを得た。結贊は尋いで兵部尚書崔漢衡等を送り歸したが、又、其の使を絕ち、遂に屢屢涇・隴・邠・寧・慶・鄜等の州に寇す。貞元中、卒す。〔唐書、二百十六下〕・〔舊唐書、一百九十六下〕。

【尚儉堂】172 シヤウケンダウ 清、吳嘉賓(**2**―3365‥467)の室名。

【尚獻甫】173 シヤウケンポ 唐、汲の人。占候を善くす。道士から渾儀監令に擢んでられ、方域等の篇を撰す。後、水衡都尉に遷る。〔唐書、二百四〕・〔舊唐書、一百九十一〕。

【尚公主】174 シヤウコウシユ 天子の女をめとる。尚主(82)に同じ。〔漢書、王吉傳〕又漢家列公尚二公主一。〔注〕晉灼曰、娶二天子女一、則曰レ尚二公主一。

【尚之孝】175 シヤウシカウ 清の人。可喜の次子。康熙中、藩下都統に任ぜられ、吳三桂・耿精忠の反に潮州を圍み、戰利あらず。尋いで京に還り、內大臣に列し、宣義將軍を授けられ、三桂の餘黨を江西に平ぐ。其の兄之信の死を賜はるや、坐して職を削らる。〔清史稿、二百四十〕・〔清史列傳、五〕・〔國朝耆獻類徵、二百七十六〕。

【尚之信】176 シヤウシシン 清の人。可喜の子。吳三桂に從つて反いたが、尋いで罪を悔いて歸り、平南王を襲封し、廣東を鎭す。韶州を征し、永興を救ふことを命ぜられたが皆赴かず。性、暴戾にして跋扈怨望す。屬員張永祥が之信の諸不法の事を告げたので、遂に廣州に死を賜はる。〔清史稿、四百八十〕・〔清史列傳、八十〕。

【尚商派】177 シヤウシヤウハ 商業政策を主とする學派。重商派。

【尚大倫】178 シヤウダイリン 明、安陽の人。字は崇雅。進士。官は刑部郎中。流賊が安陽を陷れるや、抗節して死す。〔明史、二百九十四〕・〔萬斯同明史、三百八十一〕・〔明史稿、三百七十六〕。

【尚仲賢】179 シヤウチユウケン 元、眞定の人。官は江浙行省務官。樂府に巧。柳毅傳等の雜劇を著す。〔嘯餘譜〕。

【尚兆山】180 シヤウテウサン 清、句容の人。字は仰止。諸生。光緒中、左宗棠が赤山湖を濬はんと議し、兆山は其の役に與かつたが、工事が半ばにして中止せられたので、兆山は之を痛み、其の始末を輯めて赤山湖志を著す。〔清畫家詩史、辛下〕。

【尚農派】181 シヤウノウハ 農は國家の大本なりと唱へて、農業政策を主とする學派。重農派。

【尚溫居士】182 シヤウヲンコジ 元、梁園秀(**6**―14825‥28)の號。

【尚堪二一行一】183 ナホイツカウニタヘタリ 尚又一回は行き得る。老いて尚餘力あるをいふ。唐の李靖の故事。〔唐書、李靖傳〕吐谷渾寇レ邊、帝謂二侍臣一曰、靖能復爲レ帥乎、云云、吾雖レ老尚堪二一行一、帝喜、以爲二西海道行軍大總管一。〔書言故事、耆老類〕稱下老人以二筋力一者、尚堪中一行上。

【尚約居士】184 シヤウヤクコジ 明、蕭鎡(**9**―32012‥152)の號。

【尙】7493′

シヤウ 尚(**4**―7493)に同じ。

【𡭊】7494

シヤ 〔字彙〕息邪切 麻

すくない。〔字彙〕𡭊、少也。

【⿱⺌共】7495 ヒツ 筆（**8－25987**）に同じ。〔字彙補〕⿱⺌共、與ㇾ筆同。

【⿰亻⿱⺌女】7496 ヨウ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿰亻⿱⺌女、音孕。

六畫

【⿱⺌兄】7497 ベン 覍（**4－7504**）の譌字。〔正字通〕⿱⺌兄、覍字之譌。

【⿱小⿰小小】7498 マ 麼（**12－47893**）の古字。〔字彙補〕⿱小⿰小小、古文麼字。

【⿱⺌示】7499 マ ⿱小⿰小小（**4－7498**）に同じ。〔篇海類編〕⿱⺌示、同ㇾ⿱小⿰小小。

【⿳⺌大小】7500 音未詳 子供のもてあそぶ物。又、まちの名。〔字彙補〕⿳⺌大小、音未詳、小兒戲物、又衚衕名。

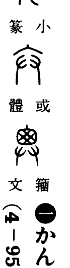
【⿱⿻彐丨小】7501 カウ コウ 〔字彙補〕苦到切 號 **姓**。〔字彙補〕⿱⿻彐丨小、西域姓也。

【⿱⺌有】7502 シユ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿱⺌有、音首。

【⿱⺌吏】7503 ケン 義未詳。〔五音篇海〕⿱⺌吏、吉典切。

七畫

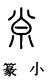
【覍】7504 ヘン ベン 〔集韻〕皮變切 霰


小篆 或體 籀文

❶**かんむり**。弁（**4－9588**）に同同じ。〔說文〕覍、冕也、周曰ㇾ覍、殷曰ㇾ吁、夏曰ㇾ收、从ㇾ皃、象形、弁、或覍字、⿱白廾、籀文覍、从ㇾ廾、上象形。❷或は⿱白廾（**4－9618**）・絣（**8－27355**）に作る。〔集韻〕覍、籀从ㇾ廾、上皆象形、或作ㇾ絣。

解字 象形。皃と八とを合はす。皃は人のかたち、八は其の頭にいただくかんむりのかたち。〔說文、覍、段注〕謂㆓篆體小㆒也、葢象㆓皮弁之會㆒、鄭曰、會縫中也。

【⿳⺌白小】7505 ケキ キヤク 〔集韻〕乞逆切 陌


小篆

❶**かべのすきま**。〔說文〕⿳小白小、際見之白也、从ㇾ白、上下小見。〔六書正譌〕⿳小白小、壁際孔也、从㆓二小㆒、中从㆓日景㆒也、會意。❷隙（**11－41792**）に同じ。〔六書總要〕⿳小白小、小篆加ㇾ阜作ㇾ隙。〔說文解字羣經正字〕⿳小白小・隙二字、音義俱同、蓋一字也、特古今異耳。

解字 會意。白と上下の小との合字。白は日の光がもれて見える壁の合はせ目の白い筋を意味し、上下の小は壁の合せ目の上方にも下方にもその白い筋が少し見えることを示す。故に本義を壁のすきまとする。〔說文、⿳小白小、段注〕際者、壁會也、隙者、壁隙也、云云、壁隙之光一綫而已、故从㆓二小㆒。

參考 この字は、說文に從へば、⿳小白小に作るべきであるが、今、康熙字典に從ふ。

【⿱⺌冋】7506 ラン 義未詳。〔五音篇海〕⿱⺌冋、音亂。

【⿰女少】7507 ベウ 妙（**7－20815**）に同じ。〔字彙補〕⿰女少、與ㇾ妙同。

【⿱⺌豕】7508 クワン 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿱⺌豕、音觀。

八畫

【⿳⺌目小】7509 ゲキ ⿳⺌白小（**4－7505**）に同じ。〔廣韻〕⿳⺌目小、同ㇾ⿳⺌白小。〔六書總要〕⿳⺌白小、楷譌作ㇾ⿳⺌目小。

【⿰⿱小示乚】7510 ドウ ヌ 〔集韻〕乃后切 有 ❶**小さいさま**。〔廣韻〕⿰⿱小示乚、小兒。❷**ちち**。㝅（**3－7012**）に同じ。〔集韻〕㝅、乳子也、或作ㇾ⿰⿱小示乚。

【⿱⺌兔】7511 ドウ ⿰兔鬼（**12－42502**）の譌字。〔集韻〕⿰兔鬼、江東呼㆓兔子㆒爲ㇾ⿰兔鬼、或作ㇾ⿱⺌兔。〔正字通〕按、爾雅註、江東呼㆓兔子㆒曰ㇾ鱬、集韻或作ㇾ⿱⺌兔、少下从ㇾ兔、今譌从ㇾ兔。

【⿱龸疋】7512 シヤウ 〔楚辭箋注〕音敞 **すみやかに走る**。**走りまはる**。趟（**10－37470**）に通ず。〔楚辭、王逸、九思、逢尤〕走趟罔兮乍東西、〔箋注〕趟罔、一作㆓趟⿱龸疋㆒、一作㆓暢⿱龸疋㆒、一本云、⿱龸疋、敞音、又主尙切。

【⿱少囧】7513 セイ 省（**8－23179**）の古字。〔說文〕眉、⿱少囧、古文省从㆓少囧㆒。

【⿱⺌卑】7514 ヒ 卑（**2－2738**）に同じ。〔字彙補〕⿱⺌卑、與ㇾ卑同。

【⿱⺌⿱甶十】7515 ヒ 義未詳。〔龍龕手鑑〕⿱⺌⿱甶十、音卑。

【⿱小侖】7516 ジヤク 爵（**7－19711**）の古字。〔說文通訓定聲〕⿱小侖、據㆓爵篆㆒、首象㆓雀形㆒、知㆔⿱小侖爲㆓雀之古文㆒、今補附㆓于此㆒。

九畫

【尞】7517 レウ 燎（**7－19414**）に同じ。〔字彙〕尞、同ㇾ燎。

【⿺尢京】7518 リヤウ 凉（**2－1665**）に同じ。〔康熙字典〕⿺尢京、本作ㇾ涼、通作ㇾ凉。

【⿱龸早】7519 イ 薏（**9－32106**）に同じ。〔字彙補〕⿱龸早、與ㇾ薏同。

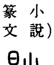
【⿺𡭔兆】7520 音未詳 紵葛の屬。〔字彙補〕⿺𡭔兆、音未詳。〔穆天子傳、四〕⿰鬲雚⿺𡭔兆十篋。〔注〕疑此紵葛之屬。

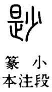
【⿰⿱小小⿱小小】7521 セウ 小（**4－7473**）に同じ。〔搜眞玉鏡〕⿰⿱小小⿱小小、同ㇾ小。

十畫

【⿺走少】7522 セン・セウ 尠（**4－7523**）に同じ。〔集韻〕⿺走少、或作ㇾ尠。

【尠】7523 ㊀セン 〔集韻〕息淺切 銑 ㄒㄧㄢˇ hsien^3 ㊁セウ 〔集韻〕宣遇切 遇


小篆（說文）


小篆（段注本）

㊀❶すくない。尟(4-7522)に同じ。〔說文〕尟、是少也、是少俱存也、从二是少一、賈侍中說。〔段注〕本或作レ尠、尠者、尟之俗。❷鮮(12-46133)に通ず。〔說文、尟、段注〕今人借二用鮮字一、經傳竝作レ鮮。㊁すくない。〔集韻〕尟、少也、或作レ尠。

【尠少】1 セン セウ すくない。鮮少。〔大唐西域記、二〕伽藍五所、僧徒尠少。

【尠疇】2 セン チウ 類がすくない。〔楚辭、王逸、九思、疾世〕居二嵺廓一兮尠レ疇。〔注〕尠、少也。

【⿱⺌⿵冂高】7524 ニュウ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿱⺌⿵冂高、音乳。

十一畫

【⿰害少】7525 チョク チキ 〔廣韻〕丁力切 職 **やすらか。すこやか。**〔字彙〕⿰害少、康也、健也。

【綡】7526 クワン 〔字彙〕姑還切 刪 **糸をとほす。**⿰糸巿(4-9207)の譌字。〔字彙〕綡、織貫レ杼也。〔正字通〕綡、⿰糸巿字之譌。

【⿰乘少】7527 ㊀レン 〔集韻〕勒兼切 鹽 ㊁レン 〔集韻〕歷店切 豔 ㊀❶**すくない。**〔字彙〕⿰乘少、少也。❷**かける。**〔字彙〕⿰乘少、欠也。❸**ちひさい。**〔集韻〕⿰乘少、小也。㊁**ちひさい。**㊀の❸に同じ。〔集韻〕⿰乘少、小也。

【覚】7528 マ 麽(12-47892)に同じ。〔字彙補〕覚、與レ麽同。

十二畫

【⿰曹少】7529 サウ ゾウ 〔字彙〕財勞切 豪 ㄘㄠˊ tsʻao^2 **あらい。よくない。きたない。**粆⿰曹少。〔字彙〕⿰曹少、粆⿰曹少、物末二精清一。

【⿰曹少朽】1 tsʻao^2 hsiu^3 朽ちる。くさる。

【⿰曹少舊】2 tsʻao^2 chiu^4 古い。古びる。

【⿰曹少壞】3 tsʻao^2 huai^4 こはれる。⿰曹少爛。

【⿰曹少面】4 tsʻao^2 mien^4 にきび。疙瘩。

【⿰曹少爛】5 tsʻao^2 lan^4 粗末になつた。ぼろぼろになつた。

【⿰堇少】7530 キン ギン 〔集韻〕渠吝切 震 ❶**むかふ。**〔玉篇〕⿰堇少、對也。❷**すくない。**〔集韻〕⿰堇少、少也。

【⿱罒尒】7531 キ 臮(9-30116)・暨(5-14165)の古字。〔說文〕臮、⿱罒尒、古文臮。〔字彙補〕⿱罒尒、古文暨字。

十三畫

【⿸广⿱秝小】7532 レキ リャク 〔集韻〕狼狄切 錫 **すくなくて劣る。**⿰乘少⿸广⿱秝小。〔集韻〕⿸广⿱秝小、⿰乘少⿸广⿱秝小、少劣也。

【⿰厽𡭴】7533 ゲキ 隙(11-41792)に同じ。〔集韻〕隙、或从レ厽。

十四畫

【⿱尐有】7534 イウ 有(5-14332)に同じ。〔字彙補〕⿱尐有、與レ有同、臞仙作。

十五畫

【⿰甚某】7535 バイ 義未詳。〔海篇〕⿰甚某、音梅。

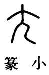
【⿰監少】7536 ラン レン 〔集韻〕力銜切 咸 **すくない。**⿰監少⿰毚少。〔集韻〕⿰監少、⿰監少⿰毚少、少也。

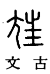
十八畫

【⿰毚少】7537 サン セン 〔集韻〕初銜切 咸 **すくない。**⿰監少⿰毚少。〔集韻〕⿰毚少、⿰監少⿰毚少、少也。

尢部

【尢】7538 ワウ 〔集韻〕烏光切 陽 ㄨㄤ wang^1


小篆


古文（說文）　篆文（段注本）

❶**すねのまがつた人。**尪(4-7558)に同じ。〔說文〕尢、𡯁也、曲脛人也、从レ大、象二偏曲之形一、凡尢之屬、皆从レ尢、尩、篆文从レ㞷。❷**せのくぐまつて短小の人。**〔說文、尢、段注〕鄭注、釋爲二面鄉レ天、或云、短小曰レ尪、本从二㞷聲一、省作レ尪。〔玉篇〕尢、又僂也、短小也、俗作レ尣。❸篆文は尩(4-7583)に作る。〔說文〕尢、尩、篆文从レ㞷。❹注音符號の韻符の一。附聲韻母。單母音ㄚを發すると同時に、舌後部を上升せしめて、舌後帶鼻音の兀を以て收聲すれば、此の音となる。アン。ang

解字 象形。大に從ひ、一脛の曲つたかたちにかたどる。大は人を其の正面からうつしたかたち。故に曲脛の人をいふ。〔說文、尢、段注〕謂下从レ大而象中一脛偏曲之形上也。

參考 ❶部首の形としては尣(4-7540)・尣(4-7541)・兀(4-7542)の三形を同様に用ひる。本辭典においては、康熙字典の字形に從つた。❷尢(4-7539)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕尢、音汪、跛曲脛也。尢、尤本字。

【尢】7539 イウ 尤(4-7543)の本字。〔正字通〕尢、尤本字、說文、尤在二乙部一。

参考 尣(4－7538)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕尣、音汪、跛曲脛也。尢、尤本字。

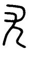
【尣】7540 ワウ ㊀尢(4－7538)に同じ。〔字彙〕尢、尣竝同。㊁或は尩(4－7583)に作る。

【尣】7541 ワウ 尢(4－7538)に同じ。〔字彙〕尢、尣竝同。

【兀】7542 ワウ 尢(4－7538)に同じ。〔五音集韻〕尢、俗作レ兀。

一畫

【尤】7543 イウ ウ 〔集韻〕于求切 一ヌˊ yu² 尤



小篆

㊀**ことなる**。尤(4－7539)に同じ。〔正字通〕尢、尤本字。〔說文〕尤、異也、从レ乙又聲。〔廣雅、釋言〕尤、異也。〔左氏、昭、二十八〕夫有二尤物一。〔注〕尤、異也。㊁**かけはなれる**。〔管子、侈靡〕有レ知二強弱之所レ尤。〔注〕尤、殊絕也。㊂**あやしい**。〔小爾雅、廣言〕尤、怪也。㊃**すぐれたもの**。〔字彙〕尤、最也。〔莊子、徐無鬼〕夫子物之尤也。〔韓愈、送三溫處士赴二河陽軍一序〕朝取二一人一焉、拔二其尤一。㊄**もつとも**。とりわけ。なかんづく。〔晉書、明帝紀〕帝聰明有二機斷一、尤精二物理一。㊅**はなはだしい**。〔左氏、襄、二十六〕視レ之尤。〔注〕尤、甚也。㊆**とが。とがめ。とがめる**。訧(10－35277)に通ず。〔說文通訓定聲〕尤、叚借爲レ訧。〔詩、鄘風、載馳〕許人尤レ之。〔釋文〕尤、本亦作レ訧。〔詩、小雅、四月〕莫レ知二其尤一。〔箋〕尤、過也。〔左氏、襄、十五〕尤二其室一。〔注〕尤、責過也。〔論語、爲政〕寡レ尤。〔集解〕包氏曰、尤、過也。〔皇疏〕尤、責也。〔論語、憲問〕不レ尤レ人。〔鄭注〕尤、非也。㊇**うらみ。うらむ**。〔爾雅、釋言、舍人注〕尤、怨レ人也。〔史記、賈生傳〕般紛紛其離二此尤一兮。〔注〕索隱曰、尤、謂二怨咎一也。㊈**おほい**。〔玉篇〕尤、多也。㊉**ためらふ**。〔六書正譌〕尤、从レ犬、曲二其足一而首尚弱、象形、人行則犬子每豫在レ前、故謂二遲疑不一レ決爲二尤豫一、因借レ聲爲二尤異字一、經史尤異字、皆加レ點矣。(十一)**近づき親しむ**。戀ひむつぶ。尤殢(33ヽ)・尤雲殢雨(58)を見よ。〔羅隱、春日湘中題二岳麓寺僧舍一詩〕欲下共二高僧一話中心迹上、野花芳草奈相尤。〔柳永、如漁水詞〕莫下閒愁共二綠蟻紅紛一相尤上。(十二)猶(7－20557)に通ず。〔說文通訓定聲〕尤、愚按、从レ乙無レ義、此字當二即猶之古文一、犬子也、从二尤省一。(十三)蚘(10－32876)に通ず。〔書、呂刑〕蚩尤。〔周禮、春官、肆師、注〕蚩蚘。(十四)郵(11－39485)に通ず。〔漢書、五行志下之下、當レ有二失レ節之郵一、注〕師古曰、郵、與レ尤同、尤、過也。(十五)古は忧(4－10472)に作る。〔集韻〕尤、古作レ忧。(十六)**姓**。〔通志、氏族略、平聲〕尤氏、見二姓苑一、宋尤鶴登二進士第一、又有二尤絢・尤昱一、南劍人、望出二吳興一。〔尙友錄〕尤、吳尤。(十七)**一百六韻の一**。下平第十一。邦 **もつとも**。㋑道理至極。さうあるべき筈。全くその通りに。いかにも。㋺この上なく。極めて。㋩但し。とはいへ。はたまた。

名乘 モツ。モト。

【尤怡】1 イウ イ 清、長洲の人。字は在涇。號は拙吾・飲鶴散人。家貧にして醫業・鬻字を以て餬口す。詩に巧。著に金匱心典集註・醫學讀書記・北田吟稿がある。〔清史稿、五百七〕。

【尤異】2 イウ イ 最もすぐれてゐる。〔漢書、宣帝紀〕潁川大守黃霸、以二治行尤異一、秩二中二千石一、賜二爵關內侯一。〔後漢書、明帝紀〕三歲已上理狀尤異者各一人、與レ計偕上。〔柳宗元、楊評事文集後序〕其炳燿尤異之詞、諷二誦于文人一。

【尤違】3 イウ ヰ うらみたがふ。〔書、君奭〕弗丁永遠念二天威一、越丙我民罔乙尤違甲。〔蔡傳〕尤、怨、違、背也。

【尤焴】4 イウ イク 宋の人。袤の孫。字は伯晦。端平の初、將作監主簿に徵され、尋いで淮西の帥となり、儒者を以て邊を守る。後、禮部尙書に累進し、入つて翰林學士となる。〔宋史、三百八十九〕・〔萬柳溪邊舊話〕・〔南宋館閣續錄、七〕・〔南宋制撫年表、二十一・二十九〕。

【尤佚】5 イウ イツ 過度に遊びなまける。〔晏子、諫、上〕民愁苦約病、而姦驅尤佚、隱情奄惡、蔽二諂其上一。

【尤蔭】6 イウ イン 清、儀徵の人。字は實父・貢父・貢夫。號は水村・半人・半灣詩老。詩に巧で、蘭竹畫を善くし、王文治と名を齊しくす。乾隆中、和碩禮親王に從つて塞を出づ。書室を石銚山房といふ。著に塞詩鈔がある。〔國朝耆獻類徵、四百三十六〕。

【尤可】7 yu² k'ê³ ㊀なほ云云することが出來る。㊁尤も云云す可し。

【尤槩】8 イウ ガイ 宋の人。袤の子。字は與平。淳熙の進士。眞書廚子と稱せらる。官は太常博士。〔宋史、三百八十九〕・〔萬柳溪邊舊話〕。

【尤交】9 イウ カウ 宋、常州の人。字は同父。博學能文。書法に巧。

【尤效】10 イウ カウ 他の非を咎めながら自己も亦之に倣ふ。尤而效レ之(60)を見よ。

【尤玘】11 イウ キ 元、常州の人。字は守元。號は知非子。官は大司徒。書室を歸閒堂といふ。著に歸閒堂稿・萬柳溪邊舊話がある。〔常州府志〕・〔四庫提要、六十一〕。

【尤其】12 yu² ch'i² 殊に。とりわけ。

『尤其餘事』13 yu² ch'i² yü² shih⁴ 云ふに及ばぬ事。勿論の事。

【尤諱】14 イウ キ 甚だ忌むこと。人の死をいふ。〔資治通鑑、齊紀〕（武帝、永明八年）魏家故事、尤諱之後三月。〔注〕尤諱、猶レ云二大諱一也、尤、甚也、死者、人之所二甚諱一也。

【尤義】15 イウ ギ 宋、吳縣の人。字は道本。官は湖廣布政使經歷。著に元史輯要がある。

【尤求】16 イウ キウ 明、長洲の人。太倉に移居す。字は子求。號は鳳丘。畫に巧。〔太倉志〕・〔五雜組〕。

【尤錦】17 イウ キン 清、太倉の人。字は尙絅。畫に巧。

【尤悔】18 イウ クワイ ㊀とがめとくい。悔尤。〔論語、爲政〕言寡レ尤、行寡レ悔、祿在二其中一矣。〔漢書、敍傳下〕淺爲二尤悔一、深作二敦害一。〔白居易、晚歸二香山寺一因詠二所懷一詩〕嘗聞嵇呂輩、尤悔生二疏頑一。㊁世說新語の篇名。

【尤溪】19 イウ ケイ ㊀川の名。上源を梓溪といふ。源は福建省德化縣の西北の戴雲山。尤溪縣の南を經、又、南平縣の南を經て尤溪口といひ、建江に入る。一名、湖頭溪。〔讀史方輿紀要、福建、延平府、尤溪縣〕尤溪、在二城東一、有二二源一、一出二泉州府德化縣界一、一出二漳州府龍巖縣界一、會二於縣之西南一而北流、縣境諸山澗水、支分縷注、有二湯泉等二十溪一、次第流匯焉、自二城東一益轉而北、亦曰二湖頭溪一、至二縣北七十里尤口一、涵二會於建溪一、五代晉天福中、閩主曦與二建州王延政一相攻、遣レ兵屯二尤口一、將レ襲二建州一、爲二建州兵所一レ敗、即今尤溪口矣、溪中諸灘、上流凡二十六、下流凡三十、櫛比以達二於尤溪一。㊁縣名。唐、置く。晉の延平縣の地。今、福建省南平縣の南。縣城は尤溪の北岸。朱熹の父松、嘗て尤溪尉となり、熹は其の官舍に生まる。〔讀史方輿紀要、福建、延平府〕尤溪縣、府東南百五十里、云云、晉延平縣地、宋齊時爲二沙村縣地一、唐初爲二山峒地一、開元二十八年、置二尤溪縣一。〔清史稿、地理志〕福建、延平府、縣六、尤溪。

【尤隙】20 イウ ゲキ いさかひ。いひあひ。口論。〔後漢書、黨錮傳序〕各樹二朋徒一、漸成二尤隙一。

【尤功】21 イウ コウ すぐれたてがら。〔漢書、高惠高后文功臣表序〕三人爲レ衆、雖レ難二盡繼一、宜レ從二尤功一。〔注〕孟康曰、取二其功尤高者一人一繼レ之。

【尤詬】22 イウ コウ とがめはづかしめる。〔倪瓚、素衣詩〕視レ民如レ豵、寧避二尤詬一。

【尤最】23 イウサイ この上なくすぐれること。最上。極上。〔晉書、石勒載記上〕賓・萇俱曰、今殷氏種衆之悍、末杯尤最、其卒之精勇、悉在二末杯一。

【尤山】24 イウサン 元、常州の人。字は志慕。節を守って高尙。〔常州府志〕。

【尤者】25 イウシヤ すぐれてよいもの。〔歐陽脩、梅聖兪詩集序〕掇二其尤者六百七十七篇一、爲二一十五卷一。

【尤熟】26 モットモジユクス 十分にととのふ。熟は、よくととのふこと。〔井上梧陰、岩倉村瘞髮碑〕參議大久保・廣澤諸公、亦與レ公相往來、籌畫尤熟。

【尤人】27 イウジン 人をとがめる。〔論語、憲問〕不レ怨レ天、不レ尤レ人。

【尤水】28 イウスイ 川の名。今の山東半島の小沽河。〔左氏、昭、二十〕聊攝以東、姑尤以西。〔注〕姑尤、齊東界也、姑水尤水、皆在二城陽郡一、東南入レ海。〔齊乘〕姑、卽大沽河、尤、卽小沽河、姑水、起二北海一、至二南海一、行二三百餘里一、絕二齊東海一、故曰二姑尤以西一。

【尤台】29 イウタイ 宋、安溪の人。字は公輔。八歲にして能く文を屬す。慶元中、童子試に應じ、中書に擧げられたが仕進を求めず。自ら退翁と號して終る。〔尙友錄、十三〕。

【尤岱】30 イウタイ 明、楡林衞の人。武將。官は山海鐵騎營參將。李自成の至るや、尤世威を助け、城を守って死す。〔明史、二百六十九〕・〔萬斯同明史、三百八十二〕・〔明史稿、二百四十九〕。

【尤大】31 イウダイ 最も大きい。最大。〔弘道館記述義、上〕足利義滿之罪爲二尤大一。

【尤著】32 イウチヨ すぐれていちじるしい。〔後漢書、鄧禹傳〕斬レ將破レ軍、平二定山西一、功効尤著。

【尤珍】33 イウチン 清の人。侗の子。字は慧珠、一の字は謹庸。別號は滄湄。康熙の進士。右贊善に累官す。著に滄湄類稿・晬示錄がある。〔清史列傳、七十一〕・〔國朝耆獻類徵、一百十九〕。

【尤殢】33' イウテイ 近づき親しむ。戀ひむつぶ。轉じて男女の情交をいふ。字解の㊉を見よ。殢は、しなを作ってもたれかかること。尤雲殢雨。〔柳永、促拍滿路花詞〕最是嬌癡處、尤二殢檀郞一、未レ敎二折了鞦韆一。〔晁元禮、木蘭花慢詞〕嬌癡、是尤殢處、被二羅襟一印二了宿粧眉一。

【尤侗】34 イウトウ 清、長洲の人。字は同人。又、展成。號は悔菴・艮齋、又は西堂老人・三中子・鶴棲老人。康熙中、鴻博に擧げられ、檢討を授けられ、侍講となる。詩・古文詞に巧。後、翰林に入り、聖祖老名士と稱す。卒年八十七。書室を鶴栖堂といふ。著に西堂雜俎・艮齋雜記・鶴栖堂文集がある。〔清史稿、四百八十九〕・〔國朝先正事略、三十九〕・〔碑傳集、六〕。

【尤棟】35 イウトウ 宋、常州の人。字は率齋。十歲にして五經に通ず。景定の進士。其の二子の燾照・高隱、文を能くし、其の頃の江南の金石文章は皆父子の筆になる。〔無錫縣志〕。

【尤物】36 イウブツ ㊀すぐれてよいもの。逸物。逸品。〔莊子、徐無鬼〕夫子物之尤也。〔疏〕尤、甚也。㊁美人。美女。〔左氏、昭、二十八〕夫有二尤物一、足二以移レ人、苟非二德義一、則必有レ禍。〔注〕尤、異也。〔會箋〕曰二尤物移レ人、則巫臣之女、亦必有二國色一矣。〔白居易、李夫人詩〕尤物惑レ人忘不レ得。〔書言故事、婦人類〕謂二美婦人一爲二尤物一。〔故事成語考、女子〕女貌妖嬈、謂二之尤物一。

【尤文】37 イウブン 元、常州の人。字は十初。理學を究め、永樂中、孝廉に徵されたが親を養ふを以て固辭す。年八十を踰え、學を講じて倦まず、門人、恭靖先生と私諡す。〔常州府志〕。

【尤袤】38 イウボウ 宋の人。時亨の子。字は延之。諡は文簡。紹興の進士。太常少卿に累進し、紹興の初、婺州の長官となり、太平州に轉任し、尋いで給事中に陞進す。書室を遂初堂といふ。著に遂初小稿・內外制がある。〔宋史、三百八十九〕・〔宋史新編、一百四十五〕・〔南宋書、三十四〕・〔萬柳溪邊舊話〕・〔宋元學案、四十六〕。

【尤來】39 イウライ ㊀前漢末の羣盜の稱。〔後漢書、光武紀上〕別號諸賊、銅馬・大彤・高湖・重連・鐵脛・大搶・尤來・上江・靑犢・五校・檀鄕・五幡・五樓・富平・獲索等、各領二部曲一、衆合二數百萬人一、所在寇掠、光武將レ擊レ之、先遣二吳漢一、北發二十郡兵一。㊁山名。山東省泰安縣の東南。又、尤徠に作る。一名、徂徠山。〔後漢書、郡國志〕徂徠山、亦曰二尤來山一。

【尤徠】40 イウライ 尤來の㊁に同じ。〔水經、汶水注〕鄒山記曰、徂徠山有二美松一、亦曰二尤徠之山一也、赤眉渠帥樊崇所レ保也、故崇自號二尤徠三老一矣。

【尤良】41 イウリヤウ ㊀王良をいふ。古の馬を馭する名人。〔盧諶、贈二劉琨一詩〕眷同二尤良一、用乏二驥騄一。〔注〕良曰、尤良、王良也。㊁明、常州の人。號は休齋。元の泰定の擧人。洪武中、太常卿となる。〔常州府志〕。

【尤烈】42 イウレツ 明、晉江の人。字は子偉。嘉靖の進士。官は雲南少參。〔泉州府志〕。

【效レ尤】43 トガメニナラフ 人の惡事にならふ。〔左氏、莊、二十一〕原伯曰、鄭伯效レ尤、其亦將レ有レ咎。

【尤安禮】44 イウアンレイ 明、長洲の人。字は文度。官は兵部郞中・貴州參議。〔萬斯同明史、二百九〕・〔國朝獻徵錄、一百三〕・〔明人小傳、一〕・〔本朝分省人物攷、十八〕・〔明詩綜、十九上〕。

【尤維熊】45 イウヰユウ 清、元和の人。字は祖望。號は二娛。乾隆の拔貢生。官は蒙自縣の長官。詩に巧に、詞に長ず。著に二娛小廬詩詞鈔がある。

【尤光被】46 イウクワウヒ 明、羅源の人。字は子輝。萬曆の進士。河陽の守となる。〔羅源縣志〕。

【尤繼先】47 イウケイセン 明、楡林衞の人。萬曆中、固原總兵官となり、又、遼東・薊州に鎭となる。めっかちであったので、時人、呼んで獨目將軍と稱す。〔明史、二百三十九〕・〔萬斯同明史、三百二十三〕・〔明史稿、二百二十一〕。

【尤時亨】48 イウジカウ 宋、無錫の人。字は雲耕。性、至孝。客を好み、財を傾けて之を遇す。〔萬柳溪邊舊話〕。

【尤時熙】49 イウジキ 明、洛陽の人。字は季美。嘉靖中、鄕試に擧げらる。王守仁の學を習ひ、專ら致良知を以て教へとす。元氏・章丘教諭に歷任し、尋いで國子博士を拜命す。學者、西川先生と稱す。著に擬學小記がある。〔明史、二百八十三〕・〔萬斯同明史、三百八十五〕・〔明儒學案、二十九〕。

【尤世威】50 イウセイヰ 明の人。世功の弟。崇禎の初、官は山海總兵官、尋いで左都督に至る。李自成の難に死す。〔明史、二百六十九〕・〔萬斯同明史、三百八十二〕・〔明史稿、二百四十九〕。

【尤世求】51 イウセイキウ 清の人。侗の孫。字は念修。號は南園。官は南充縣の長官。著に南園詩鈔がある。〔四庫提要、一百八十四〕。

【尤世功】52 イウセイコウ 明、楡林衞の人。萬曆の武擧人。官は瀋陽の守。熊廷弼に其の才を愛せらる。清兵が來襲した時、力戰して死す。〔明史、二百七十一〕・〔萬斯同明史、三百八十一〕・〔明史稿、二百四十九・二百三十四〕。

【尤世祿】53 イウセイロク 明の人。世威の弟。兄弟俱に勇敢。官は寧夏總兵官。李自成の難に死す。〔明史、二百六十九〕・〔萬斯同明史、三百八十一〕・〔明史稿、二百四十九〕。

【尤錫類】54 イウセキルイ 明、長洲の人。字は孝徵。萬曆の進士。貴州副使となり、後、雲南布政となる。〔長州縣志〕。

【尤大公】55 イウダイコウ 宋、常州の人。字は無己。任俠にして勇あり。〔萬柳溪邊舊話〕。

【尤翟文】56 イウテキブン 明の人。世威の從弟。官は靖邊營副將。後、世威と同じく楡林を守り、流矢に中って死す。〔明史、二百六十九〕・〔萬斯同明史、三百八十一〕・〔明史稿、二百四十九〕。

【尤潦鋪】57 イウラウホ 地名。河南省葉縣の南。古の牛老陂。〔葉縣志〕牛老陂、在二縣南十二里一、卽荷蓧丈人止二子路一宿處、今尤潦鋪、是其地也。

【尤雲殢雨】58 イウウンテイウ 戀ひむつぶさま。しなだれかかるさま。轉じて、男女の情交をいふ。字解の㊉、及び、尤殢(33')を見よ。雲雨は、楚の襄王が高唐の神女と交はった故事から出たことばで、やはり男女の歡合をいふ。雲雨(**12**－**42235**‥2)の㊂を見よ。〔柳永、錦堂春詩〕待三伊要二尤雲殢雨一、纏二繡衾一不二興同レ歡。〔齊東野語、降仙〕宋慶之寓二永嘉一時、云云、有二僧法辨者在一焉、辨善二五星一、每以二八煞一爲レ說、時人號爲二辨八煞一、酒邊一士致レ仙、云云、宋怪レ之漫云、姑置レ此、且求二一七夕新詞一、如何復請レ韻、宋指レ辨云、以二八煞一爲レ韻、意欲レ困レ之也、運レ箕如レ飛、大二書鵲橋仙一闋一云、鸞輿初駕、牛車齊發、隱隱鵲橋咿軋、尤雲殢雨正歡濃、但只怕來朝初八。

【尤子手兒】59 yu^2 tzŭ shou^3 êrh 怜悧な人。

【尤而效レ之】60 トガメテコレニナラフ 人の非行を咎めながら自ら非行をする。尤效。〔左氏、僖、二十四〕〔介子推〕對曰、尤而效レ之、罪又甚焉。〔左氏、襄、二十

一〕王曰、尤而效レ之、其又甚焉。

【尤楊范陸體】61 イウヤウハンリクタイ 詩體の名。南宋の詩の四大家、尤袤・楊萬里・范成大・陸游四人の詩風。〔騷壇八略〕。

二畫

【⿺尢力】7544 リヨク リキ 〔廣韻〕林直切 〈職〉

ゆきなやむ。脛がもつれる。〔廣韻〕⿺尢力、脛交。

【无】7545 イウ 尢(4−7543)に同じ。〔字彙補〕无、與レ尢同。

【⿺尢又】7546 イウ 又(2−3115)に同じ。〔五音篇海〕⿺尢又、同レ又。

【⿺尢厶】7547 ハウ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿺尢厶、步交切。

【⿺尢几】7548 コツ 義未詳。〔龍龕手鑑〕⿺尢几、音兀。

三畫

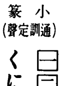
【尥】7549

〈一〉レウ 〔集韻〕力弔切 ㄌㄧㄠˋ liao⁴ 〈嘯〉

〈二〉ハウ ベウ 〔集韻〕蒲交切 〈肴〉

〈三〉テウ 〔五音集韻〕都了切 〈篠〉

小篆


小篆（聲定訓通）

〈一〉〈二〉❶**ゆきなやむ。行くに脛がもつれる。**步行不自由。〔說文〕尥、行脛相交也、从レ尢勺聲。〔段注〕行而脛相交、則行不二便利一。❷**牛の後脛がもつれる。**〔玉篇〕尥、牛行後脛相交。〔集韻〕尥、牛行足外出也。❸**足をからめる。**〔正字通〕尥、以レ足鉤レ之爲レ尥。❹⿺尢包(4−7567)・⿺尢包(4−7551)に同じ。〔集韻〕⿺尢包、脛交也、或作レ⿺尢包。〔康熙字典〕⿺尢包、說文、尥本字。〈三〉**もえる。**〔五音集韻〕⿺尢包、然也。

【尥掉】1 ハウダウ 足弱なこと。〔六書故〕尥、今人謂二筋骨弱、擧レ足不レ隨、爲二尥掉一。

【尥蹶子】2 liao⁴ chüeh² tzŭ³ 獸が後足で人「を蹶る。

【⿺尢于】7550 ウ 〔集韻〕邕倶切 〈虞〉

小篆

❶**股がまがる。**〔說文〕⿺尢于、股⿺尢于也、从レ尢亐聲。〔段注〕⿺尢于之言、紆也、紆者、詘也。❷**まはる。めぐる。**〔廣韻〕⿺尢于、盤旋也。❸**體がまがる。**〔集韻〕⿺尢于、李陽冰曰、體屈曲。

【⿺尢干】7550′ アン 〔集韻〕於寒切 〈寒〉

また。〔集韻〕⿺尢干、股也。

【⿺尢包】7551 レウ・ハウ・テウ 尥(4−7549)に同じ。〔康熙字典〕⿺尢包、說文、尥本字。

【⿺尢丸】7552 クワン グワン 〔篇海類編〕胡丸切 〈寒〉

ゆきなやむ。〔篇海類編〕⿺尢丸、辛苦行不レ得也。

【⿺尢交】7553 ハウ・レウ 義未詳。〔龍龕手鑑〕⿺尢交、蒲交切、又力弔切。

四畫

【尨】7554

〈一〉バウ マウ 〔集韻〕莫江切 ㄇㄤˊ mang² ㄆㄤˊ p'ang² 〈江〉

〈二〉ボウ ム 〔集韻〕謨蓬切 ㄇㄥˊ mêng² 〈東〉

小篆

小篆（聲定訓通）

〈一〉❶**むくいぬ。**むくむくと毛が多い犬。一說に、毛が多くて雜色の犬。〔說文〕尨、犬之多レ毛者、从二犬彡一、詩曰、無レ使二尨也吠一。〔段注〕釋獸・毛傳皆曰、尨、狗也、此渾二言之一、許就レ字分別言レ之也、引伸爲二雜亂之偁一。〔慧琳音義、六十三〕說文曰、尨、犬之多レ毛雜色不レ純者。❷**まじる。**髮に白髮のまじつたさま。〔張衡、思玄賦〕尉尨眉而郎潛兮。〔注〕良曰、尨、蒼也。〔後漢書、劉寵傳〕尨眉皓髮。〔注〕尨、雜也。❸**色がまじる。色あひが專らでない。**雜色。〔左氏、閔、二〕衣二之尨服一。〔注〕尨、雜色也。❹龍(12−48818)に通ず。〔周禮、考工記、玉人〕上公用レ龍、〔注〕鄭司農云、龍、當レ爲レ尨、尨、謂二雜色一、玄云、龍・瓚・將、皆雜名也。〔釋文〕龍、莫江反。❺厖(2−2942)に通ず。〔左氏、襄、四〕尨圉。〔漢書、古今人表〕厖圉。❻〈二〉に同じ。〈二〉**みだれるさま。**尨茸(7)の❶を見よ。〔集韻〕尨、尨茸、亂皃。

解字 會意。犬と彡との合字。彡は多毛をあらはす。合して毛の多い犬、むく犬をいふ。〔說文、尨、段注〕會意、彡、以言二其多毛一也。▽

（甲骨文）象形。多毛の犬の形に象る。

【尨降】1 バウカウ 高陽氏の子。八愷(2−1450・・44)の一人。龐降。〔左氏、文、十八〕昔高陽氏有二才子八人一、蒼舒・隤敱・檮戭・大臨・尨降・庭堅・仲容・叔達、齊聖廣淵、明允篤誠、天下之民、謂二之八愷一。

【尨奇】2 バウキ 雜色で奇怪。非常の服の色をいふ。〔左氏、閔、二〕罕夷曰、尨奇無レ常、金玦不レ復、雖レ復何爲、君有レ心矣。〔注〕雜色奇怪、非二常之服一。〔漢書、五行志中之上〕尨奇無レ常。

【尨魚】3 バウギヨ 黑鯛の一種。〔崔禹、食經〕尨魚、與レ鯛相似而灰色。

【尨狗】4 バウク むくいぬ。毛の多い犬。尨犬。〔穆天子傳、四〕天子之豪馬・豪牛・尨狗・豪羊、以二三十一祭二文山一。

【尨犬】5 バウケン むくいぬ。尨狗。〔正字通〕尨、政厖借レ尨、義通、尨犬未レ可レ借レ厖。

【尨雜】6 バウザツ 毛などが入りまじる。厖雜(2−2942・・5)に同じ。

【尨茸】7 ボウジヨウ バウジヨウ ❶毛などが入りみだれるさま。〔左氏、僖、五〕(士蔿)退而賦曰、狐裘尨茸、一國三公、吾誰適從。〔注〕尨茸、亂貌也。〔釋文〕尨、莫江反、又音蒙。❷犬の一種。〔爾雅、釋畜、尨狗也、義疏〕穆天子傳、天子之尨狗、郭注、尨、尨茸、謂二猛狗一、或曰、尨亦狗名、按、尨茸謂レ多二長毛一、卽今之獅猣狗也。

【尨然】8 バウゼン むつくりと大きいさま。尨尨。厖然(2−2942・・7)に同じ。

【尨大】9 バウダイ むつくりと大きい。厖大(2−2942・・8)に同じ。「に同じ。

【尨尨】10 バウバウ 毛のむくむくと生えたさま。尨然。

【尨眉】11 バウビ 黑白の毛のまじつた眉毛。老人の稱。尨眉皓髮を見よ。

【尨眉皓髮】12 バウビカウハツ 半白の眉、白い髮。老人の稱。漢の顏駟が文・武・惠帝三代に事へて遇はず、郎として老いた故事。〔後漢書、劉寵傳〕山陰縣有二五六老叟一、老叟尨眉皓髮。〔注〕尨、雜也、老者眉雜二白黑一也。〔張衡、思玄賦〕尉尨眉而郎潛兮、逮二三葉一而遘レ武。〔注〕衡曰、尉、官名也、尨、蒼也、善曰、漢武故事曰、顏駟不レ知二何許人一、漢文帝時爲レ郎、至二武帝一、輦過二郎署一、見二駟尨眉皓髮一、上問曰、叟何時爲レ郎、何其老也、答曰、臣文帝時爲レ郎、文帝好レ文、而臣好レ武、至二景帝一、好レ美而臣貌醜、陛下卽レ位、好レ少而臣已老、是以三

世不レ遇、故老ニ於郎署一、上遂感ニ其言一、擢拜ニ會稽都尉一。

【尨服】13 バウフク　色のまじつた衣服。〔左氏、閔、二〕衣ニ之尨服一、遠ニ其躬一也。〔注〕尨、雜色也。〔漢書、五行志中之上〕衣以ニ尨服一、遠ニ其躬一也。

【尨蹄子】14 バウテイシ　石花。石上に生ずる花。〔崔禹、食經〕尨蹄子、貌似ニ犬蹄一、而附レ石生者也、兼名苑注云、石花、二三月皆舒ニ紫花一、附レ石而生、故以名レ之。

【無レ使ニ尨也吠一】15 イヌヲシテホエシムルナカレ　婦女の後を逐うて、むく犬に吠えさせるな。婦女に婚を求めるには禮を備ふべき喩。〔詩、召南、野有死麕〕舒而脫脫兮、無レ感ニ我帨一兮、無レ使ニ尨也吠一。〔傳〕尨、狗也、非禮相陵、則狗吠。〔集傳〕此章乃述ニ女子拒レ之之辭一、言、姑徐徐而來、毋レ動ニ我之帨一、毋レ驚ニ我之犬一、以甚言ニ其不レ能ニ相及一也、其凜然不レ可レ犯之意、蓋可レ見矣。

【⿺尢干】7555　アン　〔玉篇〕烏干切　寒

ゆきなやむ。〔玉篇〕⿺尢干、辛苦行不レ得皃。

【⿺尢木】7556　キウ ク　〔集韻〕虛尤切　尤

すたれる。〔集韻〕⿺尢木、廢也。

【尫】7557　ワウ　〔集韻〕烏光切　ㄨㄤ　wang^1　陽

❶**あしなへ。脛のまがつた人。**尢(**4－7538**)・尩(**4－7559**)・⿺尢隹(**4－7583**)・尰に同じ。〔正字通〕尫、同レ尢、本作レ⿺尢隹。〔字彙〕尪・尩、同レ尫。〔說文〕尢、⿺尢皮也、曲脛人也、从レ大、象ニ偏曲之形一、⿺尢隹、篆文从レ㞷。❷**正しく歩けない。**〔太玄經、傒〕傒、尫。〔注〕行不レ正稱レ尫。❸**首が下へむかぬ病。又、其の人。せむし。**〔禮、檀弓下〕歲旱、穆公召ニ縣子一而問然、曰、天久不レ雨、吾欲レ暴レ尫、而奚若。〔注〕尫者面鄕レ天、覬ニ天哀而雨一レ之。〔左氏、僖、二十一〕公欲レ焚ニ巫尫一。〔注〕或以爲、尫非レ巫也、瘠病之人、其面上向、俗謂、天哀ニ其病一、恐三雨入ニ其鼻一、故爲レ之旱。〔呂覽、盡數〕苦レ水所多三尫與ニ傴人一。〔注〕尫、突胷仰向疾人也。❹**身の丈がひくい。**〔一切經音義、四〕通俗文曰、短小曰レ尫。❺**よわい。**〔一切經音義、四〕尫、羸也。〔蘇軾、上ニ神宗皇帝一書〕世有ニ尫羸而壽考一、亦有ニ盛壯而暴亡一。❻匡(**2－2606**)に通ず。〔荀子、正論、傴巫跛匡、注〕匡、讀爲レ尫、廢疾之人也。❼尪(**1－584**)に通ず。〔荀子、王霸、賤レ之如レ尪、注〕字書無ニ尪字一、蓋當レ爲レ尫、病人也。❽**姓。**〔萬姓統譜〕尫充、漢人。❾**夫をいふ。**厦門地方の方言。

【尫闇】1 ワウアン　よわくておろかなこと。〔晉書、劉元海載記〕顧ニ茲尫闇一、戰惶靡レ厝。

【尫蹇】2 ワウケン　せむしとちんば。〔韓詩外傳、三〕傳曰、太平之時、無ニ瘖癃跛眇尫蹇侏儒折短一。

【尫瘵】3 ワウサイ　つかれ病む。病みよわる。瘵はやむ、つかれる意。〔蔡邕、王子喬碑〕其疾病尫瘵者、靜躬祈レ福、卽獲レ祚。

【尫疾】4 ワウシツ　かよわくて病の有ること。尫病。〔北史、魏咸用王禧傳〕恪比纏ニ尫疾一、實馮ニ諸父一。

【尫弱】5 ワウジヤク　よわい。かよわい。羸弱。虛弱。〔唐書、裴懷古傳〕素尫弱不レ能レ騎、宛ニ轉山谷間一、僅達ニ幷州一。

【尫悴】6 ワウスイ　身體が弱つて痩せ衰へる。〔晉書、段灼傳〕逮レ事ニ聖明之君一、而尫悴羸劣。

【尫纖】7 ワウセン　體が弱くて細い。尫纖懦弱を見よ。

【尫纖懦弱】8 ワウセンダジヤク　身體が弱くて細く、性情が怯懦なこと。〔魏書、崔浩傳〕世相召ニ新降高車渠帥數百人一。賜ニ酒食於前一、世祖指レ浩以示レ之曰、汝曹視ニ此人尫纖懦弱一、手不レ能ニ彎レ弓持レ矛、其胸中所レ懷、乃踰ニ於甲兵一。

【尫頓】9 ワウトン　かよわくて疲れる。頓は罷、つかれる。〔魏志、管寧傳〕詔書問ニ青州刺史程喜一、寧爲ニ守節高一乎、審ニ老疾尫頓一邪。

【尫病】10 ワウビヤウ　かよわくて病む。尫疾。〔晉書、山濤傳〕少尫病、形甚短小、而聰敏過レ人。

【尫弊】11 ワウヘイ　かよわくてつかれる。〔晉書、皇甫謐傳〕以ニ尫弊一迷ニ于道趣一、因レ疾抽レ簪、散ニ髮林皐一。

【尫羸】12 ワウルイ　かよわくてつかれる。〔溫庭筠、答ニ段成式一書〕於潛ニ曠遠一、建ニ業尫羸一。〔蘇軾、上ニ神宗皇帝一書〕世有ニ尫羸而壽考一、亦有ニ盛壯而暴亡一。

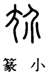
【尫劣】13 ワウレツ　よわくて劣る。〔書、洪範、六曰弱、傳〕尫劣。〔疏〕弱、志力尫劣也。

【尫陋】14 ワウロウ　かよわくていやしい。〔晉書、山濤傳〕允自以ニ尫陋一不レ肯レ行。

【尪】7558　ワウ　尫(**4－7557**)に同じ。〔正字通〕尪、同レ尫、省。

【尩】7559　ワウ　尫(**4－7557**)に同じ。〔韻會〕尣、或作レ尫、今文作レ尩。

【尬】7560　㊀カイ　〔集韻〕居拜切　卦　㊁カツ ケチ　〔集韻〕訖黠切　ㄍㄚ　ka^4　黠


小篆

㊀㊁**正しく歩けない。あしなへ。又、くひちがふ。**尲尬。〔說文〕尲、尲尬、行不レ正也、云云、尬、尲尬也、从レ尢介聲。

【⿺尢公】7561　カイ　尬(**4－7560**)に同じ。〔字彙補〕⿺尢公、同レ尬。

【⿺尢水】7562　スイ　〔集韻〕主縈切　紙

❶**小さいさま。**⿺尢水⿺尢且。〔集韻〕⿺尢水、⿺尢水⿺尢且、小皃。❷**短いさま。**⿺尢水⿺尢且。〔集韻〕⿺尢且、⿺尢水⿺尢且、短皃。

【⿺尢且】7563　ズイ　〔集韻〕汝水切　紙

短いさま。⿺尢水⿺尢且。⿺尢水(**4－7562**)を見よ。〔集韻〕⿺尢且、⿺尢水⿺尢旦、短皃。

【⿺尢反】7564　㊀ハン バン　〔龍龕手鑑〕蒲綰切　潸　㊁ハン　〔龍龕手鑑〕北官切　寒

㊀㊁**あしなへ。せむし。**〔龍龕手鑑〕⿺尢反、尢也。

【⿺尢旦】7565　イウ　〔篇海類編〕音尤

をはる。きはめる。つひに。竟。〔篇海類編〕⿺尢旦、竟也、與ニ⿺尢且字一文同而義異。

【⿺尢勿】7566　クツ　義未詳。〔五音篇海〕⿺尢勿、許勿切。

五畫

【⿺尢包】7567　ハウ ベウ　〔集韻〕蒲交切　肴

脛がもつれる。或は⿺尢包(**4－7551**)に作る。〔集韻〕⿺尢包、脛交也、或作レ⿺尢包。

【⿺尢左】7568

㊀サ〔集韻〕子我切 哿
㊁サ〔集韻〕子賀切 箇
㊂サ〔集韻〕遭哥切 歌

小篆

㊀㊁㊂**あしなへ**。⿺尢皮⿺尢左。〔說文〕⿺尢左、⿺尢皮⿺尢左、行不㆑正也、从㆑尢左聲。〔增韻〕⿺尢左、足偏廢也。

【⿺尢穴】7569

カツ ゲチ〔集韻〕戸八切 黠

足の病。尳(4−7608)に同じ。〔集韻〕尳、足病、或作㆑⿺尢穴。

【⿺尢皮】7570

㊀ハ〔集韻〕補火切 哿
㊁ハ〔集韻〕補過切 箇

小篆

㊀❶**あしなへ**。〔說文〕⿺尢皮、蹇也、从㆑尢皮聲。❷跛(10−37479)に同じ。〔玉篇〕⿺尢皮、今爲㆑跛。㊁**足がまがる病**。〔集韻〕⿺尢皮、足橫病。

【⿺尢皮⿺尢左】1 サバ びつこ。あしなへ。⿺尢皮⿺尢左。⿺尢左は、⿺尢差。〔楊基、贈㆓跛奚㆒詩〕立如㆓鷺聯拳㆒、行類㆓鱉⿺尢皮⿺尢左㆒。

【⿺尢石】7571

アン

尩(4−7555)に同じ。〔字彙補〕⿺尢石、與㆑尩同。

六畫

【⿺尢朵】7572

タ〔集韻〕都唾切 箇

あしなへ。**せむし**。〔集韻〕⿺尢朵、尣也。〔字彙〕⿺尢朵、坐尢也。

【⿺尢舌】7573

クワツ グワチ〔集韻〕戸括切 曷

行くさま。⿺尢扁⿺尢舌。〔集韻〕⿺尢舌、⿺尢扁⿺尢舌、行貌。

【⿺尢危】7574

㊀キ〔集韻〕苦委切 紙
㊁キ〔集韻〕丘僞切 寘

㊀❶**うむ**。つかれる。〔廣雅、釋言〕⿺尢危、券也。❷**ちんば**。〔集韻〕⿺尢危、一曰、跂也。❸或は⿺尢委(4−7590)・矮(8−23963)・⿰歹委(6−16447)に作る。〔集韻〕⿺尢危、或从㆑委、亦作㆓⿰歹委・矮㆒。㊁❶**あしなへ**。〔玉篇〕⿺尢危、⿺尢皮也。❷**うむ**。㊀の❶に同じ。〔集韻〕⿺尢危、廣雅、倦也。

【⿺尢艮】7575

エウ

⿺尢皀(4−7578)の譌字。〔正字通〕⿺尢艮、⿺尢皀字之譌。

【⿺尢灰】7576

クワイ ケ〔字彙〕呼回切 灰

互に撃ち合ふ。〔字彙〕⿺尢灰、相⿺尢灰擊也。

【⿺尢㠯】7577

㊀エウ〔集韻〕弋笑切 嘯
㊁エウ〔玉篇〕餘招切 蕭
㊂エウ〔中華大字典〕伊鳥切 篠
㊃ビウ ミウ〔集韻〕彌攸切 尤

小篆

㊀㊁㊂㊃❶**正しく歩けない**。〔說文〕⿺尢㠯、行不㆑正也、从㆑尢㠯聲、讀若㆑耀。❷**はれる**。〔廣雅、釋詁二〕⿺尢㠯、腫也。〔集韻〕⿺尢㠯、足腫。

【⿺尢皀】7578

エウ

⿺尢㠯(4−7577)に同じ。〔篇海類編〕⿺尢皀、同㆑⿺尢㠯。

【⿺尢⿱㐅厶】7579

ケキ

⿺尢谷(4−7585)に同じ。〔字彙〕⿺尢⿱㐅厶、同㆑⿺尢谷。

七畫

【⿺尢妥】7580

㊀タイ ツイ〔集韻〕吐猥切 賄
㊁タイ ツイ〔集韻〕吐內切 隊

㊀**歩行し得ない病**。脚氣。⿺尢畏⿺尢妥。〔玉篇〕⿺尢妥、⿺尢畏⿺尢妥。〔廣韻〕⿺尢妥、⿺尢畏⿺尢妥、行病。㊁❶**病名**。人體の筋關節等に劇痛を發するもので、今のリウマチスの類。風疾。⿺尢畏⿺尢妥。〔玉篇〕⿺尢妥、⿺尢畏⿺尢妥、病痱。〔六書故〕⿺尢妥、⿺尢畏⿺尢妥、風疾胻病也。❷或は⿺尢委(4−7590)・㾨(7−22411)に作る。〔集韻〕⿺尢妥、或作㆓⿺尢委・㾨㆒。

【⿺尢坐】7581

サ ザ〔玉篇〕在果切 哿

足の立たない不具。ゐざり。〔字彙〕⿺尢坐、尢坐也。

【⿺尢肖】7582

セウ

痟(7−22208)に同じ。〔集韻〕痟、或从㆑尢。

【⿺尢㞷】7583

ワウ

尢(4−7538)・尪(4−7558)の本字。〔說文〕尢、⿺尢㞷、篆文从㆑㞷。〔段注〕篆文、各本作㆓古文㆒、今正、云云、尪見㆓左傳・檀弓㆒、云云、本从㆓㞷聲㆒、省作㆑尪。

【⿺尢良】7584

ベン メン〔集韻〕民堅切 先

ななめに行く。**まがつて歩く**。〔集韻〕⿺尢良、邪行也。

八畫

【⿺尢谷】7585

ケキ ギヤク〔玉篇〕巨逆切 陌

うむ。**つかれる**。〔玉篇〕⿺尢谷、倦⿺尢谷也。

【⿺尢奄】7586

㊀アン オン〔集韻〕鄔感切 感
㊁アン オン〔集韻〕烏含切 覃
㊂アフ オフ〔集韻〕遏合切 合

㊀㊁**あしなへ**。〔玉篇〕⿺尢奄、蹇也。〔廣韻〕⿺尢奄、⿺尢奄跛。㊂⿰足奄(10−37632)に同じ。〔集韻〕⿰足奄、跛疾、或作㆑⿺尢奄。

【⿺尢咅】7587

㊀ハ バ〔集韻〕步臥切 箇
㊁ホウ ブ〔集韻〕蒲候切 宥

㊀㊁**たふれる**。〔玉篇〕⿺尢咅、仆也。

【⿺尢果】7588

ラ〔集韻〕盧臥切 箇

正しくない。〔玉篇〕⿺尢果、不㆑正也。

【⿺尢卓】7589

㊀タウ テウ〔集韻〕敕教切 效
㊁タク チヤク〔集韻〕勅角切 覺
㊂シヤク〔集韻〕尺約切 藥
㊃チヤク〔集韻〕勑畧切 藥

㊀㊁**あしなへ**。〔玉篇〕⿺尢卓、蹇也。㊂㊃**ちんば**。〔集韻〕⿺尢卓、齊楚謂㆑跛曰㆑⿺尢卓。

【⿺尢委】7590 ㊀タイ ツイ 〔集韻〕吐內切 隊 ㊁キ 〔集韻〕苦委切 紙

㊀**リウマチス**。風疾。⿺尢畏⿺尢委。⿺尢妥(**4−7580**)の㊀に同じ。〔集韻〕⿺尢妥、⿺尢畏⿺尢妥、風疾、或作レ⿺尢委。㊁**うむ**。⿺尢危(**4−7574**)に同じ。〔集韻〕⿺尢危、博雅、倦也、一曰、跂也、或从レ委。

【⿺尢奇】7591 ㊀キ 〔集韻〕去倚切 紙 ㊁イ 〔集韻〕隱綺切 紙 ㊂キ 〔集韻〕卿義切 寘

㊀㊁❶**ちんば**。〔玉篇〕⿺尢奇、一足曰レ⿺尢奇也。❷**あしなへ**。〔集韻〕⿺尢奇、蹇也。❸踦(**10−37655**)に同じ。〔玉篇〕⿺尢奇、今爲レ踦。㊂❶**ちんば**。〔廣韻〕⿺尢奇、跛也。❷**うむ**。**つかれる**。〔集韻〕⿺尢奇、倦也。

【⿺尢咅】7592 コウ 寇(**3−7209**)に同じ。〔字彙補〕⿺尢咅、與レ寇同、考古圖有二司⿺尢咅敦一。

【⿺尢西】7593 ヘイ ヒヤウ 〔字彙補〕邦皿切 梗

ひかり。光。〔字彙補〕⿺尢西、光也、見二西川隋函一。

九畫

【尰】7594 シヨウ ジユ 〔集韻〕竪勇切 腫

脛のはれる病。脚氣の類。瘇(**7−22492**)・⿺尢童(**4−7617**)に同じ。〔集韻〕瘇、說文、脛氣足腫、瘇、或作二⿺尢童・尰一。〔詩、小雅、巧言〕既微且尰。〔傳〕腫足爲レ尰。

【⿺尢畏】7595 ㊀ワイ 〔集韻〕鄔賄切 賄 ㊁ワイ 〔集韻〕烏潰切 隊

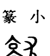
㊀㊁❶**リウマチス**。風疾。⿺尢畏⿺尢妥。〔集韻〕⿺尢畏、⿺尢畏⿺尢妥、行病。❷或は⿸疒畏(**7−22355**)に作る。〔集韻〕⿺尢畏、或作レ⿸疒畏。

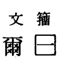
【⿺尢貞】7596 タイ ⿺尢貴(**4−7614**)に同じ。〔玉篇〕⿺尢貞、同レ⿺尢貴。

【⿺尢是】7597 テイ ⿺尢虒(**4−7620**)の俗字。〔正字通〕⿺尢是、同レ⿺尢虒、俗省。

【⿰京尢】7598 シウ 就(**4−7599**)に同じ。〔說文長箋〕⿰京尢、同レ就。

【就】7599 ㊀シウ ジユ 〔集韻〕疾僦切 ㄐㄧㄡˋ chiu⁴ 宥 ㊁ヨ 〔續字彙補〕容擧切 語


小篆


籀文

㊀❶**つく**。㋑よる。〔小爾雅、廣詁〕就、因也。〔孟子、告子下〕所レ就三、所レ去三。㋺したがふ。從事する。〔玉篇〕就、從也。〔大戴禮、曾子立事〕日旦就レ業。〔宋書、謝靈運傳〕出乃就レ職。㋩とりかかる。〔詩、大雅、常武〕三事就レ緒。㋥おちつく。〔後漢書、禮儀志〕羣臣就レ位。〔後漢書、賈復傳〕就レ第。㋭ちかづく。〔國語、晉語七〕按レ劍就レ之。㋬かへる。〔廣雅、釋詁二〕就、歸也。㋣或る狀態になつてゐる。〔陶潛、歸去來辭〕三徑就レ荒。㋠おもむく。〔莊子、齊物論〕不レ就レ利、不レ違レ害。〔後漢書、隗囂傳〕去レ愚就レ義。㋷くみする。〔左氏、襄、三十〕就レ直助レ彊。〔魏志、公孫淵傳〕反レ邪就レ正。㋦おふ。〔史記、五帝紀〕就二時於負夏一。〔注〕索隱曰、就レ時、猶レ逐レ時。㋸そばに行く。〔蜀志、諸葛亮傳〕此人可二就見一。㋾のぼる。發足。〔後漢書、皇甫規傳〕急使二軍就レ道。〔注〕就、猶レ上也。㋻したがふ。附き從ふ。〔禮、學記〕就レ賢體レ遠。〔注〕就、謂二躬下一。〔莊子、人閒世〕就不レ欲レ入。〔注〕就者、形順也。㋕であふ。ぶつかる。當面。〔詩、邶風、谷風〕就二其深一矣、方レ之舟レ之、就二其淺一矣、泳レ之游レ之。㋵あつまる。〔逸周書、謚法解〕就、會也。㋟入る。〔左氏、僖、二十三〕則就レ木焉。〔注〕言レ將三死入二於木一。〔會箋〕木、棺槨也。❷**なる**。できあがる。完備する。〔爾雅、釋詁〕就、成也。〔周禮、春官、典瑞〕五采五就。〔注〕就、成也。〔周禮、秋官、大行人〕樊纓九就。〔注〕五采備爲二一就一、就、成也。〔禮、孔子閒居〕日就月將。〔注〕就、成也。〔公羊、昭、二十五〕餕饔未レ就。〔注〕未レ就、未レ成也。〔南史、徐陵傳〕每嗟二陵早就一。❸**なす**。なしとげる。しあげる。〔呂覽、貴當〕所三以就二大務一也。〔注〕就、成也。❹**をはる**。**をへる**。〔爾雅、釋詁〕就、終也。〔國語、越語下〕先人就レ世。〔注〕就レ世、終也。❺**まはる**。まはり。〔周禮、春官、典瑞〕五采五就。〔注〕鄭司農云、五就、五帀也、一帀爲二一就一。❻**むかへる**。〔廣韻〕就、迎也。❼**うつす**。**うつる**。〔六書故〕就、遷徙以卽レ所レ安也。❽**高い**。〔說文〕就、高也、从二京尤一、尤、異二於凡一也。〔繫傳〕尤、異也、尤高、人所レ就之處也、語曰、就レ之如レ日、日高人就レ之。❾**ひさしい**。〔廣雅、釋詁三〕就、久也。❿**よい**。〔儀禮、既夕禮〕若就器、則坐奠二于陳一。〔注〕就、猶レ善也。⓫**よく**。可能。〔左氏、哀、十一〕季孫曰、須也弱、有子曰、就用レ命焉。〔注〕雖二年少一、能用レ命也。⓬**すなはち**。**そこで**。〔晉書、景帝紀〕就加レ詔許レ之、謚曰二忠武一。⓭**もし**。**たとひ**。就令。就使。〔裴學海、古書虛字集釋〕就、猶レ卽也、縱也、假令之詞也。〔風俗通、正失〕就若レ所レ云、明神禍福、必有二徵應一。〔韓愈、送二孟東野一序〕就其能鳴者。⓮**わし**。鷲(**12−47345**)に通ず。〔字彙補〕就、與レ鷲同。〔山海經、中山經〕暴山、其獸多二麋鹿麢就一。〔注〕就、雕也。⓯籀文は就(**4−7625**)に作る。〔集韻〕就、籀作レ就。⓰**姓**。〔通志、氏族略、去聲〕就氏、見二姓苑一、河南官氏志、就賴氏、改爲二就氏一、望出二河南一。㊁**物のさま**。就就(81)を見よ。

邦**ついて**。**ついては**。

名乘 ナリ。

解字 會意。京(人のつくつたをか)と尤との合字。尤は非凡なこと。故に本義を高とする。轉じて、成(なる)の意とし、假借して造(いたる・つく)の意とする。一說に、尤は音符。形聲。〔說文、段注〕京者、高也、高則異二於凡一。〔說文通訓定聲〕就、按、此字實从レ京尤聲。

【就安】1 シウアン 隱居する。安樂な境涯に就く意。〔日本政記、後土御門天皇論〕在職二十九年、乃讓二位於其子一、以就レ安。

【就菴】2 シウアン 戴性易の號。戴曼公(**5−11685**‥21)を見よ。

【就醫】3 シウイ 醫者のところに行つて治療を受ける。〔魏志、華佗傳〕家人車載、欲二往就レ醫、佗聞二其呻吟一、駐レ車往視。

【就位】4 シウヰ 坐位につく。坐席につく。就班。〔儀禮、燕禮〕祝史小臣師、亦就二其位一而薦レ之。〔史記、刺客、曹沫傳〕曹沫投二其匕首一、下レ壇北面、就二羣臣之位一。〔後漢書、禮儀志中〕九能之士、入レ自二端門一就レ位。〔晉書、禮志上〕皇后還便坐、公主以下乃就レ位、設二饗宴一、賜レ絹各有レ差。

【就羽】5 シウウ 大鷲の羽。就は鷲。〔漢書、匈奴傳下〕

生二奇材木節竿就羽一。〔注〕師古曰、就、大鵰也、黃頭赤目、其羽可レ爲レ箭。

【就役】6（シウエキ） 公務につく。〔張衡、東京賦〕毆以就レ役、唯力是視。

【就謁】7（シウエツ） その人の所へでかけて行つて面會する。〔後漢書、鮑昱傳〕太守戴涉、聞三昱鮑永子有二智略一、乃就謁、請レ署二守高都長一。

【就溫】8（シウヲン） 溫い所に行く。〔列子、黃帝〕違レ寒就レ溫。〔張衡、西京賦〕上春候來、季秋就レ溫。

【就駕】9（シウガ） 馬に車をつける。〔韓非子、顯學〕授レ車就レ駕、而觀二其末塗一、則臧獲不レ疑二駑良一。

【就告】10（シウカウ・シウコク） 其處に到つて告げる。〔儀禮、士冠禮〕主人戒レ賓、賓禮辭許、〔注〕今將レ冠レ子、故就告二僚友一使レ來。

【就學】11（シウガク） はじめて學校に入る。學問にとりかかる。又、其の人の許、或は其の所に行つて學ぶ。〔列子、說符〕人有二濱レ河而居者一、習二於水一、勇二於泅一、操レ舟鬻レ渡、利供二百口一、裹レ糧就學者成レ徒、而溺死者幾半、本學レ泅不レ學レ溺、而利害如レ此。〔後漢書、周燮傳〕十歲就レ學、能通二詩論一。〔北史、韋師傳〕師字公穎、少沈謹有二至性一、初就レ學、始讀二孝經一、捨レ書而歎曰、名教之極、其在レ茲乎。

【就合】12 chiu⁴ hê² 一緒になる。同時に出來る。

【就義】13（シウギ） ❶正しい道に從ふ。〔莊子、列禦寇〕其就レ義若レ渴者、其去レ義若レ熱。〔後漢書、隗囂傳〕夷吾束縛而相レ齊、黥布杖レ劍以歸レ漢、去レ愚就レ義、功名並著。❷身を殺して義に合ふ。義に赴いて死ぬ。〔宋史、尹穀傳〕尹穀、潭州長沙人、潭城受レ兵、帥臣李芾、禮以爲二參謀一、共畫二備禦策一、三月、援兵不レ至、穀縱レ火自焚、芾聞レ之命レ酒酎レ穀曰、尹務實男子也、先レ我就レ義矣。

【就急】14 chiu⁴ chi² 急になる。急の。

【就近】15（シウキン） ❶附近。最寄の。〔福惠全書、教養部、總論〕就近者則讀多、相遠者則讀少。❷chiu⁴ chin⁴ ㋑側に居る。㋺近い處をえらぶ。近づく。㋩早速。取敢へず。

【就擒】16（シウキン） とりことなる。〔宋書、武帝紀中〕係レ頸就レ擒。〔唐書、李絳傳〕今孼豎就レ擒、方收二威柄一。

【就館】17（シウクワン） ❶子を生むために別館に住むこと。又、子を生むこと。館は側室、產所。〔漢書、孝成趙皇后傳〕廢二後宮就館之漸一、絕二微嗣禍亂之根一。〔漢書、元后傳〕聞三張美人未二嘗任レ身就レ館也。❷自分のために建てた家に移り住む。〔聞見前錄〕神宗友二愛二弟一、不レ聽レ出二於外一、至二元祐初一、宣仁太后始命築二宅於天波門外一、既就レ館、哲宗奉二宣仁一、臨二幸二王諸子一、各進二官一等一。❸chiu⁴ kuan³ ㋑家庭教師となる。㋺門客となる。㋩事を成すをいふ。

【就刑】18（シウケイ） 刑罰を受ける。〔青山佩弦齋、赤穗四十七士傳〕宜二從容就レ刑、勿二先レ事自盡一。

【就教】19（シウケウ） 往いて教を受ける。〔李庾、西都賦〕左立二大學一、前惇二廣文一、膳豐二中廚一、就レ教九年。

【就業】20（シウゲフ） ❶仕事に從ふ。又、學業に從事する。〔大戴禮、曾子立事〕日旦就レ業、夕而自省思。〔南史、宋文帝紀〕各聚二門徒一、多二就レ業者一。〔北史、高允傳〕擔レ笈負レ書、千里就レ業。❷業務を成就する。〔後漢書、班固傳〕潛レ精研レ思、欲レ就二其業一。

【就見】21（シウケン） でかけて行つて會ふ。又、近づきみる。〔蜀志、諸葛亮傳〕庶曰、此人可二就見一、不レ可二屈致一也、將軍宜二枉レ駕顧一レ之。

【就谷】22（シウコク） 官名。唐、置く。木材を採伐することを掌る。〔唐書、百官志三〕百工・就谷・庫谷・斜谷・大陰・伊陰監、監各一人、云云、掌三采二伐材木一。

【就穀】23（シウコク） 穀物の有る地方に行く。〔周禮、地官、廩人〕若食不レ能二人二鬴一、則令二邦移レ民就一レ穀。〔注〕就レ穀、就二都鄙之有者一。

【就坐】24（シウザ） 座席につく。著座。〔漢書、東方朔傳〕主自執レ宰、敝膝道入、登レ階就レ坐。

【就草】25（シウサウ） 產をする。子供を生む。坐草。〔淮南子、本經訓、剔二孕婦一注〕孕婦、身將レ就レ草之婦也。

【就燥】26（シウサウ） かわいたものの方に燃えてゆく。〔易、乾〕水流レ濕、火就レ燥。〔鹽谷宕陰、昭代記〕愛敬是人心自然感通、猶二水之流レ濕、火之就一レ燥也。

【就之】27（シウシ） 宋、錢昱(**11**−**40563**‥3)の字。

【就死】28 chiu⁴ ssŭ³ 死につく。死ぬ。

【就使】29（タトヒ） 就令(86)に同じ。〔孟子、告子下〕魯欲レ使二愼子爲一將軍一、〔集注〕就使愼子善戰、有レ功如レ此、且猶不可。

【就是】30 chiu⁴ shih⁴ ❶たとひ。❷卽ち。❸只だ。❹云云だけです。❺さへ。すら。❻代りに。其の代り。

【就斯】31（シウシ） 淸、嚴我斯(**2**−**4589**‥272)の字。

【就視】32（シウシ） 近づき視る。〔淮南子、道應訓〕光耀不レ得レ問、而就視二其狀貌一、冥然忽然。〔後漢書、明德馬皇后紀〕常衣二大練一、裙不レ加レ緣、朔望諸姬主朝請、望二見后袍衣疎麤一、反以爲二綺縠一、就視、迺笑、后辭曰、此繒特宜二染色一、故用レ之耳、六宮莫レ不二歎息一。

【就次】33（シウジ） をるべき場所に行く。〔儀禮、士喪禮〕主人揖、就レ次。〔注〕次、謂二斬衰倚廬、齊衰堊室一也。〔疏〕凡言レ次者、廬堊室以下總名、是賓客所レ在亦名レ次也。

【就事】34（シウジ） 其の事に任ずる。其の仕事に從事する。〔圖畫見聞誌〕周昉兄爲二執金吾一、德宗召云、聞卿弟善レ畫、欲レ使三之畫二章明寺壁一、卿特爲言レ之、又帝經二數月一、再召レ之、昉乃就レ事。

【就時】35（シウジ） 時に乘ずる。〔史記、五帝紀〕就二時於負夏一。〔注〕索隱曰、就レ時、猶レ逐レ時、若レ言二乘レ時射レ利也、尙書大傳曰、販二於頓丘一、就二時負夏一、孟子曰、遷二于負夏一、是也。

【就日】36（シウジツ） ❶太陽の方に向く。太陽を慕つて近づく。〔傳燈錄〕有二老僧一、見二日影透一レ窓、問二百丈惟政師一曰、窓就レ日耶、日就レ窓耶。❷天子を慕つて來る。天子の近くに侍す。天子の德を慕ひ仰ぐ。〔李庾、西都賦〕千官就レ日、萬品趨レ雲。〔元稹、賀二降誕日德音一狀〕同沾二就日之榮一、實慶二傳天之樂一。〔范仲淹、明堂賦〕皆望レ雲而就レ日、必歌レ堯而頌レ舜。❸月が太陽に蔽はれる意。月と太陽との位置關係によつて月の虧けた狀態の時についていふ。〔張衡、靈憲〕月光生二于日之所一レ照、魄生二于日之所一レ蔽、當レ日則光盈、就レ日則光盡也。❹chiu⁴ jih⁴ 其の日に。

【就日圖】37（シウジツヅ） 蜀葵の圖。宋の徽宗が王晉卿の家に藏する徐處士の碧檻蜀葵圖が、其の半ばを失ふを見、匠者に命じて繕はしめて晉卿に贈つたが、後、この圖を宮中で就日圖と稱した。〔鐵圍山叢談〕王晉卿家舊寶二徐處士碧檻蜀葵圖一、但二幅、晉卿每歎レ闕二其半一、徽朝一旦訪得レ之、乃從二晉卿一借二半圖一、命二匠者一標二軸成全圖一、招二晉卿一觀、因卷以贈、一時盛傳、厥後禁中謂二之就日圖一者、是也。

【就舍】38（シウシヤ） 宿舍につく。宿に入る。〔莊子、庚桑楚〕南榮趎請、入就レ舍召二其所一レ好。

【就將】39（シウシヤウ） 學問德行が日々に成り月々に進む。又、日々に成り、月に至つて大となること。就は成、將は進、一說に、大。日進月步。日就月將の略。〔詩、周頌、敬之〕維予小子、不レ聽レ敬止、日就月將、學有三緝二熙于光明一。〔集傳〕將、進也、云云、庶幾日有レ所レ就、月有レ所レ進。〔禮、孔子閒居〕無體之禮、日就月將。〔注〕就、成也、將、大也、使二民之倣一レ禮、日有レ所レ成、至レ月則大一矣。

【就手】40 chiu⁴ shou³ ついでに。

【就酒】41（シウシユ） 酒の肴にする。下酒(**1**−**14**‥260)に同じ。〔粵遊小志〕謂レ下レ酒曰レ就レ酒、以レ菜下レ飯曰レ就レ飯、陸璣草木蟲魚疏、荇菜脆美可レ按レ酒、蘋可二淹以就一レ酒、是也。

【就緒】42（シウシヨ） 業につく。仕事にとりかかる。事業が發足する。緒は業。〔詩、大雅、常武〕不レ畱不レ處、三事就レ緒。〔箋〕緒、業也、三農之事、皆就二其業一。

【就食】43（シウシヨク） ❶食べに行く。〔史記、秦始皇紀〕河魚大上、輕車重馬、東就レ食。〔晉書、郄鑒傳〕初鑒値二永嘉喪亂一、在二鄉里一甚窮餒、鄉人以二鑒名德一傳共飴レ之、時兄子邁・外甥周翼並小、常攜レ之就レ食。❷生活の資を得るために或る所へ行くこと。〔韓愈、祭二十二郎一文〕與レ汝就二食江南一。

【就職】44（シウシヨク） ❶役につく。役人となる。〔漢書、朱博傳〕迺敢起就レ職。〔李密、陳情表〕臣具以レ表聞、辭不レ就レ職。〔宋書、謝靈運傳〕出乃就レ職。❷職業に就く。生活の道を得る。

【就蓐】45（シウジヨク） しとねにつく。寢床に入る。就寢。

【就寢】46（シウシン） 床につく。寢る。就眠。〔元稹、張二舊蚊幬一詩〕徘徊將レ就レ寢、徙倚情何極。

【就親】47（シウシン） 壻入りする。〔通俗編、倫常、就親〕按、俗謂三出二贅外家一曰二就親一。

【就世】48シウセイ ㊀死ぬ。就は終。卽世。〔國語、越語下〕先人就レ世、不レ穀卽レ位。〔注〕就レ世、終レ世也。㊁世の中と交際する。〔陸游、寒夜詩〕低レ頭就レ世吾所レ諱。

【就正】49シウセイ ㊀有道の人に就いて自己の非を正す。〔論語、學而〕就二有道一而正焉。〔疏〕正、謂レ問二其是非一、言下學業有レ所レ未レ曉、當丙就下有二道德一之人上、正乙定其是之與甲非。㊁正しい事につきしたがふ。〔魏志、公孫淵傳、注〕魏略曰、反レ邪就レ正、以建二大功一。㊂詩文の添削を乞ふこと。

【就成】50シウセイ 完成する。成就する。〔後漢書、班彪傳〕及レ至二中宗一云云、莫レ不下崇二簡其人一、就中成德器上。

【就壻】51シウセイ むこ入りする。〔公羊、襄、十六〕君若二贅旒一然、注〕贅、繋屬之辭、若下今俗名二就壻一爲中贅壻上矣。

【就席】52シウセキ 席につく。著席。〔儀禮、士冠禮、卽席、注〕卽、就也、北行就レ席。〔儀禮、燕禮〕公揖二卿大夫一、乃升就レ席。

【就先】53 chiu^4 hsien^1 まあ。先づ。

【就痊】54 chiu^4 ch'üan^2 快癒に赴く。

【就船】55シウセン 舟をやとふ。就は僦に通用する。〔晉書、夏統傳〕乃更就レ船與語、其應如レ響。〔北齊書、神武紀下〕神武跨二槖駝一、候レ船以歸。

【就逮】56シウタイ 逮捕される。逮捕の命令に服從すること。〔班固、詠史詩〕太倉令有レ罪、就レ逮長安城。〔宋史、范純仁傳〕范純仁就レ逮、民數萬遮レ馬涕泗、不レ得レ行。

【就對】57シウタイ 詩の句法の名。一句の中に對語あるをいふ。滄浪詩話に就句對に作る。〔詩人玉屑〕就對、又曰二當句有對一、如二少陵、小院廻廊春寂寂、浴鳧飛鷺晚悠悠、李嘉祐、孤雲獨鳥川光暮、萬井千山海氣秋一是也。

【就道】58シウダウ 發足する。〔北史、常景傳〕天平初、遷レ鄴、是時詔下三日、戶四十萬、狼狽就レ道、收二百官馬一、尚書丞郎以下非二陪從一者盡乘レ驢。

【就搭】59 chiu^4 ta^1 適應させる。間に合はせる。

【就地】60 chiu^4 ti^4 實地に。其の場で。〔長生殿、合圍〕都難動彈、就地裏跑蹉。

【就地正法】61 chiu^4 ti^4 chêng^4 fa^3 舊制で、死罪に該當する犯罪者は、其の犯人の所在地で直ちに死刑を執行すること。

【就着】62 chiu^4 chè 添へる。

【就中】63ナカンヅク 其のなかで。とりわけて。殊に。〔杜荀鶴、登二山寺一詩〕就中偏愛レ石、獨上最高層。

【就直】64シウチヨク 正しい方に與する。〔左氏、襄、三十〕人謂二子產一、就レ直助レ彊。

【就枕】65シウチン 枕をあてて寢臥する。〔漢書、王莽傳下〕馮レ几寐、不二復就レ枕矣。〔韓愈、寄二皇甫湜一詩〕昏昏還就レ枕、惘惘夢相値。

【就第】66シウテイ 官をやめて私邸にかへる。〔漢書、王莽傳上〕罷就レ第。〔後漢書、賈復傳〕復以二列侯一就レ第。〔北史、蘇威傳〕于レ是免二威官爵一、以二開府一就レ第。

【就塗】67シウト 途にのぼる。出發する。就途。〔李商隱、爲二崔從事福一寄二尚書彭城公一啓〕捧レ幣申レ好、裂レ裳就レ塗。〔玉堂遺範〕築レ壇申レ命、推レ轂就レ塗。

【就讀】68シウドク つき從つて讀む。其の人について學問する。〔北史、中徽傳〕長幼聞レ之、皆競來就讀。

【就任】69シウニン 任務に就く。就職。

【就縛】70シウバク とらはれる。めしうどとなる。〔晉書、段灼傳〕束レ身就レ縛、不二敢顧望一。

【就班】71シウハン 各〻その位地に就く。就位。〔陸機、文賦〕選レ義按レ部、考レ辭就レ班。〔舒元輿、御史臺中書院記〕御史每二朝會一、至二含元殿西廡一、使下朱衣從官傳呼、促二百官一就上班。

【就俯】72 chiu^4 fu^3 調和する。

【就便】73 chiu^4 pien^4 ㊀其のまま。ただちに。ついでに。㊁たとへ。

【就捕】74シウホ 來り捕へる。とらへに來る。〔漢書、張敞傳〕郡吏當二就捕一、今使者來、此天子欲レ用レ我也。

【就封】75シウホウ 封地に赴く。〔漢書、杜欽傳〕無レ親二於宣一、就二封於齊一。

【就木】76シウボク 死をいふ。死んで棺の中に入ること。〔左氏、僖、二十三〕謂二季隗一曰、待レ我二十五年、不レ來而後嫁、對曰、我二十五年矣、又如レ是而嫁、則就レ木焉。〔注〕言、將三死入二於木一、不二復成一レ嫁也。〔書言故事、凶事類〕言レ將レ死曰レ就レ木。

【就末】77シウマツ 末におもむきつく。〔蜀志、呂凱傳〕何期下臣二僕吳越一、背レ本就上末乎。

【就眠】78シウミン ねむりにつく。ねつく。就寢(46)に同じ。

【就眠運動】79シウミンウンドウ 萩の葉などのやうに、晝間は開き、夜間は閉ぢること。

【就明】79′シウメイ ㊀次第にあかるくなる。〔易林、大過之第二十八、大畜〕幽人無レ貪、去レ晦就レ明。㊁あかるい所に身を寄せる。〔宋史、張九成傳〕謫二居安南軍一、每レ執レ書就レ明、明、倚二立庭磚一。

【就養】80シウヤウ つき養ふ。父母の側で孝養する。〔禮、檀弓上〕事レ親有レ隱而無レ犯、左右就養無レ方。〔顏延之、陶徵士誄〕母老子幼、就養勤レ匱。〔注〕善曰、禮記曰、事二親左右一、就養無レ方。〔唐書、李光弼傳〕吾淹二軍中一、不レ得二就養一、爲二不孝子一、尚何言哉。

【就就】81ヨヨ せまらぬさま。寬大のさま。〔呂覽、下賢〕就就乎其不レ肯二自是一。〔注〕就就、讀如二由與之與一。

【就就的】82 chiu^4 chiu tê よく。たしかに。十分に。

【就利】83シウリ 利益に赴く。利益のある方にゆく。〔莊子、齊物論〕不レ就レ利、不レ違レ害。〔吳子、圖國〕謀者所二以違レ害就一レ利。〔孔子家語、三恕〕就レ利者、則無レ不レ弊。

【就裏】84シウリ 內面にかくれた事情。〔還魂記、寫眞〕你怎知二就裏一。〔元曲、趙氏孤兒〕那屠岸賈將二我的孩兒一十分見レ喜、他豈知二就裏的事一。

【就粮】85シウリヤウ 屯糧の所に往く。〔後漢書、鄧禹傳〕夫盜賊羣居、無二終日之計一、吾且休二兵北道一、就レ粮養レ士、以觀二其弊一。

【就令】86タトヒ 假りに設けていふ語。よしや。就使。〔柳宗元、上二門下李夷簡相公一書〕就令哀而顧レ之者、不レ過二攀レ木俯首、深矉太息、良久而去一耳。〔胡銓、上二高祖一封事〕就令虜決可レ和、盡如二倫議一、天下後世、謂二陛下何如主一。

【就列】87シウレツ 位につく。役人の地位につく。〔論語、季氏〕陳レ力就レ列、不レ能者止。〔集注〕列、位也。〔後漢書、鄧彪等傳論〕審レ能而就レ列者、出身之常體。〔王儉、公府長史朝服議〕長史掾屬、朱衣以就レ列。

【就路】88シウロ 路に就く。出發する。〔後漢書、孔奮傳〕唯奮無レ資、單車就レ路。〔梁武帝、孝思賦序〕止二得小船一、望レ星就レ路。

【就懦齋】89シウダサイ 清、管希寧(**8−26162・・176**)の號。

【⿺尢扁】7600 ハツ ハチ 〔集韻〕北末切 曷。
㊀**足が大きい。**⿺尢扁⿺尢差。〔集韻〕⿺尢扁、⿺尢扁⿺尢差、足大。㊁**正しく行かない。**〔字彙〕⿺尢扁、惡行也。

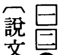
【⿺尢貞】7601 テウ 義未詳。〔川篇〕⿺尢貞、音銚。

【⿺尢酉】7602 キ ギ 義未詳。〔五音篇海〕⿺尢酉、渠危切。

【⿺尢孚】7603 ダ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿺尢孚、音拏。

十畫

【尲】7604
🈩カン ケン 〔集韻〕居咸切 咸 ㄍㄢ kan^1
🈔ケン 〔集韻〕紀炎切 鹽
🈪カン 〔集韻〕姑南切 覃


小篆

🈩🈔㊀**正しく歩けない。**尲尬。〔說文〕尲、尲尬、行不レ正也、从レ尢兼聲。㊁**くひちがふ。**〔說文、尲、段注〕今蘇州俗語、謂二事乖刺者一曰二尲尬一。🈪尲尬は、進まない。〔集韻〕尲、尲尬、行不レ進。

【⿺尢差】7605 サツ サチ 〔集韻〕子末切 曷。
足が大きい。⿺尢扁⿺尢差。〔集韻〕⿺尢扁、⿺尢扁⿺尢差、足大。

【⿺尢䍃】7606 エウ ⿺尢巳（**4－7577**）の俗字。〔正字通〕⿺尢䍃、俗⿺尢巳字。

【⿺尢奚】7607 テイ ⿺尢是（**4－7620**）の譌字。〔正字通〕⿺尢奚、⿺尢是字之譌。

【尳】7608 ㈠コツ ゴチ 〔集韻〕胡忽切 月 ㈡クヮツ ゲチ 〔集韻〕戶八切 黠

小篆

㈠❶**膝の病**。〔說文〕尳、厀病也、从㆓尢骨㆒、骨亦聲。❷**骨がはづれる**。〔玉篇〕尳、聲類曰、骨差也。㈡**足の病**。或は⿺尢凸（**4－7569**）に作る。〔集韻〕尳、足病、或作㆑⿺尢凸。

解字 會意形聲。尢と骨との合字。尢は曲脛のかたち、故に膝の病を本義とする。尢は又音符。

【⿺尢臬】7609 ゲツ 義未詳。〔篇海類編〕⿺尢臬、五結切、音臬。

十一畫

【⿺尢隹】7610 ケイ ヱ 〔字彙〕戶圭切 齊 **行くさま**。〔字彙〕⿺尢隹、行貌。

【⿺尢婁】7611 ロウ ル 〔字彙〕力口切 有 **高いさま**。〔字彙〕⿺尢婁、高貌。

【⿰黑尢】7612 シユツ シユチ 〔集韻〕雪律切 質 **すすめない**。〔集韻〕⿰黑尢、不㆑能㆑行也。

十二畫

【⿺尢烏】7613 テイ ダイ 〔奚韻〕杜奚切 齊 **あしなへ**。〔奚韻〕⿺尢烏、跛也。

【尵】7614 タイ デ 〔集韻〕徒回切 灰 **馬が病む**。⿺尢也尵。〔玉篇〕尵、馬病也。〔集韻〕尵、⿺尢也尵、馬病。

【⿰鬳尢】7615 ゲウ ⿰鬳几（**9－32760**）の譌字。〔正字通〕⿰鬳尢、⿰鬳几字之譌。

【⿺尢喬】7616 ケウ ⿰喬几（**2－4379**）の譌字。〔正字通〕⿺尢喬、⿰喬几字之譌。

【⿺尢童】7617 シヨウ ⿺尢重（**4－7594**）・瘇（**7－2249 2**）に同じ。〔爾雅、釋訓、既微且⿺尢重、釋文〕⿺尢重、本或作㆑⿺尢童、並籒文瘇字。〔說文〕瘇、⿺尢童、籒文。

【就】7618 シウ 就（**4－7599**）に同じ。〔五音篇海〕就、同㆑就。

【⿰婁尢】7619 ロウ ⿺尢婁（**4－7611**）に同じ。〔篇海類編〕⿰婁尢、同㆑⿺尢婁。

十三畫

【⿺尢是】7620 ㈠テイ タイ 〔集韻〕都黎切 齊 ㈡テイ ダイ 〔集韻〕田黎切 齊

小篆

㈠㈡❶**足なへが人に扶け引かれるさま**。⿺尢是⿺尢⿱爪巂。〔說文〕⿺尢是、跛不㆑能㆑行、爲㆓人所㆒㆑引、曰㆓⿺尢是⿺尢⿱爪巂㆒、从㆑尢从㆑爪是聲。❷或は⿺尢奚（**4－7607**）に作る。〔集韻〕⿺尢是、或从㆑奚。

【⿰亯尢】7621 シウ 就（**4－7599**）の籒文。〔說文〕就、⿰亯尢、籒文就。

【⿰喬尢】7622 ケウ ⿺尢喬（**4－7616**）に同じ。〔字彙補〕⿰喬尢、同㆑⿺尢喬。

【⿰粦尢】7623 リン 義未詳。〔龍龕手鑑〕⿰粦尢、音隣。

十四畫

【尷】7624 カン 尲（**4－7604**）の俗字。〔正字通〕尷、俗尲字。

【就】7625 シウ 就（**4－7599**）に同じ。〔五音篇海〕就、同㆑就。

十八畫

【⿺尢雚】7626 ㈠クヮン グヮン 〔集韻〕渠鰥切 刪 ㈡テン 〔廣韻〕丁全切 先 ㈠**膝の病**。⿺尢羸⿺尢雚。〔集韻〕⿺尢雚、⿺尢羸⿺尢雚、膝病。㈡**歩行の正しくないさま**。〔廣韻〕⿺尢雚、行不㆑正皃。

十九畫

【⿺尢羸】7627 ㈠ラ 〔集韻〕魯果切 哿 ㈡ルイ 〔集韻〕倫爲切 支 ㈢ラン 〔集韻〕盧鰥切 刪

小篆

㈠㈡㈢**膝中の病**。〔說文〕⿺尢羸、厀中病也、从㆑尢羸聲。

二十二畫

【⿺尢⿱爪巂】7628 ケイ ヱ 〔集韻〕玄圭切 齊

小篆

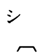
たすけ進められる。⿺尢是⿺尢⿱爪巂。〔說文〕⿺尢⿱爪巂、⿺尢是⿺尢⿱爪巂也、从㆑尢从㆑爪巂聲。

解字 會意形聲。尢と爪と巂との合字。巂は聲。尢は曲脛のかたち、爪を加へ、たすけすすめられる意とする。

尸部

【尸】7629 シ 〔集韻〕升脂切 支 尸 shih¹

小篆（說文）



小篆（段注本）

❶**しかばね**。むくろ。なきがら。〔說文〕尸、陳也、象㆓臥之形㆒。〔釋名、釋喪制〕既定㆑死曰㆑尸、尸、舒也、骨節解舒、不㆑能㆓復自勝㆒㆑斂也。〔禮、曲禮下〕在㆑牀曰㆑尸、在㆑

棺曰レ柩。〔左氏、隱、元〕贈レ死不レ及レ尸。〔白虎通、崩薨〕尸之爲レ言、陳也、失レ氣亡レ神、形體獨陳。㊁**身をふせ手足をのべる。**〔論語、鄕黨〕寢不レ尸。〔集解〕包咸曰、偃二臥四體一、布二展手足一、似二死人一。㊂**さらす。**しかばねをつらね示す。〔左氏、僖、二十八〕曹人尸二諸城上一。〔國語、晉語六〕殺二三郤一而尸二諸朝一。〔注〕尸、陳也。㊃**つらねる。**〔詩、小雅、祈父〕有二母之尸一レ饔。〔傳〕尸、陳也。㊄**陣する。**陣。〔左氏、莊、四〕楚武王荊尸。〔注〕尸、陳也。〔左氏、宣、十二〕荊尸而擧。〔注〕尸、陳也。㊅**かたしろ。**㋑古昔、祖先を祭るとき、神靈のかはりに立つてまつりをうける者。〔說文通訓定聲〕尸、神像也、象二臥之形一。〔儀禮、士虞禮〕祝迎レ尸。〔注〕尸、主也、孝子之祭、不レ見二親之形象一、心無レ所レ繫、立レ尸而主レ意焉。〔儀禮、士虞禮記〕男、男尸、女、女尸、必使二異姓一、不レ使二賤者一。〔儀禮、特牲饋食禮〕筮二某之某爲一レ尸。〔注〕大夫士以二孫之倫一爲レ尸。〔公羊、宣、八、繹者何、注〕祭必有レ尸者、節レ神也、禮、天子以レ卿爲レ尸、諸侯以二大夫一爲レ尸、卿大夫以下、以レ孫爲レ尸、夏立レ尸、殷坐レ尸、周旅酬六尸。㋺ゐはい。神主。木主。〔楚辭、天問〕載レ尸集戰何所レ急。〔注〕尸、主也。㊆**神。**〔儀禮、特牲饋食禮記〕尸俎。〔注〕尸俎、神俎也。㊇**つかさ。**主。〔爾雅、釋詁〕尸、主也。〔淮南子、詮言訓〕聖人不レ爲二名尸一。〔注〕尸、主也。〔太玄經、衆〕尸將レ班二于田一。〔注〕尸、主也。㊈**つかさどる。**〔書、五子之歌〕太康尸レ位。〔傳〕尸、主也、主以二尊位一。〔書、康王之誥序〕康王既尸二天子一。〔傳〕尸、主也、主二天子之正號一。〔詩、召南、采蘋〕誰其尸レ之、有二齊季女一。〔傳〕尸、主。〔周禮、天官、玉府〕若合二諸侯一、〔注〕尸レ盟者執レ之。〔疏〕尸、猶レ主也。㊉**知行所。**〔爾雅、釋詁〕尸、寀也、寀・寮、官也。〔注〕官地爲レ寀、同官爲レ寮。⑪**おこたる。むなしくする。**職責を完うしない。〔書、五子之歌〕太康尸レ位。〔蔡傳〕尸、如二祭祀之尸一、謂下居二其位一而不レ爲二其事一、如二古人所謂尸祿尸官一者也。⑫鳲（12－46667）に通ず。〔詩、召南、鵲巢序〕德如二尸鳩一。〔釋文〕尸、本又作レ鳲。⑬**姓。**〔通志、氏族略、以レ鄕爲レ氏〕尸氏、漢書、尸佼、晉人、爲二商君師一、著二尸子一、風俗通云、其先封二尸鄕一、因以爲レ氏、齊相有二尸臣一。⑭**地名。**尸氏（21）に同じ。〔左氏、昭、二十六〕劉人敗二王城之師于尸氏一、云云、遂次二于尸一、云云、逆二王于尸一。⑮注音符號の聲符の一。翹舌尖音。舌尖部を翹起して輕く硬口蓋の前部に接觸させ、次いで舌面の中央部を稍〻凹め、氣息を其の部分を通じて摩擦情態で齒縫から外洩させると此の音になる。シ。shih　正形は尸。

名乘　カタ。シロ。タカ。

解字　象形。人が首をふせ背をまげて臥すかたちに象る。故に人のふせるかたちをいひ、又、屍の意とする。又、本義をかたしろとする。祭のとき神が至つて臥し宿ることをあらはす。轉じて、つかさどるの意に用ひる。〔說文、尸、段注〕玉裁謂、祭祀之尸、本象レ神、而陳レ之而祭者、云云、臥下曰、伏也、此字象二首俯而曲レ背之形一。

參考　尸、尸（4－7630）に同じ。此の部に屬する字、もと尸に從ひ、今は尸に從ふ。

【尸位】1 シヰ　人が一時かたしろとなつて、假りに神靈の位につくこと。轉じて、其の位に在つて責をつくさないこと。尸位素餐を見よ。〔書、五子之歌〕太康尸位、以二逸豫一滅二厥德一。〔蔡傳〕尸、如二祭祀之尸一、謂下居二其位一而不レ爲二其事一、如二古人所謂尸祿尸官一者也。

【尸位素餐】2 シヰソサン　官位にあるだけで職責を盡くさず、功なくして空しく俸祿を食むこと。ろくぬすびと。尸は祭りのかたしろで、其の位に居つて其の事を爲さぬものをいふ。素餐は空しく食ふ。餐は又、飱・飡にる。尸素。尸祿。尸祿素餐。〔漢書、朱雲傳〕雲曰、今朝廷大臣、上不レ能レ匡レ主、下亡二以益一レ民、皆尸位素餐。〔注〕師古曰、尸、主也、素、空也、尸位者、不レ擧二其事一、但主二其位一而已、素餐者、德不レ稱レ官、空嘗二食祿一。〔論衡、量知〕儒生受二長吏之祿一、報二長吏一以レ道、文吏空胸、無二仁義之學一、居住食祿、終無二以效一、所謂尸位素飡者也。〔書言故事、評論類〕無レ功食レ祿、曰二尸位素飡一。

【尸解】3 シカイ　道家の術。仙術を心得た者が身體を殘して、魂魄だけ拔け去る術。神仙の化去すること。〔後漢書、方術、王和平傳〕北海王和平、云云、後弟子夏榮、言下其尸解上。〔注〕尸解者、言下將二登仙一、假中託爲レ尸以解化上也。〔北史、李先傳〕道士咸稱三其得二尸解仙道一。〔酉陽雜俎、玉格〕眞人用二寶劍一以尸解者、蟬化之上品也。〔太平廣記、女仙三〕所謂尸解者、假レ形而示レ死、非二眞死一也、人死、其形如レ生者、足不レ青、皮不レ皺者、目不レ落レ光者、死而更生者、未レ殮而失二其尸一者、衣存而形去者、髮脫而形飛者、皆尸解也、白日解者爲レ上、夜半解者爲レ下、向レ曉向レ暮解者爲二地下主一。〔書言故事、神仙類〕神仙化去曰二尸解一。

【尸骸】4 シガイ　なきがら。屍骸。〔吳志、陸遜傳〕尸骸漂二流寒江一而下。

【尸佼】5 シカウ　戰國、楚の人。商鞅の師。鞅の刑せられるに及んで蜀に逃る。著に尸子二十篇がある。尸子（20）の㊀を見よ。〔史記、七十四〕。

【尸諫】6 シカン　死後、屍を以て君を諫めること。衞の大夫史魚が其の君靈公を諫めて聽かれず、死に臨み子に命じ、葬らずに諫めしめた故事。屍諫（4－7688・・4）を見よ。〔韓詩外傳、七〕昔者衞大夫史魚、病且レ死、謂二其子一曰、我數言二蘧伯玉之賢一、而不レ能レ進、彌子瑕不肖、而不レ能レ退、爲二人臣一、生不レ能三進レ賢而退二不肖一、死不レ當レ治二喪正堂一、殯二我於室一足矣、衞君問二其故一、子以二父言一聞、君造然召二蘧伯玉一而貴レ之、而退二彌子瑕一、徙二殯於正堂一、成レ禮而後去、生以レ身諫、死以レ尸諫、可レ謂レ直矣、詩曰、靖二共爾位一、好是正直。

【尸柩】7 シキウ　しかばねを入れたひつぎ。〔禮、喪大記〕君弔、見二尸柩一而后踊。〔漢書、師丹傳〕尸柩在レ堂。

【尸鳩】8 シキウ　鳩の一種。鳲鳩（12－46667・・1）の㊀・布穀（4－8778・・87）を見よ。〔荀子、勸學〕詩曰、尸鳩在レ桑。〔山海經　西山經〕南山、鳥多二尸鳩一。〔注〕尸鳩、布穀類也。〔郝懿行箋疏〕案、爾雅、鳲鳩、鴶鵴、郭注、今之布穀也、與二此注一同。〔法言、寡見〕鶴明沖レ天不レ在二六翮一乎、拔而傅二尸鳩一、其累矣夫。

【尸鳩之仁】9 シキウノジン　君の仁德の平均に及ぶこと。鳲鳩（12－46667・・1）の㊁を見よ。〔魏志、任城威王彰傳〕七子均レ養者、尸鳩之仁也。

【尸鳩之平】10 シキウノヘイ　君の仁德の公平なこと。又、君の仁德の常に變らぬこと。鳲鳩（12－46667・・1）の㊁を見よ。〔後漢書、袁紹傳〕陛下垂二尸鳩之平一。〔注〕尸鳩之養二其子一、旦從レ上下、暮從レ下上、平均如レ一、言下善人君子執レ義、亦如上レ此。

【尸鄕】11 シキヤウ　地名。古の景亳。又、西亳・亳城といふ。河南省偃師縣の西南の新蔡鎭。田橫の自剄したところ。尸氏（21）を見よ。〔史記、田橫傳〕至二尸鄕廏置一。〔注〕集解曰、應劭曰、尸鄕、在二偃師一。〔漢書、地理志上〕偃師、尸鄕、殷湯所レ都。

【尸鄕之節】12 シキヤウノセツ　漢書、田橫が尸鄕に自刎した時、其の徒五百人が殉じた、その節義をいふ。田橫五百人（7－21723・・332）を見よ。〔舊唐書、田布傳〕忠臣孝子、一擧兩全、晉稱二卞氏之門一、漢表二尸鄕之節一。

【尸居】13 シキヨ　何もせずに居ること。〔歐陽脩、送二韓子華一詩〕諫垣尸居職業廢、朝事汲汲勞二精神一。

【尸居餘氣】14 シキヨヨキ　衰弱して動けなくなり、息がたえだえなこと。人の死に近いことをいふ。尸居は、かたしろのやうに動かずにゐること。〔晉書、宣帝紀〕勝退告レ爽曰、司馬公尸居餘氣、形神已離、不レ足レ慮矣。

【尸居龍見】15 シキヨリユウケン　尸のやうに唯〻端座無

爲にして、其の德が自ら現はれること。龍は極めて活動的なもの、そのやうに德が躍々とあらはれる。出處言語皆自然に委せること。〔莊子、在宥〕故君子苟能無レ解二其五藏一、無レ擢二其聰明一、尸居而龍見、淵默而雷聲、神動而天隨、從容無爲、而萬物炊累焉。〔注〕出處語默、常無二其心一、而付二之自然一。

【尸官】16 シクワン　徒らに官位について其の職責を盡さないこと。尸位。一說に、官をつかさどる。〔書、胤征〕羲和尸二厥官一、罔二聞知一。〔傳〕主二其官一、而無三聞二知於日食之變異一。〔蔡傳〕尸二居其位一、若レ無二聞知一。〔漢書、許后傳〕曠職尸官。〔後漢書、梁統傳論〕永言終レ制、未レ解二尸官之尤一。

【尸君】17 シクン　天子の祭をたすける尸。公尸。君尸。〔禮、禮運〕醆斝及二尸君一、非レ禮也、是謂二僭君一。〔集解〕尸君、猶三詩言二公尸一也。

【尸蹷】18 シケツ　逆上して死んだやうになる病。〔史記、扁鵲傳〕扁鵲曰、若二太子病一、所謂尸蹷者也。

【尸骨】19 シコツ　屍(4－7688)に同じ。〔捜神記、十一〕王利二其生一、妾利二其死一、願以二尸骨一、賜レ馮合葬。

【尸子】20 シシ　㊀戰國、楚の人。名は佼。商鞅の師。鞅の刑せらるや、逃れて蜀に入り、書二十篇を著す。〔史記、七十四〕・〔漢書、三十〕。㊁書名。二卷。戰國楚、尸佼撰。もと二十篇。南宋に至つて散佚したのを、清の章宗源が、古書に引くものを輯成し、孫星衍が之を補訂す。上卷は勸學・貴言・四儀・明堂・分・發蒙・恕・治天下・仁意・廣・綽子・處道・神明・廣澤・止楚師・君治の十六篇、下卷は其の零語を輯めたもので二百餘條。〔平津館叢書、甲集、第一冊〕。

【尸氏】21 シシ　地名。殷の景亳（一名西亳）。春秋の時、尸氏といふ。河南省偃師縣の西南の新蔡鎭。一名、尸鄕。尸鄕(11)を見よ。〔左氏、昭、二十六〕劉人敗二王城之師于尸氏一。〔注〕尸氏、在二鞏縣西南偃師城一也。

【尸次】22 シジ　祭祀の尸が居て更衣する帳。〔周禮、天官、掌次〕凡祭祀張二其旅幕一、張二尸次一。〔注〕鄭司農云、尸次、祭祀之尸所レ居更衣帳。

【尸車】23 シシャ　なきがらを載せた車。〔晏子、重而異者〕若レ此而不レ得、則臣請輓二尸車一而寄二之於國門外宇溜之下一。

【尸者】24 モノマサ　死人の著る衣を著て弔問者に會ふ人。〔日本書紀、神代紀下〕以レ鴗爲二尸者一。

【尸祝】25 シシュク　㊀かたしろとかんなぎ。〔莊子、逍遙遊〕庖人雖レ不レ治レ庖、尸祝不下越二樽俎一而代上之矣。〔疏〕尸者、太廟中神主也、祝者、則今太常・太祝、是也、執二祭版一對レ尸而祝レ之、故謂二之尸祝一也。〔釋文〕尸祝、之六反、傳二鬼神辭一曰レ祝。〔淮南子、說山訓〕尸祝齊戒、以沈二諸河一。〔注〕尸、祭レ神之主、祝、祈二福祥一之辭。〔嵇康、與二山巨源一絕交書〕引二尸祝一以自助。〔注〕向曰、尸、主也、祝、謂二祭時讀レ辭之人一也。㊁崇拜する。〔莊子、庚桑楚〕子胡不下相與尸而祝レ之、社而稷上レ之乎。〔疏〕何不下相與尊而爲二君主南面之事一、爲立二社稷一、建中其宗廟上。

【尸臣】26 シシン　事を主る臣。〔漢書、郊祀志下〕今鼎出二于郊東一、中有二刻書一、曰、王命二尸臣一、官二此栒邑一、賜二爾旂鸞黼黻琱戈一、尸臣拜手稽首曰、敢對二揚天子丕顯休命一。〔注〕師古曰、尸臣、主レ事之臣也。

【尸政】27 シセイ　政治をつかさどる。〔日本政記、後醍醐天皇論〕將門尸レ政久矣。

【尸穸】28 シセキ　酉陽雜俎の篇名。

【尸俎】29 シソ　尸（かたしろ）に供へる俎。〔儀禮、特牲饋食禮〕尸俎右肩臂臑。〔注〕尸俎、神俎也。

【尸素】30 シソ　位にゐながら其の責を盡さないこと。尸位素餐(2)の略。〔潘岳、關中詩〕愧無二獻納一、尸素以甚。〔注〕向曰、愧下無三謀策獻二納於君一、但尸祿素飡而已上。〔傅咸、贈二何劭王濟一詩〕尸素當二言歸一。

【尸奪】31 シダツ　死病にとりつかれ治療の施しやうのないこと。尸は死病。奪は治療の方法を失ふをいふ。〔史記、倉公傳〕所三以加二寒熱一者、言二其人尸奪一、尸奪者形弊。

【尸逐】32 シチク　㊀匈奴の爵號。〔後漢書、南匈奴傳〕異姓大臣、左右骨都侯、次左右尸逐骨都侯、其餘日逐・且渠・當戶諸官號。㊁複姓。〔通志、氏族略、代北複姓〕尸逐氏、姓氏、英賢傳云、南匈奴尸逐鞬裔孫、降レ漢因氏焉。

【尸蟲】33 シチュウ　㊀屍に生ずる蟲。〔史記、齊太公世家〕桓公尸在二牀上一六十七日、尸蟲出二于戶一。㊁人體に生ずるといふ蟲。三尸(1－12‥630)を見よ。

【尸寵】34 シチョウ　臣が君の非事を見ても諫めないこと。〔申鑒、雜言上〕人臣有二三罪一、一曰導非、二曰阿失、三曰尸寵、以レ非引レ上謂二之導一、從二上之非一謂二之阿一、見レ非不レ言謂二之尸一。

【尸頭】35 シトウ　佛像の傍に坐して人の罪を記錄することを掌る僧。〔酉陽雜俎、貝編〕魏李騫崔劫、至二梁同泰寺一、三僧迎レ門、引接至二浮圖中一、佛傍有下執二板筆一者上、僧謂レ騫曰、此是尸頭、專記二人罪一、騫曰、便是僧之董狐。

【尸突】36 シトツ　複姓。後、屈氏と改む。〔魏書、官氏志〕尸突氏、後改爲二屈氏一。

【尸媚】37 シビ　女鬼。〔張泌、尸媚傳〕。

【尸媚傳】38 シビデン　一卷。唐、張泌撰。數件の神鬼に關する話を輯錄してゐる。

【尸盟】39 シメイ　盟をつかさどる。又、其の人。主盟。〔周禮、天官、玉府、若合二諸侯一注〕珠槃以盛二牛耳一、尸レ盟者執レ之。〔左氏、襄、二十七〕叔向謂二張孟一曰、諸侯歸二晉之德一只、非レ歸二其尸レ盟也、子務レ德無レ爭レ先、且諸侯盟、小國固必有二尸レ盟者一。〔注〕尸、主也。

【尸饔】40 シヨウ　烹炊の事を主る。薪水の勞を取る。饔は、肉類を料理すること。〔詩、小雅、祈父〕有二母之尸レ饔。〔傳〕尸、陳也、熟食曰レ饔。〔箋〕己從レ軍、而母爲レ父陳二饌飲食之具一、自傷レ不レ得二供養一也。

【尸羅】41 シラ　㊀人名。道術に巧な人。〔拾遺記、四、燕昭王〕七年、沐胥之國來朝、云云、有二道術人一、名尸羅、問二其年一、云二百三十歲一、云云、善二眩惑之術一、於二其指端一出二浮圖十層一、高二三尺一、云云。㊁佛 清涼戒の意。好んで善道を行つて自ら放逸にしないこと。〔智度論、十三〕好行二善道一、不二自放逸一、是名二尸羅一。〔大乘義章〕言二尸羅一者、此名二清涼一、亦名爲レ戒。〔江總、攝山棲霞寺碑〕早成二波若之性一、夙植二尸羅之本一。

【尸羅達羅】42 シラダルマ　唐、戒法(5－11548‥89)の「名。

【尸利】43 シリ　㊀利祿をむさぼるだけで務を果さないこと。〔禮、表記〕事レ君、遠而諫、讇也、近而不レ諫、則尸レ利也。〔注〕尸、謂下不レ知二人事一無二辭讓一者上也。〔疏〕若親二近於君一而不レ諫、則似三如二尸之受二利祿一也、祭祀之尸、無二言辭一而受二享祭一時、猶似下近臣不レ諫、不レ知二人事一、無二辭讓之心一、如二尸之受レ利然上也。〔孔叢子、論勢〕居二人之官一、食二人之祿一、是尸レ利也。㊁佛 首・勝・吉祥・德の四義。室利に同じ。〔四明教行錄〕上首尸利、甘負二屈於菴提遮一。〔華嚴疏鈔、十二〕梵云、室利、一名四實、一首、二勝、三吉祥、四德。

【尸利灑】44 シリサイ　夜合樹の異名。夜合(3－5763‥64)の㊂を見よ。〔事物異名錄、花卉、夜合〕百一選方、夜合、俗名二萠葛一、越人謂二之烏賴樹一、金光明經謂二之尸利灑樹一。

【尸祿】45 シロク　利祿を貪つて其の職責を盡さぬこと。ろくぬすびと。尸位素餐(2)に同じ。〔漢書、鮑宣傳〕以二拱默尸レ祿爲レ智。〔注〕師古曰、尸、主也、不レ憂二其職一、但主二食祿一而已。〔漢書、貢禹傳〕所謂素餐尸祿洿朝之臣也。〔說苑、尊賢〕誠使二周公驕而且悋一、則天下賢士至者寡矣、苟有二至者一、則必貪而尸レ祿者也。〔後漢書、曹節傳〕公卿皆尸レ祿。〔魏志、杜恕傳〕尸レ祿以爲レ高。〔曹植、求二自試一表〕故君無二虛授一、臣無二虛受一、虛授謂二之謬擧一、虛受謂二之尸祿一、詩之素餐所二由作一也。

【尸祿害政】46 シロクセイヲガイス　其の官位に居ても無爲無能、ただ俸を受けるのみで、却つて政道を害すること。〔晉書、劉頌傳〕賢能常居レ位、以レ善事二闇劣一、不レ得下以二尸祿一害上政。

【尸祿素餐】47 シロクソサン　尸位素餐(2)に同じ。〔後漢書、五行志一〕尸祿素餐、莫二能據レ正持一レ重。

【鞭レ尸】48 シニムチウツ　屍骸に鞭つて深く怨を報いる。〔史記、伍子胥傳〕伍子胥求二昭王一、既不レ得、乃掘二楚平王墓一、出二其尸一、鞭レ之三百、然後已。

【輿レ尸】49 シヲヨス　戰に敗れて戰死者のなきがらを荷つて還る。〔易、師〕六三、師或輿レ尸、凶。〔象傳〕師或輿レ尸、大无レ功也。

【尸陀林】50 シダリン　佛 寒林をいふ。此の林は死屍が多く、人が入れば寒畏するといふ。恐畏林・安陀林・晝暗林と譯す。もと尸多婆那に作る。〔西域記〕如來在日、葬二比丘于尸陀林一。〔玄應音義〕屍陀林、正言二尸多婆那一、此名二寒林一、其林幽邃而

寒、因以名也、在二王舍城側一、死人多送二其中一、今總指二棄レ屍之處一名二屍陀林一者、取レ彼名レ之也。

【尸毗迦】51（シビカ）　釋迦が菩薩行を修してゐた前生で王であつた時の稱呼。尸毗王。尸毗大王。〔西域記、三〕是如來昔修二菩薩行一、號二尸毘迦王一。

【尸毗王】52（シビワウ）　［佛］尸毗迦を見よ。〔夢溪筆談、異事〕延州天山之巓、有二奉國佛寺一、寺庭中有二一墓一、世傳二尸毗王之墓一也、尸毗王出二於佛書一。

【尸梨密】53（シリミツ）　和尚（2－3490‥178）の㊃の胡名。〔續博物志、七〕和尚、胡名尸梨密。

【尸坐齊立】54（シザサイリツ）　かたしろのやうに坐し、齋戒するやうに立つ。たちゐふるまひに謹愼するさま。齊、或は齋に作る。〔禮、曲禮上〕若夫、坐如レ尸、立如レ齊。〔注〕視貌正、齊、謂二祭祀時一。

【臨レ尸而歌】55（シニノゾミテウタフ）　しかばねを前にして歌ふ。形骸の變化に意を動かさないこと。〔莊子、大宗師〕外二其形骸一、臨レ尸而歌、顏色不レ變、无二以命一レ之。

【枕二尸股一而哭】56（シカバネヲモモニマクラセシメテコクス）　死骸を股の上に枕させて哭きかなしむ。〔左氏、襄、二十五〕門啓而入、枕二尸股一而哭。〔注〕以二公尸一枕二己股一也。

【尸】7630

シ　尸（4－7629）の俗字。〔正字通〕尸、本作レ尸、俗作レ尸。

一畫

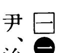
【尹】7631

［一］ヰン　〔集韻〕庾準切　yǐn³　［軫］

［二］ヰン　〔集韻〕于倫切　［眞］

［慣］イン

小篆


古文

［一］㊀をさめる。〔說文〕尹、治也、从二又ノ一、握レ事者也。〔段注〕又爲レ握、ノ爲レ事。㊁ただす。〔爾雅、釋言〕尹、正也。〔廣韻〕尹、正也。〔左氏、定、四〕以尹二天下一。〔注〕尹、正也。㊂つかさどる。〔漢書、敍傳下〕芮尹二江湖一。〔注〕張晏曰、尹、主也。㊃つかさ。〔廣雅、釋詁四〕尹、官也。〔左氏、宣、十二〕沈尹將二中軍一。〔疏〕楚官多名爲レ尹。㊄長官。〔書、立政〕尹伯。〔傳〕尹伯、長官大夫。〔書、顧命〕百尹御レ事。〔傳〕百尹、百官之長。〔春秋繁露、三代改制質文〕名二相官一曰レ尹。〔漢書、百官公卿表〕內史、周官、秦因レ之、掌レ治二京師一、武帝更レ名曰二京兆尹一。〔水經、穀水注〕尹、正也、所下以董二正京畿一、率中先百郡上也。〔禮、雜記下〕里尹主レ之。〔注〕里尹、閭胥・里宰之屬。㊅まこと。〔廣韻〕尹、誠也。㊆すすむ。〔廣韻〕尹、進也。㊇姓。〔通志、氏族略、以レ邑爲レ氏〕尹氏、少昊之子封二於尹城一、因以爲レ氏、子孫世爲二周卿士一、食二采於尹一。㊈あや。にほひ。［二］に同じ。㊉古は帬（4－8998）・[illegible]（4－9001）・[illegible]（4－8927）・[illegible]（4－8899）に作る。〔說文〕尹、帬、古文尹。〔康熙字典〕尹、古文[illegible]。〔集韻〕尹、孚作二[illegible]・[illegible]一。［二］あや。にほひ。〔集韻〕尹、古尹、玉采。〔禮、聘義〕孚尹旁達、信也。〔注〕孚、讀爲レ浮、尹、讀如二竹箭之筠一、浮筠、謂二玉采色一也。

［名乘］　カミ。タダ。ノブ。マサ。

［解字］　指事。又とノとの合字。又は手、ノは或る事を指す。手は物をとり握るもの、故に政事をとり治める意を本義とする。それから正す・まこと・すすむ等の意が生ずる。〔說文、尹、段注〕伊下曰、尹治二天下一、廣韻曰、正也、進也、誠也、又爲レ握、ノ爲レ事。▽ （甲骨文）象形。神聖な物を手に握る形に象り、族長の意を表はす。

【尹緯】1（インヰ）　後秦、天水の人。字は景亮。謚は忠成。初、苻堅に事へて吏部郎を拜命したが、後、尹詳・龐演等と姚萇を推して謀主とし、佐命の元功を爲し、尙書左右僕射に歷任す。〔晉書、一百十八〕。

【尹佚】2（インイツ）　周の人。成王の師。史佚（2－3249‥2）を見よ。〔淮南子、道應訓〕成王問二政於尹佚一曰、吾何德之行、而民親二其上一。〔注〕尹佚、史佚。

【尹逸】3（インイツ）　尹佚に同じ。〔說苑、政理〕成王問二政於尹逸一曰、吾何德之行、而民親二其上一。

【尹愔】4（インイン）　唐の人。思貞の子。老子に通じて道士となる。玄宗、其の言を喜び、諫議大夫・集賢院學士と爲さうとしたが、固辭して起たず。詔して道士の服を以て事を視るを許され、專ら集賢史館の圖書を領す。〔唐書、二百〕。

【尹曄】5（インエフ）　清、尹芝僊（119）を見よ。

【尹牙】6（インガ）　後漢、廣州の人。字は猛德。仕へて主簿となる。太守終寵の父、張太尉に害せられるや、牙は終寵の恩遇に感じ、傭僕となつて太尉の門下に居ること三年、閒に乘じて之を殺し、其の首を持して寵に報ず。事發し、朝廷之を義とし、赦して問はず。〔尙友錄、十五〕。

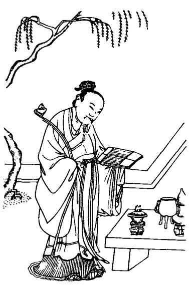
【尹諧】7（インカイ）　殷の人。湯に誅せらる。〔荀子、宥坐〕是以湯誅二尹諧一、文王誅二潘止一、周公誅二管叔一。

【尹耕】8（インカウ）　明、代州の人。字は子莘。嘉靖の進士。官は河南按察司兵備僉事。〔明人小傳、二〕・〔明詩綜、四十二〕・〔明詩紀事、戊十八〕・〔列朝詩集小傳、丁上〕・〔靜志居詩話、十二〕。

【尹咸】9（インカン）　漢の人。更始の子。左氏に通ず。官は大司農。〔前漢書、八十八〕。

【尹軌】10（インキ）　周の人。有道の士。終南山に居る。穆王之を召す。〔神仙傳、九〕。

【尹喜】11（インキ）　戰國、秦の人。字は公度。函谷關尹となる。老子の西遊に當り、道德經五千言を授けられ、老子と與に西去して終る所を知らずといふ。著に關尹子がある。〔史記、六十三〕。


尹喜（三才圖會）

【尹暉】12（インキ）　後晉、魏州の人。官は後晉の右衞大將軍。范延光に殺さる。〔舊五代史、八十八〕。

【尹吉】13（インキツ）　正直で嘉善なこと。一說に、周の舊家の尹氏と姞氏。吉は姞に通ず。〔詩、小雅、都人士〕彼君子女、謂二之尹吉一。〔傳〕尹、正也。〔箋〕吉、讀爲レ姞、尹氏・姞氏、周室昏姻之舊姓也、人見二都人之家女一、咸謂二之尹氏姞氏之女一、言レ有二禮法一。

【尹躬】14（インキユウ）　宋の人。字は商老。江陵・新喩の宰となり、耆老を禮し、風俗を正す。官は正卿に至る。著に易解・冬官解・文集がある。〔尙友錄、十五〕。

【尹玉】15（インギヨク）　宋、寧都の人。官は贛州の巡檢。文天祥に從つて王事に勤め、殺さる。〔宋史、四百五十〕・〔宋史新編、一百七十五〕・〔南宋書、六十一〕・〔昭忠錄〕・〔宋季忠義錄、五〕。

【尹勤】16（インキン）　後漢、南陽の人。字は叔梁。和帝の時、司空となる。後、定策して安帝を立て、福亭侯に封ぜらる。〔尙友錄、十五〕。

【尹煌】17（インクワウ）　朝鮮李朝、坡平の人。字は德耀。號は八松。謚は文正。官は掌令執義大司諫檢詳舍人同副承旨吏曹參議。〔人物考〕。

【尹煥】18（インクワン）　宋、山陰の人。字は惟曉。官は左司。著に梅津集がある。〔宋人軼事彙編、八百十九〕。

【尹瓘】19（インクワン）　高麗、坡平の人。字は同玄。謚は文敬、後、文肅と改謚す。官は守太保門下侍中判兵部事上柱國監修國史。〔高麗史〕。

【尹勳】20（インクン）　後漢、鞏の人。字は伯元。邯鄲令に三遷し、尙書令に五遷す。後、大謀に參畫し、都鄉侯に封ぜられ、汝南大守に轉任し、尋いで大司農に陞進す。後、竇武等の事に坐して獄に自殺す。〔後漢書、九十七〕。

【尹邢】21（インケイ）　尹夫人と邢夫人。共に漢の武帝に寵せらる。後世轉じて、二美人の相妬む喩。〔史記、外戚世家〕武帝時、幸夫人尹婕妤、邢夫人號二娙娥一、云云、尹夫人與二邢夫人一同レ時竝幸、有レ詔不レ得二相見一、尹夫人自請二武帝一、願三望二見邢夫人一、帝許レ之、卽令下他夫人飾、從二御者數十人一、爲二邢夫人一來前上、尹夫人見レ之曰、此非二邢夫人身一也、帝曰、何以言レ之、對曰、視二其身貌形狀一、不レ足三以當二人主一矣、於レ是帝乃詔、使下邢夫人衣二故衣一獨身來前上、尹夫人望二見之一曰、此眞是也、於レ

是乃低㆑頭俛而泣、自痛㆓其不㆒㆑如也。〔蘇軾、芙蓉城詩〕從㆑渠一念三千齡、下作㆓人間㆒尹與㆑邢。

〔尹邢避面〕22（インケイメンヲサク）　二人の美人の互に嫉妬し、顏をそむけて會ふことを避けることから、妻妾の不和の義に用ひる。尹邢を見よ。

【尹堅】23（インケン）　明、永新の人。字は潮春。屢〻征伐に從つて功あり、武略將軍を授けらる。〔皇明開國功臣錄、三十〕。

【尹憲】24（インケン）　宋、晉陽の人。太宗の時、鄜州の三族と嵐州を攻めて寧武軍を破る。官は定州の長官。〔宋史、二百七十六〕・〔宋史新編、七十九〕。〔北宋經撫年表、三十八・四十二〕。

【尹源】25（インゲン）　宋、河南の人。字は子漸。世に河内先生と稱す。進士から涇州通判に累官し、尋いで慶州に轉任す。范仲淹・韓琦、其の才を推薦したが、試に應ぜず、懷州の長官を以て終る。著に唐說及び敍兵十篇がある。〔宋史、四百二十八、四百四十二〕・〔宋史新編、一百七十〕・〔東都事略、六十四〕・〔隆平集、十五〕・〔名臣碑傳琬琰集、中三十七〕。

【尹鉉】26（インゲン）　朝鮮李朝、坡平の人。字は子用。號は菊磵。謚は忠簡。官は廣州牧使黃海忠清京畿諸道觀察使刑戶二曹參判右參贊戶曹判書。〔人物考〕。

【尹午】27（インゴ）　複姓。〔通志、氏族略、以㆓官名㆒爲㆑氏〕尹午氏、楚大夫敖尹午之後、楚有㆓大夫尹午子叔㆒。

【尹公】28（インコウ）　複姓。〔姓氏辯證〕衞大夫尹公佗之後。〔路史〕周尹公之後有㆓尹公氏㆒。

〔尹公潮〕29（インコウテウ）　餘杭の茗溪で、日暮に風が吹いて增水することをいふ。術者尹公が、鄕人王氏の美女を求めて得ず、怒つて茗溪を增水させたとの傳說に本づく。〔海錄碎事、地、河海〕茗溪在㆓餘杭㆒、夾㆑岸多㆓茗花㆒、因得㆑名、相傳云、古有㆓尹公者㆒、善推候有㆓異術㆒、鄕人王氏有㆑女美質、尹公求㆑之不㆑得、叱㆑水成㆑潮、以溺㆓其居㆒、至㆑今、日暮則風生、水長數寸、號爲㆓尹公潮㆒、圖經。

【尹后】30（インコウ）　宋、相州鄴の人。謚は淑德。太宗の妃。周に在つた時娶つたが、早く薨じたので、位に卽くに及び追冊して皇后となす。〔宋史、二百四十二〕・〔宋史新編、五十九〕・〔東都事略、十三〕。

【尹興】31（インコウ）　後漢の人。明帝の時、官は蘇守。楚王英の謀反の事に坐して廷尉の獄に繫がれたが、後、赦さる。〔後漢書、一百十一〕。

【尹穀】32（インコク）　宋、長沙の人。字は耕叟。進士。官は常德推官・崇陽の長官。蒙古の兵入寇するや、一門皆節に死す。〔宋史、四百五十〕・〔宋史新編、一百七十五〕・〔南宋書、五十九〕・〔昭忠錄〕・〔宋季忠義錄、六〕。

【尹袞】33（インコン）　明、永新の人。字は舜章。正德の舉人。官は緜州の守。〔江西通志〕。

【尹祭】34（インサイ）　宗廟の祭に用ひる脯（乾肉）。尹は正の意、正方形に割截して用ひるからいふ。〔禮、曲禮下〕凡祭㆓宗廟㆒之禮、脯曰㆓尹祭㆒。〔注〕尹、正也。

【尹材】35（インザイ）　宋、洛の人。字は處初。司馬光・邵雍の門人。後、學官に推さる。洛中三賢の一人。〔宋元學案、七・八・九〕。〔元祐黨人傳、六〕。

【尹司】36（インシ）　役人となつて治める。役人。〔傅亮、爲㆓宋公㆒求㆔加㆓贈劉前軍㆒表〕及㆑登㆓庸朝右㆒尹㆓司京畿㆒、敷㆓讚百揆㆒。

【尹秬】37（インシ）　清、常熟の人。字は于秬。號は野耕（耕野）。別號は介丘山人。山水畫を善くし、同里の王翬・吳歷等と交游す。卒年三十六。〔清畫家詩史、乙、上〕。

【尹寺】38（インジ）　宮中の小臣。閹官。寺人。〔韓愈、祭㆓馬僕射㆒文〕斥由㆓尹寺㆒、適㆓彼甌閩㆒。

【尹秀】39（インシウ）　高麗、漆原の人。忠烈王の嬖臣。官は軍簿判書鷹揚軍上將軍。〔高麗史〕。

【尹式】40（インシキ）　隋、河閒の人。官は漢王の記室參軍。漢王の敗れるに及んで自殺す。〔隋書、七十六〕・〔北史、八十三〕。

【尹質】41（インシツ）　宋、成都の人。字は化元。畫に巧で、康定・慶曆の閒に獨步した。〔聖朝名畫評、五〕。

【尹昌】42（インシャウ）　明、吉水の人。字は輯禎。宣德の進士。官は行人司正。己巳の變に北征し、遂に自殺す。〔明史、一百六十七〕・〔明史稿、一百五十二〕。

【尹祥】43（インシャウ）　朝鮮李朝、醴泉の人。字は實夫。初名は哲。號は別洞。官は大司成。〔海東名臣傳〕。

【尹賞】44（インシャウ）　漢、楊氏の人。永始・元延の閒、長安令となる。後、執金吾に陞進す。〔漢書、九十〕。

【尹襄】45（インジャウ）　明、永新の人。字は舜弼。號は巽峰。正德の進士。官は司經局洗馬。著に巽峰集がある。〔國朝獻徵錄、十九〕。

【尹洙】46（インシュ）　宋、河南の人。源の弟。字は師魯。天聖の進士。博學で、尤も春秋に深く、世に河南先生と稱す。初、太子仲允となり、出で唐州の酒稅を監督し、韓琦に認められて起居舍人に陞進す。著に河南集・五代春秋がある。〔宋史、二百九十五、四百二十八〕・〔宋史新編、九十一〕・〔東都事略、六十四〕・〔隆平集、十五〕・〔宋元學案、四〕。

【尹壽】47（インジュ）　上古の人。堯舜の師。河陽に居り、道德經を說き、無爲の道を以て教へ、又、道を彭祖に傳ふ。〔韓詩外傳、五〕・〔漢書、古今人表〕・〔新書、雜事五〕。

【尹需】48（インジュ）　上古の人。御を善くす。尹儒。〔淮南子、道應訓〕尹需學㆑御、三年而無㆑得焉、私自苦痛、常寢想㆑之、中夜、夢受㆓秋駕於師㆒。

【尹儒】49（インジュ）　尹需に同じ。〔呂覽、博志〕尹儒學㆑御、三年而不㆑得焉、苦㆓痛之㆒、夜夢受㆓秋駕於其師㆒。

【尹叔】50（インシュク）　宋、楊嗣訓（**6－15112**‥581）の字。

【尹拯】51（インジョウ）　朝鮮李朝、坡平の人。字は子仁。號は明齋先生。謚は文成。官は大司憲。〔誌狀〕。

【尹穡】52（インショク）　宋の人。字は少稷。高宗の時、樞密院編修官を拜命す。孝宗の時、進士出身を賜ひ、諫議大夫に累遷す。金人が入寇するや、劾せられて罷め去る。書室を友直軒といふ。〔宋史、三百七十二〕・〔宋史新編、一百三十六〕・〔南宋書、三十一〕・〔宋人軼事彙編、八百二十一〕。

【尹伸】53（インシン）　明、宜賓の人。萬曆の進士。湖廣左右布政に歷任す。叛將張獻忠に捕へられたが、屈せずして死す。〔明史、二百九十五〕・〔萬斯同明史、三百八十一〕・〔明史稿、二百七十七〕。

【尹搢】54（インシン）　朝鮮李朝、坡平の人。字は子敬。號は德浦。官は通政。後、嘉善。〔人物考〕。

【尹莘】55（インシン）　元、洧川の人。莘は、或は辛に、或は華に作る。至孝を以て聞ゆ。〔元史、一百九十七〕。

【尹人】56（インジン）　百官諸侯の長。〔書、酒誥〕惟助㆓成王德㆒顯、越尹人祗㆑辟。〔蔡傳〕呂氏曰、尹人者、百官諸侯之長也。

【尹仁】57（インジン）　宋、米友仁（**8－26832**‥102）の字。

【尹推】58（インスイ）　朝鮮李朝、坡平の人。字は子恕。官は司憲府掌令。〔人物考〕。

【尹正】59（インセイ）　梁、天水の人。謚は剛。官は梁の護軍將軍。爵は新野縣侯。〔周書、四十八〕。

【尹生】60（インセイ）　戰國の人。列子に從ふ。〔列子、黃帝〕尹生聞㆑之、從㆓列子㆒居數月、不㆑省㆑舍。

【尹齊】61（インセイ）　漢、茌平の人。小役人から御史となり、後、中尉を拜命す。〔前漢書、九十〕。

【尹拙】62（インセツ）　宋、汝陽の人。晉の天福中、張昭等と唐史を編修す。周の顯德の初、經典釋文を詳定し、宋初、祕書監を以て致仕す。〔宋史、四百三十一〕・〔宋史新編、一百六十三〕。

【尹宗】63（インソウ）　蜀漢の人。默の子。官は博士。〔三國志、四十二〕。

【尹泰】64（インタイ）　清、滿洲鑲黃旗人。姓は章佳氏。謚は文恪。康熙の閒、筆帖式から主事に轉補す。雍正の閒、東閣大學士兼兵部尚書に至り、三朝に歷事す。〔清史稿、二百九十五〕・〔國朝耆獻類徵、十二〕。

【尹臺】65（インダイ）　明、永新の人。字は崇基。嘉靖の進士。官は南京祭酒、後、南京禮部尚書。書室を洞農堂・思補軒といふ。著に洞農堂集がある。〔萬斯同明史、二百七十一〕・〔國朝獻徵錄、三十六〕・〔明人小傳、三〕・〔本朝分省人物攷、六十八〕・〔明詩綜、四十二〕。

【尹鏜】66（インダウ）　明、平鄕の人。字は子聲。官は監察御史。〔蘭臺法鑒錄、七〕。

【尹倬】67（インタク）　朝鮮李朝、坡平の人。號は平窩。官は大司成同知成均館事。〔人物考〕。

【尹鐸】68（インタク）　春秋、晉の人。趙簡子が、晉陽を治めしめた時、以て繭絲を爲さんか、抑も保障を爲さんかと請うた。簡子曰く、保障なる哉と。よつて其の戶數を損したので、民は以て寬和を得た。〔國語、晉語九〕。

【尹端】69（インタン）　明、劍川の人。字は正之。官は清浪衞知事。摘發して遺す所が無かつたので、時人、

尹青天といふ。

【尹宙】70（インチウ） 漢の人。字は周南。豫州の從事。公羊春秋を脩め、又、博く書傳に通ず。尹宙碑を見よ。

〔尹宙碑〕71（インチウヒ） 碑の名。後漢の熹平六年、建つ。尹宙のことを記す。明の嘉靖中、出土し、今、河南省鄢陵縣にある。其の字は完好で、書法は沖和寬博、漢碑の中で特に一體を具するもの。〔寰宇訪碑錄、漢〕豫州從事尹宙碑、八分書、熹平六年四月、河南鄢陵。

【尹中】72（インチユウ） 尹壽(47)に同じ。〔路史、陶唐氏紀〕師二於善綣許由尹中一、而學二於務成子附一。〔注〕尹中、卽尹壽也。

【尹直】73（インチヨク） 明、泰和の人。字は正言。謚は文和。景泰の進士。成化中、兵部尙書を拜命す。後、吏部尙書尹旻と相惡み、旻父子を陷れ、又、構へて江西巡撫閔珪を免官せしめたので、孝宗は其の人と爲りを薄んじて致仕せしめた。〔明史、一百六十八〕・〔萬斯同明史、二百二十五〕・〔明史稿、一百五十三〕。

【尹珍】74（インチン） 後漢、牂柯の人。字は道眞。荒裔に生れ、禮儀を知らず。許愼・應奉に從つて經書圖緯を受け、學成り鄕里に歸つて教授す。南域の學を知るは珍から始まる。桓帝の時、荆州刺史となる。〔尙友錄、十五〕。

【尹德】75（イントク） 清の人。遏必隆の四子。謚は慤敬。聖祖に從つて噶爾丹を征し、二等公を襲封し、領侍衞內大臣兼議政大臣に累擢せらる。宿衞十餘年、未だ嘗て過なし。〔清史稿、二百五十五〕・〔國朝先正事略、三〕。

【尹焞】76（イントン） 宋、洛陽の人。源の孫。字は彥明。號は三畏齋。程頤の門人。終身、擧に就かず。靖康の初、种師道の推薦によつて召されたが、懇辭して山に還り、號を和靖處士と賜はる。紹興の初、崇政殿說書兼侍講となる。著に孟子解・和靖集がある。〔宋史、四百二十八〕・〔宋史新編、一百六十二〕・〔南宋書、二十二〕・〔皇朝道學名臣言行外錄、九〕・〔宋元學案二十七〕。

【尹怦】77（インバウ） 唐、襄陽の人。字は守忠。父に事へて至孝。高宗の時、刺史その里を改めて南陔里となす。〔尙友錄、十五〕。

【尹伯】78（インパク） 有司の長。〔書、立政〕尹伯庶常吉士。〔傳〕尹伯、長官大夫。

【尹斌】79（インビン） 清、沈三曾(**6－17189**··511)の字。

【尹旻】80（インビン） 明、歷城の人。字は同仁。謚は恭簡。憲宗の時、吏部尙書となり、後、太子太傅・大學士となる。〔萬斯同明史、二百二十六〕・〔明史稿、一百四十一・二百八十五〕〔國朝獻徵錄、二十四〕・〔本朝分省人物攷、九十四〕・〔明詩紀事、乙十八〕。

【尹敏】81（インビン） 後漢、堵陽の人。字は初季。初、歐陽尙書を習ひ、後、古文尙書を受け、兼ねて毛詩・穀梁・左氏春秋に精通す。建武の初、郞中を拜命し、諫議大夫を以て終る。〔後漢書、一百九上〕。

【尹文】82（インブン） ㊀複姓。〔廣韻〕尹、又漢複姓、齊定王時有二尹文子一、著レ書。㊁戰國、齊の處士。莊子天下篇に宋鈃と並稱し、說苑には宣王との問答を載せ、呂氏春秋には湣王との問答を載す。宣王の時の稷下の士で、湣王の時にも居つたものであらう。其の著、尹文子は、治道を指陳し、自ら虛靜に處り、萬事萬物、一に其の實を綜核するを旨とす。尹文子を見よ。

〔尹文子〕83（インブンシ） 書名。一卷。戰國齊、尹文撰。大道上下に分れ、其の學術は黃帝・老子に本づき、申子・韓子の刑名を雜ふ。〔四庫提要、子、雜家類〕。

【尹平】84（インペイ） 明、吉水の人。字は伯洪。洪武中、監察御史となる。〔尙友錄、十五〕。

【尹鳳】85（インボウ） 明、南京の人。字は德輝。嘉靖中、武科に擧げられ、鄕會試にも第一であつた。參將から、萬曆の初、都督僉事に累官す。〔明史、二百十二〕・〔萬斯同明史、三百二十〕・〔明史稿、一百九十六〕。

【尹默】86（インモク） 蜀漢、涪の人。字は思潛。學を司馬徽・宋忠等に受く。五經に通じ、尤も左氏春秋に精しく、以て後主に授く。官は諫議大夫・丞相軍祭酒。〔三國志、四十二〕。

【尹埜】87（インヤ） 清、鳳陽の人。驢を畫くに巧であつたので、時人、尹驢といふ。子の小埜、能く父の業を傳ふ。〔尙友錄、十五〕。

【尹立】88（インリツ） 漢の人。賞の子。官は京兆尹。〔前漢書、九十〕。

【尹琳】89（インリン） 宋の人。琳は、一に林に作る。高宗の時、佛事鬼神畫を以て名が有つた。〔宋史、四百二十八〕。

【尹禮】90（インレイ） 明、永新の人。字は內則。官は御史。山東を巡按す。〔蘭臺法鑒錄、八〕。

【尹驢】91（インロ） 清の尹埜をいふ。

【尹淮】92（インワイ） 朝鮮李朝、茂松の人。字は淸卿。號は淸香堂。謚は文度。紹宗の子。十歲にして通鑑綱目に精通す。太宗の元年、登第し、九年九月、吏曹正郞兼春秋館記事官を拜命す。世宗の十四年正月、領春秋館事孟思誠等と八道地理志を撰進す。翌年三月、藝文館提學となり、尋いで中樞院使兼成均館大司成を拜命す。大提學鄭招と事大文書を監掌し、十六年六月、王命により資治通鑑訓義の纂輯を主り、後、藝文館大提學に陞進す。十八年三月卒す、年五十七。著に淸香集がある。〔太宗實錄、十八〕・〔世宗實錄、二十三・五十五・五十九・六十四・七十一・七十二〕・〔東文選、九十四〕・〔海東名臣錄、三〕・〔燃藜室記述〕。

【尹安之】93（インアンシ） 高麗の人。忠定王の元年、明の制科に中る。官は大寧路判官。〔高麗史〕。

【尹一仁】94（インイツジン） 明、江西安福の人。字は任之。官は都水郞。〔江西通志〕。

【尹翁歸】95（インヲウキ） 漢、平陽の人。字は子況。宣帝の時、東海太守となる。後、入つて右扶風に守となる。淸廉を以て聞ゆ。〔前漢書、七十六〕。

【尹應元】96（インオウゲン） 明、漢川の人。字は乾泰。萬曆の進士。官は僉都御史。山東巡撫。

【尹嘉賓】97（インカヒン） 明、江陰の人。字は孔昭。萬曆の進士。官は湖廣提學副史。詩に巧。〔明人小傳、四〕・〔明詩綜、六十〕・〔列朝詩集小傳、丁下〕・〔煙艇永懷、二〕。

【尹孝孫】98（インカウソン） 新羅、南原の人。字は有慶。號は楸溪。謚は文孝。經國大典五禮儀註の撰に與かり、又、成宗實錄を修す。左參贊に至る。〔人物考〕。

【尹更始】99（インカウシ） 漢、汝南の人。字は翁君。穀梁春秋に通ず。官は諫大夫。〔前漢書、八十八〕。

【尹耕雲】100（インカウウン） 清、江蘇桃源の人。字は瞻甫。號は杏農・心白日齋。道光の進士。官は河陝汝道。著に奏議・心白日齋集・大學緖言・周易輯說・豫軍記略がある。〔續碑傳集、三十七〕・〔淸史稿、四百二十九〕・〔淸史列傳、七十六〕。

【尹起莘】101（インキシン） 宋、遂昌の人。字は耕道。學問該博、隱居して仕へず。著に資治通鑑綱目發明がある。〔南宋書、六十三〕。

【尹吉甫】102（インキツポ） 周、房陵の人。宣王の賢臣。宣王が中興し、尹吉甫に命じて玁狁を北伐せしめた時、之を太原に逐うて歸る。〔史記、四〕。

【尹玉羽】103（インギヨクウ） 後晉、長安の人。號は自然先生。梁の末帝の時、雍汴滑兗從事に歷任す。唐の末帝の時、光祿少卿を拜命す。後晉の高祖が洛に入るや、少府監を授けられて致仕す。著に武庫集がある。〔舊五代史、九十三〕。

【尹和靖】104（インクワセイ） 宋の尹焞をいふ。和靖は其の號。尹焞(76)を見よ。

【尹會一】105（インクワイイツ） 清、博野の人。字は元孚。號は健餘。雍正の進士。官は吏部侍郞。著に君鑑・臣鑑・士鑑・女鑑・增訂洛學編・小學纂注・近思錄集解・撫豫條教・詩文集・從宜錄・讀書筆記・語錄・講習錄・呂語擇粹・尹氏家譜・賢母年譜がある。〔淸史稿、三百十四〕・〔國朝先正事略、十五〕・〔碑傳集、二十九〕。

【尹卿筆】106（インケイヒツ） 唐の尹思貞の峻嚴な文筆をいふ。尹思貞(120)の㊀を見よ。〔唐書、尹思貞傳〕吏爲語曰、不レ畏二侯卿杖一、祇畏二尹卿筆一。

【尹繼先】107（インケイセン） 明、臨洮の人。成化中、南都に遊ぶ。亂髮髯鬠、時人、尹蓬頭と呼ぶ。自ら年三百十餘歲といひ、而も容色は處子の如くであつた。劉瑾が政を竊むや、之を譏つて、關右に戍せられ、鐵鶴歡を過ぎ、土を掘つて鐵鶴を得、之に跨がつて飛び去る。〔名山藏方外記〕。

【尹繼善】108（インケイゼン） 清、滿洲鑲黃旗人。姓は章佳氏。尹泰の子。字は元長。號は望山。謚は文端。雍正の進士。三禮・綱目・國史三館の總裁を歷、文華殿大學士に累官す。一度雲貴、三度川陝、四度兩江を督す。〔淸史稿、三百十三〕・〔國朝先

正事略、十〕・〔碑傳集、二十八〕。

【尹繼倫】109（インケイリン） 宋、浚儀の人。太祖の時、官は殿直。太宗が卽位するや、北面緣邊郡巡檢使に充てらる。端拱中、遼兵を敗る。繼倫は面が黑かつたので、遼兵は之を黑面大王と稱して恐れた。後、靈慶兵馬副都部署に累遷す。〔宋史、二百七十五〕・〔宋史新編、七十八〕。

【尹謙孫】110（インケンソン） 宋、茶陵の人。字は希呂、又、虛心。親に事へて至孝。詩文に巧。〔尙友錄、十五〕。

【尹元凱】111（インゲンガイ） 唐、樂壽の人。文辭に巧。官は右補闕。富嘉謨・吳少微と倶に北京三傑と稱せらる。〔唐書、二百二〕・〔舊唐書、一百九十〕。

【尹元擧】112（インゲンキヨ） 朝鮮李朝、坡平の人。官は工曹佐郞。著に詩文集二卷がある。〔人物考〕。

【尹彦頤】113（インゲンイ） 高麗の人。諡は文康。官は政堂文學。晚年、佛法を好み、金剛居士と號す。〔高麗史〕。

【尹彦卿】114（インゲンケイ） 隋、式族の人。俊才の名あり。〔隋書、七十六〕。

【尹扈生】115（インコセイ） 宋、尹長生(134)を見よ。

【尹根壽】116（インコンジユ） 朝鮮李朝、海平の人。字は子固。號は月汀。諡は文貞。官は左贊成。著に四書吐釋・馬漢史抄・韓文質疑・松都志・朝天錄・朝京唱酬・詩文集がある。〔人物考〕。

【尹志述】117（インシジユツ） 朝鮮李朝、漆原の人。字は老彭。號は北汀。諡は忠愍。官は吏曹判書。〔續朝野輯要〕。

【尹志平】118（インシヘイ） 元、中興の人。丘處機の弟子。處機の卒後、世〻璽書を奉じて道教を掌る。武宗の時、金印を賜はる。〔元史、二百二〕。

【尹芝僊】119（インシセン） 淸、浙江山陰の人。本名は曄。字は爾弢。彈琴を善くす。明の崇禎の間、武英殿中書舍人となり、號を芝僊と賜ふ。著に徽言祕旨がある。〔國朝耆獻類徵、四百七十〕。

【尹思貞】120（インシテイ） ❶唐、長安の人。諡は簡。官は工部尙書。高宗に仕へて玄宗に至り、十三郡の刺史となる。淸廉を以て聞ゆ。〔唐書、一百二十八〕・〔舊唐書、一百〕。❷唐、天水の人。字は季弱。春秋に精通す。官は國子大成・四門助教。著に諸經義樞・續史記がある。〔唐書、二百〕。

【尹師魯】121（インシロ） 宋の尹洙をいふ。師魯は其の字。尹洙(46)を見よ。

【尹侍講】122（インジカウ） 宋の尹焞をいふ。欽宗の時、崇政殿說書兼侍講となつたからいふ。尹焞(76)を見よ。

【尹昌隆】123（インシヤウリユウ） 明、泰和の人。字は彦謙。洪武の進士。官は翰林院修撰・監察御史。建文の時、尙書呂震に忤らつて下獄す。〔明史、一百六十二〕・〔萬斯同明史、一百八十八〕・〔明史稿、一百三十七〕。

【尹順之】124（インジユンシ） 朝鮮李朝、海平の人。字は樂天。號は涬溟。官は刑曹參議。〔人物考〕。

【尹如翁】125（インジヨヲウ） 明、大冶の人。賀逢聖の門人。獻忠の亂に慷慨して死す。〔明史、二百六十四〕。

【尹崇珂】126（インスウカ） 宋、天水の人。初、周の世宗に事へ、累遷して殿前都指揮となる。宋初、淄州刺史を拜命し、後、保信軍節度使に陞進す。〔宋史、二百五十九〕・〔宋史新編、七十〕・〔北宋經撫年表、十七〕。

【尹正卿】127（インセイケイ） 隋、式族の人。俊才を以て世に顯はる。〔隋書、七十六〕。

【尹紹宗】128（インセウソウ） 高麗末、李朝初期、茂松縣の人。字は憲叔。高麗の恭愍王の朝に、登第して春秋修撰を拜命し、左正言に累官し、成均司藝に陞進す。辛昌が卽位するや、典理摠郞に擢んでられ、次いで成均大司成を拜命す。恭讓王の朝に、左常侍・禮曹判書に累遷す。李朝成るや、兵曹典書兼同知春秋館事を拜命す。著に桐軒集がある。〔高麗史、一百二十〕・〔李朝太祖實錄、四〕。

【尹宣擧】129（インセンキヨ） 朝鮮李朝、坡平の人。字は吉甫。號は美村。諡は文敬。官は司業尙衣正。元子講學館。著に疊天圖・家禮源流・文集十五卷がある。〔人物考〕。

【尹宣佐】130（インセンサ） 高麗、坡平の人。字は淳叟。官は僉議評理藝文館大提學監春秋館事。〔高麗史〕。

【尹善道】131（インゼンダウ） 朝鮮李朝、海南の人。字は約而。號は孤山。諡は忠憲。官は侍講院文學。〔人物考〕。

【尹卓然】132（インタクゼン） 朝鮮李朝、漆原の人。字は尙中。號は重湖。諡は憲敏。官は本道都巡察使。〔人物考〕。

【尹知章】133（インチシヤウ） 唐、絳州の人。武后の時、定王府文學に擢んでられ、出でて陸渾令となる。後、張說の推薦によつて國子博士に陞進す。〔唐書、一百九十九〕・〔舊唐書、一百八十九下〕。

【尹長生】134（インチヤウセイ） 宋の人。一に扈生に作る。人物故實畫に巧。

【尹廷高】135（インテイカウ） 元、遂昌の人。字は仲明。號は六峯。玉井峯樵。嘗て永嘉の教職を掌る。著に玉井樵唱がある。〔元詩紀事、六〕。

【尹天民】136（インテンミン） 宋、會昌の人。字は先覺。官は太學博士。〔南宋書、六十五〕。

【尹斗壽】137（イントジユ） 李朝、海平の人。字は子仰。號は梧陰。明宗の十年、生員の首席となり、十三年、文科に登第。宣祖の十二年、東人黨に排斥せられて職を奪はれたが、壬辰の役が起るや、大司憲に起用せられた。弟の根壽・甥の晛と共に三尹と稱せらる。著に平壤志がある。〔燃藜室記述、十九〕。

【尹德熙】138（イントクキ） 朝鮮李朝、海平の人。字は敬伯。號は駱西。一に蓮圃といひ、又、蓮翁といふ。官は都事。書畫を善くし、尤も畫馬畫仙に長ず。〔號譜〕。

【尹德禧】139（イントクキ） 淸、鑲黃旗包衣人。初名は色喀通額。乾隆の間、伊犂及び金川を征するに隨ひ、鳳凰廳苗、及び臺灣の林爽文の餘黨を平定し、功を以て湖南提督に陞進す。〔淸史稿、三百四十二〕・〔淸史列傳、二十五〕・〔國朝耆獻類徵、二百九十二〕。

【尹文擧】140（インブンキヨ） 朝鮮李朝、坡平の人。字は汝望。號は石湖。諡は忠敬。官は大司憲。性寬にして制あり、家に處るに四禮を讀み、衣冠几案を亂さず。世に宰相の器と稱せられた。〔人物考〕。

【尹蓬頭】141（インホウトウ） 明、尹繼先(107)の綽號。

【尹夢鼇】142（インボウガウ） 明、太和の人。崇禎中、官は潁州の長官。流賊と戰ひ、烏龍潭に投じて死す。〔明史、二百九十二〕・〔萬斯同明史、三百七十八〕・〔明史稿、二百七十二〕。

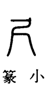
【尹夢龍】143（インボウリヨウ） 元、中興の人。孝子。孝經千餘卷を手書し、鄉人に與へて讀ませた。〔元史、一百九十七〕。

【尹民興】144（インミンコウ） 明の人。字は宣子。崇禎の進士。寧國・涇縣に歷知し、尋いで職方郞中に擢んでられた。福王の時、義兵を起し、唐王の時、御史となる。〔明史、二百七十七〕・〔明史稿、二百五十八〕。

【尹良佐】145（インリヤウサ） 明、漢川の人。字は志伊。隆慶の進士。龍川知縣となり、後、御史となる。河東巡按。

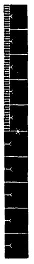
【尺】7632

セキ　シヤク　〔集韻〕昌石切　陌　ㄔˇ　chʻih³　ㄔㄜˇ　chʻê³



❶**しやく**。長さの單位。十寸。〔說文〕尺、十寸也、人手卻㆓十分㆒動脈、爲㆓寸口㆒、十寸爲㆑尺、尺、所㆔㠯指㆓尺規榘事㆒也、从㆑尸从㆑乙、乙、所㆑識也、周制、寸・尺・咫・尋・常・仞諸度量、皆㠯㆓人之體㆒爲㆑法。〔段注〕指尺、當㆑作㆓指斥㆒、聲之誤也、指斥猶㆓標目㆒也、用㆓規榘㆒之事、非㆑尺不㆑足㆔以爲㆓程度㆒。〔禮、王制〕古者以㆓周尺八尺㆒爲㆑步。〔注〕周尺之數、未㆓詳聞㆒也、按㆓禮制㆒、周猶以㆓十寸㆒爲㆑尺。〔疏〕正義曰、古者八寸爲㆑尺。〔論語、泰伯〕可㆔以託㆓六尺之孤㆒。〔劉寶楠正義〕六尺之孤、以㆓古六寸㆒爲㆑尺計㆑之、當㆓今三尺六寸㆒。〔淮南子、道應訓〕終日行不㆑離㆓咫尺㆒。〔注〕十寸爲㆑尺。〔獨斷、上〕夏以㆓十寸㆒爲㆑尺、殷以㆓九寸㆒爲㆑尺、周以㆓八寸㆒爲㆑尺。〔通鑑外紀〕禹十寸爲㆑尺、湯十二寸爲㆑尺、武王八寸爲㆑尺。❷**脈經の一部位**。みやくどころ。手首の脈處(寸)から十寸を拓いた肘の脈處。尺澤(58)の❷・尺脈(88)を見よ。

〔脈經〕從二魚際一至二高骨一一寸、其中名曰二寸口一、從レ寸至レ尺、名曰二尺澤一、故曰二尺寸一、寸後尺前、名曰レ關。㊂**ちひさい。わづか。**〔宋玉、對二楚王問一〕尺澤之鯢。〔注〕善曰、尺澤、言レ小也。〔韓愈、應二科目一時與レ人書〕其不レ及レ水、蓋尋常尺寸之間耳。㊃**さし。ものさし。**〔邢邵、文宣帝謚議〕把レ尺持レ刀。〔杜甫、秋興詩〕褰衣處處催二刀尺一。㊄**のり。**法度。〔金史、文藝傳〕文有二繩尺一。㊅**ながさ。たけ。**〔陳書、後主紀〕布帛幅尺、短狹輕疎。㊆**年齡二歲半。**〔周禮、地官、鄉大夫、以二歲時一登二其夫家之衆一、疏〕六尺、謂二年十五一。〔琅琊代醉編、尺〕仲尼之門、五尺童子羞レ稱二五霸一、古以二二歲半一爲二一尺一、言二五尺一、是十二歲以上。㊇**宋代、尺を樂譜の一記號として用ひ、林鐘の音を表はす。**〔宋史、樂志十七〕林鐘用二尺字一。㊈**てがみ。**尺素。尺牘。〔韓駒、送二苑叔器一詩〕欲下憑二書尺一問中寒溫上。㊉**けいさん。かみおさへ。**文鎭。〔遵生八牋、燕閒清賞牋〕有二玉碾雙螭尺一。



晉尺（金石索）

解字　指事。尸に從ひ、乙に從ふ。寸・尺・咫・尋・常等の度量は皆、人體を以て法としたもので、尺は尸（人）と乙とを合す。乙は其の處を識す。寸は十分とし、十寸を尺といふ。徐灝の說に據れば、𡰥（尺）に於ける乀は曲げた肱の象形で之を𠆢（人）の橫態なる尸に加へて動脈より肘までの距離を表さしめ、之に寸（手頸より動脈まで）の距離の十倍の長さを意味せしめたものといふ。〔說文、尺、段注〕人手卻二一寸一動䘑、謂二之寸口一、云云、凡寸之度、取二象於此一、十二其長一、是爲レ尺。〔說文通訓定聲〕尺、十寸也、人手卻二十分一動脈、爲二寸口一、十寸爲レ尺、尺、所三以指二斥規矩事一也、从レ尸从レ乙、乙所レ識也、指事。

【尺鷃】1 セキアン　澤中の小鳥。小雀をいふ。鷃は鴳、ふなしうづら。尺は小、又、斥と通じて、澤の意。斥鷃（**5－13535**··1）に同じ。〔晉書、阮修傳〕鷽鳩仰笑、尺鷃所レ輕、超世高逝、莫レ知二其情一。〔梁昭明太子、七契〕欲レ抑則大鵬垂レ翅、欲レ抗則尺鷃沖レ天。〔陸龜蒙、孤雁詩〕漆園逍遙篇、中亦載二尺鷃一。

【尺一】2 セキイツ　詔書をいふ。漢代、詔書を寫すに一尺一寸の木版を用ひたからいふ。〔漢書、匈奴傳上〕漢遺二單于書一以二尺一牘一。〔後漢書、李雲傳〕尺一拜用、不レ經二御省一。〔注〕尺一之板、謂二詔策一也、見二漢官儀一。〔書言故事、人君類〕天子詔曰二尺一一。

【尺一束】3 セキイツノカン　尺一に同じ。束は簡に同じ。〔事物異名錄、政治、詔令〕山堂肆考、漢制、詔書一尺一寸高、蘇東坡云、尺一束呼レ我歸。

【尺一簡】4 セキイツノカン　尺一に同じ。簡は竹版。〔篆隸文體〕鶴頭書與二偃波書一、倶詔板所レ用、在レ漢謂二之尺一簡一、彷二彿鵠頭一、故有二其稱一。

【尺一之書】5 セキイツノシヨ　尺一に同じ。〔徐陵、報二尹義尚一書〕所下以降二尺一之書一、馳中輶軒之使上。

【尺一之符】6 セキイツノフ　尺一に同じ。〔日本外史、源氏前記、平氏〕是故有レ事則下二尺一之符一、數十萬兵立具。

【尺一詔書】7 セキイツノセウシヨ　尺一に同じ。〔魏志、夏侯尙傳〕先レ是有三詐作二尺一詔書一。〔宋書、良吏傳論〕勸レ賞威レ刑、事多二專斷一、尺一詔書、希レ經二邦邑一。

【尺一選擧】8 セキイツセンキヨ　詔書によつてえらびあげる。尺一は、一尺一寸の板で、詔書を寫すもの。〔後漢書、陳蕃傳〕陛下宜下採二求失得一、云云、尺一選擧、委中尙書三公上。〔注〕尺一、謂三板長尺一、以寫二詔書一也。〔王先謙集解〕惠棟曰、摯虞決疑要注、尙書召下王公及位班二王公一者上、皆用二尺一一。

【尺函】9 セキカン　手紙。〔福惠全書、稟啓附、復二濟南金太尊一〕先誌隆施二于雀躍一、尺函遠錫。

【尺翰】10 セキカン　てがみ。尺簡。尺書。尺牘。〔陳書、蔡景歷傳〕尺翰馳而聊城下、清談奮而贏軍却。

【尺簡】11 セキカン　てがみ。尺牘。書札。〔南史、徐勉傳〕雖三寫以二尺簡一、而終闕二平奏一。〔唐書、藝文志序〕安祿山之亂、尺簡不レ藏。

【尺晷】12 セキキ　わづかの日影。〔宋史、朱台符傳〕台符與二同輩一課試、以二尺晷一成二一賦一。

【尺許】13 セキキヨ　一尺ばかり。〔賴山陽、高山彥九郎傳〕乃擪レ刀深入尺許、卽死。

【尺玉】14 セキギヨク　㊀徑一尺ほどの大きい玉、貴い玉をいふ。〔尹文子、大道上〕魏田父有下耕二於野一者上、得二寶玉徑尺一、弗レ知二其玉一也。〔曹植、望思表〕寒者不レ貪二尺玉一而思二短褐一、飢者不レ願二千金一而美二一餐一。〔庾信、謝二滕王集序一啓〕故知假二人延譽一、重二于連城一、借二人羽毛一、榮二于尺玉一。㊁シヤクダマ　直徑一尺ほどの大仕掛の花火。

【尺錦】15 セキキン　少しの錦のきれ。文章の立派ではあるが短い喩。〔梁書、劉孝綽傳〕近雖レ預レ觀二尺錦一、而不レ覩二全玉一。

【尺郭】16 セキクワク　一名、食邪、身長七丈、鬼を飯とし、露を漿としたといふ。〔神異經、東南荒經〕東南方有レ人焉、周二行天下一、身長七丈、腹圍如二其長一、云云、以レ鬼爲レ飯、以レ露爲レ漿、名曰二尺郭一、一名食邪。

【尺蠖】17 セキクワク セキワク　しやくとり蟲。蚇蠖。尺蠖之屈以求レ信也を見よ。〔說文〕蠖、尺蠖、詘申蟲也。〔爾雅、釋蟲、蚇蠖、郝懿行義疏〕其行先屈後申、如二人布レ手知レ尺之狀一、故名二尺蠖一、今作レ蚇、非。〔張協、七命〕焦螟飛而生レ風、尺蠖動而成レ響。〔支遁、詠二利城山居一詩〕跡從二尺蠖一屈、道與二騰龍一伸。

【尺蠖之屈以求信也】18 セキクワクノクツスルハモツテノビンコトヲモトムルナリ　しやくとり蟲の屈むのは、後に伸びんとする爲である。他日の成功を期する爲、暫く身を屈する喩。信は伸。〔易、繫辭下〕尺蠖之屈、以求レ信也、龍蛇之蟄、以存レ身也。〔疏〕尺蠖之蟲、初行必屈者、欲レ求二在後之信一也、言二信必須レ屈、屈以求レ信、是相須一也。〔南齊書、孔稚珪傳〕且我以レ權取レ貴、得二我略行一、何嫌二其恥一、所謂尺蠖之屈、以求レ信也。

【尺蠖食黃則其身黃】19 セキクワククワウヲハメバスナハチソノミクワウナリ　しやくとり蟲は黃色の葉を食ふと、その身も黃色になる。生物の形色は其の養はれるものに本づくことをいふ。〔晏子、不合經術者〕尺蠖食レ黃身黃、食レ蒼身蒼。〔說苑、君道〕夫尺蠖食レ黃則其身黃、食レ蒼則其身蒼。

【尺蘖】20 セキゲツ　僅かにのびた芽ばえ。〔新論、韜光〕餘有下尺蘖而爲二行人所レ折者上、非二與レ人有レ仇也。

【尺縑】21 セキケン　わづかのきぬ。〔舊唐書、陸贄傳〕委二棄服御一之外、無二尺縑丈帛一。〔宋史、食貨志上二〕尺縑斗粟、未レ聞レ有レ所二增益一。

【尺五】22 セキゴ　㊀一尺五寸の略。極めて近い喩。〔辛氏三秦記〕城南韋杜、去レ天尺五。〔杜甫、贈二韋七贊善一詩〕爾家最近二魁三象一、時論同歸二尺五天一。〔戴良、秋夜雨詩〕我願下掃二開萬里雲一、日月光明天尺五上。㊁松永遐年の號。松永尺五（**6－14516**··353）を見よ。

【尺五堂】23 セキゴダウ　清、嚴我斯（**2－4589**··272）の室名。

【尺口】24 セキコウ　幼兒。〔資治通鑑、漢紀〕獻帝初平元年、殺二太傅袁隗・太僕袁基、及其家尺口以上五十餘人一。〔注〕尺口、謂二嬰孩一也。

【尺縠】25 セキコク　僅かのうすぎぬ。〔戰國、齊策〕王斗曰、王之憂レ國愛レ民、不レ若三王愛二尺縠一也。

【尺骨】26 セキコツ　前膊の內側にある骨。上膊骨と橈骨とを聯接する。昔、尺度の標準にしたといふ。しやくこつ。

【尺莊】27 セキサウ　清、杜煦（**6－14477**··74）の號。

【尺子】28 chʻih³ tzŭ　秤の一種。たかはかり。

【尺紙】29 セキシ　一尺ほどの紙。轉じて、手紙の稱。尺楮。尺簡。〔宋書、自序〕聊因二尺紙一、使三卿等具知二厥心一。〔崖下放言〕碧紗窗下啓二緘封一、尺紙從レ頭徹レ尾空。

【尺紙之議】30 セキシノギ　短い論議。〔曾鞏、與二孫司封一書〕其亦何惜二須臾之聽、尺紙之議一。

【尺二】31 セキジ シヤクニ　一尺二寸。〔史記、匈奴傳〕中行說令三單于遺二漢書一、以二尺二寸牘一。〔晉書、五行志中〕童謠曰、洛中大鼠長尺二、若不二早去一大狗至。〔文心雕龍、檄移〕張儀檄レ楚、書以二尺二一、明白之文、或稱二露布一。

【尺二冤家】32 セキジノエンカ　一尺二寸の紙軸をいふ。冤家は仇。後周の楊凝式が多數の人々から揮毫を依賴せられ、其の紙軸の堆積せるを見て、此が仇だと歎じた故事。〔清異錄、文用、尺二冤家〕少師楊凝式書畫獨步、一時求レ字者、紙軸堆

疊若二墻壁一、少師見、則浩歎曰、無レ奈二許多債主一、眞尺二冤家一也。

〖尺二秀才〗33（セキジノシウサイ） 俗字を書く者を譏る語。俗つぽい秀才。宋の楊萬里が湖南で試驗官だつた時、盡を、俗字の尽に書いた秀才を尺二の秀才といつて、黜けて及第せしめなかつた故事。〔履齋示兒編、聲畫押韻貴二乎審一〕初誠齋先生楊公、考二校湖南漕試一、同寮有下取二易義一爲上魁、先生見下卷子上書二盡字一作上尽、必欲二擯斥一、考官乃上、庠人力爭不レ可、先生云、明日揭レ牓、有四喧傳以爲三場屋取二得箇尺二秀才一、則吾輩將二胡顏一、竟黜レ之。

【尺書】34（セキショ） ❶てがみ。短い文書。尺牘。尺翰。〔應璩、百一詩〕筐篋無二尺書一。〔杜甫、臨邑舍弟書至云云詩〕尺書前日至、版築不二時操一。〔岑參、虢州酬二辛侍御見レ贈詩〕相思難レ見レ面、時展二尺書一看。❷書物。簡冊。〔論衡、書解〕秦雖二無道一、不レ燔二諸子一、諸子尺書、文篇具在。

【尺進】35（セキシン） 一尺進むこと。わづかばかり進むこと。〔柳宗元、懲咎賦〕尺進而尋退兮、盪二洄汨乎淪漣一。

【尺薪】36（セキシン） わづかの薪。尺燼。〔李白、送三魯郡劉長史遷二弘農長史一詩〕白玉換二斗粟一、黃金買二尺薪一。

【尺刃】37（セキジン） 一尺ばかりの刃物。短い刃物。寸鐵。〔溫子昇、爲二魏主一答二齊神武敕一文〕不レ勞二尺刃一、坐爲二天子一。

【尺燼】38（セキジン） 少しの薪。燼は薪。尺薪。〔張協、雜詩〕尺燼重二尋桂一、紅粒貴二瑤瓊一。〔注〕良曰、燼、薪也。

【尺水】39（セキスイ） わづかの水。〔竇臮、述書賦〕猶下尺水之含二衆象一、小山之擬中萬仞上。〔柳宗元、答問〕蝦與レ蛭不レ離二尺水一。〔宋史、洪邁傳〕底平檣浮、雖二尺水一可レ運。

【尺棰】40（セキスイ） 一尺の杖。〔江淹、雜體、孫延尉雜述詩〕靜觀二尺棰義一、理足未二嘗少一。〔注〕濟曰、棰、杖也。

【尺寸】41（セキスン・シヤクスン） ❶一尺や一寸の義。面積・長短・距離・功績等、すべて物事の僅少の意に用ふ。些少。僅少。〔國語、周語下〕夫目之察度也、不レ過二步武尺寸之閒一。〔史記、項羽紀贊〕羽非レ有二尺寸一、乘レ勢起二隴畝之中一。〔漢書、霍光傳〕不レ失二尺寸一。〔後漢書、鄧禹傳〕禹得レ効二其尺寸一、垂二功名於竹帛一。❷寸法。度量衡の一。〔管子、七法〕尺寸也、繩墨也、規矩也、衡石也、斗斛也、角量也、謂二之法一。❸のり。法度。〔道德指歸論、四、知者不レ言〕是故我身者彼身之尺寸也、我家者彼家之衡權也。❹尺脈と寸脈をいふ。〔靈樞經、終始篇〕少氣者、脈口人迎俱少、而不レ稱二尺寸一也。

〖尺寸之效〗42（セキスンノカウ） 尺寸之功に同じ。〔漢書、孔光傳〕臣以二朽材一前比歷レ位、典二大職一、卒無二尺寸之效一。

〖尺寸之功〗43（セキスンノコウ） 少しばかりの手柄。〔戰國、燕策上〕夫民勞而實費、又無二尺寸之功一。〔史記、淮陰侯傳〕一日數戰、無二尺寸之功一。〔漢書、王商傳〕今商無二尺寸之功一、而有二三世之寵一。〔蜀志、諸葛亮傳〕士大夫隨二大王一、久勤苦者、亦欲レ望二尺寸之功一、如二純言一耳。

〖尺寸之地〗44（セキスンノチ） 少しの土地。尺地。〔史記、主父偃傳〕然不レ能三西攘二尺寸之地一。〔韓愈、張中丞傳後序〕遠誠畏レ死、何苦守二尺寸之地一、食二其所レ愛之肉一、以與レ賊抗而不レ降乎。

〖尺寸之膚〗45（セキスンノフ） 少しばかりの皮膚。皮膚の一小部分。〔孟子、告子上〕無二尺寸之膚不一レ愛焉、則無二尺寸之膚不一レ養也。〔注〕人之所レ愛則養二之於身一也、一尺一寸之膚、養相及也。

〖尺寸之兵〗46（セキスンノヘイ） 短い兵器。〔戰國、燕策下〕秦法、群臣侍二殿上一者、不レ得レ持二尺寸之兵一。

〖尺寸之柄〗47（セキスンノヘイ） わづかの權力。〔史記、魏豹彭越傳贊〕得レ攝二尺寸之柄一、其雲蒸龍變、欲レ有レ所レ會二其度一、以レ故幽囚而不レ辭云。

〖尺寸之封〗48（セキスンノホウ） わづかの封土。尺土之封。〔曹冏、六代論〕子弟無二尺寸之封一、功臣無二立錐之土一。

〖尺寸千里〗49（セキスンセンリ） 千里の遠景を目前尺寸の間にちぢめて見ること。〔柳宗元、始得二西山一宴遊記〕其高下之勢、岈然洼然、若レ垤若レ穴、尺寸千里、攢蹙累積、莫レ得二遯隱一。

【尺籍】50（セキセキ） ❶軍隊の命令を記す一尺四方の板。一說に、吏卒の斬首の功を記した一尺の板。尺籍伍符を見よ。〔史記、循吏、子產傳〕五年、士無二尺籍一、喪期不レ令而治。〔注〕正義曰、言三士民無二一尺方板之籍書一。❷つまらない書物。〔論衡、謝短〕漢事未レ載二於經一、名爲二尺籍短書一、比二於小道一。

〖尺籍伍符〗51（セキセキゴフ） 軍の命令を記した板籍で、五人組の軍士が各〻符信とするもの。一說に、斬首の功を記した一尺の板と、軍伍の符信。〔史記、馮唐傳〕安知二尺籍伍符一。〔注〕集解曰、如淳曰、漢軍法曰、吏卒斬レ首、以二尺籍書一下レ縣移レ郡、令二人故行一、不レ行奪レ勞二歲、伍符亦什五之符、約二節度一也、或曰、以二尺簡一書、故曰二尺籍一也、索隱曰、按、尺籍者、謂レ書二其斬首之功於一尺之板一、伍符者、命二軍人一伍伍相保、不レ容二奸詐一也、故行不レ行、謂二故命人行一、而身不二自行一、奪レ勞二歲也、故與レ雇同。〔漢書、馮唐傳〕安知二尺籍伍符一。〔注〕李奇曰、尺籍、所三以書二軍命一、伍符、軍士五五相保之符信也。〔李衞公問對、中〕漢制有二尺籍伍符一。

【尺雪】52（セキセツ） 一尺つもつた雪。大雪。〔左氏、隱九〕平地尺爲二大雪一。〔晉書、陸機傳〕大風折レ木、平地尺雪。〔杜甫、後苦寒行〕太古已來無二尺雪一。

【尺素】53（セキソ） てがみ。尺牘。素は帛。昔、手紙は帛に書いたからいふ。〔古詩、飮馬長城窟行〕客從二遠方一來、遺二我雙鯉魚一、呼レ童烹二鯉魚一、中有二尺素書一。〔注〕善曰、鄭玄禮記注曰、素、生帛也、向曰、尺素、絹也、古人爲レ書、多書二於絹一。〔陸機、文賦〕函二緜邈於尺素一、吐二滂沛乎寸心一。〔注〕良曰、素、帛也、古人用以書也。〔韋應物、南池宴二錢子辛一賦二得科斗一詩〕且願充二文字一、登レ君尺素書。〔書言故事、書翰類〕書翰曰二尺素一。

〖尺素往來〗54（セキソワウライ） 書名。二卷。藤原兼良撰。寬文年間の刊行。小朝拜から歲暮に至る六十條の諸文句を輯載す。

【尺組】55（セキソ） 役人の腰に帶びる短いくみひも。〔王維、偶然作詩〕讀レ書三十年、腰下無二尺組一。〔錢起、酬二員外見レ贈詩〕上林諫レ獵知二才薄一、尺組承レ恩愧二命牽一。

【尺刀】56（セキタウ） 短い刃物。短刀。〔漢書、李陵傳〕軍吏持二尺刀一、抵レ山入二陿谷一。

【尺宅】57（セキタク） ❶顏面。眉・目・鼻・口の存する一尺四方ばかりの所であるからいふ。〔太上黃庭內景玉經、瓊室〕寸田尺宅可レ治レ生。〔注〕經云、寸田尺宅、彼尺寸、謂二是面一也。❷明、趙宧光（**10－37171**‥392´）の號。

【尺澤】58（セキタク） ❶小さい池。尺澤之鯢を見よ。❷脈經の一部位で、肺脈の氣に當る。尺脈（88）に同じ。〔素問、至眞要大論〕尺澤絕、死不レ治。〔注〕尺澤在二肘內廉大文中一、動脈應レ手、肺之氣也。〔王叔和、脈經〕從二魚際一至二高骨一、卻行一寸、其中名二寸口一、其骨自高、從レ寸至レ尺、名曰二尺澤一。

〖尺澤之鯢〗59（セキタクノゲイ） 小さい池に棲む鯢。鯢はさんせううを。一說に、めだか。見る所のせまい喩。井底之蛙。〔宋玉、對二楚王問一〕鯤魚朝發二崑崙之墟一、暴二鬐於碣石一、暮宿二孟諸一、夫尺澤之鯢、豈能與レ之量二江海之大一哉。〔注〕善曰、尺澤、言レ小也。〔新序、雜事一〕夫尺澤之鯢、豈能與レ之量二江海之大一哉。

【尺地】60（セキチ） せまい土地。わづかの領分。寸土。尺土。尺寸之地。彈丸黑子之地。〔孟子、公孫丑上〕尺地莫レ非二其有一也、一民莫レ非二其民一也。〔漢書、主父偃傳〕雖二骨肉一、無二尺地之封一。

【尺楮】61（セキチヨ） 手紙。尺書。尺牘。〔王邁、謝レ辟不レ就啓〕敬裁二尺楮一、往白二前茅一。

【尺鐵】62（セキテツ） 短い刃もの。短い兵器。尺寸之兵。尺兵。〔李陵、答二蘇武一書〕兵盡矢窮、人無二尺鐵一。

【尺牒】63（セキテフ） 手紙。尺書、尺牘。〔白居易、杜陵叟傷二農夫之困一也詩〕昨日里胥方到レ門、手持二尺牒一牓二鄕村一。

【尺椽】64（セキテン） 一尺のたるき。〔顏延之、北使レ洛詩〕伊瀔絕二津濟一、臺館無二尺椽一。〔唐書、劉晏傳〕見二戶纔千餘一、居無二尺椽一。〔趙彥昭、奉三和幸二長安故城未央宮一應制詩〕山河寸土盡、宮觀尺椽無。〔蘇轍、乞三誅二竄呂惠卿一狀〕尺椽寸土。

【尺土】65（セキド） すこしの土地。尺地。〔史記、主父偃傳〕陳涉無二千乘之尊・尺土之地一。〔漢書、異姓諸侯王表序〕亡二尺土之階一、繇二一劍之任一、五載而成二帝業一。

〖尺土之柄〗66（セキドノヘイ） 僅少の土地を治める權力。〔班固、東都賦〕不レ階二尺土一人之柄一。〔王安石、

孔子世家議〕棲二棲衰季之世一、無二尺土之柄一。

【尺土之封】67 セキドノホウ 僅少の封土。〔史記、李斯傳〕使丁秦無二尺土之封一、不丙立二子弟一爲レ王、功臣爲乙諸侯甲者、使三後無二戰攻之患一。〔李陵、答二蘇武一書〕無三尺土之封加二子之勤一。

【尺度】68 セキド シヤクド ❶ものさし。尺寸の定制。〔宋書、律志上〕始知下後漢至レ魏、尺度漸長二於古一四分有餘上。〔宋史、律曆志一〕周顯德中、王朴始依二周法一、以二秬黍一校二正尺度一。❷ながさ。寸法。〔六韜、龍韜、農器〕婦人織紝、有二尺度一。

【尺頭】69 chʻih^3 tʻou^2 たんもの。反物。

【尺頭兒】70 chʻin^3 tʻou^2 êrh 寸法。

【尺頭店】71 chʻih^3 tʻou^2 tien^4 絹物を商ふ店。吳服店。

【尺牘】72 セキトク 手紙をいふ。牘は方版で、古、長い者を簡といひ、短い者を牘といつた。書簡。尺素。尺翰。尺簡。尺楮。〔史記、倉公傳贊〕緹縈通二尺牘一、父得二以後寧一。〔漢書、游俠、陳遵傳〕贍二於文辭一、性善レ書、與二人尺牘一、主皆藏去以爲レ榮。〔後漢書、北海靖王傳〕作二草書尺牘十首一。〔魏志、張琦傳〕尺牘之迹、動見二模楷一焉。〔李嘉祐、早秋京口旅泊云云詩〕祇有二同時驄馬客一、本偏題二尺牘一問二窮愁一。〔通俗編、文學、尺牘〕按、牘、方版、古人長者稱レ簡、短者稱レ牘、凡筆迹文辭、皆得レ謂二之尺牘一云云、後人遂但以二箋書一當レ之。

【尺牘書疏千里面目】73 セキトクシヨソハセンリノメンボク 手紙の筆蹟の巧妙な者は千里の外まで面目を施す。書疏も手紙。〔顏氏家訓、雜藝〕江南諺云、尺牘書疏、千里面目也。

【尺波】74 セキハ 一尺の波。〔陸機、長歌行〕寸陰無レ停レ晷、尺波豈徒旋。〔劉峻、重答二劉秣陵沼一書〕雖二隙駟不レ留、尺波電謝一、而秋菊春蘭、英華靡レ絕。

【尺碼】75 chʻih^2 ma^3 寸法。尺度。

【尺帛】76 セキハク すこしのきぬ。〔戰國、趙策〕公子魏牟過レ趙、趙王迎レ之、顧反至レ坐、前有二尺帛一、且レ令二工以爲一レ冠。〔新書、匈奴〕請無三敢費二御府銖金尺帛一。〔後漢書、皇甫規傳〕方寸之印、尺帛之賜。〔戴叔倫、感懷詩〕尺帛無二長裁一、淺水無二長流一。

【尺八】77 シヤクハチ ❶一尺八寸。〔資治通鑑、秦紀〕(始皇帝二十五年)臣光曰、欲下以二尺八匕首一、强レ燕而弱上レ秦、不二亦愚一乎。❷樂器の名。笛の屬。簫管。管の長さが一尺八寸あるので此の名が起つた。但し、古の一尺八寸は今の一尺一・二寸、乃至四・五寸にあたる。古は竹・玉・石・象牙等の眞直な管を以て製し、歌口は斜に切り、指孔は六個で、其の律は洞簫に似てゐる。今日行はれるものは、明暗・琴古・都山の各流に於て幾分の相違はあるが、大同小異で、竹の根に近い部分を用ひ、五孔あり、竹管には七節のあるのが通例である。其の起源は、蓋し西部亞細亞の葦管であらう。此は指孔三個で、歌口は斜に切つてあり、バクトリアからカシユミールを經て印度に入り、竹管にかへられた。此の三孔の竹管は籥として最も古く中國に入つたが、後、印度で佛教樂器として用ひられ、五孔となつた。中國に入つた籥は、唐代、佛寺に於て盛に用ひられ、後、呂才が之を六孔に改め、雅樂の合奏に用ひようとしたが、此の改造型が、今日我が正倉院に保存せられてゐるものである。猶、鎌倉時代、法燈國師が宋から傳へて普化宗に用ひたものが、今日の尺八の基とせられてゐる。〔唐書、呂才傳〕貞觀時、祖孝孫增二損樂律一、太宗詔二侍臣、擧レ善レ音者一、王珪魏徵盛稱下才製二尺八凡十二枚一、長短不レ同、與レ律諧契上、卽召レ才、直二弘文館一。〔逸史〕明皇夢見三終南山回回院布施有二狂僧一、尋至二其院一、院有二老僧一曰、汝主昔在レ院、愛レ吹二尺八一、謫在二人間一、今限滿當レ歸、可下持二尺八一付上レ之、上得二尺八一吹レ之、如二先所レ習者一。〔文獻通考、樂考、竹之屬〕簫管・尺八管・中管・竪篴、簫管之制、六孔旁一孔加二竹膜一焉、足二黃鍾一均聲一、或謂二之尺八管一、或謂二之竪篴一、或謂二之中管一、尺八其長數也、後世宮縣用レ之、竪篴其植如レ篴也、中管居二長篴短篴之中一也、今民間謂二之簫管一、非二古之簫與一レ管也。〔倭名類聚抄、調度部、音樂具〕尺八、律書樂圖云、尺八爲二短笛一。〔箋注〕按、舊唐書音樂志云、短笛、脩尺有咫、蓋本二律書樂圖一也、然通典載二唐讌樂所レ用器一云、長笛一、尺八一、短笛一、唐書禮樂志同、尺八短笛兼擧、則其說似レ不レ同、又按、唐書呂才傳云、才製二尺八十二枚一、長短不レ同、與レ律諧契、則知二尺八呂才所一レ造、蓋古律黃鍾九寸、其音淸高、不下與二人聲一近上、故倍二黃鍾九寸一、爲二一尺八寸一、上生下生作二十二枚一也、今法隆寺藏二尺八一管一、其長今曲尺一尺四寸五分餘、卽唐小尺一尺八寸、當二是尺八黃鍾管一也、西大寺資財帳・東大寺寶物圖・源氏物語末摘花卷・續世繼內宴卷、及此所レ載皆是器、今世有二竪吹笛長今尺一尺八分者一、云二是尺八一、又呼二一節截一、後世不レ知二古尺八一者所レ作、又近日呼二尺八一者、其長恰中二今尺之度一、然造レ律用二小尺一見二唐令一、不レ宜下用二大尺一造上、況今尺譌二長於唐大尺一二三分許乎、皆非二古尺八一也。❸紙・絹・絖の幅、一尺八寸のもの。又、魚釣竿の繼ツギが一尺八寸仕立のもの。

【尺八腿】78 シヤクハチタイ 劉唐の字。水滸傳に赤髮鬼に作る。〔癸辛雜識〕龔聖與贊、尺八腿劉唐、將軍下短、貴稱二侯王一、汝豈非レ夫、腿尺八長。

【尺板】79 セキバン 朝見の時に執る一尺の手板。身分の卑い書記の持つもの。〔王僧孺、與二何炯一書〕久爲二尺板斗食之吏一、以從二皁衣黑綬之役一。

【尺布】80 セキフ 一尺の布。僅かばかりの布。〔墨子、魯問〕分二諸天下一、不レ能三人得二尺布一。〔後漢書、東夷、挹婁傳〕夏則裸袒、以二尺布一蔽二其前後一。〔李白、北上行〕尺布不レ掩レ體、皮膚劇二枯桑一。

【尺布斗粟之譏】81 セキフトソクノソシリ 兄弟不和のそしり。漢の文帝の弟、淮南王長が不軌を圖り、蜀に謫せられ絕食して死んだ。時人は歌を作つて、一尺の布、なほ縫ふべし、一斗の粟、なほ舂くべし、兄弟二人相容るること能はずと詠じ、兄弟たるものは、僅かばかりの布や粟をも分け合つて仲良くすべきなのに、文帝は天下全體を領有してゐるにも拘らず、弟に分け與へて和することが出來なかつたと、兄弟相容れざるを譏つた故事。〔史記、淮南厲王長傳〕民有レ作レ歌、歌二淮南厲王一曰、一尺布尚可レ縫、一斗粟尚可レ舂、兄弟二人不レ能二相容一。〔注〕集解曰、漢書音義曰、尺布斗粟、猶尚不レ棄、況於二兄弟一而更相逐乎、瓚曰、一尺布尚可二縫而共衣一、一斗粟尚可二舂而共食一也、況以二天下之廣一而不レ能二相容一。〔世說新語、方正〕武子曰、尺布斗粟之謠、常爲二陛下一恥レ之。〔釋常談〕兄弟不レ睦、謂三之有二尺布斗粟之事一。

【尺鳧】82 セキフ ❶影神の名。〔酉陽雜俎、廣知〕影神、一名右皇、二名魍魎、三名洩節樞、四名尺鳧、五名索關、六名魄奴、七名竈囧。❷淸、吳焯(錢塘の人)(**2**－**3365**‥219)の字。

【尺兵】83 セキヘイ 短い武器。尺鐵。尺寸兵。〔徐陵、爲二陳武帝一作レ相時與二嶺南酋豪一書〕獲二傳泰一不レ勞二於一箭一、擒二歐陽一無レ待二於尺兵一。〔唐書、食貨志一〕店有二驛驢一、行二千里一、不レ持二尺兵一。

【尺璧】84 セキヘキ 直徑一尺ある寶玉。貴重なたま。不レ貴二尺璧一重二寸陰一を見よ。〔袁宏、三國名臣序贊〕雖レ懷二尺璧一、顧哂二連城一。〔左思、魏都賦〕雖三明珠兼レ寸、尺璧有レ盈、曜レ車二六、三傾二五城一、未レ若二申錫典章之爲一レ遠也。

【不レ貴二尺璧一重二寸陰一】85 セキヘキヲタツトバズシテスンインヲオモンズ 聖人は直徑一尺もある貴重な璧よりも少しの時間を惜しむ。〔淮南子、原道訓〕聖人不レ貴二尺之璧一、而重二寸之陰一、時難レ得而易レ失也。〔魏文帝典論、論文〕古人賤二尺璧一而重二寸陰一。〔千字文〕尺璧非レ寶、寸陰是競。

【尺木】86 セキボク ❶直徑一尺の木。〔呂覽、擧難〕尺之木、必有二節目一、寸之玉、必有二瑕瓋一。❷龍の頭上にある博山の形をした物の名。此によつて天に昇るといふ。博山は彝器の上に刻して山の形とした飾。〔沈約、華陽先生登樓不二復下一贈呈詩〕側聞上士說、尺木乃騰レ霄。〔酉陽雜俎、鱗介篇〕龍頭上有二一物一、如二博山形一、名二尺木一、龍無二尺木一、不レ能レ昇レ天。❸字號。㋑淸、蕭雲從(**9**－**32012**‥293)の字。㋺淸、彭紹升(**4**－**10003**‥179)の號。

【尺木堂】87 セキボクダウ 明、馬權奇(**12**－**44572**‥762)の室名。

【尺脈】88 セキミヤク 手脈の一部分。手首の關節の後の一寸以內の部分。尺澤(58)の❷を見よ。〔素問、平人氣象論〕尺脈緩濇、謂二之解㑊一。〔注〕尺爲二陰部一。

【尺鯉】89 セキリ 長さ一尺の鯉。大鯉をいふ。〔淮南子、俶眞訓〕牛蹄之涔無二尺之鯉一、塊阜之山無二丈之材一。

【尺メ】90（シヤクジメ） 方一尺、長さ二間の材木の體積。

【得レ尺】91（セキヲウ） 僅かな土地を得る喩。〔史記、范雎傳〕王不レ如二遠交而近攻一、得レ寸則王之寸也、得レ尺亦王之尺也。

【尺取蟲】92（シヤクトリムシ） 尺蠖(17)の別名。

【尺呉寸楚】93（セキゴスンソ） 呉も楚も大國であるが、高所から見下せば小さく見えること。山上から山下を眺めて物の小さく見える形容。尺山寸水。〔袁宏道、由二天池一踰二含嶓嶺一至二三峽澗一記〕圓蒼所レ覆、目與之際、絲棼黍積、尺呉寸楚、少焉霧作、長風捲レ湖而來、心怖乃下。

【尺山寸水】94（セキザンスンスイ） 高處から見下して、物の小さく見える形容。尺呉寸楚を見よ。〔張問陶、詩〕曾向二華嚴頂上一來、尺山寸水皆能說。

【尺短寸長】95（セキタンスンチヤウ） 物は用ひ所によつて優劣のある喩。尺有レ所レ短寸有レ所レ長(100)に同じ。

【尺幅千里】96（セキフクセンリ） 畫の小幅中に遙かな遠景を收めてゐるのを指して言ふ語。繪を品評してほめるにもいふ。〔徐安貞、題二襄陽圖一詩〕圖書空咫尺、千里意悠悠。〔戴良、題三何監丞畫二山水一歌〕莫レ言短幅僅盈レ咫、遠勢固當レ論二萬里一。

【枉レ尺直レ尋】97（シヤクヲマゲテジンヲナホクス） 八尺を直くする爲には一尺を曲げることを厭はない。大のためには小を犧牲に供する喩。尋は八尺。〔孟子、滕文公下〕志曰、枉レ尺而直レ尋、宜若レ可レ爲也。〔集注〕枉、屈也、直、伸也、八尺曰レ尋、云云、猶二云云所レ屈者小、所レ伸者大一也。〔後漢書、張衡傳〕枉レ尺直レ尋、議者譏レ之、盈レ欲虧レ志、孰云レ非レ羞。〔趙岐、孟子題辭〕然由レ不三肯枉レ尺直レ尋、時君咸謂二之迂一闊於事一。

【尺表以度レ天】98（セキヘウモツテテンヲハカル） 一尺のものさしで天をはかる。小道に拘つて大道に暗い喩。〔孔叢子、荅問〕子立二尺表一以度レ天、植二寸指一以測レ淵。

【尺之木必有二節目一】99（シヤクノキカナラズセツモクアリ） 直徑一尺の木には必ず節目がある。物は完全を望むことの出來ない喩。〔呂覽、擧難〕尺之木必有二節目一、寸之玉必有二瑕瓋一、先王知二物之不一レ可レ不レ全也、故擇レ務而貴レ取レ一也。

【尺有レ所レ短寸有レ所レ長】100（シヤクモミジカシトスルトコロアリスンモナガシトスルトコロアリ） 賢者も事柄に由つては劣ることがあり、愚者も事柄に由つては優ることがある。物は用ひ所によつて優劣のある喩。尺短寸長。〔楚辭、卜居〕詹尹乃釋レ策而謝曰、夫尺有レ所レ短、寸有レ所レ長、物有レ所レ不レ定、智有レ所レ不レ明、數有レ所レ不レ逮、神有レ所レ不レ通。〔史記、白起王翦傳贊〕鄙語云、尺有レ所レ短、寸有レ所レ長、云云、彼各有レ所レ短也。

【尺蚓穿レ堤能漂二一邑一】101（セキインツツミヲウガチヨクイチイフヲタダヨハス） 僅かの長さのみみずが堤に穴を穿つた爲に、一邑が水に浸される。禍災は極めて小さな原因から起る喩。蟻の穴から堤が崩れる。〔新論、愼隟〕尺蚓穿レ堤、能漂二一邑一、寸煙泄レ突、致レ灰二千室一。

二畫

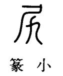
【戸】7633

ガツ

歹(**6―16359**)の古字。〔字彙〕戸、古文歹字。

【尻】7634

カウ コウ 〔集韻〕丘刀切 ㄎㄠ k'ao¹ 豪



小篆

❶**しり**。ゐしき。ゐさらひ。けつ。〔說文〕尻、脾也、从レ尸九聲。〔段注〕尻、今俗云二溝子一是也、脾、今俗云二屁股一是也、析言是二、統言是一。〔廣雅、釋親〕尻、臀也。〔玉篇〕尻、髖也。〔增韻〕尻、脊骨盡處。〔禮、內則〕兔去レ尻。〔莊子、達生〕加二汝肩尻乎彫俎之上一。❷**そこ**。根。〔楚辭、天問〕崑崙縣圃、其尻安在。〔岡松甕谷考〕尻、脊骨盡處謂レ尻、凡山必有レ託レ根、猶二人之尻一、胡謂二之尻一。❸**しりをする**。〔名山記〕昂レ首尻坐、作二伏獅狀一。❹或は𡰴(**4―7719**)・脁(**9―29403**)に作る。〔集韻〕尻、或从二尾省一、亦作レ脁。邦**しり**。㋑物事のなごり。㋺をはり。終極。

参考 尻は別字。〔字彙、辨似二字相似〕尻、古居字、下从二几席之几一。尻、考平聲、脊梁盡處。

【尻押】1（シリオシ） ❶うしろから助勢する。うしろだて。又、その人。❷陰でおだてる。裏面から煽動する。

【尻干】2（シリビ） 末の振はないこと。又、歌などで、結句の力の弱いこと。龍頭蛇尾。後干。〔源氏物語、梅枝〕しりびに、人わろき事ぞや。

【尻居】3（シリヰ） しりもち。〔古今著聞集、十〕しりゐにまろびぬ。

【尻火】4（シリビ） 風上の方へ燃え移る火。後火。

【尻輕】5（シリガル） ❶動作の活潑なこと。又、その人。尻重の對。❷浮氣な女。

【尻繫】6（シリガイ） 尻懸の音便。牛馬の尾から鞍にかける組緒。鞦。〔枕草子、九〕牛のしりがい。

【尻骨】7（カウコツ） 坐骨をいふ。

【尻坐】8（カウザ） うづくまり坐る。しりをすゑて坐る。蹲坐。〔名山記〕昂レ首尻坐、作二伏獅狀一、項湊二圓石一、如レ懸レ鈴、是爲二獅子峯一。

【尻子】9（カウシ） しり。〔新方言、釋形體〕今山西平陽蒲絳之閒謂レ臀曰二尻子一、四川亦謂レ臀爲二尻子一、音稍侈如レ鉤。

【尻刺】10（シリザシ） 遣戸の尻に刺して開かないやうにする具。〔賴政集、戀〕やり戸のしりざし。

【尻取】11（シリトリ） 二人以上の者が順次に前の人の言つた言葉の尻を取つて己の言葉の頭につけて言ひ合ふ遊戲。

『尻取文句』12（シリトリモンク） ことば尻を受取つていふ文句。

【尻拭】13（シリヌグヒ） 後始末をする事。

【尻鞘】14（シリザヤ） 太刀の鞘が雨露に濡れるのを防ぐため鞘につける袋。虎・豹・熊・鹿などの皮で作る。〔保元物語、新院御所各門門固事〕三尺五寸の太刀に、熊の皮の尻鞘入れ。

【尻切】15（シリキレ シリキリ） 後部の切れてゐること。又、物事の長つづきせぬことをたとへていふ。

『尻切草履』16（シリキレザウリ） ❶後の方の切れたやうに作つた草履。あしなか。つまかけ。〔今昔物語、二十〕履きたる足駄・尻切。❷後のやぶれてきれた草履。〔東海道名所記〕しりきれざうり片し履きて。

『尻切蜻蛉』17（シリキレトンボ） 尾の切れたとんぼ。物事の長續きしない性質の人をたとへていふ。

『尻切半纏』18（シリキリバンテン） 臀の上までしか屆かない丈ケの短い半纏。

【尻當】19（シリアテ） 臀部にあてるもの。單衣などの尻に當る所の裏につける切地。

【尻重】20（シリオモ） ❶赤痢病・白痢病などの古言。❷動作の不活潑なこと。又、その人。尻輕の對。

【尻挑】21（シリツパネ） 言葉の尻を上調子にいふこと。

【尻馬】22（シリウマ） うまのしりの方に乘るあひのり。轉じて、人の後について同じことをまねること。又、人の後につき、その力を借りて物事をするにいふ。〔長門本、平家物語、十九、土佐房夜討事〕我が身はしり馬に乘り。

【尻拔】23（シリヌケ） ❶物忘れをすること。又、その人。❷後始末のつかないこと。又、その人。

【尻尾】24（シリヲ） 禽獸などのしつぽ。

【尻舞】25（シリマヒ） 人の後について事をすること。〔源平盛衰記、三十七、守長捨レ主事〕尼公の尻舞して。

【尻餅】26（シリモチ） 後に倒れて尻を地につけること。〔一休咄、一〕尻餅ついて喜び給ふ。

【尻毛】27（シリゲ） 尻にはえた毛。

【尻目】28（シリメ） 瞳ばかり動かして、後方をみること。後目。〔源氏物語、夕顏〕尻目に見おこせて。

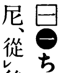
【尻輿】29（カウヨ） 尻を輿とすること。又、その輿。輿は車の、人や物を載せるところ。箱。自然が己の身體を化したなら、その化した所に從つて之を用ひるだけで、唯自然に從ふばかりであるといふことをいつた莊子の語に本づく。〔莊子、大宗師〕浸假而化二予之左臂一以爲レ雞、予因以求レ時夜、浸假而化二予之右臂一以爲レ彈、予因以求二鴞炙一、浸假而化二予之尻一以爲レ輪、以レ神爲レ馬、予因而乘レ之、豈更駕哉。〔蘇軾、贈二袁陟一詩〕不レ見袁夫子、神馬載二尻輿一。

【尻勞】30（シツカリ） 陸奧國の地名。

【尻籠】31（シコ） 矢を入れるものの總稱。矢壺。矢籠。〔庭訓往來、六月〕尻籠・鷹羽・雁俣。

【尼】7635

㊀ ヂ ニ 〔集韻〕女夷切 ㄋㄧˊ ni² 支
㊁ ヂツ ニチ 〔集韻〕尼質切 質
㊂ デイ ナイ 〔集韻〕乃禮切 薺
㊃ イ 〔集韻〕延知切 支


小篆

㊀❶ちかづく。ちかい。〔說文〕尼、從レ後近レ之、从レ尸匕聲。〔爾雅、釋詁〕卽、尼也。〔注〕尼者、近也、尸子曰、悅レ尼而來レ遠。❷やすんずる。〔廣雅、釋詁一〕尼、安也。❸いこふ。〔五音集韻〕尼、息也。❹やはらぐ。〔廣雅、釋詁三〕尼、和也。❺ただす。〔逸周書、文酌解〕三尼。〔注〕尼、是也。❻さだめる。〔爾雅、釋詁〕尼、定也。〔注〕尼者、止也、止亦定。❼あま。女僧。比丘尼。〔字彙〕尼、女僧。〔事物紀原、道釋科教部〕僧史略曰、漢明帝既聽二劉峻等出家一、又聽二洛陽婦女阿潘等出家一、此蓋中國有レ尼之始。❽蟲の名。〔孝經、開宗明義章〕仲尼居。〔釋文〕援神契云、蟲也。❾山名。尼山(15)の❶・尼丘(6)の略。〔後漢書、高獲傳〕爲レ人尼首方面。〔注〕尼首、首象二尼丘山一、中下四方高也。❿姓。〔萬姓統譜〕尼、見二姓苑一、尼江、中牟人、正德擧人。㊁❶ちかづく。通じて昵(5－13866)に作る。〔集韻〕昵、近也、通作レ尼。〔書、高宗肜日〕典祀無レ豐二於昵一、〔疏〕尼、與レ昵音義同。❷とどめる。〔孟子、梁惠王下〕行或レ使レ之、止或レ尼レ之。〔注〕尼、止也。㊂さだめる。〔集韻〕尼、爾雅、定也。㊃夷(3－5852)に同じ。〔集韻〕夷、或作レ尼。

【尼媼】1 あま。女僧。媼はをんな。婦人の稱。〔南史、宋武帝諸子、南郡王義宣傳〕多蓄二嬪媵一、後房千餘、尼媼數百。

【尼院】2 あまでら。尼寺。尼庵。〔白居易、兩朱閣詩〕寺門敕榜二金字書一、尼院佛庭寬有レ餘。

【尼蝦】3 蝦の一種。〔食療正要〕。

【尼堪】4 ❶清、太祖の孫。崇德の初、固山貝子に封ぜらる。多鐸に從つて江南に下り、福王を蕪湖に捕縛し、豪格に從つて入蜀し、俘虜を得ること無數、和碩敬謹親王に封ぜらる。李定國が桂林を陷れるや、之を征し、衡州に至つて戰死す。〔清史稿、二百二十二〕・〔清史列傳、二〕・〔國朝耆獻類徵、首〕。❷清、滿洲鑲白旗人。姓は納喇氏。崇德の間、官は理藩院承政。吉思哈・葉克舒等と瓦爾喀を攻めるや、朝鮮は兵二萬を以て之を襲つたが、尼堪等は伏を設けて萬餘人を殲滅した。順治の間、河南を平定し、蘇尼特部を討伐す。本部尚書に累遷し、一等子を加へらる。〔國朝耆獻類徵、四十一〕。

【尼顏】5 すがほ。扮飾しない顏容。〔長明無名抄、近代古體〕けさうしたる人の中に、あまがほにてまじはれる。

【尼丘】6 山名。又、尼山(15)ともいふ。山東省曲阜縣の東南。泗水・鄒の二縣の界。孔子は、此の山に禱つて生れたので、その名を丘といひ、字を仲尼といつた。〔史記、孔子世家〕叔梁紇與二顏氏一禱二於尼丘一、得二孔子一、故名レ丘、字二仲尼一。〔孔子家語、本姓解〕私禱二尼丘之山一以祈焉、生二孔子一、故名レ丘、字二仲尼一。

【尼卿】7 北周、薛溫(9－32123‥12)の字。

【尼谿】8 地名。齊の景公が孔子を封ぜんとしたところ。〔墨子、非儒下〕孔某之レ齊、見二景公一、景公說、欲三封レ之以二尼谿一、以告二晏子一。〔史記、朝鮮傳〕尼谿相參・將軍王唊、相與謀曰、云云。

【尼犍】9 〖佛〗六大外道の一。三界の繫縛を離れる義。尼犍陀ともいふ。〔法華文句記、九〕在レ家事レ梵名二梵志一、出家外道通名二尼犍一。

【尼犍陀若提子】10 〖佛〗六師外道の本師をいふ。尼犍陀は苦行外道の總名。若提は其の師の母の名。若提子は若提の子。〔注維摩經、三〕肇曰、尼犍陀、其出家總名也、如三佛法出家名二沙門一、若提、母名也、其人謂罪福苦樂本有二定因一、要レ當二必受一、非三行道所二能斷一也。

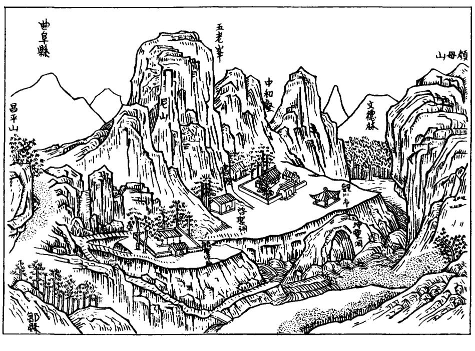
【尼姑】11 あま。女僧。比丘尼。姑はをんな。婦女の稱。〔李商隱、雜纂、相似〕尼姑似レ鼠、入二深處一。

【尼姑梵院】12 〖佛〗尼寺。尼刹(25)に同じ。

【尼公】13 貴婦人で尼となつた者に對する敬稱。〔平治物語、信西南都落事〕尼公も同じ道にと歎かるれども。

【尼削】14 尼の髮のやうに肩のあたりで切つた髮。〔源氏物語、薄雲〕この春よりおふす御ぐしあまそぎの程にて。

【尼山】15 ❶山名。山東省曲阜縣の東南。泗水・鄒二縣の界。一名、尼丘山。〔史記、孔子世家〕(叔梁)紇與二顏氏女一野合、而生二孔子一、禱二於尼丘一、得二孔子一、故名レ丘、字二仲尼一。❷孔子(3－6933‥78)の異稱。〔四庫提要、子、儒家類〕王通教二授河汾一、始摹二擬尼山一、遞相標榜、此亦世變之漸矣。



尼山（古今圖書集成）

【尼子】16 姓氏。〔姓林全書〕。

【尼師】17 あま。女僧。〔高啓、夜聞二吳女誦經一詩〕尼師曾教青蓮偈、女伴徒爲白苧歌。

【尼師壇】18 〖佛〗坐具。一に尼師但那に作る。坐臥の時、地に敷いて身を護り、又、臥具の上に布いて臥具を護る具。單に坐具と譯す。禮拜の具とするは誤。〔寄歸傳、一〕尼師但那、坐臥具也。〔慧琳音義、一〕尼師壇、梵語略也、正梵音具足、應レ云二額史娜曩一、唐譯爲二敷具一、今之坐具也。〔戒壇經〕尼師壇、如二塔之有レ基也、汝今受レ戒、卽五分法身之基也、良以二五分法身由レ戒而成一、若無二坐具一以坐二汝身一、則五分定慧無レ所二從生一。

【尼斯】19 地名。フランスの東南隅、地中海に臨む遊覽地。ニース。nice の音譯。

【尼寺】20 あまでら。尼院。〔洛陽伽藍記、一〕昭儀尼寺。〔事物起原、眞壇淨社部、尼寺〕僧史略曰、東晉何充始捨レ宅安レ尼、此蓋尼寺之起也。

【尼寺五山】21 尼五山(45)を見よ。

【尼櫛】22 剃髮した尼がさす櫛。〔類聚雜要〕尼櫛、是昔尼所レ指之櫛名也。

【尼首】23 頭が尼丘山の形に似て、中がくぼみ、四方の高いこと。〔後漢書、高獲傳〕爲レ人尼首方面。〔注〕尼首、首象二尼丘山一、中下四方高也。

【尼生】24 大和國の地名。

【尼刹】25 尼寺。〔癸辛雜識〕臨平明因寺、尼「大刹也。

【尼前】26 尼の敬稱。尼御前の略。〔源平盛衰記、十二、一院鳥羽籠居事〕尼御前をば略して尼ぜと申しける。

【尼僧】27 尼。〔晉書、簡文三子傳〕于レ時武帝、不レ親二萬機一、但與二道子一酣歌爲レ務、姏姆尼僧、尤爲二親暱一。

【尼僧正】28 尼の僧正。僧正は僧官の一。〔元亨釋書、二十七〕南宋文帝元嘉十二年、敕二尼寶賢一爲二尼僧正一。

【尼站】29 僧官の寢室に侍る尼の住む場所。〔癸辛雜識〕臨平明因寺、尼大刹也、往來僧官每レ至、必呼二少尼一供レ寢、寺中於レ是專作二一寮一、貯下尼之嘗有二違濫一者上、以供二不時之需一、名曰二尼站一。

【尼壇】30 尼が戒をうける壇。〔事物起原、道釋科教部、尼壇〕、又曰、受レ戒、初本僧尼同レ壇、本朝太祖、不レ許三尼往二僧中一、自レ是始別爲レ壇、宋朝會要曰、開寶五年二月詔、自レ今尼有レ合レ度者一、只許下於二本寺一、起レ壇受上レ戒、蓋自レ此始別立二尼受レ戒壇一也。

【尼房】31 あまの住む家。尼院。〔洛陽伽藍記、一〕瑤光寺講堂、尼房五百餘閒。

【尼父】32 孔子の尊稱。尼は孔子の字、仲尼。

父は甫、男子の美稱。尼甫。〔禮、檀弓上〕魯哀公誄二孔丘一曰、天不レ遺二耆老一、莫レ相二予位一焉、嗚呼哀哉尼父。〔注〕尼父、因二其字一以爲二之謚一也。〔左氏、哀、十六〕孔丘卒、公誄レ之曰、云云、嗚呼哀哉尼父、無レ所二自律一。〔成公綏、嘯賦〕鍾期棄レ琴而改レ聽、尼父忘レ味而不レ食。〔注〕向曰、尼父、孔子也。

〖尼父之在レ陳兮有二歸歟之歎音一〗33（ヂホノチンニアルキヨノタンインアリ）　孔子が陳に在つた時、道の行はれざるを知り、歸らんか歸らんかと歎聲を漏らしたこと。〔論語、公冶長〕子在レ陳曰、歸與歸與、吾黨之小子狂簡、斐然成レ章。〔集注〕此孔子周二流四方一、道不レ行而思レ歸之歎也。〔王粲、登樓賦〕昔尼父之在レ陳兮、有二歸歟之歎音一。〔注〕善曰、論語、子在レ陳曰、歸歟歸歟。

【尼甫】34（ヂホ）　尼父に同じ。〔白虎通、聖人〕孔子反レ宇、是謂二尼甫一。

【尼門】35（ニーメン）　河の名。ソヴエート・ロシヤの西境に源を發し、バルチツク海に注ぐ。ニーメン。niemen の音譯。

【尼羅】36（ナイル）　阿弗利加洲第一の長流。一に尼耳に作る。ナイル河。nil の音譯。

【尼連】37（ヂレン）　川の名。釋迦の沐浴したところ。尼連禪。〔水經、河水注〕西域記曰、尼連水南注二恆水一、水西有二佛樹一、佛于レ此苦行、日食レ糜六年、西去レ城五里許、樹東河上、卽佛入レ水浴處。〔法苑珠林〕尼連河裏、非レ有レ垢而見レ除。〔玄應音義〕尼連禪河、應レ云二尼連禪那一、或云二熙連禪一、此譯云レ尼者、不也、連禪那者、樂著也、名不二樂著一河也。

〖尼連禪〗38（ヂレンゼン）　川の名。尼連に同じ。

【尼鷺】39（アマサギ）　白鷺に似て、脊に赤茶色の羽のある鳥。〔古今著聞集、五〕信田の森のあま鷺。

【尼亞薩】40（ニヤツサ）　湖の名。アフリカ洲の東南境にあり、魚の産地として聞えてゐる。ニヤツサ。nyassa の音譯。

【尼拘陀】42（ニクダ）　[佛]樹の名。榕樹。原義は下に生長する樹の意。〔玄應音義、三〕尼拘尼陀、應レ云二尼拘盧陀一、此譯云二無節一、亦云二縱廣樹一也。〔慧琳音義、十五〕尼拘陀、此樹端直無レ節、圓滿可レ愛、去レ地三丈餘、方有二枝葉一、其子微細如二柳花子一、唐國無二此樹一、言二是柳樹一者訛也。

【尼古丁】43 ni² ku³ ting¹　煙草中の毒素。ニコチン。菸鹼の譯名。

【尼古巴】44（ニコバル）　羣島の名。印度の東方、ベンガル灣の東南に位する十九の島羣をいふ。ニコバル。Nicobar の音譯。

【尼五山】45（アマゴザン）　五つの著名な尼寺。山は寺院の稱。❶京都の尼五山。景愛寺・護念寺・檀林寺・惠林寺・通玄寺。❷鎌倉の尼五山。太平寺・東慶寺・國恩寺・護法寺・禪明寺。

【尼御前】46（アマゴゼ）　尼の敬稱。尼前。〔源平盛衰記、十二、靜憲鳥羽殿參事〕尼御前とはかしづき呼ばはれけるを。

【尼什哈】47（ニシハ）　山名。滿洲吉林省城の東。尼什哈は滿洲語の小魚。山の東北の河から小魚を産するからいふ。龍潭があるので龍潭山ともいふ。明時、吉林將軍の晴雨を祈つた處。

【尼將軍】48（アマシヤウグン）　源賴朝の妻、平政子をいふ。薙髮して政を簾中に聽いたから、時人稱していふ。

【尼粧山】49（アマカザリヤマ）　信濃國に在る山。

【尼陀那】50（ニダナ）　[佛]因緣。緣起。十二分經の一。佛の說法の緣起や由序を說くもの。〔智度論、三十二〕尼陀那者、說二諸佛法本起因緣一、佛何因緣說二此事一。

【尼童子】51（ニドウシ）　幼尼。〔淸異錄、粧飾、淺文殊眉〕范陽鳳池院尼童子、年未二二十一、穠豔明俊、頗通二賓游一。

【尼德蘭】52 ni² tê² lan²　オランダ・ベルギー地方の稱。低地の義。ネーデルランド。Netherlands の音譯。

【尼尼微】53 ni² ni² wei¹　古代、アツシリヤの都市。ニネヴエ。Nineveh の音譯。

【尼波羅】54（ネパール）　尼婆羅に同じ。

【尼婆羅】55（ネパール）　國名。印度と西藏との閒の王國。尼泊爾。ネパール。Nepal の音譯。〔唐書、尼婆羅傳〕貞觀二十一年、遣レ使入獻。

【尼厖古】56（ニバウコ）　複姓。〔金史、國語解〕尼厖古曰レ魚。〔金史、尼厖古鈔兀傳〕尼厖古鈔兀、曷速館人。

【尼泊爾】57 ni² po² rh³　尼婆羅に同じ。

【尼法師】58（アマホフシ）　あま。比丘尼。法師は佛道を修業するもの。〔狹衣、三、上〕尼ほふしになり給ひぬ。

【尼蟒依】59（ニマンイ）　山名。新疆省和闐縣の南。和闐河の源。魏書、西域傳に凍凌山と稱し、唐西域記に瞿室伽餕山といふ。尼蟒依は回語の雪。

【尼亞格拉】60 ni² ya³ ko² la¹　北米の河。ナイヤガラ。Niagara の音譯。

【尼加拉瓜】61（ニカラグワ）　中米の共和國。ニカラグワ。Nicaragua の音譯。

【尼雅木錯】62（ニヤムツオ）　土司の名。青海省の南境。西番土司四十族の一。今、娘磋と稱す。娘磋(**3−6304‥6**)を見よ。

【尼堪外蘭】63（ヂカングワイラン）　明代、滿洲部の人。蘇克蘇滸河部圖倫城に居る。萬曆中、潛かに明の寧遠伯李成梁を引いて古勒城を攻む。城主の阿太は覺昌安(淸の太祖)の孫壻であつたので、覺昌安は子の塔克世(顯祖)を率ゐて其の孫女を救ふ。尼堪外蘭は既に城民を嗾して阿太を殺し、また明兵を引いて覺昌安父子を殺す。明滿が事を構へたのは此れから始まる。其の後、塔克世の子、努爾哈赤(淸の太祖)が立ち、尼堪外蘭を明に索めた結果、明の邊吏が執へて之を送つたので、遂に斬殺さる。

【尼俱律陀木】64（ニクリツダボク）　釋家で柳をいふ。〔本草、柳〕釋名、宗奭曰、釋家謂レ柳爲二尼俱律陀木一。

【尼科來頁佛】65（ニコライエフ）　地名。ウクライナの黑海岸に近い河港。もと、黑海艦隊の根據地。ニコライエフ。別名、ヴエルノレニンスク。Nikolayev の音譯。

【尼雅穆尼雅庫】66（ニヤムニヤク）　川の名。滿洲吉林省樺甸縣の東南。源は長白山。松花江に入る。

【尼什尼諸弗哥羅】67（ニジニノブゴロド）　地名。ソヴエート、ロシヤの都會。水陸交通の要地。ニジニノブゴロド。Nijhmi Novgord の音譯。

【𡰥】7636

[一] イ　〔集韻〕延知切　[支]

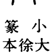
[二] ジン ニン　〔集韻〕而鄰切　[眞]

[一]❶陽𡰥は地名。〔字彙〕𡰥、陽𡰥、地名。❷夷(**3−5852**)の古字。〔玉篇〕𡰥、古文夷。[二]仁(**1−349**)の古字。〔說文〕仁、𡰥、古文仁、或从レ尸。〔玉篇〕𡰥、說文曰、古文仁字。〔集韻〕仁、古作二忎・𡰥一。[邦]尼(**4−7635**)の略字。

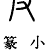
【㞋】7637

[一] ショク シキ　〔玉篇〕茲力切　[職]

[二] デン ネン　〔字彙〕尼展切　[銑]



小篆（大徐本）



小篆（小徐本 段注本）

[一]**をさめる**。〔玉篇〕㞋、理也。[二]**皮をなめす**。〔說文〕㞋、柔レ皮也、从二尸又一、又申二尸之後一也。

[參考] 徐鉉の篆文に從へば、㞋が正字で、㞋は或體となるが、徐鍇並に段玉裁は、㞋を正字とし、㞋を或體とする。㞋(**4−7643**)を併せ見よ。

三畫

【⿸尸人】7638

ショク　㞋(**4−7643**)の俗字。〔正字通〕⿸尸人、俗㞋字。

【⿸尸于】7639

タウ　義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿸尸于、音當。

【⿸尸旦】7640

リヤウ　良(**9−30597**)の古字。〔說文〕良、⿸尸旦、亦古文良。〔玉篇〕⿸尸旦、古文良。

【⿸尸口】7641

トク　豚(**9−29595**)の俗字。〔玉篇〕⿸尸口、俗豚字。

【尽】7642 ジン 盡(8—23029)の俗字。〔正字通〕尽、俗盡字。

【⿸尸反】7643 ゼン ネン 〔集韻〕乳兗切 銑

❶よわい。〔集韻〕⿸尸反、博雅、弱也。❷皮をなめす。⿸尸反(4—7637)に同じ。〔説文〕⿸尸反、柔レ皮也。〔段注〕大徐作レ⿸尸反而曰、或从レ又、小徐作レ⿸尸反而曰、或从レ又、疑从レ又爲レ是。

【⿸尸身】7644 シン 身(10—38034)に同じ。〔字彙補〕⿸尸身、與レ身同。

【⿸尸孕】7645 ヨウ 孕(3—6938)に同じ。〔字彙補〕⿸尸孕、與レ孕同。

【⿸尸兀】7646 エウ 天(3—5838)に同じ。〔字彙補〕⿸尸兀、與レ天同。

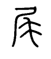
【⿸尸二】7647 ガツ 歹(6—16359)の古字。〔説文〕卢、⿸尸二、古文歺。〔玉篇〕⿸尸二、古文歹。

【⿸尸巾】7648 シ 豕(10—36334)の古字。〔字彙補〕⿸尸巾、古文豕字。

【⿸尸干】7649 ケン 義未詳。〔龍龕手鑑〕⿸尸干、音賢。

四畫

【尾】7650 ビ ミ 〔集韻〕武斐切 尾 ㄨㄟˇ wei³ ㄧˇ i³


小篆

❶を。しりを。しっぽ。もと尾(4—7673)に作る。〔集韻〕尾、或作レ尾。〔説文〕尾、微也、从三到毛在二尸後一、古人或飾レ系尾、西南夷皆然。〔釋名、釋形體〕尾、微也、承二脊之末一、稍微殺也。〔玉篇〕尾、脊盡處也、鳥獸魚蟲皆有レ之。〔易、未濟〕狐濡二其尾一。〔書、君牙〕若レ蹈二虎尾一。❷うしろ。しりへ。あと。〔廣雅、釋詁四〕尾、後也。〔北史、秦王翰子儀傳〕吾等宜レ附二其尾一。❸すゑ。〔史記、張儀傳〕獻二恆山之尾五城一。〔注〕索隱曰、尾、猶レ末也。❹をはり。〔太玄經、玄文〕故首尾可二以爲レ庸也。〔注〕尾、終也。❺さき。〔方言、十二〕尾、梢也。❻そこ。〔爾雅、釋水〕瀵、大出二尾下一。〔注〕尾、猶レ底也。❼山の裾の長く引いたあたり。〔穆天子傳、一〕天子南二征陽行之東尾一。〔注〕尾、山後也。❽つきる。〔方言、十二〕尾、盡也。❾あとをつける。〔戰國、秦策〕王若能爲二此尾一。〔注〕尾、後也。〔後漢書、岑彭傳〕囂出レ兵尾二擊諸營一。〔注〕尾、謂下尋二其後一而擊上レ之。❿つるむ。〔書、堯典〕鳥獸孳尾。〔傳〕交接曰レ尾。⓫星の名。あしたれ。二十八宿の一。〔周禮、考工記、輈人〕以象二大火一也、注〕大火、蒼龍宿之心、其屬有レ尾、尾、九星。〔禮、月令〕孟春之月、云云、旦尾中。〔淮南子、時則訓〕旦尾中。〔注〕尾、東方蒼龍之宿也。⓬魚を數へる辭。〔李覯、寄二祖必丞一詩〕肥魚斫二千尾一。⓭みめよい。孅(3—6801)に通ず。〔説文通訓定聲〕尾、叚借爲レ孅。〔詩、邶風、旄丘〕瑣兮尾兮。〔傳〕瑣尾、少好之貌。〔疏〕瑣者、小貌、尾者、好貌。⓮微(4—10203)に通ず。〔莊子、盜跖〕尾生。〔釋文〕尾生、一本作二微生一。〔蛾術編〕尾與レ微通、故訓爲レ微。⓯泥(6—17457)に通ず。〔爾雅、釋水〕尾下。〔釋文〕尾、字或作レ泥。⓰古は尾(4—7699)・屘(4—7698)・屗(4—7780)に作る。〔玉篇〕尾、尾、古文。〔康熙字典〕尾、古文屘。〔集韻〕尾、古作レ屘。⓱姓。〔潛夫論、志氏姓〕微子後有二尾氏一。〔路史〕魯後有二尾氏一。⓲百六韻の一。上聲第五。

名乘 スヱ。ヲ。

解字 象形會意。尸と毛の合字。尸の後に倒毛のかたちをくはへる。楷書は毛を倒にせず。古人が獸毛を飾として後に垂れた貌。鳥獸の尾がこれに似てゐるので、轉じて、鳥獸のををいひ、又、うしろ、しりへの意に用ひる。〔説文、尾、段注〕鄭説レ韍曰、古者佃漁而食レ之、衣二其皮一、先知レ蔽レ前、後知レ蔽レ後、後王易レ之以二布帛一、而獨存二其蔽レ前者、不レ忘レ本也、按、蔽レ後、卽或飾レ系尾之説也、後漢書西南夷列傳曰、槃瓠之後、好二五色一、衣服製裁、皆有二尾形一、按、尾爲二禽獸之尾一、此甚易レ解耳、而許必以レ尾系二之人一者、以二其字從レ尸、人可レ言レ尸、禽獸不レ得レ言レ尸也。

【尾罌】1（ビアウ） 尾の肉。罌は大腹小口の瓶。尾の肉の形に似るからいふ。〔本草、鵞〕發明、膵、一名尾罌、尾肉也。

【尾開】2（ヲバリ） 阿波國の地名。

【尾交】3（ビカウ） 動物の交接。つるむ。交尾。〔杜牧、鸂鶒詩〕避レ籠交二翠尾一、罅レ觜靜二新毛一。

【尾行】4（ビカウ） ひそかに人の後をつけて行く。又、その人。追尾。

【尾橐】5（ビカウ） 犬の尾で作った戈戟の嚢。〔周禮、春官、巾車〕王之喪車五乘、木車・蒲蔽・犬複・尾橐・疏飾・小服皆疏。〔注〕犬複、以二犬皮一爲二覆笭一云云、玄謂、既以レ皮爲二覆笭一、又以二其尾一爲二戈戟之弢一。

【尾姦】6 wei³ chien¹ 雞姦。

【尾喜】7（キヲ） 姓氏。〔明治新撰姓氏錄〕。

【尾箕】8（キビ） 星宿の名。尾宿と箕宿。〔晉書、天文志上〕天漢起二東方一、經二尾箕之閒一、謂二之漢津一。〔楊維楨、送二謝太守一詩〕曾開天水國、直問尾箕津。

【尾騎】9（キビ） あとを追ひかける騎兵。追騎。〔唐書、段志玄傳〕奪二其馬一馳歸、尾騎數百、不二敢近一。

【尾句】10（クビ） 終りの句。最後の句。〔夢溪筆談、辯證一〕楚詞招魂尾句、皆曰レ些、今夔峽湖湘、及南北江獠人、凡禁呪句尾、皆稱レ些、此乃楚人舊俗、卽梵語薩嚩訶也、三字合言レ之、卽此些字也。

【尾花】11（ヲバナ） ❶すすきの穗。芒花。〔萬葉集、二十〕高圓のをばな吹きこす秋風に。❷襲の色目の名。花薄の類。

【尾花粥】12（ヲバナガユ） 昔、禁中で陰曆八月朔日に用ひたかゆ。すすきの花を黑燒にして、かゆの中に交へたもの。疫病のまじなひといふ。〔康富記、文安五年〕八月朔日、尾花粥。

【尾花葦毛】13（ヲバナアシゲ） 馬の毛色。葦毛にさしけのあるもの。〔堀河太郎百首、秋〕關のとにをばなあしげの見ゆるかな。

【尾緩】14（ヲグルミ） 越前國の地名。

【尾溪】15（ビケイ） 小溪。〔許月卿、詩〕得レ句尋レ僧過二「尾溪一。

【尾擊】16（ビゲキ） 後から追ひかけて討つ。追ひ討ち。追擊。〔後漢書、烏桓傳〕烏桓復尾二擊援後一、援遂晨夜奔歸。〔資治通鑑、漢紀〕（光武帝、建武八年）囂出レ兵、尾二擊諸營一。〔注〕尾擊、謂下尋二其後一而擊上レ之也。

【尾欠】17（ビケン） はしたの數。あまりの數。〔六部成語、戶部、尾欠、注解〕所レ欠之零數曰二尾欠一。〔六部成語、陞遷部、造二交盤一〕先令三補二完尾欠一。

【尾骨】18（ビコツ） 尾のほね。〔齊民要術、養牛馬驢騾〕尾骨欲二高而垂一、尾本欲レ大、尾下欲レ無レ毛、汗溝欲レ得レ深。

【尾根】19（ヲネ） 山の分水稜線。峯。

【尾柴】20（ビサイ） 堤防の末を木柴で塞ぐこと。又、その木柴。〔六部成語、工部、尾柴、注解〕堤尾、木柴塞レ之曰二尾柴一。

【尾際】21（ヲアヒ） 因幡國の地名。

【尾材】22 wei³ ts'ai² 兩換打步帳。

【尾子】23 wei³ tzŭ 尾。

【尾字】24 wei³ tzŭ⁴ 終の文字。すゑじ。

【尾鷲】25（ヲハセ） 紀伊國の地名。

【尾上】26（ヲノヘ） ❶㋑山のいただき。尾は山の裾。山巓。山頂。〔萬葉集、二十〕木のくれの繁きをのへ。㋺姓氏。❷（ヲノウヘ） 姓氏。

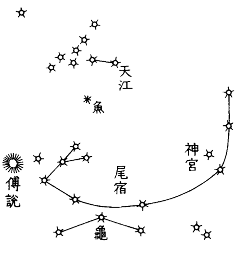
【尾勺】27（ビシヤク） 複姓。〔左氏、定、四〕殷民六族、條

氏・徐氏・蕭氏・索氏・長勺氏・尾勺氏。〔萬姓統譜〕尾勺、左傳、商人六族有㆓尾勺氏㆒。

【尾株】28（ビシュ） 馬などの尾骨。〔元稹、望雲騅馬歌〕蹄懸㆓四距㆒脳顆方、胯聳㆓三山㆒尾株直。〔梅堯臣、觀㆓何君寶畫㆒詩〕二頭相觸角競掎、前腳如㆑跪後腳舒、尾株搨直脊膂蹙、筋力寫盡蹄腕殊。

【尾酒】29（ビシュ） 味のうすい酒。うす酒。味の濃い酒を首酒といふの對。〔丹鉛錄〕酳、首酒也、醨、尾酒也。

【尾宿】30（ビシュク） 星宿の名。二十八宿の一。今の蠍座の諸星から成り、心宿と箕宿との中間にある。あしたれ。尾星。〔禮、月令〕孟春之月、云云、旦尾中。〔左氏、僖、五〕龍尾伏㆑辰。〔注〕龍尾、尾星也。〔曹植、又辯道論〕夫神仙之書道家之言、乃云、傳說上爲㆓辰尾宿㆒、歲星降爲㆓東方朔㆒。〔丹玄子、步天歌〕尾九星如㆑鉤蒼龍尾、下頭五點號㆓龜星㆒、尾上天江四橫是、尾東一箇名㆓傳說㆒、傳說東畔名㆓魚子㆒、尾西一室是神宮、所㆔以列在㆓后妃中㆒。〔觀象玩占〕尾九星、蒼龍尾也、一曰㆓析木㆒。



尾宿（新法曆書）

【尾隨】31（ビズイ） あとにつきしたがふ。〔福惠全書、刑名部、賊盜上、失事〕有㆓歹人尾隨㆒。

【尾數】32（ビスウ） 計算上のはしたの數。〔福惠全書、錢穀部、拆貯〕兌㆓准尾數㆒總㆓點所㆑兌。

【尾生】33（ビセイ） ❶春秋、魯の人。一說に、微生高とする。尾生之信を見よ。〔漢書、東方朔傳〕信若㆓尾生㆒。〔注〕師古曰、尾生、古之信士、與㆓女子㆒期㆓於梁下㆒、待㆑之不㆑至、遇㆑水而死、一曰、卽微生高也。〔鄒陽、於㆑獄上書自明書〕是以蘇秦不㆑信㆓天下㆒、爲㆓燕尾生㆒。〔注〕翰曰、蘇秦於㆓天下㆒則反覆無㆑信、於㆑燕則出有㆓尾生之信㆒也。❷複姓。〔古字通〕尾生複姓、言㆓生之末㆒也、因以爲㆑氏。

【尾生之信】34（ビセイノシン） 固く信義を守る喩。又、愚直の喩。魯の尾生といふ者が、一女子と橋下に會することを約束したが、時過ぐるも女子來らず、たまたま大雨のため增水したが去らず、終に柱を抱いて溺死した故事。〔戰國、燕策〕信如㆓尾生高㆒、則不㆑過㆑不㆑欺㆑人耳。〔莊子、盜跖〕尾生與㆓女子㆒期㆓於梁下㆒、女子不㆑來、水至不㆑去、抱㆓梁柱㆒而死。〔釋文〕尾生、一本作㆓微生㆒、戰國策作㆓尾生高㆒、高誘以爲㆓魯人㆒。〔莊子、盜跖〕直躬證㆑父、尾生溺死、信之患也。〔淮南子、說林訓〕尾生之信、不㆑如㆓隨牛之誕㆒、而又況一不㆑信者乎。〔史記、蘇秦傳〕信如㆓尾生㆒、與㆓女子㆒期㆓於梁下㆒、女子不㆑來、水至不㆑去、抱㆑柱而死。

【尾星】35（ビセイ） 星宿の名。二十八宿の一。あしたれ。尾宿(30)を見よ。

【尾聲】36（ビセイ） 曲調の最後の詞。舊劇では、每齣の末、先づ殺を附し、後に尾聲を以て結ぶ。殺には一殺二殺等の名があり、音調が漸次衰へる義。然る後尾聲を以て總結する。〔宣和遺事、後集〕其尾聲云、蓬蓬蓬又、乍乍乍蓬又、是這蓬又乍、此妖聲也。〔輟耕錄、雜劇曲名〕成㆓文章㆒曰㆓樂府㆒、有㆓尾聲㆒曰㆓套數㆒、時行㆓小令㆒曰㆓葉兒㆒、套數當㆑有㆓樂府氣味㆒、樂府不㆑可㆑似㆓套數㆒。〔九宮大成南詞宮譜、凡例〕尾聲乃經緯十二律、故定㆓十二板式㆒、律中積㆑零者爲㆑閏、故亦有㆓十三板者㆒、而尾聲三句、或十九字至㆓二十一字㆒止、多卽不㆑合㆑式。〔任訥散曲概論〕北套尾聲、繁簡長短不㆑一、每與㆓他調㆒混合爲㆓一體㆒、如㆓後庭花煞好觀音煞等㆒是、且其煞尾之部分、有㆓非常之長㆒、非㆔一調所㆓能盡㆒、乃分㆓若干段㆒以盡㆑之者、如㆓十三煞十煞七煞等㆒、無㆑論㆓劇套散套中㆒、皆數見不㆑鮮、南尾聲則極簡單、大抵十二板、故尾聲又名㆓十二時㆒、又北尾聲亦稱㆓煞尾・收尾・結音・慶餘㆒、南尾聲亦稱㆓餘音・餘文・意不盡・情不斷・十二拍尾㆒。

【尾梢】37（ビセウ） 尾のさき。〔水滸傳、一回〕鱗甲亂分千片玉、尾梢斜捲一堆銀。

【尾總】38（ビソウ） 鷹の尾の部分の名。

【尾袋】39（ヲブクロ） 馬の尾を包むふくろ。尾筒。〔倭名類聚抄、十五〕尾韜、俗云㆓尾袋㆒、所㆔以韜㆓馬尾㆒也。

【尾大】40（ビダイ） 尾が大きい。臣下の勢が強い喩。〔後漢書、王充等傳論〕疎禁厚㆑下、以㆓尾大㆒陵弱。

【尾大難㆑掉】41（ビダイナレバフルヒガタシ） 尾大不㆑掉に同じ。〔曹冏、六代論〕所謂末大必折、尾大難㆑掉、尾同㆓于體㆒、猶或不㆑從、況乎非㆑體之尾、其可㆑掉哉。

【尾大不㆑掉】42（ビダイナレバフルハズ） 獸の尾が餘りに大きい時は自力ではふるひ動かしがたい。上弱く下強ければ制し難い喩。〔左氏、昭、十一〕楚子城㆓陳蔡不羹㆒、使㆔弃疾爲㆓蔡公㆒、王問㆓於申無宇㆒曰、弃疾在㆑蔡何如、對曰、擇㆑子莫㆑如㆑父、擇㆑臣莫㆑如㆑君、鄭莊公城㆑櫟而寘㆓子元㆒焉、使㆓昭公不㆑立、齊桓公城㆑穀而寘㆓管仲㆒焉、至㆓于今㆒賴㆑之、臣聞、五大不㆑在㆑邊、五細不㆑在㆑庭、親不㆑在㆑外、羈不㆑在㆑內、今弃疾在㆑外、鄭丹在㆑內、君其少戒、王曰、國有㆓大城㆒何如、對曰、鄭京櫟實殺㆓曼伯㆒、宋蕭亳實殺㆓子游㆒、齊渠丘實殺㆓無知㆒、衛蒲戚實出㆓獻公㆒、若由㆑是觀㆑之、則害㆓於國㆒、末大必折、尾大不㆑掉、君所㆑知也。〔淮南子、泰族訓〕禽獸之性、大者爲㆑首、而小者爲㆑尾、末大㆓于本㆒則折、尾大㆓于要㆒則不㆑掉矣。

【尾端】43（ビタン） 尾のはし。尾末。

【尾段】44（ビダン） をはりの段。〔譜系雜說〕碑房中有㆓斷石一片㆒、乃法帖第一卷尾段、字行高低、正與㆓淳化帖㆒同、而絕不㆑類㆓古潭㆒。

【尾筒】45（ヲヅツ） ❶馬の尾を包むふくろ。尾袋(39)に同じ。❷馬などの尾の付根。〔曾我物語、八、新田乘㆑猪事〕猪云云、をづつを手綱に取り。

【尾頭】46（ビトウ） 尾と頭。〔方輿勝覽〕豫章之地爲㆓楚尾吳頭㆒。

【尾巴】47 i³ pa しつぽ。尾。

【尾幫】48（ビハウ） 數十船を結びつけた船隊の尾にある船。幫は群。なかま。此處は船の群。幫船。頭幫(**12**－**43490**‥104)の對。〔六部成語、戶部、尾帛、注解〕末尾一幫之船也。

【尾犯】49（ビハン） ❶犯罪のまきぞひ。連累犯。又、從犯。〔福惠全書、刑名部、欵犯〕除㆓訪犯收監、尾犯羈㆑倉。❷詞牌の名。〔詞譜〕調見㆓樂章集㆒、夜雨滴空階詞注正宮、晴煙冪冪詞注林鍾商、秦觀詞名㆓碧芙蓉㆒。

【尾被】50（ヲカヅキ） むささび。鼯鼠(**12**－**48441**‥4)の異名。〔重修本草綱目啓蒙、三十五、鼠類〕鼯鼠、をかづき。

【尾扶】51（ビフ） 佛佛(**1**－**517**)の異稱。〔大日經疏、十七〕尾扶、是佛之別名。

【尾毛】52（ビマウ） 動物學用語。衣魚（シミ）・螻蛄（ケラ）・蜉蝣（カゲロフ）等の昆蟲の尾端に附屬する毛のやうなもの。跳躍・嗅覺・呼吸などの作用をする。

【尾末】53（ビマツ） ❶尾のはし。尾端。〔太平寰宇記〕九眞長江水鉤蛇、數丈、尾末有㆑鉤、取㆓岸上人及牛馬㆒食㆑之。❷尾宿(30)のはし。〔唐書、曆志三上〕霜降六日、日在㆓尾末㆒、火星初見。

【尾翼】54（ビヨク） 飛行機の後部の翼。水平尾翼と垂直尾翼とから成り、水平尾翼の後に昇降舵がある。

【尾立】55（ヲヂ） 土佐國の地名。

【尾閭】56（ビリヨ） ❶大海の底にあつて絕えず水を泄らし、總べての川の出口にあたるといふ所。尾は、すべて川の尾にあたるからいひ、閭は聚で、すべての川がそこに聚るからいふ。〔莊子、秋水〕北海若曰、云云、天下之水、莫㆑大㆓於海㆒、萬川歸㆑之、不㆑知㆓何時止㆒而不㆑盈、尾閭泄㆑之、不㆑知㆓何時已㆒而不㆑虛。〔疏〕尾閭者、泄㆓海水㆒之所也、在㆓碧海之東㆒、其處有㆑石、闊四萬里、厚四萬里、居㆓百川之下尾㆒而爲㆓閭族㆒、故曰㆓尾閭㆒。〔顏氏家訓、歸心〕歸㆓塘尾閭㆒、渫何所㆑到。〔郭璞、江賦〕渫㆑之以㆓尾閭㆒。〔嵇康、養生論〕泄㆑之以㆓尾閭㆒。〔注〕司馬彪曰、尾閭、水之從㆓海水㆒出者也、一名㆓沃燋㆒、在㆓東大海之中㆒、尾者、在㆓百川之下㆒、故稱㆑尾、閭者、聚也、水聚族之處、故稱㆑閭也、在㆓扶桑之東㆒、有㆓一石㆒、方圓四萬里、厚四萬里、海水注者、無㆑不㆓燋盡㆒、故名㆓沃燋㆒。❷脊柱の末端の三角形の骨。かめのを。尾閭骨。尾骶骨。尾尻骨。

【尾鬣】57（ビレフ） 尾とたてがみ。〔左氏、定、十〕公子地有㆓白馬四㆒、公嬖㆓向魋㆒、魋欲㆑之、公取而朱㆓其尾鬣㆒以與㆑之。

【尾聯】58（ビレン） 律詩の第七句・第八句をいふ。又、結聯・結句・落句・末聯・結尾等の稱がある。〔詩法詳論、佈局〕朱飲山曰、試帖正格、云云、末二句謂㆓之尾聯㆒、宜㆘巧㆓合己身㆒、關㆗照試事㆖、寓㆓命世

之意一、毋二太矜張一、切二知遇之思一、勿レ效二乞憐一、此全局一定之規矩也。

【尾籠】59 ビロウ 失禮。無禮。又、きたないこと。けがらはしいこと。不潔なこと。「をこ」のあて字の音讀。〔拾玉集、五〕志之所レ之申狀尾籠候哉。

【搖レ尾】60 ヲヲウゴカス 動物が尾を振る。媚を呈するさま。〔司馬遷、報二任少卿一書〕猛虎在二深山一、百獸震恐、及レ在二檻穽一、搖レ尾求レ食。

〖搖レ尾乞レ憐〗61 ヲヲウゴカシテアハレミヲコフ 動物が尾を振つて憐を乞ふこと。人が卑屈にして媚を呈する喩。〔韓愈、應二科目一時與レ人書〕若二俛レ首帖レ耳、搖レ尾而乞レ憐者、非二我之志一也。

【尾尻骨】62 wei^3 k'ao^1 ku^3 尾骶骨。尾閭(56)の❷を見よ。

【尾君子】63 ビクンシ 郭休の飼つた謹恪な猿の名。〔清異錄、獸、尾君子〕郭休隱二居太山一、畜二一胡孫一、謹恪不レ踰二規矩一、呼曰二尾君子一。

【尾蘇圖】64 エイスト 山名。威遜圖山。漢名は樺山。内蒙古喀喇沁左翼の西南。水道提綱には、大淩河の發源の處といふ。

【尾長猿】65 ヲナガザル 猴の一種。尾が身長より長い。

【尾長鳥】66 ヲナガドリ 鳳鳥(**12−46671・・141**)の異名。三光鳥。〔運歩色葉集〕尾長鳥。

【尾椎骨】67 ビツイコツ 尾端に位する椎骨で、四片或は五片から成る。

【尾骶骨】68 ビテイコツ 尾尻骨。尾閭(56)の❷を見よ。

【尾崎稱齋】69 ヲザキシヨウサイ 江戸の人。名は修。字は子成。通稱は修平。號は稱齋・鳩居。井上金峨に師事し、經學は折衷を主とす。官は中村藩儒。著に鳩居紀年譜・鳩居語・鳩居詩・牧民忠告譯解がある。〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕。

【尾形洞簫】70 ヲガタドウセウ 佐賀の人。名は維民。字は仲顯。通稱は彥左衞門。號は洞簫。官は佐賀藩儒。文化二年歿す、年八十一。著に古本大學語類・三德抄・大神物語・魯論類語がある。〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕。

【尾見綠塢】71 ヲミリヨクウ 丹後の人。名は忠鵠。通稱は龜之助。號は綠塢。官は宮津藩儒。慶應二年歿す。著に靖獻遺言略解がある。〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕。

【尾張大根】72 ヲハリダイコン 尾張國春日井郡附近から產する大根。宮重大根。〔傾城反魂香、中〕尾張大根を見るやうな。

【尾藤二洲】73 ビトウジシウ 伊豫の人。名は孝肇。字は志尹。通稱は良佐。號は二洲・約山。片山北海に師事し、經學は程朱を純守す。官は幕府儒官・昌平黌教官。寬政三博士の一人。文化十年十二月十四日歿す、年六十九。後、從四位を贈らる。居室を靜寄軒といふ。著に易繫廣義・學庸衍旨・國學指要・四箴解・稱謂私言・するも餘志・正學指掌・靜寄雜著・靜寄餘筆・靜寄軒文集・素餐錄・擇言・凝夢錄・中庸首章圖解・冬讀書餘・文章一偶・論孟衍首・約山詩集がある。〔近代著述目錄後篇〕・〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕。

【曳二尾塗中一】74 ヲヲトチユウニヒク 死んで神龜として貴ばれるよりは、生きた龜として其の尾を泥中に曳くのが望ましい。古は龜の甲を燒いて卜ふので、龜を殺して神龜として尊んだ。仕宦して束縛を受けるよりは、貧賤で安居するのがよいといふ喩。〔莊子、秋水〕莊子釣二於濮水一、楚王使二大夫二人往先一焉、曰、願以二竟內一累矣、莊子持レ竿、不レ顧曰、吾聞、楚有二神龜一、死已三千歲矣、王巾笥而藏二之廟堂之上一、此龜者、寧其死爲二留レ骨而貴一乎、寧其生而曳二尾於塗中一乎、二大夫曰、寧生而曳二尾塗中一、莊子曰、往矣、吾將レ曳二尾於塗中一。

【矯レ尾厲レ角】75 ヲヲタメツノヲミガク 尾を矯め角をみがく。辯論のすぐれた喩。〔海錄碎事、人事言談〕蘇秦有二矯レ尾厲レ角之辯一、出二殷文圭集一。

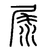
【無レ尾無レ首】76 ビナクシユナシ をはりもなく始もない。〔莊子、天運〕其卒無レ尾、其始無レ首。〔疏〕尋二求自然之理一、無レ始無レ終、討二論至樂之聲一、無レ首無レ尾。

【露レ尾藏レ頭】77 ビヲアラハシトウヲカクス 頭をかくして尻を隱さぬ。己の不善を掩ひかくしても、一方から顯れる喩。〔歸潛志、九〕此老所謂藏レ頭露二尾身一。

【尾兒頂尾兒的】78 wei^3 êrh ting^2 wei^3 êrh tê あとに續いて。

【尿】7651

㊀デウ ネウ 〔集韻〕奴弔切 ㄋㄧㄠˋ 嘯 niao^4
㊁スイ ㄙㄨㄟ suei^1


小篆

㊀❶**ゆばり**。いばり。しと。小便。㞙(**4−7756**)に同じ。〔正字通〕尿、同レ㞙。〔說文〕㞙、人小便也、从二尾水一。❷溺(**7−17990**)に通ず。〔說文、尿、段注〕古書多假レ溺爲レ之。㊁㊀の❶に同じ。

解字 會意。もと㞙に作る。尾と水の合字。尾は下部をいふ。故に本義を小便の意とする。後、毛を省き尿に作る。

【尿坑】1 niao^4 k'êng^1 小便をする場所。小便穴。

【尿炕】2 niao^4 k'ang^4 寢小便する。

【尿缸】3 niao^4 kang^1 小便壺。

【尿器】4 ネウキ しゆびん。おまる。溺皿。溺器。

【尿管】5 ネウクワン 尿を膀胱から體外に排泄する管。

【尿結】6 niao^4 chieh^2 小便が祕結する。

【尿壺】7 niao^4 hu^2 しゆびん。尿瓶。

【尿酸】8 ネウサン 尿液中に含まれる含水炭酸。

【尿牀】9 ネウシヤウ 寢小便する。尿床。〔宗統編年〕大愚謂二臨濟一曰、這尿牀鬼子。

【尿素】10 ネウソ 尿中に在る溶け易い無色針狀の結晶體。

【尿道】11 ネウダウ 尿の通ふみち。膀胱の下前部から尿の排泄口に至る間の管道。

〖尿道炎〗12 ネウダウエン 細菌の感染によつて起る尿道粘膜の炎症。痳毒性のものが最も多い。

【尿池】13 niao^4 ch'ih^2 小便壺。

【尿桶】14 niao^4 t'ung^3 小便桶。

【尿胞】15 niao^4 pao^1 膀胱。尿脬。

【尿脬】16 niao^4 p'ao^1 膀胱。

【尿瓶】17 ネウビン 座側に置いて小便に用ひる陶製の器。しびん。溲瓶。

【尿盆】18 niao^4 p'ên^2 小便器。小便鉢。

【尿量】19 ネウリヤウ 尿の排泄量。

【尿毒症】20 ネウドクシヤウ 泌尿排泄器の故障により尿中の有害物質が血液中に混じて起る病。

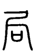
【尿天尿牀】21 ネウテンネウシヤウ 小便垂れ。兒童を罵つていふ語。〔石渠寶笈〕僧傳綮寫生一冊、第九幅題云、尿天尿牀無レ所レ說、又向二高深一闢二草萊一。

【⿸尸支】7652

ゲキ 屐(**4−7708**)の俗字。〔正字通〕⿸尸支、同レ屐、俗省。

【局】7653

キヨク ゴク 〔集韻〕衢六切 ㄐㄩˊ 沃 chü^2


小篆

❶**わける**。くぎる。しきる。〔說文通訓定聲〕局、此字當レ訓レ分也、猶レ界也、从レ尺从レ口、會意、尺、猶レ手也、手口、所三以分二部之一、尺亦其度。〔爾雅、釋言〕局、分也。❷**こわけ**。しきり。かぎり。〔禮、曲禮上〕左右有レ局、各司二其局一。〔注〕局、部分也。〔疏〕軍之在二左右一、各有二部分一、不二相濫一也、云云、軍行須二監領一、故主帥二部分一、各有レ所レ司二部分一也。❸**つぼ**。へや。いへ。〔王建、宮詞〕宮局總來爲二喜樂一、院中新拜內尙書。❹**官廳**。**執務するへや**。〔廣韻〕局、曹局也。〔南史、褚裕之傳〕乃以誣二人之罪一、收二縣職局一。❺**つとめ**。職務。〔陳琳、討二曹操一檄〕匪レ遑レ離レ局。❻**はたらき**。才能。器量。〔晉書、王恬傳〕忠正有二幹局一。〔晉書、任愷傳〕通敏有二智局一。❼**はこ**。〔增韻〕局、匣也。❽**ばん**。碁盤。弈棊の器。〔說文〕局、一曰、博所二以行一棊也。〔漢書、吳王濞傳〕皇太子引二博局一、提二吳太子一殺レ之。〔班固、弈旨〕局必方正、象二地則一也。❾**弈棊の勝負**。〔南史、蕭惠基傳〕自二食事一、至二日暮一、一局始竟。❿**やうす**。ありさま。形勢。時。時運。〔南史、梁吳平侯景傳〕孝建以來、制レ局用レ事。⓫**口をつぼめる**。

〔說文〕局、促也、从㆔口在㆓尺下㆒、復局㆑之。⓬**ちぢまる**。曲(5－14280)に通ず。〔說文通訓定聲〕局、叚借爲㆑曲。〔詩、小雅、采綠〕予髮曲局。〔傳〕局、卷也。⓭**せぐくまる**。〔詩、小雅、正月〕不㆓敢不㆑局。〔傳〕局、曲也。⓮**まがる**。〔謝靈運、歸途賦〕匪㆓康衢之難㆑踐、諒㆓跬步之易㆑局。⓯**せまる**。〔廣雅、釋詁三〕局、近也。〔正字通〕局、促也。⓰**ちひさい**。**こせつく**。〔潘尼、乘輿箴〕文繁而義詭、意局而辭野。⓱**かかはる**。〔正字通〕局、拘也。〔人物志、體別〕情介廉潔、節在㆓儉固㆒、失在㆓拘局㆒。⓲**つどひ**。あつまり。〔續湘山野錄〕蜀人嚴儲、與㆓蘇易簡父㆒善、儲始擧㆓進士㆒日、易簡生三日、爲㆓飲局㆒。⓳**店**。〔鶴山題跋〕坐㆑局沽㆑酒。⓴**ところ**。**あたり**。〔陶潛、歸㆓園田居㆒詩〕漉㆓我新熟酒㆒、隻雞招㆓近局㆒。㉑**笑ふさま**。局局(7)を見よ。㉒踢(**10－37548**)に通ず。〔潘岳、寡婦賦、馬悲鳴而踢顧、注〕善曰、局、與㆑踢古字並通。㉓［現］賭博場。［邦］**つぼね**。へやもちの女官。又、へやもちの遊女。

［名乘］チカ。

［解字］會意。尺と口の合字。尺はものさし、又、正しい意。尺下に口を加へ、口をすぼめて言語をつつしむこと。轉じて、曲、又、分部の義とする。一說に、この字形は棊盤の局面の形に從ふといふ。又、說文通訓定聲によれば、わける・くぎるを本義とする。すなはち、尺は手の義、又、はかる義、故に手口に從ひ、分部する所以をいふ。轉じて、棊は境界を分つもの、故に棊の局面をいふと。〔說文、局、从㆔口在㆓尺下㆒、復局㆑之、段注〕尺所㆔以指㆓斥規榘事㆒也、口在㆓尺下㆒、三緘㆓其口㆒之意。〔說文、局、一曰博所㆓㠯行㆑棊、象形、段注〕博當㆑作㆑簙、簙、局戲也。〔說文通訓定聲〕局、此字當㆑訓㆑分也、猶㆑界也、从㆑尺从㆑口、會意、尺猶㆑手也、手口所㆔以分㆓部之㆒、尺亦其度、云云、轉注、說文、一曰、博所㆓以行㆑棊、象形、按、謂㆓畫㆑界以分㆑疆者㆒。

【局員】1キョクヰン ❶局長の下に働くもの。❷chü^2 yüan^2 釐金局の役員。釐金局は、貨物の內國通過稅を徵收する役所。

【局下】2キョクカ 博戲の盤のした。碁盤下。〔潘岳、西征賦〕隕㆓吳嗣於局下㆒、蓋發㆓怒於一博㆒。〔注〕銑曰、景帝爲㆓皇太子㆒時、吳太子侍㆑飲博、爭㆑道不恭、皇太子引㆓博局㆒提殺㆑之。

【局基】3キョクキ 役所のどだい。〔福惠全書、郵政部、立局〕宜㆘于㆓鎭集左右㆒擇㆓高亢寬廠之地㆒、墊㆗築局基㆖。

【局棋】4キョクキ 碁盤。〔幽閑鼓吹〕宣宗曰、比聞㆓李遠詩㆒云、長日唯銷一局棋、豈可㆓以臨㆑郡哉。〔張祜、喜㆓王子載話㆑舊詩〕累話㆓三朝事㆒、重看㆓一局棋㆒。

【局戲】5キョクギ 局面に向つて行ふ勝負ごと。圍碁・將棊などの類。〔急就編、三〕棊局博戲相易㆑輕。〔注〕棊局、謂㆓彈棊圍棊之局㆒也、博、亦局戲也、十二棊六著。

【局脚】6キョクキャク 器物の足の曲折して美しいもの。〔續談助〕宋武帝敕云、狀不㆑須㆓局脚㆒、直脚自足。

【局局】7キョクキョク 身をちぢめてくすくすと笑ふさま。一說に、大いに笑ふさま。〔莊子、天地〕季徹局局然笑曰、若㆔夫子之言㆓於帝王之德㆒、猶㆔螳蜋之怒㆑臂以當㆓車軼㆒、則必不㆑勝㆑任矣。〔疏〕局局、俛㆑身而笑也。〔釋文〕局局、一云、大笑之貌。

【局外】8キョクグヮイ ❶圍碁の時、對局者以外の見物人。をかめ。〔劉克莊、象變一首呈㆓葉潛仲㆒詩〕君看橘中戲、妙不㆑出㆓局外㆒。❷かかりあひのほか。當面の事件に關係せぬこと。〔福惠全書、蒞任部、稟帖贅說〕身居㆓局外㆒、益悍然橫行。

〖局外人〗9 chü^2 wai^4 jen^2 或る物事に關係のない立場にあるもの。第三者。〔紅樓夢、四回〕只剩得幾個局外之人。

〖局外公地〗10 chü^2 wai^4 kung^1 ti^4 局外中立「地帶。

〖局外中立〗11キョクグヮイチュウリツ 國際上、交戰國の何れにも援助せず、又、戰に影響する行動を避ける國家の位置。

〖局外條規〗12 chü^2 wai^4 t'iao^2 kuei^1 局外中立の法規。

【局限】13キョクゲン かぎり。又、かぎる。局も限もかぎること。

【局差】14キョクサ 實職でない。釐金局洋務局など新設の役所の職の稱。差はつとめ、職務。〔淸國行政法汎論、新設官廳〕然差委有㆑時或用㆓之於同一意義㆒、曰㆓差使㆒、曰㆓局差㆒。

【局紗】15 chü^2 sha^1 佳良な紗。

【局詐】16キョクサ 豫め手筈を定めて人を欺くこと。局騙。〔福惠全書、刑名部、詞訟、差拘〕其被害如㆓夢初覺㆒、明知㆓局詐㆒。

【局操】17キョクサウ 狹い心。小さい操。〔晉書、皇甫謐傳〕棄㆓通道之遠田㆒、守㆓介人之局操㆒。

【局卡】18 chü^2 ka^3 釐金稅(貨物の內國通過稅)を徵收する稅關。

【局子】19キョクシ ❶圍碁の具。局は碁盤、子は碁石。賭具。弈具。〔南史、何承天傳〕文帝賜以㆓局子及銀裝箏㆒。❷chü^2 tzŭ 製造場。

〖局子街〗20キョクシガイ 滿洲吉林省延吉縣の土名。〔淸史稿、地理志、吉林、延吉府、注〕商埠頭道溝・龍井村・局子街三、宣統元年中日間島約開。

【局紙】21キョクシ 純三椏原料を以て造つた上等の鳥の子紙。印刷局の創製であるからいふ。

【局收】22 chü^2 shou^1 某局で受取る。又、某局の受取證。

【局識】23キョクシキ 狹い見識。〔梁高僧傳〕僻見局識。

【局室】24キョクシツ 小さい室。〔藝林伐山〕戴延之西征記、局室蘆簾、局室、室如㆓棊局㆒也。

【局守】25キョクシュ つとめまもる。又、つとめ。〔韻府引常袞表〕臣忝貳㆓藩餘㆒、局㆓守官次㆒。

【局縮】26キョクシュク かがまりちぢまる。小さい。〔釋名、釋姿容〕窶數、猶㆓局縮㆒、皆小意也。〔釋名、釋車〕齊人謂㆓車枕以前㆒曰㆑縮、言㆓局縮㆒也。〔韓愈、送㆘諸葛覺往㆓隨州㆒讀㆖書詩〕我雖㆓官在㆑朝、氣勢日局縮。

〖局縮肉〗27キョクシュクニク かがまりちぢまつてゐる肉。晉の元帝の懦弱で決斷のないのを譏つた語。〔晉書、五行志中〕武帝太康三年平㆑吳、後江南童謠曰、局縮肉、數橫目、中國當㆑敗、吳當㆑復、按、橫目者四字、自㆓吳亡㆒至㆓元帝興㆒、幾四十年、元帝懦而少㆑斷、局縮肉者、有㆑所㆑斥也。

【局所】28キョクショ ❶全體中の一部分。一局部。又、其の場所。❷身體の一部分。局部。❸chü^2 so ㋑事務所。㋺執務機關。

【局署】29キョクショ 役所。〔宋史、食貨志下七〕搉酤之法、所在置㆓官吏局署㆒。

【局丞】30キョクジョウ 官名。局の屬官。〔通典、職官典、諸卿上、太常卿〕太卜署、云云、北齊有㆓太卜局丞㆒、後周有㆓太卜大夫・小卜上士・龜占中士㆒。

【局伸】31 chü^2 shen^1 保甲局・地方警務所などの委員。

【局正】32キョクセイ 器量があつて正しいこと。〔晉書、任愷傳〕賈充言、愷忠貞局正。

【局勢】33キョクセイ ❶やうす。狀況。❷しらべのおもむき。〔福惠全書、刑名部、詞訟、審㆑訟〕若此時問官局勢稍緩則躍躍者、又將㆓復隱㆒。

【局蹐】34キョクセキ 局天蹐地の略。天にせぐくまり、地にぬきあしする。甚だしくおそれて天地の間に身を容れる所のない喩。局は跼。〔詩、小雅、正月〕謂㆓天蓋高㆒、不㆓敢不㆑局、謂㆓地蓋厚㆒、不㆓敢不㆑蹐。〔傳〕局、曲也、蹐、累足也。〔箋〕局蹐者、天高而有㆓雷霆㆒、地厚而有㆓陷淪㆒也。

【局節】35キョクセツ 狹い小さい法度。〔晉書、劉頌傳〕超㆓秦漢魏氏之局節㆒、紹㆓五帝三代之絕跡㆒。

【局束】36キョクソク ちぢまつてのびないこと。物事に拘はつてのびのびしないこと。拘束。〔柳宗元、乞巧文〕局束爲㆑諂。〔韓愈、山石詩〕人生如㆑此自可㆑樂、豈必局束爲㆓人鞿㆒。〔蘇軾、仙都山鹿詩〕日月何促促、塵世苦㆓局束㆒。

【局促】37キョクソク ❶かがみ屈するさま。小さいさま。局趣。〔抱朴子、崇教〕以㆓千門萬戶㆒爲㆓局促㆒、以㆓昆明太液㆒爲㆓淺陋㆒。❷心の小さいさま。おそれるさま。〔漢書、灌夫傳〕今日廷論、局促效㆓轅下駒㆒。〔後漢書、仲長統傳〕人事可㆑遺、何爲㆓局促㆒。〔後漢書、鄭衆傳〕今西域欲㆑歸㆑化者、局促狐疑。〔傅毅、舞賦〕嘉㆓關雎之不㆑淫兮、哀㆓蟋蟀之局促㆒。〔注〕濟曰、局促、小皃。

【局趣】38キョクソク 局促の❷に同じ。趣、一に促に作る。〔史記、魏其武安侯傳〕今日廷論、局趣效㆓轅下駒㆒。〔注〕正義曰、應劭云、駒馬駕㆓著轅㆒、局趣、

纖小之貌。

【局待】39（キヨクマチ） 電報發信人が、發信局にあつて其の返電を待つこと。其の旨を受信人に通ずるには「ヤム」の符號を用ひる。

〖局待電報〗40（キヨクマチデンパウ） 局待の符號を用ひて發送する電報。局待を見よ。

【局致】41（キヨクチ） 人物の大きさ。局量。〔傅亮、爲二宋公一求三加二贈劉前軍一表〕撫寧之勳、實洽二朝野一、識量局致、棟幹之器也。

【局町】42（ツボネマチ） 宮中で、局の多く連なつた所。〔源平盛衰記、十三、熊野新宮軍事〕局町に走り入り、女房の薄衣一面、笠取り出だして。

【局長】43（キヨクチヤウ） 官省に於ける局の長官。局中一切の事務を總べ、局員を取締まる。

【局陳】44（キヨクヂン） 軍に左右各部分が有つて相濫れない如く、其の語に次第があつて相濫れないのをいふ。〔世說新語、賞譽〕簡文云、淵源語不三超詣二簡至一、然經論思尋處、故有二局陳一。

【局圖】45（キヨクヅ） 棋盤。〔南史、蕭惠基傳〕宋文帝時、羊玄保爲二會稽一、帝遣下思莊入レ東、與二玄保一戲上、因置二局圖一、還於二帝前一覆レ之。

【局店】46 chü^{2} tien^{4} 滿洲熱河省錦州地方の問屋倉庫業。

【局渡】47（キヨクワタシ） 受信人の申出により郵便局で直接に郵便物を渡すこと。

【局度】48（キヨクド） 心のはたらき。器度。度量。器量。〔後漢書、袁紹傳〕紹外寬雅、有二局度一、憂喜不レ形二於色一、而性矜愎自高。〔魏志、夏侯尚傳評〕以二規格局度一、世稱二其名一。

【局頭】49 chü^{2} tʻou^{2} 賭博場の親方。局中。

【局內】50 chü^{2} nei^{4} 當局者。局中。

【局方】51（キヨクハウ） 宋の太醫局で定めた處方書。徽宗帝の時、天下の名醫に敕して奏進させたもの。後世、此の例にならひ、凡そ通用の丸散方劑を皆、局方と稱する。〔四庫提要、子、醫家類〕局方發揮、云云、局方一書、宋神宗詔二天下高醫一、奏進而成、雖下其中或有中過二於粉飾一者上、神效之方亦必不レ少、豈可二輕議一。

【局方發揮】52（キヨクハウハツキ） 書名。一卷。元、朱震亨撰。藥種の調劑の書。〔四庫提要、子、醫家類〕。

【局迫】53（キヨクハク） せまくちぢまる。〔後漢書、竇融傳〕西州地勢局迫、人兵離散。

【局板】54（キヨクハン） 出版書の一種。淸の同治中、曾國藩・左宗棠・張之洞等が官書局を江寧に創立して經史を雕印してから、江蘇・江西・浙江・福建・廣東・湖南・湖北等の諸省も皆之に倣ふ。此の出版書を呼んで局板書といふ。

【局部】55（キヨクブ） 身體の一部分。生殖器にあたる所。局所。

【局分】56（キヨクブン） 心のはたらき。器度。器量。〔華陽國志〕杜軫小弟良、字幼倫、亦有二當世局分一。

【局騙】57（キヨクヘン） 巧妙な方法で他人の財物を欺取すること。局詐。概ね賭博によつてまきあげる。〔元典章、刑部、禁局騙〕無籍之徒、糾二合惡黨一、局二騙錢物一、其意專一尋三訪良家子弟・富商大賈、到二來本路一、此輩則羣聚密議、以レ意測下料各所二嗜好一者上、迤漸交結、設二賭博戲一、騙二取人財一、要レ罄取レ蓄。

〖局騙拐帶〗58（キヨクヘンカイタイ） 詐謀で他人の財物又は子女を誘ひ出し、携へて逃走すること。〔明律、刑律、詐欺官私取材〕若冒二認及誆三賺局四騙拐五帶人財物一者、亦計レ贓准二竊盜一論免レ刺。〔六部成語、刑部、局騙拐帶、注解〕設レ謀騙二人子女一攜レ之逃走也。

【局面】59（キヨクメン） 棊盤又は將棊盤の上。又、其の相互の勝負の變化。ばんめん。轉じて、物事の成りゆきの狀態。〔水滸傳、四十七回〕扈成見二局面不一レ好、投二馬落荒一而走。

〖局面轉回〗60（キヨクメンテンクワイ） 物事の成りゆきが前と全くかはること。

【局量】61（キヨクリヤウ） はらまへ。器量。局度。〔蜀志、黃權傳〕文帝察三權有二局量一、欲二試驚一レ之。〔晉書、褚裒傳〕祖䂬、有二局量一、以二幹用一稱。

【局力】62（キヨクリヨク） 才智の力。〔宋書、顏師伯傳〕父邵、剛正有二局力一、爲二謝晦所一レ知。

【局僚】63（キヨクレウ） 官廳の役員。〔宋史、劉恕傳〕司馬光編二次資治通鑑一、卽召爲二局僚一。

【局上有レ劫】64（キヨクジヤウコフアリ） 晉の阮簡が開封の令となり、或る時棊を圍んでゐたが、下役人が劫賊があると報じたら、棊盤の上にも劫があると答へた故事。物事に耽り樂しむことの甚しい譬。吏の報じた劫は盜賊であるが、阮簡の答へたのは、圍碁に於ける劫である。〔水經、渠注〕阮簡爲二開封令一、縣側有二劫賊一、外白甚急數、簡方圍レ棊長嘯、吏云、劫急、簡曰、局上有レ劫、亦甚急、其耽樂如レ是。

【局天蹐地】65（キヨクテンセキチ） 天にせぐくまり地にぬき足する。世間が窮窟で、身の安んずる所がないのを言ふ。局は跼に同じ。局蹐(34)を見よ。〔詩、小雅、正月〕謂二天蓋高一、不二敢不一レ局、謂二地蓋厚一、不二敢不一レ蹐。〔箋〕此民疾二苦王政一、上下皆可二畏怖一之言也。〔陸機、謝二平原內史一表〕跼レ天蹐レ地、若レ無レ所レ容。

【屁】7654 ヒ 〔集韻〕匹寐切 寘 ㄆㄧˋ pʻi^{4}

❶へ。おなら。失氣。〔廣韻〕屁、氣下洩也。❷或は⿸尸毘(4−7768)・⿱穴比(8−25477)・⿱穴氣(8−25603)・⿰米費(8−27133)に作る。〔集韻〕屁、或作二⿸尸毘・⿱穴比・⿱穴氣・⿰米費一。

【屁眼】1 pʻi^{4} yen^{3} しりの穴。肛門。轉じて、下らぬ眼。〔水滸傳、三回〕便罵道、這廝們著屁眼一。

〖屁眼子〗2 pʻi^{4} yen^{3} tzŭ 尻の穴。

【屁股】3 pʻi^{4} ku 臀。尻。

〖屁股蛋〗4 pʻi^{4} ku tan^{4} 臀部の肉。

〖屁股黏〗5 pʻi^{4} ku nien^{2} 尻が重い。何時までも話しこんで歸らぬ。

〖屁股眼兒〗6 pʻi^{4} ku yen^{3} êrh 尻の穴。

〖屁股溝兒〗7 pʻi^{4} ku kou^{1} êrh 臀の割れ目。

【屁口】8 pʻi^{4} kʻou^{3} 尻の穴。

〖屁滾尿流〗9 pʻi^{4} kuen^{1} niao^{4} liu^{2} 恐れて屁をたれ、小便を流す。非常に恐れること。

【⿸尸目】7655 カン 看(8−23196)に同じ。〔字彙補〕⿸尸目、與レ看同。

【⿸尸文】7656 ブン 〔海篇〕音文

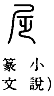
を。〔海篇〕尻、尾也。

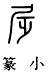
【⿸尸皮】7657 ヒ 皮(8−22823)の本字。〔正字通〕皮、篆作レ⿸尸皮。

【⿸尸孔】7658 カウ 尻(4−7634)に同じ。〔奚韻〕⿸尸孔、同レ尻。

五畫

【⿸尸乏】7659 ［一］チフ ヂフ 〔集韻〕直立切 緝 ［二］ケフ ゲフ 〔集韻〕極曄切 葉


小篆（說文）


小篆（段注本）

［一］❶**つづく。つらなる**。屆⿸尸乏。〔說文〕⿸尸乏、屆⿸尸乏也、从レ尸乏聲。〔廣韻〕⿸尸乏、屆⿸尸乏、前後相次也。❷**すくない**。〔廣雅、釋詁三〕⿸尸乏、少也。〔集韻〕⿸尸乏、說文、屆⿸尸乏、謂レ少也。［二］❶**つづく**。［一］の❶に同じ。〔集韻〕⿸尸乏、屆⿸尸乏、从レ後躡。❷**小足に步む**。〔集韻〕⿸尸乏、一曰、小步。

【屎】7660 シ 〔集韻〕千咨切 支

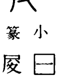
❶**うかがふ**。屎⿸尸匽。覗(10−34860)に同じ。〔玉篇〕屎、屎⿸尸匽、盜視、與レ屎同。❷**これ。この**。或は⿸尸資(4−7808)に作る。〔集韻〕屎、倉頡篇、此也、或从レ資。

【⿸尸匕】7661 ヒ 〔正字通〕布非切 ㄅㄧ pī ［微］

女子の陰部。〔正字通〕⿸尸匕、女人陰戸。

【⿸尸夂】7662

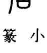
［一］ホク ボク 〔集韻〕步木切 ［屋］
［二］シュク スク 〔集韻〕初六切 ［屋］
［三］キク ギク 〔集韻〕衢六切 ［沃］

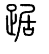

小篆

［一］［二］［三］❶忙しく行くさま。⿸尸夂⿸尸夂。〔說文〕⿸尸夂、行⿸尸夂⿸尸夂也、从レ夂、閵、讀若レ僕。〔字彙〕⿸尸夂、行促迫也。❷古は夋(3−5709)に作る。〔集韻〕⿸尸夂、古作レ夋。

【居】7663

［一］キョ コ 〔集韻〕斤於切 ㄐㄩ chü¹ ［魚］
［二］キ 〔集韻〕居之切 ［支］
［三］キョ コ 〔集韻〕丘據切 ［御］


小篆


俗說（體文）

［一］❶ゐる。をる。凥の意。⓭參照。㋑すわる。〔禮、樂記〕子曰、居、吾語レ汝。〔注〕居、猶二安坐一也。〔論語、陽貨〕居、吾語レ女。〔皇疏〕居、猶レ復レ座也。〔國語、魯語下〕居、吾語レ女。〔注〕居、坐也。㋺をる。身をおく。〔書、伊訓〕居レ上克明。〔呂覽、離俗〕仁者居レ之。〔注〕居、處也。㋩すむ。〔易、繫辭上〕上古穴居而野處。〔書、盤庚下〕奠二厥攸レ居。㋥くつろぐ。〔孝經、開宗明義章〕仲尼居。〔釋文〕居、王肅云、閒居也。㋭とまる。とどまる。〔荀子、不苟〕惟所レ居以二其類一至。〔注〕所レ居、所レ止也。〔呂覽、愼人〕胼胝不レ居。〔注〕居、止。㋬よる。〔廣雅、釋言〕居、據也。㋣あたる。〔禮、王制〕數各居二其上之三分一。〔注〕居、猶レ當也。㋠おちつく。うごかぬ。靜かにゐる。〔孝經、開宗明義章〕仲尼居。〔釋文〕居、孔安國云、靜而思レ道也。〔呂覽、上農〕無レ有レ居心一。〔注〕居、安也。〔素問、平人氣象論〕前曲後居。〔注〕居、不レ動也。㋷しめる。〔列子、楊朱〕孩提以逮二昏老一、幾居二其半一矣。〔晉書、羊祜傳〕祜歎曰、天下不レ如レ意、恆十居二七八一。㋦出仕しない。官に就かない。〔禮、玉藻〕居士錦帶。〔注〕居士、道藝處士也。㋸つねの時。居常。〔老子、三十一〕是以君子、居則貴レ左、用レ兵則貴レ右。❷おく。すまはせる。〔禮、王制〕度レ地以居レ民。❸ところ。すまひ。へや。環境。〔孟子、盡心上〕居移レ氣。〔集注〕居、謂二所レ處之位一。〔呂覽、精諭〕聞蜻皆從二女居一。〔注〕居、所。〔太玄經、玄錯〕居也室。❹墳墓。〔詩、唐風、葛生〕歸二于其居一。〔箋〕居、墳墓也。❺生者。此の世に居る者。〔左氏、僖、九〕送レ往事レ居。〔注〕居、生者。❻のつとる。〔史記、樂書〕禮居二成物一。〔注〕集解曰、居、亦謂レ法也。❼をさめる。〔逸周書、作雒解〕農居レ鄙得二以庶士一。〔注〕居、治也。❽ゐながら。ゐながらにして。〔易、繫辭下〕噫亦要二存亡吉凶一、則居可レ知矣。❾たくはへる。つむ。⿱宀居(3−7193)・⿰貝居(10−36821)に通ず。〔說文通訓定聲〕居、字亦作レ⿰貝居。〔國語、晉語八〕假貸居レ賄。〔注〕居、蓄也。〔史記、平準書〕轉轂百數、廢居居レ邑。〔注〕索隱曰、劉氏云、廢、出賣也、居、停蓄也。〔漢書、張湯傳〕居レ物致レ富。〔注〕服虔曰、居、謂レ儲也。❿たくはへ。〔書、益稷〕懋遷二有無一化レ居。〔傳〕居、謂下所レ宜二居積一者上。⓫とぢる。ふさぐ。錮(11−40505)に通ず。〔說文通訓定聲〕居、叚借爲レ錮。〔呂覽、圜道〕一有レ所レ居則八虛。〔注〕居、猶二壅閉一也。⓬おごる。倨(1−790)に通ず。〔說文通訓定聲〕居、叚借爲レ倨。漢書酷吏郅都傳、丞相條侯、至貴居也。⓭うづくまる。踞(10−37642)に同じ。〔說文〕居、蹲也、从レ尸古聲。〔段注〕凡今人居處字、古祇作二凥處一、居、蹲也、凡今人蹲踞字、古祇作レ居、云云、但古人有レ坐、有レ跪、有レ蹲、有二箕踞一、踞與レ坐、皆厀著二于席一、而跪聳二其體一、坐下二其脾一、云云、若レ蹲則足底著レ地、而下二其脾一、聳二其厀一、曰レ蹲、其字亦作レ竣、云云、若二箕踞一、則脾著レ席而伸二其脚於前一、是曰二箕踞一。〔大徐本說文〕居、踞、俗居从レ足。⓮ゆゑ。理由。故(5−13161)に通ず。〔莊子、齊物論〕顏成子游、立侍二乎前一曰、何居乎。〔釋文〕司馬云、居、猶レ故也。⓯凥(2−1744)に同じ。〔廣雅、釋詁二〕居、凥也。〔曹憲音〕凥、案、說文、从レ尸几聲、今居字、乃箕居字也。〔說文、居、段注〕凡今人居處字、古祇作二凥處一、云云、今字用二蹲居字一爲二凥處字一、而凥字廢矣、又別製二踞字一爲二蹲居字一、而居字之本義廢矣。⓰或は⿱尸足(10−37381)に作る。〔集韻〕居、或作レ⿱尸足。⓱古は⿸尸丘(4−7664)・⿱宀古(3−7113)に作る。〔玉篇〕居、⿸尸丘古文。〔康熙字典〕居、古文⿱宀古。⓲姓。〔通志、氏族略、以レ名爲レ氏〕居氏、晉大夫先且居之後、以二王父字一爲レ氏、漢有二來城侯居般一、今錢塘多二此姓一、望出二渤海信都一。⓳現下等な飲食店。［二］❶や。か。㋑疑問の助辭。其(2−1472)・期(5−14378)に通ず。〔經傳釋詞、五〕其、問詞之助也、或作レ期、或作レ居、義竝同也、云云、禮記檀弓曰、何居、我未二之前聞一也、鄭注曰、居、讀如二姬姓之姬一、齊魯之閒語助也、又曰、吾許二其大一而不レ許二其細一、何居、郊特牲曰、二日伐レ鼓、何居、成二年左傳曰、誰居、後之人必有レ任二是夫一、襄二十三年傳曰、誰居、其孟椒乎。〔禮、郊特牲〕二日伐レ鼓、何居。〔注〕居、讀爲レ姬、語之助也、何居、怪レ之也。〔左氏、襄、二十三〕國有レ人焉、誰居、其孟椒乎。〔注〕居、猶レ與也。㋺呼びかけるときに用ひる。指定強意の助辭。〔詩、邶風、柏舟〕日居月諸、胡迭而微。〔疏〕居・諸者、語助也。❷語勢を調へる助辭。訓讀しない。〔經傳釋詞、五〕居、詞也、易繫辭傳曰、噫亦要二存亡吉凶一、則居可レ知矣、鄭王注竝曰、居、辭也、詩柏舟曰、日居月諸、正義曰、居・諸者、語助也、故日月傳曰、日乎月乎、不レ言二居諸一也、十月之交曰、擇有二車馬一、以居徂向、居、語助、言下擇有二車馬一以徂向上也。［三］居居(27)を見よ。［邦］ゐ。

［名乘］オキ。サヤ。スヱ。ヤス。ヰヤ。

【居安】1 キョアン ❶安樂な境遇に居る。〔左氏、襄、十一〕書曰、居レ安思レ危、思則有レ備、有レ備無レ患、敢以レ此規。❷宋、蔡攸(9−31818‥2)の字。

【居安資深】2 キョアンシシン 其の所に安らかに居り、其の物を十分利用する。道を自得した者のさま。〔孟子、離婁下〕君子深造レ之以レ道、欲三其自二得之一也、自二得之一、則居レ之安、居レ之安、則資レ之深。〔集注〕資、猶レ藉也、自二得於己一、則所二以處一レ之者、安固而不レ搖、處レ之安固、則所レ藉者、深遠而無レ盡。

【居易】3 キョイ ❶安らかな位置に居る。〔中庸〕君子居レ易以俟レ命、小人行レ險以徼レ幸。〔注〕易、猶二平安一也。❷唐、白樂天(8−22678‥1418)の名。〔唐書、白居易傳〕居易、字樂天、太原人。❸字號。㋑宋、徐確(4−10110‥53)の字。㋺淸、賀行素(10−36725‥124)の字。

【居易居】4 キョイキョ　清、呉修(**2**－3365・・207)の室名。

【居易軒】5 キョイケン　清、鄭三才(**11**－39647・・392)の室名。

【居易堂】6 キョイダウ　室名。❶清、周大樞(**2**－3441・・764)の室名。❷清、徐枋(**4**－10110・・251)の室名。

【居易録】7 キョイロク　書名。三十四卷。清、王士禛撰。初めに典籍を辯じ、詩文を評し、人物を表章し、得失を論斷し、三卷以後は時事を記し、九卷以後は日歴、起居注の體を以て差遣遷除の事を記す。〔四庫提要、子、雜家類〕。

【居有】8 キョイウ　我がものとして住む。〔漢書、五行志下之上〕小女而入㆓宮殿中㆒者、下人將㆘因㆓女寵㆒而居㆗有宮室㆖之象也、名曰㆓持弓㆒、有㆑似㆓周家檿弧之祥㆒。

【居憂】9 キョイウ　喪に居る。又、そのこと。憂は、かなしみ。喪中。忌中。〔書、太甲上〕王徂㆓桐宮㆒居㆑憂、克終㆓允德㆒。

【居宇】10 キョウ　すまひ。家。〔後漢書、馬融傳〕居宇器服、多存㆓侈飾㆒。

【居運】11 キョウン　居ることと徙ること。〔墨子、大取〕諸以㆓居運㆒命者、苟入㆓於其中㆒者、皆是也。〔閒詁〕居運、言㆓居住或運徙㆒。

【居衞】12 キョエイ　孔叢子の篇名。

【居延】13 キョエン　❶城の名。甘肅省の西北境、漢の武帝の時、伏波將軍路博德をして築かしめた處。張掖・酒泉二郡に亙る。〔史記、李將軍傳〕嘗深入㆓匈奴㆒二千餘里、過㆓居延㆒視㆓地形㆒。〔漢書、食貨志上〕教㆓邊郡及居延城㆒。❷州名。唐、置く。綏遠省烏喇特の境。❸縣名。漢、置く。今の甘肅省酒泉邊外蒙古額濟納旗に在つた。〔漢書、地理志下〕張掖郡、縣十、居延。

【居延泊】14 キョエンハク　湖の名。又、居延海・居延澤といふ。甘肅省酒泉縣の邊外、額濟納舊土爾扈特部の北境。東西二泊に分れ、東を朔博泊、西を朔博克泊といふ。張掖河の匯入する所。古は一湖であつたが、淤泥に塞がれて二泊となる。〔史記、匈奴傳〕使㆓彊弩都尉路博德築㆓居延澤上㆒。〔水經、禹貢山水澤地所在〕流沙地、在㆓張掖居延縣東北㆒。〔注〕居延澤、在㆓其縣故城東北㆒、尚書所謂流沙者也、形如㆓月生五日㆒也。

【居延設治局】15 キョエンセツチキョク　地方行政署の名。民國、置く。本、額濟納土爾扈特旗の地を治む。寧夏省に屬す。

【居垣】16 キョエン　明、金光辰(**11**－40152・・1230)の字。

【居屋】17 chü¹ wu¹　住宅。

【居家】18 キョカ　❶すまふ家。住家。〔孝經、廣揚名章〕居家理、故治可㆑移㆓於官㆒。〔注〕君子所㆑居則化、故可㆑移㆓於官㆒也。〔後漢書、董卓傳〕悉燒㆓宮廟官居家㆒、二百里内、無㆓復孑遺㆒。❷家に居る。居舍。〔史記、項羽紀〕范增年七十、素居㆑家、好㆓奇計㆒。〔蘇轍、上㆓樞密韓太尉㆒書〕其居㆑家所㆓與游㆒者、不㆑過㆓其鄰里鄉黨之人㆒。

【居牙】19 キョガ　熊や虎の如く牙を有する獸類をいふ。鋸牙(**11**－40505・・2)に同じ。〔淮南子、本經訓〕句爪居牙、戴角出距之獸、於㆑是鷙矣。〔注〕居牙、熊虎之屬也。

【居合】20 ヰアヒ　劍術の一派。又、居合拔・利方ともいふ。居ながら刀を拔いて敵と戰ふ術。狹い所で極めて長い刀を拔く等、自在に刀を拔き差しする術をいふ。江戸時代の初、林崎重信に起る。〔書言字考節用集、八、言辭門〕居合。〔注〕劍術、林崎重信末派也、又謂㆓之利方㆒。

【居合拔】21 ヰアヒヌキ　居合に同じ。〔香具師一件〕居合拔獨樂廻し之類。

【居閒】22 キョカン　兩者の中閒に居る。兩者の閒に立つて盡力する。居中。〔史記、灌夫傳〕賓客居㆑閒、遂止俱解。〔漢書、郭解傳〕邑中賢豪、居㆑閒以㆑十數。〔注〕師古曰、居㆓中閒㆒爲㆓道地㆒、和㆓輯之㆒。

【居閒業】23 chü¹ chien¹ yeh⁴　周旋業。

【居簡】24 キョカン　❶簡約に立つ。簡は、煩雜でないこと。〔論語、雍也〕居㆑簡而行㆑簡、無㆓乃大簡㆒乎。〔集注〕簡者、不㆑煩之謂。❷閒暇無事で居る。ひまなこと。〔韓愈、畫記〕居㆑簡處㆑獨時、往㆓來余懷㆒也。❸宋の僧。號は北磵。潼州の王氏の子。字は敬叟。嘉熙中、淨慈光孝寺に住す。著に北磵集がある。〔新續高僧傳、三〕。

【居奇】25 キョキ　奇貨を貯へおいて價の昂るを待つ。よいかねまうけ。〔史記、呂不韋傳〕子楚、居處困不㆑得㆑意、呂不韋賈㆓邯鄲㆒、見而憐㆑之曰、此奇貨可㆑居也。〔注〕集解曰、以㆓子楚㆒方㆓財貨㆒也。〔福惠全書、刑名部、人命上、禁抄搶〕似㆑此借㆑命居㆑奇。

【居暨】26 キョキ　獸の名。梁渠の山に住み、其の形ははりねずみの如く、毛は赤く、鳴聲は豚の如くであるといふ。〔山海經、北山經〕梁渠之山、其獸多㆓居暨㆒、其狀如㆑彙而赤毛、其音如㆑豚。

【居居】27 キョキョ　❶惡心を懷いて相親しまないさま。〔爾雅、釋訓〕居居・究究、惡也。〔詩、唐風、羔裘〕自㆓我人居居㆒。〔傳〕居居、懷㆑惡不㆓相親比㆒之貌。❷安靜のさま。〔莊子、盜跖〕神農之世、臥則居居、起則于于。〔疏〕居居、安靜之容。〔論衡、齊世〕夫宓犧之前、人民至質朴、臥者居居、坐者于于。

【居圉】28 キョギョ　國都の中から邊境に至るまで、人の住居すべき所。居は國都の中、圉は邊陲の地。〔詩、大雅、召旻〕民卒流亡、我居圉卒荒。〔集傳〕居、國中也、圉、邊陲也。

【居曲】29 キョキョク　居る所の曲つてせまいこと。〔墨子、號令〕視㆓敵之居曲㆒、衆少而應㆑之。

【居貨】30 キョクワ　❶店に居ながら商賣すること。〔方回、估客樂〕不㆑如估客取㆓邪贏㆒、居貨網㆑人人不㆑覺。❷商品を貯藏する。居貨待價を見よ。

【居貨待價】31 キョクワタイカ　大いに利益を得ようとして、商品を貯藏して物價の騰貴を待つこと。〔大學衍義補、制㆓國用㆒、市糴之令〕雖㆑曰㆔摧㆓抑商賈居㆑貨待㆑價之謀㆒、然貧㆓吾民㆒也。

【居官】32 キョクワン　役人の地位に居る。〔國語、魯語上〕(臧)文仲曰、賢者急㆑病而讓㆑夷、居㆑官者當㆑事不㆑避㆑難。

【居官鑑】33 キョクワンカン　戲曲の名。清の黃燮清(原名は憲清)の倚晴樓七種の一。王文錫が役人になつてゐた時に、清廉であつた事を記す。

【居環】34 キョクワン　清、余正元(**1**－515・・100)の字。

【居敬】35 キョケイ　❶つつしんで身を持すること。居敬窮理を見よ。〔論語、雍也〕居㆑敬而行㆑簡、以臨㆓其民㆒、不㆓亦可㆒乎。〔集解〕孔安國曰、居㆑身敬肅。❷字號。㋑元、胡行簡(**9**－29400・・420)の字。㋺明、邢簡(**11**－39301・・8)の字。

【居敬堂】36 キョケイダウ　❶明、朱厚煜(**6**－14424・・769)の室名。❷小畑行簡の號。小畑詩山(**4**－7473・・1594)を見よ。

【居敬窮理】37 キョケイキユウリ　朱子學の修養の眼目。居敬とは内的修養法で、心に省みて寸時も怠ること無く、起居動作を愼むことをいふ。敬は所謂主一無適の意。程明道は修養法として敬と義とを擧げ、敬、以て内を直くし、義、以て外を方にすと說き、程伊川も居敬を說き、其の手段として靜座を擧げてゐる。朱子は伊川の說を繼承して、學者の工夫は唯〻居敬窮理の二事に在りと說き、省察敬愼を必要として靜座を擧げ、特に夜氣を存するを重視した。(夜氣とは、晝間の邪念妄想が、夜に至つて寂寞の氣に觸れ、自然に洗ひ流されて汚れぬ靜かな心になつたものをいふ)。窮理とは外的修養法で、廣く事物の理を窮めて、正確な知識を獲得することをいふ。所謂、致知格物・博文約禮の意。伊川は居敬と窮理とを二大綱領として、進學は則ち知を致すに在りといひ、其の手段として、讀書に依つて義理を明かにし、古今の人物を批判して是非を分ち、或は事物に折衝して其の當に處すべきことを必要とした。朱子は之を繼承して、更に細說し、天下に理外の物無しといひ、又、今日一件を了し、明日一件を窮め、久しき學問を經て遂に脫然貫通する所ありと稱して、小から大に、卑から高に及ぼすべきを說き、其の工夫として、博學・審問・愼思・明辨を擧げ、博文約禮を必要とした。而して居敬と窮理とは車の兩輪の如き關係にあつて、相倚り相集まつて始めて仁を實現し得るものとした。但、朱子は居敬よりも寧ろ窮理を重んずる傾向があつた。〔朱子語類、九〕學者工夫、唯在㆓居敬窮理二事㆒、此二事互相發、能窮㆑理、則居敬工夫日益進、能居㆑敬、則窮理工夫日益密、譬如㆓人之兩足、左足行則右足止、右足行則左足止㆒。

【居稽】38 キョケイ　❶今の世に居て、古の君子の意と合する。稽は合。居今稽古。〔禮、儒行〕儒有㆓今人與居、古人與稽㆒。〔注〕稽、猶㆑合也。〔疏〕

言下儒與二今世小人一共居住、與二古人之君子一意合同上也。❷chü chi 研究切磋する。

【居業】39キヨゲフ ❶家に居てなす業務。生計の爲の仕事。產業。〔後漢書、齊武王縯傳〕不レ事二家人居業一、傾レ身破レ產。〔後漢書、橋玄傳〕及レ卒、家無二居業一。❷唐、鄭餘慶(**11**－**39647**··565)の字。

【居業齋】39′キヨゲフサイ 淸、金德嘉(**11**－**40152**··1349)の號。

【居業錄】39″キヨゲフロク 書名。八卷。明、胡居仁撰。其の講學の語錄で、十二類に分れ、一千一百九十九條あり。張伯行の正誼堂叢書本は、心性淵源・學問工夫・聖賢德業・帝王事功・古今制度・天地化生・老佛歸宿・經傳旨趣の八類に分つ。〔四庫提要、子、儒家類〕

【居儉】40キヨケン ❶動かずにをる時はつづまやかにしてゐる。〔國語、周語下〕動莫レ若レ敬、居莫レ若レ儉、云云、居儉動敬、德讓事咨、而能辟レ怨。❷明、楊節(**6**－**15112**··252)の字。

【居股】41キヨコ 漢の人。封は東城侯。衞太子の謀反に坐して腰斬せらる。〔漢書、九十五〕

【居句】42キヨコウ 直なものと折れ曲つたもの。居は倨で、直。句は曲。〔周禮、春官、家宗人〕凡以レ神仕者、〔注〕謂三布祭衆寡與二其居句一。〔疏〕神有二衆寡多少一、或居方爲レ之、或句曲爲レ之也。〔管子、弟子職〕櫛之遠近、乃承二厥火一、居句如レ矩。〔纂詁〕居、讀爲レ倨、倨、直也、句、曲也、云云、一縱一橫如レ矩也。

【居厚】43キヨコウ 字號。❶宋、劉希仁(**2**－**2224**··768)の字。❷宋、李廷忠(**6**－**14459**··1774)の字。

【居恆】44キヨコウ 平生。つねづね。居常。〔福惠全書、編審部、總論〕須三素履淸操、居恆政尙二仁恕一。〔國史略、正親町天皇〕居恆鞅鞅、夙有二癥疾一、晩節殆不二自支一。〔鹽谷宕陰、送二安井仲平東游一序〕居恆觀二於仲平一以自勵。

【居候】45キサフラフ 他家に寄食する人。かかり人。寄客。食客。〔浮世風呂、二編、下〕親里へ行つてゐさふらふになつてゐる。

【居國】46キヨコク ❶國を保つ。〔孔子家語、六本〕治政有レ理矣、而農爲レ本、居國有レ道矣、而嗣爲レ本。❷封ぜられて居る國。封國。〔史記、吳王濞傳〕其居國、以二銅鹽故一、百姓無レ賦。

【居今】47キヨコン 今の世に居る。〔孔子家語、五儀解〕居二今之俗一、服二古之服一。

【居今稽古】48キヨコンケイコ 今の世に居つて古の君子の意と合する。稽は合。居稽を見よ。

【居坐】49キヨザ すわる。〔漢書、袁盎傳〕盎素不レ好二鼂錯一、錯所二居坐一、盎輒避、盎所二居坐一、錯亦避。

【居寀】50キヨサイ 字號。❶元、陳樵(**11**－**41698**··400)の字。❷明、石茂華(**8**－**24024**··1039)の字。

【居蔡】51キヨサイ 占卜に用ひる龜を貯へておくこと。蔡は、もと占卜に用ひる龜を產する地。轉じて、其の龜。居は畜へる。〔論語、公冶長〕臧文仲居レ蔡、山レ節藻レ梲。〔集解〕包咸云、蔡、國君之守龜、出二蔡地一、因以爲レ名焉。〔集注〕居、猶レ藏也。

【居巢】52キヨサウ ❶笙をいふ。〔雲笈七籤〕秀琰鳴二洞簫一、小娥運二居巢一。〔注〕居巢、笙也。❷縣名。又、居鄛に作る。秦、置く。今の安徽省巢縣の東北。古の南巢の地で、成湯が桀を放つたところ。殷・周の巢國、楚の居巢邑。故地は今、巢湖となる。〔史記、伍子胥傳〕大破二楚軍於豫章一、取二楚之居巢一。〔漢書、地理志上〕廬江郡、縣十二、居巢。〔注〕應劭曰、春秋、楚人圍レ巢、巢國也。〔淸一統志〕南巢、在二今安徽巢縣東北五里一、卽居巢故城。〔太平寰宇記〕古居巢城、陷爲二巢湖一。

【居喪】53キヨサウ 喪に居る。喪中。忌中。〔禮、曲禮上〕居レ喪之禮、毀瘠不レ形、視聽不レ衰。〔禮、曲禮下〕居レ喪未レ葬、讀二喪禮一、既葬、讀二祭禮一、復常讀二樂章一。〔左氏、襄、三十一〕居レ喪而不レ哀。

【居裝】54キヨサウ 家に居て貨物を賣ること。裝は藏。居貨。〔管子、輕重甲〕農夫得三居裝而賣二其薪蕘一。〔纂詁〕裝、藏也、言下不二負販一而售上。

【居鄛】55キヨサウ 居巢(52)の❷に同じ。〔史記、項羽紀〕居鄛人范增。〔注〕索隱曰、晉灼曰、音勦絕之勦、地理志、居鄛縣、在二廬江郡一。

【居孀】56 chü¹ shuang¹ 後家になる。

【居作】57キヨサク ❶傭はれて勞役する。〔後漢書、逸民、梁鴻傳〕鴻曰、無二它財一、願以レ身居作。❷徒刑囚が配所內で作業をすること。役刑。〔唐律、名例〕諸犯徒應レ役、而無二兼丁一者、徒一年、加杖一百二十、不二居作一。

【居產】58キヨサン 家の財產。家產。〔列子、周穆王〕華子之妻子、以二居產之半一請二其方一。

【居子】59キヨシ まだ出仕しない、へやずみの者。〔山堂肆考〕未二出仕一者、曰二居子一。

【居之】60キヨシ 明、姜曰廣(**3**－**6205**··76)の字。

【居止】61キヨシ ❶住居。又、居住する。〔向秀、思舊賦序〕余與二嵇康呂安一、居止接近。〔宣和遺事、後集〕其次居止、及別擇二到賢族一、未二敢先レ次奏聞一。❷ふるまひ。行動。〔薛瑩、龍女傳〕訪二其父母一、父母居止儼然。

【居址】62 chü¹ chih³ 居處。住所。

【居飼】63キカヒ 我が國の古の官名。院司・攝關家司の廐別當に屬す。牛馬を預かることを掌る。〔物具裝束抄〕居飼事、水干紅、紺袴、藁沓。

【居積】64キヨシ 財物を儲蓄し置くこと。たくはへ。〔論衡、知實〕子貢善二居積一、意二貴賤之期一、數得二其時一、故貨殖多、富比二陶朱一。

【居士】65コジ ❶道藝に達してゐながら官に仕へぬ士。處士。後世多く居士を以つて自ら號するに至る。〔禮、玉藻〕居士錦帶。〔注〕居士、道藝處士也。〔韓非子、外儲說左上〕齊有二居士田仲者一、不三恃二仰人一而食。〔魏志、管寧傳〕自相約誓言、胡居士賢者也、一不レ得レ犯二其部落一。〔歐陽脩、六一居士傳〕六一居士、初謫二滁山一、自號二醉翁一、既老而衰且病、將三退二休於潁水之上一、則又更號二六一居士一。〔陔餘叢考、居士〕輟耕錄云、今人多以二居士一自號。〔稱謂錄、布衣、居士〕宋蕭參希通錄、本朝以二居士一稱者實繁、卽孟子所謂處士也。❷〘佛〙財に居る士。家に居る士。在家で佛道に志すもの。其の他、寡欲で德を積んだ人、道に安じて自ら悟つた人等をも稱する。〔楞嚴經、六〕我於二彼前一現二居士身一。〔祖庭事苑〕凡具二四德一、乃稱二居士一、一不レ求二仕官一、二寡欲蘊レ德、三居レ財大富、四安レ道自悟。〔注維摩經、一〕什曰、外國白衣多レ財富樂者、名爲二居士一。肇曰、積レ財一億、入二居士里一、寶貨彌殖、故貪著彌深。〔慧遠維摩經疏、一〕居士有レ二、一廣積二資財一、居レ財之士名爲二居士一、二在レ家修レ道、居家道士名爲二居士一。〔嘉祥法華義疏、十二〕居士有二二種一、一居レ舍之士、故名二居士一、二居二財一億一、故名二居士一。

【居士屩】66コジキヤク 唐の朱桃椎の造つたわらぐつ。朱桃椎が官に仕へずに居たから居士といふ。〔唐書、朱桃椎傳〕桃椎、澹泊絕レ俗、贈遺無レ所レ受、嘗織二十芒屩一置二道上一、見者曰、此居士屩也、爲下鬻二米茗一易上レ之、置二其處一輒取去、終不二與レ人接一。〔方岳、山居詩〕雲黏居士屩、藤覆野人家。

【居士傳】67コジデン 書名。淸、彭際淸撰。傳五十六、人物三百を列ねたもの。皆、入道の因緣、其の功等を記錄し、傳內に汪大紳の評語がある。

【居士服】68コジフク 隱者の服。〔南史、虞寄傳〕陳寶應據二有閩中一、潛有二逆謀一、寄知二寶應不一レ可レ諫、慮二禍及一レ己、乃爲二居士服一、以拒二絕之一。

【居次】69キヨジ 匈奴の女の號。公主といふに同じ。〔漢書、常惠傳〕獲二單于父行及嫂居次一。〔注〕晉灼曰、匈奴女號、若レ言二公主一也。

【居就】70キヨシウ 縣名。漢、置く。後漢、省く。故城は今の滿洲遼寧省海城縣の西南。〔漢書、地理志下〕遼東郡、縣十八、居就。〔讀史方輿紀要、山東、遼東都指揮使司、海州衞、新昌城〕居就城、在二衞東北一、漢縣、屬二遼東郡一、後漢省、晉復置、咸和九年、慕容皝擊二其弟仁於遼東一、入二襄平・居就、及新昌一、皆降二於皝一。

【居室】71キヨシツ ❶ゐま。部屋。〔禮、曲禮下〕君子將レ營二宮室一、宗廟爲レ先、廐庫爲レ次、居室爲レ後。〔後漢書、宦者、侯覽傳〕破二人居室一、發二掘墳墓一。❷家にすまつて居る。〔易、繫辭上〕君子居二其室一。〔孟子、萬章上〕男女居レ室、人之大倫也。❸夫婦。〔史記、儒林傳〕婚姻者、居室之大倫也。❹妻。〔列女傳、賢明、宋鮑女妻傳〕吾姒不三教レ吾以二居室之禮一。❺漢代の役所の名。少府に屬し、罪徒を繫ぐ等に用ひた。〔駢雅、釋官〕居室、獄也。〔漢書、百官公卿表上〕少府、秦官、屬官有二左弋居室・甘泉居室一、云云、武帝太初元年、居室爲二保宮一、甘泉居室爲二昆臺一。〔漢書、灌夫傳〕劾二灌夫罵坐不敬一、繫二居室一。〔注〕師古曰、居室、署名也、屬二少府一、其後改レ名曰二保宮一。〔漢書、衞青傳〕青嘗從レ人至二甘泉居室一。〔注〕張晏曰、居室、甘泉中、徒所レ居也。

【居舍】72キヨシヤ 家に居る。居家。〔史記、董仲舒傳〕仲舒廢爲二中大夫一、居レ舍、著二災異之記一。

【居者】73（キヨシヤ） 止まつて居るもの。家に居るもの。〔孟子、梁惠王下〕居者有二積倉一、行者有二裹糧一也。〔呂覽、知接〕居者無レ載、行者無レ埋。〔淮南子、說林訓〕行者思二於道一、而居者夢二於牀一。

【居上】74（キヨジヤウ） 上位に居る。人の上に立つ。〔書、伊訓〕居レ上克明、爲レ下克忠。

【居城】75（キヨジヤウ） 住んでゐる城。

【居常】76（キヨジヤウ） ❶道を守つて變らぬ。〔左氏、昭、十三〕叔向曰、芊姓有レ亂、必季實立、楚之常也、獲レ神一也、有レ民二也、令德三也、寵貴四也、居レ常五也、有二五利一以去二五難一、誰能害レ之。❷つねに。ふだん。平生。居恆。〔史記、淮陰侯傳〕信由レ此日怨望、居常鞅鞅。〔後漢書、崔瑗傳〕愛レ士好二賓客一、盛脩二肴膳一、單二極滋味一、不レ問二餘產一、居常蔬食菜羹而已。〔南史、徐勉傳〕勉爲レ書戒二子崧一曰、獨酒一杯、彈琴一曲、求二數刻之暫樂一、庶居常以待レ終。〔劉知幾、思愼賦序〕觀二止足於居常一、絕二覬覦於不次一。

【居情】77（キヨジヤウ） 留まり居たいと思ふ情。〔陸機、贈二弟士龍一詩〕慷慨逝言感、徘徊居情育。

【居守】78（キヨシユ） ❶とどまつてまもる。留守居する。畱守。〔左氏、成、十六〕荀罃居守。〔左氏、襄、二十六〕孫襄居守。〔荀子、大略〕使二仁居守一。〔史記、畱侯世家〕羣臣居守。〔漢書、鼂錯傳〕錯欲下令二上自將レ兵、而身居守上。❷留守の官を置く。〔杜甫、九成宮詩〕雖レ無二新增修一、尙置レ官居レ守。

【居守河南尹】79（キヨシユカナンノイン） 河南道の長官で、洛陽の留守を兼ねたもの。〔韓愈、送三溫處士赴二河陽軍一序〕自二居守河南尹一、以及二百司之執事一。

【居首】80（キヨシユ） 首位を占める。又、前に居る。はじめにある。〔詩、大序、上以風二化下一、下以風二刺上一疏〕此六義之下、而解二名レ風之意一、則六義皆名爲レ風、以三風是政教之初、六義風居二其首一、故六義捴名爲レ風、六義隨レ事生レ稱耳。〔國史略、高倉天皇〕爲朝以二巨鏃箭一射二居レ首者一、透レ底而出。

【居宿】81（キヨシユク） すまひ。居住。住居。

【居所】82（キヨシヨ） ❶其の場所に居る。〔論語、爲政〕爲レ政以レ德、譬如下北辰居二其所一、而衆星共上レ之。❷居る場所。居處。

【居處】83（キヨシヨ） ❶居ること。又、其の時の樣子。身だしなみ。身の持し方。〔論語、子路〕樊遲問レ仁、子曰、居處恭、執レ事敬、與レ人忠、雖レ之二夷狄一、不レ可レ棄也。〔荀子、脩身〕食飮衣服、居處動靜。❷身を置く所。ゐどころ。居所。〔史記、呂不韋傳〕居處困不レ得レ意。

〖居處不レ莊〗84（キヨシヨサウナラズ） 身の持し方が莊重でない。〔禮、祭義〕曾子曰、居處不レ莊、非レ孝。〔聖諭廣訓、孝訓〕推而廣レ之、如二曾子所謂居處不レ莊非レ孝。

〖居處必正靜〗85（キヨシヨカナラズセイセイ） じつとしてゐる時には身の持し方を必ず正しく靜かにする。正靜は、正しく落著いてゐること。〔小學嘉言〕步履必安詳、居處必正靜。

【居諸】86（キヨシヨ） 日月をいふ。詩經邶風柏舟篇の日居月諸の句に本づく。居と諸とは助詞。〔詩、邶風、柏舟〕日居月諸、胡迭而微。〔集傳〕居・諸、語辭。〔杜甫、別二張十三建封一詩〕童丱聯二居諸一。〔韓愈、符讀二書城南一詩〕豈不二旦夕念一、爲レ爾惜二居諸一。〔白居易、和二微之一詩二十三首、和二除夜作一詩〕恩光未二報答一、日月空居諸。

【居升】87（キヨシヨウ） 明、葉伯巨(**9－31387**・・253)の字。

【居食】88（ヰグヒ） ゐながらくらふこと。遊んでゐて食ふこと。徒食。坐食。素餐。〔本朝櫻陰比事、二〕ゐ食ひにしても、此の貯へ盡くる世あらじ。

【居職】89（ヰジヨク） 家に居つて業をする職。

【居屬】90（キヨシヨク） 鋤の類。倨斸に通ず。〔墨子、備城門〕民室杵木瓦石、可三以益二城之備一者、盡上レ之、不レ從令者斬、昔築、七尺一居屬、五步一壘。〔閒詁〕畢云、疑鋸欘、案、畢據三管子小匡篇文、尹知章注云二鋸欘、钁類一也、說文金部云、鋸、槍唐也、非二此義一、斤部云、斸、斫也、又木部云、欘、斫也、廣雅釋器云、鋸、鉏也、集韻引二埤倉一云、钃、鉏也、爾雅釋器云、斪斸、謂二之定一、郭注云、鋤也、考工記車人鄭注、引二爾雅一作二句欘一、又云、斲斤柄、是斸有二兩義一、此居屬與二築壘類一列、則當レ爲レ鋤、竊疑、居・鋸、卽倨之叚字、斪與レ句同、斤柄箸レ刃、其形句、故謂二之句斸一、鋤柄箸レ金、其形倨、故謂二之倨斸一、名與レ義各相應也、爾雅斪斸、當レ爲レ斤、郭注說失レ之。

【居心】91（キヨシン） ❶おちついて安らかな心。〔呂覽、上農〕皆有二遠志一、無レ有二居心一。〔注〕居、安也。❷心を存する。心を保つ。存念。量見。〔晉書、謝重傳〕卿居レ心不レ淨、乃復強欲三滓二穢太淸一耶。

【居眞】92（キヨシン） 明、儀智(**1－1172**・・68)の字。

【居人】93（キヨジン） すんでゐる人。すみて。〔詩、鄭風、叔于田〕叔于田、巷無二居人一。〔漢書、五行志中之上〕鷄者小畜、主二司レ時起二居人一。〔後漢書、光武紀下〕郡中居人。〔江淹、別賦〕居人愁臥、怳若レ有レ亡。

【居仁】94（キヨジン） ❶仁に居る。仁心を備へる。〔孟子、離婁上〕吾身不レ能二居レ仁由レ義、謂二之自棄一也。〔孟子、盡心上〕居レ仁由レ義、大人之事備矣。❷明、句容の人。字は仁恕。洪武の初、儒碩を以て聘せられたが辭して職に就かず。晚年、瞻菉と號す。❸字號。㋑宋、賈安宅(**10－36755**・・140)の字。㋺宋、成閔(**5－11544**・・264)の字。㋩宋、呂本中(**2－3386**・・266)の字。㋥元、孫庚(**3－6987**・・32)の字。㋭明、潘岳(**7－18236**・・14)の字。

【居水】95（キヨスイ） 河海をすまひとする。〔國語、越語上〕陸人居レ陸、水人居レ水。

【居睡】96（ヰネムリ） 坐つたままねむること。

【居正】97（キヨセイ） ❶常道に循つて行ふ。〔春秋、隱、元、春王正月、注〕凡人君卽レ位、欲二其體レ元以居レ正。〔史記、梁世家〕褚先生曰、春秋曰、君子大レ居レ正、宋之禍、宣公爲レ之。〔後漢書、南匈奴傳〕春秋大レ居レ正。❷淸、湖北省蘄水縣の人。日本に留學して法政大學に學ぶ。歸國後、革命運動に從事し、孫文を助け、廣東・湖北の聯絡に任ず。孫文が北京に客死するや、西山會議派の牛耳を執り、蔣介石及び左派に對抗す。後、汪兆銘等の改組派と策應し、反蔣運動に努めた。國民政府司法院長・第五期中央執行委員となる。〔現代中華民國滿洲國人名鑑〕。❸宋、劉綜(**2－2224**・・463)の字。

【居成】98（キヨセイ） じつとして居て天下の治まること。〔忠經、廣至理章〕端旒而自化、居成而不レ有。

【居勢】99（キヨセイ） 勢力のある地位に居る。〔楚辭、東方朔、七諫、怨世〕小人之居レ勢兮、視二忠正一之何若。〔注〕言、小人智少慮狹、苟欲三承順求レ媚、以居二位勢一、視二忠正之人一、當二何如一乎、甚二於草芥一也。〔漢書、景十三王傳贊〕漢興、至二於孝平一、諸侯王以レ百數、率多驕淫失レ道、何則沈二溺於放恣之中一、居レ勢使レ然也。

【居節】100（キヨセツ） 明、吳縣の人。字は士貞。號は商谷。文徵明に從游す。詩・書・畫に巧。織監孫隆に召されたが往かなかつた爲、隆が怒つて其の家を破つたので、半塘に僑居して窮死す。著に牧豕集がある。〔明詩綜、五十〕・〔萬斯同明史、三百九十六〕。

【居攝】101（キヨセツ） ❶天子に代つて政を攝行すること。攝(**5－13010**)の字解を見よ。〔漢書、食貨志下〕王莽居レ攝、變二漢制一以二周錢一。〔曹植、周公贊〕成王卽位、年尙幼稚、周公居レ攝、四海慕レ利。〔晉書、王彪之傳〕孝武帝卽位、太皇太后令、以三帝沖幼、加二在諒闇一、令三桓溫依二周公居攝故事一。❷漢の孺子嬰の年號。時に王莽が假皇帝と爲つたので年號を改めて居攝といふ。(6－8)

【居先】102（キヨセン） ❶上位に居る。又、上位に置く。〔晉書、羊琇傳〕選用多以二得レ意者一居レ先、不レ盡二詮次之理一。〔魏書、文成帝紀〕令二班白處レ後、晚進居レ先、豈所謂彝倫攸レ敍者也。❷先頭に居る。〔宋書、朱齡石傳〕攻戰常居レ先、不レ避二矢石一。

【居前】103（キヨゼン） 先に立つ。〔風俗通、正失〕吏士爭居レ前、樂レ盡二死力一。

【居然】104（キヨゼン） ❶其のままに。さながらに。〔駱賓王、帝京篇〕相顧百齡皆有レ待、居然萬化咸應レ改。❷物に動ぜぬさま。坐して動かぬさま。どつしり。〔史記、秦始皇紀〕其勢居然也。〔晉書、庾敳傳〕處二衆人中一、居然獨立。〔賴山陽、楠氏論〕夫以二一兵衞尉一、而居然以二天下之重一自任、豈非下感二激値遇一、以レ身許上レ國哉。❸やすらかなさま。安然。〔詩、大雅、生民〕不レ康二禋祀一、居然生レ子。〔集傳〕居然、猶二徒然一也。〔謝朓、敬亭山詩〕隱淪既已託、靈異居然棲。〔注〕翰曰、居、安也。〔高適、酬二岑二十主簿秋夜見レ贈之作一詩〕舍下蛩亂鳴、居然自蕭索。〔世說新語、賞譽〕殷中軍道二韓太常一曰、康伯少自標置、居然是出二羣器一。❹豫想外の喜び。❺はつきりとあらはれる形容。顯然(**12－43726**・・83)に同じ。〔魏志、何夔傳〕賢不肖之分、居然別矣。❻留まり居るさま。

ゐながらにして。〔左思、三都賦序〕班固曰、賦者、古詩之流也、先生採㆑焉、以觀㆓土風㆒、見㆓綠竹猗猗㆒、則知㆓衞地淇澳之產㆒、見㆑在㆓其版屋㆒、則知㆓秦野西戎之宅㆒、故能居然而辨㆓八方㆒。㊆chü^{1} jan^{2} 急に。不意に。意外に。

【居錯】105キョソ 留まり居る。錯は置く。又、安らかに居る。〔荀子、非相〕居錯遷徙、應㆑變不㆑窮。〔注〕錯、置也、居錯、安居也。

【居息】106キョソク いこふ。やすむ。〔詩、小雅、北山〕或燕燕居息、或盡瘁事㆑國。〔後漢書、傅毅傳〕誰能云作、考㆓之居息㆒。〔注〕言、誰能有㆑所㆑作、而居息閑暇可㆓能成㆒者。

【居續】107ヰツヅケ 他所にとどまつて日をかさねること。〔好色二代男、八〕旅の假枕、十日ばかりのゐつづけ。

【居村】108ヰムラ もとから居住してゐる村。本村。

【居尊】109キョソン 高貴な位に居る。又、天子の位に居る。〔易、乾、元亨利貞、疏〕於㆓物象㆒言㆑之、則純陽也、天也、於㆓人事㆒言㆑之、則君也、父也、以㆓其居㆑尊、故在㆓諸卦之首㆒、爲㆓易理之初㆒。〔舊唐書、禮儀志一〕膺㆑籙居㆑尊、繼㆑文在㆑曆。〔婁元穎、泰階六符賦〕握㆑符正㆑位、出㆑震居㆑尊。〔李夷亮、南風之薰賦〕援㆑琴寫㆑操、知㆓庶政之惟和㆒、負㆑扆居㆑尊、俾㆓含生之是說㆒。

【居多】110キョタ おほきにをる。大部分を占める。〔宋書、孔覬傳〕醉日居㆑多、而明㆓曉政事㆒、醒時判㆑決。

【居待】111ヰマチ 坐してまつこと。

【居待月】112ヰマチヅキ 陰曆十八日の夜の月。坐して出るのを待つ月の意。ゐまちの月。〔新撰六帖、一〕我のみぞねられざりける、かるもかく居待の月の程はへぬれど。

【居宅】113キョタク すまひ。住宅。〔後漢書、董宣傳〕新㆓造居宅㆒。〔後漢書、張綱傳〕卜㆓居宅㆒、相㆓田疇㆒。〔魏志、王烈傳〕居宅離㆑水七八十步。

【居宅拂】114キョタクバラヒ 金を相手方の所へ持つて行かずに、自分の居宅で支拂ふこと。

【居治】115キョチ 馬を飼養することと之を調練すること。居は厩、牧場に置いて養ふこと。治は調練すること。〔周禮、夏官、趣馬〕辨㆓四時之居治㆒、以聽㆓馭夫㆒。〔注〕居、謂㆓牧庌所㆑處、治、謂㆓執駒攻特之屬㆒。

【居軸】116キョヂク 政治や事業の中心人物となる。〔魏志、張邈傳、注〕居㆑軸處㆑中、入則亨㆓于上席㆒、出則爲㆓衆目之所㆑屬。

【居頂】117コチヤウ 明、臺州黃岩の僧。陳氏。字は圓極。號は圓菴。著に續傳燈錄がある。〔新續高僧傳、十九〕。

【居丈】118ヰタケ 坐した身のたけ。坐高。〔榮花物語、莟花〕今年過ぎては、ゐたけにもなりぬべかめり。

【居丈高】119ヰタケダカ ㊀氣を張るさま。居丈を高くそびやかすこと。〔榮花物語、根合〕ゐたけたかに。㊁怒りを含むさま。いきり立つこと。いきまくこと。〔曾我物語、六〕ゐたけたかになり、云云、と高聲なりければ。

【居中】120キョチユウ ㊀中に置く。〔周禮、春官、冢人〕先王之葬居㆑中、以㆓昭穆㆒爲㆓左右㆒。㊁中間に居る。〔任昉、封㆓臨川安興建安等五王㆒詔〕居㆑中作㆑衞。㊂中間にあつて偏しない。〔孔子家語、辯樂解〕君子之音、溫柔居㆑中、以養㆓生育之氣㆒。㊃兩者の間に立つて盡力すること。居間(22)及び居中調停を見よ。㊄字號。㋑宋、王師道(**7－20823**‥158)の字。㋺金、劉樞(**2－2224**‥417)の字。

【居中調停】121キョチユウテウテイ 法律用語。第三者が雙方の間に立つて、其の間の紛擾爭鬪の仲裁の勞を取ること。〔國際紛爭平和的處理條約〕第二條、周旋及居中調停。

【居仲】122キョチユウ 元、葉廣居(**9－31387**‥178)の字。

【居住】123キョヂユウ すまふ。又、すまひ。〔論衡、量知〕居住食祿、終無㆓以效㆒。〔北史、楊椿傳〕居㆓住舍宅㆒。〔十二遊經〕不㆑得㆓居住㆒。

【居邸】124キョテイ すまひしてゐるやしき。

【居貞】125キョテイ ただしきをまもる。貞節を守る。〔易、頤〕居㆑貞之吉、順以從㆑上也。〔易、隨〕隨有㆑求得、利㆑居㆑貞。

【居停】126キョテイ ㊀主人。幕賓又は家庭教師が其の主人を稱する語。〔長生殿、彈詞〕窮途流落、尙乏㆓居停㆒。㊁宿舍。〔正字通〕停、居停、客寓也。

【居停主人】127キョテイノシユジン 宿舍の主人。〔宋史、丁謂傳〕周懷政事敗、帝意欲㆑謫㆓準江淮閒㆒、謂退除㆓道州司馬㆒、王曾以㆓帝語㆒質㆑之、謂顧曰、居停主人勿㆓復言㆒、蓋指㆘曾以㆓第舍㆒假㆖準也。

【居第】128キョテイ すまひ。すみか。住宅。〔宋史、李用和傳〕初未㆑有㆓居第㆒、詔寓㆓館芳林園㆒、用和固辭。

【居賣】129キョバイ 家に居て商賣すること。行商(**10－34029**‥234)の對。〔周禮、地官、司市〕以㆓商賈㆒阜㆑貨而行㆑布、注〕居賣㆑貨曰㆑賈。〔左思、魏都賦〕不㆓鬻㆑邪而豫賈㆒、〔注〕劉曰、居賣曰㆑賈。

【居方】130キョハウ 人皇氏をいふ。人皇(**1－344**‥97)の㊀を見よ。〔古三墳、太古河圖代姓紀〕天下羣居、以㆑類相親、男女衆多、分爲㆓九頭㆒、各有㆓居方㆒、故號㆓居方氏㆒、歿、居方氏生㆑子、三十二世、强弱相迫、欲㆑生㆓呑害㆒、中有㆓神人㆒、提挺而治、故號㆓提挺氏㆒。

【居半】131キョハン 半數を占めてゐる。半分ほどある。〔列子、楊朱〕孩提以逮㆓昏老㆒、幾居㆓其半㆒矣。〔後漢書、皐陵質王延傳〕昔周之爵封、千有八百、而姬姓居㆑半者、所㆔以楨㆓幹王室㆒也。

【居販】132キョハン 蓄積し販賣する。居は藏。〔柳宗元、答問〕食㆓人之食㆒、衣㆓人之衣㆒、用㆓人之貨㆒、無㆓耕織居販㆒。

【居鄙】133キョヒ 鄙辟の所に住む。居場所のいやしいこと。〔逸周書、作雒解〕農居㆑鄙得㆓以庶士㆒。〔曹植、王仲宣誄〕身窮志達、居鄙行鮮。

【居貧】134キョヒン 貧にをる。貧乏ずまひをする。又、家が貧しい。家貧(**3－7169**‥264)に同じ。〔孟子、萬章下〕辭㆑尊居㆑卑、辭㆑富居㆑貧。〔漢書、丙吉傳〕臣年老居㆑貧。〔後漢書、周磐傳〕居㆑貧養㆑母、儉薄不㆑充。〔吳志、闞澤傳〕居㆑貧無㆑資、常爲㆑人傭書、以供㆓紙筆㆒。〔晉書、阮修傳〕修居㆑貧、年四十餘未㆑有㆑室。

【居父】135キョフ 宋、吳琚(**2－3365**‥110)の字。

【居敷】136ヰシキ ㊀坐。席。〔日本書紀、神功紀〕敷㆑草爲㆑坐ヰシキ。㊁尻。ゐさらひ。〔浮世風呂、三編、上〕大きなゐしきへ巻きつけます。

【居敷當】137ヰシキアテ 和服の尻の當る所に、別に縫ひつける布帛。しりあて。しりすけ。

【居風】138キョフウ 縣名。漢、置く。三國吳、改めて移風といひ、唐、省く。故治は今の安南の北境。〔漢書、地理志下〕九眞郡、縣七、居風。

【居勿】139キョフツ 種族の名。匈奴の西北、丁令の西に居た。堅昆(**3－5210**‥50)を見よ。〔唐書、回鶻傳下〕黠戛斯、古堅昆國也、地當㆓伊吾之西、焉耆北、白山之旁㆒、或曰㆓居勿㆒、曰㆓結骨㆒、其種雜㆓丁零㆒、乃匈奴西鄙也。

【居物】140キョブツ 物を儲へる。〔漢書、張湯傳〕居㆑物致㆑富。〔注〕服虔曰、居、謂㆑儲也。

【居木】141ヰギ 馬の鞍の、尻のあたるところ。〔大坪道禪鞍鐙記〕居木の事。

【居民】142キョミン 其の土地に住む人民。住民。〔戰國、楚策〕有偏守㆓新城㆒而居民苦矣。〔漢書、趙充國傳〕居民得㆓並田作㆒、不㆑失㆓農業㆒三也。〔曹昭、東征賦〕察㆓農野之居民㆒。〔蜀志、諸葛亮傳〕耕者雜㆓於渭濱居民之閒㆒。

【居約】143キョヤク 困窮の場所にをる。處約。〔史記、秦始皇紀〕少㆑恩而虎狼心、居㆑約、易㆑出㆓人下㆒。

【居庸】144キョヨウ ㊀山名。古名は軍都山。河北省昌平縣の西北。太行山八陘の一で、山々が重なり合つて、形勢雄偉。又、燕京八景の一で、居庸疊翠といふ。〔讀史方輿紀要、直隸、順天府、昌平州〕軍都山、州西北二十里、層巒疊嶂、奇險天闢、太行第八陘曰㆓軍都㆒、卽此山也、後漢永平中、朔騎經㆓軍都㆒、耿舒襲破㆓其衆㆒、斬㆓匈奴兩王㆒、其後、盧植嘗隱㆓居於此㆒、晉建興中、段匹磾欲㆘擁㆓其衆㆒徙㆒保㆓上谷㆒阻㆗軍都之險㆖、是也、亦曰㆓居庸山㆒。㊁關の名。軍都關・納款關・薊門關ともいふ。河北省昌平縣の西北、延慶縣の南。兩山が夾峙して絕險をなす。呂氏春秋に所謂九塞の一。明の徐達が關の南口に城を作つて京師の北面を固めたのを、世に呼んで南口といふ。關の壁內に、漢・滿・蒙・回・女眞の五種の文字を刻んでゐるので名高い。今、平綏線が通過してゐる。〔呂覽、有始〕何謂㆓九塞㆒、大汾・冥阨・荊阮・方城・殽・井陘・令疵・句注・居庸。〔漢書、地理志下〕上谷郡、縣十五、居庸。〔注〕有㆑關。〔後漢書、光武紀下〕建武十五年、徙㆓雁門・代郡・上谷三郡民㆒、置㆓常山・居庸關以東㆒。〔讀史方輿紀要、直隸、重險、居庸〕居庸關、在㆓順天府昌平州西北二十四里、延慶州東南五十里㆒、關門南北、相距四十里、兩山夾峙、下有㆓巨澗㆒、懸崖峭壁、稱爲㆓絕險㆒、地理志、居庸塞、

東連二盧龍・碣石一、西屬二太行・常山一、實天下之險、有二鐵門關一、呂氏春秋・淮南子、皆曰、天下九塞、居庸其一也、亦謂二之軍都關一、地記、太行八陘、其第八陘爲二軍都一、酈道元曰、居庸關、在二上谷沮陽城東南六十里一、軍都在二居庸之南一、絕レ谷壘レ石、崇レ墉峻レ壁、山岫層深、側道褊狹、林部邃險、路才容レ軌、唐志、幽州昌平縣北十五里有二軍都一陘、縣西北二十五里爲二居庸關一、亦謂二之軍都關一、又居庸關、亦名二納欵關一、又名二薊門關一、而居庸・軍都、其通稱也。㊁縣名。漢、置く。故城は今の河北省延慶縣の東。〔漢書、地理志下〕上谷郡、縣十五、居庸。〔讀史方輿紀要、直隸、順天府、昌平州、軍都城〕居庸城、在二州西北一、漢縣、屬二上谷郡一、關因以名、東漢至レ晉、皆爲二上谷郡屬縣一、後魏、高齊因レ之、後漢廢。

〔居庸山人〕145 キヨヨウサンジン　明、顧存仁(**12**－43689‥313)の號。

〔居庸疊翠〕146 キヨヨウデフスイ　燕景八景の一。居庸關の綠。〔李東陽、京都十景、居庸疊翠詩〕劍戟森嚴虎豹蹲、直從二開闢一見二乾坤一、山連二列郡一趨二東海一、地擁二層城一壯二北門一、萬里朔風須二卻避一、千年王氣鎭長存、磨崖擬刻燕然頌、聖德神功未レ易レ論。

【居郞】147 キヨラウ　明、鄺曰廣(**11**－39711‥6)の字。

【居樂】148 キヨラク　日々の生活が樂しい。母が居るから家に居るのが樂しい。〔國語、晉語四〕坤、母也、震、長男也、母老子彊、故曰レ豫、其繇曰、利二建レ侯行一レ師、居樂出威之謂也。〔注〕居樂、母在レ內也。

【居留】149 キヨリウ　其の地にとどまつて住む。

〔居留地〕150 キヨリウチ　開港場などで外國人にすまひを許す一區域の土地。

〔居留民〕151 キヨリウミン　居留地に住む外國の人民。

【居立】152 タチヰ　たちゐ。起居。

【居倫】153 コリン　佛五比丘の第一。阿若憍陳如をいふ。又、居憐・拘輪・俱隣に作る。梵語の訛音で、本際と譯す。〔玄應音義、四〕拘鄰或作二居倫一、或作二拘輪一、皆梵言訛也、此云二本際一、則經中尊者了本際、尊者知本際、皆是也、此即憍陳如。

【居魯】154 キヨロ　清、六十七(**2**－1453‥623)の字。

【居盧】155 キヨロ　倚盧に居る。父母の喪に服するをいふ。倚盧は假小屋で、父母の喪中に居る所。〔孟子、滕文公上〕五月居レ盧、未レ有二命戒一。〔注〕居二倚盧於中門之內一也。〔荀子、禮論〕齊衰苴杖、居レ盧食レ粥。〔資治通鑑、晉紀〕(元帝、太興元年)三月癸丑、愍帝凶問至二建業一、王斬縗居レ盧。〔注〕儀禮、斬衰倚盧、孟康曰、倚盧、倚レ牆至レ地爲レ之、無二楣柱一、喪服大記、父母之喪、居二倚盧一不レ塗、君爲レ盧宮レ之、大夫士襢レ之、既葬、柱レ楣塗レ盧、不レ於二顯者一、君大夫士皆宮レ之、正義曰、居二倚盧一者、謂下於二中門之外東牆下一倚レ木爲上レ盧、不レ塗者、但以レ草夾レ障不レ塗レ之也、宮レ之者、謂四盧外以三帷障之如二宮牆一、襢之言、袒也、其盧袒露不二帷障一也、既葬柱レ楣者、既葬情殺、故柱レ楣稍舉、以納二日光一、又以レ泥塗、辟二風寒一、不レ於二顯者一、塗レ盧、不レ塗二盧外顯處一、君大夫士皆宮レ之者、既葬、故得二皆宮一レ之。

【居惡在】156 キヨイヅクニカアル　其の居るべき所は何處か。どこに居たらよいか。〔孟子、盡心上〕居惡在、仁是也、路惡在、義是也。

【居俟堂】157 キヨシダウ　明、鄭大同(**11**－39647‥494)の室名。

【居移レ氣】158 キヨハキヲウツス　人は其の地位境遇によつて自ら心持を異にする。〔孟子、盡心上〕孟子自レ范之レ齊、望二見齊王之子一、喟然歎曰、居移レ氣、養移レ體、大哉居也。

【居催促】159 ヰザイソク　其の場所にすわりこんで催促する。〔浮世風呂、三編、下、跋〕附きに從ひたる居催促。

【居叱彌】160 キヨシツミ　朝鮮、駕洛國第四代の王。一に今勿に作る。晉の惠帝の元康元年卽位し、永和二年歿す。在位五十六年。〔三國遺事、二、駕洛國記〕。

【居車兒】161 キヨシヤジ　後漢、伊陵尸逐就單于(**1**－43**2**‥262)の名。

【居酒屋】162 ヰザカヤ　店內で酒を飮ませる酒屋。〔一茶句集、秋〕居酒屋や愛相に植ゑし唐がらし。

【居竹軒】163 キヨチクケン　元、成廷珪(**5**－11544‥353)の室名。

〔居竹軒集〕164 キヨチクケンシフ　書名。四卷。元、成廷珪撰。詩集。〔四庫提要、集、別集類〕。

【居嗏伽】165 キヨヒカ　佛李をいふ。居陵迦。〔翻譯名義集〕佛經居嗏伽、此云レ李。

【居陵迦】166 キヨリヨウカ　佛李(**6**－14459)の異名。居嗏伽。〔本草、李〕釋名、時珍曰、梵書、名レ李曰二居陵迦一。

【居濟一得】167 キヨセイイツトク　書名。八卷。清、張伯行撰。運河・運送等に就いて記したもの。〔四庫提要、史、地理類〕。

【居則有レ禮】168 ヲレバスナハチレイアリ　平生閒居の時に、上下の閒に禮がある。〔吳子、治平〕所謂治者、居則有レ禮、動則有レ威、進不レ可レ當、退不レ可レ追。

【居着地主】169 ヰツキヂヌシ　自己の地所內に居住する地主。

【居直強盜】170 ヰナホリガウタウ　竊盜者が家人に見付けられなどして、急に態度を變じて強盜となつたものをいふ。

【居徒四壁】171 キヨタダシヘキ　住居のただ四方に壁があるだけで、他に何も設備が無いのをいふ。貧居のさま。〔史語、司馬相如傳〕相如乃與馳歸二成都一、居徒四壁立。

【居必擇レ居】172 ヲレバカナラズキヨヲエラブ　住居するには必ず住居すべき所を擇ぶ。〔晏子、雜、上〕君子居必擇レ居、游必就レ士。

【居不レ主レ奧】173 ヲルニアウニシユタラズ　人の子たるものは奧に坐してはならぬ。奧は室の西南隅、隱奧の處で、尊者の席。〔禮、曲禮上〕爲二人子一者、居不レ主レ奧、坐不レ中レ席。〔注〕謂二與レ父同レ宮者一也、不三敢當二其尊處一、室中西南隅、謂二之奧一。〔疏〕尊者居、必主レ奧也、既是尊者所レ居、則人子不レ宜レ處レ之也。

【居不レ重レ席】174 キヨハセキヲカサネズ　居るに敷物を重ねて敷かない。儉約なこと。〔左氏、哀、元〕昔闔廬食不レ二レ味、居不レ重レ席、室不レ崇レ壇。

【居陽遁叟】175 キヨヤウトンソウ　唐、陸希聲(**11**－41708‥280)の號。

【居來山人】176 キヨライサンジン　明、張佳胤(**4**－9812‥844)の號。

【居來山房】177 キヨライサンバウ　明、張佳胤(**4**－9812‥844)の室名。

【居樓園館】178 chü¹ lou² yüan² kuan³　居は下等の飮食店。樓と館とは中等の料理店。園は茶屋。

【居視二其所一レ親】179 ヰテハソノシタシムトコロヲミル　人が仕へないで家に居る時には、其の人がどんな人と親しくしてゐるかを視て、其の人物を鑑識する。〔史記、魏世家〕居視二其所一レ親、富視二其所一レ與、達視二其所一レ舉、窮視二其所一レ不レ爲、貧視二其所一レ不レ取。

【所レ居無二赫赫名一】180 ヲルトコロカクカクノナナシ　任に就いてゐる閒は特別な評判もないが、而も去つて後に慕はれること。やることに實のあるをいふ。〔漢書、何武傳〕欲レ除レ吏、先爲二科例一以防二請託一、其所レ居亦無二赫赫名一、去後常見レ思。

【㞐】7664

キヨ　㊀居(**4**－7663)の古字。〔玉篇〕㞐、古文居字。㊁尻(**2**－1744)に同じ。〔集韻〕尻、或作レ㞐。

【𡰯】7665

コク　克(**1**－1355)の古字。〔集韻〕克、古作レ𡰯。

【屆】7666

カイ　〔集韻〕居拜切　ㄐㄧㄝˋ chieh⁴　卦

小篆

㊀**行きなやむ**。〔說文〕屆、行不レ便也、从レ尸凷聲。〔段注〕船著レ沙不レ行也。㊁**いたる**。**きはまる**。〔說文〕屆、一曰、極也。〔爾雅、釋言〕屆、極也。〔書、大禹謨〕無二遠弗一レ屆。〔傳〕屆、至也。〔詩、小雅、采菽〕君子所レ屆。〔箋〕屆、極也。㊂**とまる**。〔廣韻〕屆、舍也。〔字彙〕屆、當也。㊄艐(**9**－30479)に通ず。〔爾雅、釋詁〕艐至也、〔釋文〕艐、古屆字。㊅或は屆(**4**－7667)に作る。〔集韻〕屆、或作レ屆。㊆古は曁(**5**－14165)に作る。〔集韻〕屆、古

作㆑暨。❽［現］度。回。期。［邦］❶とどく。㋑到着する。つく。㋺行きとどく。周到。㋩達する。およぶ。❷とどける。㋑渡す。手わたしする。㋺官に申し出る。公の手つづきで物事を上にことわる。❸とどけ。官へのさしだし。役所へのことわり。缺席屆・寄留屆の類。

［名乘］アツ。ユキ。

［參考］屇（4－7668）は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕屇、音田、穴也。屆、音介、至也、亦作㆑届。

【屆期】1（カイキ） 期限に至る。〔六部成語、吏部、屆期、注解〕已到㆓所定之日㆒。〔福惠全書、編審部、總論〕屆㆑期審㆑丁、不㆑可㆑不㆑愼。

【屆時】2 chieh^{4} shih^{2} 時に至る。其の時になる。

【屆出】3（トドケイデ・トドケデ） 官に申出ること。

【屆書】4（トドケショ） 官に或る事情を屆け出る文書。

【屆先】5（トドケサキ） 屆け渡すべき先方。

【屆滿】6 c hieh^{4} man^{3} 滿期になる。

【届】7667

カイ

届（4－7666）の俗字。〔正字通〕屆、俗作㆑届、从㆑由非。

【屇】7668

テン デン 〔玉篇〕徒連切 ［先］

あな。〔玉篇〕屇、穴也。

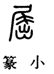
［參考］屆（4－7666）は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕屇、音田、穴也。屆、音介、至也、亦作㆑届。

【屈】7669

［一］クツ クチ 〔集韻〕曲勿切 ［物］ ㄑㄩ chʻü^{1}

［二］ケツ クヮチ 〔集韻〕丘月切 ［月］

［三］キツ ゴチ 〔集韻〕其述切 ［質］



小篆

［一］❶かがむ。かがめる。詘（10－35387）・曲（5－14280）に通ず。〔說文通訓定聲〕屈、叚借爲㆑詘、實爲㆑曲。㋑まがる。まげる。〔孟子、告子上〕有㆓無名之指、屈而不㆑信者㆒。〔傳咸、紙賦〕可㆑屈可㆑伸。㋺をれる。をる。〔左氏、襄、二十九〕曲而不㆑屈。㋩ちぢむ。ちぢめる。〔易、繫辭下〕尺蠖之屈、以求㆑信也。㋥しりぞく。しりぞける。〔素問、調經論〕大氣乃屈。〔注〕屈、謂㆓退屈㆒也。㋭くじく。〔孟子、滕文公下〕威武不㆑能㆑屈。〔注〕屈、謂㆑挫㆓其志㆒也。〔歐陽脩、王彥章畫像記〕不㆓少屈懈㆒。㋬たちきる。〔史記、司馬相如傳〕靡㆓屈虹㆒而爲㆑綢。〔注〕索隱曰、屈虹、斷虹也。㋣みさをくだす。節を折る。くじける。〔後漢書、劉平傳〕往日之喜、乃爲㆑親屈也。❷尾がない。もと屈（4－7781）に作る。〔正字通〕屈、本作㆑屈。〔說文〕屈、無㆑尾也、从㆑尾出聲。❸短い尾。〔玉篇〕屈、短尾也。❹短い。〔一切經音義、十二〕屈、短也。〔淮南子、詮言訓〕聖人無㆓屈奇之服㆒。〔注〕屈、短也。❺すたれる。〔淮南子、氾論訓〕何小節伸而大略屈。〔注〕屈、廢也。❻おちぶれる。〔魏書、閻元明傳〕沈㆓屈兵伍㆒。❼むなしい。闋（11－41430）に通ず。〔說文通訓定聲〕屈、叚借爲㆑闋。〔荀子、禮論〕案屈然已、則於㆓志意情者㆒、惆然不㆑嗛。〔注〕屈然、空然也。❽つきる。たえる。〔管子、心術〕虛則不㆑屈。〔注〕屈、竭也。〔荀子、王制〕使㆓國家足㆑用、而財力不㆑屈。〔呂覽、安死〕智巧窮屈。〔注〕屈、盡也。〔太玄經、達〕迵迵不㆑屈。〔注〕屈、盡也。❾つくす。〔呂覽、愼勢〕堯且屈㆑力。〔注〕屈、竭也。〔法言、重黎〕漢屈㆓羣策㆒。〔注〕屈、盡也。❿きはまる。きはめる。〔管子、國畜〕其兵不㆑詘、〔注〕詘、與㆑屈同、屈、窮也。〔法言、先知〕屈㆓人孤㆒。〔注〕屈、窮也。⓫めぐる。〔儀禮、士喪禮〕不㆑說㆑繘屈㆑之。〔注〕屈、縈也。⓬をさめる。〔詩、魯頌、泮水〕屈㆓此羣醜㆒。〔傳〕屈、收也。〔儀禮、聘禮〕屈㆑繅。〔注〕屈㆑繅者、斂㆑之。⓭あつめる。〔爾雅、釋詁〕屈、聚也。⓮たつ。たち上る。そびえる。崛（4－8185）に通ず。〔說文通訓定聲〕屈、叚借爲㆑崛、漢書敍傳、屈起在㆓此位㆒。〔漢書、敍傳〕屈起在㆓此位㆒。〔注〕師古曰、屈起、特起也。〔王先謙補注〕屈、崛借字、文選作㆓崛起㆒。⓯めづらしい。異樣な。〔漢書、廣川惠王越傳〕謀屈奇起自絕。〔注〕師古曰、屈奇、奇異也。⓰つよい。〔六書故〕屈、引㆑之爲㆓屈彊㆒、負㆑力不㆑屈也。〔漢書、陸賈傳〕屈㆓強於此㆒。〔注〕師古曰、屈強、不㆓柔服㆒也。〔漢書、揚雄傳上〕萬騎屈橋。〔注〕師古曰、屈橋、壯捷貌。⓱治める。しづめる。汨（6－17152）に通ず。〔說文通訓定聲〕屈、叚借爲㆑汨。〔詩、魯頌、泮水〕屈㆓此羣醜㆒。〔箋〕屈、治也。⓲まぜる。まじる。〔儀禮、聘禮〕其南醯醢屈。〔注〕屈、猶㆑錯也。〔儀禮、聘禮、兩簠繼㆓之粱㆒、注〕凡饌屈錯、要㆓相變㆒。⓳きしる。〔增韻〕屈、軋也。⓴僞る。〔老子、四十五〕大直若㆑屈。〔釋文〕屈、僞也。㉑こふ。〔集韻〕屈、請也。㉒地名。今、山西省石樓縣の東南。〔左氏、僖、二〕屈產之乘。㉓屈原（34）の略稱。〔袁宏、三國名臣序贊〕歎過㆓孫・陽㆒、放同㆓賈・屈㆒。〔韓翃、桂客遊㆓江南㆒詩〕遙想汨羅上、弔㆑屈秋風初。㉔古は⿱出缶（3－5706）に作る。〔集韻〕屈、古作㆑⿱出缶。㉕姓。〔通志、氏族略、以㆑邑爲㆑氏〕屈氏、楚之公族也、莫敖屈瑕食㆓邑於屈㆒、因以爲㆑氏、又屈突氏、改爲㆓屈氏㆒。［二］❶けづる。闕（11－41456）・⿰屈刂（2－2056）に通ず。〔說文通訓定聲〕屈、叚借爲㆑⿰屈刂。〔禮、玉藻〕君命㆓屈狄㆒。〔注〕屈、周禮作㆑闕、謂㆓刻㆑繒爲㆑翟不㆑畫也、此子男之夫人、及其卿大夫之妻之命服也。❷⿰糹屈（8－27606）に同じ。〔集韻〕⿰糹屈、⿰糹屈狄、后夫人之服、或作㆑屈。❸屈貉は地名。通じて厥（2－2992）に作る。〔集韻〕屈、屈貉、地名、通作㆑厥。［三］くるふ。狂人。僪（1－1123）に同じ。〔集韻〕屈、狂屈侜張、似㆑人而非、李頤說、或作㆑僪。

【屈意】1（クツイ） 心を屈する。みさをくだす。屈心（73）の❶に同じ。〔漢書、陳湯傳〕天子哀㆘閔單于棄㆓大國㆒、屈㆖意康居㆒、故使㆔都護將軍來迎㆓單于妻子㆒。〔董仲舒、士不遇賦〕屈㆑意從㆑人、非㆓吾徒㆒矣。

【屈軼】2（クツイツ） ❶瑞草の名。又、指佞草といふ。朝庭に生じ、佞人が入つて來れば屈して之を指すといふ。〔論衡、是應〕太平之時、屈軼生㆓於庭之末㆒、若㆓草之狀㆒、主㆑指㆓佞人㆒、佞人入㆑朝、屈㆓軼庭末㆒以指㆑之、聖王則知㆓佞人所㆒㆑在。〔博物志、異草木〕堯時有㆓屈軼草㆒、生㆓於庭㆒、佞人入㆑朝、則屈而指㆑之、一名㆓指佞草㆒。〔宋書、符瑞志上〕黃帝軒轅氏有㆓屈軼之草㆒、生㆓於庭㆒、佞人入㆑朝則草指㆑之、是以佞人不㆓敢進㆒。〔庾信、周五聲調曲、徵調曲〕屈軼無㆓佞人可㆒㆑指。〔白居易、贈㆓樊著作㆒詩〕其手加㆓屈軼㆒、擧必指㆓佞臣㆒。❷清、常熟の人。字は侃甫。諸生。官は南匯縣訓導。著に亨帚集がある。

【屈揖】3（クツイフ） 唐宋時代、百官が中書省で宰相九卿に見える禮。躬を屈して趨り入り、宰相が相揖して茶を進めるに及んで、皆聲をあげて贊唱すること。〔夢溪筆談、故事一〕百官於㆓中書㆒見㆓宰相九卿而下㆒、卽省吏高聲唱一聲、屈則趍而入、宰相揖及㆑進㆑茶、皆抗㆑聲贊唱、謂㆓之屈揖㆒。

【屈殷】4（クツイン） 元の人。字は子申。祕書丞となり、

後、信州知事となる。〔尙友錄、二十一〕。

【屈下】5（クツカ） かがみ下る。服從する。〔呂覽、觀世〕今晏子功、免二人於阨一矣、而反屈二下之一。

【屈瑕】6（クツカ） 春秋楚、武王の子。釆邑を屈に賜はり、莫敖となる。武王の時、鄖師を蒲騷に破り、又、絞を伐つて大いに之を破る。後、羅を伐つて敗れ、荒谷に縊死す。〔左氏、桓、十一・十三〕。

【屈賈】7（クツカ） 楚の屈原と漢の賈誼。共に辭賦の大家。〔史記、屈原賈生傳〕太史公曰、余讀二離騷・天問・招魂・哀郢一、悲二其志一、適二長沙一、觀下屈原所二自沈一淵上、未四嘗不三垂レ涕想二見其爲レ人、及レ見二賈生弔レ之、又怪、屈原以二彼其材一游二諸侯一、何國不レ容、而自令レ若レ是、讀二服鳥賦一、同二死生一輕二去就一、又爽然自失矣。〔杜甫、壯遊詩〕氣劘二屈賈壘一、目短二曹劉墻一。

【屈駕】8（クツガ） わざわざ乘物の行く方向をまげて人を訪問する。枉駕。〔蜀志、蔣琬傳〕欲三屈レ駕脩二敬墳墓一。

【屈丐】9（クツカイ） 夏の赫連勃勃（**10－37010‥52**）の字。屈丐は北方に於て卑下の意。〔北史、僭僞附庸、赫連氏傳〕屈丐、本名勃勃、明元改二其名一曰二屈丐一、北方言二屈丐一者、卑下也。

【屈懈】10（クツカイ） くじけおこたる。屈撓懈怠。〔歐陽脩、王彥章畫像記〕獨公奮然自必、不二少屈懈一。

【屈鷔】11（クツガウ） 古の國名。〔呂覽、召類〕禹攻二曹魏・屈鷔・有扈一、以行二其教一。〔注〕春秋傳曰、啓伐二有扈一、言二屈鷔一不レ知レ出二何書一也。

【屈己】12（クツキ） 私心我欲をおさへる。又、自己の主義主張をまげる。〔孔叢子、抗志〕屈レ己以伸レ道乎、抗レ志以貧賤乎。〔孔叢子、論勢〕降レ心以相從、屈レ己以求レ存也。〔魏志、文帝丕傳〕欲下屈レ己以存レ道、貶レ身以救上レ世。

【屈奇】13（クツキ） めづらしく異なる。奇異。〔漢書、廣川惠王越傳〕謀屈奇起自絕、行周流自生レ患。〔注〕師古曰、屈奇、奇異也。〔說苑、君道〕未レ有下布衣屈奇之士、踵レ門而求レ見二寡人一者上。〔漢書、揚雄傳〕屈奇瑰瑋。〔潘岳、西征賦〕構二阿房之屈奇一。

〖屈奇之服〗14（クツキノフク） 非常に短い服と非常に長い服。並外れた丈の服。又、めづらしく異なつた服。屈は短、奇は長。〔淮南子、詮言訓〕聖人無二屈奇之服一、無二瑰異之行一。〔王念孫注〕屈奇、猶二瑰異一耳、周官閽人、奇服怪民不レ入、鄭注曰、奇服、衣二非常屈奇之服一、卽奇服也。

【屈氣】15（クツキ） 意氣地なし。

【屈起】16（クツキ） 起り立つ。おきあがるさま。又、聳え立つ。倔起。崛起。〔漢書、敍傳上〕未レ見下運世無レ本、功德不レ紀、而得三屈起在二此位一者上也。〔注〕師古曰、屈起、特起也。〔王先謙補注〕屈、崛借字、文選作二崛起一。〔白虎通、五行〕已抑二屈起一、其音宮。

【屈匱】17（クツキ） 窮乏する。匱はとぼしい。〔呂覽、知分〕人亦有二困窮屈匱一、有二充實達遂一。

【屈強】18（クツキヤウ） 意地がつよい。人に屈しない。又、勢力がある。強い人。強い國。強梗。倔強。倔彊。崛彊。崛強。屈彊(20)をも見よ。〔漢書、陸賈傳〕欲下以二新造未レ集之越一、屈中強於此上。〔注〕師古曰、直屈強、不二柔服一也。〔漢書、匈奴傳上〕楊信爲レ人剛直屈強。〔後漢書、王常傳〕下江諸將、雖二屈強一少レ識。〔陳琳、檄二吳將校部曲一文〕驕恣屈強。〔韓愈、守戒〕今之通都大邑、介二於屈強之閒一、而不レ知レ爲二之備一。

【屈竟】19（クツキヤウ） 究竟の俗字。くきやう。❶どんづまり。結局。終極。❷最もすぐれてゐること。❸最も強いこと。❹よく當てはまること。

【屈彊】20（クツキヤウ） 屈強に同じ。〔史記、陸賈傳〕迺欲下以二新造未レ集之越一、屈中彊於此上。〔史記、匈奴傳〕楊信爲レ人、剛直屈彊。〔史記、淮南衡山傳〕南通二勁越一、屈二彊江淮閒一。〔漢書、匈奴傳下〕雖三屈二彊於此一、未二嘗一日安一也。〔吳志、淩統傳、注〕屈二彊荊吳一、僭二擬年歲一。〔晉書、禮志下〕三苗屈二彊於江海一。

【屈躬】21（クツキユウ） 屈身(81)に同じ。

【屈居】22（クツキヨ） 草の名。〔廣雅、釋草〕屈居、盧茹也。

【屈曲】23（クツキヨク） まがりくねる。又、まがりくねり。轉じて、物事のいきさつ。物事の詳しい事情。〔禮、檀弓上、是委巷之禮也、疏〕委細屈曲、所レ爲不レ能二方正一也。〔吳志、諸葛瑾傳〕恐二困苦之民、一朝崩沮一、故彊屈曲、以求二民心一。〔蜀志、法正傳〕其餘屈曲、難二以辭極一也。〔鮑照、芙蓉賦〕被二瑤塘之周流一、繞二金渠之屈曲一。〔白居易、傷二遠行一賦〕山險巇兮路屈曲。

〖屈曲旋轉〗24 ch'ü^{1} ch'ü^{1} hsüan^{2} chuan^{3} まがりめぐる。

【屈壞】25 ch'ü^{1} huai^{4} とばつちりをくはせる。〔水滸傳、五十回〕有此等善心良民在內、亦不可屈壞了好人。

【屈蠖】26（クツクワク） 身を屈してゐるしやくとりむし。轉じて、身を屈して人に從つてゐる人。尺蠖(**4－7632‥17**)を見よ。〔王禹偁、酬二种放徵君一詩〕相府一張紙、喚起久屈蠖。

【屈完】27（クツクワン） 春秋、楚の大夫。齊の桓公が楚を伐つや、成王の命によつて桓公の軍に至り、與に其の師を觀るに當つて、竟に德を以て天下を服すべきを說き、諸侯と盟はしめた。〔史記、三十二〕。

【屈紒】28（クツケイ） 曲げ結ぶ。紒は髮を結ぶこと。〔後漢書、東夷、倭傳〕女人被髮屈紒、衣如二單被一。

【屈橋】29（クツケウ） 壯んに健かなさま。〔漢書、揚雄傳上〕千乘霆亂、萬騎屈橋。〔注〕師古曰、屈橋、壯捷貌。

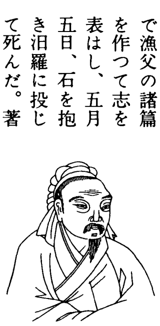
【屈孑】30（クツケツ） 五胡、夏の赫連勃勃(**10－37010‥52**)の字。

【屈竭】31（クツケツ） たえつきる。きはまりつきる。窮竭。〔漢書、五行志下之下〕賦歛茲重、而百姓屈竭、禍在レ外也。〔後漢書、申屠剛傳〕公家屈竭、賦歛重數。

【屈建】32（クツケン） 春秋、楚の人。到の子。字は子木。令尹となる。宋の向成の弭兵の盟に、楚人が甲を衣下に着込むのを見て、伯州犂は之を不可としたが、建は從はなかつた。州犂は其の友が信を棄てることになるので、建は將に死ぬであらうと豫言した。明年、建は果して卒した。〔左氏、襄、二十二・二十三・二十五・二十七・二十八〕。

【屈堅】33（クツケン） 宋の人。官は忠州防禦使。金人に執へられて殺さる。〔宋史、四百五十三〕。

【屈原】34（クツゲン） 戰國、楚の人。名は平（正則）。字は原。號は靈均。楚の同姓。博聞強志、治亂に明達し、辭令にならふ。懷王に仕へて三閭大夫となり、國政を執つて信任せられたが、同列の大夫に妬まれて、疎んぜられ、乃ち離騷を作つて王の感悟を冀つた。懷王の子、襄王が立つに及んで、亦、讒を信じて屈原を長沙に遷した。そこで漁父の諸篇を作つて志を表はし、五月五日、石を抱き汨羅に投じて死んだ。著に離騷・九歌・九章・天問・遠遊・卜居・漁父など二十五篇がある。〔史記、八十四〕。



屈平
（三才圖會）

〖屈原塔〗35（クツゲンタフ） 屈原の墓。〔陸游、擬二三峽歌詩〕雲迷江岸屈原塔、花落空山夏禹祠。

〖祭二屈原一〗36（クツゲンヲマツル） 屈原の入水した五月五日に之を祭る故事。竹筒の中に米を入れ、水に投じて祭る。〔續齊諧記〕楚屈原、不レ見レ用二于君一、而被レ放二于長沙一、以二五月五日一投二汨羅一而死、楚人哀レ之、每レ至二此日一、以二竹筒一貯レ米、投レ水祭レ之。

〖屈原投江〗37（クツゲントウカウ） 劇曲の名。元の睢景臣・吳仁卿に各〻此の劇がある。題して楚大夫屈原投江といふ。

〖屈原賦注〗38（クツゲンフチユウ） 書名。一卷。淸、戴震撰。屈原の賦について考證注解したもので、其の所說は精核である。淸史稿、藝文志に著錄せらる。

【屈侯】39（クツコウ） 複姓。〔通志、氏族略以二國爵一爲レ氏〕屈侯氏、屈、舊國也。

〖屈侯鮒〗40（クツコウフ） 戰國、魏の賢人。〔說苑、臣術〕。

【屈恆】41（クツコウ） 後魏の人。遵の子。字は長生。諡は成。官は尙書右僕射。爵は濟北公。〔魏書、三十三〕。

【屈虹】42（クツコウ） たち切つたにじ。〔史記、司馬相如傳〕靡二屈虹一而爲レ綢。〔注〕索隱曰、屈虹、斷虹也。

【屈穀】43（クツコク） 戰國、宋の人。齊の田仲を、石の如く堅く、且厚くて空閒のない瓠にたとへ、以て無用人に諷した人。屈轂。〔韓非子、外儲說左上〕齊有二居士田仲者一、宋人屈穀見レ之曰、穀聞、先生之義、不レ恃レ仰レ人而食、今穀有二樹レ瓠之道一、堅如レ石、厚而無レ竅、獻レ之、仲曰、夫瓠所レ貴者、爲三其可二以盛一也、今厚而無レ竅、則不レ可二剖以

盛レ物而任レ重、堅如レ石、則不レ可二以剖而以斟一、吾無二以レ瓠爲一也、曰、然、穀將以欲レ棄レ之、今田仲不レ恃レ仰レ人而食、亦無レ益二人之國一、亦堅瓠之類也。〔後漢書、孔融傳〕至二於屈穀巨瓠一、堅而無レ竅。

【屈轂】44 クツコク 屈穀に同じ。〔張協、七命〕鑽二屈轂之瓠一、解二疏屬之拘一、子欲レ之乎。

【屈座】45 chʻü^{1} tsuo^{4} 失敬して人より上座に就く。

【屈巣】46 スク 武藏國の地名。

【屈造】47 クツザウ 蝦蟇の一種。造は鼁（ひきがへる）に通ず。〔大戴禮、夏小正〕蜮也者、或曰、屈造之屬也。〔補注〕此則月令蟈鳴、是也、周官蟈氏、先鄭讀爲レ蜮、蜮、蝦蟆也、畢沅曰、淮南子、鼓造辟レ兵、高誘謂二造亦蝦蟆一、又詩有二戚施一、說文作二鼁鼀一、鼁與レ造古聲相近、然則造卽鼁字矣。

【屈笮】48 クツサク かがみせまくなる。又、其のこと。轉じて、苦しみ、困難。困頓。〔魏志、和洽傳〕高祖毎レ在二屈笮一、二相恭順、臣道益彰。

【屈錯】49 クツサク 互に交はる。〔儀禮、聘禮、兩簠繼二之梁一在レ北、注〕簠不レ次、簋者、粱稻加也、凡饌屈錯、要二相變一。

【屈殺】50 chʻü^{1} sha^{1} 無實の罪で殺される。

【屈産】51 クツサン 屈邑から産する。一說に、地名。屈産之乘を見よ。

〔屈産之乘〕52 クツサンノジョウ 屈から産する名馬。屈は屈支國、一に龜茲キウジといふ。一說には、屈産は今の山西省石樓縣の東南であるといひ、又、山西省吉縣であるともいふ。産は出産の意。一說に、屈産を地名とする。乘は、もと馬四匹をいふ。〔左氏、僖、二〕晉荀息請下以二屈産之乘與二垂棘之璧一、假二道于虞一以伐上レ虢。〔注〕屈地生二良馬一、垂棘出二美玉一、故以爲レ名。〔會箋〕屈、晉之屈邑、卽夷吾所レ居、産、生也。〔公羊、僖、二〕屈産之乘。〔注〕屈産、出二名馬一之地。〔穀梁、僖、二、注〕屈邑産二駿馬一、垂棘出二良璧一。〔孟子、萬章上〕晉人以三垂棘之璧與二屈産之乘一、假二道於虞一以伐レ虢。〔焦循正義〕僖公二年公羊傳、白璧注云、屈産出二名馬一之地、云云、徐氏疏云、謂二屈産一爲二地名一、不レ似三服氏謂レ産爲二産生一也、云云、余謂、今山西吉州是、樂史傳會爲二石樓縣一、但石樓乃漢西河土軍縣、非二北屈地一、自非。〔呂覽、權勳〕請以三垂棘之璧與二屈産之乘一、以賂二虞公一。〔新序、善謀上〕君胡不下以二屈産之乘與二垂棘之璧一、假中道於虞上。

【屈子】53 クツシ 屈原（34）をいふ。〔戴叔倫、過二三閭廟一詩〕沅湘流不レ盡、屈子怨何深。

〔屈子花〕54 クツシクワ 草の名。にふめんらん。いりもてらん。らん科に屬する宿根草で、暖地に生じ、夏、黃色の花を開く。

【屈死】55 chʻü^{1} ssŭ^{3} 不平を抱いて横死する。

【屈志】56 クツシ 志をまげる。屈節（90）に同じ。〔後漢書、鍾皓傳〕瑾辟二州府一、未二嘗屈一レ志。

【屈指】57 クツシ 指を屈する。指を折つて數へる。轉じて、指を折つて數へられる程まれなこと。ゆびをり。有數。詘指。〔魏志、張郃傳〕屈レ指計二亮糧一、不レ至二十日一。〔吳志、顧譚傳〕毎レ省二簿書一、未二嘗下一レ籌、徒屈レ指心計、盡發二疑謬一。〔李羣玉、送二魏珪覲省一詩〕登龍屈指內、飛譽甚籍籍。

〔屈指頭算〕58 chʻü^{1} chih^{2} tʻou suan^{4} 指折り數へる。

【屈就】59 クツシウ 節を折つて命に就き從ふ。〔後漢書、陳紀傳〕黨禁解、四府並命、無レ所二屈就一。

【屈柔】60 クツジウ 氣を屈してやはらぐ。〔列女傳、賢明、柳下惠妻傳〕屈柔從レ俗、不二強察一兮。

【屈膝】61 クツシツ ❶ひざをまげる。膝をついておじぎをする。轉じて、降參する。人の下風に立つ。〔漢書、司馬相如傳下〕交レ臂受レ事、屈レ膝請レ和。〔潘勖、冊二魏公九錫一文〕百城八郡、交レ臂屈レ膝。〔魏志、鄧艾傳〕叉レ手屈レ膝。〔晉書、文帝紀〕交レ臂屈レ膝、委二命下吏一。〔顏氏家訓、文章〕一旦屈レ膝而事。❷屈戌（68）に同じ。〔名義考〕門鐶、雙曰二金鋪一、單曰二屈膝一。〔盧照鄰、長安古意〕妖童寶馬鐵連錢、娼婦盤龍金屈膝。〔李賀、宮娃歌〕屈膝銅鋪鎖二阿甄一。

〔屈膝屏風〕62 クツシツビヤウブ 金具をつけて、疊めるやうに作つた屏風。〔鄴中記〕石虎作二金銀屈膝屏風一、衣以二白縑一、畫二義士・仙人・禽獸之象一。〔梁簡文帝、烏棲曲〕織成屏風金屈膝。〔庾信、燈賦〕舒二屈膝之屏風一、掩二芙蓉之行障一。

【屈射】63 クツシヤ 漢代、匈奴の國名。〔史記、匈奴傳〕北服二渾庾・屈射・丁零・鬲昆・薪犂之國一。〔漢書、匈奴傳上〕後北服二渾窳・屈射・丁零・隔昆龍・新犂之國一。

【屈請】64 クツシヤウ 佛枉げて請ふ。尊上或は僧侶等の臨席を乞ふこと。〔雜阿含經、四十八〕屈請入二其舍一。

【屈情】65 クツジヤウ 本心をまげる。〔蔡邕、上二封事一陳二政要七事一〕皆屈レ情從レ制、不二敢踰越一。

【屈首】66 クツシユ 首をまげる。人に頭を下げる。〔史記、蘇秦傳〕夫士業已屈レ首受レ書、而不レ能三以取二尊榮一。

【屈從】67 クツジユウ 屈したがふ。屈服。〔後漢書、文苑、張升傳〕雖二王公大人一、終不二屈從一。〔魏志、陳矯傳〕鄰國君、屈二從陪臣一游、不二亦可一乎。〔魏書、李彪傳〕其所レ欲者、事雖レ非レ理、無レ不二屈從一。

【屈戌】68 クツジユツ 戸や窓などの蝶番。一方に圓環、一方に鈕があり、其の鈕に環を入れて栓をさす。屈膝。金鋪。〔李商隱、驕兒詩〕凝走弄二香奩一、拔脫金屈戌。〔輟耕錄、屈戌〕今人家窗戶設二鉸具一、或鐵、或銅、名曰二環鈕一、卽古金鋪之遺意、北方謂二之屈戌一、其稱甚古。〔水滸傳、二十一回〕出二得房門一去、門上卻有二屈戌一、便把二房門一拽上、將二屈戌一搭了。

【屈眴】69 クツジユン 佛布帛の名。第一布・大細布といふ。〔宋僧傳、慧能傳〕其塔下葆二藏屈眴布、鬱多羅僧一。

【屈遵】70 クツジユン 後魏、昌黎徒河の人。字は子皮。官は中書令。爵は下蔡子。〔魏書、三十三〕・〔北史、二十七〕。

【屈勝】71 クツシヨウ 梯子の名。上下に屈伸するもの。墨子備高臨篇には詘勝に作る。〔通典、兵典、守拒法〕臺內通二闇道一、安二屈勝梯一、人上便卷收。

【屈辱】72 クツジヨク 押へつけられて恥辱を受ける。はづかしめられて面目を失ふ。〔史記、滑稽傳〕淳于髡者、滑稽多辯、數使二諸侯一、未二嘗屈辱一。〔後漢書、馮衍傳上〕兵威屈辱、國權日損。〔李康、運命論〕屈二辱於公卿之門一。

【屈心】73 クツシン ❶本心をまげる。又、私心我欲をおさへる。屈意。轉じて、謙遜の意。〔楚辭、離騷〕屈レ心而抑レ志兮、忍レ尤而攘レ詬。❷chʻü^{1} hsin^{1} 不德。良心に耻ぢる。

【屈申】74 クツシン 屈伸に同じ。〔列子、說符〕屈申任レ物、而不レ在レ我。〔後漢書、班固傳下〕雖三屈申無二常所一、因レ時異。〔班彪、北征賦〕行止屈申、與レ時息兮。〔吳志、張溫傳〕必知二神慮屈申之宜一。

〔屈申蟲〕75 クツシンチユウ しやくとりむし。尺蠖。屈伸蟲。〔說文〕蠖、尺蠖、詘申蟲也。〔段注〕詘、各本作レ屈、非。

〔屈申無レ常〕76 クツシンツネナシ 伸び屈みに一定の基準がない。節操の定まらぬこと。〔後漢書、馮衍傳下〕進退無レ主、屈申無レ常。

【屈伸】77 クツシン ❶かがむこととのびること。かがんだりのびたりする。又、かがめることとのばすこと。かがめたりのばしたりする。屈信。倔信。〔禮、樂記〕屈伸俯仰。〔莊子、秋水〕蹢躅而屈伸。〔荀子、不苟〕與レ時屈伸。〔文子、微明〕內有二一定之操一、而外能屈伸、與レ物推移。〔史記、扁鵲倉公傳、注〕正義曰、紆曲屈伸。〔後漢書、張奐傳〕蛇能屈伸、配二龍騰蟄一。〔左思、招隱詩〕好惡有二屈伸一。❷明、任丘の人。字は引之。成化の進士。官は禮科給事中。〔明史、一百八十〕・〔萬斯同明史、二百四十七〕・〔明史稿、一百六十九〕。

〔屈伸蟲〕78 クツシンチユウ しやくとりむし。屈申蟲に同じ。

〔屈伸自由〕79 クツシンジイウ 伸び屈みが思ひのままである。屈伸自在。〔國史略、正親町天皇〕之綱問曰、汝本國所レ用甲冑、其製如何、對曰、有二桶皮胴一、異二於胴丸者一、於二右脇一結レ之、屈伸自由也。

〔屈伸付二天地一生死復奚疑〕80 クツシンテンチニフスセイシマタナンゾウタガハン 我が身の窮達は天地の神の命のままに任せ、生死孰れにしても安心して少しも疑はない。屈伸は窮達の意。〔藤田東湖、和二文天祥正氣歌一〕嗟予雖二萬死一、豈忍二與レ汝離一、屈伸付二天地一、生死復奚疑。

【屈身】81 クツシン 身をかがめる。轉じて、節操をまげる。詘身。屈躬。〔劉琨、勸進表〕知二天地不一レ可二以乏一レ饗、故屈二其身一奉レ之。

〔屈身下氣〕82 chʻü^{1} shen^{1} hsia^{4} chʻi^{4} 身を卑下する。へいつくばる。

【屈信】83 クツシン　屈伸の❶に同じ。〔易、繫辭下〕往者屈也、來者信也、屈信相感、而利生焉。〔荀子、不苟〕此言㆓君子能以㆑義屈信變應故㆒也。〔新書、大都〕平居不㆑可㆓屈信㆒。〔白虎通、三綱六紀〕君臣法㆑天、取㆓象日月屈信㆒。

【屈人】84 クツジン　❶人を押へつける。〔法言、重黎〕屈㆑人者克、自屈者負。❷無實の罪を受けた人。〔金華子、下〕苗紳貶㆓南中㆒、崔相國彥昭、其故人也、見而憫㆑焉、呼㆑紳至㆑第、而慰勉曰、苗十大是屈人、再三言㆑之、紳歎㆓久淹屈㆒、既聞㆓時宰之撫諭㆒、莫㆑勝㆓其喜㆒、及㆑還㆑家、其子迎㆓于門㆒、紳笑語㆓其子㆒曰、今日見㆓崔相國㆒、憫㆑我如㆑此、遂坐㆓于廳㆒、高㆓誦其語㆒曰、苗十大是屈人、喜笑一聲而卒、悲夫。❸草の名。はまびし。海濱の沙地に生ずる蔓生の草。蒺蔾。〔本草、蒺蔾〕釋名、茨・旁通・屈人・止行・休羽・升推・時珍曰、蒺、疾也、蔾、利也、茨、刺也、其刺傷㆑人、甚疾而利也、屈人止行、皆因㆓其傷㆑人也。

【屈盡】85 クツジン　なくなる。つきる。〔孔子家語、三恕〕子曰、夫水浩浩乎、無㆓屈盡之期㆒。

【屈折】86 クツセツ　❶まがりをれる。又、まげ折る。〔莊子、駢拇〕屈㆓折禮樂㆒、呴㆓俞仁義㆒、以慰㆓天下之心㆒者、此失㆓其常然㆒也。〔後漢書、西羌傳論〕或倥㆓傯於豪右之手㆒、或屈㆓折於奴僕之勤㆒。〔論衡、率性〕驕節屈折。〔李華、三賢論〕若㆓百鍊之鋼㆒、不㆑可㆓屈折㆒。❷光線が密度の異なる物體に射し入る時に方向を變ずる現象。❸chʻü^1 chê^2 無實の罪によつて打たれる。

〖屈折語〗87 クツセツゴ　言語の形態的分類の一。語詞が文章中に就いて諸關係を表はすために屈折をとるもの。卽ち名詞・形容詞は性・數・格、動詞は數・時・法・態等によつて一定の變化をなし、全文の首尾呼應する性質のものをいふ。又、屈曲語・曲折語ともいふ。An inflectional language の譯。

〖屈折線〗88 クツセツセン　或る波動直線が或る中間から他の異なる中間に進入してその方向を變じた線をいふ。

〖屈折率〗89 クツセツリツ　入射線及び屈折線が法線となす二つの角の正弦の比。

【屈節】90 クツセツ　みさををまげる。折節。屈志。〔漢書、蘇武傳〕屈㆑節辱㆑命、雖㆑生何面目以歸㆑漢。〔楚辭、劉向、九歎、離世〕願屈㆑節以從㆑流兮。〔後漢書、臧洪傳〕屈㆑節而苟生、勝㆓守㆑義而傾覆㆒也。〔白虎通、姓名〕屈㆑節卑㆑體、尊㆓事之㆒者也。〔孔子家語、屈節〕子貢曰、今夫子欲㆔屈㆑節以救㆓父母之國㆒。

【屈錢】91 クツセン　むだ錢。

【屈然】92 クツゼン　空しいさま。屈は、竭きる意。〔荀子、禮論〕案屈然已、則其於㆓志意之情㆒者、惆然不㆑嗛。〔注〕屈、竭也、屈然、空然也。

【屈宋】93 クツソウ　屈原と其の弟子の宋玉。ともに楚の文學家。〔北周書、庾信傳論〕摭㆓六經百代之英華㆒、探㆓屈宋卿雲之祕奧㆒。〔隋書、王貞傳〕雅志傳㆓於游夏㆒、餘波鼓㆓於屈宋㆒。〔杜甫、戲爲㆓六絕句㆒詩〕竊攀㆓屈宋㆒宜㆑方駕、恐與㆓齊梁㆒作㆓後塵㆒。

〖屈宋古音義〗94 クツソウコオンギ　書名。三卷。明、陳第撰。屈原・宋玉の賦中、韻の今と異なる者二百三十四字を擇んで述べたもの。毛詩古音考と共に發明する所がある。〔四庫提要、經、小學類〕。

〖屈宋作㆓衙官㆒〗95 クツソウヲガクワントナス　屈原と宋玉を配下の官として驅使する。唐の杜審言が、己の文章の巧みなことを傲語した語。〔唐書、杜審言傳〕嘗語㆑人曰、吾文章當㆘得㆓屈宋㆒作㆗衙官㆖、吾筆當㆘得㆓王羲之㆒北面㆖、其矜誕類如㆑此。

【屈尊】96 クツソン　己の尊い身分を枉げて人に從ふ。〔詩、小雅、蓼蕭、鞗革沖沖、疏〕乘㆓是車服㆒、屈㆓己之尊㆒、降接㆓卑賤㆒。〔舊唐書、劉洎傳〕斯皆屈㆓主祀之尊㆒、申㆓下交之義㆒。

【屈滯】97 クツタイ　かがまりとどこほる。下位に屈居すること。〔吳志、步隲傳〕隲前後薦㆓達屈滯㆒、救㆓解患難㆒、權雖㆑不㆑能㆓悉納㆒、然時采㆓其言㆒、多蒙㆓濟賴㆒。

【屈體】98 クツタイ　からだをかがめる。詘體。〔鹽鐵論、褒賢〕萬乘之主、莫㆑不㆓屈㆑體卑㆑辭、幣請㆑交。〔風俗通、十反〕田煇託㆑病上也、劉矩屈㆑體次也。〔阮籍、辭㆓蔣太尉辟命㆒奏記〕夫布衣韋帶之士、孤居獨立、王公大人所㆓以屈㆑體而下㆑之者、爲㆓道存㆒也。〔李白、贈㆓新平少年㆒詩〕屈體若㆑無㆑骨、壯心有㆑所㆑憑。

【屈到】99 クツタウ　春秋、楚の人。蕩の子。康王の時、莫敖となる。芰を嗜み、疾篤きに臨んで、家老を召し、我を祭るに芰を以てせよといふ。祥忌に及び、祭に芰を用ふ。子建、之を見、夫子は私欲を以て國の典を干さずと稱して、芰を去らしむ。〔左氏、襄、十五〕。

【屈蕩】100 クツタウ　春秋、楚の大夫。莊王が鄭を圍むや、其の左廣右となり、趙旃が車を棄てて林に走るのを搏つて其の甲裳を得た。〔左氏、宣、十二。襄、十五・二十五〕。

【屈道】101 クツダウ　詘道(**10**－**35387**‥19)に同じ。

【屈撓】102 クツダウ　たわみかがむ。〔易、繫辭下、失㆓其守㆒者其辭屈、疏〕居不㆑値㆑時、失㆓其所㆑守之志㆒、故其辭屈撓不㆑能㆑申也。〔淮南子、氾論訓〕夫今陳㆑卒設㆑兵、兩軍相當、將施㆑令曰、斬首拜㆑爵、而屈撓者要斬。〔新序、節士〕終不㆓屈撓㆒。〔後漢書、楊政傳〕政每㆓共言論㆒、常切磋懇至、不㆑爲㆓屈撓㆒。〔魏志、邢顒傳〕防閑以㆑禮、無㆑所㆓屈撓㆒。

【屈託】103 クツタク　❶或る事に心配する。思ひ屈す。〔甲陽軍鑑、二、品第八〕現在斗りに屈託して。❷つかれあく。くたびれていやになる。

〖屈託氣〗104 クツタクゲ　なやましげ。わびしさう。氣がかりなさま。

【屈短】105 クツタン　尾が短い。又、短くて眞直なこと。〔史記、天官書〕白虹屈短。〔注〕集解曰、李奇曰、屈、或爲㆑尾也、韋昭曰、短而直。

【屈潭】106 クツタン　楚の屈原が身を投げた淵。湖南省湘陰縣の境。汨羅淵。〔水經、湘水注〕汨水又西爲㆓屈潭㆒、卽汨羅淵也、屈原懷㆑沙自沈㆓于此㆒、故淵潭以㆑屈爲㆑名、在㆓今湖南湘陰縣境㆒。

【屈男】107 クツダン　複姓。屈南(121)を見よ。

【屈致】108 クツチ　服從させて來らしめる。〔蜀志、諸葛亮傳〕此人可㆓就見㆒、不㆑可㆓屈致㆒也。

【屈置】109 クツチ　まげて置く。〔夢溪筆談、異事〕种諤亦畜㆓一劍㆒、可㆔以屈置㆓盒中㆒、縱㆑之復直。

【屈紐】110 クツチウ　かがまつてのびぬこと。厄紐。〔釋名、釋天〕丑、紐也、寒氣自屈紐也。

【屈竹】111 クツチク　まがつた竹。〔王褒、僮約〕屈竹作㆑杷、削治㆓鹿盧㆒。

【屈重】112 クツチユウ　春秋楚の大夫。武王、隨を伐つや、令尹鬭祁と共に從ふ。〔左氏、莊、四〕。

【屈亭】113 クツテイ　清、陸光旭(**11**－**41708**‥300)の號。

【屈遰】114 クツテイ　身をかがめはしる。逃げかくれる。〔鹽鐵論、褒賢〕夫爲㆓烏鵲魚鱉㆒、食㆓香餌㆒而後狂飛奔走、遜身屈遰、無㆑益㆓於死㆒。

【屈狄】115 ケツテキ　古、子男の夫人、並に卿大夫士の妻の命服。屈は闕、狄は翟。翟雉の形を刻んだだけで、彩畫を加へないもの。闕狄。〔禮、玉藻〕君命㆓屈狄㆒。〔注〕屈、周禮作㆑闕、謂㆓刻㆑繒爲㆑翟不㆑畫也、此子男之夫人、及卿大夫士之妻命服也。〔疏〕屈、闕也、狄、亦翟也、直刻㆓雉形㆒、闕㆓其采畫㆒、故云㆓闕翟㆒也。〔陳澔集說〕君命㆓屈狄㆒、謂女君子男之妻、受㆓王后之命㆒、得㆑服㆓屈狄㆒也。〔禮、喪大記〕夫人以㆓屈狄㆒。

【屈鐵】116 クツテツ　まがつた鐵。〔神仙傳〕子訓乃死、屍僵、手足交㆓胸上㆒、不㆑可㆑得㆑伸、狀如㆓屈鐵㆒、乃殯㆑之。

【屈動】117 クツドウ　明、嵩縣の人。字は靜元。崇禎の進士。官は吏科給事中。

【屈突】118 クツトツ　複姓。〔通志、氏族略、代北複姓〕屈突氏、本居㆓元朔㆒、後徙㆓昌黎㆒、孝文改爲㆓屈氏㆒、至㆓西魏㆒復㆓本姓㆒。

〖屈突蓋〗119 クツトツガイ　唐の人。通の弟。官は長安令。〔隋書、七十四〕。

〖屈突通〗120 クツトツツウ　唐、長安の人。諡は忠。官は、隋の關內討捕大使、唐の左光祿大夫。〔唐書、八十九〕・〔舊唐書、五十九〕。

【屈南】121 クツナン　複姓。〔通志、氏族略、以㆑族爲㆑氏〕複姓、本單姓、楚屈全之後、裔孫仕㆓後魏㆒、時重㆓複姓㆒、以㆓自㆑南來㆒、乃加㆓南字㆒作㆓屈南㆒、或作㆓屈男㆒。〔元和姓纂〕楚屈原之後、原裔孫仕㆓後魏㆒、魏重㆓複姓㆒、以㆓自㆑南來㆒、乃加㆓南字㆒。

【屈背】122 chʻü^1 pei^4　背をかがめる。

【屈昉】123 クツバウ　明、崑山の人。字は季恆。號は寓菴。嘗て崇明に從軍す。其の詩篇傳播して楊士奇に知られ、經明行修に擧げらる。官は南海丞。〔梅花草堂集、三〕。

【屈拔】124 クツバツ　後魏の人。道賜の子。陰陽の學を好む。官は營州刺史。〔魏書、三十三〕。

【屈法】125 クツパフ　法のあつかひを曲げる。〔北史、史

寧傳〕有レ人、訴二州佐屈レ法。〔丘遲、與二陳伯之一書〕主上屈レ法申レ恩、呑舟是漏。〔蘇軾、到二黃州一謝表〕推レ恩屈レ法、猶當レ禦二魑魅于三危一。

【屈盤】126 クツバン　かがまりわだかまる。屈蟠。〔左思、吳都賦〕洪桃屈盤、丹桂灌叢。〔白居易、紫藤詩〕下如二蛇屈盤一、上若二繩縈紆一。

【屈蟠】127 クツバン　㊀かがまりわだかまる。屈盤。〔章孝標、題二上皇觀一詩〕杉檜龍身老屈蟠。〔歐陽脩、吳學士石屛歌〕古木參レ天枝屈蟠。㊁清、湖口の人。字は文珍・見田。諸生なり。官は巡守道。軍中に卒す。〔碑傳集補、八〕。

【屈罷】128 クツヒ　春秋楚の大夫。平王の命を以て東國の兵を召陵に簡閱し、民を息はしめること五年、然る後に師を用ふ。〔左氏、昭、十四〕。

【屈尾】129 クツビ　まがつた尾。〔韓非子、說林下〕鳥有二翢翢者一、重首而屈尾、將レ欲レ飲二於河一則必顚、乃銜二其羽一而飲レ之。

【屈巫】130 クツブ　春秋楚の人。一名、巫臣。字は子靈。封は申公。夏姬を盜んで晉に奔る。晉人以て邢の大夫と爲す。楚子、之を怨み、屈巫の族を滅ぼす。屈巫も亦怒り、吳に使し、其の子狐庸をして吳の行人爲らしめて、吳に乘車用兵の法を敎へ、晉と通じて楚を伐たしむ。〔左氏、成、二〕。

【屈伏】131 クツブク　かがみふす。力が及ばないで從ふ。制せられて從ふ。俯伏。屈服。屈從。〔後漢書、周黨傳〕黨不レ以レ禮屈伏而不レ謁。〔柳宗元、桂州訾家洲亭記〕有下不三屈伏退讓、以推二高是亭一者上乎。

【屈服】132 クツプク　屈伏に同じ。〔莊子、大宗師〕屈服者、其嗌言若レ哇。〔呂覽、名類〕卑辭屈服、不レ足二以止レ攻。〔後漢書、宋意傳〕彊者爲レ雄、弱卽屈服。〔白虎通、三綱六紀〕夫者扶也、以レ道扶接也、婦者服也、以レ禮屈服。〔魏志、臧洪傳〕紹本愛レ洪、意欲レ令二屈服一。〔五代史、桑維翰傳〕見者無レ不二屈服一。

【屈復】133 クツフク　清、蒲城の人。字は見心。號は悔翁。乾隆の初、吏部尙書楊超曾に鴻博科に擧げらる。著に楚辭新注・弱水集がある。〔清史列傳、七十一〕・〔國朝耆獻類徵、四百八十〕・〔碑傳集、一百三十九〕・〔國朝先正事略、三十八〕。

【屈平】134 クツペイ　屈原(34)を見よ。

【屈躄】135 クツヘキ　ゐざること。志を得ない喩。〔吳志、孫峻傳、注〕歷二觀前世一、富貴非レ有二常人一、而我屈躄在二閭巷之閒一、存亡無二以異一、今欲三割二引吾足一、乃以レ刀自割二其筋一、血流滂沱。

【屈野】136 クツヤ　川の名。一名、窟野河。源は綏遠省鄂爾多斯左翼中旗の南、黃河に注ぐ。〔宋史、夏國傳上〕麟州西城、下二瞰屈野河一。

【屈厄】137 クツヤク　かがみくるしむ。〔新語、本行〕佺傯屈厄、自處甚矣。〔後漢書、郎顗傳〕潛龍養レ德、幽隱屈厄。〔李康、運命論〕以二仲尼之智一也、而屈二厄於陳蔡一。

【屈抑】138 クツヨク　おさへつける。壓抑。〔方孝孺、戇窩記〕昌言倨色、不二少屈抑以取レ合二當世一。〔傳燈錄〕杭州宗靖師問、如何是學人進前一路、師曰、誰敢謾レ汝、曰、豈無二方便一、師曰、早是屈抑也。

【屈量】139 ch'ü^{1} liang^{4}　酒量をひかへる。

【屈龍】140 クツリョウ　濕草の名。おほけたで。游龍。〔淮南子、墬形訓〕凡根茇草者生二於庶草一、海閭生二屈龍一、屈龍生二容華一。〔注〕屈龍、游龍鴻也、詩云、隰有二游龍一、言レ屈、字之誤。

【屈力】141 クツリョク　力をつくす。〔呂覽、愼勢〕堯且屈レ力。〔注〕屈、竭也。〔李覯、袁州州學記〕有三屈レ力殫レ慮、祇順二德意一。

【屈輪】142 グリ グリグリ　堆朱などの、唐草又は渦のやうな模樣の稱。くりぐり。〔增補下學集、下、器財門〕屈輪、香合紋也。

【屈獠】143 クツレウ　まがりめぐる。〔唐書、高麗傳〕隨レ山屈獠爲レ郛、南涯二浿水一。

【屈盧】144 クツロ　矛の名。屈盧之矛を見よ。

【屈盧之弓】145 クツロノユミ　屈盧の地から產する弓。〔越絕書、越絕外傳記吳王占夢〕越王撫二步光之劍一、杖二屈盧之弓一。

【屈盧之矛】146 クツロノホコ　屈盧の地から產する銳利な矛。〔史記、仲尼弟子傳〕奉二先人藏器甲二十領、屈盧之矛、步光之劍一、以賀二軍吏一。〔吳越春秋、夫差內傳〕大夫種曰、君被二五勝之衣一、帶二步光之劍一、仗二屈盧之矛一、瞋レ目大言、以執レ之。〔孔子家語、屈節解〕鈇屈盧之矛、步光之劍。〔倪瓚、答二光大一詩〕詩鏗淸廟瑟、書聳屈盧矛。

【屈枉】147 クツワウ　かがまりまがる。枉屈。〔淮南子、泰族訓〕夫聖人之屈者、以求レ伸也、枉者以求レ直也。

【屈爲彝】148 クツヰイ　清、平湖の人。字は芷香。諸生。書室を古音閣といふ。著に詩音分部集證・古音閣吟稿がある。

【屈可伸】149 クツカシン　明、延津の人。字は謙仲。天啓の進士。檢討より侍講に遷り、神宗實錄の纂修に與かる。後、奄事に終る。

【屈宜若】150 クツギジャク　人名。楚の大夫で、魏に逃れた。又、宜臼・宜咎に作る。〔淮南子、道應訓〕・〔說苑、指武〕。

【屈禦寇】151 クツギョコウ　春秋、楚の人。字は子邊。息公となる。成王の時、秦晉が鄀を伐つや、禦寇は鬭克と共に申息の師を率ゐて商密を守り、捕へらる。〔左氏、僖、二十五〕。

【屈繼平】152 クツケイヘイ　元、翼城の人。字は正卿。程朱の學を以て學者を誘進す。門人、北城先生といふ。〔平陽府志〕。

【屈柘詞】153 クツシャシ　樂府、舞曲歌辭の名。唐、溫庭筠作。唐の軟舞の屈柘枝を以て曲名としたもの。〔樂府詩集、舞曲歌辭、雜舞、柘枝詞〕樂府雜錄曰、健舞曲有二柘枝一、軟舞曲有二屈柘一。樂苑曰、羽調有二柘枝曲一、商調有二屈柘枝一、此舞因レ曲爲レ名、用二二女童帽一施二金鈴一、抃轉有レ聲、其來也、於二二蓮花中一藏、花坼而後見、對舞相占、實舞中雅妙者也。敎坊記曰、凡棚車上擊鼓、非二柘枝一則阿遼破也。羯鼓錄曰、凡曲有二意盡聲不レ盡者一、須下以二他曲一解上レ之、如下耶婆色鷄用二屈柘急遍解一、屈柘用二渾脫解一之類上是也、一說曰、柘枝、本柘枝舞也、其後、字訛爲二柘枝一、沈亞之賦云、昔神祖之克レ戎、賓二雜舞一以混會、柘枝信其多妍、命二佳人一以繼レ態、然則似二是戎夷之舞一、按、今舞人衣冠類二蠻服一、疑出二南蠻諸國一者也。〔溫庭筠、屈柘詞〕楊柳縈レ橋綠、玫瑰拂レ地紅、繡衫金騕褭、花髻玉瓏璁、宿雨香潛潤、春流水暗通、畫樓初夢斷、晴日照二湘風一。

【屈出律】154 クツシュツリツ　乃蠻王の太陽罕の子。庫楚類とも書く。宋の嘉泰中、蒙古の太祖鐵木眞が乃蠻を破るや、屈出律は衆を率ゐて西遼に奔り、直魯克に依つて蒙古に怨みを報ぜんとし、哈剌魯を破り、畏吾兒を伐ち、頻りに東方を侵したが、太祖は哲別を遣して之を征したため、敗走して殺さる。〔元史、一〕。

【屈盡美】155 クツジンビ　清、漢軍鑲白旗人。康熙の閒、廣西總督となる。猺獞の患を討平す。後、漕運總督となる。〔國朝耆獻類徵、一百五十四〕。

【屈成霖】156 クツセイリン　清、常熟の人。字は啓商。乾隆の進士。官は景州知。著に景州志・羽是上下編・經史參同がある。〔國朝耆獻類徵、二百三十二〕。

【屈大均】157 クツダイキン　清、番禺の人。初名は紹隆。字は翁山・介子。明の諸生。亂に遭ひて棄て去り、浮屠となり、名を今種、字を一靈といふ。又、騷餘と改む。中年、初服に返る。康熙時代の詩人。陳恭尹・梁佩蘭と共に嶺南三家の一。書室を祖香堂・道援堂・九歌草堂といふ。著に廣東文選・廣東新語・四書補註・成仁錄・道援堂集・翁山詩略等がある。〔清史稿、四百八十九〕・〔國朝耆獻類徵、四百二十九〕・〔國朝先正事略、三十八〕・〔文獻徵存錄、十〕・〔清代學者象傳、一〕。

【屈大夫】158 クツタイフ　戰國楚、屈原(34)をいふ。

【屈道賜】159 クツダウシ　後魏の人。恆の子。謚は哀。官は尙書右僕射。侍中を加へらる。〔魏書、三十三〕。

【屈培基】160 クツバイキ　清、婁縣の人。字は子載(元安)。嘉慶の副貢。文を能くし、古畸士の風あり、鐵筆に精しく、書畫に巧。〔清畫家詩史、己、上〕。

【屈摩羅】161 クツマラ　佛蓮華の未だ開かぬもの。一に屈滿羅。〔僧叡、法華經後序〕諸華之中、蓮華最勝、華而未レ敷名二屈摩羅一、敷而將レ落名二迦摩羅一、花中盛時名二分陀利一。

【屈明洪】162 クツメイコウ　清、番禺の人。字は甘泉。號は鐵瓢。貢生。官は敎諭。詩を能くす。〔國朝詩人徵略、初編、二十三〕。

【屈靈筠】163 クツレイキン　戰國、楚の屈原をいふ。靈均は屈原の字。〔楚辭、離騷〕名レ余曰二正則一兮、字レ余曰二靈筠一。〔本朝文粹、大江澄明、對冊、辯二山水一〕夔子舊國、爲二屈靈均之鄉一。

【不レ能レ屈】164 クツスルアタハズ　其の志をくじくことが出來ない。〔孟子、滕文公下〕富貴不レ能レ淫、貧賤

不レ能レ移、威武不レ能レ屈、此之謂二大丈夫一。

【屈豔班香】165（クツエンハンカウ） 楚辭のなまめかしさと漢書のかんばしさ。文辭が、楚辭と漢書の長所を兼ね有するをいふ。屈は楚辭の作者屈原、班は漢書の作者班固。〔杜牧、冬至日寄二小姪阿宣一詩〕高摘二屈宋豔一、濃薫二班馬香一。

【屈者以求伸】166（クツスルハモツテノビンコトヲモトム） 折れかがまるは伸びんがためである。〔易、繫辭下〕尺蠖之屈、以求レ信也。〔淮南子、泰族訓〕夫聖人之屈者、以求レ伸也、枉者、以求レ直也。

【屉】7670 テイ タイ 〔字彙〕他計切 霽 ㄊㄧˋ tʻi^4

❶くらした。鞍の下に敷くもの。屜(4－7735)の略字。〔字彙〕屜、鞍屜。〔清會典、鑾儀衛〕鹵簿導象披二藍屜一、不レ加二儀飾一。❷ひきだし。かけご。〔說文通訓定聲〕屜、今籢匵中抽屜、字當下以二此屟一爲上レ之。

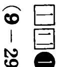
【屜子】1 tʻi tzŭ ❶引手。❷かけご。

【㞙】7671 シ 屎(4－7689)に同じ。〔正字通〕㞙、同レ屎、古借レ矢。

【𡱂】7672 ㊀トン ドン 〔集韻〕徒渾切 元 ㊁テン デン 〔集韻〕堂練切 霰

小篆

或體


或體

㊀㊁❶しり。脽(9－29779)・臀に同じ。〔說文〕𡱂、髀也、从二尸下兀尻レ几、脽、𡱂或从二肉隼一、𩪘、𡱂或从レ骨殿聲。〔段注〕兀、下基也、猶レ言二坐於牀一。〔集韻〕𡱂、或作レ臀。❷かすか。〔廣雅、釋詁〕𡱂、微也。

解字 會意。尸と兀と八との合字。尸は人體、兀は人の下基、八は几、人が几に腰をかけることから、人の臀をいふ。𡱂、或は肉隼に從ひ脽につくる。隼は音符。

【尾】7673 ビ 尾(4－7650)の本字。〔正字通〕尾、說文本作レ尾。

【屌】7674 イ 希(4－9915)の古字。〔說文〕屌、希、古文。〔玉篇〕屌、古文希。

【𡰳】7675 イウ ユ 〔字彙補〕喩幽切 尤 むなしい。〔字彙補〕𡰳、空也。

【𡰱】7676 セウ 義未詳。〔篇韻〕𡰱、音小。

【𡰴】7677 ク 義未詳。〔海篇〕𡰴、音區。

【𡰲】7678 スイ 義未詳。〔海篇〕𡰲、音水。

【𡰷】7679 タン 義未詳。〔搜眞玉鏡〕𡰷、音簞。

六畫

【𡰸】7680 クワン グワン 〔字彙〕胡官切 寒 ふくろ。〔字彙〕𡰸、袋也。

【𡱈】7681 ガイ 骸(12－45164)の俗字。〔正字通〕𡱈、同レ骸、俗省。

【𡱐】7682 ケン 肩(9－29299)に同じ。〔正字通〕𡱐、同レ肩。

【𡱁】7683 ㊀カイ 〔集韻〕許介切 卦 ㊁キ 〔集韻〕虛器切 寘

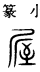
小篆

㊀❶いびき。ねいき。〔說文〕𡱁、臥息也、从二尸自一。❷屓(4－7713)に通ず。〔說文通訓定聲〕𡱁、字亦誤作レ屓。❸隸(12－48536)に同じ。〔集韻〕隸、或作レ𡱁。㊁❶壯大なさま。奰𡱁。〔集韻〕𡱁、奰𡱁、壯大皃。❷或は屭(4－7823)に作る。〔集韻〕𡱁、亦作レ屭。

解字 會意。尸と自との合字。尸は人が體をふせたさま。自は鼻の形に象る。故に合してねいき、いびきをいふ。轉じて、力をだして行ふ義とする。力作すれば鼻息を荒くするが爲である。〔說文、𡱁、段注〕用レ力者、必鼓二其息一、故引二伸之一爲二作レ力之皃一。

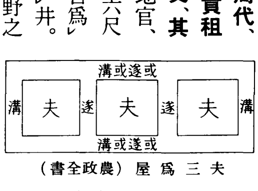
【屋】7684 ヲク 〔集韻〕烏谷切 屋 ㄨ wu^1

小篆


籀文

古文

❶や。いへ。すみか。〔說文〕屋、尻也、从レ尸、尸、所レ主也、一曰、尸、象二屋形一、从レ至、至、所レ止也、屋室皆从レ至。〔釋名、釋室〕屋、奥也、其中溫奥也。〔廣雅、釋室〕屋、舍也。〔廣韻〕屋、止也。〔易、豐〕豐二其屋一。〔注〕屋、藏蔭之物。❷やね。むね。〔說文、屋、段注〕屋者、室之覆也。〔六書故〕屋、棟宇曰レ屋。〔穀梁、文、十三〕大室屋壞。〔注〕屋者、主二於覆蓋一。〔張衡、東京賦〕複廟重屋。〔注〕薛曰、重屋、重棟也。❸おほひ。とばり。楃(6－15096)に通ず。〔說文通訓定聲〕屋、叚借爲レ楃。〔詩、大雅、抑〕尙不レ愧二于屋漏一。〔傳〕屋、小帳也。〔禮、雜記上〕其輤有レ裧、緇布裳帷、素錦以爲レ屋而行。〔注〕輤、象二宮室一、屋、其中小帳、襯二覆棺一者。❹かさ。きぬがさ。〔獨斷、下〕黃屋者、蓋以レ黃爲レ裏也。〔漢書、陸賈傳〕去二黃屋一稱レ制。〔注〕師古曰、黃屋、謂二車上之蓋一也。❺まないた。だい。〔詩、秦風、權輿〕夏屋渠渠。〔箋〕屋、具也。❻**周代、三夫を以て組織した貢租を納める連帶組合。又、其の田、三千步。**〔周禮、地官、小司徒、注〕司馬法曰、六尺爲レ步、步百爲レ畮、畮百爲レ夫、夫三爲レ屋、屋三爲レ井。〔周禮、地官、旅師〕掌二野之鋤粟・屋粟・閒粟一。〔注〕屋粟、民有二田不レ耕、所レ罰三夫之稅粟。❼**重く誅殺する。**剭(2－2092)に通ず。〔周禮、秋官、司烜氏〕邦若屋誅。〔注〕玄謂、屋、讀如二其刑剭之剭一。❽**一百六韻の一。**入聲第一。❾籀文は屋(4－7741)に作る。〔集韻〕屋、籀从レ厂。❿或は壼に作る。〔集韻〕屋、或作レ壼。邦 や。㋑職業を營む家。又は人に添へる接尾語。㋺職業、俳優などの號に添へる接尾語。㋩書齋。又は雅號に添へる接尾語。㋥人。やや侮る時につける接尾語。



夫三爲屋（農政全書）

名乘 イへ。ヤ。

解字 會意。尸と至との合字。尸を屋主とす。即ち人の至り止まり居るところをいふ。故に本義

をいへ、すみかとする。一說に、象形會意。尸は屋上の覆と旁らの壁との象形。又、一說に、尸は屋根の重覆のかたちの象形。本義同じ。〔說文、屋、从レ尸尸所レ主也、段注〕凡尸皆得レ訓レ主、屋从レ尸人爲二屋主一也。〔說文〕屋、一曰尸象二屋形一、〔段注〕此从レ尸之又一說也、上象レ覆旁象レ壁。〔說文通訓定聲〕屋、按、尸象二人側形一、篆當レ作レ𠂆、屋象二重覆形一、篆當レ作レ𠂆。

【屋遊】1 ヲクイウ 屋根に生ずるこけ。やねのこけ。〔本草、屋遊〕釋名、瓦衣・瓦苔・瓦蘚・博邪。集解、別錄曰、屋遊生二屋上陰處一。

【屋引】2 ヲクイン 複姓。〔通志、氏族略、代北複姓〕屋引氏、本居二元朔一、隨レ魏南遷、孝文改爲二屋氏一、唐淇仁府統軍屋引豐生封二渭原縣公貫盞屋一。〔萬姓統譜〕屋引、姓、屋引本居二元朔一、隨レ魏南遷、孝文改爲二屋氏一。

【屋檼】3 ヲクイン 家の棟。棟木。桴。〔爾雅、釋宮、杗廇謂二之梁一、疏〕棟、屋檼也、一名桴、今屋脊也。

【屋宇】4 ヲクウ 家。屋舍。〔後漢書、雷義傳〕葺二理屋宇一、乃得レ金、金主已死無二復還一、義乃以付二縣曹一。〔晉書、郄超傳〕性好聞二人棲遁有能、辭レ榮拂レ衣者一、超爲レ之起二屋宇一、作二器服一、畜二僕豎一、費二百金一而不レ吝。〔南齊書、沈驎士傳〕隱二居餘不吳差山一、講レ經教授、從學者數十百人、各營二屋宇一、依止二其側一。

【屋烏】5 ヲクウ 屋根の上にある烏。屋烏之愛(6)を「見よ。

〖屋烏之愛〗6 ヲクウノアイ 其の人を愛する時は、其の屋根の上に居る烏までも愛する。偏愛する喩。〔尙書大傳、周傳、牧誓、大戰篇〕紂死、武王皇皇若二天下之未レ定、召二太公一而問曰、入レ殷奈何、太公曰、臣聞レ之也、愛レ人者、兼二其屋上之烏一、不レ愛レ人者、及二其胥餘一。〔韓詩外傳、三〕太公曰、愛二其人一、及二屋上烏一、惡二其人一者、憎二其胥餘一。〔說苑、貴德〕武王克レ殷、召二太公一而問曰、將下奈二其士衆一何上、太公對曰、臣聞愛二其人一者、兼二屋上之烏一、憎二其人一者、惡二其餘胥一。〔太平御覽、羽族部、烏〕太公六韜曰、武王登二夏臺一以臨二殷民一、周公旦曰、臣聞レ之、愛二其人一者、愛二其屋上烏一、憎二其人一者、憎二其餘胥一。

【屋檐】7 ヲクエン のき。又、やね。屋簷。檐は軒。〔爾雅、釋宮〕檐、謂二之樀一。〔疏〕屋檐、一名レ樀、一名二屋梠一、又名レ宇。〔玉篇〕詹、屋簷、與レ檐同。〔白居易、宴起詩〕鳥鳴二庭樹上一、日照二屋檐一時。

【屋簷】8 ヲクエン 屋檐(7)に同じ。〔金昌協、自二萬瀑洞一至二摩訶衍一記〕斜出如レ覆二屋簷一。〔國史略、仁德天皇〕宮垣壞敗而不レ修、屋簷穿漏而不レ葺。

【屋下】9 ヲクカ 屋根の下。又、家の下。〔大戴禮、諸侯釁廟〕雍人割二雞屋下一、當二門郟室一。〔宋史、禮志三〕祭二于屋下一、而以二神祇一祭レ之、故謂二之帝一。〔蘇軾、司馬君實獨樂園詩〕青山在二屋上一、流水在二屋下一。

〖屋下架レ屋〗10 ヲクカヲクヲカス 屋根の下に屋根をかける。あるが上に又重ね作る。眞似ばかりして、利益發明の無い喩。屋上架レ屋。〔世說新語、文學〕庾仲初作二揚都賦一、云云、人人競寫、都下紙爲レ之貴、謝太傅云、不レ得レ爾、此是屋下架レ屋耳、事事擬レ學而不レ免二儉狹一。〔注〕王隱論二揚雄太玄經一曰、玄經雖レ妙非レ益也、是以古人謂二其屋下架レ屋。〔顏氏家訓、序致〕魏晉來所レ著諸子、理重事複、猶二屋下架レ屋、床上施レ床耳。

【屋架】11 ヲクカ 家屋をいふ。〔唐書、陳京傳〕戶部侍郎趙贊、請下稅二民屋架一、籍二賈人貲力一、以レ率貸上レ之。

【屋蓋】12 ヲクガイ 屋根をいふ。〔詩、小雅、甫田、如レ茨如レ梁、箋〕茨、屋蓋也。

【屋號】13 ヲクガウ 家の稱號。

【屋角】14 ヲクカク やねのかど。〔杜甫、雨過二蘇端一詩〕紅稠屋角花、碧委牆隅草。〔陸游、冬夜詩〕北斗挂二屋角一、西風驚二雁羣一。〔蘇軾、四時詞〕霜葉蕭蕭鳴二屋角一。

【屋基】15 ヲクキ 家屋のどだい。又、建物の敷地。〔晉書、張華傳〕初吳之未レ滅也、斗牛之閒、常有二紫氣一、道術者皆以、吳方強盛、未レ可レ圖也、唯華以爲レ不レ然、云云、補レ煥爲二豐城令一、煥到レ縣掘二獄屋基一、入レ地四丈餘、得二一石函一、光氣非レ常、中有二雙劍一、並刻題、一曰二龍泉一、一曰二太阿一、其夕斗牛閒氣不二復見一焉。

【屋極】16 ヲクキヨク 屋根の棟。〔徐顥卿、皇極殿賦〕居有二屋極一、羣材附而大廈成。

【屋隅】17 ヲクグウ 家の隅。〔孔臧、鴞賦〕爰有二飛鴞一、集二我屋隅一。

【屋課】18 ヲククワ 家屋稅。〔宋史、選擧志三〕取二郡縣田租課息錢之類一、增爲二學費一。

【屋瓦】19 ヲクグワ やねがはら。屋根のかはら。〔史記、廉頗藺相如傳〕秦軍鼓譟勒レ兵、武安屋瓦盡振。〔漢書、王莽傳中〕北闕直城門屋瓦。〔李商隱、殘雪詩〕簷冰滴二鵝管一、屋瓦鏤二魚鱗一。

【屋外】20 ヲクグワイ 建物の外。戶外。屋內(56)の對。〔范成大、冬日田園雜興詩〕從レ教二屋外陰風吼一、臥聽籬頭響二玉簫一。

【屋形】21 ヤカタ ㊀貴族の居宅をいふ。殿舍。〔慕京集〕橫見氏屋形をおそふなど聞こえけれど。㊁中古以來、大臣の居所をいふ。轉じて尊稱に用ひる。〔源平盛衰記、二十二、千葉足利催促事〕屋形に歸て云ひけるは。㊂假りに構へた家。〔古今集、二十、大歌所御歌〕水莖の岡の屋形に。㊃屋形車・屋形船の略。

〖屋形車〗22 ヤカタグルマ 屋根の設けがあつて、人の乘る車。〔倭名類聚抄、舟車部、車具、車蓋、注〕俗車屋形、屋賀太。

〖屋形船〗23 ヤカタブネ ㊀二階屋形のある船。御座船。〔東鑑、四十六〕建長八年八月二十三日、以二金銀以下一、作二屋形船一。㊁遊山船をいふ。江戶時代、淺草川の納涼に用ひた。〔紫の一本、下、船〕東國丸より大きなる屋形。

【屋契】24 wu¹ chʻi⁴ 借家契約書。

【屋後】25 ヲクゴ 家のうしろ。〔宋書、沈道虔傳〕人拔二其屋後筍一、令二人止レ之曰、惜此筍欲レ令レ成レ林。

【屋根】26 ヤネ 雨露風雪寒暑などを防禦する爲に、建物の上に瓦・板・茅などで葺いたおほひ。〔萬葉集、四〕板葺の黑木の屋根。

〖屋根船〗27 ヤネブネ 屋根の設けある船。〔塵塚談、上〕屋形船の事、云云、皆小屋形のみなり、ただ屋根船・猪牙船多く有り。

【屋材】28 ヲクザイ 家を建てる材木。〔宋史、趙普傳〕普嘗遣二親吏一、詣二市屋材一、聯二巨筏一、至二京師一治レ第。〔宋史、李允則傳〕此步兵之地、不レ利二騎戰一、豈獨資二屋材一耶。

【屋棧】29 ヲクサン やねのむね。屋山。〔通俗編、居處、屋棧〕通雅、棧、所監切、今以二屋東西榮柱之外之宇一爲レ棧、嘗見二工匠一、謂二屋兩頭一爲レ山、猶二其遺聲一、實是棧字。

【屋山】30 ヲクザン やねのむね。屋脊。屋棧。〔韓愈、寄二盧仝一詩〕每騎二屋山一下窺瞰。〔王安石、次三韻祖擇之登二紫微閣一詩〕落木回飇動二屋山一。

【屋子】31 wu¹ tzŭ 室。部屋。

【屋室】32 ヲクシツ いへ。〔戰國、趙策〕願大夫之往也、毋レ伐二樹木一、毋レ發二屋室一。〔六韜、文韜、盈虛〕宮垣屋室不レ堊。〔史記、陳丞相世家〕望二見其屋室甚大一。〔史記、大宛傳〕有二城郭屋室一。

【屋舍】33 ヲクシヤ いへ。屋宇。屋宅。〔詩、小雅、鴻鴈、百堵皆作、箋〕起二屋舍一、築二牆壁一。〔吳志、是儀傳〕爲二屋舍一財足二自容一。〔元稹、酬下樂天得二微之詩一知二通州事一因成上詩〕茅簷屋舍竹籬州、虎怕偏蹄虵兩頭。

【屋上】34 ヲクジヤウ 屋根の上。〔楚辭、九歌、湘君〕鳥次二兮屋上一、水周二兮堂下一。〔漢書、黃霸傳〕臣敞舍有二鶡雀一、飛止二丞相府屋上一。〔宋書、五行志四〕魏齊王嘉平四年五月、有三二魚集二于武庫屋上一、此魚孽也。〔杜甫、茅屋爲二秋風一所レ破歌〕八月秋高風怒號、卷二我屋上三重茅一。

〖屋上架レ屋〗35 ヲクジヤウヲクヲカス 屋下架レ屋(10)に同じ。

〖屋上建二瓴水一〗37 ヲクジヤウニレイスイヲクツガヘス 屋根の上から瓴の水を覆し流す。向下するに便利な形勢の喩。〔史記、高祖紀〕秦形勝之國、云云、譬猶下居二高屋之上一建中瓴水上。〔注〕集解曰、如淳曰、瓴、盛レ水瓶也、居二高屋之上一、而翻二瓶水一、言二其向レ下之勢易一也。

【屋主】38 wu¹ chu³ 家主。やぬし。

【屋充】39 ヤアテ 行幸に充て給ふ殿舍等の裝飾を分掌させること。又、伊勢大神宮の遷宮の時、殿舍・門垣の裝飾にもいふ。〔兵範記〕仁平二年十二月二十六日、有二行幸一、云云、有二屋充事一、各向奉二行屋屋一、令三諸司官人奉二仕之一。〔遷宮例文、屋充〕屋充事、且任二先規一、且依二時儀一、所レ被二充行一也。

【屋稅】40 ヲクゼイ 家屋にかかる稅金。家屋稅。〔宋史、李處耘傳〕奏減二城中居民屋稅一、民皆悅服。

〖屋稅鹽〗41 ヲクゼイエン 家屋にかかる稅金の多寡によつて鹽を與へて、鹽錢を徵收すること。後唐

に始まり、後周の廣順三年に至つてやむ。

【屋脊】42（ヲクセキ） 屋根の頂。棟梁をいふ。〔左氏、襄二十八、猶援二廟桷一動二於甍一、疏〕說文云、甍、棟梁也、是又名爲レ梁、此是屋上之長材、椽所二以馮依一者也、今俗謂二之屋脊一。〔南史、王琳傳〕所レ居屋脊、無レ故剝破、出二赤蛆數升一。

【屋船】43（ヤブネ） 家、宮殿をいふ。家を船、主人を船頭、家族を其の乘合ひに喩へた語。〔豐受皇太神御鎭座本紀〕瑞舍名號屋船緣也。

〖屋船神〗44（ヤブネノカミ） 家屋守護の神、豐受姬と久久能智神との二柱の神をいふ。

【屋租】45 wu^1 tsu^1 家賃。

【屋鼠】46（ヲクソ） 家に居る鼠。〔漢書、中山靖王勝傳〕臣聞、社鼷不レ灌、屋鼠不レ熏。

【屋粟】47（ヲクゾク） 周代、人民の田を耕さぬ者に罰として納めしめた三家分の租稅。屋は三夫の田、卽ち三千步、粟はもみごめ。屋の字解❻を見よ。〔周禮、地官、載師〕凡田不レ耕者出二屋粟一。〔注〕空レ田者罰以二三家之稅粟一、以共二吉凶二服及喪器一也。〔周禮、地官、旅師〕掌レ聚二野之鋤粟・屋粟・閒粟一。〔注〕屋粟、民有二田不一レ耕、所レ罰二三夫之稅粟。〔管子、輕重甲〕無二屋粟・邦布之籍一。

【屋臺】48（ヤタイ） 屋根ある移動し得る臺。

〖屋臺店〗49（ヤタイミセ） 夜店などで屋臺上に物を賣る店。

【屋宅】50（ヲクタク） いへ。屋舍。〔周禮、考工記、總目、胡無二弓車一、注〕匈奴無二屋宅一、田獵畜牧、逐二水草一而居。〔南齊書、明帝紀〕詔二所在結課屋宅田桑一、可三詳減二舊價一。

【屋誅】51（ヲクチユウ） 三族を夷誅すること。一說に、身分ある者を屋舍の中で誅すること。〔周禮、秋官、司烜氏〕邦若屋誅、則爲二明竁一焉。〔注〕鄭司農云、屋誅、謂レ夷二三族一、玄謂、屋、讀如二其刑剭之剭一、剭誅、謂下所レ殺不レ于レ市、而以適二甸師氏一者上也。〔疏〕屋誅、謂二甸師氏屋舍中誅一、則王之同族及有レ爵者也。

【屋除】52（ヲクヂヨ） 家の入口の階段。殿階。〔王安石、悟眞院詩〕野水縱橫漱二屋除一。〔道潛、寄二兪秀老淸老二居士一詩〕風溪雪巘雪消初、鳥變二春聲一滿二屋除一。

【屋椽】53（ヲクテン） 家のたるき。〔杜甫、觀二薛稷少保書畫壁一詩〕又揮西方變、發レ地扶二屋椽一。〔宋史、李昭亮傳〕蒲博爭二勝負一、徹二屋椽一相擊。

【屋棟】54（ヲクトウ） 家のむなぎ。〔吳志、諸葛恪傳〕出行之後、所レ坐聽事、屋棟中折。〔宋史、李庭芝傳〕庭芝生時、有レ芝產二屋棟一、鄉人聚觀、以爲二生レ男祥一也。

【屋頭】55（ヲクトウ） ❶家のほとり。〔杜荀鶴、懷二廬嶽書齋一詩〕煑レ茶窗底水、採レ藥屋頭山。〔范成大、初夏詩〕永日屋頭槐影暗、微風扇裏麥花香。❷廁をいふ。便所。〔資暇錄、屋頭〕俗命レ如レ廁爲二屋頭一、稱、并州人咸鑿レ土爲レ室、廁在二所レ居之上一故也、一說、北齊文宣帝、怒二其魏郡丞崔叔寶一、以二溷汁一沃レ頭、後人或食、或避二親長一、不レ能三正二言溷一、因レ影爲二沃頭一焉。

【屋內】56（ヲクナイ） 家屋のうち。屋外(20)の對。

【屋南】57（ヲクナン） 複姓。〔通志、氏族略、代北複姓〕屋南氏、見二複姓錄一、並不レ詳レ所レ出。

【屋比】58（ヲクヒ） やなみ。比屋。近所。近鄰。〔史記、汲黯傳〕家人失レ火、屋比延燒、不レ足レ憂也。

【屋扉】59（ヲクヒ） 家の扉。〔吳萊、詩〕一紙江南到二屋扉一。

【屋敷】60（ヤシキ） ❶家を建てるべき敷地。宅地。〔松屋筆記、五十七〕宅地を屋敷といふ事。❷住宅のある一區劃の地。〔源平盛衰記、十、丹波少將上洛事〕屋敷は昔にかはらねども。❸士族の住宅。家敷町を見よ。❹外國商館。幕末から明治にかけて外國商館をかく呼んだ。例、異人屋敷、おらんだ屋敷等。

〖屋敷割〗61（ヤシキワリ） 屋敷地をわり宛てること。

〖屋敷者〗62（ヤシキモノ） 士族屋敷に奉公してゐるもの。

〖屋敷地〗63（ヤシキチ） 住宅を設ける土地。

〖屋敷町〗64（ヤシキマチ） 屋敷家ばかり連續した町筋。武家屋敷のある町。〔好色一代男、三〕屋敷町を行く。

【屋廡】65（ヲクブ） やね。屋梁。〔漢書、召信臣傳〕覆以二屋廡一。〔論衡、談天〕古之天若二屋廡之形一。

【屋病】66（ヲクヘイ） 家屋としての缺點。政事の大綱を立派に實行しない喩。〔北史、源賀傳〕懷恆語レ人曰、爲レ政貴レ當レ舉レ綱、何必須レ太二子細一也、如レ爲レ屋、但外望高顯、楹棟平正足矣、斧斤不レ平、非二屋病一也。

【屋壁】67（ヲクヘキ） 家のかべ。〔漢書、王莽傳下〕桃湯赭鞭、鞭二灑屋壁一。〔新書、孽產子〕今富人大賈屋壁。〔孔安國、古文尙書序〕我先人用藏二其家書于屋壁一。〔隋書、牛弘傳〕上表請レ開二獻書之路一曰、漢興改二秦之弊一、敦尙二儒術一、建二藏書之策一、置二校書之官一、屋壁山巖、往往閒出。〔王迥、同二孟浩然一宴賦詩〕共賦二新詩一發二宮徽一、嘗于二屋壁一彭二厥美一。〔李商隱、送二劉五經映一詩〕屋壁餘無レ幾、焚坑殆可レ傷。

【屋門】68 wu^1 men^2 部屋の戶。

【屋翼】69（ヲクヨク） のきづま。やねづま。屋根のひさしのそり上つた所。〔儀禮、士冠禮、夙興設レ洗直二于東榮一、注〕榮、屋翼也。〔疏〕云二榮屋翼也一者、卽今之摶風、云レ榮者、與レ屋爲二榮飾一、言レ翼者、與レ屋爲二翅翼一也。〔禮、喪大記、皆升自二東榮一、疏〕榮、屋翼也、天子諸侯四注爲レ屋、而大夫以下不レ得二四注一、但南北二注而爲二直頭一、卽屋翼也。

【屋蘭】70（ヲクラン） 縣名。漢、置く。故治は甘肅省山丹縣の西北。〔漢書、地理志下〕張掖郡、縣十、屋蘭。

【屋裏】71（ヲクリ） 部屋の內。〔庾信、春賦〕屋裏衣香不レ如レ花。〔杜甫、見二螢火一詩〕忽驚屋裏琴書冷、復亂二檐前星宿稀一。〔姚合、咏二破屏風一詩〕殘雪飛二屋裏一、片水落二牀頭一。

【屋溜】72（ヲクリウ） あまだれ。屋霤に同じ。

【屋霤】73（ヲクリウ） あまだれ。雨滴。點滴。〔韓愈、韋侍講盛山十二詩序〕若下築二河隄一以障中屋霤上。

【屋梁】74（ヲクリヤウ） 家のうつばり。屋廡。〔宋玉、神女賦〕其始來也、耀乎若三白日初出照二屋梁一。〔晉書、虞潭傳〕有二野鷹一飛集二屋梁一。〔南史、梁宗室下、衡山侯恭傳〕仰眠二牀上一、看二屋梁一著レ書。〔杜甫、白水縣崔少府十九翁高齋詩〕長歌激二屋梁一、淚下流二衽席一。〔元稹、落月詩〕蚊聲靄二窗戶一、螢火繞二屋梁一。〔白居易、早興詩〕晨光出照屋梁明、初打開レ門鼓一聲。〔李商隱、初起詩〕三年苦霧巴江水、不下爲二離人一照中屋梁上。

〖屋梁落月〗75（ヲクリヤウラクゲツ） 友を思ふ情の切なること。唐の杜甫が李白の江南に流されたのを思ひやり、之を夢みて作つた詩の話。落月屋梁。〔杜甫、夢二李白一詩〕落月滿二屋梁一、猶疑照二顏色一。

【屋梠】76（ヲクリヨ） のき。簷。〔爾雅、釋宮、直不レ受レ檐謂二之交一、疏〕屋檐、一名樀、一名屋梠、又名宇、皆屋之四垂也。〔方言、十三〕屋梠、謂二之欞一。

【屋廬】77（ヲクロ） ❶すまひ。住宅。屋室。〔韓愈、示レ兒詩〕辛勤三十年、以有二此屋廬一。〔宋史、莊夏傳〕計レ口授レ地、貸以二屋廬牛具一。❷複姓。〔通志、氏族略、以レ地爲レ氏〕屋廬氏、晉賢人屋廬子、著レ書、言二彭聃之法一。〔尙友錄〕屋廬氏著レ書、言二彭聃之法一、晉賢人。

〖屋廬連〗78（ヲクロレン） 戰國の人。孟子の弟子。書を著して彭聃の法を論ず。〔續孟子、屋廬子〕。

【屋驢】79（ヲクロ） 明、八大山人(**2**−**1450**··351)の號。

【屋漏】80（ヲクロウ） ❶室の西北隅で中霤の神を祀る所。家の內で最も奧深く暗い場所。轉じて、人の見ぬ所。不レ愧二屋漏一(95)を見よ。〔詩、大雅、抑〕不レ愧二于屋漏一。〔傳〕西北隅謂二之屋漏一。〔爾雅、釋宮〕西北隅、謂二之屋漏一。〔注〕屋漏義、未レ詳。〔釋名、釋宮室〕室中西北隅曰二屋漏一、禮每レ有二親死者一、輒撤二屋之西北隅薪一、以二爨竈煑沐一、供二諸喪用一、時若値レ雨則漏、遂以名レ之也、必取二是隅一者、禮既祭、改設二饌於西北隅一、今撤二毀之一、示レ不二復用一也。❷屋根の漏ること。〔世說新語、排調〕祖廣行恆縮レ頭、詣二桓南郡一、始下レ車、桓曰、天甚晴朗、祖參軍如下從二屋漏中一來上。〔南史、江子一傳〕屋漏在レ上、知レ之在レ下。

〖屋漏痕〗81（ヲクロウコン） 屋根の雨漏りのあとのやうに自由で自然な草書の筆法。〔法書苑〕顏魯公、與二懷素一同學二草于鄔兵曹一、或問曰、張長史見二公孫大娘舞一レ劍、始得二低昂回翔之狀一、兵曹有レ之乎、懷素以二古釵腳一對、顏魯公曰、何二如屋漏痕一。〔陸羽、懷素別傳〕懷素曰、吾觀三夏雲多二奇峯一、輒常師レ之、其痛快處、如二飛鳥出一レ林驚蛇入レ草、又如二拆壁之路一、一一自然、顏眞卿曰、何二如屋漏痕一、素起握二公手一曰、得レ之矣。〔姜夔、續書譜〕屋漏痕者、欲三其無二起止之跡一。

〖屋漏如レ麻〗82（ヲクロウアサノゴトシ） 雨もりの甚しいことの形容。〔前言往行錄、淸貧宰相〕霖雨經レ月、屋漏如レ麻。

〖屋漏中來〗83（ヲクロウチユウヨリキタル） せむしをいふ。屋漏の❷を見よ。〔書言故事、殘疾類〕謂二縮レ項者一、從二

屋漏中一來。

【屋壠】85（ヲクロウ） 貝の一。瓦壠子（7－21438‥125）の異名。あかがひ。〔事物異名錄、水族、蚶〕侯鯖錄、瓦壠外眉而內渠、其名屋壠、高爲レ眉、疏爲レ渠、一名魁陸。

【屋數椽】86（ヲクスウテン） 小さな家のこと。數本の椽から成る家。椽は棟から檐にわたす材。〔藤森弘庵、春雨樓記〕僦二屋數椽於城東槇坊一、以寓焉。

【屋骨朶魯】87（ヲクコツダロ） 金、移剌子敬（8－25045‥113）の本名。

【屋如二七星一】88（ヲクシチセイノゴトシ） 屋根が破れ、所々に穴があいて、北斗七星のやうである。貧家の形容。〔雲仙雜記〕鄭廣文、屋室破漏、從レ下望之、竅如二七星一。

【屋龍更衣】90（ヲクリヨウカウイ） 唐の饒子卿が廬山の隱居の屋根を、毎年、一茅づつ易へたことをいふ。〔十三賢共注廬山記〕饒子卿隱二居廬山一、茅茨數椽、不レ避二風雨一、毎二漏濕一則張二蓋於梁上一、而危二坐其下一、終日無二悶色一、茅爛輒易、謂二之屋龍更衣一。

【仰レ屋著レ書】91（ヲクヲアフイデシヨヲアラハス） 苦辛して書物を著はすこと。〔梁書、南平王恭傳〕子恭爲二雲麾將軍・湘州刺史一、云云、毎從容謂レ人曰、下官歷二觀世人一、多有レ不レ好二歡樂一、乃仰眠二床上一、看二屋梁一而著レ書、千秋萬歲、誰傳レ此者、勞レ神苦レ思、竟不レ成レ名、豈如下臨二清風一、對二朗月一、登レ山泛レ水、肆レ意酣歌上也。

【揗レ屋稱レ貞】92（ヲクヲヒイテテイヲシヨウセラル） 古、顏叔子が暴風雨の夜、家が壞れたために逃れて來た隣家の嫠婦と同席し、屋根の草を抽き拔いて燈をともし、男女同居の誤解を避けて、貞潔の名を稱せられた故事。揗は抽。〔詩、小雅、巷伯、哆兮侈兮、傳〕昔者顏叔子、獨處二于室一、鄰之嫠婦、又獨處二于室一、夜暴風雨至而室壞、婦人趨而至、顏叔子納レ之、而使三執レ燭放二乎旦一、而蒸盡揗レ屋而繼レ之、自以爲レ辟レ嫌之。〔傳疏〕揗レ屋者、正義、揗、謂レ抽也、小箋、揗レ屋、卽左傳之抽屋也、武梁碑作二揗窂一、說文曰、揗、蹴引也。〔北齊書、廢帝紀〕顏子縮レ屋稱レ貞、柳下嫗而不レ亂。

【潤レ屋潤レ身】93（ヲクヲウルホシミヲウルホス） 富貴であると其の家は自然に立派になり、德行があると其の容貌態度が自然に立派になる。〔大學〕富潤レ屋、德潤レ身、心廣體胖、故君子必誠二其意一。

【望レ屋而食】94（ヲクヲノゾミテクラフ） 自らは糧食の用意せず、人家を望み見れば、之に就いて糧食を取る。〔史記、秦始皇紀贊〕不レ用二弓戟之兵一、鉏櫌白梃、望レ屋而食、橫二行天下一。〔注〕索隱曰、言下其兵蠶二食天下一、不上レ裹レ粮而行上。

【不レ愧二屋漏一】95（ヲクロウニハヂズ） ❶隱微のところにも戒愼して鬼神に愧ぢない。屋漏の❶を見よ。〔中庸〕君子所レ不レ可レ及者、其唯人之所レ不レ見乎、詩云、相レ在二爾室一、尚不レ愧二于屋漏一。〔疏〕此大雅抑之篇、刺二厲王一之詩、詩人意稱、王朝小人不レ敬二鬼神一、在二廟堂之中一、猶尚不三愧二畏於屋漏之神一、記者引レ之、斷レ章取レ義、言、君子之人在二室之中一、屋漏雖二無レ人之處一、不二敢爲レ非。❷祭を怠つて而も神に愧ぢないことをいふ。〔詩、大雅、抑〕相レ在二爾室一、尚不レ愧二于屋漏一。〔箋〕禮、祭二於奧一、既畢、設二饌於西北隅而扉隱之處一、此祭之末也。〔疏〕此臣非三但諂二佞於王一、又惰二慢於事一、其助二祭於汝王宗廟之室一、尚無二肅敬之心一、不三慙二媿於屋漏一、祭當レ盡レ敬、尚無二媿心一、其於二諸事一怠惰明矣。

【屌】7685

テウ 〔字彙〕丁了切 ㄉㄧㄠˇ tiao^3 篠

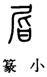
男子の陰部。〔字彙〕屌、男子陰名。〔正字通〕屌、此爲二方俗語一、史傳皆曰レ勢。

【屓】7686

🈩キ 〔集韻〕磬致切 寘

🈔ケイ 〔集韻〕詰計切 霽

🈪ケイ 〔集韻〕牽奚切 齊



小篆

🈩🈔❶**をる。**〔說文〕屓、尻也、从レ尸旨聲。❷**身を欹てて坐る。**〔廣韻〕屓、身欹坐。〔集韻〕屓、一曰、欹坐皃。❸**しり。**〔廣韻〕屓、一曰、尻。🈪**しり。**〔玉篇〕屓、尻也。〔集韻〕屓、廣雅、臀也。

【⿸尸系】7687

🈩クワ ゲ 〔集韻〕戶瓦切 馬

🈔バク ミヤク 〔集韻〕莫白切 陌

🈩❶**くつ。**一說に、青絲頭のくつ。或は屨（4－7793）に作る。〔廣雅、釋器〕⿸尸系、屩也。〔集韻〕⿸尸系、履也、方言、西南梁益之閒、謂二之⿸尸系一、一說、青絲頭履、或作レ屨。❷⿸尸糸（8－27290）の譌字。〔方言、四、扉、箋疏〕⿸尸系卽⿸尸糸誤、是⿸尸系卽屩也。🈔🈩❶に同じ。〔集韻〕⿸尸系、說文、履也、青絲頭履。

【屍】7688

🈩シ 〔集韻〕升脂切 ㄕ shih^1 支

🈔シ 〔集韻〕矢利切 寘

小篆

🈩❶**しかばね。**むくろ。なきがら。〔說文〕屍、終主也、从二尸死一。〔段注〕終主者、謂二方死無レ所レ主、以レ是爲レ主也、曲禮曰、在レ牀曰レ屍。〔左氏、文、三〕秦伯濟レ河焚レ舟、封二殽屍一而還。❷**かたしろ。**尸（4－7630）に通ず。〔說文、屍、段注〕屍、今經傳字多作レ尸、同音假借也。〔周禮、春官、大司樂〕屍出入、則令レ奏二肆夏一。〔釋文〕屍、本亦作レ尸。❸死（6－16365）に通ず。〔史記、魯周公世家〕以二其屍一與レ之。〔注〕索隱曰、屍、亦作二死字一。🈔**皴に似たさま。**〔集韻〕屍、似レ皴皃。

解字 會意。尸と死との合字。本義はしかばね。故に尸（人）と死とを合す。一說に、尸は音符。形聲。〔說文、屍、段注〕死者終也、尸者主也、故曰二終主一。〔說文通訓定聲〕屍、按从レ死尸聲、許誤也。

【屍解】1（シカイ） 神仙の死をいふ。尸解（4－7629‥3）を見よ。〔神仙傳、二、王遠〕王遠語二蔡經一曰、汝生命應レ得レ度レ世、欲レ取レ汝以補二官僚一、然少レ知レ道、氣少肉多、不レ得二上去一、當下爲二屍解一、如中從二狗竇中一過上耳。

【屍骸】2（シガイ） しかばね。死骸。〔後漢書、桓帝紀〕被レ水流二失屍骸一者、令二郡縣鉤求收葬一。〔後漢書、張武傳〕亡二失屍骸一。〔法苑珠林〕無レ有二屍骸一。

【屍格】3（シカク） 檢死の明細書。〔福惠全書、刑名部、人命上、檢驗〕若印官初次親驗無レ差、犯證指供明確、則覆檢亦可レ不レ必、卽云二舊例一、不レ過三再驗二本傷一、其餘報二塡屍格一、以便二申詳一。

【屍諫】4（シカン） 死後の身を以て君を諫めて正に歸せしめること。衞の大夫鰌が、生時靈公を諫め、小人彌子瑕を退けて蘧伯玉を進めんとして果さなかつたことを遺憾とし、其の子に遺命して、屍を北堂に置いて喪禮を盡さざらしめ、以て靈公を諫めた故事。韓詩外傳卷三には尸諫に作る。〔大戴禮、保傳〕衞靈公之時、蘧伯玉賢而不レ用、迷子瑕不肖而任レ事、史鰌患レ之、數言二蘧伯玉賢一而不レ聽、病且レ死、謂二其子一曰、我卽死、治二喪於北堂一、吾生不レ能下進二蘧伯玉一而退中迷子瑕上、是不レ能レ正レ君者、死不レ當レ成レ禮、而置二屍於北堂一、於レ我足矣、靈公往弔、問二其故一、其子以二父言一聞、靈公造然失レ容、曰、吾失矣、立召二蘧伯玉一而貴レ之、召二迷子瑕一而退レ之、徙二喪於堂一、成レ禮而後去、衞國以治、史鰌之力也、夫生進レ賢而退二不肖一、死且未レ止、又以レ屍諫、可レ謂二忠不一レ衰矣。〔新書、胎教〕衞靈公之時、蘧伯玉賢而不レ用、彌子瑕不肖而任レ事、史鰌患レ之、數言二蘧伯玉賢一而不レ聽、云云、夫生進レ賢而退二不肖一、死且未レ止、又以レ屍諫、可レ謂二忠不一レ衰矣。〔孔子家語、困誓〕衞蘧伯玉賢、而靈公不レ用、彌子瑕不肖、反任レ之、史魚驟諫而不レ從、史魚病將レ卒、命二其子一曰、吾在二衞朝一、不レ能下進二蘧伯玉一、退中彌子瑕上、是吾爲レ臣不レ能レ正二其君一也、生而不レ能レ正二其君一、則死無二以成一レ禮、我死、汝置二屍牖下一、於レ我畢矣、其子從レ之、靈公弔焉、怪而問焉、其子以二其父言一告レ公、公愕然失レ容曰、是寡人之過也、於レ是命レ之殯二於客位一、進二蘧伯玉一而用レ之、退二彌子瑕一而遠レ之、孔子聞レ之曰、古之列諫者、死則已矣、未レ有下如三史魚死而屍諫、忠感二其君一者上也、可レ不レ謂レ直乎。

【屍棺】5 shih^1 kuan^1 死骸を納めた棺。

【屍古】6 shih^1 ku^3 冢中から出る古玉。

【屍骨】7 shih^1 ku^3 しかばね。死骸。

【屍子】8 shih^1 tzŭ^3 殺害せられた者の子。

【屍主】9 shih^1 chu^3 死骸引取人。

【屍首】10 shih^1 shou^3 死骸。

【屍所】11 shih^1 suo^3 死んだ場所。屍體のある「現場。

【屍身】12 shih^1 shen^1 死骸。屍首。身屍。

【屍親】13 シシン 殺害せられた者の親族。〔福惠全書、刑名部、人命中、自盡〕不レ足レ惜者、卽令二屍親殯殮一。

【屍體】14 シタイ 死んだからだ。死體。死骸。〔淸國行政法汎論、知縣、權限、驗屍〕精二查屍體致死之原因一。

【屍圖】15 シヅ 屍體の傷口の書きつけ。〔福惠全書、刑名部、人命上、印官親驗〕仵作暗買二屍圖一。

【屍變】16 shih^1 pien^4 横臥した死屍が地上で跳ね上ること。

【屍冢間】17 シチョウカン 後漢の禰衡が曹操の所を去つて劉表の許に行く時、之を見送る衆人が禰衡の心を挫くため、或は坐し、或は臥して起たぬので、禰衡は、坐する者は冢であり、臥する者は屍である、冢や屍の中にゐるのは悲しいと悲しんだ故事。〔後漢書、禰衡傳〕操怒謂レ融曰、今送與二劉表一視レ當二何如一、於レ是遣二人騎送レ之、臨レ發、衆人爲レ之祖道、先供二設於城南一、乃更相戒曰、禰衡勃虐無レ禮、今因二其後到一、咸當二以レ不レ起折レ之也、及二衡至一、衆人莫二肯興一、衡坐而大號、衆問二其故一、衡曰、坐者爲レ冢、臥者爲レ屍、屍冢之閒、能不レ悲乎。

【裹二屍馬革一】18 シカバネヲバカクニツツム 屍を馬革でつつむ。戰場に死するをいふ。後漢の馬援の語。〔後漢書、馬援傳〕方今匈奴・烏桓、尚擾二北邊一、欲二自請レ擊レ之、云云、男兒要レ當下死二於邊野一、以二馬革一裹レ屍還葬上耳、何能臥二床上一、在二兒女子手中一邪。

【夢レ屍得レ官】19 シカバネヲユメミテクワンヲウ 晉の殷浩が、將に官を得んとする時に屍を夢みる理由を、官位は臭腐であるからだと言つた故事。〔世說新語、文學〕人有レ問二殷中軍一、何以將レ得レ位而夢二棺器一、將レ得レ財而夢二矢穢一、殷曰、官本是臭腐、所三以將レ得而夢二棺屍一、財本是糞土、所三以將レ得而夢二穢汙一、時人以爲二名通一。〔蘇軾、秦少游夢二發レ殯而葬レ之者一云是劉發之柩是歲發首薦レ秦以レ詩賀レ之劉涇亦作因次二其韻一詩〕居レ官死レ職戰死綏、夢レ屍得レ官眞古語。

【屎】7689

㊀シ　〔集韻〕矧視切　ㄕˇ shih^3　紙

㊁キ　〔集韻〕馨夷切　ㄒㄧ hsi^1　支

㊀❶くそ。菌(9−31371)に同じ。〔集韻〕菌、說文、糞也、从二艸胃省一、或作レ屎。〔字彙〕屎、與レ菌同。〔莊子、知北遊〕道惡乎在、云云、在二屎溺一。❷通じて矢(8−23929)に作る。〔莊子、人閒世〕以レ筐盛レ矢。〔釋文〕矢、或作レ屎、同。㊁❶うめく。殿屎。〔集韻〕屎、殿屎、呻吟也。〔詩、大雅、板〕民之方殿屎。〔傳〕殿屎、呻吟也。❷吚(2−3296)に同じ。〔集韻〕吚、或作レ屎。

【屎坑】1 shih^3 k'êng^1 糞壺。

【屎棋】2 shih^3 ch'i^2 へぼ碁。糞棋。

【屎戶】3 ヘクツ 糞をひり散らす。〔延喜式、祝詞〕生剝・逆剝・屎戶ここだくの罪を。

【屎詩】4 シシ 惡詩を嘲る語。〔北夢瑣言〕顧況著作披二道服一在二茅山一、有二一秀才一、行吟曰、駐レ馬上二山阿一、久思不レ得、顧云、何不レ道二風來屎氣多一、秀才曰、賢莫レ無レ禮、顧曰、是況、其人慚惕而退。〔通俗編、藝術、屎詩糞棋〕今嘲二惡詩一曰二屎詩一、此其出典。

【屎尿】5 シネウ 屎溺に同じ。〔淨住子、生老病死門〕屎尿臭處、妻子爲レ之改レ容。〔法苑珠林〕故恆食二屎尿一。

【屎溺】6 シネウ 糞と溺。屎尿。〔莊子、知北遊〕東郭子問二于莊子一曰、所謂道惡乎在、莊子曰、無レ所レ不レ在、東郭子曰、期而後可、莊子曰、在二螻蟻一、曰、何其下邪、曰、在二稊稗一、曰、何其愈下邪、曰、在二瓦甓一、曰、何其愈甚邪、曰、在二屎溺一。

【屎擔子】7 シタンシ 佛人は五尺の形骸に屎糞を滿たして、常に之を荷つて行くので、形骸をさして屎擔子といふ。〔臨濟錄〕大德錄、擔二鉢囊屎擔子一、傍家走求レ佛求レ法。

【屎裏蛆】8 シリノショ くそのなかのうぢ。〔通俗編、禽魚、屎裏蛆〕傳燈錄、僧問二淸淨法身一、思明曰、屎裏蛆兒、頭出頭沒。

【㞑】7690

シ　〔集韻〕賞是切　紙

❶人名。〔集韻〕㞑、闕、人名、莊子有二謂㞑一。❷或は㢋(4−9312)に作る。〔集韻〕㞑、或从レ广。❸㢋(4−9368)の譌字。〔康熙字典〕㞑、應二是㢋字之譌一。

【𡱈】7691

㊀イ　〔集韻〕延知切　支

㊁イ　〔集韻〕養里切　紙

㊂チ ヂ　〔集韻〕陳尼切　支

㊀㊁㊂うづくまる。或は䟘(10−37492)に作る。〔廣雅、釋詁三〕𡱈、踞也。〔集韻〕𡱈、踞レ地也、或从レ足。

【屏】7692

ヘイ　屛(4−7734)の俗字。〔正字通〕屛、俗屛字。

【肩】7693

ケン　〔集韻〕圭玄切　先

しり。〔集韻〕肩、尻也。

【屑】7694

セツ　屑(4−7709)に同じ。〔正字通〕屑、今从レ屑。

【𡰽】7695

シ　〔集韻〕七賜切　寘

ためらふ。ゆきもとほる。〔集韻〕𡰽、𡰽屨、足前却也。〔字彙〕𡰽、𡰽覰、足前郤也。

【屒】7696

トン　𡱂(4−7672)の俗字。〔正字通〕屒、俗𡱂字。

【屗】7697

シ　旨(5−13738)に同じ。〔玉篇〕屗、與レ旨同。

【𡰯】7698

ビ　尾(4−7650)の古字。〔字彙補〕𡰯、古文尾字。

【尾】7699

ビ　尾(4−7650)の古字。〔玉篇〕尾、古文尾。

【𡰸】7700

コク　克(1−1355)に同じ。〔字彙補〕𡰸、與レ克同。

【𡰻】7701

テツ　〔篇海類編〕音跌

した。しも。〔篇海類編〕𡰻、下也。

【㞐】7702

テウ・タウ　義未詳。〔海篇〕㞐、音兆、又音逃。

【㞔】7703

ヨウ　義未詳。〔奚韻〕㞔、音孕。

【𡲄】7704

デイ　泥(6−17311)に同じ。〔五音篇海〕𡲄、同レ泥。

【昼】7705

チウ　晝(5−13948)の俗字。〔宋元以來俗字譜〕晝、通俗小說・古

今雜錄・三國志・平話太平樂府・東牕記、作レ昼。

七畫

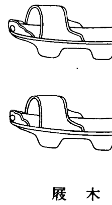
【⿸尸矢】7706 シ ⿰矢矣(8－25770)に同じ。〔集韻〕⿰矢矣、或作レ⿸尸矢。

【⿸尸予】7707 ㊀シヨ〔集韻〕寫與切 語 ㊁ヨ〔集韻〕羊茹切 御

小篆 ㊀㊁くつ。〔說文〕⿸尸予、履屬、从二履省一予聲。

【屐】7708 ケキ ギヤク 慣ゲキ 〔集韻〕奇逆切 ㄐㄧˋ chi⁴ 陌。

小篆 **はきもの**。ざうり・げたの類。〔說文〕屐、屩也、从二履省一支聲。〔王筠句讀〕屐有レ草有レ帛者、非二止木一也。〔增韻〕屐、木屐也。〔南史、謝靈運傳〕常著二木屐一、上レ山則去二其前齒一、下レ山去二其後齒一。



木屐
(三才圖會)

【屐響】1ゲキキヤウ 下駄のおと。屐聲。〔李商隱、戲贈二同舍一詩〕洞中屐響省二分攜一、是不二花迷一客自迷。

【屐屩】2ゲキキヤク あしだとわらぐつ。履き物。跂蹻。〔急就篇、二〕屐屩絜麤簍貧。〔注〕屐者以レ木爲レ之、而施二兩齒一、所二以踐一レ泥、屩、卽今之鞋也。〔太平御覽、皇王部、夏帝禹〕莊子曰、昔者禹堙二洪水一、親自操二橐耜一、而滌二天下之川一、股無レ胈、脛無レ毛、沐二甚雨一、櫛二疾風一、置二萬國一、禹大聖也、而形二勞天下一如レ此、使下後世之墨者、多以二裘褐一爲レ衣、以二屐屩一爲レ服、日夜不レ休、以自爲上レ極、曰、不レ能レ如レ此、非二禹道一也、不レ足レ謂レ墨。

【屐系】3アシダヲ 足駄の鼻緒。〔倭名類聚抄、裝束部、履襪具、屐系〕屐系、阿之太乎。

【屐痕】4ゲキコン げたの齒のあと。〔姚合、盆池詩〕浮萍重疊水團圓、客遶千遭屐齒痕。

【屐子】5 chi¹ tzŭ 履き物。足駄の類。

【屐齒】6ゲキシ げたのは。〔晉書、王述傳〕嘗食二鷄子一、以レ筯刺レ之不レ得、便大怒擲レ地、鷄子圓轉不レ止、便下レ牀以二屐齒一踏レ之、又不レ得、瞋甚、掇内二口中一、齧破而吐レ之。〔獨孤及、山中春思詩〕花落沒二屐齒一、風動羣木香。〔來鵬、淸明與二友人一遊二玉塘莊一詩〕細二穿綠荇一船頭滑、碎二踏殘華一屐齒香。〔白居易、野行詩〕草潤衫襟重、沙乾屐齒輕。

【不レ覺二屐齒折一】7ゲキシノヲルルヲオボエズ 喜の餘り小をどりして、下駄の齒が折れたことも氣づかぬ。晉の謝安が、圍棊の最中に其の部下の戰勝の報を受け、後、家に入つた時、喜のあまり小をどりした故事。〔晉書、謝安傳〕玄等既破レ堅、有二驛書至一、安方對レ客圍レ棊、看レ書既竟、便攝放二牀上一了、無二喜色一、棊如レ故、客問レ之、徐答云、小兒輩遂已破レ賊、既罷還レ內、過二戶限一、心喜甚、不レ覺二屐齒之折一。

【屐聲】8ゲキセイ 下駄のおと。屐響。〔世說新語、容止〕聞三函道中有二屐聲甚厲一、定是庾公。

【屐底】9ゲキテイ 履き物のそこ。〔晉書、宣帝紀〕蒺藜悉著二屐底一、然後馬步俱進、追至二赤岸一。

【屐履】10ゲキリ 履き物。〔徐積、詩〕寒冷載二肴酒一、暮夜煩二屐履一。

【屐履間】11ゲキリノアヒダ 道をあるく閒。匆卒の場合をいふ。履屐(4－7799‥26)を見よ。〔十八史略、東晉、淝水之戰〕玄才不レ負レ所レ擧、吾嘗見二其使一レ才、雖二屐履間一、未二嘗不一レ得二其任一。

【著レ屐登レ山】12ゲキヲツケテヤマニノボル 木屐をはいて山に登る。南朝宋の謝靈運が足駄をはいて山を上下した故事。〔南史、謝靈運傳〕尋レ山陟レ嶺、必造二幽峻一、巖嶂數十重、莫レ不三備盡二登躡一、常著二木屐一、上レ山則去二其前齒一、下レ山去二其後齒一。

【屑】7709 ㊀セツ セチ 〔集韻〕先結切 ㄒㄧㄝˋ hsieh⁴ 屑。 ㊁ソツ ソチ 〔集韻〕蘇骨切 月。

小篆 ㊀❶**つとめる。骨をる**。屑(4－7694)に同じ。〔正字通〕屑、同レ屑。〔說文〕屑、動作切切也、从レ尸⿱八月聲。〔廣雅、釋詁一〕屑、勞也。〔漢書、王莽傳上〕晨夜屑屑。〔注〕師古曰、屑屑、猶二切切一、動作之意也。❷**つつしむ**。〔玉篇〕屑、敬也。❸**こまごまとして多い**。〔荀子、儒效〕屑然藏二千溢之寶一。〔注〕屑然、雜碎衆多之貌。❹**くづ。こな**。〔儀禮、既夕禮〕醯醢屑。〔注〕薑桂之屑也。〔晉書、陶侃傳〕竹頭木屑、悉令二擧掌一レ之。〔耶律楚材、鹿尾詩〕芥屑差辛類二桂薑一。❺**くだく。くだける**。〔禮、內則〕屑二桂與一レ薑。〔張衡、思玄賦〕屑二瑤蘂一以爲レ糇兮。〔注〕衡曰、屑、碎也。〔木華、海賦〕或屑二沒於黿鼉之穴一。〔注〕善曰、屑、猶レ碎也。❻**わるがしこい**。〔方言、十二〕屑、獪也。❼**いさぎよい。いさぎよしとする**。こころよく思ふ。絜(8－27419)に通ず。〔說文通訓定聲〕屑、段借爲レ絜。〔小爾雅、廣詁〕屑、潔也。〔廣韻〕屑、淸也。〔詩、邶風、谷風〕不二我屑以一。〔傳〕屑、潔也。〔詩、鄘風、君子偕老〕不レ屑レ髢也。〔傳〕屑、絜也。〔箋〕不レ絜者、不レ用レ髲爲レ善。〔孟子、公孫丑上〕是亦不レ屑レ就已。〔注〕屑、絜也。〔莊子、則陽〕而心不レ屑二與レ之俱一。〔釋文〕屑、絜也。❽**やむを得ない**。〔集韻〕屑、不レ獲レ已也。❾**かるがるしくする**。〔增韻〕屑、輕也。❿**いやしくもする**。〔增韻〕屑、苟也。⓫**心にかける。氣づかふ**。〔後漢書、馬廖傳〕盡レ心納レ忠、不レ屑二毀譽一。〔注〕屑、顧也。〔後漢書、王良傳論〕不レ屑二矜僞之誚一。〔注〕屑、猶レ介也。⓬**すぎる**。泆(6－17271)に通ず。〔說文通訓定聲〕屑、段借又爲レ泆。〔小爾雅、廣詁〕屑、過也。〔書、多士、大淫泆有レ辭、釋文〕泆、馬本作レ屑云、過也。⓭**はやい**。漢書、外戚傳上〕屑兮不レ見。〔注〕師古曰、屑然、疾意也。⓮**一百六韻の一**。入聲第九。㊁の❶に同じ。〔集韻〕屑、博雅、勞也、或作レ屑。

名乘 キヨ。

【屑意】1セツイ 意に介する。心にかける。〔晉書、謝安傳〕安於二土山一營レ墅、樓館林竹甚盛、每攜二中外子姪一、往來遊集、肴饌亦屢費二百金一、世頗以レ此譏焉、而安殊不二以屑一レ意。〔宋史、陳越傳〕放二曠杯酒間一、家徒壁立、不二以屑一レ意。

【屑雨】2セツウ こまかい雨。細雨。〔木華、海賦〕崩雲屑雨、浤浤汩汩。

【屑越】3セツエツ ❶放慢なさま。薛越(9－32123‥7)に同じ。〔王孝友、豐水賦〕驚二屑越於兕甲一、指二飛揚於駟駕一。❷とり散らして棄てる。〔資治通鑑、唐紀〕高祖、武德元年、而有司曾無二愛吝一、屑越如レ此。〔注〕屑越、猶レ言二狼籍而棄一レ之也。

【屑糗】4セツキウ 米のくづ。くづごめ。貧民の食ふもの。〔管子、山國軌〕捍二籠纍箕勝籯屑糗一。〔纂詁〕屑糗、米屑爲レ糗、貧民所レ食。

【屑金】5セツキン 星の異名。〔淸異錄、天文、迷空步障〕屑金、星、秋明大老、天河。

【屑瑣】6セツサ 細かに碎けたくづ。

【屑碎】7セツサイ くづ。碎末。屑餘。屑零。

【屑屑】8セツセツ ❶こせつくさま。くだくだしく動作するさま。つとめるさま。おちつかぬさま。切切。〔說文、屑、鍇注〕屑屑、屢動作也。〔方言、十〕迹迹、屑屑、不レ安也。〔廣雅、釋訓〕屑屑、不レ安也。〔左氏、昭、五〕屑屑焉習レ儀以亟。〔會箋〕說文、屑、動作切切也、徐云、屑屑、屢動作也。〔漢書、董仲舒傳〕凡所レ爲屑屑、夙興夜寐、務レ法二上古一者、又將レ無レ補與。〔注〕屑屑、動作之貌。〔王先謙補注〕說文、屑、動作切切也、荀子儒效篇注、屑然、雜碎眾多之貌、廣雅釋訓、屑屑、

不レ安也、言不レ得二治道一、雖二瑣碎勤勞一、日思レ法レ古、無二補益一也。〔漢書、王莽傳上〕晨夜屑屑、寒暑勤勤。〔注〕師古曰、屑屑、猶二切切一、動作之意也。〔後漢書、王良傳〕往來屑屑不レ憚レ煩。〔注〕郭景純曰、往來貌。〔後漢書、崔駰傳〕子笑二我之沈滯一、吾亦病二子屑屑而不一レ已也。〔注〕屑屑、猶二區區一也。〔曾鞏、虞美人草詩〕英雄本學萬人敵、何用屑屑悲二紅粧一。❷雨などの細かく落ちるさま。〔江淹、水上神女賦〕雨屑屑而稍落。

【屑然】9 セツゼン ❶こまごまとして數の多いさま。〔荀子、儒效〕屑然藏二千鎰之寶一。〔注〕屑然、雜碎衆多之貌。❷にはか。卒然。〔說苑、尊賢〕子路屑然對曰。〔漢書、孝武李夫人傳、屑兮不レ見、注〕師古曰、屑然、疾意也。❸聲のかすかなさま。一說に、つとめるさま。又、敬しむ。又、いさぎよい。屑屑。〔漢書、武帝紀〕遭二天地況施一、著二見景象一、屑然如レ有レ聞。〔注〕臣瓚曰、聞レ呼二萬歲一者三、是也、宋祁曰、說文云、動作切切也、一曰、敬也、又潔也。

【屑窣】10 セツソツ 聲の細かく多いこと。〔衞凱、西嶽華山亭碑文〕處レ所二逼窄一、屑窣有レ聲。〔注〕屑窣、併居煩雜也。〔柳宗元、懲咎賦〕暮屑窣以淫雨兮、聽二嗷嗷之哀猿一。〔韓駒、詩〕落葉屑窣鳴二風廊一、四無二人聲一夜未レ央。

【屑塵】11 セツヂン 細かい塵。〔管子、地員〕剽土之次曰二五沙一、五沙之狀、粟焉如二屑塵厲一。〔注〕言、其地粟碎、故若二屑塵之厲厲踊起一也。〔纂詁〕屑・埍同、細塵也。

【屑涕】12 セツテイ 涙を流す。〔南史、侯景傳〕軍人莫レ不レ屑レ涕。〔北史、房彥謙傳〕道衡轉牧二番州一、路經二彥謙所一、留連數日、屑レ涕而別。

【屑播】13 セツハ まきちらし捨てる。〔書、多方〕爾乃屑二播天命一。〔傳〕汝乃盡播二棄天命一。

【屑沒】14 セツボツ くだけしづむ。〔木華、海賦〕屑二沒於黿鼉之穴一。〔注〕善曰、屑、猶レ碎也。

【屑餘】15 セツヨ くづ。屑碎(7)に同じ。

【屑臨】16 セツリン 顧みのぞむ。〔墨子、兼愛中〕天屑二臨文王慈一、是以老而無レ子者、有レ所レ得レ終二其壽一。

【屑零】17 セツレイ くづ。零は、こぼれ。廢物。屑餘。

【屑楡爲レ粥】18 セツユシユクトナス 粉にした楡で粥を作り、饑ゑに充てること。楡は、にれ。〔唐書、陽城傳〕歲饑、屏跡不レ過二鄰里一、屑楡爲レ粥、講論不レ輟。

『不レ屑之教誨』19 イサギヨシトセザルノケウクワイ 人を啓發する爲に、わざと之に教へることをいさぎよしとしないで之を拒絕し、自ら思はしめる教へ方。〔孟子、告子下〕孟子曰、教亦多レ術矣、予不レ屑之教誨也者、是亦教二誨之一而已矣。

【屒】7710

㈠チン 〔集韻〕展引切 軫
㈡シン 〔集韻〕是忍切 軫
㈢シン ジン 〔集韻〕丞眞切 眞

小 篆

㈠㈡㈢❶伏すさま。〔說文〕屒、伏皃、从レ尸辰聲。❷やね。のき。〔說文〕屒、一曰、屋宇也。❸厚いくちびる。〔玉篇〕屒、重脣也。

【屗】7711

ネウ 尿(4－7651)に同じ。〔集韻〕尿、或作レ屗。〔一切經音義、十七〕屗、小便也。

【㞗】7712

キウ グ 〔字彙〕渠尤切 尤

男子の陰部。〔字彙〕㞗、男陰異名。

【屓】7713

キ 〔集韻〕虛器切 寘

❶**つとめるさま。**〔廣韻〕贔、贔屓、壯士作力皃。❷**ねいき。いびき。**㞔(4－7683)に同じ。〔說文通訓定聲〕㞔、字亦誤作レ屓。〔集韻〕屓、臥息也。

【屓奰】1 ヒキ はげしい。強い。〔韓愈、月蝕詩效二玉川子一作詩〕森林萬木夜僵立、寒氣屓奰頑無レ風。

【屓贔】2 ヒキ つとめるさま。〔鄭嵎、津陽門詩〕祿山此時侍二御側一、金雞畫障當二罘罳一、繡蟒衣裸日屓贔、甘言狡計愈嬌癡。

【屔】7714

㈠デイ ナイ 〔集韻〕年題切 齊
㈡ヂ ニ 〔集韻〕女夷切 支

小 篆

㈠❶**中央のくぼんだ丘。**或は埿(3－5369)に作る。〔說文〕屔、反頂受レ水丘也、从レ丘从二泥省一、泥亦聲。〔集韻〕屔、或作レ埿。❷**くぼみ。**泥(6－13711)に通ず。〔玉篇〕屔、爾雅曰、水潦所レ止、屔丘、本亦作レ泥。㈡**山名。**屔山に同じ。尼山(4－7635··15)の❶を見よ。〔集韻〕屔、山名、顏氏、禱二於屔丘一、生二孔子一、或从レ丘、通作レ尼。

[解字] 會意形聲。丘と尼との合字。尼は泥の省略。本義は中央の凹んだ丘。泥は水潦の止まる凹地を意味する。又、泥に通じて、くぼみの意に用ひる。又、尼は音符。〔說文、屔、段注〕釋丘曰、水潦所レ止泥丘、云云、不三但曰二尼聲一、必曰レ从二泥省一者、說二水潦所レ止之意一也。

【展】7715

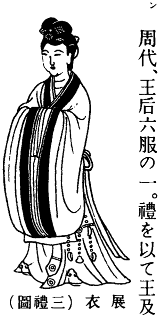
テン 〔集韻〕知輦切 銑 ㄓㄢˇ chan³

小 篆

❶**ころがる。**もと㞡(4－7816)に作る。〔正字通〕展、說文作レ㞡。〔說文〕㞡、轉也、从レ尸襄省聲。〔段注〕展者、未レ轉而將レ轉也。〔廣雅、釋訓〕展轉、反側也。❷**のべる。**㋑のばす。〔漢書、王溫舒傳〕令三冬月益二展一月一。〔注〕師古曰、展、伸也。㋺ひろげる。〔金史、禮志〕增二展太廟一。㋩ひらく。〔字彙〕展、開也。〔方夔、四時詞〕戲展二紅牋一圖二蛺蝶一。㋥つらねる。〔左氏、成、十六〕展二車馬一。〔注〕展、陳也。〔左氏、襄、三十一〕各展二其物一。〔注〕展、陳也。㋭いふ。とく。辯解。〔左氏、哀、二十〕敢展二謝其不共一。〔楚辭、九歌、東君〕展レ詩兮會舞。〔張籍、送二侯判官一詩〕年少才多求二自展一、將レ身萬里赴二軍門一。㋬まうける。〔談苑〕必展二歡宴一。❸**のびる。**㋑すすむ。〔國語、晉語二〕侈必展。〔注〕展、申也。㋺はれる。快くなる。〔謝靈運、從二斤竹澗一越レ嶺溪行詩〕折レ麻心莫レ展。〔注〕展、申也。〔應璩、與二滿炳一書〕驪駒就レ意不二宣展一。㋩ひろがる。〔蔡伸、入レ燕駕詩〕聳首征帆展。❹**かなふ。**〔爾雅、釋言〕展、適也。〔注〕得二自申展皆適意一。❺**ただしい。なほい。**〔廣雅、釋詁三〕展、直也。❻**かがむ。**〔廣雅、釋詁四〕展、聳也。❼**まこと。まことに。まことにする。**嫥(3－6662)に通ず。〔說文通訓定聲〕展、叚借爲レ嫥。〔爾雅、釋詁〕展、信也。〔書、旅獒〕時庸展レ親。〔傳〕是用誠二信其親レ親之道一。〔詩、邶風、雄雉〕展兮君子。〔傳〕展、誠也。❽**あつい。あつくする。**亶(1－328)に通ず。〔說文通訓定聲〕展、叚借爲レ亶。〔書、旅獒〕分二寶玉于伯叔之國一、時庸展レ親。〔蔡傳〕分二寶玉于同姓之國侯一、使三之益厚二其親一。❾**おもんずる。**〔國語、魯語下〕古者分二同姓一以二珍玉一、展レ親也。〔注〕展、重也。❿**しらべる。見る。**㠭(4－8735)に通ず。〔說文通訓定聲〕展、叚借爲レ㠭。〔周禮、春官、肆師〕展二犧牲一。〔注〕展、省閱也。〔禮、曲禮上〕僕展レ軨。〔疏〕展、視也。〔禮、檀弓下〕展レ墓而入。〔注〕展、省二閱之一。〔穀梁、

成、七〕展二斛角一而知レ傷。〔注〕展、省察也。⓫**そろへる**。〔周禮、地官、充人〕展レ牲。〔注〕鄭司農云、展、具也、具レ牲、若二今時選レ牲也。⓬**ととのへる**。〔周禮、地官、鄉師〕稽レ器展レ事。〔注〕展、猶二整具一。〔周禮、地官、司市〕平肆展成奠レ賈。〔注〕展之言、整也。⓭**つまびらかにする**。〔國語、周語下〕和二展百事一。〔注〕展、審也。⓮**しるす**。しらべて記す。〔周禮、天官、內宰〕展二其功緒一。〔注〕展、猶レ錄也。〔儀禮、聘禮〕史讀レ書展レ幣。〔注〕展、猶二校錄一也。⓯**かたい**。**かたんずる**。憚（**4－11222**）に通ず。〔說文通訓定聲〕展、叚借爲レ憚。〔方言、六〕展、難也、云云、山之東西、凡難貌曰レ展、荊吳之人、相難謂二之展一、若三秦晉之言二相憚一矣。⓰**衣の名**。襢（**10－34652**）に通ず。〔詩、鄘風、君子偕老〕瑳兮瑳兮、其之展也。〔傳〕禮有二展衣一者、以二丹縠一爲レ衣。〔箋〕展衣字誤、禮記作二襢衣一。〔周禮、天官、內司服〕展衣。〔注〕展衣、云云、以レ禮見二王及賓客一之服、字當レ作レ襢。⓱**物のさま**。展展(50)を見よ。⓲**姓**。〔左氏、隱、八〕無駭卒、羽父請二諡與レ族、公問二族於衆仲一、衆仲對曰、天子建レ德、因レ生以賜レ姓、胙二之土一而命二之氏一、諸侯以レ字爲レ諡、因以爲レ族、官有二世功一、則有二官族一、邑亦如レ之、公命以レ字爲二展氏一。〔注〕諸侯之子稱二公子一、公子之子稱二公孫一、公孫之子以二王父字一爲レ氏、無駭子展之孫、故爲二展氏一。〔通志、氏族略、以レ名爲レ氏〕展氏、姬姓、魯孝公之子公子展之後、以レ名爲レ氏、又有二輾遲氏一、改爲二展氏一、魏姓也、梁有二畫工展子虔一、望出二河東一。

名乘 ノブ。


展衣（三禮圖）

【展衣】1 テンイ 周代、王后六服の一。禮を以て王及び賓客に見える時に着る禮服。卿大夫の妻も亦これを用ひる。色は白。一說に、赤。襢衣。〔周禮、天官、內司服〕內司服掌二王后之六服一、褘衣・揄狄・闕狄・鞠衣・展衣・緣衣。〔注〕鄭司農云、展衣、白衣也、玄謂、展衣、以レ禮見二王及賓客一之服、字當レ爲レ襢、襢之言、亶、亶、誠也。〔孫詒讓正義〕詩君子偕老毛傳云、禮有二展衣一者、以二丹縠一爲レ衣、詩釋文云、襢衣、毛氏・馬融皆云、色赤、說並與レ鄭異、孔廣森云、詩言、瑳兮瑳兮、其之展也、說文曰、瑳、玉色鮮白、以二玉之白一喩二衣之白一、則展衣白信矣。

【展雲】2 テンウン 清、馮譽驥（**12－44579**‥293）の字。

【展閱】3 テンエツ ひろげ見る。

【展界】4 テンカイ 土地の境界をひろげる。〔六部成語、兵部、展界、注解〕開二展地界一之意。

【展開】5 テンカイ ❶のべひらく。❷軍隊で、密集隊形から戰鬭隊形にうつるをいふ。❸多項式の冪を其の冪數だけかけ合せて乘積を求めるの類。

【展效】6 テンカウ 力をのべいたす。〔庾信、爲二閻將軍一乞二致仕一表〕陛下勞レ心之日、羣公展效之秋。

【展樂】7 テンガク 音樂をのべかなでる。〔陳書、毛喜傳〕及二瘡愈一而自慶、置二酒於後殿一、引二江總以下一、展レ樂賦レ詩。

【展看】8 chan^3 k'an^4 開いて見る。

【展季】9 テンキ 魯の柳下惠をいふ。季は字。展禽(16)を見よ。〔張衡、西京賦〕展季桑門、誰能不レ營。〔注〕善曰、國語曰、臧文仲聞二柳下惠之言一、韋昭曰、柳下、展禽之邑、季、字也。〔謝靈運、述二祖德一詩〕段生藩二魏國一、展季救二魯人一。

【展期】10 テンキ ひのべ。延期。展限。〔宋史、王次翁傳〕檜與二次翁一謀、以二明日一率二世忠俊一置二酒湖上一、欲レ出則語二直省官一曰、姑待二岳少保來一、益令三堂廚豐二其燕具一、如レ此展レ期以待者六七日、飛既至、皆除二樞密使一、罷二兵柄一。

【展旗】11 テンキ 峯の名。浙江省樂清縣の雁蕩山の靈巖寺の左側。大小二峯がある。

【展驥】12 テンキ 才能を發揮すること。展二驥足一（**12－45076**‥8）を見よ。〔蜀志、龐統傳〕龐士元非二百里才一也、使レ處二治中別駕之任一、始當レ展二其驥足一耳。〔庾信、柳遐墓誌銘〕譽二君之展驥、兼而有レ之。

【展技】13 テンギ テンキ 技倆を發揮する。〔韻府引、柳宗元、文〕鳩レ工展レ技、爰備二聲律一。

【展義】14 テンギ 德義を宣布する。〔左氏、莊、二十七〕天子非レ展レ義不二巡守一。〔晉書、武帝紀〕此古之所二以述レ職宣レ風展レ義也。

【展儀】15 テンギ 禮節をのべる。展禮。〔舊唐書、音樂志四〕展二儀宗祖一、重二誠孝孫一。

【展禽】16 テンキン 魯の大夫。名は獲。字は季。柳下に居り、諡は惠。故に柳下惠といふ。官は士師。孟子は評して聖の和なる者といふ。柳下惠（**6－14662**‥31）を見よ。〔列子、楊朱〕・〔荀子、成相〕・〔中論、貴驗〕。

【展獲】17 テンクワク 展禽(16)を見よ。

【展卷】18 テンクワン ❶卷いたり縮まったりしてゐたものを伸ばすこと。〔元稹、張二舊蚊幬一詩〕施張合歡榻、展卷雙鴛翼。❷書物を開く。開卷。〔陸游、詩〕數檽留得西窗日、更取二丹經一展レ卷看。

【展緩】19 chan^2 huan^3 延ばす。見合はす。

【展觀】20 テンクワン ひろげみる。展覽。

【展玩】21 テングワン ひらいてもてあそぶ。〔梅堯臣、觀二楊美畫一詩〕八軸展玩忘二晨炊一。〔范梈、張明德經歷松石圖詩〕高齋展玩意未レ已。

【展敬】22 テンケイ つつしみ見る。〔後漢書、鄭玄傳〕展二敬墳墓一、觀二省野物一。

【展限】23 テンゲン 期限をのべる。延期する。展期。〔福惠全書、蒞任部、詳文贅說〕具レ文懇二請展限一矣。

【展才】24 chan^3 ts'ai^2 技倆をあらはす。

【展采】25 テンサイ 官職又は事業を發展させる。采は官、又、事。一說に、幣帛を陳設すること。采は幣帛。〔謝莊、上二封禪儀注一奏〕儒僚展レ采、禮官相儀。〔宋史、樂志八〕在庭祇肅、展レ采錯重、三獻之禮、百年之容。

【展采之思】26 テンサイノオモヒ 官職又は事業を發展させる考。展采を見よ。〔史記、司馬相如傳〕後因雜二薦紳先生之略術一、使レ獲下燿二日月之末光絕炎一、以展レ采錯上レ事。〔注〕集解曰、駰案、漢書音義曰、采、官也、使下諸儒記レ功著レ業、得レ覩二日月末光殊絕之用一、以展二其官職一、設中厝其事業上者也。

【展財】27 chan^3 ts'ai^2 財產をふやす。「字。

【展之】28 テンシ 清、黃掌倫（**12－47926**‥1133）の字。

【展志】29 テンシ 志をのべる。〔李中、送二黃秀才一詩〕蟾宮須レ展レ志、漁艇莫レ牽レ心。

【展翅】30 テンシ はねをひろげる。飛ぶ。〔柳宗元、放二鷓鴣一詞〕破レ籠展レ翅當二遠去一、同類相呼莫二相顧一。〔方干、別二從兄郜一詩〕展レ翅開レ帆秪待レ風、吹噓成レ事古今同。

【展事】31 テンジ 事を整へる。〔周禮、地官、鄉師〕攷レ教察レ辭、稽レ器展レ事。〔注〕展、猶二整具一。

【展修】32 テンシウ 修理延長する。

【展謝】33 テンシヤ わびる。陳謝する。〔左氏、哀、二十〕敢展二謝其不共一。〔左氏、哀、二十四〕以二寡君之在レ行、牢禮不レ度、敢展二謝之一。

【展縮】34 テンシユク のびることとちぢまること。伸縮。〔錢起、美二楊侍御清交見レ示詩〕則知造化源、方寸能展縮。

【展如】35 テンジヨ 清、趙舒翹（**10－37171**‥697）の字。

【展敍】36 テンジヨ のべとく。のべる。〔蜀志、許靖傳、注〕魏略曰、道初開通、展二敍舊情一、以達二聲問一。

【展舒】37 テンジヨ のばす。ひろげる。〔爾雅、釋詁、舒業順敍緒也、疏〕舒者、展舒、徐緩有レ次也。

【展誦】38 chan^3 sung^4 開いて讀む。

【展賑】39 テンシン 荒災の年に、人民を賑恤する期限を延ばすこと。〔清會典事例、戶部、蠲恤、賑饑〕雍正二十五年諭、甘省上年偶被二偏災一、著二加恩一、無レ論二被災分數、極次貧民一、將三皐蘭等十廳州縣、再加二展賑一。

【展親】40 テンシン 同姓の國との親しみをまことにする。展は、まこと。一說に、親しみをあつくする。展は厚。〔書、旅獒〕分二寶玉于伯叔之國一、時庸展レ親。〔傳〕以二寶玉一分二同姓之國一、是用誠二信其親レ親之道一。〔蔡傳〕使三之益厚二其親一。

【展成】41 テンセイ ❶ととのへ平かにする。〔周禮、地官、司市〕平肆展成奠レ賈。〔注〕展之言、整也、

成、平也。㊁清、尤侗(4－7543・34)の字。

【展性】42 テンセイ 金屬のやうに、打ちたたいてひろげのばし得る性質。

【展牲】43 テンセイ いけにへを選びそろへる。〔周禮、地官、充人〕展ㇾ牲則告ㇾ牲。〔注〕鄭司農云、展、具也、具ㇾ牲、若㆓今時選ㇾ牲也。

【展省】44 テンセイ はかまゐり。展墓。〔過庭錄〕先子自ㇾ許㆔展㆓省河南㆒。

【展扇】45 chan³ shan⁴ 羽ばたきする。

【展送】46 テンソウ ととのへおくる。〔任昉、奏㆓彈劉整㆒文〕整便責㆓范米六斗哺食米㆒、未㆓展送㆒。

【展足】47 テンソク 足をのばす。〔莊子、盜跖〕兩展㆓其足㆒、案ㇾ劍瞋ㇾ目。

【展體】48 テンタイ 身體を伸ばす。〔宋史、李繼和傳〕安ㇾ心展ㇾ體、竭ㇾ材盡ㇾ慮。

【展脫】49 テンダツ にげだす。〔福惠全書、刑名部、賊盜上、審盜〕爲㆓上司衙門打點㆒以圖㆓展脫㆒。

【展展】50 テンテン 車の聲。〔張衡、西京賦〕商旅聯槅、隱隱展展。〔注〕綜曰、隱隱、展展、重車聲也。

【展轉】51 テンテン 展・轉ともに、ころがる・まろぶの意。輾轉(10－38467・・1)を併せ見よ。㊀轉じ覆へる。附いたり叛いたりする。又、そむく。〔戰國、趙策〕韓與ㇾ秦接㆓境壤界㆒、其地不ㇾ能㆓千里㆒、展轉不ㇾ可ㇾ約。〔注〕展轉、猶㆓反覆㆒也。〔漢書、匈奴傳贊〕匈奴雖ㇾ欲㆓展轉㆒、奈ㇾ失㆓重利㆒何、奈ㇾ欺㆓上天㆒何、奈ㇾ殺㆓愛子㆒何。㊁ころがるやうに急ぎ行くさま。又、移り行くこと。〔後漢書、趙岐傳〕岐與㆓新除諸郡太守數人㆒、俱爲㆓賊邊章等所ㇾ執、賊欲㆓脅以爲ㇾ帥、岐詭辭得ㇾ免、展轉還㆓長安㆒。〔古樂府、飮馬長城窟行〕夢見在㆓我傍㆒、忽覺在㆓他鄉㆒、他鄉各異ㇾ縣、展轉不ㇾ可ㇾ見。〔注〕善曰、字書曰、輾、亦展字也、說文曰、展、轉也、鄭玄毛詩箋曰、轉、移也。㊂ねがへりする。臥しても心が安んぜず、やたらにねがへりをすること。〔說文通訓定聲〕單㆓言之㆒曰ㇾ展、絫㆓言之㆒曰㆓展轉㆒。〔廣雅、釋訓〕展轉、反側也。〔楚辭、劉向、九歎、惜賢〕憂心展轉、愁怫鬱兮。〔注〕展轉、不ㇾ寐貌、詩云、展轉反側、言㆘已放棄、不ㇾ得ㇾ竭㆓其忠誠㆒、心中愁悶、展轉怫鬱、不㆖能ㇾ寢也。〔補注〕今詩作ㇾ輾、臥而不ㇾ周曰ㇾ輾。〔潘岳、秋興賦〕宵耿介而不ㇾ寐兮、獨展㆓轉於華省㆒。

〖展轉推托〗52 テンテンスイタク いろいろ口實を設けて長引かすこと。〔剪燈新話、三山福地志〕展轉推托、遂及㆓半年㆒。

〖展轉傳ㇾ言〗53 テンテンシテゲンヲツタフ 他人を使つて傳言して恐喝すること。〔唐律、賊盜、恐喝取㆓人財㆒注〕展轉傳ㇾ言而受ㇾ財者、皆爲㆓從坐㆒。〔疏議〕假若甲遣㆓乙丙㆒、傳㆓言於丁㆒、恐喝取㆓物五匹㆒、甲合㆓徒一年半㆒、乙丙並各徒一年、是名㆓展轉傳ㇾ言、受ㇾ財者皆爲㆓從坐㆒。

〖展轉攀指〗54 テンテンハンシ 犯人を捕へたとき、役人がことさらに事件を推張して、餘累を無辜の者にまでも及ぼすこと。〔清律、戶律、鹽法〕若事發、止理㆓見ㇾ獲人鹽㆒、當該官司、不ㇾ許㆓展轉攀指㆒、違者以㆔故入㆓人罪㆒論。

【展讀】55 テンドク のべひろげてよむ。〔秦觀、答㆓傅彬老㆒簡〕發ㇾ函展讀、殆不ㇾ能ㇾ釋ㇾ手。

【展年】56 chan³ nien² 壽命をのばす。延年。

【展陂】57 テンパ 地名。春秋、許の地。今、河南省許昌縣の西北。周の定王の時、許人が鄭の軍隊を此に破つた。〔左氏、成、四〕許人敗㆓諸展陂㆒。

【展拜】58 テンパイ ぬかずく。叩首する。〔宋史、禮志〕宋眞宗幸㆓叔梁紇堂㆒、命ㇾ官分㆓奠七十二弟子㆒、初有司定ㇾ儀肅揖、帝特展拜、以表㆓嚴ㇾ師崇ㇾ儒之意㆒。

【展望】59 テンバウ 遠くながめやる。見渡す。

〖展望哨〗60 テンバウセウ 戰場で、高處に上り、遠方を見渡して警戒に任ずるもの。ものみ。

〖展望臺〗61 テンバウダイ 展望するための臺。見晴し「臺。

【展眉】62 テンビ まゆをのばす。顏の樣子がのびやかになること。愁ひの消滅するにいふ。開眉。〔白居易、新秋詩〕唯弄㆓扶ㇾ牀女㆒、時時強展ㇾ眉。〔元稹、三遣㆓悲懷㆒詩〕唯將㆕終夜長開ㇾ眼、報㆔答平生未㆓展眉㆒。

【展布】63 テンプ ㊀申述べる。陳述する。〔左氏、哀、二十〕使㆔陪臣敢展㆓布之㆒。㊁chan³ pu⁴ のばす。振ふ。

【展怖】64 chan³ pu⁴ ひろげる。發展する。

【展幣】65 テンペイ 幣物をしらべて記錄する。〔儀禮、聘禮〕史讀ㇾ書展ㇾ幣。〔注〕展、猶㆓校錄㆒也。

【展辯】66 テンベン いひなほし。〔福惠全書、刑名部、人命上、印官親驗〕親筆花押、免㆓其日後展辯㆒。

【展步】67 テンポ 步む。〔杜甫、詠懷詩〕結託老人星、羅浮展㆓衰步㆒。

【展輔】68 テンポ 發音するとき頤頰の骨が展開すること。〔毛先舒、聲音韻統論〕展輔者、口之兩旁角爲ㇾ轉、凡字出ㇾ口之後、必展㆓開兩輔㆒如㆓笑狀㆒、作㆓收韻㆒也、支・微・齊・佳・灰五韻是也。

【展墓】69 テンボ はかまゐり。展省。省墓。墓參。〔禮、檀弓下〕反㆓其國㆒不ㇾ哭、展ㇾ墓而入。〔注〕展、省㆓視之㆒。

【展奉】70 テンボウ お目にかかる。〔資治通鑑、晉紀〕穆帝、永和七年、今既獲㆓展奉㆒、不ㇾ可ㇾ不ㇾ盡ㇾ所ㇾ懷。〔注〕展、省視也、奉、承也、事也。

【展眸】71 chan³ mou² 見わたす。

【展輿】72 テンヨ 複姓。〔路史〕莒後有㆓展輿氏㆒。

【展翼】73 テンヨク つばさをのばす。〔張耒、寄㆓答參寥㆒詩〕秋風展㆓其翼㆒、道使萬里去。

【展賴】74 テンライ いひがかりをつける。〔福惠全書、刑名部、問擬〕移ㇾ屍展賴、律有㆓明條㆒乎。

【展覽】75 テンラン のべひらいてみる。又、品物をならべみる。展觀。

〖展覽會〗76 テンランクワイ 物品などを陳列して衆人に縱覽せしめる會。

【展力】77 テンリヨク 力をのべる。力をつくす。〔魏志、杜恕傳〕此自熊虎之士、展ㇾ力之秋也。〔張九齡、夏日奉㆓使南海㆒在㆓道中㆒作詩〕展ㇾ力慙㆓淺效㆒、銜ㇾ恩感㆓深慈㆒。

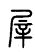
【展輪】78 chan³ luen² 汽船が出帆する。

【展軨】79 テンレイ 車軨をしらべる。轉じて、發車すること。軨は、車のくさびの頭にある革。一說に、車の橫木で、軾の上に在つて寄りかかるもの。〔禮、曲禮上〕君車將ㇾ駕、僕執ㇾ策、立㆓于馬前㆒、已駕、僕展ㇾ軨效ㇾ駕。〔注〕展ㇾ軨、具視。〔釋文〕盧云、車轄頭靼也、舊云、車闌也。

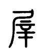
【展禮】80 テンレイ 禮を行ふ。禮儀をのべる。展儀。〔南齊書、樂志〕涓辰選ㇾ氣、展ㇾ禮恭祇。〔庾信、將ㇾ命至ㇾ鄴詩〕交歡値㆓公子㆒、展ㇾ禮覿㆓王孫㆒。〔舊唐書、張鎰傳〕二國展ㇾ禮、同茲協和。

【展莊叔】81 テンサウシユク 春秋、魯の大夫。齊の慶封が來奔し、車を季武子に獻じた時、莊叔は其の美澤鑑むべきを見て、車、甚だ澤なれば人必ず瘁る、宜なり其の亡ぶるやと言つた。〔左氏、襄、二十八・二十九〕。

【屖】 7716 セイ サイ 〔集韻〕先齊切 齊



（小說 篆文）



（小段 篆本注）

㊀**やすむ**。栖(6－14693)・棲(6－14980)に通ず。〔說文〕屖、屖遲也、从ㇾ尸辛聲。〔段注〕玉篇曰、屖、今作ㇾ栖、然則屖遲、卽陳之棲遲也。〔集韻〕徲、屖徲、休息也。㊁**かたい**。〔字彙〕屖、堅也。㊂或は遲(11－39046)に作る。〔集韻〕屖、或从ㇾ辵。

【⿸尸夋】 7717 ㊀サイ スイ 〔集韻〕祖回切 灰 ㊁サ 〔集韻〕臧戈切 歌

㊀㊁**赤子の陰部**。朘(9－29531)に同じ。〔集韻〕朘、赤子陰、或从ㇾ尸。

【⿸尸⿺乚止】 7718 シ 蹝(10－37812)に同じ。〔正字通〕⿸尸⿺乚止、同ㇾ蹝。

【⿸尸元】 7719 カウ 尻(4－7634)に同じ。〔集韻〕尻、或作ㇾ⿸尸元。

【⿸尸古】 7720 コ 辜(10－38636)の古字。〔字彙補〕⿸尸古、古文辜字。

【⿸尸耳】 7721 テフ 〔集韻〕的協切 葉

した。しも。〔集韻〕⿸尸耳、下也。

【⿸尸永】7722 ネウ 尿(4-7651)に同じ。〔篇海類編〕⿸尸永、同㆑尿。

【⿸尸兀】7723 ビ 尾(4-7650)に同じ。〔字彙補〕⿸尸兀、同㆑尾。

【⿸尸沙】7724 サ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿸尸沙、桑可切。

【⿸尸夭】7725 チヨ 〔集韻〕遲據切 御 くつ。〔集韻〕⿸尸夭、履也。

八畫

【⿸尸句】7726 ク 絇(8-27377)に同じ。〔集韻〕絇、或作㆑⿸尸句。

【屙】7727 ア 〔玉篇〕烏何切 ㄜ ê¹ 歌 **廁に行く。**〔玉篇〕屙、上㆑廁也。

【屙屎】1 ê¹ shih³ 便通。

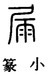
【屙廁】2 ê¹ ssŭ 雪隱。廁。

【⿸尸亞】7728 ア 屙(4-7727)に同じ。〔玉篇〕⿸尸亞、同㆑屙。

【⿸尸果】7729 ㈠クワ 〔集韻〕苦臥切 箇 ㈡クワ ケ 〔集韻〕枯化切 禡 ㈠❶**しりの骨。**髁(12-45216)に同じ。〔玉篇〕⿸尸果、臍骨也、亦作㆑髁。㈡**股のあひだ。**骻(12-45174)に同じ。〔集韻〕骻、股間也、或作㆑⿸尸果。

【⿸尸忽】7730 コツ コチ 〔字彙〕呼骨切 月 **佛の名。**〔字彙〕⿸尸忽、佛名。

【屚】7731 ロウ ル 〔集韻〕郎豆切 宥


小篆

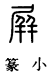
❶**もる。**雨がもる。〔說文〕屚、屋穿水入也、从㆔雨在㆓尸下㆒、尸者、屋也。❷漏(7-18120)に通ず。〔說文、屚、段注〕今字作㆑漏、漏行而屚廢矣、漏者、以㆑銅受㆑水刻節也。

解字 會意。尸と雨との合字。尸は屋。屋下に雨を加へて、本義は雨のもること。今、漏に作る。

【⿸尸豕】7732 トク 豚(9-29595)に同じ。〔集韻〕豚、或作㆑⿸尸豕。

【⿸尸取】7733 シヨ 〔字彙〕子余切 魚 **ちひさいさま。**〔字彙〕⿸尸取、小貌。

【屏】7734 ㈠ヘイ ビヤウ 〔集韻〕旁經切 ㄆㄧㄥˊ p'ing² 靑 ㈡ヘイ ヒヤウ 〔集韻〕卑盈切 庚 ㈢ヘイ ヒヤウ 〔集韻〕必郢切 ㄅㄧㄥˇ ping³ 梗


小篆

㈠❶**古、門の內、又は外に樹てたおほひ。**〔釋名、釋宮室〕屏、自障屏也。〔爾雅、釋宮〕屏、謂㆓之樹㆒。〔注〕小牆當㆓門中㆒。〔大戴禮、武王踐阼〕負㆑屏而立。〔注〕樹、謂㆓之屏㆒。〔荀子、大略〕天子外屏、諸侯內屏。〔注〕屏、猶㆑蔽也。〔呂覽、季秋〕以㆑級整㆓設于屏外㆒。〔注〕屏、樹垣也。❷**かき。ついぢ。へい。**〔一切經音義、二十〕屏、牆也。〔白居易、冷泉亭記〕山樹爲㆑蓋、嶽石爲㆑屏。❸**ついたて。びやうぶ。**〔國語、楚語下〕屏攝之位。〔注〕昭謂、屏、屏風也。〔王冷然、竹亭賦〕纔容㆓小榻㆒、更設㆓短屏㆒。❹**文房具の一。**屏風形の器。〔元稹、石硯屏詩〕磷磷石硯上、濃淡樹林分。❺**牆上に設けた屋。**小樓。〔廣雅、釋室〕罦罳、謂㆓之屏㆒。〔禮、明堂位〕疏㆑屏。〔注〕屏、謂㆓之樹㆒、今桴思也。〔疏〕疏、刻也、屏、樹也、漢時謂㆑屏爲㆓琈思㆒、解者以爲、天子外屏、人臣至㆑屏、俯伏思㆓念其事㆒、案、匠人注云、城隅謂㆓角浮思㆒也、漢時東闕浮思災、以㆓此諸文㆒參㆑之、則浮思、小樓也、故城隅・闕上皆有㆑之、然則屏上亦爲㆑屋、以覆㆓屏牆㆒、故稱㆑屏曰㆓浮思㆒。❻**おほふ。**㋑ふさぐ。〔呂覽、愼行〕屏㆓王之耳目㆒。〔注〕屏、蔽也。㋺さへぎる。ささへる。〔逸周書、克殷解〕屏遮而自燔㆓于火㆒。〔注〕屏遮、自障也。㋩かくれる。〔漢書、竇嬰傳〕嬰爭弗㆑能㆑得、謝㆑病屏㆓居藍田南山下㆒。〔注〕師古曰、屏、隱也。㊁かばふ。まもる。〔左氏、襄、二十九〕晉國不㆑恤㆓周宗之闕㆒、而夏肆是屏。〔注〕屏、城也。〔會箋〕屏、蔽也、謂㆓城以衞㆑之。〔荀子、儒效〕周公屏㆓成王㆒。〔注〕屏、蔽也。〔漢書、王莽傳上〕周公屏㆓成王㆒而居㆑攝。〔注〕師古曰、屏、猶㆑擁也。㋭ふせぐ。〔左氏、僖、二十四〕以蕃㆓屏周室㆒。〔疏〕屏、扞也。❼**ゐなか。**〔禮、玉藻〕其在㆓邊邑㆒、曰㆓某屏之臣某㆒。〔疏〕謂㆑在㆓九州之外、邊鄙之邑㆒。㈡**物のさま。**屏營(8)の❶❷を見よ。㈢❶**古、門の內、又は外に樹てたおほひ。**㈠の❶に同じ。〔說文通訓定聲〕从㆑尸者、从㆓屋省㆒、非㆓坐㆑人之尸㆒也。❷**かきとなる。垣とする。まもる。守らせる。**〔國語、晉語七〕以㆓彘季㆒屏㆓其宗㆒。〔注〕屏、藩也。〔國語、齊語〕以屏㆓周室㆒。〔注〕屏、猶㆑蕃也。❸**しりぞく。しりぞける。**姘(3-6366)に通ず。〔說文通訓定聲〕屏、段借爲㆑姘。㋑のぞく。〔論語、堯曰〕屏㆓四惡㆒。〔集解〕孔安國曰、屏、除也。〔列子、力命〕亟屏㆑之。〔釋文〕屏、除也。㋺うしろにさがる。〔荀子、榮辱〕恭儉者偋㆓五兵㆒也、〔注〕偋、當㆑爲㆑屏、卻也。㋩をさめる。藏する。〔書、金滕〕我乃屏㆓璧與㆑珪。〔傳〕屏、藏也。㊁すてる。〔荀子、彊國〕併㆓己之私欲㆒、〔注〕併、讀爲㆑屏、棄也。㋭はなつ。やる。〔禮、王制〕屏㆓之遠方㆒。〔注〕屏、猶㆓放去㆒也。㋬かくれる。〔禮、曲禮上〕左右屏而待。〔注〕屏、退也、隱也。❹**ひそめる。**〔論語、鄕黨〕屏㆑氣似㆓不㆑息者㆒。〔集注〕屏、藏也。❺庰(4-9349)に通ず。〔張衡、思玄賦〕坐㆓太陰之屏室㆒兮。〔注〕善曰、屏、與㆑庰古字通。

【屏扆】1 ヘイイ 斧の形を畫いた屏風。古、天子が臣下に朝見する時に背後に立てた。〔宋史、曹皇后傳〕帝致㆓極誠孝㆒云云、后亦慈愛天至、或退朝稍晩、必自至㆓屏扆㆒候矚。

【屏畏】2 ヘイヰ いきを殺しておそれる。屏息畏懼。〔宋史、王旦傳〕以㆓威望㆒自任、屬吏屏畏。

【屏帷】3 ヘイヰ 屏幃に同じ。〔南史、毛惠素傳〕母服除後、更修㆘母所㆓住處㆒牀帳屏帷㆖。

【屏幃】4 ヘイヰ ついたて。又、とばり。轉じて、室內。かこひのうち。屏帷。幃は帷。〔白居易、和㆔楊師皐傷㆓小姬英英㆒詩〕玳瑁牀空收㆓枕席㆒、琵琶絃

斷倚㆓屛幃㆒。〔談賓錄〕飮啄飛鳴、不㆑離㆓屛幃㆒。

【屛牖】5（ヘイイウ）屛風と窓。〔楓牕小牘〕政和四年、汝蔡有司上言、連山多㆓瑪瑙㆒、下㆑詔封禁、以供㆓御用㆒、時遣㆓中使㆒出採、粗者以供㆓屛牖嵌妝㆒、而晶瑩成㆑形、巧絕㆓天工㆒者、蓋充㆓滿內府㆒也。

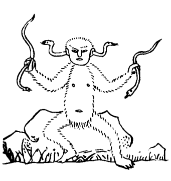
【屛隱】6（ヘイイン）退きかくれる。〔禮、曲禮上、暑毋㆑褰㆑裳、疏〕諸事條目、誡㆓侍者左右屛隱之人㆒也、既屛隱、好生㆓上事㆒。

【屛盈】7（ヘイエイ）さまよふ。彷徨。屛營の㊀に同じ。〔廣韻〕屛、屛盈、徬徨。

【屛營】8（ヘイエイ）㊀さまよふ。屛盈。旁皇。彷徨。〔廣雅、釋訓〕屛營、征伀也。〔國語、吳語〕王親獨行、屛㆓營徬㆔徨於山林之中㆒。〔李陵、與㆓蘇武㆒詩〕屛㆓營衢路側㆒、執㆑手野踟蹰。〔楚辭、王逸、九思、逢尤〕遽傽遑兮驅㆓林澤㆒、步屛營兮行㆓丘阿㆒。〔注〕憂憒不㆑知㆑所㆑爲、徒經營奔走也。〔洪興祖補注〕屛、音幷、卑盈切、征伀也。㊁心がうろうろして安んぜぬさま。おそれるさま。〔後漢書、淸河孝王慶傳〕夙夜屛營、未㆑知㆑所㆑立。〔晉書、庾亮傳〕憂惶屛營、不㆑知㆑所㆑厝。〔任昉、到㆓大司馬記室㆒牋〕不㆑勝㆓荷戴屛營之至㆒。〔任昉、爲㆓齊明帝㆒讓㆓宣城郡公㆒第一表〕不㆑勝㆓荷懼屛營之誠㆒。

【屛營之至】9（ヘイエイノイタリ）書翰文などに用ひる語。恐縮至極の意。〔琵琶記、丹陛陳㆑情〕臣無㆑任㆓瞻㆑天仰㆑聖、激切屛營之至㆒。

【屛翳】10（ヘイエイ）㊀風神の名。一說に、雲神・雨神・雷神。又、荓翳・蓱翳に作る。〔山海經、海外東經、雨師妾在㆓其北㆒、〔注〕雨師、謂㆓屛翳㆒也。〔楚辭、九歌、雲中君、注〕雲神、豐隆也、一曰、屛翳。〔曹植、洛神賦〕屛翳收㆑風、川后靜㆑波。〔注〕善曰、王逸楚辭注曰、屛翳、雨師名、虞喜志林曰、韋和云、屛翳、雷師、喜云、雨師、然說㆓屛翳㆒者雖㆑多、幷無㆓明據㆒、曹植結洛文曰、河伯典㆑澤、屛翳司㆑風、植既皆爲㆓風師㆒、不㆑可㆘引㆓他說㆒以非㆖㆑之。〔歲華紀麗〕屛翳、雲師名也。㊁天神の使。〔漢書、司馬相如傳下〕時若㆔曖曖將㆓混濁㆒兮、召㆓屛翳㆒誅㆓風伯㆒而刑㆓雨師㆒。〔注〕應劭曰、屛翳、天神使也。



屛翳（三才圖會）

【屛衞】11（ヘイエイ）垣となつて守る。又、まもり。護衞。〔唐書、宗室世系表上〕蓋所㆘以隆㆓本支㆒崇㆗屛衞㆖。

【屛匽】12（ヘイエン）廁をいふ。〔戰國、燕策〕今宋王射㆑天笞㆑地、鑄㆓諸侯之象㆒、使㆑侍㆓屛匽㆒。〔注〕屛、樹、匽、廁也。

【屛掩】13（ヘイエン）おほふ。かばふ。〔溫庭筠、過㆓華淸宮㆒二十二韻詩〕屛掩芙蓉帳、簾褰玳瑁鉤。

【屛遠】14（ヘイエン）しりぞけ遠ざける。

【屛扞】15（ヘイカン）ふせぎ。まもり。防衞。藩屛。〔北史、魏任城王澄傳〕請㆓假都督㆒爲㆓國屛扞㆒。

【屛閒】16（ヘイカン）屛の閒。又、屛。〔蔡襄、慈竹賦〕人悽悄兮屛閒籟起。〔唐書、高祖竇皇后傳〕畫㆓二孔雀屛閒㆒。

【屛翰】17（ヘイカン）屛と其の兩邊に在つて之をささへる柱。又、垣となつて守る。轉じて、柱石の臣。重臣。〔詩、小雅、桑扈〕之屛之翰、百辟爲㆑憲。〔集傳〕翰、幹也、所㆘以當㆓牆兩邊㆒障㆖ㇳ土者也。〔詩、大雅、板〕价人維藩、大師維垣、大邦維屛、大宗維翰。〔傳〕藩、屛也、垣、牆也、翰、幹也。〔箋〕王當㆜用㆓公卿諸侯及宗室之貴者㆒爲㆓屛藩垣翰㆒、爲㆓輔弼㆒、無㆛疏㆚遠之㆙。〔韓愈、楚國夫人墓誌銘〕爲㆓王屛翰㆒、有㆓壤千里㆒。〔曾鞏、制誥擬詞、節相制〕其於㆓荷㆑戈抗㆑隊、爲㆓王之爪牙㆒、立㆑纛設㆑旄、爲㆓國之屛翰㆒。〔曹組、艮嶽賦〕襟㆓帶河洛㆒、屛㆓翰京國㆒。

【屛氣】18（ヘイキ）息をひそめる。いきを殺して恐れつつしむ。屛息。〔論語、鄕黨〕攝㆑齊升㆑堂、鞠躬如也、屛㆑氣似㆓不㆑息者㆒。〔疏〕屛㆓藏其氣㆒、似㆘無㆓氣息㆒者㆖也。〔新書、容經〕屛㆑氣拆㆑聲。〔後漢書、陽球傳〕莫㆑不㆑屛㆑氣。〔後漢書、李膺傳〕皆鞠躬屛㆑氣、休沐不㆔敢復出㆓宮省㆒。〔陸機、辨亡論〕屛㆑氣跼蹐。

【屛氣縮肩】19 ping³ ch'i⁴ suo¹ chien¹ 氣息をこらし肩を縮めて小さくなる。

【屛棄】20（ヘイキ）しりぞけすてる。廢棄。〔書、泰誓下〕屛㆓棄典刑㆒、囚㆓奴正士㆒。

【屛去】21（ヘイキヨ）のぞく。すてさる。〔明律、刑律、人命、屛去人服食〕凡以㆓他物㆒、置㆓人耳鼻及孔竅中㆒、若故屛㆓去人服用飮食之物㆒而傷㆑人者、杖八十。

【屛居】22（ヘイキヨ）世を退いてかくれ住む。隱居。〔史記、李將軍傳〕廣家與㆓故潁陰侯孫㆒屛野居、藍田南山中射獵。〔漢書、竇嬰傳〕嬰爭弗㆑能㆑得、謝㆑病屛㆓居藍田南山下㆒。〔注〕師古曰、屛、隱也。

【屛外】23（ヘイグワイ）屛の外。〔禮、月令〕以㆑級整㆓設於屛外㆒。〔淮南子、時則訓〕皆正設㆓于屛外㆒。

【屛潔】24（ヘイケツ）一室の內にしりぞいて潔齋する。〔晏子、諫、下〕君請、屛潔沐浴飮食、閒㆓病者之宮㆒。

【屛言】25（ヘイゲン）巧みに言ふ。辯言（10－38677··15）の㊀に同じ。〔逸周書、官人解〕屛言而弗㆑顧。〔集訓校釋〕屛、當㆑爲㆑辨。

【屛後】26（ヘイゴ）屛風のうしろ。〔宋史、光宗慈懿李皇后傳〕中書舍人陳傅良、引㆓帝裾㆒、請㆑毋㆑入、因至㆓屛後㆒、后叱曰、此何地、爾秀才欲㆑斫㆑頭邪。

【屛語】27（ヘイゴ）ひそひそばなし。又、ひそひそ語る。〔漢書、傅介子傳〕王起隨㆓介子㆒入㆓張中㆒屛語。〔注〕屛㆑人而獨共語也。〔後漢書、閻皇后紀〕京引㆑顯屛語。

【屛護】28（ヘイゴ）まもる。かばふ。〔陸游、雪後寒甚詩〕屛護淸吟硯、缸鳴乍熟醅。

【屛垢】29（ヘイコウ）淸、方登嶧（5－13620··599）の號。

【屛山】30（ヘイザン）㊀屛風のやうに聳え立つ山。〔琵琶記、宦邸憂思〕歸夢杳、繞㆓屛山烟樹㆒、何處是家鄕。㊁山名。㋑福建省建甌縣の西北。〔讀史方輿紀要、福建、汀州府、淸流縣、龍山〕屛山、在㆓縣治北㆒、屹然突立、蒼翠如㆑屛、一名㆓沙帽山㆒、陳友定壘㆑石屯㆑兵、一名㆓南寨山㆒。㋺福建省崇安縣の東。宋の劉子翬の居つた處。㋩廣西省馬平縣の南。〔柳宗元、柳州山水記〕南有㆑山、正方而崇、類㆑屛者曰㆓屛山㆒。㊂縣名。明、置く。今の四川省宜賓縣の西南。長江の北岸。〔讀史方輿紀要、四川、馬湖府〕屛山縣、附郭、元末、置㆓泥溪長官司㆒、明初、蠻酋王邦彥來歸、命世守㆓其地㆒、萬曆十七年、改置㆓今縣㆒。〔淸史稿、地理志〕四川、敍州府、縣十一、屛山。㊃字號。㋑淸、許田（10－35298··185）の號。㋺水足安直の號。水足屛山（6－17083··536）を見よ。

【屛山集】31（ヘイザンシフ）書名。二十卷。宋、劉子翬撰。子翬の子、坪編。李延鈺と胡憲との序、朱子の跋がある。其の目は論・記・序・雜著・表・箚子・啓・祭文・墓銘・墓表・賦・詩・詞。〔四庫提要、集、別集類〕。

【屛山先生】32（ヘイザンセンセイ）宋、劉子翬（2－2224··958）の尊稱。

【屛竄】33（ヘイザン）しりぞきかくれる。〔論衡、程材〕材能之士、隨㆑世驅馳、節操之人、守㆑隘屛竄、驅馳日以巧、屛竄日以拙。〔論衡、指瑞〕剝巢破卵、屛竄不㆑翔。

【屛廁】34（ヘイシ）便所をいふ。〔急就篇、三〕屛廁淸溷糞土壤。〔注〕屛、僻宴之名也、廁之言、側也、亦謂㆓僻側㆒也。〔莊子、庚桑楚、觀㆑室者周㆓於寢廟㆒、又適㆓其偃㆒焉、釋文〕偃、謂㆓屛廁㆒也。〔法苑珠林〕婆沙論餓鬼有㆓二住處㆒、第一邊住者有㆓二種㆒、一有㆓威德㆒、二無㆓威德㆒、彼無㆓威德㆒者、或依㆓不淨糞土㆒而住、或依㆓草木塚墓㆒而止、或依㆓屛廁故墟㆒而居、皆無㆓舍宅㆒。

【屛周】35（ヘイシウ）明、黃世忠（12－47926··1180）の字。

【屛秋】36（ヘイシウ）淸、伍光瑜（1－435··43）の號。

【屛室】37（ヘイシツ）奧深い室。〔後漢書、張衡傳〕坐㆓太陰之屛室㆒兮、慨含㆑欷而增㆑愁。

【屛遮】38（ヘイシヤ）㊀かくしさへぎる。〔逸周書、克殷解〕屛遮而自燔㆓于火㆒。㊁塀がさへぎる。〔白居易、閑臥詩〕簾卷侵㆑牀日、屛遮入㆑座風。

【屛幛】39（ヘイシヤウ）屛障に同じ。〔唐書、魏徵傳〕疏奏、帝曰、朕今聞㆑過矣、願改㆑之以終㆓善道㆒、有㆑違㆓此言㆒、當㆘何施㆓顏面㆒與㆑公相見㆖哉、方以㆑所㆓上疏㆒、列爲㆓屛幛㆒、庶朝夕見㆑之。〔宣和書譜〕唐太宗、一日作㆓眞草屛幛㆒、以示㆓羣臣㆒、其筆力遒勁、爲㆓一時之絕㆒。

【屛障】40（ヘイシヤウ）屛風と障子。又、屛風。障子。墻垣。目かくしになるもの。屛幛。〔晉書、阮籍傳〕阮籍嘗從容言㆓於帝㆒曰、籍平生曾游㆓東平㆒、樂㆓其風土㆒、帝大悅、卽拜㆓東平相㆒、籍乘㆑驢到㆑郡、壞㆓府舍屛障㆒、使㆓內外相望㆒、法令淸簡。〔杜甫、韋諷錄事宅觀㆓曹將軍畫馬圖㆒引〕貴戚權門得㆓筆跡㆒、始覺屛障生㆓光輝㆒。〔宋史、高宗紀四〕鎖金屛障。

【屛上】41（ビヤウジヤウ）笙の管の側背面にあけた長方形の孔。評聲。內辟。〔樂家錄〕本名㆓山口㆒、曰㆓屛上㆒者、本朝所㆑稱也、屛上者、每管於㆓向㆑內方㆒

開レ之、横一分二三原、長每管皆異、自レ是息通而成二聲音一之孔也。

【屏樹】42（ヘイジュ） 古、門の內または外に樹てたおほひ。或は植ゑるに樹木を以てする。〔爾雅、釋宮〕屏、謂二之樹一。〔注〕小牆當二門中一。

【屏處】43（ヘイショ） 物の蔭になつて人に見えない處。〔資治通鑑、漢紀〕（哀帝、建平元年）告下武篋中有二死兒一埋中屏處上。〔注〕屏處、有二遮蔽一處、人所レ不レ見者。

【屏潊】44（ヘイジョ） 河田興の號。河田迪齋(8－17245・・176)を見よ。

【屏星】45（ヘイセイ） ㊀車のおほひ。箳篁に同じ。箳(8－26438)を見よ。〔後漢書、輿服志上、若月初生、示レ不二敢自滿一也、注〕孔恂、字巨卿、新淦人、州別駕從事、車前舊有二屏星一、如二刺史車曲翳儀式一、是時刺史行レ部、發去日晏、刺史怒欲レ去二別駕車屏星一、恂諫曰、明使君傳車自發晚、而欲下徹二去屏星一毀中國舊儀上、此不レ可レ行、別駕可レ去、屏星不レ可レ省、卽投レ傳去、刺史追辭謝、請不レ肯レ還、於レ是遂不レ去二屏星一、說文曰、車當、謂二之屏星一。㊁星の名。〔隋書、天文志中〕屏二星在二玉井南一。

【屏斥】46（ヘイセキ） しりぞける。〔後漢書、楊秉傳〕以レ此觀レ之、容可レ近乎、覽宜三急屏斥投二畀有虎一。

【屏石】47 p'ing² shih² 大理石。

【屏席】48（ヘイセキ） 物に蔽はれて蔭となつた席。〔謝靈運、日出東南隅行〕美人臥二屏席一、懷蘭秀二瑤璠一。

【屏迹】49（ヘイセキ） あとをひそめて遠く避ける。屏跡。〔北史、宋世良傳〕曲堤雖レ險賊何益、但有二宋公自屏レ迹。〔唐書、陽城傳〕歲饑屏レ迹、不レ過二鄰里一。

【屏攝】50（ヘイセツ） 尊卑を分別して祭祀の位を示すもの。屏風。又、諸廟社稷をいふ。〔左氏、昭、十八〕使下子寬・子上巡二羣屏攝一、至中于大宮上。〔注〕屏攝、祭祀之位。〔疏〕楚語說二事レ神之禮一云、云云、知二屏攝是祭祀之位一也、鄭衆云、攝、攝二束茅一以爲二屏蔽一、其事或當レ然。〔會箋〕群屏攝、蓋總二諸廟社稷一之辭。〔國語、楚語下〕屏攝之位、壇場之所。〔注〕屏、屏風也、攝、形如二今要扇一、皆所下以分二別尊卑一爲中祭祀之位上。

【屏絕】51（ヘイゼツ） 交際を絕つ。絕交。〔梅堯臣、白鷴圖詩〕而今推向深堂上、燕雀屏絕寧來窺。

【屏息】52（ヘイソク） いきをとどめる。息をころして恐れつつしむ。屏氣。〔列子、黃帝〕屏息良久、不二敢復言一。〔五代史、李存進傳〕莊宗初得二魏博一、以爲二天雄軍都部署一、治二梁亂軍一一切以レ法、人有二犯者一、輒梟二首磔三尸於市一、魏人屏息畏レ之。〔宋史、樂志〕鞠躬屏息。〔六部成語、兵部、屏息、注解〕止二住聲音一、靜以待レ之。

【屏退】53（ヘイタイ） ㊀しりぞける。斥退。〔禮記、王制、論二進士之賢者一以告二于王一、疏〕謂下司馬辨二論之一後、不レ堪者屏退上。㊁しりぞきひつこむ。〔南史、蕭藻傳〕常以二爵祿大過一、每思二屏退一。〔北史、于洛拔傳〕恆畏避屏退、不二敢逆一。〔隋書、樂志上〕惡情屏退、善心興起。

【屏當】54（ヘイタウ） 品物を收めかたづける。摒擋。〔晉書、阮孚傳〕祖約、性好レ財、云云、客室、屏當不レ盡、餘兩小簏以著二背後一、傾レ身障レ之。

【屏擋】55（ヘイタウ） 箱をいふ。〔事物異名錄、器用、笥〕正字通、箱爲二屏擋一。

【屏斷】56（ヘイダン） しりぞけたつ。〔楓窓小牘〕林莽塞レ目、魚鰕屏斷。

【屏逐】57（ヘイチク） 追ひはらふ。〔詩疏廣要〕鶻鳩、一名斑鳩、似二鶉鳩一而大、鶉鳩、灰色無二繡項一、陰則屏二逐其匹一、晴則呼レ之、語曰、天將レ雨鳩逐レ婦、是也。

【屏矗】58（ヘイチク） 屏風の樣に突き立つさま。〔范仲淹、秋香亭賦〕江無レ烟而練迴、山有レ嵐而屏矗。

【屏矗墉圍】59（ヘイチクヨウヰ） 屏のやうに高く聳え、壁のやうに圍む。〔竹添井井、棧雲峽雨日記下〕三峽、兩岸層嶂複嶺、屏矗墉圍。

【屏帳】60（ヘイチヤウ） とばり。屏風。〔晉子夜四時歌、夏歌〕反覆華簟上、屏帳了不レ施。〔惠洪、除夕微雪詩〕起看雪覆レ砌、秀色動二屏帳一。

【屏黜】61（ヘイチュツ） しりぞける。斥逐。〔北史、李諤傳〕屏二黜浮詞一、遏二止華僞一。

【屏除】62（ヘイヂョ） しりぞけのぞく。〔論語、堯曰〕尊二五美一屏二四惡一、〔疏〕孔子答曰、當下尊二崇五種美事一、屏中除四種惡事上則可也。

【屏泥】63（ヘイデイ） 車前の飾り。泥を防ぐもの。〔漢書、黃霸傳〕居レ官賜二車蓋特高一丈、別駕主簿車緹油屏泥於軾前一、以章二有德一。〔後漢書、劉盆子傳〕乘二軒車大馬赤屏泥一。〔注〕赤屏泥、謂下以二緹油一屏中泥於軾前上。

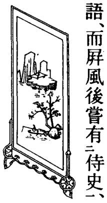
【屏內】64（ヘイナイ） 屏風の內部。〔宋史、周漢國公主傳〕公主適從二屏內一窺見、意頗不レ懌、帝微知レ之。

【屏南】65（ヘイナン） 縣名。明、置く。今の福建省閩侯縣の西北。〔清史稿、地理志〕福建、福州府、縣十、屏南。

【屏藩】66（ヘイハン） ㊀屏翰(17)に同じ。藩屏。㊁四面に在つて遮蔽防護する軍隊。〔六部成語、兵部、屏藩、注解〕在二四面一遮蔽防護之隊也。

【屏毗】67（ヘイヒ） 蔽ひ輔ける。〔韓愈、唐故相權公墓碑〕流二連六官一、出入屏毗。

【屏風】68（ヘイフウ・ビヤウブ） ㊀風を防ぎ物を遮り、又は裝飾とする具。ついたて。屏帳。〔史記、孟嘗君傳〕孟嘗君待レ客坐語、而屏風後嘗有二侍史一、主レ記三君所二與レ客語一。〔漢書、陳咸傳〕咸睡、頭觸二屏風一。〔燕丹子〕八尺屏風可二度而越一。〔鹽鐵論、散不足〕一屏風就二萬人之功一。〔古琴疏〕羅縠單衫可二掣而絕一、三尺屏風可二超而越一。〔事物紀原、舟車帷幄部、屏風〕周禮掌次、設二皇邸一、鄭司農云、邸、後板也、康成謂、後板、屏風、禮記明堂位曰、天子負二斧扆一而立、陸法言云、今屏風、扆遺象也、三禮圖曰、屏風之名出二於漢世一、故班固之書、多言二其物一、徐堅爲二初學記一、亦載二漢劉安羊勝等賦一、然則漢制二屏風一、蓋起二於周皇邸斧扆之事一也。〔劉承幹、南唐書補注〕屏風所二以障レ風、亦所二以隔レ形、古者扆之遺象。㊁山名。四川省忠縣の南。〔方輿勝覽〕卽夏祠山。〔明一統志〕一名翠屏山、上有二禹廟及陸宣公祠一。㊂草の名。㋑みづあふひの異名。一名、防風。〔本草、防風〕釋名、銅芸・茴芸・茴草・屏風・蕑根・百枝・百蜚、時珍曰、防者、禦也、其功療レ風最要、故名二屏風一者、防風隱語也。〔楚辭、招魂〕紫莖屏風。〔注〕屏風、水葵也。〔博物志、異草木〕太原晉陽以北、生二屏風草一。㋺荇菜(9－30942・・2)の異名。あさざ。〔事物異名錄、百草、荇絲菜〕羣芳譜、荇菜、一名荇絲菜、一名孿、一名屏風、一名醫子菜、一名金蓮菜。



屏風㊀（三才圖會）

〔屏風兒〕69（ヘイフウジ） 宋の頃、宿直官吏の不馴れな者の爲に、院吏が詞頭の小なるものを片紙に錄して與へたものをいふ。〔玉堂雜記〕僕直或非レ詳二體式一、凡詞頭之小者、院吏必以二片紙一錄作二於前一、謂二之屏風兒一。

〔屏風嶼〕70（ビヤウブシヨ） 島名。福建省霞浦縣の東南。〔閩書〕火焱山、在二松山東南海中斷嶼一、一名屏風嶼、明嘉靖三十八年、倭寇犯レ境、參將黎鵬擧等、擊二敗之於屏風嶼一。

〔屏風門〕71 p'ing² fêng¹ men² 門內に木製の屏風を据ゑ、內外のへだてとした門。屏門。

〔如二屏風一〕72（ビヤウブノゴトシ） 屈曲して世俗に從ひ、以て身の安全を計る者の喩。〔世說新語補、賞譽下〕宋世爲二之語一曰、王光祿如二屏風一、屈曲從レ俗、能蔽二風露一。

〔屏風九疊〕73（ビヤウブキウデフ） 山の重なり合つてゐる形容。〔李白、廬山謠〕廬山秀出南斗旁、屏風九疊雲錦張。

〔視二屏風一以保レ身〕74（ビヤウブヲミテモツテミヲタモタシム） 唐の房玄齡は、其の子が父の地位人望を恃んで驕奢になることを恐れ、古人の家訓を屏風に書いて夫々に分け、諸子が此に留意して身を保たんことを願つた故事。〔舊唐書、房玄齡傳〕玄齡嘗誡二諸子一、以二驕奢沈溺、必不レ可下以二地望一凌上人、故集二古今聖賢家誡一、書二於屏風一、令三各取二一具一、謂曰、若能留レ意、足二以保レ身成レ名。

【屏屏】75（ヘイヘイ） 掩ひ重なる。〔韓愈、訟風伯〕雲屏屏兮吹使レ醲レ之、氣將レ交兮吹使レ離レ之。

【屏蔽】76（ヘイヘイ） かくしおほふ。又、おほひ守るもの。〔史記、樊噲傳〕令三項莊拔レ劍舞二座中一、欲レ擊二沛公一、項伯常屏二蔽之一。〔宋史、李綱傳上〕金人求レ割二太原中山河閒地一、綱謂、三鎭國之屏蔽、割レ之何以立レ國。

【屏邊】77（ヘイヘン） 縣名。雲南省蒙自縣の東南。

【屏輔】78（ヘイホ） おほひたすける。〔墨子、尙賢下〕睎二夫聖武知人一、以屏二輔而身一。

【屏蓬】79（ヘイホウ） 獸の名。首が二つあるといふ。幷封。〔山海經、大荒西經〕大荒之中有レ獸、左右有レ首、名曰二屏蓬一。

【屛面】80（ヘイメン） 顔をおほふ具。團扇の類。便面。〔漢書、王莽傳中〕常騶二雲母屛面一、非二親近一莫レ得レ見也。〔注〕屛面、卽便面、蓋扇之類也。〔漢書、張敞傳〕敞無二威儀一、時罷二朝會一、過二走馬章臺街一、使二御吏驅一、自以二便面一拊レ馬。〔注〕師古曰、便面所二以障レ面、不レ欲レ見レ人、以レ此自障二其面一、則得二其便一、故曰二便面一、亦曰二屛面一。

【屛門】81 pʻing^2 men^2 屛風門（71）に同じ。

【屛擁】82（ヘイヨウ） かこふ。かこむ。〔蘇軾、遊二博羅香積寺一詩〕三山屛擁僧舍小、一谿雷轉松陰涼。

【屛綠】83（ヘイリヨク） いけ垣。〔李商隱、飲席戲贈二同舍一詩〕蘭迴二舊蕊一緣二屛綠一、椒綴二新香一和二壁泥一。

【屛列】84（ヘイレツ） 屛風のやうに並ぶ。〔鹽谷青山、記二沖島迴游事一〕諸嶺綿二延屛三列其左右一。

【屛盜碑】85（ヘイタウヒ） 五代の周郭進が衛州の刺史となつて盜賊を屛息せしめたことを書いた碑。世宗の建てたもの。〔琬琰錄〕五代周郭進、爲二衛州刺史一、治有二聲望一、羣盜屛跡、世宗敕二杜韡一、序二其事於碑一、人號二屛盜碑一。

【屛中門】86（ヘイチユウモン） 昔、寢殿造りで、中門がなくて築地ばかりのもの。武家の邸宅に用ひ、後世、書院造りが起るに及んでも、玄關の左右に必ず之を設けた。屛重門。へいぢもん。〔東鑑、十七〕建仁二年九月十五日、將軍家又出二御于石御壺屛中門內一。

【屛重門】87（ヘイヂユウモン） 屛中門（86）に同じ。

【屛巖小稿】88（ヘイガンセウカウ） 書名。一卷。元、張觀光撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【射レ屛中レ目】89（ヘイヲイテメニアツ） 結婚の瑞徵をいふ。唐の高祖が孔雀屛を射て、兩目に中てて后を得た故事。〔書言故事、婚姻類〕結婚用喜二射レ屛中レ目、唐高祖皇后竇氏父毅曰、此女有二奇相一、何可二妄與一レ人、因畫二二孔雀屛閒一、請二求レ婚者一射二二矢一、陰約レ中レ目、射者數十、皆不レ合、高祖最後中二各一目一、遂歸二于帝一。

【屜】7735 テイ タイ 〔集韻〕他計切 霽 ㄊㄧˋ tʻi^4

❶**くつしき。しきわら。**屟（**4−7755**）に同じ。〔集韻〕屟、履中薦、或作レ屜。❷**くらした。**背薦。〔淸會典、鑾儀衛〕導象亦曰二朝象一、披二藍屜一、不レ加二羈飾一。❸**ひきだし。かけご。**俗に抽屜といふ。〔庾信、鏡賦〕暫設二裝奩一、還抽二鏡屜一。❹⿸尸⿰彳世（**4−7751**）に同じ。〔字彙〕屜、同レ⿸尸⿰彳世。

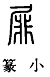
【⿸尸易】7736 エキ ヤク 〔廣韻〕羊益切 陌

かへる。交⿸尸易。〔玉篇〕⿸尸易、交⿸尸易也。

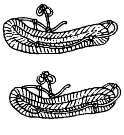
【⿸尸空】7737 ケイ キヤウ 〔玉篇〕苦永切 梗

あな。〔玉篇〕⿸尸空、穴也。

【屝】7738 ヒ ビ 〔集韻〕父沸切 未 ㄈㄟˋ fei^4


小篆

❶**ざうり。**〔說文〕屝、履屬、从レ尸非聲。〔段注〕云レ屬者、屨之麤者曰レ屝也。〔方言、四〕屝、履也、徐兗之郊、謂二之屝一。〔釋名、釋衣服〕齊人謂二草屨一曰レ屝、屝、皮也、以レ皮作レ之。〔左氏、僖、四〕共二其資糧屝屨一。〔注〕屝、草屨。〔疏〕麻作レ之曰レ屝。❷通じて菲（**9−31220**）に作る。〔禮、曾子問〕堉不レ杖、不レ菲、不レ次、釋文〕菲、一本作レ屝、草屨。


❶ 屝 （農政全書）

參考 扉（**5−11750**）は別字。〔字彙、辨似〕二字相似、屝、音費、草履。扉、音非、門扉。

【屝屨】1（ヒク） くつ。草で作つたものを屝、麻で作つたものを屨といふ。一說に、屝は麻で作つたもの。〔左氏、僖、四〕若出二于陳鄭之閒一、共二其資糧屝屨一、其可也。〔注〕屝、草屨。〔疏〕絲作レ之曰レ屨、麻作レ之曰レ屝、粗者、謂二之屨一。〔會箋〕孫愐引二字書一曰、草曰レ屝、麻曰レ屨。

【屝履】2（ヒリ） ざうり。草履。〔初學記、器物部、履〕世本曰、於則作二屝履一。

【屝履之閒】3（ヒリノアヒダ） 兩足のあひだ。足の下。〔新宮涼庭、天橋〕點點碁布、在二乎屝履之閒一矣。

【⿸尸敘】7739 チヨ ヂヨ 〔集韻〕遲據切 御

くつ。〔集韻〕⿸尸敘、履也。

【⿸尸且】7740 ソ

殂（**6−16408**）の古字。〔玉篇〕⿸尸且、古文殂。

【⿸尸⿸厂至】7741 ヲク

屋（**4−7684**）の籀文。〔說文〕屋、⿸尸⿸厂至、籀文屋、从レ厂。

【⿸尸⿸厂出】7742 クツ

屈（**4−7669**）に同じ。〔篇海〕⿸尸⿸厂出、同レ屈。

【⿸尸乳】7743 ニユウ

義未詳。〔篇海類編〕⿸尸乳、音乳。

【⿸尸丘】7744 ヂ

尼（**4−7635**）に同じ。〔字彙補〕⿸尸丘、與二尼丘之尼一同。

【⿸尸矣】7745 シ

⿸尸矢（**4−7689**）に同じ。〔篇海類編〕⿸尸矣、同レ⿸尸矢。

【⿸尸幼】7746 ヘイ

義未詳。〔五音篇海〕⿸尸幼、音兵。

【⿸尸卑】7747 ヒ

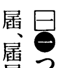
庳（**4−9359**）に同じ。〔字彙補〕⿸尸卑、與レ庳同。

【⿸尸彖】7748 ネウ

尿（**4−7651**）に同じ。〔海篇〕⿸尸彖、同レ尿。

九畫

【⿸尸臿】7749 ㈠シフ 〔集韻〕測入切 緝 ㈡セフ 〔集韻〕色輒切 葉 ㈢サフ セフ 〔集韻〕側洽切 洽


小篆

㈠❶**つづく。**つぐ。⿸尸臿尼。〔說文〕⿸尸臿、⿸尸臿尼、从レ後相臿也、从レ尸臿聲。❷**少い。**⿸尸臿尼。〔集韻〕⿸尸臿、一曰、少也。㈡**つづく。**㈠の❶に同じ。〔集韻〕⿸尸臿、从レ後躡也。㈢❶**薄いくさび。**〔廣韻〕⿸尸臿、薄楔。〔集韻〕⿸尸臿、楔也。❷**つづく。**㈠の❶に同じ。〔集韻〕⿸尸臿、說文、从レ後相臿也。

【⿸尸毛】7750 シ

⿸尸矢（**4−7671**）に同じ。〔集韻〕⿸尸矢、或作レ⿸尸毛。

【⿸尸⿰彳世】7751 テイ

屜（**4−7735**）に同じ。〔玉篇〕⿸尸⿰彳世、同レ屜。

【⿸尸囟】7752 シ

⿱艹囟（**9−31371**）に同じ。〔正字通〕⿸尸囟、同レ⿱艹囟。

【⿸尸⿸厂⿱乂出】7753 クツ グチ 〔集韻〕渠勿切 物

㊀尾の短い犬。〔集韻〕屜、短尾犬也。㊁屈(4－7669)の俗字。〔正字通〕屜、俗屈字。

【属】7754 ゾク 屬(4－7821)の俗字。〔集韻〕屬、俗作レ属、非レ是。

【屟】7755 ㈠ テイ タイ 〔集韻〕他計切 霽 ㈡ セフ 〔集韻〕悉協切 ㄒㄧㄝˋ hsieh⁴ 葉

小篆

㈠㈡㊀くつのそこ皮。〔說文〕屟、履之荐也、从レ尸業聲。㊁ひきだし。屜(4－7670)に通ず。〔說文通訓定聲〕屟、按、从二履省一、字亦作レ屧、如二今婦女鞵中所一レ施木底一也、云云、今篋匱中抽屜字、當下以二此屟一爲上レ之。㊂或は屜(4－7735)・〓(4－7751)・屧(4－7804)・〓(9－32080)に作る。〔集韻〕屟、或作二屜・〓一。〔集韻〕屟、或作二屧・〓一。

【〓】7756 ネウ 尿(4－7651)に同じ。〔正字通〕尿、同レ〓。

【〓】7757 イン 咽(2－3577)に同じ。〔正字通〕〓、同レ咽。

【〓】7758 シウ ジユ 〔字彙〕慈秋切 尤

女の陰部。〔字彙〕〓、女陰名。

【屖】7759 ㈠ カウ 〔集韻〕古巷切 絳 ㈡ カウ ク 〔集韻〕古送切 送

㈠㊀へる。〔廣雅、釋詁三〕屖、減也。㊁たがふ。〔廣雅、釋詁二〕屖、差也。㊂降(11－41620)の俗字。〔正字通〕屖、說文本作レ降、集韻改作レ屖、舊本譌爲レ屖、竝非。㈡たがふ。〔集韻〕屖、差也。

【〓】7760 キ 〔集韻〕擧履切 紙

㊀あかぐつ。〔集韻〕〓、赤舄。㊁或は〓に作り、通じて几(2－1737)に作る。〔集韻〕〓、或作レ〓、通作レ几。

【屠】7761 ㈠ トヅ 〔集韻〕同都切 ㄊㄨˊ t'u² 虞 ㈡ チヨ ヂヨ 〔集韻〕陳如切 魚

小篆

㈠㊀ほふる。㋑ころす。〔廣韻〕屠、殺也。〔顏延之、陽給事誄〕相望屠潰。〔注〕濟曰、屠、殺、潰、亂也。㋺みなごろしにする。敵をせめて、城を毀ち、衆人を殺す。〔漢書、高帝紀上〕今屠レ沛。〔注〕師古曰、屠、謂下破二取城邑一、誅二殺其人一、如レ屠二六畜一然上。㋩ほろぼす。〔史記、絳侯周勃世家〕屠二渾都一。〔注〕索隱曰、屠、滅レ之也。㊁さく。畜類をさく。〔說文〕屠、刳也、从レ尸者聲。〔段注〕刳、判也。〔六書故〕屠、刳二剝畜牲一也。〔周禮、地官、廛人〕凡屠者、斂二其皮角筋骨一、入二於玉府一。〔楚辭、天問〕何勤レ子屠レ母。〔注〕屠、裂剝也。〔戰國、韓策〕抉レ眼屠レ腸。㊂くづれる。〔廣雅、釋詁一〕屠、壞也。㊃わかれる。〔淮南子、天文訓〕未在レ己曰二屠維一。〔注〕萬物各成二其性一、故曰二屠維一、屠、別、維、離也。㊄牛羊を殺すことを業とする者。〔楚辭、天問〕鼓レ刀揚レ聲后何喜、注〕下屠屠レ牛、上屠屠レ國。〔史記、信陵君傳〕在二市屠中一。㊅病む。瘏(7－22330)に通ず。〔詩、豳風、鴟鴞〕子口卒屠。〔釋文〕屠、本又作レ瘏。㊆杜(6－14477)に通ず。〔左氏、昭、九〕晉屠蒯。〔禮、檀弓下〕杜蕢。㊇地名。今の陝西省長安縣の東南。〔詩、大雅、韓奕〕出宿二于屠一。〔傳〕屠、地名也。〔集傳〕卽杜也。㊈姓。〔拾遺記〕軒轅去二蚩尤一、遷二其民善者於鄒屠之地、惡者於有北之鄉一、其先以レ地命レ族、後分爲二鄒氏・屠氏一。〔通志、氏族略、以レ技爲レ氏〕屠氏、左傳晉大夫屠蒯、禮記作二杜蕢一、又屠羊說楚人、晉有二屠岸賈一、鄭有二屠擊一、風俗通、漢末有二屠景先一、河東人、望出二陳留一。㈡休屠は、匈奴の王の稱號。〔集韻〕屠、休屠、匈奴王號、祭レ天以二金人一者。〔史記、匈奴傳〕渾谷王・休屠王居二西方一。

【屠維】1 トヰ ㊀十干の中の己の稱。〔爾雅、釋天〕太歲在レ己曰二屠維一。〔注〕言三萬物各成二其性一、故曰二屠維一。屠、別、維、離也。㊁佛死體を焚燒すること。〔翻譯名義集〕天竺第九祖入滅、衆以二旃檀香油一屠二維眞體一。屠維、卽茶毗、焚燒也。

【屠遠】2 トエン 淸、武進の人。字は帆涇。博學にして詩を善くし、畫に巧。〔國朝畫識、五〕。

【屠何】3 トカ 古の種族の名。後の東胡。〔管子、小匡〕(桓公)敗二胡貉一、破二屠何一。〔注〕屠何、東胡之先也。

【屠家】4 トカ 牛馬雞狗を殺すことを業とする家。又、その人。〔李商隱雜纂、不相稱〕先生不レ識字、屠家念レ經。〔太平御覽、資產部、屠〕王隱晉書曰、愍懷太子、令二人屠レ肉、自己分齊、手揣二輕重一、斤兩不レ差、公曰、其母本屠家女。

【屠各】5 トカク 匈奴の種族の名。〔後漢書、公孫瓚傳〕爲二屠各所一レ殺。〔注〕屠各、胡號。〔晉書、四夷、匈奴傳〕其入居レ塞者、有二屠各種・鮮支種一。〔晉書、劉曜載紀〕坑二其王公等及五郡屠各五千餘人于洛陽一。

【屠角】6 トカク 羌人が吹くひちりきの一種。屠觱(67)を見よ。

【屠割】7 トカツ ほふりさく。屠裂。〔淮南子、泰族訓〕屠割烹殺、剝レ狗燒レ豕、調二平五味一者、庖也。

【屠陷】8 トカン ほろぼし陷れる。鏖殺陷落。〔靖獻遺言、五〕諸路州縣、屠陷隆遁相繼。

【屠岸】9 トガン 複姓。〔通志、氏族略、複姓〕屠岸氏、晉屠岸賈、見二史記一。

【屠岸賈】10 トガンコ 春秋、晉の人。初、靈公の寵を受け、景公の時、司寇となる。趙武・程嬰の爲に其の族を滅さる。〔說苑、復恩〕・〔新序、節士〕。

【屠耆】11 トキ 賢者をいふ。匈奴の方言。〔史記、匈奴傳〕匈奴謂レ賢曰二屠耆一、故常以二太子一爲二左屠耆王一。〔漢書、匈奴傳下〕共立二日逐王薄胥堂一、爲二屠耆單于一。

【屠耆單于】12 トキゼンウ 前漢、匈奴の王。名は薄胥堂。初、日逐王に封ぜられる。都隆奇及び右賢王に立てられて單于となり、呼韓乎單于に對抗したが、後、破られて自殺す。〔前漢書、九十四〕。

【屠牛】13 トギウ 牛をほふる。又、屠牛者。うしころし。〔管子、制分〕屠牛坦、朝解二九牛一。〔淮南子、齊俗訓〕屠牛吐、一朝解二九牛一。〔太平御覽、資產部、屠〕尉繚子曰、太公望行レ軍七十、屠二牛於朝歌一。

【屠沂】14 トギン 淸、孝感の人。康熙の進士。浙江巡撫に累官し、海寧の草塘七百數十丈を增築す。〔國朝耆獻類徵、一百五十九〕。

【屠狗】15 トク 犬を殺す。又、それを職業とする者。いぬころし。屠兒。轉じて、卑賤の業に從事する者。〔史記、樊噲傳〕舞陽侯樊噲者、沛人也、以レ屠レ狗爲レ事、與二高祖一俱隱。〔注〕正義曰、時人食レ狗、又與二羊豕一同、故噲專屠以賣レ之。〔史記、刺客、荊軻傳〕荊軻既至レ燕、愛二燕之屠レ狗及善擊レ筑者高漸離一。〔范曄、後漢書二十八將傳論〕亦有二鬻レ繒屠レ狗輕猾之徒一。

【屠蒯】16 トクワイ 春秋、晉の人。一に杜蕢に作る。平公の時の膳宰。〔左氏、昭、九〕。

【屠潰】17 トクワイ 粉微塵にこはしつぶす。〔顏延之、陽給事誄〕列レ營緣レ戍、相望屠潰。〔注〕濟曰、屠、殺、潰、亂也。

【屠膾】18 トクワイ 殺して膾にする。〔謝莊、宋明帝卽位赦詔〕徵逼二義陽一、將レ加二屠膾一。

【屠爌】19 トクワウ 清、嘉興の人。字は闇伯。號は勔齋。諸生。經學に邃く、著に勔齋集がある。〔明人小傳、五〕・〔明詩綜、八十一上〕・〔明詩紀事、辛三十一〕・〔靜志居詩話、二十二〕。

【屠勳】20 トクン 明、平湖の人。字は元勳。成化の進士。謚は康僖。弘治の初、大理少卿を拜命す。漳州の溫文進の亂を平定し、副都御史に累遷す。武宗が卽位するや、刑部尙書に陞る。書室を太和堂といふ。著に太和堂集がある。〔明史、二百八十七〕・〔萬斯同明史、二百四十九〕。

【屠奎】21 トケイ 明の人。勳の從子。字は文奎。官は御史。後、江西參議。〔尙友錄、三〕。

【屠僑】22 トケウ 明の人。湖の子。字は安卿。號は東洲。謚は簡肅。正德の進士。御史を拜命し、世宗の時、左都御史に歷任す。著に東洲雜稿がある。〔明史、二百二〕・〔萬斯同明史、二百八十九〕・〔明史稿、一百八十四〕。

【屠戶】23 tʻu^{2} hu^{4} 屠殺を業とする家。

【屠沽】24 トコ 犬羊の類を殺し、又、酒や飯を賣る者。屠戶と賣酒者。屠酤。轉じて、賤業者の稱。〔新書、匈奴〕屠沽者、賣二飯食一者。〔鹽鐵論、散不足〕及二其後一、則有二屠沽沽酒一。〔後漢書、郭太傳〕召公子・許偉康、並出二屠沽一。

【屠沽兒】25 トコノジ 屠沽を職業とする賤しい男。〔後漢書、禰衡傳〕許都新建、賢士大夫、四方來集、或問レ衡曰、盍レ從二陳長文司馬伯達一乎、對曰、吾焉能從二屠沽兒一耶。〔語林〕陸龜蒙曰、我年來忍レ饑誦レ經、豈不レ知三屠沽兒有二酒食一耶。

【屠湖】26 トコ 明の人。瑮の子。字は朝隱。子の僑が貴顯となるに及んで南京刑部尙書を贈らる。〔萬姓統譜〕。

【屠酤】27 トコ 屠沽(24)に同じ。〔管子、輕重丁〕屠酤之汁肥流レ水。〔墨子、迎敵祠〕擧二屠酤者一、置レ廚給レ事秩レ之。〔漢書、趙廣漢傳〕直突入二其門一、廋二索私屠酤一、推二破盧罌一、斧斬二其門關一而去。〔淮南子、氾論訓〕夫發二于鼎俎之間一、出二于屠酤之肆一。

【屠國】28 トコク 天下をきりもりする。國政を處理する。〔楚辭、天問、鼓レ刀揚レ聲后何喜、注〕呂望鼓レ刀在二列肆一、文王親往問レ之、呂望對曰、下屠屠レ牛、上屠屠レ國、文王喜、載與俱歸也。

【屠佐】29 トサ 屠殺業の傭人。〔說苑、尊賢〕太公望、故老婦之出夫也、朝歌之屠佐也。

【屠宰】30 トサイ 屠殺する。料理する。割烹。〔宋史、眞宗紀二〕丁謂請、承天節、禁二屠宰刑罰一、從レ之。〔宋史、天文志二〕主二屠宰烹殺一。

【屠宰稅】31 tʻu^{2} tsai^{3} shuei^{4} 屠殺稅をいふ。

【屠勦】32 トサイ 殺して絕滅する。屠覆。〔沈約、恩倖傳論〕帝弟宗王、相繼屠勦。〔注〕翰曰、使三相繼被レ戮、而至二絕滅剿絕一也。〔隋書、煬帝紀論〕勦二誅骨肉一、屠二勦忠良一。

【屠殺】33 トサツ ほふり殺す。ころす。屠戮。〔風俗通、怪神〕律不レ得三屠二殺少齒一、令二鬼神有一レ知。〔宋史、禮志、二十五〕宋制、是日禁二屠殺一、設二素饌一、輟レ樂擧哭、素服行レ事、因以レ類附焉。

【屠殺場】34 トサツバ トサツヂヤウ 牛・羊・豕などを屠殺する所。

【屠斬】35 トザン きりころす。〔蔡邕、薦二皇甫規一表〕屠二斬桀黠一、綏二撫煢弱一。

【屠肆】36 トシ ❶牛・豚などを屠つて賣る店。肉屋。〔後漢書、胡廣傳〕遂亡二命交趾一、隱二於屠肆之間一。〔論衡、譏日〕海內屠肆、六畜死者、日數千頭。❷殺して肉をさらす。〔資治通鑑、唐紀〕〔憲宗、元和七年〕八月戊戌、田氏不レ爲二屠肆一。〔注〕謂、擧レ家見レ屠、骨肉分裂、若三屠家之屠二羊豕一然、掛二肉於枅一以爲二列肆一。❸星の名。〔星經〕屠肆二星、在二帛度北一、主二屠煞一之位也。

【屠兒】37 トジ 畜類を屠殺することを業とする者。屠狗。ゑとり。ゑた。〔法華經、安樂行品〕莫下親二近屠兒魁膾一、畋獵漁捕爲レ利、殺害販レ肉自活、衒中賣女色上、如レ是之人、皆勿二親近一。

【屠者】38 トシヤ 畜類を屠殺して肉を取るを業とする者。屠人。屠兒。〔戰國、韓策〕避レ仇隱二于屠者之間一。〔史記、信陵君傳〕侯生謂二公子一曰、臣所レ過屠者朱亥、此子賢者、世莫二能知一、故隱二屠間一耳。

【屠者羹レ藿】39 トシヤハクワククヲアツモノニス 牛豚を屠るものは肉を食はないで豆の葉のあつものを食ふ。紺屋の白袴に同じ。人の爲にして己の爲にしない喩。〔淮南子、說林訓〕屠者羹藿、爲レ車者步行、陶者用二缺盆一、匠人處二狹廬一。

【屠城】40 トジヤウ 城を陷れる。城を陷れて城中の人を殺戮すること。〔荀子、議兵〕不レ屠レ城。〔注〕屠、謂下毀二其城一、殺二其民一、若二屠者一然上也。〔後漢書、袁譚傳〕屠レ城殺レ吏。

【屠所】41 トシヨ 牛馬などを殺す所。屠場。屠所之羊を見よ。

【屠所之羊】42 トシヨノヒツジ 屠殺場に牽かれて行く羊。刻々に死に近づく者の喩。又、はかない人生の喩。〔涅槃經、三十八〕是壽命、云云、亦如二朝露一、勢不二久停一、如二囚趣レ市、步步近レ死、如下牽二牛羊一詣中於屠所上。〔摩訶摩耶經、上〕譬如下旃陀羅驅レ羊至二屠所一、步步近中死地上、人命亦如レ是。

【屠申】43 トシン 澤の名。今、騰格里泊といふ。蒙古鄂爾多斯右翼、黃河の西北岸。〔水經、河水注〕王莽更レ郡曰二溝搜一、縣曰二極武一、其水積而爲二屠申澤一、澤東西百二十里、故地理志曰、屠申澤在二縣東一、卽是澤也。

【屠身】44 トシン 身をほろぼす。〔後漢書、張儉傳論〕至二乃捐レ城委レ爵、破レ族屠レ身。

【屠人】45 トジン 獸などを屠殺する人。屠戶。屠夫。屠者。〔太平記、十七、金崎船遊事〕屠人是れを調へて其の胙を東宮に奉る。

【屠性】46 トセイ 元、餘姚の人。字は彥德。至正の擧人。春秋の學に精通す。著に彥德集がある。〔元詩紀事、二十四〕。

【屠燒】47 トセウ ほふりやく。〔史記、蕭相國世家〕項王與二諸侯一屠二燒咸陽一而去。

【屠璇】48 トセン 清、吳興の人。長州に家す。字は彝珍。號は疏村・浮玉山農。畫に巧。〔國朝書畫家筆錄、二〕・〔墨香居畫識、七〕。

【屠蘇】49 トソ ❶藥の名。肉桂・山椒・白朮・桔梗・防風等を調合したもの。正月元日に此の藥を酒に浸して飮めば病を除くといひ、飮む時には年少者からはじめる。此の風俗は唐代に始まるといはれ、夙に我が國へも傳はつた。酴酥。〔荊楚歲時記〕正月一日、是三元之日也、云云、長幼悉正二衣冠一、以レ次拜賀、進二椒柏酒一、飮二桃湯一、進二屠蘇酒一、董勛云、正月飮レ酒、先二小者一、以二小者得一レ歲、先レ酒賀レ之、老者失レ歲、故後與レ酒。〔歲華紀麗〕屠蘇、草菴名、昔有レ人、居二草菴之中一、每歲除夜、遺二閭里藥一劑一、令三囊浸二井中一、至二元日一、取レ水置二於酒尊一、合家飮レ之、不レ病二瘟疫一、今人有レ得二方者一、亦不レ知二其人姓名一、但名二屠蘇一而已。〔盧照鄰、長安古意詩〕漢代金吾千騎來、翡翠屠蘇鸚鵡杯。❷草の名。〔王褒、日出東南隅行〕繡桷畫二屠蘇一。〔詩話補遺〕屠蘇、草也。〔通雅、四十一〕屠蘇、闊葉草也、因爲二屋名一、爲二冠名一、爲二飮名一。❸屋の形をした大きな帽子。〔劉孝威、結客少年場行〕插レ腰銅七首、障レ日錦屠蘇。❹平屋をいふ。廜麻。〔蕭子雲、雪賦〕謟二罦罳之飛棟一、沒二屠蘇之高影一。〔杜甫、槐葉冷淘詩〕願隨二金騕褭一、走置二錦屠蘇一。〔事物異名錄、宮室、屋〕廣雅、屠蘇、平屋也。

【屠蘇酒】50 トソシユ 屠蘇を浸した酒。屠蘇の❶を見よ。〔正字通〕蘇、楊愼云、孫思邈有二屠蘇酒方一。〔書言故事、時令類、正月〕屠蘇酒、廣韻、屠蘇酒、元日飮可レ除二瘟氣一。

【屠刀】51 トタウ 屠者の用ひる刀。肉を切る庖丁。放二下屠刀一を見よ。

【放二下屠刀一】52 トタウヲハウカス 獸をほふる刀をはなち投ずる。過を改めて善を爲すの速かな喩。〔山堂肆考〕屠兒在二涅槃會上一、放二下屠刀一、立便成レ佛。

【屠倬】53 トタク 清、錢塘の人。字は孟昭。號は琴隖。晚號は潛園・耶溪漁隱。嘉慶の進士。官は九江知府。詩・古文・書・畫・金石篆刻に巧。書室を是程堂・小檀欒といひ、著に是程堂集がある。〔清史列傳、七十三〕。

【屠中】54 トチユウ 肉を屠る者の仲間。屠殺業者のうち。〔史記、淮陰侯傳〕淮陰屠中少年、有二侮レ信者一。

【屠住】55 トヂユウ 複姓。〔通志、氏族略、以二名氏一爲レ氏〕屠住氏、芈姓、英賢傳、楚公子屠食二采於住鄕一、因氏焉。

【屠琛】56 トチン 明、鄞の人。字は廷贊。官は祁州訓導。後、漳平教諭。〔尙友錄、三〕。

【屠釣】57 トテウ 牛羊を屠り魚を釣る。卑賤の者をいふ。〔羊祜、讓二開府一表〕有レ遺二德于版築之下一、有レ隱二才于屠釣之間一。〔沈約、恩倖傳論〕屠釣卑事也、板築賤役也。〔注〕向曰、呂望初屠二牛於朝

歌市㆒、後釣㆓魚於渭濱㆒。

【屠剔】58 トテキ ほふりきる。〔柳宗元、貞符〕琢斮屠剔、膏流節離之禍不㆑作、而人乃克完平舒愉。

【屠肉】59 トニク 獸肉をきつて料理する。〔南史、齊東昏侯紀〕開㆑渠立㆑埭、躬自引㆓船埭上㆒、設㆑店坐而屠㆑肉、于㆑時百姓歌云、閱武堂種㆓楊柳㆒、至尊屠㆑肉、潘妃酤㆑酒。

【屠房】60 t'u² fang² 屠殺場。

【屠伯】61 トハク 屠者のかしら。屠者の長。やたらに人を殺戮する者をいふ。〔漢書、嚴延年傳〕流血數里、河南號曰㆓屠伯㆒。〔注〕鄧展曰、言、延年殺㆑人、如㆔屠兒之殺㆓六畜㆒、伯、長也。〔後漢書、酷吏傳序〕延年受㆓屠伯之名㆒、豈虛也哉。〔晉書、荀晞傳〕晞以㆓嚴刻㆒立㆑功、人不㆑堪㆑命、號曰㆓屠伯㆒。

【屠博】62 トバク 屠者とばくちうち。屠殺と賭博を以て業とする者。〔王績、晩年敍㆑志示㆓翟處士㆒詩〕風雲私所㆑愛、屠博暗爲㆑儔。

【屠販】63 トハン 獸をほふつて賣る。又それを業とする者。屠販兒。〔新論、妄瑕〕樊噲屠販之豎、蕭曹斗筲之吏。〔洛陽伽藍記、四〕里內之人、盡皆工巧、屠販爲㆑生、資財巨萬。

【屠販兒】64 トハンジ 獸をほふり賣る者。屠販奴。〔剪燈餘話、長安夜行錄〕少年十五十六時、隱㆑身下混㆓屠販兒㆒。

【屠販奴】65 トハンド 獸をほふり賣る者。屠販兒。生業の卑しいものを罵る語。〔晉書、列女、賈渾妻宗氏傳〕賈渾妻宗氏、云云、屠販奴、豈有㆘害㆑人之夫、而欲㆑加㆓無禮㆒于㆑爾安㆖乎。

【屠販之賤】66 トハンノセン 獸をほふつて賣る賤しい者。肉屋。〔齋藤拙堂、高山彥九郎傳〕下至㆓於屠販之賤㆒。

【屠觱】67 トヒツ 角笛。〔說文、觱羌人所㆑龡角屠觱以驚㆑馬也、段注〕屠觱、羌人所㆑吹器名、以㆑角爲㆑之、以驚㆓中國馬㆒、後乃以㆑竹爲㆑管、以㆑蘆爲㆑首、謂㆓之觱篥㆒、亦曰㆓篳篥㆒。

【屠夫】68 t'u² fu¹ 獸を屠殺する人。屠人。

【屠腹】69 トフク はらをきつて自殺する。割腹する。はらきり。〔佐原盛純、白虎隊詩〕宗社亡兮我事畢、十有六人屠㆑腹僵。

【屠覆】70 トフク ほろびくつがへる。斷絕する。屠勦。〔孫楚、爲㆓石仲容㆒與㆓孫皓㆒書〕忽然一旦身首橫分、宗祀屠覆取㆓誡萬世㆒。

【屠保】72 トホ トハウ 屠者と傭保。太公望は牛を朝歌に屠り、伊尹は酒家の傭保となつた。〔任昉、爲㆓蕭楊州㆒作薦㆑士表〕猶懼隱㆓鱗卜祝㆒、藏㆓器屠保㆒。〔注〕銑曰、屠、謂㆔太公屠㆓牛於朝歌㆒、保、謂㆔伊尹爲㆓酒家傭保㆒。

【屠滅】73 トメツ ほろびる。〔後漢書、臧洪傳〕坐擁㆓兵衆㆒、觀㆓人屠滅㆒。

【屠門】74 トモン ㊀肉を賣る市。肉市。過㆓屠門㆒而大嚼を見よ。㊁複姓。〔漢書、王莽傳下〕鄧曄以㆓農掾王憲㆒爲㆓校尉㆒、降㆑城略㆑地、北至㆓頻陽㆒、所㆑過迎降、杜陵屠門少之屬衆、皆數千人、假號稱㆓漢將㆒。〔注〕師古曰、姓屠門、名少。

〔過㆓屠門㆒而大嚼〕75 トモンヲスギテタイシヤクス 肉を切つて賣る家の前を通れば、口を大きく開いて嚙むまねをする。肉を食べなくともそれで氣持ちを滿足させる意。〔曹植、與㆓吳季重㆒書〕過㆓屠門㆒而大嚼、雖㆑不㆑得㆑肉、貴㆓且快㆑意。〔注〕善曰、桓子新論曰、人聞㆓長安樂㆒、則出㆑門向㆑西而笑、知㆓肉味美㆒、對㆓屠門㆒而大嚼、翰曰、喩㆘有㆓文武之道㆒不㆖見㆑用也、言、我見㆑質、容威顧盻若㆑無㆑人、雖㆑不㆑用㆓於時㆒、且快㆓我意㆒、亦如㆘過㆓屠者之門㆒、而開㆑口大嚼、雖㆑不㆑得㆑食㆓其肉㆒、亦且快㆖意、此植自託也。

【屠羊】76 トヤウ ㊀羊をころす。〔後漢書、竇武何進傳贊〕進自屠㆑羊。〔注〕進、本屠家子也。㊁複姓。〔通志、氏族略、以㆑技爲㆑氏〕屠羊氏、韓氏內傳、楚有㆓屠羊說㆒。

【屠羊之肆】77 トヤウノシ 羊を屠つて賣る店。〔莊子、讓王〕屠羊說曰、夫三旌之位、吾知㆔其貴㆓於屠羊之肆㆒也。

【屠餘】78 トヨ 春秋、晉の人。官は太史。晉國が亂れるや、其の圖をもつて周に歸す。〔說苑、權謀〕。

【屠滽】79 トヨウ 明の人。琛の從子。字は朝宗。謚は襄惠。成化の進士。武宗が卽位するや、太子太傅兼掌院事に陞る。後、劉瑾に忤つて致仕す。〔明史、二百二〕・〔萬斯同明史、二百三十八〕・〔國朝獻徵錄、二十四〕。

【屠戮】80 トリク ほふり殺す。ころされる。屠殺。〔尉繚子、十二陵〕孽在㆓於屠戮㆒。〔曹冏、六代論〕姦謀未㆑發、而身已屠戮。

【屠隆】81 トリユウ 明、鄞の人。字は緯眞、一の字は長卿。號は冥寥子。萬曆の進士。官は禮部主事。罷め歸つて後、文を賣つて自活す。戲曲を善くす。著に鴻包・考槃餘事・游具雜編、及び由拳・白楡・采眞・南游諸集がある。〔明史、二百八十八〕・〔萬斯同明史、三百八十八〕・〔明史稿、二百六十九〕。

【屠龍】82 トリヨウ トリユウ 龍をほふる。屠龍之技を見よ。

【屠龍居士】83 トリヨウコジ 大橋順の號。大橋訥庵(3－5831‥662)を見よ。

【屠龍之技】84 トリヨウノギ 龍をほふる技術。世に用のない名技をいふ。〔莊子、列禦寇〕朱泙漫、學㆓屠龍於支離益㆒、殫㆓千金之家㆒、三年技成、而無㆑所㆑用㆓其巧㆒。〔韻府引、陸游、詩〕一生未㆑售屠龍技、萬里猶思汗馬功。

【屠裂】85 トレツ ほふりさく。屠割。〔後漢書、仲長統傳〕秦政乘㆓幷兼之勢㆒、放㆓虎狼之心㆒、屠㆓裂天下㆒、呑㆓食生人㆒。〔曹植、求㆓自試㆒表〕身雖㆓屠裂㆒、而功名著㆓於景鐘㆒。

【屠應埈】86 トオウシユン 明の人。勳の子。字は文升。號は漸山。嘉靖の進士。郞中より翰林に轉じ、右諭德に至る。詩文に巧。書室を蘭輝堂といひ、著に蘭輝堂集がある。〔明史、二百八十七〕・〔萬斯同明史、二百六十八〕・〔國朝獻徵錄、十九〕。

【屠獸場】87 t'u² shou⁴ ch'ang³ 屠殺場。

【屠湘靈】88 トシヤウレイ 明の人。隆の女。名は瑤瑟。黃振古の妻。隆の子の婦沈七襄と共に詩を能くす。屠・黃の兩家、其の詩を彙刻して留香草といふ。〔明外史〕。

【屠宸楨】89 トシンテイ 清、青浦の人。字は周士。詩詞に巧。書室を醉經草堂といふ。著に醉經草堂稿・滄浪漁笛譜がある。

【屠仁守】90 トジンシユ 清、孝感の人。字は梅君。同治の進士。御史を拜命し、時弊を疏言して旨に忤ひ、職を奪はれたが、尋いで光祿寺少卿を拜命す。〔清史稿、四百五十一〕・〔續碑傳集、十九〕。

【屠粹忠】91 トスイチユウ 清、定海の人。號は芝巖。順治の進士。兵部尙書となる。著に三才藻異がある。〔國朝耆獻類徵、五十一〕。

【屠大山】92 トタイサン 明、鄞の人。字は國望。嘉靖の進士。川湖總督に累官し、叛苗龍阿仔を平定し、南兵部侍郎に轉じ、尋いで應天の巡撫となる。〔明史、二百五〕・〔國朝列卿記、一百・一百十〕・〔明人小傳、二〕・〔本朝分省人物攷、四十八〕・〔明詩綜、三十九〕。

【屠兆鵬】93 トテウホウ 清、嵊縣の人。字は古鳳。號は喬雲。晩號は了道人。六書の學を究め、段注古文を評校す。

【屠文漪】94 トブンイ 清、松江の人。字は蒓洲、又、漣水。著に九章錄要、詩餘草がある。〔四庫提要、一百七〕。

【屠本畯】95 トホンシユン 明の人。大山の子。字は田叔。官は太常典簿・辰州知府。自ら憨先生と稱す。著に太常典錄・田叔詩草がある。〔萬斯同明史、三百八十八〕・〔明人小傳、四〕・〔明詩綜、六十二〕・〔明詩紀事、庚二十八〕・〔列朝詩集小傳、丁下〕。

【屠柳城】96 トリウジヤウ 樂府魏鼓吹曲の一。魏、繆襲作。〔樂府詩集、鼓吹曲辭、魏鼓吹曲、屠柳城〕晉書樂志曰、改㆓漢巫山高㆒爲㆓屠柳城㆒、言㆘曹公越㆓北塞㆒、歷㆓白壇㆒、破㆗三郡烏桓於柳城㆖也。〔繆襲、屠柳城〕屠㆓柳城㆒、功誠難、越度㆑隴、塞路漫漫、北踰㆓岡平㆒、但聞㆓悲風㆒、正酸蹋頓授㆑首、遂登㆓白狼山㆒、神武熱㆓海外㆒、永無㆓北顧患㆒。

【屠毒筆墨】97 トドクノヒツボク 害筆。害のある書。〔紅樓夢、一回〕屠毒筆墨、壞㆓人子弟㆒。

【屠特若尸逐就單于】98 トトクジヤクシチクシウゼンウ 後漢、南匈奴の王。靈帝の熹平元年、卽位す。六年、鴈門に出で、鮮卑の檀石槐を擊つて大いに敗る。在位六年にして薨ず。〔後漢書、一百十九〕。

【屫】7762

ヘン ベン 〔集韻〕紕延切 先

㊀**ひとり**。〔集韻〕屫、特也。㊁**こぶね**。〔字彙〕屫、小舟也。㊂扁(**5－11724**)の俗字。〔正字通〕屫、本作㆑扁。

【〓】7763 エイ 拽(5－12013)に同じ。〔字彙補〕〓、同ㇾ拽。

【〓】7764 コ 辜(10－38636)の古字。〔說文〕〓、古文辜、从ㇾ死。〔段注〕从二古文死一也。〔集韻〕辜、古作ㇾ〓。

【〓】7765 リ 履(4－7799)の古字。〔集韻〕履、古作ㇾ〓。

【〓】7766 ハ 破(8－24124)の古字。〔字彙補〕〓、古文破字。

【〓】7767 ソ 徂(4－10078)の古字。〔玉篇〕〓、古文徂。

【〓】7768 ヒ 屁(4－7654)に同じ。〔字彙補〕〓、同ㇾ屁。

【〓】7769 カウ 降(11－41620)に同じ。〔五音篇海〕〓、同ㇾ降。

【屡】7770 ル 屢(4－7787)の俗字。〔宋元以來俗字譜〕屢、通俗小說、作ㇾ屡。

十畫

【〓】7771 クツ 屈(4－7669)に同じ。〔正字通〕〓、本作ㇾ屈省。

【〓】7772 ベイ メイ 〔字彙〕彌蔽切 霽 **尾が長い。**〔字彙〕〓、尾長也。

【〓】7773 ヒ 〔字彙〕篇夷切 齊 **あな。**〔字彙〕〓、穴也。

【〓】7774 ソウ 奏(3－5915)の古字。〔說文〕奏、〓、古文。〔集韻〕奏、古作ㇾ〓。

【〓】7775 ショ ジョ 〔字彙〕才余切 魚 **女の陰部。**〔字彙〕〓、女人陰名。

【〓】7776 ソウ 〓(4－7774)に同じ。〔康熙字典〕〓、同ㇾ〓、譌省。

【〓】7777 クワ 鞾(12－43030)に同じ。〔集韻〕鞾、或作ㇾ〓。

【〓】7778 デキ 溺(7－17990)の俗字。〔正字通〕〓、俗溺字。

【〓】7779 シ 徙(4－10142)の古字。〔說文〕〓、古文徙。〔字彙補〕〓、古文徙字。

【〓】7780 ビ 尾(4－7650)の古字。〔集韻〕尾、古作ㇾ〓。

【〓】7781 クツ 屈(4－7669)の古字。〔集韻〕屈、古作ㇾ〓。

【〓】7782 カイ 〔篇海類編〕口溉切 隊 **くき。**〔篇海類編〕〓、莖也。

【〓】7783 グン 羣(9－28497)に同じ。〔龍龕手鑑〕〓、與ㇾ羣同。

【〓】7784 ベツ 義未詳。〔字彙補〕〓、音蔑、出二內典一。

【〓】7785 テイ 義未詳。〔字彙補〕〓、他計切、音替、出二高僧傳一。

【〓】7786 🈩タイ ツイ 〔集韻〕通回切 灰 🈔セイ シヤウ 〔集韻〕子坰切 靑

🈩❶**くつ**。くつの粗末なもの。〔集韻〕〓、方言、履粗者、謂二之〓一。❷**頸のあるくつ**。〔集韻〕〓、一曰、履有ㇾ頸者。❸或は〓に作る。〔集韻〕〓、或从ㇾ委。❹屨(4－7793)に同じ。〔玉篇〕〓、同ㇾ屨。🈔**わらぐつ。わらぢ**。〔集韻〕〓、不借之粗者曰ㇾ〓。

十一畫

【屢】7787 ル 〔集韻〕龍遇切 遇 ㄌㄩˇ lü³

小篆

❶**しばしば**。㋑たびたび。〔說文新附〕屢、數也。〔書、益稷〕屢省二乃成一。〔傳〕屢、數也。〔詩、小雅、巧言〕君子屢盟。〔箋〕屢、數也。㋺つねに。〔論語、先進〕回也其庶乎、屢空。〔集解〕一曰、屢、猶ㇾ每也。〔皇疏〕屢、每也。❷**はやい**。すみやか。〔爾雅、釋詁〕屢、疾也。〔詩、周頌、桓〕屢豐年。〔箋〕屢、亟也。❸**わづらはしい**。〔增韻〕屢、煩數。〔文同、何首烏詩〕日進豈厭ㇾ屢。❹古は〓(3－6345)・婁(3－6383)に作る。〔集韻〕屢、古作二〓・婁一。❺數(5－13363)に通ず。〔公羊、宣、十二、注〕屢往來而惡言。〔釋文〕屢、本作ㇾ數。❻婁(3－6383)に通ず。〔荀子、非相〕式居屢驕。〔注〕屢、讀爲ㇾ婁。

【屢行】1 ルカウ しばしば流行する。〔國史略、嵯峨天皇〕大災年有ㇾ之、疫亦屢行。

【屢降】2 ルカウ しばしばくだる。〔漢書、成帝紀〕地二震京師一、火災婁降。〔注〕師古曰、婁、古屢字。

【屢空】3 ルクウ つねに貧乏なこと。〔論語、先進〕子曰、回也其庶乎、屢空。〔集解〕屢、猶ㇾ每也。〔皇疏〕屢、每也。〔集注〕屢空、數至二空匱一也。〔史記、伯夷傳〕回也屢空、糟糠不ㇾ厭。〔後漢書、賈逵傳〕謂ㇾ防曰、賈逵母病、此子無三人二事於外一、屢空則從二孤竹之子於首陽山一矣。〔陶潛、始作二鎭軍參軍一經二曲阿一作詩〕被ㇾ褐欣二自得一、屢空常晏如。〔注〕良曰、屢空、謂二貧無ㇾ財也。

【屢驕】4 ルケウ 驕慢の過を斂め退ける。又、つねに驕る。婁驕(3－6383・・13)を見よ。〔荀子、非相〕詩曰、雨雪瀌瀌、宴然聿消、莫二肯下隧一、式居屢驕。〔注〕屢、讀爲ㇾ婁、婁、斂也、云云、用ㇾ此居處、斂二其驕慢之過一也。

【屢次】5 lü³ tzʻŭ⁴ しばしば。たびたび。頻數。

【屢臻】6 ルシン しばしば至る。〔後漢書、章帝紀〕白烏神雀、甘露屢臻。

【屢年】7 lü³ nien² 多年。幾年も。

【屢發】8 ルハツ しばしばおこる。〔漢書、成帝紀〕災異婁發、以告二不治一。〔注〕師古曰、婁、古屢字也。

【屢番】9 lü³ fan¹ 屢次。しばしば。

【屢舞】10 ルブ しばしば舞ふ。〔詩、小雅、賓之初筵〕舍二其坐一遷、屢舞僊僊。〔傳〕屢、數。〔左思、蜀都賦〕紆二長袖一而屢舞、翩躚躚以裔裔。

【屢豐】11 ルホウ すみやかに豐年となる。〔詩、周頌、桓〕綏二萬邦一、屢豐年。〔箋〕屢、亟也、誅二無道一、安二天下一、則亟有二豐熟之年一、陰陽和也。

【屢盟】12（ルメイ） たびたびちかふ。屢次會盟。〔詩、小雅、巧言〕君子屢盟、亂是用長。〔箋〕屢、數也、盟之所㆓以數㆒者、由㆓世衰亂、多相背違㆒。

【屢鳴】13（シバナク） 度々なく。〔萬葉集、十七〕貌鳥のまなくしばなく春の野。

【⿸尸啚】
7788 ヒ 〔玉篇〕博美切 紙

❶**あな**。〔玉篇〕⿸尸啚、屋⿸尸啚也。❷**しり**。〔玉篇〕⿸尸啚、臀也。

【⿸尸既】
7789 ケイ 〔集韻〕去例切 霽

❶**やすむ**。いこふ。愒(**4—10933**)に同じ。〔玉篇〕⿸尸既、心息也。〔集韻〕愒、說文、息也、或作㆑⿸尸既。❷憩(**4—11246**)・塈(**3—5423**)に通ず。〔玉篇〕⿸尸既、今爲㆑憩。〔正字通〕⿸尸既、經史通作㆑塈。

【⿸尸虘】
7790 シヨ 〔集韻〕七慮切 御

❶**うかがふ**。覷(**10—34945**)に同じ。〔玉篇〕⿸尸虘、與㆑覷同。❷**ゆきもとほる**。屎⿸尸虘。〔集韻〕⿸尸虘、屎⿸尸虘、行前卻也。

【屣】
7791 ［一］シ 〔集韻〕所綺切 紙 ㄒㄧ hsi^{3} ［二］シ 〔集韻〕所寄切 寘

［一］［二］❶**ざうり**。わらぢ。〔廣雅、釋器〕屣、屩也。〔一切經音義、十四〕屣、聲類、鞮屬也。〔玉篇〕屣、履也。〔呂覽、觀表〕視㆑舍㆓天下㆒、若㆑舍㆑屣。〔漢書、郊祀志〕如㆑脫㆑屣耳。〔注〕師古曰、屣、小履也。❷**ざうりとする**。ざうりの如くつまらぬものと考へる。〔孔稚珪、北山移文〕屣㆓萬乘㆒其如㆑脫。❸**つつかける**。草履に足先をかけて引きずつて出る。〔集韻〕屣、屣不㆑躡㆑跟也。〔莊子、讓王〕原憲華冠縰㆑履、〔釋文〕通俗文云、履不㆑著㆑跟曰㆑屣。〔後漢書、鄭玄傳〕國相孔融、深敬㆓於玄㆒、屣㆑履造㆑門。〔注〕屣、謂㆓納㆑履未㆑正、曳㆑之而行㆒。❹躧(**10—38023**)に通ず。〔漢書、地理志下〕女子彈㆑弦跕躧、〔注〕師古曰、躧字、與㆑屣同。❺韊(**12—43099**)・⿰革徙(**12—42991**)・跐(**10—37568**)に通ず。〔一切經音義、十四〕屣、古文韊・⿰革徙・跐三形同。❻蹝(**10—37812**)に通ず。〔廣韻〕屣、孟子曰、舜去㆓天下㆒、如㆑脫㆓弊屣㆒。〔孟子、盡心上〕猶㆑棄㆓敝蹝㆒。

【屣履】1（リシ） 履物をひつかける。又、急ぎあわてて、履物をよくもはかずに之をひきずつて行くこと。あわてて出迎へる形容。人を歡迎する喩。〔後漢書、崔駰傳〕帝雅好㆓文章㆒、自㆑見㆓駰頌㆒後、常嗟㆓歎之㆒、謂㆓侍中竇憲㆒曰、卿寧知㆓崔駰㆒乎、云云、駰由㆑此候㆑憲、憲屣履迎㆑門。〔注〕屣履、謂㆓納㆑履曳㆑之而行㆒、言㆓怱遽㆒也。〔後漢書、鄭玄傳〕國相孔融、深敬㆓於玄㆒、屣㆑履造㆑門。

【倒㆑屣】2（シヲサカサマニス） 履物を倒さにはく。倒㆑屣迎を見よ。

【倒㆑屣迎】3（シヲサカサマニシテムカフ） 遽てて屣を倒さにはいて來客を出迎へる。人を歡迎することの切な形容。〔魏志、王粲傳〕粲、字仲宣、山陽高平人也、曾祖父龔、祖父暢、皆爲㆓漢三公㆒、云云、粲徙㆓長安㆒、左中郎將蔡邕見而奇㆑之、時邕才學顯著、貴㆓重朝廷㆒、常車騎塡㆑巷、賓客盈㆑坐、聞㆓粲在㆑門、倒㆑屣迎㆑之、粲至、年既幼弱、容狀短小、一坐盡驚、邕曰、此王公孫也、有㆓異才㆒、吾不㆑如也、吾家書籍文章、盡當㆑與㆑之。〔北史、宋繇傳〕雖㆓兵革間㆒、講誦不㆑廢、每㆑聞㆓儒士在㆑門、常倒㆑屣出迎、引談㆓經籍㆒。

【⿸尸翏】
7792 レウ 屪(**4—7813**)に同じ。〔字彙〕⿸尸翏、同㆑屪。

【⿸尸⿰彳委】
7793 ［一］タイ ツイ 〔集韻〕通回切 灰 ［二］サイ スイ 〔集韻〕祖回切 灰 ［三］クワ ゲ 〔集韻〕戶瓦切 馬 ［四］タ ダ 〔集韻〕徒禾切 歌

［一］［二］❶**くつ**。〔玉篇〕⿸尸⿰彳委、履也、西南梁益、謂㆑履曰㆑⿸尸⿰彳委。❷**頸のあるくつ**。〔廣韻〕⿸尸⿰彳委、履屬、有㆑頸曰㆑⿸尸⿰彳委。❸**わらぐつ**。わらぢ。〔集韻〕⿸尸⿰彳委、粗履、不借也。［三］**くつ**。**又、靑絲頭の履**。⿸尸系(**4—7687**)に同じ。〔集韻〕⿸尸系、履也、方言、西南梁益之閒、謂㆓之⿸尸系㆒、一說、靑絲頭履、或作㆑⿸尸⿰彳委。［四］**くつ**。〔集韻〕⿸尸⿰彳委、屨屬。

【⿸尸坙】
7794 シユン 舜(**9—30339**)の古字。〔正字通〕⿸尸坙、古文舜字。

【⿸尸⿰彳夋】
7795 シユン 舜(**9—30339**)の古字。〔正字通〕⿸尸⿰彳夋、古文舜字。

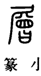
【⿸尸朐】
7796 テウ 〔集韻〕他彫切 蕭

すき。斪(**5—13564**)に同じ。〔集韻〕斪、田器、或作㆑⿸尸朐。〔字彙補〕⿸尸朐、田器也。

【⿸尸絇】
7797 ク 絇(**8—27377**)に同じ。〔字彙補〕⿸尸絇、與㆑絇同。

十二畫

【層】
7798 ソウ ゾウ 〔集韻〕徂棱切 蒸 ㄘㄥ ts'êng^{2}



小篆

❶**たかどの**。二階建・三階建等のやかた。〔說文〕層、重屋也、从㆑尸曾聲。〔劉孝綽、棲隱寺碑〕珠殿連㆑雲、金層輝㆑泉。❷**だん**。階段。〔增韻〕層、級也。❸**かさなる**。〔玉篇〕層、重也、累也。〔山海經、海外西經〕雲蓋三層。〔注〕層、猶㆑重也。❹**かさね**。**かさなり**。〔南史、夷貊下、西戎、河南王傳〕立㆓九層佛寺㆒。〔劉滄、咸陽詩〕風景蒼蒼多少恨、寒山半出白雲層。❺**たかい**。〔江淹、別賦〕巡㆓層楹㆒而空掩。〔注〕濟曰、層、高。〔江淹、苦㆑雨詩〕水鶴巢㆓層甍㆒。〔注〕銑曰、層、高也。❻曾(**5—14299**)に通ず。〔增韻〕層、古通作㆑曾。〔說文通訓定聲〕層、曾祖・曾孫字、經傳皆以㆑曾爲㆑之。❼增(**3—5454**)に通ず。〔魏大饗碑〕蔭㆓九增之華蓋㆒。❽［現］㋑こと。事柄。㋺しばしば。度度。

【層阿】1（ソウア） 重なり合つた山。曾阿。〔沈約、從軍行〕江飂鳴㆓疊嶼㆒、流雲照㆓層阿㆒。

【層雲】2（ソウウン） ❶幾重にも重なつた雲。八重ぐも。曾雲。〔杜甫、望嶽詩〕盪㆑胸生㆓層雲㆒、決㆑眥入㆓歸鳥㆒。❷地文學用語。水平層をなして地面近く現はれる雲。

【層楹】3（ソウエイ） 高いはしら。〔江淹、別賦〕巡㆓層楹㆒而空掩、撫㆓錦幙㆒而虛涼。〔注〕濟曰、層、高、楹、柱也。

【層檐】4（ソウエン） かさなつたのき。〔李白、明堂賦〕層檐屹其霞矯、廣廈鬱其雲布。

【層崕】5（ソウガイ） 層崖に同じ。〔皮日休、館娃宮詩〕豔骨已成㆓蘭麝土㆒、宮牆依㆑舊壓㆓層崕㆒。

【層崖】6（ソウガイ） 巖石の重なつたがけ。幾重にも高く積み上がつた岸。層厓。層崕。層壁。〔水經、滱水注〕滱水、逕㆓御射臺南㆒、臺在㆓北阜上㆒、臺南有㆓御射石碑㆒、南則秀嶂分㆑霄、層崖刺㆑天。〔謝靈運、山居賦〕羅㆓層崖於戶裏㆒、列㆓鏡瀾於窓前㆒。

【層閣】7 ソウカク たかどの。二層以上の家。重閣。複閣。〔鮑照、代㆓君子㆒有㆑所㆑思詩〕層閣肅㆓天居㆒、馳道直如㆑髮。〔沈約、休沐寄㆑懷詩〕送㆑日隱㆓層閣㆒、引㆑月入㆓輕幬㆒。

【層嵁】8 ソウカン 重なり合つてゐる山。〔謝朓、遊㆑山詩〕鼯狖叫㆓層嵁㆒、鷗鳧戲㆓沙衍㆒。

【層巖】9 ソウガン 重なつてゐる岩。〔水經、沁水注〕自㆓太行㆒以西、王屋以東、層巖高峻、天時霖雨、衆谷走水、小石漂迸。〔駱賓王、出石門詩〕層巖遠接㆑天、絕嶺上棲㆑烟。

【層級】10 ソウキフ 幾段もある階段。〔虞集、題㆔蒙庵爲㆓黃石谷賦㆒詩〕隨㆑山導㆓清泉㆒、積㆑石拾㆓層級㆒。

【層穹】11 ソウキユウ 大空をいふ。層は高い意。穹は空に同じ。層空。〔沈約、和㆔劉雍州繪㆓博山香爐㆒詩〕蛟螭盤㆓其下㆒、驤首盼㆓層穹㆒。

【層空】12 ソウクウ 極めて高い空。大空。層穹。〔孟郊、春日同㆓韋郎中使君㆒送㆔鄒儒立少府扶侍赴㆓雲陽㆒詩〕高步詎留㆑足、前程在㆓層空㆒。

【層觀】13 ソウクワン 幾層もある高樓。〔潘岳、西征賦〕擢㆓百尋之層觀㆒。〔唐書、魏徵傳〕苑中作㆓層觀㆒、以望㆓昭陵㆒。

【層闕】15 ソウケツ 高く聳えてゐる宮城。又、其の門。闕は、宮城の門。又、宮城。〔梁簡文帝、仰㆓和衞尉新渝侯巡城㆒口號詩〕帝京風雨中、層闕煙霞浮。〔唐太宗、帝京篇〕雲日隱㆓層闕㆒。〔劉爍、擬古詩〕浮雲藹㆓層闕㆒。

【層見】16 tsʻêng^2 chien^4 しばしば見える。度々あらはれる。

【層軒】17 ソウケン 高いのき。又、其の家。〔褚亮、奉㆓和望月應㆓魏王教㆒詩〕層軒登㆓皓月㆒、流照滿㆓中天㆒。

【層巘】18 ソウゲン 重なり合つた山。層巒。〔呉海、夏日遊㆓東皐亭㆒詩〕展㆑席俯㆓清池㆒、倚㆑檻盼㆓層巘㆒。

【層構】19 ソウコウ 幾層も重ねたかまへ。二階建・三階建等。〔張衡、西京賦〕累㆓層構㆒而遂隮。〔班固、西都賦〕爾乃正殿、崔嵬層構。〔枚乘、七發〕連廊四注、臺城層構。

【層巣】20 ソウサウ 高處にある巣。又、高處に巣を作る。〔説苑、敬愼〕曾子曰、夫飛鳥以㆑山爲㆑卑、而層㆓巣其巓㆒、魚鼈以㆑淵爲㆑淺、而穿㆓穴其中㆒。〔路史、黃帝紀〕冬則營㆑窟、夏則居㆓層巣㆒、以避㆑難。

【層山】21 ソウザン ㊀かさなつた山。〔朱延齡、秋山極㆑天淨詩〕葱龍清㆓萬象㆒、繚繞出㆓層山㆒。㊁鎭の名。江西省永豐縣の南。元・明・清、皆、進檢駐防を置く。一名、姜華鎭・藤田鎭。

【層廁】22 ソウシ 幾重にもかさねまじへる。廁は雑廁。〔葛澧、錢塘賦〕開㆓闔扉楹㆒、層㆓廁碧瓦㆒。

【層次】23 tsʻêng^2 tzʻŭ^4 次第。順序。

【層岫】24 ソウシウ かさなつた山のいただき。層巓。〔謝莊、舞馬賦〕聆㆓萬歲于層岫㆒、燭㆓神光于紫壇㆒。〔王叔之、遊㆓羅浮山㆒詩〕孤樓側挺、層岫迴重。

【層榭】25 ソウシヤ 何階も重ねた高いうてな。〔淮南子、精神訓〕高臺層榭、人之所㆑麗也。

【層嶂】26 ソウシヤウ 重なり連なつた峯。〔朱熹、雲谷二十詠、雲莊詩〕小丘橫㆓翠几㆒、層嶂復嵯峨。

【層嶂複嶺】27 ソウシヤウフクレイ 重なり連なつたけはしい山やみね。層も複も重なること。嶂は、山が高く險しくて屛障のやうなもの。嶺は連山。層巒複嶺。〔竹添井井、棧雲峽雨日記下〕兩岸層嶂複嶺、屛矗墉圍。

【層城】28 ソウジヤウ 崑崙山の最も高い處。〔張衡、思玄賦〕登㆓閬風之層城㆒兮、構㆓不死㆒而爲㆑牀。〔注〕衡曰、閬風、崑崙山名也。〔水經、河水注〕崑崙之山三級、下曰㆓樊桐㆒、一名板桐、二曰㆓玄圃㆒、一名閬風、上曰㆓層城㆒、一名天庭、是謂㆓太帝之居㆒。〔孫綽、天台山賦〕苟台嶺之可㆑攀、亦何羨㆓于層城㆒。

【層出】29 ソウシユツ 重なり出る。〔韓愈、貞曜先生墓誌銘〕神施鬼設、間見㆓層出㆒。〔陸佃、適㆓南亭㆒記〕峯巒如㆑削、間見㆓層出㆒。

【層深】30 ソウシン 高く聳えてゐておく深い。〔水經、清水注〕雷赴之聲、震㆓動山谷左右㆒、石壁層深、獸跡不㆑交。

【層霄】31 ソウセウ 天空をいふ。層は高い、霄は空。九霄。〔庾闡、遊仙詩〕層霄映㆓紫芝㆒、潛澗泛㆓丹菊㆒。〔舊唐書、李德裕傳〕雉堞高峻臨㆑衝、難㆑及㆓於層霄㆒。

【層泉】32 ソウセン 不透水層の傾斜に沿うて流れ出る地下水。

【層層】33 ソウソウ かさなつてゐるさま。〔許渾、途經㆓秦始皇墓㆒詩〕龍盤虎踞樹層層、勢入㆓浮雲㆒亦是崩。〔白居易、望㆓郡南山㆒寄㆓行簡㆒詩〕臨㆑江一嶂白雲間、紅綠層層錦繡斑。〔陳羽、步虛詞〕樓殿層層阿母家、崑崙山頂駐㆓紅霞㆒。

【層層劈裂】34 ソウソウヘキレツ 段々に重なり合つて、切りさいたやうに見える。〔竹添井井、棧雲峽雨日記下〕其近㆑水處、層層劈裂、如㆑剖㆓蓮囊㆒。

【層臺】35 ソウダイ 二階、或はそれ以上かさなつたうてな。高いうてな。〔謝靈運、會吟行〕層臺指㆓中天㆒、高墉積㆓崇雉㆒。〔許渾、凌歊臺詩〕宋祖凌歊樂未㆑回、三千歌舞宿㆓層臺㆒。

【層濤】36 ソウタウ 重なりよせる波。いほへなみ。層浪。〔謝宗可、海蟄詩〕層濤擁㆑沫綴㆓蝦行㆒、水母含㆑秋孕㆓地靈㆒。

【層沓】37 ソウタフ 幾重にも重なる。沓も重なること。〔齋藤竹堂、嚴島遊記〕巨石層沓、詭形争出。

【層塔】38 ソウタフ 幾重もかさなつた高い塔。〔元稹、度門寺詩〕舍利開㆓層塔㆒、香爐占㆓小峯㆒。〔盧琦、龍江山平遠樓詩〕長橋亙㆓百尺㆒、層塔崇㆓七級㆒。

【層檀】39 ソウダン 國名。宋代、南海交通によつて知られる。宋會要には大食層檀國と稱す。Sultan の音譯で、Seljuk Turk を指す。一說に、之を諸蕃志に見える層拔國（今のアフリカ東岸の Zanzibar）であるといふ。〔宋史、外國傳〕層檀國、在㆓南海旁㆒、畜有㆓綿羊・山羊・沙牛・水牛・橐駝・馬・犀・象㆒。

【層重】40 ソウチヨウ 幾重にもかさなる。層累。

【層綴】41 ソウテイ 幾重にも綴る。〔李華、含元殿賦〕複檻層綴、高窓景爇。

【層疊】42 ソウデフ 上へ上へと積み重なる。かさなりつむ。層累。重疊。〔宋史、五行志二上〕層疊高大、衆色咸備。

【層疊法】43 ソウデフハフ 文章法の名。句の層疊法と章の層疊法とがあり、同一の形式を二個以上疊用するもの。左傳・國語・戰國策・孟子・莊子・荀子等によく用ひられ、唐宋以後の作家で之に倣つた者が多い。

【層巓】44 ソウテン 重なつた山のいただき。層岫。〔謝靈運、過㆓始寧墅㆒詩〕葺㆑宇臨㆓迴江㆒、築㆑觀基㆓層巓㆒。〔高啓、剡原九曲詩〕白雲開㆓層巓㆒。

【層棟】45 ソウトウ 高く聳えるむなぎ。〔朱熹、次㆓圭父游將軍巖韻㆒詩〕極目危岑沓靄間、誰將㆓層棟㆒壓㆓巑岏㆒。

【層甍】46 ソウバウ 瓦葺きの高い屋棟。〔江淹、雜體、張黃門苦㆑雨詩〕水鶴巣㆓層甍㆒、山雲潤㆓桂礎㆒。〔注〕銑曰、層、高也、甍、屋棟木也。

【層盤】47 ソウバン 高い所にある盤。盤は、露を承けるもの。〔何晏、景福殿賦〕爾乃建㆓凌雲之層盤㆒。〔注〕銑曰、層、高也、上有㆑盤、以承㆓甘露㆒也。

【層冰】48 ソウヒヨウ 重なり張つた氷。厚い氷。〔杜甫、高都護驄馬行〕腕促蹄高如㆑踣㆑鐵、交河幾蹴㆓層冰㆒裂。

【層覆】49 ソウフ 高い屋根。高屋。〔何晏、景福殿賦〕豐㆓層覆之耽耽㆒。〔注〕銑曰、層、高也、覆、屋蓋也。

【層壁】50 ソウヘキ 層崖(6)に同じ。〔段成式、題㆓資聖寺畫㆒詩〕蒼蒼鬼怪層壁寬、覩㆑之忽忽毛髮寒。

【層峯】51 ソウホウ 重なりあつたみね。又、高く聳える峰。〔梁簡文帝、詠㆓朝日㆒詩〕團團出㆓天外㆒、煜煜上㆓層峯㆒。〔王巾、頭陀寺碑文〕北則層峯削成。

【層面】52 ソウメン 地質學用語。地層と地層とが相接する面。卽ち水成岩層の相重つた層の境界。

【層浪】53 ソウラウ 重なり合つて押寄せて來る浪。層濤。〔孔平仲、望㆓呉亭㆒詩〕混混過㆓新潮㆒、峩峩起㆓層浪㆒。

【層閬】54 ソウラウ 明、歐陽宗衡（**6－16185**‥127）の字。

【層瀾】55 ソウラン 重なり合つて押寄せて來る大なみ。〔蔡襄、和㆑登㆓安濟亭㆒詩〕驚濤觸㆑岸層瀾碎。〔洪希文、詩〕面勢軒豁規㆓層瀾㆒。

【層巒】56 ソウラン 重なりあつてそばだつ峯。層巘。〔呉均、酬㆓周參軍㆒詩〕沈雲隱㆓喬樹㆒、細雨滅㆓層巒㆒。

【層巒複嶺】57 ソウランフクレイ 重なり合つてゐる山や嶺。層嶂複嶺。〔安積艮齋、池無名傳〕層巒複嶺、飛㆑屐上下。

【層累】58 ソウルイ かさなる。層重。層疊。〔宋玉、高唐賦〕巫山赫其無㆑疇兮、道互折而層累。

【層嶺】59 ソウレイ 重なり合つてゐるみね。〔陶弘景、曲林館銘〕層嶺外峙、邃宮內映。

【層櫨】60 ソウロ 重なつた枡形。櫨は、柱の上のますがた。〔王延壽、魯靈光殿賦〕層櫨磥佹以岌峩、曲

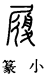
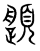
枅要紹而環句。〔注〕翰曰、層櫨、重斗也。

【層樓】61 ソウロウ　幾階もかさねた家。高い樓閣。〔王融、三月三日曲水詩序〕離房乍設、層樓閒起。

【層輪塔】62 ソウリンタフ　佛率塔婆の一種。輪が數多かさなつた塔。相輪橖(8—23151・・337)を見よ。

【履】7799

リ　〔集韻〕兩几切　°紙　ㄌㄧˇ li³


小篆

古文

㊀くつ。ざうり。はきもの。舄・屨などの總稱。もと履(4—7800)に作る。〔正字通〕履、履本字。〔說文〕履、足所㆑依也、从㆑尸、服㆑履者也、从㆓彳夊㆒、从㆑舟象㆓履形㆒、一曰、尸聲。〔說文通訓定聲〕履、按、古曰㆑舄、曰㆑屨、漢以後曰㆑履、今曰㆑鞵、此字、本訓㆑踐、轉注爲㆘所㆓以踐㆒之具㆖也。〔釋名、釋衣服〕履、禮也、飾㆑足所㆓以爲㆑禮也。〔小爾雅、廣服〕在㆑足謂㆓之履㆒。〔新方言、釋器〕今通謂㆑履爲㆑鞵、惠潮嘉應之客籍、尙謂㆓之履㆒。〔列子、黃帝〕脫㆓履戶外㆒。㊁いとぐつ。絲で作つたくつ。〔方言、四〕絲作㆑之者、謂㆑履。㊂はく。はかせる。〔史記、留侯世家〕父曰、履㆑我、良因長跪履㆑之。〔晉書、謝玄傳〕雖㆓履㆑屐閒㆒、亦得㆓其任㆒。㊃ふむ。㋑足をかける。ふまへる。〔論語、鄕黨〕行不㆑履㆑閾。㋺地をふむ。〔禮、文王世子〕行不㆑能㆓正履㆒。〔注〕履、蹈㆑地也。㋩あゆむ。〔易、履〕跛能履。〔國語、晉語一〕上貳代擧、下貳行履。〔注〕履、步也。㋥ゆく。へめぐる。〔南史、宗少文傳〕凡所㆓游履㆒、皆圖㆓之於室㆒。㋭おこなふ。〔禮、表記〕處㆓其位㆒而不㆑履㆓其事㆒。〔注〕履、猶㆑行也。〔國語、吳語〕而後履㆑之。〔注〕履、行也。㋬經驗する。〔元史、許國楨傳〕朕昔出征、同履㆓艱難㆒者、卿等數人耳。㋣つく。あたる。位を占める。そなはる。〔小爾雅、廣詁〕履、具也。〔易、履〕中正履㆓帝位㆒。〔莊子、天道〕貴賤履㆑位。㋠おさへる。ふみつける。〔易、履〕象曰、履、柔履㆑剛也。㊄おこなひ。〔晉書、溫嶠傳論〕性履純深、譽流㆓邦族㆒。〔北史、庾質傳〕操履貞懿、立言忠鯁。㊅土地。知行所。領土。〔左氏、僖、四〕賜㆓我先君履㆒。〔注〕履、所㆓踐履㆒之界。㊆易、六十四卦の一。䷉（兌下乾上）。ふみ進む象。〔易、履〕履㆓虎尾㆒、不㆑咥㆑人、亨。㊇禮(8—24844)に通ず。〔說文通定訓聲〕履、叚借爲㆑禮。〔易、序卦〕受㆑之以㆑履。〔注〕履者、禮也。〔詩、商頌、長發〕率㆑履不㆑越。〔傳〕履、禮也。〔禮、坊記〕詩云、爾卜爾筮、履無㆓咎言㆒。〔注〕履、禮也、言、女鄕卜筮、然後與㆑我爲㆑禮、則無㆓咎惡之言㆒矣。㊈さいはひ。たまもの。釐(11—40146)に通ず。〔說文通訓定聲〕履、叚借爲㆑釐。〔爾雅、釋詁〕履、福也。〔爾雅、釋言〕履、祿也。〔詩、周南、樛木〕福履綏㆑之。〔傳〕履、祿。㊉こひねがふ。覬(10—34934)に通ず。〔說文通訓定聲〕履、叚借爲㆑覬。〔詩、衞風、氓〕體㆑無㆓咎言㆒、〔釋文〕體、韓詩作㆑履、履、幸也。⑪しばしば。屢(4—7787)に通ず。〔說苑、反質〕詩曰、云云、履舞僊僊。〔詩、小雅、賓之初筵〕屢舞僊僊。⑫古は頟(12—43676)・頣(10—37674)・傻(4—10139)・屧(4—7765)に作る。〔集韻〕履、古作㆓頟・頣・傻・屧㆒。⑬屨(4—7811)に通ず。〔左氏、僖、十五〕登㆑臺而履㆑薪焉。〔釋文〕履、本作㆑屨。⑭姓。〔通志、氏族略、上聲〕紫氏、履氏、並見㆓姓苑㆒。〔路史、疏仡紀〕秦鍼奔㆑晉、封㆓裴中㆒、曰㆓裴君㆒、六世陵、遷㆑解爲㆓解君㆒、有㆓裴氏・解氏・壘氏・履氏㆒。〔萬姓統譜〕履、見㆓姓苑㆒。

解字　會意。尸・彳・夊・舟を合す。尸はくつをはく地位の人、彳・夊は二つとも行く意、舟はくつのかたちに象る。故に、本義はくつ・はきものをいふ。一說に、會意形聲で尸は音符。段注によれば、くつを本義とし、轉じて踐む・祿・禮の意とす。說文通訓定聲には、踐むを本義とし、くつを轉義とし、假借して禮・釐・體・覬等に用ふといふ。〔說文、履、段注〕古曰㆑屨、今曰㆑履、古曰㆑履、今曰㆑鞵、名之隨㆑時不㆑同者也、引㆓伸之㆒訓㆑踐、云云、又引㆓伸之㆒訓㆑祿、云云、又引㆓伸之㆒訓㆑禮、云云、彳・夊、皆行也。〔說文通訓定聲〕履、从㆑彳从㆑夊、會意、舟象㆓履形㆒、尸聲、云云、此字、本訓㆑踐、轉注爲㆘所㆓以踐㆒之具㆖也。

【履鞵】1 リアイ　くつ。はきもの。〔中黃眞經、乘㆓服彩霞㆒歸㆓太極㆒、注〕龍杖及履鞵等物、安㆓置於頭邊㆒。

【履安】2 リアン　字號。㊀清、張泰開(4—9812・・131)の字。㊁清、方世泰(5—13620・・562)の字。㊂清、方貞觀(5—13620・・594)の字。㊃清、萬泰(9—31339・・333)の字。

【履菴】3 リアン　明、萬士和(9—31339・・584)の號。

【履位】4 リヰ　くらゐをふむ。其の地位に卽く。〔易、履〕剛正履㆓帝位㆒。〔莊子、天道〕貴賤履㆑位。

【履游】5 リイウ　ふみあそぶ。〔枚乘、七發〕履㆓游麕兔㆒、蹈㆓踐麖鹿㆒。

【履影】6 リエイ　影をふむ。〔大戴禮、衞將軍文子〕往來過㆑人不㆑履㆑影。〔孔子家語、弟子行〕往來過㆑之、足不㆑履㆑影。

【履園】7 リヱン　清、錢泳(11—40563・・11)の號。

【履行】8 リカウ　㊀ふみおこなふ。實際に行ふ。實踐。又、行爲。品行。〔說苑、政理〕子賤曰、自㆓吾之仕㆒、未㆑有㆑所㆑亡、而所㆑得者三、始誦㆓之文㆒、今履而行㆑之、是學日益明也。〔後漢書、呂強傳〕南面當㆑國、宜㆔履㆓行其事㆒。〔蜀志、先主甘后傳〕皇思夫人、履行修㆑仁。〔晉書、成帝紀〕其詳求㆘衞公山陽公近屬、有㆓履行修明㆒、可㆔以繼㆓承其祀㆒者㆖。㊁ふみゆく。恐懼して漸く一歩一歩ふみゆく。〔莊子、天道〕士成綺鴈行避㆑影、履行遂進、而問㆓修身若何㆒。

【履危】10 リキ　㊀危險な所に身を置く。又、危險なことをする。〔大戴禮、曾子本孝〕孝子不㆑登㆑高、不㆑履㆑危。〔新語、輔政〕履㆑危者、任㆑杖不㆑可㆓以不㆑固。〔淮南子、原道訓〕履㆑危行㆑險。㊁屋根の棟木をふむ。危は、屋棟の高く危い處をいふ。〔禮、喪大記〕皆升㆑自㆓東榮㆒、中㆑屋履㆑危。〔疏〕履㆑危者、踐㆓履屋棟上高危處㆒而復也。

【履癸】11 リキ　夏桀(3—5720・・78)をいふ。

【履狶】12 リキ　豕を買ふ時、先づ豕の股脚の閒を踐んで其の肥瘠を驗するをいふ。轉じて、民情を探知するをいふ。〔莊子、知北游〕正獲之問㆓於監市履㆑狶也、每㆑下愈況。〔注〕狶、大豕也、夫監市之履㆑豕、以知㆓其肥瘦㆒者、愈履㆓其難㆑肥之處㆒、愈知㆓豕肥之要㆒。〔黃庭堅、寄㆓上叔父夷仲㆒詩〕庖丁解㆑牛妙㆓世故㆒、監市履㆑狶知㆓民心㆒。

【履祺】13 lü³ ch'i²　福祉。幸福。

【履綦】14 リキ　くつのひも。又、くつの下の飾。〔漢書、外戚下、孝成班倢伃傳〕俯視㆓兮丹墀㆒、思㆓君兮履綦㆒。〔注〕師古曰、綦、履下飾也、言㆘視㆓殿上之地㆒、則思㆗君履綦之迹㆖也。〔班倢伃、自悼賦〕俯視㆓兮丹墀㆒、思㆓君兮履綦㆒。〔白居易、感情詩〕永願㆑如㆓履綦㆒、雙行復雙止。

【履綦絕】14′ リキタツ　くつのひもの切れること。轉じて、相思の關係の絕えること。〔陸機、倢伃怨詩〕昏黃履綦絕、愁來空雨面。

【履義】15 リギ　正道をふみ行ふ。〔後漢書、任延傳〕龍丘先生、躬㆑德履㆑義、有㆓原憲・伯夷之節㆒。〔晉書、王覽傳〕覽少篤至行、服㆑仁履㆑義、貞素之操、長而彌固。

【履吉】16 リキツ　字號。㊀明、周益祥(2—3441・・548)の字。㊁明、王寵(7—20823・・805)の字。㊂清、吳坦(2—3365・・292)の字。

【履屩】17 リキヤク　履蹻に同じ。〔韓非子、外儲說左下〕今臣罷㆓四國之兵㆒、而王乃與㆓臣五乘㆒、此其稱㆑功、猶㆓贏㆑勝而履㆑蹻。〔集解〕御覽八百二十九引、蹻作㆑屩、案、蹻、屩二字、古今文通用。〔孝子傳〕北平陽公輦、水作㆑漿、以給㆓過者㆒、兼補㆓履

屩一、不レ取二其直一。

【履蹻】18リキャク　わらぐつを穿つ。又、わらぐつ。草履。履屩。〔戰國、秦策〕說二秦王一書十上、而說不レ行、黑貂之裘敝、黃金百斤盡、資用乏絕、去レ秦而歸、羸レ縢履レ蹻、負レ書擔レ囊、形容枯槁、而目犂黑、狀有二歸色一。〔新書、屬遠〕履蹻不二數易一、不レ足二以至一。

【履虛】19リキョ　虛空を履む。そらを歩く。〔列子、黃帝〕履レ虛乘レ風、其可レ幾乎。

【履屨】20リク　草履。くつ。〔大戴禮、武王踐阼〕于レ杖爲レ銘焉、于レ帶爲レ銘焉、于二履屨一爲レ銘焉、于二觴豆一爲レ銘焉。

〔履屨銘〕21リクノメイ　周の武王の銘。草履に書いたもの。〔大戴禮、武王踐阼〕履屨之銘曰、愼之勞、勞則富。

【履空】22リクウ　穴のあいたくつをはく。〔漢書、鮑宣傳〕唐尊衣レ敝履レ空、以二瓦器一飮食。

【履滑】23リクワツ　くつがすべる。〔閻長言、婆速道中書レ事詩〕履滑心頻悸、梯危骨欲レ消。

【履傾】24リケイ　傾覆しようとする立場にあること。〔新語、輔政〕乘レ危履レ傾、則以二賢聖一爲レ杖。

【履繫】25リケイ　くつのひも。〔韓非子、外儲說左下〕晉文公與レ楚戰、至二黃鳳之陵一、履繫解、因自結レ之。

【履屐】26リゲキ　❶はきものをはく。履屐之才を見よ。❷草履と木履。はきもの。〔黃滔、石臺詩〕白雲與二翠霧一、复在二履屐下一。

〔履屐之才〕27リゲキノサイ　微細のことにまでも才の行き届くをいふ。履屐は、草履と木履とで微細な事柄の喩。〔晉書、謝玄傳〕郗超曰、吾嘗與レ玄共在二桓公府一、見二其使レ才、雖二履屐之間一、亦得二其任一、所二以知レ之。

【履決】28リケツ　履がさける。〔呂覽、分職〕今民衣弊不レ補、履決不レ組、君則不レ寒矣、民則寒矣。

【履潔】29リケツ　正しい道をふみ行ふ。〔梁昭明太子、文選序〕楚人屈原、含レ忠履レ潔。〔楊億、君可思賦〕中履レ潔以好修兮、外葆レ光而虛受。

【履軒】30リケン　字號。❶清、蔣洲(9−31820··53)の字。❷中井積德の號。中井履軒(1−73··913)を見よ。

【履楥】31リケン　くつのかた。楥、或は楦(6−15159)に作る。〔廣韻〕楥、靴履楥、又法也。

【履險】32リケン　あぶない處に居る。〔孫綽、司空庾冰碑〕履レ險思レ夷、處レ滿思レ沖。〔歐陽脩、晝舫齋記〕周易之象、至二於履レ險蹈レ難、必曰レ涉レ川。

【履謙】33リケン　謙讓の德をふみ行ふ。〔後漢書、鄧騭傳〕當レ享二積善履謙之祐一。〔傳亮、爲二宋公一求三加二贈劉前軍一表〕履レ謙居レ寡。

【履元】34リゲン　清、談炎衡(10−35633··82)の字。

【履絝】35リコ　くつとはかま。〔漢書、貢禹傳〕後世爭爲二奢侈一、轉轉益甚、臣下亦相放效、衣服履絝刀劍、亂二於主上一、主上時臨レ朝入レ廟、衆人不レ能二別異一、甚非二其宜一。

【履工】36リコウ　穿き物を作る職人。靴工。〔通典、職官典、秩品四〕石工・裘工・履工・鞄工・鞾工・韋工。

【履候】37リコウ　時をふむ。適當な時期をはづさない。〔梁武帝、與二何胤一書〕以レ道養レ和、履レ候無レ爽。

【履痕】38リコン　くつのあと。履跡。〔劉長卿、尋二南溪常道人隱居一詩〕一路經行處、莓苔見二履痕一。

【履歲】39リサイ　歲を經る。〔顏氏家訓、風操〕已孤而履レ歲、及二長至之節一、無レ父拜レ母。

【履齋】40リサイ　宋、吳潛(2−3365··271)の號。

〔履齋遺集〕41リサイヰシフ　書名。四卷。宋、吳潛撰。明、梅鼎祚輯。詩一卷・詞一卷・雜文二卷。〔四庫提要、集、別集類〕。

【履莊】42リサウ　唐、楊弘禮(6−15112··533)の字。

【履箱】43リサウ リシヤウ　履を入れる箱。〔梁武帝、河中之水歌〕珊瑚掛レ鏡爛生レ光、平頭奴子擎二履箱一。〔謝氏詩源〕姜氏啓二履箱一、取二連理線・貫雙針一、結二同心花一以答レ之。

【履霜】44リサウ　霜をふむ。履霜之戒を見よ。〔易、坤〕初六、履レ霜堅冰至。〔潘岳、寡婦賦〕自二仲秋一而在レ疚兮、踰二履レ霜以踐レ冰。

〔履霜操〕45リサウサウ　樂府琴曲歌辭の名。周の尹吉甫の子、伯奇作。伯奇が繼母の讒に遭ひ、野に放たれて其の冤を歌つたもの。唐の韓愈にも歌辭がある。〔樂府詩集、琴曲歌辭、履霜操〕琴操曰、履霜操、尹吉甫之子伯奇所レ作也、伯奇無レ罪、爲二後母讒一而見レ逐、乃集二芰荷一以爲レ衣、採二楟花一以爲レ食、晨朝履レ霜、自傷レ見レ放、於レ是、援レ琴鼓レ之、而作二此操一、曲終、投レ河而死。〔尹伯奇、履霜操〕履二朝霜一兮採二晨寒一、考不レ明二其心一兮聽二讒言一、孤恩別離兮摧二肺肝一、何辜皇天兮遭二斯愆一、痛歿不レ同兮恩有レ偏、誰說顧兮知二我冤一。〔韓愈、履霜操〕父兮兒寒、母兮兒飢、兒罪當レ笞、逐レ兒何爲、兒在二中野一、以宿以處、四無二人聲一、誰與レ兒語、兒寒何衣、兒飢何食、兒行二于野一、履レ霜以レ足、母生二衆兒一、有二母憐レ之、獨無二母憐一、兒寧不レ悲。

〔履霜之戒〕46リサウノイマシメ　霜が降るとやがて氷が張るといふことから、前兆を見て禍を戒愼せよといふ戒。秋霜之戒。〔唐書、高宗紀贊〕不レ戒二履霜之漸一、而毒流二天下一、貽二禍邦家一。〔王惲、羽林萬騎歌〕履レ霜得レ冰忽深戒、禍始二房陵帝私語一。

【履靸】47リサウ　くつ。〔春渚紀聞〕有下食二牛肉一及著二牛皮履靸一過者上。

【履子】48リシ　くつ。はきもの。〔中華古今注〕履子、謂二之仙飛一。

【履之】49リシ　字號。❶宋、方大壯(5−13620··576)の字。❷宋、劉砥(2−2224··510)の字。

【履祉】50リシ　lü³ chih³　福祉。幸福。

【履絲】51リシ　生絲で作つたくつをはく。奢侈をいふ。〔漢書、食貨志上〕乘レ堅策レ肥、履レ絲曳レ縞。

【履尙】52リシヤウ　品行の高尙なこと。〔晉書、簡文帝紀〕會稽王叔、履尙淸虛、志レ道不レ倦。

【履祥】53リシヤウ　字號。❶金、趙重福(10−37171··791)の字。❷明、黃良佑(12−47926··1346)の字。

【履常】54リジヤウ　字號。❶宋、趙崇憲(10−37171··711)の字。❷宋、趙汝談(10−37171··692)の字。❸宋、陳師道(11−41698··923)の字。❹元、丘一中(1−33··126)の字。❺元、孫轍(3−6987··232)の字。❻明、黃承元(12−47926··1165)の字。

【履若】55リジヤク　明、王綦(7−20823··201)の字。

【履初】56リショ　唐、蕭復(9−32012··244)の字。

【履苴】57リショ　履の中に敷く物。くつしき。古はあぶらがやで作つた故に、轉じて、あぶらがやの異名となる。菌藘。〔爾雅、釋草、菌藘、注〕作二履苴一草。〔疏〕字苑云、鞔苴、履底、故云下作二履苴一草上也。

【履蹤】58リショウ　ふんだ足あと。轉じて、人の行跡。〔張蠙、遇二道者一詩〕數里白雲裏、身輕無二履蹤一。

【履信】60リシン　❶信を履み行ふ。〔易、繫辭上〕子曰、祐者、助也、天之所レ助者、順也、人之所レ助者、信也、履レ信思二乎順一、又以尙レ賢也。〔蜀志、後主劉禪傳〕履レ信思レ順、以享二左右無疆之休一。❷新論の篇名。❸字號。㋑元、胡助(9−29400··188)の字。㋺明、陳信(11−41698··374)の字。

【履眞】61リシン　❶まことの道を行ふ。〔水經、灤水注〕履レ眞懷レ道、窮二數術之美一。❷清、桂中行(6−14755··145)の字。

【履新】62リシン　❶新しきをふむ。新年をいふ。履端。〔唐書、禮樂志九〕官臣某言、元正首祚、景福維新、云云、在位者皆再拜宣制曰、履新之慶、與二公等一同レ之、在位者皆再拜舞蹈、三稱二萬歲一。〔書言故事、正月〕履新、正旦以二書啓一賀レ人、曰三謹致二履新之慶一。❷li³ hsin¹　官吏が赴任すること。新任の職につく。

【履仁】63リジン　明、王寵(7−20823··805)の字。

【履正】64リセイ　正道をふみ行ふ。〔魏志、崔林傳〕夫宰相者、天下之所二瞻效一、誠宜レ得下秉レ忠履レ正、本レ德仗レ義之士、足レ爲三海內所二師表一者上。〔高允、徵子頌〕蹈レ方履レ正、好是繩墨。

【履制】65リセイ　くつの制式。〔宋史、輿服志五〕大抵參二用履制一、惟加レ勒焉。

【履聲】66リセイ　履のおと。漢の鄭崇は尙書僕射となり、常に草履の音をたてて天子に見えたといふ。〔漢書、鄭崇傳〕哀帝擢爲二尙書僕射一、每レ見曳二革履一、上笑曰、我識二鄭尙書履聲一。〔杜甫、贈二左僕射鄭國公嚴公武一詩〕京兆空二柳色一、尙書無二履聲一。〔書言故事、冠屨類〕邀レ客、曰三佇聽二履聲一。

【履石】67リセキ　石をふむ。〔甘澤謠〕履レ石而動。〔宋史、徐積傳〕以二父名石一、終身不レ用二石器一、行遇レ石、則避而不レ踐。

【履迹】68リセキ　❶足でふんだあと。くつあと。❷足あとをふむ。先人の業や行に從つてゆく。〔蜀志、楊戲傳〕躡レ基履レ迹、播レ德芳レ聲。

【履舃】69 リセキ くつ。履は一重底のくつ。舃は二重底のくつ。〔隋書、禮儀志七〕複下曰レ舃、單下曰レ履、云云、凡舃、唯冕服及具服著レ之、履則諸服皆用。〔白居易、對酒吟〕履舃從二相近一謳吟任レ所レ須。

【履舃交錯】70 リセキカウサク くつが入りまじること。轉じて、賓客の衆いことをいふ。〔史記、滑稽、淳于髡傳〕男女同レ席、履舃交錯、杯盤狼藉、堂上燭滅。

【履跡】71 リセキ ㊀ふんだ足跡。履痕。履迹。〔裴迪、華子岡詩〕雲光侵二履跡一、山翠拂二人衣一。〔李商隱、喜レ雪詩〕寂寞門扉掩、依稀履跡斜。㊁足あとをふむ。〔琅琊代醉編、履跡〕姜嫄履二巨人跡一而生レ棄、列子記レ之、太史公・褚先生・鄭康成記レ之、歐陽永叔・蘇明允・洪駒文、皆辨レ無二是事一、羅苹曰、宋濟南太守蕭承之、立二神迹祠於章丘縣之龍盤山一、妻學レ履之、是生二齊帝一、見二本史一、則列子之言、未レ可二遽廢一。

【履雪】72 リセツ 雪をふむ。漢の東郭先生が、貧困の爲、底の破れた靴を穿き雪を履んで歩いた故事。〔史記、滑稽傳〕褚先生曰、東郭先生、久待二詔公車一、貧困飢寒、衣敝、履不レ完、行二雪中一、履有レ上無レ下、足盡踐レ地、道中人笑レ之、東郭先生應レ之曰、誰能履行二雪中一、令二人視レ之、其上履也、其履下處、乃似二人足一者乎。

【履節】73 リセツ 宋、趙崇度(**10**—**37171**‥715)の字。

【履屨】74 クツワラ くつの中に敷く薦。くつしき。〔倭名類聚抄、裝束部、履襪具、履屨〕久都和良、一云、久都乃之岐、履中薦也。

【履先】75 リセン 清、羅天尺(**9**—**28397**‥391)の字。

【履穿】76 リセン くつに穴があく。〔莊子、山木〕衣弊履穿、貧也、非レ憊也。〔會稽典錄〕徐弘爲二右扶風都尉一、家無二餘產一、衣敝履穿。

【履踐】77 リセン ふむ。行ふ。〔白虎通、禮樂〕禮之爲レ言、履也、可二履踐而行一。

【履善】78 リゼン 字號。㊀宋、韓祥(**12**—**43159**‥114)の字。㊁宋、文天祥(**5**—**13450**‥1027)の字。

【履祚】79 リソ 天子の位につく。卽位。踐祚。〔蔡邕、漢太尉楊公碑〕受二茲介福一、履祚孔成。

【履素】80 リソ 明、黃承昊(**12**—**47926**‥1163)の字。

【履組】81 リソ 綾のある組紐で飾った履。〔陸機、弔二魏武帝一文〕諸舍中無レ所レ爲、學レ作二履組一賣也。〔注〕銑曰、組者、以二綵色一飾レ之也。

【履足】82 リソク 他人の足をふむ。又、相手の足をふむ程接近するをいふ。〔左氏、文、十三〕秦伯許レ之、履二士會之足于朝一。〔王僧孺、與二何炯一書〕豈復得下與二二三士友一抗レ首接レ膝、履レ足差上レ肩。

【履帶】83 リタイ くつとおび。〔呂覽、恃君覽〕無二衣服履帶、宮室畜積之便一。

【履戴】84 リタイ 地を履み天を戴く。履地(90)を見よ。〔左氏、僖、十五〕君履二后土一、而戴二皇天一、皇天后土、實聞二君之言一。〔北史、宇文護傳〕顧視悲摧、心情斷絕、胡顏履戴、負二媿神明一。

【履蹈】85 リタウ ふむ。行ふ。〔禮、表記、道者義也、疏〕凡可二履蹈而行一者、必斷割得レ宜、然後可二履蹈一、故云二道者義也一。

【履道】86 リダウ ㊀ふみ行ふ道。又、正しい道をふみ行ふ。〔易、履〕履道坦坦、幽人貞吉。〔白虎通、情性〕履レ道成レ文也。〔曹植、王仲宣誄〕三台樹レ位、履レ道是鍾。〔注〕向曰、言レ履二道於光武代一也。㊁洛陽の里巷の名。唐の白居易の居たところ。〔唐書、白居易傳〕東都所レ居履道里、疏レ沼種レ樹。㊂字號。㋑宋、謝履(**10**—**35827**‥230′)の字。㋺宋、王安中(**7**—**20823**‥1114)の字。㋩金、耶律履(**9**—**29008**‥33)の字。㋥金、移剌履(**8**—**25045**‥108)の字。㋭明、周砥(**2**—**3441**‥229)の字。㋬明、葉砥(**9**—**31387**‥60)の字。

【履脫】87 クツヌギ はきものを脫ぐ處。〔續古事談、一〕主殿司あこ丸、云云、くつぬぎに召して。

【履炭】88 リタン 火をふむ。艱難に逢ふことの喩。〔曹植、上疏陳二審擧之義一〕今臣與二陛下一、踐レ冰履レ炭、登レ山涉レ澗、寒溫燥濕、高下共レ之、豈得レ離二陛下一哉。

【履端】89 リタン ㊀曆を定める元點とする。十一月甲子朔旦冬至(此の時、日月五星は皆、牽牛初度に起る)を以て曆元と爲し、これを以て曆を定める元點とする。〔左氏、文、元〕先王之正レ時也、履二端於始一。〔注〕步曆之始、以爲二術之端首一。〔疏〕履、步也、謂下推二步曆之初始一、以爲中術曆之端首上、云云、曆之上元、必以二日月全數一爲レ始、於レ前更無二餘分一、以二此日一爲二術之端首一、故言三履二端於始一也。〔史記、歷書〕履二端於始一、擧二正於中一。㊁曆の始。正月元旦。又、新年。履新。〔庾信、哀江南賦〕天子履端廢レ朝、單于長圍高宴。〔張華、食擧東西廂樂詩〕履端承二元吉一、介福御二萬邦一。〔初學記、歲時部下、元日〕履端、正始。〔注〕臧榮緖晉書曰、熊遠議曰、履端元日、正始之初、有識之士、於レ是觀二禮樂一。〔書言故事、正月〕元日賀レ人、曰二履端之慶一。㊂帝王が卽位の初に改元することをいふ。〔晉書、景帝紀〕帝又諫曰、履二端初政一、宜レ崇二玄樸一。

【履地】90 リチ 地をふむ。〔說苑、辨物〕得二蒙レ天履レ地、而長爲レ人矣。〔後漢書、翟酺傳〕豈敢雷同受レ寵而以戴レ天履レ地。〔晉書、樂志下〕足以蹈レ天、頭以履レ地、反二天地之至順一。〔周書、晉蕩公傳〕爾戴レ天履レ地。

【履長】91 リチャウ 冬至をいふ。冬至は黃鐘の律に當り、黃鐘は其の律管が最も長いからいふ。履長之賀を見よ。〔曹植、冬至獻二襪履一表〕亞歲迎レ祥、履長納レ慶。

【履長之賀】92 リチャウノガ 冬至の慶賀をいふ。履長を見よ。〔玉燭寶典六〕冬至、律中二黃鐘一、其管最長、故有二履長之賀一。

【履杖】93 リチャウ くつとつゑ。〔新書、春秋〕胡亥下レ陛、視下羣臣陳二履杖一善者上、因行二殘敗一而去。

【履中】94 リチュウ ㊀中庸の道を行ふ。〔太平御覽、皇王部、敘皇王〕春秋運斗樞曰、皇者、合レ元履レ中、開レ陰布レ網。〔說苑、脩文〕彼舜以二匹夫一、積レ正合レ仁、履レ中行レ善、而卒以興。㊁第十七代の帝諡。㊂字號。㋑宋、祝常(**8**—**24672**‥63)の字。㋺宋、李復(**6**—**14459**‥707)の字。㋩明、曹逵(**5**—**14297**‥38)の字。㋥明、朱謀毬(**6**—**14424**‥993)の字。㋭清、達禮(**11**—**39011**‥127)の字。㋬清、張和(**4**—**9812**‥756)の字。

【履底】95 リテイ くつのそこ。〔後漢書、祭祀志、上〕至二奉高一、〔注〕後人見二前人履底一、前人見二後人頂一。

【履貞】96 リテイ 正しい道をふみ行ふ。〔曹植、卞太后誄〕蹈レ和履レ貞、恭事二神祇一。

【履度】97 リド ㊀規則に從つて行ふ。〔蜀志、郤正傳〕君臣履レ度、各守二厥眞一。㊁くつの寸法。〔晉書、陶潛傳〕潛無レ履、弘顧二左右一爲レ之造レ履、左右請二履度一、潛便於レ坐、伸レ腳令レ度焉。

【履東】98 リトウ 清、胡德銓(**9**—**29400**‥590)の字。

【履德】99 リトク 字號。㊀明、沈行(**6**—**17189**‥69)の字。㊁清、楊履基(**6**—**15112**‥802)の字。

【履任】100 li^3 jen^4 赴任する。

【履破】101 リハ くつがやぶれる。〔陸游、送三子龍赴二吉州掾一詩〕衣穿聽レ露レ肘、履破從レ見レ指。

【履方】102 リハウ ㊀方正の道を踐む。〔淮南子、本經訓〕法二陰陽一者、戴レ圓履レ方、抱レ表懷レ繩。〔高士傳〕許由爲レ人、據レ義履レ方、邪席不レ坐、邪膳不レ食。〔陸雲、高岡詩〕員規啓裕、沈矩履方。㊁清、何遠(**1**—**511**‥16)の字。

【履芳】103 リハウ 清、何遠(**1**—**511**‥16)の字。

【履袍】104 リハウ 袍の一。履を穿くときに着るもの。〔宋史、輿服志三〕乾道九年、又用二履袍一、袍以二絳羅一爲レ之、折二上巾一、通二犀金玉帶一、繫レ履則曰二履袍一、服レ韡則曰二韡袍一、履韡皆用二黑革一。

【履薄】105 リハク うすい氷をふむ。危きを冒す喩。履冰(107)を見よ。〔詩、小雅、小旻〕如レ臨二深淵一、如レ履二薄冰一。〔傳〕恐レ陷也。〔後漢書、楊終傳〕今君位地尊重、海內所レ望、豈可レ不三臨レ深履レ薄、以爲二至戒一。〔潘岳、西征賦〕心戰懼以兢悚、如二臨レ深而履レ薄。〔顏氏家訓、風操〕常爲二臨レ深履レ薄之狀一焉。

【履尾】106 リビ 虎の尾をふむ。危險な事の喩。〔易、履〕履二虎尾一、咥レ人、亨。〔注〕履二虎尾一者、言二其危一也。〔晉書、袁宏傳〕仁者必勇、德亦有レ言、雖レ遇二履尾一、神氣恬然。

【履冰】107 リヒョウ 薄い氷をふむ。危きを冒す喩。履薄(105)を見よ。〔詩、小雅、小旻〕戰戰兢兢、如レ臨二深淵一、如レ履二薄冰一。〔傳〕恐レ陷也。〔大戴禮、曾子疾病〕與二君子一遊、如レ長レ日、加レ益而不二自知一也、與二小人一遊、如レ履二薄冰一、每履而下、幾何而不レ陷乎哉。〔吳志、薛綜傳〕遵二乘橋之安一、遠二履冰之險一、則臣子賴レ祉、天下幸甚。〔韋孟、諷諫詩〕不レ惟三履レ冰以繼二祖考一。

【履襪】108 リベツ 履韤に同じ。〔後漢書、董祀妻傳〕時且レ寒、賜以二頭巾履襪一。

【履韤】109 リベツ リバツ くつとくつした。履襪。〔後漢書、魯丕傳〕特賜二冠幘履韤衣一襲一。

【履畝】110（ホリ） 田畝を行く。田畝を巡つて穀物の善惡をしらべる。〔公羊、宣、十五〕初者何、始也、税レ畝者何、履レ畝而税也。〔注〕履踐案行、擇二其善畝一穀最好者、税二取之一。〔論衡、商蟲〕魯宣公履レ畝而税。

【履豐】111（リホウ） 清、額勒布（**12－43586**・・60）の字。

【履約】112（リヤク） ❶儉約の道を行ふ。〔班固、爲二第五倫一薦二謝夷吾一表〕居レ儉履レ約、紹二公儀之操一。〔後漢書、朱浮傳〕清明履レ約、率レ禮無レ違。❷約束を履行する。❸明、王守（**7－20823**・・550）の字。

【履予】113（リヨ） 慶雲。めでたい雲氣。〔廣雅、釋天〕履予、祥氣。〔騈雅、釋天〕履予、慶雲也。

【履立】114（リリツ） 道をふみ行ひ、志を立てる。〔顏氏家訓、勉學〕無二履立一者、自レ兹墮慢。

【履歷】115（リレキ） 履んで來た經歷。今まで經てきた學業・職業などの次第。〔魏書、源子恭傳〕其履歷清華、名位高達、計二其家累一、應レ在レ不レ輕、今者歸化、何其孤迥。〔揮麈餘話〕王文穆守二杭州一、錢塘一老尉、蒼顏華髮、詢二其履歷一、乃同年生。〔封氏聞見記、壁記〕朝廷百司諸廳皆有二壁記一、敍二官秩創置及遷授始末一、原二其作意一、蓋欲下著二前政履歷一、而發中將來健羨上也。〔兩般秋雨盦隨筆〕今之履歷、古之腳色也、通鑑、隋虞世基掌二選曹一、受二納賄賂一、多者超二越等倫一、無者注レ色而已、注レ色者、注二其入仕所レ歷之色一也、宋參レ選者、具二腳色狀一、今謂二之根卻一、又宋人注狀、其始有下竝非二元祐黨人親戚一字樣上、其後有下竝非二蔡京童貫親戚一字樣上。〔陔餘叢考、履歷〕履歷二字、至二宋時一始爲二官場成語一。〔六部成語、吏部、履歷、注解〕作レ官之出身及作レ官之地方及如何保擧、均謂二之履歷一。

【履歷書】116（リレキショ） 其の人の履歷を書いたもの。

【履和】117（リワ） 和の道を履み行ふ。〔曹植、冬至獻二襪韈一頌〕玉趾既御、履レ和踏レ貞。

【視レ履】118（リヲミル） 道を履み行つて其の祥兆を視る。〔易、履〕上九、視レ履考レ祥、其旋元吉。

【履硯齋】119（リケンサイ） 清、汪文柏（**6－17154**・・336）の號。

【履實堂】120（リジツダウ） 清、劉香（**2－2224**・・100）の室名。

【履水珠】121（リスイジュ） 寶珠の名。此の珠を持つてゐると水上を步くことができ、又、水中に入つても濡れないといふ。〔宣室志〕順宗卽レ位歲、拘彌國貢二履水珠一、色黑類レ鐵、大如二雞卵一、其上鱗皺、其中有レ竅、云、持入二江海中一、可レ行二於洪波之上一、遂命二善浮者一、以二五色絲一貫レ之、繫二於左臂一、遣レ入二龍池一、其人則步二驟於波上一、若レ在二平地一、亦潛二於水中一、良久復出、而遍身略無二沾濕一、至二長慶中一、嬪御試弄二於海池一、遂化爲二黑龍一、入二於池內一、俄而雲煙暴起、不二復追討一。

【進レ履之謙】122（リヲススムルノケン） 漢の張良が下邳の圯上で老人にへりくだつて、老人が橋の下に落した履を取つて來てはかせた故事。〔漢書、張良傳〕良嘗閒從容步游二下邳圯上一、有二一老父一、衣レ褐至二良所一、直墮二其履圯下一、顧謂レ良曰、孺子下取レ履、良愕然欲レ毆レ之、爲二其老一、迺彊忍、下取レ履、因跪進、父以レ足受レ之、笑而去。

【納レ履踵決】123（クツヲイルレバクビスケッス） くつを穿けば、くつの踵の所が破れる。それ程のぼろぐつである。曾子の貧をいふ。〔莊子、讓王〕曾子居レ衞、云云、三日不レ擧レ火、十年不レ製レ衣、正レ冠而纓絕、捉レ衿而肘見、納レ履而踵決。

【履雖レ新不レ爲レ冠】124（クツハアラタナリトイヘドモカンムリトナサズ） 履は新しくても矢張足に穿くもので冠とはしない。貴賤上下の別の亂すべからざることの喩。〔史記、轅固生傳〕黃生曰、冠雖レ敝必加二於首一、履雖レ新必關二於足一、何者上下之分也。

【履雖レ鮮不レ加二于枕一】125（クツハアラタナリトイヘドモマクラニクハヘズ） 履は新しくても矢張足に穿くもので、枕にはのせない。履雖レ新履二于地一、履雖レ新不レ爲レ冠に同じ。〔漢書、賈誼傳〕履雖レ鮮不レ加二於枕一、冠雖レ敝不二以苴レ履。〔通俗編、服飾〕履雖レ鮮不レ加二于枕一〕太公六韜、冠雖レ敝加二于首一、履雖レ新履二于地一。

【⿸尸⿰彳夋】7800

リ 履（**4－7799**）の本字。〔正字通〕⿸尸⿰彳夋、履本字、説文作レ⿸尸⿰彳夋。

【⿸尸奠】7801

㊀テン デン 〔集韻〕堂練切 霰

㊁テイ チヤウ 〔集韻〕都挺切 迥

小篆

㊀❶**たくはへる。**〔説文〕⿸尸奠、侍也、从レ尸奠聲。〔段注〕侍者、儲也。❷**さだめる。**定（**3－7109**）に通ず。〔説文通訓定聲〕⿸尸奠、叚借爲レ定、太玄、玄攤、天地⿸尸奠レ位。㊁❶**かさねる。**〔玉篇〕⿸尸奠、重也。❷**たくはへる。**㊀の❶に同じ。〔集韻〕⿸尸奠、一曰、侍也。❸**のべる。**〔廣韻〕⿸尸奠、展也。

【⿸尸巠】7802

シユク 〔字彙〕初六切 屋

はいりこむさま。〔字彙〕⿸尸巠、入下貌。

【⿸尸粦】7803

リン 〔字彙〕良愼切 震

陰部。〔字彙〕⿸尸粦、閩人謂レ陰也。

【屧】7804

㊀テイ タイ 〔集韻〕他計切 霽

㊁セフ 〔集韻〕悉協切 葉 ㄒㄧㄝˋ hsieh^4

㊀㊁❶**しきわら。くつしき。**屟（**4－7755**）に同じ。〔集韻〕屧、説文、履中薦也、或作レ屟。〔説文〕屟、履之荐也、从レ尸枼聲。〔南史、江泌傳〕晝日斫レ屟爲レ業、夜讀レ書隨二月光一。❷**木で作つたはきもの。**げた。〔説文、屧、王筠句讀〕衆經音義云、屧、鑿レ腹令レ空、薦レ足者也、然則屧以レ木爲レ之、而空二其中一也。〔增韻〕屧、屐也。〔北戸錄〕抱木、產二水中一、云云、今潮州・新州多刳レ之以爲レ屧。

【屧廊】1（セフラウ） 廊下。響屧廊（**12－43325**・・53）を見よ。〔高啓、十宮詞、吳宮〕芙蓉水殿屧廊東、白苧秋來不レ耐レ風。〔剪燈餘話、月夜彈琴記〕屧廊空信二野花埋一。

【倒レ屧】2（セフヲサカサマニス） げたを倒さに穿く。あわてて人を迎へること。來客を歡迎する喩。倒レ屣（**4－7791**・・2）に同じ。〔皮日休、二遊詩、任詩〕多君方閉レ戸、顧レ我能倒レ屧。

【⿸尸函】7805

クツ グチ 〔篇海類編〕渠物切 物

しやくんだ顏。〔篇海類編〕⿸尸函、短貌曲也。

【⿸尸國】7806

コク 義未詳。〔海篇〕⿸尸國、音國。

【⿸尸舜】7806′

ソウ 奏（**3－5915**）の古字。〔字彙補〕⿸尸舜、古文奏字。

十三畫

【⿸尸黽】7807

ク 鼩（**12－48271**）に同じ。〔字彙補〕⿸尸黽、與レ鼩同、頭有二兩角一、出二遼東一。

【⿸尸資】7808

シ 〔集韻〕千咨切 支

これ。この。屎（**4－7695**）に同じ。〔集韻〕屎、倉頡篇、此也、或从レ資。

十四畫

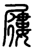
【⿸尸桑】7810

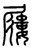
チ

⿸尸⿱彑糸(4-7819)の譌字。〔正字通〕⿸尸桑、⿸尸⿱彑糸字之譌。

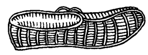
【屨】7811

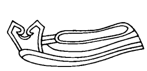
ク 〔集韻〕俱遇切 遇 ㄐㄩˋ chü⁴


小篆（說文）


小篆（段注本）

❶くつ。ざうり。はきもの。〔說文〕屨、履也、从二履省一婁聲。〔段注〕晉蔡謨曰、今時所謂履者、自レ漢以前皆名レ屨、云云、屨・舄者、一物之別名、履者、足踐之通稱、按、蔡說極精、云云、許以レ今釋レ古、故云二古之屨一也。〔玉篇〕屨、履屬、麻作謂二之屨一也。〔釋名、釋衣服〕屨、拘也、所二以拘レ足也。❷ひとへ底のくつ。〔周禮、天官、屨人〕掌二王及后之服屨一。〔注〕複下曰レ舄、禪下曰レ屨、古人言レ屨以通二於複一、今世言レ屨以通二於禪一、俗易語反與。〔禮、曲禮上〕戶外有二二屨一。〔釋文〕單下曰レ屨。❸そまつなくつ。〔方言、四〕扉・屨、麤履也。〔左氏、僖、四〕共二其資糧扉屨一。〔疏〕絲作レ之曰レ履、麻作レ之曰レ扉、麤者謂二之屨一。❹かはぐつ。〔說文〕屨、一曰、鞮也。〔鍇注〕鞮、革屨也。〔字彙〕屨、革履。❺はく。〔易、噬嗑〕屨レ校滅レ趾。〔虞注〕屨、貫也。〔疏〕屨、謂二著而履踐一也。❻ふむ。〔揚雄、羽獵賦〕屨二般首一。〔注〕善曰、屨、謂三踐二履之一也。❼つく。其の地位につく。〔史記、季布欒布傳〕身屨二典軍一。〔注〕集解曰、屨、履二蹈之一也。❽しばしば。屢(4-7787)に通ず。〔說文通訓定聲〕屨、叚借爲レ屢。〔禮、樂記〕臨レ事而屨斷。〔注〕屨、數也。❾履(4-7799)に通ず。〔列子、黃帝〕提レ屨徒跣而走。〔釋文〕屨、一作レ履。


❶屨（三才圖會）


❷屨（禮器圖）

【屨校】1 クカウ あしかせを著ける。校は足械。〔易、噬嗑〕屨レ校滅レ趾無レ咎。〔疏〕屨、謂二著而履踐一也、校、謂二所レ施之械一也。

【屨企】2 キク くつをつまだてる。〔李華、含元殿賦〕遞攀援而聳仰、齊屨企而冠騰。

【屨虧】3 キク くつがやぶれる。〔貢父詩話〕汪自爲二平羅詩一刺二時病一云、穴レ垣補二墻隙一、墻成垣已墮、斷レ屨補二穿履一、履成屨亦虧。

【屨絇】4 クク くつの飾。絇は、くつの先のかざり。〔禮、玉藻〕不二屨絇一、無二緦服一。〔注〕絇、屨頭飾也。

【屨飾】5 クシヨク くつの飾。〔儀禮、士冠禮、爵弁纁屨、黑絇繶純、注〕爵弁屨、以レ黑爲レ飾、爵弁尊、其屨飾以二績次一。

【屨人】6 クジン 周官の名。天官の屬。天子・王后のくつを掌る。〔周禮、天官、屨人〕掌二王及后之服屨一。

【屨席】7 クセキ くつとむしろ。〔宋史、食貨志下八〕所レ造屨席之類、確署給レ券、聽二渡レ江販易一。

【屨舃】8 クセキ くつ。屨は一枚底のくつ、舃は二枚底のくつ。舃は又舄に作る。〔周禮、天官、屨人〕掌二王及后之服屨一。〔注〕玄謂、凡屨舃、各象二其裳之色一。〔輟耕錄、屨舃履考〕屨舃履、屨人注、禪レ下曰レ屨、複下曰レ舃。

【屨頭】9 クトウ くつのさき。〔周禮、天官、屨人、青句、疏〕言レ絇、謂二屨頭以レ條爲レ鼻。〔儀禮、士冠禮、青絇繶純、注〕絇之言、拘也、以爲二行戒一、狀如二刀衣鼻一、在二屨頭一。

【屨辨】10 クベン 中の裂けた屨。辨は裂けた革。〔晏子、雜、下〕墮者何如、曰、如二屨辨一。

【屨縷】11 ルク 貧民をいふ。夫は屨を捆ち、婦は縷を鬻いで、僅かに生計を立てること。〔管子、輕重甲〕北郭者盡屨縷之甿也。〔纂詁〕夫捆レ屨、婦鬻レ縷、云云、言二貧甚一。

【捆レ屨】12 クツヲウツ くつを作る。捆は、椎でうって固くすること。〔孟子、滕文公上〕捆レ屨織レ席。〔集說〕捆、猶二扣椓一也、織レ屨欲レ使レ堅、故叩レ之也。

【納レ屨】13 クツニイル くつをはく。〔禮、曲禮上〕跪而遷レ屨、俯而納レ屨。

【屨賤踊貴】14 クハヤスクヨウハタフトシ 屨の價が安くて、踊の價が高い。踊は、罪によって足をきられた人のはくくつ。屨よりも踊の需用の方が多いことで、罪を犯す者の多い喩。〔左氏、昭、三〕國之諸市、屨賤踊貴。〔注〕踊、刖レ足者屨也、言二刑多一也。

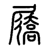
十五畫

【屩】7812

㊀キヤク カク 〔集韻〕訖約切 ㄐㄩㄝˊ chüeh² 藥

㊁キク 〔正字通〕居六切 屋

㊂ケウ 〔集韻〕丘袄切 蕭


小篆

㊀㊁㊂❶いとぐつ。麻で作ったくつ。ざうり。わらぢ。〔說文〕屩、履也、从二履省一喬聲。〔段注〕按、屩、蓋輕便可二遠行一之履、非二法服之履一也。〔急就篇、二〕屐屩素麤贏窶貧。〔注〕屩、卽今之鞋也。〔釋名、釋衣服〕屩、草履也、履、蹻也、出行著レ之、屩屩輕便、因以爲レ名也。〔廣韻〕屩、草履也。〔六書故〕屩、疏屨也。〔增韻〕屩、麻曰レ屩、木曰レ屐。〔莊子、天下、以二跂蹻一爲レ服、釋文〕屩、鞋類也、李云、麻曰レ屩。❷くつしき。しきわら。〔莊子、天下〕以二跂蹻一爲レ服。〔釋文〕屩、以藉二鞋下一也。❸或は繑(8-27886)・鞽(12-43028)に作る。〔集韻〕屩、或作レ繑、亦从レ革。❹通じて蹻(10-37887)に作る。〔集韻〕屩、通作レ蹻。〔莊子、天下、以二跂蹻一爲レ服、釋文〕屩、與レ蹻同。

【屩子】1 キヤクシ わらぐつ。〔後漢書、南蠻、哀老夷傳、猩猩、注〕楚南中志曰、猩猩在二山谷中一、行無二常路一、百數爲レ羣、土人以二酒若糟設二於路一、又喜二屩子一、土人織レ草爲レ屩、數十緉相連結、猩猩在二山谷一、見二酒及屩一、知二其設張者一、卽知二張者先祖名字一、乃呼二其名一而罵云、奴欲レ張レ我、舍レ之而去、去而又還、相呼試共嘗レ酒、初嘗少許、又取二屩子一著レ之、若進二兩三升一、便大醉、人出收レ之、屩子相連不レ得レ去、執還內二牢中一。

【屩靪】2 タチハメ 牛皮を裁って裏にはめた草履。今の雪駄に類し、中古、下賤の人が用ひたもの。〔倭名類聚抄、裝束部、履襪具、屩靪〕唐韻云、靪、補二履下一也。〔注〕今案、下賤人以二牛皮一補二著屩下一、云二太知波女一、宜レ用二此字一乎。

【屩鼻】3 キヤクビ 草履の上紐。〔金樓子、立言〕鋸齒不レ能二咀嚼一、箕口不レ能レ別レ味、榼耳不レ能レ理二音樂一、屩鼻不レ能レ達二芬芳一。

【屪】7813

レウ 〔字彙〕力宵切 蕭

男子の陰部。〔字彙〕屪、男陰名。

【⿸尸塿】7814

ロウ

樓(6-15430)に同じ。〔康熙字典〕⿸尸塿、同レ樓。

十六畫

【屫】7815

キヤク

屩(4-7812)に同じ。〔集韻〕屩、或作レ屫。

【㞡】7816

テン

展(4-7715)の本字。〔正字通〕展、說文作レ㞡。

【⿸尸盧】 7817

ロ　廬（4－9535）の俗字。〔正字通〕⿸尸盧、俗廬字。

【⿸尸積】 7818

セキ　義未詳。〔搜集玉鏡〕⿸尸積、音積。

【⿸尸⿲糸彖糸】 7819

㊀チ　〔集韻〕楮几切　［紙］

㊁チ　〔集韻〕丑二切　［寘］

㊀㊁**かひこをわけ移す**。或は⿰彖虒（10－33956）・⿰彖殳（5－13292）に作る。〔集韻〕⿸尸⿲糸彖糸、移レ蠶也、或从レ蠶。〔集韻〕⿸尸⿲糸彖糸、蠶析曰レ⿸尸⿲糸彖糸、或从レ支。

十七畫

【⿳亠口⿸尸⿰月凡】 7820

ロ　〔字彙補〕落乎切　［虞］

あをむし。〔字彙補〕⿳亠口⿸尸⿰月凡、⿳亠口⿸尸⿰月凡⿳亠口⿸尸⿰月凡、螟蛉也。

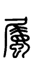
十八畫

【屬】 7821

㊀ショク ソク　〔集韻〕朱欲切　ㄓㄨˇ chǔ　［沃］

㊁ショク ゾク　〔集韻〕殊玉切　ㄕㄨˇ shǔ　［沃］

㊂シュ　〔五音集韻〕朱戍切　［遇］


小篆

㊀㊁❶**つらなる**。**つづく**。〔說文〕屬、連也、从レ尾蜀聲。〔呂覽、精通〕其根不レ屬也。〔注〕屬、連也。〔漢書、食貨志下〕使者冠蓋、相二屬於道一。〔注〕師古曰、屬、聯續也。〔漢書、司馬相如傳下〕犯二屬車之清塵一。〔注〕師古曰、屬者、言二相連續不レ絕也。❷**つづける**。**つらねる**。〔漢書、陳餘傳〕築二甬道一屬レ河。〔注〕師古曰、屬、聯及也。❸**つなぐ**。〔禮、雜記上〕大夫不三揄絞屬二於池下一。〔注〕屬、猶レ繫也。〔漢書、刑法志〕死者不レ可二復生一、刑者不レ可二復屬一。❹**つづる**。〔漢書、賈誼傳〕能誦二詩書一屬レ文。〔注〕師古曰、屬、謂三綴二輯之一也。〔顏延之、贈二王太常一詩〕屬レ美謝二繁翰一。〔注〕善曰、屬、猶レ綴也。❺**むすぶ**。〔國語、晉語四〕必屬レ怨焉。〔注〕屬、結也。❻**かける**。**よせる**。〔莊子、駢拇〕屬二其性乎仁義一。〔注〕以レ此係レ彼爲レ屬。〔疏〕屬、係也。❼**およぶ**。**いたる**。**とどく**。**とどかす**。〔書、禹貢〕涇屬二渭汭一。〔傳〕屬、逮也。〔疏〕屬、謂二相連屬一、故訓爲レ逮、逮、及也。〔書、呂刑〕屬二于五極一。〔戰國、西周策〕除レ道屬二之於河一。〔注〕屬、猶レ至也、通也。〔呂覽、明理〕其氣有二上不レ屬レ天、下不レ屬レ地。〔注〕屬、至也。❽**ちかい**。**ちかづく**。〔漢書、張良傳〕天下屬二安定一。〔注〕師古曰、屬、近也、言レ近二始安一。❾**あはせる**。〔禮、經解〕屬レ辭比レ事。〔注〕屬、猶レ合也。❿**あつまる**。**あつまり**。〔國語、齊語〕兵車之屬六。〔注〕屬、會也。〔淮南子、天文訓〕龍擧而景雲屬。〔注〕屬、會也。⓫**あつめる**。よびよせる。〔周禮、地官、澤虞〕植二虞旌一以屬レ禽。〔注〕屬レ禽、猶二致レ禽而珥一焉。〔左氏、哀、十三〕屬二徒五千一。〔注〕屬、會也。〔孟子、梁惠王下〕乃屬二其耆老一而告レ之。〔注〕屬、會也。〔音義〕屬、會聚也。〔國語、晉語二〕三屬二諸侯一。〔注〕屬、會也。⓬**つく**。**つける**。㋑附著する。附著させる。〔詩、大雅、棫樸、芃芃棫樸、箋〕白桵相樸屬而生者、其枝條芃芃然也。〔左氏、僖、二十三〕右屬二櫜鞬一。〔注〕屬、著也。㋺したがふ。從へる。〔左氏、哀、十二〕不レ屬者非二楚人一也。〔注〕屬、臣屬也。〔漢書、禮樂志〕領二屬雅樂一。〔後漢書、馮異傳〕軍士皆言、願屬二大樹將軍一。㋩そそぐ。あつめる。注意する。注目する。〔國語、晉語五〕恐三國人之屬二耳目於我一也。〔注〕屬、猶レ注也。⓭**うべなふ**。〔南史、鄭鮮之傳〕四坐傾屬。⓮**たのむ**。**ゆだねる**。あづける。〔左氏、隱、三〕召二大司馬孔父一而屬二殤公一焉。〔荀子、彊國〕屬二二三子一而治二其地一。〔注〕屬、請也。〔國語、越語下〕屬二國家一。〔注〕屬、付也。〔呂覽、貴公〕寡人將誰屬レ國。〔注〕屬、託也。〔漢書、王莽傳上〕屬レ予以二天下兆民一。〔注〕師古曰、屬、委付也。⓯**かこつける**。〔資治通鑑、齊紀〕常屬レ疾不レ治レ事。〔注〕屬、託也、屬レ疾、猶レ言レ託レ疾也。⓰**かたる**。つげる。〔穀梁、定、十〕退而屬二其二三大夫一。〔注〕屬、語也。⓱**いましめる**。〔漢書、黃霸傳〕屬令周密。〔注〕師古曰、屬、戒也。⓲**すすめる**。〔後漢書、蔡邕傳〕酒酣智起舞、屬レ邕。〔注〕屬、猶レ勸也。⓳**あはれむ**。めぐむ。〔書、梓材〕至二于屬レ婦。〔傳〕至三於存二恤妾婦一。⓴**とく**。〔廣雅、釋詁二〕屬、解也。㉑**すてる**。〔漢書、淮南厲王長傳〕大王欲三屬レ國爲二布衣一。〔注〕師古曰、屬、委棄也。㉒**たりる**。〔左氏、昭、二十八〕屬厭而已。〔注〕屬、足也。㉓**たまたま**。まさに。〔左氏、成、二〕下臣不幸、屬當二戎行一。〔注〕屬、適也。㉔**さきに**。**さきごろ**。〔後漢書、朱暉傳〕屬者椽自視、孰二與藺相如一。〔注〕屬、向也。㉕**このごろ**。〔漢書、李尋傳〕屬者頗有二變改一。〔注〕師古曰、屬者、謂二近時一也。㉖**みうち**。うから。やから。〔釋名、釋親〕屬、續也、恩相連續也。〔史記、田單傳〕齊諸田疏屬也。〔後漢書、靈帝紀〕錮及二五屬一。〔注〕五屬、謂二五服內親一也。㉗**ともがら**。〔史記、留侯世家〕陛下起二布衣一、以二此屬一取二天下一。㉘**たぐひ**。なかま。〔廣韻〕屬、類也。〔周禮、春官、龜人〕掌二六龜之屬一。〔注〕屬、言レ非レ一也。㉙**團體**。行政區劃の名。〔禮、王制〕五國以爲レ屬。〔注〕屬、猶レ聚也。〔國語、齊語〕十縣爲レ屬。〔管子、小匡〕三鄉爲レ屬。㉚**つかさ**。官僚。〔書、周官〕各率二其屬一、以倡二九牧一。〔漢書、武帝紀〕御史乘レ屬。〔注〕服虔曰、屬、官屬也。㉛**けらい**。〔左氏、宣、十七〕以二其私屬一。㉜**副車**。〔張衡、東京賦〕屬車九九。〔注〕薛曰、副車曰レ屬。㉝**しるし**。〔周禮、春官、司常〕掌二九旗之名物一、各有レ屬。〔注〕屬、謂二徽識一也。㉞**分類する**。〔周禮、春官、甸祝〕乃屬レ禽。〔注〕屬レ禽、別二其種類一。㉟**分類上の名**。同じ種類のもの。〔說文、屬、段注〕凡異而同者曰レ屬、鄭注二司徒序官一云、州黨族閭比者、鄉之屬別、注二司市一云、介次市亭之屬、別二小者一也、凡言レ屬、而別在二其中一、如下秔曰二稻屬一、秏曰中稻屬上是也、言レ別而屬在二其中一、如三稗曰二禾別一、是也。㊱**よろひのさね**。甲札。〔漢書、刑法志〕魏氏武卒、衣二三屬之甲一。㊲**物のさま**。屬屬（55）を見よ。㊳獨（7－20725）に通ず。〔儀禮、既夕禮〕袂屬幅。〔注〕古文、屬爲レ獨。〔書、盤庚中〕爾忱不レ屬。〔馬注〕屬、獨也。㊴鸀（12－47520）に通ず。〔中華大字典〕鸀、同レ屬、屬玉、水鳥也。㊵俗に属（4－7754）に作る。〔集韻〕屬、俗作レ属、非レ是。㊂**そそぐ**。注（6－17316）に通ず。〔集韻〕注、灌

也、或作レ屬。〔儀禮、士昏禮〕酌二玄酒一、三屬二於尊一。邦❶さくわん。昔の官制で第四等官の稱。❷さつくわ。姓氏。〔姓林全書〕。

名乘 ツラ。マサ。ヤス。サツクヮ〔姓〕。

【屬意】1（ショクイ ゾクイ） ❶望をかける。期待する。屬心。〔史記、夏紀〕禹子啓賢、天下屬レ意焉。〔史記、文帝紀〕習レ兵多二謀詐一、此其屬レ意、非レ止レ此也。❷心を向ける。一說に、意志を綴る。〔劉琨、答二盧諶一書〕不三復屬二意於文一、二十餘年矣。〔注〕善曰、鄭玄儀禮注曰、屬、綴也。〔除陵、玉臺新詠序〕無レ怡二神於暇景一、惟屬二意於新詩一。

【屬邑】2（ゾクイフ） 附屬した村。〔史記、大宛傳〕大宛在二匈奴西南一、云云、有二城郭屋室一、其屬邑大小七十餘城、衆可二數十萬一。

【屬員】3（ゾクヰン） 下役。〔六部成語、吏部、屬員、注解〕上官所二管轄一之小官曰二屬員一。〔清國行政法汎論、知府、職權〕使二四境之內民人樂レ業、便是良有司、至二於知府一、則有下統二轄屬員一之職上。

【屬役】4（ゾクエキ） ❶人足をあつめる。〔左氏、昭、三十二〕屬レ役賦レ丈。〔疏〕屬レ役、謂三屬二聚下役一也。❷傭人。〔管子、立政〕若在二長家子弟・臣妾・屬役・賓客一、則里尉以譙二于游宗一。

【屬厭】5（ショクエン） あきたる。饜足。屬饜。〔左氏、昭、二十八〕願下以二小人之腹一、爲中君子之心上、屬厭而已。〔注〕屬、足也、言下小人之腹飽、猶知二厭足一、君子之心、亦宜上レ然也。〔潘岳、西征賦〕既餐服以屬厭、泊恬靜以無レ欲。

【屬饜】6（ショクエン） 屬厭に同じ。〔國語、晉語九〕既已食、願下以二小人之腹一爲中君子之心上、屬饜而已、是以三歎。

【屬垣】7（ショクヱン ゾクヱン） 耳を垣につけて、ぬすみぎきする。〔詩、小雅、小弁〕君子無二易由一レ言、耳屬二于垣一。〔箋〕王無三輕用二讒人之言一、人將レ有下屬二耳於壁一而聽レ之者上。〔陳忠師、駟不レ及レ舌賦〕患必防二於屬垣一。

【屬怨】8（ゾクエン） うらみを結ぶ。〔國語、晉語四〕齊秦不レ得二其請一、必屬レ怨焉。〔注〕屬、結也。

【屬遠】9（ゾクエン） 新書の篇名。

【屬下】10 shu^3 hsia^4 ❶屬する。關係してゐる。❷てした。支配下。部下。

【屬行】11（ゾクカウ） つきしたがつて行く。〔史記、趙世家〕天下屬行、以謀レ王也。

【屬藁】12（ショクカウ ゾクカウ） 詩文の下がきを作る。文辭の草案を作る。屬稿。屬草。〔史記、屈原傳〕屈平屬二草藁一未レ定。〔注〕索隱曰、屬、音燭、草藁、謂下創二制憲令一之本上。〔宋史、吳時傳〕時敏二于爲レ文、未三嘗屬レ藁、落レ筆已就、兩學目レ之、曰二立地書廚一。

【屬轄】13 shu^3 hsia^2 管轄。

【屬九】14 shu^2 chiu^3 寒に入る。冬至。

【屬牛】15（ゾクギウ） 丑歲生れをいふ。〔國史略、桓武天皇〕上嘆曰、朕屬牛人、殆不レ利乎。

【屬強】16（ツケズマヒ） 馬の進まない癖。〔太平記、二十、義貞馬屬強事〕乘らんとし給ひければ、此の馬俄かに屬強をして、騰つつ跳つつ狂ひければ。

【屬玉】17（ゾクギョク） ❶水禽の名。鷺の一種。鸀鳿。〔漢書、司馬相如傳上〕鳴鸛鵠鴇、駕鵝屬玉。〔注〕屬玉、似レ鴨而大、長頸赤目、紫紺色。〔王先謙補注〕屬玉、史記作二鸀鳿一、正義引郭注同。❷漢代の宮殿の名。〔班固、西都賦〕於レ是天子乃登二屬玉之館一、歷二長楊之榭一。〔注〕善曰、漢書宣紀曰、行二幸長陽宮屬玉觀一、服虔曰、以レ玉飾、因名焉。〔三輔黃圖、五、觀〕屬玉觀、在二扶風一、屬玉、水鳥、似二鵁鶄一、以名レ觀也。

【屬禽】18（ゾクキン） 狩して得た鳥獸の種類を別ける。禽は、もと鳥獸の總稱。〔周禮、春官、甸祝〕師甸致二禽于虞中一、乃屬レ禽。〔注〕屬レ禽、別二其種類一。〔孫詒讓正義〕遂大夫注云、屬、猶レ聚也、凡禽獸種類同者、聚二於一處一、而後可二以別一レ之、故別二其種類一、謂二之屬一レ禽。〔周禮、地官、澤虞〕植二虞牲一以屬レ禽。

【屬纊】19（ゾククヮウ） 死にかかつた人の口に纊をあてて、呼吸の有無をみることをいふ。纊は、新しいわた。〔儀禮、既夕禮〕屬レ纊以俟二絕氣一。〔注〕纊、新絮。〔禮、喪大記〕疾病、男女改レ服、屬レ纊以俟二絕氣一。〔注〕纊、今之新緜、易二動搖一、置二口鼻之上一、以爲レ候。

【屬纊之際】20（ゾククヮウノサイ） 人の死にぎは。臨終。屬纊のことからいふ。〔閻選、再生記〕屬纊之際、見二一人追至一。〔書言故事、凶事類〕言二人臨終一、曰二屬纊之際一。

【屬官】21（ゾククヮン） 上官に附屬する役人。部下。屬吏。屬僚。〔漢書、百官公卿表上〕復增二屬國一、置二都尉丞候千人、屬官九譯令一。〔王祺雜纂、易圖謀〕屬官古畫。

【屬棺】22（ショククヮン ゾククヮン） 梓で作つた棺で、杝棺の外、大棺の內に在るもの。〔禮、檀弓上、梓棺二、疏〕杝棺之外、又有二屬棺一、屬棺之外、又有二大棺一、大棺與二屬棺一並用レ梓、故云レ二也。

【屬觀】23（ゾククヮン） 目をつける。注目する。〔後漢書、文苑下、趙壹傳〕斂レ衽下レ堂、執二其手一、延置二上坐一、因問二西方大事一、云云、坐者皆屬レ觀。

【屬縣】24（ゾクケン） 屬してゐる縣。卽ち或る州や郡に統轄せられてゐる縣を、其の州・郡の屬縣といふ。〔張衡、四愁詩序〕衡下レ車治二威嚴一、能內察二屬縣一。〔日知錄、政事、屬縣〕自レ古郡縣之制、惟唐爲レ得二其中一、今攷二地理志一、屬縣之數、京兆河南二府各二十、河中太原二府各十三、魏州十四、廣州十三、鎭州桂州各十一、其他雖レ大無下過二十縣一者上。

【屬言】25（ゾクゲン） 語る言葉。言辭。〔任昉、爲二蕭揚州一作薦レ士表〕辭賦淸新、屬言玄遠。〔注〕善曰、臧榮緒晉書曰、阮籍雖二放誕不レ拘二禮教一、然發レ言玄遠也。

【屬國】26（ゾクコク） ❶獨立せずに他國に附き從ふ國。屬邦。附庸國。〔史記、衞將軍傳〕因二其故俗一爲二屬國一。〔漢書、百官公卿表上〕武帝元狩三年、昆邪王降、復增二屬國一。〔漢書、賈誼傳〕何不三試以レ臣爲二屬國之官一。❷屬國都尉の畧。〔史記、西南夷傳、夜郎最大、注〕索隱曰、荀悅云、夜郎、犍爲屬國也。❸國を人に委托する。〔呂覽、貴公〕寡人將誰屬レ國。〔注〕屬、託也。❹國を放棄する。〔漢書、淮南厲王長傳〕大王欲三屬レ國爲二布衣一。〔注〕師古曰、屬、委棄也。

【屬國都尉】27（ゾクコクトヰ） 官名。後漢時代、邊郡の而も遠く離れた諸縣を治める爲に置き、其の地域を某（本來の郡名）屬國と稱して一郡の如く取扱ひ、屬國都尉は郡守の如き地位に在つた。〔後漢書、安帝紀〕遼東屬國都尉龐奮、承二僞璽書一、殺二玄菟太守姚光一。

【屬佐】28（ゾクサ） したやく。したづかさ。〔曾鞏、請レ令三長貳自舉二屬官一劄子〕今尙書既領二天下之事一、郎員外郎凡二十四司、用レ吏幾百員、其餘屬佐、尙不レ在二數中一。

【屬采】29（ゾクサイ） したやく。采はつかさ。官職。屬宷。〔福惠全書、稟啓附、賀二上臺中秋一〕慶協二輿圖一、歡騰二屬采一。

【屬宷】30（ゾクサイ） したやく。屬采。〔福惠全書、稟啓附、迎二東兗李道臺一〕歡騰二屬宷一、慶溢二黎氓一。

【屬草】31（ショクサウ） 草稿を作る。屬藁。〔史記、屈原傳〕懷王使三屈原造二爲憲令一、屈平屬二草稾一未レ定、上官大夫見而欲レ奪レ之。

【屬想】32（ショクサウ ゾクサウ） おもひをよせる。〔水經、洙水、注〕雖三神栖二白雲一、屬二想芳流一、藉二念泉鄕一、遺詠在レ茲。

【屬珊】33（ゾクサン） 軍衞の名。遼の應天后は蕃漢の精兵を選んで軍二十萬を置いたが、其の兵の珍美なること珊瑚の如しとの義から名づく。〔遼史、兵衞志中〕屬珊軍、地皇后置二二十萬騎一。

【屬志】34（ゾクシ） 心をよせる。屬心。〔白虎通、三綱六紀〕臣者繵堅也、屬レ志自堅固。

【屬詩】35（ショクシ） 詩を作る。作詩。〔楚辭、嚴忌、哀時命〕抒二中情一而屬レ詩。〔注〕屬、續也。

【屬茨】36（ゾクシ） 茨をつらねる。茨は、屋根をふく草。〔荀子、禮論〕屬レ茨倚レ廬、席レ薪枕レ塊。〔注〕茨、蓋レ屋草也、屬レ茨、令二茨相連屬一而已。

【屬耳】37（ショクジ ゾクジ） ❶耳をつけてよく聽く。屬聽。〔詩、小雅、小弁〕耳屬二于垣一、〔箋〕王無三輕用二讒人之言一、人將レ有下屬二耳於壁一而聽レ之者上。❷耳をそばだてる。注意して聞かうとする。〔左氏、成、二〕師有レ功、國人喜以逆レ之、先入、必屬二耳目一焉。〔張華、答二何劭一詩〕抱レ杖臨二淸渠一、屬レ耳聽二鶯鳴一。〔五代史、梁太祖紀〕天子與二崔胤一計レ事、宦者屬レ耳頗聞レ之。

【屬辭】38（ゾクジ） ❶辭をあはせる。屬辭比事を見よ。❷詩文をつづる。又、綴つた詩文。屬文。〔魏志、劉劭傳〕文章之士、愛二其著論屬辭一。

【屬辭比事】39（ゾクジヒジ） 類似の言辭や事件を合せ列ねること。春秋に於て、會同の辭を聚合し、褒貶の事を比次するをいふ。比は、比次、順序次第

をつけて列べること。〔禮、經解〕屬レ辭比レ事、春秋教也、云云、屬レ辭比レ事而不レ亂、則深二於春秋一者也。〔注〕屬、猶レ合也、春秋多記二諸侯朝聘會同一、有二相接之辭、罪辨之事一。〔疏〕屬、合也、比、近也、春秋聚二合會同之辭一、是屬レ辭、比二次褒貶之事一、是比レ事也。〔孫希旦集解〕屬レ辭者、連二屬其辭一、以レ月繫レ年、以レ日繫レ月、以レ事繫レ日也、比レ事者、比二次列國之事一而書レ之也。

【屬疾】40 ゾクシツ 病氣にかこつける。〔資治通鑑、齊紀〕武帝、永明八年、交州刺史清河房法乘、專好二讀書一、常屬レ疾不レ治レ事。〔注〕屬、託也、屬レ疾、猶レ言レ託レ疾也。

【屬實】41 shu³ shih² 實際だ。事實だ。

【屬車】42 ゾクシヤ 天子のそへぐるま。又、天子をいふ。副車。從車。貳車。佐車。〔漢書、賈捐之傳〕鸞旂在レ前、屬車在レ後。〔司馬相如、上書諫レ獵〕犯二屬車之清塵一。〔注〕濟曰、屬車、從車。〔後漢書、輿服志上〕屬車八十一乘。〔張衡、東京賦〕屬車九九。〔注〕綜曰、副車曰レ屬。〔潘岳、藉田賦〕前驅魚麗、屬車鱗萃。〔事物紀原、輿駕羽衞部、屬車〕周末諸侯、有二貳車九乘一、貳車卽屬車也、亦周制所レ有、秦滅二九國一、兼二其車服一、故八十一乘。

【屬車士】43 ゾクシヤシ 屬車に從ふ士。〔謝瞻、張子房詩〕濟濟屬車士、粲粲翰墨場。〔注〕銑曰、屬車、後車也。

【屬者】44 ゾクシヤ ❶ちかごろ。近者。頃者。〔漢書、李尋傳〕屬者頗有二變改一。〔注〕師古曰、屬者、謂二近時一也。〔後漢書、朱暉傳〕屬者掾自視、孰二與藺相如一。〔注〕屬、向也。❷つき從ふ者。〔史記、項羽紀〕騎能屬者、百餘人耳。

【屬城】45 ゾクジヤウ 支配下の城。屬縣(24)に同じ。〔陸機、呉趨行〕屬城咸有レ士、呉邑最爲レ多。〔孔稚珪、北山移文〕跨二屬城之雄一。

【屬酒】46 ショクシユ ゾクシユ 盃をさす。酒をすすめる。勸盃。〔袁皓、詩〕芳景漸濃偏屬レ酒、暖風初暢欲レ調レ鸎。

【屬聚】47 ゾクシユウ あつめる。〔周禮、地官、黨正、屬レ民而飮二酒于序一、疏〕索二鬼神一而祭祀之時、則黨正屬二聚其民一、而飮二酒于序學中一。

【屬從】48 ゾクジユウ 子が母に從つて母方の親屬の喪に、妻が夫に從つて夫の親屬の喪に、夫が妻に從つて妻の親屬の喪に服すること。屬は親屬。〔禮、大傳〕有二屬從一、有二徒從一。〔疏〕屬、謂二親屬一、以二其親屬一爲二其友黨一、鄭云、子爲二母之黨一、是也、鄭擧二一條一耳、妻從レ夫、夫從レ妻、並是也。

【屬心】49 ショクシン ゾクシン 心を寄せる。望をかける。屬望。屬意。〔後漢書、杜喬傳〕天人屬レ心、萬邦攸レ賴。〔任昉、王文憲集序〕自レ是始有二應務之迹一、生民屬レ心矣。〔注〕良曰、百姓皆有二屬望之心一。

【屬數】50 ゾクスウ 從屬するものの數。〔韓非子、有度〕屬數雖レ多、非三所二以尊レ君也。

【屬性】51 ゾクセイ 其のものが本來具有する特性。

【屬籍】52 ゾクセキ ❶戸籍。〔後漢書、安帝紀〕延光元年三月、大二赦天下一、還從者、復二戸邑屬籍一。❷宗族の名籍。一門中に屬してゐる戸籍。玉牒。〔史記、商君傳〕宗室非レ有二軍功一、論不レ得レ爲二屬籍一。〔注〕索隱曰、謂下宗室若無二軍功一、則不上レ得レ入二屬籍一、謂レ除二其籍一、則無レ功不レ及二爵秩一也、正義曰、屬籍、謂レ屬二公族宗正籍書一也。〔史記、田份傳〕宗室毋二節行一者、除二其屬籍一。〔漢書、楚元王傳〕皆坐レ免レ侯削二屬籍一。〔後漢書、鄧禹傳〕太后大怒、遂免二康官一、遣二歸國一絶二屬籍一。❸圖籍を付託すること。〔淮南子、氾論訓〕成王既壯、周公屬レ籍致レ政、北面委レ質而臣二事之一。〔注〕以二圖籍一付二屬成王一。

【屬折】53 ゾクセツ 草の名。續斷(8－28037・・42)の❶の異名。〔本草、續斷〕釋名、屬折、接骨、時珍曰、續斷・屬折・接骨、皆以レ功命レ名也。

【屬疎】54 ゾクソ 親屬關係が疎遠なこと。〔史記、荆燕世家贊〕劉賈雖二屬疎一、然以レ策爲レ王。

【屬屬】55 ショクショク ゾクゾク ❶敬ふさま。〔廣雅、釋訓〕屬屬、敬也。❷もつぱらなさま。專一なさま。〔禮、禮器〕洞洞乎其敬也、屬屬乎其忠也。〔疏〕屬屬、專一之貌。❸專ら謹むさま。〔漢書、谷永傳〕洞洞屬屬。〔注〕屬屬、專謹也。❹やさしくすなほなさま。〔淮南子、氾論訓〕洞洞屬屬、而將レ不レ能、恐レ失レ之。〔注〕屬屬、婉順貌也。

【屬續】56 ゾクゾク 祝融(8－24672・・113)。又、祝融の作つた音樂。〔周禮、春官、大司樂、以二樂舞一教二國子一、疏〕案、孝經緯云、伏犧之樂曰二立基一、神農之樂曰二下謀一、祝融之樂曰二屬續一。〔白虎通、五行〕祝融者、屬續、其精爲レ鳥。

【屬對】57 ゾクタイ 兩語をつらねて對句とすること。又、詩を作ること。〔舊唐書、元稹傳〕常欲レ得二思深語近、韻律調新、屬對無レ差、而風情宛然一、而病レ未レ能也。〔蘇洵、送二石昌言使レ北引〕稍知レ讀レ書、學二句讀一、屬二對聲律一、未レ成而廢。〔剪燈餘話、鳳尾草記〕九齡曉二屬對一。

【屬託】58 ショクタク ゾクタク たのむ。又、たのみ。依囑。屬托。〔晏子、重而異者〕屬託不レ行、貨賂不レ至。〔漢書、尹翁歸傳〕欲三屬二託邑子兩人一。〔後漢書、楊震傳〕外交屬託、擾二亂天下一。〔魏志、諸葛誕傳〕有レ所二屬託一、輒顯二其言一、而承二用之一。〔抱朴子、百里〕或父兄貴重、而子弟以二聞望一見レ選、或高人屬託、而凡品以二無能一見レ敍。

【屬地】59 ゾクチ ❶地に至る。〔呂覽、明理〕其氣有二上不レ屬レ天、下不レ屬レ地。〔注〕屬、至也。❷附屬した土地。特に國家に附屬した土地。統治權を施し得る土地。屬土。

【屬地主義】60 ゾクチシユギ 法律用語。土地を基として法律の支配する範圍を定める主義。

【屬聽】61 ゾクチヤウ 耳をつけて聽く。又、耳をそばだててきく。屬耳。〔韓愈・孟郊、秋雨聯句〕牽レ懷到二空山一、屬聽邇二驚瀨一。

【屬著】62 ゾクチヤク つく。又、その方に向ふ。〔列子、説符〕意之所二屬著一、其行足躓二株埳一、頭抵二植木一、而不二自知一也。

【屬綴】63 ゾクテイ つなぎ合せる。〔後漢書、列女、董祀妻傳〕天屬二綴人心一、念レ別無二會期一、存亡永乖隔。

【屬土】64 ゾクド 屬地(59)の❷に同じ。

【屬統】65 ゾクトウ 血統をうけつぐ。〔漢書、公孫弘傳〕屬レ統垂レ業、物鬼變化。〔北齊書、文宣帝紀〕兩漢承レ基、曹馬屬レ統。

【屬任】66 ショクニン ゾクニン まかせる。〔史記、蕭相國世家〕上以レ此專屬二任何關中事一。

【屬邦】67 ゾクハウ 屬國(26)の❶に同じ。

【屬望】68 ショクバウ ゾクバウ のぞみを屬する。望をかける。屬心。〔後漢書、李固傳〕天下喁喁屬二望風政一。〔遼史、耶律余覩傳〕文妃生二晉王一、最賢、國人皆屬レ望。

【屬付】69 ショクフ ゾクフ たのむ。又、たのみ。付託。囑付。〔賈餗、大悲禪師碑〕隨レ父至レ洛、聞三菏津寺有二神會大師一、卽蟬二蛻萬緣一、誓二究心法一、服勤八九年、一旦密承二屬付一、莫レ有二知者一。

【屬附】70 ゾクフ 或物につき從ふ。附屬。〔元史、太祖紀〕騰格哩呼喇之民、無レ所二屬附一、若臨レ之以レ兵、可レ服也。

【屬婦】71 ゾクフ ❶妾婦をあはれみめぐむ。又、よるべのない婦人を知るべの所につけて、なりはひの出來る樣にしてやる。〔書、梓材〕至二于敬レ寡、至二于屬レ婦。〔傳〕至三於敬二養寡弱一、至三於存二恤妾婦一。〔蔡傳〕言下人之寡弱者敬二哀之一、婦之窮獨者聯中屬之上、使レ有レ所レ歸。❷そばめ。めかけ。妾。又、特に其の身分の低い者。〔書、梓材、至二于屬婦一、疏〕經言二屬婦一、傳言二妾婦一者、以三妾屬二於人一、故名二屬婦一。〔小爾雅、廣義〕妾婦之賤者、謂二之屬婦一。

【屬部】72 ゾクブ 配下。部屬。

【屬伏】73 shu³ fu² 夏の土用に入る。

【屬文】74 ショクブン ゾクブン 文を綴る。文章を作る。〔漢書、賈誼傳〕賈誼、雒陽人也、年十八、以下能誦二詩書一屬上レ文、稱二郡中一。〔注〕師古曰、屬、謂三綴二輯之一也、言二其能爲一レ文也。〔顔氏家訓、慕賢〕頗善屬レ文。

【屬聞】75 ゾクブン 近ごろ聞き知る。〔漢書、谷永傳〕屬聞下以二特進一領中城門兵上。〔注〕屬、近也。

【屬兵】76 ゾクヘイ ❶兵をあつめる。〔國語、呉語〕今君王不レ察、盛レ怒屬レ兵、將三殘二伐越國一。〔注〕屬、會也。❷手下の兵。部下の兵。手兵。

【屬辟】77 ショクヘキ ゾクヘキ 屬は棺の中に重ねる棺。屬棺(22)を見よ。辟は、其の中に重ねる身に近い棺。〔左氏、哀、二〕不レ設二屬辟一。〔注〕屬辟、棺之重數、王棺四重、君再重、大夫一重。〔音義〕屬、音燭、次二大棺一也、辟、親レ身棺也、禮、大夫無レ辟。

【屬民】78 ゾクミン 人民を集める。〔周禮、地官、族師〕以二邦比之灋一、帥二四閭之吏一、以レ時屬レ民而校。〔疏〕謂下屬二聚其民一、而校中比之上也。

【屬名】79 ゾクメイ 諸郡の役人の附屬となつた者。〔南

史、齊廢帝東昏侯紀〕諸郡役人、多依二人士一爲二附隷一、謂二之屬名一、又東境役苦、百姓多注レ籍詐レ病、遣二外醫巫一、在所檢二占諸屬名一。

【屬命】80 ゾクメイ　一身をまかせてたよる。〔張華、晉正德大豫舞歌、大豫舞歌〕羣生屬レ命、奄二有庶邦一。

【屬目】81 ショクモク ゾクモク　目をつけて視る。注目して視る。矚目。〔左氏、成、二〕師有レ功、國人喜以逆レ之、先入必屬二耳目一焉。〔會箋〕屬、猶レ注也。〔漢書、蓋寬饒傳〕坐者皆屬目卑二下之一。〔魏志、張遼傳〕稀輒屬目視レ遼。〔晉書、秦獻王柬傳〕甚貴寵爲三天下所二屬目一。

【屬臾】82 ゾクユ　謹む。〔淮南子、氾論訓〕使三天下荒亂、云云、而兵不二休息一、而乃始服二屬臾之貌、恭儉之禮一、則必滅抑而不レ能レ興矣。〔注〕屬臾、謹也。

【屬賴】83 ゾクライ　したがひたよる。〔魏書、崔光傳〕以レ德爲レ車、以レ樂爲レ御、考二仁聖之風一、習二治國之道一、則率土屬賴、含生仰悅矣。

【屬吏】84 ゾクリ　❶したやく。部下の官吏。屬官。〔管子、立政〕遂於レ廟致二屬吏一。〔唐書、韓滉傳〕玄佐素憚レ滉、修二屬吏禮一。❷法務官に引き渡して處分する。〔史記、高祖紀〕以二秦王一屬レ吏。〔漢書、夏侯勝傳〕王怒謂、勝爲二祅言一、縛以屬レ吏。

【屬鏤】85 ショクル　名劍の名。呉王は之を伍子胥に賜ひ、自殺を命じた。屬鹿。〔左氏、哀、十一〕王聞レ之、使下賜二之屬鏤一以死上。〔注〕屬鏤、劍名也。〔史記、伍子胥傳〕呉王乃使三使賜二伍子胥屬鏤之劍一曰、子以レ此死。〔左思、呉都賦〕扈二帶鮫函一、扶二揄屬鏤一。

【屬累】86 ゾクルイ　かこつける。託付。〔後漢書、烏桓傳〕皆燒而送レ之、言、以屬二累犬一、使レ護二死者一。〔注〕屬累、乃付託也。

【屬令】87 ゾクレイ　いましめ命ずる。告誡。〔漢書、黃霸傳〕嘗欲レ有レ所二司察一、擇二長年廉吏一、遣行、屬令周密。〔注〕師古曰、屬、戒也。

【屬隷】88 ゾクレイ　其の人の配下につく。隷屬。又、配下。

【屬僚】89 ゾクレウ　したやく。屬吏。屬寮。〔舊唐書、王播傳〕凡有二詳決疾速如レ神、當時屬僚、歎服不レ暇。

【屬寮】90 ゾクレウ　したやく。屬僚。〔福惠全書、筮仕部、稟啓式〕逸興標而屬寮溢レ慶。

【屬聯】91 ゾクレン　つらなりつづく。〔韓愈、謝自然詩〕簷楹蹔明滅、五色光屬聯。

【屬鹿】92 ショクロク　劍の名。屬鏤(85)に同じ。〔廣雅、釋器〕龍淵・太阿・干將・鏌釾・莫門・斷蛇・魚腸・醇鈞・燕支・蔡倫・屬鹿・干隊・堂谿・墨陽・鉅闕・辟閭、劍也。

【屬和】93 ゾクワ　つづいて和する。他人の歌に附いて歌ふ。〔宋玉、對二楚王問一〕客有下歌二於郢中一者上、其始曰、下里巴人、國中屬而和者數千人、其爲二陽阿薤露一、國中屬而和者數百人、其爲二陽春白雪一、國中屬而和者、不レ過二數十人一、引レ商刻レ羽、雜以二流徵一、國中屬而和者、不レ過二數人一而已、其曲彌高、其和彌寡。〔鄭谷、次韻和二禮部盧郎中江上秋夕寓懷一詩〕未レ脫二白衣一頭半白、叨陪二屬和一倍爲レ榮。

【屬雲樓】94 ショクウンロウ　清、陳鍊(**11－41698**‥612)の室名。

【屬引淒異】95 ショクインセイイ　長く引きつづいてすさまじいこと。〔水經、江水注〕三峽、屬引淒異、空谷傳レ響、哀轉久絕。

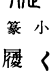
【屬人主義】96 ゾクジンシュギ　法律用語。人を基として法律の支配する範圍を定める主義。

【屬人特權】97 ゾクジントクケン　法律用語。殊に其の人の身分にそなはつてゐる權利。

【屬毛離裏】98 ゾクマウリリ　毛につき裏につく。人の子と父母との關係をいふ。人が其の父を瞻仰して法則をとり、其の母に依恃して成長すること。一說に、屬は父子の天性が連屬すること、離は離歷で、父の氣をうけ母を歷て生れること。毛は皮毛、以て父をいひ、裏は血肉、以て母をいふ。一說に、毛は表の假借、表の古字といふ。〔詩、小雅、小弁〕不レ屬二于毛一、不レ離二于裏一。〔傳〕毛在レ外陽、以言レ父、裏在レ內陰、以言レ母。〔箋〕人無乙不下瞻二仰其父一以取中法則上者甲、無乙不下依二恃其母一以長大上者甲、今我獨不レ得二父皮膚之氣一乎、獨不レ處二母之胞胎一乎。〔疏〕屬者、父子天性相連屬、離者、謂レ所二離歷一、言下稟二父之氣一、歷レ母而生上也。〔集韻〕屬、連也、毛膚、體之餘氣末屬也、離、麗也、裏、心腹也。〔會箋〕毛在レ外、故表字从レ之。

十九畫

【屜】7822　レキ リャク　〔集韻〕狼狄切　錫


小篆

くつの底。〔說文〕屜、履下也、从二履省一歷聲。〔段注〕謂二履之底一也。

二十一畫

【屭】7823　キ　〔集韻〕虛器切　ㄒㄧˋ hsi^{4}　寘

❶さかん。きびしい。〔韓愈、月蝕詩〕寒氣奰屭頑無レ風。❷力を出すさま。贔屭。〔正韻〕屭、贔屭、作レ力貌。〔張衡、西京賦〕巨靈贔屭、高レ掌遠レ蹠。❸力のあるさま。屓屭。〔本草、蠵龜〕時珍曰、屓屭者、有レ力貌。❹靈龜。贔屭。〔本草、蠵龜〕釋名、時珍曰、贔屭者、有レ力貌、今碑趺象レ之、或云、大者爲二蠵蠵贔屭一、小者爲二龜鼊一、甚通。❺眉(**4－7683**)に同じ。〔集韻〕眉、奰眉、壯大兒、亦作レ屭。❻屓(**4－7713**)に同じ。〔正字通〕屓、同レ屭省。

【屭】7824　ビ　義未詳。〔龍龕手鑑〕屭、音備。

屮部

【屮】7825　㊀テツ テチ　〔集韻〕敕列切　ㄔㄜˋ ch'ê^{4}　屑　㊁サウ ソウ　〔集韻〕采早切　晧

小篆

㊀**め。めばえ。めばえる。めぐむ**。〔說文〕屮、艸木初生也、象三丨出レ形有二枝莖一也、讀若レ徹。〔六書故〕屮、草木之生也微、故从二艸之半一。㊁艸(**9－30638**)の古字。〔說文〕屮、古文或以爲二艸字一。〔集韻〕艸、或作レ屮。

解字　象形。くさのめばえた形にかたどる。丨は伸びるさまをあらはし、兩旁は其の枝をあらはす。假借して艸の字とする。〔說文、屮艸木初生也象三丨出レ形有二枝莖一也古文或以爲二艸字一、段注〕丨、讀若レ囟、引而上行也、枝、謂二兩旁一、莖、枝柱、謂レ丨也、過二乎屮一則爲レ㞢、下垂レ根則爲レ朩、云云、凡云二古文以爲二某字一者、此明二六書之段借一。

參考　屮(**4－7826**)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕屮、音徹、草木初生也。屮、同レ左。

【屮稾】1 サウカウ　したがき。草稿。〔漢書、董仲舒傳〕仲舒居レ家、推二說其意一、屮稾未レ上。〔注〕師古曰、所二作起一草爲レ稾也。

【屮蹻】2 サウキャク　わらで作ったくつ。蹻は又、屩に作る。草履。草鞋。草屩。〔漢書、卜式傳〕式既爲レ郎、布衣屮蹻、而牧レ羊歲餘、羊肥息。〔注〕師古曰、蹻、卽今之鞋也、南方謂二之蹻一、字本作レ屩。

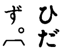
【屮茅】3 サウバウ　くさむら。轉じて、民間。在野。草莽。〔漢書、鼂錯傳〕臣錯屮茅臣、無二識知一、昧死上二愚對一。

【屮昧】4 サウマイ　草昧(**9－30945**‥260)に同じ。〔漢

書、敍傳上〕天造中昧、立二性命一兮、復レ心弘レ道、惟賢聖兮。

【屮】7826

サ　〔玉篇〕作可切　［哿］


小篆

ひだりの手。左（4－8720）に通ず。〔說文〕屮、左手也、象形。〔段注〕俗以二左右一爲二ナ又字一。

［解字］象形。𠂇を左手とし、ヨを右手とする。手のかたちにかたどる。一說に、反又（ヨ）に從ひ、指事といふ。後、屮の字を左の字とし、左（たすく）の義は佐に作る。〔說文通訓定聲〕屮、按从二反又一、指事、屮、所三以左二又手一者也、經傳皆以レ左爲レ之。

［參考］屮（4－7825）は別字。〔康熙字典、辨似〕二字相似、屮音徹、草木初生也。屮、同レ左。

【乢】7827

ケツ　クヮチ　〔通志、六書略〕居月切　［月］

乢丩は動くさま。〔通志、六書略、象形、象貌〕乢丩、動皃。

［參考］正しくは乢（1－230）に作る。

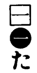
一畫

【屯】7828

［一］トン　ドン　〔集韻〕徒渾切　［元］　ㄊㄨㄣˊ　t'uen²

［二］トン　ドン　〔字彙〕徒困切　［願］

［三］チユン　〔集韻〕株倫切　［眞］　ㄓㄨㄣ　chuen¹


小篆

［一］❶たむろする。兵を一處に集めて守備警戒する。𥫱（8－25874）に通ず。〔說文通訓定聲〕屯、叚借爲レ𥫱。〔廣雅、釋詁三〕屯、聚也。〔史記、傅寛傳〕將レ屯。〔注〕集解曰、如淳曰、案、律謂二勒レ兵而守一曰レ屯。❷たむろ。まもり。〔管子、輕重乙〕置レ屯籍レ農。〔注〕屯、戍也。〔漢書、陳勝傳〕勝・廣皆爲二屯長一。〔注〕師古曰、人所レ聚曰レ屯。❸**邊境にたむろして、平時は農耕し、有事の際は兵士を兼ねる制度。**屯田（60）の❶を見よ。〔後漢書、楊終傳〕聽二還徙者一、悉罷二邊屯一。❹**つらねる。**〔楚辭、離騷〕屯二余車一其千乘兮。〔注〕屯、陳也。❺**みちる。**偆（1－833）・奄（3－5864）に通ず。〔說文通訓定聲〕屯、叚借爲レ偆、爲レ奄。〔廣雅、釋詁一〕屯、滿也。〔易、序卦〕屯者、盈也。❻**をか。**𠂤（1－141）に通ず。〔說文通訓定聲〕屯、叚借爲レ𠂤。〔列子、天瑞〕生二於陵屯一。〔注〕屯、阜也。❼**綿六兩をいふ。**〔通典、食貨典、賦稅下〕綿則百八十五萬餘屯、每レ丁三兩、六兩爲レ屯、則兩丁合成二一屯一。❽通じて敦（5－13276）に作る。〔集韻〕屯、通作レ敦。［二］❶**姓。**〔通志、氏族略、以レ名爲レ氏〕屯氏、姓苑云、渾沌氏之後、去レ水爲レ屯、漢有二太山太守屯莫一。［三］❶**なやむ。**くるしむ。〔說文〕屯、難也、屯、象二艸木之初生、屯然而難一、从三屮貫レ一、屈二曲之一也、一、地也、易曰、屯、剛柔始交而難レ生。〔廣雅、釋詁一〕屯、難也。〔易、屯〕彖曰、屯、剛柔始交而難レ生。〔疏〕剛柔二氣、始欲二相交一、未二相通感一、情意未レ得、故難レ生也。〔後漢書、班固傳下〕紹二百王之荒屯一。〔注〕屯、難也。❷**天地のはじめ。**〔易、屯、天造草昧、注〕屯、天地造始之時也。❸**あつまる。おほい。**〔後漢書、班固傳下〕禮官儒林屯朋篤論之士。〔注〕屯、聚也。〔後漢書、張衡傳〕屯騎羅而星布。〔注〕屯、聚也。❹**みちる。**〔易、序卦〕屯者、盈也。❺**あつい。**惇（4－10759）に通ず。〔說文通訓定聲〕屯、叚借爲レ惇。〔集韻〕屯、一曰、厚也。〔國語、晉語四〕厚之至也、故曰レ屯。〔注〕屯、厚也。❻**かたい。**堅固。〔左氏、閔、元〕屯固比入。〔注〕屯、險難也、所三以爲二堅固一。〔會箋〕雲雷、屯、雲雨與レ雷集而未レ解、有二堅固之義一。❼**したがふ。**〔後漢書、張衡傳〕屯騎羅而星布。〔集解本注〕屯、從也。❽**をしむ。**〔增韻〕屯、吝也。〔易、屯〕屯二其膏一。❾**易の六十四卦の一。**䷂（震下坎上）。**艱險で進みなやむ象。**〔易、屯〕雲雷、屯。❿迍（11－38747）に通ず。〔正字通〕屯、又屯邅、難レ行不レ進貌、別作レ迍。⓫**縣名。**屯留（78）を見よ。〔集韻〕屯、屯留、縣名、在二上黨一。［邦］**もち。**綿の量にいふ語。二斤、又は六兩。〔倭名類聚抄、布帛部、絹布類〕綿六兩爲レ屯、屯、聚也、俗一屯、讀二飛止毛遲一。

［名乘］ミツ。ムラ。ヨソ。

［解字］象形。一と屮との合字。一は大地、屮は草木のめばえるさま。地を草木のめがつらぬかうとしてなやむさま。故に下を屮の様に屈曲させる。本義をなやむとする。〔說文、屯、段注〕象形也、屮貫レ一者、木剋レ土也、屈二曲之一者、未レ能レ申也。▽ （金文）象形。幼兒の髮を束ね飾つた形に象り、多くのものを集める、たむろする意を表はす。

【屯有】1 トンイウ　縣名。漢、置き、後漢及び晉、之に因る。故治は今の朝鮮の平壤の南。〔漢書、地理志下〕樂浪郡、縣二十五、屯有。

【屯雲】2 トンウン　たむろしてゐる雲。又、雲をたむろせしめる。屯雲之應を見よ。〔列子、周穆王〕望レ之若二屯雲一焉。〔口義〕望レ之若二屯雲一、言レ多也。〔謝惠連、西陵遇レ風獻二康樂一詩〕屯雲蔽二曾嶺一、驚風涌二飛流一。

【屯雲之應】3 トンウンノオウ　漢の高祖が白蛇を斬り、黑雲をたむろさせた祥瑞。〔陸倕、石闕銘〕命レ旅致二屯雲之應一。〔注〕銑曰、高祖斬二白蛇一屯二黑雲一。

【屯營】4 トンエイ　兵士のたむろしてゐる營所。軍營。屯舍。屯方。〔魏志、田豫傳〕去レ虜十餘里、結二屯營一、多聚二牛馬糞一然レ之。〔左思、吳都賦〕屯營櫛比、解署棊布。〔注〕翰曰、屯營、軍衞。

【屯衞】5 トンエイ　たむろしてまもる。屯戍。又、其の所。〔六韜、虎韜、略地〕凡城レ城圍レ邑、車騎必遠屯衞。〔史記、秦始皇紀〕爲二屯衞咸陽一。〔漢書、宣帝紀〕初置二屯衞一。〔後漢書、竇憲傳〕遣レ客、刺二殺暢於屯衞之中一。〔沈約、齊故安陸昭王碑文〕允副二朝端一、兼二掌屯衞一。

【屯塢】6 トンヲ　とりで。〔後漢書、趙彥傳〕一戰破レ賊、燔二燒屯塢一。〔吳志、周魴傳〕江邊空曠、屯塢虛損。

【屯家】7 ミヤケ　屯倉（31）の❷に同じ。

【屯行】8 トンカウ　集まり進む。大軍が群行する。〔史記、李將軍傳〕東道少回遠、而大軍行、水草少、其勢不二屯行一。〔注〕集解曰、徐廣曰、以二水草少一、不レ可二羣輩一。

【屯耕】9 トンカウ　たむろし耕す。兵士が土地を守りながら、平時は農業に從ふこと。屯田。〔元史、世祖紀十四〕至元三十年詔、邊境無レ事、令二本軍屯耕以食一。

【屯膏】10 チユンカウ　恩澤を下に及ぼさぬ。膏は膏澤、卽ち恩惠。〔易、屯〕屯二其膏一。〔疏〕屯二其膏一者、膏、謂二膏澤恩惠之類一、言下九五既居二尊位一、當二恢弘博施一、唯繫應在レ二、而所レ施者褊狹、是屯中難其膏上。〔程傳〕唯其施爲有レ所レ不レ行、德澤有レ所レ不レ下、是屯二其膏一。〔漢書、谷永傳〕易曰屯二其膏一。〔注〕孟康曰、膏者、所三以潤二人肌膚一云云、遭二屯難飢荒一、君當下開二倉廩一、振中百姓上、而反吝則凶、臣吝嗇則吉。

【屯坎】11 チユンカン　苦しみなやむこと。坎も易の卦の名。なやむ。くるしむ。屯險。屯困。〔張仲素、穆天子宴二瑤池一賦〕彼乃輕二萬里一而崇二一朝一、孰三若濟二羣生于屯坎一。

【屯騎】12 トンキ　❶多くの騎兵。〔史記、司馬相如傳〕遺二屯騎於玄闕一兮、軼二先驅於寒門一。❷つき從ふ騎兵。屯は從。〔後漢書、張衡傳〕百神森其備從、屯騎羅而星布。〔集解本注〕屯、從也。❸屯騎校

尉の略。屯騎校尉を見よ。〔通典、職官典、武散官、諸校尉附〕漢武帝、初置二中壘・屯騎・步兵・越騎・長水・胡騎・射聲・虎賁等校尉一爲二八校一、各有二司馬一。

〔屯騎校尉〕13 トンキカウキ 官名。漢、置く。騎士を掌る。秩二千石。〔漢書、百官公卿表上〕屯騎校尉、掌二騎士一。

【屯居】14 トンキヨ ㊀たむろして居る。〔吳志、諸葛恪傳〕舊穀既盡、新田不レ收、平民屯居、略無レ所レ入。㊁旗人(5－13687··60)の、鄕にあつて屯居するもの。〔淸會典、八旗都統、注〕城外舊營房・新營房、暨圓明園八旗護軍營・外火器營・健銳營、各蓋二造營房一、撥二給官兵一居住、屯居及各處駐防、皆如レ之。

【屯據】15 トンキヨ たむろしてよる。〔後漢書、桓帝紀〕遣二九眞都尉魏朗一擊二破之一、復屯二據日南一。

【屯禦】16 トンギヨ 兵士がたむろして寇をふせぐ。屯防。駐屯防禦。〔獨孤及、直諫表〕阨要之地、少置二屯禦一、餘悉休レ之。

【屯貨】17 t'uen^{2} huo^{4} 藏入れ。又、藏入貨物をいふ。一に囤貨に作る。

【屯官】18 トンクワン 屯田の官。〔唐書、百官志一〕耕耨以レ時、收穫成レ課、爲二屯官之最一。

【屯軍】19 トングン 軍隊をとどめたむろさせる。〔韋莊、贈二戍兵一詩〕止竟有レ征須レ有レ戰、洛陽何用久屯レ軍。

【屯溪】20 トンケイ ㊀地名。率口をいふ。今の安徽省休寧縣の東南、屯溪の北岸。率水と吉陽水とが會合する處。〔讀史方輿紀要、江南、徽州府、休寧縣〕浙溪、輿程記、縣東三十五里、有二屯溪一、漸源至レ此會二於黟水一、亦名二南港一、黟水、卽率水也。㊁河の名。今の安徽省休寧縣の東南、新安江の上流。一に率江といふ。

【屯結】21 トンケツ たむろしてあつまる。〔後漢書、光武紀下〕羣盜處處並起、攻二劫在所一、害二殺長吏一、郡縣追討、到則解散、去復屯結。〔王羲之、知定帖〕始興郡奴、屯結不二肯出一。〔北史、源賀傳〕時東夏合レ境反叛、所在屯結、子邕轉戰而前。

【屯蹷】22 チユンケツ なやみつまづく。又、其のこと。艱難。不幸。屯蹶。〔後漢書、皇甫嵩朱儁傳贊〕言肅二王命一、並遘二屯蹷一。〔注〕蹷、猶レ躓也。

〔屯蹷否塞〕23 チユンケツヒソク なやみつまづいて、思ふままにならない。又、其のこと。ふしあはせ。屯否。〔曾鞏、寄二歐陽舍人一書〕先祖之屯蹷否塞以死、而先生顯レ之。

【屯險】24 チユンケン 險難で行きなやむ。又、其のこと。困難。屯蹇。屯坎。〔南史、傅亮傳〕及レ見二世路屯險一、著レ論、名曰二演愼一。

【屯蹇】25 チユンケン なやみくるしむ。又、なやみくるしみ。屯坎。蹇も易の卦の名で、險阻になやむ象。〔易、未濟、曳二其輪一、注〕拯二救危難一、經二綸屯蹇一。〔孔叢子、記問〕自嬰二屯蹇一。〔吳志、朱據傳評〕遭二羅屯蹇一。〔曹植、神龜賦〕嗟二緣運之屯蹇一、終遇二獲於江濱一。〔晉陽秋〕山濤、嘗與二阮籍嵆康諸人一、著二忘言之契一、至三于羣子屯二蹇於世一、濤獨保二浩然之度一。〔歐陽建、臨終詩〕況乃遭二屯蹇一。

【屯候】26 トンコウ 駐在してゐる物見。候は斥候、ものみ。〔吳志、呂蒙傳〕晝夜兼行、至二羽所レ置江邊屯候一、盡收二縛之一。

【屯困】27 チユンコン なやみくるしむ。屯難。屯險。〔梁書、武帝紀上〕險泰相沿、晦明非レ一、皆屯困而後亨、資多難二以啓レ聖。

【屯砦】29 トンサイ とりで。〔吳志、朱異傳〕魏廬江太守文欽、營二住六安一、多設二屯砦一、置二諸道要一。「と。

【屯在】30 トンザイ たむろしとどまる。群居すること。

【屯倉】31 トンサウ ㊀くらいれ。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕漕米屯倉、不レ過二一季一。㊁ミヤケ 上古、諸國に置かれた御料地の收穫を藏め置いた御倉。又、これを管掌する官舍。屯家。屯食。〔日本書紀、垂仁紀〕興二屯倉于來目邑一。〔弘道館記述義、上〕置二屯倉於各所一、所下以足二糧食一賑中凶荒上。

【屯紮】32 t'uen^{2} cha^{2} 駐屯する。駐紮する。

【屯子】33 t'uen^{2} tzŭ 村。村落。

【屯氏】34 トンシ 川の名。今の河北省阜城縣の漫河。山東・河北を流れ、子牙河を合して海に入る。唐代、訛して毛氏河といふ。〔漢書、地理志上、魏郡、館陶、注〕河水別出爲二屯氏河一、東北至二章武一入レ海、過レ郡四、行千五百里。〔漢書、溝洫志〕自塞二宣房一後、河復北決二於館陶一、分爲二屯氏河一、東北經二魏郡淸河信都勃海一入レ海、廣深與二大河一等。

【屯食】35 ドンジキ トジキ ㊀折詰の類。昔、朝廷や搢紳家の祝賀・儀式の饗宴のとき、庭上で下﨟に與へた强飯・握飯など。〔西宮記、親王元服〕春興殿西庭、立二屯食卅具一。㊁ミヤケ 屯倉の㊁に同じ。

【屯集】36 トンシフ 集まりとどまる。屯聚(41)に同じ。

【屯舍】37 トンシヤ 屯營(4)に同じ。

【屯守】38 トンシユ たむろして守る。屯戍。〔漢書、馮奉世傳〕萬人屯二守之一。〔後漢書、馮衍傳上〕簡二精銳之卒一、發二屯守之士一。

【屯種】39 トンシユ 田畑を耕作すること。〔元史、順帝紀〕命二大司農司一、屯二種雄霸二州一、以給二京師一、號二京糧一。〔福惠全書、蒞任部、詳文贅說〕查下房屋空閒處所並荒地堪二以屯種一、及修二築房屋一之處上。

【屯戍】40 トンジユ たむろしまもる。兵をとどまらせて邊境を戍る。又、其のこと。屯衞。屯駐。〔史記、項羽紀〕故繇使屯戍過二秦中一。〔史記、平準書〕匈奴數侵二盜北邊一、屯戍者多、邊粟不レ足。〔漢書、文帝紀〕不レ能レ罷二邊屯戍一。〔鹽鐵論、本議〕興レ師而伐レ之、屯戍而備レ之。〔後漢書、五行志一〕百姓屯戍。〔晉書、杜預傳〕因二兵威一徙二將士屯戍之家一、以實二江北一。

【屯聚】41 トンシユウ 集まりとどまる。屯集。屯萃。〔史記、吳王濞傳〕田祿伯曰、兵屯聚而西、無二佗奇道一、難二以就レ功。〔漢書、王莽傳下〕屯聚者、皆淸二潔之一。〔後漢書、祭祀志上〕百里屯聚。〔班固、西都賦〕集二禁林一而屯聚。〔論衡、宣漢〕深幽無二屯聚之姦一。

【屯宿】42 トンシユク たむろしとどまる。屯駐。〔宋史、李綱傳下〕澧嶽鄂若荊南一帶、皆當三屯二宿重兵一。

【屯所】43 トンシヨ ㊀軍隊のたむろしてゐる處。屯堡。〔漢書、趙充國傳〕今詔二破羌將軍一、詣二屯所一、爲二將軍副一。㊁憲兵・巡査の駐在所。交番。

【屯如】44 チユンジヨ 行きなやむさま。困難なさま。〔易、屯〕六二、屯如邅如、乘レ馬班如。〔疏〕屯、是屯難、如、是語辭也。

【屯萃】45 トンスイ たむろしあつまる。屯聚。〔蔡襄、張昇知二秦州一制〕板戶繁富、軍旅屯萃。

【屯政】46 トンセイ 屯田の事務。〔續文獻通考、田賦考、屯田〕莊烈帝崇禎九年、云云、大興二屯政一、積粟二十餘萬。

【屯積】47 t'uen^{2} chi^{1} 積み貯へる。

【屯籍】48 トンセキ 屯兵の名簿。〔唐書、路巖傳〕取二壇丁子弟一、敎二擊刺一、使レ補二屯籍一。

【屯塞】49 t'uen^{2} sê^{4} ぎつしりつまる。屯は、とどまる。塞は、ふさがる。〔水滸傳、十九回〕那四十五隻官船、屯塞做一塊。

【屯達】50 t'uen^{2} ta^{2} 內蒙古に於て、既開墾地の戶長をいふ。

【屯躓】51 チユンチ つまづき苦しむ。つかれなやむ。屯蹶。〔南史、梁武帝諸子、豫章王綜傳〕嘗有二人士一、姓王、以二屯躓一投告、綜于レ時大乏、唯有二眠牀故皂複帳一、卽下二付之一。〔馬令南唐書〕既而動多二屯躓一、五擧猶爲二白丁一。

【屯窒】52 チユンテツ なやみ塞がる。思ふ樣にならない。不遇。〔韓儀、授二韓建昌黎郡王一制〕當二屯窒之時一、雖レ危無レ咎者鮮、乘二泰亨之際一、在レ上不レ驕者難。

【屯長】53 トンチヤウ たむろしている軍の長。營長。〔商子、境內〕五人一屯長。〔漢書、陳勝傳〕發二閭左一戍二漁陽一九百人、勝・廣皆爲二屯長一。〔注〕師古曰、人所レ聚曰レ屯、爲二其長帥一也。〔後漢書、百官志一〕屯長一人。〔後漢書、班固傳、陳レ師按レ屯、注〕大將軍營五部、部校尉一人、比二千石、部下有レ曲、曲下有二屯長一人一。

【屯駐】54 トンチユウ たむろしとどまる。たむろしとどまらせる。屯宿。駐屯。〔宋史、孝宗紀二〕丁巳詔二四川宣撫司一、創二招千人置司一、所在屯駐。〔宋史、職官志七〕屯二駐諸軍一、及二三衙之用一。

【屯屯】55 チユンチユン ㊀くるしむさま。〔鹽鐵論、國病〕殷殷屯屯。㊁トントン ㋑信實なさま。〔春秋繁露、五行相生〕孔子爲二魯司寇一、斷レ獄屯屯、與レ衆共レ之、不二敢自專一。㋺聚まるさま。〔柳宗元、答二周君巢餌藥久壽一書〕味味而趍、屯屯而居。

【屯丁】56 トンテイ 屯田の民をいふ。屯田(60)の㊀を見よ。〔六部成語、戶部、屯丁、注解〕屯田之民、種二官地一爲レ業。

【屯邸】57 トンテイ やしき。〔南齊書、高帝紀下〕使二公不レ專レ利、氓無レ失レ業、二宮諸王、悉不レ得下營二

立屯邸一、封中略山湖上。

【屯亶】58 チュンテン　屯邅に同じ。〔漢書、敍傳上〕紛屯亶與二蹇連一兮、何艱多而智寡。〔注〕師古曰、易屯卦六二爻辭曰、屯如亶如、蹇卦六四爻辭曰、往蹇來連、皆謂二險難之時一也。〔補注〕先謙曰、文選亶作レ邅。

【屯邅】59 チュンテン　行きなやむさま。又、ふしあはせ。屯はなやみ、邅は立ちもとほる。屯亶。迍邅。〔易、屯〕六二、屯如邅如、乘レ馬班如。〔疏〕屯如邅如者、屯、是屯難、邅、是邅迴、如、是語辭也。〔後漢書、荀彧傳論〕方二時運之屯邅一。〔班固、幽通賦〕紛屯邅與二蹇連一兮、何艱多而智寡。〔左思、詠史詩〕英雄有二屯邅一、由來自二古昔一。〔謝靈運、詠二陳琳一詩〕皇漢逢二屯邅一、天下遭二氛慝一。〔杜甫、秋日夔府詠懷一百韻詩〕生涯已寥落、國步尚屯邅。

【屯田】60 トンデン　㊀兵士が或る地に駐屯して、平時は耒耜を把つて耕作に從事し、事があれば武器を執つて其の地を守護すること。又、其の者。又、其の田。漢の武帝の時、邊境に事多く、屢〻兵を動かし、運糧の費が多かつたので、趙充國の建議に依り、兵を國境の要地に屯在させ、開墾に從事させたのに始まる。屯耕。〔正字通〕田、漢晉率兵屯、領以レ帥、唐率民屯、領以レ官、宋率營田以レ民、云云、趙充國於二金城一留二步士萬人一、屯田擊二先零一、條二上屯田十二事一、宣帝從レ之、明初、兼二行官屯・民屯・兵屯・商屯・腹屯・邊屯諸法一、永樂時著レ令、每二一都司一另撥二旗軍十一一、名二耕種一、號二樣田一、據二所レ收子粒多寡一、以辨二別歲之豐凶、軍之勤惰一、雖二養レ軍百萬一、不レ費二民間一粒一、兵法所謂、屯田一石可レ當二轉輸二十石一也。〔事物紀原、利源調度部、屯田〕事始曰、昭帝紀、始元二年、詔發下習二戰射一士上、詣二朔方一、調二故將吏一、屯二田張掖一、謂下爲二屯田一之始上、非也、西域傳曰、自三武帝初通二西域一、置二校尉一、屯二田渠犂一、又征和中、桑洪羊奏言、可下遣二屯田卒一、益種中五穀張掖酒泉上、然則屯田蓋起下於漢武開二西域一之時上也。〔漢書、昭帝紀〕始元二年冬、發下習二戰射一士上、詣二朔方一、調二故吏一、將屯二田張掖郡一。〔漢書、趙充國傳〕詣二金城一、上二屯田奏一、願下罷二騎兵一、留二步兵萬餘一、分中屯要害處上、條二不レ出レ兵留田便宜十二事一。〔後漢書、祭祀志上〕必髡兼令二屯田一。〔魏志、武帝紀〕議始興二屯田一。〔六部成語、戶部、屯田、注解〕兵丁耕種之田也。㊁官名。晉、屯田尚書を置き、唐、屯田郎中員外郎を置く。屯田・官田等の事を掌る。明以後、墳塋の事を兼ね掌り、清末、廢す。我が主稅官にあたる。〔通典、職官典、工部尚書〕屯田郎一人。〔注〕至レ晉始有二屯田尚書一。〔通典、職官典、工部尚書〕屯田郎中一人。〔注〕漢成帝置二尚書郎兩人一、其一人掌二戶口墾田一、蓋尚書屯田郎之始也。㊂我が國の王朝時代、鎭守府の戍兵の爲に設けた田。〔類聚三代格十五、太政官符〕應レ輸二陸奥國屯田地子一事。㊃主稅寮の唐名。〔職原抄〕主稅寮、唐名、倉部、又云二屯田一。

【屯田道】61 トンデンダウ　官名。清代、道員の一。開墾屯田の事を掌る。多く偏僻の地方に置く。〔皇朝文獻通考、職官考、直省官員〕提學・兵備・清軍・巡海・水利・屯田・驛傳・鹽法諸道、各以レ事設二各省要地一。〔清國行政法汎論、道員、屯田道〕屯田道、管二掌開墾屯田之事一、多設二于偏僻地方一、如二甘肅・雲南等處一是也。

【屯田兵】62 トンデンヘイ　㊀屯田する兵士。〔清會典事例、戶部、屯田、新疆屯田〕分布巴里坤駐紮滿兵三千名、綠旗屯田兵一千五百名。㊁我が國では、北海道の警備と拓殖とのため、明治初年から同三十七年まで置いた。

【屯田部】62′ トンデンブ　明代、屯田を掌る役所。後、屯部と改名した。〔稱謂錄、屯田司、屯部〕明史職官志、洪武十三年、以二屯田部一爲二屯部一。

【屯田清吏司】63 トンデンセイリシ　官署の名。明、置き、清、之に因る。工部に屬し、薪炭の供給、夫役、陵寢の修繕等の事を掌る。〔清會典、工部〕屯田清吏司、郎中、滿洲四人、漢一人、員外郎、滿洲五人、漢一人、主事、宗室一人、滿洲二人、漢二人、掌二陵寢修繕之事一、凡供二薪炭一、皆覈焉、掌二衙門漢官之升補一、治二其匠役一。

【屯難】64 チュンナン　㊀なやみくるしむ。又、其のこと。屯困。屯坎。〔易、屯、利レ建レ侯、疏〕其屯難之世、世道初創、其物未レ寧。㊁時運の艱難なこと。わざはひ。禍亂。〔謝靈運、述二祖德一詩〕屯難既云康、尊レ主隆二斯民一。〔宋書、謝靈運傳〕國屯難而思レ撫。〔唐書、戴叔倫傳〕屯難未レ靖、安レ之者莫レ先二於兵一。〔柳宗元、遊二南亭一夜還敍レ志七十韻詩〕屯難果見レ凌、剝喪宜レ所レ遭。

【屯方】65 トンバウ　屯營。方は坊と同じく、場所の意。〔何晏、景福殿賦〕屯方列レ署。〔注〕善曰、方與レ坊、古字通、濟曰、屯方、屯營也。

【屯堡】66 トンバウ トンポウ　兵がたむろしているとりで。屯所。〔唐書、崔義玄傳〕王世克將二高毗一寇二河內一、義玄擊走レ之、多下二屯堡一。〔韓愈、送二水陸運使韓侍御歸レ所レ治序〕出二入河山之際一六百餘里、屯堡相望、寇來不レ能レ爲レ暴、人得三肆耕二其中一。

【屯防】67 トンバウ　たむろして寇をふせぐ。屯禦。〔唐書、兵志〕所謂方鎭者、節度使之兵也。原二其始一起二於邊將之屯防者一。

【屯剝】68 チュンパク　すべて物事の行きつまること。屯・剝ともに易の卦の名で、なやむ象。〔南史、王神念・羊侃等傳論〕及三鴉仁晚遇二屯剝一、侃則臨レ危不レ撓、鴉仁則守レ義以殞、古人所謂心同二鐵石一、此之謂乎。〔徐陵、梁禪レ陳詔〕靜惟屯剝、夕惕載懷。

【屯否】69 チュンピ　運命が逼塞して艱難に會ふこと。屯・否ともに易の卦の名。否は物事の不利にして通ぜざる象。屯蹇否塞(23)に同じ。〔梁元帝、蠲二免力田一詔〕頃歲屯否、多難薦臻。

【屯部】70 トンブ　㊀たむろする部署。〔魏志、武帝紀〕不レ得レ離二屯部一。㊁明代、屯田部(62′)をいふ。〔稱謂錄、屯田司、屯部〕明史職官志、洪武十三年、以二屯田部一爲二屯部一。

【屯平】71 チュンペイ　艱難と平易。難易。〔鮑照、升天行〕倦レ見二物興衰一、驟覩二俗屯平一。

【屯兵】72 トンペイ　㊀たむろする兵士。〔漢書、百官公卿表上〕城門校尉掌二京師城門屯兵一、步兵校尉掌二上林苑門屯兵一。〔韋莊、又聞二湖南荊渚相次陷沒一詩〕幾時聞レ唱二凱旋歌一、處處屯兵未レ倒レ戈。㊁兵士をたむろさせる。〔杜甫、柳司馬至詩〕函關猶出レ將、渭水更屯レ兵。

【屯蒙】73 チュンモウ　物のはじめと物の若いこと。天地が物を生ずるのはじめをいふ。否塞晦蒙の意。〔錢起、同二鄔戴一關中旅寓詩〕吞レ悲問二唐擧一、何路出二屯蒙一。〔資治通鑑、唐紀〕(則天后、長壽元年)自二文明草昧、天地屯蒙一、三叔流言、四凶構レ難。〔注〕屯者、物之始、蒙者、物之穉、言、后稱レ制之初、猶二天地生レ物之始一。

【屯門】74 トンモン　山名。廣東省寶安縣の南。一名、杯渡山。

【屯厄】75 チュンヤク　難儀をいふ。〔魏志、管寧傳〕振二翼遐裔一、翻然來翔、行遇二屯厄一、遭二罹疾病一。

【屯用】76 チュンヨウ　惜しみ用ひる。〔班固、典引〕禮官儒林、屯用篤誨之士、不レ傳二祖宗之髣髴一。

【屯落】77 トンラク　屯兵があつまつて村落をなしたところ。部落。〔魏志、管寧傳、注〕皇甫謐高士傳曰、寧所レ居屯落。

【屯留】78 トンリウ　縣名。漢、置く。春秋時代の赤狄の邑で、之を留吁といひ、戰國には屯留といふ。明・清、皆山西省潞安府に屬す。今の山西省長子縣の北、摩訶嶺の東北。〔戰國、秦策〕塞二轘轅・緱氏之口一、當二屯留之道一。〔漢書、地理志上〕上黨郡、縣十四、屯留。〔注〕師古曰、屯音純。〔清史稿、地理志〕山西、潞安府、縣七、屯留。

【屯糧】79 トンリヤウ　屯田から納入する糧。明・清の田賦の一種。〔續文獻通考、田賦考、屯田〕憲宗成化元年十月、敕二宣府守臣一、以二屯糧一買二官馬一。〔六部成語、戶部、屯糧、注解〕屯田耕種兵丁所レ領之口糧也。

【屯壘】80 トンルイ　たむろするとりで。又、とりでにたむろする。〔唐書、裴寂傳〕寂無二它才一、惟飛二檄郡縣一、促入二屯壘一、相保贅焚二積聚一、人益惴駭思レ亂。〔宋祁、眞定述レ事詩〕莫レ嫌二屯壘一是邊州、試聽山河說二上游一。

【屯列】81 トンレツ　たむろしならぶ。〔後漢書、皇甫規傳〕願假二臣兩營二郡屯列坐食之兵五千一、出二其不意一、與二護羌校尉趙沖一共相首尾。

【屯屠何】82 トントカ　後漢、休蘭尸逐侯鞮單于(1－440・・208)の名。

【屯頭王】83 トントウワウ　漢代、匈奴の王の稱號。〔史記、衞將軍驃騎傳〕獲二屯頭王・韓王等三人一。〔注〕集解曰、漢書音義曰、屯頭、胡王號也、索隱曰、李奇曰、皆匈奴王號。

【屯江小尉】84 トンカウセウヰ　江魨の異名。ふぐ。〔事物異

名錄、水族、江豚〕水族加恩簿、屯江小尉、宜ㇾ授㆓追風使試湯波太守㆒、按、謂㆓江魨㆒也。

【屯撥什庫】85（トンパツシフコ） 清代、屯田の事務を管理する役人。〔六部成語、戶部、屯撥什庫、注解〕管㆓理屯田事務㆒之領催。

【㞢】7829 シ ❶之(1－125)の本字。〔中華大字典〕㞢、之本字。❷注音符號の聲符の一。翹舌尖音。先づ舌尖を上齒齦に接觸せしめて氣息の洩出を阻止し、ㄉの音を發する情態とし、次いで、舌葉部と硬口蓋とで發生するㄕの音を出す情態に移し、此の兩音を同時に發音する氣持で發音すれば、此の音になる。チ。chih 正形は**㞢**。

【㞢】7830 シ 之(1－125)・芝(9－30699)の本字。〔通志、六書略〕㞢、隸作ㇾ之、今作ㇾ芝。〔正字通〕按、古芝艸本作ㇾ㞢、借爲㆓之往字㆒。

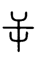
二畫

【丯】7831 ホウ 丰(1－76)の篆字。〔正字通〕丰、篆作ㇾ丯。

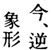
【𡴀】7832 セイ 生(7－21670)の古字。〔正字通〕𡴀、古文生、象㆓艸木出ㇾ土形㆒、篆作ㇾ生。

三畫

【屰】7833 ㊀ゲキ ギャク 〔集韻〕仡戟切 陌 ㊁ハク ヒャク 〔集韻〕匹陌切 陌


小篆

㊀❶**さからふ**。逆(11－38849)に通ず。〔說文〕屰、不ㇾ順也、从㆓干下凵㆒、屰ㇾ之也。〔段注〕後人多用ㇾ逆、逆行而屰廢矣、凶下云、象㆔地穿交陷㆓其中㆒也、方㆓上干㆒而下有㆓陷ㇾ之者㆒、是爲㆓不順㆒。❷**二つの枝あるほこ**。戟(5－11606)に通ず。〔字彙〕屰、古戟字、有ㇾ枝兵也、與㆓干字㆒同ㇾ體、雙枝爲ㇾ屰、單枝爲ㇾ戈、隸借爲㆓逆順字㆒、又作㆓戟字㆒以別ㇾ之。㊁霸(12－42490)に同じ。〔集韻〕霸、月始生、古作ㇾ屰。

解字 會意。干と凵との合字。干はおかす意、凵はㅂの上畫の除かれた字で、口を張ること、卽ち口を開いて辯ずる意を示す。屰は干すものが上にあり、辯ずるものが下にある。故に上から犯されて下の者が抗辯することを意味する。故に本義をさからふ、不順の義とする。今、逆の字行はれて屰の字廢す。▽(金文) 象形。人を逆さにした形に象る。

【𡴂】7834 セン 叀(2－3083)の古字。〔說文〕叀、𡴂、古文叀。〔集韻〕叀、說文、專、小謹也、从㆓幺省㆒、屮、財見也、古作ㇾ𡴂。

【𡴃】7835 ハン 攀(5－12926)の古字。〔字彙補〕𡴃、古文攀字。

參考 艸(9－30638)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕艸、草本字、𡴃、古攀字。

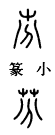
【𡴄】7836 チュツ チュチ 〔篇海〕竹律切 質

めばえる。もえでる。〔篇海〕𡴄、草一出也。

四畫

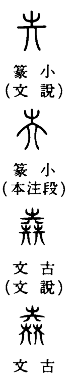
【𡴅】7837 シ 市(4－8775)に同じ。〔字彙補〕𡴅、與ㇾ市同。

【𡴆】7838 フン ブン 〔集韻〕符分切 文


小篆 或體

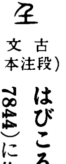
❶**若草がにほふ**。或は芬(9－30728)に作る。〔說文〕𡴆、艸初生、其香分布也、从ㇾ屮分聲、芬、𡴆或从ㇾ艸。❷**姓**。〔集韻〕𡴆、亦姓。

【𡴇】7839 リク ロク 〔集韻〕力竹切 屋


小篆(說文) 小篆(段注本) 古文(說文) 古文(段注本)

❶**田に生えるきのこの一種**。〔說文〕𡴇、菌𡴇、地蕈、叢㆓生田中㆒、从ㇾ屮六聲。❷籒文、𡻮(4－7867)に作る。〔說文〕𡻮、籒文𡴇、从㆓三𡴇㆒。〔集韻〕𡴇、籒从㆓三𡴇㆒。

【㞷】7840 クヮウ ワウ 〔集韻〕胡光切 陽


小篆 古文(段注本)

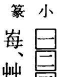
はびこる。古は𡴋(4－7844)に作る。〔說文〕㞷、艸木妄生也、从㆔㞢在㆓土上㆒、讀若ㇾ皇。𡴋、古文。〔集韻〕㞷、古作ㇾ𡴋。

解字 會意。㞢と土との合字。土上に㞢(くさ)のはびこる義、故に土上に㞢を加へる。古文では、㞢と王との合字とし、王は物が地をいでてぬき生ずる義、又、人が土上にたつ意とする。

五畫

【𡴈】7841 キョク 㔼(2－2927)に同じ。〔康熙字典〕𡴈、本作ㇾ㔼。

【𡴉】7842 ㊀バイ マイ 〔集韻〕母罪切 賄 ㊁バイ マイ 〔集韻〕謨杯切 灰 ㊂バイ マイ 〔集韻〕莫佩切 隊


小篆

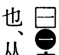
㊀㊁㊂❶**のびる**。**しげる**。〔說文〕𡴉、艸盛上出也、从ㇾ屮母聲。❷**いへども**。〔集韻〕𡴉、一曰、雖也。❸**つね**。〔集韻〕𡴉、一曰、常也。❹或は每(6－16725)に作る。〔集韻〕𡴉、隸作ㇾ每。

六畫

【𡴊】7843 カフ 甲(7－21725)の古字。〔字彙補〕𡴊、古文甲字。

【𡴋】7844 クヮウ 㞷(4－7840)の古字。〔集韻〕㞷、古作ㇾ𡴋。

【𡴌】7845 ㊀ゲツ ゲチ 〔集韻〕魚列切 屑 ㊁ゲイ ガイ 〔集韻〕倪祭切 霽


小篆

㊀❶**高くて危い**。〔說文〕𡴌、危高也、从ㇾ𠂤中聲、讀若ㇾ臬。〔鍇注〕辥字從ㇾ此。❷或は峊(4－8192)・嶭(4－8657)・嵲(4－8367)・峴(4－8193)に作る。〔集韻〕𡴌、或作㆓峊・嶭・嵲㆒、木華書作ㇾ峴。

🈔土が高い。〔集韻〕峕、土高也。
[參考] 峕(**4－8024**)の參考を見よ。

【峕】7846 セイ 青(**12－42564**)の古字。〔集韻〕青、古作レ峕。

【峊】7847 セイ 青(**12－42564**)の古字。〔集韻〕青、古作レ峊。

【峇】7848 セイ 青(**12－42564**)の古字。〔說文〕青、峇、古文青。〔玉篇〕峇、古文青。

【峑】7849 ケン 〔篇海〕其員切 [先]
地名。〔篇海〕峑、地名。

七畫

【峔】7850 バイ 峔(**4－7842**)の俗字。〔正字通〕峔、俗峔字。

【峷】7851 ナン 南(**2－2750**)の古字。〔說文〕南、云云、峷、古文。

【峀】7852 セン 專(**4－7439**)の譌字。〔正字通〕按、叀篆作レ叀、隸用レ顓、通用レ專、古文叀、从二ニム一作レ玄、非レ从二ニ口一、舊注譌作レ峀。

【㚔】7853 カウ 幸(**4－9176**)の本字。〔正字通〕㚔、幸本字。

八畫

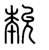
【毐】7854 ドク 毒(**6－16730**)に同じ。〔正字通〕毒、說文、从レ中从レ毒。

【嵱】7855 シン 愼(**4－11024**)の古字。〔字彙補〕嵱、古文愼字。

九畫

【嵏】7856 ソウ 奏(**3－5915**)の本字。〔字彙〕嵏、奏本字。

【嵈】7857 キン 〔集韻〕庾準切 [軫]



小篆

すすむ。〔說文〕嵈、進也、从レ本从レ中允聲、易曰、嵈升大吉。

【崋】7858 ナン 南(**2－2750**)の古字。〔集韻〕南、古作レ崋。

【嵳】7859 音未詳 五嶽の名。〔字彙補〕嵳、五嶽、姓崇、名嵳、音未詳、見二五嶽眞形圖一。

十畫

【嵡】7860 ホン 本(**6－14421**)の古字。〔字學三正〕嵡、古本字。

【嵀】7861 シュ 手(**5－11768**)の古字。〔玉篇〕嵀、古文手。

【嶀】7862 チ 〔集韻〕抽知切 [支]
獸形の山神。离(**8－24888**)の古字。〔集韻〕离、山神獸也、古作レ嶀。

十二畫

【嶐】7863 クン 熏(**7－19300**)の本字。〔集韻〕嶐、隸作レ熏、俗作レ燻、非レ是。

【嶍】7864 サウ 喪(**2－3985**)の古字。〔集韻〕喪、古作レ嶍。

【嶕】7865 ソウ 奏(**3－5915**)の古字。〔字彙補〕嶕、古文奏字。

【嶘】7866 ホン 本(**6－14421**)の古字。〔集韻〕本、古作レ嶘。

十八畫

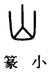
【巁】7867 リク 六(**4－7839**)の籀文。〔集韻〕六、籀从二三六一。

二十一畫

【巐】7868 ハイ 擗(**5－12856**)の古字。〔集韻〕擗、古作レ巐。

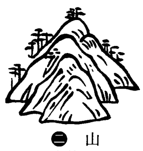
山部

【山】7869 🈩サン 〔集韻〕師閒切 [刪] 🈔セン ㄕㄢ shan¹ 🈪セン 〔集韻〕所旃切 [先]



小篆

🈩❶**やま**。㋑平地より高く突起し、萬物を養育する地塊。〔說文〕山、宣也、謂下能宣二散气一生中萬物上也、有レ石而高、象形。〔釋名、釋山〕山、產也、產二生物一也。〔書、禹貢〕奠二高山大山一。〔周禮、地官、大司徒〕辨二其山林川澤丘陵墳衍原濕之名物一。〔注〕積レ石曰レ山。〔國語、周語下〕其山土之聚也。㋺山の神。〔穀梁、成、五、君親素縞、注〕山川、國之鎭也。〔論語、雍也〕山川其舍レ諸。〔集注〕山川、山川之神也。㊇五嶽。〔國語、周語中〕以供二上帝山川百神之祀一。〔注〕山川、五岳河海也。〔顏延之、三月三日曲水詩序〕山瀆效レ靈。〔注〕善曰、山、五嶽也。㊁易では艮の卦の象。〔易、說卦〕艮爲レ山。〔易、蒙〕山下出レ泉。〔虞注〕艮爲レ山。❷**山の模樣**。古、君主の儀服にぬひつけたもの。〔廣雅、釋言〕山、彰也。〔禮、明堂位〕夏后氏山。〔注〕祭服、禹湯至レ周、增以二畫文一、後王彌飾也、山、取二其仁可一レ仰也。〔荀子、大略〕天子山冕。〔注〕山冕、謂下畫二山於衣一而服上冕卽袞冕也。❸**君主の象**。〔公羊、成、五、外異不レ



❷ 山

（四書引蒙略圖解）

書、注〕山者陽精、德澤所二由生一、君之象。〔穀梁、成、五〕梁山崩。〔注〕山者陽位、君之象也。〔後漢書、楊賜傳〕昔虹貫二牛山一。〔注〕山、君位也。㊃つか。塜。墳墓。〔廣雅、釋丘、疏證〕秦名二天子冢一曰レ山、漢曰レ陵。〔漢書、地理志下〕非二獨爲レ奉二山園一也。〔注〕如淳曰、黃圖謂二陵冢一爲レ山。〔任昉、爲二范始興一作求レ立二太宰碑一表〕瞻二彼景山一。〔注〕善曰、景山、謂レ墳也。〔李華、含元殿賦〕靡池秦山、陂陀漢陵。㊄ただしい。動かない。〔禮、樂記〕揔レ干而山立。〔注〕山立、猶二正立一也〔禮、玉藻〕山立時行。〔注〕山立、不二搖動一也。㊅姓。〔通志、氏族略、以レ官爲レ氏〕山氏、周山師、掌二山林一之官、風俗通云、烈山氏之後、左傳、晉大夫山祁、漢有二武都太守山昱一、又吐難氏後魏改爲二山氏一。㊆［佛］**寺の稱號**。〔蘇軾、宸奎閣碑〕歸二老於阿育王山廣利寺一。㊇［現］まぶし。簇。［二］**いしやま**。〔集韻〕山、土高有レ石曰レ山。［邦］**やま**。㋑古、特に比叡山の稱。㋺山陵、陵墓をいふ。㋩かなやまの略。鑛山。㋥萬一を賴んでする冒險事業。山師のするしわざ。轉じて、惡い心。惡心の人。㋭山鉾の略。京都の方言。山車の一種。㋬かはやの隱語。甲州の方言。㋣楊弓・大弓で錢物を賭物にする時の三錢の隱語。㋠物の名の上に添へて野生の意味を表はす語。山水・山育・山藍の類。㋷物の多い形容。㋦物事の絶頂。又、文章の主眼點。

［名乘］　タカ。ヤマ。

［解字］　象形。山の形にかたどる。古文、⼭につくる。上は山の象形、下の一は地をあらはす。說文に气を宣散して萬物を生ずるを謂ふなりといふは山・宣の同音を以て其の義を解し、石有りて高しとは其の性質をのべたもの。說文通訓定聲が土石ありて高きかたちに象るとし、春秋元命苞をひきて山は气の苞、精を含み雲を藏するもの、石にふれて出づといふは、山の性質上から解したものである。〔說文通訓定聲〕山、土有レ石而高、象形、云云、春秋元命苞、山者氣之苞、所二以含レ精藏レ雲、故觸レ石而出。

【山阿】1 サンア　やまのくま。山の入りこんだ所。山隈。〔古樂府、雉朝飛操〕雉朝飛兮鳴相和、雌雄羣遊二於山阿一。〔魏志、常林傳〕林乃避二地上黨一、耕二種山阿一、當時旱蝗、林獨豐收。〔嵆康、幽憤詩〕采二薇山阿一、散二髮巖岫一。〔潘岳、寡婦賦〕言陟二兮山阿一。〔張載、劍閣銘〕勒二銘山阿一、敢告二梁益一。〔孔稚珪、北山移文〕尙生不レ存、仲氏既往、山阿寂寥、千載誰賞。

『山阿人』2 サンアノヒト　山に棲む人。仙人。〔楚辭、九歌、山鬼〕若レ有二人兮山之阿一、披二薜荔一兮帶二女羅一。〔謝靈運、從二斤竹澗一越レ嶺溪行詩〕想二見山阿人一。

【山鴉】3 サンア　山がらす。〔蘇軾、谷林堂詩〕山鴉爭呼號、谿蟬獨清虛。

【山哀】4 サンアイ　山のかなしみ。〔韓愈、祭二河南張員外一文〕南上二湘水一、屈氏所レ沈、二妃行迷、淚蹤染レ林、山哀浦思、鳥獸叫音、予唱君和、百篇在レ吟。

【山隘】5 shan¹ ai⁴　㊀峽道。㊁峠。

【山靄】6 サンアイ　山のもや。〔韓翃、宿二石邑山中一詩〕浮雲不下共二此山一齊上、山靄蒼蒼望轉迷。〔梅堯臣、山光寺詩〕鳥啼山靄裏、僧語竹林中。

【山拗】7 サンアウ　山のくぼんだ所。山凹。〔紅樓夢、十七回〕從二東北山拗裡一引到二那村庄裡一。

【山媼】8 サンアウ　山に棲む老女。〔貫休、書二匡山老僧菴一詩〕白磨作レ夢枕二藤屨一、東峯山媼貢二瓜乳一。

【山櫻】9 サンアウ　㊀やまのさくら。〔沈約、早發二定山一詩〕山櫻發欲レ然。〔蕭瑱、春日貽二劉孝綽一詩〕澗水初流レ碧、山櫻早發レ紅。〔江總、春日詩〕水苔宜レ溜色、山櫻助二落暉一。〔王維、送三錢少府歸二藍田一詩〕每候二山櫻發一、時同二海鷰歸一。㊁ヤマザクラ　木の名。しろやまざくら。四、五月の間、葉と同時に花を開く。

『山櫻桃』10 サンアウタウ　木の名。にはうめ。〔白居易、移二山櫻桃一詩〕亦知官舍非二吾宅一、且斸二山櫻一滿院栽。

【山鶯】11 サンアウ　山中の鶯。〔何遜、行經二孫氏陵一詩〕山鶯空曙響、隴月自秋暉。〔王勃、遊二山廟一詩序〕野獸羣狎、山鶯互囀。〔岑參、送下嚴黃門拜二御史大夫一再鎭二蜀川一兼覲省上詩〕山鶯朝送レ酒、江月夜供レ詩。

【山喔】12 サンアク　山をいふ。喔はとばりで、山をとばりに見做していふ。〔陳騤、天台臨川橋記〕環二瞻山喔一凝二翠空一、府二睨溪紋一織二微風一。

【山凹】13 サンアフ　山の凹んだ處。山拗。〔袁枚、普陀寺詩〕一寺藏二山凹一、松竹淡如レ許。

【山暗】14 サンアン　山がくらい。〔趙冬曦、和三尹悉秋夜游二灉湖一詩〕山暗雲猶辨、潭幽月稍來。〔戴叔倫、戲留二顧十一明府一詩〕江明雨初歇、山暗雲猶濕。

【山夷】15 サンイ　㊀山の平かなこと。夷は平。〔魏志、和洽傳〕荊州劉表、無二他遠志一、愛レ人樂レ士、土地險阻、山夷民弱、易二依倚一也。㊁山中のえびす。山賊。〔晉書、杜預傳〕攻二破山夷一、錯二置屯營一、分二據要害之地一。〔柳宗元、酬下韶州裴曹長使君寄二道州呂八大使一因以見上レ示二云云詩〕海俗衣猶レ卉、山夷髻不レ鬟。

【山衣】16 サンイ　㊀山中で著る衣。隱者の衣。〔王建、從軍後寄二山中友人一詩〕愛レ仙無レ藥住二溪貧一、脫二却山衣一事二漢臣一。〔雍陶、和二劉補闕秋園寓興一詩〕對レ僧餐二野食一、迎レ客著二山衣一。㊁山をいふ。山を衣に見做していふ。〔庾信、周大將軍琅琊莊公司馬裔墓誌銘〕風松雲蓋、白水山衣。

【山移】17 サンイ　㊀山が移る。〔水經、沅水注〕熊溪南帶二移山一、山本在二水北一、夕中風雨、旦而山移二水南一、故山以レ移爲レ名。㊁歲月の變移をいふ。山の位置も長年月を經れば移る意に本づく。〔劉威、感遇詩〕海竭山移歲月深、分明齊得二世人心一。

【山意】18 サンイ　山のおもむき。又、山中に在るやうな感じ。又、山の心。又、山氣。〔杜甫、小至詩〕岸容待レ臘將レ舒レ柳、山意衝レ寒欲レ放レ梅。〔白居易、累二土山一詩〕堆レ土漸高山意出、終南移入戶庭閒。〔皎然、夏日題二鄭谷江上納涼館一詩〕迢遙山意外、淸風又對レ君。〔李建勳、游二棲霞寺一詩〕曉色未レ開山意遠、春容猶淡月華昏。〔楊萬里、病後覺レ衰詩〕山意凄二寒日一、秋光染二瘦詩一。〔元好問、山居雜詩〕野陰添レ晚重、山意向レ秋多。

【山委】19 サンヰ　山のやうに積み重なる。委は置。山積。〔唐書、永王璘傳〕璘至二江陵一、募レ士得二數萬一、補二署郎官御史一、時江淮租賦鉅億萬、在所山委、璘生二宮中一、於レ事不二通曉一、見二富且强一、遂有下窺二江左一意上。〔宋史、食貨志下一〕蘇轍言、元豐及內庫財物山委、皆先帝多方蓄藏、以備二緩急一。

【山威】20 サンヰ　山のいきほひ。〔皎然、同二顏使君眞卿・李侍御蕚一遊二法華寺一登二鳳翅山一望二太湖一詩〕地勢抱二郊樹一、山威增二郡樓一。

【山偉】21 サンヰ　後魏、洛陽の人。字は仲才。諡は文貞。官は孝莊の朝、給事黃門侍郎、節閔帝の時、祕書監、孝靜の初、衞大將軍・中書令・監起居。文史を愛して、產を營まず、死する日、宅を賣つて葬を營む。〔魏書、八十一〕・〔北史、五十〕。

【山圍】22 サンヰ　山のめぐり。又、山が取り圍む。〔孫逖、立秋日題二安昌寺北山亭一詩〕山圍伯禹廟、江落伍胥潮。〔白居易、贈二楚州郭使君一詩〕淮水東南第一州、山圍二雉堞一月當レ樓。〔使高麗錄〕急水門不レ類二海島一、宛如二巫峽江路一、山圍屈曲、前後交錯。〔蘇軾、城南縣尉水亭得二長字一詩〕澤國山圍裏、孤城水影旁。

【山圍堂】23 サンヰダウ　清、鄭宗圭（**11－39647・・490**）の室名。

【山圍二故國一周遭在】24 ヤマココクヲカコミテシウサウシテアリ　國は亡びて、山河だけがもとのままにめぐつてゐること。周遭は、かこむ。〔劉禹錫、石頭城詩〕山圍二故國一周遭在、潮打二空城一寂寞回、淮水東邊舊時月、夜深還過二女牆一來。

【山圍二故國一城空在】25 ヤマココクヲカコミシロムナシクアリ　山はもとのままにめぐつてゐるが、國は既に滅び、城壁のみ空しく存してゐる。山圍二故國一周遭在に同じ。〔蘇軾、次三韻秦少章和二錢蒙仲一詩〕碧畦黃隴稻如レ京、歲美人和易レ得レ情、鑑裏移レ舟天外思、地中鳴角古來聲、山圍二故國一城空在、潮打二西陵一意未レ平、二子有レ如二雙白鷺一、隔レ江相照雪衣明。

【山萎】26 ボタンツル　草の名。わくのて。わくづる。か

らくさ。うまのあしがた科の蔓性宿根草で、山野に生じ、夏、白色の花を開く。

【山友】27サンイウ　山に居る友。山侶。〔張耒、夏日詩〕山友招相見、鄕書向遠征。

【山右】28サンイウ　山西省の別稱。太行山の西に在るからいふ。〔淸國行政法汎論、行政區劃及地方官廳、直省古名〕山東山左、山西山右或晉。

【山狖】29サンイウ　山中に棲む猿。又、其のなき聲。狖は、くろざる。一說に、をながざる。〔崔顥、題ニ沈隱侯八咏樓一詩〕江靜聞ニ山狖一、川長落ニ塞鴻一。

【山幽】30サンイウ　山の暗く奧深いこと。〔張充、與ニ尙書令王儉一書〕桂蘭綺靡、叢ニ雜于山幽一、松柏森陰、相ニ繚于澗曲一。〔鄭世翼、登ニ北邙一望ニ京洛一詩〕山幽有ニ桂叢一、何爲坐ニ惆悵一。〔王勃、別レ人詩〕江上風烟積、山幽雲霧多。

【山郵】31サンイウ　山中の宿場。〔張九齡、奉レ使自ニ藍田玉山一南行詩〕海縣且悠緬、山郵日駿奔。〔王維、送ニ徐郞中一詩〕孤鶯吟ニ遠墅一、野杏發ニ山郵一。〔元稹、亞枝紅詩〕平陽池上亞枝紅、悵望山郵是事同。

【山遊】32サンイウ　山中に遊ぶ。やまあそび。〔李順、題ニ綦毋校書別業一詩〕豈伊問ニ天命一、但欲レ爲ニ山遊一。〔白居易、秋遊ニ平泉一贈ニ韋處士閑禪師一詩〕秋景引ニ閑步一、山遊不レ知レ疲。

【山牖】33サンイウ　山家の窓。山牕。〔閭防、宿ニ岸道人精舍一詩〕山牖見ニ然燈一、竹房聞ニ搗藥一。

【山邑】34サンイフ　山間の村。山村。〔管子、山國軌〕周岐山至ニ於崢丘之西塞丘一者、山邑之田也。〔蘇軾、司竹監燒葦園會獵詩〕豈如三閑官走ニ山邑一、放曠不三與趨ニ朝衙一。

【山茵】35サンイン　山中で用ひるしとね。〔王勃、九成宮東臺山池賦〕荷抽ニ木蓋一、薜引ニ山茵一。

【山蚓】36サンイン　蛇の名。❶小蛇の異名。〔正字通〕蚓、山蚓、蛇別名、蛇大如ニ蚯蚓一有レ鱗。〔續明道雜志〕黃州有ニ小蛇一、謂ニ之山蚓一。❷兩頭蛇をいふ。老蚓の化したものといふ。〔本草、兩頭蛇〕集解、時珍曰、張耒雜誌云、黃州兩頭蛇、一名山蚓、云ニ是老蚓所レ化、行不レ類レ蛇、宛轉甚鈍、此卽羅氏所レ云者也。

【山陰】37サンイン　❶山の北。やまかげ。山北。〔周禮、秋官、柞氏〕剝ニ陰木一、〔疏〕云下生ニ山南一爲ニ陽木一、生ニ山北一爲中陰木上者、爾雅云、山南曰レ陽、山北曰レ陰。〔王羲之、蘭亭序〕永和九年、歲在ニ癸丑一、暮春之初、會ニ于會稽山陰之蘭亭一、修ニ禊事一也。〔姚合、寄ニ楊工部一聞下毘陵舍弟自ニ罨溪一入中茶山上詩〕芳新生ニ石際一、幽嫩在ニ山陰一。❷縣名。㋑秦・漢、置く。浙江省に屬す。民國に至り山陰・會稽兩縣を併せて紹興縣とす。〔漢書、地理志上〕會稽郡、縣二十六、山陰。〔明一統志〕紹興府山陰縣、附郭、本越王句踐國、秦置ニ山陰縣一屬ニ會稽郡一、以三邑在ニ山之陰一、故名。〔淸史稿、地理志〕浙江、紹興府、縣八、山陰。㋺金、置く。遼の河陰縣。今の山西省大同縣の西南、桑乾河の南。〔明一統志〕山陰縣、在ニ大同府應州西一。〔淸史稿、地理志〕山西、大同府、縣七、山陰。❸山陰道の略。❹佐野憲の號。

【山陰道】38サンインダウ・センインダウ　八道の一。丹波・丹後・但馬・因幡・伯耆・出雲・石見・隱岐の八箇國。そともみち。〔日本書紀、天武紀下〕十四年九月、巨勢朝臣粟持爲ニ山陰使者一。〔北山抄、三、拾遺雜抄、讀奏事〕山陰道、曾止毛乃道。〔職原鈔〕山陰道、丹波・丹後・但馬・因幡・伯耆・出雲・石見・隱岐。

【山陰道士】39サンインダウシ　元、劉永之（2―2224··69）の號。

【山陰夜雪】40サンインヤセツ　晉の王子猷が山陰に居り、大雪の夜、興に乘じて友人の戴安道を訪ひ、門前に至つて興盡き、會はないで返つた故事。〔世說新語、任誕〕王子猷居ニ山陰一、夜大雪、忽憶ニ戴安道一、時戴在レ剡、便夜乘ニ小船一就レ之、經レ宿方至、造レ門不レ前而返、人問ニ其故一、王曰、吾本乘レ興而來、興盡而返、何必見レ戴。〔李白、單父東樓秋夜送ニ族弟沈之レ秦詩〕卷レ簾見レ月淸興來、疑是山陰夜中雪。〔許渾、尋ニ戴處士一詩〕思君一相訪、殘雪似ニ山陰一。〔書言故事、瞻仰類〕動ニ山陰夜雪之興一。

【山陰道上應接不レ暇】41サンインダウジヤウオウセツニイトマアラズ　山陰の道を行くと、次々と移り變る山川の風景が皆秀拔で、應接に暇がない。すぐれた風景の多いことをいふ。〔世說新語、言語〕王子敬云、從ニ山陰道上一行、山川自相映發、使ニ人應接不レ暇。

【山隱】42サンイン　❶山のかげ。〔抱朴子、勖學〕被ニ靈寶一而知ニ山隱一、因ニ折俎一而說ニ專車一。〔靈寶謠〕龍威丈人山隱居、乃入ニ洞庭一竊ニ禹書一。❷山にかくれる。又、其の者。隱者。〔獨孤及、送ニ陽翟張主簿之レ任詩〕作レ吏同ニ山隱一、知三君處ニ劇閑一。❸亭の名。安徽省廬江縣。〔明一統志〕山隱亭、在ニ廬州府廬江縣一、左慈嘗居ニ其處一、故名。❹ヤマゲ　日向國（5―13733··78）の地名。

【山院】43サンヰン　山の寺。山寺。〔王勃、仲春郊外詩〕初晴山院裏、何處染ニ囂塵一。〔陳師道、寄ニ晁無斁一詩〕笑談莫レ倦尋常聽、山院終同一再登。

【山宇】44サンウ　山家。山居。〔任昉、齊竟陵文宣王行狀〕山宇初構、超然獨往。〔江總、借ニ劉太常設文一詩〕幽居服ニ藥餌一、山宇生ニ虛白一。

【山芋】45サンウ　やまのいも。薯蕷。山藥。〔本草、薯蕷〕釋名、藷薁・土藷・山藷・山芋・山藥・玉延、吳普曰、齊魯名ニ山芋一、鄭越名ニ土藷一、秦楚名ニ玉延一。〔野菜箋〕山芋靑靑田芋軟、田家藉作凶年飯。

【山芋頭兒】47　shan^1 yü^4 t'ou^2 êrh　馬鈴薯。

【山雨】48サンウ　やまのあめ。〔沈約、比丘尼僧敬法師碑〕松飆轉蓋、山雨披レ衣。〔宋之問、度ニ大庾嶺一詩〕山雨初含レ霽、江雲欲レ變レ霞。〔岑參、與ニ鮮于庶子一自ニ梓州一成都少尹自ニ褒城一同行至レ利道中詩〕夜猿嘯ニ山雨一、曙鳥鳴ニ江花一。〔杜甫、雨詩〕山雨不レ作レ泥、江雲薄爲レ霧。〔白居易、初到ニ江州一詩〕樹木凋疎山雨後、人家低濕水煙中。

【山雨欲レ來風滿レ樓】49サンウキタラントホツシテカゼロウニミツ　山雨の來らんとする時に、先づ一陣の風が吹き來つて樓に滿ちること。事件の起らうとする前、何となく形勢の穩かでない喩。〔許渾、咸陽城東樓詩〕一上ニ高城一萬里愁、蒹葭楊柳似ニ汀洲一、溪雲初起日沈レ閣、山雨欲レ來風滿レ樓、鳥下ニ綠蕪一秦苑夕、蟬鳴ニ黃葉一漢宮秋、行人莫レ問當年事、故國東來渭水流。

【山烏】50サンウ　烏の一種。烏よりも小さく、嘴は細狹、翼は暗灰色に綠紫を帶びて光あり、常に大群をなし、時には二三萬に及ぶ。巢を樹上に營む。〔爾雅、釋鳥〕鸒、山烏。〔注〕似レ烏而小、赤觜。

【山蔚】51サンウツ　淸、劉榛（2―2224··402）の字。

【山雲】52サンウン　❶山と雲。〔周禮、春官、司尊彝〕其再獻用ニ兩山尊一、〔注〕山罍亦刻而畫レ之、爲ニ山雲之形一。❷山の雲。山から起る雲。山中の雲。〔呂覽、應同〕山雲草莽、水雲魚鱗、旱雲煙火、雨雲水波、無レ不下皆類ニ其所レ生以示上レ人。〔淮南子、說林訓〕山雲蒸、柱礎潤、伏苓掘、兔絲死。〔庾信、山齋詩〕石影橫臨レ水、山雲半繞レ峯。〔陳後主、春色禊辰盡當三曲宴各賦ニ十韻一詩〕水霧遙混雜、山雲遠相似。〔杜甫、秦州雜詩〕檐雨亂淋レ幔、山雲低度レ墻。❸明の人。靑の子。諡は忠毅。官は宣德中、征蠻將軍。後、右都督同知に進む。〔明史、一百六十六〕・〔萬斯同明史、二百五〕・〔明史稿、一百四十五〕。

【山映】53サンエイ　山に日の照りはえること。〔李紳、涉ニ沅瀟一詩〕烟橫日落驚鴻起、山映餘霞杳千里。

【山盈】54サンエイ　山の充實したさま。君主の象にいふ。〔陸機、演連珠〕日薄星廻、穹天所ニ以紀レ物、山盈川沖、后土所ニ以播レ氣。〔注〕向曰、山盈滿、君象也、以含ニ養萬物一、川沖虛、臣體也、以達ニ不通一。

【山英】55サンエイ　❶群山中ですぐれたもの。〔郭璞、爾雅圖贊、釋山〕太室山、巍然中立、衆山之英。❷山の神。〔孔稚珪、北山移文〕鍾山之英、草堂之靈。〔注〕濟曰、英・靈、二神也。❸宋、淩巖（2―1669··28）の字。

【山楹】56サンエイ　❶山石で作つた柱。〔楚辭、嚴忌、哀時命〕鑿ニ山楹一而爲レ室兮、下ニ被衣於水渚一。〔注〕言、已雖レ窮、猶鑿ニ山石一以爲ニ室柱一、下洗ニ浴水涯一、被ニ己衣裳一、不レ失ニ淸潔一也。〔王勃、武都山淨惠寺碑〕懸ニ金道肆一、刻ニ石山楹一。❷山中の家の柱。山家の柱。〔朱熹、雲谷記〕山楹所レ面、雙峯之下、昔有ニ方士呂翁一居レ之、死而不レ腐、其地亦孤絕殊勝、本屬ニ山北民家一、今亦得レ之名曰ニ休菴一。〔陸游、雨晴步至ニ山亭一詩〕山楹快ニ遠眺一。〔馬祖常、姚左司墨竹詩〕江諸春生レ雨、山楹夜宿レ雨。

【山影】57サンエイ　山のかげ。〔水經、漸江水注〕廡潭下注ニ若邪溪一、水至淸照、衆山倒レ影、窺レ之如レ畫。〔岑參、春尋ニ河陽陶處士別業一詩〕藥椀搖ニ山影一、魚竿帶ニ水痕一。〔薛據、西陵口觀レ海詩〕山影乍浮沈、湖波忽來往。〔楊萬里、學林賦〕江聲山影、

排レ戸而願レ交、詩臞書癡、牢レ關而不レ出。

【山鋭】58 サンエイ　峰がするどく切り立つ。山鋭則不レ高を見よ。

〖山鋭則不レ高〗59 ヤマスルドケレバタカカラズ　山のするどく尖つたものは高くない。才の鋭すぎる人は大業を成し得ぬ喩。〔韓詩外傳、一〕山鋭則不レ高、水徑則不レ深、仁傔則其德不レ厚、志與二天地一擬者、其人不レ祥。

【山營】60 サンエイ　山中の陣營。〔張說、奉三和聖製幸二鳳陽泉一應制詩〕湯雲出二水殿一、煖氣入二山營一。〔陳基、鳳口詩〕溪塢晚含レ風、山營夜依レ谷。

【山癭】61 サンエイ　山木のふしこぶ。癭はふし。〔李白、詠二柳少府山癭木樽一詩〕樽成二山嶽勢一、材是棟梁餘。

【山妖】62 サンエウ　山中のあやしいもの。山の妖怪。〔蘇軾、雲龍山觀燒詩〕谷蟄起二蜩燕一、山妖竄二夔蟦一。

【山搖】63 サンエウ　山がゆらぐ。〔宋書、五行志〕大明六年七月甲申、地震有レ聲、自二河北一來二魯郡一、山搖地動。〔戴表元、靜軒賦〕時然後出レ不レ得レ已、於レ出則山搖而岳動。

【山猺】64 サンエウ　山中の猺族。猺は湖南・兩廣・雲南地方に居る蠻族の名。〔宋史、西南溪峒諸蠻傳上〕辰州溪峒都指揮使魏進武、率二山猺數百人一、數寇二城砦一、朝廷不レ欲二發レ兵窮討一、乃降レ詔招喩。

【山腰】65 サンエウ　山の中腹。やまのこし。山腹。〔庾信、枯樹賦〕横二洞口一而欹臥、頓二山腰一而半折。〔王勃、山亭興序〕山腰半折、溜二王烈之香膏一、洞口横開、滴二嚴遵之芳乳一。〔孟浩然、遊二景空寺蘭若一詩〕龍象經行處、山腰渡二石關一。〔杜甫、涪城縣香積寺官閣詩〕寺下春江深不レ流、山腰官閣迥添レ愁。〔白居易、殘暑招レ客詩〕雲截二山腰一斷、風驅二雨腳一迴。〔元稹、酬三樂天早春閑二遊西湖一詩〕水面波疑レ縠、山腰虹似レ巾。

【山遙】66 サンエウ　山の遠いこと。〔元稹、渡二漢江一詩〕山遙遠樹纔成レ點、浦靜沈碑欲レ辨レ文。〔張少博、雪夜觀象闕待レ漏詩〕雪重猶レ垂レ白、山遙不レ辨レ青。

【山益】67 サンエキ　山のやうに增し加はる。山と積む。〔張九齡、將二發還レ鄉示二諸弟一詩〕一木逢二廈構一、纖塵願二山益一。

【山脇】68 サンエキ　山の脇。〔韓駒、入二鳴水洞一詩〕其東匯二民田一、又北尋二山脇一。

【山驛】69 サンエキ　山の宿驛。山郵。〔岑參、祁四再赴二江南一別詩〕山驛秋雲冷、江帆暮雨低。〔李商隱、夢二令狐學士一詩〕山驛荒涼白竹扉、殘燈向レ曉夢二清輝一。〔續明道雜志〕暮投二一山驛一、驛吏曰、從前此驛不レ宿レ客、相傳、堂中夜有二怪物一。

【山越】70 サンエツ　❶種族の名。百越(**8－22679**‥23)の遺民。揚子江の南方の山岳地帶に住む。三國、吳の孫權が諸葛恪をして之を征服せしめたのが史に見える始で、其の後も屢〻頑強に抵抗し、六朝を經て唐代に入るも叛亂を起して止まなかつた。今、湖南・四川・貴州・雲南・廣東・廣西諸省の山間に散居し、浙江省の東・安徽省の南にも住す。苗・猺・黎・蠻・夷・僰・獞・獠・犵狫・玀玀・怒夷・猓夷・仲家・龍家等は皆其の族である。〔吳志、吳主孫權傳〕權鎭二撫山越一、討レ不レ從レ命。〔唐書、斐休傳〕劇賊栗鍠、誘二山越一爲レ亂。❷ヤマクシナイ　北海道膽振國の地名。

【山葉】71 サンエフ　山中の木の葉。〔杜甫、貽二華陽柳少府一詩〕相去四五里、徑微山葉繁。〔岑參、自二潘陵尖一還二少室一云云詩〕九月山葉赤、谿雲淡二秋容一。〔劉禹錫、自二江陵一沿レ流道中詩〕沙村好處多レ逢レ寺、山葉紅時勝レ覺レ春。

【山崦】72 サンエン　山をいふ。崦は、もと日の沒する山の名。これは單に山の義に用ふ。〔姚合、題二山寺一詩〕千重山崦裏、樓閣影參差。〔姚鵠、送三李潛歸二綿州一觀省上詩〕雪封二山崦一白、鳥拂二棧梁一飛。

【山淵】73 サンエン　山と淵。山と河。〔班固、西都賦〕草木塗レ地、山淵反覆。〔張華、遊獵篇〕鼓噪山淵動、衝塵雲霧連。〔南齊書、高帝紀贊〕同二度宇宙一、合二量山淵一。〔何遜、七召〕珠璣產二於蚌蛤一、珪璧出二於山淵一。

〖山淵之精〗74 サンエンノセイ　山や淵の精。璧・珠の類をいふ。〔淮南子、說山訓〕和氏之璧、隋侯之珠、出二於山淵之精一。

〖山淵平天地比〗75 サンエンタヒラカニテンチヒス　山も淵も共に平かに、天も地も共に相等しく低い。先秦名家の說いた詭辯論の一例。〔荀子、不苟〕山淵平、天地比、齊秦襲、鉤有レ須、卵有レ毛、是說之難レ持者也。〔注〕比、謂二齊等一也。

【山煙】76 サンエン　山にかかつた霧。山霧。〔顏延之、拜二陵廟一詩〕松風遵レ路急、山煙冒レ壟生。〔何遜、日夕出二富陽浦口一和二朗公一詩〕山煙涵二樹色一、江水映二霞暉一。〔王勃、春日還レ郊詩〕魚牀侵二岸水一、鳥路入二山煙一。〔李頎、送三馬錄事赴二永陽一詩〕孤城連二海樹一、萬室帶二山煙一。〔杜甫、十二月一日詩〕寒輕市上山煙碧、日滿樓前江霧黃。

【山簷】77 サンエン　山家ののき。〔周權、雜興詩〕山簷宿雨多、空階響二餘滴一。

【山鹽】78 サンエン　山から出る鹽。やましほ。岩鹽。〔本草、食鹽〕集解、弘景曰、有二東海鹽・北海鹽・南海鹽・河東鹽池・梁益鹽井・西羌山鹽・胡中樹鹽一、色類不レ同。

【山園】79 サンエン　❶みささぎ。天子の寢陵。山陵。〔漢書、地理志下〕漢興、立二都長安一、徙二齊諸田・楚昭屈景、及諸功臣家於長陵一、後世世徙二吏二千石・高訾富人、及豪桀幷兼之家於諸陵一、蓋亦以彊レ幹弱レ支、非二獨爲レ奉二山園一也。〔注〕如淳曰、黃圖謂二陵冢一爲レ山。〔顏延之、宋文皇帝元皇后哀策文〕南背二國門一、北首二山園一。〔注〕濟曰、園卽山陵也。❷山中の園囿。〔周書、武帝紀下〕東山南園及三臺、可二並毀撤一、瓦木諸物、凡入用者、盡賜二下民一、山園之田、各還二本主一。〔杜甫、山寺詩〕野寺殘僧少、山園細路高。〔劉禹錫、武陵書懷詩〕校緡資二筦權一、復土奉二山園一。〔陸游、新闢二小園一詩〕山園寂寂春將レ晚、酷愛幽花似二蜜香一。

【山猿】80 サンエン　山ざる。山狙。〔杜甫、從レ人覓二小胡孫許寄一詩〕人說南州路、山猿樹樹懸。〔杜荀鶴、戲題二王處士書齋一詩〕先生高興似二樵漁一、水鳥山猿一處居。

【山遠】81 サンエン　山の遠いこと。〔謝靈運、登二臨海嶠一云云詩〕杪秋尋二遠山一、山遠行不レ近。〔孟浩然、尋二香山湛上人一詩〕朝游訪二名山一、山遠在二空翠一。〔馬周凌、朝浮レ江旅思詩〕山遠疑レ無レ樹、潮平似レ不レ流。

【山於】82 ヤノベ　姓氏。〔續日本紀〕。

【山塢】83 サンヲ　山中の凹んだところ。山隝。〔水經、洛水注〕洛水又東逕二檀山南一、其山四絕孤峙、山上有レ塢、俗謂二之檀山塢一。〔朱德潤、游二江陰三山一記〕少焉卻出二山塢一、有三横山在二前野一。〔陸游、夏末野興詩〕山塢風煙僧院路、河梁燈火酒家樓。

【山隝】84 サンヲ　山塢に同じ。〔羊士諤、山閣聞レ笛詩〕山隝春深日又遲。

【山翁】85 サンヲウ　❶山中のおきな。山叟。〔岑參、使君席夜送三嚴河南赴二長水一詩〕寄レ聲報レ爾山翁道、今日河南勝二昔時一。〔李白、襄陽歌〕傍人借問笑二何事一、笑殺山翁醉似レ泥。〔杜甫、送二田四弟將軍一詩〕空醉山翁酒、遙憐似二葛彊一。〔方岳、依綠堂記〕溪友提攜、山翁往來。❷何首烏の、二百年を經たものをいふ。山精(608)の㊃を見よ。

【山屋】86 サンヲク　山中の家屋。〔皎然、冬日山行過二薛徵君一詩〕菜實縈二小園一、稻花繞二山屋一。〔李東陽、寄二莊定山一詩〕山屋到レ秋驚二雨破一、野舟終日任二潮生一。

〖山屋先生〗87 サンヲクセンセイ　宋、許月卿(**10－35298**‥277)の尊稱。

【山音】88 サンオン　❶shan^1 yin^1　山彥。山響。❷清、胡鍾(**9－29400**‥190)の字。

【山下】89 サンカ　山の下。山の麓。〔易、蒙〕山下出レ泉、蒙。〔史記、留侯世家〕孺子見二我濟北穀城山下一、黃石卽我矣。〔潘岳、內顧詩〕不レ見山下松、隆冬不レ易レ故。〔王維、田園樂詩〕山下孤烟遠村、天邊獨樹高原。〔杜甫、黃草詩〕黃草峽西船不レ歸、赤甲山下行人稀。

【山河】90 サンカ サンガ　❶やまかは。山と川。大山と大川。轉じて、一地方の形勝。〔史記、項羽紀〕關中阻二山河一四塞。〔吳志、諸葛恪傳〕當二人彊盛一、山河可レ拔、一朝贏縮、人情萬端、言レ之悲歎。〔晉書、姚襄載記〕洛陽雖レ小、山河四塞之固、亦是用レ武之地。〔駱賓王、客中言レ懷詩〕城闕千門曉、山河四望春。〔孫逖、奉下和御製登二鴛鴦樓一卽目上應制詩〕井邑觀二秦野一、山河念二禹功一。〔王維、登樓歌〕王畿鬱二兮千里一、山河壯二兮咸秦一。〔杜甫、春望詩〕國破山河在、城春草木深。〔儲光羲、秦中初霽詩〕雲開天地色、日照山河春。〔劉因、

易臺詩〕萬國山河有二燕趙一、百年風氣尙二遼金一。❷疆域をいふ。〔唐玄宗、過二大哥宅一探二得歌字韻一詩〕復尋爲レ善樂、方驗保二山河一。❸世の中。世の中の有爲轉變の喩。世局の喩。〔世說新語、言語〕過レ江諸人、每レ至二美日一、輒相二邀新亭一、藉レ卉飮宴、周侯中坐而歎曰、風景不レ殊、正自有二山河之異一、皆相視流淚、唯王丞相愀然變レ色曰、當下共勠二力王室一、克中復神州上、何至下作二楚囚一相對上。❹遠く隔たつてゐる喩。懸隔。〔晉書、王戎傳〕嘗經二黃公酒壚下一、過顧謂二後車客一曰、吾昔與二嵇叔夜阮嗣宗一、酣二暢於此一、竹林之游、亦預二其末一、自二嵇阮云亡一、吾便爲二時之所一レ羈紲一、今日視レ之、雖レ近邈若二山河一。〔陸雲、爲二顧彥先一贈レ婦詩〕山河安可レ踰、永路隔二萬里一。〔庾信、答二趙王一啓〕傾レ首東瞻、山河千里、風塵未レ盡、霜露沾レ衣。❺永久不變の喩。安泰堅固な喩。〔庾信、請二功臣襲封一表〕周于二蕃屛一爲レ約、事在二世侯一、漢以二山河一爲レ誓、義存二長久一。〔宋之問、龍門應制詩〕先王定レ鼎山河固、寶命乘レ周萬物新。〔司空圖、華淸宮詩〕帝業山河固、離宮宴幸頻。❻物の大きな喩。〔陸機、吳趨行〕文德熙二淳懿一、武功侔二山河一。❼德量の大きく深い喩。〔詩、鄘風、君子偕老〕委委佗佗、如レ山如レ河。〔傳〕山無レ不レ容、河無レ不レ潤。❽川の名。安徽省滁縣。源は鳳陽の諸山。江に入る。❾鎭の名。㋑滿洲遼寧省海龍縣の東北。吉林省磐石縣に接す。㋺滿洲吉林省延吉縣の西南。朝鮮に通ずる路に當る。

【山河影】91 サンガノカゲ　山と河とのかげ。月中に見えるものは月の世界の山河の影であるといふ說。〔春渚紀聞〕王荊公言、月中彷彿有レ物、乃山河影也、東坡詩、正如二大圓鏡一、寫二此山河影一、以二二先生窮理盡性一、固當レ無二所レ議者一、然尙有二未レ盡解處一、今以二半鏡一照二物像一、則全而見レ之、月未レ滿、則中之物像亦只半見、何也。

【山河襟帶】92 サンガキンタイ　山や河を襟や帶のやうにめぐらす。形勢の勝れた土地。又、自然の要害の地。〔白居易、敍レ德書レ情四十韻上二宣歙崔中丞一詩〕山河地襟帶、軍鎭國藩維。〔趙孟頫、金陵雨花臺云云詩〕人物車書南北混、山川襟帶古今同。

【山河之固】93 サンガノカタメ　山河の要害の堅固なこと。〔史記、吳起傳〕武侯浮二西河一而下、中流顧而謂二吳起一曰、美哉乎山河之固、此魏國之寶也。〔魏志、袁紹傳〕據二山河之固一、擁二四州之衆一。〔晉書、姚襄載記〕洛陽雖レ小、山河四塞之固、亦是用レ武之地。

【表二裏山河一】94 サンガヲヘウリニス　河を外にし、山を内にする。大山や大河にかこまれた要害に據ること。〔左氏、僖、二十八〕子犯曰、戰也、戰而捷、必得二諸侯一、若其不レ捷、表二裏山河一、必無レ害也。〔注〕晉國、外レ河而內レ山。〔潘尼、東武館賦〕表二裏山河一、出二入襟帶一。

【山河容易改秉性最難移】95 shan^1 hê^2 jung^2 i kai^3 ping^3 hsing^4 tsuei^4 nan^2 i^2　人の性質の移し難いことは山河を改めるより難い。

【山哥】96 サンカ　何首烏の、一百年を經たもの。山精(608)の❹を見よ。

【山家】97 サンカ　❶やまが。山中の家。山戶。山舍。〔南史、侯景傳〕天監中沙門釋寶誌曰、山家小兒果攘臂、太極殿前作二虎視・云云・山家小兒・猴狀一。〔陳子昂、晦日宴二高氏林亭一詩〕尋レ春游二上路一、追レ宴入二山家一。〔杜甫、從二驛次草堂一復至二東屯茅屋一詩〕山家蒸レ栗暖、野飯射レ麋新。〔司空圖、重陽阻レ雨詩〕重陽阻レ雨獨銜レ杯、移得山家菊未レ開。❷〔佛〕センケ　宋の初代から天台山の正系で四明の流を汲むものをいひ、我が國では三井寺を寺門といふに對して、比叡山の延曆寺をいふ。❸ヤンベ ヤマガ　姓氏。〔日用重寶記〕・〔姓氏家系大辭典〕。

【山家會】98 サンケヱ　〔佛〕傳教大師の忌日に修する法會。每年六月四日、天台宗の各寺院で執行する。

【山家大師】99 サンケダイシ　〔佛〕比叡山の開基。卽ち山家の祖師、傳教大師。

【山遐】100 サンカ　晉の人。簡の子。字は彥林。官は東陽太守。〔晉書、四十三〕。

【山榎】101 サンカ　木の名。やまひさぎ。山楸。槄。〔爾雅、釋木〕槄、山榎。〔注〕今之山楸。〔疏〕李巡云、山榎、一名槄、郭云、今之山楸、詩秦風云、終南何有、有レ條有レ梅、陸機疏云、槄、今山楸也、亦如二下田楸一耳、皮葉白色、亦白材理好、宜レ爲二車板一。

【山歌】102 サンカ　ゐなか歌。ひな歌。又、舟人の唱へる歌。水調。〔李益、送二人南歸一詩〕無レ奈孤舟夕、山歌聞二竹枝一。〔白居易、琵琶行〕豈無三山歌與二村笛一、嘔啞嘲哳難レ爲レ聽。〔寒山詩〕時逢林內鳥、相共唱二山歌一。〔張耒、上元詩〕江邊燈火似二秋螢一、哀怨山歌不レ可レ聽。〔湘山野錄〕吳越王大陳二鄉飮一、高揭二吳喉一唱二山歌一以見レ意。〔通俗編、俳優、山歌〕水東日記、吳人耕作或舟行之勞、多作二嘔歌一以自遣、皆名二山歌一、其中亦多下可レ爲二警勸一者上。

【山歌野唱】103 サンカヤシヤウ　ゐなか歌。ひなうた。〔姑蘇志、風俗篇〕山歌野唱亦成二音節一、其俗可レ謂レ美矣。

【山價】104 サンカ　❶山のあたひ。〔皎然、投二知己一詩〕無限白雲山要レ買、不レ知山價出二何人一。❷shan^1 chia^4　木材など山から產出する物の山下での原價。

【山霞】105 サンカ　山にかかつたかすみ。〔謝朓、遊二後園一賦〕山霞起而削成、水積明以經復。

【山芥】106 サンカイ　藥草の名。をけら。うけら。朮。天薊。〔本草、朮〕釋名、時珍曰、吳普本草、一名山芥、一名天薊。〔貢師泰、學圃吟〕永菘山芥菠薐茋、韭黃薤白蔥蔆蘇。〔錢起、藍上採二石芥一詩〕淵明遺愛處、山芥綠芳初。

【山界】107 サンカイ　やまざかひ。〔宋史、兵志五〕夏人所二恃以強國一者、山界部落數萬之衆爾。

【山海】108 サンカイ　❶山と海。うみやま。〔史記、吳王濞傳贊〕太史公曰、吳王之王、由二父省一也、能薄二賦斂一、使二其衆一、以擅二山海利一。〔漢書、百官公卿表上〕少府秦官、掌三山海池澤之稅、以給二共養一。〔孫綽、遊二天台山一賦序〕夫其峻極之狀、嘉祥之美、窮二山海之瓌富一、盡二人神之壯麗一矣。❷隱遁の地。又、世間。俗界。江湖（**6－17140**··122）の❷に同じ。〔南史、漁父傳〕漁父曰、僕山海狂人、不レ達二世務一、未レ辯二賤貧一、無レ論二榮貴一。❸遠い里程。遠隔の地。〔漢書、陸賈傳〕今王衆不レ過二數萬一、皆蠻夷、崎二嶇山海之間一、譬如二漢一郡王一、何廼比二於漢一。〔魏志、袁渙傳、注〕徽曰、兵革既興、外患必衆、徽將下遠二跡山海一、以求上レ免レ身、及二亂作一、各行二其志一。〔鮑照、紹古辭〕訪レ言山海路、千里歌二別鵠一。〔韓愈、送二鄭尙書一序〕隸府之州、離レ府遠者至二三千里一、懸二隔山海一、使二必數月而後能至一。❹物の多大な形容。さはやま。〔後漢書、宦者傳序〕擧動回二山海一、呼吸變二霜露一。〔曹植、求二自試一表〕冀以二塵霧之微一、補二益山海一、熒燭末光、增二輝日月一。〔周書、晉蕩公護傳〕假汝貴極二王公一、富過二山海一、有二一老母八十之年一、飄然千里、死亡旦夕、不レ得二一朝暫見一、不レ得二一日同處一、寒不レ得二汝衣一、飢不レ得二汝食一、汝雖三窮レ榮極レ盛、光二耀世間一、汝何用爲、於レ吾何益。

【山海經】109 センガイキヤウ　書名。十八卷。禹王の撰とも、伯益の撰ともいふ。固より後人の僞作であるが、司馬遷が既に此の書を稱してゐるから、周・秦以來の古書たることは疑ない。晉の郭璞、注を作り、淸の吳任臣、山海經廣注を作る。漢書藝文志には形法家の首に載せ、隋志以來は皆地理書の類に加へ、二十三卷に作る。今本に五卷少いのは、後人が合併して劉秀の上表に十八篇とあるのに牽合せしめたものである。四庫提要には小說家類に入る。十八篇の目は、南山經・西山經・北山經・東山經・中山經・海外南經・海外西經・海外北經・海外東經・海內南經・海內西經・海內北經・海內東經・大荒東經・大荒南經・大荒西經・大荒北經・海內經。記す所は多く異物飛走の類で、地理類に編するよりも、寧ろ雜書類に入るべく、又、小說家の祖といつてもよい。我が國には、宇多天皇の朝、既に渡來し、德川時代の初、飜刻せられた。山經。〔四庫提要、子部、小說家類〕。

【參考書】【山海經注】十八卷 晉、郭璞撰。〔四庫提要、子、小說家類〕。【山海經圖讚】二卷 晉、郭璞撰。【山海經釋義】十八卷・圖二卷 明、王崇慶撰。〔四庫提要、子、小說家類存目〕。【山海經廣注】十八卷 淸、吳任臣撰。郭璞の山海經注によつてその名物・訓詁・山川・道里を訂正したもの。〔四庫提要、子、小說家類〕。【山海經箋疏】十八卷 淸、郝懿行撰。

【山海關】110 サンカイクワン　❶關の名。瀋山鐵路の終點、河北省臨楡縣の東門、古の渝關の地。臨閭關・臨渝關ともいふ。東は海に臨み、北は兎耳、覆舟山に接す。長城の盡きる所で天下第一關と稱

する要害の地。明初、その山に倚り海に面するので、名づく。〔讀史方輿紀要、直隷、重險〕渝關、一名臨渝關、亦曰二臨閭關一、今名二山海關一、在二永平府撫寧縣東百里、遼東廣寧前屯衞西七十里一、北倚二崇山一、南臨二大海一、相距不レ過二數里一、實爲二險要一云云、明初、以二其倚レ山面レ海、名曰二山海關一、築レ城置レ衞、爲二邊郡之咽喉、京師之保障一。❷清代、二十二海關の一。江海關(6－17140‥44)を見よ。

〔官二山海一〕111 サンカイヲクワンス 山や海をして其の職を盡くさせる。山海の利を盡くして、産物を供せしめること。官は職。〔管子、海王〕桓公曰、然則吾何以爲レ國、管子對曰、唯官二山海一爲レ可耳、桓公曰、何謂レ官二山海一、管子對曰、海王之國、謹正二鹽策一。〔纂詁〕官、職也、使二山海共レ職、言レ盡二其利一也。

〔山海珍味〕112 サンカイノチンミ 山と海との産物を集めた珍らしい食品。非常な御馳走。〔梁簡文帝、七勵〕名廉二天地之聲一、殽竭二山海之味一。

〔山海漫談〕113 サンカイマンダン 書名。三卷。附録二卷。明、任環撰。文二卷、詩詞一卷、附録は傳誌類。任環の遺集は久しく佚してゐたが、任環の子孫、之を搜求して概ね十分の一を得、初名に從つて此の名を附す。特に古文は筆力がある。〔四庫提要、集、別集類〕。

【山堦】114 サンカイ 山家のきざはし。堦は階に同じ。〔楊師道、春朝閑歩詩〕野逕香恆滿、山階筍屢侵。〔李嘉祐、送二王正字一山寺讀レ書詩〕山堦閑聽レ法、竹逕獨看レ書。

【山廨】115 サンカイ 山中の役所。〔倪瓚、還畊二雲軒一詩〕偶來二山廨一餌二蒼朮一、又向二江波一采二白蘋一。

【山蟹】116 サンカイ 山に住む蟹。やまがに。澤蟹。溪蟹。辨慶蟹。〔本草、狒狒〕附録、山猱、玄中記云、山精、如レ人一足、長三四尺、食二山蟹一、夜出晝伏、千歳蟾蜍能食レ之。

【山韰】117 サンカイ 山に生えるおほにら。山おほにら。〔爾雅、釋草〕葝、山韰。〔疏〕葝、説文云、菜也、葉似レ韭、生二山中一者名レ葝。

【山崖】118 サンガイ ❶山のがけ。〔書、説命序、得二諸傳巖一、疏〕巖、是山崖之名。〔王羲之、司州帖〕或採二藥山崖一。〔庾信、枯樹賦〕根底盤魄、山崖表裏。❷物の多い喩。〔晉書、祈嘉傳〕夜忽窗中有レ聲、呼曰、祈孔賓祈孔賓、隱去來隱去來、修二飾人世一、甚苦レ不レ可レ諧、所レ得未二毛銖一、所レ喪如二山崖一。

【山向】119 サンカウ ❶堪輿家が羅經を用ひて方位を定め、四維・八干・十二支を分つて二十四山とし、對する所の方位を山向といふ。棺を埋めるには此の方向に頭を置く。〔陽宅十書、論放水、九星水法吉凶斷例、二十四山放水定局〕此段是以二山龍一爲レ主、故論二山向一、若二脱龍就局一則不レ論、陰陽只放二天干水一爲レ宜、脱龍就局者、其宅無二眞正一、龍山只以二福元及門向一爲レ局耳。❷サンシャウ 晉の山濤と向秀とをいふ。共に竹林の七賢中の人物。〔沈約、七賢論〕自二嵆阮一之外、山向五人、止是風流器度、不レ爲二世匠所レ駭。

【山好】120 サンカウ 山の景色がよい。〔羅隱、送三丁明府赴二唐山任一詩〕樓上酒闌梅拆後、馬前山好雪晴初。〔貫休、別二盧使君一詩〕山好還尋レ去、恩深豈易レ云。〔蘇軾、南溪有二會景亭一云云詩〕山好留二歸屐一、風回落二醉巾一。

【山行】121 サンカウ 山をあるく。山あるき。山あそび。〔史記、夏紀〕陸行乘レ車、水行乘レ船、泥行乘レ橇、山行乘レ檋。〔謝靈運、山居賦〕爰初經略、杖レ策孤征、入レ澗水渉、登レ嶺山行。〔高適、赴二彭州一山行之作詩〕山行應レ未レ盡、誰與玩二芳菲一。〔殷遙、山行詩〕寂歷青山曉、山行趣不レ稀。〔駱賓王、北眺二春陵一詩〕山行明照上、溪宿密雲蒸。

〔山行海宿〕122 サンカウカイシュク 山を行き海に宿る。野宿して山海を旅する。〔韓愈、南海神廟碑〕山行海宿、不レ擇二處所一。

【山阬】123 サンカウ 山のあな。〔管子、兵法〕凌二山阬一不レ待二鉤梯一。

【山岡】124 サンカウ 山の脊。をか。〔詩、大雅、卷阿、梧桐生矣、傳〕梧桐、柔木也、山東曰二朝陽一、梧桐不レ生二山岡一、太平而後生二朝陽一。〔王粲、七哀詩〕山岡有二餘映一、巖阿增二重陰一。〔辯疑志〕周士龍者、婺州東陽人、能辯二山岡一、擇二墳墓之地一。

【山幸】125 ヤマノサチ 山の獲物。〔日本書紀、神代紀下〕兄火闌降命、自有二海幸一、弟彦火火出見尊、自有二山幸一。

【山肴】127 サンカウ 山に産するさかな。肴は酒食の副食物。山殽。山羞。わらび・筍等をいふ。〔文同、夏日閑書二墨君堂壁一詩〕山肴與二野釀一、待レ我如二佳賓一。

〔山肴野蔌〕128 サンカウヤソク 山野に産するさかな、おかず。肴は副食物。蔌は調理した蔬菜。野菜。蔬菜。山殽野蔌。〔歐陽脩、醉翁亭記〕山肴野蔌、雜然而前陳者、太守宴也。〔鄭賈、至道劉阮洞記〕山肴野蔌、具二于臨時一。

【山狡】129 サンカウ 山中のわるがしこい賊。〔魏書、景穆十二王中、任城王澄傳〕梁州氏帥楊仲顯婆羅楊卜兄弟、及符叱盤等、自以レ居二邊地險一、世爲二山狡一、澄至レ州、量二彼風俗一、誘導懷附。

【山郊】130 サンカウ 郊外の山。〔謝莊、侍二宴蒜山一詩〕煙竟山郊遠、霧罷江天分。〔江淹、齊太祖高皇帝誄〕散二簪山郊一、解二佩松石一。

【山降】131 サンカウ 山から下る。高位にゐて人にへり下る喩。〔宗欽、與二高允一詩〕山降則謙、含レ柔爲レ信。

【山香】132 サンカウ ❶山がかんばしい。〔袁宏、道宿二村中一詩〕稻熟家家釀、山香處處詩。〔許渾、貽二終南山隱者一詩〕潭冷薜蘿晩、山香松桂秋。❷舞曲の名。〔羯鼓録〕汝陽王璡、嘗戴二研光帽一、自摘二紅槿花一朶一、置二于帽上一、奏二舞山香曲一、而花不二墜落一。〔朱德潤、落花詩〕郤憶當時研光帽、山香一曲淚沾レ巾。

【山皋】133 サンカウ 山とさは。皋は澤。山澤(734)の❶に同じ。〔新論、辯施〕夫山皋非レ爲レ鳥植レ林、林茂而鳥自棲レ之、江湖非レ爲レ魚鑿レ潭、潭深而魚自歸レ之。

【山高】134 サンカウ ❶山が高い。山の高いこと。〔詩、小雅、小弁、莫二高匪レ山、箋〕山高矣、人登二其巓一。〔淮南子、説林訓〕木大者根擢、山高者基扶。〔蔡琰、胡笳十八拍〕山高地闊兮、見レ汝無レ期、更深夜闌兮、夢レ汝來レ斯。〔傅玄、擬四愁詩〕牽牛織女期在レ秋、山高水深路無レ由。〔梁武帝、逸民詩〕巖巖山高、湛湛水深。❷山のやうに高い。高大な喩。山高水長を見よ。

〔山高山〕135 スロヤマ 三河國の地名。〔昆陽漫録〕。

〔山高月小〕136 ヤマタカクツキセウナリ 山が高くそびえ、その上に月が小さく見える。高山の下の方から月を望んだ景色。〔蘇軾、後赤壁賦〕江流有レ聲、斷岸千尺、山高月小、水落石出。

〔山高水長〕137 ヤマタカクミヅナガシ 人品節操の高潔なことを山の高く流の長いのに譬へてほめたことば。〔范仲淹、桐廬郡嚴先生祠堂記〕歌曰、雲山蒼蒼、江水泱泱、先生之風、山高水長。

〔山高水低〕138 shan^1 kao^1 shuei^3 ti^1 不測の出來事。死亡を指す。

〔山高皇帝遠〕139 shan^1 kao^1 huang^2 ti^4 yüan^3 僻地で都に遠い。

〔山高故不レ貴〕140 ヤマタカキガユヱニタツトカラズ 山は高いからといつて貴いとは限らない。外貌の美を以て貴しとせず、實質の優れたものを以て貴しとする喩。〔實語教〕山高故不レ貴、以レ有レ樹爲レ貴、人肥故不レ貴、以レ有レ智爲レ貴。

〔山高遮不住太陽大水漫不過橋去〕141 shan^1 kao^1 chê^1 pu chu^4 t‘ai^4 yang ta^4 shuei^3 man^4 pu kuo^4 ch‘iao^2 ch‘ü^4 山は高くても太陽を遮ることなく、大水は橋上を越すことはない。物にはそれぞれ分際がある。

【山康】142 センカウ 唐の僧。縉雲の周氏の子。十五にして佛を學ぶ。宋朝、號を廣道大師と賜ふ。

【山殽】143 サンカウ 山肴(127)に同じ。〔剪燈新話、天台訪隱録〕野蔌山殽備二獻酬一。

〔山殽野蔌〕144 サンカウヤソク 山肴野蔌(128)に同じ。〔桃花扇、餘韻〕你的東西、一定是山殽野蔌了。

【山粳】144′ サンカウ 山中のうるしね。山秔。〔薩都剌、游二梅仙山一和二唐人韻一詩〕丹藥人來乞、山粳手自舂。

【山膏】145 サンカウ 獸の名。豚に似てよく詈る。〔山海經、中山經〕苦山有レ獸焉、名曰二山膏一、其狀如レ逐、赤若二丹火一、善詈。〔注〕逐、卽豚字。〔郭璞、山海經圖、山膏獸贊〕山膏如レ豚、厥性好罵、黃棘是食、匪レ子匪レ化、雖レ無二貞操一、理同レ不レ嫁。

【山毫】146 サンガウ 山のやうに積んだ筆。毫は筆。筆の多いことを山に喩へていふ。〔叶字義〕地墨四身、山毫三密。

【山號】147 サンガウ 寺院の名の上に冠する稱號。もと寺は山によつて建てたからいふ。比叡山を延暦

寺に冠する類。

【山豪】148（サンガウ） 山賊。〔後漢書、西羌傳論〕招㆓引山豪㆒、轉相嘯聚。

【山角】149（サンカク） 山の角だつた所。山のかど。〔水經、巨洋水注〕南角崩山、卽故義山也、俗人以㆓其山角若㆑崩、因名爲㆓角崩山㆒、亦名爲㆓角林山㆒。〔陳與義、觀㆑雨詩〕梅壓㆓竹枝㆒低復擧、風吹㆓山角㆒晦還明。

【山客】150（サンカク） ㊀山中に住む人。山人。又、山を訪ねる客。〔列仙傳〕毛氏、字玉姜、在㆓華陰山中㆒、山客獵師世世見㆑之、形體生㆑毛、自言、秦始皇宮人也。〔江淹、閩中草木頌〕公子不㆑至、山客徒尋。〔張說、九日詩〕菊酒攜㆓山客㆒、萸囊繫㆓牧童㆒。〔王維、田園樂〕花落家童未㆑掃、鶯啼山客猶眠。㊁躑躅（ツツジ）（**10**−**37963**‥2）の異名。〔花譜〕躑躅爲㆓山客㆒。㊂後魏、張僧皓（**4**−**9812**‥1301）の字。

【山隔】151（サンカク） 山が障壁をなして物をへだてる。山のへだて。〔淮南子、要略〕晩世之時、六國諸侯、谿異谷別、水絕山隔、各自治㆓其境內㆒。〔雲笈七籤〕冬夏二至、晝夜不㆑等、日若㆑繞㆑山、四方今停、出沒旣異、則無㆓山隔㆒。

【山閣】152（サンカク） 山中のたかどの。山樓。〔沈佺期、陪㆑幸㆓韋嗣立山莊㆒詩〕水堂開㆓禹膳㆒、山閣獻㆓堯鍾㆒。〔杜甫、縛雞行〕雞蟲得失無㆓了時㆒、注目寒江倚㆓山閣㆒。

【山嵒】153（サンカク） 大石の多い山。いしやま。〔李孝光、遊㆓靈峯硐㆒記〕直上千步、乃至㆓掌中㆒、望㆓見山嵒中㆒、青天如㆑懸㆓一片冰㆒。

【山鶴】154（サンカク） 山にすむ鶴。〔沈佺期、赦到不㆑得㆑歸題㆓江上石㆒詩〕魂疲山鶴路、心醉跕鳶溪。〔蘇軾、遊㆓道場山何山㆒詩〕高人讀㆑書夜達㆑旦、至㆑今山鶴鳴㆓夜半㆒。

【山岳】155（サンガク） やま。たけ。山嶽。山嶠。山巒。〔鹽鐵論、貧富〕山岳有㆑饒、然後百姓澹焉。〔後漢書、馮衍傳下〕流㆓山岳㆒周覽兮。〔陸機、豪士賦序〕一簣之釁、積成㆓山岳㆒。

〖山岳勢〗156（サンガクノセイ） 山岳のつらなりつづく有樣。〔李白、詠㆓山尊㆒詩〕樽成㆓山岳勢㆒、材是棟梁餘。

【山樂】157（サンガク） ㊀山中の音樂。〔許渾、題㆓舒女廟㆒詩〕山樂來迎去不㆑言、廟前高柳水禽喧。〔蘇軾、新種㆓芭蕉㆒詩〕蕭騷暮雨鳴㆓山樂㆒、狼藉秋霜脫㆓弊衣㆒。㊁鳥の名。〔汪繹民、游㆓黃山㆒記〕夜聞㆓啼禽聲㆒甚異、若㆑歌若㆑答、節奏疾徐、名㆓山樂鳥㆒、下㆑山都無㆑有。

〖山樂官〗158（サンガククワン） 鳥の名。金雀に似、聲は簫管に似る。〔雨航雜錄〕雁山五珍有㆓山樂官㆒、似㆓金雀㆒、聲如㆓簫管㆒。

【山壑】159（サンガク） ㊀山のたに。山谷。〔水經、汶水注〕山壑或傾岑阻㆑徑、或迴巖絕㆑谷、淸風鳴㆑條、山壑俱響。〔南齊書、宗測傳〕性同㆓鱗羽㆒、愛㆑止㆓山壑㆒、眷㆓戀松筠㆒、輕㆑迷㆓人路㆒。〔梁簡文帝、七勵〕淫聲亂㆑耳、未㆑足㆑入㆑聽、方追㆓山壑㆒、永弄㆓林泉㆒。㊁永久不變の喩。〔沈約、謝㆔齊竟陵王教撰㆓高士傳㆒啓〕貞操與㆓日月㆒俱懸、孤芳隨㆓山壑㆒共遠。

【山嶽】160（サンガク） ㊀やま。たけ。山岳。〔詩、周頌、般〕墮山喬嶽、允猶翕㆑河。〔左氏、莊、二十二〕姜大嶽之後也、山嶽則配㆑天、物莫㆓能兩大㆒、陳衰、此其昌乎。〔後漢書、劉愷傳〕三公、上則㆓台階㆒、下象㆓山岳㆒。〔吳志、賀邵傳〕外無㆓山嶽之鎭㆒、內無㆓拾遺之臣㆒。〔孫綽、遊㆓天台山㆒賦序〕天台山者、蓋山嶽之神秀者也。〔徐陵、爲㆓陳武帝㆒與㆓廣陵城主㆒書〕叱咤而起㆓風雷㆒、吹噓而倒㆓山嶽㆒。〔杜甫、奉㆓衞王㆒詩〕西北樓成雄㆓楚都㆒、遠開㆓山嶽㆒散㆓江湖㆒。㊁永久不變の形容。〔蜀志、秦宓傳〕觀㆓嚴文章㆒、冠㆓冒天下㆒、由夷逸操、山嶽不㆑移、使㆓揚子不㆑歎、固自昭明。〔魏書、崔光傳〕魏祚可㆓以永隆㆒、皇壽等㆓於山嶽㆒。㊂大きい形容。〔水經、濟水注〕韓王聽訟觀、臺高十五仞、雖㆓樓榭泯滅㆒、然廣基似㆓于山嶽㆒。㊃重い形容。〔陸機、謝㆓平原內史㆒表〕施重㆓山嶽㆒、義足㆓灰沒㆒。〔江淹、爲㆓蕭驃騎㆒錄㆓尙書事㆒到㆑省表〕況臣徒竭㆓弱質㆒、忠貞未㆑對、猶叨㆓令恩㆒、山嶽非㆑重、故慙屬㆓交喪㆒、頻煩㆓表疏㆒。〔蘇軾、次㆓韻景仁留別㆒詩〕臨㆑行一杯酒、此意重㆓山嶽㆒。〔元好問、答㆓晁公憲世契㆒詩〕一諾知㆔君重㆓山嶽㆒、車行五日是幷門。㊄高い形容。〔韓愈、上㆓兵部李侍郞㆒書〕凡自㆓唐虞㆒以來、編簡所㆑存、大㆑之爲㆓河海㆒、高㆑之爲㆓山嶽㆒、明㆑之爲㆓日月㆒、幽㆑之爲㆓鬼神㆒、纖㆑之爲㆓珠璣華實㆒、變㆑之爲㆓雷霆風雨㆒、奇辭奧旨、靡㆑不㆓通達㆒。㊅秀でる形容。〔李白、贈㆓張相鎬㆒詩〕秀骨象㆓山嶽㆒、英謀合㆓鬼神㆒。

【山額】161（サンガク） ㊀山のひたひ。山の峯のあたり。〔吳景奎、晩霽詩〕煙抹㆓林腰㆒橫㆓束素㆒、日迴㆓山額㆒半塗㆑黃。㊁ひろいひたひ。山に比していふ。〔楊炯、遂州長江縣先聖孔子廟堂碑〕至㆓於月衡月準、山額山庭、偘偘星文、堂堂日角㆒、莫㆑不㆘向㆑之如㆑在、疑㆑遊㆓北上之山㆒、望㆑之儼然、似㆖矚㆓東流之水㆒。

【山葛】162（サンカツ） 山かづら。〔應瑗、雜詩〕耕自不㆑得㆑粟、采㆓彼北山葛㆒。〔杜甫、風疾舟中伏㆑枕書㆑懷奉㆑呈㆓湖南親友㆒詩〕十暑岷山葛、三霜楚戶砧。

【山岬】163（サンカフ） 山のかたはら。山わき。山脅。山峽。〔水經、江水注〕淮南子曰、傍㆓偟于山岬之旁㆒、注曰、岬、山脅也。

【山蛤】164（サンカフ） 蛙の一種。やまがへる。〔本草、山蛤〕集解、頌曰、山蛤在㆓山石中㆒藏蟄、似㆓蝦蟇㆒而大、黃色、能呑㆑氣、飮㆓風露㆒、不㆑食㆓雜蟲㆒、山人亦食㆑之。

【山榼】165（サンカフ） 山中のさかだる。〔高啓、臨㆓頓里㆒詩〕載㆑酒攜㆓山榼㆒、安㆑琴製㆓石牀㆒。

【山陷】166（サンカン） 山が陷沒してなくなる。〔阮籍、大人先生傳〕天回地動、山陷川起、雲散震壞、六合失㆑理。

【山寒】167（サンカン） 山が寒い。山中の寒さ。〔顏眞卿、謝㆘陸處士杼山折㆓青桂花㆒見㆖寄之什〕羣子游㆓杼山㆒、山寒桂花白。〔杜甫、愁坐詩〕十月山寒重、孤城水氣昏。〔盧綸、臥㆑病書㆑懷詩〕貌衰綠藥盡、起晩爲㆓山寒㆒。〔鄭巢、題㆓靈隱寺皖公院㆒詩〕山寒葉滿㆑衣、孤鶴偶淸羸。

【山嵌】168（サンカン） 山の深い谷。嵌は深い谷。〔韋莊、李氏小池亭詩〕引㆑泉疏㆓地脈㆒、埽㆑絮積㆓山嵌㆒。

【山間】169（サンカン） 山あひ。山の中。〔管子、輕重乙〕菹菜鹹鹵斥澤、山間堤壘。〔楚辭、劉向、九歎、憂苦〕偓促談㆓於廊廟㆒兮、律魁放㆓乎山間㆒。〔徐陵、諫㆓仁山深法師罷㆑道書〕山間樹下、故自難㆑期、枕㆑石漱㆑流、實爲㆓希有㆒。〔寒山、詩〕自羨山間樂、逍遙無㆓倚託㆒。〔歐陽脩、醉翁亭記〕野芳發而幽香、佳木秀而繁陰、風霜高潔、水落而石出者、山間之四時也。〔蘇軾、前赤壁賦〕惟江上之淸風與㆓山間之明月㆒、耳得㆑之而爲㆑聲、目遇㆑之而成㆑色。

【山澗】170（サンカン） たにがは。山間の谿谷。〔詩、衞風、考槃、獨寐寤言、永矢弗㆑諼、疏〕窮㆓處山澗之間㆒、而能成㆓其樂㆒者、以㆓大人寬博之德㆒、故雖㆘在㆓山澗㆒獨寐而覺㆖、獨言㆓先王之道㆒、長自誓不㆓敢忘㆒也。〔杜甫、所㆑思詩〕爲㆑農山澗曲、臥㆑疾海雲邊。〔韋應物、答㆓僩奴重陽二甥㆒詩〕山澗依㆓磽确㆒、竹樹蔭㆓淸源㆒。

【山檻】171（サンカン） 山家のてすり。〔張九齡、候㆑使登㆓石頭驛樓㆒作詩〕山檻憑㆓南望㆒、川途眇㆓北流㆒。〔許渾、元處士宛陵山居詩〕江城夜別瀟瀟雨、山檻晴歸漠漠烟。

【山簡】172（サンカン） ㊀酒飮みをいふ。晉の山簡が酒を嗜んだ故事による。山簡倒載を見よ。〔杜甫、王竟攜㆑酒高亦同過共用㆓寒字㆒詩〕移㆑尊勸㆓山簡㆒、頭白恐㆓風寒㆒。㊁晉、河內懷の人。濤の子。字は季倫。官は永嘉中、尙書左僕射、尋いで征南將軍。性、酒を嗜む。〔晉書、四十三〕。

〖山簡倒載〗173（サンカンタウサイ） 蒙求の標題。晉の山簡、酒を嗜み、常に酒食を載せて池上に浮び、傾け盡し、醉うて歸つた故事。倒載は、舟に載せた酒を傾倒しつくすこと。山公（368）の㊂を見よ。〔蒙求、上、山簡倒載〕晉山簡、字季倫、司徒濤之子、溫雅有㆓父風㆒、永嘉中、爲㆓征南將軍㆒、鎭㆓襄陽㆒、四方寇亂、天下分崩、朝野危懼、簡優游卒㆑歲、唯酒是耽、諸習氏荊土豪族、有㆓佳園池㆒、簡每㆑出多之㆓池上㆒、置酒輒醉、名㆑之曰㆓高陽池㆒、時有㆓童兒歌㆒曰、山公出㆓何許㆒、往至㆓高陽池㆒、日夕倒載歸、酩酊無㆑所㆑知、時時能騎㆑馬、倒著㆓白接䍦㆒、擧㆑鞭向㆓葛強㆒、何如幷州兒、強家在㆓幷州㆒、簡愛將也。

【山龕】174（サンカン・サンガン） やまでら。龕は塔、又、塔下の佛を安んずる室。〔庾信、秦州天水郡麥積崖佛龕銘序〕拜㆓燈王於石室㆒、乃假㆓馭風㆒、禮㆓花首於山龕㆒、方資㆓控鶴㆒。

【山岸】175（サンガン） 山のがけ。〔宋書、符瑞志〕晉成帝咸和元年十月辛卯、宣城春穀縣、山岸崩、獲㆓石鼎㆒、重二斤、受㆓斛餘㆒。〔梁簡文帝、和㆓湘東王後園㆒詩〕枝雲閒㆓石峯㆒、脈水浸㆓山岸㆒。

【山顏】176（サンガン） 山のおもて。〔陸龜蒙、四明山詩〕若得㆓山顏㆒住、芝箑手自攜。

【山巖】177サンガン　山の岩。〔詩、小雅、伐木、伐木丁丁、鳥鳴嚶嚶、箋〕言、昔日未レ居レ位、在二農之時一、與二友生一於二山巖一伐レ木、爲二勤苦之事一。〔魏志、東沃沮傳〕夏月恆在二山巖深穴中一爲二守備一。〔魏志、劉放傳、注〕武皇帝聖二於用レ兵、察三蜀賊棲二於山巖一。〔庾信、謝三趙王示二新詩一啓〕藏二之山巖一、可レ使二雲霧鬱起一。

【山卉】178サンキ　山中の草花。〔元稹、和二樂天牡丹叢一詩〕弊宅豔二山卉一、別來長歎息。〔梅堯臣、寄二題豐樂亭一詩〕芍藥廣陵來、山卉雜二天治一。

【山危】179サンキ　山が高く聳える。〔江總、陳宣帝哀策文〕鳳蓋飄而水暗、鸞蹕聳而山危。〔范梈、蘄州城下晚泊云云詩〕洲遠懷二鸚鵡一、山危指二鳳凰一。

【山姫】180ヤマヒメ　❶山を守る女神。〔千載集、秋下〕山姫に千重の錦を手向けても。❷あけびの異名。山女。〔行宗集〕いがくりあけびなど遺して、いが栗は心弱くぞ落ちにける、この山姫の笑める顏見て。

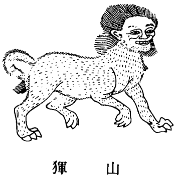
【山氣】181サンキ　❶山の氣。山の雲氣。山間に生ずるもや。〔淮南子、天文訓〕遠レ山則山氣藏。〔淮南子、墬形訓〕山氣多レ男、澤氣多レ女。〔楚辭、淮南小山王、招隱士〕山氣巃嵸兮石嵯峨。〔陶潛、飲酒詩〕山氣日夕佳、飛鳥相與還。〔唐高宗、九月九日詩〕野靜山氣斂、林疏風露長。〔張九齡、谿行寄二王震一詩〕山氣朝來爽、谿流自向清。〔元好問、僧寺阻レ雨詩〕山氣森岑入二葛衣一、砧聲偏與二客心一期。❷キヤマ　冒險や投機を好む心。やましの心。投機心。

【山記】182サンキ　山についての記錄。山志。〔周必大、遊二茅山一記〕近士人曾恂重述二山記一、比二陳倩所レ校舊記一頗詳。

【山鬼】183サンキ　❶山中の怪物。狒狒の類。山𤟤。山精。〔本草、狒狒〕附錄、山𤢖、永嘉記云、安國縣有二山鬼一、形如レ人而一脚、僅長一尺許、好盜二伐木人鹽一、炙二石蟹一食、人不二敢犯一レ之、能令二人病及焚一レ居也。〔白居易、送三客之二湖南一詩〕山鬼趫跳唯一足、峽猿哀怨過二三聲一。〔書言故事、鬼神類〕佛修二行山中一、常有二外魔現一レ怪、佛曰、山鬼力量有レ限、老僧應レ答二無窮一。❷楚辭、九歌の篇名。九歌（1―167・51）の❷を見よ。〔楚辭、九歌、山鬼〕若レ有レ人兮山之阿、被二薜荔一兮帶二女蘿一、既含レ睇兮又宜レ笑、子慕二予兮善窈窕一。〔注〕有レ人、謂二山鬼一也、阿、曲隅也、女蘿、菟絲也、言、山鬼彷彿若レ人、見二於山之阿一、被二薜荔之衣一、以二菟絲一爲レ帶也、薜荔・菟絲、皆無レ根、緣レ物而生、山鬼亦晻忽無レ形、故衣レ之以爲レ飾也、睇、微眄貌也、言、山鬼之狀體、含二妙容一、美目盼然、又好口齒宜レ笑也。

【山基】184サンキ　山の麓。山麓。〔劉鑠、擬行行重行行詩〕寒螿翔二水曲一、秋兔依二山基一。

【山期】185サンキ　山中で會合する期日。〔皮日休、史處士詩〕山期須二早赴一、世累莫二遲留一。


山𤟤
（三才圖會）

【山𤟤】186サンキ　山中の怪物。狒狒の類。山鬼。山精。〔山海經、北山經〕獄法之山有レ獸焉、其狀如レ犬而人面、善投、見レ人則笑、其名山𤟤、其行如レ風、見則天下大風。〔注〕𤟤音暉、爾雅翼曰、鬻鬻亦名二山𤟤一、吳任臣曰、狒狒人形、山𤟤獸狀、故有二差別一。〔郝懿行箋疏〕吳都賦云、𤟤子長嘯、劉逵注云、𤟤子猿類、猿身人面、見レ人則嘯、嘯、蓋與レ笑通、〔郭璞、山海經圖讚、山𤟤〕山𤟤之獸、見レ人歡謔、厥性善投、行如二矢激一、是惟氣精、出則風作。

【山葵】187サンキ　野菜の名。わさび。溪流の砂中に生ずる多年生草。葉は錢葵に似、地下莖には辛味芳香がある。山薺菜。〔陶安、寄二崔元初一詩〕暮田歸二野雀一、淸雨落二山葵一。〔和漢三才圖會、葷草、山葵〕按、山葵、處處山中近レ水石閒多有レ之、人家亦移二種之一、二月下レ種、植二宿根一者最良、三四月生レ苗、葉似二蕗及葵葉一、故俗名二山葵一、而厚團深青色有二細毛一、六七月作レ穗一二三寸、著二細黃白花一、結二細子一、其根似二菖蒲及良薑根一、故俗名二山薑一、根皮青黑多レ癗、有二短鬚一、其肉淺綠色有二香氣一、味辛辣、研レ之和二熬酒一、食二鱠膾一最佳、食二蕎麥麪一人不レ可レ闕、有下解二魚毒麪毒一之功上也、或曰、患二腸風下血一人、多食レ之愈、未レ試レ之、豫州多有レ之、售二于他處一。

『山葵谷』188ヤマサビダニ　越後國の地名。

【山輝】189サンキ　山がかがやく。山のかがやき。〔陸機、文賦〕石韞レ玉而山輝、水懷レ珠而川媚。〔韋應物、寄二裴處士一詩〕春風駐二游騎一、晚景澹二山輝一。〔歐陽脩、仁宗御飛白記〕夫玉韞レ石而珠藏レ淵、其光氣常見二於外一也、故山輝如二白虹一、水變而五色者、至寶之所レ在也。

【山諱】190サンキ　國君と同名の爲に忌み憚つて言はぬ山の名。〔蜀志、陳震傳〕獻子適レ魯、犯二其山諱一、春秋譏レ之。

【山龜】191サンキ　龜の一種。山に產するもの。秦龜ともいふ。〔爾雅、釋魚〕一曰神龜、二曰靈龜、三曰攝龜、四曰寶龜、五曰文龜、六曰筮龜、七曰山龜、八曰澤龜、九曰水龜、十曰火龜。〔疏〕山龜、生二山中一者。〔嶺表錄異〕蟕蠵者、俗謂二之茲夷一、乃山龜之巨者、人立二其背一、可二負而行一。

【山磯】192サンキ　山麓のいそ。〔謝靈運、山居賦〕山磯下而回レ澤、瀨石上而開レ道。

【山蘄】193サンキ　まさきのかづら。一に、やまぜり。〔爾雅、釋草〕薜、山蘄。〔注〕廣雅曰、山蘄當歸、當歸、今似レ蘄而粗大。〔疏〕說文云、蘄、草也、生二山中一者、一名薜、一名山蘄。

【山夔】194サンキ　山中の怪物。夔は一足の獸。〔柳宗元、祭二萬年裴令一文〕聞レ疾馳レ簡、其命未レ返、翩二其計書一、來レ自二番禺一、塊二守窮荒一、山夔與居。〔劉筠、大酺賦〕效二山夔之躑躅一、恃二一足一而有レ餘。〔來復、西湖雜詩〕鳥窠無レ樹山夔泣、不レ見二談禪太傅來一。

【山妓】195サンギ　山中の妓女。〔袁士元、題二西山傅菴一詩〕山妓折レ花來供レ佛、老樵弛レ擔坐聽レ經。

【山祇】196サンギ　山の神。嶽祇。やまつみ。山神。〔顏延之、車駕幸二京口一三月三日侍二遊曲阿後湖一作詩〕山祇蹕二嶠路一、水若警二滄流一。〔皮日休、虎丘寺殿前有二古杉一本一云云詩〕勢能擒二土伯一、醜可レ駭二山祇一。

【山巍】197サンギ　山が高くそびえる。巍は山の高大なさま。〔宋史、樂志十三〕基隆二郟鄏一、德茂二陶唐一、山巍日煥、地久天長。

【山久】198サンキウ　山が永久に存在する。〔王褒、明慶寺石壁詩〕石生銘字長、山久谷神虛。

【山丘】199サンキウ　山邱に同じ。❶山とをか。〔南齊書、祥瑞志〕益州齊后山、父老相二傳其名一、亦不レ知レ所レ起、昇明三年、有二沙門玄暢一、於二山丘一立二精舍一。〔李白、江上吟〕屈平詞賦懸二日月一、楚王臺榭空二山丘一。❷物の多い形容。〔何晏、景福殿賦〕豐侔二淮海一、富賑二山丘一。〔高適、古大梁行〕白璧黃金萬戶侯、寶刀駿馬塡二山丘一。〔岑參、送二顏平原一詩〕置酒會二前殿一、賜錢若二山丘一。❸重い形容。〔聶夷中、古興詩〕片玉一塵輕、粒粟山丘重。❹墓。墳墓。〔曹植、箜篌引〕生存華屋處、零落歸二山丘一。〔注〕濟曰、零落、謂二亡沒一也。〔元好問、醉後詩〕身後山丘幾春草、醉來日月兩秋螢。

【山邱】200サンキウ　山とをか。山丘に同じ。〔墨子、大取〕若二山邱室廟一者、皆是也。

【山韭】201サンキウ　山中に生ずるにら。やまにら。〔爾雅、釋草〕藿、山韭。〔疏〕生レ山者名レ藿。〔沈約、郊居賦〕其陸卉、則紫鼈・綠葹・天著・山韭・雁齒・麋舌・牛脣・彘首。

【山鳩】202ヤマバト　山野に棲息する鳩。「と色のあを。

『山鳩色』203ヤマバトイロ　濃い黃色。〔平兼澄集〕やまば

【山牛】204サンギウ　牛の一種。耕作に用ひず、唯、犧牲に供する。〔宋史、占城國傳〕鳥獸多二孔雀犀牛一、畜產多二黃牛水牛一而無レ驢、亦有二山牛一、不レ任二耕耨一、但殺以祭レ鬼。

『山牛蒡』205ヤマゴバウ　草の名。❶虎薊（9―32675・・40）の異名。おにあざみ。〔本草、大薊小薊〕釋名、虎薊・馬薊・猫薊・刺薊、山牛蒡・雞頂草・千鍼草・野紅花、時珍曰、牛蒡・因二其根似二牛蒡根一也。❷蔏陸の異名。蔏（9―31778）の❸を見よ。やまごばう。たうごばう。いぬごばう。

【山菊】206サンキク　山中の菊。〔王績、贈二李徵君大壽一詩〕山菊秋自香。〔張籍、重陽日至二峽道一詩〕逢レ高欲レ飲二重陽酒一、山菊今朝未レ有レ花。

【山橘】207サンキツ　金柑（11―40152・・172）の異名。〔本草、金橘〕釋名、金柑・盧橘・夏橘・山橘・給客橙。〔北戶錄〕山橘子、冬熟、有下大如二土瓜一者、次如二彈丸一者上、皮薄下レ氣、普寧多有レ之。〔孫逖、江行有レ懷詩〕霜多山橘熟、寒至浦禽稀。

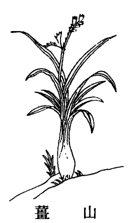
【山杏】208サンキヤウ　杏の一種。山あんず。〔本草、杏〕集解、頌曰、其扁而青黃者名二木杏一、味酢不レ及レ之、山杏不レ堪レ入レ藥。〔白居易、西省對レ花憶二忠州東坡新花樹一詩〕最憶東坡紅爛熳、野桃山杏

水林檎。〔溫庭筠、碧澗驛曉思詩〕月落子規歇、滿庭山杏花。〔蘇軾、和三王晉卿送二梅山一次韻詩〕江梅山杏爲レ誰容、獨笑依依臨二野水一。

【山羌】209（サンキャウ）　山中のえびす。羌は西方の野蠻人種。〔唐書、陳子昂傳〕今撤二山羌一開二阪險一。

【山鄕】210（サンキャウ）　❶山中の村邑。山村。〔馬戴、送三呂郎中牧二東海郡一詩〕山鄕足レ遺レ老、佇聽薦レ賢書。〔張籍、送二汀州源使君一詩〕山鄕秪有二輸レ蕉戶一、水鎭應レ多養レ鴨欄。❷縣名。漢、置く。山東省の境に當る。〔漢書、地理志上〕東海郡、縣三十八、山鄕。

【山薑】211（サンキャウ）　草の名。❶花茗荷の異名。〔本草、山薑〕釋名、美草、時珍曰、與二杜若之山薑一名同物異也、集解、時珍曰、山薑生二南方一、葉似二薑花一赤色、甚辛、子似二草豆蔻一、根如二杜若及高良薑一、今人以二其子一僞充二草豆蔻一、然其氣甚猛烈。❷杜若(6－14477・・143)の異名。やぶみやうが。〔本草、杜若〕釋名、杜衡・杜蓮・若芝・楚衡・獵子薑・山薑、集解、頌曰、衞州一種、山薑莖葉如レ薑、開二紫花一、不レ結レ子、八月采レ根入レ藥。❸山葵(187)の異名。❹朮(6－14423)の異名。山薊(298)を見よ。



山薑（三才圖會）

【山競】212（サンキャウ）　山が高さをきそふ。〔宗欽、與二高允一詩〕乾象奄氣、坤厚山競。

【山響】213（サンキャウ）　音が山中にひびきわたる。又、山中のひびきごゑ。〔南史、宗少文傳〕撫レ琴動レ操、欲レ令二衆山皆響一。〔梁簡文帝、招眞館碑〕野寂雲興、禽繁山響。〔丘遲、侍二宴樂遊苑一送二張徐州一應詔詩〕風遲山尚響、雨息雲猶積。〔王維、過二感化寺曇興上人山院一詩〕催レ客聞二山響一、歸レ房逐二水流一。

〔山響樓〕214（サンキャウロウ）　清、溫睿臨(7－17968・・254)「の室名。

【山仰】215（サンギャウ・サンガウ）　高山を仰ぎ望む。人を仰ぎ慕ふ喩。〔詩、小雅、車舝〕高山仰止、景行行止。

【山腳】216（サンキャク）　山のふもと。山足。〔崔櫓、重陽日次二荊南一路經二武寧驛一詩〕茱萸冷吹溪口香、菊花倒遶山腳黃。〔杜荀鶴、送三僧歸二國清寺一詩〕路沿二山腳一潮痕出、睡倚二松根一日色斜。〔張耒、宿二樊溪一詩〕扁舟橫レ江來、山腳繫二吾纜一。〔范成大、與二長文正夫一遊二北山一詩〕雨腳遠連山腳暗、杏梢斜倚竹梢紅。〔楊維楨、小臨海曲〕乘レ龍拔二山腳一、飛二渡海門一來。

【山瘧】217（サンギャク）　山中のおこりの病。〔梁書、殷鈞傳〕鈞體羸多レ疾、云云、郡舊多二山瘧一、更暑必動、自二鈞在レ位、郡境無二復瘧疾一。

【山芎】218（サンキウ）　山中のをんなかづら。〔蘇軾、次二韻孔毅父久旱已而甚雨一詩〕山芎麥麴都不レ用、泥行露宿終無レ疾。

【山宮】219（サンキウ）　山中のおたまや。〔徐陵、和三簡文帝賽二漢高帝廟一詩〕山宮類二牛首一、漢寢若二龍川一。

〔山宮雪樓〕220（ヤマミヤセツロウ）　江戶の人。名は惟深。字は仲淵。通稱は官兵衞。號は雪樓・翠漪。享保年間の人。室鳩巢・三宅尙齋の說を奉ず。官は龜田侯儒。說辭に長じて其の講經一時に行はれ、又、國學に精通す。著に勤王師論・薰風編・皇統授受圖・雪樓文集・忠精筆記・八朝紀聞がある。〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕・〔國書解題〕。

【山窮】221（サンキュウ）　山がきはまりつきる。〔揚雄、羽獵賦〕野盡山窮、囊二括其雌雄一、沈沈容容、遙噱二乎紘中一。〔庾信、周兗州刺史廣饒公鄭常神道碑〕山窮水斷、馬束橋飛。

【山居】222（サンキョ）　山中に住む。又、山中の住居。やまずみ。隱居・隱棲をいふ。山處。〔戰國、韓策〕韓地險惡山居、五穀所レ生、非レ麥而豆、民之所レ食、大抵豆飯藿羹。〔管子、輕重丁〕南方之萌者、山居谷處。〔史記、滑稽、優孟傳〕山居耕レ田苦、難二以得一レ食。〔淮南子、泰族訓〕山居木棲、枝巢穴藏、水潛陸行、各得二其所一レ寧焉。

〔山居賦〕223（サンキョノフ）　文章の名。南朝宋、謝靈運撰。〔謝靈運、山居賦序〕古巢居穴處曰二巖棲一、棟宇居山曰二山居一、在二林野一曰二丘園一、在二郊郭一曰二城傍一、四者不レ同、可三以理推二言心一也、黃屋實不レ殊二於汾陽一、卽事也、山居良有レ異二乎市廛一、抱レ疾就レ閑、順二從性情一、敢率レ所レ樂、而以作レ賦。

〔山居新語〕224（サンキョシンゴ）　書名。四卷。元、楊瑀撰。小說家の語。輟耕錄に似て、政典に關し風教に資するものが多い。〔四庫提要、子、小說家類〕。

【山墟】225（サンキョ）　をか。墟は大丘。〔柳惲、雜詩〕山墟罷二寒梅一、園澤潤二朝暉一。

【山魚】226（サンギョ）　山間の溪流に棲む魚。〔晉書、禮志上〕山魚登レ俎、澤豕暌レ經。〔無可、官池上詩〕岸廣山魚到、汀閑海鷺過。

〔山魚蘇〕227（サンギョソ）　紫蘇の一種。〔本草、蘇〕集解、頌曰、佳夏采二莖葉一、秋采レ子、有二數種一、水蘇・魚蘇・山魚蘇、皆是荏類、各有二別條一。

【山漁】228（サンギョ）　清、朱夼(6－14424・・74)の字。

【山胸】229（サンキョウ）　山の七、八合目をいふ。〔安井息軒、松島〕大仰寺在二山胸一。

【山興】230（サンキョウ）　山中の面白味。〔杜牧、貽二隱者一詩〕回報隱居レ山、莫レ憂山興闌。

【山曲】231（サンキョク）　やまのくま。山阿。山隈。〔水經、甘水注〕山在二河南陸渾縣故城西北一、俗謂二之縱山一、水之所レ導、發二於山曲之中一、故世人目二其所一爲二甘掌一焉。〔元結、遊二漘泉一示二泉上學者一詩〕草堂在二山曲一、澄瀾涵二階除一。〔歐陽脩、勞停驛詩〕孤舟轉二山曲一、豁爾見二平川一。

【山棘】232（サンキョク）　薔薇(9－32113・・2)の異名。〔本草、營實牆靡〕釋名、薔薇・山棘・牛棘・牛勒・刺花。

【山巾】233（サンキン）　山中の隱者などの頭巾。〔庾信、入二道士館一詩〕野衣縫二蕙葉一、山巾篸二笋皮一。

〔山巾子〕234（サンキンシ）　霧をいふ。〔北夢瑣言〕霧、是山巾子。

【山斤】235（センキン）　佛須彌山の目方を量ること。佛の壽命の量り難い喩。〔金光明玄義〕山斤海滴、寧得レ盡二其邊岸一。

【山近】236（サンキン）　山が近い。〔蕭愨、春晚庭望詩〕泉鳴知二水急一、雲來覺二山近一。〔王維、奉三和聖製慶二玄皇帝王像之作一詩〕斗廻迎二壽酒一、山近起二爐烟一。〔溫庭筠、早秋山居詩〕山近覺二寒早一、草堂霜氣晴。

【山金】237（サンキン）　❶山から出る金。〔管子、國准〕益レ利摶レ流、出二山金一立レ幣。〔梁簡文帝、湘宮寺智蒨法師墓誌銘〕若レ韜二山金一、如レ苞二海寶一。❷自然金の一種。

〔山金柑〕238（サンキンカン）　金柑の一種。金橘。〔橘譜〕金橘生二山逕閒一、比二金柑一更小、味不レ可レ食、惟宜レ植二之欄檻中一、園丁種レ之、以鬻二於市一、亦名二山金柑一。

【山琴】239（サンキン）　山中で奏でる琴。〔宋書、樂志一〕是則音不二妄起一、曲豈徒奏、歌倡既設、休戚已徵、淸濁是均、山琴自應、斯乃天地之靈、和二升降之明節一。

【山筋】240（サンキン）　藥草の名。〔梁元帝、玄覽賦〕水底石髮、山筋地骨。〔劉峻、東陽金華山棲志〕丘阿陵曲、衆藥灌叢、地髓抗莖、山筋抽節。

【山禽】241（サンキン）　山中に棲む鳥。やまどり。山鳥。〔魏志、明帝紀、注〕樹二松竹雜木善草于其上一、捕二山禽雜獸一置二其中一。〔梁簡文帝、大同十一月庚戌詩〕山禽背レ逕走、野鳥歷レ塘飛。〔杜甫、解レ悶詩〕山禽引レ子哺二紅果一、溪友得レ錢留二白魚一。

〔山禽叫斷〕242（サンキンケウダン）　山中の鳥の聲がたえ靜まる。〔河野鐵兜、芳野懷古詩〕山禽叫斷夜寥寥、無レ限春風恨未レ銷。

【山垠】243（サンギン）　山ざかひ。〔江淹、遂古篇〕雄黃雌石出二山垠一兮。〔元好問、石門詩〕兩崖橫絕倚二山垠一、草逕低迷劣可レ分。

【山虞】244（サング）　周官の名。地官の屬。山林の政令を司る。やまもり。〔周禮、地官、序官、山虞、注〕虞、度也、度二知山之大小及所レ生者一。〔周禮、地官、山虞〕掌二山林之政令一。

【山空】245（サンクウ）　山に人の氣はひのないこと。〔後漢書、皇甫規等傳贊〕紛紜騰突、谷靜山空。〔楊炯、巫峽詩〕山空夜猿嘯、征客淚沾レ裳。〔盧照鄰、夏遊二山家一詩〕谷靜風聲徹、山空月色深。〔李白、謝公亭詩〕客散青天月、山空碧水流。〔韋應物、秋夜寄二丘二十二員外一詩〕山空松子落、幽人應レ未レ眠。

〔山空木〕246（ヤマウツギ）　虎耳草科に屬する灌木。パイプの製材となる。

【山隅】247（サングウ）　山のすみ。山のふもと。山陬。〔揚雄、長楊賦〕羅二千乘於林莽一、列二萬騎於山隅一。〔曹植、洛神賦〕微二幽蘭之芳藹一兮、步二踟躕於山隅一。〔注〕銑曰、言下映二幽蘭一、徐步徘中徊於山之隅角上。〔梁昭明太子、七契〕鄙人寡識、守二節山隅一、不レ聞二智士之教一、將二自潛以糜レ軀。

【山窟】248（サンクツ）　山中のいはや。〔呂太乙、土賦〕公和

之山窟非レ漏、子猷之冬林自賞。

【山火】249サンクワ 山の火事。やま火事。〔周易卦歌〕山火賁。〔魏書、崔光傳〕書始稽レ古、易本二山火一。〔何遜、七召〕山火已燎、野霜初白。〔沈佺期、咸陽覽古詩〕野橋疑二望日一、山火類二焚書一。

【山禾】250サンクワ をかぼ。陸稻(11−41708··187)の異名。〔海槎餘錄〕。

【山果】251サンクワ 山のくだもの。〔項斯、宿二山寺一詩〕山果經レ霜多自落、水螢穿レ竹不レ停レ飛。

【山花】252サンクワ 山中に咲く花。山華。〔庾信、詠二畫屛風一詩〕水流平澗下、山花滿谷開。〔沈佺期、奉三和晦日駕二幸昆明池一詩〕山花緹騎繞、堤柳幔城開。〔岑參、山房春事詩〕數枝門柳低二衣桁一、一片山花落二筆牀一。〔李白、秋浦歌〕水急客舟疾、山花拂レ面香。〔李白、山中對酌〕兩人對酌山花開、一盃一盃復一盃。〔杜甫、早花詩〕臘月巴江曲、山花已自開。〔韋應物、花徑詩〕山花夾レ徑幽、古甃生レ苔澀。

〖山花子〗253サンクワシ ❶詞牌の名。もと唐の教坊曲名。南唐浣溪沙ともいふ。❷曲牌の名。南曲にては中呂宮正曲に入る。

【山貨】254 shan^1 huo^4 ❶荒物。❷原料品。

〖山貨行〗255 shan^1 huo^4 hang^2 山貨を取扱ふ店舗。荒物屋。

【山蝸】256サンクワ 蝸牛(10−33338··6)の異名。〔本草、蝸牛〕釋名、蠡牛・蚹蠃・螔蝓・山蝸・蝸蠃・蜒蚰蠃・土牛兒。

【山怪】257サンクワイ 山中に居るもののけ。山魅。〔本草、狒狒〕集解、時珍曰、按、鄧氏所レ說、與二北山經之山𤟤、述異記之山都、永嘉記之山鬼、神異經之山𤢖、玄中記之山精、海錄襍事之山丈、文字指歸之旱魃、搜神記之治鳥一倶相類、乃山怪也。〔宋之問、下二桂江一龍目灘詩〕巨石潛二山怪一、深篁隱二洞仙一。〔孟郊、寄二義興小女子一詩〕山怪夜動レ門、水妖時弄レ池。

【山廻】258サンクワイ 山がめぐる。〔岑參、白雪歌送二武判官歸京一詩〕山廻路轉不レ見レ君、雪上空留馬行處。〔戴叔倫、留二別道州李使君圻一詩〕山回千騎隱、雲斷兩鄉遙。

【山廥】259サンクワイ 山中のまぐさぐら。廥は飼料貯藏の小屋。〔梁周翰、五鳳樓賦〕星甍櫛堵、我民之廬、海漕山廥、我田之租。

【山壞】260サンクワイ 山がくずれる。山の崩壞。〔孔融、臨終詩〕河潰蟻孔端、山壞由二猿穴一。

【山懷】261ヤマフトコロ 山間に入り込んだ土地。〔源氏物語、椎本〕かかる山懷にひき籠めて。

【山外】262サングワイ ❶山のそと。〔張說、侍二宴蘘荷亭一應制詩〕山外聞二簫管一、還如二天上逢一。〔李白、郢門秋懷詩〕杳杳山外日、茫茫江上天。〔杜甫、望二牛頭寺一詩〕春色浮二山外一、天河宿二殿陰一。❷山東の地をいふ。太行山の外に在るからいふ。〔潘岳、西征賦〕望二噤門一而莫レ啓、不レ窺二兵於山外一。〔注〕善曰、戰國策、范睢謂二秦王一曰、秦今反閉レ關而不三敢窺二兵於山東一者、穰侯爲レ國謀不レ忠、大王計有レ所レ失也。

【山光】263サンクワウ 山の色。山の景色。山色。〔沈約、泛二永康江一詩〕山光浮レ水至、春色犯レ寒來。〔岑參、郡齋平望二江山一詩〕山光圍二一郡一、江月照二千家一。〔杜甫、移二居夔州郭一詩〕農事聞二人說一、山光見二鳥情一。〔張旭、山行留レ客詩〕山光物態弄二春輝一、莫下爲二輕陰一便擬歸上。

〖山光水色〗264サンクワウスイショク 山水の色。山水の景色。〔李白、魯郡堯祠送三寶明府薄華還二西京一詩〕笑誇二故人一指二絕境一、山光水色青二於藍一。〔白居易、菩提寺上方晚眺詩〕樓閣高低樹淺深、山光水色暝沈沈。

【山荒】265サンクワウ ❶山地の未開墾地。原野。〔宋史、兵志十二〕惟河東嵐石之間、山荒甚多、汾河之側、草地亦廣、其閒水草、最宜二牧養一。❷ヤマアラシ 豪猪をいふ。〔觀海日記、安永二年四月五日〕豪猪、云云、山あらし。

【山黃】266サンクワウ 山の色のきばむこと。〔梁簡文帝、七勵〕秋河曉碧、落蕙山黃。

【山廣】267サンクワウ 山が廣々としてゐること。〔明一統志〕貴州宣慰司形勝、山廣箐深、重レ岡疊レ寨。

【山郭】268サンクワク 山村。やまざと。郭は村里のそとぐるは。〔崔峒、送三陸明府之二盱眙一詩〕澹浪搖二山郭一、平蕪到二縣門一。〔杜甫、秋興詩〕千家山郭靜二朝暉一、日日江樓坐二翠微一。〔杜牧、江南春詩〕千里鶯啼綠映レ紅、水村山郭酒旗風。

【山豁】269サンクワツ 山が廣く開ける。〔杜甫、陪二王使君一晦日泛レ江詩〕山豁何時斷、江平不二肯流一。〔韋應物、自二鞏洛一舟行入二黃河一云云詩〕夾水蒼山路向レ東、東南山豁大河通。

【山官】270サンクワン 山をつかさどる役人。轉じて、山の神。〔神仙傳、封衡〕遂周二遊天下一、故山官水神、潛相迎伺、而凶鬼怪物、無レ不二竄避一。

【山館】271サンクワン 山中の旅館。〔王昌齡、諸官遊二招隱寺一詩〕山館人已空、青蘿換二風雨一。〔韋應物、送三顏司議使レ蜀訪二圖書一詩〕山館夜聽レ雨、秋猿獨叫レ羣。〔李嘉祐、句容縣東青陽館作詩〕夕照留二山館一、秋光落二草田一。〔元稹、桐花詩〕朧月上二山館一、紫桐垂二好陰一。〔白居易、宿二桐廬館一云云詩〕夜深醒後愁還在、雨滴二梧桐一山館秋。

【山關】272サンクワン 山を利用して作った關所。山に據つて作った城壁。〔顏延之、車駕幸二京口一侍二遊蒜山一作詩〕流池自化造、山關固神營。〔注〕銑曰、因レ流爲レ池、據レ山爲レ城、若二化造神營一、非二人力能致一。

【山觀】273サンクワン 山中の道士の居る建てもの。〔王昌齡、武陵開元觀黃鍊師院詩〕山觀空虛清靜門、從官役吏擾二塵喧一。〔張籍、靈都觀李道士詩〕山觀雨來靜、繞レ房瓊草春。〔李商隱、贈二鄭讜處士一詩〕寒歸二山觀一隨二棊局一、暖入二汀洲一逐二釣綸一。

【山君】274サンクン ❶虎(9−32675)の異名。〔說文〕虎、山獸之君。〔駢雅、釋獸〕山君、虎也。〔虎苑〕虎爲二獸長一、亦曰二山君一。❷山の神。〔史記、武帝紀〕泰一・皋山・山君・地長用レ牛。〔注〕正義曰、三竝神名。〔張羽、送二呂道士一詩〕山君驅レ虎去、童子報二丹成一。

【山曛】275サンクン 山の日ぐれ。〔包融、登二翅頭山一題二儼公石壁一詩〕晨登二翅頭山一、山曛黃霧起。

【山郡】276サングン 山中の郡。〔蜀志、劉封傳〕封達辭以二山郡初附未一レ可二動搖一、不レ承二羽命一。〔宋書、王僧達傳〕山郡無レ事、僧達肆二意馳騁一。〔岑參、虢州郡齋南池幽興云云詩〕及レ茲佐二山郡一、不レ異レ尋二幽棲一。〔呂溫、道州訪二荀參軍林園一詩〕山郡本來車馬少、更容三相訪莫二辭喧一。

【山兄】277サンケイ 山中に居る、己より年上の親友。〔李洞、贈二王鳳二山人一詩〕山兄望二鶴信一、山弟聽二烏占一。〔貫休、思二匡山賈匡一詩〕山兄詩癖甚、寒夜更何爲。

【山形】278サンケイ ❶山のかたち。山象。山狀。〔水經、沔水注〕水導二源縣南武當山一、一曰二太和山一、亦曰二嵾上山一、山形特秀、又曰二仙室一。〔庾信、周大將軍東郡公侯莫陳君夫人竇氏墓誌銘〕山形起伏、既符二白鶴之祥一、地勢風烟、乃合二青烏之氣一。〔白居易、百花亭詩〕山形如二峴首一、江色似二桐廬一。〔許渾、行次二潼關一題二驛後軒一詩〕山形朝レ闕去、河勢抱レ關來。❷ヤマガタ ㋑弓場で的の後に張つて矢を禦ぐ布。〔倭名類聚抄、術藝部、射藝具、皮〕本朝式云、山形、夜萬賀太、侯後四許丈、張二紺布一禦レ矢者也。㋺物の中高く、左右斜に下つて山の形をした象。又、其のもの。〔東宮年中行事、四月〕御帳の間にあたりて山がたを立てたり。㋩あづち。弓場の的をかけるところ。㋥くらぼね(鞍橋)の頂をいふ。〔曾我物語、一、河津三郎被レ討事〕鞍の後の山形を射けづり。

〖山形詩〗278′サンケイシ 詩を左右相對して山の形に竝べたもの。一種の遊戲。雙合文。最も高い中央から讀み下し、右左と順次讀み下すのが普通である。形は同じ山形であるが、上から蛇行して下り、下り了つて蛇行して昇る讀方をするものを水勢文といふ。

〖山形柱杖〗279サンギヤウシユチヤウ 佛修飾のない自然木の杖。

【山系】280サンケイ 山脈の系統。

【山扃】281サンケイ 山中の門。〔孔稚珪、北山移文〕雖三情投二於魏闕一、或假二步於山扃一。

【山迥】282サンケイ 山の遠くはるかなこと。〔杜甫、野望詩〕葉稀風更落、山迥日初沈。〔戴叔倫、李大夫見レ贈因レ之有レ呈詩〕江清寒照動、山迥野雲秋。〔無可、送三杜司馬再游二蜀中一詩〕雁飛不レ見二行塵滅一、景下山迥極目寒。

【山陘】283サンケイ 山徑に同じ。〔法言、吾子〕山陘之蹊、不レ可レ勝レ由矣。

【山徑】284サンケイ やまみち。山中のこみち。山蹊。山逕。山陘。〔孟子、盡心下〕山徑之蹊閒、介然用レ之而成レ路。〔杜甫、望二兜率寺一詩〕樹密當二山徑一、江深隔二寺門一。〔儲光羲、幽人居詩〕幽人下二山徑一、去去夾二青林一。

【山桂】285 サンケイ 桂の一種。〔酉陽雜俎續集、支植上〕山桂、葉如レ廡、細花紫色、黃葉簇生、如二愼火草一、出二丹陽山中一。〔宋之問、爲二太平公主五郎一設レ齋歎レ佛文〕山桂含レ芳而逼レ人、階蘭吐レ秀而驚レ俗。〔李嶠、晩景悵然簡二二三子一詩〕梧桐稍下レ葉、山桂欲レ開レ花。〔許渾、月夜期二友人一不レ至詩〕風過二渚蒲一動、露含二山桂一幽。

【山荊】286 shan^1 ching^1 自分の妻の謙稱。拙妻。

【山畦】287 サンケイ 山間の田のあぜ。〔和漢朗詠集、下、紀齊名、田家秋意〕野酌卯時桑葉露、山畦甲日稻花風。

【山逕】288 サンケイ 山中のこみち。山徑。〔眞山民、曉行二山間一詩〕一二里山逕、兩三聲曉鶯。

【山景】289 サンケイ 山の景色。山光。〔陶翰、秋山夕興詩〕山月松篠下、月明山景鮮。〔韋應物、答二馮魯秀才一詩〕澹然山景晏、泉谷響二幽禽一。

【山傾】290 サンケイ 山がかたむく。〔張仲甫、雷賦〕其爲レ澹也、磊磊落落、砰砰訇訇、龍潛魚躍、海湧山傾、星宿爲レ之霾翳、日月爲レ之昏暝。

【山溪】291 サンケイ 山谿（299）に同じ。❶山と谷。山谷。〔魏志、牽招傳〕若欲二潛襲一、則山溪艱險、資糧轉運、難二以密辦一。❷谷川。たに。〔博物志、異蟲〕江南山溪中、水射工蟲甲類也。〔戴叔倫、宿二靈巖寺一詩〕雨急山溪漲、雲迷嶺樹低。〔盧綸、奉二陪侍中一遊二石筍溪一詩〕朝日照二靈山一、山溪浩紛錯。

【山經】292 サンケイ 山海經の略稱。其の首が南山・西山・北山・東山・中山の五經であるからいふ。〔史記、大宛傳贊〕故言二九州山川一、尙書近レ之矣、至二禹本紀・山海經所レ有怪物一、余不二敢言レ之也。〔漢書、張騫李廣利傳贊〕故言二九州山川一、尙書近レ之矣、至二禹本紀・山經所レ有怪物一、余不二敢言レ之也。〔後漢書、西域傳序〕班超遣二掾甘英一、窮二臨西海一而還、皆前世所レ不レ至、山經所レ未レ詳、莫レ不下備二其風土一、傳中其珍怪上焉。〔周書、異域傳序〕求二之鄒說一、詭怪之迹實繁、考二之山經一、奇譎之詞匪レ一。〔庾信、終南山義谷銘序〕燮理餘暇、披二閱山經一。〔梁昭明太子、銅博山香爐賦〕方二夏鼎之瓌異一、類二山經之俶詭一。

〖山經地志〗293 サンケイチシ 山經は山岳の大系を記した書。地志は地理書。〔韓愈、毛穎傳〕穎爲レ人強記而便敏、自二結繩之代一、以及二秦事一、無レ不二纂錄一、陰陽・卜筮・占相・醫方・族氏・山經・地志・字書・圖畫・九流百家・天人之書、及レ至二浮圖老子外國之說一、皆所二詳悉一。〔宋史、劉敞傳〕敞學問淵博、自二佛老・卜筮・天文・方藥・山經・地志一、皆究二知大略一。

〖山經卷裏疑レ過レ岫〗294 サンケイノマキノウチニクキヲスグルカトウタガフ 螢の光を以て山海經を照せば、螢が山の岫を飛びすぎるかと疑はれる。山經は山海經の山の部についていふ。岫は山の穴。〔和漢朗詠集、螢、橘直幹、秋螢照レ帙賦〕山經卷裏疑レ過レ岫、海賦篇中似レ宿レ流。

【山磬】295 サンケイ 山中に起る磬の音。磬は石の樂器。〔李頎、宿二香山寺石樓一詩〕漁舟帶二遠火一、山磬發二孤烟一。〔錢起、杪秋南山西峯詩〕雲裏隔二窗火一、松下聞二山磬一。

【山螢】296 サンケイ 山中のほたる。〔鄭谷、贈二日東鑒禪師一詩〕夜深雨絕松堂靜、一點山螢照二寂寥一。〔張端、酬二秦仲納涼一詩〕靜中賞識人知少、一箇山螢度レ水來。

【山罽】297 サンケイ 山中で用ひる毛織物。〔柳宗元、柳州峒氓詩〕鵝毛禦レ臘縫二山罽一、雞骨占レ年拜二水神一。

【山薊】298 サンケイ 草の名。朮（**6**－**14423**）の異名。をけら。山薑。〔爾雅、釋草〕朮、山薊。〔注〕本草云、朮、一名山薊、今朮似レ薊、而生二山中一。〔疏〕一名山薑、一名山連。〔本草、朮〕釋名、山薊・楊枹・枹薊・馬薊・山薑・山連。

【山谿】299 サンケイ 山と谷。山溪（291）に同じ。〔孟子、公孫丑下〕域レ民不レ以二封疆之界一、固レ國不レ以二山谿之險一。

【山蹊】300 サンケイ 山間のこみち。山徑。〔顏延之、和二謝監靈運一詩〕謁レ帝蒼山蹊。〔張耒、西山寒溪詩〕山蹊並二修澗一、嘉木閒二蒲蓮一。

【山雞】301 サンケイ 鳥の名。やまどり。雉の類。〔水經、泿水注〕泿水枝津衍注、自二番禺一東歷二增城縣一、南越志曰、縣多二鵕鸃一、鵕鸃、山雞也、光采鮮明、五色炫耀、利距善鬭、世以二家雞一鬭レ之、則可レ擒也。〔魏志、管輅傳〕平原太守劉邠、取二印囊及山雞毛一、著二器中一使レ筮、輅曰、內方外圓、五色成レ文、含レ寶守レ信、出則有レ章、此印囊也、高嶽巖巖、有レ鳥朱身、羽翼玄黃、鳴不レ失レ晨、此山雞毛也。〔博物志、物性〕山雞有二美毛一、自愛二其色一、終日映レ水、目眩則溺死。〔禽經〕首有二彩毛一曰二山雞一。

〖山雞頭子〗302 サンケイトウシ 金櫻子（**11**－**40152**‥5）の異名。なにはいばら。〔本草、金櫻子〕釋名、刺梨子・山石榴・山雞頭子。

〖山雞舞レ鏡〗303 サンケイカガミニマフ やまどりが己の姿を鏡にうつし、其の美を誇つて死に至るまで舞ふこと。〔古詩〕山雞照レ影空自憐。〔庾信、鏡賦〕山雞看而獨舞、海鳥見而孤鳴。〔異苑、三〕山雞愛二其毛羽一、映レ水則舞、魏武帝時、南方獻レ之、帝欲二其鳴舞一而無レ由、公子蒼舒、令レ置二大鏡其前一、雞鑑レ形而舞、不レ知レ止、遂死。〔崔護、山雞舞二石鏡一詩〕廬峯開二石鏡一、人說舞二山雞一。〔大江朝綱、爲二淸愼公一辭二右大臣一第三表〕類三山雞之對二圓鏡一、舞而何爲。

【山迎】304 サンゲイ 山が迎へる。〔吳融、富春詩〕水送山迎入二富春一、一川如レ畫晚晴新。

【山鯨】305 ヤマクヂラ 猪の肉の異名。〔皇都午睡、三編、上〕猪鹿の肉を、京攝にて、云云、山鯨と異名すれど。

【山嶠】306 サンケウ 山岳。嶠も山。〔江淹、雜體、謝臨川遊山詩〕江海經二邅廻一、山嶠備二盈缺一。〔注〕銑曰、嶠、亦山也。

【山徼】307 サンケウ 國境の山中のとりで。山中の邊塞。徼は、くにざかひのとりで。〔柳宗元、唐鐃歌鼓吹曲十二篇、李靖滅二吐谷渾西海上一爲二吐谷渾一第十〕束レ刃踰二山徼一、張レ翼縱二漠沙一。

【山橋】308 サンケウ 山にかけた橋。〔王維、曉行二巴峽一詩〕水國舟中市、山橋樹杪行。〔杜甫、將レ赴二成都草堂一詩〕書籤藥裏封二蛛網一、野店山橋送二馬蹄一。〔張喬、遊二歙州興唐寺一詩〕山橋通二絕境一、到レ此憶二天台一。〔歐陽脩、值レ雨投二臨汝驛一詩〕山橋斷二行路一、溪雨漲二春田一。

【山鴞】309 サンケウ ふくろふの異名。〔本草、鴞〕釋名、梟鴟・土梟・山鴞・雞鴞・鵩・訓狐・流離・魑魂。

【山竅】310 サンケウ 山中のあな。山穴。〔孟郊、杏殤詩〕木心既零落、山竅空呼號。

【山轎】311 サンケウ やまかご。〔周必大、游二信撫二州諸山一記〕食罷乘二山轎一、游二白雲菴・菖蒲田・喝石巖一。〔楊萬里、宿二張氏莊一早起詩〕山轎已十里、譙門纔四更。

【山曉】312 サンゲウ 山の明け方。〔李白、吹笛詩〕十月吳山曉、梅花落二敬亭一。〔包佶、酬二于侍郎一詩〕山曉重嵐外、林春苦霧中。

〖山曉閣〗313 サンゲウカク 淸、孫琮（**3**－**6987**‥205）の室名。

〖山曉堂〗314 サンゲウダウ 淸、趙御衆（**10**－**37171**‥471）の室名。

【山屐】315 サンゲキ 山のぼりに用ひる下駄。登りには前齒を去り、降りには後齒を去る。〔南史、謝靈運傳〕常著二木屐一、上レ山則去二其前齒一、下レ山則去二其後齒一。〔劉長卿、送下嚴維赴二河南一充中嚴中丞幕府上詩〕山屐留二何處一、江帆去二獨翻一。〔劉禹錫、送三義舟師卻還二黔南一詩〕常說二摩圍一似二靈鷲一、卻將二山屐一上二丹梯一。〔白居易、從二龍潭寺一云云詩〕山屐田衣六七賢、搴レ芳蹋レ翠弄二潺湲一。

【山隙】316 サンゲキ 山と山との間。〔陳沂、遊二西山一記〕從二臥佛寺一入レ山一里許、有二石澗一、澗旁仄徑、緣二普福菴一半里、有二五花閣一、林木蓊鬱、山隙一小寺。

【山穴】317 サンケツ 山中のあな。山竅。〔淮南子、原道訓〕越王翳逃二山穴一、越人熏而出レ之。〔述異記〕王遣二五丁迎レ女、乃見三大蛇入二山穴中一。〔李華、含元殿賦〕雲歸二山穴一、儵以昭曠。〔宋史、王嗣宗傳〕城東有二靈應公廟一、傍有二山穴一、羣狐處レ焉。

【山蕨】318 サンケツ 山中のわらび。〔鄭谷、咏懷詩〕溪鶯喧二午寢一、山蕨止二春飢一。〔皮日休、夏景無レ事因懷二章來二上人一詩〕山蕨收時帶二竹胎一。

【山闕】319 サンケツ 山がかける。又、山がかけて出來た門。〔馬戴、寄二金州姚使君員外一詩〕山闕通二巴峽一、江流帶二楚橋一。〔周必大、遊二信撫二州諸山一記〕上行十餘里、極二廡姑之巓一、自二山闕一過二丹霞界一、入二祥符觀一。〔陳造、陪二盱眙王使君東遊一詩〕風林山闕處、茅舍兩三家。

【山月】320 サンゲツ 山上の月。〔宋之問、端州別二袁侍郎一詩〕客醉山月靜、猿啼江樹深。〔孫逖、山陰縣西樓詩〕山月夜從二公署一出、江雲晚對二訟庭一還。〔盧照鄰、早度二分水嶺一詩〕瑟瑟松風急、蒼蒼山月圓。〔王勃、夜興詩〕野煙含二夕渚一、山月照二秋

林一。〔上官儀、入朝洛堤步月詩〕鵲飛山月曙、蟬噪野風秋。〔王維、藍田山石門精舍詩〕澗芳襲二人衣一、山月映二石壁一。〔李白、靜夜思詩〕擧レ頭望二山月一、低レ頭思二故鄕一。〔岑參、澧頭送二蔣侯一詩〕飲酒谿雨過、彈棊山月低。

【山俠】321 サンケフ　山中のをとこだて。〔吳志、諸葛恪傳〕恪以二建興元年十月一會二衆於東興一、更作二大堤一、左右結二山俠一、築二兩城一、各留二千人一守レ之。

【山峽】322 サンケフ サンカフ　❶谷あひ。はざま。谿澗。〔淮南子、原道訓〕逍二遙于廣澤之中一、而仿二洋于山峽之旁一。〔注〕兩山之閒爲レ峽。〔葉夢得、仙都觀記〕迂折行二山峽中一。❷琴曲の名。〔龍女傳、洛神傳〕每三彈至二悲風及山峽流泉一、未三嘗不二盡レ夕而止適一。

【山脅】323 サンケフ　山の脇。はざま。山峽。山岬。〔應劭、漢官馬第伯封禪儀記〕其道旁二山脅一、大者廣八九尺、狹者五六尺。〔陸游、梅市暮歸二三山一詩〕白雲橫二谷口一、綠篠穿二山脅一。

【山脇】324 サンケフ　山脅に同じ。

〖山脇道圓〗325 ヤマワキダウヱン　名は重顯。字は士晦。通稱は道圓。生地・歿年は未詳。著に易經蒙引校刊・教のひとり・懷風藻校刊・軍林一得抄・殘義兵的・詩經蒙引校刊・詩法指南校刊・增補下學集・八陣圖法がある。〔近代著述目錄後篇〕。

〖山脇東洋〗326 ヤマワキトウヤウ　京都の人。本姓は淸水。淸水東軒の子。禁裡付醫、山脇玄修の嗣となる。名は尙德。字は玄飛・子樹。通稱は道作。號は東洋。渡邊荍谷・山脇玄修を師とす。法眼に敍し、養壽院と稱し、古醫法を主張す。經學は初、宋學を奉じ、後、漢唐の傳疏を攻究す。寶曆十二年八月八日歿す、年五十八。著に濟世餘言・臟志・東洋文集・方凾・養壽院醫則がある。〔先哲叢談、後、五〕・〔近代名家著述目錄〕。

【山陜】327 サンケフ サンカフ　山あひ。山のはざま。山陿。〔金史、趙益傳〕趙益太原人、讀レ書肄レ業、大元兵入レ境、益鳩二合土豪一、保二聚山陜一、屢戰有レ功。

【山莢】328 サンケフ　山中の豆ざや。〔陸龜蒙、和二題達上人藥圃一詩〕山莢便和幽澗石、水芝須レ帶本池泥。

【山陿】329 サンケフ サンカフ　山陜(327)に同じ。〔楚辭、劉向、九歎、思古〕聊浮二游於山陿一兮。〔注〕陿、山側也。〔補注〕與レ峽同。

【山嶫】330 サンゲフ　高い山のやうに威嚴のある形容。〔蘇頲、封二東嶽一朝覲頌〕士馬山嶫、戈矛山沓、禎符山雜、靈響山荅。

【山犬】331 サンケン　山中のいぬ。やまいぬ。〔王建、山店詩〕風動二葉聲一山犬吠、一家松火隔二秋雲一。〔施肩吾、山中喜二靜和子見レ訪詩〕小奴驚出垂藤下、山犬今朝吠二一人一。

【山妍】332 サンケン　山が美しい。〔盧琦、題二陳允中山居卷一詩〕山妍雨初暗、洞窈雲常瞑。

【山筧】333 サンケン　山中のかけひ。〔顧璘、遣レ懷詩〕廚泉山筧細、江稻水車高。

【山嶮】334 サンケン　山のけはしい所。山險。〔水經、河水注〕山嶮有二大頭痛・小頭痛之山一、赤土身熱之阪、人畜同然。

【山縣】335 サンケン　❶山中の縣。〔宋書、劉敬宣傳〕宣城多二山縣一、郡舊立レ屯、以供二府郡費用一。〔杜甫、倚杖詩〕山縣早休レ市、江橋春聚レ船。〔李頎、送二郝判官一詩〕楓林帶二水驛一、夜火明二山縣一。〔蕭穎士、陪二元魯山德秀一重陽日登二北城一云云詩〕山縣遶二古堞一。❷山を祀ること。山を祭るとき几上に置く黃玉・璧が遠くから見ると縣（懸けて鳴らす樂器）のやうであるからいふ。庪縣（**4**－**9329**・・1）を見よ。〔公羊、僖、三十一〕山川有下能潤二于百里一者上天子秩而祭レ之、注〕天燎地瘞、日月星辰布、山縣水沈、風磔雨升。〔疏〕云二山縣一者、爾雅云、祭レ山曰二庪縣一、郭氏云、或庪或縣、置二之於山一、李氏曰、祭レ山以二黃玉及璧一、以レ庪置二几上一、遙遙而眂レ之若レ縣、故曰二庪縣一、孫氏曰、庪縣、埋二於山足一曰レ庪、埋二於山上一曰レ縣、是也。

〖山縣周南〗336 ヤマガタシウナン　周防國の人。名は孝孺。字は次公。通稱は少助。號は周南。荻生徂徠の說を奉じ、古文辭學を修む。最も文章に巧。官は萩藩儒。寶曆二年八月十二日歿す、年六十六。從四位を贈らる。著に爲學初問・講學日記・公室譜牒・作文初問・周南詩文集・霸城新著・養子說がある。〔先哲叢談、正、七〕・〔近代名家著述目錄〕。

〖山縣太華〗337 ヤマガタタイクワ　長門國の人。名は禎。字は文祥。通稱は半七。號は太華。天保年間の人。官は萩藩儒。著に芸窓筆記・國史纂論・三禮備考・臣行解・中庸文脉・民政要論がある。〔近代著述目錄後篇〕。

〖山縣柳莊〗338 ヤマガタリウサウ　甲斐國の人。名は昌貞。字は士明・公勝。通稱は大貳。號は柳莊・洞齋。加加美櫻塢・五味釜川を師とし、程朱を宗とす。岩槻藩主大岡忠光に仕へたが、幾くもなくして去り、江戶に帷を垂れて國典を講じ、兵法を論じ、大いに士氣の振作に力め、尊王の大義を唱ふ。明和四年八月二十一日斬に處せらる、時に年四十三。正四位を贈らる。著に醫事撥亂・院政紀略・大岡行狀記・牙籌譜・救荒私議・琴學發揮・車服考・主圖合結記・戎裝考・戎服考・省私錄・奏議私稿・素難評・孫子講義・天經地義發蒙・洞齋遺書・發音略・富國私議・復古琴譜・兵叢・藥方奇書・柳子新論がある。〔山縣大貳傳〕・〔近代著述目錄後篇〕・〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕。

【山險】339 サンケン　山のけはしいところ。山嶮。〔史記、匈奴傳〕始皇帝使下蒙恬將二十萬之衆一、北擊上胡、悉收二河南地一、因レ河爲レ塞、築二四十四縣城一臨レ河、徙二適戍一以充レ之、而通二直道一、自二九原一至二雲陽一、因二邊山險一、塹二谿谷一、可レ繕者治レ之、起二臨洮一至二遼東一萬餘里。〔魏志、司馬朗傳〕關東兵起、故冀州刺史李邵家二居野王一、近二山險一、欲二徙居一レ溫。〔吳志、張溫傳〕宿惡之民、放二逸山險一、則爲二動寇一、將レ置二平土一、則爲二健兵一。

【山繭】340 ヤママユ　❶鱗翅目天蠶蛾科の昆蟲。又、その作つた繭。山蠶。野蠶。〔和漢三才圖會、蟲部、卵生類、繭〕山繭、乃山中蠶自所レ作繭也、取レ之爲レ絲、織者甚強、但染而不レ染也。❷山繭の絲と絹絲とで織つた布。黃絲絹。〔師兼卿千首、戀〕賤の女が引く山まゆのいとせめて。

〖山繭蛾〗341 ヤママユガ　翅は深黃色で褐色の橫線があり、各〻一箇づつの透明な斑紋がある。幼蟲は山繭。山繭蝶。

【山言】342 サンゲン　淸、宋至（**3**－**7078**・・110）の字。

【山彥】343 ヤマビコ　❶山の神。やまづみ。〔曾丹集〕神な月しぐるるたびの山びこに紅葉を風の手向けくるかな。❷聲が山にあたつて起る反響。こだま。〔萬葉集〕筑波嶺にわが行けりせば時鳥山彥とよめ鳴かましやそれ。

【山原】344 サンゲン　山と平原。又、山麓の平原。〔後漢書、龐參傳〕三輔山原曠遠、民庶稀疏。〔水經、灅水注〕池在二山原之上一、謂二之天池一。〔宋書、文帝路淑媛傳〕塋隧之所、山原卑陋、頃年頹壞、日有二滋甚一。〔嵆喜、答二弟叔夜一詩〕都邑可二優游一、何必棲二山原一。〔王勃、滕王閣序〕山原曠其盈レ視、川澤盱其駭レ矚。

〖山原胡麻〗345 ヤンバルゴマ　木の名。なつめやし。あをぎり科の灌木で、暖地の山野に自生する。

【山源】346 サンゲン　❶山と水源。山の奧深いところ。〔漢武帝內傳〕諸仙玉女、聚二居滄冥一、其名難レ測、其實分明、乃因二山源之規矩一、覩二河嶽之盤曲一。〔南齊書、裴叔業傳〕率二文武萬人一、先啓二岷漢一、分二遣郡戍一、皆配二精力一、搜二盪山源一、糾二虔姦蠹一。〔賀知章、望二人家桃李花一詩〕山源夜雨渡二仙家一、朝發二東園一桃李花。〔孟郊、寒溪詩〕始知泥步泉、莫下與二山源一鄰上。❷人中（ニンチユウ）をいふ。上唇の中央の凹痕。〔太平淸話、上〕紫微夫人詒、仰和二天眞一、俯按二山源一、天眞、是兩眉之角、山源、是鼻下人中也。

【山戶】347 サンコ　❶山中の家。山家。〔謝脁、擬宋玉風賦〕煙霞潤レ色、荃荑結レ芳、出二磵幽一而泉冽、入二山戶一而松涼。❷shan^{1} hu^{4}　茶を栽培する人。

【山呼】348 サンコ　❶臣民が萬歲と呼んで天子を祝すること。漢の武帝が華山から中嶽（嵩山）に至つて親しく山を祭るや、臣民一同、萬歲を呼んだことから出た語。三呼。〔漢書、武帝紀〕親登二嵩高一、御史乘屬在二廟旁一、吏卒咸聞下呼二萬歲一者三上。〔張說、大唐封禪頌〕五色雲起、拂レ馬以隨レ人、萬歲山呼、從レ天而至レ地。〔事物紀原、朝廷注措部、山呼〕後人以レ呼二萬歲一爲二山呼一者、其事蓋起二於漢武時一、按、前漢武帝本紀曰、元封元年正月登二嵩高一、御史乘屬在二廟傍一、吏卒咸聞下呼二萬歲一者三上、迄レ今三呼以爲レ式、而號二山呼一也、又太始三年二月、禮二日成山一、登二之罘山一、稱二萬歲一。〔書言故事、朝制類〕臣民呼二萬歲一曰二山呼一。〔元史、禮樂志一〕元正受二朝儀一、三叩頭、曰二山呼一、曰二山呼一、曰二再山呼一、凡傳二山呼一、控鶴呼噪、應和曰二萬

歲一、傳二再山呼一、應曰二萬萬歲一。〔注〕凡傳二山呼一、控鶴呼譟、應和曰二萬歲一、傳二再山呼一、應曰二萬萬歲一。❷鳥の名。山胡(355)を見よ。

〖山呼舞踏〗349 サンコブタウ 萬歲を呼びつつ起き伏して禮をする。〔宣和遺事、前集下〕天子問二天覺一、卿不レ宣而至、有二何事一奏來、張天覺山呼舞踏了。

【山固】350 サンコ 山のやうに堅い。〔劉禹錫、和三浙西李大夫晩下二北固山一云云詩〕江長天作レ限、山固壤無レ朽。〔白居易、玉晨觀歎道文〕聖壽山固、皇恩海深。

【山姑】351 サンコ 山中の怪物。狒狒の類。雄を山丈、雌を山姑といふ。〔本草、狒狒〕附錄、山𤢖、海錄襍事云、嶺南有レ物、一足反踵、手足皆三指、雄曰二山丈一、雌曰二山姑一、能夜叩二人門一求レ物也。

【山孤】352 サンコ 山が淋しく一つあること。〔李紳、泛二五湖一詩〕浪疊雪峯連、山孤翠崖斷。〔王昌齡、芙蓉樓送二辛漸一詩〕寒雨連レ江夜入レ吳、平明送レ客楚山孤。

【山虎】353 サンコ 山中の虎。〔高適、同二馬太守一聽三九思法師講二金剛經一詩〕鳴レ鐘山虎伏、說レ法天龍會。〔杜荀鶴、舟行晩泊二江上寺一詩〕日沈山虎出、鐘動寺禽歸。〔錄異記〕資州陰元之父歿、廬墓六時臨哭、常有二溪龍山虎一、助二其號聲一。

【山枯】354 サンコ 山中の草木が枯れる。〔道德指歸論、善爲道者篇〕陰陽失レ序、萬物盡傷、山枯谷竭、赤地數千。〔貫休、懷二洛下盧緇雲一詩〕木落多二詩稾一、山枯見二墨烟一。

【山胡】355 サンコ 鳥の名。山呼。〔山堂肆考〕山胡、一名山呼、一名珊瑚、出二嶺南一、巧聲之鳥。

〖山胡椒〗356 サンコセウ 胡椒の一種。やまかうばし。〔本草、畢澄茄〕附錄、山胡椒、恭曰、所在有レ之、似二胡椒一色黑、顆粒大如二黑豆一、味辛、大熱無レ毒、主二心腹冷痛一、破二滯氣一、俗用有レ效。

〖山胡桃〗357 サンコタウ 胡桃クルミの一種。おにぐるみ。たうぐるみ。山核桃。〔本草、胡桃〕集解、時珍曰、案、劉恂嶺表錄云、南方有二山胡桃一、底平如二檳榔一、皮厚而大堅、多レ肉少レ穰、其壳甚厚、須二椎レ之方破一、然則南方亦有、但不レ佳耳。

【山湖】358 サンコ 山と湖。又、山や湖の產物。〔宋書、武帝紀中〕先レ是、山湖川澤、皆爲二豪強所一レ專、小民薪採漁釣皆責二稅直一、至レ是禁二斷之一。〔宋書、羊希傳〕山湖之禁、雖レ有二舊科一、民俗相因、替而不レ奉。

【山鼓】359 サンコ 山中で鳴らすつづみ。〔水經、漸江水注〕山上有レ石、特起十丈、上峯若二劍杪一、時有二靈鼓一潛發、正長臨レ縣、以二山鼓一爲レ候、一鳴官長一年、若長雷發レ聲、則官長不レ吉。

【山鴣】360 サンコ 鷓鴣(**12**－**47251**‥1)の異名。〔事物異名錄、禽鳥、鷓鴣〕羅浮志、遇レ暖則相對而啼、謂二之山鴣一。

【山顧】361 サンコ 顧みるやうな形をしてゐる山の有樣。〔明一統志〕尋甸軍民府、形勝、山顧水縈。

【山後】362 サンゴ 山のうしろ。山背。〔王維、新晴晩望詩〕白水明二田外一、碧峯出二山後一。〔盧綸、山中詩〕飢食二松花一渴飮レ泉、偶從二山後一到二山前一。

【山鼯】363 サンゴ 山中のむささび。〔李咸用、修陸上人山居詩〕秋深櫟菌樵來得、木末山鼯夢斷聞。

【山口】364 サンコウ ❶山と山との閒。やまぐち。谷あひ。〔常建、張山人彈琴詩〕朝從二山口一還、出レ嶺聞二清音一。〔岑參、初過二隴山一途中呈二宇文判官一詩〕山口月欲レ出、光照關城樓。〔盧綸、過二終南柳處士一詩〕悠哉宿二山口一、雷雨夜沈沈。❷地名。㋑湖南省東安縣の東北。㋺湖北省通山縣の西北。山口鋪水の東岸、咸寧縣への通路。❸鎭の名。㋑山東省泰安縣の東北。天津河の西岸。㋺安徽省の皖口鎭(**8**－**22736**‥2)をいふ。㋩江西省修水縣の南。武寧鄉水の東濱。宜豐縣及び湖南省劉陽縣に通ず。清代、巡檢を駐す。❹shan¹ k'ou³ ㋑琵琶・三絃などの樂器の絃をかける處。㋺峠。

〖山口剛齋〗365 ヤマグチガウサイ 大阪の人。名は純實・景德。字は正懋。通稱は剛三郎。號は剛齋・剛翁。飯岡澹寧を師として程朱學を修め、最も闇齋の說を喜ぶ。又、兵法に精通す。官は石見津和野藩儒。初、大阪に塾を開いて教授す。著に甲寅後抄・周易鼓岳・詩三說合錄・答某侯書・兵錄・皦譜がある。〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕・〔大阪名家著述目錄〕。

〖山口菅山〗366 ヤマグチクワンザン 若狹國の人。名は重昭。通稱は定一郎。號は菅山。若林強齋の學統に屬す。安政元年歿す、年八十三。著に王學駁議がある。

〖山口西園〗367 ヤマグチセイエン 伊豫國の人。名は直淳。號は西園。廣島藩老上田氏に仕へ、公務の暇、敬業堂を開いて生徒に教授す。嘉永五年歿す。著に詩文集・祖君遺事・諾錄・日本古文眞寶がある。

【山公】368 サンコウ ❶猿をいふ。〔唐詩紀事、李約〕約雅度簡遠、有二山林之致一、在二潤州一得二古鐵一片一、云云、養二一猨一名二山公一、月夜泛レ江、登二金山一鼓レ琴、猨必嘯和。❷晉の山濤(725)をいふ。〔顏延之、五君詠、阮始平詩〕郭奕已心醉、山公非二虛覯一。〔注〕善曰、山濤啓事曰、咸若在二官之職一、必妙二絕於時一。❸晉の山簡(172)をいふ。〔晉書、山簡傳〕諸習氏荊土豪族、有二佳園池一、簡每二出遊一嬉、多之二池上一、置酒輒醉、名レ之曰二高陽池一、時有二童兒一歌曰、山公出二何許一、往至二高陽池一、日夕倒載歸、酩酊無レ所レ知、時時能騎レ馬、倒著二白接䍦一、擧レ鞭向二葛彊一、何二如并州兒一。〔孟浩然、裴司士員外見レ尋詩〕誰道山公醉、猶能騎レ馬回。〔李白、襄陽曲〕山公醉レ酒時、酩酊襄陽下。❹山魈の雄をいふ。〔事物異名錄、神鬼、山魈〕廣義記、山魈、嶺南所在有レ之、雄者謂二之山公一、雌者謂二之山姑一。❺字號。㋑明、陽鎭(**11**－**41725**‥196)の字。㋺清、鄭重(**11**－**39647**‥222)の字。㋩清、馮景(**12**－**44579**‥59)の字。

〖山公啓事〗369 サンコウケイジ 晉の山濤が吏部尙書となり、人物をえらんで各題目を設け、奏上に備へた名簿。〔晉書、山濤傳〕濤再居二選職一、十有餘年、每二一官缺一、輒啓擬二數人一、詔旨有レ所レ白、然後顯奏、隨二帝意所一レ欲爲レ先、故帝之所レ用、或非二擧首一、衆情不レ察、以二濤輕重任一レ意、或譖二之於帝一、故帝手詔戒レ濤曰、夫用レ人惟才、不レ遺二疏遠卑賤一、天下便化矣、而濤行レ之自若、一年之後、衆情乃寢、濤所二奏甄拔一人物、各爲二題目一、時稱二山公啓事一。〔李商隱、贈二宇文中丞一詩〕人閒只有二嵇延祖一、最望山公啓事來。

【山洪】370 shan¹ hung² 山つなみ。不意に起つた山中の大水をいふ。

【山紅】371 サンコウ 山色のくれなゐなこと。〔唐則天后、從レ駕幸二少林寺一詩〕昔遇レ焚レ芝火、山紅連レ野飛。〔儲光羲、登二秦嶺一作時陷レ賊歸レ國詩〕林木被二繁霜一、合沓連二山紅一。〔吳師道、北山遊記〕既晴風日清美、野卉發レ香、山紅澗碧、春物爛然。

【山貢】372 サンコウ 山中からのみつぎ。山の產物。〔馬祖常、寄二隱士一詩〕葛花藤蔓供二山貢一、菰米蓮房給二水珍一。

【山寇】373 サンコウ 山中の賊。〔魏文帝、典論自序〕黃巾盛二于海嶽一、山寇暴二於并冀一。〔陳陶、贈二容南韋中丞一詩〕風雲已靜西山寇、閭井全移上國春。

【山溝】374 サンコウ 溪。山閒の谷川。〔管子、度地〕山之溝、一有レ水、一毋レ水者、命曰二谷水一。

【山谷】375 サンコク ❶山と谷。山壑。山溪。又、山中の谷。谷。〔呂覽、謹聽〕當今之世、求三有道之士一、則於二四海之內、山谷之中、僻遠幽閒之所一、若レ此則幸二於得一レ之矣。〔史記、韓王信傳〕今僕亡二匿山谷閒一、旦暮乞二貸蠻夷一、僕之思レ歸、如三痿人不レ忘レ起、盲者不レ忘レ視也、勢不可耳。〔漢書、劉向傳〕天變見二於上一、地變動二於下一、水泉沸騰、山谷易レ處。〔揚雄、羽獵賦〕山谷爲レ之風猋。〔陳琳、遊覽詩〕肅肅山谷風、默默天路陰。〔隋煬帝、秦孝王誄〕霜霰落兮山谷寒、木葉下兮丘壟殘。〔杜甫、南池詩〕崢嶸巴閬閒、所レ向盡山谷。❷字號。㋑宋、黃庭堅(**12**－**47926**‥1260)の號。㋺清、吳玉墀(**2**－**3365**‥504)の號。❸寺の名。安徽省潛山縣西北の三祖山の上。〔太平寰宇記〕梁大同二年建、以二山谷一爲レ名。〔潛山縣志〕山谷寺有二大石一、如二牛眠一、石上有二二蹄迹一、宋黃庭堅、讀二書於此一、時李公麟畫二庭堅坐二石牛上一、庭堅因自號二山谷道人一、題二詩其上一、所謂青牛駕二我山谷路一、是也。❹ヤマカヒ 三河國の地名。❺エヤツ 姓氏。〔姓林全書〕。

〖山谷詞〗376 サンコクシ 書名。一卷。宋、黃庭堅撰。〔四庫提要、集、詩文評類〕。

〖山谷集〗377 サンコクシフ 書名。七十卷。宋、黃庭堅の集。内集三十卷、外集十四卷、別集二十卷、詞一卷、簡尺二卷、年譜三卷。内集は建炎二年、庭堅の甥、洪炎が、庭堅の手定に本づいて編したもの。其の内容は、賦・楚詞（共一卷）・古詩（七卷）・律詩（三卷）・六言詩（一卷）・銘（一卷）・贊（一卷）・頌（一卷）・序

一卷・記二卷・書一卷・表・奏・狀・雜著共一卷・文一卷・墓誌銘二卷・碑銘・碣共一卷・題跋六卷あり、卷首に刻序、卷末に洪炎の序がある。外集は李彤の編。其の年は未詳であるが、內集の後、別集の前に編した事は明かである。其の內容は、卷一は賦・古詩、卷二—五は古詩、卷六・七は律詩、卷八は哀詞・墓誌銘、卷九は雜文、卷十は書・雜文、卷十一は楚詞・古詩、卷十二は古詩、卷十三・十四は律詩である。別集は淳熙九年、庭堅の孫、䈂の編。其の內容は、古詩・律詩・六言・挽詩共一卷・銘・贊・頌共一卷・序一卷・記律賦・箋注共一卷・書・表・奏・狀・啓・婚書共一卷・雜著一卷・疏・祭文共一卷・行狀一卷・墓誌銘・墓表共一卷・題跋三卷・書簡八卷。卷末に黃䈂の跋がある。詞は庭堅の自撰、首に目錄あり、別に體を分けない。簡尺は撰者未詳。首に目無く、尺牘のみを集む。年譜は黃䈂の編、首に䈂の序、末に周季鳳の山谷先生別傳、查仲道の跋がある。庭堅の詩は唐の杜甫に胚胎して拗峭豪險、能く自運の神を發揮し、終に江西派の一體を開き、蘇軾と名を齊しくし、實に宋代名家の魁である。山谷集が我が國に傳來した時代は詳かではないが、足利時代の中葉から、五山僧徒の間に蘇東坡の集に次いで行はれた。〔四庫提要、集部、別集類〕。

〖參考書〗【山谷內集注】二十卷宋、任淵撰。〔四庫提要、集、別集類〕。【山谷外集注】十七卷宋、史容撰。〔四庫提要、集、別集類〕。【山谷別集注】二卷宋、史季溫撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

〖山谷臣〗378 サンコクノシン 山谷に住む臣。〔南史、顧歡傳〕齊高帝輔レ政、徵爲二揚州主簿一、及二踐阼一、乃至レ稱二山谷臣一顧歡上表、進二政綱一卷一云云、優詔並稱二美之一。

〖山谷體〗379 サンコクタイ 詩體の名。宋の黃庭堅一派の詩體。〔滄浪詩話、詩體〕山谷體。

〖山谷草履〗380 サンヤザウリ 藺草で作つた草履。正德年間に流行したもの。〔我衣〕さんやざうりと名づけ、吉原通ひの若男の履物なり。

〖山谷之嶮〗381 サンコクノケン 山や谷のけはしい所。〔列子、湯問〕然後輿輪之外、可レ使レ无二餘轍一、馬蹄之外、可レ使レ无二餘地一、未三嘗覺二山谷之嶮一、原濕之夷一、視レ之一也、吾術窮矣、汝其識レ之。

〖山谷之士〗382 サンコクノシ 世を遁れて山中にすむ人。山林之士。〔莊子、刻意〕此山谷之士、非レ世之人、枯槁赴レ淵者之所レ好也。

〖山谷道人〗383 サンコクダウジン 宋、黃庭堅の號。安徽省潛山縣の山谷寺に取つて名づく。山谷老人。〔宋史、黃庭堅傳〕黃庭堅、字魯直、洪州分寧人、云云、初游二灊皖山谷寺石牛洞一、樂二其林泉之勝一、因自號二山谷道人一云。

〖山谷老人〗384 サンコクラウジン 山谷道人に同じ。〔傳燈錄〕舒州皖公山三祖璨大師道場、卽山谷寺、有二石牛洞一、其石狀レ牛、因以爲レ名、錢紳同安志云、初李伯時畫三魯直坐二於石牛上一、魯直因自號二山谷老人一。

【山國】385 サンコク ㊀山の多い國。やまぐに。〔周禮、秋官、小行人〕達二天下之六節一、山國用二虎節一、土國用二人節一。㊁漢代、西域の國名。〔漢書、西域傳〕山國王去二長安一七千一百七十里。

〖山國軌〗386 サンコクキ 管子の篇名。田地・山・木など、國中あらゆるものの調査統計に本づいて國富を增進することを論ず。一說に、山の字は衍字で、或は官の字の誤とする。

【山黑】387 サンコク 山が黑く暗い。〔杜甫、夜歸詩〕夜來歸來衝二虎過一、山黑家中已眠臥。〔薩都剌、宿二臺山寺絕頂一詩〕江白潮已來、山黑月未レ出。

〖山黑豆〗388 サンコクトウ 豆の一種。のささげ。きつねささげ。からすまめ。〔農政全書、山黑豆考〕生二密縣山野中一、苗似二家黑豆一、每三葉攢二生一處一、居レ中大葉如二菉豆葉一、傍兩葉似二黑豆葉一微圓、開二小粉紅花一結レ角、比二家黑豆一角極瘦小、其豆亦極細小、味微苦。

【山骨】389 サンコツ ㊀山の骨骼をなす石。又、山の土砂が無くなつて巖石のあらはれたもの。〔劉師服・侯喜・軒轅彌明、石鼎聯句〕巧匠斲二山骨一、刳レ中事二煎烹一。〔貫休、秋末入二匡山一船行詩〕雨淙山骨出、槔獨岸形卑。〔蘇軾、栖賢三峽橋詩〕清寒入二山骨一、草木盡堅瘦。〔元好問、十一月五日暫往二西張一詩〕林煙漠漠鴉邊暗、山骨稜稜雪外青。㊁山の眞髓。〔圖會寶鑑、三、宋〕范寬卜二居終南太華一、偏觀二奇勝一、落筆雄偉老硬、眞得二山骨一、而與二關李一並馳方駕也。

【山昏】390 サンコン 山のたそがれ。山夕。〔孔德紹、行經二太華一詩〕山昏五里霧、日落二華陰。〔杜甫、遣レ懷詩〕水淨樓陰直、山昏塞日斜。〔許渾、送二前緱氏韋明府南游一詩〕山昏函谷雨、木落洞庭波。

【山根】391 サンコン ㊀ふもと。山足。山脚。山麓。〔易林、賁之第二十二、明夷〕作二室山根一、人以爲レ安。〔庾信、明月山銘〕風生二石洞一、雲出二山根一。〔岑參、題二金城臨河驛樓一詩〕山根盤二驛道一、河水浸二城牆一。〔杜甫、法鏡寺詩〕回回山根水、冉冉松上雨。㊁相術家の語。鼻ばしらの上部をいふ。印堂の下、年壽の上。流年運氣（**6**—**17431**・・307）を見よ。

〖山根華陽〗392 ヤマネクワヤウ 周防國の人。名は淸。字は子濯。號は華陽。山田圖南・山縣周南を師とす。官は萩藩書記。又、生徒を集めて教授す。明和八年十二月二十八日歿す、年七十八。著に華陽文集・華陽文集附錄（男、濟洲編）がある。〔國書解題〕。

【山髡】393 サンコン 山に木の無いこと。山禿。〔袁宏道、石橋巖詩〕石老易レ生レ雲、山髡不レ藏レ虎。

【山左】394 サンサ ㊀山の左側。〔水經、江水注〕古翼際山也、山上有二吳江夏太守陸渙所レ治城一、云云、山左卽沔水口矣。〔韓愈、柳州羅池廟碑〕福レ我兮壽レ我、驅二厲鬼一兮山之左。㊁山東省をいふ。太行山の東にあるからいふ。〔淸國行政法汎論、行政區劃及地方官廳、直省古名〕山東、山左、山西、〔山右或晉。

【山査】395 サンサ 山樝に同じ。

〖山査糕〗396 shan¹ ch'a¹ kao¹ 菓子の名。山樝の果實で造つた羊羹。

〖山査子〗397 サンザシ 山樝に同じ。

【山楂】398 サンサ 山樝に同じ。

【山樝】399 サンサ 果樹の名。さんざし。果實は食用となる。山查。山楂。山樝子。〔本草、山樝〕釋名、時珍曰、山樝味似二樝子一、故亦名レ樝、世俗皆作二查字一、誤矣、查音槎、乃水中浮木、與レ樝何關、郭璞注二爾雅一云、朹音求、樹如レ梅、其子大如二指頭一、赤色、似二小柰一、可レ食、此卽山樝也、世俗作二梂字一、亦誤矣、梂乃櫟實、於レ朹何關、樝朹之名、見二於爾雅一、自二晉宋一以來、不レ知二其原一、但用二查梂一耳、此物生二于山原茅林中一、猴鼠喜食レ之、故又有二諸名一也、又名二鼻涕團一。

〖山樝子〗400 サンザシ 山樝に同じ。〔和漢三才圖會、山果類、山樝子〕本綱山樝子生二山中一、而味似二樝子一、故名レ之、世俗作二山查一者誤矣。

【山鮓】401 サンサ 山中の鮓。鮓は鹽や糟につけた魚、おしずし。〔顧璘、遣レ懷詩〕野鮮蒼兕猛、山鮓鷓鴣香。

【山才】402 サンサイ 後魏、楊遁（**6**—**15112**・・304）の字。

【山妻】403 サンサイ 山家育ちの妻。己の妻をいふ謙稱。荊妻。〔李白、贈二范金卿一詩〕祇應二自索漠一、留レ舌示二山妻一。〔杜甫、孟倉曹步趾領二新酒醬二物一、滿レ器見レ遺二老夫一詩〕理生那免レ俗、方法報二山妻一。〔高適、宋中遇二林慮楊十七山人一詩〕耕耘有二山田一、紡績有二山妻一。〔鄭谷、贈二咸陽王主簿一詩〕自與二山妻一舂二斗粟一、祇憑二鄰叟一典二孤琴一。〔鶴林玉露、人、山靜日長〕步二山逕一撫二松竹一、與二麛犢一共偃二息於長林豐草間一、坐弄二流泉一、漱レ齒濯レ足、既歸二竹窗下一、則山妻稚子、作二筍蕨一、供二麥飯一、欣然一飽。

〖山妻野娘〗404 shan¹ ch'i¹ yeh³ niang² 田舍の「女。

【山砦】405 サンサイ 山上のとりで。山寨。山塞。〔宋史、岳飛傳〕張浚曰、飛措畫甚大、令已至二伊洛一、則太行一帶山砦、必有二應者一。〔元史、世祖紀六〕略二地涪州一、克二山寨谿洞一、凡二十有三所。

【山採】406 サンサイ 山に草木をとる。〔史記、循吏傳〕秋冬則勸レ民山採、春夏以レ水各得二其所一レ便、民皆樂二其生一。

【山犀】407 サンサイ ㊀犀の一種。山林に居るもの。〔本草、犀〕集解、時珍曰、犀出二西番・南番・滇南・交州諸處一、有二山犀・水犀・兕犀三種一、山犀居二山林一、人多得レ之、水犀出二入水中一、最爲レ難レ得、並有二二角一、鼻角長而額角短、水犀皮有二珠甲一、而山犀無レ之、兕犀卽犀之牸者、亦曰二沙犀一、止有二一角在一レ頂。㊁犀角の紋中にある眼。〔格古要論、珍寶論、犀角〕犀角出二南蕃・西蕃一、雲南亦有、云云、其紋如二魚子一相似、謂二之粟紋一、每粟紋中有レ眼、謂二之粟眼一、此謂二之山犀一。

【山菜】408 サンサイ ㊀草の名。㋑薇（**9**—**32092**）の異名。のゑんどう。〔詩、召南、草蟲、言采二其薇一、疏〕陸

機云、山菜也、莖葉皆似㆓小豆㆒、蔓生、其味亦如㆓小豆藿㆒、可㆑作㆑羹、亦可㆓生食㆒。㋺茈胡(9－30840‥7)の異名。のぜり。さいこ。嫩葉は食用となる。〔本草、茈胡〕釋名、時珍曰、茈胡生㆓山中㆒、嫩則可㆑茹、老則采而爲㆑柴、故苗有㆓芸蒿・山菜・茹草之名㆒、而根名㆓柴胡㆒也。㊁山中の菜。〔貫休、桐江閒居詩〕村童頑似㆑鐵、山菜硬如㆑莎。〔王禹偁、謫居感事詩〕市井採㆓山菜㆒、房廊蓋㆓木皮㆒。

【山塞】409 サンサイ　山上のとりで。山砦。山寨。〔岑參、初過㆓隴山㆒途中呈㆓宇文判官㆒詩〕別家賴㆓歸夢㆒、山塞多㆓離憂㆒。

【山寨】410 サンサイ　㊀山砦(405)に同じ。〔國朝漢學師承記、黃宗義〕宗義走入㆓四明㆒、結㆓山寨㆒。㊁山賊のすみか。〔水滸傳、六十八回〕關勝見㆑說、叫㆘且回㆓山寨㆒與㆓哥哥㆒相見了、卻商㆗議此事㆖。

【山摧】411 サンサイ　山がくだける。〔神仙傳、太玄女〕指㆑山山摧、指㆑樹樹拆、更指㆑之、卽復如㆑故。〔李白、蜀道難〕地崩山摧壯士死、然後天梯石棧相鉤連。〔太平清話〕紹寧元年、石工采㆓石于馬鞍山㆒、山摧石壓焉。

【山際】412 サンサイ　やまぎは。山のきは。山のそば。〔水經、洛水注〕洛水之北、有㆓熊耳山㆒、云云、山際有㆑池。〔謝朓、和㆓何議曹郊游㆒詩〕江垂得㆓清賞㆒、山際果㆓幽尋㆒。〔儲光羲、臨㆓江亭㆒詩〕山際空爲㆑險、江流長自深。

【山齋】413 サンサイ　㊀山中の居室。山中の書齋。〔梁簡文帝、晩春詩〕風花落未㆑已、山齋開㆓夜扉㆒。〔南史、孫瑒傳〕帝於㆓山齋㆒設㆓講肆㆒、集㆓玄儒之士㆒。〔白居易、山居詩〕山齋方獨往、塵事莫㆓相仍㆒。㊁字號。㋑宋、易袚(5－13814‥149)の號。㋺明、鄭岳(11－39647‥51)の號。

〖山齋集〗414 サンサイシフ　書名。二十四卷。明、鄭岳撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【山材】415 サンザイ　㊀山中の材木。〔左氏、莊、二十二〕有㆓山之材㆒、而照㆑之以㆓天光㆒、於㆑是乎居㆓土上㆒。㊁石川凹の號。石川丈山(8－24024‥479)を見よ。

【山壯】416 サンサウ　山の壯大なこと。〔孟郊、過㆓分水嶺㆒詩〕山壯馬力短、路行㆓石齒中㆒。

【山桑】417 サンサウ　㊀桑の一種。やまぐは。實から生えたもの。〔爾雅、釋木〕檿桑、山桑。〔疏〕山桑、一名檿桑。〔本草、桑〕集解、時珍曰、桑有㆓數種㆒、云云、山桑、葉尖而長、以㆑子種者、不㆑若㆓壓㆑條而分者㆒。㊁縣名。㋑漢、置く。故城は安徽省蒙城縣の北。晉の殷浩が、姚襄に敗られた處。〔漢書、地理志上〕沛郡、縣三十七、山桑。〔明一統志〕山桑城、在㆓鳳陽府蒙城縣北三十七里㆒、漢縣屬㆓沛郡㆒、光武封㆓王常㆒爲㆓山桑侯㆒、卽此。㋺東晉、置く。故治は安徽省全椒縣の西北。

【山草】418 サンサウ　㊀山地に生える草。〔李益、和㆔丘員外題㆓湛長史舊居㆒詩〕運轉春華至、歲來山草綠。〔貫休、閒居擬㆓齊梁㆒詩〕夜雨山草滋、爽籟生㆓古木㆒。〔周朴、贈㆓念經僧㆒詩〕月皎海霞散、露濃山草垂。㊁在野の意。山野草莽の中に居ること。〔後漢書、李固傳〕固對曰、臣伏從㆓山草㆒、痛㆑心傷㆑臆、實以㆓漢興以來三百餘年、賢聖相繼十有八主㆒、豈無㆓阿乳之恩㆒、豈忘㆓爵賞之寵㆒。〔吳志、孫策傳、注〕江表傳曰、策時年少、雖㆑有㆓位號㆒、而士民皆呼爲㆓孫郎㆒、百姓聞㆓孫郎至㆒、皆失㆓魂魄㆒、長吏委㆓城郭㆒、竄㆓伏山草㆒。〔晉書、郭文傳〕文曰、山草之人、安能佐㆑世。

【山草薢】419 オニドコロ　草の名。ながどころ。やまのいも科の蔓性宿根草で、山野に生じ、夏、淡黄色の花を開く。

〖山草堂〗420 サンサウダウ　明、郝敬(11－39430‥10)の室名。

【山莊】421 サンサウ　山中の別莊。山墅。〔梁元帝、玄覽賦〕照㆓曜山莊㆒、岧嶤石梁。〔李百藥、安德山池宴集詩〕懷昔自㆓蘭室㆒、徐步返㆓山莊㆒。〔劉禹錫、送㆘周使君罷㆓渝州㆒歸㆗郢中別墅㆖詩〕野戍岸邊留㆓畫舸㆒、綠蘿陰下到㆓山莊㆒。〔宋史、趙師羼傳〕韓侂胄嘗飮㆓南園㆒、過㆓山莊㆒、顧㆓竹籬茅舍㆒、謂㆓師羼㆒曰、此眞田舍閒氣象也。

【山棗】422 サンサウ　㊀果樹の名。〔本草、山棗〕時珍曰、寰宇志云、出㆓廣西肇慶府㆒、葉似㆑梅、果似㆓荔枝㆒、九月熟、可㆑食。㊁酸棗(11－39871‥27)の異名。さねぶとなつめ。〔本草、酸棗〕釋名、樲、山棗。集解、別錄曰、酸棗生㆓河東川澤㆒、八月采㆑實、陰乾四十日成、弘景曰、今出㆓東山閒㆒云、卽山棗樹子、似㆓武昌棗㆒而味極酸、東人啗㆑之以醒㆑睡。㊂石楡子の異名。〔南越志〕初寧縣里有㆓石楡子㆒、一名山棗、又時呼爲㆓韶子㆒也。

【山葬】423 サンサウ　神道家で、山に葬ることをいふ。〔神道葬祭家禮〕。

【山蒼】424 サンサウ　山色が青い。〔范仲淹、桐盧郡嚴先生祠堂記〕雲山蒼蒼、江水泱泱。〔蘇軾、次㆘韻子由送㆛趙屼歸㆓觀錢塘㆒遂赴㆚永嘉㆙詩〕歸舟轉㆓河曲㆒、稍見㆓楚山蒼㆒。

【山牕】425 サンサウ　山家の窗。山窓。〔盧照鄰、羈㆓臥山中㆒詩〕澗戶無㆓人迹㆒、山牕聽㆓鳥聲㆒。〔王維、寄㆓崇梵僧㆒詩〕落花啼鳥紛紛亂、澗戶山牕寂寂閑。〔白居易、與㆓微之㆒書〕作㆓此書㆒夜、正在㆓草堂中山牕下㆒。

【山繅】426 サンサウ　山中の怪獸。山臊。〔國語、魯語下、木石之怪曰㆓夔蝄蜽㆒、注〕木石、謂㆑山也、或云、夔一足、越人謂㆓之山繅㆒、或作㆑𤢖、富陽有㆑之、人面猴身、能言。〔史記、孔子世家、木石之怪、夔罔閬、注〕集解曰、韋昭曰、木石、謂㆑山也、或云、夔一足、越人謂㆓之山繅㆒也、索隱曰、山繅、獨一足、是山神名、故謂㆓之夔㆒。

【山臊】427 サンサウ　山中の怪人。狒狒の類。山魈。臊、又、𤢖に作る。〔神異經、西荒經〕西方深山中、有㆑人焉、長尺餘、云云、名曰㆓山臊㆒、其音自叫、人嘗以㆑竹著㆓火中㆒、爆烞、而山臊皆驚憚。〔荆楚歲時記〕正月一日、于㆓庭前㆒爆竹、以辟㆓山臊惡鬼㆒。〔南康記〕山閒有㆓木客㆒、形骸皆人也、但鳥爪耳、巢㆓於高樹㆒、伐㆑樹必害㆑人、一曰㆓山臊㆒。

【山藻】428 サンサウ　柱頭のますがたに山を畫き、梁上の短柱に藻の圖をゑがくこと。古、天子宗廟の飾。轉じて、立派な住居。贅澤な建築。山節(644)を見よ。〔論語、公冶長〕臧文仲居㆑蔡、山㆑節藻㆑梲。〔集注〕節、柱頭斗栱也、藻、水草名、梲、梁上短柱也、蓋爲㆓藏㆑龜之室㆒、而刻㆓山於節㆒、畫㆓藻於梲㆒也。〔任昉、齊竟陵文宣王行狀〕山藻與㆓蓬茨㆒俱逸。〔注〕銑曰、山藻、華屋也。

【山象】429 サンザウ　㊀山中にすむ象。〔張蠙、送㆔人歸㆓南中㆒詩〕燒驚山象出、雷觸海鼇沈。㊁サンシャウ　山のかたち。山形。〔魏志、管輅傳、注〕臣松之案㆓相書㆒、謂㆓鼻之所㆑在爲㆓天中㆒、鼻有㆓山象㆒、故曰㆓天中之山㆒也。

【山藏】430 サンザウ　㊀山に藏せられるもの。山に産するもの。〔宋書、符瑞志下〕山車者、山藏之精也、不㆑藏㆓金玉㆒、山澤以㆑時通㆓山海之饒㆒、以給㆓天下㆒、則山成㆓其車㆒。㊁山中にをさめたくはへる。〔陸雲、盛德頌〕華宮山藏、玉堂海納。〔王維、和㆓尹諫議史館山池㆒詩〕洞有㆓仙人籙㆒、山藏㆓太史書㆒。〔孟浩然、登㆓梓亭樓㆒詩〕山藏伯禹穴、城壓伍胥濤。

【山柵】431 サンサク　㊀山賊の住居。〔李隲徐、襄州碑〕襄土疆闊遠、連㆓接江山㆒、每㆑至㆓秋時㆒、常多㆓寇盜㆒、張㆑旗結㆑黨、夜出晝藏、謂㆓之山柵㆒。㊁山中のとりで。山砦。〔高啓、遊㆓城西㆒得㆓艷字㆒詩〕軍旗表㆓山柵㆒、商鼓喚㆓津店㆒。

【山策】432 サンサク　山路に用ひる杖。〔皎然、送㆓孫侍御游㆑越詩〕江橈隨㆓月泛㆒、山策逐㆓雲行㆒。

【山雜】433 サンザツ　山のやうに多い形容。〔蘇頲、封㆓東嶽㆒朝覲頌〕士馬山嶫、戈矛山沓、禎符山雜、靈響山答。

【山參】434 サンサン　丹參(1－99‥122)の異名。にこたぐさ。〔本草、丹參〕釋名、赤參・山參・郄蟬草・木羊乳・逐馬・奔馬草。

【山産】435 サンサン　山中から産する。又、山中の産物。〔元史、地理志五〕鉛山州本建撫二州之地、山産㆓銅鉛㆒。

【山蒜】436 サンサン　蒜の一種。山野に生じ、葉は細長く、葱に似た臭氣を放つ。やまびる。〔爾雅、釋草〕蒚、山蒜。〔本草、山蒜〕集解、頌曰、江南一種山蒜、似㆓大蒜㆒而臭、藏器曰、澤蒜、根如㆓小蒜㆒、葉如㆑韭、又生㆓石閒㆒者名㆓石蒜㆒、與㆑蒜無㆑異、時珍曰、山蒜・澤蒜・石蒜、同一物也、但分㆓生于山澤石閒㆒不㆑同耳、人閒栽㆓蒔小蒜㆒、始自㆓三種㆒移成、故猶有㆓澤蒜之稱㆒、爾雅云、蒚山蒜也、今京口有㆓蒜山㆒、産㆑蒜、是也、處處有㆑之、不㆓獨江南㆒。

【山餐】437 サンサン　山中の食物。〔蘇軾、次㆓韻定慧欽長老見㆒㆑寄詩〕松花釀㆓仙酒㆒、木客餽㆓山餐㆒。

【山蠶】438 サンサン　山繭。野蠶。〔孫庭銓、山蠶說〕安邱石門樹、多生㆓槲樹林㆒、土人謂㆓之野蠶廠㆒、蠶月出㆑蟻、蠕蠕然、卽散㆓置槲樹上㆒、槲葉初生、不㆑異㆓桑葉㆒、聽㆓其眠食㆒、食盡、枝枝相換、葉葉相移、皆人力爲㆑之。

【山讚】439 サンサン　山に對する讚辭。〔元暢、與㆓傅琰㆒書〕以㆓去年四月㆒創㆑功覆㆑簣、輒疏㆓山讚㆒以露㆓

愚拖一。

【山塹】440 サンザン　山中のほり。〔陸游、懷レ昔詩〕鼉作二鯨呑一吁莫レ測、谷堙二山塹一浩難レ量。

【山竄】441 サンザン　㊀山中にのがれ隱れる。〔曹植、請三招二降江東一表〕淮南尙有二山竄之賊一、吳會猶有二潛江之虜一。㊁山がかくす。山に隱匿する。〔庾信、周大將軍司馬裔神道碑〕山竄二趙武一、家藏二李燮一。

【山子】442 サンシ　㊀馬の名。周の穆王八駿の一。〔列子、周穆王〕左驂二盜驪一、而右二山子一。〔穆天子傳、一〕天子之駿、赤驥・盜驪・白義・踰輪・山子・渠黃・華騮・綠耳。㊁晉の山簡をいふ。〔晉書、葵謨傳〕初克未レ仕時、河內山簡、嘗與二琅琊王衍書一曰、蔡子尼今之正人、衍以レ書示レ衆曰、山子以二一字一拔レ人、然未二易可一レ稱。㊂湖廣地方で、立春前一日に太守が屬僚を率ゐて城東に於て春を迎へ、家々で故事を行ふ行事をいふ。〔湖廣志書、衡州府〕立春先一日、太守率二僚屬一迎二春于城東太平寺一、各行戶裝二演故事一、曰二山子一。㊃猺民の一種。〔陸祚蕃、粵西偶記〕粵西猺人、服化最早、其種類不二啻十數一、有三一種號二山子一、不レ賦不レ役、砍レ山而食、食盡復徙。㊄築山。〔宋史、禮志十六〕詔二輔臣一觀二粟于後苑御山子一。㊅字號。㋑淸、吳育（2－3365・・8）の字。㋺淸、沈進（6－17189・・225）の字。

〘山子學〙443 サンシガク　片山兼山の學をいふ。山は片山の略。最も先秦の經子に力を傾け、漢以後の諸儒、及び我が國の仁齋・徂徠等の學者を卑陋・偏狹或は雜駁と稱して排擊した。彼の學說は折衷學に屬する。片山兼山（7－19813・・127）を見よ。

〘山子匠〙444 shan¹ tzŭ³ chiang⁴　庭園師。

〘山子點〙445 サンシテン　漢文訓讀上の符號の一種。片山兼山の讀方をいふ。

【山止】446 サンシ　淸の僧。康熙中、西湖の韜光菴に住す。著に韜光庵紀遊集がある。〔四庫提要、一百九十四〕。

【山氏】447 サンシ　城の名。河南省尉氏縣の南。水經渠水注の山民城。氏は民字の訛。山民（999）の㊁を見よ。〔水經、渠水注、役水自二陽丘亭一東流逕二山民城北一、紀昀校〕案、民、近刻訛作レ氏。

【山史】448 サンシ　淸、王宏撰（7－20823・・1351）の號。

【山市】449 サンシ　山中のまち。山中のいち。〔張籍、送三海客歸二舊島一詩〕竹船來二桂府一、山市賣二魚鬚一。〔許棠、憶二宛陵舊居一詩〕鳥徑通二山市一、汀扉上二海潮一。

【山死】450 サンシ　山中で死ぬ。〔國語、魯語上〕稷勤二百穀一而山死。〔注〕稷、周棄也、勤二播百穀一、死二於黑水之山一。

【山志】451 サンシ　山についての記錄。山記。〔皇甫冉、酬二包評事壁畫山水見レ寄詩〕若覽二名山志一、仍聞二招隱篇一。〔研北雜志〕劉孝標遊二東陽山一作二山志一、其文富有二妙語一。

【山阯】452 サンシ　山の麓。阯は又、址・趾に作る。〔易林、小畜之第九、咸〕原出二陵足一、行二於山阯一。〔博異記〕如レ是經行半日、至二山阯一、有二一國一、城皆是金銀珉玉爲二宮室一、城樓以二玉字一、題云二梯仙國一。〔劉禹錫、韓十八侍御見レ示下岳陽樓別二竇司直一詩上云云詩〕炎蒸動二泉源一、積潦搜二山趾一。

【山刺】453 サンシ　山中のいばら。〔耿湋、東郊別業詩〕護レ藥栽二山刺一、澆レ蔬引二竹泉一。

【山思】454 サンシ　山中のおもひ。〔李山甫、早秋山中作詩〕山思更淸人影絕、隴雲飛入二草堂中一。〔楊萬里、下二橫山灘頭一望二金華山一詩〕山思江情不レ負レ伊、兩姿晴態總成レ奇。

【山柿】455 サンシ　㊀山中の柿。〔陳樵、巴雨洞詩〕石稜近レ水依レ崖長、山柿著レ霜連レ葉紅。〔劉三吾、野莊賦〕岸蘭汀芷、馥二郁兩餘之日一、園黎山柿、紅二白霜後之天一。㊁ヤマガキ　木の名。ときわがき。かき科の常綠喬木。花は白色で點頭し、果實は壓扁球形をなす。㊂山部赤人と柿本人麿の倂稱。近時、山は山上憶良とする說もある。

【山師】456 サンシ　㊀周官の名。夏官の屬。山林を掌る。〔周禮、夏官、山師〕山師、掌二山林之名一、辨三其物與二其利害一、而頒二之于邦國一、使レ致二其珍異之物一。㊁ヤマ　㋑鑛物を掘り、又、山木などを賣買する人。㋺確かな目的なく、萬一を僥倖して事を行ふ人。投機者。〔浮世風呂、初編、上〕山師ちふ者あ、云云、早く聞付けるもんだあ。

【山祠】457 サンシ　山中のほこら。〔唐玄宗、喜雨賦〕山祠植レ珪而不レ答、田畯倚レ耒而怊悵。〔李益、春日晉祠詩〕風壞瞻二唐本一、山祠閱二晉餘一。

【山紙】458 サンシ　㊀山中で出來る紙。〔高啓、楞伽寺詩〕欲レ打二塔銘碑一、從レ僧乞二山紙一。㊁山の苔。〔王建、原上新居詩〕野羹溪菜滑、山紙水苔香。

【山茝】459 サンシ　槀本（8－25219・・27）の異名。かきもち。〔廣雅、釋草〕山茝、槀本也。

【山茨】460 サンシ　淸、周升桓（2－3441・・720）の號。

【山梔】461 サンシ　くちなしの異名。山梔子を見よ。

〘山梔子〙462 サンシシ　くちなしの實。〔羣芳譜、梔子〕山梔子花八出、一株可レ香二一圃一。

【山笥】463 サンシ　山のやうに高大なはこ。書物の多い喩。〔謝朓、謝三隨王賜二左傳一啓〕朓未レ窺二山笥一、早慚二河籍一、業謝二專門一、說非二章句一。

【山紫】464 サンシ　山が紫色になる。〔王勃、滕王閣序〕潦水盡而寒潭淸、煙光凝而暮山紫。

〘山紫水明〙465 サンシスイメイ　山色が紫で、流水が淸い。山水の景色が淸麗で、朝暮の眺望の殊によいこと。〔賴山陽、題二自畫山水一詩〕黃樹靑林對二小欄一、最佳山紫水明閒。〔菊池三溪、賴山陽傳〕又置二一小草堂一、臨二鴨水一、對二東山一、稱二山紫水明處一。

【山觜】466 サンシ　山の支脈。又、山の入口。山の曲り角。山嘴。〔宋史、河渠志七〕山觜少有二溪水一、流入レ上レ河。〔楊萬里、登二多稼亭一曉望詩〕城腰摺處纔二三徑一、山觜前頭別一村。

【山資】467 サンシ　山を買ふ費用。隱居の準備にいふ。〔南史、王秀之傳〕吾山資已足、豈可三久留以妨二賢路一。

【山雌】468 サンシ　山鳥のめす。〔法言、修身〕山雌之肥、其得レ意乎、或曰、回之簞瓢臞、如レ之何、曰、明明在レ上、百官牛羊亦山雌也、闇闇在レ上、簞瓢捽茹亦山雌也、何其臞。

【山嘴】469 shan¹ tsuei³　山觜（466）に同じ。〔水滸傳、一回〕又行不過一個山嘴。

〘山嘴兒〙470 shan¹ tsuei³ êrh　㊀山の支脈。㊁「岬。

【山字】471 サンジ　山の字の形。〔本事詩〕國初長孫太尉、見二歐陽率更姿形麼陋一、嘲レ之曰、聳レ膞成二山字一、埋レ肩畏レ出レ頭、誰言麟閣上、畫二此一獮猴一。

〘山字肩〙472 サンジケン　山のやうに聳えた肩。〔陸游、詩〕吟作楚人語、聳成山字肩。

〘山字頭〙473 shan¹ tzŭ⁴ t'ou²　漢字扁傍の一。やまかんむり。

【山寺】474 サンジ　山中の寺。やまでら。〔孟浩然、夜歸二鹿門一歌〕山寺鳴鐘晝已昏、漁梁渡頭爭渡喧。〔高適、同二呂判官一云云登三積石軍多福七級浮圖一詩〕轅門對二山寺一。〔杜甫、第五弟豐獨在二江左一詩〕聞汝依二山寺一、杭州定二越州一。〔韋應物、遊二靈巖寺一詩〕始入松路永、獨忻山寺幽。〔皇甫曾、送二陸鴻漸一詩〕幽期山寺遠、野飯石泉淸。〔白居易、憶二江南一詞〕山寺月中尋二桂子一、郡亭枕上看二潮頭一。

〘山寺常山〙475 ヤマデラジヤウザン　信濃國の人。名は久道、信龍。字は子彰。通稱は源太夫。號は常山。古賀侗庵を師とす。松代藩普請奉行となり、又、世子の傅となる。明治十一年七月三日歿す、年七十一。著に常山文集・加座漏船紀聞・松代封內實測圖がある。〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕。

【山事】476 サンジ　山林に關する仕事。山中のものごと。〔周禮、地官、閭師〕任衡以二山事一貢二其物一。〔劉禹錫、奉三送家兄歸二王屋山隱居一詩〕春來山事好、歸去憶二逍遙一。

【山兒】477 サンジ　山中の子供。〔太平淸話〕後王弇州跋云、蘇長公喜二枯木小石一、山谷愛レ書二禪伯句一、秦少游愛レ書二山兒句一、古人風流奇譎、若レ合二一轍一、可二想見一也。

【山州】478 サンシウ　やまざと。〔劉禹錫、送三鴻擧師遊二江西一詩〕山州古寺好二閒居一、讀盡龍王宮裏書。〔李建勳、病中書レ懷詩〕落葉滿二山州一、閑眠病未レ瘳。

【山秀】479 サンシウ　山がひいでる。山がすぐれる。〔水經、江水注〕袁崧曰、父老傳言、原既流放、忽然暫歸、鄉人喜悅、因名曰二歸鄉一、抑其山秀水淸、故出二儁異一、地險流疾、故其性亦隘。〔李賀、蘭香神女廟詞〕弱蕙不レ勝レ露、山秀愁二空春一。〔杜牧、春日茶山病不レ飮レ酒因呈二賓客一詩〕山秀白雲膩、溪光紅粉鮮。

【山周】480 サンシウ　山のめぐり。〔梁昭明太子、七契〕爰自二畿甸一、經二造山周一、傍瞻虹見、俯眺雲浮。

【山岫】481 サンシウ　山のほらあな。又、山のいただき。〔曹植、七啓〕出二山岫之潛穴一、倚二峻崖一而嬉游。〔傅玄、又答二程曉一詩〕洪崖歌二山岫一、許由嗟二水濱一。〔江淹、雜詞、構象臺〕立二孤臺兮山岫一、架二半

室兮江汀一。

【山秋】482（サンシウ）　山中の秋。〔白居易、秋山詩〕山秋雲物冷、稱二我清羸顏一。〔沈亞之、別二龐子肅一詩〕山秋夢二桂樹一、月曉憶二瑤臺一。

【山羞】483（サンシウ）　山肴(127)に同じ。〔王僧達、祭二顏光祿一文〕王君以二山羞野酌一、敬祭二顏君之靈一。

【山湫】484（サンシウ）　山中の池。山池。〔杜甫、乾元中寓二居同谷縣一作歌〕南有レ龍兮在二山湫一、古木巃嵸枝相樛。

【山愁】485（サンシウ）　山中のかなしみ。〔溫庭筠、春日野行詩〕柳豔欺二芳帶一、山愁縈二翠蛾一。

【山楸】486（サンシウ）　木の名。やまひさぎ。山榎(101)に同じ。〔鎦崧、秋日過二汶溪塾一詩〕汶溪新製小茅堂、也種山楸間二水楊一。

【山蒐】487（サンシウ）　山中の狩。山畋。〔馬祖常、都門詩〕水戲二鬬魚龍一、山蒐獻二熊獲一。

【山獸】488（サンジウ）　山中のけだもの。山毛。〔禮、月令、麋角解、疏〕熊氏云、鹿、是山獸、夏至得二陰氣一而解レ角、麋、是澤獸、故冬至得二陽氣一而解レ角。〔本草、虎〕集解、時珍曰、按、格物論云、虎、山獸之君也。〔水經、澧水注〕山下有レ溪、又以二九渡一爲レ名、山獸咸飲二此水一、而逕越、他津皆不レ飲レ之。〔元結、招二孟武昌一詩〕谷中有二山獸一、往往隨レ人行。

〖山獸之君〗489（サンジウノキミ）　虎(9－32675)の異名。〔說文〕虎、山獸之君。

【山室】490（サンシツ）　山中のすまひ。〔江淹、雜詞、訪道經〕寂寞兮山室、德經兮道袠。〔上官昭容、遊二長寧公主流杯池一詩〕山室何爲レ貴、唯餘蘭桂熏。

【山蛭】491（ヤマビル）　蛭の一種。くさびる。かさびる。深山の樹木の枝葉にかくれ、人畜に落ち來つて血を吸ふ。

【山漆】492（サンシツ）　三七(1－12・・705)の❷の異名。さんしちさう。〔本草、三七〕釋名、山漆・金不換、時珍曰、彼人言、其葉左三右四、故名二三七一、蓋恐不レ然、或云、本名二山漆一、謂下其能合二金瘡一、如中漆黏上レ物也、此說近レ之、金不換、貴重之稱也。

【山日】493（サンジツ）　山を照す日。山中の日。〔張祜、秋晚途中詩〕水雲遙斷レ緒、山日半銜レ稜。〔孟郊、楚竹吟〕江花匪レ秋落、山日當レ晝曛。

【山實】494（サンジツ）　山中の草木の實。〔李賀、昌谷詩〕苔絮縈二澗礫一、山實垂二赬紫一。〔陸龜蒙、青檽子詩〕山實號二青檽一、環レ岡次第生。

【山隰】495（サンシフ）　山と隰地。〔詩、鄭風、山有扶蘇、山有二扶蘇一、隰有二荷華一、疏〕山上有二扶蘇之木一、隰中有二荷華之草一、木生二于山一、草生二于隰一、高下各得二其宜一、以喩二君子在レ上、小人在一レ下、亦是其宜、今忽置二小人于上位一、置二君子于下位一、是山隰之不レ如也。

【山車】496（サンシヤ）　❶瑞象の名。人工を用ひず、自然に圓曲な木で出來た車。天下太平なれば、山に現はれるといふ。桑根車。〔禮、禮運〕山出二器車一。〔疏〕按、禮緯斗威儀云、其政大平、山車垂鉤、注云、山車、自然之車、垂鉤、不二揉治一而自圓曲。〔拾遺記、一、軒轅黃帝〕泛レ河沉レ璧、有二澤馬羣鳴、山車滿一レ野。〔隋書、禮儀志〕玉輅禋祀所レ用、昔成湯用而郊祀、因有二山車之瑞一、亦謂二之桑根車一。❷祭禮に、山や岩などの飾物を据ゑつけてひく車。山棚。だんじり。だし。〔資治通鑑、唐紀〕(肅宗、至德元載)以二山車陸船一載レ樂往來。〔注〕山車者、車上施二棚閣一、加以二綵繪一、爲二山林之狀一、陸船者、縛二竹木一爲二船形一、飾以二繒綵一、列二人於中一、舁レ之以行。〔宋史、禮志十六〕東封二泰山一、所レ過州府、上御二子城門樓一、設二山車綵船一載レ樂。❸（ヤマグルマ）　とりもちの木。もちの木。

【山舍】497（サンシヤ）　山中の家。山家。〔南齊書、杜京產傳〕京產請レ瓛、至二山舍一講レ書、傾レ資供待。〔集仙錄〕行數十里、出二一山舍一、有二女冠在一、因留止焉、山舍在二蒲江縣主簿宅側一、其居無レ水、常使三正見汲二澗泉一。〔常建、空靈山應二田叟一詩〕湖南無二村落一、山舍多二黃茅一。〔李商隱、題二李上謩壁一詩〕江庭猶二近別一、山舍得二幽期一。

【山斜】498（サンシヤ）　山がななめである。山がななめに續く。〔庾信、周大將軍上開府廣饒公鄭常墓誌銘〕水遶二縈波一、山斜二陸渾一。〔溫庭筠、夜宴謠〕長釵墜レ髮雙二蜻蜓一、碧盡山斜開二畫屛一。

【山畬】499（サンシヤ）　山中のやき田。畬は、雜草を燒き拂つて作る田。〔陸游、子聿欲レ歸二山陰一詩〕兩篇易象能志レ忘、百畝山畬可レ免レ饑。

【山榭】500（サンシヤ）　山中のうてな。〔陳子昂、忠州江亭喜二重遇吳參軍牛司蒼一序〕江亭迴瞰、羅二新樹於階基一、山榭遙臨、列二羣峯於戶牖一。

【山鷓】501（サンシヤ）　小鳥の名。山鵲(525)を見よ。〔本草、山鵲〕釋名、鷽・鵯・山鷓・赤嘴烏。〔宣和畫譜、花鳥四、宋〕(易元吉)梨花山鷓圖二・栗枝山鷓圖一・窠石山鷓圖一・寫生木瓜花山鷓圖一、(崔白)春林山鷓圖一・蟠桃山鷓圖一・檞窠山鷓圖一・雪竹山鷓圖三。〔楊興宗、出二劍門一詩〕山鷓啄殘紅杏紛、杜鵑啼破綠楊烟。

〖山鷓鴣〗502（サンシヤコ）　樂府、近代曲辭、羽調曲の名。鷓鴣の聲に倣つて作る。唐の李益・李涉に歌辭がある。〔樂府詩集、近代曲辭、山鷓鴣〕歷代歌辭曰、山鷓鴣、羽調曲也。〔無名氏、山鷓鴣〕玉關征戍久、空閨人獨愁、寒露溼二青苔一、別來蓬鬢秋。〔李益、鷓鴣詞〕湘江斑竹枝、錦翼鷓鴣飛、處處湘陰合、郎從二何處一歸。

【山麝】503（サンジヤ）　山中にすむ麝。麝は鹿に似た獸で、臍に香料を有す。轉じて、山中ににほふ麝香。〔王建、宮詞〕供御香方加減頻、水沉山麝每回新。〔秦略、麝香詩〕山麝逃レ風遠谷藏、一山行過四山香。〔陸游、燒香詩〕小斮海沈非二弄水一、旋開山麝取二當門一。

【山匠】504（サンシヤウ）　吳興の工人をいふ。〔癸辛雜識、假山〕至二宣和艮岳一、始興二大役一云云、其大峯特秀者、不二特侯封一、或賜二金帶一、且各圖爲レ譜、然工人特出二於吳興一、謂二之山匠一。〔陸龜蒙、襲美見下題二郊居一十首上云云詩〕倭僧留二海紙一、山匠製二雲牀一。

【山牀】505（サンシヤウ）　❶山中で用ひるねだい。〔周賀、尋二北岡韓處士一詩〕相過值二早涼一、松帚埽二山牀一。❷ねだいの形をした山。〔孟貫、酬二史處士一詩〕石徑僧逢レ出、山牀鶴見レ移。〔貫休、寄二匡山大願和尚一詩〕夢歷二山牀一聞二鶴語一、吟二思海月一上二沙汀一。

【山相】506（サンシヤウ）　❶山中の宰相の意。梁の陶弘景のあだ名。陶弘景が山中にゐて、常に國家の大事に參與した故事。〔南史、陶弘景傳〕國家每レ有二吉凶征討大事一、無レ不二前以諮詢一、月中常有二數信一、時人謂爲二山中宰相一。〔鄭谷、蔡處士詩〕旨趣陶山相、詩篇沈隱侯。❷（サンサウ）　山の相。山相學を見よ。

〖山相學〗507（サンサウガク）　山相を研究して探鑛に資する學問。我が國固有の探鑛術で、一子相傳とせられる。〔草木六部耕種法、序〕奥羽兩州有下唱二山相學一者上、大抵以二我曾祖翁一爲二開山手一焉。

【山章】508（サンシヤウ）　五代前蜀、山行章(1148)の一名。

【山掌】509（サンシヤウ）　山の峯のあたり。掌は、たなごころ。〔費冠卿、答二蕭建一詩〕徑滑石稜上、寺開山掌中。

【山裝】510（サンシヤウ）　山中でのよそほひ。又、山のよそほひ。〔周朗、報二羊希一書〕春田三頃、秋園五畦、若レ此無レ災、山裝可レ具。

【山嶂】511（サンシヤウ）　屛風のやうに連なつた峰。〔沈約、遊二沈道士館一詩〕山嶂遠重疊、竹樹近蒙蘢。〔胡皓、大漢行〕山嶂綿連那可レ極、路遠辛勤夢二顏色一。

【山障】512（サンシヤウ）　❶山崖で作つた屛障。〔皮日休、奉二和魯望秋日遣懷一次韻詩〕取レ嶺爲二山障一、將レ泉作二水簾一。❷さまたげる。さへぎる。〔西廂記、張君瑞害二相思一雜劇〕山二障了隔牆花影動一。

【山廠】513（サンシヤウ）　❶山中の地區。〔六部成語、戶部、山廠、注解〕山中之區也。❷橋の名。雲南省鎭南縣の南。楚雄縣の界。清の道光中の建立。もと藤橋を設く。今、巖の西を木橋とし、東を鐵索橋とす。

【山瘴】514（サンシヤウ）　山の惡氣。山中の毒氣。〔王胄、臥二疾閩越一述二淨名意一詩〕五嶺常鬱炎、百越多二山瘴一。〔孟貫、送二吳夢闇歸一レ閩詩〕海雲添二晚景一、山瘴滅二晴暉一。

【山牆】515（サンシヤウ）　かきねのやうに連つた山。〔杜牧、題二武關一詩〕山牆谷塹依然在、弱吐強吞盡已空。〔高啓、梅花詩〕行人水驛春全早、啼鳥山牆晚半稀。

【山麞】516（サンシヤウ）　山に棲むのろ。麞は獸の名。〔陶安、秋館書レ事詩〕多年草木未二芟除一、野豕山麞走二傍廬一。

【山上】517（サンジヤウ）　山の上。〔易、漸〕山上有レ木、漸、君子以居二賢德善俗一。〔史記、趙奢傳〕許歷復請諫曰、先據二北山上一者勝、後至者敗、趙奢許諾、卽發二萬人一趨レ之。〔卓文君、白頭吟〕皚如二山上雪一、皎若二雲閒月一。〔左思、詠史詩〕鬱鬱澗底松、離離山上苗。

〘山上有㆑山〙518（サンジヤウ ヤマアリ）　出の字の隱語。出の字は山を二つ重ねた形である。次に引いてゐる玉臺新詠の四句は、夫出還在㆓半月㆒の隱語である。藁砧は夫の隱語。品字箋に、砧は杵砧石で、美石を砧夫と名づけるから、藁砧を借りて以て夫に喩ふとある。一說に、藁砧の切音は天であり、妻は夫を以て天とするから、夫の隱語といふ。刀頭に環があるから借りて還の字の義とする。破鏡の天にあるのは半月の隱語。〔玉臺新詠、十、古絕句四首〕藁砧今何在、山上復有㆑山、何當㆓大刀頭㆒、破鏡飛上㆑天。〔彥周詩話〕古樂府云、藁砧今何在、言㆑夫也、山上復有㆑山、言㆑出也、何當㆓大刀頭㆒、破鏡飛上㆑天、言㆓月半當㆑還也。〔孟遲、閑情詩〕山上有㆑山歸不㆑得、湘江暮雨鷓鴣飛。

【山狀】519（サンジヤウ）　山のかたち。山のやうす。山形。〔爾雅、釋山〕重甗、隒。〔注〕謂㆓山形如㆑累㆓兩甗㆒、甗、甑、山形狀似㆑之、因以名云。〔水經、濰水注〕水有㆓二源㆒、西源出㆓奕山㆒、亦曰㆓鄣日山㆒、山勢高峻、隔㆓絕陽曦㆒、晏謨曰、山狀鄣㆑日、是有㆓此名㆒。

【山城】520（サンジヤウ）　❶山の多い城邑。山中の城邑。山上に築いた城。〔庾信、奉㆓和泛㆑江詩〕岸社多㆓喬木㆒、山城足㆓迴樓㆒。〔張說、岳州山城詩〕山城豐㆓日暇㆒、閉㆑戶見㆓天心㆒。〔張九齡、歲初巡㆓屬縣㆒登㆓高安南樓㆒言㆑懷詩〕山城本㆓孤峻㆒、憑高結㆓層軒㆒。〔王維、送㆔李太守赴㆓上洛㆒詩〕板屋春多㆑雨、山城晝欲㆑陰。〔杜甫、泊㆓岳陽城下㆒詩〕江國踰㆓千里㆒、山城僅百層。〔岑參、送㆔張昇卿宰㆓新淦㆒詩〕水驛楚雲冷、山城江樹重。❷山中防禦の法。〔六韜、豹韜、鳥雲山兵〕衢道通谷、絕以㆓武車㆒、高置㆓旌旗㆒、謹敕㆓三軍㆒、無㆑使㆔敵人知㆓我之情㆒、是謂㆓山城㆒。❸（ヤマグスク）　琉球の地名。

【山情】521（サンジヤウ）　山のおもむき。山中の幽雅な趣。山趣。〔江總、攝山棲霞寺碑〕山情率易、野製疏樸、崖檐峻絕、澗戶幽深。〔張籍、和㆓左司元郎中秋居㆒詩〕山情因㆑月甚、詩語入㆑秋高。〔司馬逸客、雅琴篇〕山情水意君不㆑知、拂㆑匣調㆑弦爲㆑誰理。

【山壤】522（サンジヤウ）　山の土。山土。〔王仲言、慈寧殿賦〕山壤獻㆑靈、川流效㆑祉、陸架水浮、風屯雲委。

【山酌】523（サンシヤク）　山中でくむ酒。〔王勃、聖泉宴詩〕蘭氣熏㆓山酌㆒、松聲韻㆓野弦㆒。

【山雀】524（サンジヤク）　小鳥の名。やまがら。形ほほじろに似て、性さとく、種々の藝をおぼえる。〔賈島、重與㆓彭兵曹㆒詩〕硯冰催㆓臘日㆒、山雀到㆓貧居㆒。〔錢起、石門春暮詩〕溪雲雜㆑雨來㆓茅屋㆒、山雀將㆑雛傍㆓藥欄㆒。〔和漢三才圖會、林禽類、山雀〕山陵鳥、俗云、也末加良、按、山雀、狀似㆓畫眉鳥㆒、而頭黃白、帶㆓赤色㆒、眼頷邊有㆓黑條㆒、背灰赤色、嘴胸翅尾共黑、腹淡赤、性慧巧、能囀。

【山鵲】525（サンジヤク）　小鳥の名。深青色で文采あり、嘴と足が赤く、尾は白く、頭上に白冠をいただき、鵲に似てゐる。をながどり。山鷓。〔爾雅、釋鳥〕鷽、山鵲。〔注〕似㆑鵲而有㆓文彩㆒、長尾、觜腳赤。〔本草、山鵲〕釋名、鷽・雗・山鷓・赤嘴烏、集解、時珍曰、山鵲處處山林有㆑之、狀如㆑鵲而烏色、有㆓文采㆒、赤觜赤足、尾長不㆑能㆓遠飛㆒。〔易林、豫之第十六、剝〕野猿山鵲、奕棊六博。〔枚乘、梁王菟園賦〕山鵲野鳩、白鷺鶻相。

【山主】526（サンシユ）　❶寺の住職。〔王惲、靈巖寺詩〕山主留㆓昏宿㆒、官程畏㆓衆碧㆒。❷書院の長。山長。〔稱謂錄、書院掌敎、山主〕台州守正華甫建㆓上蔡書院㆒、楊棟爲㆓山主㆒。

【山首】527（サンシユ）　山の入口。〔謝靈運、山居賦〕二川合㆑流、異㆑源同㆑口、赴㆑隘入㆑險、俱會㆓山首㆒。

【山酒】528（サンシユ）　山中で造る酒。田舍酒。粗惡の酒。〔王績、嘗㆓春酒㆒詩〕野觴浮㆓鄭酌㆒、山酒漉㆓陶巾㆒。〔溫庭筠、寄㆓山中人㆒詩〕素琴入㆓爽籟㆒、山酒和㆓春容㆒。〔陸龜蒙、和㆓襲美寒日書齋卽事㆒云云詩〕餘杭山酒猶封在、遙囑㆓高人㆒未㆓肯嘗㆒。

【山趣】529（サンシユ）　山のおもむき。山情。〔段成式、題㆓谷隱蘭若㆒詩〕鳥啄㆓靈雛㆒戀㆓落暉㆒、村情山趣頓忘㆑機。

【山戍】530（サンジユ）　邊境の山中にある屯所。〔張說、出㆑湖寄㆓趙冬曦㆒詩〕山戍上㆓雲桂㆒、江亭臨㆓水關㆒。

【山壽】531（サンジユ）　❶山のよはひ。又、山のやうに變らぬよはひ。南山壽。〔宋書、謝莊傳〕山有㆑壽兮松有㆑茂、祚㆓神極㆒兮眖㆓皇家㆒。〔敬括、花萼樓賦〕巍巍天子、南面山壽、德洽㆓蒼生㆒、樂乎大有。❷寺の名。陝西省耀縣治の西。〔明一統志〕山壽寺、在㆓西安府耀州治西㆒、唐建。

【山樹】532（サンジユ）　山中の樹木。山木。〔曹植、贈㆓白馬王彪㆒詩〕太谷何寥廓、山樹鬱蒼蒼。〔蕭愨、和㆔崔侍中從㆑駕經㆓山寺㆒詩〕野禽喧㆓曙色㆒、山樹動㆓秋聲㆒。〔劉廷芝、春日行歌〕山樹落梅花、飛落野人家。

【山衆】533（サンシユウ）　僧侶をいふ。山は寺院の稱。〔南史、張孝秀傳〕率以㆓力田㆒盡供㆓山衆㆒。〔隋煬帝、與㆓天台山衆㆒令〕山衆法徒、同㆑志爲㆑友。

【山戎】534（サンジユウ）　春秋時代、今の河北省北方、遷安縣地方の山間に蟠居した蕃族。又、北戎ともいふ。或は鮮卑の一といひ、或は北方蒙古系種族・ツングース族といひ、或は西藏系種族といふが蒙古族とツングース族の雜種らしい。春秋の時、齊の北邊・燕の近邊を占據し、孤竹・令支・無終の諸國と隣接し、常に燕・齊などに入寇して邊患を爲してゐた。〔春秋、僖、十、夏齊侯許男伐㆓北戎㆒、杜注〕北戎、山戎。〔國語、齊語〕北伐㆓山戎、刜㆓令支㆒、斬㆓孤竹㆒、而南歸㆓海濱㆒。〔管子、小匡〕北伐㆓山戎㆒、制㆓冷支㆒、斬㆓孤竹㆒。〔史記、匈奴傳〕唐虞以上、有㆓山戎・獫狁・葷粥㆒。〔漢書、匈奴傳上〕北有㆓東胡山戎㆒。

【山宿】535（サンシユク）　山中のやど。〔唐庚、長沙示㆓甥郭聖兪㆒詩〕阪行白漭漭、山宿青攢攢。

【山出】536（サンシユツ）　❶山が地上に出來上る。〔唐書、武皇后紀〕垂拱二年、有㆔山出㆓于新豐縣㆒、改㆓新豐㆒爲㆓慶山㆒。〔沈佺期、侍㆓宴安樂公主新宅㆒應制詩〕山出盡如㆑鳴㆓鳳嶺㆒、地成不㆑讓㆑飲㆓龍川㆒。❷雲が開けて山の見えること。〔丁仙芝、渡㆓揚子江㆒詩〕林開揚子驛、山出潤州城。〔岑參、江上阻㆓風雨㆒詩〕氣昏雨已過、突兀山復出。〔孟浩然、途中遇㆑雨詩〕天開斜景遍、山出晚雲低。

【山述】537（サンジユツ）　冠の上の附屬物。通天冠の飾。通天冠(**11**－**38892**・・332)を見よ。〔後漢書、輿服志下〕通天冠、高九寸、正豎㆑頂、少邪卻、乃直下、爲㆓鐵卷梁㆒、前有㆓山展筩㆒爲㆑述、乘輿所㆓常服㆒、云云、遠游冠、制如㆓通天㆒、有㆓展筩㆒、橫㆓之於前㆒、無㆓山述㆒、諸王所㆑服也、高山冠、一曰㆓側注㆒、制如㆓通天㆒、不㆓邪卻㆒、直豎無㆓山述展筩㆒。〔晉書、輿服志〕高山冠、一名側注、高九寸、鐵爲㆓卷梁㆒、制似㆓通天㆒、頂直豎不㆓斜卻㆒、無㆓山述展筩㆒。

【山春】538（サンシユン）　山中の春。〔王維、桃源行〕漁舟逐㆑水愛㆓山春㆒、兩岸桃花夾㆓去津㆒。〔姚合、送㆔喩鳧校書歸㆓毘陵㆒詩〕山春煙樹衆、江遠晚帆疎。

【山蕣】539（サンシユン）　山中のむくげ。蕣は植物の名。〔高啓、葵花詩〕夕同㆓山蕣㆒落、午竝㆓海榴㆒燃。

【山筍】540（サンジユン）　山中のたけのこ。〔方回、春晚雜興詩〕溪魚山筍佐㆓新篘㆒、大勝長安上㆓酒樓㆒。

【山遵】541（サンジユン）　漢の人。王莽に褒謀子に封ぜられ、皐陶の後を奉ず。〔漢書、九十九中〕。

【山狙】542（サンシヨ）　山ざる。〔新論、韜光〕周雞斷㆑尾、獲㆑免㆓犧牲㆒、山狙見㆑巧、終必招㆑害。

【山書】543（サンシヨ）　❶山中からのたより。山信。〔皎然、送㆓至嚴山人㆒詩〕初到㆓人間㆒柳始陰、山書昨夜報㆓春深㆒。❷古の書名。〔孔子家語、執轡〕子夏曰、商聞、山書曰、地東西爲㆑緯、南北爲㆑經。❸書名。一卷。唐、劉蛻撰。〔說郛、九〕。

【山砠】544（サンシヨ サンソ）　石を戴く土山。石山。砠は土山の石を戴くもの。山砠水厓を見よ。

〘山砠水厓〙545（サンソスイガイ）　山水のほとり。〔歐陽脩、張子野墓誌銘〕山砠水厓、窮居獨遊、思㆑從㆓囊人㆒、邈不㆑可㆑得。

【山處】546（サンシヨ）　山中に居る。山居。〔管子、山至數〕有㆓山處之國㆒、有㆓氾下多㆑水之國㆒。〔淮南子、原道訓〕蛟龍水居、虎豹山處、天地之性也。

【山墅】547（サンシヨ）　山中の別墅。山莊(421)に同じ。〔韋莊、過㆓當塗縣㆒詩〕謝公山有㆑墅、李白酒無㆑樓。〔楊萬里、九日自序〕余山墅遠㆓城邑㆒、復不㆑近㆓廛市㆒。

【山藷】548（サンシヨ）　やまのいも。土藷。山藥。〔本草、薯蕷〕釋名、藷萸・土藷・山藷・山芋・山藥・玉延、頌曰、江閩人單呼爲㆑藷、音若殊反、韶、亦曰㆓山藷㆒。〔南方草木狀〕土藷卽山藥、又名㆓山藷㆒。

【山如】549（サンジヨ）　淸、許山(**10**－**35298**・・98)の字。

【山茹】550（サンジヨ）　山に生ずる菜。〔寒山、詩〕攜㆑籃采㆓山茹㆒、挈㆑籠摘㆑果歸。

【山舒】551（サンジヨ）　山形のゆるやかにのびやかなこと。〔柳宗元、游㆓黃溪㆒記〕南一里至㆓大冥之川㆒、山舒水緩、有㆓土田㆒。〔方太古、社日出游詩〕水緩山舒逢㆓日暖㆒、花明柳暗貌春分。

【山松】552（サンシヨウ）　❶山中の松。〔岑參、題㆓雲際南峯

眼上人讀經堂一詩〕雲間獨坐臥、祇是對二山松一。❷清、黃經（12－47926··324）の字。

【山竦】553 サンショウ　山がそびえる。又、山のそびえるやうに物の豐富なことをいふ。〔邊讓、章華臺賦〕蘭肴山竦、椒酒淵流。

【山鐘】554 サンショウ　山のかね。〔王昌齡、潞府客亭寄二崔鳳童一詩〕秋月對二愁客一、山鐘搖二暮天一。〔孟浩然、病愈過二龍泉寺精舍一呈二易業二公一詩〕停午聞二山鐘一、起行散二愁疾一。〔賈島、早秋寄二題天竺靈隱寺一詩〕山鐘夜渡空江水、汀月寒生古石樓。

【山蒸】555 サンジョウ　山中のむし上る火氣、又は水氣。〔鮑溶、溫泉詩〕山蒸陰火雲三素、日落溫泉雞一鳴。〔貫休、桐江閑居詩〕樹疊藏二仙洞一、山蒸足二瀑雷一。

【山色】556 サンショク　山の景色。山光。〔張說、岳州觀二競渡一詩〕低裝山色變、急棹水華浮。〔岑參、送二李郎尉武康一詩〕山色低二官舍一、湖光映二吏人一。〔韓翃、同題二仙遊觀一詩〕山色遙連秦樹晚、砧聲近報漢宮秋。

【山心】557 サンシン　❶山のまん中。〔袁宬、東湖聯句〕海眠藏二龍窟一、山心射二鹿田一。❷山中に住む人の心。〔庾信、奉二和永豐殿下言レ志詩〕野情風月曠、山心人事疎。

【山臣】558 サンシン　仕宦しないで山中に在る臣。〔大唐新語、記異〕今陛下、以二女主一處二陽位一、反二易剛柔一、故地氣隔塞、而生レ變爲レ災、陛下謂二之度一、山臣以爲、非レ度也。

【山岑】559 サンシン　山の峯。〔曹植、又贈二丁儀王粲一詩〕山岑高無レ極。〔晉書、束晳傳〕謂二山岑之林一爲レ芳、谷底之莽爲レ臭。

【山身】560 サンシン　山の本體。〔袁宏道、天池寺詩〕山以レ雲爲レ郵、雲窮山身見。

【山信】561 サンシン　山中からのたより。山書。〔皮日休、新秋卽事詩〕秋期淨埽雲根瘦、山信迴緘乳管粗。〔陸龜蒙、和下襲美江南書レ情二十韻寄二秘閣韋校書一貽中之商洛宋先輩垂文二同年上次韻詩〕鑵香松蠹膩、山信藥苗緘。

【山榛】562 サンシン　山中のはしばみ。榛は木の名。〔詩、邶風、簡兮〕山有レ榛、隰有レ苓。〔傳〕榛、木名。〔方回、湧金門城望詩〕天廻地轉事二雲輪一、湖葑山榛色漸陳。

【山人】563 サンジン　❶山林を掌る官。山虞。〔左氏、昭、四〕山人取レ之、縣人傳レ之。〔注〕山人、虞官。〔疏〕周禮、山虞、掌二山林之政令一、知二山人虞官一也。〔荀子、王制〕故澤人足二乎木一、山人足二乎魚一。〔管子、輕重己〕趣二山人一、斷伐具二械器一。❷世事をすてて山中に隱居してゐる人。山客。〔孔稚珪、北山移文〕蕙帳空兮夜鶴怨、山人去兮曉猿驚、昔聞投レ簪逸二海岸一、今見解レ蘭縛二塵纓一。〔唐書、則天順聖武皇后紀〕延載元年七月癸未、嵩嶽山人武什方、爲二正諫大夫同鳳閣鸞臺平章事一。〔唐書、李泌傳〕肅宗卽二位靈武一、物色求訪、會泌亦自至、云云、欲二授以一レ官、固辭、願以レ客從、入議二國事一、出陪二輿輦一。衆指曰、著レ黃者聖人、著レ白者山人。〔王勃、贈二李十四一詩〕野客思二茅宇一、山人愛二竹林一。❸雅號に添へて呼ぶ語。九靈山人・棲霞山人・漁洋山人の類。〔明史、戴良傳〕良世居二金華九靈山下一、自號二九靈山人一。〔宋犖、資政大夫刑部尙書王公士禎暨配張宜人墓誌銘〕自號二漁洋山人一、漁洋、太湖中山也。

【山神】564 サンジン　❶山の神。山祇。山精。〔山海經、中山經〕洞庭榮余山神也。〔後漢書、南蠻、西南夷、莋都夷傳〕畫二山神海靈、奇禽異獸一。〔王延壽、魯靈光殿賦〕雜物奇怪、山神海靈。❷shan^1 shen^2 滿洲語。虎をいふ。

〖山神祭〗565 サンジンサイ　獵師・樵夫などが山入りする時、山神を祀る祭。矢口祭。〔延喜式、三、臨時祭〕造二遣唐使船一、木靈幷山神祭。

〖山神廟〗566 shan^1 shen^2 miao^4　山神を祀つた廟。祭日は三月十六日で、殊に滿洲では年中行事の一。

〖山神爺〗567 shan^1 shen^2 yeh^2　滿洲語。虎をいふ。

【山荏】568 サンジン　縣名。三國魏、置く。漢の荏縣。故城は山東省長淸縣の東北。〔魏志、明帝紀〕景初元年春正月壬辰、山荏縣言、黃龍見。〔讀史方輿紀要、山東、濟南府、長淸縣〕漢荏縣屬二泰山郡一云云、晉爲二山荏縣一。

【山水】569 サンスイ　❶山と水。又、山河の風景。山川。〔魏志、賈詡傳〕吳蜀雖二蕞爾小國一、依二阻山水一。〔蜀志、譙周傳、注〕蜀土險狹、山水峻隔。〔左思、招隱詩〕非二必絲與一レ竹、山水有二淸音一。〔南史、王弘之傳〕始寧沃川有二佳山水一、弘之又依レ巖築レ室。〔南史、謝靈運傳〕出爲二永嘉太守一、郡有二名山水一。〔盧照鄰、春晚山莊率題詩〕山水彈レ琴盡、風花酌レ酒頻。〔柳宗元、漁翁詩〕煙銷日出不レ見レ人、欸乃一聲山水綠。〔李咸用、和三友人喜二相遇一詩〕韶咸古曲敎二誰愛一、山水淸音喜二獨聞一。❷山水の畫。風景畫。〔唐書、彭國公思訓傳〕思訓善レ畫、世所謂李將軍山水者。〔宋史、米芾傳〕畫二山水人物一、自名二一家一。〔畫禪〕巨然鍾陵人、善畫二山水一。❸山から出る水。〔戰國、楚策〕明日大雨、山水大出。〔南齊書、徐伯珍傳〕山水暴出、漂二溺宅舍一。〔唐書、五行志〕咸通四年七月、婺州大雨、山水暴漲、溺死五千餘人。

〖山水嘔〗570 サンスイオウ　戰國時代、趙王が秦に滅ぼされて、漢中の房陵に流され、故鄕を思つて作つた歌。〔淮南子、泰族訓〕趙王遷二流於房陵一、思二故鄕一、作二爲山水之嘔一。〔注〕秦滅二趙王一、遷二之漢中房陵一。

〖山水窟〗571 サンスイクツ　山水の風景の佳良な地方をいふ。〔葛庚、湧翠亭記〕騷翁逸人、品二藻山水一、平二章風月一、皆曰、江南爲二山水窟一、江西爲二風月窩一。〔蘇軾、將レ之二湖州一戲贈二莘老一詩〕餘杭自是山水窟、側聞吳興更淸絕。〔師拓別、懷レ玉詩〕慣レ作二簿書一塵裏夢、愧レ無二山水窟中緣一。

〖山水畫〗572 サンスイグワ　山水の景を寫した畫。

〖山水訣〗573 サンスイケツ　書名。山水畫の法を論ず。數種あり。❶唐、王維撰と稱するもの。一名、畫學祕訣。〔畫苑補益〕・〔唐六如畫譜〕。❷五代後梁、荆浩撰。今、傳はらず。❸宋、初李成撰。〔畫苑補益〕。❹南宋、李澄叟撰。〔畫苑補益〕。❺元、黃公望に寫山水訣あり。凡そ二十二則。〔輟耕錄、寫山水訣〕。

〖山水井〗574 shan^1 shuei^2 ching^3　泉。

〖山水衲〗575 サンスイナフ　佛宋代、禪僧の服。あやぎぬで作り、花紋を刺繡した。〔行事鈔資持記、下、三之二〕然此糞衣、並是世人所レ棄破碎布帛、收拾鬬綴、以爲二法衣一、欲レ令三節儉少欲省レ事、一衲之外、更無二餘物一、今時禪衆多作二衲衫一、而非二法服一、裁二剪繒綵一、刺二綴花紋一、號二山水衲一、價値數千。

〖山水癖〗576 サンスイヘキ　山水の風景を愛好する癖。自然の風景を愛する性癖。〔崔日知、酬二韋祭酒一詩〕以二茲山水癖一、遂得レ押二通人一。

〖山水文學〗577 サンスイブンガク　山水を主題とした文學をいふ。漢代の辭賦等に始まり、魏晉六朝に至つて最も發達す。晉の陶潛、宋の謝靈運・顏延之等に名作が多い。唐に至つては、王維・孟浩然・常建・儲光羲・李白・杜甫・張九齡・張說・韋應物・柳宗元等が名高い。柳宗元の山水游記の文章は遊記體の祖と稱せられる。明には徐宏祖が唯一の紀行文家で、其の霞客遊記は最も愛誦せられてゐる。

〖山水元無レ主死生亦有レ天〗578 サンスイモトヨリシユナシシセイモマタテンアリ　死生は天命にまかせ、持主のない山水の好景をほしいままに自分のものとして親しみ、氣儘に餘生を送るをいふ。〔懷風藻、亡名氏、歎老〕山水元無レ主、死生亦有レ天。

【山吹】579 サンスイ　❶山から吹く風。やまかぜ。〔虞集、次二韻葉賓月山居一詩〕水花含二窈窕一、山吹縱二淸繇一。❷ヤマブキ　㋑薔薇科に屬する灌木の名。初夏の頃、黃金色の花を開く。かがみぐさ。棣棠花。〔和漢三才圖會、蔓草類、棣棠花〕萬葉集用二山吹字一、按、棣棠花、其葉似二櫻桃葉一而長尖、四月開花、千瓣深黃、單葉者花大、其色艷如二山吹之黃金一、故名。㋺金錢の異名。黃金色であるから名づく。〔類聚名義抄〕金錢、ヤマフキ。

〖山吹襲〗580 ヤマブキガサネ　かさねの色目の名。表が朽葉色、裏が黃色のもの。〔源氏物語、胡蝶〕やまぶきがさね賜はる。

〖山吹匂〗581 ヤマブキニホヒ　表裏共に黃色な襲色。又、懷紙などで、上を山吹色にし、下に至るに隨つて、次第に薄い色にしたもの。〔雅亮裝束抄、三〕やまぶきのにほひ、上濃くて下へきなるまでにほひて靑きひとへ。

【山陲】582 サンスイ　山のほとり。〔孟浩然、送二謝錄事之一レ越詩〕仙書儻相示、余在二北山陲一。

【山翠】583 サンスイ　山のみどり色。山綠。〔盧照鄰、赤谷安禪師塔詩〕水華競二秋色一、山翠含二夕曛一。〔岑參、崔駙馬山池重送二宇文明府一詩〕池涼醒二別

酒一、山翠拂二行鑣一。

【山醉】584（サンスイ）　山が霧につつまれて明かでないさま。〔袁宏道、霧中望レ山詩〕霧是醒二山酒一、霧重山如レ醉。

【山崇】585（サンスウ）　山が高い。又、山の如く高い。高大な喩。又、物の多い喩。〔魏志、董卓傳、注〕卓塢中、金有二二三萬斤一、銀八九萬斤、珠玉錦綺奇玩雜物、皆山崇阜積、不レ可レ知レ數。〔呉志、華覈傳〕悲挹二清露一、沐二浴凱風一、效無二絲氂一、負二闕山崇一。〔柳宗元、唐鐃歌、鼓吹曲十二篇、十二〕無三思不二服從一、唐業如二山崇一。

【山陬】586（サンスウ）　山のすみ。山隅。又、山奥。〔張說、喜度嶺詩〕洄沿炎海畔、登降閩山陬。〔熊鉌、遊二武夷山一詩〕遂合閩山陬、盡入職方宇。〔高道宗、上元賦〕洵山陬之寂寞、亦炎熱之喧喧。

【山樞】587（サンスウ）　❶木の名。やまにれ。枝に刺があって、葉は楡に似、食用となる。〔詩、唐風、山有樞〕山有レ樞、隰有レ楡。❷詩經の篇名。山有樞(1142)の略。〔後漢書、馬融傳〕是以蟋蟀山樞之人、並刺二國君一、諷以二太康馳驅之節一。

【山世】588（サンセ）　佛僧侶の住處。山中と聚落とをいふ。〔行事鈔、上、一之二〕山謂二蘭若一、卽上根也、世謂二聚落一。

【山井】589（サンセイ）　山中の井戸。山の井。〔李白、寄レ遠詩〕寫レ水山井中、同レ泉豈殊レ波。〔曹松、觀二山寺僧穿レ井詩〕雲僧鑿二山井一、寒碧在二中庭一。〔梅堯臣、送三馬廷評之二餘姚一詩〕河流通二海道一、山井應二江潮一。

〖山井崑崙〗590（ヤマノヰコンロン）　紀伊の人。名は鼎・重鼎。字は君彝。通稱は善六。號は崑崙。蔭山源七・伊藤東涯・荻生徂徠の說を奉ず。官は西條藩儒。享保十三年一月二十八日歿す、年四十九、一に四十八といふ。著に崑崙山生相中紀行・七經孟子考文がある。〔國書解題〕。

〖山井青霞〗591（ヤマノヰセイカ）　京都の人。名は景貫。字は子一。號は青霞。近江守景郇の第三子、同宗伶官播摩守景武の嗣となる。正四位上雅樂頭。博く經史に通じ、詩文を善くす。寬政七年三月十九日歿す、年八十八。著に青霞稿がある。〔國書解題〕。

〖山井清溪〗592（ヤマノヰセイケイ）　江戸の人。名は重章。字は善甫。通稱は幹六、號は清溪。山井介堂・安井息軒・鹽谷箕山等の說を奉ず。官は西條藩儒。廢藩後、東京に塾を開く。後、學習院講師・第一高等學校教授。正五位勳六等。漢唐の注疏に精通す。明治四十五年五月二十九日歿す、年六十一。著に群書治要考異・清溪先生遺集（詩一・文四・論語講義三・大學講義一）・補注小學句讀・忠經刊・文獻通考鈔（正田賦考）・續文獻通考鈔（續田賦考）がある。〔漢學者傳記及著述集覽〕。

【山生】593（サンセイ）　山中に生ずる。又、山が產する。〔新語、道基〕夫驢騾・駱駝・犀象・瑇瑁・琥珀・珊瑚・珠玉、山生水藏、擇レ地而居、潔清明朗、潤澤而濡。〔淮南子、氾論訓〕水生二蠬蜃一、山生二金玉一。

【山西】594（サンセイ）　❶山の西側。〔爾雅、釋山〕山西曰二夕陽一。〔注〕暮乃見レ日。❷華山以西の地をいふ。山西出レ將(595)を見よ。❸省名。㋑太行山脈の西に在るからいふ。一名、山左。又、古の晉の地であるから晉省ともいふ。東は太行恆山の山脈によって河北省と界し、西は黃河によって陝西省と界し、南は黃河の一部及び王屋・析城の諸山によって河南省と界し、北は邊外の長城を以て綏遠省と界す。古の冀州の域で、周には幷州といふ。成王、叔虞を此の地に封じて唐國とす。春秋の晉國の地。秦は太原・上黨・河東等の郡を置き、漢は幷州を置く。元には河東山西道宣慰使司及び肅政廉訪司を置き、中書省に屬す。山西の名、此より始まる。明には、山西布政使司を置き、清には、山西省とし、民國、之に因る。陽曲（太原）を省治とし、一百五縣を領す。氣候は大陸性で、鑛產に富み、平定の石炭、晉城の鐵は世界に冠たりといふ。又、安邑の鹽、長治の紬、漆樹を特產とし、全國へ出す。但し農產少く、食物に乏しい。〔讀史方輿紀要、山西〕古曰二冀州一、舜分置二十二州一、此爲二幷州一、禹貢仍曰二冀州一、周禮職方、正北曰二幷州一、成王封二叔虞於唐一、此爲二晉地一、戰國時爲二趙地一、亦兼二韓魏之疆一、其在二天文一昴畢、則趙分野、秦幷二天下一、置二太原・河東・上黨・代・鴈門・雲中等郡一、漢武置二十三州一、此亦爲二幷州一、後漢以二幷州一治二晉陽一、靈帝時羌胡大擾、定襄・雲中等郡、並流徙分散、獻帝時省入二冀州一、魏黃初中復置二幷州一、自二陘嶺一以北並棄レ之、晉亦置二幷州一、惠帝時爲三劉淵所二殘破一、其後劉曜徙二都長安一、平陽以東陷二沒於石勒及苻堅・姚興・赫連勃勃之際一、並於二河東一置二幷州一、姚興時又嘗分二河東一置二幷・冀二州一、及二後魏以後一分析益多、不レ可二得而詳一也、隋亦置二十三部一、而不レ詳レ所レ統、唐貞觀初置二河東道一、開元中因レ之、天寶初又置二河東節度使於幷州一、及二五代時一李克用・石敬塘・劉知遠代有二其地一、並建二大號一、周廣順初劉崇據二其地一、宋太平興國四年始克レ平之、仍置二河東路一、而鴈門以北則屬二契丹一、爲二西京路一、金人分二置河東北路・河東南路及西京路一、元亦分爲二冀寧・晉寧・大同等路一、直二隸中書省一、明洪武元年置二山西行中書省於太原一、九年改爲二山西等處承宣布政使司一、今領二府五一、直二隸州三一、屬二州十六縣七十九一、而衞所參二列其中一、今仍爲二山西布政使司一、東據二太行一、南通二懷孟一、西薄二於河一、北邊二沙漠一。㋺安南國の省名。もと三國呉の新興郡、明代、三江府を置き、黎氏始めて山西といひ、阮氏立てて省を置き、北圻に屬す。

〖山西出レ將〗595（サンセイシヤウヲイダス）　山西からは將軍となるべき人物を出す。山東出レ相山西出レ將(842)を見よ。〔漢書、趙充國辛慶忌傳贊〕秦漢已來、山東出レ相、山西出レ將、秦將白起郿人、王翦頻陽人。〔援鶉堂筆記〕按、山之東西、以二華山一言レ之、故郿與二頻陽一在二其西一。

〖山西通志〗596（サンセイツウシ）　書名。二百三十卷。清、山西巡撫覺羅石麟等鑑修、劉梅補編。圖考・星野・建置沿革・疆域（附、關隘）・山川（附、河梁）・城池・公署・學校（附、書院考場）・祠祀・貢賦・屯田・水利・鹽法（附、錢法）・兵防・馬政（附、驛遞）・帝王（附、后妃封建竊據）・職官・名宦・選擧・人物・孝義・烈女・隱逸・流寓・仙釋（附、方伎）・風俗（附、土產）・古蹟・陵墓・寺觀・雜志・祥異・藝文の三十二門に分つ。〔四庫提要、史、地理類〕。

〖山西梆子〗597（サンセイハウシ）　戲劇の名。梆子とは拍子木に似た樂器で、之を打鳴して拍子を取る。碗琴といふ胡琴よりも棹が長く、胴は椰子の實をくりぬいて造った樂器を主とし、笛を副として奏する。清の光緒初年、山西の優伶が始めて北京に傳へた。

【山成】598（サンセイ）　山が出來上る。〔論語、子罕、譬如レ爲レ山未レ成二一簣一止吾止也、集注〕言、山成而但少二一簣一、其止者吾自止耳。

【山性】599（サンセイ）　❶象の耳から流れ出る油。此の油が出るときは、性粗暴となり人を傷つけるといふ。〔談苑〕象耳中有レ油出、謂二之山性一、發往往奔逸傷レ人。❷山中の人の粗野な性質。〔梁簡文帝、七勵〕帶レ索披レ裘、自得二山性一、雕章麗服、未二敢攸一レ同。

【山青】600（サンセイ）　❶山の青々としたさま。〔司空圖詩品、綺麗〕露餘山青、紅杏在レ林。〔劉廷芝、歸山詩〕草綠山無レ塵、山青楊柳春。〔杜甫、絕句詩〕江碧鳥逾白、山青花欲レ然。❷明、徐州の人。太祖に從ひ兵を起す。官は都督僉事。〔明史、一百六十六〕。

【山砌】601（サンセイ）　山家の階下の石だたみ。〔儲光羲、山居詩〕落葉滿二山砌一、蒼煙埋二竹扉一。

【山栖】602（サンセイ）　山にすむ。山棲。山居。〔呉志、周魴傳〕今雖二降首一、盤節未レ解、山栖草藏、亂心猶存。

【山晴】603（サンセイ）　山中が晴れわたる。〔宋之問、登二粤王臺一詩〕地濕烟嘗起、山晴雨半來。〔元稹、大雲寺詩〕地勝宜二臺殿一、山晴離二垢氛一。〔朱鄴、扶桑賦〕山晴而瑞氣初動、海晚而潮痕乍濕。

【山棲】604（サンセイ）　山にすむ。隱遁する。山栖。〔後漢書、仲長統傳〕抗レ志山棲、游二心海左一。〔左思、蜀都賦〕蝻蛦山棲、黿龜水處。〔何氏語林〕鳳凰不レ憎二山棲一、蛟龍不レ羞二泥蟠一。

〖山棲谷飲〗605（サンセイコクイン）　山にすみ谷に飲む。隱者の生活をいふ。〔魏書、明帝紀〕其有下懷二道丘園一、味二跡板築一、山棲谷飲、舒卷從レ時者上。〔王維、與二魏居士一書〕二十餘年山棲谷飲、高居深視。

【山勢】606（サンセイ）　山の形勢。〔庾信、秦州天水郡麥積崖佛龕銘〕水聲幽咽、山勢崆峒。〔許渾、故洛城詩〕水聲東去市朝變、山勢北來宮殿高。

【山箐】607（サンセイ・サンシヤウ）　山中のしの竹。〔元史、塔海帖木兒傳〕塔海帖木兒以二四百人一追至二山箐中一、大敗レ之、擒二阿蒙一以歸。

【山精】608（サンセイ）　❶山の神。山の精靈。〔宋書、符瑞志下〕象車者、山之精也。〔庾信、小園賦〕鎭㆓宅神㆒以㆑薶石、厭㆓山精㆒而照㆑鏡。❷山中の怪物。狒狒の類。山𤟤。山都。山鬼。山獠。山丈。旱魃。治鳥。〔本草、狒狒〕集解、時珍曰、又鄧顯明南康記云、山都、形如㆓崑崙人㆒、通身生㆑毛、見㆑人輒閉㆑目開㆑口如㆑笑、好在㆓深澗中㆒、翻㆑石覓㆑蟹食㆑之、珍按、鄧氏所㆑說、與㆓北山經之山𤟤・述異記之山都・永嘉記之山鬼・神異經之山獠・玄中記之山精・海錄襍事之山丈・文字指歸之旱魃・搜神記之治鳥㆒、俱相類、乃山怪也、今並附㆑之、以備㆓考證㆒。〔淮南子、汎論訓、山出㆓梟陽㆒、注〕梟陽、山精也、人形、長大、面黑色、身有㆑毛、若㆓反踵㆒、見㆑人而笑。〔異苑〕山精如㆑人、一足、食㆓山蟹㆒。❸山薊(298)の異名。をけら。〔抱朴子、僊藥〕朮、一名山薊、一名山精、故神藥經曰、必欲㆓長生㆒、長服㆓山精㆒。❹何首烏(**1－511**··296)の三百年を經たもの。之を服すれば仙人になるといふ。〔本草、何首烏〕集解、明州刺史李遠附錄云、何首烏晉興縣出者次㆑之、眞仙草也、五十年者如㆓拳大㆒、號㆓山奴㆒、服㆑之一年、髮髭青黑、一百年者如㆓盌大㆒、號㆓山哥㆒、服㆑之一年、顏色紅悅、一百五十年者如㆓盆大㆒、號㆓山伯㆒、服㆑之一年、齒落更生、二百年者如㆓斗栲栳大㆒、號㆓山翁㆒、服㆑之一年、顏如㆓童子㆒、行及㆓奔馬㆒、三百年者如㆓三斗栲栳大㆒、號㆓山精㆒、純陽之體、久服成㆓地仙㆒也。

【山齊】609（サンセイ）　山と高さをひとしくする。物の多い喻。〔張說、隴右節度大使郭公神道碑銘〕積㆑甲山齊而有㆑餘、收㆑馬谷量而未㆑盡。

【山靜】610（サンセイ）　❶山がしづかなこと。〔梁簡文帝、司徒始興忠武王誄〕玉潤冰鮮、山靜雲發。〔盧綸、送㆔從叔程歸㆓西川幕㆒詩〕千山冰雪晴、山靜錦花明。❷後魏、劉仁之(**2－2224**··1091)の字。

〖山靜居〗611（サンセイキヨ）　清、方薰(**5－13620**··132)の室名。

〖山靜日長〗612（ヤマシヅカニシテヒナガシ）　山居閑靜の境遇をいふ。〔唐庚、醉眠詩〕山靜似㆓太古㆒、日長如㆓小年㆒、餘花猶可㆑醉、好鳥不㆑妨㆑眠、世味門常掩、時光簟已便、夢中頻得㆑句、拈㆑筆又忘㆑筌。

〖山靜似㆓太古㆒〗613（ヤマシヅカニシテタイコニニタリ）　山居の靜けさは太古の時代のやうである。山靜日長を見よ。

【山竁】614（サンセイ）　山にうがつた穴。〔陶宗儀、南邨雜賦詩〕瘞㆑筆營㆓山竁㆒、橫㆑琴布㆓石床㆒。

【山稅】615　shan^1 shuei^4　野蠶場に課する稅。

【山小】616（サンセウ）　山が小さい。〔柳宗元、柳州山水近㆑治可㆑遊者記〕石魚之山、全石無㆓大草木㆒、山小而高、其形如㆓立魚㆒。〔方太古、隨處詩〕江清平見㆑寺、山小遠連㆑村。

〖山小菜〗617（サンセウサイ）　草の名。ほたるぶくろ。〔農政全書、山蔓菁考〕葉頗長艄而不㆓對生㆒、又似㆓山小菜葉㆒微窄。

【山杪】618（サンセウ）　山のいただき。山巓。杪は、梢の意。〔韻府引拾遺記〕四時匏管之清音、金石之凄淚、徹㆓於山杪㆒。

【山沼】619（サンセウ）　山中のぬま。〔王穉、登㆓過方丈園亭㆒詩〕山沼松舟小、春茶石竈新。

【山峭】620（サンセウ）　山がけはしく高い。〔獨孤綬、燕昭王築㆓黃金臺㆒賦〕雲竦㆓山峭㆒、穹崇㆓岧窱㆒。〔姚合、寄㆓華州崔中丞㆒詩〕酒香和㆑藥熟、山峭過㆑雲登。〔陸游、蓬萊行〕山峭插㆓雲海㆒、樓高入㆓烟霄㆒。

【山笑】621（サンセウ）　❶山が笑ふ。〔孟郊、噴玉布詩〕去㆑塵咫尺步、山笑康樂巖。〔欒城遺言〕公言、張公潛詩云、龍驚漢武英雄射、山笑秦王爛漫游、晚節作㆑詩、似㆔稍失㆓其精處㆒。❷狒狒(**7－20338**··2)の異名。〔事物異名錄、獸畜、狒狒〕新論、人熊、一名山笑。

【山椒】622（サンセウ）　❶山頂(764)に同じ。椒は山頂。〔漢書、外戚傳上〕釋㆓輿馬於山椒㆒兮、奄㆓脩夜之不陽㆒。〔謝莊、月賦〕菊散㆓芳於山椒㆒、雁流㆓哀於江瀨㆒。〔注〕善曰、山椒、山頂也。〔宋史、張俊傳〕俊遣㆓步兵㆒、從㆓間道㆒直趨㆓山椒㆒、殺㆑伏奪㆑險。❷落葉喬木の一。樹皮に刺多く、葉は羽狀で香氣高く、香料・藥用等に用ひる。なるはじかみ。ふさはじかみ。蜀椒(**10－33086**··35)を見よ。〔和漢三才圖會、味果類、秦椒〕按、秦椒、乃常名㆓山椒㆒者也、以㆓蘇恭之說㆒可㆑爲㆑當、山谷多有㆑之也、樹高五六尺、不㆑直、其葉似㆓槐葉㆒而青綠色、對生、云云、其枝多㆑刺、三月生㆓嫩芽㆒、謂㆓之木芽㆒、入㆓羹及酒中㆒、有㆓佳香㆒。

〖山椒魚〗623（サンセウウヲ）　兩棲類中有尾類に屬する動物。山間の溪水中に棲む。はじかみうを。鰻鱺魚。鯢魚。〔倭名類聚抄、龍魚部、鰻鱺魚、箋注〕波之加美伊乎、今俗呼㆓山椒魚㆒、大五六寸、似㆑鰌有㆓四脚㆒、長尾、能緣㆑木者、卽是。

〖山椒藻〗624（サンセウモ）　塊葉蘋科に屬する水草。

〖山椒皮〗625（サンセウヒ）　山椒の雄樹の內皮を刻んだもの。食用となる。からかは。〔雍州府志、六、土產門、菓子部〕山椒皮、洛北鞍馬土人、山椒木不㆑擇㆓大小㆒、各三寸許切㆑之、入㆓大釜㆒煮㆑之、而後剝㆓其皮㆒。

〖山椒味噌〗626（サンセウミソ）　山椒の果皮・嫩葉を搯込んだ味噌。豆腐のでんがく、茄子のしぎやき等に塗る。〔吉野都女楠、四〕ぬらりころりは鰻の蒲燒山椒味噌。

【山焦】627（サンセウ）　❶山がこげる。〔莊子、逍遙遊〕大浸稽㆑天而不㆑溺、大旱金石流、土山焦而不㆑熱。❷城の名。安徽省桐城縣の東南。〔明一統志〕山焦城、在㆓桐城縣㆒、唐開元間移㆓縣治山焦㆒、地多㆓猛虎毒虺㆒、元和間縣令韓震焚㆓薙草木㆒、其害遂除。

【山照】628（サンセウ）　日が山を照すこと。山が照りかがやく。〔王勃、泥谿詩〕水烟籠㆓翠渚㆒、山照落㆓丹崖㆒。〔孟浩然、送㆓張子容進士赴㆑擧詩〕夕曛山照滅、送㆑客出㆓柴門㆒。

【山嘯】629（サンセウ）　山中でうそぶく。〔陸雲、贈㆓鄭曼季㆒詩〕虎質山嘯、龍輝淵蟠。

【山樵】630（サンセウ）　❶きこり。樵夫。〔米黻、觀音巖詩〕鮑餌有㆑時邀㆓楚釣㆒、海雲常覺護㆓山樵㆒。❷長尾景翰の號。長尾秋水(**11－41100**··737)を見よ。

【山燒】631（サンセウ）　山が燒ける。やまやけ。山火事。〔孟浩然、題㆓終南翠微寺空上人房㆒詩〕瞑還高牕眠、時見㆓遠山燒㆒。

【山獠】632（サンセウ）　山中の怪物。狒狒の類。山鬼。山魈。山臊。山精。〔正字通〕獠、神異經、西方深山有㆑人、長丈餘、袒身捕㆓鰕蟹㆒、就㆑人火炙食㆑之、名㆓山獠㆒、其名自呼。〔本草、狒狒〕集解、時珍曰、神異經之山獠。

【山蕭】633（サンセウ）　山中の怪物。山魈(635)に同じ。〔酉陽雜俎、諾皐記下〕山蕭、一名山臊、俗言㆓山魈㆒。

〖山蕭鳥〗634（サンセウテウ）　獨足鳥(**7－20725**··187)の異名。〔本草、治鳥〕附錄、獨足鳥、一名山蕭鳥、黃州志云、獨足鳥閩廣有㆑之、大如㆑鵠、其色蒼、其聲自呼。

【山魈】635（サンセウ）　山中の怪物。狒狒の類。山臊(427)・山獠(632)・山精(608)を見よ。〔南康記〕山間有㆓木客㆒、形骸皆人也、但鳥爪耳、巢㆓於高樹㆒、伐㆑樹必害㆑人、一名㆓山臊㆒。〔白居易、送㆔人貶㆓信州判官㆒詩〕溪畔毒砂藏㆓水弩㆒、城頭枯樹下㆓山魈㆒。

【山夕】636（サンセキ）　山中のゆふべ。山昏。山晚。山暮。〔韋應物、雲陽館懷㆓谷口㆒詩〕山夕綠陰滿、世移清賞存。

【山石】637（サンセキ）　山中の石。〔易、漸、鴻漸㆓于磐㆒、注〕磐、山石安者。〔詩、小雅、漸漸之石、漸漸之石、傳〕漸漸、山石高峻。〔淮南子、本經訓〕鐫㆓山石㆒、鍥㆓金玉㆒、擿㆓蚌蜃㆒、消㆓銅鐵㆒。

〖山石榴〗638（サンセキリウ）　❶山躑躅(1178)の異名。杜鵑花。さつき。〔事物異名錄、花卉、杜鵑〕格物總論、杜鵑花、一名山石榴、又名㆓山躑躅㆒。❷金櫻子(**11－40152**··5)の異名、なにはいばら。山雞頭子。〔本草、金櫻子〕釋名、刺梨子・山石榴・山雞頭子。❸小蘗(**4－7473**··1071)の異名。めぎ。〔本草、小蘗〕釋名、子蘗・山石榴、時珍曰、此與㆓金櫻子・杜鵑花㆒、並名㆓山石榴㆒、非㆓一物㆒也。

【山席】639（サンセキ）　山中で用ひるむしろ。〔貫休、別㆓東林僧㆒詩〕燥葉飄㆓山席㆒、孤雲傍㆓茗甌㆒。

【山脊】640（サンセキ）　山のせ。又、山の最高所を連結した假設の線。岡。〔爾雅、釋山〕山脊、岡。〔注〕謂㆓山長脊㆒。〔疏〕孫炎云、長山之脊也、言、高山之長脊名㆑岡。〔劉禹錫、莫徭歌〕星居占㆓泉眼㆒、火種開㆓山脊㆒。〔章八元、新安江行〕雪晴山脊現、沙淺浪痕交。

【山積】641（サンセキ　サンシ）　山のやうにつみ重なる。高く堆積する。物の多い喻。山委。〔後漢書、崔駰傳〕處士山積、學者川流、衣裳被宇、冠蓋雲浮。〔魏志、諸葛誕傳〕軍實山積。〔謝朓、宣城郡內登望詩〕山積陵陽阻、溪流春穀泉。

【山岊】642（サンセツ）　山のくま。〔左思、吳都賦〕夤㆓緣山嶽之岊㆒、冪㆓歷江海之流㆒。〔注〕劉曰、許氏記字曰、岊、陬隅而山之節也。

【山雪】643 サンセツ　山に降り積つた雪。〔漢書、李廣利傳〕頼二天之靈一、從二泝河山一、涉二流沙一、通二西海一、山雪不レ積、士大夫徑度獲二王首一。〔杜甫、乾元中寓二居同谷縣一歌〕黃精無レ苗山雪盛、短衣數挽不レ掩レ脛。

【山節】644 サンセツ　柱頭のますぐみに山の形を刻する。山藻(428)を見よ。〔禮、禮器〕管仲鏤レ簋朱レ紘、山レ節藻レ梲、君子以爲レ濫矣。〔注〕栭謂二之節一。〔論語、公冶長〕山レ節藻レ梲。〔集解〕包咸云、節者栭也、刻鏤爲レ山、梲者梁上楹也、畫爲二藻文一、言二其奢侈一。〔爾雅、釋宮、栭謂二之楶一、疏〕禮器云、管仲山レ節者、謂下刻二柱頭一爲二斗拱一形如上山也。〔漢書、貨殖傳序〕山レ節藻レ梲。

【山絶】645 サンゼツ　連山の中斷すること。〔爾雅、釋山〕山絶、陘。〔注〕連山中斷絶。〔疏〕謂二山形連延、中忽斷絶者一、名レ陘。

【山川】646 サンセン　❶山と川。やまかは。山河。〔易、坎〕地險山川丘陵也。〔書、舜典〕望二于山川一、徧二于羣神一。〔詩、小雅、漸漸之石〕山川悠遠、維其勞矣。❷山川の神。〔論語、雍也〕雖レ欲レ勿レ用、山川其舍レ諸。〔集注〕山川、山川之神也。❸その土地の自然の景色。山水。〔李白、秋浦歌〕山川如二剡縣一、風日似二長沙一。〔杜甫、陪二鄭廣文一遊二何將軍山林一詩〕只疑淳樸處、別有二一山川一。❹ヤマカハ　姓氏。

【山川主】647 サンセンノシユ　土地山水を領してゐる主。一國の城主。〔武田信玄、偶作詩〕豎僧不レ識山川主、向レ我慇懃問二姓名一。

【山川酒】648 ヤマカハザケ　白酒（**8－22678**··569）の異名。山川の白濁なのに取る。〔雍州府志、六、土產門上〕山川酒、六條油小路酒店釀レ之、凡山間流水、多白而濁、此酒似二其色一而甘美、因號レ之。

【奠二山川一】649 サンセンヲサダム　高山大川によつて州境を別つこと。〔書、禹貢〕禹敷レ土、隨レ山刊レ木、奠二高山大川一。〔傳〕奠、定也、高山、五岳、大川、四瀆。

【山川相繆】650 サンセンアヒマトフ　山と川とが互に入りくむこと。〔蘇軾、赤壁賦〕山川相繆、鬱乎蒼蒼。

【山川之精】651 サンセンノセイ　山や川の神靈。〔莊子、胠篋〕上悖二日月之明一、下爍二山川之精一、中墮二四時之施一。

【山川之美】652 サンセンノビ　山や川のよい景色。自然の美景。〔陶弘景、答二謝中書一書〕山川之美、古來共談、高峰入レ雲、清流見レ底。

【山川震眩】653 サンセンシンゲンス　山や川がふるひをののく。震眩は、おどろいて目がくらむ。〔李華、弔二古戰場一文〕主客相搏、山川震眩。

【山川米聚】654 サンセンベイシユ　後漢の馬援が米を聚めて、山川溪谷の形勢を指示した故事。又、山川が米を聚めて作つた模型のやうに小さく見えること。〔後漢書、馬援傳〕又於二帝前一、聚レ米爲二山谷一、指二畫形勢一、開二示衆軍所レ從道徑往來一、分析曲折、照然可レ曉。〔長生殿、神訴〕俯視二塵寰一、山川米聚、吾乃天孫、織女是也。

【彈二壓山川一】655 サンセンヲダンアツス　山川を彈壓する。帝王の威をいふ。〔淮南子、本經訓〕牢二籠天地一、彈二壓山川一。〔王融、三月三日曲水詩序〕牢二籠天地一、彈二壓山川一。

【山川草木轉荒涼】656 サンセンサウモクウタタクワウリヤウ　金州城外の山川草木は、砲煙彈雨に打ち碎かれて凄まじく荒れはててゐる。乃木大將の詩句。〔乃木希典、金州城下作詩〕山川草木轉荒涼、十里風腥新戰場、征馬不レ前人不レ語、金州城外立二斜陽一。

【山尖】657 サンセン　山の頂。山頂。〔羅隱、蜂詩〕不レ論平地與二山尖一、無限風光盡被レ占。

【山泉】658 サンセン　❶山と泉。山水の景色。〔謝朓、直二中書省一詩〕安得二凌風翰一、聊恣二山泉賞一。❷山中の泉。〔王筠、望二夕霽一詩〕石溜正潨潺、山泉始澄汰。〔虞世南、奉二和幽山雨後一應令詩〕山泉鳴二石澗一、地籟響二巖風一。❸字號。㋑宋、汪儀鳳（**6－17154**··200）の號。㋺明、愼蒙（**4－11024**··88）の字。㋩明、劉澄甫（**2－2224**··1198）の號。

【山泉翁】659 サンセンヲウ　宋、趙必漣（**10－37171**··854）の號。

【山泉亭】660 サンセンテイ　宋、汪儀鳳（**6－17154**··200）の室名。

【山淺】661 サンセン　山の深くないこと。〔盧綸、酬下暢當尋二嵩岳麻道士一見上寄詩〕開レ雲種レ玉嫌二山淺一、渡レ海傳レ書怪二鶴遲一。〔試茶錄〕沙溪去二北苑西一十里、山淺土薄、茶生則葉細。

【山潛】662 サンセン　山中にかくれる。〔宋史、蘇雲卿傳〕雲卿風節高二於傅霖一、予期三與レ之共濟二當今一、山潛水沓、邈不レ可レ尋。

【山賤】663 ヤマガツ　❶山中に住む賤人。樵夫、杣人など。〔宇津保物語、藤原君〕山がつ民子ともなれ。❷山がつの住む家。〔曾丹集〕やまがつの垣根のうばら。

【山蘚】664 サンセン　山のこけ。〔陸龜蒙、山僧詩〕山蘚幾重生二草履一、澗泉長自滿二銅缾一。

【山前】665 サンゼン　山の前。〔盧綸、送下潘述應二宏詞一下レ第歸中江南上詩〕雨裏行二青草一、山前望二白波一。〔許渾、夏日寄二江上親友一詩〕雨過二山前一日未レ斜、清蟬嘒嘒落二槐花一。〔章碣、桃源洞詩〕山前空有二無情水一、猶繞當時碧樹林。

【山前獨活】666 サンゼンドククワツ　草の名。うどの一種。〔本草、獨活〕集解、頌曰、此物有二兩種一、西蜀者黃色、香如レ蜜、隴西者紫色、秦隴人呼爲二山前獨活一。

【山善】667 サンゼン　宋、兪宗亨（**1－1437**··116）の字。

【山膳】668 サンゼン　山中の御馳走。〔海錄碎事、飲食〕若擬レ營二山膳一、相隨折二晚菘一。

【山蟬】669 サンゼン　山中のせみ。〔沈佺期、游二少林寺一詩〕歸路烟霞晚、山蟬處處吟。〔李白、江上秋懷詩〕山蟬號二枯桑一、始復知二天秋一。

【山阻】670 サンソ　山が險しい。又、其の所。〔六韜、龍韜、王翼〕遠近險易、水涸山阻。〔後漢書、西羌傳〕其羸弱者、南入二山阻一。〔魏志、鄭渾傳〕興等破散、竄在二山阻一。

【山疏】671 サンソ　山のことがらを記した書物。〔陸龜蒙、寄二懷潤卿一詩〕高抱相逢各絶レ塵、水經山疏不レ離レ身。

【山鼠】672 サンソ　山のねずみ。〔許渾、與二張處士一同訪二李隱居林亭一詩〕霜肥橡栗留二山鼠一、月冷菰蒲散二水禽一。〔李孝光、鴈宕山記〕山上無二膏燭一、燒二木葉葦竹一爲レ明、山鼠來與レ人相向坐、如二狐狸大一。

【山蔬】673 サンソ　山中の野菜。山蔌。〔沈約、捨身願疏〕野粒山蔬、可二同屬饜一。〔孟郊、長安羇旅行〕野策藤竹輕、山蔬薇蕨新。〔方干、經二周處士故居一詩〕山蔬和レ草嫩、海樹入レ籬生。

【山走】674 サンソウ　山が走る。〔述異記、上〕桀時泰山、山走石泣、先儒說、桀之將レ亡、泰山三日泣、今泰山山石、遠望レ之、若二人泣一、蓋是也。

【山宗】675 サンソウ　山のをさ。泰山をいふ。〔禮、祭法、埋二少牢於泰昭一云云、疏〕古尚書說、天宗、日月星辰、地宗、岱河海也、日月爲二陰陽宗一、北辰爲二星宗一、河爲二水宗一、海爲二澤宗一、岱爲二山宗一。

【山叟】676 サンソウ　山中のおきな。山翁。〔晉書、山濤傳贊〕晉家求レ士、乃構二仙臺一、凌雲切レ漢、山叟知レ材。〔高適、漁父歌〕曲岸深潭一山叟、駐レ眼看レ鉤不レ移レ手。〔李紳、却望二無錫芙蓉湖一詩〕喜見雲泉還悵望、自慙山叟不レ歸レ山。

【山送】677 ヤマオクリ　野邊のおくり。葬送。〔撰集抄、六〕最後のやまおくりして、泣く泣く煙となし。

【山葱】678 サンソウ　野菜の名。❶茖葱（**9－30863**··1）の異名。ぎやうじやにんにく。行者韮。〔爾雅、釋草〕茖、山葱。〔本草、茖葱〕釋名、山葱、集解、頌曰、爾雅云、茖、山葱也、說文云、茖葱生二山中一、細莖大葉、食レ之、香美二於常葱一、宜レ入二藥用一、時珍曰、茖葱、野葱也、山原平地皆有レ之、生二沙地一者名二沙葱一、生二水澤一者名二水葱一、野人皆食レ之、開二白花一、結レ子如二小葱頭一、世俗不レ察二胡葱卽蒜葱一、誤指レ此爲二胡葱一、詳見二胡葱下一、保昇言、不レ入二藥用一、蘇頌言、入レ藥宜レ用二山葱胡葱一。❷藜蘆（**9－32326**··24）の異名。しゆろさう。〔急就篇、四、牡蒙・甘草・菀・藜蘆、注〕藜蘆、一名葱苒、一名山葱。〔本草、藜蘆〕釋名、山葱・葱苒・葱菼・葱葵・豐蘆・憨葱・鹿葱。

【山僧】679 サンソウ　❶山寺の僧。〔庾信、臥レ疾窮愁詩〕野老時相訪、山僧或見レ尋。〔王昌齡、送二東林廉上人歸二廬山一詩〕日暮東林下、山僧還獨歸。〔李白、秋浦歌〕閣與二山僧一別、低レ頭禮二白雲一。〔岑參、秋夜宿二仙遊寺一詩〕相識惟山僧、鄰家一釣翁。❷サンゾウ　僧侶の自稱代名詞。謙遜の語。野僧。〔趙州禪師語錄〕問、如何是賓中主、師云、山僧不レ問レ婦。❸比叡山延曆寺の僧徒。山門の僧。〔國史略、近衞天皇〕於レ是山僧奉二日吉神輿一、入レ京訴レ之。

【山層】680 サンソウ　山が幾重にも重なる。〔貫休、上二新定宋使君一詩〕水疊山層擘二草疏一、砧清月苦立二霜風一。

【山瘦】681 サンソウ　木の葉が落ちて山が細つて見えること。〔皮日休、懷二鹿門縣名離合一詩〕山瘦更培秋後桂、溪澄閑數晚來魚。〔尹廷高、八咏樓詩〕樓

高偏愛レ月、山瘦不レ勝レ秋。

【山藪】682 サンソウ　❶山と澤。山澤。一説に、林藪のある山。藪は水の無い澤。山藪藏レ疾を見よ。〔管子、問〕其就二山藪林澤一食レ薦者幾何。〔纂詁〕澤無レ水曰レ藪。〔後漢書、梁冀傳〕多拓二林苑一、禁同二王家一、包二含山藪一、遠帶二丘荒一、周二旋封域一、殆將二千里一。〔馬融、廣成頌〕儲二精山藪一、歷二思河澤一。〔沈約、爲二文惠太子一禮レ佛願疏〕水陸蠢動、山藪翾飛。❷山野に在つて仕へぬこと。在野。〔後漢書、謝弼傳〕臣山藪頑闇、未レ達二國典一。〔魏志、管寧傳、注〕惟陛下聽二野人山藪之願一、使二一老者得レ盡二微命一。〔南史、明僧紹傳〕僧紹曰、山藪之人、政當二鑿坏一以遁、若辭不レ獲レ命、便當レ依二戴公故事一。

〔山藪藏レ疾〕683 サンソウシツヲザウス　林藪のある山は毒蟲をも匿してゐる。小惡は大德を損ぜぬ喩。疾は毒蟲。〔左氏、宣、十五〕諺曰、高下在レ心、川澤納レ汙、山藪藏レ疾、瑾瑜匿レ瑕、國君含レ垢、天之道也。〔注〕山之有二林藪一、毒害者居レ之也、云云、晉侯恥レ不レ救レ宋、故伯宗爲說下小惡不レ損二大德一之喩上也。〔會箋〕山有レ木、藪有レ草、毒螫之蟲在二草木一、故倶云レ藏レ疾、疾、土訓職所謂地慝也、先鄭云、地所レ生惡物害レ人者、若二虺蝮之屬一。

【山足】684 サンソク　山のふもと。山脚。〔詩、大雅、旱麓、瞻二彼旱麓一、傳〕麓、山足也。〔漢書、班倢伃傳〕願歸二骨於山足一兮、依二松柏之餘休一。〔王僧孺、從子永寧令謙誄〕山足難レ曉、壟首易レ寒。〔徐浩、謁二禹廟一詩〕山足靈廟在、門前淸鏡流。

【山側】685 サンソク　山のかたはら。山旁。山腹。〔詩、召南、殷其靁〕殷其靁、在二南山之側一。〔王褒、洞簫賦〕徒觀三其旁二山側一兮。〔宋書、五行志二〕晉明帝太寧初、童謠歌曰、惻力惻力、放二馬山側一、大馬死小馬餓、高山崩石自破。〔江淹、別賦〕舟凝二滯於水濱一、車逶二遲於山側一。〔皮日休、茶焙詩〕九里共二杉林一、相望在二山側一。

【山蔌】686 サンソク　山中の蔬菜。山蔬。〔陳造、識二村翁語一詩〕山僧一生饜二山蔌一、溪叟所レ仰纔魚菽。

【山賊】687 サンゾク　山中に巢窟を構へ、村邑に出て賊をはたらく者。やまだち。綠林。山豪。〔後漢書、陳蕃傳〕零陵桂陽、山賊爲レ害。〔後漢書、陽球傳〕九江山賊起、連月不レ解。〔魏志、高貴鄕公髦紀〕昔南陽郡山賊擾攘。〔南史、謝靈運傳〕嘗自二始寧南山一、伐レ木開レ徑、直至二臨海一、從者數百、臨海太守王琇、驚駭謂爲二山賊一、末知二靈運一、乃安。

【山簇】688 サンゾク　山がむらがり集まる。〔吳師道、姑蘇臺詩〕吳波渺渺吳山簇、不レ見三嬌嚬倚二闌曲一。

【山屬】689 サンゾク　山が連なり續く。又、山のやうに連なる。〔韋承慶、靈臺賦〕或漫漫而川浮、或迢迢而山屬。

【山村】690 サンソン　山中の村落。山ざと。山邑。山邨。山郭。〔王勃、九成宮頌序〕山村野塾、家連二菌草之園一、谷飲川居、戶有二桃符之水一。〔杜甫、晚詩〕朝廷問二府主一、耕稼學二山村一。〔元結、與二瀼溪鄰里一詩〕日行幾十里、愛二君此山村一。〔杜荀鶴、山中對レ雪有レ作詩〕玉帳英雄攜レ妓賞、山村鳥雀共レ民愁。〔楊萬里、山村詩〕一搭山村一搭奇、亦堪二風物一索二新詩一。〔山水小牘〕侯元者上黨郡銅鞮縣山村之樵夫也。

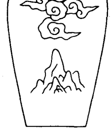
〔山村民〕691 サンソンミン　元、仇遠（1－355・・8）の號。

〔山村遺集〕692 サンソンヰシフ　書名。一卷。元、仇遠撰。項夢昶が諸書から遠の詩を輯めたもの。〔四庫提要、集、別集類〕。

〔山村蘇門〕693 ヤマムラソモン　信濃國木曾の人。名は良由。字は君裕。通稱は甚兵衞。號は蘇門。大內熊耳を師とす。官は名古屋藩家老・伊勢守。致仕後、淸音樓・仙鶴亭を造つて講述の業に從ふ。文政六年一月二十四日歿す、年八十二。著に木曾志・玉瀧紀行・絳維錄・三十韻唱和・時賢周旋集・淸音樓詩文集・淸音樓文集二編・淸音樓詩文集遺稿・蘇門文集・望月詩卷・忘形集がある。〔近代著述目錄後篇〕・〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕。

〔山村勉齋〕694 ヤマムラベンサイ　出雲國の人。名は良行、初名は十郞。字は聞伯。號は勉齋・半城。鹽谷宕陰・大沼枕山を師として、程朱の學を奉ず。官は出雲廣瀨藩儒。祖父の默齋・父の南陔の後を襲ぐ。明治五年藩學廢止の後、私塾修文館を開設し、遠近來つて教を受ける者、前後一千人を越えたといふ。明治四十年四月三十日歿す、年七十二。著に五經磨鏡錄（未刊）・四書磨鏡錄（未刊）・朱詩一斑・蘇詩一斑・勉齋遺稿がある。〔漢學者傳記及著述集覽〕。

【山尊】695 サンソン　❶夏后氏の酒樽。山雲の模樣を刻す。山樽。山罍。〔周禮、春官、司尊彝〕其再獻用二兩山尊一。〔注〕山尊、山罍也。明堂位曰、泰、有虞氏之尊也、山罍、夏后氏之尊、云云、山罍亦刻而畫レ之、爲二山雲之形一。❷山中で酒盛をする時のさかだるをいふ。〔李商隱、井泥詩〕蘿幄既已薦、山尊亦可レ開。〔虞集、竹雨山房詩〕竹間開二几席一、花底注二山尊一。❸清、吳鼒（2－3365・・202）の字。


❶山尊（三才圖會）

【山墮】696 サンダ　狹くて長い山をいふ。墮は狹くて長いものをいふ稱。〔爾雅、釋山〕巒、山墮。〔疏〕凡物狹而長謂二之墮一、則此言二山墮一者、謂二山形狹長者一、一名巒也。

【山帶】697 サンタイ　❶帶のやうに山にかかつた雲をいふ。〔廬山記〕天將レ雨、則有二白雲一、或冠二峯巒一、或亙二中嶺一、俗謂二之山帶一。❷字號。㋑清、吳韋（2－3365・・3）の字。㋺清、吳文煒（2－3365・・850）の字。

〔山帶閣〕698 サンタイカク　清、蔣驥（9－31820・・23）の室名。

〔山帶閣注楚辭〕699 サンタイカクチユウソジ　書名。六卷。附、楚辭餘論二卷・楚辭說韻一卷。清、蔣驥撰。先づ屈原の傳を冠し、その事跡を考へ、次に地理圖を列ねて原の涉歷を考ふ。餘論は諸家の注釋を辨證し、說韻は顧炎武・毛奇齡の說を攻駁してゐる。〔四庫提要、集、楚辭類〕。

【山碓】700 サンタイ　山中のからうす。〔岑參、題二山寺僧房一詩〕野爐風自爇、山碓水能舂。

【山態】701 サンタイ　山のすがた。山の形狀。山容。〔孟郊、汝州南潭陪二陸中丞公讌一詩〕山態變二初霽一、水聲流二新音一。〔杜牧、池州送二孟遲先輩一詩〕烟濕樹姿嬌、雨餘山態活。〔皎然、白雲上人精舍尋二杼禪師一云云詩〕夕霽山態好、空月生二俄頃一。

【山隤】702 サンタイ　山頹（703）に同じ。〔張融、海賦〕浪散波合、岳起山隤。

【山頹】703 サンタイ　山がくづれる。やまくづれ。山隤。山頹木壞を見よ。

〔山頹木壞〕704 ヤマクヅレキヤブル　泰山が頹れ、梁木が壞れる。孔子が歿せんとした時の語。轉じて、賢人の死をいふ。山頹梁摧。〔禮、檀弓上〕孔子蚤作、負レ手曳レ杖、消二搖於門一、歌曰、泰山其頹乎、梁木其壞乎、哲人其萎乎、既歌而入、當レ戶而坐、子貢聞レ之曰、泰山其頹、則吾將二安仰一、梁木其壞、哲人其萎、則吾將二安放一、夫子殆將レ病也、云云、夫子曰、云云、夫明王不レ興、而天下其孰能宗レ予、予殆將レ死也、蓋寢レ疾七日而沒。

〔山頹梁摧〕705 ヤマクヅレウツバリクダク　山頹木壞に同じ。

【山黛】706 サンタイ　山の峯や中腹に木などが茂つて眉墨のやうに見えるもの。〔沈周、過レ湖偶書詩〕疏處方淼然、山黛一眉塞。

【山體】707 サンタイ　山の形體。山の本體。山を形成してゐる體質。〔釋名、釋山〕山體曰レ石、石格也。〔易、咸、山上有レ澤咸、疏〕澤性下流、能潤二於下一、山體上承、能受二其潤一、以レ山感レ澤、所二以爲一レ咸。

【山大】707′ サンダイ　山が大きい。〔呂覽、諭大〕山大則有二虎豹熊螇蛆一。

〔山大丹〕708 コウワウクワ　木の名。らんたな。さんだんくわ。せいやうさんだんくわ。くまつづら科の小灌木で、花は黃色から次第に濃紅色に變ず。花期は周年。

〔山大夫〕709 サンタイフ　狒狒（7－20338・・2）の異名。〔本草、狒狒〕集解、時珍曰、按、方輿志云、狒狒、西蜀及處州山中亦有レ之、呼爲二人熊一、云云、閩中沙縣幼山有レ之、長丈餘、逢レ人則笑、呼爲二山大夫一、或曰二野人及山魈一也。

〔山大黃〕710 サンダイワウ　草の名。酸模（11－39871・・64）の異名。すいば。山羊蹄。〔本草、酸模〕釋名、山羊蹄・山大黃・蓨蕪・酸母・蓨當藥。

【山內】711 サンダイ・サンナイ　❶山の內。山中。❷寺院の境內。山は寺院の稱。〔東海道膝栗毛、六下〕此山內をくだりゆくさきに。❸ヤマウチ・ヤマノウチ　姓氏。

〔山內畏齋〕712 ヤマウチヰサイ　土佐國の人。名は規重。幼名は七郞。通稱は主馬。號は畏齋。高知藩に仕ふ。享保六年八月歿す、年四十。著に學否辨論がある。〔高知縣史〕。

【山內退齋】713ヤマノウチタイサイ　大阪の人。名は久作。字は新民。號は退齋。經學は程朱を宗とす。享保三年閏十月十二日歿す、年三十五。著に梧窓客談・語孟字義・三才辨義・辨論語古義・理氣辨論がある。〔大阪名家著述目錄〕。

【山柰】714サンダイ　草の名。粵中に產し、根は藥用となる。ばんうこん。山辣。山賴。三藾。〔本草、山柰〕釋名、山辣・三柰、時珍曰、山柰俗訛爲㆓三柰㆒、又訛爲㆓山賴㆒、皆土音也、或云、本名山辣、南人舌音呼㆑山爲㆑三、呼㆑辣如㆑賴、故致㆓謬誤㆒、其說甚通、集解、時珍曰、山柰生㆓廣中㆒、人家栽㆑之、根葉皆如㆓生薑㆒、作㆓樟木香氣㆒、土人食㆓其根㆒如㆑食㆑薑、切斷暴乾、則皮赤黃色、肉白色。

【山臺】715サンダイ　山中のうてな。〔鄭澣、後閣四松詩〕重陰羅㆓武庫㆒、細響靜㆓山臺㆒。

【山題】716サンダイ　髮飾の名。山形をなしたもので、額の前につける。〔後漢書、輿服志下、后夫人服〕皇后謁㆑廟、步搖以㆓黃金㆒爲㆓山題㆒、貫㆓白珠㆒。

【山刀】717ヤマガタナ　なた。樵夫が用ひるもの。〔本朝若風俗、五〕ほくそ頭巾に山がたなさして。

【山島】718サンタウ　山から成つた島。〔魏志、倭人傳〕倭人在㆓帶方東南大海之中㆒、依㆓山島㆒爲㆓國邑㆒。〔晉書、樂志下〕東臨㆓碣石㆒、以觀㆓滄海㆒、水河淡淡、山島竦峙。

【山桃】719サンタウ　桃の一種。山に產して實が小さい。やまもも。〔爾雅、釋木〕旄、冬桃、榹桃、山桃。〔注〕實如㆑桃而小、不㆑解㆑核。〔謝靈運、酬㆓從弟惠連㆒詩〕山桃發㆓紅蕚㆒、野蕨漸㆓紫苞㆒。〔注〕善曰、爾雅曰、榹、山桃也。〔齊民要術、五、槃果蓏菜茹非㆓中國物㆒者、桃〕廣州記曰、廬山有㆓山桃㆒、大如㆓檳榔形㆒、色黑而味甘酢。〔雍陶、過㆓舊宅㆒看㆑花詩〕山桃野杏兩三栽、樹樹繁花去復開。

【山桃復野桃日曝㆓紅錦之幅㆒】720サンタウマタヤタウヒハコウキンノフクヲサラス　山桃と野桃との花が日に映じて紅の錦の反物をさらしたやうに見える。紀齊名の詩句。〔和漢朗詠集、春興、紀齊名、逐㆑處花皆好序〕山桃復野桃、日曝㆓紅錦之幅㆒、門柳復岸柳、風綩㆓麴塵之絲㆒。

【山棠】721サンタウ サンダウ　木の名。やまなし。〔陰行先、和㆓張燕公湘中九日登高㆒詩〕山棠紅葉下、岸菊紫花開。

【山塘】722サンタウ　㊀山中のつつみ。〔珊瑚詩話、三〕婺州山中詩云、山塘莫㆓車水㆒、梅雨正分龍、亦方語也。㊁川の名。㋑江蘇省吳縣の西北。射瀆とも、石瀆ともいふ。唐の白居易、鑿つ。蘇州から虎丘に遊ぶものは多く道を此に取る。〔程嘉燧、金閶曲〕長夜牽㆑愁無㆓遠近㆒、山塘一望似㆓秋河㆒。㋺廣東省清遠縣の西南。東流して鴨浦水に合し、山塘墟を經て北江に入る。㊂驛の名。湖南省辰谿縣の南。

【山塘詞隱】723サンタウシイン　清、戈載(5－11530‥19)の號。

【山橙】724サンタウ　山中のだいだい。〔宋祁、山橙花詩〕漂泊江南春過盡、山橙彷彿慰㆓人心㆒。

【山濤】725サンタウ　㊀晉、河內懷の人。字は巨源。謚は康。老莊を好む。嵇康・呂安と善く、後、阮籍と竹林の遊をなし、七賢の一人に數へられる。官は武帝の時、吏部尙書となり、右僕射にうつり、侍中を加へらる。山公啓事(369)を見よ。〔晉書、四十三〕。㊁字號。㋑清、許嗣隆(10－35298‥302)の字。㋺清、李鏞(6－14459‥781)の字。

【山濤識量】726サンタウシキリヤウ　蒙求の標題。晉の山濤が卓識で器量があつた故事。〔蒙求、上、山濤識量〕晉書、山濤、字巨源、河內懷人、少有㆓器量㆒、云云、梁任昉爲㆘范雲讓㆓尙書吏部㆒表㆖云、在㆑魏毛玠公方、居㆑晉則山濤識量。

【山堂】727サンダウ　㊀山に在る家。山中の殿堂。山殿。〔水經、㶟水注〕眞容巨壯、世法所㆑希、山堂水殿、煙寺相望。〔王勃、武都山淨惠寺碑〕春巖橘柚、影入㆓山堂㆒、秋壑芙蓉、光浮㆓水殿㆒。〔曹組、艮嶽賦〕倣㆓隱士之山堂㆒、取㆓逸人之三徑㆒。㊁字號。㋑宋、陳堯道(11－41698‥810)の號。㋺元、三旦八(1－12‥1868)の字。㋩清、蔣仁(9－31820‥65)の字。㋥清、陳至言(11－41698‥910)の字。

【山堂考索】728サンダウカウサク　書名。前集六十六卷、後集六十五卷、續集五十六卷、別集二十五卷。宋、章如愚撰。前集は六經・諸子・百家・諸經・諸史・聖翰・書目・文章・禮樂・律呂・曆數・天文・地理の十三門。後集は官制・學制・貢擧・兵制・食貨・財用・刑法の七門。續集は經籍・諸史・文章・翰墨・律曆・五行・禮樂・封建・官制・兵制・財用・諸路・君道・臣道・聖賢の十五門。別集は圖書・經籍・諸史・文章・律曆・人臣・經藝・財用・兵制・四裔・邊防の十一門に分つ。宋の南渡以後、學者は率ね理學を崇び考索を輕んじたが、此の書は獨り博贍考辨して之を折衷した。〔四庫提要、子、類書類〕。

【山堂肆考】729サンダウシカウ　書名。二百二十八卷。補遺十二卷。明、彭大翼撰。萬曆二十三年に成り、後二十餘年で散佚したが、萬曆四十七年其の孫壻、張幼學が舊聞を尋繹して增訂し、遂に完帙を成した。凡て宮・商・角・徵・羽の五集に分ち、每集四十八卷。其の目、宮集は天文・時令・地理・君道・帝屬・臣職。商集は臣職・仕進・科第・學校・政事・親屬。角集は親屬・人品・形貌・性行・文學・字學・謚法・人事・誕育・民業。徵集は釋教・道教・神祇・僊教・鬼怪・典禮・音樂・技藝・宮室・器用・珍寶・幣帛・衣服・飮食。羽集は飮食・百穀・蔬菜・花品・草卉・果品・樹木・羽蟲・毛蟲・鱗蟲・甲蟲・昆蟲・補遺。〔四庫提要、子、類書類〕。

【山堂先生】730サンダウセンセイ　宋、章如愚(8－25761‥208)の尊稱。

【山道】731サンダウ　㊀山中の道路。やまみち。山路。〔漢書、西域上、尉頭國傳〕南與㆓疏勒㆒接、山道不㆑通。〔後漢書、隗囂傳〕來歙從㆓山道㆒襲得㆓洛陽城㆒。〔魏志、夏侯尙傳〕山道險難、彼不㆓我虞㆒、若以㆓奇兵㆒潛行、出㆓其不意㆒、則獨克之勢也。〔蜀志、張飛傳〕山道迮狹、前後不㆑得㆓相救㆒。㊁ヤマミチ ヤマヂ　姓氏。

【山宅】732サンタク　山中の家。山家。〔梁書、蕭眎素傳〕還㆓山宅㆒、獨居屛㆑事、非㆓親戚㆒不㆑得㆑至㆓其籬門㆒。

【山琢】733サンタク　清、徐越(4－10110‥18)の字。

【山澤】734サンタク　㊀山と澤。山林と藪澤。山皐。山藪。〔易、說卦〕天地定㆑位、山澤通㆑氣。〔禮、曲禮下〕問㆓國君之富㆒、數㆑地以對㆓山澤之所㆒㆑出。〔左氏、襄、十八〕晉人使㆔司馬斥㆓山澤之險㆒。〔孟子、滕文公上〕益烈㆓山澤㆒而焚㆑之、禽獸逃匿。〔管子、立政〕山澤不㆑救㆓於火㆒。〔漢書、高帝紀上〕高祖隱㆓於芒碭山澤閒㆒。〔陸機、吳趨行〕山澤多㆓藏育㆒、土風清且嘉。㊁風俗通の篇名。

【山澤臞者】735サンタククシヤ　元、張雨(4－9812‥42)の號。

【山澤之賦】736サンタクノフ　山澤の稅賦。〔周禮、天官、大宰〕七曰、關市之賦、八曰、山澤之賦。〔周禮、天官、大府〕山澤之賦、以待㆓喪紀㆒。

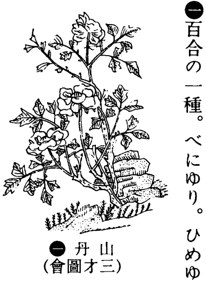
【山鵽】737サンタツ　鳥の名。〔曹植、七啓〕山鵽斥鷃、珠翠之珍。〔注〕善曰、爾雅曰、鵽鳩、冠雉、郭璞曰、鵽、大如㆑鴿、羣飛、出㆓北方沙漠㆒。

【山獺】738サンダツ　淫獸の名。〔本草、山獺〕集解、時珍曰、山獺出㆓廣之宜州嵠峒及南丹州㆒、土人號爲㆓挿翹㆒、其性淫毒、山中有㆓此物㆒、凡牝獸皆避去、獺無㆑偶則抱㆑木而枯、猺女春時成㆑羣入㆑山、以㆑采㆑物爲㆑事、獺聞㆓婦人氣㆒、必躍來抱㆑之、次㆑骨而入、牢不㆑可㆑脫、因扼㆓殺之㆒、負歸取㆓其陰㆒、一枚直金一兩、若得㆓抱㆑木死者㆒、尤奇貴、峒獠甚珍㆓重之㆒、私貨出㆑界者罪至㆑死、然本地亦不㆓常有㆒、方士多以㆓鼠璞猴胎㆒僞㆑之、試㆑之之法、但令㆘婦人摩㆑手極熱、取置㆓掌心㆒、以㆑氣呵㆖之、卽趯然而動、蓋陰氣所㆑感也、此說出㆓范石湖虞衡志・周草窓齊東野語中㆒、而不㆑載㆓其形狀㆒、亦缺文也。

【山沓】739サンタフ　山のやうに重なり合ふ。多いさま。〔蘇頲、封㆓東嶽㆒朝覲頌〕士馬山嶫、戈矛山沓、禎符山雜、靈響山答。

【山答】740サンタフ　山が答へる。山に反響する。山沓(739)を見よ。

【山塔】741サンタフ　山上の塔。〔袁中道、新安道上詩〕欲㆑登㆓山塔㆒都無㆑路、未㆑見㆓溪河㆒先有㆑聲。



山丹 ㊀
(三才圖會)

【山丹】742サンタン　㊀百合の一種。べにゆり。ひめゆり。紅花を開き、鱗莖は食用となる。姫百合。紅百合。〔本草、山丹〕釋名、紅百合・連珠・川強瞿・紅花菜、集解、詵曰、百合紅花者名㆓山丹㆒、其根食㆑之、不㆓甚良㆒、不㆑及㆓白花者㆒、時珍曰、山丹根似㆓百合㆒小、而瓣少、莖亦短小、其葉狹長而尖、頗似㆓柳葉㆒、與㆓百合㆒迥別、四月開㆓紅花㆒、六瓣不㆓四垂㆒、亦結㆓小子㆒、燕齊人采㆓其花跗未㆑

開者一、乾而貨レ之、名二紅花菜一。〔蘇軾、次二韻子由所居一詩〕堂前種二山丹一、錯落碼碯盤。〔仙遊志〕山丹花一葉百蕊、狀如二繡毬一、深紅花、一花四英、四月開レ花、至二八月一尙爛漫、又有二四時開レ花者一、曰二四時山丹一。㊁川の名。㋑源は甘肅省岷縣の東の城兒峪。東北流し武山縣を經て渭水に注ぐ。㋺源は甘肅省山丹縣の西南の祁連山の東北麓。西北流し張掖縣に至りて張掖河に注ぐ。㊂縣名。後魏、置く。漢の刪丹縣の地。隋、亦刪丹縣と稱し、元、山丹州と改稱し、明、州を廢して衞を置き、清、改めて縣を置く。今、甘肅省張掖縣の東。長城に接す。〔讀史方輿紀要、陝西、山丹衞〕刪丹廢縣卽今衞治、漢縣屬二張掖郡一云云、後魏曰二山丹縣一、仍屬二西郡一、西魏屬二甘州一、大業初復曰二刪丹縣一、仍屬二張掖郡一、唐屬二甘州一、西夏亦爲二刪丹縣一、元曰二山丹州一、明初改レ州爲レ衞。〔清史稿、地理志〕甘肅、甘州府、縣二、山丹。

【山端】743 ヤマノハ　㊀山のはし。山の一端。〔伊勢物語、第八十二段〕飽かなくにまだきも月の隱るるか、山のは逃げて入れずもあらなん。㊁遠くから望んで、山頂の空に接するあたり。〔萬葉集、十五〕山のはに月傾けば。

【山潭】744 サンタン　山中の深い淵。〔李賀、黃家洞詩〕山潭晚霧唫二白鼉一、竹蛇飛蠹射二金沙一。

【山男】745 ヤマヲトコ　山中の怪物。狒狒（7－20338‥2）の類。山丈。山精。山𤢖。

【山暖】746 サンダン　山中の暖かさ。又、山中が暖い。〔韓偓、出レ官經二硤石縣一詩〕溪長柳似レ帷、山暖花如レ釀。〔陸龜蒙、寄二茅山何威儀一詩〕山暖不レ葷峯上薤、水寒仍落洞中桃。

【山壇】747 サンダン　山上の祭壇。〔馬第伯、封禪儀記〕山虞觀二祭山壇及故明堂宮郎官等郊肆處一。

【山斷】748 サンダン　山がきれる。〔蘇軾、黃樓賦〕西望則山斷爲レ玦、傷レ心極レ目。〔陳羽、送三戴端公赴二容州一詩〕山斷旌旗出、天晴劍珮光。

〔山斷成レ壑〕749 ヤマタエテタニヲナス　山と山との間が切斷せられて谷を形づくつてゐる。壑は谷。〔齋藤竹堂、木曾紀行〕此地山斷成レ壑、飛棧以架レ之。

【山地】750 サンチ　㊀山と地。〔周易卦歌〕山地剝。㊁山の多い土地。

〔山地栗〕751 サンチリツ　草の名。やままつほど。土茯苓（3－4867‥472）の異名。山歸來。〔本草、土茯苓〕釋名、土萆薢・刺豬苓・山豬糞・草禹餘糧・仙遺糧・冷飯團・硬飯・山地栗、時珍曰、蘇頌圖經、猪苓下刺猪苓、皆此物也、今皆倂レ之、茯苓・猪苓・山地栗、皆象レ形也、俗又名二過岡龍一、謬稱也。

【山池】752 サンチ　㊀山と池。山陂。〔南齊書、崔祖思傳〕時罷二山池之威禁一、深抑二豪右之兼擅一、則兵民優贍、可二以出レ師。〔南史、庾詵傳〕性託夷簡、特愛二林泉一、十畝之宅、山池居レ半。〔梁簡文帝、南郊頌〕山池壯麗、階閣彤丹。㊁山中の池。山湫。〔貫休、寄二杭州靈隱寺宋震使君一詩〕月樹獼猴睡、山池菡萏疎。

【山坻】753 サンチ　山とこじま。坻は小渚。〔李康、運命論〕山坻之積在レ前矣。〔注〕翰曰、坻、小渚也。

【山雉】754 サンチ　雉の一種。やまどり。〔爾雅、釋鳥〕鷮、山雉。〔注〕尾長者。〔杜甫、課二小豎一鉏二斫舍北果林枝蔓一荒穢淨訖移レ牀詩〕山雉防二求敵一、江猿應二獨吟一。〔白居易、山雉詩〕適レ性遂二其生一、時哉山梁雉。

【山峙】755 サンヂ　山のやうにそばたつ。高樓のさま。〔王延壽、魯靈光殿賦〕羌瓌譎而鴻紛、屹山峙以紆鬱。〔卞蘭、許昌宮賦〕飛棟列以山峙、長塗邈以委蛇。〔王粲、白雪樓賦〕迢迢山峙、奕奕雲浮。

【山紬】756 サンチウ　山まゆのつむぎ。繭紬。〔王禹偁、黑裘詩〕野蠶自成レ繭、繰密爲二山紬一。

【山稠】757 サンチウ　山が多い。〔杜甫、寄二岳州賈司馬六丈巴州嚴八使君兩閣老一詩〕地僻昏二炎瘴一、山稠隘二石泉一。

【山鑄】758 サンチウ　山から金銀を採つて錢を鑄ること。〔唐書、食貨志〕出二內府之積一、收二市廛之滯一、廣二山鑄之數一、限二邊裔之出一、禁二私家之積一、則貨日重、而錢日輕矣。

〔山鑄海煑〕759 サンチウカイシヤ　山から金銀を採つて錢を鑄、海水を煮て鹽を製する。物產の豐富なこと。〔史記、吳王濞傳〕既盜鑄レ錢、煑二海水一爲レ鹽。〔許棠、送三李員外知二楊子州留務一詩〕冶例開レ山鑄、民多酌レ海煎。

【山茶】760 サンチヤ　木の名。葉は厚く硬く、冬、凋まず。單瓣・重瓣、紅・白・黃・斑等數種あり。花、春を盛とするをつばき（海石榴）とし、之に比して樹・葉・花・實共に小さく、花、冬を盛とするをさざんくわ（茶梅）とする。山茶花を誤つて茶山花（サザンクワ）と讀む。茶に似て飲用となるから名を得た。一名、曼陀羅樹。〔本草、山茶〕釋名、時珍曰、其葉類レ茗、又可レ作レ飲、故得二茶名一。集解、時珍曰、山茶產二南方一、樹生高者丈許、枝幹交加、葉頗似二茶葉一、而厚硬有レ稜、中闊頭尖、面綠背淡、深冬開レ花、紅瓣黃蕊、格古論云、花有二數種一、寶珠者花簇如レ珠最勝、海榴茶花蒂青、石榴茶中有二碎花一、躑躅茶花如二杜鵑花一、宮粉茶・串珠茶皆粉紅色、又有二一捻紅・千葉紅・千葉白等名一、不レ可二勝數一、葉各小異、或云、亦有二黃色者一、虞衡志云、廣中有二南山茶一、花大倍二中州者一、色微淡、葉薄有レ毛、結レ實如レ梨、大如レ拳、中有二數核一、如二肥皁子大一。〔酉陽雜俎續集、支植上〕山茶似二海石榴一、出二桂州一、蜀地亦有。〔酉陽雜俎續集、支植下〕山茶葉似レ茶、樹高者丈餘、花大盈レ寸、色如レ緋、十二月開。〔羣芳譜〕山茶、一名曼陀羅樹、高者丈餘、低者二三尺、枝幹交加、葉似二木樨一、硬有レ稜、稍厚中闊寸餘、兩頭尖長三寸許、面深綠光滑、背淺綠、經レ冬不レ脫、以二葉類レ茶、又可レ作レ飲、故得二茶名一、花有二數種一、十月開至二二月一。〔倭名類聚抄、草木部下、木類、椿〕楊氏漢語抄云、海石榴。〔箋注〕按、酉陽雜俎云、山茶似二海石榴一、山茶卽茶梅、今俗呼二左左無花一者、則海石榴爲二豆波岐一爲レ允、今人以二山茶一卽爲二豆波岐一、恐非。〔和漢三才圖會、灌木類、山茶花〕左牟佐久波、字之音也、誤如レ曰二茶山花一、按、山茶花、其樹葉花實、與二海石榴一同而小、其葉如二茶葉一、其實圓長形、如レ梨而有二微毛一、可二小梅大一、老則裂、中有レ核三四顆、搾レ油多二於海石榴一、凡種レ子者必不レ佳、可レ接レ枝、凡山茶花冬爲レ盛、海石榴花春爲レ盛。

【山茶花】761 サザンクワ　木の名。山茶（760）を見よ。〔貫休、山茶花詩〕風裁日染開二仙囿一、百花色死猩血謬。

【山長】762 サンチヤウ　㊀山中に隱居して子弟を教へる人。山中の長者の義。五代の蔣維から出た語。〔荊湘近事〕五代蔣維東隱二居衡岳一、受レ業者號曰二山長一。〔宋史、雷簡夫傳〕簡夫、字太簡、隱居不レ仕、出入乘レ牛冠二鐵冠一、自號二山長一。㊁元の官名。書院・塾などの長。山主。〔元史、選擧志一〕凡師儒之命二於禮部及行省及宣慰司一者、曰二學正・山長・學錄・敎諭一、路州縣及書院置レ之、縣設二敎諭一員・山長一員一。〔稱謂錄、書院掌敎、山長〕趙時中遊二龍門山一記、有二東西中三書院一、皆名儒碩士授二受生徒一、至二百人一、置二山長一以領レ之、正今之所謂山長也。㊂山が長く連なる。〔庾信、周車騎大將軍賀婁公神道碑〕道阻山長、妻孤子幼。〔王勃、早春野望詩〕江曠春潮白、山長曉岫青。㊃字號。㋑宋、雷簡夫（12－42245‥177）の號。㋺清、王岱（湘潭の人）（7－20823‥736）の字。

〔山長水遠〕763 ヤマナガクミヅトホシ　山水が遠く連なること。遠く隔たる喩。〔許渾、將レ爲二南行一陪二尙書崔公一宴二海榴堂一詩〕謾誇二書劍一無二歸處一、水遠山長步步愁。〔戴復古、靜齋張敏則舍人贈レ詩因用二其韻一爲レ酬詩〕葉落花開關二氣數一、山長水遠是功名。〔明一統志〕常州府形勝、山長水遠、氣秀地靈。

【山頂】764 サンチヤウ　山のいただき。山顚。山椒。山尖。山冢。山頭。山峯。〔爾雅、釋山〕山頂、冢。〔注〕山顚。〔疏〕毛傳云、山頂曰レ冢。〔水經、河水注〕山頂泉流、瀑布懸瀉。〔劉禹錫、客有下爲レ余話登二天壇一遇レ雨之狀上因以賦レ之詩〕山頂自晶明、人間已霶霈。〔杜荀鶴、秋日臥レ病詩〕山頂老猨啼二古木一、渡頭新鴈下二平沙一。

【山丈】765 サンヂヤウ　山中の怪物。狒狒（7－20338‥2）の類。雄を山丈、雌を山姑といふ。〔海錄碎事、鳥獸、走獸〕嶺南皆有、一足反踵、手足皆三指、雄曰二山丈一、雌曰二山姑一、夜扣二人門一、雄求二金繒一、雌求二脂粉一。

【山場】766 サンヂヤウ　㊀山地をいふ。〔芝田錄〕會昌開成中、含元殿換二一柱一、敕二右軍一采造、云云、下二盩厔山場一、彌レ年未レ構。㊁山中で茶稅を收める所。〔宋史、食貨志下五〕在二淮南一、則蘄・黃・廬・舒・光・壽六州、官自爲レ場、置レ吏總レ之、謂二之山場一者十三、六州采茶之民皆隸焉、謂二之園戶一。〔元史、世祖紀七〕丁卯弛二山場樵採之禁一。

〖山場地〗767 shan^1 ch'ang^3 ti^4 山地。

【山中】768（サンチユウ） 山のなか。やまなか。山內。山裏。〔易、大畜〕天在㆓山中㆒、大畜。〔左氏、桓、十二〕明日絞人爭出、驅㆓楚役徒于山中㆒。〔史記、楚世家〕靈王於㆑是獨徬㆓徨山中㆒。〔王維、送㆓梓州李使君㆒詩〕山中一半雨、樹杪百重泉。

〖山中宰相〗769（サンチユウサイシヤウ） ❶山中に隱れて國家の大事の諮詢に與るもの。梁の陶弘景の故事。〔南史、陶弘景傳〕國家每㆑有㆓吉凶征討大事㆒、無㆑不㆓前以諮詢㆒、月中常有㆓數信㆒、時人謂爲㆓山中宰相㆒。〔稗史〕趙呵曰、太師來、童笑曰、但識㆓山中宰相㆒、不㆑知㆓朝內太師㆒、趙曰、宰相何人、童曰、公欲㆑見我爲㆑導、既至㆓草舍㆒而已。❷宰相の材能を有して空しく山中に終るものをいふ。〔宋史、鄧孝甫傳〕其略曰、予自謂、山中宰相有㆓其才㆒也、自謂、文昌先生虛有㆓其詞㆒也、不㆑得㆔大用㆓於盛世㆒、亦無㆑憾焉、蓋有㆓天命㆒爾。

〖山中天水〗770（ヤマナカテンスイ） 伊勢の人。初、名は宣。字は宣卿。後、名は恕之、字も恕之。通稱は猶平。號は天水・鈴山・晴霞亭。山本北山に學び、學は折衷を主とす。教授の旁ら著述に從事し、寬政二年九月六日歿す、年三十三。著に鉛槧規・學頤・雅談一丁・格言樞機・韓文讀法・官職探賾・經傳晰名義・教學解・肯綮解・古今詩評・左傳考證・周易考證・周易發蘊・四書考證・資治一鑑・尙書精蘊・諸子傳謬・助字率・諸草紺珠・諸草紺珠後編・晴霞亭遺稿・性名論・阻勸集・天水詩稿・詩草紺珠・文章紺珠後編・毛詩知原・濫觴編・歷代指掌・論語發蘊がある。〔先哲叢談、後、七〕・〔近代著述目錄後篇〕。

〖山中白雲〗771（サンチユウハクウン） 山中の白雲。山中の白雲は我が心を悅ばしむるものであるが、持して君に贈ることは出來ない。訪問の客を謝する詞。〔陶弘景、詔問㆓山中何所㆒㆑有賦㆑詩以答詩〕山中何所㆑有、嶺上多㆓白雲㆒、只可㆓自怡悅㆒、不㆑堪㆓持寄㆒㆑君。〔書言故事、天文類〕謝㆓客訪㆒、曰㆓山中惟白雲而已㆒。

〖山中白雲詞〗772（サンチユウハクウンシ） 書名。八卷。宋、張炎撰。炎は特に長短句に巧で、春水詞を以て名を得た。〔四庫提要、集、詞曲類〕。

〖山中無㆓曆日㆒〗773（サンチユウレキジツナシ） 山中に棲めば、のん氣で月日の移ることを知らない。曆日は、こよみ。〔太上隱者、答㆑人詩〕偶來㆓松樹下㆒、高㆑枕石頭眠、山中無㆓曆日㆒、寒盡不㆑知㆑年。

〖山中問答詩〗774（サンチユウモンダフシ） 詩篇の名。唐、李白作。古來、古詩一韻到底格の詩の平仄式の模範とせらる。〔李白、山中問答詩〕問㆑余何意栖㆓碧山㆒、笑而不㆑答心自閑、桃花流水杳然去、別有㆔天地非㆓人間㆒。

〖山中人不㆑信㆑有㆓魚大如㆒㆑木〗775（サンチユウノヒトハウヲノオホキサキノゴトクナルモノアルヲシンゼズ） 山中に棲む人は、魚の大きさに木程のものがあるのを信じない。井の中の蛙大海を知らずの意。見聞の狹い喩。〔顏氏家訓、歸心〕山中人不㆑信㆑有㆓魚大如㆒㆑木、海上人不㆑信㆑有㆓木大如㆒㆑魚。

〖破㆓山中賊㆒易破㆓心中賊㆒難〗776（サンチユウノゾクヲヤブルハヤスクシンチユウノゾクヲヤブルハカタシ） 山賊を打ち破るのはやさしいが、私心を去るのは難い。精神修養の困難なことをいふ。明の王守仁が南方の蠻賊を征するときの語。〔陽明全書、一、與㆓楊仕德薛尙謙㆒書〕卽日已抵㆓龍南㆒、明日入㆑巢、四路兵皆已如㆑期竝進、賊有㆓必破之勢㆒、某向在㆓橫水㆒、嘗寄㆓書仕德㆒云、破㆓山中賊㆒易、破㆓心中賊㆒難、區區翦㆓除鼠竊㆒、何足㆑爲㆑異、若諸賢掃㆓蕩心腹之寇㆒、以收㆓廓清平定之功㆒、此誠大丈夫不世之偉績。

【山仲】777（サンチユウ） 明、璩光岳(**7－21271**··1)の字。

【山廚】778（サンチユウ） 山中のくりや。山庖。〔王維、過㆓崔駙馬山池㆒詩〕脫㆑貂貰㆓桂醑㆒、射㆑雁與㆓山廚㆒。〔岑參、春半與㆓群公㆒同遊㆓元處士別業㆒詩〕山廚竹裏爨、野碓藤間舂。〔白居易、重題㆓草堂東壁㆒詩〕雲生㆓澗戶㆒衣裳潤、嵐隱㆓山廚㆒火燭幽。

【山蟲】779（サンチユウ） 山中のむし。〔江總、山庭春詩〕野花寧待㆑晦、山蟲詎識㆑秋。〔盧照鄰、宴㆓梓州南亭㆒詩〕水鳥翻㆓荷葉㆒、山蟲咬㆓桂枝㆒。

【山苧】780（カラムシ） 苧麻の和名。麻の一。春宿根から叢生し、高さ四五尺。葉は楮に似て互生し枝がなく背が白い。夏、葉間に長穗をたて、青色の碎小花を開く。〔天治本字鏡、七〕枲、加良牟志。

【山樗】781（サンチヨ） 木の名。ごんずゐ。樗に似て色白く、山中に生ずる。栲。〔爾雅、釋木〕栲、山樗。〔注〕栲似㆑樗、色小白、生㆓山中㆒、因名云、亦類㆓漆樹㆒。〔本草、椿樗〕釋名、香者名㆑椿、臭者名㆑樗、山樗名㆑栲、虎目樹、大眼桐。

【山豬】782（サンチヨ） 獸の名。豪豬(**10－36406**··97)の別名。やまあらし。山猪。〔本草、豪豬〕釋名、蒿豬・山豬・豲貐・貆豬・鸞豬、時珍曰、說文云、豪豕鬣如㆓筆管㆒者、能激㆑毫射㆑人故也。〔桂海虞衡志、志獸〕山豬卽豪豬、身有㆓棘刺㆒、能振發以射㆑人、二三百爲㆑羣、以害㆓禾稼㆒、州洞中甚苦㆑之。

〖山豬糞〗783（サンチヨフン） 草の名。土茯苓(**3－4867**··472)の異名。山歸來。〔本草、土茯苓〕釋名、土萆薢・刺豬苓・山豬糞・草禹餘糧・仙遺粮・冷飯團・硬飯・山地栗。

【山女】784（サンヂヨ） ❶山に棲む女。〔王勃、深灣夜宿詩〕江童暮理㆑楫、山女夜調㆑砧。〔鈕崧、廣州雜詠詩〕越童蕩㆑槳唱㆓蠻歌㆒、山女簪㆑花艷㆓綺羅㆒。❷あけびの異名。〔字鏡、五十三〕䕡、山女也、阿介比。❸（ヤマヲンナ）山中の怪物。山姑。〔書言字考節用集、五、氣形門〕山女、野婆、山姑。❹（アケビ）越中國の地名。

〖山女原〗785（アケビハラ） 近江國の地名。

【山重】786（サンチヨウ　サンヂユウ） ❶山のかさなり。山が重なる。山の多いさま。〔江總、特進光祿大夫徐陵墓誌銘〕地迴雲低、山重樹小。〔宋之問、高山引〕水一曲兮腸一曲、山一重兮悲一重。〔李華、寄㆓趙七侍御㆒詩〕搖槳曙江流、江清山復重。〔雍陶、蜀中戰後感事詩〕蜀道英靈地、山重水又回。❷山のやうに重い。恩の深いさま。〔江淹、爲㆓蕭驃騎㆒讓㆓油幢㆒表〕臣忝㆑爵山重、蒙㆑榮海深。〔李商隱、偶成轉韻贈㆓四同舍㆒詩〕彭門十萬皆雄勇、首戴公恩若㆑山重。

【山冢】787（サンチヨウ） 山の頂。〔詩、小雅、十月之交〕百川沸騰、山冢崒崩。〔傳〕山頂曰㆑冢。〔漢書、劉向傳〕百川沸騰、山冢卒崩。

【山澄】788（サンチヨウ） 山色が清らかに澄む。〔齊己、秋日錢塘作詩〕海浸全吳白、山澄百越青。

【山珍】790（サンチン） 山中に產する珍物。山琛。山珍海錯を見よ。

〖山珍海味〗791 shan^1 chên^1 hai^3 wei^4 山海からとれた珍らしい御馳走。山海の珍味。

〖山珍海錯〗792（サンチンカイサク） 山海に雜出する珍らしい物。錯は入りまじる。山海珍錯の互文。山海の珍味。盛饌をいふ。〔韋應物、長安道詩〕山珍海錯棄㆓藩籬㆒、烹㆑犢炰㆑羊如㆑折㆑葵。

【山琛】793（サンチン） 山中に生ずる珍寶。琛は寶。山珍。〔宋書、夷蠻傳論〕山琛水寶、由㆑茲自出。

【山椿】794（サンチン） 北人が樗をいふ稱。ごんずゐ。山樗。〔本草、椿樗〕釋名、藏器曰、俗呼㆑椿爲㆓猪椿㆒、北人呼㆑樗爲㆓山椿㆒、江東呼爲㆓虎目樹㆒、亦名㆓虎眼㆒、謂、葉脫處有㆑痕、如㆓虎之眼目㆒、又如㆓樗蒲子㆒、故得㆓此名㆒。

【山鎭】795（サンチン） 其の國土の鎭めとして崇める名山、又は高山。鎭守の山。〔周禮、夏官、職方氏〕東南曰㆓揚州㆒、其山鎭曰㆓會稽㆒。〔注〕鎭、名山安㆓地德㆒者也。〔張祜、洞庭南館詩〕地盤雲夢角、山鎭洞庭心。

【山陣】796（サンヂン） 山中の陣營。〔庾信、周柱國大將軍拓拔儉神道碑銘〕風雲積㆑慘、山陣連㆑陰。

【山隧】797（サンツイ） 山がくづれる。隧は墜。山崩。〔荀子、儒效〕武王之誅㆑紂也、行之日以㆓兵忌㆒、東面而迎㆓太歲㆒、至㆑汜而汎、至㆑懷而壞、至㆓共頭㆒而山隧。〔注〕共頭、蓋共縣之山名、隧、謂㆓山石崩摧㆒也、隧、讀爲㆑墜。

【山丁】798（サンテイ） 山地の壯丁。〔宋史、何異傳〕異募㆓山丁㆒、捕㆓首亂者㆒。

【山氐】799（サンテイ） 山中の氐族。氐は巴蜀附近に蟠居した種族の名。〔魏書、中山王元英傳〕會㆔山氐竝反、斷㆓英歸路㆒、英勒㆑衆奮擊、且戰且行。

【山低】800（サンテイ） 山がひくい。〔白居易、從㆑陝至㆓東京㆒詩〕從㆑陝至㆓東京㆒、山低路漸平。〔徐璣、中川別㆓舍弟㆒詩〕江迴風來急、山低月落遲。

【山弟】801（サンテイ） 山中に棲む己より年下の親友。〔李洞、贈㆓王鳳二山人㆒詩〕山兄望㆓鶴信㆒、山弟聽㆓烏占㆒。

【山底】802（サンテイ） 山のふもと。山麓。〔新論、正賞〕山底行者、望㆓嶺樹㆒如㆑簪、視㆓岫虎㆒如㆑犬。〔方干、題㆓睦州烏龍山禪居㆒詩〕晨雞未㆑暇㆑鳴㆓山底㆒、早日先來照㆓屋東㆒。

【山邸】803（サンテイ） 山中の邸宅。〔隋煬帝、秦孝王誄〕背㆓離宮㆒而東轉、歷㆓山邸㆒而北度。

【山亭】804 サンテイ　山中のあづまや。〔博異記、岑文本〕貞觀中、文本下レ朝、多於二山亭一避暑。〔唐太宗、山閣晚秋詩〕山亭秋色滿、巖牖涼風度。〔沈佺期、白蓮花亭侍レ宴應制詩〕水殿黃花合、山亭絳葉深。〔高駢、山亭夏日詩〕綠樹陰濃夏日長、樓臺倒レ影入二池塘一。〔東京夢華錄、七、淸明節〕各攜二棗餬・炊餠・黃胖・掉刀・名花・異果・山亭戲具・鴨卵・雞雛一、謂二之門外土儀一。

【山庭】805 サンテイ　❶山の廣場。〔宋孝武帝、拜二衡陽文王義季墓一詩〕昧旦憑二行軾一、濡露及二山庭一。〔庾信、思舊銘〕嵇叔夜之山庭、尙多二楊柳一。❷鼻ばしらの高いこと。又、鼻ばしら。鼻を庭の築山に比していふ。〔王褒、太保吳武公尉遲綱碑銘〕珠角應レ期、山庭表レ德。〔任昉、王文憲集序〕況乃淵角殊レ祥、山庭異レ表。〔注〕善曰、〔論語〕摘輔像曰、子貢山庭斗繞レ口、謂三面有二山庭一、言三山在レ中、鼻高有二異相一也。

【山梯】806 サンテイ　梯子のやうな山中の險路をいふ。〔穆寂、南蠻北狄朝見賦〕磧路誠遙、委二毳幕氈裘之質一、山梯雖レ險、致二穿胸儋耳之形一。

【山程】807 サンテイ　山中の旅路。〔皇甫曾、烏程水樓詩〕山程隨二遠水一、楚思在二靑楓一。〔李紳、過二荊門一詩〕帆勢侵レ雲滅又明、山程背レ日昏還見。〔姚合、送二徐州韋僅行レ軍詩〕山程度二函谷一、水驛到二夷門一。

【山鼎】808 サンテイ　山中から出たかなへ。〔海內十洲記〕是以太上名二山鼎於五方一、鎭二地理一也、號二天柱於珉城一、象二綱輔一也。〔宋書、樂志四〕明德孚レ敎、幽符麗レ紀、山鼎見レ奇、醴液涵レ祉。

【山泥】809 サンデイ　山中のどろみち。〔虞集、送三王照磨之二官雲南一詩〕飛鳶愁二暑雨一、走馬畏二山泥一。

【山鳥】810 サンテウ　❶山に棲む鳥。山禽。〔嵇康、贈二秀才入レ軍詩〕魚龍瀺灂、山鳥羣飛。〔南齊書、顧歡傳〕每旦出レ戶、山鳥集二其掌一取レ食。〔沈佺期、人日重宴二大明宮一詩〕山鳥初來猶怯レ囀、林花未レ發已偸レ新。〔杜甫、獨坐詩〕水花寒落レ岸、山鳥暮過レ庭。〔白居易、遊二寶稱寺一詩〕野猿疑レ弄レ客、山鳥似レ呼レ人。❷ヤマドリ　鳥の名。鶉雞類の一。形、雉に似、雄は長尾を有し、頭は黃金色、胴に赤褐黃金白黑の斑紋あり、脚に小距を有する。雌は背に黑と褐色との斑紋あり、腹は淡白で小黑斑を有する。山雞。〔萬葉集、八〕足引の山鳥こそは、峯向ひに妻問すとへ。

【山跳】811 サンテウ　山がをどり上がる。〔楊萬里、雪巢賦〕夜半風作、頓撼二林薄一、天駭地愕、山跳海躍。

【山嘲】812 サンテウ　淸、祝昌（8－24672··62）の字。

【山堞】813 サンテフ　山上のひめがき。〔皎然、陪二盧判官水堂夜宴一詩〕靜依二山堞一近、涼入二水扉一偏。

【山疊】814 サンデフ　山が幾重にも重なる。〔杜牧、行次二白沙館一詩〕夜程何處宿、山疊樹層層。〔溫庭筠、盤石寺留二別成公一詩〕山疊楚天雲壓レ塞、浪遙吳苑水連レ空。〔方干、夏日登二靈隱寺後峯一詩〕山疊雲霞際、川傾世界東。

【山店】815 サンテン　山中で物を賣る家。山上の茶屋。たうげの茶屋。〔岑參、漢川山行呈二成少尹一詩〕山店雲迎レ客、江村犬吠レ船。

【山靛】816 ヤマアヰ　草の名。りうきうあゐ。きつねのまご科の宿根草で暖國の山野に自生し、夏、淡紫色の藍花を開く。山藍。

【山轉】817 サンテン　己が移動する爲に、山が轉じうつるやうに見えること。山がめぐり連つて見えること。〔沈佺期、幸二白鹿觀一應制詩〕天流芝蓋下、山轉桂旗斜。〔唐庚、雜興詩〕山轉秋光曲、川長暝色橫。〔王十朋、游二天衣寺一序〕林麓靜深、山轉徑迂、烟靄出沒、初行若レ迷。〔馬祖常、北行詩〕山轉疑レ無レ路、溪深似レ有レ雲。

【山轉林蔽】818 ヤマテンジハヤシオホフ　山はめぐつて位置をかへ、林は路をおほひかくす。山轉を見よ。〔柴野栗山、進學喩〕山轉林蔽、杳不レ見二影響一也。

【山顚】819 サンテン　山のいただき。山頂。山巓。〔詩、小雅、漸漸之石、維其卒矣、箋〕卒者崔巍也、謂二山顚之末一也。〔易林、比之第八、屯〕釣二鯉山顚一。〔唐書、食貨志三〕陝郡太守李齊物、鑿二砥柱一爲レ門以通レ漕、開二其山顚一爲二輓路一、燒レ石沈レ醯而鑿レ之。〔杜甫、陪二李梓州王閬州蘇遂州李果州四使君一登二惠義寺一詩〕鶯花隨二世界一、樓閣寄二山顚一。

【山巓】820 サンテン　山のいただき。山顚。山杪。山嶺。〔宋玉、高唐賦〕仰視二山巓一、肅何芊芊。〔潘岳、藉田賦〕若三茂松之依二山巓一也。〔華山記〕山巓有レ池、生二千葉蓮華一、服レ之羽化、因曰二華山一。

【山田】821 サンデン　❶山中の田獵に適したところ。山の狩場。〔周禮、地官、山虞〕若大田獵、則萊二山田之野及弊田一。〔疏〕若田在レ山、則山虞芟二萊草木於可レ陳之處一。〔義疏〕山田、山所レ宜レ田之處、迹人所レ掌邦田之地、是也。❷山間の田地。やまだ。〔管子、山國軌〕大家衆、小家寡、山田閒田、曰、終歲其食不レ足二於其人一若干、則置二公幣一焉。〔漢書、楚元王傳〕免爲二庶人一、屛二居山田一。〔後漢書、淳于恭傳〕家有二山田果樹一、人或侵盜、輒助爲二收採一。〔顏延之、重釋二何衡陽達性論一〕薄從二歲事一、躬歛二山田一。〔杜甫、溪上詩〕塞俗人無レ井、山田飯有レ沙。〔六部成語、戶部、山田、注解〕山中之田土也。

【山田蠖堂】822 ヤマダクワクダウ　米澤の人。名は政苗。字は實成。號は蠖堂。安政年間の人。經學は程朱を主としたが、敢て墨守せず。官は米澤藩儒。著に蠖堂遺稿初集がある。〔國書解題〕。

【山田慥齋】823 ヤマダザウサイ　京都の人。名は聽。字は思叔。通稱は綱二郎。號は慥齋。文化年間の人。官は佐野藩儒。著に經世叢談・經濟隨筆・先哲懿言貞行錄・四邊沿海全圖一舖・北裔圖說集覽・北裔備考草稿・補訂祭祀來格說がある。〔近代著述目錄、後篇〕・〔國書解題〕。

【山田鼎石】824 ヤマダテイセキ　美濃國の人。名は瑛。字は子成。號は鼎石・貞石。江村北海を師とす。詩に巧。大垣藩に仕ふ。寬政十二年一月十二日歿す、年八十一。著に鼎石詩集がある。〔美濃文教史要〕。

【山田方谷】825 ヤマダハウコク　備中國の人。名は球。字は琳卿。通稱は安五郞。號は方谷。學は王陽明を奉じて、孔孟を以て歸とし、實學經綸を旨とす。官は松山藩儒・參政。維新後、備中北部刑部・備前閑谷黌教授。明治十年六月二十六日歿す、年七十三。正五位を贈らる。著に義喪私議・獻策國字稿・集義和書類抄・資治通鑑講義手記・師門問辨錄・大學講義（門人筆記）・中庸講（門人筆記）・方谷遺稿・方谷詩文集・孟子養氣章或問圖解がある。

【山田奉行】826 ヤマダブギヤウ　德川時代、伊勢の山田に駐在して、神宮を警護した役。〔東職紀聞、二〕山田奉行一人、住二山田一、掌二彼地一切事一之職也。

【山甸】827 サンデン　山のふもとの原野。〔江淹、爲二蕭驃騎一解三嚴輸二黃鉞一表〕故乃馳二羽江郊一、騖二燧山甸一。

【山畋】828 サンデン サンテン　山中のかり。畋は狩獵。山蒐。〔柳宗元、武岡銘〕山畋澤獻、輸二賦于都一。

【山傳】829 ヤマヅタヒ　山から山とつたひ行く。〔夫木和歌抄、二十七〕友猿の山づたひする。

【山殿】830 サンデン　山中の殿堂。山堂。〔庾肩吾、亂後經二夏禹廟一詩〕林堂上二偃蹇一、山殿下二穹窿一。〔綦毋潛、鶴林寺詩〕松覆二山殿一冷、花藏二谿路一遙。〔錢起、宴二鬱林觀一詩〕竹壇秋月冷、山殿夜鐘淸。

【山斗】831 サント　泰山北斗の略。人の仰ぎ尊ぶものの喩。泰斗。〔唐書、韓愈傳贊〕自二愈沒一、其言大行、學者仰レ之、如二泰山北斗一。〔文天祥、謝二何樞密夢然一啓〕山斗之望、彌久而彌穹。

【山徒】832 サント　比叡山延曆寺の僧。山法師。〔日本外史、源氏前記、平氏〕延曆寺僧徒與レ之、合レ兵入二京師一犯レ闕、重盛以二三千騎一衞二宮門一、擊卻レ之、山徒不レ服、還圖二再擧一。

【山途】833 サント　山の道。山路。〔魏書、裴衍傳〕搖レ策納レ屣、便陟二山途一。

【山都】834 サント　❶狒狒（7－20338··2）の異名。〔爾雅、釋獸〕狒狒、如レ人被レ髮、迅走食レ人。〔注〕山海經曰、其狀如レ人、面長脣黑、身有レ毛反踵、見レ人則笑、交廣及南康郡山中亦有二此物一、大者長丈許、俗呼レ之曰二山都一。〔本草、狒狒〕附錄、山都、時珍曰、任昉述異記云、南康有レ神、曰二山都一、形如レ人、長二丈餘、黑色、赤目黃髮、深山樹中作レ窠、狀如二鳥卵一、高三尺餘、內甚光彩、體質輕虛、以二鳥毛一爲レ褥、二枚相連、上雄下雌、能變化隱レ形罕レ覩、其狀若二木客山𤢖之類一也。❷縣名。秦、置く。故城は湖北省襄陽縣の西北。〔漢書、地理志上〕南陽郡、縣三十六、山都。〔後漢書、岑彭傳〕夜勒二兵馬一、申二令軍中一、使三明旦西擊二山都一。

【山圖】835 サント　❶古の仙人の名。〔後漢書、西南夷、莋都傳〕土出二長年神藥一、仙人山圖所レ居焉。〔注〕劉向列仙傳曰、山圖、隴西人、好二乘馬一、馬蹋折レ腳、山中道士教下服二地黃當歸羌活玄參一、服一年、不レ嗜レ食、病愈身輕、追二道士一問レ之、自云、五岳使人、之二名山一採レ藥、能隨レ吾、汝便不レ死、

山圖追隨、人不㆓復見㆒六十餘年、一旦歸來、行㆓母服於冢閒㆒、朞年復去、莫㆑知㆑所㆑之也。〔左思、蜀都賦〕山圖采而得㆑道、赤斧服而不㆑朽。〔注〕向曰、山圖・赤斧、列仙名。❷明、樊維甫（6－15414・・79）の字。

【山土】836 サンド　山の土。山壤。〔高啓、菜薖爲㆓余唐鄉㆒賦詩〕桔槔倚㆑樹長不㆑用、江南雨多山土肥。

【山奴】837 サンド　仙草。何首烏の五十年を經たものをいふ。山精（608）の❹を見よ。

【山東】838 サントウ　❶山の東。〔爾雅、釋山〕山西曰㆓夕陽㆒、山東曰㆓朝陽㆒。〔疏〕謂㆓山頂之東、皆早朝見㆑日。❷戰國時代の齊・楚・燕・韓・魏・趙の六國の稱。崤函の東にあるからいふ。〔戰國、趙策〕六國從親以擯㆑秦、秦必不㆘敢出㆓兵於函谷關㆒以害㆗山東㆖矣。〔戰國、秦策〕頓弱曰、山東戰國有㆑六、威不㆑掩㆓於山東㆒而掩㆓於母㆒。❸太行山以東をいふ。〔史記、晉世家〕文公四年十二月、晉兵先下㆓山東㆒。〔章碣、焚書坑詩〕坑灰未㆑冷山東亂、劉項元來不㆑讀㆑書。❹華山以東の地をいふ。山東出㆑相山西出㆑將（842）を見よ。❺灣の名。渤海の山東の沿海に灣入した處。遼東・直隸の二灣と遙かに相對す。灣內には龍口通商港がある。❻省の名。中國の東部、黃河の下流域。東は黃海・渤海に臨み、北と西とは河北省に、南は江蘇省に、西南は河南省に界す。禹貢の青・徐及び兗・豫四州の域。周の青・兗・豫三州の地。春秋時代の齊・魯及び衞・宋・曹・滕・薛・郳・莒・杞諸國の地。故に別稱を魯といふ。金が、京東を改めて山東となしてから始めて山東の名あり、太行山の東にあるによる。治は歷城縣（濟南）。四道一百七縣を領す。東部は突出して山東半島となり、海岸には小灣列島が多い。その山脈は長白山脈に根ざし、遼東半島から海を越えて來り、中央に至つて突起して泰山（東嶽）となる。半島の西部は黃河流域に當り、廣漠な原野をなし、川の南流するものは淮水に入り、東北流するものは黃河と並行して渤海に入る。交通は、縱貫する運河と共に津浦鐵路・膠濟鐵路等が走り、至便である。又、氣候は大陸・海洋の二性を兼ね、比較的溫和である。農產物は二麥・粟・豆を主とし、鑛產は嶧縣の坊子の石炭、金嶺鎭の鐵、博山の玻璃等が有名である。海濱には鹽多く、又、工藝に草帽緶がある。〔讀史方輿紀要、山東〕禹貢、海岱惟青州、周禮職方、正東曰㆓青州㆒、春秋時齊地、其在㆓天文㆒虛危、則齊分野、亦兼㆓魯衞之疆㆒、秦幷㆓天下㆒、置㆓齊郡・東都・薛郡・琅邪及遼東等郡㆒、漢置㆓十三州㆒、此亦爲㆓青州及兗州地㆒、後漢因㆑之、魏晉亦置㆓青兗二州㆒、永嘉以後、陷㆓於石勒及慕容皝㆒、後又入㆓於苻堅㆒、堅敗歸㆓於晉㆒、尋復爲㆓慕容德所㆑據、義熙六年、劉裕克㆓南燕㆒、復置㆓青州及兗州㆒、劉宋時兼置㆓冀州㆒、其後入㆓於後魏㆒、魏亡、屬㆓高齊㆒、尋爲㆓後周所㆑幷、其分析不㆑可㆓得而詳㆒也、隋亦置㆓十三部㆒、而不㆑詳㆑所㆑統、唐貞觀初、分㆓天下㆒爲㆓十道㆒、河濟以南屬㆓河南道㆒、以北屬㆓河北道㆒、宋初、隸㆓京東路及河北路㆒、後又增㆓置京東西路㆒、金人分㆓山東東路及山東西路㆒、元亦置㆓益都・濟都・濟南等路㆒、直隸隸㆓中書省㆒、明初置㆓山東等處承宣布政使司㆒、領㆓府六㆒、屬㆓州十五、縣八十九㆒、而衞所㆔參㆓列其閒㆒、今仍爲㆓山東布政使司㆒云云、東據㆑海、西接㆓梁宋㆒、北走㆓燕趙㆒。〔山東通志〕山東古青兗之地、連㆓徐北豫東之境㆒、春秋戰國時、爲㆓齊・魯・趙・魏・宋・衞・曹・滕・薛・莒・郳・郯諸國㆒、秦滅㆓諸侯㆒、分㆓天下㆒爲㆓四十郡㆒。

【山東菜】839 サントウサイ　野菜の名。中國原產の一年草で、春、白黃色の花を開く。

【山東傖夫】840 サントウサウフ　宋、周密（2－3441・・482）の號。

【山東通志】841 サントウツウシ　書名。三十六卷。清の山東巡撫、岳濬等監修。陸鉞・張鳳儀の二志を補正したもの。凡て、典謨・星野・建置・城池・疆域・山川・形勝・圻封（附、徽后功臣）・古蹟（附、宮室碑碣）・巡狩（附、歷代封禪）・闕里・田賦（附、糧道儲雜稅・恩卹）・鹽法・學校・選擧・兵法・驛遞・河防・漕運・海疆（附、膠萊海運）・秩祀（附、寺觀）・橋梁・風俗・物產・職官・公署（附、郵政）・宦績・人物・烈女・仙釋・方伎（附、流寓）・陵墓・五行・經籍・藝文・雜記の三十六門に分つ。〔四庫提要、史部、地理類〕。

【山東出㆑相山西出㆑將】842 サントウシヤウヲイダシサンセイシヤウヲイダス　秦漢以來、山東（華山以東の地）の地は宰相を出し、山西の地は武將を出したことをいふ。宰相には漢の蕭何・曹參・魏相・丙吉・韋賢・韋玄成・陳平・孔光・翟方進は皆山東から出、武將には秦の白起・王翦、漢の公孫賀・傅介子・李廣・李蔡・趙充國・狄道・辛武賢は皆山西から出た。關西出㆑將關東出㆑相（11－41470・・109）を見よ。〔漢書、趙充國辛慶忌傳贊〕秦漢已來、山東出㆑相、山西出㆑將。〔後漢書、虞詡傳〕諺曰、關西出㆑將、關東出㆑相。〔注〕前書曰、秦漢以來、山東出㆑相、山西出㆑將、秦時、郿白起・頻陽王翦、漢興、義渠公孫賀・傅介子、成紀李廣・李蔡、上邽趙充國・狄道・辛武賢、皆名將也、丞相則蕭・曹・魏・丙・韋・平・孔・翟之類也。〔援鶉堂筆記〕按、山之東西、以㆓華山㆒言㆑之。

【山燈】843 サントウ　山中のともしび。〔賈島、宿㆓懸泉驛㆒詩〕林月値㆓雲遮㆒、山燈照㆓愁寂㆒。〔太平廣記〕于頔爲㆓襄州㆒、點㆓山燈一㆒、上㆑油二千石。〔乾淳歲時記〕二鼓上乘㆓小輦㆒、幸㆓宣德門㆒、觀㆓鰲山山燈㆒、凡數千百種、極㆓其新巧㆒、怪怪奇奇、無㆑所㆑不㆑有。

【山頭】844 サントウ　❶山の頂。山頂。〔魏志、任城王彰傳、注〕魏略曰、太祖在㆓漢中㆒、而劉備栖㆓於山頭㆒、使㆓劉封下挑戰㆒。〔列仙傳、王子喬〕至㆑時果乘㆓白鶴㆒駐㆓山頭㆒。〔庾信、春賦〕百丈山頭日欲㆑斜、三晡未㆑醉莫㆑還㆑家。❷死體を燒く所。燒場。多く山上にあつたからいふ。〔水滸傳、二十六回〕小人買㆓了一陌紙㆒、去㆓山頭㆒假做㆓人情㆒。

【山頭石】845 サントウノイシ　望夫石をいふ。望夫石（5－14368・・132）を見よ。

【山頭撮合】846 サントウサツガフ　男女の野合すること。〔還魂記、圓駕〕肯㆘和㆓生人㆒做㆗山頭撮合㆖。

【山磴】847 サントウ　山の阪路。山にのぼる石階。〔呂祖謙、游㆓赤松山㆒記〕復循㆓山磴㆒、游㆓於物外㆒、喬木倚㆑天、澗流清壯、此問㆔桃源之津所㆓從始㆒也。

【山藤】848 サントウ　❶㋑山中に生じた藤。〔鄭谷、短褐詩〕閑披㆓短褐㆒杖㆓山藤㆒、頭不㆓是僧㆒心是僧。㋺草の名。とうつるもどき。とうつるもどき科の木質上昇性植物で、亞熱帶に產し、春、白色の花を開く。❷ヤマフヂ　草の名。まめ科の宿根草で、山地に自生し、四月頃、紫色の花を開く。

【山洞】849 サンドウ　山の洞穴。〔述異記、下〕荊州清溪秀璧諸山山洞、往往有㆓乳窟㆒、窟中多㆓玉泉交流㆒。〔劉得仁、題㆓王處士山居㆒詩〕溪雲常欲㆑雨、山洞別開㆑春。

【山桐】850 サンドウ　山ぎり。〔淮南子、脩務訓〕山桐之琴、澗梓之腹、雖㆓鳴廉修營㆒、唐牙莫㆓之鼓㆒也。

【山童】851 サンドウ　山中に育つた子供。山に住む幼童。〔孫逖、奉㆔和崔司馬遊㆓雲門寺㆒詩〕覺㆑路山童引、經行谷鳥從。〔王勃、益州綿竹縣武都山淨惠寺碑〕山童采㆑葛、入㆓丹竇㆒而忘㆑歸、野老紆㆑花、向㆓青溪㆒而不㆑返。〔李白、答㆓從弟幼成㆒詩〕山童薦㆓珍果㆒、野老開㆓芳尊㆒。〔張籍、秋居詩〕野客留㆑方去、山童取㆑藥歸。

【山童隔㆑竹敲㆓茶臼㆒】852 サンドウタケヲヘダテテチヤキウヲタタク　山童が竹林の向ひ側で茶臼をひいてゐる。山居の閑靜なさまを敍した句。〔柳宗元、夏晝偶作詩〕南州溽暑醉如㆑酒、隱㆑机熟眠開㆓北牖㆒、日午獨覺無㆓餘聲㆒、山童隔㆑竹敲㆓茶臼㆒。

【山僮】853 サンドウ　山家のわかもの。〔楊廷秀、貍詩〕檢校不㆑知渠去處、山僮報道黑衣郎。

【山銅】854 サンドウ　山中の銅鑛。〔漢書、伍被傳〕采㆓山銅㆒以爲㆑錢、煑㆓海水㆒以爲㆑鹽。

【山禿】855 サントク　山に草木のないこと。山髡。〔張宣、駐鶴樓詩〕疎烟截㆓山禿㆒、微月露㆓天罅㆒。

【山瀆】856 サントク　五岳（1－257・・120）・四瀆（3－4682・・614）をいふ。山川の神靈なもの。〔顏延之、三月三日曲水詩序〕昬緯昭應、山瀆效㆑靈。〔注〕翰曰、山、謂㆓五岳㆒、瀆、謂㆓四瀆㆒也、云云、言㆘五岳四瀆呈㆓其神靈㆒、以示㆗我福㆖也。

【山隫】857 サントク　山𧯳に同じ。〔說文〕谿、山隫無㆑所㆑通者。

【山𧯳】858 サントク　通ずる所のない谿水。注ぐ所のないみぞ。山隫。〔爾雅、釋山〕山𧯳無㆑所㆑通谿。〔注〕所謂窮瀆者、雖㆑無㆑所㆑通、與㆓水注㆑川同㆑名。〔疏〕𧯳、卽溝瀆也、山有㆑𧯳、而無㆓通流㆒者、名㆑谿。

【山衲】859 サンナフ　山僧のころも。僧衣。衲はころも。〔馬戴、齋後寄㆓白閣僧㆒詩〕久披山衲壞、孤坐石牀寒。〔梅堯臣、題㆓松林院㆒詩〕木魚傳㆓飯鼓㆒、山

衲見二歸僧一。

【山南】860 サンナン　❶山の南側。山陽。〔書、禹貢〕既修二太原一、至二于岳陽一。〔傳〕山南曰レ陽。〔周禮、秋官、柞氏〕令下刊二陽木一而火上レ之。〔注〕生二山南一爲二陽木一。〔穀梁、僖、二十八〕水北爲レ陽、山南爲レ陽。❷太華・終南山の南の地。又、山の南に位する國をいふ。山北（974）の❷の對。〔史記、魏世家〕所レ亡二于秦一者、山南山北、河外河內、大縣數十、名都數百。〔後秦錄〕朕本以二龍驤一建レ業、龍驤之號、未二嘗假一レ人、今特以相授、山南之事一以委レ卿。❸道の名。唐の貞觀の初、置く。終南・太華の南方に在るからいふ。東は荊楚に接し、西は隴蜀に到り、南は大江を控へ、北は商華の山に到る。統ぶる所の域內の州は、荊州（湖北省）・襄州（湖北省）・鄧州（河南省）・唐州（河南省）・隨州（湖北省）・郢州（湖北省）・復州（湖北省）・均州（湖北省）・房州（湖北省）・峽州（湖北省）・歸州（湖北省）・夔州（四川省）・萬州（四川省）・忠州（四川省）・梁州（後、褒州といふ、陝西省）・洋州（陝西省）・金州（陝西省）・商州（陝西省）・鳳州（陝西省）・興州（陝西省）・利州（四川省）・閬州（四川省）・開州（四川省）・果州（四川省）・合州（四川省）・渝州（四川省）・涪州（四川省）・渠州（四川省）・蓬州（四川省）・壁州（四川省）・巴州（四川省）・通州（四川省）・集州（四川省）。治は襄州、今の湖北省襄陽縣治。後、分れて山南東西道となる。〔唐書、地理志〕太宗元年、因二山川形便一分二天下一爲二十道一、一曰關內、二曰河南、三曰河東、四曰河北、五曰山南、六曰隴右、七曰淮南、八曰江南、九曰劍南、十曰嶺南。❹縣名。漢、置く。今の廣東省海南島。

〔山南隱逸〕861 サンナンインイツ　元、劉應龜（**2**－**2224**・・719）の號。

【山南西道】862 サンナンセイダウ　道の名。唐の上元の初、山南西道節度使を置く。治は梁州。今の陝西省南鄭縣の東。梁・洋・集・壁・文・通・巴・興・鳳・利・開・渠・蓬の十三州を領し、興元の初、兼ねて閬・果・金の三州を領す。文州は別に西川に隸す。今の陝西省の漢中道及び四川省東川道・嘉陵道北部の地。〔讀史方輿紀要、州域形勢、唐〕明皇增二飾舊章一、分二十五道一、云云、曰、山南東、治二襄州一、自二荊州一至二萬州一皆屬焉、以二山南道一分置、曰、山南西、治二梁州一、自二梁州一至二渠州一皆屬焉。

〔山南先生〕863 サンナンセンセイ　元、劉應龜（**2**－**2224**・・719）の號。

【山南東道】864 サンナントウダウ　道の名。唐の天寶中、南陽節度使を置く。治は鄧州。至德中、治を襄州に移し、山南東道といふ。荊・襄・鄧・唐・隨・郢・復・均・房・峽・歸・夔・萬等の州を領す。今の湖北省江以北西部、河南省の西南部及び四川省東部の地。山南西道を見よ。

〔山南老屋〕865 サンナンラウヲク　清、王學浩（**7**－**20823**・・1265）の室名。

〔山南海北〕866 shan^{1} nan^{2} hai^{2} pei^{3}　遠く離れた土地をいふ。

【山熱】867 サンネツ　山が熱い。〔宋之問、入二瀧川江一詩〕潭蒸水沫起、山熱火雲生。〔高啓、送三張司勳赴二寶慶同知一詩〕山熱蛇懸レ樹、江晴鶴浴レ沙。

【山農】868 サンノウ　❶山間に棲む農夫。〔周禮、地官、掌葛〕掌三以レ時徵二絺綌之材于山農一。〔疏〕所三以徵二絺綌於山農一者、以三其葛出二於山一故也。❷字號。㋑清、葉洮（**9**－**31387**・・99）の自稱。㋺清、陳治（**11**－**41698**・・463）の字。

【山坡】869 サンパ　山中の坂になつたところ。〔宋史、食貨志上四〕熙州王韶、又請以二河州蕃部近城川地一招二弓箭手一、以二山坡地一招二蕃兵弓箭手一。

〔山坡子〕870 shan^{1} p'o^{1} tzŭ　山坂。

【山陂】871 サンパ　❶山中のさか。山坂。〔詩、秦風、車鄰、阪有レ漆、疏〕李巡曰、陂者、謂二高峯山陂一。〔後漢書、張衡傳〕託二山陂一以二孤魂一。❷サンピ　山と池。山池。陂はいけ。〔古詩十九首〕千里遠結レ婚、悠悠隔二山陂一。〔注〕陂、水也。〔李益、蓮塘驛詩〕五月渡二淮水一、南行遶二山陂一。

【山破】872 サンパ　山が破れさける。〔神仙傳、王烈〕往視レ之、乃見二山破石裂一。〔獨孤及、風后八陣圖記〕星馳天旋、雷動山破。〔姚合、夏中苦雨詩〕雷怒疑二山破一、池渾似二土流一。

【山杯】873 サンパイ　山中でかもした濁酒。山中のさけ。山醪。〔杜甫、聞三惠子過二東溪一詩〕崖蜜松花熟、山杯竹葉春。〔注〕本中曰、山杯、一作二村醪一。〔李賀、憶二昌谷山居一詩〕土甑封二茶葉一、山杯鎖二竹根一。

【山背】874 サンパイ　❶山のうしろ。山後。〔裴說、春暖送二人下第一詩〕春樹添二山背一、晴雲學二曉煙一。〔桂海虞衡志〕綵巖在二八桂堂後一、支徑登レ山、大半有レ洞、曲轉穿二出山背一。❷ヤマシロ　㋑山城の古稱。〔日本書紀、神功紀〕爰武內宿禰等選二精兵一、從二山背一出之、至二菟道一、以屯二河北一。㋺伊豫國及び加賀國の地名。

〔山背子〕875 shan^{1} pei^{1} tzŭ　❶柳條で編んだ簍をかつぎ、それに炭菓物などを入れて運搬するを業とする者。❷山のぼりの強力。がうりき。

【山敗】876 サンパイ　火が山を燒いて山がやぶれる。〔左氏、昭、五〕離爲レ火、火焚レ山、山敗、于レ人爲レ言、敗レ言爲レ讒、故曰、有レ攸レ往、主人有レ言、言必讒也。

【山梅】877 サンバイ　山中の梅。〔崔顥、舟行入レ剡詩〕山梅猶レ作レ雨、谿橘未レ知レ霜。〔喩鳧、元日卽事詩〕山水柳烟中重、山梅雪後眞。〔畫梅譜〕十種其法有二枯梅・新梅・繁梅・山梅・疎梅・野梅・宮梅・江梅・園梅・盤梅一、其木不レ同、不レ可レ無レ別也。

【山莓】878 サンバイ　いちごの一種。木いちご。山いちご。葥。〔爾雅、釋草〕葥、山莓。〔注〕今之木莓也、實似二藨莓一而大、亦可レ食。〔本草、懸鉤子〕釋名、沿鉤子・葥・山莓・木莓・樹莓。

【山庖】879 サンパウ　山中のくりや。山廚。山中の料理。〔張采、水軒書事招二壽安僚友一詩〕東縣官曹誰過レ我、欲下酤二村酒一具中山庖上。

【山苞】880 サンパウ　山のねもと。山麓。苞は本。〔詩、大雅、常武〕如二山之苞一、如二川之流一。〔傳〕苞、本也。

【山砲】881 サンパウ　大砲の一種。山地の戰爭に使用する。野砲より小形で、砲身・車輪等は取りはづして、別々に馬に負はせるやうに作られてゐる。

【山房】882 サンバウ　山中のいへ。山家。山莊。❶民舍をいふ。〔唐書、李德裕傳〕又按下屬州非二輕祠一者上、撤二私邑山房千四百舍一、寇無レ所二廋蔽一。❷寺宇をいふ。〔戴叔倫、二靈寺守歲詩〕守二歲山房一迥絕レ緣、燈光香炧共蕭然。〔李洞、贈二徐山人一詩〕山房古竹麤二於樹一、海島靈童壽等レ龜。〔施肩吾、題二山僧水閣一詩〕山房水閣連二空翠一、沈沈下有二蛟龍睡一。〔溫庭筠、宿二白蓋峯寺一詩〕山房霜氣晴、一宿遂二平生一。❸書室をいふ。〔宋史、李常傳〕少讀二書廬山白石僧舍一、既擢レ第、留二所レ抄書九千卷一、名レ舍曰二李氏山房一。

【山房集】883 サンバウシフ　書名。九卷。宋、周南撰。前集八卷。後稿一卷。其の文は四六に巧で、特に制誥の諸篇は最も訓詞の體を得てゐる。〔四庫提要、集、別集類〕。

〔山房隨筆〕884 サンバウズイヒツ　書名。一卷。元、蔣子正撰。宋末元初の事を記し、賈似道の國を誤つた始末を詳敍す。〔四庫提要、子、說家類〕。

〔山房先生〕885 サンバウセンセイ　字號。❶宋、方逢振（**5**－**13620**・・614）の尊稱。❷宋、林夢英（**6**－**14551**・・434）の尊稱。

【山旁】886 サンバウ　山のかたはら。山側。〔詩、大雅、韓奕、維禹甸レ之、疏〕謂下治二山旁之地一、有二水之處一、使上成二平田一也。〔易林、未濟之第六十四、姤〕生蘗二山旁一。〔宋史、方偕傳〕每歲先二社日一、調二民數千一、鼓二譟山旁一、以達二陽氣一、偕以爲レ害レ農、奏罷レ之。〔朱桃、椎茅茨賦〕野外孤標、山旁迥出。

【山帽】887 サンバウ　冠の一種。〔宋史、注輦國傳〕謹遣二專使等五十二人一、奉二土物一來貢、凡眞珠衫帽各一、眞珠二萬一千一百兩、象牙六十株、乳香六十斤。

【山貌】888 サンバウ　山のかたち。山容。〔李白、宣城青溪詩〕山貌日高古、石容天傾側。〔鮑溶、秋晚銅山道中宿二隱者一詩〕野言得二眞風一、山貌宜二古服一。

【山蝱】889 サンバウ　山中のあぶ。〔張籍、江村行〕水淹二手足一盡爲レ瘡、山蝱繞レ衣飛撲撲。

【山濼】890 サンハク　山麓の陂池。濼は陂池。濼は泊（**6**－**17275**）に同じ。〔宋史、楊戩傳〕所レ築山濼、古鉅野澤、綿亙數百里。

【山白】891 サンハク　山の色が白い。山が月に照らされて明るいこと。〔盧綸、送二永陽崔明府一詩〕浪淸風乍息、山白月猶明。〔趙秉文、無盡藏賦〕山不二與レ月期一、月照而山白。

〔山白竹〕892 サンバクチク　山に生ずる竹の一種。やぎばささ。〔本草、竹〕山白竹、卽山間小白竹也。

【山伯】893 サンパク　❶山のをさ。〔談賓錄〕王知遠本瑯琊人也、少聰敏、博二綜羣書一、初入二茅山一、師二事陶弘景一、傳二其道法一、後謂二弟子潘師正一曰、見二仙

格㆒、以㆔吾小時悞㆓損一童子吻㆓、不㆑得㆓白日昇天㆒、今見㆑召爲㆓少室山伯㆒、將㆓行在㆒、卽翌日沐浴加㆓冠衣㆒焚㆑香而卒、年一百二十六歲、諡曰、昇元先生云。㊁仙藥。何首烏の百五十年を經たものをいふ。山精(608)の㊃を見よ。

【山柏】894 サンパク　山中の柏。〔江淹、爲㆓蕭太傅㆒謝㆔追㆓贈父祖㆒表〕大榮集㆑身、尙驚㆓異施㆒、況寵洽㆓山柏㆒、特振殊造、銷骨瀝命、猶不㆑勝㆑謝。〔沈佺期、從㆓驩州廨宅㆒移㆓住山間水亭㆒贈㆓蘇使君㆒詩〕山柏張㆓青蓋㆒、江蕉卷㆓緑油㆒。〔墨藪〕眞行書薛稷如㆘風驚㆓苑花㆒、雪惹㆗山柏㆖。

【山魄】895 サンパク　山のたましひ。山靈。〔薛季宣、遊㆓善權洞㆒詩〕蝶舞凝㆓山魄㆒、花開想㆓玉顏㆒。

【山麥】896 サンバク　山中の麥。〔蘇軾、白帝廟詩〕破甑蒸㆓山麥㆒、長歌唱㆓竹枝㆒。〔楊萬里、明發㆓黃土龕㆒過㆓高路㆒詩〕嶺雲放㆑脚寒垂㆑地、山麥掀㆑髯翠拂㆑天。

【山瀑】897 サンバク　山中のたき。〔李賀、北中寒詩〕爭瀯海水飛凌喧、山瀑無㆑聲玉虹懸。〔廼賢、居庸關詩〕恐㆑辜殷勤情、解㆑鞍看㆓山瀑㆒。

【山伐】898 サンバツ　山の竹木を伐採すること。〔漢書、地理志下〕江南地廣、或火耕水耨、民食㆓魚稻㆒、以㆓漁獵山伐㆒爲㆑業。〔注〕師古曰、山伐、謂㆔伐㆑山取㆓竹木㆒。

【山拔】899 ヤマヌケ　山くづれ。山崩。

【山半】900 サンパン　山の中腹。山腹。〔水經、沔水注〕呼㆓山下人㆒令㆑上㆓山半㆒、與語㆓溪中㆒。〔鄭谷、宿㆓澄泉蘭若㆒詩〕山半古招提、空林雪月迷。〔杜荀鶴、登㆓山寺㆒詩〕山半一山寺、野人秋日登。〔華山志〕華山去㆓陽山㆒東南五里、山半有㆓大壑㆒、曰㆓天池㆒。

【山伴】901 サンパン　山旅の道づれ。〔皎然、送㆓祕上人遊㆑京詩〕共㆑君方異㆑路、山伴與㆑誰同。

【山阪】902 サンパン　山中の坂路。山坂。やまさか。〔書、立政、盧烝㆔亳阪尹、疏〕其山阪之地立㆑長爾。〔漢書、鼂錯傳〕今匈奴地形技藝與㆓中國㆒異、上㆓下山阪㆒、出㆓入溪澗㆒、中國之馬弗㆑與也。〔魏志、王肅傳〕今又加㆑之以㆓霖雨㆒、山阪峻滑、衆逼而不㆑展、糧縣而難㆑繼。

【山畔】903 サンパン　山のほとり。〔周繇、津頭望㆓白水㆒詩〕晴江暗漲岸吹㆑沙、山畔船銜樹杪斜。〔羅鄴、宿㆓武安山㆒有㆑懷詩〕野店暮來山畔逢、寒蕪漠漠露華濃。

【山飯】904 サンパン　山中のめし。〔白居易、和㆓春深㆒二十首詩〕野衣裁㆓薜葉㆒、山飯曬㆓松花㆒。

【山樊】905 サンパン　山の傍。山の陰。山の邊。又、山林。〔莊子、則陽〕冬則擉㆓鼈於江㆒、夏則休㆓乎山樊㆒。〔釋文〕樊音煩、李云、傍也、司馬云、陰也、廣雅云、邊也。〔王僧達、和㆓琅邪王依㆑古詩〕隆周爲㆓藪澤㆒、皇漢成㆓山樊㆒。〔注〕向曰、樊、林也。〔儲光義、昭聖觀詩〕新松引㆓天籟㆒、小柏繞㆓山樊㆒。

【山晚】906 サンバン　山中の夕ぐれ。山夕。〔李白、秋登㆓宣城謝朓北樓㆒詩〕江城如㆓畫裏㆒、山晚望㆓晴空㆒。〔杜甫、佐還山後寄詩〕山晚浮雲合、歸時恐㆓路迷㆒。

【山盤】907 サンバン　㊀山中の食物を盛った鉢。〔李白、尋㆓魯城㆒詩〕酒客愛㆓秋蔬㆒、山盤薦㆓霜梨㆒。㊁山のわだかまつた地域。〔陳基、登㆓南高峯㆒因過㆓湖上小集㆒詩〕山盤地脈來㆓天目㆒、城抱㆓江流㆒似㆓蔣陵㆒。

【山礬】908 サンバン　灌木の名。沈丁花の類。葉は楕圓形で光澤あり、縁にまばらな鋸齒がある。冬、凋まず、春、白花を開き、頗る清香あり。實の大きさは山椒に似て黃色、染料となる。七里香。〔本草、山礬〕釋名、芸香・椗花・柘花・瑒花・春桂・七里香、集解、時珍曰、山礬生㆓江淮湖蜀野中㆒、樹之大者株高丈許、其葉似㆓巵子葉㆒、生不㆑對㆑節、光澤堅強、略有㆑齒、凌㆑冬不㆑凋、三月開㆑花、繁白如㆑雪、六出黃蕊、甚芬香、結㆑子大如㆑椒、青黑色、熟則黃色、可㆑食、其葉味澀、人取以染㆑黃、及收㆓豆腐㆒、或雜入㆓茗中㆒、按、沈括筆談云、古人藏書、辟㆑蠹用㆓芸香㆒、謂㆓之芸草㆒、卽今之七里香也、葉類㆓豌豆㆒、作㆓小叢㆒生、啜㆓嗅之㆒、極芬香、秋間葉上微白如㆓粉汙㆒、辟㆑蠹殊驗、又按、蒼頡解詁云、芸香似㆓邪蒿㆒、可㆑食、辟㆓紙蠹㆒、許愼說文云、芸似㆓苜蓿㆒、成公綏芸香賦云、莖類㆓秋竹㆒、枝象㆓青松㆒、郭義恭廣志、有㆓芸香膠㆒、杜陽編云、芸香草也、出㆓于闐國㆒、其香潔白如㆑玉、入㆑土不㆑朽、元載造㆓芸暉堂㆒、以㆑此爲㆑屑塗㆑壁也、據㆓此數說㆒、則芸香非㆓一種㆒、沈氏指爲㆓七里香㆒者、不㆑知㆓何據所㆑云、葉類㆓豌豆㆒、啜嗅芬香、秋間有㆑粉者、亦與㆓今之七里香㆒不㆓相類㆒、狀頗似㆓烏藥葉㆒、恐沈氏亦自臆度爾、曾端伯以㆓七里香㆒爲㆓玉蕊花㆒、未㆑知㆓的否㆒。

【山礬水】909 サンバンスイ　六月の黃河の水をいふ。〔事物異名錄、坤輿、水〕表異錄、正月解凍水、二月白蘋水、三月桃花水、四月瓜蔓水、五月麥黃水、六月山礬水、七月荳花水、八月荻苗水、九月霜降水、十月復槽水、十一月走凌水、十二月蹙凌水。

【山蠻】910 サンバン　山中の蠻賊。〔南齊書、高帝紀上〕討㆓樊鄧諸山蠻㆒、破㆓其聚落㆒。

【山披】911 サンピ　陳、虞荔(9－32723・・151)の字。

【山肥】912 サンピ　山の地味が肥えてゐる。〔杜荀鶴、亂後山中作詩〕文章甘㆓世薄㆒、耕種喜㆓山肥㆒。

【山飛】913 サンピ　山が飛び去る。〔庾信、周上柱國宿國公河州都督普屯威神道碑〕嗟㆓海變而田成㆒、懼㆓山飛而地絕㆒。

【山飛泉立堂】914 サンピセンリツダウ　清、王槩(7－20823・・126)の室名。

【山扉】915 サンピ　山家のとびら。轉じて、山中の家。〔于季子、奉㆔和聖製夏日遊㆓石淙山㆒詩〕山扉野徑朝花積、帳殿帷宮夏葉連。〔杜甫、遊㆓修覺寺㆒詩〕野寺江天豁、山扉花竹幽。〔皎然、遊㆑溪待㆑月詩〕殘燈逢㆓水店㆒、疎磬憶㆓山扉㆒。

【山閟】916 サンピ　山中にかくれる。〔李蒙、娥女泉賦〕望㆓神光㆒兮水潛、鑒㆓化跡㆒兮山閟。

【山蜚】917 サンピ　山中のいなむし。〔宋之問、甄郡齋海榴詩〕野禽宵未㆑囀、山蜚晝仍眠。

【山尾】918 サンピ　山の裾。〔周必大、吉州諸山遊記〕小溪曲折凡十七、渡乃望㆓見山尾㆒。

【山微】919 サンピ　山がかすかなこと。〔袁宏道、初晴詩〕山微舒㆓態度㆒、柳小足㆓精神㆒。

【山魅】920 サンピ　山中の怪物。狒狒(7－20338・・2)の類。山精。山怪。山臊。〔酉陽雜俎、諾皐記下〕山蕭、一名山臊、神異經作㆑㺐、永嘉郡記作㆓山魅㆒、一名山駱、一名蛟、一名濯肉、一名熱肉、一名暉、一名飛龍、如㆑鳩青色、亦曰㆓治鳥㆒、巢大如㆓五斗器㆒、飾以㆓土堊㆒、赤白相見、狀如㆓射侯㆒。〔吳融、沃焦賦〕山魅射㆑影、水弩爲㆑創。〔錢起、送㆔李大夫赴㆓廣州㆒詩〕龍鏡逃㆓山魅㆒、霜嵐破㆓嶂雲㆒。

【山薇】921 サンピ　山中のぜんまい。〔鄭谷、潯陽姚宰廳作詩〕縣幽公事稀、庭草是山薇。〔虞集、淡菴青山寺詩〕開士空談依㆓寶樹㆒、野人耕㆑雨薦㆓山薇㆒。

【山麋】922 サンビ　山に棲むおほじか。〔王績、答㆓馮子華處士㆒書〕親黨之際、皆以㆓山麋野鹿㆒相畜、性嗜㆓琴酒㆒、得㆑盡㆑所㆑懷。〔白居易、夏日獨直寄㆓蕭侍御㆒詩〕鷹猜課㆓野鶴㆒、驥德責㆓山麋㆒。〔鄭谷、試筆偶書詩〕沙鳥與㆓山麋㆒、由來性不羈。

【山冰】923 サンピョウ　㊀高山の上に砂粒狀の雪がかたちづくつた氷。㊁後漢の人。官は黃門令。太傅陳蕃と黨錮に坐す。〔後漢書、九十九〕。

【山逼】924 サンヒョク サンピョク　山が近づきせまる。〔江淹、山中楚辭〕車蕭㆓條兮山逼㆒、舟容㆓與兮水路㆒。

【山貧】925 サンピン　山中に物資の少いこと。〔方輿勝覽〕杜牧詩、魚多知㆓海熟㆒、藥少覺㆓山貧㆒。

【山賓】926 サンピン　㊀山中から出て來た賓客。漢の高祖の時、商山の四皓が山を出て太子の師傅となつた故事。〔盧照鄰、儲宮歌〕山賓皎皎、國冑青青、黃裳元吉、邦家以寧。㊁清、吳應筵(2－3365・・448)の字。

【山鬢】927 サンピン　山に草木が茂つて鬢のやうに見えるもの。〔李遠、立春日詩〕娉婷何處戴、山鬢綠成㆑蔟。

【山夫】928 サンプ　㊀山中に生活する男。〔白居易、食㆑筍詩〕山夫折盈㆑抱、抱來早市鬻。〔姚合、揚州春詞〕谷鳥鳴還豔、山夫到亦狂。〔劉威、贈㆓歐陽秀才㆒詩〕權門要路應㆓行遍㆒、閑伴山夫一夜貧。㊁清、吳玉搢(2－3365・・503)の字。

【山府】929 サンプ　山中の邸宅。山中の役所。〔皎然、晩秋宿㆓李軍道所㆑居詩〕永夜依㆓山府㆒、禪心共寂寥。

【山阜】930 サンプ　山とをか。阜は石のない土山。山𠂤。〔詩、小雅、天保〕如㆑山如㆑阜、如㆑岡如㆑陵。〔荀子、賦〕有㆑物㆓於此㆒、生㆓於山阜㆒。〔春秋繁露、奉本〕得㆓地體㆒者、莫㆑如㆓山阜㆒。〔孫綽、遊㆓天台山㆒賦〕融而爲㆓川瀆㆒、結而爲㆓山阜㆒。

【山𠂤】931 サンプ　山阜に同じ。〔楚辭、王逸、九思、憫上〕川谷兮淵淵、山𠂤兮硌硌。〔注〕𠂤、一作㆑阜。

【山浮】932 サンプ　山がうかぶ。〔皮日休、初入㆓太湖㆒詩〕樹動爲㆓蜃尾㆒、山浮似㆓鼇脊㆒。

【山膚】933サンプ 菜の名。雄白。〔枚乘、七發〕肥狗之和、冒以二山膚一。〔注〕銑曰、山膚、雄白。〔隋書、音樂志下〕食擧歌辭、山膚既善水豢良。

【山風】934サンプウ 山から吹き來る風。やまかぜ。山吹。〔駱賓王、早發二諸暨一詩〕野霧連レ空暗、山風入レ曙寒。〔孫逖、登二越州城一詩〕山風吹二美箭一、田雨潤二香杭一。〔許渾、韋處士山居詩〕山風藤子落、溪水豆華肥。

【山伏】935サンプク ❶山中にかくれる。〔唐書、吐蕃傳上〕臣恐、師到獸竄山伏、捕討無レ所レ得。❷ヤマブシ 山野に起臥して神佛の道を修行する者。修驗者。〔敕修傳翼讚、二十〕。

【山腹】936サンプク 山の頂と麓との中ほどのところ。中腹。山半。〔詩、周頌、潛序、春獻レ鮪也、疏〕陸機云、河南鞏縣東北崖上山腹有レ穴。〔水經、廬江水注〕廬山記曰、白水在二黃龍南一、卽瀑布也、水出二山腹一、挂流三四百丈、飛二湍林表一、望若二懸素一。〔諸葛亮、與二兄瑾一書〕其閣梁一頭入二山腹一、其一頭立二柱于水中一。〔皇甫曾、遇二風雨一作詩〕陰雲擁二巖端一、霑雨當二山腹一。

【山覆】937サンプク 山がくつがへる。〔獨孤綬、斬レ蛟奪二寶劍一賦〕海蕩山覆、川停浪肅。

【山物】938サンブツ 山中に生產するもの。〔周禮、考工記、畫繢之事山以レ章、注〕章讀爲レ獐、獐、山物也、在レ衣。〔關尹子、三極〕時翔物、時逐物、時山物、時淵物。〔王履、以二山中所レ得松實萬年松一分二遺友人一詩〕偶攜二山物一饋二諸公一、明日都來問レ所レ逢。

【山墳】939サンプン 墓の上に山のやうに高く土を盛ること。〔漢書、劉向傳〕下錮二三泉一、上崇二山墳一、其高五十餘丈、周回五里有餘。

【山分】940サンプン 山が分れる。〔戴叔倫、過二柳州一詩〕地盡江南戍、山分桂北林。

〖山分衣〗941ヤマワケゴロモ 山路を辿る時に着る衣服。〔古今和歌集、雜上〕瀨瀨の白絲繰りためて、山わけ衣織りて著ましを。

【山兵】942サンペイ 山中の兵。〔吳志、周魴傳〕乞二請幢麾數十一、以爲二表幟一、使下山兵吏民、目瞻二見之一、知中去就之分上。〔高啓、送三潘巡檢之二閩中一詩〕莎柵山兵守、榕林島戶居。

【山屛】943サンペイ ❶屛風の形をした山。〔舒元輿、桃花源畫記〕溪南北有レ山、山如二屛形一、接連而去、峰豎不レ險、翠濃不レ浮。❷山が屛風を立てたやうに取り圍むこと。山屛風。〔韓熙載、漂水無相寺詩〕無相景幽遠、山屛四面開。〔周伯琦、紀行詩〕夾レ岸山屛展、穿レ沙水帶縈。

【山閉】944サンペイ 山がとぢふさがる。〔錢起、哭二常徵君一詩〕山閉龍蛇蟄、林寒麋鹿羣。

【山瓶】945サンペイ 山家で用ひる瓶。〔杜甫、謝三嚴中丞送二青城山道士乳酒一缾一詩〕山瓶乳酒下二青雲一、氣味濃香幸見レ分。〔陳造、次二韻楊宰次郎裴一詩〕山瓶餘二溲倒一、僧宇謁二伊蒲一。

【山篦】946サンペイ 植木の小さなひこばえ。篦は齒のこまかい櫛。昔、壽安山から切つて市中に賣り出した小さい植木のひこばえが、齒のこまかい櫛に似てゐたからいふ。山篦子。〔牡丹記〕春初時、洛人于二壽安山中一、斷二小栽子一、賣二城中一、謂二之山篦子一。

【山米】947サンベイ 山中できる米。〔徐照、白下詩〕年「豐山米賤、溪涸石苔腥。

【山表】948サンペウ 山の外。山の上。〔論衡、別通〕禹主二治水一、益主レ記二異物一、海外山表、無二遠不レ至、以レ所二聞見一、作二山海經一。〔水經、鮑丘水注〕㟞甚層峻、峨峨冠二衆山之表一。

【山漂】949サンペウ 山がただよひ動く。〔何遜、七召〕氣動山漂、汗揮雨起。〔李羣玉、洞庭風雨詩〕羽化思レ乘レ鯉、山漂欲レ抃レ鼇。

【山瓢】950サンペウ 山に棲む人のへうたん。〔韋應物、答三釋子良史送二酒瓢一詩〕此瓢今已到、山瓢知二已空一。〔高啓、送二葉山人一詩〕山瓢行負知二何有一、半是詩丸半藥丸。

【山苗】951サンベウ 山の木の苗。山のわか木。〔李白、送三楊少府赴レ選詩〕山苗落二磵底一、幽松出二高岑一。〔白居易、續古詩〕雨露長二纖草一、山苗高入レ雲。

【山猫】952 shan¹ mao¹ ❶虎の異名。❷ヤマネコ ㋑食肉獸の一種。大きさは猫位で、毛並は褐色に暗褐色の縱縞がある。朝鮮・對馬等に產する。㋺野良猫の、山野に年經たものをいふ。

【山廟】953サンベウ 山中にある祠廟。〔許渾、神女祠詩〕龍氣石牀濕、鳥聲山廟空。

【山碧】954サンペキ 山のみどり色。山がみどり色である。山綠。〔蘇軾、自二徑山一回得二呂察推詩一用二其韻一招レ之宿二湖上一詩〕心隨二葉舟一去、夢遶二千山碧一。

【山僻】955サンペキ 山のある僻遠の地。山間の僻地。〔皎然、宿二天居寺一詩〕取レ性憐二鶴高一、謀レ閑任二山僻一。〔宋史、潘夙傳〕中人之情、燕安忽レ事、直謂三山僻蠻獠、無二可レ慮之理一、殊不レ思三禍生二於所レ忽。

【山壁】956サンペキ 山が壁のやうにきり立つたところ。絕壁。〔水經、鍾水注〕桂水出二桂陽縣北界山一、山壁高聳、三面特峻、石泉懸注、瀑布而下。〔歐陽脩、水谷夜行詩〕寒雞號二荒林一、山壁月倒掛。

【山癖】957サンペキ 山を愛好する癖。〔虞集、城南春晚圖詩〕天台先生有二山癖一、臥起無レ山朝不レ食。

【山鷩】958サンベツ 雉の一種。きんけいてう。〔潘岳、射雉賦〕山鷩悍害、猋迅已甚。〔注〕爰曰、鷩雉似二山雞一而小冠、背毛黃、腹下赤、項綠色、其性悍戾憨害、飛走如二風之猋一也、銑曰、山鷩、雉名、其性悍戾而害也。

【山邊】959サンペン 山の附近。やまべ。やまのべ。〔庾信、望美人山銘〕高唐礙レ石、洛浦無レ舟、何處相望、山邊一樓。〔蘇頲、奉四和聖製答三張說出二雀鼠谷一詩〕寒著二山邊一盡、春當二日下一來。〔杜甫、秦州雜詩〕城上胡笳奏、山邊漢節歸。〔張耒、女几祠下詩〕山邊白雲閑不レ掃、山下松花龍甲老。

【山變】960サンペン 山の災異。山の不思議。〔唐書、高宗則天武后傳〕今陛下以二女王一處二陽位一、山變爲レ災、非レ慶也。

【山冕】961サンベン 古、天子が被つた、山の模様を畫いた冠。〔荀子、大略〕天子山冕、諸侯玄冠、大夫裨冕、士韋弁、禮也。〔注〕山冕、謂下畫二山於衣一而服上レ冕、卽袞冕也、蓋取二其龍一則謂二之袞冕一、取二其山一則謂二之山冕一。〔梁簡文帝、南郊頌序〕揖二太淸一、秩二羣望一、被二大裘一、服二山冕一。

【山父】962サンポ ❶堯の時の高士、許由の稱。〔應璩、與二從弟君苗君胄一書〕然山父不レ貪二天地之樂一、曾參不レ慕二晉楚之富一。〔注〕善曰、山父、卽巢父也、譙周古考史曰、許由夏常居レ巢、故一號二巢父一、琴操曰、許由夏則巢居、冬則穴處、飢則仍レ山而食、渴則仍レ河而飲、堯大二其志一、禪爲二天子一、由曰、放レ髮優游、所二以安一レ己不レ懼、非三以貪二天下一也。❷字號。㋑周、仲山甫(1−403··479)の一名。㋺明、鮑應鰲(12−46074··79)の字。

【山甫】963サンポ ❶周の宣王の賢臣、仲山甫をいふ。仲山甫(1−403··479)を見よ。〔詩、大雅、烝民〕保二茲天子一、生二仲山甫一。〔集傳〕仲山甫、樊侯之字也。〔魏武帝、善哉行〕智哉山甫、相二彼宣王一。〔盧諶、贈二劉琨一詩〕伊陟佐レ商、山甫翼レ周。〔注〕翰曰、仲山甫、周賢臣也。❷字號。㋑晉、袁瓌(10−34152··40)の字。㋺晉、庾峻(4−9398··22)の字。㋩唐、王嵒(7−20823··179)の字。㋥宋、丘岳(1−33··16)の字。㋭宋、鄭汝岡(11−39647··448)の字。㋬明、璩伯崑(7−21271··2)の字。㋣明、荊政芳(9−30940··118)の字。㋠明、孫應鼇(3−6987··336)の字。㋷明、陳塏(11−41698··66)の字。㋦明、呂高(2−3386··23)の字。㋸淸、曹德華(5−14297··295)の字。

【山圃】964サンポ 山中のはたけ。山中のその。〔文同、野逕詩〕山圃饒二秋色一、林亭近二晚晴一。〔蘇軾、寄二周安孺茶一詩〕山圃正春風、蒙茸萬旗簇。

【山浦】965サンポ 山麓の水邊。山に近い湖海の岸邊。〔鮑照、代陽春登荊山行〕日氛映二山浦一、暄霧逐二風收一。

【山姥】966サンポ 山家に棲む老女。やまうば。〔章孝標、諸葛武侯廟詩〕木牛零落陣圖殘、山姥燒レ錢古柏寒。

【山暮】967サンボ 山の夕ぐれ。山夕。〔王昌齡、送二狄宗亨一詩〕秋在二水淸山暮蟬一、洛陽樹色鳴皐烟。

【山峯】968サンポウ 山の頂。みね。山頂。山巓。〔水經、河水注〕河北有二層山一、山甚靈秀、山峯之上、立石數百丈、亭亭桀豎、競レ勢爭レ高、遠望嵺嵺若レ攢。〔南史、侯景傳〕山峯相近、募二敢死士一。〔元稹、開元觀閒居詩〕松笠新偏翠、山峯遠更尖。〔姚合、送三殷堯藩侍御遊二山南一詩〕人家連二水影一、驛路在二山峯一。

【山崩】969サンポウ ❶山が崩れる。山壞。山隧。〔左氏、成、五〕梁山崩、晉侯以レ傳召二伯宗一、云云、曰、山有二朽壤一而崩、可二若何一、國主二山川一、故山崩川竭、君爲レ之不レ擧、降レ服、乘レ縵、徹レ樂、出次、祝幣、史辭、以禮焉。〔公羊、成、五〕梁山崩、梁山者

何、河上之山也、梁山崩、何以書、記㆑異也。〔說苑、辨物〕山崩川竭、亡之徵也。〔水經、河水注〕白馬山下常有㆓白馬㆒羣行、悲鳴則河決、馳走則山崩。㊁（ヤマクヅレ）地下水に浸されて、岩石・土壤などの組織にゆるみを生じ、山壁が割れ崩れること。やまぬけ。やまつなみ。

【山崩鐘應】970（ヤマクヅレテカネオウズ）　蜀の銅山が崩れた時、洛陽の鐘が之に感應して鳴つた故事。鐘は銅、銅は山から出る、故に相感應する。同氣の相應ずる喩。〔易、乾、各從㆓其類㆒也、疏〕蠶吐㆑絲而商弦絕、銅山崩而洛鐘應、云云、感者動也、應者報也。〔新論、類感〕聲以㆑同應、氣以㆑異乖、云云、故銅山崩㆑蜀、鐘鳴㆓於晉㆒。〔異苑〕魏時殿前鐘忽鳴、張華曰、蜀銅山崩。

【山棚】971（サンポウ）　㊀祭禮などに出す山ぼこ。だし。山車。山鉾。〔宋史、禮志十六〕悉起㆓山棚㆒、張㆑樂陳㆑燈。〔東京夢華錄、六、元宵〕大內前、自㆓歲前冬至㆒後、開封府絞㆓縛山棚㆒、立木正對。〔草木子〕元自㆓世祖㆒以來、凡遇㆓天壽聖節㆒、天下郡縣立㆓山棚㆒、百戲迎引、大開㆓宴賀㆒。㊁唐代、鄧虢の地方に住んだ部族の名。射に巧で、官城を衞ることを掌つた。〔舊唐書、憲宗紀下〕賊入㆓嵩岳㆒、山棚盡擒㆑之。〔唐書、呂元膺傳〕東畿西南通㆓鄧虢㆒、川谷曠深、多㆓麋鹿㆒、人業㆑射而不㆑事㆑農、遷移無㆑常、趫悍善鬪、號曰㆓山棚㆒、元膺募爲㆓二河子弟㆒、使㆑衞㆓官城㆒。

【山蜂】972（サンポウ）　蜂の一種。やまばち。〔杜甫、題㆓鄭縣亭子㆒詩〕巢邊野雀羣欺㆑燕、花底山蜂遠趁㆑人。〔許渾、游㆓江令舊宅㆒詩〕帶㆑暖山蜂巢㆓畫閣㆒、欲㆑隱溪燕集㆓書堂㆒。〔戴表元、義蜂行〕山翁愛㆑蜂如㆑愛㆑花、山峰營㆑蜜如㆑營㆑家。

【山鉾】973（ヤマボコ）　車樂（ダンジリ）の一。京都の祇園祭に町町から出して街路を巡行する飾物。棚の上に山形を作るを山と云ひ、鉾・長刀を立てるを鉾といふ。其の他、船・人形などを作り、裝飾とする。山棚。〔宣胤卿記〕永正十四年八月七日、今日祇園會、依㆑雨山鉾等、覆㆓雨皮㆒。

【山北】974（サンポク）　㊀山の北側。やまきた。山陰。〔周禮、秋官、柞氏、令㆘剝㆓陰木㆒而水㆖之、注〕生㆓山北㆒爲㆓陰木㆒。〔春秋、定、十、齊人來歸㆓鄆讙龜陰田㆒、疏〕龜、山名也、山北曰㆑陰、田在㆓龜山北㆒、其邑卽以㆓龜陰㆒爲㆑名。〔杜牧、破鏡詩〕今朝萬里秋風起、山北山南一片雲。㊁終南・太華山の北。又、山の北に位する地方。山南（860）の㊁を見よ。〔戰國、魏策〕所㆑亡㆓乎秦㆒者、山北河外河內、大縣數百、名都數十。〔宋書、州郡志三〕山北三縣、並云、景平中立。

【山木】975（サンボク）　㊀山に生ずる木。山の木。山樹。やまき。〔詩、大雅、棫樸、芃芃棫樸、傳〕山木茂盛、萬民得而薪㆑之。〔左氏、隱、十一〕周諺有㆑之曰、山有㆑木、工則度㆑之、賓有㆑禮、主則擇㆑之。〔白虎通、封公侯〕山木之饒、水泉之利、千里相通、所㆑均㆓有無㆒、贍㆓其不足㆒。〔謝靈運、過㆓瞿溪山僧㆒詩〕鑽㆑燧斷㆓山木㆒、掩㆑岸墐㆓石戶㆒。〔白居易、自題㆓小草亭㆒詩〕土堦全壘塊、山木半留皮。㊁莊子の篇名。其の大意は、材あるものは禍を受け、不材なるものも亦禍を受けるから、無爲にして天に順ひ、始から材不材のないのがよいと論ず。㊂石川凹の號。石川丈山（**8－24024**・・479）を見よ。

【山木自寇】976（サンボクミヅカラアダス）　山木は其の有用なるが爲に伐られる。才器あるものは才器のために禍を受ける喩。〔莊子、人閒世〕山木自寇也、膏火自煎也、桂可㆑食、故伐㆑之、漆可㆑用、故割㆑之。

【山木如㆑市弗㆑加㆓於山㆒】977（サンボクイチニユクモヤマヨリモクハヘズ）　材木は市場で賣買するも、山で賣買するも、其の價格は異ならない。春秋時代、齊の陳氏が民に恩を賣つた方法。〔左氏、昭、三〕山木如㆑市、弗㆑加㆓於山㆒、魚鹽蜃蛤、弗㆑加㆓于海㆒。〔注〕賈如㆑在㆓山海㆒、不㆑加㆑貴。〔會箋〕山木往賣㆓於市㆒、價等㆑在㆑山。

【山僕】978　shan^1 p'u^2　山出し。野暮。

【山沒】979（サンボツ）　山が沈む。事の逆になる喩。〔易林〕山沒丘浮、陸爲㆓水魚㆒、燕雀無㆑廬。

【山本】980（サンポン）　山の根もと。山の根柢。やまもと。〔詩、大雅、常武、如㆓山之苞㆒、箋〕山本以喩㆑不㆑可㆓驚動㆒也。

【山本凹庵】981（ヤマモトアフアン）　伊勢の人。本姓は韓。名は玨。字は聯玉。通稱は覺大夫。號は凹庵。詩に巧。文政十三年十月三日歿す、年五十九。著に伊勢志・韋蘇州詩鈔・綠窓日記・櫻葉館全集・驥蝨日記・後遊錄・高大史詩鈔・齋宮略記・泉南紀行・前遊錄・月瀨紀行・顚庵雜錄・天橋紀行・東奧紀行・北越遊草・揄墊日記・芳野遊草・綠窓詩話・王阮亭詩鈔がある。〔近代著述目錄〕・〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕。

【山本玉岡】982（ヤマモトギヨクカウ）　土佐の人。名は禮。字は文進。號は玉岡。佐川藩儒となる。文化六年十一月歿す、年四十七。著に玉岡遺稿・仁道論辨・荅猪飼敬所示鬼神說書がある。〔土佐人物傳〕。

【山本寬齋】983（ヤマモトクワンサイ）　尾張の人。名は格安。字は武平。通稱は伊兵衞。號は寬齋。寶曆年閒の人。天野信景を師とす。著に郢書燕說・燕石雜錄・遺鹿算法・獻暄錄・獻暄錄附錄・齊東野談・算學名義集・說文講餘・星名考・俗耳談算髓・篆說・天文辨妄・天地里程考・燈前餘話・南柯夢談・駁篆體・六書開示・和書黔驢編・和書黔驢外編・和書黔驢續編がある。〔近代著述目錄後篇〕・〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕。

【山本清溪】984（ヤマモトセイケイ）　京都の人。本姓は藤原。名は正臣。字は欽若。號は清溪。官は大炊御門家臣・從四位下近江守。歷代の制度に精通し、又、和歌に巧。文政六年九月十四日歿す。年七十。著に源語圖鈔・三十六歌仙圖鈔・清溪遺稿・清溪集・制度通補遺・攝家次第・增補元明史略・八省考・百官職掌便覽がある。〔近代著述目錄後篇〕。

【山本晴海】985（ヤマモトセイカイ）　長崎の人。名は逸。字は無逸。通稱は清太郞。號は晴海・秋村・淡齋。廣瀨淡窓・山鹿高補を師とす。官は肥前蓮池藩儒。慶應三年二月十五日歿す、年六十三。著に輼陽錄・鈐林雜抄・狗續蒙示・示蒙小說・晴海日記・晴海詩文稿・俗用尺牘・高島流砲術傳授書・澹齋雜抄・無名草・砲圖・砲臺圖がある。〔長崎鄉土志〕。

【山本中齋】986（ヤマモトチユウサイ）　信濃の人。名は公簡。字は子文。號は中齋。古賀精里を師とす。天保十一年九月四日歿す、年四十七。著に周易圖說・春秋說がある。〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕。

【山本洞雲】987（ヤマモトドウウン）　京都の人。名は泰順。字は三巠。號は洞雲。萬治年閒の人。宇都宮遯庵を師とす。著に月令諺解・元白絕句・三重韻首書・四家絕句・節序詩集・太極圖說諺解・太極圖說首書・山城名所記・老子林注諺解大成・和漢兩鏡錄・和漢印盡がある。〔近代著述目錄後篇〕。

【山本南陽】988（ヤマモトナンヤウ）　下野の人。名は龍。字は雲起。通稱は太仲。號は南陽。著に足利本古文孝經直解・足利本劉炫孝經・南陽茶說・文理發揮・論語五家序考がある。〔近代著述目錄後篇〕・〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕。

【山本日下】989（ヤマモトニツカ）　土佐の人。名は鸞。字は文翼。通稱は仙藏。號は日下。土佐、深尾氏の儒臣。天明八年九月歿す、年六十四。著に左傳說・世說新語補解・楠公記・日下詩集・日下先生遺稿・聞見錄・孟子說・遊浦內記・論語私考がある。〔土佐人物傳〕。

【山本眉山】990（ヤマモトビザン）　阿波の人。名は積善。字は伯厦。通稱は善太。號は眉山・狂庵。官は伊勢龜山藩儒。天保八年歿す、年三十八。著に明智光秀紀事本末・歐蘇手簡國字解・郝京山孟子解揭厲・神崎則休畫像記・朱子學辨・仁齋徂徠辨妄・西河全集詳注・性理詳說・宋鑒・楠石傳緣起・文化文政詩集がある。〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕・〔國書解題〕。

【山本北山】991（ヤマモトホクザン）　江戶の人。名は信有。字は天禧。通稱は喜六。號は北山・孝經樓・奚疑塾・學半堂・竹堤。私諡は述古先生。井上金峨を師とす。江戶に帷を下して教授す。經學は孝經を根據とし、文章は韓柳を標本とし、藻詩は清新を宗派とす。文化九年五月十八日歿す、年六十一。著に衣冠辨・今戶雜咏五十首・金杉雜咏五十首・うはこころ・易象義解・袁中郞尺牘・溫泉記・孝經集覽・考經樓文集・孝經樓詩話・孝經樓漫筆・較定孝經・學術淵源孝・學半堂雅談・學庸正義・韓文公書牘・義士雪冤・廣文藻行潦・官職通解・奚疑塾隨筆・經義書・經義掫說・經義掫說緒餘・經說・元寇辨・古文尙書勤王師・古文尙書考・古今彼我經濟區別・今古究原・古今學派考・作詩志彀・作文志彀・作文率・

作文例證・三家詩醇・三家絶句・三禮古器考・尙書後辨辨・尙書勤王師・書畫談・書叢・詩率・詩藻行潦・詩用例證・詩用虚字・助字率・秋閒漫筆・春秋孔志・神儒實學矩・神主考・すてるもをし・正謬説・笑堂福聚・小道可觀・錢考・宋詩鈔（清、張二銘選）校・大學辨・答問書・中庸辨・竹堤園詩話・程朱異同・日本外志・日本事類集成・避暑漫抄・文事正誤・文事考・文用例證・文用例證續編・文藻行潦・分類百官志辨苑・北辰考・本朝刀劍考・むかしありしこと・養老考・李鼎祚易解義疏・論語正義論語説・王鄭異同がある。〔近世叢語、續、一〕・〔近代著述目錄後篇〕・〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕。

【山本澹泊齋】992 ヤマモトタンパクサイ　土佐の人。名は晉。字は昭德。通稱は命助・仙藏。號は澹泊齋。松田思齋を師とす。土佐、深尾氏の儒臣。明治二年四月十一日歿す、年七十二。著に淡泊齋詩抄・澹泊齋遺稿がある。〔土佐人物傳〕。

【山本老迂齋】993 ヤマモトラウウサイ　越後の人。名は義方・精義。字は子直。通稱は勘右衞門。號は青城・老迂齋。伊藤竹里を師とす。長岡藩に仕ふ。經學は初、程朱を奉じたが、後、古學に歸す。寛政四年一月十七日歿す、年七十五。著に玩辭聚要・周易安俟錄・政要纂言・長岡古邑談・閔言餘集・和譯牧民忠告がある。〔越佐名家著述目錄〕。

【山麻】994 サンマ　麻の一種。山中に生ずるもの。やまあさ。〔爾雅、釋草〕薜、山麻。〔注〕似二人家麻一、生二山中一。

【山毛】995 サンマウ　山中のけもの。山に產する獸類。山獸。〔沈約、究竟慈悲論〕秋禽夏卵、比レ之如二浮雲一、山毛海錯、事同二於腐鼠一。

【山毛欅】996 ブナ　木の名。落葉喬木で、深山に生じ、蕎麥に似た大きな實を結ぶ。實を炒つて食ふ。いぬぶな。ぶな。そばのき。橅。

【山蜜】997 サンミツ　蜂蜜の一種。山中の石や木に產する。家に飼ふものより醇厚である。〔本草、蜂蜜〕集解、宗奭曰、山蜜多在二石中木上一、有下經二一二年一者上、氣味醇厚、人家者一歲二取、氣味不レ足、故不レ及、且久收易レ酸也。

【山脈】998 サンミャク　山岳の、帶狀に連續するもの。〔周繇、題二東林寺虎跑泉一詩〕爪撞二山脈一斷、掌托二石心一拘。〔方干、陸山人畫水詩〕毫末用レ功成二一水一、水源山脈固難レ尋。〔朱子語錄〕冀都是天地中間、山脈從二雲中一發來。

【山民】999 サンミン　❶山中に棲む民。〔後漢書、劉寵傳〕山民愿朴、乃有下白首不レ入二市井一者上、頗爲二官吏所一レ擾。〔申鑑、時事〕皇民敦、秦民弊、時也、山民樸、市民玩、處也。〔魏志、陳留王奐紀〕豫章廬陵山民、擧レ衆叛、吳以レ助二北將軍一爲レ號。〔岳陽風土記〕馬援征二諸溪蠻一、病二死壺頭一、山民思レ之、所レ到處、祠具存。❷城の名。河南省尉氏縣の南。一に山氏に作る。〔水經、渠水注〕役水自二陽丘亭一、東流逕二山民城北一。❸字號。㋑宋、徐照（4—10110··188）の號。㋺清、黃珍（12—47926··658）の號。㋩清、陳岷（11—41698··521）の字。

【山夢】1000 サンム　山中でみるゆめ。〔貫休、題二蘭江言上人院一詩〕手把二新詩一說二山夢一、石橋天柱雪霏霏。

【山霧】1001 サンム　山にかかつたきり。〔歐陽脩、初至二夷陵一答二蘇子美見レ寄詩〕江雲愁蔽レ日、山霧晦連レ朝。

【山名】1002 サンメイ　❶山の名。〔水經、若水注〕朱提、山名也。〔李端、夜投二豐德寺一謁二海上人一詩〕半夜中峯有二磬聲一、偶逢二樵者一問二山名一。❷ヤマナ　姓氏。

【山明】1003 サンメイ　山色の明かなこと。〔拾遺記、一、春皇庖犧〕昔者人皇蛇身九首、肇レ自二開闢一、于レ時日月重レ輪、山明海靜。〔顏延之、贈二王太常一詩〕庭昏見二野陰一、山明望二松雪一。〔王勃、錢韋兵曹詩〕川霽浮烟斂、山明落照移。〔丁椿、尊經閣賦〕眇二山明而水秀一、號二人傑而地靈一。

【山茗】1004 サンメイ　山から產する茶。〔元稹、早春登二龍山靜勝寺一詩〕山茗粉含鷹觜嫩、海榴紅綻錦窠勻。〔蘇軾、和三錢安道寄二惠建茶一詩〕我官二于南一今幾時、嘗盡三溪茶與二山茗一。

【山鳴】1005 サンメイ　山のなること。山なり。〔水經、漣水注〕續漢書五行志曰、建安八年、長沙醴陵縣有二大山常鳴一、如二牛响聲一。〔唐書、五行志二〕開元二十八年六月、吐蕃圍二安戎城一、斷二水路一、城東山鳴、石坼湧泉二。〔李白、江上答二崔宣城一詩〕樹繞蘆州月、山鳴鵲鎭鐘。

【山鳴谷應】1006 ヤマナリタニコタフ　聲が山や谷にひびきわたる。〔蘇軾、後赤壁賦〕劃然長嘯、草木震動、山鳴谷應、風起水涌。

【山面】1007 サンメン　❶山の表面。〔齊己、題二鶴鳴泉一詩〕噴開山面碧、飛落寺門寒。❷山の南。山南。〔蘇軾、初入二廬山一詩〕要レ識廬山面、他年是故人。〔自注〕山面、山南也。

【山文】1008 サンモン　❶山の形の模樣。山紋。〔後漢書、馬融傳、山罍常滿、注〕山罍畫爲二山文一。❷山の肌に生ずるあや。〔張九齡、林亭咏詩〕苔益山文古、池添竹氣清。

【山門】1009 サンモン　❶山中の門。〔宋書、袁顗傳〕奈何毀二擲先基一、自蹈二凶戾一、山門蕭瑟、松庭誰掃、言念二楚路一、豈不レ思二父母之邦一、幸納二惡石一、以蠲二美疹一。〔杜甫、秦州雜詩〕苔蘇山門古、丹青野殿空。❷佛㋑寺院の樓門。〔李華、雲母泉詩〕山門開二古寺一、石竇含二純精一。〔白居易、寄二韜光禪師一詩〕一山門作二兩山門一、兩寺原從二一寺一分。〔通俗編、居處、三門〕高僧傳、支遁于二石城山一立二棲光寺一、宴二坐山門一、遊二心禪苑一。〔撮壤集、上、寺院部、諸堂〕總門・山門・脇門。㋺寺院全體を指して山門といふ。〔宋史、眞宗紀二〕法駕臨二山門一、黃雲覆二輦道一。㋩比叡山延曆寺の別稱。三井寺を寺門（4—7414··70の❸）といふに對す。〔合類節用集、二、乾坤門〕山門、京都土俗、斥二比叡山一云レ爾。〔源平盛衰記、四、山門御輿振事〕山門大衆、日吉七社の神輿を莊り奉り。㋥禪刹七堂伽藍の一。又、三門といふ。總門の內、本堂の前に立て左右に金剛力士を置く。山號によつて山門と稱す。〔禪林象器箋、三門〕山門之制、排二列門一有レ三、故亦稱二三門一。❸ヤマト　姓氏。〔和爾雅〕。

【山門港】1010 サンモンカウ　川の名。浙江省溫嶺縣の西南。源は溫嶺の諸山。南流して海に入る。一名、溫嶺江。〔讀史方輿紀要、浙江、台州府、太平縣〕山門港在二縣西南十五里一、源出二溫嶺諸山一、亦曰二溫嶺江一、云云、凡海艦西去二溫州樂清一、北趨二台州黃巖一、率繇レ此艤泊。

【山門派】1011 サンモンハ　佛比叡山延曆寺派。三井寺の「寺門派」に對す。

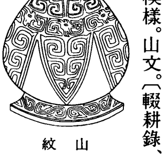
【山門三流】1012 サンモンノサンリウ　佛比叡山で傳へる傳教大師流・慈覺大師流・智證大師流の眞言三流をいふ。

【山門眞言】1013 サンモンシンゴン　佛傳教大師の傳へた眞言宗。空海の傳へた東寺眞言に對す。山門流眞言。〔天台圓宗四教五時津金寺名目、上〕我朝將來事、東寺・山門眞言、相傳不レ同也。

【山門奉行】1014 サンモンブギヤウ　官名。室町幕府、置く。比叡山延曆寺の事を掌る。〔蔭涼軒日錄〕寛正三年六月十一日、自二山門一被レ懸二段錢一之事、云云、命二于山門奉行布施下野守一也。

【山門三門跡】1015 サンモンサンモンゼキ　佛山門派の三つの門跡。卽ち圓融院（梶井）・青蓮院・妙法院をいふ。寺門の三門跡に對す。〔海人藻芥〕山門三門跡者、梶井・青蓮院・妙法院、是也。

【山紋】1016 サンモン　山の形の模樣。山文。〔輟耕錄、古銅器〕辨二古器一、則有二所謂款識・臘茶色・朱雀斑・眞青綠井口之類一、其製作有二雲紋・雷紋・山紋・輕重雷紋・垂花雷紋・鱗紋・細紋・粟紋・蟬紋一。



山紋

（西清古鑑　周山紋壺）

【山野】1017 サンヤ　❶山と野原。やまの。のやま。〔漢書、趙充國傳〕窮二天子之精兵一、散二車甲於山野一。〔應璩、與二從弟君苗君胄一書〕按二轡清路一、周二望山野一。〔宋書、五行志四〕山野之獸、來入二宮室一。〔宋書、謝靈運傳〕敍二山野草木水石穀稼之事一。〔南史、侯景傳〕所レ居殿屋、常有二鵂鶹鳥鳴呼一、景惡レ之、每使下人窮二山野一捕上レ鳥。❷ゐなか。田野。〔魏志、陶謙傳、注〕吳書曰、云云、擕二白首於山野一、棄二稚子於溝壑一。〔蜀志、杜微傳〕怪君未レ有二相誨一、便欲レ求レ還二於山野一。〔元結、忝官引〕山野性所レ安、熙然自全順。❸禮に習はないこと。ひなびてゐること。〔宋史、萬適傳〕適素康強無レ疾、詔下日已病、猶勉強赴レ朝謝、擧止山野、人皆笑レ之。

【山羊】1018 サンヤウ　羊の屬。山に棲み、家にも畜はる。蹄は二つに裂け、二角あり。牡は顎下に長い鬚がある。やぎ。野羊。〔說文〕羱、山羊而大角者。〔本草、山羊〕釋名、野羊・羱羊、集解、弘景曰、山羊卽爾雅羱羊、出二西夏一、似二吳羊一而大角、角墮者能陟二峻坂一、羌夷以爲二羚羊角一、極長、惟一邊

有レ節、節亦疏大、不二入レ藥用一、時珍曰、山羊有二二種一、一種、大角盤環、肉至二百斤一者、一種、角細者、說文謂二之莧羊一、音桓、陸氏云、羱羊狀如レ驢而羣行、其角甚大、以レ時墮レ角、暑天塵露在レ上、生レ草戴行、故代都賦云、羱羊養レ草以盤桓。〔袁采、鴈山記〕有レ獸如レ鹿、能歷レ險、謂二之山羊一。

【山羊座】1019 ヤギザ　星座の名。摩羯（**5－12613**‥34）を見よ。

【山羊草】1020 ヤギサウ　草の名。くさとべら。たばこのき。くさとべら科の灌木狀草本で、暖地の海岸砂地に自生する。

【山羊蹄】1021 サンヤウテイ　草の名。酸模（**11－39871**‥64）の異名。すいば。山大黃。〔本草、酸模〕釋名、山羊蹄・山大黃・薞蕪・酸母・蓨・當藥。

【山陽】1022 サンヤウ　❶山の南。山南（860）の❶を見よ。〔任昉、答二陸倕知己一賦〕存レ異山陽之居、沒レ非要離之側。❷終南・太華山の南の地。山南の國。山南（860）の❷を見よ。〔戰國、韓策〕謂二山陽君一曰、秦封レ君以二山陽一、齊封レ君以レ莒、齊秦非レ重レ韓、則賢二君之行一也。〔史記、秦始皇紀〕嫪毐封爲二長信侯一、予二之山陽地一。〔說苑、至公〕周公卜二居曲阜一、其命レ龜曰、作二邑乎山之陽一、賢則茂昌、不賢則速亡。❸郡名。㋑漢、置き、晉、高平國と改む。故治は山東省金鄕縣の西北。〔漢書、地理志上〕山陽郡。〔注〕故梁景帝中六年、別爲二山陽國一、武帝建元五年、別爲レ郡。㋺晉、置く。今、江蘇省淮安縣の南。〔明一統志〕淮安府附郭山陽縣、本漢臨淮郡射陽縣地、東漢屬二廣陵郡一、晉末立二山陽郡一、以四境內有三地曰二山陽一、故名。❹縣名。㋑漢、置く。戰國、魏の邑。故城は河南省修武縣の西北。三國、魏の曹丕が、漢を簒ひ獻帝を廢して山陽公となして居らしめた濁鹿城は、今の修武縣の西北にある。〔漢書、地理志上〕河內郡、縣十八、山陽。㋺晉、置き、宋、淮南と改む。今、江蘇省淮安縣の南。〔讀史方輿紀要、江南、淮安府、山陽縣〕淮安城卽山陽舊城也、沈約云、義熙中始立二山陽縣一。〔淸史稿、地理志〕江蘇、淮安府、縣六、山陽。㋩後魏、置き、今缺く。河南省の境。㋥金、置く。故治は河南省輝縣の西南。㋭明、置く。漢の商縣の地。今、陝西省商縣の南。商山の南にあるから名づけらる。〔明一統志〕山陽縣在二西安府商州城一。〔淸史稿、地理志〕陝西、商州直隸州、縣四、山陽。❺賴襄の號。賴山陽（**10－36861**‥36）を見よ。

【山陽公】1023 サンヤウコウ　後漢、獻帝。劉協（**2－2224**‥2「43）を見よ。

【山陽道】1024 サンヤウダウ センヤウダウ　七道の一。播磨・美作・備前・備中・備後・安藝・周防・長門の八箇國の稱。かげとものみち。〔北山抄、讀奏事〕山陽道。〔注〕加介止毛之道、舊說、曾止毛之道。〔職原鈔〕山陽道、播磨・美作・備前・備中・備後・安藝・周防・長門。

【山陽瀆】1025 サンヤウトク　運河の名。淮河と揚子江とを連ぬ。隋の文帝、開修す。江蘇省淮安縣から南儀徵縣に至る。古の邗溝、今の運河。〔隋書、高祖紀上〕（開皇七年）開二山陽瀆一、以通二運漕一。

【山陽遺稿】1026 サンヤウヰカウ　書名。文十卷・詩七卷・拾遺一卷。賴山陽撰。天保十二年刊。文集は、卷一は書、二は論、三は傳・碑、四は碑、五・六・七は記、八・九は序、十は序・雜著、凡て百二十一篇。詩集は、卷一は丙戌の作、二は丁亥の作、三は戊子の作、四は己丑の作、五は庚戌の作、六は辛卯の作、七は壬辰の作。拾遺は、詩六十六。以上凡て五百九十六首。附錄に山陽先生行狀を載す。

『參考書』【山陽詩集輯注】木崎好尙撰。【山陽詩鈔】八卷 賴山陽撰。天保四年刊。寬政五年から文政八年までの詩を集む。卷一から七までは山陽の手定。卷八は門人の編次。【山陽詩注】燕石陳人撰。【賴山陽詩集輯注】木崎好尙撰。【山陽詩鈔注釋】奧山正幹撰。

【山陽聞レ笛】1027 サンヤウニフエヲキク　晉の向秀が山陽の舊居を過ぎ笛聲を聞いて懷舊心を起した故事。〔晉書、向秀傳〕秀作二思舊賦一云、云云、逝將二西邁一、經二其舊廬一、于レ時日薄二虞泉一、寒冰凄然、鄰人有二吹レ笛者一、發レ聲寥亮、追二想曩昔游宴之好一、感レ音而歎、故作レ賦。〔庾信、傷二王司徒褒一詩〕唯有二山陽笛一、悽余思二舊篇一。

【山樣】1028 サンヤウ　山のやうな有樣。〔楊萬里、鳩銜レ枝營レ巢樹閒經レ月不レ成而去詩〕可レ憐積レ木如二山樣一、一桷何曾架得來。

【山養】1029 サンヤウ　山中で養はれるもの。鹿豕の類。〔禮、禮器〕居レ澤以二鹿豕一爲レ禮。〔疏〕鹿豕是山養、魚鼈是澤物。

【山藥】1030 サンヤク　薯蕷（**9－32191**‥2）の異名。唐の代宗の名の預を避けて薯藥といひ、又、宋の英宗の諱の署を避けて山藥と改めた。やまのいも。山芋。山藷。〔本草、薯蕷〕釋名、藷薁・土藷・山藷・山芋・山藥・玉延、宗奭曰、薯蕷因二唐代宗名預一、避レ諱改爲二薯藥一、又因二宋英宗諱署一、改爲二山藥一、盡失二當日本名一、恐下歲久以二山藥一爲中別物上、故詳著レ之。〔韋應物、郡齋贈二王卿一詩〕秋齋雨成レ滯、山藥寒始華。〔山家淸供〕山藥名二薯蕷一、秦楚閒名二玉延一。〔馬戴、過二野叟居一詩〕呼レ兒採二山藥一、放レ犢飲二溪泉一。〔宋史、种放傳〕泝二長溪一坐二磐石一、採二山藥一以助レ飲。〔蘇軾、十月十四日以レ病在レ告獨酌詩〕銅爐燒二柏子一、石鼎煮二山藥一。

【山藥頭兒】1031 shan^1 yao^4 t'ou êrh　馬鈴薯。山芋頭兒。

【山楡】1032 サンユ　やまにれ。落葉喬木で、花期は初夏。〔本草、楡〕集解、時珍曰、山楡之莢名二蕪荑一、與レ此相近、但味稍苦耳。

【山熊】1033 サンユウ　山のくま。〔鄭愔、奉三和幸二上官昭容院一獻詩〕河鵲塡レ橋至、山熊避レ檻來。

【山輿】1034 サンヨ　山に登るに用ひる輿。〔宋書、禮志三〕山輿竚レ衡、雲鵜竦レ翼。〔王柏、長嘯山游記〕黎明假二山輿一、上二丹山一、酌二丹井一、井淺而渾、遠不レ如二祠之泉一也。

【山容】1035 サンヨウ　山のすがた。山態。山貌。〔皮日休、和二魯望春雨卽事一詩〕山容洗得如二烟瘦一、地脈流來似二乳肥一。〔陸龜蒙、和二胥口卽事一詩〕雨後山容若レ動、天寒樹色如レ消。〔陸游、卽事詩〕雲起山容改、潮生浦面寬。

【山容水態】1036 サンヨウスイタイ　山水の容態。山と水とのありさま。山容水色。〔元稹、和二樂天重題レ別二東樓一詩〕山容水態使二君知一、樓上從容萬狀移。

【山來】1037 サンライ　字號。❶淸、張潮（**4－9812**‥578）の字。❷淸、汪濤（**6－17154**‥97）の字。

【山雷】1038 サンライ　山中の雷鳴。〔周易卦歌〕山雷、頤。〔顧璘、遣レ懷絕句〕山雷春送レ雪、江霧夜含レ星。

【山賴】1039 サンライ　頤山柰の異名。ばんうこん。山辣。山柰（714）を見よ。

【山罍】1040 サンライ　夏后氏の酒樽。山雲の模樣を刻す。山尊（695）の❶を見よ。〔禮、明堂位〕泰、有虞氏之尊也、山罍、夏后氏之尊也、著、殷尊也、犧象、周尊也。〔疏〕山罍、夏后氏之尊也者、罍爲二雲雷一也、畫爲二山雲之形一也。〔後漢書、馬融傳〕山罍常滿、房俎無レ空。〔注〕山罍、畫爲二山文一、禮記曰、山罍、夏后氏之樽也。

【山籟】1041 サンライ　山風の音。〔鮑照、贈二故人馬子喬一詩〕野風振二山籟一、朋鳥夜驚離。

【山郎】1042 サンラウ　漢代、貲財を以て郎官となるもの。山は財用の出づる所であるからいふ。郎は宿衞郎。〔漢書、楊惲傳〕郎官故事、令下郎出レ錢市二財用一、給二文書一、迺得上出、名曰二山郎一。〔注〕張晏曰、山、財用之所レ出、故取名焉。〔王先謙補注〕錢大昭曰、此郎非二尙書郎一、是宿衞郎。〔徐鉉、游二蔣山一題二辛夷花一寄二陳奉禮一詩〕山郎不レ作二同行伴一、折得何由寄レ所レ思。

【山獠】1043 サンラウ　獠族の俗稱。獠は西南夷の一。〔唐書、太宗紀〕貞觀六年正月癸酉、靜州山獠反、右武衞將軍李子和敗レ之。〔桂海虞衡志、志蠻〕獠在二右江溪洞之外一、俗謂二之山獠一。〔梅堯臣、送三闞令之二潭州寧鄕一詩〕民居二篁竹閒一、山獠相雜幷。

【山醪】1044 サンラウ　山中で釀した濁酒。山杯。〔范成大、休寧詩〕山醪極可レ人、溪女能醉レ客。

【山駱】1045 サンラク　山魈（635）の別名。山中の怪物。狒狒の類。〔酉陽雜俎、諾皐記下〕山蕭、一名山臊、神異經作レ㺐、永嘉郡記作二山魅一、一名山駱、云云、一名暉、一名飛龍、如レ鳩青色、亦曰二治烏一、巢大如二五斗器一、飾以二土堊一、赤白相閒、狀如二射侯一、犯者能役レ虎害レ人、燒二人廬舍一、俗言二山蕭一。

【山辣】1046 サンラツ　山柰（714）の異名。ばんうこん。〔本草、山柰〕釋名、山辣・三柰、時珍曰、山柰俗訛爲二三柰一、又訛爲二山賴一、皆土音也、或云、本名山辣、南人舌音呼レ山爲レ三、呼レ辣如レ賴、故致二謬誤一、其說甚通。

【山嵐】1047 サンラン　山中の翠嵐の氣。蒸し潤つた山氣。〔陳造、房陵詩、注〕土人晨飮レ茶云、勝二山嵐氣一。〔顧非熊、陳レ情上二鄭主司一詩〕茅屋山嵐入、柴門海浪連。〔徐鉉、和二江西蕭少卿見レ寄詩〕珍重加レ餐省二思慮一、時時斟レ酒壓二山嵐一。

【山亂】1048 サンラン　山に草木が深く茂つてゐること。〔于興宗、夏杪登ニ越王樓一臨ニ涪江一望ニ雪山一寄ニ朝中知友一詩〕山亂江迴遠、川清樹欲レ秋。〔許棠、塞下詩〕塞深烽砦密、山亂犬羊多。〔歐陽脩、憶レ山示ニ聖兪一詩〕吾思ニ夷陵山一、山亂不レ可レ究。

【山藍】1049 ヤマアヰ　草の名。多年生で、山足の陰地、森林中に多く產す。莖は四角で、高さ二尺餘。葉は對生、形は蓼藍に似て先が尖り、面、深綠、背、淡く、鋸齒の皺紋がある。古、この生葉の液汁を取つて染料とした。冬、梢頭に淺綠色の花を開き、花落ちて青色の小實を結ぶ。やまゐ。山靛。〔民部省式、下〕神祇官卜竹、及諸祭諸節等所レ須、箸竹柏生蔣山藍等類。

【山蘭】1050 サンラン　❶蘭の、山中に生ずるもの。〔本草、蘭草〕正誤、時珍曰、蘭有ニ數種一、蘭草・澤蘭、生ニ水旁一、山蘭、卽蘭草之生ニ山中一者、蘭花亦生ニ山中一、與ニ三蘭一迥別。❷菊科の山草の名。ふぢばかまの一種。香氣少く、葉は桃葉に似て鋸齒が深い。莖に斑がある。葉莖には皆毛茸がある。花に白と淡紫との二種がある。ひよどりばな。鵯花。

【山巒】1051 サンラン　山。峯。山岳。〔王建、送三嚴大夫赴ニ桂州一詩〕水驛門旗出、山巒洞主參。

【山吏】1052 サンリ　山中にある役所の役人。〔項斯、送ニ顧少府一詩〕漁舟縣前泊、山吏日高衙。

【山里】1053 ヤマザト　❶山中の村里。又、山麓に近い村落。〔古今和歌集、冬〕山里は冬ぞ淋しさまさりける。❷山里にある別莊。山莊。〔源氏物語、夕霧〕小野といふわたりに、山ざとも給へる。

【山狸】1054 サンリ　狸の一種。〔晁補之、七述〕杭之爲レ州、負レ海帶レ山、蓋東南美味之所レ聚焉、云云、山狸白額、竹犬青尾。

【山梨】1055 サンリ　木の名。やまなし。實は梨に似て小さく、美味。鹿梨。鼠梨。〔詩、秦風、晨風〕隰有ニ樹檖一、〔疏〕陸機疏云、檖、一名赤羅、一名山梨、今人謂ニ之楊檖一、實如レ梨、但小耳、一名鹿梨、一名鼠梨、今人亦種レ之、極有ニ脆美者一、亦如ニ梨之美者一。〔本草、鹿梨〕釋名、鼠梨・山梨・陽檖・羅、集解、時珍曰、山梨、野梨也、處處有レ之、梨大如レ杏可レ食、其木文細密、赤者文急、白者文緩、按、陸機云、鹿梨、齊郡・堯山・魯國・河內皆有、人亦種レ之、實似レ梨而酢、亦有ニ美脆者一。〔杜甫、雨晴詩〕塞柳行ニ疎翠一、山梨結ニ小紅一。〔丹鉛雜錄〕尹伯奇採ニ楟花一以爲レ食。〔注〕楟花、山梨也、今棠梨、其花春開、採レ之日乾、瀹可レ充レ疏。

〖山梨稻川〗1056 ヤマナシタウセン　駿河の人。名は治憲。字は玄度・叔子。通稱は東平。號は稻川・昆陽山人・不如無齋・於陵子・煙霞都尉。說文及び音韻學に精通し、又、詩・文・書に巧。文政九年七月六日歿す、年五十六。正五位を贈らる。著に諧聲圖・考聲微・皇水經・古聲譜・古音律呂三類・駿河國志・駿河國巡村記・聖藩羝觸・稻川遺芳・稻川集・文緯・孟浪俚言がある。〔山梨稻川全集〕・〔國書解題〕。

〖山裏果〗1057 サンリクワ　木の名。山樝(399)の異名。さんざし。山裏紅。〔本草、山樝〕釋名、赤瓜子・鼠樝・猴樝・茅樝・朹子・檕梅・羊棣・棠梂子・山裏果、時珍曰、王璆百一選方云、山裏紅果、俗名ニ酸棗一、又名ニ鼻涕團一、正合ニ此義一矣。

〖山裏紅〗1058 サンリコウ　山裏果に同じ。

【山樆】1059 サンリ　梨の木の、山にあるものをいふ。山にあるを樆といひ、人が植ゑるを梨といふ。〔爾雅、釋木〕梨、山樆。〔注〕卽今梨樹。〔疏〕梨生ニ山中一者名レ樆、郭云、卽今梨樹、言ニ其在レ山之名一則曰レ樆、人植レ之曰レ梨。〔急就篇、二〕梨柿柰桃待ニ露霜一。〔注〕梨、一名ニ山樆一。

【山離】1060 サンリ　漢代の南蠻の國名。〔漢書、陳湯傳〕南排ニ月氏・山離・烏弋一。〔注〕服虔曰、山離・烏弋、不レ在ニ三十六國中一、山離、去ニ中國一二萬里。

【山籬】1061 サンリ　山中のまがき。〔杜甫、題ニ柏大兄弟山居屋壁一詩〕野屋流ニ寒水一、山籬帶ニ薄雲一。

【山流】1062 サンリウ　山を流れる川。やまかは。〔袁宏道、舟中風雪云云詩〕江滃奔瀾疊、山流膩綠頹。

【山溜】1063 サンリウ　山石から滴り出る泉。谷川の流。〔陸機、招隱詩〕山溜何泠泠、飛泉漱ニ鳴玉一。〔祖孫登、詠レ水詩〕風潭如レ拂レ鏡、山溜似レ調レ琴。〔李頻、送下厲圖南往ニ荊州一覲上伯詩〕山溜含ニ清韻一、江雷吐ニ夜光一。〔歐陽脩、浮ニ槎山水一記〕聽ニ山溜之潺湲一、飲ニ石泉之滴瀝一。

〖山溜穿レ石〗1064 サンリウイシヲウガツ　山から滴り出る水が石に穴をあける。努めて止まなければ難事をも成し遂げ得る喩。〔說苑、正諫〕泰山之溜穿レ石、引レ繩久レ之乃以挈レ木、水非ニ石之鑽一、繩非ニ木之鋸一也、而漸靡使ニ之然一。

【山榴】1065 サンリウ　山石榴(638)の❶に同じ。さつき。〔何遜、七召〕河柳垂レ葉、山榴發レ英。〔劉禹錫、傷ニ愚溪一詩〕隔レ簾惟見中庭草、一樹山榴依レ舊開。〔白居易、早夏遊宴詩〕山榴豔似レ火、玉蕊飄如レ霞。〔倭名類聚抄、草木、木類、山榴〕兼名苑云、山榴卽山石榴也、花與ニ羊躑躅一相似矣。

【山霤】1066 サンリウ　山家のあまだれ。〔貫休、湖上作詩〕山霤穿ニ苔壁一、風鐘度ニ雪林一。

【山陸】1067 サンリク　山と陸。〔師曠禽經、注〕鵙中春寒盡、鴈始北嚮、燕代尙寒、猶集ニ于山陸岸谷之閒一。

【山立】1068 サンリツ サンリフ　❶山のやうに立つ。ただしく立つ。ゆるがない。〔禮、玉藻〕頭頸必中、山立時行。〔注〕不ニ搖動一也。〔疏〕山立者、若住立則嶷如ニ山之固一、不ニ搖動一也、樂記云、摠レ干而山立、不ニ動搖一也。〔禮、樂記〕總レ干而山立、武王之事也。〔注〕山立、猶ニ正立一也。〔陸雲、吳故丞相陸公誄〕神于山立、雄旗電擧。〔唐書、王雄誕傳〕每レ破ニ城邑一、整レ衆山立、無ニ私毫犯一。❷宋、劉南甫(**2**－**2224**··1251)の字。

【山栗】1069 サンリツ　栗の一種。やまぐり。〔本草、栗〕集解、時珍曰、栗之大者爲ニ板栗一、中心扁子爲ニ栗楔一、稍小者爲ニ山栗一、山栗之圓而末尖者爲ニ錐栗一、圓小如ニ橡子一者爲ニ莘栗一、小如ニ指頂一者爲ニ茅栗一、卽爾雅所謂栭栗也、一名栵栗、可ニ炒食レ之。〔歐陽脩、新營ニ小齋一鑿ニ地爐一輒成詩〕晨灰煖ニ餘盃一、夜火爆ニ山栗一。〔蘇轍、將レ移ニ績溪令一詩〕山栗似レ拳應ニ自飽一、蜂糖如レ土不レ須レ慳。

【山涼】1070 サンリヤウ　山中のすずしさ。〔陳後主、同ニ管記陸瑜一九日觀ニ馬射一詩〕樓高看ニ鴈下一、葉散覺ニ山涼一。

【山梁】1071 サンリヤウ　❶山間のかけはし。溪流を遮る岩石。〔論語、鄉黨〕山梁雌雉、時哉時哉。〔集注〕山梁、橋也。〔庾信、秦州天水郡麥積崖佛龕銘〕橫鐫ニ石壁一、闇鑿ニ山梁一。❷雉(**11**－**41987**)の異稱。〔枚乘、七發〕山梁之餐、豢豹之胎。〔注〕善曰、論語、子曰、山梁雌雉、時哉時哉、鄭玄曰、孔子山行、見三一雌雉食ニ其梁粟一。〔范曄、樂游應レ詔詩〕山梁協ニ孔性一、黃屋非ニ堯心一。〔注〕善曰、論語、子曰、山梁雌雉、時哉時哉、何晏曰、言ニ山梁雌雉得レ時、鄭玄毛詩箋曰、梁、石絕レ水之梁也。〔下學集、氣形〕山梁、雉異名也、見ニ論語一。

【山隆】1072 サンリユウ　山がたかい。〔新論、從化〕迅風揚レ波、高下相臨、山隆谷窪、差以ニ尋常一、較而望レ之、猶曰ニ水平一、擧ニ大體一也。

【山侶】1073 サンリヨ　山中の友。〔白居易、答ニ山侶一詩〕更慙山侶頻傳レ語、五十歸來道未レ遲。

【山陵】1074 サンリヨウ　❶山岳と丘陵。山とをか。又、高原。〔書、堯典〕蕩蕩懷レ山襄レ陵、浩浩滔レ天。〔禮、王制〕山陵・林麓・川澤・溝瀆・城郭・宮室・塗巷、三分去レ一。〔禮、月令〕(季春)行ニ夏令一、則民多ニ疾病一、時雨不レ降、山陵不レ收。〔注〕高者暵ニ於熱一也。〔左氏、襄、十〕兆如ニ山陵一、有レ夫出征、而喪ニ其雄一。〔管子、宙合〕山陵岑巖、淵泉閎流。〔淮南子、兵略訓〕何謂レ隱ニ之地一、山陵邱阜、林叢險阻、可ニ以伏匿一、而不レ見レ形者也。〔史記、淮陰侯傳〕兵法右ニ倍山陵一、前ニ左水澤一。❷天子の冢をいふ。みささぎ。秦に山といひ、漢に陵といふ。山園。〔水經、渭水注〕秦名ニ天子冢一曰レ山、漢曰レ陵、故通曰ニ山陵一矣、風俗通曰、陵者天生自然者也、王公墳壠稱レ陵、春秋左傳曰、南陵夏后皐之墓也、春秋說題辭曰、丘者墓也、冢者種也、種墓也、羅ニ倚于山一、分ニ卑尊之名一者也。〔文心雕龍、祝盟〕漢代山陵、哀策流文。❸天子の崩御をいふ。山陵崩。〔蘇轍、乞レ罷ニ左右僕射蔡確韓縝一狀〕確・縝自ニ山陵一已後、猶端然在レ職。❹ミササギ　大和國の地名。

〖山陵翹〗1075 サンリヨウゲウ　草の名。あきのたむらさう。鼠尾草の異名。〔本草、鼠尾草〕釋名、葝・山陵翹・烏草・水青、時珍曰、蘇頌圖經謂ニ鼠尾一名陵粗一者、乃陵翹之誤也。

〖山陵志〗1076 サンリヨウシ　書名。❶二卷。蒲生君平撰。歷代の御陵を考證して記述したもの。❷一卷。撰者未詳。第一代神武天皇から第百十八代後桃園天皇までの御陵の所在を記し、構營の大略を圖示す。

〖山陵使〗1077 サンリヨウシ　御卽位・立太子等の時、山陵に報告せしめ給ふ御使。〔日本紀略、圓融〕安

和二年九月二十二日、被三發二遣山陵使一告二御卽位幷立太子之由一。

【山陵崩】1078（サンリヨウクヅル）　天子の崩御を忌んでいふ語。天子が崩ずれば山陵を發掘して壙穴とするからいふ。〔戰國、趙策〕一旦山陵崩、長安君何以自託二於趙一。〔戰國、秦策〕王之春秋高、一旦山陵崩、太子用レ事、君危二於累卵一、而不レ壽二於朝生一。〔注〕山陵、墳墓處、王崩則發二山陵一爲レ壙、是山陵崩也、乃諱辭也。

〔山陵兆域門〕1079（サンリヨウテウヰキモン）　天子の墓の附近にある門。天子の棺を埋めた所を兆、兆の周圍の塀で蔽つた所を塋、其の四界を域といひ、域に門がある。〔明律、兵、宮衞、太廟門擅入〕凡擅入二太廟門、及山陵兆域門一者、杖一百、太社門、杖九十、未レ過二門限一者、各減二一等一。

【山龍】1080（サンリヨウ）　古、袞服及び旌旗の文飾の山と龍との模樣をいふ。又、山龍の模樣を施した服。〔書、益稷〕予欲下觀二古人之象一、日月星辰、山龍華蟲作レ會、宗彝、藻火粉米、黼黻絺繡、以二五采一彰二施于五色一作上レ服。〔傳〕畫二三辰山龍華蟲於衣服旌旗一。〔說苑、脩文〕士服黼、大夫黻、諸侯火、天子山龍、德彌盛者文彌縟、中彌理者文彌章也。〔晉書、輿服志〕天子備二十二章一、三公諸侯用二山龍九章一、九卿以下用二華蟲七章一、皆具二五采一。〔柳宗元、送二豆盧膺秀才南遊一詩序〕琅乎璆璜衝牙之響發焉、煌乎山龍華蟲之采列焉。

【山龍子】1081（サンリヨウシ）　蜥蜴（**10－33157**‥1）の異名。とかげ。やもり。〔本草、石龍子〕釋名、山龍子・泉龍・石蜴・蜥蜴・豬婆蛇・守宮、時珍曰、此物生二山石間一、能吐レ雹可レ祈レ雨、故得二龍子之名一。

【山龍膽】1082（ヤマリンダウ）　龍膽の一。はるりんだう。石龍膽。〔本草、龍膽〕集解、頌曰、又有二山龍膽一。

【山隴】1083（サンリヨウ）　山とをか。又、山やをかの多い地。〔周書、文帝紀上〕君若督二率所部一、自二山隴一東邁、吾亦總二勒師徒一、北道還レ闕、共追二廉藺之跡一、同慕二寇賈之風一。〔王休、淸堂賦〕山隴勾二連兮明秀一、湖波停二畜兮淸漣一。〔六朝事迹〕江東謂二山隴之間一曰レ干。

【山力】1084（サンリヨク）　山の力。〔論衡、效力〕小石附二于山一、山力能得レ持レ之。

【山綠】1085（サンリヨク）　山の綠。山翠。山碧。又、山林に新綠が萌え出ること。〔白居易、送二王處士一詩〕好去采薇人、終南山正綠。〔蘇軾、和三子由記二園中草木一詩〕探レ懷出二新詩一、秀語奪二山綠一。

【山林】1086（サンリン）　㊀山と林。〔周禮、地官、大司徒〕辨二其山林・川澤・丘陵・墳衍・原隰之名物一。〔注〕積レ石曰レ山、竹木曰レ林。〔周禮、地官、山虞〕掌二山林之政令一。〔禮、月令〕命祀二山林川澤一、犧牲毋レ用レ牝。〔左氏、襄、二十五〕度二山林一、鳩二藪澤一。〔國語、楚語下〕山林藪澤、足三以備二財用一、則寶レ之。㊁山にある林。山に植ゑつけた林。〔禮、王制〕草木零落、然後入二山林一。〔孟子、梁惠王上〕斧斤以レ時入二山林一、材木不レ可二勝用一也。〔漢書、貨殖傳序〕斧斤不レ入二於山林一。㊂都會を離れた山野。隱者の居所をいふ。山林之士を見よ。〔晉書、嵆康傳〕故有下處二朝廷一而不二出入一、山林而不レ反之論上。〔張華、招隱詩〕隱士託二山林一、遁レ世以保レ眞。㊃漢の竇太主が、己の邸を謙稱した語。〔漢書、東方朔傳〕竇太主曰、願陛下時忘二萬事一、養レ精游レ神、從二中掖庭一回レ輿、枉レ路臨二妾山林一。〔注〕應劭曰、公主園中有レ山、謙不二敢稱レ第、故託二山林一也。㊄相術家の語。左額の邊域と丘陵との間をいふ。流年運氣（**6－17431**‥307）を見よ。

〔山林友〕1087（サンリンノトモ）　山林の友。唐の韋溫が、親友の蕭祐の俗事を離れて隱居するを呼んだ語。〔唐書、韋溫傳〕溫少レ合、所レ善惟蕭祐、祐少貧窶隱居、以二孝養一聞、不下以二塵事一自蒙上、故溫號二山林友一云。

〔山林局〕1088（サンリンキヨク）　もと森林や原野に關する一切の事務を取扱ふ農林省の一局。

〔山林司〕1089（サンリンシ）　民國、農林部の一局。山林局。

〔山林隱逸〕1090（サンリンインイツ）　仕官しないで山林にかくれる。又、その隱者をいふ。擧二山林隱逸之士一を見よ。

〔山林之士〕1091（サンリンノシ）　山林に隱遁した士。巖穴之士。山谷之士。〔漢書、王貢兩龔鮑傳贊〕山林之士、往而不レ能レ反、朝廷之士、入而不レ能レ出、二者各有レ所レ短。

〔山林屠販〕1092（サンリントハン）　山林や市井の間。又、そこにかくれた豪傑の士。屠販は獸畜を屠つて之を賣るもの。〔歐陽脩、釋祕演詩集序〕山林屠販、必有二老死而世莫一レ見者一。

〔山林獨往〕1093（サンリンドクワウ）　山林の閒を獨り往く。世俗を脫した生活をいふ。〔李涀、書二漁父歌後一文〕以二朝市眷戀之徒一、而出二山林獨往之語一。

〔擧二山林隱逸之士一〕1094（サンリンインイツノシヲアグ）　明代、野に遺賢なきを期し、山林隱逸の士を拔擢する爲に用ひた特別任用の制度。〔續文獻通考、選擧考、賢良方正〕孝宗弘治十年、令下州縣正官保中擧山林隱逸之士、懷レ才抱レ德、經明行修、衆所二推服一者上、巡按及布按二司官、覈實奏二送吏部一、量レ才擢用、如所レ擧不レ當、保勘官並坐。

〔山林之士淸苦而逸趣自饒〕1095（サンリンノシハセイクニシテイツシユオノヅカラオホシ）　山林中に隱れて生活してゐる人は、淸淨で貧苦ではあるが、世俗を超越した趣が多い。〔菜根譚、後〕山林之士淸苦、而逸趣自饒。

【山淪】1096（サンリン）　山がしづむ。〔南齊書、高帝紀上〕難滅星謀、山淪川竭。〔雲笈七籤〕水涌河決、山淪地沒。

「廩空而鼠喧、野浪高而鷗喜。

【山廩】1097（サンリン）　山中の米ぐら。〔皇甫松、大隱賦〕山

【山櫐】1098（サンルイ・サンライ）　豆の一種。はつしようまめ。諸慮。黎豆。蘡薁。〔爾雅、釋木〕諸慮、山櫐。〔注〕今江東呼レ櫐爲レ藤、似レ葛而麤大。〔本草、黎豆〕釋名、貍豆・虎豆、集解、時珍曰、爾雅、虎櫐卽貍豆也、古人謂レ藤爲レ櫐、後人訛レ櫐爲レ貍矣、爾雅、山櫐・虎櫐、原是二種、陳氏合而爲レ一、謂、諸慮一名虎涉、又以爲二千歲櫐一、並誤矣、千歲櫐見二草部一、貍豆野生、山人亦有二種レ之者一、三月下レ種、生レ蔓、其葉如二豇豆葉一、但文理偏斜、六七月開レ花、成レ簇紫色、狀如二扁豆花一、一枝結莢十餘、長三四寸、大如二拇指一、有二白茸毛一、老則黑而露レ筋、宛如二乾熊指爪之狀一、其子大如二刀豆子一、淡紫色、有二斑點一如二貍文一、煑去二黑汁一、同二豬雞肉一再煑、食味乃佳。

【山冷】1099（サンレイ）　山中の寒冷なこと。〔羅隱、紅葉詩〕野晴霜浥レ綠、山冷雨催レ紅。

【山例】1100（サンレイ）　山中の慣例。〔曹學佺、桂林風謠詩〕法依二山例一峻、歌疊二浪花一新。

【山茘】1101（サンレイ）　木の名。茘枝の一種。〔茘枝記〕中元紅茘枝將レ絕、方熟以レ晚重二于時一、吾泉中茘欲レ過レ時、輒有二山茘一、山茘者茘之閏位也。

【山嶺】1102（サンレイ）　山のみね。山巓。〔水經、夷水注〕每レ有下陟二山嶺一者上、扳レ木側レ足而行。〔潘岳、河陽縣作詩〕川氣冒二山嶺一、驚湍激二巖阿一。〔張載、登二成都白菟樓一詩〕西瞻二岷山嶺一、嵯峨似二荊巫一。〔宋書、鮮卑吐谷渾傳〕或在二山嶺一、或在二平地一。

【山隸】1103（サンレイ）　山中に働くしもべ。〔宋濂、遊二涇川水西寺一詩〕殘僧五六輩、裓衲裹二山隸一。

【山藜】1104（サンレイ）　藥草の名。山あかざ。〔管子、地員〕其山之旁、有二彼黃虻及彼白昌、山藜葦芒一、羣藥安聚、以圉二民殃一。

〔山藜花〕1105（レンリサウ）　草の名。かまきりさう。まめ科に屬する宿根草で、原野に自生し、五月頃、碧紫色の花を開く。

【山櫺】1106（サンレイ）　山家のれんじ。櫺は窓に設ける格子。〔江淹、應二謝主簿一騷體〕山櫺靜兮悲凝レ涼、澗軒掩兮酒涵レ霜。

【山靈】1107（サンレイ）　山の靈。山の神。〔孔稚珪、北山移文、注〕向曰、孔生乃假二山靈之意一、移レ之使レ不レ許二再至一。〔庾信、終南山義谷銘序〕川后讓德、山靈景從。〔李益、華陰東泉云云詩〕潛鱗孕二明晦一、山靈閟二幽頤一。

〔列二山靈一陳二水陸一〕1108（サンレイヲツラネスイリクヲツラヌ）　山海の珍味をならべること。〔西廂記、崔鶯鶯夜聽レ琴雜劇〕舒心的列二山靈一陳二水陸一。

【山連】1109（サンレン）　㊀山が連續する。〔水經、江水注〕縣北則三洲也、山連延二江側一。〔儲光羲、秋庭貽二馬九一詩〕東里近二王城一、山連路亦平。〔許渾、送三杜秀才歸二桂林一詩〕桂州南去與レ誰同、處處山連水自通。㊁山のやうに連なる。〔庾信、枯樹賦〕節竪山連、文橫水蹙。㊂朮（**6－14423**）の異名。をけら。〔本草、朮〕釋名、山薊・楊枹・枹薊・馬薊・山薑・山連・吃力伽。

【山路】1110（サンロ）　山中の道路。山道。山途。やまぢ。〔陸機、招隱詩〕駕言尋二飛遯一、山路鬱盤桓。〔魏書、崔光傳〕轘關峭嶮、山路危狹。〔王維、山中詩〕山路元無レ雨、空翠濕二人衣一。〔裴迪、斤竹嶺詩〕一逕通二山路一、行歌望二舊岑一。〔杜甫、題二張氏隱居一詩〕前邨山路險、歸醉每無レ愁。

【山蕗】1111（ヤマブキ）　蕗の一種。やまふき。つは。欵冬。〔和漢三才圖會、濕草類、豆和〕欵冬、和名夜末布岐、對㆑蕗謂㆓山蕗㆒乎。

【山爐】1112（サンロ）　山中のゐろり。〔張耒、歲暮書㆑事詩〕野俎飽㆓狚脯㆒、山爐煑㆓橡櫟㆒。

【山露】1113（サンロ）　山中のつゆ。山路のつゆ。〔王建、晚蝶詩〕日高山露解、飛入㆓菊花中㆒。〔揭傒斯、煙寺晚鐘詩〕相喚復相送、山露濕㆓人衣㆒。

【山驢】1114（サンロ）　くろいめひつじ。羺(**9**－**28533**)の別名。〔本草、麢羊〕附錄、山驢、時珍曰、山海經云、晉陽懸甕之山・女几之山・荆山・綸山並多㆑閭、郭璞注云、閭卽羺也、似㆑驢而岐蹄馬尾、角如㆓麢羊㆒、一名山驢、俗人亦用㆓其角㆒以代㆓羚羊㆒、又北山經云、太行之山有㆑獸、名驒、狀如㆓麢羊㆒、而四角馬尾、有㆑距善旋、其鳴自叫、此亦山驢之類也。

〔山驢王〕1115（サンロワウ）　駱駝(**12**－**44734**··11)の異名。唐の趙崇が伴つて駱駝を識らずといつたことから、趙崇を嘲つた語。〔諧噱錄〕梁祖言㆓於昭宗㆒曰、趙崇是輕薄圓頭、於㆓鄂州座上㆒、佯不㆑識㆓駱駝㆒、呼爲㆓山驢王㆒。

【山樓】1116（サンロウ）　山中にある高どの。山上の樓閣。山閣。〔庾信、秦州天水郡麥積崖佛龕銘〕冰谷銀沙、山樓石柱。〔李乂、春日侍㆓宴芙蓉園㆒詩〕水殿臨㆓丹籞㆒、山樓繞㆓翠微㆒。〔杜甫、秋興詩〕畫省香爐違㆓伏枕㆒、山樓粉堞隱㆓悲笳㆒。

【山壟】1117（サンロウ）　山とをか。壟は小さいをか。〔木華、海賦〕澎濞灪磙、碨磊山壟。〔注〕向曰、壟、小埠也。

【山籠】1118（ヤマゴモリ）　佛傳教大師の定めに、天台の學徒で大乘戒を受けたものは、十二年の間、叡山に籠つて三昧を修するを法とする、之を十二年の山籠といふ。又、山中に入つて修業すること。〔類聚國史〕弘安十三年六月壬戌、傳燈大法師位最澄言、夫如來制㆑戒隨㆑機不㆑同、衆生發心大小亦別、伏望天台法華宗、年分度者二人、於㆓比叡山㆒、每年春三月先帝國忌日、依㆓法華經制㆒令㆓得度受戒㆒、十二箇年不㆑聽㆑出㆑山、四種三昧令㆑得㆓修練㆒、然則一乘戒學永傳㆓聖朝㆒。

【山肋】1119（サンロク）　山中の腹。〔皮日休、上眞觀詩〕徑盤在㆓山肋㆒、繚繞窮㆓雲端㆒。

【山鹿】1120（サンロク）　山中の鹿。〔喩鳧、送㆓潘咸㆒詩〕心齊山鹿逸、句敵柳花狂。〔楊萬里、感興詩〕山鹿寧游㆑市、江鷗本臥㆑沙。〔元好問、自題㆓寫眞㆒詩〕不㆑畫幼輿巖穴裏、野麋山鹿欲㆓何成㆒。

〔山鹿素行〕1121（ヤマガソカウ）　會津の人。名は高祐。初名は義矩・高興。字は子敬。通稱は佐太郞・甚五左衞門。號は素行・因山。儒學は林羅山、兵學は北條氏長を師とす。古學の創唱者。初、程朱の學を奉じたが、後、理氣心性の說に疑を持ち、古學を提唱して朱子學を攻擊したので罪を得て赤穗に流された。後、專ら所謂山鹿流の兵學を唱へ、經藝を廢棄す。門人四千餘人に及ぶ。壯歲、赤穗侯の賓師となり、流謫の際、其の厚遇を受く。貞享二年九月二十六日歿す、年六十四。正四位を贈らる。著に足輕左右・一騎武者受用・海備全策・結要品・原源發機・原源發機諺解・古今戰略考・古戰折本・三重極意傳授・修身要錄・修身受用抄・四書句讀大全・四書諺解・四書或問・子孫傳錄・士談・七書諺解・師弟問答・自得奧儀・手鏡要錄・職分記・城取稽古口決・神道書・神武雄略・聖教要錄・戰略考・孫子句讀・孫子口義・大星大事目錄・當用集・謫居童問・謫居問答・治教要錄・治平要錄・中朝事實・二十騎三十騎備・配所殘筆・八箇條一子相傳之極祕・備要錄・備教要錄・百結字類・武具短歌・武教小學・武教全書・武教全書問答・武教全書傳解・武教總要・武教續集・武教別集・武教辨論・武教本論・武教餘錄・武教類集・武類全書・武家事記・兵法神武雄備集・兵法或問・辨惑論・本論・山鹿語類・雄備奧儀抄がある。〔先哲叢談、後、二〕・〔近代名家著述目錄〕・〔日本古學派の哲學〕・〔國書解題〕。

【山麓】1122（サンロク）　❶山のふもと。山基。山根。山阯。〔南齊書、五行志〕溪水衝激、山麓崩、長六七丈。〔周忱、遊㆓小西夫㆒記〕迤邐至㆓山麓㆒、似㆑不㆑可㆑登。❷山のふもとの林。〔柳宗元、零陵三亭記〕零陵縣東有㆓山麓㆒、泉出㆓石中㆒、沮洳汚塗、羣畜食㆑焉。

〔山麓帶〕1123（サンロクタイ）　山麓一帶の地。萩・桔梗など高山植物の生ずる一帶。

【山掄】1124（サンロン）　淸、吳廷楨(**2**－**3365**··794)の字。

【山窩】1125（サンワ サンクワ）　昔から一定の住所がなく、山奧や河原等に天幕を張つて、自然人のやうな生活を營んで來た漂泊性をもつた賤民をいふ。竹細工等を業として、傍ら狩漁をする。性質が兇暴であつたから一般に恐れられてゐた。

〔山窩子〕1126　shan^1 wo^1 tzŭ　谷。

【山淮】1127（サンワイ）　山と川。山川。〔魏書、蕭寶夤傳〕履霜弗㆑聞、去就先結、隔㆓絕山淮㆒、溫凊永盡、定省長違、報復何日、以㆑此爲㆑心、心可㆑知矣。

【山隈】1128（サンワイ）　山のくま。山曲。山阿。〔曹植、應詔詩〕涉㆓澗之濱㆒、緣㆓山之隈㆒。〔柳宗元、湘口館瀟湘二水所㆑會詩〕高館軒㆓霞表㆒、危樓臨㆓山隈㆒。

【山王】1129（サンワウ）　❶晉の山濤と王戎。〔南史、顏延之傳〕出爲㆓永嘉太守㆒、延之甚怨憤、乃作㆓五君詠㆒、以述㆓竹林七賢㆒、山濤王戎以㆓貴顯㆒被㆑黜。〔蘇軾、叔弼云履常不㆑飮故不㆑作㆑詩勸㆓履常飮㆒詩〕他年五君詠、山王一時數。〔周權、夏日訪㆓黃府尹㆒詩〕千篇已羨奴島可、五君未㆑許餘㆓山王㆒。❷比叡山の東麓、滋賀縣坂本の官幣大社日吉神社の別稱。祭神は大山咋神（オホヤマクヒノカミ）。傳教大師が大三輪神を勸請して神號を山王と奉り、一宗の守護神としたに因る。山王二十一社を見よ。〔山王知新記、上〕。❸佛（センワウ）㋑釋典十住經の十大山王をいふ。〔金剛經〕譬如㆓有人㆒、身如㆓須彌山王㆒。〔十住經〕譬如㆑因㆓大地㆒、故有㆓十大山王㆒、何等爲㆑十、所謂雪山王・香山王・軻梨羅山王・仙聖山王・由乾陀羅山王・馬耳山王・尼民陀羅山王・斫迦婆羅山王・衆相山王・須彌山王。㋺山の最も高いもの。山の王。〔無量壽經、下〕智慧如㆓大海㆒、三味如㆓山王㆒。〔法華經、法師功德品〕彌樓山、摩訶彌樓山等諸山王。

〔山王院〕1130（サンワウヰン）　智證大師圓珍の別號。〔元亨釋書、圓珍傳〕或曰、山王受㆑戒時坐、此故人呼㆓珍房㆒曰㆓山王院㆒。

〔山王七社〕1131（サンワウシチシヤ）　山王神社に附屬した二十一社の上の七社をいふ。山王二十一社を見よ。

〔山王大師〕1132（サンワウダイシ）　智證大師の別號。山王院を見よ。

〔山王二十一社〕1133（サンワウニジフイツシヤ）　比叡山延曆寺の總守護神。上の七社と中の七社と下の七社との總稱。上の七社は、大宮・二宮・聖眞子・八王子・客人宮・十禪師・三宮。中の七社は、下八王子・王子宮・早尾・大行事・聖女・牛之尊・氣比宮。下の七社は、小禪師・惡王子・新行事・岩瀧・山末・劍宮・大宮竈殿。山王の❷を見よ。〔和漢三才圖會、日本、近江〕日吉山王權現、祭神二十一社、比叡山鎭守、上七社、大宮(大己貴尊)・二宮(國常立尊・神皇產靈尊)・聖眞子(正哉吾勝尊)・八王子(國狹槌尊)・客人宮(伊奘諾尊)・十禪師(瓊瓊杵尊)・三宮(惶根尊)、中七社、下八王子(天御中主尊)・王子宮(建御名方尊)・早尾(素盞烏尊)・大行事(高皇產靈尊)・聖女(下照宮)・牛之尊(口授)・氣比宮(仲哀天皇)、下七社、小禪師(彥火火出見尊)・惡王子(童子形・本地愛染)・新行事(瀛津島姬)・岩瀧(蹈鞴姬命)・山末(神記未詳)・劍宮(素盞烏之變神)・大宮竈殿(澳津彥命)、天智天皇御宇始鎭座、桓武天皇延曆十年、始出㆓神輿㆒行㆓祭禮㆒、釋行圓有㆓示現㆒以後稱㆓山王㆒以㆑猿爲㆓宦者㆒、社傍養㆑之。

【山颪】1134（ヤマオロシ）　❶山上から吹き下す風。〔源氏物語、若紫〕山おろしにつきて聞えくる。❷歌舞伎芝居で、化物の出や波風の音などを立てる時に大太鼓を鳴らすこと。山颪の音に擬して名づける。

【愛㆑山】1135（ヤマヲアイス）　山を愛する。〔白居易、宿㆓西林寺㆒詩〕木落天晴山翠開、愛㆑山騎㆑馬入㆑山來。〔蘇軾、自㆓徑山㆒回得㆓呂察推詩㆒用㆓其韻㆒招㆑之宿㆓湖上㆒詩〕多君貴公子、愛㆑山如㆑愛㆑色。

【懷㆑山】1136（ヤマヲカヌ）　水が山の四面を包むこと。懷は包。〔書、堯典〕湯湯洪水方割、蕩蕩懷㆑山襄㆑陵。〔傳〕懷、包。〔書、益稷〕禹曰、洪水滔㆑天、浩浩懷㆑山襄㆑陵、下民昏墊。

【鑿㆑山】1137（ヤマヲウガツ）　山に穴をあける。〔史記、平準書〕鑿㆑山通㆑道千餘里。

【歕㆑山】1139（ヤマヲハク）　山氣を吹き出す。〔班固、東都賦〕焱焱炎炎、揚㆑光飛㆑文、吐㆑燭生㆑風、欱㆑野歕㆑山。〔注〕善曰、欱、噏也、歕、吹㆑氣也、濟曰、欱歕、猶㆓吹吸㆒也。

【樂㆑山】1140（ヤマヲタノシム）　仁者は重厚、かつ安固で、心靜かであるから山の德を樂しむ。〔論語、雍也〕知

者樂レ水、仁者樂レ山。

【鏤レ山】1141（ヤマヲヒラク）　山を疏通して道路を開く。〔漢書、司馬相如傳下〕鏤二靈山一、梁二孫原一。〔注〕師古曰、鏤、謂下疏二通之一以開通上也。

【山有樞】1142（サンイウスウ）　詩經、唐風の篇名。晉の昭公、道を修めて國を正す能はず、財あれども用ふる能はず、鐘鼓あれども樂しむ能はず、朝廷あれども羣臣會する無く、政荒み民散じ、危亡將に至らんとし、四隣之を取らんことを謀るも知らず。國人之を刺つてこの詩を作る。〔詩、唐風、山有樞序〕山有樞、刺二晉昭公一也、不レ能三脩レ道以正二其國一、有レ財不レ能レ用、有二鍾鼓一不レ能二以自樂一、有二朝廷一不レ能二洒埽一、政荒民散、將二以危亡一、四鄰謀レ取二其國家一、而不レ知、國人作レ詩以刺レ之也。

【山嬰桃】1143（サンエイタウ）　果樹の名。にはうめ。〔本草、山嬰桃〕釋名、朱桃・麥櫻・英豆・李桃、詵曰、此嬰桃俗名二季桃一、又名二柰桃一、前櫻桃名レ櫻非レ桃也、集解、別錄曰、嬰桃實大如レ麥多レ毛、四月采、陰乾、弘景曰、櫻桃、卽今朱櫻可二煑食一者、嬰桃形相似、而實乖異、山間時有レ之、方藥不レ用。

【山和尚】1144（サンヲシヤウ）　鳥の名。廣西に產し、よく人語を學ぶ。〔蟲薈〕產二於廣西一、體大二於鴝鵒一、羽灰赤色、黑頰、兩翼有二翠色圓點一、能學二人言一、教法一如二鴝鵒一。

【山茄子】1145（サンカシ）　毒草の名。まんだらげ。〔本草、曼陀羅花〕釋名、風茄兒・山茄子、時珍曰、法華經言、佛說法時、天雨二曼陀羅花一、又道家北斗有二陀羅星使者一、手執二此花一、故後人因以名二花曼陀羅一、梵言雜色也、茄乃因二葉形一爾、姚伯聲花品、呼爲二惡客一。

【山荷葉】1146（サンカエフ）　草の名。さんかえふ。〔本草、鬼臼〕釋名、九臼・天臼・鬼藥・解毒・爵犀・馬目毒公・害母草・羞天花・朮律草・璚田草・獨脚蓮・獨荷草・山荷葉・旱荷・八角盤・唐婆鏡、集解、時珍曰、鄭樵通志云、鬼臼葉如二小荷一、形如二鳥掌一、年長二一莖一、莖枯則根爲二一臼一、亦名二八角盤一、以二其葉似一レ之也、據二此二說一、則似レ是、今人所謂獨脚蓮者也、又名二山荷葉・獨荷草・旱荷葉・八角鏡一。

【山駕籠】1147（ヤマカゴ）　山路を行くに用ひる竹製の手輕な駕籠。〔台德院殿御實紀、元和元年五月七日〕山駕籠に乘り。

【山行章】1148（サンカウシヤウ）　前蜀の人。一名は章。自ら山濤の後裔といふ。唐末、官は眉州刺史となる。城を築いて臥牛城といふ。後、王建に降る。〔十國春秋、前蜀〕。

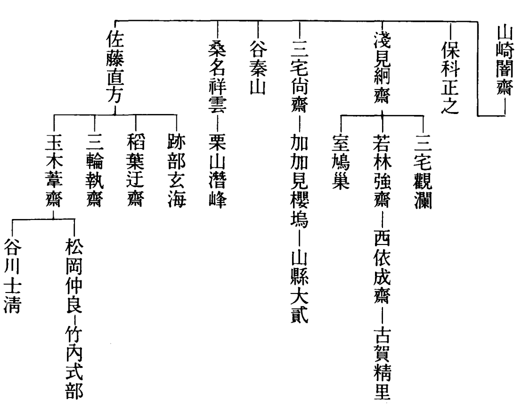
【山梗菜】1149（サンカウサイ）　草の一種。さはぎきやう。〔三才圖會、山梗菜考〕生二鄭州賈峪山山野中一、苗高二尺許、莖淡紫色、葉似二桃葉一而短小、又似二柳葉菜一亦小、稍間開二淡紫花一、其葉味甜。

【山蒿苣】1150（アキノノゲシ）　草の名。きく科に屬する一年草で、夏、黃色の花を開く。

【山核桃】1151（サンカクタウ）　山胡桃（357）に同じ。おにぐるみ。

【山甘草】1152（サンカンザウ）　草の名。つるまを。紫金藤（**8－27337**・・129）の異名。〔本草、紫金藤〕釋名、山甘草。

【山崎派】1153（ヤマザキハ）　山崎闇齋の學派。又、南學といふ。其の學說は尊王の精神に富み、特に朱子學を奉じて大義名分を明かにし、內外本末の辨を嚴にすることを教學の大精神とす。從つて其の學風も亦峻烈嚴肅、人心に感孚する事頗る深く、後世に與へた影響は甚だ大きい。末流に至つては偏狹固陋に失する傾向もないではなかつたが、我が國儒學史上に於て獨特の地歩を占め、殊に日本的儒學を創立したことは特筆に價する。其の學統は上圖の如くである。



【山歸來】1154（サンキライ）　藥草の名。土茯苓の和名。春の頃、宿根からつるを生ず。葉は竹に似て冬凋まず。葉間から一莖を出して黃花を開く。根は藥用に供する。〔多識編、二〕土茯苓、俗云二山歸來一。〔和漢三才圖會、蔓草、土茯苓〕俗云二山歸來一、又云二加天草一、云云、凡楊梅瘡盛流行也、於レ今凡不レ過二一二百年一、市中好淫人、交濁陰、彼此傳染然焉、古者罕レ識二其治療一、而肢體拘攣、終至二眼鼻腐爛一、故如有二患レ之者一、則不レ同二器巾一、其重者或棄二於山野一、近來多服二土茯苓一、用使二病人自一レ山歸來一、實良藥也。

【山鞠窮】1155（サンキクキユウ）　藥草の名。せんきゆう。芎藭。濕をふせぐに用ひる。山芎藭。〔左氏、宣、十二〕還無社與二司馬卯一言、號二申叔展一、叔展曰、有二麥麴一乎、曰無、有二山鞠窮一乎、曰無。〔注〕麥麴・鞠窮、所二以禦一レ濕。〔疏〕本草有二芎藭者一、是藥草之名。〔本草、芎藭〕釋名、胡藭・川芎・香果・山鞠窮。

【山狂生】1156（サンキヤウセイ）　明、杜大成（**6－14477**・・365）の號。

【山薑子】1157（サンキヤウシ）　清、田雯（**7－21723**・・277）の號。

【山巨源】1158（サンキヨゲン）　山濤（725）の❶を見よ。

【山蛩蟲】1159（サンキヨウチユウ）　蟲の名。やすでの類。〔本草、山蛩蟲〕集解、時珍曰、按二本經一、馬陸一名百足、狀如二大蛩一、而此云、狀如二百足一而大、更大者爲二馬陸一、則似下又指二百足一爲中一物上矣、蓋此卽馬陸之在レ山而大者、故曰二山蛩一、雞犬皆不二敢食一レ之。

【山芹菜】1160（サンキンサイ）　山草の名。草牡丹。〔和漢三才圖會、山草類、山芹菜〕俗云二草牡丹一、救荒本草云、山芹菜生二山野間一、苗高一尺餘、葉似二野蜀葵葉一、稍大而有二五叉一、又似二地牡丹葉一、亦大葉中攛二生莖叉一、稍結二刺毬一、如二鼠粘子刺毬一而小、開レ花黲白色、葉味甘、按、草牡丹高一尺、葉略似二牡丹一、四月開二白花一、似二芍藥一而單葉稍小。

【山菌子】1161（サンキンシ）　小鳥の名。うばしぎ。竹雞（**8－25841**・・123）の異名。〔本草、竹雞〕釋名、山菌子・雞頭鶻・泥滑滑、頌曰、山菌子卽竹雞也、時珍曰、菌子、言二味美如一レ菌也、集解、藏器曰、山菌子生二江東山林間一、狀如二小雞一無レ尾。

【山苦買】1162（ムラサキニガナ）　草の名。きく科の宿根草で、山地に自生し、夏から秋にかけて紫色の花を開く。

【山蕎麥】1163（サンケウバク）　草の名。つるつば。赤地利（**10－36993**・・263）の異名。〔本草、赤地利〕釋名、赤薜荔・五毒草・五蕺・蛇菵・山蕎麥。

【山兼山】1164（サンケンザン）　片山兼山（**7－19813**・・127）を見よ。

【山莧菜】1165（サンケンサイ）　牛膝（**7－19922**・・100）の異名。ゐのこづち。〔本草、牛膝〕釋名、牛莖・百倍・山莧菜・對節菜、時珍曰、本經又名二百倍一、隱語也、言三其滋補之功如二牛之多力一也、其葉似レ莧、其節對生、故俗有二山莧對節之稱一。

【山權數】1166（サンケンスウ）　管子の篇名。山の產物である金を以て萬物を招致することを論じてゐる。

【山元派】1167（サンゲンハ）　眞宗十派の一。祖は善鸞。越前國證誠寺を本山とす。〔釋門寺物紀原、一、上〕。

【山玄參】1168（サンゲンサン）　草の名。やまひなのうすつぼ。ごまのはぐさ科の宿根草で、山地に生じ、夏、紫黑色又は深紫色の花を開く。

【山珊瑚】1169（ヤマサンゴ）　草の名。つちあけび。山唐辛。

【山至數】1170（サンシスウ）　管子の篇名。鑛山を開いて貨幣を鑄造し、穀價を平かにすることから、國家の錢穀を經理する法を論じてゐる。

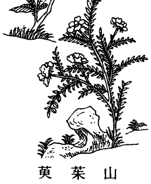
【山時鳥】1171（ヤマホトトギス）　山に棲む時鳥。又、單に時鳥。〔萬葉集、十八〕やまほととぎす何か來鳴かぬ。

【山慈姑】1172（サンジコ）　草の名。❶山野に自生し、高さ尺許。葉は細長。莖は地下莖の中央から出て、頂端に燈籠狀の花を開く。地下莖は慈姑に似て、食用となる。あまな。むぎぐわゐ。〔本草、山慈姑〕釋名、金燈・鬼燈檠・朱姑・鹿蹄草・無義草、時珍曰、根狀如二水慈姑一、花狀如二燈籠一而朱色、故有二諸名一、集解、時珍曰、山慈姑處處有レ之、冬月生レ葉、如二水仙花之葉一而狹、二月中抽二一莖如二

箭簳一、高尺許、莖端開レ花、白色、亦有二紅色・黃色者一、上有二黑點一、其花乃衆花簇成二一朶一、如二絲紐一、可レ愛、三月結レ子、有二三稜一、四月初苗枯、卽掘二取其根一、狀如二慈姑及小蒜一、遲則苗腐難レ尋矣、根苗與二老鴉蒜一極相類、但老鴉根無レ毛、慈姑有二毛殼包裹一爲レ異爾、用レ之去二毛殼一。❷山地の樹蔭に生ずる宿根草。葉柄は長く、葉は卵狀長楕圓形。花は、莖頂に生じ、春期に開く。地下莖から澱粉を採り、嫩葉を食する。かたくり。かたこゆり。かたゆり。かがゆり。

【山舟堂】1173 サンシウダウ　清、周士彬(**2**－3441・・672)の室名。

【山茱萸】1174 サンシユユ　木の名。葉は梅に似、刺あり。二月、杏の如き花を開き、四月、酸棗に似た實を結ぶ。實は藥用となる。いたちはじかみ。〔本草、山茱萸〕釋名、蜀酸棗・肉棗・鬾實・雞足・鼠矢、集解、頌曰、葉如レ梅有レ刺、二月開レ花如レ杏、四月實如二酸棗一赤色、五月采レ實。


山茱萸
（三才圖會）

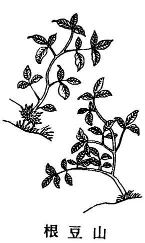
【山黍豆】1175 アヂカンザウ　草の名。ふじくさ。ぬすびとあし。かんざうだまし。やぶかんざう。まめ科の宿根草で、山野に自生し、夏、淡紅色の花を開く。

【山啄木】1176 サンタクボク　啄木鳥の一種。山中に棲み、大きさ鵲の如く、頭上に紅毛がある。青けら。おほけら。〔本草、啄木鳥〕集解、禹錫曰、山中一種、大如レ鵲、青黑色、頭上有二紅毛一者、土人呼爲二山啄木一。

【山竹果】1177 shan^1 chu^2 kuo^3　瓜哇・馬來地方に産する果物の名。

【山躑躅】1178 サンテキチヨク　つつじの一種。さつき。やまつつじ。山石榴。杜鵑花。映山紅。紅躑躅。〔本草、羊躑躅〕附錄、山躑躅、時珍曰、處處山谷有レ之、高者四五尺、低者一二尺、春生二苗葉一淺綠色、枝少而花繁、一枝數萼、二月始開レ花、如二羊躑躅一而蒂如二石榴一、花有二紅者・紫者・五出者・千葉者一、小兒食二其花一、味酸無レ毒、一名紅躑躅、一名山石榴、一名映山紅、一名杜鵑花、其黃色者卽有レ毒、羊躑躅也。〔事物異名錄、花卉、杜鵑〕格物總論、杜鵑花、一名山石榴、又名二山躑躅一。

【山豆根】1179 サンドウコン　藥草の名。蔓は大豆の如く、葉は青く、冬凋まず、根を解毒劑とする。みやまとべら。いしやだふし。醫者倒。〔本草、山豆根〕釋名、解毒・黃結・中藥、頌曰、其蔓如二大豆一、因以爲レ名、集解、頌曰、山豆根生二劍南及宜州・果州山谷一、今廣西亦有、以二忠州・萬州者一爲レ佳、苗蔓如レ豆、葉青經レ冬不レ凋、八月采レ根、廣南者如二小槐一、高尺餘、石鼠食二其根一、故嶺南人捕レ鼠取二腸胃一曝乾、解レ毒攻レ熱效。


山豆根
（三才圖會）

【山入端】1180 ヤマノリ　琉球の地名。

【山薄姜】1181 ホウライムラサキ　木の名。くまつづら科の灌木で、暖地の山野に生じ、春、淡紫色の花を開く。

【山撥鼠】1182 shan^1 po^1 shu^3　❶山鼠。❷もるもっと。

【山萆薢】1183 サンヒカイ　草の名。薯蕷科に屬し、花期は夏。おにどころ。ながどころ。萆薢(**9**－31255・・二)を見よ。

【山百合】1184 ヤマユリ　草の名。ゆり科の宿根草で、山野、海岸に近い山地等に自生し、夏、白色の花を開く。れうりゆり。ほうらいじゆり。よしのゆり。えいざんゆり。

【山葡萄】1185 ヤマブダウ　草の名。えびづる。蘡薁(**9**－32495・・一)の異名。〔本草、蘡薁〕釋名、燕薁・嬰舌・山葡萄・野葡萄・藤名二木龍一。

【山扁豆】1186 サンヘントウ　草の名。決明(**6**－17174・・97)の一種。茳芒の別名。かはらけつめい。〔本草、決明〕集解、時珍曰、決明有二二種一、一種馬蹄決明、云云、一種茳芒決明、救荒本草所謂山扁豆、是也、苗莖似二馬蹄決明一、但葉之本小末尖、正似二槐葉一、夜亦不レ合、秋開二深黃花一、五出結レ角、大如二小指一、長二寸許、角中子成二數列一、狀如二黃葵子一而扁、其色褐、味甘滑。

【山蝙蝠】1187 ヤマカウモリ ヤマカハモリ　蝙蝠の別種。體は黃褐色、樹木の洞穴や岩穴にすむ。

【山法師】1188 ヤマホフシ　比叡山延曆寺の僧徒。山徒。〔平家物語、一、願立事〕加茂川の水、雙六の簺、山法師、これぞ我御心にかなはぬものと、白河の院も仰せなりけるとかや。

【山茉莉】1189 ヤヘザキクサギ　木の名。くまつづら科に屬する灌木で、暖地に生じ、夏、帶綠淡紅色の花を開く。

【山滿樓】1190 サンマンロウ　清、徐金鏡(**4**－10110・・380)の室名。

【山茂樫】1191 ヤマモガシ　木の名。かまのき。かまうど。やまもがし科の常綠灌木、又は喬木で、暖地に生じ、初夏、白色筒形の花を開く。

【山蕍菜】1192 サンユサイ　山葵(187)の異名。わさび。〔三才圖會、山蕍菜考〕生二密縣山野中一、苗初塌レ地生、其葉之莖、背圓面窊、葉似二初出冬蜀葵一、葉梢五花叉二鋸齒邊一、又似二蔚臭苗葉一而硬厚、頗大後攛レ莖、叉莖深紫色、稍葉頗小、味微辣。

【山蘿蔔】1193 サンラフク　草の名。高さ二三尺に達し、羽狀複葉を對生す。花は菊花に似、葉は食用となる。まつむしさう。いたのぎく。たまむしさう。のだいこん。はこねぎく。やまぎく。りんぼうぎく。〔農政全書、山蘿蔔考〕生二山谷閒一、田野中亦有レ之、苗高五七寸、四散分二生莖葉一、其葉似二菊葉一而濶大、微有二艾香一。〔救荒本草〕一名鐵仙花、日本亦名二輪鋒菊一、又名二松蟲草一。

【山老公】1194 shan^1 lao^3 kung^1　白嘴鴉。

【山李子】1195 サンリシ　木の名。ねずみもち。鼠李(**12**－48390・・84)の異名。〔本草、鼠李〕釋名、楮李・鼠梓・山李子・牛李・皁李・趙李・牛皁子・烏槎子・烏巢子・椑。

【山黧豆】1196 サンリトウ　草の名。れんりさう。かまきりさう。草藤豆。〔農政全書、山黧豆考〕一名山豌豆、生二密縣山野中一、苗高尺許、其莖窊面劍脊、葉似二竹葉一而齊短、兩兩對生、開二淡紫花一、結二小角兒一、其豆扁如二䝁豆一、味甜。

【山楞兒】1197 shan^1 lêng^2 êrh　田舍者。

【山菉荳】1198 サンロクトウ　草の名。ぬすびとはぎ。〔農政全書、山菉豆考〕生二輝縣太行山、車箱衝山野中一、苗莖似二家菉荳一、莖微細、葉比二家菉豆葉一狹窄、艄開二白花一、結レ角亦瘦小、其豆黯綠色、味甘。

【山萵苣】1199 サンワキヨ　草の名。山野の閒に生じ、葉は萵苣の葉に似て小さく、邊に細鋸齒あり。葉は地に密着して生じ、葉閒から莖を出して淡黃色の花を開き、九輪草に似る。あきののげし。ひやくにちさう。〔和漢三才圖會、濕草類、山萵苣〕救荒本草云、山萵苣生二山野閒一、苗葉搨レ地生、葉似二萵苣葉一而小、葉腳花叉頗少、葉頭微尖、邊有二細鋸齒一、葉閒攛レ葶開二淡黃花一、苗葉味微苦、按、山萵苣、此云二九輪草一乎、似二萵苣葉一而扁、邊有二細鋸齒一、而葉腳窄、葉心莖淡紫、三四月抽レ葶開二小花一、似二櫻草花一而略大、生二於莖圍一、八椏各一樣、如二車輪一、至レ梢如レ此、七層或九層、宛然似二浮屠九輪一、故名、有二紅白紫三種一、結レ子茶褐色、其葉心莖中有二紫色強絲一、凡形狀乃九輪草也、唯山萵苣花色黃也、九輪草花未レ有二黃色者一、以爲レ異。

【如レ爲レ山】1200 ヤマヲツクルガゴトシ　山を作るやうなものである。〔論語、子罕〕譬如レ爲レ山、未レ成二一簣一、止吾止也。

【山有扶蘇】1201 サンイウフソ　詩經、鄭風の篇名。鄭の莊公の世子の忽が美とする所の人は、善人に非ざるを刺つたもの。〔詩、鄭風、山有扶蘇序〕山有扶蘇、刺レ忽也、所レ美非レ美然。〔鄭注〕言三忽所レ美之人、實非二美人一。

【山岩清水】1202 イハガキシミヅ　垣の如くめぐつた岩の閒より流れ出る清水。〔多識編〕。

【山崎闇齋】1203 ヤマザキアンサイ　京都の人。名は嘉。字は敬義。通稱は初、長吉、十二歳の時、清兵衞、二十九歳の時、嘉右衞門と改む。號は闇齋・垂加。初、絕藏主と稱し、禪僧であつたが、儒に歸し、還俗して塾を京都に開く。其の學は程朱を奉じ、務めて倫常を明かにし、尤も君臣の義を重んず。凡そ贄を執る者、前後六千餘人に及び、最も會津侯保科正之の尊信を得た。晚年、垂加流神道を創唱す。天和二年九月十六日歿す。年六十五。正四位を贈らる。著に會津風土記・雲谷記・易學啓蒙點・遠游紀行・溫泉遊艸・經點・孝經刊誤附考・孝經

外傳・孝經詳略・江府紀行・學規點・玉講附錄・近思錄點・敬齋箴・敬齋箴分注附錄・刑經・經名考・玄義講習・元元集美言・五友詩點・拘幽操點・拘幽操附錄・洪範全書點・五經點・古語拾遺點・盍徹問答・再游紀行・葬祭儀略・山北紀行點・周易本義點・周子書點・周書抄略・自從抄・城南雜錄點・社倉法點・朱易衍義・朱子訓子帖點・朱子訓子帖附錄・朱子訓蒙詩點・朱子輯要・朱子奏劄點・朱子齋居感興詩考注・朱書抄略・四書點・四書序考・仁說・仁說問答・眞西山孟子要略附錄・神代卷點・神代卷風葉集・垂加草・垂加草全集・垂加文集・續垂加文集・垂加文集拾遺（跡部光海編輯）・性論明備錄・小學點・小學蒙養集・責沈文・大學啓發集幷序例・大家商量集・大極圖說點・題辭・沖漠無朕說・中和集說・逐錄・逐錄評・張書抄略・程書抄略・讀書要・中臣祓傳・中臣祓風水草・日本書紀注・白鹿洞書院掲示集注・風水鈔・不自棄文・武銘・武銘考注・文會筆錄・文公家禮點・闢異・本朝事蹟異稱考・本朝改元考・孟活錄・孟子要略・夜寐箴・大和小學・六經經名考・魯齋考・論孟精義點がある。〔先哲叢談、正、三〕・〔近代名家著述目錄〕・〔闇齋先生年譜〕・〔國書解題〕。

【山崎子列】1204（ヤマザキシレツ）　會津の人。名は泉。字は子列。通稱は勝藏。歿年は未詳。官は會津藩儒。著に會津孝子傳・神代卷私解・儒要名目・聖學要言・大學觸類・批大學辨斷がある。〔近代著述目錄後篇〕・〔諸藩藏版書目筆記〕。

【山崎神道】1205（ヤマザキシンタウ）　神道の一派。山崎闇齋の首唱にかかる。垂加神道（**3－5012**・・17）を見よ。

【山崎北峰】1206（ヤマザキホクホウ）　江戸の人。名は美成。字は久卿。通稱は長崎屋新兵衞・久作。號は北峰・好問堂。儒者にして藥鋪を業としたが、後、其の業を廢し、常に筆硯に從事す。安政三年七月二十日歿す、年六十一。著に榮華物語解詁・江都名家詩選・攷古詩譚・好問質疑・好問堂海錄・歌話・金石叢書・皇學者後言・軍防知新・猜彙・歲時要略・掃葉編・四書講釋・四聲正韻字林・下谷小志・書家錦囊・書家必用・書家便覽・職原鈔辨證・四禮通考・史論僭評・隨掃編・正字玉編大全・世事談綺紏謬・世事百談・制度提綱・涉史臆斷・燮理類纂・世話千字文講釋・增補文選字引・耐煩居雜著・駝薈・耽奇漫錄・莚響雜記・提醒紀談・天保妙妙奇談・頭書古今集遠鏡・讀四刑書管見・讀書箋記・圖書半千・本數早見・八部祓講釋・法曹至要集解・早引和玉編・麓の花・文教溫故・名家略傳・撩天閒話・六史輯釋・和字萃がある。〔近代著述目錄後篇〕・〔國書解題〕。

【山暉川媚】1207（ヤマカガヤキカハコブ）　山は玉を藏してゐればかがやきを發し、川は珠を潛めてゐれば媚を呈する。學德ある者は自ら發して文をなす喩。〔陸機、文賦〕石韞レ玉而山暉、水懷レ珠而川媚。

【山五十川】1208（ヤマイラカハ）　羽前國（山形縣）の地名。

【山窗餘稿】1209（サンサウヨカウ）　書名。一卷。元、甘復撰。收むる所、文數十篇、詩十餘首に過ぎないが、皆佳品である。〔四庫提要、集、別集類〕。

【山舟先生】1210（サンシウセンセイ）　淸、梁同書（**6－14825**・・306）の尊稱。

【山嚷怪叫】1211　shan^1 jang^3 kuai^4 chiao^4　大聲で騷ぎ立てる。

【山不レ厭レ高】1212（ヤマイトハズタカキヲ）　山は高ければ高いほどよい。德を積むことは多い程よい喩。〔魏武帝、短歌行〕山不レ厭レ高、水不レ厭レ深、周公吐レ哺、天下歸レ心。

【山厲河帶】1213（サンレイカタイ）　誓約の語。泰山が礪石のやうに平かになり、黃河が帶のやうに狹くなるとも變らじといふ義。礪レ山帶レ河。〔史記、高祖功臣年表〕封爵之誓曰、使二河如レ帶、泰山如レ厲、國以永寧、爰及二苗裔一。

【山裂海涌】1214（ヤマサケウミワク）　地辷りと海嘯が起る。〔日本政記、淸和天皇〕貞觀十一年夏五月、陸奧地震、山裂海涌。

【緣レ山求レ魚】1237（ヤマニヨリテウヲヲモトム）　山中で魚を求める。決して得られない喩。勞して效のない喩。升レ山採レ珠。〔易林、履之レ賁〕緣レ山求レ魚、入レ水捕レ兔。

【襟レ山帶レ河】1238（ヤマヲエリニシカハヲオビニス）　被レ山帶レ河に同じ。〔史記、春申君傳〕襟以二東山之險一、帶以二曲河之利一。

【冠レ山戴レ粒】1239（ヤマヲカウムリリフヲイタダク）　鼇が蓬萊山を冠にすることと、蟻が穀粒を頭に戴くこととは、大小輕重の差は甚しいが、蟻は、大小輕重の差を認めない。〔太平御覽、蟲豸部、蟻〕苻子曰、東海有レ鼇焉、冠二蓬萊一而浮二遊於滄海一、騰躍而上、則干雲之峯類邁二於羣岳一、沈沒而下、則隱天之丘潛二嶠於重川一、有二蚳蟻一、聞而悅レ之、與二羣蟻一相二要乎海畔一、欲レ觀レ鼇焉、月餘日鼇潛未レ出、羣蟻將レ反、遇二長風激浪一、崇濤萬仞、海水沸地雷震、羣蟻曰、此將二鼇之作一也、數日風止雷默、海中隱如レ岳、羣蟻曰、彼之冠レ山、何異下我之戴レ粒、逍二遙封壤之巓一、伏中乎窟穴上也。

【挾レ山超レ海】1240（ヤマヲワキバサミテウミヲコユ）　山を小脇にかかへて海を超える。不可能の喩。〔孟子、梁惠王上〕挾二太山一以超二北海一、語レ人曰、我不レ能、是誠不レ能也。

【指レ山賣レ磨】1241（ヤマヲユビサシテマヲウル）　山を指し示して、其の中にあるべき礪石を賣ること。事の早過ぎる喩。見レ卵而求二時夜一（**2－2857**・・45）に同じ。〔紅梨記傳奇〕則亦他指レ山賣レ磨、見レ雀張レ羅。

【循レ山盤紆】1242（ヤマニシタガツテバンウス）　山に沿つてぐるぐるとめぐる。〔竹添井井、棧雲峽雨日記、下〕一路羊腸、循レ山盤紆。

【升レ山採レ珠】1243（ヤマニノボリタマヲトル）　山に升つて珠を採る。勞して效のない喩。珠は水中に產するたま。緣レ山求レ魚に同じ。〔後漢書、劉玄傳〕緣レ木求レ魚、升レ山採レ珠。

【觸レ山之力】1244（ヤマニフルルノチカラ）　山に觸れて覆へす程の力。太古、共工氏、不周山に觸れ、天維絕え、地柱折れたといふ故事。〔劉峻、辨命論〕觸レ山之力、無二以抗一、倒レ日之誠、弗レ能レ感。〔注〕善曰、淮南子曰、昔共工之力、怒觸二不周之山一、使二地東南傾一、與二高辛一爭レ爲レ帝、許愼曰、昔共工、古諸侯之強者也、不周之山、西北之山也、翰曰、共工氏有レ力、觸二不周山一、天維絕、地柱折。

【鑄レ山煑レ海】1245（ヤマニイウミニニル）　山の銅を掘つて錢を鑄、海水を煮て鹽を製する。山海の產物の豐富な喩。〔史記、吳王濞傳〕卽レ山鑄レ錢、煑二海水一爲レ鹽、誘二天下亡人一謀レ作レ亂。

【梯レ山航レ海】1246（ヤマニテイシウミニカウス）　山に梯をかけ、海を船で涉る。山海の險を越えて他國へ使する。〔梁簡文帝、大法頌序〕航レ海梯レ山、奉二日環之使一。〔李德林、天命論〕梯レ山越レ海、貢レ賝奉レ贄、欣欣如也。

【背レ山起レ樓】1247（ヤマヲセニシテロウヲオコス）　山を背後にして樓を作る。殺風景の喩。〔李商隱雜纂、殺風景〕謂二淸泉濯レ足、花上曬レ褌、背レ山起レ樓、花架下養二鷄鴨一。

【排レ山壓レ卵】1248（ヤマヲハイシテタマゴヲアツス）　山を推し倒して卵をつぶす。極めてなし易い喩。〔晉書、杜有道妻嚴氏傳〕排レ山壓レ卵、以レ湯沃レ雪。

【莫レ躓二於山一】1249（ヤマニツマヅクナシ）　山につまづくものはない。顯著なものは見やすいから、害を避けやすい喩。〔淮南子、人間訓〕人莫レ躓二於山一、而躓二於垤一、是故人皆輕二小害一、易二微事一、是以多レ悔。

【拔レ山蓋レ世】1250（ヤマヲヌキヨヲオホフ）　山を拔き、世を蔽ふ。氣力の雄大な形容。〔史記、項羽紀〕項王則夜起飮二帳中一、有二美人一、名虞、常幸從、駿馬名騅、常騎レ之、於レ是項王乃悲歌忼慨、自爲レ詩曰、力拔レ山兮氣蓋レ世、時不レ利兮騅不レ逝、騅不レ逝兮可二奈何一、虞兮虞兮奈二若何一。

【被レ山帶レ河】1251（ヤマヲカウムリカハヲオブ）　山を後にし、川を前にする。要害の地をいふ。〔史記、秦始皇紀贊〕秦地、被レ山帶レ河以爲レ固、四塞之固也。〔史記、蘇秦傳〕秦四塞之國、被レ山帶レ渭。

【礪レ山帶レ河】1252（ヤマヲレイトシカハヲオビトス）　誓の詞。泰山が礪石のやうに平になり、黃河が帶のやうに細くなつても變らぬ意。山厲河帶（1213）に同じ。

【山水純全集】1253（サンスイジュンゼンシフ）　書名。一卷。宋、韓拙撰。原本は十篇、其の一を佚す。畫に就いて論ず。〔四庫提要、子、藝術類〕。

【山蕩淒灘地】1254（サンタウルタンチ）　淸代、民田の一種。山坡・山灘・砂漲の地をいふ。〔淸會典事例、戶部〕山蕩淒灘地、每畝科銀九釐至二一錢四分五毫零不等一。

【山不レ讓二土石一】1255（ヤマハドセキヲユヅラズ）　山はどんな土石でも容れる。度量を廣くして多く物を容れる喩。泰山不レ讓二土壤一、故能成二其大一の意。〔淮南子、泰族訓〕海不レ讓二水潦一、以成二其大一、山不レ讓二土石一、以成二其高一。

【學レ山不レ至二於山一】1256（ヤマヲマナンデヤマニイタラズ）　小さい丘陵は

山を學んで山にならうとしても山にはなれない。望む處までは容易に達し得ぬものであるから、學問するには志を高く大きくせねばならぬ喩。〔法言、學行〕百川學レ海而至二於海一、邱陵學レ山而不レ至二於山一、是故惡二夫畫一也。

【刺レ山飛泉涌出】1257（ヤマヲサシテヒセンヨウシユツス） 前漢の李廣利が佩刀で山を刺したとき、泉水が湧き出た故事。〔後漢書、耿恭傳〕匈奴遂於二城下一擁二絕澗水一、云云、渴乏笮二馬糞汁一而飮レ之、恭仰歎曰、昔貳師將軍、拔二佩刀一刺レ山、飛泉涌出。〔注〕貳師、大宛中城名、昔武帝時、使三李廣利伐二大宛一、期至二貳師城一、因以爲レ號也。

【山以二小阤一而大崩】1258（ヤマハセウタヲモツテオホイニクヅル） 山は小さい敗れ目から大いに崩れる。阤はくづれる。〔說苑、談叢〕江河大潰從二蟻穴一、山以二小阤一而大崩。

【山以二陵遲一故能高】1259（ヤマハリヨウチヲモツテノユヱニヨクタカシ） 山は裾が次第に低くひろがつてゐるので、結局は高くなる。陵遲は次第に低くなること。學問道德も漸次に修得すれば高博に至る喩。〔說苑、談叢〕河以二委蛇一故能遠、山以二陵遲一故能高、道以二優游一故能化、德以二純厚一故能豪、言二人之善一、澤二於膏沐一、言二人之惡一、痛二於矛戟一。

【山有二朽壤一而自崩】1260（ヤマニキウジヤウアリテオノヅカラクヅル） 山に腐つた土があれば、そこから自然に崩れる。〔國語、晉語五〕山有二朽壤一而自崩、將若何、夫國主二山川一、故川涸山崩、君爲レ之降レ服出次。

【山有レ木工則度レ之】1261（ヤマニキアレバコウスナハチコレヲハカル） 山の木は工匠が其のよしあしをはかつて採り用ひる。物事は宜しきに從つて行ふべき喩。〔左氏、隱、十一〕周諺有レ之曰、山有レ木工則度レ之、賓有レ禮主則擇レ之。

【山致二其高一雲雨起】1262（ヤマソノタカキヲイタセバウンウオコル） 山が高くなれば雲雨が發生する。物聚まれば勢力を生ずる喩。〔說苑、貴德〕山致二其高一、雲雨起焉、水致二其深一、蛟龍生焉。

【山展二屛風一花夾レ籬】1263（ヤマハビヤウブヲノベハナハマガキヲサシハサム） 山は屛風のやうに廻り聳え、垣根には花が咲いて居る。山家の景を敍した句。〔白居易、奉下和思黯自題二南莊一見上レ示兼呈二夢得一詩〕謝家別墅最新奇、山展二屛風一花夾レ籬、曉月漸沈二橋腳底一、晨光初照二屋梁一時、擡レ頭有レ酒鶯呼レ客、水面無レ塵風洗レ池、除二卻吟詩兩閑客一、此中情狀更誰知。

【不レ躓二於山一躓二於垤一】1264（ヤマニツマヅカズシテテツニツマヅク） 山につまづかないで、蟻づかにつまづく。事は小事を侮る所に失敗を招く喩。垤は蟻づか。〔呂覽、愼小〕人之情、不レ蹷二於山一、而蹷二於垤一。〔韓非子、六反〕諺云、不レ躓二於山一、而躓二於垤一。〔淮南子、人閒訓〕事者難レ成而易レ敗也、名者難レ立而易レ廢也、千里之隄、以二螻螘之穴一漏、百尋之屋、以二突隙之煙一焚、堯戒曰、戰戰慄慄、日愼二一日一、人莫レ躓二於山一、而躓二於垤一、是故人皆輕二小害一、易二微事一、是以多レ悔。

【山不レ在レ高有レ僊則名】1265（ヤマタカキニアラズセンアレバスナハチナアリ） 山は必ずしも高きを以て貴しとせず、仙人が棲居すれば名を得る。〔劉禹錫、陋室銘〕山不レ在レ高、有レ僊則名、水不レ在レ深、有レ龍則靈、斯是陋室、惟吾德馨。

【爲レ山九仞功虧二一簣一】1266（ヤマヲツクルキウジンコウヲイツキニカク） 山を造つて已に九仞の高さに至り、僅かに最後の土籠一杯の土を缺けば、猶ほ完成した山とは言はれない。事將に成らうとして止めれば物事は完成しない喩。仞は八尺、簣は土籠。〔書、旅獒〕不レ矜二細行一、終累二大德一、爲レ山九仞、功虧二一簣一。〔傳〕八尺曰レ仞、喩レ向レ成也、未レ成二一簣一、猶不レ爲レ山、故曰三功虧二一簣一、是以聖人乾乾、日昃、愼レ終如レ始。〔論語、子罕〕譬如レ爲レ山、未レ成二一簣一、止吾止也、譬如レ平レ地、雖レ覆二一簣一、進吾往也。〔古諺〕立二覆簣之基一、成二九仞之功一。

【撼レ山易撼二岳家軍一難】1267（ヤマヲウゴカスハヤスクガクカノグンヲウゴカスハカタシ） 山をうごかすことは出來ても、岳飛の軍を動かすことは出來ない。宋の岳飛の軍の嚴肅で動かし得ないことを敵軍が嘆稱した語。〔宋史、岳飛傳〕善以レ少擊レ衆、欲レ有レ所レ擧、盡召二諸統制一與謀、謀定而後戰、故有レ勝無レ敗、猝遇レ敵不レ動、故敵爲二之語一曰、撼レ山易、撼二岳家軍一難。

【山不レ辭レ土故能成二其高一】1268（ヤマハツチヲジセズユヱニヨクソノタカキヲナス） 山は如何なる土くれをも卻けないで受け容れるから高大になる。度量を廣くして多く物を容れる喩。〔管子、形勢解〕海不レ辭レ水、故能成二其大一、山不レ辭レ土、故能成二其高一。

【山有二猛獸一葵藿爲レ之不レ採】1269（ヤマニマウジウアレバキクワククコレガタメニトラレズ） 山有二猛獸一林木爲レ之不レ斬に同じ。國に忠臣があれば、姦臣は起らぬ喩。葵はあふひ、藿は豆の葉。〔漢書、鄭昌傳〕山有二猛獸一、葵藿爲レ之不レ採、國有二忠臣一、姦邪爲レ之不レ起。〔鹽鐵論、崇禮〕故春秋曰、山有二虎豹一、葵藿爲レ之不レ採、國有二賢士一、邊境爲レ之不レ害也。

【山有二猛獸一林木爲レ之不レ斬】1270（ヤマニマウジウアレバリンボクコレガタメニキラレズ） 山に猛獸が居れば、樵夫が恐れて入らぬから木は伐採せられない。據りたのむ所があれば、禍害から遠ざかるの喩。〔文子、上德〕山有二猛獸一、林木爲レ之不レ斬、園有二螫蟲一、葵藿爲レ之不レ採。〔淮南子、說山訓〕山有二猛獸一、林木爲レ之不レ斬、園有二螫蟲一、藜藿爲レ之不レ采。

【山從二人面一起雲傍二馬頭一生】1271（ヤマハジンメンヨリオコリクモハバトウニソヒテシヤウズ） 山は顏前に高く聳え、雲は馬頭から起る。山路の高くけはしい形容。〔李白、送二友人入レ蜀詩〕見レ說蠶桑路、崎嶇不レ易レ行、山從二人面一起、雲傍二馬頭一生、芳樹籠二秦棧一、春流遶二蜀城一、升沈應二已定一、不三必問二君平一。

【上レ山擒レ虎易開レ口告レ人難】1272（ヤマニノボリテトラヲトラフルハヤスククチヲヒラキテヒトニツグルハカタシ） 山に登つて虎を捕へることは容易であるが、口をあけて人に話して諒解させることはむづかしい。〔通俗編、獸畜〕上レ山擒レ虎易、開レ口告レ人難、見二高則誠琵琶曲一。

一畫

【⿰山乙】7870　アツ　エチ　〔正字通〕乙札切　黠

山のくま。乢(**3－4868**)に通ず。〔正字通〕⿰山乙、通レ乢、山曲也。

【⿱山乙】7871　ガツ　ガチ　〔龍龕手鑑〕五葛切　曷

山のくま。〔龍龕手鑑〕⿱山乙、山曲也。

二畫

【⿰山丁】7872　ガイ　義未詳。〔龍龕手鑑〕⿰山丁、音蓋。

【⿱山人】7873　ギン　ゴン　〔字彙〕魚音切　侵

たすける。たすけ。〔字彙〕⿱山人、助也。

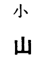
參考　⿱山入(**4－7875**)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕⿱山人、音吟、助也。⿱山入、音岑、入レ山之深也。

【屳】7874　セン　〔集韻〕相然切　先

❶山に入つて長生する。〔集韻〕屳、山居長往也。**❷やまびと。**仙人。仙(**1－374**)に同じ。〔字彙〕屳、卽仙字、入レ山長生曰レ仙。

參考　仚(**1－375**)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕仚、音軒、輕擧貌、人在二山上一。屳、仙同、入レ山爲レ仙。

【⿱山入】7875　シン　ジン　〔集韻〕鋤簪切　侵


小篆

山に深くわけ入る。〔說文〕⿱山入、入レ山之突也、从レ山从レ入、闕。

解字　會意。山と入との合字。故に合して山の深きに入る意とする。

參考　⿱山人(**4－7873**)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕⿱山人、音吟、助也。⿱山入、音岑、入レ山之深也。

【屴】7876　リヨク　リキ　〔集韻〕六直切　職

㊀山の高いさま。〔集韻〕岃、岃崱、山高皃。㊁高くそびえるさま。〔王延壽、魯靈光殿賦〕彤彤靈宮、云云、崱岃嵫𡾊。〔注〕翰曰、此上並高大參差不齊皃、善曰、皆高大峻嶮之皃。〔貢師泰、題二顏輝山水一詩〕蒼龍渡レ海成二疊嶂一、岃崱西來勢何壯。㊂山の連なるさま。〔正字通〕岃、崱岃、山連也。

【屼】7877　キ　〔集韻〕擧履切　紙

小篆

山名。女几山。今の甘肅省山丹縣の西南の窮石山。〔說文〕屼、屼山也、或曰、溺水之所レ出、从レ山几聲。〔說文通訓定聲〕按、卽女几山也、溺水出、今甘肅甘州府山丹縣西南窮石山、隋志、刪丹縣有二祀山弱水一、疑祀字、卽屼字之誤、屼山、卽窮石之異名也。

【岈】7878　コ　扈(5－11746)の古字。〔說文〕扈、岈、古文扈、从二山弓一。〔字彙〕岈、古扈字。〔正字通〕岈、楊愼、奇字韻、岊、古文扈、从二山卪一、按、卪篆作レ 、舊本改从レ弓、非。

【岃】7879　クヮイ　會(5－14306)の古字。〔集韻〕會、古作レ岃。

【⿰山巳】7880　コ　扈(5－11746)の古字。〔集韻〕扈、古作レ⿰山巳。

參考　⿰山巳(4－7891)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕⿰山巳、古扈字。屺、音起、山無二草木一也。

【岂】7881　ハ　岜(4－7925)に同じ。〔篇海類編〕岂、同レ岜。

【屵】7882
［一］ガツ ガチ　〔集韻〕牙葛切　曷
［二］ゲツ ゲチ　〔集韻〕魚列切　屑
［三］ゲン ゴン　〔集韻〕語偃切　阮

小篆

［一］［二］㊀岸が高い。〔說文〕屵、岸高也、从二山厂一、厂亦聲。㊁高い山のさま。〔廣韻〕屵、高山狀。［三］あふぐ。或は嵃(4－8300)に作る。〔集韻〕屵、仰也、或从レ言。

解字　會意形聲。山と厂との合字。厂はがけ、山を加へ岸のたかくたつさまをあらはす。厂はまた音符。

【⿱⺈山】7883　キ　危(2－2849)の古字。〔玉篇〕⿱⺈山、古文危字。

【⿱几山】7884　キ　⿱⺈山(4－7883)に同じ。〔五音篇海〕⿱几山、同レ⿱⺈山。

【岀】7885　ガク　嶽(4－8566)の古字。〔集韻〕嶽、古作レ岀。

【⿱刀山】7886　キ　〔龍龕手鑑〕音危

山名。〔龍龕手鑑〕⿱刀山、山名。

三　畫

【屸】7887　コウ グ　〔集韻〕胡公切　東

山名。〔集韻〕屸、山名。

【⿱山工】7888　キン　〔龍龕手鑑〕丘近切　吻

ちかい。〔龍龕手鑑〕⿱山工、近也。

【屹】7889
［一］ギツ ゴチ　〔集韻〕逆乙切　物　i^4
［二］ギツ ゴチ　〔集韻〕魚乙切　物
慣 キツ

［一］たかい。山がそばだつていかめしいさま。けはしい。〔集韻〕屹、山危皃。〔正字通〕屹、山獨立壯武貌。〔元傑、湞陽東嶺洞谷銘序〕雙巖屹以中斷。［二］屹崒は、山のさま。或は阣(11－41551)に作る。〔集韻〕屹、屹崒、山皃、或从レ阜。

【屹屹】1 キツキツ　山がそびえ立つさま。高大なさま。屹然。〔王延壽、魯靈光殿賦、注〕載曰、屹、猶レ孽也、高大貌、詩云、臨衝茀茀、崇墉屹屹。〔歐陽詹、弔二九江驛碑林一文〕屹屹子碑、如レ神如レ祇。〔蘇舜欽、瓦亭聯句〕烽臺屹屹百丈起、但報平安猺桔槔。

【屹巀】2 キツケツ　崖のきりたつてけはしいさま。〔張衡、南都賦〕嶔巇屹巀。〔注〕善曰、屹巀、斷絕之貌。〔崔伯易、感山賦〕峡峞屹巀、無二復平地一。

【屹屼】3 キツコツ　はげ山の高いさま。〔元結、演興、招太靈〕招二太靈一兮山之顚、山屹屼兮水淪漣。〔蘇志乾、岱山賦〕峯有二丈人一、周秦互弁、蓮花芙蓉、屹屼連卷。

【屹崒】4 キツシユツ　高くけはしいさま。〔郭璞、江賦〕虎牙嵥豎以屹崒。〔注〕善曰、屹崒、高峻皃。

【屹然】5 キツゼン　山のそびえたつさま。獨立して屈せぬさま。屹屹。毅然。〔王延壽、魯靈光殿賦〕屹然特立、的爾殊レ形。〔注〕向曰、屹然、高貌。

【屹度】6 キツト キト　㊀必ず・たしかに・しかと等の意。〔平家物語、二、西光被レ斬事〕大膳の大夫をよび出て、きつと申さんずることはよな。㊁嚴重に。きびしく。〔狂言記、寢聲〕きつと折檻の致さうと存ずる。㊂ちよつと。急度。〔竹取物語〕かぐや姬きとかげになりぬ。〔平家物語、七、經正都落事〕かかる忽劇の中にも、君の御名殘きつと思ひ出で進らせ。

【屹立】7 キツリツ　聳え立つて動かぬさま。〔盧肇、湖南觀二雙柘枝舞一賦〕屹而立、若三雙鸞之窮二石鏡一。〔宋史、施師點傳〕命二師點一退レ位、師點屹立。

【屹栗】8 キツリツ　おそれるさま。仡栗。〔沈括、懷歸賦〕吾一念二子之往一兮、意尤兀硉而屹栗。

【屹⿰目堅矓】9 キツカウ バウ　屹鏗瞑に同じ。

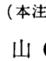
【屹鏗瞑】10 キツカウ バウ　高くてはつきり見えない。極めて高いさま。鏗瞑ははつきり見えないこと。屹⿰目堅矓。〔王延壽、魯靈光殿賦〕屹鏗瞑以勿罔、屑黶翳以懿濞。〔注〕五臣、鏗作レ⿰目堅、瞑作レ矓、濟曰、屹、特出貌、⿰目堅矓、視不レ明也、云云、言二東序奧祕特出而高、故視レ之不レ明、望レ之不レ審。

【⿰山子】7890　シ　〔玉篇〕卽李切　紙

山名。〔玉篇〕⿰山子、山也。

【屺】7891　キ　〔集韻〕口已切　紙　chʻi^3

小篆（說文）


小篆（段注本）

㊀はげ山。はだか山。〔說文〕屺、山無二艸木一也、从レ山己聲、詩曰、陟二彼屺一兮。〔說文通訓定聲〕屺、字亦作レ峐、爾雅釋山、多二草木一岵、無二草木一峐、詩陟岵、陟二彼屺一兮、傳曰、山無二草木一曰レ岵、山有二草木一曰レ屺、轉寫誤也。〔釋名、釋山〕屺、圮也、無レ所レ出二生一也。㊁或は峐(4－8036)に作る。〔集韻〕屺、或作レ峐。㊂又、⿱己山(4－7892)に作る。〔集韻〕屺、亦書作レ⿱己山。

參考　屺(4－7880)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕屺、古扈字。屺、音起、山無二草木一也。

【屺雲】1 キウン　淸、項悰(12－43343‥34)の字。

【屺懷】2 キクワイ　字號。㊀淸、楊傳棨(6－15112‥727)の字。㊁淸、費念慈(10－36717‥103)の字。

【屺公】3 キコウ　淸、周斯盛(2－3441‥693)の字。

【屺瞻】4 キセン　字號。㊀淸、何焯(1－511‥100)の

字。❷清、周慶增(2－3441‥635)の號。❸清、沈屺懋(6－17189‥452)の本名。❹清、孫在豐(3－6987‥404)の字。❺清、李念慈(6－14459‥1837)の字。

【屺望】5 バウキ 清、沈祖惠(6－17189‥582)の字。

【屺思堂】6 ダウキシ 清、劉子壯(2－2224‥964)の室名。

【⿱己山】7892 キ 屺(4－7891)に同じ。〔集韻〕屺、亦書作㠯⿱己山。

［參考］別に集韻には⿱巴山(4－7925)の字を⿱己山に作る。

【⿱山凡】7893 ラン 嵐(4－8289)に同じ。〔正字通〕⿱山凡、同、嵐省。

【屻】7894 ジン ニン 〔集韻〕而振切 ［震］ 山の高いさま。〔集韻〕屻、山高形。

【⿱彐山】7895 ダウ ノウ 〔字彙〕奴刀切 ［豪］ ❶山が平かである。〔字彙〕⿱彐山、山平也。❷猺(4－8096)の譌字。〔正字通〕⿱彐山、猺字之譌。

【⿰山丸】7896 クワン 峘(4－8050)に同じ。〔集韻〕峘、或从丸。

【屼】7897 ［一］ゴツ ゴチ 〔集韻〕五忽切 ［月］ ［二］グツ グチ 〔集韻〕魚屈切 ［物］ ［慣］コツ

［一］❶はげ山。又、はげ山のさま。嶇屼。〔廣韻〕屼、嶇屼、禿山皃。〔集韻〕屼、一曰、嶇屼、童山。❷山名。五屼。〔廣韻〕屼、又五屼、山名、在犍爲。〔集韻〕屼、山名。［三］山のさま。峞(4－8048)に同じ。〔集韻〕峞、峞崒、山皃、或从兀。

【屽】7898 ［一］カン ［二］ガン ［一］㟧(4－8080)に同じ。〔集韻〕㟧、或省。［二］岸(4－8009)の譌字。〔正字通〕屽、岸字之譌。

【屾】7899 ［一］シン 〔集韻〕疏臻切 ［眞］ ［二］サン 〔集韻〕所晏切 ［翰］

小篆

［一］［二］二つの山。〔說文〕屾、二山也、闕。〔段注〕此闕、謂闕其讀若也。〔集韻〕屾、二山並立曰屾。

［解字］會意。山を二つならべ書いて二山をあらはす。

【屸】7900 バウ 𥐥(8－24040)に同じ。〔集韻〕𥐥、或从山。

【⿱⺈山】7901 キ 危(2－2849)の古字。〔集韻〕危、古作⿱⺈山。

【⿱大山】7902 タイ ダイ 〔字彙補〕度柰切 ［隊］ 島の名。〔字彙補〕⿱大山、島名。

【⿱刃山】7903 キン 〔佩觿集〕乞眞切 ［眞］ 山名。〔佩觿集〕⿱刃山、山名也。

【屹】7904 ギツ ゴチ 〔訂正篇海〕魚訖切 ［物］ 山のさま。〔訂正篇海〕屹、山貌。

【屹】7905 ギツ 屹(4－7904)に同じ。〔篇海類編〕屹、同屹。

四　畫

【岵】7906 クワウ 嵘(4－8548)に同じ。〔集韻〕嵘、或作岵。

【岓】7907 キヨ コ 〔集韻〕喜語切 ［語］ 山名。〔集韻〕岓、山名。

【岰】7908 カウ ゲウ 〔字彙〕戶交切 ［肴］ 山名。〔字彙〕岰、山名。

【⿰丹山】7909 タン 〔字彙〕多千切 ［寒］ 赤い山。〔字彙〕⿰丹山、山⿰丹山也。

【⿱山日】7910 シヨウ シユ 〔玉篇〕倉龍切 ［冬］ くれる。日が沈む。〔玉篇〕⿱山日、日欲夜也。

【岄】7911 ゲツ グワチ 〔集韻〕魚厥切 ［月］ 山名。或は⿰月山(9－29279)に作る。〔集韻〕岄、山名、或書作⿰月山。

【岟】7912 ギユウ グ 〔字彙〕牛仲切 ［送］ 山名。〔字彙〕岟、山名。

【⿱山火】7913 ヲン 〔字彙〕烏很切 ［阮］ 山名。〔字彙〕⿱山火、山也。

【岅】7914 ハン 坂(3－4910)・阪(11－41562)に同じ。〔正字通〕岅、阪・坂同。

【岎】7915 トウ ツ 〔集韻〕當口切 ［有］ 山名。〔集韻〕岎、山名。

【岆】7916 エウ 〔集韻〕伊鳥切 ［篠］ 山名。〔集韻〕岆、山名。

【⿱宀夬】7917 シヨク 𡦐(4－8202)に同じ。〔集韻〕𡦐、或作⿱宀夬。

【岵】7918 コ ゴ 〔字彙〕侯古切 ［麌］ 小山のさま。〔字彙〕岵、小山貌。

【岇】7919　ガウ　〔集韻〕魚浪切　[漾]

山名。今の浙江省嵊縣の境にある。〔廣韻〕岇、山名、在二越剡縣界一。〔集韻〕岇、山名、在ㇾ越。

【⿱山卬】7920　ガウ　〔集韻〕魚剛切　[陽]

山の高いさま。⿱山卬藏。〔集韻〕⿱山卬、⿱山卬藏、山高皃。

【岈】7921　カ　ケ　〔集韻〕虛加切　[麻]

❶**谷中の大いにうつろなさま**。峆岈。谺(**10−36193**)に同じ。〔集韻〕谺、谽谺、谷中大空皃、或从ㇾ山。❷**山の深いさま**。峆岈。〔字彙〕岈、峆岈、山深貌。

【岈然】1 カゼン　山の深いさま。又、高所から遠望して、高下ある地勢の高いところをいふ。〔柳宗元、始得二西山一宴游記〕其高下之勢、岈然洼然。〔注〕童云、岈、峆岈、山深之狀。

【岉】7922　ブツ　モチ　〔集韻〕文拂切　[物]

高いさま。崛岉。〔集韻〕崛、崛岉、高皃。〔王延壽、魯靈光殿賦〕隆崛二岉乎青雲一。

【⿰山介】7923　カイ　〔集韻〕居拜切　[卦]

山名。介山。〔集韻〕⿰山介、山名。〔正字通〕⿰山介、晉文公以三介子推逃二隱緜上山中一、特表二其山一曰二介山一、俗作ㇾ⿰山介。

【⿰山介老】1 カイラウ　清、金張(**11−40152**・・844)の號。

【岕】7924　カイ　〔中華大字典〕讀如ㇾ介。

兩山の間をいふ。浙江省長興縣の山間地方に岕と名づける所が多い。岕茶を見よ。

【岕茶】1 カイチャ　茶の名。浙江省長興縣に産す。長興茶の最上品。〔馮可賓、岕茶牋〕茶名、宜興羅解兩山之間所ㇾ産、故名二岕茶一。

【岊】7925　[一]セツ　セチ　〔集韻〕子結切　[屑]　[二]グ　〔集韻〕元倶切　[虞]

小篆（說文）

小篆（段注本）

[一]❶**山のくま**。〔說文〕岊、陬隅、高山之卪也、从二山卪一。〔段注〕山之卪曰ㇾ岊、猶三竹卪曰ㇾ節、木卪曰二科厄一也。〔左思、吳都賦〕夤二緣山嶽之岊一。〔注〕翰曰、山曲曰ㇾ岊。❷**山の高いさま**。節(**8−26243**)に同じ。〔集韻〕節、山高峻皃、或作ㇾ岊。[二]**山のくま**。[一]の❶に同じ。〔集韻〕岊、山節也。

[解字]　會意形聲。山と卪との合字。卪は卩に同じく、竹のふし、木のふしこぶ等の義。即ち節字。故に山と合して山のくまをいふ。卪はまた音符。一說に、形聲。

【岊仲】1 セツチュウ　宋、錢龢(**11−40563**・・239)の字。

【岊崙】2 セツロン　村の名。廣西省河池縣の東北、思恩縣の界。

【⿰山父】7926　フ　ブ　〔集韻〕奉甫切　[麌]

山名。〔集韻〕⿰山父、山名。

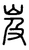
【岻】7927　チ　ヂ　〔集韻〕陳尼切　[支]

山名。〔集韻〕岻、山名、在二青州一。

【岋】7928　ガフ　ゴフ　〔集韻〕鄂合切　[合]

動きゆらぐさま。〔集韻〕岋、動皃。〔揚雄、校獵賦〕天動地岋。

【岌】7929　ギフ　ゴフ　〔集韻〕逆及切　[緝]　ㄐㄧˊ　chi^{2}　[慣]キフ


小篆

❶**山が高いさま。又　高さがまさる**。〔說文新附〕岌、山高皃、从ㇾ山及聲。〔爾雅、釋山〕小山岌二大山一、峘。〔注〕岌、謂二高過一也。〔釋文〕岌、高也。〔疏〕言、小山與二大山一相並、而小山高過二於大山一者名ㇾ峘、非ㇾ謂二小山名ㇾ岌大山名ㇾ峘也。❷**高いさま**。〔廣韻〕岌、高過也。❸**あやふいさま**。安んぜざるさま。圾(**3−4906**)に同じ。〔集韻〕圾、危也、或从ㇾ山。〔孟子、萬章上〕天下殆哉、岌岌乎。〔注〕岌岌乎、不ㇾ安貌也。〔韋孟、諷諫詩〕岌二岌其國一。〔注〕善曰、岌岌、欲ㇾ毀之意、翰曰、岌岌、危也。❹**物の音**。岌峇(2)を見よ。❺**急なさま**。岌岌(3)の❸を見よ。❻**盛なさま**。岌岌(3)の❹を見よ。

【岌峨】1 キフガ　山の高くあやふいさま。岌峨。〔王延壽、魯靈光殿賦〕層櫨磥佹以岌峨。〔注〕翰曰、磥佹・岌峨、重危貌。〔曹植、九詠〕冠二北辰一兮岌峨、帶二長虹一兮陵厲。

【岌峇】2 キフカフ　鐵をうつ聲。〔馬融、長笛賦〕靁叩ㇾ鍛之岌峇兮。〔注〕翰曰、岌峇、椎ㇾ鐵聲。

【岌岌】3 キフキフ　❶高い。高いさま。〔廣雅、釋訓〕岌岌、高也。〔楚辭、離騷〕高二余冠之岌岌一兮。〔注〕岌岌、高貌。〔嵆康、琴賦〕馳岌岌以相屬。〔注〕善曰、王逸楚辭注曰、岌岌、高貌。❷危いさま。安定しないさま。やぶれこはれる。岌岌乎を見よ。〔韓非子、忠孝〕孔子曰、當二是時一也、危哉、天下岌岌。〔漢書、韋賢傳〕彌彌其失、岌岌其國。〔注〕應劭曰、岌岌、欲二毀壞一也、師古曰、岌岌、危動貌。〔韋孟、諷諫詩〕岌二岌其國一。〔注〕善曰、岌岌、欲ㇾ毀之意、翰曰、岌岌、危也。❸急疾のさま。〔潘岳、笙賦〕汎淫氾豔、霅燁岌岌。〔注〕翰曰、霅燁・岌岌、急疾皃。❹盛なさま。〔廣雅、釋訓〕岌岌、盛也。

【岌岌乎】4 キフキフコ　安からぬさま。あやふいさま。岌乎。岌岌(3)の❷に同じ。〔孟子、萬章上〕孔子曰、於二斯時一也、天下殆哉、岌岌乎。〔注〕岌岌乎、不ㇾ安貌。

【岌嶷】5 キフギョク　たかくけはしい。岌峨。嶷岌。〔楊素、通天臺賦〕勢岌嶷以山峙、體曈曨而景軼。

【岌嶪】6 キフゲフ　高くさかんなさま。〔張衡、西京賦〕狀嵬峩以岌嶪。〔注〕銑曰、嵬峩・岌嶪、高壯貌。〔呂華、謝文靖讚〕江淮岌嶪、力屈則降。〔白居易、奉下和思黯相公題二二十韻一見上示兼呈二夢得一詩〕岌嶪形將ㇾ動、巍峩勢欲ㇾ摧。

【岌乎】7 キフコ　危いさま。岌岌乎。〔墨子、非儒下〕孔某與二其門弟子一閒坐、曰、夫舜見二瞽叟一蹵然、此時天下岌乎。

【岌然】8 キフゼン　高く聳えるさま。〔剪燈新話、渭塘奇遇記〕屏下設二石假山一、三峯岌然競ㇾ秀。

【岍】7930　ケン

岍(**4−8052**)の俗字。〔正字通〕岍、俗岍字。

【⿱山文】7931　タウ

⿱屮文(**2−3133**)の譌字。〔正字通〕⿱山文、⿱屮文字之譌。

【⿰山文】7932　ビン

岷(**4−8007**)に同じ。〔正字通〕⿰山文、同ㇾ岷。

【岎】7933 フン 〔正字通〕敷文切 文

❶**山のさま**。岎崟。〔正字通〕岎、岎崟、山貌。〔揚雄、蜀都賦〕岎崟迴叢。❷また、岔(**4―7944**)に作る。〔正字通〕岎、亦作レ岔。

【峅】7934 ギユウ グ 〔字彙〕牛仲切 送

山名。〔字彙〕峅、山也。

【岏】7935 グワン 〔集韻〕吾官切 寒 ㄨㄢˊ wan^2

❶**けはしい**。山の尖つたさま。さかしい。〔集韻〕岏、巑岏、山鋭皃。〔楚辭、劉向、九歎、憂苦〕登二巑岏一以長企兮。〔注〕巑岏、鋭山也。❷**たかい**。〔廣雅、釋詁四〕岏、高也。

【岐】7936 (一)キ ギ 〔集韻〕翹移切 支 ㄑㄧˊ ch'i^2 (二)シ ジ 〔集韻〕常支切 支

(一)❶**わかれみち**。えだみち。〔釋名、釋道〕二達曰二岐旁一、物兩爲レ岐、在レ邊爲レ旁、此道並通出似レ之也。❷**ちえづくさま**。〔詩、大雅、生民〕克岐克嶷。〔傳〕岐、知意也。❸**生ひ育つさま**。のびるさま。〔詩、大雅、生民〕克岐克嶷。〔集傳〕岐嶷、峻茂之狀。❹**飛び行くさま**。岐岐(8)の❸を見よ。❺**山名**。岐山(16)の❶を見よ。❻郊(**11―39298**)に同じ。〔說文〕郊、周文王所レ封、在二右扶風美陽中水鄉一、从レ邑支聲、岐、郊或从レ山支聲、因二岐山一以名レ之也。〔段注〕郊或者、岐之或字、謂二岐卽郊邑之或體一也、又云下因二岐山一以名上レ之、則又郊邑岐山、畫爲二二字一矣、考二岐山一、見二於夏書雅頌一、漢志郊邑、作レ郊、薛綜注西京賦引二說文一、岐山在二長安西美陽縣界一、山有二兩岐一、因以名焉、此說文山部原文也、山有二兩岐一、當レ作三山有二兩枝一、山有二兩枝一、故名曰二岐山一、疑後人移二入於此一、而刪二改之一、學者讀レ此、可下以刪二邑部之郊一、專入中山部上矣。❼歧(**6―16275**)に通ず。〔說文通訓定聲〕歧、思玄賦、卽二歧趾一而臚情、以レ歧爲レ之。❽崎(**4―8169**)に通ず。〔陸機、謝二平原內史一表〕崎嶇自列。〔注〕崎、善作レ岐。❾**國名**。㋑周の舊邑。陝西省岐山縣の東北。〔讀史方輿紀要、州域形勢、周〕太王遷二于岐一、今陝西岐山縣東北五十里岐山鎭、是也。㋺唐の天復中、李茂貞が關中に建てた國。〔讀史方輿紀要、州域形勢、五代岐〕西有レ岐、史略、光啓初、李茂貞爲二扈蹕都將一、從レ幸二興元一云云、光化初乃還二長安一、是時關中州鎭、大抵皆爲二茂貞所一レ有、天復初、進二爵岐王一。❿**姓**。〔正字通〕岐、黃帝臣岐伯、唐岐靈岳。〔陳留風俗傳〕岐氏、黃帝師岐白之後。〔通志、氏族略、以レ國爲レ氏〕岐氏、周故都也、今鳳翔岐山、是也、太王居レ之、至二文王一始遷二于豐一、其支庶留レ岐、故爲二岐氏一、又古有二岐伯一、爲二黃帝師一、望出二安化趙郡一。(二)**山名**。〔集韻〕岐、山名、古作レ[illegible]。

名乘 ミチ。フナド(姓)。マタ(姓)。

【岐異】1 ch'i^2 i^4 まちまち。各〻異なつてゐること。

【岐意】2 ch'i^2 i^4 異なつた意見。岐念。異議。

【岐邑】3 キイフ 岐の國。岐邦(43)に同じ。〔竹書紀年、上〕殷武乙三年、命二周公亶父一、賜以二岐邑一。

【岐雲】4 キウン 明、魯治(**12―46013**・・95)の號。

【岐穎】5 キエイ 性質のすぐれ秀でること。〔張說、爲レ人作二祭レ弟文一〕性實岐穎、德表二宣慈一。

【岐下】6 キカ 岐山の下。周の古公亶父の都した地。岐山(16)の❶㋑を見よ。〔詩、大雅、緜〕率二西水滸一、至二于岐下一。〔集傳〕岐下、岐山之下也。〔史記、周紀〕踰二梁山一、止二乎岐下一。

【岐角】7 キカク 枝のやうに分れた角。〔遼史、耶律夷臈葛傳〕遼法、麚岐角者、惟天子得レ射。

【岐岐】8 キキ ❶さといさま。ちゑづくさま。〔詩、大雅、生民、克岐克嶷、箋〕能匍匐則岐岐然、意有レ所レ知也。❷角のわかれのびたさま。〔梅堯臣、觀レ拽二龍舟一詩〕尾蟜蟜角岐岐、千夫推萬鱗隨。❸飛び行くさま。〔潘岳、笙賦〕如二鳥斯企一、翾翾岐岐。〔注〕善曰、翾翾岐岐、飛行皃。

【岐岐然】9 キキゼン 岐岐の❶に同じ。〔韓愈、原性〕其始匍匐也、則岐岐然、嶷嶷然。

【岐嶷】10 キギョク 智慧づくさま。幼にして秀でぬきんでること。のび育つさま。〔詩、大雅、生民〕誕實匍匐、克岐克嶷。〔傳〕岐、知意也、嶷、識也。〔集傳〕岐嶷、峻茂之狀。〔後漢書、馬援傳〕客卿幼而岐嶷、年六歲能應二接諸侯一。〔晉書、簡文帝紀〕幼而岐嶷。〔陸雲、答二兄平原一詩〕誕豐岐嶷、夙邁令聞。〔左思、吳都賦〕岐嶷繼レ體、老成奕レ世。〔注〕銑曰、岐嶷、少而賢者、能繼二祖考之德一。〔書言故事、幼敏類〕小兒聰俊、曰二此兒岐嶷一。

【岐嶇】11 キク 山の險しいさま。崎嶇。〔陸機、謝二平原內史一表〕岐嶇自列。〔注〕善曰、崎嶇、艱阻得二自申列一也。

【岐黃】12 キクワウ 黃帝と岐伯。共に醫家の祖。轉じて、醫術をいふ。岐軒。〔蘇頌、本草序〕讎二校岐黃內經一、重二定鍼艾兪穴一。〔稱謂錄、醫、岐黃〕帝王世紀、黃帝命二岐伯一論二經脈旁通一、問難爲二難經一、後世習二其業一者、故謂二之岐黃一。

【岐軒】13 キケン 黃帝軒轅と岐伯。醫者及び醫術をいふ。岐黃。〔帝王世紀〕軒轅咨二於岐伯一、更相問難作二內經一。

【岐誤】14 ch'i^2 wu^4 誤り。誤謬。

【岐溝】15 キコウ 關の名。唐末、置き、宋も亦置いて金に備ふ。又、祁溝に作る。水經注の所謂奇溝、今、岐溝店といふ。河北省涿縣の西南。〔明一統志〕岐溝在二順天府涿州城西南四十里一、宋設レ關備レ金、卽此。

【岐山】16 キザン ❶山名。㋑陝西省岐山縣の東北。顏師古は、岐山は美陽に在り、卽ち今の岐山縣の箭括嶺なりといひ、括地志・太平御覽は天柱山をいふとなす。又、鳳凰山ともいはれる。〔書、禹貢〕道二岍及岐一云云、荊岐既旅。〔蔡傳〕岐山、地志、在二扶風美陽縣西北一、今鳳翔府岐山縣東北十里也。〔國語、周語上〕內史過曰、周之興也、鸑鷟鳴二於岐山一。〔史記、封禪書〕自レ華以西、名山七、名川四、曰華山・薄山・云云、岳山・岐山。〔漢書、地理志上、右扶風、美陽、自注〕禹貢岐山在二西北一。〔太平御覽、地部、岐山〕圖經曰、岐山亦名二天柱山一、禹貢曰、導二汧及岐一。〔太平寰宇記〕岐山卽天柱山、周鸑鷟鳴二于山上一、時人亦謂二此山一爲二鳳凰山一。〔地理通釋、十道山川考〕岐山在二鳳翔府岐山縣東北十里一、亦名二天柱山一、漢右扶風美陽縣西北、周大王所レ邑、文王始亦治焉。〔禹貢班義述〕文選西京賦薛綜注云、岐山在二美陽縣界一、山有二兩岐一、因以名焉、今鳳凰山在二岐山縣北十里一、一峯如レ柱、故名二天柱一、與二兩岐之義一不レ合、箭括嶺今名二箭括山一、在二岐山縣東北六十里一、嶺顚有レ缺、故名二箭括一、以二兩岐之說一按レ之、正相符。㋺山西省孝義縣の西。〔書、禹貢〕治二梁及岐一。〔蔡傳〕岐山在二今汾州介休縣一、狐岐之山、勝水所レ出。〔禹貢錐指〕蔡氏所レ指狐岐、在二今孝義縣西一、一名二薛頡山一。㋩福建省龍溪縣の東。〔郭祥正、岐山仙亭十咏詩〕。❷縣名。隋、置く。漢の雍縣の地。今の陝西省鳳翔縣の東、岐山の南。〔讀史方輿紀要、陝西、鳳翔府〕岐山縣、府東北五十里、云云、古岐周地、漢爲二雍縣地一、後周置二三龍縣一屬二岐州一、隋移二縣治岐山南一、改爲二岐山縣一。〔淸史稿、地理志〕陝西、鳳翔府、縣七、岐山。❸淸、梁化鳳(**6―14825**・・225)の字。

【岐山操】17 キザンサウ 樂府、琴曲歌辭の名。周公が大王のために幽公の事績をのべたものといふ。一說に、周人が文王のために作るともいふ。唐の韓愈も亦この題で作り、古の幽公の事績と、狄を避けたことを述べた。〔樂府詩集、琴曲歌辭、岐山操〕琴操曰、岐山操、周公爲二大王一作也。

〔韓愈、琴操、岐山操〕我家㆓于豳㆒、自㆓我先公㆒、伊我承㆑緒、敢有㆑不㆑同、今狄之人、將㆑土㆓我疆㆒、民爲㆑我戰、誰使㆓死傷㆒、彼岐有㆑岨、我往獨處、爾莫㆓余追㆒、無㆑思㆓我悲㆒。

【岐山先生】18 キザンセンセイ 元、魯淵(**12**－**46013**‥4)の尊稱。

【岐之】19 シキ 晉、楊邠(**6**－**15112**‥331)の字。

【岐趾】20 シキ 岐山のふもと。周の文王の居たところ。〔張衡、思玄賦〕心猶豫而狐疑兮、卽㆓岐趾㆒而臚㆑情。〔注〕翰曰、趾、足也、岐山之足、文王所㆑居也。

【岐視】21 chʻi² shih⁴ 二様に見る。偏頗な。

【岐州】22 キシウ 州名。後魏、置く。今、陝西省鳳翔縣。〔讀史方輿紀要、陝西、鳳翔府〕後魏置㆓平秦郡㆒、尋又置㆓岐州㆒。

【岐秀】23 キシウ 高く秀でる。人に優れて居ることをいふ。〔唐書、張仲方傳〕仲方生岐秀、父友高郢、見異㆑之曰、是兒必爲㆓國器㆒、使㆓吾得㆑位、將㆔振㆓起之㆒。

【岐周】24 キシウ 地名。周の舊邑、岐山の下。今、陝西省岐山縣。轉じて、西周をいふ。其の初、岐山の下に國したからいふ。〔書、泰誓下、光㆓于四方㆒、顯㆓于西土㆒、傳〕言㆘其明德充㆓塞四方㆒、明㆗著岐周㆖。〔孟子、離婁下〕文王生㆓於岐周㆒、卒㆓於畢郢㆒、西夷之人也。〔注〕岐周・畢郢、地名也、岐山下周之舊邑。〔墨子、非命上〕昔者文王封㆓於岐周㆒、絕㆑長繼㆑短。

【岐社】25 キシャ 西伯昌、卽ち周の文王の領地の社。社は土地の神を祭るやしろ。〔楚辭、天問〕何令㆑徹㆓彼岐社㆒、命㆓有殷國㆒。〔注〕社、土地之主也、言、武王既誅㆑紂、令㆑壞㆓邠岐之社㆒。〔墨子、非攻下〕赤鳥銜㆑珪、降㆓周之岐社㆒。

【岐掌】26 キシャウ 正直をあらはす手相。〔春秋緯鉤命訣〕仲尼虎掌、是謂㆓威射㆒、澹臺滅明岐掌、是謂㆓正直㆒。

【岐首】27 キシュ 二つまたに分れた首。〔楚辭、天問、中央共㆑牧后何怒、注〕中央之州、有㆓岐首之蛇㆒、爭共食㆓牧草之實㆒、自相啄嚙。〔列女傳、仁智、孫叔敖母傳〕叔敖見㆑蛇、兩頭岐首、殺而埋㆑之。

【岐叔】28 キシュク 隋、崔儦(**4**－**8178**‥157)の字。

【岐出】29 キシュツ 小路が多く分れ出ること。〔齋藤拙堂、山房觀㆑楓記〕小徑岐出、使㆓人迷㆒。

【岐峻】30 キシュン けはしい。〔後漢書、西南夷、莋都傳〕高山岐峻、緣崖磻石。

【岐神】31 フナドノカミ チマタノカミ 道路、及び旅行の守護神。伊奘諾尊の投げ給へる杖になれる神。道の神・久那土の神・布那土の神・手向の神。又、幸の神・道祖神ともいふ。轉じて、だうろくじん。〔日本書紀、神代紀下〕乃薦㆓岐神於二神㆒曰、是當㆓代㆑我而奉從㆒也。〔倭名類聚抄、天地部、神靈類〕岐神、日本紀私記云、岐神。〔注〕布奈止乃加美。

【岐水】32 キスイ 川の名。今、陝西省麟遊縣の西を流れる。〔太平寰宇記〕岐水、源出㆓普潤縣㆒、東南流入㆓漆水㆒。

【岐西】33 キセイ 岐山の西方。又、其の地方。〔史記、秦紀〕襄公以㆑兵送㆓周平王㆒、平王封㆓襄公㆒爲㆓諸侯㆒、賜㆓之岐以西之地㆒。

【岐薛】34 キセツ 唐の玄宗の弟の岐王と薛王。〔唐書、三宗諸子、守禮傳〕岐薛王、同爲㆓刺史㆒。〔唐國史補、下〕二人連言者、岐薛・姚宋・燕許・元王・常楊・蕭李。〔顧況、八月五日歌〕丹青廟裏貯㆓姚宋㆒、花萼樓中宴㆓岐薛㆒。〔元稹、連昌宮詞〕百官隊仗避㆓岐薛㆒、楊氏諸姨車鬬㆑風。

【岐舌】35 キゼツ 古の國名。その國人の舌が岐れてゐたからいふ。一說に、反舌國(**2**－**3127**‥164)に同じといふ。〔山海經、海外南經〕岐舌國。〔注〕南方國名、其人舌皆岐、或云㆓支舌㆒也。〔郝懿行箋疏〕支與㆑反字形相近、淮南墬形訓、有㆓反舌民㆒、高誘注云、語不㆑可㆑知而自相曉、又注㆓呂氏春秋功名篇㆒云、一說、南方有㆓反舌國㆒、舌本在㆑前、末倒向㆑喉、故曰㆓反舌㆒、是支舌、古本作㆓反舌㆒也、藝文類聚・太平御覽引㆑此、皆作㆓反舌㆒、與㆓古本㆒正合。

【岐道】36 キダウ ❶周の文王の住んだ岐邑の道。〔詩、周頌、天作〕彼徂矣、岐有㆓夷之行㆒。〔箋〕行、道也、彼萬民居㆓岐邦㆒者、皆築㆓作宮室㆒、以爲㆓常居㆒、文王則能安㆑之、後之往者、又以㆔岐邦之君、有㆓佼易之道㆒故也。❷分れ路。えだみち。岐路。〔呂覽、疑似〕墨子見㆓岐道㆒而哭㆑之。〔淮南子、繆稱訓〕上下一心、無㆓岐道旁見者㆒。〔後漢書、西南夷傳贊〕參差聚落、紆餘岐道。〔論衡、率性〕楊子哭㆓岐道㆒、墨子哭㆓練絲㆒也。

【岐亭】37 キテイ 鎭の名。湖北省麻城縣の西南。明の嘉靖五年、城を築き、又、清代、同知を此に駐す。〔聞見後錄〕陳公弼之子慥、居㆓黃州之岐亭㆒、東坡謫㆑黃、相得懽甚。

【岐蹏】38 キテイ わかれたひづめ。〔淮南子、原道訓〕牛岐蹏而戴㆑角、馬被㆑髦而全足者天也。

【岐塗】39 キト ❶岐路(59)に同じ。塗は途。❷まぎらはしい條理。

【岐東】40 キトウ 岐山の東方。又、其の地方。〔書、禹貢、荊岐既旅、疏〕先㆑荊後㆑岐、荊在㆓岐東㆒、嫌㆘與㆓上荊㆒爲㆖一、故云㆑非㆓荊州之荊㆒也。〔竹書紀年、下〕周平王十八年、秦文公大敗㆓戎師于岐㆒、來歸㆓岐東之田㆒。

【岐寧】41 キネイ 清、趙忠濟(**10**－**37171**‥789)の號。

【岐念】42 chʻi² nien⁴ 異なつた意見。岐意(2)に同じ。

【岐邦】43 キハウ 岐の國。周の舊邑。今、陝西省岐山縣の地。〔詩、周頌、天作、天作㆓高山㆒、箋〕彼萬民居㆓岐邦㆒者、皆築㆓作宮室㆒以爲㆓常居㆒、文王則能安㆑之、後之往者、又以㆔岐邦之君、有㆓佼易之道㆒故也。

【岐旁】44 キバウ 二また道。〔爾雅、釋宮〕二達、謂㆓之岐旁㆒。〔注〕岐道旁出也。

【岐伯】45 キハク 黃帝の臣。名醫。黃帝と相問難して、帝の素問を著すを助く。〔漢書、藝文志〕太古有㆓岐伯・兪拊㆒、中世有㆓扁鵲・秦和㆒、蓋論㆑病以及㆑國、原㆑診以知㆑政。〔易林〕皐陶聽理、岐伯悅喜。

【岐豳】46 キヒン 地名。岐州と豳州。〔唐書、薛擧傳〕武德元年、豐州總管張長懸擊㆓羅睺㆒、擧㆓悉兵㆒援㆑之、屯㆓析墌㆒、以㆓游軍㆒掠㆓岐豳㆒。

【岐母】47 キモ 獸の名。〔呂覽、諭大〕岐母・羣抵。〔注〕羣抵・岐母、皆獸名也。

【岐鳳】48 キホウ 明、朱應祥(**6**－**14424**‥681)の字。

【岐豐】49 キホウ 周の二國の名。岐と豐。豐は陝西省長安縣の西北。〔史記、秦紀〕平王封㆓襄公㆒爲㆓諸侯㆒、賜㆓之岐以西之地㆒曰、戎無道、侵㆓奪我岐豐之地㆒、秦能攻㆓逐戎㆒、則有㆓其地㆒、與誓封㆓爵之㆒。〔三輔黃圖、一、三輔沿革〕古豐鎬之地、平王東遷、以㆓岐豐之地㆒賜㆓秦襄公㆒。〔摯虞、雍州詩〕外接㆓皮服㆒、內含㆓岐豐㆒。

【岐木】50 キボク 幹のふたまたに分れた木。〔遼史、禮志六〕皇帝入㆑室、釋㆑服跣、以㆓童子㆒從、三過㆓岐木之下㆒、每㆑過產醫嫗致㆑詞、拂㆓拭帝躬㆒、童子過㆓岐木㆒七、皇帝臥㆓木側㆒、叟擊㆑箙曰、生㆑男矣。

【岐民】51 キミン 明、邵南(**11**－**39343**‥57)の字。

【岐陽】52 キヤウ ❶岐山の南。今、陝西省岐山縣。唐、嘗て岐陽縣をおく。〔詩、魯頌、閟宮〕居㆓岐之陽㆒、實始翦㆑商。〔左氏、昭、四〕成有㆓岐陽之蒐㆒。〔注〕周成王歸㆑自㆑奄、大蒐㆓於岐山之陽㆒。❷明、周子文(**2**－**3441**‥676)の字。

【岐陽之鼓】53 キヤウノツヅミ 岐山の南に在つた石鼓。石鼓(**8**－**24024**‥292)の❶を見よ。〔集古錄〕石鼓文、在㆓岐陽㆒、初不㆑見㆑稱㆓於世㆒、至㆓唐人㆒始盛稱㆑之、而韋應物以爲㆘周之文王之鼓、至㆓宣王㆒刻㆑詩爾㆖、韓退之直以爲㆓宣王之鼓㆒、在㆓今鳳翔孔子廟中㆒。

【岐雍】54 キヨウ 春秋の二國の名。岐と雍。雍は秦の都、今、陝西省鳳翔縣の南。〔史記、秦紀〕昔我穆公自㆓岐雍之間㆒、修㆑德行㆑武、東平㆓晉亂㆒、以㆑河爲㆑界。〔班固、西都賦〕東薄㆓河華㆒、西涉㆓岐雍㆒。

【岐梁】55 キリヤウ 岐山と梁山。〔漢書、匈奴傳上〕在㆓岐梁涇漆之北㆒。〔張衡、西京賦〕岐梁汧雍、陳寶鳴雞在焉。〔梁元帝、卽位改元詔〕積㆓德岐梁㆒、化行㆓江漢㆒。〔杜甫、送㆔樊二十三侍御赴㆓漢中判官㆒詩〕頓㆓兵岐梁下㆒、卻跨㆓沙漠裔㆒。

【岐嶺】56 キレイ 山名。湖北省羅田縣の東北、多雲山に接す。一に丞相嶺といふは、唐の大曆中、宰相常袞がここを過ぎたからいふ。〔讀史方輿紀要、湖廣、黃州府、羅田縣〕岐嶺、縣東百三十里、志云、岐嶺連㆓接多雲㆒、實爲㆓天險㆒、其上有㆓四關㆒。

【岐嶺墟】57 キレイキヨ 地名。廣東省五華縣の西。岐嶺の下に在つて、西は龍川縣の界に接す。

【岐禮】58 キレイ 周の禮。岐は周の興つた地であるからいふ。〔張說、奉㆔和聖制幸㆓鳳湯泉㆒應制詩〕周狩因㆓岐禮㆒、秦都辨㆓雍名㆒。

【岐路】59 キロ えだみち。わかれみち。ふたまたみち。岐道。岐塗。岐路亡羊を見よ。〔文中子、立命〕

我未㆑見㆘處㆓岐路㆒而不㆓遲回㆒者㆖。〔後漢書、鄧彪等傳論〕遲㆓遲於岐路之間㆒也。〔孫楚、征西官屬送㆓於陟陽侯㆒詩〕晨風飄㆓岐路㆒、零雨被㆓秋草㆒。〔曹植、美女篇〕美女妖且閑、採㆓桑岐路閒㆒。〔宋之問、至㆓端州驛㆒見㆓杜五審言沈三佺期閻五朝隱王二無競題㆑壁慨然成㆑詠詩〕豈意南中岐路多、千山萬水分㆓鄉縣㆒。〔高適、送㆔劉評事充㆓朔方判官㆒賦㆓得征馬嘶㆒詩〕岐路風將㆑遠、關山月共愁。〔王勃、杜少府之㆓任蜀州㆒詩〕無爲在㆓岐路㆒、兒女共沾㆑巾。

【岐路亡羊】60（キロバウヤウ） 一羊を失つて之を追ふ者が、わかれ道の多いために見失つた故事。學問の多端で眞理を得難い喩。多岐亡羊。亡羊之歎。〔列子、說符〕楊子之鄰人亡㆑羊、既率㆓其黨㆒、又請㆓楊子之豎㆒追㆑之、楊子曰、嘻亡㆓一羊㆒、何追者之衆、鄰人曰、多㆓岐路㆒、既反、問、獲㆑羊乎、曰、亡㆑之矣、曰、奚亡㆑之、曰、岐路之中、又有㆑岐焉、吾不㆑知㆑所㆑之、所㆓以反㆒也。

【岐王】61（キワウ） 唐代の富貴の家の名。〔杜甫、江南逢㆓李龜年㆒詩〕岐王宅裏尋常見、崔九堂前幾度聞。

【岐惠王】62（キケイワウ） 明、朱祐棆（6－14424・・660）の封謚號。

【岐阜提燈】63（ギフヂヤウチン） 美濃國岐阜に產する提灯。

【哭㆑岐泣㆑練】64（キニコクシレンニナク） 楊子が岐路を見、墨子が練絲を見て、本は同じく、末の異なるを嘆いた故事。岐はわかれ路、練は白い絲。岐は何れにでも行けるし、練は何の色にも染められる。〔淮南子、說林訓〕楊子見㆓岐路㆒而哭㆑之、爲㆘其可㆓以南㆒可㆗以北㆖、墨子見㆓練絲㆒而泣㆑之、爲㆘其可㆓以黃㆒可㆗以黑㆖。

【岑】7937

［一］シン ジン 〔集韻〕鋤簪切 ㄘㄣˊ tsʻen² 侵

［二］ギン ゴン 〔集韻〕牛錦切 寢

小篆

小篆（聲定訓通）

［一］❶みね。小さく高い山。〔說文〕岑、山小而高、从㆑山今聲。〔爾雅、釋山〕山小而高、岑。〔釋名、釋山〕山小而高曰㆑岑、岑、嶃也、嶃嶃然也。❷たかい。〔方言、十二〕岑、高也。〔張衡、思玄賦〕飮㆓青岑之玉醴㆒兮。〔注〕衡曰、上高者曰㆑岑。❸するどい。〔楚辭、劉向、九歎、逢紛〕漂流隕往觸㆓岑石㆒兮。〔注〕岑、銳也。❹けはしい。〔禮、大學、止㆓于丘隅㆒注〕知㆔鳥擇㆓岑蔚安閒㆒。〔疏〕岑、謂㆓巖險㆒。❺崟（4－8199）に同じ。〔集韻〕崟、亦作㆑岑。❻きし。〔集韻〕岑、一曰岸也。❼大きい。〔方言、十二〕岑、大也。〔廣雅、釋詁一〕岑、大也。❽とる。㦰（5－11561）に通ず。〔說文通訓定聲〕岑、叚借爲㆑㦰。〔廣雅、釋詁一〕岑、取也。❾國名。周の武王が文王の異母弟耀の子、渠を封じて岑子としたもの。今、陝西省韓城縣の地。〔正字通〕岑、周文王封㆓異母弟耀之子渠㆒爲㆓岑子㆒、今梁國因有㆓岑亭㆒。❿姓。〔唐書、宰相世系表〕岑氏出㆑自㆓姬姓㆒、周文王異母弟耀子渠、武王封爲㆓岑子㆒、其地梁國北岑亭、是也、子孫因以爲㆑氏、世居㆓南陽棘陽㆒、後漢有㆓征南大將軍舞陽壯侯岑彭字君然㆒、生㆓屯騎校尉細陽侯遵㆒、遵曾孫像南郡太守、生㆑晊字公孝、黨錮難起、逃㆓於江夏山中㆒、徙居㆓吳郡㆒、生㆓亮伯㆒、亮伯生㆑軻、吳會稽郡太守、六子寵昏安頌廣晏、後徙㆓鹽官㆒、十世孫善方。〔通志、氏族略、以㆑國爲㆑氏〕岑氏、呂氏春秋云、周文王封㆓異母弟耀之子渠㆒爲㆓岑子㆒。［二］きし。〔集韻〕岑、崖岸也。〔莊子、徐無鬼〕未㆔始離㆓於岑㆒。〔注〕岑、岸也。〔釋文〕岑、謂㆓崖岸㆒也。

名乘 タカ。ミネ。

【岑蔚】1（シンヰ） 山の峯の木が深く茂つた所。岑翳。〔大學、緡蠻黃鳥止㆓于丘隅㆒章句〕丘隅、岑蔚之處。〔唐書、吐蕃傳下〕蘭州地、皆杭稻・桃李・楡柳岑蔚、戶皆唐人。〔黃庭堅、曹侯善政頌〕風林岑蔚、征夫不㆑逢。〔王安石、遊㆓章義寺㆒詩〕岑蔚鳥絕㆑迹、悲鳴惟一蜩。

【岑瑛】2（シンエイ） 明、思恩の人。思恩土知州となる。謀略あり、正統中、常に征調を奉じて屢〻勳功をたてた。官は都指揮使。〔明史、三百十八〕。

【岑翳】3（シンエイ） 山の峯の林の茂つた處。岑蔚。〔唐書、賈循傳〕地南負㆑海、北屬㆓長城㆒、林埌岑翳、寇所㆓蔽伏㆒。

【岑峨】4（シンガ） ひとしくないさま。高下のあるさま。〔楚辭、東方朔、七諫、怨世〕世沈淖而難㆑論兮、俗岑峨而嵾嵯。〔注〕岑峨・嵾嵯、不㆑齊貌。

【岑岡】5（シンカウ） 地名。江西省定南縣の西。もと賊の巢窟で、明の嘉靖中には李鑑、萬曆中には李珍等が據つて亂を爲した處。〔讀史方輿紀要、江西、贛州府、定南縣〕岑岡、縣西二十五里、與㆓龍南及廣東和平縣㆒接㆑境、舊爲㆓賊藪㆒、嘉靖三十年、賊李鑑招㆓集益衆㆒、遂肆㆓猖獗㆒、云云、萬曆十四年、和平道李珍等、復據㆓岑岡㆒作㆑亂。

【岑港】6（シンカウ） 港の名。浙江省定海縣の西北。縣の要港。明の胡宗憲が海賊汪直を誘ひ誅した時、其の黨がこの港に據つて亂をなした。〔讀史方輿紀要、浙江、寧波府、定海縣〕岑港、在㆓舟山所西北㆒、有㆓巡司㆒戍守、海口衝要處也、嘉靖中屢爲㆓倭賊所㆑登、劫後遂倚㆑險列㆑柵、據㆓守其地㆒、三十七年、胡宗憲督㆑兵討㆑之、分㆑軍泊㆓其南北㆒。

【岑嶅】7（シンガウ） 小石の多い山。〔木華、海賦〕挂㆓罥於岑嶅之峯㆒。〔注〕善曰、爾雅曰、山多㆓小石㆒曰㆑嶅。

【岑嶨】8（シンガク） みねとたに。〔宋之問、夜飮㆓東亭㆒詩〕岑嶨景色佳、慰㆓我遠遊心㆒。

【岑嵒】9（シンガン） 高くけはしいさま。岑巖。岑崟。〔嵇康、琴賦〕且其山川形勢、則盤紆隱深、確嵬岑嵒。〔注〕善曰、崔嵬・岑嵒、高峻貌也。

【岑巖】10（シンガン） 岑嵒に同じ。〔管子、宙合〕山陵岑巖、淵泉閎流。

【岑熙】11（シンキ） 後漢の人。彭の五世の孫。官は魏軍太守。〔後漢書、四十七〕。

【岑義】12（シンギ） 明、邳州の人。母の盲目を舐めて遂に癒やした。母、卒するに及んで、土を負つて墳を爲り、墓に廬すること三年。景泰中、孝子を以て旌表せらる。〔本朝分省人物攷、三十二〕。

【岑羲】13（シンギ） 唐の人。文本の孫。字は伯華。進士。官は吏部侍郎・侍中。封は南陽郡公。〔唐書、一百二〕・〔舊唐書、七十〕。

【岑鞏】14（シンキヨウ） 縣名。民國、置く。もと思州府直轄の地。貴州省鎭遠縣の東北。潕水の支流、龍洞河の西南岸。

【岑崟】15（シンギン） 高くけはしいさま。〔方言、十二〕岑崟、高也、注〕岑崟、峻貌也。〔司馬相如、子虛賦〕岑崟參差、日月蔽虧。〔王延壽、魯靈光殿賦〕岑崟崰嶷、駢龍從兮。〔注〕善曰、皆高大峻嶮之貌。〔江淹、雜體、謝臨川靈運遊山詩〕嵒寡轉奇秀、岑崟還相蔽。

【岑華】16（シンクワ） 山名。笛に適する良竹を產するので有名である。〔拾遺記、三、周穆王〕岑華、山名也、在㆓西海上㆒、有㆓象竹㆒、截爲㆑管吹㆑之、爲㆓羣鳳之鳴㆒。

【岑華居士】17（シンクワコジ） 清、吳慈鶴（2－3365・・632）の號。

【岑溪】18（シンケイ） 縣名。唐、置く。漢の猛陵縣の地。今、廣西省蒼梧縣の西南。縣城は西江の支流、善昌江の北岸に臨む。〔讀史方輿紀要、廣西、梧州府〕岑溪縣、府西南二百九十里、云云、漢猛陵縣地、隋永業縣地、唐武德五年置㆓龍城縣㆒、爲㆓南義州治㆒、貞觀元年州廢、縣屬㆓建州㆒、二年復置㆓義州㆒、云云、至德二載、改㆓龍城縣㆒曰㆓岑溪㆒。〔淸史稿、地理志〕廣西、梧州府、縣五、岑溪。

【岑晊】19（シンシツ） 後漢、棘陽の人。字は公孝。郭泰の友。太守成瑨の功曹となり、瑨に勸めて賈張汎を誅せしめたが、瑨は執へられて死し、晊は亡匿した。後、赦に會ひ、江夏の山中に終る。〔後漢書、九十七〕。

【岑娶】20（シンシユ） 漢代、烏孫王昆莫の太子の子。〔史記、大宛傳〕太子有㆑子曰㆓岑娶㆒、而太子蚤死、臨㆑死謂㆓其父昆莫㆒曰、必以㆓岑娶㆒爲㆓太子㆒、無㆑令㆓他人代㆑之。

【岑俊】21（シンシユン） 明、慈谿の人。字は子英。山中に隱れ、經史百家に通ず。正統中、經明行修に擧げられたが、親の老いたるを以て辭す。〔尚友

錄、十三〕。

【岑濬】22（シンシユン） 明の人。瑛の孫。弘治の間、思恩土知府を襲ぐ。田州等の地を攻劫して撫綏に服せず、總督潘蕃に攻殺せらる。〔明史、三百十八〕。

【岑岑】23（シンシン） 頭の痛むさま。もだえ苦しむさま。〔漢書、外戚傳上〕我頭岑岑也、藥中得レ無レ有レ毒。〔注〕師古曰、岑岑、痺悶之意。

【岑參】24（シンシン） 唐、南陽の人。天寶の進士。官は補闕起居郎。後、嘉州刺史。退いて杜陵山中に居り、蜀に客死す。詩に巧で、高適と名を齊しうし、高岑と竝稱せられた。著に岑嘉州集がある。〔唐才子傳〕・〔四庫未收書目提要、二〕。

【岑峭】25（シンセウ） けはしい峯。〔郭璞、巫咸山賦〕體二岑峭一以隆頽、冠二崇嶺一以峻起。

【岑寂】26（シンセキ） さびしくしづか。寂しげに高く聳えること。〔鮑照、舞鶴賦〕去二帝鄕之岑寂一。〔注〕善曰、岑寂、猶二高靜一也。〔杜甫、樹間詩〕岑寂雙柑樹、婆娑一院香。

【岑鼎】27（シンテイ） 魯の鼎の名。讒鼎。齊侯が魯を攻め、これを求めたことがある。〔呂覽、審己〕齊攻レ魯求二岑鼎一、魯君載二他鼎一以往、齊侯弗レ信而反レ之、爲レ非。〔畢沅校〕韓非說林下、岑鼎作二讒鼎一、岑與レ讒通轉耳。〔新序、節士〕齊攻レ魯求二岑鼎一、魯君載二岑鼎一往、齊侯不レ信而反レ之、以爲、非也。〔新論、履信〕齊攻レ魯、求二岑鼎一。

【岑彭】28（シンパウ） 後漢、棘陽の人。字は君然。謚は莊。王莽の時、推されて本縣長となり、漢兵が起つた時、衆を率ゐて更始に附く。光武帝が卽位するに及んで廷尉となり、舞陰侯に封ぜらる。永平中、像後、蜀を討つて、刺客に刺殺せらる。永平中、像を雲臺に畫かる。〔後漢書、四十七〕。

【岑豹】29（シンペウ） 明の人。廣西泗城土知州。宣德年間、伯父瑄の職を襲ぐ。性格があらあらしく粗野で、屢〻近州を攻奪した。成化の初、上林長官司を攻殺し、朝議は將に之を征せんとしたが、偶〻卒す。〔明史、三百十九〕。

【岑牟】30（シンボウ） 軍中に太鼓や角笛を鳴らす士の被る帽子。立烏帽子。〔後漢書、禰衡傳〕更著二岑牟單絞之服一。〔注〕岑牟、鼓角士之胄也。〔皮日休、襄州春遊詩〕岑牟單絞何曾著、莫レ道猖狂似二禰衡一。

【岑猛】31（シンマウ） 明の人。廣西田州土知府。弘治の間、襲職す。江西の盜を平げ、功を以て指揮同知に遷る。嘉靖の間、泗城を攻めて克ち、知州岑接と互に隱私をあばき合つた。上思州の役に徵せられて至らず、總督姚鏌に征伐されて出奔し、岑璋に誘殺さる。〔明史、三百十八〕・〔萬斯同明史、四百十二〕。

【岑立】32（シンリフ・シンリツ） みねのやうに高くけはしく立つ。〔何晏、景福殿賦〕岧嶢岑立、崔嵬巒居。〔郝名遠、大廈賦〕鱗次翼張、岑立嶽峙。

【岑嶺】33（シンレイ） みね。山。高いところ。〔木華、海賦〕岑嶺飛騰而反覆、五岳鼓舞而相硾。〔注〕善曰、岑嶺五岳、言二波濤之形遞相觸激、故或反覆、故或相硾一也。

【岑樓】34（シンロウ） 高くするどい山。又、山に似て高いたかどの。一說に、みねとたかどの。〔孟子、告子下〕不レ揣二其本一而齊二其末一、方寸之木、可レ使レ高二於岑樓一。〔注〕岑樓、山之銳嶺者。〔集注〕岑樓、樓之高銳似レ山者。〔宋翔鳳趙注補正〕按、趙以二岑樓一爲二銳嶺一、樓似レ不レ可三訓爲二山嶺一、使レ依下後儒訓二岑樓一爲中樓之高銳似レ山者上、則岑樓亦不レ辭、蓋岑與レ樓爲二二事一、皆是高者、故幷擧爲レ喩。〔孫楚、韓王臺賦〕邈岧嶤以亢極、豈岑樓之能加。〔王安石、哭二梅聖俞一詩〕貴人憐二公靑兩眸一、吹噓可レ使レ高二岑樓一。

【岑樓齊レ末】35（シンロウニスヱヲヒトシウス） 短い木を高樓の上に持ち上げ、末だけを樓と齊しうして高低を較べる。比較を誤るをいふ。岑樓を見よ。

【岑麓】36（シンロク） 山名。貴州省施秉縣の北。〔名勝志〕初縣治在二從化鎭一、明正統十四年、苗叛縣毀、景泰間招撫復レ業、依レ此以居。

【岑安卿】37（シンアンケイ） 元、餘姚の人。字は靜能。居所、栲栳峯に近きを以て、栲栳山人と號す。志行高潔、窮阨して終る。著に栲栳山人集がある。〔新元史、二百三十八〕。

【岑毓英】38（シンイクエイ） 清、西林の人。字は彥卿。號は匡國。謚は襄勤。官は雲貴總督・太子太保。〔淸史稿、四百二十五〕・〔清史列傳、五十九〕・〔續碑傳集、三十〕。

【岑嘉州】39（シンカシウ） 唐、岑參(24)をいふ。

【岑嘉州集】40（シンカシウシフ） 書名。八卷。唐、岑參撰。唐の時、京兆の杜確が參の嗣子佐公の命を受け、分類編次して八卷とす。唐書藝文志・崇文總目・文獻通考に十卷とあるのは、恐らく原本ではない。明に至り張遜業の刻したものは二卷で、卷上は五古・七古、卷下は五律・七律・五排・五絕・七絕を錄す。光緖十年、上海同文書局の石印版は凡て八卷で、首に杜確の序文があり、類を分つて編次してあるが、此が恐らく原本であらう。其の內容は、五古三卷、七古一卷、五律・五排共三卷、七律・五絕・七絕共一卷である。參の詩は響亮悲壯で、邊塞の音に富み、又、杜甫を學んだと云はれる。〔四庫未收書目提要、二〕。

【岑嘉州體】41（シンカシウタイ） 唐、岑參の詩體。岑嘉州集を見よ。〔滄浪詩話、詩體〕岑嘉州體、岑參也。

【岑之敬】42（シンシケイ） 陳、棘陽の人。字は思禮。年十六、高第に擢んでられ、梁に仕へて晉安王記室參軍となり、陳に入つて征南府諮議參軍に遷る。集十卷がある。〔陳書、三十四〕・〔南史、七十二〕。

【岑春煊】43（シンシユンケン） 民國、廣西省西林縣の人。字は雲階。民國成立後、一時、福建宣撫使、粤漢鐵路督辦であつたが、第二革命に際し南方討袁軍大元帥となつた。西曆一九一八年、伍廷芳と共に廣東軍政府を組織し、孫文が廣東退出後、政務總裁に就任し、爾來、軍政府の首領であつたが、後、陳烱明の廣東政略により失脚し、上海に隱棲した。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【岑善方】44（シンゼンパウ） 北周の人。彭の後。字は思義。謚は敬。博く經史に通ず。官は散騎常侍。文集がある。〔周書、四十八〕。

【岑宗旦】45（シンソウタン） 宋、開封の人。字は子文。書に巧。嘗て漢から唐に至るまでの書を善くする者十一人を選んで論評をつくる。〔宋史翼、三十九〕。

【岑長倩】46（シンチヤウセン） 唐の人。文本の從子。官は垂拱の初、文昌右相。封は鄧國公。後、諸武に忤らひ、武威道行軍大總督に遷され、獄に下されたが、來俊臣に謀反すと誣ひられ、市に斬られ、五子は死を賜はる。〔唐書、一百二〕・〔舊唐書、七十〕。

【岑頭坡】47（シントウハ） 阪の名。湖南省乾城縣の西。一名、琴圖。其の險は天門山と等しく、南鴉保・平隆の各險寨と相通ず。淸の乾隆中、苗を征して臺站を設く。

【岑文昭】48（シンブンセウ） 唐の人。文本の弟。官は太宗の時、校書郞となる。〔唐書、一百二〕・〔舊唐書、七十〕。

【岑文本】49（シンブンポン） 唐、棘陽の人。字は景仁。謚は憲。官は中書令。〔唐書、一百二〕・〔舊唐書、七十〕。

【岑陽嶺】50（シンヤウレイ） 山名。江西省上饒縣の東南。贛閩の界を爲す。嶺の關は要害と稱せらる。

【岑用賓】51（シンヨウヒン） 明、順德の人。字は允穆。號は小谷。嘉靖の進士。官は南京戶科給事中。後、宜川丞に謫せられて卒す。著に小谷集がある。〔明史、二百十五〕・〔萬斯同明史、三百九〕・〔明史稿、一百九十九〕。

【岭】7938

ケン　ゲン　〔集韻〕其淹切　鹽

❶**山名**。〔集韻〕岭、山名。❷**石の音**。岭嶙を見よ。

【岭峨】1（ケンガ） ひとしくないさま。高下のあるさま。〔楚辭、東方朔、七諫、怨世〕俗岭峨而嵾嵯。〔注〕岭峨・嵾嵯、不レ齊貌。

【岭嶙】2（ケンリン） 石の聲。〔揚雄、蜀都賦〕叩レ巖岭嶙、崇隆臨レ柴。

【岓】7939

キ　ゲ　〔集韻〕渠希切　微

山の旁の石。〔集韻〕岓、山旁石曰レ岓。

【岸】7940

キ　岓（**4－7939**）に同じ。〔篇海類編〕岸、同レ岓。

【岴】7941 シヨウ　縦(**4－8382**)に同じ。〔正字通〕岴、與㆑縦同。

【㞢】7942 ソウ　走(**10－37034**)の古字。〔字彙補〕㞢、古文走字。

【𡵓】7943 ホウ　峯(**4－8093**)に同じ。〔集韻〕𡵓、峯、或作㆑𡵓。

【岔】7944 ㊀サ セ　〔正韻牋〕初牙切　麻　㊁タ　〔字彙補〕丑亞切　禡　ㄔㄚˋ ch'a⁴　㊂フン

㊀㊁❶**山と山とが分岐するところ。**又、道路の岐れたところ。〔正字通〕通雅曰、山岐曰㆑岔、水岐曰㆑汊、二音同、金陵地名有㆓岔口㆒、俗作㆓岔路口㆒、又、路之岐道亦曰㆑岔。❷現㋑まちがふ。くひちがふ。㋺そらす。それる。まぎらす。㊂岎(**4－7933**)に同じ。〔正字通〕岎、亦作㆑岔。

【岔河】1 カタ　❶鎭の名。㋑山東省萊陽縣の東。海陽縣の界に接す。㋺江蘇省淮安縣の西南、白馬湖の西岸。安徽省盱眙縣に通ずる道がある。岔河にも作る。㋩江蘇省如皐縣の東。❷橋の名。山東省高苑縣の東南。兩橋が相對し、一は孝婦河に跨がり、一は小淸河に跨がる。

【岔氣】2 ch'a⁴ ch'i⁴　急に胸苦しくなる病氣。

【岔曲】3 キヨクタ　歌曲の名。淸の乾隆中、阿桂が金川を攻めた時用ひた軍歌。寶恆小岔が編したからいふ。歌ふに八角鼓を用ひるから、八角鼓曲ともいふ。

【岔口】4 コウタ　村名。山西省交城縣の北。明の天啓中、曾て孔都河・岔口の諸村に營房を建て、防兵二百を駐めて守備に當らしめた。

【岔道】5 ダウタ　❶城の名。河北省延慶縣の南。〔讀史方輿紀要、直隷、延慶州〕岔道口、州南二十里、志云、自㆓八達嶺㆒而北、地稍平、五里至㆓岔道㆒。❷ch'a⁴ tao⁴　岐路。わかれみち。

【岔路】6 ロタ　川の名。源は滿洲吉林省磐石縣の大黑山。北流して吉林縣の西を經て伊勒門河に入る。一に薩拉河・薩龍河に作る。吉林縣の西に市鎭があり、岔路河といふ。

【屵】7945 ヤク　〔中華大字典〕弋灼切　藥

岸の上に人が居る。〔川篇〕屵、岸上見㆑人也。

【𡵘】7946 チ　阺(**4－8017**)に同じ。〔篇海類編〕𡵘、同㆑阺。

【𡵗】7947 コク　谷(**10－36182**)に同じ。〔字彙補〕𡵗、同㆑谷。

【𡵛】7948 ボク　義未詳。〔篇海類編〕𡵛、音木。

【𡶂】7949 シヨク　義未詳。〔海篇〕𡶂、音色。

【岄】7950 タン　炭(**7－18953**)に同じ。〔龍龕手鑑〕岄、同㆑炭。

【𡶊】7951 ボク　𡵛(**4－7948**)に同じ。〔五音篇海〕𡶊、同㆑𡵛。

【𡶛】7952 コウ　岣(**4－7970**)に同じ。〔篇海類編〕𡶛、同㆑岣。

【𡶅】7953 ガク　岳(**4－8001**)に同じ。〔捜眞玉鏡〕𡶅、同㆑岳。

【𡶍】7954 シヨウ　義未詳。〔龍龕手鑑〕𡶍、音從。

【𡶏】7955 エン　義未詳。〔五音篇海〕𡶏、音沿。

【𡶙】7956 リウ　流(**6－17431**)に同じ。〔龍龕手鑑〕𡶙、同㆑流。

五畫

【岝】7957 ㊀サク シヤク　〔集韻〕側格切　陌　㊁サク ザク　〔集韻〕疾各切　藥

㊀㊁**山のたかいさま。**岝崿(1)・岝嶺(2)・岝崿(3)を見よ。

【岝客】1 ガクサク　山の高いさま。又、山の高低あるさま。岝峉に同じ。〔集韻〕岝、岝客、山峻皃。〔嵇康、琴賦〕玄嶺巉巖、岝客嶇崟。〔注〕善曰、皆山石嶮峻之貌、良曰、並山峻而不㆑齊貌。

【岝嶺】2 ガクサク　山の高いさま。又、山の高低あるさま。岝峉。〔集韻〕岝、岝嶺、山皃。〔張衡、南都賦〕岝嶺崋嵬、嶔巇屹嶝。〔注〕善曰、埤蒼曰、岝客、山不㆑齊也。

【岝崿】3 ガクサク　❶山の高いさま。岝嶺。〔集韻〕岝、岝崿、山高皃。〔左思、吳都賦〕雖㆑有㆓石林之岝崿㆒、請攘㆑臂而靡㆑之。❷山名。江蘇省吳縣の西南。古の支硎山。〔正字通〕岝、吳志、支硎山、支道林所㆑居、今名㆓岝崿山㆒。〔吳地記〕岝崿山在㆓縣西十二里㆒、吳王僚葬㆑之。

【岝嶺】4 ガクサク　山の高いさま。岝崿。〔木華、海賦〕啓㆓龍門之岝嶺㆒、墾㆓陵巒㆒而嶄鑿。〔注〕善曰、岝嶺、高貌。

【岝山】5 ザンサク　山名。山東省安邱縣の東北。峽・陸二山の間に在り、濰水が其の下を流れる。其の形、岝然と高く聳え、金人が城砦をここに築く。膠濟鐵路の沿線。〔讀史方輿紀要、山東、青州府、安邱縣〕岝山、縣東北四十里、其形岝然高聳、金人置㆓砦於此㆒、宋建炎三年、張邵使㆑金至㆓濰州㆒、與㆓金將撻覽㆒抗禮、金人執㆑邵送㆓密州㆒、因於㆓岝山㆒砦。

【岝嵐】6 ランサク　淸、陳嶿(**11－41698・101**)の號。

【岞】7958 サク　岝(**4－7957**)に同じ。〔正字通〕岞、同㆑岝。

【岟】7959 ヤウ アウ　〔集韻〕倚兩切　養

❶**ふもと。**〔集韻〕岟、山足也。❷**山の形。**〔集韻〕岟、山形。❸**山林が奥ぶかい。**〔左思、魏都賦〕山林幽岟。〔注〕良曰、幽岟、深邃也。❹**山名。**〔集韻〕岟、一曰、山名。

【岟嵲】1 ヘイヤウ　ふもと。山下。〔太玄經、增〕上九、崔嵬不㆑崩、賴㆓彼岟嵲㆒。〔注〕岟嵲、山足也。

【𡶳】7960 アイ エ　〔集韻〕烏懈切　卦

❶**けはしい。**〔集韻〕𡶳、險也。❷**くるしむ。**〔字彙〕𡶳、困也。❸或は嗌(**4－8324**)に作る。〔集韻〕𡶳、或从㆑益。

【岠】7961 キヨ ゴ　〔韻會〕臼許切　語

❶**大きな山。**〔玉篇〕岠、大山也。❷**いたる。**〔韻會〕岠、至也。〔漢書、食貨志下〕銀龜二品、元龜岠㆑冉長尺二寸。〔注〕孟康曰、冉、龜甲緣也、岠、至也。❸**さる。**距(**6－16**

287)・距(10－37481)に通ず。〔爾雅、釋地〕岠齊州以南。〔注〕岠、去也。〔郝懿行義疏〕岠者、當作歫、通作距、書、予決九川距四海、漢書食貨志注、岠、至也、此注、岠、去也、去・至義相成也。

【岠虛】1（キョキョ） 獸の名。騾に似る。邛邛岠虛(11－39288・・6)を見よ。〔爾雅、釋地〕西方有比肩獸焉、與邛邛岠虛比、爲邛邛岠虛齧甘草、即有難、邛邛岠虛負而走、其名謂之蟨。〔疏〕云西方有比肩獸焉者、此謂蟨也、與邛邛岠虛相比、蟨則肩痺不能走、而能取甘草、邛邛岠虛、則前高不得取甘草而善走、穆天子傳曰、邛邛岠虛走百里、是也、故各以其能而濟所不能、蟨、常爲邛邛岠虛齧甘美之草、仰而食之、即有急難、邛邛岠虛、則背負而走者、其名謂之蟨也。

【岠嵎】2（キョグウ） 山名。山東省棲霞縣の東。金を產し、一名、金山ともいふ。〔棲霞縣志〕金山亦名岠嵎山、即黃銀坑、隋唐以來、守土官採金、充貢、後編戶置官、歲定金額、有增無減、戶漸逃亡、明洪武間、始禁開採。〔讀史方輿紀要、山東、登州府、棲霞縣〕岠嵎山、縣東北二十里、宋慶曆六年、山東地震、岠嵎山摧、嘉定六年、金益賊楊安兒作亂據登州、金將僕散安貞敗之、安兒乘舟入海、欲走岠嵎山、舟人曲成擊殺之、即此、山產金、亦名金山。

【岡】7962　カウ　〔集韻〕居郎切　《尢 kang1・3 陽

小篆

❶をか。㋑山の脊。或は㟠(4－8025)に作る。〔正字通〕岡、說文作㟠。〔說文〕㟠、山脊也、从山网聲。〔爾雅、釋山〕山脊、岡。〔釋名、釋山〕山脊曰岡、岡、亢也、在上之言也。〔書、胤征〕火炎崐岡。〔傳〕山脊曰岡。〔詩、周南、卷耳〕陟彼高岡。〔傳〕山脊曰岡。㋺さか。〔廣雅、釋丘〕岡、阪也。㋩みね。〔楚辭、王逸、九思、守志〕覽高岡兮嶢嶢。〔注〕山嶺曰岡。㊁小山。〔詩、小雅、天保〕如岡如陵。❷或は𡶶(4－8013)に作る。〔集韻〕岡、或書作𡶶。❸通じて阬(11－41566)に作る。〔集韻〕岡、通作阬。〔漢書、揚雄傳上、陳衆車於東阬兮、注〕師古曰、阬、大阜也、讀與岡同。❹俗に崗(4－8221)・堽(3－5298)に作る。〔集韻〕岡、俗作崗・堽、非是。❺剛(2－2042)に通ず。〔一切經音義、二十二〕岡、篆文作剛、同。❻𡶶(4－8067)に通ず。〔爾雅、釋山、釋文〕岡、又作𡶶。

參考 罔(9－28211)は別字。〔康熙字典、辨似〕二字相似、岡、居郎切、山脊。罔、音妄上聲、誣也。

【岡引】1（ヲカッピキ） 德川時代に、與力・同心等の捕吏に隸屬する下役。をかひき。てさき。

【岡巖】2（カウガン） をかといはほ。〔傅玄、正都賦〕神嶽雙立、岡巖崟崟。

【岡曲】3（カウキョク） をかのくま。〔張協、雜詩〕結宇窮岡曲、耦耕幽藪陰。

【岡見】4（ヲカミ） ❶他人の所作を他から見てゐること。をかめ。❷古、十二月大晦日に簑笠を倒さに着て岡に登り、梢の上で自分の家を見て、明年の吉凶をトひ知ること。〔堀河太郎百首、冬〕ことだまのおぼつかなさに、をか見すと梢ながらに年を越すかな。

【岡縣】5（ヲカガタ） 筑前國の地名。

【岡原】6（カウゲン） をかとはら。〔唐書、裴度傳〕第據岡原、不召而來、其意可見。

【岡隒】7（カウゲン） をかとがけ。隒は崖。〔左思、魏都賦〕比岡隒而無陂、造文昌之廣殿、極棟宇之弘規。

【岡岵】8（カウコ） をかと草木多き山。〔左思、吳都賦〕嶰澗闐、岡岵童。〔注〕劉曰、爾雅曰、山多草木曰岵、岡、山脊也。

【岡山】9（カウザン） ❶山名。九岡山をいふ。〔左氏、昭、十一〕冬十一月、楚子滅蔡、用隱大子于岡山、申無宇曰、不祥、五牲不相爲用、況用諸侯乎、王必悔之。〔會箋〕岡山、輿地廣記云、荊州松滋縣有九岡山、郢都之望也、是也。❷字號。淵惟元の號。淵岡山(7－17692・・125)を見よ。

【岡舍】10（カウシャ） をかに在る家。〔惠崇、冬日野望行詩〕人歸岡舍迥、雁過渚田遙。

【岡岑】11（カウシン） をかとみね。〔左思、魏都賦〕與岡岑而永固。〔阮籍、詠懷詩〕松柏翳岡岑、飛鳥鳴相過。

【岡身】12（カウシン） 地名。江蘇省太倉縣の東。〔續圖經〕濱海之地、岡阜相屬、謂之岡身、天所以限滄溟而全吳人也。〔蘇州府志〕太倉以東有岡身五、曰上岡身・下岡身・歸吳岡身・青岡身・王家岡身、南屬松江之海、北抵大江之陰、其下皆沙磧螺蚌、地宜菽粟、又有彭岡門・潘岡門・曲岡門等、十三岡門。

【岡脊】13（カウセキ） 山のせ。〔詩、大雅、公劉、迺陟南岡、乃覯于京、疏〕乃又升彼南山岡脊之上、乃見其可居而爲都邑者於京之地也。〔朱熹、雲谷記〕南循岡脊下得橫徑。〔錢宰、長江霽雪圖詩〕峨峨岡脊來蜿蜒、青城一峯高插天。

【岡湯】14（ヲカユ） 湯屋で、入浴する湯の外に備へた清い湯。上り湯。陸湯。〔浮世風呂、初編、下〕立つて居て、をかゆをあびる。

【岡宅】15（カイヤケ） 姓氏。〔日用重寶記〕。

【岡持】16（ヲカモチ） 食物を入れて持ち運ぶ器。〔柳樽〕。

【岡兎】17（カウト） 岡に住む兎。〔韓琦、後園晏射詩〕山麋衝軼犯勁矢、岡兎奔逃迷狡穴。

【岡桐】18（カウドウ） 桐油をつくる桐。油桐。〔羣芳譜〕岡桐、早春先開淡紅花、實大而圓、可作桐油、一名油桐。

【岡阪】19（カウハン） をかのさか。〔後漢書、耿弇傳〕自引精兵上岡阪、乘高合戰。

【岡畔】20（カウハン） をかのほとり。〔後漢書、周燮傳〕有先人草廬結于岡畔。

【岡阜】21（カウフ） 小高いをか。阜は土山。〔夏侯湛、獵兎賦〕捜陵危險、覓歷岡阜。〔南史、齊高帝紀〕帝舊塋在武進彭山、岡阜相屬、數百里不絕。

【岡邊】22（ヲカベ） をかのほとり。〔萬葉集、十四〕みやしろのをかべに立てる顏が花。

【岡目】23（ヲカメ） 脇から見ること。傍觀。〔相模入道千疋犬、三〕。

【岡目八目】24（ヲカメハチモク） 圍碁で、對局者より、局外の傍觀者の方が、勝敗の大勢を八目ほどよく見越すといふ意。當事者より傍觀者の方がかへつてよく事の眞相を洞觀する意。〔碁盤太平記〕。

【岡巒】25（カウラン） をか。小山。〔張衡、西京賦〕華嶽峨峨、岡巒參差。〔盧諶、贈崔溫詩〕平陸引長流、岡巒挺茂樹。

【岡陵】26（カウリョウ） をか。小さいをかと大きいをか。岡は低いをか、陵は大きいをか。小山。丘陵。〔詩、小雅、天保〕如山如阜、如岡如陵。〔蘇轍、詩〕須臾立旆布行伍、有似脩蟒橫岡陵。〔蘇轍、黃州快哉亭記〕岡陵起伏、草木行列。

【岡嶺】27（カウレイ） をかとみね。〔張說、遊龍山靜勝寺詩〕鬱茀吐岡嶺、微蒙在烟霧。〔蘇軾、放鶴亭記〕彭城之山、岡嶺四合、隱然如大環。

【岡齡】28（カウレイ） 清、王廷魁(7－20823・・1936)の字。

【岡路】29（カウロ） をかの道。〔沈佺期、入鬼門關詩〕夕宿含沙裏、晨行岡路間。

【岡隴】30（カウロウ） をか。〔李白、宿鰕湖詩〕明晨大樓去、岡隴多屈伏。

【岡麓】31（カウロク） をかとふもと。又、岡の麓。〔唐書、禮樂志四〕西向有岡麓之閔、則隨地之宜。

【岡子蘭】32（カウシラン） ❶片岡芸亭、通稱淀屋重右衞門をいふ。片岡芸亭(7－19813・・125)を見よ。❷岡穆齋(41)をいふ。

【岡稚川】33（ヲカチセン） 紀伊の人。名は充。字は石介。號は稚川・玉藻。歿年は未詳。著に耕餘錄・學辨國字・玉藻詩集・玉藻詩集後編・尊孟餘辨・大學雜解・道言・稚川獨語・程傳易證・孟議がある。〔近代著述目錄後篇〕。

【岡長洲】34（ヲカチャウシウ） 讚岐の人。名は長祐。字は子申。號は長洲・來青軒。林家に學ぶ。官は高松藩儒。歿年は未詳。著に來青軒詩稿がある。〔國書解題〕。

【岡場所】35（ヲカバショ） 德川時代、江戸市中で官許の吉

原以外に、私娼の居た所。〔浪花襍誌街廼噂、二〕江戸でいふ岡場所。

【岡底斯】36 kang^1 ti^3 ssu^1 ㊀山名。ガンジス山。西藏阿里境內。拉達克城の東北。崑崙山脈の喀喇崑崙とヒマラヤ山脈と合する所で、峯巒高くそびえ、積雪懸崖の狀を爲し、世界に有名な分水嶺をなす。㊁川の名。ガンジス河。源をヒマラヤ山脈に發し、東南流してベンガル灣に入る。世界に著名なる大河。Ganges の音譯。

【岡頭盧】37 カウトウロ 唐代の種族の名。岡頭の盧氏。〔國史補〕四姓唯鄭氏不レ離二榮陽一、有二岡頭盧・澤底李・土門崔一、家爲二鼎甲一、太原王氏四姓得レ之爲レ美、故呼爲二鈒鏤王家一、喻二銀質而金飾一也。〔合璧事類〕張說好求二山東婚姻一、與二張氏親者一皆爲二門甲四姓一、鄭氏不レ離二榮陽一岡頭盧・澤底李・土門崔、皆爲二顯族一。

【岡白駒】38 ヲカハクク 播磨の人。名は白駒。字は千里・太仲。號は龍洲。通稱は彌太郎。官は肥前、蓮池藩儒。經學は古注疏を主とす。明和四年十一月八日歿す、年七十六。著に開口新語・孔子家語補注・皇朝儒臣傳・明律譯注・左傳觿・箋注蒙求・雜纂譯解・周易解・書經二典解・詩經毛傳補義・荀子觿、史記觿・助字譯通・世說海潮音・政字說・小說粹言・小說精言・小說奇言・世說觿・本與錄・孟子解・烈婦匕首がある。〔先哲叢談、正、七〕・〔近代著述目錄後篇〕。

【岡白洲】39 ヲカハクシウ 河內の人。名は元鳳。字は公翼。通稱は慈庵・尚達・元達。號は白洲・魯庵・澹齋・隔九所。菅甘白の門人。大阪に住み醫を業とす。本草に精通し、又、詩文に巧。天明六年十二月十八日歿す、年五十。著に香橙窩集・刀圭餘錄・鞭草筆記・毛詩品物圖考・蘭說海生圖品・離騷名物考がある。〔近代著述目錄後篇〕・〔國書解題〕。

【岡鳳鳴】40 ヲカホウメイ 京都の人。名は懋德。字は肅夫。號は鳳鳴。天明元年八月十一日歿す。著に黃谷論書・古語字樣・五柳先生傳・詩學解環・續詩學解環・詩學折臂・詩林姓名略譜箋・大人賦・和漢尺牘解・續和漢尺牘解がある。〔近代著述目錄後篇〕。

【岡穆齋】41 ヲカボクサイ 攝津の人。名は正英。字は子蘭。號は穆齋。梁田蛻巖の門人。官は淀藩儒。書に巧。著に子蘭文集がある。〔慶長以來諸家著述目錄〕。

【岡鹿門】42 ヲカロクモン 仙臺の人。名は千仞。字は振衣。號は鹿門。通稱は啓輔。初の名は棣、又、修といひ、初の字は子文、又、天爵と曰ふ。養賢堂・昌平黌に學ぶ。官は仙臺養賢堂教授・大學助教・東京府學教授・修史館協修・東京圖書館長。又、私塾綏猷堂を開き教授す。經學は程朱を宗とす。和漢の史に博通し、又、文章に巧。從五位。大正二年二月十八日歿す、年八十一。著に鹽松勝概・觀光紀游・觀光紀游補遺・硯癖齋詩鈔・藏名山房雜著（熱海游記・禺于日錄・使會津記・涉史偶筆・涉史續筆・東旋詩記・北游詩草）・藏名山房文集・仙臺史料・尊攘紀事・尊攘紀事補遺があり、譯述に、法蘭西志・米利堅志・納耳遜傳・游乘抄本・鉛筆剳記・在臆話記・英國志・俄國志・聖武紀事がある。

【岡崎鵠亭】43 ヲカザキコクテイ 京都の人。名は元軌。字は伯則。通稱は彥五郎。號は鵠亭・槲亭。天保三年十二月十一日歿す、年六十七。著に槲亭文集・鵠亭詩集・十七史蒙求、校刊・續詩語碎錦・中夏俗語藪・日本名家詩礎がある。〔近代著述目錄後篇〕・〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕。

【岡崎廬門】44 ヲカザキロモン 京都の人。名は信好。字は師古。通稱は平太郎。號は廬門・彭齋。龍草廬を師とし、詩に巧。天明七年三月二十六日歿す、年五十四。著に醫祖神廟碑・異體詩選・韻譜九流緒論・句題詩選・古今讚彙・古今銘彙・詩韻含英・詩學字苑・詩學道標・史漢紀要・詩鏡・詩苑摘芳・詩工推鑿・字畫正誤・詩語叢・史籍論叢・詩書語叢・詩林碎玉・春秋紀要・勝地詩帖・諸子要覽・諸子小志・小學紺珠・尺牘道標・節序戰國紀要・題畫詩選・唐詩詠物選・唐詩聯材・唐詩熟字格・唐詩貫珠選・唐明詩格（五言）・唐明詩格（七言）・斷錦・儲光義詩集、投壺錄・日本詩礎・彭齋雜錄・彭齋遺稿・扶桑鐘銘集・扶桑碑銘集・文法捷覽・平安風雅・本朝律詩選・本朝絕句選・名詩類選・明朝樂譜・李頎詩集、兩韻便鑒・龍詩類選・連字解・麗澤詩集・廬門詩集初編（伊藤宜卓編）・廬門文集がある。〔近代名家著述目錄〕・〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕。

【岡宮天皇】45 ヲカノミヤテンワウ 諡號。草壁皇子をいふ。天平寶字二年八月、追尊して、岡宮御宇天皇（オカノミヤニアメガシタシロシメシシスメラミコト）と諡した。

【岡松甕谷】46 ヲカマツヲウコク 豐後の人。名は辰。字は君盈。通稱は辰吾。號は甕谷。私諡は文靖先生。帆足愚亭を師とす。後、英蘭語を修む。官は東京大學教授・學士院會員。經學は折衷を宗とす。明治二十八年二月十八日歿す、年七十六。著に甕谷遺稿・窮理解環・初學文範・東瀛紀事本末・譯常山紀談・莊子考・楚辭考がある。〔閒亭遺文〕。

【岡井碧庵】47 ヲカヰヘキアン 江戶の人。名は泰。字は定叟。號は碧庵・東皐。林鳳岡を師とし、經學は程朱を宗とす。官は高松藩儒。元祿十一年七月二十五日歿す、年七十三。著に碧庵遺稿がある。〔慶長以來諸家著述目錄〕。

【岡島安齋】48 ヲカジマアンサイ 長崎の人。名は順。字は仲甫。號は安齋・慧日山人・竹塢館。岡島冠山の門人。官は萩藩儒。著に國語訂字・古尺牘・續古尺牘・增注大學・增注中庸・絕句解諺注・唐詩要解・唐詩選故事がある。〔近代名家著述目錄〕。

【岡島冠山】49 ヲカジマクワンザン 長崎の人。名は璞。字は玉成。通稱は援之・彌太夫・明敬。號は冠山。林鳳岡の門人。官は長崎譯官。後、塾を浪華・江戶・平安に開いて教授す。華音に精通し、始めて稗官學（小說のこと）を唱ふ。經學は宋學を主とするも、敢て墨守せず。享保十三年一月二日歿す、年五十五。著に華音唐詩選・康熙帝遺詔・三體詩唐音・四書唐音辨・尺牘辨解・字海便覽・指口・小說讀法・太平記演義・通俗元明軍談・通俗忠義水滸傳・通俗明清軍談・唐話纂要・唐譯便覽・唐音和解・唐音雅俗類語・唐語使用がある。〔先哲叢談、後、三〕・〔近代名家著述目錄〕・〔慶長以來諸家著述目錄〕。

【岡田鴨里】50 ヲカダアフリ 淡路の人。名は僑。號は鴨里。通稱は周輔。賴山陽の門人。歿年は未詳。著に日本外史補・名節錄がある。

【岡田鶴鳴】51 ヲカダカクメイ 河內の人。名は皐。字は士聞。通稱は本房・治右衞門。號は鶴鳴。寬政年間の人。海保皐鶴の門人。世々幕臣で、水野氏に仕へ、一宮の祠職を兼ねた。著に一宮神詞碑文・奧のあら海（室小磯氏著）・家訓・鶴鳴詩鈔・鶴鳴文鈔・雪曙がある。〔近代著述目錄後篇〕・〔大阪名家著述目錄〕。

【岡田寒泉】52 ヲカダカンセン 江戶の人。名は恕。初の名は前里。字は仁卿・中卿・子強。通稱は又次郎・式部・清助。號は寒泉・泰齋。村士玉水・井上金峨・村士淡齋に師事す。寬政三博士の一人。官は幕府儒官。後、常陸の代官。文化十三年八月九日歿す、年七十七。從四位を贈らる。著に幼學指要・幼學必讀・寒泉精舍遺稿・祭禮略義・三禮圖考・靜春窩記・靜春窩偶筆・葬禮略義・二禮儀略（村上玉水著）校刊・李退溪文抄がある。〔近代著述目錄後篇〕。

【岡田煌亭】53 ヲカダクワウテイ 上總の人。名は欽。字は秀三。通稱は彥助。號は煌亭・南嶺。經學は折衷を主とす。天保九年四月十日歿す、年四十七。著に韓非子考異・韓非子校本・九家論語說批評・皇清經解一斑・孔子家語考異・孔子家語定本・七經剳記・聖學私言・代奕漫鈔がある。〔近代著述目錄後篇〕。

【岡田劍西】54 ヲカダケンセイ 富山の人。名は正之。字は君格。號は劍西。小永井小舟・重野成齋に學び、後、東京帝國大學古典講習科漢書科卒業。官は學習院教授兼東京帝國大學教授・學習院名譽教授。從三位。文學博士。昭和二年七月二十八日歿す、年六十四。著に日本漢文學史がある。

【岡田新川】55 ヲカダシンセン 尾張の人。名は宜生。字は挺之。通稱は彥左衞門。號は新川・暢園・朝陽・甘谷・杉齋。松平君山の門人。官は名古屋藩儒・明倫堂教授・繼述館總裁。寬政十一年三月二十四日歿す、年六十三。著に孝經引證・康濟錄・下學廣集・甘谷志聞・畸人咏・晞髮偶詠・常語藪・新川集・先友詩抄・暢園咏物詩・暢園詩草・暢園祝壽詩・暢園節序詩・暢園題畫詩・暢園文草・暢園類雅・鄭注孝經・堂亭名・日下新咏・彼此合符・表海英華・物數稱謂・秉穗錄・秉穗錄二編・夢游

篇・文字竅・劉向列仙傳がある。〔近代名家著述目錄〕・〔續諸家人物誌〕。

【岡田南涯】56（ヲカダナンガイ） 大阪の人。名は邦彥。字は士髦。號は南涯。岩垣龍溪の門人。經學は古注疏を主とし、師の塾に教授す。天保七年七月二十四日歿す、年七十四。著に大學筆記・中庸筆記・南涯遺稿・餔糟集・論語折衷がある。〔慶長以來諸家著述目錄〕。

【岡田寧處】57（ヲカダネイショ） 阿波の人。名は豹。字は君章。通稱は文治・善二郎。號は寧處・墨樵。片山北海の門人。官は德島藩儒。經學は折衷を宗とす。文化七年歿す、年六十九。著に半閑遺稿・寧處小稿・墨樵筆記がある。〔近代著述目錄後篇〕。

【岡田阜谷】58（ヲカダフコク） 江戶の人。名は贇。字は子贇。通稱は權兵衞。號は阜谷。歿年は未詳。著に鄭玄注學庸校刊・道德經異同考・道德指歸論校刊・老子古今文考・王注老子補がある。〔近代著述目錄後篇〕。

【岡頭澤底】59（カウトウタクテイ） 唐代の顯族の名。岡頭の盧氏と澤底の李氏。〔元稹、去二杭州一詩〕駿骨鳳毛眞可レ歸、岡頭澤底何足レ論。

【岡布里治】60（ケンブリッヂ） 地名。劍橋とも書く。❶英國の州名。又、其の首邑。其の地にケンブリッヂ大學がある。❷米國の都會の名。其の地にハーバアス大學がある。Cambridge の音譯。

【岡部菊涯】61（ヲカベキクガイ） 秋田の人。名は英。字は晩香。通稱は新吾。號は菊涯。天保年間の人。江戶に住居す。著に歐北詩鈔・詹曝雜記・菊涯葛原詩話遺考・菊涯外集・淸詩新題（正・續）・隨手抄存・異稱日本外史補遺がある。〔近代著述目錄後篇〕。

【岡部四溟】62（ヲカベシメイ） 江戶の人。名は世懋・素觀。字は公修。通稱は平八郎。號は四溟。僧耆山・井上金峨に師事す。詩文に巧。後、僧となる。寬政中に歿す、年五十六。著に四溟陳人詩集がある。〔慶長以來諸家著述目錄〕。

【岡部拙齋】63（ヲカベセッサイ） 播磨の人。名は玄又。號は拙齋・雪齋。菅得庵の門人。官は高松藩儒。明曆元年歿す、年六十三。著に拙齋醫學發明記・拙齋雜記・拙齋詩集・播磨巡記がある。〔近代著述目錄後篇〕。

【岡本韋庵】64（ヲカモトヰアン） 阿波の人。幼名は文平、後、監輔。號は韋庵。岩本贅庵の門人。官は外務省御用掛・臺灣總督府國語學校教授・神田中學校長。從五位。明治三十六年十一月九日歿す、年六十六。著に北蝦夷新志・窮北日誌・北門急務・萬國史記・古今文髓・岡本子・日本維新人物誌がある。〔岡本韋庵略傳〕。

【岡本況齋】65（ヲカモトキャウサイ） 本姓は若林。名は保孝。通稱は縫殿助・勘右衞門。號は況齋・廱志天乃屋・拙誠堂・歲計草堂・戒得居士。淸水濱臣・狩谷棭齋に師事す。江戶本鄉壹岐殿坂に住居す。官は明治の初、昌平大學の中博士。後、編輯寮にあつて語彙編輯の事に參與す。明治十一年四月五日歿す、年八十二。著書は甚だ多く、國典百五十種、漢籍二百種、佛書五十種、其の他脫稿しないもの百種がある。著に安國論攷・晏子春秋音義補正、付校僞・晏子春秋考・又讀彙刻書目・異稱日本傳引用書目・醫談・逸周書攷文・淮南子音讀出典考・淮南子疏證、附補遺・歌カタリ・歌ノイヒカケ・打聽・宇治拾遺物語攷・空穗物語校注・有無カカハラヌ・英雄記出典攷・易林考・慧苑音義藏氏本跋尾四條・慧林音義目錄・落久保物語攷・落久保物語系譜・オノノ意・大鏡攷・音韻考・戒壇・開目抄考・孝經注疏考・學海堂經解目次・賈子考本・假字用法・甲冑着用次第・カ文字ノツカヒザマ・漢公主・韓詩外傳考・韓詩外傳考校異・漢書注引用書目・漢書攷文・漢書筆記・漢書律歷志國字解・韓非子疏證・韓非子疏證補遺・記纂淵海顚末考・僞書妄作之姓氏・僞書目錄・起頭聲類・況齋藏書目錄（本邦二・西土三・釋氏一）・況齋雜話・況齋隨筆（＊印は況齋叢書と重複）「考槃餘事筆記・況齋出典・句双紙摘錄・＊皇國名醫傳・廣雜纂・觀稼雜錄・雜纂新續・＊十訓抄典故攷・＊鐘馗・＊隨函攷・隨筆・＊姓序捷見・＊石敢當・頭字類考・取替ばや物語考・難波江目次・＊傍廁糾繆・蛭飼考・佛語雜考・＊物產聲類・＊每條千金・名聲類考・和漢詩文隨手錄」・況齋叢書、百六十種（況齋隨筆と重複するものを省く）「秋の夜長物語釋文・晏子俗本刪略十二章・有字爲在之義說質疑・逸周書攷・逸姓氏・一樏手半攷・今樣・韻鏡攷・永久四年百首考・榮花物語抄附錄・影抄史記索隱校訂凡例・謠曲校本・易音攷・江戶地名攷・大鏡系譜・音韻答問錄・孝行錄校本・高士傳考・賈子新書攷文・鴨長明發心集攷・歌林雜木抄增補・漢魏叢書緣起・漢吳音圖補正・顏氏家訓攷・漢書百官表攷・九服攷・況齋記・況齋雜記・況齋雜話・況齋書目・況齋著述年譜・琴操考・黃庭經攷證・皇統世數異同表・皇統譜、附武家譜・活版考・經義述聞同異攷・經濟・經濟附錄・經籍攷・經典文字辨書敍文攷證・月淸集攷・券三紙・源氏物語攷・古佚窺斑標目・後漢帝王及皇后譜・古音攷・古言梯補遺・古今文字・古今和歌六帖類句・古事談攷證・後拾遺集存疑・金葉集存疑・詞花集存疑・千載集存疑・五種加良・詞乃玉の緒攷・古文眞寶顚末考・古文兩可・今昔物語出典攷・雜纂六種存疑・冊府元龜顚末考・三代實錄攷文・四夷考・州名急就章押韻攷・字說雜錄・七部集打聞・四譜攷（神樂・東遊・風俗・催馬樂）・十八史略答問・詩文集（亡男信遺稿）・淨土三部經注脚書目・釋氏聲類・繹茶・春秋會盟模索捷徑・春秋繁露攷文・稱謂攷・稱號攷・諸子瓊林顚末攷・書目備考・人號捷見、諸號附・神仙傳考・新撰六帖考・人名相對攷・神名分音、式內・吹毛・數雅・髓腦聲標目・隨筆・西漢外戚略譜・世諺問答集釋・姓氏攷・姓氏急就篇押韻攷・姓名錄抄、校訂・小學家古今人名聲類・小學雜錄・說郛正續顚末考・施藥悲田兩院攷・搜神記攷、搜神後記攷附・宋百家姓押韻攷・明千家姓押韻攷・淸百家姓押韻攷・續漢志攷文・續漢書百官志攷・蝸頭香爐攷・長秋詠藻備攷・追薦攷・通鑑考、綱目・通鑑補附・程朱新釋攷・轉音攷附存疑・轉注說質疑・豆腐・讀水滸傳・取替ばや物語年立系譜・なるをの松、附、なこり・博士讀考證・駁全齋讀例・撥韻假字攷存疑・濱松中納言物語系譜・百首要解（定家百人一首）・百納二十四子全書緣起・父子問答・物品名數・補注蒙求校本・堀河百首校注・本草沿革攷・本草和名考異・翻譯書考・磨光韻鏡攷・枕草紙存疑・增鏡攷・三井寺考・明季淸初事跡攷・無恙攷、附、草つつみ・めりの考・蒙求押韻攷・文字般若・藥師寺攷・用の假字・輿地攷證・朗詠考・龍威祕書所收解題・靈語通砭鍼・歷代略譜・六書雜攷・和語延約自他考・和語省約例・況齋讀書志（論語）・虛字重語套、並補・今世說存疑・公羊傳考・廣韻反切・冠位叢話・冠辭考存疑・管子纂注莛撞・羣書糾繆・桂園一枝糾繆・經義考引用書目・經籍雜考・經籍目錄・玄應音義目錄・源氏物語存疑・現存諸侯略譜・現存類聚國史目次・古佚窺班引用書目・後漢公主・後漢書攷文・後漢書筆記・後漢書劉李家引用書目・國郡鄉名攷・國語考・國策遺考・穀梁注疏考・穀梁注疏考附錄・古今字樣・古今等類歌・古今等類歌補遺・語釋考、補附・古書中假字タカヒノ歌・古書類考・御當家初例考・古讀考・言靈・詞ノ古格・詞八衢補正・詞ハフク・御本日記附注摘錄・語例・今昔物語攷・濟急方摘錄・西京雜記考・西行定家例ニナリカヌル・西行物語攷・作文祕訣・歲計堂詩話・狹衣物語校注・左氏語例・左氏傳考・左氏注疏考・雜攷・山家集攷・三國志攷文・三國志注引用書目・三種考（音便・發語・濁語）・三代實錄攷文補遺・三寶感應錄考・周易注疏考・周易注疏考附錄・周尺攷辨・袖中抄目次捷見・字音假字用格存疑・謚號考・シキク・史記（集解索隱正義）引用書目・子華子考・四書全書總目異同一斑・四庫未收書目錄・四十四音論辨誤（東條一堂四十四音論、保孝辨誤）・寺社考・四書集注鼇頭引用書目・自他ニアツカラヌ延約・十訓抄攷・拾芥抄引用書目・事物權輿・十八史略校異、附、十九史略校異・尙書注書考・常談・釋迦譜攷、附、引用書目・釋迦譜逐條出典攷・釋氏要覽引用書目・謝啓昆小學攷目次・沙石集攷・荀子考、附、補・荀子考續補遺・證類本草引用書目佚存攷・續日本紀攷文・續日本紀攷文補遺・續日本後紀攷文・續日本後紀攷文補遺・書籍目錄・諸大名居城及在所・書譜書目（長崎・朝鮮・蝦夷）・申鑒考・晉公主・晉志郡縣聲類・晉史乘楚史檮杌出典攷・新書考・新書攷文・晉書攷文・淸人小傳・親族稱謂攷・親族譜、並補・新唐書攷文・人名考（本邦・西土・釋氏）・崇文總目存疑・水滸傳考・髓腦聲類・數雅補・說苑談叢

定本・說苑考・正續三綱行實顚末考・世說注引用書目・正續博物志考・蕭蘭竝擷・少微通鑑攷異・拙誠堂叢書目錄・拙誠堂叢書中各書補遺・說文解字段注考・說文新附字攷證・說郛目次・旋頭歌不一樣・前漢郡縣聲類・戰國攷異・戰國策集注・戰國策集注後付・戰國策章次・撰定書目・續異稱日本傳・續漢郡國志攷・續齊諧記考・續純正蒙求・孫馮翼集本桓譚新論補遺・諦觀四教儀略解・太歲・第二義・泰平年表攷出・唐宰相世表捷見・唐州府廢置考・唐諸公主捷見・唐宋叢書顚末考・斷前歇後攷・段注幾部誤脫考・段注補正隨見錄・地有四遊・地震說・重言重句・張伯顏文選考・茶事打聽・徐幹中論考・直横通音・通藝錄目次考・通鑑節要續編攷異・通鑑胡注引用書目・ツツク詞ヨリトトウクル・ツルヌル、附、サキ・徒然草攷・提要存疑・彫蟲錐鑿・天經雜話・天主教・轉注說（澁江道純附記・岡本保孝增記）・同意ノ詞アル・同詞・洞溟記考・讀愛日樓藏書志・讀羣書類從・讀家語・讀蔡氏月令・讀三事忠告・讀書階梯・讀初學課業次第・讀書志・讀書漫錄（大學・中庸・論語・孟子・孔子家語）・讀容齋隨筆・俊賴口傳集攷・俊賴口傳集目次捷見・難波江・難波江補遺・難波江（八卷以下、未定稿）・ニハノ意・日本紀通證引用書目・日本紀通證引用書目補遺・日本書紀攷文・日本書紀攷文補遺・日蓮宗必讀書目・ノニノ意・稗海顚末考・佩文韻府目次・白氏諷考論・ハコヤノヒメコト出典・發字攷・花ノ名タテ・物產捷見・物產聲類目次・文ノイヒカケ・文法・文ト歌ト詞カハル・分野譜・平家物語考・平治物語考・辨駁雜陳・法華經傳來攷證・法眞寺觀音緣起・法念上人敕修御傳・墨子考・梵語聲類・梵語聲類補・本草綱目目次・本草纂聞・本朝文粹校本・翻譯名義抄引用書目・蒙求和歌目次・孟子劄記、並補遺・マシテノ屋ノ集・松風・萬葉集略解札記・妙法蓮華經考・珉玉雜陳・名山藏目次・文字正俗辨、附、說文舊音補・文句考・文德實錄攷文・文德實錄攷文補遺・譯經圖記攷異・與㆓石場氏㆒書・與㆓日尾邦子㆒文・世繼物語攷・律呂上生下生・李唐郡縣聲類・呂氏春秋考・類句・靈異記出典攷・詅癡符・詅癡符補遺・詅癡符續補遺・詅癡符又續・詅癡符（未定稿、卷二十一以下）・歷書大餘小餘・歷代書目類聚（本邦・西土・釋氏）・歷代通覽・歷代避諱攷・烈女傳考・簾中抄出典攷・六種攷（シキク・和語省約例・假字用法・和語延約自他・自他ニアツカラヌ延約・直横通音）・六帖類句・論語注疏考・王充論衡考・往生要集引用書目・和漢時令・倭字考・和名抄聲韻がある。〔拙誠堂叢書目錄〕・〔況齋叢書〕・〔況齋隨筆〕。

【岡本黃石】66（ヲカモトクワウセキ） 近江の人。宇津木久純の第四子。岡本織部佑業常の養子。名は宣迪。字は吉甫。通稱は半助・黃石。號も黃石。梁川星巖・大窪天民・菊地五山・賴山陽・安積艮齋に師事す。官は彥根藩の老職。詩に巧。明治三十一年四月二十日歿す、年八十八。著に黃石遺稿・黃石齋詩集・東瀛詩選がある。

【岡本天岳】67（ヲカモトテンガク） 備前の人。名は巍。字は士坦。號は天岳。山田方谷を師とす。官は郡長・岡山藩主池田公の歷史編纂係・閑谷學校々長。又、家庭で教授す。經學は陽明學を專攻す。著に自得錄がある。

【岡野石城】68（ヲカノセキジヤウ） 信濃の人。名は元韶。字は叔儀。通稱は內藏。號は石城。菊地南陽の門人。荻生徂徠の學を奉ず。官は松代藩儒。文政十三年九月二十九日歿す、年八十六。著に經濟管蠡・孔子家語纂說・左傳摘解・詩經纂說・尙書纂說・春秋左傳考・翠香館漫筆・石城詩文集・世說集解・禮記纂說・論語徵補義がある。〔慶長以來諸家著述目錄〕。

【岡㝗之野】69（カウラウノヤ） ひろびろとして淋しい原野。㝗は淋しく空虛のさま。〔淮南子、道應訓〕南游㆓乎岡㝗之野㆒、北息㆓乎沈墨之鄕㆒、西窮㆓窅冥之黨㆒、東開㆓鴻濛之先㆒、此其下無㆑地、而上無㆑天、聽㆓焉無聞㆒、視㆓焉無矚㆒。

【⿰山包】7963 ハウ ヘウ 〔集韻〕班交切 肴

山名。〔集韻〕⿰山包、山名。

【⿰山叵】7964 ハ 坡（**3**－**4966**）に同じ。〔集韻〕坡、或作㆑⿰山叵。

【⿱山叵】7965 ハ 〔字彙〕普火切 哿

山のさま。〔字彙〕⿱山叵、⿱山叵峩、山貌。

【⿱必山】7966 ミツ 密（**3**－**7205**）に同じ。〔玉篇〕⿱必山、同㆑密。

【⿰山史】7967 シ 〔玉篇〕疎士切 紙

山。〔玉篇〕⿰山史、山也。

【岢】7968 カ 〔集韻〕口我切 哿 ㄎㄜˇ kʻê³

山名。岢嵐の❶を見よ。〔集韻〕岢、岢嵐、山名。

【岢嵐】1（カラン） ❶山名。今の山西省岢嵐縣の北。東北は管涔山脈に接し、西南は呂梁山脈に連なる。〔括地志〕山近㆓太原㆒、有㆓渥洼池㆒、出㆓良馬㆒。〔讀史方輿紀要、山西、太原府、岢嵐州〕岢嵐山、州北百里、高二千餘丈、長百餘里、與㆓雪山㆒相接。❷川の名。山西省岢嵐縣の南。源は縣の東南の乏馬嶺。西北流して黃河に入る。一名、嵐漪河。❸縣名。㋑後魏、岢嵐縣を置き、隋、省く。㋺漢代の汾陽縣の地。故城は山西省嵐縣の北。隋は岢嵐鎭を置き、宋は岢嵐軍を置き、尋いで縣に改む。今の山西省五寨縣の西南。〔讀史方輿紀要、山西、太原府、岢嵐州〕嵐谷廢縣、今州治、漢汾陽縣地也、後漢以後、其地大抵荒廢、後魏末爲㆓嵐州地㆒、隋爲㆓靜樂縣地㆒、又置㆓岢嵐鎭於此㆒、唐爲㆓岢嵐軍㆒云云、宋仍置㆓軍於此㆒、金爲㆓州治㆒、元州縣俱廢、明初復置㆓岢嵐縣㆒、尋升爲㆑州。

【⿰山可】7969 カ 岢（**4**－**7968**）に同じ。〔正字通〕⿰山可、同㆑岢。

【岣】7970

㊀コウ ク 〔集韻〕擧后切 有 ㄍㄡˇ kou³
㊁コウ ク 〔集韻〕居候切 宥
㊂コウ ク 〔集韻〕居侯切 尤
㊃ク 〔集韻〕恭于切 虞
㊄ク 〔集韻〕果羽切 麌

㊀❶**山のいただき。**〔集韻〕岣、岣嶁、山巓。❷**衡山の主峯の名。**岣嶁の❶を見よ。㊁**山ひだ。**〔集韻〕岣、博雅、嶁也。㊂㊃㊄**衡山の主峯の名。**㊀の❷に同じ。〔集韻〕岣、博雅、岣嶁、謂㆓之衡山㆒。

【岣嶁】1（コウロウ） ❶山のいただき。嶁も山頂。〔集韻〕岣、岣嶁、山巓。❷山名。湖南省衡山縣の北、衡山の主峯。又、衡山をいふ。禹王の廟を安置す。〔集韻〕岣、一曰、岣嶁、衡山名。〔十道山川攷〕郭璞曰、衡山、別名㆓岣嶁㆒。〔淸一統志〕湖南岣嶁峯、在㆓衡陽縣北五十二里㆒、頂有㆓雷池㆒、縣志、岣嶁峯、衡山主峯、故衡山亦稱㆓岣嶁㆒。〔讀史方輿紀要、湖廣、衡州府、衡陽縣〕岣嶁峯、府北五十二里、衡山主峯也、故衡山亦兼㆓岣嶁之名㆒、湘水記、衡山南有㆓岣嶁峯㆒、東西七十里、南北三十里、高千五百丈、相傳、禹得㆓金簡玉書于此㆒、道書所謂岣嶁洞天也、其北麓去㆓衡山縣㆒、亦五十里。❸明、歐陽璲（**6**－**16185**・・76）の字。

【岣嶁碑】2（コウロウヒ） 碑の名。夏の禹王が治水の時、其の功を岣嶁の山壁に刻したといふ碑。石刻の最古のものといふ。衡山縣雲密峯にあって、今凡そ七十七字を存す。近人は明の楊愼の僞造と疑ふ。禹碑ともいふ。〔韓愈、岣嶁山詩〕岣嶁山尖神禹碑、字靑石赤形摹奇。〔方翥、石鼓詩〕蟲文鳥篆不㆑可㆑識、如㆑讀㆓岣嶁神禹碑㆒。〔郝經、太平頂讀㆓秦碑㆒詩〕昔年韓文公、曾賦岣嶁詩。〔金石索、石索一、夏禹王岣嶁碑〕碑在㆓衡山岣嶁峯㆒、今已無㆑之、從㆓楊升菴摹釋作縮本㆒、承帝曰次（一作㆑嗟）、翼輔佐（一作㆑擇）卿、洲渚與登、鳥獸之門、參身洪流、而明發爾興、久旅忘家、宿岳麓庭、智營形析、心罔弗辰、往求平宅、華嶽泰

衡、宗疏事哀、勞餘伸禋、鬱塞昏徙、南瀆衍亨、衣制食備、萬國其寧、竄舞永奔。

〔峋嶁先生〕3（コウロウ センセイ） 清、曠敏本（**5－14245··10**）の尊稱。

【岓】7971 ハン ホン 〔集韻〕孚梵切 陷

山名。〔集韻〕岓、山名。

【⿱山矢】7972 ゾク

族（**5－13661**）の古字。〔玉篇〕⿱山矢、古文族。

【岤】7973 ケツ ケチ 〔正字通〕呼決切 屑

❶**山中のほら穴**。〔正字通〕岤、山穴也。❷穴（**8－25406**）に通ず。〔楚辭、淮南小山王、招隱士〕憭兮慄㆓虎豹穴㆒、集注〕穴、一作㆑岤。

【岰】7974 カウ ゴウ 〔集韻〕下老切 皓

山名。〔集韻〕岰、山名。

【岥】7975 ハ 〔集韻〕逋禾切 歌

❶**くづれるさま**。〔潘岳、西征賦〕裁㆓岥岮㆒以隱嶙。〔注〕善曰、岥岮、頽皃也。❷**平でないさま**。**ななめ**。陂（**11－41603**）に同じ。〔集韻〕陂、博雅、陂陀、衺也、一曰、山陂、或作㆑岥。❸**さか**。坡（**3－4966**）に同じ。〔集韻〕坡、說文、阪也、或作㆑岥。

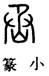
【岮】7976 ダ

陁（**11－41601**）に同じ。〔正字通〕岮、同㆑陁。

【岦】7977 リフ 〔集韻〕力入切 緝

山のさま。〔集韻〕岦、岦岌、山皃。

【⿱丞山】7978 ショウ ジョウ 〔集韻〕辰陵切 蒸


小篆

たすける。丞（**1－40**）に同じ。〔說文〕⿱丞山、翊也、从㆑廾从㆑卪从㆑山、山高奉承之義。〔段注〕翊、當㆑作㆑翼。〔集韻〕⿱丞山、隸省。

【⿰山尻】7979 キク 〔字彙〕居六切 屋

おくふかい。〔字彙〕⿰山尻、⿰山尻⿰王毛、猶㆓閫奧㆒、〔黄香九宮賦〕廓⿰山尻⿰王毛以閌閬。

【⿰山戉】7980 ケツ クワチ 〔集韻〕許月切 月

❶**山**。〔玉篇〕⿰山戉、山也。❷**山のさま**。〔集韻〕⿰山戉、山皃。

【岧】7981 テウ デウ 〔集韻〕田聊切 蕭 ㄊㄧㄠˊ t'iao^2

❶**山の高いさま**。〔集韻〕岧、岧嶤、山高皃。❷或は岹（**4－7982**）に作る。〔集韻〕岧、或書作㆑岹。❸迢（**11－38781**）に通ず。〔張衡、西京賦〕狀亭亭以岧岧。〔注〕善本作㆓岧岧㆒、綜曰、亭亭・岧岧、高皃也。

名乘 タカ。

【岧嶤】1（テウ ゲウ） 山の高いさま。岹嶤。〔曹植、九愁賦〕踐㆓蹊徑之危阻㆒、登㆓岧嶤之高岑㆒。〔何晏、景福殿賦〕岧嶤岑立、崔嵬巒居。〔注〕良曰、岧嶤・崔嵬、危高貌。〔張巡、聞㆑笛詩〕岧嶤試㆓一臨㆒、虜騎附㆓城陰㆒。〔白居易、月夜登㆑閣避㆑暑詩〕行行都門外、佛閣正岧嶤。

【岧嵽】2（テウ テイ） 遠いさま。〔王延壽、魯靈光殿賦〕浮柱岧嵽以星懸。〔注〕翰曰、岧嵽、遠也。

【岧岧】3（テウ テウ） 山の高いさま。〔張衡、西京賦〕于㆓雲霧㆒而上達、狀亭亭以岧岧。〔注〕五臣作㆓迢迢㆒、綜曰、亭亭・迢迢、高貌。

【岹】7982 テウ

岧（**4－7981**）に同じ。〔集韻〕岧、或書作㆑岹。

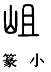
【⿱山亾】7983 サウ

倉（**1－756**）の古字。〔玉篇〕⿱山亾、古文倉。

【岨】7984

［一］ショ 〔集韻〕千餘切 魚 ㄐㄩ chü

［二］ショ ソ 〔集韻〕壯所切 語


小篆

［一］❶**いただきに土をかぶった石山**。〔說文〕岨、石戴㆑土也、从㆑山且聲、詩曰、陟㆓彼岨㆒矣。❷**そばだつ**。**さかしい**。〔曹植、九愁賦〕踐㆓蹊隧之危岨㆒。❸或は砠（**8－24084**）・確（**8－24410**）に作る。〔集韻〕或作㆓砠・確㆒。❹通じて阻（**11－41593**）に作る。〔正字通〕阻、又通作㆑岨、高唐賦、巫山之陽、高丘之岨。［二］**けはしい**。山のさま。又、安らかでないさま。岨峿（2）を見よ。阻（**11－41593**）に同じ。〔集韻〕阻、說文、險也、或从㆑山。

【岨隘】1（ソアイ シヨアイ） けはしくせまい。又、そのところ。阻隘。〔國史略、正親町天皇〕盛政戰且走、至㆓嶽北㆒、據㆓岨隘㆒。

【岨峿】2（ソギヨ シヨギヨ） ❶山のさま。〔集韻〕岨、岨峿、山形。❷安らかでないさま。鉏鋙。〔陸機、文賦〕或岨峿而不㆑安。〔注〕善曰、岨峿、不㆑安貌。

【岨嶮】3（ソケン シヨケン） けはしい。阻險。〔鬼谷子、飛箝〕制㆓地形之廣狹、岨嶮之難易㆒。

【岨谷】4（ソバ ダニ） 備中國の地名。

【岨峻】5（ソシユン シヨシユン） けはしく高い。〔沈約、尚書右僕射范雲墓誌銘〕北京岨峻、東川廻薄。

【岩】7985 ガン

嵒（**4－8294**）・巖（**4－8649**）の俗字。〔正字通〕岩、俗嵒字、巖、俗省作㆑岩。

名乘 イハ。タカ。

參考 字解は巖（**4－8649**）を併せ見よ。

【岩雲】1（イハ グモ） 夏の雲。入道雲。岩石の屹立した形に似てゐるからいふ。

【岩越】2（イハ コス） 琴柱の先の絲をのせる所。〔十訓抄、上〕琴ぢのさきに緒のあたる所をばいはこすと申す。

【岩燕】3（イハ ツバメ） 深山の瀧のほとりを飛び交ふ鳥。燕に似て稍〻小。壁燕の一種。

【岩鹽】4（ガン エン） 地中から產出するしほ。海鹽と區別していふ。中國では、四川省に最も多く產する。石鹽。山鹽。

【岩屋】5（イハ ヤ） ❶岩を穿つて造つた居所。石室。〔日本書紀、神代紀上〕天石窟。❷岩の間の天然の洞穴。〔宇治拾遺物語、十二〕虎、云云、岩やの口に、伏せり。

【岩魚】6（イハ ナ） 谷川の岩穴に棲む魚。鮎に似て食用に適し、味は淡泊である。

【岩窟】7（ガン クツ） いはや。岩屋。巖窟。

【岩郡】8（イハ クリ） 姓氏。〔和爾雅〕。

【岩頸】9（ガン ケイ） 熔岩流の作用によつて成つた圓錐形の丘。

【岩戸】10（イハ ト） ❶岩屋の戶。〔日本書紀、神代紀上〕閉㆓磐戶㆒而幽居焉。❷天の岩戶の略。

【岩戸神樂】11（イハト カグラ） ❶天照大神が岩戶に隱れ給うた時、神々の奏した舞樂。❷芝居のはやし

の一種。太鼓・締鼓・笛入の神樂拍子。〔劇場新話、岩戶神樂、笛、太鼓〕。

【岩根】12 岩のねもと。又、岩のこと。いはほ。磐根。〔日本書紀、神代紀下〕葦原中國者、磐根・木株・草葉、猶能言語。

【岩座】13 岩のやうに堅固な座。神のおはします所をほめていふ語。磐座。〔祝詞式〕。

【岩室】14 高山で登山者の宿泊や休憩にあてるために設けられた小屋。風に吹き飛ばされぬやう、四壁も屋根も悉く石を積んで作る。

【岩床】15 ❶岩の平な所。石床。〔萬葉集、一〕磐床と川の氷こごり。❷人を葬つた所。墓所。石床。〔萬葉集、十三〕石床のねはへるかど。

【岩乘】16 ❶馬が特にすぐれて強健なこと。巖乘。〔齊東俗談、凡言都上、丈夫〕馬ノ強健ナルヲ岩乘ト云フハ、惡所岩石モ乘ルニ堪ヘタル義也、俗、カリ用テ物ノ健ナルヲ皆岩乘ト云フ。❷丈夫。堅固。❸達者。壯健。〔合類節用集、八、言辭門〕岩疊、又作二岩乘一、本朝俗語、勇健之義。

【岩茸】17 菌の一種。深山の巖石に生じ、形はくらげに似て、圓く薄い。

【岩井】18 ❶岩の間から湧出る井戶。石井。〔萬葉集、七〕掘りし井の、石井の水。❷石などを疊んで造つた井戶。

【岩石】19 地球の外殼を構成する金石土砂の總稱。いは。いし。〔運步色葉集〕岩石。

〔岩石學〕20 地質學の一分科。地殼の各種を構成する岩石の性質・產狀及び相互關係を研究する學。

〔岩石硯〕21 端溪から出る上等な硯の名。〔海錄碎事、文學、硯〕端溪所レ出有二四、岩石爲レ甲、石屋次レ之、西坑次レ之、後歷爲レ劣、岩石又分二上下一焉。

〔岩石菖〕22 植物の名。谷間の岩石などに生じて、白花をつける。觀賞用として栽培する。花石菖ともいふ。

【岩占】23 古代の占の一種。石の數、又は、其の輕重等により、吉凶を卜ふ。石占。

【岩船】24 神代に、神々の乘られたといふ堅牢な船。あめのいはふね。磐船。〔萬葉集、三〕天の探女が岩船。

【岩苔】25 ❶いはひばの異名。〔本草和名、上〕卷柏、伊波久美、伊波古介。❷いはたけの異名。

【岩臺】26 熔岩流が平な地上を流れて臺地形を成したもの。熔岩臺地。

【岩團】27 不規則な岩石の團塊。

〔岩團扇〕28 草の名。いはうめ科の宿根草で、深山の陰地に自生し、春、淡紅色の花を開く。

【岩枕】29 石を枕にする。岩上に寢ること。〔千載和歌集、秋上〕七夕の天の河原の岩枕。

【岩疊】30 ❶平な岩石の積み重なつたところ。〔萬葉集、七〕磐疊み、かしこき山。❷岩乘(16)に同じ。

【岩洞】31 岩のほらあな。巖洞。〔謠曲、龍虎〕竹林の岩洞は虎のすみか。

【岩梅】32 木の名。ふきづめさう。いはうめ科の小灌木で、山地の岩壁等に自生し、夏、黃白色の花を開く。

【岩盤】33 岩漿が岩層の間に侵入して凝り固まり、饅頭形の大塊となつたもの。

【岩木】34 石と木。轉じて、薄情又は感覺のにぶい喩。〔源氏物語、東屋〕あはれなる御心ざまを、岩木ならねばおもほし知る。

【岩脈】35 火成岩の岩漿が、他の岩石のさけめに迸り出て凝固した脈。

【岩門】36 兩岩の峙つて成す門。又、堅牢な門。石門。〔堀河太郎百首、冬〕歌へばあくる天のいはかど。

【岩梨】37 ❶高山植物の名。高さ二三寸、地について繁る。實は南天に似、熟すると實が甘美である。〔方丈記〕或はつばなを拔きいはなしを採る。❷こけもの異名。

【岩流】38 地下で溶解した鑛物が、地上に噴出して流れた後、凝結したもの。熔岩流。

【岩海苔】39 海中の岩礁などに附着してゐる海苔。あまのり。

【岩高蘭】40 木の名。こけみの。がんかうらん科の小灌木で、高山に自生し、五月、紫色の花を開く。

【岩桔梗】41 草の名。ききやう科の宿根草で、高山の草木帶に自生し、夏、紫色の花を開く。

【岩粔籹】42 菓子の一種。

【岩檜葉】43 山中の石間に生ずる草。莖がなく、檜の葉に似た葉を叢生する。卷柏。

【岩繪具】44 鑛物を碎いて細粉として繪具としたもの。羣青・水晶末・瑪瑙末その他數種がある。

【岩垂氷】46 鍾乳石（**11**－**40672**・・95）の異名。

【岩清水】47 岩間から湧き出る清水。〔袋草子、六〕水底澄めるいは清水。

【岩切草】48 草の名。いはたばこ科の宿根草で、山地の懸崖等に自生し、夏、淡紫色の花を開く。

【岩千鳥】49 ❶千鳥の一種。群つて河上に飛ぶ。〔夫木和歌抄、八〕夏川の岩根をかくる岩千鳥。❷草の名。深山の岩上に生ずる蘭科の多年生の草。

【岩棠子】50 岩梨(37)の❶に同じ。

【岩澤瀉】51 草の名。蘭に似た細長い葉をつける草。觀賞用として栽培する。

【岩躑躅】52 ❶岩石の上に生ずる躑躅。〔古今和歌集、戀、一〕ときはの山のいはつつじ。❷かさねの色目。表は紅、裏は紫。

【岩田帶】53 妊娠した婦人が腹にしめる帶。妊娠後五ケ月目から結ぶはらおび。結肌帶（ユハダオビ）の訛。〔吳竹集〕いはた帶、云云、女子孕みて、五月めに、肌に結ぶ帶なり。

【岩寥山】54 上野國赤禿山の別稱。

【岩垣月洲】55 大阪の人。本姓は岡田。名は龜。號は月洲。通稱は六藏。業を岩垣龍溪に受け、其の養子となる。官は天保年間、習學所教授。後、失明す。其の學は經濟實踐を以て主とす。明治六年九月四日歿す、年六十六。從五位を贈らる。著に科擧志略・月洲遺稿・月洲詩文稿・骨董錄・誦習錄・征西決心編・二十一史評・蒙求官職解がある。〔慶長以來諸家著述目錄〕。

【岩垣東園】56 京都の人。名は松苗・綰光。字は千尺・長等。號は東園・謙亭。岩垣龍溪に師事す。西尾杏庵の子。龍溪の嗣となる。官は音博士。從五位上・舍人助。大いに古學を唱ふ。又、國史に精通す。嘉永二年十二月三日歿す、年七十六。從四位を贈らる。著に國史略・東園百絕・麼可錄がある。〔慶長以來諸家著述目錄〕。

【岩垣龍溪】57 京都の人。名は彥明。字は亮卿・孟厚。通稱は長門介。號は龍溪。伏原宣條・皆川淇園に師事す。從五位下、官は大舍人權助。經學は古學を奉ず。文化五年十一月三日歿す、年六十八。正五位を贈らる。著に十八史略標注・松蘿館詩文集・松蘿館隨筆・青雲圖贊・孟子筆記・龍溪見聞志・論語集解標記・論語筆記がある。〔慶長以來諸家著述目錄〕。

【岩啄木鳥】58 啄木鳥の一種。體は綠色、頭・腹は紅色で、深山に棲む。

【岩橡樟船】58′ 神代に用ひたといふ樟で造つた堅牢な船。磐樟舟。〔日本書紀、神代紀、上〕天磐橡樟船。

【岩瀨華沼】59 江戶の人。名は行言。字は子言。通稱は勘平。號は華沼。河口靜齋に師事す。官は肥前島原藩儒。書に巧。文化七年十月歿す、年七十九。著に更生（一名、大錄）・華沼文集・太白樓筆記・中夜獨語・蔓草園文集がある。〔近代著述目錄後篇〕・〔慶長以來諸家著述目錄〕。

【⿱石山】7986

カン　コン　〔說略〕苦紺切　勘

岩あな。山の岩あな。〔說略〕⿱石山、岩之巖窖也。〔觚賸〕⿱石山、粵人以二山之巖洞一爲レ⿱石山。

【⿰山石】7987

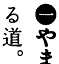
ヒ　ビ　〔字彙〕蒲靡切　紙

❶**二重の山。**〔字彙〕⿰山石、再成山也。❷岯（**4**－**7995**）の譌字。〔正字通〕按、爾雅釋山、再成曰レ英、註、兩山相重也、一成曰レ岯、云云、無二⿰山石名一、⿰山石、卽岯之譌。

【⿰山未】7988 ビ ミ 〔集韻〕無沸切 未

山名。〔集韻〕⿰山未、山名。

【岪】7989 フツ ブチ 〔集韻〕符勿切 物


小篆

❶やまみち。山腹をめぐりうねる道。〔說文〕岪、山脅道也、从レ山弗聲。〔段注〕脅者、兩膀也、山如二人體一、其兩膀曰レ脅。❷山の彎曲したところ。〔集韻〕岪、一曰、山曲。〔楚辭、淮南小山王、招隱士〕坱兮軋、山曲岪。〔補注〕岪、山曲也。❸山のけはしいさま。〔左思、吳都賦〕巊溟鬱岪。〔注〕濟曰、皆山高險之皃也。❹山のおくふかいさま。岪鬱(2)を見よ。❺特立するさま。岪蔚(1)を見よ。❻おこるさま。岪岪(3)を見よ。❼或は⿰山佛(4－7990)に作る。〔集韻〕岪、或書作レ⿰山佛。

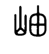
【岪蔚】1 フツヰ ぬき出て起つさま。〔王延壽、魯靈光殿賦〕下岪蔚以璀錯、上崎嶬而重注。〔注〕善曰、岪蔚、特起貌。

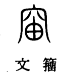
【岪鬱】2 フツウツ 山が高く重なり、おくふかいさま。〔集韻〕岪、岪鬱、山皃。〔司馬相如、子虛賦〕其山則盤紆岪鬱、隆崇嵂崒 「〔注〕岪岪、興起貌。

【岪岪】3 フツフツ 起るさま。〔管子、白心〕美哉岪岪。

【⿰山佛】7990 フツ 岪(4－7989)に同じ。〔集韻〕岪、或書作レ⿰山佛。

【岫】7991 ㈠シウ ジウ 〔集韻〕似救切 宥 ㄒㄧㄡˋ hsiu^4 ㈡イウ ユ 〔集韻〕余救切 宥 ㈢イウ ユ 〔集韻〕夷周切 尤


小篆


籀文

㈠㈡㈢❶穴のある山。〔說文〕岫、山有レ穴也、从レ山由聲。〔段注〕有レ穴之山、謂二之岫一、非三山穴謂二之岫一。〔爾雅、釋山〕山有レ穴爲レ岫。〔注〕謂二巖穴一。〔疏〕謂下山有二巖穴一者上爲レ岫也。〔張衡、東京賦〕王鮪岫居。〔注〕薛曰、山有レ穴曰レ岫。❷くき。いはあな。山のほら穴。岩穴。〔左思、魏都賦〕窮岫泄レ雲、日月恆翳。〔徐幹、七喩〕棲二遲乎窮谷之岫一。〔陶潛、歸去來辭〕雲無レ心以出レ岫。❸やま。みね。いただき。〔謝朓、宣城郡詩〕窻中列二遠岫一。〔黃庭堅、過二石塘一詩〕晴岫插レ天如二畫屛一。❹籀文は⿱穴由(8－25462)・⿰谷由(10－36198)に作る。〔說文〕岫、⿱穴由、籀文从レ穴。〔集韻〕岫、籀从レ穴从レ谷。

【岫雲】1 シウウン ❶山の穴から起る雲。〔杜甫、雨詩〕落落出レ岫雲、渾渾倚レ天石。❷寺の名。河北省宛平縣の潭柘山。舊名は潭柘寺。晉は嘉福寺とし、唐は龍泉寺とし、後、潭柘と改めた。淸の康熙中、重修して額を賜ふ。〔燕京歲時記、潭柘寺〕潭柘寺在二羅睺嶺平原村一、去二京城一西北九十里、晉曰二嘉福一、唐曰二龍泉一、京師諺曰、先有二潭柘一、後有二北京一、蓋寺之最古者、本朝康熙閒、更二名岫雲寺一。

〖岫雲居士〗2 シウウンコジ 宋、林子沖(6－14551・・33「(4)の號。

【岫衍】3 シウエン 山のほらあなが廣い。〔水經、河水注〕其山巖層岫衍、澗曲崖深。

【岫壑】4 シウガク 山のほら。たに。〔水經、易水注〕岫壑沖深、含レ煙罩レ霧。

【岫巖】5 シウガン 縣名。民國、置く。淸の岫巖州の地。今、滿洲遼寧省鳳城縣の西、大洋河の東南岸。〔淸史稿、地理志〕奉天、鳳凰直隸廳、州一、岫巖州。

【岫居】6 シウキヨ 山の穴の中に居る。〔張衡、東京賦〕王鮪岫居。〔注〕綜曰、山有レ穴曰レ岫、王鮪、魚名也、居二山穴中一、長老言、王鮪之魚由二南方一來、出二此穴中一入二河水一、見曰二目眩一、浮二水上一流行七八十里、釣人見レ之取レ之、以獻二天子一、用レ祭、其穴在二河南小平山一。〔筆記〕每春二月出二於石穴一逆レ河、而土人乃取レ之、其腥不レ可レ近、官以爲レ鮓獻レ御、其味甚美、然有レ毒、所謂王鮪岫居者。

【岫幌】7 シウクワウ 山のまど。洞の入口。〔孔稚珪、北山移文〕宜下扃二岫幌一、掩二雲關一、歛二輕霧一、藏二鳴湍一、杜中妄轡於郊端上。〔注〕濟曰、岫幌、山窗也。

【岫環】8 シウクワン めぐつてゐる山。〔裴潾、前相國贊二皇公一詩〕岫環如レ壁、巖虛若レ軒。

【岫戶】9 シウコ いはあなの戶。〔張融、海賦〕山門幽暖、岫戶葐蒀。

【岫虎】10 シウコ 洞穴に棲む虎。〔劉子新論、正賞〕山底行者、望二嶺樹一如レ簪、視二岫虎一如レ犬。

【岫室】11 シウシツ 山の洞穴中の室。〔王勃、仙遊觀贈二道士一詩〕迴丹縈二岫室一、複翠上二巖櫳一。

【岫出】12 シウシユツ 山のほら穴があらはれる。〔唐太宗、度レ秋詩〕峩嵋岫初出、洞庭波漸起。

【岫色】13 シウシヨク 山の色あひ。山色。〔東觀餘論、下、跋二蜀道圖後摹本一〕雲勢岫色、林谷明藹、皆有二逸趣一。

【岫勢】14 シウセイ 山の形狀。〔江總、攝山棲霞寺碑〕峯形甑累、岫勢堂密。

【岫轉】15 シウテン 山の洞穴がうつりかはる。〔宋之問、嵩山天門歌〕松移岫轉、左變而右易、風生雲起、出レ鬼而入レ神。

【岫濃】16 シウノウ 山の嵐色が濃い。〔江總、玄圃石室銘〕岫濃翠合、林虛桂靜。

【岫複】17 シウフク 重なつた巖穴。〔梁元帝、隱居先生陶弘景碑〕景落二重崖一、煙生二岫複一。

【岫廬】18 シウロ 民國、王雲五(7－20823・・1175)の「字。

【岬】7992 カフ ケフ 〔集韻〕古狎切 洽 ㄐㄧㄚˇ chia^3

❶山のよこ。山のかたはら。山腹。〔玉篇〕岬、山旁也。〔淮南子、原道訓〕徬二徨于山岬之旁一。〔注〕岬、山脅也。❷やまあひ。はざま。〔左思、吳都賦〕傾二藪薄一、倒二岬岫一。〔注〕銑曰、兩山閒曰レ岬。❸つらなるさま。岬嵑を見よ。❹⿰石甲(8－24119)に同じ。〔集韻〕⿰石甲、兩山之閒爲レ⿰石甲、許愼說、或从レ山。邦みさき。山の、海中に突出したもの。

【岬角】1 カフカク みさき。さき。陸地が海中に突出した尖端の部分。土角。

【岬嵑】2 カフカツ つらなるさま。〔正字通〕岬、岬嵑、連接貌。〔張協、洛禊賦〕車駕岬嵑、充二溢中逵一。

【岬岫】3 カフシウ 山のかたほとり。又、山の巖穴。〔左思、吳都賦〕傾二藪薄一倒二岬岫一。〔注〕善曰、淮南子注曰、岬、山旁、爾雅曰、山有レ穴曰レ岫。

【岭】7993 レイ リヤウ 〔集韻〕郎丁切 靑

❶山が深い。〔集韻〕岭、山深也。❷山名。岭中を見よ。❸或は岺(4－8010)に作る。〔集韻〕岭、或書作レ岺。

【岭巆】1 レイクワウ 深くて、はてなきさま。山の奧深いさま 〔揚雄、甘泉賦〕岭巆嶙峋。〔注〕善曰、埤蒼曰、岭巆嶙峋、深無レ厓之貌。〔漢書、揚雄傳上〕岭巆嶙峋、洞亡レ厓兮。〔注〕師古曰、岭巆、深邃貌。

【岭嵤】2 レイケイ 山の奧深いさま。〔集韻〕嵤、岭嵤、山深皃。

【岭中】3 レイチユウ 山名。〔元結、演興、閔岭中〕入二岭中一而登二玉峯一、極二閟絕一而求二翠茸一。

【岭嶙】4 レイリン 石の音。〔揚雄、蜀都賦〕叩レ巖岭嶙、崇隆臨レ柴。

【岮】7994 タ ダ 〔集韻〕唐何切 歌

❶くづれるさま。〔潘岳、西征賦〕裁二岥岮一以隱嶙。〔注〕善曰、岥岮、穨皃也。❷平でないさま。ななめ。陀(11－41600)に同じ。〔集韻〕陀、博雅、陂陀、袤也、或作レ岮。〔正字通〕岮、岥岮、不レ平貌。

【岯】7995

⟦一⟧ヒ 〔集韻〕攀悲切 ⟦支⟧
⟦二⟧ヒ ビ 〔集韻〕貧悲切 ⟦支⟧
⟦三⟧ヒ ビ 〔集韻〕部癸切 ⟦紙⟧
⟦四⟧ハイ 〔集韻〕鋪枚切 ⟦灰⟧

⟦一⟧❶**二重の山**。〔集韻〕岯、山再成曰レ岯。❷**一重の山**。〔集韻〕岯、一曰、山一成。❸或は坯(**3－4984**)・阫(**11－41609**)に作る。〔集韻〕岯、或作二坯・阫一。⟦二⟧❶**山名**。大岯。〔集韻〕岯、大岯、山名。❷**一重の山**。⟦一⟧の❷に同じ。⟦三⟧**山名**。**又、一重の山**。或は伾(**1－487**)に作る。〔集韻〕岯、山名、或从レ人。〔集韻〕岯、山一成曰レ岯、或作レ伾。⟦四⟧**一重の山**。坯(**3－4984**)に同じ。〔集韻〕坯、爾雅、山一成、或作レ岯。

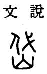
【岰】7996

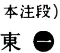
⟦一⟧イウ ユ 〔集韻〕於糾切 ⟦有⟧ ㄧㄡˇ yu³
⟦二⟧アウ エウ 〔集韻〕於教切 ⟦效⟧

⟦一⟧⟦二⟧**山の曲るさま**。〔集韻〕岰、山曲皃。

【岰𡾱】1 イウヂウ 山のさま。〔集韻〕𡾱、岰𡾱、山皃。

【岱】7997 タイ ダイ 〔集韻〕待戴切 ⟦隊⟧ ㄉㄞˋ tai⁴


小篆(說文)


小篆(段注本)

❶**山名**。五嶽の一。東嶽。山東省泰安縣の北。泰山。太山。〔說文〕岱、大山也、从レ山代聲。〔爾雅、釋山〕河東、岱。〔李注〕岱、東岳泰山也。〔書、禹貢〕海岱。〔釋文〕岱、泰山也。❷**岱山を中心とした地方**。河東の地。周にあつては九鎭の一。〔方言、一〕東齊海岱之閒。❸**大きいさま**。岱駕(4)を見よ。❹**かはりあふ**。〔白虎通、巡狩〕東方爲二岱宗一者、言三萬物更相二代於東方一也。❺**はじめ**。〔風俗通、山澤〕岱者、胎也、萬物之始。

【岱委】1 タイヰ 玉の精をいふ。美女が青い衣を着た姿をして居るといふ。〔太平御覽、妖異部、精〕白澤圖曰、玉之精名二岱委一、其狀如三美女衣二青衣一、見レ之以二桃戈一刺レ之、而呼二其名一則得。

【岱陰】2 タイイン 泰山の北。山は北を陰とする。〔詩、齊風第八、疏〕齊者、太師呂望所レ封之國也、其地少皞爽鳩氏之墟、在二禹貢青州岱嶺之陰、濰淄之野一、都二營丘之側一。〔公羊、桓、十六〕越在二岱陰齊一。〔注〕越、猶レ走也、岱、岱宗、泰山也、山北曰レ陰、先言二岱陰一、後言レ齊者、明下名山大澤、不三以封二諸侯一、以爲二天地自然之利一、非三人力所二能加一、故當中與二百姓一共上レ之、傳著三朔在二岱陰一者、明下天子當中及二是時一、未レ能三交連二五國之兵一、早誅上レ之。〔管子、小匡〕南至二於岱陰一。〔注〕謂二岱山之北一。

【岱淵】3 タイエン 東海をいふ。〔丹鉛總錄〕東海、一名、岱淵。

【岱駕】4 タイガ 大きく立派な乘物。〔謝莊、和二元日雪花一應詔詩〕竦誠岱駕肅、側志梁鑾矯。

【岱嶽】5 タイガク 泰山の異稱。岱宗。〔淮南子、墬形訓〕中央之美者有二岱嶽一、以生二五穀桑麻一、魚鹽出焉。〔張衡、東京賦〕巡二乎岱嶽一。〔王儉、和二竟陵王高松一賦〕既抽二榮於岱嶽一、亦擢二穎於荊峯一。

【岱華】6 タイクワ 山名。泰山と華山。〔李俊民、肖山堂詩〕勢將レ凌二岱華一、氣欲レ呑二嵩少一。

【岱觀】7 タイクワン 清、吳山濤(**2－3365**・・586)の字。

【岱畎】8 タイケン 泰山の谷。〔書、禹貢〕岱畎絲枲。〔傳〕畎、谷也。〔謝朓、高松賦〕夏書稱二其岱畎一、周篇詠二其徂來一。

【岱齋】9 タイサイ 清、崔如岳(**4－8178**・・277)の字。

【岱山】10 タイザン 山名。❶五嶽中の東嶽。山東省泰安縣の北。泰山・太山とも書く。岱泰。岱土。岱嶺。岱宗。〔周禮、夏官、職方氏〕河東曰二兗州一、其山鎭曰二岱山一。〔范雲、古意贈二王中書一詩〕岱山饒二靈異一、沂水富二英奇一。❷浙江省定海縣の東北、舟山羣島に在る山。支山は十五、鳳凰・磨心・大坟・小坟・拷網・翦刀頭・青黑・鐵板沙・拷門・燕窩・龍・虎・南峯・北峯・鹿欄といひ、嶺は七、高亭・石馬・寺・岳廟・寺後・鳳凰・西高岡(一に旗桿頭)といひ、隩(山のくま)は十五、小高亭・大高亭・綠沙・滸兜・石馬・泥峙・司基・板井頭・黃官人・冷坑・總結・孝順・念母・楓樹・缸窑といふ。〔讀史方輿紀要、浙江、寧波府、定海縣〕舟山邑志、昌國東北海中曰二蘭山・秀山・劍山・岱山・玉峯等山一。

【岱赭】11 タイシヤ 泰山の赤土。古、天子に貢物とした。〔地理通釋〕關內道、古雍州之境、厥貢、岱赭・鹽山・角弓・龍鬚・席蓯・蓉野・馬皮・麝香。

【岱首】12 タイシユ 泰山の嶺。〔范中淹、明堂賦〕東升二煙於岱首一、西展二琮於汾側一。

【岱嶼】13 タイシヨ 島の名。福建省晉江縣の東南。石湖・北鎭兩山の間に介在し、白嶼と相連なる。〔讀史方輿紀要、福建、泉州府、晉江縣、洋嶼〕岱嶼、在二府東南六十里一、突二起海中一、介二於石湖・北鎭兩山之閒一、志云、岱嶼相連者爲二白嶼一。

【岱色】14 タイシヨク 泰山の景色。〔余靖、到レ塞後有レ懷二青社詩一今錄呈詩〕天際膚雲連二岱色一、海中靈藥慕二仙才一。

【岱嵩】15 タイスウ 山名。泰山と嵩山。〔晁補之、拔榛亭賦〕周二覽五岳一、岱嵩衡霍。

【岱石】16 タイセキ 山名。浙江省黃巖縣の西。山の傍に巨石あり、人の形の如く、俗に石大人山といふ。〔明一統志〕岱石山、在二黃巖縣西一十七里一、傍有二巨石一、如二人形一、俗呼爲二石大人山一。

【岱仙】17 タイセン 清、于嗣登(**1－252**・・118)の字。

【岱宗】18 タイソウ 山名。泰山をいふ。宗は尊・長の義。五嶽の長であるから宗といふ。岱山。太山。岱嶽。〔廣雅、釋山〕岱宗、謂二之泰山一。〔書、舜典〕歲二月東巡守、至二于岱宗一。〔傳〕岱宗、泰山、爲二四岳所一レ宗。〔禮、王制〕歲二月東巡守、至二于岱宗一。〔注〕岱宗、東嶽。〔疏〕宗者尊也、岱爲二五嶽之首一、故爲レ尊也。〔白虎通、巡狩〕東方爲二岱宗一者、言三萬物更相二代於東方一也。〔風俗通 山澤〕東方泰山、尊曰二岱宗一、岱者、長也、萬物之始、陰陽交代、雲觸レ石而出、膚寸而合、不レ崇レ朝而徧二雨天下一、其惟泰山乎、故爲二五嶽之長一。〔杜甫、望嶽詩〕岱宗夫如何、齊魯青未レ了、造化鍾二神秀一、陰陽割二昏曉一。

【岱泰】19 タイタイ 山東省の泰山をいふ。〔劉基、詩〕追レ龍入二豎閭一、訪レ鶴凌二岱泰一。

【岱禎】20 タイテイ 清、俞兆岳(**1－1437**・・127)の字。

【岱土】21 タイド 山東省の泰山をいふ。〔楚辭、王褒、九懷、危俊〕徑二岱土兮魏闕一、歷二九曲兮牽牛一。〔補注〕岱、泰山也。

【岱表】22 タイヘウ 泰山の南。〔南史、張充傳〕與レ儉書曰、充岷西百姓、岱表一人、蠶而衣、耕而食、不レ能下事二王侯一、覓中知己上。

【岱廟】23 タイベウ 廟の名。山東省泰安縣城の西北隅。下廟・中廟・上廟の三つがあり、下廟內に漢の柏樹、唐の槐樹がある。〔漢書、地理志上〕博縣有二泰山廟一。〔水經、汶水注〕從征記曰、泰山有二下中上三廟一、牆闕嚴整、廟中柏樹夾二兩階一、大二十餘圍、蓋漢武所レ植也、云云、中廟去二下廟一五里、屋宇又崇二麗于下廟一、廟東西夾レ澗、上廟在二山頂一、卽封禪處也。

【岱門】24 タイモン 清、陳詩桓(**11－41698**・・926)の字。

【岱輿】25 タイヨ 海中の仙山。渤海の東にある五仙山の一。〔列子、湯問〕革曰、渤海之東不レ知二幾億萬里一、有二大壑一焉、云云、其中有二五山一焉、一曰岱輿、二曰員嶠、三曰方壺、四曰瀛洲、五曰蓬萊、所レ居之人、皆仙聖之種、五山之根、無レ所二連著一、常隨二潮波一上下、帝命二禺彊一、使三巨鼇十五舉レ首戴レ之。

【岱嶺】26 タイレイ 山東省にある泰山。〔王勃、寶莊舍利塔碑〕越鎔仙鍔、吐二光芒一而駭レ人、岱嶺寒松、排二風飇一以成レ性。〔尹暢、對賢良方正策〕祚二穀汾脽一、薦二寶鼎于宗廟一、燔二柴岱嶺一、靄二飛煙于雲日一。

【封レ岱】27 タイヲホウズ 壇を築いて泰山を祭る。〔班固、東都賦〕憲二章稽古一、封レ岱勒レ成。

【岱松阿】28 タイシヨウア 清、滿洲正紅旗人。姓は佟佳氏。太祖の時、佐領を授けられ、天聰中、錦州を攻むるに從ひ、黑龍口を征し、昌平及び旅順口を攻め、皆之を破る。〔清史稿、二二十七〕・〔國朝耆獻類徵、二百六十三〕。

【岱森保】29 タイシンパウ タイシンポ 清、滿洲正紅旗人。姓は庫雅拉闊卓理氏。乾隆中、緬甸・金川に從軍し、功を積んで護軍參領を授けられ、又、臺灣の林爽

文、及び西藏の廓爾喀の亂を平げ、官は虎槍營統領に至る。後、陝甘に赴き、張漢潮を滅して軍に卒す。〔清史稿、三百三十九〕・〔國朝耆獻類徵、三百九十六〕。

【岱南閣】30（タイナンカク） 清、孫星衍(3−6987··459)の書齋の名。星衍が山東の兗沂曹濟道に任官した時、其の居が岱山の南に當つてゐたので名づけた。岱南閣文稾五卷、並に岱南閣叢書がある。〔國朝先正事略、經學、孫淵如先正事略〕岱南閣文稾五卷。

〖岱南閣叢書〗31（タイナンカクソウシヨ） 叢書の名。清、孫星衍編。皆、孫星衍の手校で、其の目は、古文尙書馬鄭注十卷附篇目逸文（清、孫星衍）・春秋釋例十五卷（晉、杜預）・蒼頡篇三卷（清、孫星衍）・燕丹子傳三卷・鹽鐵論十卷附論考三卷（漢、桓寬）・孫子十家注十三卷附遺說敍錄・元和郡縣圖志四十卷附闕卷逸文（唐、李吉甫）・故唐律疏議三十卷（唐、長孫無忌）・括地志八卷（清、孫星衍）・洗寃集錄五卷（宋、宋慈）・輯古算經細草三卷（清、張敦仁）・古文苑九卷（闕名氏）・求一算術三卷（清、張敦仁）・問字堂集六卷（以下自著）・岱南閣集二卷・平津館文集稿二卷・五松園文稿一卷・嘉穀堂集一卷・泲上停雲集一卷。

【岀】7998 コツ コチ 〔集韻〕苦骨切 月

山のさま。又、はげ山。 ⿰山盧(4−8509)に同じ。〔集韻〕⿰山盧屼、山皃、一曰、童山、或作レ岀。

【岲】7999 キヤウ クワウ 〔集韻〕許放切 漾

山名。 〔集韻〕岲、山名。

【⿱山兄】8000 キヤウ 岲(4−7999)に同じ。〔篇海類編〕⿱山兄、同レ岲。

【岳】8001 ガク 〔集韻〕逆角切 ㄩㄝˋ yüeh⁴ 覺

❶**たけ。** 高大な山。嶽(4−8566)・𡴳(4−8011)に同じ。〔說文〕嶽、東岱・南靃・西華・北恆・中大室、王者之所レ用、巡狩所レ至、从レ山獄聲、𡴳、古文、象二高形一。〔段注〕𡴳、今字作レ岳、古文之變。〔集韻〕嶽、古作レ岳。❷**姓。** 〔尙友錄〕岳、山陽角音。

名乘 タカ。ヲカ。

參考 字解は嶽(4−8566)を併せ見よ。

【岳靄】1（ガクアイ） 人名。岳霆(39)を見よ。

【岳筠】2（ガクキン） 清、文水の人。字は綠春。吳の嵩梁の妾。蘭を畫くに巧で、吟詠を好くす。

【岳雲】3（ガクウン） 宋、湯陰の人。飛の養子。年十二にして飛に從つて戰功あり。官は左武大夫。飛が殺された後、万俟卨に誣ひられて棄市せらる。時に年二十三。孝宗の初、安遠軍承宣使を贈らる。〔宋史、三百六十五〕。

【岳翁】4（ガクヲウ） 妻の父。嶽翁。岳丈(35)を見よ。〔羣碎錄〕今人呼二妻父一曰二岳翁一、曰二丈人一、匈奴傳曰、漢天子我丈人行也、故呼爲二丈人一、又以三泰山有二丈人峯一、故又呼二丈人一曰二岳翁一、亦曰二泰山一。〔通俗編、稱謂、岳翁〕青城山記、青城爲二五岳之長一、故名二丈人山一、世俗呼二人婦翁一爲二令岳一、妻之伯叔父爲二列岳一、往往因レ此、歸田錄、今人呼二妻父一爲二嶽公一、以三泰山有二丈人峯一、妻母爲二泰水一、不レ知レ出二何書一也、按、以上二說最爲レ得レ解、但未レ詳二其稱昉レ自二何代一、漢書郊祀志、大山川有二岳山一、小山川有二岳婿山一、推二其名義一、似下在二漢時一已然上、釋常談、唐開元時封二禪泰山一、張說爲二封禪使一、婿鄭鎰本九品官、舊例、封禪後自二三公一以下皆轉二遷一階一級一、惟鎰是封禪使女婿、驟遷至二五品一、時人語曰、此泰山之力也、因下此以二妻父一爲中泰山上、事文後集言、神仙傳、泰山有二父老一、失二其姓名一、今稱二婦翁一曰二泰山一、或者出レ此、訛以傳レ訛耶、又云、晉樂廣乃衞玠妻父、所謂岳丈、或當レ云二樂丈一耳、三說似二皆未一レ確。

【岳珂】5（ガクカ） 宋、湯陰の人。霖の子。彰德に居る。字は肅之。號は倦翁・寶眞齋。寧宗の朝に、かりに嘉興軍府に差遣せられ、管內勸農の事を兼ぬ。其の祖、飛の害せられたるを痛み、金陀粹編を作る。嘉定中、又、籲天辯誣集五卷・天定錄二卷を上る。書室を硯山園といふ。著に九經三傳沿革例・寶眞齋書法贊・愧郯錄・桯史・玉楮集・棠湖詩稿がある。校刊した春秋は岳珂本、又は岳本春秋として、其の精を稱せられる。〔宋史、三百六十五〕・〔宋詩鈔補〕。

【岳家】6 yüeh⁴ chia¹ 妻の實家。

〖岳家軍〗7（ガクカグン） 宋代、岳飛の軍隊で、紀律嚴肅を極め、かつ敵を畏怖せしめた。〔宋史、岳飛傳〕成聞二飛將レ至、驚曰、岳家軍來矣、卽分レ道而遁。〔南宋紀〕岳飛御二士卒一、嚴而有レ恩、云云、猝遇レ敵不レ動、故敵爲レ之語曰、撼レ山易、撼二岳家軍一難。

〖岳家口〗8（ガクカコウ） 鎭の名。湖北省天門縣の南、漢水の北岸。水陸四達し、商旅多く集まる。居民、布を織るを業とす。今、縣佐を設く。

【岳鏗】9（ガクカウ） 地皇(3−4890··116)の❶をいふ。〔路史、三皇紀〕天皇氏逸、地皇氏作、出二於雄耳・龍門之岳一、鏗名、姓岳。

【岳岳】10（ガクガク） 立つてゐるさま。〔王延壽、魯靈光殿賦〕神仙岳二岳於棟閒一。〔注〕善曰、岳岳、立貌。

【岳起】11（ガクキ） 清、滿洲鑲白旗人。姓は鄂濟氏。號は小瀛。乾隆の擧人。官は禮部右侍郞。〔清史稿、三百六十五〕・〔清史列傳、三十二〕・〔國朝耆獻類徵、一百八十八〕。

【岳響】12（ガクキヤウ） こだま。やまびこ。〔周賀、出レ關寄二賈島一詩〕伊流偕二行客一、岳響答二啼猨一。

【岳公】13 yüeh⁴ kung¹ 妻の父。岳翁(4)・嶽公(4−8566··17)に同じ。

【岳山】14（ガクザン） ❶山名。帝堯・帝嚳・帝舜を葬る。〔山海經、大荒南經〕帝堯・帝嚳・帝舜、葬二于岳山一。❷琴額の橫木。絃をかけるもの。〔律呂精義、絲音之屬、二十五絃瑟圖說〕瑟身、通長九尺、首長九寸、廣二尺、尾長一尺八寸、廣一尺六寸、兩岳中閒六尺三寸、尾下兩旁垂雲各六、樣制大率與二今箏一同。

【岳壐】15（ガクジ） 清、滿洲鑲黃旗人。姓は赫舍哩氏。官は嘉慶中、黃巖鎭總兵。〔國朝耆獻類徵、三百八〕。

【岳州】16（ガクシウ） 府名。❶南朝宋は巴陵郡を置き、梁は巴州を置き、隋は岳州と改め、唐宋の閒も屢名を改む。明、府を置く。清は巴陵・臨湘・華容・平江の四縣を領す。湖南省の北部、洞庭湖の東岸に在つて、湖南の要地。多く茶を輸出す。岳陽樓は府城の西門の門樓をいふ。〔讀史方輿紀要、湖廣〕岳州府、禹貢荊州地、隋平レ陳、郡廢改二州曰二岳州一、煬帝初改爲二羅州一、旋復爲二巴陵郡一、唐初、蕭銑置二巴州一、武德四年、平二蕭銑一仍爲二巴州一、六年改爲二岳州一、天寶初、又爲二巴陵郡一、乾元初復曰二岳州一、五代時、馬殷有二其地一、後屬二于周一行逢一、宋仍爲二岳州一、紹興二十五年改曰二純州一、三十年復レ舊、元置二岳州路一、明洪武初、改爲二岳州府一、九年降爲レ州、十四年復爲レ府、領二州一縣七一、今仍レ舊。〔淸史稿、地理志〕湖南、岳州府、領レ縣四、巴陵・臨湘・華容・平江。❷西魏、置く。故治は湖北省孝感縣。〔讀史方輿紀要、湖廣、德安府〕孝感縣、漢安陸縣地、西魏於レ縣置二岳州及岳山郡一、後周、州郡俱廢、縣屬二鄖州一。

【岳將】17（ガクシヤウ） 宋の岳飛をいふ。〔劉仁本、詩〕向レ南古木何人墓、岳將忠魂黯未レ消。

【岳浚】18（ガクシユン） 元、宜興の人。字は仲遠。飛の九世の孫。官は石門縣尉。萬卷の書を積んで好學の士を招く。〔尙友錄、二十一〕。

【岳震】19（ガクシン） 宋の人。飛の第四子。官は提擧江南東路常平茶鹽公事。〔宋史、三百六十五〕・〔宋史新編、一百二十九〕。

【岳正】20（ガクセイ） 明、漷縣の人。字は季方。諡は文肅。自ら蒙泉と號し、學者、蒙泉先生と稱す。正統の進士。官は編修。石亨・曹吉祥に忤らつて欽州同知に謫せられ、成化の初、復た修撰となる。著に深衣注疏・類博雜言・類博稿がある。〔明史、一百七十六〕・〔明史稿、一百五十九〕・〔萬斯同明史、二百二十四〕。

【岳西】21（ガクセイ） 縣名。民國二十五年、置く。安徽省に屬す。

【岳石】22（ガクセキ） 山に在る石。〔賈島、送二李餘一往二

湖南一詩〕岳石挂二海雪一、野楓堆二渚檣一。

【岳泉】23（ガクセン） 清、李文昊（6－14459··1901）の字。

【岳薦】24（ガクセン） 明、淮安山陽の人。字は西來。少くして學を嗜み、博く經史に通じ、尤も濂閩の書を好む。身を持すること嚴にして、然も人に接するや溫、子弟を教へて倦まず、終身讀書して著述を喜ばず。鄕人、西來先生と稱す。〔萬斯同明史、三百八十五〕。

【岳瑨】25（ガクセン） 明、祥符の人。字は文璣。景泰の進士。官は湖州知府・僉都御史。著に仕優小稿がある。〔明史、二百八十二〕・〔萬斯同明史、三百九十〕。

【岳存】26（ガクソン） 元、冠氏の人。字は彥誠。初、東平の嚴實に歸して武德將軍を授けられ、後、冠氏の主簿に遷つて淮漢を攻め、本縣丞に陞る。〔元史、一百五十二〕。

【岳岱】27（ガクタイ） 明、蘇州の人。字は東伯。自ら泰餘山人と稱し、又、漳餘子と號す。陽山に隱れ、畫を能くし、詩に巧。嘗て時人の詩を採つて今雨瑤華集を輯む。〔萬斯同明史、三百九十六〕・〔明詩綜、五十〕。

【岳臺】28（ガクダイ） 臺の名。今、河南省開封縣の西。古、魏王、此の臺を築いて霍山神を禱る。唐代、此處に日影をはかる。〔開封府志〕岳臺坊、按、宋史、京師岳臺坊、地曰二浚儀一、近古候ㇾ景之所、洛誥稱二東土一是也、唐開元十二年、遣二使天下一候ㇾ影、南距二林邑一、北距二橫野一、中得二浚儀之岳臺一、應二南北弦一、居二地之中一、周都於ㇾ汴樹ㇾ圭置ㇾ箭、測二岳臺晷漏一爲二中數一、宋因ㇾ之、皇祐二年、詔二周琮一候二岳臺晷景一、冬至晷景常數一丈二尺八寸五分、夏至晷景常數一尺五寸七分、推二衍步算一、命曰二岳臺晷景新書一、今其地失ㇾ考。〔讀史方輿紀要、河南、開封府、祥府縣、封臺〕岳臺、在二城西九里一、六國魏時、築二此臺一遙事二霍山神一、宋太祖建隆三年、臨二幸岳臺一習二騎射一。

【岳託】29（ガクタク） 清の人。禮親王代善の第一子。崇德の初、和碩成親王に封ぜられ、揚武大將軍を以て、多爾衮と道を分つて明を伐ち、軍中に卒し、克勤郡王に封ぜらる。〔清史稿、二百二十二〕・〔清史列傳、三〕。

【岳湛】30（ガクタン） 晉の潘岳と夏侯湛との倂稱。共に文を能くす。〔文心雕龍、時序〕晉雖ㇾ不ㇾ文、人才實盛、茂先搖ㇾ筆而散ㇾ珠、太沖動ㇾ墨而橫ㇾ錦、岳湛曜二聯璧之華一、機雲標二二俊之采一、應ㇾ傅二三張之徒、孫摯成公之屬一。

【岳湛連璧】31（ガクタンレンペキ） 蒙求の標題。晉の潘岳と夏侯湛とは共に文を能くし、二人、友として行止常に相伴うたので、連璧と稱せられた故事。〔晉書、夏侯湛傳〕湛幼有二盛才一、文章宏富、善構二新詞一、而美二容觀一、與二潘岳一友善、每二行止一同ㇾ輿接ㇾ茵、京都謂二之連璧一。

【岳端】32（ガクタン） 清の宗室の人。或は袁端に作り、又、蘊端に作る。字は正子、又、兼山。號は玉池生。別號は紅蘭室主人。封は固山貝子。著に玉池生稿・紅蘭集・蓼汀集出塞詩等がある。〔清史稿、四百八十九〕。

【岳池】33（ガクチ） ❶川の名。四川省岳池縣の東。縣の南に至つて靈溪と合流し、武勝縣に至つて嘉陵江に入る。〔讀史方輿紀要、四川、順慶府、廣安州、岳池縣〕岳池水在二縣東一、下流合二於濆水一、寰宇記、縣東三十里有二岳安山一、岳池水出焉。❷縣名。唐、南充・相如二縣を分つて置く。四川省岳池縣の西北。今、四川省南充縣の東南。涪江の支流に臨む。〔讀史方輿紀要、四川、順慶府、廣安州〕岳池縣、本南充及相如二縣地、唐萬歲通天二年、析置二岳池縣一屬二果州一、宋屬二廣安軍一。〔清史稿、地理志〕四川、順慶府、縣六、岳池。

【岳頂】34（ガクチヤウ） 山のいただき。嶽頂（4－8566··40）に同じ。

【岳丈】35（ガクヂヤウ） 妻の父をいふ。晉の樂廣は衞玠の妻の父であるので、樂丈を岳丈に訛り、妻の父をいふ。丈は長老の稱。一說に、泰岳に丈人峯があるので、丈人卽ち妻の父を岳丈といふと。岳翁・嶽丈（4－8566··41）を見よ。〔陔餘叢考、丈人〕至下婦翁曰二岳丈一曰中泰山上、其說尤紛紛不ㇾ一、或曰、晉樂廣爲二衞玠妻父一、岳丈蓋樂丈之訛也、釋常談則曰、因三泰山有二丈人峯一故也。〔琵琶記、散髮歸林〕女壻要二同歸一、岳丈意何如。

【岳柱】36（ガクチユウ） 元、畏兀の人。至順中、江西等の行中書省平章政事となる。性孝友、天文醫藥並に經史に精し。〔元史、一百三十〕。

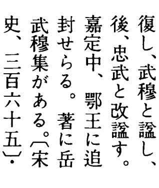
【岳鎭】37（ガクチン） 又、嶽鎭に作る。❶山のやうに靜かで動かないさま。〔王融、三月三日曲水詩序〕爾乃廻ㇾ輿駐ㇾ罕、岳鎭淵停。❷五岳（1－257··120）・四鎭（3－4682··585）の❹をいふ。〔白居易、爲ㇾ人上二宰相一書〕岳鎭闕而不ㇾ知ㇾ所ㇾ取。

【岳帝】38（ガクテイ） 東岳泰山の主神。〔剪燈餘話、泰山御史傳〕呼ㇾ珪出曰、岳帝聞二子經明行脩、不ㇾ偶二於世一、特召ㇾ子爲二泰山司憲御史一。

【岳霆】39（ガクテイ） 宋の人。飛の第五子。もとの名は靄。孝宗、霆の名を賜ふ。官は修武郞・閤門祗候。〔宋史、三百六十五〕・〔宋史新編、一百二十九〕。

【岳瀆】40（ガクトク） 山川をいふ。五岳（1－257··120）・四瀆（3－4682··614）の略。〔蔡邕、陳太丘碑文〕徵士陳君、稟二岳瀆之精一、苞二靈曜之純一。〔注〕善曰、孝經援神契曰、五岳之精雄聖、四瀆之精仁明、故以比ㇾ之也。

【岳伯】41（ガクハク） 國境を守る吏。四岳と方伯。〔何景明、送ㇾ客詩〕天官元貴客、岳伯是詞人。



岳飛
（三才圖會）

【岳飛】42（ガクヒ） 宋、湯陰の人。字は鵬擧。母に事へて至孝。尤も左氏春秋・孫吳の兵法に精し。紹興中、李成を討つて江淮を平げ、武安軍承宣使を授けられ、高宗から精忠岳飛の四字を親筆した旗を賜はる。太尉に累官し、少保を授けらる。屢〻金兵を破り、兵を朱仙鎭に進む。時に秦檜、和議を主唱し、飛を召す。檜、万俟卨等とともに、飛を罪に陷れて、飛の父子を捕へ、獄中に殺す。時に年三十九。孝宗の時、詔して飛の官を復し、武穆と諡し、後、忠武と改諡す。嘉定中、鄂王に追封せらる。著に岳武穆集がある。〔宋史、三百六十五〕・〔宋史新編、一百二十九〕・〔南宋書、十五〕・〔宋朝南渡十將傳、二〕・〔四朝名臣言行錄、上八〕。

【岳飛墓】43（ガクヒノハカ） 宋の岳飛の墓。浙江省杭縣に在り、俗に岳墳、或は鄂王墳と稱す。初、飛を九曲叢祠に埋めたが、孝宗の時、改めて今の處に葬る。明の嘉靖中、巡按御史張景、盡忠報國の四大文字を刻んで墓の南に樹て、正德中、李隆範、銅を以て秦檜・王氏・万俟卨の三像を造り、露臺の下に跪づかしめ、萬曆中、張俊の像を增す。墓の左に廟がある。〔杭州府志〕少保鄂國武穆王岳飛墓、在二錢塘棲霞嶺飛子雲旁附一、初飛潛二瘞九曲叢祠一、孝宗時改二葬是處一、墓木皆南向、明景泰閒、同知馬偉葺、取ㇾ檜析ㇾ幹爲ㇾ二、植二墓前一、取下斬二秦檜一之意上、今名二分屍檜一、正德八年、都指揮李隆範、銅爲二檜・檜妻王氏・万俟卨三像一、令三反接跪二墓前一、嘉靖十四年、巡按御史張景刻二盡忠報國四字一、樹二石墓南一。

【岳筆】44（ガクヒツ） 人に代つて作つた名文をいふ。晉の樂廣が河南尹を讓らうとして、其の意を二百句語に作つて潘岳に與へて代作を請うたところ、岳が之によつて名文を成した故事。〔晉書、樂廣傳〕累二遷侍中河南尹一、廣善二清言一、而不ㇾ長二於筆一、將ㇾ讓ㇾ尹、請二潘岳一爲ㇾ表、岳曰、當ㇾ得二君意一、廣乃作二二百句語一、述二己之志一、岳因取次比、便成二名筆一、時人咸云、若廣不ㇾ假二岳之筆一、岳不ㇾ取二廣之旨一、無三以成二斯美一也。〔本朝文粹、菅三品、爲二清愼公一辭ㇾ職五度第二表〕拙旨難ㇾ明、假二岳筆一而猶暗。

【岳濱】45（ガクヒン） 岳は北岳で、常山をいふ。濱は其の附近の地。常山は今の河北省曲陽縣の西北。嶽濱。〔顏延之、車駕幸二京口一侍二遊蒜山一作詩〕岳濱有二和會一、祥習在二卜征一。〔注〕善曰、國語曰、齊桓公嶽濱諸侯、莫ㇾ不二來服一。

【岳父】46（ガクフ） 妻の父をいふ。泰山（6－17325··45）の❷・岳丈（35）・岳翁（4）を見よ。

【岳璧】47（ガクヘキ） 明の人。官は蘄州指揮。李自成の兵に殺さる。〔明史、二百九十四〕・〔萬斯同明史、三百八十〕・〔明史稿、二百七十五〕。

【岳母】48（ガクボ） 妻の母をいふ。〔漫笑錄〕毗陵有二成郎中一、宣和中爲二省官一、貌不ㇾ揚而多ㇾ髭、再娶之夕、岳母陋ㇾ之曰、我女如二生菩薩一、乃嫁二一麻胡一。〔類書纂要、人道部〕稱二妻母一曰二岳母一。

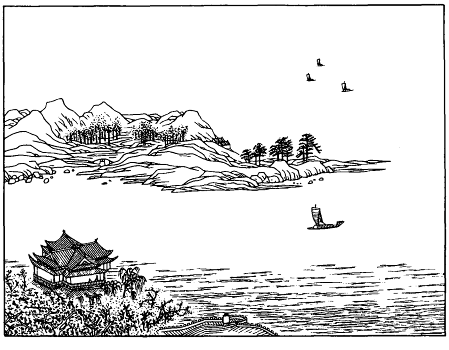
【岳鳳】49（ガクホウ） 明、撫州の人。惡才があつて多智。嘗て隴川に商ひ、宣撫多士寧に信任せられ、其の妹を娶る。後、士寧を誘つて緬酋に附し、子曩烏をして士寧を鴆殺せしめ、印を奪つて緬に投

じ、緬の僞命を受け、隴川に據つて宣撫となり、盡く多氏の一族を殺す。萬曆中、劉綎・鄧子龍等之を攻むるに及び、誅に伏す。〔明史、三百十四〕。

【岳懋】 50 ガクボウ　明、陝西の人。諡は壯愍。官は遼東副總兵。嘗て塞を出ること四十里、寇を逐つて小長山に及び、功を以て大同總兵官に進む。嘉靖中、邊を巡つて敵誘に中り、伏に陷つて戰死す。〔萬斯同明史、三百〕・〔明史稿、一百七十五〕。

【岳牧】 51 ガクボク　㊀四岳と十二牧。後世の公卿諸侯の類。嶽牧。〔書、周官〕唐虞稽レ古、建レ官維百、內有二百揆四岳一、外有二州牧侯伯一。〔傳〕堯舜考レ古、以建二百官一、內置二百揆四岳一、云云、外置二州牧十二及五國之長一。〔疏〕四岳、內典二四時之政一、外主二太岳之事一、立二四人一也、云云、舜典云、肇二十有二州一、此說二虞事一、知レ置二州牧十二一也。〔史記、伯夷傳〕舜禹之閒、岳牧咸薦。〔班固、典引〕三事岳牧之寮。㊁國境を守る役人をいふ。〔杜甫、送二陵州路使君之レ任詩〕幽燕通二使者一、岳牧用二詞人一。

【岳陽】 52 ガクヤウ　㊀地名。太岳山以南の地を泛稱す。今の山西省安澤・趙城の二縣、及びそれ以南の地。〔書、禹貢〕既修二太原一、至二于岳陽一。〔傳〕岳、太岳、在二太原西南一、山南曰レ陽。〔顏延之、與二張湘州一登二巴陵城樓一作詩〕清雰霽二岳陽一、曾暉薄二瀾澳一。㊁郡名。南朝梁、置く。故治は湖南省の臨湘縣の西南。㊂縣名。㋑隋、置く。故城は湖南省湘陰縣の南。〔讀史方輿紀要、湖廣、長沙府〕湘陰縣、春秋時羅國地、梁析置二岳陽縣一屬二岳陽郡一、陳因レ之、隋平レ陳廢レ郡、幷二湘陰一入二岳陽縣一、又置二玉州于此一、尋改二岳陽一爲二湘陰一。㋺隋、置く。太岳の南に在るから名づく。故城は山西省安澤縣の西。〔讀史方輿紀要、山西、平陽府〕岳陽縣、漢上黨郡穀遠縣地、後魏末置二安澤縣一屬二義甯郡一、隋初屬二沁州一、大業初改曰二岳陽縣一屬二臨汾郡一。〔清史稿、地理志〕山西、平陽府、縣十、岳陽。㊇民國、置く。古の麋子國、漢の下雋縣、宋の岳陽軍を置いた地。湖南省臨湘縣の西南。全省、水道の咽喉に當り、軍事上の重要地。縣城は洞庭湖が長江に入る口に當り、粵漢鐵路の沿線で、今、商埠となり、茶市が盛である。㊃明、錢櫝（11－40563・・25）の字。



岳陽（名山圖）

【岳陽樓】 53 ガクヤウロウ　㊀樓の名。湖南省岳陽縣城の西門の樓。洞庭湖に正面し、遙かに君山を望み、風景頗る佳。唐の開元四年、中書令張說、此の地の長官となり、每に才士と此の樓に登つて詩を賦し、爾後有名となる。〔杜甫、登二岳陽樓一詩〕昔聞洞庭水、今上岳陽樓、吳楚東南拆、乾坤日夜浮、親朋無二一字一、老病有二孤舟一、戎馬關山北、憑レ軒涕泗流。〔范仲淹、岳陽樓記〕慶歷四年春、滕子京謫二守巴陵郡一、越明年政通人和、百廢俱興、乃重二修岳陽樓一、增二其舊制一、刻二唐賢今人詩賦于其上一、屬レ予作レ文以記レ之、予觀二夫巴陵勝狀一、在二洞庭一湖一、銜二遠山一、吞二長江一、浩浩湯湯、橫無二際涯一、朝暉夕陰、氣象萬千、此則岳陽樓之大觀也。〔岳陽風土記〕岳陽樓、城西門樓也、唐中書令張說除二守此州一、每與二才士一登レ樓賦レ詩、自レ爾名著。〔方輿勝覽〕岳陽樓、宋滕宗諒作而新レ之、范希文爲二之記一、蘇子美書丹、邵竦篆額、時稱二四絕一。㊁劇曲の名。元、馬致遠撰。呂眞人の事を演ず。〔元人百種曲〕。㊂金秀順の號。金岳陽（11－40152・・1212）を見よ。

【岳陽風土記】 54 ガクヤウフウドキ　書名。一卷。宋、范致明撰。門目を分たず、事に隨つて記載す。郡縣の沿革、川原の改易、故蹟の存亡等、考證詳細である。〔四庫提要、史、地理類〕。

【岳雷】 55 ガクライ　宋の人。飛の次子。官は忠訓郞・閤門祇候。武略郞を追贈せらる。〔宋史、三百六十五〕・〔宋史新編、一百二十九〕。

【岳嵐】 56 ガクラン　清、岳虞巒（63）を見よ。

【岳倫】 57 ガクリン　明、懷安衞の人。字は雲石。嘉靖の進士。官は行人。河南に使して餓死人が路に橫はるのを見、上疏して賦算を除き、粟を發して之を賑救せんと請ふ。又、抗疏して宰相の專擅を論じて齊東丞に謫せられ、工部郞に遷る。世宗南巡するや、疏諫して詔獄に下されたが、尋いで放還せらる。著に岳雲石集がある。〔國朝獻徵錄、五十一〕。

【岳霖】 58 ガクリン　宋の人。飛の第三子。官は朝散大夫・敷文閣待制。太中大夫を追贈せらる。〔宋史、三百六十五〕・〔宋史新編、一百二十九〕・〔南宋制撫年表、五十七〕。

【岳禮】 59 ガクレイ　清、滿洲正白旗人。姓は那木都魯氏。字は蕉園。康熙の擧人。官は陝西漢興道。書室を蘭雪堂といふ。詩文頗る多かつたが、子の先福、黃州に長官たりし時、殆ど燒亡す。後、聚集して蘭雪堂集を爲る。

【岳靈】 60 ガクレイ　山の神靈。〔沈約、鍾山詩應二西陽王教一〕靈山紀二地德一、險峭資二岳靈一。

【岳鄂王】 61 ガクガクワウ　宋、岳飛（42）をいふ。

【岳具仰】 62 ガクグギヤウ　明、延安の人。弱冠、教職に就く。官は四川瀘州の長官。貴州安酋の變に奇功を立て、後、光祿卿を贈らる。〔明史、二百四十九〕・〔明史稿、二百三十三〕。

【岳虞巒】 63 ガクグラン　清、武進の人。字は舜牧。官は明末に江西按察使。晚年易を好み、周易感義及び春秋平易二書を著す。明、亡ぶや、僧となり、名を岳嵐と改め、自ら東海衲民と號す。〔四庫提要、九〕。

【岳元聲】 64 ガクゲンセイ　明、嘉興の人。字は之初。號は石帆・潛初子。萬曆の進士。旌德縣の長官となり、剛直を以て稱せらる。國子監丞に遷り、良家の女を選んで宮に入れる弊風を諫止す。工部郞中に進み、三王の並封を爭ひ、又、關白の亂を極論して政府に忤ひ、籍を削られて歸る。天啓の初、起用せられて太僕卿を歷、南兵部侍郞に進んだが、魏忠賢が行つた不法の事を劾して罷めらる。著に聖學範圍圖がある。〔明詩綜、五十四〕。

【岳昇龍】 65 ガクシヨウリヨウ　清、臨洮の人。字は見之。諡は敏肅。吳三桂の反に王進寶に從つて臨洮を復し、功を以て遊擊參將となる。後、北征に扈從して噶爾丹を平げ、四川提督に累官して建昌涼山の諸蕃を征し、十萬戶を降す。〔清史稿、二百八十〕。

【岳鍾琪】 66 ガクシヨウキ　清、成都の人。昇龍の子。後、成都に籍す。字は東美。號は容齋・薑園。諡は襄勤。官は四川提督。後、太子少保・兵部尙書。威信公に封ぜらる。著に薑園集・蛩吟集がある。〔清史稿、三百二〕・〔清史列傳、十七〕・〔國朝先正事略、十四〕・〔碑傳集、一百十六〕。

【岳鍾璜】 67 ガクシヨウクワウ　清の人。鍾琪の從弟。字は呂端。諡は勤恪。乾隆の四川提督となる。〔清史稿、三百三〕・〔國朝耆獻類徵、二百八十三〕・〔國朝先正事略、十四〕。

【岳震川】 68 ガクシンセン　清、洋縣の人。字は一山。嘉慶の進士。官は內閣中書。書室を賜葛堂といふ。著に賜葛堂集がある。

【岳少保】 69 ガクセウホ　宋、岳飛（42）を見よ。

【岳仲明】 70 ガクチユウメイ　明、固始の人。洪武の初、汴に徙る。少くして清節多く、隱居して仕へず。嘗て親の墓側に廬を造つて喪に服すること六年、有司、孝廉の擧を以て屢〻召すも起たず、純孝先生の號を賜はる。〔明名人傳、二十九〕。

【岳東海】 71 タケトウカイ　三河の人。名は融。字は子陽。通稱は太仲。號は東海。享保三年歿す、年六十九。著に五穀古名考・四家雋注・荀子考・東海詩稿・東海文稿がある。〔近代著述目錄後篇〕。

【岳伯川】 72 ガクハクセン　元、濟南の人。或は鎭江の人といふ。樂府に巧。鐵拐李等の雜劇を作り、世に行はる。〔嘯餘譜〕。

【岳武穆】 73 ガクブボク　宋の忠臣、岳飛をいふ。武穆は諡。岳飛（42）を見よ。〔宋史、岳飛傳〕岳飛、字鵬

舉、云云、淳熙六年諡二武穆一、嘉定四年追二封鄂王一。〔副島蒼海、謁二岳武穆之廟一詩〕嗚呼岳公何早死、若不二早死一國之祉。

【岳武穆遺文】74 ガクブボクヰブン 書名。一卷。宋、岳飛撰。書錄解題には飛の集十卷と載せるが、今、傳はらず、此の本は明の徐階の編にかかる。〔四庫提要、集、別集類〕。

【岳夢淵】75 ガクボウエン 清、湯陰の人。字は嶼渟。號は水軒。乾隆の諸生。經濟の學を以て自負す。當時の諸財官爭つて奇士とし、延いて上客とす。書室を海桐書屋といふ。著に梅書屋詩鈔がある。〔國朝耆獻類徵、四百三十三〕。

【岳崇海豁】76 ヤマノゴトクタカクウミノゴトクヒロシ 山岳のやうに高く海洋のやうにひろい。功績の大なるさま。〔芳野金陵、新建二新田公祠堂一記〕其功烈岳崇海豁、於戲盛矣乎。

【岳希長官司】77 ガクキチヤウクヮンシ 司の名。明、置く。四川省茂縣の西。〔清史稿、地理志〕四川、茂州直隸州、土司六、岳希長官司。

【岳璘帖穆爾】78 ガクリンテフボクジ 元、回鶻の人。諡は莊簡。太祖に從つて戰功を立て、河南を平げ、宮女四人を賜はる。出でて順天等の路に鎭となり、德化を布く。〔元史、一百二十四〕。

【岴】8002

ク

嶇(4−8426)に同じ。〔集韻〕嶇、或作レ岴。

【岵】8003

コ ゴ 〔集韻〕後五切 ㄏㄨˋ hu^4 麌

小篆

㊀はやま。しげやま。草木の繁茂してゐる山。〔說文〕岵、山有二艸木一也、从レ山古聲、詩曰、陟二彼岵一兮。〔爾雅、釋山〕山多二草木一、岵。〔釋名、釋山〕山有二草木一曰レ岵、岵、怙也、人所三怙取以爲二事用一也。㊁はげやま。はだか山。〔詩、魏風、陟岵〕陟二彼岵一兮。〔傳〕山無二草木一曰レ岵。〔說文、岵、山有二艸木一也、段注〕有、當レ作レ無、釋山曰、多二草木一岵、云云、釋名曰、山有二草木一曰レ岵、云云、許書同二爾雅・釋名一、云云、而毛詩魏風傳曰、山無二草木一曰レ岵、云云、與二爾雅一互異、竊謂、毛詩所レ據爲レ長、岵之言、瓠落也、云云、岵有二陽道一、故以言レ父、無レ父何怙也、屺有二陰道一、故以言レ母、無レ母何恃也、毛又曰、父尙レ義、母尙レ恩、則屬辭之意可レ見矣、許宗レ毛者也、疑、有・無字、本同レ毛、後人易レ之。

【岵雲】1 コウン 清、耿人龍(9−29026··61)の號。

【岵岡】2 コカウ 清、史震林(2−3249··230)の字。

【岵瞻】3 コセン 字號。㊀清、秦休(8−24995··40)の號。㊁清、張嘉玲(4−9812··851)の字。

【陟レ岵陟レ屺】4 コニノボリキニノボル 遊子が親を思うて、屢山にのぼり父母の方を望むこと。〔詩、魏風、陟岵〕陟二彼岵一兮、瞻二望父一兮、云云、陟二彼屺一兮、瞻二望母一兮。〔故事成語考、祖孫父子〕遊子思レ親、陟レ岵陟レ屺。

【⿰山加】8004

カ ゲ 〔字彙〕具牙切 麻

山の多くつづくさま。〔字彙〕⿰山加、衆山森列貌。

【岶】8005

ハク ヒヤク 〔集韻〕匹陌切 陌

㊀山に草木の茂つてゐるさま。嵮岶。〔集韻〕岶、嵮岶、密皃。㊁或は泊(6−17275)・洦(7−17674)に作る。〔集韻〕岶、或作二泊・洦一。

【⿰山尼】8006

チ ニ 〔集韻〕女夷切 支

㊀山名。〔集韻〕⿰山尼、山名、顏氏禱二於⿰山尼丘一、生二孔子一。㊁或は屔(4−7714)に作る。〔集韻〕⿰山尼、或从レ丘。㊂通じて尼(4−7635)に作る。〔集韻〕⿰山尼、通作レ尼。

【岷】8007

ビン ミン 〔集韻〕眉貧切 ㄇㄧㄣˊ min^2 眞

（說文小篆）

（段注本小篆）

㊀山名。四川・甘肅兩省に跨がる山脈。もと⿱敯山(4−8455)に作る。〔正字通〕岷、說文本作レ⿱敯山。〔說文〕⿱敯山、山也、在二蜀湔氐西徼外一、从レ山敯聲。〔段注〕俗作レ岷。〔管子、霸形〕望二汶山一、〔注〕岷山、江水所二從出一。㊁川の名。岷江(6)の㊀を見よ。㊂崏(4−8170)・崏(4−8316)・汶(6−17168)・⿰山文(4−7932)・⿰山旻・⿱敯山(4−8290)に同じ。〔說文、⿱敯山、段注〕按、此篆省作レ崏、隸變作レ汶、作レ文、作レ⿰山文、作レ⿰山旻、俗作レ⿱敯山。〔集韻〕⿱敯山、或作二⿱敯山・岷・崏・汶一。

【岷雨】1 ビンウ 清、江濬源(6−17140··481)の字。

【岷益】2 ビンエキ 四川省地方の稱。岷は岷山・岷江一帶の地、益は州名、今の四川省成都府の地。〔陸機、辨亡論〕魏人據二中夏一、漢氏有二岷益一、吳制二荊揚一而奄二交廣一。〔南史、明僧紹傳〕泰始季年、岷益有二山崩一、淮水竭。

【岷越】3 ビンエツ 四川省地方と浙江省地方。岷は岷山・岷江の地方、越は古の吳越の地。〔何晏、景福殿賦〕惟岷越之不レ靜、寤二征行之未一レ寧。〔注〕善曰、岷越、吳蜀二境也。

【岷峨】4 ビンガ 岷山と峨眉山。〔周書、靜帝紀論〕雖レ復二岷峨一、投レ袂翻成二陵奪之威一。〔張謂、別二韋郎中一詩〕星軺計レ日赴二岷峨一、雲樹連レ天阻二笑歌一。

【岷峨集】5 ビンガシフ 書名。二卷。雪村友梅撰。蜀の山名に取つて名づく。友梅は、德治二年十八歲にして元に航し、諸方に遍歷修行す。嘗て蜀の成都岷峨の間に流竄せられ、具さに辛苦を嘗め、漂遊二十二年、元德元年、四十歲を以て東歸す。この集は大陸に漂遊中の詩を收錄したもので、上下二卷、二百二十餘首。其の內容は、七言絕句百三十餘首、七言律詩五十餘首、五言律詩、七言古詩、五言古詩等である。〔五山文學全集〕。

【岷江】6 ビンカウ ミンカウ 川の名。㊀源は四川省松潘縣の西北の岷山の羊膊嶺。南流して茂・汶川・成都・雙流・彭山・眉山・青神・樂山・犍爲の各縣を經て、宜賓縣に至つて江に入る。禹の導江は此から始るので、古來大江の正源といふ。又、汶江・都江・外水といふ。〔讀史方輿紀要、四川、大川〕岷江、出二岷山北一、經二松藩衞西一、又南經二疊溪所西一、復南流歷二茂州及威州一西折、而東南至二灌縣一、導流益多、包二落於成都府境一、而南入二眉州界一、經二州東一、又南歷二嘉定州東一、復東南流歷二敍州府城北一、又東北經二瀘州城東一、又東北歷二重慶府南一、又東經二涪州北一、復東北出經二忠州城南一、又東經二夔州府城南一、出二巫峽一而入二湖廣界一、志云、岷江、亦曰二汶江一、亦曰二都江一、亦曰二外水一、其在二州郡城邑閒一者、往往隨レ地立レ名、而都江・外水、則岷江之通稱也。㊁白龍江をいふ。上源を阿塢河といひ、甘肅省岷縣の西南の分水嶺に出る。俗に岷江といふ。又、臨江といふ。終に嘉陵江に入る。

【岷江綠】7 ビンカウリヨク 山東の憲吏曹明善が、大師伯顏が罪のない多くの人々を殺したことを諷して作つた詞曲。一に清江引と名づけ、俗に江兒水と稱す。〔輟耕錄、岷江綠〕大師伯顏擅レ權之日、剡王・徹徹都・高昌王・帖木兒・不花、皆以レ無レ罪殺、山東憲吏曹明善、時在二都下一、作二岷江綠二曲一以風レ之、大書揭二于五門之上一、伯顏怒令三左右暗察得二實肖形一捕レ之、明善出避二吳中一僧舍一、居數年、伯顏事敗、方再入レ京、其曲曰、長門柳絲千萬縷、總是傷レ心處、行人折二柔條一、燕子啣二芳絮一、都不下由二鳳城春一做上レ主、長門柳絲千萬結、風起花如レ雪、離別重離別、攀折復攀折、苦レ無レ多二舊時枝葉一也、此曲又名二清江引一、俗曰二江兒水一。

【岷江入楚】8（ミンガウニツソ） 書名。五十五卷。中院通勝撰。源氏物語の注釋書。書名の據つて來る所は、黃山谷の次韻答二邢敦夫一詩に岷江初濫レ觴、入レ楚乃無レ底とあるに本づく。「みんがうじつそ」「みんがうにふそ」とも訓む。

【岷岳】9（ビンガク） 岷山（21）をいふ。〔張華、武帝哀策文〕江海靜レ波、岷岳無レ塵。

【岷嶽】10（ビンガク） 明、江以東（**6－17140**‥454）の號。

【岷漢】11（ビンカン） 岷江（6）の㊀と漢水（**7－18153**‥152）。又、二川の流域の地。〔晉書、羊祜傳〕今江淮之難、不レ過二劍閣山川之險一、不レ過二岷漢一、孫皓之暴、侈二於劉禪一。〔宋書、謝莊傳〕殿下親董二銳旅一授レ律、繼進二荊鄢之師一、岷漢之衆、舳艫萬里、旌旆虧レ天。

【岷丘】12（ビンキウ） 岷山（21）をいふ。〔庾信、周車騎將軍賀婁公神道碑〕作二鎭岷丘一、揚二旆錦水一、白虎之俗難レ安、黃龍之盟不レ定。

【岷邛】13（ビンキヨウ） 岷山（21）と邛水（**11－39288**‥12）。〔晉書、左思傳〕詣二著作郎張載一、訪二岷邛之事一、遂構レ思十年。

【岷棘】14（ビンキヨク） 岷山の草木の茂つた處。〔王僧孺、白馬篇〕飛鞚出二秦隴一、長驅繞二岷棘一。

【岷廓】15（ビンクワク） 岷山のめぐり。〔唐書、吐蕃傳下〕居二甘肅瓜沙河渭岷廓疊宕閒一、其近二于蕃牙一者、最爲二強勇一、而馬尤良云。

【岷徼】16（ビンケウ） 四川省と甘肅省との境の邊。岷山は四川・甘肅の境に在る。徼は邊境。〔王勃、靈瑞寺浮圖碑〕旅二遊岷徼一、漂二擧涪鄉一。〔吳筠、慈竹賦〕俄轉二蓬于岷徼一、遂萍二流于江汜一。

【岷峽】17（ビンケフ） 岷山の谷あひ。〔鄭震、鄂州南樓詩〕浪濤江漢出二岷峽一、洞庭雲夢天共流。

【岷縣】18（ビンケン） 縣名。民國、置く。西魏が岷州を置いた所。甘肅省武山縣の西。洮河の南岸、岷峨山の西。

【岷谷】19（ビンコク） 甲斐慤の號。甲斐岷谷（**7－21725**‥110）を見よ。

【岷左】20（ビンサ） 清、朱嘉徵（**6－14424**‥689）の字。

【岷山】21（ビンザン） ㊀山名。又、汶山（**6－17168**‥4）に作る。岷山の名は既に書經の禹貢に見えてゐるが、其の所在地に就いては、大約五說ある。〔廣雅、釋山〕蜀山、謂二之岷山一。〔書、禹貢〕岷山之陽、至二于衡山一。〔淮南子、說山訓〕江出二岷山一、河出二崑崙一。〔孔子家語、三恕〕夫江始出二於岷山一、其源可二以濫一レ觴。㋑四川省松潘縣の東南に在りとする說。〔史記、封禪書〕自レ華以西名山七、有二瀆山一、蜀之汶山也。〔漢書、地理志上〕岷山、在二湔氏道西徼外一、江水所レ出。〔水經、江水注〕岷山、在二蜀郡氏道縣一。〔注〕岷山、卽瀆山也。〔華陽國志〕岷山、一名汶焦山、其跗曰二羊膊一、江水所レ出。〔隋書、地理志上〕汶山郡、左封、有二汶山一。㋺四川省茂縣に在りとする說。縣は古の冉駹國。漢の汶山郡汶江縣。隋、汶山縣と改む。〔水經、江水注〕江水、逕二汶江道汶一、出二徼外崏山西玉輪坂下一而南行。〔元和志〕汶山縣有二汶山一、卽岷山、去二青城山一百里、天色清明、望二見成都一、卽隴山之南首。〔張栻、西岳碑〕岷山、在二茂州列鶩村一、其跗曰二羊膊一也。〔輿地廣記〕岷山、在二汶山縣西北一、俗謂二之鐵豹嶺一。㋩四川省灌縣に在りとする說。縣は漢の緜虒・郫・江原の三縣の地。後周、江原縣を分つて青城縣を置く。〔杜光庭、成都記〕岷山、連峯接レ岫、千里不レ絕、灌縣青城山、乃其第一峯也。〔灌縣志〕汶山、在二縣北三十里一。㋥甘肅省岷縣に在りとする說。縣は漢の隴西郡の地。西魏、溢樂縣を置く。今の縣治は卽ち其の故城。〔元和志〕岷山、在二溢樂縣南一里一。〔括地志〕岷山、在二岷州溢樂縣南一、連綿至レ蜀、幾二千里、皆名二岷山一。㋭岷山山脈をいふとする說。㊁を見よ。〔禹貢錐指〕岷山最大、志家各就二其所一レ在言之、陸游曰、自二蜀郡之西一、大山廣谷、谽谺起伏、西南走二蠻箐中一、皆岷山也、薛季宣曰、今自二岷洮松疊一以南、其大山峻嶺、班班可レ考者、皆岷山之隨レ地立レ名者耳、此說是也、觀二漢志一云、山在二徼外一、則固不レ可下以二湔氏一縣一限上レ之矣、大抵、岷山北起二於溢樂一、實跨二古雍州境一、而南則訖二於青城一、綿地千餘里、與二太行一伯仲、或專指在二松潘一、亦非二篤論一。㊁山脈の名。巴顏哈喇山脈の東北から分出して、岷江の出でる所。山の主脈は、分れて二派となり、一派は岷江を夾んで南下す。之を岷山山脈といふ。中間の山頂を青城山・邛崍山といひ、其の南端に峨嵋山がある。連峯千里、四時積雪があるので雪山と稱す。又、一派の東行するものを巴山山脈といひ、山頂を左擔山・劍山といひ、其の南端に巫山十二峯があり、三峽の險をなす。㊂中江一貫の號。中江岷山（**1－73**‥77）を見よ。

【岷山丹】22（ビンザンタン） 仙藥の名。〔雲笈七籤〕岷山丹、服レ之不レ死、百日、盲者能視、百病卽愈。

【岷山耦耕】23（ビンザングウカウ） 宋、黃大輿（**12－47926**‥1222）の號。

【岷自】24（ビンジ） 明、孫江（**3－6987**‥30）の字。

【岷州】25（ビンシウ） 州名。西魏、置く。秦の隴西郡。民國、縣に改む。今の甘肅省岷縣。〔讀史方輿紀要、陝西〕岷州衞、禹貢雍州地、後爲二西羌所一レ居、秦屬二隴西郡一、漢晉因レ之、西魏始置二岷州及同和郡一。〔清史稿、地理志〕甘肅、鞏昌府、州一、岷州。

【岷蜀】26（ビンシヨク） 四川省地方をいふ。岷は岷山岷江一帶の地、蜀は四川省成都府の古稱。〔劉子新論、愼言〕地分二三晉一、土割二岷蜀一。〔魏書、張袞傳〕西有二不賓之羌一、南有二逆命之虜一、岷蜀殊レ風、遼海異レ教。〔李白、讀二諸葛武侯傳一詩〕武侯立二岷蜀一、壯志呑二咸京一。

【岷水】27（ビンスイ） 岷江（6）の㊀をいふ。〔李乂、招諭有レ懷贈二同行人一詩〕蜀山自紛糾、岷水恆奔注。

【岷精】28（ビンセイ） 岷山の精。〔郭璞、江賦〕若下乃岷精垂二曜於東井一、陽侯遯中形乎大波上。〔注〕善曰、河圖括地象曰、岷山之精、上爲二井絡一。

【岷樵】29（ビンセウ） 清、江忠源（**6－17140**‥491）の字。

【岷瀆】30（ビントク） 岷江と江・河・淮・濟の四瀆。瀆は四大川の總稱。〔魏書、張倫傳〕陛下方欲下禮二神岷瀆一、致二禮衡山一、登二稽嶺一、窺中蒼梧上。

【岷南】31（ビンナン） 岷山の南。四川省の一部にあたる。〔歐陽詹、送下高士安下第歸二岷南一寧覲上詩〕偕隱有二賢親一、岷南四十春。

【岷巴】32（ビンパ） 四川省地方をいふ。岷は岷山岷江一帶の地方、巴は古の郡名で、今の四川省重慶地方。〔孔武仲、子瞻畫二枯木一詩〕公今好尙何太癖、曾載二木車一出二岷巴一。

【岷波】33（ビンパ） 岷江の波。〔盧照鄰、樂府雜詩序〕雲飛二綺札一、代郡接二于蒼梧一、泉湧二華篇一、岷波連二于碣石一。

【岷嶓】34（ビンパ） 二山の名。岷は岷山。嶓は嶓冢山、陝西省にあつて漢水の出る所。〔書、禹貢〕岷嶓既藝、沱潛既道。〔傳〕岷山・嶓冢、皆山名。〔張載、劍閣銘〕遠屬二荊衡一、近綴二岷嶓一。〔宋之問、太平公主山池賦〕壯岷嶓兮連屬、鬱氛氳兮斷續。

【岷峯】35（ビンボウ） 岷山の峰。〔駱賓王、疇昔篇〕蜀路何悠悠、岷峯阻且修。

【岷嶺】36（ビンレイ） 岷山の峯。〔張說、再使二蜀道一詩〕青春客二岷嶺一、白露搖二江服一。〔杜甫、送三舍弟頻赴二齊州一詩〕岷嶺南蠻北、徐關東海西。

【岷隴】37（ビンロウ） 岷山の小高い處。〔晉書、華譚傳〕蜀棲二岷隴一、吳據二江表一。

【岷莊王】38（ビンサウワウ） 明、朱楩（**6－14424**‥545）の封諡號。

【岷隱先生】39（ビンインセンセイ） 宋、戴溪（**5－11685**‥53）の尊稱。

【岷陽大布衣】40（ビンヤウタイフイ） 清、孫錤（**3－6987**‥61）の尊稱。

【⿰山甘】8008 カン 〔集韻〕沽三切 覃

山名。〔集韻〕⿰山甘、山名。

【岸】8009 ガン 〔集韻〕魚旰切 翰 ㄢˋ an^4

岸（小篆）

㊀**きし**。**がけ**。水涯。屵（**4－7882**）に通ず。〔說文〕岸、水厓洒而高者、从レ屵干聲。〔段注〕洒、卽陵之假借、高峻也。〔說文通訓定聲〕岸、段借爲レ屵。〔爾雅、釋丘〕望二厓洒而高一、岸。〔注〕視二厓峻而水深者一曰レ岸。〔詩、衞風、氓〕淇則有レ岸。〔荀子、宥坐〕三尺之岸、而虛車不レ能レ登也。〔注〕岸、崖也。㊁**きはだつ**。**かどだつ**。〔漢書、江充傳〕充爲レ人魁岸、容貌甚壯。〔注〕師古曰、岸者、有下廉稜如二崖岸一之形上。㊂**た**

かい。〔小爾雅、廣詁〕岸、高也。㊃**高い位**。〔詩、大雅、皇矣〕誕先登二于岸一。〔傳〕岸、高位也。〔疏〕岸、是高地、故以喩二高位一。㊄**きだ**。**きざはし**。階段。〔張衡、西京賦〕襄岸夷塗。〔注〕向曰、岸、殿階也。㊅**うつたへる**。訴訟する。豻(10－36501)・犴(7－20250)に通ず。〔說文通訓定聲〕岸、叚借爲レ豻。〔詩、小雅、小宛〕宜レ岸宜レ獄。〔傳〕岸、訟也。〔釋文〕岸、韓詩作レ犴。〔周禮、夏官、射人、射二豻侯一注〕讀如二宜レ豻宜レ獄之豻一。㊆**うつたへ**。訴訟。〔詩、大雅、皇矣〕誕先登二于岸一。〔箋〕岸、訟也、云云、欲三廣二大德美一者、當下先平二獄訟一正中曲直上也。㊇**ひとや**。宿驛にある牢。〔詩、小雅、小宛、宜レ岸宜レ獄、釋文〕韓詩作レ犴、音同、云、鄉亭之繫曰レ犴、朝廷曰レ獄。〔集傳〕岸、亦獄也。㊈**額をあらはす**。岸幘。〔正字通〕岸、露レ額曰レ岸。

【岸翁】1（ガンヲウ）　清、李楷(6－14459··103)の字。

【岸曲】3（ガンキヨク）　きしのくま。岸の深く入りこんだ所。汀曲。〔徐摛、壞橋詩〕岸曲危梁阻、何時香步歸。〔李白、月夜江行寄二崔員外宗之一詩〕岸曲迷二後浦一、沙明瞰二前洲一。〔白居易、詠興五首、池上有二小舟一詩〕岸曲舟行遲、一曲進二一觴一。

【岸巾】4（ガンキン）　頭巾を脫いで額を露はすこと。岸幘(11)に同じ。〔唐書、宋璟傳〕帝怒、岸巾出二側門一。

【岸闊】5（キシヒロシ）　河幅がひろい。〔青山鐵槍齋、大八洲遊記、西條山〕岸闊水淺。

【岸傑】6（ガンケツ）　體軀が大がらで逞しい。大兵。魁傑。偉岸。魁岸豪傑。〔左思、吳都賦〕其居則有二高門鼎貴、魁岸豪傑、虞魏之昆、顧陸之裔一。

【岸谷】7（ガンコク）　岸と谷。〔羅隱、漢江上作詩〕雲生二岸谷一秋陰合、樹接二帆檣一晚思來。〔貫休、寶禪師見レ訪詩〕山兄心似レ我、岸谷亦難レ交。

【岸獄】8（ガンゴク）　ひとや。牢屋。鄉亭にあるを岸、朝廷にあるを獄といふ。〔詩、小雅、小宛〕哀我塡寡、宜レ岸宜レ獄。〔集傳〕岸、亦獄也、韓詩作レ犴、鄉亭之繫曰レ犴、朝廷曰レ獄。

【岸忽】9（ガンコツ）　志が高く、一切を蔑視すること。ゐばりさげすむ。〔唐書、魚朝恩傳〕朝恩資二小人一、恃レ功岸忽無レ所レ憚。

【岸齋】10（ガンサイ）　清、張鴻烈(4－9812··1047)の號。

【岸幘】11（ガンサク）　頭巾を上へあげて額をあらはすこと。岸は高で、頭巾を上後方に高くあげれば、額があらはれる。轉じて、禮法を無視し、なれなれしく對面する態度。一說に、岸はあらはす。又、卑賤で冠しない者の頭巾。幘は巾。岸巾。〔晉書、謝奕傳〕岸幘笑詠、無レ異二常日一。〔十八史略、東漢、光武帝〕上自二殿廡下一、岸幘迎笑曰、卿遨二遊二帝閒一、今見レ卿使二人大慚一。〔注〕露レ額曰レ岸。〔李白、宣城九日云云醉後寄二崔侍御一詩〕日暮岸幘歸、傳呼隘二阡陌一。

【岸芷】12（ガンシ）　岸べのよろひぐさ。岸芷汀蘭を見よ。

【岸芷汀蘭】13（ガンシテイラン）　岸の芷と、汀の蘭。芷も蘭も共に香草。〔范仲淹、岳陽樓記〕岸芷汀蘭、郁郁青青。

【岸上】14（ガンジヤウ）　きしの上。きしべ。〔宋書、五行志二二〕百姓於二岸上一歌曰。〔庾信、和二江中賈客一詩〕懸知岸上人、遙振江中鼓。〔陸龜蒙、江南詩〕村邊紫豆華垂次、岸上紅梨葉戰初。〔李白、贈二王倫一詩〕李白乘レ舟將欲レ行、忽聞岸上踏歌聲。

【岸垂】15（ガンスイ）　きしべ。〔張協、雜詩〕投レ耒循二岸垂一、時聞二樵采音一。

【岸勢】16（ガンセイ）　岸のありさま。〔柳宗元、至二小丘西小石潭一記〕其岸勢、犬牙差互、不レ可レ知二其源一。

【岸峭】17（ガンセウ）　きしがけはしく聳えてゐる。〔宋書、胡蕃傳〕江津岸峭、壁立數丈。

【岸前】18（ガンゼン）　きしのまへ。〔林滋、陽冰賦〕乍瑩二洪濤之末一、時明二綠岸之前一。

【岸側】19（ガンソク）　きしぎは。岸のそば。〔後漢書、董卓傳〕餘人或匍二匐岸側一。〔白居易、畫竹歌詩〕野塘水邊碕岸側、森森兩叢十五莖。

【岸塘】20（ガンタウ）　清、孔尙任(3－6933··319)の號。

【岸道】21（キシミチ）　岸べにあるみち。〔保元物語、新院遷幸事〕住の江のきし道。

【岸亭】22（ガンテイ）　地名。河南省許昌縣の西北。一說に、岸門・岸頭亭をいふ。〔史記、魏世家、走二犀首岸門一、注〕集解曰、徐廣曰、潁陰有二岸亭一、索隱曰、劉氏云、河東皮氏縣、有二岸頭亭一也。〔後漢書、郡國志二二〕潁陰有二岸亭一。〔水經、潩水注〕潩水、又逕二東西武亭閒一、兩城相對、疑是古之岸門、史遷所謂走二犀首于岸門一者也、徐廣曰、潁陰有二岸亭一、未レ知二是否一。

【岸荻】23（ガンテキ）　岸べのをぎ。〔徐陵、新亭送別應令詩〕野燎村田黑、江秋岸荻黃。

【岸頭】24（ガントウ）　㊀岸のほとり。きしべ。岸畔。岸邊。〔薛能、蒲中霽後晚望詩〕河邊霽色無二人見一、身帶二春風一立二岸頭一。〔白居易、寄二題餘杭郡樓一詩〕北郭沙堤尾、西湖石岸頭。㊁地名。山西省河津縣の南。漢の張次公、岸頭侯に封ぜらる。〔史記、衛將軍驃騎傳〕青校尉張次公有レ功、封爲二岸頭侯一。〔讀史方輿紀要、山西、平陽府、蒲州、河津縣〕岸頭亭、在二縣南一、古岸門也、史記、秦孝公二十四年、與レ晉戰二岸門一、虜二其將魏錯一、又、惠文王後十二年、敗二韓於岸門一、斬首十萬、魏世家、襄王五年、秦使三樗里子伐二取我曲沃一、走二犀首岸門一、劉昫曰、皮氏有二岸頭亭一、是也、漢武封二衛青校尉張次公一、爲二岸頭侯一、卽此。

【岸舫】25（ガンバウ）　清、程滂(8－25081··120)の號。

【岸畔】26（ガンパン）　岸のあたり。きしべ。岸頭。〔宋史、河渠志六〕復治二岸畔一、疏爲二塘坡一以蓄レ水、使三負郭無二旱歲一。

【岸風】27（ガンプウ）　岸邊を吹く風。〔杜甫、泊二岳陽城下一詩〕岸風翻二夕浪一、舟雪灑二寒燈一。

【岸壁】28（ガンペキ）　㊀海港、又は河岸に施設せられた石、又はコンクリート造りの擁壁。船舶をこれに接著・繫留し、船貨を積卸し、乘客を昇降させる。㊁けはしく切りたつた岸。

【岸邊】29（ガンペン）　岸のほとり。きしべ。岸頭。〔蜀志、許靖傳〕靖身坐二岸邊一、先載二附從疎親一、悉發乃從レ後去。〔白居易、和二春深二二十首詩〕蘭亭席上酒、曲洛岸邊花。〔羅鄴、聞三友人入二越幕一因以レ詩贈詩〕岸邊叢菊晴香老、波上長虹晚影遙。

【岸圃】30（ガンポ）　清、宋和(3－7078··64)の號。

【岸崩】31（ガンポウ・ガンホウ）　岸がくづれる。〔史記、外戚世家、竇太后〕岸崩、盡壓二殺臥者一。〔漢書、王莽傳中〕長平館西岸崩。

【岸門】32（ガンモン）　地名。山西省河津縣の南。一說に、岸頭亭をいふ。〔史記、秦紀〕惠文王後十一年、敗二韓岸門一。〔史記、魏世家〕哀王五年、秦使三樗里子伐二取我曲沃一、走二犀首岸門一。〔注〕索隱曰、劉氏云、河東皮氏縣、有二岸頭亭一。

【岸蘆】33（ガンロ）　岸べのあし。〔柳宗元、同二劉二十八院長一云云奉二寄張員外一詩〕岸蘆翻二毒蜃一、磎竹鬭二狂犘一。

【登レ岸】34（キシニノボル・ガンニノボル）　㊀岸の上に登る。〔晉書、五行志中〕太安元年、丹陽湖熟縣夏架湖有二大石一、浮二二百步而登レ岸、民驚噪相告曰、石來。㊁高い位に就くこと。〔詩、大雅、皇矣〕誕先登二于岸一。〔傳〕岸、高位也。㊂獄訟を公平にすること。登は成、岸は訴訟。〔詩、大雅、皇矣、箋〕登、成、岸、訟也、云云、當下先平二獄訟一正中曲直上也。

【岸嶰谷】35（キシカイコク）　武藏國の人。名は鳳質。字は文卿。號は嶰谷。文政頃の人。著に嶰谷詩集・續嶰谷詩集・溪雲軒和歌集・禪海珍寶・禪偈礎・禪蒙求・續一華五葉・扶桑蒙求がある。〔慶長以來諸家著述目錄〕・〔國書解題〕。

【岸堂主人】36（ガンダウシユジン）　清、孔尙任(3－6933··319)の號。

【斬レ岸堙レ谿】37（キシヲキリタニヲウヅム）　岸をほり谷をうづめる。圖られるとは知らず、相手が自分を滅すに都合のよいことをしてやる喩。戰國時代の夙繇の君の故事。〔呂覽、權勳〕中山之國、有二夙繇者一。智伯欲レ攻レ之而無レ道也、爲レ鑄二大鐘一、方車二軌一以遺レ之。夙繇之君、將レ斬レ岸堙レ谿以迎レ鐘。

【岺】 8010　レイ　岭(4－7993)に同じ。〔集韻〕岭、或作レ岺。

【⿶凵山】 8011　ガク　嶽(4－8566)の古字。〔說文〕嶽、⿶凵山、古文象二高形一。

【⿱山支】 8012　キ　岐(4－7936)に同じ。〔字彙補〕⿱山支、與レ岐同。

【⿱罒山】 8013　カウ　岡(4－7962)に同じ。〔篇海類編〕⿱罒山、同レ岡。

【岙】8014 レン 〔龍龕手鑑〕陵延切 [先]

山名。〔龍龕手鑑〕岙、山名。

【峀】8015 ハウ 邦(**11**－**39310**)の古字。〔韻會小補〕峀、古邦字。

【妛】8016 サイ 義未詳。〔龍龕手鑑〕妛、音歳。

【岻】8017 ㈠チ ニ 〔廣韻〕直尼切 [支] ㈡テイ タイ 〔集韻〕都黎切 [齊]

㈠**山名。**〔廣韻〕岻、山名。㈡縞岻は、山名。〔集韻〕岻、縞岻、山名、在二青州一。

【峒】8018 シ 司(**2**－**3257**)の俗字。山名に用ひる。峒峿を見よ。

【峒峿】1 ゴシ ❶山名。江蘇省宿遷縣の北。一に、司吾山に作り、又、司鎭山といふ。漢、司吾縣を置く。〔讀史方輿紀要、江南、淮安府、邳州、宿遷縣〕峒峿山、在二縣北七十里一、上有二石洞一、泉流不レ竭、宋紹興中、首領張榮、屯レ此以拒二金人一、志云、縣西北十里。❷鎭の名。漢の司吾縣。江蘇省宿遷縣の峒峿山の下。〔漢書、地理志上〕東海郡、司吾、莽曰二息吾一。

六畫

【峆】8019 カフ ゴフ 〔集韻〕曷閤切 [合]

山のさま。峆㟗。〔集韻〕峆、峆㟗、山皃。

【峇】8020 カフ コフ 〔集韻〕渴合切 [合]

❶**山の形。**〔集韻〕峇、山形。❷**山のほら穴。**〔字彙〕峇、山窟也。❸峆(**4**－**8019**)に同じ。〔正字通〕峇、一說同レ峆。

【峇廬山人】1 カフロサンジン 清、謝乃實(**10**－**35827**・・317)の號。

【峈】8021 ラク 〔集韻〕歷各切 [藥]

峈嶧は、山のさま。〔集韻〕峈、峈嶧、山皃。

【峉】8022 ガク ギャク 〔集韻〕鄂格切 [陌]

❶**山の高大なさま。**〔集韻〕峉、山高大皃。〔楚辭、王逸、九思、憫上〕山峊兮峉峉。〔補注〕峉、音額、山高大貌。❷峔峉は、山の高低あるさま。〔嵇康、琴賦〕峔峉嶇崟。〔注〕良曰、並山峻而不レ齊皃。❸或は嶺(**4**－**8584**)に作る。〔集韻〕峉、或从レ額。

名乘 ツラ。

【峊】8023 フ 自(**11**－**41535**)・阜(**11**－**41534**)に同じ。〔集韻〕自、或作二峊・阜一。

【峕】8024 ゲツ・ガイ 𡴳(**4**－**7845**)に同じ。

參考 說文に從へば、𡴳に作るべきであるが、今、康熙字典に從つて兩存する。字解は𡴳(**4**－**7845**)を見よ。

【𡵖】8025 カウ 岡(**4**－**7962**)の本字。〔正字通〕𡵖、岡本字。

【𡶞】8026 ケイ ギャウ 〔集韻〕乎經切 [青]

山名。〔集韻〕𡶞、山名。

【𡶬】8027 シャウ ザウ 〔集韻〕徐羊切 [陽]

山名。〔集韻〕𡶬、山名。

【峋】8028 シュン 〔集韻〕須倫切 [眞] ㄒㄩㄣˊ hsün²

小篆

❶**極めて奥ふかいさま。**嶙峋。〔說文新附〕峋、嶙峋也、从レ山旬聲。〔集韻〕峋、嶙峋、深無レ厓皃。❷**山の形。**嶙峋。〔集韻〕峋、嶙峋、山形。❸**次序階級あるさま。**山の起伏あるさまにいふ。嶙峋。〔字彙〕峋、節級貌、言三山有二起伏一也。〔漢書、揚雄傳上〕岭嶒嶙峋。〔注〕師古曰、嶙峋、節級貌。

【峌】8029 テツ デチ 〔集韻〕徒結切 [屑]

❶峌峴は、高いさま。〔木華、海賦〕峌峴孤亭。〔注〕善曰、峌峴、高貌。❷**山のさま。**嵽(**4**－**8391**)・嵲(**4**－**8248**)・嶅(**4**－**8392**)に同じ。〔集韻〕嵽、山皃、或从レ窒、从レ室、亦省。

【峔】8030 アウ 坧(**3**－**4884**)の譌字。〔正字通〕峔、坧字之譌。

【峍】8031 ロツ 硉(**8**－**24271**)に同じ。〔集韻〕硉、或作レ峍。

【㟪】8032 ㈠ガウ 〔集韻〕吾江切 [江] ㈡ゴウ グ 〔集韻〕五公切 [東]

㈠❶崆㟪は、山のけはしいさま。〔集韻〕㟪、崆㟪、山峻。〔張衡、南都賦〕其山則崆㟪嶱嵑。〔注〕善曰、崆㟪・嶱嵑、山石高峻之貌。〔韓愈、贈二張籍一詩〕詎敢陵二崆㟪一、叶二上尨下椿一。❷或は嵸(**4**－**8466**)に作る。〔集韻〕㟪、或作レ嵸。㈡崆㟪は、山の高いさま。〔集韻〕㟪、崆㟪、山高皃。

【峎】8033 ゴン 〔集韻〕魚懇切 [阮]

山名。〔集韻〕峎、山名。

【峎崿】1 ゴンガク 山のきし。がけ。〔錢惟演、春雪賦〕二室僅有二乎峎崿一。

【峏】8034 ジ ニ 〔集韻〕人之切 [支]

山名。〔集韻〕峏、山名。

【𡶴】8035 セイ サイ 〔集韻〕思計切 [霽]

山名。〔集韻〕𡶴、山名。

【峐】8036 ㈠カイ 〔集韻〕柯開切 [灰] ㈡キ 〔集韻〕口已切 [紙]

㈠**はげ山。**草木のない山。〔集韻〕峐、爾雅、山無二草木一曰レ峐。㈡**はげ山。**屺(**4**－**7891**)に同じ。〔集韻〕屺、說文、山無二屮木一也、或作レ峐。

【峐瞻】1 カイセン 清、何焯(**1**－**511**・・100)の字。

【峐湯】2 ハゲユ 肥後國に在る溫泉。

【峑】8037　セン　〔集韻〕逡緣切　先

山のいただき。〔集韻〕峑、山頂也。

【峒】8038

㊀トウ　ヅ　〔集韻〕徒東切　ㄊㄨㄥˊ　t'ung^2　東

㊁トウ　ヅ　〔集韻〕徒弄切　送

㊂トウ　ヅ　〔集韻〕杜孔切　董

慣ドウ

㊀崆峒は、山名。古、北斗星の下に在ると稱せられた名山。〔集韻〕峒、崆峒、山名。㊁❶**山の高低あるさま。**〔集韻〕峒、山嵾嵳不レ齊也。❷**山のほら。**洞(**6**－17386)に通ず。〔集韻〕峒、一曰、山穴、通作レ洞。❸**蠻人の居る處。**特に西南中國の蠻人(主として苗族)の居る處をいふ。峒猺を見よ。㊂**山のほら。**〔集韻〕峒、山穴。

【峒猺】1（ドウエウ）　西南地方の山間に居る苗族の一種。〔桂海虞衡志、志器〕蠻弩、諸峒猺及西南諸蕃、其造作畧同、以ニ硬木一爲ニ弓椿一甚短。

【峒官】2（ドウクヮン）　官吏になつた峒猺。〔宋史、西南溪峒蠻傳下〕沅州生界犵狑副峒官吳自由子三人、貨ニ丹砂麻陽一、縣巡檢唐人傑、誣爲レ盜、執レ之送レ獄、自由率ニ峒官楊友祿等一、謀レ爲レ亂。

【峒穴】3（ドウケツ）　峒猺蠻族の住む穴。〔宋史、楊畋傳〕今使下飽ニ貲糧一據中峒穴上、其勢不レ久、必復亂。

【峒戸】4（ドウコ）　峒蠻の族。〔宋史、熊本傳〕民蔡寶玨扇ニ龍蕃與ニ峒戸一相仇殺、欲ニ引レ兵致レ討以爲レ功、本質レ之色動、縛而投ニ之海一。

【峒岫】5（ドウシウ）　崆洞山(**4**－8146・・2)のほらあな。峒嶺(12)を見よ。〔王勃、九成宮頌〕千靈電驚、萬辟風趨、鈞臺有レ問、峒岫無レ虞。

【峒將】6（ドウシヤウ）　峒猺蠻の大將。〔宋史、張守約傳〕峒將吳儂恃レ險爲ニ邊患一。

【峒人】7（ドウジン）　西南中國に住む蠻人の一種。峒猺。〔峒谿纖志〕峒人以レ苗爲レ姓、好レ爭喜レ殺、在ニ石阡朗溪司一者、多類ニ漢人一、粵西有ニ峒人一、彈ニ胡琴一、吹ニ六管一、女善ニ漢音楚歌一。

【峒丁】8（ドウテイ）　峒蠻の壯丁。峒兵。〔許渾、題ニ峽川寺一詩〕峒丁多斲レ石、蠻女半淘レ金。〔宋史、高宗紀二〕詔ニ江西・閩・廣・荊・湖諸路一、團教ニ峒丁槍杖手一。〔宋史、職官志三〕團結以禦レ戎、爲ニ峒丁一。

【峒兵】9（ドウヘイ）　峒丁に同じ。〔宋史、廣源州蠻儂氏傳〕發ニ峒兵一入ニ特磨一掩ニ襲之一。

【峒民】10（ドウミン）　峒蠻の族。〔宋史、西南溪峒蠻傳下〕宜章峒民駱科作レ亂、寇ニ郴道一連ニ桂陽諸州縣一、詔發ニ大兵一往討レ之。

【峒陽】11（ドウヤウ）　崆峒山(**4**－8146・・2)の南。〔張斛、詩〕目斷ニ峒陽路一、歸雲不レ可レ攀。

【峒嶺】12（ドウレイ）　崆峒山(**4**－8146・・2)の峰。〔王勃、九成宮頌序〕文開ニ遁甲一、仇峰城ニ蒼后之纏一、樂奏ニ鈞天一、峒嶺駐ニ黃軒之駕一。

【峒獠】13（ドウレウ）　獠蠻をいふ。西南地方の山間に棲む蠻族。〔宋史、冷應徵傳〕應徵知ニ德慶府一、前守政不レ立、縱ニ豪吏漁獵一、峒獠遂大爲レ變、偪レ城六十里而營、應徵未レ入レ境、馳レ檄諭レ之。

【峒路】14（ドウロ）　峒蠻の居る處のみち。〔宋史、喬執中傳〕章惇討ニ五溪一、檄ニ執中一取ニ大田離子二峒一、峒路險絕、期迫、執中但走ニ一校一諭ニ其酋一、即相率歸レ命。

【峒谿纖志】15（ドウケイセンシ）　書名。三卷。志餘一卷。清、陸次雲撰。上卷は峒谿羣言考、中卷は蠻獠志、下卷は滇中峒谿の產物。志餘は蠻中の歌謠。〔龍威祕書、第五十二冊〕・〔說鈴、第十四冊〕。

【峝】8039　トウ　ヅ　〔字彙補〕徒弄切　ㄉㄨㄥˋ　tung^4　送

えびすの名。苗族の類。〔字彙補〕峝、峝人、苗類、一曰ニ峝蠻一、見ニ諸苗考一。

【峓】8040　イ　〔廣韻〕以脂切　支

嵎峓は、山名。通じて夷(**3**－5852)に作る。〔廣韻〕峓、嵎峓、山名、書作ニ嵎夷一、傳云、東表之地。

【峔】8041　ボ　モ　〔集韻〕滿補切　麌

山名。〔集韻〕峔、山名、在ニ丹陽一。

【𡶲】8042　ボ

峔(**4**－8041)に同じ。〔正字通〕𡶲、同レ峔。

【峵】8043　リン　〔字彙〕良愼切　震

山名。〔字彙〕峵、山名。

【𡶴】8044

㊀タ　〔集韻〕都果切　哿

㊁タ　〔集韻〕都唾切　箇

㊀**山のさま。**崜(**4**－8187)に同じ。〔集韻〕崜、山兒、或从レ朶。㊁**山のさま。**㊀に同じ。〔集韻〕𡶴、山兒。

【峕】8045　シ

旹(**5**－13773)の譌字。〔正字通〕峕、旹字之譌。

【岳】8046　ガク

嶽(**4**－8566)の古字。〔集韻〕嶽、古作レ岳。

【峖】8047

㊀アン　〔集韻〕於寒切　寒

㊁アン　〔集韻〕於旰切　翰

㊂アツ　アチ　〔集韻〕阿葛切　曷

㊀㊁㊂**山名。**〔集韻〕峖、山名。

【峗】8048

㊀ギ　〔集韻〕虞爲切　支

㊁グヮイ　ゲ　〔字彙〕五回切　灰

㊂グツ　グチ　〔集韻〕魚屈切　物

㊃ギ　〔集韻〕五委切　紙

㊄キ　〔集韻〕古委切　紙

㊀❶**山名。**三峗。或は峞(**4**－8049)に作り、通じて危(**2**－2849)・𡵀(**4**－7901)に作る。〔集韻〕峗、三峗、山名、在ニ鳥鼠西一、或書作レ峞、通作ニ危・𡵀一。❷**姓。**〔萬姓統譜〕峗、山名、見ニ姓苑一。㊁**たかい。**〔字彙〕峗、高也。㊂峗崒は、山のさま。或は屼(**4**－7897)に作る。〔集韻〕峗、峗崒、山兒、或从レ兀。㊃峻峗は、山のさま。〔集韻〕峗、峻峗、山兒。㊄**山のさま。**或は硊(**8**－24168)に作る。〔集韻〕峗、山兒、或从レ石。

【峗巍】1（ギキ）　山の高く峻しいさま。〔王延壽、魯靈光殿賦〕峗巍㠑㟪。〔注〕善曰、皆高峻之貌。

【峞】8049

㊀キ　〔集韻〕苦軌切　紙

㊁グヮイ　ゲ　〔集韻〕吾回切　灰

㊂グヮイ　ゲ　〔集韻〕五賄切　賄

㊃ゴツ　ゴチ　〔集韻〕五忽切　月

㊀峞巍は、山のけはしいさま。〔集韻〕峞、峞巍、山兒。㊁㊂**いは山。**石山の上に土を戴いてゐる山。嵬(**4**－8355)に同じ。〔集韻〕嵬、爾雅、石戴レ土、謂ニ之崔嵬一、或作レ峞。㊃**土をいただいた石山。**阢(**11**－4155

0)に同じ。〔集韻〕阮、說文、石山戴㆑土也、或作㆑⿱山完。

【峘】8050 ㊀クワン グワン 〔集韻〕胡官切 寒 ㊁コウ ゴウ 〔集韻〕胡登切 蒸

㊀❶**小山が大山と並んで、大山よりも高いもの。**〔爾雅、釋山〕小山岌㆓大山㆒、峘。〔疏〕小山與㆓大山㆒相並、而小山高過㆓於大山㆒者、名㆑峘。❷或は⿰山丸(4-7896)・⿰山完(4-8075)・⿰丸山・⿰亘山(4-8051)に作る。〔集韻〕峘、或从㆑丸、从㆑完、亦書作㆓⿰丸山・⿰亘山㆒。㊁**高山の上にある小山の大山と並んでそれよりも高いもの。**㊀の❶に同じ。〔集韻〕峘、爾雅、小山岌㆓大山㆒、峘。

【⿰亘山】8051 クワン 峘(4-8050)に同じ。〔集韻〕峘、亦書作㆑⿰亘山。

【岍】8052 ケン 〔集韻〕輕烟切 先 ㄑㄧㄢ chʻien¹

❶**山名。**陝西省隴縣の西南。又、汧山(6-17400・・3)・幵山(4-9169)に作り、嶽山・呉岳・呉山・呉嶽山ともいふ。漢書地理志には呉岳といひ、周禮は總じて之を嶽山といひ、禹貢は總じて岍山といふ。〔集韻〕岍、山名、在㆓雍州㆒。〔書、禹貢〕導㆓岍及岐㆒。〔漢書、地理志〕呉岳在㆓扶風縣西㆒、古文以爲㆓岍山㆒。〔唐書、地理志〕扶風縣西呉山、古文以爲㆓岍山㆒、今隴州呉山縣呉嶽山也。〔清一統志〕呉山、在㆓隴州南㆒、岍山、在㆓隴州西㆒、據㆓兩漢志㆒、皆謂㆓呉山卽岍山㆒、通典・元和志・寰宇記、倶別有㆓岍山㆒、與㆓呉山㆒不㆓相蒙㆒、近志皆因㆑之、然脈絡相連、在㆑古只是一山也。❷或は開(11-41298)に作り、通じて汧(6-17400)に作る。〔集韻〕岍、或作㆑開、通作㆑汧。

【峙】8053 チ ヂ 〔集韻〕丈里切 紙 ㄓˋ chih⁴

❶**そばだつ。**山が高くそびえ立つ。〔玉篇〕峙、峻峙。〔正字通〕峙、山屹立貌。〔列子、湯問〕五山始峙。❷**たつ。**〔後漢書、河間孝王開傳〕景峙不㆑爲㆑禮。〔注〕峙、立也。〔潘岳、射雉賦〕擢㆑身竦峙。〔注〕爰曰、峙、立也。❸**とまる。**とどまる。〔後漢書、鄭泰傳〕恃㆑衆怙㆑力、將各基峙。〔注〕峙、止也。〔張衡、西京賦〕通㆑天訬以竦峙。〔注〕綜曰、峙、住也。❹**をか。高い丘。**〔張衡、西京賦〕散似㆓驚波㆒、聚似㆓京峙㆒。〔注〕向曰、京峙、高丘也。❺**す。**さき。しま。〔張衡、西京賦〕聚似㆓京峙㆒。〔注〕綜曰、水中有㆑土曰㆑峙。❻**そなへる。**つむ。たくはへる。或は偫(1-1086)に作り、又、侍(1-888)・庤(4-9310)に通ず。〔正字通〕峙、與㆓庤・侍㆒並通。〔爾雅、釋詁〕峙、具也。〔集韻〕峙、或作㆑偫。〔書、費誓〕峙㆓乃糗糧㆒。〔疏〕峙、具也。〔詩、大雅、崧高〕以峙㆓其粻㆒。〔集傳〕峙、音庤、積。❼跱(10-37529)に同じ。〔一切經音義、一〕跱、字詁、古文峙、今作㆑跱、同。直耳反。

【峙衡】1 ヂカウ 清、劉騰鴻(2-2224・・1235)の字。

【峙積】2 ヂセキ そなへ積む。貯へ積む。〔宋史、地理志二〕河北路、商賈貿遷、芻粟峙積。

【峙庭】3 ヂテイ 清、閔鶚允(11-41251・・44)の字。

【峙東】4 ヂトウ 字號。❶清、徐鼎(呉縣の人)(4-10110・・230)の字。❷清、邵泰(11-39343・・48)の字。

【峙立】5 ヂリツ そびえたつ。そばだつ。〔呉志、孫權傳、注〕呉魏峙立、誰將㆔平㆓一海内㆒者乎。

【峙糧】6 ヂリヤウ 糧食を積み蓄へる。〔詩、大雅、崧高〕以峙㆓其粻㆒〔箋〕粻、糧、云云、峙㆓其糧㆒者、令㆔廬市有㆓止宿之委積㆒。

【峚】8054 ビツ ミチ 〔正字通〕莫必切 質

山名。峚山(2)を見よ。

【峚榮】1 ビツエイ 峚山の花。榮は花。〔山海經、西山經〕黃帝乃取㆓峚山之玉榮㆒、而投㆓之鍾山之陽㆒。〔注〕謂㆓玉華㆒也。〔任昉、同㆓謝朏花雪㆒詩〕山徑陋㆓峚榮㆒、騷人貶㆓瓊樹㆒。

【峚山】2 ビツザン 山名。陝西省商縣の境。穆天子傳には密山に作る。〔山海經、西山經〕峚山、其上多㆓丹木㆒、員葉而赤莖、黃華而赤實、其味如㆑飴、食㆑之不㆑飢、丹水出㆑焉。〔陶潛、讀㆓山海經㆒詩〕丹木生㆓何許㆒、乃在㆓峚山陽㆒。

【峚山先生】3 ビツザンセンセイ 清、李譓(6-14459・・735)の尊稱。

【峚陽】4 ビツヤウ 字號。❶明、鄭鄤(11-39647・・241)の字。❷清、朱鍾(6-14424・・395)の號。

【峛】8055 リ 〔集韻〕輦尒切 紙

❶**さかみち。**上り下りの坂道。〔揚雄、甘泉賦〕登降峛崺、單捲垣兮。〔注〕善曰、峛崺、邪道也。〔漢書、揚雄傳上、注〕師古曰、峛崺、上下之道也。❷**山の卑く長くつづくさま。**〔字彙〕峛、峛崺、山卑而長也。〔法言、吾子〕觀㆓東嶽㆒而知㆓衆山之峛崺㆒也。〔孔叢子、記問〕登㆓彼丘陵㆒、峛崺其阪。❸**沙丘のさま。**〔廣韻〕峛、峛崺、沙丘狀。❹**丘の名。**〔集韻〕峛、峛崺、丘名。

【峜】8056 ケイ 〔正字通〕音計

かぞへる。又、算法の名。計と同義。〔管子、輕重戊〕宓戲造㆓六峜㆒、以迎㆓陰陽㆒。〔正字通〕峜、王若谷曰、六峜、其猶㆓周髀算法㆒乎、諸家峜義未㆑詳、字書皆不㆑載、委宛編、以㆓六計㆒解㆑之、峜、當㆓讀如㆑計、以㆔企有㆓跂音㆒也、辛子文號㆓計研㆒、漢碑作㆓峜研㆒。

【⿱口山】8057 サン 山(4-7869)に同じ。〔字彙補〕⿱口山、卽山字、見㆓漢三老袁君碑㆒。

【⿱北山】8058 ガク 嶽(4-8566)に同じ。〔五音集韻〕⿱北山、同㆑嶽。

【⿱山夲】8059 コク 〔篇海類編〕居木切 屋

山名。〔篇海類編〕⿱山夲、山也。

【峟】8060 イウ ウ 〔龍龕手鑑〕尤救切 宥

山名。〔龍龕手鑑〕峟、山也。

【⿱山圭】8061 ホウ 峯(4-8093)に同じ。〔五音篇海〕⿱山圭、同㆑峯。

【⿰山字】8062 ウ 義未詳。〔川篇〕⿰山字、音雨。

【⿱山屾】8063 シフ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿱山屾、所急切。

【⿱山冊】8064 ホウ 崩（4−8212）に同じ。〔龍龕手鑑〕⿱山冊、同㆑崩。

【⿰山江】8065 カウ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿰山江、音江。

【⿰山吳】8066 ゴ 峿（4−8125）に同じ。〔集韻〕峿、或从㆑吳。

【⿱吅山】8067 カウ 岡（4−7962）に同じ。〔爾雅、釋山、岡、釋文〕岡、又作㆑⿱吅山。

【峠】8068 國字 たうげ。たむけの音便。山を過ぎる往還の絶頂のところ。此處で道祖神に手向（タムケ）して旅路の安穩を祈つたので稱した。〔和漢三才圖會、藝才、倭字〕峠、山嶺之字、山路當㆓上而下㆒、會意。

【峡】8068′ ケフ 峽（4−8122）の略字。

七畫

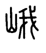
【⿰山坐】8069 🈩サ 〔集韻〕祖臥切 箇 🈔サ ザ 〔集韻〕粗果切 哿 🈪サ ザ 〔集韻〕徂禾切 歌

🈩山がくづれる。〔集韻〕⿰山坐、山摧也。🈔🈪山名。〔集韻〕⿰山坐、山名。

【⿰山尾】8070 ビ ミ 〔集韻〕武斐切 尾

山名。〔集韻〕⿰山尾、山名。

【峨】8071 🈩ガ 〔集韻〕牛河切 ㄜˊ e² 歌 🈔ガ 〔集韻〕語可切 哿


小篆

🈩❶山の高くけはしいさま。さがしい。嵯峨。〔說文〕峨、嵯峨也、从㆑山我聲。〔陸機、從軍行〕崇山鬱嵯峨。❷高い。〔廣雅、釋詁四〕峨、高也。〔楚辭、劉向、九歎、惜賢〕冠㆓浮雲之峨峨㆒。〔注〕峨峨、高貌也。❸たかね。高嶺。〔謝靈運、山居賦〕輿陟㆑峨而善狂。❹いかめしい。おごそか。威儀の盛壯なさま。〔詩、大雅、棫樸〕奉㆑璋峨峨。〔傳〕峨峨、盛壯也。❺峨眉山の略稱。峨眉（9）の❶㋬を見よ。〔唐書、盧藏用傳〕彷㆓徉岷峨㆒。❻或は⿸尸我（2−2945）に作り、又、峩（4−8072）に作る。〔集韻〕峨、或作㆑⿸尸我、亦書作㆑峩。❼娥（3−6331）に通ず。〔左思、詠史詩〕峨峨高門內。〔注〕善曰、峨、與㆑娥古字通。❽我（5−11545）に通ず。〔詩、大雅、棫樸、奉㆑璋峨峨、釋文〕峨、本又作㆑我。❾俄（1−665）に通ず。〔韻會〕峨、通作㆑俄、前揚雄傳、鴻生鉅儒、俄㆓軒冕㆒雜㆓衣裳㆒。

🈔山の高いさま。硪（8−24228）に同じ。〔集韻〕硪、破硪、山高皃、或从㆑山。

【峨峨】1（ガガ） ❶山の高くけはしいさま。嵯峨。巍峨。峩峩。〔列子、湯問〕伯牙鼓㆑琴、志在㆑登㆓高山㆒、鍾子期曰、善哉、峨峨兮若㆓泰山㆒。〔司馬相如、上林賦〕九嵕巀嶭、南山峨峨。〔注〕向曰、峨峨、高峻貌。❷山の高大なさま。〔張衡、西京賦〕華嶽峨峨、岡巒參差。〔注〕綜曰、峨峨、高大貌。❸高いさま。〔曹植、洛神賦〕雲髻峨峨、脩眉聯娟。〔注〕善曰、峨峨、高如㆑雲也。❹儀容のいかめしく盛なさま。〔詩、大雅、棫樸〕奉㆑璋峨峨、髦士攸㆑宜。〔傳〕峨峨、盛壯也。〔疏〕以㆓峨峨是容儀之貌㆒、故言㆓盛壯㆒。〔左思、詠史詩〕峨峨高門內、藹藹皆王侯。〔注〕善曰、廣雅曰、峨峨、容也。❺美好のさま。娥娥（3−6331‥3）に同じ。〔宋玉、神女賦〕其狀峨峨。❻まつる。〔爾雅、釋訓〕峨峨、祭也。〔注〕謂㆘執㆓圭璋㆒助㆖祭也。

【峨峨焉】2（ガガエン） 高く盛なさま。〔韓愈、上㆓宰相㆒書〕洋洋焉動㆓其心㆒、峨峨焉纓㆓其冠㆒。

【峨峨如】3（ガガジョ） 高大で盛なさま。峨峨焉に同じ。〔班固、典引〕濟濟翼翼、峨峨如也。

【峨冠】4（ガクワン） 冠をたかだかとかむる。又、高い冠。〔唐書、韓偓傳〕何必使㆘出峨㆓冠廟堂㆒、入泣㆗血樞側㆖。〔韓愈、赴㆓江陵㆒途中寄㆓贈王二十補闕李十一拾遺李二十六員外翰林三學士㆒詩〕首罪誅㆓共吺㆒、復聞顚㆓天輩㆒、峨冠進㆓鴻疇㆒、班行再肅穆。

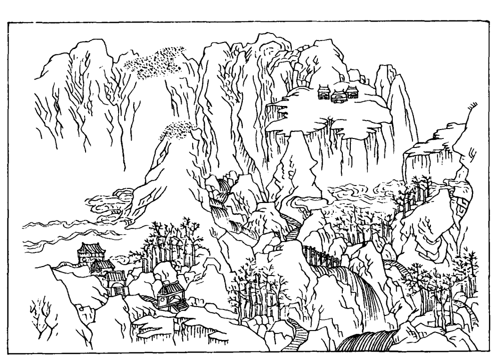
【峨髻】5（ガケイ） 高く結んだ頭髮。〔李賀、河南府試十二月樂詞、二月〕金翅峨髻愁㆓暮雲㆒、沓颯起舞眞珠裙。〔玉蘂辨證〕唐昌觀有㆓玉蘂花㆒、車馬尋玩者相繼、忽一日有㆔女子年可㆓十七八㆒、衣㆓繡綠衣㆒乘㆑馬、峨髻雙鬟、無㆓簪珥之飾㆒、容色婉婉、迥出㆓於衆㆒、直造㆓花所㆒。

【峨橋】6（ガケウ） 鎭の名。安徽省繁昌縣の東、蕪湖縣の界。明初、繁昌河泊所を此處に置く。又、縣南に上峨橋鎭がある。〔九域志〕繁昌縣有㆓上峨橋・下峨橋鎭㆒。

【峨山】7（ガサン） ❶縣名。㋑唐、置く。今の湖南省芷江縣の西。〔讀史方輿紀要、湖廣、辰州府、沅州〕峨山廢縣、州西百里、唐貞觀五年、分㆓龍標縣地㆒置㆓夜郎縣㆒、屬㆓巫州㆒、長安四年、置㆓舞州治㆒焉、開元十三年、改㆓夜郎㆒爲㆓峨山縣㆒、天寶初、曰㆓夜郎郡㆒云云、五代以後、沒㆓于蠻㆒爲㆓獎州砦㆒。㋺民國、置く。もとの嶍峨部。雲南省玉溪縣の西南。❷明、章曠（8−25761‥56）の號。

【峨修】8（ガシウ） 淸、宋際（3−7078‥101）の字。

【峨眉】9（ガビ） ❶山名。又、峨嵋に作る。㋑山東省博山縣。金を產す。㋺河南省郟縣の西北。一に小峨眉山といふ。宋の蘇軾が、其の形、蜀の峨眉に類するを以て名づけたといふ。山上に三蘇祠がある。〔讀史方輿紀要、河南、南陽府、汝州、郟縣、鳳翅山〕峨眉山、在㆓縣西北三十里㆒、峯巒綿亙、狀若㆓列眉㆒。㋩安徽省和縣の西北。又、蛾眉に作る。縣城が其の上に跨がる。〔讀史方輿紀要、江南、和州、八公山〕峨眉山、在㆓州治西北㆒、城跨㆓山脊㆒。㋥福建省歸化縣の北。又、娥眉に作る。群峯聯絡し、其の一峯は縣門に對して蛾眉の形をなす。〔讀史方輿紀要、福建、汀州府、歸化縣、樓臺鼓角山〕峨眉山、在㆓縣治前㆒、羣峯連絡、中一峯、正對㆓縣門㆒、若㆓娥眉㆒然、縣治蓋北向。㋭福建省泰寧縣の西北。蜀の峨眉に似てゐるので名づく。〔讀史方輿紀要、福建、邵武府、泰寧縣、大杉嶺〕峨眉峯、在㆓縣北五十里㆒、周圍數十里、高數千丈、類㆓蜀之峨眉㆒、峯之左有㆓三仙巖㆒。㋬四川省峨眉縣の西南。佛家は光明山、道家は虛靈洞天、或は靈陵太妙天といひ、博物志に牙門山といふ。岷山から延びて、大小金川と岷江との分水嶺となり、峨眉縣に至つて突起し、大峨・中峨・小峨の三山となる。大峨山は巖洞重複し、最も峻險、中峨山は縣南にあり、小峨山は中峨の南に位す。水經注に、峨眉山は成都を去ること南に千里、然れども秋日清澄なれば、兩山の相峙すること峨眉の如きを望見すとある。〔水經、青衣水注〕益州記曰、平鄉江、東逕㆓峨眉山㆒、在㆓南安縣界㆒、去㆓成都㆒南千里、然秋日清澄、


峨眉（名山圖）

望二見兩山相峙如二峨眉一焉。〔左思、蜀都賦〕抗二峨眉之重阻一。〔讀史方輿紀要、四川、名山〕峨眉山、在二嘉定州峨眉縣西百里、眉州南二百里一、張華以爲二牙門山一也、亦曰二峨眉山一、以下其兩山相對如二蛾眉一然上、自二岷山一而來、連岡疊嶂、延袤三百餘里、至レ此突二起三峯一、一爲二大峨山一、一爲二中峨山一、一爲二小峨山一、大峨山、巖洞重複、龕谷幽阻、周圍千里、莫レ測二遠近一、登レ山者、自レ麓而上、及二山之半一又歷二八十四盤一、山徑如レ綫者六十里、而後至二於峯頂一、山中有二石龕百十二、大洞十二、小洞二十八一、若二伏羲・女媧・鬼谷諸洞一、其最著者也、又有二雷洞七十二一、時出二雲雨一、俗以爲二雷神所一レ居、中峨山、在二峨眉縣南二十里一、一名覆蓬山、一名綏山、小峨山、在二峨眉縣南三十里一、一名鑵刃山、三山相連、名曰二三峨一、左思所レ云、抗二峨眉之重阻一、是也、唐十道志、劍南道名山曰二峨眉一。㋣廣西省崇善縣の東。又、峨眉に作る。〔讀史方輿紀要、廣西、太平府、崇善縣、將軍山〕城東三里、曰二峨眉山一、屹二立雲表一、其並峙者、曰二白雲山一。㋠峨眉嶺を見よ。❷縣名。㋑隋、置く。北周の平光縣。今の四川省樂山縣。㋺隋、置く。漢の南安縣の地。今の四川省雅安縣の東南。峨眉山の東麓にあるから名づく。〔讀史方輿紀要、四川、嘉定州〕峨眉縣、漢南安縣地、後周爲二峨眉縣地一、隋開皇九年、改二峨眉一曰二青衣一、十三年、復置二峨眉縣於此一屬二嘉州一。〔清史稿、地理志〕四川、嘉定府、縣七、峨眉。

【峨眉松】10（ガビショウ） 峨眉山に生じた松。〔周鴻覃、記二峨眉松一〕以二峨眉松一株一、贈二陳子蘭洲一。

【峨眉嶺】11（ガビレイ） 嶺の名。山西省新絳縣の南。一に峨眉坡といふ。蜿蜒迂曲して、永濟・臨晉・猗氏・萬泉四縣に跨がり、東南の一峯を靈吉山といふ。〔讀史方輿紀要、山西、平陽府、絳州〕峨眉山、在二州南十里一、志云、山迤邐連二聞喜・夏・猗氏・臨晉・榮河諸縣界一、西抵二黃河一、東抵二曲沃西境一、亦曰二峨眉坡一、亦曰二峨眉原一、卽中條之坡阜也。

【峨眉山人】12（ガビサンジン） 守屋煥明の號。守屋峨眉(**3−7071**‥240)を見よ。

【峨眉山月半輪秋】13（ガビサンゲツハンリンノアキ） 唐の李白が四川の清溪を發して三峽に赴く途次、峨眉山の月を見て作つた詩の句。〔李白、峨眉山月歌〕峨眉山月半輪秋、影入二平羌江水一流、夜發二清溪一向二三峽一、思レ君不レ見下二渝州一。〔蘇軾、送二張嘉州一詩〕峨眉山月半輪秋、影入二平羌江水一流、謫仙此語誰解道、請君見レ月時登レ樓。

【峨眉天半雪中看】14（ガビテンパンセツチユウニミル） 中天に高く聳えた峨眉山を雪中に見る。高潔な風姿の形容。〔王世貞、漫興詩〕野夫興到不二復刪一、大海迴風生二紫瀾一、欲レ識二滄溟奇絕處一、峨眉天半雪中看。〔荻生徂徠、跋二唐詩選一〕弇老評二滄溟詩一、峨眉天外雪中看、其選二唐詩一亦復爾。

【峨嵋】15（ガビ） ❶峨眉(9)の❶を見よ。❷清、曹禾(**5−14297**‥58)の號。

【峨嵋老衲徹修】16（ガビラウダフテツシウ） 清、錢謙益(**11−40563**‥291)の號。

【峨邊】17（ガヘン） 縣名。民國、置く。漢の南安縣の地。明、峨眉を改めて峨邊とし、廳を設く。四川省樂山縣の西南、大渡河の南岸。河を隔てて峨眉山と相望む。〔清史稿、地理志〕四川、嘉定府、廳一、峨邊廳。

【峨峯】18（ガホウ） 清、劉章甫(**2−2224**‥1035)の字。

【峨⿰山彔】19（ガリヨク） 山名。雲南省楚雄縣西門の外。又、峨碌に作る。〔方輿勝覽〕峩碌石、在二楚雄府城北青峰坡一、一名峨⿰山彔山、古峩⿰山彔城、得レ名本レ此。

【峩】8072

ガ

峨(**4−8071**)に同じ。〔正字通〕峩、同レ峨。

【峪】8073

🈩ヨク 〔集韻〕兪玉切 ㄩˋ yü^4 沃

🈔ユウ 〔問奇集〕讀如レ裕。

🈩**たに**。谷(**10−36182**)に同じ。〔集韻〕谷、爾雅、水注レ谿曰レ谷、或从レ山。🈔❶平峪は、金代の縣名。漢の漁陽郡平谷の地。元代、復た平谷と稱す。今の河北省平谷縣。〔問奇集〕峪、平峪、縣名、今屬二順天府一、讀如レ裕。❷**山名**。一名、玉石山。今、甘肅省肅州の西方。❸**關の名**。明、置く。今、甘肅省酒泉縣の西。

【峪泉子】1（ヨクセンシ） 清、馮雲程(**12−44579**‥167)の號。

【峪口山房】2（ヨクコウサンバウ） 清、李念慈(**6−14459**‥1837)の室名。

【⿰山車】8074

シヤ 〔集韻〕昌遮切 麻

山名。〔集韻〕⿰山車、山名。

【⿰山完】8075

🈩クワン グワン 〔集韻〕胡官切 寒

🈔クワン グワン 〔集韻〕戸管切 旱

🈪クワン ゲン 〔集韻〕戸版切 潸

🈩**小山が大山と並んで大山よりも高いもの**。峘(**4−8050**)に同じ。〔集韻〕峘、爾雅、小山岌二大山一、峘、或从レ完。🈔**山が多い**。〔集韻〕⿰山完、山多。🈪**山名**。〔集韻〕⿰山完、山名。

【⿰山別】8076

ヘツ ベチ 〔集韻〕皮列切 屑

大⿰山別は、山の名。通じて別(**2−1924**)に作る。〔集韻〕⿰山別、大⿰山別、山名、通作レ別。〔正字通〕⿰山別、按、禹貢、大別、注、近レ漢之山、今漢陽縣北大別山、是也、俗作レ⿰山別、非。

【⿰山那】8077

ナ 〔集韻〕囊何切 歌

山名。⿰山難(**4−8642**)に同じ。〔集韻〕⿰山難、山名、或作レ⿰山那。

【峫】8078

🈩ヤ 〔集韻〕余遮切 ㄧㄝˊ yeh^2 麻

🈔シヤ ジヤ 〔集韻〕徐嗟切 麻

🈩**山名**。〔集韻〕峫、山名。🈔**山のさま**。〔集韻〕峫、山皃。

【⿱山目】8079

テイ

茜(**9−30872**)に同じ。〔字彙〕⿱山目、見二周宣王石鼓文一、鄭云、卽茜字。

【⿰山旱】8080

🈩カン ガン 〔集韻〕下罕切 旱

🈔カン ガン 〔集韻〕侯旰切 翰

🈩**山名**。〔集韻〕⿰山旱、山名、在二南鄭一。🈔**山名**。或は屽(**4−7898**)に作る。〔集韻〕⿰山旱、山名、或省。

【崖】8081

タイ ヅイ 〔類篇〕徒回切 灰

❶**山がくづれる**。〔字彙〕崖、山崩也。❷**高い**。崔(**4−8328**)の譌字。〔正字通〕崖、崔字之譌。

【⿱山耴】8082

ダフ ノフ 〔集韻〕昵法切 洽

しづか。〔集韻〕⿱山耴、靜也。

【峬】8083

ホ フ 〔集韻〕奔模切 虞

峬峭は、かたちの好いさま。俌(1－677)に同じ。〔集韻〕峬、峬峭、好皃。〔大雲山房雜記〕峬峭卽俌俏、好形貌、魏收逋峭難レ爲、當レ從レ此。

【峫】8084

キウ グ 〔集韻〕渠尤切 尤

山名。〔集韻〕峫、山名。

【峭】8085

セウ 〔集韻〕七肖切 嘯 ㄑㄧㄠˋ ch'iao⁴

❶**けはしい**。さがしい。〔晉書音義、下〕峭、峻也。〔太玄經、大〕豐牆峭阯。〔注〕峭、峻也。❷**高い**。〔史記、李斯傳〕峭塹之勢異也。〔注〕索隱曰、峭、高也。〔淮南子、脩務訓〕上二峭山一。〔注〕峭山、高山。❸**けはしい阪**。急阪。〔一切經音義、九〕峭、峻阪曰レ峭。❹**きびしい**。はげしい。氣性が急刻なこと。〔正字通〕峭、急也、嚴厲也。〔漢書、鼂錯傳、錯爲レ人陗直刻深、注〕師古曰、陗字、與レ峭同、峭、謂二峻陿一也。〔後漢書、第五倫傳論、峭覈爲レ方、注〕峭覈、謂三其性峻急、好窮二覈事情一也。❺峬峭は、かたちの好いさま。〔集韻〕峬、峬峭、好皃。❻**あざやかなさま**。峭蒨(27)を見よ。❼陗(**11－41646**)に同じ。〔集韻〕陗、或从レ山。❽削(**2－2000**)に通ず。〔王褒、四子講德論、宰相刻峭、注〕五臣作レ削、良曰、刻削、謂二損害一也。

【峭崖】1 セウガイ けはしく切り立つたがけ。〔陸游、晩泊二慈姥磯下一詩〕山斷峭崖立、江空翠靄生。

【峭鯁】2 セウカウ 性質がきびしく正直でおもねらぬこと。〔唐書、李翺傳〕翺性峭鯁、論議無レ所レ屈。

【峭埆】3 セウカク けはしい石地のさま。〔胡松、武當山記〕東西有二峯五一、云云、石稜峭埆、行者不レ能二以步一。

【峭格】4 セウカク 高く網を張つて獸を捕へる具。格は、網を張る木。鹿角。削格。〔左思、吳都賦〕峭格周施、罿罻普張。〔注〕劉曰、莊周曰、峭格羅絡、謂二張レ網周徧一、向曰、峭、高也、格、張レ網之木也。

【峭覈】5 セウカク 氣象がきびしく鋭く、物事に徹底する。覈は、はげしい、きびしい。〔後漢書、第五倫傳論〕第五倫、峭覈爲レ方、非二夫愷悌之士一。〔注〕峭覈、謂三其性峻急、好窮二覈事情一也。

【峭崿】6 セウガク 高い崖。又、高い峯。崿はがけ。〔孫綽、遊二天台山一賦〕披二荒榛之蒙蘢一、陟二峭崿之崢嶸一。〔注〕向曰、峭崿、高峯也。〔沈約、古詩題六首、披レ褐守二山東一詩〕峭崿塗彌險、岸岨步纔通。

【峭寒】7 セウカン きびしい寒さ。又、きびしく寒い。〔韓偓、清興詩〕陰沈天氣連二翩醉一、摘二索花枝一料二峭寒一。〔徐積、楊柳枝詞〕清明前後峭寒多。

【峭岸】8 セウガン けはしい岸。〔淮南子、齊俗訓〕深谿峭岸、峻木尋枝、猨狖之所レ樂也。

【峭急】9 セウキフ 性質がきびしくせつかちなこと。峻急。〔吳志、朱治傳〕孫權弟翊、性峭急、喜怒快レ意、治數責教、諭以二道義一。

【峭刑】10 セウケイ きびしいしおき。又、刑をきびしくする。〔韓詩外傳、一〕吳起峭レ刑而車裂、商鞅峻レ法而支解。

【峭勁】11 セウケイ きつくつよい。〔避暑錄話、上〕非三峭勁敵二風霜一、不二能爾一也。

【峭訐】12 セウケツ きびしくあばく。用捨なく非難する。〔沈光、李白酒樓記〕李白既以二峭訐矯レ時之狀一、不レ得二大用一。

【峭狹】13 セウケフ けはしくてせまい。〔夢溪筆談、雜誌一〕北寨、西出二承天閣一、路可レ至二河東一、然路極峭狹。

【峭巘】14 セウケン けはしい山。峭山。又、極めてけはしいこと。巘もけはしい意。〔駢雅、釋詁上〕峭巘、險絕也。

【峭嚴】15 セウゲン 極めてきびしいこと。峻嚴。峭森。

【峭谷】17 セウコク けはしい谷。〔鹽鐵論、周秦〕峻崖之峭谷、下臨二不測之淵一。

【峭刻】18 セウコク きびしくて殘忍なこと。苛刻。嚴刻。陗直。〔宋史、鄭清之傳〕孝宗之英明、本二於仁厚一、故能涵二養士氣一、而無二矯勵峭刻之習一。〔司馬光、司馬府君墓誌〕當レ官公直、云云、雖三練二習律令一、而不レ爲二峭刻一、斷獄求三必厭二人心一。

【峭山】19 セウザン 高くけはしい山。峻山。〔淮南子、脩務訓〕上二峭山一、赴二深谿一、游二川水一。〔注〕峭山、高山。

【峭峻】20 セウシユン ❶山のけはしいさま。〔漢書、嚴助傳〕領水之山峭峻、漂レ石破レ舟、不レ可下以二大船一載二食糧一下上也。❷きびしいさま。〔後漢書、馮衍傳下〕澄二德化之陵遲一兮、烈二刑罰之峭峻一。❸けだかいさま。〔韓愈、感春詩〕孔丞別レ我適二臨汝一、風骨峭峻遺二塵埃一。

【峭森】21 セウシン はげしくきびしい。峭嚴(15)に同じ。

【峭正】22 セウセイ きびしく正しい。〔唐書、虞世南傳〕煬帝雖レ愛二其才一、然疾二峭正一、弗二甚用一、爲二七品一、十年不レ徙。

【峭整】23 セウセイ おごそかで正しくととのふ。嚴正。峻整。〔唐書、蕭遘傳〕風采峭整、天子器レ之。

【峭峭】24 セウセウ けはしく高いさま。〔劉蛻、文塚銘序〕峭峭爲レ壁、則魯之兆乎。〔汪元量、重慶府詩〕目斷二弔橋一空峭峭。

【峭石】25 セウセキ そばだつてゐる石。竦石。〔胡澄、太原亭懷古詩〕飛泉天台狀、峭石蓬萊姿。

【峭絕】26 セウゼツ 高くけはしいさま。そいだやうにそびえたつさま。險阻。〔唐書、南蠻下、扶南傳〕四面峭絕、人莫レ得レ至。〔李翰、崔公山池後集序〕山臨二清池一、峭絕孤踊。

【峭蒨】27 セウセン あざやかなさま。〔左思、招隱詩〕峭蒨青葱間、竹柏得二其眞一。〔注〕善曰、峭蒨、鮮明貌。

【峭然】28 セウゼン きびしいさま。

【峭卓】29 セウタク けはしく高いさま。〔臥遊錄〕海山微茫而隱見、江山嚴厲而峭卓。

【峭阤】30 セウチ けはしいがけ。峻崖。阤はがけ、きし。〔馬融、長笛賦〕蹉二纖根一、跋二篗縷一、膺二峭阤一、腹二陘阻一。

【峭峙】31 セウヂ けはしくそばだつ。〔高允、祭二岱宗一文〕岧嶺峭峙、川谷幽深。

【峭頂】32 セウチヤウ けはしい山のいただき。〔白居易、奉下和思黯相公以二李蘇州所レ寄太湖石奇狀絕倫一、因題二二十韻一見上レ示、兼呈二夢得一詩〕峭頂高危矣、盤根下壯哉。

【峭直】33 セウチヨク 氣象がきつくて假借しない。むごく嚴しく、其の意を曲げない。嚴急。陗直。〔漢書、鼂錯傳〕錯爲レ人、陗直刻深。〔注〕師古曰、陗字、與レ峭同、峭、謂二峻陿一也。〔北史、劉貴傳〕性峭直、攻訐無レ所二回避一。〔宋史、包拯傳〕拯性峭直、惡吏苛刻。

【峭薄】34 セウハク 心のきびしくむごたらしいこと。刻薄。〔柳宗元、辯二鬼谷子一文〕漢時、劉向・班固錄レ書、無二鬼谷子一、鬼谷子後出、而險盭峭薄。

【峭拔】35 セウバツ ❶群を拔いて高く聳え立つこと。〔裴說、春日山中竹詩〕數竿蒼翠擬二龍形一、峭拔須レ教二此地生一。〔舒頔、胡子坑詩〕毓秀孕奇挺二峭拔一、攢峯列鋻爭二伶傳一。❷書風の群を拔き俗を絕すること。〔墨莊漫錄、一〕王荊公書、清勁峭拔、飄飄不レ凡、世謂二之橫風疾雨一。〔宣和書譜〕行筆峭拔而秀、絢麗而雅、亦畫家之絕藝也。

【峭法】36 セウハフ きびしいおきて。又、おきてをきびしくする。苛法。峻法。〔淮南子、原道訓〕夫峭レ法刻レ誅者、非二霸王之業一也。〔鹽鐵論、非鞅〕商鞅以二重刑峭法一爲二秦國基一。〔唐書、李鄘傳〕鄘當レ官、以二峭法一操レ下、所レ至稱レ治。

【峭帆】37 セウハン 切り立つたやうな形をした帆。〔楊億、詩〕峭帆橫渡官橋柳、疊鼓驚飛海岸鷗。

【峭帆人】38 セウハンジン 峭帆をつけた船に乘つてゐる人。〔李白、橫江詞〕白浪如レ山那可レ渡、狂風愁殺峭帆人。

【峭帆風】39 セウハンノカゼ 峭帆にあたる強い風。〔陸游、舟過二小孤一有レ感詩〕小孤山畔峭帆風、又見二煙鬟一縹緲中。

【峭坂】40 セウハン けはしいさかみち。峻坂。〔劉子新論、愼隟〕登二峭坂一而不二跌墜一者、愼二於大一也、跨二阜垤一而好顚蹷者、輕二於小一也。

【峭皮】41 セウヒ 形のよいさま。〔新方言、釋言〕字林、庯峭、好形也、今南人言二波峭一、北人言二峭皮一。

【峭粉】42 セウフン 水銀粉をいふ。〔本草、水銀粉〕釋名、汞粉・輕粉・峭粉・膩粉、時珍曰、輕、言二其質一、峭、言二其狀一、膩、言二其性一。

【峭壁】43（セウヘキ） かべのやうにけはしくそばだつたがけ。〔陳後主、巫山高〕巫山巫峽深、峭壁聳㆓春林㆒。〔劍門山記〕峭壁中斷、兩崖相欽、如㆑門斯闢、如㆑劍斯植。〔盧仝、逢㆓鄭三㆒遊㆑山詩〕相逢之處草茸茸、峭壁攢峯千萬重。〔杜牧、山寺詩〕峭壁引㆓竹徑㆒、截溪開㆓石門㆒。〔陸游、五月二十三夜記㆑夢詩〕徐行㆓林際㆒遇㆓飛橋㆒、峭壁驚濤臨㆓萬丈㆒。

【峭麗】45（セウレイ） 嚴かで美しい。〔珊瑚鉤詩話、二〕陳無己先生語㆑余曰、今人愛㆓杜甫詩㆒云云、閬中歌、辭致㆓峭麗㆒、語脈新奇。〔郝經、化城行〕丹艧峭麗欹且傾、烟氣荏苒搖㆓旆旌㆒。

【峭礪】46（セウレイ） 山のけはしいさま。〔拾遺記、二、周〕蚍洲峰岑、鐵峴峭礪、車輪剛金爲㆑輞、比㆑至㆓京師㆒、輪皆銚鋭幾盡。

【峮】8086

㈠キン〔集韻〕區倫切 眞
㈡クン〔集韻〕衢云切 文

㈠㈡峮嶙は、山の連なるさま。或は⿰山囷(4-8165)に作り、或は⿱山君(4-8087)に作る。〔集韻〕峮、峮嶙、山相連皃、亦从㆑囷、或書作㆑⿱山君。〔張衡、南都賦〕或峮嶙而纚聯、或豁爾而中絕。〔注〕善曰、峮嶙、相連之貌。

名乘 ツラ。

【峮嶪】1（キンゲフ） 山が連なつて高いこと。〔蘇志乾、岱山賦〕粵稽靈岳、峮嶪陰陽。

【⿱山君】8087

キン 峮(4-8086)に同じ。〔集韻〕峮、或書作㆑⿱山君。

【⿰山牢】8088

ラウ ロウ 〔集韻〕郎刀切 豪

❶⿰山皋⿰山牢は、亭の名。〔玉篇〕⿰山牢、⿰山皋⿰山牢、亭名。❷⿰山皋⿰山牢は、山のさま。〔集韻〕⿰山牢、⿰山皋⿰山牢、山皃。

【⿰山忌】8089

㈠キ〔集韻〕口已切 紙
㈡キ〔集韻〕居吏切 寘

㈠㈡**山の高いさま。**〔集韻〕⿰山忌、山高皃。

【⿰山孚】8090

フウ ブ 〔集韻〕房尤切 尤

山名。〔集韻〕⿰山孚、山名。

【⿰山弄】8091

ロウ ル 〔集韻〕盧貢切 送

あな。⿱穴弄(8-25538)に同じ。〔集韻〕⿱穴弄、穴也。或从㆑山。

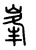
【⿰山兌】8092

タイ ダイ 〔集韻〕徒外切 泰

❶⿰山兌⿰山會は、山のさま。〔集韻〕⿰山兌、⿰山兌⿰山會、山皃。❷⿰山會⿰山兌は、廣大で連なり合ふさま。又、谷の深く平なさま。〔馬融、長笛賦〕嶰壑⿰山會⿰山兌。〔注〕良曰、嶰壑⿰山會⿰山兌、寬大而相連皃、善曰、⿰山會⿰山兌、壑深平之貌。

【峯】8093

ホウ フ 〔集韻〕敷容切 冬 ㄈㄥ fēng



（小篆 說文）

❶**みね。**山のいただき。〔說文〕峯、山耑也、从㆑山夆聲。〔六書故〕峯、山鋒也。〔荊州記〕極秀一峯、名㆓芙蓉㆒。❷**山。**〔謝靈運、遊㆓南亭㆒詩〕密林含㆓餘清㆒、遠峯隱㆓半規㆒。❸**みねの形をしたもの。**〔杜甫、麗人行〕紫駝之峯出㆓翠釜㆒。❹或は⿱山丰(4-7943)に作り、或は峰(4-8094)に作る。〔集韻〕峯、或作㆑⿱山丰、或書作㆑峰。❺**姓。**〔萬姓統譜〕峯、州名、見㆓姓苑㆒。

名乘 タカ。ミネ。

【峯陰】1（ホウイン） 峯のかげ。〔杜甫、秋興詩〕昆吾御宿自逶迤、紫閣峯陰入㆓渼陂㆒。

【峯影】2（ホウエイ） 峯のすがた。又、峯の影。〔楊師道、奉㆓和夏日晚景㆒應㆑詔詩〕日落横㆓峯影㆒、雲歸起㆓夕涼㆒。〔盧綸、春日題㆓杜叟山下別業㆒詩〕雲影斷來峯影出、林花落盡草花生。

【峯葉】3（ホウエフ） 峯の木の葉。〔王勃、山居晚眺詩〕花枝棲㆓晚露㆒、峯葉度㆓晴雲㆒。〔李義府、在㆓嶲州㆒遙敍㆓封禪㆒詩〕巖花飄㆓曙輦㆒、峯葉蕩㆓春旗㆒。

【峯下】4（ホウカ） 峯のふもと。峯麓。又、峯を下る。〔梁元帝、郢州晉安寺碑銘〕峯下㆓陽烏㆒、林生㆓陰兔㆒。〔冷齋夜話、誦㆓智覺禪師詩㆒〕峯下㆓嘗自㆓朱崖㆒下㆓瓊山㆒渡㆓藤橋㆒、千萬峯之間、聞㆔其聲類㆓車輪峯下㆒。

【峯罅】5（ホウカ） 山上のあな。〔貫休、東西二林寺流水詩〕共月穿㆓峯罅㆒、喧僧睡㆓石樓㆒。

【峯霞】6（ホウカ） 峯のかすみ。〔李嶠、奉㆔和初春幸㆓太平公主南莊㆒應制詩〕還將㆓石溜㆒調㆓琴曲㆒、更取㆓峯霞㆒入㆓酒杯㆒。

【峯崖】7（ホウガイ） 峯のがけ。〔張種、與㆓沈炯㆒論㆓虎丘山㆒書〕峯崖刻削、窮㆓造化之瑰詭㆒。

【峯高】8（ホウカウ） 峯が高い。〔梁元帝、鐘山飛流寺碑〕雲聚峯高、清風鐘徹、月如㆓秋扇㆒、花疑㆓春雪㆒。〔黄滔、題㆓東林寺元祐上人院㆒詩〕泉遠攜㆑茶看、峯高結㆑伴登。

【峯角】9（ホウカク） 峯のかど。〔貫休、秋望詩〕大月生㆓峯角㆒、殘霞在㆓樹枝㆒。

【峯崿】10（ホウガク） 峯と崖。〔宋書、劉穆之傳〕峯崿聳秀、林樹繁密。〔庾肩吾、書品論一〕峯崿間起、瓊山慙㆓其斂霧㆒、漪瀾遞扶、碧海媿㆓其下風㆒。

【峯壑】11（ホウガク） 峯と谷。峯谷。〔李白、題㆓崇山逸人元丹丘山居㆒詩〕滅㆑跡遺㆓紛囂㆒、終言本㆓峯壑㆒。

【峯巖】12（ホウガン） 峯のいは。〔張野、廬山記〕廬山、天將㆑雨、則有㆓白雲㆒、或冠㆓峯巖㆒、或亙㆓中嶺㆒、俗謂㆓之山帶㆒、不㆑出㆓三日㆒必雨。

【峯牛】13（ホウギウ） 頷の上に隆起した肉のある牛。封牛。〔後漢書、順帝紀、疏勒國獻㆓師子封牛㆒、注〕封牛、其領上肉隆起若㆑封然、因以名㆑之、卽今之峯牛。

【峯岠】14（ホウキョ） 頂の鋭くとがつた大きい山。〔晉書、卞壼傳〕若㆓卞望之之巖巖、刁玄亮之察察、戴若思之峯岠㆒、當㆓敢爾㆒耶。

【峯迴】15（ホウクワイ） 峯がめぐる。〔陳子昂、入㆓東陽峽㆒與㆓李明府船㆒前後不㆓相及㆒詩〕路轉青山合、峯迴白日曛。〔歐陽脩、醉翁亭記〕峯迴路轉有㆑亭、翼然臨㆓于泉上㆒者、醉翁亭也。

【峯形】16（ホウケイ） 峯のかたち。〔江總、攝山棲霞寺碑〕至㆑如㆓峯形甑累、岫勢堂密㆒、亦烏足㆑言哉。〔李益、乞㆓寬禪師瘞山罍㆒詩〕石色凝㆓秋蘚㆒、峯形若㆓夏雲㆒。

【峯溪】17（ホウケイ） 明、孫璽(平湖の人)(3-6987··141)の號。

【峯嶠】18（ホウケウ） 峯が鋭くて高い。〔李賀、春歸㆓昌谷㆒詩〕宮臺光錯落、裝畫偏峯嶠。

【峯脅】19（ホウケフ） 峯の中腹。峯心。〔貫休、避㆓寇上唐臺山㆒詩〕蒼黃緣㆓鳥道㆒、峯脅見㆓樓臺㆒。

【峯巘】20（ホウケン） けはしいみね。〔張說、岳陽石門墨山二山相連有㆓禪堂㆒觀㆓天下絕境㆒詩〕兩山勢爭㆑雄、峯巘相顧眄。

【峯湖】21（ホウコ） 明、陳伯獻(11-41698··1199)の號。

【峯谷】22（ホウコク） 峯と谷。峯壑。〔元結、與㆓瀼溪鄰里㆒詩〕峯谷互回映、誰家無㆓泉源㆒。

【峯根】23（ホウコン） 峯のふもと。峯下。〔王履、始入㆓華山㆒至㆓西峯㆒記〕由㆓峯根㆒北折度㆓狹徑㆒。

【峯攢】24（ホウサン） 峯があつまりむらがる。〔岑參、酬㆓成少尹駱谷行見㆑呈詩〕峰攢望㆓天小㆒、亭午見㆓日初㆒。

【峯山】25（ホウザン） 城の名。江西省大庾縣の北の小溪城の北。〔大庾縣志〕明世德中、王守仁選㆓弩手㆒、從征㆓猺寇㆒、事平、民恐㆓報復㆒、築㆑城自衞。〔南安府志〕峯山城、在㆓小溪城北十五里㆒。

【峯市】26（ホウシ） 地名。福建省上杭縣の東南、廣東省大埔縣と界す。商業の盛な土地。

【峯州】27（ホウシウ） 州名。もと南朝梁の興州。隋、峯州と改め、次いで廢し、唐、また置く。後、佛領東京州に屬す。〔通典、州郡典、古南越〕峯州、古文朗國、亦陸梁地、秦屬㆓象郡㆒、二漢屬㆓交趾郡㆒、吳分置㆓新興郡㆒、晉武改爲㆓新昌郡㆒、宋齊因㆑之、陳兼置㆓興州㆒、隋平㆑陳郡廢、改爲㆓峯州㆒、煬帝初州廢、併入㆓交趾郡㆒、大唐復置㆓峯州㆒、或爲㆓承化郡㆒。

【峯岫】28（ホウシウ）　峯にある岩窟。〔歷代名畫記、六、宋〕宗炳、字少文、嘗自爲下畫二山水一序上曰、峯岫嶤嶷、雲林森眇。〔王縉、青龍寺曇壁上人院詩〕迤邐峯岫列、參差閭井分。

【峯嶂】29（ホウシヤウ）　けはしいみね。〔盧綸、題二天華觀一詩〕峯嶂徘徊霞景新、一潭寒水絕二纖鱗一。〔孟郊、皇甫秀才山亭詩〕晴湖瀉二峯嶂一、翠浪多二萍鮮一。

【峯上】30（ホウジヤウ）　峯の上。〔杜甫、泛溪詩〕練練峯上雪、纖纖雲表霓。

【峯首】31（ホウシユ）　峯の頂上。〔謝靈運、入二華子崗一是麻源第三谷詩〕遂登二羣峯首一、邈若レ升二雲煙一。〔陶學、花萼樓賦〕分二渭北之川光一、別二終南之峯首一。

【峯崒】32（ホウシユツ）　高く聳える。崒は高。〔柳宗元、晉問〕林立峯崒、穿レ雲蔽レ日。

【峯峻】33（ホウシユン）　峯が險しい。〔貫休、夜對レ雪寄二杜使君一詩〕橋高銀螮蝀、峯峻玉浮圖。

【峯色】34（ホウシヨク）　峯の色。〔杜甫、大覺高僧蘭若詩〕香爐峯色隱二晴湖一、種レ杏仙家近二白楡一。〔皎然、秋居二法華寺下院一望二高頂一贈二獻上人一詩〕峯色秋天見、松聲靜夜聞。

【峯心】35（ホウシン）　峯の中腹。峯脅。〔綦毋潛、登二天竺寺一詩〕松門當二澗口一、石路在二峯心一。〔皎然、題二湖上蘭若一示二清會上人一詩〕峯心惠忍寺、嵊頂謝公山。

【峯翠】36（ホウスイ）　峯の木のみどり。〔岑參、題二華嚴寺環公禪房一詩〕寺南幾十峯、峯翠晴可レ掬。〔皎然、春日陪二顏使君眞卿皇甫曾西亭重會一詩〕峯翠飄二簷下一、溪光照二座隅一。

【峯生】37（ホウセイ）　山の峯の如くとがり生ずる。〔顏延之、赭白馬賦〕異體峯生、殊相逸發。〔注〕善曰、峯生、若レ山而生レ峯也。

【峯勢】38（ホウセイ）　峰の高いすがた。〔唐太宗、帝京篇〕橋形通レ漢上、峯勢接レ雲危。〔劉禹錫、題二報恩寺一詩〕石文留二馬跡一、峯勢聳二牛頭一。〔岑參、青山峽口泊レ舟詩〕奔濤振二石壁一、峯勢如二動搖一。

【峯峭】39（ホウセウ）　峯が高く險しい。〔白居易、和三微之投二簡陽明洞天一詩〕石凹仙藥臼、峯峭佛香爐。

【峯尖】40（ホウセン）　みねのとがつた所。又、とがつた峯。〔杜甫、魏將軍歌〕魏侯骨聳精爽緊、華嶽峯尖見二秋隼一。〔白居易、遊二悟眞寺一詩〕嶫嶫三面峯、峯尖刀劍攢。

【峯前】41（ホウゼン）　峯の前。〔李益、夜上二受降城一聞レ笛詩〕回樂峯前沙似レ雪、受降城下月如レ霜。〔方干、陪二胡中丞一泛レ湖詩〕綺繡峯前聞二野鶴一、旌旗影裏見二游鱗一。〔皮日休、奉二和魯望四明山一九題、雲南詩〕雲南背二一川一、無三雁到二峯前一。

【峯打】42（ミネウチ）　刀の背で打つこと。むねうち。刀背打。

【峯朶】43（ホウダ）　みねの木の枝。〔貫休、將レ入二匡山一宿二韓判官宅一詩〕黛青峯朶孤吟後、雪白猨兒必寄來。〔李奎、遊二天竺寺一詩〕白雲嵌二紫芝一、峯朶開二芙蓉一。

【峯頂】44（ホウチヤウ）　㊀みねのいただき。山頂。峯頭。〔江淹、閩中草木頌、檉〕停二黛峯頂一、插二翠石側一。〔元稹、大雲寺詩〕攀レ蘿極二峯頂一、遊レ目到二江濆一。〔王守仁、夜宿二天池一月下聞レ雷詩〕昨夜月明峯頂宿、隱隱雷聲在二山麓一。㊁寺の名。〔金玉詩話〕蘄州黃梅縣、峯頂寺、在二水中央一、環狀二萬山一、人跡罕至。

【峯底】45（ホウテイ）　峯のひくい處。〔張詠、答二劉道人一詩〕嵩陽峯底洞中天、曾共二浮丘一對二掩關一。

【峯鐵】46（ホウテツ）　峽の名。甘肅武都縣の西。〔文同、峯鐵峽詩〕君不レ見、峯鐵峽頭雲色死、一過蕭然五十里。

【峯疊】47（ホウデフ）　峯が幾重にもかさなる。〔白居易、登二城東古臺一詩〕始見江山勢、峯疊水環迴。〔杜牧、西山草堂詩〕徒勞問二歸路一、峯疊遶二家鄉一。

【峯隥】48（ホウトウ）　峯の坂路。隥はけはしい坂路。峯磴。〔水經、廬江水注〕峯隥險峻、人跡罕レ及。

【峯頭】49（ホウトウ）　峰の上。山頂のほとり。峯頂。〔皮日休、傷二史拱山人一詩〕峯頭孤冢爲二雲穴一、松下靈筵是石牀。〔圖畫寶鑑〕許道寧畫二山水一、行筆簡易、峯頭直皴而下、林木勁硬、自成二一家體一。

【峯磴】50（ホウトウ）　峯の坂路。磴は石の坂路。峯隥。〔王勃、泥谿詩〕江濤出レ岸險、峯磴入レ雲危。

【峯入】51（ミネイリ）　修驗者が、其の開祖なる役行者（エンノギヤウジヤ）の跡を慕ひ、修業のために大和國大峯山に分け入ること。又、修驗者のこと。大峯入。〔謠曲、谷行〕峯入とやらんは、大事の行とこそ承りて候へ。

【峯背】52（ホウハイ）　峯のうしろ。〔蘇軾、巫山詩〕窮探到二峯背一、採二斫黃楊子一。

【峯阜】53（ホウフ）　峯とをか。〔水經、河水注〕崤水、合レ水出二石崤山一、山有二二陵一、南陵、夏后皐之墓也、北陵、文王所レ避二風雨一矣、言四山徑委レ深、峯阜交レ蔭、故可三以避二風雨一也。

【峯腹】54（ホウフク）　峯のなかほど。〔傳信記〕上賞望嘉二其高迥一、欲下于二峯腹一大鑿二開元二字一、塡以二白石一、令中百餘里望見上。

【峯霧】55（ホウム）　峯のきり。〔唐太宗、經下破二薛擧一戰地上詩〕浪霞穿レ水淨、峯霧抱レ蓮昏。

【峯容】56（ホウヨウ）　峯のすがた。〔賴山陽、耶馬溪圖卷記〕峯容樹色、忽覺二迴別一。

【峯巒】57（ホウラン）　山。山々。巒は山、又、つらなつた山。〔杜甫、放船詩〕青惜二峯巒過一、黃知二橘柚來一。〔戴叔倫、偶成詩〕野水連レ天碧、峯巒入レ海青。〔邵長蘅、夜游二孤山一記〕環レ湖峯巒、皆空翠如二新沐一。

〖峯巒圍繞〗58（ホウランヰゼウ　ホウランヰネウ）　山々が重なつて周りを取りまくこと。圍繞はめぐりかこむこと。〔青山鐵槍齋、天橋〕海上則峯巒圍繞。

【峯稜】59（ホウリヨウ）　峯の頂のかど。〔伊藤士龍、宿二足尾嶺一詩〕一彎殘月挂二峯稜一、人在二晃山最上層一。

【峯嶺】60（ホウレイ）　みね。〔魏書、崔挺傳〕有二斧山一、峯嶺高峻。〔陳子昂、修竹篇〕峯嶺上崇崒、煙雨下微冥。

【峯樓】61（ホウロウ）　峯の上にあるたかどの。〔庾肩吾、和三劉明府觀二湘東王書一詩〕峯樓霞早發、林殿日先曛。

【峯橫】63（ホウワウ）　峯が横に連なる。〔庾信、終南山義谷銘〕寥廓上浮、崢嶸下鎭、壁立千丈、峯橫萬仞。〔杜牧、送三西川相公出鎭二全蜀一詩〕棧壓嘉陵咽、峯橫劍閣長。

【峯伍伍】64（ホウゴゴ）　峯があちらこちらに群り聳えてゐるさま。〔杜牧、題二池州弄水亭一詩〕綺席草芊芊、紫嵐峯伍伍。

【峯殊レ狀】65（ミネ　ジヤウヲ　コトニス）　峯が各〻樣子を異にしてゐる。〔丘遲、旦發二漁浦潭一詩〕詭怪石異レ象、嶄絕峯殊レ狀。

【峯泖浪仙】66（ホウバウラウセン）　明、施紹莘（**5－13629··16**）の號。

【登レ峯造レ極】67（ミネニノボリテキヨクニイタル）　峯を登つて絕頂にいたる。學問、又は技術の深奧を極める喩。〔世說新語、文學〕佛經以爲、袪練神明、則聖人可レ致、簡文云、不レ知三便可二登レ峯造一レ極、不レ然、陶練之功、尚不レ可レ誣。〔顧炎武、與レ人書〕君文之病、在三於有二韓歐一、有二此蹊徑於胸中一、便終身不レ脫二依傍二字一、斷不レ能二登レ峯造一レ極。

【峰】8094　ホウ　峯（**4－8093**）の俗字。〔正字通〕峰、俗峯字。

【峫】8095　キ　ゲ　〔字彙〕巨希切　微

山旁の石。〔字彙〕峫、山旁之石也。

【峱】8096　ダウ　ノウ　〔集韻〕奴刀切　豪

小篆

㊀**山名。**山東省臨淄縣の南。〔說文〕峱、峱山也、在二齊地一、从レ山狃聲、詩曰、遭二我于峱之閒一兮。〔詩、齊風、還〕遭二我乎峱之閒一兮。㊁**犬。**〔玉篇〕峱、犬也。㊂或は巎（**4－8636**）・嶩（**4－8505**）に作る。〔集韻〕峱、或从レ夒、从レ農。

【峱山】1（ダウザン）　山名。山東省臨淄縣の南。〔詩、齊風、還〕子之還兮、遭二我乎峱之閒一兮。〔傳〕峱、山名。

【峱陽】2（ダウヤウ）　峱山の南。〔詩、齊風、還〕子之昌兮、遭二我乎峱之陽一兮。〔江總、鐘銘〕鳧氏之匠、峱陽之銅。

【峲】8097　リ　〔字彙〕良以切　紙

山のならぶさま。〔字彙〕峲、山逐行也。

【峲】8098 リ 〔字彙補〕靈義切 寘

崥峲は、山名。〔字彙補〕峲、崥峲、山名、在㆓無錫㆒。

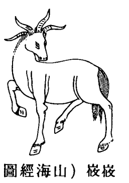
【⿰山殳】8099 トウ ヅ 〔字彙〕徒侯切 尤

山の高くけはしいさま。〔字彙〕⿰山殳、揚子雲蜀都賦、⿰山殳⿰山⿺辶鬼嶵嵬、皆山高峻貌。

【⿰山殳⿰山⿺辶鬼】1 トウハウ 山のけはしいさま。〔揚雄、蜀都賦〕⿰山殳⿰山⿺辶鬼⿱山⿸尸非嵬、霜雪終夏。

【峳】8100 イウ ユ 〔集韻〕夷周切 尤

峳峳は、獸の名。〔山海經、東山經〕硜山、有㆑獸焉、其狀如㆑馬而羊目、四角、牛尾、其音如㆓獆狗㆒、其名曰㆓峳峳㆒、見則其國多㆓狡客㆒。



峳峳（山海經圖）

【⿰山肙】8101 エン 〔集韻〕縈緣切 先

山のくま。山の屈曲して入りこんだ處。〔廣韻〕⿰山肙、山曲。〔集韻〕⿰山肙、山阿。

【⿰山尨】8102 バウ マウ 〔集韻〕莫江切 江

❶**山名。**五⿰山尨。〔集韻〕⿰山尨、五⿰山尨、山名、在㆑蜀。❷**國の名。**丹駹。〔正字通〕⿰山尨、或曰、蜀山無㆓⿰山尨名㆒、西南夷部有㆓丹駹㆒、今四川之松潘地也、漢武帝開㆓丹駹㆒爲㆓汶山郡㆒、唐置㆓松州㆒、宋爲㆓茂州㆒。

【⿱山忘】8103 バウ マウ 〔集韻〕武方切 陽

山名。〔集韻〕⿱山忘、山名。

【⿰山良】8104 ラウ 〔集韻〕盧當切 陽

峻⿰山良は、山名。冬至に日の入る處。〔集韻〕⿰山良、峻⿰山良、山名、冬至日所㆑入。

【崀】8105 ラウ 〔集韻〕里黨切 養

康崀は、山のむなしいさま。〔集韻〕崀、康崀、山虛。

【峴】8106 ケン ゲン 〔集韻〕胡典切 銑 ㄒㄧㄢˇ hsien³

❶**山名。**峴山(3)を見よ。〔集韻〕峴、山名。❷**山が小さくてけはしい。又、山のいただきの平なこと。**〔集韻〕峴、一曰、山小而險、一曰、嶺上平。❸現(7－21004)に同じ。〔集韻〕現、或作㆑峴。

【峴岡】1 ケンカウ 清、袁名曜(10－34152‥249)の字。

【峴莊】2 ケンサウ 清、劉坤一(2－2224‥931)の字。

【峴山】3 ケンザン 山名。❶河南省信陽縣の南。一名、鑿峴山。〔資治通鑑、梁紀〕(武帝天監三年)上遣㆓將㆓一萬人㆒據㆓鑿峴㆒。〔注〕鑿峴、在㆓關南㆒、今信陽軍南三十五里有㆓曹店㆒、卽景宗屯㆓鑿峴口㆒所㆑築。❷江蘇省丹徒縣の東南。獸窟といひ、又、九華山といふ。❸浙江省東陽縣の南。舊名、三邱山。晉の殷仲堪、東陽の太守となり、常に登つて悶を遣る。二峯が並峙してゐるから雙峴ともいふ。〔讀史方輿紀要、浙江、金華府、東陽縣〕三邱山、縣南八里、高三百六十丈、周二十里、晉義熙間、殷仲堪爲㆑守、嘗登㆓此山㆒、人比㆓之羊叔子㆒、因名㆓峴山㆒、有㆓東西兩峴峯㆒。❹浙江省吳興縣の南。浮玉泉があり、又、鑿嶺がある。秦代、其の地に王氣あるを以て之を鑿つて其の脈を斷つたと傳へる。顯山。〔太平寰宇記〕本名、顯山、晉太守殷康、於㆓山下㆒起㆓顯亭㆒、以㆓唐廟諱㆒改、山上有㆓唐相李適之石罇㆒。〔讀史方輿紀要、浙江、湖州府、歸安縣、毗山〕峴山、在㆓府南五里㆒、本名㆓顯山㆒、唐改㆓今名㆒。❺浙江省長興縣の西。山に箭筈を生ず。❻湖北省襄陽縣の南。一に峴首山と名づく。晉の羊祜、襄陽の守となり、常に登つて樂しむ。祜卒するに及び、後人碑を其の上に立つ。峴山碑を見よ。〔水經、沔水注〕沔水、又逕㆓桃林亭東㆒、又逕㆓峴山東㆒、山上有㆓桓宣所㆑築城㆒、孫堅死㆓于此㆒、又有㆓桓宣碑㆒、羊祜之鎭㆓襄陽㆒也、與㆓鄒潤甫㆒嘗登㆑之、及㆓祜薨㆒、後人立㆓碑于故處㆒、望者悲感、杜元凱謂㆓之墮淚碑㆒。〔晉書、羊祜傳〕祜樂㆓山水㆒、每㆓風景㆒必造㆓峴山㆒、置酒言詠、終日不㆑倦。〔讀史方輿紀要、湖廣、襄陽府、襄陽縣〕峴山、府南七里、亦曰㆓南峴㆒、唐六典、峴山、山南道之名山也、黃祖爲㆓孫堅所㆒㆑敗、竄㆓峴山中㆒、羊祜鎭㆓襄陽㆒、嘗登㆑此、亦曰㆓峴首山㆒、晉建元二年、梁州刺史桓宣擊㆓趙將李羆㆒、敗㆓于丹水㆒、移戍㆓峴山㆒、宋嘉定十年、金兵犯㆓襄陽㆒、圍㆓棗陽㆒、孟宗政、午發㆓峴首㆒、遲明抵㆓棗陽㆒、馳突如㆑神、金人駭遁、水經注、山上有㆓桓宣所㆑築城㆒、今鳳林關在㆓山上㆒。〔李白、襄陽歌〕落日欲㆑沒峴山西、倒著㆓接䍦㆒花下迷。

【峴山碑】4 ケンザンノヒ 峴山に在る碑。一名、墮淚碑。晉の羊祜、襄陽の守となり、常に峴山に登つて樂しんだ。後人、羊祜を慕つて碑を建て每年祭祀を營む。其の碑を見る者、皆流涕したので、杜預は墮淚碑と名づけた。峴山の❻を見よ。〔晉書、羊祜傳〕祜樂㆓山水㆒、每㆓風景㆒、必造㆓峴山㆒、置酒言詠、終日不㆑倦、嘗慨然歎息、顧謂㆓從事中郎鄒湛等㆒曰、自㆑有㆓宇宙㆒、便有㆓此山㆒、由來賢達勝士、登㆑此遠望、如㆓我與㆑卿者多矣、皆湮滅無㆑聞、使㆓人悲傷㆒、如百歲後有㆑知、魂魄猶應㆑登㆑此也、云云、襄陽百姓、於㆓硯山祜平生游憩之所㆒、建㆑碑立㆑廟、歲時饗祭焉、望㆓其碑㆒者、莫㆑不㆓流涕㆒、杜預因名爲㆓墮淚碑㆒。〔陳子昂、峴山懷古〕秣㆑馬臨㆓荒甸㆒、登㆑高覽㆓舊都㆒、猶悲墮淚碣、尙想臥龍圖。

〔峴山亭記〕5 ケンザンテイキ 文章の名。宋、歐陽脩作。友人、史中輝が嘗て羊祜の遊んだ峴山の亭を修復したことを敍す。豐樂亭記・醉翁亭記と共に傑作と稱せられる。唐宋八大家文讀本、卷十二に收錄す。峴山の❻及び峴山碑を見よ。〔歐陽脩、峴山亭記〕峴山臨㆓漢上㆒、望㆑之隱然、蓋諸山之小者、而其名特著㆓於荊州㆒者、豈非㆑以㆓其人㆒哉、其人謂㆑誰、羊祜叔子・杜預元凱是已。

【峴首】6 ケンシユ 山名。湖北省襄陽縣の峴山をいふ。峴山の❻を見よ。〔杜甫、贈㆓別鄭錬赴㆓襄陽㆒詩〕地闊峩眉晚、天高峴首春。

【峴岑】7 ケンシン 峴山の峰。〔陸龜蒙、和㆑傷㆓史拱山人㆒詩〕唯君獨在㆓江雲外㆒、誰誄㆓孤貞㆒置㆓峴岑㆒。

【峴亭】8 ケンテイ 字號。❶清、高岑(商丘の人)(12－45313‥487)の字。❷清、徐侃(4－10110‥56)の號。

【峴頭】9 ケントウ 山名。河南省陝縣の西南。〔漢書、陳勝傳、周文走出㆑關、止屯㆓曹陽㆒、〔注〕師古曰、曹水之陽也、其水出㆓陝縣西南峴頭山㆒、而北流入㆑河。

【峴南】10 ケンナン 峴山の南。〔酉陽雜俎、王格〕長白山、相傳、古肅然山也、峴南有㆓鐘鳴㆒、燕世桑門釋惠霄者、自㆓廣固㆒至㆓此峴㆒、聽㆓鐘聲㆒、稍前忽見㆓一寺㆒。

【峴北】11 ケンポク 峴山の北。〔宋之問、秋蓮賦〕江南兮峴北、汀洲兮不㆑極。〔李白、惜㆓餘春㆒賦〕想㆓遊女於峴北㆒、愁㆓帝子於湘南㆒。

【峴嶺】12 ケンレイ 峴山の峯。〔皮日休、寄㆓答魯望㆒詩〕檀溪試㆓戈船㆒、峴嶺屯㆓貝冑㆒。

【峴泉集】13 ケンセンシフ 書名。四卷。明、張宇初撰。朱彝尊の明詩綜には、峴泉集二十卷、詩其の半に居ると稱するも、今本は雜文と歌行數十首を載するのみ。〔四庫提要、集、別集類〕。

【峵】8107 クワウ

嶸(4－8548)に同じ。〔集韻〕嶸、或作㆑峵。

【島】8108 タウ トウ 〔廣韻〕都皓切 皓 ㄉㄠˇ tao³

小篆 ❶しま。水中に在る陸地。もと㠀（4－8433）に作る。〔字彙補〕島、説文作レ㠀。〔説文〕㠀、海中往往有三山可二依止一、曰レ㠀、从レ山鳥聲、讀若四詩曰三蔦與二女蘿一。〔釋名、釋水〕海中可レ居曰レ㠀、㠀、到也、人所二奔到一也、亦言レ鳥也、人物所レ趣、如二鳥之下一也。〔史記、田儋傳〕入レ海居二島中一。〔注〕集解曰、海中山曰レ島。❷或は隝（11－41824）・嶹（4－8549）・隯（11－41887）に作る。〔集韻〕㠀、或从レ𠂤、亦作二嶹・隯一。❸また嶋（4－8434）に作る。〔集韻〕㠀、亦書作レ嶋。❹古は鳥（12－46634）に作る。〔集韻〕㠀、古作レ鳥。❺姓。〔正字通〕島、姓、明弘治擧人、島璞。

【島夷】1 タウイ ❶海島に住む野蠻人。〔書、禹貢〕島夷皮服。〔蔡傳〕海曲曰レ島、海島之夷、以二皮服一來貢也。〔白居易、郡中春宴因贈二諸客一詩〕可レ憐島夷帥。〔皇甫曾、送三徐大夫赴二南海一詩〕海內求二民瘼一、城隅見二島夷一。❷北方人が南方人を詆つていふ稱。島夷傳を見よ。〔韻會〕島、北謂レ南爲二島夷一。

〖島夷傳〗2 タウイデン 島夷の傳記。魏書に島夷傳あり、宋・齊・梁三朝を詆つて、宋を島夷劉裕、齊を島夷蕭道成、梁を島夷蕭衍といふ。

〖島夷志略〗3 タウイシリヤク 書名。一卷。元、汪大淵撰。大淵が至正中に海船に乘つて數十國を經、其の見聞した各國の山川・地理・物產・民風を記したもの。〔四庫提要、史、地理類〕。

【島隱】4 シマガクル 船などが島蔭にかくれる。〔古今和歌集、羈旅〕朝霧に島がくれ行く舟。

【島影】5 タウエイ 島のすがた。島。〔陸龜蒙、平上聲詩〕絲禽藏二荷香一、錦鯉遶二島影一。

【島可】6 タウカ 賈島（10－36755・・97）と僧無可（7－19113・・85）。共に唐の詩人。〔冷齋夜話、六、僧景淳詩多二深意一〕桂林僧景淳、工二爲五言詩一、規模淸寒、其淵源出二於島可一。〔蘇軾、贈二詩僧道通一詩〕爲レ報韓公莫二輕許一、從レ今島可是詩奴。

【島嶽】7 タウガク 島にある山。〔孟郊、與二王員外涯一遊二昭成寺一詩〕玄講島嶽盡、淵詠文字新。

【島閒】8 タウカン 島と島との閒。又、島のあたり。〔宋之問、景龍四年春祠レ海詩〕的的波際禽、沄沄島閒樹。

【島居】9 タウキヨ 島に住む。〔韓愈、送二竇從事一序〕連レ山隔二其陰一、鉅レ海敵二其陽一、是維島居卉服之民、風氣之殊、著レ自二古昔一。〔鄞江志〕島居者安二漁鹽之利一、山居者任二耕織之勞一。

【島曲】10 シマワ 島の彎入した所。又、島のめぐり。〔萬葉集、一〕漕ぐ舟に、妹乘るらんか荒きしまわを。

【島花】11 タウクワ 島に咲いた花。〔貫休、陪二馮使君遊一詩〕風破二綺霞一山寺出、人歌二白雪一島花飛。

【島廻】12 シマメグリ ❶島々を遊覽すること。❷鷺の一種。形小にして、冠毛なく、觜脚共に灰色。

【島外】13 タウグワイ 島のそと。〔翁洮、贈二方干先生一詩〕城頭鼙鼓三聲曉、島外湖山一簇春。

【島闊】14 シマヒロシ 島が廣くひらける。〔葉顒、採蓮歌〕島闊香雲冷、江空秋月明。

【島戶】15 タウコ 島に住む人。しまびとの家。〔張說、巴丘春日詩〕島戶巢爲レ館、漁人艇作レ家。

【島崮】16 タウコ しま。崮も島。〔宋史、李全傳上〕此數人者、出二沒島崮一。

【島國】17 タウコク 四方が海で取りまかれてゐる國。しまぐに。海國。

【島根】18 シマネ しま。根は岩根・桓根などの根と同じく、大地に固定して動かない意。〔萬葉集、十五〕磐が根の荒きしまねに宿りする君。〔萬葉集、二十〕天地の固めし國ぞ大和しまねは。

【島晒】19 シマザラシ 島でさらして製した布。條布。〔好古日錄、末〕條布（シマザラシ）は二百年來の物と云ふ、非也。

【島蒜】20 アサヅキ 野菜の名。あさづき。〔倭名類聚抄、菜蔬、蒜〕楊氏漢語抄云、島蒜、豆伎。

【島山】21 シマヤマ 島にある山。山から成立つ島。〔萬葉集、三〕島山のよろしき國と、こごしき伊豫の高ね。

【島司】22 タウシ 島廳（島を管轄する役所）の長官。府縣知事の命令を受けて管轄區域內の行政事務を掌理する。

【島寺】23 タウジ 島にある寺。〔章碣、變體詩〕偶逢二島寺一停レ帆看、深羨漁翁下レ釣眠。〔張喬、江南別二友人一詩〕聽三猿吟二島寺一、待三月上二江樓一。

【島岫】24 タウシウ 島の山。〔棲白、送二石秀才一詩〕倚レ棹江州雨、聞レ猨島岫秋。

【島上】25 タウジヤウ 島のうへ。〔方干、越中言レ事詩〕沙邊賈客喧二魚市一、島上潛夫醉二筍莊一。〔張喬、送三友人歸二江南一詩〕落日江邊笛、殘春島上花。

【島守】26 タウシユ シマモリ 島を守る者。島の番人。しまもり。〔日本政記、文德天皇〕天安元年六月、對馬郡吏、率二島民一、攻殺二島守立野正岑一。

【島樹】27 タウジユ 島の樹木。〔朱慶餘、省試晦日與二同志一昆明池泛レ舟詩〕島樹偶知レ名。〔宋務光、海上詩〕天波混莫レ分、島樹遙難レ識。〔張喬、江南逢二洛下友人一詩〕曉月江城出、晴霞島樹分。

【島渚】28 タウシヨ しまとこじま。〔韓愈、奉二和虢州劉給事使君三堂新題二十一詠一詩序〕虢州刺史宅、連二水池竹林一、往往爲二亭臺島渚一、目二其處一爲二三堂一云爾。

【島嶼】29 タウシヨ しま。島は大きいしま、嶼は小さいしま。〔左思、吳都賦〕島嶼緜邈。〔庾信、周大將軍襄城公鄭偉墓誌銘〕島嶼憑陵、波瀾衝激。〔江總、修心賦〕望二島嶼之邅回一、面二江源之重沓一。〔李洞、送三僧遊二南海一詩〕島嶼分二諸國一、星河共二一天一。

【島漵】30 タウジヨ 島のうらわ。漵はうら、水浦。〔狄遵度、白雲詩〕烟蘿自翳薈、島漵徒縈曲。

【島松】31 タウシヨウ 島の松。〔賈島、送二安南惟鑒法師一詩〕湖搖蠻草落、月濕島松微。

【島岑】32 タウシン 島のみね。〔竹譜〕有二海篠一、生二於島岑一、節大盈レ尺、幹不レ滿レ尋。

【島勢】33 タウセイ 島の地勢。島のありさま。〔王建、薛二十池亭詩〕斜豎二小橋一看二島勢一、遠移二山石一作二泉聲一。

【島峭】34 タウセウ 島が高く險しい。〔齊己、酬二元員外見レ寄詩〕遠靑憐二島峭一、輕白愛二雲騰一。

【島摺】35 シマズリ 島・洲崎などの模樣のある靑い草摺。〔源平盛衰記、五、成親妻子歎事〕島摺の直垂。

【島泉】36 タウセン 島のいづみ。〔朱慶餘、送三僧往二台嶽一詩〕天寒嶽寺出、日晚島泉淸。

【島側】37 タウソク 島の外側。又、島のかたはら。島旁。〔貫休、送三友人及第後歸二台州一詩〕島側花藏レ虎、湖心浪撼レ棊。

【島臺】38 シマダイ 婚禮の時などに用ひる飾物。蓬萊山に模し、洲濱の上に松・竹・梅を作り、高砂の翁・姥、及び鶴・龜などを取合はせてある。〔守貞漫稿、二十六〕島臺と云は、洲濱形の臺を云也。

【島脫】39 シマヌケ 島流しに處せられた罪人が、竊かに其の島から逃出すこと。又、其の人。島破り。島拔。〔御仕置例類集、三、十三〕伊豆國附新島流人藤助外一人、島拔致し候一件。

【島地】40 タウチ 島の土地。しま。島國。

【島廳】41 タウチヤウ 島司が事務を取扱ふ役所。

【島田】42 タウデン ❶しまにある田。〔張喬、江行夜雨詩〕不レ及樵漁客、全家住二島田一。❷シマダ 女の髮の結方。しまだまげ。〔東海道名所記〕はたご屋の女は塵のつくも髮、せめて島田にゆふよしもがな。

〖島田髷〗43 シマダマゲ 主に年頃の未婚婦人の結ふ髮。もと、駿河國島田驛の遊女が結んだものといふ。〔世事百談〕。

〖島田崩〗44 シマダクヅシ 島田髷を簡略にした髮形。主として主人の忌中に在る女、又は粹者が結ふもの。〔浮世風呂、二下〕かみ様、はやりの島田くづしにて。

〖島田篁村〗45 シマダクワウソン 武藏國の人。名は重禮。字は敬甫。篁村は其の號。海保漁村・安積艮齋に師事し、後、昌平黌に學ぶ。官は昌平黌助敎、高等師範學校・女子師範學校・學習院敎授、東京大學講師。文學博士。明治の初、雙桂精舍を下谷に開き、子弟三千餘人に至る。經學は漢儒を宗とし、宋淸を兼ね採る。明治三十一年八月二十七日歿す。年六十一。著に篁村遺稿・篁村文稿がある。

〖島田忠臣〗46 シマダタダオミ 姓は島田。字は達音。又、田達音といふ。菅原是善に師事す。官は典藥頭。寬平三年歿す。年六十四。著に百官唐名抄・田達音集・田氏家集がある。

〖島田南村〗47 シマダナンソン 周防國の人。初名は圓秀、後、蕃根。號は南村。明治四十年歿す、年八十一。

【島傳】48（シマヅタヒ） 島から島へとつたひ行くこと。〔平家物語、三、少將都還事〕浦傳ひ島傳ひして、云云、備前の兒島には著き給ふ。

【島藤】49（タウトウ） 島に生じた藤。〔孟浩然、萬山潭詩〕魚行潭樹下、猿挂島藤閒。

【島桐】50（タウドウ） 島のあをぎり。〔劉峻、思越州山木詩〕島桐秋送雨、江艇暮搖烟。

【島破】51（シマヤブリ） 島脫(39)に同じ。

【島旁】52（タウバウ） 島のかたはら。島側。〔貫休、送新羅人及第歸詩〕衣上日光眞是火、島旁魚骨大於船。

【島蠻】53（タウバン） 島に住む蠻族。〔高啓、送恩公還江心寺詩〕施貝來江估、持經過島蠻。

【島濱】54（タウヒン） 島のはまべ。〔孟浩然、除夜樂城張少府宅詩〕雲海訪甌閩、風濤泊島濱。

【島風】55（タウフウ） 島に吹く風。しまかぜ。〔無可、送李使君赴瓊州兼五州招討使詩〕政閑開迥閣、欹枕島風淸。

【島浦】56（タウホ） 島の水濱。〔李紳、渉沅瀟詩〕瀟湘島浦無人居、風驚水暗惟鮫魚。

【島木】57（シマギ） ❶島中に生えてゐる木。❷鳥居の上の横木。かさぎ。〔文永遷宮記〕南荒垣鳥居、置島木、打冠木。

【島民】58（タウミン） ❶島の住民。〔元史、杜豐傳〕益都下遂略地、登萊降、島民萬餘。❷淸、易宗瀛(5-13814··210)の號。

【島流】59（シマナガシ） 古の刑罰の一。罪人を遠島に放つこと。又、轉じて、遠國に放逐すること。遠島。流罪。

【島露】60（タウロ） 島におくつゆ。〔齊己、寄鏡湖方干處士詩〕島露深秋石、湖澄半夜天。

【島公方】61（シマクバウ） 足利義植をいふ。嘗て阿波國に居たからいふ。

【島津鳥】62（シマツドリ） う(鵜)の枕詞。又、鵜の異稱。島の鳥には鵜が多いからいふ。〔古事記、中〕しまつどり鵜かひがとも。

【島原一揆】63（シマバライツキ） 寛永十四年、耶蘇教徒が肥前國島原に據つて起した亂。島原の亂。

【島津華山】64（シマヅクワザン） 京都の人。名は義張。字は琴王。通稱は左馬助。華山は其の號。寛政六年七月二十三日歿す。著に阿山叢桂集・華山詩稿・讃海詩删がある。〔近代著述目錄後篇〕。

【峷】8109 シン 〔集韻〕疏臻切 眞

獸の名。一說に、神の名。狀、狗に似て角があり、身に五采の模樣があるといふ。通じて莘(**9-31056**)に作る。〔集韻〕峷、獸名、狀如狗、通作莘。〔正字通〕峷、神名。〔莊子、達生〕丘有峷。〔釋文〕司馬云、狀如狗有角、文身五采。

【峸】8110 セイ ジヤウ 〔集韻〕時征切 庚

山名。〔集韻〕峸、山名。

【峹】8111 ト

嵞(**4-8321**)に同じ。〔集韻〕嵞、或省。

【⿰山余】8112 ト

峹(**4-8111**)に同じ。〔集韻〕嵞、或省、亦書作⿰山余。

【⿰山妥】8113 [一]タイ ツイ 〔集韻〕吐猥切 賄 [二]タ 〔集韻〕吐火切 哿

[一]⿰山妥⿱山非は、山の高いさま。〔集韻〕⿰山妥、⿰山妥⿱山非、山高皃。[二]❶**山の長いさま。**〔集韻〕⿰山妥、山長皃。❷或は隓(**4-8519**)・嶞(**4-8486**)に作る。〔集韻〕⿰山妥、或作隓・嶞。

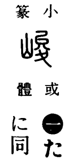
【⿰山吳】8114 ゴ

峿(**4-8125**)に同じ。〔正字通〕⿰山吳、同峿。

【峺】8115 カウ キヤウ 〔集韻〕古杏切 梗

❶**さへぎる。**〔集韻〕峺、礙也。❷或は硬(**8-24230**)に作る。〔集韻〕峺、或从石。

【峻】8116 シユン 〔集韻〕祖峻切 震 ㄐㄩㄣˋ chün⁴


小篆 或體

❶**たかい。**陖(**4-8336**)に同じ。〔說文〕陖、高也、从山陖聲、峻、陖或省。〔小爾雅、廣詁〕峻、高也。〔左氏、昭、五〕垂不峻也。〔注〕峻、高也。❷**山が高く聳えてゐるさま。**〔六書故〕峻、山聳拔也。❸**けはしい。**〔國語、晉語九〕高山峻原。〔注〕峻、峭也。❹**きびしい。**はげしい。〔漢書、杜延年傳〕獄深吏爲峻詆。〔注〕師古曰、峻、謂峭刻也。〔後漢書、朱浮傳〕因以峻文詆之。〔注〕峻、嚴切也。❺**きびしくする。**〔詩、大雅、蕩、疾威上帝、箋〕峻刑法也。〔疏〕峻者、高險之名。❻**大きい。**高く大きい。高く大きくする。〔集韻〕峻、大也。〔書、五子之歌〕峻宇彫牆。〔傳〕峻、高大。〔禮、大學〕克明峻德。〔注〕峻、大也。❼**ながい。**〔淮南子、本經訓〕山無峻幹。〔注〕峻幹、長枝也。❽**生長する。**〔楚辭、離騷〕冀枝葉之峻茂兮。〔注〕峻、長也。❾**うつくしい。**よい。立派な。〔淮南子、覽冥訓〕山無峻幹。〔注〕峻幹、美材也。❿**すみやか。**〔廣韻〕峻、速也。⓫**ゆはず。**弓末。〔周禮、考工記、弓人〕方其峻而高其柎。〔注〕峻、謂簫也。⓬通じて駿(**12-44775**)に作る。〔集韻〕峻、通作駿。

【峻隘】1（シユンアイ） ❶高くせまつてけはしい。〔北齊書、高昂傳〕徑赴商洛、山道峻隘。❷性質がきびしく狹い。寛大なところがない。〔晉書、王雅傳〕王恭、稟性峻隘、無所苞容。

【峻宇】2（シユンウ） 高大なのき。高大な家。又、のきを高大にする。〔書、五子之歌〕甘酒嗜音、峻宇彫牆。〔蔡傳〕峻、高大也、宇、棟宇也。〔王融、法樂辭、俱具歌〕峻宇臨層穹、苕苕疎遠風。

【峻葉】3（シユンエフ） 美しい葉。〔新序、雜事五〕當其居桂林之中、峻葉之上、云云。

【峻厓】4（シユンガイ） けはしいがけ。高いがけ。峻崖。〔班固、西都賦〕超洞壑、越峻厓。〔注〕翰曰、峻、高也。

【峻崖】5（シユンガイ） けはしいがけ。高いがけ。きりぎし。峻厓。〔鹽鐵論、周秦〕垂峻崖之峭谷。

【峻閣】6（シユンカク） たかい樓閣。たかどの。〔李嶠、宣州大雲寺碑〕峻閣崇臺、陟崢嶸而望寥廓。

【峻岳】7（シユンガク） 高くけはしい山。峻嶽。〔何劭、遊仙詩〕迢遞陵峻岳。

【峻崿】8（シユンガク） けはしいがけ。〔嵆康、琴賦〕援瓊枝、陟峻崿、以游乎其下。

【峻嶽】9（シユンガク） 高くけはしい山。〔王逸、荔支賦〕湛若大廈之容、鬱如峻嶽之勢。〔嵆康、琴賦〕惟椅梧之所生兮、託峻嶽之崇岡。

【峻幹】10（シユンカン） ❶長いみき。〔淮南子、本經訓〕山無峻幹。〔注〕峻幹、長枝也。❷美しい材木。〔淮南子、覽冥訓〕山無峻幹。〔注〕峻幹、美材也。

【峻岸】11（シユンガン） けはしい岸。〔杜甫、阻雨不得歸瀼西甘林詩〕峻岸復萬尋。

【峻巖】12（シユンガン） けはしい岩。〔潘岳、河陽縣作詩〕幽谷茂纖葛、峻巖敷榮條。

【峻危】13（シユンキ） けはしくてあやふい。〔吳志、陸凱傳〕陵居則峻危。〔左思、魏都賦〕峻危之竅也。

【峻岐】14（シユンキ） けはしいえだ道。〔左思、蜀都賦〕羲和假道於峻岐。〔注〕濟曰、岐、樹奇枝也。

【峻垝】15（シユンキ） 高くけはしい。高峻。〔顏延之、三月三日曲水詩序〕松石峻垝、葱翠陰煙。〔注〕濟曰、峻垝、高峻也。

【峻起】16（シユンキ） たかくけはしくたつ。〔郭璞、巫咸山賦〕體岑峭以隆頹、冠崇嶺以峻起。

【峻峗】17（シユンキ） 山のけはしいさま。又、其の山。〔後漢書、崔駰傳〕託峻峗以幽處。〔注〕峻峗、

謂レ山也。

【峻急】18シュンキフ ❶性質が嚴しくて、人を容れる雅量のないこと。〔晉書、傅玄傳〕天性峻急、不レ能レ有レ所レ容、毎レ有二奏劾一、貴游懾伏、臺閣生レ風。〔北史、李昶傳〕性峻急不レ雜二交遊一。〔北史、陽休之傳〕休之少年、頗以二峻急一爲レ累、晩節以二通美一見レ稱。❷水の流が甚だ速いさま。急湍。〔柳宗元、愚溪詩序〕峻急多二坻石一、大舟不レ可レ入也。

【峻却】19シュンキャク きびしくしりぞける。〔福惠全書、荒政部、積貯〕勢難二峻却一、則爲レ之捐レ俸。

【峻拒】20シュンキョ きびしくこばむ。手ひどくはねつける。

【峻極】21シュンキョク ❶極めて高いさま。駿極。〔孫綽、遊二天台山一賦〕夫其峻極之狀。〔晉書、虞溥傳〕積二一勺一以成二江河一、累二微塵一以崇二峻極一。❷宋、夏侯嶠（**3**－**5720**‥100）の字。

【峻隅】22シュングウ 城のすみ。又、高い城。〔鮑照、蕪城賦〕通池既已夷、峻隅又以頹。〔注〕善曰、峻隅、城隅也、銑曰、峻隅、高城也。

【峻科】23シュンクヮ きびしいおきて。嚴科。峻法。〔薛登、論二選擧一疏〕降二明制一、頒二峻科一。

【峻滑】24シュンクヮツ 地形がけはしくてすべること。〔魏志、王肅傳〕今又加レ之以二霖雨一、山坂峻滑。〔元好問、游二承天縣泉一詩〕雷車怒擊冰雹散、石峽峻滑蒼烟屯。

【峻刑】25シュンケイ きびしい刑罰。むごい罰。又、刑罰をきびしくする。嚴刑。〔史記、商君傳〕殘二傷民一以二峻刑一。〔漢書、谷永傳〕峻レ刑重レ賦、百姓愁怨。〔晉書、阮种傳〕皆有二爭心一、雖二峻刑嚴辟一、猶不レ勝矣。

【峻谿】26シュンケイ けはしいたに。〔韓非子、姦劫弑臣〕是猶下上二高陵之顚一、墮二峻谿之下一、而求上生。

【峻激】27シュンゲキ きびしくて強い。けはしくはげしい。〔宣和書譜、十〕婦人薛濤、成都倡婦也、云云、作レ字、無二女子氣一、筆力峻激。

【峻碣】28シュンケツ 高くて大きい石碑。〔陶弘景、呉太極左仙公葛公碑〕懷レ古測レ衷、表二茲峻碣一。

【峻潔】29シュンケツ おごそかで清い。森嚴で潔白。嚴潔。莊潔。〔韓偓、格卑詩〕南朝峻潔推二弘景一、東晉清狂數二季鷹一。〔元史、宋本傳〕峻潔刻厲。

【峻狭】30シュンケフ 險しくて狭い。山がけはしく左右から迫つて、山あひの極めて狭いこと。〔張載、敍行賦〕山崢嶸以峻狭、仰二青天一其如レ帶。

【峻嶮】31シュンケン 高くけはしい。又、其の所。峻險に同じ。〔曹昭、東征賦〕既免二脫於峻嶮一兮、歷二榮陽一而過二武卷一。

【峻險】32シュンケン 高くけはしい。又、其の所。峻嶮。高峻。險峻。〔張衡、西京賦〕襄岸夷塗、修路峻險。〔魏志、張遼傳〕登二天山一、履二峻險一。

【峻原】33シュンゲン けはしい高原。〔國語、晉語九〕志有レ之、曰、高山峻原、不レ生二草木一、松柏之地、其土不レ肥。〔注〕峻、峭也。

【峻嚴】34シュンゲン ❶おごそかできびしい。峻刻。〔史記、酷吏、張湯傳〕吏務爲二嚴峻一、而禹治加レ緩。❷けはしく高い。〔柳宗元、盩厔縣新食堂記〕周阿峻嚴、列楹齊同。〔白敏中、滑州明福寺新修浮圖記〕界宇峻嚴、宛如二鷲山一。

【峻吾】35シュンゴ 明、石崇德（**8**－**24024**‥964′）の字。

【峻厚】36シュンコウ けはしく高いこと。〔畫史〕荊浩善爲レ雲、中山頂四面峻厚。

【峻谷】37シュンコク 深くけはしいたに。〔班固、幽通賦〕眷二峻谷一曰勿レ墜。〔新論、激通〕登二峭嶺一者、則欲レ望レ遠、臨二峻谷一者、必欲レ窮レ墟。

【峻刻】38シュンコク きびしくむごい。きびしすぎて情愛がない。嚴刻。峻酷。峻嚴。〔宋書、謝方明傳〕風俗峻刻、強弱相陵。〔宋史、滕中正傳〕性峻刻、連二鞫大獄一、時議以爲二深文一。

【峻酷】39シュンコク きびしくむごい。峻刻。殘忍苛刻。〔宋史、李繼和傳〕上以二繼和峻酷一、欲三軍士感二其惠一、特令下以レ所レ奏著二詔書中一加中賜之上。

【峻爽】40シュンサウ すぐれてけだかい。〔菊池三溪、國史略、二編二〕風骨峻爽、奮レ鬣一嘶。

【峻三】41シュンサン 清、朱文嶸（**6**－**14424**‥976）の字。

【峻山】42シュンザン ❶高くけはしい山。〔史記、袁盎傳〕今陛下騁二六騑一、馳二下峻山一。〔呉志、陸抗傳〕徒以二長川峻山一、限二帶封域一、此乃守レ國之末事。〔陸機、辨亡論下〕峻山帶二其封域一。❷清、朱文嶸（**6**－**14424**‥976）の字。

【峻之】43シュンシ 明、洪垣（**6**－**17402**‥21）の字。

【峻秀】44シュンシウ 山などの高くてすぐれてゐること。又、ぬきんでひいでる。轉じて、人物のすぐれてゐること。〔沈佺期、辛丑歲十月上幸二長安一時扈從出二西嶽一作詩〕諸嶺皆峻秀、中峯特美好。〔崔黯、東林寺碑銘〕廬山爲レ山、峻與レ秀兩有レ之。

【峻敞】45シュンシャウ 高くそびえあらはれる。〔李尤、函谷關賦〕建二峻敞之堅重一。〔王勃、梓州福當寺碑〕法川高闢、慈宮峻敞。

【峻爵】46シュンシャク 高い爵位。又、其の人。〔江淹、爲二蕭相國一拜二齊王一表〕超居二上禮一、邈乘二峻爵一。

【峻峻】47シュンシュン 山のけはしいさま。〔孟郊、至二孝義渡一寄二鄭軍事唐二十五一詩〕嵩少玉峻峻、伊雒碧華華。

【峻竦】48シュンショウ 高く聳える。高くそばだつ。〔水經、沮水注〕高峰霞擧、峻二竦層雲一。

【峻岑】49シュンシン けはしいみね。峻嶺。〔新論、崇學〕不レ登二峻岑一、不レ知二天之高一。〔裴度、蜀丞相諸葛武侯祠堂碑銘〕錦江清波、玉壘峻岑。

【峻制】50シュンセイ きびしいおきて。嚴制。〔晉書、陸機傳〕懼二萬方之不服一、則嚴刑峻制、以賈二傷心之怨一。

【峻政】51シュンセイ きびしい政治。〔後漢書、循吏傳序〕故朱浮數上二諫書一、箴二切峻政一。〔白居易、才識兼茂明二於體用一科策一道〕峻政非レ美者、非二考課之累一也。

【峻砌】52シュンセイ けはしく高い石だたみ。〔李庾、西都賦〕程鄭之家、白闥朱軒、崇基峻砌、待駟高門。

【峻整】53シュンセイ おごそかでととのふ。〔晉書、庾亮傳〕風格峻整、動由二禮節一。〔李邕、大雪寺蘭若和尙碑〕十六受二十戒一、持護峻整、名重二京師一。〔宋史、朱京傳〕風神峻整、見者憚レ之、目爲二眞御史一。

【峻昭】54シュンセウ 唐、周岳（**2**－**3441**‥67）の字。

【峻峭】55シュンセウ ❶山などのけはしいさま。又、其の處。〔鄭遙、明月照二高樓一賦〕隱映澄寂、特起二峻峭一。❷すぐれて氣高い。〔韓愈、感レ春詩〕孔丞別レ我適二臨汝一、風骨峭峻遺二塵埃一。

【峻責】56シュンセキ きびしくせめたてる。〔唐書、李實傳〕實詭曰、歲雖レ旱不レ害レ有レ秋、乃峻二責租調一。

【峻切】57シュンセツ きびしい。はげしい。〔魏書、陳奇傳〕時命峻切、不二敢不一レ赴。

【峻折】58シュンセツ 險しくて折れまがる。〔余靖、西山行程記〕行二二十里一、有二梅嶺一、山嶺峻折。

【峻節】59シュンセツ 高いみさを。けだかい節操。〔顏延之、秋胡詩〕峻節貫二秋霜一。〔顏延之、陶徵士誄序〕巢高之抗行、夷皓之峻節。〔沈約、薦二沈驎士一表〕英風夙挺、峻節早樹。

【峻絕】60シュンゼツ 非常にけはしい。險絕（**11**－**41874**‥55）に同じ。

【峻阻】61シュンソ けはしい。嶮阻。阻峻。〔劉歆、甘泉宮賦〕高巒峻阻、臨眺曠衍。〔左思、蜀都賦〕峻阻塍二埒長城一。

【峻層】62シュンソウ けはしく重なる。幾層も積み重つてゐる家など。〔白敏中、滑州明福寺新修浮圖記〕峻層孤危、高無レ有レ倫。

【峻湍】63シュンタン 激しい流れ。はやせ。峻灘。急湍。〔郭璞、江賦〕長波浹渫、峻湍崔嵬。

【峻灘】64シュンタン はげしいはやせ。峻湍。〔宋之問、下二桂江縣黎壁一詩〕吼沫跳二急浪一、合流環二峻灘一。

【峻峙】65シュンヂ 高く聳えて相對してゐる。相對する。〔左思、魏都賦〕邈邈標危、亭亭峻峙。〔沈約、齊故安陸昭王碑文〕喬嶽峻峙。〔隋書、房陵王勇傳〕今城鎭峻峙、所在嚴固、何時遷配以致二勞擾一。

【峻秩】66シュンチツ 高い俸秩。高い官位。〔蔣防、授二柳公綽襄州節度使一制〕霜臺峻秩、人部榮班。〔歐陽脩、謝二致仕一表〕道愧二師儒一、乃忝二春宮之峻秩一。

【峻直】67シュンチョク 高くて眞直ぐ。崇高で正直。行が高尙で心が正直なこと。〔易林、大壯之第三十四、兌〕崇高岱宗、峻直且神。

【峻邸】68シュンテイ 高く聳え立つてゐる邸宅。〔元稹、茅舍詩〕峻邸儼相望、飛甍遠相跨。

【峻挺】69シュンテイ 高くぬきんでる。挺拔。〔張協、七命〕搖刖峻挺、茗邈苕嶢。

【峻詆】70シュンテイ きびしくあばく。又、はげしくそしる。深詆。痛詆。〔漢書、杜延年傳〕獄深吏爲二峻詆一。〔宋史、劉恕傳〕面數二轉運使深文峻詆一。

【峻擢】71シュンテキ 特別にぬき用ひる。不次の拔擢。〔宋史、韓世忠傳〕建康四年、世忠受レ詔、自二鎭江一濟レ師、捷聞、帝曰、世忠忠勇、朕知二其必能成一レ功、於レ是部將董收・陳桷・元呼・延通等、皆峻擢有レ差。

【峻徹】72 シュンテツ　すぐれて通ずる。事理にすぐれて通達する。〔沈約、齊禪林寺尼淨秀行狀〕弱齡便神情峻徹、非㆓常童稚之伍㆒。

【峻塗】73 シュント　けはしいみち。峻路。〔韓愈、南山詩〕峻塗拖㆓長冰㆒、直上若㆓懸溜㆒。

【峻特】74 シュントク　すぐれぬきんでる。〔柳宗元、南嶽雲峰寺和尙碑〕吾師軌行峻特、器宇弘大。

【峻德】75 シュントク　㊀すぐれた德。大きな德。俊德。大德。明德。〔大學〕帝典曰、克明㆓峻德㆒。〔章句〕峻、書作㆑俊、峻、大也。㊁淸、滿洲の人。姓は納蘭氏。字は克明。號は愼齋。歲貢生。乾隆中、鴻博に擧げらる。官は戶部筆帖式。詩に巧。著に雲簃藏稿がある。〔國朝耆獻類徵初編、一百四十五〕・〔鶴徵後錄、九〕。

【峻暴】76 シュンバウ　きびしくあらあらしいこと。〔宋史、石保吉傳〕性尤驕倨、所㆑至峻暴好㆑殺、待㆓屬吏㆒不㆑以㆑禮。

【峻伯】77 シュンパク　明、吳維嶽(**2**-**3365**‥426)の字。

【峻邈】78 シュンバク　高くはるかなさま。〔陸機、弔㆓魏武帝㆒文〕咨㆓宏度之峻邈㆒、壯㆓大業之允昌㆒。〔注〕銑曰、峻、高、邈、遠。

【峻拔】79 シュンバツ　たかくぬきでる。〔劉禹錫、華山謌〕俄然神功就、峻拔在㆓寥廓㆒。〔曾鞏、華不注山詩〕虎牙千仞立巉巉、峻拔遙臨濟水南。

【峻法】80 シュンパフ　きびしいおきて。きつい法律。又、法律を嚴しくする。峻科。〔史記、萬石君傳〕桑弘羊等致㆑利、王溫舒之屬峻㆑法。〔漢書、丙吉傳〕不㆑避㆓嚴刑峻法㆒。〔論衡、非韓〕嚴刑峻法。〔王褒、四子講德論〕大理峻法。

【峻阪】81 シュンパン　けはしいさか。胸突き坂。急坂。〔潘岳、金谷集作詩〕廻谿縈㆓曲阻㆒、峻阪路威夷。

【峻筆】82 シュンピツ　きびしく烈しい文章。〔駱賓王、疇昔篇〕高門有㆑閱不㆓圖封㆒、峻筆無㆑聞斂㆓敷妙㆒。

【峻文】83 シュンブン　苛酷な法文。〔史記、平準書〕張湯用㆓峻文㆒決㆑理爲㆓廷尉㆒。〔後漢書、朱祐等傳論〕不㆑得㆑不㆑校㆓其勝否㆒、卽以㆑事相權、故高秩高禮、允答㆓元功㆒、峻文深憲、責㆓成吏職㆒。

【峻壁】84 シュンペキ　けはしくきり立ってゐるがけ。〔水經、濕餘水注〕南則絕谷累石爲㆓關垣㆒、崇墉峻壁、非㆓輕功可㆑擧。〔劉迎、南口詩〕危峰張㆓屛幃㆒、峻壁開㆓戶牖㆒。

【峻峯】85 シュンポウ　けはしいみね。高い山。峻岑。〔南史、夏侯詳傳〕州城南、臨㆑水有㆓峻峯㆒。

【峻豐】86 シュンポウ　宋初、高麗の光宗の年號。(960－964)

【峻網】87 シュンマウ　きびしい刑法。網は法網。〔唐高宗、詳定㆓刑名㆒詔〕姬訓㆓夏法㆒、峻網備㆓於三千㆒、秦革㆓周科㆒、深文加㆓於九族㆒。

【峻密】88 シュンミツ　㊀きびしくてこまかい。〔魏志、楊阜傳〕雍丘王植、怨㆘于不㆑齒㆓藩國至親㆒、法禁峻密㆖。㊁けはしくてしげる。〔江淹、麗色賦〕亙㆓虹梁之峻密㆒。

【峻明】89 シュンメイ　明、洪懋德(**6**-**17402**‥272)の字。

【峻命】90 シュンメイ　重い命令。大命。駿命。〔大學〕峻命不㆑易。〔章句〕峻、詩作㆑駿、峻、大也。

【峻茂】91 シュンモ　草木が高く茂る。又、生長し茂る。〔楚辭、離騷〕冀㆓枝葉之峻茂㆒兮。〔文心雕龍、宗經〕至㆓根柢槃深㆒、枝葉峻茂。

【峻陽】92 シュンヤウ　陵の名。晉の武帝の陵。河南省洛陽縣の北。〔晉書、惠帝紀〕太熙元年夏五月辛未、葬㆓武皇帝於峻陽陵㆒。〔河南志〕峻陽陵、在㆓洛陽㆒。

【峻藥】93 シュンヤク　藥を強烈にする。又、強いくすり。劇藥。〔吳師道、詩〕伐㆑病宜㆑峻㆑藥。

【峻峎】94 シュンラウ　山名。南極の山。冬至に日の入る處。峻狼。〔集韻〕峎、峻峎、山名、冬至日所㆑入。

【峻狼】95 シュンラウ　山名。峻峎。〔淮南子、天文訓〕日冬至㆓峻狼之山㆒、日移一度、月行百八十二度八分度之五、而夏至㆓牛首之山㆒。〔注〕南極之山。

【峻朗】96 シュンラウ　高く明か。〔陸雲、大將軍宴會被㆑命作詩〕玄暉峻朗、翠雲崇靄。

【峻流】97 シュンリウ　急ながれ。急流。〔秦韜玉、仙掌詩〕已擘㆓峻流㆒穿㆓太嶽㆒、長扶㆓王氣㆒擁㆓強秦㆒。

【峻厲】98 シュンレイ　きびしくはげしい。峻刻嚴厲。峻烈。〔晉書、王濟傳〕主者處㆑事或不㆑當、濟性峻厲、明㆑法繩㆑之。

【峻嶺】99 シュンレイ　高いみね。けはしいみね。〔王羲之、蘭亭記〕此地有㆓崇山峻嶺、茂林脩竹㆒。〔劉基、過㆓閩關㆒詩〕峻嶺如㆑弓驛路賒、淸溪一帶抱㆑山斜。

【峻路】100 シュンロ　けはしいみち。峻塗。〔班固、西都賦〕仍㆓增崖㆒而衡㆑閾、臨㆓峻路㆒而啓㆑扉。

【峻艫】101 シュンロ　大きな船。大船。巨穎。〔蕭穎士、滯舟賦〕峻艫衡㆑濤以直透、高帆雲卷而上聳。

【峻樓】102 シュンロウ　高い樓殿。危樓。〔李尤、德陽殿賦〕周閣迴匝、峻樓臨㆑門。

【峻壟】103 シュンロウ　高いつか。〔張衡、冢賦〕刊㆓蓁林㆒、鑿㆓盤石㆒、超㆓峻壟㆒、構㆓大槨㆒。

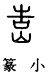
【峻論】104 シュンロン　はげしい議論。又、はげしく論ずる。極論。〔杜牧、與㆓宣州崔大夫㆒書〕閑夜永日、三五相聚、危言峻論。

【峻嵃峭】105 シュンゲンセウ　高くけはしいさま。〔潘岳、西征賦〕金墉鬱其萬雉、峻嵃峭以繩直。〔注〕銑曰、嵃峭、高嶮皃。

【⿱告山】8117

㈠カウ コウ　〔集韻〕居號切　號

㈡コク　〔集韻〕枯沃切　沃



小篆

㈠㊀**山のさま。**〔說文〕⿱告山、山皃、从㆑山告聲。㊁**山名。**〔說文〕⿱告山、一曰、山名。㈡**山のさま。**㈠の㊀に同じ。〔集韻〕⿱告山、山皃。

【峼】8118

カウ ゴウ　〔集韻〕下老切　皓

㊀**山のさま。**〔集韻〕峼、山皃。㊁⿱告山(**4**-**8117**)に同じ。〔正字通〕峼、同㆑⿱告山。

【⿱即山】8119

セツ

岊(**4**-**7925**)に同じ。〔集韻〕岊、或从㆑即。

【⿰山今】8120

ギン

崟(**4**-**8199**)の俗字。〔正字通〕⿰山今、俗崟字。

【峆】8121

カン コン　〔集韻〕呼含切　覃

㊀**大きい谷。**〔集韻〕峆、大谷也。㊁峆岈は、山の深いさま。〔廣韻〕岈、峆岈、山深之狀。

【峆岈】1 カンカ　山の深いさま。〔廣韻〕峆岈、山深之狀。〔梁元帝、玄覽賦〕峆岈豁開、背㆑原面㆑野。

【峽】8122

カフ ゲフ 慣ケフ　〔集韻〕轄夾切　洽　ㄒㄧㄚˊ hsia²

㊀**かひ。**はざま。たにあひ。陜(**11**-**41656**)に同じ。〔集韻〕陜、說文、隘也、或作㆑峽。〔晉書音義、下〕陜、兩山之閒也、本或作㆑峽。〔淮南子、原道訓〕仿㆓洋于山峽之旁㆒。〔注〕兩山之閒爲㆑峽。㊁**二山が相迫り、中に水流を挾んだ谷。**〔字彙〕峽、又山峽夾㆑水曰㆑峽。㊂**三峽**(**1**-**12**‥460)**の略稱。**〔唐書、李叔明傳〕引㆑兵下㆑峽、戰㆓荊門㆒。㊃狹(**7**-**20428**)に同じ。〔說文通訓定聲〕陜、字亦作㆑峽、作㆑狹。

【峽哀】1 ケフアイ　谷あひのものさびしいこと。〔孟郊、峽哀詩〕峽哀哭㆓幽魂㆒、噭噭風吹來。

【峽狖】2 ケフイウ　谷あひの尾長猿。〔無可、過㆓杏溪寺㆒寄㆓姚員外㆒詩〕峽狖有㆑時到、秦人今日遊。

【峽雨】3 ケフウ　谷間に降る雨。〔杜甫、晚晴詩〕江虹明遠飲、峽雨落餘飛。〔李賀、惱公詩〕蜀煙飛㆓重錦㆒、峽雨濺㆓輕容㆒。

【峽雲】4 ケフウン　谷あひにかかった雲。〔杜甫、送㆔段功曹歸㆓廣州㆒詩〕峽雲籠㆑樹小、湖日落㆑江明。

【峽影】5 ケフエイ　谷あひの姿。谷あひ。〔杜甫、白帝樓詩〕樓光去㆑日遠、峽影入㆑江深。

【峽煙】6 ケフエン　谷あひに立ちこめてゐる霞や霧の類。〔倭漢朗詠集、山、都良香、萑隱詠㆑懷〕夜鶴眠驚松月苦、曉鼯飛落峽煙寒。

【峽怨】7 ケフエン　谷あひのさびしさ。谷あひでの悲しみうれへ。〔孟郊、峽哀詩〕峽哀不㆑可㆑聽、峽怨其奈何。

【峽猿】8 ケフエン　谷あひに棲む猿。峽猨。〔白居易、和答詩、和㆓思歸樂㆒詩〕峽猿亦何意、隴水復何情。

〔倭漢朗詠集、大江朝綱、送二歸山僧一〕梯危斜蹈峽中猿。

【峽江】10 ケフカウ ㊀川の名。四川省奉節縣以東、三峽邊の長江を峽江といひ、又、鎭江ともいふ。高岸峻壁聳え、波濤洶湧し、舟人の恐懼する所である。〔清一統志〕四川重慶府、舊志云、自二瞿唐一而下、謂二之峽江一、又謂二之鎭江一。㊁縣名。明、置く。今、江西省吉水縣の北。縣城は贛江の西岸に瀕す。〔讀史方輿紀要、江西、臨江府〕峽江縣、本新淦縣之峽江巡司、嘉靖五年、改置二今縣一。〔清史稿、地理志〕江西、臨江府、縣四、峽江。

【峽間】11 ケフカン はざま。山と山との間。〔淮南子、原道訓〕彷二洋于山峽之旁一。〔注〕兩山之間爲レ峽。

【峽岸】12 ケフガン 谷あひのきしべ。〔白居易、得二微之到レ官後書一備知二通州之事一悵然有レ感因成二四章一詩〕來書子細說二通州一、州在二山根峽岸頭一。

【峽暉】13 ケフキ 谷あひから見る日光。〔孟郊、峽哀詩〕峽暉不二停午一、峽險多二饑涎一。

【峽近】14 ケフキン 谷あひが近い。〔王泰、巫山高樂府〕谷聲流響咽、峽近猿聲悲。

【峽禽】15 ケフキン 山峽に啼く鳥。〔范成大、初入二峽山一效二孟東野一詩〕峽草如二毿毛一、峽樹多二樛枝一。

【峽花】16 ケフクワ 谷あひに咲いた花。〔孟郊、峽哀詩〕峽景滑易レ墮、峽花怪非レ春。

【峽外】17 ケフグワイ 谷あひのそと。〔杜甫、歸詩〕林中纔有レ地、峽外絕無レ天。

【峽景】18 ケフケイ 谷あひのありさま。〔孟郊、峽哀詩〕峽景滑易レ墮、峽花怪非レ春。

【峽谿】19 ケフケイ たに。峽谷。〔胡融、南塘記〕有宋南渡之明年、吾大父自二峽谿一翦二棘荊一刈二蓬藋一始居。

【峽險】20 ケフケン 谷あひがけはしい。〔杜甫、季秋蘇五弟纓江樓夜宴云云詩〕峽險江驚急、樓高月迥明。〔孟郊、峽哀詩〕峽險多二饑涎一。

【峽口】21 ケフコウ ㊀長江が蜀を出る險隘のところ。〔水經、江水注〕宜都記曰、自二黃牛灘一東入二西陵界一、至二峽口一百許里、山水紆曲、而兩岸高山重嶂、非二日中夜半一、不レ見二日月一。〔杜甫、峽口詩〕峽口大江間、西南控二百蠻一。㊁山名。甘肅省西寧縣の東。一名、青山。又、大石山といふ。〔明一統志〕峽口山、在二衞城東一、地極阻險、爲二湟鄯往來咽喉地一、漢時名二湟陝一、唐人嘗修二閣道一、宋築二省章城一、控二制要害一、又與二大石峽・西石峽一、謂二之三峽一。〔讀史方輿紀要、陝西、寧夏鎭、寧夏右屯衞〕峽口山、鎭西南一百四十里、兩山相夾、黃河經二其中一、水經注謂二之上河峽一、或謂二之峽石一、唐武德八年、安州都督李靖、與二突厥一戰二於靈州之硤石一、是也、俗亦謂二之青山一、又名二大石山一、長慶初、靈武帥李進誠、奏レ敗二吐蕃於大石山下一、卽此、一統志、峽口山、一名青銅峽、上有二古塔一百八座一。㊂鎭の名。㋑金、置く。今の河南省淅川縣の西。〔讀史方輿紀要、河南、南陽府、鄧州、淅川縣〕峽口鎭、在二縣西一、其南卽湖廣均州界也、金志、內鄉縣有二峽口鎭一、今入二縣界一。㋺浙江省江山縣の西南。南北の通道に當る。南に仙霞關があり、全縣中第二の巨鎭である。㊃堡の名。宋、置く。今の甘肅省西寧縣の地。㊄驛の名。甘肅省山丹縣の東南。山舟峽の口に在るから名づく。

【峽谷】22 ケフコク たに。谿谷。峽谿。河谷の特に幅狹く深くなつたところ。谷が特に堅硬な岩石で出來てゐるところに出來る。

【峽草】23 ケフサウ 谷あひの草。〔范成大、初入二峽山一效二孟東野一詩〕峽草如二毿毛一、峽樹多二樛枝一。

【峽山】24 ケフザン 山名。廣東省清遠縣の東。又、禺山・二禺山ともいふ。二山が對峙して峽を成してゐるから名づく。黃帝の二庶子が竹を採つて黃鐘の律管を作つたといふ阮俞山は、此の山であらうといふ。〔讀史方輿紀要、廣東、廣州府、清遠縣〕峽山、縣東三十里、一名、中宿峽、崇山挺峙中、通二江流一、舊記、黃帝二庶子、曰二禺陽一、曰二禺號一。南採二阮俞之竹一、爲二黃鐘之管一、今山上小竹、節間長九寸、圓徑三分、疑、此山卽阮俞也、亦曰二禺山一、亦曰二二禺一、有二兩峯一、穹窿對峙、東二隘江流一、故曰レ峽也、道家、以爲二第十九福地一、有二和光洞一、甚深窈。

【峽紙】25 ケフシ 峽州に產する紙。〔歐陽脩、峽州河中紙說〕余爲二縣令一時、有二孫文德者一、本三司人吏也、嘗勸三余多藏二峽紙一云、其在二省中一、見二天下帳籍一、惟峽州不二朽損一。

【峽州】26 ケフシウ 州名。唐、置く。亦、硤州に作る。梁の宜州。後周には硤州といふ。隋は夷陵郡と改め、唐は峽州と改む。隋以前の治は下牢戍。今の宜昌縣の西北。唐は步闡壘に徙す。今の宜昌縣治。宋は峽州彝陵郡といひ、元は峽州路と改め、明は峽州府とし、清、廢す。〔讀史方輿紀要、湖廣、荊州府〕彝陵州、春秋戰國時楚地、云云、後周又改二峽州一、隋初、郡廢、煬帝改二峽州一爲二彝陵郡一、唐初復爲二峽州一、天寶初、改二彝陵郡一、乾元初、復爲二峽州一、宋因レ之、元改二峽州路一、明初爲二峽州府一、洪武九年、改爲二彝陵州一。

【峽舟】27 ケフシウ 谷あひの流れに浮ぶ舟。〔孟郊、峽哀詩〕峽水劍戟獰、峽舟霹靂翔。

【峽城】28 ケフジヤウ 谷あひに在る城。〔杜甫、巴山詩〕巴山遇二中使一、云是峽城來。

【峽樹】29 ケフジユ 谷あひの樹木。〔范成大、初入二峽山一效二孟東野一詩〕峽禽惟杜鵑、血吻日夜啼。

【峽色】30 ケフシヨク 谷あひのいろ。〔劉叉、入レ蜀詩〕峽色浸レ天去、江聲滾レ地來。

【峽深】31 ケフシン 谷あひが深い。〔杜甫、又雪詩〕冬熱鴛鴦病、峽深豺虎驕。

【峽水】32 ケフスイ 峽中を流れる川。特に三峽の險を流れる長江。峽江。〔劉禹錫、別二夔州官吏一詩〕巫山暮色常含レ雨、峽水秋來不レ恐レ人。〔孟郊、峽哀詩〕峽水劍戟獰、峽舟霹靂翔。

【峽西】33 ケフセイ 路の名。宋、置く。其の地、東は三峽に接し、西は除平に至り、南は群獠を扼し、北は大散に連なる。卽ち今の四川省巴縣以東及び蓬安・南部・樟潼・平武以北の一帶、陝西省洋縣以西、留壩以南、貴州省天柱から遵義以北、及び甘肅省文縣の地。治は興元府。今の陝西省南鄭縣。興元府、及び洋・興・利・閬・劍・文・龍・巴・集・蓬・壁・渝・夔・忠・萬・開・達・涪・施・黔の二十州、雲安・梁山の二軍、及び大寧の一監を統ぶ。咸平中、陝西を分つて利州・夔州の兩路となす。〔讀史方輿紀要、歷代州域形勢、宋〕分二天下一爲二十五路一、云云、峽西路、興元府・洋州・興州・利州・閬州・劍州・文州・龍州・巴州・集州・蓬州・壁州・渝州・夔州・忠州・萬州・開州・達州・涪州・施州・黔州・雲安軍・梁山軍・大寧監。

【峽石】34 ケフセキ 地名。硤石（**8－24216··1**）の㊀に同じ。㊀安徽省鳳臺縣の西南。〔水經、淮水〕淮水、又北逕二山峽中一、謂二之峽石一。〔注〕西岸山上有二馬跡一、世傳、淮南王乘レ馬昇仙所在也。㊁甘肅省平涼縣の西北。〔唐書、高元裕傳〕兄少逸、出爲二陝虢觀察使一、中人責二硤石驛吏供レ餅惡一、鞭レ之、少逸封レ餅以聞、宣宗怒、召二使者一責曰、山谷間餅、是豈易レ具耶。

【峽束】35 ケフソク 谷あひがせまりちぢまつて狹い。〔杜甫、秋日夔府詠レ懷云云詩〕峽束滄江起、巖排二古樹一圓。〔陸游、將レ離二江陵一詩〕地險多二崎嶇一、峽束少二平曠一。

【峽坼】36 ケフタク 谷あひがひらける。〔杜甫、白帝城最高樓詩〕峽坼雲霾龍虎臥、江清日抱黿鼉遊。

【峽螭】37 ケフチ 谷あひに棲むみづち。〔孟郊、峽哀詩〕峽螭老解レ語、百丈潭底聞。

【峽漲】38 ケフチヤウ 谷あひにみなぎり滿ちる。〔周繇、送三人尉二黔中一詩〕峽漲三川雪、園開四季花。

【峽中】39 ケフチユウ ㊀山あひ。たにあひ。兩山の間。〔杜甫、熱詩〕峽中都似レ火、江上只空雷。〔李商隱、戲贈二任秀才一詩〕峽中尋覓長逢レ雨、月裏依稀更有レ人。㊁甲斐國の異稱。

【峽天】40 ケフテン 谷あひから見える天。〔白居易、西樓夜詩〕山郭燈火稀、峽天星漢少。

【峽田】41 ハケタ 武藏國の地名。

【峽內】42 ケフナイ 谷あひのなか。〔杜甫、溪上詩〕峽內淹留客、溪邊四五家。

【峽崥】43 ケフヒ 山のふもと。山足。〔太玄經、增〕上九、崔嵬不レ崩、賴二彼峽崥一。〔注〕峽崥、山足也。

【峽風】44 ケフフウ 谷あひを吹く風。〔杜甫、十月一日詩〕夜郎溪日暖、白帝峽風寒。

【峽門】45 ケフモン 谷あひの入口。〔杜甫、夔州歌〕借問夔州壓二何處一、峽門江腹擁二城隅一。

【峽裏】46 ケフリ 谷あひのなか。〔張籍、送二友生一遊二峽中一詩〕峽裏聞二猿叫一、山頭見レ月時。〔杜甫、子規詩〕峽裏雲安縣、江樓翼瓦齊。

【峽流】47 ケフリウ 谷あひのながれ。〔玉壺清話、四〕王師伐レ蜀、孟昶出レ兵拒レ之、云云、沿二峽流一而下、至二江陵一止。

【峽路】48 ケフロ 谷あひを通ずる路。〔庾信、奉二和趙王途中一詩〕峽路沙如レ月、山峰石似レ眉。〔韋應

物、答㆓令狐侍郎㆒詩〕吳門冒㆓海霧㆒、峽路凌㆓連磯㆒。

【峽陽市】49 ケフヤウ シ 地名。福建省南平縣の西北、富屯溪の上流、順昌縣の界に接す。下流の王臺驛は沙溪口等と均しく舟筏の集まる所。清代、縣丞が駐在した。

【⿱沂山】8123

［一］ギン ゴン 〔集韻〕魚巾切 眞

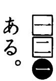
［二］ギン ゴン 〔集韻〕魚斤切 文

［一］［二］⿱沂山淪は、水のうづまくさま。〔集韻〕⿱沂山、⿱沂山淪、水回旋皃。〔郭璞、江賦〕⿱沂山淪流瀼、乍浥乍堆。〔注〕善曰、⿱沂山淪、廻旋之皃。

【⿰山巠】8124

［一］ケイ ギヤウ 〔集韻〕乎經切 靑

［二］ケイ キヤウ 〔集韻〕牽盈切 庚


小篆

［一］［二］❶**谷の名。** 陝西省臨潼縣にある。秦が儒を坑にしたといふ谷。硎谷。阬谷。〔說文〕⿰山巠、⿰山巠谷也、从㆑山巠聲。〔段注〕廣韻曰、⿰山巠、口莖切、或作㆑硎、谷名、在㆓麗山㆒、昔秦密種㆑瓜處、按、秦冬月種㆓瓜谷中溫處㆒、瓜實、因使㆓諸生往視說㆑之、發㆑機阬㆓諸生㆒、事見㆓尚書正義所㆑引衞宏詔定古文尚書序㆒、云云、而師古作㆓阬谷㆒、正義及類聚作㆓硎谷㆒、實則⿰山巠谷也。〔集韻〕⿰山巠、說文、谷也。❷**たに。** 陘(**11**－**41650**)に同じ。〔集韻〕⿰山巠、深谷。〔韻會〕陘、說文、山絕坎、通作㆑⿰山巠、揚子注、山中絕也。〔法言、吾子〕山⿰山巠之蹊、不㆑可㆓勝由㆒矣。

【峿】8125

［一］ゴ 〔集韻〕訛胡切 虞 ㄨˊ wu^2

［二］ギヨ ゴ 〔集韻〕偶擧切 語

［一］❶嶇峿は、山のさま。〔集韻〕峿、嶇峿、山皃。❷區峿は、山名。〔廣韻〕峿、區峿、山名。❸或は⿰山吳(**4**－**8114**)に作る。〔集韻〕峿、或从㆑吳。［二］❶岨峿は、山のさま。❷岨峿は、不安なさま。〔集韻〕峿、岨峿、山皃。〔陸機、文賦〕或岨峿而不㆑安。〔注〕善曰、岨峿、不㆑安貌。

【⿰山芒】8126

［一］マウ 〔集韻〕母朗切 養

［二］バウ マウ 〔字彙〕謨郎切 陽

［三］マウ 〔集韻〕莫浪切 漾

［一］❶嵣⿰山芒は、山のさま。⿰山莽(**4**－**8422**)に同じ。〔集韻〕⿰山莽、嵣⿰山莽、山皃、或从㆑芒。❷嵣⿰山芒は、山石の廣大なさま。〔張衡、南都賦〕其山崆峴嶱嵑、則嵣⿰山芒寮刺。〔注〕善曰、嵣⿰山芒、山石廣大之貌。［二］［三］⿰山芒嵣は、山のかたち。〔集韻〕⿰山芒、⿰山芒嵣、山形。

【⿱垂山】8127

スイ 垂(**3**－**5012**)に同じ。〔字彙補〕⿱垂山、漢碑垂字。

【⿱山关】8128

ギヨウ 凝(**2**－**1720**)に同じ。〔字彙補〕⿱山关、與㆑凝同。

【⿰山孛】8129

ホツ ボチ 〔字彙補〕蒲沒切 月

やま。 〔字彙補〕⿰山孛、山也。

【峸】8130

音未詳 東岳の名。〔字彙補〕東岳、姓峸、名嶪、見㆓五岳眞形圖㆒、音未詳。

【⿱山亏】8131

音未詳 北岳の名。〔字彙補〕北岳、姓峘、名⿱山亏、見㆓五岳眞形圖㆒、音未詳。

【⿰山免】8132

サン ゼン 〔字彙補〕士山切 刪

けはしい。 〔字彙補〕⿰山免、峻嶮也。

【⿱山免】8133

サン ゼン 〔玉篇〕士山切 刪

けはしい。 〔玉篇〕⿱山免、山峻嶮也。〔龍龕手鑑〕⿱山免、山陵險也。

【⿱山吏】8134

シ 使(**1**－**573**)の古字。〔集韻〕使、古作㆑⿱山吏。

【⿱山豆】8135

シヨク シキ 〔川篇〕札色切 職

山。 〔川篇〕⿱山豆、山也。

【⿱山囟】8136

シユ 義未詳。𦣻に同じ。〔字彙補〕⿱山囟、石鼓文有㆓此字㆒、石本作㆑𦣻、音首。

【⿱山住】8137

チユ ヂユ 〔奚韻〕直遇切 遇

山。 〔奚韻〕⿱山住、山⿱山住也。

【⿱山冈】8138

音義未詳 〔字彙補〕⿱山冈、音義未詳。〔穆天子傳〕桂薑百⿱山冈。

【⿰山足】8139

サク ザク 義未詳。〔篇海類編〕⿰山足、士角切、音捉。

【⿱山去】8140

サイ 義未詳。〔龍龕手鑑〕⿱山去、音歲。

【⿰山出】8141

チウ 義未詳。〔龍龕手鑑〕⿰山出、音抽。

【⿱六山】8142

キ 義未詳。〔海篇〕⿱六山、音癸。

【峇】8143

カン 峆(**4**－**8121**)に同じ。〔海篇〕峇、與㆑峆同。

【⿱罒山】8144

カウ 岡(**4**－**7962**)に同じ。〔五音篇海〕⿱罒山、同㆑岡。

【⿰山孝】8145

カウ 〔續辭源〕讀如㆑嵺。

⿰山孝嵺は、高くけはしいさま。〔續辭源〕⿰山孝嵺、險峻之貌。〔杜甫、朝㆓享太廟㆒賦〕鳥不㆓敢飛㆒、而玄甲⿰山孝嵺以岳峙。

八畫

【崆】8146

［一］コウ ク 〔集韻〕枯公切 東 ㄎㄨㄥ $k'ung^1$

［二］コウ ク 〔集韻〕苦貢切 送

［三］カウ 〔集韻〕枯江切 江

［四］カウ 〔集韻〕克講切 講

［一］❶**山の高いさま。** 崆巄(7)を見よ。❷**山名。** 崆峒(2)の❶を見よ。［二］崆峒は、山の深いさま。〔集韻〕崆、崆峒、山深皃。［三］**山の高峻なさま。** 崆峴(1)を見よ。［四］**山のさま。** 〔集韻〕崆、山皃。

【崆峴】1 カウ ガウ 山の高くけはしいさま。又、高くけはしい山。〔集韻〕崆、崆峴、山高峻皃。〔張衡、南都賦〕其山則崆峴嶱嵑。〔注〕善曰、崆峴・嶱嵑、山

石高峻之貌。〔韓愈、病中贈㆓張十八㆒詩〕譬如㆓蟻垤微㆒、詎敢陵㆓崆峴㆒。

【崆峒】2 コウドウ ❶山名。㋑莊子に空同に作り、黃帝が廣成子に道を問うた所といふ。元來、傳說上の山であるが、後人は其の所在に就いて諸說をなしてゐる。㋺㋥㋬の各項を見よ。空峒。〔莊子、在宥〕黃帝聞㆔廣成子在㆓於空同之上㆒、故往見㆑之。㋺河南省臨汝縣の西南。〔唐汝州刺史盧貞碑〕莊子述㆔黃帝問㆓道崆峒㆒、遂言㆘遊㆓襄城㆒、登㆓具茨㆒、訪㆗大隗㆖、皆與㆓此山㆒接㆑壤、則此爲㆑近㆑是。㋩江西省贛縣の南。もと空山と名づく。〔郡國志〕山在㆓郡南㆒、多㆓材木果實食物㆒。〔江西省志〕崆峒山、自㆓南康縣㆒蜿蜒而來、章貢二水、夾以北馳、山麓周廻百里、蓋贛之望山也。〔讀史方輿紀要、江西、贛州府、贛縣〕崆峒山、府南六十里、一名、空山、其麓周廻百里、章貢二水、夾以北馳、蓋一郡之望也。㋥甘肅省酒泉縣の東南。〔隋書、地理志上〕福祿縣有㆓崆峒山㆒。〔讀史方輿紀要、陝西、肅州衞〕崆峒山、在㆓衞東南六十里㆒、括地志、古西戎地、司馬遷謂、黃帝披㆑山通㆑道、西至㆓崆峒㆒、指㆓此山㆒也、九州要記、近㆓崆峒山頂㆒、有㆓魏太祖埒㆒、魏太祖、拓跋珪也。㋭甘肅省岷縣の西。〔隋書、地理志上〕臨洮縣有㆓崆峒山㆒。〔讀史方輿紀要、陝西、岷州衞、岷山〕崆峒山、在㆓衞西二十里㆒、通典、秦蒙恬築㆓長城㆒、起㆓於崆峒山㆒、自㆓山傍洮水㆒而東、今州境有㆓古長城㆒云、宋祁曰、漢武帝踰㆓隴西㆒登㆓崆峒㆒、蓋在㆑此、誤矣。㋬甘肅省平涼縣の西、化平縣の界に接す。亦、空桐・空同・雞頭・幵頭・汧屯・牽屯・薄洛に作る。涇水の源で、翠屛・垂珠・香爐の諸峯がある。〔史記、五帝紀〕黃帝西至㆓于空桐㆒、登㆓雞頭㆒。〔史記、秦始皇紀〕始皇二十七年、巡㆓隴西北地㆒、出㆓雞頭山㆒、過㆓回中㆒。〔讀史方輿紀要、陝西、平涼府、平涼縣〕崆峒山、府西三十里、唐十道志、隴右名山之一也、相傳、卽廣成子所㆑居、黃帝嘗學㆓道於此㆒、山之東巖有㆓廣成子峒・皁鶴洞㆒、西巖有㆓西巖泉及琉璃泉㆒、味俱甘冽、峯之最高者、曰㆓翠屛峯㆒、頂有㆓圓石㆒、累累若㆑珠、一名垂珠峯、俗名㆓屛風山㆒、峯頂又有㆓靑龍洞㆒、雨後將㆑晴、雲輒歸㆓洞中㆒、亦謂㆓之歸雲洞㆒、其相對者、爲㆓香爐峯㆒、亦名㆓香爐臺㆒、兩峯間、有㆓巨石橫亙㆒、謂㆓之石橋㆒、山下有㆓撒寶砦㆒、秦始皇遊㆓崆峒㆒至㆑此、又漢武帝逾㆓隴西㆒登㆓崆峒㆒、山下有㆓問道宮㆒、亦以㆔黃帝問㆓道廣成子㆒而名、歷代皆修葺焉、山之西北爲㆓望家山㆒、亦峻聳、志云、崆峒、西連㆓笄頭㆒、東連㆓大統㆒、西北接㆓望家山㆒、是也。〔淸一統志〕詳考㆓漢唐諸志㆒、山當㆑在㆓固原州界㆒、今山疑皆後人所㆑名。㋣四川省平武縣の西。山谷深險、直ちに蕃界に接す。〔讀史方輿紀要、四川、龍安府、平武縣、藥叢山〕崆峒山、在㆓府西北十里㆒、山谷深險、直接㆓蕃界㆒、似㆓平涼之崆峒㆒。❷島の名。山東省牟平縣の北の海中。附近の小島と共に崆峒列島といふ。❸淸、巢鳴盛(**4**－**8696**‥56)の號。

【崆峒生】3 コウドウセイ 明、沈愚(**6**－**17189**‥114)の號。

【崆峒侶】4 コウドウノリヨ 仙人の交際をいふ。崆峒は、仙人廣成子の住む山であるからいふ。〔孟郊、送㆓王錬師㆒詩〕來結崆峒侶、還期縹緲居。

【崆峒夫人】5 コウドウフジン 隋、吳絳仙(**2**－**3365**‥477)の號。〔大業拾遺記〕絳仙善畫㆓長蛾眉㆒、帝擢爲㆓龍舟首檝㆒、號㆓崆峒夫人㆒。

【崆峒靈瓜】6 コウドウレイクワ 異國の珍らしい瓜の名。佛教でいふ四劫、卽ち千年萬年に一度實を結ぶといふ。〔拾遺記、後漢〕時燉煌獻㆓異瓜種㆒云云、父老云、昔道士從㆓蓬萊山㆒得㆓此瓜㆒云、是崆峒靈瓜、四劫一實、西王母遺㆓於此地㆒。

【崆巃】7 コウロウ 山の高いさま。〔集韻〕崆、崆巃、山高皃。〔字彙〕崆、崆巃、山高貌。

【豳】8147

ヒン 邠(**11**－**39296**)に同じ。〔集韻〕邠、或作㆑豳。

【⿰山周】8148

テウ デウ 〔集韻〕田聊切 蕭

山のさま。〔集韻〕⿰山周、山皃。

【⿱山昜】8149

テキ チヤク 〔集韻〕他歷切 錫

山名。〔集韻〕⿱山昜、山名。

【⿰山戾】8150

ロツ 硉(**8**－**24167**)に同じ。〔字彙〕⿰山戾、同㆑硉。

【⿱山从】8151

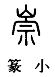
キヤウ 羌(**9**－**28429**)の古字。〔正字通〕⿱山从、古文羌字。

【崇】8152

[一] シユウ シユ 〔集韻〕思融切 ㄔㄨㄥˊ chʻung^2 東

[二] ソウ ズ 〔正字通〕豺紅切 東

慣 スウ


小篆

[一][二] ❶**山が大きく高い。高大な山。**崧(**4**－**8209**)・嵩(**4**－**8348**)に通ず。〔說文〕崇、山大而高也、从㆑山宗聲。〔段注〕大雅、崧高維嶽、釋山・毛傳皆曰、山大而高曰㆑崧、孔子閒居引㆑詩、崧作㆑嵩、釋名作㆓山大而高曰㆑嵩、崧・嵩二形、皆卽崇之異體。〔集韻〕嵩、古作㆑崇。❷**たかい。**〔說文、崇、段注〕崇之引伸、爲㆓凡高之偁㆒。〔周禮、考工記、總目〕崇㆓於軫㆒四尺。〔注〕崇、高也。〔禮、明堂位〕崇坫康㆑圭。〔注〕崇、高也。❸**たかさ。**〔周禮、考工記、匠人〕堂崇三尺。〔注〕崇、高也。〔儀禮、大射儀〕大侯之崇、見㆓鵠于參㆒。〔注〕崇、高也。❹**たかくする。**㋑築きあげる。かためる。〔國語、周語下〕封㆓崇九山㆒。〔注〕崇、高也。㋺たかい地位を與へる。〔國語、周語下〕天所㆑崇之子孫。〔注〕崇、高也。❺**たつとぶ。**あがめる。〔禮、祭統〕崇㆓事宗廟社稷㆒。〔注〕崇、猶㆑尊也。〔漢書、貢禹傳〕崇㆓財利㆒。〔注〕師古曰、崇、尙也。❻**たてる。**なす。〔玉篇〕崇、序立也。〔詩、周頌、烈文〕維王其崇㆑之。〔傳〕崇、立也。❼**おこす。**〔張衡、東京賦〕進㆓明德㆒而崇㆑業。〔注〕綜曰、崇、猶㆑興也。❽**なす。**〔廣韻〕崇、就也。❾**みたす。みちる。**充(**1**－**1344**)に通ず。〔說文通訓定聲〕崇、段借爲㆑充。〔爾雅、釋詁〕崇、充也。〔儀禮、鄕飮酒禮〕北面再拜崇㆑酒。〔注〕崇、充也。〔儀禮、燕禮〕主人不㆑崇㆑酒。〔注〕崇、充也。❿**つむ。かさねる。**重(**11**－**40132**)に通ず。〔說文通訓定聲〕崇、段借爲㆑重。〔爾雅、釋詁〕崇、重也。〔廣雅、釋詁一〕崇、積也。〔書、盤庚中〕丕乃崇降㆓弗祥㆒。〔傳〕崇、重也。⓫**ます。**〔國語、周語下〕用㆓巧變㆒以崇㆓天災㆒。〔注〕崇、猶㆑益也。⓬**厚くする。**〔詩、周頌、烈文〕維王其崇㆑之。〔箋〕崇、厚也。⓭**さかんにする。さかんなこと。**〔左氏、成、十八〕今將㆑崇㆓諸侯之姦㆒。〔注〕崇、長也。〔後漢書、杜篤傳〕述㆓大漢之崇㆒。〔注〕崇、高盛也。⓮**かざる。かざり。**〔國語、周語中〕容貌有㆑崇。〔注〕崇、飾也。⓯**あつめる。あつまる。**叢(**2**－**3220**)に通ず。〔說文通訓定聲〕崇、段借爲㆑叢。〔小爾雅、廣詁〕崇、叢也。〔廣雅、釋詁三〕崇、聚也。〔書、酒誥〕矧曰㆓其敢崇飮㆒。〔傳〕崇、聚也。〔左氏、隱、六〕芟㆓夷蘊㆔崇之㆒。〔注〕崇、聚也。⓰**おほい。**〔玉篇〕崇、衆也。〔爾雅、釋宮〕八達謂㆓之崇期㆒。〔孫注〕崇、多也。⓱**をへる。をはる。**終(**8**－**27372**)に通ず。〔說文通訓定聲〕崇、段借爲㆑終。〔詩、衞風、河廣〕誰謂㆓宋遠㆒、曾不㆑崇㆑朝。〔傳〕崇、終也。〔國語、楚語下〕思㆓念前世之崇替㆒。〔注〕崇、終也。⓲**崇牙**(16)の**略稱。**〔孔子家語、終記解〕設㆑崇殷也。〔注〕崇、崇牙也。⓳**崇高山**(27)の**略稱。**〔國語、周語上〕融降㆓於崇山㆒。〔注〕崇、崇高山也。⓴**國の名。**崈(**4**－**8153**)に同じ。唐虞の際、

鯀の封ぜられた國。〔禮、明堂位〕崇鼎。〔注〕崇、國名。〔國語、周語下〕有二崈伯鯀一。〔注〕崈、鯀國、伯爵也。〔補音〕崈、古崇字。㉑或は崈(4－8153)に作る。〔集韻〕崇、或書作レ崈。〔漢書、郊祀志下〕莽遂崈二鬼神淫祠一。〔注〕師古曰、崈、古崇字。㉒宗(3－7106)に通ず。〔書、牧誓〕是崇是長。〔漢書、谷永傳〕是宗是長。㉓**姓**。〔古今姓氏書辨證〕唐虞之際、封二鯀于崇一、謂二之崇伯一、舜殛二鯀于羽山一、以二其國一更封二諸侯一、商末崇侯虎、西伯伐レ崇降レ之、子孫以レ國爲レ氏。〔通志、氏族略、以レ國爲レ氏〕崇氏、商時侯國也、其地在二今永興鄠縣東一、崇侯虎不道、周文王滅レ之、子孫以レ國爲レ氏。

名乘 タカ。

【崇阿】1（スウア） ㊀高い丘。〔韻府引、王羲之、詩〕肆二眺崇阿一、寓二目高林一。〔王勃、滕王閣序〕儼二驂騑於上路一、訪二風景於崇阿一。㊁清、滿州正白旗人。姓は扎庫塔氏。初、佐領に任ぜられ、天聰・崇德の閒、屢〻明を征するに從つて功あり。順治中、浙江を降し、福建を取つたが、明唐王を福寧に追つて敗る。功績多く、後、輕車都尉の世職を賜はる。〔清史稿、二百三十三〕・〔國朝耆獻類徵、二百六十五〕。

【崇靄】2（スウアイ） 雲の盛にたなびくさま。靉靆。〔陸雲、大將軍宴會被レ命作詩〕玄暉峻朗、翠雲崇靄。

【崇安】3（スウアン） ㊀縣名。㋑宋、置く。晉の建陽縣の地。今、福建省建陽縣の北、武夷山の東北麓。〔讀史方輿紀要、福建、建寧府〕崇安縣、唐爲二建陽縣地一、五代時、王閩置二溫嶺鎭一、南唐保大九年、改爲二崇安場一、宋淳化五年、升爲レ縣。〔清史稿、地理志〕福建、建寧府、縣七、崇安。㋺唐、隆安縣を改めて崇安、或は崇平といひ、後、廢す。今の安南の北境。㊁年號。東晉の安帝、司馬德宗の時。隆安の一稱。(397－401) ㊂人名。清の宗室。傑書の孫。諡は修。號は友竹主人。康熙中、康親王を襲封す。二王の書法を習つて其の妙を得。雍正中、宗人府の事を掌る。〔國朝書人輯略、首〕。

【崇位】4（スウヰ） 高い位。大位。高位。崇班。〔晉書、文帝紀〕疇二咨古訓一、稽二諸典籍一、命二公崇位相國一、加二于羣后一。

【崇威】5（スウヰ） 宋、郭崇(11－39474‥141)の初名。

【崇牖】6（スウイウ） 高い垣。たかがき。〔駱賓王、帝京篇〕平臺戚里帶二崇牖一、炊レ金饌レ玉待二鳴鐘一。

【崇一】7（スウイツ） 字號。㊀明、歐陽德(6－16185‥92)の字。㊁清、梁善長(6－14825‥294)の字。

【崇飮】8（スウイン） 寄り合つて酒を飮む。會飮。一說に、飮酒をたつとぶ。〔書、酒誥〕矧曰二其敢崇飮一。〔傳〕崇、聚也。〔蔡傳〕況曰二其敢尙レ飮乎。

【崇雲】9（スウウン） 高い雲。〔陸機、猛虎行〕崇雲臨レ岸駭、鳴條隨レ風吟。〔注〕善曰、爾雅曰、崇、高也。

【崇英】10（スウエイ） 高くすぐれてゐる。〔後漢書、蔡邕傳〕崇英逸偉、不レ墜二於地一。

【崇衞】11（スウエイ） たつとびまもる。〔顏延之、赭白馬賦〕所下以崇二衞威神一、扶中護警蹕上。

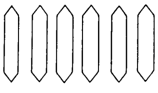
【崇演】12（スウエン） たつとび廣める。〔風俗通、皇霸〕世宗攘二夷境一、崇二演禮學一。

【崇遠】13（スウエン） ㊀高くとほい。高遠。〔晉書、列女、苻堅妾張氏傳〕天道崇遠、非二妾所一レ知。㊁字號。㋑後唐、李克修(6－14459‥1234)の字。㋺宋、魚崇諒(12－45956‥330)の名。

【崇恩】14（スウオン） 清、滿洲正藍旗人。姓は覺羅氏。字は仰之。號は語鈴(敔舲)・雨舲・香南居士・澹園・繡綺老漁(繡漪精舍)。書に巧。官は山東巡撫。書室を壺青閣といふ。〔清畫家詩史、辛、上〕・〔國朝書人輯略、九〕。

【崇廈】15（スウカ） 高く大きな家屋。巨屋。高樓。〔應瑒、正情賦〕仰二崇廈一而長息、動二哀響一而餘歎。

【崇牙】16（スウガ） 樂器のかざり。鐘や磬をかける栒虡が高く卷き上つてゐるもの。〔詩、周頌、有瞽〕設レ業設レ虡、崇牙樹レ羽。〔傳〕植者爲レ虡、衡者爲レ栒、崇牙上飾、卷然可二以縣一也。〔陳奐傳疏〕崇牙上飾者、謂二業上飾一也、烈文傳、崇、立也、業爲二栒之上飾一、崇牙又爲二業之上飾一、業、爲二平版一、作二鋸齒形一、以レ白畫レ之、崇牙爲二業上曲然高聳處一、以縣二鐘磬一、故云三卷然可二以縣一也。〔詩、大雅、靈臺〕虡業維樅、傳〕樅、崇牙也。〔禮、明堂位〕夏后氏之龍簨虡、殷之崇牙、周之璧翣。〔疏〕殷之崇牙者、謂下於二簨之上一刻、畫レ木爲二崇牙之形一、以挂中鐘磬上。〔張衡、東京賦〕崇牙張、鏞鼓設。〔注〕綜曰、崇牙、栒虡上板作二劍鋙一者、橫曰レ栒、植曰レ虡、良曰、崇牙、猶二簨虡一、以挂二鐘鼓一。



崇牙（三才圖會）

【崇雅】17（スウガ） ㊀ただしきをたつとぶ。〔唐書、文藝傳序〕玄宗好二經術一、羣臣稍厭二雕琢一、索二理致一、崇レ雅黜レ浮、氣益雄渾。〔福惠全書、蒞任部、申繳門簿〕宜二自崇レ雅而植一レ品。㊁明、尙大倫(4－7493‥178)の字。「の號。

〖崇雅齋〗18（スウガサイ） 清、馮敏昌(12－44579‥277)の室名。

〖崇雅堂〗19（スウガダウ） 室名。㊀明、鍾羽正(11－40672‥138)の室名。㊁明、李濂(6－14459‥811)の室名。㊂清、胡敬(9－29400‥110)の室名。㊃清、錢名世(11－40563‥434)の室名。㊄清、楊汝諧(6－15112‥620)の室名。㊅清、李開葉(6－14459‥926)の室名。

【崇階】20（スウカイ） ㊀高い位。高位。〔長生殿、勦寇〕謬承二新命一陟二崇階一。㊁ch'ung^2 chieh^1 ㋑尊堂。㋺貴邸。おやしき。

【崇垓】21（スウガイ） 高く構へ作つたさかひ。〔李庾、東都賦〕太行枕レ甸、發二址崇垓一。

【崇崖】22（スウガイ） 高いがけ。〔謝朓、和二王長史臥レ病詩〕崥岫欹二崇崖一、派別朝二洪河一。〔高允生、王子喬行〕七月有二佳期一、控レ鶴崇崖巓。

【崇好】23（スウカウ） ㊀氣高く美しい。〔吳志、華覈傳〕美貌者不レ待二華采一以崇好。㊁たつとびこのむ。〔北史、陸昕之傳〕子彰崇二好道術一、曾嬰二重病一、藥中須二桑螵蛸一、子彰不レ忍レ害レ物、遂不レ服焉。

【崇孝】24（スウカウ） ㊀孝道をたつとぶ。〔禮、祭統〕顯二揚先祖一、所二以崇一レ孝也。〔漢書、王商傳〕聖王崇レ孝、遠別不レ親。㊁明、舒弘緒(9－30300‥108)の字。「名。

〖崇孝堂〗25（スウカウダウ） 明、朱熊(6－14424‥582)の室名。

【崇岡】26（スウカウ） 高いをか。又、高い山上をいふ。〔嵇康、琴賦〕惟椅梧之所レ生兮、託二峻嶽之崇岡一。〔注〕向曰、岡、山上也。〔成公綏、嘯賦〕乃游二崇岡一、陵二景山一。

【崇高】27（スウカウ） ㊀たつとくたかい。けだかい。〔易、繫辭上〕縣象著明、莫レ大二於日月一、崇高莫レ大二乎富貴一。〔漢書、揚雄傳上〕瞰二帝唐之崇高一兮。〔謝靈運、從游二京口北固一應レ詔詩〕玉璽戒二誠信一、黃屋示二崇高一。〔注〕良曰、此者示三人崇高有レ異二於下一也。㊁山名。五嶽の一。嵩山(4－8348‥24)の㊀㋑をいふ。嵩高。〔國語、周語上、融降二於崇山一、注〕崇、崇高山也。㊂縣名。崈高(4－8153‥1)を見よ。

〖崇高邑〗28（スウカウイフ） 邑の名。太室山、卽ち嵩山を奉祠する邑。〔史記、封禪書〕以二三百戶一封二太室一、奉レ祠命曰二崇高邑一。

【崇康】29（スウカウ） 明の時、越の莫茂洽の年號。(1566「－1571)

【崇剛】30（スウガウ） 明の人。官は揚州衞都指揮使。靖難の亂に執へられたが、屈せずして殺さる。〔明史、一百四十二〕・〔萬斯同明史、一百八十六〕・〔明史稿、一百三十二〕。

【崇號】31（スウガウ） たつとい名號。轉じて、高い地位。〔後漢書、竇憲傳論〕當下青病二奴僕一之時、竇將軍念レ咎之日上、乃庸レ力之不レ暇、思レ鳴之無レ晨、何意下裂二膏腴一享中崇號上乎。

【崇閣】32（スウカク） たかい樓館。〔唐太宗、述聖賦〕踐二太微之崇閣一。

【崇岳】33（スウガク） 高い山。高山。崇嶽。〔張衡、思玄賦〕二女感二於崇岳一兮、或冰折而不レ營。〔注〕衡曰、崇、高也、岳、五岳也。

【崇學】34（スウガク） 新論の篇名。

【崇嶽】35（スウガク） 高い山。崇岳(33)に同じ。〔揚雄、劇秦美新〕堂堂有新、正丁二厥時一、崇嶽渟海通瀆之神、咸設二壇場一、望二受命之臻一焉。

【崇姦】36（スウカン） 惡人をあつめる。〔左氏、僖、二十四〕棄レ德崇レ姦、禍之大者也。〔注〕崇、聚也。

【崇簡】37（スウカン） ㊀たつとび任ずる。簡はえらぶ、選任すること。〔後漢書、班彪傳〕莫レ不下崇二簡其人一、就中成德器上。㊁簡素をたつとぶ。〔郭璞、南郊賦〕事崇二其簡一、服尙二其素一。

〖崇簡王〗38（スウカンワウ） 明、朱見澤(6－14424‥746)の封諡號。

【崇鑒】39 スウカン 書翰文用語。御覽を乞ふ。高鑑。〔福惠全書、稟啓附、候㆓文宗某㆒〕薄志㆓賀私㆒、統惟崇鑒。

【崇岸】40 スウガン 高い岸。〔水經、瀙水注〕車駕東巡、逕㆓五廻之險邃㆒、覽㆓崇岸之竦峙㆒。

【崇巖】41 スウガン 高いいはほ。〔晉書、張忠傳〕其居依㆓崇巖幽谷㆒、鑿㆑地爲㆓窟室㆒。〔陸機、赴㆑洛道中作詩〕頓㆑轡倚㆓崇巖㆒、側聽㆓悲風響㆒。

【崇起】42 スウキ あがめおこす。〔漢書、董仲舒傳〕聖王之繼㆓亂世㆒也、掃㆓除其迹㆒、而悉去㆑之、復脩㆓教化㆒、而崇㆓起之㆒。

【崇基】43 スウキ ❶高い臺。壇をいふ。〔潘岳、藉田賦〕結㆓崇基之靈址㆒兮、啓㆓四塗之廣阼㆒。〔注〕善曰、崇基、謂㆑壇也。❷山をいふ。〔沈約、鍾山詩應㆓西陽王敎㆒〕羽旆臨㆓崇基㆒。〔注〕善曰、崇基、山也、春秋運斗樞曰、山者、地基也。❸字號。㋑後魏、谷闡(**10**－**36182**‥43)の字。㋺明、尹臺(**4**－**7631**‥65)の字。

【崇期】44 スウキ ❶えだみち。八方に通じた道路。崇は充。道が八方に通じて、人がその上に充滿し、期して集つたやうであるからいふ。〔爾雅、釋宮〕八達謂㆓之崇期㆒。〔注〕四道交出也。〔郝懿行義疏〕釋名云、崇、充也、道多㆑所㆑通、人充㆓滿其上㆒、如㆓共期㆒也、初學記引㆓孫炎㆒曰、崇、多也、多道會㆓期於此㆒。〔釋名、釋道〕崇、充也、道多㆑所㆑通、人充㆓滿其上㆒、如㆓共期㆒也。❷よい時期。好期。〔李義府、在㆓巂州㆒遙敍㆓封禪㆒詩〕天齊標㆓巨鎭㆒、日觀啓㆓崇期㆒。

【崇熙】45 スウキ ❶高大なる光。〔李尤、漏刻銘〕懸象著明、序以㆓崇熙㆒。❷北宋仁宗の時、契丹(遼)興宗、耶律宗眞の年號、重熙の一稱。(1032－1055)

【崇綺】46 スウキ 清、滿洲鑲白旗人。姓は阿魯特氏。字は文山。諡は文貞。孝哲后の父。封は三等承恩公。官は工部尙書。德宗の世、西太后が垂簾の政をするや、大阿哥讀を授けられ、吏部尙書に除せらる。庚子の拳匪の亂に兩宮西狩するや、崇綺、保定に走り、自縊して死す。〔淸史稿、四百七十四〕・〔淸史列傳、五十八〕・〔碑傳集補、三十三〕。

【崇義】47 スウギ ❶縣名。㋑南朝宋、置き、北齊、廢す。故城は今の安徽省壽縣の東南。㋺隋、置き、後、省く。故城は今の湖南省臨澧縣の西。㋩明、置く。隋・唐の南康縣の地。今、江西省贛縣の西。〔讀史方輿紀要、江西、南安府〕崇義縣、本上猶縣之橫水地、正德十二年、撫臣王守仁、討㆓平畬賊㆒、割㆘大康縣之義安里、南康縣至坪・上龍・崇德三里、上猶縣崇義・鴈湖・上保三里㆖置㆓縣治㆒、近㆓上猶之崇義鄉㆒、因名。〔淸史稿、地理志〕江西、南安府、縣四、崇義。❷淸、汪德鉞(**6**－**17154**‥320)の字。

〔崇義夫人〕48 スウギフジン 唐の魏衡の妻。王氏をいふ。〔舊唐書、列女、魏衡妻王氏傳〕魏衡妻王氏、梓州郪人也、武德初、薛仁杲舊將房企地、侵㆓掠梁郡㆒、因獲㆓王氏㆒、逼而妻㆑之、後企地漸強盛、衡謀以㆑城應㆑賊、企地領㆓衆將㆒趣㆓梁州㆒、未㆑至數十里、飮㆑酒醉臥、王氏取㆓佩刀㆒斬㆑之、攜㆓其首㆒入㆑城、賊衆乃散、高祖大悅、封爲㆓崇義夫人㆒、捨㆓衡同賊之罪㆒。

【崇議】49 スウギ 崇高な議論。高議。〔揚雄、解難〕若㆓夫閎言崇議、幽微之塗㆒、蓋難㆘與㆓覽者㆒同㆖也。〔陳子昂、感遇詩〕西方金仙子、崇議乃無㆑明。

【崇丘】50 スウキウ ❶高いをか。〔束晳、補亡詩〕瞻㆓彼崇丘㆒、其林藹藹。〔陸機、赴㆑洛道中作詩〕振㆑策陟㆓崇丘㆒。❷詩經、小雅、南有嘉魚之什の篇名。〔詩、小雅、崇丘序〕崇丘、萬物得㆑極㆓其高大㆒也。

【崇強】51 スウキヤウ たかく強くする。強大にする。〔史記、太史公自序〕惠之早霣、諸呂不㆑台、崇㆓強祿產㆒、諸侯謀㆑之。

【崇虛】52 スウキヨ たかくてむなしいこと。又、其の處。又、高士道士など尊ぶべき人の嘗て住んだ處。虛は墟。〔虞集、送㆓易用昭㆒詩〕莫㆘向㆓墨池㆒成㆗久別㆖、鶯羣還欲㆑謝㆓崇虛㆒。

〔崇虛局丞〕53 スウキヨキヨクジヨウ 唐代、太常寺の屬官。道士の簿帳を掌る。〔稱謂錄、道官、崇虛局丞〕鴻臚寺屬、有㆓僧祇部丞一人㆒、太常寺屬、有㆓崇虛局丞㆒、掌㆓諸道士簿帳㆒、於㆑是始見㆓於官司之職守㆒。

〔崇虛先生〕54 スウキヨセンセイ 晉、公孫永(**2**－**1452**‥467)の諡。

【崇極】55 スウキヨク 極めてたつとぶこと。最上の尊敬。〔韓愈、南海神廟碑〕天子以爲、古爵莫㆑貴㆓於公侯㆒、故海嶽之祝、犧幣之數、放而依㆑之、所㆔以致㆓崇極於大神㆒。

【崇近】56 スウキン あがめちかづく。〔漢書、谷永傳〕抑㆓遠驕妬之寵㆒、崇㆓近婉順之行㆒。

【崇遇】57 スウグウ あがめ遇する。重んじて待遇する。〔晉書、賀循傳〕循有㆓羸疾㆒、面恭㆓於接對㆒、詔斷㆓賓客㆒、其崇遇如㆑此。

【崇化】58 スウクワ ❶大いに教化すること。〔晉書、孔坦傳〕經㆑邦建㆑國、教學爲㆑先、移㆑風崇㆑化、莫㆑尙㆑斯矣。❷晉の文明皇后の宮殿の名。〔晉書、文明王皇后傳〕武帝受㆑禪、尊爲㆓皇太后㆒、宮曰㆓崇化㆒。

〔崇化坊〕59 スウクワバウ 地名。福建省建陽縣の西。宋代、天下の書籍は多く此處から出たので、麻沙と共に圖書の府と稱せらる。〔方輿勝覽〕麻沙・崇化兩坊、產㆑書、號爲㆓圖書之府㆒。

【崇廥】60 スウクワイ 高大なまぐさぐら。廥は、芻藁の藏。〔馬祖常、詩〕漕粟大庾盈、賦秸崇廥錯。

【崇曠】61 スウクワウ 高くて廣く大きい。〔韋應物、莊嚴精舍遊集詩〕精舍何崇曠、煩跼一弘舒。

【崇患】62 スウクワン 重病。〔芳野金陵、紀㆓義猴事㆒〕伊羅㆑疾、頗爲㆓崇患㆒。

【崇觀】63 スウクワン 明、劉觀(吉水の人)(**2**－**2224**‥220)の字。

【崇扃】64 スウケイ 高いとざし。高い門。〔鮑照、贈㆓故人馬子喬㆒詩〕吳江深無㆑底、楚關有㆓崇扃㆒。

【崇敬】65 スウケイ たつとびうやまふ。尊敬。〔漢書、刑法志〕制㆑禮以㆓崇敬㆒、作㆑刑以㆓明威㆒也。

【崇慶】66 スウケイ ❶州名。元、置き、民國、縣に改む。〔淸史稿、地理志〕四川、成都府、州三、崇慶州。❷縣名。民國、置く。漢の江原縣。宋、蜀州唐安郡を崇慶府に升す。四川省成都縣の西、岷江の東岸。❸金、衞紹王、完顏永濟の年號。(1212－1213)

【崇教】67 スウケウ 明、何東序(**1**－**511**‥350)の字。

【崇劇】68 スウゲキ 高い官位にゐて忙しいこと。卑劇(**2**－**2738**‥24)の對。〔唐書、趙宗儒傳〕宗儒以㆓文學㆒歷㆓將相位㆒、任㆓崇劇㆒。

【崇闕】69 スウケツ 高大な門。〔繁欽、建章鳳闕賦〕築㆓雙鳳之崇闕㆒、表㆓大絡㆒以遐通。〔冥通記〕夢從㆓朱門崇闕㆒入、司命君見授㆓夜光芝㆒。

【崇業】70 スウゲフ 業を盛に興す。興業。〔張衡、東京賦〕進㆓明德㆒而崇㆑業。〔注〕綜曰、崇、猶㆑興也、業、射業也、善曰、周易曰、君子進㆑德修㆑業。

【崇肩】71 スウケン 高く張つた肩。〔唐書、楊元琰傳〕琰及㆑長、秀眉美鬚髯、崇肩博頤。

【崇軒】72 スウケン 高い軒。高い家。〔柳宗元、桂州訾家洲亭記〕北有㆓崇軒㆒、以臨㆓千里㆒。

【崇儉】73 スウケン 儉約をたつとぶ。〔隋書、柳昂傳〕戒㆑奢崇㆑儉、率㆓先百辟㆒。

【崇賢】74 スウケン ❶賢者をあがめたつとぶ。〔傅亮、爲㆓宋公㆒求㆑加㆓贈劉前軍㆒表〕崇㆑賢旌㆑善、王敎所㆑先。❷漢の東門の名。〔張衡、東京賦〕昭㆓仁惠於崇賢㆒、抗㆓義聲於金商㆒。〔注〕綜曰、崇賢、東門名也。❸唐、陸象先(**11**－**41708**‥356)の字。

【崇憲】75 スウケン ❶憲をたつとぶ。憲はのり、法。〔後漢書、左雄傳〕非㆕所㆔以崇㆑憲明㆑理、惠㆓育元元㆒也。❷南朝宋、文帝の皇后、路淑媛の住居した宮殿の名。〔宋書、文帝路淑媛傳〕生㆓孝武帝㆒、上卽位、奉㆓尊號㆒曰㆓皇太后㆒、宮曰㆓崇憲㆒、太后居㆓顯陽殿㆒。〔謝莊、宋孝武宣貴妃誄〕肅㆓恭崇憲㆒。〔注〕善曰、沈約宋書曰、文帝路淑媛、生㆓孝武皇帝㆒、卽位、奉㆓尊號皇太后㆒、宮曰㆓崇憲㆒、太后居㆓顯陽殿㆒。

【崇謙】76 スウケン 明、朱多爟(**6**－**14424**‥905)の號。

〔崇謙守靜眞人〕77 スウケンシユセイシンジン 明、張宇淸(**4**－**9812**‥792)の號。

【崇巘】78 スウケン 高い峯。〔周邦彥、汴都賦〕曳㆑輦可㆔以涉㆓崇巘㆒、設㆑柎可㆔以濟㆓深水㆒。

【崇顯】79 スウケン 立派にあらはれる。〔後漢書、梁皇后紀〕況㆓一母見在、不㆑蒙㆓崇顯之次㆒。〔蜀志、王平傳〕平特見㆓崇顯㆒。〔隋書、五行志上〕國門之崇顯、號令之所㆓由出㆒也。

【崇弘】80 スウコウ たつとびひろめる。〔後漢書、曹褒傳〕崇㆓弘祖宗㆒、仁㆓濟元元㆒。

【崇侯】81 スウコウ 上古の人。殷の紂王に用ひられた。崇は國、侯は爵。名を虎といふ。崇侯虎を見よ。〔墨子、所染〕殷紂染㆓於崇侯・惡來㆒。〔閒詁〕崇國、侯爵、名虎。〔史記、周紀〕明年、伐㆓崇侯虎㆒、而作㆓豐邑㆒。

〔崇侯虎〕82 スウコウコ 殷の人。紂王の臣。紂が九侯を醢にし、鄂侯を脯にしたことを聞き、西伯昌、

卽ち後の周文王は竊かに歎じたが、崇侯は之を讒し、西伯は善を積み德を累ねるので、諸侯は皆之に嚮つてゐるから、將來帝に不利であらうといつたので、紂は西伯を羑里に囚へた。後、西伯は脫れ歸つて、崇侯虎を伐ち豐邑を作つた。〔史記、四〕。

【崇厚】83（スウコウ） ❶手あつくたつとぶ。官爵などの甚だ高いこと。〔後漢書、公孫瓚傳〕今車騎將軍袁紹、託承二先軌一、爵任崇厚。❷清、滿洲の人。號は地山。咸豐中、侍郎の銜を以て天津に駐在し、三口通商事を辦理し、大沽口の水田數千畝を開墾す。同治中、都興阿の軍務を補助し、天津機器局を創設辦理したが、事に坐して職を解かる。後、佛國に使し、光緒中、官は左都御史に至る。又、全權を以て露國に使し、伊犂を收還する事を議したが、條約必ずしも有利でなかつたので職を奪はれた。後、釋さる。〔清史稿、四百五十二〕。

【崇嚴】84（スウゴン） うやうやしくたつとぶ。又、たつとくおごそか。〔班固、曲引〕以崇二嚴祖考一、殷薦レ宗配レ帝。〔注〕向曰、嚴、敬。〔李嶠、讓二鸞臺侍郎一表〕瑣闥崇嚴、玉堂祕近。

【崇壯】85（スウサウ） 高くさかんなこと。高く立派なこと。〔蔡邕、郭有道林宗碑文〕崇壯幽濬、如レ山如レ淵。〔摯虞、遊思賦〕望二雲階之崇壯一兮、願輕擧而高翔。

【崇喪】86（スウサウ） 喪を厚くする。宗喪。〔史記、孔子世家〕崇レ喪遂レ哀、破レ產厚レ葬。〔會注考證〕墨子作二宗レ喪循レ哀、晏子作二久レ喪道レ哀、云云、崇、厚也。

【崇山】87（スウサン） ❶高い山。高山。〔司馬相如、上林賦〕崇山矗矗、巃嵸崔巍。❷山名。㋑舜の臣、驩兜の放たれた處。其の地は詳かでない。〔書、舜典〕放二驩兜于崇山一。〔傳〕崇山、南裔。〔疏〕禹貢無二崇山一、不レ知二其處一、蓋在二衡嶺之南一也。〔清一統志〕尙書疏謂、崇山在二衡嶺南一、唐沈佺期有下從二崇山一向二越裳一詩上、尙書之崇山、當レ在二交廣之閒一。㋺江西省崇義縣の北。もと旗山といふ。聳秀特立する故、明の王守仁は獨秀峯と名づく。〔讀史方輿紀要、江西、南安府、崇義縣〕崇山、城北半里、舊名岐山、聳拔特立、王守仁改爲二獨秀峯一、後又改二今名一。㋩湖南省大庸縣の西南。天門山と相連なる。〔清一統志〕此崇山、非下放二驩兜一處上。

【崇讚】88（スウサン） たつとびほめる。〔宋書、符瑞志下〕「字。愧レ不足下式昭皇慶、崇中讚盛美上。

【崇之】89（スウシ） 明、陳世良(**11－41698**··1036)の字。

【崇侈】90（スウシ） ❶多くむさぼる。奢侈を極める。〔左氏、文、十八〕侵欲崇侈、不レ可二盈厭一。〔會箋〕爾雅、崇、重也、楚語韋注、侈、多也、崇侈二字同義、云云、昭八年傳、宮室崇侈、與レ此同字異義。❷高大で贅澤。〔左氏、昭、八〕今宮室崇侈、民力彫盡。〔說苑、辨物〕今宮室崇侈、民力屈盡。〔魏志、高堂隆傳〕彼二賊並爲二無道一、崇侈無レ度。

【崇祀】91（スウシ） あがめまつる。〔隋書、音樂志中〕國陽崇祀、嚴恭有レ聞。〔柳宗元、箕子碑〕大明宣昭、崇祀式孚。〔清國行政法汎論、授與榮典權、崇祀〕崇祀者、謂下尊二崇先賢一列中之祀典上也。

【崇事】92（スウジ） あがめ事へる。〔禮、祭統〕崇二事宗廟社稷一、則子孫順孝。

【崇秀】93（スウシウ） ❶高くひいでる。崇特。〔陳子昂、營山陵書〕今景山崇秀、北對二嵩邙一、右眄二汝海一、祝融太昊之故墟在焉。❷金、完顏宗秀(**3－7079**··110)の一名。

【崇岫】94（スウシウ） 高い山のほらあな。又、たかい山の頂上。岫は、山にあるほら穴、又は峯。〔謝莊、月賦〕臨二濬壑一而怨レ遙、登二崇岫一而傷レ遠。

【崇讎】95（スウシウ） 仇敵をたつとぶ。〔左氏、哀、十二〕若執二衞君一、是墮レ黨而崇レ讎也。

【崇日】96（スウジツ） 日出から日沒まで。崇は充、一說に、終。終日。〔荀子、賦〕周二流四海一、曾不二崇日一。〔注〕崇、充也、言、智周二流四海一、曾不三充二滿一日一而遍也。〔久保愛、增注〕物茂卿曰、崇、終也。

【崇實】97（スウジツ） ❶たつとぶ。〔論衡、定賢〕無レ益三於彌爲二崇實之化一。❷清、滿洲鑲黃旗人。姓は完顏氏。號は樸山。諡は文勤。道光の進士。咸豐中、成都將軍に累擢せられ、同治中、藍大順を擊ち、貴州の苗を勦伐して屢〻功あり。官は盛京將軍に至る。〔清史列傳、五十二〕。

【崇習】98（スウシフ） たつとび習ふ。良いと思つてならふ。〔北史、魏宣武帝紀〕九月景辰以三貴族豪門、崇二習奢侈一、詔二尙書一嚴立二限級一、節二其流宕一。

【崇尙】99（スウシヤウ） あがめたつとぶ。〔晏子、諫、上〕崇二尙勇力一、不レ顧二義理一。〔後漢書、黨錮傳序〕自二武帝一以後、崇二尙儒學一。〔顏延之、三月三日曲水詩序〕崇二尙其道一、神二明其位一。

【崇相】100（スウシヤウ） 明、董應擧(**9－31433**··177)の字。

【崇象】101（スウシヤウ） 明、張璧(**4－9812**··665)の字。

【崇奬】102（スウシヤウ） あがめすすめる。あがめはげます。〔宋史、理宗紀〕其令三學官列二諸從祀一、以示二崇奬之意一。

【崇城】103（スウジヤウ） 天子をいふ。崇高の意に取る。諸侯を干城といふに對す。〔初學記〕白虎通曰、天子曰二崇城一、言二崇高一也、諸侯曰二干城一、言下不二敢自專一、禦中於天子上也。

【崇情】104（スウジヤウ） 氣高い心。〔王僧達、答二顏延年一詩〕崇情符二遠迹一、淸氣溢二素襟一。

【崇讓】105（スウジヤウ） ❶晉の劉寔（字は子眞）の著した論文の名。〔干寶、晉紀總論〕子眞著二崇讓一、而莫二之省一。〔注〕善曰、干寶晉紀曰、時禮讓未レ與、賢者壅滯、少府劉寔著二崇讓論一。❷地名。〔宣室志〕崇讓里、在二東郡一。

【崇酒】106（スウシユ） 酒を一杯に酌む。酒をなみなみとつぐ。崇は充。〔儀禮、鄕飮酒禮〕主人坐、奠二爵于序端阼階上一北面、再拜崇レ酒、賓西階上、答拜。〔注〕崇、充也。〔柳宗元、送二薛存義之レ任序〕河東薛存義將レ行、柳子載二肉于俎一、崇二酒于觴一、追而送二之江滸一、飮二食之一。

【崇授】107（スウジユ） 尊く重いさづけもの。〔宋書、沈攸之傳〕竝加二崇授一、寵貴重疊。

【崇儒】108（スウジユ） ❶儒學を尊崇する。〔後漢書、黨錮傳序〕自二武帝一以後、崇二尙儒學一。〔舊唐書、陽嶠傳〕景龍末、累轉二國子司業一、奏修二先聖廟及講堂一、因建二碑前庭一、以紀二崇儒之事一。〔元稹、論教本書〕有國之君議二教化一者、莫レ不下以二興レ廉擧レ孝、設レ學崇レ儒爲上レ意。❷隋、房暉遠(**5－11714**··149)の字。

【崇樹】109（スウジユ） ❶高い樹木。〔顏延之、拜二陵廟一作〕哀敬隆二祖廟一、崇樹加二園塋一。❷高くたてる。〔南史、齊高帝紀〕朕聞、疇レ庸表レ德、前王盛典、崇二樹侯伯一、有國攸レ同。

【崇聚】110（スウシユウ） あがめたつとびあつめる。〔漢書、五行志中之上〕崇二聚票輕無誼之人一、以爲二私客一。

【崇崒】111（スウシユツ） 山の高くけはしいさま。〔沈約、郊居賦〕其爲レ狀也、則巍峩崇崒、喬枝拂レ日。

【崇述】112（スウジユツ） 明、周述(**2－3441**··266)の字。

【崇峻】113（スウシユン） ❶高いこと。けだかく貴い。〔孔子家語、六本〕宮室崇峻、輿馬奢侈。〔晉書、虞溥傳〕積二一勺一以成二江河一、累二微塵一以崇峻極。〔抱朴子、知止〕崇峻之無レ限、則頹壞惟憂矣。〔唐書、虞祥道傳〕掖省崇峻、王言祕密。❷（スシユン） 人皇第三十二代の帝諡。

【崇如】114（スウジヨ） 清、劉墉(**2－2224**··633)の字。

【崇飾】115（スウシヨク） たつとび修飾する。立派にかざる。〔左氏、文、十八〕毀レ信廢レ忠、崇二飾惡言一。〔晉書、張茂傳〕不レ宜三勞役崇二飾臺榭一。

【崇信】116（スウシン） ❶あがめ信ずる。〔書、泰誓下〕崇二信姦回一。〔傳〕姦邪之人、反尊二信之一。〔後漢書、陽球傳〕球奉二孝廉一、補二尙書侍郎一、閑二達故事一、其章奏處議、常爲三臺閣所二崇信一。〔張協、露拍刀銘〕遵養時晦、曜德崇信。❷縣名。㋑宋、置く。今、甘肅省涇川縣の西。涇水の支流、汭水の南岸。〔讀史方輿紀要、陝西、平涼府〕崇信縣、本平涼縣地、宋初始置レ縣、屬二鳳翔府一。〔清史稿、地理志〕甘肅、涇州直隸州、縣三、崇信。㋺遼、置く。故城は滿洲遼寧省瀋陽縣の東。〔讀史方輿紀要、山東、遼東都指揮使司、瀋陽中衞〕崇信城、在二衞東一、遼志、漢長岑縣地、遼仍置二崇州一、亦曰二隆安軍一、幷二崇山三縣一置二崇信縣一爲二州治一、在二東京東北百五十里一、金廢。

【崇晉】117（スウシン） 明、朱裒(**6－14424**··549)の字。

【崇深】118（スウシン） 高いものと深いもの。高いものも深いものも。〔隋書、音樂志中〕昭冥咸敍、崇深畢綜。

【崇仁】119（スウジン） ❶仁をたつとぶ。〔阮瑀、公讌詩〕陽春和氣動、賢主以崇レ仁。〔晉書、文帝紀〕敦二五品一以崇レ仁、恢二六典一以敷レ訓。❷縣名。㋑隋、新建・巴山・西寧の三縣を合して置く。江西省臨川縣の西南。〔讀史方輿紀要、江西、撫州府〕本臨汝縣地、隋郡縣俱廢、改置二崇仁縣於此一、屬二撫

州一、唐宋因レ之。〔清史稿、地理志〕江西、撫州府、縣六、崇仁。㋺唐、置く。廣西省荔浦縣の西南。〔讀史方輿紀要、廣西、平樂府、荔浦縣〕崇仁、廢縣、在二縣西南一、唐武德四年置、屬二荔州一、州廢、改屬二桂州一、尋廢。

【崇仁學派】120 スウジンガクハ　明の呉與弼を中心とする學派。呉與弼は崇仁の人であるから名づく。其の學說は宋學を承け、心は知覺と理との二つから成るとし、靜時に存養し、動時に省察し、敬義を持し、明誠を進めれば、學問の功は成るといふ。胡居仁・胡九韶・魏校など皆其の門から出た。呉與弼(**2**－**3365**‥881)を見よ。〔明儒學案、崇仁學案、聘君呉康齋先生與弼〕呉與弼、字子傳、號二康齋一、撫州之崇仁人也、父國子司業溥、先生生時、祖夢下有レ藤繞二其先墓一、一老人指爲上扳二轅藤一、故初名二夢祥一、八九歲已負二氣岸一、十九歲觀二親於京師一、從二洗馬楊文定一學、讀二伊洛淵源錄一、慨然有レ志二於道一、謂程伯淳見二獵心喜一、乃知三聖賢猶二夫人一也、孰云レ不レ可二學而至一哉、遂棄二舉子業一、謝二人事一、獨二處小樓一、玩二四書五經諸儒語錄一、體二貼於身心一、不レ下レ樓者二年、氣質偏二於剛忿一、至レ是覺レ之、隨下二克レ之之功一。

【崇神】121 スジン　人皇第十代の帝謚。〔日本書紀、崇神紀〕天皇既壯、寬博謹愼、崇二重神祇一。

【崇邃】122 スウスイ　けだかく奧深い。高くておく深い。〔唐書、李嶠傳〕陛下猒二崇邃一、輕二尊嚴一。〔柳貫、尊經堂詩〕覆レ之以二堂庭一、牖戶亦崇邃。

【崇崇】123 スウスウ　高いさま。隆隆。〔揚雄、甘泉賦〕崇崇圜丘、隆隱レ天兮。〔注〕善曰、崇崇、高貌也。〔班彪、北征賦〕歷二雲門一而反顧、望二通天之崇崇一。〔注〕翰曰、崇、高也。

【崇正】124 スウセイ　太子の宮殿。〔潘岳、爲二賈謐一作贈二陸機一詩〕來目二南岡一、曜二藻崇正一。〔注〕善曰、崇正、太子之宮也。

【崇成】125 スウセイ　高く出來上る。高く積みあげて成す。〔荀子、脩身〕頣步而不レ休、跛鼈千里、累土而不レ輟、丘山崇成。

【崇盛】126 スウセイ　❶たつとく盛なこと。〔范曄、樂游應レ詔詩〕崇盛歸二朝闕一。〔鮑照、侍二宴覆舟山一詩〕神居既崇盛、嵒嶮信環周。❷位が高くて勢が盛なこと。〔枕中記〕崇盛赫奕、一時無レ可レ比。

【崇昔】127 スウセキ　おほむかし。上古。太古。〔張華、雜詩〕永思二慮崇昔一、慨然獨撫レ膺。

【崇絕】128 スウゼツ　高く遠い。〔鮑照、舞鶴賦〕仰二天居之崇絕一、更惆悵以驚レ思。〔注〕銑曰、崇絕、高遠。〔江淹、爲レ蕭讓二太傅揚州牧一表〕崇絕之寵、降レ自二白日一、殊甚之禮、墜二於青雲一。

【崇瞻】129 スウセン　清、王竣(**7**－**20823**‥574)の字。

【崇善】130 スウゼン　❶善をたつとぶ。〔袁宏、三國名臣序贊〕崇レ善愛レ物、觀レ始知レ終。❷縣名。宋、置く。廣西省扶南縣の西南。縣城は左江の曲に瀕す。〔讀史方輿紀要、廣西、太平府〕崇善縣、附郭、宋置二羈縻崇善縣一、隸二古萬寨一。〔清史稿、地理志〕廣西、太平府、縣一、崇善。❸隋、來護兒(**1**－**581**‥284)の字。

【崇阻】131 スウソ　たかくけはしいこと。〔魏文帝、浮レ淮賦〕仰二嵩岡之崇阻一兮、經二東山之曲阿一。

【崇宗】132 スウソウ　西夏四代の王。李乾順(**6**－**14459**‥1138)を見よ。

【崇則】133 スウソク　尊いおきて。すぐれたのり。〔後漢書、朱穆傳〕師二孔聖之崇則一、嘉二楚嚴之美行一。

【崇尊】134 スウソン　あがめたつとぶ。〔宋史、樂志十四〕三宮燕胥、四海崇尊。

【崇替】135 スウタイ スウテイ　❶物事の終つて廢すること。崇は終、替は廢。〔國語、楚語、下〕思二念前世之崇替一。〔注〕崇、終也、替、廢也。❷勢の盛なことと衰へること。興亡。盛衰。〔陸機、答二賈長淵一詩〕邈矣終古、崇替有レ徵。〔注〕翰曰、崇替、亦猶二興亡一也。〔陸機、門有車馬客行〕天道信二崇替一、人生安得レ長。〔王儉、褚淵碑文〕坦懷至公、永監二崇替一。〔注〕銑曰、崇、興、替、發也。

【崇大】136 スウダイ ソウダイ　高大にする。又、高大なこと。〔左氏、襄、三十一〕宮室卑庳、無二觀臺榭一、以崇二大諸侯之館一、館如二公寢一。

【崇臺】137 スウダイ　高いうてな。〔王褒、聖主得二賢臣一頌〕雖二崇臺五層、延袤百丈一、而不レ溷者、工用相得也。〔班固、西都賦〕承以二崇臺閒館一。〔盧諶、答二魏子悌一詩〕崇臺非二一幹一、珍裘非二一腋一。

【崇臺延閣】138 スウダイエンカク　高く長い臺閣。高大でつらなるうてな。〔柳宗元、永州龍興寺東邱記〕增以二崇臺延閣一、廻二環日星一、臨二瞰風雨一。

【崇道】139 スウダウ　❶道を尊び行ふ。〔孔子家語、賢君〕崇レ道貴レ德、則聖人自來。❷明、歐陽鐸(**6**－**16185**‥83)の字。

【崇闥】140 スウタツ　高い門。〔王勃、寶莊嚴寺舍利塔碑〕出二平原一而祛レ甲、擁二崇闥一以鳴レ鐘。

【崇祉】141 ch'ung^2 chih^3　貴下の御幸福。書翰文用語。

【崇雉】142 スウチ　臺閣や樓屋の高いこと。雉は高さ三丈をいふ。〔謝靈運、會吟行〕層臺指二中天一、高墉積二崇雉一。〔注〕翰曰、三丈曰レ雉、積レ雉、言レ高也。

【崇著】143 スウチヨ　たかくいちじるしいこと。〔後漢書、荀彧傳〕曹公本興二義兵一、以匡二振漢朝一、雖二勳庸崇著一、猶レ秉二忠貞之節一。

【崇重】144 スウチヨウ　たつとび重んずる。尊重。〔桓溫、薦二譙元彥一表〕上代之君、莫レ不三崇二重斯軌一。

【崇寵】145 スウチヨウ　たつとびいつくしむ。〔魏志、三少帝、齊王芳紀〕近漢顯宗、崇二寵鄧禹一。

【崇弟】146 スウテイ　崇邑に封ぜられた桓公の弟をいふ。〔管子、輕重乙〕崇弟蔣弟、丁惠之功。〔纂詁〕崇蔣、二邑名、桓公二弟封焉。

【崇鼎】147 スウテイ　崇國の鼎。文王が崇を伐つて獲得した寶器。〔禮、明堂位〕崇鼎・貫鼎・大璜・封父龜、天子之器也。〔注〕崇・貫・封父、皆國名、文王伐レ崇、古者伐レ國、遷二其重器一、以分二同姓一。

【崇禎】148 スウテイ　明、思宗、莊烈帝、朱由檢の年號。(1628－1644)

〔崇禎帝〕149 スウテイテイ　明、思宗、莊烈帝、朱由檢をいふ。

〔崇禎本〕150 スウテイボン　刊本の名。十三經注疏の版本の一。明の毛晉が崇禎年間に、嘉靖本を本とした萬曆本を更に本として、手を加へ、文字を校勘して刊行したもの。汲古閣にて刻したから汲古閣本ともいふ。阮元の校勘記では、刊行者の名に因つて之を毛本と呼ぶ。この本は萬曆本より遙かによく、特に三禮の疏は格段に善いとせられてゐる。〔阮元、重刻宋板注疏總目錄〕後有二閩板一、乃明嘉靖中、用二十行本一重刻者、有二明監板一、乃明萬曆中用二閩本一重刻者、有二汲古閣毛氏板一、乃明崇禎中、用二明監本一重刻者。

【崇朝】151 スウテウ　黎明から朝食の時刻に至る迄をいふ。崇は終。朝の間。終朝。〔詩、鄘風、蝃蝀〕朝隮二于西一、崇朝其雨。〔傳〕崇、終也、從レ旦至二食時一、爲二終朝一。〔詩、衛風、河廣〕誰謂二宋遠一、曾不レ崇レ朝。〔箋〕崇、終也、行不レ終レ朝、亦喩レ近。〔淮南子、氾論訓〕不二崇朝一而雨二天下一者、唯太山。〔注〕崇、終也、日旦至二食時一爲二崇朝一。〔魏志、涼茂傳〕不二崇朝一而決。

【崇坫】152 スウテン　さかづきを置く高い臺。坫は土や甓で造つた杯をおく道具。高坫。〔禮、明堂位〕反坫出レ尊、崇坫康レ圭。〔注〕崇、高也。

【崇棟】153 スウトウ　たかい屋のむね。高棟。〔張衡、冢賦〕奕奕將將、崇棟廣宇。

【崇特】154 スウトク　たかくひいでる。すぐれて手厚い。〔呉志、孫覇傳〕寵愛崇特、與レ和無レ殊。

【崇德】155 スウトク　❶德をたつとぶ。有德者を尊崇する。〔書、武成〕惇レ信明レ義、崇レ德報レ功。〔傳〕有德、尊以レ爵。〔禮、王制〕上レ賢以崇レ德、簡二不肖一以紕レ惡。〔左氏、僖、七〕且夫合二諸侯一以崇レ德也。〔左氏、文、二〕謂二之崇レ德。❷德を高く積み修める。又、德を積み修めて充實させる。〔論語、顏淵〕子張問二崇レ德辨レ惑、子曰、主二忠信一、徙レ義、崇レ德也。〔安井息軒、集說〕邢昺云、崇、充也、云云、言レ欲三充二盛道德一。❸德業を高く發揚する。〔易、豫〕雷出レ地奮、豫、先王以作レ樂崇レ德。〔疏〕雷是鼓動、故先王法二此鼓動一而作レ樂、崇二盛德業一、樂以三發二揚盛德一故也。❹宮殿の名。崇德殿に同じ。〔張衡、東京賦〕乃新二崇德一、遂作二德陽一。〔注〕綜曰、崇德・德陽、皆殿名也、崇德在レ東、德陽在レ西、相去五十步。❺車の名。辟惡車(**10**－**38642**‥2)に同じ。〔事物紀原、輿駕羽衞部、崇德〕宋朝會要曰、崇德車、本秦辟惡車也、上有二桃弧棘矢一、所三以禳二却不祥一。❻縣名。㋑南朝宋、置く。隋、省く。今の廣東省高明縣の地。㋺五代呉越、置く。春秋の越の地。今、浙江省杭縣の東北。縣城は運河の曲に瀕す。〔讀史方輿紀要、浙江、嘉興府〕崇德縣、本嘉興縣地、五代時天福三年、呉越析二嘉興縣之義和市、及崇德七鄕一爲レ縣、屬二秀州一。❼清、太宗の年號。(1636－1643)❽スウトク

人皇第七十五代の帝謚。

〖崇德堂〗156 スウトクダウ 清、王植（深澤の人）（**7－20823**‥611）の室名。

〖崇德殿〗157 シユウトクデン 宮殿の名。後漢の洛陽の南宮に在り。〔後漢書、安帝紀〕皇太后御二崇德殿一、百官皆吉服。〔注〕洛陽南宮、有二崇德殿一。

〖崇德可汗〗158 スウトクカカン 唐代、回鶻の可汗。長慶元年、憲宗の女太和公主、求婚に應じて降嫁す。〔唐書、二百十七〕・〔舊唐書、一百九十五〕。

【崇篤】159 スウトク たつとび信ずる。あがめあつくする。〔孔融、論二盛孝章一書〕凡所二稱引一、自公所レ知、而復有レ云者、欲三公崇二篤斯義一也。

【崇寧】160 スウネイ ㊀縣名。宋、置く。唐の唐昌縣。今、四川省成都縣の西北、沱江の上流。〔讀史方輿紀要、四川、成都府〕崇寧縣、本郫・導江・九隴三縣地、宋初爲二永昌縣一、崇寧初改二今名一、仍屬二彭州一。〔清史稿、地理志〕四川、成都府、縣十三、崇寧。㊁年號。㋑宋、徽宗、趙佶の年號。（1102－1106）㋺北宋、仁宗の時、契丹（遼）の興宗、耶律宗眞の年號。重熙の一稱。（1032－1055）

〖崇寧重寶〗161 スウネイヂユウハウ 宋の徽宗のとき鑄た貨幣。〔董逌錢譜、宋朝錢〕崇寧重寶、徽宗年號。

〖崇寧通寶〗162 スウネイツウハウ 宋の徽宗のとき鑄た貨幣。〔董逌錢譜、宋朝錢〕崇寧通寶、徽宗年號。

【崇嶓】163 スウハ 宋、趙崇嶓（**10－37171**‥717）の一名。

【崇拜】164 スウハイ ㊀あがめ拜する。尊敬する。〔南齊書、百官志〕左僕射、領二殿中主客二曹事一、其諸吉慶瑞應衆拜、災異賊發衆變、臨レ軒崇拜。㊁chʻung^2 pai^4 歸依する。信仰する。

【崇芒】165 スウバウ 高い北邙山。北邙（**2－2574**‥379）を見よ。〔潘岳、河陽縣作詩〕大廈緬無レ覿、崇芒鬱嵯峨。〔注〕善曰、郭緣生述征記曰、北芒去二大夏門一、不レ盈二一里一。〔張正見、從二永陽王一遊二虎丘山一詩〕滄波壯二鬱島一、洛邑鎭二崇芒一。

【崇房】166 スウバウ 高くおごそかな構への部屋。〔應貞安、石榴賦〕大廈崇房、重廊高廡。

【崇伯】167 スウハク 禹の父、鯀をいふ。崇は地名。伯は爵位。鯀、崇伯に封ぜらる。宻伯。〔書、舜典、伯禹作二司空一、傳〕禹代レ鯀爲二崇伯一、入爲二天子司空一、治二洪水一有二成功一。〔竹書紀年、上〕帝堯六十一年、命二崇伯鯀一治レ河。〔史記、夏紀、禹之父曰レ鯀、鯀之父曰二帝顓頊一、注〕索隱曰、連山易云、鯀封二于崇一、故國語謂二之崇伯鯀一。〔漢書、劉向傳、昔者鯀共工驩兜與二舜禹一雜二處堯朝一、注〕師古曰、鯀、崇伯之名、卽檮杌也。

【崇邈】168 スウバク 高く遠い。けだかく奥ぶかい。高尚深遠。崇邃。〔張華、列文先生鮑玄泰誄〕抗二行崇邈一、遊二心大順一。〔陸機、贈三馮文羆遷二斥丘令一詩〕邁レ心玄曠、矯レ志崇邈。

【崇閥】169 スウバツ たふとい家がら。〔李羣玉、將レ之二京國一贈二薛員外一詩〕圭袞照二崇閥一、文儒嗣二箕裘一。

【崇法】170 スウハフ 五代吳越、皓端（**8－22732**‥38）の「號。

【崇班】171 スウハン たつとく重い位の列。たかい地位。たつとい位階。崇位。〔盧懷愼、奉下和九日幸二臨渭亭一登上レ高應制得二還字一詩〕無レ因レ酬二大德一、空此媿二崇班一。

【崇卑】172 スウヒ 高いことと低いこと。崇庳に同じ。

【崇庳】173 スウヒ 高いことと低いこと。崇卑。高低。〔韓愈、進學解〕商二財賄之有亡一、計二班資之崇庳一。

【崇賁】174 スウヒ けだかい飾り。たつといかざり。賁は飾。〔陶翰、狐白裘賦〕殷祀典以二崇賁一、飾二禮容一而克修。

【崇武】175 スウブ 武をたつとぶ。尙武。〔穀梁、桓、六〕大閱者何、閱二兵車一也、云云、其日以爲レ崇レ武、故謹而日レ之。

【崇福】176 スウフク 南宋の時、西遼承天后の年號。一に天福に作る。（1154－1167）

【崇墳】177 スウフン 高いつつみ。〔潘岳、射雉賦〕或乃崇墳夷靡、農不レ易レ壠。〔注〕爰曰、墳、大防、今呼爲レ塘也。

【崇文】178 スウブン ㊀文學をたつとぶ。〔李嶠、奉下和聖製送三張說上二集賢學士一賜上レ宴詩〕偃レ武堯風接、崇レ文漢道恢。㊁文學の官。〔王融、三月三日曲水詩序〕崇文成均之職、導レ德齊レ禮。〔注〕銑曰、崇文・成均、文學官也。

〖崇文館〗179 スウブンクワン 唐の三館の一。初の名は崇賢館。貞觀十三年、置く。後、太子の名を避けて崇文館といふ。書籍の校正整理を掌る。東宮附の官坊、卽ち左春坊に屬し、學士二人・校書郎二人・館生十五人、及び書直令史・書令史・典書・搨書手・楷書手・熟紙匠・裝潢匠・筆匠など若干人を置く。〔唐書、百官志〕崇文館、學士二人、掌二經籍圖書、教授諸生課試擧送一、如二弘文館一。〔柳宗元、唐故萬年令裴府君墓碣〕公由二進士上第一、校二書崇文館一。

〖崇文觀〗180 スウブンクワン 三國、魏の明帝の建てた觀。能文の者を以て充つ。〔魏志、明帝紀〕魏明帝置二崇文觀一、徵二善屬レ文者一以充レ之。〔北史、儒林傳序〕明皇纂歷、敦二尙學藝一、內有二崇文之觀一、外重二成均之職一。

〖崇文門〗181 スウブンモン 北京の城門の名。元の文明門。正陽門の東にある。別名、哈噠門・海岱門。〔舊京遺事〕南、正陽・崇文・宣武、東、朝陽・東直。〔讀史方輿紀要、直隸、順天府〕京城周圍四十里爲二九門一、南曰二麗正門一、今曰二正陽門一、南之左曰二文明門一、今曰二崇文門一。

〖崇文總目〗182 スウブンソウモク 書名。十二卷。宋、王堯臣等奉敕撰。宋代、昭文・集賢・史館の三館に祕書を合藏したが、後、崇文院を建て、三館の書を更に分藏し、之を祕閣と稱した。然るに三館及び祕閣の藏書が次第に雜亂するに至ったので、景祐元年、張觀・李淑・宋祁等に命じて、詳かに其の存廢を調査せしめ、次いで王堯臣等をして之を校勘し、編目を分類せしめ、名を崇文總目と賜はった。原本は六十六卷で、每條詳細な論說が附してあつたが、後、之を去つた。今、存するものは完本ではない。其の目は、〖經部〗易・書・詩・禮・樂・春秋・孝經・論語・小學。〖史部〗正史・編年・實錄・雜史二・僞史・職官・儀注・刑法・地理・氏族・歲時・傳記二・目錄。〖子部〗儒家・道家・法家・名家・墨家・縱橫家・雜家・農家・小說二・兵家・類書二・算術・藝術・醫書五・卜筮・天文占書・曆數・五行三・道書九・釋書三。〖集部〗總集二・別集七・文史。〔四庫提要、史部、目錄類〕。

〖崇文叢書〗183 スウブンソウシヨ 叢書の名。崇文書院編。我が國、先哲の名著を收む。其の目は【第一輯】篆隸萬象名義、附、名義目次解題十六冊（釋空海）・紫芝園漫筆五冊（太宰春臺）・蕉窓文草三冊（林述齋）・蕉窓永言二冊（林述齋）・慊堂全集十七冊（松崎慊堂）・侗庵非詩話四冊（古賀侗庵）・書說摘要四冊（安井息軒）・夏小正校注二冊（增島蘭園）・讀左筆記五冊（增島蘭園）・傳經廬文鈔一冊（海保漁村）。【第二輯】天長遺言二冊（並河天民）・讀呂氏春秋二冊（荻生徂徠）・萬庵集四冊（釋萬庵）・崇孟一冊（藪孤山）・論語徵癈疾三冊（片山兼山）・諧韻瑚璉一冊（中井履軒）・東遊負劍錄一冊（賴春水）・崇程四冊（古賀侗庵）・樂我室遺稿四冊（朝川善庵）・韓非子纂聞十冊（蒲坂青莊）・禮朱筆記三冊（海保漁村）・毛詩輯疏十一冊（安井息軒）・論語會箋十五冊（竹添光鴻）。

【崇平】184 スウヘイ 陵の名。晉の康帝の陵。江蘇省江寧縣の蔣山の西南。〔晉書、穆帝紀〕建元二年冬十月乙丑、葬二康皇帝於崇平陵一。〔江寧府志〕崇平陵、在二鍾山一。

【崇表】185 スウヘウ あがめあらはす。〔桓溫、薦二譙元彥一表〕崇二表殊節一、聖喆之上務。

【崇璧】186 スウヘキ 明、林環（**6－14551**‥79）の字。

【崇甫】187 スウホ 宋、徐僑（**4－10110**‥113）の字。

【崇奉】188 スウホウ あがめて奉る。たつとびいただく。〔趙蕃、衆星環二北極一賦〕先哲之臣、是崇是奉、皋陶所二以邁一レ德、虞舜所二以垂一レ拱。

【崇峰】189 スウホウ 香山大常の號。香山崇峰（**12－44518**‥140）を見よ。

【崇本】190 スウホン 根本を尊ぶ。〔晉書、刑法志〕或彰レ善以激二其情一、或除レ惡以崇二其本一。〔雲笈七籤〕老君指揮略例曰、崇レ本以息レ末、守レ母以存レ子。

〖崇本山堂〗191 スウホンサンダウ 清、徐時作（**4－10110**‥466）の室名。

〖崇本抑末〗192 スウホンヨクマツ 根本を尊び、末を抑へる。〔魏志、司馬芝傳〕王者之治、崇レ本抑レ末、務レ農重レ穀。

【崇孟】193 スウマウ 書名。一卷。藪孤山撰。太宰春臺の孟子論を駁したもの。〔崇文叢書、第二輯〕。

【崇滿】194 スウマン 高くて滿ちる。〔後漢書、竇融傳論〕及二其爵位崇滿一、至下乃放二遠權寵一、恂恂似中若レ不レ能レ已者上。

【崇名】195 スウメイ 名を高くする。名聲を得る。名譽高く、世に知られること。〔說苑、建本〕夫學者崇レ

名、立レ身之本也。〔除陵、陳文帝哀策文〕大寶崇名、無レ聞二改作一。

【崇明】196（スウメイ） ❶たつとびあきらかにする。〔後漢書、荀彧傳論〕崇二明王略一、以急二國艱一。❷縣名。明、置く。揚子江の河口に泥沙が堆積して成つた地。江蘇省江海の間。魚鹽の利があり、棉稻豆麥を産す。〔讀史方輿紀要、江南、揚州府、太倉州〕崇明縣、本海中沙洲、楊吳時、謂二之顧吳俊沙一、五代史、楊溥改二顧吳俊沙一爲二崇明鎭一、是也、明洪武二年、降レ州爲レ縣。〔清史稿、地理志〕江蘇、太倉直隸州、縣四、崇明。

【崇明門】197（スウメイモン） 内裏の諸門の一。紫宸殿の西。宜陽門の東。東北廊に開く門。〔江家次第〕但行レ事日、不レ論二大中納言一著二一間一、大納言著二西邊一、中納言當二崇明門中央一著レ之。

【崇緬】198（スウメン） たかくはるかなこと。〔韓休、梁宣帝明帝二陵碑〕慶緒崇緬、哲源浩濬。

【崇陽】199（スウヤウ） ❶陽をたつとぶ。〔申鑒、俗嫌〕養レ性者、崇二其陽一而絀二其陰一。❷縣名。五代吳、置く。漢の沙羨縣の地。今、湖北省通城縣の東北。〔讀史方輿紀要、湖廣、武昌府〕崇陽縣、漢長沙郡下雋縣地、唐天寶二年、開二山洞一置二唐年縣一、楊吳改曰二崇陽一。〔清史稿、地理志〕湖北、武昌府、縣九、崇陽。

【崇用】200（スウヨウ） たつとび用ひる。〔魏志、高柔傳〕誠非下朝廷崇二用大臣一之義、大臣獻レ可替レ否之謂上也。

【崇墉】201（スウヨウ） ❶高い城。高い墻。〔王延壽、魯靈光殿賦〕崇墉岡連以嶺屬、朱闕巖巖而雙立。〔注〕銑曰、崇、高、墉、牆也。〔左思、魏都賦〕於レ是崇墉濬洫。〔鮑照、蕪城賦〕劃二崇墉一刳二濬洫一。❷崇國の城。崇は國名。〔詩、大雅、皇矣〕以三爾鉤援、與二爾臨衝一、以伐二崇墉一。〔傳〕墉、城也。〔集傳〕崇、國名、在二今京兆府鄠縣一、墉、城也。

【崇亂】202（スウラン） 亂をかさねる。ますます亂す。〔書、多方〕乃大降レ罰、崇二亂有夏一。〔傳〕重二亂有夏一。

【崇蘭】203（スウラン） 高く生育した蘭。〔楚辭、宋玉、招魂〕光風轉レ蕙、氾二崇蘭一些。

【崇蘭館】204（スウランクワン） 明、莫如忠（**9**−**31078**··118）の室名。

【崇立】205（スウリツ） あがめ立てる。〔國語、周語上〕古者先王既有二天下一、又崇二立上帝明神一而敬二事之一。〔注〕崇、尊也。

【崇陵】206（スウリヨウ） 陵の名。❶唐、德宗の陵。陝西省涇陽縣の北。〔唐書、憲宗紀〕永貞元年十月己酉、葬二神武聖文皇帝於崇陵一。〔唐書、地理志一〕崇陵、在二雲陽縣北十五里嵯峨山一。〔文獻通考、王禮考、山陵〕德宗崩、葬二崇陵一、在二京兆府雲陽縣界一。〔陝西通志〕崇陵、在二西安府涇陽縣嶻峨山一。❷五代周、太祖の陵。河南省新鄭縣の北。嵩陵。〔五代史、周世宗紀〕顯德元年夏四月乙卯、葬二神聖文武恭肅孝皇帝於嵩陵一。〔注〕在二鄭州新鄭縣一。〔開封府志〕周太祖陵、在二新鄭縣北三十里一、史所謂嵩陵也。❸宋、光宗の陵。もと永崇陵といひ、又、崇陵といふ。浙江省紹興縣。〔宋史、寧宗紀一〕慶元六年十二月辛卯、權二攢憲仁聖哲慈孝皇帝於永崇陵一。〔朝野雜記〕又以三後喪踰二前喪一而止、故崇陵亦因レ之。❹清、德宗の陵。河北省易縣の西、永寧山。〔清史稿、德宗紀〕宣統元年正月己酉、上二尊謚一曰二同天崇運大中至正經文緯武仁孝睿智端儉寬勤景皇帝一、廟號二德宗一、葬二崇陵一。

【崇綸】207（スウリン） 清、漢軍正白旗人。姓は許氏。謚は勤恪。道光の武擧人。咸豐中、兩淮鹽運使に任ぜらる。時に英米兩國の軍艦、天津に至り要求するところが多かつたが、崇綸正言して斥駁し、軍艦遂に碇を揚げて去る。官は同治中、工部尙書。〔清史列傳、五十二〕。

【崇嶺】208（スウレイ） 高いみね。たかね。〔潘岳、西征賦〕登二崤坂之威夷一、仰二崇嶺之嵯峨一。

【崇禮】209（スウレイ） ❶禮儀をたつとび重んずる。〔禮、中庸〕溫レ故而知レ新、敦厚以崇レ禮。〔疏〕尊二崇三百三千之禮一也。❷あがめ禮する。〔後漢書、江革傳〕再遷二司空長史一、肅宗甚崇二禮之一。❸門の名。〔潘尼、贈二侍御史王元貺一詩〕王侯厭二崇禮一、迴レ迹清二憲臺一。〔注〕銑曰、崇禮、門名。〔左思、蜀都賦〕宣化之闥、崇禮之闈。〔注〕劉曰、宣化・崇禮、皆闈闥之名也。❹鹽鐵論の篇名。

【崇麗】210（スウレイ） 高くて美しい。〔晉書、紀瞻傳〕館宇崇麗。〔陸倕、石闕銘〕構二茲盛則一、興二此崇麗一。

【崇樓】211（スウロウ） 高いたかどの。峻樓。危樓。高樓。〔鮑照、凌煙樓銘〕巖巖崇樓、藐藐層隅。〔李濯、廣達樓賦〕建二崇樓于闕下一、聳二飛閣于城隅一。

【崇論】212（スウロン） たつとい議論。見識の高い論。崇論閎議を見よ。

【崇論閎議】213（スウロンクワウギ） たかく論じひろく議する。又、見識高く、堂々たる議論。閎は大。〔史記、司馬相如傳〕且夫賢君之踐レ位也、云云、必將三崇論閎議、創レ業垂レ統、爲二萬世規一。

【崇和】214（スウワ） 和をたつとぶ。〔阮瑀、爲二曹公一作レ書與二孫權一〕且又百姓、國家之有、加レ懷區區、樂レ欲二崇和一。

【崇有論】215（スウイウロン） 晉の裴頠の著した論文。儒術のたつとぶべきを論じ、佛老が虛無を說くに對して有を說く。〔晉書、裴頠傳〕頠深患二時俗放蕩、不レ遵二儒術一、乃著二崇有之論一、以釋二其蔽一。

【崇倣レ天】216（タカキハテンニナラフ） 天の高きにのつとる。〔易、繫辭上〕知レ崇禮レ卑、崇倣レ天、卑法レ地。

【崇儀使】217（スウギシ） 官名。宋、置く。武臣例授の官で、職事はない。後、武略大夫と改む。〔宋史、職官志八、武略、注〕舊內園洛苑、如二京崇儀使一。〔事物紀原、東西使班部、崇儀〕宋朝會要曰、唐有二閑廐使一、太平興國五年、改名二崇儀一也。

【崇玄學】218（スウゲンガク） 唐代、道教を教へた學校。崇玄館に同じ。唐初、老子の學を尊崇して崇玄學を置き、道擧を行ひ、老子を太上玄元皇帝といひ、莊子を南華眞人といひ、文子を通玄眞人といひ、列子を沖虛眞人といひ、庚桑子を洞虛眞人といひ、四子の書を尊んで眞經といふ。〔唐會要、貢擧、崇玄生〕開元二十九年正月十五日、于二玄玄皇帝廟一、置二崇玄學一、令レ習二道德經・莊子・文子・列子一、待二習成後一、每年隨二擧人例一、送レ名至レ省。

【崇玄館】219（スウゲンクワン） 唐代、道教を教へた學校。天寶二年、崇玄學を改めて崇玄館といふ。〔唐會要、史館、崇玄館〕天寶二年正月十五日、改二崇玄學一爲二崇玄館一、博士爲二學士一。〔資治通鑑、唐紀〕（武宗會昌五年）以二衡山道士劉玄靜一爲二銀青光祿大夫崇玄館學士一。〔注〕唐有二崇玄署一、令レ掌二僧道一、屬二宗正寺一、又有二崇玄學博士一、掌レ教二玄學生一、玄宗天寶二年、改二崇玄學一曰二崇玄館一、改二博士一曰二學士一。

【崇質堂】220（スウシツダウ） 明、李萬實（**6**−**14459**··1874）の室名。

【崇爵識】221（スウシヤクシン） 論語緯の一種。玉函山房輯佚書に輯本がある。

【崇戎樂】222（スウジユウガク） 軍樂の名。元首或は軍旗を迎送する時に奏す。

【崇眞堂】223（スウシンダウ） 宋、林道玖（**6**−**14551**··391）の室名。

【崇政院】224（スウセイヰン） 五代の時、樞密院を改めていふ。〔五代史、梁太祖紀〕甲午改二樞密院一爲二崇政院一。

【崇聖侯】225（スウセイコウ） 南朝宋、孔鮮（**3**−**6933**··167）の封號。

【崇聖祠】226（スウセイシ） 孔廟の背後にもと啓聖祠あり、孔子の父叔梁紇を祀つたが、清の雍正の初、孔子の祖五世を封じて王爵となし、其の內に合祀して名を崇聖祠と改む。〔清會典、禮部〕叔梁公故名二啓聖祠一、今合二祀五代一、應三更レ名爲二崇聖祠一。

【崇仙鋪】227（スウセンポ） 地名。江西省新淦縣の西。縣治と贛江とを隔てて相望み、浮橋を以て通ず。又、清江・新喩・峽江に通ずる大路あり。亦、金川驛・界埠市といふ。

【崇大年】228（スウタイネン） 宋、吳縣の人。字は靜之。慶曆の進士。浦城縣の長官となり、仁政を施す。民、其の惠に感じ、私謚して康靖先生といふ。〔宋史翼、十八〕。

【崇鄭堂】229（スウテイダウ） 清、馬宗璉（**12**−**44572**··865）の室名。

【崇寶沙】230（スウハウサ） 洲の名。江蘇省崇明島の南。崇明島は揚子江口を南北二口に分ち、南口は又此の沙口のために二口に分る。沙の北を南口の北水道、沙の南を南口の南水道といふ。汽船の出入は必ず南水道に由る。

【崇祿寺】231（スウロクジ） 遼代、光祿寺（**1**−**1350**··288）をいふ。〔遼史、百官志三〕崇祿寺、本光祿寺、避二太宗諱一改。

【崇晦老人】232（スウクワイラウジン） 明、徐三重（**4**−**10110**··434）の號。

【崇古道人】233（スウコダウジン） 幡鎌穎の號。幡鎌鄰齋（**4**−

9086··36)を見よ。

【崇古文訣】234 スウコブンケツ　書名。二十卷。宋、樓昉撰。その師、呂祖謙の古文關鍵に傚つて、先秦から宋までの文二百餘を選んで之を論じ、繁簡宜しきを得てゐる。先秦文・兩漢文・三國文・六朝文・唐文・宋朝文の六に分類す。〔四庫提要、集、總集類〕。

【崇興大寶】235 スウコウタイハウ　北宋の時、大瞿越(安南)、太宗、李佛馬の年號。(1049－1054)

【崇聖大夫】236 スウセイタイフ　後魏、孔乘(3－6933··148)の封號。

【崇百藥齋】237 スウヒヤクヤクサイ　清、陸繼輅(11－4170 8··313)の號。

【勒レ崇垂レ鴻】238 スウヲロクシコウヲタル　崇名を勒し、鴻業を垂る。立派な名譽を雕り刻んで大業を後世に傳へる。〔漢書、揚雄傳〕因レ茲以勒レ崇垂レ鴻、發レ祥隤レ祉、欽若二神明一。〔注〕師古曰、勒レ崇垂レ鴻、勒二崇名一而垂二鴻業一也。

【崇政殿說書】239 スウセイデンセツシヨ　官名。宋、置く。天子に書を講ずる官。〔張舜民、畫墁錄〕太祖少親二戎事一、性樂二藝文一、卽レ位未レ幾、召二山人郭無爲於崇政殿一說レ書、至レ今講二官銜一、謂二之崇政殿說書一云。

【崈】8153 シユウ　崇(4－8152)に同じ。〔正字通〕崈、同レ崇。

【崈高】1 スウカウ　縣名。漢、置く。今の河南省登封縣の治。〔漢書、武帝紀〕元封元年春正月、行二幸緱氏一、云云、登二嵩高一、云云、吏卒咸聞下呼二萬歲一者三上、令三祠官加二增太室祠一、以二山下戶三百一爲二之奉邑一、名曰二崈高一。〔注〕師古曰、謂二之崈一者、示三尊二崇之一。〔漢書、地理志上〕潁川郡、縣二十、崈高。〔注〕武帝置、以奉二太室山一、是爲二中岳一、有二太室少室山廟一、古文以二崇高一爲二外方山一也、師古曰、崈、古崇字。

【崈伯】2 スウハク　禹の父、鯀をいふ。崇伯(4－8152··167)を見よ。〔國語、周語下〕其在二有虞一、有二崈伯鯀一。〔注〕崈、鯀國、伯、爵也。

【崉】8154 タフ トフ　〔集韻〕達合切　合

山の重なつたさま。〔集韻〕崉、山重皃。

【⿱山⿵几圭】8155 ケイ ヱ　〔集韻〕玄圭切　齊

姓、又、梁の公子の名。蜀(9－28284)に同じ。〔集韻〕蜀、姓也、一曰、蜀闖、梁四公子名、或作レ⿱山⿵几圭。

【崊】8156 リン　〔字彙〕犂沈切　侵

山石のさま。〔字彙〕崊、山石也。

【崊嶔】1 リンキン　山石のさま。〔南齊書、張融傳〕重峰岌岌、攢嶺聚立、嵂嶇崊嶔、架石相陰。

【⿰山穹】8157 キユウ ク　〔集韻〕丘弓切　東

山の形。⿰山穹⿰山窮。穹(8－25414)に通ず。〔集韻〕⿰山穹、⿰山穹⿰山窮、山形。〔康熙字典〕⿰山穹、按、爾雅本作レ穹、凡山形高大者、及天形、皆曰レ穹、俗从レ山、非。

【⿰山昔】8158 サク ジヤク　〔集韻〕實窄切　陌

山の形。嶛⿰山昔。一說に、山名。〔集韻〕⿰山昔、嶛⿰山昔、山形。〔類篇〕嶛⿰山昔、山形、一曰、山名。

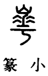
【⿰山果】8159 クワイ　⿰山鬼(4－8356)に同じ。〔集韻〕⿰山鬼、或作レ⿰山果。

【㟢】8160 キ　岐(4－7936)の古字。〔玉篇〕㟢、古文岐字。

【崋】8161

㊀ クワ ゲ　〔集韻〕胡瓜切　麻

㊁ クワ ゲ　〔集韻〕胡化切　禡　ㄏㄨㄚˋ hua⁴



小篆

㊀㊁❶**山名。**四嶽の一。西嶽。陝西省華陰縣の南。太華。もと⿱山雩(4－8484)に作る。〔正字通〕崋、本作レ⿱山雩。〔說文〕⿱山雩、⿱山雩山也、在二弘農華陰一、从レ山雩聲。〔初學記、五〕西方崋山、少陰用レ事、萬物生レ崋、故曰二崋山一。❷或は華(9－31214)に作る。〔說文、段注〕按、西嶽字、各書作レ華、華行而崋廢矣、漢碑多有二从レ山者一。〔集韻〕崋、或作レ華。❸**姓。**〔萬姓統譜〕崋、見二姓苑一。

【崋山】1 クワザン　❶山名。字解の❶を見よ。❷渡邊定靜の號。渡邊崋山(7－17765··49)を見よ。

【⿰山軋】8162 アツ エチ　〔字彙〕乙黠切　黠

衆山の列なるさま。⿰山軋⿰山加。〔字彙〕⿰山軋、揚子雲蜀都賦、⿰山軋⿰山加嵑嶰、衆山森列貌。

【⿱山取】8163 シユ　⿰山取(4－8164)に同じ。〔集韻〕⿰山取、或書作レ⿱山取。

【⿰山取】8164 シユ ス　〔集韻〕遵須切　虞

❶⿰山取嵎は、高いがけ。〔集韻〕⿰山取、⿰山取嵎、高厓也。❷⿰山取嵎は、岩の向ひあふさま。〔集韻〕⿰山取、一曰、山石相向皃。❸或は⿱山取(4－8163)に作る。〔集韻〕⿰山取、或書作レ⿱山取。

【⿰山困】8165 キン　峮(4－8086)に同じ。〔廣韻〕⿰山困、同レ峮。

【⿱山甘】8166 サン ザン　〔集韻〕在敢切　感

山のさま。嵌(4－8279)に同じ。〔集韻〕嵌、山皃、或作レ⿱山甘。

【崌】8167 キヨ コ　〔集韻〕斤於切　魚

山名。四川省名山縣の蒙山をいふ。〔集韻〕崌、山名、非二江所レ出。〔山海經、中山經〕崌山、江水出レ焉。〔注〕北江。〔畢沅注〕疑卽四川名山縣之蒙山、沬水經レ此、或卽郭所レ云北江。

【崌崍】1 キヨライ　❶崌も崍も山名。〔郭璞、江賦〕源二二分於崌崍一、流九二派乎潯陽一。〔注〕善曰、山海經曰、岷山東北百四十里、崍山、江水出焉、又東百五十里、崌山、江水出焉、而東流注二于大江一、郭璞曰、崍山、中江所レ出也、崌山、北江所レ出也。❷山名。四川省彭縣の東北。〔太平寰宇記〕禹導レ江經二此山之南一而下。

【崌崍山人】2 キヨライサンジン　明、張佳胤(4－9812··84 4)の號。

【崍】8168 ライ　〔集韻〕郎才切　灰　ㄌㄞˊ lai²

山名。崍山。四川省榮經縣の西。揚子江は源をここに發す。山中に九折坂あり。邛來

山。〔集韻〕崍、山名、中江所レ出。〔山海經、中山經〕又東北一百四十里曰二崍山一、江水出レ焉。〔注〕邛來山、今在二漢嘉嚴道縣南一、江水所二自出一也、山有二九折坂一。

【崍嵦】1 ライガイ 山のさま。〔集韻〕嵦、崍嵦、山皃。

【崎】8169

[一]キ 〔集韻〕丘奇切 ㄑㄧˊ ch'i² [支]
[二]キ 〔集韻〕去綺切 [紙]
[三]イ 〔集韻〕於宜切 [支]
[四]ゲキ 〔集韻〕渠希切 [微]

[一]**けはしい**。崎嶇。⿰山歸崎。〔集韻〕崎、崎嶇、山險。〔王褒、洞簫賦〕徒觀三其傍二山側一兮、則嶇嶔⿰山歸崎。〔注〕善曰、嶇嶔・⿰山歸崎、皆山險峻之皃。[二]❶**山の形**。〔集韻〕崎、山形。❷**安らかでないさま**。崎錡。〔集韻〕崎、一曰、崎錡、不レ安皃。[三]**阪の名**。陭(**11－41686**)に同じ。〔集韻〕陭、說文、上黨陭氏阪、或作レ崎。[四]**きし**。**さき**。埼(**3－5201**)に同じ。〔集韻〕埼、曲岸也、或从レ山。〔晉書、衞瓘傳〕望レ之若レ崎。[邦]**さき**。**みさき**。

【崎峗】1 キキ 山のけはしいさま。〔鄭嵎、津陽門詩〕龍宮御榜高可レ惜、火焚牛挽臨二崎峗一。

【崎錡】2 キキ 安らかでないさま。〔陸機、文賦〕雖レ逝止レ之無レ常、固崎錡而難レ便。〔注〕善曰、崎錡、不レ安貌。

【崎崕】3 キギ けはしいさま。石の危いさま。〔集韻〕崕、崎崕、石危皃。

【崎嶬】4 キギ 高く險しいさま。けはしく聳つさま。〔王延壽、魯靈光殿賦〕下岪蔚以璀錯、上崎嶬而重注。〔注〕善曰、崎嶬、危嶮貌。

【崎⿰山虛】5 キキョ 高くけはしいさま。〔集韻〕⿰山虛、崎⿰山虛、山峻。

【崎崟】6 キギン けはしい峯。〔杜甫、上二後園山脚一詩〕小園背二高岡一、挽レ葛上二崎崟一。

【崎嶇】7 キク ❶山路がけはしい。山路が平かでない。道の凹凸したさま。〔玉篇〕崎、崎嶇、山路不レ平也。〔潘岳、西征賦〕倦二狹路之迫隘一、軌崎嶇以低仰。〔陶潛、歸去來辭〕既窈窕以尋レ壑、亦崎嶇而經レ丘。〔注〕善曰、崎嶇、不レ安之貌也、翰曰、崎嶇、險也。❷かたむく。〔廣雅、釋訓〕崎嶇、傾側也。〔張衡、南都賦〕上平衍而曠蕩、下蒙籠而崎嶇。〔注〕善曰、廣雅曰、崎嶇、傾側也。❸おちつかない。くるしむ。なやむ。辛苦する。世路の困難なさま。〔一切經音義、四〕崎嶇、不レ安也。〔史記、燕世家贊〕燕北迫二蠻貉一、內措二齊晉一、崎二嶇彊國之間一、最爲二弱小一。〔後漢書、楊震傳〕崎二嶇危難之間一。〔宋史、文天祥傳論〕天祥崎二嶇嶺海一、以圖二興復一、兵敗身執。

【崎嶇坎坷】8 キクカンカ 不遇で世渡りに艱難辛苦すること。崎嶇は山路の平らでないことで、困難に喩へ、坎坷は行きなやむことで、不遇に喩へる。〔文天祥、過二平原一作〕崎嶇坎坷不レ得レ志、出二入四朝一老二忠節一。

【崎傾】9 キケイ けはしいさま。險難。〔顏延之、拜二陵廟一作詩〕發軔喪二夷易一、歸軫愼二崎傾一。〔注〕良曰、宜レ愼二崎傾之險一也。

【崎石】10 キセキ 港の名。廣東省陸豐縣の東南。莿礁・門限礁・內浮線礁・外浮線礁・烏礁・白礁等の暗礁があり、最も難所といはれる。

【崎頭】11 キトウ 城の名。江西省大庾縣の東。梁の大寶の初、陳霸先が據つた所。〔讀史方輿紀要、江西、南安府、大庾縣〕崎頭城、府東百里、孫愐曰、曲岸曰二崎城一、在二章江岸曲一、因名、梁大寶初、陳霸先起レ兵討二侯景一、自二始興一度二大庾一、破二蔡路養於南埜一、因修二崎頭故城一、自二南康一徙居レ之、九域志、大庾縣古南埜也、有二南康故城一、又有二崎頭鎭一、鎭蓋因二故城一名。

【崎陽】12 キヤウ 長崎を中國風に呼んだ名。〔川北溫山、謁二楠公祠一〕用下其在二崎陽一爲レ人所レ作公像贊上。

【崎廉】13 キレン なつめの一種。〔太平御覽、果部、棗〕廣志曰、云云、又有二玄棗・大棗・崎廉棗・桂棗一。

【崏】8170

ビン

岷(**4－8007**)・⿱敃山(**4－8455**)に同じ。〔正字通〕崏、同レ岷、說文作レ⿱敃山。

【⿱山欦】8171

ギン
ゴン

〔集韻〕魚音切 [侵]

二山が向ひあふ。〔集韻〕⿱山欦、兩山相向。

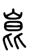
【崐】8172

コン

崑(**4－8173**)に同じ。〔正字通〕崐、同レ崑。

【崑】8173

コン 〔集韻〕公渾切 ㄎㄨㄣ k'uen¹ [元]


小篆

❶**山名**。㋑崑崙(59)の❶を見よ。〔說文新附〕崑、崑崙、山名、从レ山昆聲、漢書揚雄文、通二用昆侖一。〔張華、擬古詩〕西北隱二崑崖一。㋺崑山(21)の❶を見よ。❷**西崑(10－34763··246)の❹の略稱**。崑體(38)を見よ。❸通じて昆(**5－13792**)に作る。〔正字通〕崑、漢書郊祀歌・揚雄賦、作二昆侖一、文省義通。❹崐(**4－8172**)に同じ。〔集韻〕崐、崐崙、山名、或書作レ崑。

【崑雲】1 コンウン 崑崙山の雲。〔李質、艮嶽賦〕揭二崑雲一兮承レ嵐、想二岧嶤一而抗レ衡。

【崑裔】2 コンエイ 崑崙山のはて。極めて遠い喩。〔晉書、涼武昭王傳〕囊二括關西一、化被二崑裔一。

【崑瀛】3 コンエイ 崑崙山と瀛洲。仙人の居所。瀛洲は、東海中に在つて仙人の棲むといふところ。崑崙(59)の❶を見よ。〔眞誥〕受レ學化レ形、濯レ景易レ氣、五十年位補二仙宮一、六十年得レ居二廣寒之臺一、百年得レ入二崑瀛之宮一。

【崑炎】4 コンエン 崑崙山の火事。崑火。〔許敬宗、奉二和執契靜三邊一應詔詩〕揮レ袂靜二崑炎一、開レ關納二流赭一。

【崑海】5 コンカイ 崑崙山近邊の海。〔高士廉、文思博要序〕操二參伐一而清二天步一、橫二崑海一而紐二地維一。

【崑崖】6 コンガイ 崑崙山のがけ。崑崙山をもいふ。〔張華、擬古詩〕東南望二河尾一、西北隱二崑崖一。

【崑岡】7 コンカウ ❶山名。㋑崑崙山の異名。崑峯。崑崙(59)の❶の㋑を見よ。〔書、胤征〕火炎二崑岡一、玉石倶焚。〔傳〕山脊曰レ岡、崑山出レ玉。〔杜牧、昔事二文皇帝一詩〕崑岡憐二積火一、河漢注二清源一。㋺江蘇省江都縣の西北。〔河圖括地象〕崑岡山、橫爲二地軸一、交二帶崑崙一、故廣陵也。〔讀史方輿紀要、江南、揚州府、江都縣蜀岡〕又崑崙岡、在二府西北八里一、鮑照賦云、軸以二崑岡一、一名阜岡、亦名二廣陵岡一、與二蜀岡一連接、蓋卽蜀岡之異名矣。❷字號。㋑清、傅中王(**1－939**··197)の字。㋺清、閔德裕(**11－41251**··61)の字。

【崑岡之火】8 コンカウノヒ 崑崙山の火。其の火は玉石を倶に焚くので、人の善惡を擇ばず之を誅戮する喩。崑岡の❶の㋑を見よ。〔後漢書、董卓傳論〕及二殘寇乘レ之、倒レ山傾レ海、崑岡之火、自レ茲而焚、版蕩之篇、於レ焉而極。〔注〕書曰、火炎二崑岡一、玉石倶焚。

【崑腔】9 コンカウ 戲曲の名。崑山の魏良輔が舊調を改めて作つたもので、俗に南曲といふ。崑曲(15)を見よ。〔徐渭、南詞敍錄〕今唱家稱二弋陽腔一、則出二於江西一兩京・湖南・閩・廣用レ之、稱二餘姚腔一者、出二於會稽一、常潤池太揚徐用レ之、稱二海鹽腔一者、嘉湖溫台用レ之、惟崑山腔止レ行二於吳中一、流麗悠遠、出二乎三腔之上一。〔朱彝尊、靜志居詩話、十四〕・〔履園叢話、十二〕。

【崑岳】10 コンガク 崑崙山の異稱。崑崙(59)の❶の㋑を見よ。〔王儉、靈丘竹賦〕振二芳條乎崑岳一、敷二綠采於高岑一。〔劉峻、辨命論〕火炎二崑岳一、礫石與二琬琰一倶焚。〔注〕善曰、尙書曰、火炎二崑岡一、玉石倶焚。

【崑崿】11 コンガク 崑崙山の高くけはしいがけ。〔支遁、述懷詩〕翔鸞鳴二崑崿一、逸志騰二冥虛一。

【崑丘】12 コンキウ 崑崙山をいふ。崑崙(59)の❶の㋑を見よ。〔王績、古意詩〕材抽二嶧山幹一、徽點二崑丘玉一。〔李白、鳳笙曲〕仙人十五愛レ吹レ笙、學得崑丘彩鳳鳴。

【崑渠】13 コンキョ　清、倪濤(1－792‥23)の字。

【崑墟】14 コンキョ　崑崙の山。墟は大丘。崑崙(59)の❶の㋑を見よ。〔王勃、九成宮東臺山池賦〕萍徙二楚江之帶一、花轉二崑墟之萼一。〔李白、贈二崔侍郎一詩〕風濤儻相見、更欲レ凌二崑墟一。

【崑曲】15 コンキョク　戲曲の名。一名、崑山腔。又、崑腔。俗に南曲ともいふ。明、嘉靖の始、崑山の魏良輔が、從來行はれてゐた弋陽腔(4－9656‥16)・海鹽腔(6－17503‥40)を改良創案して別に一派を立てたもので、最初は蘇州だけに行はれてゐたが、漸次流行して、他の南曲三腔(弋陽・海鹽・餘姚)を壓倒し、全國に隆盛を極めるに至つた。樂器の種類も、從來に比して著しく複雜となり、明笛を中心として簫・絃子・琵琶・笙・提琴・九音鑼・夾板・懷鼓を用ひ、立廻劇には堂鼓・單皮鼓・大鑼・小鑼・大鈸・小鈸・齊鈸・哨吶・海笛等の樂器を用ひる。乾隆の朝には其の最盛を極め、戲曲を雅部・花部に兩分し、雅部は崑曲、花部は其の他の京腔・秦腔等をいひ、雅俗を分つこととなつた。乾隆末以後、花部の勃興と共に雅部崑曲は衰退の一途を辿り、遂に道光年間に至つて解散し、清末、殆ど亡滅した。〔李調元、雨村曲話〕弦索辨訛曰、明時雖レ有二南曲一、祇用二弦索官腔一、至二嘉隆閒一崑山有二魏良輔者一、乃漸改二舊習一、始備二眾樂器一、而劇場大成、至レ今遵レ之、所謂南曲、卽崑曲也。〔靜志居詩話〕梁辰魚、字伯龍、崑山人、擅二詞曲一、時邑人魏良輔、能喉二轉音聲一、始變二弋陽・海鹽故調一爲二崑腔一、伯龍塡浣沙記付レ之、號爲二崑曲之始一。〔沈德符、顧曲新言〕自三呉人重二南曲一、皆祖二崑山魏良輔一、而北詞幾廢。〔曲苑〕・〔盛明雜劇〕・〔中國戲曲概論〕。

【崑玉】16 コンギョク　❶崑崙山から出る美玉。崑瓊。崑璞。崑崙(59)の❶の㋑を見よ。〔劉峻、辨命論〕璉則志烈二秋霜一、心貞二崑玉一。〔注〕銑曰、崑、山名、出二美玉一。❷美しい文章の喩。〔陸倕、新漏刻銘〕陸機之賦、虛握二靈珠一、孫綽之銘、空擅二崑玉一。〔注〕翰曰、靈珠・崑玉、喩二文章美一也。❸晉の陸機・陸雲の兄弟をいふ。崑山の產で、共に詩文に秀れてゐたので崑山の玉にたとへる。崑山(21)の❶の㋑を見よ。〔宋稗類鈔〕陸士衡兄弟、產二於崑山一、後人因稱二兄弟一爲二崑玉一、言三其如二崑山之玉一也。

【崑火】17 コンクワ　崑崙山の火。崑炎。崑岡之火(8)を見よ。〔王惲、德壽殿玉方池詩〕神物不レ知二崑火烈一、碧絲今對二玉堂卿一。

【崑瓊】18 コンケイ　崑崙山から出る美玉。崑玉(16)の❶に同じ。〔梁簡文帝、唱導文〕暉同二疊璧一、煥若二崑瓊一。

【崑喬】19 コンケウ　清、張端木(4－9812‥1342)の字。

【崑谷】20 コンコク　清、陳芝圖(11－41698‥912)の字。

【崑山】21 コンザン　❶山名。㋑江蘇省松江縣の西北。〔陸機、贈二從兄車騎一詩〕髣二髴谷水陽一、婉二孌崑山陰一。〔注〕善曰、陸道瞻呉地記曰、海鹽縣東北二百里有二長谷一、昔陸遜・陸凱居レ此、谷東二十里有二崑山一、父祖葬焉、濟曰、谷水・崑山、並呉地山水。〔輿地紀勝〕崑山、在二華亭縣西北二十三里長谷之東一、晉陸機・陸雲兄弟、均宅二於山下一、機・雲皆有二辭學一、人以爲三玉出二崑岡一、遂名レ山曰二崑山一。㋺江蘇省崑山縣の馬鞍山の一名。〔蘇州府志〕舊治在二崑山北一、後遷二馬鞍山下一、故稱二馬鞍一爲二崑山一。〔讀史方輿紀要、江南、蘇州府、崑山縣〕崑山、在二縣治西北隅一、廣袤三里、高七十丈、山之右曰二馬鞍峯一、孤峯特秀、稱二一邑之勝一、志云、山本名二馬鞍山一、唐天寶中、移二縣治於山之陽一、因改曰二崑山一、上有二浮圖一。㋩崑崙(59)の❶の㋑の略稱。〔呂覽、重己〕人不レ愛二崑山之玉・江漢之珠一、而愛二己之一蒼璧小璣一。〔水經、河水注〕高誘稱三河出二崐山一。〔謝惠連、雪賦〕爛兮若下燭龍銜レ燿照中崑山上。〔注〕翰曰、崑山、玉山也。❷縣名。梁置く。今、江蘇省呉縣の東。西は陽城湖に瀕す。崑山によりて名づけらる。〔讀史方輿紀要、江南、蘇州府〕崑山縣、秦婁縣地、漢因レ之、梁天監中、置二信義縣一、大同初、又分置二崑山縣一、以レ山爲レ名、隋平レ陳、縣廢、開皇十八年、復置二崑山縣一、屬二蘇州一、唐因レ之、光化初、錢鏐將顧全武攻二蘇州一、淮南將秦裴拔二崑山一而戍レ之、尋復爲二全武所レ克、宋亦曰二崑山縣一。〔清一統志〕華亭縣境、本崐山縣地、故遙取爲レ名、未二曾遷レ治。〔清史稿、地理志〕江蘇、蘇州府、縣九、崑山。❸字號。㋑明、左良玉(4－8720‥494)の字。㋺清、徐炎(4－10110‥21)の號。㋩清、王國材(7－20823‥1483)の字。㊁草加定環の號。草加崑山(9－30945‥359)を見よ。

【崑山腔】22 コンザンカウ　江蘇省蘇州の東、崑山の魏良輔の創始した腔調の名。崑曲(15)を見よ。

【崑山泥】23 コンザンノデイ　崑崙山下の泥。崑山の❶の㋩を見よ。〔幽明錄〕洛中有二一洞穴一、有レ人墜二穴中一、匍匐行數十里、覺二所レ踐如一レ塵、而聞二杭米香一、啗レ之芬美、卽裹以爲レ糧、食レ此既盡、復遇二如レ泥者一、味似二向塵一、又齎以去、還問二張華一、華云、如レ塵者、是黃河龍涎、泥、是崑山下泥。

【崑山郡志】24 コンザングンシ　書名。六卷。元、楊譓撰。崑山郡の地志。〔四庫未收書目提要、四〕。

【崑山之玉】25 コンザンノギョク　崑崙山から產する名玉。崑山の❶の㋩を見よ。〔史記、趙世家〕崑山之玉不レ出。〔李斯、上書諫二逐客一〕今陛下致二崑山之玉一。

【崑山尙書】26 コンザンシャウショ　清、徐乾學(4－10110‥406)の號。

【崑山片玉】27 コンザンノヘンギョク　崑崙山から產する名玉中の一つ。容易に得がたい人物の喩。人物中の一人。崑山の❶の㋩を見よ。〔晉書、郤詵傳〕對策上第、拜二議郎一、遷二雍州刺史一、武帝於二東堂一會送、問レ詵曰、卿自以爲二何如一、詵答曰、臣擧二賢良一、對策爲二天下第一一、猶二桂林之一枝、崐山之片玉一、帝笑曰、詵在レ任、威儀明斷、甚得二聲譽一。

【崑山之下以レ玉抵レ鳥】28 コンザンノモトタマヲモツテトリヲウツ　崑崙山には玉が多いので、其の住民は鳥をうち落すのに玉を投げる。物が多ければ貴くない喩。崑山の❶の㋩を見よ。〔新論、辯施〕崑山之下、以レ玉抵レ鳥、彭蠡之濱、以レ魚食レ犬。

【崑山出レ玉麗水生レ金】29 コンザンギョクヲイダシレイスイキンヲシヤウズ　崑崙山は名玉を出し、麗水は砂金を出す。立派な家庭からは優れた人物が出る喩。崑山の❶の㋩及び麗水(12－47663‥57)の❶の㋺を見よ。〔湘山野錄、上〕晏獻公、撰二章懿太后神道碑一、破題云、五嶽崢嶸、崑山出レ玉、四溟浩渺、麗水生レ金、蓋言下誕二育聖躬一、實繫中懿后奈上。

【崑岫】30 コンシウ　崑崙山をいふ。岫は、峯・いただき。〔謝朓、臨海公主墓銘〕霾二華崑岫一、滅二采上春一。〔陽固、演賾賦〕出二崑岫之崢嶸一兮、入二氾林之香鬱一。

【崑城】31 コンジヤウ　清、謝墉(10－35827‥226)の字。

【崑壽】32 コンジユ　清、漢軍正白旗人。姓は李氏。諡は壯武。官は廣東陸路提督、後、杭州將軍。

【崑承】33 コンショウ　湖の名。江蘇省常熟縣の東南。〔蘇州府志〕崑承湖、長三十六里、廣十八里、東南通二崑山縣界一、東出二白茅浦一入レ江。

【崑繩】34 コンジョウ　清、王源(大興の人)(7－20823‥376)の字。

【崑臣】35 コンシン　清、葉名琛(9－31387‥273)の字。

【崑岑】36 コンシン　崑崙山の峰。崑崙(59)の❶の㋑を見よ。〔徐陵、陳公九錫文〕拯二橫流於碣石一、撲二燎火於崑岑一。

【崑石】37 コンセキ　字號。❶明、容若玉(3－7172‥146)の字。❷清、劉原淥(2－2224‥901)の字。

【崑體】38 コンタイ　詩の一體。宋代の西崑體(10－34763‥247)をいふ。〔六一詩話〕蓋自二楊劉唱和西崑集行一、後進學者爭效レ之、風雅一變、謂二之崑體一。〔石林詩話、上〕歐陽文忠公詩、始矯二崑體一、專以二氣格一爲レ主、故其言多二平易疏暢一。

【崑竹】39 コンチク　崑崙山の竹。崑崙(59)の❶の㋑を見よ。〔新論、崇學〕海蚌未レ剖、則明珠不レ顯、崑竹未レ斷、則鳳音不レ彰、性情未レ鍊、則神明不レ發。

【崑庭】40 コンテイ　清、陸士楷(11－41708‥327)の字。

【崑斗】41 コント　明、姚明恭(3－6202‥212)の號。

【崑都】42 コント　山名。廣東省三水縣の東南。古の三水鎭。宋、ここに斥堠(敵情を窺ふ土堡)を置く。〔讀史方輿紀要、廣東、廣州府、三水縣、盧嶺〕又二里爲二崑都山一、卽古三水鎭也、宋置二斥堠於此一。

【崑銅】43 コンドウ　崑崙山にある銅柱。崑崙(59)の❶の㋑を見よ。〔神異經、中荒經〕崑崙之山、有二銅柱一焉、其高入レ天、所謂天柱也。〔福惠全書、稟啓附、候二某協院一〕一碣挺二崑銅一拔レ地。

【崑南】44 コンナン　清、張崗(4－9812‥111)の字。

【崑璞】45 コンパク　崑崙山から出る玉。璞はあらたま。崑玉。崑崙(59)の❶の㋑を見よ。〔黃滔、寄二同年李侍郎龜正一詩〕崑璞要レ疑方卓絕、大鵬須レ息始開張。

【崑圃】46 コンポ ❶崑崙山の玄圃。玄圃は、仙人の居處。崑崙(59)の❶の㋑を見よ。〔錢惟善、昭靈仙迹詩〕仙馭時隨㆓青鳥㆒去、定陪㆓崑圃㆒宴㆓羣眞㆒。❷字號。㋑清、黃叔琳(12－47926・・1151)の字。㋺清、宋士宗(3－7078・・281)の號。

【崑峰】47 コンポウ 崑崙山をいふ。崑岡。崑嶺。崑崙(59)の❶の㋑を見よ。〔謝靈運、還㆓舊園㆒作見㆓顏范二中書㆒詩〕焚㆑玉發㆓崑峯㆒、餘燎遂見㆑遷。

【崑味】48 コンミ 茄子(9－30835・・6)の異名。崑崙瓜。〔清異錄、蔬、崑味〕落蘇、本名㆓茄子㆒、煬帝緣飾爲㆓崑崙紫瓜㆒、人間但名㆓崑味㆒而已。

【崑陽】49 コンヤウ 崑崙山の南。崑崙(59)の❶の㋑を見よ。〔庾闡、遊仙詩〕乘㆓彼六氣渺茫㆒、輜㆓駕赤水崑陽㆒。

【崑暘】50 コンヤウ 清、蔡啓僔(9－31818・・159)の號。

【崑崳】51 コンユ 山名。山東省牟平縣の東南。一に姑餘山に作り、相傳へて麻姑といふ仙女が此から飛昇したといふ。山中に洞府多く、小崑崳に對して大崑崳ともいふ。〔齊乘〕仙經謂㆓之姑餘山㆒、相傳麻姑於㆑此修㆑道上昇。〔元史、釋老、丘處機傳〕爲㆓全眞㆒、學㆓于寧海之崑崳山㆒。

【崑來】52 コンライ 清、周璕(2－3441・・302)の字。

【崑閬】53 コンラウ 崑崙山の閬苑。閬は、ひろびろとしたところで、仙人の居る所。崑崙(59)の❶の㋑を見よ。〔鮑照、舞鶴賦〕指㆓蓬壺㆒而翻㆑翰、望㆓崑閬㆒而揚㆑音。〔注〕善曰、東方朔十洲記、崑崙山有㆓三角㆒、一角正北名㆓閬風顚㆒、一角正東名㆓崑崙宮㆒、向曰、蓬壺・崑閬、皆仙山名。〔何遜、七召〕若乃浚㆑沼開㆑源、延㆑石崇㆑壤、疑㆓崑閬之鬱茀㆒、併㆓滄溟之瀇瀁㆒。

【崑良】54 コンリヤウ 字號。❶明、王世琇(7－20823・・1755)の字。❷清、王廷璧(7－20823・・1947)の字。

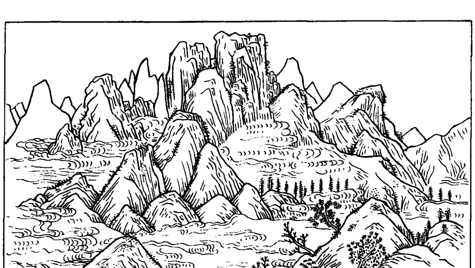
【崑崚】55 コンリヨウ 崑崙山をいふ。崚は、山の高いこと。崑崙(59)の❶の㋑を見よ。〔十洲記〕崑崙號曰㆓崑崚㆒、在㆓西海之戌地、北海之亥地㆒、去㆑岸十三萬里。

【崑陵】56 コンリヨウ 崑崙山をいふ。陵は丘。崑崙(59)の❶の㋑を見よ。〔西王母傳〕王母之國在㆓西荒㆒、九聖七眞、凡得㆑道授㆑書者、皆朝㆓王母於崐陵之闕㆒焉。〔雲笈七籤〕盤桓崐陵宮、玄都可㆓馳騁㆒。

【崑林】57 コンリン 字號。❶清、魏裔介(12－45872・・164)の號。❷清、鄭文琅(11－39647・・552)の號。

【崑嶺】58 コンレイ 崑崙山をいふ。崑崙(59)の❶の㋑を見よ。〔郭璞、遊仙詩〕璇臺冠㆓崑嶺㆒、西海濱㆓招搖㆒。

【崑崙】59 コンロン ❶山名。㋑古の昆侖。中國の西方に在ると考へられた靈山。西方の樂土で、西王母の住む所とせられ、周の穆王が八駿を驅つて天下を周遊した時、此處に至り、西王母と瑤池で宴したといはれ、又、美玉を產すると傳へられた。而して、爾雅その他の諸書に黃河の發する所と記し、史記大宛傳は之を今の新疆省の于闐河上源の山に比擬してゐる。併し、漢書地理志その他によれば、或は今の甘肅省安西縣環近や青海省西寧縣環近等にも在り、或は河源の崑崙と別に一崑崙があるとの說（❺の㋑を見よ）もあり、其の古說は一定しないが、凡ては今のヒマラヤ山脈に連る外邊の山地を出でない。想ふに、上代に在つては西方山岳地帶に對する地理的知識に乏しく、黃河が崑崙山に發するとの傳說に本づき、西方山岳地帶の任意の川を黃河の上流と認め、其の近邊の山を崑崙山と考へて諸說が生じたのであらう。更に、崑崙は恐らく渾沌と關聯のある語で、上代人が西方奧地に無限に重疊する山岳に神秘感を懷き、初めは西方の深山を漠然と渾沌・崑崙と稱してゐた所へ西方から須彌山(12－43352・・37)傳說が傳はり此等兩者が合體して樂土傳說・河源傳說が形成されたとする學者もある。（須彌山の麓には川が繞り、その川は流れて海に入るといふ。又、西方文化の影響は既に先秦時代からあつた。）〔爾雅、釋水〕河出㆓崑崙虛㆒。〔說文〕河水出㆓敦煌塞外昆侖山㆒。〔楚辭、天問〕崑崙縣圃、其尻安在、增城九里、其高幾里。〔淮南子、墬形訓〕凡鴻水淵藪、云云、有㆓九淵㆒、禹乃以㆓息土㆒塡㆓洪水㆒、以爲㆓名山㆒、掘㆓崑崙虛㆒以下㆑地、中有㆓層城九重㆒、其高萬一千里百一十四步二尺六寸。〔史記、大宛傳〕漢使窮㆓河源㆒、河源出㆓于寘㆒、其山多㆓玉石㆒、采來、天子按㆓古圖書㆒、名㆓河所㆑出山㆒曰㆓崑崙㆒云。〔史記、大宛傳〕太史公曰、禹本紀言、河出㆓崑崙㆒、崑崙、其高二千五百餘里、日月所㆔相避隱爲㆓光明㆒也、其上有㆓醴泉・瑤池㆒。〔山海經、西山經〕西南四百里曰㆓崑崙之丘㆒、是實惟帝之下都、神陸吾司㆑之、其神狀、虎身而九尾、人面而虎爪、是神也、司㆓天之九部及帝之囿時㆒、云云、河水出㆑焉而南流、東注㆓于無達㆒、赤水出㆑焉而東南流、注㆓于氾天之水㆒、洋水出㆑焉而西南流、注㆓于醜塗之水㆒、黑水出㆑焉、而西流㆓于大杅㆒。〔山海經、海內西經〕海內崑崙之墟、在㆓西北㆒、帝之下都、崑崙之墟、方八百里、高萬仞、云云、赤水出㆓東南隅㆒、云云、河水出㆓東北隅㆒、以行㆓其北西㆒南、又入㆓渤海㆒、又出㆓海外㆒、卽西而北入㆓禹所㆑導積石山㆒、洋水・黑水、出㆓西北隅㆒、云云、弱水・青水、出㆓西南隅㆒。〔注〕言㆓海內㆒者、明㆔海外復有㆓崑崙山㆒。〔漢書、地理志下、金城郡、臨羌、原注〕西北至㆓塞外㆒、有㆓西王母石室・僊海・鹽池㆒、北則湟水所㆑出、東至㆓允吾㆒入㆑河、西有㆓須抵池㆒、有㆓弱水・昆侖山祠㆒。〔漢書、地理志下、敦煌郡、廣至、原注〕宜禾都尉治、昆侖障。〔十六國春秋〕酒泉太守馬岌上言、酒泉南山、卽崑崙之體。〔道經〕海外蓬萊閬苑、有㆓五嶽靈山㆒、崑崙之山、乃天之中嶽也、在㆓八海之閒㆒、上當㆓天心㆒、形如㆓偃蓋㆒、東曰㆓樊桐㆒、西曰㆓玄圃㆒、南曰㆓積石㆒、北曰㆓閬苑㆒、上有㆓瓊華之闕、光碧之堂、瑤池翠水、金井玉梁㆒、主㆓鎭星之精㆒、居㆓于中元㆒、一氣天中焉。〔水經、河水〕崑崙墟在㆓西北㆒、去㆓嵩高㆒五萬里、地之中也、其高萬一千里、河水出㆓其東北陬㆒。〔注〕三成爲㆓崑崙丘㆒、崑崙說曰、崑崙之山三級、下曰㆓樊桐㆒、一名板松、二曰㆓玄圃㆒、一名閬風、上曰㆓增城㆒、一名天庭、是謂㆓太帝之居㆒。〔續博物志、三〕涼土異物志、葱嶺水分爲㆓東西㆒、西入㆓大海㆒、東爲㆓河源㆒、禹所㆑言崑崙、蓋本河所㆑出也、潛發㆓于蒲昌㆒、洛書所㆑紀、出㆓于重野㆒、經㆓積石㆒爲㆓中國河㆒也、張騫但能至㆓大宛㆒、見㆓河水㆒、初未㆑達㆓其潛發處㆒、桑欽水經云、崑崙在㆓河水西北㆒、去㆓嵩高㆒五萬里、其高萬一千里、酈道元云、崑崙之山三級、下曰㆓樊桐㆒、一名板松、二曰㆓玄圃㆒、一名閬風、上曰㆓層城㆒、一名天庭、是謂㆓大帝之居㆒、十三州志云、山去㆓北海岸㆒十三萬里、有㆓弱水㆒周匝、東南接㆓積石㆒、高誘曰、河出㆓崑山㆒、伏㆓流地中㆒萬三千里、禹導而通、云以出㆓積石㆒、山海經乃云、自㆓崑崙㆒至㆓積石㆒一千七百四十里、又曰、西海之南、流沙之濱、赤水之後、黑水之前、有㆓大山㆒、曰㆓崑崙㆒、又曰、種山西六百里、有㆓崑崙㆒、周穆王崑崙瑤池、去㆓周之灃潤㆒、特萬有一千一百里、西王母告㆓穆王㆒云、去㆓咸陽㆒乃三十六萬里、東方朔十洲記、方丈在㆓東海之中央㆒、羣仙所㆑治爲㆓崑崙㆒、山有㆓三角㆒、曰㆓閬風㆒、曰㆓玄圃㆒、曰㆓崑崙宮㆒、張華所㆑敍、崑崙銅柱爲㆓天柱㆒、蓋本㆓方朔神異經㆒也、釋氏西域志、阿耨達山上有㆓大淵水㆒、宮殿樓觀甚大、卽崑崙山、穆天子所㆑志、卽阿耨達宮也、西爲㆓新頭河㆒、爲㆔天竺㆓諸國㆒皆度㆓葱嶺㆒、郭璞曰、似㆔別有㆓小崑崙㆒。〔雲麓漫抄、崑崙〕禹本紀、崑崙高二千五百餘里、日月所㆔相遊隱爲㆓光明㆒也、其上有㆓醴泉・華池㆒、河圖云、崑崙、天中柱、氣上通㆑天、水經云、崑崙墟、在㆓西北㆒、去㆓嵩高㆒五萬里、地之中也、其高萬一千里、河水出㆓其東北陬㆒、爾雅云、西北之美者、有㆓崑崙之璆琳・琅玕㆒、又曰、三成爲㆑丘、注云、崑崙之重、故以名、昔人引㆓山海經㆒、西海之南、流沙之濱、赤水之後、黑水之前、有㆓大山㆒、名㆓崑崙之丘㆒、其下有㆓弱水之源㆒環㆑之、又曰、鐘山西六百里、有㆓崑崙山所㆑出五水㆒、今按、山海經內在㆓崑崙墟㆒、西北帝之下都、方八百里、高萬仞、上有㆓木禾㆒、面有㆓



崑崙山（古今圖書集成）

九井一、以レ玉爲レ檻、面有二九門一、門有二開明獸一守レ之、百神之所レ在、郭璞曰、於レ此自別有二小崑崙一也、淮南子曰、崑崙墟中、有二增城九重一、有二木禾・珠樹・玉樹・琁樹・不死樹一在二其西一、沙棠・琅玕在二其東一、絳樹在二其南一、北樹在二其北一、十洲記、瑤樹云、崑崙陵、卽崑崙中狹上廣、故曰二崑崙一、山有二五角一、其一角正東、名曰二崑崙宮一、其處積レ金爲二墉城一、面方千里、城上安二金臺五所一、玉樓十二、神異經云、崑崙有二銅柱一焉、其高接レ天、所謂天柱也、圍三千里、圓周如レ削、下有二回屋一、仙人九府所レ居、又一說云、五嶽者中嶽、崑崙在二九邊一、是中爲二天地心一、神仙所レ居、五帝所レ理、博雅云、崑崙墟、赤水出二其東南陬一、河水出二其東北陬一、洋水出二其西北陬一、弱水出二其西南陬一、河水入二東海一、三水入二南海一、張騫涉二西海一之二大秦一、大秦之西烏遲國、烏遲國之西復西海、西海之濱有二小崑崙一、高萬仞、方八百里、援神契曰、河水上應二天河一、山海經、崑崙山有二青河・黃河・黑河一、環二其墟一、其白水出二東北陬一、向二東南一流、爲二中國河一、爾雅曰、河出二崑崙墟一、色白渠九千七百、所二色黃一百里一小曲、千里一大曲、淮南子、河出二崑崙一貫二渤海一、入二禹所レ導積石一也、水經云、崑崙三仞、下曰二樊桐一、一名板松、二曰二玄圃一、一名閬風、上曰二層城一、一名天庭、淮南又云、懸圃・閬風・樊桐、在二崑崙閶闔之中一、東漢明帝永平十七年十一月、遣二奉車都尉竇固・駙馬都尉耿秉・騎都尉劉張一、出二燉煌・崑崙塞一、擊二破白水虜于蒲類海上一、漢章懷太子注、謂、崑崙、山名、因以爲レ塞、在二今肅州酒泉縣西南一、山有二崑崙之體一、故名レ之、周穆王見二西王母於此一、山有二石室・王母臺一、則又知二周穆王西遊、初不レ出二中國一、云、凡諸書言二崑崙一、悉注二於此一。〔捫蝨新話〕司馬遷・班固按二禹本紀一言、河出二崑崙一、高二千五百餘里、日月所三相隱避爲二光明一也、而張騫傳言、漢使窮二河源一、其山多二玉石一、採來獻二天子一、按、河所レ出山名二崑崙一、予以二佛書一考レ之、河出二崑崙一者、此卽雪山、而所謂崑崙者、自須彌山也。〔古今圖書集成、山川典、崑崙山部彙考、黃河發源之崑崙山〕尙書曰、崑崙、爾雅曰、崑崙丘、卽黃河發源處也、周穆王會二西王母於此一、世因相傳爲二仙境一、其山之大小高下、則山海經及淮南子諸書所レ載各有レ不レ同、未レ可三遽定二其孰是一、今姑悉載二于此一。㋺ヒマラヤ山をいふ。〔元史、地理志六〕東北有二大雪山一、名二亦耳麻不莫刺一、其山最高、譯言二騰乞里塔一、卽崑崙也。㋩廣西省邕寧縣の東北。急峻、群山を拔んで、道極めて險隘、古、關を此處に設けた。宋の狄靑が儂智高を破つたところ。〔讀史方輿紀要、廣西、南寧府、宣化縣〕崑崙山、府東北百里、巉巖峭拔、高出二羣山一、有レ道極險阨、古設二關於此一、以扼二蠻洞一、關上有レ臺、宋皇祐四年、狄靑討二儂智高一、勒二兵賓州一、別將陳曙、擅引二步兵一、擊レ賊潰二於崑崙關一、靑誅レ之、旋引レ軍次二崑崙關一、元夜於二軍中一會飮、引レ兵先度レ關、大敗二賊兵一。㊁安徽省潛山縣の東北。上に泉がある。〔讀史方輿紀要、江南、安慶府、潛山縣、天堂山〕崑崙山、在二縣東北六十里一、上有レ泉、近置二寨于此一。㋭福建省惠安縣の東北。山勢高く聳えて祥雲の狀をなす。山上に淸泉石室の幽勝があり、宋の蔡襄の嘗て讀書した所といふ。〔讀史方輿紀要、福建、泉州府、惠安縣〕崑崙山、縣東北三十里、勢高聳、望レ之若二祥雲一、南有二伏虎巖一、淸泉石室最爲二幽勝一。❷山脈の名。中國最大の山脈。西はパミル高原から始まり東は海濱に至り、西・中・東の三部に分る。西崑崙は、パミル高原の東、蔥嶺から起つて二支脈に分れ、一は後藏を經て哈喇崑崙山脈となり、一は後藏・新疆の間から斜に東進して靑海・前藏に入り、唐古刺大山脈となる。唐古刺大山脈の北を中崑崙といひ、一に、北巴顏哈喇山脈といふ。靑海の全部を橫に貫き、江河の源となり、更に東北に進んで、祁連・賀蘭の諸山となり、陰山山脈に連り、東は興安嶺に接して、長白山脈となる。中國の古史にいふ昆侖山は、專ら中崑崙の南部を指す。又、東、內地に入るものを東崑崙といひ、二派に分れ、一を北嶺といひ、巴顏哈喇より分出し、東、四川に至つて岷山となる。一を南嶺といひ、東南に延びて雲南に入り、東に出でて雲嶺となり、又、東、苗嶺・五嶺・武夷山・仙霞嶺となり、東海の濱に至つて極まり、海を逾えて舟山群島となる。❸島の名。印度支那半島の南沖合北緯八度四〇分東經一〇六度四二分に在る小島Pulas Condorに對する元・明時代の稱呼。全島岩石の山で、高さ千八百尺。古來、交趾支那海を航行する者の目標とされた。唐代には軍突弄山といひ、元代には一名軍屯山といふ。〔星槎勝覽〕崑崙山、節二然瀛海之中一、與二占城及東西竺一鼎峙相望、海人名曰二崑崙洋一、凡往二西洋一販舶、必待二順風一七晝夜可レ過、俗云、上怕二七洲一、下怕二崑崙一。❹關の名。廣西省邕寧縣の東北。崑崙山上に在り、賓陽縣と界を接す。宋の皇祐四年、狄靑が儂智高を討ち、兵を賓州に勒し、軍を引いて崑崙關に次し、大いに元兵を敗る。❶の㋩を見よ。❺國の名。㋑古代の西戎の國の一。〔書、禹貢〕織皮、崐崘・析支・渠・搜、西戎卽レ敍。〔傳〕有二此四國一、在二荒服之外、流沙之內一。〔釋文〕馬云、崑崙在二臨羌西一。〔疏〕有二此四國一、崐崘也、析支也、渠也、搜也、四國皆是戎狄也、云云、鄭玄云、衣レ皮之民、居二此崑崙・析支・渠搜三山之野一者、皆西戎也、王肅云、崐崘在二臨羌西一云云、鄭以二崐崘一爲レ山、謂、別有二崐崘之山一、非三河所レ出者一也。〔蔡傳〕卽河源所レ出、在二臨羌一。〔蔣廷錫、禹貢地理今釋〕崑崙、西戎國、近二崑崙山一。㋺中世時代に南海諸國を漠然と指していふ。馬來半島・爪哇・スマトラ等が之に比擬せられ、其の範圍は明瞭でない。けれども錫崙島と廣東間の海上・海邊の諸地方であることは明かであり、且、南海寄歸傳等によれば南洋の卷髮黑身の倭小人ネグリト種族を指すやうであるが、實際の記錄から推すに、直髮褐身で海事に長じ南洋地方に廣く分布するマレー種族をも含むことに疑がない。崑崙船を見よ。〔南海寄歸傳、一〕南海諸洲、有二十餘國一、云云、諸國周圍、或可二百里一、或數百里、或可二百驛一、大海雖レ難二計里一、商舶慣者准知、良爲二掘倫一初至二交廣一、遂使三總喚二崑崙國一焉、唯此崑崙、頭捲體黑、自餘諸國、與二神州一不レ殊。〔舊唐書、林邑國傳〕自二林邑一以南、皆拳髮黑身、通號爲二崑崙一。❻色の黑い者につける綽名。崑崙奴の❶に由來する。〔晉書、李太后傳〕時后爲二宮人一在二織坊中一、形長而色黑、宮人皆謂二之崑崙一、相者驚云、此其人也、云云、遂生二孝武帝一。〔五代史、慕容彥超傳〕彥超黑色胡髯、號二閻崑崙一。❼酒器の名。〔李商隱、魏侯第東北樓堂書レ所レ見成レ篇詩〕鎖香金屈戍、殢酒玉崑崙。〔記事珠〕宇文卓方執二崑崙玉盞一、聽二左丞相檀超高談一、不レ覺墮レ地。❽道家の語で、腦をいふ。〔黃庭經〕我欲レ不レ死、修二崑崙一。❾臍の異名。〔事物異名錄、形貌、臍〕雲笈七籤、臍者人之命也、一名中極、一名太淵、一名崑崙、一名特樞、一名五城。❿頭の異名。〔事物異名錄、形貌、頭〕黃庭經、高臺通レ天臨二中野一、〔注〕頭爲二高臺一、又內經、太一流珠安二崑崙一。〔注〕頭爲二崑崙一。⓫藥草の名。白蘞(**8－22678**‥1202)の異名。〔本草、白蘞〕釋名、白草・白根・兔核・貓兒卵・崑崙、時珍曰、兔核・貓兒卵、皆象レ形也、崑崙言二其皮黑一也。⓬字號。㋑淸、程康莊(**8－25081**‥167)の字。㋺山井鼎の號。山井崑崙(**4－7869**‥590)を見よ。

【崑崙丘】60 （コンロンキウ） 三重の丘。崑崙山が三重になつてゐるのでいふ。〔爾雅、釋丘〕三成爲二崑崙丘一。〔注〕崑崙山三重、故以名云。〔疏〕丘形三重者、名二崑崙丘一云云、記云、崐崘山、一名崐丘、三重、高萬一千里、是也、凡丘之形三重者、因取二此名一云耳。

【崑崙墟】61 （コンロンキヨ） 崑崙山をいふ。墟は大丘。崑崙墟。〔爾雅、釋水〕河出二崑崙墟一。〔莊子、至樂〕支離叔與二滑介叔一觀二於冥伯之丘、崑崙之墟、黃帝之所一レ休。〔山海經、海內東經〕國在二流沙中一者、埻端璽喚、在二崑崙墟東南一。〔河圖〕崑崙之墟、五城十二樓。

【崑崙瓜】62 （コンロンクワ） 茄子の異名。崑味。崑崙紫瓜。〔本草、茄〕釋名、落蘇・崑崙瓜・草鼈甲、時珍曰、杜寶拾遺錄云、隋煬帝改レ茄曰二崑崙紫瓜一。

【崑崙黃】63 （コンロンクワウ） 礦物の名。扶南・林邑(今の印度支那半島東岸地方)に產する雌黃をいふ。硫黃と砒素との混合物で、繪の具、又は藥に用ひる。又、樹脂から製する草雌黃があり、繪の具に用ひる。　雌黃(**11－41998**‥3)の❶を見よ。〔本草、雌黃〕集解、弘景曰、出二扶南林邑一者、謂二之崑崙黃一、色如レ金、而似二雲母甲錯一、畫家所レ重。

【崑崙草】64コンロンサウ 草の名。のげいとう。青葙(12−42564··287)の異名。〔本草、青葙〕釋名、草蒿・萋蒿・崑崙草・野雞冠・雞冠莧、子名二草決明一。

【崑崙蔗】65コンロンシヤ 赤色をした甘蔗の一種。〔通志、昆蟲草木略〕甘蔗有二三種一、赤色者曰二崑崙蔗一、白色者曰二竹蔗一、亦曰二蠟蔗一、小而燥者曰二荻蔗一。

【崑崙觴】66コンロンシヤウ 黄河の源、崑崙山の水で酒を釀した器の名。〔酉陽雜俎、酒食〕魏賈璐家累二千金一、博學善著作、有二蒼頭一、善別レ水、常令下乘二小艇一於二黄河中一以二匏瓠一接中河源上水一日不レ過二七八升一、經レ宿、器中色赤如レ絳、以釀レ酒、名二崑崙觴一、酒之芳味、世中所レ絕。

【崑崙桃】67コンロンタウ 桃の一種。〔本草、桃〕集解、時珍曰、冬桃、一名西王母桃、一名仙人桃、卽崑崙桃、形如二苦蔞一、表裏微赤、得レ霜始熟。

【崑崙奴】68コンロンド ㊀南海から輸入した黑人奴隸をいふ。唐代には僧祇奴ともいひ、宋代には鬼奴・野人・黑小厮・番小厮・蕃奴などともいふ。南海の黑人を主とするが、中世紀にはアラビヤ人を中介としてアフリカのネグロをも輸入した形跡があり、僧祇はネグロを意味する。崑崙奴の輸入は既に東晉の簡文帝（371−372）の頃に見え、初は主として南中國で使役されたが、唐代には華北長安でも使役されてゐた。元代では高位大官の家で、崑崙奴と高麗婢を蓄へぬ者は、貴紳の體面を缺くものといはれた。崑崙の㊄の㋺を見よ。〔朱彧可談〕宋世、廣中富人、多畜二黑奴一、有二一種入レ水眼不レ眩者一、謂二之崑崙奴一。㊁唐代小說の名。大歴中、崔生といふ者が父の使で蓋天の勳臣一品の病氣見舞に行き、席上、接待に出た一美妓に戀せられ、家中の黑人磨勒の仲介で深契を結んだ事を敍す。〔古今說海、第六冊〕。

【崑崙礬】69コンロンバン 鑛物の名。礬石(8−24573··2)の一種。黑色であるから名づく。崑崙奴の㊀を見よ。〔本草、礬石〕集解、時珍曰、其狀如二黑泥一者爲二崑崙礬一。

【蹴二崑崙一】70コンロンヲケル 崑崙山を蹴倒す。武威の盛な形容。〔海錄碎事、武、軍旅〕蹴二崑崙一使二西倒一、蹋二太山一使二東覆一、趙景眞書。

【崑崙山人】71コンロンサンジン 字號。㊀明、張詩(4−9812··354)の號。㊁明、王叔承(7−20823··1670)の號。

【崑崙山樵】72コンロンサンセウ 明、李介(6−14459··102)の號。

【崑崙山房】73コンロンサンバウ 清、張篤慶(4−9812··1424)の室名。

【崑崙之阿】74コンロンノア 崑崙山のくま。〔列子、周穆王〕宿二于崑崙之阿、赤水之陽一。

【崑崙之井】75コンロンノセイ 崑崙山の泉。美しい水の喩。〔呂覽、本味〕水之美者、三危之露、崑崙之井。〔注〕井、泉。

【崑崙之蘋】76コンロンノヒン 崑崙山のかたばみも。〔呂覽、本味〕菜之美者、崑崙之蘋、壽木之華。〔注〕崑崙、山名、在二西北一、其高九萬八千里、蘋、大蘋、水藻也。

【崑崙紫瓜】77コンロンシクワ 茄子の異名。崑崙瓜。〔芝田錄〕隋煬帝、改二名茄子一、爲二崑崙紫瓜一。

【崑崙河源考】78コンロンカゲンカウ 書名。一卷。清、萬斯同撰。河源・崑崙に就いて精しく考證す。〔四庫提要、史、地理類〕。

【崑崙之球琳】79コンロンノキウリン 崑崙山から出る美玉。〔淮南子、墜形訓〕西北方之美者、有二崑崙之球琳・琅玕一焉。〔注〕球琳・琅玕、皆美玉也。

【崑崙失レ火玉石俱焚】80コンロンヒヲシツシテギヨクセキトモニヤク 崑崙山に火事が起れば、玉も石も俱に燒ける。良いも惡いも區別なく俱に潰滅する喩。〔書、胤征〕火炎二崑岡一、玉石俱焚。〔蔡傳〕言、火炎二崑岡一、不レ辨二玉石之美惡一而焚レ之。

【崑墩盧林】81コントンロリン 闍婆國で、香をいふ。〔宋史、闍婆國傳〕謂レ香爲二崑墩盧林一。

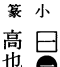
【嵉】8174

チョク ヂキ 〔集韻〕逐力切 職。

㊀**山名**。〔玉篇〕嵉、山名。㊁**山のさま**。〔集韻〕嵉、山皃。

【崒】8175

㈠シユツ ジユチ 〔集韻〕昨律切 質
㈡ソツ ゾチ 〔集韻〕昨沒切 月
㈢スイ 〔集韻〕遵綏切 支
㈣スイ 〔正字通〕七醉切 寘


小篆

㈠㊀**高くけはしい**。〔說文〕崒、危高也、从レ山卒聲。〔段注〕言二危殆之高一也。〔鮑照、蕪城賦〕崒若二斷岸一。〔注〕善曰、崒、高峻也。㊁**くづれる**。〔詩、小雅、十月之交〕山冢崒崩。〔箋〕崒者、崔嵬。〔疏〕崒然・崔嵬者、皆崩落。㊂**山の高いさま**。〔廣雅、釋詁四〕崒、高也。〔廣韻〕崒、山高。㊃**にはか**。猝(8−25561)に通ず。〔說文通訓定聲〕崒、叚借爲レ猝、按、詩山冢崒崩、突忽也。㊄**物のすれあふ音**。崒崒(5)の㊁を見よ。㊅或は卒(2−2740)に作る。〔集韻〕崒、或作レ卒。〔詩、小雅、十月之交、釋文〕崒、本亦作レ卒。〔詩、小雅、漸漸之石、維其卒矣、箋〕卒者、崔嵬也。〔疏〕卒、讀爲レ崒。㈡**山の危くけはしいさま**。〔集韻〕崒、山危峻皃。㈢**高大なさま**。崔(4−8178)に同じ。〔集韻〕崔、崔崔、高大也、或作レ崒。㈣**あつまる。あつめる**。萃(9−31251)に通ず。〔說文通訓定聲〕崒、叚借爲レ萃。〔漢書、賈誼傳〕異物來崒。〔注〕孟康曰、崒、音萃、萃、聚集也。

【崒焉】1シユツエン 山の高いさま。焉は助字。崒乎。崒然。〔賈至、虎牢關銘〕振レ之以二五嶽一、維嵩崒焉、迫レ之以二四瀆一、洪河突焉。

【崒乎】2シユツコ 高くけはしいさま。乎は助字。崒焉。崒然。〔韓愈、伯夷頌〕若二伯夷一者、窮二天地一、亙二萬世一、而不レ顧者也、昭乎日月不レ足レ爲レ明、崒乎泰山不レ足レ爲レ高、巍乎天地不レ足レ爲レ容也。〔吳融、沃焦山賦〕巉乎、崒乎、赫曦乎、翕艴乎。

【崒兀】3シユツコツ 險しく高いさま。崒屼。〔李白、遊二溧陽北湖亭一望二瓦屋山一懷レ古贈二同旅一詩〕高墳五六墩、崒兀棲二猛虎一。〔杜甫、自レ京赴二奉先縣一詠懷五百字詩〕羣水從レ西下、極目高崒兀。

【崒屼】4シユツコツ 山のけはしく高いさま。崒兀。〔張祜、題二蘇州思益寺一詩〕兩峰高崒屼、一水下淫滲。

【崒崒】5シユツシユツ ㊀けはしいさま。〔沈約、郊居賦〕其爲レ狀也、則巍峩崒崒。㊁物のすれ合ふ音。〔孟郊、絃歌行〕暗中崒崒拽二茅鞭一、倮足朱褌行戚戚。

【崒然】6シユツゼン けはしく高いさま。崒焉。崒乎。〔柳宗元、邕州馬退山茅亭記〕是山崒然起二於莽蒼之中一、馳奔雲矗、亙二數十百里一。

【崒崩】7シユツホウ 山などの崩れること。〔詩、小雅、十月之交〕百川沸騰、山冢崒崩。〔箋〕崒者、崔嵬。〔疏〕崒然・崔嵬者、皆崩落。

【崒硉】8シユツロツ 高く平かでないさま。崒峍。〔六書故〕硉、崒硉、高而不レ平也。

【崪】8176

スイ 崒(4−8175)に同じ。〔字彙〕崪、同レ崒。

【崓】8177

コ ク 〔正字通〕公悟切 遇

しま。島。〔正字通〕崓、水島之類。〔宋史、李全傳〕出二沒島崓一。

【崓山】1コザン 山名。山東省長清縣の東南。清の高宗が南巡して三度此處を過ぎ、崓山の詩を賦す。もと崓山驛を置く。今、津浦鐵路が通じてゐる。一に固山に作る。

【崔】8178

㈠サイ ズイ 〔集韻〕昨回切 灰 ㄘㄨㄟˊ tsʻuei^{1}
㈡サイ スイ 〔集韻〕蘇回切 灰
㈢スイ 〔集韻〕遵綏切 支
㈣サイ スイ 〔集韻〕取猥切 賄

崔

小篆

[一]㊀大きく高い。〔説文〕崔、大高也、从ㇾ山隹聲。㊁或は嶵(4－8513)に作る。〔集韻〕崔、或作ㇾ嶵。㊂籀文は磪(8－24452)に作る。〔集韻〕崔、籀文作ㇾ磪。[二]㊀春秋、齊の邑。今、山東省章丘縣の西北の崔氏城。〔集韻〕崔、齊邑名、因ㇾ封爲ㇾ姓。〔左氏、襄、二十七〕崔成請ㇾ老㆓于崔㆒。〔注〕濟南東、朝陽縣西北、有㆓崔氏城㆒。㊁姓。〔唐書、宰相世家表〕崔氏、出ㇾ自㆓姜姓㆒、齊丁公伋嫡子季子讓㆓國叔乙㆒、食㆓采於崔㆒、遂爲㆓崔氏㆒。[三]㊀高大のさま。〔集韻〕崔、崔崔、高大也。㊁或は嶉(4－8430)・隹(11－41937)・崒(4－8175)・陮(11－41812)に作る。〔集韻〕崔、或作㆓嶉・隹・崒・陮㆒。[四]㊀うごくさま。〔集韻〕崔、動皃。〔莊子、大宗師〕崔乎其不ㇾ得ㇾ已乎。〔釋文〕崔、向云、動貌。㊁すみやかなさま。〔集韻〕崔、一曰、速皃。〔莊子、大宗師、釋文〕崔、簡文云、速貌。㊂まじはる。いりみだれる。崔錯(84)を見よ。

名乘 タカ。

【崔黯】1 サイアン 唐の人。寧の從孫。字は直卿。進士。官は監察御史・員外郎諫議大夫。〔唐書、一百四十四〕・〔舊唐書、一百十七〕。

【崔頤】2 サイイ 後魏の人。逞の子。字は太沖。爵は清河侯。官は大鴻臚。後、方士と王屋山に至り、金丹を造つたが成功しなかつた。〔尙友錄、四〕。

【崔猷】3 サイイウ 北周の人。勉の弟。字は宣猷。謚は明。官は魏の大統の初、給事黃門侍郎・京兆尹。盧辯等と六官を創修す。大將軍を授けられ、爵汲郡公を賜はる。〔周書、三十五〕・〔北史、三十二〕。

【崔遊】4 サイイウ ㊀晉、上黨の人。字は子相。官は氐池長。著に喪服圖がある。〔晉書、九十一〕。㊁後魏の人。挺の族子。字は延叔。官は南秦州刺史。〔魏書、五十七〕。

【崔彧】5 サイヰク ㊀後魏の人。頤の兄の孫。字は文若。醫を善くす。官は冀州刺史。〔魏書、九十一〕。㊁元、弘州の人。字は文卿。謚は忠肅。小字は拜帖木兒。官は刑部尙書。成宗の時、平章政事に至る。〔元史、一百七十三〕。

【崔逸】6 サイイツ 後魏の人。辯の子。初名は景儁。孝文皇帝、名を逸と賜ふ。官は員外散騎侍郎。韓興宗と朝儀を參定し、延尉少卿に至る。〔魏書、五十六〕・〔北史、三十二〕。

【崔胤】7 サイイン 唐の人。愼由の子。字は垂休。小字は緇郎。進士。官は昭宗の時、御史中丞。陰謀を好み、強權に媚び、戶部侍郎同中書門下平章事となる。朱全忠と厚く交はり、全忠の力によつて四度宰相に拜せられ、權、天下に震ひ、世人、崔四入といふ。全忠の兵、同華に逼るや、韓全誨、帝を挾んで鳳翔に至る。胤、全忠を招き、兵を以て天子を迎へ、李茂貞をして全誨等を殺して、全忠と和約し、遂に盡く宦官を誅し、侍中魏國公に進む。帝、鳳翔から還幸した後、胤、全忠の將に簒奪せんとするを揣り、兵を握つて自ら固む。全忠、其の子友諒をして之を殺させた。〔唐書、二百二十三下〕・〔舊唐書、一百七十七〕。

【崔蔭】8 サイイン 後燕、東武城の人。字は世祿。慕容垂に仕へて長史となる。後、司馬となり、戎幕に參佐たり。〔御燕錄〕。

【崔駰】9 サイイン 後漢、安平の人。篆の孫。字は亭伯。少くして太學に遊ぶ。博學にして多才、班固・傅毅と名を齊しうす。揚雄の解嘲に擬して達旨を作る。官は元和中、竇憲の車騎將軍。著に詩賦銘頌二十一篇がある。〔後漢書、八十二〕。

【崔永】10 サイエイ 明、海鹽の人。字は彥齡。七歲にして父を喪ひ、母に仕へて至孝。〔明名人傳、五〕。

【崔鍈】11 サイエイ 清、三韓の人。字は象州。官は州牧。人物畫に巧。〔清代閨閣詩人徵略、十〕。

【崔液】12 サイエキ 唐の人。湜の弟。字は潤甫。五言詩に巧。湜、常に其の小字を呼び、海子は我が家の龜龍といふ。官は殿中侍御史。〔唐書、九十九〕・〔舊唐書、七十四〕。

【崔嶧】13 サイエキ 宋、長安の人。字は之才。進士から河東轉運使となつて錢法を改更す。官は刑部侍郎。〔宋史、二百九十九〕・〔宋史新編、九十三〕・〔北宋經撫年表、七十一〕。

【崔悅】14 サイエツ 後趙、東武城の人。字は道儒。石虎に仕へ、官は司徒右長史に至り、才學を以て稱せらる。〔晉書、四十四〕。

【崔衍】15 サイエン 唐の人。倫の子。字は著。謚は懿。天寶の末、明經に擢んでらる。官は宣歙池觀察使。〔唐書、一百六十四〕・〔舊唐書、一百八十八〕。

【崔琰】16 サイエン 三國魏、東武城の人。字は季珪。鄭玄に師事す。袁紹招きて騎都尉となす。武帝袁氏を破つて、後、中尉に遷る。〔三國志、十二〕。

【崔郾】17 サイエン 唐の人。邠の弟。字は廣略。謚は德。進士から吏部員外郎となり、敬宗の時、翰林侍講學士に拜せられ、高重と六經の要言を類し、十篇となして奉る。後、檢校吏部尙書に至る。〔唐書、一百六十三〕・〔舊唐書、一百五十五〕。

【崔鶠】18 サイエン 宋、陽翟の人。字は德符。婆娑先生と稱せらる。進士。初、筠州推官。徽宗の初、相州教授。後、龍圖閣直學士となる。著に婆娑集がある。〔宋史、三百五十六〕・〔宋史新編、一百二十四〕・〔東都事略、一百五〕・〔宋人軼事彙編、六百十八〕。

【崔圓】19 サイエン 唐、武城の人。字は有裕。官は肅宗の時、淮南節度使、檢校尙書右僕射。〔唐書、一百四十〕・〔舊唐書、一百八〕。

【崔瑗】20 サイエン 後漢の人。駰の子。字は子玉。賈逵に從つて學び、天官・曆數・京房易傳に通ず。兄、章、州人に殺されるや、瑗、刃を手にして仇を報じて亡命し、赦に會つて家に歸る。後、茂才に擧げられ、汲令となり、濟北相に遷る。著に賦碑銘箴草書勢、五十七篇がある。〔後漢書、八十二〕。

【崔遠】21 サイエン 唐の人。澹の子。時人、目して釘坐梨といふ。釘坐梨とは、之を珍として、前に坐つたまま食はざる梨の義。秀れた者にいふ。官は尙書右僕射。柳璨に陷れられ殺さる。〔唐書、一百八十二〕・〔舊唐書、一百七十七〕。

【崔嘏】22 サイカ 唐の人。字は乾錫。進士。官は邢州刺史。李德裕の謫せられた時、嘏、制を草して其の過失の一部を佚したことに坐して端州刺史に貶せらる。〔唐書、一百八十〕。

【崔楷】23 サイカイ 後魏の人。模の弟。字は季則。官は孝昌の初、殷州の刺史。〔魏書、五十六〕。

【崔瀣】24 サイカイ 高麗、雞林の人。字は彥明父、又、壽翁。號は拙翁・猊山隱者(猊山農隱)・取足園。官は檢校成均大司成。著に東人文・拙藁がある。〔高麗史〕。

【崔涯】25 サイガイ ㊀唐、吳楚の人。詩に巧で、張祜と名を齊しくし、江淮の閒に游俠す。其の俠士の詩、人口に傳誦す。〔全唐詩、十九〕。㊁明、寧國太平の人。字は若濟。號は筆山。嘉靖の進士。官は御史。糾劾、權貴を避けず、世宗目して眞の御史と爲す。山海十二策を陳し、悉く利弊に當る。著に崔筆山文集がある。〔蘭臺法鑒錄、十五〕。

【崔沆】26 サイカウ 唐の人。鉉の子。字は內融。官は僖宗の時、戶部侍郎同中書門下平章事、後、中書侍郎。黃巢の賊に殺さる。〔唐書、一百六十〕・〔舊唐書、一百六十三〕。

【崔昂】27 サイガウ 北齊の人。孝暐の子。字は懷遠。官は散騎常侍兼大司農卿。後、儀同兼右僕射。〔北齊書、三十〕・〔北史、三十二〕。

【崔郊】28 サイカウ 唐の人。元和中の秀才。詩に巧。〔唐詩紀事、五十六〕・〔琅琊代醉編、二十八〕。

【崔浩】29 サイカウ 後魏、清河の人。宏の長子。字は伯淵。小名は桃簡。經史を博覽す。官は明元の初、博士祭酒。常に經國の大謀に與かり寵遇一時に冠たり。後、司徒に遷り、史務を總理し、祕書の事を監す。國書三十卷を作り、石を立てて直筆を彰はす。國人憤嫉し、事を作つて帝に之を誅せしむ。〔魏書、三十五〕・〔北史、二十一〕。

【崔衡】30 サイカウ 後魏の人。寬の子。字は伯玉。謚は惠。官は秦州刺史。封は齊郡公。〔魏書、二十四〕・〔北史、二十一〕。

【崔顥】31 サイカウ ㊀唐、汴州の人。開元の進士。文學あるも行義なく、常に賭博を好み酒を嗜む。官は司勳員外郎。黃鶴樓の詩は李白に激賞せられ、唐人七言律中第一の名がある。〔唐書、二百三〕・〔舊唐書、一百九十下〕。㊁高麗の人。靖宗の時、慶州の副留守。羅旨說・尹廉・鄭公翰等と前後漢書・唐書を刻して進む。〔輿地勝覽〕。

【崔岳】32（サイガク）十六國、前趙の人。字は元嵩。朝鮮の令と爲る。劉曜、弱冠の時、朝鮮に亡命し姓名を變じて縣の小吏となつたが、岳、之を見て異とす。曜、因つて自ら陳べ、岳に從つて疑滯を質し、頗る寵遇せらる。岳、歴仕して大司徒に至る。後、曜、僭號するに及び、前勞を思つて遼東公を追贈す。〔晉書、一百三〕。

【崔劼】33（サイカツ）北齊の人。勵の弟。字は彦玄。諡は文貞。官は魏末に中書侍郎。天保の初、國子祭酒。後、開府待詔。〔北齊書、四十二〕・〔北史、四十四〕。

【崔罕】34（サイカン）高麗の人。景宗の時、宋に行き、國子監に入り、學ぶこと十一年、賓貢科に登り、祕書郎を授けらる。〔高麗史〕。

【崔咸】35（サイカン）唐、博平の人。字は重易。詩歌を善くす。元和の進士。官は侍御史から陝虢觀察使に遷り、入りて祕書監となる。〔唐書、一百七十七〕・〔舊唐書、一百九十下〕。

【崔翰】36（サイカン）宋、萬年の人。字は仲文。太宗に從つて太原を征し、武泰軍節度使に擢んでられ、鎭安軍に鎭となる。〔宋史、二百六十〕・〔宋史新編、七十二〕・〔東都事略、二十八〕・〔隆平集、十七〕。

【崔簡】37（サイカン）後魏の人。浩の弟。一名、覽。字は沖亮。官は道武の初、中書侍郎。爵五等侯を賜はり、著作の事に參す。〔魏書、二十四〕・〔北史、二十一〕。

【崔鑑】38（サイカン）明、京師の人。父、酒を嗜み娼に狎れ、之を召して家に居らしむ。娼、寵を恃んで、鑑の母を陵ぐ。鑑、年十三、母の爲に父の娼を斃し、母と共に執へられたが、世宗、其の罪を免ず。〔明史、二百九十七〕・〔明史稿、二百七十八〕・〔國朝獻徵錄、一百十二〕。

【崔鑒】39（サイカン）後魏の人。綽の子。字は神具。諡は康。官は徐州刺史。封は桐廬縣子。〔魏書、四十九〕・〔北史、三十二〕。

【崔巖】40（サイガン）明、郴州の人。字は民瞻。成化の進士。左右布政に累擢せられ、大同を巡撫し、大いに寇に克ち、工部左侍郎に遷つたが、羣璫に忤つて獄に繫がれ、劉瑾敗れるや釋さる。〔國朝獻徵錄、五十一〕。

【崔紀】41（サイキ）清、永濟の人。字は南有。號は虞村、又は定軒。康熙の進士。官は乾隆の時、陝西巡撫。後、事に坐して六級調用に降されたが、再び起用せられて左副都御史・江蘇學政に至る。著に周易講義・學庸講義・論語溫知錄・讀孟子劄記・讀周子劄記・詩書講義等がある。〔清史稿、二百十五〕・〔國朝耆獻類徵、七十三〕・〔碑傳集、七十〕。

【崔琦】42（サイキ）後漢、安平の人。字は子瑋。初、孝廉に擧げられ、官は臨濟長。著に賦頌の屬凡そ十五篇がある。〔後漢書、一百十上〕。

【崔器】43（サイキ）唐、安平の人。天寶中、明經に擧げらる。官は奉先令。安祿山の亂の時、奉先を守る。後、御史大夫。〔唐書、二百九〕・〔舊唐書、一百十五〕。

【崔徽】44（サイキ）㊀後魏の人。宏の弟。字は玄猷。文才あり、渤海の高演と倶に名を知らる。散騎常侍となり、雍・涇・梁・泰四州の軍事を督す。〔魏書、二十四〕・〔北史、二十一〕。㊁唐の人。河中の娼女。裴敬中、河中に使し、徽と相從ふこと累月、還るに當り、徽、從ふことを得ず、情懷抑へ難く病となる。後數月、白知退が河中から歸るに際し、己の肖像畫を托して敬中に贈り、崔徽は畫中の人に及ばず、まさに卿の爲に死せんと傳言し、發狂して死す。元稹、この事を詠じて崔徽歌を作る。〔元稹、崔徽歌、注〕崔徽、河中府娼也、裴敬中以㆓興元幕㆒使㆓蒲州㆒、與㆑徽相從累月、敬中便還、崔以㆑不㆑得㆑從爲㆑恨、因而成㆑疾、有㆔丘夏善寫㆓人形㆒、徽托寫㆑眞寄㆓敬中㆒、曰、崔徽一旦不㆑及㆓畫中人㆒、且㆓爲㆑郎死㆒、發狂卒。〔蘇軾、章質夫寄㆓惠崔徽眞㆒詩、注〕崔徽、河中娼婦也、裴敬中以㆓興元幕㆒使㆓河中㆒、與㆑徽相從者累月、敬中使罷還、徽不㆑能㆑從、情懷怨抑、後數月、東州幕白知退、將㆘自㆓河中㆒歸㆖、徽乃託㆑人寫㆑眞、因捧㆑書謂㆓知退㆒曰、爲㆑妾謂㆓敬中㆒、崔徽一旦不㆑及㆓卷中人㆒、徽且㆓爲㆑卿死㆒矣、元稹爲作㆓崔徽歌㆒。

【崔沂】45（サイギ）五代、唐の人。沆の弟。字は德潤。進士。官は梁の禮部尙書。唐の莊宗卽位の後、左丞に起用せられ、太子少保に終る。〔舊五代史、六十八〕。

【崔巍】46（サイギ）高くけはしいさま。崔崒。〔楚辭、東方朔、七諫、初放〕高山崔巍兮、水流湯湯。〔注〕崔巍、高貌。〔司馬相如、上林賦〕龍從崔巍。〔注〕善曰、郭璞曰、龍從崔巍、皆高峻貌也。〔揚雄、甘泉賦〕前殿崔巍兮、和氏玲瓏。〔注〕良曰、崔巍、高也。〔張衡、西京賦〕神山崔巍。

【崔休】47（サイキウ）後魏の人。逞の玄孫。字は惠盛。諡は文貞。官は宣武中、幽州・青州刺史に歴任し、後、殿中尙書に至る。〔魏書、六十九〕・〔北史、二十四〕。

【崔璆】48（サイキウ）宋、京口の人。字は子玉。容貌秀麗にして、談論を善くす。晩年、狂を病み、大瓢を攜へ、酒を貯へて市に行き、掌を拍つて歌笑す。將に死せんとし、自ら石に表して醉鄕伯崔璆の墓といふ。

【崔恭】49（サイキヨウ）明、廣宗の人。字は克讓。諡は莊敏。正統の進士。天順中、蘇松諸府に巡撫となり、成化中、吏部尙書に進み、機務に參與す。〔明史、一百五十九〕・〔萬斯同明史、二百二十六〕・〔明史稿、一百五十二〕。

【崔珙】50（サイキヨウ）唐の人。琯の弟。官は刑部尙書・同中書門下平章事。宣宗の時、鳳翔節度使となる。〔唐書、一百八十二〕・〔舊唐書、一百七十七〕。

【崔凝】51（サイギヨウ）高麗、黃州土山の人。諡は熙愷。官は廣評郞中。卒後、大匡太子太傅を贈らる。〔高麗史〕。

【崔鈞】52（サイキン）後漢の人。烈の子。官は虎賁中郞將・西河太守。〔後漢書、八十二〕。

【崔覲】53（サイキン）唐、城固の人。儒者。山南西道節度使鄭餘慶、召して參謀とす。〔唐書、一百九十六〕・〔舊唐書、一百九十二〕。

【崔華】54（サイクワ）清、太倉の人。字は蘊玉、又は不雕（不凋）。順治の擧人。詩に巧で、時人、崔黃葉と稱す。康熙の時、鴻博に徵せらるるも起たず。書室を櫻桃軒といふ。著に櫻桃軒集がある。〔清史列傳、七十〕・〔國朝先正事略、三十八〕。

【崔嵬】55（サイクワイ）㊀石をいただく土山。〔詩、周南、卷耳〕陟㆓彼崔嵬㆒。〔傳〕崔嵬、土山之戴㆑石者。㊁土をいただく石山。〔爾雅、釋山〕石戴㆑土、謂㆓之崔嵬㆒。〔説文通訓定聲〕崔、按㆓爾雅㆒、謂㆔石戴㆓於土㆒與㆑毛不㆑異。㊂山のいただき。〔詩、小雅、谷風〕維山崔嵬。〔傳〕崔嵬、山巓也。㊃山の高くけはしいさま。〔楚辭、王逸、九思、傷時〕觀㆓浮石兮崔嵬㆒。〔注〕東海有㆓浮石之山㆒、崔嵬、山形也。〔新論、命相〕五岳崔嵬、有㆓峻極之勢㆒、四瀆皎潔、有㆓川流之形㆒。〔李白、蜀道難〕劍閣崢嶸而崔嵬、一夫當㆑關萬夫莫㆑開。㊄殿屋樓閣などの高大なさま。〔班固、西都賦〕爾乃正殿、崔嵬層構、厥高臨㆓乎未央㆒。〔注〕善曰、崔嵬、高貌也。㊅心中の平かでないさま。〔黃庭堅、次㆓韻子瞻武昌西山㆒詩〕平生四海蘇太史、酒澆不㆑下胸崔嵬。

【崔光】56（サイクワウ）後魏、東清河鄃の人。本名は孝伯。字は長仁。孝文皇帝、名を光と賜ふ。諡は文宣。太和中、中書博士に拜せらる。官は太子師傅。封は博平縣開國公。〔魏書、六十七〕・〔北史、四十四〕。

【崔宏】57（サイクワウ）後魏の人。悅の孫。字は玄伯。諡は文貞。幼時から俊才で、冀州の神童と稱せられた。慕容垂に仕へて令名があり、道武帝が其の名を聞き、徵して黃門侍郎とし、更に吏部尙書とした。官爵を制し、朝儀を撰し、音樂を協へ、律令を定め、科禁を申するに當り、宏は之を總裁して永式となす。八部大夫を置くに及び、三十六曹に通署し、其の勢威は朝廷を傾ける程であつたが、儉約を守り、私利を謀らず、益〻帝に重んぜられた。明元帝の卽位するや、天部大人を拜し、爵は白馬公に至る。又、草隸を善くし、世の模楷となる。〔魏書、二十四〕・〔北史、二十一〕。

【崔廣】58（サイクワウ）漢の人。字は文通。號は夏黃公。一に崔廓。字は少通。商山四皓(**2**－**3803**‥106)の一人。〔史記、五十五〕。

【崔廓】59（サイクワク）㊀崔廣を見よ。㊁隋、安平の人。字は士玄。山中に入りて、群書を博覽し、學識高く、趙郡の李士謙と名を齊しうするに至る。嘗て著作して刑名の理を論ず。〔隋書、七十七〕・〔北史、八十七〕。

【崔渙】60（サイクワン）唐の人。玄暐の孫。諡は元。官は玄宗の時、門下侍郎同平章事。肅宗の時、江淮宣

論選補使。代宗の時、御史大夫。〔唐書、一百二十〕・〔舊唐書、一百八〕。

【崔琯】61（サイクワン） 唐、博陵の人。字は從律。進士。官は山南西道節度使。〔唐書、一百八十二〕・〔舊唐書、一百七十七〕。

【崔寛】62（サイクワン） 後魏の人。剖の子。字は景仁。官は弘農太守。〔魏書、二十四〕・〔北史、二十一〕。

【崔瓘】63（サイクワン） 唐、博陵の人。官は代宗の時、湖南觀察使。禮法を以て將吏を正し治む。〔唐書、一百四十一〕・〔舊唐書、一百十五〕。

【崔羣】64（サイグン） 唐、武城の人。字は敦詩。未だ冠せずして進士に擧げらる。官は穆宗の時、武寧荆南節度使・吏部尙書。〔唐書、一百六十五〕・〔舊唐書、一百五十九〕。

【崔冏】65（サイケイ） 崔國(82)を見よ。

【崔敬】66（サイケイ） 元、大寧惠州の人。字は伯恭。諡は忠敏。刑名法律の學に通ず。官は至元中、僉山北廉訪司事、後、江浙行省左丞に至る。〔元史、一百八十四〕。

【崔橋】67（サイケウ） 鎭の名。❶河南省太康縣の西北。通許・扶溝二縣の界。金代の舊鎭。❷江蘇省武進縣の東南。東、無錫縣の界に接す。

【崔碣】68（サイケツ） 唐の人。縱の從子。字は東標。進士。官は懷州司馬。〔唐書、一百二十〕。

【崔協】69（サイケフ） 五代、唐の人。瓘の孫。字は思化。諡は恭靖。進士。官は梁に仕へて吏部侍郎。天成の初、平章事。〔舊五代史、五十八〕。

【崔涓】70（サイケン） 唐の人。珙の子。大中の進士。官は御史大夫。〔唐書、一百八十二〕。

【崔謙】71（サイケン） 北周の人。北史は士謙に作る。楷の子。字は士遜。後、西魏に歸す。官は天和中、江陵總管・荆州刺史。封は武康郡公。〔周書、三十五〕・〔北史、三十二〕。

【崔元】72（サイゲン） 明、代州の人。諡は榮恭。憲宗の女、永康公主に尙す。世宗の入繼にあたり、迎立の功を以て京山侯に封ぜらる。張延齡の事に坐して詔獄に下されたが、尋いで釋さる。好んで文士に交はり、聲譽高く、寵幸甚だ優渥。〔明史、一百二十一〕・〔明史稿、一百十二〕・〔國朝獻徵錄、四〕。

【崔源】73（サイゲン） 明、雲中の人。字は有本。正統中、閩浙に盜を勦捕し、浙江都指揮僉事となる。〔明史、一百六十五〕。

【崔鉉】74（サイゲン） 唐の人。元略の子。字は台碩。進士。官は同中書門下平章事。咸通の初、山南東道荆南二鎭に徙る。封は魏國公。〔唐書、一百六〕・〔舊唐書、一百六十三〕。

【崔乎】75（サイコ） 動くさま。又、速かなさま。乎は助字。〔莊子、大宗師〕崔乎其不㆑得㆑已乎。〔釋文〕崔乎、向云、動貌、簡文云、速貌。

【崔護】76（サイゴ） 唐、博陵の人。字は殷功。清明の日に都城の南に遊んで人家を得、門を叩いて飮を求めた時、美女がゐて甚だ厚遇した。忘れ兼ねて明年清明の日復た尋ねたが、その人に遇えなかつたので、門の左扉に詩を題して歸つた。後、女は之を讀んで悲しみ、絶食して死んだ。數日後に復た訪ねた崔は、事の次第を聞いて驚き、之に哭したところ、女は甦つた。遂に妻とし、後、貞元の第に登り、嶺南節度使に終る。その人面桃花云々の詩は人々に膾炙し、また劇化された。崔護渴漿(77)・人面桃花(**1**−**344**‥468)を見よ。〔本事詩〕博陵崔護、清明日、獨遊㆓都城南㆒、得㆓居人莊㆒、叩㆑門求㆑飮、有㆓女子㆒、意屬殊厚、來歲清明日、逕往尋㆑之、門牆如㆑故、而已鎖㆑扃、題㆓詩左扉㆒云、去年今日此門中、人面桃花相映紅、人面不㆑知何處去、桃花依㆑舊笑㆓春風㆒、數日復往、聞㆔其中有㆓哭聲㆒、叩㆑門問㆑之、有㆓老父㆒出曰、君非㆓崔護㆒邪、曰是也、哭曰、君殺㆓我女㆒、崔感動、請入哭㆑之、須臾復活、遂以㆑女歸㆑之。

【崔護渴漿】77（サイゴカツシヤウ） 戲曲の名。元、白仁甫撰。崔護の故事を敍す。崔護を見よ。後人、これより脱胎して登樓記・題門記・桃花莊・人面桃花等を作る。

【崔恆】78（サイコウ） 朝鮮李朝、朔寧の人。字は貞父。號は幢梁、又、太虛亭。諡は文靖。官は左議政。世祖睿宗實錄・武定寶鑑・經國大典等を撰定す。〔成宗實錄〕。

【崔洪】79（サイコウ） 晉、安平の人。字は良伯。官は武帝の時、治書御史から大司農に至る。〔晉書、四十五〕。

【崔貢】80（サイコウ） 宋、仁和の人。字は廷碩。端重にして學識あり。大觀中、天下の郡縣に詔して、士の孝弟睦婣任卹中和の八行ある者を擧げた時、貢によつて太學に入る。官は密州文學。鄕人、八行先生と尊稱す。〔尙友錄、四〕。

【崔鴻】81（サイコウ） 後魏の人。敬友の子。字は彥鸞。官は尙書都兵郎中・齊州大中正・中散大夫。國史を修輯し、十六國春秋を撰す。〔魏書、六十七〕・〔北史、四十四〕。

【崔國】82（サイコク） 北齊の人。北史は崔冏に作る。或の孫。字は法峻。相術を善くす。官は武平中、假儀同三司・鴻臚卿。〔北齊書、二十三〕。

【崔崔】82′（スイスイ） 山のそばだつさま。高大なさま。〔集韻〕崔、崔崔、高大也。〔詩、齊風、南山〕南山崔崔、雄狐綏綏。〔傳〕崔崔、高大也。〔後漢書、馬融傳〕鏘鏘崔崔。

【崔造】83（サイザウ） 唐、安平の人。字は玄宰。韓會・盧東美・張正則と親交あり、皆自ら王佐の才ありとなし、四夔と號す。夔は堯舜を佐けた賢臣。造の官は貞元中、給事中同中書門下平章事、後、太子右庶子。〔唐書、一百五十〕・〔舊唐書、一百三十〕。

【崔錯】84（サイサク） 相交はる。入り亂れる。交錯。璀錯。〔司馬相如、上林賦〕崔錯癹骫、坑衡閜砢。〔注〕善曰、郭璞曰、錯、相摎也。

【崔賾】85（サイサク） 隋の人。廓の子。字は祖濬。官は協律郎。大業中、詔を奉じて區宇圖志・東征記を撰す。〔隋書、七十七〕・〔北史、八十七〕。

【崔粲】86（サイサン） 清、金陵の人。字は季韞、別號は秋潭。明末の諸生。國變の後、日に山水を徜徉し、詩を賦して志を見はす。著に潭上文稿及び詩集がある。〔國朝耆獻類徵、四百六十三〕。

【崔篡】87（サイサン） 後魏の人。挺の族子。字は叔則。文才あり。著に無談子論がある。〔魏書、五十七〕。

【崔氏】88（サイシ） ❶城の名。山東省章丘縣の西北。〔左氏、襄、二十七、成請㆑老㆓于崔㆒、注〕濟南東、朝陽縣西北有㆓崔氏城㆒。❷姓氏。〔唐書、宰相世系表二下〕齊丁公伋嫡子季子讓㆓國叔乙㆒、食㆓采於崔㆒、遂爲㆓崔氏㆒。

【崔滋】89（サイジ） 高麗、海州大寧の人。初名は宗裕、又、安。字は樹德。號は東山叟。諡は文清。著に家集・續破閑集がある。〔高麗史〕。

【崔璽】90（サイジ） 明、直隷通州の人。字は廷用。弘治の進士。官は武定州の守。〔尙友錄、四〕。

【崔庠】91（サイジヤウ） 後魏の人。長文の從弟。字は文序。官は永熙の初、東徐州刺史。〔魏書、六十七〕。

【崔綽】92（サイシヤク） 後魏、安平の人。少くして孤。母に孝。後、郡功曹となる。〔魏書、四十九〕・〔北史、三十二〕。

【崔聚】93（サイジユ） 明、懷遠の人。成祖に從つて北征し、左軍都督僉事に累遷す。宣德の初、交趾を征して敗死す。〔明史、一百五十四〕・〔明史稿、百五十四〕・〔國朝獻徵錄、一百八〕。

【崔儒】94（サイジユ） 高麗の人。太祖の臣。官は廣評侍郎。後唐の閔帝の時、使して試將作監を授けらる。〔冊府元龜〕。

【崔戎】95（サイジユウ） 唐の人。玄暐の從孫。字は可大。明經に擧げらる。官は憲宗の時、華州の刺史、後、兗海沂密觀察使。〔唐書、一百五十九〕・〔舊唐書、一百六十二〕。

【崔從】96（サイジユウ） 唐の人。能の弟。字は子乂。諡は貞。進士。官は尙書左僕射。〔唐書、一百十四〕。

【崔崒】97（サイシユツ） たかく險しいさま。崔巍。〔張衡、西京賦〕隆崛崔崒、隱轔鬱律。〔注〕濟曰、崔崒・隱轔・鬱律、皆險曲貌。

【崔述】98（サイジユツ） 清、大名の人。字は武承。號は東壁。乾隆の擧人。官は羅源・上杭縣等の長官。其の學は考據明確、辨析精微。其の著書の中、考信錄三十六卷・同翼錄十卷は尤も力を注いだもので、獨自の見解多く、中國史研究上に一新機軸を出した。考信錄と名づけた理由は、其の自序に「居㆓今日㆒欲㆑考㆓唐虞三代之事㆒、是非必折㆓衷孔孟㆒、而眞僞必取㆓信於詩書㆒、而聖人之眞可㆑見、聖人之道可㆑見也」とあるのによつて知られる。尙著書は、考信錄を含む崔東壁遺書(315)の外に文集十六卷(知非集・無聞集・小草集・細君詩文稿・荍田賸筆)・志四卷(桑梓文獻志・水木本源志)・存篋書四卷(大怪談・桑梓外志・涉世雜談)・餘編六卷(荍田雜錄・荍田瑣記・荍田綴語)・贅編六卷(見聞雜記・知味錄)等がある。〔清史稿、四

百八十八〕·〔國朝耆獻類徵、二百四十〕·〔國朝先正事略、三十六〕。

【崔曙】99 サイショ　唐、定州の人。開元の進士。明堂火珠の詩を以つて名を得た。〔唐詩紀事、二十〕。〔全唐詩、六〕。

【崔敍】100 サイジョ　崔倫(177)を見よ。

【崔陞】101 サイショウ　明、樂安の人。字は廷進。成化の進士。官は延安知府·四川參政。〔明史、一百八十〕·〔萬斯同明史、二百三十五〕·〔明史稿、一百六十三〕。

【崔頌】102 サイショウ　宋の人。協の子。字は敦美。五代、漢周に歷仕し、筆札を善くす。官は保大軍行軍司馬。〔宋史、四百三十一〕·〔宋史新編、一百六十三〕。

【崔縱】103 サイショウ　❶唐の人。渙の子。謚は忠。父の貶せらるるや、官を棄てて養に就く。後、御史大夫に至る。封は常山縣公。〔唐書、一百二十〕·〔舊唐書、一百八〕。❷宋、臨川の人。字は元矩。政和の進士。官は承議郞。〔宋史、四百四十九〕·〔宋史新編、一百三十五〕·〔南宋書、二十九〕。

【崔寔】104 サイショク　後漢の人。瑗の子。一名、台。字は子眞。又、元始。五原太守となり、尙書に召さる。著す所、碑·論·箴·銘等十五篇がある。〔後漢書、八十二〕。

【崔植】105 サイショク　❶唐の人。祐甫の嗣子。字は公修。易に通ず。官は長慶の初、中書侍郞·同中書門下平章事。後、華州の刺史に徙る。〔唐書、一百四十二〕·〔舊唐書、一百十九〕。❷明、鄞の人。字は斯立。號は丹山樵者。春秋を治め羣史を究む。洪武中、郡學敎授に薦めらる。著に雜著·文集がある。〔尙友錄、四〕。

【崔湜】106 サイショク　唐の人。仁師の孫。字は澄瀾。進士。官は檢校吏部侍郞同中書門下平章事。景雲中、太平公主、引いて中書令となす。〔唐書、九十九〕·〔舊唐書、七十四〕。

【崔振】107 サイシン　後魏の人。挺の弟。字は延根。謚は定。學問德行あり。官は孝文の時、太子庶子、景明の初、廷尉少卿から肆州刺史に拜せらる。〔魏書、五十七〕。

【崔深】108 サイシン　明、吳江の人。字は靜伯。官は中書舍人。〔尙友錄、四〕。

【崔訦】109 サイシン　崔說(116)を見よ。

【崔詵】110 サイシン　高麗、昌原の人。謚は文懿。官は守太傅門下侍郞同中書門下平章事判吏部事。〔高麗史〕。

【崔倕】111 サイスイ　唐、武城の人。三世同居して竈を一にす。官は吏部侍郞。〔唐書、一百六十三〕·〔舊唐書、一百五十五〕。

【崔成】113 サイセイ　春秋、齊の人。杼の子。東郭偃·棠無咎が崔氏の相となり、成を廢して其の弟明を立つ。成、弟彊と共に偃及び無咎を殺すや、慶封、國人を率ゐて之を討ち、遂に崔氏を滅し、成と彊とを殺し、明は魯に奔る。〔左氏、襄、二十七〕。

【崔蕘】114 サイゼウ　唐の人。黯の兄の子。字は野夫。官は左散騎常侍。〔唐書、一百四十四〕·〔舊唐書、一百十七〕。

【崔梲】115 サイセツ　五代晉、安平の人。字は子文。梁の貞明中、進士甲科に擧げられ、唐·晉に歷仕し、後、太子賓客を以て西京に分司して卒す。〔舊五代史、九十三〕·〔五代史、五十五〕。

【崔說】116 サイセツ　北周の人。周書は崔訦に作る。謙の弟。本名は士約。謚は莊。初、賀拔勝に從つて梁に奔り、更に西魏に奔つたが、後、周文に從つて弘農を復し、姓、宇文、名、說を賜はり、總管涼州刺史に至り、安平縣公に封ぜらる。〔周書、三十五〕·〔北史、三十二〕。

【崔銑】117 サイセン　明の人。陞の子。字は子鍾、又は仲鳧。謚は文敏。弘治の進士。官は世宗の時、南京國子監祭酒、後、南京禮部右侍郞となる。其の學は程朱を宗とし、王陽明を斥けて霸儒とす。著に讀易餘言·崔氏小爾雅·彰德府志·文苑春秋敍錄·士翼·後渠庸言·洹詞·政議·晦菴文鈔續集·文苑春秋がある。〔明史、二百八十二〕·〔萬斯同明史、二百八十七〕·〔明史稿、二百六十七〕·〔明儒學案、四十八〕。

【崔暹】118 サイセン　❶後魏、東武城の人。字は元欽。秀才を以て瀛州刺史に遷る。貪暴の故を以て、民庶之を患ひ、稱して癩兒刺史となす。〔魏書、八十九〕·〔北史、八十七〕。❷北齊、安平の人。字は季倫。官は文襄の時、度支尙書·僕射を兼ぬ。天保の末、右僕射となる。〔北齊書、三十〕·〔北史、三十二〕。

【崔贍】119 サイセン　北齊の人。北史は崔瞻に作る。㥄の子。字は彥通。謚は文。官は孝昭の時、太子中庶子·吏部郞中。著に集二十卷がある。〔北齊書、二十三〕·〔北史、二十四〕。

【崔瞻】120 サイセン　崔贍を見よ。

【崔損】121 サイソン　唐、博陵の人。字は至無。謚は靖。大曆の末、進士博學弘詞に中る。官は貞元中、同中書門下平章事·門下侍郞。〔唐書、一百七十七〕·〔舊唐書、一百三十六〕。

【崔台】122 サイタイ　後漢の人。崔寔(104)を見よ。

【崔隤】123 サイタイ　つまづく。蹉跎。摧頹に同じ。〔漢書、廣川惠王越傳〕日崔隤、時不レ再。〔注〕崔隤、猶レ言二蹉跎一也。

【崔頹】124 サイタイ　❶くづれやぶれる。くじけおちる。〔蘇軾、龜山詩〕元嘉舊事無二人記一、故壘崔頹今在不。❷つかれるさま。〔杜甫、秋日荊南述レ懷詩〕琴烏曲怨憤、庭鶴舞崔頹。

【崔讜】125 サイタウ　高麗、昌平の人。號は雙明齋。謚は靖安。官は守太尉門下侍郞同中書門下平章事。時人、地上仙といふ。〔高麗史〕。

【崔丹】126 サイタン　崔子忠(264)を見よ。

【崔旦】127 サイタン　明、平度の人。字は伯東。著に海運編がある。〔四庫提要、八十四〕。

【崔鄲】128 サイタン　唐の人。郾の弟。進士。官は宣宗の初、檢校尙書右僕射同平章事。兄弟六人皆孝友。宣宗、その家に題して德星堂といふ。〔唐書、一百六十三〕·〔舊唐書、一百五十五〕。

【崔澹】129 サイタン　唐の人。琪の弟の子。進士。官は禮部員外郞、後、吏部侍郞。〔唐書、一百八十二〕·〔舊唐書、一百七十七〕。

【崔冲】130 サイチュウ　高麗、海州大寧の人。字は浩然。謚は文憲。官は開府儀同三司守太傅。東方に學校の興るは冲に由つて始まる。時人、海東の孔子といふ。〔高麗史〕。

【崔杼】131 サイチョ　春秋、齊の大夫。謚は武子。其の君莊公を弑し、景公を立てて之が相となる。後、慶封に攻められて縊死す。〔左氏、宣、十。成、十七。襄、六·九·十·十四·十九·二十三·二十四·二十五·二十七·二十八〕。

【崔著】132 サイチョ　崔衍(15)を見よ。

【崔澂】133 サイチョウ　明、吳江の人。字は淵甫。天性孝友。博學にして詩を能くし、又、その眞草隸篆は人に寶とせらる。著に傳響集がある。〔明詩綜、二十六〕。

【崔澄】134 サイチョウ　唐の人。液の弟。本名は滌。玄宗、名を澄と賜ふ。帝、藩に在る時、里を同じうす。官は金紫光祿大夫。封は安喜縣子。〔唐書、九十九〕·〔舊唐書、七十四〕。

【崔挺】135 サイテイ　後魏の人。辯の從父弟。字は雙根。謚は景。秀才に擧げられ、官は北海王詳の司馬。〔魏書、五十七〕·〔北史、三十二〕。

【崔逞】136 サイテイ　後魏、東武城の人。字は叔祖。慕容暐に仕へて著作郞に補せられ、燕記を撰す。魏に入り、御史中丞に至る。〔魏書、三十二〕·〔北史、二十四〕。

【崔朝】137 サイテウ　漢、安平の人。昭帝の時、幽州從事、後、侍御史。〔後漢書、八十二〕。

【崔滌】138 サイテキ　崔澄(134)を見よ。

【崔適】139 サイテキ　淸の人。著に史記探原·春秋復始がある。

【崔篆】140 サイテン　後漢の人。發の弟。官は王莽の時、建新大尹。臨終に慰志賦を作る。〔後漢書、八十二〕。

【崔峒】141 サイドウ　唐、博陵の人。進士から左拾遺を歷て右補闕に終る。詩に巧で、大曆十才子の一人。〔唐書、二百三〕。

【崔桐】142 サイドウ　明、揚州の人。字は來鳳。號は東洲。正德の進士。嘉靖中、禮部右侍郞。著に東洲集がある。〔明史、一百七十九〕·〔萬斯同明史、二百六十二〕·〔明史稿、一百六十二〕。

【崔寧】143 サイネイ　唐、衞州の人。成都尹·西川節度使を授けられ、專橫強大、朝廷之を制する能はずといふ。後、靈州大都督となり、朱泚の反に盧杞寧の讒により縊殺せらる。〔唐書、一百四十四〕·〔舊唐書、一百十七〕。

【崔能】144 サイノウ　唐の人。融の曾孫。字は子才。朱泚の反に戰功あり、嶺南節度使となる。〔唐書、一百十四〕·〔舊唐書、一百七十七〕。

【崔彭】145（サイハウ） 隋の人。謙の子。字は子彭。諡は肅。周禮・尙書に通ず。初、周に仕へて門正上士となる。煬帝の時、左領軍大將軍。漢王諒の餘黨を山東に鎭壓して慈州を領す。〔隋書、五十四〕・〔北史、三十二〕。

【崔白】146（サイハク） 宋、濠梁の人。字は子西。仁宗の時、畫院藝學に補せらる。善く花竹鳥獸を畫き、尤も寫生に長ず。宋の畫院の教藝者は必ず黃筌父子を以て式となしたが、白、及び吳元瑜の出づるに及び、遂に其の格を變じた。崔白翎毛を見よ。〔宋史翼、三十七〕。

【崔白翎毛】147（サイハクノレイマウ） 宋の畫工崔白の書いた翎毛。轉じて、立派な畫をほめていふ語。翎は鳥、毛は獸。崔白を見よ。〔圖畫見聞志〕白工㆑畫㆓花竹翎毛㆒、體製清贍、作用疏通、雖㆘以㆓敗荷鳧鴈㆒得㆖名、然於㆓佛道鬼神、山林人獸㆒無㆑不㆓精絕㆒。〔書言故事、畫者類〕謂㆓畫者㆒曰、稔聞㆔妙筆得㆓崔白之遺㆒。

【崔發】148（サイハツ） 漢の人。朝の孫。材能を以て王莽に幸せらる。莽、攝に居るや、騎都尉と爲り、簒位の後、說符侯に封ぜらる。莽、敗れて、申屠建に降つたが、建のために斬らる。〔前漢書、九十九〕・〔後漢書、八十八〕。

【崔邠】149（サイヒン） 唐の人。倕の子。字は處仁。諡は文簡。進士。賢良方正に擢んでらる。官は吏部侍郎、後、太常卿。憲宗之を器とす。〔唐書、一百六十三〕・〔舊唐書、一百五十五〕。

【崔斌】150（サイヒン） 元、馬邑の人。字は仲文。諡は忠肅。中統の初、左右司郎中となり、行中書省左丞に遷り、阿合馬の姦を極論した。鄭國公に追封せらる。〔元史、一百七十三〕。

【崔敏】151（サイビン） 明、襄陵の人。字は好學。性、至孝、崔孝子と稱せらる。〔明史、二百九十六〕・〔國朝獻徵錄、一百十二〕。

【崔愍】152（サイビン） 後魏の人。崔長謙(304)を見よ。

【崔福】153（サイフク） 宋の人。もと盜であつたが、後、軍籍に入る。陳韡に從つて賊を討ち功あり、刺史・大將軍となつた。〔宋史、四百十九〕・〔宋史新編、一百五十三〕・〔南宋書、五十〕。

【崔文】154（サイブン） 明の人。官は安慶衞指揮使。宸濠の變に功あり、都督僉事に進む。〔明史、一百七十五〕・〔萬斯同明史、二百六十四〕。

【崔秉】155（サイヘイ） 後魏の人。鑑の子。諡は靖穆。彭城王に從つて壽春を征した功により、太昌中、驍騎大將軍に拜せらる。〔魏書、四十九〕・〔北史、三十二〕。

【崔豹】156（サイヘウ） 晉の人。字は正能。官は惠帝の時、太傅。著に古今注がある。〔四庫提要、一百十八〕。

【崔儦】157（サイヘウ） 隋の人。仲文の子。字は岐叔。秀才に擧げられ、尙書郎となり、開皇中、員外散騎侍郎に拜せらる。〔隋書、七十六〕・〔北史、二十四〕。

【崔沔】158（サイベン） 唐、長安の人。字は善沖。諡は孝。進士・賢良方正に擢んでられ、祕書監・太子賓客となる。禮經に明かで、嘗て宗廟籩豆の數・六親の服法を詳定す。〔唐書、一百二十九〕・〔舊唐書、一百八十八〕。

【崔勉】159（サイベン） 後魏の人。孝芬の子。字は宣祖。普泰中、尙書右丞となる。〔魏書、五十七〕。

【崔昪】160（サイベン） 唐の人。舊唐書には崔昇に作る。玄暐の弟。官は司刑少卿、後、尙書右丞。〔唐書、一百二十〕・〔舊唐書、九十一〕。

【崔冕】161（サイベン） 清、巢の人。字は貢收。畫に巧。著に千家姓文がある。〔四庫提要、一百三十九〕。

【崔辯】162（サイベン） 後魏の人。鑒の從祖弟。字は神通。諡は恭。官は獻文の時、散騎侍郎・平遠將軍、後、武邑太守。〔魏書、五十六〕・〔北史、三十二〕。

【崔模】163（サイボ） ❶後魏、東武城の人。字は思範。爵は武陵男。官は寧遠將軍。〔魏書、二十四〕。❷後魏の人。逸の弟。字は叔軌。蕭寶夤、引いて西征別將となし、戰功によつて槐里縣伯に封ぜらる。〔魏書、五十六〕。

【崔剖】164（サイホウ） 後魏、清河の人。字は伯宗。諡は元。地を隴右に避けたが、太武、西巡の時、剖を徵して京師に詣らしむ。未だ至らずして卒す。〔魏書、二十四〕・〔北史、二十一〕。

【崔鵬】165（サイホウ） 崔元翰(239)を見よ。

【崔融】166（サイユウ） 唐、全節の人。字は安成。諡は文。八科高第に擢んでられ、中宗、太子たりし時、侍讀となり、後、國子司業に拜せらる。文を善くし、李嶠・杜審言・蘇味道と共に文章四友と稱せらる。〔唐書、一百十四〕・〔舊唐書、九十四〕。

【崔雍】167（サイヨウ） 高麗、昌原の人。字は大和。初の名は夔。官は副知密直司事・文翰學士。〔高麗史〕。

【崔膺】168（サイヨウ） 唐、博陵の人。性、狂であつたが、張建封、其の才を愛して客とする。畫に巧。〔唐詩紀事、四十三〕・〔全唐詩、十〕。

【崔覽】169（サイラン） 崔簡(37)を見よ。

【崔立】170（サイリツ） ❶宋、鄢陵の人。字は本之。進士。太常少卿・給事中に累遷し、前後四十餘事を上言し、尙書工部侍郎に進む。〔宋史、四百二十六〕・〔宋史新編、一百六十八〕・〔東都事略、一百十二〕・〔北宋經撫年表、二十三・二十四〕。❷金、將陵の人。安平都尉となり、哀宗以て西面元帥とした。〔金史、一百十五〕。

【崔岦】171（サイリフ） 朝鮮李朝、通州の人。字は立之。號は簡易。官は刑曹參判。〔人物考〕。

【崔亮】172（サイリヤウ） ❶後魏、東武城の人。字は敬儒。諡は貞烈。官は尙書二千石・吏部郎、後、度支尙書。〔魏書、六十六〕・〔北史、四十四〕。❷明、藁城の人。字は宗明。元末の浙江行省掾。明に降つて中書省禮曹主事を授けられ、洪武の初、禮部尙書と爲り、郊廟・祭祀・朝賀から大射・軍禮に及ぶまで、皆、之を酌定したが、考證詳確を以て稱せらる。官に卒す。〔明史、一百六十三〕・〔萬斯同明史、一百七十五〕・〔明史稿、一百二十四〕。❸高麗、慶州の人。諡は匡彬。官は內史侍郎兼民官御事同內史門下平章事監修國史。〔高麗史〕。

【崔盧】173（サイリヨ／サイロ） ❶崔氏と盧氏。二姓は倶に六朝及び唐代の名門である。〔舊唐書、竇威傳〕武德元年、拜㆓威內史令㆒、云云、高祖笑曰、比見㆘關東人與㆓崔・盧㆒爲㆑婚、猶自矜伐㆖、公代爲㆓帝戚㆒、不㆓亦貴㆒乎。❷北朝の崔悅と盧諶。倶に草書に巧であつたので並稱せらる。

【崔倰】174（サイリヨウ） 唐の人。祐甫の從子。字は德長。諡は肅。官は戶部尙書。〔唐書、一百四十二〕・〔舊唐書、一百十九〕。

【崔㥄】175（サイリヨウ） 北齊の人。休の子。字は長孺。官は開府諮議參軍。魏の孝武を立てることを建議して、武城縣公に封ぜられ、後、東兗州刺史となる。〔北齊書、二十三〕・〔北史、二十四〕。

【崔林】176（サイリン） 三國、魏の人。琰の從弟。字は德儒。諡は孝。官は明帝の時、光祿勳司隸校尉。封は景初中、安陽鄕侯。〔三國志、二十四〕。

【崔倫】177（サイリン） 唐、安平の人。字は敍。諡は敬。進士。寶應中、右庶子を以て吐蕃に使す。代宗の時、尙書左丞となる。〔唐書、一百六十四〕・〔舊唐書、一百八十八〕。

【崔琳】178（サイリン） 唐の人。神慶の子。官は開元中、中書舍人、後、太子少保。弟珪・瑤と倶に棨戟に列し、世に三戟崔家と稱した。棨戟は、繒で包んだ木のほこで、官吏の前驅の持つもの。轉じて、官吏をいふ。〔唐書、一百九〕。

【崔勵】179（サイレイ） 後魏の人。光の子。字は彥德。秀才に擧げられ、領軍將軍を拜す。兄、鴻と倶に令名あり。〔魏書、六十七〕。

【崔烈】180（サイレツ） 後漢の人。瑗の從子。郡守・九卿に歷位し、錢五百萬を入れて司徒となり、銅臭の譏あり。崔烈銅臭を見よ。〔後漢書、四十二〕。

〖崔烈銅臭〗181（サイレツドウシウ） 蒙求の標題。後漢の靈帝の時、錢を以て官爵を買ふことが公然と行はれ、器量ある人物も皆この風習に從はざるを得なかつた。崔烈も錢五百萬を入れて司徒となつたのを、世人が銅臭ありと譏つた故事。〔後漢書、崔寔傳〕靈帝時開㆓鴻都門㆒、榜賣㆓官爵㆒、公卿州郡下至㆓黃綬㆒、各有㆑差、其富者則先入㆑錢、貧者到㆑官、而後倍輸、或因㆓常侍阿保㆒、別自通達、云云、烈時因㆓傅母㆒、入㆓錢五百萬㆒、得㆑爲㆓司徒㆒、及㆓拜日㆒、天子臨㆑軒、百僚畢會、帝顧謂㆓親倖㆒曰、悔不㆓小靳㆒、可㆑至㆓千萬㆒、程夫人於㆑傍應曰、崔公冀州名士、豈肯買㆑官、賴㆑我得㆑是、反不㆑知㆑姝邪、烈於㆑是聲譽衰減、久㆑之不㆓自安㆒、從容問㆓其子鈞㆒曰、吾居㆓三公㆒、於㆓議者㆒何如、鈞曰、大人少有㆓英稱㆒、歷㆓位卿守㆒、論者不㆑謂㆑當㆑爲㆓三公㆒、而今登㆓其位㆒、天下失㆑望、烈曰、何爲然也、鈞曰、論者嫌㆓其銅臭㆒、烈怒擧㆑杖擊㆑之。

【崔櫓】182（サイロ） 晚唐の詩人。櫓は、一に魯に作る。大中の時、進士に擧げらる。一に廣明中の進士ともいふ。仕へて棣州の司馬となる。著に無機集がある。〔唐詩紀事、五十八〕。

【崔廬】183（サイロ） 宋の人。頌の子。字は文炳。雍熙の

進士。官は戸部判官。眞宗、其純謹を嘉して曹國公元儼府翊善を授け、後、太常少卿・將作監に至る。〔宋史、四百三十二〕。〔宋史新編、一百六十三〕。

【崔論】184（サイロン）　唐の人。液の子。乾元中、州の刺史となり、同衢二州の刺史を歷て大理卿に擢んでらる。〔唐書、九十九〕・〔舊唐書、七十四〕。

【崔鶯鶯】185（サイアウアウ）　唐の女子。字は雙文。文詞に巧。貞元十六年、母、鄭氏に隨つて蒲東の佛寺に寓居し、張生と詩を賦して贈答し、情好甚だ密。元稹が會眞記（鶯鶯傳）を作つて其の事を敍した。宋の王銍の考證によれば、記中の張生は元稹自身であり、鶯鶯は元稹の從妹で、雙文とは鶯鶯二字を隱指したものといふ。〔元稹、鶯鶯傳〕貞元中、有二張生者一、性溫茂美二風容一云云、崔氏小名鶯鶯、公垂以命レ篇。

【崔偓佺】186（サイアクセン）　宋の人。進士に擧げられ、淳化中、國子直講となる。著に帝王手鑑十卷がある。〔宋史、四百三十一〕・〔宋史新編、一百六十三〕・〔東都事略、一百十三〕。

【崔安潛】187（サイアンセン）　唐の人。愼由の弟。字は進之。謚は貞孝。進士。咸通中、江西觀察忠武節度使として王仙芝を禦ぐ。後、西川節度使となる。〔唐書、一百十四〕・〔舊唐書、一百七十七〕。

【崔貽孫】188（サイイソン）　五代、唐の人。字は伯垂。名族を以て進士の第に登つた。官は同光の初、吏部侍郎、後、禮部尙書。〔舊五代史、六十九〕。

【崔頤正】189（サイイセイ）　宋、封丘の人。進士。雍熙中、高密尉に除し、國子直講となる。孫奭と諸經音疏を刊正し、國子博士となる。〔宋史、四百三十一〕〔宋史新編、一百六十三〕・〔東都事略、一百十三〕。

【崔惟清】190（サイヰセイ）　高麗、昌言の人。字は直哉。謚は文淑。官は守司空集賢殿大學士判禮部事。著に李翰林集注・柳文事實・南都集がある。〔高麗史〕。

【崔湑源】191（サイヰゲン）　淸の人。蔚林の子。字は淸夫。號は肖玉。康熙の副貢。父母に事へて孝。〔國朝耆獻類徵、四百八〕・〔碑傳集、一百二十九〕。

【崔維雅】192（サイヰガ）　淸、河南新安の人。字は大醇。號は默齋。順治の擧人。大理寺卿となり、三たび河職に任じて治水の功あり。著に河防芻議・明刑輯要等がある。〔淸史稿、二百八十五〕・〔碑傳集、四十〕。

【崔慰祖】193（サイヰソ）　南齊の人。慧景の從弟。字は悅宗。篤學、性至孝。安王記室となる。〔南齊書、五十二〕・〔南史、七十二〕。

【崔有海】194（サイイウカイ）　朝鮮李朝、海州の人。字は大容。後、名を瀕と改む。號は默守堂。官は承旨。〔人物考〕。

【崔祐甫】195（サイイウホ）　唐の人。沔の子。字は貽孫。謚は文貞。進士。官は德宗の時、門下侍郎同平章事、後、中書侍郎。〔唐書、一百四十二〕・〔舊唐書、一百十九〕。

【崔允儀】196（サイインギ）　高麗、海州大寧の人。初の名は天祐。謚は文肅。官は門下侍郎平章事判尙書吏禮部。著に古今詳定禮五十卷がある。〔金石摠覽〕・〔高麗史〕。

【崔隱甫】197（サイインポ）　唐、武城の人。謚は忠。官は玄宗の時、御史大夫、後、刑部尙書。封は淸河郡公。〔唐書、一百三十〕・〔舊唐書、一百八十五〕。

【崔蔚林】198（サイウツリン）　淸、直隸新安の人。後、長垣に遷り住む。字は夏章。號は定齋。順治の進士。康熙中、詹事に累官す。刻苦、經を窮めて易に精通す。著に四書講義及び易解がある。〔淸史列傳、六十六〕・〔碑傳集、四十四〕。

【崔雲遇】199（サイウングウ）　朝鮮李朝、江華の人。官は橫城縣監。李滉に學ぶ。丘山書院を創む。〔人物考〕。

【崔永慶】200（サイエイケイ）　朝鮮李朝、和順の人。字は孝元。號は守愚堂。大司憲を贈らる。〔燃藜室記述〕・〔人物考〕・〔東儒師友錄〕。

【崔延伯】201（サイエンパク）　後魏、博陵の人。謚は武烈。齊に仕へて緣淮遊軍となり、太和中、魏に入り、常に統帥となる。封は新豐縣開國子。〔魏書、七十三〕・〔北史、三十七〕。

【崔應榴】202（サイオウリウ）　淸、海鹽の人。號は藤花村農。諸生。書室を吾亦廬といふ。著に吾亦廬稿がある。〔淸史列傳、六十九〕。

【崔家溝】203（サイカコウ）　地名。❶滿洲遼寧省法庫縣の東北。石炭を產す。❷河南省洛陽縣。石炭を產す。❸陝西省宜君縣。石炭を產す。

【崔家疾】204（サイカシツ）　病みやせること。〔酉陽雜俎續集、貶誤〕世呼二病瘦一爲二崔家疾一。

【崔行功】205（サイカウコウ）　唐、井陘の人。官は高宗の時、吏部郎中。嘗て通事舍人を兼ね、司文郎中となつて、朝廷の典冊を掌り、後、蘭臺侍郎に遷る。〔唐書、二百一〕・〔舊唐書、一百九十、上〕。

【崔孝偉】206（サイカウヰ）　崔孝暐を見よ。

【崔孝暐】207（サイカウヰ）　後魏の人。北史には孝偉に作る。孝芬の弟。字は敬業。謚は簡。趙郡の太守となつたが、郡、葛榮離の亂を經て困窮し、民皆兒女を鬻ぐ。たまたま、夏、桑實、大いに熟す。孝暐、民に勸めて之を收めしめ、又、種殖を教へ、遺散を招撫したので、一周年の後、流民大いに至る。又、學校を興し、親ら勸勵を加へ、百姓之を德とす。〔魏書、五十七〕。

【崔孝演】208（サイカウエン）　後魏の人。孝暐の弟。字は則伯。容貌魁傑。少くして仕官の心なく、鄕里に沈浮し、瀛州安西府外兵參軍となつたが罷め歸る。鮮于修禮が逆を起すに及び、害せらる。〔魏書、五十七〕。

【崔孝政】209（サイカウセイ）　後魏の人。孝直の弟。字は季讓。博く經史に通じ、詞賦を好み、特に意を喪紀の禮に留め、衣服制度、手づから之を造る。太尉汝南王悅、辟して行參軍とす。〔魏書、五十七〕。

【崔孝直】210（サイカウチヨク）　後魏の人。孝演の弟。字は叔廉。北史には叔廣に作る。身長八尺、眉目淸秀、夙に期するところあり。直閤將軍通直散騎常侍に遷る。爾朱兆入洛するや、天下未だ寧からざるを以て職を去つて歸り、家に卒す。〔魏書、五十七〕。

【崔孝伯】211（サイカウハク）　崔光（56）を見よ。

【崔孝芬】212（サイカウフン）　後魏の人。挺の長子。字は恭梓。父の爵を襲ぐ。官は太常卿、儀同三司を加へられ吏部尙書を兼ぬ。著に文章數十篇がある。〔魏書、五十七〕。

【崔漢衡】213（サイカンカウ）　唐、博平の人。右司郎中に累官し、建中中、吐蕃、盟を請ふや、殿中少監に擢んでられて和蕃使となる。後、晉慈隰觀察使に至る。〔唐書、一百四十三〕・〔舊唐書、一百二十二〕。

【崔希甫】214（サイキホ）　宋、高郵の人。文武の才略あり。官は監察御史。金帶を面賜せられ、重ねて賜魚を命ぜらる。時人、重金御史と號す。賜魚は、魚袋、魚形を造り、金銀を以て飾り、帶に懸けて貴賤をあらはすもの。重金とは、金帶にして魚袋を懸けるものをいふ。〔尙友錄、四〕。

【崔季舒】215（サイキジヨ）　北齊、安平の人。字は叔正。官は大將軍中兵參軍・中書侍郎。後、韓長鸞に祖珽の黨と目せられ、斬殺せらる。〔北齊書、三十九〕・〔北史、三十二〕。

【崔龜從】216（サイキジユウ）　唐の人。字は玄告。進士。賢良方正に擧げらる。官は大中中、中書侍郎同中書門下平章事、後、宣武軍節度使。〔唐書、一百六十〕・〔舊唐書、一百七十六〕。

【崔徽之】217（サイキシ）　朝鮮李朝、朔寧の人。字は子琴。號は鰲州。官は工曹佐郎。〔人物考〕・〔東岡集〕。

【崔義玄】218（サイギゲン）　唐、武城の人。謚は貞。封は淸丘縣公。永徽中、婺州刺史に遷り、睦州の陳碩貞の亂を平げ、武后の旨を以て蒲州の刺史に終る。〔唐書、一百九〕・〔舊唐書、七十七〕。

【崔巨倫】219（サイキヨリン）　後魏の人。逸の子。字は孝宗。孝明の時、殷州長史となり、賊を討つて功あり。封は、莊帝の時、漁陽縣男。〔魏書、五十六〕。

【崔居儉】220（サイキヨケン）　五代、晉の人。蕘の子。進士。梁・唐に歷仕し、官は戸部尙書に至る。〔五代史、五十五〕。

【崔恭祖】221（サイキヨウソ）　南齊の人。慧景の一族。驍勇人に過ぎ、王敬則を討ち、功を以て二百戸に封ぜらる。後、慧景と通じて殺さる。〔南齊書、五十一〕・〔南史、四十五〕。

【崔懷順】222（サイクワイジユン）　南齊、東武城の人。南齊書には崔懷愼に作る。父の喪に服して至孝。〔南齊書、五十五〕・〔南史、七十三〕。

【崔懷愼】223（サイクワイシン）　崔懷順を見よ。

【崔光胤】224（サイクワウイン）　高麗の人。嘗て賓貢進士を以て、遊學して晉に入り、契丹に捕へられたが、才を以て用ひられ官を拜す。後、契丹の高麗に兵を加へんとするを知り、之を密報して備へしむ。〔高麗史〕。

【崔光遠】225（サイクワウヱン）　唐の人。敬嗣の孫。累官して

劍南節度使となり、段子璋の反を平ぐ。〔唐書、一百四十二〕・〔舊唐書、一百十一〕。

【崔光韶】226（サイクワウセウ） 後魏の人。亮の從弟。孝莊の初、廷尉卿となる。〔魏書、六十六〕・〔北史、四十四〕。

【崔光伯】227（サイクワウハク） 後魏の人。光韶の弟。官は太傅諮議參軍。〔魏書、六十六〕・〔北史、四十四〕。

【崔黃葉】228（サイクワウエフ） 崔華(54)を見よ。

【崔君苗】229（サイクンベウ） 晉の人。陸機と同時の人。〔丹鉛總錄〕。

【崔景榮】230（サイケイエイ） 明、長垣の人。字は自強。萬曆の進士。御史・右僉都御史・巡撫寧夏に累擢せられ、天啓中、吏部尚書となつたが、魏忠賢に忤らつて職を奪はる。〔明史、二百五十六〕。

【崔景儁】231（サイケイシユン） 崔逸(6)を見よ。

【崔景眞】232（サイケイシン） 南齊、東武城の人。平昌太守となつて惠政あり。〔南史、四十七〕。

【崔敬友】233（サイケイイウ） 後魏の人。光の弟。本州の治中となつて收賄する所が多かつたが、後、佛道に精進し、晝夜誦經す。〔魏書、六十七〕。

【崔敬嗣】234（サイケイシ） 唐の人。其の先は博陵に出で、後、靈昌に徙る。中宗の房州に在つた時、吏多く肆慢であつたが、敬嗣獨り刺史として誠を盡したので、帝之を德とす。〔唐書、一百四十二〕・〔舊唐書、一百十二〕。

【崔敬邕】235（サイケイヨウ） 後魏の人。挺の從祖弟。謚は恭。孝文の時、司徒主簿から太中大夫となる。〔魏書、五十七〕。

【崔慧景】236（サイケイケイ） 南齊、東武城の人。字は君山。宋に仕へて長水校尉となる。南齊の高帝の時、度支尚書に拜せられ、太子左率を領す。〔南齊書、五十一〕・〔南史、四十五〕。

【崔慶昌】237（サイケイシヤウ） 朝鮮李朝、海州の人。字は嘉運。號は孤竹。官は鍾城府使。〔人物考〕。

【崔繼成】238（サイケイセイ） 朝鮮李朝、扶安の人。字は紹先。號は處菴。趙光祖に從學す。〔湖南三綱錄〕。

【崔元翰】239（サイゲンカン） 唐の人。良佐の子。名は鵬。字を以て通ず。進士。博學弘詞賢良方正に擧げらる。官は比部郎中。文を作るに班固・蔡邕を師とし、時人の稱する所となつた。〔唐書、二百三〕・〔舊唐書、一百三十七〕。

【崔元祖】240（サイゲンソ） 南齊の人。景眞の子。學問德行あり、仕へて射聲校尉となり、武帝の時、東海太守に至る。〔南史、七十四〕。

【崔元綜】241（サイゲンソウ） 唐、新鄭の人。舊唐書は崔元琮に作る。官は天授の初、鸞臺侍郎・同鳳閣鸞臺平章事。〔唐書、一百十四〕・〔舊唐書、九十〕。

【崔元珍】242（サイゲンチン） 後魏の人。挺の從父弟。初、司徒從事中郎。正光の末に、山胡の逆を破つて唐州刺史に除せられ、涼城侯を賜はる。爾朱榮に從はずして殺さる。〔魏書、五十七〕。

【崔元略】243（サイゲンリヤク） 唐、博州の人。進士。京兆尹・左散騎常侍に累遷したが、崔植と隙ありしを以て、黔南觀察使に貶せられ、後、義成節度使となる。〔唐書、一百六十〕・〔舊唐書、一百六十三〕。

【崔玄暐】244（サイゲンヰ） 唐、博陵の人。謚は文獻。少くして學問德行を以て稱せられ、明經に擧げらる。官は長安の初、天官侍郎、後、鳳閣侍郎・同平章事。宋璟が張昌宗の不軌を劾するに當り、頗る璟を助け、功を以て中書令となる。武后、上陽宮に遷るや、俄かに博陵郡王に拜せられたが、後、政事を罷められ、古州に流されて卒す。〔舊唐書、九十一〕・〔唐書、一百二十〕。

【崔玄亮】245（サイゲンリヤウ） 唐、昭義の人。字は晦叔。進士。官は元和の初、駕部員外郎、太和中、諫議大夫。文宗の時、直諫を以て著聞し、甚だ宿望あり。虢州刺史に終る。〔唐詩紀事、三十九〕。

【崔彦暉】246（サイゲンキ） 崔彦輝(248)を見よ。

【崔彦撝】247（サイゲンキ） 高麗、慶州の人。初名は愼之。謚は文英。官は大相元鳳大學士翰林院令平章事。〔高麗史〕。

【崔彦輝】248（サイゲンキ） 元、錢塘の人。一に彦輔に作り、或は彦暉に作る。號は雲林生。篆隸詩賦を善くし、畫も頗る巧。隱居して藥を鹽橋市に賣る。

【崔彦進】249（サイゲンシン） 宋、大名の人。騎射を善くす。官は宋初に控鶴右廂指揮使。端拱の初、保靜軍節度使となる。李筠を征し、蜀を討つて戰功あり。〔宋史、二百五十九〕・〔宋史新編、七十〕・〔東都事略、二十〕・〔北宋經撫年表、四〕。

【崔彦昭】250（サイゲンセウ） 唐の人。其の先は清河の人。字は思文。進士。河陽節度使から河東節度使に徙り、甚だ治績あり。僖宗の時、尚書右僕射に拜せらる。〔唐書、一百八十三〕・〔舊唐書、一百七十八〕。

【崔彦曾】251（サイゲンソウ） 唐の人。能の子。咸通の初、太僕卿から徐州觀察使となる。桂林の戍者、糧料判官龐勛を脅して叛するや、之と戰つて遂に殺されたが、功により刑部尚書を贈らる。〔唐書、一百十四〕。

【崔彦輔】252（サイゲンポ） 崔彦輝(248)を見よ。

【崔彦穆】253（サイゲンボク） 北周、東武城の人。字は彦穆。官は明帝の初、驃騎大將軍から開府儀同三司に進む。爵は東郡公。〔周書、三十六〕・〔北史、六十七〕。

【崔公度】254（サイコウド） 宋、高郵の人。字は伯易。王安石延いて與に語つて之を器とし、光祿丞となし、直龍圖閣に至る。〔宋史、三百五十三〕・〔宋史新編、一百二十三〕。

【崔弘嗣】255（サイコウシ） 高麗、中原府の人。謚は貞敬。官は守太保上柱國監修國史。〔高麗史〕。

【崔弘度】256（サイコウド） 隋の人。說の子。字は摩訶衍。號は曲轅。周に仕へて上柱國・武鄕郡公となる。隋の開皇の初、襄州總管に遷り、仁壽中、檢校大府卿に轉ず。〔隋書、七十四〕・〔北史、三十二〕。

【崔弘禮】257（サイコウレイ） 唐、博陵の人。進士。字は從周。天平節度使となり、李同捷を討つて之を破る。後、刑部尚書・東都留守となる。〔唐書、一百六十四〕・〔舊唐書、一百六十三〕。

【崔克昇】258（サイコクシヨウ） 明、內黃の人。孝を以て著聞す。〔明史、二百九十六〕。

【崔濟愚】259（サイサイグ） 朝鮮、慶尙道の人。號は水雲。儒・佛・道の三教を融合した新宗教、東學教を唱道して李朝の忌諱に觸れ、死刑に處せらる。著に東徑大全がある。〔最近世史〕・〔韓半島〕。

【崔士和】260（サイシクワ） 後魏の人。亮の子。官は司空主簿、後、隴右行臺令。〔魏書、六十六〕。

【崔士謙】261（サイシケン） 北周の人。崔謙(71)を見よ。

【崔士泰】262（サイシタイ） 後魏の人。士和の弟。謚は文肅。官は司空司馬。荊蠻を征した功により、爵五等男を賜はる。〔魏書、六十六〕。

【崔士約】263（サイシヤク） 崔說(116)を見よ。

【崔子忠】264（サイシチユウ） 明、順天の人。字は道母。號は北海。初の名は丹。字は開予。又、青蚓と號す。畫を善くし、諸暨の陳洪綬と名を齊しくし、南陳北崔と稱せられ、仇英以後の人物畫の大家たり。又、文學を以て知らる。〔萬斯同明史、三百九十六〕。

【崔子方】265（サイシハウ） 宋、涪陵の人。字は彦直、又、伯直。號は西疇居士。春秋の學に通じ、蘇軾・黃庭堅と交游す。紹聖中、三たび上疏して春秋博士を置かんことを乞ふも容れられず。眞州六合縣に隱居し、門を閉ぢて著作に專念す。著に春秋經解・春秋本例・春秋例要がある。〔四庫提要、二十七〕。

【崔子約】266（サイシヤク） 北齊の人。仲文の弟。孝を以て聞ゆ。平原公開府祭酒となる。兄の子、瞻と倶に晉陽に至つて佛寺に居り、乾明中、考功郎となる。〔魏書、六十九〕。

【崔子朗】267（サイシラウ） 後魏の人。振の子。容貌美麗、性溫厚にして、風尚あり。經史を涉獵す。軍功を以て家を起し侍御史に位し、平西將軍を加へらる。〔魏書、五十七〕。

【崔之瑛】268（サイシエイ） 清、霸州の人。官は康熙中、雲南布政使。吳三桂の反に與かり、雲南平定の後、死罪に處せらる。〔清史列傳、八十〕。

【崔司勳】269（サイシクン） 唐の人。崔顥(31)の❶をいふ。

【崔四入】270（サイシニフ） 唐の人。崔垂休をいふ。崔胤(2)を見よ。胤、字は垂休。四たび朝に入つて宰相となつたからいふ。〔唐書、崔胤傳〕垂休素厚㆓朱全忠㆒、委㆑心結㆑之、四拜㆓宰相㆒、世謂㆓崔四入㆒。

【崔紫雲】271（サイシウン） 唐の妓女。杜牧、御史となり洛陽に居りし時、李愿から贈らる。〔全唐詩、二十九〕。

【崔日知】272（サイジツチ） 唐、靈昌の人。字は子駿。謚は襄。明經に擢んでられ、太常卿に至る。〔唐書、一百二十一〕・〔舊唐書、九十九〕。

【崔日用】273（サイジツヨウ） 唐の人。日知の從父弟。謚は昭。進士。官は黃門侍郎。機務に參し、太平公主を討つて吏部尚書に進み、并州長史に至る。〔唐書、一百二十一〕・〔舊唐書、九十九〕。

【崔儒秀】274サイジュシウ　明、陝州の人。字は徵初。萬曆の進士。官は戶部郞中、後、開原兵備僉事となる。時に開原已に守を失したので、東城を分守したが、兵潰えて自經して死す。祠を賜うて愍忠といふ。〔明史、二百九十一〕・〔萬斯同明史、三百七十七〕・〔明史稿、二百七十一〕。

【崔叔精】275サイシュクセイ　朝鮮李朝、陽川の人。字は國華。官は副提督。〔成宗實錄〕。

【崔遵度】276サイジュンド　宋、江陵の人。後、淄川に遷る。字は堅白。太平興國中の進士。咸平中、國史編修官・左司諫に累官し、大中祥符中、吏部郞中・左諭德に至る。著に琴箋及び文集がある。〔宋史、四百四十一〕・〔宋史新編、一百七十〕・〔東都事略、一百十五〕・〔宋人軼事彙編、一百五十九〕。

【崔如岳】277サイジョガク　清、獲鹿の人。字は岱齋、又は青峙。康熙の擧人。鴻博に擧げられ、檢討を授けらる。詩に巧。書室を坐嘯軒といふ。著に坐嘯軒集がある。〔國朝耆獻類徵、一百十九〕・〔國朝先正事略、三十九〕。

【崔承祐】278サイショウイウ　新羅の人。眞聖女主の三年、唐に行きて國學に入り、登第して歸る。著に餬本集があるが、今、傳はらず。〔三國史記〕。

【崔承宗】279サイショウソウ　後魏、齊州の人。至孝を以て稱せらる。〔魏書、八十六〕。

【崔承老】280サイショウラウ　高麗、慶州の人。謚は文貞。官は門下守侍郞。封は淸河侯。〔高麗史〕。

【崔信明】281サイシンメイ　唐、益都の人。隋の大業中、堯城令となり、唐の貞觀中、詔擧に應じて秦川令となる。〔唐書、二百一〕・〔舊唐書、一百九十上〕。

【崔神慶】282サイシンケイ　唐の人。義玄の次子。明經に擧げらる。武后の時、幷州の長史となり、司刑卿を歷たが、張昌宗の黨に坐して欽州に流さる。〔唐書、一百九〕・〔舊唐書、七十七〕。

【崔愼由】283サイシンイウ　唐の人。從の子。字は敬止。謚は貞。進士。官は宣宗の時、工部尙書・同中書門下平章事。蕭鄴に乘ぜられ、排擠せらる。〔唐書、一百十四〕・〔舊唐書、一百七十七〕。

【崔仁冀】284サイジンキ　宋、錢塘の人。字は子遷。吳越王錢俶に事へて通儒院學士となる。太宗の時、俶と策を決し、士を納れ、衞尉卿知撫州に累擢せらる。〔尙友錄、四〕。

【崔仁師】285サイジンシ　唐、安喜の人。武德の初、制擧に擢んでられ、右武衞錄事參軍に遷り、梁魏史を編輯し、貞觀中、度支郞中となり、永徽の初、簡州刺史を授けらる。〔唐書、九十九〕・〔舊唐書、七十四〕。

【崔世珍】286サイセイチン　朝鮮李朝、槐山の人。字は公瑞。官は內贍寺副正兼漢學教授から、同樞に至る。著に四聲通解諺解老乞大がある。〔通文館志〕。

【崔成甫】287サイセイホ　唐の人。官は校書郞。再び關輔の尉となつたが、湘陰に貶せらる。因つて澤畔吟あり、李白、序を爲る。陝縣の尉たりし時、韋堅、陝郡の太守となり、潭を望春樓下に鑿つや、成甫、得寶歌を爲る。堅、舟人に命じて歌はしめ、成甫、又、廣めて十闋とする。〔唐詩紀事、十七〕。

【崔成輔】288サイセイホ　崔宗之(293)を見よ。

【崔昭緯】289サイセウヰ　唐、淸河の人。字は蘊曜。進士。官は昭宗の時、戶部侍郞同中書門下平章事、後、尙書右僕射。〔唐書、二百二十三〕・〔舊唐書、一百七十九〕。

【崔善爲】290サイゼンヰ　唐、武城の人。謚は忠。曆數に精し。初、隋に仕へたが、唐の高祖の時、大將軍府司戶參軍、後、大理卿・司農卿に遷る。〔唐書、九十一〕・〔舊唐書、一百九十一〕。

【崔祖思】291サイソシ　南齊の人。景眞の從子。字は敬元。初、都昌令となり、高帝受禪するや黃門侍郞に除せらる。武帝の時、青冀二州の刺史に轉ず。〔南齊書、二十八〕・〔南史、四十七〕。

【崔素娥】292サイソガ　唐の人。韋洵美の妾。〔全唐詩、二十九〕。

【崔宗之】293サイソウシ　唐の人。日用の子。名は成輔。字を以て通ず。李白の詩酒の友。封、齊國公を襲ぎ、左司郞中侍御史となつたが、金陵に謫せらる。〔唐書、一百二十一〕・〔舊唐書、九十九〕・〔杜甫、飮中八仙歌〕宗之瀟灑美少年、擧レ觴白眼望二青天一、皎如三玉樹臨二風前一。

【崔宗泰】294サイソウタイ　清、遼東の人。松江郡丞から、守常州に遷る。才略あり、趙廣漢・張敞に比せらる。〔淸史稿、四百八十二〕・〔國朝先正事略、四十九〕・〔碑傳集、八十九〕。

【崔僧淵】295サイソウエン　後魏の人。道固の兄の子。文學あり、善く佛經を談ず。孝文の時、青州中正となり、征東大將軍として海戎を黃郭に破り、南青州刺史に至る。〔魏書、二十〕。

【崔台符】296サイタイフ　宋、蒲陰の人。字は平反。明法科に中る。王安石に阿附して大理卿に遷る。後、刑部侍郞を以て潞州の長官となる。〔宋史、三百五十五〕・〔宋史新編、一百二十三〕。

【崔大德】297サイダイトク　明、長治の人。字は子謙。嘉靖の進士。官は廊平府の長官。〔尙友錄、四〕。

【崔道固】298サイダウコ　後魏、東武城の人。字は季堅。官は宋の孝武の時、徐兗二州の刺史。後、魏に歸して平齊太守となる。〔魏書、二十〕・〔宋書、八十八〕・〔北史、四十四〕。

【崔道融】299サイダウユウ　五代閩、荊州の人。號は東甌散人。唐の時、徵辟せられて永嘉令となり、右補闕に累官す。唐末、朱梁に仕へず、地を避けて閩に入る。著に東浮集がある。〔全唐詩、二十六〕。

【崔達拏】300サイタツダ　北周の人。暹の子。樂安公主を妻とす。官は儀同三司。周に入つて御府大夫となる。大象中、鄴に使し、總管司馬となる。〔北齊書、三十〕。

【崔知溫】301サイチヲン　唐の人。知悌の弟。字は禮仁。謚は忠。官は靈州の司馬。後、蘭州刺史に轉じ、永隆の初、中書令に遷る。〔唐書、一百六〕・〔舊唐書、一百八十五〕。

【崔知悌】302サイチテイ　唐、鄢陵の人。官は中書侍郞。裴行儉を佐けて寇を平げ、功によつて戶部尙書となる。〔唐書、一百六〕。

【崔致遠】303サイチエン　新羅、沙梁部の人。字は孤雲、又、海雲、又、海夫。號は孤雲ともいふ。官は大山郡太守、後、富城郡太守。世亂を以て、身の不遇を傷み、仕進の意を絕つ。高麗の太平二年、文昌侯を贈らる。著に中山覆簣集・四六集・桂苑筆耕がある。〔三國史記〕・〔東史綱目〕。

【崔長謙】304サイチャウケン　後魏の人。休の弟の子。名は愍。字を以て通ず。天文律曆醫方卜相風角に精しく、能く鳥言を解す。官は散騎常侍。〔魏書、六十九〕。

【崔長文】305サイチャウブン　後魏の人。光の從祖弟。字は景翰。謚は貞。永安中、平州刺史に累遷したが、老を以て歸り、專ら佛經を攻究す。〔魏書、六十七〕。

【崔仲哲】306サイチュウテツ　後魏の人。秉の子。軍功を以て安平縣男を賜はる。〔魏書、四十九〕・〔北史、三十二〕。

【崔仲方】307サイチュウハウ　隋の人。猷の子。字は不齊。官は文帝の時、虢州刺史。上書して陳を取る策を獻じ、行軍總管として陳を討ち、會州總管に轉じ、羌を討つて悉く諸部を平げ、信都太守に拜せらる。〔隋書、六十〕・〔北史、三十二〕。

【崔忠成】308サイチュウセイ　朝鮮李朝、完山の人。字は弼卿。號は山堂書客。金宏弼の門人。遺稿若干卷がある。〔人物考〕。

【崔重文】309サイヂュウブン　明の妓女。小字は媚兒。室に幻影閣あり。著に別黃奐紀詩八首がある。〔明詩綜、九十八〕。

【崔呈秀】310サイテイシウ　明、薊州の人。萬曆の進士。魏忠賢に走つて其の腹心となり、閹黨の五虎(**1**-**257**··324)の首魁となる。後、兵部尙書兼左都御史に累遷して兵權を握り、憲法を總べ、勢威、朝を傾けた。莊烈帝の時、不軌の心ありと斷ぜられ、逮治せられんとするや、自ら縊死す。〔明史、三百六〕・〔萬斯同明史、四百二〕・〔明史稿、二百八十七〕。

【崔廷勳】311サイテイクン　五代、晉の人。もと河內の人。契丹、汴に入るや、之を防守して河陽節度使となる。〔舊五代史、九十八〕。

【崔廷奎】312サイテイケイ　明、番禺の人。字は國信。嘉靖の進士。官は廣東右僉都御史。〔廣東通志〕。

【崔肇師】313サイテウシ　北齊の人。亮の孫。官は天平の初、通直侍郞、後、中書侍郞に遷り、禪位の儀禮を參定する功を以て襄城縣男に封ぜらる。〔北齊書、二十三〕。

【崔東壁】314サイトウヘキ　崔述(98)を見よ。

【〔崔東壁遺書〕】315サイトウヘキヰショ　清、崔述撰。歿後、門

人陳履和の合刻したもの。其の研究は精詳確實を以てあらはる。內容は考信錄提要二卷・補上古考信錄二卷（以上前錄）・唐虞考信錄四卷・夏考信錄二卷・商考信錄二卷・豐鎬考信錄八卷・洙泗考信錄四卷（以上正錄）・豐鎬考信別錄三卷・洙泗考信餘錄三卷・孟子事實錄二卷・考古續說二卷・附錄二卷（以上後錄）・王政三大典考三卷・讀風偶識四卷・尙書辨僞二卷・論語餘說一卷（以上翼錄）易卦圖說一卷・五服異同彙考三卷・無聞集四卷・讀經餘論二卷・遺經樓文稿一卷。此の書は、我が那珂通世博士によつて表章刊行せられて、世に盛行するに至つた。崔述(98)を見よ。

〔崔東壁年譜〕316（サイトウヘキネンプ）　書名。民國、劉汝霖撰。

【崔敦詩】317（サイトンシ）　宋の人。敦禮の弟。字は大雅。紹興の進士。官は侍講直學士院。性、謹直。著に文集・制稿・奏議・通鑑要覽・制海・監韻がある。〔宋史翼、二十八〕・〔宋中興學士院題名錄〕・〔南宋館閣錄、八〕・〔南宋館閣續錄、八〕。

【崔敦禮】318（サイトンレイ）　㊀唐、咸陽の人。字は安上。諡は昭。廬江の王瑗、執へて朝廷の事を問ふも敦禮屈せず、太宗之を壯とし、永徽中、中書令となす。〔唐書、一百六〕・〔舊唐書、八十一〕。㊁宋の人。涇の孫。弟、敦詩と與に同じく紹興の進士に登第す。溧陽の山水を愛し、田を賣つて居を築く。官は諸王宮大小學教授。著に芻言・宮教集がある。〔宋史翼、二十八〕・〔四庫提要、一百十七〕。

【崔伯謙】319（サイハクケン）　北齊の人。鑒の兄の孫。字は士遜。官は天保の初、濟北太守、後、銀青光祿大夫。〔北齊書、四十六〕・〔北史、三十二〕。

【崔泌之】320（サイヒシ）　明、鹿邑の人。字は機仲。天啓の進士。雄縣の長官。李自成の亂に敗れて自殺す。書室を卷石樓・碩果園といふ。〔明史、二百九十三〕。

【崔文榮】321（サイブンエイ）　明、海寧衞の人。武會試に擧げらる。崇禎中、盜を卻けて武昌參將となる。張獻忠が武昌を犯した際、之と戰つて死す。〔明史、二百九十四〕・〔萬斯同明史、三百八十〕・〔明史稿、二百七十五〕。

【崔文昇】322（サイブンシヨウ）　明の人。鄭貴妃の內侍。光宗の時、司隸秉筆となり、御藥房を掌つたが、莊烈帝卽位するや、斥けて孝陵淨軍となす。〔明史、三百五〕・〔萬斯同明史、三百 五〕・〔明史稿、二百八十四〕。

【崔文仲】323（サイブンチユウ）　南齊の人。祖思の一族。諡は襄。官は汝陰太守。封は建陽縣子。〔南齊書、二十八〕・〔南史、四十七〕。

【崔文度】324（サイブンド）　高麗の人。字は義民。號は春軒。諡は良敬。官は僉議參理。〔高麗史〕・〔益齋集〕。

【崔無詖】325（サイムヒ）　唐、博陵の人。諡は毅勇。玄宗の時、少府監となり、滎陽の守に遷り、安祿山と戰ひ、城陷つて死す。〔唐書、一百九十一〕・〔舊唐書、一百八十七下〕。

【崔鳴吉】326（サイメイキツ）　朝鮮李朝、全州の人。字は子謙。號は遲川。諡は文忠。官は左議政・領相。著に詩文集・經書記疑がある。〔人物考〕。

【崔與之】327（サイヨシ）　宋、增城の人。字は正子。號は菊坡。諡は淸獻。紹熙の進士。安撫淮東となり、滁阻山に因つて五砦を創設す。嘉熙中、觀文殿大學士となる。著に菊坡集がある。〔宋史、四百六〕・〔宋史新編、一百五十四〕・〔南宋書、五十〕・〔宋元學案、七十九〕。

【崔羅什】328（サイラジフ）　魏、淸河の人。その才藻を認められ、徵せられて州に至る時、長白山の西で亡靈と話をしたといふ。〔酉陽雜俎、冥蹟〕長白山西有二夫人墓一、魏孝昭之世、搜二揚天下才俊一、淸河崔羅什、弱冠有二令望一、被レ徵詣レ州、夜經二於此一、忽見二朱門粉壁、樓臺相望一、俄有二一青衣一、出語レ什曰、女郞須レ見二崔郞什一、悅然下レ馬入、兩重門內有二一青衣一、通レ問引前、什曰、行李之中、忽蒙二厚命一、素既不レ敍、無レ宜二深入一、青衣曰、女郞乃平陵劉府君之妻、侍中吳質之女、府君先行、故欲二相見一、什遂前入、就レ牀坐、其女在二戶東一立、與レ什敍二溫涼一、室內二一婢秉レ燭、呼二一婢一令下以二玉夾膝一置中什前上、什素有二才藻一、頗善二風詠一、雖レ疑二其非一レ人、亦愜心好也、女曰、比見二崔郞一息二駕庭樹一、嘉君吟嘯、故欲三一敍二玉顏一、什遂問曰、魏帝與二尊公書一、稱二尊公一爲二元城令一、然否、女曰、家君元城之日、妾生之歲、什乃與論二漢魏時事一、悉與二魏史一符合、言多不レ能二備載一、什曰、貴夫劉氏、願告二其名一、女曰、狂夫劉孔才之第二子、名瑤、字仲璋、比有レ罪被レ攝、乃去不レ返、什乃下レ牀辭出、女曰、從レ此十年、當二更相逢一、什遂以二玳瑁簪一留レ之、女以二指上玉環一贈レ什、什上レ馬行數十步、回顧乃一大冢、什屆二歷下一、以爲二不祥一、遂請レ僧爲レ齋、以レ環布施、天統末、什爲二王事一所レ牽、築二河於垣冢一、遂於二幕下一話二斯事於濟南奚叔布一、因下レ泣曰、今歲乃是十年、可二如何一也、作罷、什在二園中一食レ杏、唯云、報二女郞信一、俄卽去、食二一杏一、未レ盡而卒、什十二爲二郡功曹一、爲二州里推重一、及レ死無レ不二傷嘆一。

【崔利貞】329（サイリテイ）　新羅の人。曾て唐に往き太學に入りて學ぶ。〔東史綱目〕。

【崔立之】330（サイリツシ）　唐の人。字は斯立。貞元の進士。官は元和の初、藍田丞。邑庭に老槐四行あり、南牆に巨竹千庭あり、立之、日に松間に吟詠す。韓愈、藍田記を作る。〔唐詩紀事、四十三〕。

【崔良佐】331（サイリヤウサ）　唐の人。日用の從弟。湖州主簿に補せられたが母の喪を以て遂に仕へず。詩易書春秋を治め、演範忘象渾天等の論數十篇を撰す。門人諡して貞文孝父といふ。〔尙友錄、四〕。

【崔令欽】332（サイレイキン）　唐の人。著に教坊記がある。〔四庫提要、一百四十〕。

【崔靈恩】333（サイレイオン）　梁、東武城の人。篤學、五經を習ひ、尤も三禮三傳に精し。魏に仕へて太常博士となり、梁に歸して步兵校尉に遷り、國子博士を兼ね、桂州の刺史に至る。著に毛詩注・周禮集注・三禮義宗・左氏經傳義及び條例・公羊穀梁文句義など凡そ一百三十餘卷がある。〔梁書、四十八〕・〔南史、七十一〕。

【崔念陵妻】334（サイネンリヨウノツマ）　淸の人。許宜媖(**10－35298··255**)を見よ。

【崔李蘇杜】335（サイリソト）　唐代の四人の文章家、崔融・李嶠・蘇味道・杜審言の倂稱。〔唐書、杜審言傳〕少與二李嶠・崔融・蘇味道一爲二文章四友一、世號二崔李蘇杜一。

【崔子渡河操】336（サイシトカサウ）　琴曲の名。〔琴操〕崔子渡河操、閔子騫所レ作也、崔子早失レ母、後母常以二其死母名一呼レ之、不レ應、輒笞レ之、崔子乃以二渡河一爲レ辭、繫二石於腰一自沈而死。

【崕】8179

ガイ　崖(**4－8180**)に同じ。〔正字通〕崕、同レ崖。

【崖】8180

🈩ガイ　🈔ゲ　〔集韻〕宜佳切　佳　ㄧㄞˊ yai^2　ㄧㄚˊ ya^2

🈪ギ　〔集韻〕魚羈切　支

小篆

🈩㊀**がけ**。〔說文〕崖、高邊也、从レ屵圭聲。〔段注〕厓部曰、邊、行二垂崖一也。〔說文通訓定聲〕崖、崖與レ厓微別、厓之峻而高者崖也。㊁**みづぎは**。**きし**。水涯。水岸。涯(**7－17582**)に通ず。〔荀子、勸學〕淵生レ珠而崖不レ枯。〔注〕崖、岸也。〔莊子、秋水〕兩涘渚崖之閒。〔釋文〕崖、字又作レ涯。〔漢書、司馬相如傳上〕磐石振レ崖。〔注〕孟康曰、崖、廉也。〔補注〕廉、隅也、卽水涯也、崖、乃厓之異文、亦卽涯異字。㊂**おごる**。他と和合しない。〔宋史、張詠傳〕自號二乖崖一、以爲、乖則違レ衆、崖不レ利レ物。㊃**さかひ**。かぎり。〔淮南子、本經訓〕肆二畛崖之道一。〔注〕崖、垠也。㊄厓(**2－2930**)に同じ。〔集韻〕厓、山邊也、或作レ崖。🈔**がけ**。🈩の㊀に同じ。〔集韻〕崖、岸上也。

【崖異】1（ガイイ）　㊀きはだつて異なる。〔莊子、天地〕行不二崖異一之謂レ寬。㊁孤獨で世と交はらない。他と異なつて和合しない。〔宋史、呂祖謙傳〕祖謙學以二關洛一爲レ宗、云云、心平氣和、不レ立二崖異一、一時英偉卓犖之士、皆歸レ心焉。〔陸游、白鷗詩〕平生崖異每自笑、一接二俗人二三禊除。

【崖鹽】3（ガイエン）　鹽の一種。岩鹽(**4－7985··4**)に同じ。〔本草、食鹽〕集解、時珍曰、刮二取鹻土一、煎鍊而成、階成・鳳川所レ出、皆崖鹽也、生二于土崖之閒一、狀如二白礬一、亦名二生鹽一。

【崖屋】4（ガイヲク）　がけに建てた家。がけづくりの家。〔王安石、吳長文新得二顏公壞碑一詩〕荒壇壞冢朽崖屋、剝落風雨埋二煨塵一。

【崖下】5（ガイカ）　がけのした。〔宋史、竇舜卿傳〕射二

萬年州一、斃二于崖下一、遂拔レ之。

【崖階】6（ガイカイ） がけみちの登りだん。〔梁簡文帝神山寺碑銘〕石砌危橫、崖階斜豎。

【崖香】7（ガイカウ） 沈香の一種。〔本草、沈香〕集解、時珍曰、苑成大云、黎峒出者、名二土沈香一、或曰二崖香一、雖二薄如レ紙者一、入レ水亦沈。

【崖角】8（ガイカク） がけのかど。〔薩都剌、道中謾興詩〕曲棧鉤二崖角一、垂虹掛二嶺腰一。

【崖崿】9（ガイガク） がけ。きし。崿も崖。〔盧諶、時興詩〕登高眺二遐荒一、極望無二崖崿一。〔蕭穎士、蒙山作詩〕淸秋淨二氛靄一、崖崿隱レ天起。

【崖澗】10（ガイカン） 谷あひ。谷がは。澗は谷、又、谷川。〔宋史、折克行傳〕赴二崖澗一、死者如レ積。

【崖岸】11（ガイガン） ❶水のほとりの高い所。水のほとりのきり岸。〔詩、周南、汝墳、遵二彼汝墳一、疏〕李巡曰、墳、謂三崖岸狀如二墳墓一、名二大防一也。〔顏子家訓、名實〕咫尺之途、必顚二蹶於崖岸一。〔南史、康絢傳〕江淮多レ蛟、能乘二風雨一、決二壞崖岸一。❷きはだつて他と異なること。又、人と調和しないこと。へんくつ。〔北史、崔儦傳〕少與二范陽盧思道・隴西辛德源一、同レ志友善、云云、與二頓丘李若一、俱見レ稱レ重、時人語曰、京師灼灼、崔儦・李若、若每謂二其子一曰、盧思道・崔儦、杳然崖岸、吾所レ重也、汝其師レ之。〔韓愈、藍田縣丞廳壁記〕盡枿二去牙角一、一躡二故跡一、破二崖岸一而爲レ之。

【無二崖岸一】12（ガイガンナシ） 驕傲でないこと。〔書言故事、德量類〕不二高傲一曰レ無二崖岸一。

【崖崟】13（ガイギン） がけが高く險しい。又、けはしい山。〔湯顯祖、攬秀樓賦〕流粟羨二于沙礫一、籌策高二于崖崟一。

【崖窾】14（ガイクワン） がけのほら穴。崖穴。〔韓愈、遊二青龍寺一贈二崔大補闕一詩〕南山逼レ冬轉淸瘦、刻二畫圭角一出二崖窾一。

【崖嶠】15（ガイケウ） がけに通ずる山路。嶠は山徑。〔岑參、寄二青城龍溪奐道人一詩〕雲開露二崖嶠一、百里見二石稜一。〔蘇軾、仙跡巖詩〕根株互連絡、崖嶠爭呑吐。

【崖穴】16（ガイケツ） がけのほら穴。轉じて、深く隱れたものをいふ。〔後漢書、儒林傳論〕繁二其章條一、穿二求崖穴一、以合二一家之說一。〔徐陵、爲二陳武帝一作レ相時與二嶺南酋豪一書〕崖穴丘園、爭趨二金馬一。

【崖縣】17（ガイケン） 縣名。民國、置く。廣東省陵水縣の西。もとの崖州の地。海南島の西南隅で、近くに楡林港がある。

【崖檢】18（ガイケン） 行をひきしめる。實直なこと。〔宋書、朱齡石傳〕少好二武事一、頗輕佻、不レ治二崖檢一。〔唐書、韓琬傳〕喜交二酒徒一、落魄少二崖檢一。

【崖巘】19（ガイケン） けはしい峯。巘は、峻しい山。〔謝惠連、西陵遇レ風獻二康樂一詩〕浮氛晦二崖巘一、積素惑二源疇一。〔注〕向曰、巘、山之險。〔王起堯、見二姑射神人一賦〕阻二茲崖巘一、隔二彼岑崟一。

【崖口】21（ガイコウ） がけの入口。〔岑參、題二華嚴寺瓌公禪房一詩〕朝從二老僧一飯、昨日崖口宿。〔杜甫、奉二漢中王手札一詩〕淹薄俱二崖口一、東西異二日根一。

【崖公】22（ガイコウ） 天子をいふ。〔唐語林〕散樂呼二天子一爲二崖公一。

【崖谷】23（ガイコク） 深いたに。谷あひ。〔唐書、韋皐傳〕虜墜二死崖谷一不レ可レ計、多獲二牛馬鎧裝一。〔韓愈、送二高閑上人一序〕觀二於物一、見二山水崖谷、鳥獸蟲魚、艸木之花實、日月列星、風雨水火、雷霆霹靂、歌舞戰鬭、天地事物之變、可レ喜可レ愕、一寓二於書一。〔柳宗元、石渠記〕風搖二其顚一、韻動二崖谷一。〔宋史、折御卿傳〕人馬墜二崖谷一。

【崖根】24（ガイコン） がけのねもと。〔虞集、東皐賦〕訊二故老於岑隅一、索二履跡於崖根一。

【崖柴】25（ガイサイ） 犬の吠える聲。〔魏志、曹爽傳、注〕魏略曰、云云、于レ時謗書謂、臺中有二三狗一、二狗崖柴不レ可レ當、一狗憑レ默作二疽囊一、三狗謂二何・鄧・丁一也、默者、爽小字也、其意、言二三狗皆欲レ嚙レ人、而謐尤甚一也。

【崖山】26（ガイザン） 山の名。或は厓山に作り、又、厓門山ともいふ。廣東省新會縣の南、大海中にあり、奇石山と相對す。宋末、張世傑が帝昺を奉じて此の山を扼守し、元の將張弘範に敗られ、陸秀夫が帝を負ひ、海に赴いて死んだ。〔宋史、陸秀夫傳〕至元十六年二月、厓山破、秀夫走二衞王舟一、而世傑・劉義、各斷レ維去、秀夫度レ不レ可レ脫、乃杖レ劍驅二妻子一入レ海、卽負レ王赴レ海死、年四十四。〔元史、張弘範傳〕次二崖山一、宋軍千餘艘、碇二海中一。〔吳萊、南海山水人物古蹟記〕崖山、在二新會南一、山有二兩崖一對峙、海潮出入、宋紹興閒、衞王昺南遷、結二營崖山一。

【崖涘】27（ガイシ） きし。みづぎは。かぎり。又、岸の閒。涘は、きし、みづぎは。〔莊子、秋水〕今爾出二于崖涘一、觀二于大海一。〔枚乘、七發〕虹二洞兮蒼天一、極二慮乎崖涘一。

【崖趾】28（ガイシ） がけの下部。〔夏侯湛、江上泛歌〕縻蕪紛兮被二皐陸一、脩竹鬱兮翳二崖趾一。

【崖寺】29（ガイジ） がけに建てた寺。〔杜甫、法鏡寺詩〕神傷山行深、愁破崖寺古。

【崖州】30（ガイシウ） 州名。❶梁、置く。治は舍城。今の廣東省瓊山縣の東南。〔讀史方輿紀要、廣東、瓊州府、瓊山縣〕古崖州城、梁置二崖州一、乃珠崖郡、治二義倫縣一。❷宋、置き、尋いで珠崖軍とし、又、吉陽軍と改む。淸、直隸とし、感恩・昌化・陵水・萬の四縣を領す。民國、崖縣と改む。〔讀史方輿紀要、廣東、瓊州府〕崖州、漢珠崖郡地、宋改爲二崖州一、熙寧六年、改爲二朱崖軍一、紹興六年、軍廢、屬二瓊州一、十三年復置、改曰二吉陽軍一。〔淸史稿、地理志〕廣東、崖州直隸州、領二縣四一、感恩・昌化・陵水・萬。

【崖嶂】31（ガイシヤウ） ❶截り立つたやうに險しい山。角立つたけはしい山。〔馬治罨、畫溪詩〕積雨洗二崖嶂一、奔泉會二空曲一。❷角だつた險しい山のやうにやせて骨の立つたさま。〔杜甫、楊監又出二畫鷹十二扇一詩〕干戈少二暇日一、眞骨老二崖嶂一。

【崖城】32（ガイジヤウ） 鎭の名。甘肅省禮縣の北。元代、西戎に備へた處。旁に崖城河があり、附近の園圃の灌漑は皆之に由る。

【崖樹】33（ガイジユ） がけに生えた木。〔道潛、廬山雜興詩〕玲瓏辨二崖樹一、宛轉照二庭柯一。

【崖嶼】34（ガイシヨ） 岸と小島。〔吳筠、同二劉主簿承介一建昌江泛レ舟作詩〕崖嶼非二一狀一、差池過二目前一。

【崖穽】35（ガイセイ） がけにしかけたおとしあな。〔宋史、秦檜傳〕檜陰險如二崖穽一、深阻竟叵レ測。

【崖澨】36（ガイゼイ） みづぎし。水崖。〔潘岳、秋興賦〕泉涌二湍於石閒一兮、菊揚二芳乎崖澨一。〔注〕翰曰、澨、亦水崖也。

【崖峭】37（ガイセウ） ❶崖が高く聳えてゐる。峭は、けはしい。〔唐書、令狐綯傳〕高郵崖峭水狹。❷けはしい山。〔唐書、夏侯端傳〕閒道走二宜陽一、歷二崖峭榛莽一。

【崖椒】38（ガイセウ） 藥草の名。犬山椒(7－20234··17)の漢名。咳を止め、又、婦人の乳房の腫に効がある。〔本草、崖椒〕釋名、野椒、集解、時珍曰、此卽俗名二野椒一也、不二甚香一、而子灰色不レ黑無レ光、野人用炒二雞鴨一食。

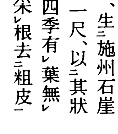
【崖石】39（ガイセキ） がけの石。〔杜甫、晚登二瀼上堂一詩〕故躋二瀼岸高一、頗免二崖石擁一。〔歐陽脩、峽州至喜亭記〕一失二毫釐一、與二崖石一遇、則靡潰漂沒、不レ見二蹤迹一。〔陸游、大雪歌〕拏レ空爭レ死作二雷吼一、震二動山林一裂二崖石一。

【崖泉】40（ガイセン） がけから湧き出る泉。〔崔顥、遊二天竺寺一詩〕崖泉爭噴薄、江岫相縈繞。

【崖塹】41（ガイセン ガイザン） がけとほり。〔陸游、姚平仲傳〕平時、年八十餘、紫髯鬱然、長數尺、面奕奕有レ光、行不レ擇二崖塹荊棘一、其速若二犇馬一。

【崖然】42（ガイゼン） きはだつて異なるさま。崖岸(11)・崖異(1)の❶に同じ。〔莊子、天道〕老子曰、而容崖然、而目衝然。〔疏〕汝莊二飾容貌一、夸二駭於人一、自爲二崖岸一、不レ能二舒適一。

【崖樓】43（ガイソウ） 草の名。いとすげ。〔本草、崖樓〕集解、頌曰、生二施州石崖上一、苗高一尺、以二其狀如レ樓、四季有レ葉無レ花、土人采レ根去二粗皮一入レ藥。



崖樓（三才圖會）

【崖側】44（ガイソク） がけのかたはら。〔夏侯湛、浮萍賦〕有三纏二薄于崖側一兮、或回二滯乎湍中一。

【崖隤】45（ガイタイ） がけがくづれる。〔宋玉、高唐賦〕磐石險峻、傾崎崖隤。〔注〕善曰、廣雅曰、隤、壞也。〔道德指歸論、治大國篇〕崖隤下顚。

【崖頂】46（ガイチヤウ） がけのいただき。崖顚。〔雲笈七籤〕聶師道與二道侶一、上二百丈山一、採二松脂一、夜宿二于崖頂松下一。

【崖轉】47（ガイテン） がけがめぐりうつる。くねくね曲つてゐる谷川などを行くにいふ。〔劉禹錫、遊二桃源一一百韻詩〕崖轉對二翠屛一、水窮留二畫鷁一。

【崖顚】48（ガイテン） がけのいただき。崖巓。崖頂。〔宋史、趙遹傳〕暮夜復遣二土丁一、負二繩梯一登二崖顚一。

【崖巓】49（ガイテン） がけのいただき。崖頂。〔錢起、過二鳴皐隱者一詩〕飛泉出二林下一、一逕過二崖巓一。〔朱熹、觀二天台山畫一詩〕翩然乘二孤鶴一、往至二蒼崖巓一。

【崖磴】50（ガイトウ） がけの坂みち。〔李適、答二宋十一崖口五渡見レ贈詩〕崿嶂傳二彩翠一、崖磴互欹缺。

【崖藤】51（ガイトウ） がけにからまる藤。〔馬祖常、北行詩〕巖樹花凝レ畫、崖藤蔓駐レ曛。

【崖背】52（ガイハイ） がけのうしろ。〔嚴武、題二巴州光福寺楠木一詩〕楚江長流對二楚寺一、楠木幽生赤崖背。

【崖柏】53（ガイハク） がけに生じた柏。〔司馬光、山頭春色詩〕翠色添二崖柏一、寒聲拆二澗冰一。

【崖拔】54（ガイバツ） がけが高くぬきでる。〔薛能、申湖詩〕雨霖舟色暗、崖拔木形枯。

【崖畔】55（ガイハン） きしべ。岸際。又、はて。際涯。〔南齊書、周顒傳〕縱而勿レ裁、將レ無二崖畔一。〔郭遐卿、贈二嵇康一詩〕譬二彼造化、抗無二崖畔一。

【崖濱】56（ガイヒン） きしべ。みぎは。又、はて。かぎり。〔韓愈、送二惠師一詩〕日攜二青雲客一、探レ勝窮二崖濱一。

【崖腹】57（ガイフク） がけの中ほど。〔荻生徂徠、峽中紀行〕土人云、崖腹有レ釜、神蛇穴焉。

【崖分】58（ガイブン） はつきりしたくぎり。〔唐書、劉幽求傳〕幽求輕肆不レ恭、失二大肥體一、乖二崖分之節一、翌日貶二睦州刺史一。

【崖壁】59（ガイヘキ） きりたてたやうな岸。きりぎし。〔杜甫、鄭典設自二施州一歸詩〕孟冬方二首路一、強飯取二崖壁一。〔始興記〕崖壁千仞、猿狖不レ能レ攀。

【崖壁斗絕】60（ガイヘキトゼツ） 崖壁の角立つて突き出たさま。斗絕(**5－13489**··77)を見よ。

【崖浦】61（ガイホ） きし。みぎは。〔詩、大雅、江漢、淮夷來求、疏〕在二淮之崖浦一、而爲二東夷之行一者也。

【崖蜜】62（ガイミツ） 險しい崖に蜂の釀したみつ。石蜜。〔本草、蜂蜜〕集解、弘景曰、石蜜卽崖蜜也、在二高山巖石閒一作レ之色、青、味小酸。〔演繁露〕崖蜜者、蜂之釀蜜、卽峻崖懸壁、其窠不レ可二攀取一、人伺二其窠蜜成熟一、用二長杆一繫二木桶一、度レ可二相及一、則以レ杆刺レ窠、窠破蜜注二桶中一。〔南方草木狀、果類〕楊梅、云云、林邑記曰、林邑山楊梅、其大如二杯椀一、青時極酸、既紅味如二崖蜜一。

【崖門】63（ガイモン） 山名。❶廣東省中山縣の東南。崖口村の東。❷貴州省思南縣の西。〔名勝志〕兩山對峙、崖壁險峻、官道出二其中一、左曰二大崖門一、右曰二小崖門一、永勝・武勝二關、依レ崖而立、爲二郡之門戶一。

【崖溜】64（ガイリウ） がけから流れ落ちる水。〔江總、棲霞寺碑銘〕澗風長瀉、崖溜懸抽、花臺似レ雪、夏室疑レ秋。

【崖略】65（ガイリヤク） あらまし。おほよそ。大略。概略。〔莊子、知北遊〕夫道窅然難レ言哉、將三爲レ汝言二其崖略一。〔疏〕將下爲レ汝舉二其崖分粗略一言上レ之。〔唐書、郝處俊傳〕及レ長好レ學、嗜二漢書一、崖略暗誦。〔權德輿、中嶽宗元先生吳尊師集序〕今采二獲斯文一、以序二崖略一。

【崖稜】66（ガイリヨウ） がけのかど。〔江總、攝山棲霞寺碑〕山情率易、野製疏朴、崖稜峻絕、澗戶幽深。

【崖壘】67（ガイルイ） がけが重なり合ふ。〔魏書、李諧傳〕徑二黎陽之寇聚一、迫二崖壘之渢隆一。

【崖嶺】68（ガイレイ） がけのやうにきりたつた峰。〔水經、漸江水注〕天目山、山極高峻、崖嶺竦疊、西臨二峻澗一。

【崖壠】69（ガイロウ） がけのやうにきり立つたをか。〔劇談錄、華山龍移湫〕先レ是崖壠高亞、無二貯レ水之所一。

【崖薑草】70（ガイキヤウサウ） 草の名。ゆうれいたけ。ゆうれいさう。すゐしやうらん。ゆうれいばな。いちやくさう科の宿根草で、山地の樹陰に寄生し、夏、白色の花を開く。

【崖道人】71（ガイダウジン） 清、陳曼(**11－41698**··562)の號。

【臨レ崖勒レ馬】72（ガイニノゾミテウマヲロクス） 崖のところまで行つて、馬のたづなを抑へる。危險の地に至つて始めて用心すること。〔牧羊記傳奇〕莫二待レ臨レ崖勒レ馬、收レ韁晚、只恐船到二江心一補レ漏遲。

【⿰山臽】8181

カン
コン　〔集韻〕苦感切　感

あな。 坎(**3－4928**)に同じ。〔集韻〕坎、說文、陷也、或作レ⿰山臽。〔馬融、長笛賦〕⿰山臽窞巖復。〔注〕善曰、⿰山臽、卽坎也、良曰、⿰山臽窞巖復、山下深闇窟穴也。

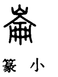
【崘】8182

ロン

或は崙(**4－8183**)に作る。〔集韻〕崘、或作レ崙。

【崙】8183

㊀ロン　〔集韻〕盧昆切　ㄌㄨㄣˊ　luen²　元
㊁リン　〔集韻〕龍春切　眞


小篆

㊀㊁❶崑崙は、山名。或は崘(**4－8182**)に作る。〔說文新附〕崙、崑崙也、从レ山侖聲。〔集韻〕崘、崑崙、山名、或書作レ崙。❷**山のさま。**崙⿰山囷(1)・崙菌(2)を見よ。❸通じて侖(**1－599**)に作る。〔正字通〕崑、漢書郊祀志、揚雄賦作二昆侖一、字異義通。

【崙⿰山囷】1（ロンキン） 山のけはしいさま。〔集韻〕崙、崙⿰山囷、山皃。

【崙菌】2（ロンキン） 山などのけはしいさま。〔王延壽、魯靈光殿賦〕連拳偃蹇、崙菌踡跜。〔注〕善曰、皆特起之貌、濟曰、皆屈曲高大、傾側峻險貌。

【崙仙】3（ロンセン） 清、錢振倫(**11－40563**··357)の字。

【崚】8184

リョウ　〔集韻〕閭承切　ㄌㄥˊ　lêng²　蒸

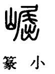
❶**山の高くかさなるさま。** 崚嶒。〔集韻〕崚、崚嶒、山皃。❷或は⿱山夌に作る。〔集韻〕崚、或書作レ⿱山夌。

【崚層】1（リヨウソウ） 高くかさなるさま。崚嶒。〔徐陵、太極殿銘序〕千櫨赫奕、萬栱崚層。

【崚嶒】2（リヨウソウ） 山の高くけはしく重なるさま。崚層。〔沈約、鍾山詩〕鬱律構二丹巘一、崚嶒起二青嶂一。〔注〕向曰、崚嶒、疊重貌。〔何遜、渡二連圻一詩〕懸崖抱二奇崛一、絕壁駕二崚嶒一。

【崛】8185

㊀クツ
グチ　〔集韻〕渠勿切　ㄐㄩㄝˊ　chüeh²　物
㊁グツ
グチ　〔集韻〕魚屈切　物


小篆

㊀❶**山がそばだつ。** 獨りぬきんでる。もと⿱山屈(**4－8529**)に作る。〔正字通〕崛、篆作レ⿱山屈。〔說文〕⿱山屈、山短而高也、从レ山屈聲。〔段注〕短高者、不レ長而高也、不レ長故从レ屈、屈者、無レ尾也、無レ尾之物則短、云云、省作レ崛。〔增韻〕崛、勃起曰二崛起一。〔揚雄、甘泉賦〕洪臺崛其特起兮。〔左思、蜀都賦〕崛巍巍以峨峨。〔注〕銑曰、崛、特起也。❷或は崫(**4－8186**)に作る。〔集韻〕崛、或書作レ崫。❸通じて屈(**4－7669**)に作る。〔說文通訓定聲〕屈、叚借爲レ崛。❹**あな。**いはや。堀(**3－5205**)に通ず。崛穴(5)を見よ。〔漢書、鄒陽傳〕士有三伏二死堀穴巖藪之中一耳。㊁**獨立のさま。**崛然。或は崫(**4－8186**)に作る。〔集韻〕崛、崛然、獨立皃、或書作レ崫。

【崛⿰山圍】1（クツヰ） 山名。山西省陽曲縣城の西北。山の崛⿰山圍寺は、唐の貞元中の建立。李克用父子題名の刻石がある。

【崛起】2（クツキ） 急におこり立つ。そばだつ。聳え立つ。屈起。〔增韻〕勃起曰二崛起一。〔揚雄、劇秦美新〕獨秦崛二起西戎邠荒岐雍之疆一。〔謝朓、侍二宴華光殿曲水一奉レ敕爲二皇太子一作詩〕青磴崛起、丹樓閒出。

【崛崎】3（クツキ） 山の險しいさま。崎は險。〔司馬相如、上林賦〕巖陁甗錡、摧崣崛崎。〔注〕善曰、崛崎、斗絕也、向曰、崛崎、嶮貌。

【崛詭】4（クツキ） ことなりめづらしいこと。奇異。〔左思、吳都賦〕倜儻之極異、崛詭之殊事。〔注〕劉曰、倜儻・崛詭、皆謂二非常詭異之事一、翰曰、崛詭、奇異也。

【崛穴】5（クツケツ） いはや。あな。崛は窟。堀穴(**3－5205**··7)に同じ。〔新序、雜事三〕士有三伏二死崛穴巖藪之中一耳。

【崛出】6（クツシユツ） 起り出る。崛起。〔蔡邕、玄文先生李子材銘〕其後雄俊豪傑、往往崛出。

【崛然】7（クツゼン） 山の獨り聳えるさま。轉じて、起り

立つさま。〔集韻〕崛、崛然、獨立皃。

【崛岉】8 クツ ブツ 高く聳えるさま。〔王延壽、魯靈光殿賦〕屹山峙以紆鬱、隆崛㆓岉乎青雲㆒。〔注〕良曰、隆崛岉、極高貌。

【崛礨】9 クツ ライ 平かでないさま。〔史記、司馬相如傳〕洞㆓出鬼谷之崛礨嵬磈㆒。〔注〕正義曰、張云、崛礨・嵬磈、不㆑平也。

【崛峍】10 クツ ロツ 高く秀でて險しいさま。〔歐陽脩、釋祕演詩集序〕其巔崖崛峍。

【崫】8186 ㊀クツ クチ 〔集韻〕九勿切 物 ㊁コツ コチ 〔集韻〕苦骨切 月

㊀山のさま。〔集韻〕崫、山皃。㊁山のさま。又、はげ山。⿰山窟(4－8509)に同じ。〔集韻〕⿰山窟、⿰山窟屼、山皃、一曰、童山、或作㆑崫。

【崜】8187 ㊀タ 〔集韻〕都戈切 歌 ㊁タ 〔集韻〕都果切 哿

㊀小さい山のさま。〔集韻〕崜、小山皃。㊁山のさま。或は⿰山朶(4－8044)に作る。〔集韻〕崜、山皃、或从㆑朶。

【崰】8188 シ 〔集韻〕莊持切 支

ひとしくないさま。ふぞろひなさま。崰嶷。〔集韻〕崰、崰嶷、不㆑齊皃。〔王延壽、魯靈光殿賦〕岑崟崰嶷、駢龍從兮。〔注〕翰曰、此上並高大參差不㆑齊皃、善曰、皆高大峻嶮之皃。

【峊】8189 タイ 堆(3－5211)に同じ。〔集韻〕堆、或作㆑峊。

【⿱山弥】8190 ビ ⿰山彌(4－8620)に同じ。〔集韻〕⿰山彌、或作㆑⿱山弥、俗省。

【⿸厂出】8191 カフ コフ 〔玉篇〕口合切 合

山のほらあな。峇(4－8020)に同じ。〔玉篇〕峇、山窟也、⿸厂出、同上。

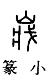
【⿱山兒】8192 ゲツ ⿰山兒(4－8193)・嵲(4－8367)・⿱山自(4－7845)に同じ。〔集韻〕⿰山兒、亦書作㆑⿱山兒。〔集韻〕嵲、亦書作㆑⿱山兒。〔集韻〕⿱山自、或作㆑⿱山兒。

【⿰山兒】8193 ゲツ ゲチ 〔集韻〕倪結切 屑

山の高いさま。嵲(4－8367)・⿱山自(4－7845)に同じ。〔集韻〕嵲、嵽嵲、山高、或作㆑⿰山兒。〔集韻〕⿱山自、說文、危高也、書作㆑⿰山兒。

【⿰山兒屼】1 ゲツ ゴツ 安らかでないさま。臲卼。〔李白、梁甫吟詩〕風雲感會起㆓屠釣㆒、大人⿰山兒屼當㆑安㆑之。

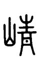
【⿱山戕】8194 シャウ ザウ 〔集韻〕慈良切 陽


小篆

けはしい。〔說文〕⿱山戕、山陵也、从㆑山戕聲。

【⿰山咅】8195 バイ 培(3－5195)に同じ。〔集韻〕培、或作㆑⿰山咅。

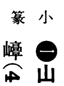
【崝】8196 サウ ジャウ 〔集韻〕鋤耕切 庚


小篆

❶けはしく高いさま。〔說文〕崝、崝嶸、山皃也、从㆑山青聲。❷たかい。〔玉篇〕崝、崝嶸、高峻皃。〔方言、六〕崝、高也。〔注〕嶕・嶢・崝・岧、高峻之皃也。❸ふかい。〔廣雅、釋詁三〕崝、深也。❹或は崢(4－8203)・嶒(4－8458)・⿱山爭(4－8204)に作る。〔集韻〕崝、或作㆓崢・嶒㆒、亦書作㆑⿱山爭。

【崝嶸】1 サウ クワウ ❶崢嶸。山の高く聳えたさま。〔孫綽、遊㆓天台山㆒賦〕陟㆓峭崿之崢嶸㆒。〔注〕善曰、字林曰、崢嶸、山高貌。❷深いさま。〔宋玉、高唐賦〕俯視㆓崝嶸㆒、窐寥窈冥、不㆑見㆓其底㆒。〔注〕善曰、廣雅曰、崝嶸、深直貌。〔張協、七命〕其居也、崢嶸幽藹、蕭瑟虛玄。〔注〕向曰、崢嶸・幽藹、並深貌。

【崞】8197 クワク 〔集韻〕光鑊切 藥 ㄍㄨㄛ kuo¹


小篆

❶山名。山西省崞縣の西南。もと⿰山𩫖(4－8596)に作る。〔正字通〕崞、篆作㆑⿰山𩫖。〔說文〕⿰山𩫖、山也、在㆓雁門㆒、从㆑山𩫖聲。❷或は⿰阝享(11－41677)に作る。〔集韻〕⿰山𩫖、隸作㆑崞、或作㆑⿰阝享。

【崞縣】1 クワク ケン 縣名。❶漢、置き、後漢、廢し、晉、復置く。故城は山西省渾源縣の西。〔漢書、地理志下〕鴈門郡、縣十四、崞。〔讀史方輿紀要、山西、太原府、代州、崞縣〕崞縣故城、在㆓縣西三十五里㆒、漢縣治㆑此、晉因㆑之、後魏改㆓崞山縣㆒。❷隋、置く。後魏の石城縣。今、山西省代縣の南。滹沱河の西。〔讀史方輿紀要、山西、太原府、代州〕崞縣、漢崞縣地、隋開皇十年、改㆓石城㆒曰㆓平寇㆒、屬㆓代州㆒、大業初、復曰㆓崞縣㆒。〔清史稿、地理志〕山西、代州直隸州、縣二、崞。

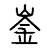
【崞山】2 クワク ザン ❶山名。㋑山西省渾源縣の西北。漢の崞縣は此の山によつて名づけたもの。俗に橫山といふ。〔魏書、世祖紀下〕葬㆓惠太后於崞山㆒。㋺山西省崞縣の西南。〔清一統志〕今崞縣西南亦有㆓崞山㆒、連峰疊嶂、森森翠色。❷縣名。後魏、置く。漢の崞縣。今、山西省渾源縣の西。崞縣を見よ。

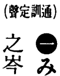
【崞川水】3 クワク セン スイ 川の名。山西省渾源縣の東北より出で、西、應縣の西安鎭に至り、北に流れて桑乾河に入る。〔水經、灅水注〕崞川水注㆑之、水南出㆓崞縣故城南㆒。

【⿰山宛】8198 エン ヲン 〔集韻〕於袁切 元

山名。〔集韻〕⿰山宛、山名。

【崟】8199 ギン ゴン 〔集韻〕魚音切 侵 ㄧㄣˊ yin²


小篆


小篆（聲定訓通）

❶みね。〔說文〕崟、山之岑崟也、从㆑山金聲。❷高く大きいさま。〔廣雅、釋詁四〕崟、高也。〔揚雄、羽獵賦〕玉石嶜崟。〔注〕向曰、嶜崟、高大皃。❸けはしいさま。〔五音集韻〕崟、高險貌。〔張衡、思玄賦〕慕㆓歷阪之嶔崟㆒。❹おほいさま。崟崟の❷を見よ。❺或は碒(8－24292)・巖(4－8649)・嵒(4－8294)・岑(4－7937)・唫(2－3723)・吟(2－2903)に作る。〔集韻〕崟、或从㆑石、亦作㆓巖・嵒・岑・唫・吟㆒。❻或は崯・岭(4－7937)に作る。〔集韻〕崟、或書作㆓崯・岭㆒。

名乘 タカ。

【崟岌】1 ギン キフ 山の高いさま。〔李白、鳴皐歌送㆓岑徵君㆒〕玄猿綠羆、舔舕崟岌。

【崟崟】2 ギン ギン ❶高くけはしいさま。〔楚辭、淮南小山王、招隱士〕狀貌崟崟兮峨峨、淒淒兮漇漇。〔注〕向曰、崟崟・峨峨、頭角高貌。❷數の多いさま。〔楚辭、王逸、九思、憫上〕叢林兮崟崟、株榛兮岳岳。〔注〕崟崟、衆饒貌。

【崟廞】3 ギン ギン 山のがけのさま。〔廣韻〕廞、崟廞、山崖狀也。

【崠】8200 〘一〙トウ ツ 〔集韻〕都籠切 〘東〙 〘二〙トウ ツ 〔集韻〕多貢切 〘送〙

〘一〙㊀**山名**。〔集韻〕崠、山名。㊁**山の脊**。〔集韻〕崠、一曰、山脊。〘二〙**山の脊**。〔集韻〕崠、山脊。

【崡】8201 カン ゲン 〔集韻〕胡讒切 ㄏㄢˊ han² 〘咸〙

山名。〔集韻〕崡、山名、在㆓肴陵㆒。

【寘】8202 シヨク ジキ 〔集韻〕實側切 〘職〙

山のけはしいさま。寘凝。或は宊(**4－7917**)に作る。〔集韻〕寘、寘凝、山峻皃、或省。

【崢】8203 サウ ジヤウ 〔集韻〕鋤耕切 ㄓㄥ ch'êng¹ 〘庚〙

㊀**山の高くけはしいさま**。〔字彙〕崢、山峻貌。〔孟郊、感興詩〕吾欲㆑載㆓車馬㆒、太行路崢嶸。㊁**高い嶺**。〔韓愈・孟郊、城南聯句〕高言軋㆓霄崢㆒。〔注〕山之切㆑雲者。㊂崝(**4－8196**)に同じ。〔集韻〕崝、說文、嶸也、或作㆑崢。㊃**寒さのきびしいさま**。崢嶸(2)の㊃を見よ。㊄**積み重なつて高くなる**。崢嶸(2)の㊄㊅を見よ。

【崢丘】1 サウキウ 地名。〔管子、山國軌〕周岐山至㆓於崢丘之西塞丘㆒。

【崢嶸】2 サウクワウ 崝嶸。崢嶒。㊀高く險しいさま。〔班固、西都賦〕金石崢嶸。〔注〕善曰、郭璞方言注曰、崢嶸、高峻也。㊁深遠で險しいさま。〔楚辭、遠遊〕下崢嶸而無㆑地兮。〔注〕崢嶸、深遠貌也。〔漢書、西域傳上〕臨㆓崢嶸不測之深㆒。〔注〕師古曰、崢嶸、深險之貌也。〔左思、蜀都賦〕經㆓三峽之崢嶸㆒。〔注〕善曰、楚辭曰、下崢嶸兮無㆑地。㊂おく深いさま。奧深く暗いさま。〔揚雄、甘泉賦〕似㆓紫宮之崢嶸㆒。〔注〕善曰、崢嶸、深貌也。〔後漢書、馮衍傳下〕瞰㆓太行之嵯峨㆒兮、觀㆓壺口之崢嶸㆒。〔注〕崢嶸、深邃貌。〔鮑照、蕪城賦〕崩榛塞㆑路、崢嶸古馗。〔注〕善曰、廣雅曰、崢嶸、深冥也、翰曰、崢嶸、深暗貌。㊃寒さのきびしいさま。〔羅隱、雪霽詩〕南山雪乍晴、寒氣轉崢嶸。㊄歲月の積み重なつたこと。歲の暮れかかつたこと。〔鮑照、舞鶴賦〕歲崢嶸而愁㆑暮、心惆悵而哀㆑離。〔注〕善曰、廣雅曰、崢嶸、高皃、歲之將㆑盡、猶㆓物之高㆒、銑曰、崢嶸、零悴皃。〔高啓、客舍夜坐詩〕淸世莫㆑嗟人寂寞、中年漸怯歲崢嶸。㊅歲末の多事なるにいふ。〔書言故事、除歲〕言㆓歲除多事㆒、曰㆓歲事崢嶸㆒。〔注〕崢嶸、山峻貌、言㆔歲將㆑暮、猶㆓物之高㆒也。㊆才の秀で勝れたさま。〔杜荀鶴、送㆔李鐔遊㆓新安㆒詩〕邯鄲李鐔才崢嶸、酒狂詩逸難㆑干㆑名。㊇山名。浙江省衢城縣の西北隅。〔讀史方輿紀要、浙江、衢州府、西安縣〕崢嶸山、府治西北、三國吳遣㆓征虜將軍鄭平㆒、以㆓千人㆒守㆓崢嶸鎭㆒、卽此。㊈洲の名。湖北省鄂城縣の西北。黃岡縣の界。一に得勝洲と名づく。晉の劉毅が桓玄の軍を敗つたところ。〔水經、江水注〕北對㆓崢嶸洲㆒、冠軍將軍劉毅破㆓桓玄于此洲㆒。〔淸一統志〕崢嶸洲、在㆓黃岡縣㆒、西接㆓武昌縣界㆒。

【崢嶒】3 サウクワウ ㊀高くけはしいさま。崢嶸の㊀に同じ。〔漢白石神君碑〕陟㆓景山㆒、登㆓崢嶒㆒。㊁おく深いさま。崢嶸の㊂に同じ。〔漢書、揚雄傳上〕其廖廓兮、似㆓紫宮之崢嶒㆒。〔注〕師古曰、崢嶒、深邃也。〔補注〕文選、嶒作㆑嶸、通用字。

【崢嵤】4 サウケイ サウクワウ おく深いさま。崢嶸の㊂に同じ。〔廣雅、釋訓〕崢嵤、深冥也。

【崢】8204 サウ

崢(**4－8203**)に同じ。〔集韻〕崢、亦書作㆑崢。

【崣】8205 ヰ 〔集韻〕鄔毀切 〘紙〙

㊀**山の高いさま**。摧崣。〔集韻〕崣、摧崣、山高皃。〔司馬相如、上林賦〕摧崣崛起。㊁一に嵔(**4－8293**)に作る。〔集韻〕崣、亦作㆑嵔。

【崣移】1 ヰイ 山下の屈曲すること。崣は、嵔で、高山の下が盤曲する貌、移は山。まがりくねつたさま。委蛇。〔枚乘、梁王菟園賦〕巷路崣移。〔注〕卽委蛇字、徑之曲折也。

【崤】8206 〘一〙カウ ゲウ 〔集韻〕何交切 ㄧㄠˊ yao² 〘肴〙 〘二〙カウ ゴウ 〔集韻〕乎刀切 〘豪〙

〘一〙㊀**山名**。崤山(6)を見よ。〔集韻〕崤、山名、在㆓弘農㆒。㊁或は郩(**11－39463**)に作る。〔集韻〕崤、亦从㆑邑。㊂通じて殽(**6－16647**)に作る。〔集韻〕崤、通作㆑殽。〔左氏、僖、三十二〕晉人禦㆑師必於㆑殽、釋文〕殽、本又作㆑崤。㊃肴(**9－29322**)に通ず。〔正字通〕崤、省作㆑肴。〘二〙嵺(**4－8546**)に同じ。〔集韻〕嵺、山名、在㆓弘農㆒、或作㆑崤。

【崤函】1 カウカン 崤山(6)と函谷關(**2－1826**‥25)の㊀とをいふ。共に河南省に在る險要の地。殽函(**6－16647**‥2)に同じ。〔左思、魏都賦〕伊洛榛曠、崤函荒蕪。〔江淹、雜體、王侍中懷德詩〕崤函復丘墟、冀闕緬縱橫。〔注〕善曰、崤函、崤谷及函谷也。

【崤函之固】2 カウカンノカタメ 崤山と函谷關との險要。〔賈誼、過秦論〕秦孝公據㆓崤函之固㆒、擁㆓雍州之地㆒。〔注〕濟曰、崤山、秦塞也、函谷、關名。

【崤縣】3 カウケン 縣名。㊀後魏、置く。今の河南省汲縣の治。㊁後魏、置き、名を崤山にとる。故治は河南省洛寧縣の北。〔讀史方輿紀要、河南、河南府、永寧縣〕崤縣城、在㆓縣北五十里㆒、後魏太和十一年、置㆑縣屬㆓恆農郡㆒、以㆓三崤山㆒而名。

【崤谷】4 カウコク ㊀函谷關の東端の崤山の谷をいふ。〔左氏、僖、三十二〕召㆓孟明・西乞・白乙㆒、使㆑出㆓師於東門之外㆒、蹇叔哭㆑之曰、孟子、吾見㆓師之出㆒、而不㆑見㆓其入㆒也、公使㆑謂㆑之曰、爾何知、中壽、爾墓之木拱矣、蹇叔之子與㆑師、哭而送㆑之曰、晉人禦㆑師必於㆑殽、殽有㆓二陵㆒焉、其南陵、夏后皐之墓也、其北陵、文王之所㆑辟㆓風雨㆒也。〔注〕殽、在㆓弘農澠池縣西㆒云云、此道在㆓二殽之閒南谷中㆒、谷深委曲、兩山相嶔、故可㆔以辟㆓風雨㆒、古道由㆑此、魏武帝西討㆓漢中㆒、惡㆓其險㆒、而更開㆓北山高道㆒也。㊁陳倉の大散關をいふ。大散(**3－5831**‥905)を見よ。〔後漢書、虞詡傳〕羌乃率㆓衆數千㆒、遮㆓詡於陳倉崤谷㆒。

【崤塞】5 カウサイ 崤山の險要をいふ。〔韓非子、存韓〕韓與㆑荊有㆑謀、諸侯應㆑之、則秦必復見㆓崤塞之患㆒。

【崤山】6 カウザン 山名。河南省洛寧縣の西北。西は陝縣の界、東は澠池縣の界。崤に二あるを以て二崤と稱し、亦、三崤と稱す。崤陵。〔春秋、僖、三十三〕晉人及㆓姜戎㆒敗㆓秦師于崤㆒。〔元和志〕三崤山、又名㆓嶔崟山㆒、自㆓東崤㆒至㆓西崤㆒三十五里、東崤長坂數里、峻阜絕澗、車不㆑得㆑方㆑軌、西崤全是石坂十二里、險絕不㆑異㆓東崤㆒。〔讀史方輿紀要、河南、河南府、永寧縣〕崤山、在㆓縣北六十里㆒、亦曰㆓三崤山㆒、崤水出焉、北注㆓于河㆒。

【崤水】7 カウスイ 川の名。源は河南省盤崤山。〔水經、河水注〕河之右側、崤水注㆑之、水出㆓河南盤崤山㆒西北流、水上有㆑梁、俗謂㆓之鴨橋㆒也、歷㆑澗東北流與㆓石崤水㆒合。

【崤底】8 カウテイ 崤山のさか。〔後漢書、光武紀上〕馮異與㆓赤眉㆒戰㆓於崤底㆒、大破㆑之。〔注〕底、阪也。

【崤潼】9 カウドウ 崤山と潼水。〔沈約、齊故安陸昭王碑文〕北指㆓崤潼㆒、平塗不㆑過㆓七百㆒。〔注〕善曰、崤、二崤也、雍州圖經曰、潼水、華陰縣界、銑曰、崤、山名、潼、水名也。

【崤陵】10 カウリヨウ 崤山をいふ。〔左氏、僖、三十二〕崤有㆓二陵㆒焉。〔楊烱、唐上騎都尉高君神道碑〕敗㆓楚師于柏擧㆒、未㆑足㆓權衡㆒、執㆓秦俘于殽陵㆒、無㆑階㆓等級㆒。

【崥】8207 ［一］ヘイ バイ 〔集韻〕駢迷切 ［齊］ ［二］ヒ 〔集韻〕補弭切 ［紙］

［一］山が次第に平かになるさま。崥崹を見よ。［二］㊀ふもと。山足。〔集韻〕崥、峽崥、山足也。〔太玄經、增〕崔嵬不㆑崩、賴㆓彼峽崥㆒。㊁石と石との間。〔集韻〕崥、一曰、兩石間。

【崥崹】1（ヘイテイ） 次第に平かになるさま。〔集韻〕崥、崥崹、山皃。〔集韻〕崹、崥崹、山形漸平皃。〔張協、七命〕金岸崥崹。〔注〕善曰、崥崹、漸平貌也。

【崦】8208 ［一］エン 〔集韻〕衣廉切 ［鹽］ ㄧㄢ yen¹ ［二］エン 〔集韻〕衣檢切 ［琰］

［一］［二］㊀山名。崦嵫(2)を見よ。〔集韻〕崦、山名、山海經、鳥鼠同穴、山西南曰㆓崦嵫㆒。㊁或は崄(4－8254)・嶖(4－8474)に作る。〔集韻〕崦、或从㆑弇、从㆑翕。

【崦山】1（エンザン） 山名。崦嵫に同じ。〔江淹、雜體、郭弘農璞遊仙詩〕崦山多㆓靈草㆒、海濱饒㆓奇石㆒。

【崦嵫】2（エンシ） 山名。㊀古、日の入る所と考へられた山。又、弇茲に作る。〔集韻〕崦、崦嵫、山名、日所㆑入處。〔廣韻〕崦、崦嵫、山下有㆓虞泉㆒、日所㆑入。〔山海經、西山經〕又西二百二十里曰㆓鳥鼠同穴山㆒、西南三百六十里曰㆓崦嵫之山㆒。〔楚辭、離騷〕吾令㆓羲和弭㆑節兮、襲㆓崦嵫㆒而勿㆑迫。〔注〕崦嵫、日所㆑入山也。㊁甘肅省天水縣の西。

【崦藍】3（エンラン） 清、方大猷(5－13620‥574)の號。

【崧】8209 シュウ シュ 慣スウ 〔集韻〕思融切 ［東］ ㄙㄨㄥ sung¹

㊀大きく高い山。〔爾雅、釋山〕山大而高、崧。㊁そばだつ。高いさま。〔篇海〕崧、竦也。〔詩、大雅、崧高〕崧高維嶽。〔傳〕崧、高貌。㊂中嶽。嵩山。〔篇海〕崧、中岳也。〔韓愈、送㆓侯參謀㆒詩〕三月崧少步、躑躅紅千層。〔注〕謂㆓嵩山少室㆒也。㊃嵩(4－8348)・崇(4－8152)に通ず。〔晉書音義、上〕崧、本亦作㆑嵩。〔說文、段注〕崇、崧・嵩二形、皆卽崇之異體。㊄姓。〔萬姓統譜〕崧見㆓姓苑㆒、史記有㆓崧極元子㆒。

【崧菴】1（スウアン） 宋、李處權(6－14459‥1468)の號。

【崧菴集】2（スウアンシフ） 書名。六卷。宋、李處權撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【崧廈】3（スウカ） 鎭の名。浙江省上虞縣の西北。川を内にし海を外にせる形勝の地、兩替業が多い。

【崧高】4（スウカウ） ㊀山の大きく高いさま。嵩高。崧峻。〔詩、大雅、崧高〕崧高維嶽、駿極㆓于天㆒。〔傳〕崧、高貌、山大而高曰㆑崧。㊁詩經、大雅、蕩之什の篇名。尹吉甫が周の宣王を讚へた詩。〔詩、大雅、崧高序〕崧高、尹吉甫美㆓宣王㆒也、天下復平、能建㆑國親㆓諸侯㆒、襃㆓賞申伯㆒焉。㊂清、張振岳(4－9812‥1215)の字。

【崧岳】5（スウガク） ㊀崧山(7)に同じ。㊁鳥山宗成の號。鳥山崧岳(12－46634‥68)を見よ。

【崧畦】6（スウケイ） 明、楊文卿(6－15112‥775)の號。

【崧山】7（スウザン） 五嶽の一。嵩山(4－8348‥24)の㊀をいふ。崧岳。中嶽。〔爾雅、釋山〕山大而高、崧。〔注〕今中嶽崧高山、蓋依㆑此名。〔疏〕李巡曰、高大曰㆑崧、此則山高大者、自名㆑崧、本不㆑指㆓中嶽㆒。

【崧峻】8（スウシュン） 山のけはしいさま。峭峻。

【崧瞻】9（スウセン） 清、嚴遂成(2－4589‥295)の字。

【崧甫】10（スウホ） 清、黃永年(12－47926‥994)の號。

【崧老】11（スウラウ） 宋、許翰(10－35298‥37)の字。

【崧生嶽降】12（スウセイガクカウ） 嵩山が其の神靈の氣を降して、周の重臣、甫侯と申伯とを生んだといふ故事。天賦の厚いことをいふ。嵩嶽降㆑神(4－8348‥11)に同じ。〔詩、大雅、崧高〕崧高維嶽、駿極㆓于天㆒、唯嶽降㆑神、生㆓甫及申㆒。〔傳〕崧、高貌、山大而高曰㆑崧、嶽、四嶽也、云云、嶽降㆓神靈和氣㆒、以生㆓申甫之大功㆒。〔疏〕大嶽降㆓其神靈和氣㆒、以生㆓此甫國之侯及申國之伯㆒、使㆔其國則歷代常存、子孫則多有㆓賢智㆒也。

【崨】8210 セフ ゼフ 〔集韻〕疾葉切 ［葉］

㊀山のさま。嶫(4－8473)に同じ。〔集韻〕嶫、山皃、或作㆑崨。㊁山の高いさま。〔正字通〕崨、山高貌。㊂山の連なるさま。崨磼(2)を見よ。

【崨嶫】1（セフゲフ） 山の高いさま。〔張衡、西京賦〕嵯峨崨嶫、罔㆑識㆑所㆑則。〔注〕翰曰、言㆓形狀高峻、不㆑能㆑識㆓其法則㆒。〔晉書、涼武昭王傳〕崇崖崨嶫、重險萬尋。

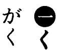
【崨磼】2（セフレフ） 山の連なるさま。〔廣韻〕崨、崨磼、山連延也。

【崏】8211 ビン

岷(4－8007)に同じ。〔正字通〕崏、同㆑岷。

【崩】8212 ホウ 〔集韻〕悲朋切 ［蒸］ ㄅㄥ pêng¹

小篆


古文

㊀くづれる。㋑山崖などがくづれる。もと崩(4－8213)に作る。〔正字通〕崩、篆作㆑崩。〔說文〕崩、山壞也、从㆑山朋聲。〔左氏、成、五〕梁山崩、云云、山有㆓朽壤㆒而崩。〔史記、河渠書〕岸善崩。㋺たふれる。〔廣雅、釋詁四〕崩、僵也。㋩こはれる。やぶれる。すたれる。〔詩、魯頌、閟宮〕不㆑虧不㆑崩。〔論語、陽貨〕三年不㆑爲㆑樂、樂必崩。〔皇疏〕崩、是墜失之稱也。㋥ゆるむ。〔漢書、五行志下之上〕崩、弛崩也。㋭ちる。はなれる。〔論語、季氏〕邦分崩離析。〔集解〕孔安國曰、欲㆑去曰㆑崩。〔呂覽、愼大〕國人大崩。〔注〕崩、壞散。㋬やむ。なやむ。〔詩、小雅、無羊〕不㆑騫不㆑崩。〔傳〕崩、羣疾也。㊁くづす。〔孟子、盡心下〕百姓歸㆑周、若㆑崩㆓厥角㆒。㊂かくれる。みまかる。かみさる。天子に稱す。〔禮、曲禮下〕天子死曰㆑崩、諸侯曰㆑薨、大夫曰㆑卒、士曰㆓不祿㆒、庶人曰㆑死。㊃婦人病の一。崩漏(48)を見よ。〔素問、陰陽別論〕陰虛陽搏、謂㆓之崩㆒。㊄古は𨹈(11－41689)に作り、或は𨽻(11－41808)に作る。〔集韻〕崩、古从㆑𠂤、或作㆑𨽻、亦書作㆑崩。㊅朋(5－14340)に通ず。〔漢書、五行志中之上〕京房易傳曰、復崩來無㆑咎。〔注〕今易㆓崩字㆒作㆓朋字㆒。㊆姓。〔奇姓通〕崩愈堅、潛山人、正德中、固始縣丞。［邦］くづす。㋑こはす。つぶす。㋺みだす。膝をみだす。㋩字畫を省く。㋥細かにする。小さくする。

【崩隕】1（ホウヰン） くづれおちる。〔任昉、爲㆓褚諮議蓁㆒讓㆓代㆑兄襲㆑封表〕永惟㆓情事㆒、觸目崩隕。

【崩雲】2（ホウウン） くづれ亂れる雲。〔木華、海賦〕崩雲屑雨、浤浤汩汩。〔封希顏、六藝賦〕萬仞崩雲、千巖落石。

【崩駕】3 pêng¹ chia⁴ 天子の死去すること。崩御。

【崩解】4（ホウカイ） くづれとける。くづれてばらばらになる。〔大戴禮、誥志〕聖人有㆑國、則日月不㆑食、星辰不㆑隕、勃海不㆑運、河不㆓滿溢㆒、川澤不㆑竭、山不㆓崩解㆒。

【崩角】5（ホウカク） 頭を地につけること。稽首すること。〔書、泰誓中〕百姓懍懍、若㆑崩㆓厥角㆒。〔傳〕言民畏㆓紂之虐㆒、危懼不㆑安、若㆗崩㆓摧其角㆒無㆖所㆑容㆑頭。〔孟子、盡心下〕若㆑崩㆓厥角㆒。〔集注〕商人稽首至㆑地、如㆓角之崩㆒也。

【崩御】6（ホウギョ） 天皇・皇后・皇太后のかくれさせたまふこと。かんさること。晏駕。登遐。崩殂。〔東鑑、三十三〕曆仁二年正月十九日、去年十二月二十八日、宜秋院崩御。〔下學集、下、態藝門〕崩御、指㆓天子之辭㆒㆑世。

【崩潰】7 ホウクヮイ　くづれつひえる。くづれやぶれる。頽潰。崩壞。〔後漢書、東夷傳序〕陳渉起レ兵、天下崩潰。〔資治通鑑、晉紀〕（孝武帝、太元八年）秦歩騎崩潰、爭赴二淮水一。

【崩壞】8 ホウクヮイ　くづれやぶれる。崩潰。〔漢書、五行志下之上〕君道崩壞下亂、百姓將レ失二其所一矣。〔論衡、說日〕樓臺崩壞。〔枚乘、七發〕崩二壞陂池一。

【崩傾】9 ホウケイ　やぶれかたむく。〔元明善、艤槎亭記〕舳艫崩傾、檣折舵敗。

【崩缺】10 ホウケツ　くづれかける。崩闕。崩闕。〔後漢書、張奮傳〕先帝聖德、數下二詔書一、愍二傷崩缺一、而衆儒不レ達、議多二駁異一。

【崩闕】12 ホウケツ　くづれ缺ける。崩缺（10）に同じ。〔後漢書、曹褒傳〕充上言、漢再受レ命、仍有二封禪之事一、而禮樂崩闕、不レ可レ爲二後嗣法一。

【崩口】13 クヅレグチ　くづれかかつた時。崩れるまぎは。〔松原自休手錄〕今日の合戰、云云、是の日崩口の高名。

【崩薨】14 ホウコウ　❶尊貴の人の逝去をいふ。〔白虎通、崩薨〕崩薨紀二於國一何。〔風俗通、正失〕其隕落崩薨之日、不レ能三咸至二百年一。❷白虎通の篇名。

【崩摧】15 ホウサイ　くづれくだける。〔曹植、王仲宣誄〕翩翩孤嗣、號慟崩摧。

【崩喪】16 ホウサウ　くづれうしなはれる。〔孔叢子、嘉言〕堯舜文武之道、或弛而墜、禮樂崩喪、亦正二其統紀一而已矣。〔任昉、宣德皇后敦勸二梁王一令〕衣冠泯絶、禮樂崩喪。

【崩山】17 ホウザン　琴曲の名。〔列子、湯問〕初爲二霖雨之操一、更造二崩山之音一。

【崩弛】18 ホウシ　くづしすてる。くづれやぶれる。〔管子、版法解〕有下崩二弛堵壞一之心上。〔東方朔、非有先生論〕宗廟崩弛、國家爲レ墟。〔注〕銑曰、弛、廢也。

【崩粧】19 ホウシヤウ　よそほひのくづれ失せることで、皇后・女院などのかくれさせ給ふことにいふ。

【崩傷】20 ホウシヤウ　くづれこはれる。〔風俗通、愆禮〕當二内崩傷一、外自矜飭、此爲二矯情一、僞之至也。

【崩城】21 ホウジヤウ　荒れくづれた城。〔何遜、七召〕擊二哀響一、則春臺之人、愴焉而雪泣、起二懽情一、則崩城之婦、粲然而微笑。

【崩沮】22 ホウシヨ ホウソ　くづれやぶれる。〔後漢書、袁譚傳〕城中崩沮。〔吳志、諸葛瑾傳〕困苦之民、一朝崩沮。

【崩榛】23 ホウシン　くづれ倒れた叢木。榛は、生ひ茂つてゐる木。〔鮑照、蕪城賦〕崩榛塞レ路、崢嶸古馗。〔注〕翰曰、榛、叢木、崩摧塞二絶人行路一。

【崩擾】24 ホウゼウ　くづれみだれる。崩藉。〔後漢書、樊準傳〕羣雄崩擾、旌旗亂レ野。

【崩析】25 ホウセキ　くづれ分れる。離叛する。〔漢書、谷永傳〕秦居二平土一、一夫大呼、而海内崩析者、刑罰深酷、吏行二殘賊一也。

【崩藉】26 ホウセキ　くづれみだれる。みだれ散る。崩擾。〔後漢書、西羌傳論〕陷擊之所二殲傷一、追走之所二崩籍一、云云、不レ可二校計一。

【崩殂】27 ホウソ　天子の死をいふ。崩御。〔諸葛亮、出師表〕先帝創業未レ半、而中道崩殂。〔注〕向曰、崩殂、死。

【崩頽】28 ホウタイ　くづれすたれる。〔邢昺、孝經注疏序〕君臣僭亂、禮樂崩頽。

【崩濤】29 ホウタウ　くづれる大波。〔柳宗元、招二海賈一文〕高下迾置滔二危顚一、崩濤搜疏刲二戈鋋一。

【崩湍】30 ホウタン　波のくづれくだける早瀨。波だつ早瀨。急湍。〔柳宗元、懲咎賦〕攢二巒奔以紆委一兮、束二洶湧之崩湍一。

【崩阤】31 ホウチ　くづれる。くづれやぶれる。崩陁。〔漢書、劉向傳〕山陵崩阤二一。〔淮南子、兵略訓〕莫レ不二廢滯崩阤一。

【崩陁】32 ホウチ　くづれる。くづれやぶれる。崩阤。〔說苑、正諫〕山陵崩陁。

【崩墜】33 ホウツイ　くづれおちる。〔列子、天端〕杞國有下人憂二天地崩墜、身亡レ所レ寄、廢二寢食一者上。〔論衡、効力〕崩二墜于坑谷之間一矣、云云、有二大石崩墜之難一也。

【崩顚】34 ホウテン　くづれおちる。崩落。〔易林、頤之第二十七、大有〕盛衰必毀、高位崩顚。

【崩騰】35 ホウトウ　くづれわきたつ。崩沸。〔謝靈運、述二祖德一詩〕崩二騰永嘉末一、逼二迫太元始一。〔注〕濟曰、崩騰、破壞貌。

【崩波】36 ホウハ　くづれる波。走る波。奔波。〔鮑照、還レ都道中作詩〕客行惜二日月一、崩波不レ可レ留。〔注〕向曰、崩波、猶二奔波一也。

【崩迫】37 ホウハク　事情が切迫する。〔任昉、上二蕭太傅一固二辭奪禮一啓〕不レ任二崩迫之情一、謹以二啓事一陳聞。

【崩剝】38 ホウハク　❶くづれみだれる。剝は亂。崩擾。〔後漢書、董卓傳論〕董卓初以二虓闞一爲レ情、因遭二崩剝之勢一。〔注〕剝、猶レ亂也。❷はげおちる。〔韋應物、答三河南李士巽題二香山寺一詩〕牆宇咸崩剝、不レ見二舊題名一。

【崩沸】39 ホウフツ　くづれわきたつ。山が崩れ河が沸きたつ。世の混亂したさまを喩ふ。崩騰。〔後漢書、董卓傳贊〕方夏崩沸、皇京烟埃。

【崩分】40 ホウブン　くづれわかれる。〔後漢書、劉玄劉盆子傳贊〕始順二歸歷一、終然崩分。

【崩敝】41 ホウヘイ　くづれやぶれる。〔後漢書、曹褒傳論〕適レ物觀レ時、有レ救二崩敝一。

【崩奔】42 ホウホン　くづれ流れる。〔謝靈運、入二彭蠡湖口一作詩〕洲島驟迴合、圻岸屢崩奔。

【崩浪】43 ホウラウ　くづれるなみ。〔郭璞、江賦〕觸二曲厓一以縈繞、駭二崩浪一而相礧。

【崩落】44 ホウラク　くづれおちる。物の相場が急にさがる。暴落。

【崩亂】45 ホウラン　くづれみだれる。〔後漢書、荀彧傳〕見二漢室崩亂一、毎懷二匡佐之義一。〔謝靈運、擬二魏太子鄴中集一、王粲詩〕幽厲昔崩亂、桓靈今板蕩。

【崩離】46 ホウリ　くづれ散ずる。〔漢書、韋賢傳〕五服崩離、宗周以隊。〔王融、永明十一年策二秀才一文〕宋人失レ馭、淮汴崩離。〔注〕濟曰、淮汴分崩、人離散也。

【崩淪】47 ホウリン　くづれしづむ。〔後漢書、五行志四〕春秋漢含孳曰、女主盛、臣制レ命、則地動坼、畔震起、山崩淪。

【崩漏】48 ホウロウ　婦人病の一。こしけ。白帶下。又、經血がとまらぬ病。赤帶下。〔和脈經、崩漏脉法〕師曰、婦人有二漏下者一、有二中生後因續下レ血、都不レ絶者一。

【崩】8212′　ホウ　崩（**4－8212**）に同じ。

【嵭】8213　ホウ　崩（**4－8212**）に同じ。〔集韻〕嵭、亦書作レ崩。

【⿰山戔】8214　サン　セン　〔集韻〕阻限切　濟　**山のけはしいさま。**⿰山戔嵯。或は嶘（**4－8476**）に作る。〔集韻〕⿰山戔、⿰山戔嵯、山峻皃、或作レ嶘。

【⿱戔山】8215　サン　⿰山戔（**4－8214**）に同じ。〔集韻〕⿰山戔、亦書作レ⿱戔山。

【⿱共山】8216　カウ　巷（**4－8756**）に同じ。〔字彙補〕⿱共山、同レ巷。

【⿰山卷】8217　キ　〔字彙補〕區位切　寘　**ひく。**筋がつる。〔字彙補〕⿰山卷、筋急貌。〔列子、楊朱〕筋節⿰山卷急。

【⿱山事】8218　シ　〔字彙補〕莊吏切　寘　**やいば。**〔字彙補〕⿱山事、刃也。

【岍】8219　音未詳　人名。〔字彙補〕音未詳、人名、蜀志、譙周父岍、字榮始、治二尙書一。

【⿰山岡】8220　カウ　岡（**4－7962**）に同じ。〔字彙補〕⿰山岡、與レ岡同。

【崗】8221 カウ ㄍㄤ kang¹ ㊀岡(4－7962)の俗字。〔正字通〕崗、俗岡字。㊁現番兵や巡査などの詰所。

【峊】8222 タイ 𡴀(4－8189)の古字。〔字彙補〕峊、古文𡴀字。

【㟼】8223 ト 嶀(4－8403)に同じ。〔集韻〕嶀、亦作㆑㟼。

【岴】8224 キン コン 〔篇海類編〕丘近切 ［問］ ちかい。〔篇海類編〕岴、近也。

【𡸣】8225 ア 〔字彙補〕音阿 **山のくま。**〔字彙補〕𡸣、山之阿也。

【崓】8226 キン ギン 〔字彙補〕具隕切 ［軫］ 崓狗は、兔に似たけもの。〔字彙補〕崓、海內經、有㆓青獸㆒、如㆑菟、名曰㆓崓狗㆒。

【𡶓】8227 サ 〔集韻〕粗果切 ［哿］ **山名。**〔集韻〕𡶓、山名。

【崼】8228 音未詳 小山の名。〔字彙補〕崼、音未詳。〔金液神氣經〕小山、名崼。

【𡸞】8229 音未詳 地名。〔字彙補〕𡸞、音未詳、盤𡸞村、台州地名。

【𡸏】8230 シヨク ゾク 〔川篇〕助力切 ［職］ **山の大きいさま。**〔川篇〕𡸏、崱也。

【𡷌】8231 キ 〔字彙補〕音企 **山名。**〔字彙補〕𡷌、山也。

【㟴】8232 サイ・ケイ 義未詳。〔篇海類編〕㟴、音寨、又音啓。

【峪】8233 セキ 嵴(4－8372)の譌字。〔字彙補〕峪、嵴字之譌。

【𡶀】8234 クワイ 義未詳。〔龍龕手鑑〕𡶀、音回。

【㟹】8235 キ 義未詳。〔海篇〕㟹、音氣。

【峎】8236 ギン 垠(3－5054)に同じ。〔海篇〕峎、同㆑垠。

【𡷉】8237 セイ 義未詳。〔海篇〕𡷉、音歲。

【𡸩】8238 カウ 崗(4－8221)に同じ。〔龍龕手鑑〕𡸩、同㆑崗。

【崱】8239 シヨク ジキ 〔集韻〕實側切 ［職］ **九畫**

㊀**山の大きいさま。** 崱屴。〔集韻〕崱、崱屴、山大皃。㊁**山がつらなるさま。**〔集韻〕崱、山連皃。〔劉峻、始營㆓山居㆒詩〕鑿㆑戶闞㆓嶕嶢㆒、開㆑軒望㆓嶄崱㆒。㊂**ふぞろひ。** 參差。〔王延壽、魯靈光殿賦〕崱繒綾而龍鱗。〔注〕良曰、崱繒綾、謂㆔參差不㆑齊、如㆓龍鱗㆒貌。

【崱屴】1 シヨク リヨク 高く大きく聳えるさま。〔王延壽、魯靈光殿賦〕崱屴嵫釐。〔注〕善曰、皆高大峻嶮之貌。〔江淹、學梁王兔園賦〕崩石梧岸、崱屴藏㆑陰。〔杜甫、封㆓西嶽㆒賦〕駢㆓素虬㆒、超㆓崱屴㆒。

【㟻】8240 キヨク ゴク 〔集韻〕訖力切 ［職］ **山名。**〔集韻〕㟻、山名。

【㟗】8241 ケイ 坰(3－4985)に同じ。〔字彙〕㟗、同㆑坰。

【崲】8242 クワウ ワウ 〔集韻〕胡光切 ［陽］ 崲湖は、湖の名。〔集韻〕崲、地名、南史、始寧郡有㆓休崲湖㆒。〔南史、謝靈運傳〕又求㆓始寧休崲湖爲㆒㆑田。

【崳】8243 ユ 〔集韻〕容朱切 ［虞］ ㊀**山名。** 崳次(2)を見よ。㊁**島の名。** 崳山(1)を見よ。㊂通じて楡(6－15153)に作る。〔集韻〕崳、通作㆑楡。

【崳山】1 サユン 山名。福建省霞浦縣の東の海中。又、大崳山といひ、小崳山と相對す。明初には居民が多かつたが、後、其の海中に懸絕孤立せるを以て禁山となす。清代に人民が屢〻開墾を請うたが許されず、遂に海盜がここに出沒した。山に大天湖、小天湖の二淡水湖がある。

【崳次】2 ジユ 山名。今の山西省楡次縣の境。〔集韻〕崳、崳次、山名、在㆓雁門㆒。

【崴】8244

㈠ワイ 〔集韻〕烏回切 ［灰］ ㄨㄟ wei¹

㈡ヱ ワイ 〔集韻〕烏買切 ［蟹］

㈢ヱ ワイ 〔集韻〕烏乖切 ［佳］

㈣ヰ 〔集韻〕羽鬼切 ［尾］

㈠**平かでないさま。** 崴𡾟。或は嵬(4－8355)に作る。〔集韻〕崴、崴𡾟、不㆑平皃、或作㆑嵬。㈡**山谷の平かでないさま。** 崴𡿖。〔集韻〕崴、崴𡿖、山谷不㆑平皃。㈢㊀**平かでないさま。** 崴𡾟。㈠に同じ。〔集韻〕崴、崴𡾟、不㆑平也。㊁**山の形。**〔集韻〕崴、一曰、山形。㈣㊀**山のさま。**〔集韻〕崴、山皃。㊁或は𡼥(4－8292)・㟪(7－21778)・㠕(4－8293)に作る。〔集韻〕崴、或从㆑𡼥、亦省、或書作㆑㠕。

【崴巍】1 ワイ ギ 山のけはしいさま。〔邢居實、南征賦〕山崴巍而造㆑天兮、踐㆓羊氏之北境㆒。

【崴嵬】2 ワイ クワイ ㊀けはしいさま。〔楚辭、九章、抽思〕軫石崴嵬、蹇吾願兮。〔注〕崴嵬、崔巍高貌也。㊁平かでないさま。〔集韻〕崴、崴嵬、不㆑平皃。

【崴魁】3 ワイ クワイ 崴嵬の㊁に同じ。〔漢書、司馬相如傳下〕徑入㆓雷室之砰磷鬱律㆒兮、洞出㆓鬼谷之堀礨崴魁㆒。〔注〕張揖曰、堀礨・崴魁、不㆑平也。

【崴磈】4 ワイ クヮイ 山勢が高く長くつらなるさま。〔司馬相如、上林賦〕崴磈嵔廆、丘虛堀礨、隱轔鬱壘、登降施靡。〔注〕翰曰、皆山勢高峻長遠之貌。

【崴褢】5 ワイ クヮイ 平かでないさま。又、重なり合ふさま。〔左思、吳都賦〕隱賑崴褢、雜插幽屏。〔注〕善曰、埤蒼曰、崴褢、不㆑平也。

【崵】 8245 ㈠ヤウ 〔集韻〕余章切 陽　㈡タウ ダウ 〔集韻〕待朗切 養

小篆

㈠㊀首崵は、山名。首陽山。伯夷・叔齊の隱栖した山。今、山西省永濟縣の南。〔說文〕崵、首崵山也、在㆓遼西㆒、从㆑山昜聲。〔段注〕按㆓許意㆒、首崵山、卽伯夷叔齊餓㆓於首陽之下㆒也。㊁谷の名。日の入る所と考へられた谷。暘谷。暘(5―14066)に通ず。〔說文通訓定聲〕崵、叚借爲㆑暘。〔說文〕崵、一曰、嵎銕崵谷也。〔段注〕此卽堯典之嵎夷暘谷也。㈡㊀山名。〔集韻〕崵、山名。㊁或は湯(4―8452)に作り、通じて碭(8―24342)に作る。〔集韻〕崵、或从㆑湯、通作㆑碭。

【⿰山咼】 8246 タ ダ 〔集韻〕徒何切 歌

臼の形に似た山。〔集韻〕⿰山咼、山形似㆑碢者。

【⿱山軍】 8247 ウン ⿰山運(4―8523)に同じ。〔集韻〕⿱山軍、⿰山運、或省。

【⿱山室】 8248 テツ デチ 〔集韻〕徒結切 屑

山のさま。嵽(4―8391)に同じ。〔集韻〕嵽、山皃、或从㆑室。

【崶】 8249 ホウ フ 〔集韻〕方容切 冬

山名。一名、龍門山。今の廣東省封川縣の境。〔廣韻〕崶、山名、一名龍門山、在㆓封州㆒、大魚上化爲㆑龍、上不㆑得點㆑額、血流、水爲㆓丹色㆒也。〔集韻〕崶、山名、在㆓封州㆒。

【崷】 8250 シウ ジユ 〔集韻〕字秋切 尤

山の高いさま。崷崒。〔集韻〕崷、崷崒、山皃。〔班固、西都賦〕巖峻崷崒。〔注〕善曰、崷崒、高貌。

【⿱山酋】 8251 シウ 崷(4―8250)に同じ。〔正字通〕崷、亦作㆑⿱山酋。

【⿰山頓】 8252 トン ドン 〔字彙〕杜本切 阮

山名。〔字彙〕⿰山頓、山名。

【崹】 8253 テイ ダイ 〔集韻〕田黎切 齊

山形が次第に平かになるさま。崥崹。〔集韻〕崹、崥崹、山形漸平皃。

【嵃】 8254 エン 崦(4―8208)に同じ。〔廣韻〕嵃、同㆑崦。

【崺】 8255 イ 〔集韻〕演爾切 紙

㊀**丘の名。**岃崺。〔集韻〕崺、岃崺、丘名。㊁**沙丘のさま。**岃崺。〔廣韻〕崺、岃崺、沙丘狀。㊂**山の低く長いさま。**岃崺。〔正韻〕崺、岃崺、山卑長貌。〔字彙〕岃、岃崺。〔法言、吾子〕升㆓東嶽㆒而知㆓衆山之岃崺㆒也。

【⿰山廻】 8256 クヮイ グヮイ 〔集韻〕胡對切 隊

はげ山。〔集韻〕⿰山廻、山無㆓艸木㆒也。

【⿰山茅】 8257 バウ メウ 〔集韻〕謨交切 肴

山名。〔集韻〕⿰山茅、山名。

【崻】 8258 チ ヂ 〔集韻〕丈里切 紙

山が獨立して高いさま。通じて峙(4―8053)に作る。〔集韻〕崻、山獨立皃、通作㆑峙。

【崼】 8259 ㈠シ 〔集韻〕上紙切 紙　㈡テツ 〔揚雄、蜀都賦、注〕音垤

㈠**山名。**〔集韻〕崼、山也。㈡**ふぞろひのさま。**崼峴。〔揚雄、蜀都賦〕諸徼崼峴、五矾參差。〔注〕崼峴、音垤業、不㆑齊貌。

【崽】 8260

㈠サイ 〔集韻〕山皆切 佳

㈡サイ シヤ 〔集韻〕所佳切 佳

㈢サイ 〔集韻〕子亥切 賄 ㄗㄞˇ tsai^{3}

㈣シ 〔集韻〕想止切 紙

㈠㈡㈢㈣㊀**こども。**〔集韻〕崽、子也。〔方言、十〕崽者、子也、湘沅之會、凡言㆓是子㆒者、謂㆓之崽㆒、若㆓東齊言㆒㆑子矣。㊁**高ぶり侮る。**〔廣韻〕崽、自高而侮㆑人也。㊂**人を罵り呼ぶ語。**〔廣韻〕崽、呼㆑彼之稱。〔新方言、釋親屬〕成都・安慶、罵㆑人則冠以㆓崽字㆒、成都音如㆑哉、安慶音如㆑簪。㊃現外國人に使役せられる中國人を罵つていふ。tsai^{3}

【崽子】1 サイ シ ㊀こども。〔水經、滱水注〕孌婉丱童、及弱年崽子。㊁かげま。孌童。〔詞林海錯〕孌童、一云㆓崽子㆒。〔天祿識餘、孌童、注〕今北人罵㆓頑童㆒曰㆓崽子㆒。㊂tsai^{3} tzŭ 人を罵る語。

【崾】 8261 エウ 〔集韻〕以紹切 篠

山名。〔集韻〕崾、山名。

【崂】 8262 ロウ 巃(4―8598)の譌字。〔古文苑、枚乘梁王菟園賦〕崟巖崂嵸巍嶫焉。〔注〕崂、疑是巃字。

【崿】 8263 ガク 〔集韻〕逆各切 藥 ㄜˋ e^{4}

㊀**がけ。きし。**〔集韻〕崿、崖也。〔張衡、西京賦〕坻崿鱗峋。〔注〕善曰、文字集略曰、崿、崖也。〔郭璞、江賦〕碕嶺爲㆓之嵒崿㆒。㊁**高い。險しい。**〔夏侯湛、山路吟〕崇岳兮嵬崿。㊂或は⿰山噩(4―8600)に作る。〔集韻〕崿、或从㆑噩。

【崿嶂】1 ガク シヤウ 斷崖になつてゐる峯。〔鮑照、自㆓礪山㆒東望㆓震澤㆒詩〕灡漫潭洞波、合沓崿嶂雲。

【⿱山咢】 8264 ガク　崿(4－8263)に同じ。〔集韻〕崿、或書作レ⿱山咢。

【嵀】 8265 チウ ヂユ　〔集韻〕重主切　麌

天嵀は、山名。霍山。柱(6－14660)の俗字。〔廣韻〕嵀、天嵀、案、爾雅曰、霍山爲二南嶽一、郭璞云、卽天柱山、字俗從レ山。

【嵁】 8266

一 カン コン　〔集韻〕枯含切　覃
二 カン ケン　〔集韻〕丘咸切　咸
三 ケン コン　〔集韻〕丘嚴切　鹽
四 サン ゼン　〔集韻〕仕檻切　豏
五 チン　〔集韻〕丑甚切　寑
六 ガン ゴン　〔集韻〕吾含切　覃
七 ガン ゴン　〔集韻〕五感切　感

一二三四五六七**山の高く凹凸のあるさま。**嵁巖。嵁⿱山咢。或は碪(8－24339)に作る。〔集韻〕嵁、嵁巖、不レ平。〔集韻〕嵁、山高貌。〔集韻〕嵁、嵁崿、山皃。〔集韻〕嵁、嵁⿱山咢、山形、或从レ石。

【嵁崿】1 カンガク　山の高くけはしいさま。〔集韻〕嵁、嵁崿、山皃。

【嵁巖】2 カンガン　山の高く險しいさま。又、谷の深く險しいさま。〔集韻〕嵁、嵁巖、不レ平。〔莊子、在宥〕賢者伏二處大山嵁巖之下一。〔集釋〕嵁當レ爲レ湛、湛、深也、湛巖猶二深巖一、因下其以二山巖一言上、故變二從レ水者一而從レ山耳。〔柳宗元、永州新堂記〕將レ爲二穹谷嵁巖淵池於郊邑之中一。

【嵂】 8267 リツ リチ　〔集韻〕劣戌切　質　ㄌㄩˋ lü⁴

山の高くけはしいさま。嵂崒。〔集韻〕嵂、崒嵂、山高皃。〔司馬相如、子虛賦〕其山則盤紆岪鬱、隆崇嵂崒。〔注〕向曰、言三山之詰屈高峻、擁二蔽日月一也。〔韓愈、祭二馬僕射一文〕嵂崒中居。

【嵃】 8268

一 ゲン　〔集韻〕語蹇切　銑
二 ゲン ゴン　〔集韻〕語偃切　阮
三 ガン ゲン　〔集韻〕語限切　潸
四 ゲン　〔集韻〕魚戰切　霰

一二三❶**けはしい。けはしいさま。**〔集韻〕嵃、⿰山戔嵃、山峻皃。〔郭璞、江賦〕厓隒爲レ之泐嵃。〔注〕善曰、嵃、猶レ嶮也。〔潘岳、西征賦〕峻嵃峭以繩直。〔注〕善曰、嵃、謂二棧嵃嶮皃一也。❷**殿臺の高いさま。**〔玉篇〕嵃、殿臺之勢。四**山名。**〔集韻〕嵃、山名。

【嵄】 8269 ビ ミ　〔玉篇〕眉否切　紙

山名。〔玉篇〕嵄、山也。

【嵉】 8270 シヨ　〔集韻〕寫與切　語

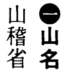
山名。〔集韻〕嵉、山名。

【嵅】 8271

一 カン コン　〔集韻〕姑南切　覃
二 カン コン　〔集韻〕古暗切　勘

一二**山名。**嵐嵅。〔集韻〕嵅、嵐嵅、山名。

【嵇】 8272 ケイ ゲイ　〔集韻〕弦雞切　齊　ㄐㄧ chi¹


小篆

❶**山名。**〔說文新附〕嵇、山名、从レ山、稽省聲、奚氏避レ難、特造二此字一、非レ古。❷**姓。**〔廣韻〕嵇、姓也、出二譙郡一。〔萬姓統譜〕夏少康封二子季杼於會稽一、遂爲二會稽氏一、漢初徙二譙之嵇山一、改爲二嵇氏一。〔文章敍錄〕嵇康、本姓奚、由二會稽一遷二譙之銍縣一、取二稽字之上一以爲レ姓。

【嵇菴】1 ケイアン　字號。清、徐夜(4－10110・・296)の字。

【嵇穎】2 ケイエイ　宋の人。適の子。字は公實。天聖の進士。翰林學士に累官し、王曾に推稱せらる。〔宋史、二百九十八〕・〔宋史新編、九十二〕・〔學士年表、下〕。

【嵇康】3 ケイカウ　魏、譙國の銍の人。字は叔夜。官は中散大夫。竹林の七賢の一人。養生論を著し、彈琴詠詩自ら樂しむ。事に因つて鍾會の怒に觸れて讒殺せらる。著に嵇中散集がある。〔晉書、四十九〕・〔三國志、二十一〕・〔琅琊代醉編、十八〕。

【嵇含】4 ケイガン　晉の人。紹の從子。字は君道。諡は憲。鞏縣の亳丘に居り、自ら亳丘子と號す。官は永興中、襄城太守。著に南方草木狀がある。〔晉書、八十九〕。

【嵇喜】5 ケイキ　晉、譙國の銍の人。嵇康の兄。官は衞軍司馬。晉に入り揚州刺史・大僕宗正となる。著に集二卷がある。〔全上古三代秦漢三國六朝文、全晉文、六十五〕。

【嵇琴】6 ケイキン　琴の一種。嵇康の創製にかかると傳ふ。〔事物紀原、樂舞聲歌部、嵇琴〕或曰、嵇琴、嵇康所レ製、故名二嵇琴一、雖レ出二於傳誦一、而理或然也。

【嵇璜】7 ケイクワウ　清の人。曾筠の子。字は尙佐、一に、黼庭。晩に拙修と號す。諡は文恭。雍正の進士。乾隆中、南河東河河道總督兼兵部尙書に歷任し、文淵閣大學士に至る。〔清史稿、三百十六〕・〔清史列傳、二十二〕・〔國朝先正事略、十四〕。

【嵇山】8 ケイザン　山名。❶河南省修武縣の西北。晉の嵇康が此處に居つたから名を得た。一名、狄山。❷安徽省宿縣の西南、渦陽縣の北。嵇康はもと上虞の人で、姓は奚であつたが、嵇山の側に住んでから嵇と改めたといふ。〔元和志〕晉嵇康、家二於銍嵇山之下一、因改二姓嵇氏一。

【嵇紹】9 ケイセウ　晉の人。康の子。字は延祖。諡は忠穆。武帝の時、祕書郞に徵され、趙王倫が位を簒ふや、侍中となり、惠帝復阼するも、遂に其の職に居る。永興の初、河間王顒等の兵を擧ぐるや、紹、帝に從つて、蕩陰に戰ひ、侍衞皆潰えたが、身を以て之を防ぎ、遂に帝の側に害せらる。嵇侍中血(16)を見よ。〔晉書、八十九〕。

【嵇紹不孤】10 ケイセウフコ　蒙求の標題。晉の嵇紹の父、嵇康は、山濤と親しかつたが、讒のために將に誅せられんとするや、紹に向つて、巨源(山濤の字)がをるから、お前は寄るべない全くの孤兒にはなるまいといつた。後、果して山濤は紹を推薦して祕書丞とした。〔蒙求、中、嵇紹不孤〕晉嵇紹、字延祖、父康與二山濤一善、臨レ誅、謂レ紹曰、巨源在、汝不レ孤矣、後濤薦爲二祕書丞一。

【嵇適】11 ケイテキ　宋、宋城の人。一に稽適に作る。石首主簿となり、大いに惠政を施す。〔宋史、二百九十八〕。

【嵇永仁】12 ケイエイジン　清、江寧の人。無錫に徙居す。字は留山。別號は抱犢山農。蘇州學の諸生。康熙の間、閩督范承謨の幕に遊ぶ。耿精忠叛きて承謨を執へ、永仁を降さんとせしも屈せず。後、承謨害せらると聞き、自ら經死す。書室を抱犢山房といふ。著に抱犢山房集がある。〔清史稿、四百九十三〕・〔清史列傳、六十五〕・〔國朝耆獻類徵、三百四十二〕。

【嵇永福】13 ケイエイフク　清、無錫の人。字は爾遐。號は漪園。順治の進士。官は嚴州府推官。後、歷城縣丞に左遷せらる。著に漪園遺稿がある。〔鶴徵錄、五〕・〔己未詞科錄、六〕。

【嵇元夫】14 ケイゲンプ　明、歸安の人。字は長卿。書室を白鶴園といひ、著に白鶴園集がある。〔明人小傳、四〕・〔明詩綜、六十四〕・〔明詩紀事、庚、二十六〕・〔列朝詩集小傳、丁、中〕・〔靜志居詩話、十八〕。

【嵆侍中】15（ケイジチユウ） 嵆紹(9)をいふ。

〖嵆侍中血〗16（ケイジチユウノチ） 晉の永興の初、河閒王顒等の叛に惠帝が蒙塵するや、嵆紹は行在所に至り、儼然と帝を衞つて賊を防ぐ。飛矢雨集し、嵆紹は遂に斃れ、其の血が帝の衣を染めた。賊が平定した後、左右の者が之を洗はんと請うた時、帝が、これ嵆侍中の血なり、洗ひ去る勿れといつた故事。 侍中は、嵆紹の官名。嵆紹(9)を見よ。〔晉書、嵆紹傳〕嵆紹、字延祖、云云、復爲二侍中一、云云、以二天子蒙塵一、承レ詔馳詣二行在所一、値三王師敗二績于蕩陰一、百官及侍衞散潰、唯紹儼然端冕、以レ身捍衞、兵交二御輦一、飛箭雨集、紹遂被レ害二于帝側一、血濺二御服一、天子深哀二歎之一、及二事定一、左右欲レ浣レ衣、帝曰、此嵆侍中血、勿レ去、云云、元帝、云云、更表贈二大尉一、諡曰二忠穆一、祠以二太牢一。〔杜甫、傷レ春詩〕豈無二嵆紹血一、霑二灑屬車塵一。〔文天祥、正氣歌〕爲二嵆侍中血一。

【嵆宗孟】17（ケイソウマウ） 清、江南安東の人。字は淑子。號は髯道人・佛縣髯史。文に巧。順治の擧人。杭州に歴守し、鴻博に薦擧されたが赴かず。著に立命堂集・楚江蠡史諸篇がある。〔文獻徵存錄、二〕・〔鶴徵錄、四〕・〔己未詞科錄、五〕。

【嵆曾筠】18（ケイソウキン） 清の人。永仁の子。字は松友。號は禮齋。謚は文敏。康熙の進士。文華殿大學士兼吏部尙書に累官し、頗る治水の功あり。書室を師善堂といふ。著に防河奏議・師善堂集がある。〔清史稿、二百十六〕・〔清史列傳、十六〕・〔碑傳集、七十六〕。

【嵆中散】19（ケイチユウサン） 三國魏、嵆康(3)をいふ。

〖嵆中散集〗20（ケイチユウサンシフ） 書名。十卷。魏、嵆康撰。其の目は、詩一卷、賦・書共一卷、集論一卷、論六卷、箴・誡共一卷。首に黃省曾の序と本傳がある。又、張溥の百三名家本は、一卷で、其の目は、賦・書・設難・論・贊・箴・誡・樂府・詩、附錄に本傳がある。嵆康は詩文共に長じ、筆力暢達、古雅を失はず、憤激の言が多い。〔四庫提要、集、別集類〕。

【嵆呂命駕】21（ケイリヨメイガ） 蒙求の標題。晉の嵆康が鍛冶を好み、宅中の柳樹の下へ水を堰き上げて、夏毎に其の下で鍛冶をしてゐた。呂安がこの高遠な風致を慕つて千里の遠路をも厭はずに車馬の用意を命じて訪問した故事。〔晉書、嵆康傳〕性絕巧而好レ鍛、宅中有二一柳樹一、甚茂、乃激レ水圜レ之、每二夏月一居二其下一以鍛、東平呂安、服二康高致一、每二一相思一、輒千里命レ駕、康友而善レ之。

【嵇】 8273

ケイ　嵆(4-8272)に同じ。〔正字通〕嵇、同レ嵆。

【⿰山耑】 8274

タン　〔集韻〕多官切　［寒］

山名。〔集韻〕⿰山耑、山名。

【⿰山爰】 8275

クヮン　グヮン　〔集韻〕戶管切　［旱］

山名。〔集韻〕⿰山爰、山名。

【嵉】 8276

テイ　ヂヤウ　〔集韻〕唐丁切　［靑］

山名。今の山西省大同縣の東。〔集韻〕嵉、山名、在二白登一。

【⿰山瓫】 8277

ホン　ボン　〔集韻〕步奔切　［元］

瓫のやうな形の山。〔集韻〕⿰山瓫、山形似レ瓫。

【嵋】 8278

［一］ビ　ミ　〔集韻〕旻悲切　ㄇㄟˊ mei^{2}　［支］

［二］バイ　マイ　〔字彙〕謨杯切　［灰］

［一］［二］峨嵋は、山名。四川省峨眉縣の西南。峨眉(8-23190)に通ず。〔集韻〕嵋、山名、在レ蜀。〔字彙〕嵋、峨嵋、山名、在二蜀嘉定府峨眉縣南百里一、兩山相對如二峨眉一、故名。〔正字通〕嵋、本作レ眉。

【嵋菴】1（ビアン） 清、丘元復(1-33‥140)の號。

【嵋初】2（ビシヨ） 清、葉方恆(9-31387‥252)の字。

【嵋雪】3（ビセツ） 清、項玉筍(12-43343‥61)の字。

【嵌】 8279

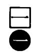
［一］カン　ゲン　〔集韻〕乎監切　ㄑㄧㄢ ch‘ien^{1}　［咸］

［二］サン　ザン　〔集韻〕在敢切　［感］

［三］カン　〔集韻〕虎覽切　［感］

［四］カン　〔集韻〕苦濫切　［勘］

［五］カン　ケン　〔字彙〕口陷切　［陷］


小篆

［一］❶**山の深いさま。**〔說文新附〕嵌、山深皃、从レ山欺省聲。❷**深い谷。**嵌⿱山吅。〔集韻〕嵌、嵌⿱山吅、深谷。❸**山がけはしい。** 或は嵰(4-8365)・嵚(4-8464)・廞(4-9488)に作る。〔集韻〕嵌、嵌巖、山險、或从レ兼、亦作二嵰・嵚・廞一。〔沈約、江南曲〕寧計路嶄嵌。❹**あな。ほら。**〔玉篇〕嵌、坎旁孔也。〔杜甫、火詩〕爆レ嵌魑魅泣。［二］❶**山のさま。** 或は⿱山甘(4-8166)に作る。〔集韻〕嵌、山皃、或作レ⿱山甘。❷**開き張るさま。**〔廣韻〕嵌、開張山皃、出二蒼頡篇一。〔揚雄、甘泉賦〕嵌巖巖其龍鱗。〔注〕濟曰、皆鱗甲開張貌。［三］**谷のさま。**豃(10-36230)に同じ。〔集韻〕豃、溪谷皃、或作レ嵌。［四］**そばだつさま。**〔集韻〕嵌、岸欹峻。［五］❶**はめる。** はめこむ。〔字彙〕嵌、陷二入中一也。〔史記評林、凡例〕每於二句中一嵌レ注。❷**ゑる。ちりばめる。**〔遵生八牋、起居安樂牋、下、竹杖〕有二三代商嵌金銀碧瑱古銅鳩鳥杖頭一。❸［現］まぜる。

【嵌⿱山吅】1（カンガン） 深い谷。〔集韻〕嵌、嵌⿱山吅、深谷。

【嵌巖】2（カンガン） ❶孔（アナ）のあるいはほ。〔盧照鄰、悲二昔遊一文〕因二嵌巖一以爲レ室、就二芬芳一以列レ筵。❷開き張つたさま。〔達奚珣、太常觀樂器賦〕猛獸赫怒而擎レ鐘、金人嵌巖以負レ簴。❸山のけはしいさま。〔李洞、贈二可上人一詩〕將レ法傳來穿二泱漭一、把レ詩吟去入二嵌巖一。

〖嵌巖巖〗3（カンガンガン） 開き張つたさま。〔揚雄、甘泉賦〕嵌巖巖其龍鱗。〔注〕善曰、嵌、開張之貌也、濟曰、嵌巖巖、皆鱗甲開張貌。

【嵌金】4（カンキン） 器物の表面に金をはめこんだ飾。象眼。〔水滸傳、二回〕足穿二一雙嵌金線飛鳳靴一。

【嵌銀】5 ch‘ien^{1} yin^{2}　銀をはめこんだ飾。

〖嵌銀匠〗6 ch‘ien^{1} yin^{2} chiang^{4}　飾屋。

【嵌空】7（カンクウ） ❶うつろ。ほらあな。〔朱熹、賦二歸雲洞一詩〕宜陽古道周、竅石何嵌空。❷玲瓏なさま。〔杜甫、鐵堂峽詩〕嵌空太始雪。〔注〕嵌空、玲瓏貌。〔白居易、微之重誇二州居一云云因嘲二茲石一聊以寄レ懷詩〕嵌空石面標二羅刹一。

【嵌工】8（カンコウ） 象眼・寄木・うめ木等の細工をする「職工。

【嵌谷】9（カンコク） 深い谷。〔武元衡、兵行褒斜谷作詩〕集レ旅布二嵌谷一、驅レ馬歷二層澗一。

【嵌巉】10（カンザン） 山の險しいさま。〔白居易、亭西牆下伊渠水中置レ石激レ流潺湲成レ韻頻有二幽趣一以レ詩記レ之詩〕嵌巉嵩石峭、皎潔伊流淸。

【嵌鑲】11 ch‘ien^{1} hsiang^{1}　嵌める。象眼する。

【嵌然】12（カンゼン） 開き張つたさま。〔正字通〕嵌、山開張貌。〔揚雄、甘泉賦、嵌巖巖其龍鱗、注〕善曰、嵌、開張之貌也。

【嵌竇】13（カントウ） うろ。あな。〔杜甫、園人送レ瓜詩〕竹竿接二嵌竇一。〔司馬光、交趾獻二奇獸一賦〕醴泉觱沸二于嵌竇一。

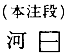
【嵌頓】14（カントン） 內臟器官、殊に腸管・子宮等が、或る病的間隙、又は骨盤腔內に侵入し、其の間隙に絞扼せられることによつて、其の部分が鬱血・血行障礙を起し腫張した狀態をいふ。

【嵌補】15（カンポ） はめつくろふ。〔福惠全書、蒞任部、受印〕如有レ嵌二補缺損一、記二明幾處一。

【嵌牢】16（カンラウ） しつかりおぼえて忘れない。〔長生殿、尸解〕一點嵌二牢方寸一。

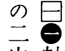
【嵌雕闌】17（カンテウラン） 透し彫を施した欄干。〔還魂記、尋夢〕嵌雕闌芍藥芽兒淺。

【嵍】8280 ㊀ブ ム 〔集韻〕亡遇切 遇 ㊁バウ モウ 〔集韻〕謨袍切 豪

小篆（說文）

小篆（段注本）

㊀巏嵍は、山名。今の河北省唐山縣の北。或は旄（5－13642）に作る。〔說文〕嵍、山名、从ㇾ山敄聲。〔集韻〕嵍、巏嵍、說文、山名、或作ㇾ旄。㊁❶丘の前が高く後が低いさま。〔集韻〕嵍、丘前高後下也。❷或は堥（3－5260）・𥓓（8－24312）・務（2－2394）に作り、通じて旄（5－13642）に作る。〔集韻〕嵍、或从ㇾ土从ㇾ石、亦作ㇾ務、通作ㇾ旄。

【嵎】8281 ㊀グ 〔集韻〕元俱切 虞 ㄩˊ yü² ㊁ゴウ グ 〔集韻〕魚侯切 尤 慣グウ


小篆

㊀❶封嵎は、山名。今、封山・嵎山の二山に分ち、封山は浙江省武康縣の東、嵎山は縣の東南。〔說文〕嵎、封嵎之山也、在二吳楚之閒一、汪芒之國、从ㇾ山禺聲。〔段注〕魯語、孔子曰、防風氏者、汪芒氏之君也、守二封嵎之山一者也、云云、今封嵎二山、在二浙江省湖州府武康縣東一、實一山也、楚、當下依二玉篇一作上ㇾ越。❷山のくま。〔字彙〕嵎、山曲曰ㇾ嵎。〔孟子、盡心下〕虎負ㇾ嵎。❸すみ。隅（11－41743）に通ず。〔說文通訓定聲〕嵎、段借爲ㇾ隅。〔列子、周穆王〕西極之南嵎有ㇾ國焉。〔注〕嵎、與ㇾ隅同。❹高くけはしい。嵎峗（6）を見よ。❺地名。堣（3－5257）に通ず。嵎夷（1）を見よ。〔說文通訓定聲〕嵎、段借爲ㇾ堣、書堯典、宅二嵎夷一。㊁山のさま。〔集韻〕嵎、岅嵎、山皃。

【嵎夷】1 グウイ ❶地名。日の出づるところ。其の場所に就いては數說がある。嵎峓。嵎銕。〔書、堯典〕宅二嵎夷一、曰二暘谷一。〔書、禹貢〕嵎夷既略。㋑東表の地をいふ。〔書、堯典、傳〕東表之地稱二嵎夷一。㋺海嵎・萊夷をいふ。〔書、堯典、釋文〕馬融曰、嵎、海嵎也、夷、萊夷也。㋩九夷をいふ。今の朝鮮。〔後漢書、東夷傳序〕夷有二九種一、曰、畎夷・于夷・方夷・黃夷・白夷・赤夷・玄夷・風夷・陽夷、昔堯命二羲仲一、宅二嵎夷一、曰二暘谷一、蓋日之所ㇾ出也。〔後漢書、東夷傳贊〕宅二是嵎夷一、曰二乃暘谷一、巢ㇾ山潛ㇾ海、厥區九族。〔禹貢錐指〕朝鮮更在二成山之東一、寅二賓出日一、尤爲ㇾ得ㇾ宜、范史、以二東夷九種一爲二嵎夷一、必有二根據一、杜氏通典、亦用二其說一、今從ㇾ之。㋥首暘山をいふ。嵎銕。〔說文〕暘、首暘山也、云云、一曰二嵎銕一、暘谷也。㋭寧海州。今の山東省牟平縣。〔薛季宣、書古文訓〕嵎夷、海隅諸夷、今登州。〔禹貢錐指〕薛士龍云、嵎夷今登州、齊乘因以二寧海州一爲二嵎夷一。㋬東方の海上をいふ。〔東坡書傳〕嵎夷、當ㇾ在二東方海上一。❷秋元以正の號。秋元澹園（8－24940‥425）を見よ。

【嵎峓】2 グウイ 嵎夷の❶に同じ。〔廣韻〕峓、嵎峓、山名、書作二嵎夷一、傳云、東表之地。

【嵎銕】3 グウイ 嵎夷の❶に同じ。〔說文〕暘、首暘山也、在二遼西一、一曰二嵎銕一、暘谷也。

【嵎寅】4 グウイン 淸、張昀（4－9812‥36）の字。

【嵎角】5 グウカク 山のくま。〔法苑珠林〕波羅奈城有二一長者一、遺二失銅鉢一、時乞人於二糞聚中一得二銅鉢一、挂二於枝頭一、從二此嵎角一至二彼嵎角一、口唱、銅鉢是誰之物、求二覓其主一了、不ㇾ能ㇾ得、卽往至付二梵德王一。

【嵎峗】6 グウキ 高く險しいさま。〔後漢書、馬融傳〕嵎峗錯崔。〔注〕嵎・峗、並高峻貌。

【嵎嵎】7 グウグウ まがるさま。又、山の重なつて高いさま。〔柳宗元、夢歸賦〕山嵎嵎以巖立兮、水汩汩以漂激。

【嵎谷】8 グウコク ❶地名。日の入る所。虞淵。〔列子、湯問〕夸父不ㇾ量ㇾ力、欲ㇾ追二日影一、逐二之於嵎谷之際一、渴欲ㇾ得ㇾ飮、赴飮二河渭一。❷淸、鄭廷暘（11－39647‥512）の字。

【嵎山】9 グウザン 山名。字解の❶を見よ。

【負ㇾ嵎】10 グウヲオフ 山のくまの險要を背にして構る。轉じて、英雄が一方に割據して勢の盛な喩。負は依。〔孟子、盡心下〕有ㇾ衆逐ㇾ虎、虎負ㇾ嵎、莫二之敢攖一。〔集注〕負、依也、山曲曰ㇾ嵎。

【嵀】8282 コウ グ 〔集韻〕胡溝切 尤

山名。〔集韻〕嵀、山名。

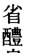
【嵀】8283 コウ

嵀（4－8282）に同じ。〔海篇〕嵀、同ㇾ嵀。

【嵃】8284 エン オン 〔集韻〕隱㥯切 阮

山の形。〔集韻〕嵃、山形。

【嵏】8285 ㊀ソウ ス 〔集韻〕祖叢切 東 ㊁ソウ ス 〔集韻〕祖動切 董


小篆

㊀㊁❶九嵏は、山名。㋑今の陝西省醴泉縣の東北。〔說文〕嵏、九嵏山也、在二左馮翊谷口一、从ㇾ山㚇聲。〔班固、西都賦〕前乘二秦嶺一、後越二九嵏一。㋺今の湖北省孝感縣。九崇。九宗。❷集まつてゐる峯。〔漢書、司馬相如傳上〕夷ㇾ嵏築ㇾ堂。〔注〕師古曰、山之高聚者曰ㇾ嵏。❸或は嵕（4－8286）に作る。〔集韻〕嵏、或書作ㇾ嵕。

【嵕】8286 ソウ

嵏（4－8285）に同じ。〔正字通〕嵏、郡國志作ㇾ嵕。

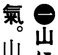
【嵙】8287 カウ ガウ 〔集韻〕胡江切 江

山名。〔集韻〕嵙、山名。

【嵸】8288 ソウ ス 〔集韻〕麤叢切 東

山のさま。〔集韻〕嵸、山皃。

【嵐】8289 ラン 〔集韻〕盧含切 覃 ㄌㄢˊ lan²


小篆

❶**山にたちこめ薄青く見える蒸氣**。山氣。〔集韻〕嵐、山氣。〔正字通〕嵐、山氣烝潤也。〔王維、送二方尊師一詩〕夕陽彩翠忽成ㇾ嵐。❷**山の風**。〔謝靈運、晚出二西射堂一詩〕夕曛嵐氣陰。〔注〕善曰、嵐、山風也。❸**つむじ風**。又、烈風。〔玉篇〕嵐、大風也。〔正字通〕嵐、旋嵐、梵云、迅猛風。❹**山名**。一名、岢嵐。〔說文新附〕嵐、山名、从ㇾ山葻省聲。〔集韻〕嵐、一曰、岢嵐、山名、在二太原一。❺**州の名**。嵐州（19）を見よ。〔集韻〕嵐、又州名。

【嵐陰】1 ランイン 山氣のかげり。山氣の色の濃やかなさまにいふ。嵐は青くうるほつた山氣。〔白居易、履道春居詩〕暝助二嵐陰一重、春添二小色一深。

【嵐影】2 ランエイ 山氣の色。又、山氣。嵐は青くうるほつた山氣。〔錢起、江行無題詩〕千頃水紋細、一拳嵐影孤。〔陸龜蒙、寄二華陽山人一詩〕嬾檜推二嵐影一、飛泉撼二玉琤一。

【嵐影湖光】3 ランエイコクワウ 青々とした山氣の色と湖面のかがやき。山水の風光をいふ。〔邵長蘅、夜遊二孤山一記〕嵐影湖光、今不ㇾ異ㇾ昔。

【嵐煙】4 ランエン 青くうるほつた山氣。煙も靄の類。〔劉長卿、望二龍山一懷二道士許法稜一詩〕嵐煙瀑水如ㇾ向ㇾ人、終日迢迢空在ㇾ眼。〔姚合、送三賈耆赴二共城營田一詩〕水氣詩書軟、嵐煙筆硯濃。

【嵐河】5 ランガ 川の名。源は陝西省鎭坪縣の西南、花池嶺。西北流して磚坪縣を經、安康縣の西南に至つて漢水に注ぐ。兩岸の山に嵐氣が多いから此の名があるといふ。〔水經、沔水注〕漢水、又東逕二嵐谷北口一、嶂遠溪深、澗峽險邃、氣蕭蕭以瑟

瑟、風颼颼而颸嵐、故川谷擅二其目一矣。

【嵐行】6（ランカウ） 山氣の中を行く。〔白居易、山路偶興詩〕泉憩茶數甌、嵐行酒一酌。

【嵐皐】7（ランカウ） 縣名。民國、置く。もと安康縣の磚坪村。清初、城を築き、俗に水圍城と名づく。嘉慶の初、平利・紫陽・安康の地を割き、改めて磚坪廳を置き、治を嵐河の南に置く。陝西省安康縣の西南、嵐河の南。

【嵐嵅】8（ランカン） 山名。〔集韻〕嵅、嵐嵅、山名。

【嵐氣】9（ランキ） 蒸し潤つた山の氣。もや。〔淮南子、墜形訓〕瘴氣多レ喑、嵐氣多レ聾。〔夏侯湛、山路吟〕冒二晨朝一兮入二大谷一、道二逶迤一兮嵐氣清。〔謝靈運、晩出二西射堂一詩〕夕曛嵐氣陰。〔張九齡、耒陽溪夜行詩〕嵐氣船間入、霜華衣上浮。〔儲光羲、同二諸公一秋霽曲江俯見二南山一詩〕嵐氣浮二渚宮一、孤光隨二曜靈一。〔岑參、寄二青城龍谿奐道人一詩〕絶頂小蘭若、四時嵐氣凝。

【嵐光】10（ランクヮウ） 山の氣の日が映じたひかり。〔李咸用、題二劉處士居一詩〕壓破嵐光半畝餘、竹軒蘭砌共清虛。〔鄭谷、蜀中詩〕夜多無レ雨曉生レ塵、草色嵐光日日新。〔曹唐、望二九華一寄二池陽杜員外一詩〕奇狀卻疑人畫出、嵐光如レ爲レ客添レ濃。〔李山甫、陪二鄭先輩一華山羅谷訪二張隱者一詩〕白雲閑二洞口一、飛蓋入二嵐光一。〔羅隱、巫山高詩〕嵐光雙雙雷隱隱、愁爲二衣裳一恨爲レ鬢。

【嵐徑】11（ランケイ） 山氣のこめたほそ道。〔范仲淹、遊二廬山一作詩〕五老閑遊倚二舳艫一、碧梯嵐逕好程途。

【嵐峽】12（ランケフ） 山城國嵐山の雅稱。

【嵐憲】13（ランケン） 地名。唐代、河東道に屬す。〔唐書、地理志三〕河東道、代雲・朔蔚・武新・嵐憲、爲二大梁分一。〔張齊賢、諫二北征一疏〕河東初平、人心未レ固、嵐憲忻代、未レ有二軍寨一。

【嵐縣】14（ランケン） 縣名。明、置く。漢の汾陽縣の地。今、山西省靜樂縣の西南、汾水の支流の嵐水の上源。〔讀史方輿紀要、山西、太原府、岢嵐州〕嵐縣、漢汾陽縣地、隋爲二靜樂縣地一、隋末置二嵐城縣一、唐武德四年、置二東會州治一焉、又改レ縣爲二宜芳縣一、六年、改置二嵐州一、天寶初曰二樓煩郡一、乾元初復レ故、宋仍曰二嵐州一、金因レ之、亦曰二鎭西軍一、元至元二年、州縣俱省入二管州一、五年、復置二嵐州一、以二宜芳縣一省入、明初洪武二年、降爲レ縣、九年析置二岢嵐州一、以レ縣屬焉。〔清史稿、地理志〕山西、太原府、縣十、嵐。

【嵐谷】15（ランコク） 縣名。唐、置き、元、廢す。今、山西省に屬す。〔唐書、地理志三〕嵐州、樓煩郡、縣、嵐谷。〔宋史、地理志二〕岢嵐軍、太平興國五年、以二嵐州嵐谷縣一建爲レ軍、云云、縣一、嵐谷。〔金史、地理志下〕岢嵐州、嵐谷、有二岢嵐山・雪山・岢嵐水一。

【嵐彩】16（ランサイ） 山氣の青々としたいろどり。〔杜牧、商山廡澗詩〕雲光嵐彩四面合、柔柔垂柳十餘家。〔陸龜蒙、蓑衣詩〕滴瀝珠影泫、離披嵐彩虛。

【嵐山】17（ランザン） ❶山名。あらしやま。山城國葛野郡松尾村。嵐峽。〔拙堂文話、嵐山〕天下名花、古今首推二芳野一、余以爲、吉野有レ山無レ水、未レ若二嵐山之最佳一也。❷馬淵會通の號。馬淵嵐山(**12**−**44572**··34)を見よ。

【嵐姿】18（ランシ） 青々とした山のすがた。〔皮日休、初夏遊二楞伽精舍一詩〕嵐姿與レ波彩、不レ動渾相著。

【嵐州】19（ランシウ） 後魏、置き、隋、廢す。唐、嵐州といひ、宋、嵐州樓煩郡を置く。故治は今の山西省嵐縣の北。明、降して縣と爲す。嵐縣(14)を見よ。

【嵐岫】20（ランシウ） 山氣がたちこめて青く見える峰。〔李中、思二溢渚舊居一詩〕寒翠入レ簷嵐岫曉、冷聲縈レ枕野泉秋。〔喩餗、仙掌賦〕霽雲飛盡、見二毛女同二掌上之人一、嵐岫叢分、封二蓮峯一爲二握中之色一。

【嵐濕】21（ランシツ） 山氣がうるほふ。〔溫庭筠、題二翠微寺一詩〕嵐濕金鋪外、溪鳴錦幄傍。

【嵐瘴】22（ランシヤウ） 山中にたちこめる邪氣。〔韓偓、十月七日早起作時氣疾初愈詩〕疾愈身輕覺二數通一、山無二嵐瘴一海無レ風。

【嵐色】23（ランショク） 山氣の青々とした色。〔白居易、奉下酬侍中夏中雨後遊二城南莊一見上レ示二八韻一詩〕四山嵐色重、五月水聲寒。

【嵐深】24（ランシン） 山氣が深い。〔曹唐、劉阮洞中遇二仙子一詩〕天和二樹色一靄蒼蒼、霞重嵐深路渺茫。〔斯學、雪夜詩〕嵐深寒氣重、岸斷凍痕平。

【嵐翠】25（ランスイ） みどり色の山氣。〔杜牧、除レ官歸レ京睦州雨霽詩〕水聲侵二笑語一、嵐翠撲二衣裳一。

【嵐積】26（ランセキ） 山氣がかさなる。山氣の青色の深いこと。〔朱慶餘、和三處州嚴中游二南溪一詩〕潭清蒲遠レ岸、嵐積樹無レ陰。

【嵐嫩】27（ランドン） 青くわかわかしい山氣の色。〔杜牧、長安雜題詩〕雨晴九陌鋪二江練一、嵐嫩千峯疊二海濤一。〔貫休、山居詩〕嵐嫩風輕似二碧紗一、雪樓金像隔二烟霞一。

【嵐飛】28（ランピ） 山の氣が散り飛ぶ。〔貫休、題二靈溪暢公墅一詩〕嵐飛黏似レ霧、茶好碧二於苔一。

【嵐壁】29（ランペキ） 山氣のたちこめた切立つたがけ。〔杜甫、天池詩〕天池馬不レ到、嵐壁鳥纔通。

【嵐峯】30（ランポウ） 山氣がたちこめて青く見える峯。嵐嶺。〔韋應物、紫閣東林居士叔緘賜二松英丸一云云詩〕一望嵐峯拜二還使一、腰間銅印與レ心違。〔韋莊、洛北村居詩〕巖邊石室低臨レ水、雲外嵐峯半入レ天。

【嵐霧】31（ランム） 山の霧。〔嶺表錄異記〕嶺表山川盤鬱、氣聚不レ易二疎洩一、故多二嵐霧一作レ瘴、人感レ之多レ病。〔農田餘話〕爐甘石雨過之後、日炙レ之則有二濕氣一蒸蒸然以象二嵐霧一。

【嵐嶺】32（ランレイ） 山氣がたちこめて青く見える峰。嵐峯。〔韋應物、同三元錫題二瑯琊寺一詩〕殿分二嵐嶺一明、磴臨二縣壑一絶。

【嵐路】33（ランロ） 山氣のたちこめた路。〔高啓、剡原九曲詩〕舟行安能極、嵐路入二斜照一。

【嵐横】34（ランワウ） 山氣が青々と横たはる。〔韋應物、西塞山詩〕嵐横秋塞雄、地束驚流滿。

【嵐毗園】35（ランビヲン） 〖佛〗嵐毘尼に同じ。〔瑞應經〕佛於二莊王十年甲午八日一、夜鬼宿合時、於二嵐毗園波羅樹下一、從二摩耶夫人右脇一而生。

【嵐毘尼】36（ランビニ） 〖佛〗苑林の名。嵐毘尼園。印度の迦毘羅衞國城の東方に在つて、摩耶夫人がお産のため生家に歸る途中、無憂樹の下で釋迦を生んだ處。舊趾は今のネパールのタライ地方。嵐毘尼は、藍毘尼・留毗尼・流彌尼・林毘尼とも書き、梵語 Lumbinîvana の音譯。〔玄應音義、十九〕嵐毘、或言二流毘尼一、或言二林微尼一、正言二藍奮尼一、此云レ藍、卽上古守レ園婢名也、因以名レ園、飯那此云レ林、或譯云二解脫處一、亦云レ滅、亦名レ斷、奮音扶晩切。

【嵐前燈火】37（ランゼンノトウクヮ） 嵐の前の燈火。極めて危い喩。風前燈(**12**−**43756**··321)に同じ。

【㟗】8290

ビン

㟗(**4**−**8455**)に同じ。〔集韻〕㟗、或作レ㟗。

【嵑】8291

㊀ケツ ゲチ 〔集韻〕其謁切 ［月］

㊁カツ カチ 〔集韻〕丘葛切 ［曷］

㊀❶**そびえる**。そばだつ。〔正字通〕嵑、山特立也。❷**いしぶみ**。碣(**8**−**24326**)に通ず。〔後漢書、竇憲傳〕封二神丘一兮建二隆嵑一。〔注〕方者謂二之碑一、員者謂二之碣一、嵑、亦碣也。❸**山名**。碣(**8**−**24326**)に同じ。〔集韻〕碣、碣石、山名、或从レ山。㊁**山のさま**。嶱(**4**−**8530**)に同じ。〔集韻〕嶱、山皃、或作レ嵑。

【嵔】8292

㊀ヰ 〔集韻〕羽鬼切 ［尾］

㊁ワイ 〔集韻〕烏回切 ［灰］

㊂ヰ 〔集韻〕於非切 ［微］

㊃ワイ

㊀❶**山のさま**。崴(**4**−**8244**)に同じ。〔集韻〕崴、山皃、或作レ嵔。❷**山のめぐりまがるさま**。〔字彙〕嵔、山高下盤曲貌。㊁**山のめぐりまがるさま**。㊀の❷に同じ。〔集韻〕嵔、山曲。㊂**山名**。嵔壘(3)の❷を見よ。㊃嵬(**4**−**8293**)に同じ。

【嵔廆】1（ヰクヮイ） 山のうねつて遠く連なるさま。〔司馬相如、上林賦〕崴磈嵔廆、丘虛堀礨、隱轔鬱壘、登降施靡。〔注〕翰曰、皆山勢高峻長遠之貌。

【嵔㟪】2（ワイルイ） 高下あるさま。平かでないさま。嵬㟪。〔盧照鄰、釋疾文〕籟山嵔㟪兮雲似レ蓋。

【嵔壘】3（ヰルイ） ❶まがりくねる。盤曲する。〔論衡、雷虛〕禮曰、刻レ尊爲二雷之形一、一出一入、一屈一伸、爲二相校軫一則鳴、校軫之狀、鬱律嵔壘之類也。❷山名。畏壘。〔集韻〕嵔、嵔壘、山名、亦作レ

畏。〔莊子、庚桑楚〕有㆓庚桑楚者㆒、偏得㆓老聃之道㆒、以北居㆓畏壘之山㆒、畏壘之氏、相與言曰、庚桑子之始來、吾灑然異㆑之。〔後漢書、章帝紀、注〕莊子曰、有㆓庚桑子㆒云云、以居㆓嵔壘之山㆒。

【嵔】8293 ワイ 〔集韻〕鄔賄切 賄

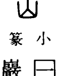
山名。嵔壘。或は畏(**7－21778**)・⿰山畏(**4－8292**)に作る。〔集韻〕嵔、嵔壘、山名、或省、亦作㆑⿰山畏。

【嵒】8294

🈩 ガン ゲン 〔集韻〕魚咸切 咸 ㄧㄢˊ yen²

🈔 ギン ゴン 〔集韻〕魚音切 侵

🈪 ギフ ゴフ 〔集韻〕逆及切 緝


小篆

🈩❶**いは。**いはほ。〔說文〕嵒、山巖也、从㆑山品聲、讀若㆑吟。〔徐鉉注〕從㆑品、象㆓巖厓連屬之形㆒。〔韋莊、李氏小池亭詩〕題㆑詩遶㆓翠嵒㆒。〔郝經、靈泉行〕三嵒鼎峙勢欲㆑墜。❷**けはしい。**岑嵒。〔嵇康、琴賦〕崔嵬岑嵒。〔注〕善曰、崔嵬岑嵒、危險之皃也。❸**そびえる。**岑嵒。〔江淹、翡翠賦〕峯岑嵒而蔽㆑日、樹靜瞑而臨㆑泉。❹**春秋、宋の地名。**〔廣韻〕嵒、又地名。〔左氏、哀、十三〕鄭罕達率㆑師、取㆓宋師于嵒㆒。❺巖(**4－8649**)に通ず。〔爾雅、釋山、厜㕒、注〕巉嵒。〔釋文〕嵒、本又作㆑巖。❻碞(**8－24315**)に通ず。〔正字通〕嵒、與㆑碞通。🈔**みね。**崟(**4－8199**)に同じ。〔集韻〕崟、說文、山之岑崟也、或作㆑嵒。🈪**地名。**🈩の❹に同じ。〔集韻〕嵒、地名、春秋傳、取㆓宋師于嵒㆒。

參考 口部の嵒(**2－3975**)とは別字。

【嵒幄】1 ガンアク 岩窟。岩屋。〔名山記〕石巒開有㆓嵓幄小祠㆒、燈火熒熒、丁戊曰、此神女祠也。

【嵒崿】2 ガンガク ❶いはほの連なつてゐるがけ。〔郭璞、江賦〕厓隒爲㆓之泐嵃㆒、碕嶺爲㆓之嵒崿㆒。〔注〕濟曰、泐嵃・嵒崿、皆坎穴、言㆓水急激㆑之所㆒㆑爲也。❷きり立つた山。又、山勢のさまざまであるさま。〔江淹、雜體、遊山詩〕嵒崿轉奇秀、岑崟還相蔽。〔注〕銑曰、嵒崿・岑崟、並山勢不㆑齊貌。

【嵒嵒】3 ガンガン いかめしく立つさま。〔張衡、思玄賦〕冠嵒嵒其映㆑蓋兮、佩綝纚以煇煌。〔注〕翰曰、嵒嵒、高貌。

【嵒齬】4 ガンゴ けはしくて凹凸のあるさま。〔張衡、西京賦〕上林岑以壘㠑、下嶄巖以嵒齬。〔注〕銑曰、林岑・壘㠑・嶄巖・嵒齬、言㆓上下皆險峻不㆒㆑齊也。

【嵒峻】5 ガンシュン 高く險しいさま。巖峻(**4－8649・・92**)に同じ。

【嵒居川觀】6 ガンキョセンクワン いはに住み川で眺める。世を避けて山水を友とすること。〔日本政記、崇德天皇論〕憲淸嵒居川觀、超㆓然事外㆒。

【嵓】8295 ガン 嵒(**4－8294**)に同じ。〔字彙〕嵓、同㆑嵒。

【⿱胡山】8296 コ ゴ 〔集韻〕洪孤切 虞

山名。〔集韻〕⿱胡山、山名。

【⿱山前】8297 セウ 峭(**4－8085**)に同じ。〔字彙補〕⿱山前、同㆑峭。

【⿰山泉】8298 セン 泉(**6－17274**)に同じ。〔字彙補〕⿰山泉、同㆑泉。

【⿱山泉】8299 セン ⿰山泉(**4－8298**)に同じ。〔字彙補〕⿰山泉、亦作㆑⿱山泉。

【⿱山⿸厂言】8300 🈩ガン 〔集韻〕魚旰切 翰 🈔ゲン ゴン 〔集韻〕語偃切 阮

🈩❶**あつい。ひろくあつい。**〔玉篇〕⿱山⿸厂言、厚也。〔集韻〕⿱山⿸厂言、廣厚也。❷**つつしまない。**〔集韻〕⿱山⿸厂言、一曰、不㆑恭也。🈔**あふぐ。**屵(**4－7882**)に同じ。〔集韻〕屵、仰也、或从㆑言。

【⿱山⿱冖⿱乂儿】8301 キヤウ 羌(**9－28429**)の古字。〔集韻〕羌、古作㆑⿱山⿱冖⿱乂儿。

【⿰山昺】8302 ヘイ ヒヤウ 〔字彙補〕邦景切 梗

人名。〔字彙補〕⿰山昺、人名、宋史新編藝文志、鄭⿰山昺。

【⿱山卽】8303 セツ セチ 〔龍龕手鑑〕子結切 屑

山の高いさま。〔龍龕手鑑〕⿱山卽、山高貌。

【⿱癶山】8304 サツ 義未詳。〔字彙補〕⿱癶山、尸札切、音殺、出㆓釋典藏尊勝神咒㆒。

【⿰阝⿱山臽】8305 ダ 義未詳。〔海篇〕⿰阝⿱山臽、音朶。

【⿱山勛】8306 クン 義未詳。〔字彙補〕⿱山勛、許軍切、音勳、出㆓釋典㆒。

【⿺是山】8307 シ 義未詳。〔篇韻〕⿺是山、音時。

【⿰山者】8308 シヨ 義未詳。〔海篇〕⿰山者、音煑。

【⿰山皆】8309 キ 義未詳。〔字彙補〕⿰山皆、音綺。

【⿱山⿸厂艮】8310 イウ 憂(**4－11170**)に同じ。〔字彙補〕⿱山⿸厂艮、同㆑憂。

【⿰山盈】8311 エイ 盈(**8－22961**)に同じ。〔字彙補〕⿰山盈、同㆑盈。

【⿰山幽】8312 イウ 義未詳。〔篇韻〕⿰山幽、音幽。

【⿰阝⿱有山】8313 タ 嶞(**4－8486**)に同じ。〔五音篇海〕⿰阝⿱有山、同㆑嶞。

【⿰山看】8314 カン 義未詳。〔龍龕手鑑〕⿰山看、音看。

【⿱叟山】8315 ソウ 〔辭源〕讀如㆑叟。

【⿱叟山崮】1 ソウコ ❶山名。山東省蒙陰縣の西南。❷川の名。⿱叟山崮水。⿱叟山崮山の北麓から出て、北流して東紋河に入る。卽ち桑泉河で、東南流して沂水に入る。〔水經、沂水注〕東南與㆓⿱叟山崮水㆒合。❸寨の名。又、搜虎に作る。〔讀史方輿紀要、山東、青州府、蒙陰縣〕黑龍寨、西南有㆓搜虎寨㆒。

【⿰山昏】8316 ビン 岷(**4－8007**)に同じ。〔正字通〕⿰山昏、同㆑岷、說文作㆑⿱敃山。

【⿰山宣】8317 ケン 巏(**4－8630**)に通ず。⿰山宣嵍(一)を見よ。

【嵦⿰山務】1ケンブ 山名。別名、宣務山・巏務山・權務山・虛務山・虛無山。河北省唐山縣の北。〔正字通〕巏、顏氏家訓、柏人城東北有ㇾ山、俗呼二宣務山一、或呼二虛務山一。〔隋書、地理志中〕趙郡柏鄉縣有二嵦⿰山務山一。〔太平寰宇記〕嵦⿰山務山、一名虛無山。

【嵖】8318 サ

嵯(4-8363)に通ず。嵖岈(1)の❷を見よ。

【嵖岈】1サガ 山名。❶山東省平度縣の東北。天柱山・大澤山と相接す。〔讀史方輿紀要、山東、萊州府、平度州〕天柱山、嵖岈山、在二州北三十里一、以二山形嵖岈一而名。❷河南省遂平縣の西。一名、嵯峨山。〔唐書、李愬傳〕繕ㇾ鎧厲ㇾ兵、攻二馬鞍山一下ㇾ之、拔二道口柵一、戰二嵖岈山一。〔明一統志〕嵖岈山、一名嵯峨山、中空有二洞穴一、可二深入一、山前爲二馬鞍山一。

【嵗】8319 セイ

歲(6-16326)の俗字。〔辭海〕嵗、歲俗字。

十畫

【嵊】8320

㊀シヨウ ジヨウ 〔集韻〕石證切 ㄕㄥˋ shêng^4 徑

㊁シヨウ ジヨウ 〔集韻〕神陵切 蒸

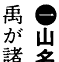
㊀❶山名。嵊山(2)を見よ。〔集韻〕嵊、山名、在二剡縣一。〔江淹、贈二別謝法曹一詩〕今行嶀嵊外。❷縣名。嵊縣(1)を見よ。㊁亭の名。嵊亭(3)を見よ。〔集韻〕嵊、亭名、在ㇾ吳。

【嵊縣】1ジヨウケン 縣名。宋、置く。漢の剡縣。浙江省紹興縣の南。縣境に嵊山があるによつて名づく。〔讀史方輿紀要、浙江、紹興府〕嵊縣、漢置二剡縣一、屬二會稽郡一、晉以後因ㇾ之、云云、宋初復ㇾ舊、宣和八年、始爲二嵊縣一。〔清史稿、地理志〕浙江、紹興府、縣八、嵊。

【嵊山】2ジヨウザン 山名。浙江省嵊縣の東。〔清一統志〕按二宋書一、張稷爲二剡令一、至二嵊亭一、生ㇾ子名ㇾ嵊、字二四山一、嵊之爲ㇾ字、蓋取二四山相合一、如二乘馬・乘雁之義一。

【嵊亭】3ジヨウテイ 宿驛の名。嵊山の附近。嵊山を見よ。

【嵞】8321 ヅ ト 〔集韻〕同胡切 虞



小篆

❶山名。塗(3-5338)に通ず。㋑禹が諸侯を會同したと傳へられる山。塗山。會稽山。今、浙江省紹興縣の東南。〔說文〕嵞、會稽山也、云云、从ㇾ屾余聲。〔段注〕左傳、禹會二諸侯於塗山一、執二玉帛一者萬國、魯語、昔禹致二羣神於會稽之山一、云云、二傳所ㇾ說、正是一事、故云、嵞山、卽會稽山、嵞・塗、古今字。㋺禹が娶つた女の氏族の住地と傳へられる山。今、安徽省懷遠縣の東南。〔說文〕嵞、一曰、九江當涂也、民俗以二辛壬癸甲之日一嫁娶、云云、虞書曰、予娶二嵞山一。〔段注〕一曰者、別一義、謂二嵞山在二九江當塗一也、地理志、九江郡當塗、應劭曰、禹所ㇾ娶塗山氏國也、云云、按、漢當塗、卽今安徽省鳳陽府懷遠縣、縣東南有二塗山一、非下今在二江南太平府治一之當塗上也、云云、水經注引呂氏春秋、禹娶二塗山氏女一、不二以ㇾ私害一ㇾ公、自ㇾ辛至ㇾ甲四日、復往治ㇾ水、故江淮之俗、以二辛壬癸甲一爲二嫁娶日一也、許云、云云、正與二呂覽一合。❷或は峹(4-8111)・⿰山余(4-8112)に作る。〔集韻〕嵞、或省、亦書作ㇾ⿰山余。

【嵞山】1トザン 山名。又、國名。又、姓。一に塗山に作る。字解の❶❷を見よ。〔廣韻〕嵞、嵞山、古國名、禹所ㇾ娶也、說文云、會稽山也、一曰、九江當嵞也、亦作ㇾ峹、又書作ㇾ塗。

【嵞山女】2トザンノヂヨ 塗山氏の女。名は憍。夏の禹王と婚したといふ。〔楚辭、天問〕焉得二彼嵞山女一、而通二之于台桑一。〔注〕言下禹引二治水道一、娶二嵞山氏之女一、而通中夫婦之道於台桑上。

【⿰山冢】8322 チヨウ チユ 〔集韻〕展勇切 腫

山名。〔集韻〕⿰山冢、山名。

【⿰山舀】8323 タウ トウ 〔集韻〕他刀切 豪

山名。〔集韻〕⿰山舀、山名。

【⿰山益】8324 アイ

⿰山厄(4-7960)に同じ。〔集韻〕⿰山厄、或从ㇾ益。

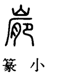
【⿰山貢】8325 コウ ク 〔集韻〕呼貢切 送

山谷の深いさま。⿰山貢峒。〔集韻〕⿰山貢、⿰山貢峒、山谷深皃。

【⿰山冥】8326 メイ ミヤウ 〔集韻〕母迥切 迥

❶山の高いさま。巊⿰山冥。〔集韻〕⿰山冥、巊⿰山冥、山高皃。❷巊⿰山冥は、山名。〔玉篇〕⿰山冥、巊⿰山冥、山名。

【嶏】8327 ヒ ビ 〔集韻〕部鄙切 紙



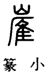
小篆

❶くづれる。〔說文〕嶏、崩也、从ㇾ屵肥聲。❷奧まつた薄暗い所。通じて厞(2-2970)に作る。〔六書總要〕嶏、隱也、通作ㇾ厞。

【嵟】8328

㊀タイ ツイ 〔集韻〕都回切 灰

㊁タイ ヅイ 〔集韻〕杜罪切 賄



小篆

㊀㊁高い。又、高いさま。〔說文〕嵟、高也、从ㇾ屵隹聲。〔集韻〕嵟、高皃。

【嵠】8329 ケイ

谿(10-36219)に同じ。〔集韻〕谿、或从ㇾ山。

【⿰山䍃】8330 エウ 〔集韻〕餘招切 蕭

山のさま。〔集韻〕⿰山䍃、山皃。

【嵡】8331

㊀ヲウ ヲ 〔集韻〕烏公切 東

㊁ヲウ ヲ 〔集韻〕鄔孔切 董

㊀山名。〔集韻〕嵡、山名。㊁山のさま。〔集韻〕嵡、山皃。

【嵢】8332 サウ 〔字彙〕千郎切 陽

山のいきほひ。〔字彙〕嵢、山勢。

【⿰山辛】8333 カツ

嶭(4-8517)の俗字。〔正字通〕⿰山辛、同ㇾ嶭、俗省。

【⿰山務】8334 ブ

嵍(4-8280)の俗字。〔正字通〕⿰山務、俗嵍字。

【嵣】8335

🈩タウ ダウ 〔集韻〕徒郎切 ［陽］
🈔タウ ダウ 〔集韻〕待朗切 ［養］
🈪タウ ダウ 〔集韻〕大浪切 ［漾］

🈩❶岮嵣は、山名。〔集韻〕嵣、岮嵣、山名。❷山のさま。嵣⿰山芒。〔廣韻〕嵣、嵣⿰山芒、山皃。🈔❶山のさま。嵣岨。〔集韻〕嵣、嵣岨、山皃。❷山石の廣大なさま。嵣岮。〔張衡、南都賦〕嵣岮嶚刺。〔注〕善曰、嵣岮、山石廣大之貌。🈪山の形。〔集韻〕嵣、山形。

【⿱山陖】8336

シユン

峻（4−8116）に同じ。〔說文〕峻、⿱山陖、或省。

【嵤】8337

🈩ケイ ギヤウ 〔集韻〕玄扃切 ［青］
🈔クヮウ ワウ 〔集韻〕乎萌切 ［庚］
🈪エイ ヤウ 〔集韻〕于平切 ［庚］

🈩山の深いさま。岭嵤。或は巆（4−8613）に作る。〔集韻〕嵤、岭嵤、山深皃、或从㆑營。🈔🈪けはしい。崝嵤。崢嶸。嶸（4−8548）に同じ。〔說文、嶸、崝嶸也、段注〕亦作㆑嵤。〔集韻〕嶸、崢嶸、山皃、或省。

【嵥】8338

ケツ ゲチ 〔集韻〕巨列切 ［屑］

高いさま。嵥峕（1）を見よ。

【嵥峕】1 ケツゲツ 高いさま。〔集韻〕嵥、嵥峕、高皃。

【嵥豎】2 ケツジユ 高くぬき出て立つ。豎は立。〔郭璞、江賦〕虎牙嵥豎以屹崒、荆門闕竦而磐礴。〔注〕善曰、嵥、特立皃。

【嵥峙】3 ケツヂ 高くそばだつ。〔郭璞、巫咸山賦〕伊巫咸之名山、崛孤停而嵥峙。

【豳】8339

ヒン

豳（10−36448）の譌字。〔正字通〕豳、豳字之譌。

【嵈】8340

エウ 〔集韻〕以紹切 ［篠］

山のさま。〔集韻〕嵈、山皃。

【⿰山⿱宀出】8341

トツ トチ 〔集韻〕他骨切 ［月］

山のさま。⿰山⿱宀出屼。〔集韻〕⿰山⿱宀出、⿰山⿱宀出屼、山貌。

【⿱山原】8342

ゲン グヮン 〔集韻〕愚袁切 ［元］

山のいただき。崟⿱山原。或は⿰山原に作る。〔集韻〕⿱山原、崟⿱山原、山巓、或書作㆑⿰山原。

【嵦】8343

🈩ガイ 〔集韻〕魚開切 ［灰］
🈔カイ 〔集韻〕可亥切 ［賄］

🈩🈔山のさま。崍嵦。〔集韻〕嵦、崍嵦、山皃。

【⿱山豺】8344

🈩サイ 〔集韻〕牀皆切 ［佳］
🈔サイ 〔集韻〕楚解切 ［蟹］

🈩🈔山名。湖北省隨縣に在る。〔集韻〕⿱山豺、山名、在㆓平林㆒。

【⿱𡨄山】8345

サイ

塞（3−5349）の俗字。〔正字通〕⿱𡨄山、俗塞字。

【嵧】8346

リウ ル 〔集韻〕力求切 ［尤］

山のさま。岣嵧。〔集韻〕嵧、岣嵧、山皃。

【嵨】8347

ヲ ウ 〔集韻〕於五切 ［麌］

山名。〔集韻〕嵨、山名。

【嵩】8348

シユウ シユ 〔集韻〕思融切 ［東］ ㄙㄨㄥ sung¹
［慣］スウ

小篆

❶高い。高く大きい。〔爾雅、釋詁〕嵩、高也。〔漢書、揚雄傳上〕瞰㆓帝唐之嵩高㆒兮。〔注〕師古曰、嵩、亦高也。〔白虎通、巡狩〕嵩、言㆓其高大㆒也。❷そばだつ。〔釋名、釋山〕嵩、竦也、亦高稱也。〔桐柏碑〕宮廟嵩峻。❸山名。五嶽の一。中嶽。嵩高山。河南省登封縣の北。嵩山（24）の❶の㋑を見よ。〔說文新附〕嵩、中岳嵩高也、从㆑山从㆑高。❹崧（4−8209）に同じ。〔說文新附〕嵩、亦从㆑松。〔太平御覽、地部、嵩山〕釋名曰、嵩字、或作㆑崧、山大而高曰㆑嵩。❺古は崇（4−8152）に作る。〔集韻〕嵩、古作㆑崇。〔說文通訓定聲〕崇、按、中嶽、禹貢曰㆓外方㆒、秦曰㆓太室㆒、漢武名曰㆓崇高山㆒、漢靈帝改爲㆓嵩高山㆒、其實嵩・崇非㆓兩字㆒也。❻姓。〔奇姓通〕嵩、漢嵩眞、安定人、明㆓算術㆒。

［邦］❶かさ。❷かさむ。かさばる。

［解字］會意。山と高との合字。故に本義は高い山。

［名乘］タカ。タケ。

【嵩雲】1 スウウン 嵩山の雲。〔劉禹錫、訓㆓思黯見㆑示㆓小飲四韻㆒詩〕兵符相印無㆓心戀㆒、洛水嵩雲恣㆑意看。

【嵩雲秦樹】2 スウウンシンジユ 嵩山の雲と秦山の樹。互に遠く隔たつてゐる喩。〔李商隱、寄㆓令狐郎中㆒詩〕嵩雲秦樹久離居、雙鯉迢迢一紙書。

【嵩潁】3 スウエイ 嵩山と潁水。〔魏書、田益宗傳〕懸㆓瓠要藩㆒、密㆓邇嵩潁㆒、南疆之重、所㆑寄不㆑輕。

【嵩河】4 スウガ 嵩山と黃河。〔魏書、李崇傳〕高祖孝文皇帝、稟聖自㆑天、道鏡㆓今古㆒、徙㆓馭嵩河㆒、光㆓宅函洛㆒。

【嵩崖】5 スウガイ 高いがけ。〔何劭、洛水祖㆓王公㆒應詔詩〕嵩崖巖巖、洪流湯湯。

【嵩高】6 スウカウ ❶五嶽の一。崧高。嵩山（24）の❶の㋑を見よ。〔爾雅、釋山〕嵩高爲㆓中嶽㆒。〔史記、封禪書〕嵩高爲㆓中嶽㆒。〔漢書、武帝紀〕親登㆓嵩高㆒。〔說苑、辨物〕崇高山、中嶽也。〔後漢書、靈帝紀〕熹平五年、復㆓崇高山名㆒爲㆓嵩高山㆒。〔注〕前書、武帝祠㆓中嶽㆒、改㆓嵩高㆒爲㆓崇高㆒。〔風俗通、山澤〕中央曰㆓嵩高㆒、嵩者、高也。〔太平御覽、地部、嵩山〕白虎通曰、中央之嶽、獨加㆓嵩高字㆒者何、中央居㆓四方之中㆒而高、故曰㆓嵩高山㆒。〔戴延之、西征記〕東曰㆓太室㆒、西曰㆓少室㆒、嵩高其總名也。❷高いさま。〔禮、孔子閒居〕詩曰、嵩高維嶽、峻極㆓于天㆒。〔疏〕嵩然而高者、惟是五嶽、其形高峻至㆓于天㆒。〔漢書、揚雄傳上〕瞰㆓帝唐之嵩高㆒兮、脈㆓隆周之大寧㆒。〔注〕師古曰、嵩、亦高也。

【嵩衡】7 スウカウ 嵩山と衡山。大山・高山の意。衡嵩。〔徐陵、裴使君墓誌〕每以財輕㆓糞籜㆒、義重㆓嵩衡㆒。〔王勃、上㆓劉右相㆒書〕嵩衡不㆑拒㆓細壤㆒、故能嵩其峻。

【嵩角】8 スウカク 嵩山のすみ。〔岑參、自㆓潘陵尖㆒還㆓少室㆒居止秋夕憑眺詩〕火點伊陽邨、煙深嵩角鐘。

【嵩岳】9 スウガク 嵩嶽に同じ。

【嵩嶽】10 スウガク 嵩山（24）の❶の㋑に同じ。嵩岳。〔後漢書、馬融傳〕右矕㆓三塗㆒、左概㆓嵩嶽㆒。〔蜀志、郤正傳〕歎㆓嵩嶽之高峙㆒。〔張九齡、和㆓裴侍中㆒云云詩〕嵩嶽神惟降、汾川鼎氣雄。

【嵩嶽降㆑神】11 スウガクシンヲクダス 崇嶽が神氣を降して、周の重臣、甫侯と申伯とを生んだといふ故事。天賦の厚いことをいひ、又、人の子を生むを賀していふ。崧生嶽降（4−8209・・12）に同じ。〔范傳正、翰林學士李公新墓碑〕銘曰、嵩嶽降㆑神、是

生二輔臣一。

【嵩巖】12 スウガン 嵩山の巖。〔張說、送下武員外使二嵩山一置中舍利塔上詩〕寂滅眞心不レ可レ見、空留二影塔一嵩巖下。

【嵩箕】13 スウキ 嵩山と箕山。隱者の居る處。〔潘尼、懷退賦〕聃安二志于柱史一、由抗二迹于嵩箕一。

【嵩丘】14 スウキウ 嵩山(24)の❶㋑に同じ。〔洛陽伽藍記〕嵩丘、在二洛陽東南五十里一。〔宋之問、溫泉莊臥レ病云云詩〕賴有二嵩丘山一、高レ枕長在レ目。〔盧藏用、貽二平昔遊舊一詩〕坐憶生平遊、十載懷二嵩丘一。

【嵩京】15 スウキヤウ 洛陽(6－17383‥64)の異稱。洛陽の東南に嵩山があるからいふ。〔魏書、李平傳〕車駕將レ幸レ鄴、平上レ表諫曰、嵩京創レ構、洛邑俶レ營、雖三年跨二十稔一、根基未レ就。

【嵩華】16 スウクワ 嵩山と華山。華嵩。〔張載、劍閣銘〕狹過二彭碣一、高踰二嵩華一。〔徐與、與二楊僕射一書〕譬二渤澥一而俱深、方二嵩華一而猶重。〔庾信、哀江南賦〕稟二嵩華之玉石一、潤二河洛之波瀾一。

【嵩霍】17 スウクワク 嵩山と霍山。〔宋書、魯爽傳〕瘻人思レ步、盲者願レ明、嵩霍咫尺、江流匪レ遠。

【嵩谿】18 スウケイ 谷の名。湖南省にある。〔述異志〕辰州嵩谿有二丹青樹一。

【嵩月】19 スウゲツ 嵩山の月。〔許渾、贈二蕭鍊師一詩〕洛煙浮二碧漢一、嵩月上二丹岑一。

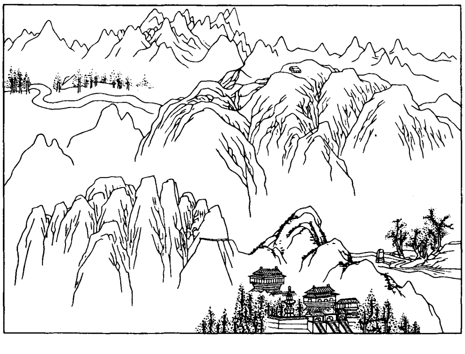
【嵩峴】20 スウケン 嵩山と峴山。〔王冷然、汝州薛家竹亭賦〕出二伊洛一以南遊、登二嵩峴一以顧視。

【嵩縣】21 スウケン 縣名。明、置く。春秋の陸渾戎の地、漢の陸渾縣。今、河南省宜陽縣の南、伊水の北岸。〔讀史方輿紀要、河南、河南府〕嵩縣、漢陸渾縣地、屬二宏農郡一、云云、金改二嵩州一、治二伊陽縣一、元以レ縣省入レ州、屬二南陽府一、明初改レ州爲二嵩縣一、又改二今屬一。〔清史稿、地理志〕河南、河南省、縣、嵩。

【嵩呼】22 スウコ 嵩山のさけび。君主の萬歲を唱へること。漢の武帝が嵩山に登封した時、何處からともなく萬歲を三唱する聲が聞えて來た故事による。山呼(4－7869‥348)の❶を見よ。〔漢書、武帝紀〕元封元年、云云、朕用二事華山一、至二於中嶽一、云云、親登二嵩高一、御史乘屬、在二廟旁一、吏卒咸聞下呼二萬歲一者三上。〔張昱、輦下曲〕羽仗執金班二控鶴一、千人魚貫振二嵩呼一。〔宋史、樂志十六〕都人歡樂嵩呼震、聖壽總天齊。

【嵩構】23 スウコウ 嵩山のかまへ。又、嵩山をいふ。嵩山の❶㋑を見よ。〔王儉、褚淵碑文〕崇構云積、梁陰載缺。〔注〕向曰、嵩山、中岳也。

【嵩山】24 スウザン ❶山名。㋑河南省登封縣の北。五嶽の一。中嶽。古は外方、或は太室といひ、又、嵩高といふ。山に三尖峯があり、中を峻極、東を太室、西を少室といふ。嵩丘。嵩嶽。嵩構。〔書、禹貢〕熊耳・外方・桐柏、至二于陪尾一、〔疏〕正義曰、地理志云、云云、嵩高山在二潁川嵩高縣一、古文以爲二外方山一。〔左氏、昭、四、太室、會箋〕胡渭曰、太室、卽嵩高也。〔史記、封禪書〕昔三代之君、皆在二河洛之閒一、故嵩高爲二中岳一、及三秦幷二天下一、自レ崤以東名山五、一曰二太室一、太室、嵩高也。〔漢書、武帝紀〕元封元年、云云、親登二嵩高一、御史乘屬在二廟旁一、吏卒咸聞下呼二萬歲一者三上、登禮罔レ不レ答、其令下祠官加二增太室祠一、禁無上レ伐二其草木一、以二山下戶三百一、爲二之奉邑一、名曰二嵩高一。〔漢書、地理志上〕潁川郡、云云、崈高、武帝置以奉二太室山一、是爲二中岳一、有二太室少室山廟一、古文以二崈高一爲二外方山一。〔注〕師古曰、崈、古崇字。〔後漢書、靈帝紀〕熹平五年、復二嵩高山名一爲二嵩高山一。〔明一統志〕嵩山、在二河南府登封縣北一十里一、五嶽之中嶽也、其山三尖峰、東曰二太室一、西曰二少室一、嵩、其總名、謂二之室一者、以三其下各有二石室一、中嶽居二四方之中一而高、故名二嵩山一、上有二中嶽廟一、漢武帝、至二中嶽一、獲二駮麃一、見二夏后啓母石一、翌日親登二嵩高一、吏卒咸聞下呼二萬歲一者三上、乃令三祠官加二贈太室祠一、置二奉邑一、名曰二崇高一、唐武后、改レ山爲二神嶽一。㋺山東省臨朐縣の西南。沂水・蒙陰二縣の界。㋩福建省莆田縣の東南の海濱。山上の石室には苔紋があり、文筆峯の三字を形成するといふ。俗に仙姑巖と呼ぶ。〔讀史方輿紀要、福建、興化府、莆田縣〕嵩山、府東南三十里、峭二拔海濱一、其南有三小嶼在二海中一、潮退有二石橋一可レ渡、居民千餘家、唐觀察使柳冕、監二羣牧於此一、有レ德二於民一、民建二柳侯廟一、俗因呼爲二侯嶼一、久之訛爲二猴嶼一。❷清、周瑋(2－3441‥302)の號。❸㋑スセヤマ 三河國の地名。㋺スセ・タカヤマ・タケヤマ 姓氏。〔新撰姓氏錄考證十八〕・〔拾芥抄〕・〔姓名錄抄〕。



嵩岳（名山圖）

【嵩山君】25 スウザンクン 羊の異名。〔搜神記、十八〕漢齊人梁文好レ道、其家有二神祠一、云云、帳中忽有二人語一、自呼二嵩山君一、云云、謂レ文曰、授レ手來、文納レ手得レ持二其頤一、髯鬚甚長、云云、而聞レ作二羊聲一、座中驚起、助レ文引レ之、乃袁公路家羊也。

【嵩山居士】26 スウザンコジ 宋、晁公遡(5－13889‥15)の號。

【嵩山三闕】27 スウザンノサンケツ 嵩山の太室(3－5834‥242)・少室(4－7475‥130)・開母(11－41233‥367)の三石闕銘をいふ。〔兩漢金石記〕嵩山三闕、惟太室闕字差小、前銘、後系二官名一、各以二一圈一標二界於首一、亦金石文所二罕見一也。〔金石存〕嵩山三石闕、太室以レ隸、開母・少室以レ篆。

【嵩山四叟】28 スウザンノシソウ 嵩山に住む四人の仙人。木巢南・林大節・孫文蔚・石媚虬。猿の化仙。〔劉燾、樹萱錄〕王縉嘗讀二書嵩山一、有二四叟一、攜レ榼來相訪、自稱、木巢南・林大節・孫文蔚・石媚虬、高談劇飲、既醉、俱化爲レ猿、升レ木而去。

【嵩山老人】29 スウザンラウジン 宋、陸經(11－41708‥89)の號。

【嵩山居士集】30 スウザンコジシフ 書名。五十四卷。宋、晁公遡撰。文章は勁氣直達である。〔四庫提要、集、別集類〕。

【嵩山表裏千重雪】31 スウザンノヘウリセンチユウノユキ 嵩山一帶に雪が多く降り積つてゐる。〔白居易、八月十五日夜同二諸客一翫レ月詩〕月好共傳唯此夜、境閑皆道是東都、嵩山表裏千重雪、洛水高低兩顆珠、淸景難レ逢宜二愛惜一、白頭相勸強歡娛、誠知亦有二來年會一、保二得晴明強健一無。

【下二嵩山一兮多二所思一】32 スウザンヲクダレバシヨシオホシ 嵩山をくだつてくると、色々と思ふことが多くて步みもはかどらない。所思の內容は、自然の悠久に對する人生のはかなさ。〔宋之問、下山歌〕下二嵩山一兮多二所思一、攜二佳人一兮步遲遲、松閒明月長如レ此、君再遊兮復何時。

【嵩州】33 スウシウ 州名。❶隋、置き、陽城に治す。今の河南省登封縣の東南。❷金、置く。今の河南省嵩縣治。

【嵩岫】34 スウシウ 高い山。〔抱朴子外篇、君道〕慕二伊呂於嵩岫一、招二孫吳於草萊一。

【嵩洲】35 スウシウ 清、馬咸(12－44572‥84)の字。

【嵩室】36 スウシツ 嵩山をいふ。嵩山(24)の❶の㋑を見よ。〔鄭谷、讀二故許昌薛尙書詩集一詩〕難レ忘二嵩室下一、不レ負二蜀江濱一。

【嵩嶂】37 スウシヤウ 嵩山の高い峰。嵩峯。〔孟浩然、行至二汝墳一寄二盧徵君一詩〕洛川方罷レ雪、嵩嶂有二殘雲一。

【嵩雀】38 アヲジ 鳥の名。蒿雀。燕雀類、雀科に屬し、嘴は圓錐形で、體は青黃色。秋の頃群り來る。

【嵩壽】39 スウジユ 清、滿洲正黃旗人。希福の曾孫。號は雲依。字は茂承。雍正の進士。乾隆の初、陝西・安徽學政となり、安南・朝鮮に再使し、禮部右侍郎に擢んでられ、子爵を襲ぐ。〔清史稿、二百三十八〕・〔國朝耆獻類徵、七十六〕。

【嵩祝】40 スウシユク 清、滿洲鑲白旗人。姓は赫舍哩氏。官は康熙の閒、廣東將軍・文華殿大學士・禮部尙書。〔清史稿、二百七十三〕・〔清史列傳、十三〕。

【嵩峻】41 スウシユン 高く險しいこと。〔唐書、劉祥道傳〕掖省嵩峻、王言祕密。

【嵩渚】42 スウシヨ 山名。河南省滎陽縣の東南。〔水

經、河水注〕河水南出二浮戲山一、世謂レ之曰二方山一也、北流合二東關水一、水出二于嵩渚之山一。〔宋史、河渠志四〕汜水出二玉仙山一、索水出二嵩渚山一。〔明一統志〕嵩渚山、在二開封府滎陽縣東南二十五里一、一名二小陘山一。

【嵩嶼】43 スウショ 島の名。福建省廈門港內に在り、海澄縣に屬す。宋末、少帝が舟を浮べて此處を經た時、偶〻誕辰であつたので、群臣が行殿を構へて禮を行つたので名づく。廈漳鐵路の起點。

【嵩汝】44 スウジョ 二州の名。河南の嵩州と汝州。〔孟浩然、送三辛大之二鄂渚一不レ及詩〕郡邑經二樊鄧一、山河入二嵩汝一。

【嵩色】45 スウショク 嵩山の景色。〔梅堯臣、寄二西京通判宋次道學士一詩〕嵯峨嵩色雲常在、窈窕宮牆草又侵。

【嵩岑】46 スウシン 嵩山の峰。嵩峰。〔陸雲、登遐頌〕伯巖志レ道、飜飛自レ南、北食二中嶽一、練二形嵩岑一。〔魏書、裴衍傳〕嵩岑極レ天、苞二育名草一、脩レ生救レ疾、多遊二此岫一。〔劉廷芝、嵩嶽聞レ笙詩〕今來臥二嵩岑一、何幸承二幽音一。

【嵩少】47 スウセウ 嵩山の少室。嵩室。嵩山の❶㋑を見よ。〔唐書、隱逸傳序〕然放利之徒、假レ隱自名、以レ詭祿仕、肩相二摩於道一、至下號二終南嵩少一爲中仕途捷徑上。〔韋應物、同德寺閣集眺詩〕嵩少多二秀色一、羣山莫二與崇一。〔柳宗元、弘農公以二碩德偉材一屈二於誣枉一云云詩〕澗瀍秋瀲灩、嵩少暮微茫。

〔嵩少山人〕48 スウセウサンジン 明、冒起宗(**2－1538**··89)の號。

【嵩樵】49 スウセウ 清、王鐸(**7－20823**··762)の號。

【嵩太】50 スウタイ 嵩山と太山(**3－5834**··178)。〔王安石、寄二曾子固一詩〕君名高二山嶽一、嵑嶭嵩與レ太。

【嵩岱】51 スウタイ 嵩山と岱山(**4－7997**··10)。岱山は泰山で、五嶽の一。〔後漢書、楊倫傳〕猶下塵加二嵩岱一、霧集中淮海上。〔宋書、武帝紀上〕宣元之祥、永固二於嵩岱一。

【嵩臺】52 スウダイ 大岩石の名。高いうてなに似てゐるからいふ。廣東省高要縣に在る。〔南越志〕高要有二竦石一、廣六十餘丈、高二百許仞、土人謂二之嵩臺一。

【嵩潭】53 スウタン 明、劉師朱(**2－2224**··1003)の號。

【嵩鎭】54 スウチン 嵩山(24)の❶㋑に同じ。〔王勃、乾元殿頌序〕左扃二嵩鎭一、申侯降二太室之禎一、前枕二莘郊一、伊尹發二空桑之秀一。

【嵩鄧】55 スウトウ 二州の名。河南省の嵩州と鄧州。〔王僧孺、吏部郎表〕自變二泥塗一、多超二嵩鄧一。

【嵩南】56 スウナン 嵩山の南。嵩陽。〔李嘉祐、江湖秋思詩〕嵩南春徧傷二魂夢一、壺口雲深隔二路岐一。

【嵩年】57 スウネン 明、陸明永(**11－41708**··428)の字。

【嵩邙】58 スウバウ 嵩山と邙山。〔唐書、陳子昂傳〕今景山崇秀、北對二嵩邙一、右眄二汝海一、祝融太昊之故墟在焉。〔韓愈、送二石處士一序〕先生居二嵩邙瀍穀之間一。

【嵩峰】59 スウホウ 嵩山の峰。嵩岑。〔韋應物、雜言送二黎六郎一詩〕聞レ話嵩峰多二野寺一、不レ嫌黃綬向二陽城一。〔齊己、送三靈誓上人遊二五臺一詩〕便應レ過二洛水一、卽未レ上二嵩峰一。

【嵩明】60 スウメイ ❶州名。元、置く。漢の益州郡の地。諸葛孔明が蠻族と盟つた處といふ。後、蠻族の據る所となり、嵩盟と名づく。唐代、大理國の蒙氏の時、改めて嵩明部といひ、元は嵩明萬戶府を立て、後、改めて州を置く。今の明縣の東北。〔元史、地理志四〕嵩明州、昔漢人居レ之、後烏白蠻強盛、漢人徙居、盟二誓於此一、因號二嵩盟一。〔嵩明州志〕漢諸葛亮南征至レ此、與レ蠻盟所レ築。〔清史稿、地理志〕雲南、雲南府、州四、嵩明州。❷縣名。民國、元以來の州を改めて置く。雲南省昆明縣の東北。縣城は嘉利澤畔に瀕し、北に梁王山がある。

【嵩溟】61 スウメイ 高山と大海。〔梁書、武帝紀上〕跨二躡嵩溟一、陵二厲區宇一、譬二諸日月容光必至一。

【嵩陽】62 スウヤウ ❶嵩山の南。嵩南。〔開河記〕老父曰、此乃嵩陽少室山下也。〔李頎、送二王道士還レ山詩〕嵩陽道士餐二柏實一、居處三花對二石室一。〔高適、別二楊山人一詩〕不レ到二嵩陽一動十年、舊時心事已徒然。〔韋應物、送三黎六郎赴二陽翟少府一詩〕試吏向二嵩陽一、春山躑躅芳。〔宋史、石熙載傳〕嘗行二嵩陽一道中遇二一叟一。❷縣名。隋、置く。今の河南省登封縣治。〔讀史方輿紀要、河南、河南府〕登封縣、古陽城也、禹避二舜之子於陽城一、卽此、世本言三禹都二陽城一、誤也、漢置二崇高縣于此一、屬二潁川郡一、云云、隋改レ縣曰二武林一、又改曰二輪氏一、大業初、改曰二崇陽一、屬二河南郡一。

〔嵩陽宮〕63 スウヤウキュウ 寺の名。河南省登封縣の北。後魏の太和年中、建つ。もと嵩陽寺といひ、唐、嵩陽觀と改め、宋、天封觀と改め、元、嵩陽宮と改む。宮前の石幢には、唐の玄宗が仙を求め藥を得た故事を載せ、境內の古柏三株は、漢の武帝が嵩に登つて封じたものと傳へる。

〔嵩陽隱吏〕64 スウヤウインリ 宋、朱熹(**6－14424**··108)「の號。

〔嵩陽書院〕65 スウヤウショヰン 書院の名。河南省登封縣太室山の南麓。五代、周の時、創建せらる。初、太室書院といひ、宋、崇陽書院と改め、睢陽・白鹿・嶽麓と共に、四大書院と號す。明末、荒廢し、清の康熙中、重建す。〔吳澄、重建二嶽麓書院一記〕天下四大書院、二在レ北、二在レ南、在レ北者、嵩陽・睢陽也、在レ南者、嶽麓・白鹿洞也。〔玉海、宮室、院、嵩陽書院〕至道一年七月甲辰、賜二院額及印本九經書疏一、祥符三年四月癸亥、賜二太室書院九經一、景祐二年九月十五日己丑、西京重二修太室嵩陽書院一、詔以二嵩陽書院一爲レ額、國初、斯民新脫二五季鋒鏑之阨一、學者尙寡、海內向レ平、文風日起、儒老往往依二山林一、卽閒曠以講授、大率多至二數十百人一、嵩陽・嶽麓・睢陽及白鹿洞、爲三尤著二天下一、所謂四書院者也。

〔嵩陽石刻集記〕66 スウヤウセキコクシフキ 書名。二卷。清、葉封撰。嵩山の南の登封縣の長官として在職中、境內の古碑を緝錄して作つたもの。諸碑は皆、原文を錄し、辨訂頗る博洽。〔四庫提要、史、目錄類〕。

【嵩洛】67 スウラク 河南省の嵩山(24)と洛陽(**6－17383**··64)の❷。〔宋史、沈倫傳〕少習二三禮於嵩洛閒一、以二講學一自給。

【嵩巒】68 スウラン 高い山。又、高大な山と銳小の山。〔後漢書、馬融傳〕犯二歷嵩巒一、陵二喬松一。〔注〕爾雅曰、山大而高曰レ嵩、山小而高銳曰レ巒。

【嵩陵】69 スウリョウ ❶嵩山(24)の❶の㋑に同じ。〔劉邵、七華〕煎二嵩陵之鬱翠一、蒸二葱嶺之碧雞一。❷後周、太祖の陵。河南省新鄭縣の北。〔五代史、周世宗紀〕顯德元年夏四月乙卯、葬二神聖文武恭肅孝皇帝於嵩陵一。

【嵩輅】70 スウロ 車輿の名。〔十六國春秋、後趙錄〕皇后出乘二嵩輅一、或乘二文武玉輅一、或乘二朱漆臥輦一、以二雲母一代レ紗、中外四粱、皆通徹明亮。

【嵩和】71 スウワ 北周、裴俠(**10－34362**··32)の字。

【嵪】 8349

[一] カウ ケウ 〔集韻〕丘交切 肴

[二] カウ コウ 〔集韻〕丘刀切 豪

[一] **かたい。又、やせてかたい地。** 瘠地。墽(**3－5508**)に同じ。〔集韻〕墽、說文、磽也、或作レ嵪。[二] **山がけはしい。** 嵪嶅。〔集韻〕嵪、嵪嶅、山峻。

【嵥】 8350

リツ リチ 〔集韻〕力質切 質

山名。 或は𦟁(**9－29803**)に作る。〔集韻〕嵥、山名、或从レ月。

【嵕】 8351

カ ゲ 〔字彙〕胡駕切 禡

山名。 〔字彙〕嵕、山名。

【嵴】 8352

キ

義未詳。〔字彙〕嵴、巨支切、音耆、出二釋典一。

【嵼】 8353

ケン

巏(**4－8630**)の俗字。〔正字通〕嵼、俗巏字。

【嵫】 8354

シ 〔集韻〕津之切 支

慣ジ

ㄗ tzū^1

❶崦嵫は、山名。嵫景(1)を見よ。〔集韻〕嵫、崦嵫、山名、日所レ入處。❷**山名。** 嵫山を

見よ。❸**さかしい。けはしい。**嵫釐を見よ。

【嵫景】1 ジケイ　崦嵫山の景色。山は甘肅省天水縣の西に在り、其の下を虞泉といひ、日沒の處と傳へる。轉じて、年老いた喩。〔江淹、郊外望レ秋答二殷博士一詩〕屬レ我嵫景半、賞レ爾若光初。

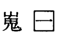
【嵫山】2 シサン　山名。山東省嵫陽縣の西。嵫陽山。〔淸一統志〕元大德閒碑云、兗郡有レ山、曰レ嵫、郡在二其左一、故縣名二嵫陽一、諸志稱爲二嵫陽山一、非也。

【嵫陽】3 シヤウ　❶縣名。宋、置く。漢の瑕丘縣を、宋、嵫陽と改む。故治は山東省嵫陽縣の西。〔讀史方輿紀要、山東、兗州府〕嵫陽縣、附郭、本魯之負瑕縣、漢爲二瑕邱縣一、屬二山陽郡一、云云、宋大觀四年、避二宣聖諱一改曰二瑕縣一、尋又改曰二嵫陽一、以レ山爲レ名。❷山名。嵫山を見よ。

【嵫釐】4 ジリ　高く峻しいさま。〔王延壽、魯靈光殿賦〕崱屴嵫釐、岑崟崰嶷。〔注〕善曰、皆高大峻嶮之貌。

【嵬】8355

㈠グワイ　〔集韻〕吾回切　灰　ㄨㄟˊ　wei²
㈡ワイ　〔集韻〕烏回切　灰
㈢クワイ ケ　〔集韻〕乎乖切　佳
㈣グワイ　〔集韻〕五賄切　賄
㈤ギ　〔集韻〕語韋切　微
㈥ヰ　〔集韻〕羽鬼切　尾
㈦ギ　〔集韻〕魚鬼切　尾
慣クワイ


小篆

㈠❶**けはしい**。〔說文〕嵬、山石崔嵬、高而不レ平也、从レ山鬼聲。❷**あやしい**。ほしいまま。みだり。怪(4-10483)に通ず。〔說文通訓定聲〕嵬、叚借爲レ怪。〔荀子、非十二子〕矞宇嵬瑣。〔注〕嵬、謂下爲二狂險之行一者上也。〔荀子、儒效〕嵬瑣逃レ之。〔注〕狂怪之人、則畏而逃レ之也。〔荀子、正論〕夫是之謂二嵬說一。〔注〕嵬說、狂妄之說。❸或は巍(4-8626)・峞(4-8049)に作る。〔集韻〕嵬、爾雅、石戴レ土、謂二之崔嵬一、或作二巍・峞一。❹**酒瓶**。宋代の俗語。背峞(9-29363··16)を見よ。㈡**平かでないさま**。崴(4-8244)に同じ。〔集韻〕崴、崴嵬、不レ平皃、或作レ嵬。㈢**平かでないさま**。⿱山裹(4-8605)に同じ。〔集韻〕⿱山裹、崴⿱山裹、不レ平、或作レ嵬。㈣**山の高いさま**。峞(4-8049)に同じ。〔廣韻〕嵬、山皃。〔玉篇〕峞、高皃、亦作二嵬・峗一。〔集韻〕峞、山皃、或从レ鬼。㈤**高い**。巍(4-8626)に同じ。〔廣雅、釋詁四〕嵬、高也。〔集韻〕巍、說文、高也、或省。㈥**山がけはしい**。或は隗(4-8527)に作る。〔集韻〕嵬、山險也、或作レ隗。㈦**山の高いさま**。或は巋(4-8622)に作る。〔集韻〕嵬、山高皃、或作レ巋。

【嵬砢】1 クワイカ　あやしく聳えてゐるさま。〔曾鞏、丹霞洞詩〕長松桀柏嵬砢、中畫一道如二流泉一。

【嵬峨】2 クワイガ　❶高く大きなさま。〔張衡、西京賦〕狀嵬峨以岌嶪。〔注〕銑曰、嵬峨・岌嶪、高壯貌。❷聲の高く強いさま。〔潘岳、笙賦〕終嵬峨以蹇諤。〔注〕良曰、嵬峨・蹇愕、聲高直皃。❸最高級。最高の科第。巍科(4-8626··10)に同じ。〔摭言〕高鍇知レ擧、裴思謙自懷二仇士良一緘一、入二貢院一白曰、軍容有レ狀、鍇不レ得レ已接レ之、書中與二思謙一求二嵬峨一、鍇曰、狀元已有レ人、思謙曰、奉二軍容一處二分裴秀才一、請二侍郎一不レ放、鍇不レ得レ已從レ之。❹ガギ　醉うたさま。巍峨。峞峨。〔太平廣記〕盧思道常曉醉、從姪賁曰、阿父何處飮來、淩晨嵬峨、思道曰、長安酒二百價、可三嵬二峨我一、不レ可三嵬二峨爾一也。

【嵬崿】3 クワイガク　山のけはしいさま。〔夏侯湛、山路吟〕嵩岳兮嵬崿、丘陵兮連離。

【嵬岌】4 クワイキフ　高く聳える山。〔王灣、奉レ使登二終南山一詩〕數朝至二林嶺一、百仞登二嵬岌一。

【嵬嶷】5 クワイギヨク　高くけはしいさま。〔左思、吳都賦〕爾其山澤則嵬嶷嶢屼、巊溟鬱岪。〔注〕濟曰、並山高險之貌也。

【嵬崛】6 クワイクツ　高く大きいさま。〔郭璞、江賦〕衡霍磊落以速レ鎭、巫廬嵬崛而比レ嶠。〔注〕翰曰、磊落・嵬崛、皆山高大皃。

【嵬嵬】7 クワイクワイ　高く聳えるさま。〔韓愈、雪後寄二崔二十六丞公一詩〕攢レ天嵬嵬凍相映、君乃寄二命於其間一。

【嵬磈】8 クワイクワイ　山谷の平かでないさま。〔史記、司馬相如傳〕徑二入靁室之砰磷鬱律一兮、洞二出鬼谷之崛礨嵬磈一。〔注〕正義曰、張云、崛礨・嵬磈、不レ平也。

【嵬嶪】9 クワイゲフ　嶮しくて高い山。〔李白、明堂賦〕龍嵸頹沓、若レ嵬若レ嶪。

【嵬瑣】10 クワイサ　嵬は狂險の行をする者、瑣は姦細の行をする者をいふ。委瑣。一說に、くだくだしく瑣細でとるに足らぬこと。〔荀子、非十二子〕矞宇嵬瑣。〔注〕嵬、謂下爲二狂險之行一者上也、瑣者、謂下爲二姦細之行一者上也。〔集解〕嵬瑣、猶二委瑣一也、嵬・委聲近、故相通借、嵬瑣爲二委曲瑣細之尤一、言二小人極不レ足レ道者一也。〔荀子、儒效〕嵬瑣逃レ之、邪說畏レ之。〔注〕狂怪之人、則畏而逃レ之也。〔曾鞏、南齊書目錄序〕檮杌嵬瑣、姦回凶慝之形、可三幸而掩一也。

【嵬說】11 クワイセツ　狂妄の說。一說に、とるに足らないつまらぬ說。嵬瑣を見よ。〔荀子、正論〕今世俗之爲レ說者、不レ怪二朱象一、而非二堯舜一、豈不二過甚一矣、夫是之謂二嵬說一。〔注〕嵬說、狂妄之說。

【嵬然】12 クワイゼン　山の聳えるさま。〔淮南子、詮言訓〕至德道者、若二丘山一、嵬然不レ動、行者以爲レ期也。

【嵬容】13 クワイヨウ　怪しく正しくない樣子。〔荀子、非十二子〕吾語二汝學者之嵬容一。〔集解〕郝懿行曰、嵬容者、怪異之容。

【嵬磊】14 クワイライ　けはしくて小石が多い。磊は、石の多いさま。〔韓愈、嘲二鼾睡一詩〕頑飈吹二肥脂一、坑谷相嵬磊。

【嵬櫐】15 クワイライ　山の平かでないさま。〔左思、魏都賦〕或嵬櫐而複陸。〔注〕嵬櫐、不レ平之貌。

【嵬理】16 クワイリ　西夏、李曩霄(6-14459··1833)の「號。

【⿰山鬼】8356

㈠クワイ　〔集韻〕苦猥切　賄
㈡ヰ　〔集韻〕鄔毀切　紙

㈠**山のさま**。磈(8-24392)に同じ。〔集韻〕磈、礧磈、山皃、或作レ⿰山鬼。㈡**山のさま**。〔集韻〕⿰山鬼、山皃。

【⿰⿱山身弓】8357

キユウ

⿱山窮(4-8586)に同じ。〔集韻〕⿰⿱山身弓、⿱山窮、或省。

【⿱⿰山巠土】8358

ガク

壑(3-5554)の譌字。〔正字通〕⿱⿰山巠土、壑字之譌。

【⿰山旁】8359

ハウ ヒヤウ　〔玉篇〕布耕切　庚

くづれる。〔玉篇〕⿰山旁、崩⿰山旁也。

【嵮】8360

テン　〔字彙〕亭年切　先

❶**いただき**。顚(12-43628)に通ず。〔荀子、大略〕嵮如也。〔集解〕嵮、讀爲レ顚、山頂也。❷**ふさがる**。**みちる**。塡(3-5355)に通ず。〔荀子、大略〕嵮如也。〔注〕嵮、與レ塡同、謂二土塡塞一也。

【⿰山真】8361

テン

嵮(4-8360)の俗字。〔正字通〕⿰山真、俗嵮字。

【⿱山眞】8362

テン

巓(4-8644)に同じ。〔集韻〕巓、或省。

【嵯】8363

㈠サ　〔集韻〕倉何切　歌　ㄘㄨㄛˊ　ts'uo²
㈡シ　〔集韻〕叉宜切　支

小篆 [一]❶**山のさま。**もと嵳に作り、或は厜(**2**－**2997**)・嵳(**4**－**8364**)に作る。〔正字通〕嵯、本作レ嵳。〔說文〕嵳、嵳峩、山皃、从レ山𡍮聲。〔集韻〕嵯、或作レ厜、或書作レ嵳。❷**山石のさま。**嵾嵯。〔集韻〕嵯、嵾嵯、山石皃。❸**けはしい。**〔史記、司馬相如傳〕崔嵬嵯峨。〔注〕正義曰、郭云、皆峻貌。❹**高い。**〔廣雅、釋詁四〕嵯、高也。[二]❶**山の高低あるさま。**嵾嵯。差(**4**－**8732**)に通ず。〔廣韻〕嵾、嵾嵯、山不レ齊也。〔正字通〕嵾、嵾嵳、山不レ齊貌、通作二參差一。❷或は嵳(**4**－**8364**)に作る。〔集韻〕嵯、或書作レ嵳。

【嵯峨】1 ガサ 嵳峩・厜㕒。❶高く突立つて險しいさま。〔玉篇〕嵯、嵯峨、高皃。〔史記、司馬相如傳〕崔嵬嵯峨。〔注〕正義曰、皆峻貌。〔楚辭、淮南小山王、招隱士〕山氣巃嵸兮石嵯峨。〔注〕五臣云、嵯峨、高貌。〔張衡、西京賦〕嵯峨嶕嶫。〔王延壽、魯靈光殿賦〕嵯峨嶵嵬。〔杜甫、江梅詩〕故園不レ可レ見、巫岫鬱嵯峨。〔衞恆、論書〕山岳嵯峨而連レ岡。〔李商隱、聞レ歌詩〕斂レ笑凝レ眸意欲レ歌、高雲不レ動碧嵯峨。❷山名。陝西省涇陽縣の北。一名、巀嶭山。〔讀史方輿紀要、陝西、西安府、涇陽縣〕嵯峨山、縣北四十里、一名巀嶭山、東西二十六里、南北二十里、又名二慈娥山一、頂有二三峯一、或云、此爲二禹貢之荊山一、特二出雲表一、登二其巓一、則涇渭黃河、擧在二目前一、視二秦中一如レ指二諸掌一、長安志、嵯峨、讀曰二巀嶭一、慈娥山、又在二其東一、括地志、山在二雲陽縣北十五里一、或謂二之北山一、唐建中四年、朱泚攻二奉天一、李懷光自二河中一馳二援軍於蒲城一、尋引レ兵循二涇陽一並二北山一、而西敗二泚兵於醴泉一、泚懼引二還長安一、廣明中宦者曹知愨、以三黃巢陷二長安一、集二壯士一據二嵯峨山南一、爲レ堡自固、賊不二敢逼一、田令孜忌レ之、中和四年、孜遣二邠岐將王行瑜一、潛レ師、自二嵯峨山北一、乘レ高襲攻、合レ營盡殪、又天祐末、華原賊帥溫韜、聚二衆嵯峨山一、暴二掠畿內一、發二掘陵寢一、城冢記、嵯峨山、唐德宗崇陵在二其上一。❸㋑第五十二代の帝諡。㋺山城國葛野郡の地名。嵯峨天皇が此處に別館を置かれてから、貴人の山莊や巨刹が多い。洛西の勝地。

【嵯耶】2 ヤサ 唐代、南詔の隆舜の年號。

【嵳】8364 サ

嵯(**4**－**8363**)に同じ。〔集韻〕嵯、或書作レ嵳。

【嵰】8365

[一]ケン 〔集韻〕丘檢切 琰

[二]ケン 〔集韻〕口減切 豏

[三]カン ケン 〔集韻〕丘廉切 鹽

[四]カン ケン 〔集韻〕丘銜切 咸

[一][二]**山の高いさま。**〔集韻〕嵰、山高皃。[三]**山の高峻なさま。**嵚(**4**－**8464**)に同じ。〔集韻〕嵚、山高峻皃、亦作レ嵰。[四]**山がけはしい。**嵌(**4**－**8279**)に同じ。〔集韻〕嵌、嵌巖、山嶮、或从レ兼。

【嵱】8366

[一]ヨウ ユ 〔集韻〕餘封切 冬

[二]ヨウ ユ 〔集韻〕尹竦切 腫

[一]**山名。**廣西省に在る。〔集韻〕嵱、山名、在二容州一。[二]**山峯のさま。**嵱嵷(1)を見よ。

【嵱嵷】1 ヨウショウ 山峯の凹凸の多いさま。嵱嵸。巃嵷。〔集韻〕嵱、嵱嵷、山峰皃。〔揚雄、甘泉賦〕臨二高衍之嵱嵷一兮。〔注〕善曰、如淳曰、嵱嵷、上下衆多貌。

【嵱嵸】2 ヨウショウ 嵱嵷に同じ。〔杜甫、封二西嶽一賦〕「風御冉以嵱嵸。」

【嵲】8367 ゲツ ゲチ 〔集韻〕倪結切 屑

❶**山が高い。**嵽嵲。〔集韻〕嵲、嵽嵲、山高。❷或は嶭(**4**－**8517**)・峴(**4**－**8193**)・峊(**4**－**8024**)に作り、又、嵲(**4**－**8192**)に作る。〔集韻〕嵲、或作二嶭・峴・峊一、亦書作レ嵲。

【嵲】8368 ゲツ

嵲(**4**－**8367**)に同じ。〔正字通〕嵲、同レ嵲。

【嵤】8369 シン 〔集韻〕卽刃切 震

山名。〔集韻〕嵤、山名。

【豈】8370 カウ

岡(**4**－**7962**)の俗字。〔正字通〕豈、俗岡字。

【嵟】8371 タイ ツイ 〔篇海〕都回切 灰

きし。堆(**3**－**5211**)の古字。〔漢書、溝洫志〕蜀守李冰鑿二離嵟一、避二沫水之患一。〔注〕晉灼曰、嵟、古堆字、嵟、岸也。

【嵴】8372 セキ シャク 〔集韻〕資昔切 陌

山のせ。〔集韻〕嵴、山脊。

【峩】8373 ガ

峨(**4**－**8071**)に同じ。〔篇海類編〕峩、同レ峨。

【嵼】8374 シヨ

義未詳。〔五音篇海〕嵼、音諸。

【崏】8375 ミン

民(**6**－**17028**)に同じ。〔五音篇海〕崏、同レ民。

【嶅】8376 カウ

嶅(**4**－**8480**)の本字。〔正字通〕嶅、本作レ嶅。

十一畫

【𡾉】8377 リヨウ

崚(**4**－**8184**)に同じ。〔集韻〕崚、或作レ𡾉。

【𡾹】8378 シユン

峻(**4**－**8116**)に同じ。〔海篇〕𡾹、同レ峻。

【嶱】8379 カフ 〔字彙〕苦盍切 合

やま。山嶽。〔字彙〕嶱、山嶽。

【崞】8380 クワク 〔集韻〕闊鑊切 藥

谷が深い。寥崞。〔集韻〕崞、寥崞、谷深。

【嵷】8381

[一]シヨウ シユ 〔集韻〕筍勇切 腫

[二]ソウ ス 〔集韻〕祖叢切 東

[三]ソウ ス 〔集韻〕祖動切 董

[一]❶**山峯のさま。**嵱嵷。〔集韻〕嵱、嵱嵷、山峯皃。❷**山の高くけはしいさま。**〔康熙字典〕嵷、山高峻貌。〔司馬相如、上林賦〕巃嵷崔巍。〔潘岳、西征賦〕太乙巃嵷。❸又、嵸(**4**－**8629**)に作る。〔康熙字典〕嵷、亦作レ嵸。〔杜甫、封二西嶽一賦〕風御冉以嵱嵸。〔注〕與レ嵷同。[二]**山のさま。**巃嵷。〔集韻〕嵷、巃嵷、山皃。[三]**山の孤立してゐるさま。又、山の高くけはしいさま。**巃嵷。〔集韻〕嵷、巃嵷、山孤皃。〔集韻〕嵷、巃嵷、山高峻皃。

参考 字形、或は嵷に作る。

【嵷森】1（シヨウシン）　高くそびえて茂つてゐるさま。〔陳後主、祓二禊汎舟一詩〕春池已渺漫、高枝自嵷森。

【嵸】8382　シヨウ　嵷（4−8381）に同じ。〔正字通〕嵸、同レ嵷。

【嵹】8383　キヤウ　ガウ　〔集韻〕其亮切　漾

山名。嵹臺山を見よ。〔集韻〕嵹、山名。

【嵹臺山】1（キヤウダイサン）　古の西傾山。洮水は其の東腹から、墊江は其の南腹から、それぞれ流出してゐる。青海省和碩特南右翼中旗。〔水經、河水經〕洮水與二墊江水一、俱出二嵹臺山一。〔括地志〕西傾山、今嵹臺山。〔段國沙州記〕洮水與二墊江一、俱出二嵹臺山一、山南卽墊江源、山東則洮水源、宋夏僎云、禹貢西傾、後世所謂嵹臺山、是也。

【嵺】8384　🈩レウ　〔集韻〕憐蕭切　蕭　🈔カウ　ケウ　〔字彙〕居肴切　肴

🈩🈔❶**たかい。山のそびえてゐるさま。**或は嶚（**4−8478**）・嶛（**4−8479**）・⿱山翏（**4−8385**）に作る。〔集韻〕嶚、廣雅、嶚巢、高也、或作レ嵺、亦書作二嶚・⿱山翏一。〔韻會〕嵺、山聳貌。❷**谷の深いさま。**嵺崞。〔集韻〕崞、嵺崞、谷深皃。❸**廣く遠い。**〔字彙〕嵺、廣遠也。〔杜甫、朝享二太廟一賦〕元甲崢嵺以レ岳峙。❹**むなしい。**むなしくしづか。寥（**3−7292**）・廖（**4−9464**）に通ず。〔正字通〕嵺、與レ寥通、虛靜也。〔楚辭、宋玉、九辯〕老嵺廓而無レ處。〔集注〕嵺、一作レ廖。〔補注〕玉篇云、嵺廓、空也。〔後漢書、馬融傳〕山谷蕭條、原野嵺愀。

【嵺崞】1（レウクワク）　谷の深いさま。嵺廓。〔集韻〕嵺、嵺崞、谷深皃。

【嵺廓】2（レウクワク）　❶廣く遠いさま。〔漢書、司馬相如傳下〕下崢嶸而無レ地兮、上嵺廓而無レ天。〔注〕師古曰、嵺廓、廣遠也。❷むなしいこと。〔楚辭、宋玉、九辯〕年洋洋以日往兮、老嵺廓而無レ處。〔集注〕嵺、一作レ廖。〔補注〕玉篇云、⿱山翏廓、空也。〔楚辭、王逸、九思、疾世〕居二嵺廓一兮尠レ疇、遠二梁昌一兮幾迷。〔集注〕嵺廓、空洞而無レ人也。❸谷の深いさま。嵺崞を見よ。

【嵺愀】3（レウシウ）　むなしくてさびしいさま。愀は、さびしいさま。〔後漢書、馬融傳〕山谷蕭條、原野嵺愀。

【⿱山翏】8385　レウ　嵺（**4−8384**）に同じ。〔正字通〕嵺、亦作レ⿱山翏。

【嵻】8386　カウ　〔集韻〕丘岡切　陽

山名。嵻峎。〔集韻〕嵻、嵻峎、山名、在二西羌一。

【康】8387　カウ　〔集韻〕口朗切　養

山がむなしい。康崀。〔集韻〕康、康崀、山虛。

【嵟】8388　タイ　崔（**4−8371**）の譌字。〔正字通〕嵟、崔字之譌。

【嵼】8389　サン　セン　〔集韻〕所簡切　潸

山の屈曲したさま。巉嵼。或は産（**7−2168 4**）に作る。〔集韻〕嵼、巉嵼、山曲皃。〔韻會〕嵼、通作レ産。〔楚辭、九章、哀郢〕思二蹇産一而不レ釋。〔補注〕山曲曰二巉嵼一、義與レ此同。

【⿰山聊】8390　🈩レウ　〔集韻〕憐蕭切　蕭　🈔ラウ　レウ　〔集韻〕力交切　肴　🈪ラウ　ロウ　〔集韻〕郎刀切　豪

🈩🈔**山名。**〔集韻〕⿰山聊、山名。🈪❶**山のけはしいさま。又、深く空しいさま。**⿰山聊嶆（一）を見よ。❷或は嶗（**4−8475**）に作る。〔集韻〕⿰山聊、或作レ嶗。

【⿰山聊嶆】1（レウサウ）　山のけはしいさま。又、深く空しいさま。〔集韻〕⿰山聊、⿰山聊嶆、山險。〔張協、七命〕嶰谷⿰山聊嶆張二其前一。〔注〕善曰、⿰山聊嶆、深空之貌也、向曰、⿰山聊嶆、險貌。

【嵽】8391　🈩テツ　デチ　〔集韻〕徒結切　屑　🈔テイ　ダイ　〔集韻〕大計切　霽

🈩❶**山の高いさま。**嵽嵲（一）を見よ。〔集韻〕嵽、山皃。❷**小さく高くて不安定のさま。**嵽嵲。〔玉篇〕嵽、嵽嵲、小而不レ安皃。❸或は⿰山窒（**4−8392**）・𡸃（**4−8248**）・峌（**4−8029**）に作る。〔集韻〕嵽、或从レ窒、从レ室、亦省。🈔**山の形。**岹嵽。〔集韻〕嵽、岹嵽、山形。

【嵽嵲】1（テツゲツ）　❶山の高いさま。又、山の高い處。〔集韻〕嵲、嵽嵲、山高。〔杜甫、自レ京赴二奉先縣一詩〕淩レ晨過二驪山一、御榻在二嵽嵲一。❷小さく高くて不安定なさま。〔玉篇〕嵽、嵽嵲、小而不レ安皃。

【嵽霓】2（テツゲツ）　山の高いさま。〔吳澂、浮丘仙賦〕或崔嵬巃嵸以傑出、或刻削嵽霓而爭衡。

【⿰山窒】8392　テツ　嵽（**4−8391**）に同じ。〔集韻〕嵽、或作レ⿰山窒。

【⿱山巢】8393　🈩セウ　ゼウ　〔集韻〕慈焦切　蕭　🈔サウ　ゼウ　〔集韻〕鋤交切　肴

🈩🈔**高い。又、山の高いさま。**嶚⿱山巢。〔集韻〕⿱山巢、廣雅、嶚⿱山巢、高也。〔集韻〕⿱山巢、嶚⿱山巢、山高皃。

【⿰山畢】8394　ヒツ　ヒチ　〔集韻〕壁吉切　質

❶**終南山の道の名。**通じて畢（**7−21829**）に作る。〔集韻〕⿰山畢、終南山道名、通作レ畢。❷**道邊の家が列んで牆のやうになつてゐること。**〔廣韻〕⿰山畢、道邊堂如レ牆也。

【嵮】8395　バク　ミヤク　〔集韻〕莫白切　陌

❶**しげるさま。**嵮岶。〔集韻〕嵮、嵮岶、密皃。❷或は漠（**7−18149**）・瀎（**7−18544**）に作る。〔集韻〕嵮、或从レ水、亦作レ瀎。〔王褒、洞簫賦〕密漠泊以獑猭、〔注〕善曰、漠岶、竹密貌、漠與レ嵮同、泊與レ岶同。

【⿰山庶】8396　シヨ　〔集韻〕章恕切　御

山名。蕃地の山の名。〔廣韻〕⿰山庶、番山。〔集韻〕⿰山庶、山名。

【嶖】8397

㊀カン ゴン 〔集韻〕戸感切 感

㊁ガン ゲン 〔玉篇〕五咸切 咸

㊀㊁**山のさま**。〔集韻〕嶖、山兒。

【嵾】8398

㊀シン 〔集韻〕初簪切 侵

㊁サン 〔集韻〕倉含切 覃

㊀❶**齊しくないさま**。山がけはしく、高下長短のあるさま。嵾嵳。〔集韻〕嵾、嵾嵳、不レ齊兒。〔司馬相如、上林賦〕深林巨木、嶄巖嵾嵳。〔注〕善曰、嶄巖嵾嵳、皆峯嶺之貌也、濟曰、嶄巖嵾嵳、險峻不レ齊貌。〔楚辭、東方朔、七諫〕世沈淖而難レ論兮、俗岑峨而嵾嵳。❷或は嵾(4－8399)に作る。❸參(2－3098)に通ず。〔正字通〕嵾、嵾嵳、山不レ齊貌、通作二參差一。㊁**山のさま**。〔集韻〕嵾、山兒。

【嵾】8399

シン 嵾(4－8398)に同じ。〔集韻〕嵾、或書作レ嵾。

【嶇】8400

ギョ ゴ 〔集韻〕偶擧切 語

山名。〔集韻〕嶇、山名。

【嵿】8401

テイ チヤウ 〔集韻〕都挺切 迥

山名。〔集韻〕嵿、山名。

【崺】8402

イ 〔集韻〕余支切 支

山名。〔集韻〕崺、山也。

【嶀】8403

ト ツ 〔集韻〕通都切 虞

山名。〔集韻〕嶀、山名。

【嶀山】1 トサン 山名。浙江省嵊縣の北。〔讀史方輿紀要、浙江、紹興府、嵊縣、嵊山〕嶀山、在二縣北四十里一、輿地志、自二上虞一七十里、至二溪口一、遡レ江上數十里、兩岸峭壁、勢極險阻、下爲二剡溪口一、水深而清、謂二之嶀浦一、嶀浦之水、皆源自二會稽一、經二山峽中一、緜レ此入レ剡、故有二水口之名一、江潮亦至レ此而返、嶀・嵊二山、參差相對、爲二絕勝處一。

【嶀嵊】2 トジヨウ 嶀山と嵊山(4－8320··2)。〔江淹、雜體、謝法曹惠連贈別詩〕今行二嶀嵊外一、銜レ思至二海濱一。〔輿地志〕自二上虞一七十里、至二溪口一、溯レ江上數十里、兩岸峭壁、勢極險阻、乘レ高瞰レ下、有二深林茂竹一、表裏輝映、名爲二嶀嵊一、奔瀨迅湍、以至レ剡也。

【𡽱】8404

バ メ 〔集韻〕謨加切 麻

山名。〔集韻〕𡽱、山名。

【𡾰】8405

ビ 𡿗(4－8645)に同じ。〔字彙〕𡾰、同レ𡿗。

【岩】8406

ジヤク 若(9－30796)の譌字。〔字彙〕岩、古文若字。〔正字通〕岩、按、古文从レ𠦍从レ右、無二从レ屾从レ石者一、屾、卽𠦍之譌、石、卽右之譌也。

【𡿌】8407

キ 〔玉篇〕去智切 寘

山名。〔玉篇〕𡿌、山名。

【嶁】8408

㊀ル 〔集韻〕隴主切 麌

㊁ロウ ル 〔集韻〕郞豆切 宥

㊂ル 〔集韻〕龍珠切 虞

㊃ロウ ル 〔集韻〕郞口切 ㄌㄡˇ lou³ 有

㊄ロウ ル 〔集韻〕郞侯切 尤

㊀㊁❶岣嶁は、衡山の主峯の名。又、衡山の別名。岣嶁(4－7970··1)の❶を見よ。〔集韻〕嶁、岣嶁、衡山也。❷或は嶁(4－8409)に作る。〔集韻〕嶁、或書作レ嶁。㊂㊃㊄**山のいただき**。嶁(4－8409)に同じ。〔集韻〕嶁、埤倉、山巓也、或書作レ嶁。

【嶁嶺】1 ルレイ 山の峯。〔後漢書、馬融傳〕輕訬趬悍、廋疏嶁嶺。

【嶁山先生】2 ルザンセンセイ 明、吳道行(2－3365··758)の尊稱。

【嶁】8409

ル 嶁(4－8408)に同じ。〔正字通〕嶁、同レ嶁。

【嶂】8410

シヤウ 〔集韻〕之亮切 ㄓㄤˋ chang⁴ 漾

高くけはしい山。屛障のやうにそばだつた峯。〔集韻〕嶂、山之高險者。〔增韻〕嶂、山峯如二屛障一也。〔沈約、鐘山詩〕崚嶒起二青嶂一。〔錢起、和二聖製登二會昌山一詩〕王鑾登レ嶂遠。

【嶂雲】1 シヤウウン 高くけはしい峯にかかつた雲。〔錢起、送三李大夫赴二廣州一詩〕龍鏡逃二山魅一、霜嵐破二嶂雲一。

【嶂葉】2 シヤウエフ 高くけはしい峯の木の葉。〔王勃、九成宮頌〕巖花落レ砌、綴二龍扆一而成レ文、嶂葉交レ軒、拂二鸞旗一而追レ影。

【嶂遠】3 シヤウエン 高い峯が遠くまでつらなる。〔水經、沔水注〕漢水又東逕二嵐谷北口一、嶂遠溪深、澗峽險邃、氣蕭蕭以瑟瑟、風颼颼而飀飀。

【嶂表】4 シヤウヘウ 高くけはしい峯の上。〔虞世南、獅子賦〕渺渺地角、悠悠嶂表。

【嶂密】5 シヤウミツ 高くけはしい峯が重なる。〔王勃、武都山淨惠寺碑〕葉濃磎淨、花深嶂密。

【嶄】8411

セン 塹(3－5394)に同じ。〔集韻〕塹、或作レ嶄。

【嶃】8412

㊀サン ゼン 〔集韻〕士減切 ㄓㄢˇ chan³ 豏

㊁サン ゼン 〔集韻〕鋤咸切 ㄔㄢˊ ch'an² 咸

㊂セン ゼン 〔集韻〕疾染切 琰

慣ザン

㊀❶**高くけはしいさま**。〔集韻〕嶃、高峻兒。❷或は巉(4－8618)・磛(8－24420)に作る。〔集韻〕嶃、或从レ毚、亦作レ磛。㊁❶**たかい**。巉(4－8618)に同じ。〔集韻〕巉、巉巗、高也、或作レ嶃。❷**うがつ**。きる。ゑる。鏨(11－40824)に通ず。嶃鏨(4)を見よ。㊂**山の高いさま**。或は嶄(4－8413)に作る。〔集韻〕嶃、嶃巗、山高兒、或書作レ嶄。

【嶃嵌】1 ザンカン 險しく奧深いさま。〔沈約、江南曲〕但令二舟楫渡一、寧計二路嶃嵌一。

【嶃嵒】2 ザンガン 嶃嵒。嶃巖に同じ。〔新語、術事〕舜棄二黃金於嶃嵒之山一、禹捐二珠玉於五湖之淵一。〔蔡邕、隷勢〕嶃嵒崔嵯、高下屬連。

【嶃巖】3 ザンガン 山の尖つて鋭いさま。又、谷の深く峻しいさま。嶃嵒。巉巖。嶄巖。〔新語、資質〕石崔嵬嶃巖而不レ開。〔楚辭、淮南小山王、招隱士〕山氣巃嵷兮石嵯峨、谿谷嶃巖兮水曾波。〔注〕五臣云、嶃巖、險峻貌。〔司馬相如、上林賦〕深林巨木、嶃巖嵾嵳。〔注〕善曰、郭璞曰、嶃巖嵾嵳、皆峯嶺之貌也、濟曰、嶃巖嵾嵳、險峻不レ齊貌。〔張衡、西京賦〕下嶃巖以嵒齬。〔注〕銑曰、嶃巖嵒齬、言二上下皆險峻不レ齊也。

【嶃鑿】4 ザンサク 掘り穿つ。嶃は、うがつ。〔木華、海賦〕鑿二陵巒一而嶄鑿。〔注〕善曰、廣雅曰、鐫謂二之鏨一、仕咸切、鏨與レ嶄古字通。

【嶃嶃】5 ザンザン 高いさま。〔廣雅、釋訓〕嶃嶃、高也。

【嶃嶃然】6 ザンザンゼン 高く抽んでたさま。嶃然。〔中村敬宇、象山詩鈔序〕嶃嶃然山聳二于天半一。

【嶃崒】7 ザンシュツ 高く險しいさま。又、高峻な山。〔江淹、江上之山賦〕刻劃嶃崒兮、雲山而碧峯。〔謝絳、遊二嵩山一寄二梅殿丞一書〕嶃崒斗甚、則芒蹻以進。

【嶃崱】8 ザンショク 險しく高いさま。又、高峻な山。〔劉峻、始居レ山營レ室詩〕鑿レ戶闢二嶕嶢一、開レ軒望二嶄崱一。

【嶃新】9 ザンシン 嶄新の誤。嶄新(5-13555‥28)を見よ。

【嶃絕】10 ザンゼツ 山の高く險しいさま。〔劉峻、廣絕交論〕太行孟門、豈云二嶃絕一。〔注〕良曰、嶃絕、危斷皃。〔丘遲、旦發二漁浦潭一詩〕詭怪石異レ象、嶃絕峯殊レ狀。

【嶃然】11 ザンゼン 高く抽んでて峙つさま。一きは目だつさま。嶃嶃然。嶃然見二頭角一を見よ。

【嶃然見二頭角一】12 ザンゼントウカクヲアラハス 一段高くぬきんでてゐること。頭角は、頭のさき。〔韓愈、柳子厚墓誌銘〕子厚、少精敏、無レ不二通達一、逮二其父時一、雖二少年一已自成人、能取二進士第一、嶃然見二頭角一。

【嶃法】13 ザンパフ 手品の類の、最も勝れたもの。〔戲法圖說〕

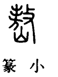
【嶃壁】14 ザンペキ 壁のやうに峙つてゐる岸。きりぎし。

【嶄】8413

ザン 嶃(4-8412)に同じ。〔集韻〕巉、或作レ嶃、嶃亦書作レ嶄。

【嶅】8414

㊀ガウ ゲウ 〔集韻〕牛交切 肴
㊁ガウ ゴウ 〔集韻〕牛刀切 豪
㊂ガウ ゴウ 〔集韻〕魚到切 號


小篆

㊀❶**小石の多い山**。〔說文〕嶅、山多二小石一也、从レ山敖聲。❷**山名**。嶅山(1)の❶❷を見よ。❸或は磝(8-24425)・磽(8-24494)・礉(8-24508)・墽(3-5508)に作る。〔集韻〕嶅、或作二礉・磽・磝・墽一。㊁❶**小石の多い山**。㊀の❶に同じ。〔集韻〕嶅、山多二小石一。❷或は⿰⿱山方攵(4-8415)・嶅に作る。〔集韻〕嶅、或書作二⿰⿱山方攵・嶅一。㊂❶**山の高いさま**。〔集韻〕嶅、山高皃。❷**動き搖ぐさま**。〔韻會〕嶅、動搖貌。

【嶅山】1 ガウザン 山名。❶山東省新泰縣の東南。其の南に嶅陽鎭がある。又、⿱敖皿山に作る。〔讀史方輿紀要、山東、濟南府、泰安州、新泰縣〕⿱敖皿山、在二縣東南十里一、志云、卽嶅山也。❷廣東省龍川縣の北。又、敖山に作る。〔龍川縣志〕嶅山、在二縣北二十里一、周百里、山半有二龍潭一、飛瀑如レ練、分爲二三派一、下流入二於嶅湖一、其上有二鼇峯書院遺址一。

【⿰⿱山方攵】8415

㊀ゴク 〔集韻〕吾沃切 沃
㊁ガウ

㊀**小石の多い山**。或は磝(8-24425)に作る。〔集韻〕⿰⿱山方攵、山名、小石皃、或从レ石。㊁嶅(4-8414)に同じ。〔正字通〕⿰⿱山方攵、同レ嶅。

【⿰山票】8416

㊀ヘウ 〔集韻〕俾小切 篠
㊁ヘウ 〔集韻〕卑遙切 蕭

㊀**山のいただき**。〔集韻〕⿰山票、山巓。〔庾蘭、採レ藥詩〕拔レ藥靈山⿰山票。〔郭璞、江賦〕梢雪冠二其⿰山票一。㊁❶**山峯の突きでてゐるさま**。⿰山剽(4-8514)に同じ。〔集韻〕⿰山剽、山峯出皃、或作レ⿰山票。❷**みね**。〔集韻〕⿰山票、山峰。

【⿰山衮】8417

コン 〔集韻〕古困切 願

山の形。〔集韻〕⿰山衮、山形。

【⿰山曼】8418

バン マン 〔集韻〕莫半切 翰

山名。〔集韻〕⿰山曼、山名。

【⿰山⿱𠂉品】8419

リン 〔集韻〕犂針切 侵

山名。〔集韻〕⿰山⿱𠂉品、山名。

【⿰山⿱𠂉矢】8420

シュク ジュク 〔集韻〕仕六切 屋

❶**あつまるさま**。〔集韻〕⿰山⿱𠂉矢、聚齊皃。❷族(5-13661)に通ず。〔正字通〕⿰山⿱𠂉矢、舊注、音族、聚齊也、不レ知、族聚、古借レ族、或作レ蔟、故爾雅云、木族生、俗作レ蔟、非。

【⿰山庸】8421

ヨウ ユ 〔集韻〕餘封切 冬

山名。〔集韻〕⿰山庸、山名、在二建州一。

【⿰山莽】8422

㊀マウ 〔集韻〕母朗切 養
㊁バウ マウ 〔集韻〕謨郎切 陽

㊀**山のさま**。嵣⿰山莽。或は⿰山芒(4-8126)に作る。〔集韻〕⿰山莽、嵣⿰山莽、山皃、或从レ芒。㊁**山名**。〔集韻〕⿰山莽、山名。

【嶆】8423

サウ ゾウ 〔集韻〕財勞切 豪

山のさま。**又、山の深く空しいさま**。⿰山卿嶆。〔集韻〕嶆、⿰山卿嶆、山皃。〔字彙〕嶆、⿰山卿嶆、深空貌。

【⿱山累】8424

㊀ルイ 〔集韻〕魯水切 紙
㊁ライ 〔集韻〕魯猥切 賄

㊀**山のさま**。礧(8-24568)に同じ。〔集韻〕礧、磈礧、山皃、或作レ⿱山累。㊁**山のさま**。⿱山絫(4-8446)に同じ。〔集韻〕⿱山絫、說文、辠也、或作レ⿱山累。

【⿱山累⿱山非】1 ルイザイ 山の高く峻しいさま。〔說苑、雜言〕夫山龍蓯⿱山累⿱山非、萬民之所二觀仰一。

【⿱山累⿱山累】2 ライライ ルイルイ 石の大きいさま。又、石の重なるさま。礧礧。〔新語、資質〕⿱山累⿱山累詰屈、委曲不レ同。

【⿰山累】8425

ルイ 〔集韻〕倫追切 支

❶**山のさま**。或は⿰山纍(4-8654)・⿰山壘(4-8625)・⿰山畾(4-8589)に作る。〔集韻〕⿰山累、嶩⿰山纍、山皃、或作二⿰山纍・⿰山壘・⿰山畾一。❷⿱山累(4-8424)に同じ。〔康熙字典〕⿰山累、同レ⿱山累。

【嶇】8426

ク 〔集韻〕虧于切 虞 くㄩ chʻü

❶**山路が平でない**。〔增韻〕嶇、山路不レ平也。❷**けはしい**。〔韻會〕嶇、崎嶇。〔宋玉、高唐賦〕巖嶇參差、縱橫相追。❸**なやむ**。くるしむ。〔宋史、文天祥傳論〕天祥奉二兩孱王一、崎二嶇嶺海一。❹⿰阝區(11-41826)に同じ。〔集韻〕⿰阝區、說文、敧也、一曰、⿰阝區⿰阝區不レ安、或作レ嶇。❺⿰𧾷區(10-37781)に通ず。〔正字通〕嶇、崎嶇、小路不レ平、亦作二踦⿰𧾷區一。

【嶇嶔】1 クキン 山の險しいさま。又、險しい山。嶇崟。〔王褒、洞簫賦〕徒觀二其旁山側一兮、則嶇嶔巋崎、倚巇迤巕。〔注〕善曰、皆山險峻之皃。〔范曄、樂游應詔詩〕遵レ渚攀二蒙密一、隨レ山上二嶇嶔一。

〔注〕翰曰、嶇嶔、不ㇾ平貌。

【嶇崟】2 クギン 嶇嶔に同じ。〔嵇康、琴賦〕且其山川形勢、則盤紆隱深、確嵬岑嵒、玄嶺巉巖、岝峈嶇崟、丹崖嶮巇、青壁萬尋。〔注〕善曰、皆山石嶮峻之貌、良曰、並山峻而不ㇾ齊貌。

【⿰山扈】8427 コ ゴ 〔集韻〕後五切 麌

❶低くて大きい山。通じて扈(5-11746)に作る。〔集韻〕⿰山扈、山卑而大曰ㇾ⿰山扈、通作ㇾ扈。〔爾雅、釋山〕山卑而大、扈。❷山の廣いさま。〔玉篇〕⿰山扈、山廣皃。

【⿰山爽】8428 シヤウ サウ 〔正韻〕楚兩切 養

山の寄りあふさま。〔正韻〕⿰山爽、山相摩貌。〔杜甫、封㆓西嶽㆒賦〕羣山爲ㇾ之相⿰山爽。

【嶈】8429 シヤウ サウ 〔集韻〕千羊切 陽

❶山の高いさま。〔集韻〕嶈、山高皃。❷水の音。嶈嶈(1)を見よ。

【嶈嶈】1 シヤウシヤウ サウサウ 水が山に激する音。〔班固、西都賦〕揚㆓波濤於碣石㆒、激㆓神岳之嶈嶈㆒。〔注〕濟曰、嶈嶈、水激ㇾ山之聲。〔蔡琰、述初賦〕倚㆓高艫㆒以周盼、觀㆓秦門之嶈嶈㆒。

【嶉】8430 ㊀スイ 〔集韻〕祖誄切 紙 ㊁シ 〔集韻〕此尾切 尾

㊀㊁❶山の高低があつてうねるさま。崀嶉。〔玉篇〕嶉、崀嶉、山高下盤曲皃。〔集韻〕嶉、山曲也。❷材木のむらがり積まれたさま。嶊嶉。〔韻會〕嶉、嶊嶉、材木叢積貌。

【嶊】8431 ㊀スイ 〔集韻〕祖誄切 紙 ㊁ツイ 〔集韻〕丑水切 紙 ㊂サイ スイ 〔集韻〕祖猥切 賄

㊀㊁㊂❶山の高大なさま。〔集韻〕嶊、山皃。〔韻會小補〕嶊、山高大貌。❷嶮しいさま。嶊崣(1)を見よ。❸材木の高く積まれたさま。嶊嶉(2)を見よ。❹或は崔(4-8178)に作る。〔集韻〕嶊、或省。

【嶊崣】1 サイヰ 嶮しいさま。又、高大なさま。〔司馬相如、上林賦〕巖陁甗錡、嶊崣崛崎。〔注〕向曰、嶊崣・崛崎、嶮貌。〔文同、超然臺賦〕陟㆓危譙㆒以騁望兮、丘阜嶊崣而嵾嵳。

【嶊嶉】2 サイスイ 材木の高く積まれたさま。又、高いさま。崔巍。〔漢書、揚雄傳上〕大夏雲譎波詭、嶊嶉而成ㇾ觀。〔注〕孟康曰、嶊嶉、材木崇積貌也。〔王先謙補注〕嶊嶉、卽崔崣之同音變字、若㆔今言㆓崔巍㆒矣。

【⿱山祭】8432 セイ サイ 〔集韻〕七計切 霽

山名。〔集韻〕⿱山祭、山名。

【㠀】8433 タウ 島(4-8108)の本字。〔字彙補〕島、說文作ㇾ㠀、省作ㇾ島者、非ㇾ是。

【嶋】8434 タウ 㠀(4-8433)に同じ。〔字彙補〕嶋、與ㇾ㠀同。

【嶌】8435 タウ 㠀(4-8433)の俗字。

【⿱山冏】8436 ボク 睦(8-23460)の古字。〔集韻〕睦、古作ㇾ⿱山冏。

【⿱動山】8437 音未詳 山のあざな。〔字彙補〕⿱動山、音未詳。〔太淸金液神氣經〕小山、字岦動。

【⿰山華】8438 クワ ゲ 〔字彙補〕何瓜切 麻

⿰山華峲は、山名。〔字彙補〕⿰山華、⿰山華峲、山名。

【⿰山冊】8439 シン 義未詳。〔五音篇海〕⿰山冊、音岑。

【⿱山帶】8440 エフ・ケツ 義未詳。〔篇海類編〕⿱山帶、音葉、又音齧。

【⿱山婆】8441 バ 義未詳。〔五音篇海〕⿱山婆、音婆。

【嶍】8442 シフ 〔辭源〕讀如ㇾ習。

嶍峨は、山名。嶍峨の❶を見よ。

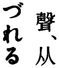
【嶍峨】1 シフガ ❶山名。雲南省峨山縣の東北。もと嶍・峨の二山、今、合して嶍峨山といふ。❷縣名。元、置く。唐代、嶍倪蠻の居た所で、嶍峩部と名づく。後、阿僰に合併す。元初、內附し、嶍峩千戸所を置き、又、縣に改む。今の雲南省峨山縣。〔讀史方輿紀要、雲南、臨安府、寧州〕嶍峨縣、唐時有㆓僰蠻嶍峨㆒居ㇾ此、名㆓嶍峨部㆒、後併㆓於阿僰㆒、元初、置㆓嶍峨千戸㆒、隸㆓阿僰萬戸㆒、至元十三年、改爲㆓嶍峨州㆒、二十六年、降爲ㇾ縣、隸㆓臨安路㆒、後又改屬㆓寧州㆒。〔清史稿、地理志〕雲南、臨安府、縣五、嶍峨。

十二畫

【⿰山复】8443 フク 〔集韻〕芳六切 屋

❶山名。〔集韻〕⿰山复、山名。❷おほふ。〔玉篇〕⿰山复、覆也。

【⿱山⿸厂配】8444 ㊀ホツ ボチ 〔集韻〕薄沒切 月 ㊁ハイ 〔集韻〕滂佩切 隊 ㊂ヒ 〔集韻〕芳未切 未 ㊃ヒ 〔玉篇〕普鄙切 紙 ㊄ハイ 〔集韻〕匹埋切 佳 ㊅フツ フチ 〔集韻〕敷勿切 物


小篆

㊀㊁㊂くづれる音。〔説文〕⿱山⿸厂配、崩聲、从ㇾ屵配聲、讀若ㇾ費。㊃こはれる。くづれる。或は圮(3-4888)に作る。〔玉篇〕⿱山⿸厂配、毀也。或作ㇾ圮。〔集韻〕⿱山⿸厂配、壞也。㊄山のくづれる音。〔集韻〕⿱山⿸厂配、山陊聲。㊅石のおちる音。〔集韻〕⿱山⿸厂配、石隕聲。

【⿰山單】8445 ㊀タン 〔集韻〕多寒切 寒 ㊁テイ タイ 〔集韻〕都黎切 齊

㊀孤立した山。或は⿱單山に作る。〔集韻〕⿰山單、山孤者曰ㇾ⿰山單、或書作ㇾ⿱單山。㊁⿰山單狐は、山名。〔集韻〕⿰山單、⿰山單狐、山名。

【⿱山絫】8446 ㊀ライ 〔集韻〕魯猥切 賄 ㊁ルイ 〔集韻〕魯水切 紙

小篆 ㊀❶山のさま。窯嶂。〔説文〕窯、窯嶂、山皃也。从レ山窯聲。❷或は嶤（4－8639）・磈（8－24532）・嵬（4－8424）・嵔（4－8590）に作り、亦、嶇（4－8589）に作る。〔集韻〕窯、或作ニ嶤・磈・嵬・嵔一、亦書作レ嶇。㊁山のさま。礧（8－24568）に同じ。〔集韻〕礧、碨礧、山皃、或作レ窯。

【嶐】8447 リユウ リユ 〔集韻〕良中切 [東]

山の形。嶐豐。〔集韻〕豐、嶐豐、山形。

【嶑】8448 シヤウ ザウ 〔集韻〕似兩切 [養]

山名。〔集韻〕嶑、山名。

【嶯】8449 キ 崎（4－8169）に同じ。〔正字通〕嶯、同レ崎。

【嶖】8450 シウ ジユ 〔集韻〕疾僦切 [宥]

山名。〔集韻〕嶖、山名。

【𡸗】8451 ケン ゴン 〔集韻〕巨偃切 [阮]

❶**山のさま。**𡸗嵾。〔集韻〕𡸗、𡸗嵾、山皃。❷**山の屈曲してゐるさま。**𡸗嵼。〔正字通〕𡸗、𡸗嵼、山屈曲貌。❸或は巏（4－8619）に作る。〔集韻〕𡸗、或从レ蹇。

【𡸗嵾】1 ケン ケン 山のさま。又、山のけはしいさま。〔集韻〕𡸗、𡸗嵾、山皃。

【𡸗嵼】2 ケン サン 山の屈曲したさま。蹇產。〔正字通〕𡸗、𡸗嵼、山屈曲貌。〔盧思道、納涼賦〕入ニ雲宮之𡸗嵼一。

【𡹴】8452 ヤウ 崵（4－8245）に同じ。〔正字通〕𡹴、同レ崵。

【𡼤】8453 イ 〔玉篇〕於巳切 [紙]

山名。〔玉篇〕𡼤、山也。

【𡽀】8454 カン 澗（7－18253）に同じ。〔集韻〕澗、或作レ𡽀。

【㟩】8455 ビン 岷（4－8007）の本字。〔正字通〕岷、説文、本作レ㟩。

【𡹇】8456 ジユン ニン 〔集韻〕儒順切 [震]

地名。白𡹇。〔集韻〕𡹇、白𡹇、地名、後魏常景、發レ兵守ニ白𡹇一。

【𡾰】8457 トウ ヅ 〔集韻〕徒東切 [東]

❶**山のさま。**𡾰嶸。〔集韻〕𡾰、𡾰嶸、山皃。❷**はげ山。**〔字彙〕𡾰、山無ニ草木一也。❸通じて童（8－25775）に作る。〔正字通〕𡾰、按、古卽借ニ用童一、加レ山贅。

【嶒】8458 ㊀シヨウ ゾウ 〔集韻〕慈陵切 ㄘㄥˊ tsʻêng^{2} [蒸] ㊁サウ ジヤウ 〔集韻〕鋤耕切 [庚]

㊀**山の高くけはしいさま。**崚嶒。〔集韻〕嶒、崚嶒、山皃。㊁**けはしい。**崝（4－8196）に同じ。〔集韻〕崝、説文、嶸也、或作レ嶒。

【嶒峵】1 サウ クワウ 深く空しいさま。〔王延壽、魯靈光殿賦〕鬱坱圠以嶒峵。〔注〕善曰、嶒峵、深空皃。

【嶒崚】2 サウ リヨウ 山の嶮しく高いさま。崚嶒。〔張協、七命〕既乃瓊巘嶒崚、金岸崥崹。〔注〕向曰、嶒崚・崥崹、險高皃。〔何遜、渡ニ連圻一詩〕懸崖抱ニ奇崛一、絶壁駕ニ崚嶒一。

【嶒棱】3 サウ リヨウ サウ ロウ 嶒崚に同じ。〔孫覿、橫山堂詩〕波閒指點見ニ青紅一、雪背嶒棱倚ニ半空一。

【𡹜】8459 ガク 崿（4－8263）に同じ。〔正字通〕𡹜、同レ崿。

【𡺹】8460 ガク 崿（4－8263）・𡹜（4－8459）に同じ。〔正字通〕崿・𡹜・𡺹、並同。

【𡽬】8461 キヨ コ 〔集韻〕丘魚切 [魚]

山がけはしい。崎𡽬。〔集韻〕𡽬、崎𡽬、山峻。

【𡾭】8462 シン 〔集韻〕式荏切 [寢]

山名。〔玉篇〕𡾭、山名。

【嶓】8463 ㊀ハ 〔集韻〕補禾切 ㄅㄛ- po^{1} [歌] ㊁ハ 〔集韻〕補過切 [箇]

㊀㊁**山名。**嶓冢（2）の❶を見よ。〔集韻〕嶓、嶓冢、山名。

【嶓峽】1 ハ ケフ 嶓冢山の峽谷。〔羊士諤、赴ニ資陽一經ニ嶓冢山一詩〕今日鳴騶到ニ嶓峽一、還勝三博望至ニ河源一。

【嶓冢】2 ハ チヨウ 山名。❶㋑陝西省沔縣の西南、寧羌縣の界。漢水の出る所。又、嶓山といふ。〔書、禹貢〕嶓冢導レ漾。〔書、禹貢〕岷嶓既藝。〔鄭注〕嶓冢山、在ニ漢陽西一。〔水經、漾水注〕漢中記曰、嶓冢以東水皆東流、嶓冢以西水皆西流、故俗以ニ嶓冢一爲ニ分水嶺一。㋺甘肅省成縣の東北。西漢水の出る所。又、兌山といふ。〔漢書、地理志下〕隴西郡、西、禹貢嶓冢山、西漢所レ出。〔蔣廷錫、尙書地理今釋〕嶓冢有レ二、一在ニ陝西漢中府寧羌州北九十里一、一在ニ鞏昌府秦州西南六十里一、二山、南北相去三四百里、而支脈隱然聯屬、郡縣志所謂、隴東之山皆嶓冢、是也。〔胡渭、禹貢錐指〕山海經云、漢水出ニ鮒嵎山一、蓋嶓冢之別名也、本在ニ漢中郡沔陽縣界一、西南接ニ葭萌一、自ニ後魏一以來、言ニ山之所在一、曰ニ嶓冢一、曰ニ西縣一、曰ニ金牛一、曰ニ三泉一、曰ニ大安一、曰ニ寧光一、地名六變、而山則一、皆在ニ古梁州之域一、其爲ニ禹貢之嶓冢一也無レ疑。❷縣名。後魏、置く。故城は今の陝西省沔縣の西。

【嶓東】3 ハ トウ 清、周爲漢（2－3441・・535）の字。

【嶔】8464 ㊀キン コン 〔集韻〕虛金切 ㄑㄧㄣ- chʻin^{1} [侵] ㊁ケン 〔集韻〕丘廉切 [鹽] ㊂カン ケン 〔集韻〕丘銜切 [咸]

㊀❶**山のけはしいさま。**嶔巇。通じて廞（4－9488）に作る。〔集韻〕嶔、嶔巇、山險皃、通作レ廞。❷**山が高くけはしい。**或は碒（8－24471）に作り、通じて唫（2－3755）に作る。〔集韻〕嶔、山高險也、公羊傳、殽之嶔巖、或作レ碒、通作レ唫。㊁❶**山の高峻なさま。**〔集韻〕嶔、山高皃。❷或は廞（4－9488）・嵰（4－8365）に作る。〔集韻〕嶔、或从レ广、亦作レ嵰。㊂**山がけはしい。**嵌（4－8279）に同じ。〔集韻〕嵌、嵌巖、山險、亦作レ嶔。

【嶔崖】1（キンガイ）　高く險しいがけ。〔柳宗元、招二海賈一文〕反レ斷叉レ牙踔二嶔崖一。〔注〕嶔、音欽、山高險。

【嶔巖】2（キンガン）　❶險しいいはほ。又、其のいはや。〔公羊、僖、三十三〕爾卽死、必於二殽之嶔巖一、是文王之所レ辟二風雨一者也。❷傾き欹だつさま。〔注〕善曰、郭璞曰、嶔巖、欹皃也、翰曰、嶔巖、倚傾不レ齊貌。❸深くけはしいさま。〔揚雄、甘泉賦〕崇二丘陵之駊騀一兮、深溝嶔巖而爲レ谷。〔注〕善曰、嶔巖、深貌也。

【嶔崎】3（キンキ）　山の險しいさま。高峻のさま。轉じて、俗を去つて高潔なこと。嶔巇。〔王延壽、王孫賦〕生二深山之茂林一、處二嶄巖之嶔崎一。〔謝靈運、山居賦〕上嶔崎而蒙籠、下深沈而澆激。

〔嶔崎磊落〕4（キンキライラク）　山が險しく石が集まつてゐるさま。〔金昌協、自二萬瀑洞一至二摩訶衍一記〕洞石之嶔崎磊落槎牙齦齶者。

【嶔巇】5（キンキ）　山の險しく聳えるさま。〔張衡、南都賦〕岝客嶵嵬、嶔巇屹囓。〔注〕善曰、嶔巇、山相對而危險之貌也。

【嶔嶔】6（キンキン）　あくびをする時の聲と唇とのさま。〔釋名、釋姿容〕欠、嶔也、開二張其口一、聲脣嶔嶔然也。

【嶔崟】7（キンギン）　❶山の高く聳え立つさま。又、その山。嶔岑。〔玉篇〕嶔、嶔崟、山勢。〔張衡、思玄賦〕嘉二曾氏之歸耕一兮、慕二歷阪之嶔崟一。〔注〕銑曰、嶔崟、高皃。〔白居易、太湖石詩〕遠望老嵯峩、近觀怪嶔崟。❷三崤山（1－12··181）の異名。〔讀史方輿紀要、河南、三崤〕三崤山、亦曰二二崤一、一名嶔崟山。

【嶔嶇】8（キンク）　山の險しいさま。〔陳亮、高彥恢適安堂詩〕用レ世豈無レ心、出レ門畏二嶔嶇一。

【嶔岑】9（キンシン）　山の高く險しいさま。又、その山。嶔崟。轉じて、世路の艱難をいふ。〔楚辭、淮南小山王、招隱士〕嶔岑碕礒兮、硱磳磈硊。〔集注〕嶔、一作レ欽、岑、一作レ崟。〔補注〕嶔岑、山高險也。

【嶔然】10（キンゼン）　巖石の險しく聳えるさま。〔柳宗元、鈷鉧潭西小邱記〕其嶔然相累、而下者若三牛馬之飲二於溪一。

【嶳】8465　テン　デン　〔集韻〕堂練切　［霰］

山名。〔集韻〕嶳、山名。

【⿰山頁】8466　カウ

崆（4－8146）に同じ。〔集韻〕崆、或作レ⿰山頁。

【嶕】8467　セウ　ゼウ　〔集韻〕茲消切　［蕭］

❶**高い。**〔廣雅、釋詁四〕嶕、高也。❷**山の高くけはしいさま。**嶕嶢。〔集韻〕嶕、嶕嶢、山峻皃。❸**山のいただき。**通じて椒（6－15029）に作る。〔正字通〕嶕、山顚曰二山嶕一、借二用椒一。

【嶕嶢】1（セウゲウ）　山の至つて高いさま。〔集韻〕嶢、嶕嶢、山高皃。〔漢書、揚雄傳下〕泰山之高、不二嶕嶢一、則不レ能下浡二滃雲一而散中歊蒸上。〔注〕師古曰、嶕嶢、高貌也。〔班固、西都賦〕內則別風嶕嶢眇麗、巧而聳擢。〔注〕善曰、廣雅曰、嶕嶢、高也。〔陶潛、擬挽歌辭〕四面無二人居一、高墳正嶕嶢。

【嶕石】2（セウセキ）　海洋中の小島をいふ。〔甬東游記〕蛟門峽、東浪激、秋風一作、海水排レ空觸レ岸、杳不レ辨二舟楫所一レ在、獨帆檣上指、潮東上、風西來、水相鬬、舟不レ能二尺咫一、一撞二嶕石一、且二靡解不一レ可二支持一。

【嶣】8468　セウ

嶕（4－8467）に同じ。〔正字通〕嶕、亦作レ嶣。

【嶠】8469　シュン

陖（4－8336）に同じ。〔集韻〕陖、或作レ嶠。

【⿱山欺】8470　㈠キ　㈡カン　〔字彙〕音欺

㈠**高い。**〔玉樞經〕九曜嶔⿱山欺。㈡嵌（4－8279）の譌字。〔正字通〕⿱山欺、一曰、嵌字之譌。

【⿱敦山】8471　トン　〔集韻〕都昆切　［元］

山のさま。〔集韻〕⿱敦山、山皃。

【⿱山集】8472　シフ　〔集韻〕卽入切　［緝］

❶**山名。**〔玉篇〕⿱山集、太白山名。〔集韻〕⿱山集、山名。❷嶫（4－8473）に同じ。〔正字通〕嶫、同レ⿱山集。

【嶫】8473　㈠サフ　ザフ　〔集韻〕昨合切　［合］　㈡セフ　ゼフ　〔集韻〕疾葉切　［葉］　㈢シフ　ジフ　〔集韻〕籍入切　［緝］

㈠**山の高いさま。**嶫嶫。礏（8－24493）に同じ。〔集韻〕礏、礏礏、山高皃、或从レ山。㈡**山のさま。**或は崨（4－8210）に作る。〔集韻〕嶫、山皃、或作レ崨。㈢**山のさま。**嶫嶫。〔集韻〕嶫、嶫嶫、山皃。

【嶫嶫】1（サフサフ　ゲフゲフ）　高いさま。〔司馬相如、上林賦〕嵯峨嶫嶫、刻削崢嶸。〔注〕翰曰、嵯峨・嶫嶫、高貌。

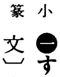
【嵡】8474　エン

崦（4－8208）に同じ。〔集韻〕崦、或从レ翁。

【嶗】8475　ラウ　ロウ　〔集韻〕郎刀切　［豪］

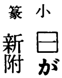
❶**山名。**〔玉篇〕嶗、山名。❷**山がけはしい。**⿰山卿（4－8390）に同じ。〔集韻〕⿰山卿、⿰山卿嶆、山險、或作レ嶗。

【嶘】8476　サン　セン　〔集韻〕阻限切　［潸］


小篆

❶**すぐれて高い。**又、其の山。〔說文〕嶘、尤高也、从レ山棧聲。〔元結、閔岭中〕太淵蘊蘊兮絕嶘岌岌。❷**山のけはしいさま。**峨（4－8214）に同じ。〔集韻〕峨、峨嵯、山峻皃、或作レ嶘。

【嶙】8477　㈠リン　〔集韻〕離珍切　［眞］　ㄌㄧㄣ　lin²　㈡リン　〔集韻〕里忍切　［軫］


小篆

㈠**がけの深いさま。**嶙峋。〔說文新附〕嶙、嶙峋、深崖皃、从レ山粦聲。〔集韻〕嶙、嶙峋、山厓重深皃。㈡**山のけはしいさま。**嶾嶙。〔集韻〕嶙、嶾嶙、山峻皃。

【嶙峋】1（リンシュン）　❶非常にがけの深いさま。〔揚雄、甘泉賦〕岭巆嶙峋、洞無レ厓兮。〔注〕善曰、埤蒼曰、岭巆嶙峋、深無レ厓之貌。〔韓愈、送二惠師一詩〕遂登二天台一望、衆壑皆嶙峋。❷階のいかめしく聳えるさま。鱗眗。〔漢書、揚雄傳上〕岭巆嶙峋洞亡レ厓兮、注〕師古曰、嶙峋、節級貌。〔左思、魏都賦〕榱題黮䨴、階隋嶙峋。〔注〕善曰、西京賦曰、坻崿嶙峋、埤蒼曰、嶙峋、山厓之貌也、翰曰、嶙峋、次級也。〔杜甫、折檻行〕至レ今折檻空嶙峋。

【嶙嶙】2（リンリン）　起伏して平かでないさま。〔歐陽脩、盤車圖詩〕淺山嶙嶙、亂石矗矗。

【嶚】8478　レウ　〔集韻〕憐蕭切　［蕭］

㊀高い。嶚巢。〔集韻〕嶚、廣雅、嶚巢、高也。㊁或は嵺（4−8384）・嶛（4−8479）に作る。〔集韻〕嶚、或作レ嵺、亦書作レ嶛。

【嶚巢】1（レウサウ） 高いさま。山の高いさま。〔廣雅、釋詁四〕嶚巢、高也。〔廣韻〕嶚、嶚巢、山皃。

【嶚⿰山昔】2（レウサク） 山の形。又、山名。〔類篇〕嶚⿰山昔、山形、一曰、山名。

【嶚嶕】3（レウセウ） 山の高いさま。〔左思、吳都賦〕陵二絕嶚嶕一、聿越二巉嶮一。〔注〕向曰、嶚嶕、高貌。

【嶚剌】4（レウラツ） 山が高くて、なだらかでないさま。剌は戾、もとる。〔張衡、南都賦〕其山則崆㟯嶱嵑、嵣崉嶚剌。〔注〕善曰、嶚、山高而相戾也、廣雅曰、嶚、高也、說文曰、剌、戾也。

【嶛】8479 レウ 嶚（4−8478）に同じ。〔集韻〕嶚、亦書作レ嶛。

【⿰山皐】8480 カウ コウ 〔集韻〕居勞切 ［豪］

㊀亭の名。⿰山皐峰。〔玉篇〕⿰山皐、⿰山皐峰、亭也。㊁山名。⿰山皐峰。〔集韻〕⿰山皐、⿰山皐峰、山名。

【嶜】8481

［一］シン 〔集韻〕咨林切 ［侵］

［二］セン ゼン 〔集韻〕慈鹽切 ［鹽］

［三］シン ジン 〔集韻〕集荏切 ［寢］

［一］㊀山の高大なさま。〔集韻〕嶜、山高大皃。㊁極めてけはしいさま。〔張衡、南都賦〕幽谷嶜岑、夏含二霜雪一。〔注〕翰曰、嶜岑、峻極貌。［二］［三］山のさま。嶜碞。〔集韻〕嶜、嶜碞、山皃。

【嶜崟】1（シンギン） 高く鋭いさま。〔漢書、揚雄傳上〕玉石嶜崟。〔注〕嶜崟、高銳貌。〔蕭該音義〕嶜、案二字詁一、古文岑字。

【嶜岑】2（シンシン） 極めて峻しいさま。〔張衡、南都賦〕幽谷嶜岑、夏含二霜雪一。〔注〕翰曰、嶜岑、峻極貌。

【嶝】8482 トウ 〔集韻〕丁鄧切 ［徑］ ㄉㄥˋ têng⁴

㊀小さい坂。〔玉篇〕嶝、小坂也。㊁さかみち。のぼりみち。〔增韻〕嶝、登陟之道。〔沈約、博山香爐詩〕峯嶝互相拒。㊂あふぐ。隥（11−41850）に同じ。〔集韻〕隥、說文、仰也、或从レ山。

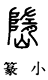
【⿱山卒】8483 コツ 崒（4−7865）に同じ。〔字彙〕⿱山卒、見二周宣王石鼓文一。〔康熙字典〕⿱山卒、按、石鼓文、本作レ崒、音忽、疾也、與二說文一音訓同。

【⿱山𠷎】8484 クワ 崋（4−8161）の古字。〔集韻〕崋、古作レ⿱山𠷎。

【⿳吅山吅】8485 ケウ 〔集韻〕虛嬌切 ［蕭］

山名。〔集韻〕⿳吅山吅、山名。

【嶞】8486 タ ダ 〔集韻〕杜果切 ［哿］


小篆

㊀せまくて長い山。〔說文〕嶞、山之嶞嶞者、从レ山橢省聲、讀若二相推落之墮一。〔段注〕周頌曰、嶞山喬嶽、毛傳曰、嶞山、山之嶞嶞小者也、嶞嶞、狹長之皃。〔爾雅、釋山〕巒山、嶞。〔釋文〕嶞、狹而長也。㊁山が高い。〔廣韻〕嶞、山高。㊂山の長いさま。⿰山妥（4−8113）に同じ。〔集韻〕⿰山妥、山長皃、或作レ嶞。

【嶞山】1（タザン） 狹くて長い山。〔詩、周頌、般〕陟二其高山一、嶞山喬嶽。〔傳〕嶞山、山之嶞嶞小者也。〔集傳〕嶞則其狹而長者。

【嶟】8487

［一］ソン 〔集韻〕租昆切 ［元］

［二］ソン 〔集韻〕祖本切 ［阮］

［三］シュン 〔集韻〕七倫切 ［眞］

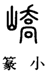
［一］［二］山の高いさま。〔集韻〕嶟、山高皃。［三］㊀そばだつさま。嶟嶟。〔集韻〕嶟、嶟嶟、竦峭皃。㊁山が鋭い。〔集韻〕嶟、山銳也。

【嶟嶟】1（シュンシュン） そばだつさま。〔揚雄、甘泉賦〕洪臺崛其獨出兮、㯝二北極之嶟嶟一。〔注〕銑曰、嶟嶟、峻秀貌。

【嶠】8488

［一］ケウ ゲウ 〔集韻〕渠廟切 ［嘯］ ㄐㄧㄠˋ chiao⁴

［二］ケウ ゲウ 〔集韻〕渠嬌切 ［蕭］


小篆

［一］㊀鋭くて高い。又、其の山。〔說文新附〕嶠、山銳而高也、从レ山喬聲。〔王彪之、登二會稽刻石山一詩〕銘二跡峻嶠一。㊁水を遮つて立つ石。〔集韻〕嶠、一曰、石絕レ水。㊂やまみち。〔廣韻〕嶠、山道。〔集韻〕嶠、一曰、山逕。〔顏延之、車駕幸二京口一三月三日侍二遊曲阿後湖一詩〕山祇蹕二嶠路一。㊃みね。〔後漢書、鄭弘傳〕開二零陵桂陽嶠道一。〔注〕嶠、嶺也。㊄曲の名。〔逸周書、太子晉解〕王子歌レ嶠。〔注〕嶠、曲名。㊅喬（2−3990）に通ず。〔說文新附〕嶠、古通二用喬一。［二］鋭くて高い山。［一］の㊀に同じ。或は嵪（4−8489）に作る。〔爾雅、釋山〕銳而高、嶠。〔集韻〕嶠、爾雅、山銳而高曰レ嶠、或書作レ嵪。

【嶠角】1（ケウカク） 山路のすみ。〔李洞、贈二三惠大師一詩〕楓猿嶠角別多時、二教兼修內學師。

【嶠嶽】2（ケウガク） 高い山。喬嶽（2−3990··9）の㊀に同じ。〔淮南子、泰族訓〕詩云、懷二柔百神一、及二河嶠嶽一。

【嶠外】3（ケウグワイ） 高い山の外。〔江淹、赤虹賦序〕東南嶠外、爰有二九石之山一、乃紅壁十里、青蕚百仞。

【嶠嶼】4（ケウショ） 屹立した海中の小島。〔高棅、嶠嶼春潮詩〕初日照二寒濤一、春深在二孤嶼一。

【嶠翠】5（ケウスイ） 高山の樹のみどり。〔曹松、金陵道中寄詩〕嶠翠藏二幽瀑一、枝風下二曉禽一。

【嶠道】6（ケウダウ） 山路。峠。嶠路。〔後漢書、鄭弘傳〕弘奏開二零陵桂陽嶠道一、於レ是夷通。

【嶠南】7（ケウナン） ㊀嶺南（4−8553··45）に同じ。〔後漢書、馬援傳〕援將二樓船大小二千餘艘、戰士二萬餘人一、擊二九眞賊、云云、都羊等一、云云、嶠南悉平。〔注〕嶠、嶺嶠也。㊁平部俊良の號。平部嶠南（4−9167··769）を見よ。

【嶠木】8（ケウボク） 山路に生じた樹木。〔沈約、循二役朱方道路一詩〕歲嚴摧二磴草一、午寒散二嶠木一。

【嶠霧】9（ケウム） 高山にかかつたきり。〔顏延之、從軍行〕嶠霧下二高鳥一、冰沙固二流川一。

【嶠嶺】10（ケウレイ） 嶠山の峰。〔鐵圍山叢談〕嶠嶺多二蜈蚣一、長二三尺、螫レ人。

【嶠路】11（ケウロ） 山路。嶠道。〔顏延之、車駕幸二京口一三月三日侍二遊曲阿後湖一作詩〕山祇蹕二嶠路一、水若警二滄流一。〔注〕銑曰、言下感二山水之神一、稱中警蹕於山路上。〔王勃、九成宮頌〕廻二鑾嶠路一、逗二蹕山樞一。

【嵪】8489 ケウ 嶠（4−8488）に同じ。〔集韻〕嶠、或書作レ嵪。

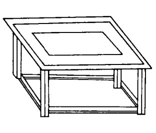
【嶡】8490

［一］ケイ ケ 〔集韻〕姑衞切 ［霽］

［二］ケツ クワチ 〔集韻〕居月切 ［月］ ㄐㄩㄝˊ chüeh²

［一］山のそばだつさま。〔集韻〕嶡、山皃。

〔字彙〕嶡、山崛起貌。［三］**俎の名**。横木をわたした脚のある俎。距。〔集韻〕嶡、俎名、足有㆑横。〔禮、明堂位〕夏后氏以㆑嶡。〔注〕嶡之言、蹷也、謂㆘中足爲㆓横距㆒之象㆖、周禮謂㆓之距㆒。



嶡 俎（三才圖會）

【嶢】8491

嶢（小篆（說文））　嶢（小篆（段注本））

ゲウ　〔集韻〕倪幺切　ㄧㄠˊ yao^2　蕭

㊀**山の高いさま**。〔說文〕嶢、焦嶢、山高皃、从㆑山堯聲。㊁**高い**。〔方言、六〕嶢、高也。㊂**高く遠い**。〔張衡、西京賦〕表㆓嶢闕於閶闔㆒。〔注〕綜曰、嶢者、言㆓高遠㆒也。㊃**危いさま**。嶢峴(9)を見よ。㊄**山の名**。嶢山(14)を見よ。㊅**關の名**。嶢關(5)を見よ。〔後漢書、文苑上、杜篤傳〕關㆑函守㆑嶢。〔注〕嶢、謂㆓嶢山之關㆒也。㊆抗(**5－11889**)に通ず。〔說文通訓定聲〕嶢、叚借爲㆑抗。㊇或は嶤(**4－8492**)に作る。〔集韻〕嶢、或書作㆑嶤。

【嶢嶭】1 ゲウガツ　高く峻しいさま。〔左思、魏都賦〕抗㆓旗亭之嶢嶭㆒、侈㆓所㆑眺之博大㆒。〔注〕善曰、嶢嶭、高峻之貌也。

【嶢巖】2 ゲウガン　高く險しいさま。〔李白、早過㆓漆林渡㆒寄㆓萬巨㆒詩〕嶢巖注㆓公柵㆒、突兀陳㆓焦墓㆒。

【嶢崎】3 ゲウキ　山の曲りくねるさま。轉じて、物事の複雜で平坦でないさま。〔朱子語錄、讀書下〕詩有㆓箇邪正㆒、書有㆓箇治亂㆒、皆是一直路逕、可㆑見㆔別無㆓嶢崎㆒。

【嶢嶷】4 ゲウギヨク　山の高く峙つてゐるさま。嶤嶷。〔沈約、郊居賦〕嶤嶷岧亭、墜石堆㆑星。

【嶢關】5 ゲウクワン　關の名。陝西省藍田縣の東南。漢の高祖が秦軍を敗つた所。北周の明帝、青泥故城の側に移置し、改めて青泥關といひ、武帝、藍田關と改む。隋の煬帝、舊所に徙す。〔漢書、高帝紀上〕沛公引㆑兵繞㆓嶢關㆒、踰㆓蕢山㆒、擊㆓秦軍㆒、大破㆓之藍田南㆒。〔括地志〕藍田關、即秦嶢關。〔太平寰宇記〕藍田關、周明帝自㆓嶢關㆒移置㆓青泥故城側㆒、改曰㆓青泥關㆒、武帝改爲㆓藍田關㆒。〔長安志〕隋煬帝徙復㆓舊所㆒。

【嶢嶢】6 ゲウゲウ　㊀危いさま。〔廣雅、釋訓〕嶢嶢、危也。㊁山の高いさま。轉じて、志の高いさま。嶢屼。〔漢書、揚雄傳上〕直嶢嶢以造㆑天兮、厥高慶而不㆑可㆓虖疆度㆒。〔注〕師古曰、嶢嶢、高貌。〔曹植、七啓〕志飄飄焉、嶢嶢焉。〔注〕翰曰、嶢嶢、高皃。

【嶢嶢易㆑缺】7 ゲウゲウハカケヤスシ　けはしく高い山は缺け易い。剛直な者は、災を招き易い喩。〔後漢書、黃瓊傳〕語曰、嶢嶢者易㆑缺、皦皦者易㆑汙。〔集解〕惠棟曰、廣雅、嶢嶢、危也、云云、胡注、嶢嶢、山之高也。

【嶢闕】8 ゲウケツ　高い門。高く遠い門。皇居の門。〔張衡、西京賦〕正㆓紫宮於未央㆒、表㆓嶢闕於閶闔㆒。〔注〕綜曰、嶢者、言㆓高遠㆒也、向曰、嶢、高也。〔宋史、樂志十三〕天仗回㆓嶢闕㆒、皇輿入㆓應門㆒。

【嶢峴】9 ゲウゲツ　危いさま。〔王延壽、魯靈光殿賦〕漂嶢峴而枝柱。〔注〕善曰、嶢峴、不安之貌。

【嶢嵲】10 ゲウゲツ　山の險しく高いさま。〔柳宗元、招㆓海賈㆒文〕舟航軒昂兮上下、飄鼓騰趠嶢嵲兮。

【嶢屼】11 ゲウコツ　山の高く險しいさま。〔左思、吳都賦〕嵬巍嶢屼、巊溟鬱岪。〔注〕濟曰、並山高險之貌也。〔李白、送㆔王屋山人魏萬還㆓王屋㆒詩〕赤城漸微沒、孤嶼前嶢屼。

【嶢崝】12 ゲウサウ　高く峙だつさま。嶢崢。〔漢書、揚雄傳上〕陟㆓西嶽之嶢崝㆒。〔注〕師古曰、嶢崝、謂㆓嶢嶕而崝嶸㆒也。

【嶢崢】13 ゲウサウ　高いさま。嶢崝。〔張衡、思玄賦〕蹈㆓玉階之嶢崢㆒。〔注〕善曰、方言曰、嶢崢、高貌也。

【嶢山】14 ゲウザン　㊀山名。陝西省藍田縣の南。〔淮南子、覽冥訓〕嶢山崩、而薄落之水涸。〔注〕嶢山、在㆓雍州㆒也。〔讀史方輿紀要、陝西、西安府、藍田縣〕嶢山、縣南二十里、亦謂㆓之嶢嶺㆒、秦因以名㆑關。㊁清、田從典(**7－21723**・・382)の號。

【嶢榭】15 ゲウシヤ　うてな。高臺。〔張協、七命〕爾乃嶢榭迎風、秀㆓出中天㆒。〔注〕善曰、方言曰、嶢、高也。

【嶢武】16 ゲウブ　嶢關(5)と武關(**6－16273**・・98)。共に關の名。〔沈約、應詔樂游苑餞㆓呂僧珍㆒詩〕函轘方解㆑帶、嶢武稍披㆑襟。〔注〕銑曰、嶢武、二關名。

【嶢柳】17 ゲウリウ　城の名。今の陝西省藍田縣治。俗名、青涅城、又、青泥城。〔水經、渭水注〕涅水、又西逕㆓嶢關㆒、北歷㆓嶢柳城㆒、東西有㆓二城㆒、魏置㆓青涅軍于城內㆒、世亦謂㆓之青涅城㆒。〔元和志〕藍田縣城、即嶢柳城、俗亦謂㆓之青泥城㆒、桓溫伐㆓苻堅㆒、使㆓將軍薛珍擊㆓青泥城㆒破㆑之、即其處也。〔長安志〕後周閔帝、析㆑縣置㆓玉山・白鹿縣㆒、以㆓三縣㆒置㆓藍田郡㆒、武帝省㆑郡、廢㆓玉山・白鹿㆒入㆓藍田㆒、自㆓縣西故城㆒徙㆓嶢柳城㆒、今治是也、以㆘前對㆓嶢山㆒、其中多㆖柳、因取爲㆑名、城周八里、今縣城、但東南一隅而已。

【嶤】8492

ゲウ

㊀嶢(**4－8491**)に同じ。〔集韻〕嶢、或書作㆑嶤。㊁⿱山敫(**4－8522**)に同じ。〔集韻〕嶤、或从㆑敫。

【⿰山戛】8493

カツ　ケチ　〔字彙補〕古札切　黠

山名。〔柳宗元、晉問〕撼㆓鵠于⿰山戛㆒、崩石之所㆑轉。

【嵭】8494

ホウ　〔字彙補〕疋登切　蒸

くづれる。〔字彙補〕嵭、崩也。

【嵊】8495

シヨウ　ジヨウ　〔龍龕手鑑〕時證切　徑

山名。〔龍龕手鑑〕嵊、山名。

【⿰垂自】8496

タイ　〔字彙補〕都罪切　賄

重なるさま。倕⿰垂自。〔字彙補〕⿰垂自、倕⿰垂自、重貌。

【⿰山朝】8497

テウ

潮(**7－18277**)に同じ。〔正字通〕潮、漢隸潮从㆑山作㆑⿰山朝。〔康熙字典、補遺〕⿰山朝、漢郙閣頌、醳㆓散關之⿰山朝漯㆒、楊愼云、⿰山朝漯、與㆓潮濕㆒同。

【⿱山路】8498

ロ

路(**10－37524**)に同じ。〔字彙補〕⿱山路、與㆑路同。

【⿱山咢】8499

ガク　〔玉篇〕五各切　藥

みねがかさなつた山。崿(**4－8264**)に同じ。〔搜眞玉鏡〕⿱山咢、同㆑崿。〔玉篇〕崖⿱山咢、重巘山也。

十三畫

【⿱山系】8500

シン

嵾(**4－8399**)に同じ。〔篇海類編〕⿱山系、同㆑嵾。

【嶦】8501

［一］セン　〔集韻〕之廉切　鹽

［二］ゼン　〔集韻〕時豔切　豔

［一］**みね**。〔集韻〕嶦、山峯。［二］**やまざか**。〔集韻〕嶦、山阪。

【嶧】8502

［一］エキ　ヤク　〔集韻〕夷益切　ㄧˋ i^4　陌

［二］セキ　シヤク　〔集韻〕祥亦切　陌

小篆

〘一〙❶葛嶧は、山名。一名、嶧陽。今、江蘇省邳縣の南。〔說文〕嶧、葛嶧、山也、在ニ東海下邳一、从レ山睪聲、夏書曰、嶧陽孤桐。❷**つらなる山**。〔爾雅、釋山〕屬者嶧。〔注〕言ニ駱驛相連屬一。❸**山名**。繹(**8－27975**)に同じ。〔詩、魯頌、閟宮〕保ニ有鳧繹一、〔釋文〕繹、字又作レ嶧、同、山名也。〘二〙**山名**。〔集韻〕嶧、山名。

【嶧皐】1 エキカウ　山名。〔山海經、東山經〕嶧皐之水出焉、東流注ニ于激女之水一、其中多ニ蜃珧一。

【嶧琴】2 エキキン　清、潘衍桐(**7－18236**··126)の字。

【嶧縣】3 エキケン　縣名。明、置く。春秋の鄫國、楚の蘭陵邑。金、嶧州を置く。今、山東省臨沂縣の西。〔讀史方輿紀要、山東、兗州府〕嶧縣、春秋時鄫國、漢爲ニ蘭陵・丞二縣地一、屬ニ東海郡一云云、金興定中、又置ニ嶧州一治焉、元初以レ州屬ニ益都路一、至元二年、以レ縣省入レ州、明朝洪武二年、改レ州爲レ縣、屬ニ濟寧府一。〔清史稿、地理志〕山東、兗州府、縣十、嶧。

【嶧孔】4 エキコウ　嶧山の❶㋑をいふ。孔穴が多いからいふ。亂に遭へば、避難民此處に住み、害を免るといふ。〔水經、泗水注〕京相璠曰、地理志、嶧山在ニ鄒縣北繹邑之所一、依以爲レ名也、山東西二十里、高秀獨出、積石相臨、殆無ニ土壤一、石間多ニ孔穴一、洞達相通、往往有レ如ニ數間屋處一、其俗謂ニ之嶧孔一、遭レ亂輒將レ家入レ嶧、外寇雖レ衆、無レ所ニ施レ害。

【嶧山】5 エキザン　❶山名。㋑山東省鄒縣の東南。一名、鄒嶧・鄒山・邾嶧。秦の始皇帝が、嘗て此の山に上り石に刻して秦の德功を記す。一說に、禹貢の嶧陽といふ。鄒嶧(**11－39562**··6)の❶を見よ。〔詩、魯頌、閟宮〕保ニ有鳧繹一。〔傳〕鳧山也、繹山也。〔讀史方輿紀要、山東、兗州府、鄒縣〕嶧山、縣東南二十五里、一名ニ邾嶧山一、亦曰ニ鄒嶧山一、禹貢、嶧陽孤桐、詩、保ニ有鳧繹一、繹與レ嶧同也、左傳、文十三年邾遷ニ於繹一、宣十年伐レ邾取レ繹、哀七年、魯師入レ邾、邾人保レ繹、杜預曰、繹、邾山也、郭璞云、繹山、純石積構、連屬如ニ繹絲一然、故以レ繹名、史記、秦始皇二十八年、上ニ鄒嶧山一、刻レ石頌ニ功德一、其所レ刻レ穴嶺、名曰ニ書門一、水經注、嶧山東西二十里、高秀獨出、積石相臨、殆無ニ土壤一、石間多ニ孔穴一、洞達相通、往往有レ如ニ數間屋處一、俗謂ニ之嶧孔一、避レ亂入レ嶧、外寇雖レ衆、無レ所レ施レ害。㋺江蘇省邳縣の西南。又、邳繹・葛嶧・嶧陽といひ、沂水が相距ててゐるので、俗に距山ともいふ。山に多く梧桐を產し、琴をつくる。葛嶧(**9－31420**··5)を見よ。一說に、禹貢の嶧陽は邳州の葛嶧山に非ず、鄒縣の嶧山をいふといふ。〔書、禹貢〕嶧陽孤桐。〔讀史方輿紀要、江南、淮安府、邳州〕葛嶧山、州西北六里、古文以爲ニ卽禹貢之嶧山一、似レ誤、俗名ニ距山一、謂ニ沂水相距一也、今亦見ニ山東嶧縣一。❷明、鄒泉(**11－39562**··30)の號。

【嶧山碑】6 エキザンヒ　碑の名。秦の始皇帝が建て、秦の德を頌したもの。其の後、魏の太武帝が此の碑を倒したが、摹本は傳はつた。〔史記、秦始皇紀〕二十八年、始皇東行ニ郡縣一、上ニ鄒嶧山一立レ石、與ニ魯諸儒生一議三刻レ石頌ニ秦德一。〔杜甫、李潮八分歌〕嶧山之碑野火焚、棗木傳刻肥失レ眞。〔石墨鐫華〕唐封演謂、魏太武登レ山、排ニ倒此碑一、有ニ縣宰一、取ニ舊文一勒ニ於石一、其後徐鉉得ニ摹本一、鄭文寶刻ニ於長安一、自レ此刻者甚衆、評者謂、長安第一、鄒縣最下。

【嶧山刻石】7 エキザンコクセキ　嶧山碑を見よ。

【嶧陽】8 エキヤウ　山名。二說あり。嶧山の❶㋑及び㋺を見よ。又、一說に、嶧山の南といふ。陽は山南。〔書、禹貢、嶧陽孤桐、鄭注〕地理志、嶧山在ニ下邳一、今下邳西葛嶧山也。〔今古文注疏〕鄭注見ニ史記集解及太平御覽一、引ニ地理志一者、漢志東海下邳葛嶧山在レ西、古文以爲ニ嶧陽一、班氏以ニ嶧陽一爲ニ山名一、與レ鄭異也、說文、嶧、葛嶧山、在ニ東海下邳一、引ニ此文一、不下以ニ嶧陽一爲中山名上、鄭義本レ此、史記正義引ニ括地志一云、嶧山在ニ兗州鄒縣南二十二里一、引ニ鄒山記一、今猶多ニ桐樹一、此是鄒縣嶧山、在ニ兗州一、非ニ邳州之葛嶧山一也、案、下邳今江南邳州地、孤桐、桐特生者、周禮大司樂云、孤竹之管、注云、孤竹、竹特生者、是也。

【嶧陽友】9 エキヤウノトモ　琴をいふ。嶧陽は山名。此の山に產する孤桐は琴の良材であるからいふ。南唐の李建勳が稱した故事。嶧陽孤桐を見よ。〔事物紺珠〕李建勳稱レ琴、爲ニ嶧陽友一。

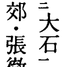
【嶧陽孤桐】10 エキヤウノコドウ　嶧陽山にある一本の大きな桐の木。琴を作る良材といふ。〔書、禹貢〕嶧陽孤桐。〔傳〕嶧山之陽、特生之桐、中ニ琴瑟一。〔王仲言、慈寧殿賦〕或倒ニ文漆於衛社一、或薦ニ孤桐於嶧陽一。

【嶧陽居士】11 エキヤウコジ　宋、顏復(**12－43591**··99)の號。

【嶧陽之桐】12 エキヤウノキリ　嶧陽孤桐に同じ。〔本朝文粹、九、大江以言、冬日於ニ飛香舍一聽三第一皇子初讀ニ御注孝經一應教〕嶧陽之桐拂レ雲遇ニ良工一、而張ニ鶴翼之曲一者歟。

【嶨】8503

カク ガク　〔集韻〕轄覺切　〘覺〙


小篆

❶**大石の多い山**。〔說文〕嶨、山多ニ大石一也、从レ山學省聲。〔韓愈・張籍・孟郊・張徹、會合聯句〕吟ニ巴山犖嶨一、說ニ楚波堆壟一。❷或は埆(**3－5111**)・壆(**3－5597**)に作る。〔集韻〕嶨、或作ニ埆・壆一。❸礐(**8－24525**)に同じ。〔集韻〕礐、或作レ嶨。

【嶔】8504

イン オン　〔集韻〕於錦切　〘寢〙

みねのさま。〔集韻〕嶔、山岑皃。

【嶩】8505

ダウ　峱(**4－8096**)に同じ。〔玉篇〕嶩、同レ峱。〔漢書、地理志下〕故齊詩曰、子之營兮、遭ニ我虖嶩之閒一兮。〔注〕師古曰、嶩、山名也、言、往適ニ營丘一、而相ニ逢於嶩山一也、字或作レ峱、亦作レ巎、音皆乃高反。

【嶪】8506

〘一〙ゲフ ゴフ　〔集韻〕逆怯切　〘葉〙
〘二〙ギフ ゴフ　〔集韻〕逆及切　〘緝〙
〘三〙ガフ　〔集韻〕玉盍切　〘合〙

〘一〙❶**山の高くさかんなさま**。岌嶪。〔集韻〕嶪、岌嶪、山皃。〔張衡、西京賦〕狀嵬峩以岌嶪。〔注〕銑曰、岌嶪、高壯貌。〔杜甫、九成宮詩〕岌嶪土囊口。❷或は嶫(**4－8507**)に作る。〔集韻〕嶪、或書作レ嶫。〘二〙〘三〙**山の高いさま**。礏(**8－24523**)に同じ。〔集韻〕礏、礏礏、山高皃、或从レ山。

【嶪峩】1 ゲフガ　高大なさま。〔韓愈、元和聖德詩〕濆鬼濛鴻、嶽祇嶪峩。〔宋史、樂志七、郊祀樂章〕崇臺穹窿、高靈下墮、慶陰彷彿、從坐ニ嶪峩一。

【嶪岌】2 ゲフキフ　山が高く險しいさま。轉じて、意氣のさかんな喩。〔歐陽脩、別後奉ニ寄聖兪二十五兄一詩〕誰云已老矣、意氣何嶪岌。

【嶪嶪】3 ゲフゲフ　山の高くけはしいさま。〔何晏、景福殿賦〕峩峩嶪嶪、罔レ識レ所レ屆。〔注〕向曰、峩峩・嶪嶪、高貌。〔韓愈、魏博節度觀察使沂國公先廟碑銘〕嶪嶪魏土。

【嶫】8507

ゲフ　嶪(**4－8506**)に同じ。〔集韻〕嶪、或書作レ嶫。

【嶖】8508

クワイ ケ　〔集韻〕古外切　〘泰〙

山のさま。又、ゆるやかに連なるさま。一說に、**深く平かなさま**。嶖⿰山兌。〔集韻〕嶖、⿰山兌嶖、山皃。〔馬融、長笛賦〕嶰壑嶖⿰山兌、⿰山舀窞巖覆。〔注〕良曰、嶰壑嶖⿰山兌、寬大而相連貌、善曰、嶰壑嶖⿰山兌、深平貌。

【⿰山窋】8509

コツ コチ　〔集韻〕苦骨切　〘月〙

❶**山のさま。又、はげ山**。⿰山窋屼。〔集韻〕⿰山窋、⿰山窋屼、山皃、一曰、童山。❷或は⿰山出(**4－7998**)・崫(**4－8186**)・⿰石窋(**8－24514**)に作る。〔集韻〕⿰山窋、或作ニ⿰山出・崫一、亦从レ石。

【嶬】8510

[一]ギ 〔集韻〕魚羈切 支
[二]ギ 〔集韻〕語綺切 紙

[一]❶**山名**。〔玉篇〕嶬、山名。❷**高くけはしいさま**。崎嶬。〔王延壽、魯靈光殿賦〕上崎嶬而重注。〔注〕向曰、謂ニ高峻而重簷、雨水注溜一也。❸**けはしい**。㕒(2-3037)に同じ。〔集韻〕㕒、山峯巉巖曰ニ厓㕒一、或作レ嶬。[二]**山の高いさま**。或は⿱山義(4-8511)・隒(11-41864)に作る。〔集韻〕⿱山義、岌⿱山義、山高皃、或作レ隒、亦書作レ嶬。

【⿱山義】8511

ギ

嶬(4-8510)に同じ。〔康熙字典〕⿱山義、與レ嶬同。

【⿰山㚇】8512

ソウ

嵕(4-8286)の俗字。〔正字通〕⿰山㚇、俗嵕字。

【嶵】8513

[一]サイ ズイ 〔集韻〕粗賄切 賄
[二]サイ スイ 〔集韻〕祖猥切 賄
[三]サイ ズイ 〔集韻〕昨回切 灰
[四]スイ ズイ 〔集韻〕粗誄切 紙

[一]❶**山のさま**。⿱山辠(4-8516)に同じ。〔集韻〕⿱山辠、說文、山皃、或从レ罪。〔張衡、西京賦〕上林岑以壘嶵。❷**けはしい**。さがしい。〔類篇〕嶵、崔嵬也。〔沈烱、歸魂賦〕其山則嶔岑嶵嵬。[二]**山のさま**。隹(11-41937)に同じ。〔集韻〕隹、山皃、莊子、山林之畏隹、或作ニ摧・嶊一。[三]**大きく高い**。崔(4-8178)に同じ。〔集韻〕崔、說文、大高也、或作レ嶵。[四]**山のさま**。㠑嶵。〔集韻〕嶵、㠑嶵、山皃。

參考 [二]の場合、字形は嶊であるが、今姑くここに併存す。

【嶵巍】1 サイギ 山の高くけはしいさま。〔世說新語、言語〕孫云、其山嶵巍以嵯峨、其水泙渫而揚レ波、其人磊落而英多。

【嶵嵬】2 サイクワイ 山の高峻なさま。⿰山辠隗。嶵隗。〔抱朴子、微旨〕夫太元之山、難レ知易レ求、不レ天不レ地、不レ沈不レ浮、絶險緬邈、嶵嵬崎嶇、和氣絪緼、神意並遊、玉井泓邃。

【嶵隗】3 サイクワイ 嶵嵬に同じ。〔江總、貞女峽賦〕或邐迤而四成、乍嶵隗而五曲。

【⿰山剽】8514

ヘウ 〔集韻〕卑遙切 蕭

❶**みねのつき出たさま**。〔集韻〕⿰山剽、山峯出皃。❷或は⿰山票(4-8416)・磦(8-24446)に作る。〔集韻〕⿰山剽、或作ニ⿰山票・磦一。

【⿰山辠】8515

サイ ズイ 〔集韻〕粗賄切 賄

小篆 **山のさま**。嶵(4-8513)の本字。又、⿱山辠(4-8516)に作る。〔正字通〕⿰山辠、嶵本字、亦作レ⿱山辠。〔說文〕⿱山辠、崒⿱山辠也、从レ山辠聲。〔集韻〕⿱山辠、或从レ罪。

【⿰山辠隗】1 サイクワイ 山の高いさま。〔揚雄、甘泉賦〕駢交錯而曼衍兮、峻⿰山辠隗乎其相嬰。〔注〕善曰、⿰山辠隗、高貌。

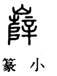
【⿱山辠】8516

サイ

⿰山辠(4-8515)に同じ。〔正字通〕⿰山辠、亦作レ⿱山辠。

【嶭】8517

[一]ガツ ガチ 〔集韻〕牙葛切 曷
[二]ゲツ ゲチ 〔集韻〕倪結切 屑



小篆 [一]❶**山のさま**。たかい。けはしい。巀嶭。或は⿰山辥(4-8612)に作る。〔正字通〕嶭、嶭字之譌。〔說文〕嶭、巀嶭、山也、从レ山辥聲。〔司馬相如、上林賦〕九峻巀嶭。❷或は⿰山薛(4-8623)に作る。〔集韻〕嶭、或作レ⿰山薛。❸峩(4-8072)に通ず。〔說文、嶭、段注〕嶭、按、語轉爲レ峩。❹**姓**。〔萬姓統譜〕嶭、見ニ姓苑一。[二]**山が高い**。嵲(4-8367)に同じ。〔集韻〕嵲、嵽嵲、山高、或作レ嶭。

名乘 タカ。

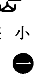
【⿱山鼓】8518

[一]コ ク 〔集韻〕果五切 麌
[二]コ ク 〔字彙〕古胡切 虞

[一][二]**山名**。〔集韻〕⿱山鼓、山名。

【⿰阝⿱差山】8519

タ 〔集韻〕吐火切 哿



小篆 ❶**山のさま**。隓(4-8486)に同じ。〔說文〕⿰阝⿱差山、山皃、从レ山隓聲。〔段注〕按、⿰阝⿱差山者、小篆文之𡐦也、隓从レ隓者、从ニ𡐦之省一也、是則⿰阝⿱差山・隓、蓋一字、不レ當レ爲レ二。❷**山の長いさま**。峻(4-8113)に同じ。〔集韻〕峻、山長皃、或作レ⿰阝⿱差山。

【嶮】8520

[一]ケン 〔集韻〕虚檢切 琰 ㄒㄧㄢˇ hsien³
[二]ゲン 〔集韻〕魚檢切 琰
[三]ゲン 〔集韻〕牛廉切 鹽

[一]**けはしい**。險(11-41874)に同じ。〔集韻〕險、說文、阻難也、或从レ山。〔列子、楊朱〕山川阻嶮、塗逕修遠。〔釋文〕嶮、與レ險同。[二]**高くけはしいさま**。〔集韻〕嶮、高峻皃。[三]**山のさま**。嵰嶮。〔集韻〕嶮、嵰嶮、山皃。

參考 今は、けはしい義に嶮を用ひ、あやふい義に險を用ひる。

【嶮阨】1 ケンアイ けはしくせまい。險阨。〔釋名、釋州國〕益州、益、阨也、所レ在之地嶮阨也。〔後漢書、陳蕃傳論〕驅ニ馳嶮阨之中一。

【嶮隘】2 ケンアイ けはしくせまい。險隘(11-41874・・1)に同じ。

【嶮惡】3 ケンアク 道がけはしくわるい。險惡(11-41874・・2)の❶に同じ。

【嶮要】4 ケンエウ けはしく要害な地。險要。〔晉書、姚興載記上〕將帥遭ニ大喪一、非レ在ニ疆場嶮要之所一、皆聽ニ奔赴一。

【嶮介】5 ケンカイ けはしく閉ぢふさがる。介は閉。〔郭璞、江賦〕所下以作ニ限于華裔一、壯中天地之嶮介上。〔注〕善曰、周易曰、天嶮不レ可レ升、地嶮山川丘陵、郭璞爾雅注曰、介、閡也。

【嶮巇】6 ケンキ 危くけはしい。山などがかたむいてけはしいさま。險戲。〔劉峻、廣絶交論〕嗚呼、世路嶮巇、一至ニ於此一、太行孟門、豈云ニ嶄絶一。〔注〕善曰、楚詞曰、何周道之平易兮、然蕪然而嶮巇、王逸曰、嶮巇、猶ニ顚危一也、良曰、嶮巇、薄也。〔嵇康、琴賦〕丹崖嶮巇、青壁萬尋。〔注〕良曰、嶮巇、傾側貌也。〔秦韜玉、釣翁詩〕世上無レ窮嶮巇事、算應レ難下入ニ釣船一來上。

【嶮峽】7 ケンケフ けはしいたにあひ。險峽。〔楊維楨、題ニ錢選畫長江萬里圖一詩〕洪源發レ從ニ瞿塘口一、嶮峽中擘孕ニ黃牛一。

【嶮固】8 ケンコ 險固(11-41874・・32)に同じ。

【嶮塞】9 ケンサイ けはしいとりで。險塞。〔漢書、蒯通傳〕銳氣挫ニ於嶮塞一。〔新書、過秦下〕修ニ津關一、據ニ嶮塞一。

【嶮澁】10 ケンジフ けはしく難澁なこと。〔潘尼、迎ニ大駕一詩〕世故尚未レ夷、崤函方嶮澁。

【嶮峻】11 ケンシュン 險峻(11-41874・・48)に同じ。

【嶮岨】12 ケンソ けはしいこと。嶮峻。險艱。嶮難。險阻。〔新書、過秦下〕困ニ於嶮岨一、而不レ能レ進者、豈勇力知慧不レ足哉。

【嶮地】13 ケンチ 險地(11-41874・・62)に同じ。

【嶮難】14 ケンナン けはしいこと。嶮岨。險難。〔陸機、苦寒行〕北遊二幽朔城一、涼野多二嶮難一。

【嶮陂】15 ケンパ けはしいさま。〔左思、呉都賦〕徒以江湖嶮陂、物産殷充。

【嶮暴】16 ケンバウ けはしくあらあらしい。〔北史、傅堅眼傳〕子敬紹、嶮暴不仁、聚レ貨耽レ色、甚爲二人害一。

【嶮薄】17 ケンパク 心けはしく德のうすいこと。憸薄。〔蘇轍、乞三誅二竄呂惠卿一狀〕其私行嶮薄、非二人所レ爲。

【嶮浪】18 ケンラウ 危險な大波。〔源平盛衰記、十、賴豪祈二出王子一事〕茫茫たる苦海の嶮浪に、乘二木刃一而到二彼岸一。

【嶮路】19 ケンロ 險路(**11**－**41874**‥87)に同じ。

【嶭】8521 ハイ ハ 〔集韻〕卜卦切 卦

❶**山の形**。阸嶭。〔玉篇〕嶭、阸嶭、山形。❷**たに**。**又、谷あひの田**。〔集韻〕嶭、山谷阸也、一曰、蜀中謂二山谷閒田一曰レ嶭。❸**碁の手法の一**。そうて切ること。〔圍棋義例、詮釋〕嶭、截也、謂下以二我子一截二住彼之頭一、緒次著斷上也、使二之急一、曰レ嶭。

【⿱山敫】8522 〘一〙ケウ ゲウ 〔集韻〕倪弔切 嘯 〘二〙ガウ ゲウ 〔集韻〕魚教切 效

〘一〙**山のさま**。嶤(**4**－**8492**)に同じ。〔集韻〕嶤、山皃、或从レ敫。〘二〙**山の高いさま**。〔集韻〕⿱山敫、山高皃。

【嶀】8523 ウン 〔集韻〕王問切 問

山名。大嶀。或は⿱山軍(**4**－**8247**)に作る。〔集韻〕嶀、大嶀、山名、或省。

【嵮】8524 シ 〔集韻〕支義切 寘

山名。〔集韻〕嵮、山名。

【嶯】8525 〘一〙シフ 〔集韻〕側立切 緝 〘二〙サフ セフ 〔集韻〕側洽切 洽

〘一〙〘二〙**山名**。〔集韻〕嶯、山名、在レ越。

【嶰】8526 〘一〙カイ ゲ 〔集韻〕下買切 蟹 ㄒㄧㄝˋ hsieh^4 〘二〙カイ ケ 〔集韻〕居隘切 卦

〘一〙❶**たに**。たにあひ。〔廣雅、釋山〕嶰、谷也。〔集韻〕嶰、山澗。〔後漢書、馬融傳〕底二幽嶰一。〔注〕嶰、謂二山澗一也。❷**谷の名**。嶰谷(5)の❶を見よ。❸**はなれた山**。〔玉篇〕嶰、山不二相連一也。❹**大山から分れた小山**。解(**10**－**35067**)に通ず。〔爾雅、釋山、小山別二大山一鮮、釋文〕鮮、或作二嶰字一。〔義疏〕古本、鮮、當レ作レ解、後人加レ山、鮮・解、古得二通借一。〘二〙**山名**。〔集韻〕嶰、山名。

【嶰筠】1 カイヰン 清、鄧廷楨(**11**－**39630**‥182)の字。

【嶰壑】2 カイガク 深く平かなさま。ゆるやかに相連なるさま。〔馬融、長笛賦〕嶰壑⿰山會峴、峪窞巖窾。〔注〕善曰、爾雅曰、小山別二大山一曰レ嶰、⿰山會峴嶰壑、深平之貌、良曰、嶰壑⿰山會峴、寬大而相連皃。

【嶰澗】3 カイカン 谷あひ。〔左思、呉都賦〕嶰澗闃、岡岵童。〔注〕翰曰、嶰、山閒、善曰、山夾レ水曰レ澗。

【嶰谿】4 カイケイ 嶰谷の❶に同じ。〔呂覽、古樂〕昔黃帝令三伶倫作二爲律一、伶倫自二大夏之西一、乃之二阮隃之陰一、取二竹於嶰谿之谷一。

【嶰谷】5 カイコク ❶崑崙の北の谷。黃帝の時、伶倫が其の竹を取って音律を定めた。嶰谿。解谷(**10**－**35067**‥98)を見よ。〔說苑、脩文〕取二竹於嶰谷一。〔風俗通、聲音〕昔皇帝使下伶倫自二大夏之西、崑崙之陰一、取中竹於嶰谷上。〔左思、呉都賦〕梢雲無二以踰一、嶰谷弗レ能レ連。〔注〕劉曰、嶰谷、崑崙北谷也、黃帝詔二伶倫一爲二音律一、伶倫乃之二崑崙陰一、取二嶰谷之竹一、斬二其厚均者一而吹レ之、以爲二黃鐘之管一、良曰、嶰谷、山名、生二美竹一。〔王融、三月三日曲水詩序〕追二伶倫於嶰谷一。〔孟郊、投レ所レ知詩〕一說變嶰谷。❷字號。㋑清、馬曰琯(**12**－**44572**‥700)の號。㋺岸鳳質の號。岸嶰谷(**4**－**8009**‥35)を見よ。

【嶰竹】6 カイチク 嶰谷に產する竹。嶰谷を見よ。〔孟郊、投レ所レ知詩〕一說淸嶰竹、一說變嶰谷。

【⿰山鬼】8527 ヰ 嵬(**4**－**8355**)に同じ。〔集韻〕嵬、或作レ⿰山鬼。

【⿰山萬】8528 レイ ⿰山蠆(**4**－**8643**)に同じ。〔集韻〕⿰山蠆、或从レ厲、亦省。

【崛】8529 クツ 堀(**3**－**5205**)の本字。〔正字通〕崛、堀本字。

【嶱】8530 カツ カチ 〔集韻〕丘葛切 曷

山の石が高くけはしいさま。或は嵑(**4**－**8291**)に作る。〔集韻〕嶱、山皃、或作レ嵑。〔正字通〕嶱、山石高峻貌。〔張衡、南都賦〕其山則崆峴嶱嵑、嵣崉嶚剌。〔注〕善曰、崆峴・嶱嵑、山石高俊之貌。

【⿱山賁】8531 フン 墳(**3**－**5488**)に同じ。〔字彙補〕⿱山賁、與レ墳同。

【嶲】8532 スイ 〔集韻〕選委切 紙 ㄙㄨㄟˇ suei^3

❶**州名**。嶲州を見よ。❷**郡名**。巂(**11**－**42125**)に同じ。〔集韻〕巂、越巂、郡名、或作レ嶲。

〘參考〙 字形、正しくは巂(**11**－**42071**)に作る。

【嶲州】1 スイシウ 州名。隋、置く。南朝梁の越嶲郡。故治は四川省西昌縣。〔讀史方輿紀要、四川〕四川行都指揮使司、禹貢梁州之域、後爲二西南彝所一レ據、漢初邛都國地、元鼎六年置二越嶲郡一、後漢因レ之、晉仍曰二越嶲郡一、宋仍レ舊、齊爲二越嶲獠郡一、後周置二西寧州一、尋曰二嚴州一、隋開皇六年復爲二西寧州一、十八年又改爲二嶲州一、大業初曰二越嶲郡一、唐武德初復曰二嶲州一、天寶初亦曰二越嶲郡一、乾元初復爲二嶲州一、咸通三年爲二蒙詔所一レ據、改爲二建昌府一、宋時羈二屬於大理一。

【嶲唐】2 スイタウ 縣名。漢、置く。故治は雲南省龍縣の南。〔後漢書、郡國志五〕永昌郡、嶲唐。〔讀史方輿紀要、雲南、大理府、雲龍州〕嶲唐廢縣、在二州南一、漢縣屬二益州郡一、後漢屬二永昌郡一、古今注、永平十年、置二益州西部都尉一、治二嶲唐鎭一、慰二哀牢楪榆蠻夷一、是也。

【嶲崑明】3 スイコンメイ 二國の名。嶲は今の四川省寧遠府、昆明は今の四川省鹽源縣。〔史記、西南夷傳〕其外西自二同師一以東、北至二楪榆一、名爲二嶲崑明一。

【⿰山當】8533 サウ シヤウ 〔字彙補〕充爭切 庚

山の奇怪なさま。〔揚雄、蜀都賦〕堪⿰山當隱倚。〔注〕堪、卽嵁字、與レ嵌同、⿰山當、音撐、皆衆山奇怪之形。

【嶳】8534 チ 地(**3**－**4890**)の古字。〔字彙補〕嶳、古文地字。

【⿸广嵺】8535 〘一〙カウ ケウ 〔集韻〕丘交切 肴 〘二〙レウ 〔集韻〕憐蕭切 蕭

〘一〙**山谷の深く廣いさま**。〔集韻〕⿸广嵺、山谷深廣皃。〘二〙**むなしい**。**うつろ**。廫(**4**－**9525**)に同じ。〔集韻〕廫、說文、空虛也、或作レ⿸广嵺。

【⿱山欿】 8536　音未詳　⿱山欿宗は、尊い。〔字彙補〕⿱山欿、音未詳。〔逸周書、王會解〕天玄⿱山欿宗馬十二。〔注〕⿱山欿宗、尊也。

【⿱山⿱金山】 8537　ト　嵞(**4**-**8321**)に同じ。〔字彙補〕⿱山⿱金山、同㆑嵞。

【⿱山碓】 8538　スイ　〔字彙補〕子累切　寘　**山の高いさま。**〔字彙補〕⿱山碓、山高貌。

【嵳】 8539　サ　嵯(**4**-**8363**)に同じ。〔篇海類編〕嵳、同㆑嵯。

【⿱山齒】 8540　シ　齒(**12**-**48583**)に同じ。〔龍龕手鑑〕⿱山齒、同㆑齒。

【⿰⿱山木⿱山木】 8541　音義未詳　〔搜眞玉鏡〕⿰⿱山木⿱山木、音袨、亦作㆑支。

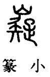
【嶴】 8542　アウ　地名。奧(**3**-**5985**)に同じ。〔淸一統志〕浙江溫州府章嶴寨、在㆓樂清縣西章嶴山旁㆒。〔讀史方輿紀要、浙江、溫州府、樂清縣〕章奧寨、在㆓縣西章奧山旁㆒。

十四畫

【⿰山奧】 8543　アウ　地名。嶴(**4**-**8542**)に同じ。

【⿰山蒙】 8544　ボウ　ム　〔集韻〕謨蓬切　東　**山名。**〔集韻〕⿰山蒙、山名。

【嶷】 8545
［一］ギ　〔集韻〕魚其切　ㄧˊ i²　支
［二］ギョク　ゴク　〔集韻〕鄂力切　ㄋㄧˋ ni⁴　職


小篆

［一］❶**山名。**九嶷。虞舜の陵が在ると傳へられる。湖南省寧遠縣の南。〔說文〕嶷、九嶷山也、舜所㆑葬、在㆓零陵營道㆒、从㆑山疑聲。〔漢書、武帝紀〕祀㆓虞舜於九嶷㆒。❷疑(**7**-**22007**)に通ず。〔正字通〕嶷、楚辭・史記五帝紀作㆓九疑㆒、說文山部作㆓九嶷㆒。［二］❶**山のさま。**〔海篇玉鏡〕嶷、山貌也。❷**高い。**〔史記、五帝紀〕其德嶷嶷。〔注〕索隱曰、嶷嶷、德高也。〔杜甫、太清宮賦〕洞官儼以嶷岌。❸**高く茂るさま。**〔詩、大雅、生民〕克岐克嶷。〔集傳〕岐嶷、峻茂之狀。❹**しる。**小兒が智慧づく。⿰口疑(**2**-**4469**)に同じ。〔集韻〕⿰口疑、說文、小兒有㆑知也、或从㆑山。〔詩、大雅、生民〕克岐克嶷。〔箋〕嶷、識也。

名乘　サト

【嶷岌】1 ギヨクキフ　高いさま。岌嶷。〔杜甫、太清宮賦〕地軸傾而融曳、洞宮儼以嶷岌。

【嶷嶷】2 ギヨクギヨク　❶小兒の智慧の優れたさま。〔詩、大雅、生民〕克岐克嶷、〔箋〕其貌嶷嶷然、有㆑所㆓識別㆒也。〔韓愈、原性〕其始匍匐也、則岐岐然嶷嶷然。❷德の高いさま。〔史記、五帝紀〕其色郁郁、其德嶷嶷。〔注〕索隱曰、嶷嶷、德高也。

【嶷山】3 ギヨクザン　淸、柏立本(**6**-**14617**‥93)の字。

【嶷叔】4 ギヨクシユク　淸、趙進美(**10**-**37171**‥705)の字。

【嶷然】5 ギヨクゼン　高くぬきんでたさま。〔晉書、江統傳〕時人爲㆑之語曰、嶷然稀言江應元。〔北史、崔瞻傳〕神彩嶷然、言不㆓妄發㆒。〔杜甫、贈㆓左僕射鄭國公嚴公武㆒詩〕嶷然大賢後、復見秀骨淸。

【嶷立】6 ギヨクリツ　高くぬきんで立つ。疑立(**7**-**22007**‥89)に同じ。〔日本外史、新田氏前記、楠氏〕顧㆔望金剛山嶷㆓立雲際㆒。

【⿰山豪】 8546　カウ　崤(**4**-**8206**)に同じ。〔集韻〕⿰山豪、山名、在㆓弘農㆒、或作㆑崤。

【⿱岸言】 8547　ガン　〔集韻〕俄干切　寒　❶**山の高いさま。**〔集韻〕⿱岸言、山高皃。❷或は譀(**10**-**35785**)に作る。〔集韻〕⿱岸言、或書作㆑譀。❸**姓。**〔集韻〕⿱岸言、亦姓。

【嶸】 8548
［一］クヮウ　ワウ　〔集韻〕乎萠切　ㄖㄨㄥˊ jung²　庚
［二］エイ　ヤウ　〔集韻〕于平切　庚

小篆

［一］［二］❶**けはしい。**さがしい。〔說文〕嶸、崝嶸也、从㆑山榮聲。〔班固、西都賦〕金石崢嶸。〔注〕善曰、郭璞方言注曰、崢嶸、高峻貌。❷或は巆(**4**-**8613**)・嵤(**4**-**8337**)・峵(**4**-**8107**)・⿰山厷(**4**-**7906**)に作る。〔集韻〕嶸、或作㆓巆・嵤・峵・⿰山厷㆒。

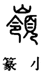
【嶹】 8549　タウ　嶋(**4**-**8434**)に同じ。〔集韻〕島、亦作㆑嶹、亦書作㆑嶋。

【⿰山蒿】 8550　カウ　コウ　〔集韻〕呼高切　豪　**山名。**〔集韻〕⿰山蒿、山名。

【⿱山碏】 8551　サク　ジヤク　〔字彙〕士革切　陌　**山名。**〔字彙〕⿱山碏、山名。

【⿰山廖】 8552　レウ　嵺(**4**-**8384**)に同じ。〔正字通〕⿰山廖、同㆑嵺。

【嶺】 8553　レイ　リヤウ　〔集韻〕里郢切　ㄌㄧㄥˇ ling³　梗


小篆

❶**みね。**〔正字通〕嶺、山之肩領可㆑通㆓道路㆒者。❷**やまみち。**〔說文新附〕嶺、山道也、从㆑山領聲。❸**さか。**〔廣雅、釋丘〕嶺、阪也。❹**やまなみ。**連山。山脈。〔漢書、西域傳〕限以㆓蔥嶺㆒。❺**五嶺**(**1**-**257**‥1110)**の略稱。**〔裴潛、廣州記〕太庾・始安・臨賀・桂陽・揭陽、爲㆓五嶺㆒。〔史記、南越尉佗傳〕兵不㆑能㆑踰㆑嶺。〔李百藥、鸚鵡賦〕既踰㆑嶺以自致、亦淩㆑江而遠翔。❻或は阾(**11**-**41597**)に作る。〔集韻〕嶺、或从㆑阜。❼領(**12**-**43423**)に通ず。〔韻會小補〕嶺、通作㆑領、漢書嚴助傳、輿轎而越㆑領。

【嶺阨】1 レイアイ　山嶺のけはしく狹い所。〔史記、商君傳〕魏居㆓嶺阨之西㆒、都㆓安邑㆒。

【嶺陰】2 レイイン　峰の北。又、桂陽北嶺の北。〔戴叔倫、桂陽北嶺偶過㆓野人所㆑居云云詩〕嶺陰無㆓瘴癘㆒、地隙有㆓蘭蓀㆒。

【嶺雲】3 レイウン　峰にかかるくも。たかねの雲。〔陳子良、讚㆓德上越國公楊素㆒詩〕嶺雲朝合㆑陣、山月夜臨㆑營。〔柳宗元、奉㆔和周二十二丈酬㆓郴州侍郎衡江夜泊㆒云云詩〕凝㆑情江月落、屬㆑思嶺雲飛。〔李商隱、思㆑歸詩〕嶺雲春沮洳、江月夜晴明。

【嶺越】4 レイエツ　地名。今の廣東・浙江兩省の地方。〔唐書、馮盎傳〕隋季崩蕩、海內震騷、唐雖㆑應㆑運、而風教未㆑孚、嶺越所㆓係屬㆒、公克平㆓二十州㆒、地數千里、名位未㆑正、請㆑上㆓南越王號㆒。

【嶺煙】5 レイエン　峰のけむり。〔鄭義眞、奉㆔和聖製過㆓溫湯㆒詩〕嶺煙遙聚㆑草、山月迥臨㆑鞍。

【嶺猨】6 レイエン　峰に棲む猿。嶺猿。〔孟浩然、宿㆓武陽㆒卽事詩〕嶺猨相叫嘯、潭影似㆓空虛㆒。〔杜甫、夜詩〕嶺猨霜外宿、江鳥夜深飛。〔劉長卿、新年

作詩〕嶺猨同二旦暮一、江柳共二風煙一。

【嶺下】7 レイカ 山のふもと。〔徐陵、東陽雙林寺傅大士碑〕乃於二山根嶺下一、創二造伽藍一。

【嶺海】8 レイカイ 地名。廣東・廣西兩廣の地方。五嶺の南にあつて海に近い地。〔唐書、李靖傳〕以二嶺海陋遠一、久不レ見レ德、非三震威示二禮義一、則無三以變二風俗一。〔韓愈、潮州刺史謝上表〕雖レ在二萬里之外、嶺海之陬一、待レ之一如二畿甸之間一。〔劉長卿、送二獨判官赴レ嶺詩〕嶺海看二飛鳥一、天涯問二遠人一。

【嶺海輿圖】9 レイカイヨヅ 書名。一卷。明、姚虞撰。十二圖あり、廣東全圖・十府十圖・南夷圖を輯載したもの。〔四庫提要、史、地理類〕。

【嶺崿】10 レイガク 高くけはしい峰。〔馬祖常、都門百韻詩〕碣石入二渤澥一、太行分二嶺崿一。

【嶺岸】11 レイガン 峰のきりたつてゐる所。〔鮑照、望水詩〕岧岧嶺岸高、照照寒洲爽。

【嶺鴈】12 レイガン 五嶺の南に棲むかり。〔韓琮、春愁詩〕吳魚嶺鴈無二消息一、水誓蘭情別來久。

【嶺氣】13 レイキ 山間のもやなど。山氣。〔唐宣宗、幸二華嚴寺一詩〕林光入レ戶低二韶景一、嶺氣通レ宵展二霽風一。

【嶺花】14 レイクワ 峰のはな。〔韓琮、駱谷晚望詩〕公子王孫莫二來好一、嶺花多是斷腸枝。

【嶺外】15 レイグワイ 五嶺の外。今の廣東・廣西兩廣の地。〔後漢書、南蠻傳〕由レ是嶺外復平。〔晉書、溫嶠傳〕宜レ見二優異一、而投二之嶺外一。〔高適、送下柴司戶充二劉卿判官一之中嶺外上詩〕嶺外資二雄鎭一、朝端寵二節旄一。

〔嶺外代答〕16 レイグワイダイタフ 書名。十卷。宋、周去非撰。去非が嶺外から歸るや、其の風土・物產を問ふ者のために、此の書を著して答に代ふ。大旨は范成大の桂海虞衡志に本づいて、更に見聞する所を增す。其の邊帥・法制・財計の諸門は正史の不備を補ふに足る。〔四庫提要、史、地理類〕。

【嶺廣】17 レイクワウ 地名。廣東・廣西兩廣の地方。〔元史、郝經傳〕兩淮之兵盡集二白鷺一、江西之兵盡集二隆興一、嶺廣之兵盡集二長沙一。

【嶺鼷】18 レイケイ 峰にすむはつかねずみ。〔李商隱、登二霍山驛樓一詩〕嶺鼷嵐色外、陂雁夕陽中。

【嶺嶠】19 レイケウ 五嶺をいふ。〔徐陵、陳公九錫文〕長驅二嶺嶠一、夢想二京畿一。〔唐書、太平公主傳〕吳蜀嶺嶠、市作器用。

【嶺徼】20 レイケウ 五嶺に造られた蠻夷との國境のとりで。徼は邊塞。〔唐書、天文志一〕自二江源一循二嶺徼一、南東及レ海爲二蠻越一。〔白居易、東南行一百韻云云詩〕嶺徼雲成レ棧、江郊水當レ郛。

【嶺月】21 レイゲツ 山上の月。峰の月。〔宋史、張愈傳〕麋鹿同レ羣、晝遊夜息、嶺月破レ雲、秋霖灑レ竹、淸意何窮。〔王貞白、庾樓曉望詩〕竹霧曉籠銜二嶺月一、蘋風暖送過二江春一。

【嶺湖】22 レイコ 山上のみづうみ。〔翁承贊、題二故居一詩〕惟有二嶺湖一居二第五一、山前卻是宰臣家。

【嶺堠】23 レイコウ 山上のものみ。堠は敵の動靜をうかがふために設けた土堡。〔許棠、寄二建州姚員外一詩〕嶺堠蠻雲積、閩空瘴雨垂。

【嶺左】24 レイサ 五嶺の東。〔晉書、呂光載記〕諸將咸曰、今康寧在レ南、阻レ兵伺レ隙、若大駕西行、寧必乘レ虛出二于嶺左一。

【嶺寺】25 レイジ 山上の寺。〔朱慶餘、贈二韓協律一詩〕嶺寺聽レ猿頻獨宿、湖亭避レ宴動經レ年。

【嶺岫】26 レイシウ 峰のほらあな。〔呂巖說、靈芧賦〕或結二根於江漢之澳一、或蓄二苗於嶺岫之中一。

【嶺日】27 レイジツ 山上の日。峰にかかつた太陽。〔唐太宗、望二終南山一詩〕出レ紅扶二嶺日一、入レ翠貯二巖煙一。〔項斯、寄二盧式一詩〕嶺日當二秋暗一、蠻花近二臘開一。

【嶺嶂】28 レイシヤウ 高くけはしいみね。嶺岑。〔宋之問、自二衡陽一至二韶州一謁二能禪師一詩〕嶺嶂窮二攀越一、風濤極二沿濟一。

【嶺上】29 レイジヤウ ❶峰の上。〔徐陵、玉臺新詠序〕亦有三嶺上仙童、分二丸魏帝一。〔沈佺期、從二幸香山寺一詩〕嶺上樓臺千地起、城中鐘鼓四天聞。〔王昌齡、送三高三之二桂林一詩〕嶺上梅花侵レ雪暗、歸時還拂桂花香。〔白居易、嶺上雲詩〕嶺上白雲朝未レ散、田中青麥早將レ枯。❷五嶺の上。〔韓愈、送二廖道士一序〕嶺郴之爲レ州、在二嶺之上一。

【嶺樹】30 レイジユ 山頂に生えた木。〔張九齡、耒陽溪夜行詩〕月明看二嶺樹一、風靜聽二溪流一。〔李白、登二新平樓一詩〕秦雲起二嶺樹一、胡雁飛二沙洲一。〔柳宗元、登二柳州城樓一寄二漳汀封連四州一詩〕嶺樹重遮二千里目一、江流曲似二九廻腸一。

【嶺色】31 レイシヨク 峰のいろ。〔王昌齡、聽二流人水調子一詩〕嶺色千重萬重雨、斷絃收與二淚痕一深。

【嶺岑】32 レイシン みね。たかね。〔蘇軾、雷州詩〕下居近二流水一、小巢依二嶺岑一。

【嶺脊】33 レイセキ 峰のせ。山の頂上。〔吳萊、東嶺秋陰詩〕小徑殘榛分二嶺脊一、平疇淨綠帶二溪毛一。

【嶺雪】34 レイセツ 峰の雪。〔姚鵠、送二程秀才下第歸レ蜀詩〕曉程侵二嶺雪一、遠棧入二谿雲一。

【嶺泉】35 レイセン 峰から出る泉。〔劉禹錫、傷二秦姝一行〕秦聲一曲此時聞、嶺泉嗚咽南雲斷。

【嶺屬】36 レイゾク 峰のやうにつづく。〔馬融、長笛賦〕崇運蔓穸洝、岡連嶺屬。〔王延壽、魯靈光殿賦〕墉岡連以嶺屬、朱闕巖巖而雙立。

【嶺道】37 レイダウ 峰のみち。嶺路。〔劉長卿、奉二陪蕭使君一入二鮑達洞一尋二靈山寺一詩〕入レ雲開二嶺道一、永日尋二泉脈一。

【嶺丹】38 レイタン 峰の色が赤い。〔鮑照、河淸頌〕艶艶嶺丹、渾渾泉黑。

【嶺頂】39 レイチヤウ 山のいただき。〔方干、登三龍瑞一觀二北巖一詩〕湖邊風力歸帆上、嶺頂雲根在二雪中一。

【嶺中】40 レイチユウ 峰のなか。〔韓愈、祭二河南張員外一文〕余出二嶺中一、君竢二州下一、偕掾二江陵一、非二余望者一。

【嶺重】41 レイチヨウ 峰が重なりあふ。〔皎然、送三沈秀才之二閩中一詩〕嶺重寒不レ到、海近瘴偏多。

【嶺東】42 レイトウ 營の名。河南省江華縣の南方、馮水の東岸。淸代、守備把總が駐在した處。

【嶺頭】43 レイトウ 峰の頂上。〔沈佺期、遙同二杜員外審言過レ嶺詩〕天長地闊嶺頭分、去レ國離レ家見二白雲一。〔杜甫、南楚詩〕無レ名江上草、隨レ意嶺頭雲。〔李益、楊州送レ客詩〕聞道望鄕聞不レ得、梅花暗落嶺頭雲。〔李紳、逾二嶺嶠一止二荒陬一抵二高要一詩〕嶺頭刺竹蒙籠密、火折紅蕉焰燒日。〔王建、送三嚴大夫赴二桂州一詩〕嶺頭分界候、一半屬二湘潭一。

【嶺竇】44 レイトク 峰と谷。山水をいふ。〔圖繪寶鑑、三〕僧巨然鍾陵人、善畫二山水一、筆墨秀潤、善爲二煙嵐氣象於峯巒嶺竇之外一。

【嶺南】45 レイナン ❶五嶺の南の地。廣東・廣西兩廣の地。嶺表。〔史記、貨殖傳〕山東食二海鹽一、山西食二鹽鹵一、嶺南沙北、固往往出レ鹽、大體如レ此矣。〔晉書、吳隱之傳〕朝廷欲レ革二嶺南之弊一。〔徐陵、梁禪レ陳策文〕薄二伐獫狁一、六戎盡殪、嶺南叛渙、湘郢結連。❷道の名。㋑唐、貞觀の初、置く。五嶺の南に在るからいふ。東南は海を界とし、西は羣蠻を極め、北は五嶺に據る。廣・韶・循・潮・連・端・康・巒・恩・春・勤・新・封・潘・高・辨・羅・竇・瀧・雷・廉・欽・陸・瓊・振・崖・儋・桂・昭・富・賀・蒙・梧・藤・義・鬱林・萬安・容・白・田・牢・黨・禺・襲・潯・貴・繡・橫・邕・賓・澄・象・柳・融・芝・籠・環・瀼・巖・古・交・武峨・愛・長・驩・峯・思唐・宜・嚴・順・福祿・演・湯等の州、及び安南都護府を統べたが、後、分つて嶺南の東西二道とした。今の廣東・廣西、及び安南の地。治は今の廣東省治。〔唐書、地理志一〕太宗元年、因二山川形便一、分二天下一爲二十道一、一曰關內、二曰河南、三曰河東、四曰河北、五曰山南、六曰隴右、七曰淮南、八曰江南、九曰劍南、十曰嶺南。〔讀史方輿紀要、歷代州域形勢、五、唐上〕文軌混同、分二天下一爲二十道一、云云、東南際レ海、西極二羣蠻一、北據二五嶺一、曰二嶺南道一。㋺民國の初、置き、廣東省に屬す。曲江・南雄・始興・樂昌・仁化・乳源・英德・翁源・連・陽山・連山の十一縣を管轄す。今、廢す。❸木村貞貫の號。木村蓬萊（**6**－**14415**‥582）を見よ。

〔嶺南遺書〕46 レイナンヰシヨ 叢書の名。淸、伍崇曜編。嶺南諸學者の遺書を輯めたもの。凡て六集に分つ。其の目は、《第一集》第一—四冊、雙槐歲鈔十卷（明、黃瑜）。第五—八冊、廣州人物傳二十四卷（明、黃佐）。第九—十二冊、翰林記二十卷（明、黃佐）。第十三冊、革除遺事節本六卷（明、黃佐）。第十四—十六冊、春秋別典十五卷（明、薛虞畿）。第十七冊、百越先賢志四卷（明、歐大任）。《第二集》第十八冊、劉希仁文集一卷（唐、劉軻）、理學簡言一卷（宋、區士衡）、平南交南錄一卷（明、邱濬）、白沙語要一卷（明、陳獻章）。第十九・二十冊、甘泉新論一卷（明、湛若水）、元祐黨籍碑考一卷（明、海瑞）、疑耀七卷（明、張萱）。第二十一冊、海語三卷（明、黃衷）。

第二十二冊、郭給諫疏稿二卷(明、郭尙賓)。第二十三―三十一冊、算迪八卷(清、何夢瑤)。第三十二冊、春秋詩話五卷(清、勞孝輿)。《第三集》第三十三冊、崔淸獻公集五卷附一卷(宋、崔與之)、崔淸獻公言行錄二卷(宋、李肖龍)。第三十四冊、羅浮志十卷(明、陳槤)。第三十五冊、小學古訓一卷(明、黃佐)、龐氏家訓一卷(明、龐尙鵬)。第三十六―四十一冊、昭代經濟言十四卷(明、陳子壯)。第四十二・四十三冊、周易爻物當名二卷(明、黎遂球)。第四十四―四十六冊、正學續四卷(清、陳遇夫)。第四十七冊、史見二卷(清、除遇夫)、迂言百則一卷(清、陳遇夫)。《第四集》第四十八―五十二冊、周易本義注六卷(清、胡方)。第五十三・五十四冊、賡和錄二卷(清、何夢瑤)。第五十五冊、救荒備覽四卷附一卷(清、勞潼)。第五十六―五十八冊、周易略解八卷(清、馮經)。第五十九冊、羣經互解一卷(清、馮經)、算略一卷(清、馮經)、周髀算經述一卷(清、馮經)、粤臺徵雅錄一卷(清、羅元煥)。第六十・六十一冊、重訂三家詩拾遺十卷(清、范家相)。《第五集》第六十二冊、楊議郞著書一卷(漢、楊孚)、異物志二卷(漢、楊孚)、交州記一卷(晉、劉欣期)、始興記一卷(宋、王韶之)。第六十三冊、潛虛述義四卷(宋、司馬光)。第六十四・六十五冊、五山志林八卷(清、羅天尺)。第六十六冊、測天約術一卷(清、陳昌齊)、呂氏春秋正語一卷(清、陳昌齊)、楚詞辨韻一卷(清、陳昌齊)。第六十七冊、袁督師事蹟一卷、嶺南荔支譜六卷(清、吳應逵)。第六十八冊、南漢紀五卷(清、吳蘭修)。第六十九冊、南漢地理志一卷(清、吳蘭修)、南漢金石志二卷(清、吳蘭修)。第七十・七十一冊、端溪硯史三卷(清、吳蘭修)、粤詩蒐逸四卷(清、黃子高)。第七十二冊、春秋古經說二卷(清、侯康)、穀梁禮證二卷(清、侯康)。第七十三冊、補後漢書藝文志四卷(清、侯康)。第七十四冊、補三國藝文志四卷(清、侯康)。《第六集》第七十五冊、毛詩通攷三十卷(清、林伯桐)。第七十六冊、毛詩識小三十卷(清、林伯桐)。第七十七―八十五冊、虞書命義和章解一卷(清、曾釗)、蠡勺編四十卷(清、凌揚操)。第八十六冊、紀夢編年一卷(清、釋成鷲)。

【嶺南三家】47 レイナンサンカ 清代の詩人、梁佩蘭・陳恭尹・屈大韵をいふ。何れも五嶺の南、廣東南海の人。

【嶺南風物紀】48 レイナンフウブツキ 書名。一卷。清、吳綺撰。宋俊、增補。嶺南の風物を叙し、文章簡雅達意、范成大の桂海虞衡志(**6**－**14755**··14)と相伯仲す。〔四庫提要、史、地理類〕。

【嶺背】49 レイハイ 峰のうしろ。〔梁元帝、庾先生承先墓誌銘〕風飈二嶺背一、月下二松西一。〔蘇軾、東坡詩〕自レ昔有二微泉一、來レ從二遠嶺背一。〔王庭珪、春日山行詩〕雨過泉聲鳴二嶺背一、日長花氣撲二人衣一。

【嶺梅】50 レイバイ 峰の梅花。大庾嶺の梅花は古來有名である。〔白孔六帖、梅〕南枝、大庾嶺上梅、南枝落、北枝開。〔李商隱、對レ雪詩〕梅花大庾嶺頭發。〔杜甫、秋日荆南述レ懷詩〕秋水漫二湘竹一、陰風過二嶺梅一。〔司空圖、雜題詩〕鷗和二湖鴈一下、雲隔二嶺梅一飄。

【嶺坂】51 レイハン みねのさか。又、みねやさか。〔鹽鐵論、輕重〕是猶下棄二江皐河濱一、而田中於嶺坂菹澤上也。〔庾信、終南山義谷銘〕乘二輿嶺坂一、擧二鍤雲根一。

【嶺腹】52 レイフク 峰の中腹。〔唐太宗、詠レ雨詩〕低飛昏二嶺腹一、斜足灑二巖阿一。

【嶺表】53 レイヘウ 五嶺の南の地。嶺南(45)の❶を見よ。〔晉書、滕修傳〕皓以下修宿有二威惠一、爲中嶺表所上レ伏、云云。〔宋書、良吏、陸徽傳〕搏二嶺表之清風一、負二冰宇之潔望一。〔嶺表錄異記〕嶺表、山川盤鬱、氣聚不レ易二疎洩一、故多二嵐霧一作レ瘴、人感レ之多病、臚脹成レ蠱、俗傳、有二晬百蟲一、爲レ晬以毒レ人、蓋溼熱之地、毒蟲生レ之、非二等嶺表之家性慘害一也。〔五代史、楚馬殷世家〕吾方南圖二嶺表一、而得二此人一足矣。

【嶺表錄異】54 レイヘウロクイ 書名。三卷。唐、劉恂撰。圖によつて粤東の物產風土を述べ、其の蟲魚草木の訓詁名義は最も精核である。兼ねて文字學の支流に屬し、小學に裨益する點が多い。此の書、諸書に引く所、嶺表錄・嶺表記・嶺表異錄・嶺表錄異記・嶺南錄異等の諸稱がある。〔四庫提要、史、地理類〕。

【嶺暮】55 レイボ 山上の夕暮。〔馬戴、寄二剡中友人一詩〕嶺暮雲霞雜、潮迴島嶼多。

【嶺北】56 レイホク ❶峰の北。〔杜牧、秋晩懷二茅山石涵村舍一詩〕雲暖採レ茶來二嶺北一、月明沽レ酒過二溪南一。❷五嶺の北。〔南方草木狀〕水松葉如レ檜而細長、出二南海一、土產衆香、而此木不二大香一、故彼人無二佩服者一、嶺北人極愛レ之。❸地名。元、嶺北行中書省を置き、皇慶の初、嶺北と改む。地が興安嶺以北に在るからいふ。後、廢す。今、外蒙古車臣汗・土謝圖汗・三音諾顏汗三部の地。〔元史、地理志一〕立二中書省一、行中書省十有一、曰嶺北、曰遼陽、曰河南、曰陝西、曰四川、曰甘肅、曰雲南、曰江浙、曰江西、曰湖廣、曰征東。

【嶺夜】57 レイヤ 山上の夜。〔項斯、送二歐陽袞閩中一詩〕海秋蠻樹黑、嶺夜瘴禽飛。

【嶺陸】58 レイリク 峰と陸。〔韓愈、南山詩〕行行將二遂窮一、嶺陸煩二互走一。

【嶺路】59 レイロ 峰にある路。峰に通ずる路。嶺道。〔張說、喜度嶺詩〕嶺路分二中夏一、川源得二上流一。〔陸遊、詩〕溪橋觀二趂渡一、嶺路數二歸樵一。

【⿱山頗】8554 ハ 〔集韻〕普火切 哿

山のさま。⿱山頗峩。〔集韻〕⿱山頗、⿱山頗峩、山皃。

【嶦】8555 ザン 巉(**4**－**8618**)の俗字。〔正字通〕嶦、俗巉字。

【嶻】8556 サツ 巀(**4**－**8581**)の俗字。〔正字通〕嶻、俗巀字。

【⿰山翟】8557 テキ 義未詳。〔字彙〕⿰山翟、杜歷切、音翟、見二廣弘明集一。

【⿰山對】8558 タイ ヅイ 〔集韻〕徒對切 隊

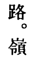
❶**山のさま。**或は對(**4**－**7457**)に作る。〔集韻〕⿰山對、山皃、或書作レ對。❷**高いさま。**そばだつ。そそりたつ。〔左思、魏都賦〕⿰山對若二崇山崫起而崔嵬一。〔注〕善曰、⿰山對、高貌也。

【⿱山對】8559 タイ ⿰山對(**4**－**8558**)に同じ。〔集韻〕⿰山對、或書作レ⿱山對。

【⿰山厭】8560 エフ 〔集韻〕益涉切 葉

山谷の形。〔集韻〕⿰山厭、山谷形。

【嶼】8561 ショ ジョ 〔集韻〕象呂切 語 ㄩˇ yü^{3}


小篆

❶**しま。**〔說文新附〕嶼、島也、从レ山與聲。〔廣韻〕嶼、海中洲也。〔集韻〕嶼、山在二水中一。〔郭璞、江賦〕石帆蒙蘢以蓋レ嶼。❷**をか。**小山。〔六書故〕嶼、平地小山也、在レ水爲レ島、在レ陸爲レ嶼。

【嶼城】1 ショジャウ 鎭の名。浙江省海鹽縣の西北。附近は農工商の諸業が盛である。

【嶼雪】2 ショセツ 清、丘園(**1**－**33**··8)の字。

【嶼渟】3 ショテイ 清、岳夢淵(**4**－**8001**··75)の字。

【⿱山與】8562 ショ 嶼(**4**－**8561**)に同じ。〔字海〕嶼、亦作レ⿱山與。

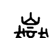
【⿱與山】8563 ショ 嶼(**4**－**8561**)に同じ。〔正字通〕嶼、一作レ⿱與山。

【嶙】8564 リン 嶙(**4**－**8477**)の本字。〔正字通〕嶙、嶙本字。

【嶿】8565 ワク　〔集韻〕屋虢切　陌。

陂の名。又、村の名。〔集韻〕嶿、陂名、一曰、村名、在二吳王舊城側一。

【嶽】8566 ガク　〔集韻〕逆角切　覺。ㄩせ yüeh⁴


小篆

古文

㊀**五嶽の總稱。**地方鎭護の山。〔說文〕嶽、東岱・南靃・西華・北恆・中大室、王者所二㠯巡狩所レ至、从レ山獄聲。〔白虎通、巡狩〕嶽之爲レ言、捔也、捔二功德一也。〔風俗通、山澤〕嶽者、捔レ功考レ德、黜二陟幽明一也。〔張衡、思玄賦〕二女感二於崇嶽一兮。〔注〕衡曰、嶽、五嶽也。㊁**四嶽の總稱。**〔詩、大雅、崧高〕崧高維嶽。〔傳〕嶽、四嶽也、東嶽岱、南嶽衡、西嶽華、北嶽恆。㊂**たけ。**高山。峻峰。〔北史、徐則傳〕栖二隱靈嶽一。㊃**吳嶽の稱。**古、中國を五地方に分割した時の河西地方、即ち禹貢の雍州の地の鎭護の山。〔爾雅、釋山〕河西、嶽。〔注〕嶽、吳嶽也。〔孫注〕嶽、雍州鎭、有二吳嶽山一。〔周禮、夏官、職方氏〕正西曰二雍州一、其山鎭曰二嶽山一。㊄**大臣。**諸侯で四時を掌り四嶽の諸侯を治める官。〔詩、大雅、崧高〕崧高維嶽。〔箋〕四嶽、卿士之官、掌二四時一者也、因主二方嶽巡守之事一、在二堯時一姜姓爲レ之。〔書、堯典〕帝曰、咨四岳。〔傳〕四岳、卽上羲和之四子、分二掌四岳之諸侯一、故稱焉。〔蔡傳〕四岳、官名、一人而總二四岳諸侯之事一也。〔書、舜典〕舜曰、咨二四岳一。〔傳〕訪二羣臣一。〔蔡傳〕四岳、所レ領四方諸侯之在レ朝者也。〔史記、五帝紀〕堯曰、嗟四嶽。〔注〕集解曰、鄭玄曰、言、汝諸侯之中、有下能順レ事用二天命一者、入處二我位一、統二治天子之事一者上乎。〔徐陵、陳武帝下二州郡一璽書〕方岳相任二股肱一。㊅古は㞰(**4－8011**)・岳(**4－8001**)・𡶒(**4－8046**)・㞭(**4－7885**)に作る。〔玉篇〕㞰、古文嶽。〔集韻〕嶽、古作二岳・𡶒・㞭一。㊆或は𡿊(**4－8567**)・𡸕(**4－8058**)に作る。〔集韻〕嶽、或書作二𡿊・𡸕一。㊇**姓。**〔萬姓統譜〕嶽崇、鄭州人、成化中任二上杭縣知縣一。

名乘　タカ。タケ。

參考　岳(**4－8001**)の字解を見よ。

【嶽雨】1 ガクウ　峰に降る雨。〔劉得仁、送二友人下第歸レ覲詩〕嶽雨連二河細一、田禽出レ麥飛。〔喩鳧、龍翔寺閣夜懷二渭南張少府一詩〕河風吹レ鳥迴、嶽雨滴レ桐疎。

【嶽雲】2 ガクウン　㊀高い山にかかつた雲。〔杜荀鶴、行次二滎陽一卻寄二諸弟一詩〕枕上算レ程關日落、帽前搜レ景嶽雲生。〔李東陽、後東山草堂賦〕嶽雲漸開、江月將レ落。㊁樓の名　山東省滋陽縣治の東南。古の兗州城樓。唐の杜甫が嘗て此に登り、浮雲海岱に連なると賦したので嶽雲樓といふ。後、毀たる。其の故址を少陵臺といふ。〔明一統志〕嶽雲樓、在二兗州府城內王城東南隅一、本古兗州城樓、杜甫嘗登レ此賦レ詩。

【嶽影】3 ガクエイ　高山のかげ。〔李咸用、春日喜レ逢二鄉人劉松一詩〕故人不レ見五春風、異地相逢嶽影中。〔李洞、和三知己赴二任華州一詩〕一道帆飛直、中筵嶽影斜。〔劉滄、洛陽月夜書レ懷詩〕獨榻閑眠移二嶽影一、寒窗幽思度二煙空一。

【嶽翁】4 ガクヲウ　妻の父。嶽公。丈人。嶽壻(31)・岳翁(**4－8001‥4**)を見よ。〔類書纂要、人道部、妻黨〕嶽父・嶽丈・丈人・婦翁・外父・嶽公・嶽翁、以上並稱二妻父一也。

【嶽霞】5 ガクカ　高山にかかつたかすみ。〔貫休、賀二鄭使君一詩〕戰馬閑眠汀草遠、秋鼙乾揭嶽霞隮。

【嶽降】6 ガクカウ　人の子を生むを賀していふ。堯の時、姜姓が四嶽の官となり、よく嶽神の意を得たので、福が其の子孫に及び、甫及び申等の賢者を出したのによる。崧生嶽降(**4－8209‥12**)を見よ。〔詩、大雅、崧高〕崧高維嶽、駿極二於天一、維嶽降レ神、生二甫及申一。〔箋〕在二堯時一、姜姓爲レ之、德當二嶽神之意一、而福興二其子孫一、歷二虞夏商一、世有二國土一、周之甫也、申也、齊也、許也、皆其苗胄。〔蘇軾、潮州韓文公廟碑〕故申呂自レ嶽降、而傳說爲二列星一。〔瞿景淳、覽輝樓賦〕賢由二嶽降一、地以二人靈一。

【嶽客】7 ガクカク　高山を訪れる客。〔黃滔、經二安州一感二故鄭郎中一詩〕嶽客出來尋二古劍一、野猿相聚叫二孤塋一。〔周繇、送二江州薛尚書一詩〕郡齋多二嶽客一、鄉戶半二漁翁一。

【嶽嶽】8 ガクガク　かどだつていかめしいさま。鹿の角の形容。〔漢書、朱雲傳〕五鹿嶽嶽、朱雲折二其角一。〔注〕師古曰、嶽嶽、長角之貌。

【嶽祇】9 ガクキ　山の神。嶽神。〔韓愈、元和聖德詩〕瀆鬼濛鴻、嶽祇嶪峩。

【嶽氣】10 ガクキ　高山にかかつたもやかすみ等。〔韋鼎、贈二廖凝一詩〕嶽氣秋來早、亭寒果落新。

【嶽起】11 ガクキ　高山が屹立する。又、山のやうに高く起る。〔張融、海賦〕浪散波合、嶽起山隤。

【嶽華】12 ガククワ　華山。五嶽の一。〔陸雲、盛德頌〕乃凌二河海一、河海無レ梁、乃仆二高山一、嶽華不レ重。

【嶽廻】13 ガククワイ　高山がめぐる。高山がとりまいてゐる。〔馮子振、十八公賦〕河捲嶽廻、川吟谷呻。

【嶽館】14 ガククワン　高山に建てた家。〔張九齡、奉レ和下聖製次二瓊嶽一韻上詩〕嶽館逢二朝霽一、關門解二宿陰一。

【嶽磬】15 ガクケイ　高山で聞く磬聲。磬は玉石で作つた樂器。〔喩鳧、早秋寺居酬二張侍御六韻見一レ寄詩〕清韻嶽磬遠、佳音湖水澄。

【嶽月】16 ガクゲツ　高山の月。たかねの月。〔賈島、送三田卓入二華山一詩〕壇松涓滴露、嶽月泬寥天。〔溫庭筠、題二嶽寺一詩〕越僧寒立孤燈外、嶽月秋當萬水前。〔李洞、送二安撫從兄夷偶中丞一詩〕河橋吹角凍、嶽月卷旗圓。

【嶽公】17 ガクコウ　妻の父。しうと。嶽は泰山、泰山の頂に丈人峯があり、丈人は長老の稱であるからいふ。嶽翁(4)・嶽父(47)・嶽丈(41)・嶽壻(31)・岳父(**4－8001‥46**)を見よ。〔書言故事、翁壻類、嶽公泰水〕稱二丈人一爲二嶽公一、丈母爲二泰水一。歐陽永叔嘗云、今人呼二妻父一爲二嶽公一、以三泰山有二丈人峰一、呼二妻母一爲二泰水一、不レ知レ出二何書一也。

【嶽山】18 ガクザン　山名。吳嶽をいふ。陝西省隴縣の南。〔周禮、夏官、職方氏〕正西曰二雍州一、其山鎭曰二嶽山一。〔注〕嶽、吳嶽也。〔史記、封禪書〕自レ華以西、名山七、曰、華山・薄山・嶽山・岐山・吳岳・鴻冢・瀆山。〔讀史方輿紀要、陝西、鳳翔府、隴州〕嶽山、州南八十里、周禮職方、雍州山曰レ嶽、史記封禪書、華西名山、有二嶽山・吳嶽一。

【嶽祠】19 ガクシ　高山にあるほこら。〔唐書、地理志一、注〕神龍元年、復曰二華陰一、云云、有二嶽祠一。〔張翥、三生藏詩〕地埋二禪剎一在、山掩二嶽祠一深。

【嶽寺】20 ガクジ　高山にある寺。〔朱慶餘、送三僧往二台嶽一詩〕天寒嶽寺出、日晚島泉清。〔李遠、贈二南嶽僧一詩〕曾住衡陽嶽寺邊、門開江水與レ雲連。

【嶽秀】21 ガクシウ　高山がそびえてゐる。轉じて、人格の高潔な喩。嶽峻。〔陸雲、吳故丞相陸公誄〕山林嶽秀、天光乃照。〔沈約、齊臨川王行狀〕雲虛景暖、嶽秀川渟、蘭桂不レ踰二其質一、珪璋未レ究二其美一。〔李白、與二諸公一送二陳郎將一詩〕氣清嶽秀有レ如レ此、郎將一家拖二金紫一。

【嶽室】22 ガクシツ　高山に建てた室。〔劉得仁、和三厲元侍御題二戶部相公盧山草堂一詩〕石溪盤二鶴外一、嶽室閉二猨前一。

【嶽祥】23 ガクシヤウ　山の瑞祥。〔江淹、宋故銀青光祿大夫孫敻墓銘〕川祇效レ鏡、嶽祥獻レ明。

【嶽上】24 ガクジヤウ　高山の上。〔伍喬、林居詩〕姿容雖レ有二塵中色一、巾屨猶多二嶽上情一。

【嶽狩】25 ガクシユ　四嶽に巡狩すること。〔韓愈、平二淮西一碑〕外多二失朝一、曠不二嶽狩一、百隸怠レ官、事亡二其舊一。

【嶽樹】26 ガクジユ　高山の樹木。〔李商隱、寄二和水部馬郎中一題二興德驛一時昭義已平詩〕更想レ逢二歸馬一、悠悠嶽樹陰。

【嶽峻】27 ガクシユン　高山が險しい。轉じて、人格の高潔な喩。嶽秀。〔潘岳、鄭司空碑〕弘操嶽峻、宇量深曠。

【嶽色】28 ガクショク 高い山の色。高山の樣子。〔賈島、送㆓烏行中石淙別業㆒詩〕嶽色何曾遠、蟬聲尙未㆑繁。〔杜荀鶴、旅舍遇㆑雨詩〕月華星彩坐來收、嶽色江聲暗結㆑愁。

【嶽神】29 ガクシン 嶽山の神。嶽は四嶽。嶽祇。嶽降(6)を見よ。〔詩、大雅、崧高〕維嶽降㆑神。〔傳〕嶽、四嶽也、東嶽岱、南嶽衡、西嶽華、北嶽恆。〔箋〕德當㆓嶽神之意㆒、而福興㆓其子孫㆒。〔唐書、顧少連傳〕獨移㆓文嶽神㆒、虎不㆑爲㆑害。

【嶽西】30 ガクセイ 高山の西。〔賈島、寄㆓山中王參㆒詩〕我看嶽西雲、君看嶽北月。

【嶽壻】31 ガクセイ 山名。俗に妻の父を嶽丈・嶽翁・嶽父といふは、泰山に丈人峯が有るためといふが、一說に、丈人の語は尊長の人を稱するもので、必ずしも妻の父のみを稱するものではなく、漢書郊祀志には大山川に嶽山があり、小山川に嶽壻山が有るといひ、嶽壻山は嶽の壻であるから、嶽は妻の父、卽ちしうとを指していふといふ。〔漢書、郊祀志上〕汧・洛二淵、鳴澤・蒲山、嶽壻山之屬、爲㆓小山川㆒。〔補注〕周壽昌曰、封禪書壻作㆑嵴。〔黃潛、筆記〕俗呼㆓人之婦翁㆒曰㆓嶽丈㆒、曰㆓泰山㆒、說者以爲、泰山有㆓丈人峯㆒、故有㆓此稱㆒、然古者通謂㆓尊長㆒曰㆓丈人㆒、非㆓特婦翁㆒、按㆓漢郊祀志㆒、大山川有㆓嶽山㆒、小山川有㆓嶽壻山㆒、嶽而有㆑壻、則嶽可㆔以謂㆓之婦翁㆒矣、世俗之稱謂、未㆔必不㆓以是㆒、又因㆓嶽山㆒而轉爲㆓泰山㆒耳。

【嶽嵴】32 ガクセイ 山名。嶽壻に同じ。〔史記、封禪書〕汧・洛二淵、鳴澤・蒲山・嶽嵴山之屬、爲㆓小山川㆒。

【嶽雪】33 ガクセツ 高山の雪。〔馬戴、雪中送㆓青州薛評事㆒詩〕嶽雪明日觀、海雲冒㆓營丘㆒。〔張喬、送㆔鄭侍御赴㆓汴州辟命㆒詩〕河冰天際白、嶽雪眼前明。

【嶽前】34 ガクゼン 高山の前。〔司空圖、題㆓裴晉公華嶽廟㆒題㆑名詩〕嶽前大隊赴㆓淮西㆒、從㆑此中原息㆓鼓鼙㆒。

【嶽宗】35 ガクソウ 高山のをさ。五嶽のかしら。嵩山をいふ。嵩山は五嶽の中嶽であるからいふ。〔郭璞、爾雅圖贊、釋山、太室山〕嵩惟嶽宗、華・岱・恆・衡、氣通㆓玄漠㆒、神洞㆓幽明㆒。

【嶽僧】36 ガクソウ 高山に住む僧。〔李咸用、友生攜㆓修睦上人詩㆒見㆑訪詩〕雪中敲㆓竹戶㆒、袖出嶽僧詩。〔黃滔、寄㆓湘中鄭明府㆒詩〕嶽僧同㆓夜坐㆒、江月看㆓秋圓㆒。

【嶽峙】37 ガクヂ 山のやうにそばだつ。〔夏侯湛、江上泛歌〕鷩翼兮垂㆑天、鯨魚兮嶽峙。〔隋書、虞綽傳〕雲浮嶽峙。

〖嶽峙淵亭〗38 ガクヂエンテイ 人格の高尙な喩。其の人の德量を、山の高くそびえ、水の深くたたへたのに喩へていふ。亭は渟で、淵が深くよどんださま。嶽峙泉渟。〔石崇、楚妃歎〕矯矯莊王、淵亭嶽峙。

〖嶽峙泉亭〗39 ガクヂセンテイ 嶽峙淵亭に同じ。唐人は高祖の諱を避けて淵を泉と改む。〔舊唐書、韋承慶傳〕嶽峙泉渟、金貞玉裕。

【嶽頂】40 ガクチヤウ 高山のいただき。嶽蓮を見よ。〔賈島、馬戴居㆓華山㆒因寄詩〕瀑流蓮嶽頂、河注華山根。〔馬戴、早發㆓故山㆒詩〕獨宿靈潭側、時聞嶽頂鐘。

【嶽丈】41 ガクヂヤウ 妻の父。嶽翁。岳丈。嶽公。岳翁(4－8001‥4)・嶽壻(31)を見よ。〔黃溍、黃氏筆記〕俗呼㆓人之婦翁㆒、曰㆓嶽丈㆒、曰㆓泰山㆒。

【嶽鎭】42 ガクチン 山嶽の神。鎭は鎭護の神。〔唐書、禮樂志一〕中祀社稷、日月星辰、嶽鎭海瀆、帝社先蠶。

【嶽瀆】43 ガクトク 五嶽(1－257‥126)・四瀆(3－4682‥614)の略。〔禮、曲禮下、疏〕凡山川幷㆓嶽瀆之神㆒祭㆑之。〔蔡邕、陳太丘碑文〕徵士陳君稟㆓嶽瀆之精㆒、苞㆓靈曜之純㆒。〔注〕翰曰、孝經援神契曰、五岳之精、雄聖、四瀆之精、仁明、故以比㆑之也。〔柳宗元、夢歸賦〕施㆓嶽瀆㆒以定㆑位兮、互㆓參差之白黑㆒。〔吳萊、射的山云云禹穴詩〕嶽瀆通㆓脈絡㆒、蛟螭被㆓拘攣㆒。

【嶽突】44 ガクトツ 高山がつきでる。〔張嵩、雲中古城賦〕既雲和而星繁、亦丘連而嶽突。

【嶽鄙】45 ガクヒ 嶽に近い小邑。嶽は河北の太行山。〔史記、周紀〕我南望㆓三塗㆒、北望㆓嶽鄙㆒、顧詹㆓有河㆒、粵詹㆓雒伊㆒、毋㆑遠㆓天室㆒。〔注〕索隱曰、嶽、蓋河北太行山、鄙、都鄙、謂㆓近嶽之邑㆒。

【嶽濱】46 ガクヒン 北嶽のほとり。嶽は北嶽、常山をいふ。〔國語、齊語〕嶽濱諸侯、莫㆑不㆓來服㆒。〔注〕嶽、北嶽、常山也。〔陸雲、祖考頌〕風馳㆓海表㆒、光被㆓嶽濱㆒。

【嶽父】47 ガクフ 妻の父。岳父。嶽翁(4)・嶽壻(31)・「嶽丈(41)を見よ。

【嶽廟】48 ガクベウ 高山にある廟。〔水經、汾水注〕霍太山有㆓嶽廟㆒、廟甚靈、鳥雀不㆑棲㆓其林㆒、猛虎常守㆓其庭㆒。〔司空圖、陳疾詩〕殘陽暫照鄕關近、遠鳥因投嶽廟過。

【嶽母】49 ガクボ 妻の母。岳母(4－8001‥48)に同じ。岳翁(4－8001‥4)を見よ。

【嶽峯】50 ガクホウ 明、蕭大亨(9－32012‥445)の號。

【嶽北】51 ガクホク 高山の北。〔賈島、寄㆓山中王參㆒詩〕我看嶽西雲、君看嶽北月。〔司空圖、攜㆓仙籙㆒詩〕嶽北秋空渭北川、晴雲漸薄薄如㆑煙。

【嶽牧】52 ガクボク 四岳十二牧をいふ。後世の公卿諸侯のやうなもの。岳牧。四岳(3－4682‥128)・十二牧(2－2695‥403)を見よ。〔史記、伯夷傳〕舜禹之閒、嶽牧咸薦。〔潘岳、關中詩〕嶽牧慮殊、威懷理二。〔注〕善曰、尙書曰、內有㆓百揆四岳㆒、外有㆓州牧侯伯㆒。

【嶽立】53 ガクリツ 高山の如く、屹然として立つ。屹立。〔潘岳、藉田賦〕青壇蔚其嶽立兮。〔注〕濟曰、嶽立、言㆑高也。〔魏書、李騫傳〕既雲擾而海沸、亦嶽立而棊峙。〔李白、敍㆑舊贈㆓江陽宰陸調㆒詩〕嶽立冠㆓人曹㆒。〔顏眞卿、象魏賦〕巍巍雙闕兮、嶽立雲峙。

【嶽林】54 ガクリン 寺の名。浙江省奉化縣。梁の大同中、創建す。五代の時、布袋和尙、此に住す。

【嶽嶺】55 ガクレイ 山の峰。

【嶽禮】56 ガクレイ 山嶽を祭る禮。〔崔駰、東巡頌〕唯斯嶽禮久而不㆑修、此神人之所㆓慶幸㆒、海內之所㆓想思㆒。

【嶽靈】57 ガクレイ 高山の神靈。〔沈約、游㆓鍾山㆒詩應㆓西陽王敎㆒〕靈山紀㆓地德㆒、地險資㆓嶽靈㆒。〔李益、罷㆑秩後入㆓華山㆒採㆓茯苓㆒逢㆓道者㆒詩〕遂逢五老人、一謂西嶽靈。〔沈珣、授㆓崔珙節度使㆒制〕稟㆓粹嶽靈㆒、挺㆓生國戚㆒。

【嶽蓮】58 ガクレン ❶華山に在るはちす。之を服すれば、羽化登仙するといふ。〔華山記〕山頂有㆑池、生㆓千葉蓮花㆒、服㆑之羽化、因曰㆓華山㆒。❷華山(9－31214‥172)、又、衡山(10－34078‥36)の異名。〔杜甫、題㆓鄭縣亭子㆒詩〕雲斷嶽蓮臨㆓大路㆒、天晴宮柳暗㆓長春㆒。❸富士山(3－7230‥78′)の異名。蓮嶽。❹清の女僧。字は韻香。號は玉井道人、又、清微道人。無錫の雙修菴に住む。畫・書・詩に巧。

【嶽路】59 ガクロ 山の路。やまぢ。〔邢邵、甘露頌〕川停㆓嶽路㆒、雲臨㆓水鏡㆒。

【嶽樓】60 ガクロウ 高山に建てたたかどの。〔黃滔、題㆓王侍御宅內亭子㆒詩〕石曾湖岸見、琴誤嶽樓聽。

【嶽麓】61 ガクロク ❶山嶽のふもと。山麓。〔崔珏、道林寺詩〕臨湘之濱嶽之麓、西有㆓松寺㆒東岸無。❷山名。湖南省長沙縣の西、衡山の北麓。一名、麓山・靈麓山・靈秀峯。山容秀靈にして高く聳え、下、湘江に臨み、絶勝と稱せらる。山上の寺は慧光寺、又は麓苑といひ、晉代の建立にかかる。山下に嶽麓書院がある。〔水經、湘水注〕湘水左逕㆓麓山東㆒、上有㆓故城㆒。〔元和志〕麓山在㆓長沙縣西㆒、南隔㆓湘江水㆒六里、蓋衡山之足也、故以㆑麓爲㆑名。〔方輿勝覽〕荆州記云、長沙西岸、有㆓麓山㆒、又名㆓靈秀峯㆒、仍岳山七十二峯之一。〔李洞、觀水墨障子詩〕嶽麓穿因㆑鼠、湘江綻爲㆑蚕。〔李咸用、夏日別㆓余秀才㆒詩〕嶽麓雲深麥雨秋、滿傾杯酒對㆓湘流㆒。

〖嶽麓書院〗62 ガクロクシヨヰン 書院の名。湖南省長沙縣の西、嶽麓山の下。宋の開寶中、潭州の守、朱洞の建設にかかるといふが、實は彭城の劉鼇の創めたもので、祥符中、詔して勅額と國子監の經籍とを賜はつた。後、張栻・朱子の講學の所となる。宋代、嵩陽・睢陽・白鹿洞書院と共に四大書院と稱せらる。清の康熙の時、重建す。〔嶽麓舊志〕嶽麓負㆑衡襟㆑湘、至㆓宋開寶㆒、郡守[illegible]建㆓書院㆒、以待㆓四方學者㆒、敎化於㆑是大行、咸平中、山長周式、眞宗召見授㆓國子主簿㆒、詔使㆑歸㆑院主㆑敎、賜㆓嶽麓書院之額㆒、于㆑是書院之盛、遂甲㆓于天下㆒、南渡以㆓兵火㆒廢、乾道改元、湖南安撫劉珙復㆓創新院㆒、延㆓請張南軒㆒主㆓教事㆒、紹熙五年、晦菴安㆓撫湖南㆒、興㆓學嶽麓㆒、更建㆓書院于爽塏之地㆒、學者雲集、至㆓千餘人㆒、時有㆑諺云、道林三百衆、書院一千徒。〔吳澄、重建㆓嶽麓書院㆒記〕天下四大書院、二在㆑北、二在㆑南、在㆑北者嵩陽・睢陽也、在㆑南者嶽麓・白鹿洞也。

【嶽蔭堂】63（ガクインダウ） 清、唐崇勳(**2**－**3709**‥**457**)の室名。

【嶽歸堂】64（ガクキダウ） 明、譚元春(**10**－**35978**‥**57**)の「室名。

【嶽修貢】65（ガクコウヲヲサム） 山嶽が貢物を獻ずる。廬江の熊山から寶鼎が現はれた事をいふ。〔班固、寶鼎詩〕嶽修レ貢兮川效レ珍、吐二金景一兮歊二浮雲一。〔注〕濟曰、廬江熊山破、得二寶鼎一、灤湖出二黃金鼎一、故言二嶽修レ貢川效一レ珍也。

【嶽吐レ符】66（ガクフヲハク） 賢者を生むをいふ。崧生嶽降(**4**－**8209**‥**12**)を見よ。〔海錄碎事、人事、聖賢〕峨峨崇嶽、吐レ符降レ神、陳太丘銘、言レ生レ賢也。

【嶽歸堂集】67（ガクキダウシフ） 書名。十卷。明、譚元春撰。詩集。詩は鍾惺と唱和するもの多し。〔四庫提要、集部、別集類存目七〕。

【獄】8567 ガク 嶽(**4**－**8566**)に同じ。〔集韻〕嶽、或書作レ獄。

【嶾】8568 イン オン 〔集韻〕倚謹切 吻

嶾嶙は、山の高いさま。或は隱(**4**－**8616**)・嶾(**4**－**8569**)に作る。〔集韻〕嶾、嶾嶙、山高皃、或从レ隱、亦書作レ嶾。〔潘岳、西征賦〕裁陂陀以嶾嶙。〔注〕善曰、嶾嶙、絶起皃。

【嶾】8569 イン 嶾(**4**－**8568**)に同じ。〔集韻〕嶾、亦書作レ嶾。

【嶬】8570 ガ 峩(**4**－**8072**)に同じ。〔正字通〕嶬、同レ峩。

【嵴】8571 セイ サイ 〔集韻〕子計切 霽

山名。〔集韻〕嵴、山名。

【嶤】8572 一 ダウ ネウ 〔集韻〕尼交切 肴
二 ガウ ゲウ 〔集韻〕牛交切 肴

一二**たかい。**〔集韻〕嶤、崒也。

【崇】8573 音未詳 東岳の名。〔字彙補〕音未詳、東岳、姓崧、名崇、見二五岳眞形圖一。

【崋】8574 クワ ゲ 〔字彙補〕何化切 禡

山名。〔字彙補〕崋、山名。

【嵭】8575 ハウ 義未詳。〔龍龕手鑑〕嵭、音傍。

【嶐】8376 リク 義未詳。〔五音篇海〕嶐、音陸。

【嵠】8577 キ 義未詳。〔龍龕手鑑〕嵠、音棄。

【嶆】8578 サウ ザウ 〔集韻〕慈郎切 陽

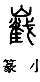
岇嶆は、山が高いさま。〔集韻〕嶆、岇嶆、山高。〔考正〕案、嶆、譌从レ藏、據二類篇一正。

十五畫

【巑】8579 サン 巑(**4**－**8638**)の俗字。〔正字通〕巑、俗巑字。

【巎】8580 ダウ 巎(**4**－**8636**)の譌字。〔正字通〕巎、巎字之譌。

【巀】8581 一 サツ ザチ 〔集韻〕才達切 曷
二 セツ ゼチ 〔集韻〕昨結切 屑


小篆（文）

一❶**山名。**巀嶭の❷を見よ。〔說文〕巀、巀嶭、山也、在二左馮翊池陽一、从レ山截聲。❷**山の高峻なさま。**〔說文、段注〕巀、本謂二山陵皃一、因以爲二山名一也。

二❶**山の高峻なさま。**節(**8**－**26243**)に同じ。〔集韻〕節、山高峻皃、或作レ巀。❷岊(**4**－**7925**)・卽に通ず。〔增韻〕巀、山皃、又作レ岊。〔正字通〕巀、山峻貌、亦作レ岊、經史借用レ節、別作レ卽。

名乘 タカ。

【巀嶭】1（サツガツ） ❶山の高峻なさま。〔司馬相如、上林賦〕九嵕巀嶭、南山峩峩。〔注〕善曰、郭璞曰、巀嶭、高峻貌也。❷山名。一名、慈峨山・嵯峨山。陝西省の涇陽・三原・淳化の三縣の界。上に三峯があり、東を鉢盂臺といひ、旱天の時、民、雨を禱る。中を大臺といひ、頂に仰天池がある。西峯に石窟があり甚だ深い。〔說文〕巀、巀嶭、山也、在二左馮翊池陽一。〔廣韻〕巀、巀嶭、山名、在二右扶風一。〔漢書、地理志上〕巀嶭山在レ北。〔注〕師古曰、巀嶭山、卽今俗呼二嵯峨山一是也。〔揚雄、長楊賦〕椓二巀嶭一而爲レ弋、紆二南山一以爲レ罝。〔注〕善曰、服虔曰、巀嶭、山名也、孟康曰、在二池陽北一、顏監曰、巀嶭、卽今謂二嵯峩一也。

【巀辥】2（サツガツ） 巀嶭に同じ。

【巀巘】3（サツケン） 高くけはしいさま。〔揮麈餘話〕介亭聳以巀巘。

【藪】8582 ソウ 義未詳。〔字彙〕藪、蘇后切、音叟、出二釋典一。

【嶁】8583 リヨ ロ 〔集韻〕良據切 御

山名。〔集韻〕嶁、山名、在二河內一。

【嶺】8584 ガク ギヤク 〔集韻〕鄂格切 陌

山の高大なさま。峉嶺。峉(**4**－**8022**)に同じ。〔集韻〕峉、山高皃、或从レ額。〔木華、海賦〕啓二龍門之峉嶺一。〔注〕善曰、峉嶺、高皃。

【嶑】8585 クワウ 〔集韻〕苦謗切 漾

山名。〔集韻〕嶑、山名。

【竆】8586 キユウ グ 〔集韻〕渠弓切 東

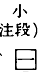
山の形。竆(**4**－**8357**)に同じ。〔集韻〕竆、崆竆、山形、或从レ竆。

【嚒】8587 バ マ 〔集韻〕眉波切 歌

山名。〔集韻〕嚒、山名。

【巁】8588 一 レイ 〔集韻〕力制切 霽
二 レツ レチ 〔集韻〕力櫱切 屑

小篆（說文）


小篆（段注本）

一❶**たかい。**或は巁(**4**－**8643**)に作る。〔正字通〕巁、說文、本作レ巁。〔說文〕巁、巍

高也、从ㇾ山藟聲。❷或は巁(4－8528)に作る。〔集韻〕⿰山藟、或从ㇾ厲、亦省。㈡❶**山の高いさま**。〔集韻〕巁、山高皃。❷**姓**。巁山氏。〔集韻〕巁、古有㆓巁山氏㆒。

【⿰山畾】8589 ㈠ライ 〔集韻〕魯猥切 ［賄］ ㈡ルイ 〔集韻〕魯水切 ［紙］

㈠❶**山のけはしく高下あるさま**。⿰山畾嵔。〔廣韻〕⿰山畾、⿰山畾嵔、山狀。❷**山のさま**。⿱山絫(4－8446)に同じ。〔集韻〕⿱山絫、說文、辠也、或作ㇾ⿱山畾、亦書作ㇾ⿰山畾。㈡**山のさま**。礧(8－24568)に同じ。〔集韻〕礧、碨礧、山皃、或作ㇾ⿰山畾。

【⿰山畾⿱山非】1 ライサイ けはしく高下あるさま。〔張衡、西京賦〕上林岑以⿰山畾⿱山非、下嶃巖以嵒齬。〔注〕銑曰、林岑・⿰山畾⿱山非、嶃巖・嵒齬、言㆓上下皆險峻不ㇾ齊也。

【⿰山畾⿰山畾】2 ライライ 高下あるさま。〔黃滔、鐘山詩〕路細石⿰山畾⿰山畾、崖深竹娟娟。

【⿱山畾】8590 ㈠ライ ㈡ルイ

㈠⿰山畾(4－8589)に同じ。〔玉篇〕⿱山畾、同ㇾ⿰山畾。㈡⿰山累(4－8425)に同じ。〔集韻〕⿰山累、或作ㇾ⿱山畾。

【⿰山麃】8591 ハウ ベウ 〔集韻〕蒲交切 ［肴］

山名。〔集韻〕⿰山麃、山名。

【⿱宀來】8592 ジツ 實(3－7294)の古字。〔集韻〕實、古作ㇾ⿱宀來。

【⿱山湯】8593 タウ ダウ 〔龍龕手鑑〕徒朗切 ［養］

山名。〔龍龕手鑑〕⿱山湯、山名。

【⿰山𠚕】8594 ケツ ⿰山⿱巛囟(4－8657)に同じ。〔篇海類編〕⿰山𠚕、與ㇾ⿰山⿱巛囟同。

【嶲】8595 スイ 〔集韻〕選委切 ［紙］

郡名。或は⿱山巂(4－8532)に作る。〔集韻〕嶲、越嶲、郡名、或作ㇾ⿱山巂。

［參考］字形、正しくは巂(11－42125)に作る。

十六畫

【⿰山𦎧】8596 クワク 崞(4－8197)の本字。〔正字通〕⿰山𦎧、崞本字。

【⿰山盧】8597 リヨ ロ 〔集韻〕淩如切 ［魚］

山名。〔集韻〕⿰山盧、山名。

【巃】8598 ㈠ロウ ル 〔集韻〕盧東切 ［東］ ㈡ロウ ル 〔集韻〕魯孔切 ［董］ ㈢ロウ ル 〔集韻〕力鍾切 ［冬］

㈠❶巃嵷は、山のけはしいさま。巃嵷の❶を見よ。❷巃嵷は、山の高いさま。〔集韻〕巃、巃嵷、山高皃。❸巃嵷は、雲氣のむしおこるさま。巃嵷の❸を見よ。❹**山名**。巃岍及び巃嵷の❹を見よ。❺或は巄に作る。〔集韻〕巃、或書作ㇾ巄。㈡巃嵷は、山の孤立するさま。〔集韻〕巃、巃嵷、山孤皃。㈢**山のけはしいさま**。〔集韻〕巃、山峻皃。

【巃岍】1 ロウカン 山名。雲南省蒙化縣の西北。巃岍圖山ともいふ。〔讀史方輿紀要、雲南、蒙化府〕巃岍圖山、城西北三十五里、昔蒙氏龍伽、將㆓其子細奴羅㆒、自㆓哀牢㆒而東遷、築ㇾ城居ㇾ之、自稱㆓奇王㆒、號㆓蒙舍詔㆒、今有㆔浮圖在㆓山上㆒、亦曰㆓巃岍山㆒。〔蒙化府志〕巃岍山、在㆓府西北三十五里㆒、昔蒙氏龍伽、獨自㆓哀牢㆒攜㆓子細奴邏㆒、徙居㆓於此㆒、築㆓巃岍圖城㆒、號㆓蒙舍詔㆒、按、明一統志、今上有㆓浮圖及雲隱寺㆒。

【巃嵷】2 ロウシヨウ ❶山のけはしいさま。〔司馬相如、上林賦〕崇山矗矗、巃嵷崔巍。〔注〕善曰、郭璞曰、巃嵷・崔巍、皆高峻貌也。〔春秋繁露、山川頌〕山則巃嵷⿱山畾崔、摧嵬⿱山非巍、久不㆓崩陁㆒、似㆓夫仁人志士㆒。〔潘岳、西征賦〕九嵕巀嶭、太一巃嵷。〔注〕善曰、郭璞曰、巃嵷、高峻貌也。〔王延壽、魯靈光殿賦〕岑崟嵫嶷、駢巃嵷兮。〔注〕善曰、皆高大峻嶮之貌。❷山の高いさま。字解㈠の❷を見よ。❸山氣・雲氣の盛に起るさま。又、山の孤立するさま。〔楚辭、淮南小山王、招隱士〕山氣巃嵷兮石嵯峨。〔注〕巃嵷、雲氣滃鬱也。❹山名。安徽省績溪縣の東北。一名、磐叢山。〔太平寰宇記〕磐叢山、四合㆓交湊㆒、中有㆓大路㆒、向㆓寧國縣㆒、宣歙二州分界焉。❺山の孤立するさま。字解の㈡を見よ。

【巃西】3 ロウセイ 隴西(11－41904・・20)に同じ。〔魏大饗碑〕唐君元、巃西人。

【⿱龍山】8599 ロウ 巃(4－8598)に同じ。〔篇海類編〕⿱龍山、同ㇾ巃。

【⿱山噩】8600 ガク 崿(4－8263)に同じ。〔集韻〕崿、或从ㇾ噩。

【⿱山⿱⿰心心木】8601 ライ ⿱山絫(4－8446)の俗字。〔正字通〕⿱山⿱⿰心心木、俗字、本作ㇾ⿱山絫。

【⿺嵬并】8602 ハウ ヒヤウ 〔字彙〕比孟切 ［敬］

⿰山犮⿺嵬并は、山のけはしいさま。〔字彙〕⿺嵬并、⿰山犮⿺嵬并、山峻貌。

【⿰山霍】8603 カク ガク 〔玉篇〕巨角切 ［覺］

❶**山名**。〔玉篇〕⿰山霍、山名。❷霍(12－42321)に通ず。〔正字通〕⿰山霍、爾雅、本作ㇾ霍。

【⿰山褭】8604 デウ ネウ 〔集韻〕乃了切 ［篠］

岰⿰山褭は、山のさま。〔集韻〕⿰山褭、岰⿰山褭、山皃。

【⿱山裹】8605 クワイ エ 〔字彙〕乎乖切 ［佳］

❶嵗⿱山裹は、山谷の平かでないさま。〔字彙〕⿱山裹、嵗⿱山裹、山谷不ㇾ平貌。❷嵗⿱山裹は、ならべ積むさま。〔左思、呉都賦〕縹碧素玉、隱賑嵗⿱山裹。〔注〕翰曰、嵗⿱山裹、排積貌。

［參考］集韻は字形を裹に作る。

【⿰山裹】8606 クワイ ⿱山裹(4－8605)に同じ。〔集韻〕裹、或作ㇾ⿰山裹。

【嶬】8607 ギ 巇(4－8614)に同じ。〔正字通〕嶬、同ㇾ巇。

【⿰山戯】8608 ギ 巇(4－8614)の俗字。〔正字通〕⿰山戯、俗巇字。

【⿱山雋】8609 スイ 嶲(4－8595)に同じ。〔龍龕手鑑〕⿱山雋、同ㇾ嶲。

【⿸虍⿱⿵冂口山】8610 コ 義未詳。〔海篇〕⿸虍⿱⿵冂口山、音古。

【⿰⿱県山系】8611 ケン 義未詳。〔龍龕手鑑〕⿰⿱県山系、音懸。

【嶭】8612 ガツ 嶭(4-8517)に同じ。〔正字通〕嶭、嶭字之譌。

十七畫

【巆】8613 ㈠クヮウ 〔集韻〕呼宏切 庚 ㈡ケイ ギヤウ 〔集韻〕玄扃切 靑

㈠㈡❶岭巆は、山の深いさま。嵤(4-8337)に同じ。〔集韻〕嵤、岭嵤、山深皃、或从レ營。〔揚雄、甘泉賦〕岭巆嶙峋。❷大きな聲。謍(10-35799)に同じ。〔集韻〕謍、大聲也、或作レ巆。〔宋玉、高唐賦〕礫磥磥而相摩兮、巆震ニ天之磕磕一。❸けはしい。嶸(4-8548)に同じ。〔集韻〕嶸、說文、崝嶸也、或作レ巆。

【巇】8614 キ 〔集韻〕虛宜切 支 ㄒㄧ hsi¹

❶山の危峻なさま。〔正韻〕巇、山相對危險也。〔張衡、南都賦〕嶔巇屹嶬。〔王褒、洞簫賦〕趨ニ巇道一兮。〔注〕善曰、巇道、嶮巇之道。❷すきま。ひま。罅隙。〔鬼谷子、抵巇〕巇者、罅也。〔注〕巇、舋隙也。〔法言、重黎〕巇可レ抵乎。❸巘(4-9545)に同じ。〔集韻〕巘、或作レ巇。

【巇隙】1（キゲキ） すきま。〔鬼谷子、抵巇〕自ニ天地之合離終始一、必有ニ巇隙一、不レ可レ不レ察也。

【巇嶮】2（キケン） けはしく危いさま。〔陸龜蒙、彼農詩〕世路巇嶮、淳風蕩除。

【巇道】3（キダウ） けはしい道。〔王褒、洞簫賦〕又似ニ流波泡溲、汎淁趨ニ巇道一兮。〔注〕善曰、巇道、嶮巇之道。

【抵レ巇】4（キヲウツ） すきまをねらひ撃つ。虛に乘ずる。機會を利用する。鬼谷子に抵巇篇がある。〔韓愈、釋言〕不レ能ニ奔走乘レ機抵レ巇以要ニ權利一。

【⿰山鮮】8615 セン 〔集韻〕息淺切 銑

❶山名。〔玉篇〕⿰山鮮、山名。❷大山から分れた小山。通じて鮮(12-46133)に作る。〔爾雅、釋山〕小山別ニ大山一、鮮。〔釋文〕鮮、或作ニ⿰山鮮字一。〔疏〕謂下小山與ニ大山一分別、不ニ相連屬一者名上レ鮮。〔集韻〕⿰山鮮、小山別ニ大山一曰レ⿰山鮮、通作レ鮮。

【⿰阝⿱山⿱工⿱彐心】8616 イン 嶾(4-8568)に同じ。〔集韻〕嶾、或从レ隱。

【巈】8617 キク 〔集韻〕居六切 屋

山の高いさま。〔集韻〕巈、山高皃。

【巉】8618 ㈠サン ゼン 〔集韻〕鋤銜切 咸 ㄔㄢˊ ch'an² ㈡サン ゼン 〔集韻〕士減切 豏 慣ザン

㈠❶山がけはしい。〔正字通〕巉、山險絕如ニ劖刻一也。❷巖が高い。〔集韻〕巉、巉巖、高也。〔宋玉、高唐賦〕登ニ巉巖一而下望兮。〔宋炳、半石山詩〕萬樹巉巖詭。❸或は嶄(4-8412)・漸(7-18179)・嶃(4-8413)に作る。〔集韻〕巉、或作ニ嶄・漸一、亦書作レ嶃。㈡高峻なさま。嶄(4-8412)に同じ。〔集韻〕嶄、高峻皃、或从レ毚。

【巉崖】1（ザンガイ） きりぎし。がけ。

【巉岸】2（ザンガン） きりぎし。がけ。

【巉嵒】3（ザンガン） 山や巖が高くけはしいさま。嵒は巖。〔謝脁、郡內登望詩〕威紆距ニ遙甸一、巉嵒帶ニ遠天一。〔注〕善曰、廣雅曰、巉嵒、高也。

【巉巖】4（ザンガン） 山や巖がけはしく高いさま。又、其のいはほ。〔玉篇〕巉、巉巖、高危。〔宋玉、高唐賦〕登ニ巉巖一而下望兮、臨ニ大阺之稸水一。〔注〕善曰、巉巖、石勢、不レ生ニ草木一。〔嵇康、琴賦〕玄嶺巉巖、岝崿嶇崟。〔注〕善曰、皆山石嶮峻之貌。〔蘇軾、後赤壁賦〕履ニ巉巖一、披ニ蒙茸一。

【巉岏】5（ザングワン） 山が高くて鋭いさま。〔韓維、送ニ趙員外之官ニ憲州一詩〕西游秦函谷、崆峒上ニ巉岏一。

【巉嶮】6（ザンケン） きり立つてけはしい。〔張衡、西京賦〕坻崿鱗眴、棧齴巉嶮。〔注〕向曰、皆殿階高峻之貌。〔左思、吳都賦〕陵絕嶛嶕、聿越ニ巉嶮一。

【巉刻】7（ザンコク） 崖のけはしいさま。轉じて、かどかどしいさま。〔蘇洵、上ニ歐陽內翰一書〕不レ爲ニ巉刻斬絕之言一。

【巉巉】8（ザンザン） 高くけはしいさま。〔岑參、入ニ劍門一作云云詩〕凜凜三伏寒、巉巉五丁迹。〔元結、窊樽詩〕巉巉小石山、數峯對ニ窊亭一。〔韓愈、酬ニ司門盧四兄雲夫院長望レ秋作詩〕終南曉望蹋ニ龍尾一、倚レ天更覺ニ青巉巉一。

【巉崒】9（ザンシユツ） けはしくそびえる。〔皮日休、九諷〕泬寥以似レ悴兮、峯巉崒以如レ抽。

【巉峭】10（ザンセウ） 高くきりたつてけはしい。〔唐書、西域下、康傳〕有ニ鐵門山一、左右巉峭、石色如レ鐵。〔北夢瑣言〕碕岸橫石巉峭、常爲ニ舟楫之患一。

【巉石】11（ザンセキ） 山名。安徽省泗縣の東南、五河縣と界を接し、南は盱眙縣の浮山と對す。〔水經、淮水注〕淮水又東至ニ巉石山一。〔五河縣志〕有ニ鐵鎖嶺一、在ニ縣東三十里一、橫跨ニ淮口一、蓋卽古巉石山也。

【巉絕】12（ザンゼツ） 高くけはしいさま。〔韓愈、南山詩〕孤撐有ニ巉絕一、海浴褰ニ鵬噣一。

【⿰山蹇】8619 ㈠ケン ゲン 〔集韻〕巨展切 銑 ㈡ケン 〔集韻〕紀偃切 阮

㈠⿰山蹇嵼は、山のさま。〔集韻〕⿰山蹇、⿰山蹇嵼、山皃。㈡❶⿰山蹇嵼は、山のくま。〔集韻〕⿰山蹇、⿰山蹇嵼、山阿。❷⿰山𡨄(4-8451)に同じ。〔集韻〕⿰山𡨄、或从レ足。

【⿰山彌】8620 ビ ミ 〔集韻〕民卑切 支

山の形。或は⿰山弥(4-8190)に作る。〔集韻〕⿰山彌、山形、或作レ⿰山弥。

【巊】8621 ㈠エイ ヤウ 〔集韻〕於郢切 梗 ㈡エイ ヤウ 〔集韻〕烟頂切 迥

㈠㈡巊⿰山冥は、又、山の高いさま。山氣が深くて暗いさま。〔集韻〕巊、巊⿰山冥、山高皃。〔左思、吳都賦〕其山澤則嵬嶷嶢屼、巊冥鬱岪。〔注〕山氣暗昧之狀。

【巋】8622 ㈠キ 〔集韻〕丘追切 支 ㄎㄨㄟ k'uei¹ ㈡キ 〔集韻〕苦軌切 紙 ㈢ギ 〔集韻〕魚鬼切 尾 ㈣キ 〔集韻〕丘媿切 寘 ㈤キ 〔集韻〕區韋切 微

㈠㈡❶多くの小山が集まって成立した山。〔爾雅、釋山〕小而衆、巋。❷高大堅固のさま。〔王延壽、魯靈光殿賦序〕靈光巋然獨存。〔注〕載曰、巋然、高大堅固貌也。❸高峻のさま。〔集韻〕巋、一曰、高峻皃。㈢山の高いさま。嵬(4-8355)に同じ。〔集韻〕嵬、山高皃、或作レ巋。㈣獨立のさま。〔集韻〕巋、獨皃。〔莊子、天下〕巋然而有レ餘。〔注〕巋然、獨立自足之謂。㈤山のさま。〔集韻〕巋、山皃。

名乘 タカ。

【巋焉】1（キエン） 獨立のさま。高大なさま。焉は助字。〔蘇軾、表忠觀碑〕龍山之陽、巋焉新宮、匪レ私ニ於錢一、唯以勸レ忠。

【巋崎】2（キキ） 山のけはしく長く連るさま。〔王褒、洞簫賦〕徒觀㆔其旁㆓山側㆒兮、則嶇嶔巋崎。〔注〕向曰、皆山勢險峻長連皃。

【巋巍】3（キギ） 山が高大で獨立してゐるさま。〔雲南山川志、雪山〕條岡百里、巋巍十峯、上插㆓雲漢㆒、下臨㆓麗水㆒。

【巋嶵】4（キサイ） 高く大きなさま。〔王延壽、魯靈光殿賦〕彤彤靈宮、巋嶵穹崇。〔注〕善曰、皆高大峻嶮之貌。

【巋水】5（キスイ） 川の名。一名、舜水。源は湖南省藍山縣の南の九疑山。舂陵水に合する。〔讀史方輿紀要、湖廣、衡州府、藍山縣〕巋水、在㆓縣南㆒、一名舜水、源出㆓九疑山㆒、經㆓東樓峯東北㆒、流㆓合縣境㆒、諸水入㆓桂陽州界㆒、會㆓舂陵水㆒。

【巋然】6（キゼン） ㊀高大堅固のさま。〔爾雅、釋山、小而衆巋、義疏〕按㆓釋文㆒、巋然、高峻貌。〔孔叢子、論書〕孔子曰、夫山者巋然高。〔王延壽、魯靈光殿賦序〕靈光巋然獨存。〔注〕截曰、巋然、高大堅固貌也。㊁獨立自足のさま。〔莊子、天下〕巋然而有㆑餘。〔注〕獨立自足之謂。

【嶭】8623

ガツ

嶭(4-8517)に同じ。〔集韻〕嶭、或作㆑嶭。

【巁】8624

ライ

磊(8-24394)に同じ。〔字彙補〕巁、同㆑磊。

【巌】8624′

ガン

巖(4-8649)の略字。

十八畫

【⿰山壘】8625

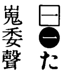
[一]リツ リチ 〔集韻〕劣戌切 [質]
[二]ライ 〔集韻〕魯猥切 [賄]
[三]ルイ 〔集韻〕魯水切 [紙]
[四]ルイ 〔集韻〕倫追切 [支]

[一]鬱⿰山壘は、平かでないさま。或は壘(3-5574)に作る。〔集韻〕⿰山壘、鬱⿰山壘、不㆑平皃、或省。〔字彙〕⿰山壘、鬱⿰山壘、不㆑平貌。[二]大石のさま。礧(8-24568)に同じ。〔集韻〕礧、大石皃、或作㆑⿰山壘。[三]㊀山のさま。礧(8-24568)に同じ。〔集韻〕礧、碨礧、山皃、或作㆑⿰山壘。㊁平かでないさま。[一]に同じ。〔司馬相如、上林賦〕隱轔鬱⿰山壘。[四]山のさま。⿰山累(4-8425)に同じ。〔集韻〕⿰山累、嵔⿰山累、山皃。或作㆑⿰山壘。

【⿰山壘⿰山果】1（ライクワイ） 高く峻しいさま。〔王延壽、魯靈光殿賦〕峞巍⿰山壘⿰山果。〔注〕善曰、皆高峻之貌也。

【巍】8626

[一]ギ 〔集韻〕語韋切 [微] ㄨㄟˊ wei^2
[二]グヮイ


小篆 嵬委聲。

[一]㊀**たかい**。〔說文〕巍、高也、从㆑嵬委聲。〔方言、六〕巍、高也。㊁**高大なさま**。〔廣韻〕巍、高大皃。㊂**宮闕をいふ**。〔廣雅、釋宮〕象巍、闕也。㊃或は嵬(4-8355)に作る。〔集韻〕巍、或省。㊄通じて魏(12-45872)に作る。〔正字通〕巍、集韻、通作㆑魏。[二]嵬(4-8355)に同じ。〔集韻〕嵬、或作㆑巍。

[名乘] タカ。

【巍峨】2（ギガ） 酒に醉ふさま。嵬峨(4-8355‥2)の㊃に同じ。〔洞仙傳〕扈謙、魏郡人也、嘗吟曰、進不㆑登㆓龍門㆒、退不㆑求㆓名位㆒、无㆔以消㆓天日㆒、常作㆓巍峩醉㆒。

【巍昂】3（ギカウ） 高いこと。〔張籍、祭㆓退之㆒詩〕嗚呼吏部公、其道誠巍昂。

【巍巍】4（ギギ） 高く大きなさま。巍巍乎に同じ。〔楚辭、劉向、九歎、遠遊〕貌揭揭以巍巍。〔注〕巍巍、大貌。〔班固、東都賦〕扇㆓巍巍㆒、顯㆓翼翼㆒。〔張衡、南都賦〕鞠㆓巍巍㆒其隱㆑天。〔王粲、公讌詩〕願我賢主人、與㆑天享㆓巍巍㆒。〔注〕善曰、論語、子曰、巍巍乎惟天爲㆑大。

【巍巍焉】5（ギギエン） 高大なさま。〔呂覽、觀世〕巍巍焉山在㆓其上㆒。

【巍巍乎】6（ギギコ） 高大なさま。巍巍焉に同じ。〔論語、泰伯〕巍巍乎唯天爲㆑大。〔集注〕巍巍、高大之貌。〔孟子、滕文公上〕君哉舜也、巍巍乎有㆓天下㆒而不㆑與焉。〔集注〕巍巍、高大之貌。

【巍巍然】7（ギギゼン） 高大なさま。又、富貴にして位高くいかめしいさま。巍巍焉に同じ。〔孟子、盡心下〕孟子曰、說㆓大人㆒則藐㆑之、勿㆑視㆓其巍巍然㆒。〔集注〕巍巍、富貴高顯之貌。〔先哲叢談、前編、四、伊藤蘭嵎〕伊人生㆓長乎寒素㆒、未㆑慣㆑說㆓大人㆒、則視㆓其巍巍然㆒而然也。

【巍巍蕩蕩】8（ギギタウタウ） 高大で廣遠なさま。〔論語、泰伯〕大哉堯之爲㆑君也、巍巍乎唯天爲㆑大、唯堯則㆑之、蕩蕩乎民無㆓能名㆒焉。〔集注〕蕩蕩、廣遠之稱也。〔後漢書、和帝紀〕巍巍蕩蕩、莫㆓與比隆㆒。〔王褒、四子講德論〕況乎聖德巍巍蕩蕩。〔注〕良曰、巍巍、高貌、蕩蕩、大貌。〔孔穎達、尙書正義序〕巍巍蕩蕩、無㆓得而稱㆒。

【巍巾】9（ギキン） 高い頭巾。〔宋史、賈似道傳〕高達在㆓圍中㆒、恃㆓其武勇㆒、殊易㆓似道㆒、每㆑見㆓其督戰㆒、卽戲㆑之曰、巍巾者何能爲哉。

【巍科】10（ギクワ） 最高の科第。高科。〔唐詩紀事、秦韜玉〕秦韜玉父爲㆓左軍將軍㆒、韜玉出㆓入田令孜之門㆒、又與㆓劉曄李嵓士姜垍蔡鋋之徒㆒、交㆓遊中貴各將㆒、兩軍書尺僥㆓求巍科㆒、時謂㆓對軍解頭㆒。〔宋史、蔣重珍傳論〕重珍自㆑擢㆓巍科㆒、既居㆓盛名之下㆒、而能樹㆓立於當世㆒、可㆑謂㆑難矣。〔國朝漢學師承記、江永〕帖括之士、竊㆓其唾餘㆒、取㆓高第㆒、掇㆓巍科㆒者數百人。

【巍嶢】11（ギゲウ） たかい。〔方言、六〕巍嶢、崝嶮、高也。

【巍闕】12（ギケツ） 宮門外の雙闕。魏闕(12-45872‥49)に同じ。

【巍乎】13（ギコ） たかいさま。巍然。〔韓愈、伯夷頌〕昭乎日月、不㆑足㆑爲㆑明、崒乎泰山、不㆑足㆑爲㆑高、巍乎天地、不㆑足㆑爲㆑容也。

【巍山】14（ギザン） 山名。浙江省東陽縣の東。山上にもと三十六井があつたが、今僅かに其の一を存す。梨・榴・棗・栗を產す。

【巍嵸】15（ギシヨウ ギソウ） 山などの高く險しいさま。〔獨孤及、仙掌銘〕屹彼靈掌、懸㆓諸巍嵸㆒。

【巍然】16（ギゼン） 山の高く大きいさま。巍焉。巍乎。〔論衡、書虛〕傳曰、太山之高巍然、去㆑之百里、不㆑見㆓⿰虫垂螺遠㆒也。

【巍⿸厤木】17（ギリ） 山の險しいさま。〔枚乘、梁王菟園賦〕崟巖⿰山寽嵸、巍⿸厤木焉。〔古文苑注〕巃嵸巍⿸厤木、皆山之險怪狀。

【⿱山⿺鬼委】8627

ギ

巍(4-8626)に同じ。〔字彙補〕⿱山⿺鬼委、與㆑巍同。

【⿱魏山】8628

ギ

巍(4-8626)に同じ。〔篇海類編〕⿱魏山、同㆑巍。

【巐】8629

シヨウ シユ 〔正字通〕息勇切 [腫]

山峰のそびえ立つさま。嵱巐。〔正字通〕巐、山峯貌。〔杜甫、封㆓西嶽㆒賦〕風御冉以縱巐。

【巐巐】1（シヨウシヨウ） 峰の高くそびえ立つさま。〔海錄碎事、地、巐巐〕已被㆔遠峰擎㆓巐巐㆒、更禁㆔初月吐㆓娟娟㆒。

【巏】8630

[一]ケン ゲン 〔集韻〕逵員切 [先]
[二]クワン 〔集韻〕古玩切 [翰]

[一][二]**山名**。巏務山。河北省唐山縣の北。〔集韻〕巏、巏務、山名、在㆓柏人城東北㆒。〔顏氏家訓、書證〕柏人城東北、有㆓一孤山㆒、云云、世俗或呼爲㆓宣務山㆒、或呼爲㆓虛無山㆒、云云、土有㆓巏務山㆒、王喬所㆑仙、方知㆓此巏務山㆒也。

【巏山先生】1（クワンザンセンセイ） 元、陳煥(11-41698‥189)の尊稱。

【巏嵍山人】2（クワンブサンジン） 清、王初桐(7-20823‥16

83)の號。

【⿱山屏】8631 テウ 〔集韻〕丑小切 篠

❶山のさま。〔集韻〕⿱山屏、山皃。❷氣息のさま。〔集韻〕⿱山屏、意氣息皃。

【巐】8632 フウ フ 〔集韻〕敷馮切 東

山名。〔集韻〕巐、山名。

【⿱山繒】8633 ソウ 〔字彙補〕資登切 蒸

山の高いさま。〔字彙補〕⿱山繒、山高貌。

【⿱山⿰金鬼】8634 イツ イチ 〔海篇〕以日切 質

山の高いさま。〔海篇〕⿱山⿰金鬼、山高貌。

十九畫

【⿱山雝】8635 シユウ 義未詳。〔川篇〕⿱山雝、音祟。

【巎】8636 ダウ 峱(4-8096)に同じ。〔玉篇〕巎、同ㇾ峱。

【⿱山羅】8637 ラ 〔集韻〕良何切 歌

山名。或は⿱山羅に作る。〔集韻〕⿱山羅、山名、或書作ㇾ羅。

【巑】8638 サン ザン 〔集韻〕徂丸切 寒

巑岏は、山のさま。巑岏を見よ。〔集韻〕巑、巑岏、山皃。

【巑岏】1 サングワン ❶高く鋭くそばだつた山。〔宋玉、高唐賦〕盤岸巑岏。〔注〕善曰、巑岏、鋭山也、云云、皆山之峻大貌。〔楚辭、劉向、九歎、憂苦〕登㆓巑岏㆒以長企兮、望㆓南郢㆒而闚ㇾ之。〔注〕巑岏、鋭山也。❷山のそばだち連なるさま。〔康熙字典〕巑、巑岏、山竦列貌。❸するどい。とがる。たかい。〔集韻〕岏、巑岏、山鋭皃。〔李頎、題㆓盧五舊居㆒詩〕巑岏枯柳宿㆓寒鴟㆒。

【巑崱】2 サンショク 山のけはしく連なるさま。〔劉峻、登㆓郁洲山㆒望ㇾ海詩〕層巒鬱巑崱。

【⿱山纍】8639 ライ 〔集韻〕魯猥切 賄

❶山名。⿱山畾(4-8590)に同じ。〔玉篇〕⿱山纍、山也、⿱山畾、同上。❷けはしい。⿱山絫(4-8446)に同じ。〔集韻〕⿱山絫、說文、辠也、或作ㇾ⿱山纍。

【巒】8640 ラン 〔集韻〕盧丸切 寒 ㄌㄨㄢˊ luan^2

小篆

❶小さくて鋭い山。〔說文〕巒、山小而鋭、从ㇾ山䜌聲。❷長くて狹い山。〔爾雅、釋山〕巒、山墮。〔注〕山形長狹者、荊州謂㆓之巒㆒。❸山のせ。みね。〔楚辭、王逸、九思、守志〕陟㆓玉巒㆒兮逍遙。〔注〕山背曰ㇾ巒。❹まるい峯。〔六書故〕巒、圜峰也。❺小山。〔楚辭、東方朔、七諫、自悲〕登㆓巒山㆒而遠望兮。〔注〕巒、小山也。❻山。〔史記、司馬相如傳〕諭以封ㇾ巒。〔注〕集解曰、巒、山也。〔張衡、西京賦〕陵ㇾ巒超ㇾ壑。〔注〕綜曰、巒、山也。❼やまなみ。つらなる山。〔正字通〕巒、聯山也、山迂回縣連曰ㇾ巒。

【巒阬】1 ランカウ 山坂をいふ。阬は大きな坂。〔揚雄、羽獵賦〕跐㆓巒阬㆒超㆓唐陂㆒。〔注〕善曰、音義曰、巒、山小而鋭、阬、大坂也。

【巒岡】2 ランカウ 山の峯。〔孫樵、出蜀賦〕包ㇾ溪懷ㇾ壑而爲ㇾ深兮、繚㆓巒岡㆒而四崇。

【巒丘】3 ランキウ 小山。〔張協、登㆓北邙㆒賦〕陟㆓巒丘之巃嵸㆒、升㆓逶迤之修阪㆒。

【巒居】4 ランキヨ 岡のやうに居る。〔何晏、景福殿賦〕岩嶤岑立、崔嵬巒居。

【巒巘】5 ランケン 山の峰。巘は峰。〔齋藤拙堂、下㆓岐蘇川㆒記〕兩崖巒巘、一時皆搖。

【巒山】6 ランザン 小さい山。こやま。〔楚辭、東方朔、七諫、自悲〕登㆓巒山㆒而遠望兮、好㆓桂樹之冬榮㆒。〔注〕巒、小山也。

【巒嶼】7 ランショ 山のある島。〔李嵎、涉ㇾ湖詩〕窈窕尋㆓灣漪㆒、迢遞望㆓巒嶼㆒。

【巒嵩】8 ランスウ 北齊、王峻(7-20823‥570)の字。

【巒稚】9 ランチ 山名。方丈山の別名。方丈(5-13620‥346)の❷㋑を見よ。〔拾遺記〕方丈山、一名㆓巒稚㆒。

【巒穉】10 ランチ 明、吳鍾巒(2-3365‥673)の字。

【巒兄弟】11 luan^2 hsiung^1 ti^4 妻の兄弟の稱。

【巒兄巒弟】12 luan^2 hsiung^1 luan^2 ti^4 妻の兄弟の稱。小山を巒といひ、妻の父を泰山といふより引伸していふ。

【⿱畾山】8641 ルイ 〔集韻〕魯水切 紙

山名。〔集韻〕⿱畾山、山海經、⿱畾山山、其上有ㇾ玉。

【⿱難山】8642 ダ ナ 〔集韻〕囊何切 歌

山名。或は⿰山那(4-8077)に作る。〔集韻〕⿱難山、山名、或作ㇾ⿰山那。

【⿰山蠆】8643 レイ 巁(4-8588)に同じ。〔正字通〕⿰山蠆、同ㇾ巁。

【巓】8644 テン 〔集韻〕多年切 先 ㄉㄧㄢ tien^1

❶いただき。㋑山頂。〔集韻〕巓、山頂也。〔詩、唐風、采苓〕首陽之巓。〔謝惠連、西陵詩〕縱ㇾ轡萬尋巓。㋺かしら。〔素問、五常政大論〕其動掉眩巓疾。〔注〕巓、上首也。❷下る。下す。〔太玄經、中〕巓靈氣形反。〔注〕巓、下也。❸おちる。おとす。〔楚辭、九章、惜誦〕行不ㇾ羣以巓越兮。〔注〕巓、殞也。❹顚(12-43628)に通ず。〔正字通〕巓、古皆借ㇾ顚、與㆓嶺作ㇾ領同。〔禮、玉藻、色容顚顚、釋文〕顚、字又作ㇾ巓。❺或は嵮(4-8362)に作る。〔集韻〕巓、或省。

【巓一】1 テンイツ 一様なこと。〔新書、勸學〕雖㆓王公大人㆒、孰能無㆓悇憚癢㆒心而巓一視ㇾ之。

【巓越】2 テンエツ おちる。巓は殞。越は墜。〔楚辭、九章、惜誦〕行不ㇾ羣以巓越兮。〔注〕巓、殞也、越、墜也。

【巓根】3 テンコン 山巓に生ずる根。〔馬融、長笛賦〕巓根跱之槷刖兮。〔注〕善曰、巓根、根生㆓於巓㆒也。

【巓疾】4 テンシツ きちがひ。一種の神經病。癲疾(7-22643‥6)に同じ。〔素問、奇病論〕帝曰、人生而有㆘病㆓巓疾㆒者㆖、病名曰ㇾ何、安所ㇾ得ㇾ之。〔注〕夫百病者、皆生㆓於風雨寒暑陰陽喜怒㆒也、然始生有ㇾ形、未ㇾ犯㆓邪氣㆒、已有㆓巓疾㆒、豈邪氣素傷邪、故問ㇾ之、巓謂㆓上巓㆒、則頭首也。

【巓墆】5 テンテイ 高いみね。墆は高いさま。〔論衡、超奇〕太山之巓墆、長狄之項跖、不ㇾ足㆓以喩㆒。

【巓倒】6 テンタウ 顚倒(12-43628‥28)に同じ。〔枚乘、七發〕魚鼈失ㇾ勢、巓倒偃側。

【巓巓】7 テンテン 專一なるさま。又、憂思のさま。又、おろかなさま。顚顚(12-43628‥38)を見よ。〔禮、玉藻〕色容顚顚。〔釋文〕顚、本作ㇾ巓。

【巓末】8（テンマツ） 顚末(**12**－**43628**‥55)に同じ。

【巓靈】9（テンレイ） 人の死をいふ。巓は人の形骸が地に下ること、靈は魂が天に登つて神となること。〔太玄經、中〕上九、巓靈氣形反。〔注〕巓、下也、死氣爲㆑魂、其形爲㆑魄、魂登㆓于天㆒、魄歸㆓于地㆒、故言㆑反也、登則爲㆑神、故謂㆓之靈㆒也。

【巓軨子】10（テンレイシ） 明、嚴啓隆(**2**－**4589**‥279)の「號。

【⿰山靡】8645 ビ ミ 〔集韻〕母被切 ［紙］

❶**山名**。〔集韻〕⿰山靡、山名。❷迤⿰山靡は、山のけはしいさま 〔王褒、洞簫賦〕倚巇迤⿰山靡、誠可㆑悲乎。〔注〕善曰、皆山險峻貌。

【⿱山厤】8646 レキ 歷(**6**－**16340**)の古字。〔集韻〕歷、古作㆑⿱山厤。

【⿱山⿸厂粦】8647 リン 〔龍龕手鑑〕力珍切 ［眞］

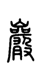
深い崕のさま。〔龍龕手鑑〕⿱山⿸厂粦、⿱山⿸厂粦⿱山⿸厂粦、深厓狀也。

【⿱山離】8648 リ 義未詳。〔龍龕手鑑〕⿱山離、音離、又音利。

二十畫

【巖】8649

［一］ガン ゲン 〔集韻〕魚銜切 ㄧㄢˊ yen^2 ［咸］
［二］ガン ゴン 〔集韻〕吾含切 ［覃］
［三］ゲン ゴン 〔集韻〕魚杴切 ［鹽］
［四］ギン ゴン 〔集韻〕魚音切 ［侵］


小篆

［一］❶**いは**。**いはほ**。礹(**8**－**24616**)に通ず。〔說文通訓定聲〕巖、叚借爲㆑礹。〔鮑照、登㆓廬山㆒詩〕千巖盛阻積。❷**がけ**。〔說文〕巖、厓也、从㆑山嚴聲。〔書、說命序〕得㆓之傅巖㆒。〔疏〕傅巖、山崖之名。〔揚雄、羽獵賦〕探㆑巖排㆑碕。〔注〕善曰、巖、岸側嶔巖之處也。❸**あな**。ほら。〔增韻〕巖、石窟曰㆑巖、深通曰㆑洞。〔楚辭、東方朔、七諫、哀命〕穴巖石而窟伏。〔注〕巖、穴也。❹**たかい**。〔廣雅、釋詁四〕巖、高也。❺**ふかい**。〔馬融、長笛賦〕峪⿱穴谷巖⿱穴復。〔注〕善曰、巖、深巖也、良曰、巖⿱穴復、山下深闇窟穴也。❻**けはしい**。〔集韻〕巖、一曰、險也。〔左氏、隱、元〕制、巖邑也。〔注〕恃㆓制巖險㆒而不㆑脩㆑德。〔班固、西都賦〕巖峻崷崒。〔注〕善曰、巖、險也。❼或は嚴(**2**－**4589**)・險(**11**－**41874**)に作る。〔集韻〕巖、或省、亦作㆑險。❽又、嵒(**4**－**8294**)・岩(**4**－**7985**)に作る。〔爾雅、釋山、注〕巉嵒、〔釋文〕嵒、本又作㆑巖。〔正字通〕岩、俗嵒字、巖、俗省作㆑岩。❾巗(**3**－**5626**)に同じ。〔說文通訓定聲〕巖、字亦作㆑巗。［二］**がけ**。〔集韻〕巖、山厓也。［三］❶嶔巖は、けはしい。〔集韻〕巖、嶔巖、險也。❷或は厰(**2**－**3019**)に作る。〔集韻〕巖、或省。［四］**みね**。崟(**4**－**8199**)に同じ。〔集韻〕崟、說文、山之岑崟也、亦作㆑巖。

［名乘］ ミチ。ミネ。

【巖阿】1（ガンア） 巖のくま。又、山谷の間。巖曲。巖隈。〔王粲、七哀詩〕山岡有㆓餘暎㆒、巖阿增㆓重陰㆒。〔注〕銑曰、巖曲本陰、今復日暮、是增㆓爲重陰㆒。〔潘岳、河陽縣作詩〕川氣冒㆓山嶺㆒、驚湍激㆓巖阿㆒。〔注〕良曰、巖阿、山曲也。〔晉書、隱逸傳贊〕養㆓粹巖阿㆒、銷㆓聲林曲㆒。

【巖靄】2（ガンアイ） 巖にたなびいたもや。〔張祜、華清宮和㆓杜舍人㆒詩〕莫草深㆓巖靄㆒、幽花墜㆓徑香㆒。

【巖狖】3（ガンイウ） 岩石の間に棲む猿。巖猿。〔許渾、韶州送㆓竇司直北歸㆒詩〕果隨㆓巖狖㆒落、槎帶㆓水禽㆒流。

【巖幽】4（ガンイウ） 巖のある物靜かな所。又、巖のもの靜かなこと。〔王勃、青苔賦〕繞㆓江曲之寒沙㆒、抱㆓巖幽之古石㆒。〔韓愈、雙鳥詩〕一鳥落㆓城市㆒、一鳥集㆓巖幽㆒。〔盧藏用、宋主簿鳴皐夢㆓趙六㆒云云貽㆓平昔遊舊㆒詩〕題㆑書滿㆓古壁㆒、採㆑藥遍㆓巖幽㆒。

【巖牖】5（ガンイウ） いはやのまど。〔唐太宗、山閣晚秋詩〕山亭秋色滿、巖牖涼風度。〔鄭愔、奉㆔和幸㆓上官昭容院㆒獻詩〕池棟淸㆓溫燠㆒、巖牖起㆓沍寒㆒。

【巖邑】6（ガンイフ） 四面を山に圍まれた邑。要害堅固な城邑。〔左氏、隱、元〕公曰、制、巖邑也。〔會箋〕爾雅釋山、巖巉巖、山貌也、成皐四面皆山、故曰㆓巖邑㆒。〔庾信、周大將軍襄城公鄭偉墓誌銘〕國有㆓巖邑㆒、朝多㆓君子㆒。

【巖隱】7（ガンイン） 巖のかげ。いはかげ。〔新論、愼獨〕荃蓀孤植、不㆘以㆓巖隱㆒而歇㆗其芳㆖。〔宋書、符瑞志上〕巖隱不㆑見、唯應㆑見㆓谷殖禾㆒、谷邊則聖諱炳明也。〔韋應物、和㆘吳舍人早春歸㆓沐西亭㆒言㆖志詩〕卽事同㆓巖隱㆒、聖渥良難㆑違。

【巖雨】8（ガンウ） 巖にふる雨。〔陳子昂、萬州曉發云云詩〕空濛巖雨霽、爛漫曉雲歸。〔李益、華山南廟詩〕巖雨神降時、回飈入㆓松柏㆒。

【巖雲】9（ガンウン） 巖にかかつた雲。〔戴叔倫、山居卽事詩〕巖雲掩㆓竹扉㆒、去鳥帶㆓餘暉㆒。

【巖楹】10（ガンエイ） 巖のはしら。〔王勃、餞㆓崔使君㆒序〕巖楹左峙、俯映㆓玄潭㆒、野徑斜開、旁連㆓翠渚㆒。

【巖影】11（ガンエイ） 巖のかげ。〔張喬、經㆓宣城元員外山居㆒詩〕澗荒巖影在、橋斷樹陰閑。〔徐鉉、九日落星山登高詩〕巖影晚看㆓雲出㆑岫、湖光遙見㆓客垂㆑綸。

【巖窈】12（ガンエウ） 巖や山の奧深い所。巖底。巖窔。〔盧照鄰、七日登㆓樂遊故墓㆒詩〕蘭遊澹未㆑歸、傾光下㆓巖窈㆒。

【巖窔】13（ガンエウ） 巖窈に同じ。〔司馬相如、上林賦〕累臺增成、巖窔洞房。〔注〕善曰、郭璞曰、言㆘於㆓巖窔底㆒爲㆑室、潛通㆗臺上㆖也。〔揚雄、甘泉賦〕雷鬱㆓律於巖窔㆒兮、電儵㆓忽於牆藩㆒。〔注〕翰曰、巖窔、山之深處也。

【巖樾】14（ガンエツ） 巖上の樹蔭。〔何據、射㆓楊葉㆒百中賦〕鴈倂㆓落於雲霄㆒、猨洞㆓叫於巖樾㆒。

【巖煙】15（ガンエン） 巖にかかつた霧やもや。〔吳筠、竹賦〕蓄㆓水霧之沉沉㆒、搖㆓巖煙之漠漠㆒。〔唐太宗、望㆓終南山㆒詩〕出㆑紅扶㆓嶺日㆒、入㆑翠貯㆓巖煙㆒。〔李正封、夏遊㆓招隱寺㆒暴雨晚晴詩〕鶴去巖煙碧、鹿鳴澗草香。

【巖鹽】16（ガンエン） 地中から產出するしほ。海鹽と區別していふ。岩鹽・石鹽・山鹽。

【巖猿】17（ガンエン） 石窟に棲む猿。巖狖。〔宋史、种放傳〕病居㆓山林㆒、天恩累加㆓禮聘㆒、巖猿溪鳥之性、固不㆘敢以㆓祿仕㆒爲㆖意。

【巖屋】18（ガンヲク） 岩屋。〔宋史、韓世忠傳〕世忠窮追至㆓睦州淸溪峒㆒、賊深據㆓巖屋㆒、爲㆓三窟㆒。

【巖下】19（ガンカ） 巖の下。〔謝靈運、從㆓斤竹澗㆒越㆑嶺溪行詩〕巖下雲方合、花上露猶泫。〔梁元帝、玄覽賦〕噴㆓飛泉於天末㆒、鼓㆓雷霆於巖下㆒。〔資治通鑑、周紀〕（赧王三十六年）左右顧無㆑人、巖下有㆓貫珠者㆒。〔注〕巖下、殿巖之下也。

【巖下電】20（ガンカノデン） 晉の王戎の眼光がするどいのを裴楷が稱した語。巖下は幽暗な所であるから、そこに發する電光は特に明るくするどい。一說に、王戎の額が高かつたので、額を巖に擬していふといふ。巖電。〔晉書、王戎傳〕戎幼而穎悟、神彩秀徹、視㆑日不㆑眩、裴楷見而目㆑之曰、戎眼爛爛、如㆓巖下電㆒。〔蒙求、上、王戎簡要、箋注〕巖下幽暗、電光殊明、一說、王戎隆顙、故曰㆓巖下㆒。

【巖下放言】21（ガンカハウゲン） 書名。三卷。宋、葉夢得撰。晚年致仕後の作で、佛老の旨を述ぶる所多く、見聞廣く記錄賅洽である。〔四庫提要、子、雜家類〕。

【巖罅】22（ガンカ） 巖の裂け目。〔皮日休、追㆓和虎丘寺淸遠道士㆒詩〕巖罅地中心、海光天一半。〔皮日休、茶塢詩〕石窪泉似㆑掬、巖罅雲如㆑縷。

【巖海】23（ガンカイ） 巖のそばだつた海。〔陶弘景、眞靈位業圖序〕夫仰鏡㆓玄精㆒、覩㆓景耀之巨細㆒、俯盼㆓平區㆒、見㆓巖海之崇深㆒。

【巖崖】24（ガンガイ） 巖の切り立つたがけ。けはしいがけ。巖崿。〔徐陵、在㆓北齊㆒與㆓宗室㆒書〕夫迷山之客、遲㆓遙響於巖崖㆒、窮海之賓、望㆓孤煙於洲嶼㆒。〔圖繪寶鑑〕雍巘善㆓山水㆒、作㆓巖崖・枯木・雲氣・

墨梅㆒尤佳。

【巖岡】25（ガンカウ） けはしい岡。〔左思、魏都賦〕巖岡潭淵、限㆑蠻隔㆑夷、峻危之竅也。

【巖耕】26（ガンカウ） 岩石の下で耕作する。〔顏延之、車駕幸㆓京口㆒侍㆓遊蒜山㆒作詩〕空食疲㆓廊肆㆒、反㆑稅事㆓巖耕㆒。〔注〕翰曰、耕㆓巖石之下㆒。〔宋之問、陸渾山莊詩〕歸來物外情、負㆑杖閱㆓巖耕㆒。

【巖嶅】27（ガンガウ） 高い山。又、山の高いさま。〔木華、海賦〕戛㆓巖嶅㆒、偃㆓高濤㆒、茹㆓鱗甲㆒、呑㆓龍舟㆒。〔李白、鳴皐歌送㆓岑徵君㆒〕挂㆓星辰於巖嶅㆒、送㆓君之歸㆒兮。

【巖角】28（ガンカク） 岩のかど。いはかど。〔齋藤拙堂、下㆓岐蘇川㆒記〕舟人笑捩㆑柁避㆑之、輒掠㆓巖角㆒過。

【巖客】29（ガンカク） 木犀（**6－14415**・・266）の異名。巖桂。〔西溪叢話、上〕木犀爲㆓巖客㆒。

【巖崿】30（ガンガク） けはしい崖。巖崖。〔武三思、宴㆓龍泓㆒詩〕巖崿縈紆上、澄潭屈曲流。〔白居易、遊㆓悟眞寺㆒詩〕巖崿無㆓撮土㆒、樹木多㆓瘦堅㆒。

【巖壑】31（ガンガク） ❶巖と谷。又、石窟。いはや。〔宋書、隱逸傳論〕巖壑閑遠、水石清華。〔謝靈運、酬㆓從弟惠連㆒詩〕巖壑寓㆓耳目㆒、歡愛隔㆓音容㆒。〔韋應物、寄㆓皎然上人㆒詩〕鳴鐘驚㆓巖壑㆒、焚香滿㆓空虛㆒。❷宋、朱敦儒（**6－14424**・・953）の號。

【巖峽】32（ガンカフ／ガンケフ） 巖のそばだつた谷。〔艮嶽記〕巖峽洞穴、亭閣樓觀、喬木茂草、或高或下。

【巖閒】33（ガンカン） いはま。巖と巖との閒。〔宋書、符瑞志下〕南康雩都嵩山有㆓金雞青黃色㆒、飛集㆓巖閒㆒。〔張喬、華山詩〕儻有㆓芝田種㆒、巖閒老㆓一夫㆒。

【巖岸】34（ガンガン） 巖の岸。〔博物志、雜說下〕體殊輕便、能登㆓巖岸㆒、經㆓數年㆒後、竦㆑身舉㆑臂、遂超㆓山澗上㆒。

【巖巖】35（ガンガン） ❶石の積み重なつて高いさま。〔詩、小雅、節南山〕節彼南山、維石巖巖。〔傳〕巖巖、積石貌。〔史記、鄒陽傳〕士伏㆓死堀穴巖巖之中㆒耳。❷山の高く險しいさま。〔詩、魯頌、閟宮〕泰山巖巖、魯邦所㆑詹。〔疏〕言㆓泰山之高巖巖然、魯之邦境所㆑至也。〔司馬相如、哀㆓秦二世㆒賦〕巖巖深山之谾谾兮。〔潘岳、懷舊賦〕巖巖雙表、列列行楸。〔注〕向曰、巖巖、高貌。❸宮殿などの高いさま。〔左思、魏都賦〕巖巖北闕、南端攸㆑遵。〔注〕翰曰、巖巖、高也。

〖巖巖清峙壁立千仭〗36（ガンガンセイヂヘキリツセンジン） 岩石の清く高く切りたつたさま。轉じて、人品が高潔で、衆中に傑出した喩。〔晉書、王衍傳〕王敦過㆑江常稱㆑之曰、夷甫處㆓衆中㆒、如㆔珠玉在㆓瓦石閒㆒、顧愷之作㆓畫贊㆒、亦稱㆓衍巖巖清峙、壁立千仭㆒。

【巖起】37（ガンキ） 宋、余良弼（**1－515**・・131）の字。

【巖巍】38（ガンギ） 巖の高くそびえたさま。〔李華、含元殿賦〕崪㆓修邃㆒以窅徹、悅㆓業駿㆒而巖巍。

【巖羌】39（ガンキヤウ） 石窟に住むえびす。〔庾信、周柱國大將軍紇干弘神道碑〕渾王叛換、梗㆓我西疆㆒、巖羌首竄、藩籬攜貳。

【巖疆】40（ガンキヤウ） 要害の邊疆。〔長生殿、偵報〕出守㆓巖疆㆒、典㆓鉅城㆒。〔歷朝詔敕錄、明治天皇酬㆓有功㆒敕語〕建㆓節巖疆㆒、宣㆓威遠方㆒。

【巖居】41（ガンキヨ） 山巖の閒に隱居すること。巖處。〔韓非子、詭使〕如㆑此則士之飢餓乏絕者、焉得㆑無㆔巖居苦㆑身、以爭㆓名於天下㆒哉。〔淮南子、人閒訓〕巖居谷飮、不㆑衣㆓絲麻㆒。

〖巖居穴處〗42（ガンキヨケツシヨ） 巖穴に住居する。世を離れて隱居すること。〔韓詩外傳、五〕巖居穴處、而王侯不㆑能㆓與爭㆑名。〔白虎通、號〕故黃金棄㆓於山㆒、珠玉捐㆓於淵㆒、巖居穴處、衣㆓皮毛㆒、飮㆓泉液㆒、吮㆓露英㆒。〔四皓、採芝操〕巖居穴處、以爲㆓幄茵㆒、曄曄紫芝、可㆓以療㆑饑。

〖巖居水飮〗43（ガンキヨスイイン） 岩穴に住み、水を飮んで暮す。〔莊子、達生〕魯有㆓單豹者㆒、巖居而水飮。

〖巖居川觀〗44（ガンキヨセンクワン） 岩穴に住み、川の流を見て心しづかにくらす。世を離れて悠々自適するさま。〔史記、蔡澤傳〕君何不㆘以㆓此時㆒歸㆓相印㆒、讓㆓賢者㆒而授㆑之、退而巖居川觀㆖。〔王安石、次韻酬㆓朱昌叔㆒詩〕巖居川觀更何憂。

【巖曲】45（ガンキヨク） 巖のくま。又、山谷の閒。巖阿。〔沈約、鍾山詩應㆓西陽王教㆒〕八解鳴㆓澗流㆒、四禪隱㆓巖曲㆒。〔劉禹錫、月窟詩〕巖曲月斜照、林寒春晚煦。

【巖唫】46（ガンギン） 險しく危いさま。又、そのところ。唫は崟で、高くけはしいさま。〔穀梁、僖、三十三〕女死必於㆓殽之巖唫之下㆒。〔注〕其處險隘、一人可㆔以要㆓百人㆒。〔釋文〕唫、本作㆑崟、音吟。一音欽。

【巖禽】47（ガンキン） 巖にすくふ鳥。〔方干、題㆓碧溪山禪老㆒詩〕竹狖窺㆓沙井㆒、巖禽停㆓檜枝㆒。

【巖嶇】48（ガンク） 巖のけはしいさま。〔宋玉、高唐賦〕磐石險峻傾崎崖隤、巖嶇參差縱橫相追。

【巖窟】49（ガンクツ） いはや。〔鄭惟忠、古石賦〕顚㆓墜坑穽㆒、枕㆓倚巖窟㆒。〔白居易、歲暮言㆑懷詩〕只合㆑居㆓巖窟㆒、何因入㆓府門㆒。

【巖果】50（ガンクワ） 巖のあたりに實つている果實。〔杜荀鶴、題㆓仇處士郊居㆒詩〕閑敲㆓巖果㆒呼㆑猿接、時釣㆓溪魚㆒引㆑鶴爭。

【巖花】51（ガンクワ） 巖にさく花。〔宋之問、初至㆓崖口㆒詩〕水禽泛容與、巖花飛的皪。〔李乂、春日侍㆓宴芙蓉園㆒應制詩〕澗篠緣峰合、巖花逗浦飛。

【巖光】52（ガンクワウ） 巖にさす光。〔韋應物、晚坐㆓西齋㆒詩〕柳意不㆑勝㆑春、巖光已知㆑曙。〔李商隱、寄㆓安國大師㆒詩〕巖光分㆓蠟屐㆒、澗響入㆓銅鉼㆒。

【巖關】53（ガンクワン） 關の名。安徽省涇縣の東、蕪から徽に入る通道にある。山高く、形勢險要で、東晉の蘇峻の亂に、内史桓彝が兵を起して敵を追ひ、附近の嶺下に至つた時、馬から墜ちて足を傷けた處。後人、其の功を追念して破脚嶺といふ。

【巖形】54（ガンケイ） 巖の形。〔皮日休、二遊、任詩〕地勢似㆓五瀉㆒、巖形若㆓三峽㆒。

【巖扃】55（ガンケイ） 巖石に依つて作つた戸。巖戸。巖扉。〔杜甫、橋陵詩〕瑞芝産㆓廟柱㆒、好鳥鳴㆓巖扃㆒。〔白居易、夢㆑仙詩〕祕㆑之不㆓敢泄㆒、誓㆑志居㆓巖扃㆒。

【巖徑】56（ガンケイ） いはみち。〔柳宗元、邕州馬退山茅亭記〕巖徑蕭條、登探者以爲㆑歎。〔張九齡、與㆓生公㆒尋㆓幽居處㆒詩〕及㆑此雲山去、窅然巖徑好。

【巖桂】57（ガンケイ） 木犀（**6－14415**・・266）の異名。巖客。〔唐高宗、九月九日詩〕砌蘭虧㆓半影㆒、巖桂發㆓全香㆒。

【巖卿】58（ガンケイ） 宋、張傳（**4－9812**・・645）の字。

【巖景】59（ガンケイ） 巖のありさま。〔盧照鄰、至㆓陳倉㆒曉晴望㆓京邑㆒詩〕澗流飄㆓素沫㆒、巖景靄㆓朱光㆒。〔項斯、送㆔顧非熊及第歸㆓茅山㆒詩〕湖光愁裏碧、巖景夢中寒。

【巖谿】60（ガンケイ） 岩と谷。又、岩の谷。巖谷。〔徐陵、東陽雙林寺傳大士碑〕昔巖谿蘊㆑德、渭浦呈㆑祥、天賜㆓殷宗㆒、誕興㆓元相㆒。〔岑參、虢州郡齋南池幽興因與㆓閻二侍御㆒道別詩〕性本愛㆓魚鳥㆒、未㆔能返㆓巖谿㆒。

【巖嶠】61（ガンケウ） 巖が鋭く高い。〔戴叔倫、聽㆓霜鐘㆒詩〕髣髴煙嵐隔、依稀巖嶠重。

【巖徼】62（ガンケウ） 邊境にある險要なとりで。徼は國境の邊塞。〔謝朓、和㆔蕭中庶直㆓石頭㆒詩〕皇州總㆓地德㆒、回江款㆓巖徼㆒。〔孔武仲、宿㆓天池㆒詩〕遙看天池路、一線在㆓巖徼㆒。

【巖隙】63（ガンゲキ） 巖のすきま。〔楊載、題㆓趙千里山水扇面㆒歌〕旁有㆔飛泉出㆓巖隙㆒、掣電飛霜相盪激。

【巖穴】64（ガンケツ） ❶いはあな。轉じて、世閒を離れた處。〔莊子、山木〕夫豐狐文豹、棲㆓於山林㆒、伏㆓於巖穴㆒、靜也。〔漢書、鮑宣傳〕陛下擢㆓臣巖穴㆒。〔漢書、司馬遷傳〕身直爲㆓閨閤之臣㆒、寧得㆔自引深藏㆓於巖穴㆒邪。〔左思、招隱詩〕巖穴無㆓結構㆒。❷巖穴之士をいふ。〔後漢書、章帝紀〕以㆓巖穴㆒爲㆑先、勿㆑取㆓浮華㆒。

〖巖穴隱者〗65（ガンケツノインジヤ） いはあなに隱遁した賢者。巖穴之士に同じ。〔史記、信陵君傳贊〕信陵君之接㆓巖穴隱者㆒、不㆑恥㆓下交㆒、有㆑以也。

〖巖穴之士〗66（ガンケツノシ） いはあなに隱れて世をしのぶ人。心を潔白にして世塵に染まない人。巖岫士。〔韓非子、外儲說左上〕李疵對曰、其君好㆑見㆓巖穴之士㆒、所㆔傾㆑蓋與㆑車、以見㆓窮閭隘巷之士㆒、以㆑十數、伉禮下㆓布衣之士㆒、以㆑百數矣。〔史記、伯夷傳〕巖穴之士、趨舍有㆑時。〔司馬遷、報㆓任少卿㆒書〕招㆑賢進㆑能、顯㆓巖穴之士㆒。

〖巖穴之俊〗67（ガンケツノシユン） 隱退者の優れた人。〔孫綽、丞相王導碑文〕夷㆑心以延㆓白屋之士㆒、虛㆑己以招㆓巖穴之俊㆒。

【巖軒】68（ガンケン） 岩を穿つて造つた居所。岩屋。〔武平一、奉㆔和幸㆓新豐溫泉宮㆒應制詩〕參差開㆓水殿㆒、窈窱敞㆓巖軒㆒。〔盧照鄰、懷仙引〕披㆓澗戸㆒訪㆓巖軒㆒。

【巖險】69（ガンケン） けはしい處。要害の地。〔張衡、東京賦〕何云㆔巖險與㆓襟帶㆒。〔謝朓、和㆔伏武昌登㆓孫權故城㆒詩〕襟帶窮㆓巖險㆒。

【巖峿】70（ガンゴ） 巖のけはしいこと。〔趙冬曦、和㆔燕

公別㆓澭湖㆒詩〕灣澳陪㆓臨泛㆒、巖峿共㆓踐窺㆒。

【巖口】71 いはやぐち。石窟の入口。〔沈佺期、入㆓少密溪㆒詩〕人家更在㆓深巖口㆒、澗水周流㆓宅前後㆒。〔陶翰、宿㆓天竺寺㆒詩〕松柏亂㆓巖口㆒、山西微㆓徑通㆒。

【巖谷】72 巖と谷。又、巖の谷。巖谿。〔素問、六元正紀大論〕土鬱之發、巖谷震驚。〔後漢書、南蠻西南夷傳論〕蠻夷雖㆑附㆓阻巖谷㆒、而類有㆓土居㆒、連㆓涉荆交之區㆒、布㆓護巴庸之外㆒、不㆑可㆓量極㆒。〔朱桃椎、茅茨賦〕散㆓誕池臺之上㆒、逍㆓遙巖谷之間㆒。〔王維、韋侍郎山居詩〕閑花滿㆓巖谷㆒、瀑水映㆓杉松㆒。

【巖根】73 岩石のねもと。いはね。〔皮日休、憶㆓洞庭湖觀步㆒詩〕巖根瘦似㆑殼、杉破腹如㆑腔。

【巖際】74 巖のきは。巖のほとり。〔水經、河水注〕魏土地記曰、梁山北有㆓龍門山㆒、大禹所㆓鑿通㆒、孟津河口、廣八十步、巖際鐫㆑跡、遺功尚存。〔杜甫、宿㆓江邊閣㆒詩〕薄雲巖際宿、孤月浪中翻。

【巖霞】75 巖に降る霞。〔孟郊、奉㆓報翰林張舍人㆒詩〕巖霞不㆑知㆑午、磵澌鎭含㆑曛。

【巖山】76 山名。❶河北省灤縣の南。其の狀、虎の踞まるやうで、東は絕壁で洞穴が多く、上に巖山塔がある。〔讀史方輿紀要、直隸、永平府、灤州、橫山〕巖山、在㆓州南五里㆒、狀如㆓虎踞㆒、其東絕壁百仞、有㆓洞十有八㆒、其三洞最大而深、在㆓絕壁間㆒、攀緣莫㆓上下㆒、有㆓石橋一㆒、郡水口也。❷江蘇省江寧縣。觀音幕府の群山の總稱。江濱に屹立して巖洞多く、世に巖山十二洞と稱す。內に吳道子の石刻の觀音像及び觀音泉がある。一名、秣陵龍山、又、龍山。〔宋書、符瑞志中〕元嘉二十五年十一月乙未、甘露降㆓丹陽秣陵巖山㆒。〔太平寰宇記〕巖山、宋孝武改曰㆓龍山㆒。

【巖枝】77 巖上に生えてゐる樹の枝。〔盧照鄰、山林休日田家詩〕徑草疏㆓王篲㆒、巖枝落㆓帝桑㆒。

【巖笥】78 岩石で造つたはこ。〔王融、鈔㆓衆書㆒應㆓司徒教㆒詩〕巖笥發㆓仙華㆒、金縢開㆓碧篆㆒。

【巖寺】79 岩石の上に建てた寺。〔張喬、送㆓新羅僧㆒詩〕把㆑錫離㆓巖寺㆒、收㆑經上㆓海船㆒。

【巖州】80 州の名。❶唐、置く。安樂郡ともいひ。又、常樂郡と改む。今、廣西省境。❷唐、置く。高麗の白崖城。故城は滿洲遼寧省遼陽縣の東北。〔讀史方輿紀要、山東、遼東都指揮使司、瀋陽中衞〕白巖城、在㆓衞西㆒、高麗所㆑置城也、唐貞觀十八年、克㆓遼東城㆒、進㆓軍白巖城㆒克㆑之、改置㆓巖州㆒。❸唐、置く。今、四川省松潘縣の西北。

【巖岫】81 巖のほらあな。〔素問、六元正紀大論〕松吟㆓高山㆒、虎嘯㆓巖岫㆒。〔嵇康、幽憤詩〕采㆓薇山阿㆒、散㆓髮巖岫㆒。〔蘇頲、侍㆓宴安樂公主山莊㆒應制詩〕霧灑㆓旌旗㆒雲外出、風回㆓巖岫㆒雨中移。

【巖岫士】82 巖穴之士(66)に同じ。〔閭丘沖、招隱詩〕嗟哉巖岫士、歸來從㆑所㆑欽。

【巖獸】83 石窟に棲むけもの。〔孫樵、龍多山錄〕山禽巖獸、捷翔牙鷲。

【巖室】84 岩むろ。〔謝靈運、山居賦〕陵㆓名山㆒而屢憩、過㆓巖室㆒而披㆑情。

【巖榭】85 巖上に建てたうてな。榭は屋宇ある臺。〔陳子昂、于㆓長史山池㆒三日曲水詩〕巖榭風光媚、郊園春樹平。〔李益、春日晉祠同聲會集云云詩〕水亭開㆓帟幕㆒、巖榭引㆓簪裾㆒。

【巖嶂】86 巖から成る峰。けはしい峰。〔水經、穀水注〕巖嶂峻嶮。〔李羣玉、長沙陪㆓裴太夫㆒登㆓北樓㆒詩〕巖嶂隨㆓高步㆒、琴尊奉㆓勝遊㆒。

【巖障】87 巖から成る障壁。〔水經、鮑丘水注〕水出㆓伏凌山㆒、山高峻、巖障寒深、陰崖積雪、凝冰夏結。〔南齊書、州郡志上〕夷獠叢居、隱㆓伏巖障㆒、寇盜不㆑賓、略無㆓編戶㆒。

【巖牆】88 高くて危い牆壁。〔傅亮、演愼論〕冰炭滌㆓於胷心㆒、巖牆絕㆓於四體㆒。

【巖牆之下】89 將にくづれようとする高い石垣の下。危險な場所の喩。〔孟子、盡心上〕是故知㆑命者、不㆑立㆓乎巖牆之下㆒。〔注〕不㆑立㆓巖牆之下㆒、恐㆓壓覆㆒也。〔集注〕巖牆、牆之將㆑覆者。〔法言、問明〕若㆑立㆓巖牆之下㆒、動而徵㆑病、行而招㆑死、命乎命乎。

【巖上】90 巖の上。〔陶弘景、尋㆑山詩〕散㆑髮解㆑帶、盤㆓旋巖上㆒。〔韓愈、合江亭詩〕願書㆓巖上石㆒、勿㆑使㆓泥塵浼㆒。

【巖樹】91 巖上に生えた樹。巖木。〔何遜、渡㆓連圻㆒詩〕石蒲生㆓促節㆒、巖樹落㆓高花㆒。〔白居易、早冬遊㆓王屋㆒云云詩〕石泉碧漾漾、巖樹紅離離。〔李紳、寒林寺詩〕巖樹桂花開㆓月殿㆒、石樓風鐸繞㆓金仙㆒。

【巖峻】92 巖のけはしいさま。〔班固、西都賦〕巖峻崷崒、金石崢嶸。

【巖處】93 世を遁れて岩屋に住む。巖居。〔史記、貨殖傳〕無㆓巖處奇士之行㆒、而長貧賤、好語㆓仁義㆒、亦足㆑羞也。

【巖嶼】94 巖から成る島。〔馬祖常、春雲詩〕嵐翠含㆓玉暉㆒、景采滿㆓巖嶼㆒。

【巖如】95 清、堵霞(3－5279・・3)の號。

【巖飾】96 石窟のかざり。〔梁簡文帝、爲㆑人作㆓造寺㆒疏〕巖飾之理難㆑階、瓶鉢之資已罄。

【巖水】97 巖の間から出る水。〔杜荀鶴、春日山中對㆑雪有㆑作詩〕嶺梅謝後重粧㆑蘂、巖水鋪來卻結㆑冰。

【巖栖】98 巖棲に同じ。〔宋之問、入㆓瀧州江㆒詩〕余本巖栖客、悠哉慕㆓玉京㆒。〔杜甫、贈㆓特進汝陽王㆒詩〕瓢飲唯㆓三徑、巖栖異㆓一膝㆒。

【巖棲】99 岩屋の中に住む。轉じて、世を離れて隱居すること。巖栖。〔禽經〕山鳥巖棲、原鳥地處。〔謝靈運、山居賦序〕古、巢居穴處曰㆓巖棲㆒。

【巖棲人】100 石窟の間に住む人。山國の人。〔佐藤一齋、日光山行記〕余笑曰、巖棲人、狎㆑視㆓名山㆒、不㆑知㆓其美㆒。

【巖棲伴】101 石窟に棲む隱者のなかま。〔韋莊、贈㆓薛秀才㆒詩〕欲㆑結㆓巖棲伴㆒、何山好㆓薜蘿㆒。

【巖聲】102 巖から發する聲。〔蘇頲、奉㆑和㆘聖製登㆓驪山高頂㆒寓目㆖應制詩〕巖聲中谷應、天語半空聞。

【巖石】103 いは。いはほ。岩石。〔史記、高祖紀〕山澤巖石之閒。〔法言、問神〕耕㆓乎巖石之下㆒、名震㆓于京師㆒。〔宋書、樂志三〕阿母生㆓烏子㆒之時、乃在㆓南山巖石閒㆒。

【巖雪】104 巖に積つた雪。〔席豫、奉㆔和聖制送㆓張說巡㆑邊詩〕春冬見㆓巖雪㆒、朝夕候㆓烽煙㆒。〔陳乘、游㆓九里湖㆒詩〕洞莓黏㆑屐重、巖雪濺㆑衣輕。

【巖川】105 早崎勝任の號。早崎巖川(5－13742・・182)を見よ。

【巖泉】106 巖の間から出る水。岩淸水。〔周明帝、贈㆓韋居士㆒詩〕巖松千仞直、巖泉百丈飛。〔陳子昂、酬㆓暉上人夏日林泉㆒詩〕巖泉萬丈流、樹石千年古。

【巖前】107 ❶巖の前。〔崔日知、奉㆔酬韋祭酒偶遊㆓龍門北谿㆒云云詩〕巖前窺㆓石鏡㆒、河畔踏㆓芳茵㆒。❷鎭の名。安徽省太平縣の西南。南は黟縣の界に接し、北は石埭縣に通ず。地はもと徽・池二府の衝に當る。明代、宏潭巡司を移して此に駐在せしめた。〔宋史、兵志六、南劍州八砦、注〕滄峽・洛陽・浮流・巖前・同巡・仁壽・萬安・黃土。

【巖蟬】108 巖に鳴く蟬。〔沈約、棲㆓禪精舍㆒銘〕八翮㆓海鶴㆒、九噪㆓巖蟬㆒。

【巖阻】109 けはしい所。〔蜀志、諸葛亮傳〕若跨㆓有荆益㆒、保㆓其巖阻㆒。

【巖叟】110 宋、何夢桂(1－511・・369)の字。

【巖僧】111 石窟に住んでゐる僧。〔杜荀鶴、題㆓江山寺㆒詩〕沙鳥多翹㆑足、巖僧半露㆑肩。

【巖層】112 かさなつた巖。〔水經、河水注〕其山巖層岫衍、澗曲崖深、巨石崇竦、壁立千仞。

【巖藪】113 巖と藪澤。藪は澤の水のないもの。〔漢書、鄒陽傳〕士有㆔伏㆓死堀穴巖藪之中㆒耳。〔注〕師古曰、堀、與㆑窟同、澤無㆑水曰㆑藪。〔蔡邕、陳太丘碑文〕巖藪知㆑名、失㆑聲揮㆑涕。

【巖足】114 巖のふもと。巖麓。〔陳子昂、同㆘參軍宋之問夢㆓趙六㆒贈㆗盧陳二子㆖詩〕晩霽望㆓崧岳㆒、白雲半㆓巖足㆒。

【巖側】115 ❶巖のそば。〔陸機、苦寒行〕陰雲興㆓巖側㆒、悲風鳴㆓樹端㆒。❷巖のそばだつた處。〔成公綏、嘯賦〕游㆓崇岡㆒、陵㆓景山㆒、臨㆓巖側㆒、望㆓流川㆒。

【巖陁】116 傾きそばだつさま。〔司馬相如、上林賦〕巖陁甗錡、摧崣崛崎。〔注〕向曰、巖陁甗錡、傾欹貌。

【巖堂】117 いはや。〔水經、河水注〕巖堂之內、每時見㆓神人往還㆒矣。〔皮日休、包山祠詩〕白雲最深處、像設盈㆓巖堂㆒。

【巖澤】118 巖と澤。〔宋書、周續之傳〕性之所㆑

遺、榮華與二饑寒一俱落、情之所レ慕、巖澤與二琴書一共遠。〔鮑照、征二北世子誕育一上表〕雲光麗輝、巖澤昭罙。

【巖端】119ガンタン 巖のはし。〔皇甫曾、遇二風雨一詩〕陰雲擁二巖端一、霑雨當二山腹一。〔劉禹錫、飛練瀑詩〕晶晶擲二巖端一、潔光如レ可レ把。

【巖灘】120ガンタン 巖の間を流れるはやせ。〔王僧孺、與二陳居士一書〕靜睇二巖灘一、信二子陵之非一レ遠。

【巖壇】121ガンダン 巖石の上に造つた壇。又、巖で出來た壇。〔張說、遊二洞庭湖湘一詩〕巖壇有二鶴過一、壁字無二人識一。

【巖坻】122ガンチ 巖の岸。〔木華、海賦〕巖坻之隈、沙石之嶔。〔注〕善曰、郭璞上林賦注曰、坻、岸也。

【巖築】123ガンチク 牆垣や城壁を築く工事。版築。〔後漢書、郅惲傳〕昔文王拔二呂尙於渭濱一、高宗禮二傅說於巖築一、桓公取二管仲於射鉤一、故能立二弘烈一、就二元勳一。

【巖頂】124ガンチヤウ 巖のいただき。〔則天武后、遊二九龍潭一詩〕巖頂翔二雙鳳一、潭心倒二九龍一。

【巖中】125ガンチユウ 石窟の中。〔後漢書、逸民傳序〕旌帛蒲車之所二徵賁一、相二望於巖中一矣。

【巖底】126ガンテイ 巖石の切り立つてゐる底。〔蘇軾、二十七日自二陽平一至二斜谷一宿二於南山中蟠龍寺一詩〕寺藏二巖底一千萬仞、路轉二山腰一三百曲。

【巖庭】127ガンテイ 巖から成つた庭。〔宋孝武帝、遊二覆舟山一詩〕川界泳二游鱗一、巖庭響二鳴鶴一。

【巖艇】128ガンテイ 明、如曉(**3**−**6060**··49)の室名。

【巖鳥】129ガンテウ 巖に巣くふ鳥。〔白居易、秋霖中過二尹縱之仙遊山居一詩〕巖鳥共二旅宿一、草蟲伴二愁吟一。

【巖疊】130ガンデフ 馬がすぐれて強健なこと。又、丈夫・堅固・達者などの意。岩乘(**4**−**7985**··16)を見よ。

【巖篆】131ガンテン 巖に刻した篆書。〔李嶠、大周降禪碑〕山鶼海鯨、石銘巖篆之符、候月搖風、連葉駢柯之祉。

【巖巓】132ガンテン 巖のいただき。〔白居易、遊二悟眞寺一詩〕誰知中有レ路、盤折通二巖巓一。

【巖殿】133ガンデン 巖上に造つた宮殿。〔揭傒斯、送三華尊師奉レ詔祀二武當一詩〕金芝產二齊房一、矞雲冠二巖殿一。

【巖電】134ガンデン 眼光のするどいさま。巖下電(20)を見よ。〔晉書、王戎傳〕戎幼而穎悟、神彩秀徹、視レ日不レ眩、裴楷見而目レ之曰、戎眼爛爛、如二巖下電一。〔史子玉、枸杞賦〕至下於瑩二秋水之神一、而爛中巖電之光上。

【巖隥】135ガントウ 巖の阪。巖磴。〔顏延之、三月三日曲水詩序〕左關二巖隥一、右梁二潮源一。〔注〕銑曰、隥、阪也。

【巖頭】136ガントウ 巖のほとり。巖の上。〔方干、再題二龍泉寺上方一詩〕路盤砌下兼二穿竹一、井在二巖頭一亦統レ潮。

【巖磴】137ガントウ 巖隥に同じ。〔王勃、九成宮東臺山池賦〕覆レ簣而縈二巖磴一、浮レ芥而環二川堮一。〔孫逖、奉三和登二會昌山一應制詩〕巖磴列二雲旗一、吾君訪レ道時。

【巖竇】138ガントウ いはあな。巖穴。〔李頎、答二高三十五留別一云云詩〕韓康雖三復在二人間一、王霸終思レ隱二巖竇一。〔元好問、寶巖紀行詩〕遙遙金門寺、寶焰出二巖竇一。

【巖洞】139ガンドウ いはあな。いはや。〔徐陵、天台山徐則法師碑〕隱二淪巖洞一、餐二餌芝髓一。〔皮日休、茶筍詩〕褎然三五寸、生必依二巖洞一。

【巖排】140ガンバイ 巖がならぶ。〔杜甫、秋日夔府詠懷詩〕峽束滄江起、巖排石樹圓。

【巖房】141ガンバウ 巖で作つた家。石室。〔王翰、古蛾眉怨詩〕琳琅禁闥遙相憶、紫翠巖房晝不レ開。〔皮日休、奉レ和三魯望寄二南陽廣文一詩〕春彩融融釋二凍塘一、日精閑嚥坐二巖房一。

【巖瀑】142ガンバク 巖にかかつたたき。〔李山甫、山中覽二劉書記新詩一詩〕溪風滿レ袖吹二騷雅一、巖瀑無レ時滴二薜蘿一。〔黃庚、翠峰菴卽事詩〕巖瀑飛二寒雪一、松風吼二城潮一。

【巖畔】143ガンパン 巖のほとり。巖邊。〔謝朓、和二劉中書一詩〕歲暮不二我期一、淹留絕二巖畔一。〔許渾、凌歊臺詩〕百年便作二萬年計一、巖畔古碑空綠苔。

【巖扉】144ガンピ ㊀いはやの戶びら。巖扃。〔則天武后、從レ駕幸二少林寺一詩〕日宮疏二澗戶一、月殿啓二巖扉一。㊁巖穴の士の住む家の戶。〔儲光羲、同二武平一員外一遊レ湖云云詩〕朦朧竹影蔽二巖扉一、淡蕩荷風飄二舞衣一。

【巖濱】145ガンピン 巖のある濱。〔南齊書、顧歡傳〕上詔曰、朕夙旦惟夤、思レ弘二治道一、佇二夢巖濱一、垂二精管庫一、肝食縈レ懷、其勤至矣。

【巖夫】146ガンプ 字號。㊀宋、蕭注(**9**−**32012**··219)の字。㊁宋、錢惟濟(**11**−**40563**··246)の字。㊂宋、張宗說(**4**−**9812**··1284)の字。㊃金、高汝礪(**12**−**45313**··1225)の字。㊄清、湯燕生(**7**−**17874**··151)の字。

〖巖夫民伯〗147ガンプミンパク 宋、李建中(**6**−**14459**··1135)の自稱。

【巖風】148ガンプウ 巖に吹く風。〔陸龜蒙、郴李花賦〕長霑二澗雨一、迴灑二巖風一。〔杜牧、宿二東橫山一詩〕溪雨灘聲急、巖風樹勢斜。

【巖腹】149ガンプク 巖の中程。〔王維、燕子龕禪師詩〕巖腹乍旁穿、澗唇時外拓。〔權德輿、朝二拜昭陵一詩〕方祇護二山跡一、先正陪二巖腹一。〔蘇軾、出レ峽詩〕忽驚巫峽尾、巖腹有二穿壙一。

【巖復】150ガンフク いはあな。復は窟。〔馬融、長笛賦〕嶰壑澮峴、峪窞巖復。〔注〕善曰、廣雅曰、復、窟也。

【巖陛】151ガンペイ 宮殿のきざはし。殿階。巖は嚴で、おごそかな宮殿の意。〔宋史、孟皇后傳〕令三世忠速來以淸二巖陛一。

【巖壁】152ガンペキ 險しく切り立つた岩。屛風岩。〔韻府引博物志〕天門山有二大巖壁一、直上數千仞、草木交連、雲霧擁蔽。〔白居易、遊二石門澗一詩〕常聞慧遠輩、題二詩此巖壁一。

【巖邊】153ガンペン 巖のほとり。〔李紳、琪樹詩〕石橋峰上栖二玄鶴一、碧闕巖邊蔭二羽人一。〔皮日休、孤園寺詩〕巖邊足二鳴鐙一、樹杪多二飛鼯一。〔方干、山中言レ事云云詩〕竹裏斷雲來二枕上一、巖邊片月在二牀頭一。

【巖甫】154ガンポ 唐、李說(**6**−**14459**··72)の字。

【巖蜂】155ガンポウ 岩窟に巣くふ蜂。〔李羣玉、歎二靈鷲寺山榴一詩〕水蝶巖蜂俱不レ知、露紅凝豔數千枝。

【巖木】156ガンボク 巖上の木。巖樹。〔魏元忠、銀潢宮侍レ宴應制詩〕塹花仍吐レ葉、巖木尙抽レ枝。

【巖末】157ガンマツ 巖のはし。〔劉得仁、和三段校書冬夕寄二題廬山一詩〕細徑縈二巖末一、高窗見二海涯一。

【巖夢】158ガンム 石窟中で見る夢。〔孟郊、題二韋少保靜恭宅藏書洞一詩〕洞隱諒非レ久、巖夢誠必通。

【巖野】159ガンヤ 傳巖の野。傳說が賢を秘してかくれて居たところ。後、轉じて、隱士の住む所をいふ。〔書、說命上〕說築二傳巖之野一。〔傳〕傅氏之巖、在二虞虢之界一、通道所レ經、有二澗水一壞レ道、常使三胥靡刑人築二護此道一、說賢而隱、代二胥靡一築レ之、以供レ食。〔宋史、楊徽之傳〕周二巖野一以聘二隱淪一。

【巖蘿】160ガンラ 巖にはふ蔦かづら。〔張蠙、逢二道者一詩〕野葉細苞深洞藥、巖蘿閒束古仙書。

【巖籟】161ガンライ 巖を吹く風の聲。〔蘇頲、奉レ和二幸韋嗣立山莊一詩〕樹重巖籟合、泉迸水光浮。

【巖老】162ガンラウ 字號。㊀宋、黃景說(**12**−**47926**··1060)の字。㊁宋、孫松壽(**3**−**6987**··453)の字。㊂宋、彭汝霖(**4**−**10003**··169)の字。

【巖郎】163ガンラウ 官名。漢、置く。羽林郎(**9**−**28614**··144)の異名。宮殿の巖下の室中に宿直して守備するからいふ。一說に、巖厲整銳の義に取るといふ。〔後漢書、百官志二〕羽林中郎將比二千石、本注曰、主二羽林郎一、羽林郎比二三百石一、本注曰、無レ員、掌二宿衞侍從一、常選二漢陽・隴西・安定・北地・上郡・西河、凡六郡良家一補、本武帝以三便レ馬從レ獵、還宿二殿陛巖下室中一、故號二巖郎一。〔注〕荀綽晉百官表注曰、言二其巖厲整銳一也、按レ此則爲二巖郎一與レ志不レ同、蔡質漢儀曰、羽林郎百二十八人、無二常員一、府次二虎賁府一。〔通典、職官典、武官上、左右羽林衞〕宣帝令三中郎將騎都尉監二羽林一、謂二之羽林中郎將一、領二郎百人一、謂二之羽林郎一、選下隴西・漢陽・安定・北地・西河・上郡良家子、便二弓馬一者上以爲レ之、一名二巖郎一、言三其禦二侮巖除之下一。〔注〕後漢志曰、言、從二遊獵一、還宿二殿隴巖下室中一、故號二巖郎一、或說、爲三巖郎取二其巖厲素整一也。

【巖廊】164ガンラウ 宮殿の側にあるひさし。轉じて、朝廷。巖は巖峻で、宮殿をいふ。〔子華子、晏子問黨〕舜遊二於巖廊之上一。〔漢書、董仲舒傳〕虞舜之時、游二於巖廊之上一。〔鹽鐵論、憂邊〕陛下優二游巖廊一。

【巖犖】165ガンラク 清、戴明說(**5**−**11685**··213)の號。

【巖巒】166ガンラン 險しい山々。〔徐悱、古意酬三到長史漑登二琅邪城一詩〕襟帶盡巖巒。〔李白、登二黃鶴樓一詩〕巖巒行穹跨、峯嶂亦冥密。

【巖溜】167（ガンリウ） 巖から落ちるしづく。〔劉禹錫、送三僧方及南謁二柳員外一詩〕幽響滴二巖溜一、晴芳飄二野叢一。〔方干、題二報恩寺上方一詩〕巖溜噴レ空晴似レ雨、林蘿礙レ日夏多レ寒。

【巖六】168（ガンリク） 清、杜亮采（**6－14477**··391）の字。

【巖陸】169（ガンリク） 巖から成つたをか。〔晉書、梁武昭王傳〕採二殊材於巖陸一、拔二翹彥于无際一。〔竹譜〕或茂二沙水一、或挺二巖陸一。

【巖稜】170（ガンリヨウ） 岩角の尖つたところ。巖のかど。〔齊己、寄二雙泉大師兄一詩〕清泉流二眼底一、白道倚二巖稜一。〔峽中紀行、猿橋〕轎夫腳探二巖稜一以進。

【巖嶺】171（ガンレイ） 巖の峯。〔歷代名畫記〕李思訓畫二山水樹石一、筆格遒勁、湍瀨潺湲、雲霞縹緲、時睹二神仙之事一、窅然巖嶺之幽、時人謂二之大李將軍一。〔崔融、嵩山啓母廟碑〕紫雲合二沓於溪澗一、白霧氛二氳於巖嶺一。〔韋表微、翰林院新樓記〕梧桐高則可三以棲二靈鳳一、巖嶺秀則可三以韞二美玉一。

【巖列】172（ガンレツ） 列なつた巖。〔陶潛、和二郭主簿一詩〕芳菊開二林耀一、青松冠二巖列一。

【巖路】173（ガンロ） 險しい路。險路。〔陶弘景、尋山誌〕乃乘レ興而遂往、遵二巖路一以遠遊。〔楊炯、早行詩、登山詩〕河流纔辨レ馬、巖路不レ容レ車。〔朱熹、雲谷雜詩〕不レ辭二青鞋穿一、陟二此巖路永一。

【巖鹿】174（ガンロク） 石窟に棲む鹿。〔杜荀鶴、懷二廬嶽舊隱一詩〕巖鹿慣隨鋤レ藥叟、溪鷗不レ怕洗レ苔僧。

【巖麓】175（ガンロク） 岩山のふもと。巖足。〔謝靈運、山居賦〕葺二駢梁於巖麓一、棲二孤棟於江源一。

【巖隈】176（ガンワイ） 巖の曲り込んだ處。巖阿。〔隋煬帝、秦孝王誄〕扈二駕仁壽一、撫二席巖隈一。〔柳宗元、雷塘禱レ雨文〕惟神之居、爲レ坎爲レ雷、專二此二象一、宅二于巖隈一。

【巖門市】177（ガンモンシ） 地名。湖南省麻陽縣の東北、辰水の西北濱。辰谿縣に通ずる路。明代、巡司を置く。清代、省き、改めて縣丞を駐し、兼ねて往來の行人を訊問する處を置く。

【巖戶觀音】178（イハトクワンオン） [佛]岩屋の中に端坐する觀音。三十三觀音の一。〔法華普門品〕蚖蛇及蝮蠍、氣毒煙火燃、念二彼觀音力一、尋レ聲自回去。

【巖門山樵】179（ガンモンサンセウ） 清、查岐昌（**6－14643**··85）の號。

【巗】8650 [一]ゲン [二]ガン 〔集韻〕牛廉切 [鹽]

[一]**山のさま。**〔集韻〕巗、礹巗、山皃。[二]巖（**4－8649**）に同じ。〔正韻〕巗、同レ巖。

【巘】8651 [一]ゲン 〔集韻〕語蹇切 [銑] ㄧㄢˇ yen³ [二]ゲン ゴン 〔集韻〕語偃切 [阮] [慣]ケン

[一][二]❶**わかれた小山。こしきに似た山。**〔集韻〕巘、山形如レ甑。〔詩、大雅、公劉〕陟則在レ巘。〔傳〕巘、小山別二於大山一也。〔疏〕小山別二於大山一者、釋山云、重甗隒、郭璞曰、謂二山形如レ累二兩甗一、甗甑、山狀似レ之、上大下小、因以爲レ名。❷**みね。**〔廣韻〕巘、山峯。❸**がけ。**巘崿（1）を見よ。❹**けはしい。**巘巘（4）を見よ。❺或は巚（**4－8652**）に作る。〔集韻〕巘、或書作レ巚。

【巘崿】1（ケンガク） がけ。〔謝靈運、晚出二西射堂一詩〕連嶂疊二巘崿一。〔注〕善曰、巘崿、崖之別名。〔李白、鳴皋歌〕尋二幽居一兮越二巘崿一。

【巘崎】2（ケンキ） 險しい山。〔江淹、學二梁王兎園一賦〕碧山倚二巘崎一兮、象二海水碣石一。

【巘錡】3（ケンキ） 傾きそばだつさま。〔司馬相如、上林賦〕巖陁巘錡、摧崣崛崎。〔注〕向曰、巖陁巘錡、傾欹貌。

【巘巘】4（ケンケン） 山の高く險しいさま。〔韓愈、南山詩〕閶閶樹二牆垣一、巘巘架二庫廄一。

【巘疊】5（ケンデフ） 山の峰が重なり合ふ。〔張公亮、齊州景靈巖記〕城堡還繞、龍蛇盤曲、岑爲二巖谷一、呀爲二洞穴一、峰卓嶺聳、巒跳巘疊。

【巘路】6（ケンロ） 山の峰の路。〔王貞白、雲居長老詩〕巘路躡レ雲上、來參二出世僧一。

【巚】8652 ケン 巘（**4－8651**）に同じ。〔集韻〕巘、或書作レ巚。

【巙】8653 [一]キ ギ 〔集韻〕渠龜切 [支] [二]ダウ ノウ 〔篇海類編〕奴刀切 [豪]

[一]**人名。**〔集韻〕巙、闕、人名。[二]❶**山名。**〔篇海類編〕巙、山名、在レ齊。❷**犬の名。**〔篇海類編〕巙、又犬也。

【巙巙】1（キキ） 元の人。不忽木の子。字は子山。諡は文忠。博く羣書に通ず。順帝の時、經筵に侍し、君をひらき導びく所多し。文宗の時、學士院大學に累官し、翰林學士承旨に終る。〔元史、一百四十三〕。

二十一畫

【⿰山纍】8654 ルイ ⿰山累（**4－8425**）に同じ。〔集韻〕⿰山累、或作レ⿰山纍。

【⿱山纍】8655 ルイ ⿱山畾（**4－8590**）に同じ。〔正字通〕⿱山纍、本作レ⿱山畾。

【⿰山甗】8656 [一]ゲン ゴン 〔集韻〕魚軒切 [元] [二]ゲン ゴン 〔集韻〕牛堰切 [願]

[一][二]❶**こしきに似た山。**〔集韻〕⿰山甗、山形似レ甗。❷甗（**7－21626**）に通ず。〔韻會〕⿰山甗、通作レ甗、漢百官表注、虒研善升レ甗、甗謂二山形如一レ甑。❸巘（**4－8651**）に同じ。〔正字通〕巘、與レ巘同。

【巕】8657 [一]ゲツ ゲチ 〔集韻〕倪結切 [屑] [二]ガツ ゲチ 〔集韻〕牛轄切 [黠]

[一]❶**けはしい。**さがしい。山の切りたつたさま。屼巕。〔集韻〕巕、屼巕、山皃。〔張衡、南都賦〕嶔巇屹巕。〔注〕善曰、嶔巇、山相對而危險之貌、屹巕、斷絕之貌。❷嵲（**4－8024**）に同じ。〔正字通〕巕、本作レ嵲。[二]**山の中絕するさま。**〔集韻〕巕、山中絕皃。

【⿱山⿸厂纍】8658 ライ 〔字彙補〕力罪切 [賄]

山。〔字彙補〕⿱山⿸厂纍、山也。

【⿱山繒】8659 ソウ 嶒（**4－8458**）に同じ。〔龍龕手鑑〕⿱山繒、同レ嶒。

二十二畫

【⿱山鷄】8660 ケイ 義未詳。〔龍龕手鑑〕⿱山鷄、音雞、音奚。

【⿰山囊】8661 ダウ ナウ 〔集韻〕乃浪切 [漾]

山のくま。或は⿰石囊（**8－24619**）に作る。〔集韻〕⿰山囊、山隈、或从レ石。

二十三畫

【⿱山鱗】8662 リン 〔集韻〕離珍切 [眞]

山名。〔集韻〕⿱山鱗、山名。

二十四畫

【⿱山靈】8663 レイ リヤウ 〔字彙〕離呈切 青

山の深いさま。〔字彙〕⿱山靈、山深貌。

【⿱山龜】8664 キ 〔龍龕手鑑〕丘逵切 支

多くの小山から成つた山。〔龍龕手鑑〕⿱山龜、小山而衆也。

【⿰堇嵒】8665 カン 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿰堇嵒、音間。

【⿰言⿱山毚】8666 ザン 巉(4－8618)に同じ。〔海篇〕⿰言⿱山毚、同レ巉。

二十六畫

【⿰山欝】8667 ウツ ⿰山鬱(4－8668)に同じ。〔川篇〕⿰山欝、同レ⿰山鬱。

二十九畫

【⿰山鬱】8668 ウツ ウチ 〔字彙〕紆勿切 物

山の煙つたさま。〔字彙〕⿰山鬱、山煙貌。

巛部

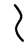
【巛】8669 セン 川(4－8673)の本字。〔正字通〕巛、川本字。

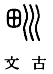
参考 巛(4－8670)・巛(4－8675)は別字。〔康熙字典、辨似、三字相似〕巛、川本字。巛、古坤字。巛、災本字。

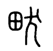
【巛】8670 コン 坤(3－4969)の古字。〔玉篇〕巛、古文坤字。

参考 巛(4－8669)・巛(4－8675)は別字。〔康熙字典、辨似、三字相似〕巛、川本字。巛、古坤字。巛、災本字。

【𡿨】8671 ケン 〔集韻〕古泫切 ㄑㄩㄢˇ 銑 ch'üan³


小篆

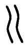

古文


篆文

❶**こみぞ。**田制で、田間に造る最小の流水。〔説文〕𡿨、水小流也、周禮匠人、爲二溝洫一、梠廣五寸、二梠爲レ耦、一耦之伐、廣尺深尺、謂二之𡿨一、倍レ𡿨、謂二之遂一、倍レ遂曰レ溝、倍レ溝曰レ洫、倍レ洫曰レ巜。❷古は甽(7－21740)に作り、篆文は畎(7－21772)に作る。〔説文〕甽、古文𡿨、从二田川一、田之川也、畎、篆文𡿨、从レ田犬聲、六畎爲二一畮一。❸注音符號の聲符の一。舌前音。發音法はㄐと概ね同じであるが、氣息を烈しく外洩せしめる。チ。ch'。正形は、ㄑ。

解字 象形。小溝の流にかたどる。音義は涓に同じ。又、甽畎に同じ。田間の小溝。故に田に從ふ。〔説文、𡿨、段注〕水部曰、涓、小流也、𡿨與レ涓、音義同。

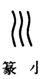
【巜】8672 🈩クヮイ ケ 〔集韻〕古外切 ㄎㄨㄞˋ 泰 k'uai⁴ 🈔クヮン 〔集韻〕呼官切 寒


小篆

🈩❶**大みぞ。**田制で、田間に造るやや大なる流水。〔説文〕巜、水流澮澮也、方百里爲レ巜、廣二尋、深二仭。❷古は沸(6－17551)・⿰氵⿱山万(6－17286)に作る。〔集韻〕巜、古作二沸・⿰氵⿱山万一。❸通じて澮(7－18405)に作る。〔集韻〕巜、通作レ澮。❹注音符號の聲符の一。舌後音。後舌部を上升せしめて軟口蓋に接觸し、氣息の洩出を一時阻止して後、突如、阻止したのを破つて氣息を外洩せしめると此の音になる。コ。k。此の符號を單號で讀む時は、韻符のㄜを加へて、コオ、kêと讀む。正形はㄍ。🈔**うるほふ。**〔廣韻〕巜、濡也。

解字 象形。音クヮイ。活々と流れる溝の意。𡿨より大きく、水を川に通ずる溝の義。𡿨を倍せるものとすれば會意であるが、説文によれば、𡿨の倍を遂といひ、遂の倍を溝といひ、溝の倍を洫といひ、洫の倍を巜と言ふとあるから、𡿨を倍せるものとは義やや異なる。會意ではない。方百里を同といひ、同間のみぞを巜といふ。故に、みぞの大きなものをいふ。大みぞ。𡿨の❶を見よ。〔説文、巜、段注〕澮澮、當レ作二活活一、毛傳曰、活活流也、云云、水流涓涓然曰レ𡿨、活活然則曰レ巜。〔説文通訓定聲〕巜、象形、方百里爲レ同、同間之巜、廣二尋深二仭、經傳皆以レ澮爲レ之。

【川】8673 🈩セン 〔集韻〕昌緣切 ㄔㄨㄢ 先 ch'uan¹ 🈔シユン 〔集韻〕樞倫切 眞


小篆

🈩❶**かは。**㋑ながれ。水流の總稱。〔釋名、釋水〕川、穿也、穿レ地而流也。〔周禮、地官、大司徒〕辨二其山林・川澤・邱陵・墳衍・原隰之名物一。〔注〕注レ瀆曰レ川。〔周禮、考工記、匠人〕兩山之間、必有レ川焉。〔國語、周語中〕川不レ梁。〔注〕流者曰レ川。〔漢書、刑法志〕除二山川沈斥一。〔注〕師古曰、川、謂二水之通流者一也。㋺水の始めて流れるもの。〔爾雅、釋水〕水、注レ川曰レ谿。〔説文、川、段注〕水有二始出謂レ川者一、爾雅、水注レ川曰レ谿、許云、泉出通レ川爲レ谷、是也。㋩田制で、田間に造り、溝澮の水を集める最大の流水。巛(4－8669)に同じ。〔説文〕巛、毌穿通流水也、虞書曰、濬二𡿨巜一、距レ巛、言下深二𡿨巜之水一會爲上レ川也。〔周禮、地官、遂人〕凡治レ野、夫間有レ遂、十夫有レ溝、百夫有レ洫、千夫有レ澮、萬夫有レ川。〔注〕萬夫、四縣之田、遂溝洫澮、皆所三以通二水於川一也。〔孫詒讓正義〕通六千一百三十二丈、爲二一川之長一。㋥川の神。〔論語、雍也〕山川其舍レ諸。〔集注〕山川、山川之神也。㋭易で坎にあてる。〔易、中孚〕利レ渉二大川一。〔虞注〕坎爲二大川一。❷**あな。**〔廣雅、釋水〕川、坑也。〔山海經、北山經〕倫山有レ獸、其狀如レ麋、其川在二尾上一。〔注〕川、竅也。❸**はら。**平原。〔夜航詩話〕平衍田野謂二之川一、杜預左傳注、平川廣澤可レ井者井レ之、原阜隄防不レ可レ井者町レ之、蓋井田溝洫之制、自レ遂達二於溝一、自レ溝達二於洫一、自レ洫達二於澮一、自レ澮達二於川一、周禮遂人、凡治レ野、夫間有レ遂、十夫有レ溝、百夫有レ洫、千夫有レ澮、

萬夫有レ川、則一川之地、三十二里有半、所三以稱二平川一也、冊府元龜、唐明皇賜二同州刺史姜師度詔書一、今原田彌望、畎澮連屬、由來榛棘之所レ遍、爲二秔稻之川一、謂二平田大闢一也。〔杜甫、自二瀼西荆扉一且レ移二居東屯茅屋一詩〕平地一川穩、高山四面同。〔五代史、唐臣、周德威傳〕平川廣野、騎兵所レ長也。〔楊萬里、秋曉出レ郊詩〕霜紅半臉金罌子、雪白一川蕎麥花。❹**おもおもしいさま**。川川（**4－8673・・102**）を見よ。❺**四川省の略稱**。四川（**3－4682・・502**）を見よ。〔皇朝文獻通考、輿地考、四川省〕康煕七年、改二四川總督一爲二川湖總督一、駐二湖北荆州府一、兼轄二四川一。❻**姓**。〔萬姓統譜〕川、見二姓苑一。❼［現］汁。料理上の用語。［三］**かは**。〔集韻〕川、穿通流水也。

［解字］ 象形。貫穿して流水を通ずること。書經益稷にく巛を濬くして巛に距るとあるから、溝を貫穿してそれを會し流したもの。轉じて、廣く川の意とする。水の直達のかたちに象る。〔說文〕巛、貫穿通流水也、虞書曰、濬二く巛一距レ巛、言下深二く巛之水一會爲上レ川也、按、象二水直達之形一。

【川阿】1 センア 川のくま。かはくま。〔王勃、採蓮賦〕念窮歡二於水涘一、誓畢賞二於川阿一。

【川暗】2 センアン 川がくらい。〔孟浩然、宿二武陽一卽事詩〕川暗夕陽盡、孤舟泊レ岸初。

【川游】3 センイウ 水に浮び遊ぶ。〔周禮、秋官、萍氏〕萍氏掌二國之水禁・幾酒・謹酒一、禁二川游者一。〔白居易、得乙川游云云判〕救レ人鮮レ死、無レ縱二川游一。

【川域】4 センヰキ 川の流域。川地。〔魏書、崔浩傳〕浩從二太宗幸二西河太原一、登二憩高陵之上一、下臨二河流一、傍覽二川域一。〔王績、遊二北山一賦〕悵矣懷抱、悠哉川域。

【川陰】5 センイン 川の南側。河南。陰は、川では南、山では北をいふ。〔韋應物、灃上精舍答二趙氏外甥伉一詩〕擔レ書從レ我遊、攜レ手度二川陰一。

【川咽】6 センエン 川がふさがる。〔周邦彥、汴都賦〕連レ檣結レ軌、川咽塗塞。

【川越】7 カハゴシ ❶川を徒步で渡る。かちわたり。❷人を負うて川を徒涉するを業とする人。❸川を隔てること。〔保元物語、白河殿義朝夜討事〕川越しに矢二つ放つ。❹ カハゴエ ㋑地名。㋺姓氏。

【川遠】8 カハヲチ 川の對岸。〔夫木和歌抄、三十〕河をちの埴生の小屋。

【川鹽】9 ch'uan¹ yen² 四川省から產する井鹽をいふ。

【川屋】10 カハヤ 川端の家。〔小馬命婦集〕水の尻はかはやなり。

【川下】11 センカ ❶川のそこ。河底。❷ カハシモ 川の下流。〔謠曲、鵜飼〕此の川下、岩落と申す所を通り候ひしに。❸ カハオロシ 川を吹き渡る風。かはかぜ。〔夫木和歌抄、十九〕立田川原の川おろし。

【川河】12 センガ かは、河川。〔古三墳〕地、川河。〔後漢書、西域傳論〕若夫境俗性智之優薄、產載物類之區品、川河領障之基源、氣節涼暑之通隔、梯山棧谷繩行沙度之道。

【川界】13 センカイ 川ざかひ。川のほとり。〔陶潛、祭二從弟敬遠一文〕三宿二水濱一、樂飲二川界一。〔宋武帝、遊二覆舟山一詩〕川界泳二游鱗一、巖庭響二鳴鶴一。

【川海】14 センカイ 川と海。河海。〔言志錄〕登二山嶽一、涉二川海一、走二數十百里一。

【川開】15 カハビラキ 川の納涼の開始などを祝ひ、花火などを打あげてにぎはすこと。年中行事の一。兩國の川開きなどが有名である。

【川尻】16 カハジリ ❶かはしも。下流。❷川口。

【川行】17 センカウ ❶川の流れ。〔柳宗元、祭二呂敬叔一文〕日異二其能一、歲增二其智一、進如二川行一。❷ カハツラ 羽前國の地名。

【川岡】18 センカウ 川のほとりの岡。〔李端、折楊柳詩〕柳發遍二川岡一、登レ高堪二斷腸一。〔白居易、朝回二遊城南一詩〕水竹夾二小徑一、縈廻繞二川岡一。

【川衡】19 センカウ 周禮にある官名。地官の屬。川澤の禁令を掌る。〔周禮、地官、序官、川衡、疏〕川衡者、平二知川之遠近寬狹、及物之所レ出。〔周禮、地官、川衡〕掌下巡二川澤之禁令一、而平中其守上。〔後漢書、馬融傳〕川衡澤虞。

【川岳】20 センガク 川と山。山川。川嶽。〔宋書、武帝紀中〕四靈效レ瑞、川岳啓レ圖、嘉祥雜遝、休應炳著。〔南齊書、高帝紀下〕晷緯凝レ象、川岳表レ靈。〔王儉、太宰文簡褚彥回碑〕文公稟二川岳之靈暉一、含二珪璋一而挺レ曜。〔江淹、雜體、侍レ宴詩〕氣生川岳陰、煙滅淮海見。

【川壑】21 センガク 川と谷。川谷。〔謝靈運、慧遠法師碑〕川壑如レ泣、山林改レ容。〔江淹、蓮華賦〕永含二靈於洲渚一、長不レ絕二兮川壑一。

【川額】22 カハハケ 上野國の地名。〔大日本地名辭書〕。

【川嶽】23 センガク 川と山。川岳。〔王融、永明十一年策二秀才一文〕上叶二星象一、下符二川嶽一。

【川合】24 カハアヒ ❶川流のあふ所。〔延喜式、祝詞、大忌祭〕廣瀨能川合。❷ タタス 山城國の古地名。

〖川合春川〗25 カハアヒシユンセン 美濃國の人。名は孝衡。字は襄平。通稱は丈平。號は春川。龍草廬を師とす。官は和歌山藩儒。徂徠學を修め、文章に巧。文政七年九月二十五日歿す、年七十五。著に醫學早合點・鶴一樓文集・九經補韻・儀禮質疑・儀禮釋宮圖解・嚴滄浪詩集・國朝詩韻・五禮類纂・作文圖箋・三禮說統・周官質疑・周禮考工記圖・詩學還冊・詩經正名編・施政錄・四等則字例・春川詩草・親族母黨合成圖・勢遊草・選詩材・帝王承統譜圖・讀韓文法・梅花百絕・分應名解・文法圖例・林和靖詩集がある。〔近代著述目錄後篇〕・〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕。

【川漢】26 センカン ❶あまのがは。天漢。銀河。天河。〔古三墳〕天、川漢。〔注〕聖人以辨二時候一。❷鐵道の名。四川省成都縣から湖北省漢口に至る豫定線。

【川澗】27 センカン 山中の水流。たにがは。〔古三墳〕山、川澗。〔注〕聖人以通二江海一。〔韋應物、還レ闕首途寄二精舍親友一詩〕山澤含二餘雨一、川澗注二驚湍一。

【川氣】28 センキ 川の氣。〔潘岳、河陽縣作詩〕川氣冒二山嶺一、驚湍激二巖阿一。〔薛奇童、擬古詩〕川氣生二曉夕一、野陰乍烟霧。〔杜甫、三川觀二水漲一詩〕蓊匒川氣黃、羣流會二空曲一。

【川龜】29 カハガメ 鼈（**12－48305**）の異名。〔倭名類聚抄、龜貝部、龜貝類、鼈、箋注〕鼈、魚鼈、字或作レ鱉、加波加女。

【川歸】30 センキ 川が海に注ぐやうに一所に集まること。〔范仲淹、明堂賦〕冕紱兮霞集、玉帛兮川歸。

【川鰭】31 カハバタ 姓氏。〔姓名錄〕。

【川姜】32 ch'uan¹ chiang¹ 川薑に同じ。

【川境】33 センキヤウ 川ざかひ。〔南齊書、宗室、遙昌傳〕經レ途未レ遠、不レ足レ爲レ勞、慶遠曰、川境既殊、遠勞二軒駕一。

【川薑】34 ch'uan¹ chiang¹ 四川省に產する薑。藥用となる。川姜。

【川芎】35 センキユウ 草の名。四川省に產する芎藭（**9－30678・・1**）。葉は芹に似て香氣高く、秋、果實を結ぶ。根・葉とも藥用に供せられる。をんなかづら。川元蠢。〔本草、芎藭〕釋名、胡藭・川芎・香果・山鞠窮、時珍曰、其出二關中一者呼爲二京芎一、亦曰二西芎一、出二蜀中一者爲二川芎一、出二天台一者爲二台芎一、出二江南一者爲二撫芎一、皆因レ地而名也。

【川居】36 センキヨ 川のほとりに住む。又、其の住居。〔王勃、九成宮頌〕山村野塾、家連二菌草之園一、谷飲川居、戶有二桃符之水一。

【川苣】37 センキヨ 草の名。淺水に自生し、葉は披針形、花瓣は白色で淡紅紫色の線がある。莖葉は食用に供せられる。かはぢさ。水萵苣。〔農政全書、水萵苣考〕一名水菠菜、水邊多生、苗高一尺許、葉似レ麥、藍葉而有二細鋸齒一、兩葉對生、每二兩葉間一對叉、又生二兩枝梢間一、開二青白花一、結二小青葖一、如二小椒一粒大、其葉味微苦、性寒。

【川渠】38 センキヨ 川とみぞ。〔傅玄、酒賦〕飲者杯無レ算、甌醴成二川渠一。

【川曲】39 センキヨク 川のまがつた所。かはくま。〔馬祖常、壯遊詩〕巖空山櫻繁、川曲紅藥膩。

【川筋】40 カハスヂ 川の流れるみち。水脈。

【川禽】41 センキン 魚類鼈蜃等の水棲動物をいふ。〔國語、魯語上〕古者大寒降、土蟄發、水虞於レ是乎講二罛罶一、取二名魚一、登二川禽一、而嘗二之寢廟一、行二諸國人一、助二宣氣一也。〔注〕川禽、鼈蜃之屬。〔張衡、東京賦〕內阜二川禽一、外豐二葭菼一。

【川瞿】42 センク 山丹（**4－7869・・742**）の❶の別名。〔名醫別錄〕山丹、一名二川瞿一。

【川花】43 センクワ 牡丹（**7－19933**··16）の異名。〔事物異名錄、花卉、牡丹〕種樹書、牡丹千葉者、蜀人號爲二京花一、謂二洛陽種一也、單葉者只號爲二川花一。

【川貨】44 ch'uan¹ huo⁴ 四川省産の貨物物資。

【川匯】45 センクワイ 川のめぐり。川流の旋回する所。〔李時勉、北京賦〕澤豬川匯若二太湖一、瀛海渺瀰而相屬。〔張瓌、寄二題徑山一詩〕武林頗英秀、川匯仍山卑。

【川潰】46 センクワイ 川の隄防が破れて川水があふれる。川決。〔漢書、谷永傳〕山頹川潰、水泉湧出。〔陸雲、盛德頌〕凌波川潰、肆野陸沈。

【川光】47 センクワウ 川の色。水面の光。川色。〔岑參、林臥詩〕遠峰帶二雨色一、落日搖二川光一。〔杜甫、白水縣崔少府十九翁高齋詩〕兵氣漲二林巒一、川光雜二鋒鏑一。〔韋應物、義演法師西齋詩〕長嘯依二亭樹一、悵然川光瞑。

【川廣】48 センクワウ 川がひろい。〔陸雲、九愍、行吟〕將二結レ軌而世狹一、願二援レ檝而川廣一。〔鮑照、還レ都道中詩〕久宦迷二遠川一、川廣每多レ懼。〔杜甫、自レ京赴二奉先縣一詠懷詩〕行旅相攀援、川廣不レ可レ越。

『川廣者魚大』49 カハヒロキモノハウヲダイナリ 廣い河川には大魚がすむ。〔文子、上德〕川廣者魚大、山高者木脩、地廣者德厚。

【川觀】50 センクワン 川邊に游觀する。〔史記、蔡澤傳〕君何不下以二此時一歸二相印一、讓二賢者一而授レ之、退而巖居川觀上。

【川徑】51 センケイ 川邊の小みち。〔馬惠迪、蟬賦〕尋二川徑一而棲遲、頓二林庭一而延佇。〔孫逖、送二越州裴參軍充使入一レ京詩〕日落二川徑一寒、離心苦未レ安。

【川谿】52 センケイ 谷川。〔沈約、太常卿任昉墓誌銘〕川谿望レ歸、巖阿待レ闕。

【川嶠】53 センケウ 川と山。嶠は山みち。山川。〔何景明、待曙樓賦〕雲霞收レ霏而五色、川嶠呈レ態而百巧。

【川決】54 センケツ 川の隄防がやぶれて川水があふれる。川潰。〔宋史、張鑑傳〕若待二川決一而後防、火熾而方戢、則焚溺之患深矣、雖レ欲二拯救一、其可レ得乎。

【川竭】55 センケツ 川の水がつきる。〔左氏、成、五〕國主二山川一、故山崩川竭、君爲レ之不レ擧、降レ服、乘レ縵、徹レ樂、出次、祝幣、史辭、以禮焉。〔國語、周語上〕夫國必依二山川一、山崩川竭、亡之徵也。

【川原】56 センゲン ❶川源に同じ。〔國語、周語下〕絕二民用一以實二王府一、猶下塞二川原一而爲中潢汙上也、其竭也無レ日矣。❷川流（161）の❶をいふ。川。河川。〔漢書、溝洫志贊〕中國川原、以レ百數、莫レ著二於四瀆一、而河爲レ宗。❸河川の流域の原野。〔漢書、溝洫志贊〕上曰、農天下之本也、泉流灌寖、所三以育二五穀一也、左右內史地、名山川原甚衆、細民未レ知二其利一、故爲通二溝瀆一、畜二陂澤一、所二以備レ旱也。❹川と高原。茫々として人迹絕えた所をいふ。〔陳子昂、晚次二樂鄕縣一詩〕川原迷二舊國一、道路入二邊城一。〔王維、臨二高臺一詩〕相送臨二高臺一、川原杳何極。〔盧綸、秋晚霽後野望詩〕川原唯寂寞、岐路自縱橫。❺陝西の地をいふ。〔楊炯、李懷州墓誌銘〕觀二其井邑虢伯上陽之故墟一、度二其川原周公分陝之遺跡一。〔蔡希周、陝中詩〕川原餘二讓畔一、歌吹憶二遺棠一。❻カハラ 川のほとりの、水が涸れて沙石のあるところ。磧。〔字鏡、三十九〕灘、砂聚也、加波良。

【川源】57 センゲン 河川の流の發するところ。みなもと。水源。川原。〔書、禹貢〕九川滌レ源。〔傳〕九州之川、已滌二除泉源一、無二壅塞一矣。〔國語、周語上〕陽失而在レ陰、川源必塞、云云、昔伊洛竭而夏亡、河竭而商亡、今周德若二二代之季一矣、其川源又塞、塞必竭、夫國必依二山川一、山崩川竭、亡之徵也、川竭山必崩、若國亡不レ過二十年一、數之紀也。〔南齊書、州郡志上〕西南二江、川源深遠。〔徐浩、謁二禹廟一詩〕畝澮敷二四海一、川源滌二九州一。

【川涸】58 センコ 川がかれる。〔國語、晉語五〕夫國主二山川一、故川涸山崩、君爲レ之降レ服、出次乘レ縵、不レ擧、策二於上帝一、國三日哭以禮焉。

【川湖】59 センコ 川と湖。〔古三墳〕日、川湖。〔張望、鷴鵝賦〕託二川湖一以繁育。

【川跨】60 カハマタ 姓氏。〔國史姓名譜〕。

【川口】61 センコウ 川の海に注ぐくち。かはぐち。河口。〔王建、野池詩〕川口雨晴風復止、蜻蜓上下魚東西。〔杜牧、昔事二文皇帝一詩〕川口隄防決、陰車鬼怪掀。〔宋史、鄭剛中傳〕川口屯レ兵十萬、分二隸三大將一。

『川口綠野』62 カハグチリヨクヤ 常陸國の人。名は長孺。字は嬰卿。通稱は助九郎。初稱は三省。號は綠野。官は水戶藩儒・國史總裁兼侍讀。天保五年歿す、年六十三。著に海防微言・紀元通覽・吟風嘯月・藝苑小說・祭祀議・三朝嘉言錄・三朝寶訓・史館事記・侍讀退錄・食貨志稿・神泉苑奇遇記・新撰淸朝名家小傳・征韓偉略・齊桓公軍談・續編稿・臺灣鄭氏紀事・讀史下議・本朝食祿志・琉球傳・綠野文鈔・綠野園見聞錄・綠野園隨筆がある。〔近代著述目錄後篇〕・〔國書解題〕・〔水戶文籍考〕。

【川勾】63 カハワ 相模國の地名。

【川后】64 センコウ 川の神。河伯。〔曹植、洛神賦〕屛翳收レ風、川后靜レ波。〔注〕向日、川后、河伯也。〔謝靈運、游二赤石一進帆レ海詩〕川后時安レ流、天吳靜不レ發。

【川紅】65 センコウ 海棠（**6－17503**··397）の異名。〔吳中復、海棠詩〕卻恨韶華偏二蜀土一、更無三顏色似二川紅一。〔陳思、海棠譜〕江左謂二海棠一爲二川紅一。

【川谷】66 センコク ❶川と谷。川壑。〔易、謙、地道變レ盈而流レ謙、疏〕丘陵川谷之屬、高者漸下、下者益高。〔禮、祭法〕山林川谷丘陵、能出レ雲爲二風雨一、見二怪物一、皆曰レ神。〔公羊、僖、三〕無レ障レ谷、〔注〕無下障二斷川谷一專中水利上也、水注レ川曰レ溪、注レ溪曰レ谷。〔國語、周語下〕夫天地成而聚二於高一、歸二物於下一、疏爲二川谷一、以導二其氣一、陂唐汙庫、以鍾二其美一。〔老子、三十二〕譬道之在二天下一、猶三川谷之於二江海一。〔漢書、武帝紀〕星辰不レ孛、日月不レ蝕、山陵不レ崩、川谷不レ塞。❷川（**4－8673**）の❶に同じ。川流。〔淮南子、泰族訓〕百川並流、不レ注レ海者、不レ爲二川谷一。〔南齊書、張欣泰傳〕時霖雨、川谷涌溢。〔儲光羲、過二新豐一道中詩〕雷雨杳溟溟、川谷漫浩浩。

『川谷流二人之血一』67 センコクニハヒトノチヲナガス 川や谷に人の血が溢れ流れる。戰亂に死者の多い喩。〔法言、淵騫〕原野厭二人之肉一、川谷流二人之血一。

【川穀】68 センコク 草の名。薏苡（**9－32106**··5）の一種。はとむぎ。〔植物名實圖考〕救荒本草云、川穀、實堅、子擣爲レ米、可レ作レ粥。

【川沙】69 センサ 縣名。民國、置く。もと八團鎭。明の嘉靖中、川沙堡を置き、城を築き、兵を設け、巨鎭となる。淸、川沙廳を置く。今の江蘇省上海縣の東。〔淸史稿、地理志〕江蘇、松江府、廳一、川沙廳。

【川菜】70 ch'uan¹ ts'ai⁴ 四川料理。

【川塞】71 センサイ ❶河川に設けたとりで。〔博物志、地理略、自二魏氏曰一已前夏禹治二四方一而制レ之、贊〕侯王設レ險、守固保疆、遠遮二川塞一、近備二城隍一。❷センソク 川がふさがる。〔史記、天官書〕川塞谿垘、水澹澤竭。

【川莊】72 センサウ 川邊の別莊。〔鮑照、喜レ雨詩〕平灑周二海嶽一、曲潦溢二川莊一。

【川止】73 カハドメ 出水などのために、渡涉・渡船等を止めること。川留。〔御觸幷御書付留、五〕道中川筋出水ニ而、川留有レ之候節。

【川至】74 センシ 川が流れ來る。〔詩、小雅、天保〕如二川之方至一、以莫レ不レ增。〔薛士隆、鴈蕩山賦〕乍垂レ雲而零露恍、山崩而川至。

【川師】75 センシ 周禮の官名。夏官の屬。川澤を掌る。〔周禮、夏官、川師〕掌二川澤之名一、辨三其物與二其利害一、而領二之于邦國一、使レ致二其珍異之物一。

【川涘】76 センシ 川のきし。涘は、みぎは。〔任昉、爲二庾杲之一與二劉居士虯一書〕妙域筵二山阿一、虛館帶二川涘一。

【川砥】77 センシ 川のほとりの平坦な所。砥はといし。平かな譬。〔韋應物、洛都遊寓詩〕掇レ英出二蘭皐一、翫レ月步二川砥一。

【川絲】78 ch'uan¹ ssŭ¹ 四川省産の生絲。

【川資】79 ch'uan¹ tzŭ¹ 旅費をいふ。

【川室】80 センシツ 蠶室をいふ。周代、天子諸侯は、蠶室を川の近くに設けた。〔宋書、孝武王皇后傳〕爰詔二六宮一、親二蠶川室一。〔農政全書、蠶桑總論〕王禎蠶館序曰、蠶館、皇后親蠶之所、古公桑蠶室也、周制、天子諸侯、必有二公桑蠶室一、近レ川而爲レ之。

【川社】81 カハヤシロ ❶川の邊にある神社。❷夏時、神を祭るために川の邊に設ける棚。なつかぐら。〔夫木和歌抄、九〕荒和祓、かはやしろ明日は秋とぞ思へばや。

【川省】82 ch‘uan^1 shêng^3 四川省の略。

【川上】83（センジヤウ） ㊀川のほとり。河畔。川上之歎を見よ。〔宋書、樂志四〕瞻二彼逝者一、歲月其偕レ子、在二川上一、惟以增レ懷。㊁周の制度の川のほとり。川は周の制度で、萬夫四縣の田の外を周る水流をいふ。〔周禮、地官、遂人〕千夫有レ澮、澮上有レ道、萬夫有レ川、川上有レ路、以達二于畿一。㊂川流のうへ。川水の表面。〔陶潛、辛丑歲七月赴レ假還二江陵一夜行二塗口一作詩〕昭昭天宇闊、晶晶川上平。〔高適、詶二陸少府一詩〕欲レ濟二川上舟一、相思空佇立。〔劉長卿、雜詠、白鷺詩〕亭亭常獨立、川上時延レ頸。

〖川上嶽〗84（カホレダケ） 飛彈國に在る山。

〖川上之歎〗85（センジヤウノタン） 孔子が川のほとりに立ち、光陰の去つて還らず、萬物の代謝して息まないのを歎じた故事。〔論語、子罕〕子在二川上一曰、逝者如レ斯夫、不レ舍二晝夜一。〔張協、雜詩〕川上之歎レ逝、前脩以自勖。

〖川上春山〗86（カハカミシユンザン） 下野國の人。本姓は中村。名は廣樹。幼名は八十吉・才輔。號は春山。日尾荊山・中條某に師事す。官は宇都宮藩老職・足利藩大參事・修史館出仕。川上氏を嗣ぎ、漢學及び國學に精通す。明治二十八年十二月二日歿す、年五十七。著に足利學校事蹟考・語學入門・點注唐宋八家文讀本纂評・譯注古事記がある。

【川壤】87（センジヤウ） 川底の土。かはつち。〔夏侯湛、朝華賦〕蜿二潛根一以誕レ節、據二川壤一以擢レ莖。

【川狩】88（カハガリ） 川で魚を捕へること。〔源平盛衰記、六〕西光父子亡事、川狩して遊びけり。

【川渚】89（センシヨ） 川のなかす。〔謝靈運、從二斤竹澗一越レ嶺溪行詩〕川渚屢逕復、乘レ流翫二廻轉一。〔鮑照、贈二傅都曹別一詩〕落日川渚寒、愁雲繞レ天起。

【川色】90（センシヨク） 川の色。川の水面の光。川光。〔劉禹錫、三月三日與二樂天及河南李尹一奉レ陪二裴令公一泛レ洛禊飲各賦十二韻詩〕川色晴猶遠、烏聲暮欲レ棲。〔劉滄、望二未央宮一詩〕西上秦原見二未央一、山嵐川色晚蒼蒼。

【川蜀】91（センシヨク） 蜀の地。四川省をいふ。〔宋史、選擧志六〕方今國家之兵、東至二淮海一、西至二川蜀一、殆百餘萬。〔元史、兵志、兵一〕世祖卽位、平二川蜀一、下二荊襄一。

【川心】92（センシン） 川のまんなか。心は中心。〔大八洲游記、四、西條山〕岸濶水淺、川心有二沙洲一。

【川岑】93（センシン） 川とみね。山澤。〔范曄、樂游應詔詩〕崇盛歸二朝闕一、虛寂在二川岑一。〔注〕向曰、川岑、山澤也。

【川津】94（カハヅ） 舟の寄る川の岸。〔萬葉集、十〕川瀨を渡る左小舟の、行き得て泊てむ河津しおもほゆ。

【川浸】95（センシン） 水のたまつた處。〔通典、州郡典序、目下、注〕按、禹貢物產貢賦、職方、山藪川浸、皆不レ及二五嶺之外一。

【川人】96 ch‘uan^1 jen^2 四川省の人。

【川潯】97（センジン） 川のみぎは。〔江淹、蓮華賦〕既翕二絶於洲張一、亦映二曖於川潯一。

【川水】98（センスイ） ㊀川の水。かはみづ。〔漢書、李尋傳〕今汝潁畎澮、皆川水漂踊。〔南齊書、五行志〕霧水暴出、川水逆溢。㊁谷川から分れ出て、他の大川又は海に注ぐ川をいふ。〔管子、度地〕水之出二於他水溝一、流二於大水及海一者、命曰二川水一。

【川逝】99（センセイ） 川水が流れる。〔庾信、周柱國楚國公岐州刺史慕容寧神道碑銘〕秋風北原、日沒川逝。〔應瑒、西狩賦〕時霜淒而淹レ野、寒風肅而川逝。

【川椒】100（センセウ） 蜀椒（**10－33086**・・35）の異名。山椒。四川省に產するからいふ。〔本草、蜀椒〕釋名、巴椒・漢椒・川椒・南椒・蓎藙・點椒、時珍曰、川、則巴蜀之總稱、因二岷沱黑白四大水一、分二東西南北一、爲二四川一也。〔壽域神方〕冷蟲心痛、川椒四兩、炒出レ酒。

【川遶】101（センゼウ） 川がめぐりかこむ。〔明一統志〕大平府形勝、山圍川遶。

【川川】102（センセン） 大きい車などの、おもおもしく遲いさま。〔太玄經、難〕大車川川、上輆二于山一、下觸二于川一。〔注〕川川、重遲之貌。

【川泉】103（センセン） 川と泉。〔古三墳〕氣、川泉。〔法言、五百〕山陵川泉。

【川蟬】104（カハセミ） 鳥の名。雀より大きく、羽毛は綠赤褐で、脚は赤い。魚の水面に浮ぶのを窺つて巧に之を捕食する。又、魚狗・水狗・魚虎・翡翠ともいふ。

【川苔】105（センタイ） 谿菜（**10－36219**・・24）を見よ。

【川黨】106（センタウ） 宋の哲宗の時の朋黨三派の一。蘇軾を領袖とし、呂陶等が之を助けた。文學を標榜し、風流を尙び、放言高論し、天才を誇とした。川とは四川の稱。軾が蜀の人であつたからいふ。一に蜀黨といふ。他の二黨は洛黨と朔黨とで、洛黨は程頤を首とし、朱光庭・賈易等之を助け、朔黨は劉摯・王嚴叟・劉安世を領袖とし、輔佐最も多く、この三黨が互に相爭ひ、殊に川・洛二黨の攻訐は最も甚しかつた。元祐黨人（**1－1340**・・21）を見よ。〔朱熹、題二趙清獻事實後一〕國家自二熙豐元祐一以來、人才政事分爲二兩塗一、是レ此者非レ彼、鄉レ左者背レ右、既不レ可二得而同一矣、而於二其同之中一又有レ異焉、則若二元祐之朔黨・洛黨・川黨一。

【川堂】107（センダウ） らうか。廊下。〔福惠全書、涖任部、發各告示〕川堂逼二近內衙一、務須二嚴肅一。

【川澤】108（センタク） 川と澤。〔詩、大雅、韓奕〕孔樂韓土、川澤訏訏。〔周禮、春官、大宗伯〕以二貍沈一祭二山林川澤一。〔左氏、宣、三〕故民入二川澤山林一、不レ逢二不若一。〔孟子、離婁上〕爲レ下必因二川澤一。〔荀子、王制〕汙池・淵沼・川澤、謹二其時禁一。〔曹植、贈二丁儀一詩〕朝雲不レ歸レ山、霖雨成二川澤一。

〖川澤納汙〗109（センタクヲヲイル） 川や澤は汚水をも受けいれる。人に長たる者が大小善惡の人を廣く包容する喩。〔左氏、宣、十五〕諺曰、高下在レ心、川澤納レ汙、山藪藏レ疾、瑾瑜匿レ瑕、國君含レ垢、天之道也。〔漢書、路溫舒傳〕古人有レ言、山藪藏レ疾、川澤納レ汙。

【川地】110（センチ） 川の流域。川域。〔宋史、食貨志上四〕熙州王韶又請、以二河州蕃部近城川地一、招二弓箭手一、以二山坡地一、招二蕃兵弓箭手一。

【川池】111（センチ） 川と池。〔左氏、昭、四〕今藏二川池之冰一、弃而不レ用。

〖川池暴沍〗112（センチニハカニコホル） 川や池がにはかに凍る。鄭の樂師の師文が、其の技神に入り、夏時、十一月の律を奏するや、川池忽にして凍つたといふ故事。〔列子、湯問〕當レ夏而叩二羽弦一、以召二黃鍾一、霜雪交下、川池暴沍。

【川坻】113（センチ） 川岸。坻は岸。〔王粲、從軍詩〕陳レ賞越二丘山一、酒肉踰二川坻一。〔任昉、贈二郭桐廬一詩〕涿令行レ春返、冠蓋溢二川坻一。〔注〕善曰、郭璞上林賦注曰、坻、岸也。

【川綢】114 ch‘uan^1 ch‘ou^2 四川省產の絹織物。

【川竹】115（カハタケ） 川邊に生ずる竹。水の增減によつて起き伏しの定まらないもの。遊女の身の上の喩。〔謠曲、江口〕かはたけの流れの女。

【川長】116（センチヤウ） ㊀川が長い。〔劉長卿、送二皇甫曾赴二上都一詩〕離心日遠如二流水一、廻レ首川長共二落暉一。〔梁洽、晴望二長春宮一賦〕雲收野迴兮目極二千里一、空淨川長兮纖埃不レ起。㊁（カハヲサ）舟人。船頭。〔源氏物語、橋姬〕さしかへる宇治の川をさ。

【川漲】117（センチヤウ） 川の水がみなぎる。又、漫々とみなぎる川の水。〔江淹、望二荊山一詩〕悲風繞二重林一、雲霞肅二川漲一。〔唐書、張儉傳〕先進略レ地至二遼西一、川漲久未レ度。

【川中】118（センチユウ） かはなか。川の中流。〔皮日休、奉レ和二魯望漁具一十五詠、鳴根詩〕盡水無レ所レ逃、川中有二鉤黨一。

【川冢】119（センチヨウ） 川と塚。〔徐陵、廣州刺史歐陽頠德政碑〕天地崩霄、川冢沸騰。

【川澄】120（センチヨウ） 川の水がすむ。〔鮑照、與二謝尙書莊一三連句詩〕霞輝兮澗朗、日靜兮川澄。〔李華、含元殿賦〕自レ中徂レ外、鏡洗川澄。

【川亭】121（センテイ） 川邊にある宿屋。〔杜牧、送二斛斯判官一詩〕蒼蒼烟月滿二川亭一、我有二勞歌一一爲レ聽。

【川程】122（センテイ） 川の道のり。川路。〔劉長卿、送二裴二十一一詩〕客思閑偏極、川程遠更分。

【川奠】123（センテン） 川からとれた、籩豆の實。魚・鱐・蜃・蛤の屬。〔周禮、地官、川衡〕祭祀賓客、共二川奠一。〔注〕川奠、籩豆之實、魚鱐蜃蛤之屬。

【川途】124（セント） かはすぢ。川塗。〔謝靈運、九日云云送二孔令一詩〕豈伊川途念、宿心愧レ將レ別。〔陳子昂、白帝城懷古詩〕川途去無レ限、客思坐何窮。

【川塗】125（セント） かはすぢ。川途。〔宋書、沈攸之傳〕密二邇內畿一、川塗弗レ遠。〔韋應物、冬至夜寄二京師諸弟一云云詩〕川塗恍悠邈、涕下一闌干。

【川土】126 ch‘uan^1 t‘u^3 四川省產の鴉片。

【川東】127（セントウ） 四川省東部の東川道。清代、川東

道といふ。〔清會典事例、吏部〕川東道、典吏十有四人。

【川瀆】128（セントク） かは。瀆は大川。〔張衡、西京賦〕蕩二川瀆一、簸二林薄一。〔郭璞、江賦〕考二川瀆一而妙觀、實莫レ著二於江河一。〔左思、呉都賦〕谿壑爲レ之一罄、川瀆爲レ之中貧。

【川南】129（センナン） 四川省南部の稱。清代、川南永寧道があり、敍州府及び瀘・資・永寧の三州を管轄した。〔清會典事例、吏部、官制、各省道員〕四川、川東道・川北道・川南永寧道・建昌道・成緜龍茂道・鹽茶道、各一人。

【川入】130（カハイリ） 川に入つて死ぬこと。〔太神宮儀式帳〕川入・火燒の罪。

【川馬】131 chʻuan^1 ma^3 四川省に産する馬。

【川防】132（センバウ） 川の堤防。〔史記、秦始皇紀〕墮二壞城郭一、決二通川防一。〔法言、五百〕川有レ防、器有レ範。

【川紡】133 chʻuan^1 fang^3 四川省産の紡績の一種。

【川迫】134（カハセコ） 安藝國の地名。

【川尾】135（センビ） 川の上流。川の源。〔宋史、龐籍傳〕金明西北有二渾州一、川上沃衍、川尾曰二橋子谷一。

【川媚】136（センビ） 川がうるはしい。〔陸機、文賦〕石韞レ玉而山暉、水懷レ珠而川媚。

【川湄】137（センビ） 川のみぎは。川水のほとり。〔傅亮、司徒劉穆之碑〕率二先羣后一、電二發川湄一。〔許敬宗、奉三和入二潼關一詩〕仙露含二靈掌一、瑞鼎照二川湄一。

【川府】138（センプ） 萬物の集まりよる所。〔易、繫辭上、乾坤其易之縕邪、疏〕故乾坤是易道之所二縕積一之根源也、是與レ易爲二川府奧藏一、故云二乾坤其易之縕邪一。

【川阜】139（センプ） ❶川とをか。〔魏書、文成文明皇后馮氏傳〕太后與二高祖一遊二於方山一、顧二瞻川阜一。〔任昉、爲二庾杲之一與二劉居士虯一書〕卜二居郊郭一、縈二帶川阜一。❷川中の小阜。〔史記、趙世家、嬴姓將三大敗二周人於范魁之西一、注〕正義曰、賈逵云、川阜曰レ魁也。

【川敷】140（カハシキ） 川の溢れた場合に流域となる豫定地。川敷地。

【川鶩】141（センプ） 川の流のやうに走る。鶩は、はせまはる。〔劉峻、廣絶交論〕靡レ不二望レ影星奔、藉レ響川鶩一。

【川平】142（センペイ） 川の流の平穩なこと。平野を流れる川のさま。〔高適、魯郡途中遇二徐十八録事一詩〕日出見二闕里一、川平如二汶陽一。〔盧綸、春日灞亭同二苗員外一寄二皇甫侍御一詩〕川平人去遠、日暖鴈飛遲。〔晁公遡、登レ樓賦〕一目千里、野曠川平。

【川邊】143（センペン） ❶道名。清代、康安・邊北二道の地。川滇邊務大肥に屬す。民國二年、邊東道に改め、邊北道を邊西道とし、三年、川邊特別區域を設け、西道を廢す。五年、復、西道區域に川邊道を置き、西康特別區域の全境を統ぶ。四川省の西邊に在るから名づけらる。治は康定縣。康定・安良・瀘定・雅江・道孚・理化・瞻化・稻城・貢噶・巴安・義敦・鹽井・甘孜・鑪霍・丹巴・定鄉・昌都・德榮・武成・寧靜・察雅・貢・察隅・科麥・恩達・鄧柯・石渠・白玉・德格・同普・嘉黎・碩督・太昭の三十三縣を管轄す。今、廢す。❷㋑（カハノベ） 姓氏〔新撰姓氏錄考證、四〕。㋺（カハナベ） 薩摩國の郡名。

【川父】144（センポ） 明、李濂（**6－14459**··811）の字。

【川北】145（センポク） 四川省北部の稱。嘉陵道をいふ。清代、川北道といふ。〔清會典事例、吏部〕川北道、典吏十有三人。

〖川北溫山〗146（カハキタヲンザン） 名は重熹。字は儀卿。號は溫山・春風樓。嘉永年間の人。官は肥前島原藩執政。著に溫山詩稿・溫山文・溫山文稿・瓊浦紀行・原城紀事・恒溪詩筆・扈從餘賞・東歸錄がある。〔近代著述目錄後篇〕・〔國書解題〕。

〖川北梅山〗147（カハキタバイザン） 伊勢國の人。名は長顯。字は有孚。通稱は榮吉・新甫。號は梅山。齋藤拙堂・猪飼敬所に師事し、經學は程朱を宗とす。官は津藩儒。明治三十八年一月三日歿す、年八十四。著に梅山遺稿・夢清樓存稿・桂冠集がある。

【川朴】148 chʻuan^1 pʻu^4 四川省産の厚朴といふ藥。

【川末】149（センマツ） 川しも。川の下流。〔鮑照、還レ都至二三山一望二石頭城一詩〕泉源安二首流一、川末澄二遠波一。

【川明】150（センメイ） 川の水面があるかい。川明虹照レ雨を見よ。

〖川明虹照レ雨〗151（カハアキラカニシテニジアメヲテラス） 小雨が半ば霽れ、それに夕陽が映えて虹がかかり、川の面も明るくなつた。〔司空圖、華下送二文涓一詩〕川明虹照レ雨、樹密鳥衝レ人。

【川面】152（カハヅラ） 川の水面。川の上。又、川に面した處。かはべ。〔源氏物語、松風〕川つらに、云云、建てたる寢殿。

【川門】153（カハド） 川の流の狹くなつて瀨をなすところ。〔萬葉集、五〕我が家の里のかはと。

【川楊】154（カハヤナギ） 水楊（**6－17083**··829）の和名。水邊に生じ、高さ五六尺。枝を垂れず、葉は桃に似、面は深綠、背は白く、花は尾狀の穗で白色。川柳。〔和漢三才圖會、喬木、水楊〕和名、加波夜奈木。

【川容】155（センヨウ） 川のありさま。〔韋應物、雪行寄二褒子一詩〕淅瀝覆二寒騎一、飄颻暗二川容一。

【川壅】156（センヨウ） 川がふさがる。川の水が流通しないこと。〔左氏、宣、十二〕衆散爲レ弱、川壅爲レ澤。〔國語、周語上〕防二民之口一、甚二於防一レ川、川壅而潰、傷レ人必多、民亦如レ之。

【川浴】157（カハアミ） 河水に浴すること。〔古事記、中〕沐（カハアミシタマヒキ）二肥河一。

【川裏】158 chʻuan^1 li^3 四川省。

【川柳】159（センリウ） ❶川邊の柳。〔岑參、奉三和相公發二益昌一詩〕山花萬朶迎二征蓋一、川柳千條拂二去旌一。❷寶曆・明和の間、江戸淺草の柄井八右衞門が詠み始めた五七五の三句から成る一種の歌。前句附から一變したもので、極めて狂體なもの。寸鐵人を刺し、片言世を衝き、機智と諧謔とに富む。川柳は八右衞門の號で、初代綠亭川柳と稱す。

〖川柳點〗160（センリウテン） 川柳の❷の撰集をいふ。優劣を鬪はせ、勝負をつけた句集を柳樽（ヤナギダル）といふ。

【川流】161（センリウ） ❶川のながれ。水流。河流。川行。〔揚雄、劇秦美新〕川流海渟。〔晉書、裴秀傳〕山海川流、原隰陂澤。〔陸機、演連珠〕披レ雲看レ霄、則天文清澄、風觀レ水則川流平。❷川の水がその流域を潤す。惠澤がある範圍に及ぶ。又、脈絡貫通して流布する。〔中庸〕小德川流、大德敦化。〔後漢書、崔駰傳〕處士山積、學者川流。〔顏延之、宋文皇帝元皇后哀策文〕惠問川流、芳猷淵塞。

【川陸】162（センリク） 川と陸。〔張衡、週天大象賦〕迤二奎婁之分野一、辨二鄒魯之川陸一。〔顏延之、登二巴陵城樓一作詩〕經レ塗延二舊軌一、登レ闉訪二川陸一。

【川立】163（カハダチ） ❶水練の上手。〔堀河百首題狂歌〕川だちは川ではつる。❷水邊に住む人。

【川梁】164（センリヤウ） 川のやな。〔江淹、雜體、鮑參軍照戎行詩〕鵾鵬不レ能レ飛、玄武伏二川梁一。〔杜甫、成都府詩〕信美無二與適一、側レ身望二川梁一。

【川林】165（センリン） 河川と森林。〔周禮、天官、大宰、三曰、虞衡作二山澤之材一、疏〕案、地官掌二山澤一者、謂二之虞一、掌二川林一者、謂二之衡一。

【川靈】166（センレイ） 川の神。〔後漢書、桓帝紀〕永興二年九月、云云、川靈涌レ水、蝗蟲孳蔓。

【川連】167 chʻuan^1 lien^2 紙の名。福建省から産す。質が薄いので書寫に供する。

【川連紙】168 chʻuan^1 lien^2 chih^3 四川省産の白紙。

【川路】169（センロ） 川を舟でゆくこと。又、かはの道のり。川程。〔謝莊、月賦〕川路長兮不レ可レ越。〔謝惠連、汎二南湖一至二石帆一詩〕軌息陸塗初、枻鼓川路始。

【川隅】170（カハクマ） ❶河流の曲つた所。〔萬葉集、一〕河の川隅。❷河流の入りこんだ所。川曲。

【川俣】171（カハマタ） 姓氏。〔國氏姓名譜〕。

【川強瞿】172（センキヤウク） 山丹（**4－7869**··742）の異名。ひめゆり。〔本草、山丹〕釋名、紅百合・連珠・川強瞿・紅花菜。集解、時珍曰、燕齊人采二其花跗未レ開者一、乾而貨レ之、名二紅花菜一。

【川換帳】173 chʻuan^1 huan^4 chang^4 金錢の貸借關係を記す帳簿。

【川鵑花】174（センケンクワ） 蜀中に産する杜鵑花をいふ。〔事物異名錄、花卉、杜鵑〕草花譜、杜鵑出二蜀中一者佳、謂二之川鵑花一。

【川元蠢】175（センゲンシユン） 川芎（35）の異名。〔事物異名錄、藥材、總名〕清異錄、侯寧極藥譜、川元蠢、川芎也。

【川草花】176 chʻuan^1 tsʻao^2 hua^1 草花の名。たうくわんざう。

【川身皮】177 chʻuan^1 shen^1 pʻi^2 四川省産の毛皮の一。黃紅色又は白灰黑根の毛がある。

【川逍遙】178（センセウエウ） 川邊に遊ぶこと。川原を逍遙

し、或は舟を水流に浮べて遊ぶこと。〔古今和歌集、秋上〕加茂の川原に川せうえうしける。

【川鼠皮】179 ch'uan^1 shu^3 p'i^2　四川省産の猪皮毛の一。黑紅色灰根の毛がある。

【川彈子】180（センダンシ）　果實の名。龍眼(**12**－**48818**··75)の別名。〔本草、龍眼〕釋名、龍目・圓眼・益智・亞荔枝・荔枝奴・驪珠・燕卵・密脾・鮫淚・川彈子。

【川老鼠】181 ch'uan^1 lao^2 shu^3　四川省の人を呼ぶ語。

【川崎魯齋】182（カハサキロサイ）　名は履。通稱は魯助。號は魯齋。官は上州沼田藩儒。明治二年、大學助教となり、東京に居住す。明治九年六月二十日歿す、年七十三。著に孝經參釋がある。

【川施餓鬼】183（カハセガキ）　川に溺れて死んだ者の靈を安んずる爲に、川で供養讀經する佛祭。〔明和川柳〕川施餓鬼屋形は初の顏ばかり。

【川井東村】184（カハヰトウソン）　大阪の人。名は與。字は正直。號は東村。通稱は與左衞門。延寶五年歿す、年七十七。孝經刊誤・小學句讀・學庸章句・語孟集注・近思錄集解・朱子語類・魯齋全書・讀書錄・天命圖說・自省錄等の筆寫がある。〔先哲叢談、後、二〕。

【川楚敎匪】185（センソケウヒ）　清の乾隆の末年、安徽省の白蓮敎徒、劉之協・宋之淸等が河南厤邑の童兒、王發生を奉じ、詭言して明朝の裔となし、流俗を煽動して事を起した。間もなく淸の吏に破られ、之淸は殺され、之協は遁れたが、官吏はその餘黨を索めて無辜に及ぶや、湖北荊州の聶傑人、襄陽の姚之富、及び齊林の妻王氏、四川の孫士鳳、陝西の張士龍等皆起つて淸に抗し、其の勢は、川(四川)・楚(湖南・湖北)・陝・甘の諸省に蔓延するに至つた。時に之を川楚敎匪といふ。〔東華續錄、嘉慶六年〕近來各路軍營、捷音踵至、川陝楚等省敎匪、指レ日卽可ニ蕩平一。

【川村華陽】186（カハムラクワヤウ）　江戶の人。名は榮壽。字は萬年。通稱は孫八。號は華陽・松風館。井上金峨を師とし、折衷學を奉ず。天明四年八月歿す、年四十九。著に華陽聞見志・松風館集・青梧園詩稿・青梧園漫筆・青梧夜談がある。〔近代著述目錄後篇〕・〔國書解題〕。

【川村竹坡】187（カハムラチクハ）　伊勢國の人。名は尙迪。字は毅甫。通稱は貞藏。號は竹坡。猪飼敬所を師とし、經學は折衷を宗とす。官は津藩儒。明治八年九月二十九日歿す、年七十九。著に竹坡詩文集がある。〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕。

【川渟岳峙】188（カハトドマリヤマソビユ）　淵のやうにとどまり山岳のやうに峙つ。毅然として操守を變へないさま。淵渟岳峙(**7**－**17692**··88)に同じ。〔晉書、隱逸傳序〕玉輝冰潔、川渟岳峙、修ニ至樂之道一。

【川田甕江】189（カハダヲウカウ）　備中國の人。名は剛。字は毅卿。通稱は竹次郎・城之助。號は甕江。鎌田玄溪・古賀茶溪・大橋訥庵・藤森弘庵等に師事す。經學は程朱を宗とし、兼ねて明淸諸家に涉り、經史百家及び國典に精通し、最も文章に巧。官は備中松山藩士・修史局一等修撰・宮內省四等出仕・東京大學敎授・諸陵頭・貴族院議員・宮中顧問官・學士院會員。從三位に敍し、文學博士を授けらる。明治二十九年二月二日歿す、年六十七。著に近世名家文評・殉難錄稿・隨鑾紀程・藤樹先生年譜・得閒瑣錄・日本外史辨誤・文海指針がある。

【川田喬遷】190（カハダケウセン）　遠江國の人。名は良熙。字は宗仲。明和年間の人。官は相良藩儒。著に學庸軌說・弄華辨・論語古說がある。〔近代著述目錄後篇〕。

【川班殿直】191（センパンデンチョク）　宋代、四川省から召し出されて宮殿に當直した兵。〔宋史、兵志一、內殿直、注〕左右班四、周制、簡下軍校暨武臣子弟有ニ材勇一者上立、又有ニ川班殿直一、乾德二年、平レ蜀得ニ奇兵一、簡下閱材貌魁偉、便ニ習騎射一者、凡百二十人上立、開寶二年廢。

【川閱レ水成レ川】192（カハミツヲエツシテカハヲナス）　川は多くの水をすべあはせて川を成す。閱は摠べる。〔陸機、歎逝賦〕悲夫、川閱レ水以成レ川、水滔滔而日度、世閱レ人而爲レ世、人冉冉而行暮。〔注〕善曰、高誘淮南子注曰、閱、摠也。

【川淵深而魚鼈歸レ之】193（センエンフカクシテギョベツコレニキス）　川の淵が深ければ、自然多くの魚類があつまる。王者に德あれば、人自ら之に歸する喩。〔荀子、致士〕川淵深而魚鼈歸レ之、山林茂而禽獸歸レ之、刑政平、而百姓歸レ之、禮義備而君子歸レ之。〔呂覽、功名〕水泉深則魚鼈歸レ之、樹木盛則飛鳥歸レ之、庶草茂則禽獸歸レ之、人主賢則豪傑歸レ之。

一　畫

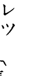
【儿】8674　クン　國字　古文書で訓の略字。

【𢀜】8675　サイ　災(**7**－**18923**)の本字。〔正字通〕𢀜、災本字。

參考　巛(**4**－**8669**)・巛(**4**－**8670**)は別字。〔康熙字典、辨似、三字相似〕巛、川本字。巛、古坤字。𢀜、災本字。

三　畫

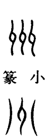
【𡿪】8676　レツ　レチ　〔集韻〕力蘖切　屑。


小篆

❶**水の流れるさま**。〔說文〕𡿪、水流𡿪𡿪也、从レ巛列省聲。❷通じて洌(**2**－**1637**)に作る。〔六書本義〕𡿪、通作レ洌。

【𡿫】8677　レツ　𡿪(**4**－**8676**)の俗字。〔正字通〕𡿫、俗𡿪字。

【州】8678　シウ　シユ　〔集韻〕之田切　尤　ㄓㄡ chou^1　慣ス


小篆　古文

❶す。しま。〔說文〕州、水中可レ凥者曰レ州、水匊ニ繞其旁一、从ニ重川一、昔堯遭ニ洪水一、民凥ニ水中高土一、故曰ニ九州一、詩曰、在ニ河之州一、一曰、州、疇也、各疇ニ其土一而生也。〔王注〕今關睢作レ洲、乃俗別也。❷**行政區劃の名**。㋑虞舜の時、其の領域を十二州に分けて、冀・兗・青・徐・荊・揚・豫・梁・雍・幽・幷・營とし、夏禹は九州として冀・兗・青・徐・荊・揚・豫・梁・雍を置き、周は揚・荊・豫・青・兗・雍・幽・冀・幷の九州とした。爾來、漢・魏を經て隋初に至るまで、其の名稱・設置數・境域には出入があつたが、略〻舊制を沿襲して領國を統轄した。隋末、州を廢して郡に換へ、唐に及んで、州の名稱を復活したが、之を路に隷屬する區劃として舊制を廢した。宋は唐制に依り、元明淸に至つては、唯〻府省下の境域の比較的大きいものの名稱とした。民國では遂に州の名稱を廢した。〔書、舜典〕肇ニ十有二州一。〔書、禹貢序〕禹別ニ九州一。〔周禮、夏官、職方氏〕乃辨ニ九州之國一。〔皇朝文獻通考、輿地考〕三代以後、多襲ニ古州之名一、止就ニ其疆理所一レ及分レ之、故每レ代各有ニ參差一、兩漢十三州、晉十九州、宋齊偏安、而州名轉增、至ニ隋末一改レ州爲レ郡、而古者以レ州領レ郡之制俱廢、唐復改レ郡爲レ州、別設ニ各道一領レ之、而宋又改レ稱爲レ路、皇淸、京師盛京而外爲レ省一十有八、分ニ置名府一、以領ニ諸縣一、諸州則參ニ列其間一。㋺周代、伯の統率する一地方。七卒、二百十國。〔禮、王制〕二百一十國、以爲レ州、州有レ伯。〔注〕州、猶レ聚也。〔疏〕州、是聚居、故云。〔公羊、

桓、二、昺爲㆑隱諱、注〕古者諸侯五國爲㆑屬、屬有㆑長、二屬爲㆑連、連有㆑帥、三連爲㆑卒、卒有㆑正、七卒爲㆑州、州有㆑伯也。㋩五黨、二千五百家。周代、人民自治の區域の一。中大夫に統御せられてゐた。〔周禮、地官、大司徒〕五家爲㆑比、使㆓之相保㆒、五比爲㆑閭、使㆓之相受㆒、四閭爲㆑族、使㆓之相葬㆒、五族爲㆑黨、使㆓之相救㆒、五黨爲㆑州。〔注〕州、二千五百家。㋥一萬二千五百家。〔論語、衞靈公〕雖㆓州里㆒行乎哉。〔集解〕鄭玄曰、萬二千五百家爲㆑州。㋭四十三萬二千家。〔太平御覽、州郡、敍州〕尙書大傳曰、云云、州十有二師。〔注〕鄭玄注曰、州、凡四十三萬二千家。㋬十術、一萬家。〔管子、度地〕百家爲㆑里、里十爲㆑術、術十爲㆑州。㋣二百里。〔周禮、地官、載氏、以㆓公邑之田㆒任㆓甸地㆒、注〕或謂㆓二百里㆒爲㆑州。❸むら。さと。〔左氏、宣、十一〕謂㆓之夏州㆒。〔注〕州、鄕屬也。❹くに。〔廣雅、釋詁四〕州、國也。〔史記、孟子傳〕中國名㆓赤縣神州㆒。❺つかさ。〔廣雅、釋室〕州、官也。❻國の名。㋑周代の國の名。姜姓。子爵。淳于に都す。後、杞に滅ぼさる。故城は山東省安丘縣の東北の淳于城。〔左氏、桓、五〕州公如㆑曹。㋺周代の國の名。故城は湖北省監利縣の東の州陵城。〔左氏、桓、十一〕鄖人軍㆓於蒲騷㆒、將㆘與㆓隨・絞・州・蓼㆒伐㆗楚師㆖。〔注〕州國、在㆓南郡華容縣東南㆒。❼邑の名。周の畿內の邑。周の桓王が鄭に與へ、後、晉に屬す。今の河南省沁陽縣の東南。〔左氏、隱、十一〕王、云云、與㆓鄭人蘇忿生之田、溫・原・絺・樊・隰郕・攢・茅・向・盟・州・陘・隤・懷㆒。〔左氏、昭、三〕賜㆓女州田㆒。❽あつまる。〔國語、齊語〕羣萃而州處。〔注〕州、聚也。❾居る。〔廣雅、釋水〕州、居也。❿あな。しり。醜（11－39969）・尻（4－7634）に通ず。〔說文通訓定聲〕州、叚借爲㆑醜、實爲㆑尻。〔爾雅、釋畜〕白州、驠。〔注〕州、竅。〔疏〕謂㆓馬之白尻者㆒、名㆑驠。〔廣雅、釋親〕州、臀也。⓫洲（6－17413）に同じ。〔說文通訓定聲〕州、亦作㆑洲。⓬古は𡿧（1－233）・𠘨（1－173）・𠛎（2－1914）・列（6－16399）に作る。〔集韻〕州、古作㆓𠘨・𠛎㆒。〔康熙字典〕州、古文𡿧・𠘨・𠛎・列。⓭姓。〔史記、三皇紀〕炎帝神農氏、其後有㆓州・甫・甘・許・戲・露・齊・紀・怡・向・申・呂㆒、皆姜姓之後、並爲㆓諸侯㆒、或分㆓掌四岳㆒。〔通志、氏族略、以㆑邑爲㆑氏〕州氏、風俗通云、晉有㆓州綽・州賓㆒、其先食㆓采於州㆒、因以爲㆑氏、其地今懷州武陟縣、是也、衞有㆓公子州吁㆒、漢有㆓州輔㆒、魏有㆓州泰㆒、又淳于氏、謂㆓之州公㆒、其後亦爲㆓州氏㆒、羌姓、春秋時小國也。

解字 會意。二巛を合す。水中の高處をめぐつて流れるさまをあらはす。故に水中の、高くて居るべき處をいふ。又、別義を疇とする。人の耕し治めて住むべきところの義。或は之を象形字とし、古文𡿧の丿は川の流が二つに分れて、又合する。即ち、川中に水に圍まれた小地面のあるを示す。小篆州は、川中に水に圍まれた多數の小地面があるのを表す。轉じて、水中のくぎられた場所の義より、行政上の區畫、即ち九州の州とし、又、國の義とし、周代は一萬二千五百家とし、又、假借して醜（尻）とする。〔說文通訓定聲〕州、水中可㆑居曰㆑州、周㆓繞其旁㆒、从㆓重川㆒、會意、古文省字、亦作㆑洲、云云、又論語雖㆓州里㆒行乎哉、鄭注、萬二千五百家爲㆑州、云云、假借爲㆑醜、實爲㆑尻、云云、說文一曰、州、疇也、各疇㆓其土㆒而生㆑之。

【州域】1 シウヰキ 州國の領域。一州の地域。州城（25）の❶を見よ。〔史記、天官書〕天則有㆓列宿㆒、地則有㆓州域㆒。〔漢書、游俠傳序〕權行㆓州域㆒、力折㆓公侯㆒。〔後漢書、班彪傳〕方今雄桀帶㆓州域㆒者、皆無㆓七國世業之資㆒。

【州駕】2 シウガ 官名。州同（44）の別稱。〔淸國行政法汎論、地方官廳、支那本部總論、行政區劃及地方官廳、官職古名〕州同、州駕・州司馬。

【州廨】3 シウカイ 州の行政事務を扱ふ役所。廨は役所。〔沈佺期、赦到不㆑得㆑歸題㆓江上石㆒詩〕配宅鄰㆓州廨㆒、斑苗接㆓野畦㆒。

【州巷】4 シウカウ むらざと。州閭。〔禮、祭義〕弟達㆓乎州巷㆒矣。〔注〕州巷、猶㆑閭也。

【州學】5 シウガク 州に設けられた學校。州序。〔李觀、袁州州學記〕皇帝二十有三年、制㆓詔州縣㆒立㆑學。

【州學正】6 シウガクセイ 一州の教官をいふ。〔六部成語、禮部、州學正、注解〕一州之教官。

【州鄕】7 シウキヤウ 縣名。漢、置く。故城は河北省河間縣の東北。〔漢書、地理志上〕涿郡、縣十四、州鄕。

【州曲】8 シウキヨク 村里。鄕曲。曲は片田舍。

【州吁】9 シウク 春秋、衞の人。莊公の庶子。桓公を弒して自立し、寵を諸侯に求めて以て其の民を和せんことを思つたが、尋いで右宰の爲に濮にて殺さる。〔左氏、隱、三・四〕。

【州官】10 シウクワン ❶州內の官。〔梁書、呂僧珍傳〕從父兄先以㆓販葱㆒爲㆑業、僧珍既至、乃棄㆑業、欲㆑求㆓州官㆒。❷宋以來、一州の長官の俗稱。

【州官放火】11 シウクワンハウクワ 燈をいふ。宋の田登は、郡の長官となるや、自ら其の名を諱み、觸れる者は必ず怒つて罰したので、擧州、燈を火といつた。爲に上元（陰曆正月十五日）の放燈に際し、吏人が本州依㆑例放火三日と大書榜示した故事。〔老學庵筆記、五〕田登作㆑郡、自諱㆓其名㆒、觸者必怒、吏卒多被㆓榜笞㆒、於㆑是擧州皆謂㆑燈爲㆑火、上元放燈、許㆘人入㆓州治㆒遊觀㆖、吏人遂書㆑榜揭㆓于市㆒曰、本州依㆑例放火三日。〔錢大昕、恆言錄〕俗語云、只許㆓州官放火㆒、不㆑許㆓百姓點燈㆒、偶閱㆓老學庵筆記㆒、稱、田登作㆑郡、自諱㆓其名㆒、擧州皆謂㆑燈爲㆑火、上元放燈、吏人書㆑榜揭㆓於市㆒曰、本州依㆑例放火三日、乃知㆔俗語有㆓自來㆒也。

【州郡】12 シウグン 州と郡。古の地方行政區域。夏の時の一州は今の一省よりも大きく、漢・晉・六朝は皆州を設けて郡縣を統べた。隋は開皇の初、郡を罷めて州を置き、大業の初、州を罷めて郡を置く。唐は武德の初、州を改めて郡とし、天寶の初、又、郡を改めて州とした。明淸は州があつて郡なし。都市に對して地方をいふ。又、刺史・守令などの地方官もいふ。〔漢書、雋不疑傳〕名聞㆓州郡㆒。〔馮衍、自論〕去而歸㆑家、復羈㆓旅于州郡㆒。〔後漢書、楊賜傳〕常退居隱約、不㆑答㆓州郡禮命㆒。〔蔡邕、處士圈典碑〕州郡禮招、休命交集。

【州郡勞】13 シウグンノラウ 州郡を治める勞苦。刺史や縣令などの任にあること。〔後漢書、梁竦傳〕閑居可㆓以養㆑志、詩書足㆓以自娛㆒、州郡之職、徒勞㆑人耳。

【州縣】14 シウケン ❶州と縣。〔唐書、地理志〕考㆔隋唐地理之廣狹、戶口盈耗、與㆓其州縣廢置、其盛衰治亂興亡㆓、可㆓以見㆒矣。〔李觀、袁州州學記〕皇帝二十有三年、制㆓詔州縣㆒立㆑學。〔歐陽脩、吉州學記〕今州縣之吏、不㆑得㆘久㆓其職㆒而躬㆗親於教化㆖也。❷縣名。漢、置き、河內郡に屬す。古、周の州邑の地。今の河南省沁陽縣の東南。〔左氏、昭、三〕賜㆓女州田㆒。〔注〕州縣、今屬㆓河內郡㆒。

【州縣官】15 シウケンクワン 地方官の統稱。〔淸會典事例、兵部、綠營處分例、捕盜〕雍正二十八年論、地方文武、均有㆓緝匪之責㆒、云云、若遇㆑有㆓翻供之案㆒、令㆘州縣官移㆓詢原獲㆒弁㆖兵、據㆑實確訊、詭計自無㆑可㆑施、而營伍緝捕、責成更專、於㆓民生㆒殊有㆓裨益㆒。

【州縣提綱】16 シウケンテイカウ 書名。四卷。撰者未詳。文淵閣書目には宋、陳襄撰とあるが、誤である。原本久しく佚し、今、永樂大典から錄出せらる。州縣に於て民に臨む法を論じたもの。〔四庫提要、史、職官類〕。

【州侯】17 シウコウ 戰國、楚の人。襄王の佞臣。〔戰國、楚策〕・〔荀子、臣道〕。

【州貢】18 シウコウ 州の貢物。〔魏書、慕容白曜傳〕使㆔天府納㆓六州之貢㆒。

【州佐】19（シウサ） 官名。州の補佐官をいふ。〔通典、職官典、州郡上、總論州佐〕州之佐吏、漢有二別駕・治中・主簿・功曹書佐・簿曹・兵曹・部郡國從事・史・典郡書佐等官一。〔李嶠、爲二王華暢一謝二兄授官一表〕五爲二縣宰一、三遷二州佐一。

【州宰】20（シウサイ） 一州の長官。刺史。〔後漢書、韋彪傳〕宜レ簡下嘗歷二州宰一、素有レ名者上。

【州司】21（シウシ） 州の役人。州職。〔李密、陳情表〕州司臨レ門、急二於星火一。

【州司馬】22（シウシバ） 清代、州判(47)の別名。〔清國行政法汎論、地方官廳、行政區劃及地方官廳、府廳州縣各衙門、備考〕官職古名（在二括弧中一者爲二古名一）、州同（州駕・州司馬）、州判（別駕・州司馬）。

【州師】23（シウシ） 水軍。舟師(**9**－**30350**··27)の❶に同じ。州は舟に通ず。州人(31)の❸を見よ。〔舊五代史、梁末帝紀下〕梁王彥章率二州師一、自二楊村寨一浮レ河而下。

【州社】24（シウシヤ） 州に祭る社。社は土地の神。〔周禮、地官、州長〕若以二歲時一、祭二祀州社一、則屬二其民一、而讀レ灋、亦如レ之。

【州城】25（シウジヤウ） ❶州域(1)の誤。〔漢書、敍傳上〕方今雄桀帶二州城一者、皆無二七國世業之資一。〔王先謙補注〕宋祁曰、城或作レ域、王念孫曰、作レ域者是也、雄桀帶二州域一者、謂三雄桀竝立、各帶二一州之域一也、若作二州城一則非二其指一矣、域與レ城、字形相似而誤、漢紀孝平紀・後漢書班彪傳・宋書符瑞志、竝作二州域一。❷州の首府をいふ。州治。〔讀史方輿紀要、直隸、順天府、涿州〕范陽廢縣、云云、城邑攷、州城形如二凹字一。

【州壤】26（シウジヤウ） 國土。州土。〔魏書、崔挺傳〕挺雖レ同二州壤一、未二嘗詣レ門。

【州處】27（シウシヨ） 人民の聚まり居ること。〔國語、齊語〕令二夫士羣萃而州處一。〔注〕州、聚也。

【州序】28（シウジヨ） 州の學校。州學。〔周禮、地官、州長〕春秋以レ禮會レ民、而射二于州序一。〔注〕序、州黨之學也。

【州職】29（シウシヨク） 州の役人。州司。〔南齊書、丘靈鞠傳〕演之曰、身昔爲二州職一。

【州箴】30（シウシン） 文章の名。漢、揚雄作。虞箴に擬して作る。古文苑・漢魏名文乘等に見え、冀州牧・兗州牧・青州牧・徐州牧・揚州牧・荊州牧・預州牧・益州牧・雍州牧・幽州牧・幷州牧・交州牧等の諸箴がある。〔漢書、揚雄傳贊〕箴莫レ善二於虞箴一、作二州箴一。〔注〕晉灼曰、九州之箴也。

【州人】31（シウジン） ❶州の人。〔歐陽脩、吉州學記〕謀下與二州人一遷而大レ之、以爲中學舍上。❷身分の無い人。庶人。衆人。〔蜀志、彭羕傳〕羕起二徒步一、一朝處二州人之上一、形色囂然自矜。❸船頭。漁夫。州は舟に通ず。舟人。〔荀子、君道〕倜然乃舉二太公於州人一而用レ之。〔王先謙集解〕兪樾曰、按、州人、當下從二韓詩外傳一作中舟人上、太公身爲二漁父一、而釣二於渭濱一、故言二舟人一也、舟・州古字通。

【州詔】32（シウセウ） 南朝宋、汝南の人。字は伯和。太始中、隱處す。後、員外散騎侍郎に徵されたが就かず。〔宋書、九十三〕。

【州俗】33（シウゾク） 土地の風俗。俚俗。土俗。

【州尊】34（シウソン） 州の長官。〔蜀志、秦宓傳〕貧賤困苦、亦何時可二以終レ身、卞和衒レ玉以耀レ世、宜下一來與二州尊一相見上。

【州泰】35（シウタイ） 三國、魏の南陽の人。諡は壯侯。用兵を善くす。官は征虜將軍・假節都督江南諸軍事。〔三國志、二十八〕。

【州端】36（シウタン） 州の別駕(**2**－**1924**··17)の異名。群僚の右に位するからいふ。〔資治通鑑、宋紀〕（文帝、元嘉二十八年）子夏親爲二州端一、曾無二同異一。〔注〕州別駕、居二羣僚之右一、故曰二州端一。

【州治】37（シウチ） 州の行政廳のある所。州城。〔讀史方輿紀要、直隸、順天府、通州〕廢潞縣、今州治、漢置レ縣。

【州長】38（シウチヤウ） ❶周官の名。地官の屬。位次は鄕大夫。鄕に五州があり、其の州の長。州の政治教令の法を掌る。內則には州伯といふ。〔周禮、地官、州長〕州長、各掌二其州之教治政令之灋一。〔管子、立政〕分レ鄕以爲二五州一、州爲二之長一、云云、里尉以復二于州長一。❷古、九州の長。殷に伯といひ、周に牧といふ。〔詩、周南召南譜、疏〕尙書謂二文王一爲二西伯一、殷之州長曰レ伯、謂爲二雍州伯一也。

【州鎭】39（シウチン） 州のしづめ。國のおさへ。〔吳志、虞翻傳、注〕夫會稽、上應二牽牛之宿一、下當二少陽之位一、南山攸レ居、實爲二州鎭一。〔徐陵、爲二陳士一與二周冢宰文護一論二邊事一書〕雲夢之田、楚王爲レ寶、吳當二勁蜀一、晉拒二強秦一、資二彼山川一、竝爲二州鎭一。

【州田】40（シウデン） 州の土地。州は春秋・晉の邑の名。〔左氏、昭、三〕賜二女州田一、以胙二乃舊勳一。〔注〕州縣、今屬二河內郡一。〔左氏、昭、七〕賜二之州田一。

【州涂】41（シウト） 州のみち。涂は塗。〔周禮、夏官、量人〕量二其市朝州涂、軍社之所レ里。

【州都】42（シウト） 官名。隋、中正の官を改め置く。人材登用の事を掌る。中正(**1**－**73**··509)の❸を見よ。〔宋書、恩倖傳序〕州都郡正、以レ才品レ人。

【州土】43（シウド） くに。州。州壤。〔班固、東都賦〕分二州土一、立二市朝一、作二舟輿一、造二器械一、斯乃軒轅氏之所三以開二帝功一也。〔注〕善曰、漢書曰、昔在黃帝畫レ野分レ州。

【州同】44（シウドウ） 官名。清、置く。州の同知。州の第一事務官をいふ。州駕。〔清會典事例、吏部、官制、各省直隸州知州等官〕山東省、濟寧州・臨清州・直隸、知州各一人、州同各一人、州判各一人、吏目各一人。〔清國行政法汎論、知州〕州衙門、以二知州一爲二長官一、置二州同・州判・吏目一。

【州任】45（シウニン） 一州の官職。〔後漢書、劉焉傳〕皆以二本秩一居レ職、州任之重、自レ此而始。

【州伯】46（シウハク） ❶周代、州の長をいふ。州長。州は二千五百家。〔禮、王制〕天子於二千里之外一設二方伯一、二百一十國以爲レ州、州有レ伯。〔禮、內則〕州史獻二諸州伯一、州伯命藏二諸州府一。〔注〕五黨爲レ州、州、二千五百家也、州長中大夫一人也。〔疏〕州伯則州長也。❷九州の方伯。〔漢書、朱博傳〕古選二諸侯賢者一以爲二州伯一。

【州判】47（シウハン） 官名。清、置く。州の判官。州の第二事務官をいふ。州司馬(22)に同じ。〔清會典事例、吏部、官制、各省直隸州知州等官〕山東省、濟寧州・臨清州・直隸、知州各一人、州同各一人、州判各一人、吏目各一人。〔稱謂錄、通判、州判〕案、宋之州判、蓋以下尊二於知州一者上爲レ之、今則知州尊二於州判一矣。〔清國行政法汎論、知州〕州衙門、以二知州一爲二長官一、置二州同・州判・吏目一。

【州靡】48（シウビ） 古の國名。〔逸周書、王會解〕州靡費費、其形人身、反踵自笑、笑則上脣翕二其目一、食レ人、北方謂二之吐嘍一。

【州府】49（シウフ） ❶州の長官のくら。府は、文書又は貨財を入れるくら。〔禮、內則〕州伯命藏二諸州府一。〔疏〕州府、州長之府藏。❷州と府。府も行政區劃の名。〔晉書、王澄傳〕擢二順陽人郭舒於寒悴之中一、以爲二別駕一、委以二州府一。

【州部】50（シウブ） 都市に對して、州郡の地をいふ。地方。〔莊子、達生〕賓二於鄕里一、逐二於州部一。〔漢書、王莽傳上〕州部所レ舉茂材異等。

【州兵】51（シウヘイ） 州は五黨、二千五百家。兵は甲兵。甲兵は、もと公府に藏したが、春秋、晉は之を增加せんとして每州に甲兵を作らしめ、州兵といった。〔左氏、僖、十五〕晉於レ是乎作二州兵一。〔注〕五黨爲レ州、州、二千五百家也、因レ此又使三州長各繕二甲兵一。〔疏〕以二州長管レ人既少、督察易精一、故使二州長治レ之。

【州辟】52（シウヘキ） 州のめし。州の徵辟。〔晉書、潘尼傳〕尼初應二州辟一、後以二父老一、辭レ位致レ養。

【州牧】53（シウボク） 地方の長官。一州を治む。府縣知事の類。古、九州の長官を伯といひ、又、牧といふ。漢の成帝の時、改めて刺史といふ。牧は養ふ義。〔書、周官〕外有二州牧侯伯一。〔蔡傳〕州牧、各總二其州一者。〔漢書、儒林、孟卿傳〕大戴授二琅邪王徐良斿卿一、爲二博士州牧郡守一。〔事物紀原、撫字長民部、州牧〕黃帝立二四監一、以治二萬國一、舜外有二州牧侯伯一、則州牧之始、蓋自二有虞氏一也。

【州來】54（シウライ） ❶古の地名。春秋、楚の邑。吳、楚を伐ち、其の地を得て季札を封ず。後、蔡昭侯、新蔡から此に遷つて下蔡といふ。今の安徽省鳳臺縣の北。〔左氏、成、七〕馬陵之會、吳入二州來一。〔春秋、哀、二〕十有一月、蔡遷二于州來一。〔會箋〕蔡從二新蔡一遷レ此、謂二之下蔡一。❷複姓。〔路史〕吳後有二州來氏一、州來、古國、楚滅レ之、吳取以封二季子一。❸清、魏允札(**12**－**45872**··155)の字。

【州里】55（シウリ） むらざと。州は二千五百家、里は二十五家ある處。〔周禮、地官、鄕師〕出二田灋于州里一。〔孫詒讓正義〕州里、亦通二比閭族黨一言レ之。〔論語、衛靈公〕言不二忠信一、行不二篤敬一、雖二

州里一行乎哉。〔集解〕鄭玄曰、二千五百家爲レ州、五家爲レ鄰、五鄰爲レ里。〔荀子、王制〕順二州里一、定二廛宅一。〔管子、八觀〕入二州里一、觀二習俗一。

【州留】56（シウリウ） 水牛（**6－17083‥119**）の異名。周留。〔本草、牛〕集解、時珍曰、牛有二㹀牛・水牛二種一云云、水牛色青蒼、大腹銳頭、其狀類レ豬、角若レ擔レ矛、能與レ虎鬭、亦有二白色者一、鬱林人謂二之州留牛一。〔太平御覽、獸部、牛下〕鬱林異物志曰、州留者、其實水牛、蒼毛豕身、角若レ擔レ矛、衞二護其犢一、與レ虎爲レ讎。

【州閭】57（シウリヨ） むらざと。村里。故鄕。州巷。〔禮、曲禮上〕爲二人子一者、三賜不レ及二車馬一、故州閭鄕黨稱二其孝一也。〔莊子、胠篋〕所下以立二宗廟社稷一、治中邑屋州閭鄕曲上者、曷嘗不レ法二聖人一哉。〔史記、滑稽、淳于髡傳〕若乃州閭之會、男女雜坐。

【州陵】58（シウリヨウ） 縣名。漢、置く。故城は湖北省監利縣の東。〔漢書、地理志上〕南郡、縣十八、州陵。

【州廩】59（シウリン） 州に設けた米ぐら。〔魏書、張昭傳〕幽州、時年穀不レ登、州廩虛罄、民多二菜色一。

【州令】60（シウレイ） 臺灣に於ける州知事の發する命令。

【州衙門】61（シウガモン） 州の役所。〔淸國行政法汎論、知州〕州衙門、以二知州一爲二長官一、置二州同・州判・吏目一。

【州祭酒】62（シウサイシユ） 州の學制を掌る長官。祭酒は孔子廟を祭る時の主管の役。轉じて、學制を掌る長官。〔晉書、隱逸、陶潛傳〕以二親老家貧一、起爲二州祭酒一。

【州文父】63（シウブンポ） 帝堯の師。州は名。文父は字。子姓。〔新序、雜事、五〕呂子曰、神農學二悉老一、云云、帝堯學二州文父一、帝舜學二許由一。

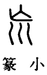
【州黎丘】64（シウレイキウ） 古の地名。州來（54）の❶に同じ。〔爾雅、釋丘〕淮南有二州黎丘一。〔注〕今在二壽春縣一。〔郝懿行義疏〕州黎丘者、劉氏台拱經傳小記云、鹽鐵論、孔子飢二於黎丘一、哀公二年、蔡遷二於州來一、四年、孔子自レ陳適レ蔡絕レ糧、鹽鐵論所謂黎丘、蓋卽州黎之丘也、今按、古讀レ來如レ黎、是州黎卽州來、劉說是矣、呂氏春秋、梁北有二黎丘一、非レ此。

【州錄事】65（シウロクジ） 官名。唐、各州に置く。錄事（**11－40519‥10**）の❶を見よ。〔資治通鑑、唐紀〕（玄宗、開元九年）州錄事言二於象先一。〔注〕唐上州置二錄事二人一、正九品上中下州各一人、下州從九品下。

【州軍學本】66（シウグンガクボン） 地方官署の手に成つた刊本の一種。〔書林淸話、宋司庫州軍郡府縣書院刻書〕州軍學本、天聖七年、江陰軍學刻二國語韋昭注二十一卷・宋庠國語音三卷一、見二陸志陸跋一。

【州不レ若レ國】67（シウハクニニシカズ） 州の名を擧げて記すのは國の名を擧げて記すのに及ばない。公羊學で說く春秋筆法の一つで、國名を擧げず、州名を擧げるのは、之を抑壓輕賤する意ありといふ。〔公羊、莊、十〕九月荆敗二蔡師于莘一、以二蔡侯獻舞一歸、荆者何、州名也、州不レ若レ國、國不レ若レ氏。

【巟】8679 クワウ 〔集韻〕呼光切 陽


小篆

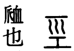
❶**溢れる**。水がひろがる。巟に同じ。〔說文〕巟、水廣也、从レ巛亾聲、易曰、包レ巟、用馮レ河。❷**大川**。〔易、泰〕包レ巟。〔虞注〕巟、大川也。❸**大きい**。〔廣雅、釋詁一〕巟、大也。❹**およぶ**。〔玉篇〕巟、及也。❺**いたる**。〔玉篇〕巟、至也。❻**むなしい**。〔易、泰〕包巟。〔翟元注〕巟、虛也。❼荒（**9－30953**）に同じ。〔易、泰、釋文〕荒、本亦作レ巟。❽或は⿰氵巟（**7－18058**）に作る。〔集韻〕巟、或作レ⿰氵巟。

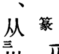
【巛】8680 コン 坤（**3－4969**）に同じ。〔海篇〕巛、與レ坤同。

【巡】8680′ ジユン 巡（**4－8684**）の略字。

四畫

【巠】8681 ㊀ケイ キヤウ 〔集韻〕堅靈切 青 ㊁ケイ キヤウ 〔集韻〕古頂切 迥


小篆


古文

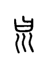
㊀㊁❶**地下水**。地中の水すぢ。〔說文〕巠、水䘑也、从二川在一下一、一、地也、壬省聲。❷**垂直に立つ波**。〔廣韻〕巠、直波爲レ巠。❸**水の廣大なさま**。涬（**7－17578**）に通ず。〔說文〕巠、一曰、水冥巠也。〔段注〕冥巠、水大皃、今字作二溟涬一。❹**地名**。通じて陘（**11－41650**）に作る。〔集韻〕巠、地名、在レ趙、通作レ陘。❺或は坙（**4－8686**）に作る。〔集韻〕巠、或作レ坙。

名乘 ナヲ。ミチ。

解字 會意形聲。一と巛と、壬の省畫との合字。一は地面、巛は川、卽ち流水をいふ。故に、流水の地面下にあるもの、地下水の意。壬は音符。古文は壬を省かない。〔說文、巠、段注〕巠之言、濥也、濥者、水䘑行二地中一濥濥也、故从二川在一地下一。▽ （金文）象形。機織の縱絲に象る。古文はそれに壬を附し、まつすぐ伸びる意を表はす。

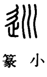
【㐬】8682 トツ 𠫓（**2－3058**）に同じ。〔廣韻〕𠫓、㐬、說文同レ上、或从レ到二古文子一。

【⿱曰巛】8683 ㊀キツ キチ 〔集韻〕越筆切 質 ㊁ケン ゲン 〔集韻〕胡犬切 銑


小篆

㊀㊁❶**ながれる**。〔說文〕⿱曰巛、水流也、从レ巛曰聲。〔廣雅、釋訓〕⿱曰巛⿱曰巛、流也。❷或は汩（**6－17153**）・減（**7－17662**）に作る。〔集韻〕⿱曰巛、或作二汩・減一。

【巡】8684 ㊀シユン ジユン 〔集韻〕松倫切 眞 ㄒㄩㄣˊ hsün² ㊁エン 〔集韻〕余專切 先


小篆

㊀❶**めぐる**。㋑王者が諸侯の國を視察按行する。〔說文〕巡、視行也、从レ辵川聲。〔段注〕視行者、有レ所二省視一之行也。〔書、舜典〕歲二月、東巡守。〔鄭注〕巡守者、行視レ所レ守也。〔左氏、莊、二十一〕王巡二守虢一。〔注〕天子省レ方、謂二之巡守一。㋺しらべ歩く。みまはる。又、まはり歩く。へめぐる。〔周禮、夏官、掌固〕晝三巡レ之。〔注〕巡、行也。〔國語、晉語四〕臣從二君還軫一、巡二於天下一。〔注〕巡、行也。〔呂覽、孟秋〕巡二彼遠方一。〔注〕巡、行也。〔周書、竇熾傳〕親巡二壟畝一、勸二民耕桑一。㋩あまねくめぐる。〔左氏、桓、十二〕三巡數レ之。〔注〕巡、徧也。❷**やすんずる**。なでる。〔後漢書、班彪傳下〕巡二靖黎蒸一。〔注〕巡、撫也。❸**しりぞく**。遁（**11－38982**）に通ず。〔說文通訓定聲〕巡、叚借爲レ遁。〔漢書、敍傳下、逡遁致仕、注〕師古曰、遁、讀與レ巡同。❹或は⿰車川（**10－38188**）に作る。〔集韻〕巡、或作レ⿰車川。❺通じて徇（**4－10091**）に作る。〔集韻〕巡、古通作レ徇。㊁**したがふ**。そふ。よる。沿（**6－17261**）に通ず。〔說文通訓定聲〕巡、叚借爲レ沿。〔禮、祭義〕陰陽長短、終始相巡。〔注〕巡、讀如二沿漢之沿一、謂二更相從道一也。

【巡按】1（ジユンアン） 州縣を巡行して、役人の勤惰正否

や民情等を調べる。巡察。巡視。巡閲。巡檢。〔唐書、百官志三〕監察御史十五人、正八品下、掌下分二察百僚一、巡中按州縣上。〔唐書、靖恭太子琬傳〕詔親巡二按隴右一。

〖巡按使〗2 ジュンアンシ　官名。民國、置く。一省の長官。後、省長と改む。

〖巡按御史〗3 ジュンアンギョシ　官名。明、置く。各省を巡行して、政情民風を察することを掌る。三歳に一更す。〔續文獻通考、職官考、行御史臺〕初名二巡撫一、或名二鎭守一、後以下鎭守侍郎與二巡按御史一不二相統屬一、文移窒礙上、定爲二都御史一、巡撫兼二軍務一者加二提督一、有三總二兵地方一、加二贊理或參贊一、所轄多事重者加二總督一、他如二整飭撫治巡治總理等項一、皆因レ事特設、其以二尚書侍郎一任二總督軍務一者、皆兼二都御史一以便二行事一。

【巡遊】4 ジュンイウ　めぐりあそぶ。周遊。回遊。〔郭璞、江賦〕海童之所二巡遊一、琴高之所二靈矯一。

【巡營】5 ジュンエイ　とりでをめぐりしらべる。營壘を巡按する。〔庾信、出レ自二薊北門一行〕將軍朝挑レ戰、都護夜巡レ營。

【巡役】6 ジュンエキ　㊀小さい力役の事を巡行する。〔周禮、地官、小司徒〕小軍旅巡役治二其政令一。〔注〕巡役、小力役之事、則巡二行之一。㊁税關の看守。〔清會典事例、戸部、關税〕福州琅琦島地方、現有二商船收泊一、議設二巡役一名、哨丁二名一。

【巡閲】7 ジュンエツ　みまはりしらべる。巡按。

〖巡閲使〗8 ジュンエツシ　官名。民國、置く。數省、或は數省の軍政の長官。今、廢す。

【巡簷】9 ジュンエン　軒端をめぐりかすめる。〔邵亨貞、貞溪初夏詩〕巡レ簷燕子掠二晴絲一、隔レ水茶烟出レ院遲。

【巡鹽】10 ジュンエン　製鹽場を巡視する。〔清會典事例、戸部、鹽法〕至二於官捕業已繁多一、而商人又增二私雇之捕一、水路又增二巡鹽之船一。

〖巡鹽御史〗11 ジュンエンギョシ　官名。明、置き、清、之に因る。製鹽場を巡行監督することを掌る。〔明史、職官志四〕景泰三年、罷二長蘆兩淮巡鹽御史一、命二撫按官一兼理。〔清會典事例、戸部、鹽法、直省鹽差〕康熙三十年題准、增二設福建廣東廣西巡鹽御史一。

【巡駕】12 ジュンガ　諸國を巡遊する天子の車。〔顏延之、車駕幸二京口一侍二遊蒜山一作詩〕睿思纏二故里一、巡駕匝二舊坰一。

【巡街】13 ジュンガイ　㊀街路をめぐりあるく。〔韋莊、塗次逢二李氏兄弟一感舊詩〕巡レ街趂レ蝶衣裳破、上レ屋探レ雛手脚輕。㊁hsün² chieh¹　巡査が巡邏すること。

〖巡街吏〗14 ジュンガイリ　德川時代、町目附の稱。

【巡行】15 ジュンカウ　めぐりあるく。〔史記、秦始皇紀〕先帝巡二行郡縣一、以示レ彊。〔漢書、魏相傳〕遣下諫大夫博士、巡二行天下一、察中風俗上。〔後漢書、明帝紀〕行二幸滎陽一、巡二行河渠一。

【巡更】16 ジュンカウ　夜更けを巡り警める。夜警。〔王建、贈二郭將軍一詩〕承レ恩新拜二上將軍一、當直巡更近二五雲一。

〖巡更人〗17 ジュンカウニン　夜まはり。夜警。〔福惠全書、刑名部、人命上、疑獄〕少頃地方喚二巡更人一亦至。

【巡幸】18 ジュンカウ　天子が國々をめぐりみゆきする。〔唐書、玄宗紀〕開元二十年十月壬午如二潞州一、丙戌、中書門下慮二巡幸所レ過囚一。〔杜甫、韋諷錄事宅觀二曹將軍畫馬圖一引〕憶昔巡二幸新豐宮一、翠華拂レ天來向レ東。

【巡航】19 ジュンカウ　船で各所をへめぐること。

【巡儀】20 ジュンギ　順番。〔東鑑、二十二〕建保二年六月十三日、關東諸御領乃貢事、自二來秋一可レ被レ免二三分一一、假令毎年一所、次第可レ爲二巡儀一之由被二仰出一。

【巡禦】21 ジュンギョ　見まはりして賊の襲來をふせぐ。〔班固、封二燕然山一銘〕與二執金吾耿秉一、述職巡禦。〔金史、李石傳〕詔曰、京師巡禦、不レ可レ不レ嚴。

【巡回】22 ジュンクワイ　めぐりあるく。みまはる。巡廻。巡行。

【巡廻】23 ジュンクワイ　めぐりあるく。みまはる。巡回。

〖巡廻文庫〗24 ジュンクワイブンコ　文庫、又は文庫の書籍類を各地の會員に順次巡廻して閲覽させる組織。

【巡官】25 ジュンクワン　㊀官名。唐、置く。節度・觀察・團練・防禦の諸使の屬官。位は判官推官の次。宋、之に因る。〔唐書、溫廷筠傳〕廷筠不レ樂、上書千餘言、然私占授者已八人、執政鄙二其爲一、授二方山尉一、徐商鎭二襄陽一、署二巡官一、不レ得レ志去。㊁占ひする人。又、人相をみる人。〔五代史、趙鳳傳〕術士周玄、豹以二相法一言二人事一多中、莊宗尤信二重之一、以爲二北京巡官一。〔老學庵筆記、二〕陳亞詩云、陳亞今年新及第、滿城人賀李衙推、李乃亞之舅爲レ醫者也、今北人謂二卜相之士一爲二巡官一、巡官、唐五代郡僚之名、或謂下以二其巡遊一賣上レ術故、有中此稱上、然北方人市醫、皆稱二衙推一、又不レ知二何謂一。㊂hsün² kuan¹　警部。

【巡觀】26 ジュンクワン　めぐりみる。みまはる。巡視。〔延喜交替式〕凡國郡官司、親自巡觀、修二固池堰一、催勤科レ農。

【巡化】27 ジュンゲ　僧侶が諸處を説教してめぐる。

【巡警】28 ジュンケイ　㊀見まはつて用心する。巡邏警戒。巡遑。〔李德林、策二隋公九錫一文〕禁衞勤二巡警之務一、治兵得二蒐狩之禮一。〔薛廷珪、授二劉思謙李瓘將軍一制〕侍衞巡警、勉二於在レ公。〔唐書、百官志四上〕左右翊中郎將、掌下領二府屬一、督中京城左右六街鋪巡警上。〔宋史、王彦昇傳〕爲二京城巡檢一、中夜詣二王溥第一、溥驚悸而出、既坐乃曰、此夕巡警甚困、聊就レ公一醉耳。㊁警察官。巡査。

〖巡警道〗29 ジュンケイダウ　官名。清末、各省にあつて、警察事務を掌る。

〖巡警總廳〗30 ジュンケイソウチヤウ　官署の名。清、置く。もと巡警部と稱したが、後、民政部の管轄に屬し、廳と改む。北京の警察裁判事務、及び道路修築等を掌る。民國は京師警察廳と改む。〔清史稿、職官志〕民政部、內外城巡警總廳、廳丞各一人、掌三徼二循坊境並蹕路一。

【巡徼】31 ジュンケウ　巡りあるく。見廻る。又、其の人。邏卒。〔資治通鑑、唐紀〕至二於微賤之臣、巡徼之隸一、謀議不レ預。

【巡業】32 ジュンゲフ　各地方をまはつて、演藝などを興行すること。巡回興行。

【巡見】33 ジュンケン　みまはる。巡見使を見よ。

〖巡見使〗34 ジュンケンシ　官名。江戸時代、諸國を巡邏して政治を視察することを掌る。〔職掌錄〕。

【巡檢】35 ジュンケン　㊀めぐりしらべる。巡回して點檢する。巡按。〔北史、魏孝靜帝紀〕詔遣レ使、巡二檢河北一、流二移飢人一。〔北史、司馬子如傳〕興和中、以二北道行臺一、巡二檢諸州守令已下一。㊁官名。宋代、沿邊溪洞沿江沿海の地に都巡檢及び巡檢を置き、州縣の甲兵の訓練、州邑の巡邏、盜賊の擒捕、及び所在州縣守令の節制を聽くことを掌る。明清は邊陲の地に此の官を置き、縣令の屬官とした。〔宋史、職官志七〕巡檢司、有二沿邊溪洞都巡檢、或蕃漢都巡檢、或數州數縣管界、或一州一縣巡檢一、掌下訓二治甲兵一、巡二邏州邑一、擒二捕盜賊一事上、又有二刀魚船戰棹巡檢、江河淮海、置二捉賊巡檢、及巡馬遞鋪・巡河・巡捉私茶鹽等一、各視二其名一、以修二舉職業一、皆掌二巡邏幾察之事一、中興以後、分二置都巡檢使都巡檢巡檢州縣巡檢一、掌三土軍禁軍招塡教習之政令一、以巡二防扞三禦盜賊一、凡沿江沿海、招二集水軍一、控二扼要害一、及地分闊遠處、皆置二巡檢一員一、往來接連、合二相應援一處、則置二都巡檢一以總レ之、皆以二材武大小使臣一充、各隨二所在一、聽下州縣守令節二制本砦一事、並申中取州縣指揮上、若下海南瓊管、及歸峽荊門等處、跨二連數郡一、控中制溪峒上、又置二水陸都巡檢使、或三州都巡檢使一、以增二重之一。〔金史、百官志三〕諸巡檢、中都東北都巡檢使一員、正七品、西南都巡檢一員、正七品、諸州都巡檢使各一員、正七品、副巡檢使各一員、正八品、散巡檢正九品。〔清會典事例、吏部〕海城縣牛莊錦縣天橋廠巡口・通化縣帽兒山・懷仁縣通溝口・四平街・寬甸龍二龍渡、巡檢各一人。〔清國行政法汎論、知縣〕各縣置二知縣一人一、爲二其長官一、補助官、則有二縣丞一・主簿・巡檢・典史・驛丞云云等僚屬一。

〖巡檢司〗36 ジュンケンシ　㊀官名。元代は縣を上中下に分ち、上縣に達魯花赤・尹・丞・簿・尉各一人、典史二人、印典史一人、及び巡檢司・巡檢を置いて其の縣治を分掌させた。〔元史、百官志、七〕上縣秩從六品、達魯花赤一員、尹一員、丞一員、簿一員、尉一員、典史二員、云云、別有二印典史一員、巡檢司秩九品、巡檢一員一。㊁地名。㋑湖北省安陸縣の南。もと巡店といひ、俗稱は巡檢司。縣の第一市鎭。㋺雲南省彌勒縣の西南、盤江の東岸。古の涅沼關。滇越鐵路の沿線。

〖巡檢使〗37 ジュンケンシ　官名。鎌倉時代、臨時に置き、時を定めて指定の國中を巡視し、人民の苦樂を察し、年の豐凶を檢することを掌る。〔東

鑑、十五、建久六年九月十九日〕新藤二俊長・小中太光家等、爲二御分國巡檢使一也、是不熟損亡之故也。

【巡句】38 ジュンコウ めぐつて任務を行ふ。句は任務に當る意。〔唐書、李吉甫傳〕罷二諸道歲終巡句一。

【巡功】39 ジュンコウ ❶土木工事を巡視する。〔左氏、宣、二〕宋城、華元爲レ植巡レ功。❷天子が諸侯の國をめぐつて其の功績を省察すること。巡狩。〔左氏、昭、五〕小有二述職一、大有二巡功一。〔注〕天子巡守曰二巡功一也。

【巡國】40 ジュンコク 國をめぐり視察する。〔周禮、地官、鄕師〕以二歲時一巡二國及野一。〔謝惠連、祭二禹廟一文〕臨レ朝總レ政、巡レ國觀レ風。

【巡査】41 ジュンサ ❶めぐりしらべる。〔清會典事例、戸部、關稅〕於二各夷船將レ次回レ國時一、嚴密巡査、遇レ有三私載二官銀一、立卽等拏辦。❷警部の下に屬する警察官。上官の指揮監督を受けて警察事務に從ふ。警官。警吏。巡捕。

【巡査口岸】42 ジュンサコウガン 清代、口岸（港）の一種。關稅の徵集又は取締りをする爲に一定地に設けられる口岸。脫稅其の他違法事件を警防査察することを任とする。〔清會典事例、戸部、關稅〕又題准、臨清關所レ屬之德州・魏家灣・尖家・樊廠等處口岸、照レ舊設立、以便二巡査一。

【巡査部長】43 ジュンサブチャウ 巡査の首班に位し、部下の巡査を監督し、警部の職務を補助するもの。

【巡梭】44 hsün² suo¹ 往來巡察する。見まはる。

【巡鹺】45 ジュンサ 鹽の見廻り役。鹺は濃い塩味。〔福惠全書、郵政部、總論〕巡鹺監稅之部院臺卿。

【巡祭】46 ジュンサイ めぐりまつる。〔漢書、郊祀志上〕巡二祭后土一、祈下爲二百姓一育上穀。

【巡莊】47 ジュンサウ 村を巡視する。莊はむらざと。〔福惠全書、刑名部、賊盜上、緝捕〕赴二南鄕一巡莊。

【巡漕】48 ジュンサウ 漕運の事務を巡視する。巡漕御史を見よ。

【巡漕御史】49 ジュンサウギョシ 官名。明、置き、清、之に因る。漕運を監督することを掌る。〔明史、職官志二〕十三道監察御史、在外巡按、巡漕云云、儹運。〔清會典事例、戸部、漕運、簞羨銀〕乾隆三十一年奏准、云云、本年由二坐糧廳一覈明、交二領運千總一散二給各丁一、並交二巡漕御史一嚴切稽査。

【巡察】50 ジュンサツ めぐり視察する。巡按。巡循。〔北史、魏文帝紀〕遣二侍臣一巡察、開レ倉賑恤。

【巡察使】51 ジュンサツシ 臨時任命の官職。諸國を巡視して政治・民情を視察することを掌る。〔唐書、百官志、四下、外官、注〕以二五品以上二十人一、爲二十道巡察使一。〔文獻通考、職官考、巡察・按察・巡撫等使〕貞觀二十年遣二大理卿孫伏伽等二十一人一、以二六條一巡二察四方一、多レ所二擧刺一、太宗命二褚遂良一、一二其類一以聞、乃親自臨決下牧宰以下以二能官一進擢者二十人、罪死者七人、流罪以下免黜數百人上、天授二年、發二十道存撫使一、以二右肅政御史中丞知大夫事李嗣眞等一爲レ之、神龍二年、敕下左右臺內外五品已上官、識理通明無二屈撓一者二十人上、分爲二十道巡察使一、二周年一替、以廉二按州郡一、景龍二年、置二十道按察使一、分二察天下一、至二開元八年五月一、復置二十道按察使一、以二陸象先王晙等一爲レ之、貞元八年、以二江淮荊襄陳宋河朔水災一、遣二中書舍人奚陟、左庶子姚齊語、祕書少監雷成、京兆少尹韋武一、爲二諸道宣撫使一、振二給災荒一、均二平賦役一、疏二決囚繫一、懲二肅官吏一、元和四年、以二旱災一復遣二左司郎中鄭敬等一、爲二諸道宣撫使一。

【巡卡】52 ジュンサフ 清代、姦商の脫稅を防ぐ爲、地方分局の外に、臨時に置いた番所。卡は關稅。〔皇朝政典類纂、九十八〕。

【巡司】53 ジュンシ 川の名。湖北省武昌縣の南。南に紙坊・八分・榜・廟山・湯孫・黃家・南の諸湖の水を受け、北流して鮎魚套に至つて江に入る。

【巡市】54 ジュンシ 市中を巡視する。又、市場を見まはる。〔周禮、地官、司稽〕掌下巡レ市察三其犯レ禁者與二其不レ物者一而搏上レ之。

【巡使】55 ジュンシ 官名。宋の咸平中、御史二人を以て左右巡使に充てた。祭祀朝會の際、違法者を分糾す。文官は右巡し、武官は左巡して之を掌る。〔宋史、職官志四〕凡祭祀朝會、則率二其屬一正二百官之班序一、咸平四年、以二御史二人一充二左右巡使一、分二糾不レ如レ法者一、文官右巡主レ之、武官左巡主レ之、分二其職掌一、糾二其違失一。

【巡視】56 ジュンシ めぐりみる。みまはる。巡按。巡察。巡省。〔宋史、食貨志一〕春秋巡視、書二其數一。

【巡緝】57 ジュンシフ 巡回して犯罪者を捕へる。〔皇朝通典、兵典、八旗兵制、下〕凡緝捕之制、云云、專司下巡二緝盜賊一、稽中察奸宄上。〔福惠全書、刑名部、逃人、緝逃〕夫巡二緝逃人一、捕壯專責。

【巡社】58 ジュンシャ 民間から募集した兵士と農民とが力を合せて外敵を防ぐ組織。〔宋史、張慤傳〕請依二唐人澤潞步兵雄邊子弟遺意一、募レ民聯以二什伍一、而寓二兵於農一、使二合レ力抗一レ敵、謂二之巡社一。

【巡綽】59 ジュンシャク 巡警（28）の❶に同じ。正しくは巡邏（75）に作る。〔丹鉛總錄〕今之場屋、有二巡綽官一、云云、當レ作二巡邏一。

【巡錫】60 ジュンシャク 佛 僧侶が各地をめぐつて教をひろめること。錫は僧侶のつく杖。巡教。

【巡守】61 ジュンシュ 古、天子が狩獵に依つて兵を練り、傍ら諸侯國の政治民情を視察することをいふ。後、單に天子が諸侯國を巡行して政治の得失、國民の休戚を察することをいふ。巡狩。〔書、舜典〕歲二月、東巡守、云云、五載一巡守。〔傳〕諸侯爲二天子一守レ土、故稱レ守、巡二行之一。〔蔡傳〕孟子曰、天子適二諸侯一曰二巡狩一、巡守者、巡レ所レ守也。〔詩、周頌、時邁序〕時邁、巡守告祭柴望也。〔周禮、夏官、職方氏〕王將二巡守一、則戒二于四方一。〔禮、王制〕天子五年一巡守。

【巡狩】62 ジュンシュ ❶巡守に同じ。〔左氏、莊、二十一〕王巡二狩虢一。〔注〕天子省レ方、謂二之巡狩一也。〔左氏、莊、二十三〕王有二巡狩一。〔孟子、梁惠王下〕天子適二諸侯一曰二巡狩一、巡狩者、巡レ所レ守也。〔集注〕巡レ所レ守、巡二行諸侯所レ守之土一也、述レ所レ職、陳二其所レ受之職一也。〔史記、封禪書〕巡狩至二北嶽一。〔白虎通、巡狩〕王者所二以巡狩一者何、巡者、循也、狩、牧也、爲二天下一循行、守二牧民一也、道德太平、恐二遠近不レ同レ化、幽隱有一レ不レ得。〔班固、東都賦〕乃動二大輅一、遵二皇衢一、省レ方巡狩。❷白虎通の篇名。

【巡狩之銘】63 ジュンシュノメイ 天子が諸國を視察した時に作つた銘。〔孔叢子、巡狩〕子思遊レ齊、陳莊伯與登二泰山一而觀、見二古天子巡狩之銘一焉。

【巡循】64 ジュンジュン めぐる。めぐり視察する。巡察。巡視。巡狩。巡省。〔新書、輔佐〕明二號令一、正二法則一、頒二度量一、論二賢良一、次二官職一、以レ時巡循、使三百吏敬二率其業一、大輔之任也。

【巡政】65 ジュンセイ 官名。巡檢（35）の❷の古名。〔清國行政法汎論、地方官廳、中國本部總論、行政區劃及地方官廳〕巡檢（分司・巡政）。

【巡省】66 ジュンセイ めぐり視察する。巡視。巡察。〔漢書、祭祀志上〕河圖會昌符曰、赤帝九世巡省得レ中。〔魏志、齊王芳紀〕車駕巡二省洛陽界秋稼一。〔潘岳、西征賦〕巡二省農功一、周二行廬室一。

【巡靖】67 ジュンセイ 人心をなで安んずる。巡は撫でる。靖は安んずる。〔後漢書、班固傳〕巡二靖黎烝一、懷二保鰥寡一之惠浹。〔注〕巡、撫也、靖、安也。

【巡哨】68 ジュンセウ 巡行して敵情を偵察する。〔元史、李楨傳〕憲宗命レ楨率レ師巡二哨襄樊一。

【巡哨船】69 ジュンセウセン 巡廻して敵情を偵察する船。〔庶物異名疏〕元史、王思誠云、糧船開洋之前、遣二將士一、乘二海仙鶴一入レ海、庶二幾糧道寧息一、蓋巡哨船也。

【巡繞】70 ジュンゼウ めぐる。まはる。〔徐陵、東陽雙林寺傅大士碑〕六時虔拜、巡繞斯託。

【巡船】71 ジュンセン 巡廻して視察する船。〔清會典事例、戸部、關稅〕儻有下行中小夥、及地方不法匪徒、將二官銀一偸二載小艇一、暗運出上レ口、責二成大關總巡、並佛山虎門等處、關口員弁二巡船並巡洋舟師一、及地方文武派二撥巡船一、於二各夷船將レ次回レ國時一、嚴密巡査、遇レ有三私載二官銀一、立卽拏辦。

【巡掫】72 ジュンソウ 見まはり役。掫は夜まはりする。〔稱謂錄、各役、巡掫〕杜本詩、號令爾巡掫。

【巡對】73 ジュンタイ 唐代、常參官二人を引見して政事を問うたこと。〔舊唐書、德宗紀〕每御二延英一、令三諸司官長二人、奏二本司事一、尋又勅二常參官一、每一日二人引對、以訪二政事一、謂二之巡對一。〔資治通鑑、唐紀〕〔憲宗、元和元年〕庶官罷二巡對一。〔注〕巡對、猶二今之轉對一、貞元十七年、令下常參官每日引二見二人一、訪以中政事上、謂二之巡對一、宋白曰、貞元七年、令二常參官日二人引見一、謂二之巡對一。

【巡道】74 ジュンダウ 官名。明代、各省の按察司。按察使以外に、按察副使・按察僉事の諸員あり、一省を析いて數道とし、副使・僉事をして分察せしめ、之を按察分司といひ、分司に分巡道・兵巡道・兵備道の諸名稱がある。清代、副使・僉事等

の官を廢して分巡道・兵備道を設け、巡道と簡稱し、始めて道を以て官名とした。民國、觀察使と改む。〔明史、職官志四〕按察司、副使・僉事分司諸道・提督學道・淸軍道・驛傳道・分巡道・浙江杭嚴道・寧紹道、云云。〔淸會典事例、吏部、官制〕八年、直隸增二設巡道一人一、總二理刑名一。

【巡逴】75 ジュンタク　見廻つて用心する。巡警(28)の❶をいふ。巡綽(59)に作るは誤用。〔通俗編、政治、巡逴〕丹鉛錄、今之場屋、有二巡綽官一、云云、當レ作二巡逴一。

【巡長】76 ジュンチャウ　巡査部長。〔淸國行政法汎論、新設部、工巡總局〕有二警巡隊長・巡長・巡捕若干人一。

【巡躅】77 ジュンチョク　めぐり行き立ちもとほること。〔王融、侍二遊方山一應詔詩〕巡躅望二登年一、帳飲臨二秋縣一。

【巡陳】78 ジュンチン　軍伍列陣をめぐり見る。〔周禮、夏官、大司馬〕及レ戰巡レ陳、眡レ事而賞罰。〔疏〕釋曰、巡レ陳者、司馬當レ戰對陣之時、巡二軍陳一、眡二其戰功之事一、知下有二其功一無上レ功、而行二賞罰一也。

【巡丁】79 hsün² ting¹　巡査、又は夜廻り番などの類。

【巡遁】80 ジュントン　しりごみする。逡巡(**11―38899・4**)に同じ。〔晏子、問、下〕吳王曰、寡人願有二私問一焉、晏子巡遁而對。

【巡拜】81 ジュンパイ　諸方をめぐつて神社佛閣を拜む。歷拜。

【巡牌】82 ジュンパイ　夜警番の所持する銅製の札。夜巡銅牌の略。〔明律、吏律、公式棄二毀制書印信一〕凡遺二失制書聖旨符驗印信巡牌一者、杖九十、徒二年半。

【巡部】83 ジュンプ　各地の支配所などをめぐる。

【巡撫】84 ジュンプ　❶諸國をめぐり視察して人心をなづける。〔班固、竇車騎北征頌〕親率二戎士一、巡二撫疆城一。〔晉書、劉頌傳〕咸寧中、詔巡二撫荊揚一。〔南史、袁昂傳〕帝使三豫州刺史李元履巡二撫東土一。❷官名。宋代、巡撫大使・副大使あり、明初、軍事あれば京官に命じて地方を巡撫せしめ、尋いで各省に事に因つて增置した。淸、之に因り、總督の次に位し、一省の民治兵制を掌り、職權甚だ重かつた。明代は都御史、或は副僉都御史を兼ね、淸代は兵部侍郎、或は副都御史の銜を兼ねた。〔宋史、職官志十〕使職兼領者、廉二訪民瘼一、則有二巡撫大使・副大使・安撫使・副使一。〔明史稿、職官志〕在レ外加二都御史或副僉都御史銜一者、有二總督一、有二提督一、有二巡撫一。〔注〕巡撫之名、起三於懿文太子巡二撫陝西一、永樂十九年、遣二尙書蹇義等一、巡二行天下一、安二撫軍民一、後定爲二都御史一。〔淸會典事例、吏部、官制〕十三年定、四川省另設二總督巡撫各一人一。

【巡風】85 ジュンプウ　見まはる。〔福惠全書、刑名部、人命上、檢驗〕仍着二皂隸二人一巡風。

【巡風人役】86 ジュンプウニンヤク　見まはりの役人。〔福惠全書、蒞任部、出堂規〕巡風人役二名、專司三驅二逐閑人一。

【巡兵】87 hsün² ping¹　本隊を保護する兵。

【巡邊】88 ジュンペン　邊地を巡察する。〔舊唐書、玄宗紀上〕兵部尙書張說、往二朔方軍一巡レ邊。

【巡捕】89 ジュンポ　淸代の官名。❶京師を巡廻して盜奸を警め、道路を平易にし、輦轂を肅淸することを掌る。〔淸會典事例、兵部、官制、巡捕營〕提督九門巡捕五營、步軍統領一人、左右翼總兵各一人、副將一人、參將五人、遊擊五人、都司五人、守備十八人、門千總三十二人、營千總四十六人、把總九十二人、外委一百三十八人、額外外委六十九人。❷總督巡撫の下に在り、宣傳及び護衞の事を掌る。文事を掌るを文巡捕、軍事を掌るを武巡捕といふ。〔淸會典、兵部〕以二總督若巡撫一主レ考。〔注〕各省武鄕試、以二巡撫一爲二監臨主考一、總督同城駐紮者、亦親往監射、至二三場一、仍以二巡撫一主レ考、其無二巡撫一省分、卽以二總督一爲二主考官一、督撫入場、止帶二文巡補一員一、武巡補不レ得三入レ場傳二稟事件一。❸通商地・外國人租借地界の募備に係る警察官をいふ。〔周禮政要、巡察〕今中國各海口、洋人租界、則謂二之巡捕一、上海一埠有二巡捕四千人一、皆以二印度及華人一爲レ之。

【巡捕營】90 ジュンポエイ　官署の名。淸、置く。步軍統領に屬し、京師外城の警察事務を掌る。五營あつたので、巡捕五營の名がある。〔淸會典、步軍營〕巡捕五營、副將一人、參將五人。

【巡捕房】91 hsün² pu³ fang²　巡査派出所。

【巡夜】92 ジュンヤ　夜を巡警する。〔戴暠、從軍行〕督レ軍鳴二戰鼓一、巡レ夜數更鞞。

【巡邏】93 ジュンラ　❶巡廻して地方の秩序を保持する兵隊。みまはり。巡邏隊。〔元史、成宗紀一〕給二江浙河南巡邏私鹽軍兵仗一。❷みまはる。巡視。〔福惠全書、蒞任部、承事上司〕差二能レ事衙役一巡邏。

【巡邏隊】94 ジュンラタイ　巡廻して地方の秩序を保持する兵隊。警務隊。

【巡攔】95 ジュンラン　巡行してさへぎりおさへる。攔はさへぎる。〔淸會典事例、戶部、關稅〕口岸巡攔、稽二查偸漏一。

【巡覽】96 ジュンラン　諸方をめぐつて見物する。

【巡吏】97 ジュンリ　巡視の官吏。〔唐書、食貨志四〕鹽估益貴、商人乘レ時射レ利、遠鄕貧民困二高估一、至レ有二淡食者一、巡吏既多、官冗傷レ財、當時病レ之。

【巡陵】98 ジュンリョウ　天子が、諸陵に巡幸する。〔李白、明堂賦〕巡二陵于鶉首之野一、講二武于驪山之旁一。

【巡禮】99 ジュンレイ　❶巡つて拜禮する。〔張籍、送三令狐尙書赴二東都留守一詩〕行香暫出天橋上、巡禮常過禁殿中。❷國々を巡つて神社・佛閣などに參詣する。❸笈摺を負ひ菅笠を戴き、脚袢・甲掛をつけ草鞋をはき、咏歌などを謠つて、門戶に錢を乞ふもの。順禮。西國順禮。

【巡禮宿】100 ジュンレイヤド　巡禮者を泊める木賃宿。

【巡防營】101 ジュンバウエイ　巡防隊に同じ。

【巡防隊】102 ジュンバウタイ　軍隊の名。防營ともいふ。淸の光緖三十二年五月、陸軍部奏定の巡防隊新章に照し、各省で在來の綠營・勇營・練軍を改めて編成したもの。新式の訓練を施し、專ら地方の警備に任ず。民國に至りなほ存す。巡防營。〔淸史稿、職官志六〕巡防隊、分路統領官・幫統官・書記官・會計官・執事官各一人、馬步隊、管帶官一人、哨官・哨長各三人、書記長一人、光緖三十三年、以二防練舊營雜項隊伍章制不レ一、仿二新軍一成レ法、置二統領一、以次二各職一。

【巡洋艦】103 ジュンヤウカン　軍艦の一種。平時は自國の安寧を圖り、植民地の警衞に任じ、諸外國の主要港に至つて自國の商權を保護し、戰時は敵國の商業力を破壞し、自國運送船の護送に任じ、時に艦隊の手翼となつて戰鬪に參加し、艦隊間又は戰地と本國との交通の安全確保等を任務とする。其の最も必要とするのは速力であつて、商船を凌駕するため、防禦力・攻擊力を犧牲として機關力及び石炭搭載量を大にし、艦體は細長く瘠せてゐる。裝甲巡洋艦・保護巡洋艦・補助巡洋艦の三種がある。

五畫

【⿱镸巛】8685 クワウ　〔龍龕手鑑〕音荒　**人名。**〔龍龕手鑑〕⿱镸巛、人名。

【坙】8686 ケイ　巠(**4―8681**)の古字。〔說文〕巠、坙、古文巠、不レ省。

【⿱巛古】8687 コ　義未詳。〔篇海類編〕⿱巛古、音苦。

六畫

【⿱巛吕】8688 ヨウ　邕(**11―39277**)の籀文。〔說文〕邕、⿱巛吕、籀文邕、如レ此。

【⿱巛囟】8689 キ　箕(**8―26143**)の古字。〔字彙補〕⿱巛囟、古文箕字。

【⿱巛甲】8690 シ　子(**3―6930**)の古字。〔說文長箋〕⿱巛甲、古文子字。

【⿱血巛】8691 シユウ　衆(**10―33981**)に同じ。〔字彙補〕⿱血巛、同レ衆。

【⿺乚⿰巛巛】 8692 ジュン 巡(**4－8684**)に同じ。〔說文長箋〕⿺乚⿰巛巛、同㆑巡。

七畫

【⿱巛甲】 8693 クン 義未詳。〔龍龕手鑑〕⿱巛甲、音訓。

【⿵几巛】 8694 フウ 風(**12－43756**)に同じ。〔字彙補〕⿵几巛、同㆑風、夏承碑作㆑此。

八畫

【⿰巛隹】 8695 キツ キチ 〔集韻〕厥律切 質。

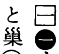
谷の名。〔集韻〕⿰巛隹、谷名。

【巢】 8696

㈠サウ ゼウ 〔集韻〕鋤交切 看 ㄔㄠˊ ch'ao^{2}

㈡サウ ゼウ 〔集韻〕司教切 效

㈢セウ 〔韻會〕子小切 篠


小篆

㈠❶**す**。㋑樹上の鳥のすみか。もと巢(**4－8700**)に作る。〔正字通〕巢、本作㆑巢。〔說文〕巢、鳥在㆓木上㆒曰㆑巢、在㆑穴曰㆑窠、从㆑木、象形。〔小爾雅、廣獸〕鳥之所㆑乳、謂㆓之巢㆒。〔一切經音義、八〕鳥居曰㆑巢。〔詩、召南、鵲巢〕維鵲有㆑巢。㋺古、人が樹上に設けたすみか。〔禮、禮運〕先王未㆑有㆓宮室㆒、冬則居㆓營窟㆒、夏則居㆓橧巢㆒。㊇夷狄や匪徒・惡者のすみか。〔唐書、杜牧傳〕必覆㆓賊巢㆒。〔宋史、田況傳〕深㆓絕沙磧㆒、以窮㆓妖巢㆒。〔元史、盧琦傳〕明日賊復傾㆑巢而至。㊁獸畜蟲魚のすみか。〔漢書、五行志中之上〕長安城南有㆑鼠、銜㆓黃蒿柏葉㆒、上㆓民冢柏及楡樹上㆒爲㆑巢。〔楊敬之、華山賦〕蜂巢聯聯起㆓阿房㆒矣。〔溫庭筠、和㆔太常杜少卿東都修竹里有㆓嘉蓮㆒詩〕兩處龜巢淸露裏。㋭すみか。すまひ。〔司馬光、贈㆓邵堯夫㆒詩〕自稱㆓安樂巢㆒。❷**すくふ**。巢を作る。〔莊子、逍遙遊〕鷦鷯巢㆓於深林㆒、不㆑過㆓一枝㆒。❸**あつまる**。むらがる。〔呂覽、求人〕周唯巢㆓於林㆒。〔注〕巢、簇也。❹**高い**。〔小爾雅、廣詁〕巢、高也。❺**すこやか**。〔廣雅、釋詁二〕巢、健也。❻**樂器の名**。大笙。〔爾雅、釋樂〕大笙、謂㆓之巢㆒。❼**ゑんどう**。そらまめの新芽。巢菜(26)を見よ。❽**國の名**。㋑殷の諸侯。〔逸書、旅巢命序〕巢伯來朝。〔鄭注〕殷之諸侯。㋺周代の諸侯。伯爵。春秋の時、吳に滅ぼさる。今の安徽省巢縣の東北。〔春秋、文、十二〕楚人圍㆑巢。〔杜注〕巢、吳楚閒小國也、盧江六縣東有㆓居巢城㆒。〔春秋、昭、二十四〕吳滅㆑巢。❾**地名**。春秋、衞の采地。今の河南省睢縣の南。〔左氏、哀、十一〕使㆑處㆑巢。〔注〕巢・郥・少禘、皆衞地也。❿**巢父**(39)の❶の**略稱**。〔晉書、元帝紀〕狹㆓由巢抗矯之節㆒。⓫**姓**。〔通志、氏族略、以㆑國爲㆑氏〕巢氏、有巢氏之後、堯時有㆓巢父㆒、夏商有㆓巢國㆒、其地在㆓盧江㆒、子孫以㆑國爲㆑氏、望出㆓彭城㆒。㈡**たな**。〔廣韻〕巢、棧閣也。㈢**國の名**。〔正韻〕巢、國名。邦**す**。蜘蛛の網。

解字 象形。樹上高架の鳥のす。故に木の上に巢のかたち臼をかき、更に巛を加へる。巛は三羽の鳥のならび居るさまで、三羽ならべて衆鳥を示す。又、巛は乙鳥とも雛鳥ともいふ。川の巛とは全く異なる。尙、巢に對し、穴中にある鳥のすを窠といふ。〔說文、巢、鳥在㆓木上㆒曰㆑巢、在㆑穴曰㆑窠、段注〕穴部曰、穴中曰㆑窠、樹上曰㆑巢、巢之言、高也、窠之言、空也、在㆑穴之鳥、如㆓鵁鶄之屬㆒、今江蘇語言、通名㆓禽獸所㆑止曰㆑窠。

【巢阿】 1（サウア） 淸、莊鳳威(**9－31035‥191**)の號。

【巢猗】 2（サウイ） 隋の人。國子助教を拜命す。其の著、尙書義・尙書音釋は孔安國の正義に見えてゐる。

【巢友】 3（サウイウ） 淸、許箕(**10－35298‥43**)の字。

【巢由】 4（サウイウ） 巢父と許由。竝に堯の時の高士。〔劉琨、勸進表〕願陛下存㆓舜禹至公之情㆒、狹㆓巢由抗矯之節㆒。〔注〕銑曰、巢父許由、皆擧㆓高節㆒不㆑仕。〔李白、鳴皐歌〕巢由桎㆓梏於軒冕㆒。

【巢飮】 5（サウイン） 樹梢で飮酒する。石曼卿の故事。〔夢溪筆談、人事一〕石曼卿喜㆓豪飮㆒、與㆓布衣劉潛㆒爲㆑友、嘗通㆓判海州㆒、劉潛來訪㆑之、曼卿迎㆓之於石闥堰㆒、與㆑潛劇飮、中夜酒欲㆑竭、顧㆓舡中㆒有㆓醋斗餘㆒、乃傾入㆓酒中㆒併飮㆑之、至㆓明日㆒、酒醋俱盡、每㆓與㆑客痛飮㆒、露髮跣足、着㆑械而坐、謂㆓之囚飮㆒、飮㆓于木杪㆒、謂㆓之巢飮㆒、以㆑藁束㆑之、引㆑首出飮、復就㆑束、謂㆓之鼈飮㆒、其狂縱大率如㆑此。

【巢烏】 6（サウウ） 巢に居る烏。〔王維、過㆓乘如禪師蕭居士嵩丘蘭若㆒詩〕食隨㆓鳴磬㆒巢烏下、行踏㆓空林㆒落葉聲。

【巢雲】 7（サウウン） 字號。❶宋、饒烈(**12－44400‥56**)の號。❷淸、潘宗洛(**7－18236‥191**)の號。

【巢雲翁】 8（サウウンヲウ） 元、陸居仁(**11－41708‥291**)の號。

【巢雲軒】 9（サウウンケン） 明、吳宗儒(**2－3365‥733**)の室名。

【巢雲子】 10（サウウンシ） 字號。❶明、吳伯理(**2－3365‥833**)の號。❷淸、張榮(**4－9812‥52**)の號。❸淸、陸烜(**11－41708‥95**)の號。

【巢雲書屋】 11（サウウンシヨヲク） 淸、陸師(**11－41708‥128**)の室名。

【巢燕】 12（サウエン） 巢に居るつばめ。〔秦系、題㆓僧明慧房㆒詩〕入㆑定幾時將㆑出㆑定、不㆑知巢燕汚㆓袈裟㆒。

【巢堪】 13（サウカン） 後漢、南城の人。字は次朗。章帝の時、太常を拜命し、後、司空に陞進す。〔後漢書、六十五〕。

【巢龜】 14（サウキ） 古、嘉林の芳蓮の上に巢くつてゐたといふ龜。〔史記、龜策傳〕見㆓萬畢石朱方傳㆒曰、有㆓神龜㆒、在㆓江南嘉林中㆒、嘉林者、獸無㆓虎狼㆒、鳥無㆓鴟梟㆒、草無㆓毒螫㆒、野火不㆑及、斧斤不㆑至、是爲㆓嘉林㆒、龜在㆓其中㆒、常巢㆓於芳蓮之上㆒。〔曹植、七啓〕寒㆓芳苓之巢龜㆒、膾㆓西海之飛鮮㆒。〔注〕善曰、史記曰、有㆓神龜㆒在㆓江南嘉林中㆒、常巢㆓於芳蓮之上㆒。

【巢居】 15（サウキヨ） 鳥のやうに木の上に家を構へて住む。巖棲。〔莊子、盜跖〕古者禽獸多而人民少、于㆑是民皆巢居以避㆑之。〔韓非子、十過〕圍㆓晉陽㆒三年、城中巢居而處。〔謝靈運、山居賦序〕古巢居穴處曰㆓巖棲㆒。〔搜神記、十八〕巢居知㆑風、穴居知㆑雨。〔唐書、室韋傳〕苦㆓飛蚊㆒則巢居而以避。

【巢居子】 16（サウキヨシ） 堯の時の隱人巢父。常に山居して世利を營まず、年老い、樹上に巢を作つて寢たといふ。〔王康琚、反招隱詩〕昔在太平時、亦有㆓巢居子㆒。〔注〕善曰、皇甫謐逸士傳曰、巢父、堯時隱人、常山居不㆑營㆓世利㆒、年老以㆑樹爲㆑巢、而寢㆓其上㆒、故時人號曰㆓巢父㆒。

【巢許】 17（サウキヨ） 巢父と許由。巢由(4)に同じ。〔蔡邕、郭有道碑文〕紹㆓巢許之絕軌㆒。〔杜甫、奉㆑贈㆓蕭二十使君㆒詩〕巢許山林志、夔龍廊廟珍。

【巢窟】 18（サウクツ） 樹上の住居と土中の住居。巢穴。轉じて、かくれが。〔晉書、宣帝紀〕巢窟虛矣。〔南史、謝綸傳〕君巢窟在㆓何處㆒。

【巢窩】 19 ch'ao^{2} wo^{1} はか。墳墓。〔長生殿、冥追〕便是娉婷嬝娜、落來的好巢窩。

【巢換】 20（スガヘ） ❶巢を取りかへること。❷女郎などのくらがへ。

【巢穴】 21（サウケツ） 巢窟(18)に同じ。〔後漢書、周燮傳〕吾既不㆑能㆔隱㆓處巢穴㆒。〔顏延之、北使㆑洛詩〕官陛多㆓巢穴㆒。

【巢縣】 22（サウケン） 縣名。唐、置く。夏の南巢の地。殷周の時、巢伯の國、後、楚に屬して居巢邑といひ、秦は居巢縣を置き、范增、此に生る。宋、鎭巢縣と改む。今の安徽省合肥縣の東南。〔讀史方輿

紀要、江南、廬州府、無爲州〕巢縣、州北九十里、云云、漢爲㆓居巢縣地㆒、云云、唐武德三年、置㆓巢城㆒、七年州廢、又改㆓襄安㆒爲㆓巢縣㆒。〔淸史稿、地理志〕安徽、廬州府、縣四、巢。

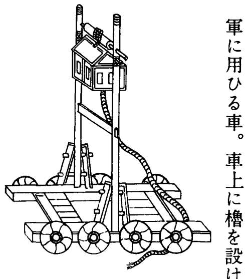
【巢湖】23（サウコ） 湖の名。安徽省の合肥・廬江・舒城・巢の四縣の閒。港汊大小三百六十あり、諸水を納めて大江に注ぐ。一に漅湖・焦湖に作る。〔後漢書、明帝紀〕永平十一年、漅湖出㆓黃金㆒、廬江太守以獻。〔注〕漅湖、湖名、在㆓今廬州合肥縣東南㆒。〔陳書、宣帝紀〕是日、樊毅領㆓水軍二萬㆒、自㆓東關㆒入㆓焦湖㆒。〔通鑑地理通釋〕巢湖之名爲㆓巢縣地㆒、後陷爲㆑湖。

【巢口】24（スグチ） 銃口をいふ。小銃の筒の孔の端。

【巢谷】25（サウコク） 宋、眉山の人。字は元修（脩）。家學を棄てて古兵法を學び、秦・鳳・涇原の閒に游ぶ。韓存寶と交友あり、紹聖の初、軾・轍二蘇の謫せらるるや、徒步して轍を訪ひ、又、海南に軾を訪ねんとし、新州に至つて病死す。〔宋史、四百五十九〕・〔宋史新編、一百七十九〕・〔東都事略、一百十七〕。

【巢菜】26（サウサイ） 豌豆のもやし。豌豆の新芽。薇。〔本草、薇〕釋名、垂水・野豌豆・大巢菜、集解、時珍曰、薇生㆓麥田中㆒、原澤亦有、故詩云、山有㆓蕨薇㆒、非㆓水草㆒也、卽今野豌豆、蜀人謂㆓之巢菜㆒、蔓生、莖葉氣味皆似㆓豌豆㆒、其藿作㆑蔬入㆑羹皆宜、詩云、采㆑薇采㆑薇、薇亦柔止、禮記云、芼㆑豕以㆑薇、皆此物也、詩疏以爲㆓迷蕨㆒、鄭氏通志、以爲㆓金櫻芽㆒、皆謬矣、項氏云、巢菜有㆓大小二種㆒、大者卽薇、乃野豌豆之不㆑實者、小者卽蘇東坡所謂元修菜也、此說得㆑之。〔韻會〕薇、項氏曰、薇、今之野豌豆苗也、蜀謂㆓之巢菜㆒。

【巢車】27（サウシャ） 軍に用ひる車。車上に櫓を設けて敵を望むに便にす。遠望すれば鳥の巢のやうであるからいふ。又、轈車に作る。


巢車（武備志）

〔左氏、成、十六〕楚子登㆓巢車㆒、以望㆓晉軍㆒。〔注〕巢車、車上爲㆑櫓。〔釋文〕巢、說文作㆑轈、云、兵車高如㆑巢、以望㆑敵也。〔資治通鑑、晉紀〕（安帝、隆安元年）使㆔人登㆓巢車㆒。〔注〕陸德明曰、兵車高如㆑巢、以望㆑敵也、杜佑曰、以㆓八輪車㆒、上樹㆓高竿㆒、竿上安㆓轆轤㆒、以㆑繩挽㆓板屋㆒、上㆔竿首㆒以窺㆓城中㆒、板屋方四尺、高五尺、有㆓十二孔㆒、四面別布㆑車可㆓進退㆒、圜㆑城而行、於㆓營中㆒遠視、如㆓鳥之巢㆒、亦謂㆓之巢車㆒。

【巢笙】28（サウシャウ） 樂器の名。笙の一種。〔儀禮、鄉射禮、三笙一和而成㆑聲、胡培翬正義〕宋李照作㆓巢笙㆒、合㆓二十四聲㆒以應㆓律呂㆒。〔宋史、樂志二〕鄉射禮、三人吹㆑笙、一人吹㆑和、云云、巢笙和笙各二人、其數相敵、非也。〔劉筠、詩〕巢笙傳㆓曲沃㆒、摻㆑鼓發㆓漁陽㆒。

【巢守】29（スモリ） 孵化しないで、巢の中に殘つてゐる卵。毈。〔宇津保物語、藤原君〕すもりになり始むる雁の子。

【巢松】30（サウショウ） 字號。❶宋、劉迂（2－2224‥30）の號。❷淸、吳慈鶴（2－3365‥632）の號。❸小谷薰の號。小谷巢松（4－7473‥442）を見よ。

〖巢松翁〗31（サウショウヲウ） 元、陸居仁（11－41708‥292）の號。

【巢燧】32（サウスイ） 有巢氏と燧人氏。轉じて、太古をいふ。有巢氏の時代は樹上に家を構へて住み、燧人氏の時代は燧を鑽つて火を取つた。〔張九齡、龍池聖德頌序〕巢燧之前、寂寞無㆑紀、書契而後、煥炳可㆑觀。〔書斷〕巢燧之時、淳一無㆑敎。

【巢生】33（サウセイ） 淸、左昂（4－8720‥87）の字。

【巢棲】34（サウセイ） ❶巢父（39）の❶をいふ。〔後漢書、申屠蟠傳〕巢棲茹㆑薇。〔注〕巢棲、謂㆓巢父㆒也。❷木の上に巢を造つて棲む。〔日本書紀、神武紀〕民心素朴、巢棲穴住。

【巢鼠】35（サウソ） ねずみの一種。茅鼠の別名。形は小。農作物を害す。

【巢鳥】36（サウテウ） 巢に居る鳥。すどり。〔陸龜蒙、包山祠詩〕淸露濯㆓巢鳥㆒、陰雲生㆓畫龍㆒。

【巢南】37（サウナン） 淸、曹炳曾（5－14297‥311）の號。

〖巢南子〗38（サウナンシ） 淸、張榮（嘉定の人）（4－9812‥52）の號。

【巢父】39（サウホ） ❶堯時代の隱人。山居して世利を營まず、年老い、樹上に巢を作つて其の上に寢た。故に巢父といふ。堯、嘗て許由を天に薦めんとするや、許由はこれを聞いて耳の汚れなりと言つて、潁川に耳を洗つたが、巢父は、許由の耳を洗つた水を汚れたといつて渡らなかつたと傳へる。〔潛夫論、交際〕・〔高士傳、上〕。❷明、程一枝（8－25081‥154）の號。

【巢民】40（サウミン） 淸、冒襄（2－1538‥36）の號。

【巢門】41（サウモン） ❶孝心の感應で赤鳥が門に巢を造る。〔孝子傳〕吳叔和犍爲㆑人至孝、母沒、負㆑土成㆑墳、有㆓赤鳥㆒巢㆑門、甘露降㆑戶。〔海錄碎事、鳥獸、鳥〕吳順至孝、養㆑母、有㆓赤烏㆒巢㆑門、華陽國志。❷門上に高樓のあるもの。譙門。〔呂覽、簡選〕登自㆓鳴條㆒、乃入㆓巢門㆒、遂有㆑夏。〔漢書、陳勝傳〕獨守丞與戰㆓譙門中㆒。〔注〕師古曰、譙門、謂㆘門上爲㆓高樓㆒以望者㆖耳、云云、譙、亦呼爲㆑巢。

【巢雄】42（サウユウ） 明、董基（9－31433‥38）の字。

【巢鷹】43（スダカ） 子がひの鷹。〔和漢三才圖會、四十四、山禽類〕鷹、云云、取㆑巢育㆓人家㆒者曰㆓巢鷹㆒、須太加。

【巢立】44（スダツ） ❶鳥が成長して、巢をはなれる。轉じて、人が獨立する。〔後撰和歌集、春、上〕谷寒み未だすだたぬ鶯の。❷産褥をはなれる。

【巢林】45（サウリン） ❶林にすくふ。巢林一枝を見よ。❷淸、汪士愼（6－17154‥233）の號。

〖巢林一枝〗46（サウリンイツシ） 鳥は林中に巢くつても、一本の枝に巢をつくるに過ぎない。小さい家に滿足して住む喩。〔莊子、逍遙遊〕鷦鷯巢㆓於深林㆒、不㆑過㆓一枝㆒、偃鼠飮㆑河、不㆑過㆓滿腹㆒。〔宋史、李沆傳〕家人勸㆑治㆓居第㆒、未㆓嘗答㆒、弟維因㆓語次㆒及㆑之、沆曰、人生朝暮不㆑可㆑保、又豈能久居、巢林一枝、聊自足耳、安事㆓豐屋㆒哉。〔書言故事、自足類〕斗室自安、曰㆓巢林一枝㆒。

【巢籠】47（スゴモリ） 巢にこもり居ること。鶴の巢籠など。〔持統天皇歌軍法、四〕我が妻を殺し剝いだる山賊の巢籠。

【巢可託】48（サウカタク） 淸、滿洲正藍旗人。姓は阿顏覺羅氏。字は素侯、又、寄齋。官は刑部尙書。書室を花雨松濤閣といふ。著に花雨松濤閣詩文集がある。

【巢經閣】49（サウケイカク） 淸、查岐昌（6－14643‥85）の室名。

【巢經巢】50（サウケイサウ） 淸、鄭珍（11－39647‥223）の室名。

【巢元方】51（サウゲンバウ） 隋の人。醫に精通す。大業中、太醫博士と爲り、勅を奉じて諸病源候論五十卷を著す。〔四庫提要、一百三〕。

【巢鉤子】52（サウコウシ） 樹木の名。しらかし。鉤栗（11－40319‥102）の異名。〔本草、鉤栗〕釋名、巢鉤子・甜櫧子、時珍曰、鉤櫧二字、方音相近、其狀如㆑櫟、當㆑作㆓鉤櫟㆒。

【巢刺王】53（サウシワウ） 唐、李元吉（6－14459‥1161）の封謚號。

【巢幕燕】54（サウバクノエン） 幕に巢を作つた燕。極めて危い喩。〔左氏、襄、二十九〕夫子之在㆑此也、猶㆔燕之巢㆓于幕上㆒。〔注〕言㆓至危㆒也。

【巢楓客】55（サウフウカク） 淸、惲壽平（4－10857‥12）の號。

【巢鳴盛】56（サウメイセイ） 淸、嘉興の人。字は端明。號は崆峒。明、崇禎の擧人。母に事へて至孝。母病沒するや、墓の旁に室を築き、永思閣又は止閣といひ、自ら止園と號し、隱居して仕へず。徐枋、貞孝先生と呼ぶ。徐枋・沈壽民と共に海內三遺民と稱せらる。〔國朝耆獻類徵、四百七十三〕・〔國朝先正事略、四十五〕・〔碑傳集、一百二十四〕。

【巢煙九肋】57（サウエンキウロク） 梅の實の半ば熟したのを烟で黑くいぶしたもの。烏梅（7－18998‥268）の異名。〔事物異名錄、藥材、果類〕淸異錄、侯寧極藥譜、巢煙九肋、烏梅也。

【巢毀卵破】58（スコボチタマゴヤブル） 巢がこはれれば中の卵もこはれる。親が誅せられれば其の子もともにそこなはれる喩。〔後漢書、孔融傳〕妻子被㆑誅、初女年七歲、男年九歲、以㆓幼弱㆒得㆑全、寄㆓它舍㆒、二子方弈棊、融被㆑收而不㆑動、左右曰、父執而不㆑起、何也、答曰、安有㆓巢毀而卵不㆒㆑破乎。

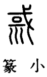
【巢睫山人】59（サウセフサンジン） 淸、童叶庚（8－25775‥113）の號。

【覆㆑巢破㆑卵】60（スヲクツガヘシタマゴヲヤブル） 巢毀卵破（58）に同じ。〔新語、輔政〕有㆓覆㆑巢破㆑卵之患㆒。

【巢氏諸病源候論】61（サウシシヨビヤウゲンコウロン） 書名。五十卷。隋、大業中、巢元方等奉勅撰。凡て六十七門、一千七百二十論。病源を論じて、方藥の事には及んでゐない。〔四庫提要、子、醫家類〕。

【巣】8696′ サウ 巢(4−8696)の略字。

【⿱巛或】8697 ㈠ヨク ヰキ 〔集韻〕越逼切 職 ㈡コク ワク 〔集韻〕穫北切 職 ㈢キヨク コク 〔集韻〕忽域切 職


小篆

㈠㈡㈢❶水が流れるさま。〔說文〕⿱巛或、水流皃、从㆑巛或聲。〔段注〕皃、舊作㆑也、今依㆓篇韻㆒正。❷あやあるさま。⿰黹或(5−11679)に通ず。〔說文、段注〕詩、黍稷彧彧、彧者、⿱巛或之變、叚㆑彧爲㆑⿰黹或也。❸彧(4−9983)に通ず。〔正字通〕⿱巛或、詩通作㆑彧。

【⿱巛㠯】8698 リヨウ 龍(12−48818)に同じ。〔字彙補〕⿱巛㠯、同㆑龍。

九畫

【⿰⿱巛白犮】8699 ギツ ギチ 〔字彙〕魚乙切 質 うごく。〔字彙〕⿰⿱巛白犮、動也。

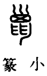
十一畫

【⿱巛⿱臼木】8700 サウ 巢(4−8696)の本字。〔正字通〕巢、本作㆑⿱巛⿱臼木。

【⿱巛⿸尸示】8701 レフ 巤(4−8702)の俗字。〔字彙〕⿱巛⿸尸示、俗巤字。

十二畫

【巤】8702 レフ 〔集韻〕力涉切 葉


小篆

❶たてがみ。〔說文〕巤、毛巤也、象㆘髮在㆓囟上㆒及毛髮巤巤之形㆖也、此與㆓籒文子字㆒同意。❷もと。〔廣韻〕巤、本也。❸鼠の毛。〔廣韻〕巤、又鼠毛。

解字 象形。說文によれば、巛はかみの毛のさま、囟は頭、故に頭上の毛、下部は毛髮の巤巤たる形に象るといふ。一說に、下部は足と尾とを示すといふ。又、一說に、古文より察して下部を多肉のさまとする。本義は、たてがみ。〔說文、巤、段注〕髮在㆓囟上㆒謂㆑⿱巛囟也、省下曰、巛象㆑髮、髮謂㆓之鬊㆒、鬊卽巛也、毛髮巤巤之形謂㆑𠁁、象㆓毛髮巤巤之形㆒也。

【⿱⿸𢦏車巛】8703 サイ 載(10−38309)に同じ。〔龍龕手鑑〕⿱⿸𢦏車巛、同㆑載。

十三畫

【⿺走邕】8704 音未詳 重⿺走邕氏は地名。〔字彙補〕⿺走邕、音未詳、重⿺走邕氏、地名、見㆓穆天子傳㆒。

十四畫

【⿱巛⿱囟儿】8705 シ 子(3−6930)の籒文。〔說文〕子、⿱巛⿱囟儿、籒文子、囟有㆑髮、臂脛在㆓几上㆒也。

十五畫

【⿱巛⿱囟儿】8706 シ 子(3−6930)の古字。〔集韻〕子、古作㆑⿱巛⿱囟儿。

十六畫

【⿱巛尙】8707 シ 子(3−6930)の古字。〔五音集韻〕⿱巛尙、古文子字。

【⿰巤欠】8708 ケイ カイ 〔字彙補〕許迷切 齊 おそれる。〔字彙補〕⿰巤欠、忌懼也。

十七畫

【⿰巤⿸虍巾】8709 シヨク 義未詳。〔篇海〕⿰巤⿸虍巾、音色。

十九畫

【⿰邕邕】8710 ヨウ 義未詳。〔五音篇海〕⿰邕邕、音雍。

【⿰巤巢】8711 サウ 義未詳。〔金鏡〕⿰巤巢、音剿。

二十一畫

【⿱⿱白巛⿰⿱白巛⿱白巛】8712 カ 河(6−17254)に同じ。〔字彙補〕⿱⿱白巛⿰⿱白巛⿱白巛、同㆑河。

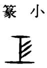
二十六畫

【⿱絲⿱囟儿】8713 シ 孳(3−7011)の籒文。〔說文〕⿱絲⿱囟儿、籒文孳、从㆑絲。

工部

【工】8714 コウ ク 〔集韻〕沽紅切 東 ㄍㄨㄥ kung^1

小篆


古文

❶たくむ。つくる。かざる。〔說文〕工、巧飾也、象㆔人有㆓規榘㆒、與㆑巫同意。〔段注〕凡言㆓某與㆑某同意㆒者、皆謂㆘字形之意有㆓相似㆒者㆖。❷たくみにする。〔廣雅、釋詁三〕工、巧也。〔南史、梁元帝紀〕帝工㆑書善㆑畫。❸たくみ。㋑上手。達者。〔詩、小雅、楚茨〕工祝致㆑告。〔傳〕善㆓其事㆒曰㆑工。〔韓愈、答㆓陳商㆒書〕王好㆑竽而子鼓㆑瑟、雖㆑工、如㆓王之不㆒㆑好何。㋺さいく人。器物を製作する人。古、世業の時代にあつては、士農に次ぎ、商の上に位した階級。工匠。〔韻會〕工、又匠也。〔周禮、天官、大宰〕工事之式。〔注〕工、作㆓器物㆒者。〔周禮、考工記、總目〕審㆓曲面埶㆒、以飭㆓五材㆒、以辨㆓民器㆒、謂㆓之百工㆒。〔禮、曲禮下〕天子之六工、曰、土工・金工・石工・木工・獸工・草工。〔公羊、成元、作㆓丘甲㆒、注〕巧心勞手、以成㆓器物㆒曰㆑工。〔論語、衞靈公〕工欲㆑善㆓其事㆒、〔史記、

秦紀〕百姓當㆑家力㆓農工㆒。〔漢書、食貨志上〕作㆑巧成㆑器曰㆑工。❹さいく。こしらへ。はたらき。〔正韻〕工、事任也。〔書、皐陶謨〕天工人其代㆑之。〔蔡傳〕人君代㆑天理㆑物、庶官所㆑治、無㆑非㆓天事㆒。❺いとなみ。もくろみ。〔潘岳、西征賦〕矧人力所㆑爲㆑工。❻**はたおり**。女の工人。〔揚雄、長楊賦〕工不㆑下㆑機。〔注〕善曰、晉灼云、工、女功也。❼**樂人**。〔書、益稷〕工以納㆑言。〔傳〕工、樂官。〔儀禮、燕禮〕席㆓工于西階上㆒。〔注〕工、瞽矇、歌㆑諷誦㆑詩者也。〔禮、樂記〕乙賤工也。〔注〕樂人稱㆑工。〔禮、鄕飮酒義〕工入升歌三終。〔注〕工、謂㆓樂正㆒也。〔左氏、襄、四〕工歌㆓文王之三㆒。〔漢書、賈誼傳〕工誦㆓箴諫㆒。〔注〕師古曰、工、習㆑樂者也。❽**占師**。〔史記、龜策傳〕褚先生曰、云云、使㆓工占㆑之。❾**つかさ**。官吏。官(**3－7107**)に通ず。〔說文通訓定聲〕工、叚借爲㆑官。〔小爾雅、廣言〕工、官也。〔書、堯典〕允釐㆓百工㆒。〔傳〕工、官也。〔詩、周頌、臣工〕嗟嗟臣工。〔傳〕工、官也。❿**易で巽の卦に當てる**。〔易、說卦〕巽、爲㆑工。⓫**玉をかぞへる數稱**。三玉。〔淮南子、道應訓〕玄玉百工。〔注〕三玉爲㆓一工㆒。⓬**音符の一**。宋・遼の時用ひられ、夷則・南呂の音を表はす。〔宋史、樂志〕夷則南呂、用㆓工字㆒。⓭**てがら。しごと**。功(**2－2295**)に通ず。〔說文通訓定聲〕工、叚借爲㆑功。〔周禮、地官、肆師〕凡師不㆑功、注〕古者工與㆑功同字。〔書、益稷〕苗頑弗㆑卽㆑工。〔史記、夏紀〕苗頑不㆑卽㆑功。⓮古は⿰工彡(**4－9966**)・⿰王彡(**4－9965**)・⿰工刂(**2－2020**)に作る。〔玉篇〕⿰工彡、古文工字。〔集韻〕工、古从㆑彡。〔正字通〕⿰工刂、古文工。⓯紅(**8－27243**)に通ず。〔吳質、在㆓元城㆒與㆓太子㆒牋〕女工吟㆓詠於機杼㆒。〔注〕善曰、云云、工、與㆑紅同。⓰**姓**。〔萬姓統譜〕工里彈、漢人。

名乘　タダ。ノリ。

解字　指事。本義を巧飾とする。人が天地間にたつて其の正を持し規矩ある義。二は天地、丨は其の間に立つ人を指示する。一說に、定規の貌にかたどる。卽ち二は平準を表し、丨は繩墨を示す。凡そ工の事、一規矩を以て盡す。卽ち圓は方に出で、方は矩に出で、矩の法一句股を以て盡す。故に工人の意とし、工に規矩を用ひ、よく其の事を美にするが故に、たくみにする義とし、又、官・功に假借する。古文、⿰工彡に作る。彡は飾りの文。〔說文通訓定聲〕工、巧飾也、象㆔人有㆓規矩㆒也、與㆑巫同意、古文又从㆑彡、按、此字于㆓六書㆒爲㆓指事㆒、橫卽句、豎卽股、凡工之事、一規矩盡㆑之、圓出㆓于方㆒、方出㆓于矩㆒、矩之法一句股盡㆑之、巨字从㆑此、古文从㆑彡㪰文也。▽ （金文）握りのある鑿、或は鐵床、乃至、さしがねなどの象形。

【工友】1 kung¹ yu³　勞働者の仲間。職人仲間。

【工尹】2（コウイン）　❶春秋、楚の官名。百工を掌る。〔禮、檀弓下〕工尹商陽與㆓陳棄疾㆒、追㆓吳師㆒及㆑之。〔注〕工尹、楚官名。〔左氏、文、十〕王使㆑爲㆓工尹㆒。〔注〕掌㆓百工㆒之官也。〔管子、問〕工尹伐㆓材用㆒。❷複姓。〔通志、氏族略、以㆑官爲㆑氏〕工尹氏、楚工尹壽之後也、楚又有㆓工尹齊・工尹餘・工尹赤・工尹麋㆒、並見㆓左傳㆒、禮記又有㆓楚工尹商陽㆒、則工尹氏盛㆓於楚㆒矣、由㆓其世官㆒故也。

【工役】3（コウエキ）　ふしん。土木などの工事。功役。〔魏志、衞顗傳〕工役不㆑輟、侈靡日崇。〔唐書、百官志〕工部郎中、員外郎各一人、掌㆓城池土木之工役程式㆒。

【工歌】4（コウカ）　たくみがうたふ。又、たくみなうた。工は巧。〔李那、答㆓徐陵㆒書〕厚築㆓牆垣㆒、思㆑逢㆓鄭僑之聘㆒、工歌㆓周頌㆒、佇㆑奏㆓延陵之樂㆒。〔梁簡文帝、東飛伯勞歌〕可㆑憐年紀十三四、工歌巧舞入㆓人意㆒。

【工價】5（コウカ）　職工人の仕事に對して支拂ふ賃銀。工賃。工銀。手間賃。〔清會典、工部、鼓鑄〕各工應㆑領㆓工價銀兩㆒。〔周禮政要、攷工〕中土物産之富、西人綜㆓計之㆒、謂㆑有㆓三十六萬種㆒、五行百産之利、不㆑假㆓外求㆒、加以㆓工價之廉、衣食之儉㆒、西人萬不㆑能㆑逮。

【工界】6 kung¹ chieh⁴　❶工業界。❷勞働者仲「閒。

【工械】7（コウカイ）　機械。〔蜀志、諸葛亮傳〕工械技巧、物究㆓其極㆒。

【工巧】8（コウカウ）　❶たくみなこと。上手。〔戰國、秦策〕曾參孝㆓其親㆒、天下願㆓以爲㆒㆑子、子胥忠㆓於君㆒、天下願㆓以爲㆒㆑臣、貞女工巧、天下願㆓以爲㆒㆑妃。〔張衡、西京賦〕何工巧之瑰瑋。〔孔子家語、三恕〕盡㆓其工巧㆒。〔大唐西域記十一、摩臘婆國〕居宮之側建㆓立精舍㆒、窮㆓諸工巧㆒、備盡㆓莊嚴㆒。❷たくみな大工。巧工。良匠。〔韓詩外傳、三〕賢人易㆑爲㆑民、工巧易㆑爲㆑材。〔淮南子、說林訓〕巧冶不㆑能㆑鑄㆑木、工巧不㆑能㆑斲㆑金者、形性然也。❸うすつぺら。輕薄。澆薄。〔楚辭、離騷〕固時俗之工巧兮。〔楚辭、東方朔、七諫、謬諫〕固時俗之工巧兮、滅㆓規矩㆒而改錯。

【工巧奴】9（コウカウド）　細工にたくみな奴隷。〔漢書、食貨志上〕大農置㆓工巧奴㆒與㆓從事㆒爲㆓作田器㆒。

【工巧明】10（クゲウミヤウ）　**佛**五明の一。工巧は工藝、明は明顯の意。古代印度科學の一。工藝・技術・天文・算數等の學。〔瑜伽論、三〕一切世間工巧業處、名㆓工巧明論㆒。〔大唐西域記、二〕二曰工巧明、伎術機關、陰陽曆數。

【工學】11（コウガク）　工業に關する理論・方法及びそれに必要な諸學科を研究する學問。〔周禮政要、攷工〕廣開㆓工學學堂及工藝院㆒。

【工氣】12（コウキ）　たくむ氣持。人工を煩はしたやうす。〔畫繼〕高山壽自號㆓三樂居士㆒、作㆓小景㆒、自成㆓一家㆒、清遠靜深、一㆓洗工氣㆒。〔圖繪寶鑑、三〕劉履中善畫㆓人物㆒、云云、但故事人物、未㆑脫㆓工氣㆒。

【工期】13（コウキ）　❶工事の期限。〔清會典、工部、注〕工料運腳、皆定有㆓例價㆒、如實因㆓時直昂貴㆒、或要㆓工期限緊迫㆒。❷kung¹ ch'i²　請負期限。

【工技】14（コウギ）　百工の技藝。たくみ。わざ。〔莊子、漁父〕工技不㆑巧。〔管子、七臣七主〕工技力㆓於無用㆒。〔後漢書、蔡邕傳〕又尙方工技之作。

【工局】15 kung¹ chü²　工場。製場。工房。

【工銀】16 kung¹ yin²　手間賃。賃錢。工價(5)を見よ。

【工具】17 kung¹ chü⁴　道具。器具。

【工火】18 kung¹ huo³　製造費。

【工科】19（コウクワ）　大學の一科。土木・船用機關・造船・造兵・電氣・建築・應用化學・火藥・採鑛・冶金等に關する學科。〔周禮政要、廣學〕大學則以㆓法・理・文・醫・工・農六科㆒、分習兼綜。

【工課】20 kung¹ k'ê⁴　仕事の割りあて。〔紅樓夢、十二回〕定要補出十天的工課來方罷。

【工會】21 kung¹ huei⁴　勞働組合。

【工官】22（コウクワン）　漆器などを作ることを掌る官。又、少府の屬官。〔漢書、貢禹傳〕三工官、官費五千萬。〔注〕如淳曰、工官、主㆑作㆓漆器物㆒者也、師古曰、如說非也、三工官、謂㆓少府之屬官㆒。

【工關】23（コウクワン）　清代、海關以外に設けた內地税關の工部の所管に屬するものをいふ。民國四年六月以後、この名稱を用ひることを禁じ、すべて常關といふ。〔清會典、戸部、關税〕著㆓松瑞將龍江工關・西新戸關㆒、均暫緩㆓設立㆒、俟㆓商賈復業㆒。

【工藝】24（コウゲイ）　工作に係る藝術。製作に關する技術。〔唐書、閻立德傳〕父毗爲㆓隋殿內少監㆒、本以㆓工藝㆒進、故立德與㆓弟立本㆒、皆機巧有㆑思。

【工藝品】25（コウゲイヒン）　技術を要した製造品。

【工業】26（コウゲフ）　工藝に關する仕事。自然物又は粗製品に人工を加へて更に有用のものとする生産業。

【工戸】27（コウコ）　古、工匠の戸籍。又、其の家。〔延喜式、左右兵庫〕攝津國有馬郡羽東工戸役十五日。

【工賈】28（コウコ）　工人と商人。工商。〔左氏、昭、二十六〕民不㆑遷、農不㆑移、工賈不㆑變。

【工瞽】29（コウコ）　樂人。工は樂工、瞽は音樂を掌る管。〔管子、四稱〕戲㆓其工瞽㆒。〔纂詁〕工、樂工也。

【工宰】30（コウサイ）　つかさ。〔荀子、正名〕心也者、道之工宰也。〔注〕工、能成㆑物、宰、能主㆑物、心之於㆑道亦然。

【工作】31（コウサク）　❶土木の事業。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕殤帝康陵方中秘藏及諸工作事、減約十分居㆑一。〔宋史、職官志三〕曰工作、曰營造。〔宋史、

孫祖德傳〕詔罷二内外工作一。❷大工の仕事をする。〔劍俠傳、京西店老人〕有二老人一、方工作。❸はたらき。たくみ。〔李邕、春賦〕偉二玄化之工作一。❹kung^1 tsuo^4 働く。勤める。

【工作船】32 コウサクセン 艦隊に附屬して、船體・機關・兵器等の修繕を施す準備のある船。

【工作物】33 コウサクブツ ❶材料に機械的加工を施し、其等を組み立てて作り上げた物品。❷勞力を加へて地上に建造したもの。家屋・建物・堤防・橋梁・溝渠等。

【工作人員】34 コウサクジンヰン 從業者。從業人數。

【工市】35 コウシ 寶劍の名。工布(105)に同じ。〔初學記、武部、劍〕秦有二大阿・工市一。〔注〕越絕書曰、云云、使三之爲二鐵劍三枚一、一曰龍泉、二曰太阿、三曰工市。

【工師】36 コウシ ❶工匠を掌る官。轉じて、大工。棟梁。〔禮、月令〕命二工師一、令二百工一。〔注〕工師、司空之屬官也。〔孟子、梁惠王下〕工師得二大木一。〔注〕工師、主二工匠一之吏。〔荀子、王制〕使四雕琢文采、不三敢專造二於家一、工師之事也。〔管子、立政〕使四刻鏤文采毋三敢造二于鄉一、工師之事也。〔史記、五帝紀〕試二之工師一。〔注〕正義曰、工師、若二今大匠卿一也。〔說苑、立節〕工師之罪也。❷複姓。〔漢書、高惠功臣表〕工師喜初以二舍人一從擊二破秦一、以二郎中一入レ漢。

【工肆】37 コウシ 工業と商業。又、工人と商人。工商。〔墨子、尙賢上〕雖下在三農與二工肆一之人上、有レ能則擧レ之、高予二之爵一、重予二之祿一。

【工詩】38 コウシ 詩を作ることがうまい。〔唐書、王昌齡傳〕昌齡工レ詩、緒密而思淸、時謂二王江寧一。

【工資】39 kung^1 tzŭ^1 工賃。勞務賃金。

【工事】40 コウジ ❶建造製作に關する仕事の總稱。〔周禮、天官、大府〕邦甸之賦、以待二工事一。〔管子、立政〕工事競二於刻鏤一。❷女工の事。女子の蠶桑織紝の事。〔管子、問〕問、處女操二工事一者幾何人。〔注〕能操二女工之事一、謂二綺繡之屬一也。❸普請。工役。土木。

【工事之式】41 コウジノシキ 器物を作る節度。工事の法式。〔周禮、天官、大宰〕以二九式一均二節財用一、云云、五曰、工事之式。〔注〕式、謂二用財之節度一、工、作二器物一者。

【工射】42 コウシヤ 弓がうまい。〔漢書、百官公卿表上、射聲校尉掌二待詔射聲士一、注〕服虔曰、工レ射者也。〔王隱晉書〕魏舒、字陽元、少工レ射、著二韋衣一入二山澤一、每レ獵大獲。〔隋書、長孫晟傳〕性通敏、略涉二書記一、善レ彈工レ射、趫捷過レ人。

【工匠】43 コウシヤウ ❶大工。たくみ。又、工人の總稱。〔荀子、榮辱〕可三以爲二工匠一。〔管子、七臣七主〕主好二宮室一、則工匠巧。〔漢書、宣帝紀贊〕至二于技巧工匠器械一、自二元成閒一、鮮二能及一レ之。〔淮南子、說林訓〕工匠不レ能レ斲レ金者、形性然也。〔鹽鐵論、水旱〕卒徒工匠。〔潘尼、安身論〕以二造化一爲二工匠一、天地爲二陶鈞一、名位爲二糟粕一、勢利爲二埃塵一。〔遼史、聖宗紀八〕太平五年、禁二工匠一、不レ得三銷二毀金銀器一。❷kung^1 chiang^4 一人前の職人。年期奉公を終了した職人。

【工匠勇】44 コウシヤウノユウ 大工の勇氣。家を造るに高所に登つて懼れぬ大工の勇氣。〔臣軌〕夫登二高棟一、臨二危檐一、而目不レ眴、心不レ懼者、此工匠之勇也、入二深泉一、刺二蛟龍一、拘二黿鼉一而出者、此漁夫之勇也。

【工商】45 コウシヤウ 工業と商業。又、工人と商人。工肆。工賈。〔左氏、定、八〕王孫賈曰、苟衞國有レ難、工商未二嘗不一レ爲レ患。〔國語、周語上〕庶人工商、各守二其業一、以共二其上一。〔史記、蘇秦傳〕治二產業一、力二工商一。

【工商部】46 コウシヤウブ 國民政府の官廳の一つ。我が國の通產省に相當するもの。

【工廠】47 kung^1 ch'ang^3 工場。仕事場。

【工尺】48 コウシヤク 中國式の音樂の譜。〔通俗編、俳優、工尺〕宋樂書、黃鐘用二合字一、太呂太簇用二四字一、夾鐘姑洗用二一字一、夷則南呂用二工字一、無射應鐘用二凡字一、中呂用二上字一、蕤賓用二勾字一、林鐘用二尺字一、黃鐘淸用二六字一、大呂夾鐘淸用二五字一、遼世大樂各詞之中、度曲協律、其聲凡十、曰二五凡工尺上一四六勾合一。

【工尺字】49 kung^1 ch'ih^3 tzŭ^4 音樂の譜。

【工雀】50 コウジヤク 鳥の名。鷦鷯（ミソサザイ）の異名。巢を作るにたくみであるからいふ。工爵。巧婦鳥。〔廣雅、釋鳥〕女鴎、工雀也。〔疏證〕以三其巧二於作一レ巢、故又有二女鴎工雀之名一。

【工爵】51 コウシヤク 鳥の名。爵は古く雀に通用した。工雀に同じ。〔方言、八〕桑飛、自レ關而東、謂二之工爵一。

【工手】52 kung^1 shou^3 ❶細工をする職人。❷たくみに作るうでまへ。名手。上手。

【工輸】53 コウシユ 古の巧匠の名。公輸班。公輸盤。公輸般。魯班。〔陸機、辨亡論〕工輸雲梯之械、智伯灌激之害。〔注〕濟曰、工輸班、古之巧智人也、作二陵雲之梯一、以攻二宋城一、將二必取一也。

【工樹】54 コウジユ たくみに書いた樹。〔芥子園畫傳〕此幅更取二其工樹一立レ準。

【工祝】55 コウシユク よい巫祝。工は巧。或は工を官とする。祝は祭祀を司る官、男巫。〔詩、小雅、楚茨〕工祝致レ告、徂賚二孝孫一。〔箋〕善二其事一曰レ工。〔儀禮、少牢饋食禮〕皇尸命二工祝一。〔注〕工、官也。〔楚辭、招魂〕工祝招レ君、背行先些。〔注〕工、巧也、男巫曰レ祝、五臣云、工祝、良巫也。

【工竣】56 コウシユン 工事が完成する。落成。竣工。工成。〔淸會典事例、盛京工部、營造、陵寢修建〕嘉慶六年、昭陵石牌樓工竣。〔六部成語、工部、工竣、注解〕完工也。

【工食】57 コウシヨク ❶工作・炊爨の兵卒。〔尉繚子、守權〕守法、城一丈、十人守レ之、工食不レ與焉。〔注〕工作器用、炊爨飯食、皆不二干與一焉。❷食料。〔長生殿、驛備〕還要三月扣二衙門工食一。❸勞銀。手間賃。〔淸會典事例、工部、河工〕四年定、葦務報銷、歸二淮海道一一處管理、至二公項款内額支、及俸餉養廉卹賞工食等一、歸二總河一彙辦。〔六部成語、戶部、工食、注解〕工役飯食之値也。〔福惠全書、筮仕部、募家丁〕安肯以二區區工食一、離二鄉井一棄二妻子一、以供二使令一乎。

【工食銀】58 コウシヨクギン 勞銀。人夫に支給する手間賃。〔淸會典、工部、鼓鑄〕咸豐三年奏准、寶錢局鑪頭匠役、每月工食銀、自二本年正月一爲レ始、以二七成一現銀支放。

【工賑】59 コウシン 土木工事と窮民賑救。又、工事を興して窮民に仕事を與へ間接に賑給すること。以レ工代レ賑。〔淸會典、戶部、蠲恤〕將來如水旱不レ齊之時、欲二以レ工代一レ賑、卽可下按レ籍而稽、速爲二辨理一、不上致二遲滯一、於二民生一殊有二裨益一。〔淸會典、戶部、蠲恤〕雇二集附近窮民一、興レ工挑穵、於二工賑一兩有二裨益一。

【工賑捐】60 コウシンエン 貧民救濟のため土木工事を起す場合、其の財源として課する地方附加稅。〔淸會典、戶部、蠲恤〕茲據二奏稱一、積水消退甚遲、工賑勢難二兼顧一、自應三酌量變通、以示二體恤一、所レ有該處勸捐積有レ成レ數之處、准下其先於二隆冬一、按二極次貧民一散放、以代中賑濟上。

【工人】61 コウジン ❶細工人。大工。工匠。職人。種々の仕事をする職人。〔國語、周語中〕工人展レ車。〔戰國、燕策〕乃令三工人作二爲金斗一、長二其尾一、令三之可二以擊一レ人。〔列子、湯問〕道有レ獻二工人一。〔荀子、儒效〕君子不レ如二工人一。〔淮南子、說山訓〕工人下レ漆而上レ丹則可。❷kung^1 jen^2 勞働者。

【工人數變レ業失二其功一】62 コウジンシバシバゲフヲヘンズレバソノコウヲウシナフ 細工人が度々其の仕事を變へると、出來上りが宜しくない。一事に專らでなければ功を成し難きをいふ。〔韓非子、解老〕工人數變レ業、則失二其功一、作者數搖徙、則亡二其功一。

【工倕】63 コウスイ 堯の時の巧匠の名。工垂。〔書、舜典〕帝曰、疇若二予工一、僉曰、垂哉。〔莊子、胠篋〕攦二工倕之指一、而天下始人有二其巧一矣。〔釋文〕倕、音垂、堯時巧者也。〔墨子、非儒下〕工倕作レ舟。

【工正】64 コウセイ 百工を掌る官。百官の長。正は長。〔左氏、莊、二十二〕陳公子完與二顓孫一奔レ齊、云云、使レ爲二工正一。〔注〕掌二百工一之官也。〔史記、齊太公世家〕於レ是以爲二工正一。

【工成】65 コウセイ 工事が完成する。落成。竣工。工竣。〔淸會典事例、盛京工部、營造、陵寢修建〕順治十四年、永陵工成、分別在レ工久暫、理事官各給二世爵一、仍賞二朝衣鞌馬一、其餘官役、賞二白金布疋一有レ差。

【工整】66 kung^1 chêng^3 整然。きちんとした。

【工拙】67 コウセツ 上手と下手。巧拙。〔呂覽、知度〕工拙・愚智・勇懼、可レ得二以レ故易一レ官。〔謝靈運、從二游京口北固一應レ詔詩〕工拙各所レ宜。

【工絕】68 コウゼツ 非常に巧妙なこと。とびぬけてたくみ。〔十六國春秋、前趙錄、劉淵〕文學武事、竝皆工絕、緩臂善レ射、膂力過レ人。

【工占】69 占師がうらなふ。〔史記、龜策傳〕使ニ工占レ之、所レ言盡當。

【工船】70 漁業船の一種。附屬船の漁つた魚類を罐詰等に製造する工作を行ふ船。

【工錢】71 kung¹ ch'ien² 工作仕事の賃銀。工銀。工賃。

【工賊】72 kung¹ tsei² 勞働爭議に資本家の手先に使はれる者。

【工隊】73 kung¹ tuei⁴ 工兵隊。

【工黨】74 kung¹ tang³ 勞工黨、卽ち勞働黨。

【工男】75 kung¹ nan² 男子の職工。男工。

【工直】76 kung¹ chih² 勞銀。賃銀。給料。

〔工直錢〕77 kung¹ chih² ch'ien² 勞役者の手間賃。賃銀。

【工値】78 雇傭契約の報酬。手間賃。〔福惠全書、刑名部、逃人、拿獲〕每月工値三百文。

【工緻】79 たくみで細かい。巧妙綿密。巧緻。精巧。〔唐書、諸帝公主、安樂公主傳〕皆憲寫ニ宮省一、而工緻過レ之。〔洛陽名園記〕劉給事園、西南有レ臺、一區尤工緻。

【工遲】80 たくみではあるが遲い。巧遲。〔晉書、閔王承傳〕兵聞ニ拙速一、不レ覩ニ工遲一。〔舊唐書、韋挺傳〕兵尙ニ拙速一、不レ聞ニ工遲一。

【工賑】81 kung¹ chang⁴ 工賃支拂帳。

〔工賑房〕82 kung¹ chang⁴ fang² 工場の職工の工賃支拂事務を取扱ふ室。

【工場】83 仕事場。こうば。工房。

〔工場法〕84 工場勞働者の保護、特に其の年齡・男女・勞働時間の制限に關する法規。

〔工場法施行令〕85 工場法の適用範圍、職工又は其の遺族の扶助、職工の雇入・解雇、及び罰則を規定する。其の實施は大正五年九月一日に始まる。

【工女】86 ㊀蠶桑織紝等の女子の仕事。又、其の仕事に從ふ女。紅女。〔穀梁、桓、十四〕天子親耕、以共ニ粢盛一、王后親蠶、以共ニ祭服一、國非レ無ニ良農工女一也、以爲、人之所レ盡レ事ニ其祖禰一、不レ若レ以下己所ニ自親一者上也。〔呂覽、不屈〕使ニ工女化而爲レ絲、不レ能レ治レ絲。〔晏子、不合經術者〕有下工女託ニ於晏子之家一焉者上。〔史記、循吏、公儀休傳〕食レ茹而美、拔ニ其園葵一而棄レ之、見ニ其家織布好一、而疾出ニ其家婦一、燔ニ其機一云、欲レ令ニ農士工女、安所レ讐ニ其貨一乎。〔新序、善謀下〕農夫釋レ耒、工女下レ機。㊁工場に雇はれて働く女。女工。

【工賃】87 職工の勞働に對して支拂ふ賃金。

【工丁】88 工役に從ふもの。勞働者。〔宋史、陸詵傳〕自ニ儂傜定後一、交人浸驕、守帥常姑息、詵至ニ邕州一、集ニ左右江四十五峒首一、詣ニ麾下一、閱ニ簡工丁五萬一、補ニ置將吏一、軍聲益張、交人滋益恭。

【工程】89 しごと。工作。工事。工事のはかどり。又、工事の程式。〔元史、韓性傳〕性所レ著有ニ讀書工程一、國子監以頒ニ示郡邑校官一、爲ニ學者式一。〔紅樓夢、十七回〕原是一起ニ工程一之時。〔淸會典、盛京工部、營造〕乾隆五年議准、盛京一切大小工程、應下照ニ工程一定上限。

〔工程司〕90 工作のつかさ。工作を掌る官。〔周禮政要、攷工〕謹案、考工一篇、爲ニ工事之經一、金木諸工、則製造之事也、梓匠諸職、則工程之司也。

〔工程師〕91 kung¹ ch'êng² shih¹ 土木技師。「技師。

【工程處】92 工事の監督處。〔淸會典、內務府、工作〕總理工程處、增ニ設委署主事一人一。

〔工程隊〕93 kung¹ ch'êng² tuei⁴ 工兵隊。

〔工程報銷冊〕94 工事に必要な材料を購入した費目を記載した報告。工事の決算報告。〔淸會典、工部、營建通例〕康熙十年議准、凡建造工完、將ニ原估覈減、實用存賸、錢糧數目一、分爲ニ四條一、繕ニ造黃冊一具題。〔淸會典、工部、營建通例〕雍正十二年覆准、各省工程報銷冊內、有ニ洗補增注字一、均用レ印鈐レ蓋、並於ニ冊尾一將ニ用印數目一登注、其錢糧總數、亦一概鈐印、儻有ニ遺漏一、將ニ造冊官一題ニ參議處一、謄繕書吏、按レ律治レ罪。

【工潮】95 kung¹ ch'ao² 勞働爭議。又、一般の勞働運動。

【工笛】96 笛がたくみ。たくみに笛を吹く。〔干寶晉紀〕石崇有ニ妓人綠珠一、美而工レ笛。

【工徒】97 工事に從ふともがら。工匠。大工。〔左思、魏都賦〕遐邇悅豫而子來、工徒擬議而騁レ巧。

【工頭】98 大工のかしら。勞働者の頭。號頭（9―32726・・62）を見よ。〔通俗編、藝術、工頭〕考工記、凡攻木之工七、疏曰、此已下言ニ工之頭數一。〔淸會典、工部、營建通例〕工頭惟利是圖、彼此互相句結。

【工房】99 ㊀工事擔當者。〔福惠全書、蒞任部、看須知〕工房經下管修造、及置ニ辦軍需一等項上。㊁kung¹ fang² しごとば。工場。

【工否】100 たくみであることとたくみでないこと。上手と下手。巧否。〔後漢書、酷吏傳論〕夫斷斷守レ道之吏、何工否之殊乎。

【工費】101 工作の費用。工事の費用。〔范成大、壓居久不レ見レ山云云詩〕工費蝟毛出。

【工筆】102 ㊀書にたくみなこと。〔南史、沈約傳〕謝玄暉善爲レ詩、任彥昇工ニ于筆一、約兼而有レ之。㊁kung¹ pi³ 畫法で用筆細密、彩色巧緻なこと。恭筆（4―10596・・101）に同じ。

【工嚬】103 工顰に同じ。〔呂向、美人賦〕玉顏絳脣、巧笑工嚬。

【工顰】104 たくみに眉をしかめること。美人の眉をひそめるさまの可憐なこと。工嚬。〔千字文〕工顰姸笑。

【工布】105 歐冶子・干將の二人が力を合せて鑄た名劍の名。又、工市に作る。〔越絕書、越絕外傳記寶劍〕歐冶子・干將鑿ニ茨山一、洩ニ其溪一、取ニ鐵英一、作ニ爲鐵劍三枚一、一曰龍淵、二曰泰阿、三曰工布。

【工部】106 ㊀官署の名。六部の一。營造工作の事を掌る。この名稱は六部の制度の完備した隋唐の時に起つたが、其の起源は堯・舜の時代に發する。卽ち唐虞の時、禹を司空として水土を治めしめ、垂を共工として百工の事を掌らしめ、周は冬官を置いて邦土を掌らしめ、又、周禮、地官の屬に山虞・林衡・川衡・澤虞等があつて、山澤の禁令を掌らしめたが、此等諸官の掌る所は、皆後世工部の職掌に屬す。秦に將作少府があり、兩丞を置いて宮室を治め、漢の景帝の時、將作大匠と改む。又、漢代の太常・少府・水衡都府及び三輔には各〻都水長丞があり、渠堤水門等の事を掌る。後漢の光武の時、尙書の屬僚の民曹の職制を改め、繕修・功作・鹽池・囿苑を掌らしむ。以後魏晉六朝を經て、工政に關する官署を漸次之に併合し、遂に隋唐の工部となる。工部の名は後周が、冬官大司空を置き、其の下に工部中大夫を置くに始まるが、其の職制は隋代六部の制を設けたのに因つて備はる。唐は之に因り、工部尙書一人を長とし、侍郎一人を副とし、工部・屯田・虞部・水部の四曹各郎中一人、員外郎一人を置き、城池土木の程式、天下の屯田、在京官の職田・公廨、京師の衢衖・苑囿・津濟・船艫・渠梁・堤堰等の事を掌る。宋の元豐の官制には天下の城池・宮室・舟車・器械・符印・錢寶の事及び百工・山澤・溝洫・屯田の政令を掌る。紹興三年、少府監を併せて工部に歸し、文思院を以て屬す。元には修造・營建法式・諸作工匠・屯田・山林・川澤の禁、並に江河・隄岸・道路・橋梁の事を掌る。以後、大體に於て大なる變化はなく、淸代は尙書滿漢各一人、左右侍郎各一人を置き、其の下に營繕・虞衡・都水・屯田の四淸吏司が附屬し、主として土木工事の監督、軍需品・彈藥の製造、宮廷及び官用の器物・船舶の製作等を掌つたが、光緖三十二年の官制改革によつて、農工商部に併合せらる。別に將作・都水の官は秦漢以來獨立してゐたが、明代に至り全く工部に併合せられた。〔書、舜典〕舜曰、咨四岳、有ニ能奮レ庸、熙ニ帝之載一、使下宅ニ百揆一、亮レ采惠上レ疇、僉曰、伯禹作ニ司空一、帝曰、兪、咨禹、汝平ニ水土一、惟時懋哉、云云、帝曰、疇若ニ予工一、僉曰、垂哉、帝曰、兪、咨垂、汝共工、垂拜稽首、讓ニ于殳斨暨伯與一、帝曰、兪、往哉汝諧。〔通典、職官典、尙書下、工部尙書〕周禮冬官、其屬有ニ考工一、掌ニ百工之事一、曰、國有ニ六職一、百工是其一焉、漢成帝初置ニ尙書一、有ニ民曹一、主ニ凡吏民上書一、後漢光武改ニ民曹一、主ニ繕修・功作・鹽池・園苑一、魏置ニ左民尙書一、亦領ニ其職一、晉宋以來、有ニ起部尙書一、而不ニ常置一、每レ營ニ宗廟宮室一、則權置レ之、事畢則省、以ニ其事一分ニ屬都官・左民二尙書一、北齊起部亦掌ニ工造一、屬ニ祠部尙書一、後周有ニ冬官大司空卿一、掌ニ五材九範之法一、其屬工部中大夫二人承ニ司之事一、掌ニ百工之籍一、而理ニ其禁令一、至レ隋乃有ニ工部尙書一、統ニ工部・屯田二曹一、蓋因ニ後周工部之名一、兼ニ前代起部之職一、大唐龍朔二年、改ニ工部尙書一爲ニ

司平太常伯一、咸亨元年復レ舊、武后改二工部一爲二冬官一、神龍初復レ舊、總二判工部・屯田・虞部・水部事一。〔事物紀原、三省綱轄部、工部〕工部、唐虞共工、在二周禮一爲二冬官之職一、漢置二民曹一、光武改二主繕修工一、作二池苑一、魏爲二左民一、晉尚書爲二起部郎一、後周始曰二工部一也。〔隋書、百官志下〕高祖既受レ命、改二周之六官一、其所レ制名、多依二前代之法一、云云、工部尚書、統二工部・屯田一、侍郎各二一人一、虞部・水部侍郎各一人。〔唐書、百官志一〕唐之官制、其名號祿秩、雖二因レ時增損一、而大抵皆沿二隋故一、尚書省、其屬有レ六、尚書六曰工部、工部尚書一人、正三品、侍郎一人、正四品下、掌二山澤・屯田・工匠諸司・公廨・紙筆墨之事一、其屬有レ四、一曰工部、二曰屯田、三曰虞部、四曰水部。〔宋史、職官志三〕工部、掌二天下城郭・宮室・舟車・器械・符印・錢幣・山澤・苑囿・河渠之政一、凡營繕歲計所レ用財物、關二度支和市一、其工料則飭二少府將作監一、檢二計其所レ用多寡之數一、凡百工其役有レ程、而善否則有二賞罰一、兵匠有レ闕、則隨以二緩急一招募、籍二坑冶歲入之數一、若改二用錢寶一、先具二模製一、進御請レ書、造二度量權衡一、則關二金部一、印記則關二禮部一、凡道路津梁、以レ時修治、舊制、判部事一人、以二兩制以上一充、元豐並歸二工部一、其屬三、曰屯田、曰虞部、曰水部、設二官十一、尚書侍郎各一人、工部・屯田・虞部・水部・郎中員外郎各一人、元祐元年、省二水部郎官一員一、紹聖元年詔、屯田・虞部、互置二郎官一員一兼領。〔元史、百官志一〕工部尚書三員、正三品、侍郎二員、從五品、員外郎二員、從六品、掌二天下營造、百工之政令一、凡城池之修濬、土木之繕葺、材物之給受、工匠之程式、銓注局院司匠之官、悉以任レ之。〔明史、職官志一〕工部尚書一人、左右侍郎各一人、其屬司務廳司務二人、營繕・虞衡・都水・屯田四清吏司各郎中一人、員外郎一人、主事二人、云云、尚書、掌二天下百工山澤之政令一、侍郎佐レ之。〔清會典、工部〕工部尚書、滿洲一人、漢一人、左侍郎、滿洲一人、漢一人、右侍郎、滿洲一人、漢一人、掌三天下造作之政令、與二其經費一、以贊レ上奠二萬民一、凡土木興建之制、器物利用之式、渠堰疏障之法、陵寢供億之典、百司以達二於部一、尚書侍郎率二其屬一以定レ議、大事上レ之、小事則行、以飭二邦事一。㊁宮內省の唐名。〔職原抄〕宮內省、當二唐工部一。㊂唐、杜甫(6－14477・・232)をいふ。

【工部卿】107 コウブキヤウ 工部省の長官。工部省を見よ。

【工部局】108 コウブキヨク 中國に於ける租界の行政事務を總管する機關。天津・上海等にある。

【工部省】109 コウブシヤウ 中央官廳の名。明治三年閏十月置く。卿・大少輔・大少丞・大錄・權大錄・中錄・權中錄・少錄・權少錄等の官を置き、工業・勸工・鐵道・鑛山・土木・燈明臺・造船・電信・製鐵等の政を掌る。明治十八年十二月廢す。

【工部尺】110 コウブシヤク 舊時の官尺。工部營造尺の通稱。

【工部侍郎】111 コウブジラウ ㊀工部の次官。隋代、始めて置く。周禮の小司空中大夫に當り、後周には小司空上大夫といふ。清には左右に分る。工部(106)の㊀を見よ。〔隋書、百官志下〕工部尚書、統二工部・屯田一、侍郎各二一人一。㊁宮內大輔(3－7156・・208)の唐名。〔職原抄〕宮內省、大輔一人、唐名、工部侍郎。㊂木工助の唐名。〔職原抄〕木工寮、助、唐名、工部侍郎。

【工部尚書】112 コウブシヤウシヨ ㊀官名。工部の長官。周禮の冬官卿に當る。漢の成帝、始めて尚書を置き、其の下に民曹があり、吏人の上書を主る。後漢の光武、民曹を改めて繕修・功作・鹽池・園苑の事を主らしむ。魏は左民尚書を置き、晉・宋に起部尚書があり、後周に冬官大司空卿があり、五材九範の法を掌る。隋、始めて工部尚書を置き、唐、之に因る。龍朔二年、司平太常伯と改め、咸亨元年、舊に復す。武后、冬官尚書と改め、神龍の初、舊に復し、以後歷代、尚書一人を置く。清に至り、滿洲・漢各〻一人を置く。工部の㊀を見よ。㊁宮內卿(3－7156・・201)の唐名。〔職原抄〕宮內省、卿一人、唐名、工部尚書。㊂木工頭の唐名。〔職原抄〕木工寮、頭一人、唐名、工部尚書。

【工部主事】113 コウブシユジ ㊀工部の屬名。唐、置く。〔唐書、百官志一〕工部主事三人。㊁木工屬(6－14415・・168)の唐名。〔職原抄〕木工寮、屬、唐名、工部主事。㊂宮內錄(3－7156・・205)の唐名。〔職原抄〕宮內省、錄、唐名、工部主事。

【工部郎中】114 コウブラウチユウ ㊀工部の四曹、卽ち工部・屯田・虞部・水部中の工部を主管する官。工部侍郎の輔佐官。唐、武德年間に置く。工部の㊀を見よ。〔唐書、百官志一〕工部尚書、云云、其屬有レ四、一曰工部、二曰屯田、三曰虞部、四曰水部、工部郎中・員外郎各一人、掌二城池土木之工役程式一、爲二尚書侍郎之貳一。㊁木工允(6－14415・・166)の唐名。〔職原抄〕木工寮、允、唐名、工部郎中。

【工部員外郎】115 コウブヰングワイラウ ㊀工部侍郎の輔佐官。唐、置く。工部郎中の㊀を見よ。㊁宮內少輔(3－7156・・206)の唐名。〔職原抄〕宮內省、少輔一人、唐名、員外郎歟。

【工部判部事】116 コウブハンブジ 宋初の工部の長官。元豐の官制に尚書と改めた。工部の㊀を見よ。〔宋史、職官志三〕工部、云云、凡道路津梁、以レ時修治、舊制、判部事一人、以二兩制以上一充、元豐並歸二工部一、其屬三、曰屯田、曰虞部、曰水部。

【工夫】117 クフウ ㊀手段を講ずる。思慮をめぐらす。又、其のこと。工面。算段。功夫。夫は扶、たすける意。〔大學、右傳之十章、章句〕細二論條目工夫一。㊁心の修養・意志の鍛鍊等に心を用ひること。〔近思錄、爲學〕朋友講習、更莫レ如二相觀而善工夫多一。〔韓偓、商山道中詩〕始知名畫有二工夫一。㊂コウフ 工程と夫役。仕事と人足。〔晉書、范甯傳〕甯自置二家廟一、云云、皆資二人力一、又奪二人居宅一、工夫萬計。㊃土木の仕事に使はれる者。人夫。土方。㊄kung^1 fu ㋑暇な時間。㋺仕事。勞作。

【工夫茶】118 コウフチヤ 廣東省潮州で行はれる茶法。陸羽の茶經に本づく。〔閩雜記〕漳泉各屬、俗尚二工夫茶一、茶具精巧、壺有下小如二胡桃一者上、名二孟公壺一、杯極小者、名二若深杯一、以二武夷小種一爲レ尚、飲必細啜久咀、否則爲二嗤笑一。〔潮嘉風月記〕工夫茶、烹治之法、本二諸陸羽茶經一、而器具更爲二精緻一、爐及壺盤各一、唯杯之數則視二客之多寡一、先將二泉水一貯レ鐺、用二細炭一煎、至二初沸一、投二閩茶於壺內一沖レ之、蓋定復徧澆二其上一、然後斟而細呷レ之、氣味芳烈、較レ嚼二梅花一、更爲二清絕一。

【工文】119 コウブン たくみな文章。〔張說、唐昭容上官氏文集序〕形有二萬變一、非二工文一莫二之寫一。

【工兵】120 コウヘイ 兵種の名。城寨・橋梁等の築造架設、又は軍事上の土木工事にあたる軍隊。又、其の兵。

【工兵會議】121 コウヘイクワイギ もと陸軍大臣の諮詢に應じ、工兵の技術、又は其の改良進步につき審査立案する機關。通例、工兵の佐官で組織する。

【工甫】122 コウホ 明、魏時亮(12－45872・・221)の字。

【工本】123 コウホン 元代、政府が鹽を製造人から買上げる時、其の製造費用として支給した錢。又、廣く工事の費用、資本、資金をいふ。工本錢の略。〔元史、食貨志二〕至元二十五年、增二工本一爲二中統鈔五貫一。〔福惠全書、清丈部、清丈餘論〕皆揭二借工本一。

【工本錢】124 コウホンセン 工本に同じ。〔元史、食貨志二〕竈戶工本錢、亦增爲二中統鈔三貫一。

【工民】125 コウミン 心を巧みにし手を勞して器物を造る者。工業に從事する民。〔穀梁、成、元〕古者有二四民一、有二士民一、有二商民一、有二農民一、有二工民一。〔注〕巧レ心勞レ手、以成二器物一者。

【工面】126 クメン 工夫面倒の略。もとひそかに金策するのに骨の折れることをいふ隱語。菓子・辨當・鮨をかべすといふ類。㊀才覺。算段。多く金錢についていふ。〔生玉心中、上〕氣を揉んでもがいても、身は裸なり、工面は成らず。㊁かねまはり。金錢の都合。めんくともいふ。〔東海道中膝栗毛、十編下〕くめんのえいとこの後家殿。

【工用】127 コウヨウ ㊀工匠の仕事。〔王褒、聖主得二賢臣一頌〕工用相得也。㊁工事の費用。〔大學衍義補、備二規制一、宮闕之居〕後世人主、其或有レ所二營建一、必先計二其工用一、而以二文帝一爲レ法。

【工容】128 コウヨウ 婦人四德の中、婦工(婦巧)と婦容とをいふ。婦人の有すべき技藝と、婦人として守るべき作法。工は巧。周禮九嬪に本づく。〔周禮、天官、九嬪〕掌二婦學之灋一、以教二九御婦德・婦言・婦容・婦功一。〔剪燈餘話、瓊奴傳〕言德工容、四者咸備、近遠爭求レ納レ聘焉。

【工力】129 コウリキ コウリヨク ㊀工作の人夫。工夫。〔北史、隱逸、馮亮傳〕亮既雅愛二山水一、又兼工二思結三架巖林一、甚得二棲遊之適一、頗以レ此聞、宣武給二其工力一、令下與二沙門僧統僧暹・河南尹甄深等一、同視中嵩山形勝之處上、遂造二閑居佛寺一、林泉既奇、營製又美、曲盡二山居之妙一。㊁工夫と力量。工力悉敵を見

よ。〔書法約言〕書法之要、妙在二能合一、神在二能離一、所謂離者、務須下倍二加工力一、自然妙生上。

【工力悉敵】130（コウリヨクコトゴトクテキス） 工夫力量、互に匹敵して差異のないこと。〔唐詩紀事、上官昭容〕中宗正月晦日、幸二昆明池一賦レ詩、羣臣應制百餘篇、帳二殿前一、結二綵樓一、命二昭容一、選二一首一爲二新翻御製曲一、從臣悉集二其下一、須臾紙落如レ飛、各認二其名一而懷レ之、既進、唯沈宋二詩不レ下、又移レ時一紙飛墜、競取而觀、乃沈詩也、及レ聞二其評一曰、二詩工力悉敵、沈詩落句云、微臣彫朽質、羞レ覩二豫章材一、蓋詞氣已竭、宋詩云、不レ愁二明月盡一、自有二夜珠來一、猶レ陟二健擧一、沈乃伏不二敢復爭一。

【虛二費工力一】131（コウリヨクヲキヨヒス） 工夫力役を無駄に使用する。工夫力役を使用して木石材料を取り、或は磚瓦等を燒造して、それが粗惡で用に堪へぬものは、之を虛費工力といひ、其の事に當つた官吏はそれに要した費用を計算し、贓罪に依つて論ぜられた。〔明律、工律、營造、虛二費工力一採取不レ堪レ用〕凡役二使人工一、採二取木石材料一、及燒二造甎瓦一之類、虛二費工力一、而不レ堪レ用者、計二所レ費雇工錢一坐レ贓論。

【工率】132（コウリツ） 單位時間の間に出來上がる器械の仕事のわりあひ。

【工婁】133（コウル） 複姓。〔通志、氏族略、以レ族爲レ氏〕工婁氏、左傳邃國有二工婁氏一、齊大夫有二工婁濟一。

【工料】134（コウレウ） ❶工事に用ひる材料。〔桃花扇、鬧話〕發二買工料一、從レ新修二造亭殿碑亭、門牆橋道一。❷勞銀。手間賃。工料銀を見よ。〔六部成語、工部、工料、注解〕工價、料値也。❸飼糧代。〔福惠全書、蒞任部、詳文贅說〕有二工料一以給二圉牧一。❹kung^1 liao^4 工費と材料。

【工料銀】135（コウレウギン） ❶勞銀。手間賃。〔淸會典事例、工部、橋道、橋梁道路〕道光四年奏准、直隸省天津西沽疊道、估需工料銀五萬六千八百四十三兩零、此頃工程、向係二商辦一、動二用蘆課銀兩一。❷飼糧代。〔福惠全書、蒞任部、看須知〕工料銀若干、每馬支給。

【工聯】136 kung^1 lien^2 勞働組合。

【鳩レ工】137（コウヲアツム） 工人をあつめる。〔川田甕江、高山仲繩祠堂記〕捐レ財鳩レ工、建二祠堂於旗崎一。

【工統會】138（コウトウクワイ） 工會統一委員會の略。民國十六年、南京國民政府が勞働組合の組織統一の爲に臨時に設けた委員會。

【工務局】139（コウムキヨク） 國民政府の市政機關の一部。建築物の取締り、道路・橋梁・公園・市場等の建設構築を掌る。

【工巡捐局】140（コウジユンエンキヨク） 淸代、民政部に屬した官廳。妓女稅・煙館稅・營業稅・車稅等の諸稅の徵收を掌る。民國になつてもなほ存した。

【工巡總局】141（コウジユンソウキヨク） 北京城内の警察事務、及び工事の施設を掌る官廳。光緖三十一年改めて巡警部とす。〔淸國行政法汎論、特設官廳、順天府衙門、職權〕又近來別設二工巡總局一、特掌二京城内之警察一、工巡總局、後改爲二巡警部一、今歸二入民政部一。

【以レ工代レ賑】142（コウヲモツテシンニカフ） 淸代、荒凶で貧民が困窮した時、土木事業を起して貧民を使用し、其の工錢を以て賑恤に代へたこと。工賑(59)を見よ。〔六部成語補遺、工部、以レ工代レ賑、注解〕凡遇二凶歲或洪水、其他災患一、飢民失レ所、由レ官擇二地方應レ作之工一、使二飢民爲一レ之、卽以二工貲一代二賑濟一也。

【僝レ工充レ役】143（コウヲアラハシテエキニアツ） 仕事の功績をあらはし、土木工事を立派に果す。僝は見。〔大學衍義補、備二規制一、宮闕之居〕宋太祖開寶二一年詔曰、如レ聞諸道藩鎭、郡邑、公宇、及倉庫、凡有二隳壞一、弗二卽繕脩一、因二循歲時一、以至二頹毀一、及二僝レ工充レ役、則倍二增勞費一。

【工欲レ善二其事一必先利二其器一】144（コウソノコトヲヨクセントホツスレバカナラズマヅソノキヲリニス） 大工が仕事を立派に仕上げようとすると、必ず最初に道具を砥石にかけて銳利にする。仁を行ふには先づ自己の德を養ふべき喩。〔論語、衞靈公〕子貢問レ爲レ仁、子曰、工欲レ善二其事一、必先利二其器一、居二是邦一也、事二其大夫之賢者一、友二其士之仁者一。

【五】8715 キヨ 巨(**4－8722**)の古字。〔玉篇〕五、古文巨。

【王】8716 キヨ 巨(**4－8722**)の古字。〔康熙字典〕巨、古文王。

【𢀓】8717 キヨ 巨(**4－8722**)の古字。〔說文〕巨、𢀓、古文巨。

【乇】8718 キ 己(**4－8742**)の古字。〔說文〕己、乇、古文己。

二畫

【𢀖】8719 シツ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕𢀖、音虱。

【左】8720

小篆

㊀サ 〔集韻〕子我切 ㄗㄨㄛˇ tsuo^3 哿

㊁サ 〔集韻〕子賀切 箇

㊀㊁❶**ひだり**。ナ(**1－112**)に通ず。〔說文通訓定聲〕左、段借爲レナ。〔集韻〕ナ、或从レ工。㋑ひだりの手。〔禮、檀弓上〕孔子與二門人一立拱、云云、二三子皆尙レ左。㋺ひだりがは。〔禮、曲禮上〕左右有レ局。㋩陽。陽位。〔禮、檀弓上〕二三子皆尙レ左。〔注〕喪尙レ右、右、陰也、吉尙レ左、左、陽也。〔禮、少儀〕軍尙レ左。〔注〕左、陽也。㋥東。〔詩、唐風、有杕之杜〕生二于道左一。〔箋〕道左、道東也。〔儀禮、士昏禮〕奠二于薦左一。〔注〕薦左、籩豆之東。〔儀禮、大射禮〕山左房。〔注〕左房、東房也。㋭西。北嚮北面北行した時の位置。〔儀禮、公食大夫禮〕賓入二門左一。〔注〕左、西方、賓位。〔儀禮、大射〕不レ繫二左下綱一。〔注〕凡侯北面、西方謂二之左一。〔儀禮、士虞禮〕長在レ左。〔注〕在二西方位一也。㋬した。しも。〔史記、廉頗藺相如傳〕位在二廉頗之右一。〔注〕索隱曰、職卑者、名錄在レ下、於レ人爲レ左、是以位下遷爲レ左。㋣易で震に當てる。〔易、泰〕以左二右民一。〔虞注〕震爲レ左。❷**ひだりする**。ひだりに行く。〔史記、殷紀〕欲レ左者左。❸**ひだりにする**。㋑ひだりの位に定める。〔禮、曲禮上〕執レ禽者左レ首。〔國語、越語下〕仍左二提鼓一、右二援枹一。㋺さげる。くだす。〔儀禮、鄕射禮〕當レ左レ物。〔注〕左レ物、下レ物也。〔史記、文帝紀〕右レ賢左レ戚。〔注〕索隱曰、左、猶レ下也。㋩よそにする。うとんずる。とほざける。〔左氏、襄、十〕天子所レ右、寡君亦右レ之、所レ左、亦左レ之。〔國語、晉語一〕是左レ之也。〔注〕左、猶レ外也。〔戰國、魏策〕必右レ秦而左レ魏。〔注〕左、疎外也。〔戰國、魏策〕右レ韓而左レ魏。〔注〕左、遠。㋥しりぞける。いやしめる。〔增韻〕左、手足便レ右、以レ左爲レ僻、故凡幽猥皆曰二僻左一。〔後漢書、光武紀下、阿二附蕃王法一、注〕左、僻也。❹**たがふ。もとる**。〔韓愈、答二竇秀才一書〕身動而事左。〔蘇軾、論書詩〕此語與レ時左。❺**たよりがわるい**。不便。〔左氏、昭、四〕不二亦左一乎。〔注〕左、不便也。❻**いやしい**。〔漢書、諸侯王表〕作二左官之律一。〔注〕應劭曰、人道上レ右、今舍二天子一而仕二諸侯一、故謂二之左官一也。〔漢書、灌夫傳〕士在二己左一。〔注〕師古曰、左、卑也。❼**あやしい。よこしま**。〔禮、王制〕執二左道一以亂レ政。〔注〕左道、若二巫蠱及俗禁一。〔疏〕左道、謂二邪道一。〔史記、田敬仲完世家〕公常執二左券一。〔注〕索隱曰、左、不正也。

❽**あかし。あかしを立てる。**〔漢書、楊惲傳〕廷尉定國考問、左驗明白。〔注〕師古曰、左、證レ左也、言下當時在二其左右一見二此事一者上也。❾**車左。**三人乘の兵車では、左にあつて弓矢を執るもの。但し、天子や元帥の乘る場合は、左の御者をいふ。〔書、甘誓〕左不レ攻二于左一。〔傳〕左、左車。〔國語、周語中〕左右皆免レ冑而下拜。〔注〕左、車左也。❿**東學。**〔禮、樂記〕左射二貍首一。〔注〕左、東學也。⓫**文書の或る箇所から左方に記した文句。**〔後漢書、杜篤傳〕謹幷封奏如レ左。⓬**ほとり。**ちかく。あたり。そば。〔陸游、碧海行〕藝祖騎レ龍在二亭左一。⓭**たすける。**㋑佐(**1**－**506**)に同じ。〔說文〕左、ナ手相左也、从二ナ工一。〔說文、右、段注〕今人以二左右一爲二ナ又字一、則又制二佐佑一爲二左右字一。〔李富孫、說文辨字正俗〕古左右字作二ナ又一、而相助字作二左右一、易詩・爾雅、猶不レ加二人傍一、後人別製二佐佑字一、而以二左右一爲二ナ又一、論語左右手、是也、尙書・周禮从二人傍一、皆後人所レ改也。〔書、益稷〕予欲三左二右有民一。〔傳〕左右、助也。〔周禮、春官、大宗伯、以佐レ王建二保邦國一、釋文〕佐、本或作レ左。㋺⿰方⿱𠂉左(**2**－**2315**)に作る。〔集韻〕左、亦作レ⿰方⿱𠂉左。⓮**姓。**〔通志、氏族略、以レ族爲レ氏〕左氏、姜姓、齊公族有二左右公子一、因以爲レ氏、楚有二左氏倚相・左史老者一、以爲二左史官一、故亦爲二左氏一、望出二濟陽一。⓯邦**歌合で、二首の歌を判じる時、前のものを左、後のものを右といふ。**

名乘 スケ。

解字 會意。本義を佐助、たすける義とする。ナと工との合字。工は事をなす意に用ひ、ナは左手。事をなすに左手が右手を佐助すること。故に佐助の意とし、假借してサ(ひだり)の意に用ひ、助ける意には佐を用ひる。又、着に假借する。一說に、サも亦音符。會意形聲。〔說文通訓定聲〕左、手相左助也、从二サ工一、會意、按、サ亦聲、サ手所三以助二又手一者也。

【左安】1 サアン 門の名。北京外城の城門の名。永定門の東。俗稱、蹉蹅門。〔讀史方輿紀要、直隸、順天府〕嘉靖二十三年、又築二重城一、包二京城南面一、轉抱二東西角樓一、長二十八里、爲二七門一、南曰二永定門・左安門・右安門一、東曰二廣渠門・東便門一、西曰二廣寧門・西便門一。

【左菴】2 サアン 字號。❶明、朱承爵(**6**－**14424**··860)の號。❷清、繼昌(**8**－**27997**··50)の號。❸民國、劉師培(**2**－**2224**··1009)の號。

【左彝】3 サイ 清、宋大鐏(**3**－**7078**··358)の字。

【左緯】4 サキ 宋、黃巖の人。字は經臣。號は委羽居士。詩に巧。著に委羽居士集がある。〔宋史翼、二十九〕。

【左右】5 サイウ ❶ひだりとみぎ。〔詩、周南、關雎〕參差行菜、左右流レ之。〔集傳〕或左右、言レ無レ方也。〔詩、小雅、吉日〕悉率二左右一、以燕二天子一。〔傳〕驅二禽之左右一、以安二待天子一。〔周禮、春官、冢人〕掌二公墓之地一、辨二其兆域一、而爲二之圖一、先王之葬居レ中、以二昭穆一爲二左右一、凡諸侯左右、以前レ卿、大夫士居レ後、各以二其族一。〔楚辭、九章、悲回風〕漂翩翩其上下兮、翼遙遙其左右。〔後漢書、董卓傳〕卓膂力過レ人、雙帶兩鞬、左右馳射、爲二羌胡所一レ畏。〔王粲、從軍行〕逍遙河堤上、左右望二我軍一。〔阮籍、詠懷詩〕被服纖羅衣、左右珮二雙璜一。❷左右に動かす。〔論語、鄉黨〕揖レ所二與立一、左二右手一、衣前後、襜如也。❸そば。かたはら。わき。身のまはり。身邊。〔詩、大雅、文王〕文王陟降、在二帝左右一。〔集傳〕左右、旁側也。〔中庸〕洋洋乎如レ在二其上一、如レ在二其左右一。〔孟子、離婁下〕資レ之深則取二之左右一、逢二其原一。〔集注〕左右、身之兩旁、言三至近而非二一處一也。〔後漢書、順烈梁皇后紀〕常以二列女圖畫一置二于左右一、以自監戒。〔魏書、房伯玉傳〕昔蒙二武帝愷悌之恩一、忝侍二左右一、此之厚遇、無レ忘二夙夜一。❹同列の人。旁人。同僚。〔漢書、蕭育傳〕後爲二茂陵令一、會レ課、育第六、而漆令郭舜殿、見レ責問一、育爲レ之請、扶風怒曰、君課第六、裁自脫、何暇欲下爲二左右一言上。〔注〕師古曰、左右者、言三與同レ列在二其左右一、若三今言二旁人一。❺近臣。おそばの者。侍者。〔書、冏命〕惟予一人無レ良、實賴三左右前後、有位之士、匡二其不一レ及。〔傳〕實恃下左右前後、有二職位一之士、匡中正其不上レ及。〔詩、大雅、棫樸〕濟濟辟王、左右趣レ之。〔箋〕左右之諸臣、皆促二疾於其事一。〔左氏、桓、五〕鄭伯使三祭足勞レ王且問二左右一。〔孟子、梁惠王下〕曰、四境之內不レ治則如レ之何、王顧二左右一而言レ他。〔孟子、梁惠王下〕左右皆曰レ賢、未レ可也。〔列子、仲尼〕堯治二天下一五十年、不レ知二天下治歟、不レ治歟一、不レ知二億兆之願レ戴レ己歟、不レ願レ戴レ己歟一、顧問二左右一、左右不レ知、問二外朝一、外朝不レ知、問二在野一、在野不レ知、堯乃微服游二於康衢一。〔韓非子、八姦〕優笑侏儒、左右近習、此人主未レ命而唯唯、未レ使而諾諾、先レ意承レ旨、觀レ貌察レ色、以先二主心一者也。〔管子、七法〕便僻左右、大族尊貴大臣、不レ得レ增二其功一焉。〔楚辭、九辯〕既驕美而伐レ武兮、負二左右之耿介一。〔史記、藺相如傳〕秦王不レ肯レ擊レ缻、相如曰、五步之內、相如請得下以二頸血一濺中大王上矣、左右欲レ刃二相如一、相如張レ目叱レ之、左右皆靡、於レ是秦王不レ懌、爲一擊レ缻。〔漢書、李廣傳〕武帝卽位、左右言二廣名將一也、由レ是入爲二未央衞尉一。❻敬意を表する時に直接其の人を指すを憚つて侍者を呼んでいふ稱。足下。〔國語、晉語二〕黃金四十鎰、白玉之珩六雙、不三敢當二公子一、請納二之左右一。〔注〕言二左右一、謙也。〔史記、樂毅傳〕樂毅報二遺燕惠王一書曰、臣不佞、不レ能下奉二承王命一以順中左右之心上、恐下傷二先王之明一、有上レ害二足下之義一。〔司馬遷、報二任少卿一書〕不レ得下舒二憤懣一以曉中左右上。〔注〕銑曰、左右、猶二足下一也。❼たすける。佐佑。〔爾雅、釋詁下〕詔・亮・左・右・相・導也。〔疏〕皆謂二佐助一。〔易、泰〕以左二右民一。〔虞注〕左右、助レ之。〔書、太甲上〕惟尹躬、克左二右厥辟一宅レ師。〔傳〕伊尹言下能助二其君一、居中業天下之衆上。〔詩、周南、關雎〕參差行菜、左右流レ之。〔箋〕左右、助也。〔詩、商頌、長發〕實維阿衡、實左二右商王一。〔傳〕左右、助也。〔史記、蕭相國世家〕高祖爲二亭長一、常左二右之一。〔後漢書、徐穉傳〕左二右大業一。〔注〕左右、助也。❽輔弼の大臣。左輔右弼。〔書、咸有一德〕任レ官惟賢材、左右惟其人。〔蔡傳〕左右者、輔弼大臣。〔書、君奭序〕召公爲レ保、周公爲レ師、相二成王一爲二左右一。〔韓非子、揚權〕左右既立、開レ門而當。〔注〕左右、謂二左輔右弼一也、君臣既通二輔弼之臣一斯立、如レ此則同類相從、同聲相應、四方賢才畢來矣、君但開レ門而當レ之、無レ所二遮擁一也。❾連屬の國。又は諸侯の臣。〔詩、小雅、采菽〕平二平左右一、亦是率從。〔箋〕能辨二治其連屬之國一。〔集傳〕左右、諸侯之臣也。❿常に用ひる。〔史記、夏紀〕左二準繩一、右二規矩一。〔注〕集解曰、左右、言二常用一也。⓫自由にする。勝手にする。〔左氏、僖、二十六〕公以二楚師一伐レ齊取レ穀、凡師能左二右之一曰レ以。〔注〕左右、謂三進退在二己。〔國語、越語上〕越國之寶器、畢從二寡君一、帥二越國之衆一、以從二君之師徒一、唯君左二右之一。〔注〕左右、在二君所一レ用也。〔老子、三十四〕大道汎兮、其可二左右一。⓬ほど。ばかり。年齡のさだかならぬ時に數詞の後に附して用ひる。前後。〔春秋、僖、五〕杞伯姬來朝二其子一。〔杜注〕朝二其子一者、時子年在二十歲左右一、因レ有下諸侯子得レ行二朝義一、而卒不中成二朝禮一、故繫二於母一、而曰レ朝二其子一。⓭むかふこととそむくこと。向背をいふ。〔後漢書、郅惲傳〕惲善恕レ己量レ主、知下我必不レ有レ所二左右一、而輕中天下上也。〔注〕左右、猶二向背一也、言二其齊等一。⓮東西をいふ。〔書、君奭序、左右釋文〕馬云、分レ陝爲二二伯一、東爲レ左、西爲レ右。〔詩、召南、殷其靁〕殷其靁、在二南山之側一。〔傳〕亦在三其陰與二左右一也。〔疏〕陰、謂二山北一、左、謂レ東、右、謂レ西也。⓯陰陽の道路をいふ。〔素問、天元紀大論〕左右者、陰陽之道路也。⓰暴掠すること。〔國語、吳語〕寡人帥二不腆吳國之役一、遵二汶之上一、不二敢左右一、唯好之故。〔注〕不四敢左二右暴三掠齊民一、唯有二恩好一之故也。⓱軍の左右の部隊。〔國語、晉語一〕故古之爲レ軍也、軍有二左右一、闕從補レ之。〔注〕左右、左右部也。⓲米穀を賣り出すこと。うりよね。〔管子、山國軌〕謂二鄰縣一曰、有レ實者、皆勿二左右一、不レ贍則且下爲二人馬一、假中其食民上。〔纂詁〕勿二左右一、不レ許二出糶一也。⓳周旋揖讓をいふ。〔詩、小雅、賓之初筵〕賓之初筵、左右秩秩。

〔箋〕左右、謂二折旋揖讓一也。⓴どうせ。どのみち。いづれ。〔元曲、秋胡戲妻〕左右這裏無レ人。㉑tsuo^3 yu^4 どのみち。どうあつても。㉒邦ウサ㋑とやかく。かれこれ。㋺やうす。有樣。次第。

【左右握】6サイウアク　孝經緯の一種。玉函山房輯佚書に輯本がある。

【左右盂】7サイウウ　田獵の陣の名。左盂と右盂。〔左氏、文、十〕宋公爲二右盂一、鄭伯爲二左盂一。〔注〕盂、田獵陳名。

【左右衞】8サイウエイ　軍隊の名。漢に衞將軍あり、南北兩軍を領し、禁衞を掌る。魏末に晉の文王、中衞將軍を置き、禪りを受けるに及び、左右衞に分ち、宿衞兵を掌る。以後歴朝有り、隋の煬帝、左右翊衞と改め、唐の武德五年、翊の字を去つて舊稱に復し、上將軍各一人、大將軍各一人、將軍各二人を置き、宮禁宿衞を掌る。宋、殿前司と改む。〔唐書、百官志四上〕左右衞、上將軍各一人、從二品、大將軍各一人、正三品、將軍各二人、從三品、掌二宮禁宿衞一、左右驍衞・左右武衞・左右威衞・左右領軍・左右金吾・左右監門衞、上將軍以下品同。〔文獻通考、職官考、左右衞〕漢京師有二南北軍一、掌レ理二禁衞一、初有二衞將軍一、魏末、晉文王又置二中衞將軍一、武帝受レ禪、分二中衞一爲二左右衞將軍一、並置二佐吏一、皆掌二宿衞營兵一、銀章青綬、武冠、絳朝服、佩二水蒼玉一、宋齊謂二之二衞一、各領二營兵一、每暮一人宿直、後增二二衞儀從一爲二九十人一、陳因レ之、後魏永光初、又增二置左右衞將軍各二人一、北齊二人分二掌左右廂一、所レ主朱華閣以外、各武衞將軍二人貳レ之、隋初、左右衞大將軍各一人、將軍各二人、又各統二親衞一、煬帝改二左右衞一爲二左右翊衞一。〔事物紀原、環衞中貴部、左右衞〕漢有二衞將軍一、魏末、晉文王又置二中衞一、武帝受レ禪、分二中衞一爲二左右衞一、會要云、唐武德元年、因二隋舊制一、有二左右翊衞一、五年去二翊字一、但曰二左右衞一矣。

【左右街】9サイウガイ　左右の街。唐の長安城は凡て六街で、左三街、右三街であつた。〔唐書、百官志四上〕左右翊中郎將、掌下領二府屬一、督中京城左右六街鋪巡警上。〔唐書、百官志四上〕左右街使、掌三分二察六街徼巡一。〔注〕貞元後復置二左右街大功德使一、總二僧尼之籍一。

【左右江】10サイウカウ　鬱江の上流の左江・右江をいふ。左右江の名は唐に始まり、左江を麗江、右江を南盤江といつた。〔明史、地理志六〕南寧府、宣化城西南有二大江一、卽鬱江、其上流有レ二、一爲二南盤江一、經二府城南一、曰二右江一、一爲二麗江一、經二府城西南一、曰二左江一、合處曰二合江鎭一。

【左右校】11サイウカウ　官署の名。秦、置き、漢、之に因る。初、左右前後中の五校あつたが、後にはただ左右校を置く。校尉（**6－14713**‥3）を見よ。〔史記、陳涉世家〕田儋誅二殺公孫慶一、秦左右校復攻レ陳下レ之。

【左右監】12サイウカン　官名。秦、置く。廷尉の屬。刑辟を掌る。〔漢書、百官公卿表上〕廷尉秦官、掌二刑辟一、有二正左右監一、秩皆千石。

【左右揆】13サイウキ　左相と右相。左大臣の右大臣。左揆（108）の❶を見よ。〔老學庵筆記、一〕沈守約・万俟元忠、並拜二左右揆一。

【左右旗】14サイウキ　星の名。〔史記、天官書、東宮蒼龍房心東北曲十二星曰レ旗、注〕兩旗者、左旗九星在二河鼓左一也、右旗九星在二河鼓右一也、皆天之鼓旗、所三以爲二旌表一。

【左右拒】15サイウキヨ　兵陣の名。左右の方陣。左右のそなへ。左翼と右翼。〔左氏、桓、五〕鄭子元請爲二左拒一、以當二蔡人・衞人一、爲二右拒一、以當二陳人一。〔注〕拒、方陳也。〔會箋〕邲之戰、楚亦有二左拒・右拒一、是左右翼之類、不二必方陳一。

【左右鈞】16サイウヒトシ　左と右とがひとしい。〔儀禮、鄕射禮〕若左右鈞、則左右皆執二一算一以告曰、左右鈞。

【左右廣】17サイウクワウ　楚の軍制の名。左右の親兵。廣は兵車の名。〔左氏、宣、十二〕其君之戎、分爲二二廣一、廣有二一卒一、卒偏之兩、右廣初駕、數及二日中一、左則受レ之、云云、楚子爲二乘廣三十乘一、分爲二左右一、右廣雞鳴而駕、日中而說、左則受レ之、日入而說、許偃御二右廣一、養由基爲レ右、彭名御二左廣一、屈蕩爲レ右。〔注〕君之親兵也。〔會箋〕廣、兵車名、以二其親兵一分二左右二部一、故名二二廣一。

【左右左】18サイウサ　❶古、拜禮としての舞踏の作法。再拜して笏を右の地上に置き、立つて身を左右左にひねり、地に居て左右左にひねり、笏を取つて小拜し、立つて再拜すること。〔拾芥抄、中、末〕舞蹈事、再拜、置レ笏、立左右左、居左右左、取レ笏小拜、立再拜。❷能樂の舞の型。扇を持つたまま、左手を上げ、右手を下げて左側へ一足行き、更に左手を下げ、右手を上げて右側へ一足行くこと。〔謠曲、羽衣〕さゆふさ、さゆふ颯颯の、花をかざしの天の羽袖、なびくもかへすも舞の袖。

【左右曹】19サイウサウ　宋の制、戸部を左右二曹に分ち、左曹は專ら版籍・稅賦・土貢・征榷・孝義・婚姻・繼嗣・田務・券責等を掌り、右曹は專ら常平・免役・伍保・義倉・賑濟・水利・農田・坊場・河渡等を掌る。其の官には郎中・員外郎、各一人を置く。〔宋史、職官志三〕戸部、國初以二天下財計一歸二之三司一、本部無二職掌一、止置二判部事一人一、以二兩制以上一充、以受二天下上貢一、元會陳二于庭一、元豐正二官名一、始並歸二戸部一、掌二天下人戸・土地・錢穀之政令、貢賦・征役之事一、以二版籍一考二戸口之登耗一、以二稅賦一持二軍國之歲計一、以二土貢一辨二郡縣之物宜一、以二征榷一抑二兼幷一而佐二調度一、以二孝義・婚姻・繼嗣之道一和二人心一、以二田務・券責之理一直二民訟一、凡此歸二於左曹一、以二平常之法一平二豐凶一時斂散、以二免役之法一通二貧富一均二財力一、以二伍保之法一聯二比閭一察二盜賊一、以二義倉・振濟之法一救二饑饉一恤二艱阨一、以二農田・水利之政一治二荒廢一務二稼穡一、以二坊場・河渡之課一酬二勤勞一省二科率一、凡此歸二於右曹一。

【左右藏】20サイウザウ　國庫をいふ。晉の時、始めてこの名あり。唐制は左右藏署に皆、令及び丞を置き、太府卿に屬し、左藏は錢帛の類、右藏は金玉珠寶の類を掌る。

【左右師】21サイウシ　國子司業（**3－4798**‥260）の異稱。〔稱謂錄、司業、左右師〕歸崇敬傳注、以二國子監一爲二辟雍省一、以二祭酒一爲二太師氏一、司業爲二左右師一。

【左右射】22サイウシヤ　左の手でも右の手でも弓を射る。左右書を見よ。

【左右省】23サイウシヤウ　唐の門下（左）・中書（右）の二省の倂稱。門下省は東（左）にあつたので左省といひ、中書省は西（右）にあつたので右省といつた。〔唐六典、尙書工部〕郎中員外郎云云、宣政殿前東廊曰二日華門一、門東門下省、云云、宣政殿前西廊曰二月華門一、門西中書省。〔通典、職官典、中書省、注〕時謂二尙書省一爲二南省一、門下・中書爲二北省一、亦謂二門下省一爲二左省一、中書爲二右省一、或通謂二之兩省一。

【左右手】24サイウシユ　❶左右の手。兩手。互に助け合ふものの譬。又、最もたのみとする輔佐。〔孫子、九地〕吳人與二越人一相惡也、當二其同レ舟濟一而遇レ風、其相救也、如二左右手一。〔史記、淮陰侯傳〕人有レ言レ上曰、丞相何亡、王大怒、如レ失二左右手一。〔後漢書、竇融傳〕吾與二將軍一如二左右手一耳。〔北史、周文帝紀〕宇文左丞吾左右手、何可レ廢也。❷左右に侍する人。近臣。〔宋書、武帝紀中〕劉潘死二于閶闔之內一、諸葛斃二于左右之手一。

【左右書】25サイウシヨ　左右の手で字を書く。〔南齊書、臨川獻王映傳〕映善二騎射一、解二聲律一、工二左右書、左右射一、應二接賓客一、風韻韶美。

【左右丞】26サイウジヨウ　官名。尙書省の屬。秦に尙書丞一人有り、漢の成帝增して四人とし、後漢の光武に至り、二人を減じて左右丞を置き、令僕を助けて、左丞は吏民の章服及び騶伯の史を掌り、右丞は僕射と廩假錢穀を授け、又、印綬及び紙筆墨、諸の財用庫藏を假署することを掌る。魏晉以後、皆有り。後魏・北齊には左丞を上階とし、右丞を下階とす。唐代には左丞は諸國を管轄し、省內を糾正し、吏部・戸部・禮部等の十二司を勾し、都省の事を通判することを掌り、右丞は兵部・刑部・工部等の十二司を管掌し、他は左丞に同じ。唐には尙書の下にあつたが、宋には其の權重く、執政官として、令僕に貳して、大政に參議し、省事を通治することを掌る。南渡後は無く、遼・金・元、皆有り、明には無い。淸末には各部に左右丞を置き、侍郎の佐とした。民國政事堂にもこの官あり、國務卿を佐く。〔通典、職官典、尙書上、僕射、左右丞〕左右丞、秦置二尙書丞一人一、屬二少府一、漢因レ之、至二成帝建始四年一、置二丞四人一、及二後漢光武一、始減二其二一、唯置二左右丞一、佐二令僕之事一、臺中紀綱無レ所レ不レ總、左

丞主吏民章服及騶伯史、右丞與僕射皆掌授廩假錢穀、又假署印綬及紙筆墨諸財用庫藏、左右丞闕、以次夕郎補之、三歲爲刺史、漢御史中丞侍御史、行複道中、遇尚書及丞郎、避車執版揖、丞郎坐車、擧手禮之、車過遠乃去、尚書言左右丞、敢告知、如詔書律令、郎見左右丞、對揖、無敬稱、曰左右君、丞郎見尚書、執版揖、稱曰明時郎、見令僕、執版拜、朝賀對揖、魏晉左右丞、銅印青黑綬、進賢一梁冠、介幘絳朝服、左丞、主臺內禁令、宗廟祠祀、朝儀禮制、選用署吏急假、兼糾彈之事、右丞、掌臺內庫藏廬舍、凡諸器用之物、及刑獄兵器、督錄遠道文書章表奏事、宋因之、而右丞亦主錢穀、云云、後魏北齊、左丞爲上階、右丞爲下階、云云、大唐因隋制、龍朔二年改爲左右肅機、咸亨元年復舊、左丞掌管轄諸司、糾正省內、勾吏部・戶部・禮部等十二司、通判都省事、右丞掌管兵部・刑部・工部等十二司、餘與左丞同。〔事物起原、三省綱轄部、左右丞〕秦置尚書丞二人、漢成帝建始四年置四人、光武始減其二、分左右、佐令僕之事、唐以來在尚書之下、宋朝官制改陞在上、又爲執政官。〔續通典、職官、尚書、上、僕射〕左右丞、宋制、左右丞、掌參議大政、通治省事、以貳令僕射之職、云云、元豐五年詔、左右僕射丞、合治省事、南渡後復置參知政事、省左右丞不置、遼尚書省置左丞・右丞、金尚書省置左丞・右丞各一員、云云、元至元二十四年立尚書省、置左右丞各一人、云云、明不設尚書省、無左右丞。

【左右川】27（サウガハ）　尾張國の地名。

【左右選】28（サイウセン）　宋の元豐年間に改正した官吏銓衡の制。審官東院を尚書左選、流內銓を侍郎左選、審官西院を尚書右選、三班院を侍郎右選と改む。左選は文官、右選は武官の選擧を掌る。〔宋史、選擧志四〕元豐定制而後、銓注之法、悉歸選部、以審官東院爲尚書左選、流內銓爲侍郎左選、審官西院爲尚書右選、三班院爲侍郎右選、於是吏部有四選之法。〔文獻通考、職官考、吏部尚書〕宋朝典選之職、自分爲四、文選二、曰審官東院、曰流內銓、武選二、曰審官西院、曰三班院、元豐定制、以審官東院爲尚書左選、審官西院爲尚書右選、流內銓爲侍郎左選、三班院爲侍郎右選、掌文武官選授勳封考課之政令。

【左右臺】29（サイウダイ）　唐の光宅元年、御史臺を分けて左右臺とした。左臺は百司ををさめ、軍旅を監し、右臺は州縣を察し、風俗を省みることを掌る。尋いで左臺に命じて兼ねて州縣を察せしめ、右臺を廢した。〔通典、職官典、御史臺〕武太后時改御史臺爲肅政臺、凡置左右肅政二臺、別置大夫中丞各一人、侍御史殿中監察各二十人、左以察朝廷、右以澄郡縣、時議以右多名流、左多寒刻、其遷登南省者、右殆倍焉、以其不陵朝貴故也、二臺迭相糾正、而左加敬憚、龍朔以後去肅政之名、但爲左右御史臺、云云、太極元年以尚書省悉隸左臺、云云、遂廢右臺、而本御史臺官復舊、廢臺之官並隸焉。

【左右袒】30（サイウタン）　左右兩はだをぬぐ。兩つながら贊成すること。左袒(310)を見よ。〔太平御覽、人事、醜大夫〕風俗通曰、齊有一女、二家求之、其家語其女曰、汝欲東家則左袒、欲西家則右袒、其女兩袒、父母問其故、對曰、願東家食、而西家息、以東家富而醜、西家貧而美也。

【左右田】31（サウダ）　姓氏。〔姓林全書〕。

【左右佩】32（サイウハイ）　左右のおびもの。〔禮、內則〕左右佩用、左佩紛帨・刀礪・小觿・金燧、右佩玦捍・管遰・大觿・木燧。

【左右平】33（サイウヘイ）　官名。漢の宣帝、廷尉を改めて左右平を置き、刑辟を掌らせた。〔漢書、百官公卿表上〕廷尉、秦官、掌刑辟、云云、宣帝地節三年、初置左右平、秩皆六百石。

【左右翼】34（サイウヨク）　❶舊制多く兵を分つて三軍とし、其の左右の二軍をいふ。〔史記、李牧傳〕牧多爲奇陳、張左右翼擊之、大破殺匈奴十餘萬騎。〔五代史、杜重威傳〕安重榮反、云云、杜重威先以左右隊擊其兩翼、戰酣、王重胤以精兵擊其中軍。❷清代、八旗を分つて左右翼とし、鑲黃・正白・鑲白・正藍を左翼とし、正黃・正紅・鑲紅・鑲藍を右翼とした。〔皇朝通典、兵、八旗、兵制、上〕八旗前鋒銳、前鋒統領左右翼各一人。〔注〕鑲黃・正白・鑲白・正藍四旗爲左翼、正黃・正紅・鑲紅・鑲藍四旗爲右翼。

【左右具宜】35（サイウトモニヨロシ）　何事にも能く通ずる。〔韓愈、進學解〕長通於方、左右具宜。

【左右傾側】36（サイウケイソク）　左右何れにもかたむく。轉じて、時と場合とで都合のよい方に從ふこと。〔劉向、戰國策序〕生從橫短長之說、左右傾側。

【左右司空】37（サイウシクウ）　官名。秦・漢、置く。少府の屬。〔漢書、百官公卿表上〕少府、秦官、掌山海池澤之稅、以給共養、云云、屬官有、云云甘泉居室・左右司空。

【左右司馬】38（サイウシバ）　左司馬と右司馬。共に兵事を司る官名。〔史記、孔子世家〕古者、諸侯出疆、必具官以從、請具左右司馬。

【左右拾遺】39（サイウシフヰ）　官名。唐の武后の垂拱元年、補闕・拾遺各二人を置く。唐代、門下を左省、中書を右省と稱し、因つて門下省に屬するものは左補闕・左拾遺、中書省に屬するものは右補闕・右拾遺と稱した。宋にも兩者に左右司諫・左右正言の官があり、其の職相同じ。淳熙中、補闕・拾遺を增置したが、間もなく廢した。拾遺(5－12014・・1)の❺を見よ。〔通典、職官典、宰相、侍中〕補闕・拾遺、武太后垂拱中、置補闕・拾遺二官、以掌供奉諷諫、天授二年、各增置通前爲五員、三年擧人無賢愚咸加擢用、高者試鳳閣侍郎給事中、次或試員外郎・侍御史・補闕・拾遺、校書郎、當時頗爲濫雜、著於謠誦、自開元以來、尤爲清選、左右補闕各二人、內供奉者各一人、左右拾遺亦然、左屬門下、右屬中書。

【左右肅機】40（サイウシユクキ）　左右丞相に同じ。唐の龍朔元年、左右丞相(左右僕射)を改めて左右肅機といふ。〔唐書、百官志一〕尚書左右僕射各一人、龍朔二年改曰左右匡政、光宅元年曰文昌左右相、開元元年曰左右丞相、天寶元年復、云云、龍朔元年改左右丞曰左右肅機。

【左右丞相】41（サイウジヨウシヤウ）　官名。左右の丞相。秦の武王の二年、左右丞相を置き、樗里疾・甘茂を以て之に任じ、漢代、孝惠高后も亦左右丞相を置き、以後、三國吳・唐・宋・遼・金・元等にもこの官を置く。左右肅機を見よ。〔史記、秦紀〕武王二年初置丞相、樗里疾・甘茂爲左右丞相。〔漢書、百官公卿表上〕相國丞相皆秦官、金印紫綬、掌丞天子、助理萬機、云云、孝惠高后置左右丞相。〔通典、職官、宰相、注〕吳有左右丞相。〔文獻通考、職官考、宰相〕至乾道八年、詔尚書左右僕射可依漢制、改作左右丞相、云云、改左右僕射爲左右丞相。〔遼史、百官志三〕中書省、中書令・左丞相・右丞相。〔金史、百官志一〕尚書省、左丞相・右丞相、各一員、從一品。〔元史、百官志一〕右丞相・左丞相、各一員、正一品、銀印、統六官、率百司、居令之次、令缺則總省事、佐天子、理萬機。

【左右親近】42（サイウシンキン）　そば近く仕へる家來。側近の臣。〔蘇轍、爲兄軾下獄上書〕況立朝最孤、左右親近、必無爲言者。

【左右尊卑】43（サイウソンピ）　左と右との位置で尊卑を分つこと。尙左尙右(527)を見よ。〔鼠璞〕漢以右爲尊、謂貶秩爲左遷、仕諸侯爲左官、居高位爲右職、周昌相趙、高帝曰、吾極知其左遷、陳平以右丞相遜周勃、位第一、平爲左丞相、位第二、謂左戚右賢居客之右、朝廷無出其右、皆此意也、本朝官制、如左右僕射・左右丞相・左右丞・左右司・左右曹・左右諫議・左右司諫正言、皆不以右爲尊、猶以右文爲祕省殿名、何邪。〔田藝衡、蓬窗日錄〕禮、吉事尙左、凶事尙右、毛晃曰、人道尙右、以左爲卑、又或以爲、手足便右、以左爲僻也、故凡曰左道・左遷・左言・左官、曲禮祥車曠左、魏公子從車騎、虛左以迎侯生、我朝官制初尙右、後改尊左、吳元年丁未十月丙午、命百官、禮儀俱尙左、禮記聽卿任左、注、凡立者尊左、座者尊右、今禮猶古也。

【左右大監】44（サイウタイカン）　黃帝の置いた官名。萬國を監督する。〔史記、五帝紀〕置左右大監、監于萬國。

【左右圖史】45（サイウトシ）　左右皆圖書の意。藏書の豐富なことをいふ。〔唐書、楊綰傳〕性沈靖、獨處一室、左右圖史。

【左右便辟】46（サイウベンペキ・サイウベンペイ）　人の意を迎へて媚び諂ふ側近の者。便辟(1－659・・115)の❷を見よ。

〔戰國、齊策〕王斗曰、王之憂レ國愛レ民、不レ若三王愛二尺穀一也、王曰、何謂也、王斗曰、王使二人爲レ冠、不レ使二左右便辟一、而使レ工者何也、爲レ能レ之也、今王治レ齊、非二左右便辟一無レ使也、臣故曰、不レ如レ愛二尺穀一也。

〖左右補闕〗47（サイウホケツ）　官名。補闕（10—34320‥38）の㊁・左右拾遺（39）を見よ。

〖左右逢原〗48（サイウホウゲン）　左右何れに取るも、其の源に會ふ。道の資源が豐富であれば、日常之を用ひるに、或は左、或は右、或は前、或は後と、手當り次第に用ひても、源流と會ふ。道を自得した者の融通從容の形容。〔孟子、離婁下〕資レ之深、則取二之左右一逢二其原一。〔注〕取レ之深則得二其根一也、左右取レ之、在レ所二逢遇一、皆知二其原本一也。〔虛堂和尙語錄、二〕衲子勇二於義一、可三以表二率叢林一、游二刃事海一、自然左右逢二其原一。

〖左右馬寮〗49（サイウメレウ）　左馬寮（349）と右馬寮（2—3250‥208）。

〖釱二左右趾一〗50（サイウシニアシカセス）　漢代、左右の趾を拘束する刑。釱は足かせ。趾は足、くるぶしから下をいふ。〔史記、平準書〕敢私鑄二鐵器一煮レ鹽者、釱二左趾一、沒二入其器物一。〔注〕索隱曰、釱、踏腳鉗也、張斐漢晉律序云、狀如レ跟、衣二著左足下一、重六斤。〔漢書、食貨志下〕私鑄二鐵器一鬻レ鹽者、釱二左趾一、沒二入其器物一。〔漢書、刑法志〕完爲二城旦舂一、注〕臣瓚曰、文帝除二肉刑一、皆有二以易レ之、故以レ完易レ髡、以レ笞代レ劓、以レ釱二左右趾一代レ刖。

〖左右旋中レ規〗51（サイウセンスルコトキニアタル）　馬を左右に乘り廻すに常規に合つてゐること。〔呂覽、適威〕進退中レ繩、左右旋中レ規、造父之御、無二以過一焉。

〖顧二左右一言レ他〗52（サイウヲカヘリミテタヲイフ）　左右の侍者を顧みてよそごとをいふ。聞えない樣をよそふこと。〔孟子、梁惠王下〕曰、四境之內不レ治、則如レ之何、王顧二左右一而言レ他。

〖如レ失二左右手一〗53（サイウノテヲウシナフガゴトシ）　極めて恃みとした者を失つて茫然たる喩。〔史記、淮陰侯傳〕人曰、丞相何亡、王怒、如レ失二左右手一。〔書言故事、身體說類〕喩レ失レ所レ親、如レ失二左右手一。

〖左右先爲二之容一〗54（サイウマヅコレガヨウヲナス）　左右の者が豫めよきやうに取りなして推薦すること。容は、かたちづくる意。〔漢書、鄒陽傳〕蟠木根柢、輪囷離奇、而爲二萬乘器一者、以三左右先爲二之容一也。〔蘇軾、上二梅直講一書〕非三左右爲二之先容一、非三親舊爲二之請屬一、而嚮之十餘年間、聞二其名一而不レ得レ見者、一朝爲二知己一。

【左乙】55（サイツ）　道家が書を藏する所をいふ。〔雲笈七籤〕三百寶軸、左乙在レ前。〔陳旅、送二毛眞人南還一詩〕左乙象文令二虎守一、尙方鳧舃背レ人飛。

【左邑】56（サイフ）　縣名。秦・漢、置く。春秋、晉の曲沃邑。戰國、魏の邑。故城は山西省聞喜縣治。〔漢書、地理志上〕河東郡、縣二十四、左邑。

【左尹】57（サイン）　㊀楚の官名。〔資治通鑑、漢紀〕（高祖元年）楚左尹項伯者。〔注〕楚官有二左尹・右尹一。㊁複姓。〔萬姓統譜〕左尹、楚左尹郗宛之後。㊂清、查繼佐（6—14643‥88）の隱名。

【左羽】58（サウ）　清、譚瑄（10—35978‥23）の字。

〖左羽林衞〗59（サウリンエイ）　羽林衞（9—28614‥137）を見よ。

【左盂】60（サウ）　田獵の陳の名。左にあるを左盂といふ。〔左氏、文、十〕宋公爲二右盂一、鄭伯爲二左盂一。〔注〕盂、田獵陳名。〔徐晉卿、春秋經傳類對賦〕楚子右廣、鄭伯左盂。

【左禹】61（サウ）　禹を左において輔佐させる。〔說苑、君道〕昔者虞舜左レ禹右二皐陶一、不レ下レ堂而天下治。

【左雲】62（サウン）　㊀左方の雲。〔李咸用、昇天行〕空中龍駕時迴旋、左雲右鶴翔翩聯。㊁縣名。清、置く。明、鎭朔衞を置き、後、改めて大同左衞を設け、又、雲川衞を併せ入れ、左雲川衞と名づけたのを、清初、左雲衞と名づけ、後、縣とす。今、山西省大同縣の西南、管涔山脈の東麓。〔清史稿、地理志〕山西、朔平府、縣三、左雲。

【左衞】63（サエイ）　軍隊の名。宮禁を掌る。左右衞（8）を見よ。〔晉書、職官志〕二衞始制、前驅・由基・彊弩爲二三部司馬一、各置二督史一、左衞、熊渠武賁、右衞、佽飛武賁、二衞各五部督、其命中武賁、驍騎游擊各領レ之。〔宋書、武帝紀下〕以二左衞將軍王仲德一爲二冀州刺史一。〔元史、百官志二〕左衞、秩正三品、至元八年、以二侍衞一改置、掌二宿衞扈從一、兼二屯田一、國有二大事一、則調二度之一。

〖左衞率府〗64（サエイソツプ）　衞率（10—34074‥118）を見よ。

〖左衞門督〗65（サヱモンノカミ）　左衞門府の長官。〔職原抄〕左右衞門府、督一人、左衞門督者、爲二中納言・參議一人兼二任之一。

〖左衞門府〗66（サヱモンフ）　古、武官の府。禁中の諸門を衞り、其の出入を察し、時を以て巡警することを掌る。唐名、金吾、又、監門。衞門府（10—34074‥174）を見よ。〔職原抄〕左右衞門府、唐名、金吾、又云二監門一。

【左掖】67（サエキ）　㊀宮城正門の左方の小門。〔宋書、天文志一〕魏文帝黃初三年九月甲辰、客星見二太微左掖門內一。〔李庾、東都賦〕左掖通レ東、右掖洞レ西。㊁諫議の官の居る役所。左掖臣を見よ。〔杜甫、晚出二左掖一詩〕避レ人焚二諫草一、騎レ馬欲二鷄棲一。

〖左掖臣〗68（サエキシン）　諫議の官をいふ。〔李嘉祐、送三王諫議充二東都留守判官一詩〕衰柳寒關道、高車左掖臣。

【左腋】69（サエキ）　左のわき。左脅。〔晉書、陶侃傳〕侃夢生二八翼一、飛而上レ天、見二天門九重一、已登二其八一、惟一門不レ得レ入、閽者以レ杖擊レ之、因墜レ地折二其左翼一、及レ寤左腋猶痛。〔南齊書、張敬兒傳〕蠻賊追者數千人、敬兒單馬在レ後、衝二突賊軍一數十合、殺二數十人一、箭中二左腋一、賊不レ能レ抗。〔雲笈七籤〕尋老君生二于殷末一、長自二周初一、託二身玄妙玉女一、處レ胎八十一載、逍二遙李樹之下一、剖二左腋一而生、生卽皓然、號曰二老子一、指レ樹爲レ氏、因姓レ李焉。

【左鉞】70（サエツ）　左手にまさかりを執る。鉞は征討將軍の威信を示すために天子から賜はる大斧。〔書、牧誓〕王左杖二黃鉞一、右秉二白旄一。〔曹植、武帝誄〕左鉞右旄、威凌二伊呂一。〔劉長卿、行營酬二呂侍御一云云詩〕受レ辭瞻二左鉞一、扶レ疾往二前旌一。

【左淵】71（サエン）　金の人。泌の弟。中都轉運となつたが、性、貪鄙で、官の材木を盜用す。〔金史、七十五〕。

【左黶】72（サエン）　金、完顏守貞（3—7079‥87）の本名。

【左个】73（サカ）　左側にある偏室。卽ち東堂では北側、南堂では東側、西堂では南側、北堂では西側にある偏室。故に大寢に於ては、青陽左个は東堂の北偏の室、明堂左个は大寢南堂の東偏の室、總章左个は大寢西堂の南偏の室、玄堂左个は大寢北堂の西偏の室となる。一說に、四面の偏室。个は明堂の旁舍。孫希旦の集解には、个は堂を挾んでゐる室といふ。右个（2—3250‥6）を見よ。〔禮、月令〕孟春之月、天子居二青陽左个一、云云、孟夏之月、天子居二明堂左个一、云云、孟秋之月、天子居二總章左个一、云云、孟冬之月、天子居二玄堂左个一。〔注〕青陽左个、大寢東堂北偏、明堂左个、大寢南堂東偏也、總章左个、大寢西堂南偏、玄堂左个、北堂西偏也。〔孫希旦集解〕室之夾レ堂者、謂二之个一。

【左荷】74（サカ）　荷を左にする。荷は佩帶の飾で、嚢の屬。〔隋書、禮儀志六〕朝服綴二紫荷一、錄令左僕射左レ荷、右僕射吏部尙書右レ荷。

【左莪】75（サガ）　清、褚廷璋（10—34457‥51）の字。

【左介】76（サカイ）　魚の名。ひらめ。〔騈雅、釋蟲魚〕左介、比目也。〔庶物異名疏、鱗介部〕爾雅、東方有レ魚、不レ比不レ行、其名謂二之鰈一、南越志、謂二之板魚一、亦曰二左介一。

【左海】77（サカイ）　㊀海を東にする。天地は南を前、北を後とする故、東は左に當る。中國の地勢は、東方は海に臨むからいふ。〔禮、鄕飮酒義〕洗之在レ阼、其水在二洗東一、祖二天地之左レ海也。㊁東海をいふ。〔玉海、地理、州鎭〕臨安、西界二浙河一、東奄二左海一。㊂清、陳壽祺（11—41698‥964）の號。㊃tsuo^2 hai^3　福建省の別名。福建（8—24768‥29）の㊀を見よ。

〖左海經辨〗78（サカイケイベン）　左海全集を見よ。

〖左海全集〗79（サカイゼンシフ）　書名。三十四卷。二十九冊。清、陳壽琪撰。第一冊—十一冊、左海文集十卷。第十二冊—十三冊、絳跗草堂詩集六卷。第十四冊—十五冊、左海文集乙編二卷。第十六冊—十八冊、五經異義疏證三卷。第十九冊—二十二冊、左海經辨二卷。第二十三冊—二十四冊、尙書大傳五卷。第二十五冊—二十六冊、洪範五行傳三卷。第二十七冊、東越儒林後傳一卷。第二十八冊、東城文苑傳一卷。第二十九冊、東觀存稾一卷。

【左開】80 サカイ ●一左方に開く。〔張協、玄武館賦〕春牖左開、秋窗右豁。●二tsuo^3 k'ai 左記の。左に記せる。

【左階】81 サカイ 左方の階段。〔元史、禮樂志一〕諸冊官由二右階一隮、奉二寶使一、諸寶官由二左階一隮。

【左交】82 サカウ 左方にまじはる。〔宋書、律曆志下〕左交右疾、倍半相違。

【左江】83 サカウ ●一江を左にする。江は揚子江。〔戰國、魏策〕楚王登二強臺一而望二崩山一、左レ江而右レ湖。〔枚乘、七發〕登二景夷之臺一、南望二荊山一、北望二汝海一、左レ江右レ湖、其樂無レ有。●二川の名。鬱江上流の一。左右江(10)を見よ。〔元史、地理志六、貴州、左江、注〕左江出二源州界一、至二合江鎭一與二右江水一合爲レ一、流入二横州一號二鬱江一。〔明一統志〕左江在二太平府登源交趾界一、流五百八十里、至二古萬寨下流一、九十里、至二合江鎭一與二右江水一合、流入二横州一號二鬱江一。

【左行】84 サカウ ●一左から右に、横に書き連ねる文字。佉盧文字の類。佉盧(**1**－**449**・・7)は人の名で、古の造書者といふ。一に佉樓に作る。〔法苑珠林〕造レ書者三人、長曰レ梵、其書右行、次曰二佉盧一、其書左行、少者蒼頡、其書下行。●二左にめぐる。〔夢溪筆談、樂律一〕凡氣始二於東方一而右行、音起二於西方一而左行、陰陽相錯而生二變化一。●三軍制の名。春秋、晉の三行の一。〔左氏、僖、二十八〕晉侯作二三行一以禦レ狄、荀林父將二中行一、屠擊將二右行一、先蔑將二左行一。●四複姓。〔英賢傳〕晉先蔑爲二左行一、其後爲レ氏。

【左更】85 サカウ ●一爵位の名。秦制、第十二級。功勞ある者に授ける。漢、之に因る。更は更賦(**5**－**14283**・・91)を課せられた人民を使役する役の名。〔史記、白起傳〕白起爲二左更一、攻二韓魏於伊闕一。〔漢書、百官公卿表上〕爵一級曰二公士一、云云、十二左更、十三中更、十四右更、云云、皆秦制、以賞二功勞一。〔注〕師古曰、更、言下主二領更卒一、部中其役使上也。●二星の名。婁の東の五星をいふ。〔張衡、週天大象賦〕左更處レ東而掌レ虞。〔隋書、天文志中〕婁東五星曰二左更一、山虞也、婁西五星曰二右更一、牧師也。

【左岡】86 サカウ 左方の岡。〔鮑溶、經二秦始皇墓一詩〕左岡青虬盤、右坂白虎踞。

【左昂】87 サカウ ●一左方を高くする。〔禮、曲禮上、奉二席如一橋衡一、注〕横奉レ之、令二左昂右低一、如レ有二首尾一然。●二清の人。輔の子。字は巢生。道光の擧人。官は安徽鳳穎同知。詩、古文詞に巧。

【左巷】88 サカウ 周の王城内の地名。〔左氏、昭、二十三〕王子朝入二于王城一、次二于左巷一。〔注〕近二東城一也。

【左降】89 サカウ ●一左の階段を下ること。〔儀禮、覲禮、侯氏坐取レ圭、注〕侯氏坐取レ圭、則遂左降。●二官をおとされる。左遷。〔晉書、應詹傳〕今宜レ峻二左降舊制一、可四二千石、免レ官三年、乃得三敍二用長史一。〔宋書、謝晦傳論〕左降之科、不レ行二于權戚一。〔白居易、自題詩〕一旦失レ恩先左降、三年隨レ例未二量移一。〔北夢瑣言〕李德祐左降至二朱崖一。

【左降官】90 サカウクワン 官をおとされた者。〔舊唐書、玄宗紀下〕二十七年、加二尊號開元聖文神武皇帝一、大二赦天下一、左降官量二移近處一。〔宋史、眞宗紀三〕秋七月壬申、以二星變一赦二天下一、流以下罪減レ等、左降官羈管十年以上者、放二還京師一。

【左校】91 サカウ 官署の名。秦及び漢の初、左・右・前・後・中の五校あり、後、唯、左右校を置く。後漢、之に因り、左右工徒を掌る。魏には材官に併せ、晉には少府に屬す。以後皆置き、隋には將作に屬す。唐は隋制に因り、令二人、丞一人を置き、梓匠の事、即ち樂縣・簨簴・兵械・喪葬の儀物・宮室の官修を掌る。宋に至り修內司と改む。〔後漢書、百官志四〕左校令一人、掌二左工徒一。〔宋書、百官志上〕魏右校、又置二材官校尉一、主二天下材木事一、晉江左改二材官校尉一曰二材官將軍一、又罷二左校令一、今材官隸二尙書起部及領軍一。〔唐書、百官志三〕左校署、令二人、丞一人、掌二梓匠之事一、樂縣・簨簴・兵械・喪葬儀物皆供焉、宮室之制、自二天子一至二士庶一有二等差一、官修者左校爲レ之。〔文獻通考、職官考、將作監、左校右校〕左右校署、秦及漢初、有二左・右・前・後・中五校令一、後唯置二左右校令一、後漢因レ之、掌二左右工徒一、魏併二左校右校於材官一、晉左右校屬二少府一、宋以後並有二左校令丞一、北齊亦有レ之、隋左右校令丞屬二將作一、唐因レ之、左校署令丞二一人、右校署令丞二一人。

【輸左校】92 サカウニユス 輕い刑罰の名。官吏の罪あるものを貶して左校の官とすること。輸は送る、いたす。〔後漢書、朱穆傳〕有二宦者趙忠一喪レ父歸二葬安平一、僭爲二璵璠玉匣偶人一。穆聞レ之下二郡案驗一、吏畏二其嚴明一、遂發レ墓剖レ棺、陳レ尸出レ之、而收二其家屬一、帝聞大怒、徵レ穆詣二廷尉一、輸二作左校一。〔蔡邕、上二漢書十志一疏〕元初中、故尙書郎張俊、坐二漏洩事一、當レ服二重刑一、已出二轂門一、復聽二續鞠一、詔書馳赦二一等一、輸二作左校一。〔任昉、天監三年策二秀才一文〕睚眦有レ違、論二輸左校一。〔注〕善曰、漢書曰、原涉好眦二睚於塵中一、論輸、謂下論二其罪一而輸作上也、翰曰、輸、役也。

【左崤】93 サカウ 左方の崤山。〔楊侃、皇畿賦〕既觀二法於左崤右隴一、亦取二則於西澗東瀍一。

【左殽】94 サカウ 殽を左にする。殽は骨つきのまま煮た肉。〔禮、曲禮上〕左殽右胾。〔注〕殽、骨體也。〔盧肇、湖南觀二雙柘枝舞一賦〕饗正奉レ羞、司樽擧レ酌、左殽兮右胾、兕觥兮玉爵。

【左螯】95 サガウ 左の手に蟹をとる。螯は、蟹のはさみ。〔許月卿、人間詩〕安得二左螯右杯酒一、與レ君瀾醉柳塘邊。

【左角】96 サカク ●一左のかど。ひだりかど。〔史記、景帝紀、月貫二天庭一、注〕索隱曰、天庭、卽龍星右角也、按、石氏星傳曰、龍在二左角一曰二天田一、右角曰二天庭一。〔楊烱、渾天賦〕左角右角、兩曜之所二巡行一、陰閒陽閒、五星之所二次舍一。●二左のつの。〔莊子、則陽〕有下國二於蝸之左角一者上、曰二觸氏一、有下國二於蝸之右角一者上、曰二蠻氏一。●三左そなへの軍隊。左軍。〔左氏、昭、元〕爲二五陳一以相離、兩於レ前、伍於レ後、專爲二右角一、參爲二左角一、偏爲二前拒一、以誘レ之。

【左翮】97 サカク 左の羽。翮は羽莖。〔杜甫、暇日小園散レ病詩〕飛來兩白鶴、暮啄泥中芹、雄者左翮垂、損傷已露レ筋。

【左樂】98 サガク 唐樂(**2**－**3709**・・36)の一名。左方に用ひる樂の義。右方に用ひる高麗樂の對。〔儀式令、五、正月八日講最勝王經儀、注〕左唐樂、右高麗、諒闇之時撤レ樂。

【左學】99 サガク 殷代の小學の名。庶人の老者を慰め養ひ、老を尊ぶ禮を子弟に示したところ。國老を養ふ右學の對。〔禮、王制〕殷人養二國老於右學一、養二庶老於左學一。〔注〕左學、小學也、在二國中王宮之東一。〔李華、含元殿賦〕蓋左學之遺制、協二前王之講德一。〔柳貫、贈二別宋季任赴二任甘肅提擧一詩〕左學將レ興レ蜀、西庠昉レ自レ虞。

【左轄】100 サカツ ●一星の名。轄星の左方にあるもの。〔晉書、天文志〕轄星傅二軫兩旁一、主二王侯一、左轄爲二王者同姓一、右轄爲二異姓一。●二左丞をいふ。宋・元代には其の權重く、副宰相となる。左右丞(26)・右轄(**2**－**3250**・・17)の●二を見よ。〔北史、韋瑱傳〕周文帝爲二丞相一、封二長安縣男一、轉二行臺左丞一、遷二南郢州刺史一、復令レ爲二行臺左丞一、瑱明察有二幹局一、再居二左轄一、時論榮レ之。〔杜甫、贈二韋左丞丈濟一詩〕左轄頻虛位、今年得二舊儒一。

【左閤】101 サカフ 左方のくぐり戶。〔隋書、宇文化及傳〕虔通進レ兵、排二左閤一、馳入二永巷一。

【左闔】102 サカフ 左方のとびら。左扇。〔國語、吳語〕乃闔二左闔一、塡レ之以レ土。〔墨子、迎敵祠〕二人掌二左闔一。

【左干】103 サカン ●一舞樂に干を執るものが左方に位すること。干は武舞に執るたて。左籥(410)を見よ。●二明、吳廷(**2**－**3365**・・314)の字。

【左咸】104 サカン 漢、琅邪の人。公羊春秋を冷豐に受く。官は哀帝の時、郡守九卿。〔前漢書、八十八〕。

【左看】105 サカン 左方を見る。〔傅玄、鷹賦〕左看若レ側、右視如レ傾。

【左眼】106 サガン 左方の眼。〔南齊書、陳顯達傳〕矢中二左眼一、拔レ箭而鏃不レ出。

【左巖】107 サガン 清、黎元寬(**12**－**47994**・・94)の字。

【左揆】108 サキ ●一左相。左丞相。揆は宰輔の官。〔宋史、姜特立傳〕留正爲二右相一、執政尙闕レ人、特立一日語レ正曰、帝以二丞相在位久一、欲レ遷二左揆一、就二一尙書中一擇二一人一、執政孰可者、明日正論二其招權納賄之狀一、遂奪レ職與二外祠一。〔可談〕蔡持正自二左揆一責知二安州一。●二宋、永新の人。字は正卿。號は務本齋。謝諤の弟子。諤、ために務本齋銘を作る。〔宋元學案、二十八〕。

【左揮】109 サキ 左にふるふ。〔韋應物、椶櫚蠅拂歌〕

左揮右灑繁暑清、孤松一枝風有レ聲。

【左畸】110 サキ 軍隊の左方の部隊。〔國語、吳語〕王稱二左畸一。〔注〕左畸、軍左部也。

【左旗】111 サキ 星の名。兩旗の一。河鼓の左にある。〔史記、天官書〕東北曲十二星曰レ旗。〔注〕正義曰、兩旗者、左旗九星在二河鼓左一也、右旗九星在二河鼓右一也、皆天之鼓旗、所三以爲二旌表一。〔宋史、天文志十〕端拱二年四月壬申、有レ星出二漸臺一、血色赤、東南急行掩二左旗一、過二河鼓一沒。

【左騎】112 サキ 左方の騎兵。〔後漢書、臧宮傳〕右步左騎、挾レ船而引、呼聲動二山谷一。

【左丘】113 サキウ 複姓。〔元和姓纂〕齊國臨淄縣有二左丘一。〔通志、氏族略〕論語之左丘明、居二於左丘一、以レ地爲レ氏。〔氏族博考〕左丘明居二左丘一、爲二左丘氏一。

【左丘明】114 サキウメイ 左は氏、丘明は名。左史倚相の後と傳ふ。一說に、左丘を以て複姓とする。魯の太史で孔子と同時代の人。論語には、巧言令色足恭なるは、左丘明之を恥づ、丘も亦之を恥づとあり、孔子の尊敬する人物であつたらしい。史記では、孔子が春秋を修めた後、此の左丘明は、孔門の人々が、或は孔子の眞意を傳へないことを恐れて、左氏傳を作り、又、國語も其の手に成るとし、漢代の諸學者から晉の杜預に至るまで、皆此の說を奉じてゐる。然し唐の啖助・趙匡が左氏傳の作者はこの左丘明と別人で六國の人であるとしてから、宋の王安石・鄭樵・朱熹・歐陽脩・呂大奎、淸の顧炎武・惠棟・焦循等は多く其の說に贊成してゐる。四庫提要は趙匡の說を排して左丘明の作なることを力說してゐる。〔論語、公冶長〕子曰、巧言令色足恭、左丘明恥レ之、丘亦恥レ之。〔集解〕孔安國曰、左丘明、魯太史。〔疏〕左丘明、魯太史、受二春秋經於仲尼一者也。〔劉寶楠正義〕史記自敍篇稱、左丘失レ明、厥有二國語一、史公以二左丘一連レ文、則左丘是兩字氏、明其名也、左丘亦單稱レ左、故舊文皆言二左傳一、不レ言二左丘傳一。〔史記、十二諸侯年表序〕魯君子左丘明、懼下弟子人人異レ端、各安二其意一、失中其眞上、故因二孔子史記一、具論二其語一、成二左氏春秋一。〔史記、太史公自序〕屈原放逐著二離騷一、左丘失レ明、厥有二國語一。〔漢書、藝文志〕丘明與二孔子一觀二魯史一、而作二春秋一。〔漢書、劉歆傳〕左丘明好惡與二聖人一同、親見二夫子一。〔劉歆、移レ書讓二太常博士一書〕及春秋左氏、丘明所レ修、皆古文舊書、多者二十餘通、藏二於祕府一、伏而未レ發。〔注〕良曰、左、姓也、丘明、名也。〔杜預、春秋左氏傳序〕仲尼自レ衞反レ魯、脩二春秋一、立二素王一、丘明爲二素臣一。〔史通、左傳〕左傳家者、其先出二於左丘明一、孔子既著二春秋一、而丘明援レ經作レ傳。〔鄭樵春秋傳、左氏非二丘明一辯〕劉歆曰、左氏丘明、好惡與二聖人一同、親見二夫子一、而公羊在二七十子之後一、司馬遷曰、孔子作二春秋一、丘明爲二之傳一、班固藝文志曰、丘明與二孔子一觀二魯史一、而作二春秋一、杜預序二左傳一亦云、左丘明受二經於仲尼一、詳二諸所レ說、皆以二左氏一爲二丘明一無レ疑矣、至二唐啖助・趙匡一、獨立レ說以破レ之、啖助曰、論語所レ引丘明、乃史佚遲仁之類、左氏集二諸國史一以釋二春秋一、後人謂二左氏一爲二丘明一非也、趙氏曰、公穀皆孔氏之後、人不レ知二師資幾世一、左丘明乃孔子以前賢人、而左氏不レ知レ出二於何代一、唯啖趙立レ說以破レ之、未レ有二的論一、然使下後世終不丙以二丘明一爲乙左氏甲者、則自二啖趙一始矣、況孔氏所レ稱左丘明、姓左、名丘明、斷非二左氏一明矣、今以二左氏傳一質レ之、則知三其非二丘明一也、左氏中紀二韓魏智伯之事一、又擧二趙襄子之諡一、則是書之作、必在二趙襄子既卒之後一、若以爲下丘明自二獲麟一至中襄子卒上、已八十年、使下丘明與二孔子一同時上、不レ應二孔子既沒七十有八年之後、丘明猶能著レ書、今左氏引レ之、此左氏爲二六國人一、在二於趙襄子既卒之後一明、驗一也、左氏戰二於麻隧一、秦師敗績、獲二不更女父一、又云、秦庶長鮑・庶長武、帥レ師及二晉師一戰二於櫟一、秦至二孝公時一、立二賞級之爵一、乃有二不更庶長之號一、今左氏引レ之、是左氏爲二六國人一、在二於秦孝公之後一明、驗二也、左氏云、虞不レ臘矣、秦至二惠王十二年一、初臘、鄭氏・蔡邕皆謂、臘二于周一、卽蜡祭、諸經並無二明文一、惟呂氏月令有下臘二先祖一之言上、今左氏引レ之、則左氏爲二六國人一、在二于秦惠王之後一明、驗三也、左氏師二承鄒衍之誕一、而稱二帝王子孫一、按、齊威王時、鄒衍推二五德終始之運一、其語不經、今左氏引レ之、則左氏爲二六國人一、在二齊威王之後一明、驗四也、左氏言二分星一、皆準二堪輿一、按、韓魏分レ晉之後、而堪輿十二次、始下於趙分曰二大梁一之語上、今左氏引レ之、則左氏爲二六國時人一、在二三家分レ晉之後一明、驗五也、左氏云、左師辰將以二公乘馬一而歸、按、三代時、有二車戰一無二騎兵一、惟蘇秦合二從六國一、始有二車千乘騎萬匹之語一、今左氏引レ之、是左氏爲二六國人一、在二蘇秦之後一明、驗六也、左氏序二呂相絕レ秦、聲子說レ齊、其爲二雄辯狙詐一、眞游說之士捭闔之辭一、此左氏爲二六國人一明、驗七也、左氏之書、序二秦楚事一最詳、如二楚師熸、猶レ拾レ瀋等語一、則左氏爲二楚人一明、驗八也、據二此八節一、亦可下以知丙左氏非二丘明一、是爲乙六國時人甲、無二可レ疑者一、或問二伊川一曰、左氏是丘明否、曰、傳無二丘明字一、故不レ可レ考、又問、左氏可レ信否、曰、不レ可二全信一、信二其可レ信者一耳、其知言歟。

【左丘失レ明厥有二國語一】115 サキウメイヲウシナヒソレコクゴアリ 魯の左丘明が失明して國語を著はした故事。故に國語は一に盲史といふ。〔史記、太史公自序〕屈原放逐、著二離騷一、左丘失レ明、厥有二國語一。

【左京】116 サキヤウ 古、京都の朱雀大路から左、卽ち東の方をいふ。又、東の京・洛陽ともいふ。〔拾芥抄、中、本〕京職、左右、朱雀東、姉小路北、七條北、堀川西、左京、堀川東、右京。

【左京職】117 サキヤウシキ ヒダリノミサトツカサ 左京の戶口・租稅・訴訟等を掌つた官。〔職原抄〕左京職、掌二京中事一、宅地以下、悉京職之所レ知也。

【左鄕】118 サキヤウ 周代、國中を左右に分ち、其の左方の鄕。〔禮、王制〕命二國之左鄕一。〔孫希旦集解〕愚謂、左鄕・右鄕者、王有二六鄕一、國之左右各有二三鄕一也。

【左腳】119 サキヤク 左の足。ひだりあし。〔荀子、非相〕突禿長左。〔注〕長左、左腳長也。〔羅隱、病中上二錢尙父一詩〕左腳方行右臂攣、每慙名跡汙二賓筵一。

【左去】120 サキヨ 左方に去る。〔宋史、范育傳〕使人左去、而兵革右興、金繒朝委、而烽煙夕擧。

【左拒】121 サキヨ 左ぞなへの軍隊。左軍。左翼。左右拒(15)を見よ。〔左氏、桓、五〕鄭子元請下爲二左拒一、以當二蔡人・衞人一、爲二右拒一以當中陳人上。〔左氏、宣、十二〕從二唐侯一以爲二左拒一。

【左袪】122 サキヨ 左のたもと。〔楚辭、嚴忌、哀時命〕左袪挂二於榑桑一。〔注〕袪、袖也。

【左御】123 サギヨ 太僕(**3**-**5834**‥472)をいふ。〔稱謂錄、太僕寺、左御〕孫逖、太僕卿制、俾三升二榮於左御一。

【左魚】124 サギヨ 魚符を二分した左の半分。唐代、之を郡守に給し、右の半分を郡庫に留めた。魚符は木或は銅を以て魚形を作り、書をその上に刻して之を剖分し、各〻一を執つて信となすもの。左魚符。魚符(**12**-**45956**‥233)を見よ。〔野客叢談、十一、郡守左符〕唐故事、以二左魚一給二郡守一、以二右魚一留二郡庫一、每郡守之官、以二左魚一合二郡庫之右魚一、以レ此爲レ信。

【左魚符】125 サギヨフ 左魚に同じ。〔唐書、車服志〕其後改爲二銅魚符一、畿內則左三右一、畿外則左五右一、左者進レ內、右者在レ外用。〔宋史、兵志十〕其木契上下題二某處契一、中剖レ之、上三枚、中爲二魚形一、題二一二三一、下一枚、中刻二空魚一、令レ可二勘合一、左旁題曰二左魚合一、右旁題曰二右魚合一、上三枚留二總管鈐轄官高者一掌レ之、下一枚付二諸州軍城砦主一掌レ之。〔楊萬里、跋二劍南詩稾一詩〕浙東新得左魚符。

【左馭】126 サギヨ 左方に在つて馬車を御する。〔周禮、夏官、太僕〕王出入、則自左馭而前驅。〔注〕前驅、如二今道引一也、道而居レ左自馭不二參乘一、辟レ王也。〔孫逖、授二王昱太僕卿一制〕俾レ升二榮於左馭一、仍受二任於北京一。

【左近】127 サキン ❶近所。附近。ごく近く。〔水經、夷水注〕佷山縣平樂村又有二石穴一、出二清泉一、中有二潛龍一、每レ至二大旱一、平樂左近村居、輦レ草穢二著穴中一、龍怒、須臾水出、蕩二其草穢一、傍側之田、皆得二澆灌一。〔南史、夷貊上、扶南國傳〕至二自然大洲一、其上有レ樹生二火中一、洲左近人剝二取其皮一、紡績作レ布。卽火浣布。❷サコン 左近衞府(130)の略。

【左近櫻】128 サコンノサクラ 昔、紫宸殿階下の左、卽ち東に植ゑた櫻。西に植ゑた右近の橘に對す。〔徒然草〕吉野の花、左近の櫻は、皆一重にてこそあれ。

【左近衞】129 サコンヱ 左近衞府の略。

【左近衞府】130 サコンヱフ 昔、皇城の警衞にあたつた軍兵の役所。近衞府(**11**-**38752**‥10)を見よ。

【左近衞大將】131 サコンヱノタイシヤウ 昔、近衞府に屬した武官。武官中の最高位のもの。近衞府(**11**-**3875**

2··10)を見よ。

【左胸】132サク　胸を左に置く。胸は、屈曲したほじし。〔禮、曲禮上〕以二脯脩一置者、左レ胸右レ末。〔疏〕胸、謂二中屈一也、屈脯胸然也、左レ胸、胸置レ左也。

【左愚】133サグ　左方は愚。右は貴く、左は賤しいからいふ。〔禮、王制、執二左道一以亂レ政、疏〕左道謂二邪道一、地道尊レ右、右爲レ貴、漢書云、右賢左愚、右貴左賤、故正道爲レ右、邪道爲レ左。

【左虞】134サグ　明、張元凱(4－9812··1003)の字。

【左花】135サクヮ　牡丹の一種。豪民左氏の家に生じたからいふ。左紫(226)に同じ。〔洛陽牡丹記〕左花者、千葉紫花、葉密而齊如レ截、謂二之平頭紫一、魏花未レ出時、左花爲二第一一。

【左迴】136サクヮイ　左方にめぐる。〔晉書、天文志上〕磨左旋而蟻右去、磨疾而蟻遲、故不レ得レ不二隨レ磨而左迴一焉。〔宋書、樂志四〕天與レ日終與一、左迴右轉不二相失一。

【左廣】137サクヮウ　春秋、楚の軍制で、二廣の一。右廣(2－3250··37)を見よ。

【左攫】138サクヮク　左手につかむ。〔摭言〕左攫右挐、盡是用二拳之手一。〔李頎、愛敬寺古藤歌〕古藤池水盤樹根、左攫右挐龍虎蹲。

【左闊】139サクヮツ　左方がひろい。〔謝靈運、登二上戍石鼓山一詩〕極目睞二左闊一、迴顧眺二右狹一。

【左官】140サクヮン　❶諸侯に仕へる役人。漢代、右を尊んだから、天子を捨てて諸侯に仕へるものを左官と稱した。〔漢書、諸侯王表序〕武有二衡山淮南之謀一、作二左官之律一。〔注〕應劭曰、人道上レ右、今舍二天子一而仕二諸侯一、故謂二之左官一、師古曰、漢時依二上古法一、朝廷之列、以レ右爲レ尊、故謂二降秩一爲二左遷一、仕二諸侯一爲二左官一也。〔後漢書、丁鴻傳〕臣愚以爲二左官外附之臣一。❷壁を塗る職人。泥工。圬者。しやくわん。〔和漢三才圖會、人倫、杇人〕加倍沼利、俗云、左官。

〖左官律〗141サクヮンリツ　漢代の制で、諸侯に仕へる役人を處罰する法律。〔漢書、諸侯王表序〕武有二衡山淮南之謀一、作二左官之律一。

【左宦】142サクヮン　地方官をいふ。朝廷に仕へる內官に對していふ。〔戴叔倫、京口逢三皇甫司馬副端曾舒州辭滿歸二去東都一詩〕故園雙闕下、左宦十年歸。〔錢珝、江行無題詩〕左宦終何路、攄レ懷亦自寬。

【左悺】143サクヮン　後漢、平陰の人。官は桓帝の初、小黃門史、中常侍。封は上蔡侯。性、縱恣、司隷校尉韓演に劾奏せられて自殺す。〔後漢書、一百八〕。

【左貫】144サクヮン　左方につらぬく。〔梁書、張纘傳〕溯二洄流一而右阻、遵二長薄一而左貫。

【左願】145サグヮン　三國、魏の人。音律に明通す。左騏(336)に同じ。〔魏志、杜夔傳〕嘗令下夔與二左願等一、於二賓客之中一、吹レ笙鼓上レ琴、夔有二難色一。

【左軍】146サグン　天子の領する三軍の中で左に在る軍隊。左翼の軍。左角。右軍(2－3250··39)の❶を見よ。〔左氏、桓、五〕周公黑肩將二於左軍一。

【左圭】147サケイ　宋の人。字は禹錫。號は古鄮山人。百川學海を纂輯す。

【左形】148サケイ　文字構成上、偏が意味を表はすものをいふ。卽ち形聲文字の木偏・三水等に屬する字の偏の類。左方が形を成す意。〔周禮、地官、保氏、五曰、六書、疏〕書有二六體一、形聲實多、若二江河之類一、是左形右聲、鳩鴿之類、是右形左聲。

【左契】149サケイ　❶契約を二枚の札に書し、之を分ち、一を左契とし、一を右契とし、他日引合せて證據とするもの。左契は債務者が所有し、右契は債權者が所有した。轉じて、約束の證據。あかし。左券。〔老子、七十九〕是以聖人執二左契一、而不レ責二於人一。❷わりふを二分した左半分。左契は諸路に給し、右契は門に藏した。〔宋史、輿服志六〕高宗建炎三年、改二鑄虎符一、樞密院主レ之、其制以レ銅爲レ之、長六寸、闊三寸、刻レ篆而中二分之一、以二左契一給二諸路一、右契藏二之門一。❸孝經緯の一種。古微書に輯本がある。

【左計】150サケイ　❶あやまれるはかりごと。〔韻會〕左、策畫不レ適二事宜一、曰二左計一。〔品字箋〕人之手足、皆便二于右一、而左爲レ辟、故事之不レ正者曰二左道一、位之被レ調者曰二左遷一、謀之或失者曰二左計一、皆以二其有レ遜二于右一耳。❷官署の名。宋代、理財のことを掌る。天下を分つて十道とし、之を二分して管轄し、其の京の東にあるものを左計、西にあるものを右計と稱した。總計使(8－27844··47)を見よ。

【左脛】151サケイ　左のはぎ。〔白居易、歎二鶴病一詩〕右翅低垂左脛傷、可レ憐風貌甚昂藏。

【左景】152サケイ　明の人。激の子。字は孟化。雲南を按じ、平麓川軍を監し、曲靖の苗賊を討平す。〔蘭臺法鑒錄、八〕。

【左傾】153サケイ　❶左に傾く。心の平かでない喩。〔楚辭、劉向、九歎、逢紛〕腸憤悁而怨怒兮、志遷蹇而左傾。〔蔡邕、檢逸賦〕情罔レ象而無レ主、意徙倚而左傾。❷急進的な過激な思想に傾く。左翼思想を抱くこと。左翼(415)の❷を見よ。

【左溪】154サケイ　唐の高僧。法名は玄朗。左溪は號。天台宗の第八祖で、荊溪・湛然の師。〔佛祖統紀〕。

【左經】155サケイ　明、眉州の人。字は載道。官は洪武の初、興山教諭。博學能文で蜀人、左五經と稱した。著に武昌集がある。〔明史、二百八十九〕・〔國朝獻徵錄、八十八〕。

【左倪】156サケイ　左のはし。左端。倪は端。〔周禮、春官、卜師、辨二龜之上下左右陰陽一、注〕左、左倪也。

【左堯】157サゲウ　堯のやうな大聖人を左側に置いて輔佐とする。〔韓詩外傳、六〕雖二左レ堯而右一レ舜、未レ有下能以二此道一免者上也。

【左激】158サゲキ　明、涇縣の人。字は有昂。陰陽醫卜の術に通ず。冠婚喪祭、古禮に遵ひ、俗を導く。〔尙友錄、十六〕。

【左擊】159サゲキ　左方を擊つ。〔田錫、鄂公奪レ槊賦〕左擊右刺、星馳電邁。

【左挈】160サケツ　左手にひつさげる。〔史記、張儀傳〕左挈二人頭一、右挾二生虜一。

【左蹶】161サケツ　左がはねあがる。〔新論、明權〕量有二輕重一、則形二之于衡一、今加二一環于衡左一則右蹶、加二之于右一則左蹶、唯莫二之動一則平正矣。

【左脅】162サケフ　左のわきばら。左腋。脅は一に脇に作る。〔風俗通、皇霸〕楚之先出レ自二帝顓頊一、其裔孫曰二陸終一、娶二于鬼方氏一、是謂二女潰蓋一、孕而三年不レ育、啓二其左脅一、三人出焉、啓二其右脇一、三人又出焉、其六曰二季連一、是爲レ芈、其後有二熊繹子一、爲二文王師一、成王擧二文武勳勞一、而封二熊繹於楚一、食二子男之采一。〔宋史、郭浩傳〕敵攻二石尖山一、浩冒レ陣而前、流矢中二左脅一、怒不レ拔、奮レ力大呼、得レ賊、乃已諸軍從レ之、敵遁去、由レ是知レ名。

【左頰】163サケフ　左のほほ。〔元史、察罕帖木兒傳〕身長七尺、修眉覆レ目、左頰有二三毫一、或怒則毫皆直指。

【左券】164サケン　二つに分けたわりふの左半分。證據。證書。左契。證左。左驗。左證。〔商子、定分〕卽以二左券一予下吏之問二法令一者上。〔史記、田敬仲世家〕公常執二左券一、以責二於秦韓一。〔會注考證〕中井積德曰、以二賣買假貸者持レ券取一レ償爲レ喩也、券、書レ板而剖レ之、故有二左右一。〔陸游、禽言詩〕人生爲レ農最可レ願、得レ飽正如レ持二左券一。

【左肩】165サケン　左のかた。〔禮、少儀〕其禮、太牢則以二牛左肩臂臑折九箇一、少牢則以二羊左肩七箇一、犆豕則以二豕左肩五箇一。

【左建】166サケン　邪道を以て己の威權を建てること。左建外易を見よ。

〖左建外易〗167サケングヮイエキ　邪道を以て威權を建て、外に在つて君命を變ずる。新たに建てることが道理にそむき、易へる所の法が道理にはづれること。〔史記、商君傳〕今君又左建外易、非三所二以爲一レ教也。〔注〕索隱曰、左建、謂下以二左道一建中立威權上也、外易、謂下在レ外革中易君命上也。〔會注考證〕中井積德曰、外字與二左字一相似、左建、其所レ建之事、倍二道理一也、外易、其所レ變之法、違二道理一也。

【左峴】168サケン　清、覲の人。字は襄南。又、我菴。康熙の進士。官は工部郎中・廣東提學。經學を嗜み、宋元の鈔本百數十種を手校す。徐乾學が通志堂に於て刻したものは、均しく峴の書架中の物による。著に蜀道吟がある。

【左軒】169サケン　清、陸騕(11－41708··122)の號。

【左甄】170サケン　左方の陣。甄は軍陣。〔晉書、周訪傳〕訪使下將軍李恒督二左甄一、許朝督中右陣上、訪自領二中軍一。〔晉書、朱伺傳〕乃遣レ作二大艦一、署爲二左甄一。

【左賢】171サケン　匈奴の王。左賢王に同じ。〔范雲、傚レ古詩〕朝驅二左賢陣一、夜薄二休屠營一。〔王胄、白馬篇〕折衝摧二右校一、搴レ旗殪二左賢一。

【左賢王】172 サケンワウ 匈奴の貴族の封號。右賢王・左右谷蠡王と共に四角と稱せられ、左賢王は其の最高位で、常に太子或は單于の後繼者が封ぜられ、左(東)部地方を分治した。賢は匈奴語では屠耆といふので、又、左屠耆王ともいふ。匈奴(2－2512··6)の㊀・左谷蠡王(189)を見よ。〔史記、李將軍傳〕匈奴左賢王將二四萬騎一圍レ廣。〔漢書、匈奴傳上〕自二左右賢王一以下、至二當戶一、大者萬餘騎、少者數千。〔後漢書、南匈奴傳〕其大臣貴者左賢王。

【左縣】173 サケン 縣名。民國、置く。唐の左州。今の廣西省崇善縣の北。縣城は左江の支流に瀕す。左州(236)を見よ。

【左驗】174 サケン 左傍に在つて親しく其の事を見た者の證據だて。證據。證人。證左(10－35946··2)に同じ。〔漢書、楊惲傳〕廷尉定國考問、左驗明白。〔注〕師古曰、左、證左也、言下當時在二其左右一見二此事一者上也。〔唐書、侯君集傳〕今獨相語而無二左驗一。

【左言】175 サゲン ㊀道理に戻つた言葉。又、中國の言語文字を曉り知らぬ夷狄の語。蠻語をいふ。又、其の國。左語。〔左思、魏都賦〕或魋髻而左言、或鏤レ膺而鑽レ髮。〔注〕善曰、揚雄蜀記曰、蜀之先代人椎結左語、不レ曉二文字一。〔王融、三月三日曲水詩序〕侮食來王、左言入侍。〔注〕向曰、侮食・左言、謂レ不レ曉二文字一。濟曰、左言、蠻夷國也。㊁左史の官をいふ。言を記することを掌る。〔海錄碎事、帝王、升遐〕旋詔二左言一、光敷二聖善一、謂二左史記レ言也。

【左原】176 サゲン ㊀後漢、陳留の人。郡學生。法を犯して斥けらる。〔後漢書、九十一〕。㊁清、陳學洙(11－41698··706)の字。

【左戶】178 サコ 官名。北齊、置く。度支尙書の屬。天下の計帳戶籍等を掌る。〔北史、崔伯謙傳〕崔伯謙淸直奉公、眞良佐也、轉二七兵殿中左戶三曹郎中一。〔隋書、百官志中〕尙書省置二令僕射・吏部・殿中・祠部・五兵・都官・度支等六尙書一、云云、六尙書分二統列曹一、度支統二度支・倉部・左戶・右戶・金部・庫部六曹一。〔注〕左戶、掌二天下計帳戶籍等事一。

【左股】179 サコ 左のもも。〔易、明夷〕夷二于左股一。〔戰國、燕策〕王負レ劒、遂拔以擊二荊軻一、斷二其左股一。〔史記、高祖紀〕左股有二七十二黑子一。

【左湖】180 サコ 湖を左方にする。左方に湖がある。〔謝靈運、山居賦〕左レ湖右レ江、往レ渚還レ汀。

【左跨】181 サコ 左方にまたがる。〔梁元帝、玄覽賦〕虹橋左跨、雁苑南通。

【左瞽】182 サコ 明、張員(4－9812··37)の號。

【左顧】183 サコ ㊀ひだりに向く。左の方を見る。〔左氏、昭、二十四〕余左顧、而欬乃殺レ之。〔晉書、孔愉傳〕愉買而放二之溪中一、龜中流左顧者數四。㊁目上の人の來訪。尊者を右の座にすゑ、己は左の座にすわるからいふ。枉顧(6－14530··16)に同じ。〔漢書、宣元六王、淮陽憲王欽傳〕子高廼幸左顧存恤、發レ心惻隱。〔注〕師古曰、左顧、猶レ言二枉顧一也。〔司馬光、答二劉蒙一書〕足下莫二之取一、乃獨左顧而抵二於不肖一、豈非レ見二期待之厚一哉。〔書言故事、訪臨類〕辱賜二左顧之寵一。

【左顧右眄】184 サコウベン 左右を見わたす。あちこちに氣をくばること。左顧右視。〔曹植、與二吳季重一書〕左顧右眄、謂若レ無レ人、豈非二君子壯志一哉。〔李白、走レ筆贈二獨孤駙馬一詩〕銀鞍紫鞚照二雲日一、左顧右眄生二光輝一。

【左顧右視】184′ サコウシ 左顧右眄に同じ。〔雲笈七籤〕左顧右視、蕩蕩漭漭。

【左語】185 サゴ 理に戻つた言葉。夷狄の語。左言(175)の㊀に同じ。〔王維、送三李判官赴二江東一詩〕封章通二左語一、冠冕化二文身一。

【左公】186 サコウ 複姓。〔元和姓纂〕左公、衛左公子洩之後。

【左控】187 サコウ 左方にひかへる。〔宋史、張齊賢傳〕左控右扼、疆事甚嚴。〔房元洛、仙掌賦〕上捫二星漢一、左控二虞虢一。

【左谷】188 サコク 地名。〔後漢書、盧芳傳〕盧芳字君期、安定三水人也、居二左谷中一。

【左谷蠡王】189 サコクレイワウ 匈奴の貴族の封號。左右賢王・右谷蠡王と共に四角と稱せられ、其の位、左賢王に次ぎ、單于の子弟が之に封ぜられた。〔史記、匈奴傳〕置二左右賢王・左右谷蠡王・左右大將・左右大都尉・左右大當戶・左右骨都侯一。〔後漢書、南匈奴傳〕其大臣貴者、左賢王、次左谷蠡王、次右賢王、次右谷蠡王、謂二之四角一。

【左轂】190 サコク 車の左のこしき。〔鄴中記〕解飛者石虎時工人、作二旃檀車一、左轂上置レ碓、右轂上置レ碓、每行十里、磨二麥一石一、舂二米一斛一。

【復二于左轂一】191 サコクニカヘル 士大夫の道塗に死ぬをいふ。古、大夫・士の道に死する者は其の乘車の左轂に乘せて歸つたからいふ。〔禮、雜記上〕大夫士死二於道一、則升二其乘車之左轂一、以二其綏一復。〔權德輿、司空李揆謚議〕受レ詔卽レ路、視レ險若レ夷、貞厲盡瘁、復二于左轂一。

【左蹉】192 ササ 左足をかたむける。〔吳越春秋、句踐陰謀外傳〕臣未レ能レ如二古之聖人一、請悉二其要一、夫射之道、身若レ戴レ板、頭如レ激レ卵、左蹉右足橫、左手若レ附レ枝、右手若レ抱レ兒、擧レ弩望レ敵、翕レ心咽レ煙、與レ氣俱發、得二其和平一、神定思去、去止分離、右手發レ機、左手不レ知、一身異レ教、豈況雄雌、此正射持レ弩之道也。

【左坐】193 サザ 左にすわる。又、左の坐。〔漢書、外戚下、孝哀傅皇后傳〕配二食於左坐一。

【左宰】194 ササイ 清の人。光斗の曾孫。著に左忠毅年譜がある。〔四庫提要、六十〕。

【左載】195 ササイ 左方にのせる。〔周禮、夏官、戎右、會同充二革車一、疏〕尊者左載、王既不レ乘、故戎右居レ左。

【左在】196 サザイ 左手がある。又、左に在る。〔易、豐、折二其右肱一、終不レ可レ用也、注〕雖レ有二左在一、不レ足レ用也。

【左掃】197 ササウ 左方にはらふ。〔李白、書レ懷示二息秀才一詩〕左掃因右拂、旋收洛陽宮。

【左曹】198 ササウ 吏部の文選淸吏司をいふ。〔稱謂錄、文選司、左曹〕小知錄、選司、謂二之南曹左曹一。

【左霜】199 ササウ 左方の霜。霜は威嚴の喩。〔高邁、濟河焚レ舟賦〕哮闞兮前貔後虎、威稜兮左霜右雪。

【左藏】200 サザウ 官署の名。右藏と共に左右藏と稱し、國庫をいふ。周官には玉府・內府・外府・職內・職幣等の職があり、皆、國庫のことを掌る。漢には少府の屬に中藏府あり、晉には左右藏あり、後、外左庫・內左庫に分ち、宋に至り、外左庫を省き、內左庫を左庫と稱した。齊・梁・陳には右藏といひ、北齊には左右藏といひ、太府寺に屬す。後周には外府といひ、隋は北齊の制に因る。唐制は、左藏に令三人を置いて、錢帛・雜綵・天下の賦調を掌り、右藏に令二人を置いて、銅鐵・毛角・玩弄物・金玉・珠寶・香畫・綵色・諸方貢獻の雜物を掌る。玄宗の時、其の佚樂によつて財用窮乏を告げ、天子の私庫たる大盈庫が左藏の職を兼ね行つたので、其の財政が混淆したことがある。宋には初、合して一庫としたが、太平興國中、二庫に分ち、淳化中、再び右藏を左に併入したが、政和中、別に新庫を建てて東西庫と稱した。又、太宗の時、其の一部を內藏庫に移して帝室の別藏とし、以て左藏庫の不足を充足することとした。南宋に至り、左藏南庫・左藏封樁庫を增設し、南庫は戶部の支用を助け、封樁庫は主として軍需に備へた。金には左右藏に使・副使等の官を置き、元には左・右・內の三藏に提點・大使・副使等の官を置き、其の掌る所は大體唐代と同じである。〔通典、職官典、諸卿中、太府卿〕左右藏署、周官有二職幣上士・中士一、掌二邦財之幣一、又外府中士主二泉藏一、有二玉府一、掌二王之金玉兵器之藏一、內府中士、主二貨賄藏一、在レ內也、職內上士、主二泉貨所レ入、蓋其任也、漢少府屬官有二中藏府令丞一、魏因レ之、晉有二左右藏令一、屬二少府一、晉江東置二御史一、掌二庫曹一、後分二庫曹一、曰二外左庫・內左庫一、至レ宋省二外在庫一、而內左庫直曰二左庫一、齊・梁・陳曰二右藏一、北齊曰二左右藏令一、屬二太府寺一、後周曰二外府上士中士一、隋如二北齊一、大唐因レ之、置二左藏署令三人一、掌二庫藏錢・布帛・雜綵一、右藏署令二人、掌二銅鐵・毛角・玩弄之物・金玉・珠寶・香畫・綵色・諸方貢獻雜物一。〔文獻通考、職官考、在藏庫〕掌下受二四方財賦之入一、以待中邦國之經費上、其原蓋起二於周一、職內主二賦入一、職歲主二賦出一、而邦布レ之、入出則外府又主レ之、皆其職也、晉始置二左右藏令一、唐於二左右藏一、分二建東西庫一、以二太府少卿一知二出納於左長慶門之東一、宋初、左右止二一庫一、置レ使領焉、太平興國二年、分爲二二庫一、淳化三年、分二置左右藏各二庫一、四年、廢レ右併二入左一、政和六年、修二建新庫一、以二東西庫一爲レ名、中興因仍二東西庫一、各以二文臣一監、武

臣同盟、其東、幣帛・絁紬之屬在焉、其西、金銀・泉劵・絲纊之屬在焉、紹興二十七年、詔二戸部一、於二轄下丞簿內一選二一員一、兼二充左藏庫提轄官一、此提轄所二由始一也、孝宗卽レ位、詔將二御前椿管激賞庫一、撥二歸左藏庫一、以二左藏南庫一爲レ名。〔唐書、百官志三〕左藏署令三人、從七品下、丞五人、從八品下、監事八人、掌二錢帛・雜綵・天下賦調一、卿及御史監閱。〔宋史、職官志三〕金部郎中員外郎參二掌天下給納之泉幣一、計二其歲之所レ輸、歸二于受藏之府一、以待二邦國之用一、分レ案六、曰左藏、曰右藏、曰錢帛、曰權易、曰請給、曰知雜。〔續通典、職官典、諸卿中、太府卿〕左右藏署、金左藏庫有二使・副使等官一、掌二金銀・珠玉・寶貨・錢幣一、右藏庫有二使・副使等官一、掌二錦帛・絲綿・毛褐・諸道常課・諸色雜物一、云云、元左藏有二提點四人、大使二人、副使二人一、掌三收二支常課・和買・紗羅・布絹・絲綿・絨綿・木綿・鋪陳・衣服諸物一、右藏有二提點四人、大使二人、副使二人一、掌三收二支金銀・寶鈔・濟遜・緞疋・水晶・碼瑙・玉璞・諸物一、內藏庫提點四人、大使二人、副使二人、至元二年、置二署上都一、十九年、始二署大都一、以二宦者一領レ之。

【左察】201 ササツ　突厥の官名。軍を統べる。〔唐書、突厥傳上〕立咄悉匐爲二左察一、骨咄祿子默矩爲二右察一、皆統二兵二萬一。

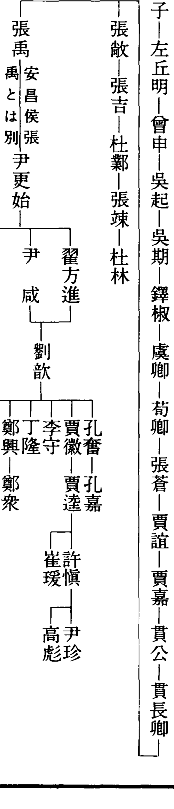
【左贊】202 ササン　明、南城の人。字は時翊。號は桂坡。天順の進士。官は廣東布政使。著に桂坡集がある。〔國朝獻徵錄、九十九〕・〔明詩紀事、丙、四〕。

【左驂】203 ササン　四頭立ての馬車の左のそへ馬。〔儀禮、覲禮〕使者降、以二左驂一出。〔左氏、僖、三十三〕釋二左驂一、以二公命一贈二孟明一。〔韓非子、外儲說左上〕解二左驂一而盟二于河一。〔楚辭、九歌、國殤〕凌二余陣一兮躐二余行一、左驂殪兮右刃傷。〔楚辭、賈誼、惜誓〕蒼龍蚴二虬於左驂一兮。

【左氏】204 サシ　春秋左氏傳の略。左氏傳を見よ。〔何休、公羊傳序〕以爲公羊可レ奪、左氏可レ興。〔漢書、司馬遷傳贊〕司馬遷據二左氏國語一、采二世本戰國策一、述二楚漢春秋一。〔後漢書、班彪傳〕定哀之間、魯君子左丘明、論二集其文一、作二左氏傳三十篇一、又撰二異同一、號曰二國語一、二十一篇、由レ是乘檮杌之事遂闇、而左氏國語獨章。

【左氏傳】205 サシデン　書名。三十卷。春秋左氏傳の略稱。左傳。撰者に就いては異說があり、其の一は、魯の左丘明の作とするもので、劉向・劉歆・桓譚・班固等の漢代學者から、晉の杜預に至るまでは皆此の說を奉じた。唐に至り、啖助・趙匡が此の說に疑を挾み、宋の王安石が其の作者を六國時代の人なりと斷じてから、鄭樵・朱熹・葉夢得等以下、元・明・清の學者も之に贊成するものが多い。其の二は、天子の左史の職の撰とする說で、古は史に左史と右史とがあり、共に天子の左右に侍し、右史は言を記し、左史は事を記したが、左傳は事を記した書物で、卽ち左史の書いたものであるとする。併し左史の記したものを、何故に左史傳といはず左氏傳と稱すべきか。これ亦條理が立たない。其の三は、前漢の劉歆の僞作なりといふ說である。卽ち三傳中、唯一の古文たる左傳を表章したものは劉歆であり、又春秋の經文と左傳の傳文とはもとは別行して居つたが、之を各年每に經と傳とを相配合したものも劉歆であることから、作家も劉歆であるから、左傳は恐らく劉歆によつて僞作されたとするのである。而して此の說を強く唱へ出したものは、實に清末の康有爲の新學僞經考であり、吾が國に於ても其の說に贊成し、更に別方面、曆法の調査などから左傳の劉歆僞作說を奉ずる人も少くない。劉歆は僞作者として有名なるがために、種々の書物を僞作したといはれてゐるが、劉歆の年譜を精細に調査して見ると、劉歆も必ずしも多くの僞作をなす暇が無かつたといふことは近人、錢穆なども詳細に論じてゐる。次に、左氏傳は公羊・穀梁二傳と併せて春秋の三傳と稱し、十三經に列してゐるが、公羊・穀梁は孔子の筆削褒貶の義を解いて、專ら義理の論が多く、左氏傳は事實を集錄して義理の論が少く、互に得失がある。然し春秋の時の事實を見るには、此の書に據らなければならぬ。次に、其の學の沿革は、左丘明、傳を作り、七傳して張蒼に至る。蒼は漢の文帝の時の丞相で、賈誼從つて之を傳へたが、未だ盛にならず、之を尊崇したのは劉歆に始まる。劉歆は左氏傳を學官に立てることを請うたが、他の學者の彈劾にあひ、その事は一時中止となつたが、平帝の時、立學した。王莽が滅んで光武帝の立つや、左傳は廢されたが、光武帝は、范升と論爭して左傳の長を力說した陳元の言を納れて左氏を學官に立て、博士四人を立てた。後、再び廢されたが、以後左氏の學をなす者が多くなつた。章帝は尤も左氏傳を好み、建初元年、賈逵をして之を講ぜしめ、且その長所を指摘せしめた。ついで服虔も、亦左氏に精しく、逵と各〻その訓詁を作つてから左氏に賈氏・服氏の學が起つたが、服氏が尤も行はれた。晉に至り、杜預の集解・釋例が出てから、服氏・杜氏並に學官に立てられたが、南朝は主として杜注を用ひ、北朝は主として服注を用ひた。隋に至り、杜氏が盛行したが、實は服注も優れてゐた。唐初は猶服・杜の二注を正科としたが、孔穎達が太宗の命により、杜注によつて正義を作つて後は、服注は漸く衰廢して遂に亡佚し、爾來、杜注のみ行はれた。清に至つては訓詁ばかりでなく、その事實を攻究する者が漸く多くなつた。我が國に於ては、王朝時代は唐制を採用して、服虔・杜預二注を竝用したが、源平の亂に服注は亡佚して、杜注のみ流行し、德川時代に及んで學者の攻究漸く盛で、龜井昭陽・岡白駒・增島蘭園・安井息軒・竹添井々等に夫々注釋がある。春秋(**5－13844**：333)・左丘明(114)を見よ。〔四庫提要、經、春秋類〕。

其の學統は次の如くである。



〖參考書〗【春秋左氏傳解詁】後漢、賈逵撰。【春秋左氏傳解誼】後漢、服虔撰。【春秋經傳集解】三十卷晉、杜預撰。〔四庫提要、經、春秋類〕。【春秋釋例】十五卷晉、杜預撰。〔四庫提要、經、春秋類〕。【春秋左傳正義】六十卷唐、孔穎達撰。〔四庫提要、經、春秋類〕。【東萊左氏博議】二十五卷宋、呂祖謙撰。〔四庫提要、經、春秋類〕。【春秋左傳地名錄】二卷明、劉城撰。〔四庫提要、經、春秋類存目〕。【左傳附注】五卷明、陸粲撰。前三卷は杜預の注を駁正し、第四卷は孔穎達の疏を駁正し、第五卷は陸德明の音義を駁正す。〔四庫提要、經、春秋類〕。【左觿】一卷明、邵寶撰。〔四庫提要、經、春秋類存目〕。【左傳注解辨誤】二卷明、傅遜撰。〔四庫提要、經、春秋類存目〕。【左傳杜林合注】五十卷明、王道焜・趙如源編。〔四庫提要、經、春秋類〕。【左傳杜解補正】三卷清、顧炎武撰。〔四庫提要、經、春秋類〕。【左傳補注】六卷清、惠棟撰。皆舊詁を援引して杜預の左傳注の遺を補ふ。朱鶴齡・顧炎武二家の書に比較するに更に詳密。〔四庫提要、經、春秋類〕。【左傳事緯】十二卷・附錄八卷清、馬驌撰。左傳の事迹を取り、分類して一百八篇とし、各〻論斷を下す。附錄は杜預・孔穎達序論、及び馬驌左丘明傳一卷・辨例三卷・圖表一卷・覽左隨筆一卷・名氏譜一卷・左傳字奇一卷。〔四庫提要、經、春秋類〕。【左傳紀事本末】五十三卷清、高士奇撰。章沖の左傳事類始末に因つて之を廣め、列國を以て門を分つ。其の例五、一に補逸、二に考異、三に辨誤、四に考證、五に發明。〔四庫提要、史、紀事本末

末類〕。【左繡】三十卷 清、馬李華・陸浩撰。〔四庫提要、經、春秋類存目〕。【左傳姓名考】四卷 清、高士奇撰。〔四庫提要、經、春秋類存目〕。【春秋姓名異同考】四卷 清、高士奇撰。【春秋地名考略】十四卷 清、高士奇撰。〔四庫提要、經、春秋類〕。【春秋職官考略】三卷 清、程廷祚撰。【左傳人名辨異】三卷 清、程廷祚撰。【左傳地名辨異】三卷 清、程廷祚撰。【讀左日鈔】十二卷・補錄二卷 清、朱鶴齡撰。杜預の誤を正し、顧炎武の說によつたものが多い。〔四庫提要、經、春秋類〕。【左傳器物宮室】一卷 清、沈淑撰。【春秋地理考實】四卷 清、江永撰。〔四庫提要、經、春秋類〕。【劉炫規杜持平】六卷 清、邵瑛撰。【左傳詁】五十卷 清、洪亮吉撰。【春秋名字解詁】二卷 清、王引之撰。【左傳補注】三卷 清、馬宗璉撰。【左傳補釋】三十二卷 清、梁玉繩撰。【讀左補義】五十卷 清、姜炳章撰。【左傳地名補注】十二卷 清、沈欽韓撰。【左傳經世鈔】二十三卷 清、魏禧撰。【春秋異文箋】十三卷 清、趙坦撰。【左傳舊疏考證】八卷 清、劉文淇撰。【左傳補疏】五卷 清、焦循撰。【春秋左傳朔閏表】二卷 清、姚文田撰。【左傳賈服注輯述】二十卷 清、李貽德撰。【春秋世族譜】一卷 清、陳厚燿撰。〔四庫提要、經、春秋類〕。【春秋左傳觿】十卷 岡白駒撰。【左傳雕題略】六卷 中井履軒撰。【左傳纘考】三十三卷 龜井昭陽撰。【春秋左氏傳校本】三十卷 秦鼎撰。【讀左筆記】增島蘭園撰。【左傳輯釋】安井息軒撰。【左氏會箋】竹添井井撰。從來の解を集めて詳密な解釋を加ふ。左傳注解中の白眉。

【左氏膏肓】206（サシカウクワウ） 書名。一卷。後漢、何休撰。公羊學の優つてゐることを主張するために、左氏傳を攻擊して、其の病弊癒すべからずとした。清の王謨の漢魏遺書抄に載錄す。膏肓は癒し難い病氣。此に對して後漢の鄭玄は箴膏肓を著して其の說を駁した。〔後漢書、鄭玄傳〕時任城何休、好二公羊學一、遂著二公羊墨守・左氏膏肓・穀梁癈疾一、玄乃發二墨守一、鍼二膏肓一、起二癈疾一、休見而歎曰、康成入二吾室一、操二吾矛一、以伐レ我乎。〔注〕說文曰、肓、隔也、心下爲レ膏、喩二左氏之疾不一レ可レ爲也。

【左氏浮誇】207（サシフクワ） 左氏傳の文章の浮華誇大なこと。〔韓愈、進學解〕春秋謹嚴、左氏浮誇。

【左氏蒙求】208（サシモウギウ） 書名。二卷。明、吳化龍撰。李氏の蒙求の體に倣ひ、四言句、六百五十六句から成る。本名は左傳比事。我が國の樋邦古、左傳中から其の本文を抄出して、句下に注し、左氏傳蒙求と名づく。版本がある。又、清、許乃濟撰、王慶麟注の左氏蒙求注一卷がある。〔佚存叢書、二十〕。

【左氏傳訓故】209（サシデンクンコ） 漢の賈誼の作と稱せられる。左氏傳の解釋書。〔漢書、儒林、房鳳傳〕皆脩二春秋左氏傳一、誼爲二左氏傳訓故一。

【左史】210（シサ） ❶官名。左史右史を見よ。❷複姓。〔通志、氏族略、以レ官爲レ氏〕左史氏、古者左史記レ言、楚有二左史倚相・左史老一、其後也。

【左史倚相】211（サシイシヤウ） 春秋、楚の史官。倚相（**1－776**・・35）を見よ。

【左史右經】212（サシイウケイ） 史書を左に置き、經書を右に置く。〔宋濂、黃氏義門銘〕視二其齋庭一、左史右經、踵レ武繩繩。

【左史右史】213（サシイウシ） 官名。上代、天子の左右に左史・右史の官あり、左史は天子の行を記し、右史は言を記すことを掌る。周禮春官の太史は左史に當り、內史は右史に當る。但し漢書藝文志のみは、左史は言を記し、右史は事を記すといひ、異說をなしてゐる。後世、天子の言動を記す者を起居といひ、隋、始めて起居舍人を置き、唐は起居郎を置く。高宗、起居郎を改めて左史とし、起居舍人を右史とした。起居注（**10－3704 8**・・34）を見よ。〔禮、玉藻〕天子玄端而居、動則左史書レ之、言則右史書レ之。〔疏〕太史爲二左史一、內史爲二右史一。〔漢書、藝文志〕左史記レ言、右史記レ事、事爲二春秋一、言爲二尙書一。〔補注〕王應麟曰、玉藻、動則左史書レ之、言則右史書レ之、與レ此不レ同。〔孔叢子、答問〕擧則左史書レ之、言則右史書レ之。〔文獻通考、職官考、門下省、起居〕起居、周官有二左右史一、記二其言事一、蓋今起居之本、漢武帝有二禁中起居一、後漢馬皇后撰二明帝起居注一、則漢起居似下在二宮中一爲中女史之任上、又王莽時置二柱下五史一、秩如二御史一、聽レ事侍レ傍、記二其言行一、此又起居之職、自レ魏至レ晉、起居注則著作掌レ之、其後歷代有二其職一、而無二其官一、後魏始置二其起居令史一、每二行幸宴會一、則在二御左右一、記二錄帝言及賓客訓答一、後又別置二修起居注二人一、以二他官一領レ之、北齊有二起居省一、後周有二外史一、掌下書二王言及動作之事一、以爲中國志上、卽起居之職、又有二著作二人一、掌レ綴二國錄一、則起居注著作之任、自レ此而分也、至二隋初一以下吏部散官及校書正字有二敍述之才一者上、掌二起居之職一、以二納言一統レ之、至二煬帝一以爲、古有二內史・外史一、今著作如二外史一矣、宜下置二起居官一以掌中其內上、乃於二內史省一置二起居舍人二員一、次二內史舍人下一、唐貞觀二年、省二起居舍人一、移二其職於門下一、置二起居郎二人一、顯慶中復於二中書省一置二起居舍人一、遂與二起居郎一分二掌左右一、龍朔三年、改爲二左右史一、咸亨元年、復レ舊、天授元年、又爲二左右史一、神龍初、復レ舊、每二皇帝御一レ殿、則對二於殿一、有レ命則臨レ陛俯聽、退而書レ之、以爲二起居注一、凡冊命・啓奏・封拜・薨免、悉載レ之、史館得レ之、以撰述焉。〔歷代職官表、經筵日講起居注官、歷代建置〕謹案、左史記レ動、右史記レ言、爲三後代記注官所二由始一、然其說但見二於禮記一、而周禮則無二左右史之名一、故孔穎達以二太史一爲二左史一、以二內史一爲二右史一、但考下太史掌中稽二天道一以建上レ典、則並無二記載職任一、不レ可三以當二珥筆之官一、而內史掌二八柄一、以詔二王治一、所レ司皆君擧之大者、其他策二命諸侯卿大夫一、亦宜三籍記以存二盟府一、則內史當レ爲二記事之職一、而外史掌二外令及四方之令一、當レ爲二記言之職一。

【左史諫草】214（サシカンサウ） 書名。一卷。宋、呂午撰。奏議六首、其の子沆の奏疏一篇及び家傳詩文の類を收む。〔四庫提要、史、詔令奏議類〕。

【左司】215（シサ） 官名。隋、置く。尙書都省に屬し、郎二人を置き、都省の職を掌る。唐、之に因り、郎中、員外郎を置き、左右丞に副として、文書の稽失を擧正し、省內宿直の事を掌る。右司闕ける時は左司之を兼ね、左司闕ける時は右司之を兼ねる。宋には吏部・戶部・禮部の奏鈔班簿房を掌る。元には尙書省を中書に倂せ、改めて中書省左右司を置く。明初は其の制に因つたが、後、廢す。唐の韋應物は嘗て左司郎官となつたので韋左司と稱せらる。〔通典、職官典、尙書上、僕射、左右司郎中〕左右司郎中、隋煬帝三年、於二尙書都省一、初置二左右司郎二人一、品同二諸曹郎一、從五品、掌二都省之職一、大唐貞觀二年、改爲二郎中一、龍朔二年、改爲二左右丞務一、咸亨元年、復レ舊、令レ掌下副二左丞一、所レ管諸司事、省二署鈔目一、勘二稽失一、知二省內宿直一、判中都省事上、若右司不レ在、則左幷行レ之、左司不レ在、右亦如レ之。〔文獻通考、職官考、左右司郎中〕宋制、左司郎中・右司郎中・左司員外郎・右司員外郎、各一人、掌下受二付六曹之事一、而擧中正文書之稽失上、分中治省事上、左司治二吏戶禮奏鈔、班簿房一、右司治二兵刑工案鈔房一、而開二拆制敕一、御史催驅封樁印房則通二治之一。〔淵鑑類函、設官、尙書左右司郎中〕元尙書省與二中書省一更變不レ一、其左右丞・參議・中書省事・左右司郎中、皆參二贊中書一者、明洪武元年、設二中書省一、左右丞各一人、其屬左右司郎中各一人、員外郎各一人、都事各一人、後革二中書省一置二六部一、遂無二左右司之名一矣。

【左司馬】216（サシバ） 武官の名。王莽の時には武を主り、又、天を典る。〔史記、項羽紀〕項王曰、此沛公左司馬曹無傷言レ之。〔漢書、王莽傳中〕左司馬典レ致二武應一、考レ方法レ矩。〔注〕張晏曰、月爲レ刑、司馬主レ武又典レ天、故使レ主二威刑一也。

【左司禦率府】217（サシギヨソツフ） 官署の名。司禦率府（**2－3257**・・464）を見よ。

【左使】218（シサ） 左道、卽ち邪道を使用すること。〔明律、吏律、職制、姦黨〕凡姦邪進二讒言一、左使殺レ人者斬。〔清律、職制、注〕姦邪欲レ殺二其人一、遂進二讒譖之言一、借二事左說一、激二人主一、致レ使二枉殺一。

【左思】219（シサ） 晉、臨淄の人。字は太沖。風采揚らず訥辯なれど、博學能文、辭藻壯麗であつた。文を作るや、極めて遲く、嘗て齊都賦を作り、一年にして成る。又、三都賦を作り、構思十年成るに及んで、人々競つて相傳寫し、洛陽の紙價之れがために騰貴したといふ。其の他、詠史詩・招隱詩等、建安の風格を追ふものである。官は祕書郎に至る。左思十稔を見よ。〔晉書、九十二〕。

【左思右考】220 tsuo^3 ssŭ^1 yu^4 k'ao^3 とつお

いつ思案する。左思右想。

【左思右想】221 tsuo³ ssŭ¹ yu⁴ hsiang³ 彼是と思案をめぐらす。左思右考。〔紅樓夢、三十四回〕如此左思右想、一時五内沸然炙起。

【左思右算】222 tsuo³ ssŭ¹ yu⁴ suan⁴ いろいろに思案する。

【左思十稔】223 サシジフジン 蒙求の標題。晉の左思、文を作ること極めて遲く、魏・呉・蜀三都賦を作るに構想十年、成るに及んで洛陽の紙價を高からしめた故事。稔は年。〔蒙求下、左思十稔〕晉書、左思字太沖、齊國臨淄人、貌寢口訥、而辭藻壯麗、造二齊都賦一、一年乃成、復欲レ賦二三都一、乃詣二著作郎張載一、訪二岷卭之事一、遂構レ思十稔、門庭藩閫、皆著二筆紙一、遇レ得二一句一、卽便疏レ之、自以所レ見不レ博、求爲二祕書郎一、及二賦成一、時人未二之重一、自以其作不レ謝二班張一、以示二皇甫謐一、謐稱レ善、爲二其賦序一、張載爲注二魏都一、劉逵注二呉・蜀一而序レ之、張華見曰、班張之流也、於レ是競相傳寫、洛陽爲レ之紙貴。

【左指】224 シサ ㊀左の指。〔易林〕右手無レ合、獨折二左指一。㊁左で指す。〔易林〕左指右麾、邪侈靡靡。

【左師】225 シサ ㊀春秋の官名。宋に左師・右師あり、四鄕を左右（東西）に分つて、左師は左（東）の二鄕を領し、右師は右（西）の二鄕を領した。〔左氏、僖、九〕宋襄公卽レ位、以二公子目夷一爲レ仁、使下爲二左師一以聽上レ政、於レ是宋治、故魚氏世爲二左師一。〔左氏、文、七〕夏四月、宋成公卒、於レ是公子成爲二右師一、公孫友爲二左師一。〔左氏、襄、九〕二師令二四鄕正敬享一。〔注〕二師、左右師也。〔疏〕宋國之法、二師分二掌其方一、左右各掌二其二鄕一。〔史記、宋微子世家〕平公三年、楚共王拔二宋之彭城一、以封二宋左師魚石一。㊁複姓。〔萬姓統譜〕左師、周左師觸讐之後。

【左紫】226 シサ 牡丹の一種。洛陽の豪民左氏の家に生じ、紫色であるからいふ。左花。〔洛陽牡丹記〕左紫、千葉紫花也、色深二於安聖一、生二於豪民左氏家一、今洛中傳接者雖レ多、然難レ得二眞者一。〔歐陽脩、洛陽牡丹圖詩〕傳聞千葉昔未レ有、只從二左紫一名初馳。

【左趾】227 シサ 左のあし。釱二左趾一を見よ。

【釱二左趾一】228 サシニアシカセス 漢代、左足に足かせする刑。釱二左右趾一(50)を見よ。〔史記、平準書〕煮鹽者釱二左趾一沒二入其器物一。

【左字】229 ジサ 左から右へ書き連ねる文字。右行文字。〔沈約、佛記序〕横書左字、累二萬方一通、翦レ葉成レ文、重譯未レ曉。

【左次】230 ジサ 兵法の語。山の左側に宿ること。〔易、師〕六四、師左次無レ咎。〔疏〕故師在二高險之左一以次止、則无二凶咎一也、云云、行師之法、欲三右二背高一者、此兵法也。

【左耳】231 ジサ 左の耳。〔詩、魯頌、泮水〕在レ泮獻レ馘。〔箋〕馘所レ格者之左耳。〔周禮、夏官、大司馬〕大獸公レ之、小獸私レ之、獲者取二左耳一。〔注〕得二禽獸一者取二左耳一、當二以計一レ功。〔北史、魏溥妻房氏傳〕操レ刀割二左耳一、投二之棺中一。

【左耳朵】232 tsuo² êrh³ tuo 漢字母の一。小邑偏（阝）をいふ。

【左事】233 ジサ 左史が記す事柄。卽ち君王の動作をいふ。左史右史(213)を見よ。〔杜預、春秋左氏傳序、疏〕周禮無二左右之名一、得レ稱二左右一者、直是時君之意、處二之左右一、則史掌二之事一、因爲レ立レ名、故傳有二左史倚相一、掌レ記二左事一、謂二之左史一。

【左慈】234 ジサ 後漢、廬江の人。字は元放。少くして天柱山に居り、石室に丹經を得、六甲神術に明通す。曹操、松江の鱸を得んと欲するや、慈、銅盤に水を貯へて之を釣る。後、操之を殺さんとしたが、慈、壁中に入つて行く所を知らず。〔後漢書、一百十二下〕、〔神仙傳、五〕。

【左慈擲杯】235 サジテキハイ 蒙求の標題。後漢末の道士、左慈が曹操に毒酒を飲まされた時、飲みほした杯を屋根に投げ上げ、杯が棟に懸かつて恰も鳥が飛んでゐるやうに搖いでゐるのを、人々が驚歎して視つめてゐる間に姿を消した故事。〔蒙求、左慈擲杯〕神仙傳、左慈字元放、廬江人、少明二五經一、兼通二星氣一、見二漢祚將一レ盡、乃歎曰、値二此衰運一、官高者危、才高者死、當代榮華不レ足レ貪也、乃學二道術一、尤明二六甲一、能役二鬼神一、坐致二行厨一、精二思於天柱山中一、得二石室九丹金液經一、能變二萬端一、曹操聞而召レ之、閉二一室中一、斷二穀食一、日與二二升水一、朞年出レ之、顏色如レ故、操欲レ學レ道、左慈曰、學レ道當二清淨無爲一、操怒謀レ殺レ之、爲レ設レ酒、慈乞レ分二杯飲酒一、時天寒、温レ酒尚未レ熱、慈拔レ簪以畫二杯酒一、卽中斷、分爲二兩向一、慈飲二其半一、送二與操一、操未二卽飲一、慈乞自飲、飲畢、以レ杯擲二屋棟一、杯便懸著レ棟、動搖似二鳥飛之俯仰之狀一、欲レ落不レ落、一坐矚レ目視レ杯、已失二慈所在一、操嘗會レ賓、顧レ衆曰、珍羞倶備、所レ少呉江鱸魚耳、慈求二銅盤一貯レ水、以二竹竿一釣、須臾引レ鱸出、操曰、一魚不レ周二坐席一、慈更餌レ鉤沈レ之、復引出、皆三尺餘、操鱠レ之、恨無二蜀薑一、慈曰、易レ得、操恐二近取一レ之、因曰、吾前遣レ人到レ蜀買レ錦、可二報令一レ增二二端一、語頃卽得レ薑還、使報レ命、後返驗二問增レ錦之狀一、若二符契一也。

【左州】236 シウサ 州名。唐、置く。もと蠻峒の地。故治は今の廣西省左縣の東。〔讀史方輿紀要、太平府、左州〕左州、舊蠻峒地、唐置二羈縻左州一、隸二邕州都督府一、宋仍曰二左州一、隸二古萬寨一、元改二今屬一、明初亦爲二羈縻州一。〔清史稿、地理志〕廣西、太平府、州四、左州。

【左膝】237 シツサ 左のひざ。〔史記、樂書〕武坐致レ右憲レ左何也、〔注〕集解曰、王肅曰、右膝至レ地、左膝去レ地也。〔金史、禮志八〕金之拜制、先袖レ手微俯レ身、稍復卻跪二左膝一。

【左實】238 ジツサ 陣を布くに、左に實際の兵を置くこと。〔左氏、襄、十八〕齊侯登二巫山一以望二晉師一、晉人使三司馬斥二山澤之險一、雖レ所レ不レ至、必旆而疏二陳之一、使二乘レ車者左實右僞以レ旆先一、輿曳レ柴而從レ之、齊侯見レ之、畏二其衆一也、乃脫歸。〔徐晉卿、春秋經傳類對賦〕晉師左實而右僞、楚軍後勁而中權。

【左車】239 シヤサ ㊀左牙の輔骨をいふ。左のあごぼね。〔韓愈、與二崔羣一書〕近者尤衰憊、左車第二牙、無レ故動搖脫去。㊁人名。㋑漢の李左車。軍略に巧な人。〔史記、淮陰侯傳〕廣武君李左車說二成安君一。〔魏志、張既傳〕無二左車之計一。〔呉質、在二元城一與二魏太子一牋〕皆懷二慷慨之節一、包二左車之計一。〔李白、聞三李太尉留二別金陵崔侍御一詩〕恨無二左車略一、多愧二魯連生一。㋺唐の哥舒翰の奴の名。〔唐書、哥舒翰傳〕翰有レ奴、曰二左車一、年十六、以二旅力一聞。

【左射】240 サシヤ サセキ ㊀左方に射る。〔禮、樂記〕散レ軍而郊射、左射二貍首一、右射二騶虞一、而貫革之射息也。〔魏書、李安世傳〕李波小妹、字雍容、褰レ裙逐レ馬如レ卷レ蓬、左射右射必疊雙。㊁左手で射る。弓の左利き。〔宋史、王文郁傳〕帝知三文郁善二左射一、幷招二其子弟一、閱二肆殿庭一、文郁九發八中、詔官二其二子一。

【左尙】241 サシヤウ 官署の名。秦、尙方を置き、漢、之に因り、禁中の器物を作ることを掌る。後漢には天子の刀劍・玩好の器物を作ることを掌る。別に兩漢に考工令があり、兵器を作ることを掌つたが、其の職は此の官と殆ど同じである。漢末に至り、尙方を分つて、中・左・右三尙とし、魏・晉、之に因る。東晉には舊に復して一尙方とし、南朝宋には左・右尙方があり、並に軍器を作ることを掌る。別に門下省に御府の官があり、天子の刀劍・玩好器物を作ることを掌つたが、後、廢帝の時、中署と改稱して、右尙方に屬す。齊には左・右尙方、梁には中・左・右三尙方があり、北齊にも亦三尙方があつて太府に屬す。隋には少府に分屬し、唐には方の字を省き、中・左右尙署と稱して少府監に屬し、中尙は宮內の營造雜作、左尙は天子の車輦、皇族の車路の事、又、織扇・膠漆・畫鏤等を作り、右尙は皮毛・膠墨・雜作・席薦等を作ることを掌る。宋は唐制に因り、遼・金・皆有り、元・明には無い。淸には內務府に尙方司があり、後、尙方院と改めた。尙方(**4**-**7493**・・130)の㊀を見よ。〔通典、職官典、諸卿下、少府監、中尙左尙右尙、注〕中署掌二宮內營造雜作一、左署掌二車輦・織扇・膠漆・畫鏤等作一、右署掌二皮毛・膠墨・雜作・席薦等事一。〔文獻通考、職官考、少府監、中尙左尙右尙〕中尙署、周官爲二玉府一、秦署二尙方令一、漢因レ之、後漢掌下上手工作二御刀劍、玩好器物一、及寶玉作上レ器、兩漢又有二考工令一、主レ作二兵器一、其職稍同、漢末分二尙方一爲二中左右三尙一、魏晉因レ之、自レ過レ江、唯署二一尙方一、哀帝以隷二丹陽尹一、宋武踐祚、以二相府作部一配レ臺、謂二之左尙方一、而本署謂二之右尙方一、並掌レ造二軍器一、又以二相府細作一配レ臺、卽二其名一置二令一人一、隷二門下一、孝武大明中、改曰二御府一、後廢帝初

省、御府置二中署一、隸二右尙方一、則漢之考工令如二宋之尙方令一、尙方令如二宋中署一矣、齊署左右尙方令各一人、梁有二中左右尙方一、北齊亦有二三尙方一、隸二太府一、隋煬帝分二隸少府一、唐省二方字一、有二中左右三尙署一、令丞各一人。〔續文獻通考、職官考、少府監〕金少府監、所屬尙方署官有二令丞直長一、掌二金銀・器物・云云、及裝釘之事一。

【左相】242（サシヤウ） ❶宰相をいふ。古、左相・右相あり、唐の龍朔年間にも侍中を左相、中書令を右相と稱した。〔左氏、襄、二十五〕崔杼立而相レ之、慶封爲二左相一、盟二國人於大宮一。〔左氏、定、元〕仲虺居レ薛、以爲二湯左相一。〔史記、齊太公世家〕景公立以二崔杼一爲二右相一、慶封爲二左相一。〔舊唐書、職官志一〕龍朔二年二月甲子、改二尙書省一爲二中臺一、云云、侍中爲二左相一、云云、中書令爲二右相一。〔杜甫、飮中八仙歌〕左相日興費二萬錢一、飮如三長鯨吸二百川一。〔稱謂錄、相臣古稱、左相〕成湯居レ亳、初置二二相一、以二伊尹一爲二阿衡一、仲虺爲二左相一。❷左史倚相をいふ。〔楊維楨、奉レ題二伏生受レ書圖一詩〕典墳孰求楚左相、金絲未レ壞孔子堂。

【左相國】243（サシヤウコク） 左大臣の唐名。〔和漢三才圖會、官位部、左大臣〕今號二左相府或左相國一。

【左相府】244（サシヤウフ） 左大臣の唐名。左相國を見よ。

【左省】245（サシヤウ） 唐代、門下省をいふ。中書省に對して東(左)に在つたからいふ。左右省(23)を見よ。〔杜甫、春宿二左省一詩〕花隱掖垣暮、啾啾棲鳥過。〔羅隱、酬二寄右司李員外一詩〕左省望レ高推二健筆一、右曹官重得二名人一。〔周昂、夜詩〕左省詩頻咏、南樓興不レ辜。

【左上】246（サジヤウ） 左方の上。〔雲笈七籤〕其左上有二自然蓋者一、日中童子也。

【左常】247（サジヤウ） 明、董孝初(**9**—**31433**··181)の字。

【左手】248（サシユ） ❶左の手。ひだりて。〔詩、邶風、簡兮〕左手執レ籥、右手秉レ翟。〔禮、曲禮上〕御二國君一、則進二右手一、後二左手一而俯。〔史記、孫子傳〕孫子曰、前則視レ心、左視二左手一、右視二右手一、後卽視レ背。〔蔡邕、琴賦〕哀聲既發、祕弄乃開、左手抑揚、右手徘徊。〔蜀志、彭羕傳〕左手據二天下之圖一、右手刎二咽喉一、愚夫不レ爲也。❷（ユンデ） 弓を持つ方の手。卽ちひだりの手。弓手。〔萬葉集、九〕めづらしき君を見むとぞ左手の弓とる方の眉根かきつれ。

【左手書】249（サシユシヨ） 左手で書いた文字。〔老學庵筆記、二〕伯父通直（公字元長）、病二右臂一、以二左手一握レ筆、而字法勁健過レ人、宗室不微亦然、然猶是自レ幼習レ之、梁子輔年且二五十一中風、右臂不レ擧、乃習二用左手一、逾レ年、作レ字勝三于用二右手一、時遂復起作レ郡。〔談薈〕宋時宗室趙不微、善以二左手一書、又陸元長・梁子輔、皆壯年患二風痺一、右臂不レ擧、乃以二左手一書、筆法精勁、勝二於用レ右、又鄭元祐、少脫レ骱任二左手一、號二尙左生一。

【左手王】250（サシユワウ） 宋の王輝が左手を以て善く繪を畫くのを稱した語。〔圖繪寶鑑、四〕王輝、錢塘人、云云、嘗用二左手一描寫、遂目爲二左手王一。

【左手畫レ方右手畫レ圓】251（サシユニハウヲヱガキイウシユニヱンヲヱガク） 左手には四角を畫き、右手には圓形を畫く。同時に兩事は成し難い喩。又、明敏の喩。左畫レ方右畫レ圓(530)を見よ。〔新論、專學〕是以心駐二於目一、必志二其耳一、則聽不レ聞、心駐二於耳一、必遺二其目一、則視不レ見也、使二左手畫レ方、右手畫一レ圓、令二一時俱成一、雖下執二規矩之心一、廻中刻劂之手上、而不レ能者、由下心不二兩用一、則手不中並運上也。

【左首】252（サシユ） 首を左にする。首が左になるやうに橫たへる。〔儀禮、士喪禮〕載レ魚左レ首進レ鬐。〔注〕左レ首進レ鬐、亦未レ異二于生一也。〔禮、曲禮上〕執レ禽者左レ首。〔注〕左レ首尊。〔疏〕禽、鳥也、左、陽也、首亦陽也、左首、謂二橫捧一レ之也。

【左酒】253（サシユ） 酒を左におく。〔禮、曲禮上、酒漿處レ右、注〕左酒右漿。〔易林〕登レ階上レ堂、見二吾父兄一、左酒右漿、與レ福相迎。

【左儒】254（サジユ） 周の宣王の臣。宣王が杜柏を殺さうとしたのを諫めて聽かれず、王、杜柏を殺すや、儒も共に死す。〔說苑、立節〕。

【左儒寧死不レ徇レ君】255（サジユムシロシストモキミニシタガハズ） 周の宣王の臣左儒が、王と道を爭つて死んだ故事。左儒を見よ。〔說苑、立節〕左儒友二於杜伯一、皆臣二周宣王一、宣王將レ殺二杜伯一、而非二其罪一也、左儒爭二之於王一、九復レ之、而王弗レ許也、王曰、別レ君而異レ友、斯汝也、左儒對曰、臣聞レ之、君道友逆、則順レ君以誅レ友、友道君逆、則率レ友以違レ君、王怒曰、易二而言一則生、不レ易二而言一則死、左儒對曰、臣聞、古之士不三枉レ義以從レ死、不三易レ言以求レ生、故臣能明二君之過一、以死二杜伯之無レ罪、王殺二杜伯一、左儒死レ之。

【左柷】256（サシユク） 柷を左方に置く。柷は音樂を始める時、合圖にならす樂器の名。〔舊唐書、音樂志二〕建二鼓於四隅一、云云、縣二閒設柷敔各一一、柷二於左一、敔二於右一。左柷右敔。

【左塾】257（サジユク） 門內の西側に在る堂。塾は門側の堂。〔書、顧命〕先輅在二左塾之前一。〔疏〕釋宮云、門側之堂、謂二之塾一、云云、塾前陳レ車、必以レ轅向レ堂、云云、左塾者、謂二門內之西一。〔漢書、食貨志上〕鄰長坐二於左塾一。

【左巡】259（サジユン） 官名。唐代、監察御史を左巡・右巡に分ち、左巡は京城內の違失を糾察し、右巡は京城外、雍・洛二州に至る閒の違失を糾察することを掌つた。〔唐書、百官志三〕監察御史分レ日直二朝堂一、開元七年、詔隨レ仗入レ閤、分二左右巡一、糾二察違失一、左巡知二京城內一、右巡知二京城外一、盡二雍洛二州之境一。

【左盾】260（サジユン） 盾を左にとる。〔元史、輿服志二、儀仗〕刀盾之盾、制以二木赤質一、畫二異獸一、執人右レ刀左レ盾。

【左書】261（サシヨ） ❶左手で字を書く。〔管子、七法〕不レ明二於法一、而欲レ治レ民一レ衆、猶二左書而右息一レ之。〔注〕尹知章云、息、止也、左手爲レ書、右手從而止レ之、無二時成一レ書矣。❷隸書。左は佐、隸書は篆書の及ばぬ所を佐助するからいふ。佐書(**1**—**506**··30)を見よ。〔北夢瑣言、十六〕梁開平中、中潞州軍前李思安奏、壺關縣庶穰鄉人、因レ伐二樹倒一、分爲二兩片一、內有二六字一、皆如二左書一、曰二天十四載一。

【左序】262（サジヨ） 廊下の左方(東側)の廂。〔唐書、代宗沈皇后傳〕帝供二張含元殿一、具二袞冕一出レ自二左序一、立二東方一。〔王勃、乾元殿頌〕銅狄分形肅、嚴二扃于左序一。

【左舒】263（サジヨ） 左方にのびる。〔尸子、君治〕天左舒而起二牽牛一、地右闢而起二畢昴一。

【左勝】264（サシヨウ） ❶左方がかつ。〔儀禮、大射儀〕若右勝則曰三右賢二於左一、若左勝則曰三左賢二於右一。❷後漢の人。桓帝の時、聚斂して姦を爲し、吏民を侵犯す。後、自殺す。一に左稱に作る。〔後漢書、九十四〕。

【左稱】265（サシヨウ） 左勝の❷に同じ。

【左證】266（サシヨウ） 證據。左券。左は證左、あかし。〔唐書、劉子玄傳〕知幾嘗議三孝經鄭氏學非二康成注一、擧二十二條一、左二證其繆一、當下以二古文一爲上レ證。

【左丞】267（サジヨウ） 官名。秦、尙書丞一人を置き、少府に屬す。漢、之に因り、成帝の建始四年、丞四人を置く。後漢の光武帝に至つて始めて其の二を減じて左右丞を置き、令僕の佐とす。歷代、之に因る。左右丞(26)を見よ。〔後漢書、百官志三〕尙書、左右丞、各一人、四百石、本注曰、掌レ錄二文書期會一。

【左丞相】268（サジヨウシヤウ） ❶左右丞相の一。左右丞相(42)を見よ。〔史記、田叔傳〕時左丞相自將レ兵。❷左大臣の唐名。〔職原抄〕左大臣、唐名、左丞相。

【左臣】269（サシン） 淸、沈陛(**6**—**17189**··345)の字。

【左神】270（サシン） 道敎の神の名。〔黃庭內景經、靈臺章〕左神公子發二神語一、右有二白元幷立處一。〔陸龜蒙、入二林屋洞一詩〕知レ名十小天、林屋當二第九一、題レ之爲二左神一、理レ之以二天后一。〔注〕林屋洞爲二左神幽居之天一、卽天后眞君之便闕。

【左神策軍】271（サシンサクグン） 神策軍(**8**—**24673**··226)を見よ。

【左人】272（サジン） ❶地名。河北省唐縣の鮮虞の故邑。〔列子、說符〕趙襄子使二新穉穆子攻レ翟、勝レ之、取二左人中人一。❷複姓。〔尙友錄〕左人以レ官爲レ姓也、封人・雍人之類。

【左人郢】273（サジンエイ） 春秋、魯の人。字は子行。孔子の弟子。〔史記、六十七〕。

【左人精】274（サジンセイ） 柏の木。〔海錄碎事、草木、木〕左人精、柏木也。

【左仁】275（サジン） 淸、湘鄉の人。原名は輝春。字は青士。號は淸石。道光の進士。官は淮徐海兵備道。書室を芭蕉山館といふ。著に芭蕉山館稿がある。〔國朝耆獻類徵、三百八十三〕。

【左衽】276（サジン） 襟をひだりまへにする。野蠻人の衣服の著かた。轉じて、野蠻國の風俗、又は野蠻國。左衽。〔書、畢命〕四夷左衽、罔レ不二咸賴一。〔傳〕言二東夷西戎、南蠻北狄、被髮左衽之人一。〔論語、憲問〕

微㆓管仲㆒、吾其被髮左衽矣。〔疏〕衽、謂㆓衣衿㆒、衣衿向㆑左謂㆓之左衽㆒、夷狄之人、被髮左衽、言㆘無㆓管仲㆒則君不㆑君、臣不㆑臣、中國皆爲㆗夷狄㆖、故云㆓吾其被髮左衽㆒也。〔集注〕衽、衣衿也、被髮左衽、夷狄之俗也。〔劉寶楠正義〕左衽者、說文、衽、衣裣也、裣、交衽也、蒼頡解詁、衽、衣襟也、裣襟一字、聲類、襟、交領也、交領卽交衽、蓋衣領下屬㆓於衣前右幅㆒、通稱爲㆑衽、爲㆑裣、爲㆑襟、必言㆑交者、謂㆓領兩頭相交周㆓人頸㆒也、領右則衣前幅掩向㆑右、領左則衣前幅掩向㆑左、中夏禮服皆右㆑衽、深衣則用㆓對襟㆒、對襟用㆓直領㆒、戎狄無㆓禮服㆒、亦無㆓深衣㆒、止隨㆓俗所㆑好服㆑之、而多是左衽、故夫子擧爲㆑言也。

【左祍】277 サジン　左衽(276)に同じ。〔史記、趙世家〕左祍界乘。〔蜀志、廖立傳〕吾終爲㆓左祍㆒。

【左腎】278 サジン　左方の腎臟。〔黃庭內景經、注〕左腎爲㆓元妙君㆒、右腎爲㆓原元君㆒。〔祛疑記〕左腎配㆑子、右腎配㆑壬。

【左樞】279 サスウ　星の名。紫微垣中に在る。紫微垣(**8**−**27337**・・379)を見よ。〔宋史、天文志十三〕靖康元年六月庚申、星出㆓紫微垣內華㆒、蓋東南如㆓金星㆒、向㆑北急流、至㆓左樞㆒沒。〔汪克寬、紫微垣賦〕左樞右樞夾㆓乎離南之穹門㆒、上丞下丞攝㆓乎坎北之重闈㆒。

【左騶】280 サスウ　後漢の靈帝の時、三公に拜せられた者は皆東園（少府に屬する官署の名）に禮錢千萬を送る習慣であつたが、之を監督する役人を左騶といふ。騶は騎士。〔後漢書、羊續傳〕靈帝欲㆔以㆑續爲㆓太尉㆒、時拜㆓三公㆒者、皆輸㆓東園禮錢千萬㆒、令㆓中使督㆑之、名爲㆓左騶㆒。〔注〕騶、騎士也。

【左性】281 tsuo^3 hsing^4　ねぢけた根性。わざと人の反對に出る氣性。

【左星】282 サセイ　左方に在る星。〔史記、天官書、注〕正義曰、河鼓三星、在㆓牽牛北㆒、主㆓軍鼓㆒、蓋天子三將軍、中央大星大將軍、其南左星左將軍、其北右星右將軍、所㆘以備㆓關梁㆒而拒㆖㆑難也。

【左掣】283 サセイ　左方にひき止める。〔洪邁、汪莊敏銘〕婞婜當㆑位、左掣右壅。

【左精】284 サセイ　左のひとみ。〔說苑、辨物〕左精象㆑日、右精象㆑月。

【左聲】285 サセイ　文字構成上、偏が音符となつてゐるものをいふ。形聲文字の鳩・鴿等の偏の類。左方が聲をなす意。左形(148)を見よ。〔周禮、地官、保氏、六書、疏〕書有㆓六體㆒、形聲實多、若㆓江河之類㆒、是左形右聲、鳩鴿之類、是右形左聲。

【左戚】286 サセキ　親戚の者を卑い地位に置く。左は下でいやしいとされる。〔漢書、文帝紀〕右㆑賢左㆑戚、先㆑民後㆑己。〔注〕師古曰、以㆑賢爲㆑上、然後及㆑親也。

【左扇】287 サセン　左方の扉。左闔。〔梁簡文帝、大同九年秋七月詩〕高樓闢㆓左扇㆒、迥望依㆓蘭橈㆒。

【左旋】288 サセン　❶御者が車を旋らす。左は御者。左旋右抽を見よ。❷左にまはる。左にめぐる。左還。〔漢書、律歷志上〕自㆓黃鐘㆒始而左旋。〔白虎通、三正〕天道左旋。

〖左旋右抽】289 サセンイウチウ　乘車して、將軍の左にゐる御者は、車を旋らし、右にある者は、刃を拔いて擊刺するをいふ。左は將軍の左に居る御者、右は右に居る勇士。〔詩、鄭風、清人〕左旋右抽、中軍作㆑好。〔集傳〕左、謂㆔御在㆓將軍之左㆒、執㆑轡而御㆑馬者也、旋、還㆑車也、右、謂㆔勇力之士在㆓將軍之右㆒、執㆑兵以擊刺者也、抽、拔㆑刃也。

【左璇】290 サセン　清、康辰(**4**−**9376**・・94)の字。

【左賤】291 サセン　左は賤しい。又、左方を賤とする。尙㆑左尙㆑右(527)を見よ。〔禮、王制、執㆓左道㆒以亂㆑政殺、疏〕左道謂㆓邪道㆒、地道尊㆑右、右爲㆑貴、故漢書云、右賢左愚、右貴左賤、故正道爲㆑右、不正道爲㆑左。

【左遷】292 サセン　官位を降しおとす。官を卑くして遠地に流す。貶謫。左降。〔史記、韓王信傳〕王獨遠居㆑此、此左遷也。〔淮南子、繆稱訓〕故上左遷、則失㆓其所㆑尊也。〔漢書、周昌傳〕吾極知㆓其左遷㆒。〔注〕師古曰、是時尊㆑右而卑㆑左、故謂㆑貶㆓秩位㆒爲㆓左遷㆒。〔魏志、盧毓傳〕心猶恨㆑之、遂左遷。

【左還】293 サセン　左にめぐる。左旋(288)の❷に同じ。〔儀禮、鄉射禮〕執㆑弦而左還。〔胡培翬正義〕盛氏世佐云、左還、向㆑左而還也、云云、蓋東面者、以㆑北爲㆑左、左還則面北矣。

【左然】294 サゼン　明の人。激の孫。字は允之。成化の進士。易學を傳ふ。官は戶部員外郞。著に賞溪吟稿がある。

【左祖】295 サソ　宗廟を左にする。〔周禮、考工記、匠人〕左祖右社。〔注〕祖、宗廟。

【左足】296 サソク　ひだりあし。左の足。左趾。〔禮、曲禮上〕上㆓于東階㆒、則先㆓右足㆒、上㆓于西階㆒、則先㆓左足㆒。〔漢書、息夫躬傳〕京師雖㆑有㆓武蠭精兵㆒、未㆑有㆘能窺㆓左足㆒而先應者㆖也。

【左側】297 サソク　ひだりがは。〔宋史、禮志十七〕射官左側臨㆑階取㆓弓箭㆒。〔南史、齊東昏侯紀〕或於㆓市肆左側㆒、過㆓親幸家㆒。

〖左側人】298 サソクジン　左側に住む人。賤者をいふ。〔搜神記、八〕皆曰、此非㆓左側人之素蓄者㆒也。

【左尊】299 サソン　左が尊い。左方の尊いこと。尙㆑左尙㆑右(527)を見よ。〔禮、曲禮上、奉㆑席如㆓橋衡㆒、疏〕左尊故昂、右卑故垂也。

【左帶】300 サタイ　夷狄の服。左衽(276)に同じ。〔劉峻、辨命論〕自㆓金行不㆑競、天地版蕩㆒、左帶沸脣、乘閒電發。〔注〕善曰、左帶、左衽也。

【左隊】301 サタイ　左翼の軍隊。〔後漢書、光武紀上、注〕王莽置㆓六隊㆒、郡置㆓大夫一人㆒、職如㆓太守㆒、南陽爲㆓前隊㆒、河內爲㆓後隊㆒、潁川爲㆓左隊㆒、弘農爲㆓右隊㆒、河東爲㆓北隊㆒、榮陽爲㆓祈隊㆒。

【左璫】302 サタウ　冠の左方のかざり。〔劉克莊、讀㆓崇寧後長編㆒詩〕初爲㆓御筆㆒行㆓中旨㆒、漸取㆓兵權㆒付㆓左璫㆒。

【左黨】303 サタウ　❶政府の反對黨。歐米では、議院の左側に議席を占めるからいふ。又、過激思想を帶びる仲閒。左派。左翼。右黨(**2**−**3250**・・119)の對。❷酒好きの人。

【左纛】304 サタウ　天子の車の左に建てる大旗。纛は、羽毛又は犛牛の尾の毛で飾つたさし物の類。〔史記、項羽紀〕紀信乘㆓黃屋車㆒、傅㆓左纛㆒。〔注〕集解曰、李斐曰、纛、毛羽幢也、在㆓乘輿車衡左方上㆒注㆑之、蔡邕曰以㆓犛牛尾㆒爲㆑之、如㆑斗、或在㆓騑頭㆒、或在㆓衡上㆒也。〔揚雄、河東賦〕揚㆓左纛㆒被㆓雲梢㆒。〔後漢書、輿服志上〕黃屋左纛。〔張衡、東京賦〕方釳左纛。〔晉書、輿服志〕天子法車、于㆓軛之杪㆒、以㆓氂牛尾大如㆑斗、置㆓左騑馬軛上㆒、是爲㆓左纛㆒。

【左堂】305 サダウ　縣丞の異稱。〔淸國行政法汎論、行政區劃及地方官廳、官職古名〕縣丞、左堂・貳尹。

【左道】306 サダウ　邪道。正しくない道。〔禮、王制〕析㆑言破㆑律、亂㆑名改㆑作、執㆓左道㆒以亂㆑政殺。〔疏〕左道、謂㆓邪道㆒、地道尊㆑右、右爲㆑貴、故漢書云、右賢左愚、右貴左賤、故正道爲㆑右、不正道爲㆑左。〔六韜、文韜、上賢〕巫蠱左道。〔鬼谷子、中經〕左道而用㆑之。〔漢書、郊祀志下〕挾㆓左道㆒、懷㆓詐僞㆒。〔漢書、杜欽傳〕是背㆓經術㆒、惑㆓左道㆒也。〔注〕師古曰、左道、不正之道也。〔漢書、天文志〕坐㆑執㆓左道㆒、下㆑獄死。

〖左道術】307 サダウノジユツ　邪法。妖術。〔宣和遺事、前集下〕左道術、使㆓此妖法㆒誑㆑朕。

【左拓】308 サタク　左方にひらく。〔雲笈七籤〕左拓右拓、上拓下拓。

【左澤】309 アテラザハ　羽前國の地名。

【左袒】310 サタン　❶左の片はだを脫ぐこと。袒は衣の袖を脫いで肩をあらはすこと。〔儀禮、士喪禮〕南面左袒。〔疏〕謂㆘袒㆓左袖㆒、扱㆓於左腋之下帶之內㆒、取㆖㆑便也。〔禮、檀弓下〕既封左袒。〔疏〕既封壙已竟、季子乃左㆓袒其衣㆒、案、鄭注㆓覲禮㆒云、凡以㆓禮事㆒者左袒。〔孔子家語、曲禮子貢問〕左袒右還。❷他人に同意すること。袒は衣の袖を脫いで肩をあらはすこと。衆人中で、贊成者と不贊成者とを一目で見分けるためにはだを脫ぐ。漢代、呂后の一族が亂を起さうとした時、周勃が軍中に於て、呂氏を助けんとする者は右袒せよ、劉氏を助けんとする者は左袒せよと令を下した時、軍中皆左袒した故事。轉じて、加勢する、味方する、贊成する等の意。左襢(313)を見よ。〔史記、文帝紀〕太尉以㆓一節㆒入㆓北軍㆒、一呼、士皆左袒爲㆓劉氏㆒、叛㆓諸呂㆒、卒以滅㆑之、此乃天授非㆓人力㆒也。〔名義考〕此勃誓㆑師之詞、爲㆑呂者袒而立㆓於右㆒、吾戮㆑之、爲㆑劉者袒而立㆓於左㆒、吾賞㆑之也。❸ひいきする。〔六部成語、刑部、左袒、注解〕偏㆓護一人㆒也。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕不㆑能㆓爲㆑之左袒㆒。

【左端】311 サタン　左のはし。左倪。〔唐書、南蠻下、驃國傳〕左端應㆓太蔟㆒、管末三穴、一姑洗、二蕤賓、三夷則。

【左擔】312（サタン） 山名。四川省平武縣の東、潼縣の境內。嘗て鄧艾が蜀を伐つた時、かけはしを十二箇處に置く。其の道險阻で、北から南に行く者は、負ふ所を右肩に易へ得ない程であるから左擔といふ。古、其の地を江油左擔道といふ。〔益州記〕江西左擔道、按レ圖在二陰平縣北一、于二成都一爲レ西、注曰、其道至險、自レ北來者、擔在二左肩一、不レ得レ度二右肩一也。〔杜甫、愁坐詩〕葭萌氏種迥、左擔犬戎存。

【左襢】313（サタン） 左袒(310)に同じ。〔史記、呂后紀〕諸呂用レ事擅レ權、欲レ爲レ亂、大尉(周勃)將レ之入二軍門一、行令二軍中一曰、爲二呂氏一右襢、爲二劉氏一左襢、軍中皆左襢爲二劉氏一。

【左地】314（サチ） 左方の地。東部の地をいふ。漢の時、匈奴の左賢王は左(東)に、右賢王は右(西)に居た。〔漢書、匈奴傳上〕時單于已立二一歳、暴虐殺伐、國中不レ附、及三太子左賢王數讒二左地貴人一、左地貴人皆怨。

【左馳】315（サチ） 左方に走る。〔唐書、契丹傳〕奚四面攻、乃大潰、萬榮左馳。

【左篪】316（サチ） 左方に篪を奏する。篪は横笛の一、ちのふえ。〔曹植、七啓〕琴瑟交揮、左篪右笙。

【左持】317（サヂ） 左方に持つ。〔元史、禮樂志五〕札鼓制如二杖鼓一而小、左持而右擊レ之、和鼓制如二大鼓一而小、左持而右擊レ之。

【左肘】318（サチウ） 左のひぢ。〔莊子、至樂〕俄而柳生二其左肘一。〔史記、楚世家〕解二魏左肘一、而外擊二定陶一。〔晉書、呂光載記〕身長八尺四寸、目重瞳子、左肘有二肉印一。

【左仗】318′（サヂヤウ） 清、王之鈇(**7**－**20823**··1561)の字。

【左杖】319（サヂヤウ） 左手に杖つく。〔書、牧誓〕王左杖二黃鉞一、右秉二白旄一以麾。〔傳〕左手杖レ鉞、示レ無レ事二於誅一、右手把レ旄、示レ有レ事二於教一。

【左沖】320（サチユウ） 書翰文用語。手紙の末に用ひる語。左を空けて貴答を待つ意。沖は空。謹空(**10**－**35900**··17)に同じ。

【左重】321（サヂユウ） ❶左方が重い。〔呂覽、勸學〕在レ右則右重、在レ左則左重。❷明、蒙化の人。萬曆の擧人。官は灌口縣の長官。奢崇明の叛に力戰して死す。〔明史、二百九十〕·〔萬斯同明史、三百七十七〕。

【左黜】322（サチユツ） 官を降す。左遷(292)に同じ。〔海錄碎事、臣職、貶黜〕三輔決錄、陳重與二其友雷義一、倶爲二尚書郎一、義以左黜、重見二義去一、亦以レ病免。〔宋書、謝晦傳論〕孥戮所レ施、事行二重釁一、左黜或用、義止レ輕愆。

【左除】323（サヂヨ） しりぞけのぞく。〔唐書、裴延齡傳〕帝怒乃罷二贄宰相一、左二除湊等官一。

【左鎭】324（サチン） 左方の山。鎭は山。〔庾信、周大將軍豳國公趙廣墓銘〕皇裂二中台一、山傾二左鎭一。

【左提】325（サテイ） 左にひつさげる。左提右攜を見よ。

〖左提右攜〗326（サテイイウケイ） 左にひつさげ右にたづさへる。手をとり合ふ。助け合ふ。左提右挈。〔顏氏家訓、兄弟〕方二其幼一也、父母左提右攜、前襟後裾。

〖左提右挈〗327（サテイイウケツ） 左提右攜に同じ。〔漢書、陳餘傳〕夫以二一趙一尚易レ燕、況以二兩賢王一左提右挈、而責レ殺レ王、滅レ燕易矣。

【左程】328（サテイ） ❶左程右準を見よ。❷（サホド） それほど。

〖左程右準〗329（サテイイウジユン） 行が悉く道にあてはまること。程・準はのり、法度。〔柳宗元、送三表弟呂讓將二仕進一序〕呂氏子、嗜二儒書一多二文辭一、上二下今古一、左程右準。

【左鼎】330（サテイ） 明、永新の人。字は周器。官は左僉都御史。〔明史、一百六十四〕·〔萬斯同明史、二百二十〕·〔明史稿、一百五十〕。

【左貂】331（サテウ） 貂の尾を左方につけた冠の飾。〔後漢書、宦者傳序〕漢興仍襲二秦制一、置二中常侍官一、然亦引二用士人一、以參二其選一、皆銀璫左貂、給二事殿省一。〔隋書、禮儀志七〕內史令金蟬右貂、納言金蟬左貂。〔唐書、百官志二〕左散騎與二侍中一爲二左貂一、右散騎與二中書令一爲二右貂一。

【左的】332（サテキ） ❶左のまと。〔曹植、白馬篇〕控レ弦破二左的一、右發摧二月支一。❷tsuo^3 tê 惡い物。贋物。

【左跌】333（サテツ） 左方につまづく。〔易林〕前頓卻躓、左跌右逆。

【左徹】334（サテツ） 黃帝の臣。黃帝の死後、其の像を作り、諸侯を帥ゐて朝奉したといふ。〔太平御覽、皇王部、黃帝軒轅氏〕抱朴子曰、汲郡塚中竹書言、黃帝既仙去、其臣有二左徹者一、削レ木爲二黃帝之像一、帥二諸侯一朝二奉之一、故司空張茂先撰二博物志一亦云、黃帝仙去、其臣思戀罔レ極、或刻レ木立レ像而朝レ之、或取二其衣冠一而葬レ之、或立レ廟而四時祠レ之。〔劉恕外紀〕黃帝鑄二三鼎於荊山之陽一、鼎成崩、其臣左徹取二衣冠几杖一而廟祀。

【左轉】335（サテン） ❶左方に轉ずる。〔周禮、春官、大宗伯〕祀二昊天上帝一、疏〕二十八宿隨レ天左轉爲レ經。〔楚辭、離騷〕路二不周一以左轉兮、指二西海一以爲レ期。❷左遷(292)に同じ。〔後漢書、第五倫傳〕後褎坐レ事左二轉高唐令一、臨レ去握二倫臂一曰、恨二相知晩一。〔後漢書、王堂傳〕永建二年、徵入爲二將作大匠一、四年坐二公事一、左二轉議郎一。

【左驥】336（サテン） 三國、魏の人。音樂に明通す。左顚(145)に同じ。〔繁欽、與二魏文帝一牋〕左驥・史妠・謇姐名倡。〔注〕善曰、魏志曰、文帝令下杜夔與二左驥等一、於二賓客之中一、吹レ笙鼓上琴、然其史妠・謇姐、蓋亦當時之樂人。

【左田】337（サテン） 清、黃鉞(**12**－**47926**··55)の字。

【左傳】338（サテン） 春秋左氏傳の略。左氏傳(205)を見よ。〔漢書、五行志中之下〕左傳曰、僖公三十二年十二月己卯、晉文公卒。〔杜預、春秋左氏傳序〕或曰、春秋之作、左傳及穀梁無二明文一。〔野老記聞〕東坡云、意盡而言止者、天下之至言也、然而言止而意不レ盡、尤爲二極致一、如二禮記左傳一可レ見。

〖左傳體〗339（サテンタイ） 左氏傳の敍述の例に倣つた歷史の形式。編年體。〔後漢書、荀悅傳〕乃令下悅依二左氏傳體一以爲中漢紀三十篇上。

〖左傳癖〗340（サテンヘキ） 左氏傳を好む性癖。左傳を愛好した晉の杜預が、武帝の問に答へた言葉。左癖。〔晉書、杜預傳〕預常稱、王濟有二馬癖一、和嶠有二錢癖一、武帝聞レ之、謂レ預曰、卿有二何癖一、對曰、臣有二左傳癖一。

【左徒】341（サト） 戰國、楚の官名。左拾遺の類。屈原、嘗てこの官となる。〔史記、屈原傳〕屈原者名平、楚之同姓也、爲二楚懷王左徒一。〔注〕正義曰、蓋今在二左右一拾遺之類。

【左德】342（サトク） 德を尊ばない。〔道德指歸論〕大國之君、負二衆強一、上レ權右レ勢、左レ德下レ仁。

【左腦】343（サナウ） 腦の左の部分。〔褚氏遺書〕左股・左手指・左肩・左腦。

【左南】344（サナン） 清、范家相(**9**－**30834**··149)の字。

【左乳】345（サニユウ） 左の乳。〔宋史、劉孝忠傳〕母病經二三年一、孝忠割二股肉一、斷二左乳一以食レ母。

【左派】346 tsuo^3 pʻai^4 左傾派。過激派。

【左馬】347（サバ） ❶左方の馬。〔儀禮、聘禮〕賓執二左馬一以出、上介受二賓幣一、從者訝受レ馬。❷馬を左方にする。〔王起、轅門射二戟枝一賦〕嚮禍儻居、戰陣誰當、左レ馬而右レ人、請レ懲二忿於昔日一、願レ釋二憾於茲辰一。〔王禹偁、天道如二張弓一賦〕吾嘗觀二善射之人一、如二天道兮有レ倫、下者擧二其勢一、高者俯二其身一、左レ馬右レ人、落二轂中一而不レ失二十發九中一。

〖左馬頭〗348（サマノカミ） 左馬寮の長官。〔和漢三才圖會、官位部、國司〕左馬頭、右馬頭、各一人、四位五位中可レ然輩任レ之、知二寮務一、時尤爲二重職一。

〖左馬寮〗349（サマレウ） 馬寮の左のつかさ。昔、馬に關する事務を掌つた役所。馬寮(**12**－**44572**··650)を見よ。〔拾芥抄、中、本、馬寮、注〕左右、宮城內、談天門北掖。

【左佩】350（サハイ） 左方に帶びる。〔禮、內則〕左右佩用、左佩二紛帨刀礪小鑴金燧一、右佩二玦捍管遰大鑴木燧一。

【左排】351（サハイ） 左方におしひらく。〔唐書、吳武陵傳〕前鋒扼レ喉、後陣撫レ背、左排右掖。〔劉因、渡江賦〕前喉後背、左排右掖。

【左方】352（サハウ） ❶ひだりの方。又、後方。〔書、甘誓〕左不レ攻二于左一、〔傳〕左、車左、左方主レ射。〔史記、匈奴傳〕左方兵直二雲中一、右方直二酒泉敦煌郡一。〔史記、龜策傳〕謹連二其事于左方一、令三好事者觀二擇其中一焉。〔唐書、忠義傳序〕次二敍夏侯端以來凡三十三人于左方一。❷雅樂で唐樂の稱。左樂(98)を見よ。

【左抱】353（サハウ） 左手に抱く。〔史記、楚世家〕左抱二鄭姬一、右抱二越女一、坐二鐘鼓之閒一。

〖左抱右擁〗354（サハウイウヨウ） 左右に抱きかかへる。姬妾の多いことをいふ。〔戰國、楚策〕蔡聖侯左抱二幼妾一、右擁二嬖女一、與レ之馳二騁乎高蔡之中一、而不下以二國家一爲上レ事。

【左旁】355（サバウ） ❶左のかたはら。左側。〔宋書、樂志一〕宮管在二左旁一、十九簧至二十三簧一曰レ笙。❷

【左榜】356サバウ tsuo³ p'ang² 漢字母の偏。舉試に登第した舉人・進士の名前を掲げる左方の掲示板。元代、舉試に合格した舉人・進士を二榜に分ち、蒙古・色目人を一榜として右に、漢人・南人を一榜として左に掲げ、舉人は中書省の門の左右に、進士は敕黃紙に書して、內前紅門の左右に掲げた。〔元史、選擧志一〕中書省以㆓中㆑選舉人㆒、分爲㆓二榜㆒、揭㆓于省門之左右㆒、云云、色目人作㆓一甲㆒、漢人南人作㆓一甲㆒、如㆓前儀㆒、每㆓進士一人㆒、差㆓蒙古宿衞士一人㆒監視、日午賜㆑膳、進士納㆑卷畢出㆑院、監試官同㆓讀卷官㆒、以㆑所㆓對策㆒、第㆓其高下㆒、分爲㆓三甲㆒進奏、作㆓二榜㆒、用㆓敕黃紙㆒書、揭㆓于內前紅門之左右㆒。〔歐陽玄、喜㆔門生中㆓狀元㆒詩序〕泰定丁卯八月十二日、崇天門傳臚、賜㆓進士㆒、右榜第一人阿察亦、左榜第一人李黼。〔十駕齋養新錄、十、左右〕科場蒙古色目人稱㆓右榜㆒、漢人南人稱㆓左榜㆒、亦右爲㆑上也。

【左伯】357サハク 後漢、東萊の人。子は子邑。善く紙を造り、毛弘と名を齊しくす。〔三輔決錄〕韋誕奏、蔡邕自矜㆓能書㆒、兼明㆓斯喜之法㆒、非㆑得㆓紈素㆒、不㆓妄下㆑筆、用㆓張芝筆、左伯紙、及臣墨㆒。〔書斷〕左伯、字子邑、東萊人、甚能作㆑紙、漢興用㆑紙代㆑簡、至㆓和帝時㆒、蔡倫工爲㆑之、而子邑、尤行㆓其妙㆒。

【左髆】358サハク 左方の肩。〔宋史、儀衞志六〕其一當㆓左髆㆒、其一當㆓右髆㆒。

【左胖】359サハン 犧牲の左半分。〔儀禮、士昏禮〕特豚合升、注〕合升、合㆓左右胖㆒升㆓於鼎㆒也。

【左畔】360サハン ひだりがは。〔儀禮、士虞禮、賓長以㆑肝從、實㆓于俎㆒、縮右㆑鹽、疏〕左畔有㆑肝、右畔有㆑鹽。〔呂直指、大丹歌〕列女擎㆑烏當㆓左畔㆒、將軍戴㆑兔鎭㆓西邊㆒。〔福惠全書、蒞任部、設內外號簿〕左畔用㆓紅方簽㆒、大書㆓上司公文簿㆒。

【左盤】361サバン 左方にめぐる。〔李白、草書歌〕左盤右蹙如㆓驚電㆒、狀同㆓楚漢相攻戰㆒。

〖左盤龍〗362サバンリヨウ 鴿の糞。左卷きに重なるからいふ。〔本草、鴿〕屎名㆓左盤龍㆒、時珍曰、野鴿者、尤良、其屎皆左盤、故宣明方謂㆓之左盤龍㆒也。

【左泌】363サヒ 金の人。企弓の子。字は長源。官は遼の棣州刺史、後、金の陝西路轉運使。〔金史、七十五〕。

【左辟】364サヒ 左方に避ける。〔詩、魏風、葛屨〕好人提提、宛然左辟、佩㆓其象揥㆒。〔釋文〕辟、音避。

【左臂】365サヒ 左方の臂。〔詩、小雅、車攻、射夫既同、疏〕決著㆓于右手大指㆒、所㆔以鉤㆑弦開㆑體、遂著㆓於左臂㆒、所㆓以遂㆑弦、手指相比次、而後射得㆓和利㆒。〔論衡、感虛〕傳書言、曾子之孝、與㆑母同㆑氣、曾子出、薪㆓於野㆒、有㆑客至而欲㆑去、曾母曰、願留參方到、卽以㆓右手㆒搤㆓其左臂㆒、曾子左臂立痛、卽馳至問㆑母、臂何故痛、母曰、今者客來欲㆑去、吾搤㆑臂以呼㆑汝耳、蓋以㆘至孝與㆓父母㆒同㆖氣、體有㆓疾病㆒、精神輒感。〔晉書、呂光載記〕光左臂內脈起、成㆓字文㆒曰㆓巨霸㆒。

【左騑】366サヒ 左方のそへ馬。騑は驂に同じ。〔晉書、輿服志〕天子法車、于㆓戟之杪㆒、以㆓氂牛尾大如㆑斗、置㆓左騑馬軛上㆒、是爲㆓左纛㆒。

【左髀】367サヒ 左方のもも。〔詩、小雅、車攻、大庖不㆑盈、傳〕射㆓左髀㆒達㆓于右䯚㆒爲㆓下殺㆒。〔魏志、鍾繇傳、注〕著㆓白練衫丹繡裲襠㆒傷㆓左髀㆒。

【左評】368サヒヤウ 官名。廷尉の屬。漢の宣帝の時、初めて廷尉に左右平を置き、後漢の光武帝に至り、右平を省いて、左平一人を置き、詔獄を平決することを掌る。魏晉以來は左右を分たず、ただ廷尉平と稱し、北齊以後は大理寺に屬す。隋の煬帝の時、評事と改め、其の掌る所は司直に同じである。唐・宋、之に因り、唐には出使・推覆を掌る。明・清には左右評事を置く。左平(386)を見よ。〔通典、職官典、諸卿上、大理卿〕評事、漢宣帝地節三年、初於㆓廷尉㆒置㆓左右平員四人㆒、後漢光武省㆓右平㆒、云云、置㆓評事四十八人㆒、掌與㆓司直㆒同、其後官廢、大唐貞觀二十二年、褚遂良議、重㆓法官㆒、復奏置㆓評事十員㆒、掌㆓出使推覆㆒、後加㆓二人㆒、爲㆓十二員㆒。〔文獻通考、職官考、大理卿〕魏晉以來無㆓左右㆒、而直謂㆓之廷尉平㆒、後魏・北齊及隋廷尉平各一人、開皇三年罷、至㆓煬帝㆒乃置㆓評事四十八人㆒、掌與㆓司直㆒同。〔宋書、百官志上〕廷尉評一人、漢宣帝地節三年、初置㆓左右評㆒、漢光武省㆑右、猶云㆓左評㆒、魏晉以來直云㆑評。〔續通典、職官典、諸卿上、大理卿〕評事、唐置㆓八人㆒、宋元豐官制行、始命㆓張仲穎等十二人㆒、爲㆓評事㆒、隆興二年詔、大理評事以㆓八員㆒爲㆑額、金置㆓二三人㆒、掌同㆓司直㆒、明置㆓左右寺評事各四人㆒、南京大理寺左右評事各二人㆒、隆慶三年、革㆓左右評事各一人㆒。〔歷代職官表、大理寺、國朝官制〕左評事、漢人一人、右評事漢人一人。

〖左評事〗369サヒヤウジ 左評を見よ。

【左牝】370サヒン 後齊の官署の名。太僕寺の屬。駝馬を掌る。〔隋書、百官志中〕太僕寺統㆓云云左右牝㆒。〔注〕掌㆓駝馬㆒。〔文獻通考、職官考、太僕卿〕諸牧監、云云、北齊有㆓左右牝牡駝牛羊等署令㆒。

【左鬢】371サビン 左方の鬢。〔劉長卿、送㆔從弟貶㆓袁州㆒詩〕憂來沽㆓楚酒㆒、左鬢莫㆓凝霜㆒。

【左扶】372サフ 左方でたすける。〔薩都剌、溪行中秋翫㆑月詩〕有㆓婦右策兒左扶㆒、舟人醉飽從歡呼。

【左府】373サフ ❶左方に在る役所。〔南齊書、薛淵傳〕豫章王巍代守㆓東府㆒、使㆘淵領㆑軍屯㆓司徒左府㆒、分備㆗京邑㆖。❷左大臣の唐名。〔和漢三才圖會、官位部、左大臣〕左丞相・左僕射・左府。

【左符】374サフ わりふの左半分。左魚符(125)に同じ。〔唐書、車服志〕左符進㆑內、右符監門掌㆑之。〔宋史、兵志十〕右符伍、左旁作㆓虎豹頭四㆒、左符五、右旁爲㆓四竅㆒。〔陸游、衰病詩〕桐江久客無㆓奇句㆒、孫負君王乞㆓左符㆒。〔演繁露〕漢太守之官、必得㆓左符㆒以出、至㆑郡用以爲㆑驗、蓋右符先以留㆑州、故令以㆑左合㆑右也、唐世刺史執㆓左魚㆒至㆑州、與㆓右魚㆒合契、亦其制也。

【左駙】375サフ 車の左のそへ木。車の箱外に在つて車輪を強くする材。駙は輔に同じ。〔史記、司馬穰苴傳〕乃斬㆓其僕、車之左駙、馬之左驂㆒、以徇㆓三軍㆒。〔注〕索隱曰、按、謂、斬㆓其使者之僕及車之左駙㆒、云云、又斬㆓馬之左驂㆒、以㆓御者在㆑左故也、正義曰、劉伯莊云、駙者箱外之立木、承㆓重校㆒者。

【左武】376サブ ❶一方に武を用ひる義。右文(**2**－**3250**‥145)の❶の對。右文左武(**2**－**3250**‥145)を見よ。❷宋の武官の名。〔宋史、曲端傳〕曲端訓練有㆑方、敍㆓端左武大夫㆒、興州居住。

〖左武衞〗377サブヱイ 武衞(**6**－**16273**‥27)の❷を見よ。

【左部】378サブ ❶匈奴の東部の地をいふ。漢の上谷(察哈爾省延慶縣の北)以東、濊貊・朝鮮に至る地方。左賢王・左谷蠡王・左大將等の治めた地。〔後漢書、陳龜傳〕時南匈奴左部反亂。〔十六國春秋〕魏武帝分㆓匈奴左部㆒、居㆓茲氏㆒。❷城の名。山西省孝義縣の南。〔水經、汾水注〕汾水之右有㆓左部城㆒、側臨㆓汾水㆒、蓋劉淵爲㆓晉都尉㆒所㆑築也。

【左腹】379サフク 腹の左側。〔易、明夷〕入㆓于左腹㆒、獲㆓明夷之心㆒、于出㆓門庭㆒、象曰、入㆓于左腹㆒、獲㆓心意㆒也。

【左物】380サブツ ❶鄕射禮に堂を下つて射る時、其の足の位置を示すために、丹或は墨で地上に畫いた十字形。〔儀禮、鄕射禮〕當㆓左物㆒、北面揖。〔注〕左物、下物也。〔胡培翬正義〕張氏爾岐云、物者、以㆓丹若墨㆒、畫㆑地、作㆓十字形㆒、射者履㆑之以射、左物、下射所㆑履、故云㆓下物㆒也。❷物質を卑む。〔春秋繁露、玉杯〕春秋之序㆑道也、先㆑質而後㆑文、右㆑志而左㆑物。

【左芬】381サフン 晉の人。左思の妹。字は九嬪。文章に巧で、武帝聞いて之を納れて貴嬪とした。容色陋しく寵愛を受けなかつたが、而も方物異寶ある每に、必ず詔して賦頌を作らしめ、屢〻恩賜を得た。〔晉書、三十一〕。

【左文】382サブン ❶一方に文を用ひる義。右武(**2**－**3250**‥141)の對。左文右武(384)を見よ。❷㋑ tsuo³ wen² 漢字のへん。㋺左書きの文字。

〖左文字〗383サモジ 刀劍の名。五郎正宗門下、十哲の首位、筑前博多澳濱の住人、左衞門三郎慶源の鍛へたもの。中心に左の一字を銘し、裏に筑州住と切る。〔合類節用集、人倫〕左文字、建武比人、筑前刀工、姓源、名左。

〖左文右武〗384サブンイウブ 文武竝に用ひる義。〔李咸用、遠公亭牡丹詩〕左文右武憐㆓君榮㆒、白銅鞮上慙㆓清明㆒。

〖左文襄公奏疏〗385サブンジヤウコウソウソ 書名。初編三十八卷・續編七十六卷・三編六卷。清、左宗棠撰。光緒十六年刊。咸豐十一年から、光緒十一年までの奏疏を年代順に編輯したもの。清史稿、藝文志に著錄する。

【左平】386 サヘイ 漢の官名。廷尉の屬。詔獄を平決することを掌る。左評(368)を見よ。〔後漢書、百官志二〕廷尉卿一人、中二千石、云云、左平一人六百石、本注曰、掌㆔平㆓決詔獄㆒。

【左膘】387 サヘウ 左方の膘。膘は牛の脅後髀前の皮肉が合して薄い處。〔詩、小雅、車攻、大庖不㆑盈、傳〕自㆓左膘㆒而射㆑之、達㆓于右腢㆒、爲㆓上殺㆒。〔公羊、桓、四、二曰賓客、注〕自㆓左膘㆒射㆑之、達㆓於右脾㆒、遠㆑心死難、故以爲㆓賓客㆒。

【左眇】388 サベウ 左方のすがめ。又、左の眼がすがむ。〔易林〕左眇右盲、視暗不㆑明。

【左癖】389 サヘキ 左氏傳を好む性癖。晉の杜預が武帝の問に答へた語。左傳癖(340)を見よ。

【左邊】390 サヘン ❶左方。左側。〔陳暄、應詔賦〕擬㆓金人于右階㆒、稱㆓石人于左邊㆒。〔宋史、儀衞志二〕左班七十六人、二十四人在㆓駕前左邊㆒引㆑駕、五十二人作㆓兩隊㆒、馬隨㆑駕。❷文字の扁。〔鮑照、字謎詩〕右面負㆓兩刃㆒、左邊雙屬㆑牛。

『左邊兒』391 tsuo³ pien¹ êrh 左の方。

【左眄】392 サベン 左方をかへりみる。左顧（183）に同じ。〔左思、詠史詩〕左眄澄㆓江湘㆒、右盼定㆓羌胡㆒。

『左眄右顧』393 サベンウコ 左右を見わたす。あちらこちらに氣をくばる。左顧右眄(184)に同じ。

【左挽】394 サベン 左手に弓を挽く。〔曹植、名都篇〕左挽因㆑右發、一縱兩禽連。

【左冕】395 サベン 清、涇縣の人。字は子弁。諸生。書室を高柳堂といふ。著に高柳堂集がある。

【左步】396 サホ 左方に備へてある步兵。左步右騎を見よ。

『左步右騎』397 サホイウキ 左方に備へた步兵と右方に備へた騎兵。〔後漢書、董卓傳〕乃陳㆑兵夾㆑道、自㆑壘及㆑宮、左步右騎、屯衞周匝、令㆔呂布等扞㆓衞前後㆒。〔水經、梓潼水注〕公孫述令㆔延岑盛㆓兵于沈水宮㆒、左步右騎、夾㆑船而進、勢動㆓山谷㆒。

【左輔】398 サホ ❶王の左に居て輔弼する臣。左輔右弼を見よ。〔魏書、長孫嵩傳〕詔世祖臨㆑朝、監國嵩爲㆓左輔㆒。❷宋の徽宗の政和二年、侍中を改め稱す。〔宋史、徽宗紀三〕（政和二年九月）癸未、正㆓三公三孤官㆒、改㆓侍中㆒爲㆓左輔㆒、中書令爲㆓右弼㆒、左右僕射爲㆓太宰少宰㆒、罷㆓尚書令㆒。❸宋代、籍田の禮を助けるために設けた禮官の名。〔宋史、禮志五〕太常設㆓左輔位於御耕之東稍南㆒西向、設㆓司農位二㆒、一在㆓左輔之後㆒、一在㆓其南㆒、並西向。❹馮翊郡をいふ。馮翊郡は漢の三輔(**1**－**12**‥161)の一、左馮翊の地。今の陝西省大荔縣の南。〔杜甫、留花門詩〕連雲屯㆓左輔㆒、百里見㆓積雪㆒。〔注〕洙曰、三輔故事、馮、輔也、翊、佐也、左輔、馮翊郡也。❺人名。㋑明、涇縣の人。字は弼之。弘治の進士。官は瑞州府同知。劉瑾の黨に忤らひ、南安教授に謫せらる。著に周易本義附說・太極後圖・南庠日講集がある。〔蘭臺法鑒錄、八〕。㋺清、陽湖の人。字は仲甫・蘅友。號は杏莊・念宛齋。乾隆の進士。嘉慶の間、湖南巡撫となる。著に念宛齋詩詞古文書牘五種がある。〔清史稿、三百八十七〕・〔國朝耆獻類徵、一百九十六〕・〔碑傳集、末下〕。

『左輔右弼』399 サホイウヒツ ❶左輔と右弼。古、王者には、前に疑、後に丞、左に輔、右に弼があつて、共に輔弼の任に當つた。左右。〔孔叢子、論書〕王者前有㆑疑、後有㆑丞、左有㆑輔、右有㆑弼、謂㆓之四近㆒。〔易林〕左輔右弼、金玉滿㆑堂。〔吳志、孫登傳〕以㆑恪爲㆓左輔㆒、休右弼。〔晉書、潘尼傳〕左輔右弼、前疑後丞、一日萬機、業業兢兢。〔田備、高潔之士策對〕前疑后丞、龍翰鳳翼、左輔右弼、嶽氣星精。❷左右から來る敵に備へて、左と右の二方に戰陣を立てること。〔太平記、十一、正成兵庫事〕左輔右弼、列を引き。

【左封】400 サホウ 縣名。隋、北周の廣年縣を改め置く。唐の廣德の後、吐蕃に沒入す。故治は四川省松潘縣の疊溪營の西方。〔讀史方輿紀要、四川、疊溪守禦千戶所、峨和廢縣〕左封廢縣、在㆓所西百九十里㆒、後周置㆓廣年縣㆒、幷㆓置廣年・左封二郡㆒、又置㆓翼州治㆒焉、隋開皇初、郡俱廢、縣屬㆓翼州㆒、仁壽初、改㆑縣曰㆓左封㆒、云云、今皆爲㆓生番地㆒。

【左奔】401 サホン 左方にはしる。〔秦觀、浮山堰賦〕貫㆓江河㆒以下騖兮、拉㆓泗沂㆒而左奔。

【左萬】402 サマン 廄の名。唐代、左右兩仗內にあつた六廄の一。〔唐書、百官志二〕左右兩仗內有㆓六廄㆒、三曰㆓左萬㆒、四曰㆓右萬㆒。

【左脈】403 サミヤク 左方の脈。〔史記、倉公傳、三陰俱摶者、注〕正義曰、素問云、左脈口曰㆓少陰㆒、少陰之前名㆓厥陰㆒、右脈口曰㆓太陰㆒、此三陰之脈也。

【左民】404 サミン ❶官名。漢の成帝の初、尚書に民曹があり、吏民の上書を掌り、後漢の光武の時、改めて繕修・工作・鹽池・苑囿を掌つたが、魏の時、始めて左民尚書を置き、戶籍・營繕を掌る。晉、右民を加へ置く。宋・齊・梁・陳には皆左民尚書を置く。後魏、左民・右民兩尚書を置き、多く工役の事を領せしめ、梁・陳には戶籍をも兼ね掌る。周・隋には民部と改めた。〔宋書、百官志上〕魏世有㆓吏部・左民・客曹・五兵・度支・五曹尚書㆒。〔宋書、百官志上〕度支尚書、領㆓度支・金部・倉部・起部四曹㆒、左民尚書、領㆓左民・駕部二曹㆒。〔通典、職官典、歷代尚書〕魏有㆓吏部・左民・客曹・五兵・度支凡五尚書㆒、晉初有㆓吏部・三公・客曹・駕部・屯田・度支六曹㆒、太康有㆓吏部・殿中・五兵・田曹・度支・左民㆒、爲㆓六曹尚書㆒、及㆑渡㆑江、有㆓吏部・祠部・五兵・左民・度支五尚書㆒、宋有㆓吏部・祠部・度支・左民・都官・五兵六尚書㆒、齊・梁與㆑宋同。〔通典、職官典、尚書下、戶部尚書、注〕漢成帝初、置㆓尚書㆒、有㆓民曹㆒、主㆓凡吏民上書㆒、云云、後漢光武、改㆓民曹㆒主㆓繕修・工作・鹽池・苑囿㆒、魏置㆓左民尚書㆒、晉惠帝又加㆓置右民尚書㆒、至㆓於宋・齊・梁・陳㆒、皆有㆓左民尚書㆒、而後魏有㆓左民・右民等尚書㆒、多領㆓工役㆒、非㆓今戶部之例㆒、而梁・陳兼㆓掌戶籍㆒、此則略同、自㆓周・隋㆒有㆓民部㆒、始當㆓今戶部之職㆒。❷星の名。〔南齊書、天文志上〕（永元九年十一月）丙子、月入在㆓軒轅左民星東北七寸㆒爲㆑犯。

【左明】405 サメイ 左方の耳目の聰明なことをいふ。〔素問、陰陽應象大論〕天不㆑足㆓西北㆒、故西北方陰也、而人右耳目、不㆑如㆓左明㆒也。

【左緜】406 サメン 左にめぐる。〔左思、蜀都賦〕於㆑東則左緜㆓巴中㆒、百濮所㆑充、外負㆓銅梁於宕渠㆒、內函㆓要害於膏腴㆒。〔注〕向曰、緜、歷也。

【左目】407 サモク 左の目。〔魏志、夏侯惇傳〕爲㆓流矢所㆑中、傷㆓左目㆒。〔宋書、蒯恩傳〕於㆓婁縣㆒戰、箭中㆓左目㆒。〔梁書、沈約傳〕約左目重瞳子、腰有㆓紫志㆒。

【左門】408 サモン ❶左の門。〔元史、禮樂志一〕由㆓左門㆒入、奉㆓冊寶㆒。❷左衞門の略。右衞門を右門といふ。〔倭訓栞、後編〕台記に左衞門、右衞門を左門、右門と云へる事あり。

【左樣】409 ヒダリザマ 正道にそむくこと。左道。〔伊勢物語、知顯抄〕次第不同にしてさだかならず、ひだりざまなる事。

【左籥】410 サヤク 舞樂で、左方に籥を吹く者が位置すること。籥はこまぶえ。〔唐書、禮樂志十一〕隋有㆓文舞・武舞㆒、舞者各六十四人、文舞左籥右翟、武舞左干右戚。

【左雄】411 サユウ 後漢、涅陽の人。字は伯豪。安帝の時、孝廉に擧げらる。官は尚書令。永和中、卒す。〔後漢書、九十一〕。

【左譽】412 サヨ ❶宋、永新の人。字は元規。開禧の進士。使を奉じて君命を辱しめず、ためにその後十年間、寇敢て南を窺はなかつたといふ。〔江西通志〕。❷宋、天台の人。字は與言。號は筠翁。後、豁然として悟り、佛道に歸す。著に筠翁長短句がある。

【左媵】413 サヨウ 妾をいふ。右媵の次。又、左媵の生んだ男子をいふ。〔公羊、隱、元、立㆑適以㆑長不㆑以㆑賢、注〕禮、嫡夫人無㆑子、立㆓右媵㆒、右媵無㆑子、立㆓左媵㆒、左媵無㆑子、立㆓嫡姪娣㆒。〔稱謂錄、隨嫁妾、左媵〕公羊隱元年傳注、禮、適夫人無㆑子、立㆓右媵㆒、右媵無㆑子、立㆓左媵㆒。

【左弋】414 サヨク 秦の官名。少府の屬。弋射を掌る。漢の武帝の太初元年、佽飛と改めた。佐弋(**1**－**506**‥58)の❶を見よ。〔漢書、百官公卿表上〕少府、秦官、掌㆓山海池澤之稅㆒、以給㆓共養㆒、有㆓六丞㆒、屬官有㆓尚書・符節・太醫・太官・湯官・導官・樂府・若盧・考工室・左弋・居室・甘泉居室・左右司空・東織・西織・東園匠・十二官令丞㆒、云云、武帝太初元年、更㆓名考工室㆒爲㆓考工㆒、左弋爲㆓佽飛㆒。

【左翼】415 サヨク ❶鳥の左のつばさ。〔詩、小雅、鴛鴦〕鴛鴦在㆑梁、戢㆓其左翼㆒。〔晉書、陶侃傳〕侃夢生㆓八翼㆒、飛而上㆑天、云云、墜㆑地折㆓其左翼㆒。〔陸雲、鳴鶴詩〕鳴鶴在㆑陰、戢㆓其左翼㆒。❷中央軍の

左方にある軍隊。左の陣。又、軍隊の左の部分。一列の左方の部隊。左拒。右翼(**2**－3250··157)の❶の對。〔新書、連語〕左翼右翼、鼓レ之不レ進。〔晉書、慕容廆載記〕命二其少子仁一、自二平郭一趣二伯林一、爲二左翼一。❸社會主義を奉ずる一派。佛蘭西革命の時、ジャコベン黨議員が議場の左方に席を占め、過激な思想を唱へたのによる。

〖左翼場〗416 サヨクヂヤウ　清代、太僕寺所屬の牧場。右翼場(**2**－3250··159)を見よ。

【左利】417 ヒダリキキ　❶左手のよくきく人。❷酒のみ。左手を鑿手（テノミ）といふにより、飲手にかけていふ。〔俳諧新選、春〕七草や何にかけても左利。

【左里】418 サリ　城の名。一に左蠡城といふ。江西省都昌縣の西北。左蠡(429)を見よ。〔太平寰宇記〕晉盧循所レ築、在二湖左一、因名、城基猶在。

【左陸】419 サリク　晉の左思と二陸。共に詩賦に巧。二陸は陸機・陸雲。〔王僧孺、太常敬子任府君傳〕職等二曹張一、聲高二左陸一。

【左領】420 サリヤウ　官名。隋、左右領左右府を置く。左右に侍衞し、兵仗を供御することを掌る。〔隋書、百官志下〕左右領左右府、各大將軍一人、將軍二人、掌下侍二衞左右一、供中御兵仗上。〔文獻通考、職官考、左右千牛衞〕隋有二左右領左右府大將軍一人、將軍二人一、掌下侍二衞左右一、供中御兵仗上。

〖左領軍衞〗421 サリヤウグンエイ　領軍衞(**12**－43423··31)を見よ。

【左龍】422 サリヨウ　❶左に龍文をゑがく。又、左方にゑがいた龍文。〔隋書、禮儀志五〕今之玉輅、參二用舊典一、消息取捨、裁二其折中一、以レ青爲レ質、玉飾爲レ末、重箱盤輿、左龍右獸、金鳳翅、畫虡文。❷官署の名。後齊、太僕寺の屬に左右龍署を置く。左右牝と共に駝馬を掌る。〔隋書、百官志中〕太僕寺掌二諸車輦馬牛畜產之屬一、統二驊騮・左右龍・左右牝・駝牛・司羊・乘黃・車府等署令丞一、云云、左龍署有二左龍局一、右龍署有二右龍局一、左牝署有二左牝局一、右牝署有二右牝局一。〔注〕左右龍・左右牝、掌二駝馬一。

〖左龍右貂〗423 サリヨウイウテウ　劍の左に龍象をつけ、冠の右に貂尾の飾を施す。高位の文武官をいふ。〔春秋繁露、服制像〕劍之在レ左、青龍之象也。〔隋書、禮儀志七〕内史令金蟬右貂、納言金蟬左貂。〔大江匡衡、夏夜守二庚申一侍二清涼殿一同賦三避レ暑對二水石一應制〕左龍右貂之輩、履二丹霞一而承レ恩。

〖左龍武軍〗424 サリヨウブグン　龍武軍(**12**－48818··557)を見よ。

【左輪】425 サリン　左の輪。〔左氏、成、二〕左輪朱殷、豈敢言レ病。〔論衡、異虛〕夫虵遶二左輪一。

【左鄰】426 サリン　左鄰り。近邊。附近。〔梁書、元帝紀論〕以二世祖神睿特達一、留二情正道一、不レ忧二邪說一、徙二蹕金陵一、左鄰彊寇、將何以作。

〖左鄰右舍〗427 tsuo^3 lin^2 yu^4 shê^4　あたり近所。近所合壁。

【左嶺】428 サレイ　浙江省樂清縣の左源山中に在る四景の一。〔明一統志〕左源山在二溫州府樂清縣東三十五里一、羣峰環繞、中有二田二千畝一、山有二四景一、曰、梅溪・蓴湖・左嶺・小雁蕩。

【左蠡】429 サレイ　山名。江西省都昌縣の西北。彭蠡湖の東に臨むからいふ。一名、藍車山。其の下に舊の左里城がある。東晉の時、劉裕が大いに盧循を破つた所。〔讀史方輿紀要、江西、南康府、都昌縣、左里城〕郡志、縣西北八十里有二左蠡山一、以レ臨二彭蠡湖東一而名。

【左繚】430 サレウ　左方にめぐる。〔蘇軾、黃泥坂詞〕大江洶以左繚兮、渺雲濤之舒卷。

【左樓】431 サロウ　左方の樓。〔元史、禮樂志一〕東行至二左樓下一、太府受レ之。〔元史、輿服志三〕司辰郎二人、一人立二左樓上一、服視二六品一。

【左肋】432 サロク　左方のあばら骨。又、左側の意。〔宋史、河渠志六〕鑿二左肋一爲二複河一、取レ淮爲レ源、不レ置二堰牐一、可レ免二風濤覆溺之患一。

【左麓】433 サロク　左側のふもと。〔水經、淄水注〕從征記曰、廣固城北三里有二堯山一、祠レ堯、因三巡狩登二此山一、後人遂以レ名レ山、廟在二山之左麓一、廟像東面。

【左腕】434 サワン　左のうで。〔北史、李士謙傳〕愚謂、此罪宜下從二肉刑一、刖二其一趾一、再犯者斷二其左腕一、流刑刖中去右手三指上。

【虛レ左】435 ヒダリヲムナシクス　賢者を尊ぶ禮。古は、車上では、左を貴び、人を迎へるに左の席を虛しくして、之を待つた。〔史記、信陵君傳〕魏有二隱士一曰二侯嬴一、年七十、家貧、爲二大梁夷門監者一、云云、公子從二車騎一虛レ左、自迎二夷門侯生一。〔會注考證〕劉伯莊曰、車中上左爲レ貴也。

【如レ左】436 サノゴトシ　下の如し。次の如しの意。文書等で其の行から後に記す條項をいふ。〔後漢書、杜篤傳〕伏作二書一篇一、名曰二論都一、謹幷封奏如レ左。〔朱熹、大學章句〕今因二程子所レ定、而更考二經文一、別爲二序次一如レ左。

【左威衞】437 サヰエイ　威衞(**3**－6259··7)を見よ。

【左延年】438 サエンネン　三國、魏の人。音律に巧で、鄭聲を善くした。〔三國志、二十九〕。

【左企弓】439 サキキユウ　金の人。字は君財。遼の知樞密院事。後、金に降り、叛將張覺に殺さる。〔金史、七十五〕。

【左貴嬪】440 サキヒン　晉、左芬をいふ。左芬(381)を「見よ。

【左義長】441 サギチヤウ　昔、正月十五日に清涼殿の庭で青竹を燒いて行つた惡魔はらひの儀式。後世のどんど。爆竹。〔合類節用集、二、時候門〕爆竹、左義長、三毬杖、初春有二此義一。〔和漢三才圖會、時候類、止牟止〕正字未レ詳、俗謂二左義長一、疑三毬打之訛也。

【左匡政】442 サキヤウセイ　唐、涇縣の人。字は難當。武德中、宣城大都督を授けらる。〔萬姓統譜〕。

【左宮枕】443 サキユウチン　寢具の名。青玉で造り、二人で寢ることの出來る枕。冬溫かで夏涼しく、醉者は宿醉を癒し、夢者は仙界に遊ぶといふ。左宮王夫人が唐の杜光庭に授けたもの。〔清異錄、陳設、左宮枕〕青玉爲レ之、體方平、長可レ寢二二人一、冬溫夏凊、醉者破レ酲、夢者遊仙、云下是左宮王夫人以授二杜光庭一、光庭進二之蜀主一、與二皇明帳一爲中栟宮二寶上。

【左虛子】444 サキヨシ　明、蔡羽(**9**－31818··8)の號。

【左金吾】445 サキンゴ　❶官名。漢の武帝、中尉を改めて執金吾とす。行幸の護衞、京師の巡察を掌る。唐に至り、隋の左右武候を改めて、左右金吾衞とし、上將軍各〻一人、大將軍各〻一人、將軍各〻二人を置く。行幸の護衞、宮中京城の巡警・烽候・道路水土等の事を掌る。宋には環衞の官とし、往々、節度司をして領せしめた。遼にも左右金吾衞がある。執金吾(**3**－5193··203)を見よ。〔文獻通考、職官考、左右金吾衞〕秦有二中尉一、掌三徼二循京師一、漢武帝太初元年、更二名執金吾一、云云、舊掌二京師盜賊考二按疑事一、云云、唐初又爲二左右武候府一、龍朔二年、改爲二左右金吾衞一。〔續通典、職官典、武官上、左右金吾衞〕唐制左右金吾衞上將軍各一人、大將軍各一人、將軍各二人、掌二宮中京城巡警、烽候、道路水土之宜一、云云、宋左右金吾衞有二上將軍・大將軍・將軍一、爲二環衞官一、無二職掌一、往往以二節度司一領二左右金吾衞上將軍一、云云、遼南面官有二左右金吾衞一。❷衞門府の唐名を金吾といひ、之を衞門督の稱とし、左衞門督を左金吾といふ。禁中の諸門を衞り、その出入を察し、時を以て巡警することを掌る。〔職原抄〕左右衞門府、唐名金吾。

〖左金吾衞〗446 サキンゴヱイ　金吾衞(**11**－40152··378)を見よ。

【左回レ天】447 サハ　テンヲメグラス　後漢の宦者、左悺が貴寵を恃んで專横なのを譏つた語。回天は權力の大なることに喩ふ。〔後漢書、宦者、單超傳〕其後四侯轉橫、天下爲レ之語曰、左回レ天、具獨坐、徐臥虎、唐兩墮。〔集解〕通鑑胡注、回レ天、言二權力能回一レ天也、案、風俗通云、左旋レ天、徐轉レ日。

【左光慶】448 サクワウケイ　金の人。淵の子。字は君錫。號は善善道人。閤門祗候となる。詩・篆隸に巧。〔金史、七十五〕。

【左光霽】449 サクワウセイ　明の人。光斗の兄。光斗と共に宦官を排擊して忌まれ、遂に魏忠賢に殺さる。〔明史、二百四十四〕。

【左光先】450 サクワウセン　❶明の人。光斗の弟。官は浙江巡按。許都の東陽に反するを平ぐ。福王立つや、馬士英が阮大鋮を推薦するのに反對し、後、大鋮、志を得るに及んで、難を避け徽嶺に走る。〔明史、二百四十四〕・〔明史稿、二百三十一〕。❷明の人。官は總兵。賊と陝西に戰ひ、功多し。後、李自成に降る。〔明史、二百七十二〕。

【左光斗】451 サクワウト　明、桐城の人。字は遺直。號は浮丘生。追諡は忠毅。萬曆の進士。官は中書舍人、後、御史。氣節を以て自ら任ず。宦官を排

撃せんとして、魏忠賢に忌まれ、獄中に斃る。太子少保を追贈せらる。〔明史、二百四十四〕・〔萬斯同明史、三百五十一〕・〔明史稿、二百三十一〕・〔明詩綜、六十〕。

【左君弼】452 サクンヒツ　明、合肥の人。元末、州に據つて明の太祖に抗し、後、之に降る。官は副總兵。〔國朝獻徵錄、一百十〕。

【左驍衞】453 サゲウエイ　驍衞(**12－44986**・・2)を見よ。

【左克明】454 サコクメイ　元、豫章の人。著に古樂府がある。〔四庫提要、一百八十八〕。

【左國璣】455 サコクキ　明、大梁の人。字は舜齊。書・詩賦を善くし、世に著はれた。著に一元集がある。〔明詩綜、三十二〕・〔明詩紀事、戊、十二〕。

【左國材】456 サコクザイ　清の人。光斗の末子。字は子厚。龍眠山に隱居す。著に易學・詩學・杜詩解頤がある。〔國朝耆獻類徵、四百七十九〕。

【左國城】457 サコクジヤウ　地名。山西省離石縣の東北。晉の時の匈奴左部の居地。漢主、劉淵が離石から此に徙つて漢王と稱した。〔讀史方輿紀要、山西、汾州府、永寧州〕左國城、州東北二十里、晉時匈奴左部所ㇾ居城也、云云、杜佑曰、離石有㆓南單于庭左國城㆒。

【左今次】458 サクジ　姓氏。〔姓林全書〕。

【左侍極】459 サジキヨク　唐の柳玭が、其の著序訓の中で用ひた自稱の語。左史であつたからいふ。〔海錄碎事、臣職、起居舍人〕柳玭爲㆓左史㆒、其著㆓序訓㆒、自稱㆓左侍極㆒。

【左執法】460 サシフハフ　❶官名。三國吳、置く。御史中丞の類。〔稱謂錄、都御史古稱、左執法〕三國吳志胡綜傳、拜㆓綜偏將軍㆒、兼㆓左執法㆒、領㆓辭訟㆒、案、吳之左執法、其職較崇、當㆓亦御史中丞之類㆒。❷星の名。右執法(**2－3250**・・89)を見よ。

【左將軍】461 サシヤウグン　將軍(**4－7438**・・26)を見よ。

【左春坊】462 サシユンバウ　官署の名。詹事府の屬。唐、門下坊を改め置く。左庶子・中允等の官があり、所屬の諸局を領することを掌る。遼・明も置く。春坊(**5－13844**・・634)を見よ。〔舊唐書、職官志三〕太子左春坊、左庶子二人、中允二人、左庶子掌㆔侍從贊相、駁㆓正啓奏㆒、中允爲㆓之貳㆒。〔通典、職官典、東宮官〕大唐置㆓詹事府㆒、以統㆓衆務㆒、置㆓左右二春坊㆒、以領㆓諸局㆒、左春坊置㆓左庶子二人、中允二人、司議郎四人、錄事二人、左諭德一人、左贊善大夫五人、崇文館校書郎八人㆒、亦統㆓六局㆒。〔注〕龍朔二年、改㆓門下坊㆒爲㆓左春坊㆒、典書坊爲㆓右春坊㆒。〔續通典、職官典、東宮官、太子庶子〕遼南面官左春坊有㆓太子左庶子㆒、右春坊有㆓太子右庶子㆒、金無㆓此官㆒、云云、明左右春坊有㆓大學士及庶子各一人㆒。

【左庶子】463 サシヨシ　官名。唐、置く。詹事府の屬。左春坊の長官。侍從贊相及び啓奏を駁正することを掌る。左春坊を見よ。

【左庶長】464 サシヨチヤウ　秦・漢の爵位の名。第十位。庶長は衆列の長の意。〔史記、平準書〕爵左庶長、賜㆓田十頃㆒。〔漢書、百官公卿表上〕爵一級曰㆓公士㆒、云云、十左庶長、十一右庶長。〔注〕師古曰、庶長言ㇾ爲㆓衆列之長㆒也。

【左垂日】465 サスイノヒ　男の幼少の時をいふ。古は子が生れて三月を經れば、髮を翦り、男兒は左、女兒は右をそり殘したからいふ。〔事物異名錄、玩戲、幼童〕周必大文、每感㆓左垂之日㆒、按、詩傳、兒子三月剪ㇾ髮爲ㇾ鬌、男角女羈、否則男左女右。

【左少辨】466 サセウベン　古の官名。太政官の屬。左中辨の次に位するもの。左大辨(474)を見よ。

【左宗郢】467 サソウエイ　明、南城の人。萬曆の進士。官は太常寺少卿。著に麻姑山志がある。〔蘭臺法鑒錄、二十〕。

【左宗植】468 サソウシヨク　清の人。宗棠の兄。字は仲基。號は景喬、又、愼盦。道光の擧人。官は內閣中書。著に愼盦文鈔がある。

【左宗棠】469 サソウタウ　清、湘陰の人。字は季高。號は湘上農人。諡は文襄。道光の擧人。官は東閣大學士。封は恪靖侯。咸豐の初、洪楊の軍が起るや、四品京堂を以て軍を統べ、浙江・福建等に轉戰し、後、浙江巡撫から總督に陞り、陝西・甘肅を平げ、天山南北路を定めた。著に盾鼻餘瀋及び奏議百二十卷がある。〔清史稿、四百十八〕・〔清史列傳、五十一〕・〔續碑傳集、六〕。

【左太沖】470 サタイチユウ　左思(219)を見よ。

【左大史】471 サダイシ　古の官名。太政官の主典。宮中の文書及び諸司諸國に關する庶務を記錄することを掌る。〔職原抄〕史八人、左右大史各二人。

【左大將】472 サダイシヤウ　❶匈奴貴族の封號。匈奴(**2－2512**・・6)の❶・左大都尉(514)を見よ。❷サダイシヤウ 左近衞大將(131)の略。〔和漢三才圖會、官位部、大將〕左近衞大將、今唯稱㆓左大將㆒。

【左大臣】473 サダイジン　太政官の長官。最高の官職。朝廷の一切の政務を總理す。左丞相。左相國。左相府。左府。左僕射。一大臣。〔職員令〕左大臣、一人、掌㆘統㆓理衆務㆒、擧㆓持綱目㆒、總㆓判庶事㆒事㆖。〔職原抄〕太政官、左大臣、宮中事、一向左大臣統㆓領之㆒、故云㆓一上㆒、關白之人、爲㆓左大臣㆒時、右大臣行㆓一上事㆒、是依㆓關白與奪㆒也。

【左大辨】474 サダイベン　古の官名。太政官の屬。宮中の庶務を掌る。〔職原抄〕辨、左大辨・右大辨・左中辨・右中辨・左少辨・右少辨。

【左內史】475 サダイシ　❶官名。漢の景帝の二年、周官・秦官の內史を分つて左內史・右內史を置く。左內史の地を治めることを掌る。後、左馮翊と改む。左馮翊(484)の❶を見よ。〔史記、衞將軍驃騎傳〕左內史李沮、爲㆓彊弩將軍㆒。❷地名。漢の景帝、秦の內史の地を左右に分つて、左內史・右內史を置く。武帝に至り、左馮翊と改む。左馮翊(484)の❷を見よ。

【左斷炎】476 サダンエン　宋、涇縣の人。字は榮叔。禮・易の二經を治め、吟詠を好み、修煉の術に明通した。官は醫學教諭。〔尙友錄、十六〕。

【左中將】477 サチユウジヤウ　左近衞中將の略。〔枕草子、四〕左中將の、いとつれなく知らずがほにてゐ給へりしを。

【左中辨】478 サチユウベン　古の官名。太政官の屬。左大辨の次に位するもの。左大辨(474)を見よ。

【左纏藤】479 サテントウ　忍冬の異名。蔓が左卷であるからいふ。すひかづら。〔本草、忍冬〕釋名、金銀藤・鴛鴦藤・鷺鷥藤・老翁鬚・左纏藤・金釵股・通靈草・蜜桶藤、時珍曰、其花長瓣垂鬚、黃白相半、而藤左纏。

【左寶貴】480 サハウキ　清、費縣の人。字は冠亭。諡は忠壯。光緒の間、高州鎭總兵となる。日清戰爭に平壤で戰死した。〔清史稿、四百六十六〕・〔清史列傳、六十〕。

【左伯桃】481 サハクタウ　戰國、燕の人。羊角哀と共に楚王に仕へんとして赴く途中、大雨雪に遇ひ、二人共には生きざるを知つて、衣糧を盡く角哀に與へて死す。〔烈士傳〕與㆓羊角哀㆒爲㆓死友㆒、聞㆓楚王賢㆒、往見ㇾ之、道遇㆓雨雪㆒、計ㇾ不㆓倶全㆒、乃謂㆓角哀㆒曰、我所ㇾ學不ㇾ如ㇾ子、子往矣、幷㆓衣糧㆒與㆓角哀㆒、入㆓樹中㆒死、角哀獨行仕ㇾ楚、顯㆓名當世㆒、遂啓ㇾ樹發㆓伯桃之屍㆒、改㆓葬之㆒、喟然曰、吾友之所㆓以死㆒、惡㆓倶盡無ㇾ益、而名不ㇾ顯㆓於天下㆒也、今我寧用ㇾ生爲、亦自殺也、楚國之人聞ㇾ之、莫ㇾ不㆓流涕㆒。

【左皮氣】482 tsuo^{3} pʻi^{2} chʻi　ねぢけた根性。左性。左脾氣。

【左脾氣】483 tsuo^{3} pʻi^{2} chʻi　左皮氣に同じ。

【左馮翊】484 サヒヨウヨク　❶官名。漢の武帝の太初元年、左內史を改め置く。京兆尹・右扶風と共に三輔と稱す。左馮翊の地、卽ち高陵等の二十四縣を治めることを掌る。後漢には司隸に屬し、尋いで省く。其の名は詩經、大雅、卷阿篇の有ㇾ馮有ㇾ翼に取る。翊は翼。左內史(475)を見よ。〔漢書、百官公卿表〕內史、周官、秦因ㇾ之、掌ㇾ治㆓京師㆒、景帝二年、分㆓置左內史・右內史㆒、武帝太初元年、更㆓名京兆尹㆒、屬官有㆓長安・市廚兩令丞、又都水・鐵官兩長丞㆒、左內史更㆓名左馮翊㆒、屬官有㆓廩犧令丞尉㆒、又左都水・鐵官・雲壘・長安四市・四長丞皆屬焉。〔通典、職官典、州郡下、京尹〕周官有㆓內史㆒、秦因ㇾ之、掌ㇾ治㆓京師㆒、漢景帝二年、分㆓置左右內史㆒、武帝太初元年、更㆓名右內史㆒爲㆓京兆尹㆒、更㆓名左內史㆒爲㆓左馮翊㆒、初秦官有㆓主爵中尉㆒、掌㆓列侯㆒、漢景帝中元六年、更㆓名都尉㆒、武帝太初元年、更㆓名右扶風㆒、與㆓左馮翊・京兆尹㆒、是爲㆓三輔㆒、治㆓長安城中㆒、云云、後漢左馮翊・右扶風屬㆓司隸㆒、尋省。❷三輔の一。漢の武帝の太初元年、景帝の左內史の地を改め置く。今の陝西省中部、長安縣以西の地。治は長安城中。高陵以下の二十四縣、之に屬す。後漢に至り、始めて高陵を治とす。三國、魏に至り、馮翊郡と改め、晉・隋等之に因る。今の陝西省高陵縣の西南。〔漢書、地理志〕左馮翊、戶二十三萬五千一百一、口

九十一萬七千八百二十二、縣二十四、高陵・櫟陽・翟道・池陽・夏陽・衙・粟邑・谷口・蓮勺・鄜・頻陽・臨晉・重泉・郃陽・祋祤・武城・沈陽・襄德・徵・雲陵・萬年・長陵・陽陵・雲陽。〔三輔決錄〕馮、馮也、翊、明也。〔讀史方輿紀要、陝西、西安府〕同州、春秋時、秦晉之疆、戰國爲二秦魏二國地一、始皇幷二天下一爲二內史地一云云、景帝二年、分爲二左內史一、武帝太初元年、改爲二左馮翊一、後漢因レ之、三國魏爲二馮翊郡一、晉因レ之。

【左不過】485 tsuo^3 pu^2 kuo^4 どうせ。どのみち。必ず。どうしても。左不是。

【左夫人】486 サフジン 第二夫人。漢時代は、右を尙び、左を卑しんだから此の名がある。〔史記、大宛傳〕烏孫以二千匹馬一聘二漢女一、漢遣二宗室女江都翁主一、往妻二烏孫一、烏孫王昆莫、以爲二右夫人一、匈奴亦遣レ女妻二昆莫一、昆莫以爲二左夫人一。

【左風懷】487 サフウクワイ 男色をいふ。女色を右風懷といふの對。風懷は風情の意。淸の朱彝尊に風懷詩百韻がある。〔瀛奎律髓小序〕晏元獻類要有二左風懷・右風懷二類一。

【左風懷祕戲】488 tsuo^3 fêng^1 huai^2 pi^4 hsi^4 男色を弄ぶ。左風懷を見よ。

【左補闕】489 サホケツ 唐の官名。左右補闕(47)を見よ。

【左夢庚】490 サボウカウ 淸の人。良玉の子。謚は莊敏。良玉が九江に死するや、諸將因つて夢庚を帥とした。順治中、淸に降る。官は都統。〔明史、二百七十三〕・〔淸史稿、二百五十四〕・〔淸史列傳、七十九〕。

【左懋泰】491 サボウタイ 明の人。懋第の弟。兄に先んじて賊に降り、後、淸に降つた。懋第は吾が弟に非ずとして近づけなかつた。〔明史、二百七十五〕・〔明史稿、二百五十五〕。

【左懋第】492 サボウダイ 明、萊陽の人。字は蘿石。崇禎の進士。僉都御史となり、應天徽州の諸府を巡撫す。淸が連りに李自成を破るや、懋第は淸に使して和を議し、遂に抑留せられた。南京が破れるに及び、屈せずして死す。〔明史、二百七十五〕・〔明史稿、二百五十五〕・〔明詩綜、七十三〕。

【左僕射】493 サボクヤ ❶官名。秦官に僕射があり、後漢の獻帝、始めて左右に分ち、魏以後、六朝或は置き、或は省く。隋には左僕射は吏・禮・兵部三尙書を掌り、兼ねて御史の糾彈の當らぬものあれば之を糾彈することを掌り、右僕射は都官・度支・工部三尙書を掌り、又、用度を治めることを掌る。唐宋には宰相の任で、天子を助けて大政を議することを掌る。僕射(**1－1094**・・45)の❶を見よ。〔通典、職官典四、尙書上、僕射〕僕射、秦官、漢因レ之、云云、獻帝建安四年、以二執金吾榮邵一爲二左僕射一、衞臻爲二右僕射一、侍者分二置左右一、蓋自レ此始、經レ魏至二晉於江左一、省置無レ恆、云云、隋文帝開皇三年詔、左右僕射從二品、左掌下判二吏部・禮部・兵部三尙書一、御史糾不レ當者、兼糾中彈之上、右掌下判二都官・度支・工部三尙書一、又知中用度上、餘並依レ舊、大唐左右二僕射、因二前代一本副二尙書令一、自二尙書令廢闕一、二僕射則爲二宰相一。〔續通典、職官典四、尙書上、僕射〕左右僕射、唐制各一人、掌下統二理六官一、爲二令之貳一、令闕則總中省事上、劾二御史糾不レ當者一、德宗興元以後、率以二左右僕射一爲二宰相一、宋制、左右僕射掌下佐二天子一議中大政上、貳レ令之職、與二三省長官一、皆爲二宰相之任一。❷左大臣の唐名。〔職原抄〕左大臣、唐名左僕射。

【左良玉】494 サリヤウギヨク 明、臨淸の人。字は崑山。勇略はあつたが文字を知らず。功を積み、寧南侯に封ぜらる。官は太子太傅。張獻忠・李自成と戰ひ、淸兵を拒ぎ、福王の時、兵を引いて馬士英を討ち、九江に至つて死す。〔明史、二百七十三〕・〔萬斯同明史、三百七十五〕・〔明史稿、二百五十六〕。

【左縈右拂】495 サエイイウフツ 左にまつはり、右に拂ふ。擊ち滅ぼすことの極めて容易な喩。〔史記、楚世家〕若二夫泗上十二諸侯一、左縈而右拂レ之、可二一旦而盡一也。〔李德林、爲二文帝一襄陽等四郡立二佛寺一詔〕左縈右拂、靡積草靡。

【左家嬌女】496 サカケウヂヨ 左氏の家に居た美女。轉じて、美女をいふ。嬌はなまめかしい。〔左思、嬌女詩〕吾家有二嬌女一、皎皎頗白皙。

【左改右改】497 tsuo^2 kai^3 yu^4 kai^3 色々と變更する。

【左監門衞】498 サカンモンエイ 監門衞(**8－23032**・・112)を見よ。

【左宜右有】499 サギイウイウ 左にも右にも宜しく且有りとの意で、才德兼ね備はることをいふ。〔詩、小雅、裳裳者華〕左レ之左レ之、君子宜レ之、右レ之右レ之、君子有レ之、維其有レ之、是以似レ之。〔集傳〕言、其才全德備、以左レ之、則無レ所レ不レ宜、以右レ之、則無レ所レ不レ有。

【左國史漢】500 サコクシカン 左傳(338)・國語(**3－4798**・・183)・史記(**2－3249**・・31)・漢書(**7－18153**・・129)の倂稱。歷史として、又、文學として、文章家必讀のものとせられ、我が國では平安朝以來、久しく學校の敎科に立てられた。

【左骨都侯】501 サコツトコウ 匈奴の貴族の封號。異姓の大臣が之に封ぜられた。匈奴(**2－2512**・・6)の❶を見よ。〔史記、匈奴傳〕其世傳國官號、乃可二得而記一云、置二左右賢王・左右谷蠡王・左右大將・左右大都尉・左右大當戶・左右骨都侯一。〔注〕集解曰、骨都、異姓大臣。

【左算右想】502 tsuo^3 suan^4 yu^4 hsiang^3 かれこれと思案する。色々と考へ廻らす。

【左支右吾】503 サシイウゴ 左右兩方をささへとどめる。吾は止、とどめる。左枝右梧。左支右梧。〔宋史、李邴傳〕臣度、敵人他年入寇、云云、由二登萊一泛レ海窺二吳越一、以出二吾左一、由二武昌一渡レ江窺二江池一、以出二吾右一、一處不レ支、則大事去矣、願預講二左支右吾之策一。

【左支右支】504 tsuo^3 chih^1 yu^4 chih^1 かれこれと言ひぬける。かれこれとごまかす。

【左支右絀】505 tsuo^3 chih^1 yu^4 ch'u^1 金を一方に拂へば一方に差し支へる。手元不如意で何ともし難い。

【左支右調】506 サシイウテウ つじつまの合はないこと。〔桃花扇、投轅〕憑レ空何處軍粮到、無レ端左支右調。

【左枝右捂】507 サシイウゴ 左支右吾(503)に同じ。〔剪燈新話、令狐生冥夢錄〕至二如レ讒者一、三生賤士、一介窮儒、左枝右捂、未レ免二兒啼女哭一。

【左遮右掩】508 tsuo^3 chê^1 yu^4 yen^3 彼方へ言拔け此方へ言拔ける。

【左衝右擋】509 tsuo^3 ch'ung^1 yu^4 tang^3 左に衝き、右にかばふ。一方で敵を攻め、他方で味方をかばふ。〔桃花扇、修札〕隨機應變的口頭、左衝右擋的膂力。

【左千牛衞】510 サセンギウエイ 千牛衞(**2－2697**・・43)を見よ。

【左選右選】511 サセンウセン 宋の元豐の制。左右選(28)を見よ。

【左墄右平】512 サソクイウヘイ 古、王者の宮中には、左に墄、右に平を作つた。墄は人の昇降する階段。平は瓦を敷いた平らな坂道。〔班固、西都賦〕於レ是左墄右平、重軒三階。〔注〕善曰、七略曰、王者宮中、必左墄而右平、摯虞決疑要注曰、凡太極乃有二陛堂一、則有レ階無レ陛也、左墄右平、平者以二文塼一相亞次也、墄者爲二陛級一也。

【左大當戶】513 サタイタウコ 匈奴貴族の封號。匈奴(**2－2512**・・6)の❶・左屠耆王(518)を見よ。

【左大都尉】514 サタイトヰ 匈奴の貴族の封號。匈奴(**2－2512**・・6)の❶を見よ。〔史記、匈奴傳〕其世傳國官號、乃可二得而記一云、置二左右賢王・左右谷蠡王・左右大將・左右大都尉・左右大當戶・左右骨都侯一、匈奴謂レ賢曰二屠耆一、故常以二太子一爲二左屠耆王一、自レ如二左右賢王一以下至二當戶一、大者萬騎、小者數千、凡二十四長、立レ號曰二萬騎一。

【左中郞將】515 サチユウラウシヤウ 中郞將(**1－73**・・808)を見よ。

【左忠毅公】516 サチユウキコウ 左光斗(451)を見よ。

【左牴右牾】517 サテイウゴ 左にくひちがひ右に行き違ふ。支障の多いこと。

【左屠耆王】518 サトキワウ 匈奴の貴族の封號。左賢王をいふ。屠耆は匈奴の語で賢の意。左大都尉(514)を見よ。

【左都御史】519 サトギヨシ 官名。都察院の長官。明の洪武十五年、御史臺を都察院と改め、十六年、左右都御史各〻一人を置く。百司を糾劾し、冤枉を辨明し、各道を提督することを掌る。六部尙書と共に七卿と稱せらる。淸には左都御史、滿人・漢人各〻一人を置き、官吏の服務を察覈し、綱紀を整飭することを掌る。〔續通典、職官典、御史臺、御史大夫〕洪武十五年、罷二御史臺一、置二都察院一、設二監察御史八人一、十六年、設二左右都御史各一人一、權位赫然、同二六部尙書一稱二七卿一、與二前代之御史大夫一無レ異矣、其職掌下糾二劾百司一、辨二

明冤枉一、提中督各道上、爲二天子耳目、風紀之司一。〔歴代職官表、都察院、國朝官制〕都察院左都御史、滿洲漢人各一人、左副都御史、滿洲漢人各二人、掌下察二覈官常一、整中飭綱紀上。〔淸會典、吏部、官制〕都察院、左都御史、滿洲一人、漢一人。

【左都候吏】520 サトコウリ　官名。都候（11－39509・・55）を見よ。

【左圖右史】521 サトイウシ　藏書の豐富なこと。唐の楊誼が、一室に獨處し、左右皆圖史であつた故事。左右圖史（45）を見よ。

【左圖右書】522 サトイウショ　圖を左にし、書を右にする。圖書にしたしむこと。〔王褘、詠二歸亭一賦〕既琴瑟之在レ前兮、亦左レ圖而右レ書。〔鄭棠、長江天塹賦〕桂楫蘭舟、左レ圖右レ書。

【左內率府】523 サナイソツプ　內率府（1－1418・・547）を見よ。

【左班殿直】524 サハンデンチョク　宋代、宮廷に宿直する武官の名。〔宋史、職官志九〕武臣三班、云云、左班殿直、轉二右侍禁一。

【左往右往】525 サワウウワウ　四方八方へばらばらに亂れ散ること。混亂するさま。右往左往（2－3250・・239）に同じ。

【支レ左屈レ右】526 ヒダリヲササヘミギヲクツス　左を支へ、右を屈する。射の姿勢をいふ。左手を眞直ぐ伸ばして弓を張り支へ、右手を折り曲げて弦を引くこと。〔戰國、西周策〕楚有二養由基者一、善レ射、去二柳葉一者百步、而射レ之百發百中、左右皆曰、善、有二一人一過曰、善射、可レ教レ射也矣、養由基曰、人皆善、子乃曰レ可レ教レ射、子何不二代レ我射一レ之也、客曰、我不レ能レ教二子支レ左屈一レ右、夫射二柳葉一者、百發百中、而不二以レ善息一、少焉氣力倦、弓撥矢鉤、一發不レ中、前功盡矣。

【尙レ左尙レ右】527 ヒダリヲタツトビミギヲタツトブ　或は左をたつとび、或は右をたつとぶ。左右何れをたつとしとしたかは時代によつて異なり、古來之を論ずる者多く、宋の戴埴の鼠璞に左右、淸の左暄の三餘續筆に左右、錢大昕の十駕齋養新錄に左右、凌揚藻の蠡勺編に古以レ右爲レ尊、虞兆湰の天香樓偶得に與レ左與レ右などの諸篇がある。今、趙翼の陔餘叢考に依り歴代の制を示せば次の如くである。

三代	朝官	尙レ左
	燕飮・凶事・兵事	尙レ右
戰國		尙レ右（軍中尙レ左）
秦		尙レ右
兩漢		尙レ右
六朝	朝官	尙レ左
	燕飮	尙レ右
唐		尙レ左
宋		尙レ左
元		尙レ右
明		尙レ左
清		尙レ左

〔陔餘叢考、尙レ左尙レ右〕尙レ左尙レ右、諸家之說紛紛、老子經武章云、君子居則貴レ左、用レ兵則貴レ右、又云、凶事尙レ右、按、凶事・兵事之尙レ右、固有二明證一、檀弓、孔子拱而尙レ右、二三子皆尙レ右、孔子曰、我則有二姊之喪一故也、此凶事之尙レ右也、左傳、楚莊王乘二左廣一以逐二晉師一、見三右廣將二從レ之乘一、屈蕩止レ之曰、君以レ此始、亦以レ此終、自レ是楚之乘廣尙レ左、則偶然王乘二左廣一得レ勝、遂改從レ尙レ左、可レ見二平時用レ兵亦已尙一レ右也、此戎事尙レ右之證也、戎事凶事既尙レ右、則非二戎事兵事一、自當レ尙レ左、詩書所レ載、凡言二左與一レ右、必曰二左右一、而不レ曰二右左一、則左先二於右一可レ知、觀禮、諸侯朝二於天子一、同姓西面北上、異姓東面北上、若論二異姓爲一レ後之義、則朝儀固尙レ左、檀弓、二三子因下孔子有二姊喪一之言上、遂改而尙レ左、則平時本亦尙レ左、此明證也、惟鄕飮酒禮、主人就二東階一、客就二西階一、所謂賓西北取二天地尊嚴之氣一、主東南取二產レ物以養一レ人、此則別有レ取レ義、而後人習三見夫賓位居レ右以爲二尊敬一、遂凡事皆尙レ右、左傳、晉士蔿曰、分レ土而封レ之、是左レ之也、王叔與二伯輿一爭レ政、王右二伯輿一、國策、趙王以二藺相如一爲二上卿一、位二廉頗右一、頗曰、相如徒以二口舌一位在二我上一、我必殺レ之、蘇代謂二魏王一曰、公孫衍將二右レ韓而左一レ魏、田文將二右レ齊而左一レ魏、說苑、君道篇、郭隗曰、君將二東面以求レ臣、則斷役之材至、西面以求レ臣、則朋友之材至一、此皆戰國尙レ右之明證也、史記鴻門之宴、項王東向坐、韓信得二廣武君一、東向而師二尊之一、則秦時亦尙レ右、漢承二秦制一、亦以レ右爲レ尊、史記、陳平願下以二右丞相一讓中周勃上、帝乃以レ勃爲二右丞相一、位次二第一一、平爲二左丞相一、位次二第二一、武安侯勢在二己之右一者上必陵レ之、在二己之左一者則敬レ之、漢書、黃霸初以レ入レ穀爲レ吏、馮翊以二其入一レ財得レ官、不レ署二右職一、顏師古曰、右職、高職也、其有二得レ罪下遷者一、則曰二左遷一、史記、韓王信謂二漢王一曰、項王王二諸將善地一、而王獨遠居、是左遷也、漢書、高祖欲下以二周昌一爲中趙相上、昌不レ肯、高祖曰、吾極知二其左遷一、又諸侯王表序云、武帝有二衡山淮南之謀一、乃作二左官之令一、服虔曰、仕二於侯國一者曰二左官一、以レ不レ得レ仕二於王朝一也、是兩漢尊レ右卑レ左、久爲二定制一、至二漢以後一、改從レ尙レ左、則不レ知レ始二於何時一、梁書、天監六年詔曰、近代元日朝畢、次會二羣臣一、就二西壁下一東向坐、求二之古義一、王者讌二萬國一、惟應二南面一、何更居二東面一、於レ是御座南向、以二西方一爲レ上、皇太子以下在二北壁一坐者、悉西邊東向、尙書以下在二南方一坐者、悉東邊西向、是梁時雖レ正二南面之位一、而殿廷讌二會諸臣一、猶以レ西爲レ上、然南史、宋元嘉六年、以二臨川王義慶一爲二左僕射一、吏部尙書江夷爲二右僕射一、北史、齊天統三年、以二段韶一爲二左丞相一、賀拔仁爲二右丞相一、武平二年、以二右丞相斛律光一爲二左丞相一、皆以レ左序二於右之先一、則六朝時、官序已皆尙レ左、而天監會二讌羣臣一、仍以レ西爲レ上者、蓋專屬二讌會坐次一耳、大抵三代以上、朝班官序、本皆尙レ左、惟燕飮之事、沿二鄕飮酒禮一以レ右爲レ尊、其後相習爲レ常、遂一概尙レ右、至二六朝一官序已上レ左、而燕席猶尙レ右也、唐時、朝制尙レ左、尤有二明證一、顏師古注二漢書一、其於二左遷一則曰、是時尊レ右卑レ左、故謂二貶秩一爲二左遷一、其於二左官之令一則曰、漢依二古制一、朝廷之例、以レ右爲レ尊、故謂二降秩一爲レ左、師古係二唐人一、而謂レ尊レ右、是漢制可レ見、唐時一切皆尙レ左、宋宣仁太皇太后、欲レ令三欽聖向太后居二寧壽宮一、后辭曰、安有二姑居レ西、而婦處レ東、失二上下之禮一、遂居二隆祐宮一、戴埴鼠璞亦云、本朝官制如二左右僕射・左右丞相・左右丞・左右司諫一、皆不二以レ右爲一レ尊、而獨以二右文一爲二秘省殿名一何也、此又宋以來尙レ左之可レ考者、至二有元一代之禮一、則皆尙レ右、元史、或薦二趙世延參知政事一、仁宗曰、世延誠可レ用、然雍古氏非二漢人一、其署宜レ居レ右、遂以二阿散一爲二右丞相一、世延參知政事、文宗以三燕帖木兒有二大功一、欲三獨相以寵二異之一、乃以爲二右丞相一、罷二左丞相一不レ設、搠思監先爲二中書左丞相一、尋進二右丞相一、是元時以レ右爲レ尊也、今之尙レ左、則自二明太祖一始、太祖稱二吳王一時、猶沿二元制一尙レ右、以二李善長一爲二右相國一、徐達爲二左相國一、及下滅二張士誠一後上、始改二禮儀一尙レ左、乃以二善長一爲二左相國一、徐達爲二右相國一、黃瑜雙槐歲抄云、吳元年丁未十月丙午之制也。

【左監門率府】528 サカンモンソツプ　監門率府（8－23032・・118）を見よ。

【左淸道率府】529 サセイダウソツプ　淸道率府（7－17695・・555）を見よ。

【左畫レ方右畫レ圓】530 ヒダリハハウヲエガキミギハヱンヲエガク　左の手で方形を畫き、右の手で圓形を畫く。兩事は同時になし難い喩。又、甚だ才能の優れてゐる喩。〔韓非子、功名〕右手畫レ圓、左手畫レ方、不レ能二兩成一。〔韓非子、外儲說左下〕人莫三能左畫レ方、而右畫一レ圓也。〔史記、龜策傳〕人雖レ賢、不レ能二左畫レ方、右畫一レ圓。〔隋書、劉炫傳〕炫左畫レ方、右畫レ圓、口誦、目數、耳聽、五事同擧、無レ有二遺失一。

【左國易一家言】531 サコクエキイツカゲン　書名。三卷。谷川順祐撰。左傳・國語中の易占に關するものを抄出して注論す。〔大阪名家著述目錄〕。

【左能塞長官司】532 サノウサイチヤウクワンシ　土司の名。雲南省石屛縣の南、元江縣の界。もとの司陀甸寨。明、長官司を置いて、雲南省臨安府に屬す。土長官は吳氏。淸の順治の初、改めて土舍とした。〔明一統志〕左能塞長官司、在二臨安府城西南二百三十里一。

【左不是右不是】533 tsuo^3 pu^2 shih^4 yu^4 pu^2 shih^4　どうやつてもうまく行かぬ。

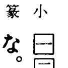
【欲レ左左欲レ右右】534 ヒダリセントホツスレバヒダリセヨミギセントホツスレバミギセヨ　殷の湯王が、網を四方に張り天地四方の鳥獸を皆網にかけようと祈る者を見て、自ら其の網の三方を解き、左へ行かうと思ふものは左へ行け、右

へ行かうと思ふものは右へ行け、唯我が命に従はないもののみ網にかかれと祈つたといふ故事。湯の德の鳥獸にまで及んだのをいふ。〔史記、殷本紀〕湯出、見丁野張二網四面一、祝曰丙自二天下四方一皆入乙吾網甲、湯曰、嘻盡レ之矣、乃去二其三面一、祝曰、欲レ左左、欲レ右右、不レ用レ命乃入二吾網一、諸侯聞レ之曰、湯德至矣、及二禽獸一。

【左元放盤中釣二鱸魚一】535 サゲンハウバンチユウロギヨヲツル　後漢末の左慈が、魏の曹操の坐前に於て、仙術を以て、盤中から鱸魚を釣り出した故事。元放は慈の字。〔後漢書、方術、左慈傳〕左慈字元放、嘗在二司空曹操坐一、操曰、今日高會珍羞略備、所レ少松江鱸魚耳、放於二下坐一應曰、此可レ得也、因求二銅盤一貯レ水、以二竹竿餌一釣二於盤中一、須臾引二鱸魚一出。

【巧】8721

一 カウ ケウ 〔集韻〕苦絞切 巧 くー幺ˇ ch'iao³
二 カウ ケウ 〔集韻〕口教切 效


小篆

一二 ❶たくみ。たくらみ。たくみな。㋑わざ。〔說文〕巧、技也、从レ工丂聲。〔馬融、長笛賦〕工人巧士。〔注〕善曰、巧、伎巧也。㋺はたらき。うでまへ。〔廣韻〕巧、能也。〔孟子、離婁上〕公輸子之巧。㋩上手。達者。〔老子、四十五〕大巧若レ拙。〔魏文帝、彈棊賦〕惟彈棊之嘉巧、邈超絕其無レ儔。㋥こしらへ。つくり。さいく。かざり。〔漢書、揚雄傳下〕郤二翡翠之飾一、除二彫琢之巧一。㋭しかけ。からくり。〔後漢書、張衡傳〕衡善二機巧一。㋬いつはり。〔集韻〕巧、僞也。〔呂覽、論人〕去二巧故一。〔注〕巧故、僞詐也。㋣くはだて。〔漢書、貢禹傳〕各用二智巧一。㋠よい。〔詩、小雅、雨無正〕巧言如レ流。〔箋〕巧、猶レ善也。㋷うるはしい。みめよい。〔廣韻〕巧、好也。〔詩、衞風、碩人〕巧笑倩兮。㋦さとい。はしこい。すばやい。〔楚辭、離騷〕余猶惡二其佻巧一。〔注〕巧、利也。㋸すなほ。なだらか。よどみがない。〔禮、表記〕辭欲レ巧。〔注〕巧、謂二順而說一也。❷たくみに。〔史記、張湯傳〕必舞レ文巧詆。❸たくみにする。うはべをかざる。〔漢書、翟方進傳〕靜言令色、外巧內嫉。〔後漢書、寇恂傳〕拒二讒慝之謗一、絕二邪巧之言一。❹はかる。かんがへる。〔禮、仲尼燕居〕目巧之室。〔注〕目巧、謂下但用二巧目善意一云云上。❺古は丂（1－3）・扝（5－11775）に作る。〔說文〕丂、古文、又㠯爲二巧字一。〔集韻〕巧、古作レ扝。❻或は恐（4－10433）に作る。〔集韻〕巧、或从レ心。❼工（4－8714）に通ず。〔書、皐陶謨〕天工人其代レ之。〔漢書、律歷志〕天巧人其代レ之。❽攷（5－13120）に通ず。〔莊子、徐無鬼〕見二巧於王一。〔釋文〕巧、崔本作レ攷。❾一百六韻の一。上聲第十八。❿

現 都合よい。

名乘 ヨシ。

【巧意】1 カウイ　たくみな考。〔文心雕龍、風骨〕雖レ獲二巧意一、危敗亦多。〔雍陶、千金裘賦〕製二珍裘一兮、巧意無レ遺。

【巧醫】2 カウイ　たくみな醫者。〔論衡、別通〕醫能治二一病一、謂二之巧一、能治二百病一、謂二之良一。

【巧韻】3 カウヰン　たくみなひびき。妙なる音樂。〔陸龜蒙、感レ事詩〕古來信二簧舌一、巧韻凄鏘曲。

【巧衞】4 カウエイ　たくみに人に媚びて身をまもり榮えること。〔呂覽、士容〕德行尊レ理、而羞レ用二巧衞一。〔注〕尊二重道理一、而行羞下以二巧媚一自榮衞上也。

【巧弈】5 カウエキ　たくみな勝負事。〔韓維、答二崔象之一詩〕分明四座鬪二巧弈一、聊以二勝負一爲二歡娛一。

【巧應】6 カウオウ　たくみに應ずる。上手にとり入る。〔亢倉子、賢道〕若天子苛察、大臣躁急之求レ士也、則曲心巧應、毀方破道之材至。

【巧家】7 カウカ　縣名。民國、置く。漢の三絳縣の地。清の雍正中、會澤縣を巧家に設け、嘉慶中、東川府巧家同知を設く。其の所管の二十一寨は、もと慶成里と名づく。雲南省會澤縣の西北。縣城は金沙江の東岸に瀕す。

【巧芽】8 カウガ　蜀の語。七夕に綠豆を浸して芽ばえさせること。〔玉梅詞話〕蜀語、七夕漬二綠豆一令二芽生一、名二巧芽一。

【巧幸】9 カウカウ　たくみにとりいつて愛されること。〔唐書、韋貫之傳〕新羅人、金忠義工二巧幸一。

【巧學】10 カウガク　たくみに學ぶ。〔王融、永明九年策二秀才一文〕但赤仄深二巧學之患一、楡莢難二輕重之權一。〔注〕善曰、言今欲レ爲レ錢、若二赤仄一、則姦巧學レ鑄、深爲レ可レ患。

【巧額】11 カウガク　宋の宣和以後の婦人の額の髮の作り方。〔楓窗小牘〕汴京閨閣妝抹、凡數變、崇寧間、少嘗記憶作二大鬢方額一、宣和以後、多梳二雲尖巧額一、鬢撐二金鳳一。

【巧黠】12 カウカツ　わるがしこい。〔後漢書、宋均傳〕至二於苛察之人一、身或廉法、而巧黠刻削、毒加二百姓一、災害流亡所二由而作一。

【巧機】13 ch'iao³ chi¹　❶好機。❷精巧な機械。

【巧機會】14 ch'iao³ chi¹ huei　好機會。恰度よい時機。

【巧技】15 カウギ　たくみなわざ。〔晉書、文六王、齊獻王攸傳〕又都邑之內、游食滋多、巧技末業、服飾奢麗、富人兼羨、猶有二魏之遺弊一。

【巧僞】16 カウギ　たくみにいつはる。又、たくみないつはり。巧詐。〔莊子、盜跖〕此夫魯國巧僞人孔丘。〔漢書、地理志下〕好二訾毀一、多二巧僞一。〔漢書、匡衡傳〕巧僞之徒、不二敢比周而望一レ進。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕巧僞滋生。

【巧僞不レ如二拙誠一】17 カウギハセツセイニシカズ　巧に僞るのは、拙くとも誠心のあるのに及ばぬ。〔說苑、談叢〕士不二以レ利移一、不二爲レ患改一、孝敬忠信之事立、雖レ死而不レ悔、智而用レ私、不レ如二愚而用一レ公、故曰、巧僞不レ如二拙誠一。〔顏氏家訓、名實〕誠二於此一者形二於彼一、人之虛實眞僞、在二乎心一無レ不レ見二乎迹一、但察レ之未レ熟耳、一爲二察之所一レ鑒、巧僞不レ如二拙誠一、承レ之以二羞大一矣。

【巧曲】18 カウキヨク　たくみに曲る。曲りくねる。〔元稹、東南行〕肺肝憎二巧曲一、蹊徑絕二縈紆一。

【巧果】19 カウクワ　食物の名。饂飩粉で花の形を作り、油で炸げたもの。北京で七夕に作る。〔北京歲時志、七月〕七夕、宮中最重、市上賣二巧果一、人家設レ宴、兒女對二銀河一拜。

【巧花】20 ch'iao³ hua¹　食物の名。山東で七夕に麵粉で金魚形・蓮花形などに作る。

【巧貨】21 ch'iao³ huo⁴　贅澤品。

【巧猾】22 カウクワツ　わるがしこい。ずるい。狡猾。〔金史、章宗紀二〕巧猾之徒、雖レ有二贓汚一、一旦見レ用、猶爲二能史一。

【巧官】23 カウクワン　巧宦に同じ。〔管子、君臣下〕爲二人臣一者、變レ故易レ常、而巧官以諂レ上、謂二之騰一。〔纂詁〕巧官、猶二善仕一也。

【巧宦】24 カウクワン　巧に上官に取り入る。又、さうして出世する。又、その人。〔史記、汲黯傳〕安文深巧善レ宦、官四至二九卿一。〔潘岳、閑居賦〕岳嘗讀二汲黯傳一、至下司馬安四至二九卿一、而良史題レ之以中巧宦之目上、未三嘗慨然不二廢レ書而歎一。〔鮑照、觀二圃人藝植一詩〕巧宦賤二農牧一。〔陳子昂、贈二喬侍御一詩〕漢庭榮二巧宦一、雲閣薄二邊功一。

【巧丸】25 カウグワン　彈丸。彈子。〔韓愈、病鴟詩〕今者命運窮、遭逢巧丸兒。〔陸游、詩〕早畏二危機一避二巧丸一。

【巧計】26 カウケイ　たくみな計略。妙計。〔貢奎、無題詩〕玉琴瑤珥應二自玩一、巧計卻愛蛛絲嬌。

【巧慧】27 カウケイ　たくみでさとい。巧敏。〔漢書、儒林、孟喜傳〕持論巧慧、易家不レ能レ難。〔後漢書、桓譚傳〕巧慧小才。

【巧藝】28 カウゲイ　❶たくみ。技藝。〔晉書、戴逵傳〕少博學、好二談論一、善屬レ文、能鼓レ琴、工二書畫一、其餘巧藝、靡レ不二畢綜一。❷世說新語の篇名。

【巧譎】29 カウケツ　たくみにいつはる。又、たくみないつはり。〔呂公著、進二十事一講學篇〕漢之晁錯、欲下人主用二機權巧譎一、以參中制羣下上。

【巧月】30 カウゲツ　陰曆七月の異名。乞巧奠の月の義。乞巧（1－170··10）を見よ。

【巧劫】31 カウケフ　たくみにかすめとる。又、其のこと。〔張衡、四愁詩序〕衡下レ車、治威嚴、能內察二屬縣一、姦猾行二巧劫一、皆密知レ名、下レ吏收捕、盡服レ

擒。

【巧僞】32カウケン　たくみ。上手。僞はさとい。〔韓維、澄心堂紙詩〕君臣嬉燕盛二文綵一、駢章麗句鬭二巧僞一。

【巧言】33カウゲン　㊀たくみに飾つて實のない言葉。いつはりつくろふことば。又、言葉をつくろひ飾る。〔書、皐陶謨〕何畏二乎巧言令色孔壬一。〔詩、小雅、巧言〕巧言如レ簧、顏之厚矣。〔論語、學而〕巧言令色、鮮矣仁。〔集注〕巧、好、令、善也、好二其言一、善二其色一、致二飾於外一、務以悅レ人、則人欲肆而本心之德亡矣。〔莊子、人閒世〕巧言偏辭。〔越絕書、越絕內傳陳成恆〕巧言利辭。〔後漢書、馬援傳〕悼二巧言之傷レ類也。〔李康、運命論〕巧二言於沛公一也。
㊁詩經、小雅、節南山之什の篇名。大夫が、幽王の讒を納れるのを傷んで作る。〔詩、小雅、巧言〕巧言、刺二幽王一也、大夫傷二於讒一、故作二是詩一也。

【巧言如レ簧】34カウゲンクワウノゴトシ　たくみに飾つた言葉は、簧のやうに調子がよい。簧は笙の金葉（息によつて振動し音を發するもの）で、笙には十三簧がある。巧舌如レ簧。〔詩、小雅、巧言〕巧言如レ簧、顏之厚矣。〔箋〕顏之厚者、出レ言虛僞、而不レ知レ慙二於人一。〔後漢書、陳蕃傳〕夫讒人似レ實、巧言如レ簧。

【巧言如レ流】35カウゲンナガルルガゴトシ　たくみな言葉は水が流れるやうに他人の心にもとりさからふことがない。〔詩、小雅、雨無正〕巧言如レ流、俾二躬處レ休。〔傳〕巧言從レ俗、如二水轉流一。

【巧言亂レ德】36カウゲンハトクヲミダル　たくみな言葉は是非を變亂するから道德を亂す。〔論語、衞靈公〕子曰、巧言亂レ德、小不レ忍則亂二大謀一。

【巧言令色】37カウゲンレイショク　たくみにしやべり、顏色を善くして、こびへつらふ。不仁者のさま。〔書、皐陶謨〕何畏二乎巧言令色孔壬一。〔論語、學而〕巧言令色、鮮矣仁。〔集解〕包咸曰、巧言、好二其言語一、令色、善二其顏色一、皆欲レ令二人說レ之、少二能有レ仁也。

【巧眩】38カウゲン　たくみに人の目をくらます。〔後漢書、陳元傳〕離朱不下爲二巧眩一移上目。

【巧故】39カウコ　いつはり。たくらみ。〔呂覽、論人〕釋二智謀一、去二巧故一。〔注〕巧故、僞詐也。〔淮南子、俶眞訓〕巧故萌生。

【巧鼓】40カウコ　たくみに辯解する。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕安能巧二鼓于羣言之下一。

【巧語】41カウゴ　たくみな言葉。巧に飾り立てていふ語。〔白居易、鸚鵡詩〕人憐二巧語一情雖レ重、鳥憶二高飛一意不レ同。〔溫庭筠、碌碌古詞〕忠言未レ見レ信、巧言翻咨嗟。

【巧語花言】42 ch‘iao^2 yü^3 hua^1 yen^2　うまい言葉。たくみな言語。〔西廂記、張君瑞害相思雜劇〕對人前巧語花言、沒人處便想張生、背地裏愁眉淚眼。

【巧工】43カウコウ　たくみな工匠。うでのよい職人。〔墨子、法儀〕無二巧工不巧工一。〔西京雜記、一〕長安巧工丁緩者、爲二常滿燈一。

【巧構】44カウコウ　たくみにかまへる。〔鍾嶸、詩品、上〕其源出二於王粲一、文體華淨少二病累一、又巧二構形似之言一、雄二於潘岳一、靡二於太沖一。

【巧詐】45カウサ　ことばたくみに人をあざむく。いつはりあざむく。〔韓非子、解老〕衣食之業絕、則民不レ得レ無レ飾二巧詐一。〔管子、牧民〕民無二巧詐一。〔商子、愼法〕施二其巧詐一。〔史記、日者傳〕倍レ力爲二巧詐一。

【巧詐不レ如二拙誠一】46カウサハセツセイニシカズ　巧にいつはりあざむくのは、拙くとも誠心があるのに及ばぬ。〔韓非子、說林上〕故曰、巧詐不レ如二拙誠一、樂羊以レ有レ巧見レ疑、秦西巴以レ有レ罪益信。〔魏志、劉曄傳、注〕諺曰、巧詐不レ如二拙誠一。

【巧妻】47カウサイ　かしこいつま。巧妻常伴二拙夫一眠を見よ。

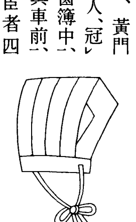
【巧妻常伴二拙夫一眠】48カウサイハツネニセツプニトモナツテネムル　よい妻は、とかく愚夫につれそふ。人世は意の如くならぬ喩。〔五雜組、事部、四〕近時唐伯虎亦有レ詩云、駿馬每馱二癡漢一走、巧妻常伴二拙夫一眠、世閒多少不平事、不レ會レ作レ天莫レ作レ天。〔陔餘叢考、成語〕巧妻常伴二拙夫一眠、謝在杭詩。〔通俗編、倫常、巧妻常伴二拙夫一眠〕見二武漢臣生金閣劇一。

【巧造】49カウザウ　たくみにつくる。〔韓愈、答二劉秀才一論レ史書〕甚者附黨憎愛不レ同、巧二造語言一、鑿空構二立善惡一、事迹於レ今何所二承受取一レ信、而可下草草作二傳記一令上傳二萬世一乎。

【巧策】50カウサク　たくみなはかりごと。〔韓駒、葺春軒詩〕何用二北窓一繙二巧策一、且向二東亭一弄二春色一。

【巧士】51カウシ　わざにたくみな人。〔墨子、雜守〕有二巧士一、有二使士一。〔馬融、長笛賦〕工人巧士、肆レ業脩レ聲。〔注〕善曰、巧、伎巧也。

【巧士冠】52カウシクワン　冠の名。漢代、郊天の祭に黃門從官の冠するもの。晉も之を用ひた。〔後漢書、輿服志下〕巧士冠、高七寸、要後相通直豎、不二常服一、唯郊天、黃門從官四人、冠レ之在二鹵簿中一、次二乘輿車前一、以備二宦者四星一云。〔通典、禮典、嘉禮、巧士冠〕漢制、高七寸、前後相通、直豎、似二高山冠一、不二常服一、唯郊天、黃門從官者四人、冠レ之在二鹵簿中一、次二乘輿車前一、以備二宦者四星一云、晉因レ之、自後無レ聞。


巧士冠
（圖禮三）

【巧子】53 ch‘iao^3 tzŭ　陰莖。

【巧思】54カウシ　たくみな考。〔南史、張永傳〕又有二巧思一、益爲二文帝所レ知、紙墨自皆營造。〔唐書、姜確傳〕確、字行本、云云、行本性恪敏、所レ居官、雖二祁寒烈暑一無二懈容一、加有二巧思一、凡朝之營繕所レ司、必諮而後行。〔羅鄴、自角簟詩〕疊玉駢珪巧思長、露華烟魄讓二清光一。

【巧思力索】55カウシリキサク　たくみに考へ、つとめて求める。〔依田學海、裏海之勝〕殆類二巧思力索者一。

【巧嘴】56 ch‘iao^2 tsuei^3　言葉たくみな。

【巧嘴八哥】57 ch‘iao^2 tsuei^3 pa^1 ko　巧に喋舌る鸚鵡の一種。

【巧辭】58カウジ　たくみな言辭。巧言。〔史記、仲尼弟子傳〕子貢利口巧辭、孔子常黜二其辯一。

【巧日】59 ch‘iao^3 jih^4　巧夕（78）に同じ。

【巧者】60カウシヤ　たくみな人。上手。〔淮南子、說林訓〕雖二巧者一弗レ能レ爲レ工。

【巧者勞】61カウシヤハラウス　巧者は却つて勞が多い。〔莊子、列禦寇〕巧者勞而智者憂、无レ能者無レ所レ求、食而遨遊、汎若二不レ繫之舟一。

【巧者有レ餘拙者不レ足】62カウシヤハアマリアリセツシヤハタラズ　上手な者には餘りが生ずるが、下手な者には不足が生ずる。〔史記、貨殖傳序〕貧富之道、莫二之奪予一、而巧者有レ餘、拙者不レ足、故太公望封二於營丘一、地潟鹵、人民寡、於レ是太公勸二其女功一、極二技巧一、通二魚鹽一。

【巧匠】63カウシヤウ　仕事の上手な大工。又、藝のうまい人。藝人。〔韓非子、有度〕巧匠目意中レ繩、然必先以二規矩一爲レ度。〔呂覽、分職〕必任二巧匠一。〔史記、魏其武安侯傳〕蚡所レ愛倡優巧匠之屬。〔漢書、灌夫傳〕倡優巧匠。

【巧雀】64カウジヤク　鷦鷯ミソサザイの異名。巢を作るに、巧であるから名を得た。工雀。巧女（102）。巧婦（124）を見よ。〔事物異名錄、禽鳥、鷦鷯〕禽經注、鷦鷯、桃雀也、狀類二黃雀一而小、燕人謂二之巧婦一、亦謂二之女鴎一、關東人呼曰二巧雀一、亦謂二之巧女一。

【巧手】65カウシユ　上手。たくみな者。〔六韜、虎韜、軍用〕巧手三百人。〔陳師道、送二杜侍御純陝西轉運一詩〕巧手莫レ爲無二麵餠一、誰能留レ渴須レ遠井。

【巧從】66カウジユウ　言葉たくみにへつらふ。〔國語、鄭語〕夫虢石父、讒諂巧從之人也。

【巧飾】67カウショク　たくみにかざる。〔逸周書、官人解〕其言工巧飾。〔蜀志、諸葛亮傳〕游辭巧飾。

【巧心】68カウシン　たくみな心。うまい考。〔漢書、宣帝紀〕今則不レ然、用レ法或持二巧心一。〔陸機、文賦〕雖三濬發二於巧心一、或受二欰於拙目一。

【巧臣】69カウシン　たくみに上にとり入る臣。巧宦。〔韓非子、難四〕知レ微之謂レ明、無二救赦一之謂レ嚴、不レ知二齊之巧臣一、而誅二魯之成亂一、不二亦妄一乎。

【巧進】70カウシン　たくみに立身を謀る。〔蘇軾、上二神宗皇帝一書〕夫常調之人、非レ守則令員多二闕少一、久已患レ之、不レ可下復開二多門一以待中巧進上。

【巧人】71 ch‘iao^3 jen^2　上手な人。利巧な人。

【巧倕】72カウスイ　細工のうまい倕。倕は堯の時の巧工の名。〔楚辭、九章、懷沙〕巧倕不レ斲兮、孰察二其撥正一。〔注〕倕、堯巧工也。

【巧趨】73カウスウ　たくみにはしる。〔詩、齊風、猗嗟〕巧趨蹌兮、射則臧兮。〔傳〕蹌、巧趨貌。

【巧製】74カウセイ　たくみに作る。又、其の作品。〔徐陵、玉臺新詠序〕但往世名篇、當今巧製。

【巧笑】75カウセウ　愛らしくわらふ。巧は好。巧笑倩

兮美目盼兮を見よ。〔陸雲、爲二顧彦先一贈レ婦詩〕雅步擢二纖腰一、巧笑發二皓齒一。

【巧笑花】76（カウセウクワ）　蓮花の異名。〔事物異名錄、花卉、芙蓉〕芮挺章詩、芙蓉巧笑花。

〖巧笑倩兮美目盼兮〗77（カウセウセンタリビモクヘンタリ）　につこり笑つた口もとは愛らしく、目は黑白がはつきりしてゐる。美人の形容。巧は好。倩は口もとの愛らしいこと、又、笑ふさま。盼は目の黑白分明なこと、又、目を動かすさま。〔詩、衞風、碩人〕巧笑倩兮、美目盼兮。〔傳〕倩、好口輔、盼、白黑分。〔論語、八佾〕子夏問曰、巧笑倩兮、美目盼兮、素以爲レ絢兮、何謂也。〔集解〕馬融曰、倩、笑貌、盼、動レ目貌。〔劉寶楠正義〕詩毛傳、倩、好口輔、輔者、頰也、人笑則口頰必張動也、倩以レ言巧、巧卽好也、此注謂二笑貌一者、倩是形容之辭、意亦與レ毛同矣、詩傳又云、盼、白黑分也、說文同、字林、盼、美目也、與レ毛不レ異、若下韓詩章句但云二黑色一、及此注以爲上レ動レ目、皆屬二異義一。

【巧夕】78（カウセキ）　七夕。乞巧奠を行ふからいふ。乞巧（**1**－**170**··10）を見よ。〔劉克莊、卽事詩〕粵人重二巧夕一、燈火到二天明一。〔何景明、七夕詩〕楚客羈魂驚二巧夕一、燕京風俗鬪二穿針一。

【巧石】79（カウセキ）　たくみに彫刻した石。〔瑯嬛記〕羲之有二巧石筆架一、名二扈班一。

【巧籍】80（カウセキ）　たくみなかきもの。いつはりの文書。〔沈約、論二譜籍一疏〕僞狀巧籍、歲月滋廣。

【巧拙】81（カウセツ）　たくみなこととつたないこと。巧妙と拙劣。上手と下手。〔荀子、議兵〕巧拙有レ幸焉。〔韓非子、難勢〕車馬非レ異也、或至二乎千里一、或爲二人笑一、則巧拙相去遠矣。〔史記、律書〕用レ之有二巧拙一。〔陳琳、爲二曹洪一與二魏文帝一書〕守無二巧拙一。

【巧說】82（カウセツ）　言葉たくみにのべる。〔韓非子、飾邪〕民好二上交一、則貨財上流、而巧說者用。〔史記、貨殖傳〕南楚好辭、巧說少レ信。〔漢書、藝文志〕便辭巧說。

【巧節】83（カウセツ）　七夕（**1**－**6**··313）·乞巧（**1**－**170**··10）に同じ。七月七日、たなばたつめを祭る。

【巧緤】84（カウセツ）　たくみにつなぎとめる。〔庾信、謝三趙王賚二白羅袍袴一啓〕未レ有三懸機巧緤、變二躡奇文一。

【巧舌】85（カウゼツ）　口先のたくみなこと。たくみな言葉。巧辯。巧言。〔盧仝、感レ古詩〕蒼蠅點二垂棘一、巧舌成二錦綺一。

〖巧舌如レ簧〗86（カウゼツクワウノゴトシ）　巧言如レ簧（34）に同じ。〔劉兼、誡二是非一詩〕巧舌如レ簧總莫レ聽、是非多自二愛憎一生。

【巧捷】87（カウセフ）　たくみですばやい。身がる。〔淮南子、俶眞訓〕非レ不二巧捷一也。〔吳志、胡綜傳〕巧捷詭辯。〔曹植、名都篇〕連翩擊二鞠壤一、巧捷惟萬端。

【巧贍】88（カウセン）　たくみでゆたか。技術がうまく材料が豐富であること。〔圖畫見聞誌〕陳用智工レ畫、佛道·人馬·山川·林木、精詳巧贍。

【巧狙】89（カウソ）　わざにたくみな猿。すばしこい猿。〔莊子、徐無鬼〕吳王浮二於江一、登二乎狙之山一、衆狙見レ之、恂然棄而走、逃二於深蓁一、有二一狙一焉、委蛇攫抓、見二巧乎王一、王射レ之、敏給搏二捷矢一、王命二相者一趨射レ之、狙執死、王顧謂二其友顏不疑一曰、之狙也、伐二其巧一、恃二其便一、以敖レ予、以至二此殛一也、戒レ之哉、嗟乎、無下以二汝色一驕上レ人哉。

【巧速】90（カウソク）　たくみですばやい。〔陸倕、感二知己一賦〕軫二工遲於長卿一、踰二巧速於王粲一。

【巧耐】91（カウタイ）　よくたへ忍ぶ。〔杜甫、人日詩〕樽前柏葉休レ隨レ酒。勝裏金花巧耐レ寒。

【巧態】92（カウタイ）　うるはしいすがた。媚態。〔後漢書、宦者傳贊〕舞文巧態、作レ惠作レ威。〔南史、陳後主紀〕麗服巧態。

【巧琢】93（カウタク）　たくみな玉細工。〔楊維楨、王母醉歸圖詩〕阿母嬉レ春淡妝束、雲冠巧琢梅花玉。

【巧斲】94（カウタク）　たくみにけづる。〔劉躍、奇石詩〕巧斲慙二羣匠一、神鞭謝二六丁一。

【巧諑】95（カウタク）　たくみにそしる。又、たくみなそしり。〔韓愈·孟郊、納涼聯句〕直道敗二邪徑一、拙謀傷二巧諑一。

【巧談】96（カウダン）　言葉たくみに話すこと。上手な口まへ。〔北史、江式傳〕俗學鄙習、復加二虛造一、巧談辯士、以レ意爲レ疑。

【巧智】97（カウチ）　たくみでさとい。はしこい。巧敏。又、うまいちゑ。〔莊子、天道〕老子曰、夫巧智神聖之人、吾自以爲レ脫焉。〔韓愈、送二高閑上人一序〕寓二其巧智一。

【巧緻】98（カウチ）　たくみでぬかりがない。巧みでこまかい。巧妙緻密。工緻（**4**－**8714**··79）に同じ。

【巧遲】99（カウチ）　たくみではあるがおそい。工遲。拙速の對。〔張協、雜詩〕巧遲不レ足レ稱、拙速乃垂レ名。〔注〕翰曰、兵權不レ尙二巧遲一、尙二拙速一也。

〖巧遲不レ如二拙速一〗100（カウチハセツソクニシカズ）　上手でおそいよりは、下手でも早い方がよい。〔孫子、作戰〕兵聞二拙速一、未レ睹二巧之久一也。〔晉書、閔王承傳〕兵聞二拙速一、未レ聞二工遲一。〔文章軌範、有字集小心文〕日晷有レ限、巧遲者不レ如二拙速一。

【巧娘】101（カウヂヤウ）　最も先に成熟する蠶。〔事物異名錄、昆蟲、蠶〕事物紺珠、起娘、頭眠蠶、巧娘、最先熟蠶。

【巧女】102（カウヂヨ）　鷦鷯（ミソサザイ）の異名。巧雀。巧婦（124）を見よ。

〖巧女姐姐〗103 ch'iao² nü² chieh³ chieh　機織の神。縫物の神。

【巧詆】104（カウテイ）　たくみにそしる。上手にけなす。詆は、そしり辱かしめる。〔史記、張湯傳〕所レ治卽豪、必舞レ文巧詆。〔漢書、汲黯傳〕刀筆之吏、專深文巧詆、陷二人於罔一、以自爲レ功。

【巧綴】105（カウテイ）　たくみにつづる。〔羅鄴、題二水簾洞一詩〕亂泉飛下翠屛中、名共二眞珠一巧綴同。

【巧典】106 ch'iao² tien³　稅金を免れる爲に、押の名で典の營業をすること。押も典も質業の名稱、押は動產を取り扱ふ。

【巧轉】107（カウテン）　たくみに轉ずる。又、機轉がきく。〔管子、小匡〕巧轉而兌利。〔纂詁〕兌、銳古通用、巧二轉事端一、而才鋒銳利。

【巧偸】108（カウトウ）　たくみにぬすむ。巧偸豪奪を見よ。

〖巧偸豪奪〗109（カウトウガウダツ）　たくみにぬすみ無理やりにうばふ。〔蘇軾、二王書跋尾詩〕巧偸豪奪古來有、一笑何似癡虎頭。〔淸波雜志〕米老酷嗜二書畫一、嘗從レ人借二古畫一自臨搨、搨竟併以二眞贋本一歸レ之、俾三其自擇、莫二能辨一也、巧偸豪奪、故所レ得爲レ多。

【巧任】110（カウニン）　たくみなこと。巧能。任は能。〔荀子、王霸〕佻二其期日一、而利二其巧任一。〔集解〕兪樾曰、莊子秋水篇曰、任士之所レ勞、釋文引李注曰、任、能也、然則巧任猶二巧能一也。

【巧佞】111（カウネイ）　たくみにへつらふ。〔列子、力命〕巧佞愚直。〔釋文〕巧佞、巧言邪佞也。〔呂覽、情欲〕巧佞之近。〔管子、立政〕巧佞者用。〔商子、賞刑〕巧佞厚樸。〔史記、五宗世家〕巧佞卑諂。

〖巧佞浮華〗112（カウネイフクワ）　辯舌たくみに人前を飾り、浮薄で飾り氣が多く、實のないこと。〔日本外史、德川氏正記〕其爲レ政、務養二士氣一、開二言路一、防二巧佞浮華之習一。

【巧能】113（カウノウ）　たくみなこと。〔列子、天瑞〕有下人鍾二賢世一、矜二巧能一、脩二名譽一、誇二張於世一、而不レ知レ己者上。

【巧挴】114（カウバイ）　たくみでむさぼる。又、貪り求めるに巧みなこと。挴はむさぼること。〔楚辭、天問〕穆王巧挴、夫何爲周流。〔注〕挴、貪也、言下穆王巧二於辭令一、貪二好攻伐一、遠征二犬戎一、得二四白狼四白鹿一、自レ是後、夷狄不レ至、諸侯不レ朝、穆王乃更巧詞周流、而往說レ之、欲中以懷來上也、一云、夫何周流、挴一作レ晦。〔補注〕方言云、挴、貪也、亡改切、其字從レ手、賈生云、品庶毎生、是也、云云、巧挴、言レ巧二於貪求一也。

【巧妄】115（カウバウ）　たくみでいつはりのこと。〔論衡、自然〕武帝幸二王夫人一、王夫人死、思レ見二其形一、道士以二方術一作二夫人形一、形成出二入宮門一、武帝大驚、立而迎レ之、忽不二復見一、蓋非二自然之眞一、方士巧妄之僞。

【巧發】116（カウハツ）　たくみに發する。巧發奇中を見よ。

〖巧發奇中〗117（カウハツキチユウ）　たくみに發した言がうまく的中する。上手に言ひあてる。〔史記、封禪書〕少君資好レ方、善爲二巧發奇中一。〔漢書、郊祀志上〕少君資好レ方、善爲二巧發奇中一。〔論衡、道虛〕善爲二巧發奇中一。

【巧拔】118（カウバツ）　たくみですぐれてゐる。〔古書品錄、第三品、戴逵〕情韻連綿、風趣巧拔。

【巧法】119（カウハフ）　たくみな方法。〔論衡、程材〕文吏幼、則筆墨手習、而行無二篇章之誦一、不レ聞二仁義之語一、長大成レ吏、舞レ文巧レ法、徇レ私爲レ己。

【巧繁】120（カウハン）　口まへよく巧にへつらふ。巧敏（123）に同じ。〔荀子、富國〕直將三巧繁拜請、而畏二事之一、則不レ足二以持レ國安一レ身、故明君不レ道也。〔集

解〕王引之曰、云云、繁、讀爲レ敏、巧敏、謂二便佞一也、臣道篇云、巧敏佞說、善取二寵乎上一、是也、云云、韓詩外傳、作下特以二巧敏拜請一畏中事之上、是其明證矣。

【巧媚】121カウビ　たくみにこびる。〔唐書、皇甫鏄傳〕鏄乃益以二巧媚一自固建、損二內外官稟一、佐二國用一。〔竇泉、述書賦〕或比レ父而疎省、或過レ師而巧媚。〔墨池〕百體千形、巧媚爭呈、豈可二一概而論一。

【巧筆】122カウヒツ　たくみな畫筆。又、畫にたくみな人。〔夢溪筆談、異事〕宋次道春明退朝錄、元豐末、予到二秀州一、人家屋瓦上、冰亦成レ花、云云、雖二巧筆一不レ能レ爲レ之。

【巧敏】123カウビン　口まへよく巧にへつらふ。便佞。巧繁(120)を見よ。〔韓詩外傳、六〕故非下有二聖人之道一、持以二巧敏拜請一畏中事之上、則不レ足二以持レ國安レ身矣。〔荀子、臣道〕巧敏佞說、善取二寵乎上一。

【巧婦】124カウフ　❶婦功にたくみな婦人。婦功は裁縫・機織等の婦人の仕事。〔古捉搦歌〕粟穀難レ舂付二石臼一、弊衣難レ護付二巧婦一。〔白居易、見二小姪龜兒詠レ燈詩一〕巧婦才人常薄命、莫レ教三兒女苦二多能一。❷鷦鷯ミソサザイの異名。たくみどり。巧雀。巧女。〔爾雅、釋鳥〕桃蟲、鷦、其雌鴱。〔注〕鷦鴜、桃雀也、俗呼爲二巧婦一。〔毛詩草木鳥獸蟲魚疏、鴟鴞〕鴟鴞似二黃雀一而小、其喙尖如レ錐、取二茅莠一爲レ巢、以レ麻紩レ之、如二刺襪一然、縣二著樹枝一、或一房、或二房、幽州人謂二之鸋鴂一、或曰二巧婦一、或曰二女匠一、關東謂二之工雀一、或謂二之過羸一、關西謂二之桑飛一、或謂二之襪雀一、或曰二巧女一。〔本草、巧婦鳥〕釋名、鷦鷯、桃蟲・蒙鳩・女匠・黃脰雀、時珍曰、按爾雅云、桃蟲、鷦、其雌曰レ鴱、揚雄方言云、自レ關而東、謂二之巧雀一、或謂二之女匠一、自レ關而西、謂二之襪雀一、或謂二之巧女一、燕人謂二之巧婦一、江東謂二之桃蟲一、亦曰、有レ呼二鳩性拙、鷦性巧一、故得二諸名一。

【巧舞】125カウブ　たくみに舞ふ。又、其の舞。妙舞。〔梁簡文帝、東飛伯勞歌〕可レ憐年幾十三四、工歌巧舞入二人意一。〔蘇舜欽、昇陽殿故址詩〕巧舞風燕翻、妖歌露鶯囀。

【巧文】126カウブン　たくみな文辭。又、文辭にたくみなこと。〔國語、晉語九〕巧文辯惠則賢。〔注〕巧文、巧二於文辭一。〔管子、大匡〕楚國之教、巧文以利、不レ好レ立二大義一、而好レ立二小信一。

【巧幣】127カウヘイ　奇巧の帛。めづらしい貨幣。〔管子、山至數〕今刀布藏二於官府一、巧幣萬物輕重、皆在二賈之一。〔纂詁〕巧幣、奇巧之帛也、在、察也、賈、買也。

【巧便】128カウベン　たくみで都合よい。又、たくみに役立てる。〔荀子、王霸〕百工忠信而不レ楛、則器用巧便、而財不レ匱矣。〔後漢書、皇甫規傳〕土地山谷臣所二曉習一、兵勢巧便、臣已更レ之。

【巧辯】129カウベン　たくみな辯舌。又、たくみにへつらふ口まへ。巧舌。〔淮南子、覽冥訓〕能黜二讒佞之端一、息二巧辯之說一。〔魏徵、論二時政一疏、第四疏〕謇諤之士、稍避二龍鱗一、便佞之徒、肆二其巧辯一。

【巧步】130カウホ　たくみにあゆむ。〔梁簡文帝、七勵〕疾趨巧步、霧袖芬披。

【巧密】131カウミツ　たくみでこまかなこと。〔陸機、演連珠〕託レ闇藏レ形、不レ爲二巧密一。〔南史、徐陵傳〕其文頗變二舊體一、緝裁巧密、多有二新意一。

【巧妙】132カウメウ　すぐれて上手なこと。又、其の人。〔北史、崔浩傳〕浩書、體勢及二其先人一、而巧妙不レ如也。〔李白、酬二守文少府見レ贈二桃竹書筒一詩〕良工巧妙稱二絕羣一。

【巧目】133カウモク　たくみに物をみる目。〔管子、法法〕雖レ有二巧目利手一、不レ如三拙規矩之正二方圓一也。

【巧冶】134カウヤ　たくみな鍛冶屋。〔淮南子、說林訓〕巧冶不レ能レ鑄レ木。〔王褒、聖主得二賢臣一頌〕巧冶鑄二干將之璞一。

【巧諛】136カウユ　たくみにへつらふ。〔商子、墾令〕巧諛惡心之民無レ變也。〔沈亞之、上二冢官一書〕瞽視而巧諛。

【巧老】137カウラウ　深く空しいさま。〔馬融、長笛賦〕庨窌巧老。〔注〕善曰、庨窌巧老、深空之貌。

【巧吏】138カウリ　狡猾な官吏。〔唐書、楊炎傳〕至德後、四方貢獻悉入二內庫一、權臣巧吏、因得四旁二緣公三託進獻一、私爲二贓盜一者、動萬萬計。

【巧略】139カウリヤク　たくみなはかりごと。妙略。

【巧力】140クヌギ　姓氏。〔日用重寶記〕。

【巧麗】141カウレイ　たくみでうるはしい。〔拾遺記〕諸天神仙、巧麗特絕。〔幽明錄〕海中有二金臺山一、高百丈、結構巧麗。

【巧了】142 ch'iao^3 la　多分。大分。

【巧曆】143カウレキ　巧歷に同じ。〔錢起、秋夜作詩〕浮生竟何窮、巧曆不レ能レ算。

【巧歷】144カウレキ　數術に精しい人。歷法にくはしい人。巧曆。〔莊子、齊物論〕一與レ言爲レ二、二與レ一爲レ三、自レ此以往、巧歷不レ能レ得、而況其凡乎。〔注〕凡物殊レ稱、雖レ有レ善數、莫二之能紀一也。〔疏〕假有下善二巧算歷一之人上、亦不レ能三紀二得其數一。〔劉峻、廣絕交論〕巧歷所レ不レ知、心計莫二能測一。〔注〕翰曰、雖下巧二於歷數一、及心算之人上、無三能知二測其委趣一也。

【巧話】145 ch'iao^3 hua^4　上手な話。巧言。

【巧媳婦】146 ch'iao^3 hsi^2 fu^4　賢い妻。

【巧團圓】147カウダンエン　戲曲の名。清、李漁撰。笠翁十種曲の一。明末に漢陽の姚繼が父を買ひ母を購つて一家會合した事を記す。

【巧巧佞佞】148カウカウネイネイ　口さきうまくへつらふさま。又、かしこげにふるまふさま。〔北史、陽固傳〕巧巧佞佞、一何工矣。

【巧克力糖】149 ch'iao^3 k'ê^4 li^4 t'ang^2　菓子の名。チョコレート。

【巧同二造化一】150カウハザウクワトオナジ　巧妙なことは造物者と同一である。〔列子、湯問〕穆王始悅而歎曰、人之巧乃可下與二造化者一同中功乎。

【巧不レ可レ階】151カウハカイスベカラズ　其の巧妙さには及ぶことが出來ない。梯をかけてもとどかない。〔梁簡文帝、與二湘東王一書〕時有下效二謝康樂・裴鴻臚文一者上、亦頗惑焉、謝故巧不レ可レ階、裴亦質不レ宜レ慕。

【巧不レ若レ拙】152カウハセツニシカズ　たくみなのは却つて拙いのに及ばない。〔淮南子、人間訓〕事有レ所レ至、而巧不レ若レ拙。

【巧爐兒匠】153 ch'iao^3 lu^2 êrh chiang^4　店を張つてゐる鑄掛師。

【巧新婦做二不レ得三無レ麵餺飥一】154カウシンプメンナキノハクタクヲナシエズ　料理の上手な人も空手では何も出來ない。〔通俗編、飮食〕巧新婦做不得無麵餺飥〕陳龍川集、答二朱元晦一書引二此諺一、雞肋編、陳無己詩、巧手莫レ爲レ無二麪餅一、卽俗語云云也。

【廻レ巧獻レ技】155カウヲメグラシギヲケンズ　各自のわざを出して外に示す。〔柳宗元、鈷鉧潭西小邱記〕擧熙熙然廻レ巧獻レ技、以效二茲邱之下一。

【藏二巧於拙一】156カウヲセツニザウス　たくみなのを隱して拙いやうに見せる。〔菜根譚、前〕藏二巧於拙一、用レ晦而明、寓二清于濁一、以レ屈爲レ伸、眞涉レ世之一壺、藏レ身之三窟也。

【絕レ巧棄レ利】157カウヲタチリヲスツ　技巧を弄することをやめ、利益を求める心をすてる。〔老子、十九〕絕レ巧棄レ利、盜賊無レ有。

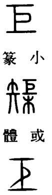
【弄レ巧成レ拙】158カウヲロウシセツヲナス　技巧を用ひ過ぎて却つて拙劣に陷る。術を弄して却つて惡結果を生ずる。〔續傳燈錄、二一、吉州青原浮居正庵宗廣禪師〕師云、弄レ巧成レ拙、僧禮拜。〔黃庭堅、拙軒頌〕弄レ巧成レ拙、爲レ蛇添レ足。〔二老堂詩話〕蜀人縷レ鳩爲レ膾、配以二芹菜一、或爲レ詩云、本欲レ將二勤補一、誰知二弄レ巧成一、皆以二拙字一爲二歇後語一也。

【巨】8722

[一] キヨ ゴ　〔集韻〕臼許切　ㄐㄩ　chü^4　語

[二] キヨ ゴ　〔集韻〕求於切　魚

慣 コ



[一] ❶さしがね。定規。榘(6-15233)・矩(8-23947)に同じ。〔說文〕巨、規巨也、从レ工、象二手持レ之、榘、巨或从二木矢一、矢者、其中正也。〔正字通〕巨、重文作レ榘、今作レ矩、矩卽榘省。〔禮、大學、有二絜矩之道一也、注〕矩、或作レ巨。〔管子、宙合〕成レ功之術、必有二巨獲一。〔注〕巨、古矩字、獲當レ爲レ矱、字之誤也、矩・矱、皆法也。❷おほきい。鉅(11-40286)に通ず。〔說文通訓定聲〕巨、叚借爲レ鉅。〔方言、一〕巨、大也、齊宋之間曰レ巨。〔小爾雅、廣詁〕巨、大也。〔公羊、哀、六〕擧二巨囊一而至二于中霤一。〔注〕巨囊、大囊也。〔孟子、梁惠王下〕爲二巨室一。

〔注〕巨室、大宮也。〔史記、楚元王世家〕過㆓巨嫂㆒食。〔注〕索隱曰、巨、大也。〔素問、厥論〕巨陽之厥。〔注〕巨陽、太陽也。㊂**あらい**。〔孟子、滕文公上〕巨屨小屨同㆑賈。〔注〕巨屨、粗屨也。〔呂覽、蕩兵〕有㆑巨有㆑微而已矣。〔注〕巨、觕略。㊃**なんぞ**。詎(**10－35370**)に通ず。〔說文通訓定聲〕巨、發聲之詞、字亦作㆑詎。〔漢書、高帝紀上〕公巨能入乎。〔注〕師古曰、巨、讀曰㆑詎。㊄古は五(**4－8715**)・王(**4－8716**)・厶(**2－3060**)に作る。〔集韻〕巨、古作㆑五。〔康熙字典〕巨、古文、五・王・厶。㊅**姓**。〔通志、氏族略、上聲〕巨氏、漢有㆓荊州刺史巨武㆒、望出㆓平昌㆒。㊆**現** **半ばにならない**。通じて腒(**9－29627**)に作る。〔集韻〕巨、未㆑央也、通作㆑腒。

名乘 ミ。ヲ。ナホ。ヲホ。

解字 象形。手に工(定規)をもつてゐる形を描いたもの。故に本義はさしがね。矩は巨と矢との合字。矢も亦中正の意。小篆の或る體、榘と書くは、矢と巨と木との合字。木はその材をあらはす。一說に、形聲。矢に從ひ、柜の聲。古文を整へたものといふ。〔說文通訓定聲〕巨、規巨也、从㆑矢柜聲、古文與㆓小篆㆒同、蓋小篆从㆓古文㆒、特整㆓齊其筆畫㆒耳。

參考 發聲の詞については詎(**10－35370**)の字を見よ。

【巨案】1 chü^4 an^4 重大な裁判事件。

【巨尉】2 キヨヰ 後漢、王琳(**7－20823**‥1080)の字。

【巨游】3 キヨイウ 後漢、李業(**6－14459**‥303)の字。

【巨狿】4 キヨエン 大きな獸の名。〔張衡、西京賦〕鼻㆓赤象㆒、圈㆓巨狿㆒。〔注〕翰曰、巨狿、大獸。

【巨翁】5 キヨヲウ 宋、徐應鑣(**4－10110**‥347)の字。

【巨億】6 キヨオク 甚だ多い數。鉅億。〔列子、湯問〕仙聖之播遷者、巨億計。〔後漢書、皇甫規傳〕動資巨億。

【巨音】7 キヨオン 大きな音。〔王褒、洞簫賦〕聽㆓其巨音㆒、則周流氾濫、并包吐含、若㆓慈父之畜㆑子也。

【巨家】8 キヨカ 富家。〔管子、山國軌〕巨家以㆑金、小家以㆑幣。

【巨廈】9 キヨカ 大きな家。〔韓偓、海山記〕巨廈之崩、一木不㆑能㆑支、洪河已決、掬壤不㆑能㆑救。

【巨海】10 キヨカイ 大きな海。〔史記、司馬相如傳〕齊東有㆓巨海㆒。〔孔子家語、困誓〕不㆑觀㆓巨海㆒。

【巨蟹】11 キヨカイ ㊀大きなかに。〔騈雅、釋蟲魚〕鰌蝥、巨蟹也。㊁天文學上の十二宮の一。鶉首の次。十二辰では未、太陽暦では六月二十二日にあたる。夏至に太陽がこの宮に至る。略號は♋。十二宮(**2－2695**‥352)の㊂を見よ。〔蟹譜〕釋典云、十二星宮有㆓巨蟹㆒焉。

〖巨蟹宮〗12 キヨカイキユウ 巨蟹の㊁に同じ。

【巨害】13 キヨガイ 大きな害。〔日本政記、淸和天皇論〕無用之卒、騷㆓動部內㆒、待㆑赦之處、還致㆓巨害㆒。

【巨孝】14 キヨカウ 後漢の江革をいふ。江革は親に事へて大孝であつたから、世人は江巨孝といつた。〔後漢書、江革傳〕建武末年、與㆑母歸㆓鄉里㆒、每㆑至㆔歲時縣當㆓案比㆒、革以㆓母老㆒、不㆑欲㆓搖動㆒、自在㆓轅中㆒輓㆑車、不㆑用㆓牛馬㆒、由㆑是、鄉里稱㆑之曰㆓江巨孝㆒。

【巨高】15 キヨカウ 後漢、曹嵩(**5－14297**‥128)の字。

【巨港】16 キヨカウ 大きな港。〔李華、弔㆓古戰場㆒文〕屍塡㆓巨港之岸㆒、血滿㆓長城之窟㆒。

【巨衡】17 キヨカウ 淸、周銓(秀水の人)(**2－3441**‥337)の字。

【巨豪】18 キヨガウ 巨萬の富を有し、權力の絕大な者。〔開天遺事〕長安富民、王元寶・楊崇義・郭萬金等、國中巨豪也。

【巨鰲】19 キヨガウ 巨鼇に同じ。〔李白、送㆓紀秀才遊㆑越詩〕卽知蓬萊石、却是巨鰲簪。

【巨鼇】20 キヨガウ 大きなうみがめ。神仙の居る海中の五山を載せてゐるといふ。〔列子、湯問〕渤海東、不㆑知㆓幾億萬里㆒、有㆓大壑㆒焉、云云、其中有㆓五山㆒焉、云云、五山之根、無㆑所㆓連著㆒、常隨㆓潮波㆒上下往還、不㆑得㆓暫峙㆒焉、仙聖毒㆑之、訴㆓之於帝㆒、帝恐㆘流㆓於西極㆒、失㆗羣聖之居㆖、乃命㆓禺彊㆒使㆘巨鼇十五擧㆑首而戴㆑之、迭爲㆓三番㆒、六萬歲一交㆖焉。〔左思、吳都賦〕巨鼇贔屓、首冠㆓靈山㆒。

【巨桷】21 キヨカク 大きなたるき。〔韓愈、和㆔李司勳過㆓連昌宮㆒詩〕夾㆑道疏槐出㆓老根㆒、高甍巨桷壓㆓山原㆒。

【巨隔】22 キヨカク 大きなへだたり。〔後漢書、王充等傳論〕有㆘宥㆓公族㆒、黥㆓國儲㆒、寬慘巨隔㆖、而防㆑非必同。

【巨壑】23 キヨガク 大きな溝。海をいふ。大壑。〔韻府引山海經注〕海曰㆓巨壑㆒。〔曹植、與㆓吳季重㆒書〕食若㆑塡㆓巨壑㆒。〔岑參、精衞詩〕西山木石盡、巨壑何時平。〔元好問、學㆓東坡㆒移㆑居詩〕得損不㆓相償㆒、坏土塡㆓巨壑㆒。

【巨額】24 キヨガク 大きなたか。莫大な金高。多額。

【巨榼】25 キヨカフ 大きな酒だる。〔陸游、醉中歌〕長缾巨榼羅㆓盃盂㆒、不㆑須漁翁勸㆓三閭㆒。

【巨幹】26 キヨカン 大きなみき。〔許謙、採藥詩〕蒼根走㆓虯龍㆒、巨幹盤㆓鐵石㆒。

【巨漢】27 キヨカン 大男。なみはづれて大きな男。

【巨檻】28 キヨカン 大船。巨艦に同じ。檻は艦。〔陸倕、石闕銘〕弘舸連㆑軸、巨檻接㆑艫。〔注〕翰曰、弘・巨、皆大也、舸・軸・檻・艫、皆舡也。

【巨艦】29 キヨカン 大きないくさぶね。大きい軍艦。〔左思、吳都賦〕弘舸連㆑舳、巨艦連㆑軸。〔五代史、李周傳〕以㆓巨艦㆒絕㆑河。〔宋史、曹翰傳〕調㆓巨艦百艘㆒、載㆑所㆑得以歸。〔朱熹、觀㆑書有㆑感詩〕昨夜江邊春水生、蒙衝巨艦一毛輕。

【巨眼】30 キヨガン ㊀大きな眼。㊁偉大な眼力。〔國朝漢學師承記、江艮庭先生〕世無㆘具㆓巨眼㆒人㆖。

【巨巖】31 キヨガン 大きな岩。〔齋藤拙堂、游㆓箕面山㆒遂入㆑京記〕有㆓巨巖㆒竦峙、大如㆓廈屋㆒。

【巨基】32 キヨキ 梁、馮道根(**12－44579**‥266)の字。

【巨旗】33 キヨキ 大きなはた。〔淮南子、兵略訓〕搴㆓巨旗㆒、止㆓鳴鼓㆒。

【巨䗁】34 キヨキ 蟬の一種。〔騈雅、釋蟲魚〕巨䗁、蟬也。

【巨虛】35 キヨキヨ ㊀獸の名。蛩蛩と共に蟨に食を得、災難が有ると蟨を負うて走るといふ。或は蛩蛩巨虛を一獸の名とする。蛩蛩巨虛(**10－33037**‥4)・邛邛岠虛(**11－39288**‥6)を見よ。〔說苑、復恩〕孔子曰、北方有㆑獸、其名曰㆑蟨、前足鼠、後足兎、是獸也、甚矣、其愛㆓蛩蛩巨虛㆒也、食得㆓甘草㆒、必齧以遺㆓蛩蛩巨虛㆒、蛩蛩巨虛見㆓人將㆑來、必負㆑蟨以走、蟨非㆔性之愛㆓蛩蛩巨虛㆒也、爲㆓其假㆑足之故也、二獸者、亦非㆓性之愛㆑蟨也、爲㆘其得㆓甘草㆒而遺㆖之故也。㊁駿馬の名。〔廣雅、釋獸〕巨虛、馬屬。〔騈雅、釋獸〕巨虛、駿馬也。㊂人體の穴の名。脛に上下二處あり、上を上巨虛、下を下巨虛といふ。〔素問、鍼解〕巨虛者、蹻㆑足䯒獨陷者。〔注〕巨虛、穴名也。

【巨魚】36 キヨギヨ 大きな魚。〔王褒、聖主得㆓賢臣㆒頌〕沛乎若㆔巨魚縱㆓大壑㆒。〔王貞白、洗㆑竹詩〕不㆑圖結㆑實來㆓雙鳳㆒、且要㆓長竿㆒釣㆓巨魚㆒。

【巨巾】37 キヨキン ひざおほひ。蔽膝。齊の地方の言葉。〔釋名、釋衣服〕韠、蔽也、所㆔以蔽㆓膝前㆒也、婦人蔽膝亦如㆑之、齊人謂㆓之巨巾㆒。

【巨屨】38 キヨク 大きなくつ。一說に、作り方のあらいくつ。〔孟子、滕文公上〕巨屨小屨同㆑賈、人豈爲㆑之哉。〔注〕巨屨、粗屨也。〔集注〕若大屨小屨同㆑價、則人豈肯爲㆓其大者㆒哉。

【巨怪】39 キヨクワイ 非常にあやしい。又、其の者。〔曹植、辯道論〕言不㆑盡㆓於此㆒、頗難㆓悉載㆒、故粗擧㆓其巨怪者㆒。

【巨誨】40 chü^4 huei^4 書翰用語。高教。大教。

【巨魁】41 キヨクワイ かしら。おやだま。首領。張本人。渠魁(**7－17764**‥9)に同じ。

【巨觥】42 キヨクワウ 大きな杯。巨杯。大白。觥は兕牛の角で作つた杯。〔淸波雜志、五〕韓蘄王每與㆓軍官㆒飮、用㆓巨觥㆒、無㆑算、不㆑設㆓果肴㆒。〔菊坡叢話〕每㆑事罰㆓一巨觥㆒。

【巨矱】43 キヨクワク ものさし。法度。矩矱(**8－23947**‥26)に同じ。〔管子、宙合〕成㆑功之術、必有㆓巨矱㆒。〔注〕巨矱、作㆓矩矱㆒。

【巨猾】44 キヨクワツ 非常にわるがしこい。又、其の者。大惡人。〔晉書、王導傳〕昔秦爲㆓無道㆒、百姓厭㆑亂、巨猾陵暴、人懷㆓漢德㆒。〔潘岳、西征賦〕梟㆓巨猾㆒而餘怒。〔唐書、韓休傳〕罪細且不㆑容、巨猾乃置不㆑問、陛下不㆑出㆓伯獻㆒、臣不㆓敢奉㆑詔。

【巨患】45 キヨクワン 大きなうれへ。又、大きな缺點。〔後漢書、韋彪傳〕貪吏割㆓其財㆒、此其巨患也。〔顏氏家訓、文章〕然亦文之巨患也。

【巨觀】46 キヨクワン 大きなみもの。壯觀。又、大きな樓觀。〔王濟、詩〕皇居偉則、芳園巨觀。

【巨願】47 キョグワン 大きな願。弘願。大願。〔宋之問、爲二東都僧一請レ留レ駕表〕發二無邊之巨願一、光二有爲之妙福一。

【巨君】48 キョクン 字號。㊀漢、王莽（7－20823‥993）の字。㊁後漢、鄭弘（11－39647‥136）の字。

【巨勳】49 キョクン 大きな功勞。〔蜀志、諸葛亮傳〕神武赫然、威二鎭八荒一、將下建二殊功於季漢一、參中伊周之巨勳上、如何不レ弔。

【巨卿】50 キョケイ 字號。㊀後漢、蓋延（9－31652‥6）の字。㊁後漢、申屠剛（7－21726‥121）の字。㊂後漢、范式（9－30834‥45）の字。㊃宋、張弘（4－9812‥305）の字。㊄明、張師載（4－9812‥1124）の字。㊅明、王文淵（7－20823‥2067）の字。

【巨卿信】51 キョケイノシン 約束して期日を違へないこと。後漢の范式が、其の友の張元伯と二年後の會合を約し、期日に違はなかつた故事。巨卿は范式の字。〔後漢書、范式傳〕范式字巨卿、山陽金鄕人也、一名氾、少遊二太學一、爲二諸生一、與二汝南張劭一爲レ友、劭字元伯、二人並告二歸鄕里一、式謂二元伯一曰、後二年當レ還、將下過二拜尊親一見中孺子上焉、乃共剋二期日一、後期方至、元伯具以白レ母、請二設レ饌以候一レ之、母曰、二年之別、千里結レ言、爾何相信之審邪、對曰、巨卿信士、必不二乖違一、母曰、若然當二爲レ爾醞レ酒、至二其日一、巨卿果到、升レ堂拜飮、盡レ歡而別。

【巨敬】52 キョケイ 明、平涼の人。諡は節愍。官は戶部主事。淸愼を以て稱せられ、惠帝の時、叛した燕王棣に召されて責問せられたが命に從はず、遂に殺さる。〔明史、一百四十一〕・〔萬斯同明史、一百八十六〕・〔明史稿、一百三十二〕。

【巨鯨】53 キョケイ 大きなくぢら。長鯨。呑舟魚。轉じて、大きなものの喩。〔韻府引、抱朴子〕見二巨鯨一而知二寸介之細一。

【巨橋】54 キョケウ 殷の紂王の倉の名。鉅橋（11－40286‥9）の㊀に同じ。〔呂覽、愼大〕武王發二巨橋之粟一。〔注〕巨橋、紂倉名。〔管子、地數〕昔武王有二巨橋之粟、貴糴之數一。〔注〕巨橋倉、在二今廣平郡曲周縣一也。

【巨碣】55 キョケツ 大きな石碑。〔廣川書跋、新驛記〕今世壯碑巨碣、尙多有レ之。

【巨闕】56 キョケツ 古の名劍の名。鉅闕（11－40286‥11）に同じ。〔越絕書、越絕外傳記寶劍〕昔者越王勾踐有二寶劍五一、聞二於天下一、客有二能相レ劍者一、名二薛燭一、王召而問レ之曰、吾有二寶劍五一、請以示レ之、云云、王曰、取二巨闕一、薛燭曰、非二寶劍一也、寶劍者金錫和レ銅而不レ離、今巨闕已離矣、非二寶劍一也、王曰、然、巨闕初成之時、吾坐二於露壇之上一、宮人有下四二駕白鹿一而過者上、車奔鹿驚、吾引レ劍而指レ之、四駕上飛揚、不レ知二其絕一也、穿二銅釜一、絕二鐵鑩一、胥中決如二粢米一、故曰二巨闕一。〔新序、雜事五〕辟閭・巨闕、天下之利器也。〔後漢書、華佗傳〕巨闕匈藏。〔曹植、寶刀賦〕踰二南越之巨闕一、超二有楚之泰阿一。〔張協、七命〕名珍二巨闕一。

【巨枿】57 キョゲツ 大きなひこばえ。〔宋史、趙遹傳〕穿二阬阱一、仆二巨枿一。

【巨鄴】58 キョゲフ 晉、孫鑠（3－6987‥154）の字。

【巨肩】59 キョケン 大きなかた。〔史記、蔡澤傳〕唐擧孰視而笑曰、先生曷鼻巨肩、魋顏蹙齃膝攣、吾聞聖人不レ相、殆先生乎。

【巨拳】60 キョケン 大きなこぶし。〔孟遲、寄二浙右舊幕僚一詩〕巨拳豈爲レ雞揮レ肋、強弩那因レ鼠發レ機。

【巨硯】61 キョケン 大きなすずり。〔沈遼、贈二磻翁龍尾硯一詩〕追琢爲二巨硯一、大筆揮二離騷一。

【巨賢】62 キョケン すぐれて偉い人。大賢。〔新書、勸學〕與二親巨賢一連レ席而坐。

【巨源】63 キョゲン 字號。㊀晉、山濤（4－7869‥725）の字。㊁宋、孫洙（3－6987‥156）の字。㊂宋、趙湘（華州の人）（10－37171‥203）の字。㊃金、王泉（7－20823‥694）の字。㊄清、許濤（10－35298‥162）の字。㊅清、蔡長澐（9－31818‥217）の字。㊆清、徐世溥（4－10110‥515）の字。㊇清、楊津（6－15112‥226）の號。

【巨戶】64 キョコ 大きい家。〔晏子、諫、下〕今公之牛馬、老二於欄牢一、不レ勝レ服也、車蠹二於巨戶一、不レ勝レ乘也。

【巨苽】65 キョコ 藟（9－32334）の異名。ふぢかづら。瓜科の一年生蔓草。〔毛詩草木鳥獸蟲魚疏、莫莫葛藟〕藟、一名巨苽。

【巨瓠】66 キョコ 大きなひさご。〔孔融、報二曹操一書〕屈穀巨瓠、堅而無レ竅。

【巨賈】67 キョコ 大きな商人。大賈。〔宜春傳信錄〕彭則爲二巨賈一、置レ產甚厚、喜二儒學一。

【巨口】68 キョコウ chü^4 k'ou^3 ㊀大きい口。巨口細鱗を見よ。㊁大言。法螺。

【巨口細鱗】69 キョコウサイリン 口が大きく鱗の小さい魚。〔蘇軾、後赤壁賦〕擧レ網得レ魚、巨口細鱗、狀如二松江之鱸一。

【巨工】70 chü^4 kung^1 大工事。大仕事。

【巨公】71 キョコウ 後漢、宣秉（3－7132‥213）の字。

【巨紅】72 chü^4 hung^2 緋色。ひいろ。

【巨寇】73 chü^4 k'ou^4 おほぬすびと。巨盜。大賊。

【巨鉤】74 キョコウ 大きなつりばり。〔莊子、外物〕任公子爲二大鉤巨緇一、云云、大魚食レ之、牽二巨鉤一、錎沒而下。

【巨構】75 キョコウ ㊀大きなかまへ。大きな建物。〔袁桷、詩〕巨構千礎承、珍裘百狐聚。㊁金、平谷の人。進士。官は橫海軍節度使。世宗に重んぜられた。〔金史、九十七〕。　「碻は石を擊つ聲。」

【巨碻】76 キョコウ 大砲をいふ。おほづつ。巨砲。巨礮。

【巨谷】77 キョコク 大きな谷。〔宋濂、送二東陽馬生一序〕負レ篋曳レ屣、行二深山巨谷中一。

【巨骨】78 キョコツ 大きな骨。〔後漢書、謝該傳〕巨骨出レ吳。〔孔子家語、辨物〕巨骨一節。

【巨恨】79 キョコン 大きなうらみ。〔張九齡、祭二張燕公一文〕追二悲緒於離筵一、結二巨恨於幽明一。

【巨棍】80 キョコン 非常なわるもの。〔福惠全書、蒞任部、馭衙役〕有二巨棍勢豪串レ黨竄入者一。

【巨鯤】81 キョコン 大きな魚。鯤は大魚の名。〔莊子、逍遙遊〕北溟有レ魚、其名爲レ鯤、鯤之大、不レ知二其幾千里一也。

【巨細】82 キョサイ ㊀大と小。〔列子、湯問〕物有二巨細一乎。〔張華、鷦鷯賦〕巨細舛錯。㊁大小すべて。事大小となく。細大。〔史記、田儋傳〕政無二巨細一、皆斷二於相一。〔後漢書、陳忠傳〕職事巨細皆任二賢能一。〔朱熹、中庸章句序〕詳略相因、巨細畢擧。

【巨濟】83 キョサイ 字號。㊀宋、倪濤（1－792‥23）の字。㊁宋、劉涇（2－2224‥227）の字。㊂金、孔彥舟（3－6933‥294）の字。

【巨材】84 キョザイ 大きな材木。轉じて、偉大な材能をいふ。〔唐、闕名氏、建木賦〕若二巨材之一見一、希二謁レ帝之有レ因。

【巨財】85 キョザイ 非常に多くの財物。巨富。

【巨壯】86 キョサウ 大きくてさかん。〔王安石、舟中望二九華山一詩〕盤根雖二巨壯一、其末乃修纖。

【巨相】87 キョサウ すぐれた人相。〔異苑〕陶侃、微時遭二父艱一、有レ人通レ刺、字不レ可レ識、心怪非常、出レ庭拜送、此人告レ侃曰、吾是王子晉、君有二巨相一、故來相看。

【巨棗】88 キョサウ 大きななつめ。〔史記、孝武紀〕臣嘗游二海上一、見二安期生一、食二巨棗大如レ瓜。

【巨嫂】89 キョサウ 一番上のあによめ。長嫂。〔史記、楚元王世家〕時時與二賓客一過二巨嫂一食。〔注〕集解曰、徐廣曰、漢書云、丘嫂也、索隱曰、應劭云、丘、姓也、孟康云、丘、空也、兄亡空有レ嫂也、此作レ巨、巨、大也、謂二長嫂一也、劉氏云、巨、一作レ丘。

【巨艘】90 キョサウ 大きな船。〔宋史、食貨志下二〕蕃舶巨艘、形若二山嶽一。

【巨象】91 キョザウ 大きな象。〔魏志、鄧哀王傳〕孫權曾致二巨象一、太祖欲レ知二其觔重一。〔王粲、遊海賦〕羣犀代レ角、巨象解レ齒。

【巨鑿】92 キョサク 大きいのみ。〔唐書、尹知章傳〕忽夢下人持二巨鑿一破二其心內一、若上劑焉。

【巨刹】93 キョサツ 大きな寺院。大寺。大伽藍。〔國史略、正親町天皇〕天目山險而有二巨刹一。

【巨山】94 キョザン 字號。㊀晉、衞恆（10－34074‥42）の字。㊁唐、徐嶠（4－10110‥114）の字。㊂唐、李嶠（6－14459‥295）の字。㊃宋、曹岠（5－14297‥48）の字。㊄宋、張嵲（4－9812‥266）の字。㊅宋、方岳（5－13620‥59）の字。㊆清、朱嶠（6－14424‥261）の號。㊇清、齊周華（12－48560‥298）の字。㊈清、程巖（8－25081‥26）の字。㊉清、李爲憲（6－14459‥844）の號。

【巨子】95 キョシ 墨家で、道を體得した者をいふ。儒家の碩儒に同じ。轉じて、中心人物・大立物・巨頭などの意に用ひる。鉅子。〔莊存、天下〕以二巨子一爲二聖人一、皆願レ爲二之尸一。〔注〕巨子、最能辨二其所レ是、以成二其行一。〔釋文〕巨子、向崔本作レ鉅、向云、墨家號二其道理成者一爲二鉅子一、若二儒家之碩儒一。

【巨之】96 キョシ 後魏、司馬準（2－3257‥270）の字。

【巨指】97 キョシ おやゆび。巨擘。〔儀禮、大射儀〕右

巨指鉤レ弦。〔注〕右巨指、右手大擘。

【巨師】98キョシ 三國蜀、龐宏（12－48824‥11）の字。

【巨貲】99 chü⁴ tzŭ¹ 大資本。

【巨緇】100キョシ 大きな黑いつりいと。〔莊子、外物〕任公子爲二大鉤・巨緇一、五十犗以爲レ餌。〔釋文〕巨緇、司馬云、大黑綸也。〔疏〕巨、大也、緇、黑繩也。

【巨州】101キョシウ 清、李紘（6－14459‥246）の字。

【巨秀】102キョシウ 晉、索綝（8－27306‥93）の字。

【巨蒐】103キョシウ 古の西戎の國名。〔列子、周穆王〕馳驅千里、至二於巨蒐氏之國一。〔注〕蒐、西戎國名。

【巨獸】104キョジウ 大きな獸。〔莊子、庚桑楚〕步仞之丘陵、巨獸無レ所レ隱二其軀一、而孽狐爲二之祥一。

【巨識】105キョシキ 偉大なものしり。大學者。〔論衡、案書〕如當三復二報寒温一、宜レ爲二雩龍之事一、鴻材巨識、第兩疑焉。

【巨室】106キョシツ ❶大きな家。大家屋。大廈。〔孟子、梁惠王下〕爲二巨室一、則必使三工師求二大木一。〔注〕巨室、大宮也。〔莊子、至樂〕人且偃然寢二於巨室一。❷先祖の代から君に仕へて居る家柄。舊勳の大家。〔孟子、離婁上〕爲レ政不レ難、不レ得二罪於巨室一、巨室之所レ慕、一國慕レ之。〔注〕巨室、世臣大家也。〔疏〕巨室、喩二卿大夫之家一也。〔蘇軾、上二神宗皇帝一書〕賂二伯石一以安二巨室一。〔剪燈新話、秋香亭記〕王氏亦金陵巨室、開二綵帛一鋪二於市一。

【巨舍】107キョシャ 大きな家。〔鹽鐵論、救匱〕横二暴掣三頓大第巨舍之旁一、道路且不レ通、此固難レ醫而不レ可レ爲レ工。

【巨匠】108キョシャウ 偉大な技術者、又、偉大な學者。

【巨牀】109キョシャウ 大きな椅子。〔唐書、李吉甫傳〕政事堂會食有二巨牀一。

【巨商】110キョシャウ 大きな商人。巨賈に同じ。

【巨觴】111キョシャウ 大きなさかづき。巨杯。〔依田學海、巨盃〕諸將迎宴、必作二巨觴一進レ之。

【巨雀】112キョジャク 大鳥の名。〔張華、鷦鷯賦〕條枝巨雀。〔注〕善曰、漢書曰、條枝國臨二西海一、有二大鳥一。

【巨手】113キョシュ 明、呉統持（2－3365‥811）の字。

【巨儒】114キョジュ 造詣の深い學者。大儒。〔鹽鐵論、雜論〕巨儒宿學。〔魏志、高堂隆傳〕宿生巨儒。

【巨樹】115キョジュ 大きな樹木。大木。〔司馬相如、子虛賦〕其北則有二陰林巨樹一。

【巨黍】116キョショ 古の良弓の名。巨粲。〔荀子、性惡〕繁弱鉅黍、古之良弓也。〔潘岳、閑居賦〕谿子巨黍、異レ絭同レ機。〔注〕善曰、孫卿子曰、繁弱・巨黍、古之良弓。

【巨勝】117キョショウ ❶黑い胡麻。黑胡麻。又、莖の四角な胡麻。苣勝。〔本草、胡麻〕釋名、巨勝、方莖、狗蝨、油麻、脂麻。集解、弘景曰、胡麻八穀之中、惟此爲レ良、純黑者名二巨勝一、巨者、大也、本生二大宛一、故名二胡麻一、又以二莖方者一爲二巨勝一、圓者爲二胡麻一。〔參同契〕巨勝尚延レ年、還丹可レ入レ口。❷後漢、周勰（2－3441‥160）の字。

〖巨勝子〗118キョショウシ 黑胡麻の種子。〔本草、胡麻油〕發明、時珍曰、按、服食家有下種二青蘘一作レ菜食法上、云、秋閒取二巨勝子一、種二畦中一、如二生菜之法一、候二苗出一采食、滑美不レ減二於葵一、則本草所レ著者、亦茹蔬之功、非レ入二丸散一也。

【巨鐘】119キョショウ 大きなつりがね。〔墨子、非樂上〕嘗爲レ之撞二巨鐘一。

【巨乘】120キョジョウ 南海の神の名。〔黃庭遁甲緣心經〕東海神名二阿明一、西海神名二祝良一、南海神名二巨乘一、北海神名二禺強一。

【巨繩】121キョジョウ 太いなは。〔蘇舜欽、依レ韻和二勝之暑飲一詩〕初如二巨繩纏一、忽似二秋蚓躍一。

【巨燭】122キョショク 大きな燈火。〔傳燈錄〕夫般若者、若二海之慈航、昏衢之巨燭一。

【巨津】123キョシン 州の名。元、置く。故治は今の雲南省麗江縣の西北。〔讀史方輿紀要、雲南、麗江軍民府〕巨津州、古西番地、唐時爲二羅婆九・睒濮獹二蠻所レ居、後麼些蠻奪二其地一、南詔又併レ之屬二麗水節度一、元初内附、至元十四年、於二九睒一立二巨津州一、屬二麗江路一、明初因レ之、亦曰二巨津州一。

【巨振】124キョシン 後魏、索敞（8－27306‥39）の字。

【巨浸】125キョシン ❶おほみづ。洪水。〔剪燈新話、水宮慶會錄〕巨浸漫漫萬族涵。❷大きな河、又は水たまり。大澤。〔劉得仁、送三新羅人歸二本國一詩〕雞林隔二巨浸一、一往一年行。〔于濆、南越謠〕迢迢東南天、巨浸無二津壖一。

【巨人】126キョジン ❶大きな人。大男。〔荀子、正論〕脯二巨人一、而炙二嬰兒一矣。〔史記、周紀〕見二巨人跡一。〔列女傳、母儀、棄母姜嫄傳〕棄母姜嫄者、邰侯之女也、當二堯之時一、行見二巨人跡一、好而履レ之、歸而有レ娠。❷すぐれた人。偉人。〔史記、周紀〕屹有二巨人之志一。

【巨刃】127キョジン 大きなやいば。〔韓愈、調二張籍一詩〕想當二施レ手時一、巨刃磨レ天揚。

【巨帥】128キョスイ 惡者のかしら。渠帥（7－17764‥21）に同じ。

【巨勢】129コセ 姓氏。

〖巨勢械田〗130コセカケヒ・コセノカシケタ コセノヒタ 姓氏。〔拾介抄〕・〔姓名錄抄〕・〔新撰姓氏錄考證〕。

〖巨勢卓軒〗131コセタクケン 京都の人。名は正德。字は子映。通稱は彥仙。號は卓軒。元祿十四年七月二十三日歿す。著に日本歷史略・蕃山先生實錄・本朝儒宗傳・本朝歷史略評注・唐土歷代捷見がある。〔近代著述目錄、後篇〕・〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕。

【巨濟】132キョセイ 大きな渡し場。〔鮑照、河淸頌序〕長河巨濟、異レ源同レ淸。

【巨石】133キョセキ ❶大きな石。〔宋玉、高唐賦〕巨石溺溺之瀺灂兮。〔司馬相如、子虛賦〕外發二芙蓉蔆華一、内隱二巨石白沙一。❷關の名。雲南省蓋達行政委員の西境、戸岡の習馬山上。騰越八關の一つ。明の萬曆二十二年建つ。戸岡からななめ西の要路を控へ制す。

【巨績】134キョセキ 大きな功勞。〔呉志、孫權傳、注〕元勳巨績、侔二於古人一。

【巨川】135キョセン ❶大きな川。〔書、說命上〕若濟二巨川一、用レ汝作二舟楫一。❷字號。㋑唐、張常洧（4－9812‥1163）の字。㋺宋、索湘（8－27306‥40）の字。㋩宋、王濟（7－20823‥666）の字。㋥金、李演（6－14459‥83）の字。㋭元、王檝（7－20823‥491）の字。㋬明、何文淵（1－511‥362）の字。㋣清、朱嶠（6－14424‥261）の號。㋠清、戴瀚（5－11685‥21）の字。

【巨先】136キョセン 字號。❶漢、原涉（2－2973‥139）の字。❷三國呉、張悌（4－9812‥570）の字。

【巨船】137キョセン 大きな船。大船。巨舶。

【巨塹】138キョセン 大きなほり。〔唐書、元載傳〕原州界二其閒一、巨塹長壕重複深固。

【巨族】139キョゾク 權力ある家がら。豪族。〔歐陽脩、集古錄跋尾、二一、後漢太尉劉寬碑陰題名〕今之譜學亡矣、雖二名臣巨族一、未三嘗有二家譜者一、然而俗習苟簡廢失者非レ一、豈止家譜而已哉。

【巨賊】140キョゾク おほぬすびと。巨盜。大賊。

【巨多】141キョタ 數が多い。甚だ多い。〔華嚴經〕耕種雖レ少、收實巨多。

【巨蛇】142キョダ 大きなへび。をろち。〔韓詩外傳、四〕楚人蛟革犀兕以爲二堅甲一、如二金石一、宛如二鉅虵一、慘若二蜂蠆一、輕利剛疾、卒如二飄風一。〔易林〕巨蛇大鰌、戰二于國郊一。〔舊唐書、五行志〕天寶中、洛陽有二巨蛇一、高丈餘、長百尺、出二于芒山下一。

〖巨蛇座〗143キョダザ 星座の名。北天星座の一。北冕座の南に位す。

【巨憝】144キョタイ 非常なわるもの。大惡人。〔福惠全書、刑名部、欽犯〕殄二此巨憝一、以安二良懦一。

【巨大】145キョダイ 甚だ大きい。又、そのもの。〔淮南子、俶眞訓〕夫牛蹏之涔、無尺之鯉、塊阜之山、無丈之材、所二以然一者何也、皆其營宇狹小、而不レ能レ容二巨大一也。

【巨盜】146キョタウ おほぬすびと。大盜。〔莊子、胠篋〕然而巨盜至、則負レ匱揭レ篋、擔レ囊而趨。〔韓非子、守道〕大勇愿巨盜貞、則天下公平、而齊民之情正矣。

【巨橐】147キョタク 大きなふいがう。〔魏文帝、劍銘〕余好二擊劍一、善以レ短乘レ長、選二茲良金一、命二彼國工一、精而煉レ之、至二于百辟一、其始成也、五色充レ鑪、巨橐自鼓、靈物髣髴、飛鳥翔舞。

【巨達】148キョタツ 三國蜀、向朗（2－3301‥96）の字。

【巨彈】149キョダン 大きなはじきだま。大きな彈丸。〔張憲、十八韻詩〕巨彈落星天狗碎、神砮出土佛牙堅。

【巨徵】150キョチョウ 唐、棲隱（6－14980‥2）の字。

【巨鎭】151キョチン ❶大きな藩鎭。〔白居易、和下渭北劉大夫借二便秋遮虜一寄中朝中親友上詩〕巨鎭爲二邦屛一、全材作二國楨一。❷chü⁴ chen⁴ 大きな町。大市街。

【巨痛】152キョツウ 非常ないたみ。〔宋書、江夏王義恭傳〕乾靈降レ禍、二凶極レ逆、深酷巨痛、終古未レ有。

【巨第】153 chü⁴ ti⁴ 巨大なやしき。大邸宅。

【巨狄】154キョテキ 秦の始皇の世に現はれた巨人。夷狄の服を着てゐたからいふ。〔揚雄、劇秦美新〕

巨狄鬼信之妖發。〔注〕善曰、漢書曰、秦始皇有二大人一、身長五丈、夷狄服、出二於臨洮一。

【巨惕】155キヨテキ　大いにおそれること。又、大なるおそれ。〔李嶠、爲二張令一讓二麟臺監封國公一表〕深憂巨惕、更切二于如臨一。

【巨電】156キヨデン　大きな電光。〔梅堯臣、古柳詩〕倏爾巨電至、萬弩聲裂レ缸。

【巨蠹】157キヨト　大惡人。蠹はきくひむし、轉じて、わるもの。巨猾。〔後漢書、虞延傳〕爾人之巨蠹、久依二城社一、不レ畏二熏燒一、今考實未レ竟、宜當レ盡レ法。〔梁武帝、申飭二選人一表〕此寔巨蠹、尤宜二刊革一。〔顏氏家訓、治家〕爲二家之巨蠹一矣。

【巨弩】158キヨド　大きないしゆみ。〔五代史、趙犨傳〕陳人舊有二巨弩數百一、皆廢壞、後生弩工皆不レ識二其器一。

【巨棟】159キヨトウ　巨大な建物の屋根。又、巨大な建物。〔羅隱、鎭海軍使院記〕肥楹巨棟、閒架相稱。〔蘇舜欽、幷州新修永濟橋記〕巨棟上偃、密楯對走。

【巨頭】160キヨトウ　大きなあたま。又、重立つた人。かしら。首領。巨魁。

【巨凸】161キヨトツ　大きくぬき出て居ること。又、そのもの。〔舒頔、胡子坑詩〕兩儀未レ判眹不レ平、巨凸突兀潛二幽靈一。

【巨囊】162キヨナウ　大きなふくろ。〔公羊、哀、六〕使下力士擧二巨囊一而至中于中霤上。〔注〕巨囊、大囊。

【巨任】163キヨニン　明、陳家棟(**11**－**41698**··686)の字。

【巨然】164キヨネン　南唐、江寧の人。開元寺の僧。李後主が宋に降るや、隨つて京に至り開寶寺に居る。畫に巧で、董源の山水を祖述して妙を極め、世に董巨と並稱せらる。〔聖朝名畫評釋〕・〔夢溪筆談〕。

【巨馬】165キヨバ　河の名。拒馬(**5**－**11957**··27)の❷に同じ。〔水經、巨馬水〕巨馬河出二代郡廣昌縣淶山一。

【巨砲】167キヨハウ　大砲。巨礮に同じ。

【巨舫】168キヨハウ　大きなふね。〔盧照鄰、奉二使益州一至二長安一發二鍾陽驛一詩〕峻阻將二長城一、高標吞二巨舫一。〔劉基、渡レ江遣レ懷詩〕濟レ河須二巨舫一、將焉用二罌缶一。

【巨棓】169キヨハウ　大きなつゑ。〔唐書、李嗣業傳〕僕固懷レ恩、掎角常爲二先鋒一、以二巨棓一笞鬭。

【巨礮】170キヨハウ　おほづつ。大砲。礮は砲。〔竹添光鴻、雙殉行〕旅順巨礮千雷轟、骨碎肉飛血雨腥。

【巨防】171キヨバウ　大きな隄防。〔呂覽、愼小〕巨防容レ螻。〔注〕巨、大。防、隄也。

【巨伯】172キヨハク　後漢、劉祉(**2**－**2224**··320)の字。

【巨舶】173キヨハク　大きな船。〔吳萊、倭人摺疊畫扇歌〕富貴巨舶窺二天星一、祝融噓レ火時所レ丁。

【巨璞】174キヨハク　大きなあら玉。〔杜甫、平侍御石硯詩〕巨璞禹鑿餘、異狀君獨見。

【巨擘】175キヨハク　おほゆび。おやゆび。轉じて、衆人に傑出した人物の喩。〔說文、指、段注〕大指曰二巨指一、曰二巨擘一。〔孟子、滕文公下〕於二齊國之士一、吾必以二仲子一爲二巨擘一焉。〔集注〕巨擘、大指也、言丁齊人中有二仲子一、如丙衆小指中有乙大指甲也。

【巨瀑】176キヨバク　大きな瀑布。〔佐藤一齋、日光山行記〕蘚崖峭絕處、乃見二一巨瀑一。

【巨筏】177キヨバツ　大きないかだ。〔五代史、李周傳〕莊宗以二巨筏一積レ薪。

【巨盤】178キヨバン　大きなたらひ。大きなぼん。

【巨庇】179キヨヒ　大いなる庇護。おかげ。〔福惠全書、稟啓附、候二水巡臺一〕所レ恃巨庇可レ乘レ雲。

【巨鼻】180キヨビ　大きなはな。〔元史、王伯勝傳〕廣顙巨鼻、狀貌屹然。

【巨彌】181キヨビ　北周、于謹(**1**－**252**··31)の小字。

【巨謬】182キヨビウ　大きなあやまり。〔後漢書、陳元傳〕以二年數小差一、掇爲二巨謬一。

【巨筆】183キヨヒツ　❶大きな筆。〔歐陽脩、廬山高贈三同年劉中允歸二南康一詩〕大夫壯節似二君少一、嗟我欲レ說、安得三巨筆如二長杠一。〔王十朋、會稽風俗賦〕磨二蒼崖一、禿二巨筆一。❷立派な文章。大文章。〔蘇軾、次三韻張安道讀二杜詩一詩〕巨筆屠龍手、微官似二馬曹一。〔黃潛、試院作詩〕鋪張須二巨筆一、衰朽愧二荒疎一。

【巨緡】184キヨビン　大きなつりいと。〔韓愈、贈二劉師服一詩〕巨緡東釣儻可レ期、與レ子共飽鯨魚膾。

【巨斧】185キヨフ　❶大きなをの。〔五代史、王彥章傳〕命二甲士六百一、皆持二巨斧一、乘レ流而下。❷かまきりの異名。螳螂。〔方言、十一、螳螂、疏證〕淮南鴻烈時則篇高誘注云螳螂、世謂二之天馮一、一名齕肬、兗豫謂二之巨斧一也。

【巨阜】186キヨフ　大きなをか。〔墨子、雜守〕諸巨阜山林溝瀆、邱陵阡陌。

【巨富】187キヨフ　大きなとみ。大金持。〔後漢書、陰興傳〕宣帝時陰子方者、至孝、臘日晨炊、而竈神形見、子方再拜受レ慶、家有二黃羊一、因以祀レ之、自レ是暴至二巨富一。

【巨毋】188キヨブ　複姓。巨毋霸を見よ。

〖巨毋霸〗189キヨブハ　漢の人。王莽の時、韓博、上言して曰く、奇士あり、身長一丈、大いさ十圍、名は巨毋霸、軺車も載する能はず、三馬も勝ふる能はず、臥すれば則ち鼓を枕にし、鐵箸を以て食ふ、これ皇天新室を輔くる所以なり。願はくは禮を厚くして之を道に迎へ、以て百蠻に示し、天下を安んぜんと。韓博は、巨毋霸の名を以て巨(王莽の字は巨君)、霸たることなしの意を寓し、暗にその簒奪を以て天下を服するを得ざる意を諷す。然るに莽は之を惡み、其の姓を改めて巨母霸となし、文母太后に因つて霸王となるの符とした。一に巨無霸に作る。〔漢書、九十九〕。

【巨風】190キヨフウ　南の風。〔呂覽、有始訓〕東南曰二熏風一、南方曰二巨風一。〔注〕離氣所レ生、一曰二凱風一。〔淮南子、墬形訓〕南方曰二巨風一。〔俞樾諸子平議〕巨乃豈之壞字、豈讀爲レ愷。

【巨福】191キヨフク　大きな幸福。〔劇談錄〕至二于妻孥已來一、皆享二巨福一。

〖巨福山〗191′コフクザン　佛鎌倉、建長寺の山號。〔佛光國師語錄、三、江湖疏〕住前眞如無學和尙、榮二日本巨福名山建長寺虔請之命一、大振二家風一、益隆二正續一。

【巨擗】192　chü⁴ p'i⁴　偉人。

【巨鼈】193キヨベツ　大きなすつぽん。〔張衡、西京賦〕其中則有二龍鼉巨鼈、鱣鯉鱮鮦、鮪鯇鰽鯊一。

【巨峯】194キヨホウ　清、勞孝輿(**2**－**2410**··139)の字。

【巨木】195キヨボク　大きな木。〔司馬相如、上林賦〕於レ是乎崇山矗矗、巃嵸崔巍、深林巨木、嶄巖㟥嵳。

【巨蟒】196キヨマウ　をろち。うはばみ。大蛇。〔山海經圖讚、補遺、蟒蛇〕蠢蠢萬生、咸以レ類長、惟蛇之君、是謂二巨蟒一、小則數尋、大或百丈。〔方輿勝覽〕鱗蛇出二安南・雲南・沅江諸處一、巨蟒也。

【巨萬】197キヨマン　甚だ多い。莫大な數。鉅萬。萬萬。〔史記、秦始皇本紀〕徐市等費以二巨萬一計、終不レ得レ藥、徒姦利相告日聞。〔史記、平準書〕京師之錢、累二巨萬一。〔注〕集解曰、韋昭曰、巨萬、今萬萬。〔史記、貨殖、范蠡傳〕子孫脩レ業而息レ之、遂至二巨萬一。

【巨溟】198キヨメイ　おほうみ。大海。〔皮日休、吳中苦レ雨因書二一百韻一寄二魯望一詩〕全吳臨二巨溟一、百里到二滬瀆一。〔吳融、沃焦山賦〕何巨溟之深也、萬古能容。

【巨門】199キヨモン　清、沈璇(**6**－**17189**··264)の號。

【巨野】200キヨヤ　大きな野。〔史記、貨殖傳〕夫自二鴻溝一以東、芒碭以北、屬二巨野一、此梁宋也。

【巨洋】201キヨヤウ　川の名。一名は具水。今の名は瀰河。俗稱は鹽河。源は山東省臨朐縣の南の沂山の西麓。東北流して臨朐縣の東から壽光縣の界を經て、瀰河口から海に入る。〔水經、巨洋水〕巨洋水、出二朱虛縣泰山北一、過二其縣西一。〔注〕巨洋水卽國語所謂具水矣、袁宏謂二之巨昧一、王韶之以爲二巨蔑一、亦或曰二朐瀰一、皆一水也。

【巨陽】202キヨヤウ　太陽をいふ。〔素問、熱論〕巨陽者、諸陽之屬也。〔注〕巨、大也、太陽之氣經二絡氣血一、榮二衞於身一、故諸陽氣皆所二宗屬一。〔素問、厥論〕巨陽之厥。〔注〕巨陽、太陽也。

【巨雄】203キヨユウ　蟲の名。商蚷をいふ。馬蚿。又、蚊の類。〔管子、輕重丁〕蟁虻巨雄。〔纂詁〕巨雄、卽商蚷、莊子云、猶二候蚊負レ山、商蚷馳レ河、參二之此文一、蓋蚊類也、莊注以爲二馮蚿一、失レ之。

【巨用】204キヨヨウ　大きく用ひる。〔韓詩外傳、五〕巨二用之一則天下爲レ一、諸侯爲レ臣。〔荀子、王霸〕國者巨二用之一則大。

【巨容】205キヨヨウ　晉、朱沖(**6**－**14424**··459)の字。

【巨來】206キヨライ　清、李紱(**6**－**14459**··710)の字。

【巨雷】207キヨライ　大きな雷。大雷。

【巨浪】208キヨラウ　おほなみ。〔水經、濁漳水注〕巨浪長湍、唯漳水耳。〔徐陵、爲二陳武帝一作レ相時與二北齊廣陵城主一書〕長江渺渺、巨浪湯湯。

【巨覽】209キヨラン　漢の人。順帝の時、梁商に召されて掾吏となり、李固と名を齊しくす。〔後漢書、六十四〕。

【巨利】210キヨリ　大きな利益。おほまうけ。大利。〔南史、徐勉傳〕老子云、後二其身一而身先、若能爾者、

更招巨利、汝當自勗。

【巨里】211 キョリ　城の名。山東省歷城縣の東。巨合城ともいふ。〔後漢書、耿弇傳〕建武五年、費邑分遣弟敢守巨里、弇進兵、先脅巨里。〔注〕巨里、聚名也、一名巨合城。

【巨黎】212 キョリ　いしゆみの名。巨黍。〔黃香、九宮賦〕操巨黍之礟弩。〔注〕巨黍、弩名也。

【巨笠】213 キョリフ　大きなかぶりがさ。〔先哲叢談、後篇、泰山堅忍〕戴巨笠赴之。

【巨椋】214 オホクラ オグラ　❶山城國の地名。❷姓氏。

【巨椋池】215 オホクラノイケ オグラノイケ　山城國大池の別稱。

【巨略】216 キョリャク　大きな策略。すぐれた策略。〔論衡、超奇〕文有深指巨略、君臣治術、身不得行、口不能紲、表著情心、以明己之必能爲之也。

【巨力】217 キョリョク　大きな力。〔殷仲文、解尙書表〕勢弱則受制於巨力、質微則無以自保。

【巨鱗】218 キョリン　大きな魚。〔揚雄、羽獵賦〕入洞穴、出蒼梧、乘巨鱗、騎京魚。

【巨麗】219 キョレイ　大きくてうるはしい。〔左思、吳都賦〕子獨未聞大吳之巨麗乎。〔蘇轍、上樞密韓太尉書〕而後知天下之巨麗。

【巨靈】220 キョレイ　❶河神の名。〔張衡、西京賦〕巨靈贔屓、高掌遠蹠、以流河曲。〔注〕綜曰、巨靈、河神也。〔獨孤及、仙掌銘〕帝命巨靈、經啓地脈。❷大神をいふ。〔晉書、左貴嬪傳〕峨峨華嶽、峻極泰清、巨靈導流、河瀆是經。〔趙彥昭、奉和聖制登驪山高頂寓目應制詩〕河看大禹鑿、山見巨靈開。❸漢の武帝の時の短人の名。〔洞冥記〕唯有一女人、愛悅于帝、名曰巨靈、帝傍有青珉唾壺、巨靈乍出、入其中、或戲笑帝前、云云、化成青雀。〔太平御覽、人事部、短絕域人〕漢武故事曰、東郡送一短人、長七寸、衣冠具足、疑其山精、常令在案上行、召東方朔問、朔至、呼短人曰、巨靈、汝何忽叛來阿母、還未、短人不對。

【巨和】221 キョワ　晉、張忠(**4**-**9812**・・557)の字。

【巨句麥】222 キョクバク　撫子の異名。瞿麥。〔本草、瞿麥〕釋名、蘧麥、巨句麥、大菊、大蘭、石竹、南天竺草。

【巨爵座】223 キョシャクザ　星座の名。南天星座の一。長蛇座中部の北、烏雅座の西にある。翼宿の大部分がこれに屬す。

【巨辰經】224 キョシンケイ　複姓。〔潛夫論、志氏姓〕帝乙元子微子開、紂之庶兄也、云云、巨辰經氏、云云、皆子姓也。

【巨流河】225 キョリウガ　❶遼河の異名。遼河(**7**-**18259**・・二)を見よ。❷滿洲遼寧省新民縣城と瀋陽との中間にある小邑。

【⿰工亅】8723

キウ ク　〔龍龕手鑑〕居幽切 尤

月のかさ。〔龍龕手鑑〕⿰工亅、月綾也。

【⿰工乚】8724

バン　義未詳。〔金鏡〕⿰工乚、音万。

【亓】8725

ヤ エ　〔字彙補〕余者切 馬

物の音。〔字彙補〕亓、音也。

三畫

【⿰工⺄】8726

キョウ　巩(**4**-**8727**)に同じ。〔廣韻〕巩、說文作巩。

四畫

【巩】8727

キョウ ク　〔集韻〕古勇切 腫

小篆

或體

❶**いだく。**つつみかかへる。〔說文〕巩、袌也、从丮工聲。❷或は⿱巩手(**5**-**12177**)・⿰王丮(**2**-**2737**)に作る。〔集韻〕巩、或从手、亦作⿰王丮。❸また⿰工⺄(**4**-**8726**)に作る。〔廣韻〕巩、說文作巩。

【巫】8728

ブ ム フ　〔集韻〕微夫切 虞 慣 $wu^{1\cdot 2}$

小篆

古文

❶**みこ。**かんなぎ。舞樂で神を下して禱請する人。男女とも巫になる。後世は女を巫といひ、男は覡といふ。〔說文〕巫、巫祝也、女能事無形、以舞降神者也、象人兩褎舞形、與工同意、古者巫咸初作巫。〔說文通訓定聲〕巫、按、後世始別女巫男覡。〔周禮、春官、男巫、注〕巫能制神之處位次主者。〔儀禮、士喪禮〕巫止于廟門外。〔公羊、隱四〕於鍾巫之祭焉、弑隱公也。〔注〕巫者、事鬼神禱解、以治病請福者也、男曰覡、女曰巫。〔國語、楚語下〕在男曰覡、在女曰巫。〔注〕巫覡、見鬼者、周禮、男亦曰巫。〔漢書、郊祀志上〕在男曰覡、在女曰巫。〔淮南子、精神訓〕鄭之神巫。〔注〕神在女曰巫。〔孔安國、古文尙書序〕伊陟贊于巫咸。〔馬注〕巫、男巫也。❷**醫師。**〔淮南子、說山訓〕巫之用糈。〔注〕醫師、在女曰巫。〔山海經、海內西經〕開明東有巫彭・巫抵・巫陽・巫履。〔注〕皆神醫也。❸**みだり。**〔法言、君子〕人以巫鼓。〔注〕巫鼓、猶妄說也。❹**巫山の略稱。**巫峽(18)を見よ。❺古は⿱巫夊(**2**-**3218**)・⿱巫又(**4**-**8734**)に作る。〔集韻〕巫、古作⿱巫夊・⿱巫又。❻**姓。**〔通志、氏族略、以技爲氏〕巫氏、風俗通、凡氏於事、巫・卜・匠・陶也、商有巫咸・巫賢、漢有冀州刺史巫捷、又有巫都、著養性經、望出平陽。

解字　象形。巫は𠬞と工との合字。舞を以て神おろしを爲す者を表はす。卽ち𠬞は舞ふ時の兩袖の形を表はし、工は其の舞に規矩あることを示す。古文は女巫が神を下すに物をささげて神をよろこばす意にとる。故に𠬞と口とに從ふ。〔說文通訓定聲〕巫、祝也、女能事無形、以舞降神者也、古文又从口从𠬞、古者巫咸初作巫。▽ (甲骨文) 象形。神を祭る帷の中で兩手で祭具を捧げる形に象り、みこの意を表はす。

【巫媼】1 フアウ　みこ。〔韻府引、范成大、詩〕巫媼莫嫌滋味薄、旗亭官酒更多灰。

【巫醫】2 フイ　みこと醫者。巫覡と醫師。又、醫者。〔論語、子路〕南人有言、曰、人而無恆、不可以作巫醫、善夫。〔集注〕巫、所以交鬼神、醫、所以寄死生。〔管子、權修〕好用巫醫。〔漢書、郊祀志上〕巫醫無所不致。〔後漢書、許楊傳〕楊乃變姓名爲巫醫、逃匿官界。

【巫雨】3 フウ　巫山之雨(30)に同じ。

【巫嫗】4 フウ　年寄の巫女。みこ。〔史記、滑稽傳〕西門豹顧曰、巫嫗、三老不來還、奈之何。

【巫雲】5 フウン　巫山之雲(31)に同じ。〔劉孝威、擬古應教詩〕雙棲翡翠兩鴛鴦、巫雲洛月乍相望。

〔巫雲蜀雨〕6 フウンショクウ　巫山の雲と蜀の雨。相別れてゐる夫婦の互に相思ふ喩。〔李賀、琴曲歌辭〕離鸞別鳳煙梧中、巫雲蜀雨遙相通。

【巫易】7 フエキ　周官簭人の九簭の一。簭は筮。民衆が舊政を悅ばない時に、當に改易すべき所を筮すること。巫は筮の誤。〔周禮、春官、簭人〕掌三易以辨九簭之名、一曰連山、二曰歸藏、三曰周易、九簭之名、一曰巫更、二曰巫咸、三曰巫式、四曰巫目、五曰巫易、六曰巫比、七曰巫祠、八曰巫參、九曰巫環、以辨吉凶。〔注〕此九巫、讀皆當爲筮、字之誤也、更、謂筮遷都邑也、咸、猶僉也、謂筮衆心歡不也、式、謂筮制作法式也、目、謂事衆筮其要所當也、易、謂民衆不說筮所改易也、比、謂筮與民和比也、祠、謂筮牲與日也、參、謂筮御與右也、環、謂筮可致師不也。

【巫音】8 フオン　みこの用ひる音樂。〔呂覽、侈樂〕楚之衰也、作爲巫音。〔注〕女曰巫。

【巫凱】9 フガイ　明、句容の人。官は宣宗の時、都督僉事、遼東總兵官、英宗の時、都督同知。鎭に居ること二十餘年、官に卒す。〔明史、一百七十四〕・

〔萬斯同明史、二百五〕・〔明史稿、一百四十五〕。

【巫更】10フカウ　九簭の都邑を遷すを筮すること。巫易(7)を見よ。

【巫降】11フカウ　みこが神を下す禮。〔周禮、春官、司巫〕凡喪事掌二巫降之禮一。〔注〕降、下也、巫下レ神之禮、今世或死既斂、就レ巫下レ禓、其遺禮。

【巫咸】12フカン　㊀九簭の一。簭は筮。民衆が歡ぶや否やを筮すること。巫易(7)を見よ。㊁古人の名。㋑帝堯の醫。〔郭璞、巫咸山賦序〕蓋巫咸者、寔以二鴻術一爲二帝堯醫一、生爲二上公一、死爲二貴神一、豈封二斯山一、而因以レ名之乎。㋺殷の賢臣。一說に、殷の中宗の相、始めて巫者となる。巫賢(21)を見よ。〔書、君奭〕巫咸乂二王家一。〔蔡傳〕巫氏、咸名。〔楚辭、離騷〕巫咸將二夕降一兮。〔注〕巫咸、古神巫也、當二殷中宗之世一降下也。㋩黃帝の時の人。神巫の季咸。〔歸藏〕昔黃帝將レ戰、筮二於巫咸一。〔列子、黃帝〕有二神巫一、自レ齊來處二於鄭一、命曰二季咸一、知二人死生存亡、禍福壽夭一、期以二歲月旬日一、如レ神。〔莊子、應帝王〕鄭有二神巫一曰二季咸一、知二人之死生存亡、禍福壽夭一、期以二歲月旬日一、若レ神。㊂山名。山西省夏縣の東。中條山脈の支阜。一に覆奧山・瑤臺山ともいふ。孤峯峭拔、蒼翠空を摩す。山麓に巫咸父子の祠墓あり、又、山の左に巫谷がある。〔水經、涑水注〕鹽水西北流經二巫咸山北一。㊃複姓。〔通志、氏族略、以二名氏一爲レ氏〕巫咸、商卿也、其後氏レ焉。

【巫鬼】13フキ　みこ。又、みこが神鬼に禱つて福を請ふなどの事。〔後漢書、西南夷、夜郎傳〕牂柯地多二雨潦一、俗好二巫鬼禁忌一、寡二畜生一、又無二蠶桑一、故其郡最貧。

【巫環】14フクワン　九簭の一。軍隊を出すべきや否やを筮すること。巫易(7)を見よ。

【巫郡】15フグン　戰國楚の地名。今の四川省巫山縣の東。楚の巫郡の治。〔戰國、楚策〕蘇秦爲レ趙合從、說二楚威王一曰、云云、楚地西有二黔中巫郡一。〔史記、秦紀〕昭襄王三十年、取二楚巫郡一。

【巫溪】16フケイ　㊀溪の名。又、大寧河といふ。源は四川省巫溪縣の北。東南流して巫山縣に至りて長江に入る。㊁縣名。民國、置く。北周、大昌縣の地。宋、大寧監を置く。元の大寧州、明の大寧縣。今、四川省奉節縣の北。巫溪水によりて名づけらる。

【巫覡】17フゲキ　女みこと男みこ。又、みこ。かんなぎ。〔周禮、春官、家宗人〕凡以神仕者。〔疏〕男子陽、有二兩稱一、名レ巫名レ覡、女子陰不レ變、直名レ巫、無二覡稱一。〔國語、楚語下〕（觀射父）對曰、在レ男曰レ覡、在レ女曰レ巫、是使下制二神之處位次主一、而爲中之牲器時服上。〔荀子、正論〕出レ戶而巫覡有レ事。〔後漢書、襄楷傳〕多二巫覡雜語一。〔張衡、東京賦〕巫覡操レ茢。〔顏氏家訓、治家〕吾家巫覡禱請。

【巫峽】18フケフ フカフ　峽の名。四川省巫山縣の東。湖北省巴東縣の界。巫山によつて名づく。兩岸絕壁にして舟行極めて險。西陵峽・瞿塘峽と共に三峽と稱す。〔水經、江水注〕江水又東逕二巫峽一、杜宇所三鑿以通二江水一也、云云、其間首尾百六十里、謂二之巫峽一、蓋因レ山爲レ名也、自二三峽一七百里中、兩岸連山、略無二闕處一、重巖疊嶂、隱レ天蔽レ日、自レ非二停午夜分一、不レ見二曦月一、云云、每レ至二晴初霜旦一、林寒澗肅、常有二高猿長嘯一、屬引凄異、空谷傳響、哀轉久絕、故漁者歌曰、巴東三峽巫峽長、猿鳴三聲淚沾レ裳。〔荊州記〕信陵縣西二十里有二巫峽一。

〖巫峽之水能覆舟〗19フケフノミヅヨクフネヲクツガヘス　巫峽の水は流が疾くて舟をくつがへす。〔白居易、太行路詩〕巫峽之水能覆レ舟、若比二君心一是安流。

〖巫峽啼猿數行淚〗20フケフノテイエンスウカウノナミダ　巫峽で猿の哀しい啼き聲を聞けば淚が落ちる。巫峽を見よ。〔高適、送下李少府貶二峽中一王少府貶中長沙上詩〕嗟君此別意何如、駐レ馬銜レ杯問二謫居一、巫峽啼猿數行淚、衡陽歸鴈幾封書、青楓江上秋天遠、白帝城邊古木疎、聖代卽今多二雨露一、暫時分レ手莫二躊躇一。

【巫賢】21フケン　殷の祖乙の賢相。姓は巫、名は賢。巫咸の子。〔書、君奭〕在二祖乙一、時則有二若巫賢一。〔傳〕時賢臣有レ如二此巫賢一、賢、咸子、巫、氏。〔竹書紀年、商、祖乙、三年〕命二卿士巫賢一。〔注〕賢、巫咸子、乙立、殷復興、巫賢任レ職。

【巫縣】22フケン　縣名。秦・漢、置く。四川省巫山縣の東。〔漢書、地理志上〕南郡、縣十八、云云、巫。

【巫鼓】23フコ　無根のこと。でたらめ。妄說。〔法言、君子〕甚矣傳書之不果也、曰、不果則不果矣、人以二巫鼓一。〔注〕巫鼓、猶二妄說一也、一曰、巫鼓之儔、奚徒不果而已、乃復寄二詠誕一以自大、假二不學一爲二高通一。

【巫蠱】24フコ　巫はみこ、蠱は邪道を以て人を惑はす者。〔六韜、文韜、上賢〕巫蠱左道。〔史記、衞將軍驃騎傳〕坐下子敬聲與二陽石公主一、姦爲中巫蠱上、族滅無レ後。〔漢書、江充傳〕上以レ充爲二使者一治二巫蠱一。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕陰后、以二巫蠱事一廢。〔連文釋義〕女能以レ舞降レ神謂レ巫、執二左道一以惑レ人謂レ蠱。

〖巫蠱獄〗25フコノゴク　漢の武帝の時、方士・巫覡の徒、宮人を蠱惑し、木人を宮中に埋めて祀らしめた。征和二年、偶〻武帝病むや、江充は、戾太子と隙あるによつて、帝の病は巫蠱に在りとし、宮中の木人を掘つて、太子の宮中、木人を得る最も多しと上言した。是に於て太子恐れて、充を斬り、兵を擧げて反し、尋いで敗れて自殺した。後、田千秋、太子の寃を訴へ、江充の家を族誅した。〔漢書、武帝紀〕征和元年、巫蠱起、二年云云、閏月、諸邑公主、陽石公主、皆坐二巫蠱一死、夏行二幸甘泉一、秋七月、按道侯韓說使者江充等、掘二蠱太子宮一、壬午、太子與二皇后一謀斬レ充、以レ節發レ兵、與二丞相劉屈氂一大戰二長安一、死者數萬人、庚寅、太子亡、皇后自殺、初置二城門屯兵一、更レ節加二黃旄一、御史大夫暴勝之、司直田仁、坐二失縱一、勝之自殺、仁要斬、八月辛亥、太子自二殺于湖一。〔資治通鑑、漢紀〕（武帝、征和二年）上以レ充爲二使者一、治二巫蠱獄一。

【巫恆】26フコウ　先代の巫が久しく行つて來た事。恆は久。〔周禮、春官、司巫〕國有二大烖一、則帥レ巫而造二巫恆一。〔注〕玄謂、恆、久也、巫久者、先巫之故事、造レ之、當レ按三視所二施爲一。

【巫參】27フサン　九簭の一。御者と驂乘とを筮すること。巫易(7)を見よ。

【巫山】28フザン　㊀男女の情事をいふ。雲雨。高唐。陽臺。巫山之夢(32)を見よ。㊁山名。㋑山東省肥城縣の西北。〔左氏、襄、十八〕齊侯登二巫山一、以望二晉師一。〔太平寰宇記〕一名孝堂山、相傳漢孝子郭巨葬二母於此一、故名。㋺湖南省城步縣の東。巫水の源。十二峯あり。巫水(49)を見よ。㋩四川省巫山縣の東南。巴山山脈中の秀峯。形巫の字の如きによりて名づけらる。大江其の中を經流して巫峽をなす。重巖疊嶂、天日を隱蔽し、峯下に神女廟がある。巫峽(18)を見よ。十二峯あり。〔漢書、地理志上、注〕應劭曰、巫山在二西南一。〔李白、古風〕我到二巫山渚一、尋レ古登二陽臺一、天空彩雲滅、地遠清風來、神女知已久、襄王安在哉、荒淫竟淪沒、樵牧徒悲哀。〔李白、宿二巫山下一詩〕昨夜巫山下、猿聲夢裏長、桃花飛二綠水一、三月下二瞿唐一、雨色風吹去、南行拂二楚王一、高丘懷二宋玉一、訪古一霑レ裳。〔李白、自二巴東一舟行經二瞿唐峽一登二巫山最高峯一晚還題レ壁詩〕江行幾千里、海月十五圓、始經二瞿塘峽一、遂步二巫山嶺一、巫山高不レ窮、巴國盡所レ歷、日邊攀二垂蘿一、霞外倚二穹石一、飛步凌二絕頂一、極目無二纖煙一、却顧失二丹壑一、仰觀臨二青天一、青天若可レ捫、銀漢去安在、望レ雲知二蒼梧一、記レ水辨二瀛海一、周遊孤光晚、歷覽幽意多、積雪照二空谷一、悲風鳴二森柯一、歸途行欲レ曛、佳趣尙未レ歇、江寒早啼猿、松暝已吐レ月、月色何悠悠、清猿響啾啾、辭レ山不レ忍レ聽、揮レ策還二孤舟一。〔杜甫、八月十五夜月詩〕滿目飛二明鏡一、歸心折二大刀一、轉蓬行レ地遠、攀桂仰レ天高、水路凝二霜雪一、林棲見二羽毛一、此時瞻二白兔一、直欲レ數二秋毫一。〔蘇轍、巫山賦〕峯連屬以二十二一兮、其九可レ見而三不レ知。〔讀史方輿紀要、四川、名山〕巫山、亦曰二巫峽一、在二夔州府巫山縣東三十里一、爲二三峽之一一、長一百六十里、所謂巴東三峽巫峽長也、戰國策蘇秦說二楚威王一曰、西有二黔中巫郡一、蓋郡據二巫山之險一、因以レ山名、云云。㊂縣名。隋、置く。戰國楚の巫郡。四川省奉節縣の東、長江の北岸。〔讀史方輿紀要、四川、夔州府〕巫山縣、楚之巫郡也、隋廢レ郡、改レ縣曰二巫山一、屬二信州一。〔清史稿、地理志〕四川、夔州府、縣六、巫山。

〖巫山高〗29フザンカウ　漢の鐃歌の名。十八曲の一。古辭は、水に臨んで遠望し、故鄉に歸るを思ふ意を敍ぶ。齊の王融、梁の范雲等に至り、陽臺神女の事を雜へて、男女の情事を敍べ、遠望思歸の意は無い。他に梁の元帝・費昶、陳の後主・蕭詮、唐の沈佺期・盧照鄰・皇甫冉・李端・孟郊・李賀・齊己等にも歌辭がある。〔樂府詩集、鼓吹曲

辭、漢鐃歌、巫山高〕樂府解題曰、古辭言、江淮水深、無二梁可レ度、臨レ水遠望、思レ歸而已、若二齊王融想像巫山高、梁范雲巫山高不レ極、雜以二陽臺神女之事一、無二復遠望思歸之意一也、又有二演巫山高一、不レ詳レ所レ起。〔古辭、巫山高〕巫山高、高以大、淮水深、難二以逝一、我欲二東歸一、害梁不レ爲、我集無レ高、曳水何梁、湯湯回回、臨レ水遠望、泣下霑レ衣、遠道之人、心思レ歸謂二之何一。

〔巫山之雨〕30 フザンノアメ ❶巫山に降る雨。巫雨。〔梁簡文帝、詠レ風詩〕已拂巫山雨、何用レ卷二寒灰一。❷巫山之夢に同じ。

〔巫山之雲〕31 フザンノクモ 巫山之夢に同じ。巫雲。〔劉廷芝、公子行〕傾レ國傾レ城漢武帝、爲レ雲爲レ雨楚襄王。〔李白、清平調詞〕一枝濃艷露凝レ香、雲雨巫山枉斷腸。

〔巫山之夢〕32 フザンノユメ 楚の懷王が高唐に遊び、晝寢ねて、夢に巫山の神女と遇ひ、遂に之を寵幸す。去るに臨み、妾は巫山の陽、高丘の岨に在り、旦には朝雲となり、暮には行雨となる、朝々暮々陽臺の下に於てすといふ。因つて王が旦朝に之を視るに其の言の通りであつたので、朝雲廟を建てて、之を祀つた故事。後世、男女間の情事にいふ。巫山。雲雨。高唐。陽臺。巫山之雨。巫山之雲。〔宋玉、高唐賦〕玉曰、昔者先王嘗游二高唐一、怠而晝寢、夢見二一婦人一、曰、妾巫山之女也、爲二高唐之客一、聞君游二高唐一、願薦二枕席一、王因幸レ之、去而辭曰、妾在二巫山之陽、高丘之岨一、旦爲二朝雲一、暮爲二行雨一、朝朝暮暮、陽臺之下、旦朝視レ之如レ言、故爲立レ廟、號曰二朝雲一。〔注〕善曰、襄陽耆舊傳曰、赤帝女桃姬、未レ行而卒、葬二於巫山之陽一、故曰二巫山之女一、楚懷王遊二於高唐一、晝寢、夢見レ與二神遇一、自稱二是巫山之女一、王因幸レ之、遂爲置二觀於巫山之南一、號爲二朝雲一、後至二襄王時一、復遊二於高唐一。

〔巫山神女〕33 フザンノシンニョ 巫山の神女、妙用眞人をいふ。又、赤帝の女、桃姬をいふ。巫山之夢(32)を見よ。〔入蜀記〕過二巫山凝眞觀一、謁二妙用眞人祠一、眞人卽世所謂巫山神女也、巫山峯巒、上入二霄漢一、山脚直插二江中一、太華衡廬、皆無二此奇一、然十二峯者、不レ可二悉見一、所レ見八九峯、惟神女峯最爲二纖麗奇峭一、宜レ爲二仙眞所レ托、祝史云、每八月十五夜月明時、有二絲竹之音一、往二來峯頂一、山猿皆鳴、達レ旦漸止、廟後山半有二石壇平曠一、傳云、夏禹見二神女一、授二符書於此一。

〔巫山十二峯〕34 フザンジフニホウ 巫山の十二の峯。望霞・翠屛・朝雲・松巒・集仙・聚鶴・淨壇・上昇・起雲・飛鳳・登龍・聖泉、一說、獨秀・筆峯・集仙・起雲・登龍・望霞・聚鶴・棲鳳・翠屛・盤龍・松巒・仙人。〔方輿勝覽〕十二峯曰二望霞・翠屛・朝雲・松巒・集仙・聚鶴・淨壇・上昇・起雲・飛鳳・登龍・聖泉一。〔茶香室叢鈔〕元劉壎隱居通議云、巫山十二峯、曰獨秀、曰筆峯、曰集仙、曰起雲、曰登龍、曰望霞、曰聚鶴、曰棲鳳、曰翠屛、曰盤龍、曰松巒、曰仙人、其裔孫凝附注云、按二別書一有二朝雲・淨壇・上昇・聖泉一、而無二獨秀・筆峯・盤龍・仙人一。

〔巫山一段雲〕35 フザンイチダンウン 詞牌の名。〔黃花萃〕云、唐詞多緣レ題所レ賦、臨江仙則言二仙事一、女冠子則述二道情一、河瀆神則詠二祠廟一、大概不レ失二本題之意一、爾後漸變、去レ題遠矣、如二李珣巫山一段雲詞一、實唐人本來詞體如レ此。

【巫史】36 フシ 神に事へて、祭事・神事をつかさどる者。かんなぎ。はふり。巫祝。〔禮、禮運〕祝嘏辭說、藏二於宗祝・巫史一。〔漢書、郊祀志上〕家爲二巫史一。〔後漢書、臧洪傳〕坐列二巫史一。

【巫師】37 フシ みこ。かんなぎ。〔後漢書、陰皇后紀、注〕巫師爲レ蠱、故曰二巫蠱一。〔唐六典、太常寺、太卜署〕巫師十五人。〔注〕周禮有二男巫女巫一無レ數、其師中士巫能制二神之處位次主一者、隋太卜署有二男巫十六人、女巫八人一。

【巫祠】38 フシ 九簭の一。犧牲と日とを筮すること。巫易(7)を見よ。

【巫兒】39 フジ かんなぎ。みこ。春秋、齊の民家の長女で、嫁がないで家に殘つてみことなつたもの。〔漢書、地理志下〕始桓公兄襄公淫亂、姑姊妹不レ嫁、於レ是令二國中民家長女不レ得レ嫁、名曰二巫兒一、爲二家主祠一。

【巫式】40 フシキ 九簭の一。法式を制作するを筮すること。巫易(7)を見よ。

【巫社】41 フシャ 巫が祈る神。〔史記、封禪書〕晉巫祠二五帝・東君・雲中・司命・巫社・巫祠・族人・先炊之屬一。

【巫匠】42 フシャウ みこと棺を作る大工。〔孟子、公孫丑上〕矢人惟恐レ不レ傷レ人、函人惟恐レ傷レ人、巫匠亦然、故術不レ可レ不レ愼也。〔集注〕巫者爲レ人祈祝、利二人之生一、匠者作二爲棺椁一、利二人之死一。

【巫相】43 フシャウ 古の神醫の名。巫彭(59)を見よ。

【巫呪】44 フジュ フシウ まじなひ。のろひ。〔穆子容、太公呂望碑〕言歸二故鄕一、降レ神巫呪。

【巫祝】45 フシュク 神に事へて祭事・神事を掌る者。はふり。みこ。かんなぎ。巫史。〔禮、檀弓下〕君臨二臣喪一、以二巫祝桃茢執戈一、惡レ之也。〔史記、荀卿傳〕荀卿嫉下濁世之政、亡國亂君相屬、不レ遂二大道一、而營二於巫祝一、信二禨祥一、鄙儒小拘、如二莊周等一、又猾稽亂上レ俗。〔韓非子、顯學〕今巫祝之祝レ人、曰レ使二若千歲萬歲一。〔三略、中略〕軍勢曰、禁二巫祝一。〔漢書、外戚上、孝武陳皇后傳〕皇后失レ序、惑二於巫祝一、不レ可三以承二天命一、其上二璽綬一、罷退二長門宮一。〔後漢書、列女、曹娥傳〕父盱能二絃歌一、爲二巫祝一。〔杜甫、南池詩〕南有二漢王祠一、終朝走二巫祝一。

【巫術】46 フジュツ みこのわざ・のろひ・まじなひ・魔法等の技。〔後漢書、徐登傳〕徐登者、閩中人也、本女子化爲二丈夫一、善爲二巫術一。

【巫臣】47 フシン ❶複姓。〔元和姓纂〕晉大夫欒巫臣之後、一說、楚申公巫臣之後。❷春秋、楚の人。屈湯の子の屈申。屈巫、申公巫臣ともいふ。字は子靈。楚の莊王及び子反、皆夏姬を娶らんと欲したが、巫臣之を阻み、後、自ら之を娶り晉に奔る。〔左氏、成、二〕巫臣曰、是不祥人也。〔荀子、堯問〕申公巫臣進問曰、王朝而有二憂色一何也。

【巫眞】48 フシン みこ。〔山海經、大荒西經〕大荒之中、有レ山、名曰二豐沮・玉門一、日月所レ入、有二靈山一、巫咸・巫卽・巫肦・巫彭・巫姑・巫眞・巫禮・巫抵・巫謝・巫羅十巫從レ此升降、百藥爰在。〔稱謂錄、巫、巫眞〕山海經、大荒有二靈山一、巫從レ此升降曰二巫眞一。

【巫水】49 フスイ 川の名。❶巫山江ともいひ、今、洪江といふ。古の運水。源は湖南省城步縣の巫山。二派に分る。〔讀史方輿紀要、湖廣、寶慶府、城步縣〕巫水、在二縣東一、源出二巫山一、分爲二二派一、東經二縣東七十五里之威溪一、入二于濆江一、西經二城南之南江一、又西經二城西三十里之烏龍江一、入二靖州會同縣之洪江一。❷無水をいふ。無水(**7**－**19113**‥510)を見よ。

【巫先】50 フセン 神の名。〔漢書、郊祀志上〕荊巫祠二堂下・巫先・司命・施糜之屬一。〔注〕師古曰、巫先、巫之最先者。

【巫女】51 フヂョ ❶巫山の神女。〔白居易、題二峽中石上一詩〕巫女廟花紅似レ粉、昭君村柳翠二於眉一。❷みこ。かんなぎ。〔劉蛻、憫禱辭〕役二巫女一兮鼉鼓坎坎、風笛搖レ空兮舞袖衫衫。

【巫抵】52 フテイ 古の神醫の名。巫彭(59)を見よ。

【巫馬】53 フバ ❶周官の名。夏官の屬。疾馬を養ふことを掌る。〔周禮、夏官、巫馬〕掌下養二疾馬一而乘中治之上、相レ醫而藥二攻馬疾一。〔疏〕巫知二馬祟一、醫知二馬疾一、疾則以レ藥治レ之、祟則辨而祈レ之、二者相須、故巫助レ醫也。❷複姓。〔通志、氏族略、複姓〕巫馬氏、史記、巫馬施、字子期、仲尼弟子。

〔巫馬期〕54 フバキ 春秋、魯の人。巫馬施(56)に同じ。〔論語、述而〕揖二巫馬期一而進レ之曰、吾聞、君子不レ黨、君子亦黨乎。〔集注〕巫馬姓、期字、孔子弟子、名施。

〔巫馬子〕55 フバシ 古の人名。儒者。墨子の時の人。或は巫馬期といひ、或は巫馬期の子といふ。〔墨子、耕柱〕巫馬子謂二子墨子一曰、鬼神孰二與聖人明智一。〔閒詁〕蘇云、巫馬子爲二儒者一也、疑卽孔子弟子巫馬期、否則其後、詒讓案、史記孔子弟子傳云、巫馬施少二孔子一三十餘歲、計二其年齒一、當下長二墨子一五六十歲上、未三必得二相問答一、此或其子姓耳。

〔巫馬施〕56 フバシ 春秋、魯の人。字は子期。一に陳の人、字は子旗に作る。孔子の弟子。嘗て單父の宰となり、星を戴いて出で星を戴いて入り、日夜政治に努力して單父がよく治つた。〔史記、六十七〕。

〔巫馬戴星〕57 フバタイセイ 蒙求の標題。巫馬期が單父を治めるに、星を戴いて出で、星を戴いて入り、政治に盡力して單父の地がよく治つた故事。〔蒙求、巫馬戴レ星〕呂氏春秋曰、宓子賤治二單父一、彈二鳴琴一、身不レ下レ堂、而單父治、巫馬期以レ星出、以レ星入、日夜不レ居、以レ身親レ之、而單父

亦治、巫馬期問二其故一、宓子曰、我之謂レ任レ人、子之謂レ任レ力、任レ力者故勞、任レ人者故逸。

【巫婆】58 wu¹ p'o² 巫女。みこ。

【巫彭】59 フハウ 古の神醫の名。始めて醫者となる。〔山海經、海內西經〕開明東有二巫彭・巫抵・巫陽・巫履・巫凡・巫相一、夾二窫窳之尸一、皆操二不死之藥一、以距レ之。〔注〕皆神醫也、世本曰、巫彭作レ醫、楚詞、帝告二巫陽一。〔呂覽、勿躬〕巫彭作レ醫、巫咸作レ筮。

【巫凡】60 フハン 古の神醫の名。巫彭(59)を見よ。

【巫比】61 フヒ 九簭の一。民と和比するを筮すること。巫易(7)を見よ。

【巫部】62 カムナギ カウナイ 姓氏。〔新撰姓氏錄考證〕・〔姓名錄抄〕。

【巫風】63 フフウ 巫覡の風俗。歌舞をいふ。巫は歌舞を以て神に事へるからいふ。〔書、伊訓〕敢有下恆舞二于宮一、酣中歌于室上、時謂二巫風一。〔傳〕常舞則荒淫、酣歌則廢レ德、事レ鬼曰レ巫、言レ無レ政。〔疏〕巫以二歌舞一事レ神、故歌舞爲二巫覡之風俗一也。〔墨子、非樂上〕其恆舞二于宮一、是謂二巫風一。

【巫步】64 フホ 巫の歩き方。ちんばのやうな歩き方。禹步(8－24885‥78)に同じ。〔法言、重黎〕昔者姒氏治二水土一、而巫步多レ禹、扁鵲盧人也、而醫多レ盧。〔注〕姒氏、禹也、治二水土一、涉二山川一、病レ足、故行跛也、云云、而俗巫多效二禹步一。

【巫目】65 フモク 九簭の一。事が多い時に其の肝要正當な所を筮すること。巫易(7)を見よ。

【巫陽】66 フヤウ ❶巫峽の陽。〔白居易、發二白狗峽一次二黃牛峽一登二高寺一卻望二忠州一詩〕巴曲春全盡、巫陽雨半收。❷古の神醫の名。巫彭(59)を見よ。〔楚辭、招魂〕帝告二巫陽一曰、有レ人在レ下、我欲レ輔レ之、魂魄離散、汝筮予レ之。〔注〕女曰レ巫、陽其名也、巫一作レ至、五臣云、玉假立二天帝及巫陽一以爲二辭端一。〔補注〕山海經云、開明東有二巫彭・巫抵・巫陽・巫几・巫相・巫履一、注云、皆神醫也。〔蘇軾、潮州韓文公廟碑〕謳吟下招遺二巫陽一、爆牲雞卜羞二我觴一。〔蘇軾、澄邁驛通潮閣詩〕餘生欲レ老海南村、常遣三巫陽招二我魂一。

【巫履】67 フリ 古の神醫の名。巫彭(59)を見よ。

【巫尫】68 フワウ 女巫。祈禱して雨を請ふことを主る者。一說に、巫はみこ、尫は瘠せた病人。その面は上仰し、雨が降れば、雨水、鼻に入る。天其の病を哀れみ、之を恐れて雨を降らさぬといふ。〔左氏、僖、二十一〕夏、大旱、公欲レ焚二巫尫一。〔注〕巫尫、女巫也、主二祈禱請一レ雨者、或以爲二尫非一レ巫也、瘠病之人、其面上向、俗謂、天哀二其病一、恐三雨入二其鼻一、故爲レ之旱、是以公欲レ焚レ之。

【巫子肖】69 フシセウ 明、龍川の人。字は孝元。萬曆の舉人。官は新喩の長官。孝友廉介にして、民青天と號す。著に勸懲八鑑最善錄がある。〔廣東通志〕。

【巫支祁】70 フシキ 淮水の神。無支祁。毋支祁。〔騈雅、釋天〕淮神曰二巫支祁一。

【信レ巫不レ信レ醫】71 フヲシンジテイヲシンゼズ みこを信じて醫者を信用しない。〔通俗編、藝術、信レ巫不レ信レ醫〕史記、扁鵲傳、病有二六不治一、信レ巫不レ信レ醫、不レ治也。

【孚】8729

シン 新(**5－13572**)の古字。〔字彙補〕孚、古文新字。

六畫

【戸】8730

サ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕戸、音差。

【差】8731

サ 差(**4－8732**)に同じ。〔字彙補〕差、與レ差同。

七畫

【差】8732

［一］サ シヤ 〔廣韻〕初牙切 ㄔㄚ ch'a¹·⁴ 麻

［二］シ 〔集韻〕叉宜切 ㄘ tz'u¹ 支

［三］サイ シヤ 〔集韻〕初佳切 ㄔㄞ ch'ai¹ 佳

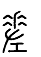
［四］サ 〔集韻〕倉何切 歌

［五］サイ シヤ 〔集韻〕楚懈切 卦

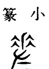
［六］サ シヤ 〔集韻〕楚嫁切 禡

［七］タ 〔韻會〕丑亞切 禡

慣サ



小篆



籀文

［一］❶**たがふ**。㋑あはない。くひちがふ。もと𢀩(**4－8736**)に作る。〔正字通〕𢀩、差本字。〔說文〕𢀩、貣也、左不二相値一也、从二左𠂹一。〔段注〕貣、各本作レ貳、左、各本作レ差、今正、貣者、忒之假借字、心部曰、忒、失當也、失當卽所謂不二相値一也、云云、貳訓、副也、副貳之解、何得レ同二於差忒一乎。〔廣韻〕差、又差舛也。㋺二心をいだく。そむく。〔左氏、文、二〕享祀不レ忒、注、忒差也、釋文〕差、二也。❷**たがひ**。あやまり。〔荀子、天論〕亂生二其差一。〔注〕差、謬也。❸**ちがひ**。〔晉書、石垣傳〕能闇中取レ物、如レ晝无レ差。❹**あやまる**。とりうしなふ。〔禮、月令〕毋レ有二差貣一。〔注〕差貣、謂二失誤一。〔楚辭、東方朔、七諫、哀時命〕稱二輕重一而不レ差。〔注〕差、失也。❺**すぎる**。〔呂覽、君守〕智差自亡也。〔注〕差、過也。❻**まじはる**。〔漢書、司馬相如傳下〕紛湛湛其差錯兮。〔注〕師古曰、差錯、交互也。❼**のこり**。さしひき。あまり。或る數から他の數を引いたあたひ。〔太玄經、廓〕或生二之差一。〔注〕差、過差也。〔算法統宗、用字凡例〕差、多少不レ同數也。❽**よこしま**。なゝめ。〔廣雅、釋詁二〕差、衺也。〔淮南子、本經訓〕衣無二隅差之削一。〔注〕隅、角也、差、邪也、古者質、皆全幅爲二衣裳一、無レ有二邪角一、邪角、削殺也。❾**えらぶ**。〔爾雅、釋詁〕差、擇也。〔釋文〕差、音叉。❿**なげく**。嗟(**2－4102**)に通ず。〔詩、陳風、東門之枌〕穀旦于差。〔釋文〕差、王音嗟、毛詩作レ嗟。⓫䜺(**10－35783**)に同じ。〔集韻〕䜺、說文、咨也、一曰、痛惜也、古作レ差。⓬籀文、𢀩に作る。〔集韻〕差、籀作レ𢀩。［二］❶**しな**。わかち。さだめ。〔禮、祭統〕明二尊卑之差一。〔釋文〕差、本又作二之等一。❷**等級をつける**。次第する。〔廣雅、釋詁一〕差、次也。〔荀子、大略〕差二爵祿一。〔注〕差、謂レ制二等級一也。❸**ならべる**。〔管子、輕重甲〕管子差肩而問。〔注〕差肩、肩差在レ後也。❹**ひとしくない**。そろはない。〔左氏、襄、二十一〕何敢差池。〔注〕差池、不二齊一一。〔荀子、正名〕差差然而齊。〔注〕差差、不レ齊貌。［三］❶**たがふ**。［一］の❶に同じ。〔集韻〕差、說文、貳也。❷**えらぶ**。〔詩、陳風、東門之枌〕穀旦于差。〔傳〕差、擇也。〔釋文〕差、鄭初佳反。〔詩、小雅、吉日〕既差二我馬一。〔傳〕差、擇也。❸**しな**。さだめ。わかち。〔禮、王制〕其祿以レ是爲レ差也。〔釋文〕差、初佳反、徐、初宜反。❹**おごる**。〔廣雅、釋詁二〕差、僭也。❺**つかはす**。派遣。〔白居易、山石榴花詩〕好差二青鳥使一、封爲二百花王一。〔陔餘叢考、差〕官府遣レ役、輒曰レ差、顏師古匡謬正俗曰、詩云、既差二我馬一、毛傳云、差、擇也、謂三擇二取強壯者一、今云二差科一、亦此意、遣レ人曰レ差、蓋亦謂三揀二擇其人可一レ應レ役者一耳。❻**つかふ**。使役する。〔文獻通考、職役考〕宣宗大中九年詔、每レ有二役事一、委レ令據レ簿輪差。❼**つかひ**。役目。官職。〔正字通〕欽、御使曰二欽命一、俗曰二欽差一。❽**賦役**。ぶやく。〔文獻通考、職役考〕

宣宗大中九年詔、毎縣據二人貧富及役輕重一作二差科簿一。㊈算法の名。差分(97)を見よ。㊉兼官。清代、實官を帶びた者が他官を兼務し、又新設官の事務を取る時、その兼官を差といふ。〔清會典事例、工部、關稅、關差〕康熙八年、各關復レ差、滿漢司官筆帖式各一人、六部兼差。〔清國行政法汎論、新設官廳〕差字本義、謂下皇帝臨時特命、帶二原官銜一、任二他職務一者上、如下稱二出使大臣一曰二欽差一、稱二特派鄕試試驗官一曰中試差上是也。⑪姓。〔集韻〕差、亦姓。[四]㊀とぐ。⿰麥差(12－47837)に通ず。〔說文通訓定聲〕差、叚借爲レ⿰麥差。〔廣雅、釋詁三〕差、磨也。〔集韻〕差、淅也。〔禮、喪大記〕御者差二沐於堂上一。〔注〕差、淅也。㊁通じて溠(7－17948)に作る。〔集韻〕差、通作レ溠。㊂景差は人名。〔玉篇〕差、又景差、人名。[五]㊀いえる。病がなほる。瘥(7－22412)に同じ。〔方言、三〕差、愈也、南楚、病愈者、謂二之差一。〔廣韻〕差、病除也。〔集韻〕瘥、說文、癒也、或省。〔魏志、張遼傳〕病小差。㊁やや。いくらか。〔韻會〕差、較也。〔左氏、宣、十二〕拔レ旆投レ衡乃出、〔注〕拔レ旆投二衡上一、使レ不レ帆レ風、差輕。[六][七]ことなる。あやしい。〔集韻〕差、異也。〔韓愈、瀧吏詩〕颶風有レ時作、掀レ簸眞差事。[邦]㊀さす。指の字と同用。㋑ゆびさす。㋺指定する。㋩むかふ。こころざす。㋥かざす。さしかける。㋭ささげる。㋬まとふ。帶にする。㋣はる。㋷かまへる。まうける。㋠盃をすすめる。㋷つけくはへる。㋦そそぐ。つぐ。㋸ともす。點火する。㋾將棊の駒を行る。㋻物差ではかる。㋕指物をつくる。㋵印をおす。捺印する。㋟灸をするゑる。㋹さしになひをする。舁ぐ。㊁さし。㋑ものさし。㋺俵にさしこんで米穀を引出す具。竹の一端をそぎおとしたもの。㋩舞を數へる數詞。㋥水・油等を他器に注入するための器。㋭さしむかひの略。㋬さしさはりの略。㋣さしつかへがあつて足遠く會ひ難い客。遊里の語。㋠動詞に副へる接頭語。

[名乘] スケ。シナ。

[解字] 會意。𠂹と左との合字。𠂹は垂の本字。左手が垂れて右手と相あはぬことから、たがふ意となる。說文通訓定聲には、𠂹は音符、左は右に比し不便であるから差違して値はない意とする。形聲。〔說文通訓定聲〕差、貳也、差不二相値一也、从レ左从レ𠂹、按、弍也忒也、左不二相値一也、从レ左猶レ从レ屮也、凡又便而屮不便、故爲下不二相値一之義上、从二𠂹聲一。

【差押】1 サアフ ㊀法廷に護送する。〔福惠全書、郵政部、船夫車驢〕嚴行二差押一。㊁サシオサヘ ㋑國家が強制力によつて、特定の物件又は權利につき、其の權利者の處分權を制限すること。民事訴訟法上のものと、刑事訴訟法上のものと、行政上のものとの三種ある。㋺特に民事訴訟で、執行機關が、強制執行の目的物に關する債務者の處分權を制限すること。

〔差押調書〕2 サシオサヘテウシヨ 民事訴訟では執行吏、國稅徵收では收稅吏が、財產の差押を行つた時に、其の事項の顚末を記した文書。

〔差押命令〕3 サシオサヘメイレイ 債權、其の他の財產權に對し、差押するために發する執行裁判所の命令。

〔差押目錄〕4 サシオサヘモクロク 差押へた物件の目錄。

【差異】5 サイ ちがひ。等差をつけて異にする。〔魏志、齊王芳紀〕整像爲レ兵、能守レ義執レ節、子弟宜レ有二差異一。

【差委】6 サヰ 官命で差遣する。天子から差遣するを差といひ、各官廳の長官から差遣するを委といふ。差派。〔清會典、吏部〕有二兼充一以省二其官一、有二差委一以寄二其責一。〔注〕凡欽差曰レ差、各衙門堂官所レ派曰レ委。〔清國行政法汎論、文官任務、差委〕實職或候補候選官吏、於二一定期內一、辦二理他事務一、又命辦二理新設官廳事務一、謂二之差委一、差者、皇帝之所レ派、委者、上官之所レ派、故或曰二欽差一、又曰二委員一。

【差違】7 サヰ ちがひ。たがひ。差異(5)に同じ。

【差引】8 サシヒキ ㊀引きさる。減ずる。㊁過不足を計算して埋め合はせる。㊂潮のさすことひくこと。㊃體溫のあがりさがり。

【差徭】9 サエウ 國家の土木工事に人民を徵發すること。又は、その代りに銀錢を徵收すること。〔清會典事例、工部、陵寢、陵寢工部官役〕自レ行二募覓一、若輩籍避二差徭一、鄕保不レ加二稽察一、無賴遂多竄入。〔福惠全書、編審部、總論〕毎レ有二差徭一、俱照レ丁派。

【差役】10 サエキ ㊀宋代、課役の法。周の力役の征、唐の庸(4－9378)に同じ。貧富に依つて、民家を分つて九等とし、上の四等から公用の人夫を徵發し、下の五等は免除する法。其の仕事は府車を主典し、官物を輦運する衙前、徵稅事務を掌る里正・戶長・鄕書手、警署事務に預る耆長・弓手・壯丁、官廳の雜務に從事する承符・散從等の四種に分れる。〔文獻通考、職役考一〕宣宗大中九年詔、以二州縣差役不一レ均、自今毎縣據二人貧富及役輕重一、作二差科簿一、云云、國初循二舊制一、衙前以主二官物一、里正・戶長・鄕書手以課二督賦稅一、耆長・弓手・壯丁以逐二捕盜賊一、承符・人力・手力・散從官以奔走驅使、云云、太宗太平興國三年、京西轉運使程能上言、諸州戶供二官役一、素無二等第一、望品定爲二九等一、著二於籍一、以上四等、量二輕重一給レ役、餘五等免レ之、後有二貧富一隨レ所二升降一、望下令二本路一施行上、俟二稍便宜一、卽頒二於天下一、詔令三轉運使躬裁二定之一。㊁用人。小使。〔桃花扇、阻奸〕差役上。㊂土地の治安を取り締る下級吏員。〔清會典事例、刑部、刑律捕亡、罪人拒捕〕凡犯罪事發、奉票差拘、及簽派看守押解之犯、敢於レ圖レ脫逞レ兇、拒二殺差役一者、俱擬レ斬立決。

【差越】11 サエツ たがひこえる。〔後漢書、安帝紀〕朕以二不德一遵二奉大業一、而陰陽差越、變異並見、萬民飢流、羌貊叛戾、夙夜克レ己、憂心京京。

【差下】12 ch'ai^{1} hsia^{4} 派遣し來る。〔燕子箋、僞緝〕反差下牛頭阿旁。

【差降】13 サカウ 官吏の犯罪に對し、一定の等差に從つて其の罪を降すこと。〔唐律、名例三、釋文〕差降者、猶二等第而降一也、若除名、比二徒三年一、免官者、比二徒二年一、免二所レ居官一者、比二徒一年一、如レ此論比、是名二差降一也。

【差號】14 ch'a^{1} hao^{4} 兩數の差を求める意を表はす算學中の符號。其の形は〜で、等號＝に別つ。

〔差號簿〕15 サガウボ つかひに出るばんづけちやう。〔福惠全書、涖任部、出堂規〕于二某日一該承行、執二差號簿一逐レ名査レ此。

【差合】16 サシアヒ ㊀さしあふこと。㊁さしつかへ。さしさはり。〔心中天の網島〕差あひありて今急に請出すことも叶はず。㊂連歌にいふ語。さりきらひ。用語・用字の禁忌。〔狂言、盜人連歌〕一段と出來た、さりながらさし合ひがある。㊃婦女の月經あること。〔大上﨟御名之事〕女房詞、不淨になる事をさしあひといふ。

【差詰】17 サシツメ ㊀さしあたり。さしむき。〔曾我虎磨〕三ノ太刀はさしづめ、聟の二宮。㊁さしつまりたること。

【差響】18 サシヒビキ 關係の他に及ぶこと。

【差金】19 サシガネ ㊀かねざし。曲尺。㊁芝居の舞臺で、蝶・鼠などを操るはりがね。㊂指揮して行はせる。㊃サシキン 支拂ふべき金額の幾分かを差し入れること。內金。㊄不足を補ふために出す金錢。㊅サキン 交易所の經紀人(仲買人)が交易する場合、其の約定價格と記帳價格の差額をいふ。

【差銀】20 サギン 人夫使用金。〔福惠全書、編審部、立局親審〕止納二差銀一。

【差訛】21 サクワ あやまり。ちがひ。〔韓愈、石鼓歌〕公從二何處一得二紙本一、毫髮盡備無二差訛一。

【差回】22 サクワイ 職務を終つて歸任すること。〔福惠全書、刑名、差拘、注〕若有二長差一、緣レ事告假、取二出名籤一勿レ差、俟二銷假差回時一、再入、如二點卯不レ到取出一、下次再入レ箒。

【差掛】23 サシカカリ さしあたり。さしづめ。さしむき。

【差官】24 サクヮン　清代、特命全權公使・各省學政・長蘆兩淮鹽政・各稅關監督等のやうに、特定の事務を辨理するために、皇帝から派遣する官。〔淸會典事例、吏部、滿洲升補、開列山差監督〕乾隆七年議准、凡戶部開列大小各差監督、於二毎年十月內一行レ文過レ部、咨二取八旗應レ出大差官員一、按二旗通行論俸一、毎レ旗覈二送五人一、應レ出小差官員、較レ本任レ俸、毎レ旗亦覈二送五人一。〔淸國行政法汎論、俸給〕差官者、謂下有二一定官職一者、臨時奉レ旨、差中派外省上。〔六部成語、吏部、差官、注解〕大官差二往各處一辦レ事之小官。

【差觀】25 サクヮン　差を以て見る。相違してゐる點から見る。〔莊子、秋水〕以レ差觀レ之、因二其所一レ大而大レ之。

【差輕】26 ch'a¹ ch'ing¹　稍〻輕い。

【差繼】27 サシツギ　❶次に繼ぐ。〔源氏物語、紅葉賀〕さしつぎの見物なりける。❷六位の藏人の次席のもの。❸差引勘定。

【差劇】28 サゲキ　病の癒えることと劇しくなること。〔南史、庾黔婁傳〕醫云、欲レ知二差劇一、但嘗レ糞甜レ苦、易二泄利一。

【差肩】29 サケン　肩をならべてやや後に立つこと。〔管子、輕重甲〕管子差肩而問曰。〔纂詁〕差肩、肩差在レ後也。〔王僧孺、與二何烱一書〕與二二三士友一、抗首接膝、履足差肩、摛二綺縠之淸文一、談二希夷之道德一。〔舊唐書、劉子玄傳〕蓬山之下、良直差レ肩、芸閣之中、英奇接レ武。〔李嶠、攀龍臺碑〕差二肩八座一、配二象七星一。

【差遣】30 サケン　❶さしつかはす。官吏を地方へつかはす。出張。〔魏書、于烈傳〕領レ軍可レ爲二差遣一。〔梁武帝、遣二豫章王一北伐詔〕衆軍計レ日差遣。〔舊唐書、職官志二〕凡衞士、各立二名簿一、其三年以來征防差遣、乃定二優劣一爲二三第一。〔李商隱雜纂、隔壁聞語〕說二食祿有一レ地、必是差遣不レ好。❷宋代の官制では、官・職・差遣の三あり、官は班列の高下を辨じ、廩祿の厚薄を制するもので、多くは職務無く、古の爵に當る。職は文學の士を待つもので、古の加官に當る。差遣は內外の事を治めるもので、古の官に當る。〔宋史、職官志序〕其官人受授之別、則有レ官、有レ職、有二差遣一、官以寓二祿秩一敍レ位、著レ職以待二文學之選一、而別爲二差遣一、以治二內外之事一。〔司馬光、百官表總序〕大宋受レ命、臺省寺監衞率之官正以辨二班列之崇卑一、制二廩祿之厚薄一、多無二職業一、其所謂官者乃古之爵也、所謂差遣者乃古之官也、所謂職者乃古之加官也。〔潛研堂文集〕答二袁簡齋一書曰、差遣之名、惟宋時有レ之、宋時百官除授、有レ官、有レ職、有二差遣一、如下東坡以二學士一知中定州上、知州事、差遣也、端明殿學士、職也、朝奉郎、官也。

【差雇】31 サコ　差役と雇役。差役は毎戶から人夫を出させる法。雇役は等級によつて錢を出させ、之を以て人夫を雇ふ法。〔蘇軾、杭州召還乞レ郡狀〕始衙前差雇利害、與二孫永・傅堯俞・韓維一爭議、因亦與二司馬光一異レ論。

【差悞】32 サゴ　あやまり。あやまる。まちがふ。「差誤。」

【差誤】33 サゴ　たがひあやまる。錯誤。〔韓非子、制分〕是以賞罰擾亂、邦道差誤、刑賞之不二分白一也。

【差拘】34 サコウ　吏員を遣はして捕縛する。〔淸會典事例、刑部、刑律、捕亡、罪人拒捕〕凡犯罪事發、奉票差拘、及簽派看守押解之犯。〔福惠全書、蒞任部、稟帖贅說〕經二卑職之差拘一、則悍然毆レ差。

【差催】35 ササイ　つかはしとりたてる。〔福惠全書、淸丈部、總論〕業戶有二差催守候之擾一。

【差繰】36 サシクリ　やりくりすること。

【差錯】37 ササク　まじはる。いりみだれる。〔爾雅、釋言、爽差也爽忒也、注〕皆謂三用レ心差錯不二專一。〔漢書、司馬相如傳下〕紛湛湛其差錯兮。〔注〕師古曰、差錯、交互也。〔魏志、東夷、倭人傳〕不レ得二差錯一。

【差傘】38 サシガサ　雨又は日を蔽ふためにさす傘。

【差子】39 ch'a¹ tzŭ　あやまり。まちがひ。

【差支】40 サシツカヘ　都合がわるい。さしさはり。故障。

【差矢】41 サシヤ　❶矢の一種。炙箆（アブリノ）にして、根を木で作り、矢數の通矢に用ひるもの。〔貞丈雜記、十、弓矢〕。❷矢つぎばやに射ること。〔平家物語、一、八島軍事、大阪越〕或は差矢に射る船もあり。

【差使】42 サシ　❶つかひ。使者。〔水滸傳、三回〕小人只道、奉二着差使一、又不二敢問一レ他。〔元曲、謝天香〕慣二歌謳一、好二比人毎日常差使一。〔福惠全書、蒞任部、親查閱〕一應驛遞差使、俱係二新任料理一。❷新設官廳の役員。役目。官職。〔淸會典事例、宗人府、授官〕諸伯叔之子孫內應レ封者、例應二晉封一、若未レ及レ封者、不レ派二一差使一行走、閒散度レ日、終致二廢棄一、甚屬レ可レ惜。〔淸國行政法汎論、新設官廳〕然差委有レ時或用二之於同一意義一、曰二差使一、曰二局差一、故稱二新設官廳之職員一曰二差使一、卽由二此意義一。❸つかはす。〔日本政記、平城天皇〕坂上田村麻呂爲二中納言一、兼二中衞中將一、差二使諸國一、賑二貸貧民正稅一。

【差差】43 シシ　齊しくないさま。〔荀子、正名〕君子之言、涉然而精、俛然而類、差差然而齊。〔注〕差差、不レ齊貌。〔韓愈、送二張道士一序〕劍鋒白差差。

【差紙】44 サシガミ　德川時代、官府から臣民を呼び出す書狀。召狀。召喚狀。〔丹波與作、中〕。

【差次】45 サジ　❶順序に從つて等差をつける。差等(78)に同じ。〔史記、商君傳〕明二尊卑爵秩等級一、各以二差次一。〔漢書、高后紀〕差二次列侯功一。〔淮南子、要略〕差二次仁義之分一。〔白虎通、爵〕差二次功德一。〔後漢書、劉愷傳〕差二次諸卿一。❷サシツギ　極藺に次ぐ六位藏人。

【差事】46 サジ　❶怪しい事。〔韓愈、瀧吏詩〕颶風有レ時作、掀レ簸眞差事。〔注〕差、昌化切、事怪也。〔劉克莊、跋二灌園蘇翁事蹟一〕蘇翁爲二當軸故人一、乃深自晦匿如レ此、方知二巢由不一レ爲二差事一。〔通俗編、品目、差人〕按、差事亦猶レ言二怪事一也。❷ch'ai¹ shih⁴　公用。

【差失】47 サシツ　まちがひ。失敗。〔宋史、職官志五〕又立二比較法一、以懲二差失一。

【差車】48 サシャ　❶春秋、齊の官名。車を掌る。輦車。〔左氏、哀、六〕其臣差車鮑點。〔注〕差車、主レ車之官。❷春秋、楚の人名。〔左氏、哀、十七〕右領差車與二左史老一、皆相二令尹司馬一以伐レ陳。〔會箋〕差車、其名也。

【差障】49 サシサハリ　都合が惡い。差支。故障。

【差殊】50 サシュ　たがふ。異なる。差異。〔舊唐書、崔仁師傳〕仁師後爲二度支郎中一、嘗奏二支庶財物數千言一、手不レ執レ本、太宗怪レ之、令二黃門侍郎杜正倫齎レ本、仁師對唱、一無二差殊一、太宗大奇レ之。

【差出】51 サシデ　❶さし出る。❷差出口の略。〔曾我會稽山〕言はれぬ差出か、知らねども。

【差出磯】52 サシデノイソ　湖・海などに差出でたる磯。〔玉葉集、冬〕さしでの磯の濱千鳥。

【差出口】53 サシデグチ　分限を越えて口出しする。いらぬ口だし。餘計な容喙。

【差出者】54 サシデモノ　さし出て言ひ、又は行ふ者。ですぎ者。

【差竣】55 サシュン　公務が終る。公用濟み。〔淸會典事例、吏部、漢員遴選、主事題補截留歸選〕道光十三年議准、揀二發河工學習人員一、仍按レ原到レ部之日、各按二各部一、比二較日期先後一、照レ例題補、俟二差竣一、補行引見。

【差序】56 サジョ　順序に從つたちがひ。〔魏志、東夷、倭人傳〕及二宗族尊卑一、各有二差序一。

【差承】57 サショウ　つかひ役人。〔福惠全書、郵政部、送差〕彼與二往來差承一熟識。

【差人】58 サジン　❶つかひ。使者。〔燕子箋、授畫〕外面有二天雄軍節度使同年賈老爺差人一。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕押卯差人。❷怪異の人。〔梁書、劉顯傳〕尙書令沈約命レ駕造焉、於レ坐策二顯經史十事一、顯對二其九一、云云、陸倕聞レ之歎曰、劉郎可レ謂二差人一。〔韓偓、兩賢詩〕而今若有二逃レ名者一、應レ被三品流呼二差人一。❸官廳最下級の小吏。下級官吏。〔淸會典事例、刑部、刑律捕亡、罪人拒捕〕犯罪逃走、及犯罪雖レ不二逃走一、官司差人追捕、有下抗拒不レ服二追捕一者上、於二本罪上一加二二等一。

【差數】59 サスウ　けぢめ。差別。〔莊子、秋水〕知三天地之爲二稊米一也、知三毫末之爲二丘山一也、則差數覩矣。

【差舛】60 サセン　あやまちたがふ。〔蔡邕、上二漢書十志一疏〕先治二律曆一、以二籌算一爲レ本、天文爲レ驗、請二太師田注一、考校連年、往往頗有二差舛一。

【差扇】61 サシアフギ　❶扇をさしかざす。又、其の扇。❷女官のさしかざす檜扇。

【差旋】62 ch'ai¹ hsüan²　公用を終へて歸任する。差回。

【差船】63 サセン　御用船。〔淸會典事例、工部、船政、應差船〕樓船二一、差船十、修造工料均與二廣州府河船一同。

【差足】64サシアシ　音のしないやうに、足をつまだてて歩く。〔謠曲、惡源太〕衆徒は靜かにさし足して、座敷を立ち去りぬ。

【差息】65サソク　稍〻止む。〔後漢書、祭祀志下〕光武帝、時寇賊未レ夷、方務二征伐一、祀儀未レ設、至二十九年一、盜賊討除、戎事差息。

【差拿】66サダ　つかひをやつてとらへる。〔福惠全書、蒞任部、出堂規〕臨レ比不レ到差拿。

【差當】67サシアタリ　眼前の場合。〔源氏物語、帚木〕さしあたりて見むには、わづらはしく。

【差度】68サタク　くらべはかる。擇ぶ。〔漢書、王莽傳上〕已使三有司徵二孝宣帝玄孫二十三人一、差二度宜者一以嗣二孝平皇帝之後一。〔注〕師古曰、差度、謂レ擇也。

【差擇】69サタク　えらぶ。〔淮南子、要略〕詮言者、所下以譬二類人事之指一、解中喩治亂之體上也、差二擇微言之眇詮一、以至二理之文一、而補二縫過失之闕一者也。

【差池】70シチ　齊しくないさま。互ひ違ひにするさま。參差。〔詩、邶風、燕燕〕燕燕于飛、差二池其羽一。〔傳〕燕之于飛、必差二池其羽一。〔箋〕差二池其羽一、謂三張二舒其尾翼一。〔集傳〕差池、不レ齊之貌。〔左氏、襄、二十二〕而何敢差池。〔注〕差池、不二齊一。〔後漢書、崔琦傳〕貫魚不レ敍、九御差池。

【差馳】71シチ　たがひに順序を以てはせる。〔阮籍、詠懷詩〕四時更代謝、日月遞差馳。〔注〕翰曰、差馳、言二相次而奔馳一也。

【差遲】72 chʻa^1 chʻih^2　閒違ふ。誤り亂れる。差錯。〔水滸傳、八十七回〕李金吾先自心中慌了、手段緩急差遲。〔元曲、秋胡戲妻〕休想道半點兒差遲。

【差枕】73サシマクラ　❶二つ並べた枕。二つ枕。同衾すること。〔賀古敎信七墓廻、三〕揚げて逢ふ夜のさし枕。❷箱枕(8－26209··9)に同じ。「呼び出す。

【差提】74 chʻai^1 tʻi^2　警吏を遣はして召還する。

【差趺】75サテツ　つまづく。又、しくじる。蹉跌。〔漢書、陳遵傳〕嘗謂二張竦一、吾與レ爾猶レ是矣、足下諷二誦經書一、苦レ身自約、不二敢差跌一。〔淮南子、俶眞訓〕所レ斷者差跌。〔晉書、虞預傳〕一旦差跌、衆鼓交鳴。

【差添】76サシソヘ　❶補助に附きそふ。❷刀に添へてさす短刀。差副。

〘差添人〙77サシソヘニン　補助として附きそふ人。

【差等】78サトウ　順序の區別。次第の相違。等級のちがひ。差次。等差。〔孟子、滕文公上〕之則以爲、愛無二差等一、施由レ親始。〔荀子、非十二子〕大二儉約一而僈二差等一。〔舊唐書、韋思謙傳〕國家班列、自有二差等一。

【差頭】79 chʻai^1 tʻou^2　小役人頭。小吏の取締役。

【差忒】80サトク　たがふ。たがひ。ちがひ。舛誤。差錯。〔呂覽、季夏〕無レ或二差忒一。〔淮南子、時則訓〕無レ有二差忒一。〔顏延之、庭誥文〕衡石日陳、猶患二差忒一、況神道不レ形、固衆端之所レ假。〔朱子全書、論語〕天子有二天下一、則天下鬼神屬焉、看下來爲二天子一者上、這一箇神明是多少大、如何有二些子差忒一得。

【差貸】81サトク シジ　あやまり。入りみだれる。差異。〔禮、月令〕(季夏之月)命二婦官一染レ采、黼黻文章、必以二法故一、無レ或二差貸一。〔釋文〕差貸、音二一、又他得反。〔疏〕無レ得レ有二參差貸變一。〔集說〕差、楚宜反。〔禮、月令〕仲冬之月、云云、大酋監レ之、毋レ有二差貸一。〔注〕差貸、謂二失誤有レ善有レ惡也。

【差入】82サシイレ　❶物をさし入れること。❷差入品の略。

〘差入品〙83サシイレヒン　在監中の刑事被告人に、其の親戚故舊などより差し入れてやる飲食物、又は其の他の物品。差入物。

【差任】84サニン　まかされる。委任。〔李漁、鄉立約條〕受二官差任一、憑レ心作レ弊者。

【差派】85サハ　官命で派遣する。〔清國行政法汎論、俸給〕差官者謂下有二一定官職一者、臨時奉旨、差中派外省上。

【差馬】86サバ　つかひのうま。〔福惠全書、蒞任部、看須知〕現在行二差馬一、有無缺額。

【差配】87サハイ　❶隸屬させて使役する。〔金史、食貨志三〕乞與二本州司縣一、均爲二差配一。❷㋑取扱ひ。㋺所有主に代つて、貸地・貸家等を管理する。又、其の者。

〘差配人〙88サハイニン　差配する人。

【差發】89サハツ　外國から徵發する賦稅。明初には西域諸國に金牌を給し、毎歲、其の馬を以て茶に易へしめて、差發と稱した。上供。〔明史、西域傳二〕明初、設二安定・阿端・曲先・罕東・赤斤・沙州諸衞一、給二之金牌一、令二歲以レ馬易レ茶、謂二之差發一。〔黑韃事略〕其賦斂謂二之差發一、賴レ馬而乳、須レ羊而食、皆視二民戸畜牧之多寡一而征レ之、猶二漢法之上供一也。

【差撥】90サハツ　❶指圖。口出し。〔水滸傳、二十四回〕正好喫酒、卻又沒、官人休レ怪二老身差撥一、再買二一瓶兒酒一來喫如何。❷囚人を指圖し、看守する小役人。看守。〔水滸傳、二十八回〕包裹裏若有二人情的書信、竝使用的銀兩一、取在二手頭一、少刻差撥到來、便可三送二與他一。

【差法】91サハフ　賦役の法。〔漢宮秋、一折〕情取三棘針門粉壁上除二了差法一。

【差樊】92サハン　官位階級などの差別に從つてつくるかき。〔管子、侈靡〕有二差樊一有二瘞藏一。〔纂詁〕樊、籬也、以二上所レ爲、猶爲レ不レ盡二文明一也、故壟墓之外、有レ屛圍レ之、其外又有レ籬圍レ之、皆從二次第差等一而爲レ之。

【差謬】93サビウ　あやまり。差訛。〔後漢書、陸續傳〕分二別姓字一、無レ有二差謬一。〔唐書、崔善爲傳〕暗唱無二一差謬一。

【差品】94サヒン　差別。等級。〔漢書、貨殖傳序〕昔先王之制、自二天子公侯卿大夫士一、至二于皁隸抱關擊柝者一、其爵祿奉養宮室車服棺槨祭祀死生之制、各有二差品一、小不レ得レ僭レ大、賤不レ得レ踰レ貴。

【差副】95サシゾヘ　打刀に差しそへて佩く短い刀。脇差。副刀。〔御伽草子、酒呑童子〕腰のさしぞへ、するりと拔き。

【差物】96サシモノ　近世の武具。戰場に標識として持つ旗、又は種々の作り物。其の小さいものは鎧の受筒に插し、大きいものは人に持たせて從はせる。指物。〔北條五代記、一〕さし物に挑燈を七つ附けたり。

【差分】97サブン　古の算法の名。九數（九章）の一。品級に差あるものに公平に割り當てる義。貴賤の稟稅の割當てを計算するに用ひた。衰分。〔周禮、地官、保氏、九數、注〕九數、方田・粟米・差分・少廣・商功・均輸・方程・贏不足・旁要。〔孫詒讓正義〕衰分以御二貴賤稟稅一、云云、衰、差也、以レ差而平分、故曰二衰分一。

【差票】98サヘウ　つかひのかきつけ。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕向二內衙一傳二送差票一。

【差別】99サベツ シャベツ　わかつ。ちがひ。けぢめ。分別。區別。差品。〔一切經、剎別、希麟音義〕案二玉篇一、剎音初八反、案レ經、合レ作二差字一、故經云、種種欲樂勝解二差別一、今云二剎別一、恐因レ聲誤寫、請諸高識再詳二經意一。〔陳書、劉師知傳〕此與二梓宮部伍一有二何差別一。〔白居易、題二道宗上人一十韻詩〕一音無二差別一、四句有二詮次一。

〘差別界〙100サベツカイ　物それぞれに差別ある世界。現象界・平等界の對。

【差捕】101サホ　つかひのとりて。〔福惠全書、刑名部、逃人、拉撒〕數人扮爲二差捕一。

【差毛】102サシゲ　馬などに異なつた毛の雜ること。又、其の毛。

【差滿】103サマン　役が滿期になる。〔清會典事例、吏部、滿洲升補、宗室官員出差〕差滿之日、先回二原衙門一行走、遇レ有二各衙門宗室缺出一、卽行二坐補一。

【差務】104サム　勤務。〔清會典事例、吏部、滿洲升補、開列出差監督〕該督撫於二兩月內一、據レ實奏二明何項差務一、必須二該員辦理之處一、吏部再行二開缺一。

【差沐】105サモク　米のとぎみづを取つて浴すること。白水浴。差は淅。〔禮、喪大記〕御者差二沐於堂上一。〔注〕差、淅也、淅二飯米一取二其潘一以爲レ沐也。

【差愈】106サユ　病がいえる。〔方言、三〕差、愈也、南楚、病愈者謂二之差一。〔魏武帝、丁幼陽令〕後以二憂恚一得二狂疾一、卽差愈、往來故當レ共二宿止一。

【差吏】107 chʻai^1 li^4　使者。〔桃花扇、迎駕〕阮（大鋮）換差吏服色介。

【差量】108サリヤウ　くらべはかる。〔後漢書、馮勤傳〕勤差二量功次輕重、國土遠近、地勢豐薄一、不二相踰越一。

【差戾】109サレイ　たがふ。もとる。〔晉書、天文志上〕參星差戾、王臣貳。

【差料】110サシレウ　己の佩びるため備へつける刀劍。

【差路】111サロ　分れ路。岐路。〔天祿識餘、跂路〕韻會小補、引二唐詩枯木巖前差路多一、謂二岐道一也、集韻或作レ跂、董遐周吹景集、記二俗語一亦引レ之。

【差論】112サロン　選擇すること。〔墨子、尙同下〕其

所㆓差論以自左右羽翼㆒者皆良。〔閒詁〕王云、差論、皆擇也。

【差問】113 サシツカヘ　差支(40)に同じ。

【差級數】114 ch'a¹ chi² shu⁴　數學名詞。等差級數(8－25992・・33)に同じ。

【差科簿】115 サクワボ　人夫帳。唐の宣宗の時、人の貧富、役の輕重に據つて、差役の割り當てを定め、差科簿を作つた。人足割付帳。〔文獻通考、職役考〕宣宗大中九年詔、每縣據㆓人貧富及役輕重㆒、作㆓差科簿㆒。

【差得遠】116 ch'a¹ tê yüan³　非常な相違。

【差德湖】117 チャードコ　湖の名。中央スダンにある淺い湖。乍得湖ともかく。Chad lake

【差不多】118 ch'a¹ pu tuo¹　㊀大差ない。㊁大抵。大概。率ね。

【差以㆓千里㆒】119 タガフニセンリヲモツテス　始めに少し誤れば、其の差異が終りには極めて甚だしくなること。〔史記、太史公自序〕易曰、失㆓之毫釐㆒、差以㆓千里㆒。〔晉書、虞預傳〕毫釐之失、差以㆓千里㆒。

【差彊㆓人意㆒】120 ヤヤジンイヲツヨクス　少しく氣丈夫にさせる。〔後漢書、吳漢傳〕諸將見㆓戰陣不㆑利、或多惶懼、失㆓其常度㆒、漢意氣自若、方整㆓厲器械㆒、激㆓揚士吏㆒、帝時遣㆑人觀㆓大司馬何爲㆒、還言方修㆓戰攻之具㆒、乃歎曰、吳公差彊㆓人意㆒、隱若㆓一敵國㆒矣。

【差後勞復】121 サゴラウフク　病氣が全快せぬ中に再び病むこと。〔傷寒論〕大病差後勞復者、枳實梔子湯主㆑之。

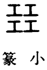
【巭】8733　キ　隵(11－41895)に同じ。〔字彙補〕巭、與㆑隵同。

八畫

【巬】8734　フ　巫(4－8728)の古字。〔集韻〕巫、古作㆑巬。

九畫

【㠭】8735　テン　〔集韻〕知輦切 [銑]


小篆

㊀あきらかにする。みきはめる。〔說文〕㠭、極巧視㆑之也、从㆓四工㆒。〔繫傳〕鍇按、周禮考工記云、展㆑角之道、展、察視也、四工同視也。㊁展(4－7715)に同じ。〔玉篇〕㠭、今作㆑展。

[解字] 會意。四つの工を合はせ、四人の細工人が共に見る意を表はす。

十二畫

【𢀩】8736　サ　差(4－8732)の古字。〔集韻〕差、古作㆑𢀩。

【㠮】8737　ホウ フ　〔字彙〕普蒙切 [東]　**ふくらむ。**〔字彙〕㠮、虛脹也。

【𢀿】8738　ジ　義未詳。〔海篇〕𢀿、音爾。

十三畫

【𢁉】8739　タ　多(3－5756)に同じ。〔字彙補〕𢁉、同㆑多。

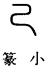
【𢁋】8740　ブ　無(7－19113)に同じ。〔字彙補〕𢁋、與㆑無同。

十六畫

【𢁒】8741　シヨ　初(2－1911)に同じ。〔五音集韻〕𢁒、同㆑初。

己部

【己】8742　[一]キ　〔集韻〕苟起切　ㄐㄧˇ chi³ [紙]　[二]キ　〔集韻〕居吏切 [寘]　[慣]コ


小篆

古文

[一]**㊀おのれ。**〔說文、己、段注〕釋名曰、己皆有㆓定形㆒、可㆓紀識㆒也、引申之義爲㆓人己㆒、言㆑己以別㆓於人㆒者、己在㆑中、人在㆑外、可㆓紀識㆒也。㋑みづから。〔廣韻〕己、身己。〔書、大禹謨〕舍㆑己從㆑人。〔禮、坊記〕君子貴㆑人而賤㆑己、先㆑人而後㆑己。㋺わたくし。私欲。〔韻會〕己、又私也。〔論語、顏淵〕克㆑己復㆑禮爲㆑仁。〔集注〕己、謂㆓身之私欲㆒也。**㊁なにがし。**〔左氏、文、十四〕終不㆑曰㆑公、曰㆓夫己氏㆒。〔注〕夫己、猶㆑言㆓某甲㆒也。**㊂つちのと。**十干の第六位。〔說文〕己、中宮也、象㆓萬物辟藏詘形㆒也、己承㆑戊、象㆓人腹㆒。〔段注〕戊己皆中宮、故中央土、其日戊己。〔釋名、釋天〕己、紀也、皆有㆓定形㆒、可㆓紀識㆒也。〔禮、月令〕其日戊己。〔注〕己之言、起也、其含㆑秀者、抑屈而起。〔白虎通、五行〕己者、抑屈起。**㊃語勢を助ける助辭。**其(2－1472)に通ず。〔經傳釋詞、五〕其、語助也、或作㆑記、或作㆑忌、或作㆑己、或作㆑近、義竝同也、詩揚之水曰、彼其之子、箋曰、其或作㆑記、或作㆑己、讀聲相似、云云、文十四年左傳、云云、終不㆑曰㆑公、曰㆓夫己氏㆒、杜解補正曰、夫己氏、猶㆑言㆓彼己之子㆒、注疏、讀㆑己爲㆓甲己之己㆒非㆑是。**㊄をさめる。**紀(8－27234)に通ず。〔廣雅、釋言〕己、紀也。〔詩、小雅、節南山〕式㆑夷式㆑己。〔箋〕爲㆑政、當㆘用㆓平正之人㆒、用能紀㆗理其事㆖也。〔釋文〕己、鄭音紀。㊅古は𢀒(4－8718)に作る。〔說文〕己、𢀒、古文己。〔集韻〕己、古作㆑𢀒。**㊆姓。**〔通志、氏族略、以㆑姓爲㆑氏〕己氏、昆吾之姓也、漢有㆓太常卿己茂㆒。[二]忌(4－10310)に同じ。〔集韻〕忌、語己詞、或作㆑己。

[解字] 指事。五行說によれば、戊己は五行の中央にあたる。故に萬物形を曲げて縮まり藏れる貌にかたどる。本義を中宮とし、之を引申して、外にある他人に對し、內にある自己、卽ちおのれの意とする。つちのとと訓ずるのは、五行說で戊己は中央の土にあたるからである。說文通訓定聲によれば、三橫線と二縱線との合字。三橫線は絲、二縱線はそれを分つ意、故に紀の本字とする。〔說文通訓定聲〕己、按、己卽紀之本字、古文象㆓別㆑絲之形㆒、三橫二縱、絲相別也。

[參考] 己・已(4－8743)・巳(4－8744)は皆別字。古い歌に、「キ・コの聲、オノレ・ツチノト、下につき、イ・スデニ中ば、シ・ミはみなつく」、又「ミ・シは上、ヤム・イはスデニ中ばなり、オノレ・ツチノト、コ・キ下につく」とある。〔字彙、三字相似〕己、人己之己、上方處不㆑連、已、已止之已、上微缺、巳、辰巳之巳、上不㆑缺、俗以㆑有㆓鉤挑㆒爲㆓人己已止字㆒、無㆓鉤挑㆒爲㆓辰巳之字㆒、非。

【己己】1 キキ　盛なさま。詩經、豳風、狼跋には几几に作る。〔說文〕己、讀若㆓詩赤舃己己㆒。

【己畦】2 キケイ　淸、葉燮(9－31387・・94)の號。

【己吾】3 ゴキ 縣名。❶後漢、置く。故城は河南省寧陵縣の西南。〔後漢書、桓鸞傳〕鸞爲二己吾汲二縣令一。〔讀史方輿紀要、河南、歸德府、寧陵縣〕己吾城、在二縣西南三十里一、風俗通云、寧陵縣之徒二種龍鄕一也、後漢永元十一年、置二己吾縣一屬二陳留郡一、典略、魏武初起二兵於己吾一、卽此、晉省レ縣而城猶存、永嘉五年、石勒給斬二王彌於己吾一、卽後魏復置レ縣、屬二馬頭郡一。❷南齊、置く。故治は安徽省懷遠縣の北。❸後魏、置く。故治は安徽省靈壁縣の東南。

【己惚】4 ウヌボレ 自分を實際以上に高く評價すること。自らたかぶりたのむこと。

【己蒼】5 キサウ 清、馮舒(**12－44579**‥95)の字。

【己氏】6 キシ ❶縣名。漢、置く。春秋の己氏邑。故城は山東省曹縣の東南。〔左氏、哀、十七〕公入二於戎州己氏一。〔注〕戎州、戎邑、己氏、戎人姓。〔漢書、地理志下〕梁國、縣八、己氏。〔讀史方輿紀要、山東、兗州府、曹州、曹縣〕楚邱城、縣東南四十里、春秋時、戎州己氏之邑、左傳隱七年、戎執二凡伯於楚邱一、又襄十年、宋享二晉侯於楚邱一、楚邱蓋在二曹宋閒一、漢置二己氏縣一屬二梁國一、後漢改屬二濟陰郡一、晉屬二濟陽郡一、後魏亦屬二濟陰郡一、魏末改屬二沛郡一、隋開皇六年、改爲二楚邱縣一。❷複姓。〔元和姓纂〕宋大夫司馬己氏之後。〔通志、氏族略、以レ姓爲レ氏〕己氏、音自己之己、昆吾之姓也、漢有二太常卿己茂一。

【己身】7 キシン おのがみ。自分。〔顏氏家訓、兄弟〕愛二先人之遺體一、惜二己身之分氣一。〔顏氏家訓、勉學〕己身姓名、多或乖舛。

【己生】8 キセイ 自分の生んだ子。〔顏氏家訓、後娶〕前妻之子、毎居二己生之上一、宦學婚嫁、莫レ不レ爲レ防焉、故虐レ之。

【己千】9 キセン 谷松の號。谷一齋(**10－36182**‥67)を見よ。

【己智】10 コチ 姓氏。〔新撰姓氏錄考證〕・〔明治新撰姓氏錄〕。

【己任】11 キニン 己の行ふべき任務。〔魏志、楊阜傳〕以二天下一爲二己任一。〔國史略、二條天皇〕信西亦以爲二己任一。

【己楙】12 キボウ 宋、胡交修(**9－29400**‥419)の字。

【己利】13 コリ 佛己の利益。〔法華經、序品〕逮二得己利一、盡二諸有結一。

【爲レ己】13′ オノレノタメニス 自分の身の修養になるやうに力める。〔論語、憲問〕古之學者爲レ己、今之學者爲レ人。

【行レ己】14 オノレヲオコナフ 己の一身を處する。〔論語、公冶長〕其行レ己也恭。〔論語、子路〕子曰、行レ己有レ恥、使二於四方一、不レ辱二君命一、可レ謂レ士矣。

【虛レ己】15 オノレヲムナシクス 自分の考へをすてて謙虛にする。〔漢書、五行志上〕周旣克レ殷、以二箕子一歸、武王親虛レ己而問焉。

【矜レ己】16 オノレヲホコル 己の長所美點を誇りたかぶる。〔隋書、煬帝紀論〕恃レ才矜レ己、傲二狠明德一、內懷二險躁一、外示二凝簡一。

【恭レ己】17 オノレヲウヤウヤシクス 己の身を正しく恭しくする。〔論語、衛靈公〕恭レ己正南面而已矣。

【屈レ己】18 オノレヲクッス 己の志をまげて人に從ふ。〔孔叢子、抗志〕與二屈レ己以富貴一、不レ若二抗レ志以貧賤一。

【潔レ己】19 オノレヲイサギヨクス 己の行を潔白にする。〔論語、述而〕人潔レ己以進、與二其潔一也、不レ保二其往一也。

【克レ己】20 オノレニカツ 己の私欲にうち勝つ。克レ己復レ禮を見よ。

【克レ己復レ禮】21 オノレニカチテレイニカヘル 私欲をすてて、禮にかへり行ふ。〔論語、顏淵〕顏淵問レ仁、子曰、克レ己復レ禮爲レ仁。〔集注〕克、勝也、己、謂二身之私欲一也、復、反也、禮者、天理之節文也。

【罪レ己】22 オノレヲツミス 己の缺點を自ら咎める。〔左氏、莊、十一〕禹湯罪レ己、其興也勃焉、桀紂罪レ人、其亡也忽焉。

【修レ己】23 オノレヲヲサム 己の身を修める。〔論語、憲問〕子路問二君子一、子曰、修レ己以敬。

【修レ己治レ人】23′ オノレヲヲサメヒトヲヲサム 我が身を修め、人を教化する。〔朱熹、大學章句序〕然於二國家化レ民成レ俗之意、學者修レ己治レ人之方一、則未三必無二小補一云。

【修レ己而不レ責レ人則免二於難一】24 オノレヲヲサメテヒトヲセメザレバスナハチナンヨリマヌカレン よく己の身を修めて他人の過失を咎めねば、危難より免れることが出來る。〔左氏、閔、二〕告レ之以レ臨レ民、教レ之以二軍旅一、不レ共是懼、何故廢乎、且子懼二不孝一、無レ懼レ弗レ得レ立、修レ己而不レ責レ人、則免二於難一。

【酌レ己】25 オノレヲクム 自分をはかる。〔任昉、爲二齊明皇帝一作レ相讓二宣城郡公一第一表〕庶レ心弘レ議、酌レ己親レ物。〔注〕良曰、酌、度也。

【恕レ己】26 オノレヲユルス 己の行の惡しきを見逃がす。〔楚辭、離騷〕羌內恕レ己以量レ人兮、各興レ心而嫉妒。

【勝レ己】27 オノレニマサル 自分よりもすぐれてゐる。〔孟子、公孫丑上〕射者正レ己而後發、發而不レ中、不レ怨二勝レ己者一、反二求諸己一而已矣。

【正レ己】28 オノレヲタダス 己の行を正しくする。〔中庸〕正レ己而不レ求二於人一則無レ怨。〔莊子、繕性〕小識傷レ德、小行傷レ道、故曰、正レ己而已矣。

【總レ己】29 オノレヲスブ 官吏が己の職を統べまとめる。〔論語、憲問〕君薨、百官總レ己以聽二於冢宰一三年。〔集注〕總レ己、謂三總二攝己職一。

【總レ己以聽】30 オノレヲスベテモツテキク 一身をまかせて命令をきく。〔後漢書、獻帝紀〕軍事百官總レ己以聽。

【知レ己】31 オノレヲシル 自分をよく理解する。又、其の人。知己(**8－23935**‥40)を見よ。

【絀二於不レ知レ己】32 オノレヲシラザルニクッス 君子は己を認めてくれない人に對しては、志を屈して伸ばさない。〔史記、晏子傳〕越石父曰、君子絀二於不レ知レ己、而信二於知レ己者一。

【知レ己者不レ怨レ人】33 オノレヲシルモノハヒトヲウラマズ 自分の不德を知るものは他人の自分に對する態度を怨まない。〔說苑、談叢〕知レ命者不レ怨レ天、知レ己者不レ怨レ人。

【直レ己】34 オノレヲナホクス 己の行を正しくする。〔禮、樂記〕歌者直レ己而陳レ德也。

【適レ己】35 オノレニテキス 己の心に思ふがままにする。〔史記、莊子傳〕其言洸洋自恣以適レ己。

【得レ己】36 オノレヲウ 自分の本性を失はず操守を全うする。〔孟子、盡心上〕窮不レ失レ義、故士得レ己焉。

【反レ己】37 オノレニハンス ❶人が我に叛く。〔左氏、僖、五〕陳轅宣仲怨三鄭申侯之反二己於召陵一、故勸レ之城二其賜邑一。❷オノレニカヘリミル 自己反省をすること。〔菜根譚、前〕反レ己者、觸レ事皆成二藥石一。

【勵レ己】38 オノレヲハゲマス 己の心や行を正しくする。〔晉書、慕容德等載記論〕崇二儒術一以弘レ風、延二讜言一以勵レ己。

【枉レ己】39 オノレヲマグ 己の守るべき所をすてる。〔孟子、萬章上〕吾未レ聞二枉レ己而正レ人者一也。

【己寬堂】40 キクワンダウ 室名。明、陳鎏(**11－41698**‥59)の室名。

【己侯鐘】41 キコウノショウ 鐘の名。壽光縣紀侯臺の下に出づ。阮元は己を釋して紀とす。鐘文は凡て六字、背に簡文の鸞字形がある。〔積古齋鐘鼎彝器欵識、紀侯鐘〕己・紀、古通用、鐘字作二反文一、此鐘壽光縣人得二之於紀侯臺下一。

【己齋叟】42 キサイソウ 元、關漢卿(**11－41470**‥238)の號。

【己飢己溺】43 オノレウヤシオノレオボラス 天下の中、一人でも其の所を得ない者あれば、皆自分の責任とする意。〔孟子、離婁下〕禹思三天下有二溺者一、由二己溺一之也、稷思三天下有二飢者一、由二己飢一之也。

【以レ己及レ人】44 オノレヲモツテヒトニオヨボス 推レ己及レ人(48)に同じ。〔論語、雍也〕夫仁者己欲レ立而立レ人、己欲レ達而達レ人、〔集注〕以レ己及レ人、仁者之心也。

【以レ己度レ人】45 オノレヲモツテヒトヲハカル 己の心を標準として他人の心をおしはかる。〔明心寶鑑〕以二己之心一度二人之心一。

【顧レ己循レ涯】46 オノレヲカヘリミテガイニシタガフ 己の身を顧みて分に從ふ。涯は分。〔任昉、到二大司馬記室一牋〕顧レ己循レ涯、寔知レ塵レ忝、千載一逢、再造難レ答。〔注〕向曰、涯、分。

【舍レ己從レ人】47 オノレヲステテヒトニシタガフ 他人に善行あれば、己の行をすてて、人の善行に倣つて行ふ。〔書、大禹謨〕稽二于衆一舍レ己從レ人。〔孟子、公孫丑上〕大舜有レ大焉、善與レ人同、舍レ己從レ人、樂取二於人一以爲レ善。

【推レ己及レ人】48 オノレヲオシテヒトニオヨボス 己の心を標準として他人の心をおしはかる。忠恕の道をいふ。〔朱熹、與二范直閣一書〕學者之於二忠恕一、未レ免三參二校彼己一、推レ己及レ人則宜。

【推レ己及レ物】49 オノレヲオシテモノニオヨボス 推レ己及レ人に同じ。〔二程全書、遺書十一〕以レ己及レ物、仁也、推レ己及レ物、恕也、忠恕一以貫レ之、忠者天理、恕者人

道、忠者無レ妄、恕者所三以行二乎忠一也、忠者體、恕者用、大本達道也、此與二違レ道不レ遠異者、動以レ天爾。

【度レ己以レ繩】50（オノレヲハカルニジヨウヲモツテス）　法則で己の身を律して寛大にしない。〔荀子、非相〕故君子之度レ己、則以レ繩、接レ人則用レ枻。

【同レ己爲レ是】51（オノレニオナジキヲゼトナス）　唯〻己の意見と同じものを是とし、眞理の如何を問はない。〔莊子、寓言〕同二於己一爲レ是之、異二於己一爲レ非之。

【不レ伐二己長一】52（オノレノチヤウヲホコラズ）　己の長所を誇らない。〔北齊書、陸卬傳〕不レ說二人短一、不レ伐二己長一。

【封レ己養レ高】53（オノレヲアツクシタカキヲヤシナフ）　己の身を大切にして高名を養ふ。〔李康、運命論〕封レ己養レ高、勢動二人主一。〔注〕銑曰、爲三厚レ己養二其高名一。

【己正而後發】54（オノレタダシウシテノチニハツス）　己の心身を正しくして後に矢を發する。〔禮、射義〕射求レ正二諸己一、己正而後發。〔孟子、公孫丑上〕仁者如レ射、射者正レ己而後發。

【爲二說レ己者一容】55（オノレヲヨロコブモノノタメニカタチヅクル）　女子は、己を愛する者のために容姿を調へる。〔史記、刺客、豫讓傳〕士爲二知レ己者一死、女爲二說レ己者一容。

【責レ己重以周】56（オノレヲセムルコトオモクシテモツテアマネシ）　己を責めることが嚴重で周密なこと。〔韓愈、原毀〕古之君子、其責レ己也重以周、其待レ人也輕以約。

【卑レ己而尊レ人】57（オノレヲイヤシクシテヒトヲタフトブ）　己の身を卑くして人を尊ぶ。〔禮、表記〕卑レ己而尊レ人、小心而畏レ義。

【己坐レ山觀二虎鬭一】58（オノレハヤマニザシトラノタタカフヲミル）　たかみの見物の喩。〔紅樓夢、十六回〕己坐レ山觀二虎鬭一、借レ劍殺レ人。

【己欲レ達而達レ人】59（オノレタツセントホツスレバヒトヲタツセシム）　仁者は人と我とのへだてなく、自分がある目的を遂げ達せんと欲するときは先づ人をして遂げ達せしめる。〔論語、雍也〕夫仁者己欲レ立而立レ人、己欲レ達而達レ人。

【己欲レ立而立レ人】60（オノレタタントホツスレバヒトヲタタシム）　己欲レ達而達レ人を見よ。

【毋二先レ己而後一レ人】61（オノレヲサキニシテヒトヲノチニスルナカレ）　自分の事を先にして他人の事を後まはしにしてはならない。〔說苑、政理〕君子愼二言語一矣、毋二先レ己而後一レ人、擇レ言出レ之、令二口如一レ耳。

【無レ友二不レ如レ己者一】62（オノレニシカザルモノヲトモトスルナカレ）　善を責めて益を得るのが友人の道であるから、德の己に及ばないものは友とするな。〔論語、學而〕主二忠信一、無レ友二不レ如レ己者一、過則勿レ憚レ改。〔論語、子罕〕子曰、主二忠信一、毋レ友二不レ如レ己者一、過則勿レ憚レ改。

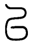
【己所レ不レ欲勿レ施二於人一】63（オノレノホツセザルトコロハヒトニホドコスナカレ）　己の欲し望まないことは、人も又好まないことであるから、之を他人に仕向けてはならない。〔論語、顏淵〕子曰、出レ門如レ見二大賓一、使レ民如レ承二大祭一、己所レ不レ欲、勿レ施二於人一。〔論語、衞靈公〕子貢問曰、有下一言而可二以終身行一レ之者上乎、子曰、其恕乎、己所レ不レ欲、勿レ施二於人一。

【足二乎己一無レ待二於外一之謂レ德】64（オノレニタリテホカニマツコトナキコレヲトクトイフ）　自分に十分體得して外物に賴る必要のないもの、それが德である。〔韓愈、原道〕博愛之謂レ仁、行而宜レ之之謂レ義、由レ是而之焉、之謂レ道、足二乎己一無レ待二於外一之謂レ德。

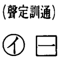
【已】8743

㊀イ　〔集韻〕養里切　ㄧˇ i3　紙

㊁イ　〔集韻〕羊吏切　寘



小篆



小篆（聲定訓通）

㊀㊁❶**やむ。やめる**。㋑とまる。とめる。〔詩、鄭風、風雨〕雞鳴不レ已。〔箋〕已、止也。〔詩、小雅、南山有臺〕德音不レ已。〔傳〕已、止也。〔荀子、宥坐〕已二此三者一、然後刑可レ卽也。〔注〕已、止也。㋺をはる。をへる。〔廣雅、釋詁四〕已、訖也。〔易、損〕已レ事遄往。〔注〕已、竟也。〔禮、檀弓上〕吾得レ正而斃焉斯已矣。〔疏〕已、猶レ了也。〔戰國、齊策〕言未レ已。〔注〕已、畢也。〔呂覽、知分〕則今是已。〔注〕已、竟也。㋩きまる。〔左氏、昭、十三〕且曰吾已。〔注〕已、猶二決竟一。㋥なる。〔廣雅、釋詁三〕已、成也。㋭さる。さがる。〔詩、陳風、墓門〕知而不レ已。〔箋〕已、猶レ去也。〔禮、學記、古之教者、注〕古者仕焉而已者。〔疏〕已、退也。〔論語、公冶長〕三已レ之。〔皇疏〕已、謂二黜止一也。〔孟子、梁惠王下〕王曰、已レ之。〔注〕已レ之者、去レ之也。㋬すてる。〔孟子、盡心上〕於レ不レ可レ已而已。〔注〕已、棄也。❷**いえる**。なほる。〔廣雅、釋詁一〕已、癒也。〔呂覽、至忠〕疾乃遂已。〔注〕已、除愈也。〔漢書、酷吏、義縱傳〕已而卒起幸二甘泉一。〔注〕師古曰、已、謂二病愈一也。❸**やみなん**。やんぬるかな。絶望の詞。〔書、大誥〕已、予惟小子。〔傳〕已、發端歎辭也。〔左氏、昭、十二〕已乎已乎。〔注〕已乎、決絶之辭。〔楚辭、離騷〕已矣哉國無レ人、莫二我知一兮。〔注〕已矣哉者、絶望之詞也。❹**のみ**。斷定・限局を意味する助辭。〔禮、檀弓下〕生事畢而鬼神始已。〔注〕已、辭也。〔論語、衞靈公〕辭達而已矣。〔史記、太史公自序〕皆失二其本一已。〔注〕索隱曰、已者、語終辭。〔漢書、馮唐傳〕上曰、何已。〔注〕師古曰、已、猶レ耳。❺**ゆるさない**。〔禮、表記〕寧有二已怨一。〔注〕已、謂レ不レ許也。〔荀子、王霸〕刑賞已諾。〔注〕已、不レ許也。❻**もつて**。もちひる。以(1−388)に同じ。〔正字通〕㠯、以本字、說文、㠯、用也、反巳爲レ㠯、云云、已與レ㠯、古共一字、隸作二已・以一。〔說文通訓定聲〕已、用也、从二反巳一、指事、賈侍中說、已、意巳實也、象形、按、賈謂二薏苡實一、象形、不レ从二反巳一、隸亦作レ㠯作レ以。〔廣雅、釋言〕已、㠯也。〔易、損〕已事遄往。〔釋文〕已、本亦作レ以。〔素問、陰陽類論〕已下盡草與二柳葉一皆殺上。〔注〕已、以也。❼**はなはだ**。〔詩、唐風、蟋蟀〕無二已太康一。〔傳〕已、甚也。〔禮、禮器〕不レ然則已慤。〔注〕已、猶レ甚也。❽**すでに**。㋑まへかた。はやく。〔集韻〕已、過事語辭。〔史記、田敬仲完世家〕王已立在レ莒。㋺いまや。もはや。〔孟子、梁惠王下〕今乘輿已駕矣。㋩まつたく。〔史記、張儀傳〕張儀已學、而游二說諸侯一。㋥やがて。すでにして。〔史記、高祖紀〕已而有レ娠。❾**かならず**。〔漢書、灌夫傳〕已然諾。〔注〕師古曰、已、必也、謂二一言許一レ人、必信一レ之也。❿**これ。この**。〔爾雅、釋詁〕已、此也。⓫巳(4−8744)に同じ。〔正字通〕巳、吳棫曰、古巳午之巳、亦讀二如已矣之已一、云云、毛氏曰、陽氣生二于子一、終二于巳一、巳者、終已也、陽氣既極回復之形、故又爲二終已字一。〔說文、巳、段注〕律書曰、巳者、言二萬物之已盡一也、律歷志曰、已盛二於巳一、淮南、天文訓曰、巳則生、已定也、釋名曰、巳、畢布巳也、辰巳之巳、既久用爲二巳然巳止之已一、故卽以二巳然之已一釋レ之、云云、小雅斯干箋云、似、讀爲二巳午之巳一、巳續妣祖一者、謂三巳成二其宮廟一也、此可レ見、漢人巳午與二巳然一無二二音一、其義則異而同也。〔說文通訓定聲〕已、轉注、按、此字引申爲レ止、猶レ息也、定也、靜也、故反巳爲レ㠯、古巳㠯同讀、經傳止息之義、皆當レ作二此巳字一。⓬矣(8−23931)に同じ。〔增韻〕已、語終辭、與レ矣通。⓭也(1−171)に同じ。〔古書虛字集釋〕已、猶レ也也、已・也、聲之轉。〔戰國策、秦策〕此亦淖齒李兌之類已。

名乘　スヱ。

解字　指事。巳をさかしまにした字形。本義を用とする。陽气がいでて陰气の盡きる意の巳をさかしまにして、已とし、用の義に用ひる。一說

に、象形で、薏苡の實に象るといふ。

參考 ㊀己・已・巳の字形上の別は己（4－8742）の參考を見よ。㊁已と以と同字とする說は、本文並に以（1－388）を見よ。本書は段注に從つて別つた。㊂已と巳と同字とする說は、本文並に巳（4－8744）を見よ。本書は通俗に從つて別つた。

【已已】1 イイ 言語を發するさま。〔世說、儉嗇〕郗公大聚斂、有二錢數千萬一、嘉賓意甚不レ同、常朝旦問訊、郗家法、子弟不レ坐、因倚語移レ時、遂及二財貨事一、郗公曰、汝正當レ欲レ得二吾錢一耳、廼開レ庫一日、令二任レ意用一、郗公始正謂、損數百萬許、嘉賓遂一日乞二與親友一、周旋略盡、郗公聞レ之、驚怪不レ能二已已一。〔杜甫、大曆三年春云云四十韻詩〕浮名尋已已、嬾計卻區區。

【已矣】2 ヤミナン ヤンヌルカナ もうこれまでだ。もうだめだ。絕望の辭。〔賈誼、弔二屈原一文〕已矣國其莫二我知一兮、獨壹鬱其誰語。〔杜甫、寄二劉峽州伯華使君一四十韻詩〕年華紛已矣、世故莽相仍。〔日本外史、新田氏前記、楠氏〕正行身被レ箭如レ蝟、乃呼曰、已矣、勿レ爲二賊所レ獲。

【已矣乎】3 ヤンヌルカナ ああもうだめだ。絕望の辭。〔論語、公冶長〕子曰、已矣乎、吾未レ見下能見二其過一、而內自訟者上也。〔陶潛、歸去來辭〕已矣乎、寓二形宇內一復幾時。

【已下】4 イカ これよりしも。これから。以下（1－388・・5）に同じ。〔盧思道、孤鴻賦序〕通人楊令君邢特進已下、皆分庭致レ禮。

【已降】5 イカウ 其ののち。以降（1－388・・10）に同じ。〔弘道館記述義〕保平已降、彝倫雖レ敗、名分雖レ亂、而太陽未レ墜二於地一。

【已愨】6 イカク はなはだ誠實で善良なること。〔禮、檀弓下〕孔子曰、殷已愨、吾從レ周。〔疏〕哀情質愨、故云レ愨也。

【已久】7 イキウ すでに久しい。〔論語、陽貨〕三年之喪、期已久矣。〔古詩、雜詩〕彷徨忽已久、白露沾二我裳一。

【已宮】8 イキユウ 死人のゐる宮。玄宮。〔謝莊、宋孝武宣貴妃誄〕皇帝痛二掖殿之既闃一、悼二泉途之已宮一。〔注〕向曰、已宮、謂二玄宮一、天子后妃所レ葬墓、皆曰二玄宮一也。

【已過】9 i^3 kuo^4 すでにすんだ。過去の。

【已完】10 イクワン すでに交附濟。〔六部成語、戶部、已完、注解〕已經二交完一之數若干也。

【已還】11 イクワン 其の後。以後。以來。〔白居易、唐故虢州刺史贈禮部尙書崔公墓誌銘序〕自二天寶一已還、山東士人、皆改二葬兩京一。〔陳鴻、長恨歌傳〕揖二方士一、問二皇帝安否一、次問二天寶已還事一。

【已經】12 i^3 ching すでに。もはや。

【已罄】13 i^3 ch'ing^4 ㊀すでに悉く盡きた。㊁賣切れた。

【已業】14 i^3 yeh^4 すでに。已經。

【已乎】15 ヤメンヤ ヤメンカナ やめないこと。改めないこと。一說に、其のやめんことを勸むるの辭。〔左氏、昭、十二〕已乎已乎。〔注〕已乎已乎、言二自遂不レ改。〔會箋〕論語斯已而已矣、已而已而、皆一意、勸二其已一也、杜似下與二已焉哉天實爲レ之例觀上、不レ安。

【已故】16 イコ ㊀死後其の罪のあらはれたもの。〔福惠全書、刑名部、問擬〕有レ事二干犯一者、稱二已故一。㊁死んだ。死去。

【已後】17 イゴ 其の後。以後。〔史記、三皇紀〕自二人皇一已後、有二五龍氏・燧人氏、云云、無懷氏一、斯蓋二三皇已來有二天下一者之號。〔論語集解敍、疏〕弟子恐下離居已後、各生二異見一、而聖言永滅上。

【已講】18 イコウ 佛僧侶の職名。論議の題を出すもの。位は阿闍梨（11－41599・・374）の㊀に同じ。〔圓光大行師狀翼讚、二〕山門法華會、修二廣學竪義一時、答者稱二竪者一、難者稱二已講擬講一、判二談之一者稱二探題一、皆以レ表奏レ之、依レ敕被レ補。〔釋家官班記〕講師講者、南北各別之敕命也、受レ請以後、勤仕以前稱二擬講一、勤仕以後稱二已講一也。

【已在】19 i^3 tsai^4 ㊀すでに在り。㊁當然。勿論。

【已山】20 イサン 淸、王步靑（7－20823・・2094）の號。

【已死】21 イシ すでに死んだ。〔元好問、感レ事詩〕人皆傳二已死一、吾亦厭二餘生一。

【已死不レ可レ阻】22 ステニシスルハ ハバムベカラズ 死は自然であつて、はばみとめることは出來ない。〔莊子、則陽〕未レ生不レ可レ忌、已死不レ可レ阻。

【已事】23 イジ すんだこと。以前のこと。〔大戴禮、保傅〕鄙諺曰、不レ習レ爲レ吏、如レ視二已事一。〔漢書、賈誼傳〕夫三代之所二以長久一者、其已事可レ知也。〔注〕師古曰、已事、已往之事。〔說苑、尊賢〕案二往世一而視二已事一。

【已就】24 i^3 chiu^4 ㊀すでに就く。㊁勿論。きまつたこと。

【已日】25 イジツ 已に革むべき時。後日。〔易、革〕已日乃孚、元亨利貞、悔亡。〔疏〕革命之初、人未二信服一、所二以卽日不レ孚、已日乃孚一也。〔折衷〕李氏簡曰、已日者、已可レ革之時也。

【已日寡人】26 イジツクワジン 蛇の異名。〔事物異名錄、昆蟲、蛇〕抱朴子、山中已日稱二寡人一者、蛇也。

【已彰】27 イシヤウ すでにあらはれる。〔忠經、忠諫〕諫二於未形一者上也、諫二於已彰一者次也。

【已上】28 イジヤウ これよりかみ。以上。

【已甚】29 イジン ハナハダシ はなはだしく度に過ぎる。〔左氏、桓、十七〕復レ惡已甚矣。〔論語、泰伯〕人而不仁、疾レ之已甚、亂也。〔集解〕包咸曰、疾レ惡太甚、亦使二其爲レ亂也。〔孟子、離婁下〕仲尼不レ爲二已甚一者。〔注〕不レ欲レ爲二已甚泰過一。〔史記、王翦傳〕將軍之乞貸亦已甚矣。〔資治通鑑、漢紀〕（宣帝、本始元年）上虛レ己斂レ容、禮レ下已甚。〔注〕已甚、言二過當一也。

【已成】30 イセイ すでに出來たこと。既成。〔管子、山權數〕動二於未形一、而守二事已成一。

【已成二老翁一】31 ステニ ラウヲウトナル すでに老年となつた。〔魏文帝、又與二吳質一書〕昔日已成二老翁一、但未二白頭一耳。

【已前】32 イゼン それよりまへ。以前。

【已然】33 イゼン すでにおはつたこと。すでに。もはや。〔國朝漢學師承記、錢大昕〕孟子固言、春秋者天子之事也、述二王道一以爲二後王法一、防二其未然一、非レ刺二其已然一也。

【已然形】34 イゼンケイ 文法の語。動詞・形容詞・形容動詞・助動詞などの用言の活用の一。確定した條件によつて前提となるもの。助詞「ば」・「ど」などを添へて確定をあらはす。

【已然言】35 イゼンゲン 已然形に同じ。

【已然段】36 イゼンダン 已然形に同じ。

【已諾】37 イダク 承知する。〔新書、傅職〕答二左右近臣一、不レ知二已諾之適一。

【已知】38 イチ すでに知つてゐる。既知。〔朱熹、大學章句、傳之五章〕必使乙學者卽二凡天下之物一、莫甲不下因二其已知之理一而益窮レ之、以求上レ至二乎其極一。

【已知元】39 i^3 chih^1 yüan^2 既知數に代用するa・b・c等の文字をいふ。

【已知數】40 i^3 chih^1 shu^4 既に値の知られてゐる數。既知數。

【已定】41 イテイ すでに定まる。既定。さだめて。〔李白、送二友人入一レ蜀詩〕升沈應二已定一、不三必問二君平一。〔西廂記、張君瑞鬧二道場一雜劇〕那小娘子已定出來也。

【已發】42 イハツ すでに告發されて、法律によつて三審さるべき者。〔唐律、名例、諸犯罪已發、疏議〕已發者、謂下已被二告言一、其依レ令應二三審一者上。

【已未】43 イビ 過去と未來。〔福惠全書、刑名部、謀叛〕不レ分二首從一皆斬、已未行皆是也。

【已夫】44 ノミ のみ。それだけである。限定の辭。〔莊子、天道〕桓公讀二書於堂上一、云云、（輪扁）曰、然則君所レ讀者、古人之糟粕已夫。

【已滿】45 i^2 man^3 すでに滿ちる。

【已汶】46 イモン 姓氏。〔明治新撰姓氏錄〕。

【已來】47 イライ そののち。以來。〔王延壽、魯靈光殿賦〕窮レ奇極レ妙、棟宇已來、未二之有一兮。

【已往】48 イワウ 過ぎ去つたこと。以前。既往。〔陶潛、歸去來辭〕悟二已往之不一レ諫、知二來者之可一レ追。〔蘇洵、上二韓樞密一書〕古人已往成敗之迹。

【無レ已】49 ヤムナシ やむを得ない。〔孟子、梁惠王下〕是謀非三吾所二能及一也、無レ已則有レ一焉。

【已今當】50 イコンタウ 佛過去・現在・未來の世。已往・現今・當來の略。〔法華經〕已今當之妙、於レ茲固迷。〔阿彌陀經〕已發願、今發願、當發願。

【已程不】51 イテイフ 國の名。今の印度支那地方。〔漢書、地理志下〕黃支之南、有二已程不國一、漢之譯使、自レ此還矣。

【已離欲】52 イリヨク 佛佛道修行者の修行が向上して、欲界の惑を離れること。〔俱舍論、二十三〕若於二凡位一、已離二欲界第九品染一。

【不レ得レ已】53 ヤムヲエズ しかたがない。よんどころ

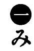
ない。〔孟子、滕文公下〕孟子曰、豈好ㇾ辯哉、予不ㇾ得ㇾ已也。〔史記、孔子世家〕靈公夫人有二南子者一、使三人謂二孔子一曰、四方之君子、不ㇾ辱ㇾ欲ㇾ與二寡君一爲中兄弟上者、必見二寡小君一、寡小君願見、孔子辭謝、不ㇾ得ㇾ已而見ㇾ之。

【已登二道岸一】54（ステニダウガンニノボル）　學問をなして已に大成したことをいふ。〔詩、大雅、皇矣〕誕先登二于岸一。〔集傳〕岸、道之極至處也。〔故事成語讀本、地輿〕爲ㇾ學已大成、曰三已登二道岸一。

【已以二吾生一付二彼蒼一】55（ステニワガセイヲモツテカノサウニフス）　すでに自分の一生は天命にまかせた。蒼は蒼天。〔藤田東湖、偶作詩〕已以二吾生一付二彼蒼一、蒼天底事荐降ㇾ殃。

【已分三忍ㇾ飢度二殘歲一】56（ステニキヲシノビテザンサイヲワタルヲブントス）　今年は凶年故、飢餓を忍んで冬を越す覺悟をきめた。〔楊萬里、憫ㇾ農詩〕已分三忍ㇾ飢度二殘歲一、更ㇾ堪二歲裏閏添ㇾ長。

【巳】8744　シ　ジ　〔集韻〕象齒切　ム　ssŭ4　紙


小篆

❶み。十二支の第六位。月では陰曆の四月、方位では東南と南南東の間、時刻では午前十時、五行では火に當り、動物では蛇を配する。〔說文〕巳、巳也、四月昜气已出、陰气已藏、萬物見、成二彣彰一、故巳爲ㇾ它、象形。〔論衡、物勢〕巳、火也、其禽、虵也。〔成公綏、天地賦〕赤縣據二於辰巳一。❷**上巳の略稱**。〔沈佺期、三月三日侍ㇾ宴詩〕三巳禊堂開。❸**子**。**胎兒**。〔廣雅、釋言〕巳、似也。〔說文通訓定聲〕巳、按、巳、似也、象下子在二包中一形上、包字从ㇾ之、孺子爲ㇾ兒、襁褓爲ㇾ子、方生順出爲ㇾ㐬、未ㇾ生在ㇾ腹爲ㇾ巳、去者、指事、巳者、象形。❹**おこる**。〔玉篇〕巳、起也。〔白虎通、五行〕巳者、物必起。❺**つぐ**。〔玉篇〕巳、嗣也。❻**たひらぐ**。〔淮南子、天文訓〕巳爲ㇾ平。❼**さだまる**。〔淮南子、天文訓〕指ㇾ巳、巳則生已定也。❽**さいはひ**。〔風俗通、祀典〕巳者、祉也、邪疾已去、祈ㇾ分ㇾ祉也。❾**やむ**。**すでに**。已(**4―8743**)に同じ。〔正字通〕巳、吳棫曰、古巳午之巳、亦讀如二已矣之已一、云云、毛氏曰、陽氣生二于子一終二于巳一、巳者、終已也、陽氣既極回復之形、故又爲二終已字一。〔說文、巳、段注〕律書曰、巳者、言二萬物之已盡一也、律歷志曰、已盛二於巳一、淮南天文訓曰、巳則生、已定也、釋名曰、巳、畢布已也、辰巳之巳、既久用爲二已然已止之已一、故卽以二已然之已一釋ㇾ之、云云、小雅斯干箋云、似、讀爲二巳午之巳一、已續二妣祖一者、謂三已成二其宮廟一也、此可ㇾ見、漢人巳午與二已然一無二二音一、其義則異而同也。〔說文通訓定聲〕巳、轉注、按、此字引申爲ㇾ止、猶ㇾ息也、定也、靜也、故反巳爲ㇾ㠯、古巳㠯同讀、經傳止息之義、皆當ㇾ作二此巳字一。❿矣(**8―23931**)に同じ。〔容齋三筆、辰巳之巳〕律書釋二十母十二子之義一、大略與二今所ㇾ言同、惟至二四月一云、其于二十二子一爲ㇾ巳、巳者、言二陽氣之已盡一也、據ㇾ此則辰巳之巳乃爲ㇾ矣、音其。

解字　象形。蛇が冤曲して尾を垂れた貌にかたどる。卽ち、時節の四月、方位の東南、時刻の午前十時、五行の火。陽气が出て、陰气が藏れ、萬物が盛に現はれる意。卽ち十二支の「み」は蛇が地中を出ることで陽气の盛なさまをあらはす。說文通訓定聲によれば、胎兒の象形で、腹中にある子の形に象るといふ。〔說文通訓定聲〕巳、㠯也、四月陽气已出、陰气已藏、萬物見、成二文章一、故巳爲二蛇象形一、按、巳、似也、象下子在二包中一形上。

參考　巳と已と同字說あること、本文引用の通り。今は通俗に從つて區別して置いた。已(**4―8743**)の參考を見よ。

【巳會】1（シクワイ）　上巳の節句をいふ。〔阮瞻、上巳會賦〕臨二清川一而嘉讌、聊暇日以遊娛。〔阮修、上巳會詩〕三春之季、歲惟嘉時、靈雨既零、風以散ㇾ之。

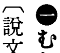
【巳月】2（シゲツ）　四月の異名。字解❶を見よ。

【巳時】3（シジ）　午前十時をいふ。字解❶を見よ。

【巳牌】4（シハイ）　巳の刻。午前十時。〔水滸傳、六十八回〕來日巳牌、只聽二東西兩路步軍先去打ㇾ寨。

一畫

【巴】8745　ハ　ヘ　〔集韻〕邦加切　ㄅㄚ　pa1　麻


小篆

❶**むし**。**一說に、象を食ふへび**。〔說文〕巴、蟲也、或曰、食ㇾ象它、象形。〔章炳麟、文始〕說文無ㇾ蟒、蓋本作ㇾ莽、古音莽如ㇾ姥、借爲ㇾ巴也。〔山海經、海內南經〕巴蛇食ㇾ象、三歲而出二其骨一。君子服ㇾ之、無二心腹之疾一。〔注〕說者云、長千尋。❷**尾**。〔正韻〕巴、尾也。❸**うづまきの喩**。〔三巴記〕閬白水東南流、曲折三廻如二巴字一。❹**父**。西洋の音をうつしたもの。〔眞臘風土記〕呼二主人一爲二巴駝一、主母爲二米駝一、巴者、父也、米者、母也。❺**つく**。近寄る。〔紅樓夢、九十九回〕巴二著窗戶一眼兒一睢。〔水滸傳、二回〕前不ㇾ巴ㇾ村、後不ㇾ巴ㇾ店。❻**ほ**。頰。〔新方言、釋形體〕說文、酺、頰也、云云、今揚州安慶皆謂ㇾ頰爲ㇾ輔、書如ㇾ巴。❼**國名**。周の姫姓の國。秦に滅ぼされた。今、四川巴縣の地。〔左氏、桓、九〕巴子使三韓服告二于楚一。〔注〕巴國、在二巴郡江州縣一。❽**州名**。巴州(46)を見よ。〔集韻〕巴、又州名。❾**巴調の略稱**。〔李商隱、病中聞二河東公樂營置酒一口占寄上詩〕歌能莫ㇾ雜ㇾ巴。❿**姓**。〔通志、氏族略、以ㇾ國爲ㇾ氏〕巴氏、子爵、世本云、巴子國、子孫以ㇾ國爲ㇾ氏、漢有二太常巴茂一、後漢黨錮傳有二巴肅一、又有二揚州刺史巴祇一、以二清貧一著ㇾ名。⓫現腫物の皮。邦**ともゑ**。㋑鞆に描いた繪。㋺轉じて、其の形をした模樣。科斗形を環狀に連ねる。二つ巴。三つ巴。

名乘　トモ。

解字　象形。一種の虫。或は象を食ふ蛇ともいふ。〔說文通訓定聲〕巴、蟲也、或曰、食ㇾ象蛇、象形、海內南經、巴蛇食ㇾ象、三歲而出二其骨一。〔注〕說者云、長千尋、又海內經、朱卷之國有二黑蛇一、青首食ㇾ象。〔注〕卽巴蛇也。

【巴安】1（ハアン）　❶府名。清、置く。もとの巴塘土司の地。壩廳及び鹽井・定鄉の二縣を管轄す。後、縣に改む。〔清史稿、地理志〕四川、巴安府、領二廳一縣二、三壩廳、鹽井、定鄉。❷縣名。清、置く。古の白狼國。後、巴塘土司となる。今、西康省義敦縣の西北。金沙江の東岸に位し、西康の中心をなし、且つ氣候溫和、農產饒豐で人口亦稠密である。巴塘(69)を見よ。

【巴威】2（ハヴァリヤ）　國の名。ドイツ共和國の一。Bavaria の音譯。

【巴威略】3（ハヴァリヤ）　巴威に同じ。

【巴越】4（ハエツ）　古、夷狄の國名。〔呂覽、義賞〕戎夷胡貉巴越之民。

【巴越齊荊】5（ハエツセイケイ）　古の夷狄の地で、遠國をいふ。〔墨子、兼愛下〕有三君大夫之遠使二於巴越齊荊一、往來及否、未ㇾ可ㇾ識也。

【巴燕】6（ハエン）　縣名。民國、置く。本の巴戎縣。土名は巴燕戎格。青海省に屬し、後、化隆と改む。

【巴燕戎格】7（ハエンジユウカク）　❶川の名。源は巴燕縣の西北、小積石山に出で、南流して黃河に入る。❷廳の名。清、置く。又、擺羊戎に作る。甘肅省巴戎縣。〔清史稿、地理志〕甘肅、西寧府、廳四、巴燕戎格廳。

【巴鹽】8 ハエン　四川省產の食鹽の一種。凝結して氷の如きもの。花鹽より味が濃い。

【巴猿】9 ハエン　山の峽谷に鳴く猿を巴峽の猿に比していふ。巴峽は湖北省巴東縣地方の溪流。其の兩岸には猿が多い。〔白居易、寄㆓微之㆒詩〕巴猿啼哭夜常聞。〔和漢朗詠集、大江澄明〕胡雁一聲、秋破㆓商客之夢㆒、巴猿三叫、曉霑㆓行人之裳㆒。

【巴河】10 ハカ　㊀川の名。源は湖北省蘄水縣。西南流して蘄水・黃岡兩縣境を經、長江に入る。〔讀史方輿紀要、湖廣、黃州府、黃岡縣〕巴河、在㆓府東四十三里㆒、出㆓蘄水縣之板石山㆒、西南流注㆓於江㆒、爲㆓巴河㆒、口亦曰㆓巴口㆒、劉宋元嘉末、沈慶之討㆓五水蠻㆒、常屯㆑此、又蕭齊末、蕭衍圍㆓郢城㆒、東昏侯使㆓軍主吳子陽等救㆒㆑郢、進屯㆓巴口㆒、梁末邵陵王綸爲㆓湘東王繹所㆒㆑逼、自㆓郢州㆒奔㆓武昌㆒、匿㆓巖穴中㆒、其長史韋質等、迎㆑綸營㆓巴水㆒、稍收㆓散卒㆒、屯㆓於齊昌㆒、陳大建五年、別將黃詠攻㆓齊昌㆒、克㆓其外城㆒、齊將陸騫、馳救出㆑自㆓巴蘄㆒、爲㆓陳西陽太府周炅所㆒㆑敗、巴蘄蓋巴水蘄水閒也、水經注、巴水出㆓雩婁縣之下靈山南㆒、歷㆓蠻中㆒而入㆓於江㆒、吳時立㆓屯於水側㆒、引㆑水漑㆑田、北齊置㆓巴州㆒、蓋因㆓巴水㆒爲㆑名、雩婁今江南壽州霍邱縣、下靈山亦曰㆓大別山㆒、亦曰㆓巴山㆒。㊁鎭の名。湖北省蘄水縣の西。水經注の巴水戍。商業地。

【巴夏】11 パシヤ　土耳其の高級官吏の尊稱。名字の後に置く。帕夏。帕沙。

【巴歌】12 ハカ　巴蜀地方の歌。巴調（74）を見よ。〔劉廷芝、巫山懷古詩〕巴歌不㆑可㆑聽、聽㆑此益潺湲。〔常建、空靈山應㆓田叟㆒詩〕牧童唱㆓巴歌㆒。〔李羣玉、自㆓澧浦㆒東遊㆓江表㆒途出㆓巴丘㆒投㆓員外從公虞㆒詩〕巴歌掩㆓白雪㆒、鮑肆埋㆓蘭芳㆒。

【巴海】13 ハカイ　清、滿洲鑲藍旗人。姓は瓜爾佳氏。康熙中、墨爾哲氏の民衆を寧古塔附近に移し、新滿洲と號す。官は鑲藍旗蒙古都統に至り、議政大臣に列す。〔清史稿、二百四十九〕・〔國朝耆獻類徵、二百六十七〕・〔碑傳集、一百十四〕。

【巴江】14 ハカウ　川の名。源は四川省南江縣の北の大巴山。一に南江といふ。東南、巴水に會して巴江といふ。四川省渠縣にて渠江と會し、東南して嘉陵・涪江と合して大江に入る。〔讀史方輿紀要、四川、大川〕巴江、源出㆓峽西南鄭縣南境之大巴嶺㆒、入㆓保寧府界㆒、經㆓南江縣南及巴州東南㆒、而入㆓順慶府界㆒、經㆓蓬州儀隴縣東㆒、又經㆓州東北㆒、而東南歷㆓營山縣㆒、至㆓廣安州渠縣北㆒、又東合㆓於渠江㆒、渠江出㆓夔州府㆒、達㆓州太平縣東北之萬頃池㆒、經㆓州南㆒而入㆓渠縣界㆒、合㆓於巴江㆒、並流而南經㆓廣安州東㆒、曰㆓篆水㆒、亦曰㆓洄水㆒、又南歷㆓鄰水縣西㆒、至㆓重慶府合州城東北㆒而入㆓於嘉陵江㆒、又東南會㆓於涪江㆒、至㆓府城北㆒、又東而入㆓於大江㆒也、通釋云、自㆑蜀而言㆓大江之外㆒、其水有㆑七、曰綿水、曰雒水、曰湔水、曰涪水、曰嘉陵水、曰巴水、曰渠水、七水合㆓於江㆒、而江始大、今按、綿水・湔水入㆑雒、而巴渠合爲㆓一水㆒、則大江之外、爲㆓巨川㆒者四而已矣、其出㆓於徼外㆒、入㆓中國㆒而附㆓於江㆒者、又不㆑與焉。〔讀史方輿紀要、四川、保寧府、巴州〕巴江、州東一里、源出㆓大巴山㆒、至㆓州東南㆒、分爲㆓三流㆒、而中央橫貫、勢若㆓巴字㆒、流二十里合㆓清水江㆒、又南入㆓順慶府蓬州境㆒、下流至㆓合州㆒入㆓嘉陵江㆒、亦名爲㆓字江㆒、唐李遠詩、巴江學㆑字流、是也。

【巴哈】15 パハ　清、滿洲鑲黃旗人。姓は瓜爾佳氏。衞齊の四子。順治の初、從つて燕京を平定す。尋いで陝西・四川を征し、少傅兼太子太傅に累官し、侍衞內大臣を領す。〔清史稿、二百四十二〕・〔國朝耆獻類徵、二百六十三〕。

【巴哈馬】16 パハマ　群島の名。西印度諸島にある小島群。Bahama の音譯。

【巴顏】17 ハガン　清、漢軍正藍旗人。李永芳の五子。天聰の閒、三等子を襲爵。太宗に從つて科爾沁を征して功有り、又、錦州を圍み、洪承疇を松山城下に破り、正藍旗都統を拜命。順治の閒、直隸・河南・山西を略定、陝西より四川に進み、又、姜壤を大同に破り、一等伯に拜せらる。〔國朝耆獻類徵、二百六十五〕・〔滿洲名臣傳、三〕。

【巴顏烏蘭】18 パエンウラン　山名。外蒙古車臣汗右翼中前旗の北境。克魯倫河に沿ひ、氣候溫暖で水草多く駐牧に適す。聖武親征錄には雕阿蘭に作り、元祕史には闊迭兀阿喇勒に作る。〔清史稿、地理志〕外蒙古、云云、右翼中前旗車臣汗。〔注〕巴顏烏蘭山、緜亙東南二百里許。

【巴顏喀喇】19 パエンコラ　山名。一に大黑山といふ。新疆省托古慈達坂より起り、東して青海の界に至つて始めて巴達喀喇得里奔といふ。那木齊烏蘭木倫河の源を發するところ。此より東南を巴顏喀喇那都といひ、其の北の噶素齊老峯は黃河の源。南して雜佛裕巴顏喀喇となり、斜に東して仄胡爾巴顏喀喇、澤巴顏喀喇、匝巴顏喀喇となり、遂に馬查克查巴罕となり、岷山に連る。其の南下するものは橫斷山脈に接し、其の東北するものは、積石山となり、阿穆尼蘇爾沁山等となる。〔清會典、戶部、青海辨事大臣屬㆓土司三十有九㆒、云云、枯爾坤、注〕枯爾坤凡三山、一曰、阿克坦齊欽山、一曰、巴爾布哈山、一曰、巴顏喀喇山、總曰㆓枯爾坤山㆒、在㆓玉樹土司之東㆒。

【巴丘】20 ハキウ　㊀山名。巴陵山をいふ。〔水經、湘水注〕湘水又北至㆓巴丘山㆒入㆓于江㆒。〔吳志、周瑜傳〕瑜還㆓江陵㆒爲㆓行裝㆒、而道㆓於巴丘㆒病卒。㊁縣名。三國吳、置く。隋、廢す。故城は江西省峽江縣の北。〔吳志、周瑜傳〕（孫策）還定㆓豫章・廬陵㆒、留鎭㆓巴丘㆒。

【巴渠】21 ハキヨ　縣名。㊀南朝宋、置く。故治は四川省開縣の東北。〔讀史方輿紀要、四川、夔州府、開縣〕清水廢縣、縣東六十五里、漢朐䏰縣地、劉宋置㆓巴渠縣㆒、幷置㆓巴渠郡㆒治焉、齊梁因㆑之、後周改㆑縣曰㆓萬世縣㆒、亦曰㆓萬世郡㆒。㊁南朝宋、置く。故治は四川省宣漢縣の東北。

【巴曲】22 ハキヨク　巴郡のむらざと。〔白居易、發㆓白狗峽㆒云云詩〕巴曲春全盡、巫陽雨半收。

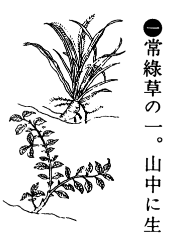
【巴棘】23 ハキヨク　柊（ヒヒラギ）の異名。〔本草、巴戟天〕附錄、巴棘、別錄曰、味苦有㆑毒、主㆓惡疥瘡出㆒㆑蟲、生㆓高地㆒、葉白有㆑刺、根連㆓數十枚㆒、一名女木。

【巴火】24 ハクワ　後漢の欒巴が元旦に酒を吐いて、其の故鄉の成都の火事を消した故事。轉じて、鑽巴火とは年改まること。〔後漢書、欒巴傳、遷㆓沛相㆒所在有㆑績、徵拜㆓尙書㆒、注〕神仙傳曰、巴爲㆓尙書㆒、正朝大會、巴獨後到、又飲㆑酒、西南噀㆑之、有司奏㆓巴不敬㆒、有㆑詔問㆑巴、巴頓首謝曰、臣本縣成都市失㆑火、臣故因㆑酒爲㆑雨、以滅㆑火、臣不㆓敢不㆒㆑敬、詔卽以㆓驛書㆒問㆓成都㆒、成都答言、正旦大失㆑火、食時有㆑雨從㆓東北㆒來、火乃息、雨皆酒臭、後忽一旦大風、天霧晦暝、對坐皆不㆓相見㆒、失㆓巴所㆒㆑在、尋問㆑之、云、其日還㆓成都㆒、與㆓親故㆒別也。〔杜甫、秋日荊南述懷詩〕九鑽㆓巴噀火㆒。〔范成大、清明日試㆓新火㆒作㆓牡丹會㆒詩〕再鑽㆓巴火㆒尙浮家、去㆑國年多客路賒。

【巴郡】25 ハグン　郡名。㊀秦、置く。古の巴國の地。今、四川省境內の舊保寧・順慶・夔州・重慶の四府、及び瀘州の地。〔漢書、地理志上、巴郡、注〕秦置、屬㆓益州㆒。㊁後漢の末、劉璋、置く。三巴の一。故治は四川省南充縣の北。

【巴戟】26 ハゲキ　巴戟天の略。〔左思、蜀都賦〕其中則有㆓巴菽・巴戟・靈壽・桃枝㆒。〔注〕劉曰、巴戟、巴戟天也。

【巴戟天】27 ハゲキテン　㊀常綠草の一。山中に生ず。葉は厚く大きく、根は藥用に供される。〔本草、巴戟天〕釋名、不凋草、三蔓草、集解、別錄曰、巴戟天生㆓巴郡及下邳山谷㆒、二月八月采㆑根陰乾。〔華陽國志〕藥物之異者、有㆓巴戟天椒㆒。㊁木の名。ひひらぎ。



巴戟（三才圖會）

【巴結】28 pa^1 chieh^2　㊀取り入る。諂ふ。巴劫。巴竭。〔兒女英雄傳、二十四回〕憑你怎的巴結他、他怎肯忍心害理的違天行事。㊁努力する。〔紅樓夢、六十四回〕若說一二百奴才還可巴結、這五六百、奴才一時那裏辦得來。㊂熱心。㊃熱望する。渴望する。㊄困難する。困窮する。

【巴峽】29 ハカフ　峽の名。湖北省巴東縣の西。巫山から巴東までの江の名。巴山が江に臨んで峙つので名づけらる。水流湍急で險灘相連り、黃牛灘・新灘などの險所がある。〔世說新語、黜免〕桓公入㆑蜀、至㆓三峽中㆒、部伍中有㆘得㆓猨子㆒者㆖、其母緣㆑岸哀號、行百餘里不㆑去、遂跳上㆑船、至便卽死、破視㆓其腹中㆒、腸皆寸寸斷、公聞㆑之怒、命黜㆓其人㆒。〔南史、梁元帝紀〕承聖元年八月、武陵王紀、率㆓巴蜀之衆㆒東下、遣㆓護軍將軍陸法和㆒屯㆓巴峽㆒以拒㆑之。〔太平寰宇記〕吉水故老傳云、此水源出有㆓波文㆒、成㆓吉字㆒、亦如㆔巴峽之屈曲成㆓巴字㆒也。

【巴峽猿鳴】30 巴峽に鳴く猿の悲しげな聲。〔水經、江水注〕自三峽七百里中、兩岸連山、略無闕處、重巖疊嶂、隱天蔽日、自非停午夜分、不見曦月、至于夏水襄陵、沿泝阻絶、或王命急宣、有時朝發白帝、暮到江陵、其間千二百里、雖乘奔御風、不以疾也、春冬之時、則素湍緑潭、迴清倒影、絶巘多生怪柏、懸泉瀑布、飛漱其間、清榮峻茂、良多趣味、每至晴初霜旦、林寒澗肅、常有高猿長嘯、屬引淒異、空谷傳響、哀轉久絶、故漁者歌曰、巴東三峽巫峽長、猿鳴三聲涙沾裳。〔謝觀、清賦〕瑤臺霜滿、一聲之玄鶴唳天、巴峽秋深、五夜之哀猿叫月。

【巴縣】31 縣名。北周、置く。春秋の巴國の都。漢、江州縣を置き、南齊の末、改めて墊江といふ。四川省壁山縣の東南。長江と嘉陵江との會する所の西岸。全蜀の水は此に傾注し、形が巴のやうであるからなづけらる。〔讀史方輿紀要、四川、重慶府〕巴縣、古巴子國都也、秦置江州、以巴郡治焉、漢以後因之、齊梁間改曰巴縣、隋唐以後因之、皆爲州郡治。〔清史稿、地理志〕四川、重慶府、縣十一、巴。

【巴彥】32 縣名。民國、置く。清初、呼蘭副都統の管轄地。光緒三十一年、巴彥州となす。滿洲黑龍江省呼蘭縣の東。松花江の北岸、烏裊河の上流。〔清史稿、地理志〕黑龍江、呼蘭府、州一、巴彥州。

【巴彥泊】33 湖の名。綏遠省西南、伊克昭盟、鄂托克旗にある。一に東鹼湖と名づく。

【巴彥南稱界內住牧喇嘛】34 土司の名。青海省の南境。西番土司四十族の一。西寧府志の南稱邊界喇嘛覺巴拉旅をいふ。

【巴口】35 巴河が江に入る所。巴河(10)を見よ。

【巴溝】36 川の名。一名、豐樂河。上流を響河といふ。源は河南省商丘縣の東。支流は睢水。

【巴棍】37 驛馬の足力を速めるために棒を執つて馬を叱驅すること。〔福惠全書、郵政、總論〕先命一夫、馳馬執棒而來、名曰巴棍。

【巴草】38 草の名。くさびやう。びやうさう。おほおとぎり。おとぎりさう科の宿根草で、山地に自生し、莖は方形、夏、黃色の花を開く。

【巴想】39 pa^1 hsiang^3 渴望する。熱望する。

【巴山】40 ❶山名。㋑大巴山とも巴嶺ともいふ。陝西省西鄉縣の西南。支峯は南鄭・鎭巴、及び四川の南江・通江の諸縣に跨り、中に孤雲・兩角・小巴・米倉の諸山を包む。旁は漢江にのぞみ、東は三峽に接す。山の南は古の巴國。今、巴嶺山脈といふ。又、小巴山あり、小巴嶺ともいふ。〔讀史方輿紀要、陝西、漢中府、南鄭縣〕巴嶺山、在府西南一百九里、亦曰大巴山、其山延綿深廣、中包孤雲兩角米倉諸山、南接四川巴州之小巴山。〔讀史方輿紀要、陝西、漢中府、西鄉縣〕巴山、縣南六十里、西接四川巴州界、卽南鄭之大巴嶺也、今有大巴山巡司、在縣東南三百里。㋺江西省崇仁縣の南。臨川山。名相山。〔江西省志〕相傳、漢時欒巴嘗爲豫章守、治妖民於此、邑人以其名名山、宋改名相山。〔太平寰宇記〕舊名巴山、唐敕改爲臨川山。㋩湖北省巴東縣治の南。一名、金字山。山に茶を產し、巴東といふ。〔輿地紀勝〕縣有巴山、縣治所依、一名金字山。〔名勝志〕一峯分三岡、形如金字、山產茶、色微白、卽所謂巴東眞香茗也。㋥湖北省松滋縣の西南。一名、厤山。山上に馬鬃嶺及び射垛崖がある。先生が蜀に入り、馬を走らして的を射た所と傳ふ。〔晉書、杜預傳〕太康元年、牙門管定等夜襲樂鄉、起火巴山。〔太平寰宇記〕荆南志云、春秋時巴人伐楚、後遁而歸、有巴復村在山北、因曰巴山。㋭湖北省長陽縣の南。山形曲折して巴字をなす。㋬廣東省茂明縣の南。〔太平寰宇記〕南巴縣、取縣東南巴山爲名。❷縣名。㋑南朝梁、巴山郡を置き、兼ねて巴山縣を置く。故城は江西省崇仁縣の西南。〔讀史方輿紀要、江西、撫州府、樂安縣〕巴山廢縣、縣西南三十里、梁置巴山縣、幷置巴山郡治焉。㋺隋、置く。故城は湖北省長陽縣の西。〔讀史方輿紀要、湖廣、荆州府、彝陵州、長楊縣〕巴山城、縣南七十里、隋志云、梁置宜昌縣、又置宜都郡治此、後周置江州、隋開皇初、郡廢、十八年、改江州爲津州、又改縣爲巴山縣、大業初、州廢、縣入清江郡。❸清、滿洲鑲黃旗人。姓は瓜爾佳氏。太宗の時、屢〻征戰に從つて功を立つ。順治の間、李自成を敗り鎭守江寧副都統に累官、二等男に封爵せらる。〔清史稿、二百四十九〕・〔清史列傳、六〕・〔國朝耆獻類徵、二百六十九〕。

【巴山虎】41 植物。薜荔(9－32125・・10)の異名。〔丹鉛錄〕薜荔、今京師人家假山上種巴山虎是也。

【巴山夜雨】42 別後再び相遇うて巴山夜雨の昔を語ること。〔李商隱、夜雨寄北詩〕君問歸期未有期、巴山夜雨漲秋池、何當共剪西窗燭、卻話巴山夜雨時。

【巴字】43 水流の曲折してゐるさま。巴の字は曲折してゐるからいふ。〔王維、送崔五太守詩〕天際澄江巴字廻。〔本朝文粹、八、大江匡衡、三月三日陪左相府曲水宴同賦因流泛酒〕酒德頌之文、因巴字而添風情者也。

【巴兒】44 猿(7－20584)の異名。〔北戶錄〕段公路往高涼、程次青山、其山多猿、毛采殷鮮、召獵者捕而養之、名曰巴兒。

【巴兒思】45 元、姚天福(3－6202・・189)の賜號。監察御史となり、強權を畏れざること虎の如きをもつて、帝より賜ふ。〔元史、姚天福傳〕天福、字君祥、絳州人、父居實、避兵徙雁門、天福幼讀春秋、通大義、及長以材辟懷仁丞、至元五年、詔立御史臺、以天福爲架閣管勾、尋拜監察御史、每廷折權臣、帝嘉其直、錫名巴兒思、謂其不畏強悍猶虎也、仍厚賜以旌其忠。

【巴州】46 州名。❶晉末、譙縱、置く。故治は四川省奉節縣の東。❷南齊、置く。故治は四川省奉節縣の東北。〔讀史方輿紀要、四川、夔州府〕禹貢荆梁二州之域、春秋爲庸國地、後屬巴國、戰國時屬楚、秦屬巴郡、漢因之、後漢末置固陵郡、又改爲巴東郡、三國漢因之、晉仍曰巴東郡、劉宋泰始五年、置三巴校尉、領巴東等郡、蕭齊兼置巴州、尋省、梁置信州。❸南朝梁、置く。今、湖南省岳陽縣の治。岳州(4－8001・・16)の❶を見よ。❹北齊、置く。故治は湖北省黃岡縣の東。〔讀史方輿紀要、湖廣、黃州府〕黃岡故城、府西北百二十里、漢邾縣地、蕭齊置南安縣、幷置齊安郡治焉、北齊兼置巴州。❺梁、置く。民國、巴中縣と改む。〔讀史方輿紀要、四川、保寧府〕巴州、古巴國、秦爲巴郡地、兩漢因之、蜀漢屬巴西郡、晉初因之、東晉後荒廢、梁置歸化木門二郡、兼置巴州、西魏因之、隋郡廢、仍曰巴州、大業初、改曰清化郡、唐復曰巴州、天寶初、亦曰清化郡、乾元初、復故、宋仍曰巴州、元因之、明洪武四年、仍爲巴州、九年以州治化成縣省入、又改州爲縣、正德九年、復升爲州。〔清史稿、地理志〕四川、保寧府、州二、巴州。

【巴砂】47 丹砂(1－99・・113)の異名。〔本草、丹砂〕集解、弘景曰、卽今朱砂也、俗醫別取武都仇池雄黃夾雌黃者、名爲丹砂、用之謬矣、符陵是涪州接巴郡南、今無復采者、乃出武陵西川、諸蠻夷中、皆通屬巴地、故謂之巴砂。

【巴蛇】48 大蛇の一種。〔山海經、海內南經〕巴蛇食象、三歲而出其骨、君子服之、無心腹之疾、其爲蛇青黃赤黑、一曰黑蛇青首。〔薄江記〕羿屠巴蛇于洞庭、其骨成陵、世稱巴陵。

【巴掌】49 ❶てのひら。掌。❷拍手する。〔章炳麟、新方言、釋言、二〕說文、拍、拊也、云云、今人謂以手擺擊爲拍[illegible]掌、[illegible]讀如巴。❸pa^1 chang^3 頰をうつ。〔紅樓夢、四十四回〕揚手一巴掌打在臉上。

【巴戎】50 ❶古、西南蠻夷の名。〔荀子、彊國〕西有巴戎。❷縣名。民國、置く。もと西寧府の荒地。今、青海省化隆縣。

【巴菽】51 樹の名。巴豆(76)に同じ。

【巴肅】52 後漢、渤海の人。字は恭祖。竇武・陳蕃の黨に坐して殺さる。〔後漢書、九十七〕。

【巴蜡】53 蟲の名。蠶の蛾に似て大きく、猛毒を有し、人を螫し殺す。〔閱微草堂筆記、四〕戊子夏京師傳言、有飛蟲夜傷人、云云、巴蜡蟲。

【巴且】54 バナナの異名。芭蕉。巴蕉。〔漢書、司馬相如傳上〕諸柘巴且。〔注〕文穎曰、巴且、草、一名芭蕉。

【巴蜀】55 巴州・蜀州地方の總稱。巴は今の

四川省重慶地方、蜀は成都地方。後世、四川省の別稱とす。〔史記、蘇秦傳〕秦四塞之國、被レ山帶レ渭、東有二關河一、西有二漢中一、南有二巴蜀一、北有二代馬一、此天府也。〔後漢書、光武紀上〕公孫述稱二王巴蜀一。〔注〕蜀有二巴郡一、故總二言之一。

【喩二巴蜀一檄】56（ハシヨクニサトスゲキ）　文章の名。漢、司馬相如作。司馬相如が郎たりし時、唐蒙が命を受けて夜郎僰中に使するや、巴蜀の吏卒千人を徵發す。郡、又、轉漕萬餘人を發して粟を運ばしむ。唐蒙其の渠魁を誅することあり、巴蜀の人驚恐す。上、相如をして唐蒙等を責めしめし時、巴蜀の人を喩告せしもの。文選第四十四卷に見ゆ。〔司馬相如、喩二巴蜀一檄、注〕善曰、漢書曰、相如爲レ郎數歲、會三唐蒙使略通二夜郎僰中一、徵二發巴蜀吏卒千人一、郡又多爲發二轉漕萬餘人一、用二軍興法一、誅二其渠率一、巴蜀人大驚恐、上聞レ之乃遣二相如一責二唐蒙等一、因喩二告巴蜀人一、以レ非二上之意一也。

【巴人】57（ハジン）　❶巴州地方の人。轉じて、鄙俗な者。ゐなかもの。野夫。〔陳琳、答二東阿王一牋〕然後東野巴人、蚩鄙益著。〔劉禹錫、松滋渡望二峽中一詩〕巴人淚應二猿聲一落、蜀客船從二鳥道一回。❷巴調(74)に同じ。〔張協、雜詩〕陽春無二和者一、巴人皆下節。〔注〕翰曰、郢中之歌、有二陽春巴人二曲一、陽春、高曲、和者甚少、巴人、下曲、和者數千人。

【巴人調】58（ハジンノテウ）　巴人の謠ふ歌の調子。巴調(74)を見よ。

【巴水】59（ハスイ）　川の名。❶江西省崇仁縣の西南。〔崇仁縣志〕巴水出二臨川山一、一名二臨水一、其山最高、四向之流不レ一、西北入二寶唐一、由レ是寶唐亦兼二臨水之名一。❷湖北省の境。巴河。〔清一統志〕巴水源出二羅田縣北一、南流入二蘄水縣界一、又東南流入二黃岡縣界一、入レ江、今謂二之巴河一、其上流名二平湖鄉河一、一名二九子河一、水經注、巴水出二雲婁縣下靈山南一、歷二蠻中一、又南經二巴水戍一、南流注二於江一、謂二之巴口一。❸東西二源があり、東源は陝西省鎭巴縣の西北の大巴山、西源は陝西省南鄭縣の界の米倉山に發する。四川省通江縣で合流し、南江水と會して巴江となる。

【巴西】60（ハセイ）　❶郡名。㋑後漢末、劉璋、置く。三巴の一。故治は四川省閬中縣の西。隋、又置く。今、四川省閬中縣。〔讀史方輿紀要、四川〕保寧府、禹貢梁州之域、春秋爲二巴國地一、秦惠王滅レ巴置二巴郡一、漢亦爲二巴郡地一、後漢因レ之、建安中、劉璋置二巴西郡一、晉亦曰二巴西郡一、尋爲二李雄所一レ據、永和中、收復、宋曰二北巴西郡一、齊因レ之、梁置二南梁北巴州、及北巴郡一、西魏改爲二隆州一、又改レ郡爲二盤龍郡一、隋郡廢、州存、大業初、又改レ州爲二巴西郡一、唐武德初、復爲二龍州一、先天初、改曰二閬州一。㋺東晉、置く。今、四川省綿陽縣の治。〔讀史方輿紀要、四川、成都府〕綿州、秦蜀郡地、漢屬二廣漢郡一、後漢因レ之、蜀漢屬二梓潼郡一、晉爲二梓潼巴西二郡一、宋因レ之、齊梁皆爲二梓潼郡一、梁末爲二巴西郡一、兼置二潼州一、西魏因レ之、隋開皇初、郡廢、五年、改レ州曰二綿州一、大業初、又改爲二金山郡一、唐武德初、又爲二綿州一、天寶初、曰二巴西郡一、乾元初、復曰二綿州一、宋因レ之、元初、曰二綿州一、隸二成都路一、至元二十年、屬二潼川路一、以二州路巴西縣一省入、明復改二今屬一。❷南米ブラジル(Brazil)。〔清史稿、邦交志〕巴西國、南亞美利加洲共和民主新國也。

【巴西侯】61（ハセイコウ）　巴西の大猿をいふ。張鋋が巴西に宿して大猿の饗應をうけた故事による。〔宣室志〕吳郡張鋋罷レ秩歸レ蜀、行次二巴西一、會日暮、有レ人道左出拜曰、吾君巴西侯奉邀、鋋見、既飮レ酒命レ樂、夜將レ半、鋋假寐、將レ曉而寤、見下身在二石龕中一、有中巨猿醉臥上。

【巴西文集】62（ハセイブンシフ）　書名。一卷。元、鄧文原撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【巴椒】63（ハセウ）　蜀椒(10—33086・・35)の異名。〔本草、蜀椒〕釋名、巴椒・漢椒・川椒・南椒・蓎藙・點椒。

【巴石】64（ハセキ）　礬石(8—24573・・7)の異名。〔本草、礬石〕釋名、涅石、羽涅、羽澤、煆枯者名二巴石一、輕白者名二柳絮礬一、集解、頌曰、又有二礬精礬蝴蝶巴石柳絮礬一、皆是白礬也、煉二白礬一時、候二其極沸一、盤心有二濺溢一如二物飛出一、以二鐵匕一接レ之、作二蟲形一者、礬蝴蝶也、但成レ塊光瑩如二水精一者、礬精也、二者入レ藥、力緊二于常礬一、其煎煉而成、輕虛如二綿絮一者柳絮礬、其燒レ汁至レ盡、色白如レ雪者、謂二之巴石一。

【巴楚】65（ハソ）　縣名。民國、置く。地方名は瑪喇爾巴什莊。新疆省伽師縣の東。喀什噶爾河の南岸。

【巴僧】66（ハソウ）　❶巴蜀地方の僧侶。〔高啓、獨遊二山中一憶二周記室砥一詩〕巴僧不レ厭客屢至、篝燈夜禪同一龕。❷雙六をいふ。〔事物異名錄、玩戲、雙陸〕譜雙、占城打二雙陸一曰二巴僧一、大食曰二吧咃一。

【巴駝】67（ハダ）　主人をいふ。〔眞臘風土記〕呼二主人一爲二巴駝一、主母爲二米駝一、巴者父也、米者母也。

【巴泰】68（ハタイ）　清、漢軍鑲藍旗人。姓は金氏。諡は文恪。太宗の時、二等侍衞を以て從征し、善戰を以て稱さる。官は中和殿大學士に至り、太子大傅を加へられ、一等子に封爵さる。〔清史列傳、六〕・〔國朝耆獻類徵、一〕・〔滿洲名臣傳、十〕。

【巴塘】69（ハタウ）　土司の名。古の白狼國。今、西康省の巴安・義敦・德榮・鹽井等の諸縣の地。金沙江上に跨る。地、方千里。宣慰・宣撫の正副兩土司があつて、各〻世襲して其の地を分管す。光緒の末、兩土司を誅し、並に先後して流官に改め、巴安府・鹽井縣・三壩廳・德業委員を設けて、川滇邊務大臣に屬す。〔清史稿、地理志、四川〕光緒三十二年、設二督辦川滇邊務大臣一、駐二巴塘一。

【巴緞】70（ハダン）　四川省巴縣より產する緞子をいふ。

【巴竹】71（ハチク）　巴國に生ずる竹。巴は四川省の重慶附近。〔詩疏廣要〕筍、竹萌也、皆四月生、唯巴竹筍、八月九月生。

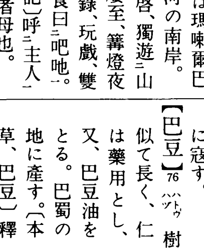
【巴中】72（ハチユウ）　縣名。民國、置く。古の巴國の地。四川省南江縣の南。縣城は南江水の西岸に臨む。

【巴底】73（ハテイ）　土司の名。一名、布拉克底。乾隆の間、金川を征するに隨つて功を建て、宣慰司に升る。宣統三年、巴旺土司と同時に流官に改め、道塢委員の管理に歸す。今、西康省丹巴縣の境。

【巴調】74（ハテウ）　巴人の謠ふ歌の調子。巴は今の四川省巴縣。轉じて、俗歌。俗曲。又、自作の詩文の謙稱。巴人調。〔宋玉、對二楚王問一〕客有下歌二於郢中一者上、其始曰二下里巴人一、國中屬而和者數千人。〔陳基、題二玉山艸堂一詩〕竹枝已聽巴人調、桂樹仍聞楚客歌。

【巴斗】75（ハト）　山名。❶江蘇省江寧縣の北。長江に臨む。❷湖南省瀘溪縣の西南。清の乾隆の末、乾州苗、此より樊浦市に出で、分れて瀘溪麻陽に寇す。

【巴豆】76（ハトウ　ハツ）　樹の名。大戟科に屬し、果實は豆に似て長く、仁は藥用とし、又、巴豆油をとる。巴蜀の地に產す。〔本草、巴豆〕釋名、巴菽・剛子・老陽子、時珍曰、此物出二巴蜀一而形如二菽豆一、故以名レ之、集解、別錄曰、生二巴郡川谷一、八月采、頌曰、戎州出者殼上有二縱文一、隱起如レ線、土人呼爲二金線巴豆一、最爲二上等一。



巴豆（三才圖會）

【巴東】77（ハトウ）　❶郡名。㋑後漢の劉璋、置く。今、四川省の奉節・雲陽・巫山諸縣の地。三巴の一。故治は四川省奉節縣の東北。〔讀史方輿紀要、四川〕夔州府、禹貢荊梁二州之域、春秋爲二庸國地一、後屬二巴國一、戰國時屬レ楚、秦屬二巴郡一、漢因レ之、後漢末置二固陵郡一、又改爲二巴東郡一、三國漢因レ之、晉仍曰二巴東郡一、劉宋泰始五年、置二三巴校尉一領二巴東等郡一、蕭齊兼置二巴州一、尋省、梁置二信州一、後周因レ之、隋廢レ郡、仍曰二信州一、大業初、復曰二巴東郡一、唐武德初、仍曰二信州一、二年、改爲二夔州一。㋺唐、置く。今の湖北省秭歸縣。〔讀史方輿紀要、湖廣、荊州府〕歸州、周夔子國地、春秋戰國屬レ楚、秦漢屬二南郡一、後漢屬二宜都郡一、孫吳永安二年、置二建平郡一、晉併入二晉所レ置建平郡一、宋齊皆屬二建平郡一、後周曰二秭歸郡一、隋郡廢屬二信州一、唐武德二年、置二歸州一、天寶初、改爲二巴東郡一、乾元初、復爲二歸州一、宋因レ之、元至元中、升二歸州路一、尋復降爲レ州、明洪武九年、廢レ州爲二秭歸縣一、屬二夷陵州一、尋復爲二歸州一、以二秭歸縣一省入。❷縣名。㋑隋、置く。漢の巫縣の地。故城は湖北省巴東縣の西北、大江の北岸。宋の寇準、今の治へ移す。今、湖北省秭歸縣の西。〔讀史方輿紀要、湖廣、荊州府、歸州〕巴東縣、漢巫・秭歸二縣地、屬二南郡一、晉渡江後、析置二歸鄉縣一、屬二建平郡一、宋齊因レ之、梁置二信陵郡於此一、後周郡廢、改レ縣曰二樂鄉一、屬二信州一、隋初因レ之、開皇末、改爲二巴東縣一、唐屬二歸州一、宋因レ之、明洪武九年、改屬二

夷陵州一、尋還屬二歸州一。〔淸史稿、地理志〕湖北、宜昌府、縣五、巴東。㋺唐、置く。故治は四川省通江縣の東。舊唐志・大平寰宇記は共に巴東、新唐志は東巴に作る。

【巴東三峽歌】78 樂府新歌謠辭の名。三峽は廣溪峽・巫峽・西陵峽をいふ。〔樂府詩集、新歌謠辭、歌辭、巴東三峽歌〕酈道元水經注曰、巴東三峽、謂二廣溪峽・巫峽・西陵峽一也、三峽七百里中、兩岸連山、略無二闕處一、重巖疊嶂、隱二蔽天日一、非二亭午夜分一、不レ見二日月一、其中有レ灘、名曰二黃牛一、江湍紆回、信宿猶見、故行者謠曰、朝發二黃牛一、莫宿二黃牛一、三日三莫、黃牛如レ故、宜都山川記曰、自二黃牛灘一東入二西陵界一、至二峽口一一百許里、山水紆曲、林木高茂、猿鳴至清、山谷傳響、冷冷不レ絕、行者聞レ之、莫レ不レ懷レ土、故漁者歌云、巴東三峽巫峽長、猿鳴三聲淚沾レ裳、巴東三峽猿鳴悲、猿鳴三聲淚沾レ衣。

【巴登】79 國の名。ドイツ聯邦の一。ライン河の東に位す。Badenの音譯。

【巴統】80 地名。ソ連邦中、ジョージヤ共和國の都邑。黑海東岸の最大最良の港。Batumの音譯。

【巴童】81 歌舞を善くした巴渝地方の童子。〔鮑照、舞鶴賦〕燕姬色沮、巴童心恥。〔注〕善曰、巴童、巴渝之童也、良曰、巴童燕姬、並善二歌舞一者。〔沈約、秋夜詩〕巴童暗理レ瑟、漢女夜縫レ裙。

【巴南】82 蜀の地をいふ。〔王勃、江亭月夜送別詩〕江送巴南水、山橫塞北雲。

【巴巴】83 ㊀非常に。甚だ。〔琵琶記、南浦囑別〕眼巴巴望二著關山一遠。〔紅樓夢、三十一回〕今兒巴巴的自己帶了來。㊁不得意。思ふやうにならぬ。ぐづぐづする。〔明人小說、二十三回〕隨便教那個燒燒兒罷、巴巴坐名教我燒。〔紅樓夢、二十二回〕我巴巴的唱戲、擺酒、爲他們不成。㊂老人をいふ。〔正字通〕八、蓋稱二老成者一曰二八八或巴巴一、今回回教以二老成者一、呼二八八一、聲近レ把。㊃種族の名。北アフリカ洲に居住す。Berbersの音譯。

【巴鼻】84 ㊀器物の持ちささへる所。つまみ。とつて。把鼻に同じ。無二巴鼻一を見よ。〔碧巖集、普照序〕秉二烹佛煆祖鉗鎚一、頌二出衲僧向上巴鼻一。〔同種電鈔〕巴鼻之巴、如三鼻準之可二弁撮一也。㊁いはれ。おこり。由來。〔運步色葉集〕巴鼻、來由之義也。

【無二巴鼻一】84′ つかまへどころがない。捕捉することができない。沒二巴鼻一。〔委巷叢談〕杭人語、言二人作レ事無レ據者一曰レ沒二巴鼻一。〔朱子語類、輯略〕若是如レ此讀レ書、如レ此聽二人說話一、全不三是自做二工夫一、全無二巴鼻一。

【巴岷】85 巴州一帶の地。岷山があるからいふ。〔孫楚、爲二石仲容一與二孫皓一書〕劉備震懼亦逃二巴岷一。

【巴舞】86 巴の地の舞。いやしい舞。〔後漢書、西南夷傳論〕夷歌巴舞、殊音異節之技、列二倡於外門一。

【巴摩】87 地名。ビルマ北境の要都。イラワジ河畔に位す。Bhamoの音譯。

【巴汶】88 姓氏。〔新撰姓氏錄考證、十九〕。

【巴兪】89 巴歈に同じ。〔漢書、西域傳贊〕天子負二黼依一、襲二翠被一、馮二玉几一、而處二其中一、設二酒池肉林一、以饗二四夷之客一、作二巴兪都盧海中碭極漫衍魚龍角抵之戲一、以觀二視之一。

【巴兪鼓】90 巴歈に同じ。〔漢書、禮樂志〕淮南鼓員四人、巴兪鼓員三十六人。〔注〕師古曰、巴、巴人也、兪、兪人也、當三高祖初爲二漢王一、得二巴兪人並趫捷善鬭一、與レ之定二三秦一滅レ楚、因存二其武樂一也、巴兪之樂、因レ此始也、巴、卽今之巴州、兪、卽今之渝州、各其本地。

【巴歈】91 歌舞の名。巴渝舞(145)を見よ。〔鹽鐵論、刺權〕鳴鼓巴歈、作二於堂下一。

【巴欖】92 巴旦杏をいふ。〔幸張府節略〕供二進御筵一時、新果子獨裝二巴欖子一。〔耶律楚材、再用レ韻紀二西遊事一詩〕親嘗二巴欖一寧論レ價、自釀二蒲萄一不レ納レ官。

【巴里】93 佛蘭西の首府。巴黎。Parisの音譯。

【巴里坤】94 ㊀地名。又、巴里庫勒・巴爾庫爾に作る。漢の蒲類國の地。新疆省鎭西縣。㊁湖の名。新疆省鎭西廳の西北。古の蒲類海。もと巴爾勒、或は巴爾庫爾に作る。

【巴里郎】95 地名。西藏碩般多の西。

【巴里國立圖書館】96 圖書館の名。佛蘭西の巴里にあり、ペリオ氏將來の敦煌遺書等、支那學に關する珍籍が多い。左に數種を擧げれば、唐鈔本莊子音義殘卷駢拇(首缺)・在宥・唐人選唐詩殘卷・唐鈔劉子殘卷・唐鈔春秋正義殘卷・唐監本五經正義殘卷・春秋後國語秦語中第二殘卷・季布歌殘卷三種・玄應一切經音義殘卷・毛詩傳箋殘卷數種・冥報記殘卷・祥瑞圖說殘卷・唐監本御注老子道德經殘卷・唐玄宗御疏老子道德經殘卷・李榮注老子殘卷等がある。

【巴籬】97 まがき。笆籬に同じ。〔通雅、宮室〕唐薛用弱集異記、劉方玄宿二巴陵館廳一、其西有二巴籬一。

【巴陵】98 ㊀山名。湖南省岳陽縣治の西南隅。下、洞庭湖に臨む。一名、東陵。西陵の夷陵と相東西す。又、天岳山・巴丘山といふ。巴丘(20)の㊀を見よ。〔尋江記〕羿屠二巴蛇於洞庭一、其骨如レ陵、故謂二之巴陵一。㊁郡名。南朝宋、置く。今、湖南省岳陽縣治。〔讀史方輿紀要、湖廣〕岳州府、禹貢荊州地、春秋戰國時屬レ楚、秦爲二長沙郡地一、漢屬二長沙國一、後漢屬二長沙郡一、三國吳爲二重鎭一、晉仍屬二長沙郡一、東晉時、巴陵亦爲二重鎭一、宋元嘉十六年、分二長沙一、置二巴陵郡一、屬二湘州一、齊因レ之、梁兼置二巴州一、隋平レ陳郡廢、改レ州曰二岳州一、煬帝初、改爲二羅州一、旋復爲二巴陵郡一、唐初、蕭銑置二巴州一、武德四年、平二蕭銑一、仍爲二巴州一、六年、改二岳州一、天寶初、又爲二巴陵郡一、乾元初、復曰二岳州一、五代時、馬殷有二其地一、後屬二于周行逢一、宋仍爲二岳州一。㊂縣名。晉、置く。湖南省岳州縣。〔讀史方輿紀要、湖廣、岳州府〕巴陵縣、附郭、本漢長沙郡下雋縣地、孫吳初爲二巴邱邸閣一、晉初置二巴陵縣一、仍屬二長沙一、宋屬二巴陵郡一、自レ是以後、州郡皆治レ此、明洪武九年、省入二岳州一、十四年、復置。〔淸史稿、地理志〕湖南、岳州府、縣四、巴陵。

【巴陵哀王】99 南朝宋、劉休若(2－2224「‥806)の封謚號。

【巴陵一望】99′ 巴陵から眺めること。〔張說、送二梁六一詩〕巴陵一望洞庭秋、日見孤峰水上浮。

【巴陵隱王】100 南齊、蕭寶義(9－32012‥502)の封謚號。

【巴陵勝狀】100′ 巴陵地方のよい景色。〔范仲淹、岳陽樓記〕予觀二夫巴陵勝狀一、在二洞庭一湖一。

【巴林】101 ㊀部落の名。內蒙古昭烏達盟八部の一。左右翼の二旗あり。民國、熱河都統の管轄に屬す。巴林部を見よ。㊁群島の名。ペルシヤ灣の西南にある群島。Bahreinの音譯。

【巴林部】102 部落の名。內蒙古昭烏達盟八部の一。滿洲熱河省の北境。東は阿魯科爾沁、南は翁牛特、西は克什克騰、北は烏珠穆沁と界す。元の太祖十八世の孫、蘇巴海が始めて所部と號して巴林といひ、察哈爾に服屬す。淸、天聰の初、內附し、所部は左右翼二旗に分る。左翼は林西縣の東境、右翼は林西縣の西北。〔淸史稿、地理志〕內蒙古、巴林部二旗、巴林左翼、巴林右翼。〔注〕在二古北口東北七百二十里一、南距二京師一九百六十里、遼上京臨潢府、金大定後、併屬二北京路一、元屬二全寧路一、爲二魯王分地一、明初爲二全寧衞一、後屬二烏梁海北境一、後爲二順義王諳達五子巴林台吉所一レ據、後屬二於察哈爾一。〔淸國行政法汎論、藩部、內蒙古之行政區劃〕昭烏達盟 Chao Uda Chogolgân 有二八部十一旗一、巴林部 Barin tribe 二旗。

【巴黎】103 佛蘭西の首府。巴里。Parisの音譯。

【巴黎緞】104 pa^1 li^2 tuan^4 天然絲と人絹との交織品。

【巴嶺】105 山名。一名、大巴山。陝西省西鄕縣の西南。支峯は數百里にわたる。巴山(40)を見よ。〔宋之問、留二別之望舍弟一詩〕西馳巴嶺徼、東去洛陽濱。

【巴禮】106 宣教師をいふ。〔稱謂錄、洋教師、巴禮〕黃穀軒呂宋紀略、乾隆年間、西北海之英黎、猝造二夾板船十餘一直溯二呂宋一、欲レ踞二其地一、化人巴禮納レ幣請レ解、英黎乃返。〔徐松龕瀛環志略〕按、化人巴禮、卽洋教之師也。

【巴旺】107 土司の名。淸、宣統の末、道塢委員の管理に歸す。西康省丹巴縣の境。

【巴伊阿】108 地名。ブラジル東海岸の海港。サンサルヴアドル。Bahiaの音譯。

【巴慰祖】109 ハヰソ　清、歙の人。字は雋堂。又、僬堂。號は蓮舫・予藉・晉堂。中書に候補たり。收藏に富み、文藝に精通す。〔碑傳集補、五十六〕・〔清畫家詩、丁、上〕・〔國朝書人輯略、六〕。

【巴謠歌】110 ハエウカ　歌曲の名。始皇に仙を求むるの心を起させたといふ。〔茅盈內傳〕秦始皇三十一年九月庚子、茅盈高祖濛㆓於華山之中㆒、乘㆑鶴駕㆑雲、白日昇㆑天、先㆓是時㆒有㆓巴謠歌㆒云、神仙得者茅初成、駕㆑龍上昇入㆓太清㆒、時下㆓玄洲㆒戲㆓赤城㆒、斷㆑世而往在㆓我盈㆒、帝若學㆑之臘㆓嘉平㆒、於㆑是始皇欣然有㆓尋㆑仙之志㆒、因改㆑臘曰㆓嘉平㆒。

【巴格達】111 バグダード　地名。イラクの首府。チグリス河の中流に位する河港。Bagdad, Baghdad の音譯。

【巴哈納】112 ハバナ　清、滿洲鑲白旗人。姓は覺羅氏。諡は敏壯。天聰の間、佐領を拜命。順治の初、兵を以て畿內郡縣に狥へて之を下し、復、山西・四川を平定して、中和殿大學士に累官す。〔清史稿、二百四十四〕・〔清史列傳、五〕・〔國朝耆獻類徵、一〕。

【巴哈布】113 ハバフ　清、蒙古正藍旗人。姓は烏忒米氏。諡は勤勇。教匪を川楚に、蔡牽を閩洋に、滑縣教匪を河南に勦滅して、喀喇沙爾辦事大臣に累擢され、江寧將軍に至る。〔清史稿、三百七十四〕・〔清史列傳、三十八〕・〔國朝耆獻類徵、三百二十一〕。

【巴奇蘭】114 パチラン　清、滿洲鑲紅旗人。姓は納喇氏。天聰の時、旅順口を攻むるに從つて之に克ち、後、虎爾哈諸部を平定。三等子を拜授す。〔清史稿、二百三十九〕・〔國朝耆獻類徵、二百六十三〕・〔滿洲名臣傳、三〕。

【巴琿岱】115 パフンタイ　清、滿洲正黃旗人。諡は恪恭。康熙中、正黃旗滿洲都統を拜命。湖廣の夏逢龍の亂を平定し、又、噶爾丹を攻略す。官は領侍衞內大臣に至る。〔國朝耆獻類徵、二百六十七〕・〔滿洲名臣傳、三十三〕。

【巴塞爾】116 バーゼル　地名。スイス西北隅の都邑。ライン河に沿ふ。佛名、バール。Basel の音譯。

【巴士拉】117 バスラ　地名。イラク國、シヤテルアラブ三角洲上の河港。Basra の音譯。

【巴子園】118 ハシエン　清、林明儁（**6**－**14551**‥440）の室名。

【巴思八】119 ハスパ　八思巴（**2**－**1450**‥560）に同じ。〔輟耕錄、帝師〕巴思八帝師、法號曰㆓皇天之下一人之上開教宣文輔治大聖至德普覺眞知佑國如意大寶法王西天佛子大元帝師板的達巴思八八合㆒矣。

【巴思明】120 ハシメイ　明、山東新城の人。正德の進士。世宗の時、兵科給事中に累遷し、尋いで浙江僉事に左遷さる。〔明史、一百八十九〕。

【巴斯克】121 バスク　人種の名。ヨーロッパ人種の一。フランスとスペインとの中間、ピレネー山脈中に居る。約三十萬の人種で、眼球・髮等の色は黑い。Basquees の音譯。

【巴而思】122 ハジシ　虎（**9**－**32675**）の異名。〔事物異名錄、獸畜、虎〕事物原始、白額將軍・嘯風子、皆虎之別名、胡人謂㆓之巴而思㆒。

【巴爾幹】123 バルカン　南歐東部の大半島。又、其の半島東北部の山脈。Balkan の音譯。

【巴爾呼】124 バールフ　打牲游牧部民の住する部落の名。打牲は獵夫の義。黑龍江東岸・沿海州地方・吉林等に居住す。〔清國行政法、四〕。

【巴爾馬】125 パルマ　伊太利北部、ポー河南の公國。又、伊太利、パルマ縣の首都。Perma の音譯。

【巴清德】126 ハセイトク　清、吉林の人。諡は果毅。姓は顏扎特氏。道光の間、二等侍衞を以て臺灣を攻め、張格爾を征定す。官は鑲白旗蒙古都統に至る。戰功多し。〔續碑傳集、五十〕。

【巴旦杏】127 ハタンキヤウ　杏（アンズ）の別種。もと大宛より出づ。巴擔杏。巴欖。八擔杏。八達杏。叭噠杏。邦名は扁桃。〔本草、巴旦杏〕釋名、八擔杏、忽鹿麻、集解、時珍曰、巴旦杏出㆓回回舊地㆒、今關西諸土亦有㆑樹、如㆑杏而葉差小、實亦尖小而肉薄、其核如㆓梅核㆒、殼薄而仁甘美、點㆑茶食㆑之、味如㆓榛子㆒、西人以充㆓方物㆒。

【巴提便】128 ハテビ　膳臣巴提便。欽明天皇の頃の人。日本書紀、巴提使に作る。

【巴圖魯】129 ハトロ　清代、武功ある者に賜はつた勳記。元代、霸都魯、或は拔圖魯といふ。滿洲語で武勇の義。〔清會典事例、兵部、議敍通例、軍功優敍〕乾隆二十四年諭、今又領㆑兵力戰、與㆓將軍㆒會合、厥功甚懋、富德著㆓加恩晉封一等威勇伯㆒、兆惠軍營之侍郎公明瑞、副都統由屯溫布、總管端濟布、富德軍營之護軍統領努三、副都統鄂博什墨爾根、巴圖魯瑪瑺、散秩大臣永慶、俱交㆑部議敍、給㆓與世職㆒。〔清國行政法汎論、皇室、巴圖魯之號〕巴圖魯者、滿洲語 B'at'uru 武勇勇悍之義也、國初以來、躬臨㆓戰陣㆒、軍功顯著、則勿㆑論㆓滿漢人㆒、並皆賞㆓給之㆒。

【巴特瑪】130 バトマ　❶清、滿洲鑲藍旗人。姓は博爾濟吉特氏。崇德の間、蒙古都統を拜命。順治の間、李自成・張獻忠を平定し、一等男に封ぜられ、內大臣に進列す。〔國朝耆獻類徵、二百六十九〕・〔滿洲名臣傳、七〕。❷清、滿洲正黃旗人。姓は墨爾迪勒氏。乾隆の間、從つて金川及び甘肅の石峰堡を攻め、官は正黃旗漢軍副都統に至る。〔國朝耆獻類徵、三百六〕・〔國史列傳、三十九〕。

【巴得箇】131 pa^1 tê kê　盼望の意。待ち遠しくなること。〔長生殿、進果〕巴得箇到長安、只圖貴妃看一看。

【巴篤理】132 バトリー　清の人。世〻佟佳に居り、地を以て氏と爲す。諡は敏壯。後、滿洲正白旗に隸屬。官は禮部承政に至る。天聰の間、太宗に從つて明を攻め、遵化城に克ち、流矢に中つて卒す。〔清史稿、二百三十二〕・〔國朝耆獻類徵、三百三十一〕・〔滿洲名臣傳、二〕。

【巴拏馬】133 パナマ　巴拿馬（135）に同じ。

〖巴拏馬帽〗134 パナマバウ　パナマ草の葉を編んで造つた帽子。

【巴拿馬】135 パナマ　❶中央亞米利加洲の國名。又、其の首府。巴奈馬。❷運河の名。パナマ地峽を橫貫する運河。コロン港とパナマ港とを連絡する。❸地峽の名。南、北アメリカを仲介する地峽。長四五〇哩、平均廣さ四〇哩、所謂パナマ共和國の地。Panama の音譯。

【巴波川】136 ウツマ　下野國の地名。

【巴比倫】137 バビロン　古、バビロニヤの首都。エウフラテス河畔にあり。〔國史擥要序〕盛㆓於前㆒、衰㆓於後㆒者、爲㆓印度㆒、爲㆓巴比倫㆒、爲㆓麥西㆒、爲㆓波斯㆒、爲㆓猶太㆒、爲㆓希臘㆒、爲㆓羅馬㆒。

【巴卑爾】138 バベル　印度莫臥兒帝國の建設者。本名、ザヒール、ウツジン、ムハメツド。バベルはタタール語、獅子の義。渾名が正式の名となる。蒙兀兒帝國の創始者。

【巴飛杝】139 ハヒチ　斜に組んだ桓根。〔名義考〕通俗文、柴垣曰㆑杝、木垣曰㆑栖、南土悉以㆑竹爲㆑之、斜織者謂㆓之巴飛杝㆒、杝、本作㆑籬。

【巴不得】140 pa^{1}pu tê^2　願ふ。こひねがふ。〔桃花扇、草檄〕巴不得叫他知道。〔紅樓夢、二回〕巴不得去奉承。

【巴布亞】141 パプア　ニューギニー島。又、其の東南部の地方。Papua の音譯。

【巴芬蘭】142 バフィンランド　島の名。北アメリカ洲のカナダとグリーンランドとの中間にある。英の探險家バフィンの名に因む。Baffin Land の音譯。

【巴蔓子】143 ハマンシ　戰國、巴國の人。巴に仕へて將軍となる。周末に國亂る。蔓子、援軍を楚に請ひ、三城を與へんと約す。楚、巴を救ひ、使を遣はして城を求む。蔓子、頭を持して往きて謝せと言つて、自刎す。使者、蔓子の首を持ちて楚王に報ず。王、上卿の禮を以て其の首を葬る。巴も亦其の尸を卿の禮を以て葬る。〔四川總志〕。

【巴渝歌】144 ハユカ　歌曲の名。巴渝舞を見よ。〔困學紀聞、詩〕文粹、李行修云、劉迅云云、又取㆓巴渝歌・白頭吟・折楊柳・至談容娘㆒以比㆓國風之流㆒。

【巴渝舞】145 ハユブ　巴渝地方の舞の名。渝は又、俞に作る。又、兪兒舞といふ。巴は四川省巴縣地方。渝は湖北省の渝水。〔漢書、司馬相如傳上、注〕師古曰、巴渝之人、剛勇好㆑舞、初高祖用㆑之、克㆓平三秦㆒、美㆓其功力㆒、後使㆓樂府習㆒㆑之、因名㆓巴兪舞㆒也。〔後漢書、南蠻、板楯蠻夷傳〕俗喜㆓歌舞㆒、高祖觀㆑之曰、此武王伐㆑紂之歌也、乃命㆓樂人習㆒㆑之、所謂巴渝舞也。〔晉書、樂志上〕閬中有㆓渝水㆒、因㆓其所㆒㆑居、故名曰㆓巴渝舞㆒。

【巴拉圭】146 パラグアイ　❶國の名。南アメリカ洲の中部にあり、ボリビヤ・ブラジル・アルゼンチン三國の間に介在す。❷河の名。南アメリカ洲、ラプラ

タ河の支流。Palaguayの音譯。

【巴拉那】147（パラナ） 川の名。南米第二の長流。又、ブラジル南部の一州。又、アルゼンチンの都會。Paranaの音譯。

【巴利語】148（パーリーゴ） 佛 Pali 古、南天竺の一地方語。北方佛教の聖典語である梵語と比較すれば音調の變化少なく、文法亦簡易で、極めて通俗の語に富む。後、錫崙に入つて行はれ、現今存在する小乘經の原本は殆んど此の語を以て記されてゐる。南方佛教徒はこれを以て古摩迦陀語とした。

【巴鄰旁】149（パレンバン） 地名。スマトラ島の東南岸にあり、島中第一の都邑。巨港・舊港ともいふ。Palenbangの音譯。

【巴勒摩】150（パレルモ） 伊太利のシシリー島北岸の港市。Palermoの音譯。

【巴格喇赤】151（パコラチ） 湖の名。新疆省焉耆縣の東南。

【巴寡婦清】152（ハクヮフセイ） 秦の人。其の夫、丹穴を得、家富む。婦、其の業を守る。始皇、貞婦となす。女懷清(3-6036‥340)を見よ。〔前漢書、九十一〕。

【巴塞羅納】153（バルセロナ） 地名。㊀西班牙東北部の省。又、同省の首邑。㊁南アメリカ、ベネズエラの都會。Barcelonaの音譯。

【巴爾河屯】154（バールホトン） 地名。外蒙古克魯倫河の北岸。喀爾喀東路車臣汗の盟地。

【巴爾克什】155（バルカシ） 湖の名。中央細亞東部の鹹水湖。Balkashの音譯。

【巴蘇陀蘭】156（バストランド） 地名。英の南アフリカ洲の殖民地の一。ドラケンベルグ山脈の一部にある。Basutolandの音譯。

【巴他峩拿】157（パタゴニヤ） 南阿米利加洲南部の地方。Patagoniaの音譯。

【巴達克山】158（パタコシヤン） 地名。阿富汗の東北隅、巴克特里亞の東、興都庫什山の北。其の地風光絶佳、鑛産に富む。按ずるに、巴達克山は古の大夏國の東境、及び吐火羅の地。元史に巴達哈傷、明史に八答黑商、大清一統志に拔達克山に作る。清、高宗の時、藩屬となり、後、阿富汗に併合さる。

【巴塔維亞】159（バタヴイヤ） 地名。ジャヴア島の西北岸にあり、米・咖啡・砂糖・香料等の輸出港。Bataviaの音譯。

【巴佩道斯】160（バルバドス） 島の名。北アメリカ、西印度群島中の一島。Barbadosの音譯。

【巴不能穀】161 pa^1 pu^4 nêng^2 kou^4 巴不得(140)に同じ。

【巴蘭給拉】162（バランキリヤ） 地名。南アメリカ、コロンビヤの東北岸、マグダレナ河にのぞむ都邑。Barranquilla の音譯。

【巴力斯坦】163（パレスタイン） 國の名。アジヤ洲の西南部、地中海の東南隅に所在するユダヤ人の故國。Palestine の音譯。

【巴勒哈什】164（バルカシユ） 中央亞細亞、カザツク共和國の鹹湖。バルハシユ。Balkhash の音譯。

【巴克特里亞】165（バクトリア） 中央亞細亞の國名。古の大夏國。後、大月氏に滅ぼさる。Bactriaの音譯。

【巴爾庫勒泊】166（パールクロポ） 湖の名。古の蒲類海。新疆省鎭西縣の西北。一に巴里坤湖に作る。水磨河のとどまる處。湖を繞つて良田が多い。

【巴爾的摩爾】167（バルチモル） 地名。アメリカ合衆國、マリーランドの首邑。Baltimore の音譯。

【巴塔哥尼亞】168（パトゴニヤ） 地名。南アメリカ、アルゼンチン南部の一大平原。Patagonia の音譯。

【巴圖爾琿台吉】169（ハトルクンタイチ） 明、綽羅斯特の酋長。一名、渾台吉。伊犂に據り、四衞拉特部盟長となり、準噶爾と總稱す。其の強を賴んで、嘗て諸衞拉特を侵略す。其の子僧格・噶爾丹、相繼ぎて位を嗣ぐ。

【巴圖濟爾噶勒】170（ハトチールガロ） 清、厄魯特人。蒙古正黃旗に隸屬。乾隆の閒、從つて準噶爾を征して功あり、鑲藍旗副都統を拜命し、尋いで內大臣に進み、卒す。〔淸史列傳、二十二〕・〔國朝耆獻類徵、二百八十八〕。

【巴布厄爾曼得】171（バブエルマンデブ バベルマンデブ） 海峽の名。紅海とアデン灣とをつなぐ海峽。Bab-el-mandeb の音譯。

【巴而木阿而忒的斤】172（バールムアールトタチン） 元の人。高昌國主。初、契丹に臣たり。太祖興ると聞き、來り附し、公主也立安敦に婚せしむ。罕勉力鎖潭・回回諸國を征し、又、帝に從つて你沙卜里を征して大功をたつ。〔元史、一百二十二〕。

二畫

【〓】8746 グヮ 厄(2-2893)の俗字。〔正字通〕厄、俗厄字、本作レ厄从レ卩、卩即節字、與レ巳別。

【㠯】8747 イ 以(1-388)の本字。〔正字通〕㠯、以本字。

参考 一説に、已(4-8744)に同じ。巳(4-8743)の参考を見よ。

三畫

【〓】8748 音義未詳 〔字彙補〕〓、音未詳。

【〓】8749 カン 義未詳。〔海篇〕〓、音旱。

【〓】8750 グヮ 厄(2-2893)に同じ。〔正字通〕厄、正譌作レ〓。

四畫

【巵】8751 シ 卮(2-2846)の俗字。〔正字通〕巵、俗卮字、本从レ卩、節本作レ卩、因レ卩作レ巴、列ニ巳部一誤。

五畫

【〓】8752 セウ 佋(1-501)に同じ。〔集韻〕佋、或作レ〓。

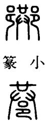
【〓】8753 キン 巹(4-8758)の譌字。〔中華大字典〕巹、舊字典作レ〓、缺ニ一筆一、入ニ五畫一、非レ是。

六畫

【〓】8754 チン 朕(5-14361)の古字。〔字彙〕〓、古文朕字。

【〓】8755 音義未詳 〔字彙〕〓、見ニ揚子雲蜀都賦一、音義未詳。

【巷】8756 カウ ガウ 〔集韻〕胡降切 絳 ㄒㄧㄤ hsiang^4


小篆 篆文

㊀ちまた。㋑里中の道。もと〓・〓(11-39673)・〓(11-39365)に作る。〔說文〕〓、里中道也、从ニ𨙵共一、言ト在ニ邑中一所上レ共、〓、篆文从ニ𨙵省一。〔段注〕不レ言ニ邑中道一、言ニ里中道一者、言ニ邑不一レ該ニ里、言ニ里可一レ該ニ邑也、云云、今作レ巷。〔詩、鄭風、叔于田〕巷無ニ居人一。〔傳〕巷、里塗也。〔疏〕里內之塗道也。㋺宮廷のかよひぢ。〔爾雅、釋宮〕宮中衖謂ニ之壼一。〔注〕巷、閤閒道。〔孫注〕巷、舍閒道也。〔左氏、襄、九〕令ニ司宮巷伯儆一レ宮。〔疏〕巷者、宮內道名。㋩ろぢ。〔增韻〕巷、直曰レ街、

曲曰レ巷。〔易、睽〕遇二主於巷一。〔虞注〕大道而有二徑路一、故稱レ巷。❷**門の外**。〔易、睽〕遇二主于巷一。〔崔注〕巷者、出レ門遇レ主之象。〔詩、鄭風、丰〕俟二我乎巷一兮。〔傳〕巷、門外也。❸**むら**。さと。〔禮、祭義〕而弟達二乎州巷一矣。〔注〕巷、猶レ閭也。❹鄕（**11－39512**）に同じ。〔集韻〕鄕、說文、里中道也、或作レ巷。❺又、衖（**10－34049**）に作る。〔玉篇〕衖、亦作レ巷。❻閧（**11－41311**）に作る。〔韻會〕巷、一作レ閧。❼弄（**4－9596**）に通ず。〔說文、䢼、段注〕十七史言レ弄者、皆卽巷字、語言之異也、今江蘇俗、尙云レ弄。❽**姓**。〔元和姓纂〕周寺人巷伯之後。

名乘　サト。

解字　會意。共と𨛜の省畫との合字。小篆はもと𨛜字の閒に共をかき、篆文は共字の下に邑をかく。故に今の字はその省畫。共は共用の意、故に本義は里邑の閒に共用する道路の意。一說に、會意形聲。共は又音符。〔說文通訓定聲〕巷、里中道也、从レ𨛜从レ共、會意、言下在二邑中一所上レ共也、按、共亦聲、篆文从レ邑、今字作レ巷、省字。

【巷遊】1（カウイウ）　ちまたに遊ぶ。〔大戴禮、曾子立事〕嗜二酤酒一好二謳歌一、巷遊而鄕居者乎、吾無レ望焉耳。

【巷飮】2（カウイン）　街で酒をのむ。〔左思、吳都賦〕里讌巷飮、飛レ觴擧レ白。

【巷屋】3（カウヲク）　街の家。〔王安石、得二曾子固書一因寄詩〕竭來高郵住、巷屋頗卑濕。

【巷歌】4（カウカ）　街頭で歌ふ。里巷の唱歌。〔禮、曲禮上〕里有レ殯不二巷歌一。〔魏書、李彪傳〕省二賦役一以育レ人、則編戶巷歌矣。〔張協、七命〕玄齠巷歌、黃髮擊壤。

【巷閒】5（カウカン）　ちまた。まちなか。

【巷議】6（カウギ）　街頭で議論する。集つてそしる。世閒の風說。〔史記、秦始皇紀〕入則心非、出則巷議。〔後漢書、楊秉傳〕俗夫巷議、白駒遠逝。〔張衡、西京賦〕辯論之士、街談巷議。〔晉書、愍懷太子傳〕街談巷議、皆以レ公爲二賈氏之黨一。〔蘇軾、乞四相三度開二石門一狀〕巷議臆度、不レ足レ取レ信。

【巷泣】7（カウキフ）　ちまたで泣く。〔陸雲、晉故散騎常侍陸府君誄〕聞者巷泣、赴者風征。

【巷曲】8（カウキヨク）　小路がまがりくねつてゐること。〔梁昭明太子、相二逢狹路閒一詩〕京華有二曲巷一、巷曲不レ通レ輿。

【巷衢】9（カウク）　ちまた。まち。街衢（**10－34051‥7**）に同じ。

【巷遇】10（カウグウ）　ちまたで出あふ。〔易、睽〕遇二主于巷一。〔程傳〕君臣睽離、其咎大矣、巷者、委曲之途也、遇者、會逢之謂也、當三委曲相求期二於會遇一、與レ之合也。〔張鼒、瀛洲亭賦〕東陽和二衷於四朝一、文達巷遇而抒レ忠。

【巷犬】11（カウケン）　ちまたに居る犬。〔陸游、夜寒起坐待レ旦詩〕巷犬聲如レ豹、山童首似レ蓬。

【巷言】12（カウゲン）　街でうはさする。かげぐちをきく。〔鹽鐵論、相刺〕鄙人不レ能二巷言面違一。

【巷語】13（カウゴ）　ちまたのうはさ。下世話。巷談。〔漢書、藝文志〕小說家者流、蓋出二于稗官一、街談巷語、道聽塗說者之所レ造也。

【巷口】14（カウコウ）　ちまたの入口。まちの入口。〔高瑾、上元夜詩〕連レ鑣出二巷口一、飛レ轂下二池濆一。

〖巷口牌坊〗15 hsiang^{4} k'ou^{3} p'ai^{2} fang^{1}　街の入口に建てた門。

【巷哭】16（カウコク）　ちまたで泣く。巷泣。〔孔叢子、雜訓〕巷哭三月、竽瑟不レ作。〔說苑、貴德〕鄭子產死、鄭人丈夫舍二玦珮一、婦人舍二珠珥一、夫婦巷哭、三月不レ聞二竽瑟之聲一。〔劉琨、勸進表〕行號巷哭。〔晉書、羊祜傳〕南州人征レ市日、聞二祜喪一、莫レ不二號慟一、罷レ市、巷哭者聲相接。〔蘇軾、司馬溫公神道碑〕巷哭以過レ車者、蓋以二千萬一數。

【巷祭】17（カウサイ）　ちまたに祭る。〔宋書、禮志四〕百姓巷祭、戎夷野祀、非四所三以存レ德念レ功述二追在昔一也。

【巷子】18 hsiang^{4} tzŭ　路次。橫町。

【巷市】19（カウシ）　大喪に市場を閉ぢ、日用品は巷で貿易し、弔意を表すること。〔禮、檀弓下〕天子崩、巷市七日。〔集解〕孔子曰、天子諸侯之喪、庶人憂戚、無三復求二覓財利一、要有二必須之物一、不レ得レ不レ求、故於二邑里之內一而爲二巷市一。

【巷次】20（カウジ）　まち中。〔後漢書、張楷傳〕黃門及貴戚之家、皆起二舍巷次一、以候二過客往來之利一。

【巷首】21（カウシユ）　巷口（14）に同じ。〔禮、學記、古之敎者家有レ塾、疏〕周禮、百里之內二十五家爲レ閭、同共二一巷一、巷首有レ門、門邊有レ塾、謂、民在レ家之時、朝夕出入、恒就二敎於塾一、故云二家有一レ塾。

【巷處】22（カウシヨ）　官をやめて町や村に居る。〔韓愈、送二石處士一序〕士大夫之去レ位而巷處者、誰與嬉遊。

【巷職】23（カウシヨク）　寺人の職。宦官。閹官。〔後漢書、宦者傳贊〕任レ失無レ小、過レ用則違、況乃巷職、遠參二天機一。〔注〕毛詩曰、寺人巷伯、作二爲此詩一、巷職、卽寺人之職也。

【巷說】24（カウセツ）　ちまたのうはさ。〔漢書、藝文志、小說家者流蓋出二於稗官一、注〕如淳曰、街談巷說、其細碎之言也、王者欲レ知二閭巷風俗一、故立二稗官一、使三稱二說之一。〔曹植、與二楊德祖一書〕夫街談巷說、必有レ可レ采。〔劉敞、與二吳九一論二武學一書〕雖二私議巷說一、有司不レ及。

【巷戰】25（カウセン）　ちまたのたたかひ。市街戰。〔五代史、范延光傳〕延光先入、猶巷戰、殺傷甚衆。

【巷族】26（カウゾク）　豪族。〔韓非子、說疑〕故爲二人臣一者、破レ家殘レ賥、內構二黨與一、外接二巷族一、以爲レ譽、從陰約結、以相固也。

【巷黨】27（カウタウ）　まちの組合。〔禮、曾子問〕孔子曰、昔者吾從二老聃一、助二葬於巷黨一。

【巷道】28（カウダウ）　まちのみち。〔韓愈、柳州羅池廟碑〕城郭巷道、皆治使二端正一。

【巷談】29（カウダン）　ちまたのうはさ。巷語。〔晁氏客語〕師朴入レ寺歸、魏公問二所レ買之物一、云二千三一、魏公責レ之曰、此里巷之談、非下對二尊長一辭上、何不レ云二一貫三百一。

【巷塗】30（カウト）　ちまた。みち。〔蘇洵、張尙書畫像詩〕西人聚觀、于レ巷于レ塗。

【巷童】31（カウドウ）　市中の小兒。

【巷伯】32（カウハク）　❶周官の名。內官で王后の命を掌る。宮中に於て側近に居るから巷伯といふ。卽ち永巷の長官。後世、宦官の長。〔禮、緇衣〕子曰、好レ賢如二緇衣一、惡レ惡如二巷伯一、則爵不レ瀆而民作レ愿、刑不レ試而民咸服。〔左氏、襄、九〕使三西鉏吾庀二府守一、令二司宮巷伯儆一レ宮。〔注〕司宮、奄臣、巷伯、寺人、皆掌二宮內之事一。〔疏〕王肅云、巷者、宮內道名、伯、長也、是宮內門巷之長也。〔李華、含元殿賦〕又有二銀璫珥貂寺人巷伯一、奉二宣出納之令一、更踐二宮中之役一。❷詩經、小雅、節南山之什の篇名。寺人が讒言にあひ、周の幽王を刺つた詩。〔詩、小雅、巷伯序〕巷伯、刺二幽王一也、寺人傷二於讒一、故作二是詩一也。〔箋〕巷伯、奄官、寺人、內小臣也、奄官上士四人、掌二王后之命一、於二宮中一爲レ近、故謂二之巷伯一、與二寺人之官一相近、讒人譖二寺人一、寺人又傷二其將レ及二巷伯一、故以レ名レ篇。❸町年寄の稱。

〖巷伯之傷〗33（カウハクノイタミ）　讒者にあふことをいたむ。巷伯の❷を見よ。〔漢書、司馬遷傳贊〕迹三其所二以自傷悼一、小雅巷伯之倫。

【巷陌】34（カウハク）　ちまた。まちのみち。〔神仙傳、薊子訓〕子訓死屍、作二五香之芳氣一、達二於巷陌一、其氣甚異。〔劉禹錫、題二王郎中宣義里新居一詩〕門前巷陌三條近、牆內池亭萬境閒。〔范成大、峩眉縣詩〕窮鄕未レ省識二旌旄一、鷄犬歡呼巷陌騷。

【巷尾】35 hsiang^{4} wei^{3}　小路のはづれ。

【巷僻】36（カウヘキ）　むらざとの邊鄙な所。〔張喬、秋夕詩〕巷僻行吟遠、蛩多獨臥遲。

【巷北】37（カウホク）　まちの北。〔柳宗元、聞二黃鸝一詩〕此時晴烟最深處、舍南巷北遙相語。

【巷醪】38（カウラウ）　町で賣る酒。よくない酒。〔醉鄕日月〕人以二家醪糯觴醉レ人者一爲二君子一、以二家醪黍觴醉レ人者一爲二中人一、以二巷醪灰觴醉レ人者一爲二小人一。

【巷吏】39（カウリ）　むらざとの役人。〔徐陵、諫二仁山深法師罷一レ道書〕假使棘生二王路一、橋化二長溝一、巷吏門兒、何因仰喚、寸絹不レ輸二官庫一、升米不レ進二公倉一、庫部倉司、豈須レ所レ及。

【巷柳】40（カウリウ）　ちまたの柳。〔韓愈、夕次二壽陽驛一題二吳郎中詩後一詩〕不レ見三園花兼二巷柳一、馬頭惟有二月團團一。

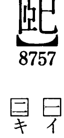
【巷路】41（カウロ）　まちのみち。〔論衡、論死〕人且レ死見レ鬼、宜レ見二數百千萬一、滿レ堂盈レ庭、塡二塞巷路一、不レ宜三徒見二一兩人一也。

【巷論】42（カウロン）　巷議（6）に同じ。

【塡ㇾ巷】43（チマタニミツ）　みち一ぱいになる。〔張憲、春日詩〕笑我一春長閉ㇾ戸、柳花塡ㇾ巷臥二袁安一。

【滿ㇾ巷】44（チマタニミツ）　みち一ぱいになる。〔元稹、酬二樂天一詩〕妓樂當ㇾ筵唱、兒童滿ㇾ巷傳。

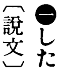
【巸】 8757　㊀イ　〔集韻〕盈之切　支　㊁キ　〔集韻〕虛其切　支



㊀❶**ひろいあご**。ひろい。〔說文〕巸、廣頤也、从ㇾ𦣞巳聲。〔段注〕引申爲二凡廣之偁一。❷**おほきい**。**ながい**。〔方言、十二〕巸、長也。〔注〕謂二壯大一。❸**うつくしい**。〔集韻〕巸、美也。〔太玄經、內〕謹二于巸執一。〔注〕女謂二之巸一。❹或は欧(6−16059)に作る。〔集韻〕巸、或从ㇾ欠。❺古は戺(5−11703)に作る。〔集韻〕巸、古从ㇾ戶。㊁**よろこびたのしむ**。嫛(3−6495)に同じ。〔集韻〕嫛、說文、悅樂也、或省。

【巸巳】1（イキ）　よろこぶ。〔方言、十〕喜、湘潭之閒曰二紛怡一、或曰二巸巳一。

【巹】 8758　キン　コン　〔集韻〕几隱切　ㄐㄧㄣˇ chin^3　吻



❶**したがふ**。つつしむ。うける。〔說文〕巹、謹ㇾ身有ㇾ所ㇾ承也、从二己丞一、讀若二詩云亦舃几几一。〔徐灝注箋〕巹之言、謹也、屈ㇾ己以承ㇾ人、故曰二謹ㇾ身有ㇾ所ㇾ承也。❷**のびる**。〔玉篇〕巹、舒也。❸**さかづき**。瓢を兩分したさかづき。婚禮に夫婦各〻その一半を執つて飲酒結契する。〔禮、昏義〕合巹而酳。〔釋文〕巹、破ㇾ瓢爲ㇾ杯也。〔疏〕巹、謂二半瓢一、以二一瓢一分爲二兩瓢一、謂二之巹一。❹豋(10−36283)に通ず。〔說文通訓定聲〕巹、叚借爲ㇾ豋。

解字　會意。丞と己との合字。身を屈し(己)、兩手で捧げ受ける(丞)、謹み受ける意を表はす。

【巹席】1（キンセキ）　よろこびの酒宴。〔全唐詩話〕或戚里宸筵、王門巹席、無ㇾ不二畢從一。

【巺】 8759　ソン　巽(4−8765)の本字。〔說文、巺、段注〕今作ㇾ巽。

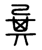
七畫

【巻】 8759′　クヮン　卷(2−2860)の俗字。

【巹】 8760　キン　豋(10−36283)に同じ。〔集韻〕豋、或作ㇾ巹。

八畫

【㠱】 8761　ギ　キ　〔集韻〕巨几切　紙



❶**あぐらをかく**。足をくんで坐る。〔說文〕㠱、長居也、从ㇾ己其聲、讀若ㇾ杞。〔段注〕長居、謂下箕二其股一而坐上。❷**ひざまづく**。跽(10−37549)に通ず。〔玉篇〕㠱、長跪也、或作ㇾ跽。❸**國の名**。杞(6−14479)に通ず。〔說文通訓定聲〕㠱、叚借爲ㇾ杞。〔字彙〕㠱、與ㇾ杞同、古國名。❹或は踑(10−37609)に作り、亦、𢀿(4−8762)に作る。〔集韻〕㠱、或从ㇾ足、亦書作ㇾ𢀿。

【𢀿】 8762　キ　〔集韻〕居之切　支

いかる。〔類篇〕𢀿、疾恚也。

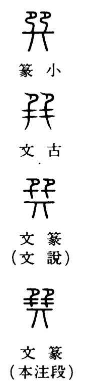
【巷】 8763　フウ　ブ　〔字彙〕房鳩切　尤

姓。〔字彙〕巷、姓也。

九畫

【𢀽】 8764　セイ　躋(10−37949)の古字。〔字彙補〕𢀽、古文躋字。

【巽】 8765　㊀ソン　〔集韻〕蘇困切　ㄙㄨㄣˋ suen^4　願　㊁サン　ゼン　〔五音集韻〕雛晥切　ㄒㄩㄣˋ hsün^4　潸　㊂セン　ゼン　〔集韻〕鶵免切　銑



㊀❶**易の卦の名**。㋑八卦の一。☴。風にあてる。容入の德を表す。〔易、序卦〕巽者入也。〔左氏、莊、三十二〕巽、風也。㋺六十四卦の一。䷸（巽下巽上）。謙退柔順の象。〔易、巽、象曰、隨風、巽。❷**たつみ**。方位では東南の位。〔易、說卦〕巽、東南也。❸**したがふ**。うやうやしい。つつしむ。愻(4−11023)に通ず。〔說文通訓定聲〕巽、叚借爲ㇾ愻。〔廣雅、釋詁一〕巽、順也。〔易、雜卦〕巽、伏也。〔論語、子罕〕巽與之言。〔集解〕馬融曰、巽、恭也。〔韓愈、答二田僕射一書〕位望益尊、謙巽滋甚。❹**ゆづる**。遜(11−39038)に通ず。〔字彙〕巽、與ㇾ遜同。〔書、堯典〕汝能庸ㇾ命巽二朕位一。〔釋文〕巽、音遜、馬云、讓也。❺**ちる**。ちらす。〔釋名、釋天〕巽、散也、物皆生布散也。❻**ふむ**。踐(10−37608)に通ず。〔說文通訓定聲〕巽、叚借爲ㇾ踐、書堯典、汝能庸ㇾ命巽二朕位一、史記正作ㇾ踐。❼**そなへる**。もと巺(4−8759)に作る。〔說文〕巺、具也、从ㇾ丌卯聲。〔段注〕巺、今作ㇾ巽。❽古は巺(4−8766)に作る。〔說文〕巺、巺、古文巺。❾篆文は巽(4−8767)に作る。〔說文〕巺、巽、篆文巺。❿**姓**。〔萬姓統譜〕巽、見二姓苑一。㊁**もつ**。〔五音集韻〕巽、持也。㊂**もつ**。撰(5−12753)に同じ。〔集韻〕撰、持也、或省。

名乘　ヨシ。ユク。

解字　會意。小篆は巺。卩と丌との合字。卩は節、物の具はつて節度ある意、丌は物を供へる臺。故に、本義は物の具はつてゐること。〔說文、巽、段注〕孔子說ㇾ易曰、巺入也、巺乃愻之假借字、愻、順也、順故善入、許云二具也一者、巺之本義也、巺、今作ㇾ巽、云云、按、二卩者、具意也。

【巽位】1（ソンヰ）　東南方。辰巳の方位。〔安井息軒、錦山神祠改建記〕卜二地於城北一、面二巽位一而立。

【巽維】2（ソンヰ）　東南の方。〔韻府引、郭璞、山海經贊〕地虧二巽維一、天缺二乾角一。

【巽隱】3（ソンイン）　明、程本立(8−25081‥289)の號。

【巽隱集】4（ソンインシフ）　書名。四卷。明、程本立撰。文詩共に典雅。〔四庫提要、集、別集類〕。

【巽羽】5（ソンウ）　鷄をいふ。易の巽卦を鷄とし、鷄は羽蟲の屬であるからいふ。〔班固、幽通賦〕巽羽化二乎宣宮一兮、彌二五辟一而成ㇾ災。〔注〕善曰、曹大家曰、易、巽卦爲ㇾ雞、雞、羽蟲之屬、故言ㇾ羽也。

【巽翁】6（ソンヲウ）　明、沈巽(6−17189‥272)の號。

【巽行】7（ソンカウ）　清、楊安辨(6−15112‥403)の字。

【巽亨】8（ソンカウ）　元、周巽(2−3441‥350)の字。

【巽巖】9（ソンガン）　宋、李燾(6−14459‥560)の號。

【巽溪】10（ソンケイ）　宋、陳敬叟(11−41698‥790)の號。

【巽言】11（ソンゲン）　やさしく人に逆はない言葉。婉辭。

巽與之言(32)を見よ。

【巽齋】12（ソンサイ） 字號。❶宋、危稹(2−2849··86)の號。❷木村孔恭の號。木村巽齋(6−14415··581)を見よ。

【巽齋先生】13（ソンサイセンセイ） 宋、歐陽守道(6−16185··125)の尊稱。

【巽齋文集】14（ソンサイブンシフ） 書名。二十七卷。宋、歐陽守道撰。文天祥の師で、一代の名士。文章も淳實。〔四庫提要、集、別集類〕。

【巽之】15（ソンシ） ❶南齊、朱選之(6−14424··882)の一名。❷字號。㋑宋、范育(9−30834··3)の字。㋺宋、林巽(6−14551··174)の字。㋩明、顏文選(12−43591··190)の字。

【巽志】16（ソンシ） 明、高遜志(12−45313··1262)の一名。

【巽二】17（ソンジ） 風の神。易の說卦の「巽爲レ風」に本づく。〔幽怪錄〕若令二滕六降レ雪、巽二起レ風、卽蕭使君不レ出矣。

【巽川】18（ソンセン） 明、祁順(8−24634··16)の號。

【巽泉】20（ソンセン） 字號。❶元、周巽(2−3441··350)の號。❷清、汪守和(6−17154··256)の字。

【巽倩】21（ソンセン） 明、馬權奇(12−44572··762)の字。

【巽中】22（ソンチユウ） 宋、善權(2−3904··115)の字。

【巽仲】23（ソンチユウ） 明、莫轅(9−31078··6)の字。

【巽通】24（タツミガヨヒ） 江戸時代、江戸深川の遊廓に通ふこと。場所が江戸城の東南にあつたからいふ。辰巳通。

【巽伯】25（ソンハク） 字號。❶宋、李處權(6−14459··1468)の字。❷宋、呂喬年(2−3386··195)の字。

【巽風】26（タツミカゼ） 東南の風。いなさ。辰巳は東南。辰巳風。

【巽甫】27（ソンポ） 宋、稅與權(8−25070··66)の字。

【巽峯】28（ソンポウ） 字號。❶元、錢選(11−40563··135)の號。❷明、尹襄(4−7631··45)の號。❸清、錢熙(崑山の人)(11−40563··42)の號。

【巽令】29（ソンレイ） 王者の詔令。易で巽は風。王者の詔令を風行の速なるに比していふ。〔宋史、樂志十〕佑二我皇家一、巽令風行。

【巽遜齋】30（タツミ ソンサイ） 京都の人。名は世大。字は耀文。號は遜齋・羅城。森田節齋・齋藤拙堂に師事。塾を開いて教授す。著に謝疊山文抄・遜齋文鈔・文文山文抄がある。文久三年歿す、年四十二。〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕。

【巽坡先生】31（ソンパセンセイ） 宋、鄧泳(11−39630··12)の號。

【巽與之言】32（ソンヨノゲン） 人にゆづりしたがふ言葉。やさしい口ぶり。巽は柔。與は和。婉辭。巽言。〔論語、子罕〕巽與之言、能無レ說乎、繹レ之爲レ貴。〔集解〕馬融曰、巽、恭也、謂、恭孫謹敬之言、聞レ之無二不レ說者一、能尋繹行レ之、乃爲レ貴。

【巺】8766

ソン 巽(4−8765)の古字。〔字彙〕巺、同レ巽。

十二畫

【巽】8767

ソン 巽(4−8765)の篆文。〔說文〕巺、巽、篆文巺。〔段注〕後人、隸字則从レ籒變レ之作レ巽。

十三畫

【⿰牛巴】8768

ハウ 義未詳。〔五音編海〕⿰牛巴、音邦。

十四畫

【⿰⿱巳曲⿱巛毛】8769

音義未詳 〔字彙補〕音義未詳、見二穆天子傳一。

十五畫

【⿱巳曲】8770

イン 寅(3−7204)の古字。〔集韻〕寅、古作レ⿱巳曲。

巾部

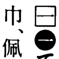
【巾】8771

[一]キン 〔集韻〕居銀切 眞

ㄐㄧㄣ chin¹

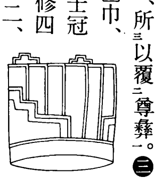
[二]キン コン 〔集韻〕居忻切 問

[三]キン 〔集韻〕姜愍切 軫



小篆

[一]❶てふき。てぬぐひ。〔說文〕巾、佩巾也、从レ冂、丨、象レ系也。〔儀禮、士冠禮〕沐巾一。〔注〕巾、所三以拭二汙垢一。〔禮、內則〕盥卒授レ巾。〔注〕巾、以帨レ手。❷ふきん。ぜんかけ。〔國語、周語中〕靜二其巾冪一。〔注〕巾冪、所三以覆二尊彝一。❸づきん。〔釋名、釋首飾〕巾、謹也、二十成人、士冠庶人巾、當三自謹二修四教一也。〔急就章、二〕巾、〔注〕巾者、一幅之巾、所二以裹レ頭也。〔風俗通、愆禮〕巾、所二以飾レ首。〔後漢書、郭泰傳〕巾一角墊。〔注〕周遷輿服雜事曰、巾、以レ葛爲レ之、形如レ幍。〔顏延之、秋胡詩〕脫二巾千里外一。〔注〕善曰、巾、處士所レ服。〔孔稚珪、北山移文〕濫二巾北岳一。〔注〕向曰、巾、隱者之飾。❹えりかけ。ひれ。〔方言、四〕帍裱謂二之被巾一。〔注〕婦人領巾也。❺ひざかけ。〔方言、四〕蔽厀、魏宋南楚之閒、謂二之大巾一。〔廣雅、釋器〕大巾、蔽厀也。❻たび。〔急就章、二、巾、注〕巾、一曰二裹レ足之巾一、若二今人裹レ足布一也。❼きれ。きれ地。布帛の斷片。〔北齊書、皇甫玉傳〕以二帛巾一袜二其眼一。❽おりもの。ぬの。〔唐書、地理志〕紅紫綿巾。❾功布。柩を導く時、竿に懸けた三尺のきれ。〔儀禮、士喪禮〕巾待二於阼階下一。〔注〕巾、功布也。❿書物ををさめる箱。巾箱。〔顏延之、皇太子釋奠會作詩〕巾卷充レ街。〔注〕善曰、巾、巾箱也、所二以盛レ書。〔謝莊、宋孝武宣貴妃誄〕巾見二餘軸一。〔注〕善曰、巾、巾箱也。⓫おほふ。きせる。かむせる。〔華嚴經音義、下〕巾、以レ衣被レ車、謂二之巾一。〔周禮、春官、巾車〕巾車。〔注〕巾、猶レ衣也。〔疏〕謂三金玉革衣飾二其車一、故訓二巾猶レ衣也。⓬或は衻(10−34098)に作る。〔集韻〕巾、或从レ衣。[二]おほふ。[一]の⓫に同じ。〔集韻〕巾、衣也。[三]飾る。〔集韻〕巾、飾也。[邦]❶はば。幅の畧字に用ひる。❷ちきり。古の婦人の冠巾。〔日本書紀、孝德紀〕吏者垂二赤巾於前一。



巾雲❸
（三才圖會）

[解字] 象形。本義は物をふくふきん。冂は一幅のきれを表はし、丨は帶に佩びて垂れてあるを示す。轉じて、ひろく布帛の類、覆ひ・かぶりものの意となる。〔說文、巾、段注〕帶下云、佩必有レ巾、佩巾、禮之紛帨也、云云、按、以レ巾拭レ物曰レ巾、云云、巾可レ覆レ物、故从レ冖、周禮冪人注、以レ巾覆レ物曰レ冪、有レ系而後佩二於帶一。

【巾衣】1（キンイ） 頭巾を被り上衣をつける。服装を整齊すること。〔晉書、慕容廆載記〕廆致二敬於東夷府一、巾衣詣レ門、抗二士大夫之禮一。〔魏書、劉昞傳〕以二文學一見レ擧、每巾衣而入。

【巾下】2（キンカ） 頭巾の下。頭をいふ。〔皮日休、西塞山泊二漁家一詩〕白綸巾下髮如レ絲、靜倚二楓根一坐二釣磯一。〔皮日休、寄二題鏡巖周尊師所レ居詩〕八十餘年住二鏡巖一、鹿皮巾下雪彭彭。

【巾駕】3（キンガ） ぬのを張りめぐらした車。〔桓玄、詩〕我之懷矣、巾駕飛レ輪。

【巾香】4（キンカウ） 手ぬぐひについたにほひ。〔南唐近

事〕蠟涙尙新、巾香猶鬱。

【巾角】5（キンカク）　處士・隱者のづきん。角巾。〔晉書、戴逵傳〕是猶㆘美㆓西施㆒而學㆓其顰眉㆒、慕㆓有道㆒而折㆗其巾角㆖、所㆓以爲㆑慕者、非㆔其所㆓以爲㆑美。

【巾客】6（キンカク）　美しいぬひとりのあるまり。〔三柳軒雜識〕玉繡毬爲㆓巾客㆒。

【巾額】7（キンガク）　かぶりもののひたひ。〔夢溪筆談、器用〕濟州金鄕縣、發㆓一古冢㆒、乃漢大司徒朱鮪墓、石壁皆刻㆓人物㆒、祭器樂架之類、人之衣冠多㆑品、有㆘如㆓今之幞頭㆒者㆖、巾額皆方、悉如㆓今制㆒、俱無㆑腳耳。

【巾褐】8（キンカツ）　頭巾と褐。褐は賤者の服。轉じて、處士。庶民をいふ。〔吳志、薛翊傳〕釋㆓放巾褐㆒、受㆑職剖㆑符。〔吳志、諸葛瑾傳、注〕吳書曰、融字叔長、性寬容、多㆓技藝㆒、數以㆓巾褐㆒奉㆓朝請㆒。〔北史、薛辯傳〕及㆔桓溫入㆓關中㆒、猛以㆓巾褐㆒謁㆑之。〔唐書、顏師古傳〕闔㆑門謝㆓賓客㆒、巾褐裠帔、放情蕭散、爲㆓林墟之適㆒。

【巾机】9（キンキ）　黃帝の作った銘。又、巾几に作る。〔陸倕、新漏刻銘〕勳倍㆓楹席㆒、事百㆓巾机㆒。〔注〕善曰、蔡邕銘論曰、黃帝有㆓巾机之法㆒、孔甲有㆓盤盂之戒言㆒也。

【巾笈】10（キンキフ）　きれを張って作った書籍箱。きぬ張りのおひ。巾笥。巾箱。〔武帝內傳〕帝又見㆓王母巾笈中有㆓一卷書㆒、盛以㆓紫錦之囊㆒。

【巾屨】11（キンク）　❶頭巾とくつ。〔杜甫、題㆓李尊師松樹障子㆒歌〕松下丈人巾屨同、偶坐似㆓是商山翁㆒。〔柳宗元、贈㆓江華長老㆒詩〕室空無㆓侍者㆒、巾屨唯挂㆑壁。〔郡閣雅言〕有㆓一客㆒、巾屨不㆑完、衣破肘見。❷僧の身をいふ。〔溫庭筠、贈㆓越僧岳雲㆒詩〕世機消已盡、巾屨亦飄然。

【巾裹】12（キンクワ）　❶巾帛で製したかぶりもの。づきん。〔唐書、裴諗傳〕帝顧㆓宮人㆒、取㆓巾裹㆒賜㆑之。〔南唐近事〕玄宗夏日御㆓小殿㆒、欲㆔道服見㆓諸學士㆒、必先遣㆓中使㆒、數使㆓宣諭㆒、或訴㆓其小苦㆒、巾裹不㆑及㆓冠褐㆒可乎。❷冠禮に頭に加へる頭巾。又、冠帶をいふ。〔聞見近錄〕前人每㆓子弟及㆑冠、必置㆓盛饌㆒、會㆓鄕黨之德齒㆒、使㆓將㆑冠者行㆒㆑酒、其巾裹如㆓唐人之草裹㆒、但繫㆓其腳於巾㆒者、酒行、父兄起而告㆑客曰、某之子弟僅㆓于成人㆒、敢有㆑請、將㆑冠者再拜、右席者乃焚㆑香善祝解㆓其繫㆒而伸㆑之、冠者再拜謝而出、自㆑是齒㆓于成人㆒、冠服遂同㆓長者㆒、故謂㆓之巾裹㆒、亦古之冠禮也、今冠帶尙謂㆓之巾裹㆒、其由㆑是矣。

【巾襘】13（キンクワイ）　きれのむすびめ。又、ゑりあひ。〔晁補之、遊㆓信州南巖㆒詩〕夔魈入㆓奧突㆒、雲南出㆓巾襘㆒。

【巾幗】14（キンクワク）　婦人の頭の飾り。髮を覆ふもの。一說に、婦人の喪冠。巾幗之贈を見よ。〔說文〕幗、婦人首飾。〔廣韻〕幗、婦人喪冠。〔元稹、酬㆓樂天東南行㆒詩〕椎髻拋㆓巾幗㆒、鑱刀代㆓轆轤㆒。

【巾幗之贈】15（キンクワクノゾウ）　巾幗の贈物。丈夫の志無きを辱める喩。〔魏志、明帝紀、注〕魏氏春秋曰、諸葛亮既屢遣㆑使交㆑書、又致㆓巾幗婦人之飾㆒、以怒㆓宣王㆒、宣王將㆓出戰㆒、辛毗仗㆑節奉㆑詔、勒㆓宣王及軍吏已下㆒乃止。〔晉書、宣帝紀〕諸葛亮帥㆓衆十餘萬㆒、壘㆓于郿之渭水南原㆒、亮數挑㆑戰、帝不㆑出、因遺㆓帝巾幗婦人之飾㆒。〔南史、臨川靖惠王傳〕魏人知㆓其不武㆒、遺以㆓巾幗㆒。

【巾幗者流】16（キンクワクシャリウ）　婦人の仲間をいふ。巾幗を見よ。

【巾幗婦人之服】17（キンクワクフジンノフク）　婦人のつける髮飾りと婦人の衣服。〔十八史略、三國蜀後皇帝〕亮數挑㆓懿戰㆒、懿不㆑出、乃遺以㆓巾幗婦人之服㆒。

【巾卷】18（キンクワン）　巾箱と書卷。箱に入れた書籍。〔顏延之、皇太子釋奠會作詩〕纓笏帀㆑序、巾卷充㆑街。〔注〕善曰、巾、巾箱也、所㆓以盛㆑書。

【巾冠】19（キンクワン）　冠禮に被る冠。又、成人となること。〔南齊書、王儉傳〕盛年已老、孫孺巾冠、人物徂遷、逝者將㆑半。

【巾盥】20（キンクワン）　手拭とたらひ。侍女の役目をいふ。〔唐書、吉頊傳〕父哲爲㆓易州刺史㆒、坐㆑賕當㆑死、頊往見㆓武承嗣㆒自陳、有㆓二女弟㆒、請侍㆓王巾盥㆒者、承嗣喜以㆓犢車㆒迎㆑之。

【巾環】21（キンクワン）　頭巾の飾につける環玉。〔宋史、輿服志六〕碾玉巾環一、樺皮龍飾角弓一。

【巾篋】22（キンケフ）　布帛を入れるはこ。〔沈遼、德相送㆓荊公㆒三詩用㆓元韻㆒戲爲㆑之詩〕辱枉㆓淵明贈㆒、今猶祕㆓巾篋㆒。

【巾構】23（キンコウ）　巾幘と單衣。江南人の盛服。朝服に次ぐもの。巾𢄼。巾韝。〔吳志、呂岱傳〕始岱親近吳都徐原、慷慨有㆓才志㆒、岱知㆑可㆓其成㆒、賜㆓巾構㆒、與共言論、後遂薦拔。〔王融、議㆑給㆓虜書㆒疏〕中原士庶、雖㆓淪懾殊㆑俗、至㆓於婚葬之晨㆒、猶巾構爲㆑禮。〔南史、毛修之傳〕修之笑曰、吾昔在㆓南殿㆒、尙幼小、我歸㆑罪之日、便當㆓巾構到㆑門。〔資治通鑑、宋紀〕（文帝、元嘉十五年）令㆘次宗以㆓巾構㆒侍講㆖。〔注〕江南人士交際、以爲㆓盛服㆒、蓋次㆓於朝服㆒、毛脩之不㆔肯以㆓巾構㆒到㆓殷景仁之門㆒是也、蜀注曰、巾、謂㆓巾幘㆒、構、謂㆓單衣㆒。

【巾笏】24（キンコツ）　頭巾と笏。〔白居易、北亭詩〕日高公府歸、巾笏隨㆑手擲。

【巾箱】25（キンサウ）　坐側に置いて書籍を入れる小さい箱。布を張って作る。手文庫。巾笈。巾笥。〔南齊書、陸澄傳〕儉在㆓尙書省㆒、出㆓巾箱机案雜服飾令㆒。〔南史、范雲傳〕酒酣、巾箱中取㆓剪刀㆒與㆑雲。〔元稹、表夏詩〕僮兒拂㆓巾箱㆒、鵶軋深㆓林井㆒。〔高道傳〕張果嘗乘㆓一白驢㆒、日行數萬里、夜卽疊㆑之、其厚如㆑紙、置㆓巾箱㆒、以㆑水噀㆑之、復成㆑驢也。

【巾箱本】26（キンサウボン）　細書の小本。又、小さい刻本。袖珍本。南齊の衡陽王鈞が五經を細書して巾箱中に置いたのに始まるといふ。又、南宋の書肆が始めて小型の刊刻本を巾箱本と稱した。これは當時、科擧が盛で、士人の携帶懷袖に便にするため縮印されたもので、淸の光緖末年、石印の印刷法が行はるるに及んで中止された。巾箱五經を見よ。〔鼠璞〕今之刊印小冊謂㆓巾箱本㆒、起㆘于南齊衡陽王手㆓寫五經㆒置㆗巾箱中㆖、古未㆑有㆓刊本㆒、雖㆓親王㆒亦手自抄錄、今巾箱刊本無㆑所㆑不㆑備、嘉定間、從學官楊璘之奏、禁毀㆓小板㆒、近又盛行、第挾書非㆑備㆓巾箱之藏㆒也。〔事物紀原、經籍藝文部、巾箱〕南史、齊衡陽王鈞傳、鈞嘗親手細㆓書五經部㆒、爲㆓一卷㆒、置㆓巾箱中㆒、以備㆓遺忘㆒、侍讀賀玠曰、殿下家有㆓墳素㆒、復何細書別藏㆓巾箱㆒、鈞曰、巾箱中檢閱既易、且更手寫、則永不㆑忘矣、諸王聞㆑之、爭効爲㆓巾箱㆒、今謂㆓籍之細書小本者㆒、爲㆓巾箱㆒、始㆓於此㆒也。〔書林淸話、巾箱本之始〕巾箱本之名、不㆑始㆘於有㆓刻本㆒時㆖也、晉葛洪集、西京雜記㆓一卷、序云、云云、此二卷在㆓巾箱中㆒、嘗以自隨、故得㆓猶在㆒、南史衡陽王鈞、手自細書寫㆓五經部㆒、爲㆓一卷㆒、置㆓於巾箱中㆒、以備㆓遺忘㆒、諸王聞而爭效爲㆓巾箱五經㆒、此蓋小袠便㆓於隨行㆒之本、南宋書坊、始以㆓刻本之小者㆒、爲㆓巾箱本㆒。

【巾箱五經】27（キンサウゴキヤウ）　小冊に細書した五經。南齊の衡陽王鈞が五經を細書して巾箱中に置いた故事。〔南史、齊宗室、衡陽元王鈞傳〕鈞常手自細書、寫㆓五經部㆒、爲㆓一卷㆒、置㆓于巾箱中㆒、以備㆓遺忘㆒、侍讀賀玠問曰、殿下家自有㆓墳素㆒、復何須㆔蠅頭細書、別藏㆓巾箱中㆒、答曰、巾箱中有㆓五經㆒、於㆓檢閱㆒既易、且一經手寫、則永不㆑忘、諸王聞而爭效、爲㆓巾箱五經㆒、巾箱五經自㆑此始也。

【巾箱之寵】28（キンサウノチョウ）　常に傍に置いて離し得ないものをいふ。〔釵小志〕巾箱之寵、記曰、豈惟炊爨之勞、抑亦巾箱之寵。

【巾幘】29（キンサク）　づきん。かしらづつみ。冠の類。〔北史、隋煬帝紀〕武官平巾幘袴褶。〔宋史、魏野傳〕野不㆑喜㆓巾幘㆒、無㆓貴賤㆒、皆紗帽白衣以見。〔宣和遺事、後集〕見㆘人胡服無㆓巾幘㆒、立㆓庭砌㆒、若㆑有㆑所㆑伺者㆖。〔輟耕錄、巾幘考〕巾幘、釋名、巾、謹也、當㆔自謹㆓於四教㆒、儀禮二十成人、士冠、庶人巾、說文、髮有㆑巾曰㆑幘、幘卽巾也。

【巾箑】30（キンサフ）　絹製の扇。〔潘岳、寡婦賦〕命㆓阿保㆒而就㆑列兮、覽㆓巾箑㆒以舒㆑悲。〔注〕善曰、箑、扇也。〔陳樵、八咏樓賦〕偃㆓蘼無㆒動㆓巾箑㆒、微雲解㆓金波㆒發。

【巾衫】31（キンサン）　頭巾と衣服。〔宋史、禮志二十五〕尋常士大夫丁憂過㆓百日㆒、巾衫皆用㆓細布㆒、出而見㆑客、則以㆓黲布㆒。

【巾子】32（キンシ）　❶頭髮を裹む具。幞頭の頂に突出して髻を插むもの。こじ。〔唐書、車服志〕武后擅㆑政、多賜㆓羣臣巾子繡袍㆒、勒以㆓回文之銘㆒。〔通典、禮典、巾子〕大唐武德初、始用㆑之、初尙㆓平頭小樣者㆒、天授二年、武太后內宴賜㆓羣臣高頭巾子㆒、呼爲㆓武家諸王樣㆒、景龍四年三月、中宗內宴賜㆓宰臣已下內樣巾子㆒。〔朝野僉載〕魏王爲㆓巾子向㆑前踣㆒、天下欣欣慕㆑之、名爲㆓魏王踣㆒、後坐死、至㆓孝和時㆒、陸頌亦爲㆓巾子㆒、同㆓此樣㆒、時人又名爲㆓陸頌踣㆒、未㆓一年㆒而陸頌殞。〔宋史、輿服志

五）幞頭巾子自レ今高不レ過二一寸五分一、婦人假髻並宜二禁斷一、仍不レ得レ作二高髻及高冠一。〔幕府燕閒錄〕古之幞頭、自レ隋以前、只是皀絹幕二其首一、唐馬周始制二四脚一、繫二於上一二脚垂二于後一、又加二巾子一、制度不レ一、武后時賜二臣下巾子一、謂二之武家樣一、又有二高頭巾子一、明皇賜二臣下內樣巾子一、又裴寬嘗自制二巾子僕射巾一。〔和名抄、裝束、冠帽具〕辨色立成云、巾子、幞頭具、所二以插一レ髻者也。〔箋注〕按、隋唐嘉話、舊人皆服二衮巾一、至二周武一始爲二四脚一、國初又加二巾子一焉、巾子又出二封氏聞見記唐會要中華古今注一、舊唐書輿服志云、武德以來、始有二巾子一、文官名流上平頭小樣者、則天、帳貴臣內賜二高頭巾子一、呼爲二武家諸王樣一、中宗景龍四年三月、因二內宴一賜二宰臣以下內樣巾子一、開元以來、文官士伍、多以二紫皀官絁一爲二頭巾平頭巾子一、相效爲二雅製一、玄宗開元十九年十月、賜二供奉官及諸司長官羅頭巾及官樣巾子一、迄レ今服レ之也、今世所謂放巾子蓋是。㊁山名。㋑浙江省鎭海縣の東北。山形卓立して巾幘の如く、招寶山と相控峙し、潮水出入の障を爲す。宋、德祐二年、張世傑、元の都統卞彪の舌を斷ち、之を巾子山下に磔す。明、嘉靖中、山巓に越國公祠を建てて、世傑を祀る。〔明一統志〕巾子山在二定縣東五里一、與二招寶山一對峙、爲二潮水之障蔽一。㋺浙江省青田縣の南。卓立すること巾のごとく、青田・瑞安二縣の界に盤繞し、縣に於いて第一高峯を爲す。㋩陝西省略陽縣の南。〔太平寰宇記〕去レ縣三里、山半有レ洞、名二珠沙洞一。

【巾子形】33コジガタ　兩門柱の中央の地上に置く、外側高く內側の低い石など。低い處に扉を承け、高い處で止めるもの。其の形、冠の巾子に似てゐるからいふ。〔和名抄、居處部、門戶具、橛、唐韻云、橛、所二以止一レ扇也、爾雅云、橛謂二之闑一、〔箋注〕俗云二巾子形一。

【巾子紙】33′コジガミ　冠の纓を前方に二重に折りかへして、巾子に挾めとめる紙。〔禁祕抄、中、御裝束〕巾子紙、以二檀紙一用レ之。

【巾笥】34キンシ　きぬばりの小ばこ。手文庫。巾箱。〔莊子、秋水〕吾聞、楚有二神龜一、死已三千歲矣、王巾笥而藏二之廟堂之上一。〔釋文〕李云、藏レ之以レ笥、覆レ之以レ巾。〔續竹譜〕方竹生二嶺外一、大者如二巾笥一、小者如二界方一。〔柳宗元、龜背戲詩〕廟堂巾笥非二余慕一、錢刀兒女徒紛紛。

【巾屣】35キンシ　頭巾とくつ。朝臣をさしていふ。〔沈約、爲二六宮拜一章〕奉二日月之華一、侍二巾屣之末一。

【巾帚】36キンシウ　手拭とはうき。〔宋史、列女、詹氏女傳〕頃之、賊至欲レ殺二其父兄一、女趨而前拜曰、妾雖二窶陋一、願執二巾帚一以事二將軍一、贖二父兄命一。

【巾袖】37キンシウ　頭巾とそで。〔元好問、飲酒詩〕三更風露下、巾袖瞥二微濕一。

【巾櫛】38キンシツ　盥沐の具。手拭とくし。〔禮、曲禮上〕男女不二雜坐一、不レ同二椸枷一、不レ同二巾櫛一。〔莊子、寓言〕至レ舍進二盥漱巾櫛一。〔列子、黃帝〕至レ舍進二涫漱巾櫛一。〔列女傳、母儀、衞姑定姜傳〕余以二巾櫛一事二先君一。

【侍二巾櫛一】39キンシツニジス　妻、又は妾となることの謙語。〔晉書、列女、劉聰妻劉氏傳〕後人之觀レ妾、亦猶三妾之視二前人一也、復何面目、仰侍二巾櫛一。

【執二巾櫛一】40キンシツヲトル　妻、又は妾となることの謙語。〔左氏、僖、二十二〕寡君之使三婢子侍執二巾櫛一、以固レ子也。〔韓詩外傳、二〕妾得下於レ王尚湯沐執二巾櫛一振中衽席上、十有一年矣。〔後漢書、列女、鮑宣妻傳〕妻曰、大人以二先生修一レ德守レ約、故使三賤妾侍執二巾櫛一。〔書言故事、婚姻類〕答定親用、女子執二巾櫛一。

【巾櫛之侍】41キンシツノジ　妻妾をいふ。〔唐書、陸贄傳〕葺二宮室一、治二服玩一、耳目之娛、巾櫛之侍、是皆宜レ後、不レ可レ先也。

【巾車】42キンシヤ　㊀車に裝飾を施すこと。又、布帛でおほひ飾つた車。〔周禮、春官、序官、巾車、注〕巾猶レ衣也。〔疏〕巾猶レ衣也者、謂三玉金象革等以衣二飾其車一。〔孔叢子、記問〕巾車命レ駕、將レ適二唐都一。〔陶潛、歸去來辭〕或命二巾車一、或棹二孤舟一。〔注〕善曰、孔叢子、孔子歌曰、巾車命レ駕、將レ適二唐都一、鄭玄周禮注曰、巾猶レ衣也、濟曰、巾、飾也、言三裝二飾其車一。〔陸雲、豫章內史夏府君誄〕巾車既脂、駕言將レ逝。〔儲光羲、游二茅山一詩〕巾車雲路入、理棹瑤溪行。㊁周代の官の名。春官の屬。車官の長。公車の政令を掌る。〔周禮、春官、巾車〕掌二公車之政令一、辨三其用與二其旗物一、而等二敘之一、以治二其出入一。〔左氏、襄、三十一〕巾車脂レ轄。〔注〕巾車、主レ車之官。

【巾車鄕】43キンシヤキヤウ　地名。河南省寶豐縣の東南。今の留村。巾車之恩を見よ。

【巾車之恩】44キンシヤノオン　後漢の馮異が光武帝に巾車といふ所で許された恩。巾車は地名。〔後漢書、馮異傳〕光武略二地潁川一、攻二父城一不レ下、屯二兵巾車鄕一、異閒出行二屬縣一、爲二漢兵所一レ執、時異從兄孝及同郡丁綝呂晏、並從二光武一、因共薦レ異得二召見一、云云、臣今亦願國家無レ忘二河北之難一、小臣不三敢忘二巾車之恩一。

【巾裳】45キンシヤウ　頭巾と衣裳。〔白居易、新秋喜レ涼詩〕枕簟忽凄清、巾裳亦輕健。

【巾飾】46キンシヨク　かぶりものの飾。〔宋史、方臘傳〕置二官吏將帥一、以二巾飾一爲レ別。

【巾帨】47キンゼイ　手拭をいふ。〔訓學齋規〕凡盥レ面必以二巾帨一遮二護衣領一、捲二束兩袖一、勿レ令レ有レ所レ濕。〔劉迎、詩〕大婦奉二巾帨一、中婦供二庖廚一。

【巾石】48キンセキ　明、呂懷（**2**－**3386**‥47）の號。

【巾舃】49キンセキ　頭巾と二枚底のくつ。身邊をいふ。〔常建、夢二太白西峰一詩〕簷楹覆二餘翠一、巾舃生二片雲一。〔金賁、方竹軒賦〕明月入レ戶、凉在二巾舃一。

【巾洗】50キンセン　手拭と盥。〔宋史、禮志十八〕其日初昏、掌レ事者設二巾洗各二于東階東南一。

【巾箋】51キンセン　きぬのふだ。〔北里志〕使下人詢訊以二巾箋一送遺上。

【巾襜】52キンセン　ひざかけ。まへだれ。〔蘇轍、和三子瞻宿二臨安淨土寺一詩〕塵埃就二湯沐一、垢膩脫二巾襜一。

【巾帶】53キンタイ　衣と帶。衣冠。〔古詩十九首〕馳レ情整二巾帶一、沈吟聊躑躅。〔唐書、車服志〕至二唐高祖一、以二赭黃袍巾帶一爲二常服一。

【巾杖】54キンヂヤウ　頭巾と杖。〔白居易、首夏同二諸校正一遊二開元觀一因宿翫レ月詩〕到レ門車馬迴、入レ院巾杖隨。

【巾著】55キンチヤク　金錢を容れる袋。錢入。〔大藏流狂言、花子〕守袋や巾著を縫うておいた。

【巾著切】56キンチヤクキリ　人の懷中物などを竊取する盜人。すり。〔柳筥、四〕可笑しさは遣手巾著切に遇ひ。

【巾帽】57キンバウ　づきん。冠帽。〔南史、梁武帝諸子、豫章王綜傳〕常陰服微行、著二烏絲巾帽一、夜出無レ有二期度一。〔蘇軾、江上値レ雪云云詩〕高人著レ屐蹈二冷冽一、飄拂二巾帽一眞仙姿。

【巾帓】58キンバツ　頭巾。〔韓愈・孟郊、征蜀聯句〕盃盂酬二酒醪一、箱篋饋二巾帓一。

【巾帔】59キンピ　頭巾とそでなし。〔北史、趙芬傳〕皇太子又致二巾帔一。〔北史、李幼廉傳〕嘗著二巾帔一、終日對レ酒、招二致賓客一、風調詳雅。

【巾舞】60キンブ　雜舞の名。もと公莫舞といひ、晉宋の閒に至り、巾舞といふ。項伯が衣袖を以て高祖を項莊から守つた遺式に像つたものとの說があるが、琴操に公莫渡河曲があるから、其の從來する所久しく、前說は誤とすべきであらう。〔晉書、樂志下〕公莫舞今之巾舞也、相傳云、項莊劍舞、項伯以レ袖隔レ之、使レ不レ得レ害二漢高祖一、且語二項莊一云、公莫、古人相呼曰レ公、言二公莫レ害二漢王一也、今之用レ巾、蓋像二項伯衣袖之遺式一、然按、琴操有二公莫渡河曲一、然則其聲所二從來一已久、俗云二項伯一非也。〔舊唐書、音樂志二〕漢高祖與二項籍一會二鴻門一、項莊舞レ劍、將レ殺二高祖一、項伯亦舞、以レ袖隔レ之、且云、公莫レ害二沛公一也、漢人德レ之、故舞用レ巾、以象二項伯衣袖之遺式一也。

【巾服】61キンプク　通常服をいふ。巾は頭巾。〔長生殿、偸曲〕小生巾服、扮李謩上。

【巾拂】62キンフツ　巾と拂。巾舞・拂舞に、それぞれ舞人の執つて舞ふ所のもの。〔宋書、樂志四〕王命治レ兵、有レ征無レ戰、巾拂以淨、醜類革レ面。〔鮑照、舞鶴賦〕巾拂兩停、丸劍雙止。〔注〕善曰、沈約宋書曰、晉初有二公莫舞一、今之巾舞也、相傳云、項莊劍舞、項伯以レ袖隔レ之、用レ巾、蓋像二項伯衣袖之遺式一、又江左初有二拂舞一、舊云、拂舞、吳舞、良曰、巾拂、舞人所レ執者。〔顏延之、七繹〕雜紛披二於巾拂一、遞閒關二乎槃扇一。

【巾冪】63キンベキ　巾を以て物を覆ふこと。又、酒壺の上にかける布切。〔周禮、天官、冪人〕嘗レ共二巾冪一、祭祀以二疏布・巾冪・八尊一。〔注〕共レ巾、可二以覆一レ物。〔國語、周語中〕出二其尊彝一、陳二其鼎俎一、靜二其巾冪一。〔注〕巾冪、所三以覆二尊彝一。

【巾韈】64（キンベツ）　布帛で作つたたび。〔兼明書〕今文姬、蓋徒跣、非㆓徒行㆒也、故下文云、曹公與㆓之巾韈㆒。

【巾門】65（キンモン）　布帛の類で造つた門。〔後漢書、禮儀志下〕以㆑木爲㆑重、高九尺、廣容㆓八歷㆒、裹以㆓葦席㆒、巾門喪帳皆以㆓簟車㆒、皆去㆓輔轓㆒。

【巾履】66（キンリ）　布帛の類で造つたくつ。〔魏志、荀彧傳、注〕衡著㆓布單衣疏巾履㆒、坐㆓太祖營門外㆒、以㆑杖捶㆑地、數罵㆓太祖㆒。〔文心雕龍、銘箴〕至㆓於王朗雜箴㆒、乃寘㆓巾履㆒、得㆓其戒愼㆒、而失㆓其所㆑施。〔齊己、遠山詩〕終須㆘拂㆓巾履㆒、獨去謝㆗塵埃㆖。

【巾淚】67（キンルイ）　手拭を沾す淚。〔白居易、寒閨夜詩〕籠香銷盡㆑火、巾淚滴成㆑冰。

【鑿㆑巾】68（キンヲウガツ）　尸の面を巾で覆ひ、口に當る所をうがつこと。〔禮、雜記〕鑿㆑巾以飯。〔疏〕設㆑巾覆㆓尸面㆒、而當㆑口鑿㆓穿之㆒、令㆓含得㆑入㆑口也。

【巾口市】69（キンコウシ）　地名。江西省武寧縣の東、巾口水の東岸。

【巾口水】70（キンコウスイ）　川の名。二源あり。一は新開嶺から出て西南流し、一は伊山に出て東南流す。遼東山に至つて合し、脩水に注ぐ。

【巾字旁】71　chin¹ tzŭ⁴ p'ang²　漢字母の一種。巾偏。大巾旁。

【巾而篩】72（キンシテシス）　手拭で頰被りして粉をふるふ。〔中井履軒、鬻㆓蕎麵㆒者傳〕袒而磨者、巾而篩者。

【飾㆑巾待㆑期】73（キンヲカザリテキヲマツ）　服装を整へて時期の來るを待つ。〔蔡邕、陳太丘碑文〕先生曰、絕望已久、飾㆑巾待㆑期而已。

【擲㆑巾爲㆑橋】74（キンヲナゲウツテハシトナス）　唐の崔生なるものが、仙女を妻として隱形符を得、宮中に潛入したところ、術士に發見され、捕はれんとするや、妻、領巾を擲つて橋を造り、之に因つて逃れるを得た。〔唐逸史〕有㆓崔生者㆒、入㆑山遇㆓仙女㆒爲㆑妻、久㆑之還㆑家、得㆓隱形符㆒、乃潛㆓宮禁中㆒、爲㆓術士所㆑知、追捕甚急、生逃還㆓山中㆒、追者在㆑後、隔㆑澗見㆓其妻㆒告㆑之、妻擲㆓其領巾㆒、成㆓五色虹橋㆒、生過卽滅、追不㆑及矣。

一畫

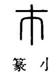
【巿】8772

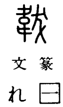
㈠フツ　フチ〔集韻〕分物切　勿

㈡ハツ　ハチ〔集韻〕普活切　曷

㈢ハイ〔集韻〕博蓋切　泰

㈣ヒ〔集韻〕方未切　未


小篆


篆文

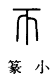
㈠❶ひざかけ。まへだれ。韍（12－43121）・紱（8－27345）に同じ。〔說文〕巿、韠也、上古衣蔽㆑前而已、巿㠯象㆑之、天子朱巿、諸侯赤巿、卿大夫蔥衡、从㆑巾、象㆓連帶之形㆒、韍、篆文巿、从㆑韋从㆑犮、俗作㆑紱。❷或は韠（12－43123）に作る。〔集韻〕巿、或从㆓韋犮㆒、亦从㆑弗。❸芾（9－30748）に通ず。〔正字通〕巿、借㆓用芾㆒、詩曹風、三百赤芾、注、冕服之韠也。㈡㈢㈣草木のさかんなさま。朮（6－14418）に同じ。〔集韻〕巿、艸木盛皃、或从㆑艸。〔正字通〕巿、舊注又音潑、盛貌、說文、草木巿巿然、象形、按、說文朮。

解字　會意。一と巾との合字。巾は布帛の意、一は帶。本義は前にたれる膝かけ。市字と異なる。篆文は韋と犮との合字、韋で作つた膝かけの意。犮は音符。

參考　市（4－8775）は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕巿、音費、蔽芾、芾字从㆑此。市、市井。

【帀】8773

サフ　〔集韻〕作荅切　ㄗㄚ　tsa¹　合


小篆

❶めぐる。めぐらす。めぐり。〔說文〕帀、匊也、从㆓反㞢㆒而帀也。〔徐鍇注〕日、一日行㆓一度㆒、一歲往返而周帀也。〔段注〕反㞢、謂㆑倒㆑之也、凡物順逆往復、則周偏矣。❷あまねし。〔廣雅、釋詁二〕帀、偏也。❸そろひ。〔周禮、春官、典瑞〕五采五就、注、一帀爲㆓一就㆒。❹俗に匝（2－2599）に作る。〔韻會〕帀、增韻、俗作㆑匝。❺迊（11－38735）に通ず。〔禮、檀弓上、署皆周、注〕周、帀也。〔釋文〕帀、本又作㆑迊。

解字　指事。㞢（之）字をさかしまにして、その反對の義を示す。之はゆく、帀はかへる。往きてかへる意から、めぐる・めぐらすの意となる。又、迊に作り、俗に匝に作る。〔說文通訓定聲〕帀、周也、从㆓反㞢㆒而帀也、周盛說、按、匊也、謂㆑从㆓倒之㆒、指事、字亦作㆑迊、俗誤作㆑匝。

【帀筵】1（サフエン）　席にあまねし。滿坐。〔顏延之、三月三日曲水詩序〕帀㆑筵稟㆑和、闔㆑堂依㆑德。〔注〕良曰、筵、席也。

【帀洽】2（サフカフ）　あまねくうるほふ。〔揚雄、劇秦美新〕京師沈潛、甸內帀洽。〔注〕良曰、帀洽、謂㆑被㆑霑㆑風也。

【帀旬】3（サフジュン）　十日間。一旬。十日ひとまはりの義。〔柳宗元、鈷鉧潭西小丘記〕不㆓帀旬㆒而得㆓異地㆒者二。

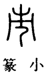
【币】8774

イン　印（2－2848）に同じ。〔龍龕手鑑〕币、同㆑印。

二畫

【市】8775

シ　ジ　〔集韻〕士止切　ㄕˋ　shih⁴　紙


小篆

❶いち。㋑人の集つて物品の交易をするところ。〔說文〕市、賣買所㆑之也、市有㆑垣从㆑冂、从㆑乁、乁、古文及字、㞢省聲。〔周禮、地官、司市、注〕市、雜聚之處。〔呂覽、仲夏〕關市無㆑索。〔注〕市、人聚也。〔漢書、貨殖傳序〕商相與語㆓財利於テ市井㆒。〔注〕師古曰、凡言㆓市井㆒者、市、交易之處。㋺ものの多く集ること。〔埤雅、釋蟲、蚊〕俗云、蚊有㆓昏市㆒、蓋蠅成㆓市於テ朝㆒、蚊成㆓市於テ暮㆒。㋩あきなひ。とりひき。〔爾雅、釋言、貿市也、疏〕謂㆔市買㆓賣物㆒也。〔易、繫辭下〕日中爲㆑市、致㆓天下之民㆒、聚㆓天下之貨㆒。〔國語、齊語〕市立㆓三鄕㆒。〔注〕市、商也。〔管子、乘馬〕市者貨之準也。㋥さらしば。しおきば。〔周禮、地官、司市〕國君過㆑市。〔注〕市者、人之所㆓交利㆒、而行㆑刑之處。〔漢書、曹參傳〕以齊㆓獄市㆒。〔後漢書、方術、廖扶傳〕未㆔曾入㆓城市㆒。❷まち。人家の多い繁華なところ。❸かへる。あきなふ。〔史記、項羽紀〕以市㆓於テ齊㆒。〔注〕集解曰、市、貿易也。❹まうける。〔國語、越語下〕身與㆑之市。〔注〕市、利也。❺うる。〔唐書、裴耀卿傳〕我知㆓其不㆑市㆑恩也。❻かふ。〔廣雅、釋詁三〕市、買也。〔論語、鄕黨〕沽酒市脯。〔集注〕沽・市、皆買也。❼もとめる。〔戰國、秦策〕王不㆑如㆓留㆑之以市㆑地。〔注〕市、求也。〔史記、項羽紀〕以市㆓於齊㆒。〔注〕索隱曰、市、猶㆑要也。❽とる。〔國語、齊語〕市㆑賤鬻㆑貴。〔注〕市、取也。❾司市の略稱。〔禮、王制〕命㆑市納㆑賈。〔注〕市、典㆑市者。❿姓。〔正字通〕市、姓、燕將軍市被。⓫現相場。邦行政上の自治團体の一。市となるための條件は、人口五萬以上、地域內の六割以上の戶數が市街地を形成してゐること、地域內の全人口の六割以上が商工業その他都市的業態の人口であること等である。

名乘　イチ。ナガ。

解字 會意形聲。㞢と乁と㞢(之)との合字。古、市場に一定の區劃があり、故に㞢(さかひ)に從ふ。乁は及の字、㞢は之(ゆく)。市場に物品があつまり、人々が行つてその區劃内で賣買する處。之はまた音符。轉じて、買の義とし、又、利・求・要の義とす。〔說文、市、段注〕釋詁曰、之、往也、云云、垣所㆓以介㆒也、故从㆑㞢、擧㆓形聲㆒包㆓會意㆒也。

【市佑】1（イチノジョウ） 市司の屬官。唐名は市丞。〔職原抄〕東市司、佑、唐名市丞。

【市鬻】2（シイク） 市で商賣する者。又、商店。〔宋史、蘇雲卿傳〕市鬻者利倍而售。〔福惠全書、刑名部、賊盜上、緝捕〕惟市鬻之賍、若買主賊不㆓識認㆒、未㆑能㆘執㆓途人㆒而問㆖之。

【市邑】3（シイフ） まちとむら。〔陸游、歲晚盤尊索然戲書詩〕經年薄宦客㆓桐廬㆒、市邑蕭然一物無。

【市尹】4（シイン） 市長。尹はつかさ、長官。〔安積艮齋、板倉勝重夫人〕板倉勝重擢㆓市尹㆒、詢㆓諸夫人㆒。

【市隱】5（シイン） ❶世を逃れて市中に隱れてゐる人。〔晉書、鄧粲傳〕隱之爲㆑道、朝亦可㆑隱、市亦可㆑隱、隱初在㆑我、不㆑在㆓於物㆒。〔王康琚、反招隱詩〕小隱隱㆓陵藪㆒、大隱隱㆓朝市㆒。〔皎然、酬㆓崔侍御見㆑贈詩〕市隱何妨㆑道、禪棲不㆑廢㆑詩。❷宋、金極(**11**－**40152**‥233)の號。「名。

【市隱園】6（シインエン） 明、姚淛(**3**－**6202**‥77)の室號。

【市隱居士】7（シインコジ） 明、宋雷(**3**－**7078**‥207)の號。

【市隱詩社】8（シインシシャ） 安達修の號。安達清河(**3**－**7072**‥329)を見よ。

【市隱書屋】9（シインショヲク） 清、亢樹滋(**1**－**288**‥37)の室名。

【市嫗】10（シウ） 市中の老婆。〔雲笈七籤〕盧杞少貧、與㆓市嫗麻婆者㆒、與㆓東都廢宅稅舍㆒以居。

【市營】11（シエイ） ❶市場と營所。〔韓愈、唐故江西觀察使韋公墓誌銘〕別命置㆓南北市營㆒。❷行政上の地方自治團體で市の經營するものをいふ。

【市易】12（シエキ） 王安石の新法の一。京師に市易所を置き、官錢を支出して貨を收め、價が高い時は之を賣り、安い時は買入れる法。市易法。〔宋史、食貨志下八〕市易之設、本㆓漢平準㆒、將㆘以制㆓物之低昂㆒而均通㆖之、五年、置㆓市易務于京師㆒、凡貨之可㆑市、及滯㆓於民㆒而不㆑售者、平㆓其價㆒市㆑之、願㆔以易㆓官物㆒者、聽、若欲㆑市㆓於官㆒、則度㆓其抵㆒而貸㆓之錢㆒、責㆑期使㆑償、半歲輸㆓息十一㆒、及㆑歲倍㆑之、凡諸司配率并仰㆑給焉。〔蘇軾、論㆓積欠㆒狀〕皆爲㆓市易所㆑破。

【市掾】13（シエン） 市の屬官。〔史記、田單傳〕單爲㆓臨菑市掾㆒。〔後漢書、費長房傳〕費長房者汝南人也、曾爲㆓市掾㆒。

【市垣】14（シエン） ❶市のかき。〔古今注、都邑〕闤、市垣也、闠、市門也。❷星の名。〔唐書、禮樂志二二〕中宮市垣帝座、七公日星帝席。

【市怨】15（シエン） うらみを買ひ求める。人にうらまれる。〔戰國、韓策〕蘇秦爲㆑楚合從、說㆓韓王㆒曰、云云、夫以㆓有㆑盡之地㆒而逆㆓無㆑已之求㆒、此所謂市㆑怨而買㆑禍者也。

【市遠】16（シエン） まちがとほい。〔杜甫、客至詩〕盤餐市遠無㆓兼味㆒、樽酒家貧只舊醅。

【市屋】17 shih^4 wu^1 町家。

【市恩】18（シオン） 恩を賣る。恩をきせる。爲にする所があつて人に惠みを施す。又、其のこと。〔論語、公冶長、子曰孰謂㆓微生高直㆒云云、集注〕夫子言㆑此、譏㆓其曲㆑意徇㆑物、掠㆑美市㆑恩、不㆑得㆑爲㆑直也。〔唐書、裴耀卿傳〕今朕有㆑事㆓岱宗㆒、而懷州刺史王丘、餼牽外無㆓他獻㆒、我知㆓其不㆑市㆑恩也。〔宋史、李昉傳〕若受㆓其請㆒、是市㆓私恩㆒也。

【市河】19（イチカハ） 石川神宮に奉納された一千口の太刀の管理に任ぜられた人。春日臣の一族。〔日本書紀、垂仁紀〕是時神乞之言、春日臣族名市河令㆑治、因以命㆓市河㆒令㆑治、是今物部首之始祖也。

【市賈】20（シカ） ❶市場で賣買する物品の價。うりねだん。賈は價に同じ。〔墨子、貴義〕市賈倍蓰。❷（シコ）あきうど。賈人。商人。〔左氏、昭、十三〕同㆑惡相求、如㆓市賈㆒焉。〔會箋〕賈音古。〔唐書、王縉傳〕招㆑財納㆑賄、猥屑相稽、若㆓市賈㆒然。

【市賈不貳】21（シカジナラズ） うりねだんに掛値がないこと。〔孟子、滕文公上〕從㆓許子之道㆒、則市賈不㆑貳、國中無㆑僞。

【市價】22（シカ） うりねだん。相場。市賈に同じ。〔洛陽伽藍記、四〕法雲寺、云云、有㆓劉寶者㆒、最爲㆓富室㆒、州郡都會之處、皆立㆓一宅㆒、各養㆓馬一疋㆒、至㆓於鹽粟貴賤、市價高下㆒、所在一例。

【市牙】23（シガ） 仲買人。牙儈。〔舊唐書、食貨志下〕除陌法、天下公私給㆓與貨易率㆒、一貫舊算二十、益加算爲㆓五十㆒、給㆓與他物㆒或兩換者、約㆑錢爲㆑率算㆑之、市牙各給㆓印紙㆒。

【市街】24（シガイ） まちなみ。まち。とほり。〔白居易、新昌新居詩〕市街塵不㆑到、宮樹影相連。

【市街戰】25（シガイセン） 市街で起る戰鬭。巷戰。

【市閑】26（シカン） 市中の無駄物。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕講勸之市閑、插㆑身打諢之白嚼。

【市姬】27（イチヒメ） 京都の東市・西市を守護する女神。市場の交易を守るといふ。市杵島姬命を祀る。一說に、大市姬命を祀ると。京都の寺町、市屋の金光寺にあり。〔金光寺緣起〕東市屋市姬大明神三座延曆十四年五月七日、贈相國冬嗣公、祭㆓宗像大神于東西市㆒、爲㆓守護神㆒、因號㆓市姬㆒。

【市暨】28（シキ） 峽人が市井の處をいふ。〔杜甫、秋日夔府詠懷云云詩〕陣圖沙北岸、市暨瀼西巓。〔注〕峽人目㆓市井處㆒曰㆓市暨㆒。〔鍾惺、江行詩〕士音偏不㆑移㆓鷄犬㆒、市暨通行雜㆓鈔錢㆒。

【市義】29（シギ） 義を買ふ。戰國、齊の馮諼が、其の主孟嘗君のために、薛に債を收めに行き、悉く債券を燒いて、義の評判を買つた故事。〔戰國、齊策〕後孟嘗君出㆑記、問㆓門下諸客㆒、誰習㆓計會㆒、能爲㆑文收㆓責於薛㆒者乎、馮諼署曰、能、孟嘗君怪㆑之曰、此誰也、左右曰、乃歌㆓夫長鋏歸來㆒者也、孟嘗君笑曰、客果有㆑能也、吾負㆑之未㆓嘗見㆒也、請而見㆑之、謝曰、文倦㆓於事㆒、憒㆓於憂㆒、而性懧愚、沈㆓於國家之事㆒、開㆓罪於先生㆒、先生不㆑羞、乃有㆑意㆑欲㆔爲收㆓責於薛㆒乎、馮諼曰、願㆑之、於㆑是約㆑車治㆑裝、載㆓券契㆒而行、辭曰、責畢收、以何市而反、孟嘗君曰、視㆓吾家所㆑寡有者㆒、驅而之㆑薛、使㆔吏召㆓諸民當㆑償者㆒、悉來合㆑券、券徧合、起矯㆑命以㆑責賜㆓諸民㆒、因燒㆓其券㆒、民稱㆓萬歲㆒、長驅到㆑齊、晨而求㆑見、孟嘗君怪㆓其疾㆒也、衣冠而見㆑之曰、責畢收乎、來何疾也、曰、收畢矣、以何市而反、馮諼曰、君云、視㆓吾家所㆑寡有㆒者、臣竊計、君宮中積㆓珍寶㆒、狗馬實㆓外廏㆒、美人充㆓下陳㆒、君家所㆑寡有者、以義耳、竊以爲㆑君市㆑義、孟嘗君曰、市㆑義奈何、曰、今君有㆓區區之薛㆒、不㆔拊愛子㆓其民㆒、因而賈㆓利之㆒、臣竊矯㆓君命㆒、以㆑責賜㆓諸民㆒、因燒㆓其券㆒、民稱㆓萬歲㆒、乃臣所㆓以爲㆑君市㆑義也。〔張昌宗、少年行〕依倚孟嘗君、自知㆓能市㆑義。

【市丘】30（シキウ） ❶宮殿の名。步高宮の別名。〔三輔黃圖、一、秦宮〕步高宮在㆓新豐縣㆒、亦名㆓市丘城㆒。❷戰國、魏の邑名。〔呂覽、應言〕白圭謂㆓魏王㆒曰、市丘之鼎以烹㆑雞。〔注〕市丘、魏邑也。

【市求】31（シキウ） 市場に求める。〔晉書、溫嶠傳〕嶠奏曰、古者親耕㆓籍田㆒、以供㆓粢盛㆒、舊制籍田廩犧之官、今臨時市求、既上黷㆓至敬㆒、下費㆓生靈㆒、非㆕所㆔以虔㆓奉宗廟㆒、蒸嘗之旨㆒、宜㆘加㆓舊制㆒立㆗此二官㆖。

【市況】32（シキヤウ） まちの景氣。商業の樣子。

【市銀】33 shih^4 yin^2 各地の市場で一般に使用する銀。鈍銀に對する差は、各地一樣でない。

【市區】34（シク） 市街の區域。又、まちの道すぢ。〔蘇軾、絕句詩〕市區收㆓罷豚魚稅㆒、來與㆓彌陀㆒共㆓一龕㆒。

【市瓜】35（シクワ） 瓜を買ふ。北齊の楊愔が士を取るに、貧者が大瓜を選ぶやうに、言貌のみを以てしたのを謗つた語。〔北史、楊愔傳〕典選二十餘年、獎㆓擢人倫㆒、以爲㆓己任㆒、然取㆑士多以㆓言貌㆒、時致㆓謗言㆒、以爲㆘愔之用㆑人、似㆗貧士市㆑瓜、取㆓其大㆒者㆖。

【市譁】36（シクワ） 市街がやかましい。〔陸游、三月二十一日作詩〕蹴踘牆東一市譁、鞦韆樓外兩旗斜。

【市會】37（シクワイ） 市の決議機關。市會議員で組織され、法律の定めに從ひ、市の自治の權限内の一切のことを議決し、其の執行を監督する。

【市⿰言貝】38（シクワイ） 市井のうた。まちうた。〔字彙〕⿰言貝、市⿰言貝、言長。

【市魁】39（シクワイ） 一市の長。〔南齊書、東昏侯紀〕潘氏爲㆓市令㆒、帝爲㆓市魁㆒、執㆑罰爭者、就㆓潘氏㆒決斷。

【市儈】40（シクワイ） 市人を會合し賣買の仲介をして利を得るもの。さいとり。仲買人。牙儈。市牙。

〔淵鑑類函、產業部、市、市儈、劉仲〕長安市儈劉仲、爲二市吏所一レ辱、踏二折其足一、學問經行、周二流海內一、後以二有道一徵不レ就、衆歸二其德一。〔福惠全書、雜課部、牙稅〕牙稅乃市儈之身帖。

【市郭】41シクワク 市のそとぐるわ。〔三輔黃圖、四、苑囿〕上林苑中有二六池市郭宮殿一。

【市郭兒】42イチビト 市で物を賣る人。〔新和訓〕。

【市官】43シクワン 交易市場の政を治め、賣買のことを掌る官。〔周禮、地官、序官、司市、注〕司市、市官之長。〔疏〕市官、謂二質人已下至二泉府一。〔漢書、王莽傳中〕令二市官收レ賤賣レ貴、賒貸予レ民、收レ息百月三一。

【市闤】44シクワン まち。ちまた。〔王惲、西湖詩〕無多樓觀猶二圖畫一、最好風烟近二市闤一。

【市歡】45シクワン 機嫌をとる。よろこびを賣る。歡心を買ふ。〔唐書、裴冑傳〕有二中使者一、卽悉二公帑一市レ歡。

【市刑】46シケイ 周代、市場で行はれた刑罰。〔周禮、地官、司市〕市刑、小刑憲罰、中刑徇罰、大刑扑罰。〔注〕徇、擧以示二其地之衆一也、扑、撻也、鄭司農云、憲罰、播二其肆一也。〔疏〕此憲、是以二文書一表二示於肆一、若二布憲之類一也。

【市經】47イチフ 地名。有馬皇子の邸宅の在つた處。今、奈良縣生駒郡生駒町の地。〔日本書紀、齊明紀〕率二造宮丁一、圍二有馬皇子於市經家一。

【市橋】48シケウ ㊀橋の名。㋑河北省邯鄲縣の西門の外。戰國の時、趙王の建立と傳ふ。下に鐵牛鐵柱あり、商旅其の上に輳集す。㋺廣東省東莞縣の稅課局の西。縣港に跨り、もと通濟といふ。元、德安と改む。民の、橋上で市する者が多いから市橋ともいふ。㊁地名。㋑廣東省治の東南、沙灣水の北岸。㋺四川省成都縣の西。一名、金花橋。〔華陽國志〕城西南石牛門、曰二市橋一。

【市券】49シケン 賣買に買主から賣主に交附する手形。〔周禮、地官、質人、書契、注〕書契取二予市物一之券也。

【市喧】50シケン 市街がやかましい。〔杜甫、自二瀼西荊扉一且移二居東屯茅居一詩〕市喧宜レ近レ利、林僻此無レ蹊。

【市戶】51 shih⁴ hu⁴ 商人をいふ。〔長生殿、疑讖〕凡是京城內外王孫公子、官員市戶、軍民百姓。

【市估】52シコ 品物の値段。市價。〔宋史、食貨志下六〕平二其市估一、至レ京償以レ銀。

【市虎】53シコ ㊀市中の虎。無根の言も數〻之を言へば、人を惑はせる喩。市虎成二於三人一を見よ。〔南齊書、張敬兒傳〕謂二其大一、收二宮女一、劫二奪天藏器械金寶一、必充二私室一、必若虛設、市虎亦可、不二翅此言一。〔韓愈、釋言〕夜歸私自尤曰、咄市有レ虎、而曾參殺レ人、讒者之效也、徐又自解レ之曰、市有レ虎、聽者庸也、曾參殺レ人、以レ愛惑レ聽也。㊁ shih⁴ hu³ 自動車の戲稱。

〔市虎成二於三人一〕54シコサンニンニナル 市に虎がゐる道理が無くとも、之を言ふもの三人に至れば終に信ずるに至る。無根の言も之を言ふもの多ければ、終に人を惑はすに至る喩。〔戰國、魏策〕龐葱與二太子一質二於邯鄲一、謂二魏王一曰、今一人言二市有一レ虎、王信レ之乎、王曰否、二人言二市有一レ虎、王信レ之乎、王曰、寡人疑レ之矣、三人言二市有一レ虎、王信レ之乎、王曰、寡人信レ之矣、龐葱曰、夫市之無レ虎明矣、然而三人言而成レ虎。〔淮南子、說山訓〕衆議成レ林、無レ翼而飛、三人成二市虎一、一里撓レ椎。〔注〕三人從二市中一來、皆言二市中有一レ虎、市非二虎處一、而人信以爲レ有レ虎、故曰三人成二市虎一。〔孔融、臨終詩〕三人成二市虎一、浸漬解二膠漆一。〔陶潛、感二士不遇一賦〕審二夫市之無一レ虎、眩二三夫之獻說一。〔蘇軾、代二滕甫一辯レ謗二乞郡一狀〕市虎成二於三人一、投杼起二於屢至一。

【市湖】55シコ 湖の名。江西省餘干縣治の前。餘水が之に注ぐ。〔江西通志〕市湖中有二越水一、不下與二衆水一相混上、唐陸羽取以煑レ茶、謂三味似二鏡湖水一。

【市酤】56シコ 市場で賣る酒。〔蘇軾、次二韻趙令鑠惠一レ酒詩〕知三我憎二市酤一、開レ缾自洗レ盞。

【市語】57シゴ ㊀市上のうはさ。〔竹坡詩話〕東坡在二黃州一時、云云、街談市語、皆可レ入レ詩、但要二人鎔化一耳。㊁市上に於て商人が相互に取引上の意志を通ずる暗語。〔通俗編、識餘、市語〕游覽志餘、杭州三百六十行、各有二市語一、不二相通用一、倉卒聆レ之、不レ知レ爲二何等語一也。

【市獄】58シゴク ㊀市のひとや。〔晉書、劉琨傳〕造二府廟一、建二市獄一。㊁罪をかふ。金錢などをだして罪をのがれる。〔唐書、李景略傳〕李懷光爲二朔方節度使一、署巡官五原將張光、殺二其妻一、以レ貲市レ獄、前後不レ能レ決、景略覈實、論殺レ之。

【市骨】59シコツ 死馬の骨をかふ。千金買レ骨(**2―2697・82**)を見よ。〔南史、鄭鮮之傳〕昔葉公好レ龍而眞龍見、燕昭市レ骨而駿足至。

【市劫】60シコフ 市中のおひはぎ。〔魏書、甄琛傳〕附レ黨連レ羣、陰爲二市劫一。

【市棍】61シコン 市中のわるもの。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕積年之市棍、又以二其父子兄弟一充二糧胥一。

【市汊】62シサ 鎭の名。今、江西省南昌縣の西南。

【市座】63イチクラ 市の商品を陳列するところ。

【市曹】64シサウ ㊀町役人。〔星經、下〕市樓六星在二市門中一、主二闤闠一之司、今市曹官之職。㊁官職を賣ること。又、金品で購つた官職。〔北史、常山王暉傳〕遷二吏部尚書一、納レ貨用レ官、皆有二定價一、大郡二千匹、次郡一千匹、下郡五百匹、其餘官職各有レ差、天下號曰二市曹一。㊂人を刑する處。古は人を市に於て刑したからいふ。〔宣和遺事、前集〕合二夷三族一、餘者皆令下推二入市曹一、斬レ首報來上。〔六部成語、刑部、押二赴市曹一注解〕市曹、通衢也、監二押罪犯一赴レ市處決也。

【市作】65シサク 官物を管理する役人が官物を出用するときに之を賣つて利を占めること。〔唐律、廐庫、諸放二散官物一者、疏議〕放二散官物一者、謂下出二用官物一、有上レ所二市作一、並謂三官物還二充官用一者、假有下營二造屋宅一、及供中祠祀宴會上、料二度剩多一、各計レ所レ剩坐レ贓論、若物在未レ用、各準レ所レ剩還レ官、若祠祀禮畢、宴會食盡、及營造事訖、皆勿レ徵。

【市散】66シサン 市場がひける。〔韋莊、建昌渡暝吟詩〕市散漁翁醉、樓深賈客眠。

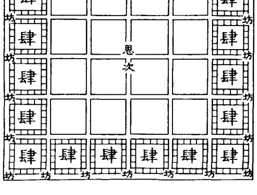
【市子】67イチコ 梓弓をひいて神おろしするもの。梓巫。巫女。〔萬句合、宮二〕幽靈の聲色市子上手なり。

【市司】68シシ ㊀町を司る役人。市司評二物價一を見よ。㊁イチノツカサ 古、京都の左右兩市の事を掌るつかさ。南西の二つに分る。

〔市司評二物價一〕69シシブツカヲヒヤウス 市司が、物價の標準を定めること。〔唐律、雜律、市司評二物價一〕諸市司評二物價一不レ平者、計レ所二貴賤一坐レ贓論、入レ己者以レ盜論、其爲二罪人一評レ贓不レ實、致レ罪有二出入一者、以二出入人罪一論。

【市師】70シシ 市官の長。司市。〔周禮、地官、司市〕市師涖焉、而聽二大治大訟一。〔注〕市師、司市也。〔荀子、解蔽〕賈精二於市一、而不レ可三以爲二市師一。

【市肆】71シシ みせ。商店。〔漢書、食貨志上〕開二市肆一以通レ之。〔後漢書、王充傳〕常游二洛陽市肆一、閲二所レ賣書一、一見輒能誦憶。〔南齊書、東昏侯紀〕或於二市肆左側一過二親幸家一、環回宛轉、周二遍京邑一。〔陸游、行在二春晚一有レ懷二故隱一詩〕舊人零落北音少、市肆蕭疎民力殫。



市肆（禮器圖）

【市事】72ジシ 市場の事。〔周禮、地官、閭師〕任レ商以二市事一、貢二貨賄一。

【市日】73イチビ 市場のたつ日。いちのひ。

〔市日四合〕73′イチハヒニシガフス 一日に市を四度開くこと。〔後漢書、孔奮傳〕姑臧稱爲二富邑一、通二貨羌胡一、市日四合。

【市集】74シシフ まちとむら。〔福惠全書、刑名部、賊盜下起贓〕夫貿易多在二市集典舖一。

【市舍】75シシヤ まちの家。〔韓愈・孟郊、秋雨聯句〕儒宮烟火濕、市舍煎熬忲。

【市上】76シジヤウ まちのうち。〔杜甫、十二月一日詩〕寒輕市上山烟碧、日滿樓前江霧黃。〔杜甫、飲中八仙歌〕李白一斗詩百篇、長安市上酒家眠。

【市城】77シジヤウ まち。城郭をめぐらした都市。〔周禮、地官、司市、朝市朝時而市商賈爲レ主、注〕商賈家二於市城一。

【市情】78シジヤウ 市場の事情。相場の狀況。

【市尺】79シシヤク 民間で行はれる尺度。〔隋書、律曆志上〕後周市尺、比二玉尺一一尺九分三釐。

【市聚】80シシユウ 市にあつまつた貨物。〔陸游、寄二

朱元晦提擧㆒詩〕市聚蕭條極、村墟凍餒稠。

【市駿】81（シシュン） 駿馬を買ふ。賢人を求める喩。市骨(59)を見よ。〔梁昭明太子、答㆓湘東王㆒求㆓文集及詩苑英華㆒書〕愛㆑賢之情、與㆑時而篤、冀同㆑市㆑駿、庶匪㆑畏㆑龍。〔駱賓王、與㆓程將軍㆒書〕燕昭爲㆓市㆑駿之資㆒、郭隗居㆓禮㆑賢之始㆒。

【市署】82（シショ） 市司(68)の❷の唐名。〔職原抄〕東市司、唐名市署、掌㆓市事㆒。

【市丞】83（シジョウ） 市佑(二)の唐名。〔職原抄〕東市司、「佑、唐名市丞。

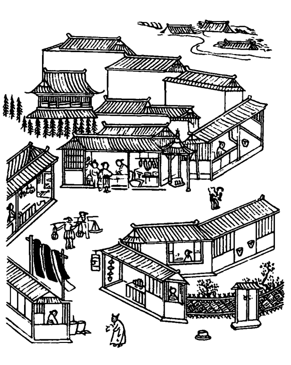
【市食】84（シショク） ❶まちで賣る食物。〔武林舊事、乾淳奉親〕太上宣㆓索市食㆒、如㆓李婆婆雜菜羹・賀四酪面臟・三猪胰胡餅・戈家甛食等數種㆒。〔武林舊事、市食〕果子、菜蔬、粥、犯鮓、涼水、糕。❷食物を買ふ。〔經鉏堂雜誌〕善處㆑貧者、節㆑食以完㆑衣、不㆓善處㆑貧者、典㆑衣而市㆑食。

【市食合兒】85（シショクガフジ） 料理の容器。をりの類。〔乾淳歳時記〕元夕、以㆓金盤鈿合㆒簇飣饋遺、謂㆓之市食合兒㆒。

【市人】86（シジン） ❶市に住む人。又、市に居て商賣する人。商人。〔國語、齊語〕譬若㆓市人㆒。〔莊子、庚桑楚〕蹍㆓市人之足㆒、則辭以㆓放鷔㆒。〔管子、小匡〕譬若㆓市人㆒。〔新序、雜事一〕魯有㆓沈猶氏者㆒、旦飲㆑羊飽㆑之、以欺㆓市人㆒。❷清、朱篔(6－14424・・39)の號。

【驅㆓市人㆒而戰】87（シジンヲカリテタタカフ） ❶市井の人を驅り出して戰に臨む。〔呂覽、簡選〕驅㆓市人㆒而戰㆑之、可㆔以勝㆓人之厚祿教卒㆒。❷烏合の衆を率ゐて戰ふにいふ。〔史記、淮陰侯傳〕此所謂驅㆓市人㆒而戰㆑之、云云、寧向可㆓得而用㆒㆑之乎。

【市井】88（シセイ） 市を爲す處。轉じて、人家の多い處。古來數說あり。史記注には、朝、井に聚つて水を汲むやうに、貨物を井邊に賣買するからいふと爲し、風俗通には、貨物を井上に洗濯し、香潔ならしめて市に至るからいふと爲し、管子注には市は井田を作るやうに、四方に立てるからいふと爲し、白虎通、及び春秋井田記には、井に因て市を爲すから稱すと爲し、詩經陳風東門之枌疏には、二十畝を一井とし、之に因て市を立て交易を爲すから稱すといひ、顏師古は、市は交易の處、井は共に汲む所、因て之を總言して


市井圖（三才圖會）

稱すといふ。〔詩、陳風、東門之枌序〕歌㆓舞於市井㆒爾、疏〕白虎通云、因㆑井爲㆑市、故曰㆓市井㆒、應劭風俗通云、俗說市井謂㆘至㆑市者當㆓於井上㆒洗㆓濯其物㆒、香潔及㆓自嚴飾㆒、乃到㆖市也、謹案、古者二十畝爲㆓一井㆒、因爲㆑市交易、故稱㆓市井㆒。〔公羊、宣、十五、什一者、注〕因㆓井田㆒以爲㆑市、故俗語曰㆓市井㆒。〔管子、小匡〕處㆑商必就㆓市井㆒。〔注〕立㆑市必四方、若㆓造㆑井之制㆒、故曰㆓市井㆒。〔史記、平準書〕市井之子孫。〔注〕正義曰、古人未㆑有㆓市及井㆒、若㆓朝聚㆑井汲㆑水、便將㆓貨物於井邊㆒貨賣、故言㆓市井㆒也。〔陔餘叢考、市井〕市井二字、習爲㆓常談㆒、莫㆑知㆑所㆑出、孟子在㆑國曰㆓市井之臣㆒、注疏亦未㆑見㆓分晰㆒、風俗通曰、市亦謂㆓之市井㆒、言、人至㆑市有㆓鬻賣者㆒、必先於㆓井上㆒洗濯香潔、然後入㆑市也、顏師古曰、市交易之處、井共汲之所、總㆓言之㆒也、按、後漢書、循吏傳、白首不㆑入㆓市井㆒注引㆓春秋井田記㆒云、因㆑井爲㆑市、交易而退、故稱㆓市井㆒、此說較爲㆑有㆑據。

【市井之臣】89（シセイノシン） 城下に居る人民。又、仕官しないで國都に居る者。〔儀禮、士相見禮〕在㆑邦則曰㆓市井之臣㆒、在㆑野則曰㆓草茅之臣㆒。〔孟子、萬章下〕在㆑國曰㆓市井之臣㆒、在㆑野曰㆓艸莽之臣㆒、皆謂㆓庶人㆒。〔注〕在㆑國謂㆓都邑㆒、民會㆓於市㆒、故曰㆓市井之臣㆒。

【市井之人】90（シセイノヒト） 市中の俗人。〔史記、刺客、聶政傳〕聶政曰、嗟乎政乃市井之人、鼓㆑刀以屠。〔鮑照、行樂至㆓城東橋㆒詩〕擾擾遊宦子、營營市井之人。

【市井之徒】91（シセイノト） 市中のならずもの。市街に在つて放蕩する輩をいふ。市井無賴。〔舊唐書、李密傳〕樊噲市井徒、蕭何刀筆吏、一朝時運會、千古傳㆓名謚㆒。〔唐書、安祿山傳〕禁衞皆市井徒。

【市井之利】92（シセイノリ） 市中の利益。〔後漢書、馮衍傳〕委積之臣、不㆑操㆓市井之利㆒。

【市井無賴】93（シセイノブライ） 市中のならずもの。市井之徒。〔胡銓、上㆓高宗㆒封事〕謹按、王倫本一狎邪小人、市井無賴。

【市世】94（シセイ） 世の中から利益を得る。〔曾鞏、撫州顏魯公祠堂記〕乃欲㆔睠顧回隱以市㆓於世㆒、其可乎。

【市正】95（シセイ） ❶市官の長。〔越絕書、越絕荆平王內傳〕子胥遂至㆑吳、徒跣被髮、乞㆓於吳市㆒三日、市正疑㆑之、而道㆓於闔廬㆒曰、市中有㆓非常人㆒、徒跣被髮、乞㆓於吳市㆒三日矣。❷（イチノカミ） 市司の長官。市令正。唐名は市令。今の市長。〔故實拾要〕市正、相當、六位上。〔職原抄〕東市司、正一人、唐名市令。

【市西】96（シセイ） 市の西。〔褚載、弔㆓秦叟㆒詩〕市西樓店金千秤、渭北田園粟萬鍾。

【市制】97（シセイ） 自治團體たる市に特別施行する規則。市の構成・機關・權限等の規定。

【市征】98（シセイ） 市から徵收する税。征は取る。〔說苑、尊賢〕暮收㆓市征㆒。〔宋史、扈蒙傳〕掌㆓大名市征㆒。

【市政】99（シセイ） ❶市の政務。〔周禮、地官、司市〕市司帥㆓賈師㆒而從治㆓其市政㆒。❷自治團體たる市の自治行政。

【市政府】100（シセイフ） 官署の名。民國、置く。南京・上海・北京・天津等の重要都市に設置された中央政府直屬の機關。

【市聲】101（シセイ） 市中の喧しい車馬や人聲。〔陳造、問月樓賦〕冒㆓軟紅之舊塵㆒、悅㆓市聲之隱雷㆒。〔元好問、出㆓東平㆒詩〕市聲浩浩如㆑欲㆑沸、世路悠悠殊未㆑涯。

【市稅】102（シゼイ） 市の税。市が必要に應じ市住民に「賦課する特別税。

【市籍】103（シセキ） 市に戶籍の有ること。〔史記、平準書〕雖㆑無㆓市籍㆒、各以㆓其物㆒自占。〔漢書、景帝紀〕有㆓市籍㆒不㆑得㆑官。

【市錢】104 shih^4 ch'ien^2 上海通用の銅錢。小商人の取引に用ひられ、一兩について千二百五文內外に交換する。

【市租】105（シソ） 市民から取立てる租税。商品に課する租税。市征。〔晏子、雜、下〕使㆕吏致㆔千金與㆓市租㆒。〔史記、齊悼惠王世家〕齊臨菑十萬戶、市租千金、人衆殷富、巨㆓於長安㆒。〔注〕索隱曰、市租、謂㆓所㆑賣之物出租㆒。〔史記、李牧傳〕市租皆輸㆓入幕府㆒、爲㆓士卒費㆒。〔漢書、高五王、燕靈王劉建傳〕齊臨菑十萬戶、市租千金。〔新序、雜事一〕暮收㆓市租㆒。

【市側】106（シソク） 市のかたはら。〔左氏、襄、三十〕斂而殯㆘諸伯有之臣在㆓市側㆒者㆖。〔宋史、陳思道傳〕喪㆑父、事㆓母兄㆒以㆓孝悌㆒聞、鬻㆓醢市側㆒以給㆓晨夕㆒。

【市卒】107（シソツ） まちの庶人。〔郭璞、客傲〕嚴平澄㆓漠於塵肆㆒、梅貞隱㆓淪乎市卒㆒。

【市道】108（シダウ） ❶市中の道路。又、市中の道路にある人々。〔漢書、韓延壽傳〕賣㆓偶車馬下里僞物㆒者、棄㆓之市道㆒。〔注〕師古曰、棄㆓其物於市之道上㆒也。〔漢書、劉輔傳〕天人之所㆑不㆑予、必有㆑禍而無㆑福、市道皆共知㆑之。〔注〕師古曰、市道、市中之道也、一曰、市人及行㆓於道路㆒者也。❷商賣の道。利を重んじて義を忘れる道。市道之交を見よ。

【市道之交】109（シダウノマジハリ） 市井商賣のやうに、利あれば合ひ、利なければ離れる交り。〔史記、廉頗傳〕天下以㆓市道㆒交、君有㆑勢則從㆑君、君無㆑勢則去、此固其理也、有㆓何怨㆒乎。

【市道之事】110（シダウノコト） 形勢を見て去就を決めること。商賣上のしわざのやうなこと。〔韓愈、與㆓汝州盧郎中㆒論㆑薦㆓侯喜㆒狀〕若自有㆓名聲㆒、又託㆓形勢㆒、此乃市道之事、又何足㆑貴乎。

【市道小人】111（シダウノセウジン） 利を重んずる小人。〔顏氏家訓、慕賢〕市道小人爭㆓一錢之利㆒。〔晉書、華譚傳〕或問㆑譚曰、諺言、人之相去如㆓九牛毛㆒、寧有㆓此理㆒乎、譚對曰、昔許由巢父讓㆓天子之貴㆒、市道小人爭㆓半錢之利㆒、此之相去、何啻九牛毛也。

【市地】112（シチ） 土地をかふこと。〔南史、明山賓傳〕山賓不㆓自理㆒、更市㆑地造㆑宅。

【市治】113（シチ） 市の政治。〔周禮、地官、司市〕掌㆓市

之治教・政刑・量度・禁令㆒。〔疏〕掌㆓市之治㆒者、下文云聽㆓大治小治㆒是也。

【市長】114 シチヤウ 官名。❶漢、置く。一市の長。〔史記、太史公自序〕昌生㆓無澤㆒、無澤爲㆓漢市長㆒。〔漢書、司馬遷傳〕毋懌爲㆓漢市長㆒。❷市のおさ。市の選擧權を有するもの（年齡二十歲以上、引續き三箇月以上その市に在住するもの）によつて公選される。任期は四箇年。市の代表機關で、最高の責任者となり、其の議事を準備し、其の決議を執行し、市政の執行を指揮監督する。

【市廳】115 シチヤウ 市役所。市の行政事務を掌る役所。

【市場】116 シヂヤウ ❶㋑賣り手と買ひ手が規則的に會合する組織。證券市場など。㋺勸工場。❷シヂヤウ イチバ 物品を賣買するために、商人が一定の日時に集つてあきなひする場所。〔南唐、尉遲偓、中朝故事〕每閱㆓市場㆒、登㆓酒肆㆒。

【市中】117 シチユウ 市のうち。〔周禮、地官、序官、廛人、注〕杜子春讀㆑壇爲㆑廛、說云、市中空地。〔宋書、宗越傳〕父爲㆓蠻所㆑殺、殺㆓其父㆒者嘗出㆑郡、越於テ㆓市中㆒刺㆓殺之㆒、太守夏侯穆、嘉㆓其意㆒擢爲㆓隊主㆒。〔元稹、白氏長慶集序〕予於テ㆓平水市中㆒見㆓村校諸童競習㆒㆑詩。

〖市中可㆑信㆑有㆑虎〗118 シチユウニトラアルヲシンズベシ 市中に虎が居るといふやうな無根の言も、數〻之を言へば、人を惑はすに至る。市虎成㆓於三人㆒(54)を見よ。〔故事成語考、人事〕讒口交加、市中可㆑信㆑有㆑虎。

【市廚】119 シチユウ 官名。漢、置く。京兆尹の屬官。〔漢書、百官公卿表上〕內史周官、秦因㆑之、掌㆑治㆓京師㆒、景帝二年、分㆓置左內史右內史㆒、武帝太初元年、更㆓名京兆尹㆒、屬官有㆓長安市廚兩令丞㆒、又都水鐵官兩長丞㆒。

【市籠】120 シチヨウ 市で人氣のある品物。〔揚雄、司空箴〕流貨市籠、而苞苴是鬻。

【市鎭】121 shih^4 chen^4 貿易場。

【市塵】122 シヂン ❶市街にたちのぼる塵埃。❷市中の賑しいこと。市中の雜鬧。〔出世景淸、二〕。

〖市塵迷離〗123 シヂンメイリ 市中のほこりがぼつとかすんでゐること。迷離は明かでないさま。〔日本外史、新田氏正記、新田氏〕十三世之室町、徒見㆓市塵迷離㆒。

【市丁】124 shih^4 ting^1 町人足。

【市亭】125 シテイ ❶市役所。〔周禮、地官、司市〕上㆓旌于思次㆒以令㆑市。〔注〕思次、若㆓今市亭㆒也。❷市中の亭。行人の休息するところ。〔儲光羲、貽㆓余處士㆒詩〕市亭忽雲構、方物如㆓山峙㆒。〔歐陽脩、詩〕市亭插㆑旗鬪㆓新酒㆒、十千得㆑酒不㆑可㆑賒。

【市朝】126 シテウ ❶市中。市中の公衆の集る所。朝とは市の行列が朝廷の列位のやうであるからいふ。〔周禮、地官、鄉師〕凡四時之徵令、有㆑常者以㆓木鐸㆒徇㆓於市朝㆒。〔孫詒讓正義〕市、謂㆓國中及郊野之市㆒、朝、謂㆓鄉師治事之朝㆒、市朝、衆之所㆑聚、故有㆓徵令㆒、則以㆓木鐸㆒巡㆓行警㆔告之㆒。〔論語、憲問〕吾力猶能肆㆓諸市朝㆒。古人言、市朝有㆓二解㆒、考工記、面㆑朝後㆑市、市朝一夫、周官鄉師、以㆓木鐸㆒徇㆓于市朝㆒、檀弓、遇㆓諸市朝㆒、不㆑反㆑兵而鬬、奔喪哭㆓辟市朝㆒、孟子若㆑撻㆓之于市朝㆒、史記孟嘗君列傳、日暮之後、過㆓市朝㆒者、皆謂㆓市中官治之所㆒、司市云、掌㆓市之治教・政刑・量度・禁令㆒、以㆓次敍㆒分㆑地而經㆑市、注云、次、謂㆓吏所㆑治舍㆒、思次、介次也、若㆓今市亭㆒然。〔孟子、公孫丑上〕若㆑撻㆓之於市朝㆒。〔焦循正義〕趙氏佑溫故錄云、朝市雙言、朝也、市也、市朝單言、市之朝也、若㆑撻㆓之於市朝㆒、正是司市之朝耳、古者朝之名、通㆓於上下㆒、冉子退㆑朝、周生烈云、君之朝、鄭康成云、季氏朝、則有司聽事之處言㆑朝、猶㆓是公所㆒矣、今京城內外衢市、多立㆓堆撥㆒、設㆓員役㆒以備㆓巡儌㆒、其大者謂㆓之官廳㆒、漢唐謂㆓之街彈室㆒。〔日知錄、經義、市朝〕若㆑撻㆓之於市朝㆒、即書所㆑言若㆑撻㆓于市㆒、古者朝無㆓撻㆑人之事㆒、市則有㆑之、周禮司市、市刑、小刑憲罰、中刑徇罰、大刑扑罰、又曰、胥執㆓鞭度㆒而巡㆓其前㆒、掌㆓其坐作出入之禁令㆒、凡有㆑罪者、撻戮而罰㆑之是也、禮記檀弓遇㆓諸市朝㆒、不㆑反㆑兵而鬬、兵器非㆓可㆑入㆑朝之物㆒、奔喪哭㆓辟市朝㆒、奔喪亦但過㆑市無㆓過㆑朝之事㆒也、其謂㆓之市朝㆒者、史記孟嘗君傳、日莫之後、過㆓市朝㆒者、掉㆑臂不㆑顧、索隱曰、言、市之行列有㆑如㆓朝位㆒、故曰㆓市朝㆒、古人能以㆑衆整如㆑此、後代則朝列之參差、有㆘反不㆑如㆓市肆㆒者㆖矣。❷市井と朝廷。〔周禮、秋官、鄉士、疏〕云㆓論語㆒者、憲問篇云、公伯寮愬㆓子路於季孫㆒、子服景伯謂㆓孔子㆒曰、吾力猶能肆㆓諸市朝㆒、注云、大夫於㆑朝、士於㆑市、公伯寮是士、止應㆑云㆑肆㆓諸市㆒、連㆓言朝㆒耳。〔禮、檀弓上〕遇㆓諸市朝㆒、不㆑反㆑兵而鬬。〔疏〕遇㆓諸市朝㆒者、上既云、不㆑仕得㆑有㆑遇㆓諸朝㆒者、身雖㆑不㆑仕、或有㆑事須㆑入㆑朝、故得㆑有㆑遇㆓諸朝㆒也、不㆑反㆑兵而鬬者、言、執殺之備、是常帶㆑兵、雖㆑在㆓市朝㆒、不㆑待㆓反還取㆒㆑兵、即當㆑鬬也。〔禮、檀弓下〕君之臣不㆑免㆓於罪㆒、則將㆘肆㆓諸市朝㆒而妻妾執㆖。〔注〕肆、陳㆑尸也、大夫以上於テ㆑朝、士以下於テ㆑市、執、拘也。〔疏〕云㆓大夫以上於テ㆑朝、士以下於テ㆑市者、謂㆓諸侯大夫士㆒也、故襄二十二年、楚殺㆓令尹子南㆒、尸㆓諸朝㆒三日、大夫既於テ㆑朝、士則於テ㆑市也。〔國語、魯語上〕小者致㆓之市朝㆒。〔注〕其死㆓刑大夫以上㆒、尸㆓諸朝㆒、士以下尸㆓諸市㆒。

〖不㆑同㆓市朝㆒〗127 シテウヲオナジクセズ 朋友の讎にいふ。不同戴天（**1**－**19**・826）を見よ。

【市調】128 シテウ 市のみつぎ。〔南齊書、豫章文獻王嶷傳〕禁㆓諸市調及苗籍㆒、二千石官長不㆑得㆓與㆑人爲㆑市。

【市糶】129 シテウ 市場に賣り出す米。〔管子、國蓄〕歲適美、則市糶無㆑予。〔福惠全書、荒政部、除盜〕欲㆑平㆓米價㆒、必先毋㆑抑㆓市糶㆒。

【市糴】130 シテキ 米を買入れる。物を買ふを市といひ、粟を買ふを糴といふ。〔南史、梁宋室下、王範傳〕市糴不㆑通。〔宋史、食貨志上三〕河北連歲大稔、命㆑使置㆑場、增㆑價市糴、自㆑是率以爲㆑常。

【市帖】131 shih^4 tʻieh^3 民間商家で發行する兌換券。莊票。

【市店】132 シテン 市中の店。市廛。〔隋書、李德林傳〕取㆓逆人高阿那肱衞國縣市店八十塸㆒、爲㆓王謙宅替㆒。

【市廛】133 シテン 市中の商店。市中の邸舍。〔孔子家語、王言解〕關譏市廛、皆不㆑收㆑賦。〔神仙傳、李八百〕或隱㆓山林㆒、或出㆓市廛㆒。〔謝靈運、山居賦序〕山居良有㆑異㆓於市廛㆒。

〖市廛而不㆑征〗134 シハテンシテセイセズ 交易賣買を行ふ市には店に稅を課して、其の貨物に賦稅しない。廛は市物邸舍。一說に、廛は市中の空地の未だ肆宅無く、商賈が貨物を蓄藏し得る所をいふ。商賈が此處に居ても課稅はしない。〔禮、王制〕市、廛而不㆑稅、關、譏而不㆑征。〔注〕廛、市物邸舍、稅㆓其舍㆒不㆑稅㆓其物㆒。〔孟子、公孫丑上〕市廛而不㆑征、法而不㆑廛、則天下之商、皆悅而願㆑藏㆓於テ其市㆒矣。〔注〕廛、市宅也、古者無㆑征、衰世征㆑之、王制曰、市廛而不㆑稅、周禮載師曰、國宅無㆑征、法而不㆑廛者、當㆘以㆓什一之法㆒征㆗其地㆖耳、不㆑當㆑征㆓其廛宅㆒也。〔焦循正義〕王制小戴禮記篇名、鄭氏注云、廛、市物邸舍、稅㆓其舍㆒不㆑稅㆓其物㆒、載師周禮地官之職、注云、征、稅也、鄭司農云、國宅城中宅也、無㆑征無㆑稅也、玄謂、國宅凡官所㆑有宮室、吏所㆑治者也、載師職云、以㆓廛里㆒任㆓國中之地㆒、鄭司農云、廛、市中空地未㆑有㆑肆、城中空地未㆑有㆑宅者、玄謂、廛里者若㆔今云㆓邑里居㆒矣、廛、民居之區域也、里居也、蓋商與㆑民居㆓於國中㆒皆有㆑廛、商賈所㆑居之廛在㆑市、王制市廛而不㆑稅、是也、此國宅不㆔專指㆓市中之宅㆒、凡民之居與㆓官吏之居㆒皆可㆓統稱㆒、趙氏以㆔市宅亦在㆓其中㆒、故引以爲㆑證、然則廛而不㆑征、謂㆘商賈居㆓此宅㆒不㆗征㆓其稅㆒、與㆘鄭氏稅㆓其舍㆒不㆑稅㆓其物㆒之說㆖不㆑同、故云、古者無㆑征、衰世征㆑之、謂㆓古者並此舍亦不㆑征㆑稅、稅㆓其舍㆒者衰世也、地官廛人、凡珍異之有㆑滯者、斂而入㆓於膳府㆒、注云、故書滯或作㆑廛、鄭司農云、謂㆘滯貨不㆑售者、官而居㆑之、貨物沉㆓滯於テ廛中㆒不㆑決、民待㆓其直㆒以給㆓喪疾㆒而不㆗可㆑售、賈賤者也、廛、謂㆘市中之地未㆑有㆑肆、而可㆔居以蓄㆓藏貨物㆒者㆖也、孟子曰、市廛而不㆑征、法而不㆑廛、則天下之商皆悅而願㆑藏㆓於テ其市㆒矣、謂㆘貨物儲㆓藏於テ市中㆒而不㆗租稅㆖也、故曰、廛而不㆑征。

【市鄽】135 シテン 市中のみせ。市廛。〔釋五岳、熊本城詩〕滿目今日眞火國、市鄽村落一時焚。

【市電】136 シデン 市で經營する電氣鐵道。市營電氣鐵道の略。

【市斗】137 シト 市場交易に用ひるます。〔六部成語、戶部、市斗注解〕市場交易所㆑用之斗也。

【市屠】138 シト 市中の屠殺業者。〔史記、信陵君傳〕臣有㆑客、在㆓市屠中㆒。

【市偸】139 シトウ 市中の竊賊。〔越絕書、越絕外傳記范伯〕昔者市偸自衒㆓於テ晉㆒、晉用㆑之而勝㆑楚。〔新論、適才〕楚之市偸、天下之大盜、而能卻㆓齊

軍一。

【市頭】140 シトウ 市中の店頭。店さき。〔元稹、酬三樂天江樓夜吟二稹詩一〕纔從二魚裏一得、便向二市頭一懸。〔施肩吾、途中逢二少女一詩〕市頭日賣千般鏡、知レ落二誰家新匣中一。

〖市頭婆〗141 シトウバ やりて。遊女屋で、遊女を監督する老婆。鴇母。〔稱謂錄、妓家、市頭婆〕塗說廣東竹枝詞、市頭婆、妓家鴇母之稱。

【市南】142 シナン 複姓。〔元和姓纂〕楚有二熊宜僚一、居二市南一、後裔以レ所レ居爲レ氏。

【市入】143 シニフ 商人が朝・晝・夜の三時の市に市場に入ること。〔周禮、地官、司市〕凡市入則胥執二鞭度一守レ門。〔注〕凡市入、謂二三時之市、市者入一也。

【市買】144 シバイ ❶賣ると買ふ。賣買。〔晏子、問、上〕市買悖、故商旅絕。〔漢書、食貨志下〕民私以二五銖錢一市買。❷かふ。市も買。〔史記、武安侯傳〕市二買郡縣器物一、相二屬於道一。

【市坊】145 シバウ 市場に設けた役所。〔唐書、百官志一〕置二市坊一、有二貿易一。

【市房】146 shih⁴ fang² おもてだな。店舖家屋。

【市陌】147 シハク 市中のみち。街路。市街。〔梅堯臣、依レ韻和二烏程李著作一四首、雪上詩〕臨水竹樓通二市陌一、跨橋雲屋接二川湄一。

【市舶】148 シハク ❶あきなひぶね。商賣のふね。商船。〔唐書、盧奐傳〕汙吏斂二手中人之市舶一者、亦不三敢干二其法一。❷官名。市舶使に同じ。〔中興會要〕宋紹興間、李敬陳爲二福州提擧一、上曰、市舶委計非レ輕、若用非二其人一、則海商不レ至。

〖市舶使〗149 シハクシ 官名。唐、置く。宋明、之に因り、淸、廢す。蕃貨海船征権貿易の事を掌る。後世の海關監督の類。〔淵鑑類函、設官部、提擧市舶一〕彙苑曰、唐有二市舶使一、以二中郎將周澤一爲レ之、有二廣州市舶使一、宋開寶四年、下二廣南一以二同知廣州潘美尹宗珂一並兼二市舶使一、咸平二年、令下杭州明州各置二市舶一、聽中蕃官從便上、哲宗卽位二年、始詔二泉州一置二市舶一、舊制雖レ有二市舶司一、多州郡兼領、元豐中、始令三轉運司兼二提擧一、而州郡不二復預一矣、後置二提擧一而轉運不二復預一矣、後盡罷二提擧官一、至二大觀元年一續置、建炎初、歸二轉運司一、明年夏、復閩浙二司賜二度牒、直二三千萬緡一爲二博易一、紹興二年、置二福建市舶一、令二憲臣兼領一、又詔令二提擧茶鹽司兼領一、移二司泉州一、十四年、命下蕃商之以二香藥一至者上、十取二其四一、又詔、沉香荳蔻龍腦之號二細香藥一者十取二其一一。

【市販】150 シハン 市中の商人。〔史記、刺客、聶政傳〕政所下以蒙二汚辱一自棄中於市販之閒上者、爲二老母幸無レ恙、妾未レ嫁也。

【市晚】151 シバン 市中の日暮。〔鄭谷、峽中寓止詩〕江春鋪レ網闊、市晚鬻レ蔬遲。

【市盤】152 shih⁴ pʻan² 市上の相場。

【市被】153 シヒ 戰國、燕の人。燕王噲に仕へて將軍となり、子之の專橫を憎み、太子平と之を誅せんとして敗死す。〔戰國、燕策〕・〔史記、三十四〕。

【市附】154 シフ 市におもむく。〔長生殿、疑讖〕向二權門一如二市附一。

【市賦】155 シフ 市の租稅。市租。〔管子、幼官〕田租百取レ五、市賦百取レ二。

【市物】156 シブツ 市場の物品。〔周禮、地官、質人、掌レ稽二市之書契一、注〕書契、取二予市物一之券也。

【市平】157 シヘイ ❶市中の物價を規定すること。〔漢書、食貨志下〕諸司市常以二四時中月一、實定レ所レ掌爲二物上中下之賈一、各自用爲二其市平一。❷shih⁴ pʻing² 商業社會で用ひるはかりの名。京平と庫平の中間に位す。京平に比して一兩每に二分多い。

【市米】158 シベイ 米を買ふ。〔南史、齊武帝諸子、竟陵文宣王子良傳〕時有下山陰人孔平詣二子良一、訟中嫂市レ米負レ錢不上レ還、子良歎曰、昔高文通與二寡嫂一訟レ田、義異二于此一、乃賜二米錢一以償レ平。

【市脯】159 シホ 買つたほじし。脯は乾肉。〔論語、鄕黨〕沽酒市脯不レ食。〔集注〕沽市、皆買也。〔鹽鐵論、散不足〕古者不レ粥レ紝不二市食一、及二其後一、則有二屠沽沽酒市脯魚鹽一而已。

【市木】160 シボク 市で賣る材木。〔韓非子、外儲說右上〕故市木之價、不レ加二貴於山一、澤之魚鹽鼈蠃蚌、不レ加二貴於海一。

【市民】161 シミン 市中に居る民。〔史記、大宛傳〕有二市民一商賈。〔中鑑、時事〕山民樸、市民玩、處也。

〖市民權〗162 シミンケン 法の制定・政治に參與する權利、生命・身體・財產に對する不可侵、言論・集會・結社・出版等の自由、能力によつて官吏に任用されるの權利等の如く、國民として有する基本的權利をいふ。フランス革命の人權及び市民權の宣言に端を發したもの。

【市面】163 shih⁴ men⁴ 市場。

【市門】164 シモン まちのもん。〔管子、山至數〕馮二市門一吏一。〔漢書、梅福傳贊〕遂從レ所レ好、全二性市門一。〔江淹、雜體、左記室思詠史詩〕韓公淪二賣藥一、梅生隱二市門一。

〖市門稅〗165 シモンゼイ 市の門で取る稅金。〔文獻通考、征權考、征商〕後周閔帝初、除二市門稅一、及二宣帝卽位一、復興二入市之稅、每人一錢一。

〖倚二市門一〗166 シモンニヨル 商人の業をいふ。〔史記、貨殖傳〕夫用レ貧求レ富、農不レ如レ工、工不レ如レ商、刺二繡紋一不レ如レ倚二市門一、此言二末業貧者之資一也。〔會注考證〕刺二繡紋一工之事、倚二市門一商之事、顏師古曰、言二其易以得一レ利也。〔書言故事、商賈類〕富而可レ求、則市門可二得而倚一矣。

【市庸】167 シヨウ 市中の雇人。〔管子、山至數〕大夫高二其壟一、美二其室一、此奪二農事及市庸一、此非二便レ國之道一也。

【市傭】168 シヨウ 市中の雇人。市庸。〔荀子、議兵〕是其去下賃二市傭一而戰上之幾矣。〔注〕此與下賃二市中傭作之人一、而使中之戰上、相去幾何也。

【市吏】169 シリ 市の役人。〔漢書、尹翁歸傳〕是時、大將軍霍光秉レ政、諸霍在二平陽一、奴客持二刀兵一入レ市鬭變、吏不レ能レ禁、及三翁歸爲二市吏一、莫二敢犯者一、公廉不レ受レ餽、百賈畏レ之。

【市利】170 シリ 市で得る利益。〔孟子、公孫丑下〕有二賤丈夫一焉、必求二龍斷一而登レ之、以左右望而罔二市利一。〔商子、外內〕市利之租、必重。

〖市利錢〗171 シリセン 宋代、稅法の名。神宗の熙寧八年、賈物の京に入るものに附した稅。〔文獻通考、征權考、詔問二中書賈販之物法不レ稅者其市利錢當レ輸否一〕(神宗熙寧)八年、有司創稅二賈物之入レ京者一、謂二之市利錢一、以祿レ吏、云云、以二市利一名レ之者、蓋取下孟子所謂有二賤丈夫一左右望而罔二市利一之意上、以爲レ名、是賤レ之也、又從而多取レ之、以益レ官、豈不レ謬哉。

〖罔二市利一〗172 シリヲアミス 市場の利益を獨占する。〔孟子、公孫丑下〕必求二龍斷一而登レ之、以左右望而罔二市利一。

【市里】173 シリ まち。〔漢書、五行志中之上〕或皆騎出二入市里郊壄一、遠至二旁縣一。〔魏志、華歆傳〕無レ不三游二行市里一。

【市立】174 シリツ 市の設立・維持によること。

〖市立學校〗175 シリツガクカウ 市が設立し維持する學校。

【市令】176 シレイ ❶司市の出す教令。〔周禮、地官、廛人、注〕罰布犯二市令一者之泉也。〔疏〕云下罰布者犯二市令一者之泉也上者、謂下司市有二教令一、其人犯レ之使上レ出レ泉。❷官名。漢代、內史の屬に長安市令あり、市事を掌る。軍中、市を爲せば、又令を置いて軍市令と稱した。唐代、各都督府及び州縣に皆此の官を置く。〔史記、循吏、孫叔敖傳〕市令言二之相一曰、市亂、民莫レ安二其處一、次行不レ定。〔漢書、百官公卿表上〕內史、周官、秦因レ之、掌レ治二京師一、景帝二年、分置二左內史右內史一、武帝太初元年、更二名京兆尹一、屬官有二長安市廚兩令丞一。〔後漢書、祭遵傳〕從二征河北一、爲二軍市令一。〔唐書、百官志四下〕大都督府、都督一人、從二品、云云、市令一人從九品上、云云、上州刺史一人從三品、云云、市令一人從九品、云云、京縣令各一人正五品。〔注〕京兆河南府諸縣、戶三千以上置二市令一人一。❸市正・市令正の唐名。市令正を見よ。〔職原抄〕東市司、正一人、唐名市令。

〖市令史〗177 イチノサクワン 市司の屬官。唐名は市錄事。〔職原抄〕東市司、令史、唐名市錄事。

〖市令正〗178 イチノカミ 市正(95)に同じ。唐名は市令。〔運步色葉集〕市令正、唐名市令。

【市列】179 シレツ つらなるみせ。〔漢書、食貨志下〕今弘羊令吏坐二市列一、販レ物求レ利。〔陳樵、八詠樓賦〕顧二風物之淸新一、瞰二市列之闤闠一。

【市樓】180 シロウ ❶市中の酒樓をいふ。〔三輔黃圖、長安九市〕市樓皆重屋、又曰二旗亭一。〔宋史、儀衞志二〕旗亭市樓垂レ簾外蔽。〔武林舊事、酒樓〕熙春樓、三元樓、五間樓、云云、已上皆市樓之表表者、每樓各分二小閣十餘一。〔陸游、小江詩〕老翁腳力猶能健、明日重來倚二市樓一。❷星の名。旗中の六

星をいふ。〔史記、天官書〕旗中四星、曰二天市一、中六星曰二市樓一。〔星經〕市樓六星在二市門中一、主二闤闠之司一、今市曹官之職。

【市話】181 shih^4 hua^4 世間の評判。世俗の話。

【市王】182（シワウ） 後魏の杜洛周が亂を起して治安を紊り、市令・驛帥までが市王驛王と稱した故事。〔魏書、李裔傳〕爲二定州鎭軍長史一云云、于レ時、逆賊杜洛周侵二亂州界一云云、裔潛引二洛周一、州遂陷沒、洛周僭竊、特無二綱紀一、至二於市令驛帥一、咸以爲レ王、呼曰二市王驛王一、乃封レ裔爲二定州王一。

【市往】183（イチユキ） ❶姓氏。〔姓名錄抄〕。❷（イチキ）姓氏。〔新撰姓氏錄考證〕。

【爲レ市】184（イチヲナス） ❶交易をする。〔易林、坤之第二、小過〕初憂後喜、與レ福爲レ市。〔晉書、食貨志〕及二黃初二年一、魏文帝罷二五銖錢一、使下百姓以二穀帛一爲上レ市。❷市場をひらく。轉じて、人が多く集まつてくることにいふ。〔公羊、宣、十五、什一者天下之中正也什一行而頌聲作矣、注〕五曰、通二財貨一、因二井田一以爲レ市。

【不レ市】185（ウラズ） 物をうらない。賣買せぬ。利益を求めない。〔韓愈、送三溫處士赴二河陽軍一序〕恃二才能一、深藏而不レ市者。

【市有レ虎】186（シニトラアリ） 根も葉も無い虛言も終には信ぜられる喩。市虎(53)及び市虎成二於三人一(54)を見よ。

【市黨部】187（シタウブ） 一つの市に於ける國民黨の事務所。

【市女笠】188（イチメガサ） 昔、婦人の用ひた笠の名。中高のぬりがさ。〔西宮記、臨時五〕行幸、京內雨降者、五位以上著二市女笠雨衣一。

【市條令】189（シデウレイ） 市の事務と住民の權利義務に關する法規。

【市例錢】190（シレイセン） 宋の神宗の時、頭子錢の外に更に一貫につき四十の割に附加した稅。市場で稅金の外にとりたてる手數料。〔宋史、食貨志上三〕政和初、詔罷二市例錢一。〔宋史、趙開傳〕凡買茶引每二一斤一、春爲二錢七十一、夏五十、舊所レ輸市例頭子錢並依レ舊。

【市錄事】191（シロクジ） 市令史(177)の唐名。〔職原抄〕東市司、令史、唐名市錄事。

【如レ歸レ市】192（イチニキスルガゴトシ） 市場に赴くやうに、先を爭つて行くこと。〔孟子、梁惠王下〕仁人也、不レ可レ失也、從レ之者、如レ歸レ市。

【市河寬齋】193（イチカハクワンサイ） 上野の人。名は世寧。字は子靜・嘉祥。通稱は小左衞門。號は寬齋・半江・西野・江湖詩老。文政三年七月十日歿す、年七十二。細井廣澤・林正良に師事す。官は昌平黌學員長・富山藩儒。博學にして、最も詩に長ず。著に漢魏六朝五家絕句選・金石私誌・金石學要・金石題跋・金石搨本考・近人書評・芥園瑣錄・皇朝金石志・寬齋遺稿・寬齋摘草・寬齋詩文集・寬齋百絕・寬齋漫稿・瓊浦夢餘錄・江湖詩話・江湖詩話補・江湖詩人小傳稿・古五絕・三家妙絕・詩家法語・詩燼・上毛志・隨園詩抄校刊・隨園詩話校刊・青蚨私誌・西野凍筆・西野漫錄・全唐詩逸・俗耳談・宋百家詩・談唐詩選・日本詩紀・日本詩紀別集・日本詩紀外集・寶月樓古鑑譜・半江暇筆・半江奇筆・北里歌・陸詩意注・陸詩考實・林氏家譜略注がある。〔近代名家著述目錄〕・〔近代著述目錄、後篇〕・〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕・〔加越能書籍集覽〕・〔近世叢語、續、三〕。

【市參事會】194（シサンジクワイ） 市參事會員で組織され、市の事務を取扱ふ合議制度の會。

【市松模様】195（イチマツモヤウ） 染模樣の名。元文の頃、役者佐野川市松がはじめたもの。方形を並べ、一つおきに白黑の色を入れちがへたもの。石疊。

【市川鶴鳴】196（イチカハカクメイ） 江戶の人。名は匡。字は子人。通稱は多門・藤兵衞。號は鶴鳴・匡麻呂。寬政七年七月歿す、年五十六。大內熊耳に師事す。官は高崎藩儒。初、大阪に塾を開いて教授す。學古今を綜べ、經術に長ず。著に鶴鳴舍文集・造士編・左傳獨說・尙書輯義・臣軌國字解・大學精義・中庸精義・帝範國字解・弟子職解・孟子辨夷・毛詩辨解・禮運解義・論語輯義・老子考文がある。〔近代著述目錄、後篇〕・〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕。

【市町村道】197（シチヤウソンダウ） 市・町・村が管理する道路。

【市野東谷】198（イチノトウコク） 江戶の人。名は光業。字は子曄。通稱は三郎兵衞。號は東谷。寶曆十年十一月歿す、年三十五。太宰春臺に師事す。著に孝經古今文異同考・東谷雜志・東谷所見抄・論語古訓考がある。〔近代著述目錄後篇〕。

【市野迷庵】199（イチノメイアン） 江戶の人。名は光彥。字は俊卿・伯邦。通稱は彌三郎・三右衞門。號は篔窓・迷庵。文政九年八月十四日歿す、年六十二。黑澤迂中に師事す。江戶神田に塾を開いて教授す。經學は、初、閩洛を奉じ、後、專ら漢學を宗とす。著に好古日錄・好古續錄・好古餘錄・語錄・正平本論語札記・下谷小志・詩史顰・千文勘考・大永本論語集解・大永本論語集解附錄札記・讀書指南・論朱子學がある。〔近代著述目錄、後篇〕。

【不レ粥二於市一】200（シニウラズ） 市場で賣ることを許さない。粥は賣る意。〔禮、王制〕有二圭璧金璋一、不レ粥二於市一、命服命車、不レ粥二於市一、宗廟之器、不レ粥二於市一、犧牲不レ粥二於市一、戎器不レ粥二於市一、用器不レ中レ度、不レ粥二於市一、兵車不レ中レ度、不レ粥二於市一、布帛精麤不レ中レ數、幅廣狹不レ中レ量、不レ粥二於市一、姦色亂二正色一、不レ粥二於市一、錦文珠玉成器、不レ粥二於市一、衣服飲食、不レ粥二於市一、五穀不レ時、果實未レ孰、不レ粥二於市一、木不レ中レ伐、不レ粥二於市一、禽獸魚鼈不レ中レ殺、不レ粥二於市一。〔注〕粥、賣也。

【⿰巾几】8776

キ ギ 〔集韻〕渠伊切 支

❶伊⿰巾几は、古の天子の號。一說に、地名。〔集韻〕⿰巾几、伊⿰巾几、古天子號、亦地名。❷或は阢(**11－41544**)・飢(**12－44023**)に作り、通じて耆(**9－28849**)に作る。〔集韻〕⿰巾几、或作二阢・飢一、通作レ耆。

參考 帆(**4－8787**)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕⿰巾几、音奇、地名。帆、音凡、舟上幔。

【⿰巾匕】8777

ヒ 〔集韻〕補履切 紙

小篆

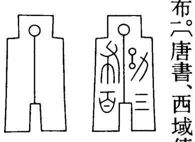
さけたきぬ。やぶれぎぬ。〔說文〕⿰巾匕、幓裂也、从レ巾匕聲。〔急就篇〕⿰巾匕幓囊橐、不レ直レ錢。〔注〕⿰巾匕者、幓殘之帛也。

【布】8778

ホ フ 〔集韻〕博故切 遇 ㄅㄨˋ pu^4

小篆

❶**ぬの**。㋑植物の纖維で織つたおりもの。〔說文〕布、枲織也、从レ巾父聲。〔段注〕其艸曰レ枲、其皮曰レ𣏟、屋下治レ之曰レ麻、緝而績レ之曰レ綫、織而成レ之曰レ布、古者無二今之木棉一、但有二麻布及葛布一而已。〔小爾雅、廣服〕麻紵葛曰レ布、布、通名也。〔儀禮、士喪禮〕明衣用レ布。㋺おりものの總稱。〔廣韻〕布、布帛也。〔莊子、山木〕爲二其布一與。〔注〕布、謂二匹帛一也。〔隋書、文帝紀〕貢二綾紋布一。〔唐書、西域傳〕織二水羊毛一爲レ布。❷**貨幣**。泉布。布錢(156)を見よ。〔說文通訓定聲〕布、古以レ布爲レ幣、後製二貨泉一、卽以名レ之。〔詩、衞風、氓〕抱レ布貿レ絲。〔傳〕布、幣也。〔周禮、天官、外府〕掌二邦布之入出一。〔注〕布、泉也、其藏曰レ泉、其行曰レ布。〔管子、君臣下〕束レ布之罪。〔注〕布、謂レ錢也。〔漢書、食貨志下〕是爲二布貨十品一。〔注〕師古曰、布、亦錢耳、謂二之布一者、言二其分布流行一也。❸**貨財**。〔莊子、山木〕爲二其布一與。〔釋文〕布、謂二貨財一也。❹**ぜい**。みつぎ。賦課。〔周禮、地官、載師〕凡宅不レ毛者有二里布一。〔注〕布、泉也。〔疏〕布、謂二口率出レ泉、漢法口百二十也。〔孟子、公孫丑上〕廛無二夫


❷ 新王莽幼布（金石索）

里之布一。〔注〕布、錢也。〔管子、戒〕市正而不レ布。〔注〕布、謂レ錢也。❺**草の名**。〔爾雅、釋草〕帛似レ帛、布似レ布、華山有レ之。❻**しく**。敷(**5－13359**)に通ず。〔說文通訓定聲〕布、叚借爲レ敷。㋑ひろげる。〔山海經、海內經〕禹鯀是始布レ土。〔注〕布、猶レ敷也。㋺のべる。〔小爾雅、廣言〕布、展也。㋩つらねる。〔廣雅、釋詁一〕布、列也。〔左氏、昭、三〕寡君使二虎布一レ之。〔注〕布、陳也。㋥ほどこす。〔廣雅、釋詁三〕布、施也。㋭くばる。〔國語、周語上〕時布二之於農一。〔注〕布、賦也。㋬ちる。ちらす。〔廣雅、釋詁三〕布、散也。〔張衡、東京賦〕聲教布護。〔注〕綜曰、布護、猶二散被一也。㋣あまねし。ゆきわたる。〔左思、吳都賦〕布二護皐澤一。〔注〕翰曰、布護、草衆密貌。〔馬融、長笛賦〕氣噴勃以布覆兮。〔注〕善曰、布覆、周布四覆也。❼**ふれ**。たつし。布告。〔封氏聞見記〕露布亦謂二之露版一。〔魏書、韓顯宗傳〕高祖詔曰、云云、何爲不レ作二露布一也。〔唐書、封常清傳〕潛作二捷布一。❽**星を祭る**。〔爾雅、釋天〕祭レ星曰レ布。〔注〕布、散二祭於地一。〔釋文〕孫曰、布、既祭布二散於地一、似二星布列一也。❾古は㱏(**6－16397**)に作る。〔續字彙補〕㱏、古布字。❿搏(**5－12466**)に通ず。〔禮、月令、鷹化爲レ鳩、注、鳩搏穀也、疏〕布・搏聲相近。⓫專(**4－7433**)に通ず。〔史記、司馬相如傳、氾專、注〕集解曰、專、古布字。⓬**姓**。〔尙友錄〕布、見二姓苑一、望出二江夏一。⓭現㋑主人が客に菜を分賦する。㋺獨逸貨、分尼 Pfennig の略號。

名乘 ノブ。シク。

參考 帀(**4－8779**)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕布、布帛。帀、古家字。

【布哇】1 ハワイ 島の名。太平洋中にあり、米領に屬す。

【布襖】2 フアウ 布袍(199)に同じ。〔徐積、寄二范掾一詩〕昨日沽レ酒典二布襖一、今日所レ典未レ可レ保。

【布衣】3 フイ ❶布製の衣。〔六韜、文韜、盈虛〕鹿裘禦レ寒、布衣掩レ形。〔史記、魯世家〕平子布衣跣行、因二六卿一謝レ罪。〔漢書、卜式傳〕式既爲レ郞、布衣草蹻而牧レ羊、歲餘、羊肥息。〔說苑、立節〕曾子布衣縕袍、未レ得レ完、糟糠之食、藜藿之羹、未レ得レ飽。〔後漢書、朱穆傳〕祿仕數十年、蔬食布衣、家無二餘財一。❷庶人の服。古、庶人は耄老に至らなければ帛を被られなかつたからいふ。轉じて、官位の無い常人をいふ。匹夫。庶人。〔呂覽、首時〕勤以待レ時、時至、有下從二布衣一而爲二天子一者上。〔史記、高祖紀〕高祖嫚二罵之一曰、吾以二布衣一、提二三尺劍一、取二天下一、此非二天命一乎。〔史記、李斯傳〕今秦王欲下呑二天下一稱レ帝而治上、此布衣馳騖之時、而游說者之秋也。〔史記、田單傳贊〕王蠋布衣也、義不三北二面於燕一、況在レ位食レ祿者乎。〔鹽鐵論、散不足〕古者庶人耋老而後衣レ絲、其餘則麻枲而已、故命曰二布衣一。〔新書、益壤〕人主之行異二布衣一。〔吳志、孫登傳〕立レ登爲二太子一、云云、待二接寮屬一、略二用布衣之禮一。〔阮籍、詠懷詩〕布衣可レ終レ身。❸ホイ ホウイ ㋑狩衣の無文のもの。六位以下の人が之を着る。又、それを着る身分のもの。〔字類抄〕。㋺江戶幕府の制で、大紋に次ぐ、武士の第四級の禮服。〔青標紙、衣服制度的例〕。㋩六位の身分のもの。〔柳營祕鑑、一〕布衣被二仰付一面面、小普請支配、御番頭。

【布衣始】4 ホウイハジメ ホイハジメ 太上天皇が尊號の後、始めて烏帽子を著し給ふ儀式。〔名目抄、院中〕布衣始、太上天皇尊號之後、始令レ著二御烏帽子一云也。

【布衣之位】5 フイノクラヰ いやしい身分。〔史記、魯仲連傳贊〕然多下其在二布衣之位一、蕩然肆レ志、不レ詘二於諸侯一、談二說於當世一、折中卿相之權上。

【布衣之友】6 フイノトモ 互に身分地位を離れて交はる友。布衣之交。〔史記、范雎傳〕秦昭王、乃詳爲二好書一、遺二平原君一曰、寡人聞二君之高義一、願與レ君爲二布衣之友一、君幸過二寡人一、寡人願三與レ君爲二十日之飮一。

【布衣之交】7 フイノマジハリ 貧賤の交際。利慾など眼中に無い交際。布衣之友。〔史記、藺相如傳〕布衣之交、尙不二相欺一、況大國乎。〔後漢書、隗囂傳〕囂素謙恭愛レ士、傾レ身引接、爲二布衣交一。

【布衣之極】8 フイノキヨク 庶人たる者が得る地位の極致。〔史記、留侯世家〕留侯乃稱曰、家世相レ韓、及二韓滅一、不レ愛二萬金之資一、爲レ韓報二讎彊秦一、天下振動、今以二三寸舌一、爲二帝者師一、封二萬戶一、位二列侯一、此布衣之極、於レ良足矣、願弃二人閒事一、欲下從二赤松子一游上耳。

【布衣之俠】9 フイノケフ 身分の卑しいをとこだて。〔史記、遊俠傳序〕古布衣之俠、靡二得而聞一矣。

【布衣之士】10 フイノシ 無位無官の士。〔莊子、讓王〕難レ爲二布衣之士一。〔韓非子、姦劫弒臣〕適二當世明主之意一、則有下直任二布衣之士一、立爲中卿相之處上。

【布衣之怒】11 フイノイカリ 無位無官の者の怒。〔戰國、魏策〕秦王怫然怒、謂二唐且一曰、公亦嘗聞二天子之怒一乎、唐且對曰、臣未二嘗聞一也、秦王曰、天子之怒、伏レ屍百萬、流レ血千里、唐且曰、大王嘗聞二布衣之怒一乎、秦王曰、布衣之怒、亦免レ冠徒跣、以レ頭搶レ地耳、唐且曰、此庸夫之怒也、非二士之怒一也、夫專諸之刺二王僚一也、彗星襲レ月、聶政之刺二韓傀一也、白虹貫レ日、要離之刺二慶忌一也、倉鷹擊二於殿上一、此三子、皆布衣之士也、懷レ怒未レ發、休祲降二於天一、與レ臣而將レ四矣、若士必怒、伏レ屍二人、流レ血五步、天下縞素、今日是也、挺レ劍而起。

【布衣之雄】12 フイノユウ 無位無官のすぐれた人。〔魏志、武帝紀〕紹布衣之雄耳、能聚レ人而不レ能レ用。

【布衣之利】13 フイノリ 庶人の利益。〔戰國、楚策〕子之子孫、必爲二楚太子一矣、此非二布衣之利一也。

【布衣將相】14 フイシヤウシヤウ 無位無官の身で遂に將軍となり、宰相となること。〔支那通史、名字姓氏及世族〕遂開二後世布衣將相之局一。

【布衣雄世】15 フイニシテヨニユウナリ 無位無官の卑しい身分から起つて世に傑出する。〔海錄碎事、人事、敏慧〕袁紹稱二鄭玄一、以二布衣一雄レ世、商芸小說。

【布衣韋帶之士】16 フイヰタイノシ 布衣をつけなめしがはの帶を締めた貧賤の士。〔漢書、賈山傳〕夫布衣韋帶之士、修二身於內一、成二名於外一。

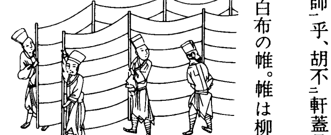
【布衣而有天下】17 フイニシテテンカヲタモツ 布衣の身で天子となること。〔呂覽、適威〕舜布衣而有二天下一、桀天子也、而不レ得レ息、由レ此生矣、有無之論、不レ可レ不レ熟。

【布衣紃履之士】18 フイジユンリノシ 布衣を着、紃履を履いた貧賤の士。紃履は粗繩で作つた履。〔荀子、富國〕仁人之用レ國、將下脩二志意一、正二身行一、伉二隆高一、致二忠信一、期中文理上、布衣紃履之士誠レ是、則雖レ在二窮閻漏屋一、而王公不レ能二與レ之爭一レ名。〔注〕紃、絛也、謂二編レ麻爲一レ之、麤繩之屨也。

【布意】19 pu^4 i^4 意中を申陳べる。布臆。

【布韋】20 フヰ ぬのとなめしがは。〔李東陽、東山草堂賦〕客有二過者一、見而問レ之曰、子非二治河之中丞一乎、非二行邊之貳師一乎、胡不二軒蓋是擁、而布韋是嬰一也。

【布帷】21 フヰ 畫かない白布の帷。帷は柳車の邊障。〔禮、喪服大記〕士、布帷布荒、一池。〔疏〕帷、柳車邊障也、云云、士布帷布荒者、士帷及荒者、白布爲レ之而不レ畫也。



發引圖布帷（三才圖會）

【布引】22 ヌノビキ ❶古、朝廷で臨時の相撲の後、又は相撲節會の還饗の時等に、左右力士をして各〻布一段を執らせ、之を糾つて索とし、曳き會つて其の力を競はせ、勝者に其の布を賜はつた行事。〔西宮記、七月、相撲召仰〕。❷麻布などを晒すために引きはること。❸群衆の引きもきらずつづくこと。〔太平記、二十三、雲客下車〕參詣の貴賤布引。❹菌の一種。ならんで生えるもの。

【布陰】23 フイン 日かげをしきひろげる。〔陳漣、歲寒軒賦〕陽烏轉レ影、綠雲布レ陰。

【布影】24 フエイ 日かげをしきひろげる。〔沈約、修竹彈二甘蕉一文〕甘蕉攢レ莖布レ影、獨見二鄣蔽一、雖レ處二臺隅一、遂同二幽谷一。

【布纓】25フエイ 布製の冠紐。喪中に用ひる。〔儀禮、喪服〕牡麻絰、冠布纓。

冠布纓（三禮圖）

【布奕】26フエキ 布がかさなる。〔謝翶、擬古詩〕秋風吹㆓蓬顆㆒、纍纍如㆓布奕㆒。

【布葉】27フエフ 葉をつらねる。〔風俗通、山澤〕南方衡山、一名霍、霍者萬物盛長、垂㆑枝布㆑葉。〔陸機、董逃行〕和風習習薄㆑林、柔條布葉垂㆑陰。

【布衍】28フエン のべひろめる。おしひろめる。敷衍（**5－13359**・・9）の㊀に同じ。

【布筵】29フエン むしろをしく。〔柳宗元、道州文宣王廟碑〕布㆑筵依㆑位、作㆑廩伊秩、以豐㆓其儀㆒、以壯㆓其室㆒。

【布演】30フエン しきのべる。ひろめる。敷演。〔阮籍、通易論〕庖羲氏布㆓演六十四卦之變㆒。

【布怨】31フエン 怨をしき施す。人に怨まれることをする。〔漢書、谷永傳〕有司奏請加㆑賦、甚繆㆓經義㆒、逆㆓於民心㆒、布㆑怨趨㆑禍之道也。

【布賀】32 pu^4 hê^4 賀意を述べる。

【布行】33フカウ ㊀行をしきひろめる。又、しき行ふ。〔左氏、文、十八、明允篤誠、疏〕誠者實也、秉㆑心純直、布㆑行貞實也。〔杜預、擧㆓賢良方正㆒表〕布㆓行於草野㆒、著㆓德於閭閻㆒。㊁pu^4 hang^2 太物屋。呉服屋。

【布絞】34フカウ 布でつくつた絞。絞は尸を斂する時、之を結束するもの。〔禮、喪大記〕小斂布絞縮者一、橫者三。〔注〕絞、既斂所㆔用束㆓堅之㆒者。

【布喀】35フコ 川の名。源を和碩特北右末旗阿木尼厄枯山の南に發し、青海省の東境を流れる。青海の最大河。清一統志に、即ち唐の大非川、蕃に入るのを西道といふ。〔清會典、戶部〕其川布喀。〔注〕布喀河、在㆓青海蒙古北右末旗之東㆒、出㆓額枯山㆒。

〘布喀剌〙36ボカラ 地名。中央亞細亞の南境にあり、商業の中心地。もと、獨立國であつたが、後ソヴエート聯邦の一部となる。Bokhara の音譯。

【布褐】37フカツ 布に毛を織り込んだ賤者の服。轉じて、賤者をいふ。〔鹽鐵論、通有〕古者采椽不㆑斲、茅屋不㆑翦、衣㆓布褐㆒、飯㆓土硎㆒、鑄㆑金爲㆑鉏、埏㆑埴爲㆑器。〔晉書、何琦傳〕何琦善養㆑性、老而不㆑衰、布褐蔬食、恆以㆓述作㆒爲㆑事。〔王維、獻㆓始興公㆒詩〕鄙哉匹夫節、布褐將㆓白頭㆒。〔宋史、蘇雲卿傳〕身長七尺、美㆓鬚髯㆒、寡㆓言笑㆒、布褐草履、終歲不㆑易。

【布甲】38フカフ 分布したよろひ武者。〔李紳、到㆓宣武㆒詩〕宿雲看㆓布甲㆒、疎柳見㆓分營㆒。

【布洽】39フカフ あまねくしく。〔忠經、武備〕滈德布洽、戎夷稟㆑命。

【布翰】40フカン つらなる柱。翰は榦、はしら。〔成公綏、烏賦〕棲㆓息重陰㆒、列㆓巣布翰㆒。

【布氣】41フキ ㊀氣をしきひろげる。〔易林、坤之第二、乾〕谷風布㆑氣、萬物出生。〔世說新語、方正〕雖㆓陽和布㆑氣、鷹化爲㆑鳩、至㆓於識者㆒、猶憎㆓其眼㆒。㊁道術の蘊奧を修めたものが、靈氣を人に與へることをいふ。〔東坡志林、道釋、書㆓李若之事㆒〕學㆑道養㆑氣者、至足之餘、能以㆑氣與㆑人、都下道士李若之能㆑之、謂㆓之布氣㆒、吾中子迨、少羸多㆑疾、若之相對坐爲㆓布氣㆒、迨聞㆘腹中如㆗初日所㆑照溫溫㆖也。

【布揮】42フキ 揮ひ動かし、布き散らす。〔莊子、天運〕布揮而不㆑曳。〔疏〕揮㆓動四時㆒、布㆓散萬物㆒、各得㆓其所㆒。

【布棊】43フキ 碁石を盤面にしきならべる。又、碁石をならべた盤。〔梁宣帝、詠紙詩〕皎白猶㆓霜雪㆒、方正若㆓布棊㆒。

【布義】44フギ 正しい道を施し行ふ。〔逸周書、謚法解〕布㆑義行㆑剛曰㆑景。〔說苑、政理〕魏文侯使㆔西門豹往治㆓於鄴㆒、告㆑之曰、必全㆑功成㆑名布㆑義。

【布裘】45フキウ 布の裏に皮を附けた衣。〔韋莊、宜君縣比卜㆑居不㆑遂留㆓題王秀才別墅㆒詩〕本期㆔同㆑此臥㆓林丘㆒、榾柮爐前擁㆓布裘㆒。〔宣和書譜〕山人蒲云、有㆓方外趣㆒、布裘笻杖、游㆓山野閒㆒。

【布屩】46フキヤク 布で造つたくつ。〔南齊書、豫章文獻王傳〕或著㆓布屩㆒、不㆓意爲㆑異。

【布遽】47フキヨ 大いに恐れおそれること。布は怖に通じ、遽は畏懼の意。怖遽。〔本朝文粹、五、大江朝綱、爲㆓貞信公㆒請㆓致仕㆒第二表〕斜景朽邁之日、彌增㆓布遽之情㆒。

【布局】48フキヨク 各齣の編次・關目の配置等、一劇の結構法をいふ。布置。

【布巾】49フキン ㊀ぬのきれ。〔宋書、禮志三〕前代故事、倚廬中施㆓白縑帳蓐素牀㆒、以㆓布巾㆒裹㆓凷草㆒。〔神仙傳、董奉〕奉使㆔病人坐㆓一房中㆒、以㆓五重布巾㆒蓋㆑之、使㆑勿㆑動。㊁一尺程に切つて、食器などを拭くに用ひる布切。

【布紟】50フキン 布の單被。紟はひとへの夜着。〔禮、喪服大記〕布紟二衾。〔集解〕孔氏曰、紟、禪被也。

【布衾】51フキン 布で造つた夜具。〔漢書、敍傳下〕布衾疏食、用㆑儉飭㆑身。〔後漢書、羊續傳〕布衾敝袛。〔杜甫、茅屋爲㆓秋風所㆑破歌〕布衾多年冷似㆑鐵、驕兒惡臥踏㆑裏裂。〔白居易、短歌行〕布衾不㆑周㆑體、藜茹纔充㆑腹。

【布化】52フクワ 教化をしき施す。〔魏志、陳羣傳〕唯有㆔以崇㆑德布㆑化、惠㆓恤黎庶㆒。

【布瓜】53フクワ 絲瓜の異名。へちま。〔本草、絲瓜〕釋名、天絲瓜、天羅、布瓜、蠻瓜、魚鰦。

【布花】54フクワ もめんわた。〔福惠全書、錢穀部、解給〕其布花係㆓禦㆑寒所㆑用。

【布貨】55フクワ 新の王莽の制した錢の名。大布・次布・弟布・壯布・中布・差布・厚布・幼布・幺布・小布の十種がある。小布は長さ一寸五分、重さ十五銖、小布一百と記し、小布以上、順次に、長さ一分、重さ一銖を加へ、大布は長さ二寸四分、重さ一兩、値、千錢に至る。〔漢書、食貨志下〕大布・次布・弟布・壯布・中布・差布・厚布・幼布・幺布・小布、小布長寸五分、重十五銖、文曰㆓小布一百㆒、自㆓小布㆒以上、各相長一分、相重一銖、文各爲㆓其布名㆒、直各加㆓一百㆒、上至㆓大布㆒、長二寸四分、重一兩而直㆓千錢㆒矣、是爲㆓布貨十品㆒。

【布荒】56フクワウ 畫かない白布の荒。荒は柳車の上を覆ふ布。〔禮、喪服大記〕士布帷布荒一池。〔疏〕荒、蒙也、謂㆓柳車上覆㆒、云云、士帷及荒者、白布爲㆑之、而不㆑畫也。

【布畫】57フクワク はかりごとをする。畫策する。〔金史、方伎、武禎傳〕武禎子亢、寡㆓言笑㆒、不㆓妄交㆒、嘗與㆓一學生㆒終日相對、握㆑籌布㆑畫、目炯炯若㆑有㆑所㆑營、見者莫㆑測也。

【布闊】58 pu^4 k'uo^4 相撲。すまふ。布庫(71)に同じ。

【布冠】59フクワン 布製の冠。喪中に用ひる。〔戰國、秦策〕梁君伐㆑楚勝㆑齊、制㆓韓趙之兵㆒、驅㆓十二諸侯㆒、以朝㆓天子於孟津㆒、後子死身布冠而拘㆓於秦㆒。〔宋書、禮志五〕太古布冠、齊則緇㆑之。

【布裙】60フクン 布製の下裳。〔後漢書、王良傳〕良妻布裙、曳㆑柴從㆓田中㆒歸。〔魏志、管寧傳〕寧常著㆓皁帽布襦袴布裙㆒、隨㆑時單複。〔呉志、蔣欽傳〕妻妾布裙。〔白居易、贈㆑內詩〕梁鴻不㆓肯仕㆒、孟光甘㆓布裙㆒。

【布刑】61フケイ 法律制度をしき施す。〔國語、周語中〕布㆑刑而不㆑庸、再逆矣。

【布惠】62フケイ 恩惠を施す。〔史記、秦紀〕孝公於㆑是布㆑惠、振㆓孤寡㆒、招㆓戰士㆒、明㆓功賞㆒。〔史記、李斯傳〕布㆑惠施㆑德、下得㆓百姓㆒、上得㆓羣臣㆒、陰取㆓齊國㆒。〔李尤、旄城門銘〕順陽布㆑惠、貧乏是振。

【布景】63フケイ ㊀畫工が紙幅の廣狹にしたがつて風景を配置する。〔宣和畫譜、墨竹敍論〕至㆓於布㆑景致㆑思、不㆑盈㆓咫尺㆒、而萬里可㆑論、則又豈俗工所㆓能到㆒哉。㊁演劇の際、場面の景物を設けること。〔辭海〕今稱㆔演劇時、布㆓置各個場面之景物㆒、曰㆓布景㆒。㊂フエイ 影をひろげる。〔郗昂、老人星賦〕恒星轉㆑耀而同㆑煥、布㆑景搖㆑輝以相薄。

【布敬】64フケイ 明、戴景文（**5－11685**・・168）の字。

【布慶】65フケイ 土司の名。青海の南境、木魯烏蘇河の東岸。今、玉樹土司二十五族中の札武三族の一。布慶班右にも作る。西寧府志は班石に作り、胡林翼圖は班詩に作る。今、節綜ともいふ。

【布教】66フケウ ㊀教をしく。教化を普及させる。〔王儉、郊殷議〕明堂有㆓五室㆒、天子每月、於㆓其室㆒聽㆓朔布教㆒。〔陸倕、石闕銘〕布㆓教都畿㆒、班㆓政方外㆒。〔牛弘、明堂議〕弘風布教、作㆓範於後㆒。㊁佛教法をひろめる。〔法華玄義、十〕如來布教之元旨。

【布絹】67フケン 布と絹。布帛。〔墨子、辭過〕故作誨㆓婦人㆒、治㆓絲麻㆒、梱㆓布絹㆒、以爲㆓民衣㆒。〔呉志、呂岱傳〕初在㆓交州㆒、歷㆑年不㆑餉㆑家、妻子饑乏、權聞㆑之歎息、加㆓賜錢米布絹㆒、歲有㆓常限㆒。〔宋書、呉喜傳〕錢米布絹、無㆓船不㆑滿。〔南齊書、和帝紀〕（中興元年十二月）甲戌、給㆓大司馬錢二千萬、布絹各五千匹㆒。

【布憲】68 フケン ㊀周官の名。秋官の屬。刑禁を明示することを掌る。〔周禮、秋官、布憲〕掌レ憲ニ邦之刑禁一。〔陸倕、石闕銘〕經禮垂ニ布憲之文一。〔注〕善曰、周禮曰、布憲中士二人。㊁法令を宣示すること。〔國語、周語下〕布レ憲施ニ舍於百姓一。〔管子、立政〕正月之朔、百吏在レ朝、君乃出レ令、布ニ憲于國一。

【布襺】69 フケン 布とわたいれ。〔地理通釋〕河東道、古冀州之境、今十有九州、厥賦布襺。

【布言】70 フゲン 漢、季布の然諾をいふ。季布（3－6965‥220）を見よ。〔顏延之、陶徵士誄〕然諾之信、重ニ於布言一。〔注〕善曰、漢書曰、季布楚人也、諺曰、得ニ黄金百兩一、不レ如レ得ニ季布一諾一。

【布庫】71 pu^4 k'u^4 滿洲語で相撲をいふ。〔郎潛紀聞、六〕一曰布庫、相撲爲レ戲也、徒手博擊、分レ曹角レ力、伺レ隙蹈レ瑕、不三專恃ニ匹夫之勇一。

【布庫里】72 フコリ 山名。滿洲遼寧省安圖縣。長白山の東。〔東華錄、一〕山之東有ニ布庫里山一、山下有レ池、曰ニ布爾湖一。

【布袴】73 フコ ㊀布製の袴。〔魏志、閻溫傳、注〕又轉詣ニ北海一、著ニ絮巾布袴一、常於ニ市中一販ニ胡餠一。〔南史、周弘正傳〕弘正綠絲布袴繡ニ假種一、軒昂而至。〔廣州先賢傳〕常衣ニ布袴一、鄕邑歎慕。㊁ホウコ ホコ 袍に下襲を著て、指貫をはくこと。〔桃華蘂葉、布袴事〕常袍に着ニ下重・指貫一、是を布袴といふ。〔字類抄〕布袴、ほうこ、ほこ。

【布鼓】74 フコ 布張りの大鼓。布鼓毋レ過ニ雷門一を見よ。

【布鼓毋レ過ニ雷門一】75 フコライモンヲスグルナカレ 雷門の鼓は聲が大きくて洛陽に聞える程であるから、聲が出ない布鼓を以て雷門を過ぎれば、笑辱をとる故其の門を過ぎるなと戒めること。雷門は會稽城の門。〔漢書、王尊傳〕尊曰、毋下持ニ布鼓一過中雷門上。〔注〕師古曰、雷門、會稽城門也、有ニ大鼓一、越擊ニ此鼓一、聲聞ニ洛陽一、布鼓、謂ニ以レ布爲レ鼓、故無レ聲。〔李商隱、獻ニ韓郎中琮一啓〕捧ニ爝火一以干ニ日御一、動以光銷、抱ニ布鼓一以詣ニ雷門一、忽然聲寢。

【布擭】76 フコ 分解する。あまねくゆきわたる。布濩。〔說文〕擭、一曰、布擭也。〔段注〕此卽今之布濩字也、劉逵注ニ吳都賦一曰、布濩、遍滿貌。〔廣韻〕擭、布擭、猶ニ分解一也。

【布濩】77 コフ ㊀分散のさま。あまねくゆきわたるさま。布護。〔史記、司馬相如傳〕布ニ濩閎澤一、延ニ曼太原一。〔揚雄、劇秦美新〕布濩流衍。〔注〕翰曰、布濩、分散貌。〔後漢書、馬融傳〕鋪于布濩、蓶扈蘣熒、惡可ニ殫形一。㊁密生するさま。〔左思、蜀都賦〕藂蕪布ニ濩於中阿一、風連莚ニ蔓於蘭皐一。〔注〕銑曰、布濩、繁密貌。

【布護】78 ゴフ 分散するさま。布濩。〔司馬相如、封禪文〕非三唯徧ニ之我一、氾布ニ護之一。〔注〕向曰、布護、分散皃。〔漢書、司馬相如傳下〕匪ニ唯徧レ我、氾布ニ護之一。〔注〕師古曰 布護、言ニ遍布一也。〔後漢書、西南夷傳論〕布ニ護巴庸之外一。〔張衡、東京賦〕聲教布護、盈ニ溢天區一。〔注〕綜曰、布護、猶ニ散被一也。〔白居易、賀ニ雲生不レ見ニ日蝕一表〕和氣周流、密雲布護。

【布護署】79 フゴショ 隼人司の唐名。〔職原抄〕隼人司、唐名布護署。

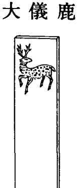
【布護將軍】80 フゴシャウグン 隼人正の唐名。〔職原抄〕隼人司、正一人、唐名、布護將軍。

【布護主簿】81 フゴシュボ 隼人令史の唐名。〔職原抄〕隼人司、令史、唐名、布護主簿。

【布護少尹】82 フゴセウイン 隼人佑の唐名。〔職原抄〕隼人司、佑、唐名、布護少尹。

【布功】83 フコウ 功績をしきあらはす。〔公羊、僖、三十一〕山川有下能潤ニ於百里一者上、天子秩而祭レ之。〔注〕此皆助レ天宣レ氣布レ功、故祭レ天及レ之。〔史記、五帝紀〕讙兜曰、共工旁聚、布レ功可レ用。

【布侯】84 フコウ ㊀布で造つたまと。大夫は虎豹を畫き、士は鹿豕を畫く。〔儀禮、鄕射禮〕大夫布侯、畫以ニ虎豹一、士布侯、畫以ニ鹿豕一。㊁pu^4 hou^4 申陳べお伺ひする。



布侯（清會典圖）

【布告】85 フコク ㊀告示して一般にしらせる。〔周禮、春官、大史、頒ニ告朔于邦國一、注〕鄭司農云、頒、讀爲レ班、班、布也、以ニ十二月朔一、布ニ告天下諸侯一。〔史記、呂后紀〕事已布ニ告諸侯一。〔漢書、高帝紀下〕布ニ告天下一、使三明ニ知朕意一。〔後漢書、杜根傳〕乃下レ詔布ニ告天下一、錄ニ其子孫一。㊁民國では事實の宣示及び特定事項について一般人民に布告する公文書の形式を布告といひ、後之を改めて大總統が人民に宣示するには告令を用ひ、各官署が人民に宣示するには示を用ひた。佈告。

【布國】86 フコク 普魯西。プロシヤ。〔清史稿、邦交志〕德意志、均ニ照布國條約一辦理。

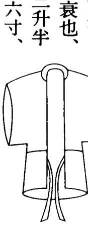
【布穀】87 フコク 鳥の名。呼子鳥の異名。鳲鳩。ふふどり。ほほどり。〔爾雅、釋鳥、鳲鳩鴶、注〕今之布穀也、江東呼爲ニ穫穀一。〔列子、天瑞〕鷂之爲レ鸇、鸇之爲ニ布穀一、布穀久復爲レ鷂。〔後漢書、襄楷傳〕布穀鳴ニ於孟夏一、蟋蟀吟ニ於始秋一。〔魏志、東夷傳、注〕烏丸、云云、俗識ニ鳥獸孕乳一、時以ニ四節一耕種、常用ニ布穀鳴一爲レ候。〔杜甫、洗兵馬行〕田家望望惜ニ雨乾一、布穀處處催ニ春種一。〔蘇軾、五禽言詩〕溪邊布穀兒、勸ニ我脫ニ破袴一。〔和名抄、羽族部、鳥名〕布穀鳥、布布止利。〔箋注〕布布止利、作ニ保保利一、伊勢廣本同、與ニ類聚名義抄・伊呂波字類抄一合。

【布懇】88 pu^4 k'en^3 陳述して依頼する。

【布坐】89 ザフ 敷物を布く。〔唐書、歐陽詢傳〕嘗行見ニ索靖所レ書碑一、觀レ之去數步、復返、及レ疲乃布坐、至下宿ニ其傍一三日上、乃得レ去。

【布晒】90 ヌノザラシ ㊀布を洗つて日に晒すこと。曝布。㊁清流に布を晒す有樣を謳つた歌謠竝に所作事の總稱。

【布衰】91 フサイ 三升半の布でつくつた喪服で、長さ六寸、廣さ四寸。衰は縗、喪服。〔禮、雜記〕有司麻衣布衰布帶。〔疏〕布衰、麤衰也、皇氏云、以ニ三升半布一爲レ衰、長六寸、廣四寸、綴ニ於衣前一、當ニ胷上後一。



大功布衰（三禮圖）

【布在】92 フザイ ㊀書き列ねてある。〔中庸〕子曰、文武之政、布在ニ方策一、其人存則擧、其人亡則其政息。㊁並び居る。〔日本政記、高倉天皇論〕當時賊黨、布ニ在朝廷一。

【布爪】93 フサウ 爪をつらねる。爪を延べる。〔列子、黃帝〕傅レ翼戴レ角、分レ牙布レ爪、仰飛伏走、謂ニ之禽獸一。〔何夢桂、蛟龍歌〕布レ爪曾雲興、鼓レ鬐欻電放。

【布莊】94 pu^4 chuang^1 綿布問屋。

【布槽】95 フサウ 布で作つた槽。戰爭の時、馬を飼ふに用ひる。〔海錄碎事、武、軍旅〕布槽、征行飼レ馬、取ニ其輕便一。

【布縿】96 フサウ 布ときぬ。布繰に同じ。〔墨子、非命下〕多治ニ麻統葛緒一、捆ニ布縿一、而不ニ敢怠倦一者何也。〔閒詁〕縿、當下依ニ王校一作上レ繰。

【布繰】97 フサウ 布ときぬ。布帛。〔墨子、天志下〕角ニ人之府庫一、竊ニ人之金玉蚤絫一者乎。〔閒詁〕王引之云、蚤絫二字、義不レ可レ通、蚤絫當レ爲ニ布喿一、隸書布字作レ布、蚤字作レ蚤、二形相似、故布譌爲レ蚤、荀子儒效篇、必蚤正以待レ之也、新序雜事篇、蚤作レ布、喿蓋繰之借字、布繰卽布帛。

【布藻】98 フサウ 藻をしきつらねる。〔萬齊融、三日綠潭篇〕垂レ菱布レ藻如ニ妝鏡一、麗日晴天相照映。

【布索】99 フサク ぬので作つたつな。〔後漢書、楊璇傳〕盛ニ石灰於車上一、繫ニ布索於馬尾一。

【布笮】100 フサク 竹で編んだ簀をしく。〔孔武仲、江豚詩〕舟人相語、驚瀾將レ作、亟入ニ灣浦一、踏レ檣布レ笮。

【布幘】101 フザク 布で造つた頭巾。又、その頭巾をつけること。〔後漢書、禮儀志下〕臨ニ庭中一、武吏布幘大冠。〔唐書、蕭銑傳〕率ニ官屬一、細衰布幘、詣ニ軍門一謝曰、當レ死者銑爾、百姓非レ罪也、請無ニ殺掠一。

【布薩】102 フサツ 佛もと梵語 Upavasatha が巴利語 Uposatha に變じ、梵語の原形を失つて Posadha となつた。又、布沙他・布灑他・逋沙他・褒沙陀・布薩陀婆ともいふ。淨住。善宿。又、長養の意。出家と在家で義が異る。出家の法では半月毎に（十五日と二十九日、或は三十日）衆僧を集めて戒經を說き、比丘をして戒中に淨住して、能く善法を長養させる意味。在家の法では六齋日に八戒を持して善法を增長させること。又、優補陀婆といひ、斷增長と譯す。惡を斷ち善を長ずる義。又、鉢羅帝提舍耶寐と名づけて、我對說と譯す。此の日、人に向つて所犯の罪を懺悔する。〔智度論、十三〕今日誠心懺悔、身清淨、口清淨、意清淨、受ニ行八戒一、是則布薩、秦言ニ善宿一。〔玄應音義、十八〕布沙他或作ニ逋沙一、此云ニ增長一、謂、半月叉磨增ニ長戒根一、叉磨此云レ忍、謂三

容二恕戒罪一、舊名レ儀者訛略也。

〖布薩護〗103フサツゴ 佛八戒齋の異名。在家の人に就いていふ。在家の人は八戒を受持するを以て布薩とするからである。護は戒の別名。〔智度論、十三〕受二持八戒一、是則布薩。〔行事鈔、上四〕倶舍論名二八戒一爲二布薩護一也、明了言、在レ心名レ護、在二身口一名レ戒也。

〖布薩食〗104フサツジキ 佛齋日の淨食。〔羯磨疏、四上〕布薩食者、亦是淨齋之食耳。

〖布薩日〗105フサツニチ 佛布薩の法を行ふ日。毎月十五日と二十九日、或は三十日の兩日である。

【布衫】106フサン 布の單衣。〔白居易、王夫子詩〕紫綬朱紱青布衫、顏色不レ同而已矣。〔唐書、儀衞志上〕平巾幘、黃絲布衫。〔楊萬里、側レ溪解レ纜詩〕蓬萊雲氣君休レ望、且下向二嚴灘一濯中布衫上。

【布傘】107 pu^4 san^3 布張りの日傘。

【布散】108フサン ❶しきちる。ちる。〔爾雅、釋天、祭レ星曰レ布、注〕布散祭二於地一。〔釋名、釋天〕夏曰二昊天一、其氣布散、皓皓也。❷施し與へる。〔大戴禮、用兵〕粒食之民、布二散厥親一。〔元史、王約傳〕俸祿所レ入、布二散姻族一、外及二貧士一。

【布算】109フサン かぞへる。算式をつらねる。〔北史、許遵傳〕於レ是布算滿レ床、大言曰、不レ出二冬初一、我乃不レ見。〔蘇軾、眞一酒歌序〕布算以步二五星一、不レ如二仰觀之捷一。

【布山】110フザン 縣名。漢、置く。今、廣西省黃縣の東。〔漢書、地理志下〕鬱林郡、縣十二、布山。

【布子】111ヌノコ 木綿の綿入。〔狂言、法師物狂〕ぬのこのおもて、小かたびら、今よりしては誰が織りてくれう。

【布旨】112フシ 旨意をあまねくしく。〔唐書、裴度傳〕帝方憂二深州圍一、欲三必出二牛元翼一、更使二度騰レ書布レ旨。

【布指】113フシ ❶指をひろげること。〔大戴禮、主言〕布レ指知レ寸、布レ手知レ尺。〔孔子家語、王言解〕夫布レ指知レ寸、布レ手知レ尺。❷布にかいた筆迹。〔薛季宣、新作二殊亭一詩〕書文兩奇絕、踪跡存二布指一。

【布施】114フシ ❶物を人に施すこと。〔國語、周語上〕享祀時至、而布施優裕也。〔莊子、外物〕生不二布施一、死何含珠爲。〔荀子、哀公〕布二施天下一。〔韓非子、顯學〕今上徵二斂於富人一、以布二施於貧家一、是奪二力儉一而與二侈墮一也。〔管子、四時〕求下有四德二賜布三施於民一者上。〔墨子、非命上〕所下以出二國家一、布中施百姓上者。〔淮南子、原道訓〕布施稟受。❶佛フセ 檀那 Dāna の譯。福利を人に施し與へる。施行は種々あるが財物を施與するを本義とする。〔大乘義章、十一〕言二布施一者、以二己財事一、分二布與他一、名レ之爲レ布、惙レ己惠レ人、目レ之爲レ施。〔維摩經、佛國品〕布施是菩薩淨土。

〖布施屋〗115フセヤ 昔、驛路に在つた官設の旅宿。

〖布施偈〗116フセゲ 佛三輪淸淨偈ともいふ。三輪とは、布施に就いて施者と受者と施物とをいふ。淸淨とは此の三輪に執著なきこと。偈とは四句の歌頌。〔心地觀經〕能施所施及施物、於二三世中一無レ所レ得、我今安二住最勝心一、供二養一切十方佛一。

【布師】117ヌノシ 姓氏。

【布翄】118フシ つばさをふせて飛ばない。國の和同するに喩へる。〔史記、楚世家〕西結二境於趙一、而北達二於燕一、三國布レ翄、則從不レ待レ約而可レ成也。〔注〕索隱曰、亦作レ翅、正義曰、三國共布レ翅、言二和同一也。

【布織】119フシ 布と染めた絲で織つた織物。〔管子、戒〕未三嘗得二人之布織一也。〔纂詁〕織、音志、染レ絲織レ之曰レ織。

【布字】120フジ 字を書きつらねる。〔李庾、西都賦〕或獻レ凱作レ銘以宣二帝功一、或布レ字綴レ行以達二皇風一。〔薛道衡、詠二苔紙一詩〕今來承二玉管一、布レ字改二銀鈎一。

【布洲】121フシウ 峽の名。江蘇省南通縣の南。〔明一統志〕布洲峽在二揚州府通州南四十里一、有二南布洲、東布洲一舊是大海、其中沙漲爲レ洲。

【布袖】122フシウ 布衣の袖。〔耶律楚材、和二正卿待制韻一詩〕布袖龍鍾兩眼塵、丹誠如レ舊白頭新。

【布繡】123フシウ ぬひとりの帛をしく。〔班固、西都賦〕若二摛レ錦與布レ繡、燭二燿乎其陂一。

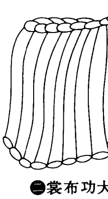
【布車】124フシヤ 布で蔽つた模樣の無い車。貴人の乘車でない。〔史記、梁孝王世家〕茅蘭說レ王、使下乘二布車一、從二兩騎一、入匿中于長公主園上。〔北史、蘇綽傳〕綽歸葬二武功一、唯載以二布車一乘一。

【布寫】125フシヤ 分布流行する。〔司馬相如、上林賦〕肸蠁布寫。〔注〕濟曰、布寫、謂二分布而流一也。

【布謝】126 pu^4 hsieh^4 謝意を申述べる。

【布祥】127フシヤウ さいはひを布く。〔呂覽、名類〕商箴云、天降レ災布レ祥、竝有二其職一、以言二禍福人或レ召レ之也。

【布裳】128フシヤウ ❶下衣を布くこと。〔左氏、定、四〕左司馬曰、我實失レ子、可哉、三戰皆傷、曰、吾不レ可レ用也已、句卑布レ裳、剄而裹レ之、藏二其身一、而以二其首一免。〔會箋〕唯尙未レ死、故布二裳於前一而剄レ之。❷布で造つた下衣。〔史記、禮書〕大路越席、皮弁布裳。〔注〕正義曰、按、襞二積素布一爲レ裳也。



大功布裳❷
（三禮圖）

【布上】129フジヤウ ❶ぬのの上。〔後漢書、董卓傳〕有レ人書二呂字於布上一、負而行二於市一、歌曰、布乎、有二告レ卓者一、卓不レ悟。❷pu^4 shang^4 割當てる。とりわける。

【布手】130フシユ 手をひろげる。〔大戴禮、主言〕布レ指知レ寸、布レ手知レ尺。〔孔子家語、王言解〕夫布レ指知レ寸、布レ手知レ尺。

【布種】131フシユ 種をまく。播種。〔淮南子、原道訓、注〕布二種百穀一、神農之播レ穀也因レ苗以爲レ教、因二苗之生一、而長二育之一、以爲二後世之常教一也。

【布襦】132フジユ 布製の短衣。〔北史、蕭寶夤傳〕著二烏布襦一、腰繫二千許錢一。

【布戎】133フジユウ 兵をしきつらねる。〔國語、周語下〕王以二黃鍾之下宮一、布二戎于牧之野一、故謂二之厲一、所三以厲二六師一也。

【布順】134フジユン すなほに流行する。〔說苑、說叢〕天道布順、人事取予。

【布序】135フジヨ 順序を立ててしきならべること。〔班固、靈臺詩〕三光宣レ精、五行布序。

【布絮】136フジヨ ❶布と綿。〔鹽鐵論、本議〕郡國或令三民作二布絮一。❷布製の綿入。〔白居易、村居苦寒詩〕北風利如レ劍、布絮不レ蔽レ身。

【布信】137フシン まことをしき廣める。〔北史、于翼傳〕翼爲二渭州刺史一、翼兄寔先莅二此州一、頗有二惠政一、翼又推レ誠布レ信。

【布新】138フシン 新しくする。新制を發布する。〔左氏、昭、十七〕申須曰、彗所二以除一レ舊布レ新也。〔張衡、週天大象賦〕或除レ舊以布レ新、顯二陳盛而姜絕一。〔徐陵、梁禪レ陳策文〕長彗橫レ天、已徵二布新之兆一、璧日斯既、實表二更レ姓之符一。

【布水】139フスイ ❶峯の名。安徽省歙縣の西北。黃山三十六峯の一つ。〔陳櫟、黃山堂賦〕既白懸二於布水一、亦紅盎二於砂泉一。❷瀑布の名。江西省永修縣の西南の雲居山。形が布を曳いたやうであるから名づける。〔明一統志〕布水、在二建昌縣西四十里一、以下歐山有二湫澤一、其湧泄垂流三十餘丈、形如上曳レ布、故名。

【布世】140フセイ 世間にひろめる。〔元田東野、幼學綱要序〕鋟レ梓以布レ世。

【布生】141フセイ つらなつて發生する。〔書、禹貢、篠簜既敷、傳〕篠竹箭、簜大竹、水去已布生。

【布西】142フセイ 地名。もと黑龍江の西の布特哈地方。明の朶顏衞の地。民國、布西設治局を置く。〔淸史稿、地理志〕黑龍江、附志、布西直隸廳。

〖布西門〗143ブツシメン 人種の名。アフリカ南部に居住する文化の程度の甚だ低い人種。Bushmen の音譯。

【布政】144フセイ 政治をしき行ふ。施政。〔詩、大雅、棫樸、周王于邁、六師及レ之、疏〕既有二賢臣一、爲レ王布レ政。〔左氏、成、二〕詩曰、布レ政優優、百祿是遒。〔史記、孝文紀〕人主不レ德、布政不レ均。〔白虎通、辟雍〕布政之宮。〔張衡、東京賦〕布レ政頒レ常。〔後漢書、郎顗傳〕布政之宮。〔李尤、明堂銘〕布政之室、上圓下方、體レ天則レ地、在二國正陽一。

〖布政司〗145フセイシ 官署の名。明の時、行中書省を改め置く。全國を十三布政司に分ち、司毎に、布政使左右各〻一員があり、政治・財政を掌る。淸末、總督巡撫に直屬す。布政使を見よ。〔明史、職官志四〕宣德三年、罷二交阯布政司一、除二兩京一外、定爲二十三布政司一、初置二藩司一、與二六部一均重、布政使、入爲二尙書侍郎一、副都御史毎出爲二布政使一、宣德正統間猶然、自後無レ之。〔續文獻通考、職官考、布政使司〕臣等謹按、馬端臨考、有二承宣使一、始二於唐一、迄二於宋一、似レ同二於今之承宣布政使一、然

考㆘政和時、改㆓觀察留後㆒爲㆗承宣使㆖實非㆓今之布政使司比㆒也、今之布政司、昉㆓於明初行中書省㆒唐書百官志、官司之別爲㆑省、如㆓尚書・黃門・中書・祕書・殿中・尚書六省㆒是也、明旣改㆓行中書省㆒爲㆓十三承宣布政司㆒、而向所㆑稱㆓各道各路㆒者、遂析爲㆓十三省之名㆒、是布政司固當㆑列㆓於行中書省之後㆒、然明代改設以來、布政司爲㆓一方守土官之首㆒、與㆓都指揮使・提刑按察使㆒稱㆓三司㆒、或布按並稱、則曰㆓藩臬兩司㆒、兩司設官、互有㆓兼銜㆒、故置㆓於諸按察司前㆒。

【布政使】146 フセイシ　官名。明、置く。布政司の長官。全省の民政及び財政を掌る。清末、總督巡撫に直屬す。布政司を見よ。〔續文獻通考、職官考、布政使司〕明承宣布政使司、左右布政使各一人、左右參政參議無㆓定員㆒云云、布政使掌㆓一省之政㆒、朝廷有㆓德澤禁令㆒、承流宣布、以下㆓於有司㆒。〔皇朝文獻通考、職官考、直省官員〕承宣布政使司、布政使掌㆓一省之政㆒、司㆓錢穀之出納㆒、十年會㆓戶版㆒、均㆓稅役㆒、登㆓民數田數㆒以達㆓于戶部㆒。〔清會典事例、吏部、官制〕又議准、外官官制、向以㆓布政使司㆒領㆑之、但督撫總制㆓百官㆒、布按二司、皆其屬吏、應㆘首列㆓督撫㆒、次列㆗布按㆖云云、各省布政使司、直隸布政司一人、經歷一人、理問一人、庫大使一人、山東布政使一人、經歷一人、庫大使一人、山西布政使一人。〔清國行政法汎論、布政使、職權〕布政使者、爲㆘次㆓於督撫㆒管㆓掌一省民政㆒之重職㆖、明初未㆑設㆓督撫㆒之時、布政使・按察使、與㆓指揮使㆒並稱㆓三司㆒、管㆓掌一省政令㆒、及㆑設㆓督撫㆒、三司之職、不㆔復如㆓舊時㆒矣。

【布政牓】147 フセイバウ　節度使となつた者が、其の藩鎭に赴任しないで任地に對して下す命令。〔郤掃編〕本朝節度使、雖㆑不㆑赴㆑鎭、然亦別降㆓敕書㆒、宣㆓諭本鎭軍民㆒、而爲㆓節度使㆒者、亦自給㆓牓本鎭㆒、謂㆓之布政牓㆒。

【布精】148 フセイ　純一清明の德をしきひろげる。〔河圖記〕坤德布㆑精、上爲㆓衆星㆒。

【布昭】149 フセウ　しきあらはす。廣く天下に明示する。〔書、伊訓〕惟我商王、布㆓昭聖武㆒。〔蔡傳〕布照、敷著也。

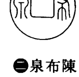
【布席】150 フセキ　座席をしき設ける。〔戰國、秦策〕妾以㆑無㆑燭、故常先至、掃㆑室布㆑席。〔史記、袁盎傳〕上幸㆓上林㆒、皇后愼夫人從、其在㆓禁中㆒、常同㆑席坐、及㆑坐郎署長布㆑席、袁盎引㆓卻愼夫人坐㆒。

【布積】151 フセキ　廣く諸處に積む。〔管子、輕重甲〕請取㆓君之游財㆒、而邑里布㆓積之㆒。

【布設】152 フセツ　しきまうける。敷設。

【布設水雷】153 フセツスイライ　水中の或る場所に沈めおく水雷。敷設水雷。

【布泉】154 フセン　❶貨幣をいふ。布錢に同じ。〔管子、輕重丁〕天下諸侯、載㆓黃金・珠玉・五穀・文采・布泉㆒輸㆑齊。〔纂詁〕布亦錢也。〔新語、本行〕散㆓布泉㆒以極㆓耳目之好㆒。❷南北朝時代、北周・陳に行はれた錢の名。〔周書、武帝紀上〕保定元年七月、更鑄㆑錢、文曰㆓布泉㆒、以㆑一當㆑五、與㆓五銖錢㆒竝行。



❷陳布泉（金石索）

【布扇】155 pu^{4} shan^{4}　布製の扇。

【布錢】156 フセン　布と錢。共に中國上代の通貨で、錢は形が圓く、多く中央に孔のあるものをいひ、布は多く凸形のものをいふ。尙、布は戰國時代に多く用ひられ、更に新の王莽の時にも復活された。布貨(55)を見よ。〔漢書、王莽傳中〕吏民出入、持㆓布錢㆒以副㆓符傳㆒、不㆑持者、厨傳勿㆑舍、關津苛留。

【布氈】157 フセン　毛織りのむしろをしきひろげる。〔酉陽雜俎、境異〕鄯鄯之東、龍城之西南、地廣千里、皆爲㆓鹽田㆒、行人所㆑經、牛馬皆布㆑氈臥焉。

【布襜】158 フセン　ぬので作つたまへだれ。〔晉書、肅愼傳〕俗皆編㆑髮、以㆑布作㆑襜、徑尺餘、以蔽㆓前後㆒。

【布善】159 プシヤン　清、滿洲鑲紅旗人。姓は伊爾根覺羅氏。太宗の時、屢〻征討に從ひ、護軍統領を拜命し、議政大臣に進む。順治の閒、關に入り、江南を征して、軍中に卒す。〔清史稿、二百三十四〕・〔國朝耆獻類徵、二百六十四〕。

【布素】160 フソ　❶素樸な布衣。模樣の無い布衣。〔宋書、禮志二〕皇后終㆑除之日、不㆑宜㆔還著㆓重服㆒、直當㆔釋㆓除布素㆒而已。〔宋史、世家、留從效傳〕在㆑郡專以㆓勤儉養㆑民爲㆑務、常衣㆓布素㆒、置㆓公服於中門之側㆒、出則衣㆑之。〔宋史、道學、李燔傳〕被服布素、雖㆑貴不㆑易。❷貧乏で質素な人。〔王融、習㆓校部曲㆒疏〕參㆓國士之恥㆒、同㆓布素之遊㆒耳。〔任昉、王文憲集序〕布素表㆓於造次㆒。〔注〕濟曰、布素、貧素人也。

【布總】161 フソウ　布で髮を束ねること。喪に服する人の用ひるもの。〔儀禮、喪服〕子折㆓笄首㆒以笄、布總。〔呂覽、審應〕王縞素布總。〔注〕縞素布總、喪國之服。

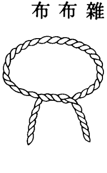
【布粟】162 フソク　布と粟。〔後漢書、安帝紀〕賜㆓民爵及布粟㆒各有㆑差。〔韓愈、司徒云云許國公神道碑銘〕贈㆓太尉㆒、賜㆓布粟㆒、其葬物、有司官給㆑之。

【布代】163 フタイ　壻をいふ。布袋(167)の❷に同じ。〔事物異名錄、倫屬、壻〕三餘帖、馮布少時贅㆓於孫氏㆒、其外父有㆓煩瑣事㆒、輒曰、俾㆓布代㆑之至㆒、今吳中以㆑壻爲㆓布代㆒。

【布苔】164 フノリ　海藻の名。ほんふのり。すぢふのり。てうせんふのり。ごたうふのり。やなぎふのり。暗綠紅色の小藻で、糊料・食用に供せられる。

【布泰】165 ブタイ　清、滿洲正黃旗人。字は階平。姓は瓜爾佳氏。康熙の閒、內閣侍讀學士となり、費揚古に從つて厄魯特を征し、右翼四旗總尉に至る。〔碑傳集、二十一〕。

【布帶】166 フタイ　布製の帶。ぬのをび。〔儀禮、喪服〕布帶繩屨。〔禮、雜記上〕有司麻衣布衰布帶。〔疏〕布帶、以㆑布爲㆑帶。



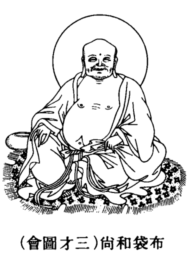
齊衰布帶（禮器圖）

【布袋】167 フタイ　❶ぬので造つた袋。〔隋書、食貨志〕進㆓乾薑㆒、以㆓布袋㆒貯㆑之。❷入りむこ。養子壻。布代。〔陔餘叢考、布袋〕俗以㆓贅壻㆒爲㆓布袋㆒、按、天香樓偶得云、三餘帖、馮布少時贅㆓於孫氏㆒、其外舅有㆓瑣事㆒、輒曰、令㆓布代㆑之、布袋訛本㆑此。〔稱謂錄、贅壻、布袋〕猗覺寮雜記、世號㆓贅壻㆒爲㆓布袋㆒、多不㆑曉㆓其義㆒、或以爲、如㆘入㆓布袋㆒、氣不㆖得㆑出㆑頂、故名、附舟入㆑浙、有㆓一同舟者㆒、號㆓季布袋㆒、或問曰、如何入舍壻謂㆓之布袋㆒、衆無㆑語、忽一人曰、此語訛也、昔人家有㆑女無㆑子、恐㆓世代自㆑此絕㆒、不㆑肯㆓嫁出㆒、招㆑壻以補㆓其代㆒、故謂㆓之補代㆒耳。❸飽食煖衣に甘んずるのをのしる語。〔南部新書、己〕杜邠公飲食洪博、旣飽卽寢、人有㆑諫㆑非㆓攝生之理㆒、公曰、君不㆑見、布袋盛㆑米、放倒卽慢。❹ホテイ　㋑布袋竹の略。布袋竹を見よ。㋺佛布袋和尙の略。布袋和尙を見よ。

【布袋鵝】168 pu^{4} tai^{4} e^{2}　信天翁。あほうどり。

【布袋竹】169 ホテイチク　竹の一種。幹が短くて節が多く、杖などをつくるに用ひる。ごさんちく。佛面竹。人面竹。〔古今要覽稿、草木下〕。

【布袋和尙】170 ホテイヲシヤウ　後梁の高僧。明州奉化縣の人。名は契此。號は定應大師。奉化の岳林寺に住す。常に杖を以て一布袋を荷ひ、供身の具は盡く其の中に貯へた。貞明中、示寂す。我が國では、俗に七福神の一とし、肥滿の僧像を畫く。〔景德傳燈錄、二十七〕明州奉化縣布袋和尙者、未㆑詳㆓氏族㆒、自稱㆓名契此㆒、形裁腲脮、蹙額皤腹、出㆑語無㆑定、寢臥隨㆑處、常以㆑杖荷㆓一布囊㆒、凡供㆑身之具、盡貯㆓囊中㆒云云、時號㆓長汀子布袋師㆒也、云云、示㆓人吉凶㆒、必應㆑期無㆑忒、云云、梁貞明三年丙子三月、師將㆑示㆑滅、於㆓嶽林寺東廊下㆒、端㆓坐磐石㆒、而說㆑偈曰、彌勒眞彌勒、分身千百億、時時示㆓時人㆒、時人自不㆑識、偈畢、安然而化、其後他州有㆑人、見㆘師亦負㆓布袋㆒而行㆖、於㆑是四衆競圖㆓其像㆒。〔日本七福神傳、凡例〕國俗以㆓吉祥・辯才・多聞・大黑四天・布袋和尙・南極老人、及吾國蛭子神㆒、稱㆓七福神㆒祭㆑之。

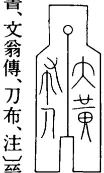


布袋和尙（三才圖會）

【布袋裏老鴉】171 フタイリノラウア　布で作つた袋の中に入れられた老いぼれ烏。生きてゐても死んだと同じやうなのをいふ。〔通俗編、禽魚、布袋裏老鴉〕續燈錄、欽山邃曰、布袋裏老鴉、雖㆑活如㆑死。

【布刀】172 フタウ　❶峒人（中國南方地方の土人の一種）が布を織る機の名。〔陸次雲、峒谿纖志〕峒人織具也、峒人不㆑用㆓高機㆒、以㆓布刀㆒代㆑之、刀用㆓山木㆒爲㆑之、形如㆑刀、長㆓於布之闊㆒、銳㆓其兩端㆒、背厚而楕如㆓弓弧㆒、刃如㆑弦而薄、剞㆓其背之腹㆒

以納レ緯、而窓二其鋭一而吐レ之以當レ梭、緯既吐、則兩手扱二其兩端一以代レ箸。㊁婦人がぬのをきりさくに用ひる小刀。一説に、細密な蜀布と、環のある蜀刀とをいふ。〔漢書、文翁傳、刀布、注〕晉灼曰、刀、書刀、布、布刀也、云云、布刀、謂下婦人割二裂財布一刀上也、師古曰、刀、凡蜀刀有レ環者也、布、蜀布細密也、二者蜀人作レ之、皆善。



黃布刀（大三才圖會）

【布達】173 pu^4 ta^2 しき及ぼす。一般に廣く知り渡らせる。通知する。ふれる。又、ふれ。

〔布達拉〕174 ブタラ 寺の名。西藏拉薩の西北、馬爾布里小山の上にあり、又、伊克照・大招寺といひ、俗に老木郎といふ。孤峯が特起し、之によつて樓を築く。唐の文成公主の建立と傳へ、現在、達賴喇嘛の居所で、西藏第一の寺。

〔布達佩斯〕175 ブダペスト 匈牙利の首都。Budapest の音譯。

【布衲】176 フダフ ころも。布の僧衣。〔委巷叢談〕七九六十三、布衲兩頭担、八九七十二、猫狗尋二陰地一、九九八十一、犁耙一齊出。

〔布衲子〕177 フダフシ 果實の名。李に似て、色は黃。〔桂海果志〕布衲子、似レ李而黃。

【布丹】178 ブタン ㊀清、滿洲正紅旗人。姓は富察氏。謚は勤毅。太宗の時、大同・錦州を攻め、順治の閒、唐通を一片石に敗り、正紅旗蒙古副都統に累擢さる。〔清史稿、二百三十六〕・〔國朝耆獻類徵、二百六十五〕・〔滿洲名臣傳、十二〕。㊁ブータン 一に不丹に作る。ヒマラヤ山脈東部の南斜面の小獨立國。Bhutan の音譯。〔清史稿、邦交志〕英吉利、哲孟雄實爲二前藏屏蔽一、西人呼爲二布丹國一。

【布單】178′ フタン 布毯に同じ。

【布毯】179 フタン 祭祀の調度の一。遷宮・遷座の時の御靈代（ミタマシロ）の通御、又は天皇が大嘗宮に行幸の時、其の道筋に敷く白布。多くは其の上に簀薦（スゴモ）を敷く。布單。〔內裡式、朝賀式〕鋪二六幅布毯一。

【布地】180 フチ 地にしく。地面にしきつらねる。地面一杯。〔杜甫、望二牛頭寺一詩〕傳レ燈無二白日一、布レ地有二黃金一。

【布致】181 フチ 配置のおもむき。〔宣和畫譜、墨竹〕唯士人則不レ然、未二必能工一、所謂形似、但命意布致、灑落疎枝、秀葉初不レ在レ多。

【布置】182 フチ くばりあはせ。又、くばりならべる。配置。〔左氏、昭、元、爲二五陳一以相離、疏〕相離者、布置使二相遠一也。〔文心雕龍、書記〕布二置物類一、撮二題近意一。〔續畫品〕毛稜善二于布置一、略不レ煩レ草。

〔布置安排〕183 フチアンバイ 物を適當の位置に散布し、之を順序よく排列すること。

〔布置之妙〕184 フチノメウ くばりあはせのうまさ。おきならべかたの巧妙さ。〔讀書餘滴、松島〕布置之妙、有二巧畫不レ能レ狀者一。

【布帳】185 フチャウ 布製のとばり。〔晉書、元帝紀論〕布帳練帷、詳刑簡化、抑二揚前軌一、光二啓中興一。

【布暢】186 フチャウ しきのびる。廣くゆきわたること。〔張協、洛禊賦〕和風穆以布暢、百卉曄而敷芬。

【布陳】187 フチン ㊀しきならべる。陳布。羅布。〔荀子、王霸〕所四以爲三布二陳於國家刑法一者。〔新語、資質〕卿士列位、布二陳宮堂一。㊁ちりぢりになる。分離してちらばる。〔越絶書、越絶內傳陳成恒〕手足異レ處、四支布陳。

【布陣】188 フヂン 陣を布く。陣勢を排列する。〔唐書、郝廷玉傳〕它日、魚朝恩聞三其善二布陣一、請レ觀レ之。〔駱賓王、破賊露布〕運レ營布レ陣、踞レ險揚レ兵。

【布丁】189 pu^4 ting^1 麥粉などに果實・牛乳・卵などを混じ、甘味又は香氣をつけて、煑又は燒いた食後の菓子。pudding の音譯。

【布店】190 pu^4 tien^4 布屋。木綿問屋。

【布奠】191 フテン 靈前に供物をならべる。奠は、そなへもの。〔李華、弔二古戰場一文〕布レ奠傾レ觴、哭望二天涯一。

【布土】192 フド 土をしく。〔後漢書、王霸傳〕堆レ石布レ土、築二起亭障一、自レ代至二平城一三百餘里。〔宋史、禮志十七〕大禮備二儀衞一、則有司先布レ土爲二黃道一。

【布同】193 フドウ 混同する。〔史記、夏紀〕帝卽不レ時、布二同善惡一、則毋レ功。〔注〕集解曰、孔安國曰、帝用レ臣不レ是、則賢愚並レ位、優劣同レ流故也。

【布德】194 フトク 德をしき施す。〔國語、魯語上〕布二德于民一、而平二均其政事一。〔孔叢子、記問〕天子布レ德、將レ致二太平一。〔淮南子、時則訓〕布レ德施レ惠。〔王融、永明十一年策二秀才一文〕布レ德修レ禮。

【布團】195 フトン 布帛を外被とし、中に厚く綿を入れた敷物、又は寢具。蒲團。

【布囊】196 フナウ 布製のふくろ。〔漢書、楊王孫傳〕及二病且一レ終、先令二其子一曰、云云、死則爲二布囊一、盛レ尸、入レ地七尺、既下、從レ足引二脫其囊一、以レ身親レ土。〔吳志、步騭傳、注〕多作二布囊一、欲二以盛レ沙塞レ江。〔晉書、祖逖傳〕逖以二布囊一盛レ土如二米狀一、使三千餘人運二上臺一。〔姚合、喜二賈島至一詩〕布囊懸二蹇驢一、千里到二貧居一。

【布忍】197 ヌノセ ㊀河內國の地名。㊁ヌノシ 姓氏。〔新撰姓氏錄考證〕。

【布帊】198 フハ 布の頭づつみ。布のはちまき。帊は、かしらづつみ・はちまき。〔南史、關康之傳〕見下其散髮被二黃布帊一、席二松葉一、枕二一塊白石一、而臥了不中相眄上。

【布袍】199 フハウ 布製の大袖の衣。布襖。〔後漢書、馬韓傳〕大率皆魁頭・露紒・布袍・草履。〔神仙傳、孫登〕駿遺以二一布袍一、亦受レ之。〔南史、沈衆傳〕恆服二布袍・芒屩一、以二麻繩一爲レ帶。〔唐彥謙、早行遇レ雪詩〕荒村絶二煙火一、髯凍布袍濕。

【布棚】200 pu^4 p'êng^2 布張りの日除け。

【布防】201 フバウ 軍隊の一部を前線險要の地に配置すること。

【布冒】202 フバウ おほふ。〔書、君奭、昭二武王一惟冒、傳〕惟此四人、明二武王之德一、使三布二冒天下一、大盡舉二行其德一。

【布帽】203 フバウ 布の頭巾。〔晉書、袁耽傳〕遂變レ服懷二布帽一、隨レ溫與二債主一戲。〔北史、流求傳〕婦人以二羅紋白布一爲レ帽、其形方正。

【布白】204 フハク 書法上の名稱で、筆畫と筆畫との閒をいふ。

【布帛】205 フハク 布と絹織物との總稱。〔周禮、天官、大宰、六曰、商賈阜二通貨賄一、注〕金玉曰レ貨、布帛曰レ賄。〔周禮、夏官、職方氏〕正北曰二幷州一、云云、其利布帛。〔禮、王制〕布帛精粗、不レ中レ數、幅廣狹不レ中レ量、不レ粥二於市一。〔禮、禮運〕未レ有二麻絲一、衣二其羽皮一、後聖有レ作、治二其麻絲一、以爲二布帛一。〔孟子、滕文公上〕布帛長短同、則賈相若。〔尉繚子、治本〕女練二於布帛一。〔漢書、食貨志下〕布帛、廣二尺二寸爲レ幅、長四丈爲レ匹。〔白居易、秦中吟十首、重賦詩〕生民理二布帛一、所レ求活二一身一。

〔布帛菽粟〕206 フハクシュクゾク 布帛と、まめや穀物。共に衣食の主要品。轉じて、人のなすべき極めてあたりまへで有益な事の喩。〔宋史、程頤傳〕其言之旨、若二布帛菽粟一然。

〔煖二於布帛一、深二於矛戟一〕207 フハクヨリモアタタカク ボウゲキヨリモフカシ 善言は布帛よりも人を暖め、人を害ふ言は人を傷けること矛戟よりも深い。〔荀子、榮辱〕雖レ有二戈矛之刺一、不レ如二恭儉之利一也、故與二人善言一、煖二於布帛一、傷レ人之言、深二於矛戟一。

【布幕】208 フバク 棺の布製の蔽ひ。〔禮、檀弓上〕穆公之母卒、使三人問二于曾子一曰、如レ之何、對曰、申也聞二諸申之父一曰、哭泣之哀、齊斬之情、饘粥之食、自二天子一達、布幕、衞也、縿幕、魯也。〔注〕幕、所三以覆二棺上一也。〔疏〕以レ布爲レ幕者衞、是諸侯之禮、以レ縿爲レ幕者魯、是天子之制。

【布法】209 フハフ 法を布く。法度を廣く示し知らせる。〔管子、君臣下〕布レ法出レ憲、而賢人烈士、盡二功能於上一矣。

〔布法羅〕210 バッファロ 地名。北米ニューヨーク西北の都邑。エリー湖畔に臨む。Buffalo の音譯。

【布帆】211 フハン 布の帆。轉じて、舟の意。布帆無レ恙を見よ。〔晉懊儂歌〕長檣鐵鹿子、布帆阿那起。〔顧況、別二江南一詩〕布帆輕二白浪一、錦帶入二紅塵一。〔孟郊、送三舅端適二楚地一詩〕羽扇埽二輕汗一、布帆篩二細風一。

〔布帆無レ恙〕212 フハンツツガナシ 船の帆、又は船の無事なこと。轉じて、旅行の安穩をいふ。〔晉書、顧愷之傳〕愷之嘗因レ假還、殷仲堪特以二布帆一借レ之、至二破冢一、遭レ風大敗、愷之與二仲堪牋一曰、地名二破冢一、眞破レ冢而出、行人安穩、布帆無レ恙。〔李白、秋下二荊門一詩〕霜落荊門江樹空、布帆無レ恙掛二秋風一。

【布幡】213 フハン 布ののぼり。〔獻帝春秋〕董卓未レ誅、有下書二三尺布幡上一、作中兩口相銜之字上。

【布被】214 フヒ 木綿の布團。儉素をいふ。〔史記、平津侯傳〕汲黯曰、弘位在二三公一、奉祿甚多、然爲二布被一、此詐也。〔漢書、食貨志下〕公孫弘以二宰相一布被、食不レ重レ味、爲二下先一。〔後漢書、祭遵傳〕

家無二私財一、身衣二韋絝布被一。〔晉書、楊軻傳〕常臥二土牀一、覆以二布被一、倮二寢其中一、下無二茵褥一。

〔布被瓦器〕215 フヒグワキ 木綿の布團と瓦の器。儉素をいふ。〔琅琊代醉編、布被瓦器〕王良爲二大司徒司直一、在レ位恭儉、妻子不レ食二官舍一、布被瓦器、時司徒鮑恢、以レ事到二東海一、過侯二其家一、而良妻布裾曳レ柴、從二田中一歸、恢告曰、我司徒史也、故來受レ書、欲レ見二夫人一、妻曰、妾是也、苦二掾無レ書、恢乃下拜、嘆息而還。

【布疋】216 フヒツ ぬの。布。木綿織物。

【布筆】217 フヒツ 筆でつらねのべる。文章を作ることをいふ。〔魏志、管輅傳、注〕時年十五、來至二官舍一、始讀二詩・論語及易本一、便開淵布筆、辭義斐然。

【布武】218 フブ 小股で而も兩の足跡が互につかぬやうに歩む。〔禮、曲禮上〕堂上接レ武、堂下布レ武。〔注〕武、謂二毎レ移レ足、各自成一レ迹、不二相躡一。

【布蔀】219 ヌノシトミ 布で張つたしとみ。〔西宮記、九、例幣〕內匠立二布蔀一、掃部立二御屛一。

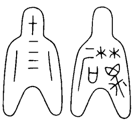
【布覆】220 フフウ 四方を布き覆ふ。廣くしきおほふ。〔馬融、長笛賦〕氣噴勃以布覆兮、乍跱蹠以狼戾。〔注〕善曰、布覆、周布四覆也。

【布服】221 フフク 布製の衣服。粗末な衣服の意。〔漢書、外戚下、孝成許皇后傳〕妾誇布服糲食、加以二幼稚愚惑、不レ明二義理一。〔注〕孟康曰、誇、大也、大布之衣也。〔北史、魏獻文六王、高陽王雍傳〕奴則布服、並不レ得下以二金銀一爲中釵帶上、犯者鞭一百。

【布聞】222 フブン 廣くきこえること。〔史記、太史公自序〕且士賢能而不レ用、有レ國者之恥、主上明聖而德不二布聞一、有司之過也。

【布兵】223 フヘイ 兵をしきつらねる。〔蕭遘、和三王侍中謁二張惡子廟一詩〕鄷侯爲レ國親二簫鼓一、堂上神籌更布レ兵。

【布幣】224 フヘイ ㊀玉帛を陳ねる。〔左氏、襄、二十九〕祓殯而襚、則布レ幣也。〔國語、吳語〕布レ幣行レ禮。〔史記、周紀〕於レ是布レ幣、而策告レ之。㊁古の貨幣の名。布の一種。其の時代は不明。〔金石索、泉刀之屬、古布幣〕古布幣、


古布幣㊁（金石索）

大小六品、未レ定二時代一、面文林禺石未レ詳、按、路史、堯爲二金三等一、禺氏邊山之玉爲二上幣一、或取二此義一歟、背文十四。

【布米】225 フベイ 布と米。〔宋史、外國三、高麗傳〕用二布米一貿易。

【布袂】226 フベイ 布製のそで。又、布製の衣服。〔新語、本行〕布袂縕袍。

【布韈】227 フベツ 布製のむかばき。きやはんの類。布韈青鞋を見よ。〔杜甫、奉先劉少府新畫山水障歌〕若耶溪、雲門寺、吾獨胡爲在二泥滓一、青鞋布韈從レ此始。

〔布韈青鞋〕228 フベツセイアイ 旅裝。旅仕度。青鞋は、わらぢ。〔陸游、跋二李莊簡公家書一〕請命下、青鞋布韈行矣、豈能作二兒女態一耶。〔楊萬里、題二王季安主簿佚志堂一詩〕布韈青鞋已懶行、不レ如晏坐聽二啼鶯一。〔桃花扇、逃難〕換二布襪青鞋一、一隻扁舟載。

【布偏】229 フヘン あまねくひろまる。〔後漢書、黨錮、夏馥傳〕辭所二連引一、布二偏天下一。

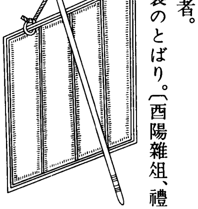
【布舖】230 pu^4 $p'u^4$ 太物屋。吳服屋。布行。

【布母】231 フボ 鳥の名。鷦鷯の異名。みそさざい。布母縛を見よ。〔方言、八、桑飛自レ關而東謂二之工爵一、或謂二之過鸁一、或謂二之女鴎一、注〕今亦名爲二巧婦一、江東呼二布母一。

〔布母縛〕232 フボソン 小衣。ふんどし。布母は鷦鷯。鷦鷯は形が小さいからいふ。〔急就篇、二〕禪衣・蔽膝・布母縛。〔注〕布母縛者、薉貉女子、以レ布爲レ脛、空用レ絮補レ核、狀如二襜褕一、薉貉者、東北之夷也、說者或云二母縛布名一、非也、黃氏曰、江東謂二鷦鷯一爲二布母一、布母縛、小衣也、猶二犢鼻一耳。〔庶物異名疏〕黃氏曰、江東謂二鷦鷯一爲二布母一、故布母縛、乃小衣也、猶二犢鼻褌一耳。

【布網】234 フマウ あみをはる。〔爾雅、釋蟲、土鼅鼄、注〕在二地中一布レ網者。

【布幔】235 フマン ㊀布製のとばり。〔酉陽雜俎、禮異〕北朝婚禮、青布幔爲レ屋、在二門內外一、謂二之青廬一、於レ此交拜。㊁


布幔㊁（武備志）

武具の名。複布の幕を以て造り、矢石の來攻を防ぐもの。〔武備志、器式、布幔圖說〕布幔以二複布一爲レ幕、度二矢石來處一、以二弱竿一張掛、去レ城七八尺、居二女牆之外一、以折二矢石勢一。

【布滿】236 フマン ひろがりみちる。〔後漢書、宦者傳序〕紆レ朱懷レ金者、布二滿宮闈一。〔後漢書、曹節傳〕父兄子弟、皆爲二公卿列校一、牧守令長、布二滿天下一。

【布霧】237 フム 山名。〔明一統志〕布霧山、在二遼蓋州衞東南一百一十里一。

【布目】238 ヌノメ 布の織目のあや。

〔布目紙〕239 ヌノメガミ 布目の形を擦り出した厚い紙。羅紋紙。

【布野】240 フヤ 野にちらばる。野原の到る所に在るをいふ。〔史記、匈奴傳〕單于既入二漢塞一、未レ至二馬邑一百餘里、見三畜布レ野、而無二人牧者一、怪レ之乃攻レ亭。〔寇志、滿寵傳〕田收レ熟、男女布レ野。

【布揚】241 フヤウ ひろめしらせる。ひろめ明かにする。〔史記、貨殖、子貢傳〕夫使三孔子名布二揚於天下一者、子貢先二後之一也。〔唐書、裴度傳〕布二揚天子德澤一。

【布諭】242 フユ 廣くふれさとす。〔史記、儒林傳〕無三以明布二諭下一。〔錢珝、代二史官王相公一謝レ令三樞密使宣二諭奸邪一表〕凡所二布諭一、必盡洪纖。

【布弋】243 フヨク 弋を布く。いぐるみを設ける。〔庾信、鶴讚序〕布レ弋設レ罝、並皆禽獲。

【布罭】244 フヨク 魚網を設ける。〔張衡、西京賦〕布二九罭一、設二罜麗一。〔注〕善曰、爾雅曰、九罭、魚網也。

【布流】245 フリウ 世に廣く弘まる。流布。〔後漢書、黃瓊傳〕毀謗布流。〔論衡、恢國〕嘉德布流。

【布領】246 フリヤウ 布製の服のえり。〔韓偓、雨詩〕餉婦翹布領寒、牧童擁腫蓑衣濕。

【布隆】247 ブリユン ヨーロッパ中部の都會の名。Brünn の音譯。

〔布隆吉〕248 ブルンチー 川の名。布隆吉爾に同じ。〔清會典、戶部〕其川洮・漢・涇・渭・大通・大夏・坤都倫・布隆吉。

〔布隆吉爾〕249 ブルンチール ㊀川の名。㋑甘肅省の疏勒河をいふ。疏勒河（**7**－**22000**‥208）を見よ。〔漢書、地理志〕源出二甘肅玉門縣一、南北流至二玉門北一、西北逕二安西・敦煌一、會二黨河一入二於哈喇諾爾一、其流長七百餘里、亦作二卜吉兒川一、又曰二疏勒河一、卽古之南籍端水。㋺青海の西北境。源は和碩特北右末旗の布隆吉爾池。達布遜池に注ぐ。支流は烏蘭烏蘇。㊁城の名。甘肅省安西縣の東南。

【布濾】250 ヌノコシ 布漉（265）に同じ。

【布倫】251 ブルン 山名。滿洲黑龍江省蘿北縣の西。一名、海倫奔山・興安嶺。北流する川は黑龍江に入り、南流する川は松花江に入り、東流する川は嫩江に入り、三大川の分水嶺をなす。布倫は漢語の青の意。

〔布倫托〕252 ブルント 縣名。民國、置く。新疆省承化縣の西南。布倫托海の東南。

〔布倫托海〕253 ブルントカイ 湖の名。一名、烏隴古湖。新疆省布倫托縣の西。烏隴古河がこれに注ぐ。

【布縷】254 フル 布とより絲。古、賦稅として徵集したもの。布縷之征を見よ。〔晏子、諫、上〕有二布縷之本一。

〔布縷之征〕255 フルノセイ 布とより絲を年貢として徵集すること。征は、稅。〔孟子、盡心下〕有二布縷之征・粟米之征・力役之征一。〔注〕征、賦也、國有二軍旅之事一、則橫二興此三賦一也、布、軍卒以爲レ衣也、縷、紩二鎧甲一之縷也。

【布令】256 フレイ 命令法令等をひろく一般に示す。又、其の命令。〔國語、周語上〕布レ令陳レ辭而又不レ至。〔墨子、尙同下〕發二憲布三令其家一。〔司馬法、仁本〕布二令於軍一。

【布列】257 フレツ 布き列ねる。ならべる。布陣。〔漢書、揚雄傳〕鱗羅布列。〔孔穎達、周易正義序、第一、論二易之三名一〕此言二張設布列不レ易者一也。

【布烈】258 フレツ 布列に同じ。〔揚雄、羽獵賦〕鱗羅布烈、攢以二龍翰一。〔注〕烈、五臣作レ列。

【布裂】259 フレツ 布のやうにさく。手足をひきさく。〔呂覽、順民〕首足異レ處、四枝布裂。

【布簾】260 pu^4 $lien^2$ 布を垂れて簾のやうにしたもの。〔水滸傳、四十五回〕那婦人在二布簾下一看了。

【布路】261 フロ 路にちる。わかれちる。分散。〔左氏、襄、三十〕皆自レ朝布レ路而罷。〔注〕布レ路、分散。〔唐書、李渤傳〕陛下不三時見二羣臣一、羣臣皆布レ路

跛倚。

【布路斯】262（ブロシヤ） 國名。普魯西(5－13982··113)に同じ。〔清史稿、邦交志〕德意志、德意志者、日耳曼列國總部名也、舊名邪馬尼、居二歐洲中原一、同盟三十六國、而中惟布路斯最強。Prussia の音譯。

【布路嘎里亞】263（ブルガリア） 歐羅巴洲バルカン東部の王國。勃牙利。Bulgaria の音譯。

【布露】264（フロ） ❶廣くあらはす。又、廣く知られる。又、明かに陳述する。〔蜀志、先主甘皇后傳〕布二露天下一。〔楊夔、復二宮闕一後上二執政一書〕常欲下得三布二露蘊蓄於執政一以助中教化上。❷地名。大勃律の別名。〔唐書、西域下、大勃律傳〕大勃律、或曰二布露一、直二吐蕃西一、與二小勃一接。

【布漉】265（ヌノコシ） 布でこすこと。又、布でこしたもの。

【布和】266（ワフ） 和をしく。政を布いて惠和する。又、德を布いて令を和げる。布和辰を見よ。〔易林、訟之第六、蒙〕宣レ時布レ和、無レ所レ不レ通。

【布和辰】267（フワノシン） 上巳(陰暦で三月の初の巳の日)をいふ。此の日は后土布和の日であるからいふ。布和を見よ。〔顏延之、三月三日曲水詩序〕皇祇發レ生之始、后王布レ和之辰。〔注〕善曰、又曰、孟春之月、命レ相布レ德和レ令、銑曰、言下春時是天地發二生萬物一之時、君王布レ政惠和之日上也。〔海錄碎事、天、上巳〕皇祇發生之始、后土布和之辰、謂二上巳一、文選。

【布海苔】268（フノリ） 海藻の一。海中の石に叢生し、長さ二三寸、多くの枝に分れてゐる。乾かして薄い板にし、煑て糊を作り、又は髮を洗ふ料とする。鹿角菜。

【布哈拉】269（ボハラ） 中央亞細亞にあつた土耳古族の汗國。又、もとボハラ汗國の都。又、捕喝・蒲花羅・蒲華・孛哈里・卜花兒に作る。Bokhara; Bukhara の音譯。

【布顏代】270（プーエンタイ） 清、滿洲鑲紅旗人。姓は博爾濟吉特氏。天聰の閒、朝鮮を征し、又、燕京・大同の攻擊に從ひ、鑲紅旗蒙古都統に累官す。順治の初、多爾袞に從つて關に入り、李自成を擊破し、尋いで江南を征し、黃河を渡つて敵と接戰し、軍中に卒す。〔清史稿、二百三十五〕・〔國朝耆獻類徵、二百六十四〕・〔滿洲名臣傳、十〕。

【布顏圖】271（プエント） 清、滿洲鑲白旗人。姓は烏亮海氏。字は竹溪。號は嘯山。官は綏遠城副都統。著に畫學心法・問答集古がある。

【布荊人】272（フケイノヒト） 布裙荊釵の人。貧乏して而も禮を重んずる人をいふ。後漢の梁鴻の妻の故事に本づく。荊釵布裙(9－30940··43)を見よ。〔通俗編、服飾、荊釵布裙〕列女傳、梁鴻妻孟光事、宋書江斆讓昏表、年近將レ冠、皆已有レ室、荊釵布裙、足レ得レ成レ禮。〔桃花扇、卻奩〕布荊人、名自香。

【布肩衣】273（ヌノカタギヌ） 布製の肩衣。〔萬葉集、五〕綿もなき、布可多衣の。

【布克沙】274（プコシヤ） 清、滿洲鑲黃旗人。姓は瓜爾佳氏。崇德の閒、皮島を攻め、錦州を圍み、松山・杏山に戰つて屢〻明兵を敗る。順治の閒、李自成及び蘇尼特部を征し、鑲黃旗蒙古副都統・兼戶部侍郎に累官す。〔國朝耆獻類徵、二百六十六〕・〔滿洲名臣傳、十二〕。

【布障子】275（ヌノサウジ） 白布で張つた障子。〔江家次第、八、相撲召合裝束〕置二殿東廂布障子二枚於北廂一。

【布爾根】276（プールコン） ❶川の名。源は新疆省新和碩特旗の西北の烏梁海部の東南境。又、布爾干河に作る。東流して西南に折れ、又、西北に折れて烏倫古河となり、布倫托縣の西に於て布倫托海となる。支流は英額池水・沙爾池水・羅子河・西爾哈河・濟拉瑪爾臺河。アルタイ東南境の一巨川で、沿岸に柳樹が多い。蒙古語で柳を布爾根といふ所から名づけられた。❷縣名。民國十三年、置く。布爾根河に臨み、もと蒙古民の游牧の地。新疆省奇臺縣の東北。

【布爾津】277（プールチン） ❶川の名。新疆省の北境に在り、哈拉斯淖爾に源を發する。始、哈拉斯河といひ、沖呼爾渡口に至つて始めて布爾津河といふ。❷縣名。民國三年、布爾津設治局を置き、後、縣に改む。新疆省承化縣の西南境で、縣城は布爾津河の東南岸にある。地は吉木乃の後に當り、露人と通商する商埠で、蒙古族と察哈爾族と雜居し極めて重要の所。

【布什爾】278（プーシル） 地名。ペルシヤ灣岸の重要な海港。Bushire の音譯。

【布叔滿】279（フシユクマン） 複姓。一に布叔沛に作る。〔路史〕高車部十二姓、有二布叔滿氏一。

【布智兒】280（プチール） 元の人。太祖に從つて、回回・斡羅斯等を征して功があり、後、大都行天下諸路也可札魯骨赤となる。〔元史、一百二十三〕。

【布頭箋】281（フトウセン） 紙の名。〔東坡志林〕取二布頭機餘、經不レ及レ緯者一作レ紙、曰二布頭箋一、名冠二天下一。

【布特哈】282（プトハ） 地名。蒙古語の漁獵の意。滿洲黑龍江省の境。清代、總管を嫩江西岸の伊倭齊に置いて治め、皆呼爾・索倫・鄂倫春等の諸部落を管轄した。後、改めて副都統を設け、布特哈站に移駐す。

【布屛風】283（ヌノビヤウブ） 布張りの屛風。〔枕草子、八〕布屛風のあたらしき。

【布表紙】284（ヌノベウシ） 書物の布製の表紙。

【布紋紙】285（フモンシ） 布目紙(239)に同じ。

【布萊雅】286（プライヤ） 部族の名。一に布里雅特に作る。滿洲黑龍江省臚濱縣の南、呼倫湖の附近に住す。新巴爾虎族の分支といひ、もと露境に近い路兒奇答河の兩岸に游牧し、清の咸豐の閒、露人に迫られて東遷したもの。

【布雷峯】287（フライホウ） 寺の名。一に布囒蚌に作る。西藏拉薩の西。明の宗喀巴の弟子の建立と傳へる。

【布拉的】288（プラテー） 地名。ギリシヤの古都市の名。Blataea の音譯。

【布立呑】289（プリトン） 人種の名。もとブリテンに居住した民族で、デンマーク人、サクソン人に逐はる。Britons の音譯。

【布綸堡】290（プロンベルヒ） 地名。ポーランド西北の地名。Bromberg の音譯。

【布魯撒】291（プルーサ） 地名。東トルコの舊都。Brusa の音譯。

【布勒門】292（プレメン） 地名。ドイツ自由市の一。不來梅ともかく。Bremen の音譯。

【布加利亞】293（プルガリヤ） 國の名。バルカン半島の東部にあり、東は、黑海に臨み、南は、トルコ・ギリシヤに接する。Bulgaria の音譯。

【布華如雲】294（フクワジヨウン） 林を主る神。〔海錄碎事、道釋、經〕布華如雲、主レ林神。

【布爾哈通】295（プールハトン） 川の名。滿洲吉林省延吉縣を流れる河で、源を哈爾巴嶺に發し、圖們江に注ぐ。支流は海蘭河。嘎雅河。

【布脣枯舌】296（フシンコゼツ） 脣や舌のかはくこと。〔晏子、重而異者〕布脣枯舌、焦心熱中。

【布蘭地酒】297（ブランデーシユ） 洋酒の名。火酒。brandy の音譯。

【布林的西】298（ブリンヂシ） 地名。イタリヤ東南、アドリヤ海岸にあり、ローマ盛時には大海軍港であつた。Brinchisi の音譯。

【布魯海牙】299（ブルハイヤ） 元、畏吾の人。諡は孝懿。太宗の時、斷事官を授けらる。〔元史、一百二十五〕・〔新元史、一百五十五〕。

【布魯塞爾】300（ブラツセルズ） 地名。ベルギーの首府。Brussels の音譯。

【布勒斯特】301（ブレスト） 地名。フランスの都邑で、海岸にのぞむ要塞地。Brest の音譯。

【布勒塔尼】302（ブリタニ） 半島の名。フランス西北部の半島。Brittany の音譯。

【抱レ布貿レ絲】303（ヌノヲイダキイトニカフ） 布をいだいて來て絲と取り換へる。交易すること。布は貨幣。女の子が男に誘はれた時の事を述べた詩經、衞風、氓の詩句で、女子を誘惑するに喩へる。〔詩、衞風、氓〕氓之蚩蚩、抱レ布貿レ絲、匪二來貿一レ絲、來卽レ我謀。〔集傳〕布幣、貿買也。〔論衡、量知〕抱レ布貿レ絲、交二易有亡一、各得レ所レ願。

【布而雪維克】304（ボルシエヴイキ） 露西亞の政黨。共產主義を奉ずる。一千九百六年ロシア社會民主黨大會で、レーニン派とプレハーノフ派とが對立し、前者が多數を占めたので、多數派の義でボルシエヴイキといひ、後者をメンシエヴイキ(少數派)と呼んだのに始まる。此の黨は一千九百十七年二月及び十月の革命を指導して、遂に政權を獲得し、現在に及んでゐる。我が國で一時過激派と呼んだのは其の綱領の急進的なのによつたので、黨名ではない。又、布爾塞維克にも作る。Bolisheviki の音譯。

【布爾塞維克】305（ボルシエヴイキ） 布而雪維克に同じ。

【布里斯它爾】306（ブリストル）　地名。イングランドの西岸の都邑。Bristol の音譯。

【布拉馬普得拉】307（ブラマプトラ）　河の名。印度の大河で、ベンガル灣に注ぐ。Bramaputra の音譯。

【帀】 8779　［一］シ　［一］豕（**10―36334**）の古字。［二］ガイ　〔說文〕豕、帀、古文。［二］亥（**1―292**）の古字。〔說文〕亥、帀、古文亥。

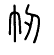
［參考］布（**4―8778**）は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕布、布帛。帀、古豕字。

【⿱亼巾】 8780　イ　彝（**4―9950**）に同じ。〔韻寶〕⿱亼巾、鐘鼎文彝字。

【帄】 8781　テイ　チヤウ　〔字彙補〕都丁切　［靑］　補帄は、ころもをつくろふ。〔字彙補〕帄、補二衣裳一曰二補帄一。

三畫

【帇】 8782　［一］ジン　ニン　〔集韻〕而振切　［震］　［二］ジツ　ニチ　〔集韻〕入質切　［質］



小篆

［一］❶**枕あて**。〔說文〕帇、枕巾也、从レ巾刃聲。❷**てぬぐひ**。ふきん。〔廣雅、釋器〕帇、巾也。❸或は⿰巾忍（**4―8918**）に作る。〔集韻〕帇、或从レ忍。［二］❶**枕あて**。［一］の❶に同じ。〔集韻〕帇、枕巾。❷或は⿰巾日（**4―8821**）に作る。〔集韻〕帇、或从レ日。

【⿰巾勺】 8783　テウ　〔集韻〕丁了切　［篠］　**きぬぎれ**。婦人の髮の根元を束ねるに用ひるもの。⿰巾勺幧。〔玉篇〕⿰巾勺、⿰巾勺幧、繒頭也。〔廣韻〕⿰巾勺、絹布頭也。

【⿰巾大】 8784　ハイ　バイ　〔字彙〕步昧切　［隊］　**おほぬの**。ふとぬの。〔字彙〕⿰巾大、大布也。

【⿱亡巾】 8785　クワウ　〔集韻〕呼光切　［陽］　❶**てぬぐひ**。ふきん。〔玉篇〕⿱亡巾、巾也。❷**おほひ**。〔廣韻〕⿱亡巾、幭也。❸或は⿱巟巾（**4―8876**）に作る。〔集韻〕⿱亡巾、或从レ巟。

【⿰巾干】 8786　［一］カン　〔集韻〕居案切　［翰］　［二］ケン　コン　〔集韻〕許偃切　［阮］　［一］**ぬのぶくろ**。〔玉篇〕⿰巾干、布袋。［二］**ほろ**。車のとばり。幰（**4―9143**）に同じ。〔玉篇〕⿰巾干、同レ幰、車幰也。〔集韻〕幰、張二繒車上一爲レ幰、或从二軒省一。

【帆】 8787　［一］ハン　ボン　〔集韻〕符咸切　ㄈㄢˊ　fan²　［咸］　［二］ハン　ボン　〔集韻〕扶泛切　［陷］

［一］❶**ほ**。風を受けて舟を走らせる布。〔釋名、釋船〕帆、汎也、隨レ風張レ幔曰レ帆、使二舟疾汎汎然一也。〔集韻〕帆、舟上幔所二以汎一レ風。〔晉書、王濬傳〕擧レ帆直指。❷**ほかけ舟**。帆船。〔王昌齡、客二廣陵一詩〕夜帆歸レ楚客。❸或は䑺（**9―30480**）に作り、通じて颿（**12―43930**）に作る。〔集韻〕帆、或作レ䑺、通作レ颿。❹古は⿰風凡（**12―43827**）に作る。〔玉篇〕⿰風凡、古文帆。［二］❶**ほ**。［一］の❶に同じ。通じて颿（**12―43930**）に作る。〔集韻〕帆、舟幔也、通作レ颿。❷**ほをあげて走らせる**。〔廣韻〕帆、船使レ風。〔韓愈、除レ官赴レ闕至二江州一寄二鄂岳李大夫一詩〕無レ因帆二江水一。

［參考］⿰巾几（**4―8776**）は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕⿰巾几、音奇、地名。帆、音凡、舟上幔。

【帆影】1（ハンエイ）　帆かげ。帆のすがた。遠く見える帆、又は舟をいふ。〔李嶠、軍師凱三旋自二邕州一順レ流舟中詩〕岸回帆影疾、風逆鼓聲遲。〔李端、送三客赴二洪州一詩〕帆影連二三峽一、猿聲在二四鄰一。

【帆海】2（ハンカイ）　舟で海をわたる。航海。〔何景明、文〕帆レ海者不レ知レ山、駕レ陸者不レ知レ水。

【帆桁】3（ホゲタ）　帆をかけるために帆檣の上に横たへた材。

【帆綱】4（ホヅナ）　帆をあげおろしするために帆檣に繫いだつな。〔倭名類聚抄、舟車部、舟具、帆綱〕文選注云、長梢、保豆奈、今之帆綱也。

【帆竿】5（ハンカン）　ほばしら。〔陸龜蒙、潤州江口送三人謁二池陽衞郎中一詩〕月在二石頭一搖二戍角一、風生二江口一亞二帆竿一。

【帆邱】6（ハンキウ）　板倉安世の號。板倉帆邱（**6―14518**・・86）を見よ。

【帆腳】7（ハンキヤク）　帆をいふ。〔劉炳、詩〕帆腳壓レ寒霜撒レ網、柁牙移レ月夜鳴レ榔。

【帆形】10（ハンケイ）　船の帆の形。〔武陵記〕石帆山危起、若二數百幅帆形一。

【帆涇】11（ハンケイ）　清、屠遠（**4―7761**・・2）の字。

【帆驕】12（ホオゴル）　帆が十分に風を受けて張ること。〔本朝虞初新誌、紀文海運〕風益順、帆益驕。

【帆檝】13（ハンシフ）　帆とかい。〔陸龜蒙、新秋卽事詩〕帆檝衣裳盡釣徒、往來蹤跡遍二三吳一。

【帆檣】14（ハンシヤウ）　ほばしら。帆竿。〔吳志、孫和傳、注〕吳書曰、和之二長沙一、行過二蕪湖一、有三鵲巢二於帆檣一。〔晉書、陶稱傳〕懸二頭於帆檣一、仰而彈レ之。〔白居易、夜聞二歌者一詩〕獨倚二帆檣一立、娉婷十七八。〔李郢、江亭春霽詩〕蜀客帆檣背二歸燕一、楚山花木怨二啼鵑一。

【帆弱】15（ハンジヤク）　帆の力が弱い。船の進みがわるい。〔宋史、韓世忠傳〕次日風止、我軍帆弱不レ能レ運。

【帆手】16（ホテ）　帆の左右に附けた繩。〔土佐日記、正月二十六日〕追風の吹きぬる時は行く船のほで打ちてこそうれしかりけれ。

【帆衝】17（ハンシヨウ）　船の通る路。水路。衝はみち。〔貫休、春晚桐江上閒望作詩〕更無二人望一青山立、空有二帆衝一夜色來。

【帆色】18（ハンシヨク）　帆のいろ。帆の様子。又、舟をいふ。〔厲元、從軍行〕帆色已歸レ越、松聲厭避レ秦。

【帆勢】19（ハンセイ）　帆掛船のいきほひ。〔李端、古別離詩〕下レ江帆勢速、五兩遙相逐。〔李紳、過二荆門一詩〕帆勢侵レ雲滅又明、山程背レ日昏還見。〔方干、題二松江驛一詩〕帆勢落斜依二浦潊一、鐘聲斷續在二滄茫一。

【帆石】20（ハンセキ）　帆の形をした石。堯の時、神人が破石で帆を造つた故事。〔永嘉記〕永嘉南岸有二帆石一、乃堯時神人、以二破石一爲レ帆、將レ入二惡溪一道次、置二之溪側一、遙望有レ似二張帆一、今俗名二張帆溪一。

【帆席】21（ハンセキ）　むしろで造つた帆。むしろほ。〔木華、海賦〕維二長綃一、挂二帆席一。〔注〕善曰、劉熙釋名曰、隨レ風張レ幔曰レ帆、或以レ席爲レ之、故曰二帆席一也。〔杜甫、北風詩〕隱レ几看二帆席一、雲山湧二坐隅一。

【帆船】22（ハンセン）　帆をかけて風力で進航する船。ほまへせん。ほぶね。〔漂民錄〕十二三里沖え帆船相見へ候趣。

【帆前】23（ハンゼン）　帆掛船の前方。〔岑參、送三李翥遊二江外一詩〕帆前見二禹廟一、枕底聞二嚴灘一。

【帆前船】24（ホマヘセン）　帆を利用し、風力で航海する

船。帆船。風帆船。特に幕末以後は、日本型帆船に對して西洋型帆船を區別した呼稱。

【帆足】25（ホアシ） 姓氏。

【帆足愚亭】26（ホアシグテイ） 豐後の人。名は萬里。字は鵬卿。通稱は里吉。號は愚亭。私謚は文簡先生。嘉永五年六月十四日歿す、年七十五。脇愚山・中井竹山・二宮兼善に師事し、其の學は、經史百家より、經濟・天文・地理・醫學・算數・蘭學・佛教に精通した。日出藩儒・同藩學教授・家老となり、致仕の後、家塾を開いて教授す。從四位を贈らる。著に醫學啓蒙・肆業餘稿・巖屋完節志・假名考・窮理通・言行錄評・原教附錄・國語標注・莊子解・三教大意・周意標注・修辭通・春秋左氏傳標注・荀子標注・書經標注・四大家詩選、並、評（李・杜・韓・蘇）・西崦先生餘稿（石川綱弘編）・井樓纂聞・大學標注・中庸標注・東潛夫論・入學新論（原教・原學・原名・附錄）・日出孝子傳・帆足先生詩集・帆足先生文集（岡松甕谷編）・孟子標注・呂氏春秋標注・論語標注がある。〔近代著述目錄後篇〕・〔帆足萬里全集〕・〔帆足文簡先生墓碑銘〕。

【帆柱】29（ホバシラ） 帆をあげるために船に設けた柱。〔倭名類聚抄、舟車部、舟具、帆柱〕文選注云、檣、保波之良、帆柱也、又云、帆檣、以二長木一爲レ之、所二以挂レ帆也。

【帆幢】30（ハンドウ ハンタウ） 帆とはた。〔鮑溶、隋帝陵下詩〕盤龍樓艦浮二宛水一、雕錦帆幢使レ亂レ風。

【帆舶】32（ハンパク） 帆を懸けた船舶。ほかけぶね。ほぶね。〔神功攝政前紀〕大風順吹、帆舶隨レ波、不レ勞二櫨楫一、便到二新羅一。

【帆飛】33（ハンピ） 船が帆を張つて飛ぶやうに進む。〔杜荀鶴、辭二鄭員外一入レ關詩〕帆飛二楚國一風濤潤、馬渡二藍關一雨雪多。

【帆布】34（ホヌノ） ほもめん。帆に用ひる木綿。太い絲で織つた堅く厚い布。

【帆風】35（ハンプウ） ❶風にほをあげる。〔左氏、宣、十二、拔レ旆投レ衡、注〕拔レ旆投二衡上一、使レ不レ帆レ風。❷（ホカゼ） ㋑追手の風。㋺時めく勢。

【帆腹】36（ハンプク） 帆をいふ。〔蘇軾、八月七日初入レ贛過二惶恐灘一詩〕長風送レ客添二帆腹一、積雨浮レ舟減二石鱗一。

【帆篷】38 fan^1 p‘êng^2 船の帆。

【帆役】39（ホヤク） 江戸時代、帆の石數を標準として船に課した税。〔駿河志料、置水湊繫置新船一艘〕於二彼舟之儀一者、帆役・添役幷出入之役、櫓手立使共免除畢。

【帆力】40（ハンリヨク） 帆が船を進める力。〔陸游、望江道中詩〕風力漸添帆力健、艣聲常雜雁聲悲。

【挂レ帆】41（ホヲカク） 帆をかける。舟を駛せること。〔謝靈運、過二始寧墅一詩〕剖レ竹守二滄海一、挂レ帆過二舊山一。

【帆掛船】42（ホカケブネ） 帆前船（24）に同じ。

【帆走船】43（ハンソウセン） 帆前船（24）に同じ。

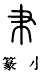
【帆立貝】44（ホタテガヒ） 貝の一種。北海に產す。介殼の一片はふくれ、他の一片は平たい。其の平たい方を上に開いて帆とし、風に隨つて水上を浮行する。肉は美味。海扇。

【⿰巾彡】8788 サン 〔集韻〕蘇甘切 覃

きものの破れたさま。或は⿰巾三（4—8789）に作る。〔玉篇〕⿰巾彡、衫破皃。〔集韻〕⿰巾彡、衣破、或从レ三。

【⿰巾三】8789 サン ⿰巾彡（4—8788）に同じ。〔集韻〕⿰巾彡、或从レ三。

【帇】8790 デフ ネフ 〔集韻〕昵輒切 葉


小篆

手わざがすばやい。疌（7—2199）に同じ。〔說文〕帇、手之疌巧也、从二又持一レ巾。〔六書正譌〕帇、亦作レ疌。

解字 會意。又と巾との合字。又は手、手に巾をもつこと、卽ち手わざのすばやい意。

【⿱夂巾】8791 フ 布（4—8778）に同じ。〔字彙〕⿱夂巾、同レ布。〔校官碑〕⿱夂巾レ政優優。

【⿱乂巾】8792 サツ 殺（6—16638）の古字。〔說文〕殺、⿱乂巾、古文殺。

【⿰巾亏】8793 ㊀ヲ ウ 〔篇海類編〕汪胡切 虞　㊁コ ク 〔篇海類編〕空胡切 虞

㊀**なげる。**〔篇海類編〕⿰巾亏、投也。

【帎】8794 バウ 幠（4—9021）に同じ。〔集韻〕幠、亦从レ亡。〔篇海類編〕帎、同レ幠。

【帋】8795 フン 〔篇海〕芳氳切 文

かんむり。〔篇海〕帋、冠也。

【⿰巾勿】8796 ヤク 義未詳。〔篇海〕⿰巾勿、音約。

【⿰巾中】8797 チヤウ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿰巾中、音長。

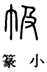
【⿰巾弓】8798 キユウ 義未詳。〔五音篇海〕⿰巾弓、音宮。

【⿱⺈巾】8799 ベン 義未詳。〔龍龕手鑑〕⿱⺈巾、音綿。

四畫

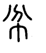
【师】8800 シ 師（4—8916）の俗字。〔宋元以來俗字譜〕師、通俗小說・古今雜劇・目連記作レ师。

【⿰巾及】8801 カフ コフ 〔集韻〕葛合切 合


小篆

❶**かます。**蒲を編んで作つた容器。〔說文〕⿰巾及、蒲席齡也、从レ巾及聲、讀若レ蛤。〔玉篇〕⿰巾及、以レ席載レ穀。❷**車のしきもの。**〔集韻〕⿰巾及、一曰、車藉。

【帉】8802 フン 〔集韻〕敷文切 文


小篆

❶**てぬぐひ。**ふきん。或は⿱分巾（4—8803）に作る。〔集韻〕⿱分巾、亦書作レ帉。〔說文〕⿱分巾、楚謂二大巾一曰レ⿱分巾、从レ巾分聲。〔段注〕帉、⿱分巾同。〔玉篇〕⿱分巾、拭レ物巾、帉、同上。❷通じて紛（8—27295）に作る。〔集韻〕⿱分巾、或書作レ帉、通作レ紛。〔禮、內則、左佩二紛帨一釋文〕紛、或作レ帉。

【⿱分巾】8803 フン 帉（4—8802）に同じ。〔正字通〕⿱分巾、同レ帉。

【⿰巾比】8804 ヒ ⿰巾匕（4—8777）に同じ。〔廣韻〕⿰巾比、亦作レ⿰巾匕。

【⿰巾欠】8805 テン 〔字彙〕丑琰切 琰

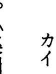
ゆまき。下をまもるため入浴に用ひるきれ。〔字彙〕⿰巾欠、護レ下浴巾。

【帇】8806 イン　尹(4－7631)の古字。〔字彙〕帇、古文尹字。

【⿰巾夫】8807 フ　〔集韻〕風無切　虞

衣のまへえり。衭(10－34119)に同じ。〔玉篇〕⿰巾夫、衣⿰巾夫、亦作レ衭。〔集韻〕衭、說文、襲衭也、博雅、衭襓、劍衣、一曰、衣前襟、或从レ巾。

【帊】8808 [一]ハ ヘ　〔集韻〕普駕切　ㄆㄚˋ p'a^4　禡　[二]ハ ヘ　〔集韻〕披巴切　麻


小篆

[一]❶**二幅のきぬ。**〔說文新附〕帊、帛二幅曰レ帊、从レ巾巴聲。〔一切經音義、十八〕兩幅曰レ帊。❷**三幅のきぬ。**〔廣韻〕帊、通俗文曰、帛三幅曰レ帊。❸**づきん。**〔廣雅、釋器〕帊、幞也。〔吳志、江表傳、注〕常著二絳帊一、鼓レ琴燒レ香讀二道書一。❹**おほひ。**ふくさ。〔唐書、禮樂志〕以二月令一置二于案一、覆以レ帊。〔劉遵、繁華應令詩〕金屛障二翠帔一、藍帊覆二薰籠一。❺**とばり。**〔六書正譌〕帊、帳也。〔牟巘、四安道中詩〕黃帊封レ林未二敢開一。❻或は袙(10－34196)・帕(4－8848)に作る。〔集韻〕帊、或作二帕・袙一。[二]**きぬぎれ。たちぎれ。**〔集韻〕帊、殘帛。

【帋】8809 シ　紙(8－27293)に同じ。〔廣韻〕帋、同レ紙。

【⿰巾介】8810 カイ　〔集韻〕居拜切　卦

づきん。〔集韻〕⿰巾介、幘也。

【帎】8811 ダイ ナイ　〔集韻〕奴對切　隊

旆のたれるさま。〔集韻〕帎、旆垂皃。

【⿰巾夬】8812 ケツ ケチ　〔玉篇〕古穴切　屑

てぬぐひ。〔玉篇〕⿰巾夬、帨也。

【希】8813 [一]キ ケ　〔集韻〕香依切　ㄒㄧ hsi^1　微　[二]チ　〔集韻〕展几切　紙

[一]❶**まれ。**すくない。稀(8－25058)に通ず。〔說文通訓定聲〕希、叚借爲レ稀。〔爾雅、釋詁〕希、罕也。〔論語、公冶長〕怨是用希。〔皇疏〕希、少也。〔呂覽、原亂〕禍希レ不レ及レ身。〔注〕希、鮮也。❷**とほい。**〔孟子、盡心上〕其所三以異二於深山之野人一者幾希。〔注〕希、遠也。❸**うとい。**まどほい。〔論語、先進〕鼓レ瑟希。〔皇疏〕希、疏也。❹**しづか。**聲がかすかで殆んど聞えないこと。〔老子、十四〕聽レ之不レ聞、名曰レ希。〔河上公注〕無レ聲曰レ希。〔釋文〕希、靜也。❺**ちる。**〔廣韻〕希、散也。❻**ほどこす。**〔廣韻〕希、施也。❼**のぞむ。**あふぐ。みる。希世(88)の❷を見よ。睎(8－23393)に通ず。〔說文通訓定聲〕希、叚借爲レ睎。〔莊子、讓王〕夫希レ世而行。〔釋文〕司馬云、希、望也。〔周髀算經、下〕希二望北極中大星一。〔注〕希、仰。〔漢書、董仲舒傳〕希レ世用レ事。〔注〕師古曰、希、觀相也。❽**こひねがふ。**したふ。もとめる。覬(10－34934)に通ず。〔說文通訓定聲〕希、叚借爲レ覬。〔潘岳、西征賦〕竊十亂之或レ希。〔注〕善曰、廣雅曰、希、庶也。〔後漢書、吳良傳〕希レ旨偶レ俗。〔注〕希、猶二瞻望一也。〔後漢書、趙壹傳〕仰レ高希レ驥。〔注〕希、慕也。〔後漢書、盧植傳、注〕希、求也。❾**かはく。**晞(5－13949)に通ず。〔說文通訓定聲〕希、叚借爲レ晞。〔周禮、地官、澤虞、注〕水希曰レ藪。〔疏〕希、乾也。❿**する。**〔方言、七〕希、摩也、燕齊、摩鋁謂二之希一。〔廣雅、釋詁三〕希、磨也。⓫鵗(12－46942)に通ず。〔左氏、昭、十七〕五雉爲二五工正一、〔注〕北方曰二希雉一。〔釋文〕希、本又作レ鵗。⓬古は⿱乂糸(2－3152)に作る。〔正字通〕集韻、古作レ⿱乂糸。⓭**姓。**〔通志、氏族略、平聲〕希氏、三輔決錄有二希海字子江一。〔正字通〕希、姓、宋希績、坐二元祐黨一。⓮[現]㋑はなはだ。非常に。㋺希臘(148)の略稱。[二]❶**ぬひとりをした衣。**黹(12－48248)・絺(8－27471)に同じ。〔說文通訓定聲〕希、此黹之古文也、从レ巾从レ爻、象二紩文一。〔周禮、春官、司服〕祭二社稷五祀一、則希冕。〔注〕希、刺二粉米一無レ畫也、希、讀爲レ黹。〔釋文〕希、本又作レ絺。❷[一]の⓫に同じ。〔集韻〕鵗、雉名、通作レ希。

【希安】1（キアン）　明、張勉(4－9812‥667)の字。

【希晏】2（キアン）　宋、姚平仲(3－6202‥210)の字。

【希菴】3（キアン）　字號。❶淸、任玥(1－416‥63)の號。❷淸、李續宜(6－14459‥1640)の號。

【希夷】4（キイ）　❶奧ぶかい道理。道の本體。〔老子、十四〕視レ之不レ見、名曰レ夷、聽レ之不レ聞、名曰レ希。〔河上公注〕無レ色曰レ夷、無レ聲曰レ希。〔柳宗元、愚溪詩序〕超二鴻蒙一、混二希夷一。❷草の名。靈芝の異名。〔續古今注〕靈芝、一名壽潛、一名希夷。〔事物異名錄、百草、芝〕續古今注、靈芝、一名壽潛、一名希夷。

【希夷先生】5（キイセンセイ）　宋、陳摶(11－41698‥461)の賜號。

【希衣】6（チイ）　古、天子が社稷・五祀を祭る時に用ひる服。粉米以下三章あり、ぬひとりを施す。希は、ぬひとりをした衣で、又、絺に作る。〔周禮、春官、司服、注〕王者相變、至レ周而以二日月星辰一畫二於旌旗一、所謂三辰旂旗、昭二其明一也、而冕服九章、登二龍於山一、登二火於宗彝一、尊二其神明一也、九章初一曰レ龍、次二曰レ山、次三曰二華蟲一、次四曰レ火、次五曰二宗彝一、皆畫以爲レ繢、次六曰レ藻、次七曰二粉米一、次八曰レ黼、次九曰レ黻、皆希以爲レ繡、則袞之衣五章、裳四章、凡九也、鷩畫以レ雉、謂二華蟲一也、其衣三章、裳四章、凡七也、毳畫虎蜼、謂二宗彝一也、其衣三章、裳二章、凡五也、希刺粉米無レ畫也、其衣一章、裳二章、凡三也、玄者衣無レ文、裳刺黻而已、是以謂レ玄焉。

【希意】7（キイ）　意をもとめる。人の意をむかへて氣に入るやうにする。〔莊子、漁父〕希レ意道レ言、謂二之諂一。〔疏〕希二望前人意氣一、而導二達其言一。

【希逸】8（キイツ）　字號。❶北齊、蕭放(9－32012‥233)の字。❷南朝宋、謝莊(10－35827‥90)の字。❸宋、段少連(6－16619‥95)の字。❹淸、華胥(9－31214‥215)の字。

【希尹】9（キイン）　字號。❶宋、鄭景平(11－39647‥355)の字。❷元、張端(4－9812‥541)の字。❸明、章商臣(12－43108‥194)の字。❹明、石邦憲(8－24024‥1015)の字。❺明、劉天民(2－2224‥1226)の字。

【希有】10（ケウ）　まれにある。めつたにない。珍しい。又、ふしぎ。稀有。〔漢書、王莽傳上〕當時之會、千歲希レ有。〔孔叢子、雜訓〕言稱二堯舜一、性樂二仁義一、世所二希有一也。〔論衡、超奇〕夫鴻儒希レ有。〔晉書、張華傳〕世所二希有一者、悉在二華所一。

【希有鳥】11（ケウテウ）　崑崙山に住む大鳥の名。〔神異經、中荒經〕崑崙之山、有二銅柱一云云、上有二大鳥一、名曰二希有一、南向張二左翼一覆二東王公一、右翼覆二西王母一、背上小處無レ羽、一萬九千里。〔李白、大鵬賦序〕予昔於二江陵一見二天台司馬子微一、謂予有二仙風道骨一、可三與レ神遊二八極之表一、因著下大鵬遇二希有鳥一賦上以自廣。

【希禹】12（キウ）　淸、溫汝能(7－17968‥273)の字。

【希雲】13（キウン）　金、楊伯雄(6－15112‥756)の字。

【希運】14（キウン）　❶唐の僧。閩の人。諡は斷際禪師。幼くして黃檗山に出家す。額閒の隆起する所か

ら肉珠と號す。晩年、江西の馬祖に謁し、後、龍興寺に住す。著に語錄がある。〔宋高僧傳、二十〕。❷黃檗(12－47926‥768)を見よ。

【希榮】15（キエイ） 祿位の榮譽をこひねがふ。〔魏書、源子恭傳〕希レ榮之心已見、逃レ官之志安在。

【希穎】16（キエイ） 宋、程公許(8－25081‥199)の字。

【希悅】17（キエツ） 宋、王承衎(7－20823‥1699)の字。

【希淵】18（キエン） 字號。❶明、蔡宗兗(9－31818‥208)の字。❷明、葉宗兗(9－31387‥226)の字。

【希遠】19（キエン） 宋、趙伯驌(10－37171‥837)の字。

【希向】20（キカウ） こひねがひしたふ。〔邢邵、幷州寺碑文〕自三大教遷流二行於中土一、希向之士、烟踊沙屬。

【希幸】21（キカウ） 幸福をこひねがふ。〔顏延之、庭誥文〕橫レ意去就、謬レ生希レ幸。

【希革】22（キカク） 鳥獸の毛がすくなくなり生えかはる。〔書、堯典〕厥民因、鳥獸希革。〔傳〕夏時鳥獸毛羽、希少改易、革、改也。

【希覺】23（キカク） 五代、吳越の僧。晉陵の商氏の子。字は順之。幼くして家貧しく、羅隱の家に傭書す。年二十五にして溫州開元寺に出家す。錢元瓘が十佛伽藍を造るや、召して寺主となし、署して文光大師といふ。詩文を能くし、易に長ず。著に會釋記・增暉錄等がある。〔宋高僧傳、十六〕。

【希樂】24（キガク） 晉、劉毅(沛の人)(2－2224‥157)の字。

【希罕】25 hsi¹ han³ ❶まれ。希少。❷珍しい。

【希閒】26（キカン） すきま。まばらなところ。〔司馬相如、上林賦〕捷二垂條一、掉二希閒一。〔注〕善曰、掉往著二稀疏無レ支之閒一也。

【希翰】27（キカン） 清、顧蒓(12－43689‥104)の字。

【希韓】28（キカン） 元、盧琦(8－23050‥27)の字。

【希顏】29（キガン） ❶顏をこひねがふ。孔子の弟子の顏淵のやうにならうと希望すること。〔晉書、虞溥傳〕希レ驥之馬、亦驥之乘、希レ顏之徒、亦顏之倫也。❷字號。㋑宋、徐綱(4－10110‥47)の字。㋺宋、張宗顏(4－9812‥1287)の字。㋩宋、陳知微(11－41698‥1125)の字。㋥宋、林殆庶(6－14551‥381)の字。㋭宋、汪復(6－17154‥128)の字。㋬金、雷淵(12－42245‥3)の字。㋣元、趙師魯(10－37171‥636)の字。㋠明、向侃(2－3301‥6)の字。㋷明、費愚(10－36717‥15)の字。㋦明、李宗泗(6－14459‥1624)の字。㋸明、呂淵(2－3386‥11)の字。㋾明、汪進(6－17154‥80)の字。

【希企】30（キキ） こひねがひくはだてる。〔潘尼、乘輿箴序〕將下欲希二企前賢一、髣中髴崇軌上。

【希奇】31（キキ） 不思議な。珍しい。又、その物。〔通俗編、品目、希奇〕十洲記、品物羣生、希奇特出、皆在二于此一。

【希冀】32（キキ） こひねがひのぞむ。希望。〔魏志、臧洪傳〕欲下因二際會一、希中冀非望上。〔吳志、張紘傳〕上無二偏謬之授一、下無二希冀之望一。〔李密、陳情表〕豈敢盤桓、有レ所二希冀一。

【希覬】33（キキ） こひねがひのぞむ。希冀。〔晉書、劉曜載記〕厲レ色大言曰、若二賊氏奴才一、安敢欲三希二覬非分一。〔北史、隋宗室諸王、文帝四王、房陵王勇傳〕占二問國家一、希二覬災禍一。

【希義】34（キギ） 後魏、李騫(6－14459‥317)の字。

【希求】35（キキウ・ケク） こひねがひもとめる。望み欲する。欲求。幾求。干求。

〖希求施〗36（ケクセ） [佛]八種施の一。天に生れんことを希ひ求めて人にものを施すこと。〔俱舍論、十八〕。

【希鏡】37（キキヤウ） 南齊、賈淵(10－36755‥13)の字。

【希蘧】38（キキヨ） 宋、蔡瑗(9－31818‥17)の字。

【希玉】39（キギヨク） 明、鄭珞(11－39647‥275)の字。

【希盱】40（キク） 喜悅のさま。〔新書、匈奴〕一國聞レ之者、見レ之者、希盱相告。〔房注〕希盱、喜悅貌。

【希灰】41（キクワイ） 鑛物の名。石灰の異名。〔本草、石灰〕釋名、石堊、堊灰、希灰、鍛石、白虎、礦灰。

【希怪】42 hsi¹ kuai⁴ あやしい。不可思議。

【希晦】43（キクワイ） 明、鄭瑛(11－39647‥18)の字。

〖希晦堂〗44（キクワイダウ） 清、宗山(3－7106‥106)の室名。

【希光】45（キクワウ） ❶光をこひねがふ。光を求める。光澤をこひ求める。〔張載、羽扇賦〕俯濯二素于河漢一、仰希二光于日月一。〔韓愈、答二李翊一書〕養二其根一而竢二其實一、加二其膏一而希二其光一。❷宋、趙昱(10－37171‥10)の字。

【希郭】46（キクワク） 清、吳其泰(2－3365‥488)の字。

【希闊】47（キクワツ） まれなこと。闊は疎。〔漢書、禮樂志〕希闊不レ講。〔漢書、外戚下、孝成趙皇后傳〕皇后自知二罪惡深大一、朝請希闊。〔注〕師古曰、闊、猶レ闕也。

〖希闊之行〗48（キクワツノオコナヒ） 世にまれな行爲。〔蘇軾、伊尹論〕一爲二希闊之行一、則天下羣起而誚レ之。

【希卿】49（キケイ） 宋、游少游(7－17792‥352)の字。

【希傑】50（キケツ） 宋、王漢忠(7－20823‥1272)の字。

【希歇】51（キケツ） うとくなりつきる。交際がうとくなること。〔鮑照、答レ客詩〕聲交稍希歇、此意更堅滋。

【希見】52（キケン） まれに謁見する。轉じて、疎んぜられることをいふ。〔史記、外戚世家〕其後薄姬希レ見二高祖一。

【希賢】53（キケン） ❶賢を希ふ。賢者になりたいとこひねがふ。〔通書、志學〕聖希レ天、賢希レ聖、士希レ賢。❷字號。㋑後梁、劉知俊(2－2224‥1178)の字。㋺宋、薛師邵(9－32123‥189)の字。㋩元、韓若愚(12－43159‥310)の字。㋥元、王薦(7－20823‥703)の字。㋭明、高尚學(12－45313‥1202)の字。㋬明、匡愚(2－2606‥23)の字。㋣明、鄒師顏(11－39562‥94)の字。㋠明、張思齊(4－9812‥1119)の字。㋷明、全思誠(1－1424‥214)の字。㋦明、包志道(2－2506‥150)の字。㋸明、包瑜(2－2506‥130)の字。㋾明、劉健(2－2224‥248)の字。

【希憲】54（キケン） 明、項夢原(12－43343‥86)の字。

【希元】55（キゲン） ❶明、詹希原(10－35458‥42)の初名。❷字號。㋑宋、孫唐卿(3－6987‥485)の字。㋺宋、張堯佐(4－9812‥989)の字。㋩宋、竇舜卿(8－25695‥72)の字。㋥宋、劉舜卿(2－2224‥1054)の字。㋭元、蔡徵(9－31818‥109)の字。㋬明、方同翁(5－13620‥600)の字。㋣清、蔣元益(9－31820‥142)の字。

【希阮】55′（キゲン） 宋、王嗣宗(7－20823‥1598)の字。

【希言】56（キゲン） ❶かすかで聞えないことば。〔老子、二十三〕希言自然。〔注〕聽レ之不レ聞、名曰レ希、云云、無味不レ足レ聽之言、乃是自然之至言也。❷字號。㋑唐、竇師綸(8－25695‥70)の字。㋺宋、章得象(8－25761‥226)の字。

【希古】57（キコ） ❶古をこひねがふ。古人のやうにならうと希ふこと。〔夏侯湛、東方朔畫贊〕希レ古振レ纓。〔嵇康、幽憤詩〕抗レ心希レ古、任二其所一レ尙。❷字號。㋑唐、任敬臣(1－416‥210)の字。㋺宋、常安民(4－8955‥385)の字。㋩宋、張傲(4－9812‥602)の字。㋥元、普顏不花(5－13982‥117)の字。㋭明、張淳(桐城の人)(4－9812‥408)の字。㋬明、程文潞(8－25081‥287)の字。㋣明、田項(7－21723‥63)の字。㋠明、南釗(2－2750‥445)の字。㋷明、方孝孺(5－13620‥493)の字。㋦明、潘鑑(7－18236‥17)の字。

〖希古堂〗58（キコダウ） 清、譚宗浚(10－35978‥75)の「室名。

【希孔】59（キコウ） 明、全大成(1－1424‥222)の字。

【希貢】60（キコウ） 元、鄭璉(11－39647‥283)の字。

【希覯】61（キコウ） まれに見る。めづらしいこと。〔瑯嬛記、上〕季女贈二賢夫一、以二綠華尋仙之履、云云、黃金雙蝶之鈕一、皆製極二精巧一、當世希覯之物也。

【希才】62（キサイ） 元、方用(5－13620‥445)の字。

【希載】63（キサイ） 明、張西銘(4－9812‥1245)の字。

【希齋】64（キサイ） 留守友信の號。留守希齋(7－21808‥89)を見よ。

【希莊】65（キサウ） 梁、蕭孝儼(9－32012‥317)の字。

【希窄】66 hsi¹ chai³ 非常に狹い。

【希數】67（キサク） 稀であることと多いこと。〔馬融、長笛賦〕洪殺衰序、希數必當。〔注〕數、所角切。

【希參】68（キサン） 宋、張守約(4－9812‥1179)の字。

【希粲】69（キサン） 宋、許仲宣(10－35298‥359)の字。

【希之】70（キシ） 宋、趙及(10－37171‥103)の字。

【希旨】71（キシ） 希指に同じ。〔孔叢子、抗志〕子思曰、希レ旨容レ媚、則君親レ之。〔後漢書、竇憲傳〕公卿希レ旨、奏三憲位二次太傅下三公上一。

【希指】72（キシ） むねをこひねがふ。人の氣に入るやうに力める。上に在る者の意思に迎合する。機嫌を取る。〔漢書、孔光傳〕上有レ所レ問、據二經法一、以二心所一レ安而對、不二希レ指苟合一。〔漢書、外戚下、孝元傅昭儀傳〕董宏希レ指。

【希周】73（キシウ） 字號。❶宋、章如旦(8－25761‥208)の字。❷明、潘旦(7－18236‥70)の字。❸明、汪文盛(6－17154‥335)の字。❹清、張甄陶(4－9812‥995)の字。

【希繡】74（キシウ） 絺繡(8－27471‥12)に同じ。〔周

禮、春官、司服、祭㆓社稷五祀㆒則希冕、注〕玄謂、書曰、予欲㆑觀㆓古人之象㆒、日月星辰、山龍華蟲作㆑繢、宗彝藻火粉米黼黻希繡、此古天子冕服十二章、舜欲㆑觀焉、希、讀爲㆑絺。

【希祥】75 キシヤウ 隋、蔡徵(9－31818‥93)の字。

【希蔣】76 キシヤウ 後漢、宗元卿(3－7106‥295)の字。

【希壽】77 hsi¹ shou⁴ 七十歳以上の長壽。

【希儒】78 キジユ 唐、陳黯(11－41698‥5)の字。

【希舜】79 キシユン 明、蔣濬(9－31820‥57)の字。

【希準】80 キジユン 明、傅鑰(1－939‥124)の字。

【希如】81 キジヨ 梁、謝藺(10－35827‥232)の字。

【希稷】82 キシヨク 字號。㊀宋、薛田(9－32123‥108)の字。㊁明、盧岐嶷(8－23050‥197)の字。

【希眞】83 キシン 宋、朱敦儒(6－14424‥953)の字。

【希深】84 キシン 字號。㊀宋、謝絳(10－35827‥30)の字。㊁淸、計默(10－35220‥82)の字。

【希進】85 キシン 明、陳勉(雩都の人)(11－41698‥550)の字。

【希仁】86 キジン 字號。㊀唐、劉軻(2－2224‥75)の字。㊁宋、包拯(2－2506‥78)の字。㊂明、楊宏(6－15112‥103)の字。

【希崇】87 キスウ 明、儲惟德(1－1284‥76)の字。

【希世】88 キセイ ㊀世にまれで珍しい。〔張協、七命〕此蓋希世之神兵、子豈能從㆑我而服㆑之乎。〔歐陽玄、題㆓紫微老人大字㆒歌〕家藏有㆓此希世珍㆒、取㆑酒當㆑爲㆓主人壽㆒。㊁世譽を希ふ。世俗的名譽をこひ求める。〔韓詩外傳、一〕若夫希㆑世而行、比周而友。〔莊子、讓王〕原憲笑曰、夫希㆑世而行、比周而友。〔釋文〕司馬云、希、望也、所㆑行常顧㆓世譽㆒而動、故曰㆓希㆑世而行㆒。〔漢書、董仲舒傳〕公孫弘希㆑世用㆑事。〔魏志、武帝紀、注〕三公傾㆑邪、皆希㆑世見㆑用。

〖希世之雄〗89 キセイノユウ 世に珍しい英雄。〔日本政記、正親町天皇論〕方㆓太閤之時㆒、其布㆓列天下㆒者、槩希世之雄也。

【希正】90 キセイ 明、李侃(6－14459‥149)の字。

【希姓】91 キセイ 世間に稀な姓氏。〔萬姓統譜、凡例〕希姓無㆑人者、唯書㆓其姓竝望氏㆒。

【希聖】92 キセイ ㊀聖を希ふ。聖人になりたいとねがふ。〔夏侯湛、閔子騫贊〕聖既擬㆑天、賢亦希㆑聖。〔通書、志學〕聖希㆑天、賢希㆑聖、士希㆑賢。㊁字號。㋑唐、施肩吾(5－13629‥139)の字。㋺宋、喬執中(2－3990‥73)の字。㋩宋、阮大成(11－41569‥66)の字。㋥宋、胡仲弓(9－29400‥557)の字。㋭宋、侯仲良(1－633‥133)の字。㋬宋、周諝(2－3441‥278)の字。㋣宋、謝伯宜(10－35827‥355)の字。㋠宋、錢惟演(11－40563‥244)の字。㋷元、程願學(8－25081‥185)の字。

【希請】93 hsi¹ ch'ing³ 希ふ。請ひ求める。

【希靜】94 キセイ 聲がなくしづかなこと。〔嵇康、養生論〕今以㆓躁競之心㆒、涉㆓希靜之塗㆒。〔注〕善曰、老子曰、聽㆑之不㆑聞、名曰㆑希。

【希聲】95 キセイ ㊀極めてかすかな聲。〔老子、四十一〕大器晚成、大音希聲。〔陶潛、癸卯十二月中作與㆓從弟敬遠㆒詩〕傾㆑耳無㆓希聲㆒、在㆑目皓已潔。㊁字號。㋑宋、姚鏞(3－6202‥118)の字。㋺宋、黎錞(12－47994‥45)の字。㋩明、郭應響(11－39474‥250)の字。㋥明、錢肅樂(11－40563‥348)の字。

【希少】96 キセウ すくない。稀少。〔書、堯典〕鳥獸希革。〔傳〕夏時鳥獸毛羽、希少改易。〔晉書、西戎、大秦國傳〕商客往來、皆齎㆓三歲糧㆒、是以至者稀少。

【希召】97 キセウ 明、潘棠(7－18236‥65)の字。

【希仙】98 キセン ㊀草の名。豨薟(10－36404‥3)の異名。〔本草、豨薟〕釋名、希仙、火杴膏、豬膏母、虎膏、狗膏、黏糊菜、時珍曰、近人復訛㆓豨薟㆒爲㆓希仙㆒矣。㊁淸、方乾(5－13620‥150)の字。

【希遷】100 キセン 唐の僧。端州陳氏の子。號は石頭和尙。諡は無際大師。法を六祖の弟子、青原に受け、庵を衡山に結ぶ。著に參同契二百餘言がある。〔宋高僧傳、九〕。

【希祖】101 キソ 三國吳、張玄(4－9812‥285)の字。

【希素】102 キソ 明、文洪(5－13450‥335)の號。

【希曾】103 キソウ 字號。㊀元、練魯(8－27689‥83)の字。㊁明、徐沂(4－10110‥88)の字。㊂明、雷宗(12－42245‥86)の字。㊃淸、丁傳(1－2‥152)の字。

【希大】104 キダイ 字號。㊀明、喬宇(2－3990‥3)の字。㊁明、程昊(8－25081‥20)の字。

【希代】105 キダイ キタイ 世にまれ。世に類が無い。めづらしい。稀世。〔傅玄、走狗賦〕希㆑代來貢、作㆓珍皇家㆒。〔高適、答㆓侯少府㆒詩〕誰謂行路難、猥當希㆑代珍。

〖希代未聞〗106 キダイミモン 未だ嘗て聞かない甚だ珍しいこと。〔東鑑、三、壽永三年正月二十三日〕是希代未聞奇瑞也。

【希道】107 キダウ 字號。㊀宋、鄭惇方(11－39647‥522)の字。㊁宋、趙元偓(10－37171‥509)の字。㊂宋、劉庠(2－2224‥336)の字。㊃明、盛端明(8－23005‥225)の字。㊄明、王汶(7－20823‥941)の字。

【希稠】108 キチウ まばらとこまやか。希疏と稠密。〔漢書、劉向傳〕古今罕㆑有、異有㆓小大希稠㆒、占有㆓舒疾緩急㆒、而聖人所㆓以斷㆑疑也。

【希張】109 キチヤウ 淸、胡浚(9－29400‥182)の字。

【希中】110 キチユウ 明、謝用(10－35827‥225)の字。

【希仲】111 キチユウ 字號。㊀唐、陸元方(11－41708‥317)の字。㊁宋、錢守讓(11－40563‥342)の字。㊂明、戚元佐(5－11594‥52)の字。㊃淸、王慶麟(7－20823‥1389)の號。

【希忠】112 キチユウ 陳、司馬延義(2－3257‥326)の字。

【希寵】113 キチヨウ 寵を希ひもとめる。要寵。〔子華子、陽城胥渠問〕左右狡詐、希㆑寵之臣、又從而逢㆑之。

【希直】114 キチヨク 字號。㊀明、魚侃(12－45956‥38)の字。㊁明、方孝孺(5－13620‥493)の字。

【希貞】115 キテイ 唐、豆盧瑑(10－36245‥87)の字。

【希程】116 キテイ 明、張明道(4－9812‥1542)の字。

【希哲】117 キテツ 字號。㊀明、韓守愚(12－43159‥314)の字。㊁明、祝允明(8－24672‥125)の字。㊂明、洗文淵(6－17379‥130)の字。㊃明、盧濬(8－23050‥95)の字。㊄淸、博明(2－2761‥178)の字。

【希天】118 キテン 天を希ふ。天の德に及ばんことをねがふ。〔通書、志學〕聖希㆑天、賢希㆑聖、士希㆑賢。

【希徒】119 キト 唐、劉崇望(2－2224‥1101)の字。

【希圖】120 キト ㊀企圖をこひねがふ。〔晉書、涼武昭王傳〕人希㆓逐鹿之圖㆒、家有㆓雄霸之想㆒。㊁ねがひはかる。計畫する。又、くはだて。計畫。〔福惠全書、蒞任部、謁廟行香〕假㆑公濟㆑私、希㆓圖報復㆒。〔福惠全書、錢穀部、比較〕希㆔圖掩㆓飾一時㆒。

【希董】121 キトウ 宋、余發林(1－515‥115)の字。

【希得】122 キトク 宋、賈同(10－36755‥109)の字。

【希南】123 キナン 淸、錢栻(11－40563‥152)の字。

【希望】124 キバウ ㊀こひねがひのぞむ。願ひ欲する。又、ねがひ。のぞみ。冀望。希幸。希覬。〔後漢書、李固傳〕此等既怨、又希㆓望(梁)冀旨㆒。㊁五代周、白延遇(8－22678‥1251)の字。

【希白】125 キハク ㊀宋の僧。潭州の人。字は寶月。書に巧で、晉人の風度があり、慶曆中、淳化閣帖を潭州の郡齋に模刻した。著に古法帖十卷がある。㊁字號。㋑宋、錢易(11－40563‥14)の字。㋺元、房皡(5－11714‥25)の字。㋩淸、賀行素(10－36725‥124)の字。

【希范】126 キハン 宋、劉珏(2－2224‥116)の字。

【希範】127 キハン 字號。㊀梁、丘遲(1－33‥73)の字。㊁明、姜洪(廣德の人)(3－6205‥35)の字。㊂明、劉洪(2－2224‥279)の字。㊃明、王洪(7－20823‥398)の字。

【希美】128 キビ 唐、劉禕之(2－2224‥671)の字。

【希微】129 キビ ㊀うすくかすかなこと。熹微。〔晉書、陶潛傳〕問㆓征夫㆒以㆓前路㆒、恨㆓晨光之希微㆒。〔賈登、喜㆑雨賦〕其始至也、歷亂希微。〔眞德秀、送㆓琴士㆒序〕厭㆓古調之希微㆒。㊁希と微。希は聲があるやうで無いこと、微は形があるやうで觸れ得ないこと。〔老子、十四〕聽㆑之不㆑聞、名曰㆑希、搏㆑之不㆑得、名曰㆑微。〔河上公注〕無㆑聲曰㆑希、無㆑形曰㆑微。〔南史、隱逸傳序〕道義內足、希微兩亡。

〖希微子〗130 キビシ 明、翟祥(9－28727‥22)の號。

【希泌】131 キヒツ 宋、劉應李(2－2224‥726)の字。

【希馮】132 キヒヨウ 陳、顧野王(12－43689‥371)の字。

【希附】133 キフ こひねがひつく。〔後漢書、宦者傳序〕有㆔更相援引希㆓附權彊㆒。

【希武】134 キブ 字號。㊀元、孫抑(3－6987‥287)の字。㊁明、郭蘇(11－39474‥154)の字。㊂明、孫鎭(3－6987‥223)の字。㊃明、楊憲(6－15112‥137)の字。

【希風】135（キフウ） 風を希ふ。風尚を慕ひ望む。〔後漢書、黨錮傳序〕正直廢放、邪枉熾結、海內希風之流、遂共相標榜。〔注〕希、望也。

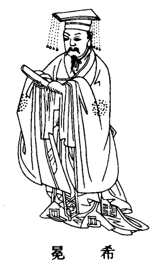
【希福】136（キフ） 清、滿洲正黃旗人。姓は赫舍里氏。諡は文簡。蒙古文漢文に精通し、崇德の初、弘文院大學士となつた。〔清史稿、二百三十八〕・〔先正事略、一〕・〔碑傳集、四〕。

【希文】137（キブン） 字號。❶宋、丘烈(**1**—**33**··121)の字。❷宋、范仲淹(**9**—**30834**··239)の字。❸明、和文(**2**—**3490**··347)の字。❹明、魯穆(**12**—**46013**··127)の字。❺明、王顯(**7**—**20823**··367)の字。❻清、方秋白(**5**—**13620**··536)の字。

【希聞】138（キブン） まれにきく。〔魏志、王基傳〕今州取㆓宿衞之臣㆒、留㆓祕閣之吏㆒、所㆓希聞㆒也。

【希平】139（キヘイ） 宋、趙誠(**10**—**37171**··79)の字。

【希冕】140（チベン） 古、天子が社稷・五祀を祭るために希服をきた時、被る冠。希衣(6)を見よ。〔周禮、春官、司服〕祭㆓社稷五祀㆒、則希冕。〔注〕希讀爲㆑絺、或作㆑黹、希、刺㆓粉米㆒無㆑畫也、其衣一章、裳二章、凡三也。〔周禮、天官、酒正、小祭壹貳、注〕小祭者、王服㆓希冕玄冕㆒所㆑祭也。


希冕（三才圖會）

【希甫】141（キホ） 宋、王承衍(**7**—**20823**··1697)の字。

【希慕】142（キボ） こひねがひしたふ。〔吳志、甘寧傳〕君居守而憂㆑亂、奚以希㆓慕古人㆒乎。

【希鳳】143（キホウ） 宋、程瑞(**8**—**25081**··81)の字。

【希毛】144（キマウ） 毛がすくない。〔漢書、鼂錯傳〕鳥獸希㆑毛、其性能㆑暑。

【希孟】145（キマウ） 字號。❶宋、王子輿(**7**—**20823**··1542)の字。❷元、張養浩(**4**—**9812**··1554)の字。

【希明】146（キメイ） 字號。❶唐、褚亮(**10**—**34457**··36)の字。❷明、曹學程(**5**—**14297**··268)の字。

【希邕】147（キヨウ） 北齊、李密(**6**—**14459**··755)の字。

【希臘】148（ギリシヤ） 歐羅巴洲バルカンの南部と其の附近の島嶼から成る共和國。羅馬の榮えた以前に於て繁榮を極め、今日の歐洲文明の發源地となつた。Greece の音譯。〔國史擥要序〕盛㆓於前㆒、衰㆓於後㆒者、爲㆓印度㆒、爲㆓巴比倫㆒、爲㆓麥西㆒、爲㆓波斯㆒、爲㆓猶太㆒、爲㆓希臘㆒、爲㆓羅馬㆒。

〖希臘教〗149（ギリシヤケウ） 基督教の一派。希臘教會を見よ。

〖希臘教會〗150（ギリシヤケウクワイ） 基督教の一派。十一世紀にローマ教會と分離したもので、東教會・正教會 Orthodox ともいふ。其の教はローマカトリツクと大いに異り、露西亞に於て尤もよく行はれてゐる。

〖希臘字母〗151（ギリシヤジボ） 希臘國通用の字母二十四字。Greek letters

大寫	小寫	英　譯	大寫	小寫	英　譯
Α	α	Alpha	Ο	ο	Omicron
Β	β	Beta	Π	π	Pi
Γ	γ	Gamma	Ρ	ρ	Rho
Δ	δ	Delta	Σ	σ	Sigma
Ε	ε	Epsilon	Τ	τ	Tau
Ζ	ζ	Zeta	Υ	υ	Upsilon
Η	η	Eta	Φ	φ	Phi
Θ	θ	Theta	Χ	χ	Chi
Ι	ι	Iota	Ψ	ψ	Psi
Κ	κ	Kappa	Ω	ω	Omega
Λ	λ	Lambda			
Μ	μ	Mu			
Ν	ν	Nu			
Ξ	ξ	Xi			

【希麟】152（キリン） 唐の僧。著に續一切經音義二百六十六卷がある。一名、希麟音義。慧琳の音義に繼いで作つたもの。

〖希麟音義〗153（キリンオンギ） 書名。十卷。唐、希麟撰。續一切經音義をいふ。〔爲帙、八〕。

【希呂】154（キリヨ） 字號。❶宋、尹謙孫(**4**—**7631**··110)の字。❷元、羅蒙正(**9**—**28397**··413)の字。

【希陵】155（キリヨウ） 元の僧。義烏の何氏の子。字は西白。諡は大辨。世祖に召見せられ、佛鑑の號を賜はる。著に瀑巖集及語錄がある。

【希烈】156（キレツ） 宋、王中正(**7**—**20823**··1908)の字。

【希魯】157（キロ） 字號。❶宋、蔣堂(**9**—**31820**··78)の字。❷明、盧原質(**8**—**23050**··215)の字。

【希壚】158（キロ） 宋の理宗の父の名。〔宋史、理宗紀一〕帝諱昀、太祖十世孫、父希壚、追㆓封榮王㆒。

【希祿】159（キロク） まれな祿。大祿をいふ。〔南史、何子平傳〕希祿本在㆑養㆑親、不㆑在㆑爲㆑己、問者慚而退。

【希韋子】160（キヰシ） 元、揭祐民(**5**—**12389**··48)の號。

【希迂生】161（キウセイ） 明、馬巒(**12**—**44572**··611)の號。

【希貴堂】162（キキダウ） 明、湯紹宗(**7**—**17874**··189)の室名。

【希爾根】163（シルコン） 清、滿洲正黃旗人。姓は覺爾察氏。太宗の時、屢〻征討に從ひ、順治の間、李自成・張獻忠・姜瓖を平定し、內大臣に列し、一等男に封爵せられ、康熙の間、耿精忠の反するや、江西を定め、副將軍を以て南昌を守つた。〔清史稿、二百六十〕・〔清史列傳、六〕・〔國朝耆獻類徵、二百七十二〕・〔滿洲名臣傳、七〕。

【希當阿】164（シタンア） 清、滿洲正黃旗人。姓は瓜爾佳氏。乾隆の間、烏什・金川・臺灣の征討に從ひ、官は直隸總兵に至つたが、事に坐して免職された。〔國朝耆獻類徵、三百二〕。

【希澹園】165（キタンエン） 明、虞堪(**9**—**32723**··16)の室名。

〖希澹園詩〗166（キタンエンシ） 書名。三卷。明、虞堪撰。舊本の元人と題するのは誤。古體は氣格が高く、近體も音節諧婉であるが、七言律は稍〻劣る。〔四庫提要、集、別集類〕。

【希鄭齋】167（キテイサイ） 清、楊文蓀(**6**—**15112**··780)の號。

【希伯來】168（ヘブライ） 國の名。西南亞細亞にあつた古代王國の一。紀元前千年頃の建國で、首都はエルサレム。領域は紅海からユーフラテス河畔に至る。ソロモン王の時、繁榮を極めたが、其の歿後、間もなく、ユダヤとイスラエル兩王國に分裂した。Hebrew の音譯。

【希利尼】169（ギリシヤ） 希臘(148)に同じ。

【希維居士】170（キヰコジ） 五代、楊凝式(**6**—**15112**··476)の號。

【希馬拉耶】171（ヒマラヤ） 山脈の名。喜馬拉雅(**2**—**3957**··179)を見よ。

【希琳音義】172（キリンオンギ） 希麟音義(153)に同じ。

【希喇默哈番】173（シラモハハン） 清代、大理寺丞の滿洲名。〔稱謂錄、大理寺職官、希喇默哈番〕皇朝通攷、大理寺卿、滿字稱爲㆓阿里哈哈番㆒、漢字稱爲㆑卿、云云、寺丞、滿字稱爲㆓希喇默哈番㆒、漢字稱爲㆓寺丞㆒、俱作㆓正五品㆒。

【𢁉】8814

キ　希(**4**—**8813**)に同じ。〔字彙〕𢁉、同㆑希。

【𢁒】8815

キ　希(**4**—**8813**)に同じ。〔龍龕手鑑〕𢁒、同㆑希。

【帍】8816

コ ゴ　〔集韻〕後五切　○麌

ひれ。婦人の領に卷くかざりのきれ。〔方言、四〕帍裱謂㆓之被巾㆒。〔注〕婦人領巾也。〔錢繹箋疏〕裱、猶㆑表也、表、謂㆓衣領㆒也。〔新方言、釋器〕今人謂㆓方領㆒爲㆓帍領㆒。

【帎】8817

㊀サ シヤ　〔五音集韻〕所加切　○麻
㊁ベウ メウ　〔集韻〕彌遙切　○蕭

㊀**ほそい絲。**〔五音集韻〕帎、細絲也。㊁**目の細かい網。**〔集韻〕帎、網細者帎。

【𢂀】8818

サウ セウ　〔廣韻〕側絞切　○巧

づきん。〔廣韻〕𢂀、𢂀頭。

【帇】8819

バン　萬(**9**—**31339**)の古字。〔集韻〕萬、古作㆑帇。

【𢂁】8820

ケン ゲン　〔集韻〕其淹切　○鹽

きぬ。或は絟(**8－27567**)に作る。〔集韻〕⿰巾今、布帛名、或作ㇾ絟。

【⿰巾日】8821 ジン ⿰巾刃(**4－8782**)に同じ。〔廣韻〕⿰巾日、同ㇾ⿰巾刃。

【⿰巾冘】8822 タン トン 〔集韻〕丁紺切 勘 **冠が前に俯す**。〔集韻〕⿰巾冘、冠俯ㇾ前也。

【⿱𠆢巾】8823 ウ 禹(**8－24885**)の古字。〔玉篇〕⿱𠆢巾、古文禹字。

【⿰巾夭】8824 アウ オウ 〔集韻〕烏浩切 皓 **年貢にだす織物**。⿰巾夭帪。〔集韻〕⿰巾夭、⿰巾夭帪、巾也。〔類篇〕⿰巾夭、音袄、征巾也。

【⿱斤巾】8825 クヮウ 〔川篇〕音荒 **おほひ**。〔川篇〕⿱斤巾、⿰巾幾也。

【帓】8826 ハツ 〔川篇〕音鉢 **てぬぐひ**。ふきん。〔川篇〕帓、巾也。

【⿸户巾】8827 コ 虎(**9－32675**)に同じ。〔字彙補〕⿸户巾、同ㇾ虎。

【⿰巾支】8828 フツ 帗(**4－8850**)に同じ。〔龍龕手鑑〕⿰巾支、同ㇾ帗。

【⿰巾斤】8829 シ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿰巾斤、音斯。

【⿰巾罔】8830 バウ 義未詳。〔龍龕手鑑〕⿰巾罔、音网。

【⿰巾公】8831 チユウ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿰巾公、音中。

【⿱爻巾】8832 ケイ 系(**8－27223**)に同じ。〔字彙補〕⿱爻巾、與ㇾ系同。

【⿱亥巾】8833 ガイ 亥(**1－292**)に同じ。〔篇韻〕⿱亥巾、同ㇾ亥。

五畫

【⿰巾冬】8834 トウ ヅ 〔集韻〕徒冬切 冬 ㊀**てぬぐひ**。ふきん。〔玉篇〕⿰巾冬、巾⿰巾冬也。㊁**ふきん**。觚を拭ふもの。〔集韻〕⿰巾冬、幡也。

【⿱夗巾】8835 エン ヲン 〔集韻〕於袁切 元

小篆

ふきん。觚を拭ふもの。〔說文〕⿱夗巾、幡也、从ㇾ巾夗聲。

【⿱夗巾綖】1 エン セン 牛の領の上の衣。〔廣韻〕綖、⿱夗巾綖、牛領上衣。

【⿰巾布】8836 ホ フ 〔五音集韻〕普故切 遇 **てぬぐひ**。ふきん。〔玉篇〕⿰巾布、巾也。

【⿰巾宁】8837 チヨ 〔集韻〕展呂切 語 ㊀**ひつぎかけ**。〔玉篇〕⿰巾宁、棺衣。〔集韻〕⿰巾宁、覆ㇾ棺衣。㊁或は褚(**10－34457**)・⿰巾睹(**4－9110**)に作る。〔玉篇〕⿰巾宁、亦作ㇾ褚。〔集韻〕⿰巾宁、或从ㇾ著。

【帑】8838 ［一］ド ヌ 〔集韻〕農都切 虞 ㄋㄨˊ nu^2 ［二］タウ 〔集韻〕坦朗切 養 ㄊㄤˇ tʻang^3 慣ド

小篆

［一］㊀**かねぐら**。金庫。〔說文〕帑、金幣所ㇾ藏也、从ㇾ巾奴聲。〔玉篇〕帑、金布所ㇾ藏之府。〔漢書、匈奴傳〕以爲㆔虛㆓費府帑㆒。〔注〕師古曰、帑、藏㆓金帛㆒之所也。〔後漢書、桓帝紀、大司農帑藏、注〕說文曰、帑者、金布所ㇾ藏之府也。㊁**かねぶくろ**。〔說文通訓定聲〕帑、按、本訓裹㆓金帛㆒之囊。㊂**子**。**妻子**。**子孫**。奴(**3－6039**)・孥(**3－6967**)に通ず。〔說文通訓定聲〕帑、叚借爲ㇾ奴、字亦作ㇾ孥。〔詩、小雅、常棣〕樂㆓爾妻帑㆒。〔傳〕帑、子也。〔禮、中庸〕樂㆓爾妻帑㆒。〔注〕古者謂㆓子孫㆒曰ㇾ帑。〔釋文〕帑、本又作ㇾ孥。〔左氏、文、六〕宣子使㆔臾駢送㆓其帑㆒。〔注〕帑、妻子也。㊃**鳥の尾**。〔左氏、襄、二十八〕以害㆓鳥帑㆒。〔注〕鳥尾曰ㇾ帑。〔疏〕帑者、細弱之名、於ㇾ人則妻子爲ㇾ帑、於ㇾ鳥則鳥尾爲ㇾ帑、妻子爲㆓人之後㆒、鳥尾亦鳥之後、故倶以ㇾ帑爲ㇾ言也。㊄**雌**。〔漢書、天文志、注〕晉灼曰、帑、雌也。㊅**とりこ**。〔後漢書、朱馮虞鄭周傳贊〕魴用㆓降帑㆒。〔注〕帑、虜也。㊆通じて怒(**4－10439**)に作る。〔漢書、天文志、其怒青黑色、注〕李奇曰、怒、當ㇾ言ㇾ帑。［二］**かねぐら**。［一］の㊀に同じ。〔集韻〕帑、金幣所ㇾ藏也。

【帑項】1 tʻang^3 hsiang^4 財政。財貨。

【帑金】2 ドキン くらに貯へた金。〔王醇、詩〕兵馬空多策未ㇾ深、封章徒乞內帑金。

【帑銀】3 tʻang^3 yin^2 財貨。金銀。

【帑廥】4 ドクヮイ くら。帑は金幣を藏する庫、廥は芻藁を藏する倉。〔唐書、張文瓘傳〕京師養㆓廏馬㆒萬匹、帑廥寖虛。

【帑庫】5 ドコ 貨財ををさめるくら。〔宋史、張永德傳〕選㆓富家子㆒、掌㆓帑庫㆒。〔迷樓記〕費㆓用金玉㆒、帑庫爲ㇾ之一虛。

【帑臧】6 ドザウ 帑藏に同じ。〔漢書、王莽傳下〕長樂御府・中御府及都內平準帑臧錢帛珠玉財物甚多。〔後漢書、楊秉傳〕帑臧空虛、浮食者衆。

【帑藏】7 ドザウ 貨財ををさめるくら。帑庫。〔後漢書、桓帝紀〕嘉禾生㆓大司農帑藏㆒。〔魏志、杜恕傳〕帑藏歲虛。〔唐書、戴冑傳〕賦調不ㇾ給、則帑藏虛矣。〔宋史、劉廷讓傳〕當㆘傾㆓帑藏㆒、爲ㇾ朕賞㆗戰士㆖。

【帑沫】8 ドマツ 儀仗の類。〔唐書、百官志四下〕節度使掌㆘總㆓軍旅㆒、顓㆗誅殺㆖、初授、具㆓帑沫兵仗㆒、詣㆓兵部㆒辭見。

【帑僇】9 ドリク 有罪者だけでなく、其の妻子までをも死罪に行ふこと。僇は戮。孥戮。〔史記、夏紀〕予則帑㆓僇汝㆒。〔注〕集解曰、孔安國曰、非㆓但止ㇾ身、辱及㆓汝子㆒、言㆓耻累㆒也。

【帑廩】10 ドリン 金庫と米倉。〔唐書、王虔休傳〕性悋敏、節㆓用度㆒、既沒、所ㇾ部帑廩、皆可ㇾ支㆓數歲㆒。〔蘇軾、上㆓神宗皇帝㆒書〕上糜㆓帑廩㆒、下奪㆓農時㆒。

【⿰巾必】8839 ヒツ ビチ 〔韻會〕薄必切 質

まく。とばり。〔韻會〕⿰巾必、幔也。

【⿰巾召】8840　テウ　〔集韻〕癡宵切　蕭

ほそい絲。⿰巾召紗。〔集韻〕⿰巾召、⿰巾召紗、細絲。

【帎】8841　セイ　シヤウ　〔集韻〕諸盈切　庚

まと。通じて正（6－16255）に作る。〔集韻〕帎、射的、通作レ正。

【⿰巾弗】8842　フツ　フチ　〔集韻〕敷勿切　物

髮をつつむ布。〔集韻〕⿰巾弗、韜髮也。〔字彙〕⿰巾弗、用以韜レ髮。

【帒】8843　タイ　ダイ　〔集韻〕待戴切　隊　ㄉㄞˋ tai^4

小篆

㊀ふくろ。〔說文新附〕帒、囊也、从レ巾代聲。㊁幐（4－9025）の俗字。〔說文新附考〕帒、卽幐之俗字、按、說文、幐訓レ囊、玉篇、黛爲二幐之重文一、知二帒卽幐之俗字一。㊂袋（10－34171）に同じ。〔集韻〕袋、或从レ巾。

【帓】8844

🈩　バツ　マチ　〔集韻〕莫葛切　曷　ㄇㄛˋ mo^4

🈔　バツ　メチ　〔集韻〕莫鎋切　黠

🈪　バツ　マチ　〔集韻〕勿發切　月

🈩🈔㊀てぬぐひ。ふきん。〔玉篇〕帓、巾也。㊁おび。〔集韻〕帓、帶也。㊂髮つつみ。頭巾。〔類篇〕帓、幧頭也。🈪たび。韈（12－43226）に同じ。〔集韻〕韈、說文、足衣也、亦作レ帓。

【帓首】1 バツシュ　頸首につけるかざり。ひたひあて。〔韓愈、送二幽州李端公一序〕司徒公紅帓首、鞾袴握レ刀。

【⿱此巾】8845

🈩　シ　〔集韻〕將支切　支

🈔　シ　〔集韻〕淺氏切　紙

🈩㊀**布の名**　細緻織巧のぬの。〔集韻〕⿱此巾、埤倉、布名。〔急就篇、二〕服瑣緰⿱此巾與レ繒連。〔注〕緰⿱此巾、緆布之尤精者也、言下此二種雖レ曰二布類一、其質精好、與レ繒相連次上也。㊁或は⿱此帀に作る。〔集韻〕⿱此巾、或作レ⿱此帀。🈔㊀てぬぐひ。ふきん。〔集韻〕⿱此巾、巾也。㊁布の名。〔集韻〕⿱此巾、一曰、布名。

【帔】8846

🈩　ヒ　〔集韻〕披義切　寘　ㄆㄟˋ p'ei^4

🈔　ヒ　〔集韻〕攀縻切　支

小篆

🈩🈔㊀**はかま**。**も**（裳）。もすそ。〔說文〕帔、弘農謂二帬帔一也、从レ巾皮聲。〔方言、四〕帬、陳魏之閒、謂二之帔一。㊁**胴衣**。うちかけ。そでなしばおり。〔釋名、釋衣服〕帔、披也、披二之肩背一、不レ及レ下也。〔玉篇〕帔、在二肩背一也。〔正字通〕帔、褙子也。〔南史、任昉傳〕冬月著二葛帔練裠一。㊂**てぬぐひ**。ふきん。〔集韻〕帔、一曰、巾也。㊃或は被（10－34222）・襬（10－34701）に作る。〔集韻〕帔、或作二被・襬一。［邦］**たれぎぬ**。苧麻の布でつくつた垂れぎぬ。古、婦人が外出する時、笠の四方に垂れて顔を隠したもの。

【帔子】1 ヒシ　袖なし羽織の類。〔蔣防、霍小玉傳〕著二舊石榴裙・紫⿰衤盍襠・紅綠帔子一、斜レ身倚レ帷。

【⿰巾句】8847

🈩　コウ　ク　〔集韻〕虛侯切　尤

🈔　ク　グ　〔集韻〕權俱切　虞

🈩**ゆがけ**。或は⿰巾區（4－9040）に作る。〔玉篇〕⿰巾句、指沓也。〔廣韻〕⿰巾句、指⿰巾句。〔集韻〕⿰巾句、射決也、或从レ區。🈔**くつさきのかざりいと**。鼻緒かざり。絇（8－27377）に同じ。〔集韻〕絇、說文、纑繩絇也、或作レ⿰巾句。

【帕】8848

🈩　バツ　メチ　〔廣韻〕莫鎋切　黠　ㄆㄚˋ p'a^4

🈔　ハ　ヘ　〔集韻〕普駕切　禡

🈪　バク　ミヤク　〔中華大字典〕莫白切　陌

🈩㊀**ひたひあて**。額布。〔廣韻〕帕、帕額、首飾。〔字彙〕帕、紅絹抹レ額爲レ帕、二儀實錄、禹會二塗山一之夕、大風雷震、有二甲步卒千餘人一、其不レ被レ甲者、以二紅綃帕一抹二其額一、自レ此遂爲二軍容之服一。〔王逢、歎二病駝一詩〕老奚首帕短袴靴。㊁**つつむ**。〔韓愈、元和聖德詩〕以レ錦纏レ股、以レ紅帕レ首。🈔🈪㊀**ふくさ**。物をつつむ巾。〔麗情集〕以二秋雲羅帕一、裹二丹五十粒一。〔韓駒、呈二館中舊同舍一詩〕御本會看錦帕舒。㊁**とばり**。〔陳旅、題二春宮倦繡兩圖一詩〕牀頭翠帕冪二雙環一。〔揚允孚、灤京雜詠〕御搨中閒寶帕提。㊂帊（4－8808）に同じ。〔正字通〕帕、通作レ帊。㊃［現］手巾。ハンカチーフ。

【帕額】1 ハクガク　ひたひあて。〔廣韻〕帕、帕額、首飾。

【帕子】2 p'a^4 tzŭ　ふくさ。ふろしき。手拭。

【帕首】3 バツシュ　はちまき。額につける紅絹。又、頭巾。帕頭を見よ。〔二儀實錄〕禹會二塗山一之夕、大風雷震、有二甲步卒千餘人一、其不レ被レ甲者、以二紅綃帕一抹二其額一、自レ此遂爲二軍容之服一。〔韓愈、送二鄭尙書一序〕府帥必戎服、左握レ刀、右屬二弓矢一、帕首袴鞾迎レ郊。〔劉克莊、賀二制置李尙書一啓〕帕首腰刀、庭二列諸屯之大將一。〔王逢、天門行〕腰纏二白帶一紅帕レ首。〔老學庵筆記、九〕孫策傳、張津常著二絳帕頭一、帕頭者、云云、猶三今言二幞頭一也、韓文公云、以レ紅帕レ首、已爲レ失レ之、東坡云、絳帕蒙レ頭讀二道書一、增二一蒙字一、其誤尤甚。〔剪燈新話、申陽洞記〕爲レ首者、頂二三山冠絳帕首一、被二淡黃袍一。

【帕頭】4 バツトウ　頭巾の類。幞頭。帕首を見よ。〔列子、湯問、鞨巾、釋文〕帕頭、幧頭也。〔吳志、孫策傳、注〕昔南陽張津、爲二交州刺史一、云云、嘗著二絳帕頭一、鼓レ琴燒レ香、舍二前聖典訓一、廢二漢家法律一、常著二絳帕頭一。

【帕馬】5 パーマ　地名。イタリヤ北部の一州。又、同州の首邑。Parma の音譯。

【帕服】6 ハクフク　好い衣裳をつけること。〔釋常談〕婦人施二粉黛花鈿一、著二好衣裳一、謂二之鮮妝帕服一、李夫人別傳曰、夫人久病、武帝親往問レ之、夫人臥不二迴顧一、武帝去、延年以下責二夫人一、帝既再三顧問、合三轉レ面一見、囑二託骨肉一、夫人曰、我若不レ起、帝必追二思我鮮妝帕服之時一、是深囑託也。

【帕腹】7 ハクフク　はらまき。袙腹。〔釋名、釋衣服〕帕腹、橫二帕其腹一也。

【帕勞】8 パラオ　群島の名。カロリン群島の西部。舊日本委任統治地。帛琉。Palau の音譯。

【帕拉】9 パラ　地名。南アメリカ、パラ河口の港。Para の音譯。

【帕克楠】10 パクナム　地名。タイ國のメナム河の河口にあり、盤谷の外港。Paknam の音譯。

【帕雕亞】11 パドヤ　地名。イタリヤ北部の都邑。Padua の音譯。

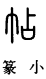
【帕提亞】12 パチア　古の國の名。波斯の北部。裏海の西南。漢代の安息。Parthia の音譯。

【帕特那】13 パトナ　地名。印度東部の都邑。Patna の音譯。

【帕米爾】14 パミール　亞細亞洲中部の高原。波謎羅。Pamir の音譯。〔淸史稿、地理志〕新疆、東南界二甘肅・青海一、西南界二帕米爾一。

【帖】8849

テフ 〔集韻〕託協切 葉。 ㄊㄧㄝ ˉˇˋ tʻieh$^{1\cdot3\cdot4}$ 慣デフ

小篆 

❶うはがき。きぬに記した標題。〔說文〕帖、帛書署也、从レ巾占聲。〔段注〕木部曰、檢、書署也、木爲レ之、謂二之檢一、帛爲レ之、則謂二之帖一、皆謂二標題一、今人所謂籤也、帛署必黏黏、引伸爲二帖服一、爲二帖妥一。〔一切經音義、十四〕題賦曰レ帖。❷法帖。古人の眞蹟で鑑賞臨寫の資となるもの。後には摸刻のものをもいふ。〔蘇軾、贈二呂錡一詩〕家藏二古今帖一、墨色照二箱筥一。〔書苑〕懷素絹帖一軸。❸帳簿。書類。〔唐國史補、下〕宰相判二四方之事一有二堂案一、處二分百司一有二堂帖一。〔宋史、食貨志〕有二莊帳一、有二甲帖一。❹ふれぶみ。布告文書。〔木蘭辭〕昨夜見二軍帖一、可汗大點レ兵。〔杜甫、新安吏詩〕府帖昨夜下。〔李存義、役謠〕省符郡帖一朝下。❺てがた。かきつけ。證書。〔廣韻〕帖、券帖。〔南史、臨汝侯坦之傳〕檢レ家赤貧、唯有二質錢帖子數百一。❻はりがみ。はりふだ。牓聯。〔南史、庾杲之傳〕杲之嘗兼二主客郎一、對二魏使一、使問二杲之一曰、百姓那得三家家題二門帖賣宅一。❼手紙。〔侯鯖錄〕右軍爲二換鵞帖一、今爲二換羊書一矣。〔時用雲箋〕凡請帖、必用二封筒一。❽進士登庸試驗の一法。帖括(5)・帖經(7)・試帖(10－35415‥51)を見よ。❾とばり。〔釋名、釋牀帳〕牀前帷曰レ帖、帖帖而垂也。〔李商隱、擬意詩〕象牀穿二幰網一、犀帖釘二窓油一。❿つく。つける。黏(12－48007)に通ず。〔說文通訓定聲〕帖、叚借爲レ黏。〔鐵圍山叢談〕釘帖レ之。⓫さだめる。さだまる。〔晉書、范甯傳〕如令二互相領帖一、則是下官反爲二上司一。〔張九齡、敕二西南蠻大首領蒙歸義一書〕蕃中應二且安帖一。⓬したがふ。〔字彙補〕帖、服也。⓭たれる。〔韓愈、應二科目一時與レ人書〕俛レ首帖レ耳。⓮しづか。〔字彙補〕帖、靜也。⓯やすらか。おちつく。〔宋史、張詠傳〕民遂帖息。⓰藥の一服。〔四朝聞見錄〕寧王每命二尙醫一、止進二一藥一、戒以レ不三分作二三四帖一。⓱姓。〔萬姓統譜〕帖晏、馬平人、正德中、任二龍川知縣一。⓲現㋑名刺。㋺紙幣。㋩免狀。鑑札。邦でふ。㋑折本。折手本。㋺半紙二十枚、又は美濃紙四十八枚、又は海苔十枚を一括したものの稱。

名乘 サダ。タダ。

【帖學】1 テフガク 書法で、法帖を臨書する一派をいふ。碑學の對。

『帖學派』2 テフガクハ 書道の一派。王羲之一派の溫潤な書風を學び、宋・元・明から清朝初期迄繼續されたが、乾隆以後、漸く衰へた。

【帖氣】3 tʻieh^{4} chʻi^{4} 法帖にある字の風。

【帖黃】4 テフクワウ 唐代、詔勅に更改するところがあると、黃紙を貼附し、其の表草に事目を擧げて、前の封皮にあらはしたのをいふ。古の引黃。後世は、黃紙を用ひないでも帖黃といふ。〔唐國史補、下〕黃勅既行下、有二小異同一、曰二帖黃一、一作二押黃一。〔石林燕語〕唐制、降レ敕有レ所二更改一、以レ紙帖レ之、謂二之帖黃一、蓋敕書用二黃紙一、則帖者亦黃紙也。

【帖括】5 テフクワツ 唐代、帖經の受驗者が多くなるにつれて、試驗官が難語句を出題するやうになつたので、受驗者は經中の難語句を拾ひ集めて之を歌のやうに暗記し易い形にまとめて記憶に便した。之を帖括といふ。帖經(7)を見よ。〔唐書、選擧志上〕明經者、但記二帖括一。〔陔餘叢考、帖括策括〕唐書選擧志、楊綰疏言、明經但記二帖括一、按、文獻通考、唐制、帖經試レ士、後以二應レ試者多一、至下帖二孤章絕言一以惑上レ之、應レ試者、乃索二幽隱一編爲二詩賦一、不レ過二數十篇一、難者悉備レ此、卽所謂帖括也。

『帖括派』6 テフクワツハ 明末に於ける、學派の一。科擧應試の文を練習し研究した學派。〔梁啓超、淸代學術概論〕此實對二於晚明之帖括派・淸談派一、施二一大針砭一、淸代儒者以二樸學一自命、以レ示レ別二於文人一、實炎武啓レ之。

【帖經】7 テフケイ 唐代、進士・明經科に課した試驗。經書の全面を覆つて其の中の一行をあらはし、更に一行中の數字を覆つて暗射させる法。試帖(10－35415‥51)を見よ。〔通典、選擧典、歷代制下〕帖經者、以二所レ習經一、掩二其兩端一、中間開二唯一行一、裁レ紙爲レ帖、凡帖二三字一、隨レ時增損、可否不レ一。

【帖裝】8 テフサウ 書物の裝釘法の一。法帖仕立にしたもので、俗にいふ折本の稱。

【帖子】9 テフシ ❶帳簿。折本。〔宋名臣言行錄後集、歐陽脩〕公在二翰林一、仁宗一日乘レ閒見二御閣春帖子一、讀而愛レ之、問二左右一、曰歐陽脩之辭也、乃悉取二宮中諸帖一閱レ之、見二其篇篇有一レ意、歎曰、擧レ筆不レ忘二規諫一、眞侍從之臣也。〔金史、百官志三〕出二帖子一時、寫二質物人姓名物之名色金銀等一。〔紅樓夢、十四回〕擲二下帖子一來、那二人掃レ興而去。❷tʻieh^{3} tzŭ ㋑札。㋺制錢を兌換の本位として發行した兌換券。政府から發行したものを官帖、錢莊・錢鋪から發行したものを私帖といふ。

【帖子詞】10 テフシシ 宋代、八節の內宴に翰苑の諸士の撰した詞の名。〔歐陽脩、春帖子詞、皇帝閤〕萌牙資二暖律一、養育本二仁心一、顧二彼蒼生意一、安知二帝力深一。〔陔餘叢考、帖子詞〕宋時八節內宴、翰苑皆撰二帖子詞一、如二歐陽公・司馬溫公集中一皆有レ之、丹陽集載二春帖子詞一尤多、如下蘇子容云、璇霄一夕斗杓東、瀲灩晨曦照二九重一、和氣薰風摩二葢壤一、競消二兵甲一事二春農一、鄧伯溫云、晨曦瀲灩上二簾櫳一、金屋熙熙歌吹中、桃臉似レ知宮宴早、百花頭上放二輕紅一、蔣穎叔云、昧旦求レ衣向二曉雞一、蓬萊仗下日將レ西、花添二漏鼓一三聲遠、柳吹二春旗一一色齊、梁君睨云、東方和氣斗回レ杓、龍角中星轉二紫霄一、聖主問安天未レ曉、求レ衣親護紫宸朝上、皆莊麗可レ誦、見二太平景象一、乃明成化中、編修黃仲昭・檢討莊㫤不レ肯レ上二元宵詞一、且上疏論列以去、按、宋史、鄒浩爲二教授一、范純仁托レ撰二致語一、浩不レ肯、純仁曰、翰林學士嘗爲レ之、浩曰、翰林學士則可、祭酒司業則不可、致語與二帖子詞一同レ類、是浩亦未下嘗以二翰林一爲上レ不レ可レ撰也、況高季迪詩云下去歲端陽直二禁闈一、新題帖子進中彤扉上、則明初猶有二此例一、而仲昭等幷不レ知、其不學甚矣、潤二色太平一、翰林本職、歐陽・司馬、何害三其爲二名臣一、亦何損二於朝政一乎。

【帖試】11 テフシ 帖括(5)に同じ。〔唐書、楊瑒傳〕瑒奏、有司帖二試明經一、不レ質二大義一、乃取二年頭月尾、孤經絕句一。

【帖耳】12 テフジ 耳を垂れる。御機嫌をとり、憐みを乞ふさまにいふ。〔韓愈、應二科目一時與レ人書〕俛レ首帖レ耳、搖レ尾而乞レ憐。

【帖兒】13 tʻieh^{3} êrh かきつけ。帳簿。〔紅樓夢、十四回〕因問、儞有什麼事、張材家的忙取帖兒回「說。

【帖稅】14 tʻieh^{3} shuei^{4} 免狀下附の手數料。

【帖照】15 tʻieh^{3} chao^{4} 營業許可證。鑑札。

【帖席】16 tʻieh^{1} hsi^{2} 座席につく。

【帖然】17 テフゼン おちつき安んずるさま。〔晉書、謝鯤傳〕明公擧而用レ之、羣情帖然矣。〔日本政記、神武天皇論〕能一擧而定二海內一、海內帖然、以開二千萬年之業一。

【帖息】18 テフソク 安んじおちつく。安堵する。〔宋史、張詠傳〕民遂帖息。

【帖妥】19 テフダ やすんずる。又、やすらか。妥帖。〔李賀、貝宮夫人詩〕秋肌稍覺玉衣寒、空光帖妥水如レ天。

【帖著】21 テフチヤク はりつける。〔南史、朱齡石傳〕帖二著舅枕一。

【帖敕】22 テフチヨク 詔敕の後に紙を聯ねてかきつけること。畫敕。〔梁書、武帝紀上〕更直二內省一、分レ日帖敕。〔資治通鑑、齊紀〕（東昏侯、永元元年）衞尉劉暄更直二內省一、分レ日帖敕。〔注〕帖敕者、於二敕後一聯レ紙書レ行、所謂畫敕也。

【帖帖】23 テフテフ ❶悠然とおちつくさま。〔杜牧、洛中送二冀處士東遊一詩〕壇宇寬帖帖、符彩高酋酋。❷ついて離れないさま。〔韓偓、雨中詩〕獨自上二西樓一、風襟寒帖帖。❸垂れ下るさま。〔釋名、釋牀帳〕牀前帷曰レ帖、言二帖帖而垂一也。❹心服

するさま。〔韓愈、施先生墓銘〕太學生習二毛鄭詩・春秋左氏傳一者、皆其弟子、貴游之子弟、時三先生之説二經一來二太學一、帖帖坐二諸生下一、恐レ不レ得二卒聞一。

【帖發】24テフハツ 犯罪者に罪狀文をつけて送ること。〔水滸傳、二十八回〕隨卽卻把二武松一帖二發本處牢城營前一。

【帖費】25 t'ieh^3 fei^4 免狀下附の手數料。帖稅。

【帖伏】26テフフク ❶耳を垂れて伏す。從順になるさま。又、憐みを乞ひ御機嫌をとるさまにいふ。帖服。〔薛季宣、跋二蜡虎圖一詩〕請君懸二之政事堂一、坐令三帖二伏犬與レ羊。❷おちつく。〔福惠全書、涖任部、稟帖贅說、稟帖附〕少相帖伏。

【帖服】27テフフク 從順に服從する。帖伏。〔王安石、彰武軍節度使侍中曹穆公行狀〕後遂帖服、皆爲レ用。

【帖簿】28テフボ 帳簿。帳面。

【帖木】29テフギ 戶のへりにつけ、雙方の扉の合せ目のすきまを蔽ふ木。

【帖木兒】30チムール ❶蒙古の美稱。❷チムール朝の始祖。察合台の將、合喇察兒五世の孫、タラガイの子。又、貼睦兒・鐵木兒・鐵穆兒に作る。西紀一三六〇年に太守となつて後、東西兩察合台汗國を倂合し、サマルカンドに都し、爾後ペルシヤ・南ロシヤ・印度方面を經略し、オスマントルコに大勝し、雄名を世界に轟かした。一千四百四年、中國遠征の途上に歿す、年七十。〔明史、三百三十二〕。

【帖木兒朝】31チムールテウ 帖木兒及び其の子孫を君主とする王朝。帖木兒の直屬の版圖は、大體、東はフエルガナから西はアゼルバイジヤンに、北はシル河から南はインダス河に及んでゐたが、其の各地方は諸子諸孫が太守として之を管轄してゐたため、地方的民族的利害が之に働いて、自ら分裂の傾向があつた。西紀一四〇五年、帖木兒の歿後、諸子が互に爭つたが、一四〇九年、第四子シヤー・ルクが故地を統一し、帖木兒朝の最盛期を現出した。併し、一四四七年に彼が歿して以後、全領土が混亂に陷り、國勢は次第に傾いた。其の後、一時、國勢を盛返した期間もあつたが、一五〇〇年、北方のウズベク部のために首都サマルカンドを奪はれ、一五〇六年、遂に滅亡した。

【帖木兒圖泊】32チムールトポ 湖の名。新疆省哈密縣の北境に在り、大唐西域記に、大淸池は四面山を負ひ、衆流交湊し、色靑黑を帶び、味鹹苦を兼ぬ、とあるのはこれである。又、特穆爾圖淖爾・圖斯庫勒に作る。

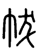
【帖木兒不花】33チムールブホア ❶元、荅荅里帶の人。至元中、丞相伯顏に從つて宋を伐ち、張世傑を香山島に追ひ、世傑が死するや、其の衆數千を降す。四川行中書省平章政事に累官す。〔元史、一百三十二〕。❷元の人。世祖の孫。鎭南王脫歡の第四子。淮王に封ぜらる。順帝が北に奔るや、國を監し、城破れて死す、年八十三。〔元史、一百十七〕。

【帖面子】34 t'ieh^4 mien^4 tzŭ 法帖・書畫帖などの表紙。

【帗】8850

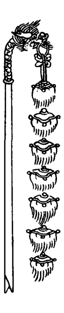
㊀フツ フチ 〔集韻〕敷勿切 物

㊁ハツ ハチ 〔集韻〕北末切 曷


小篆

㊀❶**舞者が手に執る五色のさきぎぬ。**〔周禮、春官、樂師〕凡舞有二帗舞一。〔注〕帗、析二五采繒一爲レ之、有レ秉、皆舞者所レ執。❷**ひざかけ。まへだれ。**韍(**12－43121**)に通ず。〔說文通訓定聲〕帗、段借爲レ韍。〔穆天子傳、一〕帗帶。〔注〕帗、韠也、天子赤帗。❸**けおりもの。**帗縷(2)を見よ。㊁**一幅のきれ地。**〔說文〕帗、一幅巾也、从レ巾犮聲、讀若レ撥。〔段注〕幅、布帛廣也、一幅巾者、巾廣二尺二寸、其長當二亦同一也。

【帗舞】1フツブ 舞の名。舞者が五色のさきぎぬを執つて舞ふもの。〔周禮、地官、舞師〕掌レ教二帗舞一。〔疏〕帗舞、用二五色繒一。〔周禮、春官、樂師〕凡舞有二帗舞一、有二羽舞一。〔注〕鄭司農云、帗舞者全羽、羽舞者析羽、云云、玄謂、帗、析二五采繒一、今靈星舞子持レ之、是也。


帗舞（禮器圖）

【帗縷】2フツル けおりもの。〔方言、二〕帗縷、毳也、陳宋鄭衞之間、謂二之帗縷一。〔注〕謂二物之扞蔽一也。

【帘】8851

㊀レン 〔集韻〕離鹽切 鹽 ㄌㄧㄢˊ lien^2

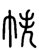
㊁シン ジン 〔集韻〕鋤臻切 眞

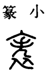
㊂エウ 〔集韻〕一叫切 嘯

㊀**酒屋の旗。**〔廣韻〕帘、靑帘、酒家望子。〔集韻〕帘、酒家幟。㊁㊂**幕。**〔集韻〕帘、幕也。

【帙】8852

チツ ヂチ 〔集韻〕直質切 質 ㄓˋ chih^4


小篆


或體

❶**ふまき。**ふみづつみ。書物をさめるおほひ。〔說文〕帙、書衣也、从レ巾失聲。〔段注〕書衣、謂二用裹レ書者一、今人曰レ函。〔廣韻〕帙、書帙。〔南史、孔惇之傳〕惟牀上有二數帙書一。〔唐書、陸龜蒙傳〕借二人書一、篇帙壞舛。❷**小ぶくろ。**〔玉篇〕帙、小囊。❸**書物の次第篇序。**〔韻會〕帙、又次序也。〔南史、牛弘傳〕部帙之間、仍有二殘缺一。❹**書物。**〔梁元帝、簡文帝法寶聯璧序〕留二神緗帙一。〔王績、採藥行〕行披二葛仙經一、坐檢二神農帙一。❺或は袠(**10－34205**)に作る。〔集韻〕帙、或从レ衣。❻**姓。**〔韻會〕帙、又姓、出二纂文一。〔萬姓統譜〕帙、見二姓苑一。

【帙子】1チツシ 折本をいふ。摺本。摺葉。

【帙入】2チツイリ 書籍などの帙に入れたもの。

【散レ帙】3チツヲサンズ 書帙を開く。〔杜甫、歸來詩〕開レ門野鼠走、散レ帙壁魚乾。〔海錄碎事、文學、儒學〕散レ帙、開二書帙一也、杜詩云、散レ帙壁魚乾。

【㡀】8853

㊀ヘイ ベイ 〔集韻〕毗祭切 霽

㊁ヘツ ヘチ 〔辭海〕劈噎切 屑

小篆

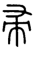
㊀㊁❶**やぶれた衣。**敝(**5－13245**)に通ず。〔說文〕㡀、敗衣也、从レ巾、象二衣敗之形一。〔段注〕此敗衣正字、自二敝專行一而㡀廢矣。❷**衣のやぶれたさま。**〔玉篇〕㡀、衣壞皃。❸**ちひさい。**いやしい。〔廣雅、釋詁二〕㡀、小也。❹**やぶれる。**〔廣雅、釋詁三〕㡀、敗也。

解字 指事。巾に從ひ、八は衣巾のやぶれたさまを示す。故に本義はやぶれた衣。後世、敝の字が行はれ、㡀の字は廢れた。

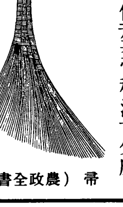
【帚】8854

シウ シュ 〔集韻〕止酉切 有 ㄓㄡˇ chou^3 ㄔㄨ ch'u

慣サウ


小篆

❶**はく。**はらふ。きよめる。〔玉篇〕帚、掃二除糞穢一也。❷**はうき。**はき。〔說文〕帚、所二㠯糞一也、从二又持一レ巾、埽二冂內一、古者少康初作二箕帚秫酒一、少康、杜康也、葬二長垣一也。〔禮、曲禮上〕凡爲二長者一糞之禮、必加二帚于箕上一。〔揚雄、解嘲〕或擁二帚于箕


帚（農政全書）

上㆒。❸箒（8－26139）に通ず。〔正字通〕箒、箒・帚通。

解字 會意。又と冂と巾との合字。冂はかこひ、故に一定のかこまれたところの意、巾は布帛、清掃には、始め布帛を手にもつてかこまれたところをふき掃除する、故に清掃の義とし、又、一般にはく、はうきの義に用ひる。〔說文、帚、段注〕凡掃除以潔㆓清介內㆒持㆑巾者、掃之事、昉㆓於拂拭㆒、因㆓巾可㆑拭㆑物、乃用㆓萑芀黍䅖㆒爲㆑帚拂㆑地矣。

【帚園】1（サウエン） 清、董漢策（9－31433・・185）の號。

【帚豲】2（サウクワン） 大きな豬。豪豬。〔漢書、揚雄傳下、拕㆓豪豬㆒、注〕師古曰、豪豬、亦名㆓帚豲㆒也。

【帚姑】3（サウコ） 吳の俗で、正月に婢女が箒を以て行ふ占卜の遊び。〔直隸志書、永平府〕又有㆓笤帚姑・箕姑・針姑・葦姑者㆒、皆女巫、因走㆑病而誑㆓誕其俗㆒也。〔江南志書、嘉定縣〕俗謂正月百草俱靈、故於㆓燈時㆒、備㆓諸祠卜之戲㆒、然多㆓婢子爲㆑之、故於㆓箕帚竹箄之類㆒、皆能響卜、云云、帚姑以㆓敝帚㆒繫㆑裙以卜、至則能起臥以占㆑事。

【帚罟】4（サウコ） 箒と獸をとるあみ。〔山書〕夫帚罟既可㆓以駭㆑物、則帚罟必可㆓以取㆑物。

【帚草】5（ハウキグサ） 草の名。藜科に屬し、葉は細長く、花は小形白色で夏時に開く。葉は食用に供し、莖枝は乾して草箒を造るに用ひる。箒草。

【帚掃】6（サウサウ） 帚ではくこと。箒掃。

【帚星】7（サウセイ） 彗星の別名。はうきぼし。〔晉書、天文志中〕若星・帚星云云、皆太白之所㆑生也。

【帚鞘】8（ハウキザヤ） 毛皮でつくつた尻鞘。草箒に似てゐるからいふ。

【帚拂】9（サウフツ） 箒で掃ひ除く。はらふ。はく。〔南齊書、王思遠傳〕既去之後、猶令㆔二人交帚㆓拂其坐處㆒。

【帚柄】10（サウヘイ） 箒の柄。〔黃庭堅、次㆕韻子由績溪病起被㆔召㆓寄王定國㆒詩〕稅屋待㆓車音㆒、掃㆑門親㆓帚柄㆒。

【帚卜】11（サウボク） 箒で占卜をする遊び。帚姑（3）を見よ。〔范成大、上元紀㆓吳中節物㆒俳諧體三十二韻詩〕帚卜拖㆑裙驗、箕詩落㆑筆驚。

【帚木】12（ハハキギ） ❶帚草（5）に同じ。❷情があるやうに見えて、實のないことにいふ。古、信濃國薗原（今、下伊那郡）に在つて、遠く望めば、箒のやうな梢があるやうに見えるのに、立寄つて見れば、其の形が無かつたといふ故事。❸初めの二音が同一であるから、母にかけて用ひる。❹源氏物語中の卷の名。源氏の君が十七歲の時、五月雨の夜に頭中將等と女の品定めをした事、また方違に際しはからずも空蟬を見そめて初めて一夜の契りを結んだことを描く。❺閒夫の隱語。江戸時代、吉原遊廓の語。

【帚目】13（ハウキメ） 地面をはいた箒のあと。〔炭俵、冬〕帚目に霜の蘇鐵の寒さかな。

【帛】8855

小篆

ハク ビヤク 〔集韻〕薄陌切 ㄅㄛˋ po^4 陌

❶きぬ。〔說文〕帛、繒也、从㆑巾白聲。〔徐灝注箋〕帛者、縑素之通名。〔左氏、閔、二〕大帛之冠。〔注〕大帛、厚繒。㋑うすぎぬ。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕必書㆓功於竹帛㆒。〔注〕帛、謂㆓縑素㆒也。㋺しろぎぬ。〔儀禮、聘禮〕束帛加㆑璧。〔注〕帛、今之璧色繒也。㋩くろぎぬ。〔淮南子、原道訓〕執㆓玉帛㆒者萬國。〔注〕帛、玄纁也。㋥束帛。〔儀禮、士昏禮記〕皮帛必可㆑制。〔注〕皮帛、儷皮束帛也。㋭玉を載せるきぬ。〔史記、五帝紀〕五玉三帛。〔注〕集解曰、帛、所㆓以薦㆑玉也。㋬ぬさ。たむけぎぬ。禮物として贈答するきぬ。〔周禮、天官、大宰〕六曰、幣帛之式。〔注〕幣帛、所㆔以贈㆓勞賓客㆒者。❷草の名。〔爾雅、釋草〕帛、似㆑帛、布、似㆑布、華山有㆑之。〔疏〕葉似㆑帛者。❸白（8－22678）に通ず。〔禮、玉藻〕大帛不㆑緌。〔注〕帛、當㆑爲㆑白、聲之誤也。❹伯（1－466）に通ず。〔左氏、隱、二〕紀子帛。〔公羊、隱、二〕紀子伯。❺帕（4－8848）に通ず。〔說文通訓定聲〕帛、字亦作㆑帕。❻姓。〔姓譜〕紀大夫裂繻、字子帛、其後以㆓王父字㆒爲㆑氏。〔蘇州府志〕帛氏、姓苑云、吳郡人、漢五威將軍帛敞、後漢有㆓帛宣㆒。

【帛衣】1（ハクイ） ❶高句麗の官名。魏志には皁衣に作る。〔後漢書、東夷、高句麗傳〕使者帛衣先人。❷（ハクノキヌ） 天皇特有の白絹の齋服。神事の時のみに用ひられた。白御裝束。〔令義解、喪葬、天皇服〕除㆓帛衣㆒外、通㆓用雜色㆒。

【帛意】2（ハクイ） 後漢、舒の人。李憲の軍士。憲を斬つて漢に降り、漁浦侯に封ぜらる。〔後漢書、四十二〕。

【帛喜】3（ハクキ） 吳の太宰、伯嚭をいふ。〔論衡、逢遇〕伍員・帛喜、俱事㆓夫差㆒、帛喜尊重、伍員誅死、此異㆑操而同㆑主也。〔注〕帛喜、宜㆔讀作㆓伯嚭字㆒。

【帛屩】4（ハクキヤク） 帛製のくつ。帛屐（8）を見よ。〔釋名、釋衣服〕帛屐、以㆑帛作㆑之如㆑屩者、不㆑曰㆓帛屩㆒者、屩不㆑可㆑踐㆑泥也。

【帛巾】5（ハクキン） きぬぎれ。絹織物。〔後漢書、東平憲王蒼傳〕今送㆓光烈皇后㆒、假紒・帛巾各一、及衣一篋。

【帛冠】6（ハククワン） きぬ製の冠。〔左氏、閔、二〕衞文公大布之衣、大帛之冠、務㆑材訓㆑農、通㆑商惠㆑工、敬㆑敎勸㆑學、授㆑方任㆑能。〔注〕大帛、厚繒。

【帛丸】7（ハクグワン） きぬをよつて丸くしたもの。〔唐書、李希烈傳〕希烈死、子不㆑發㆑喪、欲㆘悉誅㆓諸將㆒乃自立㆖、未㆑決、有㆘獻㆓含桃㆒者㆖、寶請分㆓遺仙奇妻㆒、聽㆑之、因蠟㆓帛丸㆒雜㆓果中㆒、出㆑所㆑謀、仙奇大驚。

【帛屐】8（ハクゲキ） きぬ製のくつ。〔釋名、釋衣服〕帛屐、以㆑帛作㆑之如㆑屩者、不㆑曰㆓帛屩㆒者、屩不㆑可㆑踐㆑泥也、云云、此亦可㆓以步㆑泥而浣㆑之、故謂㆓之屐㆒也。〔增韻〕木曰㆑屐、麻曰㆑屩。

【帛估】9（ハクコ） きぬのあたひ。〔唐書、陸長源傳〕高㆓鹽直㆒、賤㆓帛估㆒。

【帛上】11（ハクジヤウ） 帛の表面。手紙をいふ。〔梁武帝、代㆓蘇屬國婦㆒詩〕帛上看未㆑終、臉下淚如㆑絲。

【帛爵】12（ハクシヤク） お供へ物。〔桃花扇、拜壇〕副末贊禮雜扮㆓執事官㆒捧㆓帛爵㆒介。

【帛襦】13（ハクジユ） 小袖。

【帛書】14（ハクシヨ） 帛に書いた文字。又、其のきぬ。〔史記、封禪書〕乃爲㆓帛書㆒以飯㆑牛。〔漢書、蘇武傳〕敎㆔使者謂㆓單于㆒言、天子射㆓上林中㆒、得㆑雁、足有㆑係㆓帛書㆒、言、武等在㆓某澤中㆒。〔漢書、陳湯傳〕軍候假丞杜勳、斬㆓單于首㆒、得㆓漢使節二及谷吉等所㆑齎帛書㆒。

【帛絮】15（ハクジヨ） きぬとわた。〔史記、貨殖傳〕取㆓帛絮㆒、與㆓之食㆒。〔漢書、貨殖傳〕其帛絮細布千鈞、文采千匹。

【帛信】16（ハクシン） きぬにかいた音信。手紙をいふ。〔善權、詩〕天涯有㆓回雁㆒、帛信莫㆓因循㆒。

【帛詔】17（ハクセウ） きぬにかいた詔書。詔書をいふ。〔陸游、老將詩〕憶昔東都有㆓事宜㆒、夜傳㆓帛詔㆒起㆓西師㆒。

【帛帹】18（ハクソウ） 布の名。〔玉篇〕帹、帛帹、又布名。

【帛帶】19（ハクタイ） きぬ製の帶。〔唐書、東夷、日本傳〕長安元年、遣㆓朝臣眞人粟田㆒貢㆓方物㆒、云云、冠㆓進德冠㆒、頂有㆓華蘤四披㆒、紫袍帛帶。〔岡田鴨里、筥崎八幡〕博多多㆓機房㆒、造㆓帛帶㆒。

【帛帳】20（ハクチヤウ） きぬ製のとばり。〔藝文類聚〕傅子曰、太祖武皇帝、恐㆓嫁娶之僭上㆒、公主適㆑人、不㆑過㆓帛帳從婢十人㆒而已。

【帛砧】21（ハクチン） きぬた。砧は碪。〔夢溪筆談、樂律一〕聲在㆓短長厚薄之閒㆒、磨㆓其毫末㆒、則聲隨而變、豈有㆔帛砧裁琢爲㆑磬、而尙存㆓故聲㆒哉。

【帛圖】22（ハクヅ） きぬに書いた圖。〔漢書、王莽傳中〕銅符帛圖。

【帛疊】23（ハクデフ） 蠻夷に產する布帛の名。又、白疊（8－22678・・842）を見よ。〔後漢書、西南夷、哀牢傳〕罽毲帛疊、蘭干細布、織㆓成文章㆒如㆓綾錦㆒。〔注〕外國傳曰、諸薄國女子、織㆓作白疊花布㆒。

【帛度】24（ハクド） 星の名。〔星經〕帛度二星、在㆓宗星東北㆒、主㆓平量㆒也。

【帛囊】25（ハクナウ） きぬ製のふくろ。〔宋史、禮志十二〕貯以㆓帛囊㆒、藏以㆓漆函㆒。

【帛拜】26（ハクハイ） 古、婦人が初めて舅姑に見える時五色の絲で作つた纓を執つて拜すること。〔正

字通〕拜、帛拜、古者婦始見二舅姑一、持二香纓一以拜、五色采爲レ之、名曰二帛拜一。

【帛帕】27ハクハ てぬぐひ。〔福惠全書、刑名部、人命下、驗各種死傷〕全幅帛帕則散。

【帛布】28ハクフ ❶きぬとぬの。〔漢書、景十三王傳〕彭祖衣二帛布單衣一。〔注〕師古曰、或帛或布、以爲二單衣一。〔後漢書、明德馬皇后紀〕吾爲二天下母一、而身服二大練一、食不レ求レ甘、左右但著二帛布一、無二香薰之飾一者、欲レ率レ下也。〔國史略、文德天皇〕遺制薄レ葬、以二帛布一代二綾羅一。❷草の名。帛と布。〔爾雅、釋草〕帛、似レ帛、布、似レ布、華山有レ之。〔注〕草葉有下象二帛布一者上、因以名云。

【帛米】29ハクベイ 帛と米。〔韓愈、登封縣尉盧殷墓誌〕鄭公餘慶留守、數以二帛米一周二其家一。

【帛爛】30ハクラン きぬが腐爛する。其の極めて多いことにいふ。〔唐書、辛替否傳〕五穀遂成、粟腐帛爛。

【帛蘭】31ハクラン きぬでかざつた欄檻。〔後漢書、公孫述傳〕造二十層赤樓帛蘭船一。〔注〕蓋以レ帛飾二其蘭檻一也。

【帛縷】32ハクル きぬの絲筋。〔杜牧、阿房宮賦〕瓦縫參差、多二於周レ身之帛縷一。

【帛和】33ハクワ 三國、遼東の人。字は仲理。董奉に行氣服述法を學び、又、西城山の王君に丹訣を授けらる。後、林慮山に入り、終る所を知らず。〔神仙傳、七〕。

【帛御袍】34ハクノゴハウ 白の絹で仕立た祭服で、天子が神事を行ふ時に用ひる。〔裝束圖式〕帛御袍。

【帛煎油】35ハクセンユ きぬをにる油。〔齊民要術、荏蓼〕收レ子壓取レ油、可二以煮一レ餠、爲二帛煎油一彌佳。

【帛御裝束】36ハクノミサウゾク 天皇が神事の際に召された裝束。帛衣の袍と無文の冠及び帶。〔禁祕抄、上〕御裝束事、云云、奉幣發遣時、帛御裝束也、御冠・御帶、無文也。

【⿱令巾】8856 ダウ 闟(**12－45639**)に同じ。〔六書略〕⿱令巾、同レ闟。

【⿰巾乍】8857 サク ザク 〔集韻〕疾各切 藥

赤い紙。〔廣雅、釋器〕幗⿰巾虎、謂二之⿰巾乍一。

【⿰巾玄】8858 ケン ゲン 義未詳。〔玉篇〕⿰巾玄、戸犬切。

【⿰巾幼】8859 アウ エウ 〔集韻〕於絞切 巧

❶**くつした。**〔廣韻〕⿰巾幼、靴韈⿰巾幼。❷**たびの上面。**〔集韻〕⿰巾幼、韈上也。

【⿰巾付】8860 フ ブ 〔集韻〕符遇切 遇

きぬ。〔集韻〕⿰巾付、帛也。

【⿱亠帀】8861 テイ 帝(**4－8865**)の古字。〔說文〕帝、⿱亠帀、古文帝、古文諸上字、皆从レ一、篆文皆从レ二、二、古文上字。

【⿱亠吊】8862 ケイ 京(**1－299**)に同じ。〔說文長箋〕⿱亠吊、同レ京。

【⿰巾孛】8863 ハイ 〔集韻〕博蓋切 泰

行くさま。〔集韻〕⿰巾孛、行皃。〔六書略〕⿰巾孛、行皃。

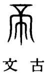
【⿰巾虫】8864 キ 義未詳。〔海篇〕⿰巾虫、音癸。

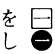
六畫

【帝】8865

一 テイ タイ 〔集韻〕丁計切 霽 ㄉㄧˋ ti⁴

二 チ 〔集韻〕丁易切 寘


小篆


古文

一❶**みかど。**天子。天下をしろしめす人の尊號。又、其の諡。〔說文〕帝、諦也、王二天下一之號、从レ二朿聲。〔爾雅、釋詁〕帝、君也。〔逸周書、諡法解〕德象二天地一曰レ帝。〔逸周書、本典解〕明能見レ物、高能致レ物、物備咸致曰レ帝。〔左氏、僖、九〕順二帝之則一。〔注〕帝、后也。〔白虎通、號〕帝者、諦也、象レ可レ承也。〔獨斷、上〕帝者、諦也、能行二天道一、事レ天審諦。〔楚辭、離騷〕帝高陽之苗裔兮。〔注〕德合二天地一稱レ帝。❷**あまつかみ。**天帝。天。〔禮、郊特牲〕祭レ帝弗レ用也。〔疏〕因二其生育之功一謂二之帝一。〔禮、孔子閒居〕帝命不レ違。〔注〕帝、天帝也。〔公羊、宣、三〕帝牲不レ吉。〔注〕帝、皇天大帝、在二北辰之中一、主總二領天地五帝羣神一也。❸**五帝。**五德帝。〔詩、商頌、長發〕帝立レ子生レ商。〔箋〕帝、黑帝也。〔周禮、春官、小宗伯〕兆二五帝于四郊一。〔注〕蒼曰二靈威仰一、大昊食焉、赤曰二赤熛怒一、炎帝食焉、黃曰二含樞紐一、黃帝食焉、白曰二白招拒一、少昊食焉、黑曰二汁光紀一、顓頊食焉。〔禮、明堂位〕祀二帝於郊一。〔注〕帝、謂二蒼帝靈威仰一也。〔呂覽、仲夏〕大雩レ帝。〔注〕帝、五帝也。❹**天子薨葬後の稱。**〔禮、曲禮下〕措二之廟一立二之主一曰レ帝。〔大戴禮、誥志〕卒レ葬曰レ帝。❺**易で震にあてる。**〔易、履〕履二帝位一而不レ疚。〔虞注〕震爲レ帝。❻**大きい。**〔詩、大雅、皇矣〕既受二帝祉一。〔箋〕帝、大也。〔逸周書、酆謀解〕帝命不レ謟。〔注〕帝、大也。❼**あきらかにする。**諦(**10－35716**)に通ず。〔說文通訓定聲〕帝、叚借爲レ諦。〔廣雅、釋詁三〕帝、諟也。❽奠(**3－5960**)・定(**3－7109**)に通ず。〔說文通訓定聲〕帝、叚借爲レ定。〔周禮、春官、小史〕奠二繫世一、〔注〕鄭司農云、故書、奠爲レ帝、杜子春云、帝、當レ爲レ奠、奠讀爲レ定。❾臺(**9－30161**)に通ず。〔說文通訓定聲〕帝、叚借爲レ臺。〔呂覽、過理〕宋王築二爲櫱帝一。〔注〕帝、當レ作レ臺、帝與レ臺字相似。❿古は⿱亠帀(**4－8861**)・⿱亽帀(**2－3082**)に作る。〔集韻〕帝、古作レ⿱亠帀。〔字彙補〕⿱亽帀、古文帝字。

二 の❼に同じ。〔集韻〕帝、諦也。

名乘 タダ。

【帝位】1テイヰ 天子のくらゐ。皇位。天位。〔易、履〕履二帝位一而不レ疚。〔書、舜典〕帝曰、格汝舜、詢レ事考レ言、乃言底レ可レ績三載、汝陟二帝位一。

【帝祐】2テイイウ 天帝のたすけ。〔陸雲、南征賦〕應二天鑒之昭華一、荷二帝祐之休命一。

【帝猷】3テイイウ 天子の蹈むべき道。帝王の道。又、天子のはかりごと。皇猷。聖猷。〔後漢書、蔡邕傳〕皇道惟融、帝猷顯丕。〔庾闡、樂賢堂頌〕洋洋帝猷、恢恢天造。

【帝乙】4テイイツ 殷、第二十七代の王。太丁の子。太丁の崩後位を嗣ぎ、殷は益〻衰へた。竹書紀年に在位九年といふ。紂及び微子の父。〔書、酒誥〕自二成湯一、咸至二于帝乙一。〔左氏、文、二〕・〔史記、三〕。

【帝乙歸妹】5テイイツキマイ 君の賢臣を優待親任することが、殷の天子帝乙が其の妹を降嫁させた如くであるべきをいふ。歸は嫁ぐ意。〔易、泰〕六五、帝乙歸レ妹、以祉、元吉。〔注〕婦人謂レ嫁曰レ歸。〔程傳〕六五以二陰柔一居二君位一、下應二於九二剛明之賢一、五能倚二任其賢一、而順從レ之、如二帝乙之歸一レ妹然。

【帝姻】6テイイン 帝室と嫁娶の關係を結んだ家柄。皇室の緣家。帝戚。國姻。〔宋史、錢端禮傳〕時爲

久不レ置レ相、端禮以二首參一闚二相位一、甚急、皇長子鄧王夫人端禮女也、殿中侍御史唐堯封論、端禮帝姻、不レ可レ任、執政不レ報。

【帝胤】7 テイイン 天子の血統。帝王の子孫。皇胤。〔蔡邕、彭城姜伯淮碑〕先生諱肱、字伯淮、彭城廣人也、其先出レ自二帝胤一。

【帝禋】8 テイイン 天子が絜齋して祀ること。〔王珪、詩〕明堂奉二帝禋一。

【帝闉】9 テイイン 王城の門。〔蘇軾、用二前韻一再和二孫志擧一詩〕洒掃古玉局、香火通二帝闉一。

【帝宇】10 テイウ ❶帝王の宮殿。帝掖。〔左思、魏都賦〕翼翼京室、耽耽帝宇。〔江淹、雜體、顏特進延年詩〕太微凝二帝宇一、瑤光正二神縣一。❷國家。〔晉書、樂志下〕鯨鯢既平、功冠二帝宇一。

【帝運】11 テイウン 帝王の運氣。皇運。〔袁桷、壽二李承旨一四十韻詩〕帝運昌二文統一、師臣秉二國鈞一。

【帝掖】12 テイエキ 天子のいます所。皇城。宮城。宮庭。禁庭。掖は宮城正門の左右の掖門をいふ。〔宋書、陳貴妃傳〕聲華二帝掖一、軌秀二天嬪一。

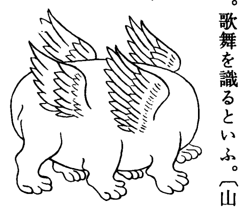
【帝葉】13 テイエフ 天皇の御子孫。〔源平盛衰記、二十四、山門都返奏狀〕況堯雲舜星之耀二一朝一、天枝帝葉之傳二萬代一、則是九條右丞相願力也。

【帝屋】14 テイヲク 樹木の名。講山に生じたといふ。〔山海經、中山經〕講山有レ木焉、名曰二帝屋一、葉狀如レ椒、反傷赤實、可二以禦一凶。〔注〕反傷、刺下勾也。

【帝家】15 テイカ 天子の居られる所。帝居。〔河野鐵兜、詠史詩〕西都風月付二長嗟一、回レ首浮雲是帝家。

【帝娥】16 テイガ 水神の名。〔李羣玉、琵琶引〕嬴女停吹降浦簫、帝娥淨掩空波瑟。

【帝江】17 テイカウ 神の名。歌舞を識るといふ。〔山海經、西山經〕又西三百五十里曰二天山一、有レ神焉、其狀如二黃囊一、赤如二丹火一、六足四翼、渾敦無二面目一、是識二歌舞一、實爲二帝江一也。〔王融、三月三日曲水詩序〕發二參差於王子一、傳二妙靡於帝江一。


帝江（三才圖會）

【帝郊】18 テイカウ 上帝の國。天上をいふ。帝鄉。〔楚辭、九歌、小司命〕夕宿二兮帝郊一、君誰須二兮雲之際一。

【帝皐】19 テイカウ 夏、第十五代の王。帝孔甲の子。癸酉の年卽位し、在位十一年。〔史記、夏紀〕孔甲崩、子帝皐立。

【帝綱】20 テイカウ 天子が天下を治める根本原則。天子の政治の基礎。王者の道。帝紘。帝道。〔晉書、樂志下〕讚二文武一、建二帝綱一。

【帝膏】21 テイカウ 香の名。蘇合香の異名。〔事物異名錄、藥材、木類〕淸異錄、侯寧極藥譜、帝膏、蘇合香也。

【帝號】22 テイガウ 天子の稱號。又、帝といふ稱號。〔史記、秦始皇紀〕今名號不レ更、無下以稱二成功一傳中後世上、其議二帝號一。〔史記、南越尉佗傳〕老臣妄竊二帝號一、聊以自娛。

【帝閣】23 テイカク 天子の居る樓閣。〔王勃、白鶴寺碑〕丹烏抱レ日疑レ增二帝閣之華一、素鶴低レ雲若レ赴二仙庭之會一。

【帝樂】24 テイガク 天子の音樂。朝廷の音樂。〔王積、古意詩〕皇臣力收擧、帝樂簫韶暢。

【帝學】25 テイガク ❶國學をいふ。〔蔡邕、郭有道碑文〕考二覽六經一、探二綜圖緯一、周二流華夏一、隨二集帝學一。〔注〕翰曰、帝學、國學也。❷書名。八卷。宋、范祖禹撰。經筵にあつて進めたもので、古帝王から宋代祖宗に至る典學事跡を記し、論斷を附す。伏羲から唐に至るまでを二卷、宋の太祖から神宗にいたるまでを六卷とする。〔四庫提要、子、儒家類〕。

【帝閑】26 テイカン 天子のうまや。閑は、うまや、廏舍。〔謝莊、舞馬賦〕輝二大馭於國皁一、賁二上襄於帝閑一。

【帝鑑】27 テイカン 天帝の鑑定。〔副島蒼海、謁二岳武穆之廟一詩〕帝鑑孔章靈在レ天、墓木南向非二偶然一。

【帝鑑圖說】28 テイカンヅセツ 書名。十二卷。明、張居正撰。堯舜以來の君王の治道に就いて、其の善の法とすべきもの八十一事、惡の戒とすべきもの三十六事を採り、蒙求の體に倣ひ、其の故事を四字に納めて標出し、其の說を細述し、又、一事每に一圖を附し、後に傳記の本文を錄して直解す。〔四庫提要、史、史評類存目〕。

【帝姬】29 テイキ 天子のむすめ。皇女。〔宋史、徽宗三十四女傳〕政和三年、改二公主號一爲二帝姬一。

【帝紀】30 テイキ ❶帝王の本紀。〔南史、周捨傳〕時議二國史一、疑二文帝紀傳之名一、捨以爲、帝紀之籠二百事一、如三乾象之包二六爻一、今若追而爲レ紀、則事無レ所レ包、若直二書功德一、則傳而非レ紀。❷天帝の位。〔漢書、李尋傳〕書曰、天聰明、蓋言三紫宮極樞、通二位帝紀一。〔注〕孟康曰、紫宮、天之北宮也、極、天之北極星也、樞、是其廻轉者也、天文志曰、天極、其一明者、太一常居也、太一天皇大帝也、與二通極一爲二一體一、故曰、通二位帝紀一。❸帝王の守るべき法則。帝王の履踐すべき道。〔後漢書、崔駰傳〕古者陰陽始分、天地初制、皇綱云緒、帝紀乃設。

【帝暉】31 テイキ 帝王の光德。〔顏延之、應レ詔觀二北湖田收一詩〕帝暉膺二順動一、淸蹕巡二廣廛一。〔注〕銑曰、暉、光。

【帝畿】32 テイキ 天子直轄の領地。又、帝都の在る地方。邦畿。畿內。王畿。〔班固、西都賦〕横被二六合一、三成二帝畿一。〔晉書、樂志下〕神化感二無方一、髦才盈二帝畿一。〔杜審言、贈二蘇味道一詩〕輿駕還二京邑一、朋遊滿二帝畿一。

【帝機】33 テイキ 天のはたらき。〔王勃、武都山淨惠寺碑〕帝機寥廓、雲雷驅二妙有之功一。

【帝徽】34 テイキ 天子の善美なこと。〔南齊書、樂志〕仰福二帝徽一、俯齊二庶生一。

【帝義】35 テイギ 天子の義。〔新書、匈奴〕屢欲二亢禮一、妨二害帝義一。

【帝嬀】36 テイギ 帝舜をいふ。舜は嬀水のほとりに居たからいふ。〔木華、海賦〕昔在帝嬀、臣二唐之代一。〔注〕善曰、帝嬀、謂レ舜也。〔沈約、上二宋書一表〕若不レ觀二風唐世一、無三以見二帝嬀之美一。

【帝丘】37 テイキウ 地名。河北省濮陽縣の西南。古の帝顓頊の墟、故に名づけらる。夏の帝相も此處に都した。漢、濮陽縣を置く。〔春秋、僖、三十一〕衞遷二于帝丘一。〔杜注〕帝丘、今東郡濮陽縣也、故帝顓頊之虛、故曰二帝丘一。〔左氏、昭、十七〕衞、顓頊之虛也、故爲二帝丘一。〔漢書、地理志上〕濮陽、故帝丘、顓頊墟。

【帝休】38 テイキウ 樹木の名。その葉は楊に似てゐる。〔山海經、中山經〕少室之山、其上有レ木焉、其名曰二帝休一、葉狀如レ楊、其枝五衢、黃華黑實、服者不レ怒。

【帝鄉】39 テイキヤウ ❶天帝のみやこ。仙人の居る處。天上。天國。帝鄉不レ可レ期を見よ。〔莊子、天地〕華封人曰、千歲厭レ世、去而上僊、乘二彼白雲一、至二於帝鄉一。〔鮑照、舞鶴賦〕去二帝鄉之岑寂一、歸二人寰之喧卑一。〔注〕良曰、帝鄉、天帝之鄉也。❷天子の鄉里。帝王出身の地。〔後漢書、劉隆傳〕河南帝城多二近臣一、南陽帝鄉多二近親一。〔陳書、吳明徹傳〕世祖謂二明徹一曰、吳興雖レ郡、帝鄉之重、故以相授、君其勉レ之。❸天子の居地。みやこ。京都。〔常建、塞下曲〕玉帛朝回望二帝鄉一、烏孫歸去不レ稱レ王。〔賈至、送二王道士還レ京詩〕一片仙雲入二帝鄉一、數聲秋雁至二衡陽一。

【帝鄉不レ可レ期】40 テイキヤウハキスベカラズ 仙人にならうとしても、それは見込がない意。〔陶潛、歸去來辭〕富貴非二吾願一、帝鄉不レ可レ期。〔注〕濟曰、帝鄉、仙都也。

【帝鄉明日到猶自夢二漁樵一】41 テイキヤウニメイジツイタルモナホオノヅカラギヨセウヲユメミン 明日、華やかなみやこに行つても、なほ隱者の生活を忘れず、夢にまで見るであらう。〔許渾、秋日赴レ闕題二潼關驛樓一詩〕紅葉晩蕭蕭、長亭酒一瓢、殘雲歸二太華一、疏雨過二中條一、樹色隨レ山廻、河聲入レ海遙、帝鄉明日到、猶自夢二漁樵一。

【帝弓】42 テイキウ 虹の異稱。天帝の弓の意。天弓。〔淵鑑類函、天部、虹霓、天弓〕白虎通曰、虹、天弓也、又謂二之帝弓一。〔侯鯖錄〕天弓、虹也、又謂二之帝弓一。

【帝宮】43 テイキユウ 天帝の宮。又、帝王の宮。帝城。〔莊子、知北遊〕反二於帝宮一、見二黃帝一而問焉。〔史記、司馬相如傳〕排二閶闔一而入二帝宮一兮、載二玉女一而與レ之歸。〔潘岳、悼レ亡詩〕誰謂二帝宮遠一、路極悲有レ餘。〔注〕良曰、帝宮、帝城也。

【帝居】44 テイキヨ ❶天帝の居る所。〔揚雄、甘泉賦〕配二帝居之縣圃一。〔注〕銑曰、縣圃、在二崑崙山上一、天帝所レ居處也。❷五德帝の居る所。〔張衡、西京賦〕仰福二帝居一。〔注〕綜曰、帝居、謂二太微宮一、五帝所レ居。❸天子のいます所。皇居。又、帝都をいふ。〔陳後主、入レ隋侍レ宴應詔詩〕日月光二天德一、

山河壯㆓帝居㆒。〔陳陶、朝元引〕萬寓靈祥擁㆓帝居㆒、東華元老薦㆓屠蘇㆒。

【帝局】45 テイキヨク　朝廷をいふ。〔北史、常景傳〕雖㆑際㆓會帝局㆒、焉得而寧㆑之、雖㆑結㆓珮皇廷㆒、焉得而榮㆑之。

【帝廑】46 テイキン　夏、第十三代の王。帝扃の子。辛巳の歲卽位し、在位二十一年。〔史記、夏紀〕帝扃崩、子帝廑立。

【帝化】47 テイクワ　帝王の德化。帝が其の德をもつて人を導き化すこと。〔程鉅夫、送㆔完顏總管赴㆓平陽㆒詩〕庭無㆓坐吏㆒官班重、地有㆓遺民㆒帝化留。

【帝魁】48 テイクワイ　上古の帝、神農の名。一說に、黃帝の子孫といふ。〔張衡、東京賦〕昔常恨㆔三墳五典既泯、仰不㆑睹㆓炎帝帝魁之美㆒。〔注〕綜曰、炎帝、神農後也、帝魁、神農名、並古之君號也、善曰、宋衷春秋傳曰、帝魁、黃帝子孫也。

【帝皇】49 テイクワウ　❶天子。皇帝。みかど。〔成公綏、天地賦〕帝皇正㆓坐於紫宮㆒、輔臣列㆓位於文昌㆒。〔韋昭、吳鼓吹曲、承天命〕思我帝皇壽萬億、長保㆓天祿㆒祚無㆑極。❷天帝をいふ。〔隋書、天文志上〕紫宮爲㆓帝皇之居㆒、太微爲㆓五帝之座㆒。❸帝と皇。〔風俗通、皇霸〕及㆑至㆓始皇㆒、履㆓至尊㆒而制㆓六合㆒、兼㆓帝皇㆒而威㆓四海㆒。

【帝紘】50 テイクワウ　天子の行ふべき道。天子が天下を統治する大綱。王道。紘は綱。〔班固、答賓戲〕方今大漢、灑㆓掃羣穢㆒、夷㆑險芟㆑夷、廓㆓帝紘㆒恢㆓皇綱㆒。〔注〕向曰、言㆔開㆓大五帝三皇之綱紀㆒也。

【帝君】51 テイクン　神の尊稱。又、尊貴な神仙をいふ。〔漢武帝內傳〕先被㆓太帝君敕使㆒、詣㆓玄洲㆒校㆓定天元㆒。〔李商隱、寓懷詩〕長㆓養三淸境㆒、追㆓隨五帝君㆒。

【帝訓】52 テイクン　天帝の教訓。〔書、洪範〕皇極之敷言、是彝是訓、于帝其訓。

【帝勛】53 テイクン　堯帝をいふ。勛は、勳の古字。帝勳。〔何遜、九日侍㆓宴樂遊苑㆒詩〕皇德無㆓餘讓㆒、重規襲㆓帝勛㆒。〔舊唐書、禮儀志二〕詔曰、合宮聽㆑朔、闡㆓皇軒之茂範㆒、靈府通和、敷㆓帝勛之景化㆒。

【帝勳】54 テイクン　堯帝をいふ。帝勛(53)に同じ。〔書、堯典〕曰若稽㆓古帝堯㆒、曰放勳、欽明文思安安。

【帝系】55 テイケイ　天子の血統。皇統。帝胤。帝統。〔漢書、律歷志下、小昊帝、考德曰少昊、注〕師古曰、考德者、考㆓五帝德㆒之書也。〔庾信、司馬裔神道碑〕帝系極㆓于輿圖㆒、中期至㆓於江表㆒。〔除陵、河東康簡王墓志〕帝系王基、重光累葉。〔牛弘、皇曾祖康王神室歌〕皇條俊茂、帝系靈長。

【帝京】56 テイケイ テイキヤウ　皇居のあるみやこ。皇都。帝城。帝都。〔漢武帝、秋風辭序〕顧㆓視帝京㆒欣然。〔張九齡、奉㆕和聖製送㆔尙書燕國公說赴㆓朔方軍㆒詩〕寵賜從㆓仙禁㆒、光華出㆓帝京㆒。〔劉禹錫、與㆓歌者何戡㆒詩〕二十餘年別㆓帝京㆒、重聞㆓天樂㆒不㆑勝㆑情。〔白居易、琵琶行〕我從㆔去年辭㆓帝京㆒、謫居臥㆑病潯陽城。

〖帝京景物略〗57 テイキヤウケイブツリヤク　書名。八卷。明、劉侗・于奕正撰。當時の北京の景物をしるす。〔說郛續編、二十五〕。

【帝扃】58 テイケイ　夏、第十二代の王。帝泄の子。兄不降の位を嗣ぎ庚申の歲卽位す。在位二十一年。〔史記、夏紀〕帝不降崩、弟帝扃立。

【帝啓】59 テイケイ　夏、第二代の王。禹の子。在位九年。〔史記、夏紀〕禹子啓賢、天子屬㆑意焉、及㆓禹崩㆒、雖㆑授㆑益、益之佐㆑禹日淺、天下未㆑洽、故諸侯皆去㆑益而朝㆑啓、曰、吾君帝禹之子也、於㆑是啓遂卽㆓天子之位㆒、是爲㆓夏后帝啓㆒。

【帝繫】60 テイケイ　❶天子の血統。帝系(55)に同じ。〔周禮、春官、瞽矇、世奠繫、注〕杜子春云、帝讀爲㆑定、其字爲㆑奠、書亦或爲㆑奠、世奠繫、謂㆓帝繫㆒、諸侯卿大夫世本之屬、是也。〔疏〕以㆑世爲㆑繫、爲㆓一事㆒用㆑之、又對文言㆑之、王謂㆓之帝繫㆒、諸侯卿大夫謂㆓之世本㆒、世本卽帝王繫也。❷篇名。㋑大戴禮の篇名。㋺孔子家語の篇名。㋩世本の篇名。

【帝堯】61 テイゲウ　堯帝をいふ。五帝の一人。帝嚳の子。帝摯を嗣ぐ。陶唐氏。在位九十八年、百十八歲を以て崩じた。〔書、堯典〕曰若稽㆓古帝堯㆒、曰放勳。〔史記、五帝紀〕帝堯者、放勳、其仁如㆑天、其知如㆑神。〔注〕索隱曰、堯、謚也、放勳名、帝嚳之子、姓伊祁氏、正義曰、徐廣云、號㆓陶唐㆒、皇甫謐曰、堯以㆓甲申歲㆒生、甲辰卽㆓帝位㆒、甲午徵㆑舜、甲寅舜代行㆓天子事㆒、辛巳崩、年百十八、在位九十八年。〔太公兵法〕帝堯王㆓天下㆒之時、金銀璣玉弗㆑服也。〔文獻通考、帝系考、帝號歷年〕帝堯、帝嚳之子、姓伊祁、名放勳、帝嚳崩、而長子摯代立、封㆑堯爲㆓唐侯㆒、帝摯立不㆑善、在位九年、唐侯德盛、乃禪㆓位於唐侯㆒、堯以㆓甲辰㆒卽㆑位、都㆓平陽㆒、號㆓陶唐氏㆒、在位七十年、薦㆑舜攝㆑政、又二十八年崩、在位九十八年、壽一百一十八、首㆓甲辰㆒盡㆓癸未㆒。

【帝闕】62 テイケツ　天子の宮門。宮城の門。轉じて、皇城。〔駱賓王、宿㆓溫城㆒望㆓軍營㆒詩〕兵符關㆓帝闕㆒、天策動㆓將軍㆒。〔宋史、樂志十四〕帝闕肅開、天階坦履。

【帝業】63 テイゲフ　天子が天下を統べる事業。帝緖。〔史記、蔡澤傳〕遂入㆓圍邯鄲㆒、使㆔秦有㆓帝業㆒。〔漢書、揚雄傳下〕規㆓億載㆒恢㆓帝業㆒。〔陸機、辨亡論上〕齊民免㆓干戈之患㆒、戎馬無㆓晨服之虞㆒、而帝業固矣。〔章碣、焚書坑詩〕竹帛煙銷帝業虛、關河空鎖祖龍居。

【帝祜】65 テイコ　天帝の降したさいはひ。〔陸雲、大將軍宴會被㆑命作詩〕皇皇帝祜、誕隆㆓駿命㆒。〔注〕向曰、祜、福也。

【帝功】66 テイコウ　天子の事業。帝業。王業。〔陸機、吳趨行〕王迹隤㆓陽九㆒、帝功興㆓四遐㆒。

【帝后】67 テイコウ　皇后をいふ。

【帝鴻】68 テイコウ　黃帝の號。〔左氏、文、十八〕昔帝鴻氏、有㆓不才子㆒。〔注〕帝鴻、黃帝也。〔史記、五帝紀〕黃帝者。〔注〕索隱曰、據㆓左傳㆒、亦號㆓帝鴻氏㆒也。〔文房四譜〕黃帝得㆓玉一紐㆒、治爲㆓墨海㆒、篆曰㆓帝鴻氏之硯㆒。

【帝告】69 テイコク　帝嚳(77)に同じ。

【帝國】70 テイコク　❶德を以て治める國。帝者の國。〔文中子、問易〕王國戰㆑義、帝國戰㆑德、皇國戰㆓無爲㆒。❷皇帝の稱號ある君主が統御する國。共和國(**2**－1458・・155)・王國(**7**－20823・・405)の❶などの對。❸我が國の舊稱なる大日本帝國の略。

〖帝國議會〗71 テイコクギクワイ　明治憲法下で、貴族院と衆議院とを以て組織し、天皇の立法行爲、及び豫算の成立に協贊する、憲法上の合議機關。明治二十三年開設。日本國憲法の實施により、國會が之に代る。

〖帝國憲法〗72 テイコクケンパフ　大日本帝國憲法の略。明治憲法をいふ。

〖帝國史談〗73 テイコクシダン　書名。二冊。重野安繹撰。

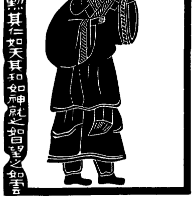
〖帝國主義〗74 テイコクシユギ　國力の許す限り、機會のある限りに於て、領土を擴張し、若くは權力範圍を擴張する事を以て目的とする主義。

〖帝國大學〗75 テイコクダイガク　舊制で、帝國大學令に本づく官立の大學。國家の須要に應ずる學術技藝を教授し、蘊奧を攻究することを目的とする。數箇の學部を綜合して構成し、又、大學院を置く。もと、東京・京都・大阪・東北・九州・北海道・京城・臺北の八帝國大學があつた。現在、京城・臺北以外は改組の上、國立大學として繼續。

〖帝國學士院〗75′ テイコクガクシヰン　文部大臣の管理に屬し、學術の發達を圖り、教化を裨補することを目的とした機關。帝國學士院會員(定員百人)を以て組織し、院長・幹事及び部長を置いた。今の日本學士院の前身。

〖帝國美術院〗76 テイコクビジユツヰン　舊制で、美術の發達に關する重要事項を審議する機關。文部大臣の管理に屬し、院長一人、會員五十人以內を以て組織し、別に主事及び書記を置く。昭和十二年、改組擴大して帝國藝術院と改稱。現在の日本藝術院の前身。

【帝嚳】77 テイコク　上古の帝。嚳は又、俈に作る。黃帝の曾孫。名は夋。生れて神異、年十五で顓頊を佐け、封を辛に受け、後、顓頊高陽氏に代つて帝となる。高辛氏といふ。亳(今の河南省偃師縣)に都す。在位七十年にして崩ず。〔禮、祭法〕帝嚳能序㆓星辰㆒以著㆑衆。〔史記、五帝紀〕帝嚳高辛者、黃帝之曾孫也、高辛父曰㆓蟜極㆒、蟜極父曰㆓玄囂㆒、玄囂父曰㆓黃帝㆒。〔文獻通考、帝系考、帝號歷年〕帝嚳、高辛、黃帝之曾孫、元囂之孫、蟜極之子、繼㆓顓


帝堯放勳其仁如天其知如神就之如日望之如雲

帝嚳（金石索）

項㆒爲㆓天子㆒、在位七十年崩、年九十八歲。

〖帝嚳陵〗78 テイコクリヨウ　陵の名。帝嚳は崩後、頓丘に葬られたといひ、頓丘については、今の河南省滑縣の東北に在りとする說と、陝西省郃陽縣、又、河北省清豐縣に在りとする說などがある。〔史記、五帝紀、注〕皇覽曰、帝嚳冢、在㆓東郡濮陽頓丘城南臺陰野中㆒。〔水經、淇水注〕淇水又東北逕㆓帝嚳冢西㆒、世謂㆓之頓丘臺㆒、非也。〔劉恕外紀〕高辛氏葬㆓頓丘㆒。〔注〕頓丘、山名、在㆓大名府滑縣東北㆒。〔商丘縣志〕帝嚳陵、在㆓城南高辛里㆒、帝嚳都㆑亳、故葬㆑此、皇覽謂㆑葬㆓頓丘㆒、今在㆓清豐縣㆒、而滑縣郃陽縣、又俱載㆓帝嚳陵㆒、皆所㆑傳之誤也。

〖帝嚳元妃〗79 テイコクノゲンピ　姜嫄（**3－6205**‥32）をいふ。

【帝魂】80 テイコン　天子の魂。〔村上佛山、過㆓壇浦㆒詩〕千載帝魂呼不㆑返、春風腸斷御裳川。

【帝閽】81 テイコン　❶天帝の門を守る門番。門衞。〔楚辭、離騷〕吾令㆓帝閽開㆑關兮、倚㆓閶闔㆒而望㆑予。〔注〕帝、謂㆓天帝㆒也、閽、主㆑門者也。〔張衡、思玄賦〕叫㆓帝閽㆒使㆑闢㆑扉兮、覿㆓天皇于瓊宮㆒。〔注〕濟曰、帝、天也、閽、守㆑門人。❷天帝の宮門。〔揚雄、甘泉賦〕選㆓巫咸㆒兮叫㆓帝閽㆒。〔注〕良曰、帝閽、天門也。❸天子の宮門。宮闕。禁門。〔舊唐書、韓思復傳〕帝閽九重、塗遠千里。

【帝佐】82 テイサ　帝王の補佐。〔列女傳、母儀、棄母姜嫄傳〕卒爲㆓帝佐㆒、母道既畢。

【帝座】83 テイザ　❶皇帝の座し給ふ席。玉座。〔陸機、辨亡論〕反㆓帝座乎紫闥㆒。❷星の名。天市垣の中にある。〔後漢書、襄楷傳〕熒惑入㆓太微㆒、犯㆓帝座㆒。〔晉書、天文志上〕郎位十五星、在㆓帝座東北㆒。〔星經〕帝座一星、在㆓市中㆒、神農所㆑貴。〔宋史、天文志二〕帝座一星、在㆓天市中㆒、天皇大帝外座也。

【帝載】84 テイサイ　天子の事業。帝業(63)に同じ。載は事。〔書、舜典〕舜曰、咨四岳有㆔能奮㆑庸熙㆓帝之載㆒。〔傳〕載、事也。〔班固、封㆓燕然山㆒銘〕熙㆓帝載㆒兮振㆓萬世㆒。

【帝像】85 テイザウ　天子の像。〔木華、海賦〕覿㆓安期於蓬萊㆒、見㆓喬山之帝像㆒。〔注〕良曰、安期、仙人也、黃帝陵在㆓喬山㆒、言、不㆑汎㆓風波㆒、乘㆑龍橫絕、往見㆓仙人於蓬萊㆒、復見㆓喬山㆒、以思㆓黃帝之像㆒也。

【帝子】86 テイシ　天子の子。皇子。〔楚辭、九歌、湘夫人〕帝子降㆓兮北渚㆒、目眇眇兮愁㆑予。〔注〕帝子、謂㆓堯女㆒也。〔謝朓、新亭渚別㆓范零陵㆒詩〕洞庭張㆑樂地、瀟湘帝子游。〔王勃、滕王閣詩〕閣中帝子今何在、檻外長江空自流。〔馬懷素、奉㆕和送㆔金城公主適㆓西番㆒應制詩〕帝子今何在、重姻適㆓異方㆒。〔庾信、周柱國大將軍長孫儉神道碑〕北岳天孫之星、燕河帝子之國。

〖帝子屯〗87 テイシノチユン　天子の御子の御難儀。屯は難儀。〔藤田東湖、和㆓文天祥正氣歌㆒〕芳野戰酣日、又代㆓帝子屯㆒。

【帝祉】89 テイシ テイチ　上帝の降すさいはひ。祉は福。天祚。〔詩、大雅、皇矣〕既受㆓帝祉㆒、施㆓于孫子㆒。〔箋〕帝祉、天福也。〔禮、樂記〕既受㆓帝祉㆒。〔左氏、昭、二十八〕既受㆓帝祉㆒、施㆓于孫子㆒。〔陸機、贈㆔馮文羆遷㆓斥丘令㆒詩〕乃眷北徂、對㆓揚帝祉㆒。

【帝師】90 テイシ　帝王の師。天子の師範。皇帝の師匠。王師。〔漢書、朱雲傳〕成帝時、丞相故安昌侯張禹、以㆓帝師㆒位特進、甚尊重。〔後漢書、鄧騭傳〕帝師之重。〔傅亮、爲㆓宋公㆒脩㆓張良廟㆒教〕風雲玄感、蔚爲㆓帝師㆒。

【帝摯】91 テイシ　上古の帝。帝嚳の長子。少昊。帝嚳に嗣いで立つ。在位九年。異母弟の放勳（帝堯の名）を封じて唐侯としたが、摯の政微弱、唐侯の德盛にして、諸侯之に歸するや、摯は位を之に禪つた。一說に、摯は立つて久しからずして崩じたともいふ。〔史記、一〕。

【帝秋】92 テイシウ　藥草の名。草烏頭の異名。〔本草、烏頭〕釋名、毒公、吳普、又名㆓帝秋㆒。

【帝室】93 テイシツ　天子の家。天子の御一門。皇室。王室。〔漢書、翟方進傳〕天降㆓威明㆒、用寧㆓帝室㆒。〔魏志、陳思王植傳〕爰暨㆓帝室㆒、稅㆓此西墉㆒。〔晉書、義陽成王傳〕內輔㆓帝室㆒、外隆㆓威重㆒。〔潘岳、西征賦〕讚㆓庶績于帝室㆒。

〖帝室皇居〗94 テイシツクワウキヨ　天子の宮殿。〔孔融、薦㆓禰衡㆒表〕鈞天廣樂、必有㆓奇麗之觀㆒、帝室皇居、必畜㆓非常之寶㆒。〔注〕銑曰、帝室皇居、謂㆓天子省閣㆒也。

〖帝室之冑〗95 テイシツノチウ　帝室の後裔。皇族。〔資治通鑑、漢紀〕（獻帝、建安十二年）將軍既帝室之冑、信義著㆓於四海㆒。

〖帝室博物館〗96 テイシツハクブツクワン　舊制で、宮內大臣の管轄に屬する博物館。東京・奈良に設け、總長・事務官・鑑査官等の職員を置く。昭和二十二年、文部大臣所轄の國立博物館となり、同二十五年、文化財保護委員會の附屬機關となる。

【帝日】97 テイジツ　陰陽家が人の性によつて諸事に用ひて吉と定めた日。五性に語呂を合せたもの。火性の人は丙午の日、水性の人は壬子の日、木性の人は乙卯の日、金性の人は辛酉の日、土性の人は戊子の日の類。

【帝車】98 テイシヤ　星の名。北斗星の異名。〔史記、天官書〕斗爲㆓帝車㆒、運㆓于中央㆒、臨㆓制四鄉㆒。〔春秋運斗樞〕北斗有㆓七星㆒、天子有㆓七政㆒也、杓攜龍角、衡殷南斗、魁枕參首、是謂㆓帝車㆒、運㆓於中央㆒、臨㆓制四鄉㆒。

【帝社】99 テイシヤ　地神を祀るために天子の建てたやしろ。王社。〔獨斷〕天子之社曰㆓王社㆒、一曰㆓帝社㆒、古者有㆑命將㆑行㆑師、必於㆓此社㆒授以㆑政。

【帝者】100 テイシヤ　天子。皇帝。一國の元首で帝と稱せられる人。〔戰國、燕策〕郭隗先生對曰、帝者與㆑師處、王者與㆑友處。〔漢書、景帝紀〕高皇帝廟、宜㆑爲㆓帝者太祖之廟㆒。

〖帝者師〗101 テイシヤノシ　天子の師。〔史記、留侯世家〕留侯乃稱曰、云云、爲㆑韓報㆓讎彊秦㆒、天下振動、今以㆓三寸舌㆒爲㆓帝者師㆒、封㆓萬戶㆒、位㆓列侯㆒、是布衣之極。

【帝相】102 テイシヤウ　夏の王。仲康の子。仲康を嗣いで帝となり、羿の臣、寒浞のために殺さる。在位二十八年。〔史記、二〕。

【帝城】103 テイジヤウ　皇城。宮城。又、帝京。みやこ。〔漢書、陳咸傳〕卽蒙㆓子公力㆒、得㆑入㆓帝城㆒、死不㆑恨。〔後漢書、劉隆傳〕河南帝城多㆓近臣㆒、南陽帝鄉多㆓近親㆒。〔王維、奉㆘和聖製從㆓蓬萊㆒向㆓興慶閣㆒道中留春雨中春望之作㆖應制詩〕雲裏帝城雙鳳闕、雨中春樹萬人家。

〖帝城花樣〗104 テイジヤウクワヤウ　書名。一卷。淸、楊懋建撰。俳優の小傳を記す。〔香艷叢書〕。

【帝釋】105 タイシヤク　佛梵名は釋迦提桓因陀羅（Śakra devanāṁ Indra）。提桓を天、因陀羅を帝と譯す。今は梵語を反轉し、天帝の釋迦姓といふ義で、帝釋といふ。忉利天の主で、須彌山の頂、善見城に居り、佛法を擁護し、阿修羅を征する。

〖帝釋弓〗106 タイシヤクキユウ　佛虹の異名。帝弓・天弓ともいふ。〔演密鈔、八〕虹狀如㆑弓、西方之人、呼名㆓印涅哩駄弩㆒、卽帝釋弓也。

〖帝釋宮〗107 タイシヤクグウ　佛❶帝釋天の宮殿。善見城の內にあり、殊勝殿ともいふ。〔俱舍論、十一〕於㆓山頂中㆒有㆑宮、名㆓善見㆒、云云、是天帝釋所㆑都大城、於㆓其城中㆒有㆓殊勝殿㆒。❷印度で、俗に虹をいふ。〔大日經疏、十三〕西方名㆑虹爲㆓帝釋宮㆒、其光亦爾也。

〖帝釋爭〗108 タイシヤクノアラソヒ　邦帝釋修羅鬭爭の略。

〖帝釋天〗109 タイシヤクテン　佛帝釋に同じ。

〖帝釋瓶〗110 タイシヤクビヤウ　佛帝釋天の寶瓶。必要とする凡ての物が自然に涌き出るといふ。德瓶。賢瓶。吉祥瓶。〔觀無量壽經〕涌㆓出諸果㆒、如㆓帝釋瓶㆒。

〖帝釋四王〗111 タイシヤクシワウ　佛須彌山の半腹に居る四天王。卽ち持國天（東方）・增長天（南方）・廣目天（西方）・多聞天（北方）をいふ。

〖帝釋修羅鬭爭〗112 タイシヤクシユラノトウサウ　佛帝釋と修羅との爭。〔法華義疏、二〕問、何故常與㆓帝釋㆒戰、答、婆沙云、修羅有㆓美女㆒、而無㆓好食㆒、諸天有㆓好食㆒、而無㆓美女㆒、互相憎嫉、故恆鬭戰也。

【帝狩】113 テイシユ　天子の巡狩。〔顏延之、車駕幸㆓京口㆒三月三日侍㆓遊曲阿後湖㆒作詩〕虞風載㆓帝狩㆒、夏諺頌㆓王遊㆒。〔注〕善曰、尙書虞書曰、歲二月、東巡狩。

【帝舜】114 テイシユン　舜帝をいふ。五帝の一人。顓頊七世の孫。有虞氏。帝堯に擧用せられ、八元八愷を擧げて政を攝し、堯の崩後、王政を樹立し、在位三十九年にして、禹に讓つた。〔書、舜典〕曰若稽㆓古帝舜㆒、曰、重華、協㆓于帝㆒。〔文獻通考、帝系考、帝號歷年〕帝舜、顓頊七世孫、瞽瞍之子、姓姚氏、名重華、年三十、堯擧㆑之、年五十、攝㆓行天子事㆒、年五十八、堯崩、年六十一、以㆓丙戌歲㆒代㆑堯踐㆓帝位㆒、都㆓蒲阪㆒、號㆓有虞氏㆒、三十一年、以㆓丁巳歲㆒禪㆓於禹㆒、又八年崩、壽一百歲、首㆓丙戌㆒

盡二癸亥一。

【帝詢】115 テイジユン 漢の宣帝をいふ。詢は其の名。劉詢(2－2224‥376)を見よ。〔潘岳、西征賦〕訊二諸故老一、造二自帝詢一。〔注〕善曰、詢、宣帝名也。

【帝所】116 テイシヨ ㊀天帝の居るところ。〔史記、趙世家〕居二日半、簡子寤、語二大夫一曰、我之二帝所一甚樂、與二百神一游二於鈞天一。〔唐書、裴矩傳〕蠻夷嗟咨、謂二中國一爲二仙宸帝所一。㊁天子の居るところ。皇都。皇居。〔沈約、謝三齊竟陵王示二永明樂歌一啓〕觀二樂帝所一、遠有レ慚レ德。

【帝渚】117 テイシヨ 湘江(7－17842‥9)の㊀をいふ。帝堯の二女、娥皇・女英が舜を慕つて此處に來り、遂に死んだといふ傳說に本づく。〔沈約、齊故安陸昭王碑文〕塗由二帝渚一、朱軒靡レ駕。〔注〕善曰、楚辭曰、帝子降二兮北渚一、翰曰、帝渚、謂二湘江一也。

【帝緒】118 テイシヨ 天子の事業。帝王の天下を經營統御する事業。帝業。〔王褒、四子講德論〕攘二郤西戎一、始開二帝緒一。〔注〕濟曰、緒、業也。〔南齊書、樂志〕寅承二寶命一、嚴恭二帝緒一。

【帝心】119 テイシン 上帝の心。〔論語、堯曰〕帝臣不レ蔽、簡在二帝心一。

【帝臣】120 テイシン ㊀天子の臣。〔書、益稷〕萬邦黎獻、共惟帝臣。〔論語、堯曰〕帝臣不レ蔽、簡在二帝心一。㊁宋、鄭獻翁(11－39647‥362)の字。

【帝辛】121 テイシン 殷の紂王。辛は其の名。周師と牧野に戰つて敗れ、自焚した。在位三十三年。〔史記、殷紀〕帝乙崩、子辛立、是爲二帝辛一、天下謂二之紂一。〔張協、七命〕接以二商王之箸一、承以二帝辛之杯一。〔注〕善曰、商王、帝辛、皆謂レ紂也。

【帝宸】122 テイシン 帝王の宮殿。天子の居る所。〔李商隱、贈二華陽宋眞人一詩〕淪謫千年別二帝宸一、至レ今猶謝二蘂珠人一。

【帝軫】123 テイシン 車の名。金根車の別名。〔羣書考索〕金根車、以レ金爲レ飾、謂二之帝軫一。

【帝世】124 テイセイ 帝王の世系。代々の帝王。〔班固、典引〕盛哉皇家帝世、德臣二列辟一、功君二百王一。

【帝制】125 テイセイ 帝王の定めた制度。〔漢書、賈誼傳〕若二此諸王一、雖二名爲レ臣、實皆有二布衣昆弟之心一、慮亡下不二帝制而天子自爲一者上。〔注〕師古曰、言、諸侯皆欲下同二皇帝之制度一、而爲中天子之事上。〔王勃、倬彼我系詩〕爰逑二帝制一、大蒐二王道一。

【帝政】126 テイセイ ㊀帝者の政治。㊁帝道の政治。

【帝青】127 テイセイ ㊀藥の名。青鹽。〔藥譜〕小帝青、青鹽。㊁［佛］タイシヤウ 寶珠の名。帝釋青。梵名、因陀羅尼羅目多(Indranilamuktā)。〔玄應音義、二十三〕帝青、梵言二因陀羅尼羅目多一、是帝釋寶、亦作二青色一、以二其最勝一、故稱二帝釋青一、目多、此云レ珠、以二此寶一爲レ珠也。

【帝星】128 テイセイ 星の名。天帝星。天帝(3－5833‥1168)の㊁を見よ。

【帝牲】129 テイセイ 天帝に供へる牲。〔公羊、宣、三〕帝牲不レ吉。〔注〕帝、皇天大帝、在二北辰之中一、主三摠二領天地五帝羣神一也。

【帝壻】130 テイセイ 天子のむこ。公主、卽ち皇女を娶つた者。〔後漢書、馬援傳〕諸子問曰、梁伯孫、帝壻、貴二重朝廷一、公卿已下、莫レ不レ憚レ之、大人柰何獨不レ爲レ禮。〔北史、楊素傳〕以二帝壻之重一、數于二上前一面二折素一。

【帝席】131 テイセキ 星の名。大角星の北にある三星。〔星經〕帝席三星、在二大角北一、星暗天下安。〔晉書、天文志上〕大角云云、北三星曰二帝席一、主二宴獻酬酢一。

【帝迹】132 テイセキ 五帝の事迹。〔顏延之、應レ詔讌二曲水一作詩〕帝迹懸レ衡、皇流共レ貫。〔注〕濟曰、帝、五帝。

【帝戚】133 テイセキ 天子の身うち。皇室の親類。帝姻。〔唐書、竇戚傳〕公世爲二帝戚一、不二亦貴一乎。

【帝錫】134 テイセキ 宋、孫潼發(3－6987‥512)の字。

【帝藉】135 テイセキ 古、天子みづから耕す田。宗廟の粢盛に供する。帝籍。〔禮、月令〕天子親載二耒耜一、帥二三公九卿諸侯大夫一、躬耕二帝藉一。〔注〕帝藉、爲二天神一借二民力一所レ治之田也。〔孫希旦集解〕天子藉田千畝、收二其穀一爲二祭祀之粢盛一、故曰二帝藉一。〔淮南子、時則訓〕藏二帝藉之收於神倉一。

【帝籍】136 テイセキ ㊀天子の所有する書籍。〔白居易、病中辱下張常侍題二集賢院一詩上因以繼和詩〕圖書皆帝籍。㊁帝藉に同じ。〔辭海〕帝籍、謂二天子之籍田一也。藉田亦作二籍田一。

【帝泄】137 テイセツ 夏、第十代の王。帝芒の子。乙巳の歲、父の位を繼ぐ。在位十六年。帝王世紀に泄宗(6－17267‥10)に作る。〔史記、夏紀〕帝芒崩、子帝泄立。

【帝祖】138 テイソ ㊀天帝と祖先。〔顏延之、宋郊祀歌〕寅二威寶命一、嚴二恭帝祖一。〔注〕善曰、帝、上帝、祖、先祖也。㊁皇帝の祖先。〔平家物語、五、都遷事〕神武天皇と申すは、云云、神の代十二代の跡をうけ、人代百王の帝祖なり。㊂皇帝の祖父。〔源平盛衰記、二十六、入道得レ病事〕官位太政大臣に上りて、十善萬乘の帝祖たり。

【帝祚】139 テイソ 天子の御位。帝位。皇祚。〔史記、秦楚之際月表〕撥レ亂誅レ暴、平二定海內一、卒踐二帝祚一、成二於漢家一。

【帝宗】140 テイソウ 帝王の一族。宗室。〔唐書、宗室、孝節傳〕曾孫翯、少孤、事レ母孝、始爲二枝江丞一、荊州長史張柬之曰、帝宗千里駒、吾得二其人一。

【帝聽】141 テイチヤウ 天子の耳。君聽。聽は耳ざといこと。〔韓維、謝二到水仙二本一詩〕乃喜佳名近二帝聽一。

【帝則】142 テイソク ㊀天帝の定めた法則。天道。〔詩、大雅、皇矣〕不レ識不レ知、順二帝之則一。㊁天子の定めた法則。〔後漢書、桓榮丁鴻傳贊〕穆穆帝則、擁レ經以從。

【帝側】143 テイソク 天子のかたはら。〔史記、趙世家〕吾見三兒在二帝側一。

【帝族】144 テイゾク 天子の御一門。〔魏志、武帝紀〕敦二崇帝族一、表二繼絕世一。

【帝屬】145 テイゾク 帝王の一族。宗室。〔北史、魏宗室、遼西公意烈傳〕性雄耿、自以二帝屬一、恥レ居二跋下一、遂陰結二徒黨一。

【帝大】146 テイダイ 帝國大學(75)の略稱。

【帝臺】147 テイダイ 神人の名。〔山海經、中山經〕休與之山、其上有レ石焉、名曰二帝臺之棊一、五色而文、其狀如二鶉卵一、帝臺之石、所三以禱二百神一者也、服レ之不レ蠱。〔注〕帝臺、神人。

【帝臺春】148 テイダイシユン ㊀詞牌の名。〔詞譜〕唐教坊曲名、宋史、樂志、琵琶曲有二帝臺春一、屬二無射宮一。〔詞辨〕堯山堂外紀、唐元宗賦春恨帝臺春、爲二長調之佳者一、如拚則而今已拚了、忘則怎生便忘得、按、元宗時、尙無二此等婉孌極妍之語一、詞綜辯爲二華亭李甲作一、非二元宗作一也。㊁曲牌の名。南曲は大石調引に入る。

【帝道】149 テイダウ ㊀帝者の行ふ國家統治の道。理想上最善とする政治。民を化するに仁德を以てし、無爲自然にして治まるをいふ。王道(7－20823‥752)・霸道(12－42490‥39)の對。〔莊子、天道〕天道運而無レ所レ積、故萬物成、帝道運而無レ所レ積、故天下歸。〔管子、乘馬〕無レ爲者帝、爲而無二以爲一者王、爲而不レ貴者霸、不二自以爲レ所レ貴則君道也。〔史記、商君傳〕吾說レ公以二帝道一。㊁帝位。〔劉峻、辨命論〕入二紫微一、升二帝道一。〔注〕翰曰、帝道、帝位也。

【帝宅】150 テイタク 天子のいますところ。宮城。〔後漢書、南匈奴傳〕丘墟帝宅。〔唐書、李光弼傳〕東都、乃帝宅、公當レ守レ之。〔何景明、送二劉伯雨一詩〕江山廻二帝宅一、牛斗上二仙槎一。

【帝闥】151 テイタツ 王宮の門。又、そのうち。禁闥。紫闥。宮闥。皇闥。禁門。〔潘岳、夏侯常侍誄〕入侍二帝闥一、出光二厥家一。

【帝竹】152 テイチク 竹の名。〔竹譜〕員丘帝竹、一節爲レ船、巨細已聞、形名未レ傳。

【帝衷】153 テイチユウ 天子の御心。叡慮。〔范純仁、詩〕實レ效應レ須簡二帝衷一。

【帝予】154 テイチヨ 夏、第七代の王。帝少康の子。甲辰の歲卽位し、在位十七年。〔史記、夏紀〕帝少康崩、子帝予立。〔注〕索隱曰、予音佇。

【帝儲】155 テイチヨ ㊀天子のあとつぎ。まうけのきみ。皇太子。春宮。東宮。皇儲。〔謝朓、酬德賦〕君奉二筆於帝儲一。㊁星の名。五帝坐の北にある。〔晉書、天文志一〕五帝座北一星曰二太子帝儲一也。

【帝女】156 テイヂヨ ㊀天子の女。宗室の女。皇女。內親王。〔王儉、國史條例議〕立二帝女傳一、亦非二淺識所レ安。〔蘇頲、侍二宴安樂公主山莊一應制詩〕駸駸羽騎歷二城池一、帝女樓臺向レ晚披。㊁天帝の女。帝女靈・帝女之桑を見よ。

【帝女花】157 テイヂヨクワ ㊀菊の異名。〔事物異名錄、花卉、菊〕廣韻、帝女花、菊也。㊁清代、戲曲の名。黃燮淸の作。倚晴樓七種の一。明の思宗の皇女長平公主の事を演じたもの。

【帝女雀】158 テイヂヨジヤク 鳥の名。古、炎帝の女が東海に溺死し、化して此の鳥に成つたものといふ。〔述異記、上〕昔炎帝女溺二死東海中一、化爲二精衞一、偶二海燕一而生レ子、云云、一名志鳥、俗呼二帝女雀一。

【帝女靈】159 テイヂョノレイ　巫山の神女の靈。〔江淹、雜體、潘黃門述哀詩〕我慙二北海術一、爾無二帝女靈一。〔注〕善曰、宋玉集云、楚襄王與二宋玉一遊二於雲夢之野一、望二朝雲之館一、有レ氣焉、云云、王問、此何氣也、玉對曰、昔先王遊二於高唐一、怠而晝寢、夢見二一婦人一、自云、我帝之季女、名曰二瑤姬一、未レ行而亡、封二於巫山之臺一、聞二王來遊一、願薦二枕席一、王因幸レ之、去乃言、妾在二巫山之陽、高丘之阻一、旦爲二朝雲一、暮爲二行雨一。

〖帝女之桑〗160 テイヂョノサウ　傳說上の桑の名。天帝の女の桑。〔山海經、中山經〕宣山、云云、有レ桑焉、大五十尺、其枝四衢、其葉大尺餘、赤理黃華青柎、名曰二帝女之桑一。〔注〕婦女主レ蠶、故以名レ桑。〔張衡、南都賦〕楓柙櫨櫪、帝女之桑。〔梁昭明太子、錦帶書、十二月啓、中呂四月〕依依聳蓋、俱臨二帝女之桑一、鬱鬱丹城、竝挂二陶潛之柳一。

【帝敕】161 テイチョク　天子のみことのり。〔張翥、治レ城詩〕題レ榜侍臣留二帝敕一、築レ亭眞士記二天容一。

【帝廷】162 テイテイ　天帝のには。又、天子のには。朝廷。帝庭。〔史記、天官書〕大角者、天王帝廷。〔漢書、李尋傳〕故次二帝廷一、女官在レ後。

【帝弟】163 テイテイ　天子の弟。〔庾信、故周大將軍義興公蕭公墓誌銘〕承レ家帝弟。〔潘岳、爲二賈謐一作贈二陸機一詩〕旋二反桑梓一、帝弟作レ弼。

【帝庭】164 テイテイ　㊀天帝のには。又、禁苑。朝廷。帝廷。〔書、金縢〕乃命二于帝庭一、敷二佑四方一。〔傳〕受二命於天庭一爲二天子一。〔曹昭、大雀賦〕集二帝庭一而止息。㊁天神をまつるには。〔漢書、郊祀志下〕鼎宜下視二宗禰廟一、臧二於帝庭一、以合中明應上。

【帝典】166 テイテン　㊀書經の堯典篇をいふ。今の書經の堯典と舜典とを合せていふ。〔大學、首章〕帝典曰、克明二峻德一。〔章句〕帝典、堯典・虞書。〔後漢書、章帝紀〕五教在レ寬、帝典所レ美。〔孔叢子、論書〕吾於二帝典一見二堯舜之聖一焉。㊁帝王の法。〔揚雄、劇秦美新〕是以帝典闕而不レ補、王綱弛而未レ張。〔注〕濟曰、典、則。

【帝展】167 テイテン　帝國美術院展覽會の略。大正九年、第一回展覽會を開く。帝國美術院(76)を見よ。

【帝都】168 テイト　天子のいます都。帝城のある都。皇都。帝京。京師。〔後漢書、袁紹傳〕帝都有二呼嗟之怨一。〔李白、哭二晁卿行一詩〕日本晁卿辭二帝都一、征帆一片繞二蓬壺一。〔杜甫、惜別行送二劉僕射判官一詩〕龍媒眞種在二帝都一、子孫未レ落西南隅。

【帝圖】169 テイト　天子の謀。王者としての畫策。帝猷。帝謨。〔顏延之、三月三日曲水詩序〕有宋函夏、帝圖弘遠。〔北齊書、儒林傳贊〕帝圖雜レ霸、儒風未レ純。

【帝統】170 テイトウ　天子の血統。帝系(55)に同じ。〔清國行政法汎論、皇帝、爵〕係勝國、卽前朝帝統者。

【帝德】171 テイトク　天子の威德。聖德。〔後漢書、宦者傳序〕卒有二蕭周之禍一、損二穢帝德一焉。

【帝羓】172 テイハ　帝王の身のほし肉。羓は干肉。〔五代史、四夷附錄第一〕德光已滅レ晉、漢高祖起二太原一、德光大懼、乃北歸、行至二欒城一、得レ疾、卒二於殺胡林一、契丹破二其腹一、去二其腸胃一、實レ之以レ鹽、載而北、晉人謂二之帝羓一焉。

【帝芒】173 テイバウ　夏、第九代の王。帝槐の子。在位十八年。〔史記、夏紀〕帝槐崩、子帝芒立。

【帝旁】174 テイバウ　天子のかたはら。又、天帝のかたはら。帝傍。〔李白、梁父吟〕帝旁投壺多二玉女一。〔宋史、天文志二〕六甲六星、在二華蓋杠旁一、主下分二陰陽一、配中節候上、故在二帝旁一、所下以布二政教一授中農時上也。

【帝發】175 テイハツ　夏、第十六代の王。帝皐の子。甲申の歲、父の位を繼ぐ。在位十九年。〔史記、夏紀〕帝皐崩、子帝發立。

【帝範】176 テイハン　書名。四卷。唐、太宗撰。太子に賜はらんがために、帝王たる者の模範となることを集錄す。其の目は、君體・建親・求賢・審官・納諫・去讒・誡盈・崇儉・賞罰・務農・閱武・崇文の十二。〔四庫提要、子、儒家類〕。

【帝匹】177 テイヒツ　皇后をいふ。帝王の匹耦の意。〔五代史、唐家人、淑妃王氏傳〕后、帝匹也、至尊之位、誰敢干レ之。

【帝傅】178 テイフ　天子の師。帝師。又、宰相。〔韻府引、歐陽脩、制〕增二其帝傅之崇一。〔陸游、韓太傅生日詩〕清霜粲レ瓦初作レ寒、天爲二明時一生二帝傅一。

【帝服】179 テイフク　㊀天子の衣服。〔新書、孽產子〕今貴人大賈、屋壁得レ爲二帝服一。㊁五帝の服。〔楚辭、九歌、雲中君〕龍駕兮帝服、聊翺遊兮周章。〔注〕帝、謂二五方之帝一也、言下天尊雲神、使中之乘レ龍、兼衣二青黃五采之色一、與二五帝一同上服也。

【帝腹】180 テイフク　帝王の腹。〔馬存、浩浩歌〕又不レ見子陵橫レ足加二帝腹一、帝不二敢動一豈敢訶。

【帝墳】181 テイフン　三墳五典をいふ。典墳。三墳五典八索九丘(**1－12**‥1586)を見よ。〔後漢書、班彪傳贊〕二班懷レ文、裁二成帝墳一。〔注〕沈約宋書曰、初謝儼作二此贊一云、裁二成典墳一、以示二范曄一、曄改爲二帝墳一。

【帝文】182 テイブン　天文をいふ。〔班固、東都賦〕披二皇圖一稽二帝文一。〔注〕濟曰、帝文、天文也。

【帝昺】183 テイヘイ　宋、第九代の帝。趙昺(**10－37171**‥332)を見よ。

【帝輔】185 テイホ　帝王の輔佐。〔列女傳、母儀、契母簡狄傳〕契爲二帝輔一、蓋母有レ力。

【帝母】186 テイボ　天子の母。國母。〔漢書、外戚傳序〕漢興因二秦之稱號一、帝母稱二皇太后一。

【帝謨】187 テイボ　㊀帝王のはかりごと。〔柳宗元、唐鐃歌鼓吹曲、鐵山碎〕利澤彌二萬祀一、功不レ可レ踰、官臣拜手惟帝之謨。〔薛能、昇平詞〕品物盡昭蘇、神功復帝謨。㊁書經の皐陶謨をいふ。〔法言、問明〕昔皐陶以二其智一爲二帝謨一、殺レ身者遠矣。

【帝名】188 テイメイ　帝といふ名稱。又、帝の名。〔戰國、齊策〕先後之事、帝名爲レ無レ傷也、秦稱レ之而天下不レ聽。

【帝命】189 テイメイ　㊀天子の命令。〔漢書、百官公卿表上〕龍作二納言一、出二入帝命一。〔顏延之、祭二屈原一文〕恭承二帝命一、建二旟舊楚一。㊁天帝の命令。天命(**3－5833**‥1398)の㊀に同じ。〔詩、大雅、文王〕有周不レ顯、帝命不レ時。〔孔子家語、論禮〕帝命式二于九圍一。

〖帝命驗〗190 テイメイケン　尙書緯の一種。已に佚す。古微書に輯本がある。

〖帝命溥將〗191 テイメイフシヤウ　天子の命令が廣く行きわたる。溥は廣、將は大、溥將は廣大の意。〔詩、商頌、烈祖〕我受レ命溥將。〔集傳〕溥、廣、將、大也。〔晉書、樂志上〕隆化洋洋、帝命溥將。

【帝容】192 テイヨウ　皇帝の威容。〔班固、東都賦〕究二皇儀一而展二帝容一。

【帝旅】193 テイリヨ　天子の軍隊。皇軍。〔陸雲、祖考頌〕公徒斯振、帝旅凱入。

【帝陵】194 テイリヨウ　天子の墓。みささぎ。〔元史、世祖紀十四〕至元二十一年、葬二起輦谷一、從二諸帝陵一。

【帝力】195 テイリヨク　帝王の力。帝王の恩德。天子の威光。〔漢書、張耳陳餘傳〕秋毫皆帝力也。

〖帝力何有于我哉〗196 テイリヨクナンゾワレニアランヤ　自分は何等天子の恩德を蒙つてゐないといふ意で、天子の恩が餘りに洪大なため、それを蒙りながら、氣づかないで言つたことば。〔康衢謠〕耕レ田而食、鑿レ井而飮、帝力何有二于我一哉。〔十八史略、五帝、帝堯陶唐氏〕有二老人一、含レ哺鼓レ腹、擊レ壤而歌曰、日出而作、日入而息、鑿レ井而飮、畊レ田而食、帝力何有二於我一哉。

【帝臨】197 テイリン　漢の郊祀歌の名。〔樂府詩集、郊廟歌辭、漢郊祀歌、帝臨〕帝臨二中壇一、四方承レ宇、繩意變、備得二其所一、淸二和六合一、制レ數以レ五、海內安寧、興レ文匽レ武、后土富媼、昭二明三光一、穆穆優游、嘉服上黃。

【帝靈】198 テイレイ　上帝のみたま。又、上帝。〔南齊書、樂志〕浹地收成、歲行欲レ寧、浹地奉レ渥、罄宇承二帝靈一。〔秦嘉、答レ妻詩〕帝靈無二私親一、爲レ善荷二天祿一。

【帝輦】199 テイレン　㊀天子の車。〔蘇瓌、慶池侍宴詩〕瑞鳳飛來隨二帝輦一、祥魚出戲躍二王舟一。㊁天帝の車。〔劉孝威、烏生八九子詩〕高飛帝輦側、遠託日輪中。

【帝王】200 テイワウ　㊀天下萬民の君主。國家を統治する元首。みかど。天子。天皇。〔莊子、天道〕夫帝王之德、以二天地一爲レ宗。〔荀子、王霸〕海內之民、莫レ不レ願三以爲二帝王一。〔戰國、秦策〕文王果收二功於呂尙一、卒擅二天下一、而身立爲二帝王一。〔呂覽、名類〕凡帝王者之將レ興也。〔史記、匈奴傳〕古之帝王。〔新語、明戒〕升二帝王之位一。〔孔叢子、論書〕以二帝王一行二此禮一者則有矣。〔魏志、陳登傳〕今天下大亂、帝王失レ所。㊁五帝と三王。〔莊子、秋水〕帝王殊レ禪、三代殊レ繼。〔疏〕帝、五帝也、王、三王三代、夏・殷・周。

〖帝王學〗201 テイワウノガク　帝王たるに必要な學問。

〖帝王州〗202 テイワウノクニ　帝王の居るべきくに。〔謝

眺、入朝曲〕江南佳麗地、金陵帝王州。〔杜甫、秋興詩〕廻㆑身可㆑憐歌舞地、秦中自㆑古帝王州。

【帝王之兵】203（テイワウノヘイ）　德を以て天下を治める天子の軍隊。〔戰國、趙策〕帝王之兵、所㆑用不㆑過㆓三萬㆒、而天下服矣。

【帝王世記】204（テイワウセイキ）　書名。一卷。晉、皇甫謐撰。〔說符、第五十九冊〕。

【帝王略論】205（テイワウリヤクロン）　書名。唐、虞世南撰。一卷から五卷まで現存す。歷代帝王の事蹟を略述す。

【帝王機關說】206（テイワウキクヮンセツ）　主權の主體は國家にあつて、帝王は其の國家統治の最高機關であるといふ說。帝王主權說の對。

【帝王主權說】207（テイワウシユケンセツ）　帝王は主權の主體であるとする說。帝王機關說の對。

【帝王切開術】208（テイワウセツカイジユツ）　姙娠子宮を切開して其の創口から胎兒を娩出させる方法。獨逸語 Kaiserschnitt の譯で、羅馬のジユリアスシーザーが此の術によつて生れたので、帝王といふ語を附けたといふ。

【帝王編年紀】209（テイワウヘンネンキ）　書名。二十七卷。釋永祐撰と傳へる。又、歷代編年集成、或は、帝王編年集成ともいふ。神代から後伏見天皇に至るまでの編年體の歷史。前半は佛敎及び中國に關する記事が多く、第一・二卷に三皇・五帝から周歷代の事蹟を載せ、釋迦降誕の時、及び在世經行處をも示す。〔存採叢書、第十二―十八冊〕。

【帝王經世圖譜】210（テイワウケイセイヅフ）　書名。十六卷。宋、唐仲友撰。先聖の大經大法を記す。〔四庫提要、子、類書類〕。

【帝由崧】211（テイイウシユウ　テイイウスウ）　明、第十八代の帝。福王。朱由崧(6－14424··649)を見よ。

【帝由榔】212（テイイウラウ）　明、第二十代、明朝最後の帝。永明王。朱由榔(6－14424··650)を見よ。

【帝庚丁】213（テイカウテイ）　殷、第二十四代の王。姓は子。帝祖甲の子。壬寅の歲、兄稟辛に繼いで、卽位し、在位二十一年。〔史記、殷紀〕帝稟辛崩、弟庚丁立、是爲㆓帝庚丁㆒。

【帝驗期】214（テイケンキ）　尙書緯の一種。已に佚す。古微書に輯本がある。

【帝孔甲】215（テイコウカフ）　夏、第十四代の王。姓は姒。帝不降の子。壬寅の歲、從弟廑の位を繼ぐ。淫亂を好み、夏爲に衰へた。在位三十一年。〔史記、夏紀〕帝廑崩、立㆓帝不降之子孔甲㆒、是爲㆓帝孔甲㆒、帝孔甲立、好㆓方鬼神事㆒、淫亂、夏后氏德衰、諸侯畔㆑之。

【帝小甲】216（テイセウカフ）　殷、第五代の王。姓は子。帝太庚の子。乙亥の歲、父の位を繼ぎ、在位十七年。〔史記、殷紀〕帝太庚崩、子帝小甲立。

【帝少康】217（テイセウカウ）　夏、第六代の王。姓は姒。帝相の子。父の相が惡臣澆に殺された後、四十年にして卽位し、澆を誅し、夏道を復興した。在位二十二年。〔史記、夏紀〕帝相崩、子帝少康立。

【帝顓頊】218（テイセンギヨク）　中國上代說話に見えた古帝王。五帝の一人。黃帝の孫、昌意の子。黃帝崩じて卽位し、高陽氏と號す。在位七十八年。顓頊(12－43600··5)の❶を見よ。〔文獻通考、帝系考、帝號歷年〕帝顓頊、高陽、黃帝之孫、昌意之子、繼㆓黃帝㆒爲㆓天子㆒、在位七十八年、崩年九十八歲。

【帝祖乙】219（テイソイツ）　殷、第十一代の王。帝河亶甲の子。丙申の歲、父の位を繼ぎ、殷を中興す。在位十九年。〔史記、殷紀〕河亶甲崩、子帝祖乙立、帝祖乙立、殷復興、巫賢任㆑職。

【帝祖庚】220（テイソカウ）　殷、第二十一代の王。帝武丁の子。丙辰の歲、父の位を嗣ぎ、在位七年。〔史記、殷紀〕帝武丁崩、子帝祖庚立。

【帝祖甲】221（テイソカフ）　殷、第二十二代の王。帝武丁の子。癸亥の歲、兄祖庚に嗣いで卽位し、在位三十三年、淫亂にして、殷爲に衰へた。〔史記、殷紀〕帝祖庚崩、弟祖甲立、是爲㆓帝甲㆒、帝甲淫亂、殷復衰。

【帝祖辛】222（テイソシン）　殷、第十二代の王。帝祖乙の子。乙卯の歲、父の位を嗣ぎ、在位十六年。〔史記、殷紀〕祖乙崩、子帝祖辛立。

【帝祖丁】223（テイソテイ）　殷、第十四代の王。帝祖辛の子。丙申の歲、叔父沃甲の位を嗣ぎ、在位三十二年。〔史記、殷紀〕帝沃甲崩、立㆓沃甲兄祖辛之子祖丁㆒、是爲㆓帝祖丁㆒。

【帝太庚】224（テイタイカウ）　殷、第四代の王。帝太甲の子。庚戌の歲、兄沃丁の位を繼ぎ、在位二十五年。〔史記、殷紀〕沃丁崩、弟太庚立、是爲㆓帝太庚㆒。

【帝太甲】225（テイタイカフ）　殷、第二代の王。成湯の適長孫。伊尹の輔弼によつて祖父成湯の位を繼ぎ、在位三十三年。廟號は太宗。〔史記、殷紀〕帝中壬立卽㆑位、四年崩、伊尹廼立㆓太丁之子太甲㆒、太甲成湯適長孫也、是爲㆓帝太甲㆒、云云、褒㆓帝太甲㆒稱㆓太宗㆒。

【帝太后】226（テイタイコウ）　天子の母をいふ。〔漢書、哀帝紀〕恭皇后曰㆓帝太后㆒。

【帝太丁】227（テイタイテイ）　殷、第二十六代の王。帝武乙の子。丁卯の歲、父の位を繼ぎ、在位三年。〔史記、殷紀〕武乙震死、子帝太丁立。

【帝太戊】228（テイタイボ）　殷、第七代の王。帝太庚の子。甲辰の歲、兄雍己の位を嗣ぎ、殷政復興す。在位七十五年、中宗と號す。〔史記、殷紀〕帝雍己崩、弟太戊立、是爲㆓帝太戊㆒、帝太戊立、伊陟爲㆑相、云云、殷復興、諸侯歸㆑之、故稱㆓中宗㆒。

【帝中康】229（テイチユウカウ）　夏、第四代の王。帝啓の子。壬戌の歲、兄太康失政の後を嗣いで、卽位し、在位十三年。〔史記、夏紀〕太康崩、弟中康立、是爲㆓帝中康㆒。

【帝仲丁】230（テイチユウテイ）　殷、第八代の王。帝太戊の子。己未の歲、父の位を嗣ぎ、在位十三年。〔史記、殷紀〕中宗崩、子帝仲丁立。

【帝不降】231（テイフカウ）　夏、第十一代の王。帝泄の子。辛酉の歲、父の位を繼ぎ、在位五十九年。〔史記、夏紀〕帝泄崩、子帝不降立。

【帝武乙】232（テイブイツ）　殷、第二十五代の王。帝庚丁の子。癸亥の歲、父の位を繼ぐ。河北に遷都し、無道の王といはれた。在位四年。〔史記、殷紀〕帝庚丁崩、子帝武乙立、殷復去㆑亳徙㆓河北㆒、武乙無道、爲㆓偶人㆒謂㆓之天神㆒、與㆑之博、令㆓人爲行㆒、天神不㆑勝、乃僇㆓辱之㆒、爲㆓革囊㆒盛㆑血、仰而射㆑之、命曰㆑射㆑天、武乙獵㆓於河渭之間㆒、暴雷、武乙震死。

【帝武丁】233（テイブテイ）　殷、第二十代の王。帝小乙の子。武丁卽位して、殷復興し、天下大いに治まる。之を高宗といふ。在位五十九年。〔史記、殷紀〕帝小乙崩、子帝武丁立、帝武丁卽㆑位、云云、武丁修㆑政行㆑德、天下咸驩、殷道復興、帝武丁崩、子帝祖庚立、祖己嘉㆘武丁之以㆓祥雉㆒爲㆖德、立㆓其廟㆒爲㆓高宗㆒。

【帝陽甲】234（テイヤウカフ）　殷、第十六代の王。帝祖丁の子。癸巳の歲、南庚の位を繼ぐ。王位繼承の亂あり、諸侯朝せず、殷政衰へた。在位七年。〔史記、殷紀〕帝南庚崩、立㆓帝祖丁之子陽甲㆒、是爲㆓帝陽甲㆒、帝陽甲之時、殷衰、自㆓中丁㆒以來、廢㆑適而更立㆓諸弟子㆒、弟子或爭相代立、比㆓九世㆒亂、於㆑是諸侯莫㆑朝。

【帝雍己】235（テイヨウキ）　殷、第六世の王。帝太庚の子。壬辰の歲、兄小甲の位を繼ぎ、在位十二年。殷政爲に衰へた。〔史記、殷紀〕帝小甲崩、弟雍己立、是爲㆓帝雍己㆒、殷道衰、諸侯或不㆑至。

【帝沃甲】236（テイヨクカフ）　殷、第十三代の王。帝祖乙の子。辛未の歲、兄祖辛の位を繼ぎ、在位二十五年。〔史記、殷紀〕帝祖辛崩、弟沃甲立、是爲㆓帝沃甲㆒。

【帝沃丁】237（テイヨクテイ）　殷、第三代の王。帝太甲の子。辛巳の歲、父の位を嗣ぎ、在位二十九年。〔史記、殷紀〕太宗崩、子沃丁立、帝沃丁之時、伊尹卒。

【帝履癸】238（テイリキ）　夏、第十七代の王。夏の最後の王、桀をいふ。帝發の子。癸卯の歲、父の位を繼ぐ。酒池肉林の亂行をなし、遂に成湯のため、南巢に放たれた。在位五十三年。〔史記、夏紀〕帝發崩、子帝履癸立、是爲㆑桀、帝桀之時、自㆓孔甲㆒以來而諸侯多畔。

【帝流漿】239（テイリウシヤウ）　針を引附けない磁石。又、綠秋ともいふ。〔事物異名錄、藥材、慈石〕石藥爾雅、磁石不㆑拾㆑針者、名㆓綠秋㆒、又名㆓帝流漿㆒。

【帝太太后】240（テイタイタイコウ）　天子の祖母をいふ。〔漢書、哀帝紀〕尊㆓恭皇太后㆒曰㆓帝太太后㆒。

【帝稟辛】241（テイリンシン）　殷、第二十三世の王。帝祖甲の子。在位六年。〔史記、殷紀〕帝甲崩、子帝稟辛立。

【象㆓帝之先㆒】242（テイノセンニニタリ）　道は天地が未だ出現しない前から存在してゐるやうである。〔老子、四〕吾不㆑知㆓誰之子㆒、象㆓帝之先㆒。〔注〕道自在㆓天帝之前㆒、此言㆘道乃先㆓天地㆒生㆖也。

【夢三帝賚二予良弼一】243（テイワレニリヤウヒツヲタマフヲユメム） 天帝が己に立派な大臣を賜はつた夢を見た。殷の湯王が傳說を夢みた故事。〔書、說命上〕王庸作レ書以誥、曰、以三台正二于四方一、台恐二德弗レ類、玆故弗レ言、恭默思レ道、夢三帝賚二予良弼一、其代レ予言。〔傳〕夢三天與二我輔弼良佐一、將三代レ我言二政教一。

【⿰巾夸】8866 ㊀クヮ ケ 〔集韻〕苦瓦切 馬 ㊁カイ ケ 〔集韻〕枯買切 蟹

㊀㊁❶えり。〔廣韻〕⿰巾夸、衿袍也。❷はだぎ。じゆばん。〔集韻〕⿰巾夸、小衫曰レ⿰巾夸。❸或は袔(10−34189)に作る。〔集韻〕⿰巾夸、或作レ袔。

【帞】8867 ㊀バク ミヤク 〔集韻〕莫白切 陌 ㊁バツ メチ 〔集韻〕莫轄切 黠

㊀帕(4−8848)の俗字。〔正字通〕帞、帕、俗作レ帞。㊁或は絈(8−27378)に作る。〔集韻〕帞、或作レ絈。

【帞頭】1（バクトウ） づきん。はちまき。帕頭(4−8848・4)に同じ。〔方言、四〕絡頭、南楚江湘之閒曰二帞頭一。〔釋名、釋首飾〕綃頭或曰二帞頭一、言二其從レ後橫帞而前一也。〔廣雅、釋器〕帞頭、幧頭也。〔疏證〕今時始喪者、邪巾貊頭、釋文、貊作レ絈。

【⿰巾劦】8868 ケフ ゲフ 〔集韻〕檄頰切 葉

おほおび。束帶。〔廣韻〕⿰巾劦、束帶。

【⿰巾式】8869 ショク 拭(5−11989)に同じ。〔玉篇〕⿰巾式、同レ拭。

【⿱列巾】8870 レイ 〔集韻〕力制切 霽

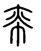
❶きぬぎれ。〔玉篇〕⿱列巾、帛餘也。❷あまり。〔廣雅、釋詁三〕⿱列巾、餘也。

【⿰巾例】8871 レイ ⿱列巾(4−8870)に同じ。或は裂(10−34261)に作る。〔玉篇〕⿱列巾、亦作レ⿰巾例。〔集韻〕⿰巾例、或作レ裂。

【⿰巾夷】8872 イ 〔玉篇〕羊脂切 支

衣服のさま。〔字彙〕⿰巾夷、衣服貌。

【帟】8873 エキ ヤク 〔集韻〕夷益切 陌 ㄧˋ i⁴


小篆

ひらとばり。ひらはり。上部に張り設けて塵埃の落ちるのを防ぐ小さなまく。〔說文新附〕帟、在レ上曰レ帟、从レ巾亦聲。〔釋名、釋牀帳〕小幕曰レ帟、張二在人上一、帟帟然也。〔周禮、天官、幕人〕掌二帷幕幄帟綬之事一。〔注〕鄭司農曰、帟、平帳、玄謂、帟、王在二幕若幄中一、坐上承レ塵、幄・帟皆以レ繒爲レ之。〔周禮、天官、掌次〕凡喪レ王、則張レ帟三重。〔注〕張レ帟、柩上承レ塵。〔倭名類聚抄、調度部、屛障具〕帟、比良波利。

【⿰巾巟】8874 ㊀クヮウ 〔集韻〕呼光切 陽 ㊁バウ マウ 〔集韻〕謨郎切 陽

小篆

㊀㊁❶ねりいとを染める工人。〔說文〕⿰巾巟、設色之工、治二絲練一者、从レ巾巟聲、讀若レ荒。❷おほふ。〔說文〕⿰巾巟、一曰、⿰巾巟、隔也。〔段注〕隔之義、網二其上一而葢レ之。❸おほひ。〔玉篇〕⿰巾巟、幏也。❹とばり。〔正字通〕⿰巾巟、帷屬。❺通じて荒(9−30953)に作る。〔玉篇〕⿰巾巟、通作レ荒。❻⿰巾㐬(4−9021)に同じ。〔集韻〕⿰巾㐬、或省。❼或は⿰巾芒(4−8923)に作る。〔集韻〕⿰巾巟、或从レ芒。

【⿰巾⿱亠巛】8875 クヮウ ⿰巾巟(4−8874)に同じ。〔篇海類編〕⿰巾⿱亠巛、同レ⿰巾巟。

【⿱亡巾】8876 クヮウ ⿱亡巾(4−8785)に同じ。〔集韻〕⿱亡巾、或从レ巛。

【⿰巾旬】8877 シユン 〔集韻〕須倫切 眞

小篆

えりさき。〔說文〕⿰巾旬、領耑也、从レ巾旬聲。

【帠】8878 ゲイ 〔集韻〕研計切 霽

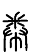
のり。のつとる。〔集韻〕帠、法也。〔莊子、應帝王〕女又何帠以治二天下一、感二予之心一爲。〔釋文〕帠、司馬云、法也。

【帡】8879 ヘイ 帲(4−8938)の俗字。〔字彙〕帡、俗帲字。

【帢】8880 ㊀カフ ケフ 〔集韻〕乞洽切 洽 ㄑㄧㄚˋ ch'ia⁴ ㊁カフ コフ 〔集韻〕葛合切 合

㊀❶軍帽の一種。魏の武帝が古の皮弁に擬して製した簡略な帽子で、色で貴賤を別ける。〔玉篇〕帢、帽也。〔廣韻〕帢、縝績也。〔魏志、太祖紀、注〕傅子曰、漢末王公、多委二王服一、以二幅巾一爲レ雅、是以袁紹・崔豹之徒、雖レ爲二將帥一、皆著二縑巾一、魏太祖以二天下凶荒、資財乏匱一、擬二古皮弁一、裁二縑帛一以爲レ帢、合二于簡易、隨二時之義一、以レ色別二其貴賤一、于レ今施行、可レ謂二軍容一、非二國容一也。❷頭をおさへる。〔集韻〕帢、一曰、按レ頭使レ下、故曰レ帢。❸或は⿰鬲合(12−42692)・⿰巾夾(4−8924)・⿰巾匧(4−8970)・⿱冖合(2−1549)・袷(10−34359)・⿰巾臽(4−8945)に作る。〔集韻〕帢、或作二⿰鬲合・⿰巾夾・⿰巾匧・⿱冖合・袷・⿰巾臽一。㊁韐(12−43135)に同じ。〔集韻〕韐、韎韐、士服、制如レ韍、或作レ帢。

【帣】8881 ㊀ケン 〔集韻〕古倦切 霰 ㊁ケン ゲン 〔集韻〕逵員切 先 ㊂ケン 〔集韻〕古轉切 銑


小篆

㊀ふくろ。三斛入りのふくろ。もと⿱𠔉巾に作る。〔說文〕⿱𠔉巾、囊也、今鹽官三斛爲二一⿱𠔉巾一、从レ巾𠔉聲。㊁底のあるふくろ。〔集韻〕帣、囊有レ底曰レ帣。㊂たすき。絭(8−27442)に通ず。〔說文通訓定聲〕帣、叚借爲レ絭。〔史記、滑稽、淳于髡傳〕髡帣韝鞠䐜。〔注〕集解曰、徐廣曰、帣、收二衣褏一也、索隱曰、帣、謂レ收レ袖也。

【帣韝】1（ケンコウ） 帣は、左右の袖を束ねるもの、我がたすきの類。韝はゆごて、臂捍。〔史記、滑稽、淳于髡傳〕若親有二嚴客一、髡帣韝鞠䐜、侍二酒於前一、時賜二餘瀝一、奉レ觴上レ壽。〔注〕集解曰、徐廣曰、帣、收二衣褏一也、褏、袂也、韝、臂捍也、索隱曰、帣、音卷、謂レ收レ袖也。〔蘇軾、送三宋構朝散知二彭州一迎二侍二親一詩〕帣韝上レ壽白玉壺、公堂登レ歌鳳將雛。

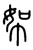
【㠉】8882 トウ ツ 〔集韻〕他東切 ［東］

えびすの衣服。 𢅊(4-9039)に同じ。〔集韻〕𢅊、𢅊裙、夷服也、或从㆑同。

【帎】8883 コウ グ 〔集韻〕胡公切 ［東］

はたじるし。 のぼりの類。〔集韻〕帎、徽幟類。

【帤】8884 ヂョ ニョ 〔集韻〕女居切 ［魚］


小篆

❶**大幅のぬの。**〔說文〕帤、巾帤也、从㆑巾如聲。〔方言、四〕幏、巾也、大巾謂㆓之帉㆒、嵩嶽之南、陳潁之間、謂㆓之帤㆒、亦謂㆓之幏㆒。❷**古ぎれ。やぶれぎれ。** 拭ひぬの。〔說文〕帤、一曰、幣巾。〔段注〕幣、當㆑爲㆑敝、字之誤也。〔說文義證〕帤、爲㆘塞㆓漏孔㆒之故帛㆖、廣韻、帤、幡巾、幡、拭㆑觚之布、亦故布也。〔黃庭內景經〕人間紛紛、臭如㆑帤。❸**はたのきれ地。**〔廣韻〕帤、幡巾。〔正韻〕帤、幡布。❹**弓體の中央の補強にもちひるそへ木。** 絮(**8-27443**)に通ず。〔說文通訓定聲〕帤、叚借爲㆑絮。〔周禮、考工記、弓人〕厚㆓其帤㆒則木堅、薄㆓其帤㆒則需。〔注〕鄭司農云、帤、弓中裨。〔孫詒讓正義〕說文、裨、接益也、弓中卽當㆓挺臂㆒、在㆓兩隈之閒㆒、於㆓弓幹㆒爲㆓正中㆒、較㆓之兩隈㆒須㆓微強㆒、故於㆓幹閒㆒別以㆓薄木㆒副㆓益之㆒、賈疏云、造㆑弓之法、弓幹雖㆔用㆓整木㆒、仍於㆓幹上㆒裨㆑之、乃得㆓調適㆒也。

【帵】8885 セイ サイ 〔玉篇〕此芮切 ［霽］

ふきん。 てぬぐひ。〔玉篇〕帵、巾也。

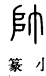
【帥】8886

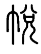
［一］シュツ シュチ 〔集韻〕朔律切 ［質］ ㄕㄨㄞˋ shuai⁴

［二］スイ 〔集韻〕所類切 ［寘］ ㄕㄨㄛˋ shuo⁴

［三］セイ 〔集韻〕輸芮切 ［霽］

［慣］ソツ・ソチ


小篆


或體

［一］❶**ひきゐる。** ㋑したがへすべる。將領する。〔易、師〕長子帥㆑師。〔呂覽、權勳〕達子又帥㆓其餘卒㆒。〔注〕帥、將也。〔呂覽、辨士〕帥爲㆓冷風㆒。〔注〕帥、率也。㋺さきだつ。〔論語、顏淵〕子帥以㆑正。〔皇疏〕帥、猶㆑先也。㋩みちびく。〔儀禮、士昏禮〕祝帥㆑婦以入。〔注〕帥、道也。〔儀禮、聘禮〕帥㆓大夫㆒以入。〔注〕帥、道也。❷**五鄉のかしら。**〔管子、小匡〕五鄉一帥。〔纂詁〕諸本作㆓三鄉㆒、今從㆓古本㆒、下文及齊語、亦作㆓五鄉㆒。❸**ただす。**〔易、繫辭下〕初帥㆓其辭㆒。〔虞注〕帥、正也。❹**したがふ。** 述(**11-38803**)に通ず。〔說文通訓定聲〕帥、叚借爲㆑述。〔禮、王制〕簡㆓不㆑帥㆑教者㆒以告。〔注〕帥、循也。〔禮、曾子問〕奉㆓帥天子㆒。〔注〕帥、循也。❺**あつまる。**〔漢書、揚雄傳上〕帥尒陰閉、霅然陽開。〔注〕晉灼曰、帥、聚也。❻**てふき。** てぬぐひ。或は帨(**4-8904**)に作る。〔說文〕帥、佩巾也、从㆑巾𠂤聲、帨、帥或从㆓兌聲㆒。〔廣雅、釋器〕帥、巾也。❼率(**7-20817**)に通ず。〔詩、大雅、假樂〕不㆑愆不㆑忘、率㆓由舊章㆒。〔漢書、五行志上〕官人有㆑序、帥㆓由舊章㆒。❽古は逵(**11-39069**)に作る。〔玉篇〕逵、今爲㆑帥。❾**姓。**〔通志、氏族略、以㆑官爲㆑氏〕帥氏、亦作㆑率、狀云、本姓師氏、避㆓晉景帝諱㆒、改爲㆓帥氏㆒、宋有㆓率江㆒。〔廣韻〕晉有㆓尚書郎帥昺㆒。［二］❶**かしら。** をさ。引率者。衛(**10-34080**)に通ず。〔說文通訓定聲〕帥、叚借爲㆑衛。〔周禮、夏官、大司馬〕帥以㆓門名㆒。〔注〕帥、謂㆔軍將及師帥旅帥至㆓伍長㆒也。〔禮、月令〕賞㆓軍帥武人於朝㆒。〔注〕軍帥、諸將也。〔左氏、宣、十二〕命爲㆓軍帥㆒。〔國語、齊語〕五鄉之帥帥㆑之。〔注〕帥、長也。❷**周代、十國の統監。**〔禮、王制〕十國以爲㆑連、連有㆑帥。❸**ひきゐる。** 率(**7-20817**)に通ず。〔正韻〕率、同㆑帥。❹師(**4-8916**)に通ず。〔列子、黃帝〕其國无㆓帥長㆒。〔釋文〕帥、或作㆑師。❺**てふき。** 或は帨(**4-8904**)に作る。〔集韻〕帥、佩巾也、或作㆑帨。［三］の❺に同じ。［邦］**そち。そつ。** 太宰府の長官。九州を都督し、一切の行政・軍政を行ふ。正と權とあり、弘仁十四年以後は親王が任ぜられ、權帥・大貳などが實務をとった。但し大臣以下左遷されたものは、政務に與らない。〔職員令〕帥一人。〔職原抄〕帥、敕任官也、多是以㆓有品親王㆒任㆑之、親王任㆑之者、權帥若大貳知㆓府務㆒而已。

【帥意】1 シュツイ 己が意にしたがふ。心にまかす。率意(**7-20817‥2**)に同じ。〔漢書、元帝紀〕建昭四年詔曰、相將九卿、其帥㆑意毋㆑怠、使㆓朕獲㆒㆑觀㆓教化之流㆒焉。

【帥由】2 シュツイウ したがひよる。率由(**7-20817‥3**)に同じ。〔漢書、五行志上〕官人有㆑序、帥㆓由舊章㆒。

【帥繇】3 シュツイウ 帥由に同じ。〔漢書、魏相傳〕帥㆓由先帝成德㆒、以撫㆓海內㆒。

【帥印】4 shuai⁴ yin⁴ 統率司令官の官印。

【帥我】5 シュツガ 清、奉新の人。字は備皆。號は簡齋。康熙の擧人。官は中書。博く羣書に通じ、書畫を善くし、尤も醫理に精しい。書室を墨瀾亭といふ。著に墨瀾亭集・簡齋詩文稿がある。〔四庫提要、一百八十四〕。

【帥旗】6 shuai⁴ ch'i² 司令官旗。司令旗。

【帥教】7 シュツケウ 教にしたがふ。〔禮、王制〕命㆑鄉簡㆓不㆑帥㆑教者㆒以告。〔注〕帥、循也。

【帥閫】8 スイコン 大將をいふ。閫は閫外。大將は都城外の全責任をひきうけるからいふ。

【帥坐】9 スイザ 安撫使の別名。帥使(12)を見よ。

【帥司】10 スイシ 宋代、經略安撫司をいふ。朝臣を以て安撫使に充て、一路の兵民の事を掌る。漕憲倉儲司と幷せて監司といふ。安撫(**3-7072‥432**)を見よ。〔文獻通考、職官考、諸路將官〕若屯㆓戍防邊㆒、則受㆓帥司節㆒制㆓禦寇敵㆒、則審㆓其戰守應援之事㆒。

【帥志】11 シュツシ 己が志にしたがふ。志にまかせる。帥意。〔漢書、鼂錯傳〕二三大夫、其帥㆑志毋㆑怠。

【帥使】12 スイシ 安撫使の別名。又、帥臺・帥座ともいふ。安撫は一道の兵權をすべるから帥といふ。安撫(**3-7072‥432**)を見よ。〔書言故事、監司類、帥使〕諸路安撫曰㆓帥使・帥座・帥臺㆒、安撫掌㆓一道兵權㆒、故曰㆑帥。

【帥師】13 シュツシ 軍隊を帥ゐる。〔易、師〕長子帥㆑師、以㆓中行㆒也。〔左氏、隱、元〕夏四月、費伯帥㆑師城㆑郎。

【帥示】14 シュツジ みちびき示す。導き教へる。〔漢書、薛宣傳〕開㆓謾欺之路㆒、傷㆓薄風化㆒、無㆔以帥㆓示四方㆒。

【帥爾】15 シュツジ 聚るさま。〔揚雄、甘泉賦〕帥爾陰閉、霅然陽開。〔注〕善曰、晉灼曰、帥、聚也。

【帥車】16 スイシャ 出軍の時にひきゐて行く車。〔管子、問〕帥車之載、幾何乘。〔纂詁〕帥車、出軍所帥之車也。

【帥匠】17 スイシャウ 粹道に達した人。粹の先達。〔西鶴榮花咄、五〕。

【帥將】18 スイシャウ 軍の大將。帥長。

【帥初】19 スイショ 字號。❶元、戴表元(**5-11685‥20**

9)の字。㊁清、宋葆淳(3−7078‥391)の字。

【帥乘】20（スイジョウ） 將士。〔左氏、成、十三〕孟獻子曰、晉帥乘和、帥必有二大功一。〔注〕帥、軍帥、乘、車士。

【帥先】21（シュツセン ソツセン） ㊀みちびき先だつ。率先(7−20817‥30)に同じ。〔漢書、成帝紀〕羣公孜孜、帥二先百僚一、輔二朕不一レ逮。〔晉書、禮樂志上〕躬二稼穡之艱難一、以率二先天下一。㊁清、黃澂之(12−47926‥1255)の字。

【帥然】22（シュツゼン ソツゼン） 急遽のさま。卒然(2−2740‥32)に同じ。〔管子、輕重甲〕士帥然策二桐鼓一。〔纂詁〕帥・卒通、帥然、急遽貌。

【帥台】23 shuai⁴ t'ai² 元帥。統率者。司令官。

【帥臺】24（スイダイ） 安撫使の別名。帥使(12)を見よ。

【帥道】25（シュツダウ） ひきゐみちびく。帥導に同じ。〔漢書、翟方進傳〕上遂賜レ冊曰、朕誠怪、君何持二容容之計一、無二忠固意一、將三何以輔レ朕、帥二道羣下一。

【帥導】26（シュツダウ） ひきゐみちびく。帥道・率導(7−20817‥37)に同じ。〔揚雄、元后誄〕帥二導羣妾一、咸循二蠶簇一。

【帥長】27（スイチャウ） かしら。統率者。〔列子、黃帝〕華胥氏之國、在二弇州之西、台州之北一、其國無二帥長一、自然而已。〔釋文〕帥、或作レ師。

【帥甸】28（スイデン） 郊外の民を率ゐるもの。公邑の大夫。〔左氏、文、十六〕宋昭公將レ田二孟諸一、未レ至、夫人王姬、使二帥甸攻而殺一レ之。〔注〕帥甸、郊甸之帥也。〔疏〕郊外爲レ甸、天子之甸爲二公邑之田一、則諸侯之甸亦公邑也、帥甸者、甸地之帥、當二是公邑之大夫一也、云二郊甸之帥一、其實正是甸地之帥、非二郊地之帥一也。

【帥服】29（シュツブク） 從ひ服する。又、從へ服させる。率服。〔左氏、襄、三十一〕文王伐レ崇、再駕而降爲レ臣、蠻夷帥服。〔國語、齊語〕一戰帥二服三十一國一。〔漢書、景武昭宣元成功臣表序〕昔書稱二蠻夷帥服一。

【帥令】30 shuai⁴ ling⁴ 大將の命令。

【帥厲】31（シュツレイ） ひきゐはげます。率勵(7−20817‥68)に同じ。〔蜀志、黃崇傳〕崇帥二厲將士一、期二於必死一。〔吳志、韓當傳〕帥二厲將士一、同心固守。

【帥靈】32（シュツレイ） 複姓。〔南中紀聞〕。

【帥遠燡】33（シュツエンエキ） 清、黃梅の人。字は仲謙。又の字は逸齋。謚は文毅。道光の進士。官は編修。咸豐の閒、洪楊の事起り、守土の吏が多く城を棄てて遁れるや、封事萬言を上る。後、江西に遊び、將軍、石達と東鄕に戰ひ、軍潰えて殺害せられた。〔清史稿、三百八十七〕・〔續碑傳集、五十四〕。

【帥家相】34（シュツカシヤウ） 清の人。仍祖の子。字は伯子。號は卓山。乾隆の進士。官は潯州府長官に至った。著に卓山詩集がある。〔四庫提要、一百八十五〕。

【帥顏保】35（シュツガンホ） 清、滿洲正黃旗人。姓は赫舍里氏。康熙の初、父の勳功を以て國史院學士を拜命、尋いで漕運總督に擢んでられ、吳三桂が反くや、南昌に駐し、尋いで吉安に移り、賊兵萬餘を降服せしめた。禮部尙書に至り、卒す。〔清史稿、二百三十八〕・〔國朝耆獻類徵、五十二〕・〔國朝先正事略、一〕・〔滿洲名臣傳、二十四〕。

【帥光祖】36（シュツクワウソ） 清の人。我の幼子。字は宗文。號は藥房。乾隆の進士。駢體文に巧。官は臨江教授。著に詩文十餘卷がある。

【帥仍祖】37（シュツジョウソ） 清の人。我の長子。字は宗道。號は介亭。十歲にして詩を能くし、其の才華を自負したが、後、諸生の業に困しみ、戶を閉ぢて讀書に從つた。書室を嗜退山房といふ。著に嗜退山房稿がある。〔四庫提要、一百八十四〕。

【帥念祖】38（シュツネンソ） 清、奉新の人。字は宗德。號は蘭皐。雍正の進士。官は編修。一統志の編輯に參與し、尋いで陝西布政使に轉任した。指頭畫に巧。書室を樹人堂といふ。著に樹人堂詩がある。〔清畫家詩史、丙、上〕・〔國朝畫識、十一〕。

【⿰巾多】 8887 ナ ダ 〔集韻〕乃可切 哿

㊀**ものおき**。納戶。〔集韻〕⿰巾多、博雅、宬⿰巾多也。㊁或は幏(4−9070)・⿱冖多(2−1541)に作る。〔集韻〕⿰巾多、或作二幏・⿱冖多一。㊂古は⿵冂多(2−1562)に作る。〔玉篇〕⿵冂多、古文⿰巾多。

【帠】 8888 シ 師(4−8916)の古字。〔集韻〕師、古作レ帠。

【⿰卬巾】 8889 ヨク オク 〔集韻〕乙力切 職 **ぬぐひ布**。〔集韻〕⿰卬巾、幡也。

【⿰巾全】 8890 セン 〔集韻〕莊緣切 先 **まがる**。〔集韻〕⿰巾全、曲卷也。

【⿱占巾】 8891 タク 卓(2−2741)の古字。〔字彙補〕⿱占巾、古文卓字。

【⿰巾失】 8892 チツ 帙(4−8852)の本字。〔説文長箋〕⿰巾失、帙本字。

【⿰巾曳】 8893 チ 〔篇海類編〕丑吏切 寘 **ならふ**。〔篇海類編〕⿰巾曳、習也。

【帟】 8894 エキ 亦(1−293)に同じ。〔龍龕手鑑〕帟、與レ亦同。

【⿱尹巾】 8895 イン 尹(4−7631)に同じ。〔字彙補〕⿱尹巾、同レ尹。

【⿱⿰九九巾】 8896 ギン 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿱⿰九九巾、語今切。

【⿱奴巾】 8897 イン 尹(4−7631)に同じ。〔餘文〕⿱奴巾、同レ尹。

七畫

【⿱卢巾】 8898 タク 卓(2−2741)の古字。〔説文〕卓、⿱卢巾、古文卓。

【⿱又巾】 8899 イン 尹(4−7631)の古字。〔集韻〕尹、古作レ⿱又巾。

【帮】 8900 ハウ 幫(4−9125)の俗字。〔辭海〕帮、幫俗字。

【⿰巾耴】 8901 🈩テン 〔集韻〕丁兼切 鹽 🈔テフ 〔集韻〕託協切 葉 🈪セフ 〔集韻〕卽涉切 葉

小篆

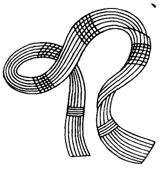
🈩🈔㊀**えりさき**。或は⿰衤耴(10−34318)に作る。〔説文〕⿰巾耴、領耑也、从レ巾耴聲。〔集韻〕⿰巾耴、或从レ衣。㊁或は襵(10−34730)に作る。〔集韻〕⿰巾耴、或作レ襵。🈪**ころものえり**。或は⿰衤耴(10−34318)に作る。〔集韻〕⿰巾耴、衣衿、或从レ衣。

【⿰巾肙】 8902 エン 〔集韻〕縈絹切 霰 **まげて裁つ**。〔集韻〕⿰巾肙、曲裁也。

【⿰巾谷】 8903 ケキ キヤク 〔集韻〕乞逆切 陌 **粗いくずぬの**。綌(8−27497)に同じ。〔説文〕綌、⿰巾谷、綌或从レ巾。〔集韻〕綌、説文、麤葛也、亦从レ巾。

【帨】 8904

㊀セイ サイ 〔集韻〕輸芮切 ㄕㄨㄟˋ shuei⁴ 霽
㊁エツ エチ 〔集韻〕欲雪切 屑
㊂スイ 〔集韻〕所類切 寘
慣ゼイ


帨圖（三才圖會）

㊀㊁㊂❶**てふき**。腰にさげるてぬぐひ。〔說文〕帥、佩巾也、帨、帥或从㆓兌聲㆒。〔玉篇〕帨、巾也。〔詩、召南、野有死麕〕無㆑感㆓我帨㆒兮。〔傳〕帨、佩巾也。〔禮、曲禮上〕尊卑垂㆑帨。〔注〕帨、佩巾也。❷**ぬぐふ**。**手をふく**。挩(**5－12083**)に通ず。〔禮、內則、盥卒授㆑巾、注〕巾以帨㆑手。〔釋文〕帨、拭㆑手也、本又作㆑挩。❸或は帥(**4－8886**)に作る。〔集韻〕帨、或作㆑帥。

【帨縭】1（ゼイリ） 巾と纓。女子が嫁入りするとき需めるもの。〔韓愈、寄㆓崔二十六立之㆒詩〕長女當㆑及㆑時、誰助出㆓帨縭㆒。

【設㆑帨】2（ゼイヲマウク） 女子を生むこと。女子が生れると帨を門の右に掲げるからいふ。帨は、腰に著ける巾。〔禮、內則〕子生、男子設㆓弧于門左㆒、女子設㆓帨于門右㆒。〔注〕表㆓男女㆒也、弧者、示㆑有㆑事㆓於武㆒也、帨、事㆑人之佩巾也。

【⿰巾免】 8905

㊀ブン モン 〔集韻〕文運切 問
㊁ベン メン 〔集韻〕美辨切 銑
㊂ボン モン 〔集韻〕謨奔切 元

㊀**頭巾の一種**。喪中に髮を束ねてかぶる。絻(**8－27472**)に同じ。〔玉篇〕⿰巾免、括㆑髮也。〔集韻〕絻、喪冠也、亦从㆑巾。㊁冕(**2－1541**)に同じ。〔集韻〕冕、說文、大夫已上冠也、或从㆑巾。㊂**頭巾の一種**。㊀に同じ。〔集韻〕⿰巾免、吊服。

【⿰巾每】 8906

ボ モ 〔集韻〕蒙晡切 虞

しこめ。昔の醜女の名。嫫(**3－6674**)に同じ。〔集韻〕嫫、說文、嫫母、都醜也、或作㆑⿰巾每。〔漢書、古今人表〕⿰巾每母、黃帝妃、生㆓蒼林㆒。〔注〕師古曰、⿰巾每、字從㆑巾、即嫫母也。

【⿰巾志】 8907

シ 幟(**4－9080**)に同じ。〔玉篇〕⿰巾志、同㆑幟。

【⿰巾戒】 8908

カイ ⿰巾介(**4－8810**)に同じ。〔玉篇〕⿰巾戒、同㆑⿰巾介。

【⿰巾冏】 8909

ケイ キヤウ 〔字彙〕涓熒切 青

てぬぐひ。ふきん。〔字彙〕⿰巾冏、巾也。

【帩】 8910

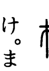
セウ 〔集韻〕七肖切 ㄑㄧㄠˋ chʻiao⁴ 嘯

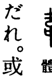
❶**はちまき**。〔集韻〕帩、縛也。❷**づきん**。髮を包む巾。

【帩頭】1（セウトウ） 髮を包む布巾。〔古樂府、陌上桑〕少年見㆓羅敷㆒、脫㆑帽著㆓帩頭㆒。〔晉書、五行志上〕孝武太元中、人不㆔復著㆓帩頭㆒。〔段成式、嘲㆓飛卿㆒詩〕見說自能裁㆓袙腹㆒、不㆑知誰更著㆓帩頭㆒。

【帢】 8911

㊀カフ ケフ 〔集韻〕訖洽切 洽
㊁カフ コフ 〔集韻〕葛合切 合


小篆


或體

㊀㊁❶**ひざかけ**。古、士分の者が用ひたひざかけ。まへだれ。或は韐(**12－43135**)に作る。〔說文〕帢、士無㆑市有㆑帢、制如㆑榼、缺㆓四角㆒、爵弁服、其色韎、賤不㆑得㆓與㆑裳同㆒、从㆑市合聲、韐、帢或从㆑韋。❷或は韎(**12－43147**)に作る。〔集韻〕帢、或作㆑韎。

【帯】 8912

タイ 帶(**4－8950**)に同じ。〔正字通〕帯、同㆑帶。

【⿰巾皃】 8913

㊀バウ メウ 〔集韻〕眉教切 效
㊁ベウ メウ 〔集韻〕眉召切 嘯

㊀㊁**髮づつみ**。女の頭のかざり。〔玉篇〕⿰巾皃、⿰巾皃幗也。〔集韻〕⿰巾皃、幗也。

【帪】 8914

㊀シン 〔集韻〕之人切 眞
㊁シン 〔集韻〕之刃切 震

㊀㊁❶**馬に食物をあたへるふくろ**。〔方言、五〕飲㆑馬橐、云云、燕齊之間、謂㆓之帪㆒。❷**馬の頭にかぶせるもの**。〔玉篇〕帪、馬兜也。❸**ふくろ**。〔廣雅、釋器〕帪、囊也。

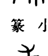
【⿱夂帀】 8915

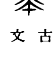
㊀セン 〔集韻〕先見切 霰
㊁サン 〔集韻〕蒼案切 翰
㊂セン 〔集韻〕倉先切 先

㊀㊁㊂**はちまき**。頭づつみ。〔方言、四〕自㆑河以北、趙魏之間、曰㆓幧頭㆒、或謂㆓之⿱夂帀㆒、或謂㆓之⿰巾奄㆒。〔玉篇〕⿱夂帀、幧頭也、⿰巾奄也。

【師】 8916

シ 〔集韻〕霜夷切 ㄕ shih¹ 支


小篆


古文

❶**周代の軍制で、二千五百人の稱**。〔說文〕師、二千五百人爲㆑師、从㆑帀从㆑𠂤、𠂤四帀、衆意也。〔周禮、地官、小司徒〕五人爲㆑伍、五伍爲㆑兩、四兩爲㆑卒、五卒爲㆑旅、五旅爲㆑師、五師爲㆑軍。〔注〕師、二千五百人。〔公羊、隱、五〕曷爲或言㆑率㆑師。〔注〕二千五百人稱㆑師、天子六師、方伯二師、諸侯一師。❷**軍**。軍旅。軍隊。〔詩、大雅、棫樸〕周王于邁、六師及㆑之。〔左氏、隱、十〕取㆓三師㆒焉。〔注〕師者、軍旅之通名。〔國語、魯語下〕天子作㆑師。〔注〕師、謂㆓六軍之衆㆒也。〔後漢書、馮緄傳〕擢授㆓六師㆒。〔注〕六師、猶㆓六軍㆒也。❸**いくさ**。戰爭。征伐。〔周禮、春官、肆師〕凡師甸。〔疏〕師、謂㆓出師征伐㆒。❹**春秋の筆法で、將が卑しく兵が衆い軍隊をいふ**。〔公羊、隱、五〕將卑師衆稱㆑師。〔左氏、隱、五〕衞師入㆑郕。〔注〕將卑師衆、但稱㆑師。❺**春秋の筆法で、軍隊が敗北した時に其の將の名を稱せずに師敗るといふ**。〔春秋、桓、十三〕燕師敗績。〔疏〕戰稱㆑將、敗稱㆑師、是史策之常法也。❻**易、六十四卦の一つ**。䷆（坎下坤上）。衆聚の象。又、師の義。又、統衆・君・將師の象。〔易、師、程傳〕以㆓二體㆒言㆑之、地中有㆑水、爲㆓衆聚之象㆒、以㆓二卦之義㆒言㆑之、內險外順、險道而以順行、師之義也、以㆑爻言㆑之、一陽而爲㆓衆陰之主㆒、統衆之象也、比、以㆓一陽㆒爲㆓衆陰之主㆒而在㆑上、君之象也、師、以㆓一陽㆒爲㆓衆陰之主㆒而在㆑下、將帥之象也。❼**一州**。〔周禮、夏官、序官、注〕師、一州。❽**十**

都。〔初學記、州郡〕十都爲レ師。㊈もろもろ。衆人。大衆。〔爾雅、釋言〕師、人也。〔詩、大雅、文王〕殷之未レ喪レ師。〔箋〕師、衆也。㊉おほい。〔左氏、哀、五〕師乎師乎。〔注〕師、衆也。⑪をさ。長官。帥(4－8886)に通ず。〔說文通訓定聲〕師、叚借爲レ帥。〔書、益稷〕州十有二師。〔鄭注〕師、長也。〔周禮、天官、序官、醫師、注〕醫師、衆醫之長。〔禮、月令〕命二工師一效レ功。〔注〕工師、工官之長也。⑫**周代、民を教導する官**。〔周禮、天官、大宰〕三曰、師、以レ賢得レ民。〔注〕師、諸侯師氏、有二德行一以教レ民者。〔周禮、地官、大司徒〕四曰、聯二師儒一。〔注〕師儒、鄕里教以二道藝一者。⑬**人をさとしみちびく者**。〔周禮、地官、序官、師氏、注〕師、教レ人以レ道者之稱也。〔禮、內則〕使レ爲二子師一。〔注〕師、教示以二善道一者。〔禮、學記〕師無レ當二於五服一。〔注〕師、教之師。〔禮、文王世子〕出則有レ師、師也者、教レ之以レ事而喩二諸德一者也。〔淮南子、主術訓〕師師諭導。〔注〕師者、所三從取二法則一者也。〔法言、學行〕師者、人之模範也。⑭**天子の師**。太師。〔詩、小雅、節南山〕赫赫師尹。〔傳〕師、太師、周之三公也。〔詩、大雅、大明〕維師尙父。〔傳〕師、太師也。⑮**女子に婦道を教へる女**。**女師**。〔詩、周南、葛覃〕言告二師氏一。〔傳〕師、女師也。⑯**樂官**。〔禮、樂記〕子贛見二師乙一而問焉。〔注〕師、樂官也。〔淮南子、脩務訓〕邯鄲師有下出二新曲一者上。〔注〕師、樂師、瞽也。〔漢書、禮樂志〕自二卿大夫師瞽一以下。〔注〕師古曰、師、樂工。⑰**技藝の人**。工匠。〔孟子、告子上〕今有二場師一。〔注〕場師、治二場圃一者。〔唐書、閻立傳〕閤外傳二呼畫師閻立本一。⑱**官吏**。〔廣雅、釋詁四〕師、官也。〔孟子、梁惠王下〕工師得二大木一。〔注〕工師、主二工匠一之吏。〔呂覽、季夏紀〕令二漁師伐一レ蛟。〔注〕漁師、掌レ魚官也。⑲**ならふ**。師とする。〔孟子、離婁上〕莫レ若レ師二文王一。⑳**のつとる。仰ぐ。のつとらす**。〔書、皋陶謨〕百僚師師。〔傳〕師師、相師法。〔左氏、襄、十〕師二保萬民一。〔疏〕師、法也。㉑**したがふ**。〔莊子、秋水〕蓋師レ是而無レ非。〔釋文〕師、順也。〔太玄經、窮〕師在レ心也。〔注〕師、循也。㉒**のり**。〔管子、八觀〕什一之師。〔注〕師、法也。㉓**封ずる**。〔風俗通、祀典〕師、封也。㉔**うれへる**。〔廣雅、釋詁一〕師、憂也。㉕**神の稱呼**。〔周禮、春官、大宗伯〕以二栖獠一祀二風師雨師一。㉖**犬や豕の一はらから二匹生れた子**。〔爾雅、釋畜〕犬生三猣、二師、一玂。〔爾雅、釋獸〕豕生、三豵、二師、一特。㉗獅(7－20609)に通ず。師子(70)を見よ。㉘古は皁(2－3843)・帇(4－8888)・𠦪(2－2764)・𢁓(12－42600)に作る。〔字彙補〕皁、古文師字。〔康熙字典〕師、古文𢁓。〔集韻〕師、古作レ帇。〔字彙補〕𢁓、古文師字。㉙**姓**。〔通志、氏族略、以レ官爲レ氏〕師氏、風俗通、師、樂人瞽者之稱、晉有二師曠一、魯有二師乙一、鄭有二師悝・師觸・師蠲・師茷・師慧一、宋師頏爲二翰林學士一、望出二琅邪・平原・太原一。

名乘 ミツ。ノリ。カズ。モロ。

解字 會意。𠂤と帀との合字。本義は二千五百人の稱。𠂤は堆の本字、帀はめぐる。故に二字を合して多人數の意とする。轉じて、京師（大衆の義）の意に用ひ、假借して帥（長官）とする。〔說文〕師、𠂤四帀衆意也、〔段注〕𠂤下曰、小𠂤也、小𠂤而四圍有レ之、是衆意。

參考 帥(4－8886)は別字。

【師安】1 シアン 私年號の一つ。欽明天皇の二十六年に當る。一說に、二十五年とする。凡そ一年間繼續した。

【師黯】2 シアン 字號。㊀宋、張洎(4－9812・・163)の字。㊁宋、陳漢卿(11－41698・・709)の字。

【師已】3 シイ シキ 春秋時代の樂師。又、師乙に作る。師乙(10)を見よ。〔史記、孔子世家〕孔子遂行、宿二乎屯一、而師已送曰、夫子則非レ罪。〔孔子家語、子路初見〕孔子行宿二於郭屯一、師已送曰、夫子非レ罪也。〔增注〕師已、蓋樂師名已也、一本已作レ以、已音以、又音紀。

【師姨】4 シイ 尼をいふ。〔稱謂錄、尼、師姨〕翻譯名義、比丘尼、稱二阿姨一、亦稱二師姨一、梵言二阿梨姨一、此翻二尊者聖者一。

【師位】5 シヰ 師たる者の位。〔顏延之、皇太子釋奠會作詩〕國尙二師位一、家崇二儒門一。

【師友】6 シイウ ㊀師と仰ぐべき友。〔漢書、鮑宣傳〕死父遺言、師友之送、勿レ有レ所レ受。㊁先生と友人。教を求め益を請ふ者の總稱。〔荀子、脩身〕封レ之以二師友一。〔漢書、董仲舒傳贊〕考二其師友淵原所レ漸。〔後漢書、李膺傳〕膺性簡亢、無レ所二交接一、唯以二同郡荀淑・陳寔一爲二師友一。〔傳咸、贈二何劭王濟一詩〕情猶二同生一、義則師友。〔顏氏家訓、序致〕師友之誡。㊂官名。王莽の時、師友祭酒があり、晉の時、師友を置き、後、景帝の諱を避けて師を傅と改めた。東宮輔導の職。〔晉書、職官志〕王置二師友文・學各一人一、景帝諱故、改レ師爲レ傅、友者、因二文王・仲尼四友之名號一。〔晉書、李壽載記〕以二安車束帛一聘二龔壯一爲二太師一、壯固辭、特聽三縞巾素帶居二師友之位一。

【師友祭酒】7 シイウサイシユ 官名。王莽、置く。東宮輔導の職。師友の㊂を見よ。〔漢書、王莽傳中〕置二師友祭酒、及侍中諫議・六經祭酒各一人一。

【師友談記】8 シイウダンキ 書名。一卷。宋、李廌撰。蘇軾・范祖禹・黃庭堅・秦觀・晁說之・張耒之の言を雜記したもので、名言格論が多い。〔四庫提要、子、雜家類〕・〔百川學海、第八冊〕・〔說郛、第十五冊〕・〔學津討原、第十五冊〕・〔榕園叢書、四十四〕。

【師友詩傳錄】9 シイウシデンロク 書名。一卷。淸、郞廷槐撰。續錄一卷は劉大勤の編。二人は皆詩を王士禎に學び、各〻其の師說を述べて、此の書を撰す。〔四庫提要、集、詩文評類〕・〔學海類編、第一百二十一冊〕。

【師乙】10 シイツ 春秋時代の樂師。又、師已に作る。師已(3)を見よ。〔禮、樂記〕子贛見二師乙一問焉、曰、賜聞、聲歌各有レ宜也、如レ賜者宜二何歌一也。〔注〕師、樂官也、乙名。

【師乙歌】11 シイツカ 樂府、雜歌謠辭の一つ。孔子の作。一名、去魯歌。孔子が魯の相であつた時、齊人が女樂を歸り、桓子之を受け、三日政を聽かず、又、郊祭の膰俎を大夫に致さなかつたため孔子は遂に魯を去つたが、其の際師乙其の行を送り、孔子乃ち之を歌ふと傳へる。師乙は又師已に作る。〔史記、孔子世家〕孔子曰、魯今且レ郊、如致二膰乎大夫一、則吾猶可二以止一、桓子卒受二齊女樂一、三日不レ聽レ政、郊又不レ致二膰俎於大夫一、孔子遂行、宿二乎屯一、而師已送曰、夫子則非レ罪、孔子曰、吾歌可夫、歌曰、彼婦之口、可二以出走一、彼婦之謁、可二以死敗一、蓋優哉游哉、維以卒レ歲、師已反、桓子曰、孔子亦何言、師已以レ實告、桓子喟然歎曰、夫子罪レ我、以二羣婢一故也夫。〔樂府詩集、雜歌謠辭、歌辭、師乙歌〕家語曰、孔子相レ魯、齊人歸二女樂一、魯君淫荒、孔子遂行、師乙送、孔子曰、吾欲レ歌、可乎、乃歌レ之、彼婦人之口、可二以出走一、彼婦人之謁、可二以死敗一、優哉游哉、聊以卒レ歲。

【師尹】12 シイン ㊀周の太師の尹氏をいふ。〔詩、小雅、節南山〕赫赫師尹、民具爾瞻。〔傳〕師、太師、周之三公也、尹、尹氏、爲二太師一。〔左思、魏都賦〕師尹爰止、毗レ世作レ禎。〔注〕善曰、毛詩曰、赫赫師尹、毛萇曰、師、太師、周之三公也、尹氏爲二太師一。㊁多くの正官大夫。師はおほい意。尹は正官大夫で、卿士の下に位する。〔書、洪範〕王省惟歲、卿士惟月、師尹惟日。〔傳〕衆正官之吏、分二治其職一、如三日之有二歲月一。〔疏〕師、衆也、尹、正也、衆正官之吏、謂下卿士之下有二正官大夫一、與二其同類之官一爲上長、詩稱二赫赫師尹一、乃謂二三公之官一、此以二師尹一爲二正官之吏一、謂二大夫一者、以下此師尹之文在二卿士之下一、卑二於卿士一、知中是大夫與二小官一爲レ長、亦是衆官之長上、故師尹之名同耳。

【師禹】13（シウ）字號。㊀宋、宋汝爲（3－7078・・321）の字。㊁清、李長熙（6－14459・・1714）の字。

【師役】14（シエキ）いくさ。〔周禮、地官、司市〕凡會同師役。〔禮、少儀〕朝廷曰レ退、燕遊曰レ歸、師役曰レ罷。〔管子、幼官〕毋レ有二一日之師役一。

【師繹】15（シエキ）宋、彭尋（4－10003・・75）の字。

【師延】16（シエン）㊀複姓。〔通志、氏族略、以二官名一爲レ氏〕師延氏、宋有二大夫師延宜一、其先掌二樂職一。㊁軒轅氏の時の人。官は司樂。一絃琴を拊すれば地祇皆升り、玉律を吹けば、天神倶に降つたといふ。殷の紂王の時、新聲北里の樂を作る。周の武王師を興し、紂が天下を失ふや、其の樂器を抱いて東走し、濮水に投じて死んだ。〔韓非子、十過〕・〔史記、樂書〕・〔淮南子、泰族訓、注〕・〔楚辭、劉向、九歎、注〕。

【師恩】17（シオン）師のめぐみ。先生の恩。〔釋氏要覽、中、恩孝〕恩有レ四、一父母恩、二師長恩、三國王恩、四施主恩。

【師家】18（シカ）先生の家。師匠の家。〔世說新語、政事〕王（安期）問二何處來一、云、從二師家一受レ書還。

【師行】19（シカウ）㊀軍隊の進行。〔詩、小雅、六月、于三十里、傳〕師行三十里。㊁多數の人が行くこと。〔孟子、梁惠王下〕師行而糧食。〔集注〕師、衆也、二千五百人爲レ師、春秋傳曰、君行師從。

【師岡】20（モロヲカ）姓氏。〔和爾雅〕。

【師效】21（シカウ）師としてならふ。〔書、微子、卿士師師非レ度、疏〕師師、言二相師效一。

【師皋】22（シカウ）字號。㊀唐、楊虞卿（6－15112・・484）の字。㊁宋、安德裕（3－7072・・577）の字。㊂明、畢懋良（7－21829・・119）の字。

【師頏】23（シカウ）宋、內黃の人。字は胥遠。建隆の進士。官は知制誥・知審官院。文集がある。〔宋史、二百九十六〕。

【師衡】24（シカウ）清、沈可均（6－17189・・440）の字。

【師號】25（シガウ）學德拔群の僧に賜ふ稱號。法師・禪師・大師等をいふ。〔祖庭事苑、六、風穴樂吼集〕師名、尋二僧史一、師號遠起二梁武帝一、號二婁約法師一、次隋煬帝號二智顗禪師一、竝爲二智者一、無二大師二字一、至二懿宗朝一、咸通十一年十一月十四日、延慶節、因二內談論一、左街雲顥、賜二三慧大師一、右街僧徹、賜二淨光大師一、師號、懿宗朝始也。

【師學】26（シガク）師としての學問。〔荀子、正論〕今子宋子、云云、立二師學一、成二文典一。

【師干】27（シカン）軍隊が防禦すること。軍隊の防力。干は、扞で、ふせぐ意。〔詩、小雅、采芑〕其車三千、師干之試。〔傳〕師、衆、干、扞。〔箋〕其士卒皆有二佐レ師扞レ敵之用一。〔陳奐傳疏〕言二軍士之衆、足レ爲二扞禦之用一也。

【師漢】28（シカン）元、張留孫（4－9812・・1575）の字。

【師韓】29（シカン）清、任瞻山（1－416・・229）の字。

【師顏】30（シガン）字號。㊀後魏、盧昶（8－23050・・128）の小字。㊁宋、鍾如愚（11－40672・・153）の字。㊂明、梁承學（6－14825・・277）の字。

【師祁】31（シキ）複姓。〔通志、氏族略、以二官名一爲レ氏〕師祁氏、左傳、楚有二師祁黎一、漢有二郎中師祁番一。

【師期】32（シキ）出征の時期。軍隊を出すべき期日。〔左氏、隱、十〕癸丑、盟二于鄧一、爲二師期一。〔左氏、文、十八〕春、齊侯戒二師期一、而有レ疾。

【師逵】33（シキ）明、東阿の人。字は九達。孝子。洪武中、監察御史を拜命し、成祖の時、吏部尙書に累遷した。〔明史、一百五十〕・〔萬斯同明史、二百九十〕・〔明史稿、一百四十〕・〔國朝耆獻類徵、三十一〕。

【師宜】34（シギ）㊀複姓。〔通志、氏族略、以二官名一爲レ氏〕師宜氏、後漢有二師宜官一、南陽人、善二隷書一。㊁師宜官に同じ。〔晉書、王羲之傳論〕伯英臨池之妙、無二復餘蹤一、師宜懸帳之奇、罕有二遺跡一。〔梁元帝、上二東宮古跡一啓〕師宜八分之巧、元常三體之妙。

〔師宜官〕35（シギクワン）後漢、南陽の人。隷書をよくす。靈帝が書を好み、天下の書家を鴻都門に徵すや、隷書に於て其の最を得た。〔通志、氏族略、以二官名一爲レ氏〕。

【師疑】36（シギ）官名。王莽、置く。東宮輔導の職。〔漢書、王莽傳中〕以二故大司徒馬宮一爲二師疑一。

【師舉】37（シキョ）㊀軍隊が出動する。〔墨子、非攻下〕量二我師舉之費一、以爭二諸侯之斃一。㊁唐、程异（8－25081・・1）の字。

【師魚】38（シギョ）魚の名。ぶり。〔和漢三才圖會、江海有鱗魚、鰤〕未レ聞二有レ毒殺レ人者一、蓋自二對州一入二中華海一、則甚大甚老、故得二老魚師魚之名一、毒亦甚乎。

【師矩】39（シク）のり。てほん。又、てほんとする。〔唐書、劉褘之傳〕卿家忠孝、朕子賴レ卿以師矩。

【師遇】40（シグウ）宋、成都の人。字は厚卿。進士。母が病床に在つた時の誓を以て仕を欲しなかつたが、親黨に強ひられて、遂に官を受けた。生平、張栻の學を守る。〔宋元學案、七十二〕。

【師回】41（シクワイ）字號。㊀宋、陳鑄（11－41698・・465）の字。㊁宋、范杲（9－30834・・14）の字。

【師晦】42（シクワイ）清、朱元英（6－14424・・756）の字。

【師曠】43（シクワウ）春秋、晉の樂師。字は子野。晉人、楚師ありと聞くや、師曠曰く、害あらず。吾驟北風を歌ひ、又南風を歌ふ。南風競はず、死聲多し。必ず功無けんと。能く音を審らかにして吉凶を占つた。著に禽經がある。〔禮、檀弓下〕・〔左氏、襄、十八〕・〔莊子、駢拇〕・〔列子、湯問〕・〔荀子、大略〕・〔韓非子、難一〕。

〔師曠之聰〕44（シクワウノソウ）師曠のやうに耳の鋭敏なこと。師曠は晉の樂師で、よく音調を聞きわけた人。聰は、耳ざといこと。〔孟子、離婁上〕師曠之聰、不レ以二六律一、不レ能レ正二五音一。

〔師曠清耳〕45（シクワウセイジ）蒙求の標題。師曠が音律に明通してゐた故事。〔呂覽、長見〕晉平公、鑄爲二大鐘一、使二工聽一レ之、皆以爲レ調矣、師曠曰、不レ調、請更鑄レ之、平公曰、工皆爲レ調矣、師曠曰、後世有二知レ音者一、將レ知二鐘之不一レ調也、臣竊爲レ君恥レ之、至二於師涓一、而果知二鐘之不一レ調也、是師曠欲二善調一レ鐘、以爲二後世知レ音者一也。

〔師曠之枝策〕46（シクワウノシサク）師曠が杖をあげて音節を調へたこと。〔莊子、齊物論〕昭文之鼓レ琴也、師曠之枝レ策也、惠子之據レ梧也。〔釋文〕崔云、擧レ杖以擊レ節。〔疏〕言レ擊二節枝一也。〔莊子因〕枝、柱、策、杖、節レ音之具也。

【師桓】47（シクワン）明、賀榮（10－36725・・1）の字。

【師觀】48（シクワン）明、戴顒（5－11685・・39）の字。

【師君】49（シクン）師匠の敬稱。先生。〔王建、寄二崔列中丞一詩〕我愛二古人道一、師君直且溫。

【師訓】50（シクン）㊀師のをしへ。〔江淹、雜體、嵇中散言レ志詩〕曰余不二師訓一、潛レ志去二世塵一。〔注〕良曰、言レ不レ受二師教訓一。㊁後蜀、蒲思訓（9－31611・・174）の名。

【師兄】51（シケイ）㊀志を同じくする人に對する尊稱。〔溫公續詩話〕惠崇詩每犯二古人一、或嘲レ之云、不二是師兄多犯一レ古、古人詩句犯二師兄一。〔五燈會元〕寶壽稱二譚空和尙師兄一、空曰、汝卻與レ我作二師兄一。㊁〔佛〕（スヒン）兄弟子（アニデシ）に對する尊稱。師弟（151）の㊁の對。師兄弟の㊁及び師弟兄（152）を參看。

〔師兄弟〕52（シケイテイ）㊀師の子。〔稱謂錄、師之子、師兄弟〕崔峒有丁潤州送丙師弟自二江夏一往乙台州府甲。㊁弟子兄弟。

【師卿】53（シケイ）梁、陸襄（11－41708・・143）の字。

【師慧】54（シケイ）春秋、鄭の樂師。宋の朝を過つて、其の人無きを難じたが、子罕の聞くところとなり、其の固い請により鄭に歸した。〔左氏、襄、十五〕。

【師教】55（シケウ）先生のをしへ。〔詩、周南、葛覃、言告二師氏一、言告二言歸一、箋〕重言レ我者、尊二重師教一也。

【師橋】56（シケウ）清、沈銓（天津の人）（6－17189・・26「2」）の字。

【師涓】57（シケン）㊀商の樂官。紂の爲に靡靡の樂を作る。武王の紂を討つや、東走して自ら濮水に投じた。〔太平御覽、樂部、琴、下〕。㊁春秋、衞の靈公の樂官。靈公は晉に行かんとして、濮水のほとりに舍し、夜半、鼓琴の聲を聞き、師涓をして之を寫さしめ、尋いで施惠臺に置酒し、師涓をして之を奏せしめたが、未だ終らずして、師曠之を止め、亡國の聲なり、聽くべからずと評した。〔淮南子、泰族訓、注〕・〔論衡、紀妖〕。

【師健】58（シケン）清、託庸（10－35243・・57）の字。

【師賢】59（シケン）賢を師とする。賢者を先生とする。〔後漢書、朱穆傳〕師レ賢法レ古。

【師憲】60（シケン）字號。㊀宋、賈似道（10－36755・・177）の字。㊁宋、黃公度（12－47926・・1088）の字。

【師言】61（シゲン）㊀模範となる言。〔書、畢命〕正レ色率レ下、罔レ不レ祇二師言一。〔傳〕下人無レ不三敬二仰師法一。㊁師の言。〔顏氏家訓、勉學〕空守二章句一、但誦二師言一。㊂字號。㋑宋、王罕（7－20823・・163）の字。㋺元、湯彌昌（7－17874・・203）の字。

【師古】62コシ ❶古を師とする。古を法とする。古道に法とる。〔書、說命下〕事不レ師レ古、以克永レ世、匪二說攸一レ聞。〔史記、秦始皇紀〕事不レ師レ古、而能長久者、非レ所レ聞也。❷唐の人。顏師古(12−43591··157)を見よ。❸字號。㋑宋、許懷德(10−35298··263)の字。㋺宋、雷龍濟(12−42245··201)の號。

【師姑】64コシ 尼姑(4−7635··11)の稱。〔傳燈錄〕五臺智通忽大悟曰、師姑元是女人作。〔東京夢華錄、二、寺東門街巷〕繡巷、皆師姑繡作居住。〔稱謂錄、尼、師姑〕案、今尼姑、多稱二師姑一。

【師姑草】65シコサウ 草の名。王瓜(7−20823··276)の異名。〔本草、王瓜〕釋名、土瓜・鉤𤬪・老鴉瓜・馬瓟瓜・赤雹子・野甜瓜・師姑草・公公鬚。

【師公】66シコウ 料理人。〔通俗編、藝術、師公〕夢粱錄、凡分茶酒肆賣二下酒食品一廚子、謂二之量酒博士師公一。

【師孔】67シコウ 明、陳紹儒(11−41698··1058)の字。

【師厚】68シコウ 宋、謝景初(10−35827··270)の字。

【師祭】69シサイ 武運を祈るまつり。蚩蚘、或は黃帝を祭るといふ。軍祭。禡。〔禮、王制〕禡二於所一レ征之地一。〔注〕禡、師祭也、爲二兵禱一、其禮亦亡。〔疏〕周禮春官肆師鄭注云、師祭、祭下造二軍法一者上、禱二氣勢之增倍一也、其神蓋蚩蚘、或曰黃帝。

【師子】70シシ ❶獅子(7−20609··9)の❶に同じ。〔漢書、西域上、烏弋山離國傳〕有二桃拔・師子・犀牛一。〔後漢書、西域、條支傳〕師子・犀牛・封牛・孔雀。❷字號。㋑後漢、亭獨尸逐侯鞮單于(1−303··74)の名。㋺宋、陳汝錫(11−41698··1005)の字。❸佛 Simha 枲伽。獅子。僧伽。獅子は獸中の王である所から、佛が人中の王なるを師子に譬へ、又、佛が一切に畏れるもののないのに譬へていふ。〔智度論〕又如三師子四足獸中獨步无畏能伏二一切一、佛亦如レ是、於二九十六種外道中一、一切降伏、故名二人師子一。〔無量壽經、上〕人雄師子、神德無量。〔名義集、二〕僧伽彼、此云二師子一。〔孔雀王咒經、下〕僧伽夜叉、僧伽梁言二師子一。

【師子吼】71シシク 佛佛が衆生濟度の誓願のもとに音聲を張りあげて說法すること。獅子の吼えるのに比していふ。師は獅に同じ。〔涅槃經、二十七〕師子吼者、名二決定說一。〔法華經、見寶塔品〕以二大誓願一而師子吼。〔維摩經、佛國品〕爲レ護二法城一、受二持正法一、能二獅子吼一、名聞二獅子吼一、衆生不請友而安レ之。

【師子花】72シシクワ 唐、郭子儀の名馬の名。〔杜甫、韋諷錄事宅觀二曹將軍畫馬圖一詩〕昔日太宗拳毛騧、近時郭家師子花。〔杜陽雜編〕代宗自レ陝還、命二御馬九花虯幷紫玉鞭轡一、以賜二郭子儀一、九花虯、額高九寸、身被二九花文一、亦有二師子驄一、皆其類也。

【師子國】73シシコク 古の國の名。今の印度の錫蘭（セイロン）島。〔宋書、夷蠻、師子國傳〕元嘉五年、國王刹利摩訶南奉レ表。〔唐書、西域下、師子國傳〕居二西南海中一、延袤二千餘里、能馴二養師子一、因以名レ國。

【師子座】74シシザ 佛佛の坐所。佛は人中の獅子であるから、その坐所をいふ。〔智度論、七〕佛爲二人中師子一、佛所レ坐處、或床、或地、皆名二師子座一。

【師子乳】75シシニユ 佛發菩提心(佛心)の喩。〔華嚴經、七十八〕譬如下有レ人以二牛羊等種種諸乳一、假使積聚盈中於大海上、以二師子乳一滴一投レ中、悉皆變壞直過無レ礙、菩薩摩訶薩亦復如レ是、以二如來師子菩提心乳一、著二無量劫業煩惱乳大海中一、悉令二壞滅直過無一レ礙。

【師子舞】76シシブ 獅子の形貌を裝うたまひ。〔舊唐書、音樂志二〕太平樂、亦謂二之五方師子舞一、云云、綴レ毛爲レ之、人居二其中一、像二其俛仰馴狎之容一、二人持レ繩秉レ拂、爲二習弄之狀一、五師子各其方色。〔元史、賀勝傳〕伶人蒙二采毳一、作二獅子舞一以迎レ駕。

【師子奮迅】77シシフンジン 佛獅子のやうに身を奮起して走りまはる勢。佛の威猛の喩。〔法華經、踊出品〕諸佛師子奮迅之力。

【師子身中蟲】78シシシンチユウノムシ 佛內から生ずる禍の喩。獅子の命が終れば、他獸の之を食ふ者なく、但獅子の身中自ら蟲を生じて其の死屍を食ふ。佛の正法は他から之を破壞することを得ず、法中の惡比丘自ら之を壞毀するに譬へる。〔仁王經、下〕如三師子身中蟲自食二師子肉一、非二外道一。〔蓮華面經、上〕譬如二師子命絕身死一、若空若地若水若陸、所レ有衆生、不三敢二食彼師子身肉一、唯師子身自生二諸蟲一、還自噉二食師子之肉一、阿難、我之佛法、非二餘能壞一、是我法中諸惡比丘、猶如二毒刺一、破二我三阿僧祇劫積行勤苦所一レ集佛法一。

【師氏】79シシ ❶周官の名。㋑司朝得失の事を掌る。〔詩、小雅、十月之交〕楀維師氏、豔妻煽方處。〔箋〕師氏、亦中大夫也、掌二司朝得失之事一。㋺地官の屬。三德五行を以て、國子に教へることを掌る。〔周禮、地官、師氏〕師氏掌下以レ媺詔レ王、以二三德一教中國子上。〔稱謂錄、祭酒、師氏〕蔡邕勸學篇、師氏居二虎門一、卽今祭酒也。㋩兵を以て門を守る大夫。〔書、牧誓〕司馬、司空、亞旅、師氏、千夫長、百夫長。〔傳〕師氏、大夫官、以レ兵守レ門者。〔書、顧命〕師氏、虎臣。❷女子に婦道を教へる女。女師。〔詩、周南、葛覃〕言告二師氏一、言告二言歸一。〔傳〕師、女師、教以二婦德婦言婦容婦功一。〔疏〕婦人五十無レ子、出而不二復嫁一、能以二婦道一教レ人者也。❸漢の人。崔篆の母。經學百家の言に通じ、義成夫人の號を賜はる。

【師史】80シシ 漢、河南の人。富豪。〔史記、一百二十九〕・〔前漢書、九十一〕。

【師使】81シシ 宋、趙師俠(10−37171··625)の一名。

【師是】82シシ 宋、黃寔(12−47926··506)の字。

【師師】83シシ ❶師としてのつとる。又、てほんとすべき立派な師。〔書、皐陶謨〕百僚師師、百工惟時。〔傳〕師師、相師法。〔書、梓材〕我有二師師・司徒・司馬・司突・尹旅一。〔傳〕我有三典常之師可二師法一。〔漢書、敘傳下〕高平師師、惟辟作レ威。〔注〕鄧展曰、師師、相師法也。〔陸機、豪士賦序〕高平師師、側二目博陸之勢一。❷のつとるに足る立派な容儀の形容。〔法言、孝至〕麟之儀儀、鳳之師師、其至矣乎。❸衆い。〔廣雅、釋訓〕師師、衆也。

【師師然】84シシゼン 倣ひ整へるさま。〔新書、容經〕朝廷之容、師師然、翼翼然。

【師師令】85シシレイ 詞牌の名。〔楊愼、詞品〕李師師、汴京名妓、張先爲製二新詞一、名二師師令一。〔詞辨〕張子野贈二妓李師師一云、脣一點、小二於朱蕊一、正値三殘英和二月墜一、寄二此情千里一、按、東都遺事、李師師、汴京妓、道君微行幸レ之、秦觀贈以二生查子一、周美成贈以二蘭陵王一、是也。

【師資】86シシ ❶先生。師匠。資は、たすけ。〔穀梁、僖、三十二、晉侯重耳卒、注〕可下以寄二微旨一而通中王道上者、存二乎精義窮理一、不レ在二記事少多一、此蓋修二春秋一之本旨、師資辯二說日用一之常義。〔疏〕釋曰、師者教レ人以レ不レ及、故謂レ師爲二師資一也。❷てほんとたすけ。又、師匠と弟子。〔後漢書、歐陽歙傳〕下使三學者喪二師資之益一。〔後漢書、儒林傳序〕若下師資所レ承、宜二標レ名爲一レ證者上、乃著レ之云。〔注〕老子曰、善人者、不善人之師也、不善者、善人之資也。〔後漢書、廉范傳〕不レ勝二師資之情一、罪當二萬坐一。

【師摯】87シシ 魯の樂師。師は樂官、摯は名。〔論語、泰伯〕師摯之始、關雎之亂、洋洋乎盈レ耳哉。〔集解〕鄭玄曰、師摯、魯太師之名。

【師事】88シジ 師として事へる。〔左氏、昭、七〕孟懿子與二南宮敬叔一、師二事仲尼一。〔國語、晉語四〕晉公子亡長、幼矣、而好レ善不レ厭、父二事狐偃一、師二事趙衰一。〔史記、燕召公世家〕昭王爲レ隗改築レ宮而師二事之一。〔漢書、韓信傳〕信解二其縛一、東鄉坐、西鄉對而師二事之一。

【師隰】89シシフ 戰國、秦獻公(8−24995··216)の一「名。

【師匠】90シシヤウ ❶師表となる人。手本となる人。〔王筠、與二雲僧正一書〕一代師匠、四海推崇。〔顏氏家訓、文章〕時俗準的、以爲二師匠一。❷立派な師。すぐれた先生。〔范甯、春秋穀梁傳序〕釋二穀梁傳一者、雖レ近二十家一、皆膚淺末學、不レ經二師匠一、辭理典據、既無レ可レ觀。〔邢昺、爾雅注疏序〕俗閒有二孫炎・高璉一、皆淺近俗儒、不レ經二師匠一。❸佛師が弟子の戒・定・慧の三學を成就させることは、丁度工匠が器を成すと同樣であるから、譬へて匠といふ。〔演密鈔、四〕匠是工匠、如下世工匠能匠二成諸器一、阿闍梨法匠、能匠中成三乘三學之法器上。❹遊藝等を教へる人。藝道上の先生。

【師襄】91シジヤウ 春秋、魯の樂官。善く琴を鼓し、孔子も嘗て就き學んだ。〔列子、湯問〕・〔史記、孔子世家〕・〔孔子家語、辯樂解〕。

【師主】92シシユ てほん。〔列女傳、母儀、魯季敬姜傳〕綜可三以爲二開內之師主一。

【師授】93シジユ 師匠に教へさづけられること。〔魏書、彭城王傳〕睿性過レ人、學不二師授一。

【師儒】94 シジュ 道を教へる人。先生。〔周禮、地官、大司徒〕以㆓本俗六㆒安㆓萬民㆒、云云、四曰、聯㆓師儒㆒。〔注〕師儒、鄕里教以㆓道藝㆒者。

【師衆】95 シシユウ 多勢の軍隊。〔左氏、哀、二〕登㆓鐵上㆒、望㆓見鄭師衆㆒。〔蜀志、廖立傳〕前後數喪㆓師衆㆒也。

〔師衆以㆑順爲㆑武〕96 シシユウハジユンヲモツテブトナス 軍隊は命令に順ふことが武である。〔左氏、襄、三〕臣聞、師衆以㆑順爲㆑武、軍事有㆑死無㆑犯爲㆑敬。

【師叔】97 シシユク ㊀春秋、鄭の大夫。齊が諸侯を會して鄭を謀らうとした時、管仲は、鄭に叔詹・堵叔・師叔あつて政を爲す、未だ間すべからずと言つた。〔左氏、宣、十二・成、十六・文、十六〕。㊁春秋楚、潘尫(7−18236‥104)の字。

【師術】98 シジユツ 人に師たる術。師術有㆑四を見よ。

〔師術有㆑四〕99 シジユツシアリ 人の師範たるためには、四つの大事な道がある。〔荀子、致士〕師術有㆑四、而博習不㆑與焉、尊嚴而憚、可㆓以爲㆑師、耆艾而信、可㆓以爲㆑師、誦說而不㆑陵不㆑犯、可㆓以爲㆑師、知㆑微而論、可㆓以爲㆑師。

【師純】100 シジユン 宋、趙孝穎(10−37171‥440)の字。

【師胥】101 シショ 役人。〔福惠全書、保甲部、總論〕有㆓古比閭師胥之制㆒焉。

【師承】102 シショウ 師から教を承ける。又、そのこと。〔景德傳燈錄、第二十五、祖婆舍斯多〕祖曰、我師難未㆑起時、密授㆓我信衣法偈㆒、以顯㆓師承㆒。〔黃庭堅、次㆘韻秦觀過㆓陳無已書院㆒觀㆓鄙句㆒之作㆖詩〕我學少㆓師承㆒、坎井可㆑窺㆑底。

【師式】103 シシヨク シシキ てほん。のり。模範。〔蜀志、秦宓傳〕至㆔於著作爲㆓世師式㆒、不㆑負㆓於餘州㆒也。

【師職】104 シショク 師としての職分。〔南史、顏延之傳〕表㆓解師職㆒、加㆓給親信㆒二十人。

【師心】105 シシン 自分の心を師とする。又、自分の心。〔莊子、人間世〕夫胡可㆓以及㆑化、猶師㆑心者也。〔關尹子、五鑑〕善㆑弓者師㆑弓不㆑師㆑羿、善㆑舟者師㆑舟不㆑師㆑奡、善㆑心者師㆑心不㆑師㆑聖。〔書斷〕爾後改㆓變制度㆒、別㆓刱其法㆒、率㆓爾師心㆒、冥㆓合天矩㆒。

〔師心自是〕106 シシンミヅカラゼトナス 自分の心を師とし、自分の考ばかりを善いとする。〔顏氏家訓、勉學〕閉㆑門讀㆑書、師㆑心自是。

〔師心自用〕107 シシンミヅカラモチフ 自分の考を師とし善として、それぱかりを用ひる。他人の說に耳を傾けないこと。〔陸象山語錄〕學者大病、在㆓於師㆑心自用㆒、師㆑心自用、則不㆑能㆑克㆑己、不㆑能㆑聽㆑言。

【師臣】108 シシン ㊀自分が師と仰ぐ臣。〔李嶠、奉㆔和幸㆓韋嗣立山莊㆒應制詩〕南洛師臣契、東巖王佐居。㊁明、徐尙卿(4−10110‥474)の字。

【師人】109 シジン ㊀兵士。〔左氏、宣、十二〕申公巫臣曰、師人多寒。㊁軍の長官。〔韓非子、外儲說左下〕平公問㆓叔向㆒曰、羣臣孰賢、曰趙武、公曰、子黨㆓於師人㆒。〔解詁〕原舊注、向武之屬大夫、舊刊、黨作㆑然、誤、鳳卿曰、師人猶㆓宋時擧將㆒也、新序作㆔子黨㆓於子之師㆒也、師當㆑作㆑帥。

【師仁】110 シジン 字號。㊀隋、楊爽(6−15112‥163)の字。㊁明、王克復(7−20823‥1476)の字。

【師帥】111 シスイ ㊀二千五百人の軍長。周禮の軍制は二千五百人を師とし、其の長は皆中大夫である。江永の說によれば、州は二千五百人を出して師とし、其の師帥には州長がなるといふ。〔周禮、夏官、序官〕二千有五百人爲㆑師、師帥皆中大夫。〔周禮疑義擧要〕州出㆓二千五百人㆒爲㆑師、師帥中大夫、卽州長也。〔漢書、循吏、黃霸傳〕置㆓父老・師帥・伍長㆒。㊁模範。表率。〔漢書、董仲舒傳〕今之郡守縣令、民之師帥、所㆑使㆓承㆑流而宣化㆒也。

【師正】112 シセイ 宋、薛向(9−32123‥31)の字。

【師生】113 シセイ ㊀教師と生徒。師弟。生師。〔名山藏、李時勉傳〕廷臣歸老之榮、師生相與之厚、以爲㆓盛事㆒。㊁會試・鄕試の試驗官と受驗合格者とをいふ。〔淸國行政法汎論、官吏分限、迴避〕又案、師生云者、非㆘業師與㆓弟子㆒之謂㆖也、會試・鄕試之同考官、與㆘在㆓其管轄房內㆒、受驗及第者㆖、卽考官與㆓及第者㆒、此爲㆓師生㆒。

〔師生衙門〕114 シセイガモン 淸代、文書を司る官署。翰林院・詹寺府・都察院等をいふ。

【師聖】115 シセイ ㊀元、伯顏(1−466‥79)の一名。㊁宋、侯仲良(1−634‥633)の字。

【師召】116 シセウ 字號。㊀明、陳音(11−41698‥46)の字。㊁明、裴爽(10−34362‥71)の字。

【師邵】117 シセウ 明、盧雍(吳縣の人)(8−23050‥173)の字。

【師錫】118 シセキ 衆臣が天子に教へる。師は衆、錫は與。〔書、堯典〕師錫㆑帝曰、有㆑鰥在㆑下、曰㆓虞舜㆒。〔傳〕師、衆、錫、與也。〔陸機、漢高祖功臣頌〕察侔㆓蕭相㆒、旣同㆓師錫㆒。〔資治通鑑、唐紀〕(德宗、建中四年)旣殊㆓師錫㆒、且異㆓公言㆒。

【師說】119 シセツ ㊀先生の主唱する論說。〔魏志、高貴鄕公傳〕峻對曰、臣奉㆓遵師說㆒、未㆑喩㆓大義㆒。〔朱熹、中庸章句序〕然倍㆓其師說㆒、而淫㆓於老佛㆒者、亦有㆑之矣。㊁文章の名。唐、韓愈作。師道の頽廢を慨き、世俗の謬想を解いて古の師道を復興せんとして作つたもの。唐宋八家文・文章軌範・古文眞寶後集等に收載されてゐる。㊂宋、丘礪(1−33‥120)の字。

【師川】120 シセン 宋、徐俯(4−10110‥270)の字。

【師先】121 シセン 淸、黃澂之(12−47926‥1255)の初名。

【師船】122 シセン shih¹ ch'uan² 軍艦。

【師善】123 シゼン 宋、上官必克(1−13‥215)の字。

〔師善堂〕124 シゼンダウ 淸、嵆曾筠(4−8272‥18)の室名。

【師祖】125 シソ ㊀師とし祖とする。先生とし父祖としてあがめる。模倣する。〔宋書、謝靈運傳論〕稱謂異軌同奔、遞相師祖。㊁師の父をいふ。〔稱謂錄、師之父、師祖〕魏叔子師友行輩議、德業之師、以㆓父道㆒事㆑之、師之父尊㆓其稱㆒曰㆑祖、師之妻尊㆓其稱㆒曰㆑母、此名之不㆑可㆑殺者也。㊂佛師の師をいふ。卽ち嗣法上の祖父に當る人。又、大師祖、卽ち師祖の師をいふ。〔禪林寶訓〕演祖曰、山門執事、知㆑因識㆑果、若㆔師翁輔㆓慈明師祖㆒乎。

【師走】126 シハス 陰曆十二月の異稱。極月。季冬。臘月。〔神樂歌、早歌〕霜月・師走の搔き零り。

〔師走坊主〕127 シハスバウズ おちぶれてよるべのない坊主。〔胸算用、五〕浮世に住むから、師走坊主も暇のないことぞかし。

〔師走浪人〕128 シハスラウニン おちぶれてよるべのない浪人。〔夕霧阿波鳴渡、上〕紙子ざはりがあらい、あらい、これ引けば破れるつかめば跡に、しはす坊主師走浪人。

【師宗】129 シソウ ㊀師として尊ぶ。〔十八史略、南宋〕惟熹學問、老而彌篤、學者共師㆓宗之㆒、稱爲㆓晦菴先生㆒。㊁縣名。淸、置く。雲南省瀘西縣の北。縣城は南盤江の支流、喜舊溪の北岸に瀕し、漢代、爨蠻師宗の據つた所で師宗部と號す。

【師尊】130 シソン 師として尊ぶ。〔漢書、董仲舒傳〕進退容止、非㆑禮不㆑行、學士皆師㆓尊之㆒。〔蘇軾、范文正公文集序〕天下信㆓其誠㆒、爭師㆓尊之㆒。

【師退】131 シタイ 字號。㊀淸、蔣知讓(9−31820‥190)の字。㊁淸、汪越(6−17154‥12)の字。

【師堂】132 シダウ 春秋時代の人。琴を善くす。孔子が嘗て就いて琴を學んだといふ。〔枚乘、七發〕使㆓師堂操暢、伯子牙爲㆑之歌㆒。〔注〕善曰、師堂、樂師也、韓詩外傳曰、孔子學㆓鼓㆑琴於師堂子京㆒、而不㆑進、師堂子京曰、夫子可㆓以進㆒、孔子曰、丘已得㆓其曲㆒、未㆑得㆓其數㆒也、琴道曰、堯暢達則兼㆑善、天下無㆑不㆓通暢㆒、故謂㆓之暢㆒、列子曰、伯牙善鼓㆑琴也、向曰、師堂子京・伯子牙、皆古之善鼓㆑琴者。

【師道】133 シダウ ㊀師匠の傳授する道。師法(167)の㊁に同じ。〔漢書、匡衡傳〕望之奏、衡經學精習、說有㆓師道㆒、可㆓觀覽㆒。〔漢書、朱雲傳〕受㆑易、頗有㆓師道㆒。㊁師に就いて學ぶこと。其の正しい方法をいふ。〔韓愈、師說〕嗟乎、師道之不㆑傳也久矣。㊂字號。㋑唐、賈爽(10−36755‥86)の字。㋺元、張伯淳(4−9812‥1449)の字。㋩明、瞿景淳(8−23747‥33)の字。㋥明、汪與立(6−17154‥348)の字。㋭淸、華玉淳(9−31214‥484)の字。

【師丹】134 シタン 漢、東武の人。字は仲公。諡は節。孝廉に擧げられて郎となり、大司空に累遷す。高樂侯に封ぜられ、平帝の時、忠誠を嘉せられて、復た義陽侯に封ぜらる。〔前漢書、八十六〕。

【師旦】135 シタン 明、呂希周(2−3386‥179)の字。

【師團】136 シダン 舊制に於ける陸軍の軍隊編成上の名。通例、步兵二旅團・騎兵及野戰砲兵各一聯隊・工兵及輜重兵各一大隊から成る。

〔師團長〕137 シダンチヤウ 師團の長官。陸軍中將を親補す。

〔師團司令部〕138 シダンシレイブ 師團長が事務を行ふところ。

【師檀】140 シダン 佛法師と檀那。寺と檀家。〔說法明眼論〕一日師檀、百劫結緣。

【師尼】141（シヂ） 明、吳宣(**2−3365**‥269)の字。

【師竹】142（シチク） 清、陳奐(**11−41698**‥186)の號。

〖師竹齋〗143（シチクサイ） 清、李鼎元(**6−14459**‥1780)の號。

【師長】144（シチヤウ） ❶百官それぞれの長。〔書、盤庚下〕邦伯師長、百執事之人。〔疏〕師、訓爲㆑衆、衆長、衆官之長、故爲㆓三公六卿㆒也。〔書、說命中〕樹㆓后王君公㆒、承以㆓大夫師長㆒。〔魏志、賈詡傳〕尚書僕射、官之師長。❷先生、又は目上の人。尊者。長者。〔周禮、地官、調人〕師長之讎、眂㆓兄弟㆒。〔疏〕師長、謂㆓見㆑受㆑業師㆒。〔孫詒讓正義〕師長之讎、謂㆓從學之師、官府都邑之長㆒、漢人有㆘掾史部民爲㆓府主守令㆒復㆑讎者㆖、尚與㆓經義㆒合。〔周禮、地官、師氏〕三曰、順行以事㆓師長㆒。〔疏〕受㆑業之師、及朋友之長。〔孫詒讓正義〕此師長、當㆘與㆓調人師長之讎眂㆓兄弟㆒義同㆖、卽大宰九兩之師以㆑賢得㆑民、長以㆑貴得㆑民、事長、謂㆑事㆓官府都鄙之長㆒、士冠禮、冠禮畢、云㆓遂以㆑贄見㆓于鄉大夫・鄉先生㆒、彼鄉大夫卽長、鄉先生卽師。〔韓非子、五蠹〕今有㆓不才之子㆒、父母怒㆑之弗㆓爲改㆒、鄉人譙㆑之弗㆓爲動㆒、師長敎㆑之弗㆓爲變㆒。〔管子、禁藏〕吏之擧㆑令、敬㆓於師長㆒。❸二千五百人の長をいふ。元代の萬戶に相當する。〔金石索〕漢歸義胡師長印。❹民國の陸軍師團長。

〖師長之讎眂㆓兄弟㆒〗145（シチヤウノアタハケイテイニナゾラフ） 先生、又は長者の讎敵は兄弟の讎敵と同樣に考へる。〔周禮、地官、調人〕君之讎眂㆑父、師長之讎眂㆓兄弟㆒。

【師娘】146（シヂヤウ） をんなみこ。女巫。又、男覡(をとこみこ)をもいふ。〔輟耕錄、婦女曰娘〕女巫曰㆓師娘㆒、都下及江南、謂㆓男覡㆒亦曰㆓師娘㆒。

【師中】147（シチユウ） 字號。❶宋、陳守(**11−41698**‥334)の字。❷明、戴中(**5−11685**‥104)の字。❸清、吳三錫(**2−3365**‥584)の字。

【師忠】148（シチユウ） 明、官希稷(**3−7107**‥390)の字。

【師直】149（シチヨク） 宋、謝景溫(**10−35827**‥268)の字。

【師陳】150（シチン） 明、盧襄(**8−23050**‥89)の字。

【師弟】151（シテイ） ❶師の子。師兄弟(52)を見よ。〔崔峒、潤州送㆘師弟自㆓江夏㆒往㆗台州㆖詩〕遠客乘㆑流去、孤帆向㆑夜開。❷おとうと弟子。師兄(51)の❷の對。師兄弟(52)の❷及び師弟兄を參看。〔水滸傳、五回〕我有㆓一箇師弟㆒、見在㆓東京大相國寺㆒住持。❸先生と弟子。師匠と弟子。〔源氏冷泉節、下〕。

〖師弟兄〗152 shih¹ ti⁴ hsiung 同窓者。同門生。

【師苕】153（シテウ） 清、汪由敦(**6−17154**‥160)の字。

【師蒧】154（シテン） 宋、林師點(**6−14551**‥344)の一名。

【師田】155（シデン） 出征田獵。〔周禮、天官、小宰〕聽㆓師田㆒以㆓簡稽㆒。〔疏〕謂㆘師出征伐、及田獵、恐有㆓違法㆒、則當㆛閱㆓其兵器㆒與㆑人並算㆚足否㆙。〔周禮、地官、州長〕師田行役。〔疏〕師謂㆓征伐㆒、田謂㆓田獵㆒。〔周禮、地官、遂人〕以令㆓師田㆒。

【師傳】156（シデン） 先生からの傳授。師から繼承したことがら。〔經學歷史、經學昌明時代〕大夏侯又求㆓異於歐陽㆒、不㆑守㆓師傳㆒。

【師徒】157（シト） ❶軍隊。軍勢。士卒。〔左氏、成、二〕子喪㆓師徒㆒、何以復命。〔左氏、襄、四〕師徒不㆑勤、甲兵不㆑頓。〔左氏、昭、元〕師徒不㆑頓、國家不㆑罷。❷先生と弟子。師匠と弟子。〔韓非子、說疑〕此六人者、皆疾爭強諫、以勝㆓其君㆒、言聽事行、則如㆓師徒之合㆒。〔解詁〕舊刊評林、合作㆑勢讀、如㆔七十子之服㆓從孔子㆒也。

【師都】158（シト） 周官の名。遂大夫をいふ。諸家の財產の多寡をしらべる職。〔周禮、夏官、大司馬〕王載㆓大常㆒、諸侯載㆑旂、軍吏載㆑旗、師都載㆑旜。〔注〕師都、遂大夫也。

【師得】159（シトク） 宮殿の名。漢の武帝が建てた。〔漢書、揚雄傳上〕棠梨師得。〔注〕師古曰、師得宮、在㆓櫟陽界㆒。

【師德】160（シトク） ❶多くの德。衆德。〔漢書、禮樂志〕浚則師德、下民咸殖。〔注〕師古曰、師、衆也。❷字號。㋑宋、陳定(**11−41698**‥478)の字。㋺元、凌懋翁(**2−1669**‥149)の字。

【師讀】161（シトク） 侍讀(**1−589**‥70)に同じ。〔台記〕以㆓其子大內記長光㆒被㆑聽㆓新院昇殿㆒、依㆑爲㆓御師讀㆒也。

【師婆】162（シバ） みこ。六婆の一。三姑六婆(**1−12**‥501)を見よ。〔輟耕錄、三姑六婆〕六婆者、牙婆・媒婆・師婆・虔婆・藥婆・穩婆也。

【師望】163（シバウ） ❶師父たる呂望。太公望呂尚をいふ。〔楚辭、天問〕師望在㆑肆昌何識。〔鹽鐵論、復古〕志大者遺㆑小、用㆑權者離㆑俗、有㆓司思師望之計㆒。❷明、閔如霖(**11−41251**‥53)の字。

〖師望之任〗164（シバウノニン） 太公呂望が荷つたと同樣の重い任務。又、其の任務を荷うべき重い地位。〔蜀志、許靖傳〕乘㆓師望之任㆒、兼㆓霍光之重㆒。

【師伯】165（シハク） 師の兄をいふ。〔稱謂錄、師之兄弟、師伯〕魏叔子師友行輩議、師伯叔者俗稱也、何也、師之兄弟、有㆘可㆔以爲㆓吾弟子㆒者㆖、則分非㆓一定㆒也、師之子以㆓兄弟㆒視㆑之常也、然師有㆘以㆓門人㆒爲㆓其子師㆒者㆖、故學與㆑齒相去也遠、而師視㆓其門人㆒如㆓至友㆒、則師之子可㆔事以㆓父執㆒。

【師樸】166（シハク） 宋、韓忠彥(**12−43159**‥357)の字。

【師法】167（シハフ） ❶のり。てほん。又、師としのつとる。てほんとする。〔書、皐陶謨〕百僚師師。〔傳〕師、相師法。〔書、益稷〕師㆓汝昌言㆒。〔傳〕言㆔禹功甚當、可㆓師法㆒。〔韓非子、八說〕錯㆑法以道㆑民也、而又貴㆓文學㆒、則民之所㆓師法㆒也疑。❷師の傳授した法。師匠から傳授された法。法は、從ひ守るべき正しいことがら。〔荀子、儒效〕有㆓師法㆒者、人之大寶也、無㆓師法㆒者、人之大殃也、人無㆓師法㆒、則隆性矣、有㆓師法㆒則隆積矣。〔荀子、修身〕不㆑是㆓師法㆒、而好㆓自用㆒、譬㆑之是猶㆓以㆑盲辨㆑色、以㆑聾辨㆑聲也、舍㆓亂妄㆒無㆑爲也。〔漢書、魏相傳〕相明㆓易經㆒、有㆓師法㆒、好觀㆓漢故事、及便宜章奏㆒。〔漢書、李尋傳〕治㆓尚書㆒、與㆓張孺・鄭寬中㆒同㆑師、寬中等守㆓師法㆒教授、尋獨好㆓洪範災異㆒。〔漢書、儒林、胡母生傳〕唯嬴公守㆑學、不㆑失㆓師法㆒。〔後漢書、吳良傳〕治㆓尚書㆒、學通㆓師法㆒。〔論衡、效力〕諸生能傳㆓百萬言㆒、不㆑能㆑覽㆓古今㆒、守㆓信師法㆒、雖㆓辭說多㆒、終不㆑爲㆑博。❸軍を出す道。出軍の法。〔漢書、翼奉傳〕奉對曰、師法、用㆑辰不㆑用㆑日。〔注〕孟康曰、假令甲子日、子爲㆑辰甲爲㆑日、用㆑子不㆑用㆑甲也。

【師範】168（シハン） ❶てほん。師表。又師表となる。〔後漢書、楊賜傳〕師範之功、昭㆓于內外㆒。〔趙壹、報㆓皇甫規㆒書〕君學成㆓師範㆒、縉紳歸慕。〔北史、揚播傳論〕恭德愼行、爲㆓世師範㆒。❷清、雲南趙州の人。字は荔扉。乾隆の擧人。官は望江縣の長官。著に金華山樵集がある。〔清史列傳、七十二〕・〔國朝耆獻類徵、二百四十二〕・〔碑傳集、一百十〕。❸南宋の臨濟宗の高僧。字は無準。梓潼の雍氏の子。號は佛鑑禪師。九歲にして出家し、薙髮に貧なし。人、烏頭子と稱す。天台・雁蕩に遊び、清涼・焦山等の寺に歷居す。理宗帝に召されて法を說き旨に稱ひ、金襴衣並に佛鑑禪師の號を賜はる。淳祐九年三月十八日寂す。著に佛鑑禪師語錄(三卷)あり。〔增集續傳燈錄〕❹宋、彭蠡(**4−10003**‥124)の字。❺㋑學問・技藝を授け教へる人。㋺劍道・柔道など武技の師たる人の階級資格の稱號。

〖師範家〗169（シハンケ） 中古以來、學問・技藝で代々師範として立つて來た家をいふ。例へば、劍道の柳生・小野家、蹴鞠の難波・冷泉家、和歌の飛鳥井・三條西家等の如きをいふ。

〖師範代〗170（シハンダイ） 師範に代つて門生に教へる「人。

〖師範學校〗171（シハンガクカウ） 舊學制で、教員養成を目的とする學校。高等師範學校と師範學校があつた。

〖師範教育〗172（シハンケウイク） 中等教育及び初等教育の教員養成を目的とする教育。

【師比】173（シヒ） おびがね。帶鉤。胥紕。〔駢雅、釋器〕師比、帶鉤也。〔戰國、趙策〕遂賜㆓周紹胡衣冠・貝帶・黃金師比㆒、以傅㆓王子㆒也。

【師備】174（シビ） 後梁の高僧。本姓は謝。號は宗一大師。福州玄沙院に居る。開平の間、示寂す。〔宋高僧傳、十三〕。

【師父】175 shih¹ fu⁴ ❶先生をいふ。父の字を添へて更に尊敬の意を表はす。〔水滸傳、七十三回〕師父可救弟子。〔桃花扇、拒媒〕你們怕做師父、我們怕做徒弟的。❷僧侶道士などに對する敬稱。❸（フシ） 先生と父。

【師傅】176（シフ） ❶太師と太傅。共に帝王を輔佐する大官。〔史記、儒林傳序〕自㆓孔子卒㆒後、七十子之徒、散游㆓諸侯㆒、大者爲㆓師傅卿相㆒。〔漢書、疏廣傳〕父子並爲㆓師傅㆒、朝廷以爲㆑榮。〔漢書、張敞傳〕非㆓師傅之器㆒。❷道を教へて導く守役。〔穀梁、昭、十九〕羈貫成童、不㆑就㆓師傅㆒、父之罪也。〔戰國、秦策〕子曰、少棄捐在㆑外、嘗無㆔師傅所㆓教學㆒、不㆑習㆓於誦㆒。〔史記、外戚世家〕兩人所㆑出

微、不レ可レ不三爲擇二師傅・賓客一。〔史記、吳王濞傳〕吳太子師傅、皆楚人。〔班固、西都賦〕名儒・師傅。❸妓女に歌唱を教へる者。北京花柳界の隱語。〔北京指南、食宿遊覽、妓院、附花界特別用語〕師傅、教二習妓女歌唱一者曰二師傅一、南人名二烏師一。❹shih^{1} fu^{4} 親方。大工・料理人・床屋等の職人を呼ぶ敬稱。

【師傅保】177 シフホ　太師・太傅・太保と、少師・少傅・少保。三公と三孤。〔清史稿、職官志〕師傅保、太師・太傅・太保爲二三公一、少師・少傅・少保爲二三孤一。

【師風】178 シフウ　師匠の風格。〔北齊書、元文遙傳〕行恭少頗驕恣、文遙令下與二范陽盧思道一交遊上、文遙嘗謂二思道一云、小兒比日、微有レ所レ知、是大弟之力、然白擲劇飮、甚得二師風一、思道答云、六郎辭情俊邁、自是克荷二堂構一、而白擲劇飮、亦天性所レ得。

【師服】179 シフク　春秋、晉の大夫。晉の穆公は、太子に名づけて仇といひ、次子を成師と名づけたが、師服之を評して、異なるかな君の子に命ずるや。始めて亂を兆すと言ひ、後、果して其の言の通りになつた。〔左氏、桓、二〕。

【師復】180 シフク　宋、陳宓(11−41698‥530)の字。

【師文】181 シブン　❶春秋、鄭の樂師。師襄に從學した。〔列子、湯問〕。❷字號。㋑宋、陳縝(11−41698‥382)の字。㋺宋、馬之純(12−44572‥793)の字。㋩宋、劉甲(2−2224‥123)の字。㋥明、戴豪(5−11685‥16)の字。

【師兵】182 シヘイ　多數の兵士。〔史記、五帝紀〕遷徙往來無二常處一、以二師兵一爲二營衞一。

【師表】183 シヘウ　てほん。龜鑑。模範。又、その人。〔史記、太史公自序〕國有二賢相良將一、民之師表也。〔漢書、敍傳上〕聲盈二塞於天淵一、眞吾徒之師表也。〔後漢書、黃憲傳〕潁川荀淑、至二愼陽一遇二黃憲於逆旅一、時年十四、淑竦然而異レ之、揖而與語、移レ日不レ能レ去、謂レ憲曰、子吾之師表也。〔魏志、荀攸傳〕文帝在二東宮一、太祖謂曰、荀公達、人之師表也、汝當二盡レ禮敬一レ之。

【師豹】184 シヘウ　獅子と豹。師は獅子。〔班固、西都賦〕挾二師豹一、拖二熊螭一。

【師冕】185 シベン　春秋、魯の樂師。孔子と同時代の人。〔論語、衞靈公〕。

【師甫】186 シホ　明、邊維垣(11−39216‥180)の字。

【師保】187 シホ　❶君主を教へ輔佐する。又、其の人。〔易、繫辭下〕无レ有二師保一、如レ臨二父母一。〔書、泰誓下〕放二黜師保一、屛二棄典刑一。〔禮、文王世子〕師也者、教レ之以レ事而喩二諸德一者也、保也者、愼二其身一以輔二翼之一而歸二諸道一者也。〔左氏、成、九〕其爲二太子一也、師保奉レ之。〔左氏、襄、三十〕師二保其君一。❷教へ安んずる。教へ養ふ。〔書、君陳〕昔周公師二保萬民一、民懷二其德一。

【師保之教訓】188 シホノケウクン　君主を教へ輔佐する人のをしへ。〔書、太甲中〕既往背二師保之訓一、不レ克二于厥初一。〔左氏、襄、十三〕未レ及レ習二師保之教訓一、而應二受多福一。

【師輔】189 シホ　教へ導く人と助け導く人。師と友。師友。〔禮、學記〕是以雖レ離二師輔一、而不レ反也。〔疏〕輔卽友也。

【師母】190 シボ　先生の奧さま。〔還魂記、閨塾〕敢問二師母尊年一。〔稱謂錄、師之妻、師母〕魏叔子師友行輩議、德業之師、以二父道一事レ之、師之父尊二其稱一曰レ祖、師之妻尊二其稱一曰レ母、此名之不レ可レ殺者也。

【師姆】191 シボ　もりやくの女。〔唐書、禮樂志八〕師姆在レ右、保姆在レ左。

【師姥】192 シボ　吉凶を占ふ老婆。巫嫗。〔資治通鑑、隋紀〕(文帝、開皇二十年) 嘗令三師姥卜二吉凶一。〔注〕師姥、巫嫗也、姥、女老稱。

【師模】193 シボ　てほん。師表。模範。師範。師謨。〔魏志、邴原傳、注〕鄭君、學覽二古今一、博文強識、鈎レ深致レ遠、誠學者之師模也。

【師謨】194 シボ　てほんとする。學びならふ。又、てほん。師模に同じ。〔曹冏、六代論〕而乃師二謨申商一、諮二謀趙高一。

【師孟】195 シマウ　字號。❶宋、鄧傳之(11−39630‥185)の字。❷金、完顏宗浩(3−7079‥102)の字。❸元、田衍(7−21723‥15)の字。❹明、丁養浩(1−2‥307)の字。❺明、李浩(6−14459‥120)の字。

【師命】196 シメイ　軍隊を出す命令。〔孟子、公孫丑下〕繼而有二師命一、不レ可二以請一、久二於齊一非二我心一也。〔集注〕師命、師旅之命也。

【師門】197 シモン　先生。又、先生の門下。〔後漢書、桓榮傳〕下則去レ家慕レ鄕、求レ謝二師門一。〔論衡、量知〕不レ入二師門一、無二經傳之教一。〔稱謂錄、受知師、師門〕說鈴談助、宋擧及第者、不レ得下呼二知擧一爲二恩門一、爲二師門一、及稱中門生上。

【師爺】198 シヤ　顧問。幕友。〔清國行政法汎論、幕友〕幕友種類及員數、各官廳雖レ不レ同、亦非レ無下可二共通一者上、卽關二於刑名錢穀一之幕友、是也、前者稱曰二刑名師爺一、後者稱曰二錢穀師爺一。

【師約】199 シヤク　唐、張儉(4−9812‥277)の字。

【師雄】200 シユウ　宋、杜默(6−14477‥245)の字。

【師用】201 シヨウ　師として用ひる。〔漢書、董仲舒傳〕文王順レ天理レ物、師二用賢聖一。

【師羅】202 シラ　北齊、王紘(7−20823‥294)の字。

【師郎】203 シラウ　肉食妻帶する僧をいふ。中國南方の語。〔稱謂錄、僧、師郎〕漢千里投荒雜錄、南人不レ信二釋氏一、閒有二一二僧一、擁レ婦食レ肉、土人以レ女配レ之、呼曰二師郎一。

【師朗】204 シラウ　前蜀、王宗朗(7−20823‥1857)の名。

【師利】205 シリ　字號。❶陳、宣帝(3−7132‥164)の字。❷宋、仲殊(1−403‥220)の字。

【師李】206 シリ　清、汪沆(6−17154‥19)の字。

【師律】207 シリツ　軍隊の規律。軍律。〔易、師〕師出以レ律。〔南史、徐勉傳〕軍旅不レ以レ禮、則致二亂於師律一。

【師亮】208 シリヤウ　宋、張齊賢(4−9812‥1254)の字。

【師旅】209 シリヨ　軍隊。二千五百人を師、五百人を旅といふ。轉じて、戰爭の意。〔詩、大雅、常武〕左右陳行、戒二我師旅一。〔詩、小雅、黍苗〕我師我旅。〔箋〕五百人爲レ旅、五旅爲レ師。〔左氏、襄、十四〕今官之師旅。〔論語、先進〕加レ之以二師旅一、因レ之以二饑饉一。〔荀子、王制〕喪祭・朝聘・師旅、一也。

【師林】210 シリン　清、李誠(6−14459‥502)の字。

【師類】211 シルイ　獸の名。狸に似て髮がある。〔爾雅翼〕類、蓋鳥獸之名、以二山海經一論レ之、有二二種一、其一獸之出二亶爰山一者、如レ狸而有レ髮、名曰二師類一、其一則帶之鳥、如レ鳥而五采文、名曰二奇類一。

【師令】212 シレイ　軍令。〔潘岳、關中詩〕周殉二師令一、身膏二氏斧一。〔注〕氏、西戎別名。

【師魯】213 シロ　字號。❶宋、尹洙(4−7631‥46)の字。❷金、劉仲洙(2−2224‥1191)の字。❸元、劉汶(2−2224‥584)の字。

【師和】214 シワ　宋、李夔(6−14459‥194)の字。

【師王】215 シワウ　❶宋の韓侂胄が平原郡王に封ぜられ、太師となつたので、當時の者がこびて稱した語。〔因話錄〕韓侂胄封二平原郡王一、而官至二太師一、一時獻レ佞、過稱二師王一。❷清、顧維(12−43689‥9)の字。

【移レ師】216 シヲウツス　軍隊をうつす。〔班固、西都賦〕爾乃移レ師趨レ險。

【行レ師】217 シヲヤル　兵師を興し動かす。〔易、豫〕建レ侯「行レ師。

【犒レ師】218 シヲネギラフ　軍隊をねぎらひなぐさめる。〔左氏、僖、二十六〕公使二展喜犒一レ師、使レ受二命于展禽一。

【親レ師】219 シニシタシム　先生に親しみなつく。〔禮、學記〕視二博習親一レ師。

【崇レ師】220 シヲタフトブ　先生をたつとぶ。〔任昉、爲二范始興一作求レ立二太宰碑一表〕由レ是崇レ師之義、擬二迹於西河一。

【致レ師】221 シヲイタス　戰を挑む。〔周禮、夏官、環人〕掌レ致レ師。〔注〕致レ師者、致二其必戰之志一、古者將レ戰、先使二勇力之士犯一レ敵焉。〔左氏、宣、十二〕楚許伯御二樂伯一、攝叔爲レ右、以致二晉師一。

【得レ師】222 シヲウ　すぐれた先生を得る。〔書、仲虺之誥〕能自得レ師者王。

【班レ師】223 シヲカヘス　軍隊を引き還す。班は還。〔書、大禹謨〕班レ師振レ旅。〔蔡傳〕班、還、振、整也、謂二整レ旅以歸一也。

【師安石】224 シアンセキ　金、清州の人。字は子安。本姓は尹氏。承安の進士。初、尚書省令史に補せられ、尚書右丞に累遷す。〔金史、一百八〕。

【師懿德】225 シイトク　清、寧夏の人。康熙の閒、行伍から、累功して甘肅提督に拔擢され、策妄阿喇布坦が哈密北境を犯すや、兵を遣つて之を却けた。〔國朝耆獻類徵、二百八十三〕・〔漢名臣傳、十五〕。

【師酉敦】226 シイウタイ　周代の器の名。師酉の作つた敦をいふ。敦は黍稷を盛つて神に供へる禮器。銘

文が一百八字あつて、周王が呉太廟に格ることを述べてゐる。但し、阮元によれば、古籍に周王の呉に往くことを載せず、此の呉は古の虞の字で、左傳に太伯虞仲、太王之昭とあれば、虞大廟は太王廟であるといふ。

【師覺授】228（シカクジユ）南朝宋、涅陽の人。琴書自ら娯む。孝子傳を撰す。臨川王義慶により州祭酒主簿に徵されたが、就かなかつた。〔南史、七十三〕

【師經堂】229（シケイダウ）清、徐文駒(**4**-**10110**‥617)の室名。

【師虎敦】230（シコタイ）周代の器の名。師虎の作。敦は、黍稷を盛つて神に供へる禮器。銘文によれば、靜敦に同じで、宣王の元年六月、王、太室に格り、師虎に冊命して作らせたものといふ。

【師尙齋】231（シシヤウサイ）清、莊炘(**9**-**31035**‥39)の號。

【師尙父】232（シシヤウフ・シシヤウホ）太公望呂尙の異稱。太公望は、文王の太師となつて父と尙ばれ、尙父と號したからいふ。〔詩、大雅、大明〕維師尙父、時維鷹揚。〔傳〕師、大師也、尙父、可㆑尙可㆑父。〔箋〕尙父、呂望也。〔疏〕劉向別錄曰、師㆑之尙㆑之父㆑之、故曰㆓師尙父㆒。〔集傳〕師尙父太公望、爲㆓大師㆒而號㆓尙父㆒也。

【師讓菴】233（シジヤウアン）清、丁丙(**1**-**2**‥185)の號。

【師愼軒】234（シシンケン）清、呉熙載(**2**-**3365**‥494)の室名。

【師蠻帶】235（シバンタイ）宋代に用ひられた帶の一種。〔宋史、輿服志五〕帶古惟用㆑革、自㆓曹魏㆒而下、始有㆓金銀銅之飾㆒、宋制尤詳、其制有㆓金塗天王・八仙・犀牛・寶瓶・荔支・師蠻・海捷・雙鹿・行虎・窪面㆒。〔注〕師蠻、自㆓二十兩㆒至㆓十八兩㆒、有㆓二等㆒。

【師伏堂】236（シフクダウ）清、皮錫瑞(**8**-**22823**‥148)の室名。

【師老爺】237 shih¹ lao³ yeh 教師・先生・師匠を其の門下生が敬稱する語。

【師華山房】238（シクワサンバウ）清、載祖啓(**10**-**38309**‥86)の室名。

【師嚴生敬】239（シゲンニシテセイケイナリ）教師は生徒に對して嚴格で、生徒は教師を尊敬する。〔李涗、啓蒙篇〕師嚴生敬、各進㆓其道㆒。

【師嚴道尊】240（シゲンニシテミチタフトシ）人君が師を尊び、師が尊嚴なものになれば、師の說く道も自然と尊嚴なものになるといふ意。後世は、教師が嚴格であれば其の教へる道も自然に尊嚴になる、といふ意に用ひてゐる。嚴㆑師爲㆑難(247)を見よ。〔禮、學記〕凡學之道、嚴㆑師爲㆑難、師嚴然後道尊、道尊然後民知㆑敬㆑學。

【師山先生】241（シザンセンセイ）元、鄭玉(**11**-**39647**‥78)の號。

【師山文集】242（シザンブンシフ）書名。八卷。元、鄭玉撰。論文は醇正で簡潔。〔四庫提要、集、別集類〕

【師之耳目】243（シノジモク）全軍の人々の耳と目。〔左氏、成、二〕張侯曰、師之耳目、在㆓吾旗鼓㆒、進退從㆑之。〔會箋〕孫子引㆓軍政㆒曰、言不㆓相聞㆒、故爲㆓之金鼓㆒、視不㆓相見㆒、故爲㆓之旌旗㆒、夫金鼓旌旗、所㆔以一㆓人之耳目㆒也、人既專一、則勇者不㆑得㆓獨進㆒、怯者不㆑得㆓獨退㆒、此用㆑衆之法也。

【師出以㆑律】244（シイツルニリツヲモツテス）軍が出動する時には嚴格な軍律を以てすること。〔易、師〕初六、師出以㆑律。

【師巫行頭】245（シフカウトウ）男娼(**7**-**21730**‥39)の首魁をいふ。〔稱謂錄、男娼、師巫行頭〕癸辛雜志、政和中、立法告㆓捕男子爲㆑娼者㆒、杖一百、賞錢五十貫、南渡後、呉俗尤甚、皆傅㆓脂粉㆒、盛㆓妝飾㆒、善㆓針黹㆒、呼謂亦如㆓婦人㆒、其爲㆑首者、號㆓師巫行頭㆒。

【師巫邪術】246（シフジヤジユツ）みこが妖術で人を惑はすこと。〔六部成語、刑部、師巫邪術、注解〕巫覡以㆓妖邪之術㆒惑㆑人也。

【嚴㆑師爲㆑難】247（シヲゲンニスルハカタシトナス）人君にとつては、其の師に對して禮を厚くし尊び重んずることはむづかしい、とかく師を侮りがちになるといふ意。師嚴道尊(240)を見よ。

【尊㆑師重㆑傅】248（シヲタツトビフヲオモンズ）師傅を尊崇する。〔通俗編、倫常、尊㆑師重㆑傅〕漢書、孔光傳、太后詔書、國之將㆑興、尊㆑師而重㆑傅、按、此語本㆓荀子大略篇㆒、惟尊師、荀作㆓貴師㆒。

【出㆑師未㆑捷身先死】249（シヲイダシテイマダカタザルニミマヅシス）出征して、未だ敵をたふさない先に、自分が死んでしまつた。杜甫が諸葛孔明を悼んだ詩句。〔杜甫、蜀相詩〕丞相祠堂何處尋、錦官城外柏森森、映㆑階碧草自春色、隔㆑葉黃鸝空好音、三顧頻繁天下計、兩朝開濟老臣心、出㆑師未㆑捷身先死、長使㆓英雄涙滿㆑襟。

【帠】8917 シ

師(**4**-**8916**)に同じ。〔字彙補〕帠、同㆑師。

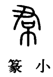
【⿰巾忍】8918 ジン

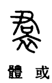
⿰巾刃(**4**-**8782**)に同じ。〔集韻〕⿰巾刃、或作㆑⿰巾忍。

【⿰扌⿱斤巾】8919 ㊀エイ 〔集韻〕以制切 霽 ㊁テイ 〔集韻〕丑例切 霽

㊀㊁**あまりぎぬ**。〔玉篇〕⿰扌⿱斤巾、帤也。

【帬】8920 クン グン 〔集韻〕衢云切 文 ㄑㄩㄣˊ ch'ün²


小篆


或體

❶**えりあて**。かたぎぬ。裙(**10**-**34314**)に同じ。〔說文〕帬、繞領也、从㆑巾君聲、裙、帬或从㆑衣。〔段注〕繞領者、圍㆓繞於領㆒、今男子婦人披肩、其遺意。〔方言、四〕繞衿、謂㆓之帬㆒。❷**はかま**。**も**(裳)。もすそ。〔方言、四、注〕帬、俗人呼㆓接下㆒、江東通言㆓下裳㆒。〔說文通訓定聲〕帬、本訓爲㆑帔、而裳當㆑謂㆓之下帬㆒、俗亦呼㆑裳爲㆑帬耳。❸中帬は、したぎ。〔韻會〕帬、中帬、親身衣也。❹或は裠(**10**-**34315**)・⿰君巾(**4**-**8921**)に作る。〔集韻〕帬、或从㆑衣、亦書作㆑⿰君巾。

【帬屐】1（クンゲキ）えりあてとはきもの。轉じて、身のまはりの飾につとめる意。〔北史、邢巒傳〕蕭深藻、是帬屐少年、未㆑洽㆓政務㆒。

【⿰君巾】8921 クン

帬(**4**-**8920**)に同じ。〔集韻〕帬、亦書作㆑⿰君巾。

參考 韻會・康熙字典は⿰巾君に作る。今、集韻・類篇に依つて改む。〔集韻考正〕帬、注亦書作㆑⿰君巾、案、類篇同、韻會⿰君巾作㆑⿰巾君。

【⿱亢巾】8922 クワウ

⿱宀巾(**4**-**8785**)に同じ。〔類篇〕⿱亢巾、同㆑⿱宀巾。

【⿰巾芒】8923 クワウ

⿰巾亢(**4**-**8874**)に同じ。〔集韻〕⿰巾亢、或从㆑芒。

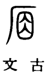
【⿰巾夾】8924 カフ

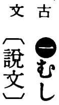
帢(**4**-**8945**)に同じ。〔玉篇〕⿰巾夾、同㆑帢。

【⿰巾巫】8925 ブ ム 〔集韻〕微夫切 虞

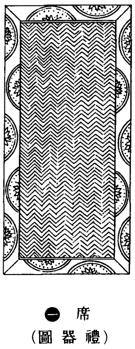
❶**からになりかかる**。〔玉篇〕⿰巾巫、欲㆑空也。❷⿰巾監⿰巾巫は、けおりもの。毛布。〔方言、二〕⿰巾監⿰巾巫、毳也、楚曰㆓⿰巾監⿰巾巫㆒。❸或は幠(**4**-**9081**)に作る。〔集韻〕⿰巾巫、或从㆑無。

【席】8926 セキ ジヤク 〔集韻〕詳亦切 陌 ㄒㄧˊ hsi²


小篆


古文

❶**むしろ**。**上むしろ**。〔說文〕席、藉也、禮、天子諸侯席、有㆓黼繡純飾㆒、从㆑巾庶省聲。〔釋名、釋牀帳〕席、釋也、可㆑卷可㆑釋也。〔正


❶席
(禮器圖)

字通〕席、坐臥所レ藉也、又簟也。〔周禮、天官、司几筵〕掌二五几・五席之名物一。〔注〕五席、莞藻次蒲能。〔周禮、天官、司几筵〕設二莞筵紛純一、加二繅席畫純一。〔疏〕初在レ地者一重、謂二之筵一、重在レ上者、卽謂二之席一。〔儀禮、士虞禮記〕几從席從。〔注〕几・席、素几・葦席也。❷**席次**。**坐席**。〔禮、曲禮上〕羣居五人、則長者必異レ席。〔疏〕推二長者一居二席端一。〔漢書、霍光傳〕田延前離レ席。〔後漢書、戴馮傳〕時詔二公卿一、大會二羣臣一、皆就レ席。❸**位置**。〔劉禹錫、贈二楊尙書一詩〕步武離二台席一、徊翔集二帝梧一。〔孟郊、立德新居詩〕拂二拭貧士席一、拜二候丞相轅一。〔蔡襄、制誥〕入參二宰席一、遂正二樞庭一。❹**場**。〔梁簡文帝、與二廣信侯一重述二內典一書〕法席親承二金口一。❺**宴席**。〔沈約、侍二宴樂遊苑一餞二呂僧珍一詩〕戎車出二細柳一、餞席遵二上林一。〔李商隱雜纂、必不レ來〕醉客逃レ席。❻**會合**。〔陸機、贈二波丘令馮文羆一詩〕密席接二同志一。❼**しく**。〔漢書、賈捐之傳〕相枕二席於道路一。❽**ゐずまひ**。坐り方。〔論語、鄕黨〕必正レ席、先嘗レ之。〔皇疏〕席、猶レ坐也。❾**つらねる**。〔禮、儒行〕有下席二上之珍一以待上レ聘。〔注〕席、陳也。〔疏〕席、猶二鋪陳一也。❿**よる**。〔韻會〕席、資也、因也。〔漢書、劉向傳〕呂產・呂祿、席二太后之寵一。〔注〕師古曰、席、猶レ因也。⓫**ひろげる**。〔漢書、賈誼傳〕非レ有二仄室之勢一、以豫レ席之也。〔注〕應劭曰、席、大也。⓬**ほ**。席帆。〔木華、海賦〕維長綃挂二帆席一。〔謝靈運、游二赤石一進二帆海一詩〕挂レ席拾二海月一。〔貝瓊、歸二營殳山草堂一詩〕秋江有二鱸魚一、當レ挂二吳淞席一。⓭古は囟(**2－2952**)・硇(**8－24349**)に作る。〔集韻〕席、古作レ囟。〔正字通〕席、古文作レ硇。⓮**姓**。〔廣韻〕席、姓也、出二安定一、其先姓籍、避二項羽名一、改姓二席氏一、晉有二席垣一。〔尙友錄〕席安定商音、晉大夫籍談之祖、伯儵司二晉典籍一、因氏、裔孫環避二項羽名一、改爲レ席。〔萬姓統譜〕唐堯時、擊レ壤而歌之老翁、姓席氏、堯尊爲二席老師一。⓯現㋑職務。㋺職務を執るところ。㋩談話の一段。邦**せき**。よせ。

名乘　ノブ。スケ。ヨリ。ヤス。

【席煜】1（セキイク）　清、常熟の人。字は子遠。號は松墅。嘉慶の進士。南北曲を善くし、山水畫を好み、詩に巧。五十餘歲にして歿す。〔淸畫家詩史、己上〕。

【席英】2（セキエイ）　元、建昌の人。字は俊仲。號は梅村。新城河東に隱れ、好んで吟詠をし、又、屋を環つて梅を植ゑ、梅村と號した。〔建昌府志〕。

【席屋】3（セキヲク）　むしろで造った家屋。〔宋史、滕元發傳〕時淮南京東饑、元發慮四流民且レ至、將三蒸爲二癘疫一、先度二城外廢營地一、召二諭富室一使レ出レ力、爲二席屋一、一夕成二二千五百閒一。

【席下】4（セキカ）　❶座席の西をいふ。〔儀禮、燕禮〕降二席下一、奠レ爵、再拜稽首。〔注〕席下、席西也。〔疏〕云二席下席西也一者、賓與二卿大夫一、席皆南面統二於君一、皆以レ東爲レ上、故知三席下爲二席西一也。❷座席の下。敷物の下。〔爾雅翼、釋草〕芸類二豌豆一、作二小叢一生、其葉極芳香、秋後葉閒微白如レ粉、江南人採寘二席下一、能去二蚤蝨一、今謂二之七里香一。

【席蓋】5（セキガイ）　喪車の蓋。一說に、席と蓋。席は坐臥するむしろ、蓋は日と雨とを蔽ふかさといふ。〔禮、曲禮下〕龜筴几杖、席蓋重素、袗絺綌、不レ入二公門一。〔注〕席蓋、載二喪車一也、雜記曰、士輤、葦席以爲レ屋、蒲席以爲二裳帷一。〔疏〕席蓋、喪車蓋也。〔孫希旦集解〕席、坐席也、朝內卿大夫視レ事之室、蓋有下君所二常設一之席上、故不レ可三持レ席以入一、嫌二其自表レ異也、蓋以禦レ雨、亦以表レ尊、朝位在レ庭、雨則廢レ持レ蓋、嫌二其表レ尊也、鄭謂二席蓋爲二喪車一、非也、果爾則當レ言レ東、不レ當三但擧二其席蓋一也。

【席槀】6（セキカウ）　わらを席とする。荒むしろの上に坐る。草薦。〔史記、范雎傳〕應侯席レ槀請レ罪。〔史記、吳王濞傳〕乃袒跣席レ槀、飮レ水謝二太后一。〔晉書、禮志中〕服レ麤席レ槀、水飮疏食。

【席藁】7（セキカウ）　席槀に同じ。〔宋書、禮志二〕陛下以二萬乘之尊一、履二布衣之禮一、服レ麤席レ藁、水飮疏食、慇憂內盈、毀悴外表。〔唐書、王世充傳〕在レ軍蓬首垢面、日夜悲泣不レ釋レ甲、臥必席レ藁、帝以爲レ忠、愈屬二信之一。〔蘇軾、上二皇帝一書〕自知下瀆二犯天威一、罪在中不赦上、席二藁私室一、以待二斧鉞之誅一。

【席鼇】8（セキガウ）　清、常熟の人。字は景溪。雍正の擧人。官は內閣中書。著に竹香詩集がある。〔四庫提要、一百八十五〕。

【席鑑】9（セキカン）　清、常熟の人。字は玉照。藏書極めて豐富で古今の書籍を刻すこと頗る多く、其の版心には掃葉山房の字がある。書室を釀花草堂といふ。

【席萁】10（セキキ）　草の名。一名、塞蘆。席具。〔酉陽雜俎續集、支植下〕席萁、一名塞蘆、生二北湖地一、古詩云、千里席萁草。〔事文類聚〕王建詩曰、單于不二向レ南牧レ馬、席萁偏滿天山下。

【席糾】11（セキキウ）　宴會の世話係。〔類說〕凡飮以二一人一爲二錄事一、以糾二坐人一、謂二之席糾一。

【席玉】12（セキギヨク）　明、張玭(**4－9812**‥634)の字。

【席具】13（セキグ）　❶しきものの類。〔陸雲、與二兄平原一書〕一日案レ行、倂視二曹公器物牀薦席具一。❷草の名。一名、塞路。北地に生ずる。席萁。

【席隅】14（セキグウ）　座席の片すみ。〔宋書、周朗傳〕室閒軒左、幸有二陳書十篋一、席隅奧右、頗得二宿酒數壺一。

【席畫】15（セキグワ）　席上で、直に畫を書く。又、其の畫。

【席廣】16（セキクワウ）　後漢の人。光武の時、議郎となる。陰興に依つて其の經明行修を推薦せられ、光祿勳に擢んでられた。〔後漢書、六十二〕。

【席挂】17（セキケイ）　むしろをかかげる。むしろを帆とする。〔杜甫、早發詩〕早行篙師怠、席挂風不レ正。

【席卿】18（セキケイ）　清、王維珍(**7－20823**‥1133)の字。

【席卷】19（セキケン）　席を卷くやうに容易に片はしから收め取る。席捲。〔戰國、楚策〕雖レ無レ出二兵甲一、席二卷常山之險一、折二天下之脊一、天下之後服者先亡。〔史記、魏豹彭越傳贊〕魏豹彭越雖二故賤一、然已席二卷千里一、南面稱レ孤、喋レ血乘レ勝、日有レ聞矣。〔注〕正義曰、言、魏地闊千里、如二席卷舒一。〔漢書、敍傳下〕乘レ釁而運、席二卷三秦一。〔賈誼、過秦論〕有下席二卷天下一、包二擧宇內一、囊二括四海一之意、幷二吞八荒一之心上。〔淮南子、兵略訓〕天下爲レ之、麋沸螘動、雲徹席卷。〔魏志、王朗傳〕囊二括五湖一、席二捲三江一。〔陳琳、爲二袁紹一檄二豫州一文〕援レ旌擐レ甲、席卷起征。〔陸雲、盛德頌〕三秦席卷、項籍灰分。〔庾信、周柱國大將軍大都督同州刺史段永神道碑〕席二卷關河一、三二分天下一。

【席捲】20（セキケン）　席卷に同じ。〔剪燈餘話、芙蓉屛記〕言訖席二捲其所レ有、而以二新婦一呼二王氏一。

【席研】21（セキケン）　讀書のところ。研席(**8－24177**‥43)に同じ。〔漢書、張安世傳〕安世小男彭祖又小與レ上同二席研一。

【席固】22（セキコ）　北周、襄陽の人。字は子堅。謚は肅。もと梁の興州刺史。魏の大統中、地を以て魏に歸し、持節驃騎大將軍を拜命、靜安郡公に累封され、尋いで昌州刺史に轉任した。保定中、卒す。〔周書、四十四〕・〔北史、六十六〕。

【席後】23（セキゴ）　座席のうしろ。〔後漢書、竇融傳〕融小心久不二自安一、數辭二讓爵位一、請レ閒求レ見、帝不レ許、後朝罷逡二巡席後一、帝知レ欲レ有レ讓、遂使二左右傳出一。

【席公】24（セキコウ）　明、胡上琛(**9－29400**‥492)の字。

【席草】25（セキサウ）　むしろに織る草。莞・蒲の類。〔李咸用、和三吳處士題二村叟壁一詩〕衣蓑留二冷閣一、席草種二閑田一。

【席散】26（セキサン）　席がひける。〔南史、徐孝克傳〕孝克每レ侍レ宴、無レ所二食噉一、至二席散一、當二其前一膳羞損減、帝密記以問二中書舍人管斌一。

【席之】27（セキシ）　字號。❶宋、袁聘儒(**10－34152**‥243)の字。❷明、張瑋(**4－9812**‥16)の字。

【席次】28（セキジ）　❶席上。〔孔稚珪、北山移文〕眉軒二席次一、袂聳二筵上一。〔注〕濟曰、次、側也。❷座

席の順序。席順。座次。❸成績や地位などの順序。

【席上】29 セキジヤウ ❶座席の上。又、其の席。其の場。〔禮、玉藻〕不レ擧レ足、齊如レ流、席上亦然。〔禮、燕義〕君獨升二立席上一。〔呉志、趙達傳〕治二九宮一算之術一、使下其人取二小豆數斗一、播中之席上上、立處二其數一、驗覆果信。〔嚴維、題二鮑行軍小閣一詩〕席上招レ賢急、山陰對レ雪頻。〔陸龜蒙、採藥賦〕鄭交甫則江邊珮解、萼綠華則席上詩成。❷儒家をいふ。席上之珍を見よ。〔後漢書、王充等傳論〕貴二清靜一者、以二席上一爲二腐議一、束二名實一者、以二柱下一爲二誕辭一。〔注〕清靜、謂二道家一也、席上、謂レ儒也、腐、朽也、禮記儒行曰、儒有二席上之珍一、高祖折二隨何一曰、安用二腐儒一哉、名實、名家也、柱下、老子也、誕、虛也、言下志各不上レ同也。〔南史、馬樞傳〕貴二爵位一者、以二巢由一爲二桎梏一、愛二山林一者、以二伊呂一爲二管庫一、束二名實一、則芻二芥柱下之言一、翫二清虛一、則糠二粃席上之說一、稽二之篤論一、亦各從二其好一也。❸集會の席の上。集會の場席。

【席上題】29' セキジヤウダイ 詩文などを作るために、集合の席で出す題。此の題によつて卽席に詩文などを作る。宿題の對。

【席上才子】30 セキジヤウサイシ 詩などを卽席に作る詞藻のすぐれた人。〔江西通志〕羅尙友、字明善、萍鄕人、少負二俊才一、嘗謁二閣門一、使二蕭注令賦レ詩、有下人閒酒客兼二詩客一、天上文星與二將星一之句上、後登二進士第一、授二武昌節度推官一、時中丞李常爲レ帥、每二燕集一、必召二尙友一、凡樂府・詩詞、皆卽席成、因目爲二席上才子一。

【席上之珍】31 セキジヤウノチン 儒者の學德を席上の珍品に喩へていふ。一說に、（ジヤウノチンヲセキス）とよみ、上古の聖人の善美の道を並びつらねる。席は陳、珍は善。席珍。〔禮、儒行〕儒有二席上之珍一以待レ聘。〔注〕席、猶二鋪陳一也、珍、善也、鋪二陳往古堯舜之善道一、以待レ見レ問也。〔北史、儒林傳論〕梁越之徒、篤レ志不レ倦、自求二諸己一、遂能聞二道下風一、稱二珍席上一。〔何遜、七召〕恥レ見レ嘲二於腐儒一、豈求二珍於席上一。〔孟浩然、還レ山贈二湛禪師一詩〕喜レ得二林下契一、共推二席上珍一。

【席上腐談】32 セキジヤウフダン 書名。二卷。宋、兪琰撰。隨筆・劄記で、ただ上卷には考證が數條ある。〔四庫提要、子、道家類〕。

【席壽】33 セキジユ 席の保つ期間。しきものの壽命。〔唐書、百官志三〕守宮署令掌レ供二帳帟一、席壽三年、氈壽五年、褥壽七年、不レ及レ期而壞有レ罰。

【席春】34 セキシユン 明の人。書の弟。字は仁同。正德の進士。嘉靖中、翰林學士・吏部右侍郎に歷任したが、尙書汪鋐と隙あり、免職された。〔明史、一百九十七〕・〔萬斯同明史、二百七十七〕・〔明史稿、一百八十三〕。

【席順】35 セキジユン 席次(28)に同じ。

【席所】36 セキシヨ 座席の上。〔禮、鄕飮酒義、卒レ觶致レ實於二西階上一言四是席之正非三專爲二飮食一也、疏〕故不下於二席所一而卒上レ觶。

【席書】37 セキシヨ ❶席上で書畫などをかくこと。❷明、遂寧の人。字は文同。謚は文襄。弘治の進士。官は戶部員外郞・禮部尙書・武英殿大學士。著に大禮集議がある。〔明史、一百九十七〕・〔萬斯同明史、二百七十七〕・〔明史稿、一百八十三〕・〔國朝獻徵錄、十五〕。

【席勝】38 セキシヨウ 勝に因る。戰勝の勢によつて進取を圖ること。席は因る意。〔漢書、蒯通傳〕楚人起二彭城一、轉鬭逐レ北至二滎陽一、乘レ利席レ勝、威震二天下一。〔注〕師古曰、席、因也、若三人之在二席上一。

【席食】39 セキシヨク むしろと食物。〔管子、小問〕有下執二席食一以視レ上者上。〔纂詁〕執二席食一、執二席與レ食、將二退而午食一也、說苑、席食作二柘杵一。

【席蓐】40 セキジヨク しきもの。席褥。〔韓非子、外儲說左上〕文公反レ國、至レ河令、籩豆捐レ之、席蓐捐レ之、手足胼胝、面目黧黑者後レ之。〔墨子、號令〕城上日壹發二席蓐一。〔史記、淮南厲王傳〕皆稟食、給二薪菜鹽豉、炊食器席蓐一。

【席褥】41 セキジヨク しきもの。席蓐。〔卻掃編、中〕四時之享、以二分至日一、不レ設二倚卓一、惟用二平面席褥一。

【席神】42 セキシン 神をつらねまうける。〔唐書、禮樂志一〕三曰、陳設、其別有レ五、有二待事之次一、有二卽事之位一、有二門外之位一、有二牲器之位一、有二席神之位一。

【席薪】43 セキシン 薪をしく。薪をしきものとする。喪中の儀。〔荀子、禮論〕屬レ茨倚レ廬、席レ薪枕レ塊、是吉凶憂愉之情、發二於居處一者也。

【席勢】44 セキセイ 官位と勢力。〔唐書、房玄齡傳〕治レ家有二法度一、常恐下諸子驕二侈席勢一凌上人。

【席苫】45 セキセン 苫をしく。とまをしきものとする。喪中の儀。〔晉書、郄鑒傳〕翼追二撫育之恩一、解レ職而歸、席レ苫心喪三年。

【席薦】46 セキセン しとね。むしろ。〔宋史、職官志五〕內柴炭庫、掌二諸薪火一、以給二宮城及宿衞班直軍士薪炭席薦之物一。

【席前】47 セキゼン 座席のまへ。〔宋史、禮志十八〕進二公主席前一北向立。

【席尊】48 セキソン 一座の長老。〔剪燈餘話、瓊奴傳〕席尊有二耕雲者一、沈之族長也。

【席旦】49 セキタン 宋、河南の人。字は晉仲。元豐の進士。吏部侍郞・顯謨閣直學士に累官し、再度、成都府の長官となり、述古殿大學士に至る。〔宋史、三百四十七〕・〔宋史新編、一百十八〕・〔北宋經撫年表、六十・一百十六・一百十七〕。

【席端】50 セキタン 座席のはし。〔儀禮、鄕飮酒禮〕司正升二立于席端一。〔禮、曲禮上、羣居五人則長者必異レ席、疏〕古者地敷二橫席一而容二四人一、四人則推二長者居二席端一、若有二五人會應一、一人別レ席、因推二長者一人于異席一也。

【席地】51 セキチ 地に席す。地にむしろをしく。地上に席をつくる。〔南齊書、豫章文獻王嶷傳〕朔望時節、席二地香火槃水酒脯干飯檳榔一便足。〔唐書、蘇味道傳〕證聖元年、與二張錫一俱坐レ法、繫二司刑獄一、錫雖レ下レ吏、氣象自如、味道獨席レ地飯レ蔬、爲二危惴可レ憐者一。〔薛季宣、酴醿花謝有レ感詩〕當初曾碎浣花春、席レ地棠梨當二錦茵一。

【席寵】52 セキチヨウ 君寵に浴す。他人の榮寵による。席は因る。〔書、畢命〕茲殷庶士、席レ寵惟舊。〔蔡傳〕呂氏曰、殷士憑二藉光寵一、助二發其私欲一者、有二自來一矣。〔漢書、劉向傳〕呂產・呂祿、席二太后之寵一。〔注〕師古曰、席、猶レ因也、言レ若三人之坐二於席一也。〔李嶠、爲二武嗣宗一讓二千牛將軍一表〕叨レ榮席レ寵、荷レ愧承レ羞。

【席珍】53 セキチン ❶珍を陳ねる。上古の聖人の善道をしきならべる。一說に、席上の珍で、儒者の學德に喩へる。席上之珍(31)に同じ。〔文心雕龍、原道〕木鐸起而千里應、席珍流而萬世響。〔唐玄宗、集賢書院成送三張說上二集賢學士一賜レ宴詩〕廣レ學開二書院一、崇レ儒引二席珍一。❷字號。㋑明、張曰韜(**4－9812**··820)の字。㋺明、陳汝瑒(**11－41698**··1007)の字。㋩清、虔禮寶(**9－32686**··39)の字。

【席珍待聘】54 セキチンタイヘイ 上古の聖人の善道をしきならべて聘召を待つこと。〔禮、儒行〕儒有二席上之珍一以待レ聘。

【席亭】55 セキテイ よせ。軍談・落語、其の他諸藝を演じて人をよせ集める所。寄席。

【席篆】56 セキテン 明の人。書の弟。字は材同。正德中、官は戶科給事中。極諫を以て夷陵判官に左遷せられ、世宗が卽位するや、舊官に復せんとしたが、未だ就かずして卒した。〔明史、一百九十七〕・〔萬斯同明史、二百七十七〕・〔明史稿、一百八十三〕。

【席豆】57 セキトウ 祭禮に用ひる器。〔墨子、魯問〕以爲二銘於席豆一、以遺二後世子孫一。

【席囊】58 セキナウ むしろで作ったふくろ。〔南方草木狀、果類〕交趾人以二席囊一貯レ蟻鬻二于市一者、其窠如二薄絮囊一、皆連二枝葉一、蟻在二其中一、幷レ窠而賣、蟻赤黃色、大二於常蟻一、南方柑樹、若無二此蟻一、則其實皆爲二羣蠹所レ傷、無二復一完者一矣。

【席帽】59 セキバウ ❶藤で編んだかぶりもの。〔寒山、詩〕誰知席帽下、元是昔愁人。〔資暇錄、席帽〕永貞之前、組レ藤爲レ蓋曰二席帽一、取二其輕一也。〔釋常談〕載二席帽一、謂二之張蓋一。❷山名。江西省南城縣の東。通志に、南唐、保大の閒、范越鳳が地を擇び、此に帽を置き、因て名づけたと傳へる。〔建昌府志〕席帽山在二縣東五十里一、上銳下闊、若二席帽一然、半山有レ石如二人立一、或曰下南唐保大閒、范越鳳擇二地於此一、寘レ帽因名上。

【席帽山人】60 セキバウサンジン 明、王逢(**7－20823**··974)の自稱。

【席帆】61 セキハン むしろを帆に立てること。むしろぼ。〔王維、送三從弟蕃遊二淮南一詩〕席帆聊問レ罪、卉服盡成レ擒。

【席邊】62 セキヘン 座席のほとり。〔杜甫、章梓州水亭詩〕吏人橋外少、秋水席邊多。

【席末】63（セキマツ） ❶席次のすゑ。座席の末端。末席。〔儀禮、鄕飮酒禮〕席末坐啐レ酒。〔疏〕言二席末一、謂二於席之尾一。❷座席の西。〔禮、鄕飮酒義〕於二席末一、言是席之正、非三專爲二飮食一也、爲レ行レ禮也。〔疏〕於二席末一、謂二席西頭一也。

【席面】64（セキメン） ❶宴會で主人と對席するもの。賓客をいふ。〔容齋五筆、斯須之敬〕今公私宴會、稱下與二主人一對席者上曰二席面一、古者謂二之賓一、謂二之客一。❷hsi^{2} mien^{4} 席上。席閒。其の席で。

【席門】65（セキモン） むしろを門に下げて、戸にかへること。貧家の形容。以レ席爲レ門(89)に同じ。〔史記、陳丞相世家〕家乃負郭窮巷、以二弊席一爲レ門、然門外有二長者車轍一。〔南史、袁粲傳〕席門常掩、三徑裁通。〔高適、行路難〕東陵少年安所レ如、席門窮巷出無レ車。〔書言故事、第宅類〕自稱レ貧曰二席門陋巷一。

【席豫】66（セキヨ） 唐、襄陽の人。河南に徙る。字は建侯。謚は文。進士。吏部侍郎と爲り、天寶中、禮部尙書に陞進す。襄陽縣子に封ぜられた。〔唐書、一百二十八〕・〔舊唐書、一百九十中〕。

【席料】67（セキレウ） 席を貸した賃金。

【越レ席】68（セキヲコユ） しとねをこえる。〔禮、仲尼燕居〕子貢越レ席而對曰、敢問何如。

【改レ席】69（セキヲアラタム） 座席を改める。〔宋書、羊欣傳〕欣嘗詣二領軍將軍謝混一、混拂レ席改レ服、然後見レ之、時混族子靈運在レ坐、退告二族兄瞻一曰、望蔡見二羊欣一、遂易レ衣改レ席、欣由レ此益知レ名。

【割レ席】70（セキヲワカツ） ❶座席を別にする。同席しないこと。〔六帖〕魏管寧與二華歆一同學、歆聞二車馬聲一出レ門、寧割レ席曰、子非二吾友一也。❷席を分ち與へる。

【前レ席】71（セキヲスヽム） 座席を進める。人と熱心に語つて身を乘出すさま。〔史記、賈生傳〕賈生徵見、孝文帝方受レ釐坐二宣室一、上因レ感二鬼神事一、而問二鬼神之本一、賈生因具道下所二以然一之狀上、至二夜半一、文帝前レ席、既罷曰、吾久不レ見二賈生一、自以爲レ過レ之、今不レ及也。〔李商隱、賈生詩〕可レ憐夜半虛前レ席、不レ問二蒼生一問二鬼神一。〔書言故事、延接類〕重待レ人曰二爲レ之前レ席。

【卽レ席】72（セキニツク） 座席に就く。〔日本外史、源氏前記、平氏〕經正幼仕二仁和寺法親王一、云云、謁レ王曰、臣等事已至レ此、願得二一敍レ別而行一、因卽レ席彈二數曲一、王及左右皆垂レ淚。

【逃レ席】73（セキヲノガル） 酒宴の席をはづす。〔本事詩〕連飛二十數觥一、不レ勝二其困一、逃レ席而去。

【撇レ席】74（セキヲハラフ） 衣のすそで席を拂ふ。深い敬意を表はすにいふ。撇は拂ふ。〔史記、孟子荀卿傳〕平原君、側行撇レ席。〔注〕索隱曰、張揖三蒼訓詁云、撇、拂也、謂丁側行而衣撇レ席爲レ敬、不丙敢正坐當乙賓主之禮甲也。

【席啓圖】75（セキケイト） 清、震澤の人。字は文輿。官は內閣中書。著に畜德錄がある。〔國朝耆獻類徵、四百四十七〕・〔四庫提要、一百三十三〕。

【席爾達】76（シルター） 清、滿洲鑲紅旗人。先世、董鄂地方に居り、地を以て姓と爲す。官は康熙の閒、太常寺贊禮郎、尋いで川陝總督となり、後、吏部尙書となる。湖廣苗の亂を平定した。〔碑傳集、十九〕。

【席上錦】77（セキジヤウキン） 清、湖南東安の人。字は承裳。詩畫に巧。相墓術を善くす。著に知素堂集がある。〔國朝耆獻類徵、四百八十四〕。

【席上珍】78（セキジヤウチン） 明、姚安の人。崇禎の擧人。孫可望・李定國等が雲南に入るを聞き、姚州の長官何思と姚安城に據つて固守し、城破れて捕へられたが屈しなかつた。〔明史、二百九十五〕・〔明史稿、二百七十七〕。

【席汝言】79（セキジヨゲン） 宋の人。字は君從。元豐中、尙書司封郎中を以て致仕し、文彥博・富弼等と耆英會を爲り、又、文彥博・程珀・司馬旦と同甲會を爲り、並に司馬光兄弟・王安之・王不疑・楚王叔等と眞率會を爲つた。〔尙友錄、二十三〕。

【席世雅】80（セキセイガ） 北周の人。固の子。字は彥文。孝子。位は大將軍。〔周書、四十四〕。

【席闡文】81（セキセンブン） 梁、臨涇の人。謚は威。齊の衞尉卿。梁の都官尙書、爵は山陽伯。後、湘西侯に改封された。〔梁書、十二〕・〔南史、五十五〕。

【席特庫】82（シトク） ❶清、滿洲鑲藍旗人。又、錫特庫に作る。世〻佟佳に居り、地を以て氏と爲す。太宗の時、屢〻征戰に從ひ、功を建つ。崇德の閒、錦州を圍み、洪承疇が兵十三萬を以て救援に赴くや、大いに之を敗る。順治の閒、關に入り、唐通を破り、山西を平定し、一等男に封爵せられた。〔清史稿、二百四十七〕・〔國朝耆獻類徵、二百六十八〕・〔滿洲名臣列傳、五〕。❷清、滿洲鑲藍旗人。姓は薩克達氏。順治の初、參領を拜命し、尋いで關に入り、陝西より李自成を湖廣に追勦す。二等男に封爵せらる。〔清史稿、二百三十三〕・〔國朝耆獻類徵、二百六十三〕・〔滿洲名臣列傳、八〕。

【席佩蘭】83（セキハイラン） 清、吳縣の人。字は韻芬。號は道華。常熟の孫原湘に嫁す。夫、原湘と與に詩に巧。書室を長眞閣といふ。著に長眞閣詩稿がある。〔清畫家詩史、癸、下〕・〔清代閨閣詩人徵略、六〕・〔國朝詩人徵略二編、五十五〕。

【席寶田】84（セキハウデン） 清、湖南東安の人。字は研薌。同治の閒、李世賢・汪海洋を江西に破り、貴州苗の亂を平定す。官は布政使に至り、太子少保を贈られた。〔清史稿、四百二十六〕・〔清史列傳、六十二〕・〔續碑傳集、三十八〕。

【席法友】85（セキハフイウ） 後魏、安定の人。謚は襄。齊の安豐・新蔡二郡の太守。後、魏に歸して豫州刺史を拜命し、苞信縣伯に封爵せられた。光祿大夫に終る。〔魏書、七十一〕・〔北史、四十五〕。

【席咈布】86（セキホツフ） 棉布の一種。もと咈布といふ。外國輸入のもので、地の紋樣が席布に似てゐるので、席咈布といふ。

【席閒函レ丈】87（セキカンヂヤウヲイル） 相手の席と自分の席との閒を一丈あける。講說の際、師の席を尊び、又、指畫するに足らしめること。函は容れる。〔禮、曲禮上〕若非二飮食之客一、則布レ席、席閒函レ丈。〔注〕函、猶レ容也、講問宜二相對一、容レ丈足二以指畫一也。

【席不レ暇レ暖】88（セキアタヽマルニイトマアラズ） 座席があたたまるひまがない。東西に奔走して一所に安んじるひまがないこと。〔班固、答賓戲〕孔席不レ暖、墨突不レ黔。〔新論、惜時〕仲尼栖栖、突不レ暇レ黔、墨翟遑遑、席不レ及レ煖。〔韓愈、爭臣論〕孔席不レ暇レ暖、墨突不レ得レ黔。

【以レ席爲レ門】89（セキヲモツテモントナス） むしろをかけて門とする。貧家の形容。席門。〔史記、陳丞相世家〕平家乃負郭窮巷、以二弊席一爲レ門、然門外多二長者轍一。

【倚レ席不レ講】90（セキニヨリテカウゼズ） 席に就いてゐるだけで書を講じない。〔後漢書、儒林傳序〕安帝薄二於藝文一、博士倚レ席不レ講、朋徒相視怠散、學舍穨敝、鞠爲二園蔬一。〔注〕倚レ席、言レ不レ施二講坐一也。

【帍】8927 イン
尹(**4－7631**)の古字。〔集韻〕尹、古作レ帍。

【⿱夂巾】8928 イン
尹(**4－7631**)の古字。〔集韻〕尹、古作レ⿱夂巾。

【帯】8929 タイ
帶(**4－8950**)の俗字。〔宋元以來俗字譜〕帶、太平樂府作レ帯。

【帰】8930 キ
歸(**6－16349**)の俗字。〔宋元以來俗字譜〕歸、列女傳作レ帰。

八畫

【⿰巾卑】8931
[一]ヒ 〔集韻〕賓彌切 [支]
[二]ヘキ ビヤク 〔集韻〕毗亦切 [陌]

[一][二]**かんむりの名**。通じて裨(**10－34338**)に作る。〔集韻〕⿰巾卑、冕名、通作レ裨。

【⿰巾或】8932
コク 〔集韻〕忽或切 [職]

巾が風に吹かれる。⿱或巾(**4－8933**)に同じ。〔集韻〕⿱或巾、巾帛被レ風聲、或書作レ⿰巾或。

【⿱或巾】8933 コク 幗（4−8932）に同じ。〔篇海類編〕⿱或巾、同レ幗。

【⿰巾宗】8934 ソウ ズ 〔集韻〕徂宗切 [冬]

❶きぬ。〔玉篇〕⿰巾宗、帛⿰巾宗。❷布の名。〔玉篇〕⿰巾宗、又布名。❸えびすぎぬ。賨（10−36831）に同じ。〔集韻〕賨、說文、南蠻賦也、或从レ巾。

【⿰巾空】8935 コウ ク 〔集韻〕枯公切 [東]

❶てぬぐひ。ふきん。〔玉篇〕⿰巾空、巾也。❷たもと。〔集韻〕⿰巾空、袂謂二之⿰巾空一。

【⿰巾昌】8936 シヤウ 裮（10−34348）に同じ。〔集韻〕裮、或从レ巾。

【⿰巾卒】8937 🈩サイ スイ 〔集韻〕祖對切 [隊] 🈔サイ 〔集韻〕祖外切 [泰]

🈩🈔あやぎぬ。五色のきぬ。綷（12−4825
3）に同じ。〔集韻〕綷、說文、五采繒色也、或作レ⿰巾卒。

【帲】8938 🈩ヘイ ヒヤウ 〔集韻〕必郢切 [梗] 🈔ヘイ ビヤウ 〔集韻〕旁經切 [靑] ㄆㄧㄥˊ p'ing² 🈪ハウ ヒヤウ 〔韻會〕悲萌切 [庚]

🈩🈔🈪❶おほふ。〔廣雅、釋詁一〕帲、覆也。❷おほひ。〔集韻〕帲、覆蓋也、楊子、夏屋之爲二覆蓋一。❸とばり。〔韻會〕帲、幄也、楊子、夏屋之帲幪、注、在レ旁曰レ帲、在レ上曰レ幪。❸庰（4−9349）に同じ。〔集韻〕庰、或从レ巾。

【帲覆】1 ヘイフ おほひ。保護。庇護。〔長生殿、尸解〕更斷魂落魄蒙二帲覆一。

【帲幪】2 ヘイモウ ❶とばり。覆庇。旁に在るを帲、上にあるを幪といふ。〔法言、吾子〕震風凌雨、然後知三夏屋爲二帲幪一。〔羅袞、謝二江陵借宅一啓〕念二揚雄之風雨一、須レ託二帲幪一。〔剪燈餘話、月夜彈レ琴記〕獲二燕雀之帲幪一、鬼有レ所レ歸。❷おかげ。〔書言故事、托庇類〕遠荷二帲幪一。〔福惠全書、筮仕部、四六小啓式〕已戴二帲幪一、感レ恩偕二秋氣一。

【帳】8939 チヤウ 〔集韻〕知亮切 [漾] ㄓㄤˋ chang⁴

小篆

❶とばり。牀を垂れ覆ふまく。〔說文〕帳、張也、从レ巾長聲。〔爾雅、釋訓〕幬謂二之帳一。〔釋名、釋牀帳〕帳、張也、張二施於牀上一也。❷まんまく。〔班固、東都賦〕供帳置二乎雲龍之庭一。〔注〕善曰、張晏曰、帳、帷帳也。❸陳幕。〔史記、袁盎傳、以レ刀決二張道一、〔注〕索隱曰、案、帳、軍幕也。❹まくを張り、隱蔽した葬りどころ。〔正字通〕帳、喪帳曰二繐帳一。〔後漢書、申屠蟠傳〕會二帳下一。〔注〕帳下、葬處。❺はり。とばり・まくなどを數へる數詞。〔正字通〕帳、會二計事物之數一曰レ帳。〔左氏、昭、十三〕帳幕九帳。❻ちやうめん。簿帳。〔韻學集成〕今俗謂二簿帳一。〔唐書、百官志〕籍帳隱沒。〔通俗編、貨財、帳〕按、幃帳曰レ帳、而計簿亦曰レ帳者、運籌必在二幃幄中一也、今市井或造二賬字一用レ之、諸字書中皆未レ見。〔陔餘叢考、帳〕賬簿、古人作二帳字一。❼通じて張（4−9812）に作る。〔正字通〕帳、通作レ張。〔史記、高祖紀、復畱止、張飮三日、〔注〕集解曰、張晏曰、張、帷帳。

名乘 ハル。

【帳幄】1 チヤウアク まく。あげばり。帳帷。〔後漢書、臧洪傳〕每登レ城臨レ兵、視二主人之旗鼓一、瞻二望帳幄一、感二故友之周旋一、撫レ弦搦レ矢、不レ覺二涕流之覆一レ面也。〔神仙傳〕青縑帳幄、下鋪二白氈一。〔事物紀原、舟車帷幄部、帳幄〕周官幕人掌二帷幕幄帟綬之事一、注云、四合象二宮室一曰レ幄、王所レ居帳也、則帳幄當二周制一也、左傳有二子我有レ幄、又衞侯爲二虎幄一、皆周事云、又所レ寢之幄、謂二之帳一者、黃帝內傳曰、王母爲レ帝、設二九眞十絕妙帳一、此疑帳之起也、漢武帝作二甲乙武帳一、蓋因レ此耳。

【帳扆】2 チヤウイ とばりとついたて。〔北史、邢巒傳〕至下乃以二紙絹一爲二帳扆一、銅鐵爲中轡勒上、訓二朝廷一以二節儉一、示二百姓一以二憂矜一。

【帳帷】3 チヤウヰ とばり。〔後漢書、宣秉傳〕秉性節約、常服二布被一、蔬食瓦器、帝嘗幸二其府舍一、見而歎曰、楚國二龔、不レ如二雲陽宣巨公一、卽賜二布帛帳帷什物一。

【帳飮】4 チヤウイン 郊野に帷帳を張つて餞別の酒宴をすること。送別會。帳餞。餞別。張飮に同じ。〔晉書、石崇傳〕崇有二別館一、在二河陽之金谷一、送者傾レ都、帳二飮於此一焉。〔江淹、別賦〕帳二飮東都一、送二客金谷一。〔王維、觀二別者一詩〕都門帳飮畢、從レ此謝二賓親一。

【帳影】5 チヤウエイ とばりのかげ。〔元稹、秋相望詩〕爐暗燈光短、牀空帳影深。〔杜牧、題二青雲館一詩〕雲連二帳影一蘿陰合、枕遶二泉聲一客夢涼。

【帳帟】6 チヤウエキ 帳とひらとばり。〔唐書、百官志三〕守宮署令掌レ供二帳帟一。

【帳下】7 チヤウカ ❶とばりの下。〔禮、王制〕六十宿レ肉、〔疏〕轉老故恒宿肉在二帳下一、不レ使二求而不一レ得也。❷大將軍の居。幕下。旗下。〔史記、樊噲傳〕樊噲在二營外一、聞二事急一、乃持二鐵盾一入到レ營、營衞止レ噲、噲直撞入立二帳下一。〔漢書、周亞夫傳〕夜軍中驚、內相攻擊、擾亂至二於帳下一、亞夫堅臥不レ起、頃之復定。〔後漢書、申屠蟠傳〕太尉黃瓊辟不レ就、及二瓊卒一、歸二葬江夏一、四方名豪會二帳下一者六七千人、互相談論、莫レ有二及レ蟠者一。〔注〕帳下、葬處。〔魏志、典韋傳〕韋好持三大雙戟與二長刀等一、軍中爲二之語一曰、帳下壯士有二典君一、提二一雙戟八十斤一。〔高適、燕歌行〕戰士軍前半死生、美人帳下猶歌舞。❸字解の❹を見よ。

【帳下兒】8 チヤウカノジ 兵卒。旗下の兵士。〔吳志、張昭傳、注〕典略曰、余曩聞、劉荊州嘗自作レ書、欲レ與二孫伯符一、以示二禰正平一、正平嗤レ之言、如レ是爲レ欲レ使二孫策帳下兒讀一レ之邪、將レ使二張子布見一乎。

【帳下督】9 チヤウカノトク 將校。幕下に在つて兵卒を監督する者。〔晉書、王恭傳〕遣下牢之率二帳下督顏延一、先據中竹里上。

【帳下吏】10 チヤウカノリ 三國時代の官名。軍吏。軍營中、帳幕を張り、其の中にゐて、軍中の會計を掌る。〔魏志、樂進傳〕進字文謙、容貌短小、以二膽烈一從二太祖一、爲二帳下吏一。

【帳尻】11 チヤウジリ 帳面の結末。決算の結果。〔新永代藏、六〕店卸しの帳じり面白くなつてくるより、いよいよ心まめまめしく。

【帳額】12 チヤウガク ❶とばりのかざり。帳簷。〔盧昭鄰、長安古意〕生憎帳額繡二孤鸞一、好取開レ簾帖二雙燕一。❷帳簿の金額。

【帳合】13 チヤウアヒ 帳面と實際を照合して、計算の正否を調べること。〔浮世床、二下〕娘を張りに往つて、他家の帳合までしてやつたり。

【帳御】14 チヤウギヨ とばりと衣類。帷帳と服御。〔史記、黥布傳〕帳御・飮食・從官。

【帳衾】15 チヤウキン とばりと寢臥の衣被。〔風俗通、愆禮〕訖當卽二其帳衾一、問二勞子琰一。

【張具】16 チヤウグ とばりをそなへる。〔史記、武安侯傳〕夜灑埽、早張具至レ旦。〔唐書、百官志一〕皇親三等以上喪、擧レ哀、有司張具給食。

【帳外】17 チヤウグワイ ❶とばりのそと。〔後漢書、列女、袁隗妻傳〕隗默然不レ能レ屈、帳外聽者爲レ慙。〔溫庭筠、敕勒歌〕帳外風飄レ雪、營前月照レ沙。❷張面の記載以外のこと、又そのもの。

【帳外者】18 チヤウグワイモノ 人別帳に記名のないもの。浮浪人。

【帳元】19 チヤウモト 興行物などで其の勘定の取締を

する人。又、其の所。

【帳後】20（チヤウゴ） とばりのうしろ。〔元史、王玉汝傳〕夜靜哭㆓於楚材帳後㆒、明日召問㆓其故㆒。

【帳鉤】21（チヤウコウ） 帳の掛がね。〔南齊書、崔祖思傳〕劉備取㆓帳鉤銅㆒、鑄㆑錢以充㆓國用㆒。

【帳⿰金冓】22（チヤウコウ） とばりの掛がね。⿰金冓は鉤。〔西京雜記、六〕廣川王去疾、云云、亦石扉關鑰得㆓石牀方七尺、石屛風銅帳⿰金冓一具㆒。〔宋書、禮志五〕平乘舫不㆑得㆓擬像㆒、龍舟悉不㆑得㆓朱油㆒、帳⿰金冓不㆑得㆑作㆓五花及豎筍形㆒。

【帳簀】23（チヤウサク） まくばりのゆかだな。〔唐書、禮樂志四〕祓㆓拭帳簀㆒、進㆓太牢之饌㆒。

【帳子】24 chang⁴ tzŭ 蚊帳。かや。

【帳司】25（チヤウシ） 官名。宋、提擧帳司を置く。會計を掌る。〔宋史、蒲宗孟傳〕新置㆓提擧帳司官㆒、祿豐地要、人人欲㆑得㆑之。

【帳室】26（チヤウシツ） 幕をはりめぐらした室。〔唐書、吐谷渾傳〕隨㆓水草㆒、帳室肉糧。

【帳集】27（チヤウシフ） とばりをめぐらして集る。〔沈約、前緩聲歌〕羽人廣宵宴、帳集瑤池東。

【帳宿】28（チヤウシユク） まくばりの宿所。〔賀知章、奉㆔和聖製送㆓張說巡邊㆒詩〕帳宿伊川右、鉦傳晉苑東。

【帳所】29（チヤウシヨ） とばりのある所。〔漢書、昌邑王賀傳〕昌邑帳在㆓是闕外馳道北㆒、未㆑至㆓帳所㆒。

【帳小】30（チヤウセウ） とばりが小さい。小さいとばり。〔白居易、雪夜對㆑酒招㆑客詩〕帳小靑氈暖、盃香綠蟻新。

【帳消】31（チヤウケシ） ❶帳簿の記載事項を、其の事の結了後に消すこと。債務の消滅すること。ぼうびき。❷義務・報酬などの全く濟んだこと。❸差引いて殘のないこと。

〔帳消法〕32（チヤウケシハフ） 信用取引の一つ。賣買關係者が、其の都度金錢の授受をしないで、或期間後に雙方立合ひ、帳簿を引合せて貸借を差引き、殘高だけを授受すること。

【帳籍】33（チヤウセキ） 戶籍登記の帳簿。〔唐書、百官志〕戶部郎中員外郎、掌㆓戶口田土賦役貢獻蠲免優復姻婚繼嗣之事㆒、以㆓男女之黃小中丁老㆒爲㆓之帳籍㆒。

【帳前】34（チヤウゼン） とばりの前。〔何遜、爲㆓衡山侯㆒與㆑婦書〕雖㆓帳前微笑㆒、涉想猶存、而幄裏餘香、從㆑風且歇。〔唐書、王栖曜傳〕晨朝矢集㆓帳前㆒、驚曰、江淮弩士入矣。〔宋史、吳玠傳〕卽授㆓統制㆒、弟璘掌㆓帳前親兵㆒。

【帳臺】35（チヤウダイ） ❶昔、室內に一段高く臺を設けて、其の四隅に几帳を垂れた處。貴人の寢所に用ひた。❷濱床（7－18537‥17）に同じ。〔殿曆、嘉承三年七月二十五日〕件御帳不㆑立㆓帳臺㆒。

【帳單】36（チヤウタン） 賣主が買主に要求する付款の通知書。

【帳暖】38（チヤウダン） とばりがあたたかい。〔白居易、洛下雪中宴集詩〕碧氈帳暖梅花濕、紅燎爐香竹葉春。〔李賀、感諷詩〕人間春蕩蕩、帳暖香揚揚。

【帳頂】39（チヤウチヤウ） とばりの上部。〔宋史、范純仁傳〕晝夜肆㆑業、至㆓夜分㆒不㆑寢、置㆓燈帳中㆒、帳頂如㆓墨色㆒。

【帳場】40（チヤウバ） 商店などで、勘定又は帳附をする處。

【帳中】41（チヤウチユウ） とばりの中。帳裏。〔史記、項羽紀〕項王則夜起飮㆓帳中㆒。〔史記、汲黯傳〕上不㆑冠、望㆓見黯㆒避㆓帳中㆒、使㆔人可㆓其奏㆒。

〔帳中香〕42（チヤウチユウカウ） 書名。二十一卷。釋萬里撰。宋の黃庭堅の詩を詳注したもの。〔古芸餘香〕。

【帳天】43（チヤウテン） とばりのかざり。帳額。〔海棠譜〕南人謂㆓帳額㆒曰㆓帳天㆒。

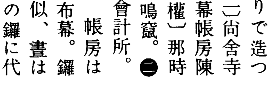
【帳殿】44（チヤウデン） 帳で造った宮殿。〔庾信、三月三日華林園馬射賦序〕止㆓立行宮㆒、裁㆓舒帳殿㆒。〔宋之問、奉㆔和晦日幸㆓昆明池㆒應制詩〕春豫靈池會、滄波帳殿開。〔宋之問、扈㆓從登封㆒途中作詩〕帳殿鬱崔嵬、仙遊實壯哉。

【帳內】45（チヤウナイ） ❶とばりのうち。〔南齊書、紀僧眞傳〕上出頓㆓新亭㆒、使㆘僧眞領㆓千人㆒在㆗帳內㆖。〔庾信、周上柱國云云普屯威神道碑〕自㆑此卽居㆓帳內㆒、仍爲㆓直寢㆒。❷（チヤウダイ） 昔、防衞・驅使の用として親王家に奉仕した職員。おほどねり。家扶・かきやく等の下に位する。一品には百六十人、二品には百四十人、三品には百二十人、四品には百人。

【帳棚】46 chang⁴ p'êng 幕はりの圍。幕はりの小屋。天幕。

【帳房】47（チヤウバウ） ❶とばりで造った室。〔元史、百官志三〕尙舍寺秩正四品、掌㆓行在帷幕帳房陳設之事㆒。〔長生殿、賄權〕那時光滿㆓帳房㆒、鳥獸盡都鳴竄。❷ chang⁴ fang² 帳場。會計所。

〔帳房鑼鍋〕48（チヤウバウラクワ） 帳房は軍士が居るところの布幕。鑼鍋は銅製で形は鍋に似、晝は飯を炊き、夜は巡警の鑼に代用するもの。〔六部成語、兵部、帳房鑼鍋、注解〕軍士所㆑居之布幕曰㆓帳房㆒、鑼鍋、以㆑銅爲㆑之、形似㆑鍋、白晝用以炊㆑飯、晩間以代㆓巡警之鑼㆒而擊㆑之、古所謂刁斗也。



帳　房　❶（清會典圖）

【帳幕】49（チヤウバク） まく。帳幄。〔雍陶、贈㆓金河戍客㆒詩〕戍遠旌旛少、年深帳幕低。〔姚合、送㆔狄尙書鎭㆓太原㆒詩〕遠戎移㆓帳幕㆒、高鳥避㆓旌旃㆒。〔宋史、竇神寶傳〕李繼遷入寇與㆓慕容德豐㆒襲㆓破其堡砦㆒、焚㆓帳幕㆒、獲㆓人畜數萬計㆒。〔大業雜記〕平乘五百艘、青龍五百艘、艨艟五百艘、八櫂舸二百艘、舴艋舸二百艘、並十二衞兵所㆑乘、幷載㆓兵器帳幕㆒。〔事物紀原、舟車帷幄部、帳幕〕帳幕、幕人注云、在㆑旁曰㆑帷、在㆑上曰㆑幕、皆以㆑布爲㆑之、說文亦云、然則帷幕亦周制也、歸藏曰、女媧張㆓雲幕㆒而枚㆓占神明㆒、雖㆔女媧之世有㆓幕之名㆒、而其物之興、當㆓自㆑周始㆒也。

【帳附】50（チヤウヅケ） 帳面に記入すること。又、其の人。〔勸農固本錄、下〕帳附は算筆達者にて魂氣強く、年四十以下吉し。

【帳福】51（チヤウフク） まく。とばり。〔韻府引、陸游、詩〕帳福如㆓春煙㆒。

【帳簿】52（チヤウボ） ❶會計の帳面。計簿。俗に賬簿に作る。〔唐書、百官志〕句㆓會功課及畜養帳簿㆒。❷帳面に同じ。

【帳幔】53（チヤウマン） とばりとまく。〔後漢書、董卓傳〕公卿已下祖㆓道於橫門外㆒、卓施㆓帳幔㆒飮設。〔吳志、士燮傳〕明旦早施㆓帳幔㆒。〔市肆記〕帳幔茵褥、多用㆓錦綺㆒。

【帳面】54（チヤウメン） ちやうづらの音讀。かきつけのおもて。帳簿の上。轉じて、かきつけの綴ぢ本。帳簿。また特に會計簿。大福帳。〔平家女護島、二〕御帳面の流人との喧嘩、落居の首尾を見屆けて言上する。

〔帳面方〕55（チヤウメンガタ） 帳面の記載・整理をする人。

【帳目】56（チヤウモク） 會計簿。〔名義考〕今俗謂㆓簿籍㆒曰㆓帳目㆒。

【帳門】57（チヤウモン） 帳でつくった門。〔曹唐、小遊仙詩〕嬪妃久立帳門外、暗笑夫人推㆑酒聲。

【帳落】58（チヤウラク） 游牧の部落。〔宋史、蔣偕傳〕擒㆓酋豪㆒、焚㆓帳落㆒、獲㆓馬牛羊千計㆒。

【帳裏】59（チヤウリ） とばりのうち。〔梁昭明太子、錦帶書十二月啓、林鍾六月〕螢飛㆓腐草㆒、光浮㆓帳裏之書㆒、蟬歎㆓繁柯㆒、影入㆓機中之髩㆒。〔徐陵、玉臺新詠序〕青牛帳裏、餘曲旣終、朱鳥窗前、新妝已竟。〔庾信、擬連珠〕蓋聞無㆑怨㆓生離㆒、恩情中絕、空思㆓出水之蓮㆒、無㆓復迴風之雪㆒、是以樓中對㆑酒、而綠珠前去、帳裏悲歌、而虞姬永別。

【帳略】60（チヤウリヤク） 帳簿の大要。大體の損益。

【帳簞笥】61（チヤウダンス） 主として帳簿類を入れておく小形の簞笥。

【⿰巾松】8940

シヨウ

幒（4－9043）に同じ。〔說文〕幒、⿰巾松、幒或从㆑松。

【⿰巾谷】8941

シヨウ

⿰巾松（4－8940）に同じ。〔說文長箋〕⿰巾谷、同㆑⿰巾松。

【⿰巾玆】8942

ケン　ゲン　〔集韻〕胡千切　先

小篆

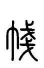
漢の⿰巾玆縣の地に產する布。〔說文〕⿰巾玆、⿰巾玆布也、出㆓東萊㆒、从㆑巾弦聲。〔段注〕地理志・郡國志、東萊郡皆有㆓⿰巾玆縣㆒、蓋以㆑布得㆑名也。

【⿰巾玆縣】1（ケンケン） 縣名。漢、置く。故城は山東省黃縣の西南。晉書地理志・魏書地形志は、⿰忄玆に作り、宋書州郡志は、⿰扌玆に作る。〔讀史方輿紀要、山東、登州府、黃縣〕⿰巾玆城、縣南百二十里、漢⿰巾玆縣、屬㆓

東萊郡一、𢃔音堅、後漢及魏晉因レ之、晉惠帝永興三年、東萊𢃔令劉伯根反、自稱二𢃔公一、進寇二臨淄一、敗二青州兵一、幽州都督王浚、遣レ兵討斬レ之、劉宋仍屬二東萊郡一、後魏改屬二東牟郡一、高齊廢入二黃縣一。

【帴】8943

［一］サツ セチ 〔集韻〕山戛切 ［黠］
［二］サン ザン 〔集韻〕財干切 ［寒］
［三］セン 〔集韻〕私箭切 ［霰］
［四］セン 〔集韻〕將先切 ［先］
［五］セン 〔集韻〕子淺切 ［銑］
［六］サン 〔集韻〕先旰切 ［翰］
［七］サイ 〔五音集韻〕所戒切 ［卦］
［八］セン 〔集韻〕變玷切 ［琰］


小篆

［一］［二］［三］❶**えりあて。**かたぎぬ。〔說文〕帴、帬也、从レ巾戔聲、讀若二末殺之殺一。❷**一幅の巾。**〔說文〕帴、一曰、帗也。❸**むなかけ。**〔說文〕帴、一曰、婦人脅衣。［四］❶**むつき。**しめし。〔廣韻〕帴、小兒藉也。❷**くらかけ。**鞍韉。韉(**12−43089**)に通ず。〔正字通〕帴、與レ韉同。〔晉書、張方傳〕於レ是軍人便亂二入宮閤一、爭割二流蘇武帳一而爲二馬帴一。［五］❶**えりあて。**［一］の❶に同じ。〔集韻〕帴、帬也。❷**むつき。**〔集韻〕帴、褓也。❸**せまい。**〔周禮、考工記、鮑人〕則是以レ博爲レ帴也。〔注〕謂二以レ廣爲レ狹也。❹**あさい。**淺(**7−17697**)に通ず。〔說文通訓定聲〕帴、叚借爲レ淺、考工記鮑人、以レ博爲レ帴。［六］❶**むつき。**しめし。〔廣雅、釋器〕帴、褯也。❷**二幅の帛。**〔集韻〕帴、帛二幅爲レ帴。❸**えりあて。**［一］の❶に同じ。〔集韻〕帴、一曰、帬也。❹**むなかけ。**［一］の❸に同じ。〔集韻〕帴、一曰、婦人脅巾名。［七］**よぎ。**〔五音集韻〕帴、被也。［八］**もすそ。**〔集韻〕帴、帬幅也。

【𢃇】8944

セン 〔集韻〕處占切 ［鹽］

車のおほひ。幨(**4−9103**)・裧(**10−34336**)に同じ。〔玉篇〕𢃇、車幨也、或作レ裧。〔集韻〕幨、車幨、山東謂二之常幃一、一曰、潼容、或作レ𢃇。

【𢃤】8945

カフ ケフ 〔集韻〕乞洽切 ［洽］

きぬのかぶりもの。帢(**4−8880**)に同じ。〔玉篇〕𢃤、帽也、絹幘也。〔集韻〕帢、或作レ𢃤。〔晉書、輿服志〕漢儀、立秋日、獵服二緗幘一、及二江左哀帝一、從二博士曹弘之等議一、立秋御讀、令三改用二素白𢃤一。

［参考］幍(**4−9023**)は別字。〔康熙字典、辨似〕二字相似、𢃤、音埳、士之帽。幍、音叨、亦士帽。

【𢃳】8946

タフ トフ 〔集韻〕達合切 ［合］

とばり。〔集韻〕𢃳、帳上覆、謂二之𢃳一。

【㡌】8947

チウ

幬(**4−9127**)に同じ。〔玉篇〕㡌、同レ幬。

【㡄】8948

カン ゴン 〔集韻〕戶感切 ［感］

耳をふさぐ巾。或は𧛔(**10−34345**)に作る。〔玉篇〕㡄、壅耳也、或作レ𧛔。〔集韻〕㡄、或从レ衣。

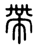
【帵】8949

［一］ワン 〔集韻〕烏丸切 ［寒］
［二］エン ヲン 〔集韻〕於袁切 ［元］

［一］［二］**たちあまりのきれ。**〔廣韻〕帵、帵子、裁餘。〔集韻〕帵、裁餘曰レ帵。〔正字通〕帵、今采帛鋪謂二剪截之餘一曰二帵子一。〔容齋五筆、俗語有レ出〕綵帛鋪謂二剪裁之餘一曰二帵子一、帵、一懽切、注、裁餘也。

【帶】8950

タイ 〔集韻〕當蓋切 ［泰］ ㄉㄞˋ tai⁴


小篆

❶**おび。**㋑衣服をおさへる腰の上のまとひ。〔說文〕帶、紳也、男子鞶帶、婦人帶絲、象二繫レ佩之形一、佩必有レ巾、从二重巾一。〔釋名、釋衣服〕帶、蔕也、著二於衣一、如二物之繫蔕一也。〔詩、衞風、有狐〕之子無レ帶。〔傳〕帶、所三以申二束衣一。〔禮、少儀〕葛經而麻帶。〔注〕帶、所二以自結束一也。㋺物のまはりを卷きめぐるもの。〔周禮、考工記、梟氏〕鐘帶謂二之篆一。〔注〕帶、所三以介二其名一也。❷**おびる。**㋑おびする。腰にさげる。〔史記、秦紀〕令二吏初帶レ劍。㋩身にそへる。〔禮、月令〕帶以二弓韣一。㋥もつ。ふくむ。〔孔稚珪、北山移文〕風雲悽其帶レ憤。〔杜甫、別二贊上人一詩〕頗帶二憔悴色一。㋭まとふ。まきつける。〔丘遲、永嘉郡表〕控二帶山海一。❸**めぐる。**〔蜀志、諸葛亮傳評、注〕蜀記曰、云云、三二分我九鼎一、跨二帶我邊荒一。❹**まつはる。からむ。**〔梁簡文帝、對燭賦〕銅芝抱帶復纏レ柯。❺**かざる。**〔王褒、洞簫賦〕帶以二象牙一。〔注〕善曰、帶、猶レ飾也。❻**すぢ。**〔沈約、會レ圃臨二東風一詩〕搖二綠帶一抗二紫莖一。〔李賀、昌谷詩〕溪灣轉二水帶一。❼**へび。**帶形のもの。〔莊子、齊物論〕蝍且甘レ帶。〔釋文〕帶、崔云、蛇也、司馬云、小蛇也。❽**へた。**蔕(**9−31789**)に通ず。〔蘇軾、西湖秋涸東池魚窘甚因會レ客呼二網師一遷二之西池一爲二一笑之樂一詩〕舞潤搖深吹二荇帶一。❾**行く。**遰(**11−39090**)に通ず。〔說文通訓定聲〕帶、叚借爲レ遰。〔方言、十三〕帶、行也。〔錢繹箋疏〕王氏懷祖云、帶、當二讀爲レ遰、說文、遰、去也、夏小正、九月遰二鴻雁一、傳云、遰、往也、去・往皆行也、史記屈原傳、鳳漂漂其高遰兮、漢書作レ逝、逝亦行也、帶・遰・逝、古聲並相近。❿通じて帶(**4−8929**)に作る。〔集韻〕帶、通作レ帶。⓫**姓。**〔萬姓統譜〕帶、見二姓苑一。⓬［現］㋑閉ぢる。㋺ためらふ。㋩地球表面の區分の名。㋥一稜に平行した結晶面の集合。㋭あたり。一帶。

［名乘］ ヨ。

［解字］ 象形。卌と巿との合字。卌は纏はれる物に佩物の懸け垂らされてゐる形、巿は佩巾の重なれるを表はす。故に、帶は佩物佩巾を懸け垂れるもの、卽ち「おび」を意味す。

【帶圍】1 タイヰ 帶のまはり。減二帶圍一を見よ。

【減二帶圍一】2 タイヰヲゲンズ 帶まはりがへる。轉じて、瘦せ衰へることをいふ。〔列女傳、母儀、魏芒慈母傳〕前妻中子、犯二魏王令一當レ死、慈母憂慼悲哀、帶圍減レ尺。〔陳傳良、聞二沈元誠歸レ自二臨漳一喜而奉寄詩〕吏事生二衣垢一、家山減二帶圍一。

【帶雨】3 タイウ 雨を帶びる。雨にうたれる。〔王維、送三方尊師歸二嵩山一詩〕瀑布杉松常帶レ雨、夕陽彩翠忽成レ嵐。〔劉長卿、過二鸚鵡洲王處士別業一詩〕古柳依レ沙發、春苗帶レ雨鉏。〔杜牧、憶レ遊二朱坡一詩〕帶レ雨經二荷沼一、盤レ煙下二竹邨一。

【帶緣】4 タイエン 帶のふちのかざり。〔儀禮、喪服傳〕帶緣各視二其冠一。〔管子、立政〕士止二于帶緣一。〔纂

詁〕緣、純也、唯帶純用レ文。

【帶河】5 タイカ 河を帶びる。河をめぐらす。〔越絕書、越絕荆平王內傳〕被レ山帶レ河、其民重移。〔漢書、高帝紀下〕帶レ河阻レ山、縣二隔千里一、持戟百萬、秦得二百二一焉。〔後漢書、杜篤傳〕或據レ山帶レ河、幷二吞六國一。

【帶段】6 タイカ 春秋、鄭の駟帶と公孫段とをいふ。〔論衡、死僞〕禍繁二於帶段一。

【帶芥】7 タイカイ 小さいとげ。蔕芥。〔漢書、賈誼傳〕細故帶芥、何足二以疑一。〔注〕師古曰、帶芥、小鯁也。

【帶海】8 タイカイ 海を帶びる。海をひかへる。〔水經、浪水注〕負レ山帶レ海、博敞渺目。

【帶江】9 タイカウ 江を帶びる。水流をめぐらす。〔南史、謝靈運傳〕傍レ山帶レ江、盡二幽居之美一。

【帶耗】10 タイカウ 明律で、官鹽の輸送に當り、二百斤を一袋帶とし、其の一袋帶毎に生ずる目減りを稱して帶耗といふ。〔明律 戶律、課程、鹽法〕凡起二運官鹽一、每レ引二百斤爲二一袋帶一、帶耗五斤。

【帶甲】11 タイカフ よろひを着けた將士。甲士。〔戰國、齊策〕齊地方二千里、帶甲數十萬、粟如二丘山一。〔孫子、作戰〕帶甲十萬、千里饋レ糧。〔史記、蘇秦傳〕地方二千餘里、帶甲數十萬。〔漢書、徐樂傳〕帶甲數千萬、威足三以嚴二其境內一。〔杜甫、送レ遠詩〕帶甲滿二天地一、胡爲君遠行。

【帶甲剩員】12 タイカフジヨウヰン 宋代、剩員の中で強壯なほ用ふべき者に武裝せしめて有事の際に備へたものをいふ。〔事物紀原、軍伍名額部、帶甲剩員〕帶甲剩員、大中祥符五年八月、詔二河東諸州軍一、昨簡隸二剩員一者、如聞三尙多二強壯一、可下併爲二帶甲剩員一、以備中給使上。

【帶看】13 タイカン ためしにする。〔福惠全書、錢穀部、拆貯〕每封帶二看銀色一、置二銀筐內一。

【帶去】14 tai^4 ch'ü^4 ❶携帶してゆく。❷引致する。

【帶魚】15 タイギヨ ❶魚をおびる。魚は官吏の身におびるもので、魚形のおびもの。魚袋(**12**－**45956**‥173)を見よ。〔舊唐書、則天皇后紀〕垂拱二年、令下都督刺史並準二京官一帶上レ魚。❷tai^4 yü^2 魚の名。海中に產し、其の狀は帶のやうで鱗はなく、背は淡青で腹は白い。太刀魚。

【帶金】16 タイキン おびがね。劍を帶びるに其の紐を結びつけるため鞘につける鐶。佩金。〔唐書、食貨志二〕初德宗居二奉天一、儲畜空窘、嘗遣レ卒視レ賊、以二苦寒一乞二襦袴一、帝不レ能レ致、剔二親王帶金一而鬻レ之。

【帶區】17 タイク 交番又は警察署へ連れて行くこと。

【帶花】18 タイクワ 花をおびる。〔張謂、讌二鄭伯璵宅一詩〕曉風催レ鳥轉、春雪帶レ花飛。

【帶花兒】19 tai^4 hua^1 êrh 模樣のついた。

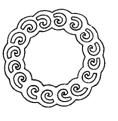
【帶囘】20 タイクワイ 持ちかへる。つれてかへる。携へて歸る。〔福惠全書、刑名部、人命上、檢驗〕檢官判日硃封帶囘。

【帶囘來】21 tai^4 huei^2 lai 携へて歸る。

【帶郭】22 タイクワク 郭にそうた所。まちはづれ。城下。〔史記、貨殖傳〕名國萬家之城、帶郭千畝。

【帶管】23 タイクワン 兼任。かねつとめる。〔福惠全書、錢穀部、解給〕如本縣帶管、則管驛兵書馬牌、具レ領支給。

【帶環】24 タイクワン 朝服の帶につける輪だま。〔古玉圖譜〕古玉連雲如意帶環・古玉蚩尤帶環・古玉如意連雲帶環・古玉團鳳帶環・古玉蟠雲帶環・古玉瑞草帶環。



漢玉如意帶環（古玉圖譜）

【帶勳】25 タイクン ❶勳章を佩用する。❷勳位を有する。

【帶下】26 タイゲ こしけ。婦人病の一種。白帶下。〔素問、骨空論〕任脈爲レ病、女子帶下瘕聚。〔脈經、脈證〕師曰、帶下有二三門一、一曰二胞門一、二曰二龍門一、三曰二玉門一、已產屬二胞門一、未レ產屬二龍門一、未レ嫁女屬二玉門一。

【帶下醫】27 タイゲノイ 婦人科の醫師。婦人の腰帶以下經血の病を帶下といふ。〔史記、扁鵲傳〕扁鵲名聞二天下一、過二邯鄲一、聞レ貴二婦人一、卽爲二帶下醫一。

【帶經】29 タイケイ 經を帶びる。經書を携へ持つ。〔漢書、兒寬傳〕時行二賃作一、帶レ經而鉏、休息輒讀誦、其精如レ此。〔魏志、常林傳、注〕魏略曰、林少單貧、云云、性好レ學、漢末爲二諸生一、帶レ經耕鉏、其妻常自饋二餉之一。〔顏氏家訓、勉學〕鋤則帶レ經、牧則編レ簡。〔稽含集〕晝則負レ筆而耨、昏則帶レ經而息。

【帶經堂】30 タイケイダウ 清、王士禛(**7**－**20823**‥1516)の室名。〔國朝先正事略、名臣、王文簡公事略〕賜二御書帶經堂信古齋匾額各一一。

【帶經堂詩話】31 タイケイダウシワ 書名。三十卷。清、王士禛撰。漁洋文十四卷以下十七種の中から詩に關する論評談話を集めたもの。其の內容は、(綜論)源流・體裁・品藻・推較・摘瑕・評駁の六類、(縣解)佇興・入神・要旨・眞訣・微喩・清言の六類、(總集)纂輯・刪訂・序論・題識・家學・自述の六類、(衆妙)標擧・指數・合作・佳句・賦物・押韻の六類、(考證)典制・遺蹟・氏籍・品誼・襲故・近似・句意・字義・音訓・名物・注家・用事・稱謂・異同・辨析・校勘の十六類、(記載)節義・棲隱・博雅・武人・閨閣・禪林・蒐逸・采風・古器・書畫・譬悟・裁正・破邪・軼聞・韻事・異徵の十六類、(叢譚)俗砭・笑枋・詼諧・瑣綴の四類、(外紀)答問・評杜の二類に分つ。又、別に卷首一卷があつて御筆・應制の二類に分ち、士禛が在官當時見聞した御製の詩、及び諸臣應制の記事を輯めてゐる。節錄した諸條には必ず皆本書の名を標し、前後の文と關係あるものは、別に附錄と細書して之を錄す。士禛は詩を說くに神韻を以て宗旨とし、又、古詩に平仄が有ることを說いた。其の論は唐の司空圖に源を發し、肯綮に當つた說が多い。清史稿、藝文志に著錄せられる。

【帶經堂全集】32 タイケイダウゼンシフ 書名。九十二卷。清、王士禛撰。清史稿、藝文志に著錄せられる。

【帶玦】33 タイケツ おびだま。玦は環のやうで半分缺けてゐる男子のおびだま。〔晉書、輿服志〕自二公主封君一以上皆帶綬、以二綵組一爲二緄帶一、各如二其綬色一、金辟邪首爲二帶玦一。〔北史、齊宗室諸子、孝昭諸子、樂陵王百年傳〕百年被レ召自知レ不レ免、割二帶玦一留與二妃斛律氏一。

【帶挈】34 tai^4 ch'ieh^4 ❶携帶。同伴。❷引立てる。眷顧する。

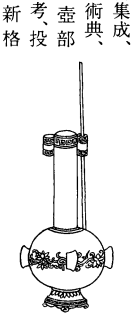
【帶鐍】35 タイケツ おびがね。〔後漢書、輿服志下〕黃金辟邪、首爲二帶鐍一、飾以二白珠一。

【帶月】36 タイゲツ 月を帶びる。月光をあびる。〔劉長卿、送三張十八歸二桐廬一詩〕歸人乘二野艇一、帶レ月過二江邨一。

【帶月草堂】37 タイゲツサウダウ 清、顏懷禮(**12**－**43591**‥143)の室名。

【帶脅】38 タイケフ 輕んじおびやかす。一說に、附著すること。〔漢書、嚴安傳〕今外郡之地、或幾千里、列城數十、形束壤制、帶二脅諸侯一、非二宗室之利一也。〔注〕師古曰、帶者、言下諸侯之於二郡守一、譬若中佩帶上、謂二輕小一也、脅、謂三其威力足二以脅一レ之也、一曰、帶在二脅旁一、附著之義也。

【帶劍】39 タイケン ❶劍を帶びる。刀劍を身につける。又、身につけた刀劍。佩刀。帶刀。〔韓非子、八姦〕聚二帶劍之客一、養二必死之士一。〔呂覽、知士〕靜郭君來、衣二威王之服一、冠二其冠一、帶二其劍一。〔史記、秦紀〕簡公六年、令二吏初帶一レ劍、塹レ洛城二重泉一。〔史記、蕭相國世家〕賜下帶二劍履一上レ殿、入朝不上レ趨。〔王維、送三從弟蕃遊二淮南一詩〕讀レ書復騎射、帶レ劍遊二淮陰一。❷投壺に用ひる道具の一つ。〔古今圖書集成、藝術典、投壺部彙考、投壺新格敍〕倚竿・龍首・龍尾・狼壺・帶劍・耳倚竿、皆廢二其算一、云云、帶劍、謂二貫レ耳不レ至レ地者一、舊十五籌。



帶劍❷（古今圖書集成）

【帶劍寮】40 タイケンレウ 古、官署の名。天皇親衞の舍人を掌る所。授刀舍人寮。〔續日本紀、四、和銅元年三月丙辰〕以二從五位下小野朝臣馬養一爲二帶劍寮長官一。

【帶胯】41 タイコ おびがね。帶鉤。〔唐書、于闐傳〕初德宗卽レ位、遣下內給事朱如玉之二安西一、求中玉於于闐上、得二圭一、珂佩五、枕一、帶胯三百一。〔雲林石譜〕西蜀諸山、多產二墨玉一、在二深土中一、其質如レ石、色深墨體甚輕軟、工人鐫治爲二帶胯一。

【帶湖】42 タイコ 湖を帶びる。湖をめぐらす。〔王勃、滕王閣序〕襟二三江一而帶二五湖一。〔范成大、望海亭賦〕縈レ山帶レ湖、樓觀相望。

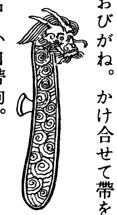
【帶湖草堂】43 タイコサウダウ 清、方熊(**5**－**13620**‥439)の室名。

【帶後】44 タイゴ 帶の當る下のところ。〔史記、佞幸傳、鄧通傳〕有二一黃頭郎一、從レ後推レ之上レ天、顧

見其衣裂帶後穿。

【帶扣】45 tai⁴ kʻou⁴ 帶のしめがね。

【帶鉤】46（タイコウ） おびがね。かけ合せて帶を締める金具。〔列子、力命〕射中㆓小白帶鉤㆒。〔史記、齊世家〕射中㆓小白帶鉤㆒。



漢玉帶龍首鉤（古玉圖譜）

【帶笏】47（タイコツ） おほおびとしやく。文官の朝服。〔宋史、韓世忠傳〕授㆓太尉㆒賜㆓帶笏㆒。

【帶彩】48（タイサイ） 戲劇名詞。劇中で流血の場を演ずること。修羅場。

【帶歲】49（タイサイ） 大晦日の夜、子供が歲を數へて其の數だけ錢・芝麻殼を衣帶に繫ぐこと。〔山東志書、海豐縣〕除夕門前、燎火爆竹呼噪、俗曰㆓叫明㆒、以㆓芝麻幹㆒置㆓牀榻及地㆒、俗曰㆓躧歲㆒、小兒按㆑歲繫㆓錢芝麻殼於衣帶㆒曰㆓帶歲㆒。

【帶槍】50 tai⁴ chʻiang¹ 武器を携帶する。ピストルを携へる。

【帶霜】51（タイサウ） 霜をつける。〔李頎、送㆔皇甫曾遊㆓襄陽山水㆒云云詩〕白鴈暮銜㆑雪、青林寒帶㆑霜。〔杜牧、聞㆑雁詩〕帶㆑霜南去雁、夜好宿㆓汀沙㆒。

【帶藻】52（タイサウ） 藻を帶びる。藻を身につける。〔水經、江水注〕尹吉甫子伯奇、至孝、後母譖㆑之、自投㆓江中㆒、衣㆑苔帶㆑藻、忽夢見㆓水仙㆒、賜㆓其美藥㆒。思㆓惟養㆑親、揚㆑聲悲歌。

【帶造】53（タイザウ） 官設織造局で密かに私用の織物を造ること。〔明律、工律、織造、帶造段匹〕輒於㆓官局㆒帶㆓造段疋㆒者、杖六十。

【帶索】54（タイサク） おびなは。又、なはを帶びる。卑しい身なり。〔列子、天瑞〕孔子遊㆓於太山㆒、見㆘榮啓期行㆓乎郕之野㆒、鹿裘帶索、鼓㆑琴而歌㆖。〔新序、雜事五〕披裘帶索。〔孔子家語、致思〕擁㆑鐮帶㆑索、哭者不㆑哀。〔郭璞、客傲〕夫欣㆓黎黃之昔㆒者、不㆑顰㆓蟪帖之吟㆒、豁㆓雲臺之觀㆒者、必悶㆓帶索之歡㆒。

【帶士】55（タラシコ） 姓氏。〔姓林全書〕。

【帶子】56 tai⁴ tzŭ ❶おび。❷細紐。

【帶紙】57（オビガミ） 郵便物等の帶封に用ひる紙。

【帶絲】58 tai⁴ ssŭ¹ 刻昆布。

〖帶絲禽〗59（タイシキン） 白鷺をいふ。〔張喬、鷺鷥障子詩〕剪得機中如㆓雪素㆒、畫爲㆓江上帶絲禽㆒。〔海錄碎事、鳥獸、鷗鷺〕帶絲禽、白鷺也。

【帶珥】60（タイジ） 太陽がひがさを帶びる。珥は太陽の圍りの雲氣、ひがさ。〔成公綏、天地賦〕交會薄蝕、抱㆑暈帶㆑珥。

【帶州】61（タイシウ） 州名。唐、置く。故の榮州の境。滿洲熱河省朝陽方面。〔讀史方輿紀要、直隸、萬全都指揮使司、附見、大寧衞、師州城〕帶州城、在㆓營州境㆒、唐志、貞觀十九年、于㆓營州界內㆒置、處㆓契丹乙失革部落㆒、兼置㆓孤竹縣㆒爲㆓州治㆒、後寄㆓治于昌平縣之淸水店㆒。

【帶周】62 tai⁴ chou¹ 甲具。やがへし。

【帶羞】63（タイシウ） 羞を帶びる。はぢらひの樣子を爲すこと。はづかしがる。〔盧綸、倫開府席上賦得詠㆓美人名解愁㆒詩〕舞態兼㆓些醉㆒、歌聲以㆓帶羞㆒。

【帶掌】64（タイシヤウ） 助役をかねおびるもの。〔福惠全書、蒞任部、受印〕無㆑論㆓前官署篆及府廳帶掌㆒。

【帶傷】65 tai⁴ shang¹ 傷を受ける。負傷。

【帶裳】66（タイシヤウ） 革帶とも。〔左氏、桓、二〕袞冕黻珽、帶裳幅舃衡紞紘綖、昭㆓其度㆒也。〔注〕帶、革帶也、衣下曰㆑裳。

【帶上】67（タイジヤウ） 帶の上。〔孟子、盡心下、不㆑下㆑帶而道存焉、集注〕古人視不㆑下㆓於帶㆒、則帶之上、乃目前常見㆓至近之處㆒也。

【帶手】68 tai⁴ shou³ 次手に。

〖帶手帶腳〗69 tai⁴ shou³ tai⁴ chiao³ 邪魔になる。妨げになる。

【帶綬】70（タイジユ） 綬を帶びる。綬を身につける。綬は官職のしるしとして佩びる印の環を受ける紐。〔風俗通、恠神〕立㆑服帶㆑綬、備置㆓官屬㆒。〔晉書、輿服志〕自㆓公主封君㆒以上、皆帶㆑綬。

【帶出】71（タイシユツ） 持ち出す。

【帶書】72 tai⁴ shu² 書類を持參する。手紙を携へる。

【帶職】73（タイシヨク） 職をおびる。兼職。〔庾信、周太子少保步陸逞神道碑〕霜府錄㆓于尚書㆒、天官總㆓于司會㆒、出入匡贊、常帶㆓數職㆒。

【帶信】74 tai⁴ hsin⁴ 信書を持つて、宛名の人に屆けること。

【帶進】75（タイシン） つれすすむ。一緒に進む。〔福惠全書、蒞任部、謁廟行香〕防㆓左右抽換㆒、帶㆓進內衙㆒。

【帶壬】76（タチシロ） 姓氏。〔和爾雅〕。

【帶水】77 tai⁴ shuei³ 水先案內する。

〖帶水人〗78 tai⁴ shuei³ jen² 水先案內。

【帶齊】79（タイセイ） そろはせる。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕于㆓早堂㆒帶齊、先具㆓報單㆒。

【帶笑】80（タイセウ） 笑を帶びる。ゑがほをつくる。〔李白、淸平調〕名花傾國兩相歡、常得㆓君主帶㆑笑看㆒。

【帶川】81（タイセン） 宋、晁百談（5－13889··32）の號。

【帶苫】82（タイセン） こもを身につける。賤しい身なりをいふ。〔南史、宋宗室及諸王上、衡陽王義季傳〕嘗大蒐㆓于郢㆒、有㆓野老帶㆑苫而耕㆒。

【帶箭】83（タイセン） 箭を帶びる。箭を身につける。〔韻府引、陸游、詩〕我似㆓傷禽帶㆑箭飛㆒。

【帶前】84（タイゼン） 帶のまへ。〔梁簡文帝、和㆓人渡水㆒詩〕帶前結㆓香草㆒、鬢邊插㆓石榴㆒。

【帶送】85 tai⁴ sung⁴ ❶携へ送る。一緒に送る。❷持ち去る。

【帶打】86 tai⁴ ta³ 混合する。つきまぜる。

【帶隊】87 tai⁴ tuei⁴ ❶軍を引率する。❷憲兵隊へ引致する。

〖帶隊官〗88 tai⁴ tuei⁴ kuan¹ 隊長。

〖帶隊的〗89 tai⁴ tuei⁴ têi 將校。士官。

【帶刀】90（タイタウ） ❶刀を帶びる。刀を身につける。刀をさす。〔隋書、禮儀志七〕周武帝時、百官燕會、並帶㆑刀升㆑座。〔唐書、儀衞志上〕皆帶㆑刀捉㆑仗、列㆓坐于東西廊下㆒。❷（タテハキ・タチハキ） 古、春宮坊の舍人監に屬して帶刀した侍衞。其の數三十人。帶刀舍人。長官を先生（センジヤウ）といひ、屬官に部領（コトリ）・脇（キワ）・連（ムラジ）がある。〔春宮坊式〕正月十七日射禮、東宮參㆓豐樂院㆒步射、射手帶刀十人。❸（タテワキ） 姓氏。〔姓林全書〕。❹（タテハキ） 武藏國の地名。

〖帶刀臥〗91（タイタウグワ） 佛 右の脇を下にしてねる。帶刀睡ともいふ。右脇臥。刀は普通、左腰に帶びるから、左脇を下にして臥することはできない。故に右脇を下にして臥するを帶刀臥といふ。〔禪林象器箋、十四、帶刀臥〕僧傳帶刀臥、卽傳燈右脅吉祥睡也、蓋帶㆑刀者於㆓左脇㆒、故不㆑得㆓左脇而臥㆒、因名㆓右脇臥㆒爲㆓帶刀臥㆒也。

〖帶刀役〗92（タチハキノヤク） 古、將軍參內の時、帶刀して供奉した役。〔貞丈雜記〕。

〖帶刀御免〗93（タイタウゴメン） 德川時代、町人、又は農民の特別の家格や功勞ある者などに對して帶刀を許したこと。

〖帶刀舍人〗94（タイタウシヤジン） ❶官名。明、置く。輪番に禁衞の守護に當るもの。勳戚の子弟を以て之に任ずる。〔續文獻通考、職官考、京衞〕府軍前衞掌㆘統㆓領幼軍㆒輪番帶刀侍衞㆖、明初有㆓帶刀舍人㆒。❷（タチハキノトネリ） 帶刀の❷に同じ。〔享祿本類聚三代格、四、大同元年五月二十七日〕大政官符、應㆑充㆓帶刀舍人㆒事。

〖帶刀先生〗95（タチハキセンジヤウ） 帶刀の長官。〔平治物語、待賢門軍〕惡源太義平と申す者武藏大藏の軍の大將として、叔父帶刀先生を伐ちしより。

【帶道】96（タイダウ） 道案內する。帶路。

〖帶道路〗97 tai⁴ tao⁴ lu 道案內する。

【帶地】98（タイチ） 地を帶びる。地をめぐらす。〔後漢書、馮衍傳上〕隴西北地、從㆑風響應、其事昭昭、日月經㆑天、河海帶㆑地、不㆑足㆓以比㆒。〔駱賓王、詠㆓雲酒㆒詩〕朔空曾紀曆、帶㆑地舊疏泉。

〖帶地投充〗99（タイチトウジユウ） 淸代、人民が土地の所有權を持ち來つて旗人に隸屬すること。〔淸會典事例、戶部、戶口〕帶地投充人等、雖㆑有㆓籍貫㆒、年遠難㆓以稽考㆒、均准㆓開戶㆒、不㆑准㆓放出爲㆑民。

【帶持】100（タイヂ） 帶び持つ。腰につける。〔漢書、五行志中之上〕帶㆓持刀劍㆒、或乘㆓小車㆒。〔漢書、龔遂傳〕民有㆘帶㆓持刀劍㆒者㆖。

【帶仗】101（タイヂヤウ） 兵仗を帶びる。〔兵部省式〕凡太宰府官幷品官・史正、云云、國都司・書生等、竝聽㆓帶仗㆒。〔弘道館記述義、上〕天忍日命・天律久米命、帶㆑仗前行。

〖帶仗資人〗102（タイヂヤウトネリ） 授刀舍人寮の舍人。授刀資人。〔扶桑略記、六、天平六年三月八日〕中納言以上、賜㆓帶仗資人㆒。

【帶蟲】103 tai⁴ chʻung² 蟲の名。あしまき。

【帶徵】104（タイチヨウ） 併せて徵收すること。〔福惠全書、蒞任部、查交代〕有㆓帶徵㆒、有㆓赦除㆒。〔六部成語、戶部、帶徵銀、注解〕一年中交㆓不足額之款㆒、分㆑年帶徵、以補㆓足之㆒。

【帶圖】105 タイヅ 公玉帶が漢の武帝に上つた明堂の圖。〔史記、封禪書〕於レ是上令三奉高作二明堂汶上一、如二帶圖一。〔漢書、郊祀志下〕於レ是上令三奉高作二明堂汶上一、如二帶圖一。〔注〕師古曰、帶圖、公玉帶所レ上明堂圖。

【帶鳥】106 タイテウ 鳥の名。練鵲の異名。〔禽經〕練鵲一名帶鳥、似二山鵲一而小、頭上披二一帶一、雌者短尾、雄鳥長尾。

【帶絰】107 タイテツ 絰を帶びる。又、身に帶びた絰。絰は喪服を着る時、首と腰とにまきつける麻の帶。〔禮、檀弓上〕襲レ裘帶レ絰而入。〔禮、雜記上〕其始麻散帶絰。

【帶電】108 タイデン 物體が電氣を帶びること。

【帶同】109 タイドウ 一緒につれてゆく。同道する。同伴する。引率する。同行。

【帶佩】110 タイハイ ❶おびとおびもの。佩は天子又は爵位ある人のおびもの。〔後漢書、禮儀志上〕最後親陵、遣三計吏賜二之帶佩一。〔中論、脩本〕上縣二乎冠緌一、下繫二乎帶佩一。❷おびのやうにめぐる。〔水經、渭水注〕蘭渠川水、出レ自二北山一、帶二佩衆溪一、南流注二於渭一。

【帶方】111 タイハウ ❶郡名。後漢の末、置く。漢の帶方縣の地。帶水を以て名づける。今、朝鮮平安南道平壤府の南。帶水は今の漢江。〔遼東志略〕古帶方國、漢末曹操置レ郡、在二遼東之東一、屬二平州一、括地志云、帶方故城、在二樂浪界一。❷縣名。㋑漢、置く。❶を見よ。〔漢書、地理志下〕樂浪郡、縣二十五、帶方。㋺北魏、置く。故治は河北省徐水縣の西。

【帶煩】112 タイハン 歌曲の名。〔稱謂錄、歌、帶煩〕輟耕錄、唱曲門戶、有二小唱寸唱慢唱壇唱步虛道情撒鍊帶煩瓢叫諸名一。

【帶比】113 タイヒ さいそく。〔福惠全書、蒞任部、詳文贅說〕經二帶比一、正苦二三空四盡一。

【帶尾】114 タイビ 帶の末。〔宋史、崔公度傳〕嘗從レ後執二其帶尾一、安石反顧、公度笑曰、相公帶有レ垢、敬以レ袍拭二去之一爾、見者皆笑。

【帶冰】115 タイヒヨウ 氷を帶びる。氷をつける。〔儲光羲、漢陽卽事詩〕江水帶レ冰綠、桃花隨レ雨飛。

【帶稟】116 タイヒン つれて行つて申立てる。〔福惠全書、保甲部、城廂〕次早帶二稟營官一。

【帶赴】117 タイフ つれてゆく。伴つて行く。〔福惠全書、蒞任部、馭衙役〕或帶二赴道府一、收二禁舖厫一。

【帶服】118 タイフク 帶と衣服。〔新書、匈奴〕爲レ閒則出二繡衣一、具二帶服賓餘一。

【帶副】119 tai^4 fu^4 褲などのはきぞへ。

【帶兵】120 タイヘイ ❶兵を帶びる。兵器を身につける。〔禮、曲禮上、兄弟讎不レ反レ兵、疏〕不レ反レ兵者、謂二帶レ兵自隨一也、若行逢レ讎、身不レ帶レ兵、反レ家取レ之、比レ來、則讎已逃辟、終不レ可レ得、故恆帶レ兵、見卽殺レ之也。❷軍隊を統率すること。

【帶弁】121 タイベン 大帶と皮弁。〔詩、曹風、鳲鳩〕其帶伊絲、其弁伊騏。〔箋〕其帶伊絲、謂二大帶一也、大帶用二素絲一、有二雜色飾一焉、騏當レ作レ璂、以レ玉爲レ之、言二此帶弁一者、刺レ不レ稱二其服一。

【帶冕】122 タイベン 大帶と冠。〔漢書、敍傳上〕今吾子、幸游二帝王之世一、躬三帶冕之服一、浮二英華一。〔注〕師古曰、帶、大帶也、冕、冠也。

【帶麻】123 タイマ 麻を帶びる。麻の帶をする。喪服の裝ひ。〔琵琶記、官邸憂思〕縱然歸去、又怕帶レ麻執レ杖。

【帶脈】124 タイミャク 奇經八脈の一つ。〔素問、痿論〕陰陽揔二宗筋之會一、會二於氣街一、而陽明爲二之長一、皆屬二於帶脈一、而絡二於督脈一。

【帶命】125 タイメイ 命を帶びる。命令を受ける。

【帶約】126 タイヤク おびつづめる。兼ねつづめる。併合する。〔水經、湘水注〕馮水帶二約衆流一、渾成二一川一、謂二之北渚一。

【帶來】127 tai^4 lai^2 持ち來る。帶來地を見よ。

〔帶來地〕128 タイライチ 清代、人民が旗籍に入るために帶びて來た土地。〔清會典事例、戶部、戶口〕盛京帶二來帶地一投充之人、原係二旗人一、轉相售賣。

【帶留】129 オビドメ 女の帶のとけないやうに帶の上に締めるひも。

【帶領】130 tai^4 ling^3 引率する。ひきつれる。〔紅樓夢、二十九回〕早有張法官執香披衣、帶領衆道士、在路旁迎接。

【帶力】131 tai^4 li^4 送料。

【帶累】132 タイルイ まきぞへ。連累。〔薛能、贈下解二詩歌一人上詩〕朝天御史非韓壽一、莫二竊レ香來一帶累人。〔通俗編、交際、帶累〕司馬光與レ姪帖、曹侍中兒帶二累侍中一貶二隨州一。〔紅樓夢、十九回〕倆老人家自己承認、別下帶二累我們一受上氣。

【帶厲】133 タイレイ 帶と砥石。黃河が帶のやうに小さくなり、泰山が砥石のやうに平らになる。山厲河帶(**4**—**7869**‥1213)に同じ。帶厲之誓を見よ。

〔帶厲之誓〕134 タイレイノチカヒ 功臣の家は永久に斷絕させない約束。泰山は砥石のやうに平らに、黃河は帶のやうに小さくなつても變らない義。山厲河帶(**4**—**7869**‥1213)に同じ。〔史記、高祖功臣年表〕封爵之誓曰、使二河如レ帶、泰山若レ厲、國以永寧、爰及二苗裔一。〔注〕應劭曰、封爵之誓、國家欲レ使二功臣傳祚無窮一也、帶、衣帶也、厲、砥石也、河當三何時如二衣帶一、山當三何時如二厲石一、言如二帶厲一、國乃絕上耳。

【帶礪】135 タイレイ 帶厲に同じ。〔吳志、周瑜傳〕故漢高帝封爵之誓曰、使二黃河如レ帶、泰山如レ礪、國以永存。〔晉書、八王傳序〕錫二之山川一、誓以二帶礪一。〔北史、王昕傳〕俄佩二龍文之劍一、仍啓二帶礪之書一。〔舊五代史、密王友倫傳〕永言帶礪、合議封崇。〔陸贄、賜二李納王武俊等一鐵券文〕山河帶礪、傳祚無レ絕。〔太平御覽、文部、契券〕楚漢春秋曰、高帝初、侯者皆書レ券曰、使二黃河如レ帶、泰山如レ礪、漢有二宗廟一、無二絕世一也。

【重レ帶】136 タイヲオモンズ 帶を大切にする。〔禮、閒傳〕男子重レ首、婦人重レ帶。

【帶過曲】137 タイクワキョク 曲體の名。二三曲を連合して一曲としたもの。〔作詞十法疏證〕北曲中在二同一宮調內一、音律又適二銜接一者、兩調三調、連合而作二一調一、謂三之某調帶二過某調一、帶過二一字、或任用一字一、或稱三某調兼二某調一、或全略去、祇寫二二調之名一、如二中呂十二月堯民歌之類一、帶過曲調爲二前人已用一者、共不レ過二三十餘種一、其不レ能二任意配合一可レ知。〔散曲概論〕帶過曲、初僅北曲小令中有レ之、後來南曲內與二南北合套內一、亦偶爾仿用。

【帶冠式】138 タイクワンシキ 戴冠式(**5**—**11685**‥48)を見よ。

【帶身子】139 tai^4 shen^1 tzŭ 姙娠する。

【帶淸堂】140 タイセイダウ 明、吳維嶽(**2**—**3365**‥426)の室名。

【帶小數】141 タイセウスウ 整數と小數とから成る數。例へば15.824 の類。

【帶肚子】142 tai^4 tu^4 tzŭ 姙娠する。

【帶肚兒】143 tai^4 tu^4 êrh 懷姙する。

【帶分數】144 タイブンスウ 整數と眞分數とから成る數。例へば$18\frac{7}{15}$の類。

【帶御器械】145 タイギョキカイ 官名。宋、置く。隋・唐の千牛備身の職。初、御帶といひ、咸平元年、帶御器械と改めた。三班以上の武幹の親信者を選任し、又內臣を以てこれにあてる。〔續通典、職官典、武官上、左右千牛衞〕又有二帶御器械一、選二三班以上武幹親信者一、佩二櫜鞬御劍一、或以二內臣一爲レ之、止名二御帶一、眞宗咸平元年、改爲二帶御器械一。

【帶罪徵收】146 タイザイチョウシウ 州縣官が錢糧の徵收に力めないとき、上官は其の罪を冊に書し、罪を帶びたまま錢糧を徵收させること。〔六部成語、戶部、帶罪徵收、注解〕州縣經徵不レ力、上官書二其罪於冊一、仍責令三帶レ罪徵二收錢糧一。

【帶作不作】147 tai^4 tsuo^4 pu^2 tsuo^4 ためらふ。ぐらつく。

【帶日下雨】148 tai^4 jih^4 hsia^4 yü^3 晴天に降る雨。天氣雨。

【帶膆貂褂】149 タイソテウクワイ 清代の禮裝で、胸に白毛の斑點のある褂子をいふ。清の禮服中で最も重いもの。大臣でも特に皇帝から賜はらなければ服用は出來ない。膆は獸の頸の下の毛。〔淸稗類鈔〕帶膆貂褂、胸及兩肩、均有二白色毛一、卽貂之膆皮也、咸同閒、得レ蒙二恩賜一者、僅徐郙・李鴻章二人、至二光緒朝一、則孝欽后常以レ之賞二賜臣下一矣。

【縈レ帶爲レ垣】150 オビヲメグラシテカキトナス 帶をめぐらして垣とする。守備の堅いこと。〔陳琳、爲二曹洪一與二世子一書〕墨子之守、縈レ帶爲レ垣、高不レ可レ登、折レ箸爲レ械、堅不レ可レ入。

【⿱⿰户攵巾】8951 ケン 〔集韻〕輕甸切 霰

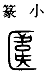
棨にかけるはた。 ほこぎぬ。〔集韻〕⿱⿰户攵巾、幡係二於棨一者。

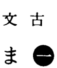
【㡌】8952 ㊀エフ／オフ 〔集韻〕叉業切 葉 ㊁アン／オン 〔集韻〕烏含切 覃

㊀❶はちまき。づきんの類。〔方言、四〕自㆑河以北、趙魏之間、曰㆓幧頭㆒、或謂㆓之帑㆒、或謂㆓之㡌㆒。〔釋名、釋首飾〕綃頭、齊人謂㆓之㡌㆒、言㆔斂㆑髮使㆓上從㆒也。❷ふくろ。〔玉篇〕㡌、橐也。㊁かひばぶくろ。或は裺(10－34373)に作る。〔集韻〕㡌、博雅、㡌、篼囊也、或从㆑衣。

【𢄙】8953 クワン 冠(2－1580)に同じ。〔集韻〕冠、或作㆑𢄙。

【帷】8954 ヰ 〔集韻〕于龜切 支 ㄨㄟˊ wei²


小篆


古文

❶たれぎぬ。かたびら。まく。周邊にたれる布。〔說文〕帷、在㆑旁曰㆑帷、从㆑巾隹聲。〔說文通訓定聲〕帷、幃也、在㆑旁曰㆑帷、在㆑上曰㆑幕、皆以㆑布爲㆑之。〔釋名、釋牀帳〕帷、圍也、所㆓以自障圍㆒也。〔周禮、天官、幕人〕掌㆓帷幕幄帟綬之事㆒。〔注〕在㆑旁曰㆑帷、在㆑上曰㆑幕、皆以㆑布爲㆑之。〔史記、蘇秦傳〕臨菑之塗、連㆑衽成㆑帷。〔和名類聚抄、調度部、屛障具〕帷、加太比良、圍也、以自障圍也。❷まんまく。〔禮、曲禮上〕帷薄之外不㆑趨。〔釋文〕帷、幔也。❸とばり。〔廣雅、釋器〕帷、帳也。❹車のおほひ。〔詩、衞風、氓〕漸㆓車帷裳㆒。〔傳〕帷裳、婦人車也。❺柩のおほひ。〔禮、喪服大記〕君龍帷。〔注〕在㆑旁曰㆑帷、在㆑上曰㆑荒、皆所㆓以衣㆑柳也。〔疏〕帷、柳車邊障也。❻まくばりの中。〔劉筠、小園秋夕詩〕阮籍臥㆑帷踈鑒㆑月。❼おほふ。かくす。まくをはりまはす。〔禮、喪大記〕帷㆑之。〔疏〕帷、障也。❽古は匩(2－2638)に作る。〔集韻〕帷、古作㆑匩。❾幃(4－8993)に通ず。〔枚乘、七發〕如㆓素車白馬、帷蓋之張㆒。〔注〕善曰、帷、或爲㆑幃。

【帷幄】1 ヰアク 幃幄(4－8993‥1)に同じ。❶帷と幄。とばりとあげとばり。共に幕の類。帷幕。〔韓非子、喩老〕天下無㆑道、攻擊不㆑休、相守數年不㆑已、甲冑生㆓蟣虱㆒、燕雀處㆓帷幄㆒、而兵不㆑歸、故曰、戎馬生㆓於郊㆒。〔五代史、晉臣、吳巒傳〕巒善撫㆓士卒㆒、會天大寒、裂㆓其帷幄㆒、以衣㆓士卒㆒、士卒皆愛㆑之。❷帷も幄も陣營に用ひることから、作戰計畫をする場所をいふ。軍帳。〔史記、太史公自序〕運㆓籌帷幄之中㆒、制㆓勝於無形㆒。〔漢書、高帝紀下〕運㆓籌帷幄之中㆒、決㆓勝於千里之外㆒。〔劉知幾、儀坤廟樂章〕妙算申㆓帷幄㆒、神謀出㆓廟廷㆒。❸參謀官をいふ。謀臣。帷幄之臣。〔後漢書、郎顗傳〕惟帷之政、〔注〕帷幄、謂㆓謀謨之臣㆒。❹もと大元帥陛下が軍事に關する機密を計畫し給うた所。〔軍事參議院條例、第一條〕。

【帷幄功】2 ヰアクコウ 出でて戰ふことなく陣營の內に處り、智謀を以て勳功を立てること。〔漢書、張良傳〕漢六年、封㆓功臣㆒、良未㆔嘗有㆓戰鬪功㆒、高帝曰、運㆓籌策帷幄中㆒、決㆓勝千里外㆒、子房功也、自擇㆓齊三萬戶㆒。

【帷幄臣】3 ヰアクノシン 常に君側に侍して、謀略をめぐらす臣。〔漢書、黃霸傳〕侍中樂陵侯高、帷幄近臣、朕之所㆓自親㆒。

【帷扆】4 ヰイ 上古、王宮に用ひたとばり。轉じて、帝座をいふ。天子の位。扆は古、天子が諸侯を引見する時、後方に立てたついたて。〔王筠、爲㆓從兄㆒辭㆓侍中㆒表〕然後可㆘以喩㆓旨公卿㆒、問㆗對帷扆㆖。〔王僧孺、詹事徐府君集序〕從容帷扆、綽有㆓餘輝㆒。〔沈約、齊故安陸昭王碑文〕獻㆓替帷扆㆒、實掌㆓喉脣㆒。〔薛道衡、隋高祖文皇帝頌序〕運㆓天策于帷扆㆒、播㆓神威于沙朔㆒。

【帷影】5 ヰエイ とばりのかげ。〔李貞、奉㆔和聖製過㆓溫湯㆒詩〕林凋帷影散、雲斂蓋陰收。

【帷帟】6 ヰエキ 幃帟(4－8993‥2)に同じ。❶閨室のとばり。內室に設けたとばり。帟は帳。〔范曄、後漢書、皇后紀序〕莫㆑不㆘定㆓策帷帟㆒、委㆓事父兄㆒、云云㆖。〔注〕良曰、帟、帳也。❷作戰計畫をする場所。帷幄。〔謝朓、和㆔伏武昌登㆓孫權故城㆒詩〕衿帶窮㆓巖險㆒、帷帟盡㆓謀選㆒。〔注〕向曰、帷帟、謂㆓帷幄㆒也。〔李益、從軍有苦樂行〕秉㆑筆參㆓帷帟㆒、從㆑軍至㆓朔方㆒。

【帷屋】7 ヰヲク まくばりの屋舍。〔漢書、外戚下、班倢伃傳〕共㆓洒埽於帷屋㆒兮。

【帷下】8 ヰカ とばりの下。轉じて、先生の塾舍をいふ。昔、師は帷を下し、其の下に在つて子弟を教育したからいふ。〔漢書、董仲舒傳〕董仲舒、云云、爲㆓博士㆒、下㆑帷講誦、三年不㆑窺㆑園。

【帷蓋】9 ヰガイ とばりとかさ。おほひかばふこと。幃蓋。〔禮、檀弓下〕敝帷不㆑棄、爲㆑埋㆑馬也、敝蓋不㆑棄、爲㆑埋㆑狗也。〔管子、事語〕帷蓋不㆑脩、衣服不㆑衆。〔漢書、陳湯傳〕夫犬馬有㆑勞㆓於人㆒、尙加㆓帷蓋之報㆒、況國之功臣者哉。〔枚乘、七發〕如㆓素車白馬、帷蓋之張㆒。〔注〕善曰、帷或爲㆑幃、音韋、幃、帳也。

【帷甲】10 ヰカフ とばりとよろひ。〔唐書、朱泚傳〕城隅率百步一樓、候㆓望非常㆒、凡祠房廟廬皆帷甲、戒曰、軍來則四面擊。

【帷宮】11 ヰキユウ まくを張つてつくつた宮室。〔周禮、天官、掌舍〕爲㆓帷宮㆒、設㆓旌門㆒。〔注〕謂㆘王行晝止、有㆑所㆓展肆㆒、若㆓食息㆒、張㆑帷爲㆑宮、則樹㆑旌以表㆖門。〔宋書、禮志一〕皇后采㆑桑壇、在㆓蠶室西帷宮中門之外㆒、桑林在㆓其東㆒。〔庾信、三月三日華林園馬射賦〕帷宮宿設、帳殿開㆑筵。〔樂府詩集、唐祀㆓圜丘㆒樂章、大和〕受㆓釐皇邸㆒、迴㆓蹕帷宮㆒。

【帷幌】12 ヰクワウ たれぎぬ。幌もたれぎぬ。〔梁闕名、七召〕聞㆓疾雷于階陛㆒、弄㆓奔星於帷幌㆒。

【帷軒】13 ヰケン とばりを垂れた軒。貴妃の居處。〔謝莊、宋孝武宣貴妃誄〕帷軒夕改、軿輅晨遷。〔注〕良曰、帷軒、常所㆑居之處。

【帷戶】14 ヰコ まくを垂れて扉の代りとしたもの。まく。たれぎぬ。〔鮑照、翫㆓月城西門廨中㆒詩〕夜移衡落、徘徊帷戶中。

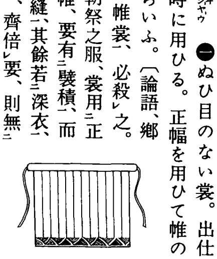
【帷座】15 ヰザ たれぎぬを引きまはした座。〔陸機、弔㆓魏武帝㆒文〕陳㆓法服於帷座㆒、陪㆓窈窕於玉房㆒。

【帷子】16 カタビラ ❶古、几帳・帳などに用ひた布帛。夏は生絹、冬は練絹を用ひた。❷單衣の總稱。ひとへ。〔宇治拾遺、十四〕かたびらばかり着て、中結ひて。❸麻絲で織つた單衣。又、それに用ひる布帛。

【帷車】17 ヰシヤ まくをひきまはした車。又、車にまくを張る。〔後漢書、列女、龐淯母傳〕潛備㆓刀兵㆒、常帷㆑車以候㆓讐家㆒。〔文中子、事君〕棺槨無㆑飾、衣衾而擧、帷車而載、塗車芻靈、則不㆑從㆓五世㆒矣。

【帷牀】18 ヰシヤウ とばりとこしかけ。〔後漢書、東平王傳〕帝乃親自循㆓行邸第㆒、豫設㆓帷牀㆒。〔南齊書、王融傳〕匈奴以㆓氈騎㆒爲㆓帷牀㆒、馳射爲㆓糇糧㆒。

【帷裳】19 ヰシヤウ ❶ぬひ目のない裳。出仕、又は祭祀の時に用ひる。正幅を用ひて帷のやうにするからいふ。〔論語、鄕黨〕非㆓帷裳㆒、必殺㆑之。〔集注〕朝祭之服、裳用㆓正幅㆒如㆑帷、要有㆓襞積㆒、而旁無㆓殺縫㆒、其餘若㆓深衣㆒、要半㆑下、齊倍㆑要、則無㆓襞積㆒、而有㆓殺縫㆒矣。❷婦人の車のひきまく。車帷。〔詩、衞風、氓〕淇水湯湯、漸㆓車帷裳㆒。〔傳〕帷裳、婦人之車也。〔箋〕帷裳、童容也。〔疏〕以㆑帷障㆓車之旁㆒如㆑裳、以爲㆓容飾㆒、故或謂㆓之帷裳㆒、或謂㆓之童容㆒。〔漢書、孝成班倢伃傳〕感㆓帷裳㆒兮發㆓紅羅㆒。❸はしたもの。〔史記、鄒陽傳〕今人主沈㆓於諂諛之辭㆒、牽㆓於帷裳之制㆒。〔注〕集解曰、漢書音義曰、言㆑爲㆘左右便辟侍㆓帷裳㆒、臣妾所㆖㆑見㆓牽制㆒。❹とばりとも。〔列女傳、貞順、齊孝孟姬傳〕內飾則結紐綢繆、野處則帷裳擁蔽。


帷裳❶ (三才圖會)

【帷墻】20 ヰシヤウ はしたもの。帷牆に同じ。墻は牆。〔漢書、諸侯王表序〕生㆓於帷墻之中㆒、不㆑爲㆓士民所㆒㆑尊。

【帷廧】21 ヰシヤウ はしたもの。帷はとばりで、婢妾の居所。廧はかきで、臣隸の居所。〔漢書、鄒陽傳〕今人主沈㆓於諂諛之辭㆒、牽㆓於帷廧之制㆒。〔注〕孟康曰、言㆑爲㆘左右便辟侍㆓帷廧㆒、臣妾所㆖㆑見㆓牽制㆒矣。

【帷牆】22ヰシヤウ ❶とばりとかきね。〔呂覽、任數〕帷牆之外、而目不レ能レ見。❷はしたもの。帷廧に同じ。帷牆之制を見よ。

【帷牆之制】23ヰシヤウノセイ 人主が近侍の臣妾に制せられること。又、帷廧之制にも作る。帷廧を見よ。〔鄒陽、獄中上書自明文〕今人主沈二諂諛之辭一、牽二帷牆之制一。〔注〕善曰、漢書音義曰、言レ爲下左右便辟侍二帷墻一、臣妾所上レ見二牽制一。翰曰、帷墻、妻妾所レ居也。

【帷上】24ヰジヤウ とばりの上。〔周禮、天官、幕人、疏〕幕則帷上張レ之、像二舍屋一也。

【帷儒】25ヰジユ 清、董漢策(**9－31433**・・185)の字。

【帷袵】26ヰジン とばりとしとね。〔陸機、挽歌詩〕帷袵曠遺レ影、棟字與レ子辭。〔注〕善曰、鄭玄禮記注曰、袵、臥席也。

【帷席】27ヰセキ とばりをたれた座敷。〔漢書、許皇后傳〕大風自レ西、搖二祖宗寢廟一、揚二裂帷席一。〔謝惠連、雪賦〕初便二娟於墀廡一、末縈二盈於帷席一。

【帷前】28ヰゼン とばりの前。〔梁元帝、答二劉縮求一述二制旨義一書〕枕中之記、卽用爲レ枕、帷前之帙、仍可レ爲レ帷。

【帷組】29ヰソ とばりにつるす飾りひも。〔漢書、五行志下之上〕解二帷組一結佩レ之。

【帷堂】30ヰダウ 堂の周圍にまくを垂れる。喪禮の際、尸のため內外を蔽ふために行ふ。又、周圍にまくを垂れた堂。〔禮、檀弓上〕曾子曰、尸未レ設レ飾、故帷レ堂、小斂而徹レ帷、仲梁子曰、夫婦方亂、故帷レ堂、小斂而徹レ帷。〔庾信、周譙國夫人步陸孤氏墓誌銘〕帷堂野設、帳殿郊營。〔江總、下山楚廟詩〕帷堂寂易レ晚、桴鼓自相和。

【帷レ堂而哭】31ダウニヰシテコクス 殯(かりもがり)の時、堂に幕を垂れてその中で朝夕哭すること。禮記、雜記に朝夕の哭、帷せずとあるのに對していふ。〔左氏、文、十五〕聲己不レ視、帷レ堂而哭。〔會箋〕帷レ堂、言二殯在レ堂而帷一レ之也、檀弓云、尸未レ設レ飾、故帷レ堂、小斂而徹レ帷、至二大斂之節一、又帷レ堂、以至二于殯一、雜記、朝夕哭不レ帷、鄭注緣二孝子之心欲一レ見二殯肂一也、今聲己恨二穆伯一、故朝夕哭、仍帷レ堂、不レ欲レ見レ之。

【帷帳】32ヰチヤウ ❶とばり。たれぎぬ。幃帳。〔急就篇、蒲蒻藺席帳帷幢、注〕自レ上而下覆謂二之帳一、帳者張也、在レ旁蔽繞謂二之帷一、帷者圍也。〔史記、秦始皇紀〕帷帳鍾鼓美人充レ之。〔史記、陳涉世家〕入レ宮見二殿屋帷帳一。〔新序、雜事五〕天子居二闉闕之中、帷帳之內、廣廈之下、旃茵之上一。❷作戰計畫をする場所をいふ。幕府。帷幄。〔史記、高祖紀〕夫運二籌策帷帳之中一、決二勝千里之外一、吾不レ如二子房一。〔王褒、太傅燕文公于謹碑銘〕公運二策帷帳一、參二謀幕府一、封レ齊定二文成之計一、閒レ楚資二曲逆之奇一。

【帷帳無二文繡一】33ヰチヤウブンシウナシ とばりにぬひとりの飾をしない。儉約なこと。〔漢書、文帝紀贊〕所レ幸愼夫人、衣不レ曳レ地、帷帳無二文繡一、以示二敦朴一、爲二天下先一。

【帷中】34ヰチユウ たれまくの中。〔史記、齊太公世家〕齊使二夫人帷中而觀一レ之。〔史記、封禪書〕天子自二帷中一望見焉。〔庾信、故周大將軍義興公蕭太墓誌銘〕名書二柱上一、策滿二帷中一。

【帷鼎】35ヰテイ 大臣をいふ。帷幄の謀に與つて台鼎の位に居ること。〔江淹、爲二蕭驃騎一讓レ封第二表〕私臣以二闈廟一、寵臣以二帷鼎一、位兼二文武一、職總二內外一。

【帷殿】36ヰデン とばりをたれた御殿。幄殿。〔謝朓、遊二後園一賦〕惠氣湛兮帷殿肅、清陰起兮池館涼。〔王儉、褚淵碑文〕出陪二鑾蹕一、入奉二帷殿一。

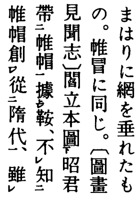
【帷內】37ヰナイ とばりのうち。〔後漢書、劉玄傳〕令三侍中坐二帷內一。

【帷囊】38ヰナウ とばりとふくろ。〔歷代名畫記〕董卓之亂、山陽西遷、圖畫縑帛、軍人皆取爲二帷囊一、所二收而西一、七十餘乘、遇レ雨道艱、半皆遺棄。

【帷房】39ヰバウ ❶とばりをたれた部屋。〔趙至、與二嵇茂齊一書〕翱二翔倫黨之閒一、弄二姿帷房之裏一。❷ねやのうち。閨房。幃房。〔宋書、后妃傳贊〕愛止二帷房一、權無二外授一。

【帷冒】40ヰバウ 婦人の身を蔽ふもの。まはりに蔽ひをたれた帽子。かづき。帷帽。〔唐書、車服志〕初婦人施二冪羅一以蔽レ身、永徽中始用二帷冒一、施二裙及頸坐檐一、以代二乘車一。〔清波雜志〕士大夫於二馬上一披二涼衫一、婦女步二通衢一、以二方幅紫羅一障二蔽身一、俗謂二之蓋頭一、蓋唐帷冒之制也。

【帷帽】41ヰバウ 婦人の用ひる帽で、席帽のやうにまはりに網を垂れたもの。帷冒に同じ。〔圖畫見聞志〕閻立本圖下昭君帶二帷帽一據上レ鞍、不レ知二帷帽創從二隋代一、雖レ弗レ害レ爲二名蹤一、亦丹青之病。〔注〕帷帽、如二今之席帽一、周回垂レ網也。〔三才圖會、衣服、帷帽〕唐輿服志曰、帷帽創二于隋代一、永徽中始用レ之、施二裙及頸一、宋士人往往用二皂紗若レ青、全幅連二綴于油帽、或氈笠之前一、以障二風塵一、爲二遠行之服一、蓋本レ此。


帷帽（三才圖會）

【帷箔】42ヰハク とばりとすだれ。〔李商隱、利州江潭作詩〕河伯軒窗通二貝闕一、水宮帷箔卷二氷綃一。

【帷薄】43ヰハク ❶家の中を蔽ふ帷とすだれ。薄は簾。大夫・士の家についていふ。〔禮、曲禮上〕帷薄之外不レ趨、堂上不レ趨。〔注〕帷、幔也、薄、簾也。〔呂覽、必己〕張毅好レ恭、門閭帷薄、聚居衆、無レ不レ趨。❷家の奧の婦人の居室。ねや。帷房。閨房。帷薄不レ修を見よ。

【帷薄不レ修】44ヰハクヲサマラズ 閨門の亂れること。帷幕不レ修・閨房不レ肅に同じ。〔漢書、賈誼傳〕古者大臣有下坐二不廉一而廢者上、不レ謂二不廉一、曰二簠簋不一レ飾、坐二汚穢淫亂、男女亡一レ別者、不レ曰二汚穢一、曰二帷薄不一レ修、坐二罷軟不一レ勝レ任者、不レ謂二罷軟一、曰二下官不職一、故貴大臣定有二其辠一矣、猶未二斥然正以謼一レ之也。

【帷幕】45ヰバク 幃幕。❶とばりとまく。〔周禮、天官、幕人〕掌二帷幕幄帟綬之事一。〔注〕在レ旁曰レ帷、在レ上曰レ幕、幕或在レ地、展陳二于上一、帷幕皆以レ布爲レ之、四合象二宮室一。〔左氏、哀、三〕濟濡二帷幕一。〔管子、問〕鼓鐃帷幕、帥車之載。〔史記、主父偃傳〕女子紡績、不レ足二於帷幕一。❷作戰計畫をする場所をいふ。幕府。陣營。〔傅亮、爲二宋公一求レ加二贈劉前軍一表〕忠規密謨、潛二慮帷幕一。❸婦人の居室。帷薄。閨房。ねや。帷幕不レ修を見よ。

【帷幕不レ修】46ヰバクヲサマラズ 閨門が亂れて男女のみだらなこと。帷薄不レ修。〔孔子家語、五刑解〕故古之大夫、有下坐二不廉汙穢一而退二放之一者上、不レ謂二之不廉汙穢而退放一、則曰二簠簋不一レ飭、有下坐二淫亂男女無一レ別者上、不レ謂二之淫亂男女無一レ別、則曰二帷幕不一レ修也、有下坐二罔レ上不一レ忠者上、不レ謂二之罔一レ上不一レ忠、則曰二臣節未一レ著、有下坐二罷軟不一レ勝レ任者上、不レ謂二之罷軟不一レ勝レ任、則曰二下官不一レ職、有下坐レ干二國之紀一者上、不レ謂三之干二國之紀一、則曰二行事不一レ請、此五者、大夫既自定有二罪名一矣。

【帷幙】47ヰバク とばりとまく。帷幕。〔後漢書、趙壹傳〕多盛二飾車馬帷幙一。

【帷被】48ヰヒ とばりと夜具。〔後漢書、鍾離意傳〕賜二尙書以下朝夕餐一、給二帷被皁袍及侍史二人一。

【帷殯】49ヰヒン 殯所に垂れるとばり。〔禮、檀弓下〕帷殯非レ古也、自三敬姜之哭二穆伯一始也。

【帷屛】50ヰヘイ たれたまくのおほひ。まくの仕切。幃屛。〔南史、羊侃傳〕盛設二帷屛一、列二女樂一。〔元稹、旅眠詩〕內外都無レ隔、帷屛不二復張一。

【帷幔】51ヰマン たれぎぬ。まく。幃幔。〔後漢書、臧洪傳〕紹盛二帷幔一、大會二諸將一、見レ洪。〔宋史、王淵傳〕澤還言二帷幔茵褥皆不一レ具。

【帷門】52ヰモン とばりを引きまはした門。〔儀禮、覲禮〕侯氏又皮辨、迎二于帷門之外一。

【帷㡘】53ヰレン とばりとすだれ。〔新序、雜事二〕君之臺觀、帷㡘錦繡。

【帷簾】54ヰレン たれまくとすだれ。〔張華、情詩〕清風動二帷簾一、晨月照二幽房一。〔南史、梁元帝徐妃傳〕雪霰交下、帷簾皆白。

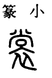
【下レ帷】55トバリヲクダス 家居して讀書する時、とばりをたれる。後世、家居して子弟を教授すること、塾を開くことにいふ。〔漢書、董仲舒傳〕仲舒爲二博士一、下レ帷講誦、三年不レ窺レ園。

【低レ帷昵レ枕】56トバリヲタレテマクラニシタシム 帷をたれて横臥する。〔謝惠連、雪賦〕願二低レ帷以昵一レ枕、念二解レ珮而褫一レ紳。

【常】

8955 シヤウ ジヤウ 〔集韻〕辰羊切 陽 ㄔㄤˊ ch'ang²

小篆



或體

❶つね。㋑久しきにわたってかはらない。〔玉篇〕常、恒也。〔正韻〕常、久也。〔詩、魯頌、閟宮〕魯邦是常。〔傳〕常、守也。〔太玄經、玄錯〕常因レ故。〔太玄經、玄告〕常滿以御レ虛也。〔注〕常、指レ故也。㋺のり。舊法。〔國語、越語下〕無レ忘二國常一。〔注〕常、舊法也。〔張衡、東京賦〕布レ教頒レ常。〔注〕薛曰、常、舊典也。㋩つねにかはらぬみち。人としてのおこなひ。〔禮、樂記〕道二五常之行一。〔注〕五常、五行也。〔後漢書、周章傳〕權者、反レ常者也。〔論衡、問孔〕五常之道、仁義禮智信也。㋥つねにかはらぬ德。〔逸周書、皇門解〕苟克有レ常。〔注〕常、謂二常德一。㋭おきて。一定の刑罰。〔逸周書、大匡解〕有レ常無レ赦。〔注〕常者、常刑也。㋬さだめ。命數。〔管子、水地〕及二其常一者。〔注〕常、謂二長育之常數一也。㋣たち。〔廣雅、釋詁三〕常、質也。㋠天體の運行。自然の推移。〔太玄經、玄攡〕常變錯。〔注〕常、謂二天地日月星辰一也。〔素問、氣交變大論〕應レ常不レ應レ卒。〔注〕常、謂下歲時之氣、不レ差二晷刻一者上。㋷なみ。なみなみ。凡庸。〔新序、善謀〕常人安二於所レ習。㋦ひごろ。平生。〔韓愈、張中丞傳後敍〕顏色不レ亂、陽陽如二平常一。㋸きまり。さだまり。〔漢書、藝文志〕變化無レ常。**❷つねに。いつも。**〔禮、少儀〕馬不二常秣一。〔注〕常、恆也。**❸つねにする。かへない。**〔易、坎〕君子以常二德行一。**❹おほむね。**〔韓愈、柳子厚墓誌銘〕率常屈二其座人一。**❺かつて。**むかし。嘗（**2－4205**）に通ず。〔說文通訓定聲〕常、叚借爲レ嘗。〔禮、少儀〕馬不二常秣一。〔釋文〕常、本亦作レ嘗。〔漢書、高帝紀〕高祖常繇二咸陽一。〔李華、弔二古戰場一文〕常覆二三軍一。**❻わづか。**すくない。ちひさい。僅少。微細。〔左氏、成、十二〕爭二尋常一以盡二其民一。〔史記、屈原賈生傳〕彼尋常之汚瀆兮。**❼長さの單位。**一丈六尺。長（**11－41100**）に通ず。〔說文通訓定聲〕常、叚借爲レ長、云云、度數無レ長二於常一、故曰レ常。〔小爾雅、廣度〕倍レ尋、謂二之常一。〔周禮、考工記、廬人〕車戟常。〔注〕八尺曰レ尋、倍レ尋曰レ常。**❽車にたてる戟。**〔釋名、釋兵〕車戟曰レ常、長丈六尺、車上所レ持也。**❾はた。**日月のしるし。日月又は黃龍をゑがいたはた。〔釋名、釋兵〕日月爲レ常、畫二日月於其端一、天子所レ建、言二常明一也。〔書、君牙〕紀二于太常一。〔傳〕王之旌旗、畫二日月一曰二太常一。〔周禮、春官、司常〕日月爲レ常。〔國語、吳語〕載レ常建レ鼓。〔注〕日月爲レ常。〔國語、越語下〕日月以爲レ常。〔注〕常、象也。〔古微書〕中央法二黃龍一曰レ常。**❿すそ。**もすそ。或は裳（**10－34357**）に作る。〔說文〕常、下帬也、从レ巾尙聲、裳、常或从レ衣。**⓫うらかた。また、忌明けの祭。**祥（**8－24689**）に通ず。〔儀禮、少牢饋食禮〕假二爾大筮有レ常。〔注〕常、吉凶之占繇。〔儀禮、士虞禮記〕曰、薦二此常事一。〔注〕常、古文作レ祥。**⓬木の名。**棠（**6－14953**）に通ず。〔說文通訓定聲〕常、叚借爲レ棠。〔詩、小雅、常棣〕常棣之花。**⓭川の名。**〔史記、夏紀〕常衞既從。**⓮神の名。**〔易、說卦〕兌爲レ常。〔釋文〕常、西方神。**⓯地名。**今、山東省滕縣の東南。〔詩、魯頌、閟宮〕居二常與レ許。〔傳〕常・許、魯南鄙西鄙也。**⓰州名。**常州（145）を見よ。〔集韻〕常、州名。**⓱さかんなさま。**常常（162）を見よ。**⓲たちもとほるさま。**常羊（346）を見よ。**⓳姓。**〔通志、氏族略、以レ邑爲レ氏〕常氏、姬姓、衞康叔子孫、食二邑於常一、因以爲レ氏、或言、黃帝臣常先之後、又有二恒氏一、避二宋諱一、亦改爲レ常。

名乘　ツラ。ノブ。ツネ。トキハ。

【常愛】1 ch‘ang^2 ai^4　常に云云したがる。とかく云云がち。

【常安】2 ジヤウアン　**❶**つねにやすらか。〔新書、數寧〕加二以常安四望無レ患。〔新書、胎教〕無二常安之國一、無二宜治之民一。**❷**地名。新の王莽の時、長安を改めて常安といふ。〔漢書、王莽傳中〕長安曰二常安一。**❸**縣名。㋑東晉、置く。故治は廣西省古化縣の南。㋺南朝宋、置く。今缺く。四川省眉山縣の境。㋩唐、置く。故城は山西省隰縣の北。〔讀史方輿紀要、山西、平陽府、隰州、溫泉城〕常安城、州北三十里、唐初置レ縣、屬二昌州一、貞觀初廢。㋥遼、置く。今の滿洲遼寧省鐵嶺縣の東南。**❹**清、滿洲鑲紅旗人。姓は葉赫納蘭氏。字は坦履。康熙の擧人。官は乾隆の間、浙江巡撫。書室を受宜堂といひ、著に受宜堂集がある。〔清史稿、三百四十四〕・〔國朝耆獻類徵、四百七十七〕・〔碑傳集、一百二十三〕。

【常闇】3 トコヤミ　何時も暗い。永久の闇。轉じて、世の亂れて治まらないこと。〔日本書紀、神代紀上〕故六合之內常闇、而不レ知二晝夜之相代一。

【常位】4 ジヤウヰ　定まったくらゐ。一定不變の位。〔左氏、昭、三十二〕社稷無二常奉一、君臣無二常位一。〔孫子、虛實〕五行無二常勝一、四時無二常位一。

【常尤】5 ジヤウイウ　あたりまへのとが。普通の過失。尤は過。〔陸機、文賦〕練二世情之常尤一、識二前脩之所レ淑。〔注〕翰曰、尤、過也。

【常有】6 ジヤウイウ　つねに有る。珍しくない。常有欲「を見よ。

【常有欲】7 ジヤウイウヨク　德は萬物を長育する作用があるから、道の自然で無欲なるに對して常に欲があるといふ。一說に、常有以て其の徼を觀んと欲すと讀む。〔老子、二〕常有欲以觀二其徼一。〔注〕常有欲之人、可四以觀三世俗之所二歸趣一也。

【不二常有一】8 ツネニハアラズ　何時でもはあるわけではない。無い時もある〔韓愈、雜說〕千里馬常有、而伯樂不二常有一。

【常游】9 ジヤウイウ　つねにあそぶ。〔史記、封禪書〕五山黃帝之所二常游與レ神會一。

【常奧】10 ジヤウイク　常にあたたか。奧は燠。〔漢書、五行志中之下〕故視傷常奧。〔漢書、五行志中之上〕盛夏日長、暑以養レ物、政弛緩、故其罰常奧也。

【常燠】11 ジヤウイク　常奧に同じ。〔漢書、天文志〕寒退而短爲二常燠一。

【常逸】12 ジヤウイツ　つねに安らかにたのしむ。〔北史、韋孝寬傳〕攻者自勞、守者常逸。

【常因】13 ジヤウイン　定まった因緣。〔支遁、詠二利城山居一詩〕託好有二常因一。

【常陰】14 ジヤウイン　常に陰氣であること。〔漢書、五行志中之上〕不レ雨近二常陰之罰一。

【常陰沙】15 ジヤウインサ　地名。一名、畱海沙。江蘇省の常熟・江陰・南通の三縣に分屬する。江沙が漲積して成り、私鹽の淵藪地である。

【常員】16 ジヤウヰン　定まった人數。定員。〔唐書、百官志〕職有二常守一、而位有二常員一也。

【常羽】17 イクハ　姓氏。〔明治新撰姓氏錄〕。

【常雨】18 ジヤウウ　常に雨の降ること。〔漢書、五行志中之上〕上慢下暴、則陰氣勝、故其罰常雨也。

【常雨帶】19 ジヤウウタイ　赤道無風帶地方をいふ。此の地帶は、蒸發が急激なため、濕氣に富んだ大氣が上昇して豪雨を降らせる。

【常雩】20 ジヤウウ　五月に上帝を祀ること。〔清會典事例、禮部、大祀〕雩祀、謹案、常雩大雩之禮、始定二於乾隆七年一。

【常英】21 ジヤウエイ　後魏の人。字は世華。諡は平。官は散騎常侍・鎭軍大將軍。爵を王に進められる。〔魏書、八十三上〕。

【常榮】22 ジヤウエイ　明の人。遇春の再從弟。官は振武衞指揮同知となり、戰功を樹てた。〔明史、一百三十三〕・〔明史稿、一百二十一〕。

【常瑩】23 ジヤウエイ　明、李肇亨（**6－14459**··1791）の號。

【常葉】24 トキハ　姓氏。〔姓名錄抄〕。

【常遠】25 ch‘ang^2 yüan^3　長い時間。〔紅樓夢、四回〕連這個不知、怎能做得常遠。

【常音】26 ジヤウオン つねの音。普通の音。〔陸機、文賦〕塊孤立而特峙、非二常音之所一レ緯。

【常溫】27 ジヤウヲン ❶定まつた溫度。常に一定した溫度。❷一年中を平均した溫度。

【常溫層】28 ジヤウヲンソウ 四時同じ溫度を保つ地下數十尺のところ。恒溫帶。

【常何】29 ジヤウカ 唐の人。貞觀中、中郎將となる。〔舊唐書、一百九十九上〕・〔唐書、二百二十〕。

【常佳】30 ジヤウカ 常にすこやか。〔王羲之、十七帖〕知二體氣常佳一此大慶也。

【常夏】31 トコナツ ❶いつも夏であること。〔後撰和歌集、夏〕冬なれど君が垣ほに咲きぬればうべとこなつに戀しかりけり。❷野生の撫子（ナデシコ）の異名。瞿麥。〔家經朝臣和歌序〕鍾愛抽二衆草一、故曰二撫子一、艷色契二千年一、故曰二常夏一。〔大鏡裏書〕染殿太后少時、容姿艷麗、號二瞿麥御一、取二美艷一耳、後改二瞿麥一稱二常夏一、蓋避レ諱也。

【常夏月】32 トコナツツキ 陰曆六月の異名。〔藏玉集、十二月異名、六常夏月〕。

【常家】33 ジヤウカ 定まつた家。きまつた學者。〔後漢書、法眞傳〕好レ學而無二常家一、博通二內外圖典一、爲二關西大儒一。

【常價】34 ジヤウカ 一定の價。きまつた價。〔左氏、昭、二十五、邱魴假使レ爲二賈正一焉、注〕賈正、掌二貨物一使レ有二常價一、若二市吏一也。

【常娥】35 ジヤウガ 月の異名。姮娥(**3**－**6232**・・1)に同じ。〔盧仝、有レ所レ思詩〕天涯涓涓常娥月、三五二八盈又缺。

【常行】36 ジヤウカウ ❶古來慣行の道。〔韓非子、五蠹〕是以聖人、不レ期二修古一、不レ法二常行一、論二世之事一、因爲二之備一。❷普通の行爲。誰でも行ふべき行爲。〔晏子、問、上〕君子常行曷若。〔白虎通、天地〕天所三以反二常行一何。〔東方朔、答二客難一〕君子有二常行一、君子道二其常一。❸ch'ang²hsing² ㋑通常の。普通の。㋺通常に。一般に。

【常行軍】37 ジヤウカウグン 諸兵種を連合した縱隊で、一日の行程を六里內とし、四日每に一日の休憩を與へて繼續する行軍。急行軍(**4**－**10475**・・6)・強行軍(**4**－**9815**・・15)の對。

【常香】38 ジヤウカウ 佛前に常に供へて置く香。不斷香。〔好色一代男、三〕。無分別の常香をもり、終には消ゆる命。

【常香盤】39 ジヤウカウバン 常香を焚くに用ひる香爐。〔好色五人女、四〕夜や八つ頃なるべし、常香盤の鈴落ちて、響きわたる事しばらくなり。

【常衡】40 ジヤウカウ 普通のはかり。金衡・藥衡等以外のはかり。

【常客】41 ジヤウカク ジヤウキヤク ❶お客。〔後漢書、桓譚傳〕晏曰、善逡罷二遣常客一。❷いつも來る客。得意客。

【常格】42 ジヤウカク 常に定まつた格式。一定のきまり。〔歐陽脩、內制集序〕屑二屑應用一、拘二牽常格一。

【常額】43 ジヤウガク 一定したたか。きまりの金額をいふ。

【常銜】44 ジヤウカン なみの官位。定まつた格式。

【常紀】45 ジヤウキ つねのきまり。かはらぬのり。

【常軌】46 ジヤウキ つねに行くべき軌道。行ふべきつねのみち。常道。〔北史、韓麒麟傳〕入レ粟者與レ斬レ敵同レ爵、力レ田者與二孝弟一均レ賞、是百王之常軌、爲レ政之所レ先。

【常旂】47 ジヤウキ 常は日月の象を畫いた旗、旂は昇龍と降龍とを畫いた旗。〔章望之、章公甫字序〕常旂旛旐、所三以表二師帥一也。

【常規】48 ジヤウキ つねののり。通常の規則。常度。〔元結、謝二大龜一詩〕順和固鄙分、全守眞常規。

【常喜】49 ジヤウキ 姓氏。〔姓名錄抄〕。

【常期】50 ジヤウキ 定まつた期限。定期。

【常器】51 ジヤウキ 常に用ひる祭器。〔左氏、襄、十九、以作二彝器一、注〕彝、常也、謂三鐘鼎爲二宗廟之常器一。

【常餼】52 ジヤウキ 矜寡孤獨などの窮民を救養する食糧の常制。〔禮、王制〕少而無レ父者謂二之孤一、老而無レ子者謂二之獨一、老而無レ妻者謂二之矜一、老而無レ夫者謂二之寡一、此四者天民之窮而無レ告者也、皆有二常餼一。〔注〕餼、廩也。

【常義】53 ジヤウギ 定まつた人のみち。常則。〔左氏、昭、二十五、夫禮天之經也、地之義也、疏〕天以二光明一爲二常義一、地以二剛柔一爲二常義一。〔新書、匈奴〕信爲二大操常義一也。

【常儀】54 ジヤウギ ❶一定の標準。〔韓非子、顯學〕人主共聽レ之、故海內之士、言無二定術一、行無二常儀一。❷上古の人。黃帝の臣。嘗て黃帝の命に依つて月を占した。一に尙儀に作る。〔漢書、律曆志〕黃帝使二羲和占一レ日、常儀占レ月。❸上古、帝嚳の西妃の一人。娵訾氏の女で、帝摯の母。〔通鑑前編〕常儀乃帝嚳四妃。〔周祈、名義考〕帝嚳後二黃帝一幾二百年、何得二黃帝使一レ占レ月、又爲二帝嚳妃一、意、或黃帝時有二常儀一、帝嚳時亦有二常儀一也、妃善占レ月、帝嚳因謂二之常儀一與。

【常久】55 ch'ang² chiu³ 久しく、いつまでも變らぬこと。永久。恒久。

【常舊】56 ジヤウキウ 常に用ひなれてゐる。ふだん使ひなれた。〔書、盤庚上〕以二常舊服一、正二法度一。

【常況】57 ジヤウキヤウ ふだんのありさま。常の狀態。〔民法、第七條〕。

【常居】58 ジヤウキヨ 常のすまひ。ふだんのすまひ。又、常に居る。ふだんすまひする。〔史記、天官書〕其一明者、太一常居也。〔漢書、天文志〕泰一之常居也。〔風俗通、正失〕常二居光明宮一聽レ政。

【常據】59 ジヤウキヨ 前涼、燉煌の人。字は元琰。年十四にして奉車都尉となり、王擢を擊破して名を顯はす。天錫の時、征東將軍に遷る。姚萇の來攻に敗れて死す。〔前涼錄〕。

【常璩】60 ジヤウキヨ 成漢、江原の人。字は道將。官は李勢の時、散騎常侍となる。著に華陽國志・漢書・南中志がある。〔四庫提要、六十六〕。

【常御】61 ジヤウギヨ 常に用ひ行ふ。〔漢書、禮樂志〕常存肄レ之、歲時以備レ數、然不二常御一、常御及郊廟、皆非二雅聲一。

【常均】62 ジヤウキン ❶通常の曲調。〔繁欽、與二魏文帝一牋〕聲悲二舊笳一、曲美二常均一。〔注〕善曰、均者、亦律二調五聲一之均也。❷定まつたのり。常法。〔任昉、爲二范始興一作求レ立二太宰碑一表〕本宜レ在二常均之外一。〔注〕向曰、言、人有下大功如二管仲一者上、則宜レ在二尋常均禁之外一。〔資治通鑑、宋紀〕（文帝、元嘉二十二年）裴子野論曰、蓋俗之量、則憤二常均之下一。〔注〕常均、猶レ言二平常一也。

【常鈞】63 ジヤウキン 清の人。常安の弟。雍正中、繙繹擧人から中書を授けられ、湖南巡撫に至る。準噶爾の征討に從つて勳功あり。官を罷めて後、林下に優遊すること二十年。乾隆中、千叟宴に與る。卒年八十餘。〔國朝耆獻類徵、一百七十二〕。

【常化】64 ジヤウクワ つねに變化する。絕えず移り變つてゆくこと。〔列子、天瑞〕生者不レ能レ不レ生、化者不レ能レ不レ化、故常生常化、常生常化者、無二時不一レ生、無二時不一レ化。

【常科】65 ジヤウクワ 平生のおきて。平常のわりあて。〔魏志、任城威王彰傳〕彰乃倍二常科一、大賜二將士一。〔舊唐書、職官志二〕其有二博綜兼學一、須レ加二甄奬一、不レ得三限以二常科一。

【常會】66 ジヤウクワイ 定期に催す會議。又、定期に開く集會。通常會。

【常懷】67 ジヤウクワイ 一定不變の考へ。定まつた心。〔書、太甲〕民罔二常懷一、懷二于有仁一。

【常滑】68 トコナメ ❶いつもなめらか。川の中の床石に、水苔のやうなものがついて常に滑かなのをいふ。〔萬葉集、一〕見れど飽かぬ、吉野の川の常滑の絕ゆることなくまた還り見む。❷尾張國の地名。❸常滑燒の略。

【常滑燒】69 トコナメヤキ 尾張國知多郡常滑村から產する陶器。

【常官】70 ジヤウクワン 常に置く官。〔商子、去彊〕農商官三者、國之常官也。〔商子、說民〕重二輕刑一、去二常官一。

【常患】71 ジヤウクワン 平生の憂。〔晏子、重而異者〕公曰、讒佞之人、則誠不レ善矣、雖レ然則奚曾爲二國常患一乎。

【常款】72 ch'ang² k'uan³ 經常費。

【常關】73 ジヤウクワン ❶ふだん閉ぢて置く。〔陶潛、歸去來辭〕門雖レ設而常關。❷清代、中國舊來の內地稅關。全國合計して三十三個所ある。鈔關。舊關。〔淸會典、戶部〕常關兼收者、直隸津海關・山海關、山東東海關。

【常玩】74 ジヤウグワン 常になれしたしむ。又、そのもの。〔左思、招隱詩〕爵服無二常玩一、好惡有二屈伸一。〔張協、七命〕目厭二常玩一、體倦二帷幄一。

【常願】75 ジヤウグワン 平生からのねがひ。日頃のねがひ。〔後漢書、左雄傳〕而與二王聖一並同二爵號一、懼下違二本操一、失中其常願上。

【常君】76 ジヤウクン 定まつた君主。〔揚雄、解嘲〕士無二常君一、國無二定臣一。

【常刑】77 ジヤウケイ 定まつた刑法。一定の刑法。〔書、

胤征〕其或不恭、邦有二常刑一。〔書、費誓〕汝則有二常刑一。〔周禮、天官、小宰〕不レ用レ灋者、國有二常刑一。〔周禮、地官、大司徒〕其有レ不レ正、則國有二常刑一。〔左氏、莊、十四〕周有二常刑一既伏二其罪一矣。

〖常刑不レ赦〗78 ジヤウケイユルサズ　定まつた刑罰は赦さない。〔左氏、昭、二十五〕臣之失レ職、常刑不レ赦、臣不レ忍二其死一。

【常形】79 ジヤウケイ　きまつた形。一定の形狀。〔管子、君臣上〕天有二常象一、地有二常形一、人有二常禮一、一設不レ更、此謂二三常一。〔史記、太史公自序〕無二成勢一、無二常形一、故能究二萬物之情一。〔漢書、司馬遷傳〕無二成勢一、無二常形一。〔東方朔、答二客難一〕天有二常度一、地有二常形一。

【常計】80 ジヤウケイ　定まつてゐるはかりごと。きまつたやりかた。〔魏志、傅嘏傳〕誠皆取レ賊之常計也。

【常惠】81 ジヤウケイ　漢、太原の人。謚は莊武。武帝の時、蘇武に隨つて匈奴に使す。爵は長羅侯。官は甘露中、右將軍となる。〔前漢書、七十〕。

【常景】82 ジヤウケイ　後魏の人。爽の孫。字は永昌。敕を受けて門下詔書、凡そ四十卷を撰し、又、太和の後の朝儀の已に施行されたもの凡そ五十餘卷を撰した。爵は濮陽縣子。官は儀同三司。著述數百篇がある。〔魏書、八十二〕。

【常經】83 ジヤウケイ　つねのり。永久にかはらないすぢみち。〔戰國、趙策〕國有二固籍一、兵有二常經一、變レ籍則亂、失レ經則弱。〔管子、法法〕國無二常經一、民力必竭。〔漢書、董仲舒傳〕春秋大二一統一者、天地之常經、古今之通誼也。〔說苑、奉使〕平生常經。

【常缺】84 ch‘ang^{2} ch‘üeh^{1}　定期貸付。長缺。

【常月】85 ジヤウゲツ　常の月。閏月の對。〔公羊、文、六〕何以謂三之天無二是月一、非二常月一也。

〖常月票〗86 ch‘ang^{2} yüeh^{4} p‘iao^{4}　汽車汽船等の期間切符。

【常軏】87 ジヤウゲツ　明、沁水の人。成化の進士。大理寺評事を授けられ、右寺副に陞り、河南僉事に終る。〔本朝分省人物攷、一百一〕。

【常業】88 ジヤウゲフ　定まつた仕事。平生の業務。〔韓非子、飾邪〕語曰、家有二常業一、雖レ飢不レ餓、國有二常法一、雖レ危不レ亡。〔宋史、樂志三〕臣有二常職一、民有二常業一、物有二常形一。

【常欠】89 ch‘ang^{2} ch‘ien^{4}　定期貸付。常缺。

【常見】90 ch‘ang^{2} chien^{4}　❶㋑常に會ふ。㋺みなれた。珍らしくない。❷佛ジヤウケン　世界が常住不變であるとともに、人間も亦現世に於て死んでも後世で再び生き、相續いて斷滅することがないといふこと。斷見(**5－13611**··57)の對。〔智度論、七〕見有二二種一、一者常、二者斷、常見者、見二五衆常一、心忍樂、斷見者、見二五衆滅一、心忍樂、一切衆生、多墮二此二見中一、復有二二種見一。

【常建】91 ジヤウケン　唐、長安の人。開元十五年、王昌齡と同榜登科し、大曆中、盱眙尉となつたが、遂に意を得ず、琴酒に身を托して放浪し、太白紫閣の諸峯に往來し、後、鄂渚に寓居して終る。尤も風景詩に長じ、謝朓の詩に似て清麗鮮明の作が多い。〔唐才子傳、二〕・〔四庫提要、一百四十九〕。

〖常建詩〗92 ジヤウケンシ　書名。三卷。唐、常建撰。建は名位卑しく、交游する者に一人の顯官なく、知名の士は僅かに王昌齡一人のみであつたが、其の遺詩五十七首は往々王孟と抗行した。〔四庫提要、集、別集類〕。

【常憲】93 ジヤウケン　一定ののり。常に守るべきおきて。常法。〔書、胤征〕先王克謹二天戒一、臣人克有二常憲一。〔後漢書、百官志一〕宜レ爲二常憲一。〔陸機、謝二平原内史一表〕拘二守常憲一、當二便道之官一。

〖常憲院〗94 ジヤウケンヰン　德川五代將軍、綱吉の法號。

【常言】95 ch‘ang^{2} yen^{2}　諺。格言。

【常故】96 ジヤウコ　ありふれたしきたり。ありきたりでふるびたこと。〔淮南子、氾論訓〕常故不レ可レ循、器械不レ可レ因也、則先王之法度、有二移易者一矣。

【常語】97 ジヤウゴ　❶平常口にする言葉。いつもきまつていふ語。常套語。〔唐書、魏徵傳〕老儒常語耳、徵不レ謝去。❷書名。三卷。宋、李覯撰。〔李直講文集、第七冊〕。

【常工】98 ch‘ang^{2} kung^{1}　雇ひつけの人夫。雇ひきりの雇人。常傭人夫。

【常酷】99 ジヤウコク　つねののり。きまつた法則。常法。酷は法の意。〔陸機、豪士賦序〕風起塵合而禍至、常酷也。〔注〕良曰、酷、猶レ法也。

【常忽】100 ジヤウコツ　常にゆるがせにする。いつもおろそかにしておくこと。〔顏延之、赭白馬賦〕故祗三慎乎所二常忽一。

【常骨】101 ジヤウコツ　凡人をいふ。〔姚合、武功縣中作詩〕閑人得レ本晚、常骨覓レ仙難。

【常困】102 ジヤウコン　つねにくるしむ。〔史記、高祖紀〕袁生說二漢王一曰、漢與レ楚相二距滎陽一數歲、漢常困、願君王出二武關一。

【常恨】103 ジヤウコン　常に恨む。又、つねづねのうらみ。〔南齊書、武帝紀〕言常恨レ之、未レ能二頓遣一。

【常衮】104 ジヤウコン　唐、京兆の人。天寶の進士。官は代宗の時、門下侍郎・同平章事。爵は河内郡公。賣官の路を窒ぎ、文詞無きものは皆擯けて用ひなかつたため、世人は黯伯といつた。德宗の時、潮州刺史に貶せられ、建中の初、福建觀察使と爲り、閩人のため、鄉校を設けて之を教導した。文集がある。〔唐書、一百五十〕・〔舊唐書、一百十九〕。

【常祭】105 ジヤウサイ　つねのまつり。通常のまつり。きまつたまつり。〔書、洛誥、戊辰王在二新邑一烝祭歲文王騂牛一武王騂牛一、疏〕爲二冬節烝祭一、其月節是周之歲首、特異二常祭一、加二文王騂牛一、武王騂牛一一。〔管子、幼官〕修二春秋冬夏之常祭一。

【常菑】106 ジヤウサイ　つねのわざはひ。〔新書、大政〕天有二常菑一、必與レ奪二民時一。

【常歲】107 ジヤウサイ　ふだんの年。平常の年。〔稽神錄、四、姚氏〕明日魚乃大獲、倍二於常歲一矣。〔輟耕錄、賢孝〕遂起受二子孫拜賀一、如二常歲儀一。

【常在】108 ジヤウザイ　❶つねにある。常に存在する。〔易林、損之第四十一、遯〕天之所レ予、福祿常在。❷脾神の名。〔黃庭經〕脾神、常在、字魂庭。❸仙人の號。〔韻府引、列仙傳〕李常在居レ山不レ老、不レ知二其名一、因號二李常在一。❹清代、女官の名稱。答應の次を常在と名づけた。〔清會典事例、禮部、喪禮、常在答應等喪禮〕乾隆四十年定、常在以下喪禮、皆歸二內務府辦理一、不下必復與二禮部一會辦上。〔清國行政法汎論、立皇后、備考〕清朝後宮、別置二女官一、一曰皇貴妃、二曰貴妃、三曰妃、四曰嬪、五曰貴人、六曰答應、七曰常在。

【常爽】109 ジヤウサウ　後魏の人。林の六世の孫。涼州に徙居す。字は仕明。五經百家の說に精通し、世に儒林先生といふ。宣威將軍に拜せらる。著に六經略注がある。〔魏書、八十四〕・〔北史、四十二〕。

【常摐】110 ジヤウサウ　古の人。老子の先生。〔說苑、敬愼〕常摐有レ疾、老子往問レ焉。

【常操】111 ジヤウサウ　かはらないみさを。終始一貫した操守。〔韓非子、解老〕萬物各異レ理、而道盡稽二萬物之理一、故不レ得レ不レ化、不レ得レ不レ化、故無二常操一。〔素書〕上無二常操一、下多二疑心一。〔後漢書、馮衍傳下〕抗二玄妙之常操一、處二清靜一以養レ志兮。

【常昨】112 ジヤウサク　❶姓氏。❷トノムカシ　姓氏。〔姓名錄抄〕。

【常參】113 ジヤウサン　唐代、前殿に御して朝見すること。又、一定の時、屬官が其の長官に謁見すること。常參官を見よ。

〖常參官〗114 ジヤウサンクワン　毎日參朝する官吏。唐制では文官の五品以上の者、及び供奉官・監察御史・員外郎・太常博士等が毎日參朝し、此等を常參官といつた。〔唐書、百官志三〕文官五品以上、及兩省供奉官・監察御史・員外郎・太常博士日參、號二常參官一、武官三品以上、三日一朝、號二九參官一、五品以上及折衝當番者、五日一朝、號二六參官一。〔張籍、酬二祕書王丞見レ寄詩〕今體詩中偏出レ格、常參官裏毎同レ班。

【常產】115 ジヤウサン　その土地から常に生ずる產物。又、つねの生產。一定の財產。恆產。〔皇甫謐、三都賦序〕若夫土有二常產一、俗有二舊風一。〔注〕良曰、常產、謂下土地所二常產一之物上。〔宋史、食貨志上五〕役レ人必用二鄉戶一、爲三其有二常產一、則自重。

【常算】116 ジヤウサン　つねなみのはかりごと。普通の小計。尋常の事。〔歐陽脩、王彥章畫像記〕此天下偉男子之所レ爲、非下拘二牽常算一之士可上レ到也。

【常餐】117 ジヤウサン　平常の食物。日常の食事。〔方干、贈二會稽張少府一詩〕高節何曾似レ任レ官、藥苗香潔備二常餐一。

【常山】118 ジヤウザン　❶樹木の名。こくさぎ。落葉の灌木。山野に自生し、葉や莖を煎じて、瘧の藥とする。〔本草、常山〕釋名、恒山、互草、鷄屎草、鴨屎草、發明、時珍曰、常山蜀漆、有二劫レ痰截レ瘧之功一。〔明醫雜著、瘧病證治〕若欲レ截レ之、加二檳

梛黃芩青皮常山各一、錢烏梅雨三箇。㊁山名。㋑恒山(4－10527‥57)の㊀に同じ。北嶽ともいふ。〔呂覽、本味〕常山之北、投淵之上。〔漢書、地理志上、常山郡、注〕恒山在西、避文帝諱、故改曰常山。〔說苑、辨物〕華山西嶽也、常山北嶽也。㋺山東省諸城縣の南。〔水經、濰水注〕又北左合扶淇之水、水出西南常山。㋩浙江省常山縣の東。一に長山に作る。頂に湖があり、湖山ともいふ。古の信安嶺。〔讀史方輿紀要、浙江、衢州府、常山縣〕常山、在縣東三十里、縣以此名、一名長山、絕頂有湖、廣數畝、亦曰湖山、巨石環遶、儼如城郭、王象之曰、卽信安嶺也。㊂郡名。漢、置く。今、河北省正定縣の南。〔讀史方輿紀要、歷代州域形勢、漢〕常山郡、本趙國地、呂后二年、分置恒山國、文帝初、復爲趙地、景帝中三年、仍置常山國、元鼎四年、爲常山郡、領元氏等十八。㊃縣名。㋑隋、置く。故城は河北省正定縣の西南。〔讀史方輿紀要、直隸、眞定府、眞定縣〕常山城、府西南十八里、隋開皇十六年、分眞定置常山縣、大業初、復省入眞定縣、或曰、卽漢常山郡城也。㋺縣名。唐、置く。縣の南に常山があるから名づける。浙江省衢縣の西に當り、金溪に臨む。〔讀史方輿紀要、浙江、衢州府〕常山縣、本大末縣地、唐咸亨五年、復析置常山縣屬婺州。〔清史稿、地理志〕浙江、衢州府、縣五、常山。㊄關の名。河北省唐縣の西北。倒馬關(1－767‥185)の㊀を見よ。㊅字號。㋑安積學の號。安積澹泊(3－7072‥283)を見よ。㋺湯淺元禎の號。湯淺常山(7－17874‥221)を見よ。㋩山寺久道の號。山寺常山(4－7869‥475)を見よ。

【常山紙】119 ジャウザンシ 紙の一種。竹紙。ちくし。〔遵生八牋、論紙〕鉛山紙、常山紙、英山紙。

【常山舌】120 ジャウザンノシタ 唐の玄宗の時の忠臣、顏杲卿が死に至るまで、節を守つて賊臣安祿山を罵詈した故事。〔唐書、顏杲卿傳〕安祿山表爲營田判官、假常山太守、祿山反、使史思明等攻常山、六日而陷、杲卿瞋目罵、祿山不勝忿、縛之天津橋柱、詈不絕、賊鉤斷其舌、曰、復能罵否、杲卿含胡而絕。〔文天祥、正氣歌〕爲張睢陽齒、爲顏常山舌。

【常山蛇】121 ジャウザンノダ 常山の蛇。常山蛇勢(126)を見よ。

【常山陣】122 ジャウザンノヂン 首尾相呼應して守る陣法。常山蛇勢(126)を見よ。〔庾信、哀江南賦〕昆陽之戰象走林、常山之陣蛇奔穴。〔杜牧、東兵長句十韻詩〕卽墨龍文光照曜、常山蚶陣勢縱橫。〔明餘慶、從軍行〕風卷常山陣、笳吹細柳營。

【常山孝王】123 ジャウザンカウワウ 晉、司馬衡(2－3257‥233)の封謚號。

【常山紀談】124 ジャウザンキダン 書名。二十五卷。湯淺元禎撰。織田・德川其の他諸大名及び其の仕人に關する雜談を記し、傳說、及び事實の異同を考證した書。

【常山憲王】125 ジャウザンケンワウ 漢、劉舜(2－2224‥365)の封謚號。

【常山蛇勢】126 ジャウザンノダセイ 常山に兩頭の蛇がをり、其の首を打てば、尾之に應じ、其の尾を打てば、首之に應じ、其の中を打てば首尾之に應ずるといふ。因つて敵の襲來に應じて、遲滯なく彼此互に援護する陣法をいひ、又、文章などの首尾照應するものにもいふ。〔孫子、九地〕故善用兵者、譬如率然、率然者、常山之蛇也、擊其首則尾至、擊其尾則首至、擊其中則首尾俱至。〔注〕梅堯臣曰、蛇之爲物也不可擊、擊之則率然相應。〔晉書、桓溫傳〕初諸葛亮造八陣圖于魚復平沙之上、壘石爲八行、相去二丈、溫見之謂、此常山蛇勢也。

【常山樓筆餘】127 ジャウザンロウヒツヨ 書名。三卷。湯淺元禎撰。我が國の開闢以來史上に著れた人物・行跡・事業等及び、文武に關する評論、古代の制度・風俗等の考證を載せる。

【常子】128 ジャウシ 我が子と同じやうに養ふ子。〔任昉、奏彈劉整文〕汜毓字孤、家無常子。

【常子閣】129 ジャウシカク 石子崗の反語。三國、吳の諸葛恪が、死後石子崗に投ぜられることを豫言した童謠の語。〔晉書、五行志中〕吳孫亮初、童謠曰、吁汝恪、何若若、蘆葦單衣蔑鉤絡、於何相求常子閣、常子閣者、反語、石子崗也、鉤絡、鉤帶也、及諸葛恪死、果以葦席裹身、蔑束其腰、投之石子崗。

【常之】130 ジャウシ 字號。㊀宋、葛立方(9－31420‥144)の字。㊁宋、向敏中(2－3301‥117)の字。

【常死】131 ジャウシ つねに死す。〔列子、仲尼〕有所由而常死者亦道也。

【常祀】132 ジャウシ 通常規定の祭。例祭。〔唐書、禮樂志一〕凡歲之常祀、二十有二。

【常思】133 ジャウシ 五代、漢の太原の人。字は克恭。唐・晉に歷仕す。官は高祖の時、武勝軍節度使。〔五代史、四十九〕・〔舊五代史、一百二十九〕。

【常思菜】134 ジャウシサイ 草の名。卷耳の異名。みみなぐさ。〔本草、枲耳〕釋名、胡枲、常思、蒼耳、卷耳、爵耳、猪耳、耳璫、地葵、葹、羊負來、道人頭、進賢菜、喝起草、野茄、縑絲草、弘景曰、傖人皆食之、謂之常思菜、以葉覆麥、作黃衣者、方用甚稀。

【常枲】135 ジャウシ 草の名。卷耳の異名。みみなぐさ。〔爾雅、釋草〕菤耳、苓耳。〔注〕廣雅云、枲耳也、亦云、胡枲、江東呼爲常枲、或曰苓耳、形似鼠耳、叢生如盤。

【常師】136 ジャウシ 定まつた師。常に教を受ける師。〔書、咸有一德〕德無常師、主善爲師。〔論語、子張〕夫子焉不學、而亦何常師之有。〔後漢書、班固傳上〕所學無常師、不爲章句、擧大義而已。

【常試】137 ジャウシ つねに試みもちひる。平素の訓練。〔尉繚子、攻權〕將無修容、卒無常試。

【常次】138 ジャウシ 定まつた順序。〔周禮、地官、鄉師〕凡邦事令作秩敍、〔注〕事有常次、則不偪匱。

【常事】139 ジャウジ ㊀定まつた事。かはらない事。〔書、立政〕文王惟克厥宅心、乃克立茲常事司牧人、以克俊有德。㊁つねの事。日常の事。〔禮、曾子問〕孔子曰、以上牲祭於宗子之家、祝曰、孝子某爲介子某、薦其常事。〔晉書、何遵傳〕惟說平生常事。㊂常に行ふべき道。〔管子、白心〕常事通道、能官人乎。〔注〕常事、常行之事、謂不與俗詭者。

【常事犯】140 ジャウジハン 通常の犯罪。國事犯以外の通常の犯罪の總稱。〔家祿賞典祿處分法、第一條〕。

【常侍】141 ジャウジ 長者の側に在つて用を務める者。側用人。散騎常侍の略稱。〔史記、司馬相如傳〕以貲爲郎、事孝景帝、爲武騎常侍。〔漢書、李廣傳〕廣爲郎騎常侍。〔急就篇、四〕前後常侍諸將軍。〔後漢書、百官志三〕中常侍千石。

【常侍謁者】142 ジャウジエツシャ 常侍・謁者共に常に君側に侍して用を務める者。側用人の類。〔張衡、西京賦〕內有常侍謁者、奉命當御。〔注〕翰曰、常侍・謁者、皆內官也。

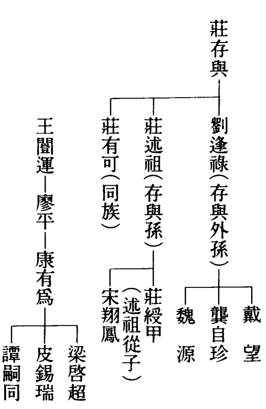
【常侍曹尙書】143 ジャウジサウシャウショ 常侍曹は漢の成帝の時に創設した官署、尙書は其の長官。公卿を以て任じ、銓選を掌る。〔漢書、成帝紀〕建始四年、初置尙書員五人。〔注〕師古曰、漢舊儀云、尙書四人爲四曹、常侍尙書、主丞相御史事、二千石。

【常時】144 ジャウジ つね。ふだん。平生。〔杜甫、秋日夔府詠懷一百韻詩〕南內開元曲、常時弟子傳。

【常州】145 ジャウシウ ㊀州名。隋・唐・宋、置き、明、府を置く。㊁を見よ。㊁府名。明、置く。宋の時、州を置き、元の時、路と爲し、明の時、府に改む。清は武進・陽湖・無錫・金匱・江陰・宜興・荊溪・靖江の八縣を領せしめた。治は今の江蘇省武進縣。〔讀史方輿紀要、江南、常州府〕隋開皇九年、廢郡置常州、大業初、復曰毘陵郡、隋末爲沈法興・李子通等所據、唐武德三年、復曰常州、天寶初、亦曰晉陵郡、云云、宋仍曰常州、元爲常州路、明初爲長春府、尋復爲常州府。〔清史稿、地理志〕江蘇、常州府、領縣八、武進・陽湖・無錫・金匱・江陰・宜興・荊溪・靖江。㊂常陸國の略稱。〔德川光圀、梅里先生碑〕先生者常州水戶之產也。

【常州派】146 ジャウシウハ ㊀江蘇省常州に起つた清代經學の一派。一名、公羊學派といふ。春秋公羊學を主張し、孔子を素王とし、孔子が素王の位に居て天下を支配せんがために經書は世に出たものであるといひ、古文派の用ひる經籍の眞僞を疑つた。此の學派は常州の莊存與を祖とし、其の從子述祖、一族の莊有可、其の孫綬甲、其の外孫劉逢祿、門下の宋翔鳳と次第に流傳し、更に劉氏の門下の魏源・龔自珍及び王闓運、廖平・康有爲・梁啓超・譚嗣同等によつて祖述され、就中、康有爲は之を大成した。

【常州學派】



❷清代、江蘇省の常州附近を中心として起つた詞の一派。一名、毘陵派といふ。武進の張惠言を祖とし、周保緒、及び杭州の項鴻祚・蔣春霖・譚獻・蔣敦復等が之に屬す。❸清代、江蘇省武進の惲恪が沒骨法によつて起した畫の一派。

【常羞】147（ジヤウシウ）　平生の食物。〔杜甫、鄭典設自㆓施州㆒歸詩〕敕廚倍㆓常羞㆒、杯盤頗狼籍。

【常愁】148（ジヤウシウ）　常にうれへる。又、平素のうれひ。〔楚辭、九章、悲回風〕寧溘死而流亡兮、不㆑忍㆓此心之常愁㆒。

【常式】149（ジヤウシキ）　定まつた法則。變らぬ儀式。常法。〔管子、君臣下〕國有㆓常式㆒、故法不㆑隱、則下無㆓怨心㆒。〔史記、秦始皇紀〕群臣誦㆑功、請刻㆓于石㆒、表垂㆓于常式㆒。〔魏書、孫惠蔚傳〕永爲㆓常式㆒。

【常識】150（ジヤウシキ）　專門的知識に對して普通人相手の一般的知識、又は普通人に期待される見聞・理解力・判斷力等をいふ。Common sense

【常習】151（ジヤウシフ）　平生の習癖。つねのならはし。つねのならひ。

〖常習犯〗152（ジヤウシフハン）　同一の犯罪行爲を累次反覆する人。又、そのことに依つて成立する犯罪。

【常車】153（ジヤウシヤ）　儀裝した車。〔逸周書、克殷解〕又陳㆓常車㆒。〔注〕常車、威儀車也。〔史記、周紀〕武王弟叔振鐸、奉㆓陳常車㆒。〔漢書、匈奴傳下〕皆載以㆓常車㆒。

【常舍】154（ジヤウシヤ）　常住の家屋。〔顧歡、言志詩〕五塗無㆓恆宅㆒、三清有㆓常舍㆒。

【常赦】155（ジヤウシヤ）　❶國家の定めた法律で一定の範圍內に於て赦を行ふこと。常赦所㆑不㆑原を見よ。❷中古以後の恩赦の一つ。八虐・故殺・謀殺・私鑄錢・強盜・竊盜等の大罪を除く外、罪人を赦すこと。〔類聚國史、八十六、赦宥〕桓武天皇、云云、但犯㆓八虐・故殺人・強竊二盜・私鑄錢㆒、常赦所㆑不㆑免者、不㆑在㆓赦限㆒。

〖常赦所㆑不㆑原〗156（ジヤウシヤユルサザルトコロ）　十惡乃至強竊盜等の大罪は、國家の恩赦に遇つてもゆるされぬことをいふ。〔明律、名例、常赦所㆑不㆑原〕凡犯㆘十惡・殺人、盜㆓係㆑官財物㆒、及強盜・竊盜・放火・發塚・受枉法不枉法贓・詐僞・犯姦・略人・略賣・和誘人口、若姦黨及讒言・左使殺人・故出入人罪、若知㆑情故縱・聽行藏匿引送・說事過錢㆖之類、一應眞犯、雖㆑會㆑赦、並不㆓原宥㆒。

〖常赦所㆑不㆑免者〗157（ジヤウシヤメンゼザルトコロノモノ）　常赦所㆑不㆑原に同じ。〔唐律、斷獄、赦前斷罪不當〕其常赦所㆑不㆑免者、依㆓常律㆒。〔注〕常赦所㆑不㆑免者、謂㆘雖㆑會㆑赦、猶處㆓死及流㆒、若除名、免㆓所㆑居官㆒、及移㆑鄕者㆖。

【常祥】158（ジヤウシヤウ）　獸の名。〔呂覽、諭大〕地大則有㆓常祥・不庭・岐母・羣抵・天翟㆒。〔注〕常祥・不庭・羣抵・岐母・天翟、皆獸名也。

【常象】159（ジヤウシヤウ）　常の現象。あたりまへの現象。〔漢書、五行志下之下〕故星隕㆓於魯㆒、天事常象也。

【常賞】160（ジヤウシヤウ）　定まつた賞。〔國語、越語上〕進則思㆑賞、退則思㆑刑、如㆑此則有㆓常賞㆒。

【常狀】161（ジヤウジヤウ）　いつものさま。常のありさま。常態。

【常常】162（ジヤウジヤウ）　❶つねに。いつも。絕えず。〔孟子、萬章上〕雖㆑然欲㆓常常而見㆒㆑之、故源源而來。〔韓愈、祭㆓十二郎㆒文〕吾曰、是疾也、江南人、常常有㆑之、未㆓始以爲㆒㆑憂也。❷無心のさま。〔莊子、山木〕純純常常、乃比㆓於狂㆒。〔注〕無心而動故也。❸盛なさま。〔廣雅、釋訓〕常常、盛也。

【常情】163（ジヤウジヤウ）　人としてあたりまへの情意。つねのこころ。普通の人情。〔莊子、人閒世〕傳㆓其常情㆒、無㆑傳㆓其溢言㆒。〔尉繚子、守權〕此人之常情也。〔江淹、雜體詩序〕貴㆑遠賤㆑近、人之常情。

【常若】164（トコワカ）　いつもわかいこと。いつまでもわかいこと。〔林葉集、六〕なほとこわかに榮ゆべらなり。

【常主】165（ジヤウシユ）　❶きまつた主。〔書、咸有一德〕善無㆓常主㆒、協㆓于克一㆒。〔管子、幼官〕必說㆓常主㆒。❷つねにつかさどる。〔史記、封禪書〕諸此祠、皆太祝常主。

【常守】166（ジヤウシユ）　❶つねのまもり。つねにまもる。〔晏子、諫、上〕太公・桓公、將㆓常守㆒㆑之矣。〔後漢書、百官志一〕遂爲㆓常守㆒。❷一定の規則。〔蘇軾、擬㆔進士對㆓御試策㆒一道〕官有㆓常守㆒、謂㆓之職㆒。

【常戍】167（ジヤウジユ）　常にとどまつてまもること。〔北史、魏景穆十二王下、任城王澄傳〕邊方有㆑事、暫可㆓赴㆑戰常戍㆒。

【常壽】168（ジヤウジユ）　複姓。〔萬姓統譜〕常壽、姬姓、吳仲雍之後。

【常儒】169（ジヤウジユ）　普通一般の儒者。世にありふれた學者。〔張景柳、如京文集序〕先王之道、非㆓常儒可㆒㆑道也。

【常叔】171（ジヤウシユク）　五代、周の太祖が常思を親しみ呼んだ稱。〔五代史、常思傳〕周太祖方少孤、無㆑依、食㆓于思家㆒、以㆑思爲㆑叔、云云、已卽㆑位、每呼㆑思爲㆓常叔㆒、拜㆓其妻㆒、如㆓家人體㆒。

【常宿】172（ジヤウシユク）　❶星の名。恒星。〔漢書、天文志〕凡天文在㆓圖籍㆒、昭昭可㆑知者、經星常宿中外官、凡一百十八名。❷つねにやどる。いつもとまる。〔杜甫、重過㆓何氏㆒詩〕到㆑此應㆓常宿㆒、相留可㆑判㆑年。❸（ジヤウヤド）いつもとまる宿。定宿。〔續狂言記、磁石〕これが身どもの定宿ぢや。

【常熟】173（ジヤウジユク）　❶山名。江蘇省常熟縣の北。もと銅官山といふ。唐の天寶中、常熟と改む。❷縣名。梁、置く。江蘇省吳縣の北。〔讀史方輿紀要、江南、蘇州府〕常熟縣、本吳縣地、梁天監六年、增㆓置信義郡㆒、南沙屬焉、大同六年、又分㆓置常熟縣㆒、亦屬㆓信義郡㆒。〔清史稿、地理志〕江蘇、蘇州府、縣九、常熟。

【常春】174　ch‘ang^2 ch‘uen^1　草花の名。金盞花。長春花。

〖常春藤〗175（ジヤウシユントウ）　蔓草の名。きづた。〔本草、常春藤〕釋名、土鼓藤、龍鱗薜荔、藏器曰、小兒取㆓其藤㆒、於㆑地打作㆓鼓聲㆒、故名㆓土鼓㆒、李邕改爲㆓常春藤㆒、集解、藏器曰、生㆓林薄閒㆒、作㆑蔓繞㆓草木上㆒、其葉頭尖、結㆑子正圓、熟時如㆓珠碧色㆒。

〖常春木〗176（ジヤウシユンボク）　鳳首木の異名。この木に鸞鳳の形を彫刻して堂中に置いたところが、嚴冬でも春のやうにのどかであつたことからいふ。〔杜陽雜編〕杜輔國有㆓鳳首木㆒、高一尺、雕㆓刻鸞鳳之形㆒、置㆓之堂中㆒、雖㆓嚴冬之際㆒、而和煦如㆑春、故別名爲㆓常春木㆒。

【常順】177（ジヤウジユン）　自然にしたがふ一定の性質。〔逸周書、常訓解〕天有㆓常性㆒、人有㆓常順㆒。

【常準】178（ジヤウジユン）　一定のきまり。定まつた標準。定法。〔後漢書、梁統傳〕臣竊見、元哀二帝、輕㆓殊死之刑㆒、云云、自㆑是以後、著爲㆓常準㆒、故人輕㆑犯㆑法。〔魏志、三少帝評〕不易之常準也。

【常處】179（ジヤウショ）　一定の居處。又、定まつた場所。〔史記、五帝紀〕遷徙往來無㆓常處㆒。〔漢書、郊祀志下〕古者壇場有㆓常處㆒。

【常序】180（ジヤウジヨ）　常に定まつた順序。

【常昇】181（ジヤウショウ）　明の人。遇春の次子。封は開國公。太子太保を加へらる。〔明史、一百二十五〕・〔萬斯同明史、一百六十〕。

【常勝】182（ジヤウショウ）　❶常に勝つ。きまつて勝つ。かちつづける。〔孫子、虛實〕五行無㆓常勝㆒、四時無㆓常位㆒。❷金、完顏元（**3**－**7079**‥26）の本名。

〖常勝家〗183（ジヤウショウカ）　戰に何時でも勝つ人。〔後漢書、臧宮傳〕常勝之家、難㆓與慮㆒㆑敵。〔戴良、春雪詩〕徐君可㆑是常勝家、白戰先㆑陳漢庭祖。

〖常勝軍〗184（ジヤウショウグン）　❶戰ふ每に敵に勝つ軍隊。❷清代、長髮賊の亂に米人華爾（Frederick Ward）が統率した軍隊をいふ。〔馮桂芬、副將華爾小傳〕事聞、賞㆓四品翎頂㆒、命㆓其軍㆒曰㆓常勝㆒。

〖常勝之道〗185（ジヤウショウノミチ）　何時も勝つ方法。柔弱の道をいふ。〔列子、黃帝〕天下有㆓常勝之道㆒、有㆓常不勝之道㆒、常勝之道曰㆑柔、常不勝之道曰㆑彊。

【常食】186（ジヤウショク）　ふだんの食物。一定の食事。

【常職】187（ジヤウショク）　一定の職務。〔左氏、文、六〕本㆓秩禮㆒、續㆓常職㆒、出㆓滯淹㆒。〔孟子、萬章下〕抱關擊柝者、皆有㆓常職㆒、以食㆓於上㆒、無㆓常職㆒、而賜㆓於上㆒者、以爲㆓不恭㆒也。〔史記、秦始皇紀〕常職既定、後嗣循㆑業。

【常心】188（ジヤウシン）　❶一定不變の心。〔老子、四十九〕

聖人無二常心一、以二百姓心一爲レ心。㊁平素の心。〔張協、雜詩〕感レ物多二思情一、在レ險易二常心一。

【常臣】189（ジヤウシン） 太常（3－5834··260）の㊀をいふ。〔稱謂錄、太常寺、常臣〕揚雄太常箴、常臣司宗、敢告二執書一。

【常人】190（ジヤウジン） ㊀常に道を守つて變らない人。〔書、立政〕其惟克用二常人一。〔蔡傳〕常人、常德之人也。㊁普通の人。凡人。〔戰國、齊策〕奇二法章之狀貌一、以爲レ非二常人一、憐而常竊衣二食之一、與私焉。〔史記、扁鵲傳〕長桑君亦知三扁鵲非二常人一也。〔新序、善謀上〕常人安二於所レ習。

【常數】191（ジヤウスウ） ㊀一定の數。〔儀禮、聘禮〕燕與レ羞俶獻、無二常數一。㊁自然のさだめ。一定の運命。〔荀子、天論〕天有二常道一矣、地有二常數一矣。〔史記、蔡澤傳〕天地之常數。

【常數式】192 ch'ang^2 shu^4 shih^4 代數の整式をいふ。

【常是】193（ジヤウゼ） 常に是であること。何時如何なる場合に於ても正しいこと。〔列子、說符〕天下理無二常是一、事無二常非一。

【常井】194（トコヰ） 常に水が湧出て涸れることのない井戶。〔夫木和歌抄、雜八〕かきやれば庭に流るる山水のよどむ石間をとこ井にぞくむ。

【常世】195（ジヤウセイ） ㊀一般の世閒。〔嵆康、養生論〕豚魚不レ養、常世所レ識也。㊁（トコヨ）㋑永久にかはらないこと。〔日本書紀、垂仁紀〕廿五年三月、是神風伊勢國、則常世之浪重浪歸國也。㋺常世國の略。

【常世國】196（トコヨノクニ） ㊀往來の出來ない遠い國土。絕域。〔日本書紀、神代紀〕少彥名命、行至二熊野之御碕一、遂適二於常世鄕一矣。㊁物事が常住不變で、住む人の不老不死である樂土。〔萬葉集、四〕我妹兒は常世國に住みけらし昔見しより若えましにけり。㊂よみぢ。夜見の國。人の死後往く所。黃泉。〔萬葉集、四〕とこよにと吾が行かなくに小金門に物悲しらに念へりし。

【常世蟲】197（トコヨノムシ） 橘の樹或は蔓椒に生ずる蟲。古、常世神の正體としたといふ。〔日本書紀、皇極紀〕三年七月、都鄙之人、取二常世蟲一、置二於淸座一、歌儛求レ福、棄二捨珍財一。

【常世物】198（トコヨモノ） 橘の異名。〔萬葉集、十八〕とこよものこの橘のいや照りにわご大君は今も見るごと。

【常世邊】199（トコヨベ） 常世國のあたり。〔萬葉集、九〕常世邊に住むべきものを劍太刀しが心からおそやこの君。

【常世長鳴鳥】200（トコヨノナガナキドリ） 雞の異名。〔古事記、上〕集二常世長鳴鳥一令レ鳴。

【常生】201（ジヤウセイ） 常に生きる。何時までも生きる。長生不老。〔列子、天瑞〕生者不レ能レ不レ生、化者不レ能レ不レ化、故常生常化、常生常化者、無二時不レ生、無二時不レ化。〔列子、仲尼〕無レ所レ由而常生者道也。

【常生燈】202（ジヤウセイトウ） 周の穆王が大騎の谷を巡行した時設けた燈。恒輝。〔拾遺記〕周穆王東巡二大騎之谷一、指二春宵宮一、集二諸方士仙術之要一、而蠵鵖龍蛇之類、奇種憑レ空而出、時已將レ夜、王設二常生之燈一以自照、一名恒輝、又有二鳳腦之燈一、又有二冰荷者一、出二冰壑之中一、取二此花一以覆レ燈七八尺、不レ欲レ使二光明遠一也。

【常制】203（ジヤウセイ） 一定のきまり。一定の制度。定まつたおきて。〔孔叢子、巡狩〕虞夏殷周之常制也。〔荀悅、立二制度一論〕上有二常制一、則政不レ頗、下有二常制一、則民不レ二。〔魏志、何夔傳〕國有二常制一。〔杜預、春秋左氏傳序〕經國之常制。

【常姓】204（ジヤウセイ） 定まつた生業。一定の資產。恒產。姓は生に同じ。〔管子、法禁〕身無二職事一、家無二常姓一。

【常正】205（ジヤウセイ） 一定した賦稅。〔墨子、辭過〕以二其常正一、收二其租稅一。〔閒詁〕蘇云、正、同レ征。

【常性】206（ジヤウセイ） ㊀定まつた性。一定の性質。〔莊子、馬蹄〕彼民有二常性一、織而衣、耕而食。〔逸周書、常訓解〕天有二常性一、人有二常順一。㊁ch'ang^2 hsing^4 堅忍性。忍耐力。

【常青】207（ジヤウセイ） ㊀常に青い。いつも青々としてゐること。〔李邕、楚州淮陰縣婆羅樹碑〕常青不レ壞、應現分レ榮。〔宜都山川記〕狼山有二異木一、人無レ見二其朽者一、名曰二千歲一、葉似レ棗、色似レ桑、冬夏常青。㊁人名。㋑清、滿洲鑲白旗人。姓は蘇木克氏。諡は莊毅。乾隆中、前鋒から雲南總兵に累擢され、緬甸及び金川の征討に從つて屢〻戰功があつた。官は西安將軍に至る。〔清史稿、三百三十九〕・〔國朝耆獻類徵、二百九十一〕。㋺清、滿洲正藍旗人。諡は恭簡。乾隆中、閩浙總督に任ぜられ、臺灣に林爽文の亂が起るや、欽差を以て臺灣に渡り捕勦に努力したが、久しく功無く、遂に召還せられ、鑲黃旗漢軍都統に終る。〔清史稿、三百三十四〕・〔清史列傳、二十四〕・〔國朝耆獻類徵、八十六〕。

【常星】208（ジヤウセイ） 常に現はれる星。天體中、相互の位置・色・光等が常に一定不變の星。二十八宿の類。恒星。〔史詔、天官書〕夫常星之變希レ見。〔漢書、天文志〕春秋二百四十二年閒、夜常星不レ見、夜中星隕如レ雨者各一。〔漢書、劉向傳〕夜常星不レ見。

【常清】209（ジヤウセイ） ㊀清の宗室。鑲藍旗人。諡は勤毅。道光中、二等侍衞を授けらる。同治中、伊犂將軍となつたが、回の亂に伊犂陷つて死す。㊁字號。㋑宋、上官正（1－13··201）の字。㋺明、茅陽（9－30836··93）の字。㋩清、了義（1－226··12）の號。

【常勢】210（ジヤウセイ） 一定不變の態勢。平生のありさま。常に定まつたありさま。つねのいきほひ。〔魏志、王昶傳〕地有二常險一、守無二常勢一。〔唐書、裴度傳〕一勝一負、兵家之常勢。

【常聖】211（ジヤウセイ） 常に變らない聖人。〔韓詩外傳、五〕通移有二常聖一也。

【常聲】212（ジヤウセイ） ㊀一定した哭き聲。きまつた哭き方。〔禮、雜記下〕曾申問二於曾子一曰、哭二父母一有二常聲一乎。㊁普通の音樂。〔莊子、天運〕行流散徙、不レ主二常聲一、世疑レ之稽二於聖人一。㊂（トコエ） 變らない聲。〔好忠集〕。

【常稅】213（ジヤウゼイ） 常に定まつた租稅。一定の稅。〔晉書、吐谷渾傳〕國無二常稅一、調用不レ給。〔清會典事例、戶部、關稅、考覈〕咸豐六年議准、粵海關、常稅正額銀、五萬六千五百十一兩九錢四分一釐、贏餘銀十萬兩。

【常少】214（ジヤウセウ） 後漢の人。公孫述に仕へ、太常となる。〔後漢書、四十三〕。

【常照】215（ジヤウセウ） 宋、義寂（9－28504··116）の字。

【常石】216（トコナミ） 姓氏。〔下學集〕。

【常設】217（ジヤウセツ） つねにまうけ置く。常置。

【常設館】218（ジヤウセツクワン） 一定の興行物を常に興行するために使用する建物。

【常節】219（ジヤウセツ） ㊀一定の時期。〔王粲、務レ本論〕種有二常時一、耘有二常節一。㊁一定した節度。〔陸機、演連珠〕應無二常節一、身或難レ照。㊂（トコアシ） みみがい科の卷き貝。あはび類の一種で、北海道南部以南の沿岸の岩礁にすむ。殼はあはびに似てゐるが、遙かに小さく、內面は青みを帶びた眞珠光澤がある。

【常川】220（ジヤウセン） 常に。每日。川の流は常に息むことがないからいふ。〔恒言錄〕。

【常川守備】221（ジヤウセンシユビ） 絕えず塘汛を守護し、賊情を探聽する人。〔六部成語、兵部、常川守哨、注解〕常常的川流不レ息、守二護塘汛一、探二聽賊情一之人。

【常先】222（ジヤウセン） 上古の人。黃帝の臣。風后・力牧・大鴻と與に民を治めた。〔史記、五帝紀〕擧二風后・力牧・常先・大鴻一以治レ民。

【常箭】223（ジヤウセン） 通常の矢。普通の長さの矢。〔魏書、奚康生傳〕康生性驍勇有二武藝一、弓力十石、矢異二常箭一。

【常選】224（ジヤウセン） ㊀常に選拔する。〔史記、衞將軍驃騎傳〕諸宿將所レ將士馬兵、亦不レ如二驃騎一、驃騎所レ將常選。〔注〕謂三驃騎將軍、常選擇二取精兵一。㊁平常の官吏の選用。〔大學衍義補、正二百官一、公二銓選之法二〕宋太祖此擧、可レ謂レ得二操縱之法一、人君誠能於二常選之中一不時拔擢、非三獨人才無レ所二淹沈一、而銓司亦知レ所レ憚、而不二敢不レ盡レ心也。

【常饌】225（ジヤウセン） 平常の食事。常餐。〔梁書、昭明太子傳〕太子因命菲レ衣減レ膳、改二常饌一爲二小食一。

【常全】226（ジヤウゼン） 常にまつたし。常に完全であること。〔陸機、塘上行〕天道有二遷易一、人理無二常全一。

【常善】227（ジヤウゼン） 北周の人。安成の子。戰功あり。爵は永陽郡公。官は保定の閒、小司徒となる。〔周書、二十七〕・〔北史、六十五〕。

【常然】228（ジヤウゼン） つねのさま。常に自然のままである。あるがままにまかせる。〔莊子、駢拇〕天下有二常然一、常然者曲者不レ以レ鉤、直者不レ以レ

繩、圓者不レ以レ規、方者不レ以レ矩、附離不レ以二膠漆一、約束不レ以二纆索一、故天下誘然皆生、而不レ知三其所二以生一、同焉皆得、而不レ知三其所二以得一、故古今不レ二、不レ可レ虧也。〔晏子、重而異者〕物有二必至一、事有二常然一。〔潘岳、藉田賦〕蓋損益隨レ時、理有二常然一。

【常膳】229 ジヤウゼン　平常の膳部。ふだんの食事。〔詩、小雅、六月、炰レ鱉膾レ鯉、疏〕天子之燕、不レ過レ有二牢牲一、魚鱉非二常膳一、故云レ加レ之。〔南史、陳本紀上、武帝紀〕雅尙二儉素一、常膳不レ過二數品一。

〔常膳加〕230 ジヤウゼンクハハル　食事が平常よりすすむ。身體の強健になつたこと。〔潘岳、閑居賦〕常膳載加、舊痾有レ痊。

【常宗】231 ジヤウソウ　㊀百代變らず一族の宗とするもの。大宗。〔荀子、禮論〕大夫士有二常宗一。〔注〕繼別子之後、爲三族人所二常宗一、百世不レ遷之大宗也。㊁明、王彝(**7－20823**・・9)の字。

【常總】232 ジヤウソウ　常陸と下總。

【常足】233 ジヤウソク　常に滿足する。己の分に安んじ、常に滿足して不平不滿のないこと。〔老子、四十六〕故知レ足之足、常足矣。〔張衡、東京賦〕履二老氏之常足一。

【常則】234 ジヤウソク　常ののり。定まつた法則。常法。〔賈誼、鵩鳥賦〕合散消息兮、安有二常則一。

【常存】235 ジヤウソン　㊀常に存置する。いつも存在する。〔漢書、禮樂志〕常存肄レ之。〔白虎通、社稷〕禮不二常存一。㊁ch'ang² ts'uen² 定期預金。

【常尊】236 ジヤウソン　一定のきまりあるたふとさ。〔左氏、宣、十二〕君子小人、物有二服章一、貴有二常尊一、賤有二等威一、禮不レ逆矣。

【常態】237 ジヤウタイ　常のありさま。一定のかた。〔後漢書、邊讓傳〕舞無二常態一、鼓無二常節一。

【常體】238 ジヤウタイ　普通の狀態。〔荀子、榮辱〕榮辱之大分、安危利害之常體。〔後漢書、鄧彪張禹傳論〕審レ能而就レ列者、出身之常體。

【常套】239 ジヤウタウ　ありふれたしかた。ありきたりのかた。

〔常套手段〕240 ジヤウタウシユダン　常に用ひる手段。慣用の手段。

【常棠】241 ジヤウダウ　宋、海鹽の人。字は召仲。號は竹窗。著に澉水志がある。〔宋史翼、三十六〕。〔四庫提要、六十八〕。

【常蹈】242 ジヤウタウ　つねにふむ。ふだん實行する。〔魏志、臧洪傳〕夫仁義豈有二常蹈之則一。

【常道】243 ジヤウダウ　㊀不變不易の道。一定不動の正しい道。人の必ず由るべき眞の道。〔老子、一〕道可レ道、非二常道一。〔荀子、天論〕天有二常道一矣、地有二常數一矣。〔韓非子、解老〕故曰、道之可レ道、非二常道一也。㊁普通のやりかた。常に行ふ方法。〔史記、蔡澤傳〕進退盈縮、與レ時變化、聖人之常道也。〔漢書、匈奴傳贊〕聖王制二御蠻夷一之常道也。㊂城の名。河北省安次縣の西北。三國、魏の時、燕王宇の子璜を封じて常道鄉公とす。晉の司空劉琨は、嘗て之を守つて石勒を拒いだ。〔讀史方輿紀要、直隸、順天府、東安縣〕常道城、在二舊州頭西五里一、酈道元曰、故鄉亭也、三國魏燕王宇之子璜、封二常道鄉公一、甘露五年、司馬昭迎二立之一、又晉司空劉琨、嘗守レ此以拒二石勒一、北魏主宏、封二宇文英一爲二常道鄉公一、皆此城也、魏收志、安次縣有二故長道城一。

【常達】244 ジヤウタツ　㊀つねに達する。〔陸機、演連珠〕理之所レ開、力所二常達一。㊁人名。㋑唐、陝の人。戰功あり。官は隴西刺史。〔唐書、一百九十一〕・〔舊唐書、一百八十七上〕。㋺唐の僧。海陽の人。字は文擧。詩に巧。詩集がある。〔四庫提要、一百八十六〕。

【常談】245 ジヤウダン　㊀普通のはなし。平凡なはなし。日常の談話。〔世說新語、規箴〕此老生之常談。〔歐陽脩、論二修河一第三條〕言二順レ水治一レ堤者常談也。㊁書名。一卷。宋、吳箕撰。大抵史事を評論し、閒〻考證に及ぶ。〔四庫提要、子、雜家類〕。

【常斷】246 ジヤウダン　裁決すべき一定の常例。〔管子、問〕官レ都其有二常斷一。

【常置】247 ジヤウチ　つねに設け置く。常設。

【常秩】248 ジヤウチツ　㊀定まつたやくめ。常職。一說に、一定の俸祿。〔左氏、文、六〕委二之常秩一、導レ之以二禮則一、使レ毋レ失二其土宜一。〔注〕常秩、官司之常職也。〔會箋〕常秩者、祿廩也。㊁宋、汝陰の人。字は夷甫。經術に通ず。熙寧中、官は寶文閣待制・兼侍讀。〔宋史、三百二十九〕・〔宋史新編、一百八〕・〔東都事略、一百十八〕・〔宋人軼事彙編、二百九十〕。

【常住】249 ジヤウヂユウ　㊀常に住む。寺僧が一寺に定住して行脚しないこと。〔宋史、食貨志上二〕命レ撥二僧寺常住一、絶レ產以贍レ學。〔朱熹、章嚴詩〕破屋僧常住、高軒客屢經。㊁佛㋑法が生滅變遷することなく、常に存在すること。〔王融、法門頌啓〕伏以、迦文啓聖、道冠二百靈一、常住置言、理高二萬乘一。〔千佛因緣經〕常住爲レ法。㋺常住物または常住僧物の略。寺の住僧の受用する田園雜具の類又は施物をいふ。〔釋氏要覽〕律有二四方僧物一、鈔言二十方常住一、有二師釋一云、四則攝二彼方隅一、十則該二乎凡聖一、謂、此一住處、所有之物、雖レ局二一界一、而體屬二十方一切僧伽一。㊂つねに。いつも。ふだん。〔蒙求抄、五〕。

〔常住坐臥〕250 ジヤウヂユウザグワ　坐するにも臥するにも。つね。ふだん。いつでも。

〔常住不斷〕251 ジヤウヂユウフダン　常に繼續する。つね。ふだん。

【常寵】252 ジヤウチヨウ　平生の寵愛。〔後漢書、襄楷傳〕今黃門常侍、天刑之人、陛下愛待、兼二倍常寵一。

【常珍】253 ジヤウチン　ふだんの馳走。定まつた食事。〔禮、王制〕八十常珍。〔疏〕常珍者、謂二常食一レ之。〔法言、吾子〕弃二常珍一而嗜二乎異饌一。

【常陳】254 ジヤウヂン　㊀普通の布陣の法。陣を布く常法。〔尉繚子、兵令上〕常陳皆向レ敵、有二內向一、有二外向一。㊁星の名。〔晉書、天文志上〕常陳七星如二畢狀一、在二帝坐北一、天子宿衞武賁之士、以設二彊禦一。

【常通】255 ジヤウツウ　常に通ずる。いつでも通ずる。〔桓溫、薦二譙元彥一表〕運無二常通一、時有二屯蹇一。

【常挺】256 ジヤウテイ　宋、連江の人。字は方叔。四庫提要には常珽に誤る。嘉熙の進士。官は參知政事。爵は合沙郡公。著に諸儒性理文錦がある。〔宋史、四百二十一〕・〔宋史新編、一百五十九〕・〔宋大臣年表、三十四〕・〔南宋館閣續錄、八・九〕。

【常珽】257 ジヤウテイ　常挺を見よ。

【常棣】258 ジヤウテイ　㊀木の名。にはうめ。一說に、李の一種。〔爾雅、釋木〕常棣、棣。〔注〕今山中有二棣樹一、子如二櫻桃一可レ食。〔詩、小雅、常棣〕常棣之華、鄂不二韡韡一。〔集傳〕常棣、棣也、子如二櫻桃一可レ食。㊁詩經、小雅、鹿鳴之什の篇名。周公の作といひ、兄弟和樂の情を歌ふ。〔詩、小雅、常棣序〕常棣、燕二兄弟一也、閔二管蔡之失一レ道、故作二常棣一焉。〔魏志、陳思王植傳〕中詠二常棣匪一レ他之誡一。㊂兄弟をいふ。〔唐書、吳兢傳〕兢上言、伏願陛下全二常棣之恩一、慰二罔極之心一。

〔常棣之華〕259 ジヤウテイノハナ　にはうめのはな。常棣を見よ。〔左氏、僖、二十四〕常棣之華、鄂不二韡韡一、凡今之人、莫レ如二兄弟一。〔注〕言下致二韡韡之盛一、莫上レ如レ親二兄弟一。

【常程】260 ジヤウテイ　一定の道。〔杜甫、水會渡詩〕山行有二常程一、中夜尙未レ安。

【常鼎】261 ジヤウテイ　清、滿洲正白旗人。姓は赫舍哩氏。筆帖式から中書を授けられ、西江總督に累官す。〔清史稿、四百九十二〕・〔國朝耆獻類徵、三百三十二〕。

【常調】262 ジヤウテウ　㊀常の調子。常の音調。〔後漢書、仲長統傳論〕如レ以下舟無二推レ陸之分一、瑟非中常調之音上。〔左思、魏都賦〕匏土革木之常調。㊁定まつたあそび。いつものあそび。常戲。〔曹植、與二吳季重一書〕雖下因二常調一、得上レ爲二密坐一。〔注〕向曰、常調、謂二常戲一。㊂官吏の選用。常選。〔錢大昕、與二一統志館同事一書〕愚攷二漢書一、張釋之事二文帝一、十年不レ得レ調、匡衡射策甲科、調補二平原文學一、小顏注、竝訓レ調爲レ選、廣韻、調讀二去聲一者、訓レ選、集韻又訓爲レ試、乃知、古人所レ云調者、唯是試選之義、云云、宋時人謂、常調宜レ好做、常調猶レ云二常選一、非二今之所謂調一也。

〔常調擧生〕263 ジヤウテウキヨセイ　官吏の試驗に應ずる普通の人々。吏部から常に選び用ひられる。〔蘇軾、上二神宗皇帝一書〕使二天下常調擧生妄心恥一レ不レ若レ人。

【常牒】264 ジヤウテフ　普通の官文書。〔後漢書、安帝紀、無レ拘二官簿一、注〕不レ拘二常牒一也。

【常典】265 ジヤウテン　㊀定まつたおきて。かはらないみち。常例。常度。〔蔡邕、宗廟迭毀議〕爲二無窮之常典一。〔魏志、楚王彪傳、注〕周公流涕、而決二二叔之罪一、孝武傷懷、而斷二昭平之獄一、古今常典也。㊁五經などの經典をいふ。〔周禮、春官、外

史、掌二三皇五帝之書一〔疏〕三墳、三皇時書、五典、五帝之常典。〔孫綽、遊二天台山一賦序〕所下以不レ列二於五嶽一闕レ載二於常典一者、豈不レ以二所レ立冥奧、其路幽迥一。〔注〕善曰、常典、五經之流也。

【常田】266トコタ ❶姓氏。❷トキタ 姓氏。〔諸家姓氏元祖錄〕。

【常途】267ジャウト 平常のみち。普通の事。日常のつとめ。〔韓愈、進學解〕踵二常途之促促一。

【常度】268ジャウド ❶永久に變らないのり。定まった法度。常規。常紀。常典。〔史記、屈原傳〕刓レ方以爲レ圜兮、常度未レ替。〔論衡、感虛〕日月行有二常度一。〔東方朔、答客難〕天有二常度一、地有二常形一。❷平常の態度。つねのやうす。〔後漢書、吳漢傳〕諸將見二戰陳不利一、或多惶懼、失二其常度一。〔後漢書、宋弘傳〕帝使二譚鼓レ琴、譚見レ弘、失二其常度一。

【常燈】269ジャウトウ ❶神佛の前に常にともす燈。常燈明。〔宇津保物語、藤原君〕比叡の中堂に、常燈を奉り給ひ。❷街上などに終夜ともす燈火。

〔常燈明〕270ジャウトウミャウ 神佛の前に、いつもともしておくあかり。常燈。

【常同】271ジャウドウ 宋の人。安民の子。字は子正。政和の進士。官は紹興中、殿中侍御史起居郎史館修撰となり、神哲二史を修撰し、御史中丞に擢んでられ、後、顯謨閣直學士を以て湖州の長官となる。〔宋史、三百七十六〕・〔宋史新編、一百三十八〕・〔東都事略、一百〕・〔南宋書、二十三〕・〔宋元學案、十九〕。

【常德】272ジャウトク ❶永久に變らない德。〔老子、二十八〕知二其雄一、守二其雌一、爲二天下谿一。爲二天下谿一、常德不レ離、復二歸于嬰兒一。知二其白一、守二其黑一、爲二天下式一。爲二天下式一、常德不レ忒、復二歸於無極一。❷府名。宋、置く。淸の時、湖南省に屬し、武陵・桃源・龍陽・沅江の四縣を管轄す。〔淸史稿、地理志〕湖南、常德府、領二縣四一、武陵・桃源・龍陽・沅江。❸縣名。民國、置く。漢の臨沅縣の地。湖南省安鄕縣の西南。縣城は沅江の下流の北岸に臨み、東は洞庭を扼し、西は溪峒を控へ、滇・黔・粵・桂・川・湘・鄂・贛、八省通衢の中心に當つて、貿易日に盛となり、漢口・長沙・益陽・岳陽・沙市に通ずる五航路がある。

【常任】273ジャウニン ❶周代、事に任ずる公卿をいふ。〔書、立政〕用咸戒二于王一曰、左右・常伯・常任・準人・綴衣・虎賁。〔蔡傳〕有二任レ事之公卿一、曰二常任一。❷常に委任する。又、常に其の任にある。〔漢書、王莽傳上〕霍光卽席二常任之重一、乘二大勝之威一。❸一定量の荷物。〔史記、田敬仲完世家〕大車不レ較、不レ能レ載二其常任一。

〔常任委員〕274ジャウニンヰヰン 常任の責にある委員。

【常寧】275ジャウネイ ❶漢の宮殿の名。〔班固、西都賦〕合歡增城、安處常寧。〔注〕濟曰、合歡而下、並殿名。❷縣名。㋑唐、置く。故治は今の山西省朔縣の界。㋺唐、置く。湖南省衡陽縣の西南。〔讀史方輿紀要、湖廣、衡州府〕常寧縣、漢耒陽縣地、梁改曰二常寧一、陳復レ舊、隋屬二衡州一、唐初因レ之、天寶初、改曰二常寧縣一、仍屬二衡州一。〔淸史稿、地理志〕湖南、衡州府、縣七、常寧。

〔常寧殿〕276ジャウネイデン 大內裏の御殿の一つ。承香殿の北、貞觀殿の南に當る後宮で、皇后・中宮・女御等の居所。又、正寧殿・北大殿・五節殿ともいふ。〔中宮職式〕入レ從二右腋庭門一、候二常寧殿西一。

【常年】277 chʻang^{2} nien^{2} 一箇年。

〔常年經費〕278 chʻang^{2} nien^{2} ching^{1} fei^{4} 經常費。

【常播】279ジャウハ 三國、蜀の江原の人。字は文平。任俠の士。孝廉に擧げられ、郪尉に敍せられた。〔三國志、四十五〕。

【常馬】280ジャウバ つねなみの馬。普通の馬。〔韓愈、雜說〕且欲下與二常馬一等上、不レ可レ得。〔尾藤二洲、習說〕常馬慄而卻走者。

【常賣】281ジャウバイ 詰らぬ物を持って町を叫びながら賣り歩き、利益を收める行商人。〔雲麓漫抄〕朱勔之父朱沖者、吳中常賣人、方言以二微細物一博二易于鄕市中一自唱、曰二常賣一。

【常伯】282ジャウハク ❶周代、牧民の長官をいふ。三公。〔書、立政〕用咸戒二于王一曰、王左右・常伯・常任・準人・綴衣・虎賁。〔疏〕王之親近左右、常所二長事一、謂二三公一也、常所二委任一、謂二六卿一也。〔蔡傳〕有二牧民之長一、曰二常伯一。❷漢代、侍中の官をいふ。〔漢書、谷永傳〕戴二金貂之飾一、執二常伯之職一。〔漢書、揚雄傳〕羣公・常伯・揚朱・墨翟之徒。〔注〕師古曰、常伯、侍中也。〔後漢書、朱穆傳〕假二貂璫之飾一、處二常伯之任一。〔潘岳、藉田賦〕常伯陪乘、太僕秉レ轡。

【常秣】283ジャウバツ・ジャウマツ つねにまぐさかふ。常に馬にかひばを與へる。〔禮、少儀〕君子不レ履二絲屨一、馬不二常秣一。

【常法】284ジャウハフ 定まったのり。一定の法律。〔左氏、文、六〕宣子始爲二國政一、制二事典一、正二法罪一、旣成、以授三大傅陽子與二大師賈佗一、使レ行二諸晉國一、以爲二常法一。〔國語、周語下〕棄二常法一、以從二其私欲一。〔荀子、君道〕知二愛レ民之爲レ安レ國也、知下有二常法一之爲上レ一レ俗也。〔韓非子、飾邪〕語曰、家有二常業一、雖レ飢不レ餓、國有二常法一、雖レ危不レ亡。〔史記、楚世家〕國有二常法一、更立則亂。

【常班】285ジャウハン つねの位次。通常一般の官等。又、其の位次にある役人。〔南齊書、高祖紀〕禮絕二常班一、寵冠二羣辟一。

【常飯】286 chʻang^{2} fan^{4} 日常の食事。ありあはせの飯。

【常磐】287トキハ ❶永久に狀態の變らないこと。とこいはの意。〔萬葉集、六〕春草は後はうつらふ巖なす常磐にいませ貴き吾君。❷草木の葉が四時綠の色をかへないこと。常綠。〔萬葉集、二十〕八千草の花はうつらふときはなる松のさ枝を吾は結ばな。

〔常磐草〕288トキハグサ ❶松の異名。〔藏玉集雜〕河すがき立てつる宿のときはぐさ風も夏なき時にこそあへ。❷かんあふひの別名。

〔常磐津〕289トキハヅ 延享の頃、常磐津文字大夫の創めた淨瑠璃節の一派。常磐津節。〔江戶節根元記〕京都寺町位牌屋文右衞門と云ふ者、義太夫節を能語り、江戶へ下り名を上げんと、云云、ワキ語り、志津摩太夫、造酒太夫など其の頃は常磐橋邊に住居いたすゆへ、常磐津文字太夫と名乘しなり。

〔常磐木〕290トキハギ 四時落葉しないで綠色を保つ木。松・杉など。常綠樹。〔宇津保物語、藏開上〕花のかたはらのときは木のやうに。

〔常磐堅磐〕291トキハカキハ 永久不變。萬代不易。〔小右記〕寬仁元年十一月廿五日、賀茂行幸宣命、寶位無レ動久、常盤堅盤仁。

【常藩】292ジャウハン 常陸國水戶藩。

〔常藩史〕293ジャウハンシ 水戶の大日本史をいふ。〔賴山陽、上二白河樂翁公一書〕每病二常藩史之浩穰一。

【常非】294ジャウヒ 常に惡い。定まった惡事。〔列子、說符〕天下理無二常是一、事無二常非一。

【常費】295ジャウヒ 日常普通の費用。平常の入費。經常費。

【常備】296ジャウビ 常に備へておく。平常の設備。〔周禮政要、治兵〕亦有二常備預備後備兵之目一。

〔常備軍〕297ジャウビグン 國家が平時から常置する軍隊。平時編制で定められた國防力。

〔常備兵〕298ジャウビヘイ ❶平時に備へ置く兵士。❷常備兵役に服する兵士で、現役と豫備兵との總稱。

〔常備藥〕299ジャウビヤク 醫師・齒科醫師・獸醫・藥劑師、又は家庭などで平素の使用のために常に備へておく藥品。

〔常備艦隊〕300ジャウビカンタイ 戰時任務を基礎として編成された艦隊で、戰時卽應の訓練敎育に從事し、又、海區を巡航して其の守護に當るため、常に備へおく艦隊。

【常寐】301ジャウビ つねにねる。〔左思、魏都賦〕非二常寐而無レ覺、不レ覩二皇輿之軌躅一。

【常筆】302ジャウヒツ 普通の筆。〔聞見後錄〕宣城陳氏家傳二右軍求筆帖一、後世益以二作筆一名レ家、柳公權求レ筆、但遺以二二枝一、曰、公權能レ書、當二繼來索一、不二必卻レ之、果卻レ之、遂多易以二常筆一。

【常品】303ジャウヒン 普通一般の官等。〔唐高祖、每州置二宗師一詔〕宗緖之情義越二常品一、宜下有二旌異一以明中等級上。

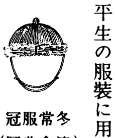
【常夫】304ジャウフ 宋、趙逢(**10**—**37171**・・341)の字。

【常賦】305ジャウフ 一定のみつぎ。つねのみつぎ。〔唐書、食貨志二〕常賦之外、進奉不レ息。

【常武】306ジャウブ 詩經、大雅、蕩之什の篇名。召穆公が周の宣王の淮北の夷を征した功德を讚美して作ったもの。〔詩、大雅、常武序〕常武、召穆公美二宣王一也、有二常德一、以立二武事一、因以爲レ戒然。

【常服】307 ジヤウフク ㊀日常著る衣服。ふだんぎ。平服。〔蘇軾、贈二寫御容妙善師一詩〕幅巾常服儼不レ動。㊁兵事の常服。韋弁服。〔詩、小雅、六月〕四牡騤騤、載二是常服一。〔集傳〕常服、戎事之常服、以二韎韋一爲レ弁。〔左氏、閔、二〕帥レ師者受二命於廟一、受二脤於社一、有二常服一矣。〔注〕韋弁服、軍之常也。

【常服冠】308 ジヤウフククワン 冠の名。平生の服裝に用ひる冠。冬と夏との制がある。〔淸會典圖、四十一、冠服圖、冬常服冠〕皇帝冬常服冠、紅絨結頂、餘如二冬吉服冠一。



冬常服冠
（淸會典圖）

【常福】309 ジヤウフク 定まつた幸福。〔新書、大政上〕天有二常福一、必與二有德一。

【常芬】310 ジヤウフン 常にかんばしい。〔王延壽、魯靈光殿賦〕激二芳香一而常芬。

【常憤】311 ジヤウフン 日頃のいきどほり。平素のいかり。〔江淹、爲二蕭驃騎一上頓表〕悚慨交レ心、實百二常憤一。

【常分】312 ジヤウブン 定まつた分限。當然の本分。定分。〔顏氏家訓、文章〕國有二呑滅一、君子固無二常分一矣。〔顏氏家訓、終制〕死者人之常分、不レ可レ免也。〔新論、遇不遇〕賢有二常質一、遇有二常分一。〔梁書、呂僧珍傳〕汝等自有二常分一、豈可二妄求叨越一。

【常平】313 ジヤウヘイ ㊀一種の米價調節法。米穀の價格が安いときは、官から價を增して之を買ひ上げ、高いときは價を減じて之を出し、常に穀價の平均を保たせること。〔事物紀原、利源調度部、常平〕漢宣帝時、數豐稔、耿壽昌奏、諸邊郡以二穀賤時一增レ價糴入、貴則減レ價糶出、名曰二常平一、此其始也、宋朝會要曰、淳化三年六月、京畿大壞、物價至賤、遣二使於京城一四門置レ場、增レ價糴令二造レ倉貯一レ之、名曰二常平一、歲歉減レ價以糶、用賑二貧民一、景德三年正月、上封者請二諸路皆置一。〔蘇軾、上二神宗皇帝一書〕且夫常平之爲レ法也、可レ謂レ至矣。㊁縣名。㋑五代周、置く。故治は湖北省襄陽縣の西。〔讀史方輿紀要、湖廣、襄陽府、襄陽縣〕山都城、本南陽之赤鄉、秦置二山都縣一、後周改レ縣曰二常平一、大業初郡廢、縣屬二襄州一。㋺唐、置く。今、缺く。四川省舊龍安府の境。

【常平鹽】314 ジヤウヘイエン 唐の劉晏の定めた鹽法。鹽の少い地方に對して行つた施策で、一定の鹽を官に貯へて置き、鹽の少い時に賣り出したもの。〔唐書、食貨志四〕鹽鐵使劉晏、云云、江嶺去レ鹽遠者、有二常平鹽一、每商人不レ至、則減レ價以糶レ民、官收二厚利一而民不レ知レ貴。

【常平倉】315 ジヤウヘイサウ 漢の宣帝の時、定法によつて米穀の價格平均を維持するために設けた公設庫。歷代皆備へた。常平の㊀を見よ。〔漢書、食貨志上〕令下邊郡皆築レ倉、以二穀賤時一增二其賈一而糴以利レ農、穀貴時減レ賈而糶上、名曰二常平倉一。〔漢書、蕭望之傳〕是時、大司農中丞耿壽昌、奏レ設二常平倉一。〔東都事略、王安石傳〕常平倉法、以二豐歲穀賤傷一レ農、故增レ價收レ糴、使二蓄積之家無一レ由下抑二塞農夫一須ラ令二賤糶一、凶歲穀貴傷レ民、故減レ價出糶、使二蓄積之家無一レ由下邀二勒貧民一須ラ令二貴糶一、物價常平、公私兩利也、安石以二常平法一爲二不善一、更將二糴本一作二靑苗錢一、散二與人一、戶令レ出二息二分一、置二提擧官一以督レ之。

【常平錢】316 ジヤウヘイセン 政府が豫め備へて置き、人民の窮乏した時に貸與して、其の便を計る金錢。〔宣和遺事、後集〕民貸二常平錢一、悉與二蠲赦一。

【常平法】317 ジヤウヘイハフ 常平倉の設置によつて、米穀などの相場の均衡をはかる方法。常平の㊀及び常平倉を見よ。〔唐書、劉晏傳〕晏又以二常平法一、豐則貴取、飢則賤與、率諸州米嘗儲二三百萬斛一。

【常平本錢】318 ジヤウヘイホンセン 常平倉の資本金。唐の德宗の時、趙贊の議によつて、竹木茶漆にかけた稅をこれにあてた。〔唐書、食貨志二〕趙贊又言、自二軍興一、常平倉廢、垂二三十年一、凶荒潰散、餧死相食、不レ可レ勝レ紀、陛下卽レ位、京城兩市、置二常平官一、雖二頻年少雨一、米不二騰貴一、可二推而廣一レ之、宜三兼儲二布帛一、請二於兩都江陵成都揚汴蘇洪一、置二常平輕重本錢一、上至二百萬緡一、下至二十萬一、積二米粟布帛絲麻一、貴則下レ價而出レ之、賤則加レ估而收レ之、諸道津會、置レ吏閱二商賈錢一、每緡稅二十、竹木茶漆稅十之一、以贍二常平本錢一、德宗納二其策一。

【常柄】319 ジヤウヘイ 常に執る權力。〔陸機、豪士賦序〕人主操二其常柄一、天下服二其大節一。

【常辟】320 ジヤウヘキ 一定のおきて。いつも變らない刑法。〔魏書、刑罰志〕侍中孫騰上言、禮訓二君子一、律禁二小人一、擧レ罪定レ名、國有二常辟一。

【常偏】321 ジヤウヘン 貨物が一方にかたよること。〔左思、魏都賦〕濟二有無之常偏一、距二日中一而畢會。

【常篇】322 ジヤウヘン 經典をいふ。常典(265)の㊁に同じ。〔孫綽、遊二天台山一賦序〕故事絕二於常篇一、名標二於奇紀一。〔注〕善曰、篇卽常典也。

【常父】323 ジヤウホ 宋、孔武仲(**3**－**6933**··362)の字。

【常步】324 ジヤウホ 正常步。

【常甫】325 ジヤウホ 字號。㊀宋、黃智深(**12**－**47926**··1239)の字。㊁明、張邦奇(**4**－**9812**··1437)の字。

【常模】326 ジヤウボ 普通の形。〔左思、吳都賦〕飛雲蓋レ海、制非二常模一。〔注〕銑曰、皆彫飾奢麗、其制度非二常之模軌一也。

【常奉】327 ジヤウホウ ㊀一定の奉持する者。定まつて受ける人。〔左氏、昭、三十二〕社稷無二常奉一、君臣無二常位一。〔注〕奉レ之無二常人一、言二唯德一也。㊁常にうやまひ奉ずる。〔史記、封禪書〕令下祠官所二常奉一天地名山、大川鬼神、可中得而序上也。㊂人の常につかへまつるべき道。〔曾鞏、進二奉熙寧四年明堂緝一狀〕助者駿奔、人臣之常奉。

【常俸】328 ジヤウホウ 平常受ける俸給。一定額の俸給。〔晉書、簡文帝紀〕羣僚常俸、並皆寡約。

【常豐】329 ジヤウホウ 縣名。㊀唐、置く。故城は湖北省南廱陽縣の西南。㊁宋、置く。故城は湖南省長沙縣の東。

【常楙】330 ジヤウボウ 宋の人。同の曾孫。字は長孺。淳祐の進士。官は德祐の初、參知政事となる。〔宋史、四百二十一〕・〔宋史新編、一百五十九〕・〔南宋書、五十五〕・〔宋大臣年表、三十五〕。

【常凡】331 ジヤウボン つね。なみ。

【常滿】332 ジヤウマン ㊀つねにみちる。〔白虎通、日月〕日之爲レ言實也、常滿有レ節。㊁酒杯の名。常滿尊・常滿杯を見よ。

【常滿鹽】333 ジヤウマンエン 製鹽法の一種。〔齊民要術、常滿鹽花鹽〕造二常滿鹽一法、以下不津甕受二十石一者一口上、置二庭中石上一、以二白鹽一滿レ之、以二甘水一沃レ之、令三上恆有二游水一、須二用レ時挹取一、煎卽成レ鹽、還以二甘水一添レ之、取二一升一添二一升一、日曝レ之、熱盛、還卽成レ鹽。

【常滿尊】334 ジヤウマンソン つねに酒を滿たしてある樽。〔周禮、天官、酒正、注〕三貳再貳一貳者、謂下就二三酒之尊一而益上之也、益レ之者飮二諸臣一、若二今常滿尊一也。〔疏〕若二今常滿尊一也者、言益レ之、故常滿、故以二漢法一況レ之云。〔唐書、李元素傳〕刺史李文暕、橫調二民黃金一、造二常滿尊一以獻。〔得樹樓雜抄〕酒譜、周穆王有レ杯、名二常滿一、何偃有二常滿尊銘一。

【常滿燈】335 ジヤウマントウ 燈籠の名。漢、丁緩の作。〔西京雜記、一〕長安巧工丁緩者、爲二常滿燈一、七龍五鳳、雜以二芙蓉蓮藕之奇一。

【常滿杯】336 ジヤウマンハイ 杯の名。周の穆王の時、西域から獻上した。〔海內十洲記〕周穆王時、西域獻二夜光常滿杯一、受二三升一、是白玉之精、光明夜照、暝夕、出二杯於中庭一、以向二天北一、旦而水汁滿レ中、汁甘而香美、斯實靈人之器。

【常民】337 ジヤウミン 凡庸な人民。〔戰國、趙策〕王曰、卿云、世俗之閒、常民溺二於習俗一、學者沈二於所一レ聞。

【常務】338 ジヤウム ふだんのつとめ。平生の業務。日常の業務。〔魏志、何夔傳〕蓋禮レ賢親レ舊、帝王之常務也。〔世說新語、政事〕王・劉與二林公一共看二何驃騎一、驃騎看二文書一不レ顧レ之、王謂レ何曰、我今故與二林公一來相看、望下卿擺二撥常務一、應對共言上、那得二方低レ頭看一レ此邪。

【常務委員】339 ジヤウムキヰン 常務を取扱ふ委員。

【常名】340 ジヤウメイ ㊀つねの名。一定不變の名。眞の名。〔老子、一〕名可レ名、非二常名一。㊁常陸國の地名。

【常明】341 ジヤウメイ ㊀淸、滿洲鑲紅旗人。謚は襄恪。乾隆中、府の長官を以て貴州の苗を征して功を樹て、嘉慶中、四川總督に累擢され、任に在ること八年、治績大いに擧つた。〔淸史稿、三百六十四〕・〔國朝耆獻類徵、一百九十四〕。㊁宋、黃徹(**12**－**47926**··690)の字。

【常明燈】342 ジヤウミヤウトウ 佛前に置く有明の燈火。長明燈。〔隋唐嘉話〕江寧縣寺有二常明燈一、歲久火色變レ靑而不レ熱。

【常茂】343 ジヤウモ 明の人。遇春の子。爵は鄭國公。〔明史、一百二十五〕・〔萬斯同明史、一百六十〕・〔明史稿、一百十六〕。

【常夜】344（トコヨ） 常に暗夜で晝のないこと。常闇。〔古事紀、上〕爾高原皆暗、葦原中國悉闇、因レ此而常夜往。

〖常夜燈〗345（ジヤウヤトウ） 夜中絶えずつけておく燈火。

【常羊】346（シヤウヤウ・ジヤウヤウ） ㊀さまよひあるくさま。逍遙。〔漢書、禮樂志〕幡比レ翅回集、貳雙飛常羊。〔注〕師古曰、常羊、猶二逍遙一也。〔越絕書、越絕計倪內經〕應レ變而動、隨レ物常羊。㊁進退の定まらないさま。〔淮南子、天文訓〕東南爲二常羊之維一。〔注〕常羊、不進不退之貌也。㊂蟲の一種。はたをり。〔詩、召南、草蟲、喓喓草蟲、傳〕草蟲、常羊也。㊃山名。〔宋書、符瑞志上〕炎帝神農氏母曰二女登一、遊二於華陽一、有二神龍首一、感二女登於常羊山一、生二炎帝一、人身牛首。

【常陽】347（ジヤウヤウ） 山名。山海經によれば、大荒の中にあり、日月の入る所といふ。〔山海經、大荒西經〕大荒之中有レ山、名曰二常陽之山一、日月所レ入。

【常與】348（ジヤウヨ） ㊀つねの居處。つねのよりどころ。一說に水をいふ。〔莊子、外物〕鮒魚忿然作レ色曰、吾失二我常與一、我無レ所レ處。〔口義〕常與、常時相與也。〔因〕常與、常相與、謂レ水也。㊁（トコヨ） 姓氏。〔姓名錄抄〕。

【常用】349（ジヤウヨウ） 平常たえず用ひる。日用。〔墨子、小取〕不レ可二常用一也。〔商子、開塞〕此二者、世之常用也。

〖常用漢字〗350（ジヤウヨウカンジ） ㊀日常よく用ひる漢字。㊁常用漢字表（昭和五十六年十月、內閣告示）で選定された千九百四十五字の漢字。

〖常用對數〗351（ジヤウヨウタイスウ） 10を底數とする對數の稱。普通の計算に用ひる。

【常容】352（ジヤウヨウ） ㊀一定の形體性質。〔韓非子、喩老〕夫物有二常容一、因乘以導レ之、因隨二物之容一。㊁唐、李虛中（**6－14459**‥1024）の字。

【常庸】353（ジヤウヨウ） つね。なみ。平凡。凡庸。〔論衡、率性〕未レ入二孔子之門一時、閭巷常庸無レ奇、其尤甚不レ率者、唯子路也。

【常洛】354（ジヤウラク） 明、光宗（**1－1350**‥166）の名。

【常樂】355（ジヤウラク） ㊀縣名。㋑三國吳、置く。今の安南の北境。㋺隋、置く。漢の冥安縣の地。故治は甘肅省安西縣の東。〔讀史方輿紀要、陝西、沙州衞〕常樂城、在二廢瓜州西百里一、漢冥安縣地、云云、隋開皇初、郡廢、因改レ縣爲二常樂一、唐武德四年、改置二晉昌縣一、五年又於二漢廣至縣地一改置二常樂縣一、屬二瓜州一。㋩唐、置き、今缺く。廣西省の境。㊁堡の名。陝西省楡林縣の東。明の成化中、巡撫盧祥が創めて今の堡の南に築き、弘治二年、巡撫劉忠が此の城に徙つた。

〖常樂室〗356（ジヤウラクシツ） 漢の宮殿の名。王莽が長樂宮を改名したもの。〔漢書、王莽傳中〕長樂宮、曰二常樂室一。

〖常樂我淨〗357（ジヤウラクガジヤウ） 佛㊀涅槃の四つの功德をいふ。卽ち涅槃の不變不遷（常）で、二苦を離れ（樂）、大自在を得て（我）、三惑が淸く盡きたこと（淨）をいふ。〔法華玄義〕常樂我淨名爲二佛性顯一。㊁非常を常、非樂を樂、非我を我、非淨を淨と思ふ凡夫の四顚倒のことをいふ。

【常理】358（ジヤウリ） 定まつた道理。普通の道理。〔舊唐書、李德武妻裴氏傳〕不レ踐二二庭一、婦人常理。〔韓愈、謝二自然一詩〕人生有二常理一、男女各有レ倫。

【常流】359（ジヤウリウ） ㊀長流。長い河。常は長と音通。楚辭及び文選は湘に作る。〔史記、屈原傳〕寧赴二常流一而葬二乎江魚之腹中一耳。〔注〕索隱曰、常流、猶二長流一也。㊁常に流れてゐる河の水理。〔史記、河渠書〕延道弛兮離二常流一。〔漢書、溝洫志〕正道弛兮離二常流一。

【常陸】360（ヒタチ） 東海道十五箇國の一つ。今の茨城縣。

〖常陸帶〗361（ヒタチオビ） ㊀古、常陸國鹿島神社の祭禮に、男女各〻布の帶に吾が想ふ男女の名を記して神前に供へ、社人の結び合はせて頒つさまによつて婚を卜したといふ故事。〔奧儀抄〕。㊁書名。四卷。藤田東湖撰。世人が武門を尊んで皇室を忘れるのをなげき、經國の大事を論じたもの。

【常律】362（ジヤウリツ） ふだんの法則。通常の規律。常規。〔易林〕隨レ時轉行、不レ失二常律一。〔葉適、題跋〕不レ用二詩家常律一。

【常呂】363（トコロ） 北海道北見國の郡名。

【常閭】364（ジヤウリヨ） 平素居た村里。舊居をいふ。〔張衡、思玄賦〕儵眩眃兮反二常閭一。〔注〕濟曰、反二常閭一、歸二舊居一也。

【常綠】365（ジヤウリヨク） 草木の葉が四時みどり色を變へないこと。常磐。

〖常綠樹〗366（ジヤウリヨクジユ） 四時落葉しない綠色の樹。松・杉の類。

【常林】367（ジヤウリン） 三國、魏の溫の人。字は伯槐。諡は貞。官は大司農。明帝の時、爵は高陽鄕侯。官は光祿大夫に終る。〔三國志、二十三〕。

〖常林歡〗368（ジヤウリンクワン） 樂府西曲歌の名。唐の溫庭筠に歌辭がある。〔舊唐書、音樂志二〕常林歡、疑宋梁閒曲、宋梁之世、荊雍爲二南方重鎭一、皆皇子爲二之牧一、江左辭詠、莫レ不三稱レ之以爲二樂土一、云云、荊州有二長林縣一、江南謂二情人一爲レ歡、常長聲相近、蓋樂人誤謂レ長爲レ常。〔溫庭筠、常林歡〕宜城酒熟花覆レ橋、沙晴綠鴨鳴咬咬、濃桑繞レ舍麥如レ尾、幽軋鳴レ機雙鸞巢、馬聲特特荊門道、蠻水揚光色如レ草、錦薦金鑪夢正長、東家咿喔雞鳴早。

〖常林帶經〗369（ジヤウリンタイケイ） 蒙求の標題。三國、魏の常林が學を好み、經書を手にして耕鋤した故事。〔魏志、常林傳、注〕魏略曰、林少單貧、雖レ貧、自レ非二手力一、不レ取二之於人一、性好レ學、漢末爲二諸生一、帶レ經耕鉏、其妻常自饋二餉之一、林雖レ在二田野一、其相敬如レ賓。

【常倫】370（ジヤウリン） ㊀なみなみの仲間。平凡なともがら。〔史記、宋微子世家〕我不レ知二其常倫所一レ序。〔左思、魏都賦〕謬二默語之常倫一。〔江淹、雜體、嵇中散康言レ志詩〕遠想出二宏域一、高步超二常倫一。㊁明の人。軌の從孫。字は明卿。號は樓居子。正德の進士。官は大理評事。後、壽州判に謫せられ、上官に忤ひ、告げずして歸り、後、水に墮ちて死す。著に常評事集がある。〔明詩綜、三十四〕。

【常鱗】371（ジヤウリン） ありふれた魚類。凡庸の人の喩。凡鱗。常鱗凡介を見よ。

〖常鱗凡介〗372（ジヤウリンボンカイ） 普通の魚やありふれた貝類。凡庸の人物の喩。〔韓愈、應二科目一時與レ人書〕蓋非二常鱗凡介之品彙匹儔一也。

【常累】373（ジヤウルイ） 平常のわざはひ。〔潘岳、西征賦〕嗟二鄙夫之常累一、固既得而患レ失。

【常類】374（ジヤウルイ） ありふれたともがら。〔論衡、講瑞〕或曰、鳳皇騏驎、生無二常類一。

【常令】375（ジヤウレイ） 一定した命令。平常の命令。〔管子、七法〕常令不レ審、則百匿勝。〔尉繚子、兵令〕出レ卒陣レ兵、有二常令一。

【常例】376（ジヤウレイ） かはらないしきたり。平素のならはし。慣例。〔晉書、賈充傳〕不レ同二常例一。〔北齊書、樊遜傳〕才高不レ依二常例一。

〖常例銀兩〗377（ジヤウレイギンリヤウ） 經常費をいふ。〔還魂記、謁遇〕我將二衙門常例銀兩一、助二君遠行一。

【常隸】378（ジヤウレイ） 常に附屬する賤しい役人。〔左氏、成、十六〕嬰齊魯之常隸也。〔注〕隸、賤官也。〔左氏、定、四〕且夫祝社稷之常隸也。

【常禮】379（ジヤウレイ） きまつた禮。常例となつた禮儀。恒常の禮式。〔漢書、郊祀志下〕自レ是五嶽四瀆、皆有二常禮一。〔唐高祖、減二用牲牢一詔〕先用二少牢一者、宜レ用二特牲一、待二時和年豐一、然後克循二常禮一。

【常連】380（ジヤウレン） 定連。㊀常に一緒になつてゐる連中。㊁興行場等へいつもきまつてくる連中。

【常路】381（ジヤウロ） つねのみち。普通の方法。〔王褒、四子講德論〕招レ賢而處レ友者、衆士之常路也。

【常論】382（ジヤウロン） ㊀一定不變の論。通論。〔後漢書、王符傳〕此古今之常論、而時所二共知一也。㊁平凡な議論。〔漢書、谷永傳〕背二可レ懼之大異一、問二不レ急之常論一。

【無レ常】383（ツネナシ） 定りがない。一定しない。〔書、蔡仲之命〕民心無レ常、惟惠之懷。

【常安成】384（ジヤウアンセイ） 後魏、高陽の人。正光の末、茹茹を破る。位は伏波將軍となる。〔周書、二十七〕。

【常安民】385（ジヤウアンミン） 宋、臨邛の人。字は希古。熙寧の進士。成都教授に選ばれ、官は御史。廉直の士で、章惇・蔡京の罪を論じ、黨籍を逃れて流落すること二十年、政和の末、卒した。〔宋史、三百四十六〕・〔宋史新編、一百十八〕・〔東都事略、一百〕〔元祐黨人傳、五〕・〔宋元學案、十九〕。

【常延信】386（ジヤウエンシン） 宋、平晉の人。思の孫。官は梓遂十二州都巡檢使。諸蠻を征し、咸平中、太康・鞏二縣の監軍となる。〔宋史、三百九〕・〔宋史新編、八十五〕。

【常延齡】387（ジヤウエンレイ） 明の人。遇春十四世の孫。字は喬若。懷遠侯を襲ぐ。明、亡び、布衣を以て終つた。〔明史、一百二十五〕・〔小腆紀年、六〕。

【常季賢】388（ジヤウキケン） 後魏の人。官は殿中將軍司藥丞。高肇に殺された。〔魏書、九十三〕。

【常議員】389 ジヤウギヰン 常に設けおく議員をいふ。常置の評議員。

【常吉子】390 ジヤウキツシ 常徳がある立派な人。〔書、立政〕太史、尹伯、庶常吉子。〔蔡傳〕言㆘在㆓文武之廷㆒、無㆖非㆓常徳吉士㆒也。

【常遇春】391 ジヤウグウシユン 明、懷遠の人。字は伯仁。諡は忠武。奇偉にして勇力があり、初め盜となり、後、太祖に歸して元を挫き、戰功多く、累官して左副將軍と爲り、鄂國公に封ぜられた。嘗て十萬の衆をひきゐて天下を橫行すといつたことから、軍中の者は、常十萬と稱した。後、中書右丞相を贈られ、開平王に封ぜらる。常十萬を見よ。〔明史、一百二十五〕・〔萬斯同明史、一百六十〕・〔明史稿、一百十六〕。

【常訓解】392 ジヤウクンカイ 逸周書の篇名。

【常思德】393 ジヤウシトク 宋、開封の人。官は汝州刺史、後、左神武大將軍となり戰功あり。〔宋史、二百七十五〕・〔宋史新編、七十八〕。

【常十萬】394 ジヤウジフマン 明、常遇春の綽號。十萬の衆を率ゐて天下に橫行すといつたことから稱せられた。〔明外史、常遇春傳〕遇春沈鷙果敢、善撫㆓士卒㆒、出則推鋒、入則殿後、未㆓嘗敗北㆒、雖ㇾ不ㇾ習㆓書史㆒而用ㇾ兵決ㇾ勝、輒與ㇾ古合、長㆓于大將軍達㆒二歲、數從㆓征伐㆒、必聽㆓約束㆒惟謹、一時言㆓名將㆒者、率推㆓遇春㆒、配ㇾ達稱㆓徐常㆒、遇春嘗自言㆘能將㆓十萬衆㆒、橫㆗行天下㆖、故又稱㆓常十萬㆒云。

【常精進】395 ジヤウシヤウジン 常に精進すること。〔娥歌加留多、二〕寺參りに月日を送る常精進。

【常寂光】396 ジヤウジヤククワウ 佛常寂光土をいふ。天台にいふ四土の一つで法身佛のいます淨土。生滅の變化がなくて常住の德があり、煩惱の惑亂がなくて寂靜の德があり、智慧の光明があつて實相を照らす德があるからいふ。〔天台觀無量壽經疏〕常寂光者、常卽法身、寂卽解脫、光卽般若。

【常進功】397 ジヤウシンコウ 清、寧遠衞の人。明の副將。順治中、多鐸が江南を下すや、之を迎へて降り、浙江の征討に從ひ、又、鄭成功を征した。官は浙江水師提督。〔清史列傳、七十八〕。

【常詵孫】398 ジヤウシンソン 宋の人。同の孫。字は直卿。號は雪溪。屢〻官に召されて就かず、時人、雪溪先生といふ。著に天閑錄・芸齋筆記・雪溪稿がある。〔宋史翼、三十六〕・〔宋季忠義錄、十四〕。

【常惺惺】399 ジヤウセイセイ 平常事物に惑はないで、本心の明かなこと。惺は醒に通ずる。〔上蔡語錄〕敬是常惺惺法。〔朱熹、文〕惺惺乃心不㆓昏昧㆒之謂。〔劉基、醒齋銘〕昭昭生㆓于惺惺㆒、而憒憒出㆓于冥㆒。

【常惺惺齋】400 ジヤウセイセイサイ 清、勞崇光（**2－2410**‥141）の號。

【常大湘】401 ジヤウダイシヤウ 清、衡陽の人。字は馭七。號は瀛臺。道光の擧人。書室を學古堂といふ。著に學古堂集がある。

【常大淳】402 ジヤウダイジユン 清、衡陽の人。字は蘭陔。諡は文節。道光の進士。官は湖北巡撫。咸豐中、洪楊と戰つて死す。〔清史稿、四百二〕・〔清史列傳、四十三〕・〔續碑傳集、五十五〕。

【常珍奇】403 ジヤウチンキ 後魏、汝南の人。宋の司州刺史、魏の持節平南將軍・豫州刺史となり、河內公に封ぜられ、後、叛した。〔魏書、六十一〕。

【常得志】404 ジヤウトクシ 隋、京兆の人。博學能文。官は秦王記室。〔隋書、七十六〕・〔北史、八十三〕。

【常伯熊】405 ジヤウハクユウ 唐の人。煑茶を能くし、著に茶經がある。史姓韻編には常伯熙に作る。〔唐書、一百九十六〕。

【常評事】406 ジヤウヒヤウジ 明の常倫（370）をいふ。大理評事であつたからこの稱がある。

【常不輕】407 ジヤウフキヤウ 佛菩薩の名。此の菩薩は、常に身に不輕の行をなし、口に不輕の教を宣べ、逢ふ人每に、禮拜讚歎して增上慢の比丘の惡口毒語に對しても禮拜したといふ。增上慢（**3－5454**‥135）の對。〔法華經、常不輕品〕。

【常不斷】408 ジヤウフダン ふだん。つね。始終。

【常無有】409 ジヤウムイウ むなしい。常に何もない。絕對無。虛無（**9－32709**‥316）の❶に同じ。〔莊子、天下〕建ㇾ之以㆓常無有㆒、主ㇾ之以㆓太一㆒。

【常無欲】410 ジヤウムヨク 常に欲望のないこと。〔老子、一〕常無欲以觀㆓其妙㆒。〔老子、三十四〕常無欲可ㇾ名㆓於小㆒。

【常夢錫】411 ジヤウムセキ 南唐、扶風の人。一に萬年の人に作る。字は孟圖。諡は康。官は李璟の時、翰林學士・戶部尙書となる。〔十國春秋〕。

【常裕綸】412 ジヤウユウリン 清、徐溝の人。官は鎭海千總。母に仕へて至孝。〔國朝耆獻類徵、三百二十九〕・〔國朝先正事略、五十九〕。

【常祿保】413 ジヤウロクハウ 清、滿洲鑲藍旗人。姓は赫舍哩氏。乾隆中、遊擊を以て金川の征討に從ふ。總兵に擢んでられて、科布曲山梁を攻め、力戰して死す。〔清史稿、三百四十〕・〔國朝耆獻類徵、三百五十四〕。

【守ㇾ常不ㇾ變】414 ツネヲマモリテヘンゼズ 一定の分限を守つて、不相應のことをしない。〔嵇康、養生論〕謂、商無㆓十倍之價㆒、農無㆓百斛之望㆒、此守ㇾ常而不ㇾ變者也。

【蹈ㇾ常習ㇾ故】415 ツネヲフミフルキヲナラフ 舊習を墨守して振作向上しないこと。〔蘇軾、伊尹論〕後之君子、蹈ㇾ常而習ㇾ故、惴惴焉懼ㇾ不ㇾ免㆓於天下㆒。

【常瞿利童女】416 ジヤウクリドウニヨ 佛Jāngulī 童子、女童、毒女と譯す。觀音の化身で毒蟲に刺された毒を除く功德を有する。〔童女經〕我遊㆓香醉山㆒、見㆔一童女有㆓福相好㆒、莊㆓嚴其身㆒、以㆓鹿皮㆒爲ㇾ衣、以㆓諸毒蛇㆒爲㆓瓔珞㆒、將㆓諸毒蛇之類㆒、圍㆓繞前後㆒、常爲ㇾ件而戲。

【常不勝之道】418 ジヤウフシヨウノミチ 常に負けを將來する道。柔弱が常勝之道であるのに對して、剛強をいふ。〔列子、黃帝〕天下有㆓常勝之道㆒、有㆓常不勝之道㆒、常勝之道曰ㇾ柔、常不勝之道曰ㇾ彊、云云、粥子曰、欲ㇾ剛、必以ㇾ柔守ㇾ之、欲ㇾ彊、必以ㇾ弱保ㇾ之、積㆓於柔㆒必剛、積㆓於弱㆒必彊。

【常將有日思無日莫到無時思有時】419 chʻang^{2} chiang^{1} yu^{3} jih^{4} ssŭ^{1} wu^{2} jih^{4} mo^{4} tao^{4} wu^{2} shih^{2} ssŭ^{1} yu^{3} shih^{2} 樂に居て苦を思ひ、苦に居て樂を思へといふ格言。

【⿰巾昆】8956 コン ⿰巾軍（**4－8988**）に同じ。〔集韻〕⿰巾軍、或从ㇾ昆。

【⿱其巾】8957 キ 帺（**4－8958**）に同じ。〔玉篇〕帺、亦作ㇾ⿱其巾。

【帺】8958

㊀ギキ 〔集韻〕渠之切 支

㊁ギキ 〔集韻〕渠記切 寘

㊀❶**もえぎ。**もえぎ色の帛。綥（**8－27554**）に同じ。〔集韻〕綥、說文、帛蒼艾色、云云、或作ㇾ帺。❷或は⿱其巾（**4－8957**）に作る。〔玉篇〕帺、亦作ㇾ⿱其巾。㊁❶**ふきん。てぬぐひ。**〔集韻〕帺、巾也。❷**つなぐ。**〔集韻〕帺、繫也。❸或は祺（**10－34386**）・⿰礻忌（**10－34309**）に作る。〔集韻〕帺、或作㆓祺・⿰礻忌㆒。

【帹】8959

㊀サフ セフ 〔集韻〕色甲切 洽

㊁セフ 〔集韻〕七接切 葉

㊀**面を覆ふ巾。**帹⿸尸毳。〔玉篇〕⿸尸毳、帹⿸尸毳、面衣也。㊁**づきん。**はちまき。〔集韻〕帹、幧頭也。

【⿰巾直】8960 トク 犆（**7－20057**）に同じ。〔集韻〕犆、或从ㇾ巾。

【⿱臤巾】8961 ケン 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿱臤巾、音牽。

【⿰巾忩】8962 シヨウ 幒（**4－8976**）に同じ。〔篇海類編〕⿰巾忩、同ㇾ幒。

【⿰巾取】8963 テフ ⿰巾耴（**4－8901**）の譌字。〔字彙補〕⿰巾取、⿰巾耴字之譌。

【⿰巾果】8964 クワ 義未詳。〔川篇〕⿰巾果、音果。

【⿰巾青】8965 セキ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿰巾青、音鞕。

【帿】8966 コウ 帿(4-8981)に同じ。〔五音篇海〕帿、同レ帿。

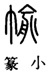
【㡌】8967 バウ 帽(4-8971)の俗字。〔正字通〕帽、俗从レ曰从レ月作レ㡌。

【⿰巾毒】8968 タウ 纛(8-28080)に同じ。〔集韻〕纛、或从レ巾。

九畫

【⿰巾俞】8969

［一］シュ ス 〔集韻〕雙雛切 虞
［二］ユ 〔集韻〕容朱切 虞
［三］シュ ス 〔集韻〕雙遇切 遇
［四］トウ ヅ 〔集韻〕徒侯切 尤


小篆

［一］❶**たちあまりのきぬ**。〔說文〕⿰巾俞、正端裂也、从レ巾兪聲。〔段注〕端、各本作レ耑、今正、衣部曰、端、衣正幅也、此謂二帛之正端一、以レ別三於上文帗謂二殘帛之裂一。〔廣韻〕⿰巾俞、裁殘帛也。❷**ぬのぎれ**。〔類編〕⿰巾俞、帛邊也、漢制以爲二關門符信一。❸**あやぎぬ**。繻(8-27996)に同じ。〔集韻〕繻、繒采色、或从二巾兪一。❹或は輸(12-42926)に作る。〔集韻〕⿰巾俞、或从レ革。［二］［三］❶**たちあまりのきぬ**。［一］の❶に同じ。❷或は緰(8-27683)に作る。〔集韻〕⿰巾俞、或从レ糸。［四］**そでなし**。褕(10-34442)に同じ。〔集韻〕褕、⿰衤侯褕、短袖襦、或从レ巾。

【⿰巾匧】8970 カフ 帢(4-8880)に同じ。〔集韻〕帢、或作レ⿰巾匧。

【帽】8971 バウ モウ 〔集韻〕莫報切 號 ㄇㄠˋ mao^4

❶**ばうし**。づきん。〔釋名、釋首飾〕帽、冒也。〔玉篇〕帽、頭帽也。〔字彙〕帽、頭衣、古者冠無レ帽、冠下有レ纚、以レ繒爲レ之、後世因レ之帽二于冠一、或裁レ纚爲レ帽、自二乘輿宴居一下至二庶人無レ爵者一、皆服レ之。〔隋書、禮儀志七〕帽、古野人之服也、云云、案、宋齊之間、天子宴私著二白高帽一、云云、後周之時、咸著二突騎帽一、云云。❷冃(2-1508)に同じ。〔正字通〕帽、說文、本作レ冃。❸通じて冒(2-1538)に作る。〔康熙字典〕帽、通作レ冒。

【帽埃】1 バウアイ 帽子のほこり。〔陸游、十二月十九日晩巫山送二客歸一回二望西寺小閣一縹緲可レ愛遂與二趙郭二教授一同遊抵レ夜乃還二楚鄕一偶得二長句一呈二二君一詩〕歸時燈火參差晩、自脫二征衣一拂二帽埃一。

【帽纓】2 mao^4 ying^1 帽子のひも。

【帽簷】3 バウエン 帽子のふち。〔李商隱、代レ妓贈二從事一詩〕新人橋上著二春衫一、舊主江邊側二帽簷一。〔雲仙雜記〕梁緒梨花時、折レ花簪レ之、壓二損帽簷一、至レ頭不レ能レ擧。

【帽架】4 mao^4 chia^4 帽子掛。

【帽額】5 モカウ ❶御帳の上方・上長押等に横に引廻はす布帛。又、すだれの上邊を覆うて垂れる布。みづひきの幕の類。〔江家次第、一、七日節會裝束〕東西北面、懸二互帽額一。❷紋所の名。窠紋。もつかう。

【帽盒】6 mao^4 hê^2 帽子箱。帽子の容器。

〖帽盒兒〗7 mao^4 hê^2 êrh 帽子入。

【帽鏡】8 mao^4 ching^4 机上などに置く姿見。

【帽花】9 mao^4 hua^1 帽子の上の飾。

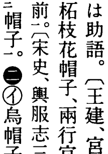
〖帽花兒〗10 mao^4 hua^1 êrh 帽子飾の星。

【帽圈】11 mao^4 chʻüan^1 漢人婦女の帽子様の被りもの。

【帽衫】12 バウサン 宋代、士大夫の衣服の名。〔宋史、輿服志五〕一曰深衣、二曰紫衫、三曰涼衫、四曰帽衫、五曰襴衫。

【帽山】13 バウザン 安部井褧の號。安部井帽山(3-7072・613)を見よ。

【帽子】14 バウシ ❶布帛で製したかぶりものの總稱。子は助語。〔王建、宮詞〕未レ戴二柘枝花帽子一、兩行宮監在二簾前一。〔宋史、輿服志三〕皇帝服二帽子一。❷㋑烏帽子の略。〔禁祕抄、下〕於二殿上口一切レ紐引二入帽子一如二面縛一。㋺西洋流のかぶりもの。シャツポ。㋩物の先端にかぶらす物の總稱。


帽子（三才圖會）

〖帽子沿〗15 mao^4 tzŭ yen^4 帽子のつば。

【帽匠】16 mao^4 chiang^4 帽子を製造する職人。

【帽章】17 バウシヤウ 帽子の徽章。

【帽上】18 バウジヤウ 帽子の上。〔南史、陳伯之傳〕帽上著二籠冠一、袴上著二朱衣一。

【帽星】19 mao^4 hsing^1 帽子の徽章。

【帽前】20 バウゼン 帽子の前方。面前をいふ。〔杜荀鶴、行次二榮陽一卻寄二諸弟一詩〕枕上算レ程關月落、帽前搜レ景嶽雲生。

【帽帶】21 バウタイ ❶帽子と帶。〔玉堂雜記〕至二便殿上一服二帽帶一。❷mao^4 tai^4 帽子の紐。

【帽暖】22 バウダン 帽子のあたたかみ。〔白居易、新沐浴詩〕裘溫裹二我足一、帽暖覆二我頭一。

【帽頂】23 バウチヤウ 帽子のいただき。又、帽子の頂上に附ける紅い珠。帽結兒。〔輟耕錄、回回石頭〕回回石頭、種類不レ一、其價亦不レ一、大德間、本土巨商中賣二紅刺一塊于官一、重一兩三錢、估直中統鈔一十四萬定一、用嵌二帽頂上一、自後累朝皇帝、相承寶重、凡正旦及天壽節大朝賀時、則服二用之一、呼曰レ刺、亦方言也。

【帽店】24 mao^4 tien^4 帽子店。帽鋪。

【帽筒】25 バウトウ 帽子を入れるつつ箱。〔江行雜錄〕有二一叟一失レ牛、詣二桑國師一占、師曰、爾牛在二賈相公帽筒中一。

【帽憑】26 バウヒヨウ 十分に思慮を積むこと。〔淮南子、修務訓〕且夫身正性善、發レ憤而成レ仁、帽憑而爲レ義。〔注〕帽憑、盈滿積思之貌。

【帽服】27 バウフク 帽子と衣服。〔宋史、儀衞志二〕都下五十四人、內人員一人、帽服同レ前。

【帽鋪】28 mao^4 pʻu^4 帽子店。帽子商。

【帽緯店】29 mao^4 wei^3 tien^4 官帽の纓子を製造販賣する店。

【帽疙瘩】30 mao^4 kê^1 ta 帽子の頂に附ける小さい珠。帽珠兒に同じ。

【帽結兒】31 mao^4 chieh^2 êrh 帽子の頂上に附ける結び紐。

【帽兒山】32 バウジザン ❶地名。㋑滿洲遼寧省臨江縣治。鴨綠江の北に在る。㋺滿洲吉林省雙城縣の東南。濱長鐵路の沿線にある。❷山名。滿洲吉林省延吉縣の東南。

【帽珠兒】33 mao^4 chu^1 êrh 帽子の頂に附ける小さい珠。帽疙瘩に同じ。

【帽罩子】34 mao^4 chao^4 tzŭ 帽子の覆ひ。

【帽頭兒】35 mao^4 tʻou^2 êrh 小帽子

【帽襻兒】36 mao^4 pʻan^1 êrh 帽子のひも。

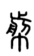
【帽辮子】37 mao^4 pien^4 tzŭ 麥稈眞田。

【帽烏袍紅】38 バウウハウコウ 大禮服をいふ。烏帽紅袍。〔桃花扇、罵筵〕銜二名供奉一、簇新新帽烏襯二袍紅一。

【脫レ帽露レ頂】39 バウヲダツシチヤウヲアラハス 帽をぬぎいただきを露はす。禮儀をかまはぬこと。〔杜甫、飲中八仙歌〕張旭三杯草聖傳、脫レ帽露レ頂王公前、揮レ毫落レ紙如二雲煙一。

【帽】8972 バウ 帽(4-8971)の俗字。〔正字通〕帽、今作レ帽。

【⿰巾前】8973 セン 〔集韻〕子仙切 先


小篆

❶**はたじるし**。はたについてゐるしるしの布。〔說文〕⿰巾前、幡幟也、从レ巾前聲。〔段注〕幡幟、旛識之俗字也、云云、旛識者、旗有レ幅、可レ爲二表識一、⿰巾前之言、箋也。〔廣雅、釋器〕⿰巾前、旛也。❷或は幯に書す。〔集韻〕⿰巾前、亦書作レ幯。

【幯】8974 セン ⿱䒑⿰巾刂(4−8973)に同じ。〔集韻〕⿱䒑⿰巾刂、亦書作㆑幯。

【帾】8975 ト ツ 〔集韻〕董五切 麌

❶**はた**。〔集韻〕帾、博雅、幡也。❷**はたじるし**。〔廣韻〕帾、標㆓記物之處㆒也。❸**わたいれ**。褚(10−34457)に通ず。〔荀子、禮論〕無帾絲歶縷翣。〔注〕帾、與㆑褚同。

【幒】8976 シヨウ ⿰巾松(4−8831)に同じ。〔玉篇〕幒、同㆑⿰巾松。

【⿰巾面】8977 ベン メン 〔集韻〕彌兗切 銑

まく。幕。〔集韻〕⿰巾面、幕謂㆓之⿰巾面㆒。

【⿱秋巾】8978 ［一］セウ 〔集韻〕子了切 篠 ［二］セウ 〔集韻〕千遙切 蕭

［一］❶**弔意をあらはす頭かざり**。〔集韻〕⿱秋巾、一曰、凶首飾。❷**髮づつみ**。〔集韻〕⿱秋巾、幧頭也。❸［現］くける。布又は布邊を折りたたんでひもにぬふ。［二］**髮づつみ**。幧(4−9102)に同じ。〔集韻〕幧、帞頭也、或作㆑⿱秋巾。

【⿰巾秋】8979 シウ ⿰衤秋(10−34473)に同じ。〔集韻〕⿰衤秋、或作㆑⿰巾秋。

【⿰巾癸】8980 キ 〔五音集韻〕居誄切 紙

はかま。〔五音集韻〕⿰巾癸、衣袴也。

【帿】8981 コウ グ 〔集韻〕胡溝切 尤

まと。侯(1−633)に同じ。〔集韻〕侯、説文、春饗所㆑䠶侯也、或从㆑巾。

【幀】8982 タウ チヤウ 慣テイ 〔集韻〕猪孟切 敬 ㄓㄥˋ chêng^4

❶**枠に畫絹をはる。又、その絹畫**。〔集韻〕幀、張㆓畫繪㆒。〔正字通〕幀、絹畫在㆓竹格㆒也。❷**かけもの**。書畫を數へる單位。〔正字通〕今人以㆓一幅㆒爲㆓一幀㆒。❸幨(4−9148)・⿰巾登(4−9076)に同じ。〔正字通〕幀、幀・幨・⿰巾登並同。

【幀首】1 テイシユ 表裝の上部。〔還魂記、寫眞〕暗藏㆓春色㆒、題㆓於幀首之上㆒何如。

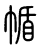
【⿰巾是】8983 シ ジ 〔玉篇〕承紙切 紙

てぬぐひ。ふきん。〔玉篇〕⿰巾是、巾也。

【⿰巾頁】8984 ス シユ 〔玉篇〕思于切 虞

づきん。〔五音集韻〕⿰巾頁、頭⿰巾頁也。

【⿰巾盾】8985 ［一］チユン 〔集韻〕株倫切 眞 ［二］シユン 〔集韻〕測倫切 眞 ［三］トン ドン 〔集韻〕杜本切 阮


小篆

［一］［二］［三］❶**米をいれるふくろ**。〔説文〕⿰巾盾、載㆑米齡也、从㆑巾盾聲、讀若㆓易屯卦之屯㆒。〔段注〕蓋其體方。❷**ふくろ**。〔廣韻〕⿰巾盾、布貯曰㆑⿰巾盾。❸⿰巾旬(4−8877)に通ず。〔説文通訓定聲〕⿰巾盾、愚按、⿰巾盾者⿰巾旬之或體、領耑也、或从㆑巾。

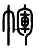
【⿰巾某】8986 ボウ ム 〔玉篇〕莫侯切 尤

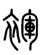
女のもつ手ふき。〔玉篇〕⿰巾某、女人衣巾也。

【⿰巾革】8987 ガク ギヤク 〔玉篇〕五伯切 陌

ぬふ。緙(8−27639)に同じ。〔玉篇〕⿰巾革、紩也、亦作㆑緙。

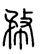
【幝】8988 コン 〔集韻〕公渾切 元


小篆


或體

❶**さるまた**。ふんどし。或は褌(10−34428)に作る。〔説文〕幝、幒也、从㆑巾軍聲、褌、幝或从㆑衣。〔段注〕今之套褲、古之絝也、今之滿襠褲、古之幝也、自㆓其渾合近㆑身言曰㆑幝、自㆓其兩襱孔穴㆒言曰㆑幒。❷或は⿰巾昆(4−8956)・裩(10−34339)に作る。〔集韻〕幝、或作㆓⿰巾昆・裩㆒。

【⿱敄巾】8989 ［一］ボク モク 〔集韻〕莫卜切 屋 ［二］ブ ム 〔集韻〕亡遇切 遇 ［三］ブ ム 〔集韻〕迷浮切 尤 ［四］ボ モ 〔集韻〕蒙晡切 虞 ［五］ボウ モ 〔集韻〕莫候切 宥 ［六］キヨク コク 〔集韻〕吁玉切 沃

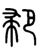

小篆

［一］［二］［三］［四］［五］［六］❶**うるしびきのぬの**。〔説文〕⿱敄巾、鬃巾也、从㆑巾敄聲、讀若㆑項。❷**車のよこぎのおほひ**。〔説文〕⿱敄巾、一曰、車衡上衣。❸**車のおほひ**。〔集韻〕⿱敄巾、染布以覆㆑車也。〔集韻〕⿱敄巾、桼布覆㆑車曰㆑⿱敄巾。❹**車のながえにまいた絲**。〔廣韻〕⿱敄巾、轅上絲也。❺**髮づつみ**。〔廣韻〕⿱敄巾、髮巾也。

【⿱敄巾⿰衤延】1 クビオホヒ 牛馬の頸部を蔽ふ布。〔倭名類聚抄、舟車部、車具、⿱敄巾⿰衤延〕唐韻云、⿱敄巾⿰衤延、久飛於保比、牛領上衣也。

【⿰巾英】8990 エイ 央(3−5840)に同じ。〔集韻〕央、鮮明貌、詩旆旟央央、或作㆑⿰巾英。

【⿰帚巴】8991 ［一］ハ ヘ 〔集韻〕補下切 馬 ［二］セウ ゼウ 〔集韻〕時饒切 蕭


小篆

［一］［二］**手をかへしてうつ**。〔説文〕⿰帚巴、捭擊也、从㆓巴帚㆒、闕。〔段注〕捭者、反㆑手擊也。

【⿰巾重】8992 ［一］チヨウ ヂユ 〔集韻〕柱勇切 腫 ［二］タウ

［一］**おほひ**。〔集韻〕⿰巾重、廣雅、⿰巾重謂㆓之幏㆒。［二］幢(4−9087)に同じ。〔正字通〕⿰巾重、與㆑幢通、舊注非㆑是。

【幃】8993 ［一］キ 〔集韻〕吁韋切 微 ［二］ヰ 〔集韻〕于非切 微 ㄨㄟˊ wei^2

幃 小篆 ㈠㈡❶にほひぶくろ。香嚢。〔說文〕幃、嚢也、从レ巾韋聲。〔楚辭、離騷〕椒又欲レ充二夫佩幃一。〔注〕幃、盛レ香之嚢。❷ふくろ。〔說文、段注〕按、凡嚢曰レ幃。❸あやぎぬ。うすぎぬ。〔廣雅、釋器〕幃、綵也。〔一切經音義、三〕幃、幭也。❹とばり。帷(4－8954)に通ず。〔說文通訓定聲〕幃、叚借爲レ帷。〔廣韻〕幃、單帳。〔枚乘、七發〕如二素車白馬幃蓋之張一。〔注〕善曰、幃、帳也。〔後漢書、仲長統傳〕垂露成レ幃。〔注〕在レ旁曰レ幃、在レ上曰レ幄。❺正幅のも。〔國語、鄭語〕王使二婦人不レ幃而譟レ之。〔注〕裳正幅曰レ幃。❻婦人の正服。褘(10－34453)に通ず。〔說文通訓定聲〕幃、叚借爲レ褘。〔爾雅、釋器〕婦人之幃、謂二之褵一。〔釋文〕幃、本或作レ褘。❼古は⿷匚韋(2－2638)に作る。〔玉篇〕⿷匚韋、古幃字。

【幃幄】1 ヰアク 帷幄(4－8954‥1)に同じ。❶とばり。幃帳。〔鹽鐵論、散不足〕今富者黼二繡幃幄一。❷作戰計畫をする場所。〔蜀志、劉巴傳、注〕亮亦曰、運二籌策於幃幄之中一、吾不レ如二子初一遠矣。

【幃帟】2 ヰエキ 帷帟(4－8954‥6)に同じ。

【幃蓋】3 ヰガイ とばりとかさ。とばりとおほひ。帷蓋。〔宋書、五行志五〕大風雷電、幃蓋飛裂。

【幃閒】4 ヰカン とばりのあひだ。〔黃庭外景經〕虛無之居在二幃閒一、寂寞廓然口不レ言。

【幃幌】5 ヰクワウ たれぎぬ。帷幌。〔開元天寶遺事、忍字〕光王守和、未二嘗與レ人有一レ爭、嘗於二案几間一、大二書忍字一、至二於幃幌之屬一、以レ綉畫爲レ之。

【幃室】6 ヰシツ とばりを張つた室。〔韋應物、端居感懷詩〕方如レ在二幃室一、復悟二永終一已。

【幃車】7 ヰシヤ とばりを垂れた車。帷車。〔魏志、龐淯傳〕初、淯外祖趙安爲二同縣李壽所一レ殺、淯舅兄弟三人同時病死、壽家喜、淯母娥、自傷二父讎不一レ報、乃幃車袖レ劍、白日刺二壽于都亭前一。

【幃裳】8 ヰシヤウ 婦人の車飾。帷裳。〔列女傳、貞順、齊孝孟姬傳〕內飾則結紐綢繆、野處則幃裳擁蔽。

【幃褥】9 ヰジヨク とばりとしとね。〔西京雜記、三〕文帝爲二太子一、立二思賢苑一、以招二賓客一、苑中有二堂隍六所一、客館皆廣廡高軒、屛風幃褥甚麗。

【幃帳】10 ヰチヤウ とばり。たれぎぬ。帷帳。〔史記、范雎傳〕范雎盛二幃帳一、侍者甚衆。〔韋應物、冬夜詩〕幃帳徒自設、冥寞豈復來。

【幃帳無二文繡一】11 ヰチヤウブンシウナシ とばりにぬひとりの飾をしない。儉約の喩。〔史記、孝文紀〕所レ幸愼夫人、令二衣不一レ得レ曳レ地、幃帳不レ得二文繡一、以示二敦朴一、爲二天下先一。

【幃幕】12 ヰバク とばりとまく。帷幕。〔說苑、正諫〕且合二菽粟之微一以滿二倉廩一、合二疏縷之緯一以成二幃幕一。〔列女傳、續列女、更始韓夫人傳〕乃令下侍中于二幃幕之內一、詐爲二更始一與二羣臣一語上。

【幃幙】13 ヰバク とばりとまく。幃幕に同じ。〔黃庭內景經〕安在二紫房幃幙閒一、立二坐室外一三五元。

【幃屛】14 ヰヘイ たれまくの仕切り。帷屛。〔潘岳、悼亡詩〕幃屛無二髣髴一、翰墨有二餘跡一。〔注〕善曰、廣雅曰、幃、帳也。

【幃幔】15 ヰマン とばり。たれぎぬ。帷幔。〔魏書、宣武靈皇后胡氏傳〕太后欲下以二幃幔一自障、觀中三公行事上。〔白居易、和二微之一詩二十三首、和二望曉一詩〕草鋪地茵褥、雲卷天幃幔。

【幄】8994

アク 〔集韻〕乙角切 ㄨㄛˋ wo^4 覺

❶てんまく。まんまく。上方四圍をかこふとばり。あげばり。幕の小屋。〔釋名、釋牀帳〕幄、屋也、以レ帛依レ板施レ之、形如レ屋也。〔小爾雅、廣服〕覆帳謂二之幄一。〔周禮、天官、幕人〕掌二帷幕幄帟綬之事一。〔注〕四合象二宮室一曰レ幄。〔漢書、禮樂志〕照二紫幄一。〔注〕師古曰、帳上四下而覆曰レ幄。❷ぢんまく。ひきまく。〔小爾雅、廣服〕幄、幕也。〔淮南子、氾論訓〕燕雀處二帷幄一、而兵不二休息一。〔注〕幄、幕也。❸下ばりの小さいまく。〔左氏、昭、十三〕以二幄幕九張一行。❹とばり。たれぎぬ。〔小爾雅、廣服〕幄、帳也。〔呂覽、權勳〕往視レ之入二幄中一。〔注〕幄、帳也。❺まくうち。まくばりの中。〔左氏、襄、二十四〕二子在レ幄。〔注〕幄、帳也。❻或は⿰衤屋(10－34415)・屋(4－7684)に作る。〔集韻〕幄、或从レ衣、亦作レ屋。❼別に楃(6－15096)に作る。〔正字通〕幄、別作レ楃、非。

【幄帷】1 アクヰ たれぎぬ。とばり。帷幄。帷帳。〔魏志、杜恕傳〕尙書、坐則侍二幄帷一、行則從二華輦一。

【幄茵】2 アクイン とばりとしとね。〔四皓、采芝操〕巖居穴處、以爲二幄茵一。

【幄屋】3 アクヤ あげばり。幄舍(8)に同じ。

【幄下】4 アクカ あげばりの幕のもと。周圍にまくをめぐらした處。

【幄臥】5 アククワ とばりの中でねる。安らかにねることをいふ。

【幄後】6 アクゴ とばりのうしろ。〔後漢書、劉隆傳〕時顯宗爲二東海公一、年十二、在二幄後一言曰、吏受二郡勑一、當レ欲中以二墾田一相方上耳。

【幄坐】7 アクザ 坐は又、座に作る。❶とばりの中にすわる。〔漢書、王莽傳上〕定陶太后、不レ宜下在二乘輿一幄坐以明中國體上。❷たれぎぬを張つた坐席。〔魏志、文昭甄皇后傳、注〕望二幄坐一悲喜、感二動左右一。〔宋書、禮志一〕致齋之朝、御二太極殿幄坐一。

【幄舍】8 アクシヤ あげばり。古、祭事に紫宸殿の前庭に幕を引きめぐらして設けた假舍。又、すべて祭事などに幕を引きめぐらした假舍。❸ アクノザ あげばり。幄舍に同じ。

【幄帳】9 アクチヤウ とばり。幄幕。〔南史、何憲傳〕湯常謀二議幄帳一、每レ及二選用一、頗失二鄉曲情一。

【幄中】10 アクチユウ ❶幕のうち。あげばりの中。〔韓非子、十過〕司馬子反、辭以二心疾一、共王駕而自往、入二其幄中一、聞二酒臭一而還。❷作戰計畫をする場所。陣中。〔晉書、王沉等傳論〕在レ魏參二席上之珍一、居レ晉爲二幄中之士一。

【幄中策】11 アクチユウノサク とばりの中の策謀。陣營のはかりごと。幄中籌に同じ。〔江淹、雜體、盧侍郎諶感交詩〕慨レ無二幄中策一、徒慚二素絲質一。

【幄中籌】12 アクチユウノチウ とばりの中の籌策。陣營のはかりごと。〔皇甫冉、送三鄭判官赴二徐州一詩〕元戎閒外令、才子幄中籌。

【幄亭】13 アクテイ とばりを張つた亭。とばりを張つた休憩所。〔齋藤拙堂、陪二游笠置山一記〕吏預設二幄亭一、休歇焉。

【幄殿】14 アクデン 古、天子の出遊に際して、屋外に帷幕を張つて作つた假の宮殿。〔宋史、太宗紀一〕(太平興國五年)十二月甲戌、大閱、遂宴二幄殿一、衞士有下盜二獲讐一者上、當レ坐、詔特釋レ之。〔梅堯臣、金明池遊詩〕津樓金閒采、幄殿錦文窠。

【幄內】15 アクナイ とばりのうち。〔左氏、昭、二十五〕公與二昭子一、言二於幄內一。〔漢書、劉向傳〕青紫貂蟬、充二盈幄內一、魚二鱗左右一。

【幄幕】16 アクバク とばりとまく。幄は四方に引き廻すとばり、幕は上に覆ふもの。〔左氏、昭、十〕桓子召二子山一、私具二幄幕器用、從者之衣屨一、而反レ棘焉。〔會箋〕十三年傳、幄幕九張、在レ旁曰レ帷、在レ上曰レ幕、四合象二宮室一曰レ幄、在二帷若幄一坐上承レ塵曰レ帟、四物皆以二組綬一連繫焉。〔左氏、昭、十三〕子產以二幄幕九張一行。〔注〕幄幕、軍旅之帳。〔墨子、非攻中〕竹箭羽旄幄幕、甲盾撥劫。

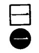
【幄幙】17 アクバク とばりとまく。幄幕に同じ。〔曹植、七啓〕華燭爛、幄幙張。

【幄裏】18 アクリ とばりの中。〔何遜、爲二衡山侯一與レ婦書〕幄裏餘香從レ風且歇。

【幅】8995

㈠フク 〔集韻〕方六切 ㄈㄨˊ fu^2 屋

㈡ヒヨク ヒキ 〔集韻〕筆力切 職

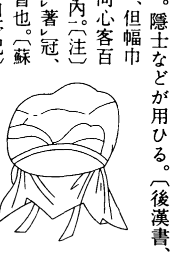
幅小篆 ㈠❶はば。㋑布帛のひろさ。古は二尺二寸を一幅とする。〔說文〕幅、布帛廣也、从レ巾畐聲。〔儀禮、士喪

禮〕亡則以㆓緇長半幅經㆑末長終幅㆒。〔注〕半幅一尺、終幅二尺。〔漢書、食貨志下〕布帛廣二尺二寸爲㆑幅。〔後漢書、馬融傳〕幅巾。〔注〕幅巾者、以㆓一幅㆒爲㆑之也。〔晉書、倭人傳〕男子衣以㆓横幅㆒、但結束相連、略無㆓縫綴㆒。㋺ひろさ。ひろがり。〔詩、商頌、長發〕幅隕既長。〔傳〕幅、廣也。❷度量。氣宇。〔北史、樊子蓋傳〕宜㆑選㆘貞良宿德、有㆓方幅㆒者㆖。❸ふち。へり。〔急就篇、二、資貨市贏匹幅全、注〕四丈曰㆑疋、兩邊具曰㆑幅。〔說文、幅、段注〕凡布帛、廣二尺二寸、其邊曰㆑幅。〔列女傳、母儀、魯季敬姜傳〕夫幅者所㆓以正㆒曲枉㆒也。❹うはべ。みえ。外貌。〔後漢書、公孫述傳〕方乃坐飾㆓邊幅㆒。〔注〕邊幅、猶㆘有㆓邊緣㆒以自矜持㆖也。〔南史、任昉傳〕不㆑事㆓邊幅㆒。❺ぬのぢ。布帛。〔韓愈、桃源圖詩〕生綃數幅垂㆓中堂㆒。〔孫樵、乞巧對〕繡文錦幅、雲綃霧縠。❻紙。〔唐書、裴度傳〕欲㆑收㆓天下英雄之心㆒、惟有㆓詔書紙半幅㆒。〔韓維、答㆓王詹叔㆒詩〕新詩溢㆓巾幅㆒。〔蘇軾、和㆓蔣夔寄㆑茶詩〕清詩兩幅寄㆓千里㆒。❼**かけもの。又、かけものを數へる數詞。**〔袁桷、秋泉德生云云題㆓盧山圖㆒云云詩〕愛㆓君寒齋之畫幅㆒。〔韓琦、觀㆓胡九齡畫手㆒詩〕示㆓我蠟本數十幅㆒。❽或は⿰糸畐(8-27655)・畐(7-21787)に作る。〔集韻〕幅、或作㆑⿰糸畐、亦省。㊁❶**むかばき。**〔集韻〕幅、行縢也。〔釋名、釋衣服〕幅、所㆓以自偪束㆒、今謂㆓之行縢㆒。〔左氏、桓、二〕帶裳幅舃。〔注〕幅、若㆓今之行縢㆒者。❷**つける。**偪(1-887)に通ず。〔禮、內則、偪㆑屨著㆑巾、釋文〕偪、本又作㆑幅。❸**みちる。**畐(7-21787)に通ず。〔說文通訓定聲〕幅、叚借爲㆑畐。〔廣雅、釋詁一〕幅、滿也。❹**そふ。**副(2-2097)に通ず。〔說文通訓定聲〕幅、叚借爲㆑副。〔漢尹宙碑〕位不㆑幅㆑德。邦**はば。**はぶり。威勢。

【幅員】1 フクヰン 廣さ。はばとめぐり。幅は面積、員は周圍。幅隕。〔剪燈餘話、胡媚娘傳〕念㆓幅員之既廣㆒、慨㆓狐魅之滋多㆒。〔日本政記、正親町天皇論〕故東北高而西南卑、其幅員亦隨而豐殺。

【幅隕】2 フクヰン はばとまはり。幅員に同じ。隕は員・圓に通ずる。〔詩、商頌、長發〕方外大國是疆、幅隕既長。〔傳〕幅、廣也、隕、均也。〔箋〕隕、當㆑作㆑圓、圓、謂㆑周也。〔疏〕言㆓中國廣大而圓周㆒也。

【幅巾】3 フクキン かしらをつつむ布。一はばの巾で作つた頭巾。隱士などが用ひる。〔後漢書、鮑永傳〕悉罷㆑兵、但幅巾與㆓諸將及同心客百餘人㆒詣㆓河內㆒。〔注〕幅巾、謂㆓不㆑著㆑冠、但幅巾束㆑首也。〔蘇轍、武昌九曲亭記〕幅巾迎笑、相攜徜徉而止。〔事物紀原、冠冕首飾部、幅巾〕古庶人服㆑巾、士則冠矣、傅子曰、漢末王公、多委㆓士服㆒、以㆓幅巾㆒爲㆓雅素㆒、則幅巾、古賤者服也、漢末始爲㆓士人之服㆒、袁紹戰敗、幅巾渡㆑河、是也。〔品字箋〕幅巾、全幅爲㆑巾、隱士之服也。



幅巾
(三才圖會)

【幅廣】4 ハバヒロ 普通より幅の廣いこと。

【幅尺】5 フクセキ ❶一はばのながさ。〔陳書、後主紀〕詔曰、布帛幅尺、短狹輕疎者、並傷㆑財廢㆑業、尤成㆓蠹患㆒。❷はかる。量度。〔王鏊、愧齋先生傳〕爲㆑人古貌古心、於㆓世故細碎、米鹽筐莢㆒、殊若㆑無㆑所㆓幅尺㆒。

【幅脫】6 フート フート。英國の長さの單位。呎。Foot

【幅地】7 フート フート。幅脫に同じ。

【幅疊】8 ハバダタミ 物を幅廣にたたむこと。〔好色一代女、五〕大島田、幅疊のもとゆひを菱結にして。

【幅方】9 フクハウ 四方四角。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕幅方一尺、並刊㆓印板㆒。

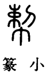
【幅利】10 フクリ 利を制限する。幅はふち、へりの意から、かぎることをいふ。〔左氏、襄、二十八〕富如㆓布帛之有㆑幅焉、爲㆓之制度㆒、使㆑無㆑遷也、夫民、生厚而用利、於㆑是乎正德以幅㆑之、使㆑無㆓黜嫚㆒、謂㆓之幅利㆒。〔疏〕人皆欲㆓生計重厚、而多㆓財用利益㆒、心既無㆑厭、於㆑是乎用㆓正德㆒以幅㆑之、言㆘用㆓正德㆒以爲㆓邊幅㆒、使㆑有㆑度也。〔孫逖、唐濟州刺史裴公德政頌〕幅利以儉、葆光以和。

【幅裂】11 フクレツ きれさける。〔應劭、風俗通義序〕今王室大壞、九州幅裂、亂靡㆑有㆑定。〔後漢書、南匈奴傳論〕續以㆓更始之亂㆒、方夏幅裂。〔魏志、崔琰傳〕天下分崩、九州幅裂。〔陸機、答㆓賈長淵㆒詩〕在㆓漢之季㆒、皇綱幅裂。

【幆】 8996
㊀エイ 〔集韻〕於例切 霽
㊁カイ 〔集韻〕丘蓋切 泰

㊀**えり。**直衿。〔集韻〕幆、直衿、謂㆓之幆㆒。㊁**時ならずして葬る。**〔集韻〕幆、非㆑時而葬、謂㆓之幆㆒。

【⿱剌巾】 8997
ラツ ラチ 〔集韻〕郎達切 曷



小篆

はらふ。ぬぐふ。〔說文〕⿱剌巾、制也、从㆑巾剌聲。〔段注〕制、當㆑作㆑拂、字之誤也。〔玉篇〕⿱剌巾、拂也。

【⿸尹巾】 8998
イン 尹(4-7631)の古字。〔說文〕⿸尹巾、古文尹。

【幇】 8999
ハウ 幫(4-9125)に同じ。〔正字通〕幫、省作㆑幇、義同。〔傳習錄、上〕就㆓他不㆑足處㆒幇補說。

【⿰⿱山巾⿱山巾】 9000
ボウ 牟(7-19928)の古字。〔字彙補〕⿰⿱山巾⿱山巾、古文牟字。

【⿸尸⿰巾冏】 9001
イン 尹(4-7631)の古字。〔字彙補〕⿸尸⿰巾冏、古文尹字。

【⿰帛且】 9002
サ シャ 〔集韻〕莊加切 麻

とる。すくふ。泥の中から物をすくひ上げる。担(5-11914)の古字。〔集韻〕担、說文、挹也、一曰、取㆓物泥中㆒、古作㆑⿰帛且。

【⿰巾戚】 9003
ゲキ 〔川篇〕音戟

せまいぬの。〔川篇〕⿰巾戚、褊也。

【帯】 9004
サク 策(8-26009)に同じ。〔字彙補〕帯、與㆑策同。

【⿰帛及】 9005
キフ ゴフ 〔集韻〕極入切 緝

きぬ。〔集韻〕⿰帛及、新羅、謂㆑絹曰㆑⿰帛及。

【幈】 9006
ヘイ 屛(4-7734)に同じ。〔字彙補〕幈、與㆑屛同。

【幈宮】1 ヘイキュウ 宮殿の名。五代、蜀の高祖の造つたもの。〔淸異錄、居室〕幈宮、孟蜀高祖晩年作、以㆓畫屛七十張㆒、關㆓百紐㆒而鬭㆑之、用爲㆓寢所幈㆒。

【幈幛】2 ヘイシャウ 山名。〔邵雍、幈幛春吟詞〕幈幛山下有㆓家園㆒、每歲家園過㆓禁煙㆒。

【⿰帛勾】 9007
コウ ク 〔集韻〕居候切 宥

わた。〔集韻〕⿰帛句、緜敷也。〔字彙補〕⿰帛勾、綿⿰帛勾。

參考 字形、集韻は⿰帛句に作る。

【⿱业巾】9008 ゲフ

業(6－15170)の譌字。〔康熙字典〕⿱业巾、按、卽業字之譌。

【⿱雨帀】9009 サウ

義未詳。〔篇韻〕⿱雨帀、音早。

十畫

【⿰巾鬼】9010 〖一〗クワイ 〔集韻〕姑回切 灰 〖二〗キ 〔集韻〕矩偉切 尾

〖一〗〖二〗**あやぎぬ**。〔廣雅、釋器〕⿰巾鬼、綵也。

【⿱𤇾巾】9011 エイ ヤウ 〔集韻〕娟營切 庚

❶**おほふ**。〔玉篇〕縈、覆也。❷縈(8－27733)に同じ。〔集韻〕縈、說文、收レ鞶也、或从レ巾。❸褮(10－34510)の譌字。〔正字通〕⿱𤇾巾、褮字之譌。

【⿰巾殺】9012 サイ 〔集韻〕師駭切 蟹

⿰巾賴⿰巾殺は衣がやぶれる。或は⿰衤殺(10－34570)・⿰糸殺(8－27760)に作る。〔集韻〕⿰巾殺、⿰巾賴⿰巾殺、衣破、或从レ衣、从レ糸。

【⿰巾盍】9013 〖一〗カフ ゴフ 〔字彙〕胡閤切 合 〖二〗アイ 〔字彙〕於蓋切 泰

〖一〗〖二〗❶**ふいご**。火を吹くに用ひる道具。〔字彙〕⿰巾盍、吹レ火⿰巾盍。❷帢(4－8911)の俗字。〔正字通〕⿰巾盍、俗帢字。

【⿰巾旁】9014 ハウ バウ 〔集韻〕蒲浪切 漾

記載に用ひる帛。〔集韻〕⿰巾旁、書帖也。

【⿰巾虒】9015 〖一〗テイ ダイ 〔集韻〕田黎切 齊 〖二〗ケイ 〔集韻〕聲奚切 齊 〖三〗テイ タイ 〔集韻〕天黎切 齊 〖四〗シ 〔集韻〕相支切 支

〖一〗❶**赤い紙**。⿰巾覞⿰巾虒。〔玉篇〕⿰巾虒、⿰巾覞⿰巾虒。〔集韻〕⿰巾虒、博雅、⿰巾覞⿰巾虒、謂二之⿰巾乍一、一曰、赤紙也。❷**とばり**。⿰巾虒帷。〔玉篇〕⿰巾虒、⿰巾虒帷也。〖二〗〖三〗〖四〗❶**赤い紙**。〖一〗の❶に同じ。〔集韻〕⿰巾虒、⿰巾覞⿰巾虒、⿰巾乍也。❷**なは**。〔康熙字典〕⿰巾虒、廣雅、繩索也。

【⿰巾兼】9016 〖一〗レン 〔集韻〕離鹽切 鹽 〖二〗リン 〔集韻〕犂針切 侵

小篆

〖一〗❶**のれん**。とばり。門⿰巾兼。〔說文〕⿰巾兼、帷也、从レ巾兼聲。〔段注〕按、與二竹部簾一異物、⿰巾兼以レ布爲レ之。〔說文通訓定聲〕⿰巾兼、蘇俗謂二之門⿰巾兼一。〔釋名、釋牀帳〕⿰巾兼、廉也、自障蔽爲二廉恥一也。〔玉篇〕⿰巾兼、帳也、施二之戶外一也。❷或は⿰巾廉(4－9101)に作る。〔集韻〕⿰巾兼、或作レ⿰巾廉。〖二〗**羽毛のさま**。⿰巾兼幓。〔集韻〕⿰巾兼、⿰巾兼幓、羽毛皃。

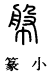
【⿱𡨄巾】9017 ボク

万(1－10)に同じ。〔集韻〕万、万俟、姓也、或作レ⿱𡨄巾。

【⿰巾貢】9018 コウ ク 〔玉篇〕古紅切 東

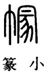
ぬの。〔五音集韻〕⿰巾貢、衣巾也。

【幋】9019 ハン バン 〔集韻〕蒲官切 寒


小篆

❶**衣をつつむ大ふろしき**。〔說文〕幋、覆レ衣大巾也、从レ巾般聲。〔後漢書、儒林傳論、又從二繡其鞶帨一、注〕鞶、帶也、字或作レ幋、說文曰、幋、覆レ衣巾也。❷**頭のかざり**。〔說文〕幋、或曰爲二首幋一。〔段注〕首幋、未レ聞、當下依二李善思玄賦注一作中首飾上。

【幏】9020 〖一〗ボウ ム 〔集韻〕謨蓬切 東 〖二〗ボウ ム 〔集韻〕蒙弄切 送


小篆

〖一〗〖二〗❶**おほひ。ふくさ。ふろしき**。〔說文〕幏、葢衣也、从レ巾家聲。〔段注〕覆二葢物一之衣也。〔方言、四〕幏、巾也。〔注〕巾主レ覆者、故名レ幏也。❷**ひたいあて**。古、刑の輕いものに用ひさせた巾。〔集韻〕幏、一曰、下刑墨幏、幏、巾也、使二刑者不レ得二冠飾一。〔尚書大傳、甫刑〕下刑墨幏。〔鄭注〕使レ不レ得二冠飾一以恥レ之也。❸或は幪(4－9122)に作る。〔集韻〕幏、或作レ幪。❹通じて蒙(9－31555)に作る。〔正字通〕幏、別作レ蒙。

【⿰巾荒】9021 クワウ・バウ

⿰巾㐬(4－8874)に同じ。〔集韻〕⿰巾㐬、或作レ⿰巾荒。

【幌】9022 クワウ ワウ 〔集韻〕戶廣切 養 ㄏㄨㄤˇ huang^3

❶**髮つつみ**。髮かけ。〔釋名、釋首飾〕幗、恢也、廓二覆髮上一也、齊人謂二之幌一。❷**とばり**。〔玉篇〕幌、帷幔也。〔集韻〕幌、帷也。〔南史、范縝傳〕自有二拂簾幌一、墜二於茵席之上一。〔梁簡文帝、初秋詩〕卷レ幌通二河色一。❸**酒旗**。酒店ののぼり。〔陸龜蒙、初冬詩〕小爐低レ幌還遮掩、酒滴レ灰香似二去年一。❹**ほろ**。車のおほひ。〔劉永之、題レ夢二鶴轉一詩〕露幌行春移二畫輪一。❺現看板。標號。

【幌帷】1 huang^3 wei^2 とばり。幕。

【幌竿】2 huang^3 kan^1 看板をかける柱。

【幌菊】3 ホロギク 草の名。さはぎく。きく科の宿根草で、深山幽谷等に自生し、夏、黃色の花を開く。

【幌子】4 huang^3 tzŭ 商店の看板をいふ。多くは商品の形、又は其の商品に關係ある物の形を造つて店頭に掛ける。例へば、藥舖は木製の膏藥、爐房は木製の馬蹄銀、熟麪舖は饂飩をすくひ上げる篗を看板とする。望子の轉訛。〔紅樓夢、二十六回〕這臉上、又和誰揮拳的掛了幌子。

【幌繩】5 huang^3 shêng^2 旗につけて倒れないやうに引張る繩。

【幌紬】6 huang^3 ch'ou^2 幌子の下につける紅色の布。

【幌附】7 ホロツケ 鎧の脊の母衣を結びつける處。

【幌幌木】8 ポロポロノキ 木の名。ぽろぽろのき科の落葉灌木で、暖地の山野に自生し、花は黃色、總狀花序をなす。

【幌杈子】9 huang^3 ch'a^4 tzŭ 看板をかけるに用ひるさすまた。

【幌馬車】10 ホロバシヤ 幌をかけた馬車。母衣馬車。

【幌蚊帳】11 ホロガヤ 竹を骨とし、幌（ホロ）の形に作つた小さい蚊帳。小兒などの寐る時に用ひて、蚊・蠅などを防ぐ。母衣蚊帳。

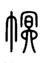
【幍】9023 〖一〗タウ トウ 〔集韻〕他刀切 豪 〖二〗カフ

㊀❶**布ぶくろ**。〔集韻〕幍、巾帙也。❷**くみひも**。絛（8－27465）に同じ。〔廣韻〕絛、編絲繩也、或作㆑幍。㊁幍（4－8945）の譌字。〔正字通〕幍、幍字之譌。

參考 幍（4－8945）は別字。〔康熙字典、辨似〕二字相似。幍、音搯、士之帽。幍、音叨、亦士帽。

【幎】 9024

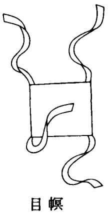
㊀ベキ ミャク 〔集韻〕莫狄切 ㄇㄧˋ mi⁴ 錫
㊁ベン メン 〔集韻〕民堅切 先
㊂メイ ミャウ 〔集韻〕忙經切 青
㊃ベン メン 〔集韻〕眠見切 霰


小篆

㊀㊁㊂㊃❶**おほひ布**。うはおほひ。〔說文〕幎、幔也、从㆑巾冥聲、周禮有㆓幎人㆒。〔段注〕謂㆑冢㆓其上㆒也、周禮注曰、以㆑巾覆㆑物曰㆑幎。〔說文通訓定聲〕按、有㆓覆㆑尊之幎㆒、儀禮大射儀、冪用㆓錫若絺㆒云云、有㆓覆㆑簋之幎㆒、儀禮公食禮記、簋有㆓蓋冪㆒、有㆓覆㆑帽之幎㆒、魏策、其自冪繫也完矣、有㆓覆㆑面之幎㆒、儀禮士喪禮、幎目用㆑緇、云云、有㆓覆㆑笭之幎㆒、周禮巾車、犬幎鹿淺幎、云云、有㆓覆㆑鼎之幎㆒、儀禮公食禮、鼏若束若編、注、凡鼎鼏蓋以㆑茅爲㆑之、長則束㆑本、短則編㆓其中央㆒。❷**すだれ**。〔玉篇〕幎、簾也。❸**おほふ**。〔廣雅、釋詁二〕幎、覆也。〔淮南子、原道訓〕舒㆑之幎㆓於六合㆒。〔注〕幎、覆也。❹**平なさま**。**平均したさま**。〔周禮、考工記、輪人〕欲㆓其幎爾而下迆㆒也。〔注〕幎爾、均致貌也。❺或は冪（2－1596）に作る。〔說文、幎、段注〕禮經、鼎有㆑鼏、尊彝有㆑幎、其字亦作㆑冪。〔正字通〕幎、亦作㆑冪。❻⿰衤冥（10－34491）・塓（3－5330）・帲（4－8938）に同じ。〔說文通訓定聲〕字又別作㆑⿰衤冥、作㆑塓、又作㆑帲。

【幎冒】1 ベキ バウ かほかくしで顏をおほふ。幎は死者の面部を覆ふきぬ、冒は面を覆ふこと。〔呂覽、知化〕夫差將㆑死曰、死者如有㆑知也、吾何面以見㆓子胥於地下㆒、乃爲㆑幎以冒而死。〔注〕冒、覆㆑面。

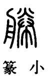
【幎目】2 ベキ モク 死者の面をおほふもの。〔儀禮、士喪禮〕幎目用㆑緇。〔注〕幎目、覆㆑面者也。


幎目
（三禮圖）

【幎歷】3 ベキ レキ 隱見するさま。〔潘岳、射雉賦〕幎歷乍見。〔注〕翰曰、幎歷然、乍隱乍見。

【幐】 9025

トウ ドウ 〔集韻〕徒登切 蒸

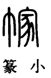

小篆

❶**にほひぶくろ**。香囊。〔說文〕幐、囊也、从㆑巾朕聲。〔廣韻〕幐、囊可㆑帶者。〔楚辭、離騷〕蘇㆓糞壤㆒以充㆑幃兮、〔注〕幃、謂㆓之幐㆒。❷**ふくろ**。〔說文、幐、段注〕凡囊皆曰㆑幐。❸縢（8－27783）に通ず。〔正字通〕幐、通作㆑縢。〔後漢書、儒林傳〕小乃制爲㆓縢囊㆒、〔注〕縢亦幐也。

【幐擔】1 トウ タン ふりわけ。兩端に物を分けてになふこと。〔玉篇〕幐、兩頭有㆑物、謂㆓之幐擔㆒。

【幏】 9026

㊀カ ケ 〔集韻〕居迓切 禡
㊁カ ケ 〔集韻〕居牙切 麻


小篆

㊀㊁**蠻夷から貢する布**。〔說文〕幏、南郡蠻夷賨布也、从㆑巾家聲。〔玉篇〕幏、蠻布也。〔後漢書、南蠻傳〕其民戶出㆓幏布八丈二尺・雞羽三十鍭㆒。〔左思、魏都賦〕賨幏積墆、琛幣充牣。

【⿰巾毘】 9027

㊀ヘイ ハイ 〔集韻〕邊迷切 齊
㊁ヒ ビ 〔集韻〕頻脂切 支

㊀㊁❶**車のとばり**。〔玉篇〕⿰巾毘、車⿰巾毘也。❷**のれん**。とばり。〔廣雅、釋器〕⿰巾毘、⿰巾兼也。

【⿰巾冓】 9028

コウ ク 〔集韻〕居侯切 尤

❶**よろひを包む袋**。〔玉篇〕⿰巾冓、甲衣、或作㆑褠。❷**ひとへ**。〔集韻〕褠、單衣、或从㆑巾。❸褠（10－34480）に同じ。❶❷を見よ。

【⿰巾扇】 9029

セン 義未詳。〔玉篇〕⿰巾扇、音扇。

【⿰巾烏】 9030

ヲ ウ 〔集韻〕於五切 麌

づきん。頭づつみ。或は⿰亞頁（12－43559）に作る。〔廣韻〕⿰巾烏、頭巾也。〔集韻〕⿰巾烏、首巾謂㆓之⿰巾烏㆒、或作㆑⿰亞頁。

【⿱帶方】 9031

タイ 〔集韻〕當蓋切 泰

⿱帶方方は山名。又、郡名。通じて帶（4－8950）・廗（4－9465）に作る。〔集韻〕⿱帶方、⿱帶方方、山名、一曰、郡名、屬㆓幽州㆒、通作㆓帶・廗㆒。

【⿱亼⿵冂巾】 9032

キン 禽（8－24893）の古字。〔集韻〕禽、古作㆑⿱亼⿵冂巾。

【⿱⿻彐丌巾】 9033

イ 異（7－21866）の古字。〔集韻〕異、古作㆑⿱⿻彐丌巾。

【⿰帛冋】 9034

ケイ 絅（8－27375）に同じ。〔字彙補〕⿰帛冋、與㆑絅同。

【⿰米巾】 9035

ヘイ ベイ 〔龍龕手鑑〕毗祭切 霽

きぬ。〔龍龕手鑑〕⿰米巾、帛也。

【⿱𦥑巾】 9036

ギ 〔海篇〕音義

たぬきの子。〔海篇〕⿱𦥑巾、狸子也。

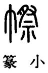
【⿰巾𠷎】 9037

チウ 幬（4－9127）に同じ。〔正字通〕幬、本作㆑⿰巾𠷎。

十一畫

【⿰巾祭】 9038

㊀セイ 〔集韻〕所例切 霽
㊁セツ セチ 〔集韻〕私列切 屑


小篆

㊀㊁❶**きぬぎれ**。たちのこりの布。〔說文〕⿰巾祭、殘帛也、从㆑巾祭聲。❷**あまり**。のこり。〔廣雅、釋詁三〕⿰巾祭、餘也。㊁**つくり花**。造花。〔廣韻〕⿰巾祭、⿰巾祭縷、桃花、今製綾花。〔集韻〕⿰巾祭、⿰巾祭縷、今時翦㆑繒爲㆑華。

【㡖】 9039 トウ ツ 〔集韻〕他東切 東

㡖裙はえびすの衣服。或は㠉(4-8882)に作る。〔集韻〕㡖、㡖裙、夷服也、或从レ同。

【㡘】 9040 コウ

㡌(4-8847)に同じ。〔字彙〕㡘、同レ㡌。

【幑】 9041 キ 〔集韻〕吁韋切 微

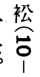
小篆

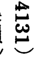
㊀**めじるしの布。**〔說文〕幑、幑識也、㠯二絳帛一箸二於背一、从レ巾微省聲、春秋傳曰、揚レ幑者公徒、若二今救レ火衣一然也。〔說文通訓定聲〕幑、按、凡表二朝位一之旂、與二軍中之幟一、皆用二絳帛一、云云、又將帥以下衣皆有二題識一、平時則城門僕射及亭長所レ著、又凡救レ火人衣、用二絳帛於背一、皆幑屬也。㊁**はた。**のぼり。〔廣雅、釋器〕幑、幡也。㊂或は幃(5-13690)に作り、通じて徽(4-10267)に作る。〔集韻〕幑、或作レ幃、通作レ徽。〔左氏、昭、二十一〕揚レ徽者公徒也。〔會箋〕說文作レ幑。

【𢅡】 9042 リ 〔集韻〕陵之切 支

きぬぎれ。裁斷したきぬ地。〔集韻〕𢅡、斷繒也。

【幒】 9043 ㈠シヨウ シユ 〔集韻〕諸容切 冬 ㈡シヨウ シユ 〔集韻〕取勇切 腫


小篆

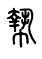

或體

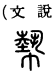
㈠㈡㊀**さるまた。**〔說文〕幒、幝也、从レ巾悤聲。㊁**ふづつみ。**書套。〔說文〕幒、一曰、帙。㊂或は𢃝(4-8940)・𧙚(10-34340)・衳(10-34131)に作る。〔說文〕幒、𢃝、幒或从レ松。〔集韻〕幒、或作二𧙚・衳一。

【㡝】 9044 ホウ ブ 〔集韻〕房用切 宋

㊀**てぬぐひ。**ふきん。〔玉篇〕㡝、巾也。㊁**標題。**〔集韻〕㡝、款書也。

【𢅋】 9045 ㈠セイ 〔集韻〕輸芮切 霽 ㈡シ 〔集韻〕脂利切 寘 ㈢セフ 〔集韻〕質涉切 葉


小篆(說文)


小篆(段注本)

㈠㈡㈢㊀**てぬぐひ。**禮儀に用ひるふきん。〔說文〕𢅋、禮巾也、从レ巾執聲。〔段注〕大徐曰レ从レ執、小徐曰二執聲一、皆誤、今正。〔廣雅、釋器〕𢅋、巾也。㊁帨(4-8904)に同じ。〔說文、𢅋、段注〕恐亦帨之或體。

【㡜】 9046 セイ ゼイ 〔集韻〕旋芮切 霽

てぬぐひ。〔集韻〕㡜、盥巾謂二之㡜一。

【幓】 9047 ㈠シン 〔歌韻〕疏簪切 侵 ㈡セン 〔集韻〕師炎切 鹽 ㈢サン セン 〔集韻〕師銜切 咸 ㈣サン 〔集韻〕所感切 感 ㈤セウ 〔集韻〕千遙切 蕭

㈠㊀**車の飾の下垂するさま。**〔漢書、揚雄傳上〕灕虖幓纚。〔注〕師古曰、灕虖幓纚、車飾貌也。㊁**衣裳などのたれるさま。**襂(10-34549)に同じ。〔集韻〕襂、襂纚、衣裳毛羽垂皃、或作レ幓。㈡**はたの布。**或は襂(10-34549)・𩏂(12-43092)に作る。〔集韻〕幓、旗正幅爲レ幓、或从レ糸、亦作レ𩏂。㈢**はたあし。**縿(8-27847)に同じ。〔集韻〕縿、說文、旌旗之游也、云云、或作レ幓。〔漢書、司馬相如傳下〕垂二旬始一以爲レ幓兮。〔注〕張揖曰、幓、旒也。㈣**はたの布。**縿(8-27847)に同じ。〔集韻〕縿、旌旗正幅、或从レ巾。㈤**づきん。**幧(4-9102)に同じ。〔集韻〕幧、帕頭也、或作レ幓。〔儀禮、喪服、布總箭笄髽衰三年、注〕如レ著二幓頭一焉。

【幓纚】 1 シンシ ㊀車の飾の下垂するさま。〔漢書、揚雄傳上〕蠖略蕤綏、灕虖幓纚。〔注〕師古曰、灕虖幓纚、車飾貌也。〔王先謙補注〕文選、幓作レ襂、此圖二寫聲貌一、假借用レ之、無二定字一也。㊁衣裳などの垂れるさま。襂纚。〔集韻〕襂、襂纚、衣裳毛羽垂皃、或作レ幓。

【幓頭】 2 セウトウ 髮を斂める巾。幧頭(4-9102・・1)に同じ。〔儀禮、喪服、布總箭笄髽衰三年、注〕髽、露紒也、猶二男子之括髮一、斬衰括レ髮以レ麻、則髽亦用レ麻以レ麻者、自レ頂而前、交二於額上一、郤繞レ紒、如レ著二幓頭一焉。〔羣經音辨〕幓頭、括髮也、幓、本幧字之譌。〔太平御覽、服章部、幓頭〕吳越春秋曰、句踐與レ妻、入臣二吳王一、衣二獨鼻幓頭一。

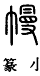
【𢅧】 9048 サン 〔集韻〕子敢切 感

へりぬひをしないきぬ。〔集韻〕𢅧、繒未レ緶也。

【𢅠】 9049 イ

肄(9-29224)の篆字。〔玉篇〕𢅠、篆文肄。

【幔】 9050 バン マン 〔集韻〕莫半切 翰 ㄇㄢˋ man^4


小篆

㊀**まく。**ひきまく。〔說文繫傳〕幔、幕也。〔釋名、釋牀帳〕幔、漫也、漫漫相連綴之言也。〔廣韻〕幔、帷幔。〔後漢書、皇甫嵩傳〕營幔修立。〔後漢書、臧洪傳〕盛陳二帷幔一。㊁**とばり。**〔廣雅、釋器〕幔、帳也。〔晉書、列女、韋逞母宋氏傳〕隔二絳紗幔一而受レ業。㊂**てんまく。**〔唐書、回鶻傳〕設二毳幔一以居二公主一。㊃**のぼり。はた。**酒旗。〔寶叔向、夏夜宿二表兄宅一話レ舊詩〕愁見河橋酒幔青。㊄**ほろ。**〔梁書、曹景宗傳〕行開二車幔一。㊅**おほひ。**〔說文〕幔、幎也、从レ巾曼聲。〔段注〕幎、各本作レ幕、由レ作レ冪而誤耳、今正、凡以レ物冢二其上一曰レ幔、與レ幎雙聲。㊆**おほふ。**〔廣雅、釋詁二〕幔、覆也。〔廣雅、釋言〕幔、闇也。㊇**文飾を施さない車。**縵(8-27829)に通ず。〔說文通訓定聲〕幔、叚借爲レ縵。〔國語、晉語五〕乘レ幔不レ舉。〔注〕幔、車無レ文也。㊈或は幕(4-9051)に作る。〔集韻〕幔、或作レ幕。

【幔帷】 1 マンヰ まく。四面に垂れるものを幔といひ、一方に垂れるものを帷といふ。〔司馬相如、長門賦〕張二羅綺之幔帷一兮、垂二楚組之連綱一。

【幔屋】 3 マンヲク まくをめぐらした屋舍。〔晉書、桓玄傳〕南至二江陵一、石康納レ之、張二幔屋於城南一、署二置百官一。

【幔子】 4 man^4 tzŭ^3 まんまく。帳幕。

【幔室】 5 マンシツ まくで仕切った室。〔宋史、禮志四〕舊禮、明堂五帝位、皆爲二幔室一、令二旁帷上レ幕、宜レ用二青繒朱裏一、四戸八牖、赤綴レ戸、白綴レ牖、

宜㆔飾以㆓朱白繪㆒。

【幔城】6 マンジヤウ 幔張りの假の城。幔を張つて、假舍を造つたもの。〔唐書、五行志一〕會昌六年八月、葬㆓武宗㆒、辛未靈駕次㆓三原縣㆒、夜大風、行宮幔城火。〔宋之問、奉㆔和幸㆓長安故城未央宮㆒應制詩〕寒輕綵仗外、春發幔城中。〔沈佺期、奉㆔和晦日駕㆓幸昆明池㆒應制詩〕山花緹騎繞、堤柳幔城開。〔宋史、王吉甫傳〕南郊起㆓幔城㆒、役卒急㆓於畢㆑事、董㆑役者責㆑之曰、此殆類㆓白露屋㆒耳。

【幔省】7 マンセイ 幔幕を張つて設けた役所。〔南齊書、禮志上〕止㆓車門外㆒、別立㆓幔省㆒、若日色有㆑異、則列㆓於省前㆒。

【幔颭】8 マンセン ひらとばりが風にうごく。〔元稹、景申秋詩〕枕傾筒簟滑、幔颭案燈翻。

【幔臺】9 マンダイ 幕をたてる臺。幔代。〔内匠寮式〕裝㆓飾大極殿高御座㆒、幔臺一十二臺、立㆓高御座東西各四間㆒。

【幔柱】10 マンバシラ まくを張り渡す柱。〔江家次第、八、相撲召御〕竟㆓簀子敷下㆒、竝立㆓幔柱㆒引㆑之。

【幔亭】11 マンテイ ❶幕をはつて作つた亭。〔武夷山記〕秦始皇時、武夷君於㆓八月十五日㆒、山上置㆓幔亭㆒、化虹橋通㆓上下㆒、大會㆓郷人㆒宴飲。❷峯の名。一名、鐵佛嶂。福建省崇安縣の武夷山の杜轄寨の南。北部は茶圃で、東部に松の大樹百餘株があり、土脈腴美で、寛大なこと三十六峯中隨一である。幔亭庵がある。〔明一統志〕幔亭峰、在㆓武夷山中㆒、一名㆓鐵佛嶂㆒、秦始皇二年八月十五日、武夷君置㆓酒殽㆒、會㆓郷人於此㆒、建㆓幔亭綵屋㆒設㆓寶座㆒施㆓紅雲紫霞褥㆒、呼㆓郷人㆒爲㆓曾孫㆒。❸字號。㋑宋、詹師文(**10**—**35458**··50)の號。㋺明、徐熥(**4**—**10110**··240)の號。㋩清、錢馥(**11**—**40563**··192)の號。

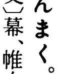
【幔亭詩集】12 マンテイシシフ 書名。十五卷。明、徐熥撰。内容は古樂府・五言古詩・七言古詩・五言聲詩・五言律詩・七言律詩・五言排律・五言絶句・六言絶句・七言絶句・詩餘等。〔四庫提要、集、別集類〕。

【幔亭仙侶】13 マンテイセンリヨ 明、楊達仙(**6**—**15112**··681)の號。

【幔幕】15 マンマク 長く引きわたすまく。引きめぐらすまく。まく。〔墨子、非攻〕幔幕帷蓋。〔名畫錄〕以㆓幔幕㆒蔽遮、不㆑令㆓相見㆒。

【幔門】16 マンモン 幔幕をはつた門。又、幔幕に設けた門戸。〔西宮記、七月十六日、相撲式〕長元七年七月二十七日、於㆓仁壽殿㆒有㆓相撲内取㆒、云云、南北各有㆓幔門㆒。

【幕】 9051



小篆

〖一〗 バク マク 〔集韻〕末各切 ㄇㄨˋ mu^4 〖藥〗

〖二〗 バン マン 〔集韻〕莫半切 〖翰〗

〖一〗❶**てんまく**。上方に張るまく。〔說文〕幕、帷在㆑上曰㆑幕、从㆑巾莫聲。〔釋名、釋牀帳〕幕、絡也、在㆑表之稱也。〔周禮、天官、幕人〕掌㆓帷幕幄帟綬之事㆒。〔注〕在㆑旁曰㆑帷、在㆑上曰㆑幕、幕或在㆑地、展陳㆓于上㆒、帷幕皆以㆑布爲㆑之。〔左氏、昭、十三〕以㆓幄幕九張㆒行。〔注〕在㆑上曰㆑幕。❷**大きいまく**。大てんまく。〔左氏、昭、十三〕以㆓幄幕九張㆒行。〔疏〕幕大而幄小、幄在㆓幕下㆒張㆑之。❸**ひきまく**。とばり。〔廣雅、釋器〕幕、帳也。〔穀梁、定、十〕舞㆓於魯君之幕下㆒。〔注〕幕、帳也。❹**まくばりの中**。〔甘立、送㆓唐子華㆒詩〕坐㆑幕揮㆓談塵㆒。❺**陣**。陣屋。〔正字通〕幕、軍行無㆓常居㆒曰㆑幕。〔左氏、莊、二十八〕楚幕有㆑烏。❻**將軍の營舍**。轉じて、軍機・參謀・官職等の意。〔晉書、郗超傳〕可㆑謂㆓入㆑幕之賓㆒矣。〔白居易、寄㆓王質夫㆒詩〕我守㆓巴南城㆒、君佐㆓征西幕㆒。〔蘇軾、謝㆓館職㆒啓〕一參㆓賔幕㆒、輒蹈㆓危機㆒。❼**おほふ**。〔方言、十二〕幕、覆也。〔廣雅、釋詁二〕幕、覆也。〔易、井〕井收勿㆑幕。〔虞注〕幕、蓋也。〔莊子、則陽〕解㆓朝服㆒而幕㆑之。〔釋文〕幕、覆也。❽**たれこめる**。〔陸機、感㆑時賦〕天悠悠其彌高、霧鬱鬱而四幕。❾**おほひ**。おほひかくしたところ。〔史記、扁鵲傳〕揲㆑荒爪㆑幕。❿**おほひぬの**。〔說文、幕、段注〕按、大徐本、此下有㆘覆㆓食案㆒亦曰㆖幕。〔正字通〕幕、凡覆㆓物上㆒者、通謂㆓之幕㆒。〔唐書、懿宗紀〕懿宗賜㆓公主瑟幕㆒。⓫**ひつぎのおほひ**。〔禮、檀弓上〕布幕衛也。〔注〕幕、所㆔以覆㆓棺上㆒也。⓬**こてあて。すねあて**。〔史記、蘇秦張儀傳〕當㆑敵則斬㆓堅甲鐵幕㆒。〔注〕索隱曰、劉氏云、謂㆔以㆑鐵爲㆓臂脛之衣㆒。⓭**いほ**。いほり。〔廣雅、釋室〕幕、庵也。⓮**すなはら**。沙漠。漠(**7**—**18149**)に通ず。〔說文通訓定聲〕幕、叚借爲㆑漠。〔史記、匈奴傳〕益北絶㆑幕。〔注〕集解曰、沙土曰㆑幕。⓯**くれる**。暮(**3**—**5804**)に通ず。〔說文通訓定聲〕幕、叚借爲㆑暮。〔爾雅、釋言〕幕、暮也。⓰**まとふ。まつはる**。〔王僧孺、與㆓何炯㆒書〕蜘蛛絡幕、熠燿爭飛。⓱**しく**。〔七修類稿〕幕以㆑磚。⓲**幕に似たもの**。雲霞の類にいふ。〔王禹偁、酬㆓种放㆒詩〕盛夸山中事、雲屋張㆓霞幕㆒。⓳**ぬる**。〔左思、魏都賦〕葺㆑牆幕㆑室。〔注〕劉曰、幕、墁也。⓴莫(**9**—**31078**)に通ず。〔史記、李廣傳、莫府、注〕索隱曰、兵門合㆓施帷帳㆒、故稱㆓幕府㆒、古字通用、遂作㆑莫耳。㉑縸(**8**—**27836**)に通ず。〔說文通訓定聲〕幕、字亦作㆑縸。〔後漢書、馬融傳、絡縸、注〕縸、與㆑幕通。㉒冪(**2**—**1596**)に通ず。〔禮、檀弓上〕布幕衛也。〔釋文〕幕、本又作㆑冪。㉓帟(**4**—**9100**)に通ず。〔禮、檀弓上〕布幕。〔注〕幕、或爲㆑帟。㉔幙(**4**—**9052**)に同じ。〔字彙補〕幙、同㆑幕。㉕**姓**。〔萬姓統譜〕幕舜、祖幕之後、見㆓左傳㆒。

〖二〗❶**ぬめ**。平らで高低のないもの。貨幣の背面。漫(**7**—**18166**)に通ず。〔說文通訓定聲〕幕、叚借爲㆑漫。〔正字通〕幕、錢背也、今俗擲㆑錢爲㆓博戲㆒、以㆓其陰㆒爲㆑幕。〔史記、大宛傳〕錢如㆓其王面㆒。〔注〕索隱曰、幕、錢背也。〔漢書、西域傳上〕以㆓金銀㆒爲㆑錢、文爲㆓騎馬㆒、幕爲㆓人面㆒。〔注〕師古曰、幕、卽漫耳、云云、亦謂㆓其平面而無㆑文也。❷**まく**。幔(**4**—**9050**)に同じ。〔集韻〕幔、說文、幕也、或作㆑幕。

〖邦〗**まく**。㋑芝居の一きり。通例、一幕の中に二・三場がある。又、幕數をかぞへる稱。㋺角力番附の首段。幕內。㋩場面。場合。㋥しまひ。終結。

【幕幃】1 mu^4 wei^2 とばり。幕。カーテン。

【幕友】2 バクイウ 幕僚の一種類。地方長官の顧問。但し、役人と異つて、報酬を束脩といひ、地方長官の私財を以て支辨する。刑席・賬房・書啓・文案・錢穀・教讀・硃墨・徵收等がある。〔清國行政法汎論、地方官廳、支那本部總論、幕友〕布按兩司以下官廳之有㆓佐雜㆒、既如㆓前術㆒、然僅有㆓佐雜㆒、尚不㆑能㆔盡處㆓理其事務㆒、況於㆕督撫之不㆔設㆓置補助官㆒乎、於㆑是有㆓所謂幕友者在㆒焉、幕友、卽內顧問之義、所㆑有長官、應㆓其職務㆒、招㆓聘幕友㆒、使㆓之幫助㆒、故幕友爲㆓長官之賓客㆒、以㆓厚禮㆒待㆓遇之㆒、非㆑如㆘佐雜與㆓長官㆒有㆗統屬之關係㆖、又其所㆓報酬㆒者、亦自異㆓於俸給及薪水㆒、卽謂㆓之束脩㆒、而束脩固不㆑能㆘自㆓公帑㆒支出㆖、必以㆓招請者卽長官之私財㆒支辨、蓋係㆓其私請㆒、非㆘官吏及有㆓差委㆒之人㆖也。

【幕員】3 バクヰン 官職のある幕友をいふ。〔六部成語、吏部、幕員、注解〕有㆓官職㆒之幕友曰㆓幕員㆒。

【幕營】4 バクエイ 假に幕を張つて作つた陣屋。將軍の本陣。

【幕帟】5 バクエキ 幕とひらとばり。〔宋史、職官志〕衞尉寺宴享㆓賓客㆒、供㆓幕帟茵席㆒。

【幕燕】6 バクエン ㊀沙漠の地の燕。北方の燕。〔梁昭明太子、七契〕幕燕北返、沙鴈南征。㊁幕に巢を造る燕。極めて危い喩。幕上之燕巢(25)・巢レ幕燕(61)を見よ。〔杜甫、對レ雨書レ懷走邀二許簿公一詩〕震雷飜二幕燕一、驟雨落二河魚一。〔元史、外夷傳一〕宋所レ恃者長江、而長江失レ險、所レ藉者川廣、而川廣不レ支、邊戍自撤二其藩籬一、大軍已駐二乎心腹一、鼎魚幕燕、亡在二旦夕一。

【幕屋】7 バクヲク 幕を張りめぐらした屋舍。〔宋史、禮志十六〕設二御茶床酒器於殿東北楹間一、羣臣醆二斝於殿下幕屋一。

【幕下】8 バクカ ㊀帳幕の下。たれまくの下。〔穀梁、定、十〕齊人使三優施舞二于魯君之幕下一。〔戰國、魏策〕樂羊坐二於幕下一而啜レ之。㊁幕府中の親信の人をいふ。〔書言故事、幕職類、幕下上客〕晏元獻延二賓客一、一時名士、多出二其門一、爲二西京留守一、幕下王琪張亢、最爲二上客一。㊂幕府の下。將軍のひざもと。大將の麾下。轉じて、將軍の稱。〔左氏、哀、二二〕胥攻二鄭師一、取二蠭旗于子姚之幕下一。〔莊子、盜跖〕願望二履幕下一。〔史記、齊太公世家〕殺二之幕下一。〔韓愈、送三溫處士赴二河陽軍一序〕大夫烏公以二鈇鉞一鎭二河陽一之三月、以二石生一爲レ才、以レ禮爲レ羅、羅而致二之幕下一、未二數月一也、以二溫生一爲レ才、於レ是以二石生一爲レ媒、以レ禮爲レ羅、又羅致二之幕下一。〔杜甫、洗兵馬詩〕關中既留二蕭丞相一、幕下復用二張子房一。㊃近衞大將の唐名。〔職原抄〕左右近衞府、大將、唐名羽林大將軍、常云二幕府一、又云二幕下一、又云二大樹一、總以將軍之稱也。㊄マクシタ 相撲の幕內の力士の次に位する力士。

【幕家】9 バクカ ㊀幕府の家筋。㊁ヤマク 幕を張りめぐらした家。

【幕間】10 マクアヒ 芝居で、一つの演藝と次の演藝との間のこと。

【幕議】11 バクギ 幕府の評議。〔日本外史、德川正記、德川氏〕伊達政宗上レ狀曰、東照公嘗約レ封二我百萬石一、願如レ約、幕議病レ之。〔重野安繹、佐久間象山碑〕幕議依違、物論洶洶。

【幕客】12 バクキャク バクカク 入幕の客。幕府の賓客として禮遇される者。其の密謀にあづかるもの。幕賓。〔宋史、吳璘傳〕初璘病篤、呼二幕客一草二遺表一。〔黃滔、陳侍御新居詩〕幕客開二新第一、詞人遍有レ詩。

【幕外】13 バクグワイ 幕の外。〔張蠙、錢塘夜宴留二別郡守一詩〕屛開佩響藏二歌妓一、幕外刀光立二從官一。

【幕串】14 マクグシ 幕を張るに用ひる棒。

【幕官】15 バククワン 幕府の事に任ずる官。〔稱謂錄、幕、幕官〕客座新聞、偶武孟吳之太倉人也、有二詩名一、嘗爲二武岡州幕官一。

【幕軍】16 バクグン 幕府の軍隊。幕府方の軍勢。

【幕際】18 バクサイ ㊀鏡の間。〔雍州府志、八、古蹟門〕臨二橋懸一之處、謂二幕際一、斯處懸二大圓鏡一、照二見吾形一、故或謂二鏡間一。㊁マクギハ 幕のそば。能舞臺の鏡の間の揚幕のきは。〔花傳書〕女の類は幕際より五尺程も隔てて出で候。

【幕朔】19 バクサク 沙漠の北。戈壁ゴビ 沙漠以北の地。幕北。幕は漠、朔は北。〔漢書、敍傳下〕龍荒幕朔、莫レ不二來庭一。〔注〕師古曰、朔、北方也。

【幕士】20 バクシ 幕府の兵士。〔魏書、崔光傳〕廚兵幕士、衣履敗穿。〔唐書、百官志一〕凡戎器色別而異レ處、以二衞尉幕士一暴二涼之一。

【幕使】21 バクシ 幕府からの使者。

【幕室】22 バクシツ 部屋をぬる。〔左思、魏都賦〕葺レ牆幕レ室、房廡雜襲。〔注〕劉曰、幕、墁也。

【幕將】23 バクシヤウ 幕府方の大將。

【幕上】24 バクジヤウ とばりの上。幕上之燕巢を見よ。

【幕上之燕巢】25 バクジヤウノエンサウ 幕の上に巢を造る燕。其の寄るところの極めて危くて安らかでない喩。〔左氏、襄、二十九〕季札、云云、自レ衞如レ晉、將レ宿二於戚一、聞二鐘聲一焉、曰、異哉、云云、夫子之在レ此也、猶三燕之巢二于幕上一、君又在レ殯、而可二以樂一乎。〔注〕言二至危一也。

【幕情】26 バクジヤウ 幕府の事情。又、其の模樣。

【幕職】27 バクシヨク 幕府の事に任ずるもの。親信の人が之に任ずる。〔宋史、選擧志四〕由二幕職一爲二著作佐郎一者、轉二太子中允一。〔書言故事、幕職類、注〕出二行於外一、謂二之幕一、幕職、親信之人在二幕中一也。

【幕臣】28 バクシン 將軍のけらい。はたもと。幕下。

【幕人】29 バクジン 周官の名。天官の屬。帷・幕・幄・帟・綬等を掌る。〔周禮、天官、幕人〕掌二帷幕幄帟綬之事一。

【幕帥】30 バクスイ 幕府方の總大將。〔川田甕江、岩倉公所レ藏正宗鍛刀記〕幕帥德川慶喜、屛居待レ罪。

【幕井】31 バクセイ 軍用の井戸。〔杜甫、秦州雜詩〕候火雲峯峻、懸軍幕井乾。

【幕政】32 バクセイ 幕府の政治。〔中村敬宇、象山詩鈔序〕自二幕政陵夷、米船入港一以來。

【幕席】33 バクセキ ㊀幕府に給事するもの。〔後山詩話〕熙寧初、外學置二官師一、職簡地親、多在二幕席一、徐有二學官喜許語一、同府苦レ之。㊁幕と席。幕天席地(62)を見よ。〔白居易、和二微之一詩二十三首、和二新樓北園偶集一云云詩〕天地爲二幕席一、富貴如二泥沙一。

【幕然】34 バクゼン くらいさま。〔爾雅、釋言、幕、暮也、「疏」幕然暮夜也。

【幕屬】35 バクゾク 幕僚(59)に同じ。〔宋史、岳飛傳〕授二黃復州漢陽軍德安府制置使一、飛渡レ江、中流顧二幕屬一曰、飛不レ擒レ賊、不レ涉二此江一。

【幕張】36 マクハリ 幕を張る。又、幕を張つた所。

【幕中】37 バクチユウ まくの中。又、幕府のうち。〔韓愈、言箴〕幕中之辯人、反以レ汝爲レ叛、臺中之評人、反以レ汝爲レ傾。〔岑參、登二北庭北樓一呈二幕中諸公一詩〕幸得下趨二幕中一、託レ身厠中羣才上。

【幕庭】38 バクテイ 幕をはつて造つた庭。〔左氏、哀、八〕微虎欲三宵攻二王舍一、私屬二徒七百人一、三踊二於幕庭一。〔儲光羲、哥舒大夫頌德詩〕韓魏多二銳士一、蹙張在二幕庭一。

【幕殿】39 バクデン 幕を張つて作つた宮室。〔宋史、輿服志六〕郊壇不レ得レ建、齋宮惟設二幕屋一而已、其制架レ木而以レ葦爲レ障、上下四旁、周以二幄帟一、以象二宮室一、謂二之幕殿一。

【幕內】40 マクノウチ ㊀昔、相撲上覽の際、殊に勝れた力士で、幕の內に伺候した者。㊁相撲番附の上欄に名を揭げる上級力士。

【幕南】41 バクナン 沙漠の南方。幕は漠に通ず。〔史記、匈奴傳〕是後匈奴遠遁、而幕南無二王庭一。〔後漢書、光武紀下〕建武二十二年冬、烏桓擊二破匈奴一、匈奴北徙、幕南地空。〔注〕前書音義曰、沙土曰レ幕、卽今磧也。〔陸倕、石闕銘〕幕南罷レ鄣、河西無レ警。〔注〕善曰、漢書曰、驃騎封二於狼居胥山一、匈奴遠逃、而漠南無二王庭一。

【幕幕】42 バクバク ㊀くらいさま。〔後漢書、張衡傳〕建二罔車之幕幕一兮。〔注〕幕幕、罔貌。㊁盛なさま。〔張衡、思玄賦〕建二罔車之幕幕一、獵二青林之芒芒一。〔注〕良曰、幕幕、盛也。

【幕賓】43 バクヒン 幕府の賓客として禮遇される者。祕密の謀にあづかる人。入幕之賓の略語。〔黃滔、喜侯舍人蜀中新・命詩〕錦里幸爲二丹鳳闕一、幕賓徵出二紫微郎一。〔封氏聞見記、遷善〕劉位曰、判官是幕賓、使三主無二受拜之禮一。

【幕布】44 バクフ 帷幕の布。〔儀禮、既夕禮〕明衣裳用二幕布一、袂屬幅長二下膝一。

【幕府】45 バクフ ㊀大將軍の本營。幕は帳幕で、軍行は常所なく、隨時に幕を以て其の陣をとりまいて府とするからいふ。一說に、幕は莫で、大の意であり、又、幕は漠であつて、衞青が匈奴を征した時、大沙漠中に設けた府、卽ち軍營にもとづくといふ。莫府(**9**−**31078**・・71)を見よ。〔史記、李將軍傳〕大將軍使下長史急責レ廣、之二幕府一對上簿。〔漢書、元后傳〕置二幕府一、得レ擧レ吏如二將軍一。〔後漢書、班固傳上〕幕府新開、廣延二羣俊一、四方之士、顚二倒衣裳一。〔風俗通、正失〕市租諸入、皆輸二幕府一。〔高適、餞下宋八充二彭中丞判官一之中嶺外上詩〕繡衣當二制節一、幕府盛二威稜一。〔陔餘叢考、幕府〕漢書李廣傳、莫府省二文書一、注、晉灼曰、莫、大也、衞青征二匈奴一、絕二大莫一、帝就拜二大將軍于莫中府一、故曰二莫府一、莫府之名、始二於此一也、師古曰、此說非、莫府者、以二軍幕一爲レ義、古字通用耳、軍旅無二常居一、故以二帳莫一言レ之、廉頗李牧市租皆入二幕府一、非下因二衞青一始有中其號上也、然則幕府始二于戰國時一也、但古所謂幕府、指二將帥在レ外之營帳一而言、而官吏牙署、未レ有下稱二幕府一者上、後漢書班固傳、永平初、東平王蒼、以二至戚一爲二驃騎將軍一輔レ政、開二東閣一、固奏二記於王一曰、今幕府新開、廣延二英俊一、後世稱二衙署一爲二幕府一、始レ此、蓋固本以三東平有二驃騎之號一、故以二幕府一稱レ之、而其實非二將帥在レ外之營帳一、故後人遂相沿、爲二牙署之稱一也。㊁官署をいふ。㊀を見よ。㊂山名。一名、石灰山。江蘇省江寧縣の北、長江の南岸。晉の元帝が江を渡つた時、王導が丞相となり、幕府を此處に建てたので名づけられたもの。又、南北朝の時、

陳霸先が北齊と戰つて此處に陣した。〔輿地紀勝〕晉元帝初過レ江、王導建二幕府其上一、因名。〔江寧府志〕山隴多レ石、居人於レ此煅レ石取レ灰、又名二石灰山一、明常遇春、戰二陳友諒於石灰山側一、卽此、上有二虎跑泉達摩洞諸勝一、山之東南麓曰二武帳崗一。❹㋑鎌倉・室町・江戸の三時代、將軍が政治を取扱つた所。武家の政府。霸府。㋺近衞大將の唐名。〔職原抄〕左右近衞府、大將、唐名羽林大將軍、常云二幕府一、又云二幕下一、又云二大樹一、總以將軍之稱也。㋩將軍の異稱。〔室町家御內書案、上〕幕府左兵衞督尊氏並左馬頭直義。

【幕府書厨】46 バクフノショチュウ 遼の朱遵度の異名。當時の諸學士が文章を作るに當り、必ず遵度に問うたからいふ。〔海錄碎事、文學、博學〕十國紀年、朱遵度避二耶律德光之召一、挈二妻孥一擕レ書、雜二商賈一奔レ楚、王待レ之甚薄、杜レ門卻掃、諸學士每レ爲二文章一、先問二古今首末於遵度一、時人號爲二幕府書厨一。

【幕皁】47 バクフ 山名。江西省修水縣の西。一名、天嶽。又、昌江山ともいふ。三國の時、劉表の從子磐が艾西に寇した時、吳は太史慈を以て建昌都尉とし、此處に幕營を置いて防がしめた事から此の名がある。道書では之を第二十五洞天としてゐる。山上に繫舟峯、列仙壇、匯沙・芙蓉の二池、海棠・仙人の二洞があり、絕頂に石田數頃がある。〔岳陽風土記〕幕皁山、洞天、天寶中、改名二昌江山一。〔明一統志〕幕皁山、在二寧州西一百九十里一、吳太史慈、拒二劉磐於此一、置二營幕一、因名。

【幕兵】48 バクヘイ 幕府の兵。

【幕北】49 バクホク 幕朔(19)に同じ。〔史記、匈奴傳〕以二精兵一待二於幕北一。〔漢書、韋賢傳〕單于聞レ之、遠二其輜重一、以二精兵一待二於幕北一。

【幕僕】50 バクボク 相談相手の臣。〔福惠全書、蒞任部、馭衙役〕幕僕隨丁、不レ許下立二近轉斗一、與二外人一說話上。

【幕末】51 バクマツ 德川幕府の終に近い頃。明治維新直前の時代。

【幕末史】52 バクマツシ 德川幕府の終末期の歷史。

【幕命】53 バクメイ 幕府の命令。〔賴山陽、上二樂翁公一書〕今茲尊嫡君侯、膺二幕命一、入朝謝二大拜之恩一。

【幕門】54 バクモン まくばりの門。轉じて、將軍の事務を執る所。〔後漢書、李郃傳〕縣召署二幕門候吏一。

【幕颺】55 バクヤウ まくが吹き上がる。〔白居易、想二東遊一五十韻詩〕幕颺雲飄レ檻、簾褰月露レ鈎。

【幕絡】56 バクラク おほひまとふ。被覆纏絡。〔爾雅、釋器、罞罟謂二之羉一、疏〕言三幕二絡其身一也。〔釋名、釋綵帛〕貧者著レ衣、可三以幕二絡絮一也、或謂二之牽離一、煑熟爛牽引、使二離散如レ綿然一也。

【幕吏】57 バクリ 幕府の役人。將軍の臣僚。〔本事詩〕敕令二廣州幕吏鞫一レ之。〔杜牧、薦二韓乂一啓〕未下嘗入二公府一造請與二幕吏一宴游上。

【幕令】58 バクレイ 幕府の命令。

【幕僚】59 バクレウ ❶幕府にあつて將軍をたすける者。將軍の參謀。轉じて、人の相談にあづかる者。顧問。幕友。〔宋史、顏衎傳〕請自レ今藩鎭幕僚、勿レ得レ任二臺官一。〔遼史、張儉傳〕調二雲州幕官故事一、車駕經行、長吏當レ有レ所レ獻、聖宗獵二雲中一、節度使進曰、臣境無二他產一、惟幕僚張儉、一代之寶、願以爲レ獻。❷陸海軍の司令官、總督などに屬して參謀事務に與かる將校。

【幕論】60 バクロン 幕府の人々の主張。將軍麾下の議論。幕府の評議。幕議。

【巢レ幕燕】61 マクニスクフツバメ 幕に巢を造るつばめ。其の寄るところの極めて危くて安らかでない喩。幕燕。幕上之燕巢。〔左氏、襄、二十九〕夫子之在レ此也、猶三燕之巢二于幕上一。〔注〕言二至危一也。

【幕天席地】62 バクテンセキチ 天を帳幕とし、地を筵席として、其の閒に坐臥すること。志氣の極めて廣大な喩。〔劉伶、酒德頌〕有二大人先生一、以二天地一爲二一朝一、萬期爲二須臾一、日月爲二扃牖一、八荒爲二庭衢一、行無二轍跡一、居無二室廬一、幕レ天席レ地、縱二意所一レ如。〔白居易、小庭亦有レ月詩〕幕レ天而席レ地、誰奈二劉伶一何。

【幕老諸司】63 バクラウショシ 幕府の老中と諸有司。〔重野成齋、橋本景岳墓表〕內遊二說幕老諸司一。

【幙】9052

🈩バク 🈔ボ

🈩幕(4—9051)に同じ。〔字彙補〕幙、同レ幕。🈔模(6—15453)に通ず。〔漢郎中鄭固碑〕傳二宣孔業一、作二世幙式一。

【幙帷】1 バクヰ 幔幕(4—9050··15)に同じ。〔顏延之、應レ詔讌二曲水一作詩〕幙二帷蘭甸一、畫二流高陛一。

【幙中】2 バクチユウ 幕中(4—9051··37)に同じ。〔謝瞻、張子房詩〕婉婉幙中畫、輝輝天業昌。

【幙府】3 バクフ 幕府(4—9051··45)に同じ。〔晉書、儒林、范弘之傳〕足下欲下以二幙府之小節一、奪中名教之重義上。

【幖】9053

ヘウ 〔集韻〕卑遙切 蕭

小篆

❶しるし。はた。のぼり。幖(4—9154)に同じ。❷はためくさま。〔杜牧、郡齋獨酌詩〕旌竿幖幖旗燿燿。❸酒店の旗。〔正字通〕幖、又今酒旗、俗稱レ幖。❹標(6—15442)に通ず。〔說文、段注〕今字多作二標牓一、標行而幖廢矣。

【㡘】9054

🈩ロウ 〔集韻〕郎侯切 尤
🈔ル 〔玉篇〕力宇切 虞

🈩馬に水を飲ませるふくろ。一說に、馬に秣を食べさせるふくろ。㡘兜。〔方言、五〕飲レ馬橐、自レ關而西、或謂二之㡘兜一。〔正字通〕㡘、飲レ馬橐。🈔姓。〔玉篇〕㡘、古姓。

【㡟】9055

サウ ソウ 〔集韻〕臧曹切 豪

❶しきもの。〔玉篇〕㡟、藉也。❷もすそ。褿(10—34543)に同じ。〔集韻〕褿、說文、帴也、或从レ巾。

【𢄼】9056

テウ 〔玉篇〕都了切 篠

きぬ。〔玉篇〕𢄼、絹𢄼也。

【幗】9057

🈩クワク 〔集韻〕古獲切 陌 ㄍㄨㄛˊ kuo²
🈔クワイ 〔集韻〕古對切 隊
🈪クワイ 〔辭海〕姑隈切 灰

小篆

🈩🈔🈪❶婦人の頭のかざり。髮づつみ。〔說文新附〕幗、婦人首飾、从レ巾國聲。〔玉篇〕幗、帨也、覆二髮上一也。〔晉書、宣帝紀〕諸葛亮數挑レ戰、帝不レ出、因遺二帝巾幗婦人之飾一。〔晉書、輿服志〕紺幗繪幗。❷婦人の喪冠。〔廣韻〕幗、婦人喪冠。❸或は簂(8—26421)・蔮(9—31841)に作る。〔海篇〕簂、通作レ幗、亦作レ蔮。

【幗匪】1 クワクヒ 清の咸豐・同治の閒、四川に起つた亂黨。

【幘】9058

サク シャク 〔集韻〕測革切 陌 ㄗㄜˊ tsê²

小篆

❶づきん。髮づつみ。ひたいあて。かんむりした。もと幘(4—9119)に作る。〔正字通〕幘、篆作レ幘。〔說文〕幘、髮有レ巾曰レ幘、从レ巾責聲。〔說文通訓定聲〕幘、續漢書輿服志、古者有レ冠無レ幘、至レ秦乃加二武將首飾一、爲二絳袙一、以表二貴賤一、漢文後、上下羣臣皆服レ之、按、元帝額有二壯髮一、不レ欲レ使二人見一、始進レ幘服レ之、然尙無レ巾、如二今半頭幘一而已、王莽無レ髮、乃施レ巾、故語曰、王莽禿幘施屋。〔釋名、釋首飾〕幘、賾也、下齊眉賾然也、或曰レ𦕢、𦕢二折其後一也。〔玉篇〕幘、覆髻也。

〔急就篇、三、冠幘簪簧結髮紐、注〕幘者、韜レ髮之巾、所三以整二嫧髮一也、常在二冠下一、或單著レ之。〔獨斷、下〕幘者、古之卑賤執レ事不レ冠者之所レ服也。㊁**とさか**。〔梅堯臣、鶏冠詩〕全如二雞幘一丹。㊂**歯なみが美しい**。⿰齒責（12―48766）に同じ。〔集韻〕⿰齒責、齒相値、亦作レ幘。〔左氏、定、九〕晳幘而衣二貍製一。〔注〕幘、齒上下相値。

【幘巾】1（サクキン）　首にかぶせるきれ。〔方言、四〕覆結謂二之幘巾一。

【幘墮】2（サクダ）　かぶりものがおちる。〔晉書、庾敳傳〕頽然已醉、幘墮二机上一。

【幘梁】3（サクリヤウ）　かみづつみ。頭髪をつつむ巾。〔儀禮、士冠禮、緇布冠、注〕纚、今之幘梁也。〔疏〕漢時、卷幘亦以二布帛之等一圍二繞髮際一爲レ之矣、云云、云二纚今之幘梁一者、亦擧二漢法一爲レ況耳。

【幘籠】4（サクロウ）　布でおほひをした籠。〔魏略〕人得下崔琰與二楊訓一書上、以裹二幘籠一、持レ籠行。

【幘溝漊】5（サクコウロウ）　高句麗の城の名。〔魏志、東夷、高句麗傳〕于二東界一、築二小城一、置二朝服衣幘其中一、歲時來取レ之、今胡猶名二此城一爲二幘溝漊一、溝漊者、句麗名城也。〔黃庭堅、次三韻錢穆父贈二松扇一詩〕可レ憐遠度滿幘溝漊、適堪今時褦襶子。

【⿸㫃巾】 9059　ソク　〔集韻〕千木切　［屋］

枠に張つたゐぎぬ。〔集韻〕⿸㫃巾、幨也。

【⿱豖巾】 9060　チク　逐（11―38877）の古字。〔字彙補〕⿱豖巾、古文逐字。

【⿰巾連】 9061　シ　〔川篇〕音至

田器。〔川篇〕⿰巾連、田器也。

【⿸㫃⿱巾疋】 9062　セン　〔海篇〕音旋

橙。一説に、幨（4―9148）に同じ。〔海篇〕⿸㫃⿱巾疋、橙也。〔中華大字典〕⿸㫃⿱巾疋、與レ⿸㫃巾字形相近、橙亦疑爲二幨之譌字一。

【⿰帛舌】 9063　キ　ギ　〔字彙補〕下利切　［寘］

こまかい。〔字彙補〕⿰帛舌、細綢也。

【⿰巾毳】 9064　音義未詳　〔字彙補〕⿰巾毳、音未詳。

【⿰巾咎】 9065　ヤク　〔龍龕手鑑〕音約

大きいとばり。〔龍龕手鑑〕⿰巾咎、大帳也。

【⿰巾赤】 9066　キヨク　義未詳。〔龍龕手鑑〕⿰巾赤、紀力切。

【幛】 9067　シヤウ　〔中華大字典〕幛、讀如レ障。ㄓㄤˋ chang^{4}

題字を記し、慶弔の禮として贈る布帛。もと障（11―41821）に作る。〔中華大字典〕幛、俗以二布帛一題レ字、爲二慶弔之禮一、謂二之幛一、字本作レ障。

十二畫

【幜】 9068　ケイ　キヤウ　〔玉篇〕居永切　［梗］

㊀**きぬ**。〔玉篇〕幜、帛也。㊁**かづき**。衣服の上につけて塵埃をふせぐ被布。〔隋書、禮儀志〕後齊納后禮、皇后服二大嚴繡衣一、帶二綬佩一、加レ幜、入二昭陽殿一、前至二席位一、姆去レ幜。㊂通じて景（5―13983）に作る。〔儀禮、士昏禮、姆加レ景、注〕景之制、蓋如二明衣一、加レ之以爲三行レ道禦レ塵、令二衣鮮明一也、景亦明也、今文、景作レ幜。

［名乘］　サト。トホ。

【⿰巾會】 9069　クワ　ケ　〔廣韻〕苦瓦切　［馬］

きぬの衣。〔廣韻〕⿰巾會、帛衣也。

【⿰巾袲】 9070　ダ　⿰巾多（4―8887）に同じ。〔廣韻〕⿰巾袲、同レ⿰巾多。

【⿰巾象】 9071　シヤウ　ザウ　〔字彙〕西亮切　［漾］

㊀**十五歳未滿の婦人のかみかざり**。〔字彙〕⿰巾象、未レ笄首飾。㊁襐（10―34603）の譌字。〔康熙字典〕⿰巾象、按、卽襐字之譌。

【⿰巾畫】 9072　クワク　〔集韻〕忽麥切　［陌］

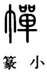
帛をさく音。〔集韻〕⿰巾畫、裂レ帛聲。

【⿰巾尞】 9073　レウ　〔集韻〕憐蕭切　［蕭］

きぬがさのほね。車蓋の弓骨。通じて橑（6―15534）に作る。〔集韻〕⿰巾尞、蓋弓也、通作レ橑。

【幝】 9074

［一］セン　〔集韻〕齒善切　［銑］
［二］タン　〔集韻〕他干切　［寒］
［三］セン　〔集韻〕稱延切　［先］
［四］セン　〔集韻〕尺戰切　［霰］


小篆

［一］［二］［三］㊀**車のやぶれたさま**。〔說文〕幝、車敝皃、从レ巾單聲、詩曰、檀車幝幝。㊁**布のやぶれたさま**。〔說文、幝、段注〕按、古本當二是巾敝皃一、故从レ巾、詩以爲二車敝字一、則其引伸之義也。［四］**ほろ**。車のおほひ。〔集韻〕幝、車衣。

【幝幝】1（センセン）　車のやぶれたさま。〔詩、小雅、杕杜〕檀車幝幝、四牡痯痯。〔傳〕幝幝、敝皃。

【⿰巾最】 9075　サイ　〔集韻〕取外切　［泰］

古のづきん。⿰巾最項。〔集韻〕⿰巾最、⿰巾最項、古服、其制未レ聞。

【⿰巾登】 9076　タウ　幀（4―8982）に同じ。〔字彙〕⿰巾登、同レ幀。

【⿰巾喬】 9077　ケウ　〔集韻〕丘祆切　［蕭］

はかまのひも。或は繑（8―27886）に作る。〔玉篇〕⿰巾喬、袴⿰巾喬也。〔集韻〕⿰巾喬、絝紐也、或从レ糸。

【⿰巾焦】 9078

［一］セウ　〔集韻〕子小切　［篠］
［二］レウ　〔集韻〕朗鳥切　［篠］

［一］［二］㊀**ぬぐふ**。〔集韻〕⿰巾焦、拭也。㊁或は⿰衤焦

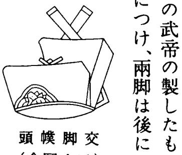
（10－34587）に作る。〔集韻〕⿰巾焦、或从㆑衣。

【幞】9079

㈠ホク／ボク 〔集韻〕逢玉切 ㄆㄨˊ pʻu^2 沃
㈡ホク 〔集韻〕博木切 屋

小篆 ㈠㈡㊀**づきん**。はちまき。〔說文新附〕幞、帊也、从㆑巾業聲。〔玉篇〕幞、巾幞。〔集韻〕幞、帕也。㊁**寸のつまつたもすそ**。略式の裳。〔集韻〕幞、一曰、裳削㆑幅。㊂或は襆（10－34575）・纀（8－28010）・纀（8－27882）に作る。〔集韻〕幞、或从㆑衣、从㆑糸、亦省。

【幞頭】1 ボクトウ　づきん。後周の武帝の製したもので、四脚を出し、兩脚は前につけ、兩脚は後につける。後世は、唯兩脚を用ひ、鐵線を以て之を横に張るやうになつた。又、兩脚を後に交叉したものもあり、之を交脚幞頭といふ。幞頭は、初、人主のみ用ひたが、後、藩鎭・士大夫も之を僭用するに至つた。一名、折上巾。〔廣韻〕幞、幞頭、周武帝所㆑製、裁㆓幅巾㆒、出㆓四脚㆒、以幞㆑頭、乃名焉、亦曰㆓頭巾㆒。〔唐書、車服志〕幞頭起㆓於後周㆒、便㆓武事㆒者也。〔二儀實錄〕古以㆓皁羅三尺㆒裹㆑頭、號㆓頭巾㆒、三代皆冠列㆑品、黔首以㆓皁絹㆒裹㆑髮、至㆓周武帝㆒依㆑古、三尺裁爲㆓幞頭㆒、唐馬周交解爲㆑之。〔朱子語類〕唐人幞頭、初止以㆑紗爲㆑之、後以㆓紗軟㆒、欲㆑木作㆓一山子㆒、在㆑前襯起。〔宋史、輿服志五〕幞頭、一名折上巾、起㆑自㆓後周㆒、然止以㆓軟帛㆒垂腳、隋始以㆓桐木㆒爲㆑之、唐始以㆑羅代㆑繒、惟帝服則腳上曲、人臣下垂、五代漸變平直、國朝之制、君臣通服㆓平腳㆒、乘輿或服㆓上曲㆒焉、其初以㆓藤織草巾子㆒爲㆑裏、紗爲㆑表、而塗以㆑漆、後惟以㆑漆爲㆑堅、去㆓其藤裏㆒、前爲㆓一折平施㆒、兩腳以㆑鐵爲㆑之。〔宣和遺事、前集下〕金燃線幞頭、舒角紫羅。



交脚幞頭（三才圖會）

【幞帊】2 ボクハ　づきん。〔東宮舊事〕皇太子納㆑妃、有㆓綾裏幞帊五具、絹裏幞帊五具㆒。

【幟】9080

シ 〔集韻〕昌志切 ㄓˋ chih^4 寘

小篆 ㊀**のぼり**。**はた**。〔說文新附〕幟、旌旗之屬也、从㆑巾戠聲。〔廣雅、釋器〕幟、幡也。〔一切經音義、五〕長丈五尺、廣半㆑幅曰㆑幟。〔漢書、高帝紀上〕旗幟皆赤。〔注〕師古曰、幟、幖也、旗、旂之屬、幟、卽總稱焉。〔漢書、李陵傳〕以㆓黃與㆑白爲㆑幟。㊁**しるし**。めじるし。〔後漢書、虞詡傳〕以㆓采縦㆒縫㆓其裾㆒爲㆑幟。〔注〕幟、記也。㊂或は識（10－35974）・志（4－10331）・旘（5－13699）・⿰巾志（4－8907）に作る。〔集韻〕幟、或作㆓旘・⿰巾志㆒、亦作㆑志。〔史記、高祖紀〕旗幟皆赤。〔注〕索隱曰、幟、或作㆑識、或作㆑志。㊃通じて織（8－27892）に作る。〔集韻〕幟、通作㆑織。〔漢書、食貨志下〕治㆓樓船高十丈餘㆒、旗織加㆓其上㆒。〔注〕師古曰、織、讀曰㆑幟。

名乘 タカ。

【幟邑】1 ノボリザト　漢字の旁の名。おほざと（邑）のこと。邑の一體阝が幟の形に似てゐるからいふ。

【幟竿】2 ノボリザヲ　のぼりをつけて立てる竿。

【幟帛】3 シハク　はたのきれ。〔菊池三溪、赤穗義士〕遂裹㆓首幟帛㆒、懸㆓之槍柲㆒。

【幟半】4 シハン　鎧の指物とする小旗。

【幟杙】5 ノボリグヒ　のぼり竿を結びつけるくひ。

【幠】9081

㈠コ／ク 〔集韻〕荒胡切 虞
㈡ブ／ム 〔集韻〕微夫切 虞

小篆 ㈠㊀**おほひ**。ふろしき。もと⿰巾森（4－9158）に作る。〔正字通〕幠、篆作㆑⿰巾森。〔說文〕⿰巾森、覆也、从㆑巾森聲。〔儀禮、士喪禮〕幠用㆑斂衾。〔注〕幠、覆也。㊁**おほふ**。〔廣雅、釋詁二〕幠、覆也。㊂**大きい**。〔爾雅、釋詁〕幠、大也。㊃**張る**。〔玉篇〕幠、張也。㊄**たもつ**。撫（5－12743）に通ず。〔說文通訓定聲〕幠、叚借爲㆑撫。〔爾雅、釋詁〕幠、有也。㊅**おごる**。あなどる。侮（1－630）に通ず。〔說文通訓定聲〕幠、叚借爲㆑侮。〔禮、投壺〕毋㆑幠毋㆑敖。〔注〕幠・敖、慢也。㊆**しひる**。誣（10－35542）に通ず。〔說文通訓定聲〕幠、叚借爲㆑誣。㊇⿱口亏（2－1542）に通ず。〔說文通訓定聲〕幠、字亦作㆑⿱口亏。㊈通じて芋（9－30670）に作る。〔詩、小雅、斯干〕君子攸㆑芋。〔箋〕芋、當㆑作㆑幠。㈡**毛織物**。⿰巾亟（4－8925）に同じ。〔集韻〕⿰巾亟、毳也、方言、楚曰㆓⿰巾監幠㆒、或从㆑無。

【幠帾】1 コト　幠と帾。幠は尸を覆ふもの、帾は棺を覆ふもの。〔荀子、禮論〕無帾絲歶縷翣。〔注〕無、讀爲㆑幠、幠、覆也、所㆓以覆㆑尸者也、士喪禮、幠用㆑衾、夷衾是也、帾、與㆑褚同、又曰、褚幕丹質、鄭云、所㆓以覆㆑棺也。

【⿱無巾】9082

テイ　⿱𦉰是（10－37807）に同じ。〔龍龕手鑑〕⿱無巾、同㆑⿱𦉰是。

【⿰巾散】9083

㈠サン 〔集韻〕顙旱切 旱
㈡サン 〔韻會〕先旰切 翰

㈠㈡㊀**きぬがさ**。かさ。車蓋。〔類篇〕⿰巾散、蓋也。〔晉書、輿服志〕功曹吏主簿並騎從、⿰巾散扇幢麾各一騎。㊁繖（8－27896）に同じ。〔正字通〕⿰巾散、說文、繖、蓋也、⿰巾散與㆑繖、音義同。㊂傘（1－966）に同じ。〔類篇〕⿰巾散、亦作㆑傘。

【⿱須巾】9084

シュ／ス 〔集韻〕詢趨切 虞

髮づつみ。**髮のねかけのきれ**。帕⿱須巾。〔玉篇〕⿱須巾、帕也。〔集韻〕⿱須巾、帕⿱須巾、繒頭也。〔文公家禮、喪禮、喪服〕布頭⿱須巾、用㆓略細麻布一條㆒爲㆑之、長八寸、用以束㆓髮根㆒、而垂㆓其餘于後㆒。

【⿰巾貳】9085

ジ／ニ 〔集韻〕而至切 寘

かざり。〔集韻〕⿰巾貳、飾也。

【幡】9086

ハン／ホン 〔集韻〕孚袁切 ㄈㄢ fan^1 元
慣マン

小篆 ㊀**ふきん**。觚の上にしるした文字をぬぐふふきん。〔說文〕幡、書兒拭㆑觚布也、从㆑巾番聲。〔段注〕按、觚以學㆑書或記㆑事、若㆓今書童及貿易人所㆑用粉版㆒、既書、可㆓拭去再書㆒、揚雄齎㆓油素四尺㆒、亦謂㆓素之可㆑拭者㆒也、拭㆑觚之布、謂㆓之幡㆒、亦謂㆓之帣㆒、反覆可㆑用之意。㊁**のぼり**。**はた**。旛（5－13700）に通ず。〔說文通訓定聲〕幡、叚借爲㆑旛、今所㆑用幢幡字。〔集韻〕幡、一曰、幟也。〔漢書、鮑宣傳〕擧㆓幡太學下㆒。㊂**かへる**。心をかへる。反（2－3127）に通ず。〔說文通訓定聲〕幡、叚借爲㆑反。〔孟子、萬章下〕既而幡然改。〔注〕幡、反也。〔漢書、食貨志下、獄少㆓反者㆒、注〕蘇林曰、反、音幡、師古曰、幡、謂㆓從㆑輕而出㆒。㊃**ひるがへる**。〔史記、司馬相如傳〕落英幡纚。〔注〕索隱曰、幡、飛揚貌也。㊄**帳簿**。〔呂覽、觀表〕綠圖幡薄。〔注〕幡、亦薄也。㊅**ひるがへるさま**。**又、とりみだすさま**。**又、瓢葉の動くさま**。幡幡（28）を見よ。㊆翻（9－

28814）に通ず。〔荀子、大略〕幡然遷レ之。〔注〕幡、與レ翻同。

名乘 ハタ。

【幡斿】1ハンイウ はたあしのあるはた。斿ははたあし、はたのながれ。〔後漢書、輿服志上〕幡斿旗幟。

【幡影】2ハンエイ はたのかげ。〔元稹、大雲寺詩〕幡影中天颺、鐘聲下界聞。

【幡蓋】3ハンガイ はたと天蓋。〔南齊書、高帝紀上〕不レ得下用二紅色一爲中幡蓋衣服上。〔沈約、齊禪林寺尼淨秀行狀〕白日臥開レ眼、見レ佛入レ房、幡蓋滿レ屋、語二傍人一令二燒香一、了自不レ見。〔岑參、登二千福寺楚金禪師法華院多寶塔一詩〕焚レ香如二雲屯一、幡蓋珊珊垂。

【幡校】4ハンカウ ㊀ひるがへす。變易する。〔列子、周穆王〕老成子歸用二尹文先生之言一、深思三月、遂能存亡自在、幡二校四時一、冬起レ雷、夏造レ冰、飛者走、走者飛、終レ身不レ著二其術一、故世莫レ傳焉。〔口義〕幡校者、飜覆檢校也、變幻之意也、幡二校四時一者、變二易陰陽之節一也。㊁しるしのはた。〔漢書、成帝紀、從二胡客一大校獵、注〕如淳曰、合レ軍聚レ衆、有二幡校擊鼓一也。〔晉書、夏統傳〕建二朱旗一、擧二幡校一、分二羽騎一爲レ隊。

【幡竿】5ハンカン はたざを。幡杆。〔宋書、武帝紀上〕大軍至二左里一將レ戰、公所レ執麾竿折、折幡沈レ水、衆竝怪懼、公歡笑曰、往年覆舟之戰、幡竿亦折、今者復然、賊必破矣。〔蕭至忠、三會寺應制詩〕網戶飛花綴、幡竿度鳥廻。〔張祜、熱戲樂〕上皇失レ喜寧王笑、百尺幡竿果動搖。

【幡旗】6ハンキ はた。〔史記、天官書〕南夷之氣、類二舟船幡旗一。〔後漢書、吳漢傳〕多樹二幡旗一。〔吳志、吳主孫權傳〕僞降立二幡旗一。〔庾肩吾、謝二東宮賜一レ宅啓〕巷轉二幡旗一、門容二幰蓋一。〔楊炯、戰城南〕幡旗如二鳥翼一、甲冑似二魚鱗一。〔岑參、送三郭僕射節二制劍南一詩〕鐵馬擐二紅纓一、幡旗出二禁城一。

【幡戟】7ハンゲキ はたとほこ。〔南齊書、東昏侯紀〕幡戟橫レ路、百姓喧走。

【幡虹】8ハンコウ 虹のやうな形をしたはた。〔唐高宗、謁二大慈恩寺一詩〕花蓋飛二團影一、幡虹曳二曲陰一。〔趙彥昭、奉三和幸二大薦福寺一詩〕刹鳳迎二琱輦一、幡虹駐二綵旗一。

【幡纚】9ハンサイ 飜るさま。〔司馬相如、上林賦〕垂條扶疏、落英幡纚。〔注〕張揖曰、幡纚、飛揚貌。

【幡刹】10ハンサツ ハンセツ 求道の僧侶が一法を得る每に遠方に告げるために建てるはたの竿。〔南唐近事〕僎一夕夢登二崇孝寺一、幡刹極高處、打二方響一。

【幡紙】11ハンシ 古、字を書くに用ひたきぬをいふ。字をかく時其の書の長短によつてこれを截つた。〔初學記、文部、紙〕古者以二縑帛一、依二書長短一、隨レ事截レ之、名曰二幡紙一、故其字從レ糸。

【幡幟】12ハンシ しるしのはた。旗幟。〔後漢書、馬防傳〕去二臨洮一十餘里、爲二大營一、多樹二幡幟一。

【幡織】13ハンシ 旗幟の屬。〔漢書、陳湯傳〕望二見單于城上一、立二五采幡織一。〔注〕師古曰、織、讀曰レ幟。

【幡兒】14 fan¹ êrh はた。喪家の門前に建てる赤漆塗の旗棒を幡杆といひ、其の旗を幡兒といふ。

【幡毦】15ハンジ 旗の毛かざり。〔西京雜記、一〕每二好風日一、幡毦光影、照二耀一殿一。

【幡鉦】16ハンシヤウ はたとたたきがね。〔後漢書、禮儀志中〕衞司馬執二幡鉦一護行。

【幡勝】17ハンシヨウ 金・銀・羅・綵などで作つた飾物のはた。綏勝。旛勝（5－13700··2）を見よ。〔宋史、禮志二十二〕立春、奉二內朝一者、皆賜二幡勝一。

【幡信】18ハンシン はたで命を傳へるをいふ。符節の類。信幡。〔漢書、藝文志〕皆所下以通二知古今文字一、摹二印章一、書中幡信上也。〔許愼、說文解字敍〕六曰、鳥蟲書、所三以書二幡信一也。〔段注〕書レ幡謂レ書二旗幟一、書レ信謂レ書二符節一。〔晉書、衞恒傳〕六曰、鳥書所三以書二幡信一也。

【幡然】19ハンゼン ホンゼン 變動するさま。さらりとかはるさま。心をひるがへすさま。翻然。〔孟子、萬章上〕既而幡然改。〔注〕幡、反也。〔荀子、大略〕君子之學如レ蛻、幡然遷レ之。〔注〕幡、與レ翻同。

【幡多】20ハタ ㊀土佐國の郡名。㊁姓氏。

【幡幢】21ハンダウ 神佛の前にたてるはた。〔法苑珠林〕或見二佛塔菩薩一、或見二僧衆列坐一、或見二帳蓋幡幢一。

【幡豆】22ハヅ ㊀三河國の地名。㊁姓氏。

【幡燈】23ハントウ はたとともしび。〔齊己、經二吳平觀一詩〕幡燈古殿夜、霜霰大椿寒。

【幡旆】24ハンバイ はた。旆もはた。〔蘇轍、遊二太山一四首、嶽下詩〕幡旆飛二晻曖一。

【幡葆】25ハンパウ はたじるし。葆は鳥の羽をつけたはた。〔西京雜記、二〕如レ撞二鐘磬一、如レ飛二幡葆一。

【幡旄】26ハンバウ はたとさしづばた。〔西京雜記、六〕昆明池中有二戈船一、云云、船上建二戈矛一、四角悉垂二幡旄旍葆麾蓋一。

【幡薄】27ハンパク 帳簿。丹書の類をいふ。〔呂覽、觀表〕聖人上知二千歲一、下知二千歲一、非レ意レ之也、蓋有二自云一也、綠圖幡薄、從レ此生矣。〔注〕幡、亦薄也。

【幡幡】28ハンパン ㊀威儀がなく輕々しいさま。〔詩、小雅、賓之初筵〕曰二既醉止一、威儀幡幡。〔傳〕幡幡、失二威儀一也。㊁ひるがへるさま。翩翩。〔詩、小雅、巷伯〕捷捷幡幡、謀欲二譖言一。〔傳〕幡幡、猶二翩翩一也。㊂瓠葉の動くさま。〔詩、小雅、瓠葉〕幡幡瓠葉。〔傳〕幡幡、瓠葉貌。

【幡美】29ハミ 姓氏。〔姓名錄抄〕。

【幡布】30ハンプ ふだふきん。〔說文、幡、繫傳〕晉人云、不レ見二酒家幡布一乎、用久則爛。

【幡舞】31ハンブ 晉代の歌曲の名。〔宋書、樂志一〕晉鞞舞歌、亦五篇、又鐸舞歌一篇、幡舞歌一篇、鼓舞伎六曲、並陳二於元會一、今幡鼓歌詞猶存、舞並闕。〔柘枝譜〕漢則巴渝舞・女舞、晉則白紵舞・幡舞・扇舞、唐則霓裳舞。

【幡文】32ハタム ㊀姓氏。〔姓名錄抄〕。㊁ハタアヤ 姓氏。〔新撰姓氏錄考證〕。

【幡緐】33ハンボン ひるがへる。幡幡（28）の㊁に同じ。

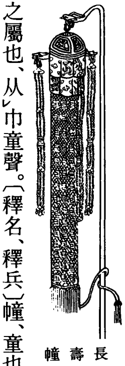
【幡幔】34ハンマン はたとひきまく。〔易、豐、九三〕豐二其沛一、注〕沛、幡幔、所三以禦二盛光一也。

【幡羅】35ハラ 武藏國の舊郡名。

【幡鎌鄰齋】36ハタカマリンサイ 名は穎。字は子達。通稱は三吾。號は鄰齋・崇古道人。文政六年歿す、年四十。松下葵岡に師事す。著に崇古道人文集がある。〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕。

【幢】9087 ㈠タウ ダウ 〔集韻〕傳江切 江 ㄔㄨㄤ ch'uang² ㈡タウ ダウ 〔集韻〕丈降切 絳 ㈢トウ ヅ 〔集韻〕徒東切 東

幢 小篆


長壽幢（清會典圖）

㈠㊀**はた。はたぼこ。**軍の指揮に用ひるはた。〔說文新附〕幢、旌旗之屬也、从レ巾童聲。〔釋名、釋兵〕幢、童也、其貌童童然也。〔漢書、韓延壽傳〕建二幢棨一。〔注〕晉灼曰、幢、旌幢也、云云、師古曰、幢、麾也。㊁**かざし。**おほひ。〔方言、二〕幢、翳也、關東關西皆曰レ幢。〔廣雅、釋器〕幢、謂二之幪一。〔後漢書、班固傳上〕撫二鴻幢一、御二矰繳一方、注〕幢謂二之幬一、云云、卽舟中之幢蓋也。〔潘岳、馬汧督誄〕殊以二幢蓋之制一。〔注〕善曰、幢蓋、將軍刺史之儀也。㊂**まく。とばり。**〔急就篇、三〕蒲蒻藺席帳帷幢、注〕帷者、圍也、形如二車蓋一者、謂二之幢一、言二其童童然一也。㊃**部隊編制の名。**兵百人をいふ。〔資治通鑑、宋紀〕領二都內幢將一。〔注〕百人爲レ幢。㊄通じて橦（**6－15578**）に作る。〔玉篇〕幢、或作レ橦。〔說文新附考〕幢、通作レ橦。㊅通じて潼（**7－18302**）に作る。〔正字通〕幢、通作レ潼。㈡**ほろ。**后妃の車のたれぎぬ。〔廣韻〕幢、后妃車幰。〔隋書、禮儀志〕王后車、飾以二翟羽黃油幢一。㈢㊀**車のとばり。**湩（**7－17864**）に同じ。〔集韻〕湩、湩容、車幨帷也、或从レ布。㊁**羽毛のたれるさま。**幢幢（13）を見よ。

【幢翳】1タウエイ はたのかざし。〔後漢書、輿服志上〕戎車其飾皆如レ之、蕃以二矛麾金鼓羽析幢翳轓冑甲弩之箙一。

【幢牙】2タウガ 旌幢の牙旗。〔柳宗元、嶺南節度饗

軍堂記〕幢牙茸纛、金節析羽、旂旗旟旐、咸飾㆓於下㆒。

【幢蓋】3 タウガイ　はたぼこと朱のかさ。將軍刺史の儀制をいふ。〔晉書、李矩傳〕加㆓矩冠軍將軍、軺車幢蓋㆒。〔潘岳、馬汧督誄〕進以㆓顯秩㆒、殊以㆓幢蓋之制㆒。〔注〕善曰、幢蓋、將軍刺史之儀也、兵書曰、軍主長服赤幢、東觀漢記曰、段熲爲㆓幷州刺史㆒、曲蓋朱旗。〔劉長卿、酬㆓滁州李使君見㆑贈詩〕幢蓋方臨㆑郡、柴荊忝作㆑鄰。

【幢校】4 タウカウ　軍旗を立て設けて區分した部隊。〔魏書、世祖紀上〕私離㆓幢校㆒者、以㆓軍法㆒行㆑戮。

【幢麾】5 タウキ　儀仗に用ひる旗幟の屬をいふ。〔後漢書、班超傳〕拜㆑超爲㆓將兵長史㆒、假㆓鼓吹幢麾㆒。〔吳志、周魴傳〕幷乞㆓請幢麾數十㆒、以爲㆓表幟㆒。

【幢棨】6 タウケイ　はたばこ。棨は赤黑のきぬで包んだ戟。〔漢書、韓延壽傳〕建㆓幢棨㆒、植㆓羽葆㆒。〔注〕晉灼曰、幢、旌幢也、棨、戟也、師古曰、幢、麾也、棨、有㆑衣之戟也、其衣以㆓赤黑繒㆒爲㆑之。

【幢戟】7 タウゲキ　はたとはたぼこ。〔司空曙、和㆔耿拾遺元日觀㆓早朝㆒詩㆒〕冕旒當㆓翠殿㆒、幢戟滿㆓彤庭㆒。

【幢相】8 タウサウ　はた。〔菩提心義、十〕金光明云㆓南方寶相㆒、新譯經云㆓寶幢㆒、幢相同是雞都、例如㆘舊云㆓信相㆒、新云㆗妙幢㆖。

【幢將】9 タウシヤウ　禁衞の軍隊を統べる者。幢は百人の部隊をいふ。〔北史、來大干傳〕遷㆓内三郎幢將㆒、典㆓宿衞禁旅㆒。〔資治通鑑、宋紀〕（文帝、元嘉七年）加㆓散騎常侍右衞將軍㆒、領㆓内都幢將㆒。〔注〕百人爲㆑幢、幢有㆑帥、柔然之法也、魏幢將、主㆘三郎衞士直㆓宿禁中㆒者㆖、自㆓侍中㆒已下中散已上、皆統㆑之。

【幢主】10 タウシユ　はたがしら。一軍の司令官。〔南齊書、陳顯達傳〕宋孝武世爲㆓張永前軍幢主㆒。

【幢節】11 タウセツ　㊀符信の類。命を傳へるもの。〔唐書、鄭餘慶傳〕必遣㆘内使持㆓幢節㆒就㆖第。㊁鹵簿。〔唐書、韋昭度傳〕拜㆓昭度㆒兼㆓行營招撫使㆒、乃建㆓幢節㆒行㆓城下㆒。

【幢隊】12 タウタイ　行軍の際、旗幟を以て先導する部隊。〔南史、武陵王紀傳〕九日講武、躬領㆓幢隊㆒。

【幢幢】13 トウトウ　㊀羽毛のたれさがるさま。〔張衡、東京賦〕設㆑業設㆑虡、宮懸金鏞、鼖鼓路鼗、樹羽幢幢。〔注〕綜曰、幢幢、羽貌。㊁不定のさま。搖曳するさま。憧憧。〔元稹、聞㆔白樂天左㆓降江州司馬㆒詩〕殘燈無㆑焰影幢幢、此夕聞君謫㆓九江㆒。〔元稹、松樹詩〕華山高幢幢。

【幢旁】14 タウバウ　はたのほとり。幢傍。〔後漢書、輿服志上〕鸞旗者、編㆓羽旄㆒、列㆓繫幢旁㆒。

【幢傍】15 タウバウ　はたのほとり。幢旁に同じ。〔宋書、禮志五〕鸞旗者、編㆓羽旄㆒、列㆓繫幢傍㆒也。

【幢幡】16 タウハン　㊀はた。〔後漢書、禮儀志下〕校尉三人、皆赤幘、不㆑冠㆓絳科㆒、單衣持㆓幢幡㆒。㊁ドウバン　佛幢竿から垂れた幡。幢・幡共に旌旗の屬で、高く秀でて頭に寶珠を戴き、種々の綵帛を以て莊嚴にした竿柱を幢といひ、長く下に垂れた帛を幡といふ。〔瑜祇拾古鈔、上〕幡者、懸㆓于龍頭㆒之幢也、旗竿頭安㆓寶珠㆒、云㆓幢旗㆒、幡竿頭置㆓龍頭㆒、云㆓金剛幡㆒也。

【幢旛】17 タウハン　裝飾した竿柱に長い帛をたらしたもの。幢幡の㊁を見よ。

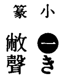
【幢旟】18 タウヨ　はた。旟は疾鳥を畫き、急速に事に趨く意を寓した旗。〔柳宗元、起㆑廢答〕幢旟前羅、杠蓋後隨。

【幢容】19 タウヨウ　車のとばり。童容。容は襜車（車のたれまく）。〔周禮、春官、巾車〕皆有㆓容蓋㆒。〔注〕容、謂㆓襜車㆒、山東謂㆓之裳幃㆒、或曰㆓幢容㆒。〔釋名、釋牀帳〕幢容、施㆓之車蓋㆒、童童然以隱㆓蔽形容㆒也。

【幢絡】20 タウラク　ほろ。車蓋に下げる飾の巾。〔南齊書、褚淵傳〕先㆑是、庶姓三公輲車、未㆑有㆓定格㆒、王儉議㆔官品第一皆加㆓幢絡㆒、自㆑淵始也。

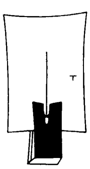
【幣】9088

ヘイ　ベイ　〔集韻〕毗祭切　ㄅㄧˋ　pi^4　霽



小篆

㊀**きぬ**。〔說文〕幣、帛也、从㆑巾敝聲。㊁**ぬさ**。しで。神にささげる禮物の帛。〔周禮、天官、大宰〕及㆓祀之日㆒、贊㆓玉幣爵之事㆒。〔注〕玉幣、所㆓以禮㆑神、玉與㆑幣、各如㆓其方之色㆒。〔漢書、文帝紀〕廣㆓增諸祀墠場珪幣㆒。〔注〕師古曰、幣、祭㆑神之帛。㊂**おくりもの。みつぎもの。**ひきでもの。〔周禮、天官、大宰〕六曰、幣帛之式。〔注〕幣帛、所㆔以贈㆓勞賓客㆒者。〔周禮、秋官、司儀〕各稱㆓其邦㆒而爲㆓之幣㆒。〔注〕幣、享幣也。〔左氏、成、二〕使㆓介反㆑幣。〔注〕幣、聘物。〔孟子、梁惠王下〕事㆑之以㆓皮幣㆒。〔注〕幣、繒帛之貨也。〔戰國、齊策〕請㆑具㆓車馬皮幣㆒。〔注〕幣、束帛也。〔呂覽、制樂〕幣帛以禮㆓豪士㆒。〔注〕幣、圭璧。〔淮南子、時則訓〕皮幣。〔注〕幣、元纁束帛也。㊃**喪におくつて弔意を表すもの。**〔周禮、天官、宰夫〕掌㆔其戒令與㆓其幣器財用㆒。〔注〕幣、所㆑用賻也。㊄**公用に給した品のあまり。**〔周禮、天官、職幣〕掌㆛式灋以斂㆚官府都鄙、與㆘凡用㆓邦財㆒者㆖之幣㆙。〔注〕幣、謂㆘給㆓公用㆒之餘㆖。㊅**たから。**貨財。〔集韻〕幣、財也。〔周禮、天官、大宰〕四曰、幣貢。〔注〕幣貢、玉馬皮帛也。〔管子、國蓄〕以㆓珠玉㆒爲㆓上幣㆒、黃金爲㆓中幣㆒、刀布爲㆓下幣㆒。〔戰國、秦策〕王其爲㆑君約㆑車幷㆑幣。〔注〕幣、貨。㊆**ぜに。**かね。貨幣。𧸘（**10－36928**）に同じ。〔說文通訓定聲〕幣、字亦作㆑𧸘。〔史記、吳王濞傳〕亂㆓天下幣㆒。〔注〕集解曰、幣、錢也。〔漢書、武帝紀〕幣輕多㆑姦。〔注〕李奇曰、幣、錢也。〔漢書、食貨志下〕量㆓資幣㆒。〔注〕師古曰、凡言㆑幣者、皆所㆘以通㆓有無㆒易㆗貴賤㆖也、故金之與㆑錢、皆名爲㆑幣也。㊇**やぶれる。**敝（**5－13245**）に通ず。〔說文通訓定聲〕幣、叚借爲㆑敝、孔宙碑、彫幣。㊈或は襒（**10－34613**）・𧸘（**10－36928**）に作る。〔集韻〕幣、或从㆑衣、从㆑貝。邦**へい**。神を祭るに用ひる具。ゆふしでの變化したもので、白紙を切り下げて柄をつけたもの。ごへい。



古鏟幣（金石索）

【幣役】1 ヘイエキ　幣帛を奉じた使者。幣使。〔史記、司馬相如傳〕今奉㆓幣役㆒至㆓南夷㆒、卽自賊殺、或亡逃抵㆑誅。

【幣交】2 ヘイカウ　物を贈つて交ること。

【幣號】3 ヘイガウ　幣の名稱。〔周禮、春官、大祝〕辨㆓六號㆒、云云、六曰幣號。〔注〕幣號、若㆘玉曰㆓嘉玉㆒、幣曰㆗量幣㆖。

【幣器】4 ヘイキ　香奠と明器（葬式用具）。〔周禮、天官、宰夫〕幣器財用。〔注〕幣、所㆑用賻也、器、所㆑致明器也。

【幣儀】5 ヘイギ　進物。〔福惠全書、教養部、學規〕州邑具㆓啓及幣儀㆒、登㆑門敦請、推㆓尊之㆒。

【幣錦】6 ヘイキン　贈物の錦。〔左氏、昭、二十六〕幣錦二兩。〔會箋〕是古者以㆑物獻㆓遺人㆒曰㆑幣、幣錦、禮所謂束錦、所㆓用以爲㆑幣也、今不㆑成㆑束、故曰㆓幣錦二兩㆒。

【幣貨】7 ヘイクワ　刀布。ぜに。〔管子、山國軌〕布㆓黃金九千㆒、以㆓幣貨金㆒。〔纂詁〕幣貨、刀布也。

【幣輕】8 ヘイケイ　貨幣價値の輕く少ないこと。〔漢書、武帝紀〕六月詔曰、日者有司、以㆔幣輕多㆑姦、農傷而末衆、又禁㆓兼幷之塗㆒、故改㆑幣以約㆑之。〔注〕李奇曰、幣、錢也、輕者、若㆓一馬直二十萬㆒、是爲㆓幣輕而物重㆒也、重難㆑得㆓利用㆒、不㆑足而姦生。

【幣獻】9 ヘイケン　おくりもの。貢物。〔周禮、天官、内府〕凡四方之幣獻之金玉齒革兵器。〔國史略、後陽成天皇〕凡幣獻之腆、供億之殷、超㆓絕前古㆒。

【幣貢】10 ヘイコウ　玉馬皮帛等のみつぎ物。一說に、ぬひとりした帛のみつぎ物ともいふ。貢物。九貢の一つ。〔周禮、天官、大宰〕以㆓九貢㆒致㆓邦國之用㆒、云云、四曰、幣貢。〔注〕鄭司農云、幣貢、繡帛、玄謂、幣貢、玉馬皮帛也。

【幣財】11 ヘイザイ　㊀禮物としておくる贈物。〔左氏、昭、二十六〕先入㆓幣財㆒。〔會箋〕錦乃財也、可㆑爲㆓禮幣之財㆒、故曰㆓幣財㆒。㊁たから。貨財。〔史記、大宛傳〕爲㆑所㆑殺奪㆓幣財㆒。

【幣使】12（ヘイシ） ❶幣帛を奉じた使者。幣役。〔漢書、司馬相如傳下〕今奉二幣使一至二南夷一、卽自賊殺、或亡逃抵レ誅。❷（ミテグラヅカヒ） 天子が幣帛を神に奉らせ給ふ時、差遣される使者。奉幣使。

【幣社】13（ヘイシヤ） 格式ある神社。

【幣制】14（ヘイセイ） 國家で規定する貨幣の制度。

【幣制局】15（ヘイセイキヨク） 官署の名。民國、置く。造幣廠及び中國銀行・國民銀行の發券を監督する。

【幣齎】16（ヘイセイ ヘイシ） 幣はおくりもの、齎は道中の費用。〔周禮、天官、外府〕共二其財用之幣齎一。〔注〕齎、行道之財用也。

【幣招】17（ヘイセウ） 禮物をおくつて人を招く。幣聘。〔史記、魏世家〕惠王卑レ禮厚レ幣、以招二賢者一。

【幣籍】18（ヘイセキ） 幣を以て税をさめること。〔管子、輕重丁〕且君幣籍而務、則賈人獨操二國趣一。〔纂詁〕故君務二於籍レ幣、則賈人獨運二用國幣一。

【幣束】19（ヘイソク） ごへい。ぬさ。しで。

【幣袋】20（ヌサブクロ） 昔、旅人が道中の安全を祈るため、道の神に手向ける幣（ヌサ）を入れて携へた袋。〔源氏物語、若菜上〕御簾のつまつま透影など春の手向のぬさ袋にやと。

【幣田】21（ヘイデン） 幣帛を調進する料に供された田地。〔東鑑、十一、建久二年八月七日〕僧任憲、相二傳熱田社領內御幣田一之處。

【幣殿】22（ヘイデン） 神社の本殿と拜殿との間にある殿。幣帛を手向ける處。〔皇大神宮儀式帳〕幣殿一院。

【幣馬】23（ヘイバ） おくりものの馬。馬を幣としておくること。〔周禮、夏官、校人〕凡祭祀朝覲會同、毛馬而頒レ之、飾二幣馬一、執レ朴而從レ之、凡賓客受二其幣馬一。〔注〕幣馬、以レ馬遺レ人、當二幣帛一者也。〔孫詒讓正義〕先鄭意、校人掌レ馬不レ掌レ幣、而經云二幣馬一者、以三幣馬兩有、二者同陳、馬當二幣之處一、故通謂二之幣馬一也、吳廷華云、校人、馬官、而言二幣者、謂二以レ馬爲レ幣、蓋馬爲二小行人六幣之一一、故亦稱レ幣、非二幣帛之幣一也、王引之云、馬在二六幣之數一、故曰二幣馬一、案、吳王說是也。

【幣帛】24（ヘイハク） ❶神に捧げるぬさ。〔墨子、尙同中〕其事二鬼神一也、云云、珪璧幣帛、不三敢不レ中二度量一。❷天子に奉る禮物のきぬ。〔左氏、襄、二十八〕不レ然則重二其幣帛一。〔管子、四稱〕諸侯臣服、國家安寧、不レ用二兵革一、受二其幣帛一。〔史記、大宛傳〕齎二金幣帛一、直數千巨萬。❸賓客に贈るひきでもののきぬ。〔周禮、天官、大宰〕六曰、幣帛之式。〔注〕幣帛、所三以贈二勞賓客一者。❹おくりもの。進物。〔禮、坊記〕禮之先二幣帛一也、欲二民之先レ事而後レ祿也。〔戰國、秦策〕趙固負二其衆一、故先使下蘇秦以二幣帛一約中乎諸侯上。〔漢書、韓安國傳〕朕飾二子女一以配二單于一、幣帛文錦、賂レ之甚厚。❺錢ときぬ。〔禮、月令〕開二府庫一、出二幣帛一、周二天下一。〔孟子、告子下〕無二城郭宮室宗廟祭祀之禮一、無二諸侯幣帛饔飧一。❻（ミテグラ） 神に奉るものの總稱。〔日本靈異記〕幣帛、ミテグラ。

【幣物】25（ヘイブツ ヘイモツ） おくりもの。〔戰國、趙策〕敝邑寡君亦竊嘉レ之、不二敢寧居一、使三下臣奉二其幣物一。〔史記、荊軻傳〕持二千金之資幣物一。〔漢書、張騫傳〕爲レ所レ殺二奪幣物一。

【幣聘】26（ヘイヘイ） 禮物をおくつて人を招聘すること。また禮を以て賢者を招くこと。〔孟子、萬章上〕湯使二人以レ幣聘レ之。〔注〕湯聞二其賢一、以二玄纁之帶帛一往聘レ之。

【幣餘】27（ヘイヨ） ものの殘り。幣は敝に通ず。〔周禮、天官、大宰〕以二九賦一斂二財賄一、云云、九曰、幣餘之賦。〔孫詒讓正義〕幣當二讀爲レ敝、云云、凡物之殘者、皆謂二之敝餘一、今時營造用物有レ餘、價賣以還レ官、謂二之回殘一、是也。

【幣用】28（ヘイヨウ） かね。金錢。〔漢書、景帝紀〕黃金珠玉、飢不レ可レ食、寒不レ可レ衣、以爲二幣用一、不レ識二其終始一。〔注〕師古曰、幣者、所下以通二有無一易中貴賤上也。

【幣料】29（ヘイレウ） 幣帛に充てるもの。布帛・錢貨等の類。〔江家次第、六〕平野祭幣料、內藏寮進二請奏一。

【幣賂】30（ヘイロ） おくりもの。〔漢書、匈奴傳上〕厚二幣賂一遺二單于一。

【厚レ幣】31（ヘイヲアツクス） 禮物を十分にする。〔史記、燕召公世家〕卑レ身厚レ幣、以招二賢者一。

【幣乘馬】32（ヘイジヨウバ） 財貨を以て乘馬卽ち兵賦を出す法。〔管子、山至數〕請二問幣乘馬一。〔纂詁〕以レ幣出二乘馬一之法。

【幣美則沒レ禮】33（ヘイビナレバスナハチレイヲボツス） 幣を美しくすると、忠信にそはんがための禮の本意を失ふ。〔儀禮、聘禮〕幣美則沒レ禮。〔注〕幣人所二造成以自覆一幣、謂二束帛一也、愛レ之、斯欲三衣二食之一、君子之情也、是以享用レ幣所三以副二忠信一、美レ之則是主二於幣一、而禮之本意不レ見也。

【⿰⿱日巾⿱夕巾】9089 メイ 盟(**8-23024**)の古字。〔字彙補〕⿰⿱日巾⿱夕巾、古文盟字。

【⿱市⿰市市】9090 ダウ ノウ 〔字彙補〕尼老切 皓 **やかましい。**〔字彙補〕⿱市⿰市市、鬧也。

【⿰帛儿】9091 [一]（バウ メウ）〔集韻〕眉教切 效 [二]（ハウ ヘウ）〔集韻〕班交切 肴 **まじつたいろどり。**〔玉篇〕⿰帛儿、綵雜文。

【⿰巾曾】9092 ソウ 〔龍龕手鑑〕音層 **きぬ。**〔龍龕手鑑〕⿰巾曾、帛也。

【⿰巾覃】9093 タン 義未詳。〔五音篇海〕⿰巾覃、音覃。

【⿰巾𠷎】9094 チウ 幬(**4-9127**)の本字。

【⿱𣠔巾】9095 タク ⿱𡗗巾(**4-9098**)に同じ。〔字彙補〕⿱𣠔巾、與レ⿱𡗗巾同。

【⿰孚帛】9096 チ 義未詳。〔字彙補〕⿰孚帛、音緻。

【幚】9097 ハウ 幫(**4-9125**)の俗字。

【幚毆】1（ハウオウ） 手傳つてたたく。〔福惠全書、刑名部、監禁〕與二衆牢頭一羣來幚毆。

【幚兇】2（ハウキヨウ） 惡人をたすける。殺人の共犯者。〔六部成語補遺、刑部、幚兇、注解〕幚二同正犯一殺レ人者也。

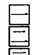
十三畫

【⿱𡗗巾】9098 タク 橐(**6-15347**)に同じ。〔集韻〕橐、或作レ⿱𡗗巾。

【⿰巾敫】9099 [一]（ケウ）〔集韻〕吉了切 篠 [二]（ケウ）〔集韻〕吉弔切 嘯 [一][二]**むかばき。**きやはん。或は繳(**8-27960**)に作る。〔集韻〕⿰巾敫、行縢謂二之⿰巾敫一、或从レ糸。

【⿰巾敫脛】1（ケウケイ） むかばき。きやはん。〔玉篇〕⿰巾敫、⿰巾敫脛、行縢也。

【幦】9100 [一]（ベキ ミヤク）〔集韻〕莫狄切 錫 [二]（ケキ キヤク）〔集韻〕詰歷切 錫 [三]（ケキ キヤク）〔集韻〕呼役切 陌



小篆

[一][二][三]❶**うるしぬりのぬの。**〔說文〕幦、髤布也、从レ巾辟聲、周禮曰、駹車犬幦。❷**車のちりよけ。**覆笭。〔廣雅、釋器〕覆笭謂二之幦一。〔禮、玉藻〕君羔幦

虎犆。〔注〕幦、覆笭也。〔說文通訓定聲〕幦、按、廣雅、覆笭謂二之幦一、古者車前後禦二風塵一之篚用レ竹、或用二髹布一、禮記少儀、施二諸幦一、疏、覆闌也、公羊昭廿五傳、以レ幦爲レ席、注、車覆笭。❸幭(4−9133)・幎(4−9024)に通ず。〔說文通訓定聲〕幦、叚借爲レ幭、禮記玉藻、君羔幦虎犆、儀禮既夕、白狗幦、周禮巾車、王之喪車五、木車素車犬⿰衤冥、藻車鹿淺⿰衤冥、駹車然⿰衤冥、云云、以レ幎爲レ之、按、車笭、疑夏用二竹簟一、春秋用二髹布一、冬用二獸皮一、幭與レ幎、皆以レ巾覆レ物之總名、幦則髹布之專名也。❹或は⿰衤冥(10−34491)に作る。〔集韻〕幦、或作レ⿰衤冥。

【⿰巾廉】9101 レン ⿰巾兼(4−9016)に同じ。〔集韻〕⿰巾兼、或作レ⿰巾廉。

【幧】9102 ㊀セウ 〔集韻〕千遙切 蕭 ㊁サウ ソウ 〔集韻〕倉刀切 豪

小篆

㊀㊁❶づきん。はちまき。髮づつみ。〔說文新附〕幧、斂レ髮也、从レ巾喿聲。〔廣韻〕幧、所二以裹レ髻。〔新方言、釋器〕今浙東寧波紹興、通謂レ帽曰レ幧、音七由切。❷或は幓(4−9047)・帑(4−8978)に作る。〔集韻〕幧、或作二幓・帑一。❸綃(8−27485)に通ず。〔釋名、釋首飾、綃頭、疏證〕方言作二幧頭一。❹帩(4−8910)に通ず。〔正字通〕幧、幧頭、晉書作レ帩。〔晉書、五行志〕人不三復著二帩頭一。

【幧頭】1 サウトウ 髮づつみ。綃頭。帩頭。〔方言、四〕絡頭、帞頭也、紗繢鬢帶、髤帶帑幓、幧頭也、自レ關以西、秦晉之郊曰二絡頭一、南楚江湘之閒曰二帞頭一、自レ河以北、趙魏之閒曰二幧頭一、或謂二之帑一、或謂二之幓一。〔禮、玉藻、士練帶、率、注〕士以下皆禪不レ合而紩積、如今作二幧頭一爲レ之也。〔古樂府、陌上桑〕少年見二羅敷一、脫レ帽著二帩頭一。

【幨】9103 ㊀セン 〔集韻〕處占切 鹽 ㄔㄢ ch'an^1 ㊁セン 〔集韻〕昌豔切 豔

㊀❶とばり。〔玉篇〕幨、帷也。❷牀帳。〔太平御覽、服用、牀幨〕通俗文曰、障牀曰レ幨。❸ほろ。㋑車のたれまく。〔韻會〕幨、以レ帷障二車旁一、如三裳爲二容飾一、其上有レ蓋、四旁垂而下、謂二之幨一。〔周禮、春官、巾車〕王后之五路、重翟厭翟安車皆有二容蓋一、注、容、謂二幨車一、山東謂二之裳幃一、或曰二潼容一。〔疏〕潼容與二幨及裳幃一、爲二一物一也。㋺矢をふせぐもの。〔淮南子、氾論訓〕渠幨以守。〔注〕幨、幰、所二以禦レ矢也。❹たちきれる。斷絕する。〔正字通〕幨、絕也。〔周禮、考工記、弓人〕夫筋之所二由幨一。〔注〕幨、絕起也。❺襜(10−34644)に通ず。〔爾雅、釋器、衣蔽前謂二之襜一、釋文〕襜、本或作レ幨。〔雷浚、說文外編〕說文無二幨字一、其字當レ作レ襜、後漢書劉盆子傳注、襜、帷也、車上施レ帷以屏蔽者、交二絡之一以爲レ飾。❻⿰巾僉(4−9104)に通ず。〔正韻〕幨、與レ⿰巾僉通。❼或は裧(10−34336)・⿰巾炎(4−8944)・⿰巾僉(4−9104)に作る。〔集韻〕幨、或作二裧・⿰巾炎・⿰巾僉一。㊁❶はおる。〔廣韻〕幨、披衣、或作二襜・裧一。❷えり。〔管子、揆度〕列大夫豹幨。〔注〕襟謂二之幨一。

【幨帷】1 センヰ 車の帷。又、車中の人に對する敬稱。〔後漢書、蔡茂傳〕敕行レ部去二幨帷一、使三百姓見二其容服一、以彰二有德一。〔庾信、周兗州刺史廣饒公鄭常神道碑〕幨帷入レ境、貪殘者解レ印、冕旒從レ政、仁義者郊迎。〔王勃、滕王閣詩序〕都督閻公之雅望、棨戟遙臨、宇文新州之懿範、幨帷暫駐。

【幨車】2 センシャ 布で蓋つた婦人の車をいふ。〔周禮、春官、巾車、安車云云皆有二容蓋一、注〕容謂二幨車一、山東謂二之裳幃一、或曰二潼容一。

【⿰巾僉】9104 セン 幨(4−9103)に同じ。〔集韻〕幨、亦作レ⿰巾僉。

【⿰巾煞】9105 サツ セチ 〔集韻〕山戛切 黠 二幅の布。〔集韻〕⿰巾煞、巾二幅謂二之⿰巾煞一。

【⿰巾亶】9106 タン ダン 〔集韻〕蕩旱切 旱 ❶はだぬぐ。おびをとく。袒(10−34184)に同じ。〔玉篇〕⿰巾亶、衣不レ束也、亦作レ袒。❷遠い身内の者のためにつける喪服。輕い喪服。⿰巾亶⿰巾免。〔集韻〕⿰巾亶、⿰巾亶⿰巾免、喪之輕服。

【⿰巾旁】9107 バン 幔(4−9050)の俗字。〔正字通〕⿰巾旁、俗幔字。

【⿱苜巾】9108 ベツ 幭(4−9133)に同じ。〔集韻〕幭、或省。〔禮、曲禮下〕鞮屨素⿱苜巾。〔釋文〕⿱苜巾、本又作レ幭。

【幩】9109 ㊀フン ブン 〔集韻〕符分切 文 ㄈㄣ fên^2 ㊁ヒ 〔集韻〕彼義切 寘 ㊂フン ブン 〔集韻〕父吻切 吻

小篆

㊀㊁くつわのかざり。馬のくつわの外鐵にまとひ、風を起して汗をあふぎ、且つ飾としたもの。〔說文〕幩、馬纏レ鑣扇レ汗也、从レ巾賁聲、詩曰、朱幩鑣鑣。〔徐鍇注〕謂下以レ帛纏二馬口旁鐵一、扇レ汗、使上レ不レ汗也。〔詩、衞風、碩人〕朱幩鑣鑣。〔傳〕幩、飾也、人君以レ朱纏レ鑣、扇レ汗、且以爲レ飾。㊂穀物のふくろがみちる。⿰巾奮(4−9141)に同じ。〔集韻〕⿰巾奮、穀囊滿、或从レ賁。

【⿰巾著】9110 チョ ⿰巾宁(4−8837)に同じ。〔玉篇〕⿰巾著、與レ⿰巾宁同。

【⿰巾遂】9111 セイ 〔篇海〕相銳切 霽 濃い赤色。〔篇海〕⿰巾遂、深赤色。

【⿰巾過】9112 クワ 〔川篇〕音過 みそ豆を入れる布。〔川篇〕⿰巾過、鹽豉⿰巾過也。

【〓】9113 リョウ 龍(12−48818)に同じ。〔字彙補〕〓、同レ龍。

【⿰帛彔】9114 リョク 綠(8−27541)に同じ。〔玉篇〕⿰帛彔、同レ綠。

【〓】9115 デン 義未詳。〔五音篇海〕〓、音殿。

【⿰帚帚】9116 シ 義未詳。〔海篇〕⿰帚帚、音賜。

【⿰巾龍】9117 リヨウ 龍(12－48818)に同じ。〔集韻〕龍、或作レ⿰巾龍。

【⿰巾廉】9118 レン ⿰巾兼(4－9016)の譌字。〔中華大字典〕⿰巾廉、⿰巾兼或字。

【⿰巾⿱朿貝】9119 サク 幘(4－9058)の本字。〔正字通〕幘、篆作レ⿰巾⿱朿貝。

十四畫

【⿰巾㥯】9120 イン オン 〔集韻〕於靳切 問

❶まがる。そる。〔廣雅、釋詁四〕⿰巾㥯、韏也。❷つつむ。〔廣雅、釋詁四〕⿰巾㥯、裹也。〔廣韻〕⿰巾㥯、⿰巾㥯裹相著。❸或は⿰衣㥯(10－34666)に作る。〔集韻〕⿰巾㥯、或从レ衣。

【⿰巾疑】9121 ギ 〔玉篇〕魚紀切 紙

ふきん。てぬぐひ。〔玉篇〕⿰巾疑、巾也。

【幪】9122 一 ボウ ム 〔集韻〕謨蓬切 東 ㄇㄥˊ mêng² 二 ボウ ム 〔集韻〕母總切 董 慣モウ

一❶おほひ。ふくさ。〔法言、吾子〕震レ風凌レ雨、然後知三夏屋之爲二帡幪一也。〔注〕帡幪、蓋覆也。❷ひたひあて。冠下。古、刑の輕いものに著けさせて冠を佩びさせなかつた巾。❹を見よ。〔太平御覽、刑法、象刑〕尚書大傳曰、下刑墨幪。〔注〕幪、巾也、使レ不レ得二冠飾一。❸おほふ。〔廣雅、釋詁二〕幪、覆也。〔荀子、正論、墨黥、注〕但以二黑巾一幪二其頭一而已。〔逸周書、太子晉解〕若能幪レ予而復レ之。〔注〕幪、覆也。❹幏(4－9020)に同じ。〔集韻〕幏、說文、蓋衣也、一曰、下刑墨幏。幏、巾也、使二刑者不レ得二冠飾一、或作レ幪。❺蒙(9－31555)に通ず。〔正字通〕幪、別作レ蒙。二茂つて盛なさま。幪幪(2)を見よ。〔集韻〕幪、茂盛皃。

【幪巾】1（モウキン） ひたひあて。古、罪の輕い者に著けさせた巾。字解一の❷を見よ。〔愼子〕有虞氏之誅、以二幪巾一當レ墨、以二草纓一當レ劓、以二菲履一當レ刖、以二艾韠一當レ宮。

【幪幪】2（モウモウ） 茂つて盛なさま。〔廣雅、釋訓〕幪幪、茂也。〔詩、大雅、生民〕禾役穟穟、麻麥幪幪。〔傳〕幪幪然茂盛也。

【⿰巾賓】9123 ヒン 〔集韻〕紕民切 眞

❶みだれるさま。〔玉篇〕⿰巾賓、亂皃。❷衣のやぶれたさま。〔集韻〕⿰巾賓、衣敝皃。

【⿸厂⿰⿱日巾犬】9124 エン 〔字彙〕於檢切 琰

むねあて。〔字彙〕⿸厂⿰⿱日巾犬、厭レ、心甲。

【幫】9125 ハウ 〔集韻〕逋旁切 陽 ㄅㄤ pang¹

❶くつをつくろふ。くつをつくろふ布。〔廣韻〕幫、幫衣、治二鞋履一、出二文字集略一。〔集韻〕幫、治二履邊一也。❷たすける。そへる。〔正字通〕幫、凡事物旁助者、皆曰レ幫。❸くみ。仲間。〔東華錄〕東路巨盜二幫來投。❹幇(4－8999)に同じ。〔正字通〕幫、省作レ幇、義同。❺或は鞤(12－42911)・縍(8－27743)・⿰革旁(12－42964)・⿰旁皮(8－22897)に作る。〔集韻〕幫、或作二鞤・縍・⿰革旁・⿰旁皮一。❻現㋑同鄉商人の團體。又、同業組合。㋺車、又は船の一隊。㋩回。次。㋥ふち。へり。

【幫閒】1（ハウカン） ❶兩者の間をとりもち助ける者。仲介者。〔黃允文雜纂、必不來〕子弟窮後邀二幫閒一。❷酒間をとりもつて遊興をたすける者。たいこもち。亡八官。〔桃花扇、傳歌〕做二這美人的教習一、不レ強レ似レ做二那義子的幫閒一麼。〔元曲、殺狗勸夫〕你兩個幫閒的賊子、好生二無禮一。

【幫夥】2 pang¹ huo³ 手代。番頭。

【幫差】3（ハウサ） 補佐役。〔福惠全書、刑名部、人命上、印官親驗〕令二幫差隨レ後拘到一可也。

【幫手】4 pang¹ shou³ 手傳人。助手。

【幫助】5（ハウジヨ） ❶手傳ふ。手助する。幫辦(20)を見よ。〔淸國行政法汎論、幕友〕招二聘幕友一、使二之幫助一。❷他人の犯行に對して便宜を與へることをいふ。

〖幫助的〗6 pang¹ chu⁴ tê 手傳人。

【幫身】7（ハウシン） たいこもち。〔福惠全書、蒞任部、馭衙役〕類多二幫身白役一。

【幫襯】8 pang¹ ch'ên⁴ とりなす。助ける。傍から助ける。贊助する。〔桃花扇、傳歌〕只求楊老爺極力幫襯、成此好事。

【幫船】9（ハウセン） 數十の船を結んで一隊としたもの。〔六部成語、戶部、幫船、注解〕數十船結爲二一隊一、曰二幫船一。〔福惠全書、庶政部、漕船僉僱〕本幫船共若干隻。

【幫喘】10 pang¹ ch'uan³ 合槌をうつ。

【幫築】11（ハウチク） そひつくる。そひ築く。〔福惠全書、保甲部、建築、柵濠〕須三幫二築土臺一。

【幫賬】12 pang¹ chang⁴ 會計副主任。

【幫豬】13（ハウチヨ） 大きな豕。封豕。〔新方言、釋動物〕今浙江猶下呼二大豬一爲中幫豬上、卽封豕也。

【幫貼】14（ハウテフ） もとのわりつけのほかに添加する。〔福惠全書、郵政部、船夫車驢〕照二本戶所レ派之値一、以幫二貼之一。

【幫帖】15（ハウデフ） 一隊の幫船(9)を領する官票。〔六部成語、戶部、幫帖、注解〕一幫船隻所レ領之官票也。

【幫董】16 pang¹ tung³ 助役。

【幫頭】17 pang¹ t'ou² 苦力頭。

【幫同】18（ハウドウ） 手助する。幫助共同。〔淸會典事例、兵部、官制、黑龍江等處駐防〕道光二十九年議准、黑龍江水師營、添二設委官六名一、覈二計齊齊哈爾・黑龍江・墨爾根城・呼蘭四處水師營差使多寡一、分二派五名一、餘一名作二爲委筆帖式一、隸二於將軍衙門兵司一、以二無品級筆帖式一幫同辦レ事。

【幫忙】19（ハウバウ） 手傳する。手助する。

〖幫忙人〗19′ pang¹ mang² jên² 手傳人。

【幫辦】20（ハウベン） 上官を助けて事務を處理する。次官。助役。〔淸會典、兵部〕駐防、則受二治於將軍都統副都統城守尉防守尉一、而以達二於部一、皆專レ城、各統二其同城駐防官一、以飭二旗務一、凡將軍十有三人、云云、幫辦協領三人。〔六部成語、補遺、幫辦襄辦、注解〕幫辦、幫三助辦二理公事一也、襄、猶レ幫也。

〖幫辦員〗21 pang¹ pan⁴ yüan² 助手。事務員。

【幫理】22 pang¹ li³ 副總裁。

【幫審員】23 pang¹ shên³ yüan² 正式の裁判所の設置されてゐない縣で簡單な訴訟を取扱ふ裁判官。

【幫閑鑽懶】24（ハウカンサンラン） 手助すること。〔西廂記、張君瑞害相思雜劇〕直待下我拄二著拐一幫閑鑽懶、縫二合脣一送レ暖偸上寒。

【⿰巾監】9126 ラン 〔集韻〕盧甘切 覃

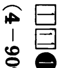
小篆

❶へりのない衣。〔說文〕⿰巾監、楚謂二無レ緣衣一也、从レ巾監聲。❷けおりもの。⿰巾監⿰巾亟。〔方言、二〕⿰巾監⿰巾亟、毳也、

云云、楚曰二𢅥𢄐一。❸襤(10－34674)に同じ。〔正字通〕𢅥、與二衣部襤一通、當レ从レ襤。

【幬】 9127

［一］チウ ヂユ 〔集韻〕陳留切 ㄔㄡˊ ch'ou^2 尤
［二］チユ ヂユ 〔集韻〕重株切 虞
［三］タウ ドウ 〔集韻〕大到切 號
［四］タウ ドウ 〔集韻〕徒刀切 ㄉㄠˋ tao^4 豪


小篆

［一］［二］❶**ひとへのとばり。** もと𢄔(4－9094)に作る。〔正字通〕幬、本作レ𢄔。〔說文〕𢄔、襌帳也、从レ巾𠷎聲。〔潘岳、寡婦賦〕代二羅幬一以二素帷一。〔注〕善曰、易二依帳一以二素幬一。❷**とばり。** たれまく。〔爾雅、釋訓〕幬謂二之帳一。❸**車のこしきを覆ふ革。**〔周禮、考工記、輪人〕欲二其幬之廉一也。〔注〕幬、幔レ轂之革也。❹**かざし。** 翳(9－28799)に通ず。〔說文通訓定聲〕幬、段借爲レ翳。〔後漢書、班固傳上〕撫二鴻幬一。〔注〕幢謂二之幬一。❺**喪車のかざり。**〔正字通〕幬、喪車之飾。❻裯(10－34349)に通ず。〔曹植、贈二白馬王彪一詩〕何必抱二衾幬一。〔注〕毛詩曰、抱二衾與レ裯、鄭玄曰、裯、床帳也、幬與レ裯古字同。❼或は㡍(4－8947)に作る。〔說文通訓定聲〕幬、或又作レ㡍。［三］❶**おほふ。**〔廣雅、釋詁二〕幬、覆也。〔左氏、襄、二十九〕如二天之無一レ不レ幬也。❷或は敦(5－13276)に作り、通じて燾(7－19519)に作る。〔集韻〕幬、或作レ敦、通作レ燾。［四］**車のこしきを覆ふ革。**〔集韻〕幬、幔レ轂革。

【幬尉】 1 チウヰ 網のやうなたれまく。尉は罻で、網をいふ。〔荀子、禮論〕無帾絲歶縷翣、其額以象二菲帷幬尉一也。〔注〕幬、讀爲レ帳、尉、讀爲レ罻、罻、網也、帷帳如レ網也。

【幬菜】 2 チウサイ 幬と菜。幬は車の轂（コシキ）をおほふ革。菜は菑で、軸の轂中に入つてゐる部分をいふ。〔荀子、大略〕乘輿之輪、太山之木也、示二諸檃栝一、三月五月、爲二幬菜敝一而不レ反二其常一。〔注〕幬菜未レ詳、或曰、菜、讀爲レ菑、謂二轂與一レ輻也、言矯二揉直木一爲レ牙、至二於轂輻皆敝一而規曲、不レ反二其初一、所謂二三材不レ失レ職也、周禮考工記曰、望二其轂一欲二其眼一也、進而眡レ之、欲二其幬之廉一也、鄭云、幬、冒レ轂之革也、革急則裏木廉隅見、考工記又曰、察二其菑一蚤不レ齵、則輪雖レ弊不レ匡、鄭云、菑、謂下輻入二轂中一者上、蚤、讀爲レ爪、爪、謂下輻入二牙中一者上也、匡、刺也。

【幬帳】 3 チウチヤウ かや。蚊幮。蚊幬。〔淮南子、道應訓〕偸則夜解二齊將軍之幬帳一而獻レ之。〔南史、孫謙傳〕夏日無二幬帳一、而夜臥未三嘗有二蚊蚋一。

【幬覆】 4 チウフウ おほふ。おほひかぶせる。

【𢅤】 9128 ソウ 搜(5－12481)の古字。〔玉篇〕𢅤、古文搜。

【𢄙】 9129 キ 歸(6－16349)に同じ。〔字彙補〕𢄙、與レ歸同。

【𢅈】 9130 カイ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕𢅈、音蓋。

【𢅹】 9131 キ 𢄙(4－9129)に同じ。〔字彙補〕𢅹、與レ𢄙同。

【𢄪】 9132 キ 歸(6－16349)の略字。

十五畫

【幭】 9133

［一］ベツ メチ 〔集韻〕莫結切 屑
［二］バツ マチ 〔集韻〕勿發切 月

小篆

［一］［二］❶**おほひ。**〔說文〕幭、蓋幭也、从レ巾蔑聲。〔說文通訓定聲〕幭、幭者、覆レ物之巾、覆レ車覆レ衣覆レ體衣具、皆得レ稱レ幭。❷**よぎ。** ねまき。〔說文〕幭、一曰、襌被。❸**車の軾のおほひ。**〔集韻〕幭、一曰、車覆也。〔詩、大雅、韓奕〕鞹鞃淺幭。〔傳〕幭、覆式也。❹**づきん。** はちまき。〔方言、四〕幡帣謂二之幭一。〔注〕卽帊幞也。〔廣雅、釋器〕幭、幞也。❺或は𢄼(4－9108)に作る。〔集韻〕幭、或省。❻幦(4－9100)・幎(10－34491)に通ず。〔詩、大雅、韓奕、疏〕幭、禮記作レ幦、周禮作レ幎、字異而義同。

【幮】 9134 チユ ヂユ 〔集韻〕重株切 ㄔㄨˊ ch'u^2 虞
慣チユウ

❶**とばり。** たれぬの。裯(10－34349)に同じ。〔廣韻〕幮、帳也、似二厨形一、出二陸該字林一。〔集韻〕裯、牀帳、或作レ幮。❷**かや。**〔陸游、芒種後苦レ雨詩〕芒種初過雨及レ時、彩幮睡起角巾欹。

【幯】 9135

［一］セツ セチ 〔集韻〕子結切 屑
［二］サツ サチ 〔集韻〕子末切 曷

［一］［二］**ぬぐふ。** 或は擳(5－12894)に作る。〔玉篇〕幯、拭也。〔集韻〕幯、拭也、或从レ手。

【㡢】 9136 ヒ 〔集韻〕彼義切 寘 **もすそ。** すそ。〔集韻〕㡢、帬也。

【𢅏】 9137 シユク 〔篇海〕子六切 屋 **ふくろ。**〔篇海〕𢅏、韜囊也。

【𢅰】 9138 セイ ゼイ 〔集韻〕旋芮切 霽 **ぬのぎれ。**〔集韻〕𢅰、布巾。

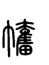
十六畫

【𢅾】 9139 ライ 〔集韻〕洛駭切 蟹 𢅾幓は衣がやぶれる。或は襰(10－34715)に作る。〔集韻〕𢅾、𢅾幓、衣破、或从レ衣。

【𢅼】 9140 セン ゼン 〔集韻〕徐廉切 鹽 ❶**ふきん。** てぬぐひ。〔廣雅、釋器〕𢅼、巾也。〔廣韻〕𢅼、小巾也。❷**おほふ。**〔玉篇〕𢅼、覆也。

【𢆉】 9141

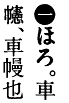
［一］フン ブン 〔集韻〕父吻切 吻
［二］フン 〔集韻〕府吻切 吻
［三］フン ブン 〔集韻〕符問切 問
［四］フツ フチ 〔集韻〕敷勿切 物


小篆 ［一］［二］❶**ふくろにもつた穀物がみちてふくろがさけほころびる。**〔説文〕⿰巾奮、㠯レ囊盛レ穀、大滿而裂也、从レ巾奮聲。❷**弓の筋がはじけ起る。そる。**〔玉篇〕⿰巾奮、又弓筋起。❸或は幩(**4－9109**)に作る。〔集韻〕⿰巾奮、或从レ賁。［三］［四］**ほころびる。**［一］の❶に同じ。〔集韻〕⿰巾奮、囊滿而裂曰レ⿰巾奮。

【⿰巾覞】9142 カク キヤク 〔集韻〕郝格切 陌

⿰巾覞⿰巾虎は赤い紙。〔集韻〕⿰巾覞、⿰巾覞⿰巾虎、赤紙。

【幰】9143 ケン コン 〔集韻〕許偃切 ㄒㄧㄢˇ hsien³ 阮


小篆 ❶**ほろ。**車のとばり。〔説文新附〕幰、車幔也、从レ巾憲聲。〔釋名、釋車〕幰、憲也、所ニ以禦一レ熱也。〔一切經音義、十四〕布帛張ニ車上一爲レ幰也。〔潘岳、藉田賦〕微風生ニ於輕幰一兮。〔注〕善曰、幰、車幰也。❷軒(**10－38187**)に通ず。〔説文新附考〕説文、軒訓ニ曲輈藩車一、据レ此知ニ古通作レ軒、或借作レ憲、後人加ニ巾旁一。❸或は⿰巾干(**4－8786**)に作る。〔集韻〕幰、或从ニ軒省一。

【幰車】1ケンシヤ ほろのある車。〔白居易、和ニ春深一詩〕賓拜登ニ華席一、親迎障ニ幰車一。

【幰弩】2ケンド 儀仗に用ひる弩。外に幔罩を加へるからいふ。〔玉海、車服、鹵簿、東宮鹵簿〕唐親王鹵簿、有ニ幰弩・車輻・絳引・告止・傳教・信幡・金塗・鉤竿・儀鋋・儀鍠・儀矟・細矟・油戟・繖扇・曲蓋・象路・駕四馬一、一品鹵簿、有ニ幰弩・車輻・誕馬・儀刀・戟幡・繖扇・曲蓋・革路・駕四馬一、自ニ二品一至ニ四品一、青衣車輻、毎品減ニ二人一、二品刀楯弓箭戟矟、各減ニ二十一、三品以下、毎品減レ十、二品三品革路、四品五品木路、萬年令亦有ニ清道・幰弩・騎青衣・車輻・誕馬・軺車一馬一。

【⿰巾燾】9144 タウ 幬(**4－9127**)に同じ。〔五音篇海〕⿰巾燾、同レ幬。

【⿰巾篾】9145 ベキ 簚(**8－26496**)に同じ。〔龍龕手鑑〕⿰巾篾、同レ簚。

十七畫

【⿱斂巾】9146 レン 籢(**8－26766**)に同じ。〔集韻〕籢、或作レ⿱斂巾。

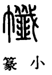
【幱】9147 ラン 〔廣韻〕落干切 寒

衣と裳とを連ねた着物。長い衣服。〔正字通〕幱、衣與レ裳連也。

【⿰巾⿱穴登】9148 タウ チヤウ 〔集韻〕豬孟切 ㄓㄥˋ chêng⁴ 敬

❶**枠にゑぎぬを張る。又、そのゑぎぬ。**〔廣韻〕⿰巾⿱穴登、開ニ張畫繒一也。❷或は幀(**4－8982**)・撜(**5－12984**)に作る。〔集韻〕⿰巾⿱穴登、或作レ幀、亦从レ手。現パノラマ。panorama の釋語。

【⿰巾韱】9149 セン 〔集韻〕千廉切 鹽


小篆 ❶**ぬぐふ。**〔説文〕⿰巾韱、拭也、从レ巾韱聲。❷**しるし。**籤(**8－26769**)に通ず。〔説文通訓定聲〕⿰巾韱、叚借爲レ籤。〔廣韻〕⿰巾韱、幖⿰巾韱記、出ニ字林一。〔集韻〕⿰巾韱、標識也。

【⿰巾龠】9150 ヤク 〔集韻〕弋灼切 藥

まくばり。幕を張つた屋。〔廣韻〕⿰巾龠、幕⿰巾龠屋也、出ニ新字林一。〔集韻〕⿰巾龠、幕屋謂ニ之⿰巾龠一。

十八畫

【⿰巾憂】9151 ナン ⿰巾夒(**4－9152**)の譌字。〔説文通訓定聲〕⿰巾夒、⿰巾夒字當レ从ニ夒聲一、各本誤从レ憂、今依ニ段氏一訂正。

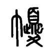
【⿰巾夒】9152

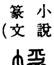
［一］ドン ノン 〔廣韻〕乃昆切 元

［二］ダイ ナイ 〔集韻〕奴回切 灰

［三］ダン ナン 〔集韻〕乃坦切 旱

［四］ダン ナン 〔集韻〕乃旦切 翰


小篆（説文）


小篆（段注本）

［一］［二］［三］［四］❶**ぬる。**〔説文〕⿰巾夒、墀レ地也、㠯レ巾撋レ之、从レ巾夒聲、讀若ニ水溫䰘一。〔段注〕土部曰、墀者涂レ地也、然則墀レ地卽涂レ地也。❷**ふく。**〔集韻〕⿰巾夒、以レ巾拭レ地也。❸**つく。**〔説文〕⿰巾夒、一曰、箸也。

参考 集韻は⿰巾憂(**4－9151**)に作る。

【⿰巾雙】9153 サウ 欆(**6－15919**)に同じ。〔集韻〕欆、或从レ巾。

【⿰巾㶾】9154 ヘウ ❶**しるし。はた。のぼり。**幖(**4－9053**)の本字。〔説文〕⿰巾㶾、⿰巾㶾識也、从レ巾㶾聲。〔廣雅、釋器〕⿰巾㶾、幡也。〔一切經音義、五〕徽號曰レ⿰巾㶾。〔正韻〕⿰巾㶾、立レ木爲レ表、以レ綵繫ニ其上一、謂ニ之⿰巾㶾一。❷**頭じるし。**〔廣韻〕⿰巾㶾、頭上幟。

十九畫

【⿱䜌巾】9155 ラン 〔字彙〕洛官切 寒

おび。〔字彙〕⿱䜌巾、帶也。

【⿰巾羅】9156 ラ 〔集韻〕朗可切 哿

さけたきぬ。やれぎぬ。〔集韻〕⿰巾羅、裂繒。

【⿰巾⿱圓土】9157 エン 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿰巾⿱圓土、音袁。

【⿰巾⿱大林】9158 ブ 幠(**4－9081**)の本字。〔正字通〕幠、篆作レ⿰巾⿱大林。

二十畫

【⿰巾⿱𦣻夊】9159 ナン ⿰巾憂(**4－9151**)の俗字。〔正字通〕⿰巾⿱𦣻夊、俗⿰巾憂字。

【⿰巾夔】9160 ダン ⿰巾憂(**4－9151**)の譌字。〔康熙字典〕⿰巾夔、按、字本作レ⿰巾夒、亦書作レ⿰巾憂、當ニ卽二字傳寫之譌一。

二十一畫

【⿰巾劚】9161 ノウ 義未詳。〔五音篇海〕⿰巾劚、音能。

【〓】9162 ラン

幱(4-9147)に同じ。〔韻會〕〓、今省作レ幱。

【〓】9163 サイ

義未詳。〔字彙補〕〓、此宰切、音彩、與レ〓同。

二十四畫

【〓】9164 ラク

駱(12-44734)に同じ。〔字彙補〕〓、同レ駱。

干部

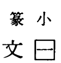
【干】9165

[一]カン 〔集韻〕居寒切 ㄍㄢ kan^{1} 寒

[二]カン ガン 〔集韻〕侯旰切 翰

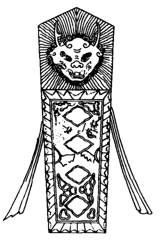
[三]ガン 〔集韻〕魚旰切 翰

[四]ゲン 〔集韻〕魚澗切 諫

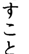


小篆

[一]❶をかす。㋑つきふれる。〔說文〕干、犯也、从レ一从二反入一。〔左氏、文、四〕其敢干二大禮一、以自取レ戾。〔注〕干、犯也。〔楚辭、東方朔、七諫、謬諫〕恐二犯レ忌而干一レ諱。〔注〕干、觸也。㋺もとる。たがふ。〔國語、晉語四〕則上下不レ干。〔注〕干、犯也。㋩しのぐ。分限を超える。〔國語、晉語四〕趙孟使下人以二其乘車一干上レ行。〔注〕干、犯也。㋥みだす。〔淮南子、說林訓〕不レ得二相干一。〔注〕干、亂也。㋭おしてまみえる。〔公羊、定、四〕以干二闔閭一。〔注〕不レ待レ禮見曰レ干。〔穀梁、定、四〕挾レ弓持レ矢而干二闔閭一。〔注〕見不レ以レ禮曰レ干。㋬おしてくはる。〔國語、晉語九〕非二其官一而干レ之。〔注〕干、犯也。㋣おしてすすむ。〔後漢書、皇甫嵩傳〕信都令漢陽閻忠干二說嵩一。〔注〕干、謂二冒進一。❷あづかる。かかはる。〔晉書、王衍傳〕干二預人事一。❸むなしい。〔禮、大傳〕大夫士有二大事一、省二於其君一、干二祫及二其高祖一。〔注〕干、猶レ空也、空祫、謂三無レ廟祫二祭之於壇墠一。❹もとめる。迂(11-38720)に通ず。〔說文通訓定聲〕干、叚借爲レ迂。〔爾雅、釋言〕干、求也。〔書、大禹謨〕罔三違レ道以干二百姓之譽一。〔傳〕干、求也。〔論語、爲政〕子張學レ干レ祿。〔集解〕鄭玄曰、干、求也。〔荀子、議兵〕干レ賞蹈レ利之兵也。〔注〕干、求也。❺ふせぐ。扞(5-11799)に通ず。〔說文通訓定聲〕干、叚借爲レ扞。〔爾雅、釋言〕干、扞也。〔左氏、襄、二十五〕陪臣干掫。〔注〕干掫、行夜。〔服注〕干、扞也。❻たて。盾。戰(5-11597)に通ず。〔說文通訓定聲〕干、叚借爲レ戰。〔小爾雅、廣器〕干、盾也。〔方言、九〕盾自レ關而東、或謂二之干一。〔集韻〕戰、通作レ干。〔詩、大雅、公劉〕干戈戚羽。〔箋〕干、盾也。〔禮、明堂位〕朱干玉戚。〔注〕朱干、赤大盾也。〔禮、儒行〕禮儀以爲二干櫓一。〔注〕干櫓、小楯大楯也。〔公羊、宣、八〕萬者何、干舞也。〔注〕干、謂レ楯也。能爲レ人扞レ難而不レ使レ害レ人、故聖王貴レ之、以爲二武樂一。❼さを。竿(8-25854)に通ず。〔說文通訓定聲〕干、叚借爲レ竿、詩、孑孑干旄、禮記檀弓、寢レ苫枕レ干、按、猶レ梃也、注訓レ盾失レ之。❽きし。岸(4-8009)に通ず。〔說文通訓定聲〕干、叚借爲レ岸。〔詩、魏風、伐檀〕寘二之河之干一兮。〔傳〕干、厓也。〔管子、小問〕昔者吳干戰。〔注〕干、江邊地也。〔史記、春申君傳〕而不レ知二干隧之敗一。〔注〕索隱曰、干、水邊也。❾たに。たにがは。澗(7-18253)に通ず。〔說文通訓定聲〕干、叚借爲レ澗。〔易、漸〕鴻漸二于干一。〔虞注〕小水從レ山流下稱レ干。〔釋文〕干、山閒澗水也。〔詩、小雅、斯干〕秩秩斯干。〔傳〕干、澗也。❿的の名。豻(10-36501)・〓(12-47501)に通ず。〔說文通訓定聲〕干、叚借爲レ豻、實爲レ〓。〔儀禮、大射〕公射二大侯一、大夫射レ參、士射レ干。⓫かわかす。乾(1-204)に通ず。〔說文通訓定聲〕干、叚借爲レ乾。〔釋名、釋飲食〕干飯、飯而暴二乾之一也。〔莊子、田子方〕方將二被髮而干一。〔釋文〕干、本或作レ乾。⓬えと。十干。五行を各〻陰と陽とに分けて之を曆數上に用ひる場合の名。甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸。榦(6-15257)・幹(4-9183)に通ず。〔說文通訓定聲〕干、叚借爲レ榦。〔正字通〕干、古干支之干、必作レ幹。⓭得る。〔小爾雅、廣言〕干、得也。⓮狂ふ。〔太玄經、玄衡〕干、狂也。⓯奸(3-6045)に通ず。〔一切經音義、十三〕干、古作レ奸、同。〔韻會〕干、通作レ奸。⓰杆(6-14449)に通ず。〔爾雅、釋木〕棧木、干木。〔釋文〕干、樊本作レ杆。⓱玕(7-20845)に通ず。〔說文通訓定聲〕干、叚借爲レ玕。〔荀子、王制〕南海則有二羽翮齒革曾青丹干一焉。〔注〕干、當レ爲レ玕。⓲數詞につく助辭。箇。若干。〔字彙〕干、若干、數始二於一一而成二於十一、干字从レ一从レ十、故言二若干一、謂二或如レ一、或如レ十、數未レ定之辭也、又數二竹木一亦曰レ干、猶レ云レ箇也。〔禮、投壺〕某賢二於某一若干純。〔漢書、食貨志下〕百加二若干一。〔注〕師古曰、干、猶レ箇也。⓳國都の外まはりの地。一說に、地名。〔詩、邶風、泉水〕出宿二于干一、飲二餞于言一。〔傳〕干・言、所レ適國郊也。〔箋〕干・言、猶二泲禰一、未レ聞二遠近同異一。〔集傳〕干・言、地名、適レ衞所レ經之地也。⓴國の名。〔淮南子、道應訓〕得二寶劍於干隊一。〔注〕干國、在二今臨淄一、出二寶劍一。㉑姓。〔通志、氏族略、名字未辨〕干、宋大夫干犨之後、陳有二干徵師一、漢有二蜀郡尉干獻一、吳有二軍師干吉一、晉有二將軍干瓚一、望出二滎陽潁川一。〔魏書、官氏志〕魏紇干氏、改爲二干氏一。一云、吳有二干隧之地一、故姓、殆以レ邑爲レ氏。[二]❶ふせぐ。〔集韻〕干、扞也、詩、公侯干城、沈重讀。❷石の名。矸(8-24038)に同じ。〔集韻〕矸、石也、或省。[三][四]えびすの野犬。豻(10-36501)に同じ。〔集韻〕豻、說文、胡地野狗、亦省。



（禮器圖）❻干

解字 指事。一と入の反倒した字形との合字。一は守る所の或る物を表はし、反倒の入は之を上から侵犯することを示す。故に干は上から下にあるものを犯すことを意味し、つきふれる、もとる、たがふ等の義に用ひる。〔說文通訓定聲〕干、犯也、从二反入一从レ一、指事、按、入レ一爲レ干、入レ二爲レ𢆉。▽（金文）象形。先端の二股に分れた武器に象る。

名乘 モト。ホス。

【干羽】カンウ 1 舞者が舞に執るたてと鳥の羽。干はたてで、武舞に執るもの、羽は鳥の羽で、文舞に執るもの。又、其の舞の名。文舞と武舞。干舞と羽舞。舞二干羽一を見よ。〔周禮、春官、樂師〕凡舞有二帗舞一、有二羽舞一、有二皇舞一、有二旄舞一、有二干舞一、有二人舞一。〔注〕羽舞者析羽、干舞者兵舞。〔張

說、封泰山樂章、凱和〕大哉干羽意、長見二風雲在一。

〖舞二干羽一〗2 カンウヲマハス　夏の禹王が干羽の舞を奏し、有苗人種が歸服した故事。干羽を見よ。〔書、大禹謨〕禹拜二昌言一曰、兪、班レ師振旅、帝乃誕敷二文德一、舞二干羽于兩階一、七旬有苗格。〔傳〕干、楯、羽、翳也、皆舞者所レ執、修二闡文教一、舞二文舞于賓主階閒一、抑二武事一。〔疏〕釋言云、干、扞也、孫炎曰、干、楯、自蔽扞也、从レ楯爲二人扞一、通以レ干爲二楯名一、故干爲レ楯、釋言又云、纛翳也、郭璞云、舞者持以自蔽翳也、故明堂位云、朱干玉戚、以舞二大武一、戚、斧也、是武舞執レ斧執レ楯、詩云、左手執レ籥、右手秉レ翟、是文舞執レ籥、故干羽皆舞者所レ執。〔李東陽、奎文閣賦〕方舞二干羽一兮七旬、偏紘二歌兮八垠一。

【干纓】3 カンエイ　明、和州の人。字は應麾。父母に事へて孝を盡くし、鄉人、干孝子と呼んだ。〔尙友錄、五〕。

【干謁】4 カンエツ　謁見を求める。私事を以て求請する。取入らうとする。〔北史、酈道元傳〕好以二榮利一干謁。〔唐書、裴潾傳〕士有レ道者、皆匿レ名滅レ景、無レ求二於世一、豈肯干二謁貴近一、鬻二其伎一哉。

【干越】5 カンエツ　㊀吳と越。干は吳、又、邗・于にも作る。于越（1―252・・8）の㊁を見よ。〔莊子、刻意〕夫有二干越之劍一者、柙而藏レ之。〔釋文〕司馬云、干、吳也、吳越出二善劍一。〔荀子、勸學〕干越夷貉之子、生而同レ聲、長而異レ俗。〔注〕干越、猶レ言二吳越一。〔漢書、貨殖傳序〕戎翟之與二于越一。〔王先謙補注〕王念孫云、于越、本作二干越一、干越者吳越也、荀子勸學篇、干越夷貉之子、楊倞注曰、干越、猶レ言二吳越一、宋本如レ是、近時嘉善謝氏刻本、改レ干爲レ于、又改二楊注吳越一爲二於越一、非レ是、春秋之於越卽是越、而以レ於爲二發聲一、視下此文之干越與二戎翟一對擧者上不レ同、師古注漢書、改レ干爲レ于、而以二春秋之於越一釋レ之、誤矣。㊁亭の名。江西省餘干縣に在る。〔談苑〕饒州餘干縣有二干越亭一、前瞰二琵琶洲一、後枕二思禪寺一、林麓森鬱、千峯競レ秀。〔施肩吾、宿二干越亭一詩〕琵琶洲上人行絕、干越亭中客思多。

【干葉】6 ヒバ　大根の葉を乾したもの。ほしな。

【干掩】7 カンエン　をかしおそふ。掩は不意うちにする意。〔禮、曲禮上〕言不レ聞則不レ入、注〕不三干二掩人之私一也。

【干嘔】8 カンオウ　吐く物がなくて吐氣を催すこと。ゑづく。〔王羲之、問慰諸帖下〕胸中淡悶、干嘔轉劇、食不レ可レ強、疾高難二下治一。〔東觀餘論〕足下各如レ常、亦唐人作、比二初帖一差勝、中云、淡悶干嘔、淡、古淡液之淡、干、古干濕之干、今人以レ淡作レ痰、以レ干作レ乾、非也。

【干崖】9 カンガイ　土司の名。雲南省騰衝縣の西南。大盈江の上流の南岸。もと干賴睒とも渠瀾睒ともいふ。元、鎭西路軍民總管府を置く。明、宣撫司に陞す。土官は刁氏。今、干崖行政委員を置き、雲南省騰越道に屬す。〔讀史方輿紀要、雲南、干崖宣撫司〕漢永昌郡徼外地、其地舊名二干賴睒一、亦曰二渠瀾睒一、白夷居レ之、元中統初内附、至元十三年、置二鎭西路軍民總管府一。〔淸史稿、地理志〕雲南、永昌府、宣撫司五、干岸宣撫司。

【干碍】10 カンガイ　じやまする。干礙に同じ。

【干礙】11 カンガイ　じやまする。さまたげる。障礙。干碍。〔明律、吏律、公式〕干下礙調二撥軍馬一、及供二給邊方一軍需錢糧數目上者、首領官吏典皆杖八十。

【干祫】12 カンカフ　廟が無くて、祭壇に祫祭すること。干は空。〔禮、大傳〕大夫士有二大事一、省二於其君一、干祫及二其高祖一。〔注〕干、猶レ空也、空祫、謂三無レ廟祫二祭之於壇墠一。

【干乾】13 ヒボシ　食がなくて饑ゑ衰へること。絕食。

【干己】14 カンキ　㊀複姓。〔通志、氏族略、以二名氏一爲レ氏〕干己氏、陳大夫干徵師、食二采於己一、因氏焉、漢京兆尹干己衍。㊁kan^1 chi^3　自己に關係した。

【干希】15 kan^1 hsi^1　飯の異名。

【干紀】16 カンキ　規律を犯す。〔孔子家語、五刑解〕有下坐レ干二國之紀一者上、不レ謂三之干二國之紀一、則曰二行事不請一。

【干諱】17 カンキ　忌み隱す所に觸れる。干は觸れる。〔楚辭、東方朔、七諫、謬諫〕恐二犯レ忌而干一レ諱。〔注〕所レ畏爲レ忌、所レ隱爲レ諱、干、觸也。

【干義】18 カンギ　義ををかす。奸義。〔左氏、定、元〕大事奸レ義、必有二大咎一。

【干休】19 カンキウ　手を引く。關係を絕つ。終る。休める。落着く。〔長生殿、絮閣〕楊娘娘必不二干休一。

【干求】20 kan^1 ch'iu^2　求める。賴む。

【干禁】21 kan^1 chin^4　禁令を犯す。

【干戈】22 カンクワ　㊀たてとほこ。轉じて、戰爭道具の總稱。武器。〔書、說命中〕惟干戈省二厥躬一。〔詩、大雅、公劉〕弓矢斯張、干戈戚揚。〔箋〕干、盾也、戈、句矛戟也。〔禮、檀弓下〕能執二干戈一、以衞二社稷一。〔左氏、昭、元〕日尋二干戈一、以相征討。〔論語、季氏〕謀レ動二干戈於邦內一。〔孟子、梁惠王下〕弓矢斯張、干戈戚揚、爰方啓レ行。〔史記、五帝紀〕軒轅乃用二干戈一、以征二不享一。〔天工開物〕凡干戈、名最古、干與レ戈、相連得レ名。㊁たたかひ。戰爭。〔史記、伯夷傳〕伯夷叔齊、叩レ馬而諫曰、父死不レ葬、爰及二干戈一、可レ謂レ孝乎。〔王粲、從軍詩〕身服二干戈事一、豈得二念所一レ私。〔文天祥、過二零丁洋一詩〕辛苦遭逢起二一經一、干戈落落四周星。㊂武舞に執るたてとほこ。轉じて、武舞をいふ。〔禮、文王世子〕春夏學二干戈一、秋冬學二羽籥一。〔注〕干戈、萬舞、象レ武也、用二動作之時一學レ之。〔孫希旦集解〕干戈、武舞、羽籥、文舞也。

【干戈倥偬】23 カンクワコウソウ　戰爭で忙しいこと。倥偬は忙しいさま。〔中村栗園、練二心膽一論〕置二之於干戈倥偬之閒一、而不レ懼。

〖倒二載干戈一〗24 カンクワヲタウサイス　武器をさかしまに載せる。戰爭がやんで、世が泰平になる喩。兵器を車に載せるのに、出征には刃を前に向け、凱旋には後に向けるからいふ。〔禮、樂記〕倒二載干戈一、包レ之以二虎皮一、將帥之士、使レ爲二諸侯一、名レ之曰二建櫜一、然後天下知三武王之不二復用一レ兵也。〔疏〕熊氏云、凡載レ兵之法、皆刃向レ外、今倒載者、刃向レ國、不レ與レ常同、故云二倒載一也。〔新序、善謀下〕殷事已畢、偃レ革爲レ軒、倒二載干戈一、以示三天下不二復用一レ兵。

〖倒二置干戈一〗25 カンクワヲタウチス　武器をさかしまにしておく。太平無事の喩。倒二載干戈一に同じ。〔史記、畱侯世家〕倒二置干戈一、覆以二虎皮一、以示三天下不二復用一レ兵。

〖戢二干戈一櫜二弓矢一〗26 カンクワヲヲサメキユウシヲツツム　戰亂が治まり、干戈弓矢などの武器は庫內に藏められて、天下の太平なことをいふ。〔詩、周頌、時邁〕明昭有周、式序二在位一、載戢二干戈一、載櫜二弓矢一。〔摯虞、太康頌〕弓矢櫜服、干戈戢藏。

〖倒二持干戈一授二人柄一〗27 カンクワヲタウヂシテヒトニヘイヲサヅク　武器をさかしまに持つて、其の柄を人に授ける。權柄を人の用ひるに委して、自ら其の害を被る喩。生殺與奪の權を人に與へる喩。〔漢書、梅福傳〕倒二持泰阿一、授二楚其柄一。〔注〕師古曰、譬下倒二持劍一、而以レ把授中與人上也。〔後漢書、何進傳〕所謂倒二持干戈一、授レ人以レ柄。

【干玃】28 カンクワク　鵲。鳱鵲（12―46659・・2）に同じ。〔抱朴子、讖惑〕干玃識レ往、歸レ終如レ來。

【干係】29 カンケイ　かかりあふ。關係。〔福惠全書、錢穀部、解給〕省二貯レ縣干係一。

【干桂】30 カンケイ　明、順天の人。字は德芳。正德の進士。官は都御史。〔尙友錄、五〕。

【干言】31 カンゲン　山名。河北省堯山縣の西北。〔太平寰宇記〕衞詩、出二宿于干一、飮二餞于言一、是此山也。

【干逜】32 カンゴ　をかしさからふ。干寤。〔廣韻〕逜、干逜。

【干寤】33 カンゴ　をかしさからふ。干逜に同じ〔爾雅、釋言、逜、寤也、注〕相干寤。

【干侯】34 カンコウ　豻の皮を張つた的。干は豻（10―36501）に同じ。侯はまと。〔新書、禮〕歲凶穀不レ登、榭徹二干侯一。〔注〕干侯卽豻侯、榭、與レ序同、所二以習レ射之處。

【干國】35 カンコク　古の吳國。寶劍を產す。〔荀子、勸學、干越、注〕呂氏春秋、荊有二次非一、得二寶劍於干越一、高誘曰、吳邑也。〔淮南子、道應訓〕得二寶劍於干隊一、注〕干國、在二今臨淮一、出二寶劍一。

【干罪】36 kan^1 tsuei^4　罪を負ふ。刑に服する。

【干炸】37 kan^1 cha^2　支那料理法の一つ。油揚げすること。

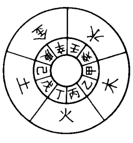
〖干炸丸子〗38 kan^1 cha^2 wan^2 tzŭ　豚肉團子の揚物。

【干山】39 カンザン　山名。江蘇省松江縣の西北、機山の東。干將の劍を鑄た處と傳ふ。又、天馬山ともいふ。〔松江府志〕干山在二城北二十九里機山東一、有レ水紆廻、從橫雲來、經二山下一北去レ郡、諸山之最高大者、以三形如二天馬一、稱爲二天馬山一、或

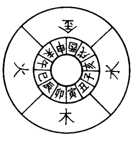
傳、干將曾此鑄㆑劍、又舊圖經云、有㆓干將者㆒居㆑此、圓智寺記亦謂、山後皆干氏所㆑有、故名、山上多㆓琳宮梵宇㆒、春時遊人甚盛、畫船鼓吹、遙從㆓綠野㆒、細水中來、纚纚不㆑絕、嶽嗣之側、有㆓來鶴軒㆒、其西穿㆑堂當㆓小山㆒、石壁若㆓展障㆒、然右瞰㆓泖湖㆒、一白萬頃、山頂有㆓雙石魚㆒、相傳、風雨化去、其脇有㆑泉、遊人掬以頮㆑面、云㆓能明㆑目、有㆓二陸草堂㆒、在㆓圓智寺㆒、爲㆓士衡讀書處㆒、山有㆓雙松臺餐霞館㆒、有㆓浮圖七級㆒、登覽者極㆓江海之觀㆒、故稱㆓干山㆒、爲㆓九峯之甲㆒云。

【干之】40 カンシ 明、王文(**7－20823**··940)の字。

【干支】41 カンシ えと。兄弟の義。十干十二支の略稱。十干は甲(キノエ)・乙(キノト)・丙(ヒノエ)・丁(ヒノト)・戊(ツチノエ)・己(ツチノト)・庚(カノエ)・辛(カノト)・壬(ミヅノエ)・癸(ミヅノト)をいひ、十二支は子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥をいふ。この十干十二支を順次に配合して、甲子・乙丑・丙寅・丁卯等の六十配を得、之を年・月・日等に當てて用ひ、六十回を以て一週とする。干支は木の幹枝の義。天皇氏の創めたもので、黃帝の時、大撓氏始めて天干を地支に配して甲子を作つたと傳へる。更に紀年に用ひるには、別に歲陽・歲陰の諸名目を立てる。例へば、歲が甲子にある時は閼逢・困敦といふ類が是である。爾雅・史記二書の載錄には異同があり、之を表示すれば下表の如くである。〔通鑑外紀〕天皇氏、一姓十二人、繼㆓盤古氏㆒以治、是曰㆓天靈澹泊㆒、無爲而俗自化、始制㆓干支之名㆒、以定㆓歲之所㆒㆑在、十干曰、閼逢・旃蒙・柔兆・強圉・著雍・屠維・上章・重光・元黓・昭陽、十二支曰、困敦・赤奮若・攝提格・單閼・執徐・大荒落・敦牂・協洽・涒灘・作噩・閹茂・大淵獻。〔通鑑外紀〕帝命㆓大撓㆒、探㆓五行之情㆒、占㆓斗剛所㆒㆑建、始作㆓甲子㆒、甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸、謂㆓之幹㆒、子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥、謂㆓之枝㆒、枝幹相配以名㆑日、而定㆑之以納㆑音。〔事物紀原、天地生植部、十二辰〕事始曰、黃帝立㆓子丑十二辰㆒以名㆑月、又以㆓十二名獸㆒屬㆑之。〔協紀辨方書、本原一、干支五行〕天干、則甲乙屬㆑木、丙丁屬㆑火、戊己屬㆑土、庚辛屬㆑金、壬癸屬㆑水、地支、則寅・卯・辰屬㆑木、配㆓東方㆒也、巳・午・未屬㆑火、配㆓南方㆒也、申・酉・戌屬㆑金、配㆓西方㆒也、亥・子・丑屬㆑水、配㆓北方㆒也、而土寄㆓旺於辰・戌・丑・未之間㆒、配㆓四季㆒也、五星家又以㆓寅亥㆒屬㆑火、辰酉屬㆑金、子丑屬㆑土、而午則爲㆑日、未則爲㆑月者、則以㆓子丑在㆒㆑下、故爲㆑土、午未在㆑上、故爲㆑日爲㆑月、寅・卯・辰・巳・申・酉・戌・亥、分㆓布左右㆒、則如㆔四時之流㆓行於天地之間㆒、故以㆓其左右之合宮㆒、而別爲㆓木火土金水之序㆒也。〔陔餘叢考、干支〕顧寧人謂、古人但以㆓干支㆒紀㆑日、其年月時、則別有㆑所㆑紀、按、月令章句、大撓探㆓五行之精㆒、占㆓斗綱所㆒㆑建、乃作㆓甲乙㆒以名㆑日、謂㆓之幹㆒、作㆓子丑㆒以名㆑日、謂㆓之支㆒、支干相配、以成㆓六旬㆒、是干支本以紀㆑日也。



干支五行所屬之圖
(明汪機運氣易覽)



干支五行所屬之圖
(明汪機運氣易覽)

歲陽表

十干／書名	甲	乙	丙	丁	戊	己	庚	辛	壬	癸		
爾雅釋天	閼逢	旃蒙	柔兆	強圉	著雍	屠維	上章	重光	玄黓	昭陽		
史記歷書	焉逢	端蒙	游兆	彊梧	徒維	祝犂	商横	昭陽	横艾	尙章		

歲陰表

十二支／書名	子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥
爾雅釋天	困敦	赤奮若	攝提格	單閼	執徐	大荒落	敦牂	協洽	涒灘	作噩	閹茂	大淵獻
史記歷書	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	淹茂	同

【干絲】42 kan^{1} ssŭ^{1} 食物の名。豆腐を乾して細かに刻んだもの。

【干時】43 カンジ 時を求める。㊀時の宜しきを得んことを求めること。〔管子、小匡〕寡人欲㆔脩㆑政以干㆓時於天下㆒。〔纂詁〕干、求也、干㆓時於天下㆒、謂㆘經㆓營天下㆒、以試㆗得㆓天時㆒與㆖㆑否。㊁時勢に適合せんことを求める。〔蔡邕、陳太丘碑文〕不㆓徼訐以干㆒㆑時、不㆓遷貳以臨㆒㆑下。

【干蔗】44 カンシャ 甘蔗(**7－21643**··79)に同じ。〔南方草木狀〕甘蔗可㆑消㆑酒、又名㆓干蔗㆒。

【干遮】45 カンシャ 古の樂曲の名。史記には于遮に作る。〔漢書、司馬相如傳上〕巴兪宋蔡、淮南干遮。〔注〕師古曰、干遮、曲名也。

【干將】46 カンシャウ ㊀劍の名。干將莫邪を見よ。〔呂覽、當務〕惑而乘㆑驥也、狂而操㆓吳干將㆒也。〔尉繚子、兵令下〕制如㆓干將㆒。〔新語、術事〕利劍非㆓獨干將㆒。〔漢書、司馬相如傳上〕建㆓干將之雄戟㆒。〔後漢書、杜篤傳〕提㆓干將㆒而呵㆓暴秦㆒。〔張衡、東京賦〕紆㆓皇組㆒要㆓干將㆒。㊁複姓。〔路史〕干將善鑄㆑劍、故後以爲㆑氏。〔萬姓統譜〕干將善鑄㆑劍、故以㆓干將㆒得㆑名。

【干將莫邪】47 カンシャウバクヤ 古の二つの名劍の名。干將は吳(一說に楚、又、一說に韓)の刀匠の名、莫邪は其の妻の名で、吳王闔閭のために協力して陰陽二劍を造り、陽の劍を干將、陰を莫邪といふ。莫邪は一に鏌鋣に作る。〔荀子、性惡〕闔閭之干將莫邪、鉅闕辟閭、此皆古之良劍也。〔吳越春秋、闔閭內傳〕請㆓干將㆒鑄㆓作名劍二枚㆒、干將者、吳人也、莫邪、干將之妻也、干將作㆑劍、金鐵之精不㆑銷淪流、於㆑是干將妻、乃斷㆑髮翦㆑爪、投㆓於爐中㆒、金鐵乃濡、遂以成㆑劍、陽曰㆓干將㆒、陰曰㆓莫邪㆒、陽作㆓龜文㆒、陰作㆓漫理㆒、干將匿㆓其陽㆒、出㆓其陰㆒、而獻㆓之闔閭㆒。〔漢書、賈誼傳〕莫邪爲㆑鈍兮、〔注〕應劭曰、莫邪、吳大夫也、作㆓寶劍㆒、因以冠㆑名。〔司馬相如、子虛賦〕建㆓干將之雄戟㆒、〔注〕善曰、張揖曰、干將、韓王劍師也。〔搜神記、十一〕楚干將莫邪、爲㆓楚王㆒作㆑劍、三年乃成、王怒欲㆑殺㆑之、劍有㆓雌雄㆒、其妻重身當㆑產、夫語㆑妻曰、吾爲㆑王作㆑劍、三年乃成、王怒、往必殺㆑我、汝若生㆑子是男、大告㆑之曰、出㆑戶望㆓南山㆒、松生㆓石上㆒、劍在㆓其背㆒、於㆑是卽將㆓雌劍㆒往見㆓楚王㆒、王大怒、使㆑相㆑之、劍有㆑二、一雄一雌、雌來雄不㆑來、王怒卽殺㆑之、莫邪子名㆓赤比㆒、後壯、乃問㆓其母㆒曰、吾父所㆑在、母曰、汝父爲㆓楚王㆒作㆑劍、三年乃成、王怒殺㆑之、去時囑㆑我語、汝子出望㆓南山㆒、松生㆓石上㆒、劍在㆓其背㆒、於㆑是子出㆑戶南望、不㆑見㆑有㆑山、但覩㆓堂前松柱下石砥之上㆒、卽以㆑斧破㆓其背㆒、得㆑劍、日夜思㆑欲㆑報㆓楚王㆒、王夢見㆓一兒眉間廣尺、言㆒㆑欲㆔報㆓讎王㆒、卽購㆓之千金㆒、兒聞㆑之、亡去入㆑山行歌、客有㆓逢者㆒、謂、子年少、何哭之甚悲耶、曰、吾干將莫邪子也、楚王殺㆓吾父㆒、吾欲㆑報㆑之、客曰、聞、王購㆓子頭千金㆒、將㆓子頭與㆒㆑劍來、爲㆑子報㆑之、兒曰、幸甚、卽自刎、兩手捧㆓頭及㆒㆑劍、奉㆑之立僵、客曰、不㆑負㆑子也、於㆑是屍乃仆、客持㆑頭往見㆓楚王㆒、王大喜、客曰、此乃勇士頭也、當㆘於㆓湯鑊㆒煮㆖㆑之、王如㆓其言㆒煮㆑頭、三日三夕不㆑爛、頭踔出㆓湯中㆒、瞋㆑目大怒、客曰、此兒頭不㆑爛、願王自往臨㆓視之㆒、是必爛也、王卽臨㆑之、客以㆑劍擬㆑王、王頭隨墮㆓湯中㆒、客亦自擬㆓己頭㆒、頭復墮㆓湯中㆒、三首俱爛、不㆑可㆓識別㆒、乃分㆓其湯肉㆒葬㆑之、故通名㆓三王墓㆒、今在㆓汝南北宜春縣界㆒。

【干城】48 カンジャウ ㊀たてと城。君主の楯となり城となつて、外を扞ぎ內を衞ること。轉じて、軍人、武士をいふ。〔詩、周南、兔罝〕赳赳武夫、公侯干城。〔疏〕干城者、言㆘以㆓武夫㆒自固、爲㆓扞蔽㆒如㆑盾、爲㆓防守㆒如㆑城然㆖。〔集傳〕干城、皆所㆓以扞㆑外而衞㆑內者。〔左氏、成、十二〕公侯能爲㆓民干城㆒。〔蔡邕、薦㆓皇甫規㆒表〕論㆓其武勞㆒、則漢室之干城。㊁春秋、衞の地。今、河北省濮陽縣の北の干城村。後漢書郡國志及び水經注には竿城に作る。〔詩、邶風、泉水〕出宿㆓于干㆒、飮㆓餞于言㆒。

【干城之將】49 カンジャウノシャウ 楯とも城ともなつて國家の護りとなる大將。〔孔叢子、居衞〕今君處㆓戰國之世㆒、選㆓爪牙之士㆒、而以㆓二卵㆒棄㆓干城之將㆒、此不㆑可㆑使㆑聞㆓於鄰國㆒者也。

【干淨】50 kan^{1} ching^{4} さつぱりする。〔紅樓夢、八回〕大家干淨。

【干殳】51 カンシュ たてとほこ。殳は周尺一丈二尺の無刃のつゑぼこ。〔梁武帝、移㆓京邑㆒檄〕掖庭有㆓禆販之名㆒、姬姜被㆓干殳之服㆒。

【干首】52 カンシュ さをの先。〔詩、鄘風、干旄〕孑孑干旄、〔傳〕注㆓旄於干首㆒、大夫之旃也。

【干珠】53（カンジュ）　神代に彥火火出見尊が、海神の宮で得給うたといふ珠の名。海に漬ければ、潮が涸れるといふ。しほひるに。潮乾瓊。

【干証】54（カンシヨウ カンシヤウ）　かかりあひの證據人。〔福惠全書、刑名部、人命中、檢肉屍〕干証某、屍親某。

【干證】55（カンシヨウ）　裁判事件で其の事件に關係ある證人。〔宋史、刑法志二〕詔二諸鞫獄一、追二到干證人一、無レ罪遣還者、每程給二米一升半、錢十五文一。〔元典章、刑部、告攔〕干證人等、連名狀告。〔六部成語、刑部、干證、注解〕干連作レ證之人也。

【干色】56（カンシヨク）　顏色をかす。相手の顏色にかまはず諫める。〔漢書、敍傳下〕犯レ上干レ色。

【干辛】57（カンシン）　夏の桀王の諛臣の名。〔墨子、所染〕夏桀染二於干辛推哆一。〔呂覽、愼大〕干辛任レ威、凌二轢諸侯一以及二兆民一。〔注〕干辛、桀之諛臣。

【干進】58（カンシン）　仕進を求める。〔楚辭、離騷〕既干進而務レ入兮、又何芳之能祗。〔阮籍、獼猴賦〕性褊淺而干進兮、似二韓非之囚一レ秦。〔張九齡、答二嚴給事一書〕往者不二自量一レ力、因二緣小技一、蹴蹯干進、荏苒歷レ年。

【干隊】59（カンスイ）　戰國の地名。又、其の地から出た劍の名。又、干隧に作る。干越(5)に同じ。〔廣雅、釋器〕干隊、劍也。〔疏證〕呂氏春秋知分篇、得二寶劍于干遂一、高誘注云、干遂、吳邑、淮南子道應訓作二干隊一、秦策作二干隧一、竝字異而義同、楊倞注荀子勸學篇、引二呂氏春秋一作二干越一、越與レ遂、古聲亦相近、莊子刻意篇、有二干越之劍一者、柙而藏レ之、是也。

【干隧】60（カンスイ）　戰國の地名。越王が吳王夫差を擒にしたところ。江蘇省吳縣の西北。〔戰國、楚策〕吳見二伐レ齊之便一、而不レ知二干隧之敗一。

【干世】61（カンセイ）　世に求める。世俗に合せんことを求める。〔拾遺記、四〕張儀蘇秦二人、嘗息二大樹之下一、假息而寐、有二一先生一、問、二子何勤苦也、云云、吾生二於歸谷一、亦云二鬼谷一、云云、教以二干レ世出レ俗之辯一。〔貢奎、詩〕袖中豈無二干世書一、當年曾說黃冠師。

【干旌】62（カンセイ）　雉の羽を析いて竿の上につけた旗。干は竿。干旄。干旍。〔詩、鄘風、干旄〕孑孑干旌、在二浚之城一。〔集傳〕析レ羽爲レ旌、干旌、蓋析二翟羽一、設二於旗干之首一也。

【干旍】63（カンセイ）　干旌に同じ。干は竿、旍は旗。〔魏志、袁紹傳注〕魏氏春秋、載二劉表遺レ譚書一曰、青蠅飛二於干旍一。

【干請】64（カンセイ）　もとめねがふ。ねがひたよる。請託。〔宋史、張商英傳〕商英嘗薦二舒亶可一レ用、至レ是亶知二諫院一、商英以二壻王溈之所一レ業示レ之、亶繳奏以爲三事涉二干請一、責二監赤岸鹽稅一。

【干霄】65（カンセウ）　淸、方國棟(**5－13620**・・522)の字。

【干戚】66（カンセキ）　たてとまさかり。干戚羽旄を見よ。

❶兵器。戰爭道具。〔詩、大雅、公劉〕弓矢斯張、干戈戚揚、爰方啓レ行。〔傳〕戚、斧也。〔箋〕干、盾也。

❷武舞に用ひる具。轉じて、武舞をいふ。〔禮、文王世子〕大樂正學下舞二干戚一、語說、命中乞言上。〔孫希旦集解〕干戚、大武之舞也。〔韓非子、八說〕搢笏干戚、不レ適二有方鐵銛一。〔呂覽、仲夏〕執二干戚戈羽一。

〖干戚舞〗67（カンセキノマヒ）　樂舞の一種。たてとまさかりとを執つて舞ふ舞。武舞。〔禮、樂記〕干戚之舞、非二備樂一也。〔新書、傅職〕干戚戈羽之舞。〔後漢書、崔寔傳〕干戚之舞、足三以解二平城之圍一。

〖干戚羽旄〗68（カンセキウバウ）　武の舞と文の舞。武には干戚を執り、文には羽旄を執る。羽は雉の羽、旄は旄牛の尾。干戚。干羽(1)を見よ。〔禮、樂記〕比レ音而樂レ之、及二干戚羽旄一、謂二之樂一。〔注〕干、盾也、戚、斧也、武舞所レ執也、羽、翟羽也、旄、旄牛尾也、文舞所レ執。

【干潟】69（ヒガタ）　潮のひあがつた潟。斥鹵。〔續古今集、春上〕鹽竈の浦のひかたの曙に。

【干說】70（カンセツ）　をかし說く。をかし進んで說く。〔列女傳、辯通傳〕無鹽之女、干二說齊宣一。〔後漢書、皇甫嵩傳〕信都令漢陽閻忠干二說嵩一。〔注〕干、謂二冒進一。

【干涉】71（カンセフ）　❶さしでて世話する。其の事にあづかる。又、國家又は個人が、自己の意思に從はさせるために、他國又は他人の事務に容喙し、又は其の行動を妨害すること。干預。〔後漢書、東夷、濊傳〕山川各有二部界一、不レ得二妄相干涉一。〔金史、撒離喝傳〕陝西之事、撻不野固不二敢干涉一。

❷物理學用語。二つの光波、又は音波が相重なり、其のために、振幅が大きくなつたり小さくなつたりして、異なる光、又は音を生ずる現象。

【干掫】72（カンソウ）　盜賊をふせぐため、夜間拍子木を打つて警戒すること。轉じて、夜警する者・よまはりをいふ。干は扞、掫は擊。〔左氏、襄、二十五〕陪臣干掫有二淫者一、不レ知二二命一。〔注〕干掫、行夜。〔疏〕說文云、掫、夜戒守有レ所レ擊、從二手取一、夜扞二寇盜一、手有レ所レ擊、故以二干掫一爲二行夜官名一也。

【干澤】73（カンタク）　恩澤を求める。祿を求める。干祿。〔孟子、公孫丑下〕識二其不可一、然且至、則是干レ澤也。〔注〕澤、祿也。〔集注〕干、求也、澤、恩澤也。

【干拓】73′（カンタク）　湖・海の水を排除して耕作地とすること。

【干潮】74（カンテウ）　ひきしほ。しほひ。

【干轉】75 kan^{1} chuan^{3}　くるくるまはる。まごまごする。〔紅樓夢、三十三回〕正在廳上干轉。

【干奴】76（カンド）　後魏、高幹(**12－45313**・・129)の字。

【干特】77（カントク）　淸、星子の人。字は達士。號は存菴。康熙の恩貢生。陸九淵の學を服膺す。著に志道編がある。〔國朝耆獻類徵、四百七〕。

【干瀆】78 kan^{1} tu^{2}　をかしけがす。干黷に同じ。〔紅樓夢、三回〕不敢遽然入都干瀆。

【干黷】79（カントク）　をかしけがす。人に面會を求めるにいふ。〔顏延之、上表自陳〕是以恤二冒愆非一、簡二息干黷一。〔韓愈、上二宰相一書〕干二黷尊嚴一、伏レ地待レ罪。

【干突】80（カントツ）　をかしつく。〔後漢書、吳良傳〕信陽侯陰就干二突禁衞一。〔異苑〕對曰、遺レ生已久、無レ宜二干突一、始悟二是鬼一。

【干貝】81（カンバイ）　❶ほした貝。❷ほした貝柱。

【干寶】82（カンパウ）　晉、新蔡の人。字は令升。博學多才。官は著作郎。位は散騎常侍。著に周易注十卷・周官禮注十二卷・春秋左氏函傳義十五卷・晉紀(晉書本傳には二十卷、隋書經籍志には二十三卷に作る)・搜神記二十卷がある。〔晉書、八十二〕。

〖干寶于寶之誤〗83（カンパウウハウノアヤマリ）　晉の干寶の姓を或は干なりとし、或は于なりとして、互に相排擊すること。〔鶴林玉露、天、于寶〕楊誠齋在二館中一、與二同舍一談、及二晉于寶一、一吏進曰、乃干寶、非レ于也、問二何以知一レ之、吏取二韻書一以呈、干字下注云、晉有二干寶一、誠齋大喜曰、汝乃吾一字之師。

【干冒】84（カンバウ）　をかす。干犯。〔錢珝、熒惑退レ舍宰相請レ復二常膳一表〕伏惟俯徇愚誠、特允レ所レ奏、干二冒旒扆一臣無レ任。

【干旄】85（カンバウ）　❶旄牛の尾を竿上につけた旗。大夫の旗ともいひ、儀仗に用ひるものともいふ。轉じて、貴人が賢者を見るに其の禮容を盛にするにいふ。〔詩、鄘風、干旄〕孑孑干旄、在二浚之郊一。〔集傳〕干旄、以二旄牛尾一、注二於旗干之首一、而建二之車後一也。〔摯虞、太康頌〕飲至數實、干旄無レ虧。〔庾信、代レ人乞二致仕一表〕出擁二干旄一、入參二衡鏡一。❷詩經、鄘風の篇名。衞の文公の臣子が善を好み、民間の賢者が之に善道を告げるを樂しむのをほめた詩。一說に、大夫が禮を盛にして賢者を見る詩ともいふ。〔詩、鄘風、干旄序〕干旄、美レ好レ善也、衞文公臣子多好レ善、賢者樂三告以二善道一也。〔集傳〕言衞大夫乘二此車馬一、建二此旌旄一、以見二賢者一、彼其所レ見之賢者、將何以畀レ之、而答二其禮意之勤一乎。

【干髦】86（カンバウ）　詩經、鄘風の篇名。髦は旄に通ずる。干旄の❷に同じ。〔文中子、周公〕歌二干髦一而遺レ之。〔注〕干髦、衞詩、美二臣子多好一レ善。

【干法】87（カンパフ）　法を犯す。〔漢書、陳湯傳〕湯雖二踰レ義干一レ法、云云、立二功萬里之外一、云云、爲レ國除レ殘。

【干犯】88（カンパン）　をかす。ふれをかす。奸犯。〔後漢書、吳良傳〕倚二恃外戚一、干二犯乘輿一。〔魏志、蘇則傳〕明爲二禁令一、有二干犯者一輒戮。

【干飯】89（カンパン）　かわかした飯。〔釋名、釋飲食〕干飯、飯而暴二乾之一也。〔後漢書、范冉傳〕臨レ命遺令勅二其子一曰、吾生二於昏闇之世一、値二乎淫侈之俗一、生不レ得二匡レ世濟一レ時、死何忍三自同二於世一、氣絕便斂、以二時服一、衣足レ蔽レ形、棺足レ周レ身、斂必便穿、穿必便埋、其明堂之奠、干飯寒水、飲食之物、勿レ有レ所レ下、墳封高下、令レ足二自隱一、知二我心一者、李子堅王子炳也、今皆不レ在、制レ之在レ爾、勿レ令二鄉人宗親有一レ所レ加也。

【干罷】90 kan^{1} pa^{4}　空しくやめる。其の儘にやめて置く。其の分に濟す。默認する。〔水滸傳、六十七回〕怎肯干罷、必然起軍發馬、前來征討。

【干媚】91 カンビ　こびをもとめる。〔張衡、思玄賦〕欲ニ巧笑以干一レ媚兮、非ニ余心之所一レ嘗。〔曹植、九愁賦〕恥ニ干レ媚而求一レ親。

【干舞】92 カンブ　舞の名。たてを執つて舞ふ武の舞。武舞。兵舞。〔周禮、春官、樂師〕凡舞有ニ帗舞一、有ニ羽舞一、有ニ皇舞一、有ニ施舞一、有ニ干舞一、有ニ人舞一。〔注〕鄭司農云、干舞者、兵舞。〔疏〕干戈、兵事所レ用、故以ニ干舞一爲ニ兵舞一。〔公羊、宣、八〕萬者何、干舞也。

【干儛】93 カンブ　舞の名。干舞に同じ。儛は舞。〔山海經、中山經〕其祠用ニ稌黑犧、大牢之具、糵釀、干儛一。〔注〕干儛、萬舞、干、楯也。

【干物】94 ヒモノ　鹽に漬けてほした魚。乾物。

【干鳳】95 カンポウ　明、新淦の人。字は文瑞。官は弘治中、高淳教諭。〔萬姓統譜〕。

【干木】96 カンボク　❶たふれた木。又、杆木に作る。〔爾雅、釋木〕棧木、干木。〔注〕殭木也、江東呼ニ木觡一。〔釋文〕干、樊本作レ杆。❷人名。段干木をいふ。段干木(**6－16619**‥8)を見よ。〔庾信、擬連珠〕干木爲レ臣、天下無ニ西河之戰一。❸段姓の人をいふ。段干木から出たもの。〔齊東野語〕唐書世系表敍云、李耳字伯陽、一字聃、其後有ニ李宗者一、魏封ニ於段一、爲ニ干木大夫一。

【干木富義】97 カンボクフギ　蒙求の標題。段干木が義に富むことを述べる。魏の文侯が段干木の閒居してゐる閭を過ぎ、これに軾して、「干木は德に光り、寡人は勢に光る。彼は義に富み、吾は財に富む。然れども勢は德に及ばず、財は義に若かず。ああ干木は彼の德と寡人の勢とを易ふるを肯ぜざるならん。」と歎息した故事。〔淮南子、脩務訓〕段干木辭レ祿而處レ家、魏文侯過ニ其閭一而軾レ之、其僕曰、君何爲レ軾、文侯曰、段干木在、是以軾、其僕曰、段干木布衣之士、君軾ニ其閭一、不ニ已甚一乎、文侯曰、段干木不レ趍ニ勢利一、懷ニ君子之道一、隱ニ處窮巷一、聲施ニ千里一、寡人敢勿レ軾乎、段干木光ニ于德一、寡人光ニ于勢一、段干木富ニ于義一、寡人富ニ于財一、勢不レ若ニ德尊一、財不レ若ニ義高一、干木雖三以レ己易ニ寡人一、不レ爲、吾日悠悠、慙ニ于影一、子何以輕レ之哉。

【干木老人】98 カンボクラウジン　明、陳煌圖(**11－41698**‥769)の號。

【干滿】99 カンマン　海のしほのさしひき。干潮と滿潮。滿干。〔鵜祭〕干滿、兩顆の名珠を海底に沈め。

【干漫】100 カンマン　貝殼で編んだ腰の飾。古、于陁利國で用ひたもの。都縵。〔梁書、諸夷、林邑國傳〕男女皆以ニ横幅吉貝一、繞ニ腰以下一、謂ニ之干漫一、亦曰ニ都縵一。

【干名】101 カンメイ　名を求める。榮名をもとめる。干レ名采レ譽(**2－3297**‥323)を見よ。〔逸周書、寶典解〕七比レ譽干レ讓、八阿レ衆干レ名。〔漢書、終軍傳〕矯ニ作威福一、以從ニ民望一、干レ名采レ譽、此明聖所ニ必加一レ誅也。

【干名犯義】102 カンメイハンギ　名ををかし義ををかす。名分を棄て、恩義に背く。子が父母を告訴し、孫が祖父母を告訴し、妻妾が夫及び夫の父母等を告訴する類。〔明律、刑律、訴訟、干名犯義〕凡子孫告ニ祖父母父母一、妻妾告ニ夫及夫之祖父母一者、杖一百、徒三年、但誣告者絞、若告ニ期親尊長、外祖父母一、雖レ得レ實、杖一百、大功杖九十、小功杖八十、緦麻杖七十。〔六部成語、吏部、干名犯義、注解〕爲レ官之人辦レ事、若得ニ罪於名教一、干ニ犯於公義一、皆國法所レ不レ容。

【干命】103 カンメイ　命を犯す。軍令を犯す。奸命。

【干揚】104 カンヤウ　たてを擧げて舞ふ武の舞。干舞(92)に同じ。〔禮、樂記〕樂者、非レ謂ニ黃鐘・大呂・弦歌・干揚一也。〔疏〕皇氏云、揚、擧也、干揚、擧レ干以舞也。

【干預】105 カンヨ　❶あづかる。干涉する。干與。干豫。〔晉書、王衍傳〕衍妻郭氏、賈后之親、藉ニ中宮之勢一、剛愎貪戾、聚斂無レ厭、好干ニ預人事一。〔隋書、五行志上〕穆后母子淫僻、干ニ預朝政一。❷かかりあふ。牽涉。〔朱子全書、學、爲學之方〕大抵爲レ己之學、於ニ他人一無ニ一豪干預一。

【干與】106 カンヨ　あづかる。關係する。干預。干豫。〔漢書、高帝紀下、萬民與苦甚、注〕如淳曰、與音干與之與。〔吳志、孫奮傳〕不レ得三臨レ民干ニ與政事一。

【干豫】107 カンヨ　干預する。干涉する。事にあづかる。干與。干預。〔魏志、楊俊傳、注〕有レ詔百官不レ得三干ニ豫郡縣一。〔晉書、簡文三子、會稽文孝王道子傳〕捕賊千秋、干ニ豫朝政一。〔世說新語、規箴〕聚斂無レ厭、干ニ豫人事一。

【干旟】108 カンヨ　隼を畫いて竿の上につけた旗。州長の屬の建てるもの。貴人が賢者を見るに、其の威儀を盛にして相手を禮遇するにいふ。〔詩、鄘風、干旄〕孑孑干旟、在ニ浚之都一。〔傳〕鳥隼曰レ旟。〔箋〕周禮、州里建レ旟、謂ニ州長之屬一。

【干譽】109 カンヨ　名譽を求める。干名。〔宋史、鄧潤甫傳〕論レ卹ニ民力一、則疑ニ其違レ道干一レ譽、論レ補ニ法度一、則疑三其同ニ乎流俗一。

【干亂】110 カンラン　をかしみだす。〔後漢書、宦者、侯覽傳〕交ニ通賓客一、干ニ亂郡國一。〔歐陽脩、論ニ議濮安懿王典禮一劄子〕不レ可三干ニ亂統紀一。

【干闌】111 カンラン　樹上に作つた住居。南方蠻族の習俗。又、干欄に作る。〔梁書、諸夷、海南諸林邑國傳〕其國俗居處爲レ閣、名曰ニ干闌一、門戶皆北向。〔北史、蠻獠傳〕依レ樹積レ木、以居ニ其上一、名曰ニ干闌一、干闌大小、隨ニ其家口之數一。

【干欄】112 カンラン　樹上に作つた住居。干闌に同じ。〔唐書、南蠻傳〕南平獠、東距ニ智州一、戶四千餘、多ニ瘴癘一、山有ニ毒草沙虱蝮蛇一、俗喜ニ人樓居一、謂爲ニ干欄一。

【干類】113 カンルイ　複姓。〔路史〕青陽取ニ干類氏一、生ニ少昊一、後有ニ干氏類氏一。

【干連】114 カンレン　かかりあふ。まきぞへになる。〔福惠全書、刑名部、人命上、總論〕兇首干連、羣鎖至レ縣、立刻收レ監。

【干鹵】115 カンロ　たて。鹵は櫓。干櫓。〔左思、吳都賦〕干鹵殳鋋、暘夷勃盧之旅。〔注〕劉曰、干鹵皆楯也。

【干櫓】116 カンロ　小さい楯と大きい楯。たて。干鹵。〔禮、儒行〕儒有ニ忠信一以爲ニ甲冑一、禮義以爲ニ干櫓一。〔注〕干櫓、小楯大楯也。〔六韜、龍韜、農器〕其甲冑干櫓也。〔吳志、賀齊傳〕干櫓戈矛、葩瓜文畫。

【干弄】117 カンロウ　をかしもてあそぶ。〔吳志、賀邵傳〕干ニ弄朝威一、盜ニ竊榮利一。

【干祿】118 カンロク　祿を求める。❶俸祿を求める。仕官を望む。祿は俸祿。〔論語、爲政〕子張學レ干レ祿。〔集注〕干、求也、祿、仕者之奉也。〔劉寶楠正義〕周官大宰注、祿、若ニ今月俸一也。〔謝靈運、富春渚詩〕久露ニ干レ祿請一、始果ニ遠遊諾一。❷天のたすけを望む。天佑を求める。祿は天祿、天のさいはひ。〔詩、大雅、旱麓〕豈弟君子、干レ祿豈弟。〔傳〕干、求也、言、陰陽和、山藪殖、故君子得ニ以干一レ祿樂易一。〔箋〕故其求レ祿亦得ニ樂易一。〔疏〕故求レ福亦得ニ樂易一。〔詩、大雅、假樂〕干レ祿百福、子孫千億。

【干祿字書】119 カンロクジショ　書名。一卷。唐、顏玄孫撰。受驗者のために作つた字書。韻に由つて字を排列し、字每に正字俗字通用字の三體に分けて說明したもの。〔四庫提要、經、小學類〕。

【揔レ干】120 タテヲトル　手に楯をとる。〔禮、樂記〕冕而揔レ干。〔疏〕冕而揔レ干者、謂下天子親自着レ冕、手持ニ干盾一而親舞上也。

【枕レ干】121 タテヲマクラトス　たてをまくらとする。父母の仇を報ずる者の苦心する喩。〔禮、檀弓上〕寢レ苫枕レ干、不レ仕、弗三與共ニ天下一也。〔注〕干、盾也。

【干孝子】122 カンカウシ　明、干纓(3)をいふ。

【干地亞】123 カンチア　島の名。エーゲ海の入口を扼する細長い山岳性の島。クリート島。クレタ島ともいふ。Candia の音譯。

【干文傳】124 カンブンデン　元、平江の人。字は壽道。號は止齋。延祐の進士。至正中、宋史の纂脩に預かる。官は禮部尚書。著に仁里漫稿がある。〔元史、一百八十五〕。

【干鼈煞】125 カンベツサツ　面白味の無い奴。人を罵る言葉。〔還魂記、索元〕中ニ了狀元一干鼈煞。

【干雲蔽日】126 カンウンヘイジツ　雲ををかし日を蔽ふ。大木の形容。〔後漢書、丁鴻傳〕干雲蔽日之木、起ニ於葱青一。

【干卿何事】127 kan^1 ch'ing^1 hê^2 shih^4　君と何の關係あらんや。君とは何の關係もない。干レ卿何事(**2－2879**‥33)を見よ。

【干卿甚事】128 kan^1 ch'ing^1 shên^2 shih^4　干卿何事に同じ。

【干卿底事】129 kan^1 ch'ing^1 ti^3 shih^4　干卿何事に同じ。

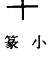
【干鼓肚子】130 kan^1 ku^3 tu^4 tzŭ　怒る。

【干隔澇漢子】131 kan^1 kê^2 lao^4 han^4 tzŭ　日蔭者。〔水滸傳、二回〕招納四方干隔澇漢子。

【不レ可二干以レ私】132（ヲカスニワタクシヲモツテスベカラズ）　私事で上にをかし求めることをしてはならない。〔漢書、尹翁歸傳〕定國乃謂二邑子一曰、此賢將汝不レ任レ事也、又不レ可二干以レ私。

二畫

【羊】9166　ジン　ニン　〔集韻〕忍甚切　寢


小篆

つきをかす。〔說文〕羊、撖也、从レ干、入レ一爲レ干、入レ二爲レ羊、讀若レ飪、言二稍甚一也。

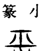
解字　會意。反倒の入と二との合字。反倒の入が、一つの物ををかすを干といふに對し、羊は反倒の入が二つの物を犯すこと。故に犯すことの、稍〻甚しきを示し、干よりも意味が重い。〔說文通訓定聲〕羊、撖也、从レ二从二倒入一、入レ一爲レ干、入レ二爲レ羊、會意兼二指事一。

【平】9167

一　ヘイ　ビャウ　〔集韻〕蒲兵切　庚　ㄆㄧㄥˊ　p'ing^2

二　ヘン　ベン　〔集韻〕毗連切　先

三　ヘイ　ビャウ　〔集韻〕皮命切　敬


小篆

古文

一❶**たひらか**。㋑ことばのおだやかなこと。もと𢀖に作る。〔正字通〕平、篆作レ𢀖。〔說文〕𢀖、語平舒也、从二亏八一、八、分也、爰禮說。〔段注〕引申爲二凡安舒之稱一。㋺やすらか。おだやか。無事。〔大學〕國治而后天下平。㋩正しい。直い。〔禮、射義〕必平禮正、持二弓矢一審固。〔國語、越語下〕細大不レ踰曰レ平。〔新書、道術〕據レ當不レ傾、謂二之平一。㋥しづか。〔鬼谷子、摩篇〕平者靜也。㋭ひとしい。〔詩、小雅、伐木〕終和且平。〔箋〕平、齊等也。㋬ととのふ。〔素問、調經論〕神氣乃平。〔注〕平、謂二平調一也。㋣やはらぐ。おだやかになる。〔呂覽、貴公〕公則天下平矣。〔注〕平、和也。〔呂覽、大樂〕歡欣生二於平一。〔注〕平、和。㋠なる。〔左氏、文、十八〕地平天成。〔注〕平、亦成也。㋷治まる。土地山川がさだまる。〔書、大禹謨〕地平天成。〔傳〕水土治曰レ平。〔詩、王風、黍離〕原隰既平。〔傳〕土治曰レ平。㋦なれる。高低がない。〔爾雅、釋地〕廣平曰レ原、高平曰レ陸。〔墨子、經、上〕平、同高也。❷**たひらにする**。㋑ただす。〔國語、鄭語〕平二八索一以成レ人。〔注〕平、正也。㋺治める。〔公羊、隱、元〕公將三平レ國而反二之桓一。〔注〕平、治也。㋩ひとしくする。〔書、堯典〕平二秩東作一。〔傳〕平、均也。〔史記、樂書〕將三以教レ民平二好惡一。〔注〕正義曰、平、均也。㋥そろへる。〔周禮、地官、遂師〕平二野民一。〔注〕平、謂レ正二其行列部伍一也。㋭きめる。さだめる。〔後漢書、朱浮傳〕是爲三尙書之平決二於百石之吏一。〔注〕平、謂二平決一也。〔後漢書、張酺傳〕宜下下二理官一與二天下一平上レ之。〔注〕平レ之、謂三平二論其罪一也。㋬ならす。くづす。❸**たひらぐ**。〔宋書、世祖紀〕平レ嶽盪レ海。㋑はらふ。征伐する。〔淮南子、氾論訓〕平二夷狄之亂一。〔注〕平、除レ之也。㋺なかなほりをする。和睦する。〔春秋、隱、六〕鄭人來渝平。〔杜注〕和而不レ盟曰レ平。〔疏〕平、實解レ怨和好之辭。〔左氏、僖、十二〕齊侯使三管夷吾平二戎於王一。〔注〕平、和也。〔史記、孔子世家〕及レ齊平。〔注〕索隱曰、平、成也。❹**たひらにくばる**。〔方言、七〕平均、賦也、燕之北鄙、東齊北郊、凡相賦斂、謂二之平均一。〔廣雅、釋言〕平、賦也。❺**たひらにしく**。〔荀子、王制〕平二室律一。〔注〕平、均布也。❻**たひら**。㋑平原。〔韓愈・孟郊、城南聯句〕沙篆印二迴平一。〔高適、田家春望詩〕春色滿二平蕪一。㋺建除家で吉凶によつて附した日の名。月建（ヲザス）の前三辰に居る。建除十二神(**4－9574··11**)を見よ。〔淮南子、天文訓〕巳爲レ平。❼**標準**。めやす。〔史記、張釋之傳〕廷尉天下之平也。❽**つね**。㋑なみ。〔後漢書、班超傳〕任尙曰、我以、班君當レ有二奇策一、今所レ言、平平耳。〔朱熹、齋居感興詩序〕思致平凡。㋺ひごろ。〔論語、憲問〕久要不レ忘二平生之言一。❾**たやすい**。〔爾雅、釋詁〕平、易也。❿**公平**。わたくしない。かたておちせぬ。〔墨子、經、上〕平、知無二欲惡一也。〔荀子、致士〕衡聽二顯幽一。〔注〕平、謂レ不二偏聽一也。〔史記、倉公傳〕妾父爲レ吏、齊中稱二其廉平一。⓫**ただしくあたる**。〔溫庭筠、吳苑行〕平春遠綠窻中飛。〔蘇舜欽、丙子仲冬柴閣寺聯句〕日光平午見。⓬**十八年耕作して六年の食を積儲すること**。〔漢書、食貨志上〕三考黜陟、餘二三年食一、進レ業曰レ登、再登曰レ平、餘二六年食一、三登曰二泰平一。⓭**つかふ**。抨(**5－12236**)の古字。〔集韻〕抨、使也、古作レ平。⓮**ひやう**。文字の四聲(平・上・去・入)の一つ。〔沈約、四聲譜〕平聲、分二上平下平一。⓯**文字の韻の二大別の一**。平仄。〔字彙、凡例〕平仄之序、非レ所レ論矣。⓰**諡**。〔逸周書、諡法解〕布レ綱治レ紀曰レ平、治而無レ眚曰レ平、執レ事有レ制曰レ平、惠無二內德一曰レ平。⓱古は𢀖(**7－19674**)・𠀭(**1－57**)に作る。〔集韻〕平、古作レ𢀖。〔康熙字典〕平、古文𠀭。⓲**姓**。〔通志、氏族略、以レ邑爲レ氏〕平氏、姬姓、韓哀侯少子婼、食二采平邑一、因以爲レ氏。

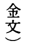
二❶**わける**。辨(**10－38657**)に通ず。〔書、堯典〕平二章百姓一。〔尙書撰異〕史記索隱云、便章、古文尙書作レ平、今文作レ辨、云云、古便・平・辨・辯四字通用。❷**わかち治める**。**又、其のさま**。〔集韻〕平、平平、辨治也。

三**物價を平定する**。**標準價をきめる**。又、其の標準價。〔集韻〕平、平二物賈一也。〔法言、學行〕一鬨之市、必立二之平一。

邦❶**ひら**。**ひらに**。ひたすら。❷**たひら**。㋑あぐらをかく。㋺姓氏。

名乘　サネ。タカ。ヨシ。トシ。ナリ。ヒラ。モチ。

解字　會意。もと𢀖に作る。八と亏との合字。亏は于の字。气の平らかに舒びること、更に八を加へてその气の分散して滯りのないことを意味する。故に本義を言葉のおだやかなこととし、轉じて、廣く平らか、又、無事の意に用ひる。一說に、指事、兮と一との合字。兮は气がとどまつてまたのびる義の字で、一を以てその气の平らかなことを指事するといふ。本義同じ。〔說文通訓定聲〕平、語平舒也、从レ亏从レ八、八、分也、按據レ字、當二从レ兮从レ一指事一、一者、其气平也。▽


（金文）象形。水面に浮く水草に象るといひ、平らの意を表はす。

【平阿】1（ヘイア）　❶山名。安徽省懷遠縣の西南。俗に誤つて平峩といふ。〔魏書、地形志中〕汴郡蕭有二平阿山一。❷縣名。㋑漢、置く。今、安徽省懷遠縣の西南。平阿集は其の故城。〔讀史方輿紀要、江南、鳳陽府、懷遠縣〕平阿城、縣北三十里、戰國時齊邑、魏惠正三十五年、與二齊宣王一、會二於平阿南一、後屬レ楚、漢置二平阿縣一屬二沛郡一。㋺後魏、置く。今、安徽省天長縣と江蘇省高郵縣との界。〔讀史方輿紀要、江南、鳳陽府、懷遠縣〕梁時復置二平阿一、在二今高郵天長界一。

【平靄】2（ヘイアイ） たひらかなもや。〔楊愼、夏日登二昆盧閣一詩〕斜景斂二平靄一、飛雨灑二高雯一。

【平惡】3（ヘイアク） 惡を平げる。惡者を平げしづめる。〔後漢書、馬援傳〕詩云、取二彼譖人一、投二畀豺虎一、豺虎不レ食、投二畀有北一、有北不レ受、投二畀有昊一、此言レ欲レ令三上天而平二其惡一。

【平壓】4（ヘイアツ） 一面に上からおさへつける。〔蔡襄、和三偶登二安濟亭一詩〕春水倒行潮欲レ上、晩雲平壓日先低。〔戴昺、秋日獨倚二東樓一詩〕野水倒涵天影動、海雲平壓雁行低。

【平安】5（ヘイアン） ❶たひらかでやすらか。おだやか。太平。無事。安穩。〔韓非子、解老〕人無二愚智一、莫レ不レ有二趨舍一、恬淡平安、莫レ不レ知三禍福之所二由來一。〔白虎通、封公侯〕以二尙書一封二康叔一、據二平安一也。〔岑參、逢二入京使一詩〕馬上相逢無二紙筆一、憑レ君傳語報二平安一。〔名臣言行錄〕胡安定讀二書泰山一、十年不レ歸、得二家書一、見二平安二字一、卽投二澗中一、不二復展讀一。〔書言故事、書翰類〕僭寄二平安之問一。❷縣名。㋑漢、置く。侯國。故城は山東省桓臺縣の東北。〔漢書、地理志上〕千乘郡、縣十五、平安。㋺漢、置く。故治は江蘇省寶應縣の西南。〔漢書、地理志下〕廣陵國、縣四、平安。❸明の人。定の子。少字は保兒。太祖の養子。官は都督僉事。建文の初、燕を伐つて、執へられ、燕王は北平都指揮使とした。永樂の閒、自殺す。〔明史、一百四十四〕・〔萬斯同明史、一百八十四〕・〔明史稿、一百三十五〕。❹京都の舊稱。平安京を見よ。❺（アベカ） 淡路國の地名。

【平安京】6（ヘイアンキャウ） 京都の舊稱。桓武天皇の延曆十三年、山城國葛野郡宇田村に遷つて都とされた地。北部の中央に大內裏、南の正面に羅城門があり、大內裏から羅城門に至る大路を朱雀大路といひ、この路から東を左京、西を右京といふ。左京に左京職、右京に右京職を置いて、京都の一切の政を掌る。又、東を洛陽といひ、西を長安、又は西の京といふ。後、西の京は亡んで洛陽のみとなり、華洛・洛中などと呼ばれた。〔帝王編年記、十二〕延曆十二年正月十五日、始造二平安城一。〔和漢三才圖會、地部、山城國〕桓武天皇、遷二都於葛野一、詔曰、此國山河襟帶、自然作レ城、因改二山背一爲二山城一、俗號曰二平安京一。

【平安火】7（ヘイアンクワ） 唐代、三十里每に一堠を置き、毎日初夜に烽火を擧げて無事を報じ、之を平安火と稱した。又、捷を報ずる烽火をいふ。〔資治通鑑、唐紀〕（肅宗、至德元載）翰麾下來告レ急、上不二時召見一、云云、及レ暮、平安火不レ至、上始懼。〔元稹、遣行詩〕迎候人應レ少、平安火莫レ驚。〔事物異名錄、禮制、擧烽〕山堂肆考、報レ捷之烽火曰二平安火一。

【平安館】8（ヘイアンクワン） 字號。❶清、葉志詵（**9－31387**‥198）の室名。❷清、馮文昌（**12－44579**‥282）の室名。

【平安險】9 p'ing^{2} an^{1} hsien^{3} 水上保險の一種。水上保險（**6－17083**‥405）を見よ。

【平安字】10（ヘイアンノジ） 無事を知らせる手紙。平安信。〔范梈、福州雜詩〕家人定得二平安字一、最念凝兒不二解看一。〔成廷珪、送三人至二武林一詩〕君家若有二平安字一、寄在二春風第幾樓一。

【平安城】11（ヘイアンジャウ） ❶城の名。河北省遵化縣の西南。〔讀史方輿紀要、直隸、順天府、薊州、遵化縣、鹽城〕平安城、在二縣西南五十里一、周五里、舊傳、唐太宗征レ遼遘レ疾、經レ此旋愈、因名。❷平安京に同じ。

【平安信】12（ヘイアンシン） 無事を知らせる手紙。平安字に同じ。安信。〔酉陽雜俎、廣動植、羽篇〕大理丞鄭復禮言、波斯船上多養レ鴿、鴿能飛行數千里、輒放二一隻一至レ家、以爲二平安信一。

【平安道】13（ヘイアンダウ） 朝鮮の西北部。北は鴨綠江に至り、西は黃海に臨み、南北の二道に分れる。〔讀史方輿紀要、山東、外國附考、朝鮮〕平安道、治平壤府、朝鮮西京也。

【平安朝】14（ヘイアンテウ） 平安時代。延曆十三年、桓武天皇が平安卽ち京都に遷都し給うてから建久三年、賴朝が鎌倉幕府を開くまで、凡そ三百九十八年閒をいふ。

【平安浦】15（アベカウラ） 淡路國の地名。

【平安墨】16（ヘイアンズミ） 墨の名。昔、京都で製したもの。〔本朝畫史、五、附錄、墨〕平安墨、墨面題二銘上卅年號一、或有二菊桐之紋一、所レ遺稀、且烟氣已去、然其色潤美觀。

【平安悔稿】17（ヘイアンクワイカウ） 書名。十二卷。宋、項安世撰。凡て一千二百八十五首の詩を載せ、其の卷六以下は、慶元丙辰、江陵に謫居されて以後の作。〔四庫未收書目提要、三〕。

【平安剃刀】18 p'ing^{2} an^{1} t'i^{4} tao^{1} 安全か「みそり。

【平安無事】19（ヘイアンブジ） おだやかで何事も無いこと。〔福惠全書、庶政部、漕船催儹〕往返之閒、平安無事、亦地方官之幸也。

【平安卽是福】20 p'ing^{2} an^{1} chi^{2} shih^{1} fu^{2} 平安無事が卽ち幸福である。おだやかで何事もないのが幸福である。

【平安兩字金】21 p'ing^{2} an^{1} liang^{3} tzŭ^{4} chin^{1} 平安の二字は千金に値する。

【平晏】22（ヘイアン） 漢の人。當の子。明經を以て大司徒となる。封は防鄕侯。〔前漢書、七十一〕。

【平菴】23（ヘイアン） 字號。❶明、林欲楫（**6－14551**‥443）の字。❷清、黃世成（**12－47926**‥1178）の號。❸柳川順剛の號。柳川震澤（**6－14662**‥302）を見よ。

【平夷】24（ヘイイ） ❶平か。又、平かにする。平安。〔韓非子、外儲說左下〕有レ難則以備二不虞一、平夷則以給二朝事一。〔淮南子、原道訓〕和二弱其氣一、平二夷其形一。〔枚乘、七發〕覆二虧丘陵一、平二夷西畔一。〔注〕向曰、平夷、滿溢也。〔班固、東都賦〕平夷洞達。〔伯顏、過二梅嶺岡一留題詩〕馬首經二從庾嶺一回、王師到處悉平夷。❷縣名。㋑漢、置く。又、平彝に作る。平彝（32）を見よ。〔漢書、地理志上〕牂牁郡、縣十七、平夷。㋺唐、置く。故治は貴州省盤縣の西。〔讀史方輿紀要、貴州、安順軍民府、普安州〕平夷廢縣、在二州西百二十里一。卽今雲南平夷衞。㋩北周、置く。今、山西省中陽縣治。〔讀史方輿紀要、汾州府、永寧州、甯鄕縣〕後周析置二平夷縣一、屬二離石郡一。

【平易】25（ヘイイ） ❶たやすい。てがる。容易。〔管子、霸言〕其立レ之也以二整齊一、其理レ之也以二平易一。❷平らかにする。〔左氏、襄、三十一〕司空以レ時平二易道路一。〔注〕易、治也。❸やすらか。おだやか。平靜。〔莊子、刻意〕故曰、聖人休、休焉則平易矣、平易則恬惔矣。〔疏〕履二艱難一而簡易、涉二危險一而平夷也。〔淮南子、俶眞訓〕平易者道之素。

【平易近レ人】26（ヘイイニシテヒトニチカヅク） 政治をてがるにして人民に近づき親しむ。〔史記、魯世家〕平易近レ人、人民必歸レ之。

【平易正直】27（ヘイイセイチョク） 判り易くまつ直なこと。〔後漢書、班彪傳〕傳曰、殺レ史見レ極、平易正直、春秋之義也。〔蘇軾、荀卿論〕是故其言平易正直、而不三敢爲二非常可レ喜之論一。

【平扆】28（ヘイイ） 唐の宮殿の名。〔溫庭筠、獵騎辭〕早辭平扆殿、夕奉湘南宴。

【平移】29（ヘイイ） 知縣と府首領・州同・州判、或は州同・州判と儒學との閒に往復する文書をいふ。

【平意】30（ヘイイ） 意を平らにする。心を平かにする。又、平靜なこころ。〔鬼谷子、符言〕虛心平意。〔春秋繁露、循天之道〕君子閑欲二止レ惡以平レ意、平レ意以靜レ神、靜レ神以養レ氣。〔宋史、王巖叟傳〕人主常欲二虛心平意一。

【平漪】31（ヘイイ） おだやかなさざなみ。〔韓維、和二晏相公湖上遇レ雨詩〕篙舟出レ隄去、微風滿二平漪一。

【平彝】32（ヘイイ） 縣名。❶漢、置く。晉の桓溫、平蠻と改む。今、雲南省霑益縣の東。東は貴州省の境と接する。〔讀史方輿紀要、四川、遵義府、桐梓縣〕廢平彝縣、在二縣西北一、漢置レ縣、屬二牂牁郡一、後漢因レ之、云云、桓溫以二父嫌名一、改曰二平蠻一。❷三國吳、置く。晉、改めて新彝といふ。廣東省新會縣の西。〔讀史方輿紀要、廣東、廣州府、新會縣〕吳析二番禺一、置二平彝縣一、云云、晉太康初、改曰二新彝一。

【平宥】33（ヘイイウ） ゆるす。〔唐書、蕭穎士傳〕旻有二佳兒一、吾以レ旻獲レ譴不レ憾、乃平二宥之一。

【平一】34（ヘイイツ） ❶亂を平げて統一する。平壹。〔史記、秦始皇紀〕皇帝休烈、平二一宇內一。〔晉書、食貨志〕武帝欲三平二一江表一。❷ひとしい。同一。平一輩を見よ。❸宋、高準（**12－45313**‥540）の字。

【平一公】35（ヘイイツコウ） 度量衡の名。〔事物異名錄、器用、度量衡〕博學記、丈尺斛斗觔兩文、其名曰二平一公一。

【平一輩】36 p'ing^{2} i^{2} pei^{4} 同年輩の人。〔紅樓夢、十三回〕平一輩的、想他素日和睦親密。

【平壹】37（ヘイイツ） 平一に同じ。〔北史、隋煬帝紀下〕方

今區宇平壹、文軌攸レ同。〔隋書、高祖文帝紀下〕未レ及二十年一、平二一四海一。

【平溢】38ヘイイツ　一面にみちあふれる。〔貢奎、沙河詩〕啓牐暴漂浮、絶岸駭二平溢一。

【平邑】39ヘイイフ　縣名。㊀漢、置く。故城は山西省陽高縣の西南。〔漢書、地理志下〕代郡、縣十八、平邑。㊁東魏、置く。戰國、趙の地。故城は河北省南樂縣の東北、今の平邑村。〔讀史方輿紀要、直隸、大名府、南樂縣〕平邑城、縣東北七里、故趙地、云云、東魏天平二年、分二置平邑縣一。〔史記、趙世家〕獻侯十三年、城二平邑一。

【平允】40ヘイイン　㊀公平でよく其の眞に當ること。えこひいきのないこと。允はあたる。公平允當。〔後漢書、虞詡傳〕祖父經爲二郡縣獄吏一、案レ法平允。〔周書、楊敷傳〕敷遷二廷尉少卿一、所レ斷之獄、號稱二平允一。〔唐書、百官志一〕處斷平允。㊁性情のおだやかなこと。〔晉書、齊王攸傳〕少而岐嶷、及レ長、清和平允、親レ賢好レ施。

【平允之士】41ヘイインノシ　公平誠實で慘酷でない士。公平無私な裁判官をいふ。〔宋史、仁宗紀贊〕刑法似二縱弛一、而決獄多二平允之士一。

【平陰】42ヘイイン　㊀縣名。㋑漢、置く。春秋の平陰邑。平城の南に在るからいふ。故城は河南省孟津縣の東。地は黃河の南、邙山の東に當る。〔左氏、昭、二十三〕二師圍レ郊、晉師在二平陰一、王師在二澤邑一。〔漢書、地理志上〕河南郡、縣二十二、平陰。〔注〕應劭曰、在二平城南一、故曰二平陰一。㋺隋、置く。春秋、齊の地。山東省肥城縣の西、黃河の東岸。〔讀史方輿紀要、山東、兗州府、東平州、平陰縣〕春秋時齊邑、隋開皇十六年、置二榆山縣一、屬二濟州一、大業二年、改曰二平陰縣一。〔清史稿、地理志〕山東、泰安府、縣六、平陰。㊁城の名。山東省平陰縣の東北。〔左氏、襄、十八〕晉侯伐レ齊、云云、齊侯禦二諸平陰一。〔注〕平陰城、在二濟北盧縣東北一。

【平韻】43ヒヤウヰン　平聲の韻。仄韻(**1**－**352**‥2)の對。上平・下平の二つに分ち、上平は東・冬・江・支・微・魚・虞・齊・佳・灰・眞・文・元・寒・删の十五韻、下平は、先・蕭・肴・豪・歌・麻・陽・庚・青・蒸・尤・侵・覃・鹽・咸の十五韻。平仄(400)・平聲(369)を見よ。〔康熙字典、切字樣法〕所謂平聲者、爲二之平韻一、仄聲者、上去入三聲、爲二之仄韻一。

【平蔚】44ヘイウツ　たひらかに繁茂する。〔范曄、樂游應レ詔詩〕原薄信平蔚、臺澗備曾深。〔注〕良曰、蔚、繁茂也。

【平雲】45ヘイウン　たひらかに一面に掩ふ雲。〔庾信、周太子少保步陸逞神道碑銘〕直河穿レ趙、平雲臨レ代。〔唐玄宗、喜雨賦〕平雲黯而鋪レ幕、密雨森其散レ絲。

【平運】46ヘイウン　平穩な時運。おだやかな時勢。〔後漢書、荀爽傳論〕平運則弘レ道以求レ志、陵夷則濡レ跡以匡レ時。

【平盈】47ヘイエイ　平かなこと。〔漢書、揚雄傳〕既發二軔於平盈一兮、誰謂二路遠而不レ能レ從。〔注〕服虔曰、平盈之地無二高下一也。

【平瑩】48ヘイエイ　平かでつやがある。瑩はつや、ひかり。〔春渚紀聞、張無盡前身〕堀レ地數尺、得二一大盤石一、石面平瑩、無二他銘款一、獨鐫二天覺二字一。

【平猺】49ヘイエウ　猺族を平げる。猺族は湖南・兩廣・雲南地方に居た蠻族の名。〔薩都刺、送二管十班監憲除二廣西宣慰使一詩〕九重應レ有平猺託、日聽將軍奏レ凱還。

【平遙】50ヘイエウ　縣名。後魏、置く。漢の京陵縣。今、山西省祁縣の西南。境內の秦山・窟頭等に石炭を產する。〔讀史方輿紀要、山西、汾州府、平遙縣〕故縣本在二今太原府文水縣界一、後魏移置二於此一、改曰二平遙一、仍屬二太原郡一。〔清史稿、地理志〕山西、汾州府、縣七、平遙。

【平繇】51ヘイエウ　溝渠を均しく通じて、共に水利を得るために行ふ力役。繇は徭。〔漢書、溝洫志〕令下吏民勉レ農、盡二地利一、平繇行上レ水、勿レ使レ失レ時。〔注〕平繇者、均二齊渠堰一之力役、謂二俱得二水利一也、繇、讀曰レ徭。

【平役】52ヘイエキ　夫役を公平にする。〔王彪之、臨二會稽一教〕平レ役均レ賦、則民皆來蘇、抑レ強扶レ弱、則衆無二冤訟一矣。

【平越】53ヘイエツ　㊀州名。清、置く。甕安・湄潭・餘慶の三縣を領す。民國、縣に改む。〔清史稿、地理志〕貴州、平越直隸州、領二縣三一、甕安・湄潭・餘慶。㊁縣名。明、平越衞を置く。後、平越軍民府をおく。民國、縣を置く。貴州省貴定縣の東北。縣城は沅江の上流に瀕し、漆の產出で名高い。〔讀史方輿紀要、貴州、平越軍民府〕明朝洪武十四年、置二平越衞軍民指揮使司一。

【平衍】54ヘイエン　平かで廣い。衍はひろい。〔穆天子傳、二〕丁未、天子大朝二于平衍之中一、乃命二六師之屬一休、己酉、天子大饗二正公諸侯王吏七萃之士于平衍之中一。〔張衡、南都賦〕上平衍而曠蕩。〔元史、歷志一〕舊法擇レ地平衍。

【平剡】55ヘイエン　たひらかにけづる。〔周禮、考工記、輪人、鑿深二一寸有半下直二一枚鑿端一枚、注〕其弓菑則撓レ之、平二剡其下二二分而內レ之。

【平烟】56ヘイエン　一面にたなびいた煙。〔溫庭筠、蓮浦謠〕鳴橈軋軋溪溶溶、廢綠平烟吳苑東。〔梅堯臣、代書寄二歐陽永叔一四十韻詩〕空餘郡樓望、野色際二平烟一。

【平淵】57ヘイエン　㊀淵を平かにする。〔陸雲、九愍〕風頹レ山以離レ谷、波平レ淵而爲レ陵。㊁明、連一貫(**11**－**38902**‥322)の字。

【平堰】58ヘイエン　宋の孟珙の築いたゐせきの名。〔宋史、孟珙傳〕紹定元年、珙白二制置司一、刱二平堰於棗陽一。

【平檐】59ヘイエン　㊀笠のひさしを平かにする。〔陸龜蒙、箬笠詩〕冒レ雪或平レ檐、聽レ泉時仄レ頂。㊁家ののきと高さの一樣なこと。のきに達する。〔陸游、雪後詩〕雨解平簷雪、風收際海雲。

【平冤】60ヘイエン ベンエン　冤を平げる。むじつの罪を正し治める。〔韓詩外傳、六〕遠方之民、有二饑寒一而不レ得二衣食一、有二獄訟一而不レ平二其冤一、失レ賢而不レ舉者、入告二乎天子一。

【平園】61ヘイエン　おだやかな花園。〔周必大、詩〕栽レ花種レ竹滿二平園一、人道安閒似レ樂レ天。

〖平園老叟〗62ヘイエンラウソウ　宋、周必大(**2**－**3441**‥828)の號。

【平圓】63ヘイエン　㊀平かで圓い。〔鮑照、冬日詩〕天窺苟平圓、寧得二已偏媚一。〔曾鞏、丹霞洞詩〕忽驚陰崖勢回合、中抱二幽谷一何平圓。㊁p‘ing^{2} yüan^{2} 數學用語。圓(**3**－**4819**)に同じ。

【平畹】64ヘイエン　たひらなはたけ。畹は田畝。〔柳永、洞仙歌詞〕綠蕪平畹、和風輕暖。

【平遠】65ヘイエン　㊀平かで遠い。地の平かで、遠くまで眺望のきくこと。〔蘇軾、郭熙畫秋山平遠詩〕離情短幅開二平遠一、漠漠疎林寄二秋晚一。㊁州名。清、置く。民國、縣に改む。〔清史稿、地理志〕貴州、大定府、州三、平遠州。㊂縣名。㋑明、置く。南齊の程鄕縣の地。廣東省蕉嶺縣の西北。武平水の支流の北岸に瀕す。〔讀史方輿紀要、廣東、潮州府、平遠縣〕嘉靖四十一年、析二福建武平上杭江西安遠惠州府興寧四縣地一、置レ縣、以接二壤于武平安遠一、因名、屬二江西贛州府一。〔清史稿、地理志〕廣東、嘉應直隸州、縣四、平遠。㋺清、置く。明の平遠千戶所。今、甘肅省鎭戎縣。〔讀史方輿紀要、陝西、平涼府、固原州〕鎭戎千戶所、平遠千戶所。〔清史稿、地理志〕甘肅、固原直隸州、縣一、平遠。㊃字號。㋑金、趙淇(**10**－**37171**‥88)の號。㋺清、陸灝(**11**－**41708**‥47)の字。

【平瓫】66ヒラカ　平形の土器。淺い瓶。

【平屋】67ヘイヲク　㊀人家をいふ。〔徐照、高山寺晚望詩〕小波重疊無二平屋一、四月陰寒尙袷衣。㊁ヒラヤ　二階のない家。平屋建。

〖平屋建〗68ヒラヤダテ　平屋作に同じ。

〖平屋作〗69ヒラヤツクリ　二階のない建て方。又、其の家。平屋建。

【平恩】70ヘイオン　㊀縣名。漢、置く。今、河北省曲周縣の東南。〔漢書、地理志上〕魏郡、縣十八、平恩。㊁鎭の名。金、置く。今、河北省曲周縣の東南。

【平穩】71ヘイヲン　おだやか。やすらか。〔杜甫、秋清詩〕十月江平穩、輕舟進所レ如。〔徐照、還二舊山一作詩〕江神應レ念レ我、平穩不レ生レ風。

〖平穩無事〗72ヘイヲンブジ　穩かで何事もない。

【平下】73ヘイカ　たひらでひくい。たひらでひくく下に在ること。〔徐陵、麈尾銘〕員上天形、平下地勢。

〖平下心去〗74 p‘ing^{2} hsia^{4} hsin^{1} ch‘ü^{4}　氣をおちつける。

【平河】75ヘイカ　㊀たひらかで廣々とした河。〔白居易、想二東遊一五十韻詩〕平河七百里、沃壤二三州。㊁設治局(**10**－**35293**‥77)の名。雲南省に屬す。猛丁(**7**－**20498**‥81)を見よ。

【平夏】76ヘイカ　㊀夏を平げる。唐の張承金が惠琳の辭を平げたことをいふ。〔韓愈、平二淮西一碑〕

明年平レ夏、又明年平レ蜀。〔注〕綏銀節度留後李惠琳叛、兵馬使張承金討斬レ之。❷城の名。㋑甘肅省鎭戎縣の南。宋の懷德軍の治。一に細腰葫蘆峽城といふ。〔宋史、章楶傳〕楶知二渭州一、帥レ師出二葫蘆河川一、築二二城於石門峽口好水河之陰一、賜二名平夏城一。㋺夏州をいふ。今の陝西省楡林縣の西北。〔讀史方輿紀要、陝西、楡林鎭〕咸平中、李繼遷二徙綏州吏民之半一、置二平夏一、以爲二巢穴一、又黨項在二夏州境一者、亦曰二平夏部一也。

【平荷】77 ヘイカ　おだやかなはちす。〔庾信、詠二畫屛風一詩〕瀲菱迎二擁楫一、平荷直二蓋船一。

【平賈】78 ヘイカ　標準價。又、普通の價格。平價に同じ。〔管子、揆度〕馬之平賈萬也。〔漢書、吳王濞傳〕卒踐更、輒予二平賈一。〔注〕師古曰、賈、讀曰レ價、謂二庸直一也。

【平價】79 ヘイカ　❶標準價。又、公平な價格。又、普通の價格。平賈。平估。〔管子、輕重乙〕請以二平價一取二之子一。〔墨子、號令〕貿二易凡器一者、以二平價一予。❷公社債・株式などの有價證券の相場が、額面價格と等しいこと。❸金本位國の標準金貨含有の純金の比價。

【平價切下】80 ヘイカキリサゲ　一國の貨幣單位に含まれる金屬純分の量目を引下げること。貨幣の價値を改めて、爲替相場の下つた割合だけ引下げること。インフレーション現象の起つた際、貨幣改革の一手段として行はれる。

【平價出售始創劃一】81 pʻing^{2} chia^{4} chʻu^{1} shou^{4} shih^{3} chʻuang^{4} hua^{4} i^{1}　大勉強大賣出し、均一値段の本家本元。

【平海】82 ヘイカイ　❶廣い海。大海原。〔江總、別二南海賓化侯一詩〕斷山時結レ霧、平海若レ無レ流。〔孟浩然、早寒江上有レ懷詩〕迷津欲レ有レ問、平海夕漫漫。❷地名。福建省莆田縣の東。夾漈山脈の麓。もと南嘯と名づけ、巡司を置く。明の洪武中、倭寇に備へるため衞を置き、尋いで城を築き、臺を築いて海洋を監視した。嘉靖中、倭寇のために陷る。〔讀史方輿紀要、福建、興化府〕平海衞、在二府東九十里一、洪武二十年置。

【平海灣】83 ヘイカイワン　灣の名。福建省莆田縣の東南、興化灣の南に在る。興化灣(9－30226··30)を見よ。

【平崖】84 ヘイガイ　たひらながけ。〔吳均、八公山賦〕促嶂萬尋、平崖億絕、上被レ紫而烟生、傍帶レ花而來レ雪。

【平交】85 ヘイカウ　同輩の友人。平等の交際をする人。又、昔からの友人。平には平等の意と共に、平昔の意がある。〔徐陵、爲二貞陽侯一重與二裴之橫一書〕豈可二文辭簡略、禮等平交一。〔李白、少年行〕府縣盡爲二門下客一、王侯皆是平交人。〔杜荀鶴、訪二蔡融一因題詩〕每見苦心修好事、未三嘗開レ口怨二平交一。

【平江】86 ヘイカウ　❶府名。宋の政和中、平江郡を改め置く。今、江蘇省吳縣。〔讀史方輿紀要、江南、蘇州府〕太平興國三年、改二軍名一曰二平江一、政和三年、升爲二平江府一。❷縣名。五代唐、置く。今、湖南省長沙縣の東北。縣城は汨水の北岸に瀕す。〔讀史方輿紀要、湖廣、岳州府、平江縣〕五代唐、諱二昌馬氏一、因改曰二平江一、宋因レ之。〔淸史稿、地理志〕湖南、岳州府、縣四、平江。

【平江帶】87 ヒゴタイ　❶兩端に總（ふさ）のあるひらうちの帶の稱。禪僧から起つた語。ひごは平江の宋音ひんごうの約。宋の平江府、卽ち今の江蘇省の吳縣に產したからいふ。ひんごうたい。平江條。〔徹書記紀談〕前探題了俊、歲八十餘、嘗着二黑色無レ裳衣一、以二平江帶總長者一束レ腰矣。〔禪林象器箋、二十六、服章門〕條、兩頭有レ總、繞レ條束レ腰、而總下二垂右左腋下一、名二平江條一。❷草の名。菊科に屬す。山野に自生し、春、宿根から叢生する。葉は長さ二尺許で、小薊に似て刺なく、厚く大きくて、背に白毛がある。秋、莖頂に、藍紫色の小花が簇つて毬形をなす。單州漏盧。日向堪。

【平江條】88 ヒゴタウ　平江帶に同じ。

【平江紀事】89 ヘイカウキジ　書名。一卷。元、高德基撰。吳中の故實及び神仙・鬼怪・詼諧・謠諺の事を記す。〔四庫提要、史、地理類〕。

【平行】90 ヘイカウ　❶無事に旅行する。〔漢書、李廣利傳〕自レ此而西、平行至二宛城一。〔注〕師古曰、平行、言レ無二寇難一。❷平かにならぶ。〔庾信、小園賦〕簷直倚而妨レ帽、戶平行而礙レ眉。❸官吏の位階官等が同一で統屬の關係のないこと。〔淸會典、禮部〕凡官文書、上行下行平行、各別二其制一。〔六部成語、吏部、平行、注解〕品級同等、彼此皆無二管轄之責一、謂二之平行一。❹平押しする。一氣に押しすすむ。〔日本政記、後醍醐天皇論〕義貞無二他奇道一、而平二行東海一。❺數學用語。一つの直線が同一平面にあつて之を何程延長しても出會はぬこと。又、一つの線を何程延長しても一つの平面と出會はぬこと。又、二つの平面が之を何程延長しても相會はぬこと。平行線を見よ。

【平行線】91 ヘイカウセン　數學用語。互に平行した直線。同一平面上に在つていかに延長するも相交はらない直線。平行直線。〔幾何要法、作平行線章〕一點、求二作直線一、與二原設直線一平行、云云、第三法、此法比二前法一更簡易、卽西本幾何亦未レ載、乃敝師伯先生所レ授、如有二甲乙線一、任二遠近一求二作平行線一、近レ甲取レ心向上、以二所レ求遠近一爲レ度、作二小半圓一、次用二元度一、近レ乙取レ心向上、後作二小半圓一、末以レ尺依二半圓一爲レ界作二直線一、卽所レ求。

【平行平面】92 ヘイカウヘイメン　數學用語。互に平行した平面。互に相交はらない平面。

【平行四邊形】93 ヘイカウシヘンケイ　數學用語。二雙の相對する邊がそれぞれ平行な四邊形。

【平行六面體】94 ヘイカウロクメンタイ　數學用語。相對する面がそれぞれ平行した六面體。

【平岡】95 ヘイカウ　❶平かなをか。〔沈約、宿二東園一詩〕茅棟嘯二愁鴟一、平岡走二寒兔一。〔杜甫、醉爲二馬墜一諸公攜レ酒相看詩〕粉蝶電轉紫遊韁、東得二平岡一出二天壁一。❷縣名。平剛(100)に同じ。〔魏志、田疇傳〕舊北平郡、治在二平岡一。

【平郊】96 ヘイカウ　ひろびろとした郊外。廣い野原。〔李邕、春賦〕誇二浮雲之寶騎一、頓二流水之香車一、漫二平郊一而藉レ草、總二上苑一而觀レ花。〔杜甫、暮寒詩〕霧隱平郊樹、風含廣岸波。

【平皐】97 ヘイカウ　❶水邊の平な地。平なさは。皐はさは。〔史記、司馬相如傳〕汨減噏習以永逝兮、注二平皐之廣衍一。〔嵇康、贈二秀才入レ軍詩〕流二磻平皐一、垂二綸長川一。❷縣名。漢、置く。故城は河南省溫縣の東。〔漢書、地理志上〕河內郡、縣十八、平皐。

【平康】98 ヘイカウ　❶たひらかでやすらか。平安。平穩。〔書、洪範〕平康正直。〔傳〕世平安、用二正直一治レ之。〔忠經、廣爲國章〕人臣和悅、邦國平康。❷唐代、長安の里名。又、平康坊ともいふ。妓館が多く、長安の代表的な花柳街。一に北里ともいふ。轉じて、遊廓、花柳街をいふ。〔開元天寶遺事、風流藪澤〕長安有二平康坊一、妓女所レ居之地、京都俠少、萃二集於此一、兼每年新進士、以二紅牋一名レ紙、游二謁其中一、時人謂二此坊一爲二風流藪澤一。〔北里志序〕諸妓居二平康里一。

【平衡】99 ヘイカウ　❶はかりを正しくする。又、正しいはかり。轉じて、かたよらないで正しいことをいふ。〔漢書、律歷志上〕準正則平衡而鈞權矣。〔新書、容經〕視有レ四、則朝廷之視、端沕平衡。〔王儉、褚淵碑文序〕端レ流平レ衡、外寬內直。〔注〕銑曰、事有二不平者一、施以二權衡一、權衡、秤也、言三於レ事平如二秤稱一焉。〔韓偓、漫作詩〕千鈞將二一羽一、輕重在二平衡一。❷手又は物を胸の位置におくこと。諸侯の臣が君の器物を奉持する姿勢をいふ。衡は平。〔禮、曲禮下〕執二天子之器一則上衡、國君則平衡。〔疏〕衡、平也、平、謂二人之拱手、正當レ心平一、故謂レ心爲レ衡、天子至尊、器不レ宜レ下、故臣爲二擎奉一、皆高二於心一彌敬也、云云、國君、諸侯也、降二於天子一、故其臣爲三奉二持器一、與レ心齊平也。❸頭と腰とを平かにして拜すること。〔荀子、大略〕平衡曰レ拜、下衡曰二稽首一。〔注〕平衡謂二磬折一、頭與レ腰如二衡之平一、禮記平衡、與レ此義殊。

【平剛】100 ヘイガウ　縣名。漢、置く。右北平郡治。故城は今、河北省平泉縣。後漢、治を土垠に移す。今の豐潤縣。一に平岡に作る。〔漢書、地理志下〕右北平郡、縣十六、平剛。

【平角】101 ヘイカク　數學用語。頂點の左右に二邊が一直線に開いた角。卽ち二直角の和に等しい角度。

【平格】102 ヘイカク　公平で天道に至り通ずる。公平無私。格は至る。〔書、君奭〕天壽二平格一、保二乂有殷一。〔傳〕言、天壽下有二平至一之君上、故安二治有殷一。

【平鬲】103 ヘイカク　車のわき木の上の橫木。車上の人がよりかかるもの。平較。〔周禮、考工記、輿人、以二

其隧之半㆒爲㆓之較崇㆒、疏、較、謂㆓車輿兩相㆒、今人謂㆓之平鬲㆒也。〔孫詒讓正義〕鄭珍云、說文、輢、車旁也、則輢止是車旁之稱、注云、兩輢猶㆓兩旁㆒也、上出㆑式者、謂㆔兩旁之上、高出㆓於式之平木㆒、此平木爲㆑較、猶㆓較前平木爲㆑式、式崇較崇、竝是平木距㆓箱底㆒之高、云云、較木平設、故此及車人疏、謂㆓之平鬲㆒、山虞疏及詩衞風淇澳孔疏、又作㆓平較㆒。

【平較】104（ヘイカク） 平鬲に同じ。〔詩、衞風、淇奥、寬兮綽兮、猗重較兮、疏〕輿人注云、較兩輢上出㆑軾者、則較謂㆓車兩傍㆒、今謂㆓之平較㆒。

【平嶽】105（ヘイガク） ❶山嶽を平かにする。大きな山をたひらかにする。勢の盛なさま。〔宋書、孝武帝紀〕大明七年二月壬寅、詔曰、今恢㆓覽功成㆒、省㆓風畿表㆒、觀㆓民六合㆒、蒐㆓校長洲㆒、騰㆑沙飛㆑礫、平㆑嶽邊㆑海。❷淸、車鼎晉（10－38172‥284）の號。

【平額】106（ヒラビタヒ） ❶ひらたい額。❷昔、女官の裝束の時、髮飾としたひらたいひたひ。釵子の一つ。〔中務内侍日記〕かうけつの衣・ひらひたひなり。

【平寒】107（ヘイカン） 一面に寒い。〔庾信、周驃騎大將軍開府侯莫陳道生墓誌銘〕凝陰遠寂、廣漠平寒。

【平澗】108（ヘイカン） たにがはをたひらかにする。〔庾信、詠㆓畫屛風㆒詩〕水流平㆑澗下、山花滿㆑谷開。

【平翰】109（ヘイカン） 淸、浙江山陰の人。字は樾峯。官は貴州府知。書に巧。書室を求青閣（來青閣）といふ。求青閣帖を刻す。〔國朝書畫家筆錄、三〕・〔國朝書人輯略、八〕。

【平簡】110（ヘイカン） ❶公平で簡易なこと。〔晉書、郗鑒傳〕太常臣謨、平簡貞正、素望所㆑歸、謂可㆔以爲㆓都督徐州刺史㆒。❷北齊、鄭述祖（11－39647‥44）の謚。

【平鑒】111（ヘイカン） 北齊、薊の人。字は明達。謚は文。神武に服歸して功あり。官は都官尙書令。〔北齊書、二十六〕。

【平岸】112（ヘイガン） たひらかなきし。〔張衡、冢賦〕下有㆓直渠㆒、上有㆓平岸㆒、舟車之道、交㆓通舊館㆒。〔杜甫、漢州王大錄事宅作詩〕宅中平岸水、身外滿牀書。

【平巖】113（ヘイガン） 宋、葉采（9－31387‥50）の字。

【平季】114（ヘイキ） 後魏、薊の人。字は稚穆。莊帝の擁立に功あり。爵は元城縣開國侯。官は右光祿大夫。〔魏書、九十四〕・〔北史、九十二〕。

【平氣】115（ヘイキ） ❶平和な氣。〔管子、侈靡〕沮㆓平氣之陽㆒。〔纂詁〕沮㆓敗和平之陽氣㆒。❷氣を靜めおちつける。平氣虛心を見よ。〔申鑒、雜言上〕君子食㆓和羹㆒、以平㆓其氣㆒。❸何とも思はぬ。無頓着。

〖平氣虛心〗116（ヘイキキヨシン） 氣を平にし心を虛しくする。氣もちがおだやかで、心にわだかまりがないこと。〔莊子、庚桑楚〕欲㆑靜則平㆑氣、欲㆑神則順㆑心。〔莊子、漁父〕無㆑所㆑得㆑聞㆓至敎㆒、敢不㆑虛㆑心。

【平起】117（ヒヤウオコリ） ❶漢詩起句第二字に平字を用ひる詩式。絕句律等に用ひる。仄起（1－352‥6）の對。平仄式（401）を見よ。❷（ヘイキ） 平棊に同じ。

【平棊】118（ヘイキ） 格天井・組天井の天井板に模樣を着けたもの。天花板。又、俗に平起ともいふ。〔營造法式〕以㆓方椽㆒施㆓素版㆒、謂㆓之平闇㆒、以㆓平版㆒貼華、謂㆓之平棊㆒、俗訛爲㆓平起㆒。

【平逵】119（ヘイキ） たひらかな道。逵は道。〔左思、魏都賦〕廓㆓三市㆒而開㆑廛、籍㆓平逵之九達㆒。〔注〕翰曰、逵、道也。

【平欺】120（ヘイギ） 侮る。小馬鹿にする。〔宋无、寄㆓翰苑所㆑知㆒詩〕學過㆓三都賦㆒、神超㆓七步詩㆒、陰何須㆓大賞㆒、鮑謝只平欺。

【平議】121（ヘイギ） 公平に議論する。又、理非を分って論定する。〔後漢書、霍諝傳〕前者溫敎、許爲㆓平議㆒、雖㆑未㆔下㆑吏斷㆓決其事㆒、已蒙㆓神明顧省之聽㆒。〔魏志、鍾繇傳〕使㆘平㆗議死刑可㆓宮割㆒者㆖。〔唐書、刑法志〕中書門下五品以上及尙書等、平㆓議之㆒。

【平九】122（ヘイキウ） 明、何禹疏（1－511‥220）の字。

【平丘】123（ヘイキウ） ❶平な丘。〔張正見、遊㆓龍首城㆒詩〕四面觀㆓長薄㆒、千里眺㆓平丘㆒。❷古の地名。華丘（9－31214‥79）に同じ。〔山海經、海外北經〕平丘在㆓三桑東㆒。❸縣名。㋑漢、置く。春秋、衞の邑。故城は河北省長垣縣の西南。〔春秋、昭、十三〕會㆓于平丘㆒。〔漢書、地理志〕陳留郡、縣十七、平丘。㋺南齊、置く。今、缺く。湖北省の境。

【平吉】124（ヘイキツ） 心がたひらで善良なこと。〔北史、高車傳〕平吉之人、則歌舞作㆑樂。

【平詰】125（ヒラツメ） 常に宿直して非番のないこと。

【平羌】126（ヘイキヤウ） ❶川の名。四川省雅安縣附近を流れ、青衣江に入る。又、青衣江の別名。〔李白、峨眉山月歌〕峨眉山月半輪秋、影入㆓平羌江水㆒流。〔讀史方輿紀要、四川、雅州〕平羌江、在㆓州城北㆒、云云、下流合㆓於青衣江㆒。❷縣名。北周、置く。今、四川省樂山縣の治。〔讀史方輿紀要、四川、嘉定州〕平羌廢縣、州北四十里、後周置㆓平羌縣㆒、屬㆓平羌郡㆒。

【平鄕】127（ヘイキヤウ） 縣名。❶漢、置く。河北省鉅鹿縣の西南、滏陽河の西。秦末、項羽が秦軍を此に破り、漢末、黃巾の賊張角が兵を此に起した。〔漢書、地理志下〕廣平國、縣十六、平鄕。〔淸史稿、地理志〕直隸、順德府、縣九、平鄕。❷南朝宋、置く。今、缺く。廣東省舊肇慶府の境。❸南齊、置く。今、缺く。河南省の境。❹後魏、置く。故治は河南省項城縣の西北。❺唐、置く。故治は四川省洪雅縣。〔讀史方輿紀要、四川、嘉定州、洪雅縣、南安廢縣〕開元八年、復以㆓獠戶㆒置㆓南安・平鄕二縣㆒。

【平宮】128（ヘイキユウ） 平王の廟。〔左氏、昭、二十二〕劉子如㆑劉、單子使㆔王子處守㆓于王城㆒、盟㆓百工于平宮㆒。〔注〕平宮、平王廟。

【平居】129（ヘイキヨ） ふだんに。いつも。居常。〔戰國、齊策〕此夫差平居而謀㆑王、強大而喜㆑先㆓天下㆒之禍也。〔新書、大都〕平居不㆑可㆓屈信㆒。〔水經、夷水注〕縣北十餘里有㆓神穴㆒、平居無㆑水。〔曹冏、六代論〕平居猶懼㆓其離叛㆒。〔韓愈、柳子厚墓誌銘〕平居里巷相慕悅、酒食游戲相徵逐。

【平虛】130（ヘイキヨ） 虛心平氣。〔管子、七臣七主〕或以㆓平虛㆒請㆑論㆓七主之過㆒。〔注〕平㆑意虛㆑心也。

【平曲】131（ヘイキヨク） 縣名。❶漢、置く。故治は江蘇省沐縣の東北。〔漢書、地理志上〕東海郡、縣三十八、平曲。❷漢、置く。河北省霸縣の東。〔讀史方輿紀要、直隸、順天府、霸州、信安城〕平曲城、在㆓州東三十里㆒、寰宇記、漢景帝六年、隴西太守公孫渾邪、封㆓平曲侯㆒。

〖平曲侯〗132（ヘイキヨクコウ） 漢、公孫渾邪（2－1452‥513）の封號。平曲の❷を見よ。

【平棘】133（ヘイキヨク） ❶山名。二山があり、河北省趙縣の北に在るを大平棘、縣の南に在るを小平棘といふ。皆城を去る百步許り、山頂が平で棘が多いからいふ。〔讀史方輿紀要、直隸、趙州〕平棘山、有㆑二、在㆓州城北㆒者曰㆓大平棘㆒、在㆓城南㆒者曰㆓小平棘㆒、皆去㆑城百步許、山頂平而多㆑棘、故以名㆑山。❷縣名。漢、林摯を封じて侯邑とし、後、縣とす。故城は河北省趙縣の南。〔讀史方輿紀要、直隸、趙州〕平棘廢縣、今州治、漢縣屬㆓常山郡㆒。

【平巾】134（ヘイキン） 頭巾の一種。〔隋書、禮儀志六〕諸府參軍、單衣平巾幘。〔唐書、車服志〕平巾綠幘者、尙食局主膳、典膳局典食、太官署、食官署、供㆑膳奉㆑觶之服也。

【平均】135（ヘイキン） ❶平かにひとしい。又、平かにわりあてる。ひとしくくばる。平等。平衡。〔方言、七〕平均、賦也、燕之北鄙、東齊北郊、凡相賦斂、謂㆓之平均㆒。〔詩、曹風、鳲鳩、其子七兮、傳〕鳲鳩之養㆓其子㆒、朝從㆑上下、莫從㆑下上、平均如㆑一。〔國語、魯語上〕平㆓均其政事㆒。〔荀子、王霸〕天下莫㆑不㆓平均㆒。〔逸周書、大匡解〕平均無㆑乏。〔管子、乘馬〕地不㆓平均和調㆒。❷㋑不同のないこと。ならし。均一。㋺過不及の無い度合。中を得た所。かねあひ。平衡。

〖平均司〗136（ヘイキンシ） 官名。淸末、置く。商務部に屬し、土地開墾・農業・蠶業・森林・水利・牧畜等一切の殖產の事務を掌る。〔淸國行政法汎論、新設部、商務部〕平均司、專掌㆓土地開墾・農業・蠶業・森林・水利・牧畜、其他一切殖產之事務㆒。

〖平均時〗137（ヘイキンジ） 平均正午を基點として算する平均太陽時。

〖平均數〗138（ヘイキンスウ） 相加平均の數。種々の數の中間の値を有する數。

〖平均正午〗139（ヘイキンシヤウゴ） 平均太陽が、子午線を通過する時刻。

〖平均太陽〗140（ヘイキンタイヤウ） 每日、同一の速度で運行すると假定した想像上の太陽。卽ち地球が太陽の周圍に圓形軌道を畫くと假定したもの。

〖平均德政〗141（ヘイキントクセイ） 德政（4－10243‥203）に同じ。〔日本政記、後花園天皇〕享德三年春、令㆓士民不㆑辨㆓負債㆒、稱㆓平均德政㆒。

〖平均太陽時〗142（ヘイキンタイヤウジ） 平均太陽の時角によつて算出する時間。卽ち平均太陽日の二十四分の一。

〖平均太陽日〗143（ヘイキンタイヤウジツ） 平均太陽の中心の時角に依つて定めた時、卽ち平均太陽の中心が子午線を經過してから、再び同じ子午線を經過するまでの時間。二十四時間。

〖平均太陽年〗144（ヘイキンタイヤウネン） 太陽が黃道上の春分點を發してから、再び春分點に歸るまでの時間。三百六十五日五時四十八分四十六秒。

【平琴】145（ヘイキン） 郡名。唐、置く。故治は今、廣西省鬱林縣の西北。〔讀史方輿紀要、廣西、梧州府、鬱林州〕容山廢縣、天寶初、曰二平琴郡一。

【平吟】146（ヘイギン） 心靜かに吟ずる。〔高適、寄二宿田家一詩〕客來滿酌淸罇酒、感興平吟才子詩。

【平衢】147（ヘイク） 平かな道。〔阮籍、淸思賦〕長思肅以永至兮、滌二平衢之大夷一。〔謝靈運、擬二魏太子鄴中集一詩〕平衢脩且直。

【平空】148 p'ing² k'ung¹ 空しく。わけもなく。又、憑空に作る。

【平果】149 p'ing² kuo³ 林檎。平菓。蘋果。苹果。

【平貨】150（ヘイクワ） 物貨を一地方に蓄積せぬやうにする。〔柳宗元、唐故中散大夫張公墓誌銘〕通商平レ貨、有レ來胥悅。

【平菓】151 p'ing² kuo³ 林檎。平果。蘋果。

【平臥】152（ヘイグワ） ❶病んで床に就く。❷p'ing² wo¹ 橫にねる。

〖平臥莖〗153 p'ing² wo¹ ching¹ 植物の莖の地上に伏しはふもの。

【平畫】154（ヘイグワ） 壁面などに畫く繪。〔圖書見聞志、四〕馮淸、陝郡閿鄕人、善畫二槖駝一、兼工二平畫一、景靈宮北廓牆壁經變相、乃淸之筆。

【平匯】155 p'ing² huei⁴ 爲替の平價。

【平光】156 p'ing² kuang¹ 素通し眼鏡。

〖平光鏡〗157 p'ing² kuang¹ ching⁴ 素通し眼鏡。

【平廣】158（ヘイクワウ） ❶たひらでひろい。平曠。平衍。平闊。〔詩、鄘風、君子偕老、揚且之顏也、疏〕眉上平廣。❷縣名。㋑漢、置く。侯國。山東省靑州府の境。〔漢書、地理志上〕齊郡、縣十二、平廣。㋺晉、置く。三國、蜀の廣武縣。今、四川省平武縣の西。〔讀史方輿紀要、四川、龍安府、平武縣〕蜀漢析二置廣武縣一、屬二陰平郡一、晉太康初、改曰二平廣縣一。

【平曠】159（ヘイクワウ） たひらでひろい。平廣。平闊。〔後漢書、南蠻傳〕好入二山壑一、不レ樂二平曠一。〔陶潛、桃花源記〕土地平曠、屋舍儼然。〔宋史、岳飛傳〕步兵利二險阻一、騎兵利二平曠一。

【平郭】160（ヘイクワク） 縣名。❶漢、置く。故城は滿洲奉天省蓋平縣の南。東晉の慕容皝の弟仁、ここに據つて叛き、遼東の地を占有す。〔漢書、地理志下〕遼東郡、縣十八、平郭。〔讀史方輿紀要、山東、蓋州衞〕平郭城、在二衞南一、漢縣、屬二遼東郡一、後漢因レ之、晉省レ縣而城存。❷金、置く。故治は滿洲奉天省鐵嶺縣の東北。〔讀史方輿紀要、山東、遼東都指揮使司、鐵嶺衞、咸平城〕大定中、又改二咸平縣一、爲二平郭縣一。

〖平郭侯〗161（ヘイクワクコウ） 三國魏、公孫恭(**2－1452**‥479)の封號。

【平活】162（ヘイクワツ） 無實の罪に問はれた者を公平に裁判して活かす。〔後漢書、何敞傳、注〕何氏家傳、祖父比干、字少卿、經明行修、兼通二法律一、爲二汝陰縣獄吏決曹掾一、平二活數千人一、後爲二丹陽都尉一、獄無二寃囚一、淮汝號曰二何公一。〔唐書、嚴善思傳〕武后時、擢二監察御史一、兼二右拾遺一、內供奉數言二天下事一、方酷吏構二大獄一、以二善思一爲二詳審一、使下平二活八百餘人一、原中千餘姓上。

【平滑】163（ヘイクワツ） たひらでなめらか。〔白居易、池上幽境詩〕平滑靑盤石、低密綠陰樹。

〖平滑筋〗164（ヘイクワツキン） 不隨意筋。

【平闊】165（ヘイクワツ） たひらでひろい。平廣。平曠。〔陶潛、辛丑歲七月赴レ假還二江陵一夜行二塗口一詩〕昭昭天宇闊、皛皛川上平。

【平莞】166（ヘイクワン） たひらな一重のゐむしろ。莞は、小蒲、又小蒲であんだむしろ。〔鹽鐵論、散不足〕闟二坐平莞一。〔張率、淸涼詩〕長簟涼可レ仰、平莞溫未レ親。

【平寬】167（ヘイクワン） たひらでゆるやか。〔唐書、李日知傳〕日知猶平寬無二文致一。〔韓愈、閔己賦〕昔顏氏之庶幾、在二隱約而平寬一。〔朱熹、和二亦樂園韻一詩〕莫レ笑君家五畝園、要レ須二胸次亦平寬一。

【平緩】168（ヘイクワン） たひらでゆるやか。水流が急でないこと。〔六部成語、工部、平緩、注解〕水流甚平不レ急也。

【平君】169（ヘイクン） 漢、許后(**10－35298**‥85)の名。

【平郡】170（ヒラクニ） 姓氏。〔姓林全書〕。

【平群】171（ヘグリ） ❶地名。㋑大和國の舊都名。㋺安房國の舊都名。❷（ヘグリ） 姓氏。

〖平群川〗172（ヘグリガハ） 大和國龍田川の別名。

〖平群島〗173（ヘグリジマ） 周防國の東南の島。

【平家】174（ヘイケ） ❶平氏の一族。平氏の一門。❷平家物語の略語。❸平家琵琶の略語。❹（ヒラヤ） 平屋(67)に同じ。平房。

〖平家蟹〗175（ヘイケガニ） 蟹の一種。西海に生じ、脚は細くて長短不同であり、甲殼は人面の狀をなす。昔、西海に死滅した平家一族の化したものといひ傳へる。武文蟹。鬼面蟹。〔和漢三才圖會、介甲部、鬼鱟〕出二於讚州八島浦一者、名二平家蟹一。

〖平家琵琶〗176（ヘイケビハ） 平家物語を琵琶に合せて語るもの。後鳥羽院の時、盲人生佛の語り出したのから始まるといふ。〔嚴有院殿御實記、二十〕。

〖平家物語〗177（ヘイケモノガタリ） 書名。十二卷。撰者未詳。平治物語の後を受け、二十餘年間の平家の興亡を敍し、事實によつて文をなしたもの。平家琵琶といひ、節をつけて謠つた。

【平刑】178（ヘイケイ ベンケイ） ❶刑罰を公平にする。刑罰を明かに分ち治める。〔漢書、谷永傳〕平レ刑釋レ寃、以理二民命一。〔晉書、天文志上〕宮門左星內二星曰二大理一、主二平刑斷獄一也。❷關の名。山西省繁峙縣の東。故の瓶形寨。

【平珪】179（ヘイケイ） 前蜀、毛文錫(**6－16772**‥327)の字。

【平畦】180（ヘイケイ） たひらなはたけ。〔曾鞏、思政堂記〕平畦淺檻、佳花美木竹林香草之植、皆在二其左右一。

【平溪】181（ヘイケイ） 谷を平かにする。流水が谷に溢れるさまにいふ。〔吳激、早春詩〕晚芳猶レ著レ樹、江漲欲レ平レ溪。

【平頸】182（ヒラクビ） 馬のたてがみの下の左右平かなところ。〔太平記〕平頸切つては刎落させ。

【平橋】183（ヘイケウ） たひらかな橋。〔溫庭筠、春州曲〕門外平橋連二柳堤一、歸來晚樹黃鶯啼。〔范成大、春晚卽事云云詩〕繡地紅千點、平橋綠一篙。

〖平橋稿〗184（ヘイケウカウ） 書名。十八卷。明、鄭文康撰。其の時は勸懲を主とし、其の文は詞に飾がない。江南通志、文苑傳には文尤も簡質と評してゐる。〔四庫提要、集、別集類〕。

【平曉】185（ヘイゲウ） あけがた。あかつき。平はただしく其の時に當ること。〔盧思道、駕出二圜丘一詩〕平曉禁門開、隱隱乘輿出。

【平決】186（ヘイケツ ベンケツ） 公平に決める。理非を分ちきめる。ただしをさめる。〔漢書、王莽傳上〕自レ今以來、惟封爵乃以聞、他事、安漢公四輔平決。〔後漢書、陳寵傳〕其所二平決一、無レ不三厭二服衆心一。

【平潔】187（ヘイケツ） 公平で潔白。〔六韜、文韜、上賢〕吏不二平潔愛一レ人、非二吾吏一也。

【平闋】188（ヘイケツ） 獻白書等の書式の名。平と闋。平は竝べ書。平出。擡頭。闋は闋字。空字。平出闋字(310)を見よ。

【平讞】189（ヘイゲツ ベンゲツ） 決定した罪獄の疑はしいものを、更に審理してあくまでも公平にすること。〔宋史、高賦傳〕請諸道提點刑獄司、置二檢法官一、庶專平讞、使二民不一レ寃。

【平業】190（ヘイゲフ） おだやかなわざ。正しいわざ。〔應瑒、文質論〕夫質者端一、玄靜儉嗇、潛レ化利レ用、承二淸泰一、御二平業一、循二軌量一、守二成法一。

【平肩】191（ヘイケン） 肩と平か。肩とならぶ。平肩輿を見よ。〔沈括、才徑跋〕階級有二峻平慢三等一、宮中則以二御輦一爲レ法、凡自レ下而登、前竿垂盡レ臂、後竿展盡レ臂、爲二峻道一、前竿平レ肘、後竿平レ肩、爲二慢道一、前竿垂レ手、後竿平レ肩、爲二平道一。

〖平肩輿〗192（ヘイケンヨ） あげこし。轎を肩に擧げて擔ぐ輿。〔晉書、謝萬傳〕萬嘗衣二白綸巾一、乘二平肩輿一。〔晉書、王獻之傳〕嘗經二吳郡一、聞三顧辟彊有二名園一、先不二相識一、乘二平肩輿一徑入。〔資治通鑑、梁紀〕(武帝、天監四年)乘二平肩輿一、巡二行賊壘一。〔注〕平肩輿、使二人就レ擱肩一レ之、故曰二平肩一。

【平健】193（ヘイケン） やすらかですこやか。平穩で健康。〔沈約、與二徐勉一書〕若天假二其年一、還得二平健一、才力所レ堪、惟思二是策一。

【平絹】194（ヘイケン） ❶山東省東昌府の博平郡から產する絹。〔宋史、地理志二〕博州博平郡貢二平絹一。❷ひらぎぬ。模樣の無い絹布の稱。〔西宮記、臨時

四、女装束〕女藏人、平絹唐衣、下濃裳。

【平遣】195（ヘイケン ベンケン）　罪の當否を明かに調べて許しかへす。〔後漢書、光武紀上〕輙平二遣囚徒一、除二王莽苛政一、復二漢官名一。

【平縣】196（ヘイケン）　❶普通の縣。〔後漢書、安帝紀〕自レ非二父母喪一、無レ故輙去レ職者、劇縣十歳、平縣五歳以上、乃得二次用一。❷縣名。漢、置く。今、河南省孟津郡の東。〔漢書、地理志上〕河南郡、縣二十二、平。〔水經、河水注〕又東過二平縣北一、湛水從レ北來注レ之。

【平險】197（ヘイケン）　險阻をたひらかにする。〔列子、湯問〕聚レ室而謀曰、吾與レ汝、畢レ力平レ險、指二通豫南一、達二于漢陰一、可乎。

【平顯】198（ヘイケン）　明、錢塘の人。字は仲微。號は松雨齋。博學多聞。官は滕縣の長官。雲南に謫せらる。黔國公沐英に招かれて教讀となる。著に松雨齋集がある。〔明史、二百八十六〕・〔明史稿、二百六十七〕・〔明詩綜、十九上〕。

【平言】199（ベンゲン）　理非を明かに辨へた言葉。正しい言葉。〔鬼谷子、權篇〕平言者決而干レ勇。

【平原】200（ヘイゲン）　❶平かで廣いはら。野はら。平野。〔左氏、桓、元〕凡平原出水爲二大水一。〔墨子、兼愛下〕今有四平二原廣三野於此一、被レ甲嬰レ胄、將二往戰一。〔漢書、鼂錯傳〕平原廣野、此車騎之地。〔班固、西都賦〕風毛雨血、灑レ野蔽レ天、平原赤。〔李嘉祐、送二從弟歸三河朔一詩〕秋日平原路、蟲鳴桑葉飛。❷郡名。㋑漢、置く。今、山東省舊武定濟南府の西部、北は樂陵から南は長淸に至る十九縣を管す。故治は山東省平原縣の南。晉、廢す。〔讀史方輿紀要、州域形勢、漢〕平原郡、秦齊郡地、高帝置二平原郡一、領二平原等縣十九一。㋺三國魏、置く。故治は山東省聊城縣の西北。〔讀史方輿紀要、山東、東昌府〕禹貢兗州之域、春秋時、爲二濟西境聊攝地一、戰國時、爲二趙魏齊三國之境一、秦屬二東郡一、漢因レ之、曹魏屬二平原郡一。㋩後魏、置く。今、缺く。安徽省の境。㋥後魏、置く。故治は甘肅省平涼縣の東。〔讀史方輿紀要、陝西、平涼府、平涼縣、潘原城〕後魏置二平原郡治一。㋭後魏、置く。今、河北省涿鹿縣の東南。〔水經、灅水注〕涿水又東逕二平原郡南一、魏徙二平原之民一置レ此、故立二僑郡一以統二流雜一。㋬南朝宋の時、今の山東省濟南府の舊平原郡が敵中に陷つたため、今の山東省鄒平縣の地に平原郡を新設した。治は梁鄒城。故城は山東省鄒平縣治。〔讀史方輿紀要、山東、濟南府、鄒平縣〕志云、劉宋時、僑二置平原縣於此一、屬二東平原郡一、後魏因レ之。㋣南朝梁、置く。故治は廣東省羅定縣の南。〔讀史方輿紀要、廣東、羅定州〕秦南海郡地、漢屬二蒼梧郡一、云云、梁置二平原郡一。㋠隋、置く。今、山東省德縣治。〔讀史方輿紀要、山東、濟南府、德州〕春秋戰國時齊地、後屬レ趙、云云、隋煬帝時、復曰二平原郡一、云云、唐天寶初、復曰二平原郡一。❸縣名。㋑漢、置く。戰國、趙の平原邑。惠文王は弟の勝を封じて平原君とした。山東省德縣の南。津浦鐵路の沿線。〔漢書、地理志上〕平原郡、縣十九、平原。〔讀史方輿紀要、山東、濟南府、德州、平原縣〕秦置二平原縣一、漢因レ之、爲二平原郡治一、魏晉因レ之。〔清史稿、地理志〕山東、濟南府、縣十五、平原。㋺北朝齊、置く。故治は山東省鄒平縣の東。〔讀史方輿紀要、山東、濟南府、鄒平縣〕漢置二鄒縣一、屬二濟南郡一、云云、北齊置二平原縣一。㋩後魏、置く。今、缺く。甘肅省舊鞏昌府の境。㋥北齊、舊平原縣に代へて新設す。今、山東省寧陽縣治。〔讀史方輿紀要、山東、兗州府、寧陽縣〕後齊僑二置平原縣於此一、隋屬二兗州一。❹人の呼び名。㋑魏、曹植（**5－14297**・・118）をいふ。植は二十歳の時に、平原侯に封ぜられた。〔詩品、序〕降及二建安一、曹公父子篤好二斯文一、平原兄弟、鬱爲二文棟一。㋺晉、陸機（**11－41708**・・55）をいふ。機は平原內史の官を經た。〔陸平原集題詞〕非下深知二平原一者上也。

【平原君】201（ヘイゲンクン）　❶戰國、趙の武靈王の子。名は勝。東武城に封ぜられ、平原君と號す。客を好み、門下の食客常に數千人に達した。趙勝（**10－37171**・・226）を見よ。〔史記、七十六〕。❷漢、武帝の外祖母、臧兒の尊號。〔史記、孝武紀〕平原君往祠、其後子孫以レ尊顯。〔注〕集解曰、徐廣曰、武帝外祖母也、駰案、蔡邕曰、異姓婦人以二恩澤一封者曰レ君、儀比二長公主一。❸漢、朱建（**6－14424**・・266）の賜號。

【平原生】202（ヘイゲンセイ）　清、管希寧（**8－26162**・・176）の號。

【平原王】203（ヘイゲンワウ）　高句麗第二十五代の王。一に平岡上好王に作る。諱は陽成。陽元王の太子。陳の武帝の永定三年に立ち、使を遣はして陳に朝し、其の後、隋に朝し、又、北齊に朝し、後周に朝した。隋の文帝の開皇十一年歿す、在位三十二年。〔三國史記、十九、高句麗本紀〕。

【平原懷王】204（ヘイゲンクワイワウ）　後漢、劉勝（**2－2224**・・386）の封謚號。

【平原兄弟】204′（ヘイゲンケイテイ ノ）　❶魏の曹丕（**5－14297**・・161）・曹植（**5－14297**・・118）の兄弟。曹植が平原侯に封ぜられたことからいふ。〔詩品、序〕降及二建安一、曹公父子篤好二斯文一、平原兄弟、鬱爲二文棟一。❷晉の陸機（**11－41708**・・55）・陸雲（**11－41708**・・12）の兄弟。陸機が平原內史になつたことからいふ。

【平原督郵】205（ヘイゲントクイウ）　惡酒をいふ。晉の桓溫の下役人某が、美酒を青州從事、惡酒を平原督郵と言つた故事。平原・青州は地名、督郵・從事は職名。美酒は臍の下まですらすらと通り、惡酒は膈（ネム）の上につかへて滯る。青州には齊郡（臍と音通）があり、平原には鬲縣（膈と音通）があることから出た隱語。〔世說新語、術解〕桓公有二主簿一、善別レ酒、有レ酒輒令二先嘗一、好者謂二青州從事一、惡者謂二平原督郵一、青州有二齊郡一、平原有二鬲縣一、從事謂レ到レ臍、督郵言下在二鬲上一住上。

【平原獨無】206（ヘイゲンヒトリナシ）　自分獨りなしの意。後漢の史弼が平原の相となつた時、會〻朝廷は郡國に詔して黨人を檢擧せしめ、郡國皆奏する所があつたが、平原のみは無いので、詔書屢〻下つて、弼を責めた。其の時、弼が平原獨り無しと言つて遂に上る所のなかつた故事。〔後漢書、史弼傳〕弼遷二尙書一、出爲二平原相一、時詔書下奉二鉤黨一、郡國所レ奏、相連及者、多至二數百一、唯弼獨無レ所レ上、詔書前後切二郤列郡一、髡二笞掾史一、從事坐レ傳責曰、詔書疾二惡黨人一、旨意懇惻、青州六郡、其五有レ黨、近國甘陵、亦考二南北部一、平原何理而得二獨無一、弼曰、先王疆二理天下一、畫レ界分レ境、本土異レ齊、風俗不レ同、它郡自有、平原自無、胡可二相比一、若承二望上司一、誣二陷良善一、淫刑濫罰、以逞二非理一、則平原之人、戶可レ爲レ黨、相有レ死而已、所レ不レ能也、從事大怒、卽收二郡僚職一送レ獄、遂擧二奏弼一、會二黨禁中解一、弼以レ俸贖レ罪、得レ免。

【平原十日飮】207（ヘイゲンジフジツノイン）　戰國、秦の昭王が平原君と十日間に涉る宴會を開かうと言つた故事。〔史記、范雎傳〕秦昭王聞三魏齊在二平原君所一、欲下爲二范雎一必報中其讐上、乃佯爲二好書一、遺二平原君一曰、寡人聞二君之高義一、願與レ君爲二布衣之友一、君幸過二寡人一、寡人願與レ君爲二十日之飮一。

【平原君謝二躄者一】208（ヘイゲンクン ヘキシヤニシヤス）　戰國、趙の平原君の鄰人に跛者が有り、平原君の寵姬が己を笑ふのを怒つて、平原君に己を笑ふ者の首を得んことを請うたが、平原君は之を殺さざること一年餘、食客次第に去つて半數となつた。已にして其の姬を重んじて士を賤むが爲なることを知り、姬の首を斬り、跛者の門に至つて謝したところ、再び食客が增した故事。〔史記、平原君傳〕平原君家樓臨二民家一、民家有二躄者一、盤散行汲、平原君美人居二樓上一、臨見、大笑レ之、明日躄者至二平原君門一、請曰、臣聞二君之喜レ士、士不レ遠二千里一而至者、以二君能貴レ士而賤レ妾也、臣不幸有二罷癃之病一、而君之後宮、臨而笑レ臣、臣願得二笑レ臣者頭一、平原君笑應曰、諾、躄者去、平原君笑曰、觀二此豎子一、乃欲下以二一笑之故一殺中吾美人上、亦不レ甚乎、終不レ殺、居歲餘、賓客門下舍人稍稍引去者過レ半、平原君怪レ之曰、勝所三以待二諸君一者、未二嘗敢失レ禮、而去者何多也、門下之一人前對曰、以二君之不レ殺レ笑二躄者一、以レ君爲二愛レ色而賤レ士、士卽去耳、於レ是、平原君乃斬下笑二躄者一美人頭上、自造レ門進二躄者一、因謝焉、其後門下乃復稍稍來。

【平源】209（ヘイゲン）　❶たひらかでひろびろとした水源。〔駱賓王、晚渡二黃河一詩〕千里尋二歸路一、一葦亂二平源一。❷平氏と源氏。〔日本政記、安德天皇論〕平源之事、其名分順逆、姑置可也。

【平戶】210（ヒラト）　❶金線・銀線を編んだ細工物。平戶島で南蠻工が傳へたもの。❷肥前國北松浦郡平戶島の東北の一市街。足利末期から德川初期に至る間の有名な互市場。

【平估】211（ヘイコ）　價を平かにする。又、公平な價。標

準價格。平價。〔宋史、食貨志下三〕天聖八年、上書者言、縣官禁㆑鹽、得㆑利微而爲㆑害博、兩池積鹽爲㆑阜、其上生㆑木合抱、數莫㆑可㆑較、宜㆑聽㆓通商平㆑估以售㆒、可㆔以寬㆓民力㆒。

【平固】212（ヘイコ） 縣名。晉、置く。三國吳の平陽縣。今、江西省興國縣。〔讀史方輿紀要、江西、贛州府、興國縣〕三國吳、析㆓贛縣地㆒置㆓平陽縣㆒、云云、晉太康初、更㆓名平固縣㆒、屬㆓南康郡㆒。

【平袴】213（ヒラバカマ） 襠（チマ）をひくくさげて仕立てた袴。こばかま。まちだか袴の對。

【平湖】214（ヘイコ） ㊀たひらなみづうみ。平湖洞を見よ。㊁縣名。明、置く。浙江省嘉興縣の東南。小汽船が嘉興に達し、滬杭甬鐵路と接續する。〔讀史方輿紀要、浙江、嘉興府、平湖縣〕宣德五年、析㆓海鹽之武原等鄕㆒、置㆓今縣㆒。〔淸史稿、地理志〕浙江、嘉興府、縣七、平湖。

【平湖洞】215（ヘイコドウ） 洞の名。福建省仙游縣の北、大飛山に在る。〔九域志〕大飛山有㆓平湖洞㆒、其地有㆓平湖數頃㆒、一夕風雨暴起、旦見㆓此山聳峙㆒、因名㆓大飛㆒、唐景福初、王潮攻㆓福州㆒、平湖洞民請㆘以㆓兵船㆒助㆖㆑之、卽此。

【平午】216（ヘイゴ） 太陽が正南に平衡を保つ時。晝の十二時。眞晝。正午。亭午。平は正しく其の時に當ること。〔錄異記、七、異水〕成平旦、或平午覽矚、移㆑晷乃漸散滅。〔蘇舜欽、丙子仲冬紫閣寺聯句〕日光平午見、霧氣半天蒸。

【平語】217（ヘイゴ） ㊀普通の言葉。㊁平家物語（177）の略。〔近古史談、織篇、了伯聽㆓平語㆒〕嘗招㆘瞽師善㆓琵琶㆒者某㆖、演㆓平語㆒。

【平公】218（ヘイコウ） 淸、宋權（**3－7078**··80）の字。

【平公立】219（ヘイコウリツ） 硯屛の異名。〔事物異名錄、文具、硯屛〕文房圖贊續、平待制、名樹、字公立、號㆓大隱先生㆒。

【平侯】220（ヘイコウ） 明、唐冑（**2－3709**··267）の字。

【平恒】221（ヘイコウ） 後魏、薊の人。字は繼叔。謚は康。官は幽州別駕・祕書丞。〔魏書、八十四〕・〔北史、八十一〕。

【平寇】222（ヘイコウ） ㊀仇を平げる。〔晉書、慕容暐載記〕三軍以㆓平㆑寇凱旋㆒爲㆑先也。㊁縣名。㋑後魏、置く。故城は山西省忻縣の東。今、山西省定城縣治。〔讀史方輿紀要、山西、太原府、忻州〕後魏改置㆓平寇縣㆒、後廢、高齊復置、隋開皇十年、廢㆓平寇縣㆒、移㆓秀容縣治㆒焉。㋺隋、置く。今、山西省崞縣治。〔讀史方輿紀要、山西、太原府、代州、崞縣〕隋開皇十年、改㆓石城㆒曰㆓平寇㆒。

【平猴】223（ヘイコウ） 獸の名。風貍の異名。〔本草、風貍〕釋名、風母、風生獸平猴、狤猦。

【平興】224（ヘイコウ） ㊀賦稅の徵集を平均にする。興は賦稅を徵すること。〔周禮、地官、司稼〕掌㆘均㆓萬民之食㆒、而賙㆓其急㆒、而平㆗其興㆖。〔疏〕平㆓其興㆒者、興、謂㆑徵㆑賦、當㆘各計㆓十一㆒而稅㆖、不㆑得㆓特多特少㆒、是平㆓其興㆒也。㊁縣名。㋑南朝宋、置く。故治は廣東省高明縣の西。〔讀史方輿紀要、廣東、肇慶府、高要縣〕平興廢城、劉宋置、云云、宋幷㆓平興㆒入㆓高要縣㆒。㋺南朝宋の氐人楊難當、置く。故治は四川省昭化縣の西北。〔讀史方輿紀要、四川、保寧府、昭化縣〕景谷廢縣、李吉甫曰、楊難當克㆓葭萌㆒、分㆓白水㆒置㆓平興縣㆒。

【平鴻】225（ヘイコウ） 平かで大きい。鴻は洪で、大の意。〔漢書、禮樂志〕靈㵿平而鴻、長生豫。〔注〕師古曰、神靈德澤所㆑浸、溥博無㆑私、其福甚大、故我得㆓長生之道㆒而安豫也。

【平谷】226（ヘイコク） 縣名。漢、置く。今、河北省北京市の東北。縣城は泃河の北岸に瀕す。後漢の時、吳漢が尤來・五幡の諸賊を破つたところ。〔漢書、地理志下〕漁陽郡、縣十二、平谷。〔淸史稿、地理志〕直隸、順天府、縣十九、平谷。

【平國】227（ヘイコク） ㊀善く治まつてゐる國。〔周禮、秋官、大司寇〕刑㆓平國㆒、用㆓中典㆒。〔注〕平國、承平守成之國也。〔疏〕謂㆘先君受㆑封、後君承㆓前平安㆒守㆓持成立㆒之國㆖。㊁國を治める。〔公羊、隱、元〕公將㆔平㆑國而反㆓之桓㆒。〔注〕平、治也。㊂春秋、陳靈公（**11－41698**··1315）の名。㊃字號。㋑宋、黃衡（**12－47926**··129）の字。㋺宋、劉宰（**2－2224**··290）の字。

【平國君】228（ヘイコククン） 漢、侯公の封號。〔史記、項羽紀〕漢王復使㆔侯公往說㆓項羽㆒、云云、卽歸㆓漢王父母妻子㆒、軍皆呼㆓萬歲㆒、漢王乃封㆓侯公㆒爲㆓平國君㆒。

【平獄】229（ヘイゴク ベンゴク） 裁判を明かに正しくする。平刑。獄は訴訟。〔漢書、賈山傳〕平㆑獄緩㆑刑、天下莫㆑不㆓說喜㆒。

【平沙】230（ヘイサ） たひらで廣いすなはら。沙漠。〔何遜、慈姥磯詩〕野岸平沙合、連山遠霧浮。〔杜甫、後出塞詩〕平沙列㆓萬幕㆒、部伍各見㆑招。〔岑參、磧中作詩〕今夜不㆑知何處宿、平沙萬里絕㆓人煙㆒。

【平沙落雁】231（ヘイサラクガン） 沙原におりたつ雁。㊀瀟湘八景の一つ。八景（**2－1450**··139）の㊀㋑を見よ。〔宣和畫譜、十九〕今御府所㆑藏、一百八十有九、秋汀落雁圖三、平沙落雁圖一。㊁琴曲の名。作者不明。〔高士奇、蓬山密記〕上又云、朕近以㆓琴譜平沙落雁㆒勾作㆓琵琶㆒、紘子虎拍箏四樂器同彈、因命彈㆑之、四樂合成㆓一聲㆒、仍作㆓琴音㆒、聲甚淸越、極其大雅。㊂北京人の愛養する菊花の一種。〔燕京歲時記、九花山子〕謹按、日下舊聞考、蓋京師之菊種亟繁、有㆓云云、平沙落雁㆒。

【平莎】232（ヘイサ） 一面にはえたはますげ。〔沈約、從軍行〕維㆑舟無㆓夕島㆒、秣㆑驥乏㆓平莎㆒。

【平坐】233（ヘイザ） ㊀たひらに坐す。普通に坐す。樂に坐す。〔穆天子傳、五〕天子賜㆓許男駿馬十六㆒、許男降、再拜空首、乃升平坐。㊁二階建の廊下。複道。閣道。〔營造法式〕天宮樓閣、下層爲㆓副階㆒、中層爲㆓平坐㆒、上層爲㆓腰檐㆒。

【平濟】234（ヘイサイ ベンサイ） 正し救ふ。〔晉書、孔嚴傳〕令㆔婉然通順、人無㆓間言㆒、然後乃可㆔保㆑大定㆑功、平㆓濟天下㆒者也。

【平齋】235（ヘイサイ） 字號。㊀宋、洪咨䕫（**6－17402**··240）の號。㊁淸、吳雲（**2－3365**··15）の字。

【平齋詞】236（ヘイサイシ） 書名。一卷。宋、洪咨䕫撰。其の詞は抑塞磊落の氣が多い。〔四庫提要、集、詞曲類〕。

【平齋文集】237（ヘイサイブンシフ） 書名。三十二卷。宋、洪咨䕫撰。經筵進講、及び制誥の文を多く載せ、詩歌雜著は僅かに十分の三に止まる。〔四庫提要、集、別集類〕。

【平灑】238（ヘイサイ） 一面にそそぐ。〔鮑照、喜雨詩〕平灑㆓周海嶽㆒、曲潦溢㆓川莊㆒。

【平在】239（ヘイザイ ベンザイ） わきまへみる。公平に察する。平は辨、在は察。〔書、堯典〕平㆓在朔易㆒。〔傳〕平㆓均在㆔察其政㆒、以順㆓天常㆒。〔蔡傳〕在、察也。

【平罪】240（ヘイザイ ベンザイ） 罪を正しくとりさばく。〔史記、衞康叔世家〕文公初立、輕㆑賦平㆑罪、身自勞、與㆓百姓㆒同㆑苦、以收㆓衞民㆒。

【平壯】241（ヘイサウ） 平常身のさかんな時。〔謝莊、讓㆓中書令㆒表〕在㆓於平壯㆒、猶不㆑可㆑勉、況今綿痼、百志俱淪。

【平草】242（ヘイサウ） 一面の草。〔陸游、翼日早晴詩〕一蟬鳴㆓高槐㆒、兩蝶點㆓平草㆒。

【平贓】243（ヘイザウ） 贓物（盜品）の價値を公平に評價する。〔唐律、名例、四〕諸平贓者、皆據㆓犯處當時物賈及上絹㆒估。〔疏議〕贓、謂㆓罪人所㆑取之贓㆒、皆平㆓其價直㆒、準㆓犯處當時上絹之價㆒、依㆑令每月旬別㆓三等㆒估㆓其贓㆒。

【平作】244（ヘイサク） ㊀急がないで事をする。一說に、平は丕の誤で、大いにする意といふ。〔漢書、王莽傳上〕十萬衆並集平作二旬、大功畢成。〔注〕師古曰、平作、謂㆑不㆓促遽㆒也、平字或作㆑丕、丕、亦大也。㊁平年並の收穫、平年作。

【平朔】245（ヘイサク ベンサク） ㊀曆を正す。朔は北方の地。堯の時、和叔に朔方に居て冬を主らせたが、冬は歲事の終であり、改年の時であるので、かくて朔を以て曆の意を表はす。轉じて、冬に天子の政を聽く處を平朔といふ。〔書、堯典〕申命㆓和叔㆒、宅㆓朔方㆒、曰㆓幽都㆒、平㆓在朔易㆒。〔李長民、廣汴賦〕以視㆑朔而布㆑政、則春朝㆓靑陽㆒、秋覲㆓總章㆒、冬遇㆓平朔㆒、夏宗㆓明堂㆒。㊁太陰曆法に於ける月の大小を定める方法の一つ。朔より次の朔の期間までを一定とするもので、月の大小は概ね交互に來り、稀に大の月が二回連續する。〔國朝漢學師承記、江永〕月有㆓平朔平望之策㆒。

【平察】246（ヘイサツ ベンサツ） 公平にしらべみる。平在。〔周禮、地官、鄕師〕各掌㆓其所㆑治鄕之敎㆒、而聽㆓其治㆒。〔注〕聽、謂㆔平㆓察之㆒。

【平山】247（ヘイザン） ㊀山名。㋑滿洲遼寧省錦縣の東南。一名、團山。上に土城がある。㋺滿洲遼寧省蓋平縣の西北。㋩滿洲黑龍江省蘿北縣の西。石炭を產す。㊁山東省聊城縣の西南。〔讀史方輿紀要、山東、東昌府、平山衞〕志云、城中有㆓二阜㆒、謂㆓之

平山一。㋭山東省掖縣。銀・鉛を產す。㋬福建省閩侯縣の東南。宋の端宗が航海して兵を此處に駐め、其の頂を削つて平かにしたからいふ。一名、九曲山。〔讀史方輿紀要、福建、福州府、侯官縣、釣臺山〕平山、在二府東南三十二里一、志云、宋少帝航レ海時、駐二兵於此一、剗二平其頂一、因名。㋣湖南省常德縣の西。又、武山・太和山・武陵山・河洑山ともいふ。〔水經、沅水注〕沅水又東逕二平山西一、南臨二沅水一、寒松上蔭、清泉下注。〔清一統志〕平山、一名太和山、又名二武陵山一。㋠廣東省惠陽縣の東。其の麓に平山墟がある。㋷姑射山をいふ。山西省臨汾縣の西。一名、壺口山。〔元和郡國志〕平山、一名、壺口山、今名二姑射山一、在二山西臨汾縣西一。❷縣名。㋑晉、置く。廣西省橫縣の東南。〔讀史方輿紀要、廣西、南寧府、橫州〕樂山廢縣、州東南五十里、漢合浦郡高涼縣地、晉置二平山縣一。㋺唐、隋の房山縣を改め置く。河北省井陘縣の東北、滹沱河の北岸。〔讀史方輿紀要、直隸、眞定府、平山縣〕隋開皇十六年、析二置房山縣一、屬二恆州一、云云、唐至德初、改爲二平山縣一。〔清史稿、地理志〕直隸、正定府、縣十三、平山。❸字號。㋑宋、曾子良(**5**—**14299**・・197)の號。㋺宋、王擧正(**7**—**20823**・・1317)の號。㋩明、張路(**4**—**9812**・・750)の號。㋥清、姚培謙(**3**—**6202**・・198)の字。㋭清、張時泰(**4**—**9812**・・1147)の字。

【平山墟】248 ヘイザンキヨ　地名。❶廣東省惠陽縣の東、平山の麓。❷廣東省花縣の西南。黄道水の西。

【平山堂】249 ヘイザンダウ　❶堂の名。江蘇省江都縣の西北、蜀岡の上に在り、宋の慶曆中、郡守歐陽脩の建てたもので、清の聖祖は、二度此の地に幸した。遊觀の所。〔避暑錄話〕歐陽文忠公在二揚州一、作二平山堂一、壯麗爲二淮南第一一、堂據二蜀岡一、下臨二江南數百里一、眞潤金陵三州、隱隱若レ可レ見。〔輿地紀勝〕在二州城西北大明寺側一、負レ堂而望、江南諸山、拱二列簷下一、故名。〔王士禛、冶春絕句〕東風花事到二江城一、早有三人家喚二賣餳一、他日想思忘不レ得、平山堂下五清明。❷室名。㋑明、何濤(**1**—**511**・・148)の室名。㋺清、朱爾邁(**6**—**14424**・・825)の室名。

【平山先生】250 ヘイザンセンセイ　宋、毋制機(**6**—**16721**・・27)の尊稱。

【平山兵原】251 ヒラヤマヘイゲン　江戸の人。名は潛。字は子龍。通稱は行藏。號は兵原・練武堂・運籌眞人。文政十一年十二月二十四日歿す、年七十。昌平黌に學び、初、幕府の普請役となつたが、後、病と稱して仕官の念を絕ち、專ら意を兵法に留め、刀・槍・拳・弓・砲の技、長沼の兵學を究め、之を以て子弟に教へた。著に運粮考・營法發揮・沿海形勢圖考・偃月刀勢法圖訣・演刀階級・海防問答・行軍須知・杞憂迂談・弓箭製造錄・紀功新書校正・紀功新書國字解・騎戰復古編・擬太平策・火攻問答校正・貴革雜記・劍說・鈴林巵言・槍法實用・城制發揮・射法撮要・神弩考・正續百將傳校正・西洋火攻神器說校正・戰射實指・戰船圖彙・孫子衍義・孫子解圍・孫子諸說折衷・孫子補傳・長刀圖訣・讀史臆斷鈔・礮石圖說・砲戰提綱・駁射學正宗・八陳反正・百戰奇法校正・百戰定論・武學正路・武經七書正文校正・復讐論・兵經・兵原十編・練統圖說・練弩圖說がある。〔近代著述目錄後篇〕。

【平山冷燕】252 ヘイザンレイエン　小說の名。二十回。荻岸山人編と題す。清の盛百二の抽堂續筆談には、清の張劭が十四五歲の時に作り、其の父が續成したものといふ。山顯仁の女、山黛と其の侍婢、冷絳雪が、平如衡・燕白頷と結婚する筋を演じたもの。〔中國小說史略〕。

【平山堂圖志】253 ヘイザンダウヅシ　書名。十卷。清、趙之壁編。蜀岡保勝の全圖、城闉清梵から蜀岡三峰に至り、又、尺五樓から九峰に至る眞景を描く。我が昌平叢書本、第五十三の中六冊に收める。

【平產】254 p'ing^2 ch'an^3　安產。輕い產。

【平塹】255 ヘイザン　たひらなほり。〔韓維、答下公懿以屨遊二薛園一見上詒詩〕幽扉樂二隱竹一、小彴度二平塹一。

【平士】256 ヘイシ　ひらざむらひ。

【平子】257 ヘイシ　❶春秋、魯の季孫意如(**3**—**6965**・・177)の諡。❷字號。㋑後漢、張衡(**4**—**9812**・・120)の字。㋺晉、王澄(**7**—**20823**・・804)の字。㋩後魏、裴延儁(**10**—**34362**・・104)の字。㋥唐、丁公著(**1**—**2**・・252)の字。㋭明、湯道衡(**7**—**17874**・・197)の字。㋬清、嚴首升(**2**—**4589**・・286)の字。㋣清、吳晉(莆田の人)(**2**—**3365**・・247)の字。㋠清、王星誠(**7**—**20823**・・1779)の字。❸姓氏。

【平子絕倒】258 ヘイシゼツタウ　蒙求の標題。晉の王澄、字は平子が、衞玠の言を聞いて歎息絕倒した故事。〔晉書、衞玠傳〕琅邪王澄有二高名一、少レ所二推服一、每レ聞二玠言一、輒嘆息絕倒、故時人爲レ之語曰、衞玠談レ道、平子絕倒。

【平氏】259 ヘイシ　❶縣名。㋑漢、置く。故城は河南省桐柏縣の西。〔讀史方輿紀要、河南、南陽府、桐柏縣〕平氏城、縣西北四十里、漢縣、屬二南陽郡一。㋺南朝宋、置く。故治は湖南省安鄕縣の西南。❷姓氏。

【平市】260 ヘイシ　賣買交易の市場を公平にする。〔周禮、地官、司市〕以二陳肆一辨レ物而平レ市。〔注〕陳、猶レ列也、辨レ物、物異レ肆也、肆異則市平。

【平至】261 ヘイシ　公平で天道に至り通ずる。公平無私。平格。〔書、君奭、公曰、君奭天壽二平格一保二乂有殷一傳〕言、天壽下有二平至一之君上、故安二治有殷一。

【平志】262 ヘイシ　❶志をやはらげる。〔申鑒、雜言上〕君子食二和羹一以平二其氣一、聽二和聲一以平二其志一、納二和言一以平二其政一、履二和行一以平二其德一。〔宋祁、右史院蒲桃賦〕玩レ之可レ使レ蠲レ煩、食レ之足二以平レ志。❷正しくおだやかな志。〔中論、貴言〕射以二平志一、御以二和心一。

【平使】263 ヘイシ　女壻をいふ。卒使。〔稱謂錄、女之夫、平使〕方言、東齊之閒、壻謂二之倩一、郭璞曰、言レ可二假倩一也、今俗呼二女壻一爲二卒使一、是也、卒使、一作二平使一。

【平施】264 ヘイシ　公平にしき施す。又、ほどこしを公平にする。〔易、謙〕地中有レ山謙、君子以裒レ多益レ寡、稱レ物平レ施。〔張說、奉レ和二聖製喜レ雨賦〕樂二雲雨之平施一、齊二品物之流形一。〔韓愈、喜レ雪獻二裴尙書一詩〕爲レ祥矜二大熟一、布レ澤荷二平施一。

【平砥】265 ヘイシ　平な砥石。又、砥石のやうに平なこと。〔晉書、潘岳傳〕沃野墳腴、膏壤平砥。

【平翅】266 ヘイシ　平なつばさ。又、つばさを平に張る。〔庾信、奉二和闡弘二教一應詔詩〕露盤高掌滴、風烏平翅迴。

【平絲】267 ヒライト　よりのすくない絲。

【平視】268 ヘイシ　顏を向ひ合せて直視する。面と向つてまともに見る。〔禮、曲禮下、大夫衡視、注〕衡、平也、平視、謂レ視レ面也。〔魏志、劉楨傳、注〕太子酒酣、坐歡、命二夫人甄氏一出拜二坐中一、衆人咸伏、而楨獨平視。〔李華、臥レ疾舟中相里范二侍御先行贈別序〕江亭憑レ檻、平二視漢皐一。

【平貲】269 ヘイシ　財產を等しくする。〔魏志、曹洪傳、注〕魏略曰、初太祖爲二司空一時、以レ己率レ下、每歲發調、使二本縣平レ貲、于レ時譙令平二洪貲財一與二公家一等、太祖曰、我家貲那得レ如二子廉一邪。

【平肆】270 ヘイシ　商人の不正を正すこと。みせの貨財を平にする。〔周禮、地官、司市〕守二門市一之群吏、平レ肆展レ成奠レ賈。〔注〕平肆、平二賣レ物者之行列一、使二之正一也。〔孫詒讓正義〕江永云、平肆者、平二其肆之貨賄一、不レ使二其名實相紊一也。〔周邦彥、汴都賦〕議二輕重一以奠レ賈、正二行列一而平レ肆。

【平字】271 ヒヤウジ　平聲に屬する漢字。仄字(**1**—**352**・・7)の對。平聲(369)・平仄(400)を見よ。

【平事】272 ヘイジ　和睦の事。〔左氏、襄、二十六、及二宋向戌將レ平二晉楚一、聲子通二使于晉一、注〕爲レ國通二平事一。

【平時】273 ヘイジ　平常。穩かな時。無事の時。〔白居易、江州司馬廳記〕官不官繫二平時一也。〔陸游、雪意詩〕山寒酒過二平時量一、窗黑書虧二半日功一。

【平時不燒香急時抱佛脚】274 p'ing^2 shih^2 pu^4 shao^1 hsiang^1 chi^2 shih^2 pao^4 fo^2 chiao^3　苦しい時の神頼み。

【平州】275 ヘイシウ　❶地名。春秋、齊の地。山東省萊蕪縣の西。〔春秋、宣、元〕公會二齊侯于平州一。〔杜注〕平州齊地、在二泰山牟縣西一。❷州名。㋑晉、置く。今の滿洲遼寧省・熱河省、及び朝鮮にわたる地。治は昌黎、今、熱河省朝陽縣の境。〔讀史方輿紀要、歷代州域形勢、晉〕平州、治昌黎、今直隸大寗廢衞、故柳城東南有二昌黎廢縣一、統二郡五一。〔清一統志〕遼陽縣東四十五里有二土堡一、俗呼二平州一、相傳、時晉平州遺址。㋺前燕、置く。治は襄平、今、滿洲遼寧省遼陽縣の地。㋩後燕、置く。治は今の滿洲熱河省朝陽縣。後、平郭を治とす。今、遼寧省蓋平縣の南。㋥前秦、置く。治は和龍。今、滿洲熱河省朝陽縣治。㋭後魏、置く。治は肥如。今、河北省盧龍縣の北。〔讀史方輿紀要、直隸、永平府〕

後魏亦曰㆓遼西郡㆒、兼置㆓平州㆒。㋬北周、置く。今、湖北省當陽縣治。〔讀史方輿紀要、湖廣、安陸府、荆門州、當陽縣〕後周置㆓平州及漳州郡治㆒、此後屬㆑梁。㋣隋、置く。治は盧龍。今、河北省盧龍縣治。元、興平府と改む。〔讀史方輿紀要、直隸、永平府〕隋初郡廢、仍曰㆓平州㆒。㋠宋、置く。治は懷遠。今、廣西省三江縣の北。〔讀史方輿紀要、廣西、柳州府、懷遠縣〕宋崇甯四年、又於㆑砦置㆓懷遠軍㆒、尋改㆓平州㆒、兼置㆓懷遠縣㆒、爲㆓附郭㆒。❸複姓。〔逸周書、史記解〕平州氏、功大不㆑賞、功臣怒而生㆑變、平州出奔。

【平舟】276 ヘイシウ ❶縣名。民國、置く。貴州省獨山縣の西、豐盈河の南岸。❷宋、楊棟(**6－15112**・・300)の號。

【平周】277 ヘイシウ 縣名。❶漢、置く。故城は山西省介休縣の西。〔史記、魏世家〕秦取㆓我曲沃・平周㆒。〔漢書、地理志下〕西河郡、縣三十六、平周。❷南朝宋、置く。今、缺く。四川省舊保寧府の境。

【平岫】278 ヒラクキ 羽後國の地名。

【平洲】279 ヘイシウ ❶堡の名。廣東省南海縣の東、平洲水の北。〔水經、江水注〕庾仲雍曰、臨㆑江至㆓石城黃華口㆒一百里、又東至㆓平洲㆒。❷細井德民の號。細井平洲(**8－27344**・・335)を見よ。

【平秋】280 ヘイシウ 秋の最中。中秋。平は正しく其の時に當ること。〔吳中復、中秋待㆑月詩〕平秋氣象分。

【平繡】281 ヘイシウ 北平(北京)產の刺繡。京繡・宮繡ともいふ。もと宮女が暇にまかせて造り、宮監に手交して賣出したもので、それ故に宮繡といつてゐたが、後、一般の子女が模倣して作るに及び、宮の字をさけて京繡といひ、更に又北京を北平と改めるに及んで平繡といふやうになつた。平金が最もよいとされてゐる。

【平日】282 ヘイジツ つね。ふだん。平生。〔漢書、汲黯傳〕遇㆑黯加㆓於平日㆒。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕平日尚無㆓惡言㆒、今友若㆑此、不㆑合㆓人情㆒。

【平濕】283 ヘイシフ ヘイシツ たひらな濕地。平隰に同じ。〔周禮、地官、大司徒〕辨㆓其山林川澤丘陵墳衍原隰之名物㆒、〔注〕高平曰㆑原、下溼曰㆑隰。

【平隰】284 ヘイシフ ヘイシツ たひらかな濕地。平濕。〔晉書、趙至傳〕肆㆓目平隰㆒、則寥廓而無㆑覩、極㆓聽修原㆒、則淹寂而無㆑聞。〔王融、採菱曲〕雕輜傃㆓平隰㆒、朱櫂泊㆓安流㆒。

【平車】285 p'ing^{2} ch'ê^{1} 小荷物運搬の小車。

【平紗】286 ヘイシヤ 懷州に產する紗の名。〔唐書、地理志三〕懷州河內郡土貢平紬・平紗・枳殼・茶・牛膝。

【平昌】287 ヘイシヤウ ❶郡名。㋑三國魏、置く。治は安丘、山東省安丘縣の西南。〔讀史方輿紀要、山東、青州府、安邱縣〕三國魏、屬㆓平昌郡㆒、晉仍曰㆓安邱縣㆒、屬㆓東莞郡㆒、惠帝復置㆓平昌郡於此㆒。㋺南朝宋、置く。安徽省滁縣治。㋩後魏、置く。故治は河北省昌平縣の西。〔讀史方輿紀要、直隸、順天府〕昌平州、東魏爲㆓東燕州、及平昌郡㆒。❷縣名。㋑漢、置く。侯國。故城は山東省安丘縣の南。〔漢書、地理志上〕平原郡、縣十九、平昌。〔注〕侯國。㋺漢、置く。故城は山東省德平縣の西南。〔讀史方輿紀要、山東、濟南府、德州、德平縣〕漢置㆓平昌縣㆒、屬㆓平原郡㆒。㋩三國吳、置く。浙江省遂昌縣治。〔讀史方輿紀要、浙江、處州府、遂昌縣〕吳赤烏二年、分置㆓平昌縣㆒、屬㆓東陽郡㆒。㋥後魏、置く。故治は河南省滑縣。〔讀史方輿紀要、直隸、大名府、滑縣、衞南廢縣〕後魏置㆓平昌縣㆒、屬㆓東郡㆒、北齊廢。㋭後魏、置く。故城は山西省蒲縣の西北。㋬東魏、置く。山西省介休縣治。〔讀史方輿紀要、山西、汾州府、介休縣〕東魏興和二年、析置㆓平昌縣㆒云云、隋開皇十八年、又改㆓平昌㆒曰㆓介休㆒。㋣後魏、置く。故治は山西省鄉寧縣の西南。〔讀史方輿紀要、山西、平陽府、吉州、鄉甯縣、呂香廢縣〕後魏太和二十一年、改曰㆓平昌㆒、屬㆓五城郡㆒。㋠唐、置く。今、廣東省文昌縣の西北。〔讀史方輿紀要、廣東、瓊州府、文昌縣〕志云、本武德縣、隋置屬㆓崖州㆒、唐改曰㆓平昌縣㆒、後改曰㆓文昌㆒。

【平昌溪】288 ヘイシヤウケイ 川の名。源を廣東省文昌縣の西北に發し、上流を墨白溪といふ。支流は白芒溪。

【平章】289 ヘイシヤウ ベンシヤウ ❶わかち明かにする。均しく明かに治める。〔書、堯典〕九族既睦、平㆓章百姓㆒、百姓昭明。〔傳〕言㆘化㆓九族㆒而平和章明㆖。〔疏〕謂、九族與㆓百官㆒、皆須㆘導㆑之以㆓禮儀㆒、平㆓理之㆒、使㆓之協和㆒、教㆑之以㆓禮法㆒、章㆓顯之㆒、使㆗之明著㆖。〔蔡傳〕平、均、章、明也。〔庾信、爲㆓晉陽公㆒進㆓玉律秤尺斗升㆒表〕刊㆓正音律㆒、平㆓章曆象㆒。❷公平に品評して品位をあきらかにする。〔戴復、梅花詩〕穿㆑林傍㆑水幾平章。〔陸游、自笑詩〕平章春韭秋菘味、柝補天吳紫鳳圖。〔朱熹、清江道中見㆑梅詩〕暖熱惟須㆑酒、平章卻要㆑詩。❸結婚の媒介をする。とりもつ。〔太平廣記〕天寶中、范陽盧子、謁㆓其從姑㆒、姑聞㆑未㆑婚、曰、吾外甥有㆓姓鄭者㆒、甚有㆓容質㆒、當㆓爲㆑兒平章㆒。❹官名。平章事を見よ。

【平章雨】290 ヘイシヤウウ ベンシヤウウ 元の平章事、王伯勝の祈禱の德によつて降つた雨を時人が稱した語。平章は官名で、善く庶民を治める義。〔元史、王伯勝傳〕拜㆓遼陽等處行中書省平章政事㆒、云云、歲大旱、伯勝齋戒以禱、禱畢卽雨、人謂㆓之平章雨㆒。

【平章事】291 ヘイシヤウジ ベンシヤウジ 官名。唐・宋の宰相の職。正しくは同中書門下平章事、又、同平章事といふ。唐代、尙書・中書・門下の三省の長官を宰相といひ、常には置かず、他官を以て其の職を兼攝せしめ、參議得失・參知政事・參和機務等の名を以て之を稱した。元來三省の長官は各〻分掌を有してゐたが、宰相の職は自ら政務統合を要するので、太宗の末年頃、門下省に政事堂を設け、中書・門下の長官を此處に會して樞機を議決せしめ、高宗の時、之を中書に遷し、玄宗の開元十一年、中書門下と改稱して、其の職を合せ、吏・樞機・兵・戶・刑禮の五房に分つて、各種の政を分掌せしめた。是より先、高宗の時、宰相として、機務に與るものは中書令を除き、侍中・僕射と雖も同中書門下三品を加へられ、以後同中書門下三品、或は同中書門下平章事のみが宰相となつた。而して平章事の名は、太宗の貞觀八年、僕射李靖が疾を以て位を辭した時の詔に、疾少しく瘳ゆれば、中書門下に至り、事を平章せよとあるに起り、肅宗の時に至り、同三品の稱を廢して、專ら同平章事の名を用ひた。宋、之に仍り、參知政事を副とした。其の尤も崇いものを平章軍國重事といふ。元、中書省・行中書省に平章を置き、丞相の次官とした。明、廢す。〔唐書、百官志〕貞觀八年、僕射李靖、以㆑疾辭㆑位、詔、疾小瘳、三兩日一至㆓中書門下㆒、平㆓章事㆒、而平章事之名、蓋起㆓於此㆒。〔文獻通考、職官考、宰相〕唐世宰名尤不㆑正、初唐因㆓隋制㆒、以㆓三省之長中書令・侍中・尙書令㆒、共議㆓國政㆒、此宰相職也、其後以㆔太宗嘗爲㆓尙書令㆒、臣下避不㆔敢居㆓其職㆒、由㆑是僕射爲㆓尙書省長官㆒、與㆓侍中・中書令㆒、號爲㆓宰相㆒、其品位既崇、不㆑欲㆓輕以授㆑人、故常以㆓他官㆒居㆓宰相職㆒、而假以㆓他名㆒、自㆘太宗時、杜淹以㆓吏部尙書㆒參㆓議朝政㆒、魏徵以㆓祕書監㆒參㆗預朝政㆖、其後或曰㆓參議得失・參知政事㆒之類、其名非㆑一、皆宰相職也、貞觀八年、僕射李靖、以㆑疾辭㆑位、詔、疾小瘳、三兩日一至㆓中書門下㆒、平㆓章事㆒、而平章事之名、蓋始㆓起於此㆒、其後李勣以㆓太子詹事㆒、同㆓中書門下三品㆒、謂㆑同㆓侍中中書令㆒也、而同三品之名、蓋起㆓於此㆒、然二名不㆓專用㆒、而他官居㆑職者、猶假㆓他名㆒如㆑故、自㆓高宗㆒已後爲㆓宰相㆒者、必加㆓同中書門下三品㆒、雖㆓品高者㆒亦然、惟三公三師中書令則否、其後改㆓易官名㆒、而張文瓘以㆓東臺侍郎㆒同㆓東西臺三品㆒、同三品入銜、自㆓文瓘㆒始、永淳元年、以㆓黃門侍郎郭待擧・兵部侍郎岑長倩等㆒、同㆓中書門下平章事㆒、平章事入銜、自㆓待擧等㆒始、自㆑是以後、終㆓唐之世㆒、不㆑能㆑改、初三省長官、議㆓事於門下省之政事堂㆒、其後裴炎自㆓侍中㆒遷㆓中書令㆒、乃徙㆓政事堂於中書省㆒、開元中、張說爲㆑相、又改㆓政事堂㆒號㆓中書門下㆒、列㆓五房於其後㆒、一曰吏房、二曰樞機房、三曰兵房、四曰戶房、五曰刑禮房、分㆑曹以主㆓衆務㆒焉、宰相事無㆑不㆑統、故不㆘以㆓一職㆒名㆖官、自㆓開元㆒以後、常以領㆓他職㆒、實欲㆑重㆓其事㆒、而反輕㆓宰相之體㆒、故方用㆑兵、則爲㆓節度使㆒、時崇㆓儒學㆒、則爲㆓大學士㆒、時急㆓財用㆒、則爲㆓鹽鐵轉運使㆒、又其甚則爲㆓延資庫使㆒、至㆓於國史太清宮之類㆒、其名頗多、皆不㆑足㆑取、自㆓先天之前㆒、其員頗多、景龍中、至㆓十餘人㆒、開元以來、常以㆓二人㆒爲㆑限、或多則三人、天寶十五載之後、天下多難、勳賢並建、故備㆑位者衆、然其秉㆑鈞持㆑衡、亦一二人而已。

【平掌】292 ヘイシヤウ たひらな手のひら。〔劉因、乙亥十月往㆓平定㆒云云早發㆓土門㆒宿㆓故關㆒書㆑所㆑見

詩〕風煙全趙如㆓平掌㆒、失脚山城猶夢想。

【平敞】293（ヘイシヤウ） たひらでひろい。敞はひろい。〔鹽鐵論、除狹〕愚者雖㆑處㆓平敞大路㆒、猶暗惑焉。〔後漢書、陳紀傳〕三輔平敞、四面險固。

【平城】294（ヘイジヤウ） ❶後漢の洛陽城門の名。〔後漢書、百官志四〕雒陽城十二門、其正南一門曰㆓平城門㆒。❷縣名。㋑漢、置く。故城は山西省大同縣の東。高祖が匈奴を撃つて七日間圍まれたところ。後魏の道武帝、都を建て、此處に宮室・宗廟を營んだ。〔史記、高祖紀〕七年、匈奴攻㆓韓王信㆒、因與同反、高祖自往擊㆑之、至㆓平城㆒、匈奴圍㆓平城㆒七日、而後罷去。〔漢書、地理志下〕雁門郡、縣十四、平城。㋺漢、置く。侯國。故城は山東省昌邑縣の南。〔漢書、地理志上〕北海郡、縣二十六、平城。〔注〕侯國。㋩隋、置く。故治は山西省和須縣の西。〔讀史方輿紀要、山西、遼州〕平城廢縣、志云、卽趙平都城也、趙簡子所㆑立、云云、隋開皇十六年、置㆓平城縣㆒、屬㆓幷州㆒。❸（ヘイゼイ）㋑古、奈良をいふ。〔續日本紀、四〕和銅二年九月戊午、車駕至㆑自㆓平城㆒。㋺第五十一代の諡號。〔日本後紀、平城紀〕天皇遜傳㆑位、避㆓病於數處㆒、五遷之後、宮㆓于平城㆒。❹（ナラ）大和國奈良をいふ。

【平城京】294′（ヘイジヤウキヤウ） 元明天皇の和銅三年の遷都より、奈良朝七十餘年間の都。東西八里・南北九里、中央を南北に通ずる朱雀大路によつて左右兩京に分ち、兩京とも縱横に大路を開き、南北各九條、東西各四條とした。

【平城之役】295（ヘイジヤウノエキ） 漢の高祖が匈奴を討つて平城に至り、冒頓のために白登に圍まれること七日、内外の連絡絶え、食乏しく大いに苦しんだが、陳平の計を用ひ、冒頓の皇后をあざむいて、僅かに免れるを得た事件。平城は山西省大同縣の東。〔漢書、高帝紀下〕上從㆓晉陽㆒連戰、乘㆑勝逐㆑北、至㆓樓煩㆒、會㆓大寒㆒、士卒墮㆑指者、什二三、遂至㆓平城㆒、爲㆓匈奴所㆑圍七日、用㆓陳平祕計㆒得㆑出。〔注〕應劭曰、陳平使㆔畫工圖㆓美女㆒、閒遣㆑人遺㆓閼氏㆒云、漢有㆓美女㆒如㆑此、今皇帝困厄、欲㆑獻㆑之、閼氏畏㆔其奪㆓己寵㆒、因謂㆓單于㆒曰、漢天子亦有㆓神靈㆒、得㆓其土地㆒、非㆓能有㆒也、於㆑是匈奴開㆓其一角㆒、得㆓突出㆒。〔蘇洵、送㆓石昌言使㆑北引〕昔者奉春君使㆓冒頓㆒、壯士健馬、皆匿不㆑見、是以有㆓平城之役㆒。

【平常】296（ヘイジヤウ） ❶つねづね。ふだん。平日。平生。〔後漢書、光武紀上〕飲食言笑如㆓平常㆒。〔蜀志、譙周傳〕平常無㆑所㆑供。〔韓愈、張中丞傳後敍〕（張）巡就㆑戮時、顏色不㆑亂、陽陽如㆓平常㆒。❷平凡。珍しくない物事。

【平襄】297（ヘイジヤウ） 縣名。漢、置く。故城は甘肅省通渭縣の西南。新の更始の時、隗囂の季父崔が、其の地を攻拔し、衆はそこで囂を推して上將軍としたところ。〔漢書、地理志下〕天水郡、縣十六、平襄。〔後漢書、郡國志〕漢陽郡、縣平襄。

【平壤】298（ヘイジヤウ） ❶平かな地。平地。〔後漢書、申屠蟠傳〕今先生處㆓平壤㆒、游㆓人閒㆒。〔注〕壤、地也。❷地名。朝鮮平安南道の首邑で、大同江の北岸を占める。箕子及び高句麗の都した所。〔隋煬帝、親㆓征高麗㆒詔〕凡此衆軍、先奉㆓廟略㆒、絡繹引途、總集㆓平壤㆒。〔讀史方輿紀要、山東、外國附考、朝鮮平安道〕治平壤府、朝鮮西京也、南東去㆓王京㆒五百餘里、漢曰㆓樂浪郡㆒、後爲㆓高麗王所㆑都。

【平爵】299（ヘイシヤク） 爵をたひらにする。爵は酒盃。〔周禮、考工記、梓人〕凡試㆓梓飮器㆒、鄕衡而實不㆑盡、梓師罪㆑之、注〕衡、平也、平㆑爵鄕㆑口酒不㆑盡、則梓人之長、罪㆓於梓人㆒焉。

【平若】300（ヘイジヤク） 明、蒲秉權（9－31611‥199）の號。

【平若㆑水】301（タヒラカナルコトミヅノゴトシ） 道の平かなことを水面に喩へていふ。〔鮑照、代結客少年場行〕九塗平若㆑水、雙闕似㆓雲浮㆒。

【平弱】302（ヘイジヤク） 平常なみ、及びそれより安いこと。

【平手】303（テヒラ） ❶五指をひろげた掌。拳（5－11996）の對。❷將棋で、雙方が駒を落さずに戰ふこと。落將棋の對。

【平守】304（ヘイシユ） 土地の民を治めたひらげ、林麓の部分を守る。〔周禮、地官、林衡〕掌㆘巡㆓林麓之禁令㆒、而平㆗其守㆖。〔注〕平㆓其守㆒者、平㆓其地之民㆒、守㆓林麓之部分㆒。

【平壽】305（ヘイジユ） 縣名。❶漢、置く。後漢の初、張步が耿弇に敗られて、劇から此の地に遁れた。故城は山東省平度縣の西南。〔漢書、地理志上〕北海郡、縣二十六、平壽。〔讀史方輿紀要、山東、萊州府、濰縣〕平壽城、縣西南三十里、漢縣屬㆓北海郡㆒。❷南齊、置く。今、缺く。江蘇省の境。

【平叔】306（ヘイシユク） 字號。❶後漢、鄧訓（11－39630‥40）の字。❷三國魏、何晏（1－511‥1）の字。❸宋、胥元衡（9－29406‥52）の字。❹宋、舒邦佐（9－30300‥114）の字。❺宋、祖士衡（8－24664‥163）の字。❻宋、張伯端（4－9812‥1450）の字。❼宋、俞易直（1－1437‥78）の字。❽宋、劉光世（2－2224‥833）の字。❾金、郭邦彥（11－39474‥396）の字。❿金、商衡（2－3803‥24）の字。⓫金、宗端脩（3－7106‥305）の字。⓬明、施峻（5－13629‥63）の字。⓭清、孫爾準（3－6987‥425）の字。⓮清、傅占衡（1－939‥188）の字。

【平叔傅粉】307（ヘイシユクフフン） 蒙求の標題。魏の何晏、字は平叔が、餘りに顏色の白いところから、明帝が白粉をつけてゐると疑つて、夏月に湯餅を食はせ、汗を流させた故事。〔蒙求、中、平叔傅粉〕世說曰、平叔美㆑姿、面至白、明帝疑㆓其傅㆑粉、夏月令㆑食㆓湯餅㆒、汗出、以㆑巾拭㆑之、轉皎白也。

【平肅】308（ヘイシユク） 公平でただしい。〔北史、高道悅傳〕詔曰、道悅資性忠篤、稟操貞亮、居㆑法樹㆓平肅之規㆒、處㆑諫著㆓必犯之節㆒。

【平出】309（ヘイシユツ） ❶文書中に於て敬ふべき人名を書く場合に、行を改めて前行と同じ高さから書きだす形式。擡頭。平出闕字を見よ。〔唐六典、禮部、郎中員外郎注〕昊天・后土・天神・地祇・上帝・天帝・廟號・祧・皇祖妣・皇考・皇妣・先帝・先后・皇帝・天子・陛下・至尊・太皇太后・皇太后・皇后・皇太子、皆平出。❷（テヒラ）姓氏。

【平出闕字】310（ヘイシユツケツジ） 平出と闕字。闕字とは人名等の敬ふべきものに對し、其の上一二字を闕いて空にする書式をいふ。合稱して平闕ともいふ。唐代は昊天・后土等は平出、社稷・太社・朝廷等は闕字を用ひ、我が國では、皇祖・皇祖妣・皇考・皇妣・天皇・皇后等は平出、大社・陵號・詔書・東宮・皇太子・闕庭等は闕字を用ひた。明治五年八月七日、式部寮に於て、記錄上此等の書式を用ひないことを定め、八年三月三日、諸記錄外は平闕公式令に據ることに定められた。闕字（11－41456‥21）の❶を見よ。〔唐六典、禮部尙書、員外郎〕凡上表疏牋啓及判策文章、如㆓平闕之式㆒。〔注〕謂、昊天・后土・天神・地祇・上帝・天帝・廟號・祧・皇祖妣・皇考・皇妣・先帝・先后・皇帝・天子・陛下・至尊・太皇太后・皇太后・皇后・皇太子、皆平出、宗廟・社稷・神主・山陵・陵號・乘輿・車駕・制書・敕旨・明制・聖化・天恩・慈旨・中宮・御前・闕廷・朝廷之類、幷闕㆑字、宗廟中陵・中行陵・陵中樹木・待制・乘輿・車中馬、擧㆓陵廟名㆒爲㆑官、如㆑此之類、皆不㆑闕㆑字、若泛說㆓古典㆒、延及㆓天地㆒、不㆔指㆓說平闕之名㆒者、亦不㆓平出㆒、若寫㆓經史羣書㆒、及撰㆓錄舊事㆒、其文有㆘犯㆓國諱㆒者㆖、皆爲㆓字不㆑成。〔公式令〕太皇太后・皇太后・皇后、右皆平出、大社・陵號・乘輿・車駕・詔書・敕旨・云云、皇太子・殿下、右如㆑此之類、並闕字。〔名物六帖〕按、注云、昊天・后土等類、皆平出、社稷・大社・朝廷之類、皆闕字、平出卽後世所㆑云擡頭也。

【平春】311（ヘイシユン） ❶春の最中をいふ。中春。平は正しく其の時に當ること。〔溫庭筠、吳苑行〕錦雉雙飛梅結㆑子、平春遠綠窗中起。❷縣名。㋑後漢、置く。故城は河南省信陽縣の西北。〔讀史方輿紀要、河南、汝寧府、信陽州、平陽城〕在㆓縣東南㆒、後漢置㆓平春縣㆒、屬㆓江夏郡㆒。㋺後魏、置く。河南省の境。

【平春悼王】312（ヘイシユンタウワウ） 後漢、劉全（2－2224‥457）の封諡號。

【平順】313（ヘイジユン） 縣名。明、置く。山西省潞城縣の東、濁漳河の南。舊名は青羊里。〔讀史方輿紀要、山西、潞安府〕平順縣、府東北七十里、本壺關・潞城二縣地。

【平準】314（ヘイジユン） ❶價格を平かにし、標準を定める意。天下の物價が下落した時は官に買入れ、騰貴した時は之を賣出して、物價の調節をはかること。〔史記、平準書第八、注〕索隱曰、大司農屬官有㆓平準令丞者㆒、以均㆓天下郡國轉販㆒、貴則賣㆑之、賤則買㆑之、貴賤相權輸、歸㆓于京都㆒、故命曰㆓平準㆒。〔史記、平準書〕置㆓平準于京師㆒、都受㆓天下委輸㆒、云云、大農之諸官、盡籠㆓天下之貨物㆒、貴卽賣㆑之、賤則買㆑此、如㆑此、富商大賈無㆑所㆑牟㆓大利㆒、云云、故抑㆓天下物㆒、名曰㆓平準㆒。〔鹽鐵論、

本議〕商賈無レ所レ貿レ利、故曰二平準一。❷官名。漢、大司農の屬に置く。賦斂を平かにすることを掌る。〔漢書、百官公卿表上〕治粟內史、秦官、掌二穀貨一、有二兩丞一、武帝太初元年、更二名大司農一屬官有二太倉・均輸・平準・都內・籍田、五令丞一。❸みづもり。又、みづもりで量って平にする。平均。均一。〔宋史、天文志一〕銅儀之制有レ九、云云、五曰、平準、輪在二水臬之上一。

【平準書】315 ヘイジュンシヨ　史記八書の一つ。漢の武帝の財利を中央に收める統一政策を敍したもの。〔史記、太史公自序〕維幣之行、以通二農商一、其極則玩巧、幷兼茲殖、爭二於機利一、去レ本趨レ末、作二平準書一以觀二事變一、第八。

【平準署】316 ヘイジュンシヨ　我が國で、淳仁天皇の天平寶字三年に設けて諸國の常平倉の事を掌らしめた役所。左右に分ち、左平準署は東海・東山・北陸の三道を、右平準署は、山陰・山陽・南海・西海の四道を掌つたが、光仁天皇の寶龜二年に廢せられた。〔續日本紀、二十二〕天平寶字三年五月甲戌、宜下隨二國大小一、割二出公廨一、以爲二常平倉一、逐二時貴賤一、糶糴取レ利、普救中還腳飢苦上、非三直霑二外國民一、兼調二京中穀價一、其東海・東山・北陸三道、左平準署掌レ之、山陰・山陽・南海・西海四道、右平準署掌レ之。

〖平準點〗317 ヘイジュンテン　物事の平準を得る箇所。

【平初】318 ヘイシヨ　金、趙淇(**10−37171**‥88)の號。

【平書】319 ヘイシヨ　書名。❶三卷。清、王源撰。其の目は分民・分土・建官・取士・制田・武備・財用・河淮・刑罰・禮樂。今、亡佚し、李塨の平書訂によつて存するのみである。〔顏李叢書、第二十六冊〕❷八卷。清、秦篤輝撰。〔湖北叢書、第九十四—六冊〕。

【平處】320 ヘイシヨ　常に處る。又、その處。又、平な處。〔後漢書、蔡衍傳〕其所二平處一、皆曰レ無レ怨。〔唐書、孟郊傳〕李觀亦論二其詩一曰、高處在レ古無レ上、平處下顧二二謝一云。〔曹松、贈二鏡湖處士方干一詩〕世路不レ妨二平處少一、才人唯是屈レ聲多。

【平署】321 ヘイシヨ　他の者と平等に氏名を書きつらねること。連署。署は名を書くこと。〔後漢書、李膺傳〕案經二三府一、太尉陳蕃卻レ之、云云、不二肯平署一。〔注〕平署、猶二連署一也。

【平緒】322 ヒラヲ　昔、束帶に、腰から袴の上に垂れた平組の緒。太刀の附屬品。〔服飾管見、下〕平緒の事、此のもの、朱雀・村上の御宇よりや初りぬらん。

【平序】323 ヘイジヨ ベンジヨ　わかちついづる。平かにしをさめる。〔書、堯典、平二秩南訛一傳〕訛、化也、掌レ夏之官、平二序南方化育之事一。

【平恕】324 ヘイジヨ　公平無私で、慈悲深いこと。恕は思ひやること。〔唐書、狄仁傑傳〕稍遷二大理丞一、歲中斷二久獄一、萬七千人、時稱二平恕一。〔宋史、賈黃中傳〕廉直平恕、遠人便レ之。

【平敍】325 ヘイジヨ　有りのままに述べる。

【平舒】326 ヘイジヨ　❶縣名。㋑北齊、置く。漢の東平舒縣。河北省大城縣治。〔讀史方輿紀要、直隷、順天府、霸州、大城縣〕漢爲二東平舒縣一、屬二渤海郡一、北齊改レ縣曰二平舒一。㋺漢、置く。もと趙の邑。故城は山西省廣靈縣の西。〔史記、趙世家〕孝成王十九年、趙與レ燕易レ土、以二龍兌・汾門・臨樂一與レ燕、燕以二葛・武陽・平舒一與レ趙。〔漢書、地理志下〕代郡、縣十八、平舒。❷城の名。陝西省華陰縣の西北。〔史記、秦始皇紀〕三十六年、使者從二關東一夜過二華陰平舒道一、有レ人持レ璧、遮二使者一曰、爲レ吾遺二滈池君一。〔水經、渭水注〕渭水又東逕二平舒城北一。

【平稱】327 ヘイシヨウ　はかり。てんびん。〔漢書、食貨志下〕或用二重錢一、平稱不レ受。〔注〕應劭曰、用二重錢一、則平稱有レ餘不レ能レ受也。

【平乘】328 ヘイジヨウ　平生のりもの。〔隋書、楊素傳〕素坐二平乘大船一、容貌雄偉、陳人望レ之、懼曰、清河公卽江神也。

【平茸】329 ヒラタケ　茸の名。松茸に似て傘うすく、淡い黑い色をなす。

【平色】330 p'ing^{2} sê^{4}　平は銀の秤量、色は銀質の品位。甲乙兩地の銀兩の目方と品質との差を比較してその平價を出すこと。

【平蜀】331 ヘイシヨク　蜀の國を平げる。〔魏志、鄧艾傳〕今因二平レ蜀之勢一以乘レ吳、吳人震恐席卷之時也。〔晉書、樂志下〕平レ蜀夷レ楚、以レ文以レ戎。

【平織】332 ヒラオリ　綾織などに對して、普通の織方をいふ。

【平心】333 ヘイシン　❶平かな心。落ついた氣持。〔荀子、大略〕參レ之以二平心一。❷心を平かにする。氣を落ちつける。〔禮、深衣〕下齊如二權衡一者、以安レ志而平レ心也。〔左氏、昭、二十〕先王之濟二五味一、和二五聲一也、以平二其心一成二其政一也。〔逸周書、官人解〕平レ心而固レ守者也。

〖平心靜氣〗334 p'ing^{2} hsin^{1} ching^{4} ch'i^{4}　氣を落付けて。

〖平心老人〗335 ヘイシンラウジン　元、歐陽玄(**6−16185**‥65)の號。

【平身】336 ヘイシン　❶拜して後、身體を起して直立の姿勢に反ること。〔元史、樂禮志一〕曰拜、曰興、曰平身。〔長生殿、定情〕內侍、平身。❷平身低頭を見よ。

〖平身低頭〗337 ヘイシンテイトウ　體をかがめ、頭を垂れてひれふす。恐れ入るさまにいふ。

【平信】338 ヘイシン　❶無事を知らせる手紙。平安信(12)を見よ。❷急報・密書・吉凶報などの知らせに對して普通の手紙をいふ。

【平津】339 ヘイシン　❶鄕の名。漢の平津邑で、武帝が丞相公孫弘を封じた處。河北省鹽山縣の南。〔漢書、公孫弘傳〕元朔中、代二薛澤一爲二丞相一、封二丞相弘一爲二平津侯一。〔讀史方輿紀要、直隷、河間府、鹽山縣〕縣有二平津鄕一、武帝封二公孫弘一爲二平津侯一、蓋邑二於此一。❷平津館の❷を見よ。❸北平と天津。❹安全な港。

〖平津館〗340 ヘイシンクワン　❶平津邸に同じ。〔庾信、周大將軍懷德公吳明徹誌銘〕歸二平津之館一、時聞二櫪馬之嘶一、舍二廣城之傳一、裁見二諸侯之客一。❷清、孫星衍(**3−6987**‥459)の書齋の名。〔孫星衍、平津館記〕高津至二平原一曰二平津一、經二漢高城一入レ海、公孫丞相以封焉、予參二藩山左一、駐二節安德一、地爲二平原故郡一、當二燕齊孔道一、通人過訪無二虛日一、所三以名二吾館一者、以識二風土古迹一、後之士夫、爲レ國樹レ人、或有レ慕二夫開閣之風一也。

〖平津侯〗341 ヘイシンコウ　漢、公孫弘(**2−1452**‥485)の封號。

〖平津邸〗342 ヘイシンテイ　漢の公孫弘の官邸。弘は平津侯に封ぜられ、東閣を開いて賢士を待つた。〔陸厥、奉二答內兄希叔一詩〕出二入平津邸一、一見二孟嘗尊一。〔注〕銑曰、公孫弘封二平津侯一、開二東閣一待レ士、邸、國舍也。

〖平津館叢書〗343 ヘイシンクワンソウシヨ　書名。清、孫星衍輯。主として自ら校勘したものを收める。『甲集』首冊、六韜六卷・逸文一卷(周、呂望)。第一冊、魏武子注孫子三卷(魏、武帝)・吳子二卷(周、吳起)・司馬法三卷(周、司馬穰苴)・尸子二卷(清、孫星衍編)。第二冊、燕丹子三卷・牟子理惑論一卷(漢、牟融)・黃帝龍首經二卷。第三冊、黃帝金匱玉衡經一卷・黃帝授三子玄女經一卷・廣黃帝本行記一卷(唐、王瓘編)・軒轅黃帝傳一卷・漢禮器制度一卷(漢、叔孫通)・漢官一卷(漢、王隆)・漢官解詁一卷。第四冊、漢舊儀二卷補二卷(漢、衞宏)・漢官儀二卷(漢、應劭)・漢官典職儀式選用一卷(漢、蔡質)・漢儀一卷(吳、丁孚)。第五冊、魏三體石經遺字考一卷(清、孫星衍)・琴操二卷補一卷(漢、蔡邕)・穆天子傳六卷附一卷(晉、郭璞注)。第六冊、竹書紀年二卷・物理論一卷(晉、楊泉)・譙周古史考一卷(漢、譙周)。『乙集』第七冊、華氏中藏經三卷(漢、華佗)・素女方一卷附製大黃丸方序一卷。第八・九冊、千金寶要二十八卷(宋、郭思)・附秘傳清寧丸方一卷。第十——十三冊、寰宇訪碑錄十二卷(清、孫星衍・邢澍)。第十四冊、古刻叢鈔一卷(清、孫星衍)・建立伏博士始末二卷(清、孫星衍)。『丙集』三輔黃圖一卷。第十五——十八冊、說文解字十五卷(漢、許愼)。第十九冊、渚宮舊事五卷(唐、余知古)。『丁集』第二十—二十三冊、孔子集語十七卷(清、孫星衍)。第二十四—二十六冊、尙書考異六卷(明、梅鷟)。『戊集』第二十七—三十四冊、續古文苑二十卷(清、孫星衍)。『己集』第三十五—三十九冊、抱朴子內篇二十卷、外篇五十卷(晉、葛洪)。第四十—四十五冊、尙書今古文注疏三十卷(清、孫星衍)。第四十六冊、芳茂山人詩錄九卷(清、孫星衍)・長離閣集一卷(清、王采薇)。

【平晉】344 ヘイシン　縣名。❶唐、置く。故城は河南省鄧縣の東南。〔讀史方輿紀要、河南、南陽府、鄧州、晉城〕唐武德四年、置二平晉縣一、屬二鄧州一。❷宋、置く。故城は山西省太原縣の東北。〔讀史方輿

紀要、山西、太原府、太原縣〕宋平二河東一毀二舊城一、置二新城於此一、曰二平晉軍一、又置二永利監一、雍熙二年、改爲二平晉縣一。

【平進】345（ヘイシン） 順次に昇進すること。〔庾亮、讓二中書令一表〕向使下西京七族・東京六姓、皆非二姻黨一、各以二平進一上。〔南史、王騫傳〕嘗從容謂二諸子一曰、吾家本素族、自可二依レ流平進一、不レ須二苟求一也。

【平人】346（ヘイジン） ㊀無病の人。健康の人。〔素問、平人氣象論〕黃帝問曰、平人何如。〔注〕平人、謂二氣候平調之人一也。㊁官位のない人。平民。〔後漢書、皇甫規傳〕出二於平人一、回入二姦吏一。〔注〕平人、齊人也。㊂無罪の人。勘二平人一を見よ。㊃明、陳士奇(**11**-**41698**・・883)の字。

【勘二平人一】347（ヘイジンヲカンス） 無罪の人を拷問する。勘は罪をただし問ふこと。〔清律、斷獄〕故勘二平人一者、杖八十。

【平盡】348（ヘイジン） 平かになってなくなる。〔試茶錄〕大窠之東、山勢平盡、曰二壑嶺尾一、茶生二其間一。

【平水】349（ヘイスイ） ㊀水量を平かにする。〔後漢書、百官志五〕有二水池及魚利多一者、置二水官一、主三平レ水收二漁稅一。㊁川の名。浙江省紹興縣の東南。〔讀史方輿紀要、浙江、紹興府、山陰縣〕平水、在二府東南三十五里一、吳氏曰、會稽縣東南又有二一小江一、源出二大木山一、南流合二於剡溪一、今有二平水塘一、在二越州東南四十餘里一。㊂縣名。金、置く。山西省新絳縣の境。〔金史、地理志下〕河東南路轉運司、縣八、正平・曲沃・稷山・翼城・太平・垣曲・絳・平水。㊃平日に於ける河海等の水かさ。

【平水韻】350（ヒャウスイキン） 宋以前の韻書は皆切韻に依つて二百六部に分けたが、宋の淳祐中、江北平水の人、劉淵は、禮部韻略を增修し、始めて盡く同用の韻を合せて一百七部とした。これを平水韻といふ。元初、黃公紹の撰した古今韻會は之に從つてゐる。〔古今韻會擧要、凡例〕一、江南監本免解進士毛氏晃增修禮部韻略、江北平水劉氏淵壬子新刊禮部韻略、互有二增字一、今逐レ韻隨レ音附入、注云、毛氏韻增二平水韻一、增二凡二千一百四十二字一、一、舊韻上平・下平・上・去・入五聲、凡二百六韻、今依二平水韻一、併二通用之韻一、爲二一百七韻一。〔十駕齋養新錄〕古韻分二二百六部一、唐宋相承、雖三先後次第及同用獨用之注、少有二異同一、而部分無レ改、元初、黃公紹古今韻會、始併爲二一百七韻一、蓋循二用平水韻次第一、後人因以二併韻之咎一歸二之劉淵一、據二黃氏韻會一稱、毛氏晃增修禮部韻略、江北平水劉氏淵壬子新刊禮部韻略、互有二增字一、而每韻所レ增之字、於レ毛云二毛氏韻一、於レ劉云二平水韻一、則淵不レ過下刊二是書一者上、非二著レ書之人一矣、予嘗於二黃孝廉丕烈齋一、見二元槧本平水韻略一、卷首有二河間許古序一、乃知レ爲二王文郁所一レ撰、後題二正大六年己丑一、則金人、非二宋人一也、意、淵竊見二文郁書一、刊二之江北一、而去二其序一、故公紹以爲二劉氏書一也、王氏平水韻幷二上下平聲一、各爲二十五一、上聲廿九、去聲三十、入聲十七、皆與二今韻一同、論者又謂、平水韻併二四聲一爲二一百七韻一、陰時夫又併二上聲拯韻一入二迥韻一、今考三文郁韻上聲拯等已併二於迥韻一、則亦不レ始二於時夫一矣。

【平水市】351（ヘイスイシ） 地名。㊀浙江省紹興縣の東南。平水茶を產す。〔元稹、白氏長慶集序〕予於二平水市中一、見二村校諸童競習一レ詩。〔紹興府志〕大乘橋、其南爲二平水市一。㊁湖北省臨漳縣の東南。

【平水茶】352（ヘイスイチャ） 浙江省平水市附近から產出する茶。品質優良である。

【平粹】353（ヘイスイ） 和かでまじりけのないこと。〔嵆康、養生論〕哀樂殃二其平粹一。〔唐無名氏、洞簫賦〕是以君子聽レ之、載二其平粹一。

【平翠】354（ヘイスイ） 一面のみどり。〔朱鷺、黃山松詩〕數枝或橫レ畝、平翠可レ布レ席。

【平瑞】355（ヘイズイ） 清、滿洲正黃旗人。諡は忠壯。官は咸豐中、烏魯木齊都統。回人の叛に烏城を守り、食盡きて自剄した。〔清史列傳、五十〕・〔續碑傳集、六十七〕。

【平世】356（ヘイセイ） 治まつた世。〔孟子、離婁下〕禹稷當二平世一、三過二其門一而不レ入、孔子賢レ之。〔韓詩外傳、四〕沛然平世之俗起。〔荀子、非十二子〕佛然平世之俗起焉。〔王褒、四子講レ德論〕幸遭二聖主平世一。

【平世之士】357（ヘイセイノシ） 治まつた世の士。〔莊子、刻意〕平生之士、教誨之人。

【平正】358（ヘイセイ） 平かに正しくする。又、其のこと。〔周禮、地官、肆長〕實相近者相爾也、而平二正之一。〔韓詩外傳、三〕各以二其序一終者、賢醫之用也、故安二止平正一、除レ疾之道無レ他焉、用レ賢而已矣。〔漢書、鼂錯傳〕立法若レ此、可レ謂二平正之吏一矣。

【平西】359（ヘイセイ） ㊀四平將軍の一。漢魏の間、置く。平北(618)を見よ。㊁砦の名。宋、築く。今、甘肅省定西縣の北。〔讀史方輿紀要、陝西、鞏昌府、安定縣〕平西砦、縣北六十里、本名青石峽、宋紹聖四年、進築賜レ名。㊂p'ing² hsi¹ 太陽が西に傾く。

【平西王】360（ヘイセイワウ） 清、吳三桂(**2**-**3365**・・583)の封號。

【平成】361（ヘイセイ） ㊀治まる。平も成の意。水土の治まるを平といひ、五行の敍づるを成といふ。〔書、大禹謨〕地平天成、六府三事允治、萬世永賴、時乃功。〔傳〕水土治曰レ平、五行敍曰レ成。〔左氏、文、十八〕舜臣レ堯、使下主二后土一、以揆中百事上、莫レ不二時序一、地平天成。㊁一家が治まり、社會も平和になる。〔左氏、文、十八〕擧二八元一、使レ布二五教于四方一、父義、母慈、兄友、弟恭、子孝、內平外成。㊂第百二十五代、今上天皇の年號。(1989-)

【平政】362（ヘイセイ） ㊀政治を公正にする。〔孟子、離婁下〕君子平二其政一、行辟レ人可也。〔莊子、逍遙遊〕堯治二天下之民一、平二海內之政一。㊁賦稅を公平にする。政は征で、賦稅をいふ。〔周禮、地官、遂人〕以二土均一平レ政。〔注〕政、讀爲レ征、土均掌三均二平其稅一。

【平政院】363（ヘイセイヰン） 民國官署の名。大總統に直隸し、行政官吏の違法不正行爲を審理する機關。院長一人、評事十五人を以て構成し、ほぼ清朝の都察院(**11**-**39509**・・220)に同じ。

【平政墟】364（ヘイセイキョ） 地名。㊀廣東省惠陽縣の東南。㊁廣西省北流縣の東南圭江の左岸。

【平星】365（ヘイセイ） 星の名。庫樓の北に在り、廷尉の象。天下の法律裁判を平かにすることを司る。〔張衡、週天大象賦〕按二三條於平道一、賓二萬國於天門一、置二平星一以決レ獄、列二騎官一而衞レ閤。〔晉書、天文志上〕平星二星、在二庫樓北一、平二天下之法獄事一、廷尉之象也。

【平靖】366（ヘイセイ） ㊀郡名。後魏、置く。故治は湖北省應山縣の北の平靖村。㊁關の名。湖北省應山縣の東北、河南省信陽縣の東南に在り、天下九塞の一。大小の石門があり、山を鑿つて道を通じた險隘の地。左傳の冥扼、戰國策の黽塞、史記の鄳阨はこれに當る。黃峴・武陽と共に義陽の三關と號す。〔元和志〕平靖關、以二古平靖縣一爲レ名。〔地理通釋〕此關因レ山爲レ障、不レ營二濠隍一、故名二平靖一、關有二大小石門一、皆鑿レ山爲レ道、以通二往來一、荊楚守隘之地也。〔讀史方輿紀要、河南、重險〕黽阨塞在二汝寧府信陽州東南九十里、湖廣應山縣北六十五里一、亦曰二冥阨一、亦曰二黽塞一、又謂二之平靖關一、宋時名爲二行者坡一、其地有二大小石門一、鑿レ山通レ道、實爲二險阨一。

【平整】367（ヘイセイ） 平かで整ふ。〔佛國記〕師子國、屋宇嚴麗、巷陌平整、四衢道頭、皆作二說法堂一。

【平靜】368（ヘイセイ） おだやかでしづか。心を空しくして私を挾まぬ。虛心平氣。〔呂覽、謹聽〕愉易平靜。〔新書、道術〕平靜而處。〔後漢書、王景傳〕宜下須二平靜一、更議中其事上。〔晉書、范甯傳〕道尙二虛簡一、政貴二平靜一。

【平聲】369（ヒャウセイ・ヒャウシャウ） ㊀四聲の一。平かで上り下りのない發音。上平・下平の二つに分つ。上平は東・冬・江・支・微・魚・虞・齊・佳・灰・眞・文・元・寒・刪の十五韻、下平は先・蕭・肴・豪・歌・麻・陽・庚・青・蒸・尤・侵・覃・鹽・咸の十五韻。平仄(400)・四聲(**3**-**4682**・・480)・音韻(**12**-**43265**・・5)の㊀を見よ。〔南齊書、陸厥傳〕以二平・上・去・入一爲二四聲一。〔釋神珙、反紐圖譜〕平聲哀而安。〔眞空、玉鑰匙歌訣〕平聲平道莫二低昂一。〔康熙字典、分二四聲一法〕平聲、平道莫二低昂一。㊁五聲を平かにし整へる。聲は、宮・商・角・徵・羽の五聲。〔國語、周語下〕聲以龢レ樂、律以平レ聲。〔注〕聲、五聲、以成二八音一而調レ樂也。

【平生】370（ヘイゼイ） ㊀ふだん。ひごろ。平常。〔論語、憲問〕久要不レ忘二平生之言一、亦可三以爲二成人一矣。〔說苑、奉使〕謂二平生常經一也。〔後漢書、鄧晨傳〕說二故舊平生一爲レ歡。〔黃滔、游二東林寺一詩〕平生愛二山水一、下二馬虎溪一時。㊁其の昔。かつて。幼少の頃。往年。〔阮籍、詠懷詩〕平生少年時、輕薄好二絃歌一。〔陸機、歎逝賦〕尋二平生於響

像一覽二前物一而懷レ之。〔顏延之、秋胡詩〕雖レ爲二五載別一、相與昧二平生一。〔注〕善曰、孔安國論語注曰、平生、猶二少時一也。

【平生歡】371（ヘイゼイノクワン） 常日ごろの親しみ喜ぶ心。〔漢書、張耳傳〕勞苦如二平生歡一。〔後漢書、光烈陰皇后記〕夜夢二先帝太后如二平生歡一。〔書言故事、交情類〕素相善曰二平生懽一。

【平生語】372（ヘイゼイノゴ） 其の當時の話。〔後漢書、馬援傳〕仰視二飛鳶跕跕墮二水中一、臥念二少游平生時語一、何可レ得也。

【平生之好】373（ヘイゼイノヨシミ） 日頃のよしみ。〔魏志、臧洪傳〕惟平生之好、以屈レ節而苟レ生。

【平生所レ爲未下嘗有中不レ可二對レ人言一者上】374（ヘイゼイナストコロイマダカツテヒトニタイシテイフベカラザルモノアラズ） 常日頃の言行に、やましくて人に語れないやうなものの無いこと。宋の司馬溫公の言。〔宋史、司馬光傳〕自レ少至レ老、語未二嘗妄一、自言、吾無二過レ人者一、但平生所レ爲、未下曾有中不レ可二對レ人言一者上耳。

【平生不レ作二皺眉事一世上應レ無二切齒人一】375（ヘイゼイシウビノコトヲナサザレバセジヤウマサニセツシノヒトナカルベシ） 平素眉をひそめるやうなことをしなければ、世上に齒ぎしりする人は無い筈である。〔通俗編、行事、平生不レ作二皺眉事一世上應レ無二切齒人一〕復齋漫錄、邵堯夫居レ洛四十年、安レ貧樂レ道、自言、未二嘗皺レ眉、故其詩云云。

【平稅】376（ヘイゼイ） 稅を公平にする。平政(362)の❷を見よ。〔周禮、地官、遂人〕以二土均一平レ政、注〕政、讀爲レ征、土均掌三均二平其稅一。

【平小】377（ヘイセウ） 小怨をやはらげをさめる。〔國語、晉語八〕和レ大以平レ小乎。〔注〕和、和平也、勸以三大德平二小怨一。

【平鞘】378（ヒラザヤ） ❶刀劍の鞘の平たく幅廣いもの。〔普廣院殿御元服記、正長二年三月九日〕御太刀一腰、平鞘。❷平鞘の太刀の略。短刀の野太刀。古、出行に佩びたもので、鞘平たく、梨地、柄は白鮫、革緒を着け、帶取は紫華。〔太平記、十三、藤房卿遁世事〕。

【平橈】379（ヘイゼウ） 舟のさをを平にする。漕がないで流れにまかせること。橈は舟のかい。〔文徵明、春日舟行詩〕日出吳山斂レ霧蒼、平橈十里下二橫塘一。

【平石】380（ヘイセキ） ❶平な石。〔華陽國志〕天爲下出二平石一生中江中上、今石在二馬湖江一。〔庾信、奉二和趙王隱士一詩〕澗險無二平石一、山深足二細泉一。❷縣名。南朝梁、置く。故治は廣東省樂昌縣の西北。〔讀史方輿紀要、廣東、韶州府、樂昌縣〕平石廢縣、在二縣南一、南梁置二平石縣一、屬二始興郡一、隋開皇十二年、省入二梁化縣一。

【平昔】381（ヘイセキ） かつて。往日。〔顏氏家訓、序致〕追二思平昔之指一。〔杜甫、柴門詩〕書レ此豁二平昔一、回レ首猶暮霞。〔王安石、祭二歐陽文忠公一文〕況朝士大夫、平昔遊從。

【平脊】382（ヘイセキ） 平なせぼね。〔齊民要術、養二牛馬驢騾一〕馬龍顱突目、平脊大腹、脞重有レ肉、此三事備者、亦千里馬也。

【平說】383（ヘイセツ） 靜かに說く。平易に說く。〔後漢書、范升傳〕四年正月、朝二公卿大夫博士一、見二於雲臺一、帝曰、范博士、可二前平說一。

【平川】384（ヘイセン） ❶平坦な川。〔揚雄、幽州箴〕蕩蕩平川、惟冀之別。〔古文苑注〕地勢平、則川陸皆平。〔杜甫、秋日夔府詠懷奉二寄鄭監李賓客一詩〕有レ時驚二疊嶂一、何處覓二平川一。〔桃花扇、迎駕〕江雲山氣晚悠悠、馬走二平川一似二水流一。❷軍の名。宋、置く。今の河南省濬縣の西。〔讀史方輿紀要、直隸、大名府、濬縣〕宋政和五年、升爲二濬州一、亦曰二濬川軍一、尋又爲二平川軍一。❸明、陸時雍(**11－41708**‥347)の號。

【平川坦翁】385（ヒラカハタンヲウ） 熊本の人。名は清古。通稱は駿太。號は坦翁。明治十六年歿す、年六十九。官は熊本藩儒。著に海防策がある。〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕。

【平阡】386（ヘイセン） 平な道。阡は田間のあぜみち。〔錢起、登臺詩〕晚景下二平阡一、花際霞峰色。〔權德輿、和二李大夫西山祈レ雨因感二張曲江故事一詩〕雷音生二絕巘一、雨足晦二平阡一。

【平宣】387（ヘイセン） 平かにあらはす。〔陸景、答二從弟一書〕凡政譽平宣、威和兼濟。

【平泉】388（ヘイセン） ❶州名。清、置く。民國、縣に改む。〔清史稿、地理志〕直隸、承德府、州一、平泉州。❷縣名。㋑後魏、置く。今缺く。甘肅省天水縣の境。㋺後魏、置く。今缺く。甘肅省舊鞏昌府の境。㋩隋、置く。故治は四川省簡陽縣の西南。〔讀史方輿紀要、成都府、簡州〕平泉廢縣、隋開皇十八年、改曰二平泉縣一、屬二益州一、尋復二簡州一。㋥民國、置く。金の大定府、元の大寧路。清の時、州を置く。滿洲熱河省承德縣の東。❸莊の名。二つあり。共に唐の李德裕が建てたもの。平泉莊を見よ。❹字號。㋑明、陸樹聲(**11－41708**‥361)の號。㋺大槻清準の號。大槻平泉(**3－5831**‥2570)を見よ。❺（ヒライヅミ） 陸中國西盤井郡の地名。今、平泉村といふ。藤原清衡、此の地に居館を營み、基衡・秀衡・泰衡相繼いで居り、華奢を極めた。名高い中尊寺金色堂の所在地。

【平泉莊】389（ヘイセンサウ） 唐の李德裕の別莊の名。二つあり。❶河北省贊皇縣の西北の張楞村。今、玉泉寺といふ。〔畿輔通志、眞定府〕平泉莊、在二贊皇縣一、唐李德裕遊息之所。❷河南省洛陽縣の南。〔劇談錄〕李德裕東都平泉莊、去二洛城一三十里、卉木臺榭、若レ造二仙府一、初德裕營二平泉一、遠方之人、多以二異物一奉レ之、有下題二平泉一詩上曰、隴右諸侯供二語鳥一、日南太守送二名花一。〔白居易、醉遊二平泉一詩〕洛客最閑唯有レ我、一年四度到二平泉一。〔葉夢得、平泉草木記跋〕龍城錄、李德裕東都平泉莊、去二洛城一三十里、卉木臺榭、若レ造二仙府一、賈氏談錄、平泉莊、周圍十里、天下奇花異草、珍松怪石、靡レ不三畢致二其閒一、自製二平泉草木記一。

【平倩】390（ヘイセン） 明、黃輝(**12－47926**‥185)の字。

【平淺】391（ヘイセン） 平かであさい。〔宋史、河渠志四〕始涇河平淺、直入二渠口一。

【平銓】392（ヘイセン） ❶平かにはかりしらべる。〔袁袠、東湖聯句〕登臨難二婉戀一、想像費二平銓一。❷清、董均(**9－31433**‥47)の字。

【平善】393（ヘイゼン） ❶無事をいふ。〔芝田錄〕牛奇章公帥二維揚一、杜牧之在二幕中一、夜多微服逸遊、公聞レ之、以二街子數輩一潛隨二牧之一、以防二不虞一、後牧之以二拾遺一召、臨レ別、公以二縱逸一爲レ戒、牧之始猶諱レ之、公命取二一篋一來、皆街子報帖、云、杜書記平善、乃大感服。❷縣名。新の王莽、平氏縣を改め置く。今、河南省桐柏縣附近。〔漢書、地理志上、南陽郡〕云云、平氏、〔注〕莽曰二平善一。〔水經、淮水注〕地理志曰、南陽平氏縣、王莽之平善也。

【平然】394（ヘイゼン） 物事に遇つて動じないさま。氣にかけないさま。平氣なさま。

【平素】395（ヘイソ） ❶平生。もとより。ふだん。〔鬼谷子、決篇〕平素樞機、以用二四者一。〔蜀志、先主劉備傳〕平素輕二先主一。〔諸葛亮、與二孟達一書〕慨然永歎、以存二足下平素之志一。❷過去のこと。往事。〔潘岳、寡婦賦〕耳傾二想於疇昔一兮、目髣二髴乎平素一。〔陶潛、詠二二疏一詩〕促レ席延二故老一、揮レ觴道二平素一。

【平楚】396（ヘイソ） 高處から見下して平地のやうに見える林。〔謝脁、郡內登望詩〕寒城一以眺、平楚正蒼然。〔注〕濟曰、平楚、木叢也。〔天祿識餘〕平楚、叢木也、登レ高望レ遠、見二木杪一如二平地一、故云二平楚一。

【平宗】397（ヘイソウ） 平氏の一族。

【平奏】398（ヘイソウ・ベンソウ） わかち明かにして奏する。〔漢書、宣帝紀〕平二奏其議一、上親稱レ制臨決焉。

【平叟】399（ヘイソウ） 宋、舒辯(**9－30300**‥82)の字。

【平仄】400（ヒヤウソク） ❶漢字を其の音のひびきによつて平字と仄字とに分つ。平字は、平に發音して高低の無いもので、上平・下平に分れ、仄字は一に側に作り、發音欹仄で、或は頭音高く、或は尾音が昇るために名づけ、上・去・入の三聲に分ける。平仄式・四聲(**3－4682**‥480)を見よ。〔嘯餘譜、二、中原音韻起例〕平仄字別二陰陽一、夫聲分二平仄一者、謂無二入聲一、以二入聲一派二入平・上・去三聲一也。〔文體明辯、雜韻詩〕五曰、平仄兩韻、句中平仄字、各協レ韻者是也。〔騷壇八略〕詩無二聲調音節一、不レ足二以爲一レ詩、而聲調音節、以二平仄一爲二總持一、無二平仄一、是無二聲調音節一也、故平仄之法、不レ可二以不一レ講。❷つぢつま。順序。

【平仄式】401（ヒヤウソクシキ） 詩の平仄に關する法式。正式と變式の二つがあり、正式は一定の平仄を用ひて聲調を整へるもので、近體詩の絕句・律に用ひ、變式は一定の形式に據らぬもので、古體詩に用ひる。又、平仄の排列上の法式に平起式と仄起式の二つがあり、第一句の二字が平に起るものを平起式、仄に起るものを仄起式といふ。五絕・五律は仄起式を正格として、平起式を偏格とし、七絕・七律は之に反する。古來、平仄の

字を表はすに平字は○、仄字は●、平仄共通は◑を用ひる。〔詩法詳論、絶句平仄〕學レ詩、先要レ知二平仄一、不レ然、句雖二工巧一、不レ入二規式一。

五絶（平起受仄者）
◑○○●●
◑●●○○
◑●○○●
◑○◑●○

同　（仄起受平者）
◑●○○●
◑○◑●○
◑○○●●
◑●●○○

七絶（平起受仄者）
◑○◑●●○○
◑●◑○◑●○
◑●◑○○●●
◑○◑●●○○

同　（仄起受平者）
◑●◑○◑●○
◑○◑●●○○
◑○◑●○○●
◑●◑○◑●○

平對レ仄、仄對レ平、切要二分明一、一三五不レ論、詩句中第一字、第三字、第五字、或當レ用レ平而用レ仄、亦可、或當レ用レ仄而用レ平、亦可、不二必拘定一、二四六分明、詩句中第二字、第四字、第六字、當レ用レ平者、一定用レ平、當レ用レ仄者、一定用レ仄、不レ可二移易一、如二五言律一、止論二第二字、第四字一。

五律（平起仄受者）
◑○○●●
◑●●○○
◑●○○●
◑○◑●○
◑○○●●
◑●●○○
◑●○○●
◑○◑●○

同　（仄起平受者）
◑●○○●
◑○◑●○
◑○○●●
◑●●○○
◑●○○●
◑○◑●○
◑○○●●
◑●●○○

七律（平起仄受者）
◑○◑●●○○
◑●◑○◑●○
◑●◑○○●●
◑○◑●●○○
◑○◑●◑○●
◑●◑○◑●○
○●◑○○●●
◑○◑●●○○

同　（仄起平受者）
◑●◑○○●○
◑○◑●●○○
◑○◑●○○●
○●◑○◑●○
◑●◑○○●●
◑○◑●●○○
◑○◑●◑○●
◑●◑○◑●○

〔詩法詳論、律詩平仄〕二三句同、四五句同、六七句同、首尾句同、謂二之不失粘一、一句差、則全首差矣、二四六八句第七字韻、是平聲、三五七句第七字、要二仄字一、若レ是二四六八句第七字韻、是仄字、三五七句第七字、宜レ用二平聲一、第一句第七字、是仄字、依二二四六八句韻一、亦可、五言詩論二第五字一、炤二七言例一。

〘平仄字典〙402 ヒヤウソクジテン　書名。一冊、林古溪撰。漢字を發音のまま五十音順に排列し、之に字音・字義・平仄・韻を明記し、又、異韻同義、異韻異義の場合をも併せ錄し、且作詩に關する一般的講究を掲げてゐる。

【平則】403 ヘイソク　法則を公平にする。〔周禮、夏官、大司馬〕均レ守平レ則、以安二邦國一。〔注〕諸侯有二土地一者均レ之、尊者守レ大、卑者守レ小、則、法也。

〘平則門〙404 ヘイソクモン　北京の阜城門の俗稱。〔讀史方輿紀要、直隸、順天府〕元至元四年、都城方六十里、有二門十一一、正西曰二和義一、西之右曰二肅清一、西之左曰二平則一。

【平塞】405 ヘイソク　平かにしてふさぐ。うづめ平にする。〔後漢書、董卓傳〕堅乃埽二除宗廟一、平二塞諸陵一。〔呉志、孫堅傳〕平三塞卓所二發掘一。

【平族】406 ヘイゾク　平氏の一門。

【平賊】407 ヘイゾク　賊を平げる。〔後漢書、百官志五〕平レ賊恤レ民。〔唐書、李夷簡傳〕李師道方叛、裴度當レ國、帚倚以平レ賊。

【平孫】408 ヘイソン　後漢、周榮（**2**－**3441**‥22）の字。

【平它】409 ヘイタ　違つた味のものを互に調和すること。〔國語、鄭語〕夫和實生レ物、同則不レ繼、以レ它平レ它、謂二之和一。〔注〕謂二陰陽相生、異味相和一也。

【平他】410 ヒヤウタ　平仄（400）に同じ。平聲に對して上・去・入聲を他聲といふ。〔作文大體〕凡調聲者、能調二平他聲一之義也。

〘平他字類抄〙411 ヒヤウタジルイセウ　書名。二卷。撰者未詳。諸事物を類擧し、本文を漢字で記し、片假名で音訓を附し、其の漢字の平聲と、他聲卽ち上・去・入聲を分ち、又、辭字門はいろは順に排列して音毎に平他に分ち、卷尾に平他同訓を擧げる。

【平打】412 ヒラウチ　紐や金屬をひらたくうつこと。

〘平打紐〙413 ヒラウチヒモ　平打にした紐。

【平妥】414 ヘイダ　やすらかでおだやか。妥はやすらか。〔韓維、答二曼叔一詩〕出レ詩且二百篇一、語法就二平妥一。

【平泰】415 ヘイタイ　平かでやすらか。〔宋書、禮志一〕天下平泰、然後修レ之、則功成事定。

【平臺】416 ヘイダイ　❶平かな臺觀。〔杜甫、重過二何氏一詩〕落日平臺上、春風啜レ茗時。〔歐陽脩、河南府司錄張君墓表〕平臺清池。❷縣名。漢、置く。侯國。故城は河北省平郷縣の東北。〔漢書、地理志上〕常山郡、縣十八、平臺。〔注〕侯國。❸臺の名。㋑河南省商丘縣の東北。戰國、梁の武王の築いたもの。〔史記、梁孝王世家〕大治二宮室一、爲二複道一、自レ宮連二屬於平臺一三十餘里。〔注〕集解曰、徐廣曰、睢陽有二平臺里一、駰案、如淳曰、在二梁東北一、離レ宮所レ在也、晉灼曰、或說在二城中東北角一、索隱曰、按、今城東二十里、臨二新河一有二故臺址一、不二甚高一、俗云二平臺一、又一名二脩竹苑一。〔河南通志、歸德府〕平臺、在二府城東二十五里一、漢梁孝王所レ築、在二梁園内一。㋺北京の舊紫禁城内。清の保和殿の後右門で明の時代、群臣を召見した所。㋩北京の舊皇城の西苑内。明の武宗が築いて射を閲し、平臺と名づけた。清代、その地に紫光閣が建てられた。

〘平臺紀略〙417 ヘイタイキリヤク　書名。一卷。清、藍鼎元撰。康熙六十年四月から、雍正元年四月に至る間に、臺灣の賊、朱一貫を討平した始末を記す。〔四庫提要、史、記事本末類〕。

〘平臺祕略〙418 ヘイタイヒリヤク　書名。唐、王勃撰。沛王のために撰次したもの。〔唐書、王勃傳〕沛王聞二其名一、召二署府一修撰、論二次平臺祕略一、書成、王愛二重之一。

【平題】419 ヘイダイ　鏃の名。平らで鋭くないもの。平題箭を見よ。〔方言、九〕内者謂二之平題一。〔注〕今戲射箭頭題、猶二羊頭一也。〔廣雅、釋器〕平題、鏑也。

〘平題箭〙420 イタツキ　鏃の一。尖の平なもの。古は的矢に用ひた。〔倭名抄、調度部、征戰具〕平題箭、揚雄方言云、鏃不レ鋭者、謂二之平題一、郭璞曰、題猶レ頭也、今之戲射箭也。〔注〕以太都岐。

【平桃】421 ヘイタウ　城の名。河南省滎澤縣の東南の虢亭を、俗に平桃城といふ。平咷に作るは誤。〔後漢書、郡國志一〕河南尹、云云、滎陽有二鴻溝水一、有二廣武城一、有二虢亭一、虢叔國。〔水經、濟水注〕司馬彪郡國志曰、縣有二虢亭一、俗謂二之平桃城一。〔紀昀等校〕案、桃、近刻訛作レ咷。〔魏書、高祖紀下〕太和十有九年、行二幸滑臺一、丙子次二於石濟一、庚辰皇太子朝二於平桃城一。

【平討】422 ヘイタウ　平げ討つ。〔袁紹、與二公孫瓚一書〕前以二西山陸梁一、出レ兵平討。

【平陶】423 ヘイタウ　縣名。❶漢、置く。故城は山西省文水縣の西南。後魏、平遙に作る。〔漢書、地理志上〕太原郡、縣二十一、平陶。〔讀史方輿紀要、山西、太原府、文水縣〕平陶城、縣西南二十五里、漢縣、屬二太原郡一、後漢及晉因レ之、後魏改曰二平遙一。❷南朝宋、置く。陝西省南鄭縣の地。

【平當】424 ヘイタウ　❶公平で宜しきを得ること。平允。〔蜀志、楊戲傳〕戲年二十餘、從二州書佐一、爲二督軍從事一、職典二刑獄一、論レ法決レ疑、號爲二平當一。〔北史、王羆傳〕羆質直木彊、處レ物平當、州閭敬二憚之一。❷漢、平陵の人。字は子思。明經を以て博士となる。成帝の時、騎都尉、哀帝卽位の時、丞相となる。爵は關内侯。〔前漢書、七十一〕。

【平蕩】425 ヘイタウ　❶平げはらふ。たひらかに治まる。蕩ははらひのぞく、平げる意。〔後漢書、來歙傳〕今二郡平蕩、則述智計窮矣。〔晉書、桓宣傳〕祖逖方欲三平二蕩二寇一。❷平かに遠くひらける。蕩は廣大の意。〔蘇軾、出峽詩〕今朝脫二重險一、楚水渺平蕩。

【平盪】426 ヘイタウ　平げはらふ。平かに治まる。盪は洗ひ清める意。平蕩。〔杜牧、感懷詩〕勃雲走二轟霆一、河南一平盪。

【平堂】427 ヘイダウ　高いものを一樣に平かにする。堂は高い。〔張衡、西京賦〕刊レ層平レ堂、設二砌厓隒一。〔注〕綜曰、刊、削也、向曰、層、累、堂、高也、厓隒、邊限也、謂下削二累其階一、令二平高一、設レ砌以爲中邊限上。

【平道】428 ヘイダウ　❶平な道。〔儲光羲、鞏城東莊道中作詩〕未レ獲レ遵二平道一、徒言信薄夫。❷星の名。〔晉書、天文志上〕左右角間二星、曰二平道之官一。

【平澤】429 ヘイタク　平地のさは。〔顏氏家訓、書證〕河北平澤、率生レ之。

〘平澤旭山〙430 ヒラサハキヨクザン　山城の人。名は元愷。字は悌侯。通稱は五助。號は旭山・菟道山樵。寬政三年一月十五日歿す、年五十九。昌平黌・片

山北海に學び、江戸に住して、講說を業とした。其の經學は諸家を折衷し、又、律令に精しく、佛乘に深く、尤も文章を能くした。著に菟道山人遺草（一名、漫遊草）・寄蹟一筆・華陽皮相・瓊浦偶筆・萬國圖說・漫遊文草、並に文集がある。〔近代名家著述目錄〕・〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕・〔國書解題〕。

【平旦】431 ヘイタン 夜の明けはなれた時。よあけ。あかつき。平は正しく其の時に當ること。〔史記、李將軍傳〕平旦、李廣乃歸二其大軍一。〔新序、雜事四〕平旦而聽レ朝。〔魏志、龐悳傳〕自二平旦一力戰。

〖平旦之氣〗432 ヘイタンノキ 平旦の未だ己と事物と接しない時の清明の氣。〔孟子、告子上〕平旦之氣、其好惡與レ人相近也者幾希。〔集注〕平旦之氣、謂下未二與レ物接一之時、清明之氣上也。

【平坦】433 ヘイタン たひらか。又、凹凸高低の無い地面。坦も亦平。〔韓愈、遊二青龍寺一贈二崔大補闕一詩〕惟君與レ我同二懷抱一、鋤二去陵谷一置二平坦一。〔秦觀、春日雜興詩〕馬蹄交二狹邪一、車轂錯二平坦一。〔溪蠻叢笑〕凡平地曰二平坦一。

【平淡】434 ヘイタン おだやかで淡白なこと。かどかどしくない。又、しつこくない。平澹。〔晉書、郗鑒傳〕彥輔道韻平淡、體識沖粹。〔阮籍、樂論〕道德平淡、故五聲無レ味。

【平端】435 ヘイタン 平かで正しい。端は端正。〔新書、等齊〕或不二廉潔平端一。〔後漢書、宦者傳論〕忠厚平端。〔魏志、鮮卑傳〕斷レ法平端。〔柳宗元、斬二曲几一文〕外隅平端、中室謹飭。

【平潭】436 ヘイタン ❶縣名。民國、置く。福建省福清縣の東南海中に在る海壇島。明代、倭寇を防ぐための重要地。❷城の名。戰國、趙築く。今、山西省平定縣の西北。〔讀史方輿紀要、山西、太原府、平定州〕平潭城在二州西北二十五里一、相傳趙簡子所レ築也。

【平澹】437 ヘイタン おだやかで淡白なこと。平淡(434)に同じ。〔鍾嶸詩品〕始變二永嘉平澹之體一、故稱二中興第一一。

【平斷】438 ヘイダン ベンダン 正しく明かに罪をとりさばく。平刑。〔梁書、昭明太子傳〕平二斷法獄一、多レ所二全宥一。

【平地】439 ヘイチ ❶平かな地面。〔左氏、隱、九〕凡雨自二三日一以往爲レ霖、平地尺爲二大雪一。〔史記、吳王濞傳〕車騎利二平地一。〔列女傳、仁智、晉范氏母傳〕夫險阻之山、而伐二平地之株一。〔漢書、鼂錯傳〕兩陣相近、平地淺草。❷地を平かにならす。〔論語、子罕〕譬如レ平レ地、雖レ覆二一簣一、進吾往也。〔荀子、勸學〕平レ地若レ一、水就レ濕也。

〖平地泉〗440 ヘイチセン 地名。綏遠省集寧縣治。京綏鐵路の沿線。

〖平地木〗441 p'ing^2 ti^4 mu^4 樹木の名。やぶかうじ。紫金牛。

〖平地松林〗442 ヘイチシヨウリン 地名。千里松林ともいふ。今の滿洲熱河省圍場縣、及び內蒙古の克什克騰旗の地方。森林鬱蒼として禽獸蕃殖す。清初、秋の獮を行つた。〔遼史、地理志一〕上京臨潢府有二平地松林一。〔讀史方輿紀要、直隸附考〕平地松林、在二臨潢西一、卽千里松林也。

〖平地風波〗443 ヘイチノフウハ おだやかな所に強ひて波風を立たせること。事を好んで、徒に紛爭を生ぜしめる喩。平地起二波瀾一。〔故事瓊林〕平空起レ事、謂二之平地風波一。

〖平地起二波瀾一〗444 ヘイチハランヲオコス 平地風波に同じ。〔劉禹錫、竹枝詞〕長恨人心不レ如レ水、等閒平地起二波瀾一。

【平治】445 ヘイチ ❶平かに治める。又、おだやかに治まる。又、其のこと。〔孟子、公孫丑下〕如欲三平二治天下一、當二今之世一、舍レ我其誰也。〔管子、中匡〕禹平二治天下一。〔荀子、性惡〕凡古今天下之所謂善者、正理平治也。〔淮南子、人間訓〕禹鑿二龍門一、辟二伊闕一、平二治水土一、使三民得二陸處一。〔韓愈、唐故朝散大夫商州刺史云云董府君墓誌〕臻二宰相一、致二平治一。〔朱熹、答二敬夫一論二中庸一說〕質礎則或鑢或盪、使二之平治一也。❷縣名。民國、置く。廣西省田東縣の東南。右江の東北岸。❸ベンチ 裁判事件を正しく明かに決定する。〔唐書、魏徵傳〕魏徵爲二侍中一、尙書省滯訟不レ決者、詔レ徵平治。❹ヘイヂ 第七十八代二條天皇の年號。(1159－1160)

〖平治物語〗446 ヘイヂモノガタリ 書名。三卷。撰者未詳。二條天皇の平治元年、藤原信賴と藤原信西とが、勢威を爭って兵亂を起し、共に滅亡に歸した顚末を記した軍記物語。

【平褫】447 ヘイチ 一樣に解く。〔蘇舜欽、對レ酒詩〕嗟乎吾道不レ如レ酒、平二褫哀樂一如レ摧レ朽。

【平晝】448 ヘイチウ まひる。平は正しく其の時に當る意。〔戰國、趙策〕武靈王、平晝閒居、肥義侍坐。〔阮籍、詠懷詩〕平晝整二衣冠一、思レ見二客與レ賓。

【平紬】449 ヘイチウ 厚くて光澤のある絹織物。〔急就篇、綈絡縑練素帛蟬、注〕綈、厚繒之滑澤者也、重三斤五兩、今謂二之平紬一。〔唐書、地理志三〕懷州河內郡、土二貢平紬・平紗・枳殼・茶・牛膝一。

【平疇】450 ヘイチウ ❶平なはたけ。〔陶潛、癸卯歲始春懷二古田舍一詩〕平疇交二遠風一、良苗亦懷レ新。❷清、浙江山陰の人。字は種瑤。號は耕煙。官は江西候補縣丞。著に耕煙草堂詩鈔がある。〔清畫家詩史、巳、上〕。

【平秩】451 ヘイチツ ベンチツ わかちついづる。ひとしくしついづる。一樣にし秩序立てる。秩は序づる。〔書、堯典〕寅賓二出日一、平二秩東作一。〔傳〕秩、序也、平二均次三序東作之事一、以務レ農也。〔晉書、束晳傳〕義和平秩、后稷親レ農。

〖平秩東作〗452 ヘイチツトウサク 立松懷之の號。立松東蒙(8－25721・・278)を見よ。

【平張】453 ヘイチヤウ ❶平かに張る。〔古逸詩〕弓既平張、四侯且良。❷ヒラバリ ひらたく張つて、天井とする日被の幕。

【平頂】454 ヘイチヤウ 山名。❶滿洲遼寧省寬甸縣の西北。金を產す。❷滿洲遼寧省海城縣の西南。俗名は浴盆山。唐の太宗が曾て此處に駐蹕したことから、車駕山・唐望山ともいふ。〔讀史方輿紀要、山東、遼東都指揮使司、定遼中衞〕平頂山、司東百里、山周三十里、其頂平曠可レ資二耕稼一。❸滿洲吉林省吉林縣の西南。❹滿洲熱河省朝陽縣。石炭を產す。

〖平頂冠〗455 ヘイチヤウクワン 冠の名。平天冠(497)に同じ。〔宋書、禮志五〕天子禮二郊廟一、則黑介幘平冕、今所謂平頂冠也。

【平聽】456 ヘイチヤウ 公平に物事をきく。〔宋書、彭城王義康傳〕陛下若蕩以二平聽一、屛二此猜情一、垂二訊芻蕘之謀一、曲二察狂瞽之計一。

【平場】457 ヘイヂヤウ ❶庭を平にする。場所を平にする。〔張衡、西京賦〕虞人掌焉、爲二之營域一、焚レ萊平レ場、柞レ木翦レ棘。❷平かな場所。廣場。〔張建封、酬二韓校書愈一打毬歌〕不レ能三無事習二虵矛一、閒就二平場一學レ使レ馬。

【平中】458 ヘイチユウ ❶公平でかたよらない。〔通書〕優柔平中、德之盛也、天下化中、治之至也。❷漢、王璜(7－20823・・298)の字。

【平仲】459 ヘイチユウ ❶樹木の名。銀杏の異名。いてふ。〔左思、吳都賦〕平仲君遷、松梓古度。〔注〕劉曰、劉成曰、平仲之木、實白如レ銀。〔沈佺期、夜宿二七盤嶺一詩〕芳春平仲綠、清夜子規啼。❷字號。㋑春秋齊、晏嬰(5－13914・・7)の字。㋺後漢、戴封(5－11685・・127)の字。㋩後漢、劉順(2－2224・・374)の字。㋥宋、寇準(3－7209・・24)の字。㋭宋、鄧若水(11－39630・・157)の字。㋬宋、毛幵(6－16772・・61')の字。㋣明、洪文衡(6－17402・・269)の字。㋠明、蘇伯衡(9－32427・・282)の字。㋷明、范準(9－30834・・56)の字。㋦明、王志長(7－20823・・1573)の字。

【平除】460 ヘイヂヨ たひらげのぞく。〔蜀志、蔣琬傳〕今魏跨二帶九州一、根蔕滋蔓、平除未レ易。

【平滁】461 ヘイヂヨ 滁州を平げる。滁は州名で、今の安徽省滁縣。〔歐陽脩、豐樂亭記〕昔太祖皇帝、嘗以二周師一破二李景兵十五萬於清流山下一、生二擒其將皇甫暉姚鳳於滁東門之外一、遂以平レ滁。

【平澄】462 ヘイチヨウ ひろびろとしてすみわたる。〔符載、長沙東池記〕平澄無レ邊、天空境明、一來窺臨、百骸以清。

【平直】463 ヘイチヨク 平かと眞直。又、平かで眞直。〔孟子、離婁上〕聖人既竭二目力一焉、繼レ之以二規矩準繩一、以爲二方圓平直一。〔呂覽、分職〕爲二平直一必以二準繩一。〔謝瞻、張子房詩〕四達雖二平直一、蹇步愧レ無レ良。

〖平直之說〗464 ヘイチヨクノセツ 公平で正しい說。〔論衡、對作〕大奪二儒家之論一、引二平直之說一。

【平沈】465 ヘイチン ❶二つの物體を水に沈めて、其の浮沈する程度のひとしいこと。〔周禮、考工記、輪人〕揉輻必齊、平沈必均。〔注〕平沈、平漸也、

鄭司農云、平沈、謂㆘浮㆓之水上㆒無㆗輕重㆖。〔疏〕重者沈多、輕者沈淺、沈重者更去㆑之、則平而輕重等也。〔孫詒讓正義〕平漸、謂㆘置㆓之水㆒、兩輪所㆓漸漬㆒之度、高下平等㆖、司農之說、亦卽平漸之義。❷平らにしづむ。〔陸游、行飯暮歸詩〕霜風盡脫千林葉、雲氣平沈一面山。

【平砧】466（ヘイチン） 平かなきぬた。〔喬知之、從軍行〕曲房理㆓鍼線㆒、平砧搗㆓文練㆒。

【平陳】467（ヘイチン） ❶漢の平當と陳翁生。共に林尊に從つて尙書を受けた。〔漢書、林尊傳〕事㆓歐陽高㆒、爲㆓博士㆒、論㆓石渠㆒、後至㆓少府太子太傅㆒、授㆓平陵平當・梁陳翁生㆒、當至㆓丞相㆒、自有㆑傳、翁生信都太傅、家世傳㆑業、由㆑是歐陽有㆓平陳之學㆒。〔羅隱、春日獨遊㆓禪智寺㆒詩〕思量只合㆓騰騰醉㆒、煑海平陳一夢中。❷陳を平げる。次項を見よ。

〔平陳七策〕468（ヘイチンシチサク） 隋の賀若弼の撰文の名。陳を平げる書策七つをいふ。〔北史、賀若弼傳〕平㆑陳後六年、弼撰㆓其畫策㆒、上㆑之、謂爲㆓御授平陳七策㆒、上弗㆑省、曰、公欲㆔發㆓揚我名㆒、我不㆑求㆑名、公宜㆔自載㆓家傳㆒。

【平通】469（ヘイツウ） 平穩で通達する。無事に通る。〔六部成語、禮部、平通、注解〕平穩通達。

〔平通侯〕470（ヘイツウコウ） 漢、楊惲（**6**－15112‥20）の封號。

【平定】471（ヘイテイ） ❶平げ定める。〔史記、秦始皇紀〕平㆓定天下㆒。〔漢書、高帝紀下〕平㆓定海內㆒、功臣皆受㆑地食㆑邑。〔後漢書、荀彧傳〕故能平㆓定山東㆒。❷定まる。落著く。❸明末、段鋹の僭年號、大順平定の略。〔歷代紀元編、上〕年次不明。❹縣名。㋑漢、置く。故治は陝西省楡林縣の北境。〔讀史方輿紀要、陝西、楡林鎭、增山城〕平定城、在㆓鎭東南境㆒、漢縣、屬㆓西河郡㆒。㋺南朝宋、置く。今缺く。廣東省舊肇慶府の境。㋩宋、置く。漢の上艾縣の地。山西省昔陽縣の西北。東は長城を隔てて河北省と接し、固子關・娘子關があつて兩省の門戶をなす。正太鐵路の沿線で、無煙炭の產地。又、鐵・瓷器を產し、定窯の名がある。〔讀史方輿紀要、山西、太原府、平定州〕平定廢縣、今州治、漢爲㆓上艾縣㆒、屬㆓太原郡㆒、云云、宋太平興國四年、改爲㆓平定縣㆒、平定軍治焉。㋥民國、置く。金以後の平定州を改めて、平定縣とした。❺參照。❺州名。宋の平定軍を、金になつて州に改めた。清、山西省に屬させ、盂・壽陽の二縣を領す。民國、州を改めて縣となす。〔清史稿、地理志〕山西、平定直隸州、領㆓縣二㆒、盂・壽陽。❻明、滁の人。太祖に從つて兵を起す。官は濟寧指揮僉事。常遇春に從つて元都を下し、戰歿す。〔明史、一百四十四〕。

〔平定粤寇紀略〕472（ヘイテイエツコウキリヤク） 書名。十八卷、附記四卷。清、杜文瀾撰。長髮賊平定の略紀。長髮賊はその主力が、昔の粤の地にあつたから粤匪・粤寇といふ。此の書は、道光三十年六月から同治三年九月までの事を記す。附記四卷は、賊名記・邪說記・逆蹟記・瑣聞記各〻一卷に分つ。〔曼陀羅華閣叢書、第一―第六冊〕。

〔平定金川方略〕473（ヘイテイキンセンハウリヤク） 書名。三十二卷。乾隆十三年奉敕撰。大金川を討つて平定した始末を記したもの。〔四庫提要、史、紀事本末類〕。

〔平定三逆方略〕474（ヘイテイサンギヤクハウリヤク） 書名。六十卷。清、康熙二十一年勒德洪等奉敕撰。吳三桂・尙之信・耿精忠の三逆藩の平定紀略。〔四庫提要、史、紀事本末類〕。

〔平定準噶爾圖〕475（ヘイテイジユンガルヅ） 圖の名。清の高宗が供奉畫院の耶蘇會修士郎世寧（Joseph Castiglione）らに命じて、乾隆帝の準噶爾・回部平定のさまを畫かせたもの。四幅ある。後、佛蘭西に送り名工に十年の歲月をかけて彫版させた。

〔平定準噶爾方略〕476（ヘイテイジユンガルハウリヤク） 書名。前編五十四卷、正編八十五卷、續編三十三卷。乾隆三十七年奉敕撰。西域の征伐を記す。御定平定準噶爾方略（**4**－10157‥306）を見よ。

〔平定兩金川方略〕477（ヘイテイリヤウキンセンハウリヤク） 書名。一百五十二卷。乾隆四十一年奉敕撰。小金川の逆酋、僧格桑と、天金川の逆酋、索諾木とを殲滅することを記す。〔四庫提要、史、紀事本末類〕。

【平底】478（ヘイテイ） 平なそこ。〔晉書、宣帝紀〕關中多㆓蒺藜㆒、帝使㆘軍士二千人、著㆓軟材平底木屐㆒前行㆖、蒺藜悉著㆑屐、然後馬步倶進。

【平亭】479（ヘイテイ） 公平に決める。明かにわかちきめる。亭は調。〔漢書、張湯傳〕平㆓亭疑法㆒、奏㆓讞疑㆒。〔注〕師古曰、亭、均也、調也、言、平㆓均疑法㆒、及爲㆓讞疑奏㆑之。

【平帝】480（ヘイテイ） 前漢、十一代の王。劉衎（**2**－2224‥127）を見よ。

【平渟】481（ヘイテイ） 平な水たまり。〔王令、初聞㆓思歸鳥㆒憶㆑昨寄㆓崔伯易朱元弼㆒詩〕春湖平渟照㆓空碧㆒、淮帆曉上攙㆓天桅㆒。

【平隄】482（ヘイテイ） ❶平などて。ひらつつみ。〔庾信、忝在㆓司水㆒看㆑治㆓渭橋㆒詩〕平隄石岸直、高堰柳陰長。〔陸游、春行詩〕猩紅帶㆑露海棠濕、鴨綠平隄湖水明。❷縣名。漢、置く。今、河北省棗強縣の西北。〔漢書、地理志下〕信都國、縣、十七、平隄。〔讀史方輿紀要、直隸、眞定府、冀州、棗強縣、歷縣城〕平隄城志云、在㆓縣西北三十里㆒、漢縣、屬㆓信都國㆒。

【平趙】483（ヘイテウ） 五胡十六國の頃、前趙（北漢）の句渠知の僭年號。(32)

【平潮】484（ヘイテウ） 平な海潮。〔樓鑰、月夜泛㆓舟姚江㆒詩〕涼月纔上弦、平潮可㆓黃昏㆒。〔貢師泰、海歌〕出得㆓蛟門㆒才是海、虎蹲㆓山下㆒待㆓平潮㆒。

【平調】485（ヘイテウ） ❶おだやかに調ふ。〔後漢書、宋均傳〕今諸國之封、並皆膏腴、風氣平調、道路夷近。❷平らかな調子。〔阮瑀、箏賦〕平調定均、不㆑疾不㆑徐。❸樂曲の一種。漢から六朝の間にかけて行はれた相和歌の一部門をなすもので、清調・瑟調と共に、相和三調といはれる。長歌行・短歌行等の曲があり、樂器は、笙・笛・筑・瑟・琴・箏・琵琶の七種を用ひる。〔樂府詩集、相和歌辭、平調曲序〕古今樂錄曰、王僧虔大明三年宴樂技錄、平調有㆓七曲㆒、一曰長歌行、二曰短歌行、三曰猛虎行、四曰君子行、五曰燕歌行、六曰從軍行、七曰鞠歌行、荀氏錄所㆑載十二曲、傳者五曲、武帝周西・對酒、文帝仰瞻、竝短歌行、文帝秋風・別日、竝燕歌行、是也、其七曲今不㆑傳、文帝功名、明帝青青、竝長歌行、武帝吾年、明帝雙桐、竝猛虎行、燕趙君子行、左延年苦哉從軍行・雉朝飛・短歌行、是也、其器有㆓笙・笛・筑・瑟・琴・箏・琵琶七種㆒、歌弦六部。〔魏書、樂志〕清調以㆑商爲㆑主、平調以㆑角爲㆑主。❹正平調の略。正平調（**6**－16255‥403）を見よ。❺（ヒヤウデウ）㋑我國十二律の一。壹越から算へて第三番目。中國十二律の太簇に當り、洋樂のホ（**E**）に近い。十二律（**2**－2695‥407）を見よ。㋺我國雅樂六調子の一。平調を宮とする律調。越天樂等がこの調に屬する。㋩能樂における調の名の一。❻㋑身體の狀態のととのふこと。㋺普通の調子。

【平糶】486（ヘイテウ） 價格を平かにして米を賣出す。平糶法を見よ。〔史記、貨殖傳〕平㆑糶齊㆑物、關市不㆑乏、治國之道也。〔宋史、度宗紀〕久雨、京師減㆑直糶㆓米三萬石㆒、自㆑是米價高、卽發㆑廩平㆑糶、以爲㆑常。〔六部成語、戶部、平糶、注解〕糶、賣也、市上米貴、則發㆓官倉之米㆒售㆑之、以平㆓市價㆒。

〔平糶法〕487（ヘイテウハフ） 平糴法（493）に同じ。

【平狄】488（ヘイテキ） 南朝梁の將軍の號。えびすを平げる義。〔隋書、百官志上〕詔以㆓將軍之名、高卑舛雜㆒、命更加㆓釐定㆒、于㆑是有司奏置㆓一百二十五號將軍㆒、云云、克狄・平虜・討夷・平狄・威戎爲㆓五班㆒。

【平的】489（ヘイテキ） 縣名。漢、置く。山東省舊青州府の境。〔漢書、地理志上〕北海郡、縣二十六、平的。

【平滌】490（ヘイテキ） 平かにはらふ。又、平げはらふ。〔趙至、與㆓嵆茂齊㆒書〕平㆓滌九區㆒、恢㆓維宇宙㆒。

【平敵】491（ヘイテキ） 敵を平げる。〔宋史、胡旦傳〕可㆔以齊㆑心平㆑敵、恢㆓拓舊境㆒。

【平糴】492（ヘイテキ） 豐年で米穀の豐かな時に、政府で米穀を買收して倉廩に貯へ置き、凶年で米價の高い時に安く賣出すこと。平糴法を見よ。〔孫逖、授㆓蕭隱之御史中丞㆒制〕自任以㆓長府㆒、委㆓之平糴㆒。

〔平糴法〕493（ヘイテキハフ） 豐年の米價低廉な時に政府で米を時價より高く買ひ上げて之を貯藏し、凶年の米價の暴騰した時、時價より安く民間に拂下げる米價調節法で、兼ねて貧民救恤の目的を有し、後世の義倉・社倉は皆この主義に本づく。此の法は齊の管仲の斂散の法に始まり、戰國、魏の李悝に完成したもので、管仲は富國を主とし、李悝は濟民を主とする。後代にも有り、清代には八九月頃を買上げ、二三月頃を拂下げの時期とした。〔漢書、食貨志上〕是時李悝爲㆓魏文侯㆒、

作㆘盡㆓地方㆒之教㆖、以爲㆓地方百里、提封九萬頃㆒、除㆓山澤邑居㆒、參分去㆑一、爲㆓田六百萬畮㆒、治㆑田勤謹、則畮益㆓三升㆒、不㆑勤則損亦如㆑之、地方百里之增減、輙爲㆓粟百八十萬石㆒矣、又曰、糴甚貴傷㆑民、甚賤傷㆑農、民傷則離散、農傷則國貧、故甚貴與㆓甚賤㆒、其傷一也、善爲㆑國者、使㆓民毋㆑傷而農益勸㆒、今一夫挾㆓五口㆒、治㆓田百畮㆒、歲收畮一石半、爲㆓粟百五十石㆒、除㆓十一之稅十五石㆒、餘百三十五石、食人月一石半、五人終歲爲㆓粟九十石㆒、餘有㆓四十五石㆒、石三十、爲㆓錢千三百五十㆒、除㆓社閭嘗新春秋之祠㆒、用㆓錢三百㆒、餘㆓千五十㆒、衣人率用㆓錢三百㆒、五人終歲用㆓千五百㆒、不足四百五十、不幸疾病死喪之費及上賦斂、又未㆑與㆑此、此農夫所㆘以常困有㆓不㆑勸耕之心㆒、而令㆛糴至㆚於甚貴㆙者也、是故善平㆑糴者、必謹觀㆔歲有㆓上中下孰㆒、上孰其收自四、餘㆓四百石㆒、中孰自三、餘㆓三百石㆒、下孰自倍、餘㆓百石㆒、小飢則收㆓百石㆒、中飢七十石、大飢三十石、故大孰則上糴㆑三而舍㆑一、中孰則糴㆑二、下孰則糴㆑一、使㆓民適足㆒、賈平則止、小飢則發㆓小孰之所㆒㆑斂、中飢則發㆓中孰之所㆒㆑斂、大飢則發㆓大孰之所㆒㆑斂而糴㆑之、故雖㆑遇㆓飢饉水旱㆒、糴不㆑貴而民不㆑散、取㆓有餘㆒以補㆓不足㆒也、行㆓之魏國㆒、國以富彊。〔文獻通考、市糴考、常平義倉租稅〕按、古今言㆓糶糴斂散之法㆒、始㆓於齊管仲・魏李悝㆒、然管仲之意、專主㆓於濟㆑民、管仲言、人君不㆑理、則畜賈游㆓於市㆒、乘㆓民之不㆑給㆒、百㆓倍其本㆒、此則桑孔以來、所謂理財之道、大率皆宗㆓此說㆒、然山海天地之藏、關市物貨之聚、而豪強擅㆑之、則取以富㆑國可也、至㆓於農人服㆑田力㆑穡之贏餘㆒、上之人爲制㆓其輕重㆒、時㆓其斂散㆒、使㆑不㆘以㆓甚貴甚賤㆒爲㆖患、乃仁者之用㆑心、若誘曰㆔國家不㆑取、必爲㆓兼幷者所㆒㆑取、遂斂而不㆓復散㆒、而資以富㆑國、誤矣。〔大學衍義補、制㆓國用㆒、市糴之令〕朝廷擧㆓李悝平糴之法㆒、於㆓此二處㆒、各立㆓一常平司㆒、每㆑司注㆓戶部屬官二員㆒、量㆓地之大小㆒、借㆓與官錢㆒爲㆑本、每㆑歲親臨㆘所㆓分屬㆒縣㆖、驗㆓其所㆑種之穀㆒、麥熟幾分、粟熟幾分、與㆓夫大小豆之類㆒、皆定㆓分數㆒、申㆓達戶部㆒、因㆓種類之豐荒㆒、隨㆓時價之多少㆒、收㆑糴在㆑官。

【平徹】494 ヘイ テツ おだやかでとほる。〔陸機、文賦〕奏平徹以閑雅、說煒曄而譎誑。〔注〕翰曰、和㆓平其詞㆒、通㆓徹其意㆒。

【平疊】495 ヘイ デフ たひらにかさなる。〔袁桷、送㆘王繼學脩撰馬伯庸應㆓奉分院㆒上㆖都詩〕淺坡平疊磧漫漫、拂㆑嶺青帘罨畫看。

【平天】496 ヘイ テン たひらでひろびろした天。〔李白、秋浦歌〕水如㆓一匹練㆒、此地卽平天。

【平天冠】497 ヘイテン クワン 平天冕の俗稱。〔後漢書、輿服志下〕冕皆廣七寸、長尺二寸、前圓後方、朱綠裏玄上、前垂四寸、後垂三寸、云云、郊㆓天地㆒、宗㆓祀明堂㆒、則冠㆑之。〔注〕蔡邕曰、鄙人不㆑識、謂㆓之平天冠㆒。〔隋書、禮儀志六〕梁制、乘輿郊㆑天祀㆑地、禮㆓明堂㆒、祠㆓宗廟㆒、元會臨㆑軒、則黑介幘通天冠平冕、俗所謂平天冠者也、其制、玄表朱綠裏、廣七寸、長尺二寸、加㆓於通天冠上㆒、前垂四寸、後垂三寸、前圓而後方、垂㆓白玉珠十有旒㆒、其長齊㆑肩、以㆑組爲㆑纓、各加㆓其綬色㆒、傍垂㆓黈纊㆒、琉珠以㆓玉瑱㆒。

【平天轉】498 pʻing^{2} tʻien^{1} chuan^{4} 筆規（ブンマハシ）に賭けて物を賣る賣物屋。

【平天冕】499 ヘイテン ベン 冕の一種。通天冠(**11－38892**・・332)の上に冕を加へたもの。郊廟の祭に用ひる。前代は通天平冕といひ、南朝宋、改めて平天冕といふ。俗に平天冠といふ。平天冠を見よ。〔通典、禮、嘉禮、冕〕宋因㆑之、更㆓名平天冕㆒、天子郊祀及宗廟服㆑之。

【平天將軍】500 ヘイテン シヤウグン 後漢、觀鵠(**10－34993**・・81)の自稱。

【平典】501 ヘイ テン 公平な法則。〔後漢書、陳忠傳〕臨㆑事戰懼、不㆓敢穴見㆒、有㆑所㆓興造㆒、又不㆓敢希㆑意、同僚以謬㆓平典㆒。〔隋書、刑法志序〕歲布㆓平典㆒、年垂㆓簡憲㆒、昭然如㆓日月㆒、望㆑之者不㆑迷、曠乎如㆓大路㆒、行㆑之者不㆑惑。

【平殄】502 ヘイ テン 平げほろぼす。〔隋書、音樂志中〕文宣命㆑將出征、平㆓殄北荒㆒、滅㆓其國㆒也。

【平展】503 ヘイ テン 平かにのべる。〔白居易、奉㆓和汴州令狐相公二十二韻詩㆒〕平展絲頭毯、高褰錦額簾。

【平轉】504 ヘイ テン 公平に職を轉ずる。〔唐書、趙憬傳〕若課在㆑中、考如㆑限者、平轉而歷㆓試之㆒、卽無㆓苟且之心、滯淹之慮㆒。

【平田】505 ヘイ デン ❶平でひろびろした田。〔詩、大雅、韓奕、箋〕梁山之野、堯時俱遭㆓洪水㆒、禹甸㆑之者、決㆓除其災㆒、使㆑成㆓平田㆒、定㆓貢賦於天子㆒。〔孟浩然、行出㆓東山㆒望㆓漢川㆒詩〕平田出㆑郭少、盤坂入㆑雲長。〔楊嗣震、自㆓紅花埠㆒至㆓剡城㆒道中作〕瀟瀟絲雨過㆓剡城㆒、土潤平田漸可㆑耕。❷字號。㋑明、管楫(**8－26162**・・77)の號。㋺清、劉呉龍(**2－2224**・・906)の號。

【平田船】506 ヒラダ ブネ 底の平たい長い小舟。

【平田草堂】507 ヘイデン サウダウ 明、管楫(**8－26162**・・77)の室名。

【平甸】508 ヘイ デン 平で廣々した郊野。〔陸倕、思田賦〕臨㆓九曲之迥江㆒、對㆓千里之平甸㆒。〔貢奎、登㆓虎丘山㆒詩〕平甸眺㆓萬頃㆒、閒瞻㆓煙樹稠㆒。

【平都】509 ヘイ ト ❶山名。四川省酆都縣の東北。一名、酆都縣。道書七十二福地の一つで、漢の王方平、後漢の陰長生等、皆ここに修煉した。〔太平寰宇記〕在㆓酆都縣北二里㆒、縣以㆑此爲㆑名、後漢時陰長生於㆑此昇天、亦張道陵二十四化之一也。❷縣名。㋑漢、置く。陝西省安定縣の地。〔漢書、地理志下〕上郡、縣二十三、平都。㋺後漢、置く。故治は江西省安福縣の東南。〔讀史方輿紀要、江西、吉安府、安福縣〕後漢改㆓安平縣㆒曰㆓平都㆒、興平中、改屬㆓廬陵郡㆒。㋩後漢、置く。四川省酆都縣治。〔水經、江水注〕東歷㆓平都峽㆒、對㆓豐民洲㆒、舊巴子別都也、云云、有㆓平都縣㆒、爲㆓巴郡之隸邑㆒矣。〔華陽國志〕巴子治㆓江州㆒、或治㆓平都㆒。❸城の名。山西省遼縣の西北。戰國の趙簡子の建立。〔讀史方輿紀要、山西、遼州〕平城廢縣、州西北七十里、志云、卽趙平都城也、趙簡子所㆑立。❹梁の武帝、蕭衍の時、汾陽王巨觸の僭年號。(536)

【平塗】510 ヘイ ト 平な道。〔晉書、伏滔傳〕北接㆓梁宋㆒、平塗不㆑過㆓七日㆒、西援㆓陳許㆒、水陸不㆑出㆓千里㆒。〔沈約、齊故安陸昭王碑文〕方城漢地、南顧莫㆑重㆓千里㆒、北指㆓崤潼㆒、平塗不㆑過㆓七百㆒。

【平土】511 ヘイ ド 平な土地。〔孟子、滕文公下〕然後人得㆓平土㆒而居㆑之。〔新語、道基〕去㆓高險㆒、處㆓平土㆒。〔吳志、張溫傳〕置㆓平土㆒、則爲㆓健兵㆒。

【平度】512 ヘイド ヘイト ❶和平の度。〔班彪、北征賦〕夫何陰曀之不㆑陽兮、嗟久失㆓其平度㆒。〔注〕向曰、喩㆘天下昏亂無㆓明君之道㆒、使㆖失㆓和平之法度㆒。❷州名。明、置く。民國、縣に改む。〔清史稿、地理志〕山東、萊州府、州一、平度州。❸縣名。㋑漢、置く。侯國。故城は山東省平度縣の西北。〔漢書、地理志上〕東萊郡、縣十七、平度。㋺民國、置く。山東省掖縣の南。膠萊河の支流の西岸。❹字號。㋑晉、司馬晏(**2－3257**・・203)の字。㋺清、張世法(**4－9812**・・1241)の字。

【平東】513 ヘイ トウ ❶四平將軍の一。漢魏の閒、置く。平北(618)を見よ。❷隋、豆盧通(**10－36245**・・86)の字。

【平等】514 ヘイ トウ ❶縣名。民國、置く。もと伊陽・洛陽・宜陽・嵩の四縣の地。今、河南省洛陽縣の西南。❷ビヤウ ドウ ㋑差別なく平かで均しい。平均同等。〔涅槃經〕悉皆平等、無㆑有㆓差別㆒。〔梁武帝、會㆓三教㆒詩〕示教惟平等、至理歸㆓無性㆒。〔白居易、歲暮道㆑情詩〕爲學㆓空門平等法㆒。〔五燈會元〕明州瑞巖智才禪師曰、天平等、故常覆、地平等、故常載、日月平等、故四時常明、涅槃平等、故聖凡不㆑二、人心平等、故高低無㆑諍。㋺社會倫理上の根本觀念で、特權の撤廢と機會の均等とを要求するもの。❸ヒラ シナ 甲斐國の地名。

【平等院】515 ビヤウドウ ヰン 寺の名。山城國久世郡宇治町にあり、鳳凰堂ともいふ。天台・淨土を兼學し、定朝作の丈六阿彌陀佛を本尊とする。もと源融の別墅であつたが、後、宇多・朱雀兩帝の離宮となり、更に藤原賴通の山莊となるに及んで佛寺となつた。其の鳳凰堂と稱するのは、阿彌陀堂の屋上に鳳凰が置かれてゐるからである。〔都名所圖會、五〕。

【平等會】516 ビヤウドウ ヱ 〘佛〙賢聖・道俗・貴賤・上下の別なく、平等に財法の二施を行ずる法會。無遮大會。〔南史、梁武紀下〕幸㆓同泰寺㆒、設㆓平等會㆒。

【平等界】517 ビヤウドウ カイ 〘佛〙眞如の世界。實相の世界。萬有の差別のない世界。本體界。差別界(**4－8732**・・100)の對。

【平等覺】518 ビヤウドウ カク 〘佛〙佛の正覺をいふ。正覺には高下淺深の別がないから平等といふ。又、佛をいふ。〔無量清淨平等覺經〕。

【平等觀】519 ビヤウドウ クワン 〘佛〙一切萬有の平等なことを

觀ずる從空入假觀のこと。差別觀の對。〔止觀、三〕從㆑空入㆑假、名㆓平等觀㆒。

〔平等性〕520 ビヤウドウシヤウ 佛 平等に一切諸法に周遍する眞如をいふ。

〔平等法〕521 ビヤウドウホフ 佛 一切衆生が平等に成佛する法。〔金剛經〕是平等法、無㆑有㆓高下㆒、是名㆓阿耨多羅三藐三菩提㆒。

〔平等力〕522 ビヤウドウリキ 佛 阿彌陀如來の尊稱。平等に一切衆生を濟度する力を具へるからいふ。〔贊阿彌陀佛偈〕虛無之身無極體、是故頂㆓禮平等力㆒。

〔平等王〕523 ビヤウドウワウ 佛 閻魔の稱。公平に生死罪福を掌るからいふ。〔慧琳音義、五〕梵音燗魔、義飜爲㆓平等王㆒、此司㆓典生死罪福之業㆒。〔五會法事讚本〕若得㆓念佛深三昧㆒、不㆑怕㆓三途平等王㆒。

〔平等均一〕524 ビヤウドウキンイツ ビヤウドウキンイチ 差別による對立不同なく一樣なこと。平等に同じ。

〔平等性智〕525 ビヤウドウシヤウチ 佛 如來四智の一つ。平等一如の理を悟つて、我他彼此の差別を離れて大悲心を起し、菩薩のために種々の化益をなす佛智。密教では、五智を建て、平等性智を灌頂智と名付け、南方の寶生佛の智とする。〔心地觀經、二〕平等性智、轉㆓我見識㆒、得㆓此智慧㆒、是以能證㆓自他平等二無我性㆒、如㆑是各爲㆓平等性智㆒。

〔平等主義〕526 ビヤウドウシユギ 彼此親疎の區別を立てず、すべて平等に取扱ふ主義。

〔平等大慧〕527 ビヤウドウダイヱ 佛 諸佛の智慧。一切平等の理を悟り、衆生の差別を攝して、化益が平等であるからいふ。〔法華經、見寶塔品〕爾時寶塔中出㆓大音聲㆒歎言、善哉善哉、釋迦牟尼世尊、能以㆓平等大慧教菩薩法佛所護念妙法華經㆒爲㆓大衆㆒說。〔法華科注、四〕平等有㆑二、一者法等、一切法等、卽中道理、二者衆生等、卽一切衆生同得㆓佛慧㆒也。

〔平等閣詩話〕528 ヘイトウカクシワ 書名。二卷。清、平等閣主人撰。多く近人の詩話を載せる。

〔平等卽差別〕529 ビヤウドウソクサベツ 平等と差別とは、相對的であるから、平等の中にも差別あり、差別の中にも平等があること。

【平頭】530 ヘイトウ ❶數の揃ふこと。丁度。齊頭に同じ。銀を量る時などに、計數十なるを齊頭數といふ。〔白居易、登㆓龍尾道㆒南望云云詩〕青山擧㆑眼三千里、白髮平頭五十人。〔白居易、除夜詩〕火銷燈盡天明後、便是平頭六十人。〔通俗編、數目、平頭〕按、凡計數逢㆑十、今俗謂㆓之齊頭數㆒、平與㆑齊同。❷詩の八病の一。平頭病を見よ。❸召使をいふ。奴。平頭奴子を見よ。〔陸游、兀坐久散㆓步野舍㆒詩〕赤腳舂㆓畬粟㆒、平頭拾㆓澗柴㆒。〔稱謂錄、僕、平頭〕案、謂㆑奴也。❹頭巾の名。頭の平らなもの。〔唐書、車服志〕文官有㆓平頭小樣巾㆒、百官常服、同㆓於庶人㆒。❺輦の名。平輦（696）を見よ。〔宋史、輿服志一〕平輦、又名㆓平頭輦㆒、亦曰㆓太平輦㆒、飾如㆓逍遙輦㆒而無㆑屋。

〔平頭病〕531 ヘイトウヘイ 作詩上避くべき八病の一。一聯中で、上句の頭二字と下句の頭二字と同聲のもの。又、上句の第一字と下句の第一字と同聲、上句の第二字と下句の第二字と同聲の時にもいふ。〔南史、陸厥傳〕顧暠之表薦㆓厥州擧秀才㆒、時盛爲㆓文章㆒、吳興沈約・陳郡謝朓・琅邪王融、以㆓氣類㆒相推轂、汝南周顒、善識㆓聲韻㆒、約等文皆用㆓宮商㆒、將㆓平上去入四聲㆒、以㆑此制㆑韻、有㆓平頭・上尾・蠭腰・鶴膝㆒、五字之中、音韻悉異、兩句之內、角徵不㆑同、不㆑可㆓增減㆒、世呼爲㆓永明體㆒。〔作文大體、詩病〕凡詩有㆓八病㆒、其尤可㆑避者、平頭・上尾・蜂腰・鶴膝、此四病也、平頭病者、近來不㆑去㆑之、上句第一二字與㆓下句第一二字㆒同、平上去入是也、但第一字同平聲不㆑爲㆑病也。〔詩法詳論、律詩〕詩有㆓八病㆒、一曰平頭、第一第二字、不㆑得㆘與㆓第六字第七字㆒同聲㆖、如㆔今日良宴會、讙樂難㆓具陳㆒、今、讙皆平聲。

〔平頭甲子〕532 pʻing^2 tʻou^2 chia^2 tzŭ^3 六十歲をいふ。甲子は六十年で一周するからいふ。〔還魂記、閨塾〕目下平頭甲子。

〔平頭著可〕533 ヘイトウチヨカ 土司の名。貴州省松桃縣の西北。明、平頭著可長官司を置く。正長官は楊姓、副長官は田姓。〔讀史方輿紀要、貴州、銅仁府、平頭著可長官司〕府西北百三十里、元置㆓平頭著可通達等處長官司㆒、隸㆓思州安撫司㆒、明朝洪武五年、改置㆓今司㆒、授㆓土酋楊氏㆒、又以㆓田氏㆒副㆑之、屬㆓思州宣慰司㆒。

〔平頭奴子〕534 ヘイトウドシ 奴婢僕隷をいふ。召使。〔梁武帝、河中之水歌〕珊瑚掛㆑鏡爛生㆑光、平頭奴子擎㆓履箱㆒。〔李白、梁園吟詩〕平頭奴子搖㆓大扇㆒、五月不㆑熱疑㆓清秋㆒。

【平德】535 ヘイトク 德をおだやかにする。〔申鑒、雜言上〕履㆓和行㆒以平㆓其德㆒。

【平凸】536 ヘイトツ ひらたい所に高みのあること。

【平呑】537 ヘイドン 悉くのみほす。〔蘇轍、明日復賦詩〕平呑百澗暴、滅盡三洪惡。

【平南】538 ヘイナン ❶四平將軍の一。漢魏の間、置く。平北（618）を見よ。❷縣名。㋑唐、置く。廣西省武宣縣の東西江の北岸。〔讀史方輿紀要、廣西梧州府、平南縣〕唐貞觀七年析㆓置平南縣㆒、屬㆓龔州㆒。〔清史稿、地理志〕廣西、潯州府、縣四、平南。㋺遼、置く。今缺く。滿洲奉天省の境。

〔平南荊〕539 ヘイナンケイ 魏の鼓吹曲の名。漢の鐃歌の一であつた上陵を改めて、平南荊とした。繆襲撰。〔晉書、樂志下〕改㆓上陵㆒爲㆓平南荊㆒、言㆔曹公平㆓荊州㆒也。

〔平南王〕540 ヘイナンワウ 清、尙可喜（**4**−**7493**··167）の「封號。

【平難】541 ヘイナン 難を平げる。國家の難を平げる。〔蜀志、後主傳注〕昭烈皇帝、體㆓明叡之德㆒、光㆓演文武㆒、應㆓乾坤之運㆒、出㆑身平㆑難。〔五代史、唐莊宗紀〕拜㆓克用忠正平㆑難功臣㆒、封㆓晉王㆒。

【平寧】542 ヘイネイ ❶やすらか。〔宋史、田錫傳〕寓縣平寧、京師富庶。❷複姓。〔姓苑〕張澎云、祝㆓其平寧㆒、因以爲㆑氏。

【平熱】543 ヘイネツ 普通の體溫。

【平年】544 ヘイネン ❶河水の平かな年。〔漢書、敍傳下〕成有㆓平年㆒、後遂滂沱。〔注〕劉德曰、成帝治㆑河已平、改㆑元曰㆓河平元年㆒。❷閏ウルフのない年。一年が三百六十五日の年。閏年（**11**−**41243**··8）の對。❸米のできが普通な年。豐年（**10**−**36304**··171）・凶年（**2**−**1803**··101）の對。

【平坡】545 ヘイハ 平な坂。〔袁桷、草池詩〕帶水殘沙似㆓暗潮㆒、平坡軟草綠迢迢。

〔平坡居士〕546 ヘイハコジ 宋、應節嚴（**4**−**11330**··270）の號。

【平波】547 ヘイハ 平ななみ。さざなみ。〔溫庭筠、水仙謠〕夜深天碧亂山姿、光碎㆓平波㆒滿船月。〔皮日休、釣車詩〕何處覓㆓奔車㆒、平波今渺渺。

【平壩】548 ヘイハ 縣名。明の平壩衞の地。民國、置く。貴州省安順縣の東北。〔讀史方輿紀要、貴州、平壩衞指揮使司〕古西南夷地、元爲㆓金筑府地㆒、明朝洪武二十三年、置㆓今衞㆒、屬㆓貴州都司㆒。

【平輩】549 ヘイハイ 同格の者。同輩の者。

【平買】550 ヘイバイ 普通の價で買ふ。〔福惠全書、涖任部、出堂規〕俱係㆓現發紋銀、時價、平買㆒。

【平賣】551 ヘイバイ 利を貪らないで賣る。公平なうりね。

【平方】552 ヘイハウ 同じ數を掛け合せる。自乘。相乘。又、相乘積。又、正方形の面積。〔算法統宗、少廣章、開平方認商歌〕解曰、平方者、乃方面自乘之積也、開者以求㆓方面㆒之數也。

【平包】553 ヒラツツミ ふくさ。ふろしきの類。〔下學集、下、絹布門〕平包。

【平房】554 ヘイバウ ひらや。平屋。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕起㆓蓋平房十間㆒、編爲㆓十號㆒。

【平望】555 ヘイバウ ❶平かに望む。〔史記、天官書〕凡望㆓雲氣㆒、仰而望㆑之、三四百里、平望在㆓桑榆上㆒、餘二千里㆒、登㆑高望㆑之、屬㆑地者三千里。❷曆を正す。望は陰曆十五日。平朔（245）の❷を見よ。❸觀の名。河南省洛陽縣、洛陽故城內に在る。〔水經、穀水注〕其水自㆓天淵池東㆒出㆓華林園㆒、逕㆓聽訟觀南㆒、故平望觀也、云云、以㆓太和三年㆒、更從㆓今名㆒。❹鎭の名。江蘇省吳江縣の南に在つて、河湖の集る處。西は太湖に通じ、南は浙江に通ずる。〔讀史方輿紀要、江南、蘇州府〕平望鎭、縣南四十五里、爲㆘控㆓接嘉湖㆒之要道㆖。❺縣名。漢、置く。侯國。山東省壽光縣の東北。〔漢書、地理志上〕北海郡、縣二十六、平望。〔注〕侯國。〔水經、巨洋水注〕伏琛・晏謨、並以爲、平望亭在㆓平壽縣故城西北八十里㆒、古縣。

【平暴】556 ヘイバウ 暴を平げる。惡者を平げをさめる。〔張載、平吳頌序〕聞㆓之前志㆒、堯有㆓丹水之陣㆒、舜有㆓三苗之誅㆒、此聖帝明王、平㆑暴靜㆑亂、未㆑有㆓不㆑用㆑兵而制㆑之也。

【平白】557 ヘイハク ❶理由なく。わけなく。平白地。〔邊元鼎、閒見詩〕平白相逢惹㆓斷腸㆒。❷ひろく空しい。〔李賀、昌谷詩〕沙汰好㆓平白㆒、立馬印㆓青字㆒。

〖平白地〗558 pʻing^{2} pai^{2} ti 何等の理由なく。故なく。白地。平白に同じ。〔演繁露〕太白越女詞、相看月未墜、白地斷肝腸、此東坡長短句所取以爲平白地、爲伊腸斷也。〔元曲、賺蒯通〕韓信是一饑夫、平白地、著他爲元帥、他有什麽功勞那。

〖平白的〗559 pʻing^{2} pai^{2} tê 平白地に同じ。〔桃花扇、截磯〕一身甲胄、平白的牖下亡。

〖平白無故的〗560 pʻing^{2} pai^{2} wu^{2} ku^{4} tê 譯もなく。何の理由もなく。

【平伯】561（ヘイハク） 字號。❶明、孫衡(3－6987‥38)の字。❷清、蔣坦(9－31820‥79)の字。

【平陌】562（ヘイハク） 平な道。〔湛方生、風賦〕春惠始和、重褐初釋、遨ニ步蘭皐一、遊ニ眄平陌一、響ニ詠空嶺一、朗ニ吟竹柏一。

【平博】563（ヘイハク） 平かでひろい。〔南史、夷貊上、扶南國傳〕其國廣輪三千餘里、土地洿下而平博、氣候風俗、大較與ニ林邑一同。

【平伐】564（ヘイバツ） 土司の名。貴州省貴定縣の南。元、長官司を置く。長官は庭姓。洪武十五年、改めて大平伐長官司と爲す。長官は宋姓。又、縣の西南に小平伐長官司がある。〔讀史方輿紀要、貴州、貴陽軍民府〕平伐廢長官司、府東南百二十里、元置ニ平伐等處長官司一、洪武十五年、改爲ニ平伐長官司一、屬ニ貴州衞一。

【平法】565（ヘイハフ ベンパフ） 法を明かにし正しくする。法律を公平にとりあつかふ。〔書、立政、王左右常伯常任準人綴衣虎賁、傳〕準人平レ法、謂ニ士官一。〔疏〕平法之人、謂ニ獄官一也。〔漢書、宣帝紀〕元康二年夏五月詔、二千石、各察ニ官屬一、勿レ用ニ此人一、吏務平レ法。〔李益、秋晚溪中寄ニ懷大理齊司直一詩〕國典唯平レ法、伊人方在レ斯。

【平反】566（ヘイハン ベンパン） ❶くりかへし調べて罪を明かにし正しくする。調べかへして罪を輕くする。〔漢書、楚元王傳〕劉德寛厚好ニ施生一、每レ行ニ京兆尹事一、多レ所三平ニ反罪人一。〔注〕蘇林曰、反、音幡、幡ニ罪人辭一、使レ從レ輕也。〔漢書、雋不疑傳〕每下行レ縣錄ニ囚徒一還上、其母輒問ニ不疑一、有レ所ニ平反一、活ニ幾何人一、卽不疑多有レ所ニ平反一、母喜笑。〔注〕如淳曰、反音幡、幡奏使レ從レ輕也。〔王先謙補注〕通鑑胡注云、平反、理ニ正幽枉一也。〔戴叔倫、臨川從事還別ニ崔法曹一詩〕謬官辭レ獲レ免、濫獄會ニ平反一。❷宋、崔台符(4－8178‥296)の字。

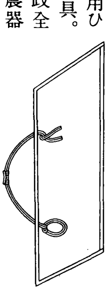
〖平反之吏〗567（ヘイハンノリ ベンパンノリ） 罪人を寛大に裁判する役人。〔長孫無忌、進ニ律疏一表〕平反之吏、從レ寛而失レ情、次骨之人、舞レ智而陷レ網。

【平坂】568（ヘイハン） なだらかな坂。〔袁桷、天鶩曲〕初如三風輪舞ニ長竿一、末若三銀毬下ニ平坂一。

【平頒】569（ヘイハン） 公平に分ち與へる。〔周禮、地官、旅師〕掌下聚ニ野之鋤粟・屋粟・閒粟一而用上レ之、以ニ質劑一致レ民、平ニ頒其興積一。〔注〕興積、所レ興之積、謂ニ三者之粟一也、平頒、不レ得三偏頗有ニ多少一。

【平飯】570 pʻing^{2} fan^{4} 粥をいふ。

【平板】571（ヘイバン） ❶種まきの時、泥田を平にならすのに用ひる農具。〔農政全書、農器圖譜、平板圖說〕平板、平ニ摩種秧泥田一器也、用ニ滑面木板一、長廣相稱、上置ニ兩耳一、繫レ索連レ軛駕レ牛、或人拖レ之、摩レ田須レ平、方可レ受レ種、卽得ニ放レ水浸漬勻停一、秧出必齊、田家或仰坐凳代レ之、終非ニ本器一。❷詩文等の抑揚も變化もなく、同じやうな調子で面白みがないこと。千篇一律。つきなみ。



平板 ❶
（農政全書）

【平版】572（ヘイハン） 印刷版の一種。凹版・凸版と區別していふ。版面に目立った凹凸がなく、化學的作用によって製版し、インキの脂肪と水との反撥性を利用した印刷術で、石版やオフセット印刷などがこれに屬する。

【平番】573（ヘイバン） 縣名。清、置く。甘肅省永登縣。〔清史稿、地理志〕甘肅、涼州府、縣五、平番。

〖平番營〗574（ヘイバンエイ） 營の名。四川省松潘縣の南。其地寛平で千騎を容れるに足る。番夷出入の處で、明は此處に城堡を建てた。

【平盤】575（ヘイバン） 平たらひ。〔管子、山權數〕北郭之得レ龜者、令レ過ニ之平盤之中一。

【平蠻】576（ヘイバン） ❶蠻族を平げる。〔王璲、送三翰林王孟暘參ニ將安南一詩〕暫輟ニ含香一値ニ曉班一、新參ニ將閫一出ニ平蠻一。❷郡名。晉、置く。雲南省陸涼縣。〔讀史方輿紀要、雲南、曲靖軍民府、陸涼州〕陸涼州、漢牂牁郡平夷縣地、蜀漢及晉因レ之、永嘉五年、始分ニ置平夷郡於此一、咸安元年、改曰ニ平蠻郡一。

〖平蠻校尉〗577（ヘイバンカウヰ） 南齊の武職の名。永明三年置く。益州に鎭す。〔南齊書、百官志〕平蠻校尉、永明三年置、隸ニ益州一。

【平陂】578（ヘイハ ヘイヒ） ❶平なことと傾くこと。〔易、泰〕无ニ平不レ陂、无ニ往不レ復。❷平なつつみ。〔鄭畋、麥穗兩岐詩〕謳歌連ニ上苑一、花實接ニ平陂一。

〖平陂山〗579（ヘイヒザン ヘイハザン） 翠微(9－28732‥165)の❹に同じ。

【平飛】580（ヘイヒ） 平にとぶ。〔庾信、三月三日華林園馬射賦〕華蓋平飛、風鳥細轉。

【平冰】581（ヘイヒョウ） 平に張った氷。〔孟郊、寒江吟〕寒江波浪凍、千里無ニ平冰一。

【平府】582（ヘイフ） 楚國の府庫の名。〔呂覽、至忠〕王令下人發ニ平府一而視上レ之。〔注〕平府、府名也。

【平皐】583（ヘイフ） 平に續いた臺地。〔六部成語、工部、平皐、注解〕高皐平正之地也。

【平符】584（ヘイフ） 清、趙天騏(10－37171‥801)の字。

【平富】585（ヘイフ） 天下を平かにし人民を富ます。〔書、康王之誥〕昔君文武、丕平富。〔蔡傳〕丕平富者、溥博均平、薄レ斂富レ民。

【平賦】586（ヘイフ） 課税を公平にする。〔何承天、社頌〕稱レ物平レ賦、百姓熙雍。

【平膚】587（ヘイフ） 平でなめらかなはだ。〔兪允文、蟋蟀賦〕其爲レ狀也、則有ニ敦豚紫茜平膚銀液一。

【平武】588（ヘイブ） 縣名。晉、置く。漢の平廣縣。後、廢され、明また置く。今、四川省江油縣の西北。縣城は涪江の上流に臨み、隴から蜀に入る閒道。〔隋書、地理志上〕平武郡、縣平武。〔讀史方輿紀要、四川、龍安府、平武縣〕漢析ニ置廣武縣一、屬ニ陰平郡一、晉太康初、改曰ニ平廣縣一、又改爲ニ平武縣一、云云、萬歷十九年、始置ニ今縣一。〔清史稿、地理志〕四川、龍安府、縣四、平武。

【平無】589（ヘイブ） 地名。今、四川省彭山縣。後漢の岑彭が刺客に殺された處。もと彭亡といふ。〔華陽國志〕十一年、世祖命ニ征南大將軍岑彭一、自ニ荊門一泝レ江征レ述、彭破ニ述荊門關及沔關一、徑至ニ彭亡一、述使三刺客刺ニ殺彭一、由レ是改ニ彭亡一曰ニ平無一、言レ無レ賊也。

【平蕪】590（ヘイブ） 雜草の生え茂つた野原。又、遠く廣い野原。平原。〔高蟾、春詩〕明月斷魂清靄靄、平蕪歸路綠迢迢。〔白居易、松江亭攜レ樂觀レ漁宴宿詩〕震澤平蕪岸、松江落葉波。〔高適、田家春望詩〕出レ門何所レ見、春色滿ニ平蕪一。〔陸游、遊ニ修覺寺一詩〕山從ニ飛鳥一行邊出、天向ニ平蕪一盡處低。

【平風】591 pʻing^{2} fêng^{1} 平穩で靜かな風。微風。

【平伏】592（ヘイフク） ❶ひれふす。降伏。〔書言字考節用集、八、言辭門〕・〔江家次第、二〕。❷座禮の一つ。神又は高貴の人に對して行ふ作法で、背を平にしてうつむくもの。

〖平伏膝行〗593（ヘイフクシツカウ） 高貴の人の前に出で進むに敬肅するさま。平座して伏目になり、膝頭ではひ進む。

【平服】594（ヘイフク） ❶平常着る衣服。禮服・制服などの對。つねぎ。ふだんぎ。常服。〔德川禁令考、一八、服制〕。❷江戸時代、繼上下の稱。〔幕朝故事談〕。

【平復】595（ヘイフク） 病氣が全快する。平安に復る。〔韓詩外傳、十〕上古醫曰ニ弟父一、弟父之爲レ醫也、以レ莞爲レ席、以レ蒭爲レ狗、北面祝レ之、發ニ十言一耳、諸扶レ輿而來者、皆平復如レ故。〔漢書、王褒傳〕朝夕誦三讀奇文及所ニ自造作一、疾平復廼歸。〔後漢書、華佗傳〕刳ニ破腹背一、既而縫合、傳以ニ神膏一、一月之閒、皆平復。〔洛陽伽藍記、五〕祭ニ祀龍王一、然後平復。

【平分】596（ヘイフン） 公平に分つ。平均に分つ。相等しい數に分つ。〔史記、司馬穰苴傳〕平ニ分糧食一。〔楚辭、九辯〕皇天平ニ分四時一兮、竊獨悲ニ此凜秋一。〔謝靈運、撰征賦〕總ニ九流一以貞觀、協ニ五材一而平分。〔幾何要法、求下分ニ一直線一任爲中若干平分上章〕第一法、如甲乙線求ニ五平分一、先從レ甲任作ニ甲丙線一、爲ニ丙甲乙角一、次從レ向丙任作ニ五平度一、爲ニ甲丁・丁戊・戊己・己庚・庚辛一、次作ニ辛乙直線一、末用ニ平行線法一、作ニ丁壬・戊癸・己子・庚丑四線一、皆與ニ辛乙一平行、卽壬・癸・子・丑與ニ甲乙一、爲ニ五平分一。

〖平分線〗597 ヘイブンセン　ものを平均に分ける線。等分線。〔新法曆書、等一平分線、分法〕此線平分爲二一百或二百乃至一千一、量尺之大小也、分法如取二一百一、先平二分之一爲レ二、又平分爲レ四、又各五二分之一爲二二十一、此以上不レ容レ分矣、則用二更分法一、以レ元分レ四、復五二分之一、或以レ元分レ六、復五二分之一。

〖平分年〗598 ヘイブンネン　天文學上、春分（晝夜の長短の正に相等しい時）から次の春分に至る一年間をいふ。

【平文】599 ヘイブン　散文をいふ。〔夢溪筆談、藝文二〕往歲士人多尚二對偶一爲レ文、穆修・張景輩、始爲二平文一、當時謂二之古文一。

【平平】600 ヘイヘイ　❶平でかたよらない。〔書、洪範〕無レ黨無レ偏、王道平平。〔蔡傳〕平平、平易也。〔墨子、兼愛下〕王道平平、不レ黨不レ偏。❷ひとしい。〔太玄經、割〕宰割平平。〔王涯注〕宰二割於物一、有二均平之德一也。❸なみなみ。平凡なさま。〔後漢書、班超傳〕我以、班君當レ有二奇策一、今所レ言平平耳。〔世說新語、賢媛〕王家見二二謝傾筐倒庋一、見二汝輩來平平一爾、汝可レ無レ煩二復往一。〔陸游、舟中晨起詩〕班侯智略本平平。❹ベン　㋑平でかたよらない。〔書、洪範、王道平平、鄭注〕平平一作二便便一。㋺わきまへ治める。〔詩、小雅、采菽〕平二平左右一、亦是率從。〔傳〕平平、辨治也。〔集傳〕平、音楩。❺ヒラ タヒラ　姓氏。

〖平平的〗601 p‘ing^{2} p‘ing^{2} tê　平な。滑らかな。

〖平平穩穩〗602 ヘイヘイヲンヲン　おだやかなこと。〔通俗編、祝誦、平平穩穩〕戴復古、寄二趙鼎臣一詩、平平穩穩、爲レ公爲レ卿。

〖平平正正〗603 p‘ing^{2} p‘ing^{2} chêng^{4} chêng^{4}　正しい。

〖平平坦坦〗604 ヘイヘイタンタン　平坦を重ねた語。極めて平坦なさま。すらすらと何事も無いさま。平坦(433)を見よ。

〖平平凡凡〗605 ヘイヘイボンボン　平凡を重ねた語。極めて平凡なさま。平凡(620)を見よ。

〖平平無奇〗606 p‘ing^{2} p‘ing^{2} wu^{2} ch‘i^{2}　平平凡凡。普通のままな。

【平米】607 ヘイベイ　米が小さい米倉に平かなさまをいふ。〔六部成語、戶部、平米、注解〕米囤平齊之狀、曰二平米一。

【平表】608 ヘイヘウ　平な表面。海や川のひろびろとした水面などにいふ。〔張融、海賦〕長紘四斷、平表九絕、雉翥成レ霞、鴻飛起レ雪。

【平碧】609 ヘイヘキ　一面のみどり。平なみどりの野原。〔李賀、艾如張〕齊人織レ網如二素空一、張在二野田平碧中一。〔溫庭筠、大液池賦〕平碧淺春生二綠塘一、雲容雨態連二青蒼一。

【平冕】610 ヘイベン　平天冠(497)に同じ。〔晉書、輿服志〕平冕、王公卿助二祭於郊廟一服レ之。〔隋書、禮儀志六〕通天冠平冕、俗所謂平天冠者也。

【平父】611 ヘイホ　字號。❶宋、項安世(**12－43343**··54)の字。❷宋、劉玶(**2－2224**··593)の字。

【平步】612 ヘイホ　おだやかであせらぬ步行。ゆつたりとした足どり。〔白居易、潯陽歲晚寄二元八郎中庾三十二員外一詩〕虛懷事二僚友一、平步取二公卿一。

【平甫】613 ヘイホ　字號。❶宋、張茂則(**4－9812**··1547)の字。❷宋、陳均(**11－41698**··157)の字。❸宋、陳槪(**11－41698**··67)の字。❹宋、范士衡(**9－30834**··175)の字。❺宋、劉晏(**2－2224**··3)の字。❻宋、王安國(**7－20823**··1110)の字。❼金、李遹(**6－14459**··35)の字。❽明、儲洵(**1－1284**··37)の字。❾明、茅溱(**9－30836**··54)の字。❿明、范鏓(**9－30834**··79)の字。⓫明、劉槩(**2－2224**··91)の字。⓬清、勞權(**2－2410**··43)の字。

【平圃】614 ヘイホ　❶園の名。今、甘肅省張掖縣。一名、玄圃。〔山海經、西山經〕槐江之山、云云、實惟帝之平圃。〔郭璞注〕卽玄圃也、畢沅曰、玄圃在二今甘肅張掖縣北雞山一。〔阮籍、淸思賦〕游二平圃一以長望兮。〔王融、三月三日曲水詩序〕載懷二平圃一、乃睠二芳林一。❷清、張宸(**4－9812**··442)の號。

【平浦】615 ヘイホ　たひらかな水濱。靜かなうらわ。〔王勃、春思賦〕桃花萬騎喧二長薄一、蘭葉千旗照二平浦一。

【平鋪】616 ヘイホ　平にしく。〔李賀、春坊正字劍子歌〕隙月斜明刮レ露寒、練帶平鋪吹不レ起。〔白居易、南湖早春詩〕亂點碎紅山杏發、平鋪新綠水蘋生。〔劉宰、舟中詩〕蓼岸著レ花紅半吐、稻畦過レ雨綠平鋪。

【平封】617 ヘイホウ　封地を分つ。資産をすりへらすこと。〔白居易、悲哉行〕朝從二博徒飮一、暮有二娼樓期一、平封還二酒債一、堆金選二蛾眉一。

【平北】618 ヘイホク　將軍の名。四平將軍の一。後漢の獻帝の時、張燕を以て之に任じ、魏晉の閒、皆置く。北方を平げる意に取つたもの。〔晉書、王恭傳〕帝將下擢二時望一以爲中藩屛上、乃以レ恭爲二都督兗青冀幽幷徐州晉陵諸軍事、平北將軍、兗青二州刺史一、假レ節鎭二京口一。〔通典、職官、武官下、四平將軍〕平東將軍・平南將軍・平西將軍・平北將軍、各一人、並漢魏閒置、後魏亦有、大唐無。

【平勃】619 ヘイボツ　陳平と周勃。共に漢の高祖の臣。〔漢書、刑法志〕夫以二孝文之仁、平勃之知一、猶有二過刑謬論一如レ此甚也、而況庸材溺二於末流一者乎。〔法言、重黎〕甘羅之悟二呂不韋一、張辟強之覺二平勃一。〔注〕覺二悟陳平・周勃一也。

【平凡】620 ヘイボン　なみなみなこと。常なみですぐれた所のないこと。平平(600)に同じ。〔朱熹、齋居感興詩序〕欲下效二其體一、作中十數篇上、顧以二思致平凡、筆力萎弱一、竟不レ能レ就。

【平莽】621 ヘイマウ ヘイバウ　廣く平な草原。野原。莽は草むら、野原。〔陸機、赴レ洛道中作詩〕振レ策陟二崇丘一、案レ轡遵二平莽一。

【平幔】622 ヘイマン　平に一面にひいたとばり。〔徐鉉、柳枝辭〕夾レ岸朱欄柳映レ樓、綠波平幔帶二花流一。

【平脈】623 ヘイミャク　異狀のない脈搏。健康人の脈搏。大人は一分間に六十乃至七十四五。〔史記、倉公傳、脈法曰不レ平不レ鼓形弊、注〕正義曰、云云、冬腎水王、其脈沉而滑、名二平脈一也。

【平民】624 ヘイミン　❶一般の善良な人民。官位のない人民。ただびと。庶民。〔書、呂刑〕蚩尤惟始作レ亂、延及二于平民一。〔傳〕惡化相易、延及二於平善之人一。〔後漢書、羊續傳〕其餘黨輩、原爲二平民一。〔六部成語、刑部、平民、注解〕良善之民也。❷民を平かに治める。〔左氏、成、二〕義以生レ利、利以平レ民、政之大節也。❸縣名。民國、置く。陝西省朝邑縣の東。❹もと、族籍上の階級。皇族・華族・士族以外のものをいふ。

〖平民學校〗625 p‘ing^{2} min^{2} hsüeh^{2} hsiao^{4}　學校に入ることの出來ない貧民の子弟、及び曾て教育を受けたことのない貧民の七歲乃至五十歲までの者に限つて入學させ、普通教育を授ける學校で、大抵小學校等に附設した。

〖平民主義〗626 ヘイミンシユギ　貴賤上下の階級に拘らず、簡易平等をたつとぶ意見。人と人との閒に障壁を設けぬ主張。又、いかめしい仕方を避けて萬事てがるに行ふ主義。

【平明】627 ヘイメイ　❶夜のひきあけ。あかつき。平旦。平は正しく其の時に當ること。〔荀子、哀公〕君平明而聽レ朝。〔史記、留侯世家〕孺子可レ教矣、後五日平明、與レ我會レ此。〔楚辭、劉向、九歎、逢紛〕平明發二兮蒼梧一。〔謝朓、觀二朝雨一詩〕平明振レ衣坐。〔王昌齡、芙蓉樓送二辛漸一詩〕寒雨連レ江夜入レ吳、平明送レ客楚山孤。❷公平で明か。平明之理を見よ。❸縣名。漢、置く。河北省の境。〔漢書、地理志下〕右北平郡、縣十六、平明。

〖平明之治〗628 ヘイメイノチ　公平で明かな政治。〔諸葛亮、前出師表〕宜下付二有司一、論二其刑賞一、以昭中陛下平明之治上。

〖平明之理〗629 ヘイメイノリ　公平で明かな道理。〔蜀志、諸葛亮傳〕宜下付二有司一、論二其刑賞一、以昭中陛下平明之理上。

【平滅】630 ヘイメツ　平げほろぼす。〔魏文帝、漢武帝論〕平二滅匈奴一、而廓二淸邊境一矣。

【平面】631 ヘイメン　❶平なおもて。❷數學用語。表面上に如何なる二點を取つても、これを結びつける直線が常に其の表面上にある面。〔幾何要法、審平面章〕平面者、諸方皆作二直線一。

〖平面鏡〗632 ヘイメンキヤウ　球面鏡に對して普通の平な鏡の稱。

〖平面形〗633 ヘイメンケイ　數學用語。同一平面上に在る直線、又は曲線で圍まれた圖形。〔新法曆書、比例規解〕更具二四法一如レ左、一、平面形之邊與二其積一。

〖平面子〗634 ヘイメンシ　机をいふ。〔曲洧舊聞、一〕盛文肅在二翰苑一日、昭陵嘗召入面諭、近日亢旱、禱而不レ應、朕當二痛自咎責一、詔求二民間疾苦一、卿只就レ此草レ詔、庶幾可二以商量一、不レ欲二進本往復一也、文肅奏曰、臣體肥不レ能二伏レ地作一レ字、乞賜二

一平面子一、上從レ之、逮三傳旨下二有司一、而平面子至、則詔已成矣、上覽レ之、嘉三其如レ所レ欲而敏速、更不レ易二一字一、或曰、文肅屬レ文思遲、乞二平面子一、蓋亦善用二其短一也。

〔平面圖〕635 ヘイメンヅ 物體の遠近諸點を總て一平面上に顯出させた繪圖。

〔平面美〕636 ヘイメンビ 繪畫など平面にあらはれた美。立體美（**8－25721**··158）の對。

〔平面幾何學〕637 ヘイメンキカガク 平面上の圖形について研究する幾何學。立體幾何學（**8－25721**··160）の對。

〔平面三角法〕638 ヘイメンサンカクハフ 平面上の三角形に適用し得る三角法。三角法（**1－12**··209）を見よ。

【平緬】639 ヘイメン 地名。古の百夷の地。元、麓川・平緬の二路を置く。明初、併せて麓川平緬宣慰司とす。今、雲南省騰衝縣。〔讀史方輿紀要、雲南、隴川宣撫司〕至元十三年、立二平緬路軍民總管府一、與二麓川等路一、普屬二金齒宣撫司一。

【平目】640 ヒラメ 海魚の一種。扁平で、右側は白く左側は灰黑色をなし、眼は左側につく。比目魚・鮃。

【平門】641 ヘイモン ❶普通に出入する門。〔三輔黃圖、一、都城十二門〕長安城南出第三門曰二西安門一、北對二未央宮一、一曰二便門一、卽平門也。❷戰國、吳の城門の名。江蘇省吳縣に在る。〔吳地記〕仲雍立、號二勾吳一、後至二壽夢一、始別築レ城、爲二宮室於平門西北三里一、平門北面有レ水、陸通二毘陵一、子胥平レ齊、大軍從二此門一出、故號二平門一。❸ヒラモン 屋根の平たい門。

〔平門鐵路〕642 ヘイモンテツロ 北京の西直門から門頭溝に至る鐵道。平綏線の支線。今、京門鐵路といふ。

【平紋】643 ヒラモン 漆地にゑがいた紋。

【平野】644 ヘイヤ 廣く平な野原。高山のない廣地。平原。〔梁簡文帝、湘宮寺智蒨法師墓誌銘〕鬱鬱翠微、遼遼平野。〔杜甫、旅夜書懷詩〕星隨二平野一闊、月湧二大江一流。〔溫庭筠、京兆公池上作詩〕稻香山色疊、平野接二荒陂一。

〔平野金華〕645 ヒラノキンクヮ 陸奧の人。名は玄沖。字は子和。號は金華。通稱は源右衞門。略稱は平金華。享保十七年七月二十三日歿す、年四十五。文莊と私謚す。荻生徂徠の説を奉ず。官は守山藩儒。著に晏子春秋校刊・金華稿刪・金華雜錄・古學範・文莊先生遺集・酈陽遺編・劉向新書校刊がある。〔近代著述目錄後篇〕・〔先哲叢談、正、七〕。

〔平野入二青徐一〕646 ヘイヤセイジヨニイル 平野が青州・徐州の地方まで續く。〔杜甫、登二兗州城樓一詩〕浮雲連二海岱一、平野入二青徐一。〔注〕洙曰、禹貢海岱惟青州、又海岱及淮惟徐州。

【平陽】647 ヘイヤウ ❶地名。㋑春秋、魯の邑。山東省新泰縣の西北。〔春秋、宣、八〕城二平陽一。㋺春秋、邾の地。後、魯の地となる。越子が后庸を魯に來聘させ、平陽に盟つたところ。山東省鄒縣の東南。〔左氏、哀、二十七〕越子使二后庸來聘一、盟二于平陽一。㋩春秋、衞の地。河南省滑縣の南。〔左氏、哀、十六〕衞侯飮二孔悝酒於平陽一、醉而送レ之。㋥戰國、趙の地。秦の將桓齮が趙の將扈輒を敗つたところ。河南省臨漳縣の西。〔史記、秦始皇紀〕桓齮攻レ趙、敗二趙將扈輒於平陽一。㋭戰國、秦の地。秦の寧公、此處に徙居す。今、陝西省岐山縣の西南。〔史記、秦紀〕寧公二年、徙二居平陽一、武公元年、居二平陽封宮一。❷府名。三國魏、置く。古の堯帝の都。清の時、吉州及び臨汾・洪洞・浮山・岳陽・曲沃・翼城・太平・襄陵・汾西・鄉寧の十縣を管轄す。故治は山西省臨汾縣。〔讀史方輿紀要、山西、平陽府〕禹貢冀州地、卽堯舜之都、所レ謂平陽也、春秋屬レ晉、戰國屬レ魏、秦爲二河東郡地一、兩漢因レ之、三國魏始置二平陽郡一、晉因レ之、永嘉三年、劉淵僭レ號、建二都於此一、其後石趙慕容燕及苻姚之徒、相繼有二其地一、後魏亦爲二平陽郡一、兼置二東雍州一、太和中罷、孝昌中、改置二唐州一、又改二晉州一、東魏北齊、皆爲二重鎭一、後周亦曰二晉州一、隋初改二平陽郡一、曰二平楊郡一、旋廢レ郡、而州如レ故、煬帝改レ州、爲二臨汾郡一、義寧初、復曰二平陽郡一、唐復曰二晉州一、天寶初、亦曰二平陽郡一、乾元初復レ故、五代梁置二定昌軍節度一、後唐曰二建雄軍一、宋仍爲二晉州一、政和六年、升爲二平陽府一、金因レ之、元曰二平陽路一、大德九年、改爲二晉寧路一、明初復曰二平陽府一、領二州六縣二十八一。〔清史稿、地理志〕山西、平陽府、領二州一、縣十一、臨汾・洪洞・浮山・岳陽・曲沃・翼城・太平・襄陵・汾西・鄉寧・吉州。❸縣名。㋑漢、置く。古の堯帝の都、春秋、晉の羊舌氏の邑。晉の時、漢主劉淵、嘗て此處に都す。隋、臨汾と改む。故城は山西省臨汾縣の南。〔左氏、昭、二十八〕趙朝爲二平陽大夫一、僚安爲二楊氏大夫一。〔史記、魏豹傳〕漢元年、項羽徙二魏王豹於河東一、都二平陽一。〔漢書、地理志上〕河東郡、縣二十四、平陽。㋺南朝宋、置く。故城は山東省鄒縣治。〔讀史方輿紀要、山東、兗州府、鄒縣〕南平陽城、縣西三十里、春秋時邾地、後爲二魯平陽邑一、云云、漢置二南平陽縣一、屬二山陽郡一、云云、劉宋改置二平陽縣一、屬二魯郡一。㋩三國魏、置く。故治は湖北省鄖西縣の西北。㋥晉、置く。河南省信陽縣の南。〔讀史方輿紀要、河南、汝寧府、信陽州〕平陽城在二縣東南一、晉仍爲レ縣。㋭東晉、置く。湖南省桂楊縣治。〔讀史方輿紀要、湖廣、衡州府、桂陽州〕平陽廢縣、今州治、漢郴縣地、晉以後因レ之、劉昫曰、晉分二郴縣一、置二平陽縣一。㋬南朝宋、置く。故治は湖北省均縣の北。㋣南朝梁、置く。故城は湖北省應山縣の東南。〔讀史方輿紀要、湖廣、德安府、隨州、應山縣〕吉陽城、縣東南九十里、蕭梁置二平陽縣一。㋠南齊、置く。今缺く。㋷後魏、置く。故治は陝西省郿縣の東北。〔讀史方輿紀要、陝西、鳳翔府〕郿縣、府東南百四十里、云云、後魏改置二平陽縣一、屬二武都郡一。㋦後魏、置く。今缺く。河南省の境。㋸後魏、置く。今缺く。安徽省の境。㋾後魏、置く。河南省汝南縣の地。㋻五代、梁の時、吳越、置く。浙江省瑞安縣の南。飛雲江の南、北港の北に位す。〔讀史方輿紀要、浙江、溫州府、平陽縣〕五代梁、乾化四年、吳越改二今名一。〔清史稿、地理志〕浙江、溫州府、縣五、平陽。

〔平陽窰〕648 ヘイヤウエウ 宋代、磁器の一種。宋初、山西省平陽府で燒いたもの。

〔平陽侯〕649 ヘイヤウコウ ❶漢の曹壽（武帝の姊、陽信長公主の夫）の封號。〔漢書、衞青傳〕平陽侯曹壽、尙二武帝姊陽信長公主一。〔漢書、東方朔傳〕武帝微行、以二夜漏下十刻一乃出、常稱二平陽侯一。〔注〕師古曰、平陽侯曹壽、尙二帝姊一、時見二尊寵一、故稱レ之。〔漢書、外戚下、孝武衞皇后傳〕孝武衞皇后、字子夫、云云、出二平陽侯邑一、子夫爲二平陽主謳者一。〔王昌齡、春宮曲〕平陽歌舞新承レ寵、簾外春寒賜二錦袍一。❷漢、曹參（**5－14297**··93）の封號。

〔平陽公主〕650 ヘイヤウコウシユ ❶漢、景帝の王皇后の長女。武帝の姊。もと、陽信長公主といつたが、平陽侯壽に嫁して、平陽公主といふ。後、衞青に再嫁す。〔漢書、外戚上、孝景王皇后傳〕孝景王皇后、云云、長女爲二平陽公主一。❷唐、高祖の女。柴紹に降嫁す。紹、高祖に從つて兵を起すや、公主、鄠に奔り、家財を散じて亡命の士を招き、又、馬三寶をして何藩仁を諭降せしめ、遠近咸附く。兵七萬、威關中に震ひ、秦王に會し、紹と幕府に對直し、京師を分定す。時人、娘子軍と號す。〔唐書、五十八〕。

〔平陽亭侯〕651 ヘイヤウテイコウ 三國蜀、王連（**7－20823**··1094）の封號。

【平藥】652 ヘイヤク おだやかな藥。〔周書、姚僧垣傳〕梁元帝嘗有二心腹疾一、乃召二諸醫一議二治療之方一、咸謂、至尊至貴、不レ可二輕脫一、宜レ用二平藥一、可二漸宣通一。

【平愉】653 ヘイユ 心が平かでたのしむ。〔荀子、正名〕心平愉、則色不レ及レ傭。

【平愈】654 ヘイユ 平常通りにいえる。病氣がいえる。本復。平癒。〔顏氏家訓、養生〕行レ之數日、卽平愈。〔魏書、崔浩傳〕浩曰、陛下春秋富盛、聖業方融、德以除レ災、幸就二平愈一。

【平瘉】655 ヘイユ 平愈に同じ。

【平與】656 ヘイヨ 公平に分ちあたへる。〔王建、贈二崔禮駙馬一詩〕金埒減添栽藥地、玉鞭平與賣書人。

【平餘】657 ヘイヨ ❶一年に二度みのること。〔漢書、食貨志上〕再登曰二平餘一。❷清代、各省に於ける各項の支出に際し、備用のために、本稅に附加して徵集した稅銀。千兩每に銀十二兩五錢を扣除するを例とした。平色の餘の意。平は銀の秤量、色は品位、各地に於ける銀の量質と標準貨との差餘。〔皇朝文獻通考、國用考、會計〕乾隆三年、諭令三各省涼餉停解平餘全數、存二貯本省司庫一、遇レ有二公事一、奏請動用。❸臺灣に於ける一種の附加稅。稅銀一兩に付、其の一割五分を加徵した。封平餘ともいふ。〔臺灣私法、六〕。

【平輿】658 ヘイヨ 縣名。❶漢、置く。春秋、沈國の地、戰國、楚の邑。故城は河南省汝南縣の東南。〔史

記、秦始皇紀〕二十三年、王翦取レ陳、以南至二平輿一。〔漢書、地理志上〕汝南郡、縣三十七、平輿。〔讀史方輿紀要、河南、汝寧府、汝陽縣〕平輿城、在二府東南汝水南岸一、春秋沈國地、云云、漢置レ縣、爲二汝南郡一。❷南朝梁、置く。故城は安徽省阜陽縣の南。俗に遠城といふ。❸南齊、置く。今缺く。湖北省舊漢陽府の境。

【平庸】659（ヘイヨウ） つねなみ。〔福惠全書、蒞任部、查交代〕後官初蒞才復平庸。

【平峪】660（ヘイヨク） 縣名。金、置く。漢の漁陽郡平谷縣の地。今、河北省平谷縣。平谷(226)を見よ。

【平羅】661（ヘイラ） 縣名。清初、置く。今、甘肅省寧夏縣の北。黃河の支流、唐徠渠の西岸。〔清史稿、地理志〕甘肅、寧夏府、縣四、平羅。

【平瀨】662（ひらせ） 川などの瀨の平たく淺く流れるところ。〔萬葉集、十九〕平瀨にはさでさし渡し。

【平浪】663（ヘイラウ） おだやかな波。〔蔡襄、八月九日詩〕曉虹跨レ江一千尺、平浪東西入二天碧一。

【平洛】664（ヘイラク） 洛陽をたひらげをさめる。〔唐書、孔穎達傳〕太宗平レ洛、授二文學館學士一。

【平樂】665（ヘイラク） ❶穩かで樂しい。〔史記、匈奴傳〕使下少者得中成二其長一、老者安二其處一、世世平樂上。❷道名。漢、置く。故城は甘肅省武都縣の東北の平洛鎭。〔漢書、地理志下〕武都郡、縣九、平樂道。❸府名。元、置く。漢の蒼梧郡の地、清の時、信都廳・永安州及び平樂・恭城・富川・賀・荔浦・修仁・昭平の七縣を領す。故治は廣西省平樂縣。〔讀史方輿紀要、廣西、平樂府、平樂縣〕三國吳始置二平樂縣一、屬二始安郡一、晉以後因レ之。〔清史稿、地理志〕廣西、平樂府、領二廳一、州一、縣七一、平樂・恭城・富川・賀・信都廳・荔浦・修仁・昭平・永安州。❹縣名。㋑漢、置く。侯國。故城は山東省單縣の東。〔漢書、地理志上〕山陽郡、縣二十三、平樂。㋺南朝宋、置く。故治は河南省汝南縣の東南。㋩三國吳、置く。今、廣西省淩雲縣の東。桂江の三百六十灘のある所で、水極めて疾く險阻をなす。明の時、猺人深く入つて之に據つたが、山に隨つて木を伐り、道路を開通して討ち、遂に馴服せしめた。❸を見よ。〔清史稿、地理志〕廣西、平樂府、縣七、平樂。

【平樂觀】666（ヘイラククワン） 觀の名。❶河南省洛陽縣の故洛陽城の西。後漢の明帝、長安に飛廉觀の飛廉及び銅馬を取り迎へ、平樂觀を置く。今、平樂保といふ。〔三輔黃圖、五、觀〕飛廉觀、在二上林一、武帝元封二年作、後漢明帝永平五年、至二長安一、悉取二飛廉幷銅馬一、置二之西門外一、爲二平樂觀一。❷漢の上林苑に在つたもの。今、陝西省長安縣の西。〔漢書、武帝紀〕元封六年、京師民觀二角觝於上林平樂觀一。〔漢書、揚雄傳上〕望二平樂一徑二竹林一。

【平亂】667（ヘイラン） 亂を平げる。兵亂を平定する。〔後漢書、楊終傳〕高祖平レ亂、約二法三章一。〔晉書、樂志上〕夷レ險平レ亂、威而不レ猛。〔梅堯臣、晩泊觀二鬬鷄一詩〕羣雄自苦レ戰、九錫邀平レ亂。

【平亂鞬】668（ヘイランケン） 亂を平定する弓袋。將帥の武器の稱。鞬は弓矢を盛る器。〔海錄碎事、武、將帥〕左屬二平レ亂之鞬一、右握二滅レ逆之矢一。

【平瀾】669（ヘイラン） おだやかな波。〔黃清老、題二高都事戴崧二牛圖一詩〕尚疑身跨二蒼龍一遊、平瀾遠峰結二寒色一。

【平吏】670（ヘイリ） 公平無私の官吏。〔管子、明法解〕平吏之治レ官也、行レ法而無レ私、則姦臣不レ得二其利一焉。

【平利】671（ヘイリ） 縣名。❶漢、置く。今、缺く。河北省の境。〔漢書、地理志下〕廣平國、縣十六、平利。❷唐、置く。陝西省安康縣の東南。〔讀史方輿紀要、陝西、漢中府、興安州、平利縣〕唐置二平利縣一、屬二金州一。〔清史稿、地理志〕陝西、興安府、縣六、平利。

【平理】672（ヘイリ・ベンリ） 公平に治める。明かにわかち治める。平治。〔後漢書、魯恭傳〕恭爲二平理曲直一、皆退而自責、輟レ耕相讓。〔南史、齊武帝紀論〕機事平理、職貢有レ恒。〔鮑照、飛白書勢銘〕絲縈髮垂、平理端密。

【平履】673（ヘイリ） 平ではきよいはきもの。〔柳貫、過二閘行一〕向非三廟算屈二羣策一、安得三舟航若二平履一。

【平流】674（ヘイリウ） ❶なみなみの身分。〔唐書、韋嗣立傳〕貴閥後生以二徼倖一升、寒族平流以二替業一去。❷おだやかなながれ。又、波立たず靜かに流れる。〔上官儀、奉二和秋日即目一應制詩〕落葉飄二蟬影一、平流寫二雁行一。〔白居易、府中夜賞詩〕白粉墻頭花半出、緋紗燭下水平流。

【平流緩進】675（ヘイリウクワンシン） おだやかな流に從ひ、船の緩やかに進むさま。〔白居易、汎二小䑳一詩〕船緩進、水平流、一莖竹篙剔二船尾一、兩幅青幕覆二船頭一。

【平陸】676（ヘイリク） ❶高低のない平な陸地。〔孫子、行軍〕平陸處レ易。〔盧諶、贈二崔溫一詩〕平陸引二長流一、岡巒挺二茂樹一。❷縣名。㋑漢、置く。今缺く。山西省の境。〔漢書、地理志下〕西河郡、縣三十六、平陸。㋺南朝宋、置く。戰國、齊の邑。故城は山東省汶上縣の北。〔孟子、公孫丑下〕孟子之二平陸一。〔注〕平陸、齊下邑也。〔史記、田敬仲完世家〕明年、魯敗二齊平陸一。〔讀史方輿紀要、山東、兗州府、東平州〕汶上縣、州東南六十里、戰國屬レ齊、爲二平陸邑一、云云、宋爲二平陸縣一。㋩唐、置く。山西省安邑縣の南。〔讀史方輿紀要、山西、平陽府、解州、平陸縣〕春秋時虞國地、云云、天寶初、因レ開二漕瀆一得二古刃一、篆文曰二平陸一、遂改二今名一。〔清史稿、地理志〕山西、解州直隸州、縣四、平陸。❸城の名。河南省尉氏縣の東北。

【平栗】677（ヘクリ） 姓氏。〔和爾雅〕。

【平良】678（ヘイリヤウ） ❶公平で善良。〔書、呂刑〕惟良折レ獄、〔傳〕非三口才可二以斷一レ獄、惟平良可二以斷一レ獄。❷陳平と張良。共に漢の高祖の功臣で、智策にすぐれた人。〔隋煬帝、白馬篇〕智策蔑二平良一。❸（テアラ） 琉球國(7－20978··1)の地名。

【平兩】679（ヘイリヤウ） 瑞木の名。平露(701)を見よ。

【平涼】680（ヘイリヤウ） ❶郡名。㋑東晉の苻秦、置く。今の甘肅省平涼縣の西北。〔讀史方輿紀要、陝西、平涼府、平涼縣〕平涼故城、在二府西南四十里一、苻秦時所レ置、兼二置平涼郡治一焉。㋺隋、置く。治は平高。甘肅省固原縣治。〔讀史方輿紀要、陝西、平涼府、鎭原縣〕隋大業初、改置二平涼郡一。❷府名、金、置く。清、甘肅省に屬し、靜寧州及び平涼・華亭・隆德の三縣を領す。治は平涼縣。〔清史稿、地理志〕甘肅、平涼府、領二州一、縣三一、平涼・華亭・靜寧州・隆德。❸縣名。北周、置く。甘肅省涇川縣の西北。涇水の南岸。〔讀史方輿紀要、陝西、平涼府、平涼縣〕後周析二置平涼縣一、唐省。〔清史稿、地理志〕甘肅、平涼府、縣三、平涼。

【平量】681（ヘイリヤウ） 米を量つて斛面を凹凸なく平にすること。〔韓非子、外儲說左下〕槩者平レ量者也、吏者平レ法者也。〔六部成語、戶部、平量、注解〕平二於斛面一、曰二平量一。

【平虜】682（ヘイリヨ） 南朝梁の將軍の號。平狄(488)を見よ。

【平慮】683（ヘイリヨ） ❶おもひを平かにする。心を平かにする。〔司馬光、應レ詔論二體要一疏〕陛下清レ心平レ慮、擇二其是者一而行レ之、非者不レ能二復奪一也。❷瑞木の名。平露(701)を見よ。〔玉海、一百九十七、祥瑞〕平露、木名、一名二平慮一、揚雄傳甘泉賦注、如淳曰、幷閭、其葉隨二時政一、政平則平、政不レ平則傾、師古曰、如氏所レ說、自是平慮耳。

【平陵】684（ヘイリヨウ） ❶地名。春秋、晉の邑。山西省文水縣の東。〔左氏、昭、二十八〕司馬烏爲二平陵大夫一。❷縣名。㋑漢、置く。春秋、齊の邑。故城は山東省歷城縣の東。〔說苑、貴德〕桓公之二平陵一、見三家人有二年老而自養者一。〔漢書、鼂錯傳〕平陵相遠。〔讀史方輿紀要、山東、濟南府、歷城縣〕東平陵城、春秋時譚國地也、云云、漢置二東平陵縣一、以三右扶風有二平陵一、故此加レ東也。㋺漢、置く。故城は陝西省咸陽縣の西北。〔漢書、地理志上〕右扶風、縣二十一、平陵。㋩東晉、置く。故地は浙江省漂陽縣の西北。〔讀史方輿紀要、江南、江寧府、漂陽縣〕平陵城、晉大興中、分二永世漂陽一、置二平陵縣一。㊁隋、置く。故治は湖北省均縣の北。〔讀史方輿紀要、湖廣、襄陽府、均州〕平陵廢縣、在二州東北一、隋義甯二年、析二武當縣一置、屬二武當郡一。❸陵の名。漢の昭帝の陵。陝西省咸陽縣の西北。〔漢書、昭帝紀〕元平元年六月壬申、葬二平陵一。〔注〕臣瓚曰、平陵、在二長安西北七十里一。〔咸陽縣志〕平陵、在二縣東北一十三里一。❹複姓。〔萬姓統譜〕平陵、史記、平陵老之後。

【平陵東】685（ヘイリヨウトウ） 樂府、相和歌、相和曲中の一樂曲。漢の翟義の門人の作。王莽の簒立するや、東都の太守翟義は、兵を擧げて之を誅せんとし、却つて敗れ殺されたが、此の曲は之を怨んで門人の作つたものといふ。魏の曹植にも歌辭がある。〔古今注、音樂〕平陵東、翟義門人所レ作也、王莽殺レ義、義門人作レ歌以怨レ之。〔樂府詩集、相和歌辭、相和曲下、平陵東〕樂府解題曰、義

丞相、方進之少子、字文仲、爲二東都郡太守一、以二王莽方レ簒レ漢、擧レ兵誅レ之、不レ克見レ害、門人作レ歌以怨レ之也。〔古辭、平陵東〕平陵東、松柏桐、不レ知何人劫二義公一、劫義公、在二高堂下一、交二錢百萬兩走馬一、兩走馬、亦誠難、顧二見追吏一心中惻、心中惻、血出漉、歸告二我家一賣二黃犢一。〔曹植、平陵東〕閶闔開、天衢通、被二我羽衣一乘二飛龍一、乘二飛龍一與レ仙期、東上二蓬萊一採二靈芝一、靈芝採レ之可二服食一、年若二王父一無二終極一。

〔平陵外史〕686（ヘイリョウグワイシ） 清、朱文震(6－14424··981)の號。

【平綠】687（ヘイリョク） 一面のみどり。〔溫庭筠、鷄鳴埭曲〕芊綿平綠臺二城基一、暖色春容荒二古陂一。

【平林】688（ヘイリン） ❶平地に在る林。〔詩、小雅、車舝〕依彼平林、有レ集維鷮。〔傳〕平林、林木之在二平地一者也。〔詩、大雅、生民〕誕寘二之平林一、會レ伐二平林一。〔後漢書、仲長統傳〕躕二躇畦苑一、遊二戲平林一。❷縣名。㋑晉、置く。故城は湖北省隨縣の東北。〔後漢書、劉玄傳〕地皇三年、平林人陳牧・廖湛等、復聚二衆千餘人一、號二平林兵一。〔讀史方輿紀要、湖廣、德安府、隨州〕平林城、州東北八十里、漢隨縣地、王莽地皇三年、關東人陳牧・廖湛、起レ兵號二平林兵一云云、晉置二平林縣一。㋺唐、置く。今、缺く。安南省の境。

〔平林東嶽〕689（ヒラバヤシトウガク） 江戸の人。名は淳篤。又、淳德に作る。字は子孝・平甫。通稱は平助。號は東嶽・越水。文化三年十月七日歿す、年六十四。講說を業とす。著に越水詩草・越水印譜・東嶽北遊草がある。〔近代著述目錄後篇〕

【平輪】690（ヘイリン） 平な輪。平面に在る輪。〔文同、水磑詩〕朝廷遣レ使興二水利一、嗟爾平輪與二側輪一。

【平臨】691（ヘイリン） 平かでひろい所に臨む。〔宋之問、宋公宅送二甯諫議一詩〕閒出人三秀、平臨楚四郊。〔蘇頲、奉三和春日幸二望春宮一應制詩〕宮中下見南山盡、城上平臨北斗懸。

【平例】692（ヘイレイ） 公平なおきて。〔漢書、杜欽傳〕不下爲二陛下一廣持中平例上。

【平厲】693（ヘイレイ） 唐、楊炎(6－15112··27)の諡。

【平禮】694（ヘイレイ・ヒレ・ヘイライ・ヒレイ） 烏帽子の頂を折つて被ること。又、其の帽子。烏帽子を折つて著ればひらめくからいふ。一說に、ひれ伏すやうになるからといふ。〔飾抄、中、烏帽〕着二薄塗烏帽子一、臨レ期平禮、云云、晴時布衣、可レ用二平禮一。

【平歷】695（ヘイレキ） 曆を正しととのへる。〔左氏、桓、十七〕日御不レ失レ日以授二百官于朝一、〔注〕日官平レ歷、以班二諸侯一、諸侯奉レ之、不レ失二天時一、以授二百官一。

【平輦】696（ヘイレン） 宋の輦の名。逍遙輦に似て蓋のないもの。一に平頭輦・太平輦ともいふ。平頭(530)の❺を見よ。〔宋史、禮志五〕設二平輦于祥曦殿一。〔文獻通考、王禮考〕平頭輦、制如二逍遙輦一而無レ屋、金螭頭四、金裝朱漆扶版竿各二、云云、舊制、輦官十二人、服同二逍遙輦一、紹興二十六年、親耕服二履袍一乘レ之、隆興初、詔制二平輦及條衣褥一、郊祀禮畢用レ之。

【平路】697（ヘイロ） ❶瑞木の名。平露に同じ。〔白虎通、封禪〕王者使三賢不肖位不二相踰一、則平路生二于庭一、平路者、樹名也、官位得二其人一則生、失二其人一則死。❷平な路。〔楚辭、遠遊〕召二黔嬴一而見レ之兮、爲レ余先二乎平路一。〔張衡、南都賦〕總二萬乘一兮徘徊、按二平路一兮來歸。〔曹植、應レ詔詩〕僕夫警レ策、平路是由。

【平魯】698（ヘイロ） 縣名。清、置く。山西省右玉縣の西南、滄頭河の上流。〔清史稿、地理志〕山西、朔平府、縣三、平魯。

【平盧】699（ヘイロ） 平盧軍を見よ。

〔平盧軍〕700（ヘイログン） 行政區域の名。❶唐の元和中、平盧節度使を置く。又、淄青節度使といふ。治は青州、今、山東省益都縣治。青・淄・萊・齊・登の五州を領す。今、山東省膠東道の北部、齊南以東の地にあたる。宋、鎭海軍節度に改む。〔讀史方輿紀要、山東、青州府〕天寶初、亦曰二北海郡一、乾元初、復レ故、尋曰二平盧節度一。❷唐の天寶の初、范陽節度使を分つて平盧節度使を置く。治は營州、今、滿洲熱河省朝陽縣治。河北省の東部、熱河省の南部の地を領す。〔讀史方輿紀要、直隸、萬全都指揮使司、附見、大寧衞、營州故城〕天寶初、改爲二柳城郡一、尋置二平盧節度使於此一。

【平露】701（ヘイロ） 瑞木の名。其の狀、蓋に似る。王者の政が公平なれば生じ、若し平を失ふ所あれば其の方に背いて傾くといふ。平路。平兩。平慮。〔宋書、符瑞志下〕平露如レ蓋、以察二四方之政一。〔唐無名氏、平露賦〕植二平露之殊祥一、表二吾君之睿聖一。〔太平御覽、休徵部、草、平露〕孫氏瑞應圖曰、平露者如レ蓋、生二於庭一、以知二四方之政一、王者不二私レ人以レ官則生、若東方政不レ平則西低、北方政不レ平則南低、西方政不レ平則東低、南方政不レ平則北低、四方政不レ出、其根若レ絲、一曰二平兩一。

【平樓】702（ヘイロウ） 平な樓。〔羅隱、寄二三衢孫員外一詩〕風高綠野苗千頃、露冷平樓酒滿レ卮。

【平隴】703（ヘイロウ） ❶城の名。山西省稷山縣の西。〔北齊書、斛律光傳〕(武平)二年、率レ衆築二平隴・衞壁・統戎等鎭戍十有三所一、云云、柱國韋孝寬等、步騎萬餘、來逼二平隴一、與レ光戰二於汾水之北一、光大破レ之。❷隴を平げる。得レ隴望レ蜀(11－41904··38)を見よ。

【平麓】704（ヘイロク） 平な山麓。〔高啓、題二朱元暉雲山圖一詩〕蒼蒼遠渡連二平麓一、烟火參差幾家屋。

【平論】705（ヘイロン・ベンロン） 公平な論。又、是非得失をわかち評論する。評論。〔呂覽、貴直〕出二若言一非二平論一也。〔後漢書、霍諝傳〕且以二人情一平二論其理一。〔隋書、徐孝肅傳〕每レ有二爭訟一、皆至二孝肅所一平二論之一。

【平和】706（ヘイワ） ❶平かでおだやか。無事安穩。〔左氏、昭、元〕慆二堙心耳一、乃忘二平和一。〔史記、樂書〕感二滌蕩之氣一、而滅二平和之德一。〔新書、道德說〕道者無レ形、平和而神。〔春秋繁露、循天之道〕故仁人之所二以多レ壽者、外無レ貪而內清淨、心平和而不レ失二中正一、取二天地之美一、以養二其身一。❷平かに和らげる。〔管子、形勢解〕平二和其法一、審二其廢置一。❸縣名。明、置く。今、福建省龍溪縣の西。〔讀史方輿紀要、漳州府、平和縣〕正德十四年、南贛撫臣王守仁、討二平象湖賊一、云云、于レ是析二置今縣一。〔清史稿、地理志〕福建、漳州府、縣七、平和。

〔平和克復〕707（ヘイワコクフク） 戰爭が止んで、再び平和の世となること。

〔平和談判〕708（ヘイワダンパン） 平和條約締結の談判。

〔平和條約〕709（ヘイワデウヤク） 交戰國間に於て、其の戰を止めて平和に復する爲に締結する條約。

【平話】710（ヘイワ） 口語を用ひて、主として歷史物語を講說した講談の如きもの。宋の講史から發展して、元、明において盛に行はれた。明末清初の柳敬亭(6－14662··245)は、平話の名人として著名。もと評話と言つてゐたが、元の頃、筆畫を省いて平話と簡稱するやうになつたといふ。明の嘉靖年間の開州晁氏の寶文堂書目には、八十餘種の平話を著錄してゐるが、現在は武王伐紂平話・西漢平話・五代史平話などの數種を見るのみ。〔桃花扇、修札〕約二定今日午後一、來聽二平話一。〔宋元明講唱文學〕評話是以二歷史故事一爲二題材一的、云云、所以元代稱爲二評話一的、和二宋代說話的講史一家一、是完全一致的、評話的評、是評論、批評的評、用二詩文一來、批二評史事一、而元人寫作二平話一、是省二筆劃一的簡寫。

【平淮】711（ヘイワイ） ❶淮水をいふ。其の流域が平で廣いからいふ。〔隋煬帝、早渡レ淮詩〕平淮既淼淼、曉霧復霏霏。〔蘇軾、出二潁口一初見二淮山一是日至二壽州一詩〕平淮忽迷天遠近、青山久與レ船低昂。❷淮を平げる。平淮西碑を見よ。

〔平淮西碑〕712（ヘイワイセイノヒ・ワイセイヲタヒラグルノヒ） 唐の元和十二年、淮蔡地方を平げた時、韓愈は詔により平二淮西一碑を撰したが、其の碑文は多く裴度の事を敍したものであつた。然るに、蔡に入り、吳元濟を擒にしたのは、實は、李愬の功第一であつた。愬の妻は唐安公主の女で、禁中に出入して居た所から、碑辭の實に違ふを訴へたので、憲宗は詔して愈の文を磨し、翰林學士段文昌に命じて重ねて撰文し、石に勒せしめた。淮西は淮水の西。今、河南省開封道西部、汝陽道東部の地。至德の初、此に淮西節度使を置いた。〔舊唐書、韓愈傳〕元和十二年八月、宰臣裴度、爲二淮西宣慰處置使一、兼二彰義軍節度使一、請レ愈爲二行軍司馬一、仍賜二金紫一、淮蔡平、十二月隨レ度還レ朝、以レ功授二刑部侍郎一、仍詔レ愈、撰下平二淮西一碑上、其辭多敍二裴度事一、時先入二蔡州一、擒二吳元濟一、李愬功第一、愬不レ平レ之、愬妻出二入禁中一、因訴二碑辭不レ實、詔令レ磨二愈文一、憲宗命二翰林學士段文昌一、重撰レ文勒レ石。〔韓愈、平二淮西一碑〕天以下唐克肖二其德一、聖子神孫、繼二繼承三承於千萬年一、敬戒不下

怠、全二付所レ覆四海九州一、罔レ有二內外一、悉主悉臣、高祖太宗、既除既治、高宗中睿、休養生息、至二于玄宗一、受レ報收レ功、極熾而豐、物衆地大、孼二牙其閒一、肅宗代宗、德祖順考、以勤以容、大憝適去、稂莠不レ薅、相臣將臣、文恬武嬉、習二熟見聞一、以爲二當然一、睿聖文武皇帝、既受二羣臣朝一、乃考レ圖數レ貢。〔王安石、董伯懿示下裴晉公平二淮右一題二名碑一詩上用二其韻一和酬詩〕宣王側身內脩レ政、常武德立能平レ淮。

【平王】713（ヘイワウ） ❶天下を正しく平かに治めた王。〔詩、召南、何彼襛矣〕平王之孫、齊侯之子。〔傳〕平、正也。〔箋〕正王者、能正二天下一之王。❷周、十三代の王。姬宜臼（**3**−**6230**··99）を見よ。❸春秋、楚の王。亂倫不明で、太子健の婦を奪ひ、又、忠臣伍奢及び子尚を殺し、奸臣無忌を重用す。賢臣伍子胥はために呉に奔つた。〔史記、楚世家〕。

〘平王之東遷〙714（ヘイワウノトウセン） 周の幽王が犬戎に滅ぼされ、之を嗣いで立つた平王が、鎬京から東、雒邑に遷つたこと。時に西紀前、七七〇年に當り、此以前を西周といひ、以後を東周といふ。此から後、周室の權威地に墜ち、弱肉強食、春秋の世となつた。雒邑は河南省洛陽縣。周（**2**−**3441**）を見よ。〔左氏、僖、二十二〕初平王之東遷也、云云。〔注〕周幽王爲二犬戎所レ滅、平王嗣立、故東遷二雒邑一。

【平椀】715（ヒラワン） 底のあさいわん。略して平（ヒラ）、又お平ともいふ。

【平灣】716（ヘイワン） 平な入江。〔李賀、神弦詩〕終南日色低二平灣一、神兮長在二有無閒一。

【平爲レ福】717（ヘイヲフクトナス） 平穩無事なことを幸福とする。〔莊子、盜跖〕平爲レ福、有レ餘爲レ害。

【平右馬】718（ヘイイウマ） 姓氏。〔姓名錄抄〕。

【平妖傳】719（ヘイエウデン） 小說の名。二十回。もと元、羅本の作と傳へ、明末、馮夢龍が補作して四十回とした。舊名は、北宋三遂平妖傳。宋の仁宗の慶曆七年、王則といふ者が、妖術を以て亂を起し、東平郡王と稱し、得聖と改元したが、文彥博・明鎬等之を討ち、六十六日にして平定したといふ史實に本づいて作つたもの。筆致は頗る水滸傳に似て居り、我が國の瀧澤馬琴に三遂平妖傳國字評、本維芳に通俗平妖傳等の譯本がある。

【平假名】720（ヒラガナ） ❶假名の一種。漢字の全體又は其の略字の、草體から出た音節文字。又、平假字・女手・女文字・女假字といふ。一般には草假名と同じに考へられてゐるが、嚴密には區別される。奈良朝の後半、萬葉假名を筆寫の便利のために次第に粗略な草書で書き、其の形が愈〻簡略になつて、遂に專ら日本語の音を示す特殊文字として用ひたのに始まる。其の作者を弘法大師とする說が世に行はれてゐるが、空海作と傳へるいろは歌が平假名で書かれることから、誤り傳へたもので、實は一人の作でなく、草體の萬葉假名を用ひてゐる中に自然に生じたものである。❷平假名盛衰記の略。

〘平假名盛衰記〙721（ヒラガナセイスイキ） 脚本の名。並木宗輔・竹田出雲・三好松洛・淺田可啓・竹田小出雲の合作。源平盛衰記の古版本が片假名の多いのに對して名づけたものといひ、源義仲の生立ちを主題とした淨瑠璃。

【平葛山】722（ヘイカツザン） 星野葛山（**5**−**13837**··362）を見よ。

【平玉衡】723（ヘイギョクカウ） 晉の鼓吹曲の名。傅玄撰。〔晉書、樂志下〕改二巫山高一、爲二平玉衡一、言下景帝一二萬國之殊風一、齊二四海之乖心一、禮レ賢養レ士、而纂中洪業上也。

【平金華】724（ヘイキンクワ） 平野金華（645）を見よ。

【平金緞】725 pʻing^2 chin^1 tuan^4 金線を置き模樣とした繻子。

【平銀江】726（ヘイギンカウ） 川の名。篆嶺水をいふ。廣東省欽縣の東北、開岌嶺に發源し、下流を大觀港といひ、海に注ぐ。

【平銀緞】727 pʻing^2 yin^2 tuan^4 平金緞の金線の代りに銀線を置いた繻子。

【平關中】728（ヘイクワンチユウ） 魏の鼓吹曲の名。繆襲撰。〔晉書、樂志下〕改二漢將進酒一、爲二平關中一、言下曹公征二馬超一、定中關中上也。

【平虎隘】729（ヘイコアイ） 地名。廣東省和文縣の東北。もと烏虎鎭といふ。

【平胡帶】730（ヘコオビ） 男子のしごき帶。もと薩摩の兵兒が用ひたからいふ。兵兒帶（**2**−**1462**··93）に同じ。

【平胡簶】731（ヒラヤナグヒ） 胡簶の一種。末廣の形をなし、十七筋、或は二十一筋の矢を扇子形に插すやなぐひ。昔、近衞の武官などが儀仗として帶びたもの。〔江家次第、九、小安殿行幸次第〕左右大將立二南階左右一、〔注〕平胡簶、淺履。

【平茶洞】732（ヘイサドウ） 土司の名。四川省秀山縣の西南。明、平茶洞長官司を置く。〔讀史方輿紀要、四川、酉陽宣撫司、平茶洞長官司〕漢晉以來、爲二蠻彝地一、唐屬二思州一、宋政和中、爲二羈縻平茶洞一、仍隸二思州一、元改二溶江芝子平茶等處長官司一、隸二思州安撫司一、明初爲二平茶洞長官司一。

【平三角】733（ヘイサンカク） 平面三角法の略語。三角法（**1**−**12**··209）を見よ。

【平三聯】734（ヒヤウサンレン） 近體詩句の下三字に平字が連なるのをいひ、作詩上最も忌むべきものとする。但し、唐人詩句中にも、止むを得ず之を犯したものがある。又、平三連に作る。

【平思忠】735（ヘイシチユウ） 明、呉江の人。字は爾中。官は陝西左參政。後、戎邊に謫せられ、吐蕃・赤斤・蒙古・于闐諸國を偏歷す。〔明史、一百六十一〕・〔國朝獻徵錄、九十四〕。

【平射圖】736 pʻing^2 shê^4 tʻu^2 平面圖（635）に同じ。

〘平射圖法〙737 pʻing^2 shê^4 tʻu^2 fa^3 平射投影法（770）に同じ。

【平射砲】738（ヘイシヤハウ） 初速が大きく仰角の小さい（二十五度以下位）砲をいふ。彈道が低く伸びるから名づける。平射礮。

【平射礮】739（ヘイシヤハウ） 平射砲に同じ。

【平將軍】740（ヘイシヤウグン） 平貞盛をいふ。貞盛が嘗て鎭守府將軍となつたからいふ。〔日本外史、源氏前記、平氏〕貞盛以レ功敍二從五位上一、累遷二從四位下一、任二鎭守府將軍一、兼二陸奧守一、世呼曰二平將軍一。〔日本外史、源氏前記、平氏〕重盛排レ門而入、至二大庭椋樹下一、與二源義平一、大戰二紫宸殿前一、七二匝櫻橘樹一、出至二大宮巷一、杖レ弓以息、平家貞目レ之曰、可レ謂二平將軍再生一矣。

【平上幘】741（ヘイジヤウサク） 上部の平な頭巾。晉代、武官の服したもの。〔晉書、輿服志〕冠二惠文一者、宜レ短耳、今平上幘也、始時各隨レ所レ宜、遂因レ冠爲レ別、介幘服二文吏一、平上幘服二武官一也。

【平親王】742（ヘイシンワウ） 平將門をいふ。將門が、下總の相馬に據つて擬宮を起し、自ら親王と稱したからいふ。〔國史略、朱雀天皇〕平將門反、云云、遂陷二下野上野一、拘二武藏相模一、劫二國守一、奪二印鑰一、兇勢方盛、自稱二親王一、建二都於下總國一、備二僞百官一。

【平沼田】743（ヒランタ） 大和國の地名。

【平宋錄】744（ヘイソウロク） 書名。三卷。元、劉敏中撰。至元十三年、巴顏が臨安を下す事から、宋の幼主北遷の事までを記し、其の記事は、元史に載らぬものが多い。〔四庫提要、史、雜史類〕。

【平太陽】745（ヘイタイヤウ） 平均太陽（140）に同じ。

〘平太陽日〙746（ヘイタイヤウジツ） 平均太陽日（143）に同じ。

【平竹溪】747（ヘイチクケイ） 三浦竹溪（**1**−**12**··1990）を見よ。

【平帖齋】748（ヘイテフサイ） 清、呉榮光（**2**−**3365**··440）の號。

【平東海】749（ヘイトウカイ） 篠崎東海（**8**−**26328**··26）を見よ。

【平碼館】750 pʻing^2 ma^2 kuan^3 問屋。香港・澳門等、廣東省西江流域地方の方言。

【平福君】751（ヘイフククン） 平福公に同じ。〔事物異名錄、水族、龜〕清異錄、唐故宮池中有二一龜一、出曝レ背、人見レ有二刻字一、髣髴如レ曰二平福君一。

【平福公】752（ヘイフクコウ） 唐の故宮の池中に棲んでゐた龜の背にあつた刻字。平福君に同じ。〔清異錄、魚〕平福公、唐故宮池中、有二一六目龜一、或出曝レ背、人見三其甲上有二刻字一、微金髣髴、曰二平福公君靈一、古老傳、是武宗王美人所レ養、福猶レ腹也、借レ音而已。

【平盂鐵鑛】753（ヘイウテツクワウ） 鐵山の名。山西省の境。平定・盂・昔陽・和順等の地。平定から東北に最も多く產し、蔭營・河底・山底・中佐村・東溝村等が有名である。平定の一年の鑛石產額は約五萬七千噸、盂縣は一萬三千五百噸に上る。

【平賀鳩溪】754（ヒラガキウケイ） 讃岐の人。名は國倫。字は士彝。通稱は源內。號は鳩溪・天竺老人・松籟

子・風來山人・森羅萬象翁・無根叟。安永八年歿す、年五十七。著に物類品隲・淨貞五百介圖・火浣布考・火浣布略說・神農本草經圖・神農本草倭名考・本草比肩・食物本草・四季名物正名・日本物產譜がある。〔先哲叢談、續、十〕。

【平賀蕉齋】755（ヒラガセウサイ） 安藝の人。名は周藏。字は子英。號は蕉齋・獨醒庵・白山園。文化元年七月二日歿す。專ら古學を唱道し、詩文に巧。著に獨醒庵集・白山集二編・白山集(男玄藏編)がある。〔國書解題〕。

【平賀中南】756（ヒラガチユウナン） 安藝の人。名は晉民。初名は叔明。字は房父・士亮。通稱は惣右衞門。號は中南。寬政四年十二月二十四日歿す、年七十二。私諡は好古先生。僧大潮を師とし、京都・浪速に講說し、學行共に高く、天明八年、吉田侯松平氏に召されて賓師となり、其の後、病を得て致仕し、大阪に歿した。著に學問捷徑・學庸發蒙・儀禮蘊・左傳折衷・周易洗心解・周官義疏刪・周官集成・周官名物鈔・詩經原志・詩經原志晰義・尙書梅本辨說・春秋集箋・世話新語補索解・蕉窓寓筆・蕉窓自記・大學發蒙・唐詩選夷考・壁經解・孟子發蘊・毛詩微旨・禮記纂義・禮記鄭注辨妄・論語集箋がある。〔近代著述目錄後篇〕・〔大阪名家著述目錄〕。

【平賀鳳臺】757（ヒラガホウダイ） 伊勢の人。名は義憲。字は文成。號は鳳臺。寬政頃の人。官は桑名藩儒。著に鳳臺小稿・鳳臺遺稿がある。〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕・〔國書解題〕。

【平漢鐵路】758（ヘイカンテツロ） 鐵道の名。北京の前門から漢口に至る。京漢鐵路。

【平貴回窰】759（ヘイキクワイエウ） 西皮劇の一、五家坡の別名。

【平金繡花】760 pʻing^2 chin^1 hsiu^4 hua^1 繡子の上に金線を置き、絲で止めた細工。

【平元謹齋】761（ヒラモトキンサイ） 出羽の人。名は重德。字は恆卿。通稱は貞治・正。號は謹齋・聽堂。明治九年四月二日歿す、年六十七。官は秋田藩儒・國學準監事・評定奉行・文學。黑澤四如を師とし、其の學は、博綜該覽、諸家を折衷し、性情の說は專ら仁齋を取つた。著に禹稿・禹貢輯說・易私說・易私錄・蝦夷地見分書取・閔子小錄・鹿島詩文稿・韓非子私錄・岐蘇の道の記・極弊蕘言・儀禮考・儀禮續考・儀禮儀法會要・儀禮私錄・儀禮備考・過眼雜鈔・過目則抄・啓土論略・鷄肋集・獻芹錄・獻芹別錄・見聞雜錄・薨卒書法考・菜根・左傳對問二條・喪位考・喪禮錄・桑土錄・周易卦圖・周官考・實名字訓・尙書考・尙書輯說・恤刑錄・荀子考・荀子私錄・春秋說・愼刑備考・人心道心說陋見(草稿)・隨得錄・戰國策地理輯錄・讀易私說・懲毖錄評・二十四史類覽百餘卷・碑面書法考・毛詩私說・問答錄・禮記私錄・老子考・論語考がある。〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕・〔鄕土文獻綜合目錄〕。

【平元梅隣】762（ヒラモトバイリン） 秋田の人。名は仲弼。通稱は小助。號は梅隣・愚益・福庵。寬保三年八月十七日歿す、年八十四。佃養軒・北條保安・伊藤仁齋・中院通茂・梅津其雫等に學ぶ。儒醫。詩・文・和歌に巧。遍く諸州を歷遊して常に濟世利民を事とし、初、京洛に留り、後、秋田に歸つて塾を開く。著に磯田物語・久也美草・梅の月(平元正信編)・退隱草序・中庸私說・つれづれ草私說・田家集・天人道一辨・讀詩秋說・田家問答・野宮問答・梅隣翁詩歌集・梅隣百詠・舟岡夜話・孟子私說・野客問答・米守・樂說並序・論語私說・和歌私說がある。〔秋田人物傳〕・〔秋田縣人著書目錄〕・〔鄕土文獻綜合目錄〕。

【平斛交收】763（ヘイコクカウシウ） 上納の租穀は升目を平に量つて請取ること。〔明律、戶律、倉庫、多收稅量斛面〕凡各倉收㆓受稅糧㆒、聽㆑令㆑納㆑戶、親自行㆑槩、平斛交收、作㆓數支銷㆒、依㆑令准㆑除㆓折耗㆒、若倉官斗級不㆑令㆑納㆑戶、行㆑槩踢斛淋尖、多收㆓斛面㆒者、杖六十、若以㆔附㆓餘糧數㆒、計㆑贓重者坐㆑贓、論㆑罪止㆓杖一百㆒、提調官吏、知而不㆑擧、與同㆑罪、不㆑知者不㆑坐。

【平上輧車】764（ヘイジヤウヘイシヤ） 上部の平なほろ車。〔後漢書、梁冀傳〕改㆓易輿服之制㆒、作㆓平上輧車㆒。〔注〕鄭玄注㆓周禮㆒云、輧、猶㆑屛也、所㆓用自蔽隱㆒也、蒼頡篇云、衣車也、形制、上平異㆓於常㆒也。

【平綏鐵路】765（ヘイスイテツロ） 北京から綏遠に至る鐵道。京綏鐵路。

【平井澹所】766（ヒラヰタンシヨ） 伊勢の人。名は業。字は可大・君敬。通稱は直藏。號は澹所。文政三年八月歿す。年五十九。關松窓・平澤旭山・昌平黌に學ぶ。官は桑名藩儒・長柄奉行。建言して學校を修め、進修・醫學・兵法の三館を立て、之を總督す。博學にして而も要を得、最も四書に精通した。著に韻鏡指揮(自ら焚く)・四書要解(自ら焚く)・澹所遺稿がある。

【平井聽雪】767（ヒラヰチヤウセツ） 近江の人。名は義綱。字は紀宗。通稱は齋次。號は聽雪・滄池・幽暢園。寬政頃の人。大阪に遊び、常に葛子琴・岡元鳳・賴春水を友とし、詩酒に流連した。著に滄池詩鈔がある。〔國書解題〕。

【平住專庵】768（ヒラズミセンアン） 大阪の人。名は周道。字は專安。號は專庵・橘館・靜齋。正德年間の人。大阪の儒醫。畫に巧。著に易學啓蒙索驥編・北門必讀・五行活套・周易本義拙解・袖珍醫方大成・袖珍本草雋・星學知要・小學句讀拙解・太平義臣傳(片島深淵子編・專庵畫)・唐土訓蒙圖會(橘守國畫)・分類故事要語・卜筮私考・卜筮擲丸要訣がある。〔近代名家著述目錄〕・〔近代著述目錄後篇〕・〔大阪名家著述目錄〕。

【平部嶠南】769（ヒラベケウナン） 日向の人。本姓は和田。名は俊良。字は溫卿。通稱は良介。號は嶠南。明治二十三年歿す、年七十六。安井息軒・古賀侗庵を師とす。官は日向飫肥藩儒。維新後、縣の大參事となる。著に日向私史・日向纂記・日向地誌がある。〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕。

【平射投影法】770（ヘイシヤトウエイハフ） 視點を地球表面上に置いて、地球を見ると假定し、地球を其の背後の紙面に投影する法。地球の半面を寫すに多く用ひる。

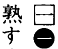
三畫

【年】9168

[一] デン ネン 〔集韻〕寧顚切 ㄋㄧㄢˊ [先] nien^2

[二] デン ネン 〔集韻〕禰因切 [眞]

[三] デイ ニヤウ 〔集韻〕乃定切 [徑]


小篆

[一] ❶**みのる。みのり。**五穀が成熟する。もと秊(**8－24933**)に作る。〔正字通〕年、本作㆑秊。〔說文〕秊、穀熟也、从㆑禾千聲、春秋傳曰、大有㆑年。〔穀梁、桓、三〕五穀皆熟爲㆑有㆑年。❷**穀物。**〔呂覽、任地〕有㆑年瘞㆑土。〔注〕年、穀也。❸**とし。**㋑元日から大晦日まで。年は熟の意で、穀物は年に一回熟するから、轉じていふ。又、朔數(月數)を本として年といふ。〔爾雅、釋天〕夏曰㆑歲、商曰㆑祀、周曰㆑年。〔注〕取㆓禾一熟㆒。〔義疏〕年者、說文云、穀熟也、書正義引㆓孫炎㆒曰、年取㆓穀一熟㆒也、然則周曰㆑年者、周以㆓稼穡㆒興、年穀爲㆑重、春秋書㆓大有㆑年、是也。〔釋名、釋天〕年、進也、進而前也。〔周禮、春官、太史〕正㆓歲年㆒以序㆑事。〔注〕中數曰㆑歲、朔數曰㆑年、中朔大小不㆑齊、正㆑之以㆑閏。〔禮、月令〕立春之日天子親帥㆓三公㆒云云以迎㆓春於東郊㆒還賞。〔疏〕中數者、謂㆓十二月中氣一周㆒、總㆓三百六十五日四分之一、謂㆓之歲㆒、朔數者、朔十二月之朔、一周、謂㆓三百六十四日㆒、謂㆑之爲㆑年。〔公羊、隱、元〕君之始年也。〔注〕年者、十二月之總號。〔穀梁、桓、元〕四時具而後爲㆑年。㋺よはひ。壽齡。〔呂覽、下賢〕坐必以㆑年。〔注〕年、齒也。❹**時。代。**〔漢書、司馬相如傳〕當年不㆑能㆑究㆓其禮㆒。❺**新年。**〔陳師道、早春詩〕度㆑臘不㆑成㆑雪、迎㆑年遽得㆑春。❻**相術家の語。**鼻梁の中程をいふ。壽の上、山根の下。流年運氣(**6－17431・3**

07)を見よ。❼**清の制度で、京察が人物を擧用する時の標準、四格の一。**若く壯健なもの。〔清會典、吏部〕凡京察、堂官察㆓其屬之職㆒、而註考焉、云云、乃定以㆓四格㆒、四曰、年。〔注〕有㆑青、有㆑壯、有㆑健。❽古は秊(**2－3095**)に作る。〔字彙補〕秊、古文年字。❾或は秊・秆に作る。〔集韻〕秊、唐武后作㆑秊、亦書作㆑秆。❿**姓**。〔萬姓統譜〕年、見㆓姓苑㆒、永樂中有㆓年富㆒、懷遠人、歷㆓官戸部尙書㆒。〔二〕**みのり**。**とし**。〔集韻〕年、穀一熟也。〔三〕❶**おもねる**。佞(**1－521**)に通ず。❷を見よ。〔說文通訓定聲〕年、假借爲㆑佞、大戴公冠、近㆓于民㆒、遠㆓于年㆒、說苑、正作㆑佞。❷**人名**。〔集韻〕年、闕、人名、周景王弟年夫。〔公羊、襄、三十〕天王殺㆓其弟年夫㆒。〔釋文〕年夫、音佞、又如㆑字、二傳作㆓佞夫㆒。

名乘　ネ。トシ。

【年位】1（ネンヰ）　年齡と位。〔蜀志、費禕傳〕羣寮於㆓數十里㆒逢迎、年位多在㆓禕右㆒。〔南史、陸澄傳〕僕少來無㆑事、唯以㆓讀書㆒爲㆑業、且年位已高。

【年運】2（ネンウン）　年がめぐる。歲月の移り行くこと。〔顏延之、秋胡詩〕超遙行人遠、宛轉年運徂。〔注〕善曰、莊子、老聃曰、予年運而往矣。〔謝朓、和㆓王著作八公山詩㆒詩〕道峻芳塵流、業遙年運倏。〔元稹、長慶曆詩〕曆日何足㆑悲、但悲㆓年運易㆒。

【年永】3（ネンエイ）　歲月が永く久しい。〔宋書、孝武帝紀〕道喪世屯、學落年永、獄訟微㆓衰息之術㆒、百姓忘㆓退素之方㆒。

【年幼】4（ネンエウ）　年が幼い。年齡の幼少なこと。幼年。〔戰國、楚策〕楚王曰、楚國僻陋、託㆓東海之上㆒、寡人年幼、不㆑習㆓國家之長計㆒。

【年窯】5（ネンエウ）　清の雍正年間、將軍年希堯の監督製作せしめた磁器。一名、雍正窯。

【年越】6（トシコシ）　舊年を送り新年を迎へること。大晦日、又は節分の夜にいふ。〔山家集、上〕難波にとしこしに侍りけるに。

〖年越草〗7（トシコエグサ）　麥の異名。としこしぐさ。〔篠目抄〕としこえぐさも色づきにけり。

【年翁】8　nien² wêng¹　科擧の試驗に同年に及第した者の父をいふ。同年(**2－3294**‥308)の❷を見よ。〔桃花扇、媚座〕都是那幾位年翁。

【年下】9（ネンカ）　❶穀類のみのりのわるいこと。〔禮、禮器〕禮之薄厚、與㆓年之上下㆒。〔注〕用㆓年之豐凶㆒也。❷nien² hsia⁴　歲暮。年末。❸（トシシタ）　年齡の他より少いこと。又、其の人。年少。年上(126)の❷の對。

【年家】10（ネンカ）　科擧の試驗に同年に及第した者が互に呼び合ふ稱。年誼(48)を見よ。〔冬夜箋記、一〕近且無㆑論㆓曾有㆓無科第㆒、槩稱㆓年家㆒、畧不㆑知㆑慚。

〖年家子〗11　nien² chia¹ tzŭ　科擧の試驗に同期に及第した年少者、又、同期及第者の子弟をいふ。

【年假】12　nien² chia⁴　年末年始の休暇。冬休。

【年稼】13（ネンカ）　穀物をいふ。〔上官儀、爲㆓朝臣㆒賀㆓涼州瑞石㆒表〕淹歲亢陽、離輝昇而元澤降、春疇罕闕、震方建而年稼登。

【年賀】14（ネンガ）　❶老人の壽を祝ふいはひ。〔日次紀事、臨時〕高貴年賀。❷年の始のよろこび。新年の祝賀。

〖年賀狀〗15（ネンガジヤウ）　年賀の書狀。

【年開】16（ネンカイ）　新年が初まる。正月になる。〔唐太宗、除夜詩〕冬盡今宵促、年開明日長。

【年艾】17（ネンガイ）　年の多いこと。又、年老いること。艾は五十歲。〔唐書、蕭嵩傳〕君後十年、貴冠㆓人臣㆒、然不㆑若㆓蕭郞位高年艾、擧門蕃熾㆒。

【年涯】18（ネンガイ）　年齡をいふ。〔海錄碎事、人事、年甲〕淨言方丈雖㆓然病㆒、曼倩年涯未㆑有㆑多、褚載詩。

【年考】19（ネンカウ）　年齡をいふ。〔韓愈、唐故朝散大夫商州刺史云云董府君墓誌〕太師之平㆓汴州㆒、年考益高、挈㆓持維綱㆒、鋤㆓削荒纇㆒、納㆓之大和㆒而已。

【年行】20（ネンカウ）　❶年齡をいふ。〔魏文帝、又與㆓吳質書㆒〕年行已長大、所㆑懷萬端。❷（ネンギヤウ）　年々の修業。山伏などの年々の苦行。〔謠曲、檀風〕。

〖年行事〗21（ネンギヤウジ）　一年毎に代つてつとめる行事。年番の行事。〔京都御役所向大概覺書、二、中座〕。

【年庚】22（ネンカウ）　生れ年の年月日及び其の干支をいふ。轉じて、年齡。〔路史〕年庚月甲、無㆓一可㆑合。

〖年庚八字〗23　nien² kêng¹ pa² tzŭ⁴　生れ年の廻り合せを記したもの。庚帖(**4－9278**‥24)・八字(**2－1450**‥225)の❷を見よ。

【年肴】24　nien² yao²　小雪後、鹽漬にした、迎年用の獸肉・鳥肉・魚類。江蘇儀徵地方の習慣。

【年高】25（トシタカシ）　年齡が多い。又、年寄る。年老(26)に同じ。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕夫人年高目冥、誤傷㆓后額㆒。〔魏志、高堂隆傳〕方今宿生巨儒、並各年高。

〖年高德邵〗26（トシタカクトクタカシ）　年が多く德が立派である。年彌高而德彌邵(304)を見よ。

【年糕】27（ネンカウ）　元旦に食ふ餅の名。糯米の粉をこねて、蒸してつくる。正月餠。〔帝京景物略〕正月元旦、夙興盥漱、啖㆓黍糕㆒、曰㆓年年糕㆒。〔湖廣志書、德安府〕元旦比戸、以㆓爆竹聲㆒角㆑勝、村中人必致㆑糕相餉、俗曰㆓年糕㆒。

【年號】28（ネンガウ）　年に名づける稱號。中國では、漢の孝武帝の時、建元と號したのに始まり、我が國では、孝德天皇の時、中國の制に倣つて大化と稱號したのを始とする。明治以前までは卽位・祥瑞・變災等があつた場合、又は辛酉・甲子に當つてゐる年にも改號したが、明治元年九月、一代一年號と定めた。元號ともいふ。〔事物紀原、朝廷注措部、年號〕始㆑自㆓漢武帝建元元年㆒、顏師古前漢書注曰、自㆑古帝王未㆑有㆓年號㆒、始起㆓於此㆒、而紀年通譜云、道書有㆓赤明・上皇・無極・永壽等號㆒、揚雄蜀王本紀云、望帝禪㆓位鼈靈㆒、靈稱㆓叢帝㆒、號㆓方通㆒。〔宋書、陶潛傳〕自以㆓曾祖晉世宰輔㆒、恥㆔復屈㆓身後代㆒、自㆓高祖王業漸隆㆒、不㆓復肯仕㆒、所㆑著文章、皆題㆓其年月㆒、義熙以前、則書㆓晉氏年號㆒、自㆓永初㆒以來、唯云㆓甲子㆒而已。〔王禹偁、頃得㆓毛詩音義㆒詩〕塵侵煙染尤堪㆑重、年號標題歷㆓武宗㆒。〔廿二史劄記、武帝年號係㆓元狩以後追建㆒〕古無㆓年號㆒、卽有㆓改元㆒、亦不㆑過㆘以㆓某年㆒改作㆗元年㆖、如㆛漢文帝十六年、因㆘新垣平候㆓日再中㆒、以爲㆗吉祥㆖、乃以㆓明年㆒爲㆓後元年㆒、景帝卽位之七年、改㆓明年㆒爲㆓中元年㆒、又以㆓中元五年㆒改㆓明年㆒爲㆚後元年㆙、是也、至㆓武帝㆒、始創爲㆓年號㆒、朝野上下、俱便㆓於記載㆒、實爲㆓萬世不易之良法㆒、然武帝非㆔初登極卽建㆓年號㆒也、據㆓史記封禪書㆒、武帝六年、竇太后崩、其明年、徵㆓文學之士㆒、明年、至㆓雍時㆒郊㆓見五時㆒、以後則但云㆓其後其後㆒、而不㆑著㆓某年㆒、下又云、後三年有司言、元宜㆘以㆓天瑞㆒命㆖、不㆑宜㆘以㆓一二㆒數㆖、一元、曰㆓建元㆒、二元、以㆓長星見㆒曰㆓元光㆒、三元、以㆔郊得㆓一角獸㆒曰㆓元狩㆒、是帝至㆓元狩㆒始建㆓年號㆒、從前之建元・元光等號、乃元狩後、重制㆓嘉號㆒、追㆓紀其歲年㆒也、不㆑然則武帝六年、卽應㆑云㆓建元六年㆒、其下所㆑云明年又明年、皆可㆑書㆓元光幾年、元朔幾年㆒、豈不㆓簡易明白㆒、而乃云㆓明年・後年㆒耶、又案、武帝自㆓建元㆒至㆓元封㆒、每㆓六年㆒一改㆑元、太初至㆓征和㆒、每㆓四年㆒一改㆑元、征和四年後、但改爲㆓後元年㆒、而無㆓復年號㆒、蓋帝亦將㆑終矣。

〖年號連書〗29（ネンガウレンシヨ）　二つの年號を竝べ稱するとき、各〻其の一字を略して書くこと。宋人に始まり、或は上一字を擧げて政宣(政和・宣和)・乾淳(乾道・淳熙)、或は下一字を擧げて祐聖(元祐・紹聖)・泰禧(嘉泰・開禧)、或は上下各一字を錯擧して熙豐(熙寧・元豐)といふ。明・清にもある。我が國では、嘉永・安政を嘉安といひ、萬延・慶應を萬慶といふ類。〔十駕齋養新錄〕宋人稱㆓本朝年號㆒、多割㆓取一字㆒、政宣・建紹・乾淳、是也、或擧㆓下一字㆒、祐聖・泰禧、是也、或錯㆓擧上下各一字㆒、熙豐、是也、明代亦有㆓洪永・化治・嘉隆・隆萬・天崇之稱㆒、皆起㆓于時文家㆒。〔陔餘叢考、年號併稱〕宋以前國家年號、從無㆘割㆓取一字㆒、而以㆓兩年號㆒併稱者㆖、自㆔宋始有㆓熙豐・乾淳之語㆒、至㆘見㆓之章奏㆒、筆㆗之著述㆖、然猶一帝改元之號、自爲㆓聯屬㆒也、至㆑明乃合㆓兩帝㆒併稱、如㆓永宣・成宏・嘉隆・隆萬・天崇之類㆒、幷有㆘取㆓下一字㆒併稱㆖、如㆓化治・慶歷・啓禎㆒者、雖㆑無㆓甚關係㆒、然亦草野橫議之一端也、本朝未㆑有㆓明禁㆒、而自無㆓此習㆒、一則列聖享㆑國久長、一則朝廷尊嚴、人情敬畏故也、按、唐德宗思㆓貞觀・開元之治㆒、乃建㆓號貞元㆒、宋孝宗兼取㆓建隆・紹興㆒、乃建㆓號隆興㆒、取㆓乾德・至道㆒、乃建㆓號乾道㆒、寧宗兼取㆓開寶・天禧㆒、乃建㆓號開禧㆒、然則朝廷之上、已開㆓其端㆒矣。

【年額】30（ネンガク） 一年間に於ける總計。〔宋史、食貨志上四〕今以㆓錢銀穀帛、貫石匹兩㆒、定㆓年額㆒。

【年甲】31 nien^2 chia^3 年齡。年庚(22)に同じ。

【年鑑】32（ネンカン） 或る事物に關する年々の狀勢をのせた記錄。〔宋史、藝文志五〕年鑑、一卷。

【年顏】33（ネンガン） 壯年の年頃の人の顏色をいふ。〔白居易、途中感㆑秋詩〕節物行搖落、年顏坐變衰。〔白居易、秋寒詩〕雪鬢年顏老、霜庭景氣秋。〔白居易、日漸長贈㆓周・殷二判官㆒詩〕何人知此春懷抱、年顏盛壯名未㆑成。〔王安國、池上春日詩〕年顏近㆑老空多㆑感、風雅含㆑情苦㆓不才㆒。

【年忌】34（ネンキ） ❶何かの災厄に逢ふ可能性が多いので特に言行を愼しむべしとせられてゐる年齡をいふ。我が國では陰陽家が之を言ふ。厄年(**2**‐**2893**‥20)に同じ。としいみ。〔靈樞經、陰陽二十五人篇〕凡七歲・十六歲・二十五歲・三十四歲・四十三歲・五十二歲・六十一歲、皆人之大忌、不㆑可㆑不㆓自安㆒也、當㆓此之時㆒、無㆑爲㆓姦事㆒、是爲㆓年忌㆒。❷人の死後三年・七年等に佛事を修行して、其の人を追善すること。年廻ともいふ。中國では累七齋、又は七七齋と稱へて、七日每に齋會を營み、吾が朝では、文武天皇の大寶三年二月癸卯に、其の日が太上天皇の七七日に當つてゐるので使を四大寺・四天王寺など三十三箇寺に遣はして齋を設けられた。百箇日と一週忌・三年忌は中國の儒禮に依つたものである。卽ち百箇日は儒の卒哭、一週忌は小祥、三年忌は大祥に當る。七年忌以後の年忌を定めるのは我が國のみの風であるが、其の初は明かでない。其の年忌にも分け方が二樣あり、一は一年・三年・七年・十三年・十七年・二十三年・二十七年・三十三年・四十年・五十年等で、之は先代舊事本紀に記す所であり、一は一年・三年・七年・十三年・十七年・二十五年・三十三年・五十年・百年等で、之は當時一般に用ひられ、本願寺なども之に依る。此の中、七年は七七日の數に取り、十三年は十二辰の一週に取り、十七年・二十三年・二十七年・三十三年は七年と十三年とに逐次各十年を加へて十七年、二十三年・二十七年・三十三年となる。二十五年忌は再び先支に歸る意であつて、十三年の意と同じい。〔元亨釋書、明遍傳〕蓋國俗逢㆓亡者十三四之歲㆒營㆓追薦㆒者、十二支終而始、迎㆓先支㆒而寓㆓追慕㆒也。〔谷響集、六〕七年已後不㆑知㆓誰定㆒、按㆓文粹及性靈集等嚫願文㆒、上古無㆓定法㆒、想、中古人效㆓道明藏川遺意㆒定㆑之矣。

【年季】35（ネンキ） ❶年期雇傭契約によつて定めた年限。一年を一季とする。〔倭訓栞〕。❷年季奉公の略。〔浮世風呂、三編、上〕あれは久しく年季におきましたが。

〖年季明〗36（ネンキアケ） 「へたこと。年明。

〖年季證文〗37（ネンキショウモン） 約束の年限內は勤むべき旨を記した證文。年季手形。〔傾城佛原、二〕年季手形を渡せ。

〖年季奉公〗38（ネンキボウコウ） 年季を定めてする奉公。〔大織冠、四〕年季奉公致した時より我れ我れと夫婦の契約。

【年紀】39（ネンキ） ❶年號。〔班固、兩都賦序〕神雀・五鳳・甘露・黃龍之瑞、以爲㆓年紀㆒。〔注〕濟曰、並因㆑瑞以爲㆓年號之紀㆒、紀、記也。❷年。年數。年代。〔史記、晉世家〕靖侯已來、年紀可㆑推。〔晉書、倭人傳〕不㆑知㆑正㆓歲四節㆒、但計㆓秋收之時㆒、以爲㆓年紀㆒。❸人の年齡。〔後漢書、光武紀下〕檢㆓覈墾田頃畝及戶口年紀㆒。〔後漢書、劉隆傳〕是時天下墾田、多不㆓以實㆒、又戶口年紀、互有㆓增減㆒。〔晉書、魯褒傳〕不㆑計㆓優劣㆒、不㆑論㆓年紀㆒。〔皮日休、垂元寺元達年逾㆓八十㆒好種㆓名藥㆒云云詩〕藥名卻笑桐君少、年紀翻嫌竹祖低。❹nien^2 chi^4 收穫。作柄。

【年耆】40（ネンキ） としより。老人。耆は六十の稱。〔莊子、寓言〕無㆓經緯本末㆒以期㆓年耆㆒。〔集釋〕釋名、六十曰㆑耆、耆、指也、指㆑事使㆑人也。〔曹植、求㆓自試㆒表〕伏見、先帝武臣宿將、年耆卽㆑世者有㆑聞矣。

【年寄】41（トシヨリ） ❶年寄ること。又、其の人。老年。老人。❷武家で、專ら政務に參與する重臣の稱。室町幕府では評定衆・引付衆の總稱。江戶幕府では老中をいひ、諸大名では家老をいふ。又、朝廷の議奏を稱したこともある。❸江戶幕府で、大奧の女中の重職。表老中と同格で政事に與り、奧向の下知を掌る。この上に大年寄があつて、表の大老と同格であるが、常置の職ではない。〔明良帶錄、世職篇〕。❹江戶市中では名主の上に居るもの。又、町村の組頭などの役名。〔地方凡例錄、七、上〕。❺明治二年十月十二日、大宮御所・中宮御所に置かれた女官の一。同四年七月二十四日、廢止した。❻相撲の相談役。年老いて土俵を退き、役人となつて、興行其の他一切の事を掌る。〔相撲隱雲解、上覽行事之式〕。

〖年寄衆〗42（トシヨリシユウ） ❶議奏(**10**‐**36027**‥42)の異名。〔新撰公家要覽〕御年寄衆、轉法論大納言實通卿。❷家老(**3**‐**7169**‥301)に同じ。〔信長公記、十二〕。❸老中(**9**‐**28842**‥301)に同じ。〔延寶三年江戶鑑〕御年寄衆、稻葉美濃守殿。

〖年寄役〗43（トシヨリヤク） ❶金座の役の名。材料地金の品位の鑑定と金座の總取締を行ひ、併せて本金と試金石の保管をなすもの。❷年長者として率先してせねばならぬ役目。年寄のつとめる役。老人の責務。年役（トシヤク）ともいふ。

【年幾】44（ネンキ） ❶年齡幾何の意。何歲。年齡。〔南史、王融傳〕宋辨見㆓融年少㆒、問㆓主客年幾㆒。❷年齡がほとんどの意。〔劉孝威、擬㆑古應㆑教詩〕美人年幾可㆓二十餘㆒、含㆑羞轉笑斂㆓風裾㆒。

【年期】45（ネンキ） ❶滿一年。〔琵琶記、中秋望月〕正是莫㆑辭終夕勸、動是隔㆓年期㆒。❷一年を單位として定めた期間。年季。

【年禧】46 nien^2 hsi^3 謹賀新禧のこと。年祉(116)に同じ。

【年義】47（ネンギ） 年齡と道德。又、年齡が多く德のある人。〔王僧達、答㆓顏延年㆒詩〕結㆑游略㆓年義㆒、篤顧棄㆓浮沈㆒。〔注〕善曰、莊子曰、忘㆑年忘㆑義、振㆓於無境㆒、良曰、略、謂㆓簡略取㆓年德道義之人㆒也。

【年誼】48（ネンギ） 科擧時代に、同年に及第した者で互に交誼ある者。又、その交誼をいふ。同年の及第者は年家(10)・同年(**2**‐**3294**‥308)の❷を見よ。〔冬夜箋記〕明人年誼稱㆓年家㆒。

【年久】49（ネンキウ） 年久しい。幼年から老年に至る久しい年。〔詩、小雅、庭燎、夜如何其夜未㆑央、疏〕毛意、艾取㆓名于耆艾㆒、艾者是年之久、從㆑幼至㆑艾、爲㆓年久㆒。〔北史、任城王雲傳〕又奏㆘利㆑國濟㆑人、所㆑宜㆓振擧㆒者十條㆖云云、六曰、逃亡代輸、去來年久者、若非㆓伎作㆒、任㆓聽卽往㆒。

【年朽】50（ネンキウ） 年とつて老いぼれる。〔晉書、張忠傳〕苻堅遣㆑使、徵㆑之至㆓長安㆒、辭曰、年朽髮落、不㆑堪㆓衣冠㆒、請以㆓野服㆒入覲。

【年級】51（ネンキフ） 學校に於て、修業年限に依つて學生を區分した組をいふ。入學時を一年級とし、以下二・三・四年級とする類をいふ。

【年給】52（ネンキフ） ❶一箇年の給料。年俸(245)に同じ。〔職原抄〕大臣以下參議已上、皆有㆓年給㆒。❷年官年爵(76)に同じ。〔太平記、廿四、朝儀年中行事〕。

【年驚】53（ネンキヤウ） 年每に驚く。〔白居易、詠懷、重詠詩〕日覺雙眸暗、年驚兩鬢蒼。

【年去】54（ネンキヨ） 年がすぎ去る。〔白居易、赴㆓蘇州㆒至㆓常州㆒答㆓賈舍人㆒詩〕未㆑酬㆓恩寵㆒年空去、欲㆑立㆓功名㆒命不㆑來。

【年擧】55（ネンキヨ） 古、紀傳・明經・明法・算の四道及び勸學院・奬學院・學館院から、每年又は隔年に、其の道の學生中より諸國の掾に任ずるものを奬擧すること。〔蟬冕翼抄、諸道年擧〕紀傳・明經・明法(隔年)・笇(隔年)・勸學院・奬學院(隔年)・學館院、已上七箇所、以㆓本道擧狀㆒擧㆓中學生㆒、任㆑掾也。

【年魚】56（ネンギヨ） ❶鮎の異名。香魚。鮎は春生じ、夏長じ、秋衰へ、冬死ぬから年魚といふといふ。一說に、年・鮎の音が近いので誤つたものといふ。〔和名類聚抄、龍魚部、龍魚類、鮎〕本草云、鮧魚、蘇敬注云、一名鮎魚、崔禹食經云、貌似㆑鱒而小、有㆓白皮㆒無㆑鱗、春生、夏長、秋衰、冬死、故名㆓年魚㆒也。〔箋注〕疑、年・鮎聲近而誤㆑之、按、古事記・日本紀・令式・大神宮式帳・萬葉集、皆用㆓年魚字㆒。❷生まれた年の內に死ぬ魚。

【年玉】57（トシダマ） 新年祝賀の贈物。〔續山の井、春〕年玉や春明けぬればくるる物。

〖年玉銀〗58（トシダマガネ） 年始に贈る金錢。今日では金錢・物品を通じてお年玉といふ。

【年金】59（ネンキン） ❶一定の年期間又は終身、每年定期に給與せられる一定額の金員。❷年數を限つて貯蓄する金。

【年金額】60（ネンキンガク） 一年の年金高。

【年金證書】61（ネンキンシヨウシヨ） 年金受領の權利あることを證明した證書。

【年金保險】62（ネンキンホケン） 年金の形式を以て保險金の給付を行ふ保險。

【年鈞】63（ネンキン） 年齡がひとしい。〔左氏、昭、二十六〕昔先王之命曰、王后無レ適、則擇立レ長、年鈞以レ德、德鈞以レト、王不レ立レ愛、公卿無レ私、古之制也。

【年貢】64（ネング） ❶每年のみつぎもの。租稅。〔太平記、一、關所亭止事〕。❷小作人が地主に納める米や錢。小作料。

【年貢米】65（ネングマイ） 年貢として納める米。小作米。

【年貨】66 nien^2 huo^4 正月用の品物。

【年華】67（ネンクワ） 年月。月日。光陰。又、春光。又、若い年頃をいふ。年光(73)に同じ。華は光。〔庾信、竹杖賦〕年華未レ暮、容貌先秋。〔駱賓王、春日離二長安一客中言レ懷詩〕年華開二早律一、霽色蕩二芳晨一。〔李壽祐、送下王牧往二吉州一謁中王使君叔上詩〕年華初冠帶、文體舊弓裘。〔白居易、奉下和裴令公新成二午橋莊綠野堂一卽事上詩〕年華玩二風景一、春事看二農桑一。〔皮日休、樵家詩〕居レ茲老復老、不レ解レ歎二年華一。〔雍陶、過二南鄰華園一詩〕莫レ怪頻過二有レ酒家一、多情長是惜二年華一。

【年課】68（ネンクワ） 一年のわりあて。〔宋史、食貨志下二〕租額年課、及一路錢穀出入之數、去二其重複一。

【年畫】69 nien^2 hua^4 年越しの頃に賣る繪。〔舊京風俗志稿本〕年畫多產於天津與楊柳青一帶。

【年回】70（ネンクワイ） 人の死後、年々にめぐり來る忌日。年忌。回忌。

【年廻】71（トシマハリ） ❶廻り來る年齡、又、夫婦となる男女の年齡の相關によつて吉凶のあること。男子の四十二、女子の三十三は、最も凶の年廻といふ類。❷年ばへ。年齡のほど。

【年會】72 nien^2 huei^4 年一回の大會。

【年光】73（ネンクワウ） 年月。月日。光陰。又、春光。年華(67)に同じ。〔徐陵、答二李顒之一書〕年光遒盡、觸目崩レ心。〔王維、三月三日勤政樓侍レ宴應制〕年光三月裏、宮殿百花中。〔韓愈・孟郊、有レ所レ思聯句〕年光坐二婉晚一、春淚銷二顏容一。〔張仲素、漢苑行〕年光到處皆堪レ賞、春色人間總不レ知。〔白居易、早秋曲江感懷詩〕人壽不レ如レ山、年光急二於水一。〔楊炯、和二騫右丞省中暮望一詩〕年光搖二樹色一、春氣繞二蘭心一。〔章孝標、秦原早望詩〕年光逐二渭水一、春色上二臺上一。

【年荒】74（ネンクワウ） 穀物のみのらぬこと。四穀みのらぬを荒といふ。〔晉書、范宣傳〕庾爰之以三宣素貧、加二年荒疾疫一、厚餉給レ之。〔白居易、自二河南經レ亂關內阻レ飢云云望レ月有レ感詩〕時難年荒世業空、弟兄羈旅各西東。〔皮日休、南陽詩〕綠莎滿レ縣年荒後、白鳥盈レ溪雨霽初。

【年官】75（ネンクワン） ❶官吏としての履歷。〔蜀志、楊儀傳〕自惟、年官先レ琬、才能踰レ之。❷年官年爵を見よ。

【年官年爵】76（ネンクワンネンシヤク） 中古、太上皇・東宮・三宮等の所得とするために、每年春の除目に掾一人・目一人・史生三人の俸祿、及び秋の除目に內官一人の俸祿を、常の俸祿以外に賜はることを年官といひ、又、之に相當した爵で、卽ち從五位下の者に賜ふべき位田を賜はるを年爵といふ。かくて、其の官爵に充てる人は名のみで、其の官に屬する配分の公廨稻、及び從五位の位田八町の所得は、太上皇又は三宮へ收納する。親王・大臣・公卿・女御・尙侍・典侍等も年官を給せられる。天皇の御給分に屬するものを內給といふ。〔西宮記、臨時一、內親王表〕康子內親王、獻下辭レ賜二年官爵一表上。〔官制沿革略史、二二〕年官年爵一覽表、內給、諸國掾二人・目三人・一分、太上天皇幷東宮・三宮、爵一・內官一人・諸國掾一人・目一人・一分三人、親王、目一人・一分一人、太政大臣、目一人・一分三人・掾一人、左右大臣・內大臣、目一人・一分二人、同上、納言、目一人・一分一人・掾一人、參議、目一人・一分一人・掾一人、女御、目一人・一分一人、尙侍、一分一人、典侍、一分一人。

【年關】77（ネンクワン） 歲の暮をいふ。歲の暮は借金を全部支拂ふべき關所であるからいふ。〔北平歲時志、十二月〕近年北平商戶、多已分レ節清レ欸、若在二外省一、則尙有二年關始清者一。

【年兄】78（ネンケイ） ❶同時に科擧の試驗に合格した者の相互の稱呼。又、特に其の中の年長者に對して用ひる稱呼。年家(10)・年家子(11)を見よ。〔嬾眞子、五〕紹興六年夏、僕與二年兄何元章一、會二於錢塘江上一。❷nien^2 hsiung^1 同窓者の年長の人。

【年契】79（ネンケイ） 二箇國以上のできごとを年を逐うて對照した年表。和漢年契の類。

【年計】80（ネンケイ） 一年の會計。〔宋史、食貨志下二〕贛饒二監新額錢四十萬緡、提點官趙伯瑜以爲、得レ不レ償レ費、罷二鼓鑄一、盡取二木炭銅鉛本錢、及官吏闕額衣糧水腳之屬一、湊爲二年計一。

【年頃】81（トシゴロ） ❶年齡の程。としばへ。❷一人前の年齡。❸過去の年からこのかた。年來。

【年頃日頃】82（トシゴロヒゴロ） いつも。昔からつねに。

【年景】83 nien^2 ching^3 ❶收穫。農作物の出來模樣。❷年末。年始。

【年敬】84 nien^2 ching^4 歲暮の祝儀。

【年輕】85 nien^2 chʻing^1 年が若い。弱年。〔紅樓夢、三十六回〕一則都年輕、二則老爺也。

【年結】86 nien^2 chieh^2 年末の損益決算報告。結彩報告單。

【年月】87（ネンゲツ） ❶何年何月といふ日づけ。年月日。〔史記、三代世表〕至三於序二尙書一、則略無二年月一。〔後漢書、張衡傳〕至下於編二年月一、紀中災祥上、宜レ爲二元后本紀一。❷としつき。時代。時。〔周書、明帝紀〕魏朝之事、年月既遠。〔駱賓王、疇昔篇〕他鄉冉冉消二年月一、帝里沉沉限二城闕一。

【年月日】88（ネングワツピ） 某年某月某日の略語で、日づけの意。年月。月日。〔翰墨全書、喪祭門、喪祭式、報奠式〕年月日、孤哀子姓某狀。

【年儉】89（ネンケン） 穀物のみのりの惡いこと。〔北史、路邕傳〕宣武時、除二東魏郡太守一、涖レ政清勤、經二年儉一、自出二家粟一、賑二賜貧窘一。

【年限】90（ネンゲン） 定めた年の期限。〔魏志、夏侯玄傳、注〕某郡太守雖二限滿一、文書先至、年限在レ後、日限在レ前。〔唐書、薛登傳〕請下寬二年限一以容二簡汰一、不レ實免レ官、得レ人加上レ賞、自然見レ賢不レ隱、貪レ祿不レ專矣。

【年功】91（ネンコウ） ❶年來の骨をり。長い間のてがら。〔續猿簑集〕。❷多年の熟練。年の功。

【年功加俸】92（ネンコウカホウ） 多年つとめた功勞に對し、本俸に加給する俸給。

【年穀】93（ネンコク） 穀物をいふ。年は、穀物のみのり。〔禮、曲禮下〕歲凶、年穀不レ登。〔荀子、富國〕年穀復孰。〔列子、黃帝〕年穀常豐。〔史記、趙世家〕年穀豐熟。〔唐書、選擧志上〕雖二年穀不レ登、兵革或動一、而俎豆之事不レ廢。

【年穀熟】94（ネンコクジユクス） 穀物がよくみのる。〔莊子、逍遙遊〕其神凝、使下物不二疵癘一而年穀熟上。〔管子、小問〕年穀熟。

【年根】95 nien^2 ken^1 年末。

【年差】96（ネンサ） 地球の軌道が楕圓形であるため、太陽と地球、從つて太陽と月との距離は一年を週期として變化し、其の結果月に及ぼす太陽引力も亦一年を週期として變化する。この變化のために起る月の運動の差違變化を年差といふ。

【年才】97（ネンサイ） 年齡と才能。〔清國行政法汎論、官吏分限、黜陟、年才〕一曰操守、二曰才能、三曰騎射、四曰年才。

【年灾】98（ネンサイ） 天災に遭つて穀物が實らないこと。凶年。灾は災に同じ。〔陶潛、有レ會而作詩序〕舊穀既沒、新穀未レ登、頗爲二老農一、而値二年灾一。

【年殺】99（ネンサイ） 其の年の穀物の熟せぬこと。〔禮、禮器〕年雖二大殺一、衆不二匡懼一、則上之制レ禮也節矣。〔疏〕大殺、謂二五穀不レ熟也。

【年菜】100（ネンサイ） 正月用の料理。正月は商店が休業するため、年內に調理して置く正月五日間の食物。〔天咫偶聞〕京師舊俗、元日至二上元一、各店例閉レ戶半月、小肆亦閉五日、此五日中、人家無レ從二市物一、故必於二歲底一烹飪、足二此五日之用一、謂二之年菜一。

【年歲】101（ネンサイ） ❶とし。年月。又、年齡。年載。年祀。年歲祀載(102)を見よ。〔周禮、夏官、司士〕辨三其年歲與二其貴賤一。〔疏〕知二羣臣在任、及年齒多少一也。〔楚辭、離騷〕恐三年歲之不二吾與一。〔後漢書、周擧傳〕彌二歷年歲一。〔謝惠運、雪賦〕怨二年歲之易レ暮。❷穀物。年穀。〔漢書、貢禹傳〕是時年歲不レ登、郡國多困。〔易林、歸妹之第五十四、坤〕草萊不レ闢、年歲無レ有。

【年歲祀載】102（ネンサイシサイ） としを表はすに、周には年、夏には歲、殷には祀、唐虞には載、といふ。後世はすべて年といひ、唯、唐の玄宗の朝に、一

時、載を用ひた。〔爾雅、釋天〕載、歲也、夏曰レ歲、商曰レ祀、周曰レ年、唐虞曰レ載。〔書、泰誓上〕惟十有三年春。〔書、胤征〕每歲孟春。〔書、伊訓〕惟元祀十有二月乙丑。〔書、堯典〕朕在位七十載。

【年載】103（ネンサイ） とし。年歲。年歲祀載を見よ。〔曹植、九愁賦〕曠二年載一而不レ廻。〔顏延之、秋胡詩〕離居殊二年載一、一別阻二河關一。〔南齊書、褚伯玉傳〕抗高木食有二年載一矣。

【年壯】104（ネンサウ） 年齡がさかんといふ意。三十歲前後をいふ。〔莊子、人間世〕衞君年壯。〔錢起、送三鮑中丞赴二太原軍營一詩〕年壯才仍美、時來道易レ行。

〖年壯氣盛〗105（ネンサウキセイ） 年若く元氣の盛なこと。〔阮瑀、爲二曹公一作レ書與二孫權一書〕仁君年壯氣盛、緖信所レ嬖。

【年三】106 nien² san¹ 正月・五月・九月に佛事・齋戒などすること。

〖年三十夜做肥鷄〗107 nien² san¹ shih² yeh⁴ tsuo⁴ fei¹ chi¹ 焦眉の急に迫られて始めて慌てるのを罵る語。福建で行はれる俗諺。

【年算】108（ネンサン） とし。よはひ。年齡。〔羅隱、簡令生日詩〕龜銜二玉柄一增二年算一、鶴舞二瓊筵一獻二壽杯一。

【年子】109（トシゴ） 年每に打ちつづいて生れた子。〔持統天皇歌軍法、五〕。

【年市】110（トシノイチ） 年末に新年の必要品を賣る市。十二月中旬から年末にかけて行はれる。

【年矢】111（ネンシ） としつき。つきひ。年月の經過の速いことを矢に喩へていふ語。〔千字文〕年矢每催、曦暉朗曜。

【年志】112（ネンシ） 年來の志。〔南齊書、鬱林王紀〕冀年志稍改、立守二神器一。

【年始】113（ネンシ） ❶年のはじめ。新年。年首。年頭。年初。年甫。歲首。〔看聞御記〕應永二十四年正月一日、云二年始一云二代始一。❷年始の祝賀。年賀。〔平治物語、一、院御所仁和寺御幸事〕。

〖年始狀〗114（ネンシジヤウ） 年賀狀(15)に同じ。

【年祀】115（ネンシ） とし。年歲(101)に同じ。年歲祀載(102)を見よ。〔周書、晉蕩公護傳〕知下吾含二悲戚一、多歷中年祀上。

【年祉】116 nien² chih³ 年賀狀の結尾に用ひて、先方の幸福を祝する語。

【年資】117（ネンシ） 年齡と身分。〔蜀志、孟光傳〕太常廣漢鐔承・光祿勳河東裴儁等、年資皆在二光後一、而登據二上列一、處二光之右一。

【年齒】118（ネンシ） とし。よはひ。年齡(274)に同じ。〔莊子、徐無鬼〕舜擧二乎童土之地一、年齒長矣。〔漢書、宣元六王、東平思王宇傳〕年齒方剛。〔後漢書、順帝紀〕其有二茂才異行一、若二顏淵・子奇一、不レ拘二年齒一。〔魏志、王昶傳〕無レ限二年齒一。〔韋昭、博奕論〕悼二年齒之流邁一。

【年次】119（ネンジ） 年の順序。としなみ。〔漢書、谷永傳〕平阿侯譚年次、當下繼二大將軍鳳一輔上レ政。〔梁武帝、勿レ限二年次一詔〕若有三才同二甘顏一、勿レ限二年次一。

【年事】120（ネンジ） とし。年齒。〔南史、虞荔傳〕卿年事已多、氣力稍減。〔杜甫、重送二劉十弟判官一詩〕年事推二兄忝一、人才覺二弟優一。

【年時】121（ネンジ） としつき。年月。年代。〔晉書、范弘之傳〕與レ浩年時邈絕、世不二相及一、無二復藉聞一。〔陸機、梁甫吟〕冉冉年時暮、迢迢天路徵。〔魏書、寇讚傳〕雖二年時有一レ異、恆以二風味一相待。

【年日】122 nien² jih⁴ ❶元日。歲初め。❷（ヒトシ）生れた日の干支と同じ干支の日。

【年賖】123（ネンシヤ） 年月のはるかで長いこと。賖は長久の意。〔白居易、食後詩〕樂人惜二日促一、憂人厭二年賖一。

【年傷】124（ネンシヤウ） 年ごとに傷む。年ごとにそこなはれやぶれる。〔宋書、索虜傳論〕芻牧年傷、禾麥歲犯。

【年賞】125 nien² shang³ 年末賞與。

【年上】126（ネンジヤウ） ❶みのりのよいこと。〔禮、禮器〕禮之薄厚與二年之上下一。〔注〕用二年之豐凶一也。❷（トシウヘ）他より齡の多いこと。又、其の人。年長。

【年狀】127（ネンジヤウ） 年頃。年配。〔張籍、逢二王建一有レ贈詩〕年狀皆齊初有レ髭、鵲山漳水每追隨。

【年爵】128（ネンシヤク） ❶年齡と爵位。〔晉書、何遵傳〕禮敬二年爵一。❷年代と爵位。〔文心雕龍、史傳〕本紀以述二皇王一、列傳以總二侯伯一、八書以鋪二政體一、十表以譜二年爵一、雖レ殊二古式一、而得二事序一焉。❸年官年爵(76)を見よ。

【年弱】129（ネンジヤク） 年齡が若い。弱は二十歲をいふ。〔唐書、顏師古傳〕仁壽中、李綱薦レ之、授二安養尉一、尚書左僕射楊素、見二其年弱一、謂曰、安養劇縣、子何以治レ之、師古曰、割レ鷄未レ用二牛刀一、素驚二其言大一、後果以二幹治一聞。

【年首】130（ネンシユ） 年の始め。年始。〔穀梁、隱、二、注〕凡年首、月承二於時一、時承二於年一。〔史記、封禪書〕於レ是、秦更名レ河曰二德水一、以二冬十月一爲二年首一。

【年殊】131（ネンシユ） 年齡がことなる。〔柳宗元、祭二姊夫崔使君簡一文〕惟昔與レ君、年殊志匹、晝咨夕計、期レ正二文律一。

【年酒】132 nien² chiu³ 新年の祝酒。

【年種】133 nien² chung³ 收穫。年柄。

【年壽】134（ネンジユ） ❶人のいのち。壽命。〔莊子、天道〕無爲則兪兪、兪兪者、憂患不レ能レ處、年壽長矣。〔墨子、明鬼下〕歲二於祖若考一、以延二年壽一。〔史記、李斯傳〕長有二天下一、終二吾年壽一。〔魏文帝、典論、論文〕年壽有レ時而盡。❷相術家の語。鼻梁の準頭以上山根以下の部位。年と壽。年は上、壽は下。流年運氣(**6**－**17431**・307)を見よ。〔神相全編、十三部位總歌〕年上、第七年上夫座參、長男中男及少男、金匱禁房幷賊盜、游軍書上玉堂庵、壽上、第八壽上甲匱依、歸來堂上正面時、姑姨姊妹好兄弟、外甥命門學堂基。〔神相全編、人面總論、獅鼻〕山根年壽略低平、準上豐大稱二蘭廷一、若令二獅形眞富貴一、不三然財帛有二虛盈一。

【年終】135（ネンシユウ） 年の終り。十二月の末。又、年が終る。〔後漢書、周䚢傳〕及レ秋而梁冀誅、年終而䚢卒、時年五十。〔白居易、祭レ社宵興燈前偶作詩〕更待二年終一後、支二持歸計一看。

【年祝】136（ネンシユク） 周官大祝の六祝の一。鬼及び神祇に長壽を祈ること。〔周禮、春官、大祝〕掌二六祝之辭一、以事二鬼神示一、祈二福祥一、求二永貞一、云云、二曰年祝。〔注〕永、長也、貞、正也、求三多レ福歷二年得一レ正命一也、年祝、求二永貞一也。

【年春】137（ネンシユン） 春をいふ。新春。〔曹松、客中立春詩〕土牛呈二歲稔一、綵燕表二年春一。

【年閏】138（ネンジユン） 年のうるふ。〔王儉、答二褚淵難一議〕舍レ閏之議、通儒所レ難、但詳二本應一、期屈而不レ遂、語レ事則名體俱存、論レ哀則情無レ異レ迹、雖二數月義一、實計二年閏一、是年之歸餘、故宜二總而苞一レ之。

【年所】139（ネンシヨ） としつき。歲月。年數。所は助辭。〔書、君奭〕多歷二年所一。〔疏〕享國多歷二年之次所一。〔後漢書、儒林傳論〕能多歷二年所一者、斯豈非二學之效一乎。〔張衡、西京賦〕多歷二年所一、二百餘朞。〔朱浮、與二彭寵一書〕六國之時、其勢各盛、故能據レ國相持、多歷二年所一。〔注〕所、數也。

【年緖】140（トシノヲ） とし。年のつづくのを緖に喩へていふ語。〔萬葉集、四〕。

【年侵】141（ネンシン） 年寄る。老年となる。年が經つ。〔杜甫、寄二贊上人一詩〕年侵腰腳衰、未レ便陰崖秋。〔白居易、吾廬詩〕吾廬不三獨貯二妻兒一、自覺年侵身力衰。

【年深】142（ネンシン） ❶年が久しい。久しく年を經る。〔駱賓王、夕次二舊吳一詩〕地古煙塵暗、年深館宇稀。❷年每に深くなる。年と共に深くなる。〔柳宗元、祭二弟宗直一文〕由二吾被レ謗年深一。〔杜甫、又示二兩兒一詩〕浮生看二物變一、爲レ恨與レ年深。

〖年深日久〗143 nien² shen¹ jih⁴ chiu³ 久しく歲月を經る。年多日久。

【年稔】144（ネンジン） とし。年歲。〔南齊書、明帝紀〕謳誦寂寥、倏移二年稔一。

【年衰】145（ネンスイ） 年老いる。年齡が衰へる意。年盛の對。〔魏書、胡叟傳〕見二其二妾一、並年衰跛眇、衣レ布穿レ敝。〔白居易、夏夜宿直詩〕年衰自無レ趣、不三是厭二承明一。

【年數】146（ネンスウ） 年の數。〔禮、表記〕御レ道而行、中道而廢、忘二身之老一也、不レ知二年數之不一レ足也、俛焉日有二孜孜一、斃而後已。〔左氏、僖、二十三〕今臣之子、名在二重耳一、有二年數一矣。〔史記、晉世家〕自二唐叔一至二靖侯一五世、無二其年數一。

【年世】147（ネンセイ） 年數。年代。〔宋書、孝武帝紀〕今或練レ蒐訓レ旅、涉二茲境閭一、故邑耆舊、在レ目罕レ存、年世未レ遠、殲亡大半、撫レ跡惟レ事、傾慨兼著。

【年成】148（ネンセイ） ❶穀物がよくみのる。〔隋書、音樂志下〕年成物阜、罷レ役息レ人。❷nien² ch'eng² 收穫。年柄。

【年星】149（ネザウ・ネンサウ） 陰陽家の說で、本命の屬星を祭

ること。各人に屬する星は子年の人は貪狼星、丑・亥の人は巨門星、寅・戌の人は祿存星、卯・酉の人は文曲星、辰・申の人は廉貞星、巳・未の人は武曲星、午の人は破軍星。〔拾芥抄、下、末〕本命屬星、子年人貪狼星、丑・亥年人巨門星、寅・戌年人祿存星、卯・酉年人文曲星、辰・申年人廉貞星、巳・未年人武曲星、午年人破軍星。

【年逝】150ネンセイ 年が逝く。年が過ぎゆく。〔王筠、早出巡行矚二望山海一詩〕同軫懷二歸思一、倶興年逝歌。〔蘇軾、正月二十四日二云云游二羅浮道院一云云詩〕斜川二三子、悼二歎吾年逝一。

【年盛】151ネンセイ 年齡が盛といふ意。年齡が若いことをいふ。〔詩、周南、桃夭、箋〕興者、喩下時婦人皆得中以二年盛時一行上也、年盛二十之時。〔後漢書、第五倫傳〕伏見、虎賁中郎將竇憲、椒房之親、典二司禁兵一、出二入省闈一、年盛志美、卑謙樂レ善。

【年稅】152ネンゼイ 毎年納める租稅。

【年小】153ネンセウ 年が若い。年少。〔宋書、氐胡傳〕年小才弱、不レ能三綏二御所部一。〔周書、晉蕩公護傳〕太祖之入レ關也、護以二年小一不レ從、普泰初、自二晉陽一至二平涼一、時年十七。

【年少】154ネンセウ ㊀年が若い。年小。〔韓詩外傳、四〕夫人主年少而放。〔戰國、趙策〕寡人年少、奉二祀祭一之日淺。〔史記、甘茂傳〕甘羅年少耳。〔漢書、賈誼傳〕誼年少、頗通二諸家之書一。〔魏志、田疇傳〕田疇雖二年少一、多稱二其奇一。㊁清、萬壽祺(**9**－**31339**··596)の字。

〖年少者〗155ネンセウシヤ 年齡の若い者。〔宋史、寇準傳〕年少者往往罷去。

【年積】156ネンセキ 年がつもる。年が久しくなる。〔江淹、從二建平王一游二紀南城一詩〕年積衣劍滅、地遠宮館平。

【年切】157トシギレ トシギリ ㊀年によって、樹木が實を結ばぬこと。〔後撰和歌集、十五、雜、一〕。㊁年季。又、年季の切れること。

【年節】158ネンセツ 年末・年始の節をいふ。十二月二十日頃から正月二十日頃までをいふ。年節另款銀を見よ。〔北平歲時志、十二月〕今當二易歷之後一、年節已改、曰二春節一。

〖年節另款銀〗159ネンセツレイクワンギン 清代、度支部から內務府の經費を補充するために年節に支出する銀。〔政治官報、宣統元年上諭〕毎年、度支部、交二進年節另款銀二十八萬兩一。

【年淺】160ネンセン 年が淺い。年を經ることが短い。〔南齊書、柳世隆等傳論〕柳世隆勢居二中夏一、年淺位輕。

【年祚】161ネンソ 壽命。㊀國の壽命。㊁人の壽命。〔晉書、文苑、王沈傳〕彈レ琴詠レ典、以保二年祚一。

【年租】162ネンソ 毎年の租稅。又、一年の借賃。〔魏書、盧昶傳〕年租歲調、則惟常理、此外徵求、於レ何取レ足。

【年楚】163ネンソ 川の名。西藏札什倫布の境。一源を卓謨拉里山の東、一源を順塔拉嶺に發し、合して章魯河となり、雅魯藏布江に注ぐ。

【年總】164 nien^2 tsung^3 商家で年末の大決算をいふ。暮の總勘定。大賬。

【年促】165ネンソク 年齡がせまる意。餘命が少くなること。老境に入ること。〔張協、雜詩〕疇昔歎二時遲一、晚節悲二年促一。〔唐書、韓愈傳〕天子事レ佛、乃年促耳。

【年息】166 nien^2 hsi^2 年利。一箇年何程と計算する利子。

【年尊】167ネンソン 年齡が多い意。年の老いること。年高。年長。〔南史、劉瓛傳〕上下年尊、益不レ願レ居レ官、次廢二晨昏一也。〔周書、晉蕩公護傳〕摩敦年尊、又加二憂苦一。

〖年尊的〗168 nien^2 tsuen^1 tê 年長者。

【年多】169ネンタ 年を多く經る。〔韓愈、答二渝州李使君一書〕乖隔年多、不レ獲二數附レ書、慕二仰風味一、未二嘗敢忘一。〔白居易、詠懷詩〕自從二委順一任二浮沈一、漸學年多功用深。

〖年多日久〗170 nien^2 tuo^1 jih^4 chiu^3 久しく歲月を經る。年深日久(143)に同じ。

【年大】171ネンダイ 年が大きい。年齡の長じてゐること。〔魏志、武皇下皇后傳〕后曰、王自以二丕年大一、故用爲レ嗣。〔沈千運、感二懷弟妹一詩〕骨肉能幾人、年大自疎隔。

【年代】172ネンダイ ㊀年數。又、時代。〔南齊書、禮志上〕年代汗隆、古今殊レ則。〔謝靈運、會吟行〕自來彌二年代一、賢達不レ可レ紀。㊁帝王の治世。年紀。世代。〔唐書、藝文志二〕賈欽文、古今年代曆、一卷。〔宋史、藝文志二〕武密、帝王年代錄、三十卷、鄭伯邕、帝王年代圖、一卷。

〖年代記〗173ネンダイキ 古からの著名な事件を、年代の順を追って記錄した書物。〔宋史、藝文志二〕鄭伯邕、帝王年代圖一卷、又帝王年代記、三卷。

【年湯】174 nien^2 tʻang^1 安徽地方で、毎年十二月二十四日以後、豚の頭を煮て家內一同が會食する行事をいふ。

【年男】175トシヲトコ 昔、武家で、追儺の豆打から、すべて新年の諸儀式を執り行った人。又、節分に豆を撒く役の男。〔書言字考節用集、四、人倫門〕。

【年稚】176ネンチ 年が幼い。年が若い。〔新序、雜事五〕宣王曰、子年尙稚、未レ可也、閭丘邛對曰、不レ然、昔有二顓頊一、行年十二而治二天下一、秦項橐、七歲爲二聖人師一、由レ此觀レ之、邛不肖耳、年不レ稚矣。

【年秩】177ネンチツ 年齡と爵秩。〔南齊書、武帝紀〕諸大夫年秩隆重、祿食殊薄。

【年茶】178ネンチヤ ネンサ 年節の宴の茶。〔紅樓夢、十九回〕有下往二親友家一去、吃二年茶一的上。

【年長】179ネンチヤウ 年が長ずる。年齡が多くなる。又、としうへ。〔左氏、襄、三十〕晉悼夫人、食二輿人之城レ杞者一、絳縣人或年長矣。〔素問、示從容論〕夫年長則求二之於府一、年少則求二之於經一、年壯則求二之於藏一。〔史記、郭解傳〕及二解年長一、更折レ節爲レ儉。

〖年長者〗180ネンチヤウシヤ としうへの人。

〖年長大〗181トシチヤウダイ 年が長ずる。年が多くなる。〔魏文帝、又與二吳質一書〕年行已長大、所レ懷萬端、時有レ所レ慮、至二通夜不一レ瞑。

〖年長以倍父二事之一〗182トシチヤウズルコトバイスレバモツテコレニフジス 年齡の倍する人には父として事へる。〔禮、曲禮上〕年長以倍、則父二事之一。〔注〕謂下年二十於二四十一者上。

【年帳】183 nien^2 chang^4 暮の總勘定。

【年中】184ネンチユウ ㊀中年。青年と老年との中間の年頃。壯年の時。〔史記、倉公傳〕吾年中時、嘗欲レ受二其方一。〔注〕索隱曰、案、年中、謂二中年時一也。㊁ネンヂユウ 一年中。何時も。あけくれ。始終。

〖年中行事〗185ネンヂユウギヤウジ 一年中のそれぞれの季節に行ふべき定例の行事。其の行事を書いたものには、詩經豳風七月・夏小正・逸周書時訓解・管子四時・呂氏春秋十二紀・禮記月令・淮南子時則訓・四民月令・荊楚歲時記等がある。

【年底】186 nien^2 ti^3 年末。年の終。年の暮。〔北平歲時志、十二月〕年底市肆繁盛、外省且然、北平更奚待レ言。

〖年底下〗187 nien^2 ti^3 hsia^4 年末。年の暮。

〖年底賬清〗188 nien^2 ti^3 chang^4 chʻing^1 年末の收支決算。

【年朝】189ネンテウ 年ごとに朝する。毎年來朝して貢物をたてまつる。〔宋書、鮮卑吐谷渾傳論〕肅愼年朝、越裳歲饗。

【年調】190ネンテウ 毎年の貢物。又、年毎に調達する。〔宋書、沈懷文傳〕齋庫上絹、年調鉅萬、匹綿亦稱、此期限嚴峻。

【年姪】191ネンテツ 父と同年に進士に及第した人に對する自稱。年伯(223)を見よ。〔沈德符、淸權堂雜著〕董龍山道醇、癸未進士、其子儀部靑芝嗣成先舉二庚申進士一、不レ欲下於二癸未榜一稱中年姪上、爲三乃翁所二訶責一。

【年度】192ネンド 事務、又は會計決算などの便宜によって區分した一年間の期間。會計年度・學年度などと用ひる。我が國現行の政府會計年度は四月に始まって、翌年三月に終る。民國では七月に始まり、翌年六月に終る。

〖年度級〗193ネンドキフ 林木を年齡階級によって分類したものの稱。

〖年度替〗194ネンドガハリ 年度のかはること。又、其の時。

【年登】195ネントウ 穀物がゆたかにみのる。豐作。〔唐書、宋務光傳〕天下人失レ業、不レ謂二太平一、邊兵未レ解、不レ謂二無事一、水旱爲レ災、不レ謂二年登一、倉稟未レ實、不レ謂二國富一。〔韋應物、假中對レ雨呈二縣中僚友一詩〕殘鶯知二夏淺一、社雨報二年登一。

【年頭】196ネントウ ㊀年の始め。年頭月尾を見よ。㊁トシガシラ 最年長者。

〖年頭禁〗197ネントウキン 浙江各地で十二月二十五日をいひ、此の日には金錢を他に出さない慣例がある。〔浙江志書、永康縣〕十二月二十五日、謂二

之年頭禁一、是日不レ出レ財、以二赤豆一和レ米羹レ粥、曰二蠶花粥一、云、食レ之利二養蠶一、自レ此連日爲二酒食一、相邀飲、曰二分歲一、洒掃沐浴、用祓二不祥一、選レ日具レ牲、命二僧道或師巫一、祀二神於中堂一、曰二送年一。

【年頭兒】198 nien^2 t'ou^2 êrh ㊀年。㊁年柄。收穫。

【年頭月尾】199 ネントウゲツビ ㊀一年中。年頭は歲首、月尾は月末。〔林光朝、癡頑不レ識レ字詩〕年頭月尾無二一是一、咄咄癡頑不レ識レ字。㊁官吏が明經を帖試する際に、其の經の大義を問はないで、年頭月尾孤經絕句（些二末な字句）のみを試問したことを譏つた語。唐の楊瑒が科擧の弊を難じた奏文の語。〔唐書、楊瑒傳〕入爲二國子祭酒一、奏、有司帖二試明經一、不レ質二大義一、及取二年頭月尾、孤經絕句一、且今習二春秋三家儀禮一者、纔十二、恐諸家廢無レ日、請、帖二平文一以存二學家一、其能通者、稍加二優宦一、獎二孤學一、從レ之。

【年同】200 ネンドウ 年齡が同じ。〔左氏、昭、元〕德均以レ年、年同以レ尊。〔穀梁、隱、二〕或曰、年同爵同、故紀子以レ伯先也。

【年德】201 ネントク ㊀年齡と德。〔禮、禮運〕合二男女一、頒二爵位一、必當二年德一。〔疏〕合二男女一、使レ當二其年一、頒二爵位一、必當二其德一。〔魏志、曹爽傳〕魏曹爽、以二司馬宣王年德並高一、恆父二事之一。〔何遜、贈二江長史一別詩〕況事兼二年德一、宴交無二爾汝一。〔聞見錄〕文潞公慕二唐白樂天九老會一、乃集二洛中卿大夫年德高者一、爲二耆英會一。㊁トシトク 陰陽家の語。㋑年德神の住むといふ方角。其の方角は、萬事を行ふに吉であるとし、之を惠方、又、あきのかたといふ。甲己の年は甲の方の寅卯（東）の閒、庚乙の年は庚の方の申酉（西）の閒、丙辛の年は丙の方の巳午（南）の閒、壬丁の年は壬の方の亥子（北）の閒が惠方であるといふ。〔和漢三才圖會、曆占類、歲德〕按、年德神方、向二此方一、百事無レ障、若二開明一、以二大將軍方一稱二閉塞一之對也。㋺年德神の略。

【年德神】202 トシトクジン 陰陽師の稱する神の名。又、歲德神とも書く。其の年の明の方を司る神。歲神。年德の㊁を見よ。

【年德俱尊】203 ネントクトモニタカシ 年齡と德とが共に高い。年齡が多く、且、德が高い。年德並高。〔周書、寇儁傳〕常親執二其手一曰、公年德俱尊、朕所二欽尙一。

【年內】204 ネンナイ 年のうち。今年中。〔宋書、二凶傳〕宏歎息良久曰、年內何必還在レ京。

【年入】205 nien^2 ju^4 一箇年閒の收入。歲入。

【年年】206 ネンネン 每年。としどし。〔范成大、橫塘詩〕年年送レ客橫塘路、細雨垂楊繫二畫船一。

【年年種】207 nien^2 nien^2 chung^3 農作物の輪作。南滿地方に行はれる語。

【年年歲歲】208 ネンネンサイサイ 來る年も來る年も。每年每年。年年歲歲花相似を見よ。

【年年春草生】209 ネンネンシユンサウシヤウズ 草は春になれば每年生ずる。墓中の人の再生しないのに對していふ。〔白居易、續古詩十首〕掩レ涙別二鄉里一、飄颻將二遠行一、茫茫綠野中、春盡孤客情、驅レ馬上二丘壠一、高低路不レ平、風吹棠梨花、啼鳥時一聲、古墓何代人、不レ知二姓與一レ名、化作二路傍土一、年年春草生、感レ彼忽自悟、今我何營營。

【年年一度過レ河來】210 ネンネンイチドカハヲスギテキタル 七夕星は每年一度は天の川を渡つて相會ふ。一年に一度しか會へないのは氣の毒ではあるが、それでも會ふことを永久に繰返してゆくことができるから、人閒が一度死別すれば其の後は全く會へないのよりはましであるといふ意。〔李郢、七夕詩〕烏鵲橋頭雙扇開、年年一度過レ河來、莫レ嫌天上稀相見、猶勝二人閒去不一レ回。

【年年歲歲花相似】211 ネンネンサイサイハナアヒニタリ 每年花は同じ色に咲く。人が年と共に老衰する儚さに對して自然の悠久をいふ。〔劉廷芝、代下悲二白頭一翁上詩〕年年歲歲花相似、歲歲年年人不レ同、寄レ言全盛紅顏子、應レ憐半死白頭翁。〔溥南詩話〕宋之問詩有レ云、年年歲歲花相似、歲歲年年人不レ同、或曰、此之問甥劉希夷句也、之問酷愛、知三其未二之傳一レ人、懇乞レ之、不レ與、之問怒、乃以二土袋一壓二殺之一、此殆妄耳、之問固小人、然亦不レ應レ有レ是、年年歲歲、歲歲年年、何等陋語、而以至レ殺二其所一レ親乎、大抵詩話所レ載、不レ足二盡信一。

【年年春色爲レ誰來】212 ネンネンシユンシヨクタガタメニカキタル 每年の春の景色は抑〻誰のために訪れて來るのか。嘗て榮華を誇つて之を眺めた魏の曹操並に其の宮人は遠の昔に亡びてしまつたのに、美しい春景色は年每にやつて來る。自然は悠久で人生は儚いの意。〔岑參、登二古鄴城一詩〕下レ馬登二鄴城一、城空復何見、東風吹二野火一、暮入二飛雲殿一、城隅南對二望陵臺一、漳水東流不二復回一、武帝宮中人去盡、年年春色爲レ誰來。

【年年點二檢人閒事一】213 ネンネンジンカンノコトヲテンケンス 春來る每に、每年人閒社會のことを今更の如くしみじみと眺めるの意。春になれば、春草・春風は失意の人の門にも今を時めく人の庭にも差別なく生じ又吹くのを見て、榮落浮沈によつて反覆する人情の輕薄を歎いた句。〔羅鄴、春游鬱然有レ懷賦〕芳草和レ烟暖更青、閑門要路一時生、年年點二檢人閒事一、唯有三春風不二世情一。

【年年防歉夜夜防賊】214 nien^2 nien^2 fang^2 chien^4 yeh^4 yeh^4 fang^2 tsei^2 每年凶作をふせぎ、每夜賊を防ぐ。人は片時も油斷は出來ぬことにいふ。

【年波】215 トシナミ 年齡。年が寄るのを波に擬していふ。〔式子內親王集〕年波の重なることをおどろけば。

【年配】216 ネンパイ 年輩に同じ。

【年輩】217 ネンパイ ㊀年ごろ。年のほど。輩はならび。〔唐國史補、上〕陸長源以二舊德一爲二宣武軍司馬一、韓愈爲二巡官一、同在二使幕一、或譏二其年輩相遼一。〔伊洛淵源錄〕楊學士年輩、與二先生一亦相若。㊁其の事に相應した年ごろ。㊂世故に富んだ年ごろ。年配。

【年倍】218 ネンバイ 年齡が倍である。年が倍になる。〔南齊書、陸澄傳〕澄曰、僕年少來無レ事、唯以二讀書一爲レ業、且年已倍二令君一。〔蘇轍、張安道尙書生日詩〕仁比二高山一年自倍、秋逢二生日一喜盈レ門。

【年芳】219 ネンパウ 春の美しい花をいふ。〔沈約、三月三日率爾成篇〕麗日屬二元巳一、年芳具在レ斯。〔喬知之、倡女行〕願君駐二金鞍一、暫此共二年芳一。〔韋應物、春思詩〕野花如レ雪繞二江城一、坐見二年芳一憶二帝京一。

【年報】220 ネンパウ 一年閒の事實に關する年々の報告。〔淸國行政法汎論、官廳、監督形式〕彙報、則有二年報一、有二月報一。

【年耄】221 ネンバウ 年老いる。耄は七十歲、一說に、八十歲、又、九十歲といふ。〔詩、大雅、抑序、疏〕武公年耄、始作二抑詩一。

【年貌】222 ネンバウ 年齡と容貌。〔列子、力命〕北宮子世族年貌言行與レ予竝、而賤貴貧富與レ予異。〔鮑照、代陸平原君子有所思行〕年貌不レ可レ還、身意會盈歇。

【年伯】223 ネンパク 父と同年に進士に及第した者を稱する語。後には、伯叔父と同年に進士に及第した者、及び自分と同年に及第した者の父をもいふ。〔王應奎、柳南載筆〕前明正嘉以前、風俗猶爲レ近レ古、必父之同年、方稱二年伯一、而同年之父、卽不レ爾。

【年髮】224 ネンハツ 老人の髮。又、年と髮。年齡。〔庾信、答二趙王一啓〕但年髮已秋、性靈久竭。〔江總、傷二顧野王一詩〕年髮兩如レ此、傷心獨幾時。

【年半】225 トシナカ 半年。又、年のなかば。

【年班】226 ネンハン 淸代、蒙古の王公及び喇嘛等が、元旦の朝賀のため、每年一回、輪番交代で北京に參覲した、其の代表班をいふ。〔淸會典事例、理藩院、朝覲〕內札薩克年班・外札薩克年班・喇嘛年班・番子年班。〔淸國行政法汎論、藩部、內外蒙古、自治機關〕元旦朝賀、凡內外札薩克、皆分二若干班一、每年一班、輪番交代、十二月十五日以後二十五日以前、必到二京師一、以待二元旦朝賀一、名曰二年班一。

【年飯】227 ネンハン 北京地方の年末に、金銀米で飯を焚き、上に松柏の枝を插し、金錢・棗・栗・龍眼肉等を點綴したものをいひ、正月五日以後に取去る。又、蘇州地方では、年末から貯へて置いて、新年に蒸して食べる飯のことをいふ。〔燕京歲時記、年飯〕年飯用二金銀米一爲レ之、上插二松柏枝一、綴以二金錢棗栗龍眼香枝一、破五之後、方始去レ之。

【年飯甑】228 nien^2 fan^4 tsêng^4 江蘇儀徵地方で、年越しの飯を焚き、斗形又は元寶銀形に盛り上げ、其の上に小旗を插んで飾り置くものをいふ。

【年晚】229 ネンバン 年がくれる。又、年の暮。年末。〔崔曙、登二水門樓一云云感興詩〕流落年將レ晚、悲涼物已秋。

【年番】230 ネンバン 一年交替で勤番すること。〔教令類纂、二〕。

【年尾】231ネンビ 年末(250)に同じ。〔清珙、詩〕新年頭耳舊年尾、明日四兮今日三。

【年病】232ネンビヤウ 老年の病。又、老年と病氣。〔邢邵、冬日酬三魏少傅直二史館一詩〕年病從橫至、動息不二自安一。

【年鬢】233ネンビン 年髮(224)に同じ。〔南史、齊高帝諸子上、王子範傳〕雖レ佩二恩寵一、還羞二年鬢一。〔庾信、擬二詠懷一詩〕自憐才智盡、空傷年鬢秋。

【年賦】234ネンプ 租税又は借錢などを毎年にわりあてて支拂ふこと。〔織留、一〕。

【年譜】235ネンプ 人の一生中の行事事蹟を、年の順を追つて記した記錄。其の人一代の年代記。〔宋史、藝文志二〕洪興祖、韓子年譜、一卷。

【年富】236ネンフウ ❶明、懷遠の人。字は大有。謚は恭定。官は戸部尚書。〔明史、一百七十七〕・〔萬斯同明史、二百二十七〕・〔明史稿、一百六十〕。❷nien^2 fu^4 中年。壯年。春秋に富む年。

【年物】237ネンブツ 年始に贈る物。年玉。〔清嘉錄〕家戸爲二宿歲之儲一、新年以餉二戚友一、謂二之年物一、以下元旦至二五日一不上レ設レ市也。

【年分】238 nien^2 fen 年齡。

【年表】239ネンペウ 歷史上の事件を年月の順に編列して表としたもの。史記の十二諸侯年表に始まり、漢書も亦年表を作る。其の他、司馬光の通鑑目錄、清の康熙帝敕撰の欽定歷代紀事年表、萬斯同の歷代年表等極めて多い。年譜。年代記。〔史記、太史公自序〕幽厲之後、周室衰微、諸侯專攻、春秋有レ所レ不レ紀、而譜牒經略、五霸更盛衰、欲レ睹二周世相先後之意一、作二十二諸侯年表第二一。

【年標】240 nien^2 piao^1 商取引を年末に決濟すること。張家口地方の毛皮取引に用ひる語。

【年邊】241 nien^2 pien^1 年の暮。歲末。節季。

〖年邊節尾〗242 nien^2 pien^1 chieh^2 wei^3 年の暮。歲末。節季。

【年甫】243ネンポ 年の始。年首。年始。甫は始。〔運步色葉集〕年甫。

【年暮】244ネンボ 年が暮れる。又、年のくれ。歲暮。〔宋書、索虜傳〕忠臣表二年暮一、貞柯見二嚴秋一。〔白居易、洛中春遊呈二諸親友一詩〕莫レ歎年將レ暮、須レ憐歲又新。

【年俸】245ネンポウ 一箇年を計算期間の單位として定めた俸給。年給。

【年豐】246ネンポウ 穀物がゆたかにみのる意。豐年(**10**−**36304**‥171)の❶に同じ。〔左氏、桓、六〕奉レ盛以告曰、潔粢豐盛、謂二其三時不レ害、而民和年豐一也。〔易林乾之第一、師〕年豐歲稔、民人安息。〔王褒、四子講德論〕家給年豐。

〖年豐老人〗247ネンポウラウジン 元、劉敏(**2**−**2224**‥571)の號。

【年木】248トシギ 春の用意の薪。〔夫木和歌抄、十八、歲暮〕。

【年邁】249ネンマイ 年がゆく。年が經つ。又、年が老いる。〔陸雲、贈二顧彥先一詩〕時過年邁、晻冉桑榆。〔宗欽、與二高允一詩〕嗟我年邁、迅踰二激電一。

【年末】250ネンマツ 歲暮。年杪。年終。歲末。

【年滿】251ネンマン 年がみちる。一定の年齡に達する。又、一定の年限に至る。〔春秋、隱、七、春王三月、叔姬歸二于紀一、疏〕女嫁二于他國一、皆有二姪娣與レ適、俱行則所レ尊在レ適、書レ適不レ書二姪娣叔姬一、待レ年之女、年滿特行、故書二其歸一。

【年命】252ネンメイ ❶壽命をいふ。〔漢書、刑法志〕書曰、立レ功立レ事、可二以永年一、言下爲レ政而宜二於民一者、功成事立、則受二天祿一而永中年命上、所謂一人有レ慶、萬民賴レ之者也。〔樂府、西門行〕人壽非二金石一、年命安可レ期。〔司馬彪、贈二山濤一詩〕感二彼孔聖歎一、哀二此年命促一。❷nien^2 ming^4 十二支に配當した年。

【年冥】253 nien^2 ming^2 大晦日。大歲。

【年妙】254ネンメウ 年が若い。年頃。妙齡。〔錢起、送三傅管記赴二蜀軍一詩〕賜レ璧腰レ金應レ可レ料、才略縱橫年且妙。〔陶宗儀、答二王架閣一詩〕承レ恩出牧年方妙、謝レ事歸休道益尊。

【年夜】255ネンヤ ❶陰曆で大晦日の夜を大年夜といひ、其の前夜を小年夜といふ。〔輦下歲時記、竈燈〕都人至二年夜一、請二僧道一看經、備二酒果一送レ神。❷トシノヨ 節分の夜。又、大晦日の夜。

【年籥】256ネンヤク 年のくぎり。〔孟浩然、荊門上二張丞相一詩〕四時年籥盡、千里客程催。

【年預】257ネンニヨ ネンヨ ❶古、院の廳の次官で、執事の下にあつて雜務を行ふ職。〔職原抄〕院廳、執事、名家之人任レ之、年預、同レ前。❷親王・攝政・關白の家司や齋院司・社寺・莊園等の雜務を司つた職。❸御厩の預かり役。左右近衞の中少將の中から任ずる。〔禁祕抄、下〕左右年預將、並馬頭。

【年餘】258ネンヨ 歲餘。一年あまり。又、冬をいふ。三餘(**1**−**12**‥1713)を見よ。

【年來】259ネンライ としごろ。數年このかた。〔戴叔倫、越溪郡居詩〕年來橈客寄二禪扉一、多話貧居在二翠微一。〔杜牧、初春有レ感詩〕跡去夢一覺、年來事百般。〔陸游、山園雜詠詩〕俗客年來眞掃レ迹、清樽日暮獨忘レ歸。

〖年來忍レ饑誦レ經〗260ネンライウヱヲシノンデケイヲシヨウス 多年、饑渇を忍んで、經書を誦讀する。唐の陸龜蒙の故事。〔語林〕或語二陸龜蒙一曰、君閉レ關不レ出、率空腸貯二古聖賢道德言語一、何自苦如レ此。陸笑曰、我年來忍レ饑誦レ經、豈不レ知三屠沽兒有二酒食一耶。

【年老】261ネンラウ 年老いる。又、年より。〔公羊、僖、二一、蓋戲レ之也、注〕以二馬齒長一戲レ之、喻二荀息之年老一。〔史記、留侯世家〕四人者年老矣。〔南齊書、陳顯達傳〕以二年老一告レ退、不レ許。〔孟浩然、歲暮歸二南山一詩〕不才明主棄、多病故人疏、白髮催二年老一。

〖年老逢春吟〗261′ネンラウホウシユンギン 宋の邵雍の作つた詩題。年老いて春に逢ふ樂しみを歌つたもので、十三首、續、再續各十三首、計三十九首がある。擊壤集に見ゆ。司馬光またこれに和し、我が國では道家靜修・元田東野などにも和韻がある。

〖年老每勞レ推二甲子一〗262トシオイテツネニカフシヲオスヲラウトス 老いて年齡を數へることをいつも億劫（オククフ）に思ふ。〔許渾、贈二王山人一詩〕貰レ酒攜レ琴訪レ我頻、始知三城市有二閑人一、君臣藥在寧憂レ病、子母錢成豈患レ貧、年老每勞レ推二甲子一、夜寒初共守二庚申一、近來聞レ說燒レ丹處、玉洞桃花萬樹春。

【年勞】263ネンラウ 官吏が久しく職に居て功勞があること。多年勤續の功勞。〔北齊書、文襄帝紀〕魏自二崔亮一以後、選レ人常以二年勞一爲レ制、文襄乃釐二改前式一、銓擢唯在レ得レ人。〔宋史、張質傳〕樞密吏皆以二年勞一次補。

〖年勞加俸〗264ネンラウカホウ 官吏の久しく職に在るものに俸祿を增加すること。

【年臘】265ネンラフ 僧の受戒以後の歲數を戒臘といふところから、僧の年を年臘、又は年戒といふ。〔白居易、送二文暢上人東遊一詩〕貌依二年臘一老。

【年利】266ネンリ 一箇年の利息。年を計算の單位とした利息。

【年柳】267ネンリウ 年經た柳。〔唐太宗、春池柳詩〕年柳變二池臺一、隋堤曲直回。

【年流】268ネンリウ 年が流れる。年月が流れゆく。又、年月の流れ。〔杜牧、南樓夜詩〕玉管金尊夜不レ休、如下悲二晝短一惜中年流上。

【年律】269ネンリツ 年をいふ。律は、十二箇月に配した十二律の意。〔陳與義、度レ嶺詩〕年律將レ窮天地溫、兩州風氣比橫分。

【年力】270ネンリヨク 年齡と氣力。〔范曄、樂游應詔詩〕聞レ道雖二已積一、年力互頹侵。〔注〕銑曰、聞レ道、謂下聞二人之道一已久、而年力老弱、不上レ能レ行レ之。

【年輪】271ネンリン 雙子葉植物や裸子植物の幹の橫斷面に、每年一つづつ增してあらはれる輪形の木目。冬期は其の發達が遲滯し、春から活潑になる。annual ring の譯語。

【年例】272ネンレイ 每年の例。每年のしきたり。〔孟浩然、早梅詩〕園中有二早梅一、年例犯レ寒開。

【年禮】273ネンレイ ❶老年となつて優遇される禮。〔魏書、高閭傳〕年禮致レ辭、義光二進退一。❷nien^2 li^3 歲暮又は新年の贈物。

【年齡】274ネンレイ とし。よはひ。年齒。〔六書故〕齡、以レ齒察二年之長少一、故謂二之年齡一。〔禮、文王世子〕古者謂二年齡一。〔庾信、周太子少保步陸逞神道碑銘〕年齡俄頃、風電相摧。〔皮日休、虎丘寺殿前有二古杉一云云詩〕品格齊二遼鶴一、年齡等二寶龜一。

【年歷】275ネンレキ 長年の來歷。又、年がたつ。

【年籠】276トシゴモリ 大晦日の夜、鎭守の社に參籠すること。〔夫木和歌抄、十八、歲暮〕。

【年和】277ネンワ 年のおだやかなこと。〔魏書、李崇傳〕比以二戎馬在一レ郊、未レ遑二修繕一、今四表晏寧、年和歲稔、當下敕二有司一、別議中經始上。

【年往】278ネンワウ 年が往く。年がすぎゆく。〔陸機、長歌行〕年往迅二勁矢一、時來亮二急弦一。〔謝靈運、曇隆

法師誄〕年往歡流、厭來情舍。〔顏延之、秋胡詩〕年往誠思勞、路遠闊二音形一。

【有レ年】279 トシアリ ㊀五穀がよくみのること。豐年。〔詩、小雅、甫田〕倬彼甫田、歲取二十千一、我取二其陳一、食二我農人一、自レ古有レ年。〔集傳〕有レ年、豐年也。〔春秋、桓、三〕冬、有レ年。〔穀梁、桓、三〕五穀皆熟、爲レ有レ年也。〔春秋、宣、十六〕冬、大有レ年。〔穀梁、宣、十六〕五穀大熟、爲二大有レ年。㊁何年も經過すること。

【有レ年瘞レ土】280 トシアレバドヲマツル 豐年であれば土地の神を祭つて其の功に報いる。〔呂覽、任地〕有レ年瘞レ土、無レ年瘞レ土。〔注〕祭レ土曰レ瘞、年、穀也、有レ穀祭レ土、報二其功一也、無レ穀祭レ土、讓二其神一也。

【還レ年】281 トシヲカヘス 年を幼い日にかへす。若返る。〔顏延之、庭誥文〕鍊形之家、必就二深曠一、友二飛靈一、糇二丹石一、粒二芝精一、所二以還レ年卻レ老、延レ華駐レ彩。〔海錄碎事、道釋、養生〕梁肅言二卻老術一、曰二還レ年之一路一。

【迎レ年】282 トシヲムカフ ㊀新年を迎へる。〔荊楚歲時記〕以迎二新年一。㊁黃帝の時、五城十二樓を造り、神人を候して行つたといふ穀物の豐穰を祈る行事。〔漢書、郊祀志下〕方士有レ言、黃帝時爲二五城十二樓一、以候二神人於執期一、名曰レ迎レ年。〔注〕師古曰、若レ云レ祈レ年也。

【跨レ年】283 トシニマタガル 前年から翌年につづく。〔晉書、郭璞傳〕又去秋以來、沈雨跨レ年。

【告レ年】284 トシヲツグ 年の老いたことを申し出て致仕すること。〔海錄碎事、臣職、致仕〕陪レ幄方圖レ政、安車遂告レ年、王禹玉。

【損レ年】285 トシヲソンズ 年齡をごまかす。〔魏志、司馬朗傳〕十二試レ經、爲二童子一、郎監試者、以二其身體壯大一、疑二朗匿レ年劾問、朗曰、云云、損レ年以求二早成一、非二志所一レ爲也。

【富レ年】286 トシニトム 年が若い。幼年。春秋に富む。〔枚叔、七發〕太子方富二於年一。〔注〕善曰、凡人之幼者、將來之歲尚多、故曰レ富也。

【年遐齡】287 ネンカレイ 淸、漢軍鑲黃旗人。康熙の間、湖廣巡撫となり、雍正の初、次子羹堯の功を以て太傅一等公を加へられた。〔淸史列傳、十二〕・〔國朝耆獻類徵、一百六十二〕。

【年羹堯】288 ネンカウゲウ 淸、廣寧の人。號は雙峯。康熙の進士。川陝總督撫遠大將軍となり、川邊を定め、西藏を征し、青海を平定す。後、太保に至り、一等公に封ぜられたが、雍正中、獄に下つて死を賜はる。〔淸史稿、三百一〕・〔淸史列傳、十三〕・〔滿洲名臣傳、三十二〕。

【年希堯】289 ネンキゲウ 淸の人。遐齡の子。羹堯の兄。字は允恭。官は工部右侍郎。數理の學に詳しく、著に視學測算・刀圭面體比例便覽・對數廣運・萬數卒立方表・算法纂要總綱がある。〔淸史列傳、十二〕・〔國朝耆獻類徵、一百六十二〕。

【年經的】291 nien^2 ching^1 tê 年期を定めて奉公する小僧。丁稚。見習。徒弟。

【年汝鄰】292 ネンジヨリン 淸、順天の人。揚州に居る。字は寄濤。號は瘦生。又、不朽居士。畫に巧。

【年青的】293 nien^2 ch'ing^1 tê 若者。少青年。

【年逮レ耇】294 トシコウニオヨブ 年齡が高年に及ぶ。長生きをいふ。耇は老壽。〔韋孟、諷諫詩〕歲月其徂、年其逮レ耇。〔注〕善曰、爾雅曰、耇、老壽也。

【年伐面】295 ネンバツメン 施業案に豫定した、一年間每に伐採すべき森林の面積。其の大きさは全林面積を輪伐齡で除した商を標準とする。

【年撫金】296 nien^2 fu^3 chin^1 遺族扶助料。

【隨レ年落】297 トシニシタガヒテオツ 年老いるに隨つて衰へる。〔陸機、君子有所思行〕人生誠行邁、容華隨レ年落。

【不レ待レ年】298 トシヲマタズ 老年を待たない。老年にならないうちにも來る。〔謝靈運、還二舊園一作見二顏范二中書一詩〕辭レ滿豈多レ秩、謝病不レ待レ年。〔注〕向曰、謝病不レ待二老年一。

【年災月殃】299 ネンサイゲツアウ 最も不幸な日。〔還魂記、詗藥〕年災月殃、瞑然一去無二回向一。

【年涉二危境一】300 トシキキヤウニワタル 何時死ぬかわからない程の老年になる。〔魏書、高允傳〕詔曰、允年涉二危境一、而家貧養薄。

【年方二八】301 トシマサニニハチ 年が丁度十六。女子の妙齡をいふ。〔江總、東飛伯勞歌〕年時二八新二紅臉一、宜レ笑宜レ歌羞更歛。

【不レ可二同レ年語一】303 トシヲオナジウシテカタルベカラズ 相互の懸隔がはなはだしくて、同列のものとして論ずることが出來ない。〔賈誼、過秦論〕試使下山東之國、與二陳涉一度レ長絜レ大、比レ權量上力、則不レ可二同レ年而語一矣。

【年彌高而德彌邵】304 トシイヨイヨタカクシテトクイヨイヨタカシ 年が老いるに從つて其の德がいよいよ高くなる。邵は高。〔法言、孝至〕年彌高而德彌邵者、是孔子之徒歟。

【幵】9169

小篆

㈠ケン 〔集韻〕經天切 [先]

㈡ゲン 〔集韻〕倪堅切 [先]

㈠㈡ ㊀**たひら**。そろふ。〔說文〕幵、平也、象二二干對構上平一也。〔段注〕干、卽竿之省。㊁**羌族の別種の名**。〔正字通〕幵、罕・幵二姓、羌之別種。〔漢書、趙充國傳〕先零・罕・幵。〔注〕師古曰、罕・幵、羌之別種也。㊂岍(**4－8052**)に通ず。〔說文、幵、段注〕幵字、古書罕レ見、禹貢、道二岍及岐一、許書無二岍字一、葢古祇名二幵山一、後人加二之山旁一、必岐頭平起之山也。㊃**姓**。〔萬姓統譜〕幵、天水、音堅。

解字 會意。二つの干字を合す。干はをかすの義の干ではなく、もと山の名。說文通訓定聲によれば、卽ち岍山であるといふ。その山は、岐頭にして上が平らに並ぶ。故に、以て平らの意に用ひる。〔說文通訓定聲〕幵、平也、象二二干對構上平一也、按、干非二干字一、干又非二竿字一、竿上亦不レ平、从二二干一無レ理、愚謂、卽岍字、山名、吳嶽也、象二上平下削枝起之形一、或加二山傍一。

【幵官】1 ケンクワン 複姓。〔魯先賢傳〕孔子妻二幵官氏一。〔孔子家語、本姓解〕孔子娶二於宋之幵官氏一、一歲而生二伯魚一。

【幵頭】2 ケントウ 山名。一に笄頭(**8－26005‥9**)・雞頭(**11－42124‥139**)の㊀の㊁に作る。甘肅省平涼縣の西の崆峒山。

【幵零】3 ケンレイ 野梟をいふ。〔騈雅、釋鳥〕幵零、野梟也。〔太平御覽、羽族部、鵩虎鴞〕纂文曰、鴞施・石攙・幵零、皆野鴨、沒食曰レ鴞、長鵄曰レ施、多白曰二幵零一、在二山澗一曰二石攙一。

【并】9170

ヘイ 幷(**4－9175**)の俗字。〔正字通〕幷、俗作レ并、非。

四畫

【玎】9171

テイ 汀(**6－17103**)に同じ。〔說文〕汀、玎、汀或从レ平。

【飪】9172

アン 〔集韻〕於寒切 [寒]

股。〔集韻〕飪、股也。

【乖】9173

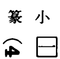
サフ 臿(**9－30180**)の俗字。〔字彙〕乖、俗臿字。

【庠】9174

キン 義未詳。〔海篇〕庠、音近。

五畫

【幷】9175



小篆

㈠ヘイ ヒヤウ 〔集韻〕卑盈切 ㄅㄧㄥ ping^1 [庚]

㈡ヘイ ヒヤウ 〔集韻〕卑正切 ㄅㄧㄥˋ ping^4 [敬]

㈠ ㊀**ならぶ**。よりそふ。もと𠀤(**4－9180**)に作る。〔正字通〕幷、篆作レ𠀤。〔說文〕𠀤、相从也、从レ从幵聲、一曰、从持二二干一爲レ𠀤。〔段注〕漢隸作レ幷。〔說文通訓定聲〕按、幵非レ聲、从持レ二

會意、是也、从持レ二者、二人持二二二一也、或曰、从レ从从レ幵會意、幵、山之岐而合者、从者、幷之意、幵者、幷之形。㊁あふ。㋑ひとつになる。〔說文通訓定聲〕幷、按、合一爲レ幷、對峙爲レ併。〔素問、調經論〕血氣未レ幷。〔注〕幷、謂二幷合一也。〔山海經、大荒南經〕有二三青獸相幷一、名曰二雙雙一。〔注〕相幷、言二體合爲レ一也。㋺なる。〔淮南子、墬形訓〕正西弇州曰二幷土一。〔注〕幷、成也。㋩つく。〔周禮、考工記、輿人〕大與レ小無レ幷。〔注〕幷、偏邪相就也。㋥あつまる。〔後漢書、張衡傳〕魚矜レ鱗而幷レ淩兮。〔注〕幷、猶レ聚也。㋭みちる。〔素問、生氣通天論〕幷乃狂。〔注〕幷、謂二盛實一也。㊂あはす。㋑ひとつにする。一緒にする。〔漢書、藝文志〕幷爲二蒼頡篇一。〔注〕師古曰、幷、合也。〔漢書、終軍傳〕今野獸幷レ角。〔注〕師古曰、幷、合也。㋺混合する。〔漢書、董仲舒傳〕勿レ猥勿レ幷。〔注〕師古曰、幷、合也。㋩かねる。〔廣雅、釋言〕幷、兼也。〔戰國、衞策〕魏幷二中山一。〔注〕幷、兼也。㊃ならびに。ともに。同じく。〔廣雅、釋詁四〕幷、同也。㊄木の名。栟櫚。栟(6-15010)に通ず。〔說文通訓定聲〕幷、叚借爲レ栟。〔揚雄、甘泉賦〕攢二幷閭與二茇葀一兮。〔注〕善曰、幷閭、椶也。㊅州名。幷州(13)を見よ。〔集韻〕幷、又州名。㊆姓。〔萬姓統譜〕幷、州名、見二姓苑一。[二]㊀ならべる。併(1-746)に同じ。〔集韻〕併、說文、竝也、或省。〔禮、玉藻〕幷二紐約一。〔疏〕幷、竝也。㊁のぞく。すてる。姘(3-6366)に通ず。〔說文通訓定聲〕幷、叚借爲レ姘。㋑はらひ棄てる。〔莊子、天運〕至貴國爵幷焉。〔注〕幷、除棄之謂也。㋺かたづける。收藏する。〔管子、弟子職〕既徹幷レ器。〔注〕幷、藏去也。㊂もつぱらにする。一說に、兼(2-1483)・廉(4-9436)の譌。〔禮、檀弓下〕行二幷植於晉國一。〔注〕幷、猶レ專也。〔經義述聞、禮記〕行二幷植於晉國一、鄭注曰、幷、猶レ專也、吳澄禮記纂言曰、幷植、國語作二廉直一、蓋廉字缺損、植、蓋直字增多也、家大人曰、吳說是矣、而未レ盡也、廉與レ幷、形聲皆不二相近一、廉字無レ緣二誤爲レ幷、蓋廉字、古通作レ兼、兼・幷字相近、因誤而爲レ幷、直・植亦古字通。

解字 形聲。从に從ひ、幵は音符。本義は相從ふ・あはすこと。即ち、人が相從ふの意。一說に、會意、二と从との合字。又、一說に、會意、从と幵との合字。二人の人が銘々干を持つて相並ぶことを表はす。即ち二人が相從ふことを意味する。〔說文通訓定聲〕幷、相從也、从レ从幵聲、一曰、从持レ二爲レ幷、韻會引作三从持二二干一、非、按、幵非レ聲、从持レ二、會意、是也、从持レ二者、二人持二二二一也、或曰、从レ从从レ幵、會意。

【幷愛】1 ヘイアイ あはせ愛する。〔漢書、禮樂志〕膏潤幷愛・跂行畢逮。

【幷有】2 ヘイイウ あはせ所有する。〔史記、秦紀〕於レ是復予二秦仲後及其先大駱地犬丘一、幷二有之一、爲二西垂大夫一。

【幷一】3 ヘイイツ あはせて一つにする。〔荀子、儒效〕幷一而不レ二。

【幷閱】4 ヘイエツ あはせしらべる。〔荀子、王制〕我今將來二致之幷三閱之砥四礪之於朝廷一。

【幷鹽】5 ヘイエン 鹽の名。晉北の土鹽をいふ。一名、河東鹽。

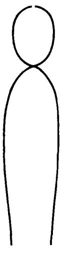
【幷柯】6 ヘイカ 連理の枝。〔顏延之、三月三日曲水詩序〕楨莖・素毳・幷柯・共穗之瑞、史不レ絕レ書。〔注〕良曰、幷柯、連理木也。

【幷介】7 ヘイカイ 天下を遍く善くし、自得して悶えなきをいふ。〔嵇康、與二山巨源一絕レ交書〕吾昔讀レ書、得二幷介之人一、或謂レ無レ之、今乃信二其眞有一耳。〔注〕善曰、幷、謂三兼二善天下一也、介、謂二自得無レ悶也。

【幷合】8 ヘイガフ 合せて一つにする。幷兼。〔漢書、鮑宣傳〕幷二合三第一、尙以爲レ小。〔後漢書、光武紀下〕縣國不レ足レ置二長吏一可二幷合一者、上二大司徒大司空二府一。〔吳志、呂蒙傳〕欲三幷二合之一。〔魏書、韓顯宗傳〕小者幷合、大者分置。

【幷棄】9 ヘイキ あはせすてる。一緒にして棄てる。〔資治通鑑、周紀〕（威烈王、二十三年）是區區之名分、復不レ能レ守、而幷二棄之一也。

【幷夾】10 ヘイケフ 古代、射に用ひた道具。矢が的の高處に中つて手の屆かぬ時、挾んで拔きとるもの。〔周禮、夏官、司弓矢〕大射・燕射、共二弓矢一如レ數、幷夾、大喪共二明弓矢一。〔周禮、夏官、射鳥氏〕射則取レ矢、矢在二侯高一、則以二幷夾一取レ之。〔注〕矢著二侯高一、人手不レ能レ及、則以二幷夾一取レ之、幷夾、鍼箭具。


幷夾（三禮圖）

【幷卷】11 ヘイケン あはせまく。又、二つ以上の土地を勢力圈內に入れること。〔張衡、西京賦〕右極二盩厔一、幷二卷酆鄠一、左暨二河華一、遂至二虢土一。

【幷兼】12 ヘイケン あはせかねる。合せて一つにする。兼幷。〔管子、重令〕不二幷兼一、不二攘奪一。〔墨子、非攻下〕猶多皆勉二功伐幷兼一。〔史記、秦始皇紀贊〕秦幷二兼諸侯一。〔新書、時變〕幷兼之勢過矣。〔張衡、四愁詩〕多二豪右幷兼之家一。

【幷州】13 ヘイシウ 州名。㊀古の十二州の一。虞舜は冀州の東部地方、恒山の地を分つて幷州とす。即ち、河北省の舊正定・保定、及び山西省の舊大原・大同等にあたる。其の地は、兩谷の間に在るからいふ。或は又、衞水・常水の間にあるからともいふ。周・漢皆幷州を置く。周の制は虞に同じ。漢は今の山西省及び陝西省の舊延安・榆林府等の地とす。治は山西省大原縣治。三國魏及び晉初之に因る。建興以後、幷州淪沒し、鎭を淮陰に移し、後、蒲阪に移す。今、山西省永濟縣の東南。後魏の時、幷州は晉陽を治とし、齊・周、之に因り、隋、廢す。唐、幷州を復し、幷せて太原府と爲す。宋、幷州を移して陽曲を治とし、後、また太原府といふ。今、山西省陽曲縣治。十二州(2-2695‥372)の㊀を見よ。〔讀史方輿紀要、州域形勢、唐虞三代〕舜攝二帝位一、命レ禹平二水土一、以二冀靑地廣一、分二冀東恒山之地一爲二幷州一。〔讀史方輿紀要、山西、太原府〕禹貢冀州地、春秋時爲二晉國一、戰國時屬レ趙、秦置二太原郡一、兩漢因レ之、兼置二幷州治一焉、魏爲二太原國一、幷州仍レ舊、晉因レ之、後爲二劉淵所レ據、旋沒二於石勒一、又爲二慕容燕所レ據、苻堅復取レ之、後魏仍爲二太原郡一、兼置二幷州一、北齊後周、皆因レ之、隋初廢レ郡置二幷州一、大業初、改曰二太原郡一、唐初曰二幷州一、武后長壽元年、置二北都一、旋復曰二幷州一、開元十一年、又置二北都一、改二幷州一爲二太原府一、五代唐爲二西京一、又改二北京一、周時爲二劉崇所レ據、宋太平興國四年、改置二幷州一、嘉祐中、復曰二太原府一、金因レ之、元曰二太原路一、大德九年、改二冀寧路一、明初爲二太原府一、領二州五、縣二十一。㊁前趙、置く。治は蒲阪。山西省永濟縣の東南。㊂後趙、置く。治は上黨。山西省潞城縣の東北。㊃前燕、置く。治は晉陽。山西省太原縣治。㊄北燕、置く。鎭は白狼城。滿洲熱河省淩源縣の南。㊅南燕、置く。治は平陰。山東省平陰縣治。㊆前秦、置く。治は蒲阪。山西省永濟縣の東南。㊇後秦、置く。治は蒲阪。山西省永濟縣の東南。㊈五胡の夏、置く。治は蒲阪。山西省永濟縣の東南。㊉南朝梁の末、置く。故治は四川省萬源縣の東。

【幷州歌】14 ヘイシウカ 樂府の名。晉の田蘭が汲桑を斬つたことを士女が慶賀して歌つたもの。〔樂府詩集、雜歌謠辭、幷州歌〕樂府廣題曰、晉汲桑、力能扛レ鼎、呼吸聞二數里一、殘忍少レ恩、六月盛暑、重レ裘累レ裀、使二人扇レ之、忽不二清涼一、便斬二扇者一、幷州大姓田蘭薄盛、斬二於平原一、士女慶賀、奔二走道路一而歌レ之。〔古樂府、幷州歌〕士爲二將軍一何可レ羞、六月重レ茵披二豹裘一、不レ識寒暑斷二他頭一、雄兒田蘭爲報レ仇、中夜斬レ首謝二幷州一。

【幷州翦】15 ヘイシウセン 幷州に產する翦刀。それが極めて銳利であることから、事をてきぱきと處理する喩、敏腕の喩にいふ。〔杜甫、戲題三王宰畫二山水圖一歌〕焉得二幷州快翦刀一、翦取吳松半江水。〔注〕引蘇曰、索靖見二顧愷之畫一、欣然曰、恨不下帶二幷州快剪刀一來上、欲下剪二松江半幅紋練一歸去上、泰伯曰、甫託レ意言、永王璘反二漢中一、吳松江爲レ

之阻絶不㆑通、時李光弼守㆓幷州㆒、所㆑攻必下、喩以㆓快剪刀㆒、言㆓其斷㆒也。〔楊維楨、廬山瀑布謠〕便欲㆘手把㆓幷州翦㆒翦㆗取一幅玻璃烟㆖。

〖幷州之情〗16（ヘイシウノジヤウ） 今までいやに思ひながら住んだ土地を、去つて後に慕ふこと。唐の賈島が幷州の地にいやいやながら久しく滯留したが、去つて更に都から遠い地に行く途中、其の地を故鄕の如くに感じて慕つた故事。〔賈島、渡㆓桑乾㆒詩〕客㆓舍幷州㆒已十霜、歸心日夜憶㆓咸陽㆒、無㆑端更渡桑乾水、却望㆓幷州㆒是故鄕。

【幷日】17（ヘイジツ） 日をあはせる。一日分のものを二日或は三日に延して用ひるにいふ。〔禮、儒行〕易㆑衣而出、幷㆑日而食。〔注〕二日用㆓一日食㆒也。〔魏志、王烈傳〕飯㆑鬻餬㆑口、幷㆑日而食。〔孔子家語、七十二弟子解〕幷㆑日蔬食。〔南史、劉訏傳〕劉訏家甚貧苦、幷㆑日而食。

【幷聚】18（ヘイシユウ） あはせあつめる。〔荀子、王制〕今將㆕蓄㆓積幷㆔聚之於倉廩㆒。

【幷植】19（ヘイシヨク／ヘイチヨク） 物事を專らにして勢力をたてる。一說に、幷は廉、植は直に通じ、廉直の意。字解🈔の❸を見よ。〔禮、檀弓下〕行㆓幷植於晉國㆒。〔注〕幷、猶㆑專也。〔疏〕幷者、謂㆘幷㆓他事㆒以爲㆗己有㆖、是專㆑權之事。

【幷心】20（ヘイシン） 心をあはせる。〔戰國、秦策〕結㆓親燕魏㆒、連㆓好齊楚㆒、積㆑慮幷㆑心、備㆑秦爲㆑務。〔後漢書、趙岐傳〕幷㆑心同㆑力、共奬㆓王室㆒、此安㆑上救㆑人之策也。

【幷束】21（ヘイソク） あはせたばねる。〔新序、節士〕幷「束三日暴。

【幷刀】22（ヘイタウ） 敏腕の喩。幷州快翦刀の略。幷州翦を見よ。〔袁桷、謝㆔王參議送㆓練春紅二枝㆒詩〕幷刀妙剪駢㆑頭來。

【幷土】23（ヘイド） 西方の土地の名。〔淮南子、墬形訓〕何謂㆓九州㆒、云云、正西弇州、曰㆓幷土㆒。〔注〕幷猶㆑成也、八月建酉、百穀成熟、故曰㆓幷土㆒也。

【幷呑】24（ヘイドン） あはせのむ。併せて自分のものにする。併呑。〔史記、秦始皇紀〕秦孝公據㆓殽函之固㆒、擁㆓雍州之地㆒、有㆘席㆓卷天下㆒、包㆓擧宇内㆒、囊㆓括四海㆒之意、幷㆓呑八荒㆒之心㆖。〔漢書、天文志〕幷㆓呑三晉㆒。〔吳志、諸葛恪傳〕幷㆓呑六國㆒。〔郭璞、江賦〕幷㆓呑沅澧㆒。

【幷包】25（ヘイハウ） あはせつつむ。〔莊子、徐無鬼〕聖人幷㆓包天地㆒。〔揚雄、長楊賦〕幷㆓包書林㆒。

【幷轡】26（ヘイヒ） たづなをあはせる。〔左氏、成、二〕乃左幷㆑轡、右援㆑枹而鼓。

【幷封】27（ヘイホウ） 獸の名。前後に首があるといふ。〔山海經、海外西經〕幷封、在㆓巫咸東㆒、其狀如㆑彘、前後皆有㆑首。

【幷奔】28（ヘイホン） ならびはしる。ともに行く。〔謝靈運、登㆓臨海嶠㆒初發㆓彊中㆒作與㆓從弟惠連㆒可㆘見㆓羊何㆒共和㆗之詩〕欲㆘抑㆓一生歡㆒、幷㆗奔千里游㆖。

【幷命】29（ヘイメイ） 必死の力を合せ盡す。ともに命がけで事を爲すこと。〔吳志、張紘傳、注〕紘進㆑計曰、古之圍㆑城、開㆓其一面㆒、以疑㆓衆心㆒、今圍㆑之甚密、攻㆑之又急、誠懼、幷㆑命戮㆑力、死戰之寇、固難㆓卒拔㆒。

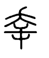
【幷容】30（ヘイヨウ） あはせ容れる。來るものをすべて拒まずに容れる。〔史記、曹相國世家〕夫獄市者、所㆓以幷容㆒也。

〖幷容偏覆〗31（ヘイヨウヘンプ） あはせいれあまねくおほふ。一樣に包容し庇護する。〔曾鞏、移㆓滄州㆒過㆑闕上㆑殿劄子〕以㆓幷容偏覆㆒、擾㆓服異類㆒。

【幷閭】32（ヘイリヨ） 木の名。しゆろ。椶櫚。栟閭。〔史記、司馬相如傳〕留落胥餘、仁頻幷閭。〔揚雄、甘泉賦〕攢㆔幷閭與㆓茇葀㆒兮。〔枚乘、七發〕梧桐幷閭。〔注〕善曰、幷閭、椶也。〔吳志、董襲傳〕孫權討㆓黃祖㆒、祖橫㆓兩蒙衝㆒、挾㆓守沔口㆒、以㆓栟閭大紲㆒繫㆑石爲㆑矴、上有㆓千人㆒、以㆑弩交射、飛矢雨下、軍不㆑得㆑前。

【幷力】33（ヘイリヨク） 力をあはせる。〔六韜、犬韜、分合〕幷㆑力合戰。〔史記、秦始皇紀贊〕同㆑心幷㆑力。〔賈誼、過秦論〕同㆑心幷㆑力。

【幸】
9176


小篆

🈩カウ ギヤウ 〔集韻〕下耿切 ㄒㄧㄥˋ hsing⁴ 梗

🈔デフ ネフ 〔集韻〕昵輒切 葉

🈩❶**さいはひ**。㋑いきながらへること。もと㚔(**4**－**7853**)に作る。〔正字通〕幸、本作㆑㚔。〔說文〕㚔、吉而免㆑凶也、从㆑屰从㆑夭、夭、死之事、死、謂㆓之不幸㆒。〔論語、雍也〕不幸短命死矣。〔皇疏〕凡應㆑死而生曰㆑幸、應㆑生而死曰㆓不幸㆒。㋺しあはせ。福。〔論語、述而〕丘也幸、苟有㆑過、人必知㆑之。㊇めでたい。えんぎがよい。〔論衡、幸偶〕火所㆑不㆑燔、俗或喜㆑之、名曰㆓幸草㆒。㊁褒賞。〔周禮、天官、大宰〕三曰、予、以馭㆓其幸㆒。〔注〕幸、謂㆘言行偶㆓合於善㆒、則有㆙以賜㆚予之㆖、以勸㆑後也。❷**さいはひする**。㋑いかす。〔呂覽、忠廉〕幸㆑汝以成㆓而名㆒。〔注〕幸、活也。㋺あはれむ。めぐむ。しあはせをあたへる。〔呂覽、至忠〕王必幸㆔臣與㆓臣之母㆒。〔注〕幸、哀也。〔漢書、高帝紀〕居㆓帝位㆒甚實宜、願大王以幸㆓天下㆒。〔注〕師古曰、福喜之事、皆稱爲㆑幸。❸**したしむ**。〔廣雅、釋詁三〕幸、親也。❹**めでる**。いつくしむ。寵愛する。〔字彙〕幸、愛也、寵也。〔史記、項羽紀〕有㆓美人㆒、名虞、常幸從。〔史記、佞幸傳序〕昔以㆑色幸者多矣。❺**とぎにはべらせる**。〔廣雅、釋詁一〕幸、淫也。〔字彙〕幸、御也。〔史記、衞世家〕襄公有㆓賤妾㆒、幸㆑之有㆑身。〔宋玉、高唐賦序〕妾巫山之女也、云云、願薦㆓枕席㆒、王因幸㆑之。❻**親愛せられる者**。寵をうける者。〔獨斷、上〕親愛者皆曰㆑幸。〔後漢書、呂強傳〕素餐私幸、心加㆓榮擢㆒。❼**めぐみ**。たまもの。恩寵。〔漢書、霍去病傳〕軍亦有㆓天幸㆒、未㆓嘗困絶㆒。〔漢書、霍光傳〕得㆓幸於武帝㆒。❽**よろこぶ**。〔史記、越世家〕獨自歡幸。❾**このむ**。幸酒(37)を見よ。❿**こひねがふ**。願ひ望む。〔漢書、灌夫傳〕幸㆑得㆓召見㆒。〔注〕師古曰、幸、冀也。〔後漢書、鮑永傳〕慙㆘以㆓其衆㆒幸㆗富貴㆖。〔注〕幸、希也。⓫**おもひがけないしあはせ**。又、それを得べき實質がないのに得たさいはひ。こぼれざいはひ。僥倖。〔小爾雅、廣義〕非㆑分而得、謂㆓之幸㆒。〔增韻〕非㆑所㆑當㆑得而得曰㆑幸。〔國語、晉語六〕武不㆑行而勝、幸也。〔注〕幸、僥幸也。〔國語、晉語九〕德不㆑純而福祿並至、謂㆓之幸㆒。〔荀子、王制〕朝無㆓幸位㆒、民無㆓幸生㆒。〔注〕幸、僥倖也。〔漢書、伍被傳〕不㆑可㆓以徼㆑幸邪。〔注〕師古曰、幸、非望之福也。⓬**みゆき**。いでまし。行幸。〔獨斷、上〕幸者、宜㆑幸也、世俗謂㆑幸爲㆓僥倖㆒、車駕所㆑至、民臣被㆓其德澤㆒、以爲㆓僥倖㆒、故曰㆑幸也。〔漢書、司馬相如傳下〕設㆓壇場㆒望㆑幸。〔注〕師古曰、幸、臨幸也。⓭**さいはひに**。折よく。都合よく。〔華嚴經音義、上〕幸、賴也。〔史記、齊太公世家〕幸來會飮。⓮古は㚔(**3**－**5884**)・㚙(**1**－**152**)に作る。〔玉篇〕㚔、今作㆑幸。〔玉篇〕㚙、今作㆑幸。⓯或は倖(**1**－**771**)に作る。〔正字通〕幸、或作㆑倖。⓰**姓**。〔通志、氏族略、上聲〕幸氏、望出㆓南昌㆒、晉書術士幸靈、唐幸南容、並洪州人、宋有㆓幸伯・幸佑・幸之武㆒、登㆓進士第㆒、望出㆓鴈門㆒。🈔㚔(**3**－**5884**)に同じ。〔集韻〕㚔、隷作㆑幸。

名乘 タカ。ユキ。トミ。ヨシ。トモ。ムラ。タツ。ヒデ。

邦 **さち**。海や山でとれた獲物。

解字 會意。もと㚔に作る。夭と屰との合字。夭は早死、屰はさからふ。卽ち早死をまぬかれることを吉事とし、さいはひの意に用ひる。〔說文、幸、段注〕屰、不㆑順也、不㆔順㆓從天死㆒之事。▽ （甲骨文） 象形。手枷に象り、逆にそれから免れて、仕合せの意を表はす。

參考 幸(**9**－**28433**)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕幸、慶幸。幸、音獺、小羊。

【幸愛】1（カウアイ） 親しみ愛する。かはいがる。〔史記、

賈生傳〕吳廷尉爲二河南守一、聞二其秀才一、召置二門下一、甚幸愛。

【幸位】2（カウヰ） 僥倖でついてゐる位。相當の德がなくて位についてゐること。〔荀子、王制〕朝無二幸位一、民無二幸生一。〔注〕幸、僥倖也。

【幸運】3（カウウン） よいしあはせ。よいまはりあはせ。幸福な運命。好運。

【幸運兒】4（カウウンジ） 幸運な人。しあはせのよい者。

【幸榮】5（カウエイ） さいはひ。しあはせ。光榮。

【幸宴】6（カウエン） みゆきしてさかもりする。〔蘇舜欽、昇陽殿故址詩〕至尊黃金輿、乘レ春日幸宴。

【幸遠】7（カウエン） 宋、聶昌（9－29179··12）の字。

【幸樂】8（カウガウ） ねがふ。〔戰國、齊策〕故曰、矜功不レ立、虛願不レ至、此皆幸二樂其名華一、而無二其實德一者也。〔注〕樂、五教反。

【幸學】9（カウガク） 學校にみゆきする。〔南齊書、武帝紀〕永明四年三月辛亥、國子講二孝經一、車駕幸レ學、賜二國子祭酒・博士・助教絹一、各有レ差。

【幸姬】10（カウキ） お氣に入りの女。君主の妾。寵妾。〔史記、孟嘗君傳〕孟嘗君使下人抵二昭王幸姬一求上レ解。

【幸詭】11（カウキ） むさぼりいつはる。〔郝經、冬至後在二儀眞館一賦レ詩以贈二三件使一詩〕萬變惟惘赤、一念無二幸詭一。

【幸冀】12（カウキ） こひねがふ。願ひのぞむ。又、ねがひ。のぞみ。〔魏志、陳思王植傳〕幸二冀試用一、終不レ能レ得。〔宋史、侯蒙傳〕絕二幸冀一。

【幸虧】13 hsing^4 k'uei^1 しあはせに。僥倖に。〔紅樓夢、十六回〕幸虧我從小兒奶了倆這麼大。

【幸覬】14（カウキ） こひねがひのぞむ。〔鮑照、河淸頌〕吏礪二平端一、民羞二幸覬一。

【幸邱】15（カウキウ） 山名。雲南省祿勸縣の西。〔讀史方輿紀要、雲南、鎭沅府、祿谷寨長官司、祿勸州〕幸邱山、在二故易籠縣東北一、四面陡絕、頂有二三峯一、可レ容二數萬家一、昔爲二羅婺寨一、有二天生城一、牢不レ可レ破。

【幸御】16（カウギョ） ㊀みゆき。〔漢書、循吏、召信臣傳〕奏下請上林諸離遠宮館稀二幸御一者、勿中復繕治共張上。㊁愛し近づける。とぎにはべらせる。〔後漢書、荀爽傳〕諸非二禮聘一、未二曾幸御一者、一皆遣出、使レ成二妃合一。

【幸近】17（カウキン） 愛し近づける。〔史記、衞將軍驃騎傳〕以二善射一、景帝幸二近之一也。

【幸偶】18（カウグウ） ㊀幸と偶。共によいめぐりあはせ。幸運。又、一般にめぐりあはせ。運。〔論衡、命義〕凡人、操行有レ賢有レ愚、及レ遭二禍福一、有レ幸有二不幸一、舉レ事有レ是有レ非、及レ觸二賞罰一、有レ偶有二不偶一。〔論衡、命義〕人有レ命、有レ祿、有二遭遇一、有二幸偶一、云云、幸者、謂下所二遭觸一得中善惡上也、獲レ罪得レ脫、幸也、無レ罪見レ拘、不幸也、云云、偶也、謂レ事レ君也、以レ道事レ君、君善二其言一、遂用二其身一、偶也、行與レ主乖、退而遠、不偶也。㊁論衡の篇名。

【幸會】19（カウクワイ） さいはひにであふ。〔謝瞻、於二安城一答二靈運一詩〕幸會果二代耕一、符二守江南曲一。〔韓愈、答二張籍一書〕及下聆二其音聲一、接中其辭氣上、則有二願レ交之志一、因二緣幸會一、遂得レ所レ圖。

【幸活】20（カウクワツ） 生きんことをこひねがふ。又、幸に生き長らへる。〔呂覽、介立〕鄭人之下レ虁也、莊蹻之暴レ郢也、秦人之圍二長平一也、其卒遞而相食、不レ辨二其義一、冀二幸以得レ活。〔曹文晦、水車詩〕蘇レ枯幸レ活莊子鮒、騰レ空如レ化琴高鯉。

【幸教】21（カウケウ） 幸に教へよ。どうぞ教へて下さいの意。幸は、こひねがふ。〔史記、范雎傳〕秦王跽而請曰、先生何以幸教二寡人一、范雎曰、唯唯。

【幸胡】22（カウコ） 鳥の名。ふくろふ。巴蜀の地で、鴞鳥を訓狐といひ、俗に譌つて幸胡といふ。〔正字通〕鴞、巴蜀異物志 鵩鴞、體有二文色一、土俗因レ形名曰レ鵩、又名二訓狐一、俗譌爲二幸胡一。

【幸魂】23（サキタマ サキミタマ） 人に幸を與へる神靈。〔日本書紀、神代紀上〕幸魂、此云二佐枳彌多摩一。

【幸災】24（カウサイ） 人の災をもつけの幸とする。〔左氏、僖、十四〕秦饑、使レ乞二糴於晉一、晉人弗レ與、慶鄭曰、背レ施無レ親、幸レ災不レ仁。

【幸草】25（カウサウ） えんぎのよい草。〔論衡、幸偶〕火燔二野草一、車轢所レ致、火所レ不レ燔、俗或喜レ之、名曰二幸草一。

【幸草亭】26（カウサウテイ） 清、楊文瑩（6－15112··771）の室名。

【幸察】27（カウサツ） 明察をこひねがふ。察して下さいの意。〔史記、三王世家〕唯願陛下幸察。〔司馬相如、上書諫レ獵文〕臣願陛下留レ意幸察。〔朱熹、答二劉平甫一書〕千萬幸察。

【幸山】28（カウザン） 山にみゆきする。〔雍錄〕玄宗亦未下嘗以二六七月一幸中華淸宮上、則遞進二荔枝一、亦不レ在二幸山時一也。

【幸私】29（カウシ） 私に寵愛する。えこひいきをする。〔後漢書、鄧皇后紀〕上令三陛下有二幸私之譏一。

【幸寺】30（カウジ） 佛寺にみゆきする。〔南史、梁武帝紀下〕大通元年春三月辛未、幸レ寺捨身、甲戌、還レ宮大赦。

【幸舍】31（カウシャ） 戰國、齊の孟嘗君が食客を請じた中級の舍の名。〔史記、孟嘗君傳〕孟嘗君遷二之幸舍一、食有レ魚矣。〔注〕索隱曰、按、傳舍・幸舍・代舍、當二上中下三等之客所レ舍之名一也。

【幸倡】32（カウシャウ） 君に寵愛せられてゐるわざをぎ。幸娼。〔漢書、東方朔傳〕時有二幸倡郭舍人一。〔注〕師古曰、幸倡、倡優見二幸遇一者也。

【幸賞】33（カウシャウ） 功勞がなくて得た賞。僥倖に得た賞。〔韓非子、備內〕士無二幸賞一、無二踰行一。

【幸若】34（カウワカ サイワカ） ㊀幸若舞を見よ。㊁姓氏。〔明治新撰姓氏錄〕。

【幸若舞】35（カウワカマヒ サイワカマヒ） 舞曲の一。扇拍子で謠ひ且つ舞ふ。桃井幸若が創始した。其の詞は多く義經記・曾我物語等から取り、樂器は大鼓・小鼓のみを用ひる。〔應仁別記〕。

【幸手】36（サッテ） 武藏國の地名。〔學藝志林〕。

【幸酒】37（カウシュ） 酒を好む。〔漢書、成帝紀〕帝爲二太子一、好二經書一、寬博謹愼、其後幸レ酒、樂二燕樂一。〔注〕晉灼曰、幸レ酒、好レ酒也。

【幸從】38（カウジュウ） 寵愛せられて從ふ。〔史記、項羽紀〕有二美人一、名虞、常幸從、駿馬、名騅、常騎レ之。

【幸處】39（カウショ） みゆきする場處。〔北史、魏文成帝紀〕和平四年秋七月壬午詔曰、朕每歲閑月、命二羣臣一講レ武、所レ幸之處、必立二宮壇一、糜費之功、勞損非レ一、宜レ仍二舊貫一、何必改作也。

【幸茸】40（サイハヒタケ） 靈芝の異名。

【幸心】41（カウシン） 萬一をこひねがふ心。〔管子、君臣下〕雖レ有二偏卒之大夫一、不三敢有二幸心一、則上無レ危矣。〔纂詁〕不下敢有中冀二幸萬一一之心上。

【幸臣】42（カウシン） ㊀お氣に入りの臣。寵臣。〔戰國、燕策〕恐二侍御者之不一レ察下先王之所三以畜二幸臣一之理上。〔列子、說符〕幸臣諫曰、人所レ憂者、莫レ急二乎死一。〔韓非子、姦劫弒臣〕必將下以二曩之合一レ己、信中今之言上、此幸臣之所三以得二欺レ主成一レ私者也。〔史記、黥布傳〕故人幸臣。㊁星の名。五帝座東北の一星をいふ。〔晉書、天文志上〕帝坐東北一星曰二幸臣一。

【幸進】43（カウシン） 幸もて進む。寵愛せられることによつて出世する。〔後漢書、皇后紀贊〕既云二德升一、亦曰二幸進一。〔注〕德升、謂二馬・鄧等一也、幸進、謂二閻・何類一也。

【幸震】44（サツナイ） 北海道十勝國の地名。

【幸人】45（カウジン） しあはせのよい人。幸運な人。〔說苑、雜言〕夫陳蔡之閒、丘之幸也、二三子從レ丘者、皆幸人也。〔白居易、詠興五首詩序〕蓋河洛閒一幸人也。

【幸甚】46（カウジン） ㊀幸がはなはだしい。極めて仕合せである。〔史記、淮陰侯傳〕何曰、幸甚。㊁手紙の前がき、又は結辭に用ひる。〔李陵、答二蘇武一書〕子卿足下、勤宣二令德一、策二名淸時一、榮問休暢、幸甚幸甚。〔韓愈、與二鄂州柳中丞一書〕不レ惜三時賜二示及一、幸甚不宣。

【幸生】47（カウセイ） ㊀生をこひねがふ。又、游惰で務を怠り徒らに生きながらへること。又、戰爭の時など敢て死力を盡さず生き長らへようとすること。〔國語、晉語三〕國斯無レ刑、媮レ居幸レ生。〔荀子、富國〕朝無二幸位一、民無二幸生一。〔注〕惰游而食、謂二之幸生一也。〔管子、七法〕賞罰不レ明、則民幸生、云云、賞罰明、則人不レ幸。〔韓愈、淸邊郡王楊燕奇碑〕不レ畏二義死一、不レ榮二幸生一。㊁幸に生まれ出る。〔韓愈、感二二鳥一賦序〕幸生二天下無事時一、承二先人之遺業一。㊂（サチフ） 羽前國の地名。

【幸捷】48（カウセフ） 幸に勝つ。運よく勝つ。〔班彪、王命論〕游說之士、至レ比二天下於逐鹿一、幸捷而得レ之、不レ知二神器有一レ命、不レ可下以二智力一求上。

【幸先】49（サイサキ） ㊀善事の前兆。吉兆。㊁緣起。前兆。

【幸多】50（カウタ） しあはせが多い。〔司空圖、修史亭詩〕自算平生幸已多。

【幸待】51（カウタイ） 氣に入つて待遇する。〔後漢書、北海靖王興傳〕顯宗之在二東宮一、尤見二幸待一。

【幸昵】52（カウヂツ） したしみ愛する。〔唐書、則天武皇后

傳）薛懷義負二幸昵一、氣蓋二一時一。

【幸聽】53 カウチヤウ みゆきして聽聞する。〔南齊書、禮志上〕永明三年冬、皇太子講二孝經一、親臨二釋奠一、車駕幸聽。

【幸中】54 カウチユウ 幸にあたる。まぐれあたり。〔漢書、東方朔傳〕上嘗使二諸數家射覆一、朔連中、輒賜レ帛、時有二幸倡郭舍人一、滑稽不レ窮、常侍二左右一曰、朔狂幸中耳、非二至數一也。〔陸龜蒙、招二野龍一對〕昔豢龍氏求二龍之嗜慾一、幸而中焉、得二二龍一而飲二食之一。

【幸田】55 カウダ 姓氏。〔和爾雅〕。

【幸否】56 カウヒ 氣に入られることとさうでないこと。寵遇されることとされないこと。〔墨子、非儒下〕窮達・賞罰・幸否、有レ極。

【幸媚】57 カウビ 氣に入りいつくしむ。愛し親しむ。又、さうせられること。〔後漢書、順帝紀〕遠獻二大珠一、以求二幸媚一。〔朱熹、策問〕又詔二郡國一、毋レ得下以二羨餘一來獻求中幸媚上。

【幸便】58 カウビン よいついで。よいたより。

【幸福】59 カウフク しあはせ。さいはひ。

【幸福主義】60 カウフクシユギ 行爲の目的は幸福にあるとして、之に合ふか否かによつて、善惡を判定せんとする主義。

【幸民】61 カウミン 僥倖を希つて正業を務めぬ民。〔左氏、宣、十六〕善人在レ上、則國無二幸民一、諺曰、民之多幸、國之不幸也、是無二善人一之謂也。〔會箋〕幸民、僥倖之民也。〔黃庭堅、同二子瞻韻一和二趙伯充團練一詩〕醉鄉乃是安レ身處、付二與升平一作二幸民一。

【幸免】62 カウメン 僥倖にのがれる。〔論語、雍也〕子曰、人之生也直、罔レ之生也、幸而免。〔司馬光、再和二邵堯夫年老逢レ春詩〕吾儕幸免簪裾累、痛飲閒吟樂未レ央。

【幸來】63 カウライ 幸に來る。折よく來る。〔史記、齊太公世家〕常之母有二魚菽之祭一、幸來會飮。

【幸菱】64 サイハヒビシ 模様の名。

【幸臨】65 カウリン ❶みゆきしのぞむ。臨は、其の場所へ行くこと。〔司馬相如、長門賦〕脩二薄具一而自設兮、君曾不レ肯二乎幸臨一。❷幸にのぞむ。他人が臨席することをいふ敬語。〔漢書、灌夫傳〕夫嘗有レ服過二丞相蚡一、蚡從容曰、吾欲下與二仲孺一過中魏其侯上、會仲孺有レ服、夫曰、將軍迺肯幸臨、況二魏其侯一、夫安敢以レ服爲レ解。

【幸靈】66 カウレイ 晉、豫章建昌の人。人のために疾を療し、妖怪を去る。〔晉書、九十五〕。

【徼レ幸】67 カウヲモトム 僥倖を求める。〔中庸〕君子居レ易以俟レ命、小人行レ險以徼レ幸。〔漢書、伍被傳〕不レ可二以徼レ幸邪。〔注〕師古曰、徼、要也、幸、非二望之福一也。

【得レ幸】68 カウヲウ ❶交際を得る。〔莊子、盜跖〕孔子復通曰、丘得二幸于季一、願望二履幕下一。❷恩寵を得る。〔漢書、霍光傳〕女弟子夫、得二幸於武帝一。

【幸寅遜】69 カウインソン 宋、蜀の人。初、孟昶に事へ、後、宋に歸す。官は鎭國軍行軍司馬。前蜀書の纂修に預る。〔宋史、四百七十九〕・〔宋史新編、一百九十〕・〔宋人軼事彙編、一百二十二〕。

【幸元龍】70 カウゲンリヨウ 宋、高安の人。字は震甫。慶元の進士。官は郢州通判。史彌遠に忤つて致仕す。著に松垣集がある。〔宋史翼、二十二〕。

【幸而免】71 サイハヒニシテマヌカル 僥倖に死をまぬかれて生きながらへる。幸免(62)を見よ。

【幸津川】72 サツガハ 近江國の名。

【幸德井】73 カウトクヰ 姓氏。

【幸反爲レ禍】74 サイハヒカヘツテワザハヒトナル 幸が却つて禍となる。〔呂覽、遇合〕任久不レ勝、則幸反爲レ禍。

【幸用之士】75 カウヨウノシ 免囚で兵卒として徵用された者をいふ。用ひられることを望み、其の恥を免れんことを求める士の意。〔六韜、犬韜、練士〕有下胥靡免罪之人、欲レ逃二其恥一者上、聚爲二一卒一、名曰二幸用之士一。

【幸魯盛典】76 カウロセイテン 書名。事迹二十卷。藝文二十卷。清、孔毓圻等撰。康熙二十三年、帝が闕里の衍聖公府に行幸した時、孔毓圻等が典禮を恭述して輯成す。〔四庫提要、史、政書類〕。

【幸逢二堯舜無爲化一】77 サイハヒニゲウシユンムヰノクワニアフ 聖代の治を謳歌した句。〔白居易、池上閒吟詩〕高臥閒行自在身、池邊六見二柳條新一、幸逢二堯舜無爲日一、得レ作二羲皇向上人一、四皓再除猶且健、三州罷レ守未二全貧一、莫レ愁客到無二供給一、家醞香濃野菜春。

【㚔】9177 カウ 幸(**4－9176**)に同じ。〔海篇〕㚔、同レ幸。

六畫

【⿱⺌干】9178 シユク 叔(**2－3154**)の古字。〔字彙補〕⿱⺌干、古文叔字。

七畫

【⿰吾干】9179 音未詳 むかへる。〔字彙補〕⿰吾干、音未詳、迎也。

【羿】9180 ヘイ 幷(**4－9175**)の本字。〔正字通〕幷、篆作レ羿。

九畫

【⿰天干】9181 ケン 幵(**4－9169**)に同じ。〔海篇〕⿰天干、與レ幵同。

【⿰冎干】9182 カツ カチ 〔集韻〕居曷切 ［曷］

⿰冎干⿰冎干は、さをたてるさま。〔集韻〕⿰冎干、⿰冎干⿰冎干、豎レ干皃。

十畫

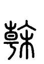
【幹】9183

［一］カン 〔集韻〕居案切 ［翰］ ㄍㄢˋ kan⁴

［二］カン 〔集韻〕河干切 ［寒］

［三］カン 〔集韻〕古旱切 ［旱］

［四］クワン 〔字彙補〕居緩切 ［旱］


小篆

［一］❶**はしら**。おやばしら。牆の端のはしら。榦(**6－15257**)の俗字。〔說文〕榦、築牆耑木也、從レ木倝聲。〔段注〕榦、俗作レ幹。〔書、費誓〕峙二乃楨榦一。〔傳〕旁曰レ榦。〔集傳〕旁曰レ榦、牆兩邊障レ土者也。❷**みき**。くき。〔字彙〕幹、草木莖也。〔嵇康、琴賦〕且晞二幹於九陽一。〔王勃、採蓮賦〕風低二綠幹一。❸**もと**。本質。主體。〔廣雅、釋詁三〕幹、本也。〔易、乾〕貞者、事之幹也。〔淮南子、原道訓〕生之幹也。〔注〕幹、質也。❹**からだ**。ほねぐみ。軀幹。〔玉篇〕幹、體也。〔左氏、昭、二十五〕惟是楄柎所二以藉一レ幹者。〔注〕幹、骸骨也。〔魏書、寇猛傳〕猛少以二姿幹一充二虎賁一。❺**せぼね**。〔韻會〕幹、又脊骨也。❻**わきばら**。〔儀禮、少牢饋食禮〕上佐食擧二尸牢幹一。〔注〕幹、正脅也。〔儀禮、特牲饋食禮〕佐食擧レ幹。〔注〕幹、長脅也。〔公羊、莊、元〕搚レ幹而殺レ之。〔注〕幹、脇也。❼**すね**。骭(**12－45111**)に通ず。〔正字通〕幹、與レ骭通。❽**きぢ**。しろ。器物の材料。〔禮、月令〕羽箭幹。〔注〕幹、器之木也。〔疏〕器之材樸、總謂二之幹一。❾**弓體**。弓幹。〔史記、齊世家〕弓膠昔幹、所二以爲一レ合也。〔注〕索隱曰、幹、弓幹也。❿**えだ**。大枝。〔華嚴經音義、上〕幹者、字書曰、幹、枝也、謂二麤枝一也。⓫**やまぐは**。桑の一種。杆(**6－14449**)に同じ。〔說文通訓定聲〕榦、字亦作レ杆。〔周禮、考工記、總目〕荊之幹。〔注〕幹、柘也、可三以爲二弓弩之幹一。⓬**しのだけ**。小竹。簳(**8－26592**)に同じ。〔說文通訓定聲〕榦、字又作レ簳。〔王褒、洞簫賦〕原二夫簫幹之所一レ生兮。〔注〕善曰、幹、小竹也。⓭**たへる**。になふ。〔易、蠱〕幹二父之蠱一。〔注〕幹二父之蠱一、能承二

先軌㆒堪㆓其任㆒者也。⑭**つかさどる**。典領する。〔後漢書、何敞傳〕典㆓幹國事㆒。〔注〕幹、主也。⑮**わざ**。はたらき。才能。器量。〔類篇〕幹、能㆑事也。〔吳志、胡綜傳〕有㆓文幹㆒。〔晉書、虞潭傳〕機幹不㆑及㆓于潭㆒。〔南史、孔靖傳〕愨實有㆓堪幹㆒、不㆑存㆓華飾㆒。⑯**こと**。ことがら。幹止(26)を見よ。⑰**つよい**。〔字彙〕幹、強也。〔淮南子、兵略訓〕此善爲㆓充幹㆒者也。〔注〕幹、強也。⑱**すぐれる**。〔魏志、王淩等傳評〕才識拔幹。⑲**ただしい**。〔太玄經、疑〕顚疑遇㆓幹客㆒。〔注〕幹、貞也。⑳**やすらか**。〔廣雅、釋詁一〕幹、安也。㉑**ただす**。〔廣雅、釋詁一〕幹、正也。〔易、蠱〕幹㆓父之蠱㆒。〔虞注〕幹、正也。㉒**たすける**。〔集韻〕幹、一曰、助也。㉓**おもだつ**。主たる。中心の。重要な。〔後漢書、欒巴傳〕雖㆓幹吏卑末㆒、皆課令㆓習讀㆒。〔注〕幹、府吏之類也、幹、猶㆑主也。㉔**蟲のさまを彫飾した鐘の鈎手**。斡(5－13522)に通ず。〔說文通訓定聲〕榦、叚借爲㆑斡。〔周禮、考工記、鳧氏〕旋㆑蟲謂㆓之幹㆒。〔注〕旋㆑蟲者、旋以㆑蟲爲㆑飾也。㉕**えと**。古、日を紀するために建てた十の命號。干(4－9165)に通ず。〔廣雅、釋天〕甲乙爲㆑幹、幹者、日之神也。〔後漢書、律曆志上、大橈作㆓甲子㆒、〔注〕月令章句、大橈云云、作㆓甲乙㆒以名㆑日、謂㆓之幹㆒。〔游宦紀聞〕自㆑甲至㆑癸爲㆓干幹㆒、後人省文爲㆑干、非也。㉖**さと**。**むらざと**。閈(11－41221)に通ず。〔說文通訓定聲〕榦、叚借爲㆑閈。〔楚辭、招魂〕去㆓君之恆幹㆒。〔注〕或曰、去㆓君之恆閈㆒、閈、里也、楚人名㆑里曰㆑閈也。㉗**はね**。**はねる**。碁の手法の名。〔圍棋義例、詮釋〕幹、閒也、謂㆘以㆑子閒㆑之曰㆑幹。㉘**姓**。〔尙友錄〕幹、見㆓姓苑㆒、宋幹沖、靈武人、其先從㆓夏主㆒遷㆓興州㆒。［二］**ゐげた**。井桁。韓(12－43185)に同じ。〔說文通訓定聲〕榦、說文、韓、井垣也、以㆑韓爲㆑之。〔集韻〕幹、井垣也。〔莊子、秋水〕吾跳㆓梁乎井幹之上㆒。〔漢書、枚乘傳〕單極之統斷㆑幹。［三］**やがら**。の。矢幹。笴(8－25951)に同じ。〔集韻〕笴、字林、箭笴也、或作㆑幹。〔釋名、釋兵〕矢、其體曰㆑榦。〔後漢書、公孫述傳〕蜀地沃野千里、名材竹幹器械之饒、不㆑可㆑勝㆑用。〔注〕竹幹、竹箭也。［四］**つかさどる**。管(8－26162)に通ず。〔漢書、食貨志下〕擅㆓幹山海之貨㆒。〔注〕師古曰、幹、謂㆓主領㆒也、讀與㆑管同。〔漢書、劉向傳〕石顯幹㆓尙書㆒。〔注〕師古曰、幹、與㆑管同、言㆔管㆓主其事㆒。

名乘　エダ。マサ。クル。ヨリ。ヨミ。ツネ。モト。ヨシ。タル。

【幹員】1 kan^4 yüan^2 才能ある人。熟練した人。

【幹役】2 kan^4 i^4 才幹ある下役人。幹差。

【幹殼】3 カンカク からだのぬけがらの意。蟬のぬけがらをいふ。〔列子、黃帝〕隨㆑風東西、猶㆓木葉幹殼㆒。〔膚齋口義〕幹、身也、幹殼、卽蟬身之殼也。

【幹翮】4 カンカク おもな羽。中心となつて事をなすこと。〔蜀志、麋竺傳〕竺雍容敦雅、而幹翮非㆑所㆑長。〔唐書、馬周傳〕雖㆓幹翮非㆑彊、亦可㆓以免㆑累。

【幹器】5 カンキ 中心になつて事を處理する才能。幹局。〔華陽國志、十一、後賢志〕(柳)伸子純、字偉淑、有㆓名德幹器㆒、擧㆓秀才㆒。

【幹局】6 カンキョク 中心になつて事を處理する器量。〔蜀志、楊儀傳評〕李嚴以㆓幹局㆒達、魏延以㆓勇略㆒任。〔晉書、敬王恬傳〕恬忠正有㆓幹局㆒、在朝憚㆑之。〔晉書、張甫傳〕少有㆓幹局㆒。

【幹玉】7 カンギョク 陳、陸瑜(11－41708・・237)の字。

【幹活】8 kan^4 huo^2 職業を營む。仕事をする。

〖幹活計〗9 kan^4 huo^2 chi^4 仕事をする。

【幹官】10 カンクワン 均輸の事を掌る官。斡官。〔稱謂錄、鹽務官、幹官〕漢書百官公卿表、幹官、注、幹音筦、主也、主㆓均輸之事㆒、所謂幹㆓鹽鐵㆒而榷㆓酒沽㆒也。

【幹卿】11 カンケイ 元、烏古孫良楨(7－18998・・414)の字。

【幹劇】12 カンゲキ はげしい職務を處理する。又、その才能。〔隋書、李孝貞傳〕然孝貞無㆓幹劇之用㆒、頗稱㆑不㆑理。

【幹獻】13 カンケン 複姓。〔通志、氏族略、以㆑族爲㆑氏〕幹獻氏、世本、宋司徒華定爲㆓幹獻氏㆒。

【幹蠱】15 カンコ ①父母の過惡をおほひ正す。轉じて、過惡がある人の子の、賢才あるものをいふ。〔易、蠱〕初六、幹㆓父之蠱㆒、有㆑子考无㆑咎。〔注〕以㆓柔巽之質㆒、幹㆓父之事㆒、能承㆓先軌㆒、堪㆓其任㆒者也。〔虞注〕幹、正也。〔書言故事、子孫類〕書簡起居、父母存者、幹㆑蠱之暇。②事に任ずる。事をつかさどる。又、はたらき。才能。〔顏氏家訓、治家〕婦主㆓中饋㆒、唯事㆓酒食衣服之禮㆒耳、國不㆑可㆑使㆑預㆑政、家不㆑可㆑使㆑幹㆑蠱。〔白居易、唐楊州倉曹參軍王府君墓誌銘序〕莅㆑事以㆑幹㆑蠱聞。

【幹國】16 カンコク 國家をさめる。幹國之器を見よ。〔蜀志、諸葛亮傳〕君受㆓大任㆒、幹㆓國之重㆒。

〖幹國之器〗17 カンコクノキ 國家を治める器量。〔後漢書、史弼傳〕弼有㆓幹國之器㆒、宜㆑登㆓台相㆒。〔後漢書、黨錮、岑晊傳〕晊有㆓高才㆒、郭林宗・朱公叔等皆爲㆑友、李膺・王暢、稱㆔其有㆓幹國器㆒。

【幹根】18 カンコン みきとね。根幹。〔益部方物略記、海芋〕葉似㆑芋而有㆓幹根㆒。

【幹佐】19 カンサ 主となつて事務を掌る輔佐官。〔魏志、鄧艾傳〕爲㆓都尉學士㆒、艾以㆓口吃㆒、不㆑得㆑作㆓幹佐㆒、爲㆓稻田守叢吏㆒。

【幹差】20 kan^4 ch'ai^1 幹役(2)に同じ。

【幹才】21 カンサイ はたらき。うでまへ。才幹。伎倆。手腕。幹材に同じ。〔福惠全書、錢穀部、解給〕當㆛愼選㆘精壯有㆓幹才㆒者㆖、以充㆚斯任㆙。

【幹濟】22 カンサイ ①立派に成就する。正しく成就する。又、つかさどり成就する。〔易、乾、足㆓以幹㆒㆑事、疏〕使㆓事皆幹濟㆒。〔唐書、陳少游傳〕少游長㆓權變㆒、所㆑至一切幹濟。②よくはからふ。又、その才能。〔福惠全書、筮仕部、薦託〕有㆓幹濟㆒之人、外而上司出㆑京。

【幹材】24 カンザイ はたらき。うでまへ。才能。幹才。〔列女傳、辯通、晉弓工女妻傳〕妻往說㆑公、陳㆓其幹材㆒。

【幹策】25 カンサク 事を處理するはかりごと。幹略。〔魏志、毋丘儉傳〕以㆔儉有㆓幹策㆒、徙爲㆓幽州刺史㆒。

【幹止】26 カンシ 生業と居處。生業をはげみ、故鄉にとどまる意。幹は事、止は居。〔書、多士〕爾乃尙寧㆓幹止㆒。〔傳〕乃庶幾安㆓汝故事㆒止㆑居。〔蔡傳〕幹、事、止、居也、庶幾安㆓爾所㆒㆑事、安㆓爾所㆒㆑居也。

【幹枝】27 カンシ 十干と十二支。干支。十干(2－2695・・53)・十二支(2－2695・・367)を見よ。〔廣雅、釋天〕甲乙爲㆑幹、幹者、日之神也、寅卯爲㆑枝、枝者、月之靈也。〔後漢書、律曆志上、記稱大橈作㆓甲子㆒、注〕月令章句、大橈始作㆓甲乙㆒以名㆑日、謂㆓之幹㆒、作㆓子丑㆒以名㆑月、謂㆓之枝㆒。

〖幹枝術〗28 カンシジュツ 人が生れた時の干支によつて禍福吉凶をうらなふ術。

【幹事】29 カンジ ①事に根幹となる。事をつかさどる。又、其のやくめ。其の人。一說に、事を立派に成就する。〔易、乾〕貞固足㆓以幹㆒㆑事。〔疏〕言㆘君子能堅固貞正、令㆓物得㆒㆑成、使㆗事皆幹濟㆖。〔後漢書、景丹傳〕丹以㆓言語㆒爲㆓固德侯相㆒、有㆓幹㆑事稱㆒、遷㆓朔調連率副貳㆒。〔魏志、邴原傳〕淸靜足㆓以厲㆒㆑俗、貞固足㆓以幹㆒㆑事。〔朱熹、答㆓黃子耕㆒書〕今且㆘造㆓一小書院㆒、以爲㆗往來幹㆑事休息之所㆖。②kan^4 shih^4 性交を行ふ。

〖幹事人〗30 カンジニン 幹事之臣に同じ。〔通俗編、行事、幹事人〕南史沈文學傳、宋明帝就㆓褚彥回㆒求㆓一幹事人㆒、爲㆓晉平王上佐㆒。

〖幹事之臣〗31 カンジノシン 主と爲つて事務を掌る臣。〔魏書、李訢傳〕必爲㆓朕家幹㆑事之臣㆒。

【幹時】32 カンジ 時務を辨ずる。〔潘岳、西征賦〕思㆓夫人之政術㆒、實幹㆑時之良具。

【幹舟】33 カンシウ 小船。一說に、大船。〔淮南子、主術訓〕不㆑能㆘與㆓越人㆒乘㆓幹舟㆒、浮㆗於江湖㆖。〔注〕幹舟、小船也、一曰、大舟也。

【幹實】34 カンジツ 正しくて實のあること。〔晉書、卞

壺傳〕壺幹實當レ官、以二襃貶一爲二己任一。

【幹主】35 カンシュ 大本となるかしら。宗主。〔墨子、非命上〕上帝山川鬼神、必有二幹主一。〔閒詁〕幹主猶レ言二宗主一耳。

【幹叔】36 カンシュク 宋、王道眞(7－20823‥1894)の字。

【幹肅】37 カンシュク 根本となりつつしんで事を行ふ。〔蜀志、董允傳〕幹肅有レ章、和レ義利レ物。

【幹植】38 カンショク 根本をいふ。〔淮南子、兵略訓〕凡此四者、兵之幹植也。

【幹臣】39 カンシン 字號。㊀五代晉、趙在禮(10－37171‥570)の字。㊁宋、徐伸(4－10110‥172)の字。㊂宋、蕭固(9－32012‥116)の字。㊃元、李楨(6－14459‥606)の字。㊄清、周楨(2－3441‥385)の字。㊅清、朱桂楨(6－14424‥731)の字。㊆清、張貞生(4－9812‥1389)の字。

【幹人】40 カンジン ㊀役に立つ人。才能ある人。又、正しい人。〔抱朴子外篇、行品〕臨二凝結一而能斷、操二繩墨一而無レ私者、幹人也。㊁kan^4 jen^2 用向を辨ずる人。手代の類。

【幹世】41 カンセイ 世務をつかさどる。〔北史、裴矩傳〕世父讓之謂曰、云云、當レ資二幹世之務一。

【幹正】42 カンセイ つかさどり正す。事を宜しくし道にかなはしめる。〔易、謙、疏〕利貞、是幹正也、云云、以レ謙下レ人、何以幹二正於物一、故不レ云二元興利貞一也。

【幹旋】43 カンセン つかさどり、とり行ふ。〔福惠全書、庶政部、條二陳興革一〕雖二復極レ力幹旋一、又安能動二上官之聽一耶。

【幹線】44 カンセン 鐵道などの主要な線路。本線。支線の對。

〔幹線支線〕45 カンセンシセン 鐵道などの本線と本線から分れた線。

【幹當】46 カンタウ 事を處理すること。〔宋史、貨食志下六〕熙寧七年、始遣三三司幹二當公事一、李杞入レ蜀經畫。〔都城紀勝〕刀鑷手作人、專二攻街市皁院一、取二奉郎君子弟一、幹二當雜事一、說二合交易等一。

【幹治】47 カンチ 正しく治まる。又、立派な政治。〔宋史、劉綜傳〕振二擧文法一、時稱二幹治一。

【幹竹】48 カラタケ まだけをいふ。簳。

〔幹竹割〕49 カラタケワリ 幹竹を割るやうに、物を縦に眞直に切りわること。主として人を斬るにいふ。

【幹亭】50 カンテイ 淺井正直の號。淺井圖南(7－17697‥58)を見よ。

【幹楨】51 カンテイ 物の根本。〔法言、五百〕經營然後知二幹楨之克立一也。

【幹僮】52 カンドウ 省中の使用に供するため官で雇ふ奴僕。〔宋書、沈演之傳〕五省官所レ給幹僮、不レ得二雜役一。

【幹任】53 カンニン 事に主となり任ずること。〔後漢書、伏湛傳〕光武卽位、知二湛名儒舊臣一、欲レ令三幹二任內職一。

【幹嗎】54 kan^4 ma^2 何をする。なぜ。何。北京天津地方の方言。

【幹貌】55 カンバウ すがたかたち。體貌。〔獨孤郁、上二權侍郎一書〕小示二其光鋒幹貌於一人一。

【幹敏】56 カンビン 事を處理するに、手腕があつて素早い。〔唐書、鄭元璹傳〕元璹幹敏、所レ至常有レ譽。

【幹部】57 カンブ 枝葉に對する幹の意。中心となる部。團體中の首腦者。

〔幹部候補生〕58 カンブコウホセイ 舊陸軍で、中等學校以上の諸學校卒業者の軍事教練合格者で、將校の資格を得る豫定で教育せられてゐる者。在營期間は十箇月乃至一箇年。

【幹辦】59 カンベン 主幹辦理の略。主任と爲つて事件を取りさばく。宋の官名に此の名目を用ひるものが多い。〔宋史、職官志三〕幹辦受給監門官各一員。〔福惠全書、涖任部、馭衙役〕吏胥幹二辦公事一。

【幹麼】60 kan^4 ma^2 どうして。どういふわけで。幹嗎(54)に同じ。

【幹勇】61 カンユウ 才能あり勇氣あること。〔北史、于栗磾傳〕烈曰、老臣歷二奉累朝一、頗以二幹勇一賜レ識。

【幹裕】62 カンユウ はたらきありゆとりあること。〔權德輿、李國眞碑文〕公有二子四人一、皆有二幹裕一、而屈二于年位一。

【幹用】63 カンヨウ 主として用ひる。又、用をつかさどる。又、はたらきがあつて役に立つ。〔後漢書、黃香傳〕帝亦惜三香幹用久習二舊事一。

【幹翼】64 カンヨク みきとつばさ。根幹となるものと補助となるものをいふ。〔魏志、高堂隆傳〕深根固レ本、竝爲二幹翼一、雖レ歷二盛衰一、內外有レ輔。

【幹吏】65 カンリ ㊀中心となる役人。主要な役人。主だつた役人。〔後漢書、欒巴傳〕雖二幹吏卑末一、皆課令三習讀一。〔注〕幹、府吏之類也、晉令二諸郡國一、不レ滿二五千以下一、置二幹吏二人一、郡縣皆有レ幹、幹猶レ主也。〔論衡、程材〕幼爲二幹吏一、以二朝廷一爲二田畝一、以二刀筆一爲二耒耜一、以二文書一爲二農業一。㊁練達の役人

【幹理】66 カンリ つかさどりをさめる。管理。〔後漢書、馬皇后紀〕后時年十歲、幹二理家事一。〔魏志、裴潛傳評〕和洽清和幹理。

〔幹理敏捷〕67 カンリビンセフ 事を處理することがすばやい。〔蜀志、張裔傳〕汝南許文休入レ蜀、謂二裔幹理敏捷、是中夏鍾元常之倫也。

【幹略】68 カンリヤク 能く事を處理して謀略あること。〔吳志、孫林傳評〕諸葛恪、才氣幹略。〔晉書、劉弘傳〕弘有二幹略政事之才一。

【幹了】69 カンレウ 事を處理しをはる。爲しをはる。〔易、乾、嘉會足以合レ禮、疏〕冬既收藏、事皆幹了也。〔北史、畢義雲傳〕性嚴酷、事多幹了。

【幹練】70 カンレン 物事に熟練する。熟達する。〔蔡邕、大傳胡廣碑〕幹二練機事一、綢二繆樞極一。〔南史、王球傳〕大將軍彭城王義康、專以二政事一爲レ本、刀筆幹練者、多被二意遇一。

【幹路】71 kan^4 lu^4 幹線(44)に同じ。

【幹營生】72 kan^4 ying^2 shêng^1 仕事をする。又、房事を行ふ喩。

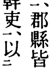
【幹甚麼】73 kan^4 shen^2 ma ㊀何をするか。㊁何故に。㊂何をするにも。

【幹頭人】74 kan^4 t'ou^2 jen^2 支配人。管理人。

【幹場官司】75 kan^4 ch'ang^2 kuan^1 ssŭ 訟訴を起す。

【強レ幹弱レ枝】76 ミキヲツヨクシエダヲヨワム 本を強くして、末を弱める意。政治上、中央の權力を強めて、地方を制御すること。強幹(4－9815‥30)の㊀を見よ。〔班固、西都賦〕蓋以二強レ幹弱一レ枝、隆二上都一而觀二萬國一。〔後漢書、袁紹傳〕彷二徨東裔一、蹈二據無レ所、幕府惟二強レ幹弱レ枝之義一、且不レ登二畔人之黨一。

【⿱幵束】9184 ケン 〔集韻〕吉典切 銑



小篆 ㊀**こたば。小さくたばねる。**〔說文〕⿱幵束、小束也、从レ束幵聲、讀若レ繭。〔廣雅、釋詁三〕⿱幵束、束也。〔齊民要術、種麻〕⿱幵束欲レ小、稗欲レ薄。㊁**十把の禾。**〔玉篇〕⿱幵束、禾十把也。㊂或は⿱幵禾(3－5948)・⿰黍幵・⿰禾幵・⿰禾見(8－25076)に作る。〔集韻〕⿱幵束、或作二⿱幵禾・⿰黍幵・⿰禾幵・⿰禾見一。

【⿰曲幵】9185 ヘイ ⿰目幵(7－21878)に同じ。〔正字通〕⿰曲幵、舊本作レ⿰目幵。

十二畫

【⿰冊幵】9186 ヘイ ⿰曲幵(4－9185)の本字。〔正字通〕⿰曲幵、篆作レ⿰冊幵。

十三畫

【⿰歹幷】9187 ヘイ ヒヤウ 〔字彙補〕卑病切 敬 **禮器。**〔字彙補〕⿰歹幷、禮器。

【⿰⿱罒干束】9188 カン 義未詳。〔篇海〕⿰⿱罒干束、音旱。

幺部

【幺】9189 （小篆文） 🈩エウ 〔集韻〕伊堯切 [蕭] ㄧㄠ yao^{1} 🈔ベキ ミャク 〔集韻〕莫狄切 [錫]

🈩㊀をさない。〔說文〕幺、小也、象㆓子初生之形㆒。〔爾雅、釋獸〕幺、幼。〔注〕豕子最後生者、俗呼爲㆓幺豚㆒。〔班彪、王命論〕又況幺麽不㆑及㆓數子㆒。〔注〕善曰、通俗文曰、不㆑長曰㆑幺、細小曰㆑麽。㊁ちひさい。〔陸機、文賦〕猶㆓絃幺而徽急㆒。〔注〕善曰、說文曰、幺、小也。㊂雙六のさいの一點。〔日知錄、考證、幺〕一、爲㆓數之初㆒、故以㆑小名㆑之、骰子之以㆑一爲㆑幺、是也。㊃くらい。かすか。〔六書故〕幺、会也、重㆑ム爲㆑幺、幺、象㆓月昧㆒也。〔郭璞、螢贊〕熠燿宵行、蟲之微幺。㊄么（1－121）は俗字。〔說文通訓定聲〕幺、俗字作㆑么。㊅姓。〔萬姓統譜〕幺、見㆓姓苑㆒。〔奇姓通〕幺謙、湯陰人、弘治中爲㆓通州訓導㆒。㊆注音符號の韻符の一。複韻母。先づ舌の後部が下降情態で、母音ㄚを發し、次いでㄨの音を發する情態に移り、兩音相合して生ずる複韻母である。アオ。ao。注音符號としての形は幺とする。🈔糸（8－27221）に同じ。〔集韻〕糸、或省。

解字 象形。本義は小の意。字形は子の初めて生れる形にかたどる。故に小の義とする。說文通訓定聲によれば、絲を二分して糸とし、糸を更に二分して幺とする。故に糸の半分の細小幽隱の意から、小さい意に用ひる。〔說文通訓定聲〕幺、小也、象㆓子初生之形㆒、俗字作㆑么、通俗文、不㆑長曰㆑幺、云云、按、此字當㆑从㆓半糸㆒、糸者、絲之半、幺者、糸之半、細小幽隱之誼、玄从㆑此。

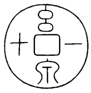
【幺幼】1（エウエウ） 豚の最後に生まれた子。又、豚の子。〔爾雅、釋獸〕幺幼。〔疏〕云㆓幺幼㆒者、豕之最後生者名也、郭云、最後生者、俗呼爲㆓幺豚㆒。〔庶物異名疏〕幺幼、豕子也。

【幺弱】2（エウジャク） 小さく力がないもの。幺は小。幼弱。〔柳宗元、童區寄傳〕幸得㆓壯大㆒、則縛㆓取幺弱者㆒。

【幺小】3 yao^{1} hsiao^{3} ちひさい。微小な。幼少（4－9193・・79）に同じ。

【幺泉】3（エウセン） 幺錢に同じ。

【幺錢】5（エウセン） 錢の名。王莽の作ったもの。徑七分で、重さ三銖。幺は小。幺泉。〔漢書、食貨志下〕次七分三銖、曰㆓幺錢一十㆒。〔注〕師古曰、幺、小也。


新王莽幺錢（金石索）

【幺匿】6 yao^{1} ni^{4} 單位。單一。一個。unit の音譯。

【幺豚】7（エウトン） 豚の最後に生まれた子。幺幼を見よ。〔爾雅、釋獸、幺幼、疏〕郭云、豕最後生者、俗呼爲㆓幺豚㆒。

【幺貝】8（エウバイ） 王莽の時の貨幣の名。小錢三十の値に當る。〔漢書、食貨志下〕侯龜七寸以上、直三百、爲㆓幺貝十朋㆒云云、幺貝二寸四分以上、二枚爲㆓一朋㆒、直三十。

【幺微】9（エウビ） 極めて小さい。微幺。幺麽。〔陸游、紹熙辛亥九月四日云云作㆓長句㆒記㆑之詩〕性命幺微不㆓禁嚇㆒。

【幺蔑】10（エウベツ） ちひさい。微小。〔傅咸、小語賦〕景差曰、幺蔑之子、形難㆑爲㆑象。

【幺篇】11（エウヘン） 曲の名。〔任訥、曲諧〕南詞敍錄謂、北曲凡遇㆓第二篇同調㆒者、皆稱㆓幺篇㆒、幺並非㆓幺字㆒、乃空字之省文、未㆑免㆓武斷而妄㆒、曲中幺篇過篇之篇、皆應㆑作㆓偏或遍㆒、源㆓於唐宋大遍之曲㆒也、幺字、疑是衮字之省文、衮亦唐宋大曲之遍名、或換頭或否、九宮譜定㆓卷前總論㆒、論㆓換頭㆒、謂㆓篇中或幺或衮、大率卽是前腔云云㆒、是其證也。

【幺鳳】12（エウホウ） 鳥の名。桐花鳳。倒挂子。〔蘇軾、次㆓韻李公擇梅花㆒詩〕故山亦何有、桐花集㆓幺鳳㆒。

【幺麽】13（エウマ） ちひさい。微小。細微。轉じて、つまらない。とるに足りない。又、その人。幺麿。〔廣韻〕幺、幺麽、小也、於堯切。〔鶡冠子、道端〕無道之君、任㆓用幺麽㆒、動卽煩濁。〔注〕幺、細人、俊雄之反。〔春秋後語〕孟嘗君往㆑趙、趙人觀者如㆑堵、曰、向聞㆓孟嘗君㆒、將謂㆓是魁梧之士㆒、此乃幺麽丈夫耳。〔班彪、王命論〕又況幺麽不㆑及㆓數子㆒、而欲㆔闇干㆓天位㆒者乎。〔注〕善曰、通俗文曰、不㆑長曰㆑幺、細小曰㆑麽、良曰、幺麽、小也。〔吳志、吳主孫權傳〕偸㆓取天位㆒、而叡㆓幺麽㆒。〔晉書、桓玄傳論〕若㆓桓玄之幺麽㆒、豈足㆑數哉。〔書言故事、謙稱類〕微小曰㆓幺麽㆒。

【幺麽小吏】14（エウマセウリ） 小官が大官に對する謙稱。〔六部成語、吏部、幺麽小吏、注解〕卑小之官用㆓稟帖㆒遞㆓上官㆒時、往往自稱㆓幺麽小吏㆒、幺麽、細微也。〔六部成語訂正、吏部、幺麽小吏、注解〕幺麽・微物、二字出㆓漢班叔皮王命論㆒、幺麽小吏者、小官對㆓於大官㆒謙卑之稱也。

【幺麿】15（エウマ） ちいさい。微小。轉じて、つまらない。又、その人。幺麽。〔漢書、敍傳上〕又況幺麿尙不㆑及㆓數子㆒、而欲㆔闇奸㆓天位㆒者虖。〔注〕鄭氏曰、麿、音麽、小也、師古曰、幺・麽、皆微小之稱也。〔王先謙補注〕王念孫曰、麿之言靡也、幺麿二字連文、俱是微小之意、廣雅、紗麽、小也、紗與㆑幺同、漢紀・文選、並作㆓幺麽不㆑及㆓數子㆒、李善注引㆓鶡冠子㆒曰、無道之君、任㆓用幺麿㆒、有道之君、任㆓用俊雄㆒、又引㆓通俗文㆒曰、不㆑長曰㆑幺、細小曰㆑麽、作㆑麿者、古字假借耳。

【幺和】16 yao^{1} hê^{2} 一と三。

【幺二三】17 yao^{1} êrh^{4} san^{1} 一二三。

【妝㆑幺作㆑態】18（エウヲヨソホヒタイヲナス） しらばくれて、わざとらしい態度をする。〔長生殿、傍訝〕兩下參商後、妝㆑幺作㆑態。

一畫

【幻】9190 （小篆文） 🈩クヮン ゲン 〔集韻〕胡慣切 [諫] ㄏㄨㄢˋ huan^{4} 🈔ケウ ゲウ 〔集韻〕胡了切 [篠]

🈩㊀まどはす。たぶらかす。〔說文〕𠫓、相詐惑也、从㆓反予㆒、周書曰、無㆑或㆓譸張爲㆑幻。〔書、無逸〕民無㆑或㆓胥譸張爲㆑幻。〔傳〕幻、惑也。㊁かはる。〔廣韻〕幻、化也。〔陸機、漏刻賦〕來象㆓神造㆒、去猶㆓鬼幻㆒。〔王光緼、江心塔燈賦〕神㆓五色于變幻㆒。㊂まぼろし。假象。〔梁昭明太子、解㆓二諦㆒義〕何得㆘于㆓眞實中㆒見㆗此浮幻㆖。〔孔武仲、遊㆓州南㆒作詩〕語罷恍然眞夢幻、不㆑應㆔天色有㆓江湖㆒。㊃てじな。人の目をくらます術。〔增韻〕幻、妖術也。〔唐書、蘇瓌傳〕以㆓妖幻㆒位㆓祕書員外監㆒。㊄眩（8－23254）に通ず。〔集韻〕幻、古作㆑眩。〔漢書、張騫傳〕以㆓大鳥卵及犛軒眩人㆒獻㆓於漢㆒。〔注〕師古曰、眩、讀與㆑幻同、卽今呑刀・吐火・植瓜・種樹・屠人・截馬之術、皆是也。㊅古は会（2－3063）に作る。〔集韻〕幻、古作㆑会。㊆或は𠫓（1－234）に作る。〔集韻〕幻、或作㆑𠫓。〔正字通〕幻、說文作㆑𠫓。🈔まどはす。或は乡に作る。〔集韻〕幻、相詐惑也、或書作㆑乡。

參考 幼（4－9193）は別字。

解字 指事。本義はまどはす。その字形は予（あたふる）の字を反倒し、あたへる眞似してあたへず、人をたぶらかす意にとる。假借して、眩とする。▽ （金文）象形。染色した絲を木枝にかけたさまに象り、かはる意を表はす。

【幻依】1（ゲンイ） 明、祖住（8－24664・・102）の字。

【幻蘊】2（ゲンウン） 假に現はれ見えるさまざまの形影。無常で定まりないさまざまのもの。〔權德輿、百巖禪師碑銘〕能悟㆑斯者、不㆑爲㆓習氣生死

幻蘊之所レ累也。

【幻影】3 ゲンエイ ㊀まぼろしとかげ。極めてはかないものの喩。夢幻泡影。〔蘇軾、海市詩〕心知所レ見皆幻影、敢以二耳目一煩二神工一。〔蒲道源、贈二傳神李肖巖一詩〕須臾壁間出二幻影一。㊁感覺のあやまりから感ずる現象。幽靈・ばけものの類。

〖幻影閣〗4 ゲンエイカク 明、崔重文(4−8178‥309)の室名。

〖幻影畫〗5 huan^{4} ying^{3} hua^{4} パノラマ。

【幻妖】6 ゲンエウ 人を惑はす妖怪。幻怪。又、妖術。

【幻緣】7 huan^{4} yüan^{2} 人間世界。〔紅樓夢、一回〕意欲下凡造歷幻緣。

【幻餤】8 ゲンエン ［佛］幻化と陽餤。共に實體のないものに譬へていふ。〔法華玄義、一上〕心如二幻餤一、但有二名字一、名レ之爲レ心。

【幻漚】9 ゲンオウ 明、吳令(2−3365‥408)の號。

【幻海】10 ゲンカイ 明、周天球(2−3441‥797)の號。

【幻覺】11 ゲンカク 無を有と感ずる知覺。外界の刺戟がないのに、恰も其の刺戟に接するかのやうな感覺を生ずること。幻影の知覺。

【幻戲】12 ゲンギ てじな。奇術。〔唐書、高宗紀〕禁下胡人爲二幻戲一者上。

【幻境】13 ゲンキヤウ まぼろしのさかひ。夢幻の境。人の世。うき世。〔李嶠、宣州大雲寺碑〕蒙二埃塵於夢幻之境一、隔二視聽於神明之域一。〔程俱、避二寇村舍一詩〕幻境終歸レ盡、生涯正要レ貧。〔程鉅夫、家園見レ梅有レ懷二同僚一詩〕羅浮本幻境、前夢覺已謾。

【幻垢】14 ゲンク ［佛］俗人の身心の、實體がなく不淨なことをいふ。〔圓覺經〕善男子當レ知、身心皆爲二幻垢一、垢相永滅十方清淨。

【幻化】15 ゲンクワ ㊀かはりうつる。まぼろしのやうに變化する。〔列子、周穆王〕窮レ數達レ變、因レ形移易者、謂二之化一、謂二之幻一、云云、知二幻化之不一レ異二生死一也、始可二與學一レ幻矣。〔何遜、七召〕清歌雅舞、暫同二於夢寐一、廣廈高堂、俄成二於幻化一。㊁［佛］ゲンケ 幻と化、卽ち空法十喩の二。幻は幻人の所作、化は佛菩薩の通力の變化をいふ。〔智度論、六〕經云、解二了諸法一、如レ幻如レ化。㊂huan^{4} hua^{4} 人の死をいふ。

【幻怪】16 ゲンクワイ 疑はしいこと。あやしいこと。正しくないこと。〔莊子、德充符〕彼且レ蘄下以二諔詭幻怪之名一聞上。

【幻形】17 huan^{4} hsing^{2} まぼろし。〔紅樓夢、一回〕幻形入世。

【幻妻】18 ゲンサイ ㊀人の妻を罵っていふ語。衒妻。㊁女を卑め罵る語。㊂下級の遊女の異稱。よたか。ちごく。〔倭訓栞〕。

【幻相】19 ゲンサウ ㊀幻のやうなさま。實體のないこと。㊁無常の有樣をいふ。〔傳習錄、下〕釋氏却要下盡絕二事物一、把レ心看中做幻相上。

【幻想】20 ゲンサウ ㊀とりとめもない考。㊁幻覺から生ずる迷妄な思想。

〖幻想曲〗21 ゲンサウキヨク fantasia の譯語。㊀樂想の自由な展開によつて作つた形式不定な浪漫的な樂曲。㊁或る名曲を拔萃・編作した曲。

【幻師】22 ゲンシ ［佛］幻術をつかふ人。魔法つかひ。〔波羅密經〕如二彼幻師得レ化二美團一、雖レ似レ有レ益、而實無レ益。〔無量壽經、上〕譬如下幻師現二象異像一、爲レ男爲上レ女。

【幻象】23 ゲンシヤウ ゲンザウ 感覺のあやまりから感ずる現象。幻像。幻化の形象。まぼろし。〔性靈集、八〕覺朝無二多虎一、悟日莫二幻象一。

【幻出】24 ゲンシユツ まぼろしのやうに出る。ぼんやりとあらはれる。〔元稹、寄二贈薛濤一詩〕錦江滑膩峩嵋秀、幻出文君與二薛濤一。

【幻術】25 ゲンジユツ てじな。變幻の技術。奇術。妖術。魔法。〔顏氏家訓、歸心〕世有二祝師及諸幻術一、猶能履レ火蹈レ刃。

〖幻術眞言〗26 ゲンジユツシンゴン ［佛］能く幻化の祕術を爲す眞言の祕咒。〔大日經、三〕如二幻術眞言一、能現二種種園林人物一。

【幻心】27 ゲンシン ［佛］人間の心をいふ。〔圓覺經〕幻心滅故、幻塵亦滅。

【幻身】28 ゲンシン ［佛］人間の身をいふ。幻のやうにはかないからいふ。〔圓覺經〕幻身滅故、幻心亦滅。

【幻人】29 ゲンジン 幻術を行ふ人。手品師。奇術師。魔法つかひ。〔後漢書、陳禪傳〕永寧元年、西南夷撣國王、獻二樂及幻人一、能吐レ火、自支解、易二牛馬頭一。〔魏書、西域、悅般國傳〕悅般國、眞君九年、遣レ使朝獻、並送二幻人一。

【幻世】30 ゲンセイ 幻のやうにはかない世。無常の世。轉じて、此の世。現世。〔白居易、想二東遊一五十韻詩〕幻世春來夢、浮生水上漚。

【幻生】31 ゲンセイ 幻のやうにあらはれる。〔智命、詩〕幻生還幻滅、大幻莫レ過レ身。

【幻塵】32 ゲンヂン ［佛］俗世の事柄。俗世の事は儚く且つ汚れたものと考へてかくいふ。〔圓覺經〕幻心滅故、幻塵亦滅。

【幻燈】33 ゲントウ 強い光を繪畫・寫眞・實物などに當てて其の反射光をレンズによつて擴大した像を障壁・白幕などに映す裝置。又、この裝置によつて映寫すること。又、この裝置によつて映寫した影像。かげゑ。うつしゑ。

【幻泡】34 ゲンパウ まぼろしとあわ。幻沫。轉じて、無常ではかない喩。〔金剛經〕一切有爲法、加二夢幻泡影一、如レ露亦如レ電、應レ作二如是觀一。

【幻魄】35 ゲンパク まぼろしに見える面影。亡魂。〔何偉然、春山曉烟賦〕山圖巖畫、李夫人簾內朦朧、幻魄遊魂、楚襄王夢中彷彿。

【幻沫】36 ゲンバツ ゲンマツ まぼろしとうたかた。夢幻と泡沫。幻泡。消えやすいものの喩。〔葛長庚、雪窓聯句〕聚散如二浮萍一、死生猶二幻沫一。

【幻法】37 ゲンポフ ［佛］幻師の法術。魔法。又、幻化の法門。〔楞嚴經、五〕幻法云何立、是名二妙蓮華一。〔圓學經略疏〕世有二幻法一、依二草木等一、幻二作人畜一、宛似二往來動作之相一。

【幻夢】38 ゲンム まぼろしとゆめ。又、ゆめ。まぼろし。夢幻(3−5802‥48)に同じ。〔王維、胡居士臥レ病遺レ米因贈詩〕有無斷二常見一、生滅幻夢受。

【幻滅】39 ゲンメツ ㊀まぼろしのやうにきえうせる。〔續高僧傳、二十七、唐僞鄭沙門釋智命傳〕故頵之臨レ刑、云云、索レ筆題レ詩曰、幻生還幻滅、大幻莫レ過レ身、安心自有レ處、求レ人無レ有レ人。㊁幻想から覺めて現實にかへること。disillusion の譯語。

〖幻滅之悲哀〗40 ゲンメツノヒアイ 幻想から覺めて現實に觸れた時に感ずる悲しみ。

【幻野】41 ゲンヤ ［佛］夢幻の境界。あれどもなきが如きはかない境界。現世をいふ。〔吽字義〕長迷二一如之理一、常醉二三毒之事一、荒二獵幻野一。

【幻藥】42 ゲンヤク 時に見え時に見えなくなる現象を生ずる藥。不思議な藥。〔海錄碎事、百工、圖畫〕太宗時、江南李主獻二畫牛一、晝則嚙二草欄外一、夜則歸臥二欄中一、莫レ曉二其理一、僧贊曰、此幻藥所レ置、南海倭國有二蚌淚一、和レ色着レ物、晝隱夜見、沃焦山有レ石、磨レ色染レ物、夜見晝隱、事見二海外記一。

【幻力】43 ゲンリキ ［佛］幻化の事を爲す力。

【幻廬】44 ゲンロ 清、章榕(8−25761‥166)の字。

【幻惑】45 ゲンワク 人の目をくらまし人の心をまどはせる。眩惑。〔六韜、文韜、上賢〕不祥之言、幻二惑良民一。〔吳志、孫策傳、注〕此子妖妄、能幻二惑衆心一。

【幻雲稿】46 ゲンウンカウ 書名。一冊。月舟壽桂撰。五山文學の優品。〔續羣書類從、文筆部〕。

【幻霞子】47 ゲンカシ 元、倪瓚(1−792‥12)の號。

【幻雲詩藁】48 ゲンウンシカウ 書名。三冊。月舟壽桂撰。七言絕句一千餘首を收錄す。〔續羣書類聚、文筆部〕。

【幻雲文集】49 ゲンウンブンシフ 書名。三冊。月舟壽桂撰。內題に幻雲文集附北征集といふ。表・記・說・銘・贊・題書等を收錄す。〔續羣書類從、文筆部〕。

【幻園居士】50 ゲンエンコジ 清、奕繪(3−5922‥12)の號。

【幻花居士】51 ゲンクワコジ 清、張梁(4−9812‥728)の號。

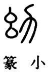
【糸】9191 ㊀ベキ ㊁ゲン ㊀糸(8−27221)の古字。〔說文〕糸、糸、古文糸。㊁玄(7−20814)の古字。〔集韻〕玄、古作レ糸。〔玉篇〕糸、今文玄。

【玄】9192 コ ゴ 〔集韻〕胡故切 ［遇］ なはまき。⿱竹互(8−25867)に同じ。〔集韻〕⿱竹互、說文、可二以收一レ繩也、或省。

二畫

【幼】9193

[一]イウ ユ 〔集韻〕伊謬切 ㄧㄡˋ yu^4 宥
[二]キク 〔集韻〕乙六切 屋
[三]エウ 〔集韻〕一笑切 嘯
[四]アウ エウ 〔集韻〕於教切 效
[慣]エウ


小篆

[一][二]㊀をさない。㋑いとけない。〔說文〕幼、少也、从二幺力一。〔段注〕幺亦聲。〔爾雅、釋言〕幼、稺也。〔釋名、釋長幼〕幼、少也、言二生日少一也。〔儀禮、喪服傳〕子幼。〔注〕子幼、謂二年十五已下一。〔禮、曲禮上〕人生十年曰レ幼、學。〔疏〕幼者、自二始生一至二十九時一。〔左氏、僖、二十七〕蔿賈尙幼。〔注〕幼、少也。㋺知識・技量が未熟である。〔爾雅、釋言〕冥、幼也。〔注〕幼稺者冥昧。㊁をさなご。〔禮、祭義〕敬レ長慈レ幼。〔陶潛、歸去來辭〕攜レ幼入レ室。㊂いつくしむ。〔孟子、梁惠王下〕幼二吾幼一、以及二人之幼一。〔注〕幼、猶レ愛也。㊃はじめ。〔管子、幼官、注〕幼、始也。㊄ちひさい。〔楚辭、九章、橘頌〕嗟二爾幼志一。〔注〕幼、小也。㊅古は勼(2-2508)に作る。〔玉篇〕勼、古文幼字。

[三]㊀くらい。かすか。窈(8-25463)に通ず。〔說文通訓定聲〕幼、叚借爲レ窈。〔詩、小雅、斯干、噦噦其冥、傳〕冥、幼也。〔釋文〕幼、本或作レ窈。㊁おくふかい。ゆかしい。精微ですぐれてゐる。〔漢書、元帝紀贊〕窮二極幼眇一。〔注〕師古曰、幼眇、讀若二要妙一。〔漢書、中山靖王勝傳〕每聞二幼妙之音一。〔注〕師古曰、幼妙、精微也。㊂あでやか。〔漢書、外戚上、孝武李夫人傳〕惟二幼眇之相羊一。〔注〕師古曰、幼眇、猶二窈窕一也。㊃[現]かひこのねむり。[四]くつのまへかざり。袎(10-34175)に同じ。〔集韻〕袎、襪頸、或省。

[名乘] ワカ。

[解字] 會意形聲。幺と力との合字。幺は生まれたばかりの子の形を示し、軟弱なものを意味する。之に力を加へて、生まれてまだ力の弱いものを意味せしめる。卽ち本義は、をさない・をさなご。轉じて、いつくしむ意とする。幺はまた音符。〔說文通訓定聲〕幼、小也、从レ幺从レ力、會意、爾雅釋言、幼、稚也。

[參考] 幻(4-9190)は別字。

【幼秧】1（エウアウ） わかい苗。〔楊萬里、詩〕幼秧欲レ焦老差碧。

【幼安】2（エウアン） 字號。㊀三國魏、管寧(8-26162‥142)の字。㊁晉、索靖(8-27306‥50)の字。㊂宋、辛棄疾(10-38630‥93)の字。㊃元、夏友蘭(3-5720‥281)の字。㊄明、劉曰寧(2-2224‥708)の字。㊅清、錢維城(11-40563‥250)の字。

【幼菴】3（エウアン） 字號。㊀清、徐觀海(4-10110‥389)の號。㊁清、世祖(1-31‥216)の號。

【幼盦】4（エウアン） 清、徐觀海(4-10110‥389)の號。

【幼遊】5（ヲサナアソビ） こどものあそび。こどもの時のあそび。

【幼殷】6（エウイン） 明、楊豫孫(6-15112‥797)の字。

【幼于】7（エウウ） 明、張獻翼(4-9812‥1000)の字。

【幼睿】8（エウエイ） 清、吳亮思(2-3365‥895)の字。

【幼遠】9（エウヱン） 三國蜀、王崇(7-20823‥650)の字。

【幼霞】11（エウカ） 清、王鵬運(7-20823‥2107)の號。

【幼芽】12（エウガ） 種子の胚軸の上端にある極めて微小な芽。後に生長して葉・莖・幹となるもの。

【幼海】13（エウカイ） ㊀東方にある海。少海。〔山海經、東山經〕無皋之山、南望二幼海一。〔注〕卽少海也、淮南子曰、東方有レ渚、曰二少海一。㊁字號。㋑元、汪瀚(6-17154‥29)の字。㋺明、周天球(2-3441‥797)の號。

【幼艾】14（エウガイ） ㊀若くて美しいこと。又、その人。美少年。美少女。〔戰國、齊策〕有二七孺子一、〔注〕孺子、幼艾美女也。〔戰國、趙策〕魏牟曰、今爲二天下之工一、或非也、云云、而王不レ以二予工一、乃與二幼艾一。㊁幼者と長者。〔楚辭、九歌、少司命〕竦二長劍一兮擁二幼艾一、蓀獨宜兮爲二民正一。〔集注〕幼、少也、艾、美好也、言、司命執二持長劍一、以誅二絕凶惡一、擁二護萬民一、長少使三各得二其命一也。

【幼孩】15（エウガイ） こども。幼兒。幼蒙。〔柳宗元、種樹郭橐駝傳〕字二而幼孩一、遂二而雞豚一。

【幼庚】16（エウカウ） 清、顧復初(12-43689‥354)の號。

【幼耕】17（エウカウ） 清、顧復初(12-43689‥354)の號。

【幼高】18（エウカウ） 宋、杜旝(6-14477‥77)の字。

【幼學】19（エウガク） ㊀十歲の時初めて學に就くことをいふ。轉じて、十歲をいふ。〔禮、曲禮上〕人生十年曰レ幼、學。〔注〕名曰レ幼、時始可レ學也、內則曰、十年出就二外傳一、居二宿於外一、學二書記一。〔疏〕幼者、自二始生一至二十九時一、故擅弓云、幼名者、三月爲レ名稱レ幼、冠禮云、棄二爾幼志一、是十九以前爲レ幼、喪服傳云、子幼、鄭康成云、十五以下、皆別有レ義、今云二十年曰レ幼學一、是十歲而就レ業也。㊁幼くして學ぶ。〔孟子、梁惠王下〕夫人幼而學レ之。〔顏氏家訓、勉學〕幼而學者、如二日出之光一。㊂幼くして學ぶ者。學童。〔唐書、藝文志一〕朱嗣卿、幼學編、一卷。〔元田永孚、幼學綱要〕。㊃宋、王伯大(7-20823‥2037)の字。

【幼學堂】20（エウガクダウ） 清、沈欽韓(6-17189‥476)の室名。

【幼學綱要】21（エウガクカウエウ） 書名。七卷。元田永孚編。內外人の嘉言・善行を輯めたもの。

【幼學之士】22（エウガクノシ） 幼くて學問をする人。〔小學、嘉言〕陳忠肅公曰、幼學之士、先要三分二別人品之上下一。

【幼學詩話】23（エウガクシワ） 書名。一卷。東條耕撰。〔日本詩話叢書、第六冊〕。

【幼簡】24（エウカン） 三國魏、郭憲(11-39474‥79)の字。

【幼含】25（エウガン） 清、倪含(1-792‥4)の字。

【幼起】26（エウキ） 後漢、傅燮(1-939‥82)の字。

【幼幾】27（エウキ） 宋、李及(6-14459‥204)の字。

【幼愚】28（エウグ） 幼くして愚かなこと。〔逸周書、本典解〕(成)王拜曰、允哉幼愚、敬守以爲二本典一。

【幼遇】29（エウグウ） 元、陰時夫(11-41691‥355)の一名。

【幼華】30（エウクワ） 清、王又旦(7-20823‥1139)の字。

【幼隗】31（エウクワイ） 清、郭金臺(11-39471‥270)の字。

【幼官】32（エウクワン） 管子の篇名。幼は窈。精微幽玄の意。五行說に本づいて官制の精微を述ぶ。

【幼官圖】33（エウクワンヅ） 管子の篇名。幼官篇の說き及ばない所を陳列して十圖にしたもの。圖は已に亡びてない。

【幼觀】34（エウクワン） 宋、王過(7-20823‥282)の字。

【幼君】35（エウクン） ㊀幼い君主。幼主。〔公羊、隱、元〕且如桓立、則恐二諸大夫之不一レ能レ相二幼君一也。㊁字號。㋑漢、周慶(2-3441‥146)の字。㋺漢、張長安(4-9812‥1351)の字。

【幼卿】36（エウケイ） ㊀手水盥をいふ。〔太平廣記〕今人呼二頮面盆一爲二幼卿一。㊁宋、曾宏父(5-14299‥180)の字。

【幼軒】37（エウケン） 清、王凱泰(7-20823‥1247)の字。

【幼元】38（エウゲン） 明、黃道周(12-47926‥1233)の字。

【幼玄】39（エウゲン） 明、黃道周(12-47926‥1233)の字。

【幼愿】40（エウゲン） 幼くてまじめ。〔柳宗元、童區寄傳〕大府召視レ兒、幼愿耳。

【幼孤】41（エウコ） 幼い孤子。〔管子、四時〕一政曰、論二幼孤一、舍二有罪一。〔漢書、景帝紀〕老者以レ壽終、幼孤得二遂長一。〔後漢書、明帝紀〕恤二幼孤一、惠二鰥寡一、稱二朕意一焉。

【幼工】42（エウコウ） 幼年の職工。

【幼公】43（エウコウ） 字號。㊀漢、陳萬年(11-41698‥12)の字。㊁漢、杜延年(6-14477‥286)の字。㊂唐、戴叔倫(5-11685‥185)の字。

【幼鴻】44（エウコウ） 清、程功(8-25081‥48)の字。

【幼根】45（エウコン） 種子の胚軸の下端にあり、後、のびて根となるもの。

【幼宰】46（エウサイ） 三國蜀、董和(9-31433‥51)の字。

【幼壯】47（エウサウ） 年の若いこと。又、年の若い時。幼は若い、壯は元氣のよいこと、又、壯年。〔顏延之、拜二陵廟一作詩〕幼壯困二孤介一、末暮謝二幽貞一。

【幼山】48（エウザン） 宋、雍巘(11-42000‥16)の字。

【幼子】49（エウシ） ㊀をさなご。こども。〔書、呂刑〕伯父・伯兄・仲叔・季弟・幼子・童孫、皆聽二朕言一。〔禮、曲禮上〕幼子常視レ毋レ誑、童子不レ衣二裘裳一。

㊁晉、桓沖(6－14774‥54)の字。

【幼志】50（エウシ） ㊀をさなごころ。幼心。〔儀禮、士冠禮〕令月吉日、始加㆓元服㆒、棄㆓爾幼志㆒、順㆓爾成德㆒。〔孔子家語、冠頌〕王始加㆓元服㆒、去㆓王幼志㆒。㊁明、項可試(12－43343‥58)の字。

【幼芝】51（エウシ） 清、朱景英(6－14424‥734)の字。

【幼思】52（エウシ） 明、項可教(12－43343‥57)の字。

【幼嗣】53（エウシ） ㊀幼少なあとつぎ。〔漢書、王莽傳上〕保㆓安孝平皇帝之幼嗣㆒。㊁唐、包何(2－2506‥8)の字。

【幼齒】54（エウシ） こども。幼年。幼齡。又、若い。弱年。若年。齒は齡。〔隋書、徐孝肅傳〕性儉約、事㆑親以㆑孝聞、雖㆑在㆓幼齒㆒、宗黨閒每有㆓爭訟㆒、皆至㆓孝肅所㆒平㆓論之㆒。〔竇臮、述書賦〕南平休元、筆力自全、幼齒結構、老成天然。

【幼字】55（エウジ） 幼時のあざな。をさな名。幼名。〔水經、陰溝水注〕城之西南七里許、有㆓漢尚書令虞詡碑㆒、碑題云、虞君之碑、諱詡、字定安、云云、按、范曄漢書、詡、字升卿、陳國武平人、祖爲㆓縣獄吏㆒、治存㆓寬恕㆒、嘗曰、于公爲㆓里門㆒、子爲㆓丞相㆒、吾雖㆑不㆑及㆓于公㆒、子孫不㆓必不㆑爲㆓九卿㆒、故字㆑詡、曰㆓升卿・定安㆒、蓋其幼字也。

【幼兒】56（エウジ） 幼いこども。幼童。幼子に同じ。

【幼時】57（エウジ） 幼い時。子供時代。

【幼者】58（エウシヤ） 幼いもの。こども。幼子。〔儀禮、士相見禮〕與㆓幼者㆒言、言㆔孝㆓弟於父兄㆒。

【幼章】59（エウシヤウ） 字號。㊀後魏、盧元明(8－23050‥212)の字。㊁明、王寖大(7－20823‥1727)の字。㊂清、祁宿藻(8－24634‥32)の字。

【幼彰】60（エウシヤウ） 幼くてあらはれる。〔劉琨、勸進表〕玉質幼彰、金聲夙振。

【幼常】61（エウジヤウ） 三國蜀、馬謖(12－44572‥328)の字。

【幼弱】62（エウジヤク） をさなくいとけない。又、其の者。〔禮、明堂位〕成王幼弱、周公踐㆓天子之位㆒、以治㆓天下㆒。〔左氏、成、十六〕君幼弱、諸臣不佞、何以及㆑之、君其戒㆑之。〔左氏、昭、十六〕君幼弱、六卿彊而奢傲。〔管子、四稱〕寡人幼弱惛愚、不㆑通㆓諸侯四鄰之義㆒。〔墨子、兼愛下〕幼弱孤童之無㆓父母㆒者。〔韓非子、說疑〕古之所㆑謂聖君明王、非㆘長㆓幼弱㆒也及以㆗次序㆖也。〔漢書、刑法志〕周官云、三赦、一曰幼弱、二曰老眊、三曰惷愚。〔注〕師古曰、幼弱謂㆓七歲以下㆒。〔韓詩外傳、四〕捨㆓賢長㆒而立㆓幼弱㆒、廢㆓正直㆒而用㆓不善㆒。〔後漢書、城陽恭王祉傳〕太后春秋高、天子幼弱。〔韓愈、論㆓淮西事宜㆒狀〕執㆑兵之卒、四向侵掠、農夫織婦、攜㆓持幼弱㆒、餉㆓於其後㆒。

【幼主】63（エウシユ） ㊀幼い主人。わかぎみ。幼君。〔漢書、魏相傳〕幼主新立。〔陳琳、爲㆓袁紹㆒檄㆓豫州㆒文〕繕㆓修郊廟㆒、翊㆓衞幼主㆒。〔沈約、恩倖傳論〕欲㆘使㆓幼主孤立㆒、永竊㆗國權㆖。㊁北齊の第六世の君。高恆(12－45313‥320)を見よ。

【幼孺】64（エウジユ） ㊀こども。孺は童子。幼蒙。〔蕭穎士、登㆓宜城故城㆒賦〕微㆓奔走之僕御㆒、有㆓啼呼之幼孺㆒。㊁字號。㋑漢、云敞(1－254‥7)の字。㋺明、陳薦夫(11－41698‥1074)の字。㊂漢、韓孺(12－43159‥121)の一名。

【幼春】65（エウシユン） 後漢、丁綝(1－2‥150)の字。

【幼徇】66（エウジユン） 清、王凱泰(7－20823‥1247)の字。

【幼淳】67（エウジユン） 明、陸時雍(11－41708‥347)の字。

【幼序】68（エウジヨ） 晉、庾條(4－9398‥36)の字。

【幼鍾】69（エウシヨウ） 明、吳嶽秀(2－3365‥481)の字。

【幼色】70（エウシヨク） 年が若くてみめよい。又、その者。美容を以て君寵を得てゐる若者。〔大戴禮、用兵〕疎㆓遠國老㆒、幼色是與。

【幼植】71（エウシヨク） 清、任大椿(1－416‥233)の字。

【幼心】72（ヲサナゴコロ） こどもごころ。あどけない心。

【幼眞】73（エウシン） 清、汪國(6－17154‥58)の字。

【幼深】74（エウシン） 唐、韓泂(12－43159‥72)の字。

【幼正】75（エウセイ） 唐、包佶(2－2506‥26)の字。

【幼成】76（エウセイ） 字號。㊀晉、王諒(7－20823‥1070)の字。㊁南朝宋、趙倫之(10－37171‥932)の字。

【幼清】77（エウセイ） 元、吳澄(2－3365‥308)の字。

【幼小】78（エウセウ） 年のわかいこと。又、幼いこども。幼少。〔公羊、僖、十、孺子、注〕奚齊卓子、時皆幼小。〔淮南子、時則訓〕仲春之月、養㆓幼小㆒、存㆓孤獨㆒。〔後漢書、桓郁傳〕昔成王幼小、越在㆓襁保㆒。

【幼少】79（エウセウ） 年のわかいこと。又、幼いこども。〔書、洛誥、孺子其朋、鄭注〕孺子、幼少之稱。〔禮、月令〕安㆓萌芽㆒、養㆓幼少㆒、存㆓諸孤㆒。〔呂覽、仲春〕是月也、安㆓萌芽㆒、養㆓幼少㆒、存㆓諸孤㆒。〔淮南子、氾論訓〕武王崩、成王幼少。〔漢書、孔光傳〕莽白㆓太后㆒、帝幼少、宜㆑置㆓師傅㆒。

【幼樵】80（エウセウ） 清、張佩綸(4－9812‥1434)の字。

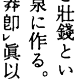
【幼節】81（エウセツ） 三國吳、陸抗(11－41708‥39)の字。

【幼泉】82（エウセン） 幼錢(84)に同じ。

【幼賤】83（エウセン） 幼少者と賤卑者。〔左氏、文、十五〕君子之不㆑虐㆓幼賤㆒、畏㆓于天㆒也。〔左氏、昭、元〕子產曰、直鈞、幼賤有㆑罪、罪在㆑楚也。

【幼錢】84（エウセン） 錢の名。幼錢壯錢を見よ。

〖幼錢壯錢〗85（エウセンサウセン） 錢の名。王莽時代に作る。徑八分、重さ五銖のものを幼錢といひ、徑一寸、重さ九銖のものを壯錢といふ。幼錢はもと幼泉に作る。〔漢書、食貨志下〕莽卽㆑眞以爲、書劉字有㆓金刀㆒、廼罷㆓錯刀・契刀、及五銖錢㆒、而更作㆓金銀龜貝錢布之品㆒、名曰㆓寶貨㆒、小錢、徑六分重一銖、文曰㆓小錢直一㆒、次、七分三銖、曰㆓幺錢一十㆒、次、八分五銖、曰㆓幼錢二十㆒、次、九分七銖、曰㆓中錢三十㆒、次、一寸九銖、曰㆓壯錢四十㆒、因㆓前大錢五十㆒、是爲㆓錢貨六品㆒、直各如㆓其文㆒。



新王莽幼錢
（金石索）

【幼孫】86（エウソン） 幼いまご。〔書、盤庚中〕曷不㆘曁㆓朕幼孫㆒有㆖比。

【幼尊】87（エウソン） 清、湯彝(7－17874‥3)の字。

【幼懦】88（エウダ） いとけなく弱い。かよわい。〔五代史、吳世家、楊隆演世家〕隆演幼懦、不㆑能㆓自持㆒。

【幼臺】89（エウダイ） 三國吳、孫靜(3－6987‥187)の字。

【幼道】90（エウダウ） 晉、何準(1－511‥105)の字。

【幼達】91（エウタツ） 元、陰中夫(11－41691‥359)の名。

【幼丹】92（エウタン） 清、沈葆楨(6－17189‥641)の字。

【幼智】93（エウチ） 幼くて智慧のあること。〔上官儀、冊㆓殷王旭輪㆒文〕幼智該㆓於玄表㆒、潛識冠㆓於黃中㆒。

【幼稚】94（エウチ） 幼い。いとけない。幼少。幼穉。轉じて、未熟の意。〔漢書、王莽傳上〕君年幼稚。〔漢書、翟義傳〕擇㆓宗室幼稚者㆒、以爲㆓孺子㆒。〔白虎通、攷黜〕君幼稚、唯攷不㆑黜者何。〔列女傳、母儀、魯之母師傳〕吾父母家多㆓幼稚㆒。

〖幼稚園〗95（エウチエン） 學齡以下の幼兒を收容して教育する所。保育項目として、遊戲・唱歌・談話・觀察・手技等を課し、心身及び性情の保育涵養等を計る。ドイツ人フレーベルに創まる。

【幼穉】96（エウチ） 幼い。わかい。穉は稚。幼沖。〔周禮、地官、大司徒、義疏〕鄭鍔曰、人方㆓幼穉㆒、如㆓木初萌㆒。〔漢書、外戚、孝成許皇后傳〕妾誇布服糲食、加以㆓幼穉愚惑、不㆑明㆓義理㆒。〔說苑、建本〕人之幼穉童蒙之時、非㆓求㆑師正㆑本、無㆓以立㆑身全㆑性。

【幼竹】97（エウチク） 若い竹。〔詩疏廣要〕蒼筤、幼竹也。

【幼瑒】98（エウチヤウ） 梁、紀少瑜(8－27234‥102)の字。

【幼沖】99（エウチユウ） いとけない。幼い。幼稚。幼沖。〔書、大誥〕洪惟我幼沖人。〔漢書、翟義傳〕洪惟㆓我幼沖孺子㆒。〔漢書、敍傳下〕孝昭幼沖、冢宰惟忠。

【幼蟲】100（エウチユウ） 昆蟲等が卵からかへつて、未だ成蟲とならぬ間の稱。

【幼女】101（エウヂヨ） をさない女の子。いとけない女子。〔元稹、贈㆓咸陽少府蕭郞㆒詩〕陸家幼女託㆓良壻㆒、阮氏諸房無㆓外生㆒。

【幼澄】102（エウチヨウ） 明、何源(1－511‥71)の字。

【幼帝】103（エウテイ） をさない天子。

【幼貞】104（エウテイ） 明、陸時中(11－41708‥346)の字。

【幼哲】105（エウテツ） 明、盧象觀(8－23050‥231)の字。

【幼徒】106（エウト） 幼い人々。〔皇朝文獻通考、刑考〕定㆘僧人故㆓殺幼徒㆒例㆖。

【幼度】107（エウド） 字號。㊀晉、謝玄(10－35827‥73)の字。㊁宋、許儉(10－35298‥73)の字。

【幼童】108（エウドウ） こども。童幼。〔蔡邕、與㆑人書〕叔父親㆑之、猶若㆓幼童㆒。〔張翰、贈㆓周小史㆒詩〕翩翩周生、婉孌幼童、年十有五、如㆓日在㆑東。

【幼年】109（エウネン） 年齡が若い。又、幼時。こども。幼齡。幼齒。〔漢書、張禹傳〕朕以㆓幼年㆒執㆑政。〔漢書、王莽傳上〕皇帝幼年。〔後漢書、閻皇后紀〕太后欲㆔久專㆓國政㆒、貪立㆓幼年㆒、與㆓顯等㆒定㆓策禁中㆒。

【幼玫】110（エウバイ） 梁、諸葛璩(10－35743‥25)の字。

【幼博】111（エウハク） 字號。㊀明、程大約(8－25081‥250)の字。㊁清、康廣仁(4－9376‥173)の號。

【幼槃】112（エウハン） 宋、謝薖(10－35827‥54)の字。

【幼眉】113（エウビ） 清、馬賡良(12－44572‥715)の字。

【幼微】114 エウビ　唐、魚玄機(**12－45956**‥321)の字。

【幼敏】115 エウビン　幼くてさとい。夙慧。〔元史、李好文傳〕如ニ漢孝昭・後漢明帝一、幼敏之類。

【幼孚】116 エウフ　清、管希寧(**8－26162**‥176)の字。

【幼婦】117 エウフ　をさない女。幼女。〔會稽典錄〕黃絹幼婦、外孫齏臼。〔唐彥謙、送ニ樊琯司業歸朝一詩〕齏辛尋ニ幼婦一、醴酒憶ニ先王一。

【幼風】118 エウフウ　童幼のやうに智德の足らぬこと。又、その人。〔大戴禮、用兵〕禮樂不レ行、而幼風是御。〔注〕任ニ童幼之人一、使レ專レ政。

【幼文】119 エウブン　字號。❶梁、陰子春(**11－41691**‥352)の字。❷隋、柳彧(**6－14662**‥8)の字。❸元、龔煥(**12－48837**‥17)の字。❹明、徐賁(**4－10110**‥290)の字。

【幼平】120 エウヘイ　字號。❶後漢、成瑨(**5－11544**‥170)の字。❷三國吳、周泰(**2－3441**‥351)の字。❸後魏、邢晏(**11－39301**‥1)の字。

【幼眇】121 エウベウ　❶おくふかくすぐれてゐること。又、あでやかなこと。微妙。精微。要妙。幼妙(128)に同じ。〔漢書、元帝紀贊〕分ニ刌節度一、窮ニ極幼眇一。〔注〕師古曰、幼眇、讀曰ニ要妙一。〔揚雄、長楊賦〕抑ニ止絲竹晏衍之樂一、憎レ聞ニ鄭衞幼眇之聲一。❷好いさま。おく深くゆかしいさま。又、あでやかなさま。窈窕。〔漢書、李夫人傳〕念ニ窮極之不レ還兮、惟ニ幼眇之相羊一。〔注〕師古曰、幼眇、猶ニ窈窕一也。

【幼圃】122 $yu^4\ p'u^3$　小庭。

【幼輔】123 エウホ　後魏、穆亮(**8－25251**‥65)の字。

【幼妹】124 エウマイ　末の妹をいふ。〔白居易、對レ酒示ニ行簡一詩〕復有ニ雙幼妹一、笄年未レ結レ褵。

【幼昧】125 エウマイ　幼くて才智のないこと。幼蒙。〔阮籍、通易論〕季陰幼昧、衰而不レ勝。

【幼名】126 エウミヤウ・エウメイ　幼い時の名。元服以前の名。をさな名。小字。幼字。

【幼明】127 エウメイ　明、葛昕(**9－31420**‥19)の字。

【幼妙】128 エウメウ　おくふかくすぐれてゐること。ゆかしくすぐれてゐるさま。又、聲の細くかすかなさま。幼眇(121)に同じ。〔司馬相如、長門賦〕案ニ流徵一以卻轉兮、聲幼妙而復揚。〔注〕良曰、幼妙、細聲。〔漢書、中山靖王勝傳〕今臣心結日久、每レ聞ニ幼妙之聲一、不レ知ニ涕泣之横集一也。〔注〕師古曰、幼妙、精微也。

【幼蒙】129 エウモウ　こども。幼い者。童蒙。幼孩。幼穉。〔陸機、愍懷太子誄〕誕自ニ幼蒙一、逮レ事ニ武皇一。

【幼輿】130 エウヨ　晉、謝鯤(**10－35827**‥85)の字。

【幼譽】131 エウヨ　清、王龍光(**7－20823**‥2174)の字。

【幼老】132 エウラウ　幼い者と年老いた者。〔劉敞、魏京詩〕祇遹ニ文武一、維慈ニ幼老一。

【幼陵】133 エウリヨウ　後漢、樊準(**6－15414**‥41)の字。

【幼鄰】134 エウリン　唐、賈至(**10－36755**‥65)の字。

【幼驎】135 エウリン　後魏、鄭羲(**11－39647**‥66)の字。

【幼累】136 エウルイ　幼い子供等。幼くて手足まといになる者の意。〔薛逢、老去也詩〕惆悵人生不レ滿レ百、一事無レ成頭雪白、廻看ニ幼累與ニ老妻一、倶是途中遠行客。

【幼齡】137 エウレイ　をさない年齡。幼年。幼齒。〔曹毗、對レ儒〕奇發ニ幼齡一、翰披ニ儒童一。〔孟郊、黃構擢第詩〕幼齡思ニ奮飛一、弱冠遊ニ靈臺一。

【幼廉】138 エウレン　北齊、李稚廉(**6－14459**‥1710)の一名。

【幼蓮】139 エウレン　清、孫家穀(**3－6987**‥343)の號。

【幼魯】140 エウロ　字號。❶清、孫嘉駒(**3－6987**‥346)の字。❷清、符曾(**8－25935**‥58)の字。

【幼盧】141 エウロ　清、徐觀海(**4－10110**‥389)の號。

【幼和】142 エウワ　後魏、酈惲(**11－39753**‥1)の字。

【幼而不レ忌】143 エウニシテイマハズ　をさないのに長者を敬はぬ。〔左氏、昭、元〕幼而不レ忌、不レ事レ長也。〔注〕忌、畏也。〔會箋〕忌、敬忌之忌。

【幼發拉的】144 ユーフラテス　河の名。メソポタミヤの二大河の一。チグリス河と合してシヤテルアラブ河となる。Euphrates の音譯。

【慈レ幼恤レ孤】145 エウヲイツクシミコヲアハレム　幼兒をいつくしみ、父のない孤兒をあはれむ。〔管子、入國〕五行ニ九惠之教一、一曰老レ老、二曰慈レ幼、三曰恤レ孤。

【㓜】9194　エウ　幼(**4－9193**)に同じ。〔字彙補〕㓜、與レ幼同、皇甫君碑、㓜挺ニ雕龍之采一。

三　畫

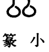
【⿰幺了】9195　テウ　〔字彙補〕音鳥

つりさげたさま。〔字彙補〕⿰幺了、懸貌。

【𢆶】9196

［一］イウ　〔集韻〕於求切　［尤］

［二］シ　〔集韻〕津之切　［支］



小篆

［一］**ごくちひさい。**〔説文〕𢆶、微也、从ニ二幺一。〔段注〕二幺者、幺之甚也。〔廣韻〕𢆶、微小也。［二］茲(**7－20816**)の古字。〔集韻〕茲、古作レ𢆶。

［解字］會意。二つの幺の合字。幺は初生兒の形に象つた字で、小を意味する。故に幺を二つ並べて更に小さいこと、卽ち微小の意を示す。

四　畫

【⿰幺少】9197　エウ　紗(**4－9202**)に同じ。〔字彙〕⿰幺少、音腰、説文、急戾也。〔康熙字典〕⿰幺少、按、字彙、⿰幺少、音腰、急戾也、據ニ説文一、當レ作レ紗。

【⿷匚𢆶】9198　ハウ・ヒヤウ　〔集韻〕悲萌切　［庚］

すみなはをあてて物をまつすぐにすること。通じて絣(**8－27429**)に作る。〔集韻〕⿷匚𢆶、繩以直レ物也、通作レ絣。

【⿺乚⿱一幺】9199　シン　義未詳。〔海篇〕⿺乚⿱一幺、音臣。

五　畫

【⿱𢆶儿】9200　キ　幾(**4－9208**)の古字。〔集韻〕幾、古作レ⿱𢆶儿。

【⿱𢆶殳】9201　キ　幾(**4－9208**)の古字。〔集韻〕幾、古作レ⿱𢆶殳。

【紗】9202

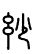
［一］エウ　〔集韻〕伊堯切　［蕭］

［二］エウ　〔集韻〕一笑切　［嘯］

［三］セウ　〔集韻〕千遙切　［蕭］

［四］エウ　〔集韻〕於兆切　［篠］

［五］ベウ・メウ　〔類篇〕彌笑切　［嘯］



小篆

［一］［二］❶**もどる。**急激に反戾する。〔説文〕紗、急戾也、从ニ弦省一少聲。〔段注〕陸機賦、弦幺徽急、疑當レ作ニ弦紗一。❷**小さいさま。**紗伭。［三］**小さい。**〔集韻〕紗、一曰、紗伭、小兒。［四］**よりがもどる。**紗縎(1)を見よ。［五］**すぐれてゐること。**精微。妙(**3－6090**)に同じ。〔説文、紗、段注〕按、類篇曰、彌笑切、精微也、則爲ニ今之妙字一、妙、或作レ紗、是也。

【紗縎】1 エウエイ　絲をよりをさめて、かがりをこしらへないうちによりがもどること。〔集韻〕紗、紗縎、理レ絲未レ成レ絇、急線也。

【⿰幺玄】9203

［一］イウ　〔五音篇海〕音幽

［二］チヨク　〔五音篇海〕音直

［一］［二］**ちひさい。**〔五音篇海〕⿰幺玄、小也。

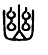
六畫

【⿱囟幺】9204 シ

緦(8-27660)の古字。〔集韻〕緦、古作㆑⿱囟幺。

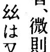
參考 字形は說文に依って⿱穴幺に作るを可とするが、今集韻に從ってここに存する。〔集韻考正〕緦、⿱囟幺、案、⿱囟幺、類篇同、據㆓說文㆒、當㆑作㆑⿱穴幺。

【幽】9205 イウ ユ 〔集韻〕於虯切 一ヌ yu¹ 尤



小篆

❶**かくれる。ひそむ。**〔說文〕幽、隱也、从㆓山𢆶㆒、𢆶亦聲。〔戰國、秦策〕南陽之弊幽。〔注〕幽、潛。〔呂覽、貴生〕我適有㆓幽隱之病㆒。〔注〕幽、隱也。❷**かくす。**〔荀子、正論〕上幽險則下漸詐矣。〔注〕幽、隱也。❸**ふかい。**〔爾雅、釋言〕幽、深也。〔詩、小雅、伐木〕出㆑自㆓幽谷㆒。〔傳〕幽、深也。〔淮南子、主術訓〕幽野險塗。〔注〕幽、深也。❹**とほい。**〔玉篇〕幽、深遠也。〔孫綽、遊㆓天台山㆒賦〕其路幽迥。〔注〕善曰、幽迥、遐遠也。❺**かすか。**〔爾雅、釋詁〕幽、微也。〔史記、樂書〕極幽而不㆑隱。〔太玄經、玄攡〕律呂孔幽。〔注〕幽、微也。❻**くらい。あきらかでない。**〔小爾雅、廣詁〕幽、冥也。〔釋名、釋州國〕幽州、在㆑北、幽昧之地也。〔禮、禮運〕此是謂㆓幽國㆒。〔注〕幽、闇也。〔荀子、解蔽〕此言㆓上幽而下險㆒也。〔注〕幽、暗也。〔楚辭、離騷〕路幽昧以險隘。〔注〕幽昧、不㆑明也。〔楚辭、賈誼、惜誓〕世俗之幽昏兮。〔注〕幽昏、不㆑明也。❼**くらい方。くらい處。**〔楚辭、九章、懷沙〕元文處㆑幽兮。〔注〕幽、冥也。❽**うち。なか。**〔史記、樂書〕幽則有㆓鬼神㆒。〔注〕正義曰、幽、內也。❾**すみ。**くま。邊隅。〔後漢書、章帝紀〕光㆓被六幽㆒。〔注〕六幽、謂㆓六合幽隱之處㆒也。❿**陰。**陽(**11-41725**)の對。〔史記、五帝紀〕幽明之占。〔注〕正義曰、幽、陰、明、陽也。〔太玄經、玄瑩〕終始幽明。〔注〕幽、謂㆑陰也。⓫**夜。**〔何晏、景福殿賦〕若㆓幽星之纚連㆒也。〔注〕銑曰、幽、夜也。⓬**月。**〔禮、祭義〕祭㆓日於壇㆒、祭㆓月於坎㆒、以別㆓幽明㆒、以制㆓上下㆒。〔注〕幽明、謂㆓日照㆑晝、月照㆑夜。〔疏〕月爲㆑幽。⓭**雌。**めす。〔大戴禮、誥志〕明幽、雌雄也。〔史記、歷書〕幽明者、雌雄也。⓮**無形。無聲。**〔易、繫辭上〕知㆓幽明之故㆒。〔注〕幽明者、有形无形之象。⓯**鬼神。**超現實的なものにいふ。〔謝瞻、張子房詩〕肇允契㆓幽叟㆒。〔注〕良曰、幽、神也。〔北史、尉元傳〕至順感㆑幽。⓰**心。**〔太玄經、遇〕幽遇㆑神。〔注〕幽、思也。〔太玄經、夷〕載㆑幽貳。〔注〕幽、心也。⓱**血。**〔禮、郊特牲〕毛血、告㆓幽全之物㆒也。〔注〕幽、謂㆑血也。⓲**よみぢ。**冥界。〔楚辭、宋玉、招魂〕魂兮歸來、君無㆑下㆓此幽都㆒些。〔注〕幽都、地下、后土所㆑治也、地下幽冥、故稱㆓幽都㆒。〔止觀、四上〕幽途緜邈、無㆑有㆓資糧㆒。⓳**しづか。**〔杜甫、江村詩〕長夏江村事事幽。⓴**とらへる。おしこめる。とぢこめられる。**〔荀子、王霸〕公侯失㆑禮則幽。〔注〕幽、囚也。〔呂覽、驕恣〕刼而幽㆑之。〔注〕幽、囚也。〔後漢書、張衡傳〕豎亂㆑叔而幽㆑主。〔注〕幽、閉也。〔楊惲、報㆓孫會宗㆒書〕身幽㆓北闕㆒。(21)**うづめる。**〔爾雅、釋言〕瘞、幽也。〔注〕幽、亦薶也。(22)**をさない。**〔大戴禮、誥志〕幽、幼也。〔史記、歷書〕幽者、幼也。(23)**くろい。**黝(**12-48082**)に通ず。〔說文通訓定聲〕幽、叚借爲㆑黝。〔詩、小雅、隰桑〕其葉有㆑幽。〔傳〕幽、黑色也。〔禮、玉藻〕再命、赤韍・幽衡。〔注〕幽、讀爲㆑黝。(24)**州名。**幽州(223)を見よ。〔集韻〕幽、又州名。(25)**地名。**今の河南省考城縣の境。〔左氏、莊、十六〕同㆓盟于幽㆒。〔注〕幽、宋地。(26)**諡。**〔逸周書、諡法解〕蚤孤鋪㆑位曰㆑幽、壅遏不㆑通曰㆑幽、勤㆑祭亂㆑常曰㆑幽。(27)**姓。**〔廣韻〕幽、姓、出㆓姓苑㆒。(28)**現** 河北省の別稱。

解字 會意形聲。𢆶と山との合字。本義はかくれひそむこと。𢆶は極めて小さい意。山は阜と同じく遮蔽の意。二義を合して隱の義を示す。𢆶は又音符。轉じて、かすかの意とする。〔說文、幽、从㆓山𢆶㆒、段注〕幽从㆑山、猶㆓隱從㆑𨸏、取㆓遮蔽之意㆒、從㆑𢆶者、微則隱也。▽ （甲骨文） 火と𢆶とを合せ、𢆶は又、聲。火の光の小さく暗い意を表はす。

【幽曖】1 イウアイ かすかでくらい。〔隋書、音樂志中〕棫樸斯燎、寥廓幽曖。

【幽薉】2 イウアイ イウワイ 荊棘の深く茂つた處。〔吳子、論將〕居㆓軍荒澤草楚幽薉㆒。

【幽藹】3 イウアイ おくふかいさま。又、うす暗いさま。黝藹。〔揚雄、反離騷〕既亡㆓鸞車㆒之幽藹兮、駕㆓八龍㆒之委蛇。〔揚雄、河東賦〕鬱蕭條其幽藹兮、滃汎沛以豐隆。〔張協、七命〕崢嶸幽藹、蕭瑟虛玄。〔注〕向曰、崢嶸・幽藹、並深皃。

【幽靄】4 イウアイ おくふかいさま。又、うす暗いさま。〔王延壽、魯靈光殿賦〕歇欻幽靄、雲覆霮䨴。〔注〕靄、五臣作㆑藹、善曰、皆幽邃之貌。

【幽岰】5 イウアウ おくふかいさま。〔左思、魏都賦〕山林幽岰、川澤迴繚。〔注〕向曰、幽岰、深邃也。

【幽奧】6 イウアウ かすかでおくふかい。くらく深い。〔後漢書、馮衍傳〕覽㆓天地之幽奧㆒兮、統㆓萬物之維綱㆒。

【幽軋】7 イウアツ ❶車の聲にいふ。かすかにきしる。しづかにきしる。〔曹植、孟冬篇〕乘輿啓㆑行、鸞鳴幽軋。❷櫓の聲にいふ。〔李善夷、大隄曲〕日暮行人爭㆑渡急、槳聲幽軋滿㆓中流㆒。❸機を織る聲にいふ。〔溫庭筠、常林歡歌〕幽軋鳴機雙燕巢。

【幽輵】8 イウアツ 靜かに車がきしる聲。〔揚雄、羽獵賦〕皇車幽輵、光純㆓天地㆒。〔注〕善曰、李奇曰、純、緣繞也、幽輵、車聲也。

【幽鴳】9 イウアツ 猴に似た獸の名。幽頞。〔山海經、北山經〕邊春之山、有㆑獸焉、其狀如㆑禺、而文身善笑、見㆑人則臥、名曰㆓幽鴳㆒、其鳴自呼。〔注〕鴳、音遏。〔郭璞、山海經圖贊、幽頞〕幽頞似㆑猴、俾㆓愚作㆑智、觸㆑物則笑、見㆑人佯睡、好用㆓小慧㆒、終是嬰繫。

【幽暗】10 イウアン くらい。又、くらいところ。幽闇。〔後漢書、竇武傳〕臣聞、明主不㆑諱㆓譏刺之言㆒、以探㆓幽暗之實㆒。〔文天祥、正氣歌序〕單扉低小、白間短窄、汙下而幽暗。

【幽闇】11 イウアン くらい。又、くらいところ。〔後漢書、姜肱傳〕肱臥㆓於幽闇㆒、以㆑被韜㆑面。

【幽異】12 イウイ おくゆかしくてすぐれてゐる。甚だおくふかい。甚だ靜か。又、そのところ。〔謝靈運、石室山詩〕清旦索㆓幽異㆒、放㆑舟越㆓坰郊㆒。〔翁承贊、題㆓莒潭安閩院㆒詩〕祧宗營㆓祀舍㆒、幽異勝㆓珠林㆒。

【幽意】13 イウイ もの靜かなおもひ。ふかいおもひ。又、うれへる心。うれへ。幽思。幽懷。〔蘇軾、宋復古畫瀟湘晚景圖詩〕知君有㆓幽意㆒、細細爲尋看。

【幽噫】14 イウイ ふさぎこんでなげく。〔孟郊、弔㆓盧殷㆒詩〕攣臥歲時長、漣漣但幽噫。

【幽蔚】15 イウヰ イウウツ おくふかくしげる。又、そのもの。〔左思、吳都賦〕徘徊倘佯、寓㆓目幽蔚㆒。〔郭璞、巫咸山賦〕林薄叢籠、幽蔚隱藹。

【幽狖】16 イウイウ 奧深いところに棲む猿。〔韓愈・張籍・孟郊・張徹、會合聯句〕狂鯨時孤軒、幽狖雜㆓百種㆒。

【幽幽】17 イウイウ ❶おくふかいさま。又、薄暗いさま。薄黑いさま。〔詩、小雅、斯干〕秩秩斯干、幽幽南山。〔傳〕幽幽、深遠也。〔越絕書、越絕外傳枕中〕幽幽冥冥、豫知㆑未㆑形。〔王融、三月三日曲水詩序〕幽幽叢薄、秩秩斯干。〔韓愈、琴操、將歸操〕狄之水兮、其色幽幽、我將㆑濟兮、不㆑得㆓其由㆒。❷薄明いさま。〔蘇軾、江月詩〕五更山吐㆑月、窗迥室幽幽。❸しづかなさま。〔韓愈、秋懷詩〕蟲鳴室幽幽、月吐窗冏冏。

【幽幽冥冥】18（イウイウメイメイ） おくふかくくらいさま。〔韓詩外傳、五〕幽幽冥冥、德之所レ藏。

【幽悠】19（イウイウ） かすかで遠い。奧深い。〔阮籍、大人先生傳〕左蕩莽而無レ涯、右幽悠而無レ方。

【幽莠】20（イウイウ） 草の名。はぐさ。稻に似た惡草。〔戰國、魏策〕夫物多相類而非也、幽莠之幼也似レ禾、驪牛之黃也似レ虎、白骨疑レ象、武夫類レ玉。

【幽憂】21（イウイウ） うれひなやんでふさぎこむ。〔皮日休、入二林屋洞一詩〕遂招二放曠侶一、同作二幽憂行一。

【幽憂子】22（イウイウシ） ❶書名。七卷。附錄一卷。唐、盧照鄰撰。〔四部叢刊、第六百十一・六百十二冊〕。❷唐、盧照鄰(8－23050‥260)の號。

【幽憂之病】23（イウイウノヤマヒ） ふさぎこむ病氣。きやみ。憂鬱病。一說に、程度の甚だしくなつた病。〔莊子、讓王〕予適有二幽憂之病一。〔釋文〕幽憂之病、謂二其病深固一。〔疏〕幽、深也、憂、勞也。〔歐陽脩、送二楊寘一序〕予嘗有二幽憂之疾一、退而閒居不レ能レ治也、既而學二琴於友人孫道滋一、受二宮聲數引一、久而樂レ之、不レ知三疾之在二其體一也。

【幽澳】24（イウイク） 奧深く靜かなみぎは。〔韓維、南溪詩〕渠波環二古臺一、葦石坐二幽澳一。

【幽逸】25（イウイツ） 世をのがれかくれる。〔後漢書、孝冲帝紀〕庚戌、詔二三公特進侯卿校尉一、擧二賢良方正、幽逸修道之士各一人一。

【幽陰】26（イウイン） 奧深く靜か。〔禮、郊特牲〕昏禮不レ用レ樂、幽陰之義也。〔疏〕幽、深也、姑使下其婦深思二陰靜之義一、以脩中婦道上。〔常建、江上琴興詩〕泠泠七弦遍、萬木澄幽陰。

【幽蔭】27（イウイン） 奧深く暗いさま。樹木などの生ひ茂るさま。幽蔭薈蔚を見よ。

【幽蔭薈蔚】28（イウインワイヰ） 森林などの鬱然たるさま。〔柳宗元、永州龍興寺東邱記〕俛入二綠縟一、幽蔭薈蔚。

【幽隱】29（イウイン） ❶深くかくれる。世を遁れてかくれ住む。〔禮、表記、君子隱而顯、疏〕君子身雖二幽隱一、而道德潛通、聲名顯著、故云二隱而顯一也。〔楚辭、嚴忌、哀時命〕不レ如三下遊二乎淸波一、寧幽隱以遠レ禍兮。〔風俗通、五嶽〕道德太平、恐遠不二同化一、幽隱有二不レ得レ所者一。❷暗いこと。曖昧でよく分らない狀態をいふ。〔荀子、非十二子〕幽隱而無レ說、閉約而無レ解。〔注〕謂二其言幽隱閉結、而不レ能二自解說一、謂下但言二堯舜之道一、而不上レ知二其興作方略一也。❸はつきり見えないさま。薄ぼんやりと見えるさま。〔蔡邕、述行賦〕想二宓妃之靈光一兮、神幽隱以潛翳。❹奧深くかくれたところ。あらはれぬところ。邊鄙なところ。〔韓非子、六反〕夫陳二輕貨於幽隱一、雖二曾史一可レ疑也、懸二百金於市一、雖二大盜一不レ取也。〔白虎通、封公侯〕足下以二教道一照中幽隱上。〔漢書、黃霸傳〕宣二明教化一、通二達幽隱一。〔漢書、朱博傳〕古選二諸侯賢者一、以爲二州伯一、所下以廣二聰明一燭中幽隱上也。❺世にかくれた人。隱遁した人。〔漢書、李尋傳〕宜下急博求二幽隱一、拔二擢天士一、任以中大職上。

【幽隱樹】30（イウヰンジユ） 桂の異名。〔于武陵、山中桂詩〕忽逢二幽隱樹一、如レ見二獨醒人一。

【幽院】31（イウヰン） 奧深く靜かな庭。〔李煜、病中書事詩〕月照二靜居一唯擣レ藥、門扃二幽院一只來レ禽。

【幽韻】32（イウヰン） かすかなひびき。おくゆかしいひびき。おくふかいおもむき。〔王安石、祭二歐陽文忠公一文〕其淸音幽韻、凄如二飄風急雨之驟至一。〔朱熹、懷二子厚一詩〕琅然撫二枯桐一、幽韻泉谷虛。

【幽鬱】33（イウウツ） ❶心がむすぼれること。氣がふさいで舒びないこと。鬱結。〔柳宗元、謝三吉甫相公示二手札一啓〕化二幽鬱之志一。❷草木の深く茂るさま。〔儲光義、舟中別二武金壇一詩〕秋荷尙幽鬱、暮鳥復翩翻。

【幽雲】34（イウウン） 深く垂れ籠めた雲。〔楚辭、王褒、九懷、危俊〕觀二幽雲兮陳浮一。〔注〕山氣滃鬱而羅列也。〔李頎、裴尹東溪別業詩〕幽雲澹徘回、白鷺飛二左右一。〔賈島、寄二賀蘭明吉一詩〕泛レ舟同二遠客一、尋レ寺入二幽雲一。

【幽運】35（イウウン） 運命をいふ。幽は、人知を以て知り得ない意。冥運。〔後漢書、陳蕃傳贊〕陳蕃蕪レ室、志淸二天綱一、人謀雖レ緝、幽運未レ當。

【幽蘊】36（イウウン） 鬱積したおもひ。〔謝惠連、泛レ湖歸出二樓中一翫レ月詩〕近矚祛二幽蘊一、遠視盪二諠[illegible]一。〔注〕銑曰、幽、靜、蘊、積。

【幽映】37（イウエイ） ほのかな日光。又、ほのかに照りはえること。〔錢起、香山精舍詩〕松門入二幽映一、石逕趣迤邐。

【幽詠】38（イウエイ） 靜かにうたふ。〔韓愈、閑遊詩〕持レ竿至二日暮一、幽詠欲二誰聽一。

【幽裔】39（イウエイ） かたすみ。おく。土地のはて。邊土。遠方の國。〔晉書、文帝紀〕海隅幽裔、無レ不二思服一。

【幽禜】40（イウエイ） 星をまつる祭の名。〔孔叢子、論書〕幽禜所二以祭一レ星也。

【幽窅】41（イウエウ） しづかでおくふかいさま。〔郝經、詩〕水花澹二晚色一、幽窅足二眞趣一。

【幽液】42（イウエキ） 天然の雨露をいふ。幽は、靈妙な力を意味する。〔江逌、竹賦〕翕二幽液一以潤レ本、承二淸露一以濯レ莖。

【幽咽】43（イウエツ） むせぶ。むせび泣く。又、聲がつまりかすかになる。嗚咽。〔庾信、秦州天水郡麥積崖佛龕銘序〕水聲幽咽、山勢崆峒。〔陳後主、隴頭水詩〕登レ山一回顧、幽咽動二邊情一。〔白居易、琵琶行〕閒關鶯語花底滑、幽咽泉流氷下灘、水泉冷澀絃凝絕、凝絕不レ通聲暫歇。〔博異志〕幽咽良久、亦不レ可レ辨二其文一、而無レ所二紀錄一也。

【幽葉】44（イウエフ） 靜かな奧深い趣のある葉。〔沈佺期、仙萼池亭侍レ宴應制詩〕閑花開二石竹一、幽葉吐二薔薇一。

【幽娟】45（イウエン） 靜かな奧深い趣があつてうるはしいさま。〔杜顗、集賢院山池賦〕見二藤篠之幽娟一、弄二石泉之明媚一。

【幽悁】46（イウエン） 心の底にいだくうれひ。〔韓愈、送二靈師一詩〕還如二舊相識一、傾レ壺暢二幽悁一。〔王安石、示二耿天騭一詩〕望レ公時顧レ我、於レ此暢二幽悁一。

【幽煙】47（イウエン） 靜かな奧深い趣のあるけむり。〔水經、溫水注〕林邑王、云云、巢棲樹宿、負郭接レ山、榛棘蒲薄、騰林拂レ雲、幽煙冥緬、非二生人所一レ安。

【幽餤】48（イウエン） かすかなほのほ。〔劉言史、春過二趙墟一詩〕古柏重生枝亦乾、餘漆見レ風幽餤滅。

【幽燕】49（イウエン） 今、河北省北部の地をいふ。幽州・燕國に因んでいふ。〔顏延之、赭白馬賦〕旦刷二幽燕一、晝秣二荊越一。〔注〕良曰、幽燕、北地名。〔王胄、白馬篇〕三韓勞二薄伐一、六事指二幽燕一。

【幽豔】50（イウエン） 靜かでうつくしいさま。奧ゆかしくうつくしいさま。〔劉言史、買花謠〕幽豔凝レ華春景曙、林夫移得將二何處一。〔盧溵、金燈詩〕疎莖秋擁レ翠、幽豔夕添レ紅。〔曾鞏、憶二越中梅一詩〕今日舊林冰雪地、冷香幽豔向レ誰開。

【幽冤】51（イウエン） 晴れない無實の罪。〔崔湜、景龍二年云云春日赴二襄陽一途中言レ志詩〕天道何期乎、幽冤終見レ明。

【幽婉】52（イウエン） 奧ゆかしくしなやか。物しづかで「しとやか。

【幽園】53（イウエン） 奧深い感じがして靜かな園。〔杜甫、豎子至詩〕小子幽園至、輕籠熟柰香。

【幽圓】54（イウエン） 天上をいふ。〔包佶、祀二雨師一樂章〕陟二降左右一、誠達二幽圓一。

【幽遠】55（イウエン） 奧深くとほい。幽深。〔詩、小雅、鶴鳴、鶴鳴二于九皐一、聲聞二于野一、疏〕鶴處二九皐一、人皆聞レ之、以興下賢者隱二于幽遠之處一、其名聞中于朝廷之閒上。〔後漢書、桓榮傳〕夫五經廣大、聖言幽遠。〔後漢書、魯丕傳〕既顯二巖穴一以求二仁賢一、無レ使三幽遠獨有二遺失一。〔劉峻、辨命論〕幽遠而難レ聞、河漢而不レ測。

【幽隖】56（イウヲ） 世閒から離れた靜かな感じのするつつみ。〔王炎、舟行過二白石一翌日到二莘莪一卻回和二淸老一詩〕轉レ柂涉二奔湍一、支レ笻入二幽隖一。

【幽憶】57（イウオク） 靜かなおもひ。深いおもひ。〔李尤、圍棊銘〕詩人幽憶、感レ物則思。

【幽屋】58（イウヲク） 人氣の無い家。又、奧深い感じのする靜かな處にある家。〔姚合、洞庭葡萄架詩〕陰烟壓二幽屋一、濛密夢二冥苗一。

【幽音】59（イウオン） 靜かな音。奧ゆかしい音。〔劉希夷、嵩嶽聞レ笙詩〕今來臥二嵩岑一、何幸承二幽音一。

【幽佳】60（イウカ） 奧ゆかしく佳い趣のあること。靜寂で風景がよい。幽勝。〔吳鎭、松泉圖詩〕景幽佳兮足二靜賞一。

【幽架】61（イウカ） 靜寂な趣の所にあるたな。〔惠洪、春日會思二禹兄於谿堂一詩〕盡籤二書策一齊二幽架一、已買二漁舟一泊二小灘一。

【幽遐】62（イウカ） かすかでとほい。深くて遠い。又、そのところ。〔晉書、桓溫傳〕九域宅レ心、幽遐企レ踵。〔南史、劉歊傳〕歊、性重二興業一、尤愛二山水一、登レ危履レ嶮、必盡二幽遐一。

【幽歌】63（イウカ） 靜かに歌ふ。又、その歌。〔江淹、秋夕納涼奉二和刑獄舅一詩〕空居寂以欷、左右自幽歌。〔朱熹、宿二石邑館一詩〕擊レ楫成二幽歌一。

【幽哦】64（イウガイ） かすかにうたふ。靜かにうたふ。又、その歌。〔文同、宿二超果山寺一詩〕夜久不レ能レ寐、禽蟲伴二幽哦一。

【幽雅】65（イウガ） 奥ゆかしく上品なこと。〔張適、題二山水障子一爲二蕭溪耕者一賦詩〕蕭溪先生樂レ山者、結レ屋臨レ溪頗幽雅。

【幽介】66（イウカイ） 身分がいやしく孤立する。又、その人。幽賤孤介の略。〔謝莊、月賦〕臣東鄙幽介、長自二丘樊一。〔注〕良曰、幽賤孤介之人。〔羅袞、謝レ知レ己啓〕豈期二幽介遽獲レ忝レ塵。

【幽芥】67（イウカイ） 菜の名。かぶら。蕪菁。〔方言、三〕蘴蕘、蕪菁也、云云、趙魏之郊、謂二之大芥一、小者謂二之辛芥一、或謂二之幽芥一。

【幽界】68（イウカイ） 目に見えない世界。幽冥界。死後の「世界。よみぢ。冥土。

【幽堦】69（イウカイ） 奥深く靜かな感じのする所にあるきざはし。〔李頎、光上座廊下衆山五韻詩〕氣盤二古壁一轉、勢引二幽堦一長。

【幽嶰】70（イウカイ） 奥深い山あひ。〔後漢書、馬融傳〕窮二俊谷一底二幽嶰一、暴二斥虎一搏二狂兕一。〔注〕嶰、謂二山澗一也。

【幽崖】71（イウガイ） ❶北邊をいふ。崖は畔岸。〔班固、東都賦〕北動二幽崖一、南燿二朱垠一。〔注〕向曰、崖・垠、皆畔岸也。〔何晏、景福殿賦〕南距二陽榮一、北極二幽崖一。〔注〕良曰、幽崖、北邊也。❷靜かで奥深いがけ。〔江淹、雜體、魏文帝遊宴詩〕綠竹夾二清水一、秋蘭被二幽崖一。〔注〕翰曰、幽崖、深岸也。

【幽塏】72（イウガイ） 靜かで奥深い岡。塏は、高燥の地。〔王守仁、始得二東洞一遂改爲二陽明小洞天一詩〕披レ萊歷二風磴一、移レ居喜二幽塏一。

【幽巷】73（イウカウ） 奥ふかい小路。又、人里離れた所。〔應璩、與二滿公琰一書〕使下鮮魚出二于潛淵一、芳旨發上自二幽巷一。〔張正見、賦二得落落窮巷士一詩〕塵隨二幽巷一靜、嘯逐二遠風一清。〔韋應物、神靜師院詩〕青苔幽巷徧、新林露氣微。

【幽香】74（イウカウ） 奥ゆかしいにほひ。幽馥。〔溫庭筠、東郊行〕綠渚幽香注二白蘋一、差差小浪吹二魚鱗一。〔王安石、歲晚詩〕俯窺憐二綠淨一、小立佇二幽香一。〔朱熹、蘭詩〕護得幽香到レ晚清。

【幽桁】75（イウカウ） 靜寂な感じのするけた。〔劉詵、和二羅昌逢千葉桃一詩〕亭空晝無レ人、山鳥立二幽桁一。

【幽釭】76（イウカウ） 靜寂な感じのするひともし。〔方回、秋晚雜書詩〕歸歟書屋夜、昏燈剔二幽釭一。

【幽衡】77（イウカウ） 黑色の佩玉の衡。幽は黝。〔禮、玉藻〕一命、緼紱・幽衡、再命、赤紱・幽衡。〔注〕衡、佩玉之衡也、幽、讀爲レ黝、黑、謂二之黝一。

【幽蘅】78（イウカウ） 靜かな奥深い趣のあるかんあふひ。〔孟郊、同年春燕詩〕幽蘅發二空曲一、芳杜綿二所思一。

【幽客】79（イウカク） ❶靜かに世を離れて暮す人。又、俗事に心を累はされない風流な人。〔謝朓、和三伏武昌登二孫權故城一詩〕幽客滯二江皐一、從レ賞乖二纓弁一。〔李白、遊二水西一詩〕涼風日瀟灑、幽客時憩泊。〔梅堯臣、夏日云云登二周襄故城一詩〕獨攜二幽客一步、閑閱二老農耕一。❷蘭の異名。〔西溪叢話、上〕予長兄伯聲、嘗得二三十客一、牡丹爲二貴客一、梅爲二清客一、蘭爲二幽客一。〔花譜〕蘭曰二幽客一、亦名二水香一。❸山礬（4―7869・908）の異名。高さ數尺。春、白い花を開く。〔三柳軒雜識〕山礬爲二幽客一。

【幽隔】80（イウカク） 遠くへだたる。又、うづもれへだたる。〔後漢書、殤帝紀〕抒二幽隔鬱滯之情一。〔後漢書、郎顗傳〕或生而幽隔、人道不レ通、鬱積之氣、上感二皇天一。〔潘岳、悼レ亡詩〕之子歸二窮泉一、重壤永幽隔。〔趙景眞、與二嵇蕃一書〕乘レ高眺レ遠、則山川幽隔。

【幽壑】81（イウガク） 奥深い谷。〔蜀志、郤正傳〕初升二高岡一、終隕二幽壑一。〔嵇康、琴賦〕登二飛梁一、越二幽壑一。〔晉書、陸機陸雲傳論〕桂生二幽壑一、終保二彌年之丹一。〔唐太宗、出獵詩〕怖獸潛二幽壑一、驚禽散二翠空一。〔蘇軾、前赤壁賦〕舞二幽壑之潛蛟一、泣二孤舟之嫠婦一。

【幽閤】82（イウカフ） さびしい小門。〔武平一、妾薄命〕幽閤禽雀噪、閑階草露滋。

【幽闔】83（イウカフ） 靜かな奥深い感じのする門のとびら。〔江淹、青苔賦〕至二於修臺廣廡、幽闔閒楹一、云云。

【幽坎】84（イウカン） ❶深いあな。〔杜牧、傷レ猨詩〕獨折南園一朶梅、重尋幽坎已生レ苔。❷死者を葬り埋めた穴。〔韓愈、豐陵行〕幽坎晝閉空靈輿。

【幽寒】85（イウカン） うづもれおちぶれること。淋しいさま。〔李賀、致酒行〕少年心事當レ拏レ雲、誰念幽寒坐嗚呃。

【幽閑】86（イウカン） 靜かで奥ゆかしい。幽閒。〔墨子、天志上〕夫天不レ可レ爲二林谷幽閑無レ人。〔後漢書、列女傳贊〕端操有レ蹤、幽閑有レ容。〔顏延之、秋胡詩〕婉彼幽閑女、作レ嬪二君子室一。〔注〕向曰、幽閑、柔順貌。

【幽閒】87（イウカン） ❶くらく靜か。遠く邊鄙。又、その所。人の見ない所。〔莊子、庚桑楚〕爲二不善乎幽閒之中一者、鬼得而誅レ之。〔荀子、王制〕無二幽閒隱辟之國一。〔荀子、王霸〕雖二幽閒隱辟一、百姓莫四敢不三敬レ分安レ制以化二其上一。〔韓氏外傳、三〕幽閒僻陋之國。〔新書、耳痺〕不レ可レ爲二廣虛幽閒悠遠無レ人。〔說苑、辨物〕幽閒則循循如也。❷靜かで奥ゆかしい。幽閑。幽閒貞靜・幽閒貞專を見よ。

【幽閒鼓吹】88（イウカンコスイ） 書名。一卷。唐、張固撰。中唐の遺事を記す。考證に裨益するところが多い。〔四庫提要、子、小說家類〕。

【幽閒貞靜】89（イウカンテイセイ） 女德を稱する語。もの靜かで奥ゆかしく正しいこと。幽閒貞專。〔詩、周南、關雎、窈窕淑女、集傳〕見三其有二幽閒貞靜之德一、故作二是詩一。

【幽閒貞專】90（イウカンテイセン） もの靜かで奥ゆかしく正しくまめやかなこと。幽閒貞靜に同じ。〔詩、周南、關雎、傳〕言、后妃有二關雎之德一、是幽閒貞專之善女、宜レ爲二君子好匹一。

【幽感】91（イウカン） 奥底にいだくおもひ。〔南史、臧燾傳〕古先哲王、莫レ不下致二肅恭之誠心一、盡中崇嚴乎祖考上、然後能流二淳化於四海一、通二幽感於神明一。〔張九齡、同二綦母學士一月夜聞レ鴈詩〕空聲兩相應、幽感一何深。

【幽澗】92（イウカン） おくふかい谷川。幽谷。〔墨子、明鬼下〕雖レ有二深谿博林幽澗毋レ人之所一、施行不レ可二以不レ謹、見有二鬼神一視レ之。〔晉書、曹毗傳〕蘭生二幽澗一、玉輝二千仞一。〔郭璞、江賦〕幽澗積岨、礐硞礐確。〔謝靈運、山居賦〕摭二曾嶺之細辛一、拔二幽澗之溪蓀一。

【幽緘】93（イウカン） 密封する。〔謝惠連、擣衣詩〕盈レ篋自二余手一、幽緘候二君開一。

【幽檻】94（イウカン） 靜かなてすり。〔鄭谷、題二表兄玉藻渭上別業一詩〕幽檻靜來漁唱遠、暝天寒極鴈行低。

【幽鑒】95（イウカン） 靜かにみる。〔朱熹、題二周氏溪園一詩〕澄潭俯幽鑒。

【幽岸】96（イウガン） 靜かな岸。〔庾闡、孫登隱居詩〕先生體レ之、寂二坐幽岸一。

【幽龕】97（イウガン） 靜かな寺の塔。〔蘇軾、碧落洞詩〕幽龕入二窈窕一、別戶穿二虛明一。

【幽巖】98（イウガン） おくぶかいいはほ。〔孫綽、遊二天台山一賦〕凝二思幽巖一、朗二詠長川一。

【幽奇】99（イウキ） かくれてめづらしい。〔蕭穎士、白鷳賦序〕白鷳羽族之幽奇也、神貌清閑、不レ雜二於衆禽一。

【幽氣】100（イウキ） 靜かな氣。〔江淹、冬盡難レ離和二丘長史一詩〕山川吐二幽氣一、雲景抱二長懷一。

【幽記】101（イウキ） 世に祕められた記錄。〔謝朓、高松賦〕閱二品物於幽記一、訪二叢育於祕經一。

【幽鬼】102（イウキ） 死者の魂。幽靈（467）に同じ。〔津國女夫池、四〕幽鬼のしわざぞ不思義なる。

【幽期】103（イウキ） ❶祕密の期約。〔謝靈運、撰征賦〕石幽期而知レ賢、張揣景而示レ信。〔謝靈運、富春渚詩〕平生協二幽期一、淪躓困二微弱一。〔注〕濟曰、往事已有二幽隱之期一、但以三沈頓困二於微弱一、常不レ能レ就。〔杜甫、大雲寺贊公房詩〕洞門盡徐步、深院果幽期。❷yu^1 ch'i^2 男女の私約をいふ。幽期私訂を見よ。

【幽期私訂】104 yu^1 ch'i^2 ssŭ^1 ting^4 男女の密會。あひびき。〔紅樓夢、二十八回〕想昨宵幽期私訂在荼蘼架。

【幽暉】105（イウキ） 靜かな光氣。〔元稹、含風夕詩〕青熒微二月鉤一、幽暉洞二陰魄一。

【幽詭】106（イウキ） 人知れずあざむきいつはる。〔呂覽、勿躬〕則幽詭愚險之言、無レ不レ職矣。

【幽求】107（イウキウ） 幽閒の處で道を求める。〔王巾、頭陀寺碑文〕殷二鑒四門一、幽求六歲。〔陳子昂、山水粉圖〕信夫人之好レ道、愛二雲山一以幽求。

【幽求子】108（イウキウシ） 字號。❶晉、杜夷（6―14477・4）の號。❷清、李鍇（6―14459・107）の號。

【幽柩】109（イウキウ） ひつぎ。槨柩。〔陸機、愍懷太子誄〕幽柩偏寄、孤魂曷歸。

【幽菊】110（イウキク） もの靜かで奥ゆかしい菊。〔張耒、秋懷次二韻晁應之一詩〕晚篁元自綠、幽菊爲レ誰開。

【幽睨】111（イウキヤウ） かくれたまもの。神仙のみちの

喩。〔後漢書、方術傳贊〕幽兕罕レ徵、明數難レ校。

【幽境】112 イウキヤウ　奥深い處。靜かな場所。〔李頎、少室雪晴送二王寧一詩〕行人與レ我翫二幽境一、北風切切吹レ衣冷。

【幽鏡】113 イウキヤウ　❶奥深く藏した鏡。〔劉爍、擬二行行重行行一〕淚容不レ可レ飾、幽鏡難二復治一。〔注〕翰曰、幽匣之鏡、誰復重理。❷靜かな池。〔朱熹、試院雜詩〕急雨散二遙空一、圓文滿二幽鏡一。

【幽響】114 イウキヤウ　かすかなひびき。〔江淹、雜體、許徵君詢詩〕曲櫺激二鮮飈一、石室有二幽響一。〔許衡、遊二黃華一詩〕石苔積二重痕一、溪面動二幽響一。

【幽饗】115 イウキヤウ　神にそなへる酒食。〔謝超宗、齊太廟肆夏樂歌〕昭序溢、幽饗餘。

【幽宮】116 イウキユウ　奥深い御殿。〔蘇軾、後赤壁賦〕樊二栖鶻之危巢一、俯二馮夷之幽宮一。

【幽窮】117 イウキユウ　おしこめられる。幽閉せられる。〔韓愈、送二文暢師北遊一詩〕幽窮共レ誰語、思想甚含レ嘁。

【幽居】118 イウキヨ　世をさけて靜かな所に住む。幽處。隱居。又、其のすまひ。〔禮、儒行〕儒有二博學而不レ窮、篤行而不レ倦、幽居而不レ淫、上通而不レ困。〔後漢書、法眞傳〕幽居恬泊、樂以忘レ憂。〔謝靈運、酬二從弟惠連一詩〕嚶鳴已悅豫、幽居猶鬱陶。〔陸機、演連珠〕幽居之女、非レ無二懷春之情一。

〖幽居寺〗119 イウキヨジ　寺の名。湖北省廣濟縣の南。四祖が此の山に卓錫して靈龜山幽居の字を刻した雲板を得たので名づくと傳ふ。今、瓔珠寺といふ。〔黃州府志〕廣濟縣、幽居寺、在二治南一、王祖大滿禪師建。

【幽墟】120 イウキヨ　遠方の地。〔曹植、七啓〕經二迥漠一、出二幽墟一、入二乎泱漭之野一。〔注〕銑曰、迥漠幽墟、皆遠方之地。

【幽圄】121 イウギヨ イウゴ　くらいひとや。牢獄。幽囹。〔江淹、詣二建平王一上書〕迹墜二昭憲一、身限二幽圄一。〔注〕良曰、幽圄、謂レ獄也。〔輟耕錄、幽圄〕因俾三左右引レ之觀二幽圄一。

【幽蛩】122 イウキヨウ　靜かになくこほろぎ。〔高棅、懷二鄭二逸人一詩〕夢迴鏡明沒、寂歷聞二幽蛩一。

【幽興】123 イウキヨウ　奥ゆかしい興趣。〔杜甫、陪二鄭廣文一遊二何將軍山林一詩〕平生爲二幽興一、未レ惜二馬蹄遙一。〔杜甫、重過二何氏一詩〕向來幽興極、步屧過二東籬一。

【幽欣】124 イウキン　靜かなよろこび。〔蘇軾、和下陶癸卯歲始春懷二古田舍一二首上詩〕客來有二美載一、果熟多二幽欣一。

【幽琴】125 イウキン　靜かに清む琴の音。〔江孝嗣、離夜詩〕幽琴一罷レ調、清醑復誰同。

【幽禁】126 イウキン　おしこめる。〔魏書、高陽王雍傳〕疏二棄崔氏一、別房幽禁、不レ得三關二豫內政一。

【幽禽】127 イウキン　奥深い處に棲む鳥。幽鳥。〔陸游、西村詩〕茂林風送幽禽語、壞壁苔侵醉二墨痕一。〔高啓、天平山詩〕高鶻有二危樓一、幽禽無二俗哢一。

【幽襟】128 イウキン　靜かな思。深い思。幽衿。〔唐玄宗、送三賀知章歸二四明一詩〕寰中得二祕要一、方外散二幽襟一。〔杜甫、奉レ觀二嚴鄭公廳事岷山沲江圖一詩〕繪事功殊絕、幽襟興激昂。〔楊師道、春朝閑步詩〕池塘藉二芳草一、蘭芷襲二幽衿一。

【幽吟】129 イウギン　靜かに唱ふ。〔杜甫、追二酬故高蜀州人日見レ寄詩〕今晨散レ帙眼忽開、迸レ淚幽吟事如レ昨。

【幽愚】130 イウグ　人の知らない愚者。自己の謙辭。〔南齊書、虞玩之傳〕詔逮二幽愚一、謹陳二妄說一。

【幽隅】131 イウグウ　人里はなれた片隅。〔張衡、七辨〕無爲先生、淹在二幽隅一、藏レ聲隱レ景、剗レ迹窮居。

【幽窟】132 イウクツ　奥深いいはや。〔柳宗元、遊二朝陽巖一云云詩〕高巖瞰二清江一、幽窟潛二神蛟一。

【幽果】133 イウクワ　靜かな果實。〔李建勳、溪齋詩〕衰條寒露レ鵲、幽果落驚レ魚。

【幽花】134 イウクワ　靜かな花。〔杜甫、過二南鄰朱山人水亭一詩〕幽花欹滿レ樹、小水細通レ池。〔李羣玉、湖閣曉晴詩〕風烏搖二徑柳一、水蝶戀二幽花一。

【幽瓦】135 イウグワ　物靜かな屋根がはら。〔王安石、和二沖卿雪一云云詩〕荒林無二空枝一、幽瓦有二高隴一。

【幽臥】136 イウグワ　靜かに臥す。〔陳子昂、遇二崔司議泰之・冀侍御珪二使一詩〕謝レ病南山下、幽臥不レ知レ春。〔元好問、南溪詩〕風鬟峩峩一尺雲、芳香幽臥如二相親一。

【幽怪】137 イウクワイ　あやしいこと。〔韓愈、岳陽樓別二竇司直一詩〕炎風日搜攪、幽怪多二冗長一。〔孟郊、峽哀詩〕幽怪窟穴語、飛聞眕響流。

【幽晦】138 イウクワイ　くらい。幽昧。〔荀子、賦〕幽晦登昭、日月下藏。〔楚辭、九章、涉江〕山峻高以蔽レ日兮、下幽晦以多レ雨。〔韓愈、謝二自然一詩〕白日變二幽晦一、蕭蕭風景寒。

【幽會】139 イウクワイ　祕密の會。〔梁武帝、上雲樂、方丈曲〕金書發二幽會一、碧簡吐二玄門一。

【幽懷】140 イウクワイ　心の奥にいだくおもひ。むねのうち。〔韓愈、幽懷詩〕幽懷不レ能レ寫、行レ此春江潯。〔侯夫人、自傷詩〕颯履步二庭下一、幽懷空感傷。

〖幽懷賦〗141 イウクワイフ　文章の名。唐、李翺の作。世の治まらないのを慨いて、其の幽鬱した胸懷を敍べたもの。〔李翺、幽懷賦幷序〕朋友有二相歎者一、賦二幽懷一以答レ之、其辭曰、衆囂囂而雜處兮、咸嗟レ老而羞レ卑、視二予心之不一レ然兮、慮二行道之猶非一、儻中懷之自得兮、終老死其何悲、昔孔門之多レ賢兮、惟回也爲二庶幾一、超二羣情一以獨去兮、指二聖域一而高追、固簞食與二瓢飲一兮、寧服レ輕而駕レ肥、望レ若レ人其何如兮、慙二吾德之纖微一、躬不レ田而飽食兮、妻不レ織而豐衣、援二聖賢一而比度兮、何僥倖之能希、念二所レ懷之未一レ展兮、非二悼レ己而陳一レ私、自二祿山之始一レ兵兮、歲周レ甲而未レ夷、何神堯之郡縣兮、乃家傳而自持、稅二生人一而育レ卒兮、列二高城一以相維、何茲世之可レ久兮、宜二永念而遐思一、有二三苗之逆一レ命兮、舞二干羽一以來レ之、惟刑德之既修兮、無二遠邇一而咸歸、當二高祖之初起一兮、提二一旅之羸師一、能順レ天而用レ衆兮、竟掃レ寇而戡レ隋、況天子之神明兮、有二烈祖之前規一、剗二弊政一而還レ本兮、如二反レ掌之易一レ爲、苟廟堂之治得兮、何下邑之能違、哀二予生之賤遠一兮、包二深懷一而告レ誰、嗟此誠之不レ達兮、惜二此道一而無レ遺、獨中夜以潛歎兮、匪二吾憂之所一レ宜。

【幽光】142 イウクワウ　奥深い所に輝くひかり。人に知られない德のかがやき等の形容。〔韓愈、答二崔立之一書〕若都不レ可レ得、猶將下耕二於寬閑之野一、釣二於寂寞之濱一、求二國家之遺事一、考二賢人哲士之終始一、作二唐之一經一、垂二之於無窮一、誅二姦諛於既死一、發中潛德之幽光上。〔李商隱、燕臺詩〕今日東風自不レ勝、化作二幽光一入二西海一。〔柳宗元、與二邕州李域中丞一論二陸卓一啓〕振二宣幽光一、激二勵頹俗一。

【幽荒】143 イウクワウ　❶四方のえびす。又、國土のはて。〔張衡、東京賦〕惠風廣被、澤洎二幽荒一。〔注〕綜曰、九州外、謂二四夷一也。〔張協、雜詩〕行行入二幽荒一、歐駱從二祝髮一。〔注〕翰曰、入行經二於幽荒險阻之路一。❷かくれて世に捨てられた者。〔馬融、廣成頌〕登二俊傑一、命二賢良一、擧二淹滯一、拔二幽荒一。

【幽隍】144 イウクワウ　靜かなほり。深い城池。〔水經、渭水注〕太公釣二茲泉一也、今人謂二之丸谷一、石壁深高、幽隍邃密、林障秀阻、人跡罕交。

【幽幌】145 イウクワウ　靜かなとばり。〔謝莊、北宅祕園詩〕微風清二幽幌一、餘日照二青林一。〔王勃、採蓮賦〕發二文扃之嚴什一、動二幽幌之情詩一。

【幽篁】146 イウクワウ　靜かな竹やぶ。〔楚辭、九歌、山鬼〕余處二幽篁一兮終不レ見レ天、路險難兮獨後來。〔王維、竹里館詩〕獨坐二幽篁裏一、彈レ琴復長嘯。〔盧象、和二徐侍郎叢篠一詩〕中禁夕沉沉、幽篁別作レ林。

【幽簧】147 イウクワウ　靜かな笙のふえの響。〔潘岳、笙賦〕擫二纖翮一以震二幽簧一、越二上筩一而通二下管一。

【幽曠】148 イウクワウ　奥ぶかいこと。〔嚴維、僧房避レ暑詩〕幽曠無二煩暑一、恬和不レ可レ量。

【幽款】149 イウクワン　深くいだく眞心。〔溫庭筠、上二裴舍人一啓〕敢持二幽款一、上レ訴隆レ私。

【幽館】150 イウクワン　靜かなやかた。〔曹植、大暑賦〕積二素氷於幽館一、氣飛結而爲レ霜。

【幽關】151 イウクワン　❶奥深いところにあるもの靜かな關所。〔韓琮、潁亭詩〕潁上新亭瞰二一川一、幾重舊址敞二幽關一。❷兩腎の間。〔黃庭經〕玄泉幽關高崔巍。〔注〕兩腎閒爲二幽關一。❸心をいふ。〔沈約、齊故安陸昭王碑〕虛懷博納、幽關洞開。

【幽願】152 イウグワン　しづかなねがひ。〔葉適、題二陳壽老文集後一〕膏二潤枯筆一之後、安二徐窘步一之末、薦二之郊廟一而王度善、藏二之林藪一而幽願愜矣。

【幽契】153 イウケイ　眼に見えぬ神佛との約束。〔晉書、慕容儁載記〕羣臣議以、燕宜三承レ晉爲二水德一、韓恆言二于儁一曰、大燕王迹、始自二於震一、於レ易震爲二青龍一、受命之初、有レ龍見二於都邑城一、龍爲二木德一、幽契之符也。〔王勃、與二員四等一宴序〕古今惜二芳辰一者、停二鶴軫于風衢一、懷二幽契一者、佇二鸞觴于月徑一。

【幽扃】154イウケイ 奥深いとびら。〔水滸傳、二回〕千古幽扃一旦開、天罡地煞出二泉臺一。

【幽迥】155イウケイ 奥深くはるか。幽遠。〔孫綽、遊二天台山一賦序〕豈不レ以二所レ立冥奥、其路幽迥一。

【幽徑】156イウケイ 靜かなこみち。〔李白、登二金陵鳳凰臺一詩〕呉宮花草埋二幽徑一、晉代衣冠成二古丘一。

【幽逕】157イウケイ 靜かなこみち。〔呂溫、終南精舍月中聞レ磬詩〕月峰禪室掩、幽逕靜二昏氛一。〔陸游、園中小飲詩〕此老胸中萬頃寬、小園幽逕日追レ歡。〔楊萬里、春晴懷二故園海棠一詩〕一番過雨來二幽逕一、無數新禽有二喜聲一。

【幽景】158イウケイ 奥深く靜かな景色。〔王禹偁、遊二虎丘寺一詩〕盡抱二好峯一藏二院裏一、不レ教三幽景落二人間一。

【幽經】159イウケイ 神仙の書。〔後魏孝文帝、祭二嵩高山一文〕唯中挺レ神、祥契二幽經一。〔鮑照、舞鶴賦〕散二幽經一以驗レ物、偉二胎化之仙禽一。〔注〕善曰、相鶴經者、出レ自二浮丘公一。公以自授二王子晉一、崔文子者學二仙於子晉一、得二其文一、藏二於嵩高山石室一、及二淮南八公一採レ藥得レ之、遂傳二於世一。

【幽夐】160イウケイ 奥深くはるか。〔柳貫、題二所藏巨然江山行レ舟圖一詩〕巨然作二江山一、所レ得盡幽夐。

【幽閨】161イウケイ 婦女などの居る奥深いへや。ねや。深閨。〔梁昭明太子、錦帶書、十二月啓、姑洗三月〕燕語二雕梁一、狀對二幽閨之語一。〔江淹、別賦〕慙二幽閨之琴瑟一、晦二高臺之流黃一。〔徐彦伯、春閨詩〕戍客戍二清波一、幽閨幽思多。

〖幽閨記〗162イウケイキ 元末の戲曲。元、施惠の作と傳ふ。六十種曲本の一。一名、拜月亭。關漢卿の雜劇、閨怨佳人拜月亭に本づいて多少目を增益したもので、金の蔣世隆と尙書王鎭の女瑞蘭と、又、金の忠臣滿海牙の子陀滿興福と蔣世隆の妹瑞蓮とが金元の戰亂に遭つて幾たびか離合し、終に相婚する始末を演じたもの。〔藝苑巵言〕琵琶記之下、拜月亭是、元人施君美作、亦佳、元朗謂レ勝二琵琶一、則大謬也。

【幽磬】163イウケイ 靜かな磬の聲。磬は玉、又は石で作つた樂器。〔岑參、送二青龍招提歸一上人遠遊二呉楚一別詩〕名香泛二窗戶一、幽磬清二曉夕一。〔韋應物、五弦行〕古刀幽磬初相觸、千珠貫斷落二寒玉一。〔韓翃、題二慈仁寺竹院一詩〕幽磬蟬聲下、閑窗竹翠陰。

【幽蹊】164イウケイ 奥深いこみち。幽徑。〔謝朓、敬亭山詩〕我行雖レ紆レ阻、兼得レ尋二幽蹊一。〔王褒、寄二梁處士周弘讓一書〕鏟二跡幽蹊一、銷二聲窮谷一。

【幽繫】165イウケイ つなぎとぢこめる。〔呉志、孫輔傳〕事覺權幽二繫之一。

【幽闃】166イウゲキ 寂しく靜かなこと。幽闃。〔辛愿、題レ游二彦明林園一詩〕城郭繁華斷二往還一、林園幽闃養二高閒一。〔呉師道、盧山紀遊詩〕竹庭夐二幽闃一、四壁多二殘碑一。

【幽穴】167イウケツ 奥深いあな。〔摯虞、思遊賦〕探二龜蛇于幽穴一兮、瞰二罔養之潛育一。

【幽潔】168イウケツ 靜かできよらか。〔朱熹、冬至陰雨詩〕端居遺二薄領一、遠意懷二幽潔一。

【幽闕】169イウケツ 腎をいふ。〔黃庭內景經〕伏牛幽闕羅二品列一。〔注〕伏牛、腎之象、腎爲二幽闕一。

【幽劫】170イウケフ とぢこめおびやかす。〔劉琨、勸進表〕主上幽劫、復沈二虜庭一。〔注〕良曰、幽、囚、劫、脅也。

【幽軒】172イウケン 松井良直の號。松井可樂(**6－14516**··371)を見よ。

【幽牽】173イウケン 靜かにひく。〔王彪之、井賦〕下沈二瓶一而互激、飛二纖綆一而幽牽。

【幽眷】174イウケン 靜かに思ひ慕ふ。〔張說、石門墨山詩〕佳遊屢前諾、芳月愆二幽眷一。

【幽喧】175イウケン 奥深く鳴く。〔文同、山園詩〕夜歸燈下吟、寒蟲伴二幽喧一。

【幽險】176イウケン ㊀心が邪惡で奥底のわからないこと。又、その者。〔荀子、王制〕進二退貴賤一、則擧二幽險詐故一。〔荀子、彊國〕權謀傾覆、幽險而亡。〔注〕幽險傾險、使二下難レ知則亡。〔荀子、正論〕上周密則下疑玄矣、上幽險則下漸詐矣。〔注〕幽、隱也、險、難レ測也。㊁遠くはなれた險阻なところ。〔張華、鷦鷯賦〕鵰鶚竄二於幽險一、孔翠生二於遐裔一。〔注〕翰曰、言三其藏二竄幽險遠裔之處一。

【幽鍵】177イウケン 深遠な道。佛說をいふ。〔王巾、頭陀寺碑文〕玄關幽鍵、感而遂通。〔注〕銑曰、玄幽、謂二道之深邃一也、關鍵、皆所三以閉二拒於門一者、言、如來說、喩三微妙道門遂通、如二長源深水、酌取不一レ竭也。

【幽顯】178イウケン ㊀人の見ない處と人の見る處。〔莊子、庚桑楚〕明二乎人一明二乎鬼一者然後能獨行、〔注〕幽顯無レ愧二於心一、則獨行而不レ懼。〔北史、房彦謙傳〕自レ非二積德・累仁・豐功・厚利一、孰能道二洽幽顯一、義感二靈祇一。〔隋書、李穆傳〕百靈符命、兆庶謳歌、幽顯樂推、日月塡積。㊁生の世界と死の世界。この世とあの世。幽界と顯界。〔古事記序〕所以出二入幽顯一、日月彰二於洗レ目、浮二沈海水一、神祇呈二於滌レ身。〔本朝文粹、四、大江朝綱、貞信公辭二攝政准三宮等一表〕幽顯合レ契、身殞二於一箭之前一。

【幽玄】179イウゲン ㊀幽冥の國。〔後漢書、皇后下、何皇后紀〕逆臣見レ迫兮命不レ延、逝將三去レ汝兮適二幽玄一。㊁幽かで奥深いこと。幽遠で玄妙なこと。〔王逢、婦董行〕湘妃摻レ袂遡二寥廓一、漢女結レ珮窮二幽玄一。㊂老莊及び禪の哲理の深遠なこと。〔駱賓王、代二女道士王靈妃一贈二道士李榮一詩〕自言少小慕二幽玄一、只言容易得二神仙一。〔臨濟錄〕道流寔情大難、佛法幽玄、解得可可地。㊃詩歌の道の深遠幽奥なこと。轉じて、藝術其のものをいふ。〔本朝續文粹、藤厚敦光、柿本人麿畫讚竝序〕方今爲三重二幽玄之古篇一、聊傳二後素之新樣一。

【幽嚴】180イウゲン 目には見えないが、奥深くして神神しい。奥深くておごそかなこと。邃嚴。〔顏延之、宋文皇帝元皇后哀策文〕皇塗昭烈、神路幽嚴。〔注〕向曰、幽嚴、深敬也。

【幽戶】181イウコ 奥深い戶。幽扉。〔張載、七哀詩〕便房啓二幽戶一。〔徐照、欽上人詩〕客至啓二幽戶一、筍鞋行二竹廊一。〔朱熹、草廬詩〕青山遶二蓬廬一、白雲障二幽戶一。

【幽晤】182イウゴ かすかな契合。微妙な遭合。〔王勃、彭州龍懷寺碑〕惠機幽晤、定識潛融。

【幽寤】183イウゴ 深いさとり。〔孫楚、季子贊〕玄覽幽寤、觸レ類應レ機。

【幽護】184イウゴ しづかに守る。〔李華、荊州南泉大雲寺故蘭若和尙碑〕元慈幽護。

【幽弘】185イウコウ 深くひろい。〔漢書、揚雄傳下〕假言周二于天地一、贊二于神明一、幽弘橫廣、絕二于邇言一。

【幽谷】186イウコク ㊀奥深い谷。しづかな谷。〔列子、黃帝〕寢二吾庭一者、不レ願二深山幽谷一。〔淮南子、說山訓〕蘭生二幽谷一、不二爲レ莫レ服而不レ芳。〔張衡、南都賦〕幽谷嶜岑、夏含二霜雪一。〔陸機、贈三馮文羆遷二斥丘令一詩〕出レ自二幽谷一、及レ爾同レ林。〔歐陽脩、答三呂公著見レ贈詩〕種樹滿二幽谷一、疏泉瀉二清池一。㊁藤田一正の號。藤田幽谷(**9－32340**··72)を見よ。

〖入二于幽谷一〗187イウコクニイル 奥深い谷に入る。〔易、困〕初六、臀困二于株木一、入二于幽谷一、三歲不レ覿。

〖出レ自二幽谷一遷二于喬木一〗188イウコクヨリイデテケウボクニウツル ㊀鳥が深い谷から出て、高い木に飛び遷ること。〔詩、小雅、伐木〕伐レ木丁丁、鳥鳴嚶嚶、出レ自二幽谷一、遷二于喬木一、嚶其鳴矣、求二其友一聲。〔傳〕幽、深、喬、高也。㊁學德が高くなる。向上すること。〔孟子、滕文公上〕吾聞下出二於幽谷一、遷二于喬木一者上、未レ聞下下二喬木一、而入二於幽谷一者上。㊂位の進むこと。〔恒溫、薦二譙元彦一表〕中華有二顧瞻之哀一、幽谷無二遷レ喬之望一。

【幽國】189イウコク 幽暗の國。君臣俱に闇昧な國。〔禮、禮運〕祝嘏辭說、藏二於宗祝巫史一、非レ禮也、是謂二幽國一。〔疏〕國之君臣、秪聞二今日祝嘏之辭一、不レ知二古禮舊說一、當二是君臣俱闇一、故云三是謂二幽國一。〔孔子家語、禮運〕今使二祝嘏辭說一、徒藏二於宗祝巫史一、非レ禮也、是謂二幽國一。

【幽獄】190イウゴク 獄舍にとぢこめる。〔江淹、詣二建平王一上書〕昔上將之恥、絳侯幽レ獄。

【幽昏】191イウコン かすかでくらい。又、くらく亂れてゐること。幽闇。幽昧。〔國語、楚語上〕教二之世一、而爲レ之昭二明德一、而廢二幽昏一焉、以休二懼其動一。〔注〕幽、闇也、昏、亂也。〔莊子、天運〕布揮而不レ曳、幽昏而無レ聲。〔楚辭、賈誼、惜誓〕方二世俗之幽昏一兮、眩二白黑之美惡一。〔注〕幽昏、不レ明也。

【幽恨】192イウコン 心に深く潛むうらみ。人知れぬうらみ。〔元稹、楚歌〕各自埋二幽恨一、江流終宛然。〔韓偓、春悶偶成詩〕相思不二相信一、幽恨更誰知。

【幽婚】193イウコン 死者との結婚。溫休(**7－17968**··31)を見よ。〔孔氏志怪〕盧充、范陽人、家西三十里、有二崔少府墓一、充出獵射、忽見二一府舍一、進見二少府一、崔曰、近尊府君書爲レ君索二小女婚一、故相延

耳、三日後送還、居四年、三月三日臨水戲、忽見一犢車乍浮乍沒、既上岸、見崔氏女與三歲男兒共載、女抱兒還充、又與金盌別、有一老婢、問充得盌之由、還報其大家、卽女姨也、詣充家迎兒、兒有崔氏狀、又似充貌、姨曰、我甥三月末閒產、父曰、春煖溫也、願休強也、卽字溫休、溫休、蓋幽婚也。

【幽魂】194 イウコン 死者のたましひ。幽靈。亡魂。〔長生殿、冥追〕暫住幽魂、吾神去也。〔福惠全書、刑名部、人命上、疑獄〕備棺埋葬、以慰幽魂。

【幽坐】195 イウザ 靜かに坐る。〔韓愈、和崔舍人詠月詩〕幽坐看侵戶、閑吟愛滿庭。

【幽哉】196 イウナルカナ 奧深いことを歎美する辭。〔張說、過蜀道山詩〕誰知高深意、緬邈心幽哉。

【幽齋】197 イウサイ ❶靜かな座敷。〔岑參、梁州對雨云云詩〕隔簾濕衣巾、當暑涼幽齋。〔陸游、冬夜聽雨戲作詩〕遶簷點滴如琴筑、支枕幽齋聽始奇。❷細川藤孝の號。

【幽草】198 イウサウ 深く茂つた草。〔詩、小雅、何草不黃〕有芃者狐、率彼幽艸。〔李白、求崔山人百丈崖瀑布圖詩〕石黛刷幽草、曾青澤古苔。〔韋應物、滁州西澗詩〕獨憐幽草澗邊生、上有黃鸝深樹鳴。〔王安石、初夏卽事詩〕晴日暖風生麥氣、綠陰幽草勝花時。

【幽莊】199 イウサウ 靜かなしもやしき。〔盧照鄰、初夏日幽莊詩〕聞有高蹤客、耿介坐幽莊。

【幽操】200 イウサウ 奧深くしづかなみさを。〔晉書、戴逵傳〕希心俗表、云云、棲遲衡門、與琴書爲友、雖策命屢加、幽操不回。

【幽窻】201 イウサウ 靜かなまど。〔張泌、春夕言懷詩〕幽窻漫結相思夢、欲化西園蝶未成。

【幽藏】202 イウザウ 深くかくれる。〔白虎通、五行〕北方水、萬物所幽藏也。〔後漢書、趙壹傳〕邪夫顯進、直士幽藏。〔摯虞、孔子贊〕河圖沈翳、鳳鳥幽藏。

【幽朔】203 イウサク 北方のえびすの地。〔陸機、苦寒行〕北游幽朔城、涼野多嶮難。〔注〕向曰、北、稱幽也、朔、北方也。〔隋煬帝、親征高麗詔〕省俗觀風、爰屆幽朔。

【幽賾】204 イウサク 深遠な道理。〔盧諶、答魏子悌詩〕妙詩申篤好、清義貫幽賾。〔周書、儒林傳論〕至於天官律歷、陰陽緯候、靡不博綜窮其幽賾。

【幽殺】205 イウサツ ❶幽閉して殺す。〔史記、呂后紀〕帝廢位、太后幽殺之。〔漢書、五行志上〕王不寤焉、卒見幽殺。〔後漢書、曹節傳〕幽殺太后。❷蔭ぼしにする。〔曹植、迷迭香賦〕既經時而收采兮、遂幽殺以增芳。〔本草、迷迭香〕集解、時珍曰、魏文帝時、自西域移植庭中、同曹植等各有賦、大意、其草修幹柔莖、細枝弱根、繁花結實、嚴霜弗凋、收采幽殺、摘去枝葉、入袋佩之、芳香甚烈。

【幽散】206 イウサン 絕える。〔繁欽、與魏文帝牋〕大不抗越、細不幽散。〔注〕銑曰、幽散、絕也。〔成公綏、嘯賦〕時幽散而將絕、中矯厲而慨慷。

【幽贊】207 イウサン 深く明かにする。人の目に見えない處で助けてあらはす。〔易、說卦〕昔者聖人之作易也、幽贊於神明而生蓍。〔注〕幽、深也、贊、明也。〔疏〕幽者、隱而難見、故訓爲深也、贊者、佐而助成、而令微者得著、故訓爲明也。〔漢書、眭兩夏侯京翼李傳贊〕幽贊神明、通合天人之道者、莫著乎易春秋。〔漢書、兒寬傳〕六律五聲、幽贊聖意。〔注〕師古曰、幽、深也、贊、明也。〔後漢書、方術傳序〕仲尼稱、易有君子之道四焉、曰、卜筮者尚其占、占也者先王所以定禍福、決嫌疑、幽贊於神明、遂知來物者也。〔晉書、藝術傳序〕幽贊冥府、弼成人事。

【幽讚】208 イウサン 深く明かにする。遠く助ける。幽贊に同じ。〔曹植、王仲宣誄〕彊記洽聞、幽讚微言。〔注〕濟曰、幽、深、讚、明也。〔王巾、頭陀寺碑文〕馬鳴幽讚、龍樹虛求。〔注〕翰曰、幽讚、謂遠助佛化。

【幽山】209 イウザン 黑岩恒の號。黑岩東峰（**12**－**48038**··358）を見よ。

【幽塹】210 イウザン 靜かなほり。〔魏文帝、校獵賦〕望爵臺而增擧、涉幽塹之花梁。

【幽子】211 イウシ かくれひそんでゐる人。〔韓愈、別趙子詩〕海中諸山中、幽子頗不無。

【幽旨】212 イウシ かすかに奧深いむね。幽玄至妙の旨趣。〔晉書、王湛傳論〕叶宣尼之遠契、翫道韋編、遵伯陽之幽旨、含虛牝谷。

【幽死】213 イウシ おしこめられて死ぬ。〔史記、呂后紀〕丁丑、趙王幽死、以民禮葬之長安民冢次。〔漢書、文帝紀〕前趙幽王幽死、朕甚憐之。

【幽沚】214 イウシ 靜かなぎさ。〔司馬札、上巳日曲江有感詩〕晴沙下鷗鷺、幽沚生蘭荃。

【幽姿】215 イウシ たをやかなすがた。〔謝靈運、登池上樓詩〕潛虯媚幽姿、飛鴻響遠音。〔朱熹、秋華、菊詩〕青蕊冒珍叢、幽姿含曉露。

【幽思】216 イウシ 心靜かに思ひやる。おもひに沈む。又、其のおもひ。〔史記、屈原傳〕故憂愁幽思而作離騷、離騷者、猶離憂也。〔後漢書、馮衍傳下〕幷日夜而幽思兮。〔論衡、知實〕心懷望沮、退而幽思。〔左思、蜀都賦〕幽思絢道德、摛藻掞天庭。〔皇甫曾、送權三兄弟詩〕淮海風濤起、江關幽思長。〔錢起、江行詩〕幽思正遲遲、沙邊濯弄時。

【幽視】217 イウシ かすかに見る。〔孟郊、石淙詩〕勁飈刷幽視、怒水懾餘湍。

【幽耳】218 イウジ しづかに聞く耳。〔韓愈、送石處士赴河陽幕詩〕風雲入壯懷、泉石別幽耳。

【幽事】219 イウジ 世とかけはなれた靜かな事柄。〔杜甫、北征詩〕青雲動高興、幽事亦可悅。〔皮日休、寄魯望詩〕野侶相逢不待期、半緣幽事半緣詩。〔戴復古、江上詩〕梅花出籬落、幽事頗關心。

【幽囚】220 イウシウ とらはれる。牢獄に閉ぢこめられる。めしうど。拘禁。〔戰國、秦策〕使臣得進謀如伍子胥、加之以幽囚、終身不復見、是臣說之行也、臣何憂乎。〔漢書、陳湯傳〕幽囚久繫、歷時不決。〔漢書、劉輔傳〕誠不宜幽囚于掖庭獄。

【幽囚錄】221 イウシウロク 書名。吉田松陰が、幕府の嫌疑を蒙つて幽囚せられ、獄中で記した書。

【幽囚受辱】222 イウシウハヅカシメヲウク とらはれて恥辱を受ける。〔列子、力命〕公子糾敗、召忽死之、吾幽囚受辱、鮑叔不以我爲無恥、知我不羞小節而恥名不顯於天下也。〔史記、管晏傳〕吾幽囚受辱、鮑叔不以我爲無恥、知我不羞小節而恥功名不顯于天下也。

【幽州】223 イウシウ 州名。❶古、十二州の一。舜、冀州の東北の地を分つて、幽州とす。北方幽昧の地に在るからいふ。河北省の順天・永平、及び滿洲遼寧省の錦州の西北一帶の地。〔爾雅、釋地〕燕曰幽州。〔釋名、釋州國〕幽州、在北、幽昧之地也。〔周禮、夏官、職方氏〕東北曰幽州、其山鎭曰醫無閭。〔讀史方輿紀要、直隸〕順天府、禹貢冀州地、其在顓頊時曰幽陵、帝堯時曰幽都、帝舜時爲幽州地、夏商時皆爲冀州地、周亦置幽州。❷前燕、置く。治は龍城。滿洲熱河省朝陽縣の地。❸前趙の劉淵、置く。治は離石。山西省離石縣治。❹南燕、置く。治は發干。山東省堂邑縣の西南。〔讀史方輿紀要、山東、東昌府、堂邑縣〕發干城、漢縣屬東郡、武帝封衞青子登爲侯邑、後漢仍屬東郡、晉屬陽平郡、南燕時僑置幽州於此、後魏仍屬陽平郡、北齊縣省。❺北燕、置く。肥如を鎭とす。河北省盧龍縣の北。〔讀史方輿紀要、直隸、永平府、盧龍縣〕肥如城、應劭曰、春秋晉滅肥、肥子奔燕、燕封之於此、漢爲肥如縣、高帝六年、封蔡寅爲侯邑、後漢亦曰肥如縣、永元九年、鮮卑寇肥如、中平五年、漁陽張純等叛屯肥如、卽此、晉太康六年、鮮卑慕容廆寇遼西、幽州師敗廆於肥如、其後石趙得其地、趙滅、沒於慕容燕、慕容令曰、守肥如之險、是也、東晉隆安二年、慕容盛置幽州於此、義熙四年、北燕高雲置幽冀二州、鎭肥如。❻五胡の夏、置く。治は大成。陝西省榆林縣の東北。

【幽岫】224 イウシウ 深い山の巖穴。〔晉書、簡文帝紀〕雖抗志玄霄、潛默幽岫、貪屈高尚之道、以隆協贊之美。〔郭璞、江賦〕潛逵旁通、幽岫窈窕。〔張協、雜詩〕荒庭寂以閑、幽岫峭且深。

【幽洲】225 イウシウ 洲の名。河北省密雲縣の東北。〔書、舜典〕流共工於幽洲。〔傳〕北裔水中可居者曰洲。〔疏〕幽州在北裔。〔校勘記〕說文無洲字、水中之地、本只作州、後人加水、相沿已久、惟此句不可作洲、觀孔疏、直以十二州之幽州釋之、則孔氏所据之經作州、與孟子同、若作洲、則似別有一地名爲幽洲矣、孔傳云、水中可居者曰州、此蓋汎釋州字之義。

【幽愁】226 イウシウ 深いうれひ。人知れないなげき。

〔趙東曦、涉江賦〕氣蕭颯而悲涼兮、志幽愁而誰語。

〔幽愁暗恨〕227 イウシウアンコン　深く人知れないうれひ。幽憂。幽悲。〔白居易、琵琶行〕別有二幽愁暗恨生一、此時無レ聲勝レ有レ聲。

【幽柔】228 イウジウ　靜かでやはらか。〔孟郊、臥レ病詩〕倦レ寢意蒙昧、強レ言聲幽柔。

【幽獸】229 イウジウ　かくれひそんでゐる獸。〔韓愈、喜二侯喜至一贈二張籍張徹一詩〕荒花窮二漫亂一、幽獸工二騰閃一。

【幽室】230 イウシツ　㊀奥ふかくてうすぐらい室。〔禮、仲尼燕居〕譬如二終夜有レ求二於幽室之中一。〔說苑、脩文〕有二幽室數辱之產一、未レ諭二於傅母之教一。〔後漢書、張湛傳〕居二處幽室一、心自修整。〔陶潛、擬挽歌辭〕幽室一已閉、千年不二復朝一。㊁腎をいふ。〔太上黃庭內景玉經、上清章〕幽室內明照二陽門一。〔注〕幽室、腎也、陽門、命門也。

【幽瑟】231 イウシツ　靜かな琴の音。〔范成大、連日風作洞庭不レ可レ渡出二赤沙湖一詩〕慷慨悲歌續二楚些一、彷彿幽瑟迎二湘靈一。

【幽執】232 イウシフ　とらはれる。牢獄へおしこめられる。幽囚。〔漢書、五行志〕諸侯將レ有二幽執之禍一。〔吳志、孫韶傳、注〕身不レ免二於幽執一、命不レ期二於旦夕一。〔陸機、謝二平原內史一表〕幽二執囹圄一、當レ爲二誅始一。

【幽榭】233 イウシヤ　靜かなうてな。〔鄭谷、街西晚歸詩〕幽榭名園臨二紫陌一、晚風時帶牡丹香。〔李建勳、春雪詩〕幽榭凍粘花屋重、短簷斜濕燕巢寒。

【幽昌】234 イウシヤウ　北方の神鳥の名。〔說文〕鷫、五方神鳥也、東方發明、南方焦明、西方鷫鷞、北方幽昌、中央鳳皇。〔後漢書、五行志五、樂叶圖徵說、注〕叶圖徵曰、云云、四曰幽昌、銳目小頭、大身細足、脛若二鱗葉一、身智、戴信、負禮、嬰義、膺仁、至則旱之感也。

〔幽昌宮〕235 イウシヤウキユウ　腎をいふ。〔雲笈七籤〕腎爲二「幽昌宮・太和府一。

【幽敞】236 イウシヤウ　靜かでひろくたひらか。〔貢師泰、夜宿二書舍一詩〕齋居頗幽敞、洞然啓二八窗一。〔馬汝驥、碧雲寺行〕陰洞鑿レ空嵐翠裂、水亭幽敞失二炎熱一。〔朱熹、四時讀書樂詩〕新竹壓レ簷桑四圍、小齋幽敞明二朱曦一。

【幽障】237 イウシヤウ　遠くはなれた所にあるとりで。〔後漢書、祭肜傳論〕至下乃臥二鼓邊亭一、滅中烽幽障上者、將二三十年一。

【幽賞】238 イウシヤウ　靜かに風景をたのしむ。深くほめ味ふ。〔李白、春夜宴二桃李園一序〕幽賞未レ已、高談轉清。〔韋應物、寄二中書劉舍人一詩〕佳詠邀二清月一、幽賞滯二芳叢一。

【幽城】239 yu¹ chʻêng²　地獄をいふ。〔長生殿、冥追〕只問你多大幽城。

【幽情】240 イウジヤウ　靜かな心情。風雅な情懷。〔班固、西都賦〕願賓攄二懷レ舊之蓄念一、發二思レ古之幽情一。〔潘岳、西征賦〕疚二聖達之幽情一。〔陸機、歎逝賦〕幽情發而成レ緒、滯思叩而興レ端。〔王羲之、三月三日蘭亭詩序〕一觴一詠、亦足三以暢二敍幽情一。

【幽壤】241 イウジヤウ　泉下の地。はか。死後の世界。泉壤。〔晉書、禮志上〕徐廣議四府君、當下處二廟堂之首一、歆中率土之祭上、若埋二之幽壤一、於二情理一未二必咸盡一。〔白居易、馬摠亡祖母韋氏贈二夫人一制〕不三唯垂二裕後昆一、抑亦光二昭幽壤一。〔元稹、諭レ寶詩〕鏌鋣無二人淬一、兩刃幽壤鐵。

【幽酌】242 イウシヤク　ひとり靜かに酒を酌む。〔李白、北山獨酌詩〕傾レ壺事二幽酌一、顧レ影還獨盡。

【幽若】243 イウジヤク　奥ゆかしい香を發する杜若。〔曹植、七啓〕緄佩綢繆、或彫或錯、薰以二幽若一、流芳肆布。〔注〕善曰、若、杜若也、若稱二幽若一、猶三曰二幽蘭一也。

【幽趣】244 イウシユ　奥ゆかしいおもむき。〔孫逖、湖中宴二王使君一序〕邱壑林藪、幽趣之適、在二此行一也。〔賈島、易州登二龍興寺樓一詩〕朝來上レ樓望、稍覺得二幽趣一。〔梅堯臣、河南王尉西齋詩〕種レ竹幽趣深。

【幽樹】245 イウジユ　奥深くしげつた樹。幽木。〔謝靈運、悲哉行〕幽樹雖レ改レ觀、終始在二初生一。〔錢起、新豐主人詩〕暮鳥棲二幽樹一、孤雲出二舊丘一。

【幽菽】246 イウシユク　味噌を作る豆。〔丹鉛錄〕說文解二豉字一云、配二鹽幽菽一也、蓋豉本豆也、以レ鹽配レ之、幽二閉於甕盎中一所レ成、故曰二幽菽一。

【幽峻】247 イウシユン　奥深くけはしい。〔世說新語、任誕下〕尋レ山陟レ嶺、必造二幽峻一。〔南史、孔淳之傳〕居二會稽剡縣一、性好二山水一、每レ有レ所レ遊、必窮二其幽峻一。

【幽浚】248 イウシユン　奥深い。〔蔡邕、郭泰碑〕崇莊幽「浚、如レ山如レ淵。

【幽潤】249 イウジユン　靜かにうるほふ。〔謝莊、上二封禪儀注一表〕玄浸紛流、華液幽潤。

【幽處】250 イウシヨ　靜かな處に居る。又、靜かな處。〔說苑、建本〕吾嘗幽處而深思、不レ若二學之速一、吾嘗跂而望、不レ若三登レ高之博見一。〔論衡、自紀〕幽處獨居、考二論實虛一。〔祖詠、蘇氏別業詩〕別業居二幽處一、到來生二隱心一。〔常建、破山寺後禪院詩〕曲徑通二幽處一、禪房花木深。

【幽渚】251 イウシヨ　物靜かななぎさ。〔陸機、塘上行〕江蘺生二幽渚一、微芳不レ足レ宣。〔符載、愁賦〕桃李艷二於淑景一、蕙蘭生二於幽渚一。〔孟浩然、宿二建德江一詩〕移レ舟泊二幽渚一、日暮客愁新。〔劉禹錫、送三李策秀才還二湖南一云云詩〕蒔蘭在二幽渚一、安得レ揚二芬馨一。

【幽墅】252 イウシヨ　世間とかけはなれたしもやしき。〔溫庭筠、開成五年秋云云書レ懷詩〕事迫離二幽墅一、貧牽犯二畏途一。〔鄭谷、故少師云云感二舊愴懷一云云詩〕晴臺隨二鹿上一、幽墅結二僧鄰一。

【幽松】253 イウシヨウ　靜かな松。〔張說、和三張監遊二終南一詩〕時鳥戲二幽松一。

【幽勝】254 イウシヨウ　靜かな善い景色。〔唐書、裴度傳〕沼石林叢、岑二繚幽勝一。〔林逋、復二賡前韻一且以二陋居一詫而誘レ之詩〕百千幽勝無二人見一。

【幽慵】255 イウシヨウ　心がさえないでものういこと。〔杜牧、雨中作詩〕賤子本幽慵、多爲二雋賢侮一。

【幽色】256 イウシヨク　靜かな色。〔張九齡、感遇詩〕紫蘭秀二空蹊一、皓露奪二幽色一。〔杜甫、四松詩〕幽色幸秀發、疎柯亦昂藏。〔李羣玉、書院二小松詩〕一雙幽色出二塵凡一、數粒秋烟二尺鱗。

【幽燭】257 イウシヨク　靜かにかがやくともしび。〔雲笈七籤〕紫晨幽燭、七曜蔚粲。

【幽心】258 イウシン　靜かな心。〔江淹、惜二晚春一應二劉祕書一詩〕烟景抱二空意一、衡杜綴二幽心一。〔王昌齡、聽レ彈二風入松一闋贈二楊補闕一詩〕寥落幽居心。

【幽岑】259 イウシン　おく深いみね。〔季頻、避暑詩〕神仙倘有レ術、引レ我出二幽岑一。

【幽信】260 イウシン　奥ゆかしいたより。〔林逋、深居雜興詩〕花月病懷看二酒譜一、雲蘿幽信寄二茶經一。

【幽眞】261 イウシン　天然のままで奥深いこと。〔王安石、張氏靜居院詩〕南堂棲二幽眞一、晨起瞻二像圖一。

【幽神】262 イウシン　かくれて奥深い神。〔陸雲、贈二顧驃騎一詩〕沈機響駭、幽神廣覿。

【幽深】263 イウシン　靜かで奥深い。幽邃。〔易、繫辭上〕无レ有二遠近幽深一、遂知二來物一。〔韓詩外傳、五〕道路悠遠、山川幽深。〔論衡、書虛〕幽深遠近、無二不レ見者一。〔漢書、廣陵厲王胥傳〕黃泉下兮幽深、人生要レ死、何爲苦レ心。〔禰衡、鸚鵡賦〕故其嬉二遊高峻一、棲二跱幽深一。〔張華、勵レ志詩〕研精躭レ道、安有二幽深一。

【幽櫬】264 イウシン　ひつぎ。棺。〔潘岳、爲二諸婦一祭二庾新婦一文〕潛二形幽櫬一、寧二神舊宇一。

【幽人】265 イウジン　世を避けかくれてゐる人。隱君子。〔班固、幽通賦〕夢登レ山而迥眺兮、覿二幽人之髣髴一。〔後漢書、李陳龐陳橋傳論〕結二甕牖一而辭二三命一、殆漢陽之幽人乎。〔陸機、應嘉賦〕懷二前修之彷彿一、覿二幽人乎所レ過。〔孔稚珪、北山移文〕或歎二幽人長往一。〔韋應物、秋夜寄二丘二十二員外一詩〕山空松子落、幽人應レ未レ眠。

〔幽人之貞〕266 イウジンノテイ　世を避けてかくれてゐる人の貞正な節操。〔易、履〕履レ道坦坦、幽人貞吉。〔魏志、王烈傳〕履二幽人之貞一、而失二考父慈恭之義一。

〔幽人之風〕267 イウジンノフウ　幽人の風尚。〔謝朓、擬宋玉風賦〕眇二神玉於丘壑一、獨起二遠於孤觴一、斯則幽人之風也。

【幽尋】268 イウジン　㊀學問を深く研究する。〔韓愈、復志賦〕窺二前靈之逸迹一兮、超孤擧而幽尋。㊁奥深い處にたづねる。〔陸龜蒙、偶掇二野蔬一寄二襲美有一詩〕野園烟裏自幽尋。

【幽水】269 イウスイ　靜かな水。〔陸機、漏刻賦〕挈二金壺一以南羅、藏二幽水一而北戢。

【幽翠】270 イウスイ　奥深く青い。幽碧。〔王昌齡、緱氏尉沈興宗置二酒南谿一留贈詩〕林色與レ溪古、深篁引二幽翠一。〔李德裕、憶二初暖一詩〕幽翠生二松柏一、輕烟起二薜蘿一。

【幽隧】271 イウスイ　奥深い穴で風の出る所。〔成公綏、嘯賦〕飛廉鼓二於幽隧一、猛虎應二於中谷一。〔注〕向曰、隧、風所レ出也。

【幽邃】272 イウスイ 靜かで奧深い。幽深。幽遠。〔易、繫辭上〕其受レ命也如二嚮无レ有二遠近幽深一。〔疏〕言易之告二人吉凶一、無レ問二遠之與レ近、及幽邃深遠之處一、悉皆告レ之也。〔王延壽、魯靈光殿賦〕旋室㛹娟以窈窕、洞房叫窱而幽邃。〔孫綽、遊二天台山一賦〕邈彼絶域、幽邃窈窕。〔誠齋雜記〕洞庭有二二穴一、東南入レ洞、幽邃莫レ測。

【幽性】273 イウセイ 靜かな心。〔錢起、題二準上人蘭若一詩〕向レ山看二霽色一、步步豁二幽性一。

【幽星】274 イウセイ 夜の星。〔何晏、景福殿賦〕其奧祕則翳蔽曖昧、髣髴退概、若二幽星之纚連一也。〔注〕銑曰、幽、夜也。

【幽砌】275 イウセイ もの靜かな庭のいしだたみ。〔李商隱、過二伊僕射舊宅一詩〕幽砌欲レ乾殘菊露、餘香猶入敗花風。〔陸龜蒙、藥名離合詩〕木屐著來幽砌滑、石罌煎得遠泉甘。

【幽棲】276 イウセイ 俗世を離れてしづかに隱棲する。又、其のすみか。かくれが。〔謝靈運、鄰里相二送方山一詩〕資レ此永幽棲、豈伊年歲別。〔丘遲、旦發二漁浦潭一詩〕信是永幽棲、豈徒暫淸曠。〔杜甫、有レ客詩〕幽棲地僻經過少、老病人扶再拜難。〔舊唐書、玄宗紀上〕武德貞觀以來、勳臣子孫無レ位者、訪二求其後一奏聞、有二嘉遯幽棲、養レ高不レ仕者一、州牧各以レ名薦。〔吳鎭、李成寒林圖詩〕無限黃塵滿、幽棲總不レ知。

【幽棲亭】277 イウセイテイ 宋、朱昂(**6－14424**‥77)の室名。

【幽棲居士】278 イウセイコジ 宋、朱淑眞(**6－14424**‥850)の號。

【幽靜】279 イウセイ 奧深くしづか。又、其の處。〔宋玉、神女賦〕既姽二嫿於幽靜一兮、又婆二娑乎人閒一。〔晉書、江逌傳〕羣祀之所、必在二幽靜一。〔謝惠連、雪賦〕若乃申二娛玩之無レ已、夜幽靜而多レ懷。

【幽竁】280 イウセイ 壙墓。〔樓鑰、王大令保母甎刻詩〕煩レ君更爲レ護二幽竁一、或恐意如二猶有レ知。

【幽沼】281 イウセウ 物しづかなぬま。〔陸龜蒙、和下襲美江南書情寄二韋校書一貽中商洛二同年上詩〕雨餘幽沼淨、霞散遠峰巉。

【幽夕】282 イウセキ 靜かなゆふべ。〔楊甲、遊二長松寺一詩〕娟娟松閒月、幽夕亦可レ度。

【幽石】283 イウセキ ものしづかな石。さびしい所にある石。〔鮑照、蕪城賦〕莫レ不下埋二魂幽石一、委中骨窮塵上。〔謝靈運、過二始寧墅一詩〕白雲抱二幽石一、綠篠媚二淸漣一。〔楊師道、還二山宅一詩〕垂藤掃二幽石一、臥柳礙二浮槎一。

【幽穸】284 イウセキ 奧深く靜かな墓穴。〔張九齡、惠莊太子哀冊文〕潛二淸暉於幽穸一、昭二鴻名於美跡一。

【幽迹】285 イウセキ かすかな足跡。〔駱賓王、上二太常伯一啓〕投レ竿垂レ餌、晦二幽迹於渭濱一、抱レ甕灌レ園、絶二心機於漢渚一。〔鮑溶、秋懷詩〕往歎在二空中一、存レ事委二幽迹一。

【幽寂】286 イウセキ 奧深くしづか。〔杜甫、宇文晁・崔彧重泛二鄭監前湖一詩〕郊扉俗遠長幽寂、野水春來更接連。〔酉陽雜俎、物異〕虞鄉有レ山、觀甚幽寂、有二滌陽道士居一焉。

【幽磧】287 イウセキ 遠方の沙原。〔陳第、四憶詩〕登レ高望二紫塞一、朔雪沈二幽磧一。

【幽折】288 イウセツ ものしづかなまがつた路。〔齋藤拙堂、游二箕面山一遂入レ京記〕此閒竹經松緯、一往幽折、甚樂レ之。

【幽拙】289 イウセツ 人里はなれたしづかな自分の家。〔方干、贈二會稽楊長官一詩〕若向二湖邊一訪二幽拙一、蕭條四壁是閑居。〔劉得仁、山中舒レ懷寄二上丁學士一詩〕幽拙欣二殊幸一、提攜更不レ疑。

【幽說】290 イウセツ 奧深い意見。〔漢書、揚雄傳下〕抗辭幽說、閎意眇指。

【幽絶】291 イウゼツ 靜かでかけはなれてゐること。又その場所。〔後漢書、蘇不韋傳〕城闕天沮、客府幽絶。〔范甯、穀梁傳序〕若至言幽絶、擇レ善靡レ從。〔李羣玉、別二尹鍊師一詩〕南窮二衡疑秀一、採レ藥歷二幽絶一。〔朱熹、奉二同張敬夫城南二十詠一、西嶼詩〕人境諒非レ遙、湖山自幽絶。

【幽泉】292 イウセン ものしづかないづみ。〔左思、魏都賦〕潛龍浮レ景、而幽泉高鏡。〔左思、蜀都賦〕火井沉二熒於幽泉一、高爓飛二煽於天垂一。〔孫楚、井賦〕幽泉騰湧、津澤傍潤。〔柳宗元、始得二西山一宴游記〕幽泉怪石、無二遠不レ到。

【幽僊】293 イウセン かくれひそむ仙人。〔宋之問、扈從登封告レ成頌應制詩〕文衞嚴二淸蹕一、幽僊讀二寶符一。

【幽潛】294 イウセン ❶水の伏し流れる所。〔韓愈、苦寒詩〕虎豹僵二穴中一、蛟螭死二幽潛一。❷深くひそみかくれる。〔楚辭、王褒、九懷、通路〕鯨鱏兮幽潛、從レ蝦兮遊レ渚。❸奧深くひそんでゐる道理。〔吾丘衍、與二鄰寓人一隔レ屋對レ月夜話詩〕憑レ君縱二玄論一、未レ怪發二幽潛一。

【幽潺】295 イウセン 靜かな水流の音。〔柳宗元、構二法華寺西亭一詩〕神舒屛二羈鎖一、志適忘二幽潺一。

【幽賤】296 イウセン 世にあらはれない身分のひくいもの。〔後漢書、蔡邕傳〕昔韓安國起レ自二徒中一、朱買臣出二於幽賤一。〔晉書、阮种傳〕雖二幽賤負レ俗、勿レ有レ所レ限。〔羊祜、讓二開府一表〕側席求レ賢、不レ遺二幽賤一。

【幽全】297 イウゼン 血と全い毛。犧牲の純粹なものをいふ。〔禮、郊特牲〕毛血告二幽全之物一也、告二幽全之物一者、貴レ純之道也。〔注〕幽、謂レ血也、純、謂二中外皆善一。

【幽然】298 イウゼン 奧深く靜かなさま。幽幽。〔晉書、裴楷傳〕若二登レ山臨レ下、幽然深遠。

【幽禪】299 イウゼン 靜かな所で坐禪をする。〔韓愈、送二靈師一詩〕齊民逃二賦役一、高士著二幽禪一。

【幽阻】300 イウソ ❶牢獄。〔嵆康、幽憤詩〕對答鄙訊、縶二此幽阻一。〔注〕向曰、荅二對獄吏一、恥レ爲二其所レ問、縶、繫也、幽阻、與二親友一不レ通。❷奧深く險阻な處。〔吳志、諸葛恪傳〕乃分二內諸將一、羅二兵幽阻一。〔謝靈運、答二范光祿一書〕山澗幽阻、音塵闊絶。

【幽宗】301 イウソウ 星を祭る壇の名。〔禮、祭法〕幽宗、祭レ星也。〔注〕宗皆當レ爲二禜字之誤一。〔疏〕幽、闇也、星至レ夜而出、故曰レ幽。〔梁簡文帝、和三蕭東陽祀二七里廟一詩〕萬里實幽宗、三神亦天構。

【幽叟】302 イウソウ ❶不思議な老人。下邳圯上の老人をいふ。〔謝瞻、張子房詩〕肇允契二幽叟一、翻飛指二帝鄉一。〔注〕濟曰、幽、神也。❷人里はなれた處にすむ老人。〔王灣、晚夏馬嵬卿叔池亭卽事云云詩〕逮レ此乘二務閑一、因而訪二幽叟一。

【幽搜】303 イウソウ 靜かにさがす。〔陸龜蒙、書帶草賦〕幽搜莫レ及、興詠徒存。

【幽僧】304 イウソウ 靜かな處に住む僧侶。〔趙嘏、寄二山僧一詩〕雲裏幽僧不レ置レ房、橡花藤葉蓋二禪床一。

【幽叢】305 イウソウ 深くしげつたくさむら。〔張協、七命〕甝レ林蹶レ石、扣二跋幽叢一。〔注〕向曰、幽叢、深木林也。

【幽藪】306 イウソウ 奧深いさは。〔後漢書、張楷傳〕輕レ貴樂レ賤、竄二跡幽藪一、高志確然、獨拔二羣俗一。〔魏志、杜襲傳〕徒欲下龍二蟠幽藪一、待レ時鳳翔上。〔張協、雜詩〕結二宇窮岡曲一、耦二耕幽藪陰一。〔陸機、漢高祖功臣頌〕舞陽道迎、延二帝幽藪一。

【幽仄】307 イウソク イウショク かすかなところ。かくれて世に顯れない人。〔宋書、孝武帝紀〕惠敏之訓、無レ漏二於幽仄一。〔梁武帝、舊族搜レ士詔〕在昔周漢取二士方國一、頃代凋訛、幽仄乃被。〔沈約、恩倖傳論〕明二敭幽仄一、唯才是與。〔注〕良曰、幽仄、謂二暗陋一也。

【幽息】308 イウソク 息を靜かにひそめる。〔駱賓王、詠レ蟬詩序〕每レ至二夕照低陰一、秋蟬疎引、發レ聲幽レ息、有二切常聞一。

【幽態】309 イウタイ 靜かなありさま。〔溫庭筠、題二磁嶺海棠花一詩〕幽態竟誰賞、歲華空與期。

【幽滯】310 イウタイ 民閒に隱れとどこほる。又、その人。〔後漢書、董卓傳〕幽滯之士、多レ所二顯拔一。〔吳志、步隲傳〕是以人無二幽滯一、而風俗厚焉。〔蜀志、許靖傳〕沙二汰穢濁一、顯二拔幽滯一。

【幽島】311 イウタウ 物靜かな島。〔崔塗、鸚鵡洲眺望詩〕幽島暖聞二燕鴈去一、曉江晴覺二蜀波來一。〔范梈、秋江釣レ月詩〕衆峯更滅沒、橫笛隔二幽島一。

【幽討】312 イウタウ 靜かにたづねる。名所古跡を尋ね步く。勝を探る。幽尋。幽探。〔杜甫、贈二李白一詩〕李侯金閨彥、脫身事二幽討一。〔蘇軾、送二鄧宗古還レ鄉詩〕澗谿有二幽討一、蘋芷眞嘉蔬。

【幽塘】313 イウタウ 靜かなつつみ。〔皮日休、入二林屋洞一詩〕幽塘四百里、中有二日月精一、連亘三十六、各各爲二玉京一。

【幽堂】314 イウダウ ❶靜かなへや。〔張協、七命〕幽堂晝密、明室夜朗。〔鮑照、秋夜詩〕幸承二天光轉一、曲景入二幽堂一。❷はか。墳墓。〔韓愈、劉統軍碑〕有レ謚有レ誄、有二幽堂之銘一。

【幽宅】315 イウタク 墓をいふ。〔儀禮、士喪禮〕度二茲幽宅兆基一、無レ有二後艱一。〔注〕宅、居也、度、謀也、茲、此也、基、始也、言爲二其父一筮二葬居一、今謀レ此以爲二幽冥居兆域之始一、得レ無二後將レ有二艱難一乎。

【幽闥】316 イウタツ 奧深い門。深閨。〔張衡、西京賦〕

重闈幽闥、轉相逾延。〔傅玄、怨歌行朝時篇〕蜻蛚吟二牀下一、回風起二幽闥一。〔陸機、爲二顧彦先一贈レ婦詩〕東南有二思婦一、長歎充二幽闥一。〔注〕向曰、幽闥、深闥也。

【幽探】317イウタン 靜かに尋ねる。名勝を探る。幽討。〔張籍、和二李僕射西園一詩〕虛坐詩情遠、幽探道侶兼。〔朱松、送二沈昌時敍レ別詩〕歸路春深風日美、伴レ誰操レ筆賦二幽探一。〔蘇軾、東湖詩〕新荷弄二晚涼一、輕棹極二幽探一。

【幽單】318イウタン 靜かでひとり。〔李賀、仁和里雜二敍皇甫湜一詩〕客枕幽單看二春老一。

【幽潭】319イウタン 靜かなふち。奧深いふち。深淵。〔王勃、採蓮賦〕飛二木蘭之畫楫一、駕二芙蓉之綺船一、問レ子何去、幽潭採レ蓮。

【幽澹】320イウタン 靜かに水の動搖するさま。〔曹松、信州聞通寺題二僧砌下泉一詩〕細聲從二嶠足一、幽澹浸二香墀一。

【幽致】321イウチ 奧深く靜かなおもむき。〔王勃、寶莊嚴寺碑〕靑松礀戶、坐諧幽致。〔權德輿、郊居歲暮因書レ所レ懷詩〕烟霜當二暮節一、水石多二幽致一。

【幽墀】322イウチ 石をしいた靜かな庭。〔柳宗元、茆簷下始栽レ竹詩〕蕭瑟過二極浦一、旖旎附二幽墀一。

【幽竹】323イウチク しげつた竹。又、奧深くしづかな竹。〔錢起、暮春歸二故山草堂一詩〕始憐二幽竹一山窻下、不レ改二淸陰一待二我歸一。〔韋應物、道晏寺主院詩〕比鄰有二幽竹一、潛筠穿二我廬一。〔劉得仁、宿二宣義池亭一詩〕暮色遶二柯亭一、南山幽竹靑。

【幽竹齋】324イウチクサイ 淸、呂采芝(**2－3386**‥205)の號。

【幽築】325イウチク 靜かなたてもの。〔韓維、送二孔先生還レ山詩〕日久望二林壑一、駕言反二幽築一。

【幽蟄】326イウチツ かくれひそむ蟲。〔陸龜蒙、雜諷詩〕吾欲レ斧二其吭一、無三雷動二幽蟄一。

【幽縶】327イウチフ とらへつなぐ。執縶。〔孔融、論二盛孝章一書〕身不レ免二於幽縶一、命不レ期二於旦夕一。〔張華、鷦鷯賦〕魂幽二縶於九重一、變二音聲一以順レ旨。〔白居易、得甲在レ獄病久請二將レ妻入侍一法曹不レ許訴稱二三品已上散官判〕甲罪抵二刑憲一、身從二幽縶一。

【幽帳】328イウチヤウ 靜かなとばり。〔王儉、春夕詩〕虛閨稍疊レ草、幽帳日凝レ塵。

【幽腸】329イウチヤウ 靜かな思。〔孟郊、長安羈旅詩〕聽二樂離別中一、聲聲入二幽腸一。

【幽聽】330イウチヤウ 靜かにきく。〔朱熹、題二吳公濟風泉亭一詩〕幽聽一以會、悠然與レ神謀。

【幽衷】331イウチユウ 靜かな思。〔王僧達、答二顏延年一詩〕幽衷何用慰、翰墨久謠吟。

【幽女】332イウヂヨ とぢこめられた女。〔新序、雜事二〕後宮多二幽女一者、下民多二曠夫一。

【幽沈】333イウチン 靜かに世の中からかくれる。世事を離れて靜かに暮す。〔柳宗元、讀書詩〕幽沈謝二世事一、俛默窺二唐虞一。

【幽沈之聲】334イウチンノコヱ 深くしづんだこゑ。〔孔叢子、記義〕今也更爲二幽沈之聲一、幽則利欲之所二爲發一、沈則貪得之所二爲施一、夫子何所レ感而若レ是乎。

【幽枕】335イウチン 靜かなまくらべ。〔陸游、雪後詩〕禽語驚二幽枕一、冰消漲二野塘一。

【幽通】336イウツウ 神と遇ふこと。幽通賦を見よ。

【幽通賦】337イウツウフ 文章の名。後漢、班固作。文選、十四卷に載す。〔漢書、敍傳上〕有レ子曰レ固、弱冠而孤、作二幽通之賦一、以致レ命遂レ志。〔班固、幽通賦、注〕善曰、賦云、覿二幽人之髣髴一、然幽通謂二與レ神遇一也、銑曰、是時多用二不肖一、而賢良路塞、班固賦二幽通一、述二古者得失神明之理一、以爲精誠信惠、是所レ爲政也。

【幽亭】338イウテイ 靜かなあづまや。〔鄭愔、奉三和幸二上官昭容院一詩〕幽亭有二仙桂一、聖主萬年看。〔張籍、題二韋郎中新亭一詩〕起二得幽亭一景復新、碧莎地上更無レ塵。〔杜牧、和三令狐侍御賞二蕙草一詩〕尋常詩思巧如レ春、又喜幽亭蕙草新。

【幽帝】339イウテイ 前燕の帝。慕容暐(**4－11088**‥50)を見よ。

【幽貞】340イウテイ 靜かでただしい。しとやかでもの靜かなこと。幽閒貞靜の略。〔顏延之、拜二陵廟一作詩〕幼壯困二孤介一、末暮謝二幽貞一。

【幽庭】341イウテイ 物靜かなには。〔江總、山庭詩〕春夜芳時晚、幽庭夜氣深。〔劉兼、對レ雨詩〕幽庭凝碧亦漣漪、簷霤聲繁聒レ夢稀。

【幽眺】342イウテウ 靜かなながめ。〔周須、登二龍江山祠一詩〕去レ國思二舊遊一、尋レ山發二幽眺一。

【幽鳥】343イウテウ 奧深い處に棲む鳥。幽禽。〔李商隱、井泥詩〕晚落花滿レ地、幽鳥鳴二何枝一。〔劉得仁、宿二僧院一詩〕樹搖二幽鳥夢一、螢入二定僧衣一。

【幽覿】344イウテキ 靜かにみる。〔顏眞卿、謝下陸處士杼山折二靑桂花一見レ寄之什上詩〕會愜名山期、從レ君恣二幽覿一。

【幽蝶】345イウテフ 靜かな蝶。〔司空圖、重陽山居詩〕菊殘深處迴二幽蝶一、陂動晴光下二早鴻一。〔陸龜蒙、桃花塢詩〕願作二此幽蝶一、得レ隨二花下賓一。

【幽天】346イウテン 西北の天。〔呂覽、有始〕西北曰二幽天一、其星東壁・奎・婁。〔注〕西北、金之季也、將レ卽二太陰一、故曰二幽天一。〔淮南子、天文訓〕西北方曰二幽天一。

【幽店】347イウテン 靜かな旅舍。〔周賀、送二靈應禪師一詩〕坐禪幽店暝。

【幽點】348イウテン 靜かな雨のしづく。〔喩鳧、春雨如レ膏詩〕細光添レ柳重、幽點濺レ花匀。

【幽囀】349イウテン 靜かにさへづる。〔秦觀、睡起詩〕爬搔失二幽囀一、欹欠墮二危芳一。

【幽田】350イウテン 耳の異名。〔黃庭內景經〕耳神空閑、字幽田。〔注〕空閑幽靜、聽レ物則審二神之所一レ居、故曰レ田也。

【幽途】351イウト 佛冥途をいふ。地獄餓鬼道。〔止觀、四上〕幽途緜邈、無レ有二資糧一。

【幽都】352イウト ㊀堯の時の北方の地。幽州。〔書、堯典〕申命二和叔一、宅二朔方一、曰二幽都一。〔傳〕都、謂レ所レ聚也。〔疏〕令レ居二治北方一、名曰二幽都之地一。〔蔡傳〕朔方、北荒之地、謂二之朔一者、朔之爲レ言蘇也、萬物至レ此、死而復蘇、猶二月之晦而有一レ朔也、日行至レ是、則淪二於地中一、萬象幽暗、故曰二幽都一。〔今古文注疏〕幽都、卽幽州也、下文流二共工於幽州一、淮南作二幽都一。〔墨子、節用中〕古者堯治二天下一、南撫二交阯一、北降二幽都一。〔莊子、在宥〕堯於レ是放二讙兜於崇山一、投二三苗於三峗一、流二共工於幽都一。〔釋文〕李云、卽幽州也、尙書作二幽州一、北裔也、堯六十四年流二共工於幽州一。〔淮南子、墬形訓〕西北方曰二不周之山一、曰二幽都之門一。〔注〕幽、闇也、都、聚也、玄冥將レ始、用レ事順レ陰而聚、故曰二幽都之門一。〔淮南子、主術訓〕南至二交阯一、北至二幽都一、東至二暘谷一、西至二三危一。〔注〕幽冥之都。〔淮南子、脩務訓〕西教二沃民一、東至二黑齒一、北撫二幽都一、南道二交趾一。〔注〕陰氣所レ聚、故曰二幽都一、今雁門以北是。〔司馬相如、大人賦〕回レ車朅來兮、絕二道不周一、會二食幽都一。〔盧諶、贈二劉琨一詩〕來牧二幽都一、濟二厥途炭一。㊁地下の稱。〔楚辭、宋玉、招魂〕君無レ下二此幽都一些。〔注〕幽都、地下后土所レ治也、地下幽冥、故稱二幽都一。㊂縣名。唐、置く。河北省北平市の西南。〔唐書、地理志三〕幽州范陽郡幽都縣。〔讀史方輿紀要、直隸、順天府、宛平縣〕本薊縣地、唐建中二年、折置二幽都縣一、遼開泰二年、改曰二宛平一。

【幽都之筋角】353イウトノキンカク 幽都から產する牛羊馬の筋と角。弓弩を作る材料。〔淮南子、墬形訓〕北方之美者、有二幽都之筋角一焉、東北方之美者、有二斥山之文皮一焉。〔注〕古之幽都、在二雁門以北一、其畜宜二牛羊馬一、出二好筋角一、可三以爲二弓弩一。

【幽塗】354イウト あの世。冥途。幽途(351)に同じ。〔王僧達、和二琅邪王依一レ古詩〕顯軌莫レ殊レ轍、幽塗豈異レ魂。

【幽蠹】355イウト かくれひそんでゐるしみ蟲。〔陳子昂、感遇詩〕招搖靑桂樹、幽蠹亦成レ科。〔韓愈・孟郊、城南聯句〕白蛾飛二舞地一、幽蠹落二書棚一。

【幽度】356イウド 奧深い度量。〔支遁、詠二禪思道人一詩〕冥懷夷二震驚一、泊然肆二幽度一。

【幽燈】357イウトウ 靜かなともしび。〔程俱、元夕寫レ懷詩〕幽燈對二簡編一、歷歷記レ所レ更。

【幽磴】358イウトウ 靜かな石の橋。〔韋應物、遊二龍門香山泉一詩〕潺湲瀉二幽磴一、繚繞帶二嘉樹一。

【幽竇】359イウトウ ㊀かくれた溝。〔墨子、備城門〕百步爲二幽竇一、廣二尺、高四尺者一。㊁靜かに奧深いあな。〔韓愈・劉師服・侯喜・軒轅彌明、石鼎聯句詩序〕一塊元氣閉、細泉幽竇傾。

【幽洞】360イウドウ 靜かなほらあな。〔陳子昂、感遇詩〕石林何冥密、幽洞無レ畱レ行。〔陸游、過二建陽縣一以二雙鵝一贈レ云云詩〕斷崖幽洞白雲深、縹緲仙槎無二古今一。

【幽匿】361イウトク かくれる。〔束晳、弔二蕭孟思一文〕精爽遐登、形骸幽匿。

【幽瀆】362イウトク かくれた溝。〔張載、濛汜池賦〕幽瀆傍集、潛流獨注。

【幽獨】363イウドク 靜かにひとり居る。〔張衡、思玄賦〕播二余香一而莫レ聞、幽獨守二此側陋一兮。〔陳子昂、

感遇詩〕幽獨空林色、朱蕤冒二紫莖一。〔杜甫、自二瀼西荊扉一且移二居東屯茅屋一詩〕幽獨移二佳境一、清深隔二遠關一。

【幽獨人】364 イウドクノヒト　隱士をいふ。〔眞山民、山中月詩〕爲レ憐二幽獨人一、流光散二衣襟一。

【幽讀】365 イウドク　靜かに讀む。〔蘇軾、葉教授和二溽字韻一云云詩〕慈皇付二寶偈一、神侶得二幽讀一。

【幽遯】366 イウトン　世間からかくれのがれる。〔晉書、范粲傳〕史部郎郄隆、亦思レ求二海內幽遯之士一、喬供二養衡門一、至二於白首一、於レ是除二樂安令一。

【幽念】367 イウネン　靜かなものおもひ。又、深いおもひ。幽思。〔謝朓、春思詩〕幽念漸鬱陶、山楹永爲レ室。〔韓愈、孟生詩〕採蘭起二幽念一。

【幽葩】368 イウハ　靜かな花びら。幽花。〔蘇軾、寒菊詩〕輕肌弱骨散二幽葩一、眞是青裙兩髻丫。

【幽佩】369 イウハイ　靜かなおびもの。〔蘇軾、刁景純賞二瑞香花一憶二先朝侍宴一次韻詩〕欲レ贈二佳人一非二泛洧一、好紉二幽佩一弔二沈湘一。

【幽廢】370 イウハイ　閉ぢこめて退け廢す。〔洪範五行傳〕賴二大臣一共誅二諸呂一而立二文帝一、惠后幽廢。

【幽抱】371 イウハウ　靜かにいだく思。〔沈佺期、同二工部李侍郎適一訪二司馬子微一詩〕冷然委二輕馭一、復得レ散二幽抱一。〔張九齡、洪州西山祈レ雨詩〕我來不二外適一、幽抱自二中微一。

【幽放】372 イウハウ　幽閉され放たれる。〔後漢書、順帝記論〕古之人君、離二幽放一而反二國祚一者有矣。

【幽芳】373 イウハウ　❶靜かなにほひ。〔張九齡、南還以レ詩代書贈二京都舊僚一詩〕欲レ贈幽芳歇、行悲二舊賞移一。❷靜かに咲いた花。〔歐陽脩、豐樂亭記〕掇二幽芳一而陰二喬木一。❸美人の喩。〔剪燈餘話、賈雲華還魂記〕深院鎖二幽芳一、三星照二洞房一。

【幽房】374 イウバウ　靜かに奥深いへや。幽室。幽堂。〔帝王世紀〕顓頊母曰二景僕一、昌意正妃、謂二之女樞一、有レ星貫レ月如レ虹、感二女樞於幽房之宮一、而生二顓頊一。〔張華、情詩〕清風動二帷簾一、晨月燭二幽房一。〔蘇蕙、廻文詩〕身微閔レ己處二幽房一、人賤爲レ女有二柔剛一。

【幽白】375 イウハク　ほのかに白いこと。〔趙抃、向晚詩〕幽白孤二飛鳥一、横レ紅數抹霞。

【幽箔】376 イウハク　うすくたたきのばした金屬。〔陳樵、海人謠〕幽箔連錢生二綠花一、切玉鑾刀如二切水一。

【幽薄】377 イウハク　奥深く草の叢生した處。〔束晳、補亡詩〕白華朱萼、被二於幽薄一。〔注〕善曰、纂要曰、草叢生曰レ薄。

【幽漠】378 イウバク　かすかでしづか。又、さびしい。幽寂。〔孫綽、大平山銘〕肅二形枯林一、映二心幽漠一。〔柳宗元、夢歸賦〕靈幽漠以瀰汨兮。

【幽瀑】379 イウバク　奥深い所にかかつた瀑布。しづかな瀑布。〔司空圖、寄二李員外一詩〕幽瀑下二仙果一、孤巢懸二夕陽一。

【幽蟠】380 イウハン　世にかくれてわだかまり伏す。〔蘇舜欽、秋夜詩〕幽蟠孰可レ聞、自有二濟物誠一。

【幽泌】381 イウヒ イウヒツ　靜かな流れ。〔韓愈・張籍・孟郊・張徹、會合聯句〕徒言濯二幽泌一、誰與薙二荒茸一。

【幽祕】382 イウヒ　奥深くひめる。かくれてよく知られないことがら。〔崔融、嵩山啓母廟碑〕天道幽祕、生涯糾錯。〔朱熹、袁州州學三先生祠堂記〕立レ象著レ書、闡二發幽祕一。

【幽悲】383 イウヒ　靜かなかなしみ。〔潘岳、寡婦賦〕退二幽悲于堂隅一兮、進二獨拜于牀垂一。

【幽扉】384 イウヒ　靜かなとびら。〔韓維、答二公懿一詩〕幽扉深二隱竹一、小彴度二平塹一。

【幽碑】385 イウヒ　草などに蓋はれて隱れた石碑。〔李羣玉、石門戍詩〕到レ此空思吳隱之、潮痕草蔓上二幽碑一。

【幽閟】386 イウヒ　靜かにとざす。奥深い。〔張衡、週天大象賦〕虛梁闃寂以幽閟、蓋屋喧轟而宴賞。〔沈遘、天台山送二僧象微歸レ山詩〕幽閟足二瓌怪一、纖悉難二畢具一。

【幽美】387 イウビ　奥ゆかしく美しい。〔齋藤竹堂、嚴島遊記〕獨堂廟幽美、爲レ愈耳。

【幽微】388 イウビ　奥ぶかくかすかで知りがたいこと。〔書、大禹謨、人心惟危道心惟微、疏〕道心惟甚幽微。〔後漢書、崔駰傳〕窮二至頤幽微一、測二潛隱之無レ源。〔魏略〕傳禧曰、欲レ知二幽微一莫レ若レ易、人倫之紀莫レ若レ禮、多識二山川草木之名一莫レ若レ詩。〔江淹、雜體、阮步兵籍詩〕精衛銜二木石一、誰能測二幽微一。

【幽品】389 イウヒン　かくれひそんでゐる品。〔宋書、明帝紀〕簡惠之化、有レ孚二羣萌一、好生之德、無レ漏二幽品一。

【幽稟】390 イウヒン　奥深いおもむき。〔文同、霜栢亭試墨詩〕煙雲有二佳尙一、竹石得二幽稟一。

【幽府】391 イウフ　冥土。冥府。〔元好問、鸛雀崖北龍潭詩〕南峯天一柱、萬古鎭二幽府一。

【幽阜】392 イウフ　靜かなをか。〔左思、吳都賦〕楠榴之木、相思之樹、宗二生高岡一、族二茂幽阜一。

【幽風】393 イウフウ　靜かに吹くかぜ。〔李賀、河南府試正月詩〕薄薄淡靄弄二野姿一、寒綠幽風生二短絲一。

【幽馥】394 イウフク　かすかににほふ。かすかなにほひ。〔范成大、石湖書事詩〕老紅餞二餘春一、衆綠自幽馥。〔楊萬里、感レ秋詩〕露荷幽馥曉、雲月澹光秋。

【幽拂】395 イウフツ　奥深くおほはれて闇いこと。幽蔽。〔史記、屈原傳〕脩露幽拂兮、道遠忽兮。〔注〕索隱曰、楚詞、作二幽蔽一也。

【幽紛】396 イウフン　くらくみだれる。〔柳宗元、天對〕本始之茫、誕者傳焉、鴻靈幽紛、曷可レ言焉。〔朱熹、次二子厚秋懷韻一詩〕浩蕩信莫レ量、幽紛那得レ覩。

【幽憤】397 イウフン　人知れないいきどほり。心氣の鬱積すること。〔後漢書、梁統傳贊〕褒親幽憤、升レ高累歎。〔晉書、劉琨傳〕竟爲二匹磾所一レ拘、爲二五言詩一贈二其別駕盧諶一、託二意非常一、攄二暢幽憤一。

【幽憤詩】398 イウフンノシ　詩章の名。晉、嵇康の作。文選二十三卷に載す。〔晉書、嵇康傳〕性愼二言行一、一旦縲紲、乃作二幽憤詩一。〔嵇康、幽憤詩、注〕向曰、叔夜爲二呂安事一、連罪收繫、遂作二此詩一、憤、怨也、言三幽怨者、人莫二能見明一也。

【幽幷】399 イウヘイ　二州の名。幽州と幷州。古の燕趙の地。〔曹植、白馬篇〕借問誰家子、幽幷遊俠兒。〔注〕善曰、幽幷、二州名。〔虞羲、詠二霍將軍北伐一詩〕涼秋八九月、虜騎入二幽幷一。

【幽幷氣】400 イウヘイノキ　詩の俠氣あるもの。幽幷は古の燕趙の地で、其の俗、氣節を尙び、游俠を事とするからいふ。〔金史、文藝下、元好問傳〕歌謠慷慨、挾二幽幷之氣一。

【幽迸】401 イウヘイ　靜かにしりぞける。〔韓愈、東都遇レ春詩〕懷レ歸苦レ不レ果、卽レ事取二幽迸一。

【幽屛】402 イウヘイ　靜かなかたゐなか。隱僻の地。〔左思、吳都賦〕隱賑崴裹、雜二插幽屛一。〔注〕翰曰、雜二插幽屛一、謂三雜二生隱僻之處一、屛、僻也。

【幽閉】403 イウヘイ　❶一室にとぢこめる。拘禁する。又、おしこめ。〔列女傳、續列女傳、霍夫人顯傳〕幽二閉良人奴婢一。〔後漢書、和殤帝紀〕妄拘二無罪一、幽二閉良善一。〔吳志、孫和傳〕後遂幽二閉和一。〔唐書、李光弼傳〕出二爲レ賊幽閉者一、厚恤二其家一。〔白居易、陵園妾詩〕柏城盡日風蕭瑟、松門柏城幽閉深。❷深くとぢ籠る。心のふさぐこと。〔後漢書、高彪傳〕冀一見二龍光一、以敍二腹心之願一、不レ圖遭レ疾、幽閉莫レ啓。❸昔、婦人に適用した刑罰。宮刑。淫刑。〔書、呂刑、宮辟疑赦、傳〕宮、淫刑也、男子割レ勢、婦人幽閉。〔疏〕男女不二以レ義交一者其刑宮、婦人幽二閉於宮一、使レ不レ得レ出也。〔識小錄〕傳謂、男子割レ勢、婦人幽閉、皆不レ知二幽閉之義一、今得レ之、乃是於レ牝剔二去其筋一、如下制二馬豕一之類上、使二慾心消滅一、國初常用レ此、而女往往多死、故不レ可レ行也。

【幽蔽】404 イウヘイ　奥深くおほはれて闇いこと。〔楚辭、九章、懷沙〕脩路幽蔽道遠忽兮。〔注〕幽深蔽闇、道路甚遠、且久長也。

【幽眇】405 イウベウ　❶聲音の輕妙なこと。〔韓愈、荆潭唱和詩序〕鏗鏘發二金石一、幽眇感二鬼神一。❷奥深くて遙かなこと。奥深くたへなる道。玄妙の理。幽妙。〔韓愈、進學解〕補二苴罅漏一、張二皇幽眇一。〔蘇軾、書二楞伽經後一〕楞伽義趣幽眇、文字簡古、讀者或不レ能レ得レ句。〔陳傅良、哭二呂伯恭郎中一舟行寄二諸友一詩〕遐搜接二混茫一、細剖入二幽眇一。

【幽渺】406 イウベウ　幽眇に同じ。

【幽辟】407 イウヘキ　暗い。昏昧。〔後漢書、律曆志下〕無二幽辟潛伏一、而不下以二其精者一然上。

【幽碧】408 イウヘキ　靜かなみどりいろ。〔齊己、寄二酬高輦推官一詩〕竹膩題二幽碧一、蕉乾裂二脆聲一。

【幽僻】409 イウヘキ　ひなびて片寄つてゐる。又、その所。〔後漢書、張衡傳〕及レ津者風攄、失レ塗者幽僻。〔杜甫、寄二李員外一詩〕渚柳元幽僻、村花不二掃除一。

【幽壁】410 イウヘキ　靜かな室のかべ。さびしい部屋。〔劉禹錫、臥レ病聞二常山旋師策勳宥レ過二王澤大洽二云云詩〕夜蛩思二幽壁一、槁葉鳴二空階一。〔方干、秋夜詩〕空窗閑月色、幽壁靜蟲聲。

【幽偏】411 イウヘン 靜かなかたゐなか。幽僻。〔宋之問、藍田山莊詩〕宦遊非吏隱、心事好幽偏。〔杜甫、獨酌詩〕薄劣慚眞隱、幽偏得自怡。

【幽變】412 イウヘン ことばにいへない微妙な變化。〔范甯、穀梁傳序〕該二儀之化育、贊人道之幽變。

【幽步】413 イウホ 靜かに步く。〔錢起、奉使採箭簳竹詩〕重峰轉森爽、幽步更超越。〔柳宗元、遊石角云云詩〕石角恣幽步、長烏遂遐征。〔張籍、夏日閒居詩〕此時幽步遠、不覺到山邊。

【幽圃】414 イウホ 靜かなはた。靜かなその。〔杜牧、題池州弄水亭詩〕叢筠侍修廊、密蕙媚幽圃。〔溫庭筠、寒食節日寄楚望詩〕愁碧竟平皐、韶紅換幽圃。〔陸游、晚步湖隄詩〕殘尊倒酒無餘瀝、幽圃尋梅暗認香。

【幽暮】415 イウボ うすぐらい夕暮。〔木華、海賦〕廓如靈變、惚怳幽暮。

【幽峰】416 イウホウ 靜かな山のみね。〔謝靈運、山居賦〕建招提於幽峰、冀振錫之息肩。

【幽朴】417 イウボク 世とはなれてかざりのないこと。〔李渤、上封事表〕自忘幽朴、遠獻芻言。

【幽墨】418 イウボク ひつそりして聲のないさま。墨は默。〔韓愈、南山詩〕冬行雖幽墨、冰雪工琢鏤。

【幽梵】419 イウボン 靜かな讀經の聲。〔儲光義、苑外至龍興院作詩〕疎鐘清月殿、幽梵靜花臺。

【幽昧】420 イウマイ 奧深くくらい。〔楚辭、離騷〕惟夫黨人之偸樂兮、路幽昧以險隘。〔注〕幽昧、不明也。〔孫綽、遊天台山賦〕必契誠于幽昧、履重險而逾平。〔張華、女史箴〕勿謂幽昧、靈監無象。

【幽埋】421 イウマイ はるかにうづめる。〔孟郊、弔元魯山詩〕幽埋盡洸洸、滯旅免流浪。

【幽幔】422 イウマン 靜かな閨のとばり。〔謝惠連、秋懷詩〕寒商動清閨、孤燈曖幽幔。

【幽蔓】423 イウマン 深くしげつたつるくさ。〔李益、蓮塘驛詩〕女蘿蒙幽蔓、擬上青桐枝。

【幽夢】424 イウム はつきりしないゆめ。ぼんやりとかすかな夢。〔李商隱、銀河吹笙詩〕重衾幽夢他年斷、別樹羇雌昨夜驚。〔杜牧、郡齋獨酌詩〕尋僧解幽夢、乞酒緩愁腸。〔杜牧、卽事詩〕春愁兀兀成幽夢、又被流鶯喚醒來。

【幽明】425 イウメイ 深く暗くて見えないことと、あらはであかるくて見えること。暗と明。❶天地の理と人間のこと。有形と無形。〔易、繫辭上〕仰以觀於天文、俯以察於地理、是故知幽明之故。〔注〕幽明者、有形無形之象也。〔史記、五帝紀〕順天地之紀、幽明之占。〔史記、田敬仲完世家贊〕易之爲術、幽明遠矣。〔王融、三月三日曲水詩序〕幽明獻期、雷風通饗。〔注〕善曰、曾子、夫子曰、天道曰圓、地道曰方、方曰幽、圓曰明、禮記曰、明則有禮樂、幽則有鬼神。❷愚者と功積ある賢者。黜陟幽明を見よ。〔柳宗元、送薛存義之任序〕吾賤且辱、不得與考績幽明之說。❸日と月。晝と夜。〔禮、祭儀〕祭日於壇、祭月於坎、以別幽明、以制上下。〔注〕幽明者、謂日照晝、月照夜。〔疏〕月爲幽、日爲明。❹鬼神と人。又、鬼神の世界と人の世。冥途と現世。〔顏延之、和謝監靈運詩〕人神幽冥絕、朋好雲雨乖。〔注〕善曰、人神幽明絕、言時亂不獲祭享也、曾子曰、天曰明、地曰幽。〔楊漣、祭趙我白文〕師生恩義、邈若河山、遂成幽明永隔矣。❺雌と雄。明幽。〔史記、曆書〕幽明者雌雄也。〔大戴禮、誥志〕明、孟也、幽、幼也、明幽、雌雄也。

【幽明之理】426 イウメイノリ 官吏の成績の良いものは昇せ、惡いものは退ける理。黜陟幽明を見よ。〔魏志、傅嘏傳〕料賢愚之分、精幽明之理也。

【黜陟幽明】427 イウメイヲチユツチヨクス 官吏を進退すること。官吏の功績あるものを明といひ、功績のないものを幽といふ。黜は退ける、陟は昇す。〔書、舜典〕帝曰、咨汝二十有二人、欽哉、惟時亮天功、三載考績、三考黜陟幽明、庶績咸熙、分北三苗。〔傳〕能否幽明有別、黜退其幽者、升進其明者。

【幽冥】428 イウメイ ❶かすかでくらい。奧深くたへなさま。高妙。微妙。〔文子、上德〕視之不見其形、聽之不聞其聲、謂之幽冥。〔淮南子、原道訓〕幽兮冥兮、應無形兮。〔淮南子、說山訓〕視之無形、聽之無聲、謂之幽冥。〔漢書、劉歆傳〕幽冥而莫知其原。〔論衡、書虛〕夫幽冥之實尙可知、沈隱之情尙可定。❷隱れてあらはれない處。〔潛夫論、明忠〕夫術之爲道也、精微而神、言之不足、而行有餘、有餘、故能兼四海、而照幽冥。〔孫氏瑞應圖〕王者德至鳥獸、澤及幽冥、則騶虞至。❸地下。よみぢ。冥土。〔後漢書、袁譚傳〕寃魂痛於幽冥、創痍被於草棘。〔曹植、王仲宣誄〕嗟乎夫子、永安幽冥。〔注〕向曰、幽明、地下也。〔晉書、周顗傳〕幽冥之中、負此良友。〔無量壽經〕壽終後世、尤深尤劇、入其幽冥、轉生受身。

【幽冥錄】429 イウメイロク 書名。一卷。宋、劉義慶著。〔五朝小說、第二冊〕。

【幽冥之地】430 イウメイノチ くらい處。あの世。〔漢書、賈捐傳〕快心幽冥之地、非所以校助饑饉、保全元元也。

【幽冥之論】431 イウメイノロン 奧深い議論。〔後漢書、馮衍傳上〕明君不惡切愨之言、以測幽冥之論。

【幽妙】432 イウメウ 奧深くたへなる道。玄妙の理。幽眇。〔朱熹、題沈公雅卜居圖詩〕言論斅幽妙、理亂窮端由。

【幽茂】433 イウモ 草木が深くしげること。鬱茂。幽蔚。〔嵇康、酒會詩〕綠葉幽茂、麗蕋濃繁。〔左思、吳都賦〕珊瑚幽茂而玲瓏。〔仲子陵、珊瑚樹賦〕何幽茂以陵秋、獨菁蔥而照日。

【幽蒙】434 イウモウ かすかでくらい。氣のふさぐこと。〔元稹、酬樂天春寄微之詩〕鸚心明黠雀幽蒙、何事相將盡入籠。

【幽默】435 イウモク 靜かに默つてゐる。〔楚辭、九章、懷沙〕眴兮杳杳、孔靜幽默。〔謝靈運、擬魏太子鄴中集、陳琳詩〕哀哇動梁埃、急觴盪幽默。

【幽門】436 イウモン ❶靜かな門。〔顏延之、和謝監靈運詩〕去國還故里、幽門樹蓬藜。〔盧鴻洞、元至歌〕結幽門兮在黃庭。❷胃の腑の下のち。胃から腸に通ずる口。〔趙獻可、醫貫、形景圖說〕其滓穢自胃之下口、曰幽門。❸くらい所。人の見ない所。幽閒の誤。〔墨子、天志上〕夫天不可爲林谷幽門無人、明必見之。〔閒詁〕畢云、門當爲澗、王云、畢據明鬼篇文也、余謂、門當爲閒、閒讀若閑、言天監甚明、雖林谷幽閒、無人之處、天必見之也。

【幽濛】437 イウモン 人知れず心にうれへる。〔厚德錄〕張忠定公視事退後、有一廳子熟睡、公詰之、汝家有甚事、對曰、母久病、兄爲客未歸、訪之、果然、翌日差場務一名給之、且云、吾廳上有敢睡者耶、此必心極幽濛、使之然耳。

【幽夜】438 イウヤ 物靜かな夜。物寂しい夜。〔鬲子、禁使〕今夫幽夜、山陵之大、而離婁不見。〔鮑照、學古詩〕幸値嚴冬暮、幽夜方未晨。〔王融、淨住子頌、沈冥地獄篇頌〕陰牆雖雨密、幽夜有四知。

【幽陽】439 イウヤウ 月をいふ。〔陳子昂、感遇詩〕微月生西海、幽陽始化昇。〔丹鉛錄〕陳子昂詩云、幽陽始化昇、月本陰也、而謂之幽陽、三五、陽也、而平明已缺。

【幽厄】440 イウヤク おしこめられるくるしみ。幽窮の災難。〔呂溫、藥師如來繡像贊序〕能度衆生、出諸幽厄。

【幽約】441 イウヤク 浮世を離れた閑雅な約束。〔陳高、送陸有章詩〕我性亦愛山、方期結幽約。〔倪瓚、懷陸徵君詩〕歸掃松逕苔、遲君踐幽約。

【幽藥】442 イウヤク 靜かな所に生ずる藥草。〔雍陶、和劉補闕秋園寓興詩〕疎篁抽晚筍、幽藥吐寒芽。

【幽籥】443 イウヤク 靜かな笛の音。〔沈約、長歌行〕幽籥且未調、無使長歌倦。

【幽蘿】444 イウラ ふかくしげつたつた。〔李羣玉、湖中古愁詩〕奠桂開古祠、朦朧入幽蘿。

【幽瀨】445 イウライ 奧深い山中のはやせ。〔丁復、送王伯庸赴石埭校官詩〕奇峰花作朵、幽瀨玉爲湍。

【幽籟】446 イウライ 物靜かで玄妙なひびき。〔權德輿、酧穆侍郎詩〕杉梧韻幽籟、河漢明秋天。

【幽浪】447 イウラウ 幽州と樂浪郡。東北邊の地をいふ。〔郭璞、江賦〕赴交益、投幽浪、竭南極、窮東荒。〔注〕善曰、周禮曰、東北曰幽州、漢書有樂浪郡也。

【幽闌】448 イウラン 物靜かなてすり。〔蘇軾、贈江洲慶德長老詩〕白足高僧解達觀、安排春事滿幽闌。

【幽嬾】449 イウラン 靜かでものうい。〔暢當、重答江州應物詩〕煩君瓊玖贈、幽嬾百無成。

【幽蘭】450 イウラン ❶奧深い谷に生ずる蘭。ゆかしく

氣高い蘭。〔楚辭、離騷〕時曖昧其將レ罷兮、結ニ幽蘭一以延佇。〔楚辭、離騷〕戶服レ艾以盈レ要兮、謂幽蘭其不レ可レ佩。〔後漢書、張衡傳〕纗ニ幽蘭之秋華一兮、又綴レ之以ニ江離一。〔曹植、洛神賦〕微ニ幽蘭之芳藹一兮、步踟ニ蹰於山隅一。〔陸機、悲哉行〕幽蘭盈ニ通谷一、長秀被ニ高岑一。㊁蘭(9－32519)の別名。俗に草蘭といふ。〔爾雅翼、釋草、蘭〕今野人謂レ蘭爲ニ幽蘭一、蕙爲ニ蕙蘭一。㊂曲の名。〔宋玉、諷賦〕中有ニ鳴琴一焉、臣援而鼓レ之、爲ニ幽蘭白雪之曲一。〔謝惠連、雪賦〕曹風以ニ麻衣一比レ色、楚謠以ニ幽蘭一儷レ曲。

【幽蘭堂】451 イウランダウ 殷野充美の號。殷野玉川(9－29284‥51)を見よ。

【幽蘭居士】452 イウランコジ 宋、孟元老(3－6960‥306)の號。

【幽理】453 イウリ 奥深い道理。〔晉書、刑法志〕律者幽理之奥、不レ可下以ニ一體一守上也。

【幽履】454 イウリ 世間を脫離した行爲。隱居のことをいふ。〔南史、隱逸傳序〕若夫陶潛之徒、云云、全ニ身幽履一、服ニ道儒門一。

【幽流】455 イウリウ 地下を流れる溝。〔張衡、東京賦〕陰池幽流、玄泉洌清。〔注〕綜曰、幽流、謂下伏溝從ニ地下一流中通於河上也、濟曰、幽流、洑流也。

【幽律】456 イウリツ かすかなひびき。〔殷仲文、南州桓公九井作詩〕爽籟驚ニ幽律一、哀壑叩ニ虛牝一。〔張仲素、夜聞ニ洛濱吹レ笙詩〕松風助ニ幽律一、波月動ニ輕文一。

【幽陵】457 イウリヨウ 古の地名。幽州をいふ。幽州(223)を見よ。〔史記、五帝紀〕北至ニ於幽陵一、南至ニ於交阯一、西至ニ於流沙一、東至ニ於蟠木一、動靜之物、大小之神、日月所レ照、莫レ不ニ砥屬一。〔注〕正義曰、幽州也。〔楚辭、大招〕北至ニ幽陵一南交阯只。〔注〕幽陵、猶ニ幽州一也。

【幽林】458 イウリン 奥深く靜かな林。〔班固、西都賦〕其陽則崇山隱レ天、幽林穹谷、陸海珍藏、藍田美玉。〔左思、魏都賦〕苑以ニ玄武一、陪以ニ幽林一。〔宋之問、陸渾山莊詩〕源水看レ花入、幽林採レ藥行。〔王建、原上新居詩〕送レ經還ニ野苑一、移レ石入ニ幽林一。

【幽淪】459 イウリン 深くしづむ。〔吳志、張昭傳〕自分ニ幽淪一、長棄ニ溝壑一。

【幽霖】460 イウリン 靜かなながあめ。〔王琢、雨夕感寓詩〕故幔幽霖透、長檠暗燼挑。

【幽鱗】461 イウリン かくれひそんだ魚。〔阮籍、答ニ伏義一書〕夫九蒼之高、迅羽不レ能レ尋ニ其巓一、四冥之深、幽鱗不レ能レ測ニ其底一。

【幽淚】462 イウルイ 人知れず流すなみだ。ひそかに流す淚。〔李賀、昌谷詩五月二十七日作〕華髮垂ニ恨鬢一、光露泣ニ幽淚一。〔李商隱、過ニ伊僕射舊宅一詩〕幽淚欲レ乾殘菊露、餘香猶入敗荷風。

【幽囹】463 イウレイ ひとや。らうや。牢獄。幽圄。〔韓維、和ニ象之夜飲一詩〕煩憂忽以去、曠如レ出ニ幽囹一。

【幽厲】464 イウレイ 周の幽王と厲王。㊀亡國の君の意。〔禮、禮運〕我觀ニ周道一、幽厲傷レ之。〔孟子、離婁上〕孔子曰、道二、仁與ニ不仁一而已矣、暴ニ其民一甚、則身弒國亡、不レ甚則身危國削、名レ之曰ニ幽厲一、雖ニ孝子慈孫一、百世不レ能レ改也。〔注〕甚謂ニ桀紂一、不レ甚謂ニ幽厲一、厲王流ニ於彘一、幽王滅ニ於戲一、可レ謂ニ身危國削一矣、名レ之謂レ謚之也、謚以ニ幽厲一、以章ニ其惡一、百世傳レ之、孝子慈孫、何能改也。〔逸周書、謚法解〕壅遏不レ通曰レ幽、蚤孤鋪レ位曰レ幽、動祭亂レ常曰レ幽、殺ニ戮無辜一曰レ厲。〔謝靈運、擬ニ魏太子鄴中集一、王粲詩〕幽厲昔崩亂、桓靈今板蕩。㊁暴君の意。〔孟子、告子上〕文武興、則民好レ善、幽厲興、則民好レ暴。

【幽嶺】465 イウレイ 奥深くしづかなみね。〔項斯、太白山隱者詩〕高居在ニ幽嶺一、人得レ見時稀。

【幽麗】466 イウレイ 奥深くうるはしい。〔柳宗元、袁家渴記〕皆永中幽麗奇處也。

【幽靈】467 イウレイ ㊀死者のたましひ。幽鬼。冥鬼。亡魂。幽魂。〔後漢書、霍諝傳〕昔東海孝婦、見レ枉ニ不幸一、幽靈感革、天應ニ枯旱一。〔晉書、佛圖澄傳〕將軍天挺神武、幽靈所レ助。〔謝惠連、祭ニ古冢一文〕幽靈髣髴、歆ニ我犧樽一。〔宋濂、黃文獻祠堂詩〕有レ祠翼然妥ニ幽靈一、陽鳥高騫聳ニ孤稜一。㊁死者が成佛し得ないで、此の世に現した姿。亡者。幻影。〔謠曲、船辨慶〕。平の知盛幽靈なり。

【幽寥】468 イウレウ 奥深くしづか。幽寂。〔雲笈七籤〕混合空洞氣、飛爽浮ニ幽寥一。

【幽劣】469 イウレツ 深くかくれてつたない。〔盧綸、敬詶下大府二十四舅覽ニ詩卷一因以見上レ示詩〕顧ニ己文章一非ニ酷似一、敢將ニ幽劣一俟ニ洪爐一。

【幽簾】470 イウレン 物靜かなすだれ。〔李白、早秋單父南樓酬ニ竇公衡一詩〕我閉ニ南樓一看ニ道書一、幽簾清寂在ニ仙居一。

【幽路】471 イウロ 奥深いみち。〔楚辭、王褒、九懷、陶壅〕吾乃逝ニ兮南娭一、道ニ幽路一兮九疑。〔江淹、丹砂可レ學賦〕故從レ師而問レ道、冀ニ幽路之或暘一。〔陸龜蒙、茶人詩〕雨後探レ芳去、雲間幽路危。〔沈遘、天台山送ニ僧象微歸レ山詩〕九折淩ニ峻梁一、五界窮ニ幽路一。

【幽鷺】472 イウロ 物靜かなさぎ。〔鄭谷、水詩〕落花相逐去ニ何處一、幽鷺獨來無レ限時。

【幽陋】473 イウロウ 世に隱れて身分の低い人。〔後漢書、王龔傳論〕然則立レ德者以ニ幽陋一好レ遺、顯登者以ニ貴塗一易レ引。〔後漢書、范滂傳〕顯薦ニ異節一、抽ニ拔幽陋一。〔魏書、李彪傳〕當時或見ニ拔幽陋一、流ニ名後葉一。

【幽哢】474 イウロウ 物靜かに鳥がさへづる。〔方夔、種レ田詩〕及レ時撒ニ新穀一、搏レ黍遞ニ幽哢一。〔何中、皮氏逸亭詩〕綵鱗孤鏡照、幽哢四窗圓。

【幽隴】475 イウロウ 墓をいふ。〔任昉、劉先生夫人墓誌銘〕暫啓ニ起埏一、長扃ニ幽隴一。

【幽王】476 イウワウ 周、第十二代の王。姬宮涅(3－6230‥100)を見よ。

【幽枉】477 イウワウ 世に知られず伸び得ないもの。〔後漢書、明帝紀論〕幽枉必達、內外無ニ倖曲之私一。

【幽灣】478 イウワン 靜かないりえ。〔趙冬曦、和三尹悉秋夜遊ニ灉湖一詩〕烟靄夕微蒙、幽灣賞未レ窮。

【闡レ幽】479 イウヲヒラク かくれて明かでない者を開發して、明かならしめる。闡は開。〔易、繫辭下〕夫易彰レ往而察レ來、而微レ顯闡レ幽。

【得レ幽】480 イウヲウ 奥深い所を得る。〔管子、形勢〕蛟龍得レ水、而神可レ立也、虎豹託レ幽、而威可レ載也。

【幽皇帝】481 イウクワウテイ 前燕、慕容暐(4－11088‥50)の謚。

【幽司錄事】482 イウシロクジ 地獄の役人。〔通俗編、神鬼、幽司錄事〕南史沈僧昭傳、自云爲ニ泰山錄事一、幽司中有レ所ニ收錄一、必僧昭署レ名、俄復謂レ人曰、吾昔爲ニ幽司所レ使、實爲ニ煩碎一、今已自解、乃開レ匣出ニ黃紙書一、上有ニ一大字一、字不レ可レ識。

【幽暢園】483 イウチヤウエン 平井義綱の號。平井聽雪(4－9167‥767)を見よ。

【幽秀淡治】484 イウシウタンヤ すぐれて靜かで、あつさりとしてなまめくこと。〔依田學海、泛游小品〕土阜舒緩、幽秀淡治。

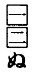
七畫

【𢇁】9206

シ 緦(8－27660)の古字。〔說文〕緦、𢇁、古文緦。

八畫

【𢇇】9207


小篆

［一］クワン〔集韻〕姑還切 删

［二］クワン〔集韻〕古患切 諫

［一］［二］ぬく。とほす。糸をひにつらぬく。〔說文〕𢇇、織㠯レ絲毌レ杼也、从ニ絲省一、卝聲、卝、古文夘字。

九畫

【幾】9208

小篆

［一］キ ケ〔集韻〕居希切 ㄐㄧ chi¹ 微

［二］キ ゲ〔集韻〕渠希切 微

［三］キ ゲ〔集韻〕擧豈切 ㄐㄧˇ chi³ 尾

［四］キ ゲ〔集韻〕其既切 未

［一］㊀かすか。〔說文〕幾、微也、殆也、从レ𢆶从レ戍、戍、兵守也、𢆶而兵守者危也。〔易、繫辭下〕幾者。〔注〕幾者、去レ无入レ有、理而未レ形、不レ可ニ以レ

名尋二、不レ可二以レ形覩一者也。❷あやふい。〔爾雅、釋詁〕幾、危也。〔注〕幾、猶レ殆也。〔書、顧命〕疾大漸、惟幾。〔詩、大雅、瞻卬〕維其幾矣。〔傳〕幾、危也。〔左氏、宣、十二〕利二人之幾一。〔注〕幾、危也。❸しづかに。おだやかに。それとなく。〔論語、里仁〕事二父母一幾諫。〔集解〕包氏曰、幾、微也。❹のり。かなめ。機(6－15561)に通ず。〔說文通訓定聲〕幾、叚借爲レ機。〔小爾雅、廣詁〕幾、法也。〔法言、先知〕或問爲レ政有レ幾。〔注〕幾、要也。❺きざし。はじめ。〔易、繫辭上〕極レ深而研レ幾也。〔釋文〕幾、本或作レ機。〔易、繫辭下〕幾者、動之微、吉之先見者也。〔管子、水地〕萬物莫レ不レ盡二其幾一。〔注〕幾、謂二從レ無以適一レ有也。❻はじめを理める。〔易、乾〕可二與幾一也。〔釋文〕幾、理二初始微一名レ幾。❼はじめる。〔易、繫辭上〕幾レ事不レ密。〔虞注〕幾、初也。❽つきる。 畿(10－36324)・汔(6－17127)・訖(10－35242)に通ず。〔說文通訓定聲〕幾、叚借爲レ畿、爲レ汔、爲レ訖。〔莊子、齊物論〕三子之知幾乎。〔注〕幾、盡也。❾をはる。〔淮南子、繆稱訓〕君子幾。〔注〕幾、終也。❿ちかい。 近(11－38752)に通ず。〔說文通訓定聲〕幾、叚借爲レ近。〔爾雅、釋詁〕幾、近也。〔易、小畜〕月幾レ望。〔禮、樂記〕知レ樂則幾二於禮一。〔注〕幾、近也。〔呂覽、大樂〕則幾二於知レ之矣。〔注〕幾、近也。⓫ほとんど。〔左氏、襄、二十八〕楚不二幾十年一。〔注〕幾、近也。〔太玄經、割〕七日幾絕。〔注〕幾、近也。⓬ちかづく。〔荀子、解蔽〕妄辨而幾レ利。〔注〕幾、近也。⓭ねがふ。こひねがふ。こひねがはくは。〔淮南子、要略〕所三以使二學者孳孳以自幾一也。〔注〕幾、庶幾也。〔漢書、疏廣傳〕子孫幾及二君時一、頗立二產業基阯一。⓮のぞむ。覬(10－34934)に通ず。〔說文通訓定聲〕幾、叚借爲レ覬。〔史記、晉世家〕毋レ幾レ爲レ君。〔注〕索隱曰、幾、望也。⓯よくみる。察する。儀(1－1106)に通ず。〔說文通訓定聲〕幾、叚借爲レ儀。〔周禮、地官、司門〕幾二出入不レ物者一。〔禮、玉藻〕幾二聲之上下一。〔注〕幾、猶レ察也。〔管子、小匡〕關市幾而不レ正。⓰とき。をり。期(5－14378)に通ず。〔說文通訓定聲〕幾、叚借爲レ期、幾・期雙聲。〔左氏、定、元〕易レ幾而哭。〔注〕幾、哭會也。〔後漢書、臧宮傳〕斯誠雄心尚武之幾。〔注〕幾、會也。⓱きる。刉(2－1863)に通ず。〔周禮、秋官、犬人〕凡幾珥・沈辜、用レ駹可也。〔注〕玄謂、幾、讀爲レ刉、珥當レ爲レ衈、刉衈者、釁禮之事。⓲おく。庋(4－9329)に通ず。〔周禮、秋官、犬人、注〕鄭司農曰、幾、讀爲レ庋、爾雅曰、祭レ山曰二庋縣一、祭レ川曰二浮沈一。⓳いのる。祈(8－24640)に通ず。〔說文通訓定聲〕幾、叚借爲レ祈、周禮犬人、幾珥沈辜、先鄭謂三借爲二庋縣之庋一、後鄭謂二借爲レ刉、幾・斤一聲之轉。⓴それ。語勢を助ける助辭。〔易、屯〕君子幾不レ如レ舍。〔釋文〕幾、辭也。〔易、歸妹〕月幾望。〔虞注〕幾、其也。〔荀子、賦〕聖人共手、時幾將矣。〔注〕幾、辭也。㉑既(5－13725)に通ず。〔易、歸妹、釋文〕幾、荀本作レ既。㉒頎(12－43370)に通ず。〔莊子、天道〕幾乎後言。〔釋文〕幾、司馬本作レ頎。㉓城の名。河北省大名縣の東南。〔史記、趙世家〕惠文王二十三年、樓昌將攻二魏幾一、不レ能レ取、十二月、廉頗將攻レ幾、取レ之。㉔古は𢆻(4－9200)に作る。〔集韻〕幾、古作レ𢆻。㉕姓。〔通氏、氏族略、以レ名爲レ氏〕幾氏、風俗通、宋大夫仲幾之後、以二王父字一爲レ氏。[二]❶ちかい。〔集韻〕幾、近也。❷へり。ふち。圻(3－4903)に通ず。〔說文通訓定聲〕幾、叚借爲レ圻。〔集韻〕幾、一曰、器之沂鄂。〔禮、郊特牲〕丹漆雕幾之美。〔注〕幾、謂三漆二飾沂鄂一也。〔禮、少儀〕車不レ雕レ幾。〔注〕幾、附纏爲二沂鄂一也。[三]❶いくばく。なにがしの。〔詩、齊風、甫田〕未レ幾見兮。〔左氏、昭、六〕亦無二幾求一。〔注〕言二所レ求少一。〔史記、萬石君傳〕上問二車中幾馬一。❷しばしば。〔集韻〕幾、且數。〔左氏、昭、十六〕幾爲二之笑一而不レ陵レ我。〔注〕言三數見レ笑、則心陵二侮我一。❸あに。豈(10－36249)に通ず。〔荀子、榮辱〕幾直夫芻豢稻梁之縣二糟糠一爾哉。〔注〕豈止糟糠比二芻豢一哉、幾、讀爲レ豈。❹古は𢆸(4－9201)に作る。〔集韻〕幾、古作レ𢆸。[四]❶やまない。〔廣韻〕幾、未レ已也。❷ちかい。〔集韻〕幾、近也。❸こひねがふ。冀(2－1500)に通ず。〔左氏、哀、十六〕日日以幾。〔注〕冀二君來一。〔釋文〕幾、音冀、本或作レ冀。

名乘 チカ。フサ。ノリ。キ。

解字 會意。𢆶と戍との合字。本義は物のきざし、又、危殆の意。𢆶は小にして隱微なる義。戍は兵守。卽ち、兵守するものは敵の機微を察しなければならない故に、物の機微の意とし、又、幾は動の微、物の吉凶先づあらはるるもの故に、あやふし、危殆の義とする。一字で、危と微との二義を兼ねる。又、𢆶は小の義、小數にして兵守するものは危し。故に、機微・危殆の義に用ふと。〔說文、幾、段注〕繫辭傳曰、幾者動之微、吉凶之先見也、云云、歹部曰、殆、危也、危與レ微二義相成、故兩二言之一。〔說文通訓定聲〕幾、微也、殆也、从レ𢆶从レ戍、會意、戍、兵守也、𢆶而兵守者危也。

【幾安】1 キアン 吉凶の未だ現はれない幾微の間を愼めば安らかであるといふこと。〔史記、樂書〕君臣相勅、維是幾安、而股肱不レ良、萬事墮壞。

【幾位】2 キヰ いくたり。幾人。〔福惠全書、蒞任部、看須知〕名宦鄉賢幾位。

【幾音】3 キイン 幾微の言。〔顏延之、皇太子釋奠會作詩〕妙二識幾音一、王載有レ述。〔注〕向曰、言侍從之官、皆妙二識幾微之音一。

【幾運】4 キウン をり。めぐりあはせ。幾は機。機運。〔後漢書、劉玄傳論〕非二唯漢人餘恩一、固亦幾運之會也。

【幾於】5 chi¹ yü² 殆ど。

【幾億】6 キオク はかり知り難いほど數多いこと。〔梁簡文帝、大壑賦〕勃海之東、不レ知二幾億一。

【幾何】7 キカ ❶いくばく。どれほど。いくつ。幾許。幾所。〔詩、小雅、巧言〕爾居徒幾何。〔疏〕汝所二與聚居一之徒衆、幾何許人而能爲二此怪一。〔左氏、僖、二十七〕所レ獲幾何。〔墨子、兼愛下〕人之生二乎地上一之無二幾何一也。〔史記、孔子世家〕居レ魯、得レ祿幾何。〔後漢書、陸續傳〕事畢興問二所レ食幾何一。❷多くないこと。〔漢書、五行志中之上〕孝伯曰、民生幾何、誰能毋レ偸。〔注〕師古曰、幾何、言レ無二多時一也。❸幾何學の略。〔幾何要法、論線、總論〕幾何家者、脫二物體一而空窮二度數一、數二其截一者、度二其完一者、度有レ三、曰線、曰面、曰體、線以度二長短一、面以度二廣狹一、體以度二厚薄一、線自レ點始、點引爲レ線、線展爲レ面、面運爲レ體、點者無レ長、線者無レ廣、面者無レ厚、點爲二線之界一、線爲二面之界一、面爲二體之界一、體不レ可レ爲レ界、點線面體幾何之論起焉。

【幾何學】8 キカガク 物の形・大きさ・位置等に關して研究する科學。略して幾何といふ。英語 geometry の譯語。幾何の❸を見よ。

【幾何畫】9 キカグワ 用器畫をいふ。幾何學の理を以て法式とするもの。

【幾何級數】10 キカキフスウ 級數で、相鄰れる前後の二項が、常に一定の比をなすもの。等比級數。

【幾何原本】11 キカゲンポン 書名。希臘人、ユークリット撰。利瑪竇譯。十五卷。前六卷は徐光啓の筆受、後九卷は李善蘭の筆受するところ。〔四

庫提要、子、天文算法類〕。

【幾何公理】12（キカコウリ） 專ら幾何學に用ひる公理。普通公理の對。

【幾何論約】13（キカロンヤク） 書名。七卷。淸、杜知耕撰。徐光啓の受けた幾何原本を刪削したもの。幾何原本を見よ。〔四庫提要、子、天文算法類〕。

【幾家】14（イクカ） 一二三の家。〔劉長卿、送三崔昇歸二上都一詩〕早鶯何處客、古木幾家人。〔蘇軾、雪後書二北臺壁一詩〕遺蝗入レ地應二千尺一、宿麥連レ雲有二幾家一。〔高啓、猛虎行〕幾家插レ棘高作レ門、未レ到二日沒一收二豬豚一。

【幾行】15（キカウ） いくつかの行列。幾列。〔梁嵩、倚門望子賦〕幾行雁陣空來。

【幾幸】16（キカウ） こひねがふ。〔漢書、賈誼傳〕故姦人幾幸、而衆心疑惑。〔注〕師古曰、幾、讀曰レ冀。

【幾諫】17（キカン） おだやかにいさめる。怒にふれないやうにやさしくいさめる。それとなく諫める。〔論語、里仁〕子曰、事二父母一幾諫、見二志不レ從、又敬不レ違、勞而不レ怨。〔集解〕包咸曰、幾、微也、當三微諫納二善言於父母一。〔劉寶楠正義〕微諫、爲二和順之義一、內則所レ云、父母有レ過、下レ氣怡レ色柔レ聲以諫、是也。〔集注〕幾、微也、微諫、所謂父母有レ過、下レ氣怡レ色柔レ聲以諫也。〔白虎通、諫諍〕論語事二父母一幾諫下レ言。

【幾危】18（キキ） 危いきざし。幾微。〔鬼谷子、本經陰符〕損兌法二靈蓍一、損兌者幾危之決也。〔注〕幾危之理、兆動之微、非二心眼一莫二能察見一、故曰二損兌者幾危之決一也。

【幾希】19（ホトンドマレナリ） 殆どない。幾らもない。〔孟子、離婁下〕人之所三以異二於禽獸一者幾希。〔注〕幾希、無レ幾也。〔孟子、盡心上〕舜之居二深山之中一、與二木石一居、與二鹿豕一遊、其所三以異二於深山之野人一者幾希。

【幾及】20（キキフ） ほとんどおひつく。〔孟子、盡心上〕道則高矣美矣、宜二若レ登レ天然一、似レ不レ可レ及也、何不レ使下彼爲レ可二幾及一、而日孳孳上也。〔五代史、和凝傳〕壞敗レ身走、獨凝隨レ之、已而一騎、追レ壞戰幾及、凝叱レ之、不レ止、卽引レ弓射殺レ之。

【幾許】21（キキヨ） いくばく。幾何。若干。〔古詩十九首〕河漢淸且淺、相去復幾許。〔韓愈、桃源圖詩〕當時萬事皆眼見、不レ知幾許猶流傳。

【幾禁】22（キキン） 通行者を咎めるを幾といひ、通行を禁止するを禁といふ。〔周禮、秋官、野廬氏〕邦之大師、則令レ埽二道路一、且以幾二禁行作不レ時者不レ物者一。

【幾夥】23 chi² huo³ いくばく。幾何。何程。

【幾回】24（イククワイ） いくたび。幾度。〔杜甫、所思詩〕一杜觀頭眠幾回。〔崔敏童、宴二城東莊一詩〕能向二花前一幾回醉、十千沽レ酒莫レ辭レ貧。

【幾決】25（キケツ） 機微を見て明察判斷すること。〔蒙求、楊脩捷對〕脩之幾決、多有二此類一。

【幾言】26（キゲン） おだやかにものをいふ。〔琵琶記、幾言諫父〕好怪吾家門壻、鎭日不レ展二愁眉一。

【幾原】27（キゲン） 梁、裴子野(**10**–**34362**··128)の字。

【幾乎】28（キコ） ほとんど。ちかい。〔易、繫辭上〕或幾二乎息一矣。〔法言、重黎〕幾乎幾乎、莫二之能違一也。〔注〕幾、近也。

【幾個】29 chi³ kê いくつ。どのくらゐ。いかばかり。

【幾箇】30（キコ） いくばく。〔李適之、罷レ相作詩〕爲問門前客、今朝幾箇來。

【幾工】31 chi¹ kung¹ 容易に。

【幾座】32 chi¹ tsuo⁴ こしかけ。一人腰掛。

【幾歲】33（イクサイ） ❶數年。〔劉長卿、酬二張夏一詩〕幾歲依二窮海一、頹年惜二故陰一。❷いくつ。何歲。

【幾早】34 chi² tsao³ いつ。何時。

【幾賾】35（キサク） かすかで奧深い。幾微幽深。〔王筠、昭明太子哀册文〕辯究二空微一、思探二幾賾一。

【幾喒】36 chi³ tsan 何時。いつ。

【幾之】37（キシ） 唐、劉瞻(**2**–**2224**··455)の字。

【幾死】38（キシ） 殆ど死なうとすること。〔柳宗元、捕蛇者說〕於レ是今吾嗣爲レ之十二年、幾死者數矣。

【幾事】39（キジ） かすかなことがら。幾密の事柄。又、單に事柄。機事。幾事不レ密則成レ害を見よ。〔後漢書、鮑永傳〕諫每戒レ永曰、君長幾事不レ密、禍倚二人門一。

〖幾事不レ密則害レ成〗40（キジミツナラズンバスナハチセイヲガイス） 機事は愼まねば、漏泄して禍を致し、事の成功を害する。〔易、繫辭上〕子曰、亂之所レ生也、則言語以爲レ階、君不レ密則失レ臣、臣不レ密則失レ身、幾事不レ密則害レ成、是以君子愼密而不レ出也。〔疏〕幾、謂二幾微之事一、當三須密愼預二防禍害一。

【幾兒】41 chi³ êrh いつ。何日。何時。

【幾時】42（キジ） ❶いくばくの時。〔韓愈、祭二十二郎一文〕其無レ知、悲不二幾時一、而不レ悲者無二窮期一矣。〔韓愈、柳巷詩〕柳巷還飛絮、春餘幾許時。〔劉廷芝、代下悲二白頭一翁上詩〕宛轉蛾眉能幾時、須臾鶴髮亂如レ絲。❷chi³ shih² いつ。何時。

【幾珥】43（キジ） ちぬる。釁禮の事。〔周禮、秋官、犬人〕掌二犬牲一、凡幾珥沈辜、用レ駹可也。〔注〕鄭司農云、幾、當二讀曰レ祈、爾雅曰、祭レ山曰二祈縣一、玄謂、幾、讀爲レ刉、珥、讀爲レ衈、刉衈者、釁禮之事。

【幾日】44（キジツ） いくにち。なんにち。どれほどの日數。〔孟子、離婁上〕子來幾日矣。

【幾十】45（イクソ） どのくらゐ。なにほど。

〖幾十許〗46（イクソバク） いくら。どれほど。幾何。限りなく多い意。

【幾社】47（キシヤ） 明末、夏允彝・陳子龍等が松江に設けた文會の結社。易繫辭傳の知レ幾其神の義を取つて名づく。當時、復社と同時に起つて並峙し、學を講ずるに專らで、外事を問はぬを特徴とした。〔明史、夏允彝傳〕夏允彝、字彝仲、弱冠擧二於鄕一、好レ古博學、工屬レ文、是時東林講席盛、蘇州高才生張溥・楊廷樞等慕レ之、結二文會一、名二復社一、允彝與二同邑陳子龍・徐孚遠・王光承等一、亦結二幾社一相應和。

【幾酒】48（キシユ） 酒の亂賣、及び時に非ずして造ることを禁ずる。〔周禮、秋官、萍氏〕幾レ酒謹レ酒。〔注〕(幾レ酒)苛二察沽買過多、及非レ時者一。

【幾樹】49（キジユ） 數株の樹。〔吳融、廢宅詩〕幾樹好花閑二白晝一、滿庭荒草易二黃昏一。

【幾叔】50（キシユク） 宋、黃機(**12**–**47926**··187)の字。

【幾初】51（キシヨ） 事の先づあらはれたきざし。はじめ。〔後漢書、邳彤傳論〕丹言二成事一者、以二功著一易レ顯、謀二幾初一者、以二理隱一難レ昭。

【幾所】52（イクバク） いか程。いくばく。〔漢書、疏廣傳〕數問三金餘尙有二幾所一。〔注〕師古曰、幾所、猶レ言二幾許一也。

【幾處】53（イクバク） いくばく。いかほど。〔杜甫、吹笛詩〕風飄二律呂一相和切、月傍二關山一幾處明。

【幾臣】54（キシン） 機密を掌る臣。機臣。〔管子、君臣下〕國之幾臣、陰約閉レ謀、以相待也、則失レ援矣。〔纂詁〕幾臣與二羣臣一對、蓋謂下掌二機密一之臣上。

【幾盡】55（キジン） 殆どつきる。〔左氏、襄、十八〕楚師多凍、役徒幾盡。

【幾世】56（イクヨ） いくばくの世。多くの世。幾代。

【幾成】57（キセイ） ❶ほとんどなる。〔老子、六十四〕民之從レ事、常於二幾成一而敗レ之。❷chi³ ch'êng² 何割。幾割。

【幾聖】58（キセイ） 字號。❶宋、顏師魯(**12**–**43591**··159)の字。❷宋、強至(**4**–**9815**··81)の字。

【幾先】59（キセン） ❶先を早くみぬく。機先。〔剪燈餘話、長安夜行錄〕期仁復問曰、史稱、寧王明二炳幾先一。❷金、傅愼微(**1**–**939**··180)の字。

【幾然】60（キゼン） 長いさま。せいの高いさま。〔史記、孔子世家〕孔子曰、丘得二其爲一レ人、黯然而黑、幾然而長。

【幾叟】61（キソウ） 宋、陳淵(**11**–**41698**··38)の字。

【幾曾】62（キソウ） 何ぞ嘗て云云せんや。〔趙嘏、贈二陳正字一詩〕野艇幾曾尋レ水去、故山從レ此與レ雲疎。

【幾卒】63（キソツ） ほとんど盡きる。〔國語、魯語上〕民羸幾卒。〔注〕卒、盡也。

【幾多】64（イクタ） あまた。數多。〔王周、岳州衆湖阻風詩〕曉來閑共二漁人一話、此去二巴陵一路幾多。〔邵雍、再到二洛陽一詩〕今日當年成二一世一、幾多興替在二其中一。

【幾殆】65（ホトンドアヤフシ） ほとんどあやふい。危機一髮。〔漢書、樊噲傳〕是日微三樊噲奔入レ營譙二讓項羽一、沛公幾殆。

【幾道】66（キダウ） 字號。❶唐、孟簡(**3**–**6960**··38)の字。❷宋、黃好謙(**12**–**47926**··1010)の字。❸宋、吳及(**2**–**3365**··105)の字。❹宋、趙師淵(**10**–**37171**··620)の字。❺宋、趙汝回(**10**–**37171**··682)の字。❻宋、王淵(**7**–**20823**··83)の字。

【幾彖】67（キタン） 周易をいふ。〔王僧達、祭二顏光祿一文〕義窮二幾彖一、文蔽二班揚一。〔注〕善曰、幾彖、謂二周易一。

【幾仲】68（キチユウ） 字號。❶宋、黃機(**12**–**47926**··18

7)の字。㊁宋、戴迅(**5－11685**・・89)の字。㊂宋、張近(**4－9812**・・212)の字。

【幾重】69（イクチョウ） ㊀いくへにもかさなる。いくかさなり。〔杜甫、謁二眞諦寺禪師一詩〕烟霞障幾重。〔賈島、送三慈恩寺霄韻法師謁二太原李司空一詩〕何故謁二司空一、雲山知幾重。〔劉長卿、雙峰下哭二故人李宥一詩〕憐レ君孤隴寄二雙峰一、埋レ骨窮泉復幾重。㊁（イクヘ）いくたびとなくくりかへして。くれぐれも。

【幾亭】70（キテイ） 明、陳龍正(**11－41698**・・1308)の「號。

【幾疊】71（キデフ） ㊀幾重にもかさなる。〔徐賁、紙帳詩〕幾疊玉山開二洞壑一、半巖春霧結二房櫳一。㊁chi^3 tieh^2 幾度。いくたび。

【幾天】72 chi^3 tʻien^1 幾日。何日。

【幾度】73（イクタビ） なんたび。幾回。多くの回數。〔劉長卿、題二靈祐上人法華院木蘭花一詩〕庭種南中樹、年年幾度新。

【幾頓】74（キトン） 失敗して危險に陷ること。幾は危、頓は敗。〔國語、周語上〕且觀二之兵一、其無下乃廢二先王之訓一、而王幾頓上乎。

【幾那】75（キナ） 藥の名。規那樹の皮から製するもの。規那。quina の音譯。

【幾那樹】76（キナジュ） 樹の名。常綠喬木。南米のアンデス山に產す。樹皮から幾那の藥を製する。Cinchna の音譯。

【幾尼】77（キニ） 英國の古貨幣の名。二十一シリングに相當する。guina の音譯。

【幾人】78（イクニン） 何人。どれほどの人。いくたり。〔王翰、涼州詞〕醉臥二沙場一君莫レ笑、古來征戰幾人回。〔張若虛、春江花月夜詩〕不レ知乘レ月幾人歸、落月搖レ情滿二江樹一。

【幾敗】79（キハイ） ほとんどやぶれる。〔史記、留侯世家〕豎儒、幾敗二而公事一。〔漢書、高祖紀〕豎儒幾敗二乃公事一。

【幾亡】80（キバウ） ほとんど亡びる。亡びるに近い。〔左氏、襄、十一〕不レ從レ晉、國幾亡。〔後漢書、馬援傳〕遂救二倒懸之急一、存二幾亡之城一。

【幾望】81（キバウ） 陰曆十四日の月。幾は近。〔易、小畜〕月幾望。〔注〕陰之盈盛、莫レ盛二於此一、故曰二月幾望一也。〔疏〕月幾望者、婦人之制レ夫、猶如二月在レ望時、盛極以敵レ日也、幾、辭也。〔易、中孚〕月幾望。〔疏〕內毗二元首一、外宣二德化一、充二乎陰德之盛一、如二月之近レ望、故曰二月幾望一也。

【幾般】82（キハン） いくたび。般は數を數へる語。幾種。幾度。幾回。〔戎昱、早春雪中詩〕愁坐關心事幾般。

【幾番】83（イクバン） いくたび。〔李建勳、採レ菊詩〕簇簇競相鮮、一枝開幾番。

【幾微】84（キビ） きざしのかすかなこと。きざし。けはひ。前兆。〔易、繫辭下〕幾者動之微、吉之先見者也。〔注〕吉凶之彰、始二於微兆一。〔疏〕幾、微也。〔漢書、蕭望之傳〕願陛下選下明二經術一溫レ故知レ新、通二於幾微一謀慮之士上。〔韓愈、送二殷員外一序〕無三幾微出二於言面一。

【幾片】85（イクヘン） いくつかのきれはし。〔田錫、春雲賦〕幾片明滅兮殘雪方消、一脈輕鮮兮愁蛾淡掃。

【幾遍】86（イクヘン） いくたび。何遍。

【幾密】87（キミツ） 大切なこと。機密。〔漢書、劉向傳〕唯陛下深留二聖思一、審固二幾密一。

【幾夜】88（イクヨ） いくばくの夜。多くの夜。〔古事記、中〕にひばり筑波を過ぎて、伊久用（イクヨ）か寝つる。

【幾慮】89（キリヨ） ふしぎな智慧。自分の氣づかない神慮。〔後漢書、馮岑賈傳論〕豈幾慮自有二明惑一、將期數使二之然一乎。

【幾摟】90 chi^2 lou^3 幾抱へ。

【見レ幾】91（キヲミル） 事のきざしを見る。幾は機。〔易、繫辭下〕君子見レ幾而作、不レ俟レ終レ日。

【無レ幾】92（イクバクモナシ） ㊀なにほどもない。すくない。〔漢書、賈誼傳〕不レ同二禽獸一者、無レ幾耳。㊁まもなく。ほどなく。〔韻會〕幾、未レ多レ時、曰レ無レ幾。

【幾阿蘇】93（クレオソート） 藥品の名。Creosote の音譯。

【幾下鐘】94 chi^3 hsia^4 chung^1 何時。又、數時間。

【幾甲子】95（イクカウシ） 幾歲。〔李白、下途歸二石門舊居一詩〕數人不レ知幾甲子、昨來猶帶冰霜顏。

【幾幾乎】96 chi^1 chi^1 hu ほとんど。

【幾口人】97 chi^2 kʻou^3 jen^2 幾人。

【幾點鐘】98 chi^2 tien^3 chung^1 なんじ。何時。

【幾萬重】99（イクマンチョウ） 數の知れぬほどかさなる。〔駱賓王、餞二駱四一得二鍾字一詩〕明月臨二溝水一、青山幾萬重。

【幾而不レ征】100（キシテセイセズ） 關所や市場に於て、人物を取調べて異服異言を察するだけで稅金をとらないこと。譏而不レ征(**10－35958**・・38)に同じ。〔國語、齊語〕通二齊國之魚鹽于東萊一、使二關市幾而不レ征、以爲二諸侯利一。〔注〕幾、幾二異服一識二異言一也、征、稅也。〔荀子、王制〕關市幾而不レ征。〔注〕幾、呵察也、但呵二察姦人一、而不レ征レ稅也、禮記、幾作レ譏。

【幾年一會】101（イクネンイツクワイ） 幾年目かに一たび相會すること。〔杜甫、湖中送三敬十使君適二廣陵一詩〕相見各頭白、其如二離別一何、幾年一會面、今日復悲歌、少壯樂難レ得、歲寒心匪レ他。

【幾筆粉抹】102（イクヒツノフンマツ） 芝居を打つ。〔桃花扇、罵筵〕晚生輩也免二了幾筆粉抹一。

【知レ幾其神乎】103（キヲシルハソレシンカ） 事物の兆を知る人は神のやうな人であらうよ。幾は動の微。〔易、繫辭下〕子曰、知レ幾其神乎。〔疏〕人若能豫知二事之幾微一、則能與二其神道一合會也。

【幾歷二辛酸一志始堅】104（イクタビカシンサンヲヘテココロザシハジメテカタシ） 今日まで幾多の辛苦に遭つたおかげで我が志操も漸くしつかりして來た。〔西鄕南洲、偶感詩〕幾歷二辛酸一志始堅、丈夫玉碎恥二甎全一、我家遺法人知否、不下爲二兒孫一買中美田上。

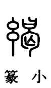
【幾者動之微吉之先見者也】105（キハドウノビニシテキツノマツアラハルルモノナリ） 幾とは動かんとして未だ動かぬ際に在つて、吉凶の兆の先づ見はれることである。〔易、繫辭下〕知レ幾其神乎、君子上交不レ諂、下交不レ瀆、其知レ幾乎、幾者動之微、吉之先見者也、君子見レ幾而作、不レ俟レ終レ日。

【〓】9209 エイ 〓(**4－9211**)の譌字。〔康熙字典〕〓、按、說文本作レ〓。

【〓】9210 エン 義未詳。〔五音篇海〕〓、音燕。

十畫

【〓】9211 エイ 〔集韻〕於例切 霽


小篆

もとる。〔說文〕〓、不二成遂一急戾也、从二弦省一曷聲、讀若レ瘞。

【〓】9212 チヤウ 義未詳。〔字彙補〕〓、亭亮切。

十一畫

【〓】9213 イ 彝(**4－9950**)の古字。〔說文〕〓、古文彝。

【〓】9214 シ 〔集韻〕想氏切 紙 ㊀ちひさいさま。〓(**1－567**)に同じ。〔集韻〕〓、說文、小皃、引二詩〓〓彼有レ屋、或作レ〓。㊁佌(**1－502**)に同じ。〔集韻〕佌、小也、或作レ〓。

【㡭】9215 ケイ 繼(**8－27997**)に同じ。〔說文〕繼、續也、繼、或作レ㡭、反𢇍爲レ㡭。

【𢇍】9216 ゼツ 絕(**8－27407**)の古字。〔說文〕絕、𢇍、古文絕、象レ不レ連レ體、絕二二絲一。

十二畫

【⿹乞𢆶】9217 キツ ⿹气𢆶(4-9219)に同じ。〔字彙補〕⿹乞𢆶、同㆑⿹气𢆶。

【⿱𢆶幽】9218 イウ 幽(4-9205)に同じ。〔餘文〕⿱𢆶幽、同㆑幽。

十三畫

【⿹气𢆶】9219 キツ ゴチ 〔集韻〕其迄切 物

❶あやふい。〔玉篇〕⿹气𢆶、危也。❷みがく。〔廣韻〕⿹气𢆶、磯也。❸ちかづく。〔集韻〕⿹气𢆶、相切近也。

十九畫

【⿱𢆶㚘】9220 ジ 孳(3-7011)に同じ。〔餘文〕⿱𢆶㚘、同㆑孳。

广部

【广】9221 ゲン 〔集韻〕魚檢切 ㄧㄢˇ yen^3 琰

广 小篆

❶がけの上に高くかまへたいへ。〔說文〕广、因㆑厂爲㆑屋也、从㆑厂、象㆘對㆓刺高屋㆒之形㆖、讀若㆓儼然之儼㆒。〔段注〕厂者、山石之崖巖、因㆑之爲㆑屋、是曰㆑广。❷いへ。〔六書正譌〕广、小屋之名。〔袁桷、次㆔韻瑾子過㆓梁山濼㆒詩〕土屋危可㆑緣、草广突如㆑峙。❸むなぎ。〔增韻〕广、棟頭曰㆑广。〔韓愈、陪㆓杜侍御㆒遊㆓湘西兩寺㆒云云詩〕剖㆑竹走㆓泉源㆒、開㆑廊架㆓屋广㆒。❹まだれ。漢字の構造を示す時に用ひる語。❺注音符號の聲符の一。舌前帶鼻音。舌前部を上升せしめて硬口蓋と接觸し、氣息の洩出を阻止すると同時に、軟口蓋を下垂せしめて、氣息を鼻腔から外洩せしめると此の音になる。ニ。gn。此の符號を單獨で讀むときは、韻符の一を加へて、ニイ、gni と讀む。正形は广。邦摩(5-12163)・麼(12-47893)・磨(8-24449)・魔(12-45906)等の略字。

解字 指事。厂はがけを表はし、丨は屋を示す。故に广は崖の上に高くかまへた家をあらはす。〔說文通訓定聲〕广、因㆑厂爲㆑屋、象㆘對㆓刺高屋㆒之形㆖、讀若㆓儼然之儼㆒、按、从㆑厂、上謂㆓屋高遠望聳起㆒也、指事。

二畫

【庀】9222 ㊀ヒ 〔集韻〕普弭切 ㄆㄧˇ p'i^3 紙 ㊁ヘイ ハイ 〔集韻〕普米切 薺

㊀㊁❶をさめる。〔集韻〕庀、治也。〔左氏、襄、二十五〕楚子木使㆑庀㆑賦。〔注〕庀、治也。〔國語、魯語下〕夜庀㆓其家事㆒。〔注〕庀、治也。❷そなへる。〔玉篇〕庀、具也。〔左氏、襄、五〕宰庀㆓家器㆒。〔注〕庀、具也。❸或は庇(4-9239)に作る。〔集韻〕庀、或作㆑庇。〔周禮、地官、遂師〕庀㆓其委積㆒。〔釋文〕庀、又作㆑庇。❹或は比(6-16743)に作る。〔集韻〕庀、或作㆑比。〔周禮、地官、遂師、注〕故書、庀爲㆑比、鄭司農云、比、讀爲㆑庀、庀、具也。

【庁】9223 テイ チヤウ 〔集韻〕湯丁切 青

❶たひらか。〔玉篇〕庁、平也。❷いしぶみの石。矴(8-24095)に同じ。〔集韻〕矴、碑材、或省。❸廳(4-9562)の略字。〔宋元以來俗字譜〕廳、古今雜劇作㆑庁。

【庂】9224 シヨク シキ 〔篇韻〕阻力切 職

赤庂は、漢代の錢の名。〔漢書、食貨志下〕公卿請令㆓京師鑄官㆒、赤庂一當㆑五、云云、其後二歲、赤庂錢賤、民巧法用㆑之、不㆑便、又廢。〔注〕應劭曰、所謂子紺錢也、如淳曰、以㆓赤銅㆒爲㆓其郭㆒、令㆓錢郭見㆑有㆑赤者、不㆑知㆓作法云何㆒也。

【庂慝】1 ショク トク 月行の遲くて進まぬこと。朔日に月が東方に見えること。〔漢書、五行志下之下〕晦而月見㆓西方㆒謂㆓之朓㆒、朔而月見㆓東方㆒謂㆓之庂慝㆒、劉向以爲、朓者、疾也、庂慝者、不㆑進之意。〔注〕孟康曰、庂慝者、月行遲、在㆓日後㆒、當㆑沒而更見。〔王先謙補注〕錢大昕曰、周禮疏引㆓尙書五行傳㆒作㆓側匿㆒、王先謙曰、匿正字、慝借字、亦作㆓縮朒㆒、說文、朔而月見㆓東方㆒謂㆓之縮朒㆒、側與㆑縮、匿與㆑朒、聲近義同。

【広】9224′ クワウ 廣(4-9493)の略字。

三畫

【⿸广乇】9225 ㊀ト ヅ 〔集韻〕徒故切 遇 ㊁タク ヂヤク 〔集韻〕直格切 陌 ㊂タク ダク 〔集韻〕達各切 藥

㊀のり。度(4-9313)に同じ。〔集韻〕度、說文、法制也、或作㆑⿸广乇。㊁いへ。宅(3-7064)の古字。〔集韻〕宅、說文、所㆑託也、古作㆑⿸广乇。〔說文〕宅、⿸广乇、亦古之宅。㊂度(4-9313)の古字。〔集韻〕度、謀也、古作㆑⿸广乇。

【⿸广下】9226 サ シヤ 〔集韻〕所嫁切 ㄒㄧㄚˋ hsia^4 禡

❶ひさし。さしだし。母屋の側にはりだした家。〔玉篇〕⿸广下、旁屋也。❷廈(4-9435)に同じ。〔集韻〕廈、旁屋也、或作㆑⿸广下。

【⿸广女】9227 ゲン ゴン 〔廣韻〕魚掩切 琰

ひとしい。〔廣韻〕⿸广女、齊⿸广女。

【⿸广弋】9228 ヨク 廙(4-9478)に同じ。〔集韻〕廙、或作㆑⿸广弋。

【⿸广于】9229 ウ 宇(3-7067)の籀文。〔玉篇〕⿸广于、籀文宇。

【⿸广也】9230 エイ 〔玉篇〕弋勢切 霽

食堂。〔玉篇〕庵、食廡也。

【⿸广久】 9231

キウ ク 〔五音集韻〕居祐切 宥

やいと。 おきう。〔五音集韻〕⿸广久、灸也。

【⿸广干】 9232

ウ ⿸广子(**4**－**9229**)の譌字。〔正字通〕⿸广干、⿸广子字之譌。

【⿸广亡】 9233

ブ 廡(**4**－**9491**)に同じ。〔集韻〕廡、或作レ⿸广亡。

【庄】 9234

🈩 ハウ ビヤウ 〔五音集韻〕薄庚切 庚

🈔 サウ シヤウ 〔正字通〕側霜切 陽 ㄓㄨㄤ chuang¹

🈩**たひらか。**〔五音集韻〕庄、平也。🈔**むらざと。いなか。**莊(**9**－**31035**)の俗字。〔正字通〕莊、田舍曰レ莊、俗作レ庄。

【庄屋】1 シヤウヤ 江戶時代、領主が土民の中から命じ、郡代・代官の下に村方の事を統べしめた役。名主。里正。莊官。〔狂言、腹立てず〕罷り出でたるは、所の庄屋で御座る。

【庄家】2 chuang¹ chia¹ 百姓家。〔紅樓夢、三十九回〕因爲庄家忙、好容易今年多打了兩石糧食。

【庄子】3 chuang¹ tzŭ 村。〔紅樓夢、三十九回〕我們庄子東邊庄上有個老奶奶子。

【庄長】4 シヤウチヤウ 臺灣に於ける最下級の地方行政區劃庄の長。

【庅】 9235

テイ 底(**4**－**9262**)に同じ。〔海篇〕庅、同レ底。

【⿸广口】 9236

カン ゴン 〔五音集韻〕戶感切 感

⿸广口嘾は、乳汁のさま。〔五音集韻〕⿸广口、⿸广口嘾、乳汁狀。

【⿸广毛】 9237

トン 庉(**4**－**9241**)に同じ。〔奚韻〕⿸广毛、同レ庉。

【⿸广亢】 9238

クワウ 義未詳。〔五音篇海〕⿸广亢、音荒。

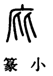
四畫

【庇】 9239

🈩 ヒ 〔集韻〕必至切 寘 ㄅㄧˋ pi⁴

🈔 ヒ 〔集韻〕普弭切 紙

🈪 ヒ 〔集韻〕頻脂切 支


小篆

🈩❶**おほふ。かばふ。**おほはる。〔說文〕庇、蔭也、从レ广比聲。〔爾雅、釋言〕庇、蔭也。〔舍人注〕庇、蔽也。〔禮、表記〕雖レ有ニ庇レ民之大德一。〔注〕庇、覆也。〔左氏、襄、三十一〕大官大邑、身之所レ庇也。〔國語、周語中〕口以庇レ信。〔注〕庇、猶レ蔭也。〔莊子、人閒世〕結駟千乘、隱將レ庇ニ其所レ藾。❷**ひざしをさける。**いこふ。〔韓愈、感春詩〕藤蔭已可レ庇。❸**たのむ。**たよる。〔呂覽、懷寵〕則民知レ所レ庇矣。〔注〕庇、依蔭也。❹**寄寓する。**よる。〔方言、二〕庇、寄也、齊衞宋魯陳晉潁汝荊州江淮之閒曰レ庇、或曰レ寓。❺**おほひ。**かげ。〔楊夔、烏程縣新建廨宇記〕周ニ視縣署一、頹簷側楹、倒移相倚、風雨罔レ庇。〔宋祁、蒲桃賦〕外結ニ庇於緇林一。〔蘇軾、與ニ滕達道一書〕尤爲レ失ニ巨庇一也。❻或は芘(**9**－**30693**)に作る。〔集韻〕庇、或作レ芘。〔易、剝、剝下所レ芘也、釋文〕芘、本作レ庇。🈔**をさめる。又、そなへる。**庀(**4**－**9222**)に同じ。〔集韻〕庀、治也、具也、或作レ庇。🈪**地名。**〔集韻〕庇、地名。邦**ひさし。**

參考 庛(**4**－**9282**)は別字。

【庇佑】1 pi⁴ yu⁴ おかげ。庇護。

【庇廕】2 ヒイン かばふ。たすけまもる。庇蔭に同じ。〔國語、楚語下〕玉足下以庇ニ廕嘉穀一、使上無ニ水旱之災一。〔顏氏家訓、勉學〕一旦流離、無ニ人庇廕一。〔白居易、初喪ニ崔兒一報ニ微之晦叔一詩〕文章十帙官三品、身後傳レ誰庇ニ廕誰一。

【庇蔭】3 ヒイン おかげ。又、かばふ。ひさしや木かげが雨露を防いで物をかばふやうに、人を擁護するにいふ。〔左氏、文、七〕公族公室之枝葉也、若去レ之、則本根無レ所ニ庇蔭一矣。〔注〕葛之能藟蔓繁滋者、以ニ本枝蔭庥之多一也。〔國語、晉語七〕君鎭ニ撫羣臣一、而大庇ニ蔭之一。〔曹冏、六代論〕枝葉落則本根無レ所ニ庇蔭一。

【庇庥】4 ヒキウ かばふ。たすける。〔爾雅、釋言〕庇庥、廕也。

【庇護】5 ヒゴ かばふ。たすけ守る。庇保。〔五代史、王建立傳〕明宗爲庇ニ護之一以免。〔宋史、侯益傳〕厚賂ニ史弘肇輩一、深庇ニ護之一。

【庇護權】6 ヒゴケン 外國に駐在する大公使館內、或は軍艦內に逃れ來つた外國人を、庇護して逮捕を許さない國際閒の權利。隱匿權。

【庇桑】7 ヒサウ かげつた桑。しげつた桑。〔戰國、趙策〕昔者堯見ニ舜於草茅之中一、席ニ隴畝一而蔭ニ庇桑一、陰移而授ニ天子一。

【庇軹】8 ヒシ かさの骨が長さ六尺の車蓋。〔周禮、考工記、輪人〕弓長六尺、謂ニ之庇軹一。〔注〕庇、覆也、杜子春云、謂ニ覆幹一也。

【庇身】9 ヒシン 身をかばふ。〔左氏、成、十五〕信以守レ禮、禮以庇レ身。

【庇軫】10 ヒシン かさの骨が長さ四尺の車蓋。〔周禮、考工記、輪人〕四尺謂ニ之庇軫一。

【庇能】11 ペナン 檳榔嶼(**6**－**15734**・・7)に同じ。

【庇髮】12 ヒサシガミ 髮の結方。額部の髮を前に突出すやうに結んだ髮。明治三十七年頃、女優川上貞奴が創めたもの。

【庇覆】13 ヒフ かばふ。たすける。〔蘇軾、既醉備ニ五福一論〕天下知下其所ニ以富貴安逸一者、凡以庇中覆我上也。

【庇民】14 ヒミン ❶民をおほふ。民をかばふ。〔左氏、昭、元〕子盍下亦遠績ニ禹功一、而大庇上民乎。❷宋、林保(**6**－**14551**・・204)の字。

【庇免】15 ヒメン おかげで免れる。〔唐書、蕭華傳〕魏人德ニ華庇免一、爭來詣ニ光遠一乞レ留。

【庇賴】16 ヒライ かばふ。又、たよらせる。〔歐陽脩、瀧岡阡表〕是足下以表ニ見於後世一、而庇中賴其子孫上矣。

【庇輪】17 ヒリン かさの骨が長さ五尺の車蓋。〔周禮、考工記、輪人〕五尺謂ニ之庇輪一。

【庇黏子】18 pi⁴ nien² tzŭ 惡人が人をすかしだます法。

【庇里尼斯】19 ピレニーズ 山脈の名。フランスとスペインとの國境に連亙する山脈。ピレネー山脈。Pyrenees の音譯。

【庇焉而縱尋斧焉者也】20 オホハレテホシイママニヲノヲモチフルモノナリ おほはれて居る枝葉を斧を用ひて勝手に斬り棄てること。恩をあだでかへす喩。〔左氏、文、七〕此諺所謂、庇焉而縱尋レ斧焉者也。〔注〕縱、放也。〔會箋〕尋レ斧、謂ニ用レ斧伐レ之也。

【庈】 9240

キン ゴン 〔集韻〕渠金切 侵

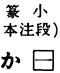
人名。〔集韻〕庈、闕、人名。〔左氏、隱、二〕司空無駭入極、費庈父勝レ之。

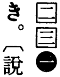
【庉】 9241

🈩 トン ドン 〔集韻〕杜本切 阮

🈔 トン ドン 〔集韻〕徒渾切 元

🈪 トン ドン 〔集韻〕徒困切 願


小篆（說文）


小篆（段注本）

🈩🈔🈪❶**高い家のかき。**〔說文〕庉、樓牆也、从レ广屯聲。〔江沅、說文釋例〕玉篇又有ニ屯聚之處四字一、案、墇下云、北地高樓

無レ屋者、庉蓋同ニ此制一、於ニ其上ニ爲ニ埤堄一、遇ニ兵燹一、則聚レ人而守レ之、故曰ニ屯聚一也。❷いへ。〔廣雅、釋室〕庉、舍也。❸たむろする處。〔玉篇〕庉、屯聚之處。❹くら。物置。〔集韻〕庉、一曰、室中藏也。❺物の音。庉庉（1）を見よ。❻火の盛なさま。焞（7－19107）に通ず。〔說文通訓定聲〕庉、叚借爲レ焞。〔爾雅、釋天〕風與レ火爲レ庉。〔注〕庉庉、熾盛之皃。

【庉庉】1 （トントン） ❶浪の聲。沌沌。〔枚乘、七發〕混混庉庉、聲如ニ雷鼓一。〔注〕善曰、混混庉庉、波浪之聲也。❷火の盛なさま。字解の㈠㈡㈢❻を見よ。

【床】9242

シヤウ

牀（7－19763）の俗字。〔玉篇〕床、俗牀字。

邦❶とこ。㋑ねどこ。ふしど。㋺疊のしん。㋩牛車の屋形。車箱。㋥川の底。㋭苗を育てるところ。㋬船中のまどころ・艪どころ・舵どころ等。㋣舵床の略。㋠床の間の略。㋷髮結ひ床の略。㋦鐵床（ナカドコ）の略。❷ゆか。㋑家屋で、根太によつて、地面から高く平面に板などをはつた所。㋺劇場・寄席などで、淨瑠璃などを語る高座。❸ゆかしい。

參考 熟語は牀（7－19763）を併せ見よ。

【床屋】1 （トコヤ） かみゆひどこ。理髮店。

【床下】2 （ユカシタ） ゆかの下。緣の下。

【床間】3 （トコノマ） 座敷の上座の方の壁に偏して一段高く床を造つた處。

【床几】4 （シヤウギ） こしかけ。脚を交叉して軸をつけ、臀のあたる所に革など張つた具。胡牀。

【床詰】5 （トコヅメ） ❶絶えず寢床に就いてゐること。〔新撰六帖、二〕打ち絶えてさのみふするの床づめに。❷久しく病氣したため、身體の局部が床にすれて、瘡等を發すること。とこずれ。眠瘡。

【床框】6 （トコガマチ） 床の間や寢臺のかまち。〔津國女夫池、四〕伽羅木の床かまち、廣東沈の違ひ棚。

【床擦】7 （トコズレ） 永く病床に就いたため、身體の諸部に壞疽を生ずるもの。褥瘡。床詰（5）の❷に同じ。

【床山】8 （トコヤマ） ❶役者、又は相撲取の髮を結ふ者。❷芝居のかづらを作る者。

【床飾】9 （トコカザリ） 床の間のかざり。

【床檔】10 （シヤウタウ） こしかけ。〔福惠全書、刑名部、人命下、驗各種死傷上〕床檔上、船艙內、皆能死レ人。

【床柱】11 （トコバシラ） 床の間の前の柱。〔好色一代男、六〕床柱より琴の絲を引きはへ。

【床店】12 （トコミセ） ❶品物を賣るのみで、人の住まない簡略な作りの店。❷やたいみせ。

【床頭】13 （シヤウトウ） ❶小作がしら。〔福惠全書、蒞任部、看須知〕保長某人、某鎭集村長庄頭。❷寢臺のあたり。牀頭。

【床盃】14 （トコサカヅキ） 婚禮の夜、新郎新婦が、寢所で盃を取りかはす儀式。〔婚禮問答〕よめ入の夜、夫婦寢所にて盃とりかはし有レ之候をとこ盃と申す由。

【床板】15 （ユカイタ） ゆかにしきつめた板。

【床木】16 （イスノキ） 伊勢國の地名。

【床離】17 （トコバナレ） ❶朝起きてねどこを離れ出ること。❷病後始めて起き出ること。

【⿸广欠】9243

㈠レン ㈡ケン

㈠奩（3－5991）に同じ。〔集韻〕奩、或作レ⿸广欠。㈡廬（4－9521）に同じ。〔集韻〕廬、或从レ欠。

【⿸广水】9244

スイ 〔集韻〕式類切 寘

家がふかい。〔集韻〕⿸广水、屋深也。

【庋】9245

㈠キ 〔集韻〕擧綺切 ㄐㄧˇ chi³ 紙

㈡キ 〔集韻〕居僞切 寘

㈠❶膳だな。とだな。或は庪（4－9329）・掎（5－12592）・攱（5－13067）に作る。〔玉篇〕庋、閣也。〔集韻〕庋、閣ニ藏食物一也、或作ニ庪・掎・攱一。〔禮、內則〕大夫七十而有レ閣、〔注〕閣、以レ板爲レ之、庋ニ食物一也。❷置く。しまふ。〔唐書、牛仙客傳〕前後賜予、緘庋不ニ敢用一。㈡おこす。攱（5－13067）に同じ。〔集韻〕攱、擧ニ起物一也、或作レ庋。

【庋閣】1 （キカク） ぜんだな。食物を納れるたな。又總て、たなをいふ。〔字彙〕庋、庋閣、板爲レ之所ニ以藏ニ食物一也、大夫七十而有レ庋。

【庋縣】2 （キケン） 山を祭ること。庪縣。〔爾雅、釋天〕祭レ山曰ニ庪縣一。〔疏〕庪縣、祭山之名也、庪、謂ニ埋ニ藏之一、縣、謂レ縣ニ其牲幣於山林中一、因名レ祭山曰ニ庪縣一。〔釋文〕庪、本作レ庋。〔後漢書、班固傳下〕燔瘞縣沈。〔注〕爾雅曰、祭レ天曰ニ燔柴一、祭レ地曰ニ瘞埋一、祭レ山曰ニ庋縣一、祭レ川曰ニ浮沈一。

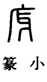
【庋置】3 （キチ） 棚の上に載せておく。〔資治通鑑〕餘半庋置。〔日本政記、朱雀天皇論〕以爲ニ鮮美一而庋ニ置之一。

【庌】9246

㈠ガ ゲ 〔集韻〕語下切 馬

㈡ガ ゲ 〔集韻〕魚駕切 禡

㈢ガ ゲ 〔集韻〕牛加切 麻


小篆

㈠㈡❶ひさし。又、ひさしをかけて涼しくする。〔說文〕庌、廡也、从レ广牙聲、周禮曰、夏庌レ馬。〔周禮、夏官、圉師〕夏庌レ馬。〔注〕庌、廡也、廡所ニ以庇レ馬者也。❷大きな家。〔釋名、釋宮室〕大屋曰レ廡、幷冀之人謂ニ之廡一、廡、正也、屋之正大者也。❸客堂。〔一切經音義、十四〕客堂曰レ庌。❹やくしよ。〔廣韻〕庌、廳也。❺むかへる。迓（11－38756）に通ず。〔正字通〕庌、漢制、野路候ニ迎賓一處、皆有ニ庌舍一、庌者、迓也。㈢⿸广乍庌は、ひとしくない。〔集韻〕庌、⿸广乍庌、不レ齊。

【庌舍】1 （ガシヤ） 漢代、賓客を迎へるために道路に設けた舍。〔表異錄〕漢書庌舍、庌者迎也、漢時野路候ニ迎賓客一之所、皆有ニ庌舍一。

【庍】9247

ハイ ハ 〔玉篇〕方卦切 卦

到り別れる。〔玉篇〕庍、到別。

【庎】9248

カイ 〔集韻〕居拜切 卦

❶たな。とだな。或は楐（6－15120）に作る。〔集韻〕庎、所ニ以庋ニ食器一者、或作レ楐。❷ながし。〔六書故〕庎、庋版、令レ足ニ流レ水以受ニ滌濯一、今人設ニ之於廚一。

參考 疥（7－22057）は別字。

【⿸广卆】9249

スイ ズイ 〔海篇〕徐醉切 寘

灰小屋。〔海篇〕⿸广卆、灰集屋也。

【庒】9250

ジン ニン 〔字彙〕如林切 侵

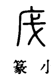
した。〔字彙〕庒、下也。

【⿸广冘】9251

タン ドン 〔字彙〕徒含切 覃

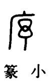
ひさし。〔玉篇〕⿸广冘、陰也。

【⿸广文】 9252 クヮン ゲン 〔集韻〕胡關切 刪


小篆

❶**まるがはら。** うはがはら。〔說文〕⿸广文、屋牡瓦也、从㆑广閔省聲、讀若㆑環。〔段注〕牡、各本作㆑牝、也、各本作㆑下、今正、屋瓦下載者曰㆑牝、昌邑王傳之版瓦也、上覆者曰㆑牡、玉篇、瓪、牡瓦也、今俗猶以㆓圓而上覆之瓦㆒曰㆑瓪、⿸广文之言、似㆑環也、瓪之言、似㆑筩也。〔廣韻〕⿸广文、屋牡瓦名。❷**はりづな。** 縜(**8－27773**)に通ず。〔說文通訓定聲〕⿸广文、叚借爲㆑縜、⿸广文・縜雙聲。〔說文〕⿸广文、一曰、維綱也。〔段注〕糸部曰、縜、持㆑綱紐也、⿸广文與㆑縜音相近。

【序】 9253 シヨ ジヨ 〔集韻〕象呂切 語 ㄒㄩˋ hsü^{4}


小篆

❶**かき。かべ。堂の東西のかべ。** 或は⿰阝予(**11－41572**)に作る。〔說文〕序、東西牆也、从㆑广予聲。〔段注〕堂上以㆓東西牆㆒爲㆑介、禮經、云云、謂㆓正堂近㆑序之處㆒曰㆓東序・西序㆒。〔爾雅、釋宮〕東西牆謂㆓之序㆒。〔注〕所㆔以序㆓別內外㆒。〔疏〕此謂㆓室前堂上東廂西廂之牆㆒也。〔集韻〕序、說文、東西牆也、或作㆓⿰阝予・⿰土予㆒。❷**ひさし。** 夾室。堂の序の外。〔書、顧命〕西序東嚮。〔傳〕東西廂謂㆓之序㆒。〔王延壽、魯靈光殿賦〕東序重深而奧祕。〔注〕載曰、東序、東廂也。❸**まなびや。** 學校。〔一切經音義、九〕庠序、序、古文⿰阝予、同、學也。㋑夏代の學校。〔禮、明堂位〕序、夏后氏之序也。〔太平御覽、禮儀、辟雍〕禮記外傳曰、夏曰㆑序、殷曰㆓瞽宗㆒、周曰㆓辟雍㆒。㋺殷代の學校。〔孟子、滕文公上〕夏曰㆑校、殷曰㆑序、周曰㆑庠、學則三代共㆑之。〔獨斷、上〕殷曰㆑序。㋩周代の地方の學校。〔周禮、地官、州長〕春秋以㆑禮會㆑民、而射㆓于州序㆒。〔注〕序、州黨之學也。〔禮、學記〕古之教者、家有㆑塾、黨有㆑庠、術有㆑序。〔白虎通、辟雍〕里曰㆑序。❹**ついで。** 順。敍(**5－13205**)に通ず。〔說文通訓定聲〕序、叚借爲㆑敍。㋑長幼の順。〔玉篇〕序、長幼也。㋺前後の次第。〔廣雅、釋詁三〕序、次也。〔易、乾〕與㆓四時㆒合㆓其序㆒。㋩くらゐ。しな。〔左氏、昭、二十九〕卿大夫以㆑序守㆑之。〔注〕序、位次也。❺**ついでる。** ㋑次第をわけさだめる。〔詩、大雅、行葦〕序㆑爵以㆑賢。〔周禮、春官、肆師〕以㆓歲時㆒序㆓其祭祀㆒。〔注〕序、第㆓次其先後大小㆒。〔禮、中庸〕所㆔以序㆓昭穆㆒也。〔注〕序、猶㆑次也。〔荀子、王制〕序㆓五種㆒。〔注〕序、謂㆘不㆑失㆓次序㆒、各當㆗土宜㆖也。㋺次第がさだまる。〔隋書、禮樂志〕禮備樂序、肅㆓贊神明㆒。㋩後を承けてかはる。順をおふ。〔周禮、春官、肆師〕令㆓外內命婦序哭㆒。〔注〕序、使㆓相次秩㆒。〔儀禮、燕禮〕序進。〔注〕序、次第也、猶㆑代也。〔周禮、夏官、御僕〕以㆑序守㆓路鼓㆒。〔注〕序、更也。〔楚辭、離騷〕春與㆑秋其以序。〔注〕序、次也。㋥つぐ。つづける。〔儀禮、鄉飲酒禮〕衆賓序升。〔注〕序、次也。〔國語、魯語下〕夕序㆓其業㆒。〔注〕序、猶㆑次也。㋭かさねる。〔史記、趙世家〕而序㆓往古之勳正㆒。〔注〕正義曰、序、重也。㋬つらねる。ならべる。〔國語、齊語〕班㆓序顚毛㆒。〔注〕序、列也。㋣かざる。〔周禮、考工記、鮑人〕則厚薄序也。〔注〕序、飾也、謂㆓其革均㆒也。㋠のべる。次第ただしくいひつらねる。〔詩、衞風、氓序〕序㆓其事㆒以風焉。〔公羊、僖、四〕與㆓桓公㆒爲㆑主、序㆑績也。〔注〕序、次也、績、功也。❻**いとぐち。はし。すぢ。** 緒(**8－27633**)に通ず。〔說文通訓定聲〕序、叚借爲㆑緒。〔詩、周頌、閔予小子〕繼㆑序思不㆑忘。〔傳〕序、緒也。〔漢書、成帝紀〕承㆓天序㆒。〔韓愈、貞曜先生墓誌銘〕端序則見。〔注〕言㆓貞曜才德端緒既見㆒。❼**はしがき。** 文體の名。〔文體明辯、序〕按、爾雅云、序、緒也、字亦作㆑敍、言㆘其善敍㆓事理次第㆒有㆑序、若㆗絲之緒㆖也、又謂㆓之大序㆒、則對㆓小序㆒而言也、其爲㆑體有㆑二、一曰議論、二曰敍事、宋眞氏嘗分㆓列于正宗之編㆒、故今倣㆓其例㆒而辯㆑之、其敍事又有㆓正變二體㆒、其題曰㆓某序㆒曰㆑序、某、字或作㆑序、或作㆑敍、惟作者隨㆑意而命㆑之、無㆓異義㆒也、至㆑唐、柳氏又有㆓序略之名㆒、則其題稍變、而其文益簡矣、今取以附㆑焉。〔漢書、藝文志〕易曰、云云、凡百篇而爲㆓之序㆒、言㆓其作意㆒。❽**序文を書く。** 〔韓愈、送㆔溫庶士赴㆓河陽軍㆒序〕愈因推㆓其意㆒而序㆑之。❾或は⿰土予(**3－4919**)に作る。〔集韻〕序、或作㆑⿰土予。❿**姓。** 徐(**4－10110**)に通ず。〔說文通訓定聲〕序、叚借爲㆑徐。〔正字通〕序、姓、禮射義、序點、注或爲㆓徐點㆒、後漢序淵。〔禮、射義〕孔子射㆓於矍相之圃㆒、蓋觀者如㆓堵牆㆒、云云、序點又揚㆑觶而語、曰、好㆑學不㆑倦、好㆑禮不㆑變、旄期稱㆑道不㆑亂者、不㆑在㆓此位㆒也。**邦**❶**ついで。** ついでに。其のをり。其のをりにあはせて。❷**じよ。** ㋑舞樂・能樂の用語。舞・曲の初めの部を稱する語。序・破・急の序。㋺角力番附の最下段。

名乘 ツギ。ツグ。ツネ。ノブ。

參考 熟語は敍(**5－13205**)をも併せ見よ。

【序意】 1（ジヨイ） 呂氏春秋、季冬紀の篇名。

【序位】 2（ジヨヰ） 役人の位を次序すること。〔漢書、元帝紀〕朕之不逮、序㆑位不㆑明。〔注〕師古曰、言㆔官人之位、失㆓其次序㆒。

【序歌】 3（ジヨカ） 序詞の用ひられた短歌。ぞか。

【序開】 4（ジヨビラキ） はじめ。はじまり。發端。

【序客】 5（ジヨカク） 鴻臚の官をいふ。〔稱謂錄、序班、序客〕沈約袖中記、釋名曰、鴻臚者、本故典客事掌㆓賓禮㆒、武帝時、更爲㆓鴻臚㆒、鴻、大也、臚、陳序也、欲㆔人以㆑禮陳㆓序於賓客㆒、故稱㆓序客㆒。

【序記】 6（ジヨキ） 文體の名。敍事文の精粹で、客觀的に人物事實を敍述するもの。序には序・後序・送序・贈序・壽序等あり、記には記・紀事・志・述・傳・行狀等の諸體がある。

【序曲】 7（ジヨキヨク） ❶歌劇・聖劇等の開幕前に奏する樂曲。❷演奏會で最初の管絃樂曲をいふ。❸喜歌劇中の有名な旋律を抽出して組合せた樂曲。

【序卦】 8（ジヨクワ） 易の十翼の一。六十四卦排列の次序に就いて其の理由を說明したもの。歐陽脩・韓康伯等はこれを以て易の蘊に非ずと難じた。〔易、序卦、疏〕序卦者、文王既繇㆓六十四封㆒、分爲㆓上下二篇㆒、其先後之次、其理不㆑見、故孔子就㆓上下二經㆒、各序㆓其相次之義㆒、故謂㆓之序卦㆒焉、云云、韓康伯云、序卦之所㆑明、非㆓易之蘊㆒也。〔漢書、藝文志〕孔氏爲㆓之彖・象・繫辭・文言・序卦之屬十篇㆒。〔日知錄、經義、序卦雜卦〕序卦・雜卦、皆旁過之說、先儒疑以爲㆑非㆓夫子之言㆒。

【序官】 9（ジヨクワン） ❶官位の次序をつけること。〔荀子、王制〕序官宰爵、知㆓賓客祭祀饗食犧牲之牢數㆒。〔注〕謂㆓王者序官之法㆒也。〔荀子、樂論〕先王貴㆓禮樂㆒、而賤㆓邪音㆒、其在㆓序官㆒也、曰、脩㆓憲命㆒、云云。❷官位の次序。周禮六官の初めに序官がある。〔欽定周官義疏目錄〕序官。

【序言】 10（ジヨゲン） はしがき。はしぶみ。緒言。序文。

【序興】 11（ジヨコウ） 順序よく生じおこる。〔禮、仲尼燕居〕下管象武、夏籥序興。〔注〕序、更也、堂下吹㆑管、舞㆓文武之樂㆒更起也。

【序哭】 12（ジヨコク） 大喪の時、哭の順序を定めること。又、その順序にしたがつて哭すること。〔周禮、

春官、肆師〕令二外內命婦序一哭。〔疏〕哭法以二服之輕重一爲二先後一、若然則內命婦爲レ王斬衰居レ前、諸臣之妻從下服二齊衰一者上居レ後也。〔周禮、春官、內宗〕王后有レ事、則從二大喪一、序二哭者一、哭二諸侯一亦如レ之。〔注〕次二序外內宗及命婦哭レ王。

【序坐】13ジョザ　順々にすわる。〔福惠全書、蒞任部、親査閲〕詣二庫門一序坐。

【序贊】14ジョサン　文體の名。多くの人を次序して作った贊。〔袁宏、三國名臣序贊、注〕濟曰、序贊者、言二幷序一也。

【序讚】15ジョサン　文體の名。序贊に同じ。〔冊府元龜〕後魏李仲尙、少以二文學一知レ名、二十著二前漢功臣序讚一。

【序志】16ジョシ　自分の意見を述べる。〔文心雕龍、序志〕夫文心者言二爲レ文之用心一也、昔涓子琴心、王孫巧心、心哉美矣、故用レ之焉、古來文章、以二雕縟一成レ體、豈效二鄒奭之羣言雕龍一也。

【序詞】17ジョシ　❶和歌で語句の上に冠する一種の修飾語。枕詞は一句又は一語であるが、序詞は一句以上三四句に亘ることがある。例へば、「足びきの山鳥の尾のしだりをの長長し夜をひとりかもねん」に於ける「足びきの山鳥の尾のしだりをの」の類。❷はしがき。序文。

【序齒】18ジョシ　年齢の長幼を以て席次を定める。年齢順。〔中庸〕燕毛所二以序レ齒也。〔章句〕燕毛、祭畢而燕、則以二毛髮之色一別二長幼一、爲二坐次一也、齒、年數也。〔宋史、文彥博傳〕與二富弼・司馬光等十三人一、置レ酒賦レ詩相樂、序レ齒不レ序レ官、爲レ堂繪二像其中一、謂二之洛陽耆英會一。〔韓琦、次二趙少卿一詩〕登科常愧處二盧前一、序二齒於兄一小二十年一。

【序次】19ジョジ　❶ついで。次第。順序。〔國語、周語下〕陰陽序次、風雨時至。〔朱熹、大學章句〕舊本頗有二錯簡一、今因二程子所レ定、而更考二經文一、別爲二序次一如レ左。❷ついでる。次第を立てる。〔漢書、劉向傳〕故採下取詩書所レ載、賢妃貞婦、興國顯家、可二法則一、及孽嬖亂亡者上、序次爲二列女傳一。〔李衞公問對、上〕序二次兵法一。

【序事】20ジョジ　❶事を次序する。〔周禮、春官、保章氏〕凡此五物者、以レ詔救レ政、訪序レ事。〔中庸〕序レ事所二以辨レ賢也。❷事柄をかきつづける。〔梁昭明太子、文選序〕論則析理精微、銘則序事清潤。

【序室】21ジョシツ　學業をうける室。〔漢書、食貨志上〕是月、餘子亦在二于序室一、八歲入二小學一。

【序庠】22ジョシヤウ　鄕邑にある學校。地方の學校。庠序。〔漢書、平帝紀〕立二官稷及學官一、郡國曰レ學、縣道邑侯國曰レ校、校學置二經師一人一、鄕曰レ庠、聚曰レ序、序庠置二孝經師一人一。

【序爵】23ジョシヤク　爵位を序し定めること。敍爵。〔詩、大雅、桑柔〕告二爾憂恤一、誨二爾序爵一。〔傳〕教レ女以三次二序賢能之爵一。〔中庸〕序レ爵所三以辨二貴賤一也。

【序出】24ジョダシ　書きはじめ。發端。

【序述】25ジョジュツ　事をのべる。のべいふ。敍述。〔吳志、孫休傳〕布得レ詔陳謝、重自序述。〔顏氏家訓、文章〕序述論議生二於易一者也。

【序順】26ジョジュン　次第あること。順序。〔國語、周語中〕文章比象、周旋序順。

【序初】27ジョショ　清、譚鈞培(**10－35978**··51)の字。

【序食】28ジョショク　食物を順序正しく食べること。〔論衡、自紀〕孔子侍二坐於魯哀公一、公賜二桃與レ黍、孔子先食レ黍而啖レ桃、可レ謂レ得二食序一矣、然左右皆掩レ口而笑、貫俗之日久也、今吾實猶二孔子之序食一也。

【序進】29ジョシン　順々にすすむ。〔福惠全書、教養部、學規〕童子六人、序進立定一揖。

【序數】30ジョスウ　事物の次第を記す數。第一・第二・第三の類。

【序成】31ジョセイ　順序に從つて出來あがる。〔國語、周語中〕制レ朝以序成。

【序績】32ジョセキ　てがらをのべたてる。〔公羊、僖四〕與二桓公一爲レ主、序レ績也。〔注〕序、次也、績、功也、累二次桓公之功德一、莫レ大二於服レ楚、明德及二強夷一、最爲レ盛。

【序說】33ジョセツ　本論の前置きとして述べる論。序論(54)に同じ。〔朱熹、論語集注、序說〕

【序端】34ジョタン　東西の廊下のはし。〔儀禮、鄕飮酒禮〕主人坐、奠二爵于序端一。〔注〕東西牆、謂二之序一。

【序致】35ジョチ　顏氏家訓の篇名。

【序點】36ジョテン　序は姓。點は名。〔禮、射義〕使二公罔之裘序點揚レ觶而語一。〔釋文〕序姓、點名也。

【序傳】37ジョデン　著作者が其の著作の旨意を自敍した文。楚の屈原の離騷に始まる。敍傳。〔梁書、蕭琛傳〕始琛在二宣城一、有二北僧南渡一、惟賚二一葫蘆一、中有二漢書序傳一。〔史通、序傳〕蓋作者自敍、其流出二於中古一、按二屈原離騷經一、其首章、上陳二氏族一、下列二祖考一、先述二厥生一、次顯二名字一、自敍發レ跡、實基二於此一、降及二司馬相如一、始以二自敍一爲レ傳、然其所レ敍者、但記二自レ少及レ長立レ身行上事而已、逮二於祖先所レ出、則蔑尔無レ聞、至二馬遷一、又徵二三閭之故事一、倣二文園之近作一、模二楷二家一、勒二成一卷一、於レ是楊雄遵二其舊轍一、班固酌二其餘波一、自敍之篇、實煩二於代一、雖二屬辭有レ異、而茲體無レ易、尋二馬遷史記一、上自二軒轅一、下窮二漢武一、彊宇修闊、道路綿長、故其自敍、始三於氏出二重黎一、終三於身爲二太史一、雖三上下馳騁、終不レ越二史記之年一、班固漢書、止敍二西京二百年事一耳、其自敍也、則遠徵三令尹起二楚文王之世一、近錄三賓戲當二漢明帝之朝一、苞括所レ聞、踰二於本書一遠矣。

【序內】38ジョナイ　東西の牆の內。〔儀禮、燕禮〕賓升立二於序內一東面。〔注〕東西牆、謂二之序一。

【序粘】39ジョネン　順々にはりつなぐ。〔福惠全書、刑名部、問擬〕同二原詞一序粘用レ印存レ案。

【序伯】40ジョハク　清、程庭鷺(**8－25081**··264)の字。

【序跋】41ジョバツ　書物のはしがきとおくがき。序文と跋文。題跋。〔古文辭類纂、序跋類〕。

【序班】42ジョハン　❶位を序し定める。〔翰林志〕興元二年、敕二翰林學士一、朝服序班、宜レ准二諸司官知制誥例一。〔玉海、禮儀、朝儀、景祐百官表位〕嘉祐四年六月二十四日、御史臺請、于二紫宸垂拱兩殿庭石位一、鐫定二班次一、以二官位一序レ班、員多者重レ行、員少者合レ班序立。❷明・清時代の官名。鴻臚寺に屬し、百官の班次を序することを掌る。〔明史、職官志三〕司儀・司賓二署、各署丞一人、鳴贊四人、序班五十人。〔清會典、鴻臚寺〕序班、漢四人、掌レ序二百官之班次一。

【序賓】43ジョヒン　明、殷序(**6－16627**··80)の字。

【序文】45ジョブン　書物などの始に書き記す文。はしがき。〔大唐新語、九、著述〕開元十二年、沙門一行、造二黃道游儀一、以進二玄宗一、親爲二之序文一。

【序幕】46ジョマク　❶芝居の初のまく。狂言の最初の場。❷物事のはじまり。發端。

【序命】47ジョメイ　十紀の一。十紀(**2－2695**··56)の❸を見よ。〔廣雅、釋天〕天地辟說、人皇以來至二魯哀公十有四年一、積二二百七十六萬歲一、分爲二十紀一、曰、九頭・五龍・攝提・合雒・連通・序命・循蜚・因提・禪通・疏仡。

【序也】48ジョヤ　清、洪上庠(**6－17402**··242)の字。

【序立】49ジョリツ　順々にならびたつ。〔福惠全書、教養部、學規儀注〕行下謁二先聖一禮上、序立。

【序倫】50ジョリン　人倫の道の次第を立てる。〔王融、三月三日曲水詩序〕協律摠章之司、序レ倫正レ俗。

【序例】51ジョレイ　序文の例。〔史通、序例〕孔安國、有二云レ序者一、所三以序二作者之意一也、竊以、書列二典謨一、詩含二比興一、若不三先敍二其意一、難三以曲得二其情一、故毎篇有レ序、敷二暢厥義一、降逮二史漢一、以二記事一爲レ宗、至二於表志雜傳一、亦時復立二序文一、兼二史體狀一、若二子書一然、可下與二誥誓一相參、風雅齊列上矣、迨二華嶠後漢一、多同二班氏一、如二劉平江革等傳一、其序先言二孝道一、次述二毛義養レ親、此則前漢王貢傳體、其篇以二四皓一爲レ始也、嶠言辭簡質、敍致溫雅、味二其宗旨一、亦孟堅之亞歟、爰洎二范曄一、始革二其流一、遺二棄史才一、矜二衒文彩一、後來所レ作、他皆若レ斯、於レ是遷固之道忽諸、微婉之風替矣、若二乃后妃列女文苑儒林一、凡此之流、范氏莫レ不レ列レ序、夫前史所レ有、而我書獨無、世之作者、以爲二恥愧一、故上自二晉宋一、下及二陳隋一、毎書必序レ課成二其數一。

【序列】52ジョレツ　順序をつけてならべる。〔史記、伯夷傳〕孔子序二列古之仁聖賢人一、如二吳太伯伯夷之倫一詳矣。〔孔叢子、雜訓〕序二列昭穆一。

【序錄】53ジョロク　本論のはじめに總體に亙つて論じた文章。序論。〔經典釋文、卷一〕序錄。

【序論】54ジョロン　❶本論の前置として總體に亙つて論ずる文章。長篇の議論文の最初におく議論。緒論。〔陳書、姚察傳〕梁陳二史、本多是察之所レ撰、其中序論及紀傳、有二所レ闕者一。❷順序立てて述べること。〔晉書、律歷志上〕其序論雖レ博、而言二十二律損益次第一、與二司馬遷一正同。〔范曄、

獄中與ニ諸甥姪書一以自序文〕至ニ於循吏以下及ニ六夷一、諸序論筆勢縱放、實天下之奇作。

【愆レ序】55 ジヨヲアヤマツ 時序の調節を失ふこと。〔南史、宋文帝紀〕五年春正月乙亥、詔以ニ陰陽愆一レ序求ニ讜言一。

【失レ序】56 ジヨヲウシナフ 秩序を失ふ。〔史記、歷書〕歷數失レ序。

【布レ序】57 ジヨヲシク 秩序だってならぶ。〔顏氏家訓、書證〕五行布レ序。

【序破急】58 ジヨハキフ 三字とも雅樂の調子の緩急高低をあらはす語。序は序引ともいひ、一曲の最初の部分で無拍子なこと、破は入破ともいひ、一曲の中間の部分で節拍が次第に細碎に入ること、急は急變ともいひ、最終の部分で、節度の急切なこと。轉じて、何事にも初・中・終の意に用ひる。〔樂家錄、十三、序破急之說〕夫樂者以ニ序破急三曲一爲レ具也。

【序周禮廢興】59 ジヨシユウライハイコウ 唐、賈公彥作。周禮の沿革を記したもの。周禮注疏の首に載せる。

【序聽迷詩所經】60 ジヨテイメイシシヨキヤウ 書名。一卷。唐代の耶蘇教卽ち景教の經典。敦煌出土の遺書で全卷一百七十行、一行十七・八字。最後の數行を缺く。

【⿸广氏】9254 テイ 底(4－9262)に同じ。〔廣韻〕⿸广氏、同レ底。

【⿸广玄】9255 シ 〔篇韻〕照里切 紙 **山名**。〔篇韻〕⿸广玄、山名。〔山海經、西山經〕鈐山之西曰ニ⿸广玄陽之山一。

【⿸广开】9256 ハイ 庍(4－9247)に同じ。〔集韻〕庍、或作レ⿸广开。

【⿸广反】9257 バン 番(7－21858)に同じ。〔集韻〕番、或作レ⿸广反。

【⿸广冗】9258 タン 〔篇海類編〕音覃 **かげ**。〔篇海類編〕⿸广冗、陰也。

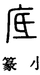
【⿸广攵】9259 フ 府(4－9283)に同じ。〔字彙補〕⿸广攵、同レ府。

【庐】9260 ロ 廬(4－9535)の俗字。〔宋元以來俗字譜〕廬、列女傳、作レ庐。

【⿸广之】9261 オウ 應(4－11330)の俗字。〔宋元以來俗字譜〕應、通俗小說、作レ⿸广之。

五畫

【底】9262 テイ タイ 〔集韻〕典禮切 薺 ㄉㄧˇ ti3



小篆

❶**そこ**。氐(6－17027)に通ず。〔說文通訓定聲〕底、叚借爲レ氐。㋑器物の下方のしめくくり。〔增韻〕底、器臀也。〔詩、大雅、公劉、于レ橐于レ囊、釋文〕無レ底曰レ囊、有レ底曰レ橐。〔元史、禮樂志〕笙制、以レ瓠爲レ底、列ニ管于上一。㋺した。〔說文〕底、一曰、下也。〔白居易、山遊示ニ小妓一詩〕笑容花底迷。㋩うら。〔成廷珪、春愁詩〕葉底青梅纔一箇。㋥なか。〔晉書、束晳傳〕谷底之莽爲レ臭。㋭うち。〔殷潘、秋興詩〕巷底蕭蕭絕ニ市塵一。㋬どんじり。つまり。〔淮南子、脩務訓〕則言ニ黃泉底一也。〔注〕底、極下也。❷**居る**。〔說文〕底、山尻也、从レ广氐聲。〔段注〕尻、各本譌作レ居、今正、山當レ作レ止、字之誤也。〔說文通訓定聲〕左昭元傳、底レ祿以レ德、注、致也、按居也。❸**止る**。〔爾雅、釋詁〕底、止也。〔國語、晉語四〕戾久將レ底。〔注〕底、止也。❹**つく**。〔國語、楚語下〕夫民氣縱則底。〔注〕底、著也。❺**定まる**。〔韻會小補〕底、定也。❻**とどこほる**。ふさがる。〔左氏、昭、元〕勿レ使レ有レ所ニ壅蔽湫底一。〔注〕底、滯也。〔宋史、食貨志〕厚ニ其瀦蓄一、去ニ其壅底一。❼**まつ**。〔爾雅、釋詁〕底、待也。❽**いたる**。〔詩、小雅、祈父〕無レ所ニ底止一。〔傳〕底、至也。〔國語、周語上〕日月底ニ于大廟一。〔注〕底、至也。❾**いたす**。〔左氏、昭、元〕底レ祿以レ德。〔注〕底、致也。〔孟子、離婁上〕而瞽瞍底レ豫。〔注〕底、致也。❿**およぶ**。〔正字通〕底、及也、列子、林類底レ春被レ裘。⓫**したがき**。文書の原稿。〔春明退朝錄〕凡公家文書之稾、中書謂ニ之草一、樞密院謂ニ之底一、三司謂ニ之檢一。⓬**なに**。**なんぞ**。疑問の助辭。〔匡謬正俗〕俗謂ニ何物一爲レ底、此本言ニ何等物一、後省レ何直云ニ等物一耳、應璩詩云、用レ等謂ニ才學一、言レ用ニ何等才學一也、去レ何言レ等、其言已舊、今人不レ詳ニ根本一、乃作ニ底字一、非也、唐人詩多用ニ底字一。〔北史、徐之才傳〕箇人諱底。〔杜甫、寄ニ王陶二少尹一詩〕文章差底病。〔韓愈、曲江寄ニ白舍人一詩〕有ニ底忙時一不ニ肯來一。⓭的(8－22692)に通ず。㋑ところ。の。俗語の助辭。〔朱子語類、七、小學〕小兒子讀レ書、未レ須下把ニ近代解說底音訓一教上レ之。㋺人を輕んじ呼ぶ時に、姓名の下につける助辭。〔隋唐嘉話〕崔湜之爲ニ中書令一、河東公張嘉貞爲ニ舍人一、湜輕レ之、常呼爲ニ張底一。⓮**たひらにする**。底(2－2918)に通ず。〔說文、段注〕按、底訓止、與下厂部底、訓ニ柔石一、引ニ伸之一、訓中致也至也上迴別、俗書多亂レ之。〔說文通訓定聲〕底、叚借爲レ底。〔左氏、桓、十七〕日官居レ卿以底レ日。〔注〕底、平也。⓯**さか**。阺(11－41592)に通ず。〔說文通訓定聲〕底、叚借爲レ阺。〔後漢書、光武紀上〕馮異與ニ赤眉一戰ニ於崤底一。〔注〕底、阪也。⓰**といし**。砥(8－24093)に通ず。〔字彙〕底、礪石、與レ砥同、漢書、梅福傳、爵祿天下之底石。⓱**姓**。〔萬姓統譜〕底、見ニ姓苑一。〔孝城縣志〕明底蘊、字汝章、順天府文安縣人。⓲現㋑劣る。㋺末。年底・月底など。

名乘 フカ。サダ。

參考 ❶底は元來は別字。〔字彙、辨似〕二字相似、底、音指、礪石。底、音抵、下也。❷底と混用する。熟語は底(2－2918)を併せ見よ。

【底案】1 テイアン したびかへ。〔福惠全書、陞遷部、弔ニ案卷一〕將ニ原行詳覆底案一、粘連成レ卷。

【底衣】2 ti3 i1 腰まき。ゆもじ。下帶。犢鼻褌。

【底意】3 ソコイ 心のそこ。しんそこの考。心底。〔大織冠、二〕青海の底意殘さぬ御物語。

【底意地】4 ソコイヂ しんそこの根性。

【底蘊】5 テイウン ❶おくそこ。內に深く藏してゐるところのもの。蘊奧。〔唐書、魏徵傳〕展ニ盡底蘊一無レ所レ隱。〔宋史、范祖禹傳論〕其開ニ陳治道一、區ニ別邪正一、辨ニ繹事宜一、平易明白、洞見底蘊、雖ニ賈誼陸贄一、不ニ是過一云。❷明、孝城の人。字は汝章。正德の進士。甘肅に巡撫し、敵數萬入寇するや、屢〻奇兵を出して之を破り、敵敢て南下せず。後、勞を以て卒す。〔國朝列卿記、一百三十〕。

【底翳】6 ソコヒ 眼の外見は異常なく瞳子が動かないで、視力を失ふ病。內障。目翳。

【底剭】7 テイヲク 重刑に處すること。〔漢書、敍傳下〕彫ニ落洪支一、底ニ剭鼎臣一。〔注〕師古曰、剭者、厚刑、謂ニ重誅一也。

【底下】8 テイカ ❶ひくいこと。又、ひくくなること。さがる。〔魏武帝、述志令〕欲三秋夏讀書、冬春射獵、求二底下之地一、欲下以二泥水一自蔽、絶中賓客往來之望上。❷卑劣なこと。卑賤。〔曹植、謝三妻改二封陳妃一表〕才質底下、謬同受レ私。❸ti^{3} hsia^{4} 此の後。此の次。下部。❹佛 テイゲ 最も下賤な人。〔無量壽經、上〕貧窮乞人底極斯下。〔願文〕底下最澄、上違二於諸佛一。

【底下人】9 テイカジン しもべ。奴僕。召使。〔陔餘叢考、底下人〕俗稱二奴僕一爲二底下人一、南史陳伯之傳、褚緭謁二范雲一、雲不レ見、緭怒曰、建武以後、草澤底下、悉成二貴人一、吾何罪而見レ棄、唐洋州刺史趙臣、議二選擧一、疏有レ曰、授レ官多二底下之人一、修レ業抱二後室之嘆一。

【底荷】10 ソコニ 船舶の吃水を深くするため、船底に積み込む沙・石・石炭、又は塊鐵など。

【底行】11 テイカウ いたりおこなふ。〔白虎通、聖人〕朕言惠可二底行一、又旁施二象形一維明。

【底稿】12 ti^{2} kao^{3} 原稿。草稿。

【底角】13 テイカク 數學用語。多角形の底邊の兩端を頂點とする、其の多角形の內角の稱。

【底確】14 ti^{3} ch'üeh^{4} 確實な。

【底銜】15 ti^{3} hsien^{2} 元來の任官の資格。

【底脚】16 ti^{2} chiao^{3} ❶あしもと。❷どんぞこ。❸詳細。❹ふもと。

【底極】17 テイキヨク いたりきはまる。又、をはり。はて。終極。〔後漢書、仲長統傳〕澶漫彌流、無レ所二底極一。

【底襟】18 ti^{3} chin^{1} 上まへと下まへと重なるやうにした上衣の下まへ。

【底貨】19 ti^{3} huo^{4} 殘りの代物。殘り荷。殘品。

【底光】20 ソコビカリ 奥にひそんでゐるやうな光。あらはれぬ光。奥ゆかしいこと。〔毛吹草〕底光ますとやいはん水の月。

【底缺】21 ti^{3} ch'üeh^{1} 原職。

【底堅】22 ソコガタ 取引所用語。相場が下落しさうで仲々下落しない狀態をいふ。

【底根】23 ti^{3} ken^{1} はじめ。原因。根元。

【底細】24 ti^{3} hsi^{4} ❶內情。仔細。〔紅樓夢、八十回〕其中底細、一言難盡。❷理由。原因。

【底作】25 テイサク 何をか爲さんの意で、何爲と同じ。〔南齊書、王敬則傳〕興盛使三軍人遙告二敬則一曰、公兒死已盡、公持レ許底作。

【底冊】26 テイサツ 官文書のしたがき。ひかへ。臺帳。〔淸會典、吏部〕查二對底冊一、明白照レ例。〔福惠全書、典禮部、朝覲大計〕幷存二底冊一本一。

【底子】27 ti^{3} tzŭ ❶基礎。根本。❷原價。❸草稿。文案。原稿。❹人の經歷。身分。❺原料。材料。❻內幕。

【底子錢】28 ti^{3} tzŭ ch'ien^{2} 商人が、物品の買主の召使に與へるコンミツシヨン。

【底止】29 テイシ 至りとどまる。ゆきどまる。底止。〔詩、小雅、祈父〕祈父、予王之爪士、胡轉二予于恤一、靡レ所二底止一。〔傳〕底、至也。〔集傳〕底、音抵。

【底是】30 ti^{3} shih^{4} いづれかこれ、云云なりや、の意。

【底事】31 ナニゴト なぜに。いかなれば。唐人の詩に多く用ひる。何事。〔杜荀鶴、蠶婦詩〕年年道レ我蠶辛苦、底事渾身著二苧麻一。

【底兒】32 ti^{3} êrh ❶基礎。根本。❷そこ。❸原價。❹店鋪の財產。鋪底。

【底心】33 ソコゴコロ 本當の心。底意(3)に同じ。〔犬子集〕池にうつるお月や何の底心。

【底信】34 テイシン 人にまことをいたす。厎信(2—2918‥4)に同じ。

【底愼】35 テイシン つつしみをいたす。〔書、禹貢〕庶土交正、底二愼財賦一。〔蔡傳〕底、致也。〔左思、魏都賦〕關石之所二和鈞一、財賦之所二底愼一。

【底綏】36 テイスイ 綏をいたす。安泰ならしめる。〔書、盤庚上〕紹二復先王之大業一、底レ綏二四方一。〔王粲、蕤賓鐘銘〕底二綏六合一、纂二定庶邦一。

【底數】37 テイスウ 數學用語。甲を一定の正數とし、乙を任意の正數とする時、次の方程式$\text{甲}^{x}=\text{乙}$を滿足させるxの値は乙の對數で、甲は其の對數の底數である。

【底靖】38 テイセイ 定めをさめる。しづめやすんずる。〔元稹、敍二用勳舊武臣一德音〕外以環二禦四海一、內以底二靖中原一。

【底席】39 テイセキ 青蒲のしきもの。〔書、顧命〕西序東嚮、敷二重底席一。〔江聲集注音疏〕馬融曰、底、青蒲也、鄭康成曰、底、致也、聲謂、底席青蒲席、言レ底者、見二其功致一也。

【底積】40 ソコヅミ ❶底荷(10)に同じ。又、其の人。❷實力がありながら、世に認められぬこと。

【底績】41 テイセキ 功績をいたす。〔書、禹貢〕覃懷底レ績、至二于衡漳一。〔傳〕從二覃懷一致レ功至二橫漳一。

【底蹟】42 テイセキ あと。〔福惠全書、刑名部、人命上、疑獄〕況驗二其底蹟一絕無二泥土一。

【底屬】43 テイゾク たひらいで服屬する。〔孔子家語、五帝德〕日月所レ照、莫レ不二底屬一。〔注〕底、平、四遠皆平、而來服二屬之一也。

【底滯】44 テイタイ ❶とどこほつて通じない。停滯。〔國語、楚語下〕觀射父曰、夫民氣縱則底、底則滯、久則震、生乃不レ殖。〔注〕底、著也、滯、廢也。〔淮南子、要略〕無二凝竭底滯一。〔陸機、文賦〕及二其六情底滯一、志往神留、兀若二枯木一、豁若二涸流一。❷苦しむ。苦しみ。困阨。〔王粲、初征賦〕逢二屯否一而底滯兮、忽二長幼一以羈旅。〔溫子昇、爲二廣陽王淵一上書言二邊事一〕自レ定二鼎伊洛一、邊任益輕、惟底二滯凡才一、出爲二鎭將一、轉相模習、專事二聚斂一。❸阻み止める。〔韓愈、送レ窮文〕子無二底滯之尤一、我有二資送之恩一、子等有レ意二於行一乎。

【底檯】45 テイヂ 樹木の名。底珍(49)に同じ。〔駢雅、釋木〕底檯、阿驛也、無レ花而實、產二拂林國一。

【底帳】46 テイチヤウ 原簿。臺帳。控帳。〔福惠全書、錢穀部、解給〕猶二人家之日用底帳一。

【底著】47 テイチヤク 久しく止まる。〔國語、晉語四〕戾久將レ底、底著滯淫。〔注〕底、止也、著、附也。

【底柱】48 テイチユウ 山名。❶山西省平陸縣の東、黃河の中流に在つて、南は河南省の陝縣に接する。三門あり、禹の鑿つ所といふ。一名、砥柱。〔書、禹貢〕底柱、析城、至二于王屋一。〔蔡傳〕底柱石、在二大河中流一、其形如レ柱、今陝州陝縣三門山是也。〔水經、河水注〕砥柱、山名也、昔禹治二洪水一、山陵當レ水者鑿レ之、故破レ山以通レ河、河水分流、包レ山而過、山見二水中一、若レ柱然、故曰二砥柱一也、云云、亦謂二之三門一矣。〔漢書、食貨志下〕其後番孫欲レ省二底柱之漕一。〔張衡、東京賦〕底柱輟レ流。〔陝州志〕三門、中神門・東鬼門・北人門。❷山西省陽場縣の南。山に三峯あり、中峯は最も高秀である。

【底珍】49 テイチン 樹木の名。花無くして實り、實は赤色で椑子に類す。阿驛。〔酉陽雜俎、廣動植、木篇〕阿驛、波斯國呼爲二阿驛一、拂林呼爲二底珍樹一、長丈四五、枝葉繁茂、葉有二五出一、似二椑麻一、無レ花而實、實赤色類二椑子一、味似二乾柹一、而一月一熟。

【底定】50 テイテイ 定まることを致す。又、平かにさだまる。平定。底定。〔書、禹貢〕震澤底定。〔蔡傳〕具區之水、多震、而難レ定、故謂二之震澤一、底定者、言下底二於定一而不中震蕩上也。〔陸倕、石闕銘〕樊鄧威懷、巴黔底レ定。〔注〕銑曰、底、致也。〔南史、齊高帝紀〕信宿之間、宣陽底定。〔任昉、宣德皇后令〕白羽一麾、黃鳥底定。〔注〕翰曰、底、平也。

【底土】51 ソコツチ 下層の土。表土以下の土壤。

【底寧】52 テイネイ 安樂にしてゐる。〔潘岳、秋興賦序〕夙興晏寢、匪レ遑二底寧一。〔注〕翰曰、底、致、寧、安。

【底寶】53 ソコダカラ 最も尊い寶。〔日本書紀、崇神紀〕押羽振甘美御神底寶御寶主。

【底法】54 テイハフ 方法を確定する。〔書、大誥〕若二考作レ室、既底レ法、厥子乃弗二肯堂一、矧肯構。

【底盤】55 ti^{3} p'an^{2} ❶市價が下落して最も低いこと。❷車體を附けない車臺。

【底伏】56 テイフク 留まつて動かない。とどこほりしづむ。滯伏。〔後漢書、馬融傳〕所下以涸二蕩匈臆一、發二明耳目一、疏二越蘊慉一、駭中恫底伏上。〔注〕底伏、猶二滯伏一也。

【底物】57 テイブツ 何物といふ意。〔陔餘叢考、底〕江南俗語、問二何物一曰二底物一、何事曰二底事一、唐以來已入二詩詞中一、按、北史徐之才傳、高德正故犯二之才家諱一、之才問二坐客一曰、箇人諱底、則六朝以來已有二是語一、而入二之書策一、則自二北史一始也、顏師古匡謬正俗、問云、俗謂二何物一爲二底物一、底義何訓、答曰、此本言二何等物一也、其後遂省但言二等物一、又轉而訛爲レ底耳。

【底平】58 テイヘイ ❶たひらかになる。底はいたす。❷たひらか。〔書、禹貢〕大野既豬、東原底レ平。〔宋玉、高唐賦〕上至二觀側一、地蓋底平。〔注〕善曰、左氏傳注曰、底、平也。

【底票】59 ti^{3} p'iao^{4} 長沙の各銀行・錢莊と、取引商店との間に使用せられる手形の一種。

【底片】60 ti^3 p'ien^4 原版。種板。

【底邊】61テイヘン 多角形の頂點に對する邊の稱。

【底簿】62テイボ 下帳面。控帳。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕置日報底簿。

【底本】63テイホン 文書の草藁。したがき。ひかへぼん。稿本。〔春明退朝錄〕凡公家文書之稾、中書謂之草、樞密院謂之底、三司謂之檢、今祕府有梁朝宣底二卷、卽正明中崇政院書也、檢卽州縣通稱焉。〔春明退朝錄〕樞密院降宣故事、有梁朝宣底二卷、降宣始自朱梁之時、晉天福五年、改樞密院承旨爲承宣、亦似相合其底、乃底本也。

【底碼】64テイマ 標準利息。〔上海錢業營業規則、規定〕往來欠息、視往來存息照加、倘往來存息、未及四兩五錢時、仍以四兩五錢爲底碼。

【底面】65テイメン ❶そこ。❷多面體の一面で、其の多面體が此の面上に立つと考へられる面。

【底樣】66テイヤウ 如何樣に。〔陸游、遺興詩〕小甑呉粳底樣香。

『底樣兒』67テイヤウジ 靴底のあと。〔西廂記、張君瑞鬧道場雜劇〕步香塵底樣兒淺。

【底豫】68テイヨ 樂しむやうになる。底はいたす、豫は樂しみ。〔孟子、離婁上〕舜盡事親之道、而瞽瞍底豫。〔注〕底、致也、豫、樂也。〔焦循正義〕致樂者、由不樂而至於樂也。

【底理】69テイリ 佛窮極の道理。〔碧巖錄、普照序〕剔抉淵源、剖析底理。

【底裏】70テイリ おく深くかくれた處。〔後漢書、竇融傳〕口陳肝膽、自以底裏上露、長無纖介。〔注〕底裏皆露、言無藏隱。〔紅樓夢、七十五回〕你不知我邢家底裏。

【底流】71テイリウ 磯波のために生じて汀線より沖に向ひ底に沿つて動く水流。

【底厲】72テイレイ ❶といし。底はきめの細かい砥石、厲はあらい砥石。砥礪。〔漢書、枚乘傳〕磨礱底厲、不見其損、有時而盡。〔注〕師古曰、礱亦磨也、底、柔石也、厲、皁石也、皆可以磨者。❷とぐ。みがく。〔漢書、鄒陽傳〕底厲名號者、不以利傷行。〔注〕師古曰、底厲、言其自修廉隅、若磨厲於石也。〔漢書、蕭望之傳〕願竭區區、底厲鋒鍔。

【底祿】73テイロク 俸祿を與へる。〔左氏、昭、元〕叔向曰、底祿以德、德鈞以年、年同以尊、公子以國、不聞以富。〔注〕底、致也。

【底氣味】74ソコギミ 何となく心の底に感ぜられる氣持。〔平家女護島、三〕帶引きほどく肌は鍋の底氣味わろく。

【底石根】75ソコイハネ 地の底にあるいは。

【底堆石】76テイタイセキ 氷河の下底に沿うて、運搬せられる土砂及び塊岩。

【底特律】77デトロイト 地名。アメリカ合衆國の北部にあり、ヒユーロン湖とエリー湖との咽喉部を扼す。Detroit の音譯。

【底木達】78テイムタ 地名。四川省懋功縣の西北。もと小金川土司の地。

【底野迦】79テリアカ 獸に咬まれた時の解毒に用ひる膏藥。藥劑を脂と蜂蜜で煉り合せて造る。Theriaca の音譯。

【底拉那】80テラナ 地名。アルバニヤの都。Tirana の音譯。

【底栗車】81テイリツシヤ 梵語 tiryañc 畜生をいふ。〔琅琊代醉編、底栗車〕立世論云、梵語、底栗車、此云畜生。

【底栗多】82テイリツタ 梵語で畜生といふ意。〔稱謂錄、賤稱、底栗多〕梵語、底栗多、華言畜生。

【底格里斯】83チグリス 河の名。イラークの大河。Tigris の音譯。

【庅】9263

ラフ 〔集韻〕落合切 合

いへのおと。やなり。〔集韻〕庅、屋聲。

【庈】9264

レイ リヤウ 〔集韻〕郎丁切 靑

❶**物のかかり通るさま。**〔玉篇〕庈、懸通皃。❷**屋宇の通ずるさま。**〔集韻〕庈、屋宇通皃。

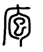
【庍】9265

シ 〔玉篇〕之氏切 紙

❶**居處がひくい。**〔字彙〕庍、居卑也。❷**すまひ。又、すむ。**〔海篇〕庍、居處也。〔篇韻〕庍、住也。

【庖】9266

ハウ ベウ 〔集韻〕蒲交切 肴 ㄆㄠˊ p'ao^2



小篆

❶**だいどころ。くりや。**〔說文〕庖、廚也、从广包聲。〔詩、小雅、車攻〕大庖不盈。〔禮、王制〕爲充君之庖。〔注〕庖、今之廚也。〔孟子、梁惠王上〕是以君子遠庖廚也。❷**料理人。**食物を調理する人。〔淮南子、說林訓〕治祭者、庖。〔注〕庖、宰也。〔史記、韓非傳〕伊尹爲庖。❸**料理。**調理した食物。〔晉書、石崇傳〕庖膳窮水陸之珍。❹**膳部。**〔隋書、音樂志中〕方鼎升庖。❺**庖犧氏の略稱。**〔漢書、敍傳下〕河圖命庖。❻**つつむ。**苞(**9－30789**)に通ず。〔周禮、天官、序官〕庖人。〔注〕庖之言、苞也、裹肉曰苞苴。❼包(**2－2506**)に通ず。〔集韻〕庖、通作包。〔易、姤、包有魚、釋文〕包、本亦作庖。❽胞(**9－29396**)に通ず。〔莊子、養生主〕庖丁。〔釋文〕庖、崔本作胞。〔漢書、百官公卿表、胞人都水均官三長丞、注〕師古曰、胞、與庖同。❾**姓。**〔潛夫論、志氏姓〕太昊之後有庖國、姒姓。

參考 疱(**7－22082**)は別字。

【庖匽】1ハウエン くりやをいふ。〔宋史、寇準傳〕準少年富貴、性豪侈、喜劇飲、每宴賓客、多闔扉脫驂、家未嘗爇油燈、雖庖匽所在、必然炬燭。

【庖屋】2ハウヲク くりや。料理べや。〔張耒、冬日放言詩〕肥兔與奔鶉、日夕懸庖屋。

【庖犧】3ハウギ 庖犧氏に同じ。

『庖犧氏』4ハウギシ 太古三皇の世の初に出た帝王。犧牲を養つて庖廚に充てることを敎へた。伏羲(**1－438・・26**)に同じ。〔史記、三皇紀〕大皞庖犧氏、風姓、結網罟以敎佃漁、故曰宓犧氏、養犧牲以充庖廚、故曰庖犧。〔漢書、律歷志下〕炮犧氏之王天下也。

【庖儈】5ハウクワイ 老巧な料理人。〔韻府引、蘇軾、尺牘〕朱守餉筍、云潭州來、豈所謂猫頭之稚者乎、留之必爲庖儈所壞、盡致之左右。

【庖宰】6ハウサイ 料理をつかさどる人。御膳方。〔韓非子、難言〕夫至智說至聖、然且七十說而不受、身執鼎俎爲庖宰、昵近習親、而湯乃僅知其賢而用之。〔淮南子、主術訓〕是猶代庖宰剝牲而爲大匠斲也。〔新書、春秋〕譴而行誅、則庖宰監食者、法皆當死。〔新序、雜事四〕譴而行其誅乎、則庖宰食監、法皆當死。

【庖霜】7ハウサウ 庖刀をいふ。〔黃庭堅、次韻廖明略陪呉明府白雲亭宴集詩〕庖霜刀落膾、執玉酒明船。〔朱松、牛尾貍詩〕壓糟玉面天涯見、琢雪庖霜照眼明。

【庖爨】8ハウサン くりやのかまど。〔宋史、呉師禮傳〕不復置庖爨及蓄僮僕。

【庖子】9ハウシ 料理人。〔張協、七命〕伊公爨鼎、庖子揮刀。〔注〕善曰、庖子、庖丁也。〔膳夫錄〕蔡太師京廚婢數百人、庖子亦十五人。

【庖仕】10ハウシ 料理人。賄方。

【庖人】11ハウジン ❶周官の名。天官の屬。料理の事を掌る。〔周禮、天官、序官、庖人、注〕庖之言苞也、裹肉曰苞苴。〔疏〕言庖者、今之廚、轉作苞者、取庖人主六獸六禽、以供庖廚、有裹肉之意也。〔周禮、天官、庖人〕庖人掌共六畜六獸六禽、辨其名物。❷料理を掌る人。料理人。〔孟子、萬章下〕其後廩人繼粟、庖人繼肉。〔莊子、逍遙遊〕庖人雖不治庖、尸祝不越樽俎而代之矣。〔墨子、尙賢中〕親爲庖人。〔穆天子傳、五〕命庖人熟之。〔注〕庖人、主飲食

者。〔說苑、尊賢〕任二庖人釣屠、與二仇讐僕虜一非レ阿レ之也。

【庖正】12（ハウセイ） 官名。食膳の事を掌る。〔左氏、哀元〕爲二之庖正一、以除二其害一。〔注〕庖正、掌二膳羞一之官也。〔疏〕庖正、當二周禮之庖人一、用レ之爲レ正、當二是食官之長一、故爲下掌二膳羞一之官上也。

【庖膳】13（ハウゼン） くりやの食物。〔晉書、石崇傳〕財產豐積、室宇宏麗、後房百數、皆曳二紈繡一、珥二金翠一、絲竹盡二當時之選一、庖膳窮二水陸之珍一。

【庖代】14（ハウダイ） 人の代理。代庖(**1－386**・・116)を見よ。〔莊子、逍遙遊〕庖人雖レ不レ治レ庖、尸祝不下越二樽俎一而代上之矣。

【庖刀】15（ハウタウ） 庖丁刀(19)に同じ。

【庖中】16（ハウチユウ） くりやの中。臺所の中。〔唐書、韋陟傳〕每レ食視二庖中所一レ棄、其直猶不レ減二萬錢一。〔宋史、向敏中傳〕使三人問二庖中一、今日有二親賓一飲宴否。

【庖廚】17（ハウチユウ） くりや。臺所。料理場。〔禮、玉藻〕君無レ故不レ殺レ牛、大夫無レ故不レ殺レ羊、士無レ故不レ殺二犬豕一、君子遠二庖廚一、凡有二血氣一之類、弗二身踐一也。〔孟子、梁惠王上〕君子之於二禽獸一也、見二其生一不レ忍レ見二其死一、聞二其聲一不レ忍レ食二其肉一、是以君子遠二庖廚一也。〔列子、仲尼〕爲二牢藉庖廚之物一。〔墨子、尙賢上〕湯擧二伊尹於庖廚之中一。〔司馬相如、上林賦〕宮宿館舍、庖廚不レ徙。

【庖丁】18（ハウテイ） ㊀古昔の名高い料理人。牛を解剖して骨と肉とを分ける技倆が甚だ巧であつた。轉じて、料理人をいふ。割烹者。庖丁解レ牛を見よ。〔淮南子、齊俗訓〕庖丁用レ刀十九年。〔韓愈、送二高閑上人一序〕庖丁治レ牛。〔書言故事、人品類〕廚吏曰二庖丁一。〔和名抄、十〕斷二理魚鳥一者、謂二之庖丁一。㊁（ハウチヤウ）調理用の刃物。料理刀。庖丁刀の略。〔狂言、鱸庖丁〕備前庖丁、靑木の箸。

【庖丁刀】19（ハウチヤウガタナ） 主として料理に使用する刃物。〔宇治拾遺、十〕大なるまな板に長やかなるはうちやうがたなを具して置きたり。

【庖丁人】20（ハウチヤウニン） 料理する人。料理人。〔異制庭訓往來〕相二語名譽之庖丁人一、所レ構二種種料理一也。

【庖丁解レ牛】21（ハウテイウシヲトク） 料理人が牛の骨と肉を解き分けること。轉じて、技術の妙を讚美する語。〔莊子、養生主〕庖丁爲二文惠君一解レ牛、手之所レ觸、肩之所レ倚、足之所レ履、膝之所レ踦、砉然嚮然、奏レ刀騞然、莫レ不レ中レ音、合二於桑林之舞一、乃中二經首之會一、文惠君曰、譆善哉、技蓋至レ此乎、庖丁釋レ刀、對曰、臣之所レ好者道也、進二乎技一矣、始臣之解レ牛之時、所レ見無二非レ牛者一、三年之後、未三嘗見二全牛一也、云云、良庖歲更レ刀、割也、族庖月更レ刀、折也、今臣之刀十九年矣、所レ解數千牛矣、而刀刃若三新發二於硎一、彼節者有レ閒、而刀刃者無レ厚、以レ無レ厚入レ有レ閒、恢恢乎其於レ遊レ刃、必有二餘地一矣、是以十九年、而刀刃若三新發二於硎一、云云、文惠君曰、善哉、吾聞二庖丁之言一、得レ養レ生焉。〔疏〕庖丁、謂二掌レ廚丁役之人一、今之供膳是也、亦言、丁名也。

【庖丁正宗】22（ハウチヤウマサムネ） ㊀刀匠岡崎五郎正宗をいふ。有名な刀匠で、刀治中興の祖神と稱せらる。㊁名刀の名。相模國鎌倉荏柄天神の寶刀で無銘刀。表に草書の倶俐伽羅、裏に梅樹の彫刻がある。

【庖鼎】23（ハウテイ） 殷の湯王が伊尹を庖人から擧げ用ひて三公とした故事。賢臣の喩。鼎は三足であるから三公に象り用ひる。〔墨子、尙賢下〕伊尹爲二有莘氏女師僕一、使レ爲二庖人一、湯得而擧レ之、立爲二三公一。〔宋書、前廢帝紀〕每レ結二夢庖鼎一、瞻二言板築一。

【庖童】24（ハウドウ） くりやのこども。〔白居易、春日閑居詩〕今日非二十齋一、庖童饋二魚肉一。

【庖肉】25（ハウニク） くりやにある肉。〔孟子、滕文公下〕庖有二肥肉一、廐有二肥馬一。

【庖湢】26（ハウヒヨク） 臺所と浴場。湢は湯殿。〔曾鞏、繁昌縣興造記〕寢廬庖湢、各以レ序爲。

【庖饔】27（ハウヨウ） 庖人と內饔・外饔とをいふ。周禮天官の屬。〔周禮、天官、序官、膳夫、疏〕膳夫食官之長者、謂下與二庖人・內外饔・亨人等一爲上長也。

【庖廩】28（ハウリン） くりやと米倉。又、くりや。臺所。〔陳樵、東陽縣輝映樓賦〕庖廩具修、講堂雄峙。〔李覯、袁州州學記〕庖廩有レ次、百爾器備。

【庖隷】29（ハウレイ） 食物を料理する召使。〔陳造、詩〕庖隷良易レ供。

【店】9267 テン 〔集韻〕都念切 ㄉㄧㄢˋ 豔 tien⁴

㊀**みせ**。たな。物品をならべてあきなふところ。〔一切經音義、十四〕古今注曰、店、置也、店、所三以置二貨鬻之物一也。〔集韻〕店、停レ物舍也。〔正字通〕店、肆也。〔宋史、趙普傳〕營二新店一規レ利。㊁**はたご**。**やどや**。〔正字通〕店、旅舍曰レ店。〔蘇軾、道上見二梅花一詩〕山店初嘗二竹葉酒一。〔項斯、曉發二昭應一詩〕旅店開偏早、鄉帆去未レ收。㊂**杯をかへしのせるだい**。或は坫(**3－4979**)に作る。〔玉篇〕店、反爵之處、或作レ坫。邦 **たな**。㋑貸家。借家。㋺店棚の略。㋩主人として仕へる人のみせ。

【店員】1（テンヰン） みせの使用人。商店の雇人。

【店役】2 tien⁴ i⁴ 店の傭人。店員。手代。

【店屋】3（ミセヤ） 店を構へて商賣してゐる家。商店。見世屋。

【店家】4 tien⁴ chia¹ ㊀みせの人。店舖の人。㊁旅館の手代。

【店家後生】5 tien⁴ chia¹ hou⁴ shêng 賣店の若衆。店につかはれるわかもの。丁稚小僧。

【店開】6（ミセビラキ） みせを開いて商賣をはじめる。開業する。開店。

【店香】7（テンカウ） みせに良い香りのすること。〔溫憲、杏花詩〕店香風起レ夜、村白雨休レ朝。

【店客】8 tien⁴ k'ê⁴ 旅客。旅人。

【店夥】9 tien⁴ huo³ ㊀旅館の手代。㊁商店の手代、又は小者。

【店戶】10 tien⁴ hu⁴ みせ。又、みせあきうど。

【店後】11（テンゴ） みせのうしろ。〔韋莊、過二內黃縣一詩〕雲中粉堞新城壘、店後荒郊舊戰場。

【店晒】12（タナザラシ） 商品が久しく賣れずに店に殘つてゐること。又、其の商品。

【店子】13（タナコ） 借家に住む人。借家人。

【店肆】14（テンシ） みせ。商店。〔隋書、裴矩傳〕帝命下三市店肆、皆設二帷帳一、盛列中酒食上。

【店卸】15（タナオロシ） ㊀店頭に陳べた品物を下ろして調査すること。〔新永代藏、三〕例年店おろしの有物帳に附けかへたるばかりにて。㊁殘存した品物を悉く賣り盡すこと。〔織留、一〕明くる年の春の四日にたなおろしの勘定して見しに。㊂人の缺點・過失を一々かぞへ立てていふこと。〔冥途飛脚、中〕忠兵衞が身代の店下ししてくれる、忝い。

【店舍】16（テンシヤ） みせ。たな。〔元稹、連昌宮詞〕初過寒食一百六、店舍無レ烟宮樹綠。〔姚合、客遊旅懷詩〕詩書愁二觸雨一、店舍喜二逢山一。

【店主】17（テンシユ） みせのあるじ。商店の主人。〔麗情集〕店主扣レ門視レ之。〔六部成語、戶部、店主窩頓、注解〕窩、藏也、頓、寄放也、客店主人私代二鹽徒一寄二藏私鹽一也。

【店請】18（タナウケ） 借家人の保證をする。又、其の人。

【店錢】19 tien⁴ ch'ien² ㊀旅館の宿料。㊁家賃。借家賃。

【店租】20 tien⁴ tsu¹ たなちん。借家の料金。

【店檯】21 tien⁴ t'ai² ㊀商店の商ひ臺。㊁宿屋などの帳場。

【店帳】22（テンチヤウ） はたごやの帳面。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕結二算店帳一。

【店張】23（テンチヤウ） 鎭の名。陝西省興平縣の東北。もと底張といふ。

【店女】24（テンヂヨ） みせに居る女。〔白居易、過二敷水一詩〕村童店女仰レ頭笑、今日使君眞是愚。

【店賃】25（タナチン） 借家料。家賃。〔天保集成絲綸錄、八十三、寬政二戌年九月〕此の度、町町地主共、地代・店賃上り高等、書き出し置き候に付。

【店底】26 tien⁴ ti³ ㊀店にある商品一切をいふ。店中存貨。㊁老舖。

【店店】27（テンテン） みせなみ。〔陸游、詩〕倉庾家家儲二舊穀一、笙歌店店賣二新醪一。

【店東】28 tien⁴ tung¹ ㊀店主。商店の主人。㊁旅館の主人。

【店頭】29（テントウ） みせさき。〔范成大、春日田園雜興

詩〕溪頭洗レ擇店頭賣、日暮裹レ鹽沽酒歸。

【店賣】30（ミセウリ）　品物を店に陳べて賣ること。

【店幫】31 tien^4 pang^1　漢口市場に於ける煙草業者の區別で、專ら絲煙の製造販賣に從事するものをいふ。又、絲煙店ともいふ。

【店埠】32（テンフ）　❶川の名。安徽省合肥縣にあり。〔明一統志〕店埠河、在二廬州府城東四十里一、水出二圓疃一、通二巢湖一。❷鎭の名。安徽省合肥縣の東。宋の紹興十一年、湯沂中が金人を敗つた處。

【店保】33 tien^4 pao^3　❶店鋪を有する商人が保證に立つ。鋪保。❷旅店主人が保證に立つ。

【店鋪】34（テンポ）　いへ。へや。又、みせ。商店。〔舊唐書、食貨志上〕若一家內、別有二宅舍店鋪等所レ貯レ錢。〔封氏聞見記、飲茶〕自二鄒齊滄棣一、漸至二京邑一、城市多開二店鋪一、煎レ茶賣レ之。

【店傭】35 tien^4 yung^4　問屋手數料。河南地方では總て雜穀の仕入れは問屋を經て行はれ、その取引額一串文に對して十五文內外の割合を以て口錢、卽ち店傭を支拂ふ。

【店立】36（タナダテ）　借家から追ひたてること。

【店仕舞】37（ミセジマヒ）　みせをやめる。閉店する。

【店小二】38 tien^4 hsiao^3 êrh^4　商店の小僧。

【店宅務】39（テンタクム）　宋代、官署の名。大府寺に屬して官屋邸宅等のことを掌る。〔宋史、職官志五〕店宅務、掌下管二官屋及邸店一、計二置出僦一、及修造之事上。〔宋史、兵志三〕左藏庫・布庫・香藥庫・都茶庫・左右廂・店宅務・修造權貨務・祇候庫、隸二大府寺一。

【𢇲】9268　ホン　〔廣韻〕布忖切　阮

姓。〔玉篇〕𢇲、戎姓。

【床】9269　ビ ミ　〔集韻〕忙皮切　支

床穰は、地名。〔集韻〕床、床穰、地名、今在二秦州一。

【庎】9270　㊀サ シャ　〔集韻〕側下切　馬　㊁サ ジャ　〔集韻〕鋤加切　麻

㊀いへ。〔集韻〕庎、屋也。㊁庎庌は、ひとしくない。〔集韻〕庎、庎庌、不レ齊。

【庋】9271　ヒ ビ　〔玉篇〕扶宜切　支

しく。〔玉篇〕庋、鋪也。

【庯】9272　ホ フ　〔字彙〕博故切　遇

しく。つらねる。〔字彙〕庯、列也。

【庮】9273　ダフ ネフ　〔集韻〕昵洽切　洽

庘庮は、せまい。〔集韻〕庮、庘庮、隘也。

【庘】9274　アフ エフ　〔集韻〕乙甲切　洽

❶**こはれかけの家**。〔玉篇〕庘、屋欲レ壞也。〔集韻〕庘、壞屋謂二之庘一。❷**ぶたごや**。〔集韻〕庘、一曰、豕屋也。

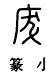
【𢇾】9275　テン デン　〔字彙〕亭年切　先

たひらか。〔玉篇〕𢇾、平也。

【庙】9276　ベウ

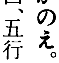
廟（**4－9489**）の俗字。〔字彙〕庙、俗廟字。

【废】9277　ハツ バチ　〔集韻〕蒲撥切　曷


小篆

❶**やどる**。**又、草のいほり**。通じて茇（**9－30839**）に作る。〔說文〕废、舍也、从レ广犮聲、詩曰、召伯所レ废。〔詩、召南、甘棠〕召伯所レ茇。〔傳〕茇、草舍也。〔集韻〕废、通作レ茇。❷**ひくい**。〔海篇掌珠〕废、下也。

【庚】9278　カウ キャウ　〔集韻〕居行切　庚　ㄍㄥ kêng^1


小篆

❶**かのえ**。十干の一。剛性で方位は西、五行では金、四時では秋に配する。もと𢆉に作る。〔正字通〕庚、正譌、鐘虡也、象形、篆作レ𢆉、借爲二𢆉辛字一、俗作レ庚。〔說文〕庚、位西方、象二秋時、萬物庚庚有レ實也、庚承レ己、象二人齎一。〔爾雅、釋天〕太歲在レ庚曰二上章一。〔爾雅、釋天〕月在レ庚曰レ窒。〔釋名、釋天〕庚、猶レ更也、庚、堅強貌也。〔左氏、昭、三十一〕庚午之日。〔注〕庚、金也。〔白虎通、五行〕庚者、物更也。❷**とし**。年齒。〔癸辛雜識〕吾鄉張神鑒、瞽而慧、每レ談二一命一、則旁二引同庚者數十一、皆歷歷可レ聽。❸**みち**。經（**8－27508**）・徑（**4－10118**）に通ず。〔說文通訓定聲〕庚、叚借爲レ經、實爲レ徑。〔小爾雅、廣言〕庚、道也。〔詩、小雅、由庚序〕由庚、萬物得レ由二其道一也。❹**義**。〔太玄經、斷〕庚斷レ甲。〔注〕庚、義也。❺**道路**。**通路**。〔正字通〕庚、路也。〔左氏、成、十八〕塞二夷庚一。〔注〕夷庚、吳晉往來之要道。〔會箋〕庚、道也、古字、庚與レ迒通。❻**かはる**。〔易、巽〕先レ庚三日。〔本義〕庚、更也、事之變也。〔禮記、月令、其日庚辛、注〕庚之言、更也、辛之言新也、云云、萬物皆肅然改更。〔史記、文帝紀〕占曰、大橫庚庚、余爲二天王一、夏啓以光。〔注〕索隱曰、按、庚庚、猶二更更一、言下以二諸侯一更中帝位上也。❼**すぎる**。〔廣雅、釋詁三〕庚、過也。❽**つぐなふ**。〔廣韻〕庚、償也。〔禮、檀弓下〕季子皐之葬二其妻一也、犯二人之禾一、申祥以告、曰、請庚レ之。〔注〕庚、償也。❾**いとわく**。いとをまく。乖（**2－3155**）に同じ。〔正字通〕庚、从レ干、从レ廾、篆作レ乖。〔說文通訓定聲〕庚、絡レ絲柎也、易謂二之欄一、从レ干象二柎形一、ナ又手絡レ之、會意。❿**つぐ**。賡（**10－36819**）に通ず。〔正字通〕庚、與レ賡通。〔詩、小雅、大東〕西有二長庚一。〔傳〕日既入、謂二明星一爲二長庚一、庚、續也。〔書、益稷、疏〕西有二長賡一。⓫**さらに**。更（**5－14283**）に通ず。〔列子、黃帝〕心庚二念是非一。〔注〕庚、當レ作レ更。〔釋文〕庚、益也。⓬**一百六韻の一**。下平第八。⓭**姓**。〔尚友錄〕庚、見二姓苑一。〔通志、氏族略、平聲〕庚氏、唐太常博士庚季良。

名乘　ヤス。ツグ。

解字　象形。秋、萬物の庚庚として實る貌にかたどるといふ。故に時に配しては秋をいひ、方角に配しては西をいふ。一說に、說文通訓定聲によれば、干と廾との合字。干は柎形、廾は左右の手を合はせ、左右の手で絲をからむ義、故にいとわくをいふといふ。假借して經・徑とする。又、一說に、𢆉は干と廾との合字で、干は杵を表はし、廾は之を使ふ兩手を示す。故に𢆉は杵を使つて穀皮を脫することを意味するといふ。〔說文通訓定聲〕庚、絡レ絲柎也、易謂二之欄一、从レ干象二柎形一、ナ又手絡レ之、會意。▽ （甲骨文）象形。杵を兩手で持ち上げるさまに象る。

【庚郵】1（カウイウ）　宿繼ぎ。庚はつぐ、郵は驛遞をいふ。〔鄒登龍、詩〕丙枕或思前夜席、庚郵寧肯後鋒車。

【庚寅】2（カウイン）　明末、魯王以海の年號。

【庚庚】3（カウカウ）　❶横たはるさま。一說に、かはりかはる。かはる。〔史記、文帝紀〕卜二之龜一、卦兆得二大横一、占曰、大横庚庚、余爲二天王一、夏啓以光。〔注〕集解曰、服虔曰、庚庚、横貌也、李奇曰、庚庚、其繇文也、張晏曰、横行無レ思不レ服、庚、更也、言下去二諸侯一而卽中帝位上也、索隱曰、按、庚庚、猶二更更一、言下以二諸侯一更中帝位上也。〔漢書、文帝紀〕大横庚庚。〔注〕師古曰、庚庚、横貌也。❷實るさま。〔說文〕庚、萬物庚庚有レ實。〔段注〕庚庚、成實皃。❸強く堅いさま。〔釋名、釋天〕庚、猶レ更也、庚庚、堅強貌也。〔疏證補〕說文、庚位西方象二秋時一、萬物庚庚有レ實也、是堅強之貌。

【庚甲】4（カウカフ）　とし。年齒。〔桯史〕持レ扇過二其旁一、遂使レ談二庚甲一。

【庚癸】5（カウキ）　軍中で糧食飲料を求める時に用ひる隱語。庚は西方で穀を主り、癸は北方で水を主る。〔左氏、哀、十三〕吳申叔儀乞二糧於公孫有山氏一、對曰、梁則無矣、麤則有レ之、若登二首山一、以呼曰二庚癸一乎、則諾。〔注〕軍中不レ得レ出レ糧、故爲二私隱一也、庚、西方、主レ穀、癸、北方、主レ水。〔范成大、丙午新正書レ懷詩〕一飽但蘄庚癸諾、百年甘守甲辰雌。〔書言故事、干求類〕于粮用呼二庚癸一。

【庚癸之呼】6（カウキノコ）　糧食飲料を求めるさけび。〔柳宗元、文〕儲偫委積、師旅無二庚癸之呼一、繕完板幹、控帶兼二戊己之位一。

【庚金】7（カウキン）　大野董喜の號。大野竹瑞(**3－5831**・・2223)を見よ。

【庚款】8　kêng^1 k'uan^3　庚子賠款の略。

【庚齋】9（カウサイ）　清、沈映輝(**6－17189**・・430)の號。

【庚桑】10（カウサウ）　複姓。老子の徒、庚桑楚の子孫の姓。〔莊子、庚桑楚、釋文〕司馬云、楚名、庚桑姓也。〔唐韻〕庚桑、複姓。〔通志、氏族略〕庚桑氏、莊子庚桑楚之後。

【庚桑楚】11（カウサウソ）　❶莊子の篇名。❷周の人。或は亢桑・亢倉に作る。莊周は老子の弟子となし、史記には空言といふ。其の有無は未だ明かでない。今、亢倉子九篇、庚桑楚撰と題するは、唐の王士元の補亡の作である。〔莊子、庚桑楚〕・〔高士傳、上〕。

【庚子】12（カウシ）　西涼、李暠(**6－14459**・・127)の年號。

【庚子年亂】13　kêng^1 tzŭ^3 nien^2 luan^4　義和團事件。北清事變。

【庚子賠款】14　kêng^1 tzŭ^3 p'ei^2 k'uan^3　北清事變の賠償金。

【庚子銷夏記】15（カウシセウカキ）　書名。八卷。清、孫承澤撰。書畫石刻を論ず。順治十六年四月に始まり六月に成つたから銷夏といふ。〔四庫提要、子、藝術類〕。

【庚日】16（カウジツ）　❶かのえの日。〔鄭愔、哭二郎著作一詩〕巳年人得レ夢、庚日鳥爲レ災。❷kêng^1 jih^4　八日をいふ。詩韻から採つた日附。庚は下平第八に當るからいふ。

【庚笙】17（カウシヤウ）　清、徐鼎(海寧の人)(**4－10110**・・230)の號。

【庚戌】18（カウジユツ）　南宋の時、楊幺の年號。

【庚辛】19（カウシン）　❶西方をいふ。〔史記、天官書〕庚辛、華山以西、壬癸、恆山以北。❷かのえかのとの日。五行の金に當る。〔淮南子、時則訓〕其日庚辛。〔注〕庚辛、金也。

【庚辰】20（カウシン）　禹の治水を助けた神の名。〔古岳瀆經〕禹治レ水、三至二桐柏一、獲二淮渦水神一、名二無支祁一、善應對、搏擊騰踔、倏忽不レ可二久視一、禹授二之庚辰一、庚辰能制レ之、木魅水靈、山妖水怪、奔號沸繞者、以レ千數、庚辰以レ戟逐レ之、遂鎖二無支祁於龜山之足一。〔集仙錄〕雲華夫人敕二侍女一、授下禹策二召鬼神一之書上、因命二其神狂章・虞余・黃魔・大翳・庚辰・童律等一、助レ禹斲レ石疏レ波、決レ塞導レ阨、以循二其流一。

【庚宗】21（カウソウ）　地名。春秋、魯の地。山東省泗水縣の東。〔左氏、昭、四〕初穆子去二叔孫氏一、及二庚宗一、遇二婦人一。〔注〕庚宗、魯地。

【庚丁】22（カウテイ）　殷の第二十四代の王。祖甲の子、廩辛の弟。在位二十三年。〔史記、三〕。

【庚泥】23（カウデイ）　つらなつた泥沙。ひろい泥沼。〔管子、地員〕青龍之所レ居、庚泥不レ可レ得レ泉。

【庚帖】24　kêng^1 t'ieh^3　婚姻の約束をした時、男女兩家の姓名・年齡・籍貫・三代の經歷を書して互に交換する書。小帖。〔燕子箋、奸遁〕這卻不像庚帖。

【庚電】25　kêng^1 tien^4　八日附電報。

【庚年】26　kêng^1 nien^2　年齡。生れ年。

【庚賠】27　kêng^1 p'ei^2　庚子賠款(14)の略。

【庚伏】28（カウフク）　夏の極暑の時。三伏は庚日に始まるからいふ。三伏(**1－12**・・1567)に同じ。〔韓琦、初伏柳溪詩〕人間酷暑病二庚伏一、世外清風有二洞天一。〔朱熹、次二秀野暑中一詩〕病隨二庚伏一盡、尊向二晚涼一開。

【庚申會】29（カウシンヱ）　民俗祭事の一。かのえさるの日に徹夜して明旦を待つ行事。晝の申の刻七つ(今の午後四時)に始めて、夜の寅の刻七つ(午前四時)に至る七刻の間を待つもの。此の日三尸蟲が人の油斷をねらつて惡事を天帝に密告すると說き、三猿の像を掛け、猿田彥大神を祭つて供物七種を供へる。佛家では青面金剛を祭る。庚申まち。猿待。〔僧史略、下〕近聞、周鄭之地、邑社多結下守二庚申一會上、初集鳴二銅鈸一、唱佛歌讚、衆人念佛行道、或動二絲竹一、一夕可レ睡、以避三三彭奏二上帝一、免二注レ罪奪レ算也、然是實道家之法、往往有二無知釋子一、入レ會圖二謀小利一、會不レ尋二其根本一、誤行二邪法一、深可レ痛哉。

【庚申君】30（カウシンクン）　元の順帝をいふ。〔元史、順帝紀十〕八月庚申、大明兵入二京城一、國亡。〔萬斯同、庚申君遺事〕。

【庚申草】31（カウシンサウ）　草の名。たぬきも科の食蟲植物で、高山の絕壁等に自生する。

【庚申待】32（カウシンマチ）　庚申會(29)に同じ。

【庚申堂】33（カウシンダウ）　庚申青面を祀つた堂。

【庚申塚】34（カウシンヅカ）　路傍等に立てた塚石で、多く三猿の形を刻む、八衢神を祀る。元來、道路の神とされる幸神（サイノカミ）と庚申と音の相通ずるところから附會されたものといふ。

【庚申帝】35（カウシンテイ）　元、順帝(**1－1340**・・680)をいふ。

【庚溪詩話】36（カウケイシワ）　書名。二卷。宋、陳巖肖撰。首に宋代の御製を載せ、漢の高祖・武帝、魏の武帝・文帝、唐の高祖の詩を批評し、後、唐宋の詩人を詳論し、特に元祐の諸家を尤も多くとつてゐる。〔四庫提要、集、詩文評類〕。

【庚申外史】37（カウシングワイシ）　書名。二卷。明、權衡撰。元の順帝の在位二十八年間の治亂の大綱を記す。〔學津討源、第六集〕・〔學海類編、第四十七－四十八冊〕。

【庚申青面】38（カウシンシヤウメン）　庚申待に祭る神の名。庚申會(29)を見よ。〔谷響集、九〕當世僧俗、翕然以レ守二庚申一、爲下滿二衆願一之要法上、行レ之造二猿形一爲レ神、圖二青面金剛像一爲二本尊一。

【庚申薔薇】39（カウシンバラ）　草花の名。葉は平滑で光澤ある小葉から成り、花は紅色・白色等あつて美しい。隔月卽ち庚申の日のある月每に咲くから名づける。長春花。

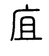
【先レ庚後レ庚】41（カウニサキダチカウニオクル）　物事を丁寧に考慮して、其の結果を揆度(はかる)する。庚の前三日は丁、庚の後三日は癸で、丁は丁寧、癸は揆度の義であるからいふ。〔易、巽〕先レ庚三日、後レ庚三日、吉。〔本義〕先レ庚三日、丁也、後レ庚三日、癸也、丁、所三以丁二寧於其變之前一、癸、所三以揆二度於其變之後一。

【庴】
9279

一シヨ　〔集韻〕子余切　魚

二シ　〔集韻〕七賜切　寘

三シヨ　〔集韻〕子與切　語



小篆

一二三人が互によりあふ。〔說文〕庴、人相依庴也、从レ广且聲。

參考　⿸广旦(**4－9280**)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕庴、音苴、人相依庴也。⿸广旦、音旦、小舍也。

【⿸广旦】
9280

タン　〔集韻〕得案切　翰

❶**こや。**小さい家。〔玉篇〕⿸广旦、小舍也。❷**小さいさかづき。**〔集韻〕⿸广旦、一曰、小杯。

參考　庴(**4－9279**)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕庴、音苴、人相依庴也。⿸广旦、音旦、小舍也。

【庣】 9281 エイ 〔集韻〕以制切 霽

たな。 とだな。庋(**4－9245**)に同じ。〔集韻〕庣、庋謂ニ之庣一。

【庛】 9282 一 シ 〔集韻〕七賜切 寘 二 シ ジ 〔集韻〕才支切 支

一二 ❶**耒の下の前に曲つて耜に接する木。すきの柄の下にあるまたぎ。**〔玉篇〕庛、耕具也。〔集韻〕庛、耒下歧木也。〔周禮、考工記、車人〕車人爲レ耒、庛長尺有一寸。〔注〕鄭司農云、庛、讀爲ニ其顈有レ庛之庛一、謂ニ耒下歧一、玄謂、庛讀爲ニ棘刺之刺一、刺耒下前曲接レ耜。❷或は廩(**4－9495**)・㡿(**4－9417**)に作る。〔集韻〕庛、或作ニ廩・㡿一。

参考 庛(**4－9239**)・疵(**7－22089**)は別字。

【府】 9283 フ 〔集韻〕匪父切 ㄈㄨˇ fǔ 麌

小篆

❶**くら。** 文書財貨を收藏するところ。〔說文〕府、文書藏也、从レ广付聲。〔一切經音義、九〕府、文書財物藏也。〔論語、先進〕魯人爲ニ長府一。〔集解〕鄭玄曰、藏レ貨曰レ府。〔皇疏〕藏ニ錢帛一曰レ府。〔國語、周語中〕余一人僅亦守レ府。〔注〕府、先王之府藏。〔漢書、郊祀志上〕史書而藏ニ之府一。〔注〕師古曰、府、藏レ書之處。❷**みたまや。**〔周禮、秋官、大司寇〕登ニ之于天府一。〔注〕天府、祖廟之藏。〔楚辭、劉向、九歎、思古〕蒯聵登ニ於清府一。〔注〕清府、猶ニ清廟一也。❸**胸。**〔素問、寶命全形論〕是謂ニ壞府一。〔注〕府、謂レ胃也。〔素問、經脈別論〕毛脈合レ精、行ニ氣於府一。〔注〕府、謂ニ氣之所レ聚處一也、是謂ニ氣海一、在ニ兩乳閒一、名曰ニ膻中一也。❹**あつまる。**〔小爾雅、廣詁〕府、叢也。〔玉篇〕府、聚也。〔戰國、秦策〕此謂ニ天府一。〔注〕府、聚也。❺**物事の集るところ。**〔左氏、昭、十二〕吾不レ爲ニ怨府一。〔漢書、司馬遷傳〕智之府也。〔注〕師古曰、府者、所レ聚之處也。❻**もと。** 資源。〔大戴禮、四代〕水火金木土穀、謂ニ之六府一。❼**くらづかさ。**〔周禮、天官、序官〕府六人。〔注〕府、治レ藏。❽**つかさ。** 官省。役所。〔廣雅、釋室〕府、官也。〔周禮、天官、大宰〕以ニ八灋一治ニ官府一。〔注〕百官所レ居曰レ府。〔張衡、東京賦〕據ニ其府庫一。〔注〕綜曰、官吏所レ止爲レ府。❾**大官。** 漢制、三公各〻府を開くに本づく。幕僚は、その主を呼んで府主といふ。〔廣韻〕府、聚也、公卿牧守、道德之所レ聚也。〔後漢書、郎顗傳〕委ニ任三府一。〔注〕三公之府。〔後漢書、樊準傳〕五府調ニ省中都官吏及京師作者一。〔注〕五府、謂ニ太傅・太尉・司徒・司空・大將軍一也。❿**みやこ。** まち。〔後漢書、龐公傳〕未ニ嘗入ニ城府一。〔日知錄、政事、府〕漢曰レ郡、唐曰レ州、州卽郡也、惟建レ都之地、乃曰レ府。⓫**行政區劃の一域の稱。** 唐に創まる。後代沿革あり、民國之を廢す。〔韻會〕府、唐制、大州曰レ府、兵衞曰レ府。〔事物紀原、州郡方城部、府〕開元三年、始改ニ京兆河南一曰レ府、此蓋府之始也。〔日知錄、政事、府〕漢曰レ郡、唐曰レ州、州卽郡也、惟建レ都之地、乃曰レ府、云云、至レ宋而大郡多升爲レ府。〔皇朝文獻通考、輿地考〕京師盛京而外、爲レ省一十有八、分ニ置各府一以ニ諸縣一、諸州則參ニ列其閒一。⓬**やしき。** 第宅。〔廣雅、釋室〕府、舍也。〔庾信、哀江南賦〕誅ニ茅宋玉之宅一、穿ニ徑臨江之府一。〔高適、玉眞公主歌〕仙宮仙府有ニ眞仙一、天寶天仙祕莫レ傳。⓭**はらわた。** 腑(**9－29626**)に通ず。〔說文通訓定聲〕府、俗字作レ腑。〔白虎通、性情〕六府、謂ニ大腸・小腸・胃・胱膀・三焦・膽一也。⓮**うつむく。** 俯(**1－722**)に通ず。〔荀子、非相〕府然若ニ渠堰檃栝之於一レ己也。〔注〕府、與レ俯同、就レ物之貌。⓯**はれもの。** 胕(**9－29380**)に通ず。〔說文通訓定聲〕府、呂覽、情欲、身盡府種、注、腹疾也、字亦作レ胕。⓰**姓。**〔萬姓統譜〕府、見ニ姓苑一。〔通志、氏族略、上聲〕府氏、風俗通、漢有ニ府悝一、爲ニ司徒掾一。邦**ふ。** 都・道・縣と共に地方自治團體の一つ。現在、京都・大阪の二府がある。

名乘 モト。アツ。クラ。

【府尹】 1 フイン 官名。府の政を掌る長官。❶唐代東都・西都・北都等に置く。〔唐書、百官志四下〕西都・東都・北都、牧各一人、從二品、西都・東都・北都・鳳翔・成都・河中・江陵・興元・興德、府尹各一人、從三品、掌下宣ニ德化一、歲巡ニ屬縣一、觀ニ風俗一、錄中囚恤ニ鰥寡上。〔事物紀原、撫字長民部、府尹〕周成王之命ニ君陳東郊一曰、尹ニ茲東土一、春秋之時、縣邑之長、或曰レ尹、楚有ニ令尹一、此尹之始也、漢京兆、河南曰レ尹、唐以ニ州郡建レ府者一、皆曰レ尹、按、漢百官表曰ニ右內史一、武帝太初元年、更ニ名京兆尹一、此名レ官之始也。❷明代、應天・順天の二府に置く。〔明志、職官志〕順天府、府尹一人、云云、府尹、掌ニ京府之政令一、宣レ化和レ人、勸レ農問レ俗、均ニ貢賦一、節ニ征徭一、謹ニ祭祀一、閱ニ實戶口一、糾ニ治豪強一、隱ニ恤窮困一、疏ニ理獄訟一、務知ニ百姓之疾苦一、歲立春・迎春・進春祭ニ先農之神一、月朔望早朝奏ニ老人一、坊廂聽ニ宣諭一、孟春・孟冬率ニ其僚屬一行ニ鄕飲酒禮一。〔明史、職官志〕應天府、府尹一人、云云、洪武三年、改ニ應天府知府一爲ニ府尹一、秩正三品、賜ニ銀印一。❸清代、奉天・順天の二府に置く。〔清會典事例、吏部、官制〕順天府、兼管順天府尹事務大臣、漢一人、府尹一人、府丞一人、治中一人。〔清會典事例、吏部、官制〕奉天府、兼管府尹事務大臣、滿洲一人、府尹滿洲一人、府丞漢一人、道員滿洲三人。〔清國行政法汎論、行政區劃及地方官廳〕唯順天府、在ニ京畿首善之區一、故與ニ普通府一稍異ニ其制度一、該府之長官、卽曰ニ府尹一。

【府役】 2 フヤク 姓氏。〔姓林全書〕。

【府掾】 3 フエン 府の下吏。〔晉書、劉卞傳〕秀才謂ニ縣令一曰、卞公府掾之精者、卿云三何以爲二亭子一、令卽召爲ニ門下史一。

【府下】 4 フカ 府の管下。一府の區域の內。

【府河】 5 フカ 川の名。清苑河の一支流。清苑河の源は河北省滿城縣。東流して清苑縣城を繞る。城南に在るものを府河といふ。清苑(**7－17695**‥56)の❶を見よ。

【府考】 6 フカウ 清代、州縣考に合格した童生が府に至つて受ける試驗。此の試驗に合格した者は院考を經て府州縣學に入ることを許される。〔清會典事例、禮部〕六年奏准、嗣後八旗文童考試、看箭在ニ府考數日之前一、府考在ニ院考數日前一、以示ニ體恤一。〔六部成語、補遺、禮部、府考、注解〕童生由ニ府考試一、而送ニ之於學院一也。

【府號】 7 フガウ 官府の名號。省・臺・府・寺等の類。〔唐律、名例、府號官稱、疏議〕府號書、謂ニ省臺府寺之類一。

【府學】 8 フガク ❶明・清時代、府の治所に設けられた官立學校。〔歷代職官表、順天府、國朝官制〕國初設ニ府學一、漢人教授一人、訓導六人、京衞武學、漢人教授一人、訓導二人、順治二年、省ニ武學訓導員額一、三年省ニ府學訓導四人一、康熙四年、又省ニ二人一、十五年、復設ニ府學訓導・武學訓導各一人一、雍正三年、改ニ京衞武學一爲ニ順天府武學一、四年罷ニ武學之制一、增ニ置儒學滿洲教授訓導各一人一。〔順天府志〕順天府儒學、在ニ府治東南教忠坊一、明洪武初、以ニ元太和觀地一爲ニ大興縣學一、國子監爲ニ府學一、永樂紀元、改ニ北平布政司一爲ニ順天府一、府學爲ニ國子監一、大興學爲ニ府學一、幷屬焉、規制未レ備、歲久漸圮、宣德二年、府尹李庸修理、于レ是大

成殿明倫堂祠廡齋舍庖湢之所、煥然如レ新、大學士建安楊榮爲レ記。㊁古、太宰府に置かれた學校。

【府議】9 フギ ㊀官府の議論。役所の議論。〔日本政記、龜山天皇〕府議以二書辭無一レ禮、卻不レ受。㊁もとの府會議員の略。

【府卿】10 フキャウ 大藏卿を唐風にいつた稱。大藏省を唐名で大府といふに因る。〔東鑑、五〕文治元年、十一月十五日、典廏相二具使者一、達二子細一給、府卿云、狀披覽。

【府金】11 フキン くらの金。〔晏子、雜、上〕分二倉粟府金一而遺レ之。〔呂覽、士節〕晏子使下人分二倉粟一、分二府金一而遺上レ之。

【府會】12 フクヮイ 府の行政事務を議決する機關。府會議員を以て組織する。

【府外】13 フグヮイ くらに藏めた以外のもの。〔魏書、甄琛傳〕語稱、出內之吝、有司之福、施惠之難、人君之禍、夫以二府藏之物一、猶以不レ施而爲レ災、況府外之利、而可レ吝二之於黔首一。

【府官】14 フクヮン ㊀官職。〔管子、幼官〕定二府官一明二名分一。㊁㋑古、大宰府の官吏。〔檜垣嫗集〕いとの郡に物いひし府官。㋺國府の官吏。〔類聚三代格、十七〕弘仁十三年三月二十六日、太政官符、宜下仰二府官一重加二約束一勤令二醫療一酬中彼勞效上。

【府館】15 フクヮン 役所のやかた。〔齊書、祥瑞志〕建元二年四月、白雀集二郢州府館一。

【府君】16 フクン ㊀漢代、府の太守の尊稱。〔後漢書、華佗傳〕廣陵太守陳登、患二胸中煩懣一、華佗脈レ之曰、府君胃中有レ蟲。〔魏志、華歆傳、注〕策乃進レ軍、歆葛巾迎レ策、策謂レ歆曰、府君年德名望、遠近所レ歸。〔日知錄、雜論、府君〕府君者、漢時太守之稱、三國志、孫堅襲二荊州刺史王叡一、叡見レ堅、驚曰、兵自求レ賞、孫府君何以在二其中一、孫策進二軍豫章一、華歆爲二太守一、葛中迎レ策、策謂レ歆曰、府君年德名望、遠近所レ歸。〔集釋〕錢氏曰、漢時、郡國守相稱二府君一、亦稱二明府一。㊁祖考の尊稱。亡父の尊稱。〔韓愈、魏博節度觀察使沂國公先廟碑銘〕曾祖都水使者府君祭二初室一。〔司馬光書儀、自注〕無レ官改二先某位一爲二先府君一。〔朱子語錄〕無レ爵而曰二府君夫人一、漢人碑已有、只是尊レ神之辭、府君如二官府之君一、今人亦謂レ父曰二家府君一。〔援鶉堂筆記〕。㊂尊者。長者の稱。泰山府君(**6－173 25：60**)の㊀を見よ。〔魏書、段承根傳〕謝暉曰、吾太山府君子、奉レ敕遊學、今將欲レ歸。〔搜神記、四〕胡母班、曾至二泰山之側一、忽于二樹閒一逢二一絳衣騶一、呼レ班云、泰山府君召レ班。

【府郡】17 フグン 府と郡。〔宋書、劉敬宣傳〕宣城多レ山、縣郡舊立レ屯、以供二府郡費用一。

【府檄】18 フゲキ 役所のめしぶみ。〔後漢書、劉平等傳序〕坐定而府檄適至。〔唐書、房玄齡傳〕居レ府出入十年、軍符府檄、或駐レ馬即辨。

【府縣】19 フケン ㊀府と縣。〔風俗通、十反〕杜密婆二娑府縣一、干二與王政一。㊁地方行政區劃で、かつ、最上級の地方自治體。

【府元】20 フゲン 府試に第一等で及第した者をいふ。〔稱謂錄、解元、府元〕洪皓松漠紀聞續、金人科擧、先於二諸州一、分縣赴レ試、號爲二鄉試一、榜首曰二鄉元一、亦曰二解元一、次年春分、三路類試、謂二之府試一、凡二人取レ一、榜首曰二府元一。

【府庫】21 フコ 文書や貨財器物等を入れるくら。〔周禮、天官、大府〕凡萬民之貢、以充二府庫一。〔禮、月令〕季春之月、開二府庫一、出二幣帛一。〔大學〕未レ有下府庫財非二其財一者上也。〔左氏、襄、十〕閉二府庫一、愼二閉藏一。〔孟子、梁惠王下〕君之倉廩實、府庫充。〔墨子、七患〕虛二其府庫一。〔荀子、王制〕府庫已實。〔史記、商君傳〕功名藏二於府庫一。

【府公】22 フコウ ㊀六朝時代、王府の臣僚が其の長官を稱していふ。〔晉書、賈謐傳〕充行至二一府舍一、侍衞甚盛、府公南面坐、聲色甚厲。〔稱謂錄、知府、府公〕潘岳閒居賦、府主誅除レ名爲レ民、亦稱二府公一。㊁唐代、節度使・觀察使をいふ。〔劉禹錫、送二王司馬之二陝州一詩〕府公既有二朝中舊一、司馬應容二酒後狂一。〔稱謂錄、總督、府公〕案、唐幕僚稱二節度觀察使一爲二府公一、蓋沿下六朝王府臣僚稱二其主一爲二府公一之舊上。

【府谷】23 フコク 縣名。五代唐、置く。今、陝西省神木縣の東北、黃河の西北岸。〔讀史方輿紀要、陝西、延安府、葭州〕府谷縣、隋勝州榆林縣地、唐爲二嵐州之府谷鎭一、五代晉王存勗、天祐七年、升爲二府谷縣一、八年建爲二府州一、以控二蕃界一、晉初沒二於契丹一、開運初、府州刺史折從遠、擧レ州內附、後漢初、升爲二永安軍一、兼二領勝州及沿河五鎭一。〔清史稿、地理志〕陝西、楡林府、縣四、府谷。

【府國】24 フコク 府と國。〔南齊書、鬱林王紀〕詔、東西二省、府國長老、所レ積財單祿寡、良以二矜懷一、選レ部、可レ甄二才品一。

【府佐】25 フサ 知府を助けて府の事務を辦理する官吏。〔六部成語、吏部、府佐、注解〕幇二助知府一辦レ事之官、如二同知通判一是也。

【府差】26 fu^3 ch'ai^1 府署の役人。〔還魂記、道覡〕丑扮府差上。

【府倉】27 フサウ 財貨を入れるくらと、穀物を入れるくら。〔國語、越語下〕府倉實、民衆殷。〔注〕貨財曰レ府、米粟曰レ倉。〔管子、立政〕府倉虛、蓄積竭。〔韓非子、解老〕獄訟繁則田荒、田荒則府倉虛、府倉虛則國貧、國貧而民俗淫侈。

【府臧】28 フザウ くら。府藏に同じ。〔漢書、王嘉傳〕主威已黜、府臧已竭。

【府藏】29 フザウ ㊀くら。又、くらに藏したもの。〔史記、大宛傳〕令三外國客偏觀二各倉庫府藏之積一。〔漢書、翼奉傳〕虛二倉廩一、開二府藏一、振二捄貧民一。〔新語、本行〕庸二環珮一、服二府藏一。㊁五臟六腑。腑臟をいふ。〔列子、湯問〕汝曩之所レ疾、自レ外而干二府藏一者、固藥石之所レ已。〔嵇康、養生論〕滋味煎二其府藏一、醴醪鬻二其腸胃一。〔注〕善曰、漢書曰、五藏六腑。

【傾二府藏一】30 フザウヲカタムク くらを空にする。くらの財貨を殘らず出すこと。〔魏志、武宣卞皇后傳〕將軍拜二太子一、天下莫レ不二歡喜一、后當下傾二府藏一賞賜上。

【府史】31 フシ 役所の書き役。書記。〔儀禮、士冠禮、有司如二主人服一、注〕有司、羣吏有レ事者、謂下主人之吏所二自辟除一、府史以下上、今時卒吏及假吏、是也。〔疏〕周禮三百六十官之下、皆有二府史胥徒一。〔周禮、天官、序官〕府六人、史十有二人。〔注〕府治レ藏、史掌レ書者。

【府試】32 フシ 府で行ふ試驗。〔清會典事例、禮部〕又議準、嗣後安徽省壽州・鳳臺、二州縣府試、由二該府一於二學臣案臨之時一、先レ期帶レ印赴二壽州專棚一開レ考、自レ本屆二歲試一爲レ始。

【府資】33 フシ 軍府の資力。〔宋書、王弘傳〕南畝事興、時不レ可レ失、宜下早督二田畯一、以要中歲功上、而府資單刻、控引無レ所。

【府寺】34 フジ 役所。官署。〔漢書、馮奉世傳〕攻二隴西府寺一、燔二燒置亭一、絕二道橋一。〔後漢書、劉般傳〕時五校官顯職閑、而府寺寬敞、輿服光麗、伎巧畢給。〔左思、魏都賦〕夾レ之以二府寺一、班レ之以二里閭一。〔顏氏家訓、治家〕綺羅盈二府寺一。

【府州】35 フシウ ㊀府と州。〔宋書、武帝紀中〕府州刑罪、亦同蕩然。〔宋書、謝晦傳〕彼府州文武、竝列二王職一、荷二國榮任一。㊁州名。唐、置く。陝西省府谷縣の治。五代の石敬瑭、割いて遼に賂ふ。後、漢に歸し、府州を升せて永安軍とす。〔韻會〕府、州名、漢屬二太原一、魏置二嵐州一、後唐立二府州一。

【府室】36 フシツ 役所の室。〔柳宗元、唐故萬年令裴府君墓碣〕爰備二聲律一、或圖或書、藏二之府室一。

【府社】37 フシャ 社格の一。府の管轄に屬し、府から幣帛を奉る神社。

【府舍】38 フシャ 役所の宿舍。〔漢書、元后傳〕君其召二諸侯一令レ待二府舍一。〔晉書、賈謐傳〕充行至二一府舍一、侍衞甚盛。

【府榭】39 フシャ 役所のうてな。〔南齊書、五行志〕上災二宗廟一、下災二府榭一。

【府生】40 フシャウ 昔の六衞府の屬官。供奉隨身を務め、又、衞府の記錄を掌る。〔中務省式〕近衞府四百二十五人、云云、府生六人。

【府將】41 フシャウ 府を守る大將。〔宋書、武帝紀上〕府將駱冰謀レ作レ亂、將レ被レ執單騎走。〔南齊書、張敬兒傳〕求入レ隊爲二曲阿戍驛將州差補府將一、還爲二郡馬隊副轉隊主稍官寧蠻府行參軍一。

【府掌】42 フシャウ ㊀近衞府・衞門府・鎭守府・太宰府などの諸府の雜任。官掌。〔民部省式、上〕凡陸奧鎭守・太宰府等、府掌各二人。㊁明治四年十二月二十三日、府に置き、候人を通じ、書疏を達し、使部を檢することを掌らしめた判任官。同十年一月十六日廢す。

【府上】43 フジャウ ㊀役所。〔史記、聶政傳〕韓相俠累方坐二府上一、持二兵戟一而衞侍者甚多。㊁fu^3 shang 他家の尊稱。貴邸。貴宅。

【府城】44 フジャウ みやこ。江戸城をいふ。〔川田甕

江、岩倉公所藏正宗鍛刀記〕鐵舟擧レ鞭而東、至ニ品川一、守兵誰何、擬ニ銃馬首一、出レ符示レ之、得三馳入ニ府城一。

【府主】45 フシュ 府の長官。幕職が其の主人をさしていふ。〔北齊書、王昕傳〕懷ニ其才一而忽ニ府主一、可レ謂レ仁乎。〔杜甫、課ニ伐木一詩〕城中賢ニ府主一、處レ貴如ニ白屋一。

【謀レ殺ニ府主等官一】46 フシユトウクワンヲコロサンコトヲハカル 府の長官などを殺すことを謀る。謀殺罪の一名で、流罪二千里に處し、著手して已に傷けた時は絞罪に處し、已に殺した時は斬罪に處した。〔唐律、賊盜、謀レ殺ニ府主等官一〕諸謀レ殺ニ制使、若本屬府主・刺史・縣令一、及吏卒謀レ殺ニ本部五品以上官長一者、流ニ二千里一、已傷者絞、已殺者皆斬。

【府種】47 フシュ 腹と首がはれる。府は腹の疾、種は首の疾。身體がはれること。腑腫。字解の⓯を見よ。〔呂覽、情欲〕身盡府種、筋骨沈滯。〔注〕府、腹疾也、種、首疾也。

【府署】48 フショ 役所。府寺。〔後漢書、宦者傳序〕府署第館、棊ニ列於都鄙一。〔宋書、後廢帝紀〕尙書省舍、日就ニ傾頽一、第宅府署、類多ニ穿毀一、視不レ遑レ救、知不レ暇レ及。〔南齊書、明帝紀〕上初有レ疾、無レ輟ニ聽覽一、秘而不レ傳、及ニ寢疾甚久一、敕ニ臺省府署文簿一、求ニ白魚一以爲レ治、外始知レ之。〔劉禹錫、和三令狐相公春早朝回ニ鹽鐵使院中一作詩〕鷺避ニ傳呼一起、花臨ニ府署一明。

【府職】49 フショク 府のやくめ。〔宋書、禮志五〕若下署ニ諸卿寺一位兼中府職上者、雖ニ三品一而卿寺爲レ卑、則宜レ依ニ公府元衣之制一。

【府丞】50 フジョウ ❶役所の次官。〔後漢書、羊續傳〕拜ニ續爲ニ南陽太守一、云云、府丞嘗獻ニ其生魚一、續受而懸ニ於庭一。〔陸倕、以レ詩代レ書別後寄ニ贈京邑僚友一詩〕詎知亭長肉、寧挂府丞魚。❷官名。㋑明代、順天・應天の二府に置く。〔明史、職官志三〕順天府、府尹一人、府丞一人、云云、府丞貳ニ京府一、兼ニ領學校一。〔明史、職官志三〕應天府、府尹一人、府丞一人。㋺清代、順天・奉天の二府に置く。〔清會典事例、吏部、官制、順天府〕兼管順天府尹事務大臣、漢一人、府尹一人、府丞一人。〔清會典事例、吏部、官制、奉天府〕兼管府尹事務大臣、滿洲一人、府尹、滿洲一人、府丞、漢一人。㊇清代、宗人府で漢文の冊籍を掌る役員。〔清會典事例、吏部、官制、宗人府〕府丞、漢一人。

【府人】51 fu³ jen² 倉庫係の役人。くらばん。

【府帥】52 フスイ 府の長官。〔韓愈、送ニ鄭尙書一序〕歲時必遣ニ賀問一致ニ水土物一、大府帥或道過ニ其府一、府帥必戎服、左握レ刀右屬ニ弓矢一、帕レ首袴レ鞾迎レ郊。

【府西】53 フセイ 役所の西。〔大業雜記〕庫西連ニ右監門府一、府西連ニ長秋監一。

【府精】54 フセイ 人體中の最も大切な所。〔素問、經脈別論〕毛脈合レ精、行ニ氣於府一、府精神明、留ニ於四藏一、氣歸ニ於權衡一。

【府稅】55 フゼイ 府の賦課する租稅。

【府召】56 フセウ 政府からのお召し。〔南齊書、宗測傳〕驃騎豫章王徵爲ニ參軍一、測答ニ府召一云、何爲謬傷ニ海鳥一、橫斤ニ山木一。

【府錢】57 フセン 役所のぜに。〔唐書、李德裕傳〕德裕三在ニ浙西一、出入十年、遷ニ淮南節度使一、代ニ牛僧孺一、僧孺聞レ之以ニ軍事一付ニ其副張鷺一、卽馳去、淮南府錢八十萬緡、德裕奏言、止四十萬、爲三鷺用ニ其半一。

【府然】58 フゼン うつむくさま。かがむさま。府は俯。〔荀子、非相〕府然若ニ渠堰檃栝之於レ己也。〔注〕府、與レ俯同、就レ物之貌、或讀爲レ附。

【府粟】59 フゾク くらの穀物。〔晏子、諫、上〕馬不レ食ニ府粟一。〔宋書、周朗傳〕今宜ニ國財與レ之共竭、府粟與レ之同罄一。

【府尊】60 フソン 人民が府縣の長官に對して用ひる尊稱。〔通俗編、仕進、州尊〕蜀志、秦宓傳、王商與ニ宓書一曰、貧賤亦何可ニ終身一、宜下一來與ニ州尊一相見上。按、今人稱ニ府尊・縣尊等一、皆昉ニ于此一。

【府體】61 フタイ 宰相の邸。〔桃花扇、媚座〕府體尊嚴、豈敢冒昧。

【府第】62 フダイ 役所。又、其の屋敷。〔漢書、王莽傳〕自ニ四輔三公一有レ事府第皆用レ傳。

【府島】63 コフシマ ❶姓氏。〔和爾雅〕。❷コフノシマ 姓氏。〔姓林全書〕。

【府堂】64 フダウ 役所。〔還魂記、道覡〕承レ差府堂上、提レ名仙觀中。

【府地】65 フチ 府の管轄する土地。〔李頻、黔中酬ニ同院韋判官一詩〕江流來ニ絶域一、府地管ニ諸夷一。

【府治】66 フチ 明・清の時代に府の長官が數縣を兼轄する時、其の駐在する縣をいふ。首縣。〔順天府志〕府治、在ニ安定門大街南里許一。

【府紬】67 fu³ ch'ou² 山東省歷城・蓬萊等の縣に產する繭紬の名。

【府蓄】68 フチク 役所のたくはへ。〔宋書、臧質傳〕作ニ牧漢南一、公盜ニ府蓄一、矯ニ易文簿一、專行ニ欺妄一。

【府廳】69 フチヤウ 府の行政事務を執る役所。〔順天府志〕醫學、在ニ府廳東一、久廢。〔福惠全書、蒞任部、受印〕無レ論ニ前官署篆及府廳帶掌一。

【府中】70 フチユウ ❶大臣宰相の執務する所。又、單に役所。〔史記、申屠嘉傳〕罷レ朝坐ニ府中一。〔漢書、朱博傳〕其府中列ニ栢樹一、常有ニ野烏數千一、棲ニ宿其上一。〔後漢書、陳寵傳〕常有ニ哭聲一、聞ニ於府中一。❷大將軍の幕府。〔諸葛亮、前出師表〕宮中府中、俱爲ニ一體一。❸王朝以來、一國の政廳の所在地。初め國府といひ、後、府中といふ。❹フコ 阿波國の地名。

【府邸】71 フテイ 役所。府第(62)に同じ。〔宋史、畢士安傳〕王請對願レ留ニ府邸一不レ許。

【府庭】72 フテイ 役所の庭。役所。府廷。〔後漢書、王符傳〕百姓廢ニ農桑一、而趨ニ府廷一者相續。〔論衡、量知〕此則郡縣之府庭、所ニ以常廓無レ人者也。

【府朝】73 フテウ ❶役所。〔盧諶、贈ニ劉琨一書〕遂去ニ左右一、收ニ迹府朝一。❷役所で政を聞くこと。〔資治通鑑、漢紀、桓帝、延熹四年〕未三嘗識ニ郡朝一、〔注〕公府聽レ事曰ニ府朝一。

【府帖】74 フテフ 役所のふれぶみ。〔杜甫、新安吏詩〕府帖昨夜下、次選中男行。

【府殿】75 フデン 役所の殿樓。〔後漢書、公孫述傳〕會有レ龍出ニ其府殿中一。〔高士傳、管寧〕遼東國圖ニ形於府殿一、號爲ニ賢者一。

【府帑】76 フド フタウ 國の府庫。國庫。帑は、かねぐら。〔漢書、匈奴傳下〕亦以爲虛ニ費府帑一。〔注〕師古曰、府、物所レ聚也、帑、藏ニ金帛一之所也。〔後漢書、侯覽傳〕延熹中、連歲征伐、府帑空虛。〔南齊書、東昏侯紀〕府帑既竭。

【府東】77 フトウ 役所の東。〔大業雜記〕東朝堂東連ニ門下省一、省東連ニ內省一、省東連ニ左掖衛府一、府東卽抵ニ左掖門街一、街東卽西錢坊、坊東連ニ東錢坊一。

【府內】78 フナイ ❶府のうち。府の區域內。〔晉書、簡文三子、會稽文孝王道子傳〕帝嘗幸ニ其宅一、謂ニ道子一曰、府內有レ山、因得ニ遊矚一甚善也、然脩太過、非下示ニ天下一以中儉上、道子無ニ以對一。❷舊江戶の區域內。御府內。〔御府內備考、凡例〕。

【府囊】79 フナウ 貨財を藏する所。〔管子、侈靡〕薄德之君之府囊也。〔纂詁〕府囊者、貨財所レ藏、以譬三人所ニ秘藏一也。

【府任】80 フニン 府署の事務。〔宋書、謝景仁傳〕轉ニ景仁一爲ニ大司馬一、司馬專總ニ府任一、右衛將軍加ニ給事中一。

【府牌】81 フハイ 府署で發する拘引狀。〔還魂記、道覡〕便道下那府牌來、杜藁鐘隸、把レ俺做ニ女妖一看、誅中斬賊盜上。

【府報】82 fu³ pao⁴ 貴宅からの消息。家信。

【府望】83 フバウ 役所內の人望。〔晉書、陶侃傳〕孫秀以ニ亡國支庶一、府望不レ顯、中華人士恥レ爲ニ掾屬一、以ニ侃寒宦一召爲ニ舍人一。

【府帛】84 フハク くらのきぬ。〔唐書、牛僧孺傳〕蔚索ニ府帛三萬一以獻、中人嫌ニ其吝一、用ニ吳行魯一代レ之。

【府板】85 フハン 府の屬官を任命すること。〔宋書、百官志上〕晉太傅司馬越府、又有ニ行參軍兼行參軍一、後漸加ニ長兼字一、除拜則爲ニ參軍事一、府板則爲ニ行參軍一。

【府符】86 フフ 役所のわりふ。〔晉書、李含傳〕含攝レ職而隨擊レ之、此爲ニ臺敕府符一陷ニ含於惡一。

【府兵】87 フヘイ 朝廷に附屬する兵。今の近衛兵の類。北周、六軍を置き、合せて百府とし、每府一郎將之を主る。唐代、天下を十道、六百三十四府に分け、關內二百六十一を以て諸營に隸屬させ、每府、折衝尉一人を置き、征討・宿衛の任に當らしめた。〔後漢書、竇武傳〕令下明旦悉軍ニ闕下一、與レ武對陳上、府兵漸盛。〔晉書、劉弘傳〕於レ是墨絰率ニ府兵一討ニ郭勱一。〔唐書、兵志〕府兵之制、起レ自ニ西魏後周一、而備ニ於隋一、唐興因レ之。〔古今

原始〕南北朝魏初作二府兵一。

【府門】88（フモン） 役所の門。やかたの門。〔漢書、韓延壽傳〕還至二府門一、門卒當レ車、願有レ所レ言。〔後漢書、胡廣傳〕解二其衣冠一、縣二府門一而去。〔晉書、王浚傳〕有レ狐踞二府門一、翟雉入聽レ事。

【府吏】89（フリ） 役所のやくにん。〔淮南子、主術訓〕府吏守レ法、君子制レ義。〔後漢書、楊震傳〕召二大匠令史一考二校之一、〔注〕史、謂二府吏一也。

【府廩】90（フリン） 國の米ぐら。〔柳宗元、唐鐃歌鼓吹曲序〕受二食府廩一、竊活二性命一。

【府令】91（フレイ） 府知事が自己の職權上、其の管轄區内に發する行政命令。

【府寮】92（フレウ） 役所の同僚。〔晉書、石弘載記〕季龍府寮舊昵、悉署二臺省禁要一。

【府幹哥】93 fu^{3} kan^{4} kê^{1} 執事さん。〔琵琶記、兩賢相遘〕府幹哥稽首。

【府教授】94（フケウジュ） 府の教官をいふ。〔六部成語、禮部、府教授、注解〕一府之教官。

【府市司】95（フシシ） 府の町役人。〔蘇軾、諫レ買二浙燈一狀〕中使傳宣、下二府市司一。

【在レ府言レ府】96（フニアリテフヲイフ） その立場において事を謀ること。府は、財寶を藏してゐる處。在官言官(3－4881・43)の❶を見よ。

【⿸广卯】9284 ㊀レウ 〔篇海〕連條切 蕭 ㊁リウ ル 〔篇海〕力救切 宥

㊀人名。〔篇海〕⿸广卯、人名。㊁姓。〔篇海〕⿸广卯、姓也。

【庝】9285 トウ ヅ 〔集韻〕徒冬切 冬

❶おくまつた家。〔集韻〕庝、深屋謂二之庝一。❷やなり。〔集韻〕庝、一曰、舍響也。

【⿸广乏】9286 ホウ 覂(10－34775)に同じ。〔集韻〕覂、或从レ广。

【⿸广丘】9287 シ 庍(4－9255)に同じ。〔篇韻〕⿸广丘、同レ庍。

【⿸广冋】9288 ケイ 扃(5－11728)の古字。〔集韻〕扃、古作レ⿸广冋。

【⿸广矢】9289 チ 知(8－23935)の古字。〔海篇〕⿸广矢、古文知字。

【⿸广氐】9290 キ 鬼(12－45758)の古字。〔字彙補〕⿸广氐、古文鬼字。

【⿸广乇】9291 テウ 〔篇海類編〕音挑

たまや。〔篇海類編〕⿸广乇、廟也。

【⿸广㠯】9292 ゲン 〔篇海類編〕魚檢切 琰

をか。〔篇海類編〕⿸广㠯、陵阜。

【⿸广瓜】9293 クワ ⿸疒瓜(7－22087)に同じ。〔字彙補〕⿸广瓜、同レ⿸疒瓜。

【庛】9294 ジ 義未詳。〔五音篇海〕庛、音次。

【⿸广召】9295 ゲウ 義未詳。〔篇海類編〕⿸广召、音堯。

六畫

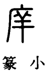
【⿸广先】9296 シン 〔玉篇〕所近切 吻

家がかしぐ。〔篇韻〕⿸广先、屋斜也。

【⿸广合】9297 ㊀カフ コフ 〔集韻〕渴合切 合 ㊁アフ エフ 〔集韻〕乙洽切 洽

㊀❶**めぐる。**〔玉篇〕⿸广合、帀也。❷**おす。**〔集韻〕⿸广合、壓也。❸或は⿸厂合(2－2936)に作る。〔集韻〕⿸广合、或从レ厂。㊁**くぼむ。**凹(2－1810)に同じ。〔集韻〕凹、低下也、或作レ⿸广合。

【庠】9298 シヤウ ザウ 〔集韻〕徐羊切 陽 ㄒ一ㄤ´ hsiang^{2}


小篆

まなびや。學校。❶殷の學校。〔說文〕庠、禮官養レ老、夏曰レ校、殷曰レ庠、周曰レ序、从レ广羊聲。〔禮、王制〕有虞氏養二國老於上庠一、養二庶老於下庠一。〔漢書、儒林傳序〕夏曰レ校、殷曰レ庠、周曰レ序。❷周の學校。〔孟子、滕文公上〕夏曰レ校、殷曰レ序、周曰レ庠。〔史記、儒林傳序〕夏曰レ校、殷曰レ序、周曰レ庠。❸鄕學。〔禮、學記〕黨有レ庠。〔注〕周禮、五百家爲レ黨。

名乘 アキラ。

【庠校】1（シヤウカウ） 學校。字解を見よ。〔鹽谷宕陰、送二安井仲平東遊一序〕嘗觀二於當今之學徒一、其在二庠校一、孜孜勤苦者有矣。

【庠斆】2（シヤウカウ） 學校。庠校に同じ。〔梁武帝、立學詔〕宜下大啓二庠斆一、博延中冑子上。

【庠學】3（シヤウガク） 五百家の邑に設けた學校。鄕學。〔周禮、地官、鄕大夫、興二賢者能者一、疏〕謂下鄕中有二賢者一、皆集在中庠學上。

【庠黌】4（シヤウクワウ） 學校。〔韓愈・孟郊、城南聯句〕歸私暫休暇、驅レ明出二庠黌一。

【庠塾】5（シヤウジユク） まなびや。學校と家塾。〔禮、學記〕古之教者、家有レ塾、黨有レ庠。

【庠序】6（シヤウジヨ） 地方の學校。殷に序といひ、周に庠といふ。〔孟子、梁惠王上〕謹二庠序之教一、申レ之以二孝悌之義一、頒白者不三負二戴於道路一矣。〔荀子、大略〕立二太學一、設二庠序一、脩二六禮一、明二十教一、所二以道一レ之也。〔史記、儒林傳序〕亦未三暇二遑庠序之事一也。〔漢書、董仲舒傳〕設二庠序一、以化二於邑一。〔白虎通、辟雍〕庠者、庠二禮義一也、序者、序二長幼一也。〔新語、道基〕設二辟雍庠序之教一。

〔庠序學校〕7（シヤウジヨガクカウ） 庠・序・校は、皆鄕校、學は國學卽ち大學。〔孟子、滕文公上〕設二爲庠序學校一以教レ之、庠者、養也、校者、教也、序者、射也、夏曰レ校、殷曰レ序、周曰レ庠、學則三代共レ之、皆所三以明二人倫一也、人倫明二於上一、小民親二於下一。〔注〕庠以レ養レ老爲レ義、校以レ教レ民爲レ義、序以レ習レ射爲レ義、皆鄕學也、學、國學也。

【庠生】8 hsiang^{2} shêng^{1} もと府學・縣學の生員をいふ。科擧時代第一次の合格者。

【庠門】9（シヤウモン） 鄕學の門。〔禮、鄕飲酒義〕主人拜迎二賓于庠門之外一。

【⿸广曳】9299 ㊀エイ 〔字彙〕餘制切 霽 ㊁イ 〔集韻〕羊至切 寘

㊀**こめぐら。**くら。〔玉篇〕⿸广曳、倉也。㊁**ひさし。**〔集韻〕⿸广曳、廡也。

【⿸广聿】9300 テウ デウ 〔篇韻〕直紹切 篠

言說が卑しい。〔篇海〕⿸广聿、言說卑也。

【⿸广艮】 9301 カン ゲン 〔篇韻〕下簡切 濟

門のしきみ。〔篇韻〕⿸广艮、門閾也。

【⿸广同】 9302 トウ ヅ 〔集韻〕徒東切 東

家のひびき。やなり。〔玉篇〕⿸广同、舍響。

【⿸广缶】 9303 カフ

⿸户古(5−11745)に同じ。〔集韻〕⿸户古、說文、閉也、或作㆑⿸广缶。

【⿸广肙】 9304 ケン 〔玉篇〕火犬切 銑

あな。〔玉篇〕⿸广肙、穴。

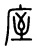
【庡】 9305 イ エ 〔集韻〕隱豈切 尾

❶**ついたて。**⿸厂衣(2−2931)に同じ。〔集韻〕⿸厂衣、廣雅、⿸厂衣、隱翳也、或作㆑庡。❷**たちもとほる。**〔玉篇〕庡、徘徊也。

【⿸广斥】 9306 セキ

斥(5−13535)に同じ。〔玉篇〕⿸广斥、亦作㆑斥。

【庢】 9307 🈩チツ 🈔チチ 〔集韻〕陟栗切 ㄓˋ chih^{4} 質 🈪テイ


小篆

🈩❶**さへぎりとどめる。**〔說文〕庢、礙止也、从㆑广至聲。❷**水のくま。**〔太平寰宇記〕山曲曰㆑盩、水曲曰㆑庢。❸盩庢は縣名。〔廣韻〕庢、盩庢、縣在㆓京兆㆒。❹窒(8−25493)に通ず。〔說文、段注〕凡庢礙當㆑作㆓此字㆒、今俗作㆓窒礙㆒、非也。🈔底(4−9262)の古字。〔枚乘、七發〕發㆑怒庢沓。〔注〕善曰、庢、竹栗切、庢或爲㆑底、古字也。

【庢沓】1 チツタフ ささへ止めて更にわきたつこと。〔枚乘、七發〕發㆑怒庢沓、清升踰跇。〔注〕善曰、言初發㆑怒、礙止而涌沸、翰曰、發㆑怒激涌也、庢、礙止也、沓、合也。

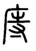
【庣】 9308 🈩テウ 〔集韻〕他彫切 蕭 🈔テウ デウ 〔集韻〕田聊切 蕭

🈩**滿たぬさま。**〔廣韻〕庣、不㆑滿皃。〔漢書、律歷志上〕旁有㆑庣焉。〔注〕師古曰、庣、不㆑滿之處也。🈔**すぎる。**〔集韻〕庣、過也。〔漢書、律歷志上、旁有㆑庣焉、注〕鄭氏曰、庣、過也。

【⿸广朿】 9309 シ 〔集韻〕七賜切 寘

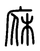
❶**ひくい家。**〔玉篇〕⿸广朿、下屋也。❷**かたよる家。**〔廣韻〕⿸广朿、偏⿸广朿舍也。

【庤】 9310 チ ヂ 〔集韻〕丈里切 ㄓˋ chih^{4} 紙


小篆

❶**たくはへる。**屋下に物を儲へ置く。〔說文〕庤、儲㆓置屋下㆒也、从㆑广寺聲。〔玉篇〕庤、儲也。❷**そなへる。**〔玉篇〕庤、具也。〔詩、周頌、臣工〕庤㆓乃錢鎛㆒。〔傳〕庤、具。❸通じて歭(6−16293)に作る。〔正字通〕庤、書費誓、庤㆓乃糗糧㆒、石經作㆑歭。❹或は畤(7−21916)に作る。〔集韻〕庤、或作㆑畤。❺偫(1−888)に同じ。〔說文、庤、段注〕庤、與㆑偫音義同。邦**かんだち。**かうだち。神事を取扱ふ處。又、加茂の齋館。神庤。御廚。神館とも書く。

【庥】 9311 キウ ク 〔集韻〕虛尤切 ㄒㄧㄡ hsiu^{1} 尤

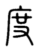

小篆

❶**おほふ。かげ。**こかげ。〔爾雅、釋言〕庥、廕也。〔注〕今俗語呼㆓樹蔭㆒爲㆑庥。❷**やすむ。**休(1−440)に同じ。〔說文〕休、息止也、庥、休或从㆑广。❸現よい。善美。

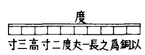
【⿸广多】 9312 シ 〔集韻〕敞尒切 紙

❶**ひろげる。**〔唐書、王忠嗣傳〕賊衆囂相蹂、軍⿸广多㆑翼掩㆑之。❷痑(4−9368)に同じ。〔集韻〕痑、說文、廣也、或省。❸**人名。**⿸尸多(4−7690)に同じ。〔集韻〕⿸尸多、闞、人名、莊子有㆓謂⿸尸多㆒、或从㆑广。

【度】 9313 🈩ト ヅ 〔集韻〕徒故切 ㄉㄨˋ tu^{4} 遇 🈔タク ダク 〔集韻〕達各切 ㄉㄨㄛˋ tuo^{4} 藥 慣ド


小篆

🈩❶**のり。**法制。法度。〔說文〕度、法制也、从㆑又庶省聲。〔左氏、昭、三〕公室無㆑度。〔注〕無㆓法度㆒也。〔左氏、昭、四〕度不㆑可㆑改。〔注〕度、法也。〔國語、吳語〕撓㆓亂百度㆒。〔注〕度、法也。〔荀子、解蔽〕參㆓稽治亂㆒、而通㆓其度㆒。〔注〕度、制也。❷**さだめ。**きめ。制度。〔周禮、地官、大司徒〕九曰、以㆑度教㆑節。〔注〕度、謂㆓宮室車服之制㆒。〔左氏、桓、二〕昭㆓其度㆒也。〔注〕尊卑各有㆓制度㆒也矣。〔禮、中庸〕不㆑制㆑度。〔注〕度、國家宮室及車輿也。❸**きり。**かぎり。制限。限度。〔左氏、桓、二、昭㆓其數㆒也、注、尊卑各有㆑數、疏〕度、謂㆓限制㆒。〔淮南子、時則訓〕貢歲之數、以㆓遠近土地所㆑宜爲㆑度。〔注〕度者、職貢多少有㆑常也。❹**ほど。**程度。〔國語、周語下〕用㆑物過㆑度、妨㆓於財㆒。❺**めもり。**きざみ。〔禮、樂記〕百度得㆑數而有㆑常。〔注〕百度、百刻也。❻**天體・運行の距離。**星辰の運行を紀すため、天を三百六十五等分した距離。現今の天文學では三百六十等分。〔素問、離合眞邪論〕故天有㆓宿度㆒。〔注〕度、謂㆓天之三百六十五度㆒也。❼**天體の速さ。**星辰が一定の時限に自己の軌道を進行する速度。〔周髀算經、下〕月度疾、日度遲。〔注〕度、日月所㆑行之度也。〔漢書、天文志〕天下太平、五星循㆑度。❽**日。**太陽。又、一日。周天の度は太陽から算出し、太陽は一日に一度を進行するところから、太陽を度といひ、亦一日を度といふ。〔素問、六元正紀大論〕正化度也。〔注〕度、謂㆑日也。〔素問、六微旨大論〕六十度而奇。〔注〕度、一日也。❾**とき。**をり。〔楚辭、離騷〕皇覽揆㆓予於初度㆒。〔注〕初度、初生年時也。❿**ものさし。ながさ。**ながさの標準。ながさの單位。〔書、堯典〕同㆓律度量衡㆒。〔釋文〕度、丈尺也。〔漢書、律歷志上〕度



度❿（三才圖會）

者、分・寸・尺・丈・引也、所三以度二長短一也。⓫ほこ。柄に丈尺を刻んだほこ。〔周禮、地官、司市〕凡市入、則胥執二鞭度一守レ門。〔注〕度、謂レ殳也、因レ刻二尺丈一耳。⓬つゑ。〔廣雅、釋器〕度、杖也。⓭うつ。〔方言、五〕僉、宋魏之閒、謂二之欘殳一、或謂二之度一。〔注〕今江東呼レ打爲レ度。⓮たび。次。回。〔北史、李彪傳〕彪前後六度銜レ命。〔蘇軾、中秋詞〕離別一何久、七度過二中秋一。⓯てうし。ねいろ。律呂。〔王褒、洞簫賦〕徐聽二其曲度一兮、廉察二其賦歌一。〔後漢書、馬防傳〕聲樂曲度、比二諸郊廟一。⓰きりやう。度量。〔史記、高祖紀〕有二大度一。〔後漢書、袁紹傳〕寛雅有二局度一。⓱やうす。風采。〔後漢書、竇融傳論〕此子之風度。〔晉書、陳元達載記〕姿度卓犖。⓲のつとる。したがふ。〔左氏、襄、三十一〕進退可レ度、周旋可レ則。⓳かぎる。〔釋名、釋兵〕號令之所二限度一也。⓴ねいろをととのへる。又、音調。〔漢書、元帝紀贊〕自度レ曲、被二歌聲一。〔趙宗儒、順宗冊文〕六律諧レ度、四時齊レ信。㉑したく。調度。用度。〔漢書、武帝紀〕用度不レ足。㉒わたる。わたす。渡(7－17765)に通ず。〔說文通訓定聲〕度、叚借爲レ渡。㋑川をわたる。〔漢書、賈誼傳〕猶下度二江河一、亡中維楫上。〔南史、弘範傳〕長江天塹、隋軍豈能飛度。㋺こえる。〔漢書、王莽傳〕度二百里之限一。〔注〕師古曰、度、踰越也。㋩さる。ゆく。〔楚辭、劉向、九歎、惜賢〕年忽忽而日度。〔注〕度、去也。〔周邦彥、金陵懷古詞〕怒濤寂莫打二孤城一、風帆遙度二天際一。㋥すぎる。通過する。〔陳後主、上巳禊酌詩〕鶯度遊絲斷、風駛落花多。〔張正見、釣竿篇〕人來水鳥沒、檝度岸花沈。㋭はこぶ。うつす。〔史記、平準書〕度二四百萬石一。〔注〕索隱曰、度、猶レ運也。㋬あたへる。さづける。〔元好問、論レ詩詩〕莫下把二金針一度中與人上。㉓まさる。たちこえる。度越(2)を見よ。㉔或は㡯(4－9225)に作る。〔集韻〕度、或作レ㡯。㉕姓。〔尚友錄〕度、古掌レ度之官、因以命レ氏焉。㉖佛㋑出家受戒する。僧になる。〔舊唐書、高祖紀〕浮惰之人、苟避二徭役一、妄爲二剃度一、託二號出家一。〔裴休、大遠法師碑〕十歲依二崇福寺一爲二沙彌一、十七正度爲二比丘一。㋺さとる。煩惱を離れ證果(さとり)を得る。〔般若心經〕度二一切苦厄一。㋩すくふ。さとらしめる。〔金剛經、注〕凡聖一如、豈有二衆生可一レ度。㋥僧尼に許可の符牒を與へる。度緣(3)を見よ。〔唐書、蕭倣傳〕欲三請度レ僧以資二福事一。㉗現㋑くらす。生活する。世をわたる。㋺家出する。㋩角度の單位。直角の九十分の一。㋥寒暖計の目盛。又、濕度計の目盛。[二]❶はかる。㋑廣狹長短をしらべる。〔詩、大雅、皇矣〕度二其鮮原一。〔注〕度、謀也。〔儀禮、士喪禮〕度二茲幽宅兆基一。〔注〕度、謀也。〔禮、王制〕度レ地居レ民。〔注〕度、量也。〔素問、血氣形志論〕先度二其兩乳閒一。〔注〕度、謂二度量一也。㋺たづねる。とふ。〔爾雅、釋詁〕度、謀也。〔左氏、襄、四〕咨レ禮爲レ度。〔國語、魯語下〕咨レ義爲レ度。〔國語、晉語三〕謀度而行。〔注〕度、揆也。㋩おもふ。たくらむ。〔左氏、哀、十一〕圉豈敢度二其私一。〔注〕度、謀也。㋥かぞへる。〔禮、少儀〕不レ度二民械一。〔注〕度、計也。㋭くらべる。比較考量。〔戰國、齊策〕臣竊度レ之。〔注〕度、計也。〔漢書、爰盎傳〕自度孰二與陳平絳侯一。〔注〕師古曰、度、計量也。〔新書、道術〕以レ人自觀、謂二之度一。㋬おしはかる。〔詩、大雅、抑〕神之格思、不レ可レ度思。〔左氏、桓、十七〕備二其不虞一、〔注〕不レ度、不レ意也。㋣ただす。〔荀子、非相〕君子之度レ己則以レ繩。〔注〕度レ己、猶レ正レ己也。❷をる。つく。宅(4－9225)に通ず。〔說文通訓定聲〕度、叚借爲レ宅。〔方言、三〕度、凥也。〔小爾雅、廣言〕度、居也。〔廣雅、釋詁三〕度、就也。〔詩、大雅、皇矣〕爰究爰度。〔傳〕度、居也。〔左氏、文、十八〕不レ度二於善一。〔注〕度、居也。〔漢書、韋玄成傳〕今我度レ茲。〔注〕師古曰、度、亦居也。❸なげる。投(5－11887)に通ず。〔說文通訓定聲〕度、叚借爲レ投。投・度雙聲。〔詩、大雅、緜〕度レ之薨薨。〔箋〕度、猶レ投也。❹きる。剫(2－2090)に通ず。〔說文通訓定聲〕度、叚借爲レ剫。〔左氏、隱、十一〕山有レ木、則工度レ之。〔會箋〕爾雅釋器注、引二此傳一、度作レ剫。❺古は㡯(4－9225)に作る。〔集韻〕度、古作レ㡯。❻諡。〔逸周書、諡法解〕心能制レ義曰レ度。邦たし。たく。希求の助動詞。

名乘 ノリ。ナガ。ノブ。モロ。ミチ。

【度爲】1 タクヰ はかりつくる。〔漢書、郊祀志下〕於レ是作二建章宮一、度二爲千門萬戶一。

【度越】2 ドエツ 器量が人にこえる。たちこえる。まさる。〔漢書、揚雄傳贊〕若使下遭二遇時君一、更二閱賢知一、爲上所レ稱善、則必度二越諸子一矣。〔注〕師古曰、度、過也。〔楊脩、答二臨淄侯一牋〕今乃含レ王超レ陳、度二越數子一矣。〔韓愈、與二崔羣一書〕況足下度二越此等百千輩一。

【度緣】3 ドエン 佛古、僧尼得度出家の證として官から給はる許可の證狀。受戒の年月を注し、官僚の名を署し、省印を捺したもので、死去・歸俗の時は返納させる。座牒。〔元亨釋書、資治表〕弘仁四年二月、禮部省言、古例、僧尼出家之日、授二之度緣一、受戒之時、給二之公驗一、勝寶以來、受戒之日、毀二度緣一、停二公驗一、只授二十師戒牒一、今案、於レ事有レ疑、若不レ復二古制一、恐致二奸僞一、伏乞不レ毀二度緣一、只其度緣、自レ今以後、僧用二尙書省印一、尼用二有司印一、至二受戒時一、尙書省、於二度緣末一注二受戒年月一、幷二官僚一署レ名、以二省印一印レ之、若有二身亡、或反レ俗者一、其度緣戒牒、早上二尙書省一、省年終申レ官毀レ之、庶令二姦人屛レ跡源流共清一、制可。

【度航】4 トカウ 船に乘つて水を渡る。渡航。渡船。〔梁書、王茂傳〕衆號二一十萬一、度航請レ戰。〔陳後主、采蓮曲〕波文散二動檝一、茭花拂二度航一。

【度合】5 ドアヒ ほどあひ。程度。

【度紀】6 タクキ 壽命を延ばすこと。延年。〔後漢書、崔寔傳〕呼吸吐納、雖二度紀之道一、非二續骨之膏一。〔注〕度紀、猶二延年一也。

【度軌】7 ドキ のり。てほん。法度軌範。〔史記、秦始皇紀〕皆遵二度軌一、和安敦勉。

【度揆】8 ドキ ❶のり。法則。〔蔡襄、親祀二南郊一詩〕乾綱不レ息、章二明度揆一。❷タクキ はかる。計料。揆度(5－12326・・8)に同じ。

【度義】9 タクギ 道義の多少をはかりくらべる。〔書、泰誓上〕同レ力度レ德、同レ德度レ義。〔左氏、昭、二十四〕對曰、何害、同レ德度レ義。

【度儀】10 タクギ 儀法にてらしはかる。〔管子、宙合〕大揆二度儀一。〔纂詁〕揆、亦度也、揆二度儀法一。

【度擬】11 タクギ はかる。はかりなぞらへる。〔馬融、長笛賦〕撟揉斤械、剸剡度擬。〔注〕善曰、度擬、量度比擬也。

【度胸】12 ドキヨウ 物におそれない心。膽力。膽略。

【度曲】13 タクキヨク ❶歌曲を作ること。〔漢書、元帝紀贊〕(元帝)多二材藝一、善二史書一、鼓二琴瑟一、吹二洞簫一、自度レ曲被二歌聲一、分二刌節度一、窮二極幼眇一。〔注〕應劭曰、自隱度作二新曲一、因持二新曲一、以爲二歌詩聲一也、臣瓚曰、度曲、謂三歌終更授二其次一、謂二之度曲一、師古曰、度音、大各反。❷ドキヨク 曲の節度。歌を謠つて音樂に合すこと。〔張衡、西京賦〕度曲未レ終、雲起雪飛。〔注〕銑曰、曲度、謂二曲之節度一。

【度曲須知】14ドキョクシュチ 書名。二卷。明、沈寵綏撰。詞曲の唱法を敍したもの。〔曲苑〕。

【度矩】15ドク きそく。のり。〔魏文帝、五熟釜銘〕百寮師師、楷茲度矩。

【度科】16ドクワ 佛得度の試科。❶唐の中宗、景龍の初、天下に詔して經を試みて僧を度せしめたとき、山陰靈隱の僧童大義が、法華經を誦して、第一となつたことに始まる。〔佛祖統紀、五十一〕。❷我が國では初めて聖武天皇の天平六年に法華經・最勝王經の二經を以て度科と定めた。〔元亨釋書、資治表〕。

【度會】17ワタラヒ ❶伊勢國の地名。❷姓氏。〔日用重寶記〕。

【度外】18ドグワイ ❶計算のほか。數の内に入れぬこと。一説に、法度のほか。一律を以て論ぜぬこと。のけもの。別もの。〔後漢書、隗囂傳〕建武六年、關東悉平、帝積苦兵閒、以囂子内侍、公孫述遠據邊垂、乃謂諸將曰、且當置此兩子於度外耳。〔顏氏家訓、勉學〕周孔之業、棄之度外。〔任昉、齊竟陵文宣王行狀〕贈以古人之服、弘以度外之禮。〔書言故事、德量類〕不責人過、置之度外。❷ドハヅレ なみはづれ。

【度外視】19ドグワイシ ❶度外と見なす。のけものあつかひにする。❷心にかけぬ。相手にせぬ。とりあはぬ。

【度外之人】20ドグワイノヒト 局外の人。〔魏志、楊阜傳〕能用度外之人、所任各盡其力。

【度計】21タクケイ はかる。〔韓非子、八姦〕大臣廷吏、人主之所與度計也。

【度驗】22ドケン 日月星辰の度、吉凶の徵驗をいふ。〔史記、曆書〕蓋聞、昔者黃帝合而不死、名察度驗、定清濁、起五部、建氣物分數。〔注〕集解曰、題名宿度、候察進退、謂三辰之度、吉凶之驗也。

【度古】23ドコ 蟲の名。蚓に似て長さ二尺餘。土蟲。〔酉陽雜俎、廣動植、蟲篇〕度古似書帶、色類蚓、長二尺餘、首如鏟、背上有黑黃襴、常趁蚓、蚓不復動、乃上蚓掩之、良久蚓化、惟腹泥如涎、有毒、雞喫輒死、稍觸則斷、俗呼土蠱。

【度功】24タクコウ 成功をはかる。〔左氏、昭、二十〕弃死免父、孝也、度功而行、仁也。〔注〕仁者貴成功。

【度穀】25ドコク 草の名。黃環の異名。〔本草、黃環〕釋名、淩泉、大就、就葛、生芻、根韮、實名狼跋子、度穀。

【度朔】26ドサク 山名。神荼・鬱壘の二神が住み、山上の桃樹の下で百鬼を簡閱し、其の惡鬼を葦索で執へて虎に食はせたといふ。〔論衡、亂龍〕上古之人有神荼・鬱壘者、昆弟二人、性能執鬼、居東海度朔山上、立桃樹下、簡閱百鬼。〔獨斷〕海中有度朔之山、上有桃木、蟠屈三千里、卑枝、東北有鬼門、萬鬼所出入、神荼與鬱壘、居其門、閱領諸鬼、其惡害之鬼、執以葦索、食虎、故十二月歲竟、畫荼壘、幷懸葦索於門戸、以禦凶也。〔張衡、東京賦〕度朔作梗、守以鬱壘、神荼副焉。

【度索】27ドサク ❶山名。度朔に同じ。〔傅玄、桃賦〕望海島而慷慨兮、懷度索之靈山。〔雲笈七籤〕東海有度索山、或曰度朔山。❷神の名。河東に出づ。〔列異傳〕袁本初時、有神出河東、號度索君、立廟兗州、蘇氏母病往禱、見一人高冠似魚頭、謂度索君曰、昔廬山共食白李、未久、已三千年、去後度索君曰、此南海君也。

【度算】28タクサン はかりかぞへる。〔漢書、王莽傳下〕諸圖畫以望法度算。

【度子】29タクシ 明、史世揆(**2**−**3249**··232)の字。

【度之】30タクシ 明、蒲秉權(**9**−**31611**··199)の字。

【度支】31タクシ ❶官名。天下の租賦物產を調べ、國家の入費を查定して、收支の調整をはかることを掌るので度支といふ。魏、度支尚書を置き、歷代、皆あり、戸部と分置す。隋、始めて合して一とし、唐以後、之を戸部といひ、別に度支郎中を置いて戸部に屬せしめた。唐の中葉以後、戎事の費多く、宰相を以て度支使とした。宋、因つて度支使を置いて三司に屬せしめ、戸部は反つて虛設となつた。元・明は三司を設けず、事權は戸部に歸した。清末、戸部を改めて度支部とし、民國、又改めて財政部とす。〔隋書、百官志中〕度支、統度支・倉部・左戸・右戸・金部・庫部六曹。〔注〕度支、掌計會凡軍國損益・事役・糧廩等事。〔唐書、百官志一〕度支郎中、掌天下租賦物產豐約之宜、水陸道途之利、歲計所出、而支調之。〔韓愈、送水陸運使韓侍御歸治所序〕歲省度支錢千三百萬。〔通典、職官、戸部尚書〕周禮地官大司徒之職、掌建邦之土地之圖、與其人民之數、又太宰之屬有司會、以九貢之法致邦國之財用、以九賦之法令田野之財用、以九功之法令民職之財用、以九式之法均節邦之財用、掌國之官府、郊野縣都之百物財用、凡在書契版圖者之貳、以逆羣吏之治、而聽其會計、漢置尚書郎四人、其一人主財帛委輸、至魏文帝、置度支尚書寺、專掌軍國支計、吳有戸部、而晉有度支、皆主算計也、宋齊度支尚書、領度支金部倉部起部四曹、梁亦有之、後魏度支、亦掌支計、北齊度支、統度支倉部左戸右戸金部庫部六曹、後周置大司徒大夫二人、掌承司徒卿一人、如周禮之制、其教以籍帳之法、贊計人屬、有民部中民之衆寡、隋初有度支尚書、則幷後周民部之職、開皇三年、改度支爲民部、統度支民部金部倉部四曹、國家修隋志謂之戸部、蓋以廟諱故也、顯慶元年、改戸部爲度支、龍朔二年、改度支尚書爲司元太常伯、咸亨元年、復爲戸部尚書、初戸部居禮部之後、武太后改置天地四時之官、以戸部爲地官、由是遂居禮部前、神龍元年、復改地官爲戸部、總判戸部度支金部倉部事。〔公文緣起〕唐戸部尚書、下分四屬、一曰戸部、二曰度支、三曰倉部、四曰金部、是度支乃戸部之一屬耳、今總稱戸部爲度支誤矣。❷主計寮の唐名。〔職原抄〕主計寮、唐名、金部、又、度支。

【度支部】32タクシブ 清末、財政を掌る役所。もと戸部といふ。今の財政部。〔清史稿、職官志一〕戸部、光緒三十二年、更名度支部。〔清國行政法汎論、中央官廳、度支部〕廢戸部置度支部、又併財政處。

【度支表】33 tu^4 chih^1 piao^3 豫算案。

【度支部郎】34タクシブラウ 主計允の唐名。〔職原抄〕主計寮、允、唐名、度支部郎。

【度支郎中】35タクシラウチユウ ❶官名。戸部尚書に屬し、國家の會計を掌る。隋代に始まる。度支を見よ。〔通典、職官、戸部尚書〕度支郎中一人、漢初、張蒼善算、以列侯主計、居相府、領郡國上計者、謂之計相、殆今度支之任、魏尚書有度支、隋初爲度支侍郎、煬帝除侍字、武德加中字、龍朔二年、改度支爲司度、咸亨元年復舊、掌支使國用、至德以後、戎事費多、二年十二月、呂諲爲兵部侍郎平章事、充勾當度支使、上元元年五月、劉晏爲戸部侍郎勾當度支使、元年建子月、元載爲戸部侍郎勾當度支使、寶應元年正月、劉晏戸部侍郎勾當度支使、二年二月、韓滉以宰相加度支使、五年二月、竇叅爲中書侍郎平章事度支使、自後雖無、亦有他官判、或云權判、亦云專對。〔文獻通考、職官考、戸部尚書〕度支郎中、掌周知軍國財用、會其出入之數、凡上供有額、封椿有數、科買有期、皆掌之、有所漕運、則計程而給其直、凡内外支供、乃俸給・驛券・賞賜・衣物・錢帛、先期擬度時而予之。❷主計頭の唐名。〔職原抄〕主計寮、頭一人、唐名、金部郎中、又、度支郎中。

【度紙】36タクシ 書籍を拔き讀みすること。〔南史、梁元帝紀〕左右有睡讀失次第、或偸卷度紙、帝必驚覺。

【度日】37ドジツ 日を過ごす。生活する。〔晉書、沮渠蒙遜載記〕人無競勸之心、苟爲度日之律。

【度者】38ドシヤ 佛剃頭染衣して沙彌となつた人。得度者の略。〔類聚三代格、四〕寬平七年三月六日、太政官符、源朝臣能有宣、奉勅依請者、若度者多數、限内不授畢。

【度射】39タクシヤ 民國の軍用語。戰鬪中の兵が各個に射擊すること。

【度生】40ドシヤウ 佛一切衆生を濟度すること。度衆生心(95)を見よ。〔法華經、方便品〕終不以小乘濟度衆生。

【度尚】41ドシヤウ 後漢、湖陸の人。字は博平。討賊の功あり、右鄉侯に封ぜらる。官は遼東太守。〔後漢書、六十八〕。

【度尺】42ドシヤク 古の長さの單位の一つ。黍、百を橫にならべた長さ。律尺に對していふ。

【度主】43ドシユ 星命家の語。七曜と二十八宿の度數とを相配していふ。角斗奎井の度は木、亢牛

婁鬼の度は金、氐女胃婁の度は土、房虛昴星の度は日、必危畢張の度は月、尾室觜翼の度は火、箕壁參軫の度は水の類。〔張果星宗、宮度主論〕宮之所屬是宮主也、宿之所屬卽度主也、凡安命處有宮命之主、有命度之主、名雖有二、其論則一、如宮強而度弱者不美、或度高而宮衰者不善、必須要宮度二主皆強、斯爲盡美而盡善矣。

【度出】44ドシュツ だしおく。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕度出格眼櫃蓋之顚。

【度詢】45タクジュン はかりとふ。〔國語、魯語下〕每懷靡及、諏謀度詢、必咨於周、敢不拜教、臣聞之、曰、懷和爲每懷、咨才爲諏、咨事爲謀、咨義爲度、咨親爲詢、忠信爲周。

【度如】46ドジョ 清、張紹齡(**4**－**9812**・・1262)の字。

【度恕】47タクジョ 人の心をはかり思ひやる。〔管子、版法解〕取人以己者、度恕而行也、度恕者度之於己也。

【度臣】48ドシン 清、蔣進(**9**－**31820**・・64)の字。

【度水】49タクスイ 川の名。一名、舊州河、又、鐸水ともいふ。陝西省沔縣の東。漢水に注ぐ。〔水經、沔水注〕度水、南逕陽平縣故城東、又南逕沔陽縣故城東、西南流注于漢水。

【度數】50ドスウ ㊀めもりのかず。溫度・角度等のきざみめのかず。又、轉じて、たびかず。回數。〔周禮、天官、小宰之職、以官府之六屬擧邦治、注〕六官之屬、三百六十、象天地四時日月星辰之度數、天道備焉。〔鬼谷子、捭闔〕皆見其權衡輕重、乃爲之度數、聖人因而爲之慮。〔淮南子、氾論訓〕爲是釋度數。〔後漢書、耿弇傳〕時之度數、不足以相容乎。㊁定まった制度。法度術數。〔周禮、春官、墓大夫〕正其位、掌其度數。〔注〕度數、爵等之大小。〔莊子、天道〕禮法・度數・刑名・比詳、治之末也。〔疏〕數者計算、度、丈尺。〔商子、錯法〕法無度數、而事日煩。〔韓非子、難、一〕管仲非明此度數於桓公也。〔漢書、禮樂志〕稽之度數、制之禮義。

〘度數學〙51ドスウガク 幾何學をいふ。〔算法光圓豁通〕雖富詞章記誦、而其理高遠、有不可解者、所謂度數學是也、蓋度數學者、修行點線面體之理數、成就神力靈識之精妙、以達格物窮理、貫通三才、乃所起原於此術之諸學最多、總稱之謂洋證學。

【度世】52ドセイ ㊀世俗を超脫する。仙人となること。〔楚辭、遠遊〕欲度世以忘歸兮。〔補注〕度世、謂僊去也。〔抱朴子、微旨〕知玄素之術者、則曰唯房中之術可以度世矣。㊁南朝宋、杜驥(**6**－**14477**・・63)の字。㊂佛セド ㋑世間を超脫すること。度は渡。又、生死の苦海を渡って涅槃(さとり)の境界にいたること。〔無量壽經、上〕超過世間諸所有法、心常諦住度世之道。㋺世間の人を濟度すること。〔維摩經、佛國品〕能度諸世間。〔雞跖集〕有道士謂顏眞卿曰、子骨可度世、宜沈名宦海。

〘度世法〙53ドセホフ 佛人を救濟する法。〔釋氏通鑑〕釋智曠、初値道流、授以神仙符籙、曠謂非道、求度世法。

【度正】54ドセイ 宋、合州の人。字は周卿。號は夷白齋。朱熹の弟子。紹熙の進士。官は禮部侍郎。書室を性善堂といふ。著に周子年譜・夷白齋詩話・性善堂稿がある。〔宋史、四百二十二〕・〔宋元學案、六十九〕。

【度西】55ドセイ 清、張九鉞(**4**－**9812**・・912)の字。

【度制】56ドセイ ㊀きまり。政令法典。〔史記、孟子荀卿傳〕因載其禨祥度制、推而遠之、至天地未生、窈冥不可考而原也。㊁かぎり。制限。限度。〔漢書、董仲舒傳〕天令之謂命、命非聖人不行、質樸之謂性、性非教化不成、人欲之謂情、情非度制不節。

【度勢】57タクセイ 勢をはかる。〔班固、東都賦〕婁敬度勢、而獻其說。

【度宗】58タクソウ 宋、第十五代の帝。趙禥(**10**－**37171**・・94)を見よ。

【度僧】59ドソウ 佛僧の證として度牒を與へること。又、人を度して僧とすること。度牒(67)を見よ。〔王筠、與雲僧正書〕鑄像度僧、仰遵法教、建齋設會、務依經典。〔舊唐書、王縉傳〕其額曰、寶應度僧三十人住持。〔韓愈、論佛骨表〕卽位之初、卽不許度人爲僧尼道士。〔宋史、太祖紀三〕限度僧法、諸州僧帳、及百人、歲許度一人。

〘度僧牒〙60ドソウチフ 佛度牒(67)に同じ。

【度脫】61ドダツ 佛生死の苦を超越して煩惱を解脫すること。〔法華經、序品〕諸仙之導師、度脫無量衆。〔南史、闍婆達國傳〕國王奉表曰、轉尊法輪、度脫衆生、我雖在遠、亦霑靈潤。〔白居易、自覺二首〕斗藪垢穢衣、度脫生死輪。

【度地】62タクチ ㊀土地を測量する。〔禮、王制〕凡居民量地以制邑、度地居民。㊁管子の篇名。

【度蟲】63タクチュウ 尺蠖の異名。〔事物異名錄、昆蟲、尺蠖〕演繁露、尺蠖、俗呼度蟲、度者蠖、音之訛也。

【度弟】64ドテイ 佛師の度した弟子。〔空華日工集、永德三年癸亥〕因用舊韻山字作詩、留付慧拱童子、卽絕海度弟也。

【度程】65ドテイ 法度をいふ。〔白居易、除裴武太府卿制〕按其度程、謹其出納。

【度鳥】66トテウ 渡り鳥。〔李白、代別情人詩〕天涯有度鳥、莫絕瑤華音。

【度牒】67ドテフ 佛得度して新に僧尼・道士となった者に官から下す許可證。死亡や還俗の時には返還する。祠部牒。度緣(3)に同じ。〔唐書、食貨志〕肅宗至鳳翔、以用度不充、始給空名度牒。〔事物紀原、道釋科教部、度牒〕僧史略曰、度牒自南北朝有之、見高僧傳、名籍限局、必有憑由、憑由卽今祠部牒也、唐會要曰、天寶六年五月制、僧尼令祠部給牒、則僧尼之給牒、自唐明皇始也。

【度田】68タクデン 田をはかる。田地を測量する。〔後漢書、光武紀下〕坐度田不實、皆下獄死。

【度德】69タクトク 德の多少をはかりくらべる。〔書、泰誓上〕同力度德、同德度義。〔左氏、隱、十一〕度德以處之、量力而行之。〔風俗通、皇霸、五霸〕襄公不度德量力。

【度內】70タクナイ むねのうちをはかる。〔嵇康、與山巨源絕交書〕四民有業、各以得志爲樂、唯達者爲能通之、此足下度內耳。〔注〕翰曰、言、人各有所樂、唯達者可知、故云度內耳。

【度尼】71ドニ 得度した尼。得度を得た尼。〔類聚國史、一百八十七〕延曆十年三月壬辰、賜正四位下藏原朝臣產子度尼十一人。

【度法】72ドハフ ㊀法にのっとる。〔管子、山權數〕今度法者、量人力而擧功。〔國語、魯語下〕今詩以合室、歌以詠之、度於法矣。㊁目盛りの法。〔唐書、曆志三上〕韓翊以乾象朔分太弱、乃先考朔分、而後覆求度法。㊂tu^{4} fa^{3} 尺度法。

【度步】73タクホ 實地をふんで測量すること。蹈測。

【度萬】74ドマン 鶡冠子の篇名。

【度厄】75ドヤク 災厄から逃れる。〔玉燭寶典〕元日至晦日、爲酺食度水、士女悉湔裳、酹酒漿於水、謂之度厄。〔神仙傳〕人生各有厄、會到其時、若易名字以隨元氣之變、則可以延年度厄。

【度與】76ドヨ さづけあたへる。〔元好問、論詩詩〕莫把金針度與人。

【度容】77ドヨウ 北周、王雅(**7**－**20823**・・113)の字。

【度量】78ドリヤウ ㊀ものさしとます。長さと容積。〔周禮、夏官、合方氏〕同其器數、壹其度量。〔禮、月令〕日夜分、則同度量、鈞衡石、角斗甬、正權概。〔左氏、昭、十七〕五雉爲五工正、利器用、正度量、夷民者也。〔荀子、榮辱〕脩法則度量刑辟圖籍。〔管子、權修〕審度量以閑之。〔淮南子、齊俗訓〕度量不失於適。〔史記、蔡澤傳〕平權衡、正度量。㊁心が寬大で、能く物事を容れる品性。人の器局。はらがまへ。〔荀悅、漢治迹論〕高祖開建大業、統一元功、度量規矩、不可尙也。〔魏志、衞臻傳〕古人遺智慧而任度量。〔韓愈、寄盧仝詩〕先生固是余所畏、度量不敢窺涯涘。㊂タクリヤウ 物をはかる。適度を考へる。〔國語、楚語上〕明度量以道之義。〔注〕義、宜也、言度量所宜也。〔漢書、鼂錯傳〕愚臣不自度量。

〘度量衡〙79ドリヤウカウ 長さと容積と重さ。度はものさし、量はます、衡ははかり。〔書、舜典〕同律度量衡。〔疏〕其國之法制度、度之丈尺、量之斛斗、衡之斤兩、皆使齊同。

〘參考〙 中國の度量衡を我が國の制度に比較した書。【泣血餘滴】二卷 林鵝峰撰。【律尺考驗】一卷 中村惕齋撰。〔日本經濟大典、第四冊〕。【三器攷略】一卷 中村惕齋撰。〔日本經濟大典、第四

冊〕。【律原發揮】（一巻）中根白山撰。〔日本經濟大典、第四冊〕。【度量衡考】（二巻）荻生徂徠撰。〔日本經濟大典、第九冊〕。【制度通】（十三巻）伊藤東涯撰。〔日本經濟大典、第十冊〕。【三器逢原考】正本瀬平撰。【度量小識】田村西湖撰。【金石遺文】（一巻）藤原貞幹撰。【好古日錄】（二巻）藤原貞幹撰。【度量衡說統】（六巻）最上德內撰。〔日本經濟大典、第十二冊〕。【律量全篇】（六巻）諸葛蠡撰。【稽古雜編】仁井田好古撰。【田制考】横山由清撰。〔日本經濟大典、四十六冊〕。【本朝度量權衡考】（三巻・附錄三巻）狩谷棭齋撰。〔日本經濟大典、第四十二冊〕。【漢和度量貨幣比較表】中山久四郎撰。

【度料】80 タクレウ はかる。〔大戴禮、文王官人〕決レ之以レ卒而度料。

【度遼】81 ドレウ 漢の將軍の名號。遼水を渡る意。漢の昭帝、度遼將軍を置き、范朋友を之に任じ、遼東烏桓を擊たしめ、後漢、亦置き、五原に屯して匈奴を防がしめた。〔漢書、匈奴傳上〕於レ是拜二朋友一爲二度遼將軍一、將二二萬騎一出二遼東一。

【度汪】82 ドワウ 清、沈涵(**6－17189**・・85)の字。

【度籙】83 ドロク 天神の策令。〔宣和遺事、前集上〕必須二度籙一、莫レ不レ如レ願。

【失レ度】84 ドヲウシナフ 狼狽して平素の調子を失ふ。〔戰國、燕策〕卒起二不意一、盡失二其度一。

【妨レ度】85 ドヲサマタグ 器量を下げる。〔桃花扇、罵筵〕只怕三妨二了俺宰相之度一。

【度邑解】86 ドイフカイ 逸周書の篇名。

【度斤突】87 ドキントツ 北周、宇文達(**3－7067**・・66)の字。

【度關山】88 ドクワンザン 樂府の相和曲の名。〔樂府古題要解〕魏樂、奏二武帝所レ賦、言、人君當二自勤勞、省レ方黜陟、省レ刑薄レ賦也、若三梁戴暠云二昔聽隴頭吟、平居已流涕一、但敍二征人行役之思一焉。

【度訓解】89 ドクンカイ 逸周書の篇名。

【度在レ身】90 ハカルハミニアリ 我が身を尺度とする。〔列子、說符〕度在レ身、稽在レ人。

【度周川】91 タクシウセン 地名。青海省の東南境。〔資治通鑑、晉紀〕(安帝、隆安二年)西秦乞伏益州與二吐谷渾王視羆一戰二於度周川一。

【度無極】92 ドムゴク 佛 波羅蜜多(pāramitā)の音譯。舊に度無極と譯し、新に到彼岸と譯す。度は彼岸に到ること、無極は行法の際限ないこと。〔玄應音義、三〕度無極、或言二到彼岸一、皆一義也、梵言二波羅蜜多一是也。

【度厄錢】93 ドヤクセン 藥草の名。連翹の異名。〔事物異名錄、藥材、草類〕清異錄、侯寧極藥譜、度厄錢、連翹也。

【度柳翠】94 ドリウスイ 元代の戲曲の名。月明和尙度柳翠の略。元曲選に無名氏の作とあるが、錄鬼簿には李壽卿の作といふ。月明和尙が杭州の名妓柳翠を度脫せんとし、風僧を粧つて其の家に至り、戲言を以て之に說法し、後、又途上に要して說伏し、遂に己に從つて出家させ、後、一旦大悟して坐化したことを演じたもの。

【度衆生心】95 ドシユジヤウシン 佛 衆生を濟度しようとする菩薩の大悲心。〔往生論、注下〕按二王舍城所說無量壽經一、三輩章中雖三行有二優劣一、莫レ不三皆發二無上菩提之心一、此無上菩提心、是願作佛心、願作佛心、卽是度衆生心、度衆生心、卽攝二取衆生一、生二有佛國土一心。

【度能菴主】96 ドノウアンシユ 清、許希沖(**10－35298**・・253)の號。

【度不レ可レ改】97 ドハアラタムベカラズ 法度は改めてはならない。〔左氏、昭、四〕民不レ可レ逞、度不レ可レ改。

【⿸广自】9314

㊀ゲン 〔集韻〕魚檢切 琰

㊁タイ ツイ 〔集韻〕都回切 灰

㊀**けはしい**。〔集韻〕⿸广自、峻也。㊁**かたむく**。⿸广隹(**4－9351**)に同じ。〔集韻〕⿸广隹、說文、屋從レ上傾レ下也、或作レ⿸广自。

【⿸广危】9315

キ ⿱宀危(**3－7131**)に同じ。〔集韻〕⿱宀危、或作レ⿸广危。

【⿸广幼】9316

エウ 幼(**4－9193**)に同じ。〔字彙補〕⿸广幼、與レ幼同、武則天製。

【⿸广有】9317

イウ 義未詳。〔篇海類編〕⿸广有、音又。

【⿸广皮】9318

カイ 義未詳。〔字彙補〕⿸广皮、呼艾切、音餀。

七畫

【座】9319

サ ザ 〔集韻〕徂臥切 箇 ㄗㄨㄛˋ tsuo^4

❶**すわるばしよ**。座席。〔字彙〕座、坐位也。〔史記、日者傳〕掃除設レ座。〔傅毅、舞賦〕因二茵席一而設レ座。❷**しきもの**。しとね。〔玉篇〕座、牀座也。〔集韻〕座、坐具。〔仇遠、送三唔侍者遊二茅山一詩〕蕙帳手凝蒲座暖。〔賀裳、蠟梅賦〕增二綺窓之窈窕一、助二瓊座之芬敷一。❸**くらゐ**。地位。〔常袞、路嗣恭洪州觀察使制〕早貳二六官之秩一、再分二五曹之座一。❹**星のやどり**。〔後漢書、逸民、嚴光傳〕客星犯二御座一甚急。❺**器具をすゑるだい**。〔元史、忙兀台傳〕至二沙洋堡一、立二砲座十有二一。❻**ざしき**。〔陸機、桑賦序〕皇太子便座、蓋本二將軍直廬一也。❼**つどひ**。あつまり。〔晉書、隱逸、陶潛傳〕共至二酒坐一。〔韓翃、送二萬巨一詩〕紅牋色奪風流座、白苧歌傾翰墨場。❽通じて坐(**3－4931**)に作る。〔韻會〕座、通作レ坐。〔正字通〕座、古作レ坐、俗作レ座。❾現山・林・礦山・寺等を數へるに添へる語。一座山・一座廟・一座煤窰・一座樹林子の類。邦❶**くら**。くらゐの略稱。❷**ざ**。㋑平安末から鎌倉・室町時代にかけて、朝廷・貴族・社寺などの保護の下に、商品の製造・販賣上の獨占權を與へられた商工業者の組合。ギルド。㋺江戶時代、貨幣を鑄造した所。金座・銀座など。㋩江戶時代、特別に免許されて、枡・秤・朱などを造り出した家。枡座・秤座・朱座など。㋥田樂や能樂などの演者たちの組織。また、芝居を演ずる所の稱。❸數を數へる接尾語。㋑祭神の數を數へる語。㋺佛の坐像を數へる語。㋩里神樂の曲を數へる語。㋥劇場を數へる語。

名乘 クラ。ヲキ。

【座位】1 tsuo^4 wei 座席。席。坐位(**3－4931**・・2)に同じ。

【座右】2 ザイウ てもと。かたはら。みぎわき。坐右。〔宋史、呂大防傳〕取二仁宗邇英御書一、解釋上レ之、寘二於座右一。〔宋史、藝文志〕句穎座右書一卷。

【座右銘】3 ザイウノメイ 座の右に置いて常に身の戒とする金言。漢の崔瑗、始めて之を作り、唐の白居易・宋の李荼等、續座右銘を作る。又、座左銘ともいふ。左右は側の義で、身に近い所をいふ。〔崔瑗、座右銘〕無レ道二人之短一、無レ說二己之長一、施レ人愼勿レ念、受レ施愼勿レ忘、世譽不レ足レ慕、唯仁爲二紀綱一、隱レ心而後動、謗議庸何傷、無レ使二名過一レ實、守レ愚聖所レ臧、在レ涅貴レ不レ緇、曖曖內含レ光、柔弱生之徒、老氏誡二剛彊一、行行鄙夫志、悠悠故難レ量、愼レ言節二飲食一、知レ足勝二不祥一、行レ之苟有レ恆、久久自芬芳。〔注〕濟曰、兄璋爲二人所レ殺、瑗遂手二刃其仇一亡命、蒙レ赦而出、作二此銘一以自戒、常置二座右一、故曰二座右銘一也。〔白居易、續座右銘幷序〕崔子玉座右銘、余竊慕レ之、雖レ未レ能二盡行一、常書二屋壁一、然其間似レ有二未レ盡者一、因續爲二座右銘一云、勿レ慕二貴與一レ富、勿レ憂二賤與一レ貧、自問道何如、貴賤安足レ云、聞レ毀勿二戚戚一、聞レ譽勿二欣欣一、自顧行何如、毀譽安足レ論、無二以レ意傲一レ物、以遠二辱於人一、無二以レ色求一レ事、以自重二其身一、游與レ邪分レ岐、居與レ正爲レ鄰、於レ中有二取捨一、此外無二疎親一、修レ外以及レ內、靜養二

和與レ眞、養レ內不レ遺レ外、動率ニ義與レ仁、千里始ニ足下一、高山起ニ微塵一、吾道亦如レ此、行レ之貴ニ日新一、不ニ敢規ニ他人一、聊自書ニ諸紳一、終レ身且自勗、身歿貽ニ後昆一、後昆苟反レ是、非ニ我之子孫一。〔宋史、眞宗紀〕作ニ宗室座右銘一。

【座員】4 ザキン　芝居などの興行連中。

【座下】5 ザカ　❶座の下。❷書簡文の脇付。

【座客】6 ザカク　同席の人。居あはせた客。坐客(3－4931··17)に同じ。〔岑參、酒泉太守席上醉後作〕胡笳一曲斷ニ人腸一、座客相看涙如レ雨。

【座旗】7 ザキ　星の名。〔晉書、天文志上〕司怪西北九星曰ニ坐旗一、君臣設位之表也。

【座興】8 ザキョウ　其の場のなぐさみ。一時の慰。座上の興。

【座隅】9 ザグウ　座のすみ。〔小學、嘉言〕書レ此當ニ座隅一。〔明徵錄〕板倉重矩家、有ニ累世所レ傳寶弓一、常置ニ之座隅一。

【座元】10 ザモト　❶相撲・芝居などの興行主。❷佛 ザゲン　首座・第一座をいふ。禪林僧堂內における座位が元首であるからいふ。

【座骨】11 ザコツ　坐骨(3－4931··55)に同じ。

【座左】12 ザサ　ひだりわき。座の左。〔吳質、答ニ東阿王一書〕靈鼓動ニ於座左一、耳嘈嘈於無レ聞。

〔座左銘〕13 ザサノメイ　座の左に置いて常に身の戒とする金言。座右銘(3)に同じ。〔童子問〕座左奈何、文選、吳質答ニ東阿王一書云、塤篪激ニ於華屋一、靈鼓動ニ於座左一、按、兼明親王作ニ座左銘一、采ニ此字一也、其序曰、東漢崔子玉作ニ座右銘一、大唐白樂天述ニ其不レ盡者一、作ニ續座右銘一、本朝愚叟元謙光拾ニ其遺一云ニ座左銘一、按、元謙光者轉換、源兼明名也、猶ト文公換ニ朱熹一稱中鄒訢上、見レ注、參同契又吳興藝文補有ニ宋宗伯仁書座右座左五言律一、然左兼明之後、則宋座左銘是權輿耶。

【座差】14 tsuo⁴ ch'ai¹　地方の役所から派遣され、一地方に止まつて租稅の徵收を掌る役人。

【座像】15 ザザウ　坐して居る偶像。〔冥報記、中〕以ニ三千錢一爲畫ニ一座像於寺西壁一。

【座師】16 ザシ　科擧の試驗官をいふ。座主(21)の❶を見よ。〔稱謂錄、受知師、座師〕顧亭林日知錄云、宋末已有ニ先生之稱一、而至ニ於有明一、則遂公然謂ニ之座師一、據レ是則唐稱ニ座主一、宋稱ニ先生一、而稱曰ニ座師一、曰ニ老師一、則皆始ニ於明一也。〔清國行政法汎論、官吏分限、回避、備考〕其及第者則感ニ考官拔擢之恩一深矣、故尊ニ崇之一、呼爲ニ座師一、考官亦指ニ其及第者一、稱曰ニ門生一。

【座次】17 ザジ　座席の順序。席順。座位。又、すわりばしよ。〔李商隱雜纂、不嫌〕行久得ニ座次一。

【座上】18 ザジャウ　ざしきの中。席上。坐上(3－4931··89)に同じ。

〔座上論〕19 ザジャウノロン　實際に役立たない空論。座上の空論。

〔座上有ニ江南一〕20 ザジャウカウナンアラン　座中に江南の客も居やうから南方を思ひ出させるやうな言はつつしめといふ意。轉じて、言語のつつしむべきをいふ。座中有ニ江南客一(34)を見よ。〔故事成語考、人事〕座上有ニ江南一、語言須レ謹。

【座主】21 ザシュ　❶唐以後、科擧の試驗の合格者が其の試驗官を呼んだ敬稱。合格者自らは門生と稱した。〔舊唐書、令狐峘傳〕衢州刺史田敦、峘知レ擧時進士門生也、初峘當ニ貢部放榜日一貶逐、與レ敦不ニ相面一、敦聞ニ峘來一、喜曰、始見ニ座主一、迎謁之禮甚厚。〔因話錄〕及第人就ニ中書一見ニ座主一。〔通俗編、仕進、座主〕李肇國史補、進士稱ニ有司一曰ニ座主一。〔揮麈前錄〕殿試蓋天子自爲ニ座主一。〔觚不觚錄〕嘉靖以前、門生稱ニ座主一不レ過レ曰ニ先生一而已、至ニ分宜當レ國、始稱ニ老翁一、其厚者稱ニ夫子一、此後俱相承曰ニ老師一。〔書言故事、科第類〕稱ニ所レ見レ取之試官一曰ニ座主一。〔日知錄、科擧、座主門生〕貢擧之士、以ニ有司一爲ニ座主一、而自稱ニ門生一、自ニ中唐一以後、遂有ニ朋黨禍一。❷佛 ザス　㋑大衆一座の主。學德ともに勝れ大衆一座の主として一山を統理するもの。禪家では住持といひ、教家では座主といふ。又、禪家から一般に教家をさして座主といふ。〔釋氏要覽、上、稱謂、座主〕摭言曰、有司謂ニ之座主一、今釋氏取ニ學解優贍穎拔者一名ニ座主一、謂ニ一座之主一、古高僧呼ニ講者一爲ニ高座一、或是高座之主。㋺比叡山延曆寺の貫主の稱。坐主。

【座人】22 ザジン　其の坐席に居る人。〔韓愈、柳子厚墓誌銘〕踔厲風發、率常屈ニ其座人一。

【座星】23 ザボシ　兜の鉢などに打つ鋲。

【座席】24 ザセキ　坐る場所。坐席。〔雲笈七籤〕當レ憶ニ此宮有ニ座席一。〔注〕此宮、謂ニ肺宮一也、座席、神之所レ安。

【座前】25 ザゼン　御許。書簡文で、宛名の下に附書して、尊敬の意を表す語。〔資暇錄〕身卑致ニ書於家屬近戚一、必曰ニ座前一、降ニ几前一等一、座者座ニ於牀一也、言、卑末之使、不レ當ニ授受一、置ニ其書於所レ座牀之前一、俟レ隙而發、不ニ敢直進一之意。

【座禪】26 ザゼン　佛坐禪(3－4931··117)に同じ。

【座側】27 ザソク　座のかたはら。〔孔子家語、三恕〕常置ニ之於座側一。

【座談】28 ザダン　對坐してするはなし。座上の談話。坐談(3－4931··131)に同じ。

〔座談會〕29 ザダンクワイ　數人が寄り集まつて、或る事柄について話しあふ會合。

【座長】30 ザチャウ　❶集會などの席上で、推されて其の席を總領する者。❷芝居で一座のかしらをいふ。

【座中】31 ザチュウ　❶其のざしきのなか。其の席にゐる人々のうち。〔盧僎、上幸ニ皇太子新院一應制詩〕吹レ笙玉座中。〔曾鞏、虞美人草詩〕三軍散盡旌旗倒、玉帳佳人座中老。❷演藝人の仲間。

〔座中銘〕32 ザチュウメイ　座席の中に置いて戒めとする銘文。〔周必大、跋ニ盛子謙座中銘一文〕盛公手書座中銘、總ニ二百二十字、皆盛德事也。

〔座中取締役〕33 ザチュウトリシマリヤク　江戶時代、一定の儀式の座中に於ける禮儀・作法等を、故實に照合して取締る職。〔評定代官盲人幷諸取計等之類〕藤植檢校・塙檢校、右座中取締役可ニ相勤一旨、可レ被ニ申渡一候。

〔座中有ニ江南客一〕34 ザチュウカウナンノキャクアリ　一座の中に江南の客が居るから、江南のことは避けていはない方がよい。言を謹むべき喩。〔鄭谷、席上貽ニ歌者一詩〕座中亦有ニ江南客一、莫ト向ニ春風一唱中鷓鴣上。〔異物記〕鷓鴣、其志懷レ南、不レ思ニ北徂一、南人聞レ之、則思ニ家故一。

【座頭】35 ザトウ　❶古昔、琵琶法師の官名。〔當道要集〕檢校・別當・勾當・座頭の四官を十六階に分かち。❷盲人で按摩鍼治などを業とし、又、琵琶を平家などにあはせて彈くもの。〔狂言、どぶかつちり〕今日は都に座頭の寄合ひ御座る程に。❸ザガシラ　舞臺に出でて技を演ずる俳優の首領。〔劇場新話、下〕座頭は至つて重く取り扱ふ事にして樂屋一式總役者の支配役故、藝道の功を積みて、自然と此の役に至る也。

〔座頭鯨〕36 ザトウクヂラ　鯨の一種。眼の甚だ細いもの。紀伊・土佐・肥前等の海に產する。

〔座頭行儀〕37 ザトウギャウギ　人の家に招待されて、料理や菓子を包んで持ち歸ること。

〔座頭根性〕38 ザトウコンジャウ　猜疑心の深いこと。

〔座頭石塔〕39 ザトウシャクタフ　江戶時代、雨夜皇子（あまよのみこ）の追善のために、その忌日の二月十六日に、京都高倉通りの清聚庵で行つた法會。石塔會。〔國花萬葉記、一〕

【座內】40 ザナイ　座中。一座の內。座敷の內。〔李商隱、李肱畫松詩〕是時方暑夏、座內若ニ嚴冬一。

【座附】41 ザツキ　❶藝妓が宴席で、最初に奏する祝儀の一曲。❷會席の始にいふ口上。❸能役者俳優等の某座・某劇場に專屬すること。

【座敷】42 ザシキ　❶客に應對する閒。客閒。❷家人の居閒。

〔座敷鞠〕43 ザシキマリ　座敷で行ふ蹴鞠の一種。〔梵舜日記〕天氣依レ雨座敷鞠也。

〔座敷牢〕44 ザシキラウ　特別にしきつた座敷に設けて、發狂人などを入れおくところ。

【座辨】45 ザベン　評議員の類。〔清國行政法汎論、文官任命形式、題調、備考〕會辨下有ニ座辨一、一稱ニ提調一、猶ニ我言ニ評議員一。

【座奉】46 マセマツル　置きてたまつる。まさせまつるの略。

【座末】47 ザマツ　末席。しもざ。〔鄭谷、賀ニ左省新除ニ韋拾遺一詩〕垂白郎官居ニ座末一、著緋人吏立ニ階前一。

【座落】48 tsuo⁴ luo⁴　位置。所在。ありか。結末。坐落。

【座糧】49 ザリャウ　座糧廳の略。

〔座糧廳〕50 ザリャウチャウ　清代、戶部倉場衙門特設の官。通州に駐在して漕糧を驗收し、其の他、運漕・出納・浚渫のことを掌る。坐糧廳(3－4931··198)を見よ。

【座料】51 ザレウ　席料。

【座論】52 ザロン　❶座上で論じ合ふこと。坐論(3－

4931・・201)に同じ。㊁梅の一種。座論梅を見よ。

【座論梅】53 ザロンウメ　梅の一種。品字梅。薔薇科、櫻屬の落葉喬木。雌蘂が二つ乃至八つあり、一花に八箇の實を結ぶ。生長するに從つて次第に落ち、成熟するのは二三箇に過ぎない。ざろんうめ。やつぶさうめ。

【座話】54 ザワ　座談(28)に同じ。

【傾㆑座】55 ザヲカタムク　座中の人々全部の心を動かす。〔杜甫、李監宅詩〕一見能傾㆑座、虛懷只愛㆑才。

【座振舞】56 ザブルマヒ　其の座席でのもてなし。〔若風俗、五〕總役者を東山にしてざぶるまひの後。

【座蒲團】57 ザブトン　㊀すわりぶとん。しとね。㊁燒豆腐の隱語。

【座佛瘡】58 ザフツサウ　腫物の一種。あせもの類。痤疿(7－22221・・8)を見よ。

【座無㆓車公㆒】59 ザニシヤコウナシ　人物のない喩。坐無㆓車公㆒(8－4931・・233)を見よ。

【座光寺南屛】60 ザククワウジナンペイ　甲斐の人。名は爲祥。字は履吉。通稱は利吉郎。號は南屛。歿年は未詳。著に醫資、附、醫譚・醫謅、附、毒考・音律考・學謅・學庸正名・鬼神臆・君子泰・孔子正學略抄・古文孝經考・左傳辨誤考・周易管見・志學必讀・詩文尙古・十二支名義考・尙書說・稱呼考・訟譚・若古編・荀子非孟辨・神代釋文・數目名義・精義則・正名錄・聖道大義・正始嵒・禪繼論・箏箴・大海一燈・大家文論・道德奧藏・桐花林・南屛經義・入神論・二南正名・人相十二宮抄・博辨・百問書・武備必勝・佛經訓讀義・民義・名辨・龍園攝談・龍園莞葦・龍宮臆・論語鑑・論語辨・論衡問孔辨・和書小言・和歌感動集・和歌古談・和歌詞謅などがある。〔近代著述目錄、後篇〕

【⿸广夾】9320　カフ ケフ　〔玉篇〕古洽切　洽

かべ。〔玉篇〕⿸广夾、廦也。

【庨】9321　カウ ケウ　〔集韻〕虛交切　肴

㊀**深く空しいさま。ふかい。**〔馬融、長笛賦〕庨窌巧老。〔注〕善曰、庨窌巧老、深空之貌。㊁**宮室の高く深いさま。たかい。**〔集韻〕庨、庨豁、宮室高皃。〔集韻〕庨、宮室高邃貌。〔柳宗元、遊㆓朝陽巖㆒遂登㆓西亭㆒二十韻詩〕西亭構㆓其巓㆒、反宇臨㆓呀庨㆒。

【庨豁】1 カウクワツ　高く峻しいさま。〔玉篇〕庨、庨豁、宮殿形狀。〔張衡、西京賦〕枍詣承光、睽罛庨豁。〔注〕銑曰、餘皆高峻深邃貌。

【⿸广呂】9322　リヨ ロ　〔集韻〕兩擧切　語

㊀**おほい。**〔字彙〕⿸广呂、衆也。㊁**人名。**〔集韻〕⿸广呂、闕、人名、晉有㆓大夫⿸广呂㆒。

【⿸广困】9323　コン　〔集韻〕苦悶切　慁

くら。こめぐら。〔玉篇〕⿸广困、倉也。〔集韻〕⿸广困、廩也。

【⿸广良】9324　ラウ　〔集韻〕盧當切　陽

㊀**高い。**〔玉篇〕⿸广良、高也。㊁**うつは。**〔類篇〕⿸广良、器也。

【庩】9325　ト ヅ　〔集韻〕同都切　虞

㊀**いほり。**家。〔玉篇〕庩、⿸广束也。㊁庯庩は家屋がかしぐ。〔集韻〕庩、庯庩、屋不㆑平。

【⿸广壯】9326　サウ　〔玉篇〕作郎切　陽

さかんに立つさま。〔玉篇〕⿸广壯、壯立皃。

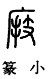
【⿸广求】9327　キウ グ　〔集韻〕渠尤切　尤

ゆがんだ家。〔玉篇〕⿸广求、偏廈。

【⿸广豆】9328　トウ ヅ　〔玉篇〕徒候切　宥

㊀**器物の名。**〔篇韻〕⿸广豆、器名。㊁**祭る所。**〔篇海〕⿸广豆、祭所也。㊂**くりや。**〔篇韻〕⿸广豆、廚庖也。

【庪】9329　〘一〙キ　〔集韻〕古委切　紙　〘二〙キ　〔集韻〕居僞切　寘



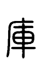
小篆

〘一〙㊀**山の祭。**その祭には玉璧を机上に置く。一說に、山麓に埋めるといふ。〔說文新附〕庪、祭㆑山曰㆑庪、从㆑广技聲。〔爾雅、釋天〕祭㆑山曰㆓庪縣㆒。〔疏〕庪、謂㆔埋㆓藏之㆒。〔注〕或庪或縣、置㆓之于山㆒。㊁**楣の簷に近いもの。**〔儀禮、士昏禮〕當阿、〔注〕正中曰㆑棟、次曰㆑楣、前曰㆑庪。〔疏〕楣前接㆑簷爲㆑庪。㊂**たな。**或は庋(4－9245)・攱(5－13067)に作る。〔集韻〕庪、閣㆓藏食物㆒、或作㆓庋・攱㆒。〔禮、雜記上〕甕甒筲衡、〔注〕衡、當㆑爲㆑桁、所㆔以庪㆓甕甒之屬㆒。〔釋文〕字亦作㆑庋。〘二〙**おこす。**攱(5－13067)に同じ。〔集韻〕攱、擎㆓起物㆒也、或作㆑庪。

【庪縣】1 キケン　山の祭。又、升といふ。〔爾雅、釋天〕祭㆑山曰㆓庪縣㆒。〔注〕或庪或縣、置㆓之於山㆒。山海經曰、縣以㆓吉玉㆒、是也。李巡曰、祭㆑山以㆓黃玉及璧㆒、以㆑庪、置㆓几上㆒、遙遙而庪㆑之若㆑縣、故曰㆓庪縣㆒。孫炎曰、埋㆓於山足㆒曰㆑庪、埋㆓山上㆒曰㆑縣。

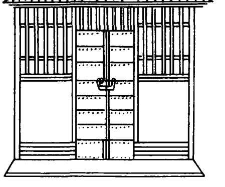
【庪懸】2 キケン　庪縣に同じ。〔儀禮、覲禮〕祭㆓山丘陵㆒升、〔疏〕此山・丘陵云㆑升者、升卽庪懸也。

【庫】9330　〘一〙コ ク　〔集韻〕苦故切　遇　ㄎㄨˋ $k'u^4$　〘二〙シヤ　〔後漢書、竇融傳注〕音舍



小篆

〘一〙㊀**兵車のくら。**〔說文〕庫、兵車藏也、从㆔車在㆓广下㆒。〔禮、曲禮下〕在㆑庫言㆑庫。〔注〕庫、謂㆓車馬兵甲之處㆒也。〔淮南子、時則訓〕七月官㆑庫。〔注〕庫、兵府也。㊁**文書ををさめるくら。**〔北史、儒林下、房暉遠傳〕太常卿牛弘、每稱爲㆓五經庫㆒。〔宋史、藝文志一〕又分㆓三館書萬餘卷㆒、別爲㆓書庫㆒。㊂**くら。**〔釋名、釋宮室〕庫、舍也、物所㆑在之舍也、故齊魯爲㆑庫曰㆑舍。〔管子、七律〕衡庫。〔注〕庫者、所㆔以藏㆓寶物㆒。〔北史、庫狀伏連傳〕積年賜物、藏在㆓別庫㆒。㊃**門の名。**庫門(62)を見よ。㊄**姓。**〘二〙を見よ。〘二〙**姓。**清の張澍の說によれば、俗に庫に作るは非で、庫に作つて舍と讀むべしといふ。〔後漢書、竇融傳〕金城太守庫鈞。〔注〕今羌中有㆑姓、庫、音舍。〔廣韻、十一暮〕庫、又姓、風俗通云、古守庫大夫之後、以㆑官爲㆑氏、後輔義侯庫鈞。〔通志、氏族略、以㆑官爲㆑氏〕庫氏、漢文時、有㆓倉氏庫氏㆒、爲㆑吏之久、故子孫以爲㆑氏、後漢竇融傳有㆓輔義



庫　（三才圖會）

侯庫鈞一、又河南官氏志、庫傉官氏改爲二庫氏一、望出二河南魯國一。〔姓氏五書〕俗作レ庫、非、仍當下作レ庫以二赦音一讀上。

解字 會意。戰に用ひる車を入れる藏のこと。故に广(いへ)と車とを合す。轉じて、廣く物を入れるくらの意に用ひる。

【庫役】1 コエキ 倉庫番。倉庫人夫。〔清會典事例、戸部、庫藏〕緞疋庫、庫役二十一人。

【庫屋】2 コヲク くら。〔宋史、食貨志下一〕大中祥符五年、重二修庫屋一、增二廣其地一。〔元史、安南傳〕其險隘拒守處、俱有二庫屋一、以貯二兵甲一。

【庫開】3 コカイ 招搖と北斗の杓との閒を天庫といひ、星が其の所を去れば庫開の祥といふ。兵災やんで國の富む祥。〔晉書、天文志上〕北三星、曰二梗河天矛一也、一曰二天鋒一、主二胡兵一、又爲レ喪、故其變動、應以二兵喪一也、星亡、其國有二兵謀一、其北一星、曰二招搖一、一曰二矛楯一、其北一星、曰二玄戈一、皆主二胡兵一、占與二梗河一略相類也、招搖與二北斗杓一閒曰二天庫一、星去二其所一、則有二庫開之祥一也、招搖欲下與二棟星梗河北斗一相應上、則胡兵當三來受二命於中國一、玄戈、又主二北夷一、客星守レ之、胡大敗。

【庫角】4 コカク 門の名。〔蜀檮杌〕朱全忠簒レ位、以二節堂南門一爲二日華門一、庫角門爲二月華門一。

【庫樂】5 コガク 朝鮮の音樂の名。〔宋史、高麗傳〕樂有二二品一、曰二庫樂一、曰二鄕樂一。

【庫汗】6 コカン シヤカン 複姓。〔通志、氏族略、代北複姓〕唐貞元、范陽判官殿中御史庫汗勣。

【庫匱】7 コキ くらの中のはこ。〔宋史、食貨志上一〕凡結二甲册一、戸產簿・丁口簿・魚鱗圖・類姓簿二十三萬九千有奇、刱庫匱以藏レ之、歷二三年一而後、上二其事于朝一。

【庫廄】8 コキウ くらとうまや。〔左氏、襄、三十一〕館如二公寢一、庫廄繕脩。〔唐書、韓弘傳〕汴之庫廄、錢尙百萬、緡絹亦百餘萬。

【庫給】9 コキフ くらわたし。〔福惠全書、庶政部、中二飭舖遞一〕斷宜二如レ數庫給一。

【庫金】10 コキン くらにあるかね。〔五代史、王景崇傳〕漢高祖起二太原一、景崇取二庫金一、奔迎二高祖一。

【庫鈞】11 コキン シヤキン 後漢の人。金城の太守。爵は輔義侯。竇融と交はる。〔後漢書、五十三〕。

【庫銀】12 コギン ❶國庫のかね。〔宋史、張亢傳〕亢出二庫銀一、給二牙吏一、往二成都一市易、以レ利自入。❷清代、國家通用の銀。庫平を以てはかる。卽ち紋銀。〔清會典事例、戸部、庫藏、分儲〕雍正五十一年議准、新疆分二存烏魯木齊提督庫銀三萬兩一。

〔庫銀庫金〕13 k'u^{4} yin^{2} k'u^{4} chin^{1} 錦繻子。

【庫貨】14 k'u^{4} huo^{4} 倉庫の物品。

【庫官】15 コクワン 倉庫を掌る役人。〔清會典事例、戸部、倉庫〕御史庫官、或任一年、或任三年。

【庫款】16 k'u^{4} k'uan^{3} 國庫の金。

【庫頁】17 コケツ 島の名。樺太のこと。明代、之を苦夷といひ、清代、吉林省に屬す。又、庫葉島・黑龍嶼ともいふ。〔朔方備乘〕庫葉島一名黑龍嶼、亦作二庫頁島一、吉林寧古塔所レ屬大州、卽庫葉島也。

【庫券】18 コケン 國庫證券の略稱。

【庫句】19 ココウ 後燕、慕容寶(**4−11088‥70**)の小字。

【庫谷】20 ココク 官名。唐、置く。材木伐採を掌る。〔唐書、百官志三〕百工有二就谷・庫谷・斜谷・大陰・伊陽監一、各一人、正七品下、副監一人、從七品下、丞一人、正八品上、掌三伐二採材木一。

【庫紗】21 コサ 蘇州・杭州等から產出する良質の紗。清代、內務府の緞庫に納め宮室の用としたからいふ。庫緞(37)を見よ。

【庫財】22 コザイ くらの中の財物。〔唐書、竇易直傳〕長慶二年、李㝏以二汴州一叛、易直欲下出二庫財一賞上レ軍、或謂、給與無レ名、必且レ生レ患、乃止。

【庫藏】23 コザウ くら。倉庫。〔列子、楊朱〕都散二其庫藏珍寶車服・妾媵一。〔後漢書、張堪傳〕堪先入據二其城一、檢二閱庫藏一、收二其珍寶一。〔宋書、長沙王義欣傳〕于レ時土境荒毀、人民彫散、城郭頹敗、盜賊公行、義欣綱維緝補、隨レ宜經理、劫盜所レ經、立討二誅之一、境內畏服、道不レ拾レ遺、城府庫藏、並皆完實、遂爲二盛藩彊鎭一。〔唐書、百官志一〕金部郞中員外郞、各一人、掌三天下庫藏出納、權衡度量之數、兩京市、互市、和市、宮市、交易之事、百官軍鎭蕃客之賜、及給二宮人王妃官奴婢衣服一。

【庫子】24 コシ 倉庫を掌る主任官。〔明律、倉庫〕凡倉庫官攢斗級庫子、役滿得レ代。〔福惠全書、刑名部、贓私〕庫子收頭糧長。

【庫氏】25 コシ シヤシ 姓。字解の[三]を見よ。〔漢書、王嘉傳〕孝文時吏居レ官者、或長二子孫一、以レ官爲レ氏、倉氏・庫氏、則倉庫吏之後也。

【庫司】26 コシ ❶倉庫を掌る役人。〔清國行政法汎論、內務府、廣儲司〕庫司二人、庫使若干人。❷[佛]スク 禪寺の都寺・監寺・副寺の三役の總稱。〔僧堂清規、五〕。

【庫使】27 コシ 倉庫を掌る役人。〔清會典事例、戸部、庫藏〕顏料庫、庫使一人。

【庫貲】28 コシ くらのかね。〔唐書、王世充傳〕世充啓レ帝、江淮良家女、願レ備二後廷一無二繇進一、帝喜令レ閱二端麗者一、以二庫貲一爲二聘費一。

【庫室】29 コシツ くら。〔南史、梁宗室上、臨川靖惠王宏傳〕恣二意聚斂一、庫室垂レ有レ百。

【庫車】30 コシヤ ❶立派な車。はこぐるま。〔白居易、牡丹芳詩〕庫車軟轝貴公主、香衫細馬豪家郞。❷川の名。新疆省庫車縣。又、密爾特彥河・額什克巴什河ともいふ。源は縣の東北迭拉山。沙哈里克草湖に注ぐ。❸縣名。民國、置く。刀劍を產す。又、柳陳・魯陳ともいふ。元史は庫徹に作る。回部の一大都會。新疆省沙雅縣の北。縣城は密爾特彥河の西岸に瀕す。

【庫書】31 コシヨ 倉庫の書記。〔福惠全書、庶政部、修二葺館署一〕宜三歲時修葺彩繪、云云、俱預製整齊、造レ冊點記、貯レ庫備レ用、令二庫書收掌、兵工房照看、毋レ致二遺失毀壞一。

【庫秤】32 コシヨウ 官名。明、置く。庫吏のこと。金銀その他貨財の重量檢査のことを掌る。〔明律、倉庫〕凡倉庫務場局院庫秤斗級、若雇役之人、侵欺借貸、移二易係官錢糧一、並以二監守自盜一論、若雇主同情、分二受贓物一者、罪亦如レ之。

【庫成】33 コセイ 複姓。〔通志、氏族略、以二邑諡一爲レ氏〕庫成氏、風俗通云、本苦成、方言音變爲二庫成一。

【庫錢】34 コセン 倉庫の錢。〔後漢書、鍾離意傳〕乃更以二庫錢三十萬一賜レ意。〔晉書、陶侃傳〕盜二用庫錢一、父死不レ奔レ喪。〔唐書、歸融傳〕元中等枉二失庫錢一、盜所レ坐子弟受レ賄、事異法輕。〔韓愈、故太原王公墓誌銘〕出二庫錢二千萬一、以丐二貧民一。

【庫存】35 コソン 倉庫の貯へ。〔清會典事例、內務府、庫藏、廣儲司六庫〕乾隆四十一年奏准、庫存高麗布疋、每年存以二千疋一爲レ度、其餘者、遇下有レ應レ用二細布一之處上、每二三疋一、折二給高麗布一疋一。

【庫硐】36 コタ 地名。陝西省宜川縣の西北。〔明一統志〕庫硐在二延安府宜川縣西北二十里一、川南爲レ漢、北爲レ蕃、蕃漢之人于二川內一共締二香火一、故呼二香火一爲二庫硐一。

【庫緞】37 コタン 蘇州・杭州等から產出する良質の繻子。清代、內務府の緞庫に納め宮室の用としたからいふ。〔清會典事例、內務府、庫藏〕緞庫、掌二龍蟒等緞紗紬絹布一。

【庫貯】38 コチヨ 倉庫に貯へる。又、倉庫の貯へ。〔清會典事例、戸部、庫藏〕於二庫貯利弊一、未レ能二盡悉一。

【庫儲】39 コチヨ 庫貯に同じ。〔唐書、百官志一〕倉部郞中・員外郞各一人、掌二天下庫儲、出納租稅、祿糧倉廩之事一、以二木契百一合二諸司出給之數一、以二義倉常平倉一、備二凶年一、平二穀價一。〔清會典事例、戸部、三庫〕凡物料、視二庫儲盈絀一、定二其解額一。

【庫丁】40 コテイ 倉庫の人夫。〔清會典事例、戸部、庫藏、銀庫〕儻庫丁吏役有二勒索刁難等弊一、查出嚴懲。

【庫狄】41 コテキ シヤテキ 複姓。〔尙友錄〕庫狄鮮卑段匹磾之後、避レ難改二姓庫狄一、居レ代、後遷二中夏一。

〔庫狄干〕42 コテキカン シヤテキカン 北齊、善無の人。諡は景烈。魏の定州刺史。北齊、天保の初、章武郡王に封ぜられ、太宰となり、樂陵公主に尙した。〔北齊書、十五〕・〔北史、五十四〕。

〔庫狄昌〕43 コテキシヤウ シヤテキシヤウ 北周、神武の人。字は恃德。爵は公。大統の初、竇泰を破り、弘農を復し、開府儀同三司に累遷した。〔周書、二十七〕・〔北史、六十五〕。

〔庫狄盛〕44 コテキセイ シヤテキセイ 北齊、懷朔の人。武力あり、神武に從って征伐し、朔州刺史に累遷した。〔北齊書、十九〕・〔北史、五十三〕。

〔庫狄峙〕45 コテキヂ シヤテキヂ 北周の人。其の先は遼東の人。本姓は段氏。諡は定。魏の高陽郡守・中書舍人。後、北周に事へて少師となる。〔周書、三十三〕・〔北史、六十九〕。

〔庫狄廻洛〕46（コテキクヮイラク シャテキクヮイラク） 北齊、代の人。初、爾朱榮に事へ、後、神武に歸す。軍功を以て都督に任ぜられ、宇文泰を河陽に破つて、夏州刺史に陞進した。大寧の初、朔州刺史に轉じて卒す。〔北齊書、十九〕・〔北史、五十三〕。

〔庫狄士文〕47（コテキシブン シャテキシブン） 隋、代の人。干の孫。齊に在つて章武郡王に封ぜられ、領軍將軍となる。周の武王、齊を平定するや、士文を異として隋州刺史に拜し、文帝の時、湖陂縣子に封ぜられ、尋いで貝州刺史を拜命した。〔北齊書、十五〕・〔北史、五十四〕・〔隋書、七十四〕。

〔庫狄伏連〕48（コテキフクレン シャテキフクレン） 北齊、代の人。字は仲山。初、爾朱榮に事へ、後、神武に歸す。武平中、爵は宜都郡王、官は領軍大將軍。琅邪王儼と和士開を殺して誅に伏す。〔北史、五十三〕。

【庫帑】49（コド） 官庫中に藏する財物。〔六部成語補遺、戸部、庫帑、注解〕官庫中所レ藏之帑、帑、財物也。

【庫瑪】50（コバ） 縣名。民國、置く。庫瑪爾河から名づく。滿洲黑龍江省呼瑪縣。

〔庫瑪爾河金鑛〕51（コバジカキンクヮウ） 金鑛の名。滿洲黑龍江省呼瑪縣の西。鑛區は頗るひろく、約二萬キロに及ぶ。清の光緒の末年、總局を興隆溝に設けて管督した。

【庫房】52（コバウ） 倉庫。物置場。正房（6－16255··372）の❶を見よ。

【庫帛】53（コハク） 倉庫のきぬ。〔唐書、曹王皐傳〕有レ所二造作一、皆用省而利長、以レ物遺レ人、必自視二衡量一、庫帛皆印署、以杜二吏謾一。〔宋史、宋祁傳〕又且月支二廩粮一、歲費二庫帛一、數口之家、不レ能二自庇一、多去而爲二盜賊一、雖二廣募レ之無レ益也。

【庫夫】54 kʻu⁴ fu¹ 倉番。倉庫番。

【庫府】55（コフ） くら。〔西京雜記、三〕高祖初入二咸陽宮一、周二行庫府一、金玉珍寶、不レ可二稱言一。〔唐書、魏元忠傳〕公主所レ賞傾二庫府一。

【庫部】56（コブ） 官名。魏の時、尙書に庫部郎あり、晉、之に因る。宋、庫部を置き、兵仗を掌る。後魏・北齊、度支尙書に之を置き、後周、之を武藏大夫といふ。隋、兵部に屬し、庫部侍郎を置き、武德中、庫部中郎と改め、龍朔二年、司庫大夫と改め、咸亨の初、舊に復す。唐代、庫部郎中員外郎を置き兵部に屬し、車器・儀仗・乘輿等を掌る。明代、武庫司と改め、戎器・行戯・尺籍・武學の事を掌る。清末、廢す。〔宋書、百官志上〕度支尙書、領二度支・金部・倉部・起部四曹一、左民尙書、領二左民・駕部二曹一、都官尙書、領二都官・水部・庫部・功部四曹一。〔唐書、百官志一〕兵部尙書、其屬有レ四、一曰兵部、二曰職方、三曰駕部、四曰庫部。〔通典、職官〕庫部郎中、按、周官有二司甲一、掌二戈盾弓矢一之長、各辨二其物一、以待二軍事一、魏尙書有二庫部郎一、晉因レ之、宋庫部主二兵仗一、歷代或有或闕、後魏北齊庫部、屬二度支尙書一、掌二凡戎仗器用一、後周有二武藏中大夫一、隋屬二兵部一、初爲二庫部侍郎一、煬帝除二侍字一、武德中、加二中字一、龍朔二年、改爲二司庫大夫一、咸亨初復レ舊、天寶十一年、又改二庫部一爲二司庫一、至德初、復レ舊、掌二軍器儀仗鹵簿法式及乘輿等一。〔翰苑新書〕宋建炎三年、以二駕部一兼二庫部一。〔文獻通考、職官〕庫部掌二軍器儀仗、鹵簿法式、隨軍防城、什物及凡供帳之事一。〔續文獻通考、職官〕明兵部武庫清吏司郎中一人、員外郎一人、主事一人、添二設武庫主事一人一、掌二戎器符勘、尺籍武學、薪隸之事一、以贊二尙書一。

【庫物】57（コブツ） くらの中の財物。〔宋書、顏竣傳〕輒開二丹楊庫物一貸二借吏下一、多假二資禮一、解爲二門生一、充レ朝滿レ野、殆將レ千計。〔唐書、劉文靜傳〕文靜與レ寂作二符敕一、發二宮監庫物一佐二軍興一。

【庫平】58（コヘイ） 清代の權衡の標準器。乾隆六年に制定され、戸部に藏せられた。衡は鐵製で、衡の兩端に、各〻二箇の鐵鉤を以て四本の鐵索をかけ、各〻一箇の銅盤を吊し、左右均衡ならしめる。一盤に計るべき物を、一盤に權を載せ、水平ならしめて、權を計算して量る。この庫平は貨幣價値を現はす場合にも用ひられ、之を庫平銀と稱し、政府は總て之によつて公金の收支を行つた。庫平兩を見よ。〔清會典事例、戸部、庫藏、銀庫〕其經手雜項市平銀兩、倶按二庫平一、折レ實兌收。〔清會典圖、度量權衡〕平者爲レ衡、重者爲レ權、衡以レ鐵爲レ之、其上設レ準爲二兩尖齒形一、衡以二鐵方鐶一正立、上齒貫二方鐶一上周、尖嚮レ下、適當二鐶中一不レ動、下齒屬二於衡一尖嚮レ上、插二入方鐶下周之空縫一、管レ之以レ樞、使三衡可二左右低昂一、而齒亦與レ之左右、衡之兩端、各以二鐵鉤二一、綰二鐵索四一懸二一銅盤一、左右適均、上齒本貫以二鐵鉤一懸二於架一、用時一盤納レ物一盤納レ權、視二方鐶中上下兩齒尖適相値一則衡平、而權與二物之輕重一均、權用二黃銅一形扁圓、上下面平、以二寸法一定二輕重之率一。

〔庫平銀〕59（コヘイギン） 西暦一九一五年、國幣條例によつて決めた中國貨幣の標準價格。庫平銀六錢四分八厘が一圓。庫平兩を見よ。

〔庫平兩〕60（コヘイリヤウ） 租稅納入の際に使用される庫平を以て量る銀。一兩の純銀は五七五グレインに相當し、庫平百兩は上海兩百九兩六錢に相當する。〔清會典事例、戸部、庫藏〕又議準、銀庫經二放買賣人辦買物料、直隸歲修河工、顏料緞疋二庫折價一、暨凡應下以二市平一扣二發銀兩一、每二庫平千兩一扣二平銀三十六兩一、作中市平支放上。

【庫兵】61（コヘイ） ❶武器庫の中の兵器。〔韓詩外傳、九〕城郭不レ治、溝池不レ鑿、陰陽和調、家給人足、鑄二庫兵一以爲二農器一。〔史記、酈生陸賈傳〕因二其庫兵一、食二積粟一。〔漢書、成帝紀〕盜二庫兵一自稱二山君一。〔漢書、王莽傳下〕授以三庫兵與二刻石一爲レ約。〔淮南子、泰族訓〕庫兵動而戎馬驚。❷倉庫の番兵。〔清會典事例、戸部、倉庫〕每旗選二留一名一、共留二十二名一、作二爲庫兵一。

【庫門】62（コモン） ❶門の名。天子の五門の一。王宮の雉門の外にある。五門（1－257··1047）を見よ。〔禮、檀弓上〕君復二于小寢大寢、小祖大祖、庫門四郊一。〔禮、明堂位〕太廟、天子明堂庫門、天子皐門雉門、天子應門。〔注〕天子五門、皐・庫・雉・應・路。〔禮、郊特牲〕獻二命庫門之內一、戒二百官一也。〔孔叢子、執節〕天下素服哭二於庫門之外一三日。〔陳祥道、禮書〕曲禮曰、在レ府言レ府、在レ庫言レ庫、天文東壁爲二文府一、西奎爲二武庫一、漢書於レ府言二財物之府一、於レ庫言二武庫一、則庫門兵庫在焉。❷諸侯の宮の外門をいふ。〔禮、明堂位〕庫門、天子皐門。〔疏〕言三魯之庫門、制似二天子皐門一。❸倉庫の門。〔白居易、池上早夏詩〕靜拂琴牀席、香開酒庫門。〔清會典事例、戸部、庫藏〕一員在二庫門內一、監二視過平計數一。❹（コモン シャモン） 複姓。〔通志、氏族略、代北複姓〕庫門氏、改爲二門氏一。

【庫籥】63（コヤク） 庫鑰に同じ。〔宋史、雷有終傳〕懷忠與二轉運使陳緯一麾レ兵、由二子城南門一直入二軍資庫一、與レ緯署二其庫籥一、均衆皆銀槍繡衣爲二數隊一、分列二子城中一。

【庫鑰】64（コヤク） 倉庫のかぎ。庫籥。〔宋史、忠義、董元亨傳〕賊黨十餘人、擐レ甲露レ刄、排レ闥而入、脅二元亨一曰、大王遣三我來索二軍資庫鑰一。

【庫吏】65（コリ） 倉庫番の役人。〔魏志、鄧哀王沖傳〕太祖馬鞍在レ庫、而爲二鼠所レ齧、庫吏懼二必死一、沖謂曰、待二三日中一、然後自歸、沖於レ是以レ刀穿二單衣一、如二鼠齧者一、謬爲二失意一、貌有二愁色一、太祖問レ之、沖對曰、世俗以爲、鼠齧レ衣者、其主者不レ吉、今單衣見レ齧、是以憂戚、太祖曰、此妄言耳、無レ所レ苦也、俄而庫吏以二齧鞍一聞、太祖笑曰、兒衣在レ側尙齧、況鞍縣レ柱乎、一無レ所レ問。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕庫吏職司二錢糧之出入一。

【庫利】66（コリ） 川の名。陝西省甘泉縣の東北。〔讀史方輿紀要、陝西、延安府、甘泉縣〕庫利川、在二縣東北一、川側土田沃衍、五穀豐饒、羌人稱レ貯二舊穀一爲二庫利一、因以名レ川。

【庫裡】67（クリ） ❶七堂の一。寺院の齋膳等一切の雜事を調へる所。寺のくりや。寺院の臺所。〔異制庭訓往來、十一月〕塔頭、卵塔、庫裡、僧堂、東司、後架、方丈。〔運歩色葉集〕庫裡、寺。❷住職等の住房。❸門徒宗で、僧の妻をいふ。おくりさま。❹庫裏に藏する財寶・器物。

【庫裏】68（クリ） 庫裡を見よ。

【庫倫】69（クーロン） 地名。外蒙古土謝圖汗中旗の汗山の北、圖拉・哈拉二河の間。外蒙古の中心。露國との交通の要衝で、蒙古第一の都市。張庫鐵道が、張家口からここに通ずる。〔皇朝通典、職官、各處駐劄大臣〕庫倫辦事大臣一人、掌二俄羅斯之往來一、明二其禁令一、司員一人、掌二庫倫貿易諸務一、稽二察奸宄一、平二其爭訟一、分二駐恰克圖一、辦事司員一人、掌二俄羅斯貿易諸務一、聽二節制於庫倫大臣一。

【庫禮】70（クリ） 清、滿洲正白旗人。又、庫哩に作る。姓は喜塔喇氏。諡は僖恪。崇德中、錦州を圍み、松山に戰ひ、勳功第一。順治の初、鹽城・廟灣・

劉莊の諸賊を剿平した。〔清史稿、二百四十六〕・〔國朝耆獻類徵、四十二〕・〔滿洲名臣傳、五〕。

【庫露】71 コロ　庫露格に同じ。

【庫露格】72 コロカク　文具の一種。字を書く時に臂を支へて、腕が紙につかぬやうにするもの。書格。〔皮日休、正樂府十篇、誚二虛器一詩〕襄陽作二髹器一、中有二庫露眞一。〔自注〕玲瓏空虛、故曰二庫露一、今俗呼二書格一曰二庫露格一是也。

【庫婁】73 コロウ　星の名。庫樓の❷を見よ。〔楚辭、王襃、九懷、思忠〕抽二庫婁一兮酌レ醴。〔注〕晉天文志云、庫樓十星、六大星爲レ庫、南四星爲レ樓、按、庫樓形似二酌レ酒之器一、故云。

【庫樓】74 コロウ　❶武庫の樓。〔後漢書、楊由傳〕時有二大雀一、夜集二庫樓上一。❷星の名。庫婁。〔張衡、週天大象賦〕望二南門之峻關一、覿二庫樓之城府一。〔晉書、天文志上〕庫樓十星、其六大星爲レ庫、南四星爲レ樓、在二角南一、一曰二天庫一、兵車之府也。〔星經〕庫樓星二十九星。

【庫灰色】75 k'u^4 huei^1 sê^4　葡萄色。

【庫爾干】76 クルガン　地名。ソヴィエト聯邦、シベリヤ西部の都邑。Kurgan の音譯。

【庫爾闡】77 クールシヤン　清、滿洲正藍旗人。姓は赫舍哩氏。天聰・崇德の間、黑龍江・索倫部の攻伐に從ひ、錦州を圍み、松山を征して、皆功あり、正藍旗蒙古副都統に擢んでらる。順治の間、關に入つて李自成を擊破す。尋いで事に坐して職をやめ、再び都察院承政に起用され、江西の金聲桓を征し軍中に卒した。〔清史稿、二百四十七〕・〔清史列傳、五〕・〔國朝耆獻類徵、二百六十六〕。

【庫爾禪】78 クールチヤン　清、滿洲鑲紅旗人。姓は鈕祜祿氏。文館理事を拜命し、並に牛彔の事を管轄した。天聰の間、朝鮮を征することあり、庫爾禪往いて歲幣を誓定し、尋いで明の灤州を攻伐するに從つて功を建てた。〔清史稿、二百三十四〕・〔滿洲名臣傳、三〕。

【庫爾勒】79 クールロ　地名。新疆省尉犂縣の西北。北は吐魯番、西は庫車に至る要衝。

【庫若干】80 コジヤクカン シヤジヤクカン　複姓。〔通志、氏族略、代北三字姓〕庫若干、改爲二干氏一。

【庫大使】81 コタイシ　官名。明・清、置く。一省の官庫を監督するもの。〔稱謂錄、庫大使〕明史職官志、布政使司鹽運使司、均有二庫大使一人一。〔清會典事例、戶部、庫藏、選二補庫官一〕庫大使年滿、於二各部院滿州筆帖式內一、遴選保送引見調補、各以二原銜一食レ俸。〔皇朝通典、職官、鹽政〕庫大使、長蘆・山東・兩淮・兩浙・福建・兩廣・四川・雲南各一人、掌二鹽課之收納一、而監二理其庫貯一。

【庫傉官】82 コドククワン シヤドククワン　複姓。〔通志、氏族略、代北三字姓〕庫傉官氏、改爲二庫氏一、前燕錄、有二岷山公庫傉官泥一、生レ津、後燕太師安定王。〔萬姓統譜〕庫傉官、改爲二庫氏一。

【庫莫奚】83 コバクケイ シヤバクケイ　複姓。もと部族の名。〔魏書、契丹國傳〕契丹國在二庫莫奚東一、異種同類、倶竄二於松漠之間一。

【庫裕克】84 コユウコク　元、定宗(3−7109・・187)の名。

【庫隴奎】85 クールンコエイ　山名。新疆省綏定縣の北。清の乾隆二十年、將軍兆惠曾が賊を擊つた處。

【庫六斤】86 コロクキン　複姓。〔元和姓纂〕庫六斤氏、後改爲二斤氏一。

【庫勒納】87 クロナ　山名。滿洲吉林省城の西南。附近に紅石磊・仙人洞・帽兒山・大黃頂・一步嶺・大星子等がある。

【庫庫淖爾】88 ココノル　湖の名。蒙古語で青海をいふ。又、科科諾爾とも書く。青海(12−42564・・66)の❷及び庫蘇諾爾を見よ。

【庫蘇諾爾】89 クスノール　湖の名。青海をいふ。元史に顆顆腦兒に作り、舊圖に呼呼腦兒に作る。

【在レ庫言レ庫】89′ ココニアリテ コヲイフ　その立場において事を謀ること。庫は、車馬兵車を藏してゐる處をいふ。在官言官(3−4881・・43)❶を見よ。

【庫蘇古爾泊】90 クスクールポ　湖の名。一名、菊海。外蒙古唐努烏梁海の東境にある、蒙古第一の大湖。中に魁博爾多克島がある。〔清會典、戶部〕蒙古、其澤庫蘇古爾。〔注〕庫蘇古爾泊、在二唐努烏梁海旗一。

【庫爾喀喇烏蘇】91 クールカラウス　❶川の名。又、托羅滾水ともいふ。源は新疆省烏蘇縣の東南の額林哈畢爾噶山。上流を奎屯河といひ、鹽海子に注ぐ。支流は濟爾噶朗河・固爾圖河。〔清會典、戶部〕新疆、其川精。〔注〕如二敦穆達河・濟爾哈朗河・庫爾喀喇烏蘇河一、皆北流入二鹽海子一。❷地名。清、廳を置き、民國、改めて烏蘇縣とす。新疆省に屬す。〔清史稿稽、地理志〕新疆、庫爾喀喇烏蘇直隸廳。〔注〕衝繁難隸鎭迪道辦事領隊大臣駐、漢匈奴西境、晉後爲二鐵勒部一、北周屬二突厥一、隋屬二西突厥一、爲二處木昆部一、唐永徽中破レ之、設二郡縣一、屬二崐陵都護府一、開元中、置二瀚海軍一、後唐時屬、遼元回鶻地、明綽羅斯部地、後屬二準噶爾一。

【庫木什阿克瑪】92 クムシアクマ　山名。新疆省焉耆縣の北。唐書に所謂銀山磧のこと。山勢險隘。

【⿸广卣】9331

イウ

庮(4−9338)に同じ。〔集韻〕庮、或作レ⿸广卣。

【⿸广矣】9332

シ

⿰矢矣(8−25770)に同じ。〔集韻〕⿰矢矣、或从レ广。

【庬】9333

🈩 ボウ ム　〔集韻〕母揔切　董

🈔 バウ マウ　〔玉篇〕亡江切　江

🈪 バウ マウ　〔集韻〕母項切　講

🈩**はつきりしないさま。**庬澒。通じて濛(7−18491)に作る。〔集韻〕庬、庬澒、未レ分之象、通作レ濛。🈔🈪❶**大きい。ゆたか。あつい。**〔玉篇〕庬、豐也、有也、厚也。〔集韻〕庬、豐也、厚也、詩爲二下國駿庬一、徐邈讀。❷厖(2−2942)の俗字。〔正字通〕庬、俗厖字。

【庬圉】1 バウギヨ　羿の賢臣。一に尨圉に作る。〔漢書、古今人表、第五等中中〕武羅、柏因、熊髠、庬圉。〔注〕師古曰、武羅以下四人、皆羿之賢臣也、庬音尨。

【庬洪】2 バウコウ　ゆたかで大きい。〔漢書、司馬相如傳〕湛恩庬洪、易レ豐也。〔注〕師古曰、庬洪、皆大也。

【庬澒】3 ボウコウ　庬鴻に同じ。〔類篇〕庬澒、未レ分之象。〔後漢書、張衡傳〕踰二庬澒於宕冥一兮、貫二倒景一而高厲。〔注〕庬、音亡孔反、澒、胡孔反。

【庬鴻】4 ボウコウ　はつきりしないさま。天の高氣の混沌としてゐるさま。〔孝經援神契〕天慶庬鴻孳萌。〔張衡、思玄賦〕踰二庬鴻於宕冥一兮。〔注〕善曰、庬鴻宕冥、皆天之高氣也、楚辭曰、貫二濛鴻一以東竭兮。

【⿸广束】9334

🈩 シヨク ソク　〔集韻〕趨玉切　沃

🈔 ラツ ラチ　〔集韻〕郎達切　曷

🈩**いへ。**〔集韻〕⿸广束、博雅、舍也。🈔**いほり。又、ごくや。**⿸广刺(4−9414)に同じ。〔集韻〕⿸广刺、博雅、庵也、一曰、獄室、或省。

【⿸广夋】9335

スイ　〔玉篇〕作惟切　支

すがた。〔玉篇〕⿸广夋、姿也。

【⿸广串】9336

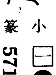
ロウ ル　〔篇韻〕力口切　有

草ぶきの家。いほり。〔篇韻〕⿸广串、草室也。

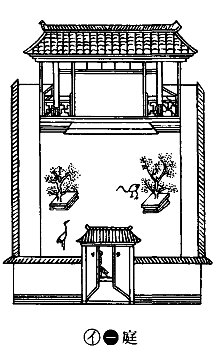
【庭】9337

🈩 テイ ヂヤウ　〔集韻〕唐丁切　青　ㄊㄧㄥˊ $\mathrm{t'ing}^{2}$

🈔 テイ チヤウ　〔集韻〕他定切　徑　ㄊㄧㄥˋ $\mathrm{t'ing}^{4}$


小篆

🈩❶**には。**ひろいには。廷(4−9571)に通ず。〔說文通訓定聲〕庭、叚借爲レ廷。㋑堂の正面下のひろば。〔玉



㋑❶庭
（三才圖會）

篇〕庭、宮階前也。〔字彙〕庭、門屛之內。〔儀禮、燕禮〕賓入及㆑庭、公降㆓一等㆒揖㆑之。〔楚辭、劉向、九歎、思古〕蘩棘樹㆓於中庭㆒。〔注〕堂下謂㆓之庭㆒。㋺朝廷。〔張衡、東京賦〕龍輅充㆑庭。〔注〕綜曰、庭、朝廷也。㋩役所。郡縣の正廳。廳(**4－9562**)に通ず。〔說文通訓定聲〕庭、宮中也、从㆑广廷聲、今俗謂㆓之廳㆒、字作㆑廳。〔後漢書、馬援傳〕援奏言、西㆓于縣㆒、戶有㆓三萬二千㆒、遠界去㆑庭千餘里。〔注〕庭、縣庭也。〔魏書、張長年傳〕訟㆓於郡庭㆒。〔宋史、曾鞏傳〕授㆓帖於府庭㆒。㋥宮中。禁裏。〔薛道衡、昭君辭〕我本良家子、充㆑選入㆓椒庭㆒。㋭家內。いへうち。〔晉書、孫盛傳〕庭訓益峻。〔北史、鄭道邕傳〕撫㆓訓諸弟㆒、閨庭之中、怡怡如也。㋬かりば。〔左氏、昭、十六〕其庭小。〔注〕庭、蒐場也。㋣邸內に樹木泉石を配置して觀賞するところ。〔北齊書、李元忠傳〕園庭之中、羅㆓種果藥㆒、親朋尋詣、必留連宴賞。㋠ばしよ。ところ。〔晉書、虞溥傳〕始涉㆓學庭㆒、講㆓修典訓㆒。〔相牛經〕膺庭欲㆑得㆑廣。〔注〕膺庭、胷前也。❷**ひろま**。〔說文〕庭、宮中也、从㆑广廷聲。〔段注〕反部曰、廷、中朝也、朝不㆑屋、故不㆑从㆑广、宮者、室也、室之中曰㆑庭、詩曰、殖殖其庭、曰、子有㆓廷內㆒、曰、洒㆓埽庭內㆒、檀弓、孔子哭㆓子路於中庭㆒、注曰、寢中庭也、凡經有㆘謂㆓堂下㆒爲㆑庭者㆖、如㆘三㆓分庭㆒、一在㆗南、正當㆑作㆑廷、爲㆓義相近㆒。〔逸周書、大匡解〕朝㆓於大庭㆒。〔注〕大庭、公堂之庭。〔束晳、補亡詩〕眷㆓戀庭闈㆒。〔注〕善曰、庭闈、親之所㆑居。❸**朝覲する**。來貢する。〔書、周官〕四征㆓弗庭㆒、綏㆓厥兆民㆒。❹**なほい**。梃(**6－14887**)に通ず。〔說文通訓定聲〕庭、叚借爲㆑梃。〔爾雅、釋詁〕庭、直也。〔詩、小雅、大田〕播㆓厥百穀㆒、既庭且碩。〔傳〕庭、直也。❺**ただしい**。〔張衡、西京賦〕參塗夷庭。〔注〕綜曰、庭、猶㆑正也。❻**姓**。〔萬姓統譜〕庭、州名、見㆓姓苑㆒。［三］❶逕庭はへだたりのあるさま。〔集韻〕庭、逕庭、激過也、一曰、不㆑近㆓人情㆒。〔增韻〕庭、逕庭、遠隔貌。〔莊子、逍遙遊〕大有㆓逕庭㆒。❷或は廷(**4－9571**)に作る。集韻〕庭、或省。

［名乘］ナホ。ニハ。

【庭幃】1 テイヰ 庭に張つたとばり。〔李嶠、四月奉㆑教作詩〕葉暗庭幃滿、花殘院錦疎。〔寒山詩〕美人朝夕弄、出入在㆓庭幃㆒。〔琵琶記、高堂稱慶〕帘幙風柔、庭幃晝永。

【庭闈】2 テイヰ ❶親の居るへや。轉じて、父母又は家庭をいふ。〔束晳、補亡詩〕眷㆓戀庭闈㆒、心不㆑遑㆑安。〔注〕善曰、庭闈、親之所㆑居。〔高適、秋胡行〕日暮蠶飢相命歸、攜㆑籠端飾來㆓庭闈㆒。〔杜甫、送㆓韓十四江東覲省㆒詩〕我已無㆔家尋㆓弟妹㆒、君今何處訪㆓庭闈㆒。〔顧非熊、陳情上㆓鄭主司㆒詩〕庭闈乖㆓旦暮㆒、兄弟阻㆓團圓㆒。❷王宮の門。又、其の內。〔張九齡、酬㆓宋使君見㆑貽詩〕庭闈際㆓海曲㆒、軺傳荷㆓天慈㆒。〔宋史、樂志十六〕庭闈尊奉會㆓明昌㆒、佳氣溢㆓康莊㆒。

【庭逸】3 テイイツ 清、謝野臣(**10－35827**‥368′)の字。

【庭允】4 テイイン 後晉、王庭允(**7－20823**‥1954)の一名。

【庭胤】5 テイイン 後晉、王庭允(**7－20823**‥1954)の一名。

【庭陰】6 テイイン 庭のかげ。〔源乾曜、奉㆘和聖制送㆓張說㆒賜㆖宴詩〕日轡庭陰出、池曛水氣生。〔孟浩然、題㆓大禹寺義公禪房㆒詩〕夕陽連㆓雨足㆒、空翠落㆓庭陰㆒。

【庭蔭】7 テイイン 清、戴永槐(**5－11685**‥151)の字。

【庭院】8 テイヰン 門屛內の屋室のない地を汎稱していふ。〔南史、陶弘景傳〕特愛㆓松風㆒、庭院皆植㆑松、每㆑聞㆓其響㆒、欣然爲㆑樂、有㆑時獨游㆓泉石㆒、望見者以爲㆓仙人㆒。〔元稹、春詩〕洞房閑窈窕、庭院獨葱蘢。〔蘇軾、雪後書㆓北臺㆒詩〕但覺衾裯如㆑潑㆑水、不㆑知庭院已堆㆑鹽。

【庭宇】9 テイウ やしき。〔後漢書、陳蕃傳〕蕃年十五、嘗閑㆓處一室㆒、而庭宇蕪穢、父友同郡薛勤來候㆑之、謂㆑蕃曰、孺子何不㆔灑埽以待㆓賓客㆒、蕃曰、大丈夫處㆑世、當㆔埽㆓除天下㆒、安事㆓一室㆒乎、勤知㆔其有㆓清世之志㆒、甚奇㆑之。〔潘岳、西征賦〕街衢如㆑一、庭宇相襲。〔韋應物、復理㆓西齋㆒寄㆓丘員外㆒詩〕庭宇還清曠、煩抱亦舒通。〔柳宗元、晨詣㆓超師院㆒讀㆓禪經㆒詩〕道人庭宇靜、苔色連㆓深竹㆒。〔姚合、和㆓東都令狐留守相公㆒詩〕旌旗嚴重臨㆓關外㆒、庭宇清深接㆓禁中㆒。

【庭楹】10 テイエイ 庭のはしら。〔陸龜蒙、郁李花賦〕靜倚㆓庭楹㆒、徐飄㆓蕊氣㆒、落㆓幽閨怨別之夢㆒、寫㆓空谷遺榮之思㆒。

【庭影】11 テイエイ 庭のかげ。〔禮、曲禮上〕視㆓日蚤莫㆒、疏〕君子或瞻㆓視其庭影㆒、望㆓日蚤晚㆒也。〔儲光羲、薔薇詩〕春日遲遲欲㆑將㆑半、庭影離離正堪㆑玩。

【庭葉】12 テイエフ 庭の樹木の葉。〔李中、依㆑韻和㆓友人秋夕見㆑贈詩〕夕風庭葉落、誰見此時情。

【庭筵】13 テイエン 庭のむしろ。〔潘岳、哀㆓永逝㆒文〕撤㆓房帷㆒兮席㆓庭筵㆒。〔宋書、竟陵王誕傳〕頓㆓仆牢弆㆒、死不㆑旋㆑踵、妻子播流、庭筵莫㆑立。〔陶弘景、吳太極左仙公葛公碑〕環辭麗氣之旨、藻㆓蔚於庭筵㆒。

【庭園】14 テイエン には。その。庭內に設けた園。

【庭下】15 テイカ には。又、朝廷。〔漢書、趙廣漢傳〕有㆑頃、廣漢將㆑吏到㆑家、自立㆓庭下㆒。〔後漢書、陳元傳〕如得㆘以㆓褐衣㆒召見㆖、俯㆓伏庭下㆒、誦㆓孔氏之正道㆒、理㆓丘明之宿冤㆒。

〖庭下駄〗16 ニハゲタ 庭を歩くために用ひる下駄。多く杉材の中央を刳りあけた粗末なもの。

【庭柯】17 テイカ 庭の木のえだ。にはき。園樹。〔陶潛、歸去來辭〕引㆓壺觴㆒以自酌、眄㆓庭柯㆒以怡㆑顏。〔皇甫涍、晨熹樓賦〕枕㆓清流㆒而俯㆓庭柯㆒兮、伊美人之幽居。

【庭階】18 テイカイ にはのきざはし。〔晉書、謝玄傳〕玄答曰、譬如㆓芝蘭玉樹㆒、欲㆑使㆔其生㆓於庭階㆒耳。〔嵇康、琴賦〕舞㆓鸞鷟於庭階㆒。

【庭誥】19 テイカウ 家庭內の教をいふ。〔南史、顏延之傳〕閑居無事、爲㆓庭誥之文㆒、以訓㆓子弟㆒。〔顏延之、庭誥文〕庭誥者、施㆓於閨庭之內㆒、謂㆑不㆑遠也。

【庭鶴】20 テイカク 庭のつる。〔杜甫、秋日荊南述懷詩〕琴烏曲怨憤、庭鶴舞摧頽。〔皎然、夏日奉㆓陪陸使君長源公堂集㆒詩〕嶺雲與㆑人靜、庭鶴隨㆑公閑。

【庭學】21 テイガク 清、陶正祥(**11－41705**‥204)の字。

【庭閤】22 テイカフ 宮殿をいふ。〔魏書、蘇湛傳〕湛恐㆔荆棘必生㆓庭閤㆒、願㆘乞㆓骸骨㆒還㆗鄉里㆖。

【庭寒】23 テイカン 庭がさむい。〔張萬頃、送㆓裴少府㆒詩〕座濕秦山雨、庭寒渭水秋。〔白居易、履道新居二十韻詩〕廚曉煙孤起、庭寒雨半收。

【庭閑】24 テイカン 庭のしづかなこと。〔皮日休、奉㆑酬㆓魯望夏日四聲㆒四首、平聲詩〕塘平芙蓉低、庭閑梧桐高。〔李咸用、小松歌〕庭閑土瘦根腳獰、風搖雨拂精神醒。〔魏歸仁、宴居賦〕地僻而人物自少、庭閑乃室宇成㆑虛。

【庭間】25 テイカン 庭のなか。〔文心彫龍、通變〕若㆘乃齷㆓齪於偏解㆒、矜㆗激乎一致㆖、此庭間之迴驟、豈萬里之逸步哉。

【庭貴】26 テイキ 明、強珍(**4－9815**‥162)の字。

【庭議】27 テイギ 宮中で相談する。廟議。〔漢書、匈奴傳下〕高皇后嘗忿㆓匈奴㆒、羣臣庭議、樊噲請㆘以㆓十萬衆㆒、橫㆗行匈奴中㆖。〔汪克寬、三友堂賦〕聳㆓冠劍之交橫㆒、若㆓大臣之庭議㆒。

【庭球】28 テイキウ テニス。遊戲の一種。Tennis

【庭菊】29 テイキク 庭の菊。〔沈約、郊居賦〕蔓㆓長柯於簷桂㆒、發㆓黃華於庭菊㆒。

【庭鞫】30 テイキク 法廷の吟味。〔福惠全書、刑名部、欵犯〕上官庭鞫之時、方裂㆑眦髮指。

【庭吉】31 テイキツ 元、王迪簡(**7－20823**‥1970)の字。

【庭詰】32 テイキツ 朝廷でなじる。〔史記、公孫弘傳〕嘗

與二公卿一約議、至二上前一皆倍二其約一、以順二上旨一、汲黯庭二詰弘一曰、齊人多レ詐、而無二情實一、始與二臣等一建二此議一、今皆倍レ之、不レ忠。

【庭炬】33 テイキヨ 庭で焚くたいまつ。〔韓愈、和二杜相公太淸宮紀事一詩〕殿階鋪二水碧一、庭炬坼二金葩一。

【庭虛】34 テイキヨ 庭に人の居らぬこと。〔陶弘景、尋山誌〕庭虛月映、琴響風哀。〔戴叔倫、過二友人隱居一詩〕地靜留二眠鹿一、庭虛下二飲猨一。〔朱宿、宿二慧山寺一詩〕庭虛露華綴、池淨荷香發。

【庭玉】35 テイギヨク 元、李忽蘭吉(**6－14459**‥2018)の一名。

【庭訓】36 テイキン ㊀家庭のをしへ。家人に關する教訓。孔子の子、鯉が趨つて庭を過ぎた時、孔子が呼びとめて詩や禮を學ぶべきことを教へた故事。〔論語、季氏〕陳亢問二於伯魚一曰、子亦有二異聞一乎、對曰、未也、嘗獨立、鯉趨而過レ庭、曰、學レ詩乎、對曰、未也、不レ學レ詩、無二以言一、鯉退而學レ詩、他日又獨立、鯉趨而過レ庭、曰、學レ禮乎、對曰、未也、不レ學レ禮、無二以立一、鯉退而學レ禮、聞二斯二者一矣、陳亢退而喜曰、問レ一得レ三、聞レ詩聞レ禮、又聞三君子之遠二其子一也。〔晉書、孫盛傳〕雖二子孫班白一、而庭訓愈峻。〔宋史、趙贊傳〕都尉之子、太尉之孫、幼能誦レ書、弱不レ好レ弄、克彰二庭訓一、宜レ錫二科名一。〔王維、同二盧拾遺一過二韋給事東山別業一二十韻詩〕閨風首二邦族一、庭訓延二鄉村一。㊁テイクン 字號。㋑元、李元禮(**6－14459**‥1186)の字。㋺明、陳聞詩(**11－41698**‥1243)の字。

〖庭訓格言〗37 テイキンカクゲン 書名。一卷。淸、世宗撰。二百四十六則。世宗が皇子の時、聖祖から得た訓言を、嗣位の後に追錄したもの。〔四庫提要、子、儒家類〕。

〖庭訓往來〗38 テイキンワウライ 書名。一卷。古來、玄惠法師作と傳へるが、記載內容が玄惠の歿後に及んでゐるから、恐らく足利時代前期の作であらう。一年十二箇月に進狀・返狀の一對を配し、閏八月の進狀を加へ、上流武家の階級を標準とする社會生活上の雜事を收錄したもの。〔續羣書類從、消息部〕。

【庭衢】39 テイク にはとちまた。〔劉伶、酒德頌〕日月爲二扃牖一、八荒爲二庭衢一。〔梁肅、遊二雲門寺一詩序〕庭衢之中、別有二日月一。

【庭空】40 テイクウ 庭がむなしい。〔元稹、春餘遣レ興詩〕春去日漸遲、庭空草偏長。〔常達、山居詩〕庭空月色淨、夜迴磬聲移。

【庭隅】41 テイグウ 庭のすみ。〔杜甫、倦レ夜詩〕竹涼侵二臥內一、野月滿二庭隅一。〔歐陽詹、晩泊二漳州營頭亭一詩〕迴峰疊嶂遶二庭隅一、散點煙霞勝二畫圖一。

【庭火】42 ニハビ 庭でたく火。庭燎。

【庭果】43 テイクワ 庭の果實。〔白居易、渭村退居云云詩〕砌筍塗二綠粉一、庭果滴二紅漿一。

【庭花】44 テイクワ 庭のはな。〔鄭愔、奉三和幸二上官昭容院一獻詩〕庭花采二菉蓐一、巖石步二莓苔一。〔岑參、虢中酬二陝西甄判官見レ贈詩〕晝吟二庭花落一、夜諷二山月移一。〔獨孤及、和レ贈レ遠詩〕借問離居恨深淺、祇應三獨有二庭花知一。

【庭會】45 テイクワイ 臣下が朝廷に集まること。朝會。〔後漢書、南匈奴傳〕內懷二猜懼一、庭會稀闊。

【庭槐】46 テイクワイ 庭のゑんじゆ。廷槐。〔國語、晉語九〕獻子執而紡二庭之槐一。〔盧照鄰、病梨樹賦〕無二庭槐之生意一、有二巖桐之死枝一。〔王維、秋夜獨坐懷二內弟崔興宗一詩〕庭槐北風響、日夕方高秋。

【庭懷】47 テイクワイ 明、耿橘(**9－29026**‥17)の字。

【庭荒】48 テイクワウ 庭があれてゐること。〔張蠙、費徵君舊居詩〕池靜龜昇レ樹、庭荒鶴隱レ花。

【庭藿】49 テイクワク 庭のかをりぐさ。〔郡齊書、蘇侃傳〕欷二園琴之孤弄一、想二庭藿之餘馨一。

【庭徑】50 テイケイ 庭のこみち。〔白居易、郡中西園詩〕院門閉二松竹一、庭徑穿二蘭芷一。

【庭闈】51 テイケイ 宮中の小門。〔潘岳、京陵女公子王氏哀辭〕于以祖レ之、於抜二庭闈一、于以送レ之、陵岡崔嵬。

【庭蹊】52 テイケイ 庭のこみち。庭徑。〔江洪、齋前竹詩〕本生出二高嶺一、移レ實入二庭蹊一。

【庭迎】53 テイゲイ 堂を下り庭に出て迎へる。〔戰國、秦策〕范雎至、秦王庭二迎范雎一曰、寡人宜二以レ身受一レ令久矣。

【庭教】54 テイケウ まのあたり來つて教へる。〔戰國、秦策〕今先生儼然、不レ遠二千里一、而庭二教之一、願以二異日一。〔注〕庭二教之一、謂二來庭教一レ之。

【庭曉】55 テイゲウ 夜明の庭。〔姚鵠、野寺寓居卽事詩〕窗明雲影斷、庭曉樹陰移。

【庭隙】56 テイゲキ には。〔謝惠連、雪贊〕其德懿矣、玩二之庭隙一。

【庭決】57 テイケツ 法庭の裁判。〔北史、周羅睺傳〕羅睺除二豫章內史一、獄訟庭決、不レ關二吏手一、人懷二其惠一、立レ碑頌レ德。

【庭闕】58 テイケツ 朝廷の門觀。〔南齊書、庾杲之傳〕仰違二庭闕一、伏枕二鯁戀一。

【庭堅】59 テイケン 字號。㊀上古、皐陶の字。〔左氏、文、十八〕昔高陽氏有二才子八人一、蒼舒・隤敳・檮戭・大臨・尨降・庭堅・仲容・叔達。〔注〕庭堅、卽皐陶字。〔劉峻、辨命論〕仲容庭堅、耕二耘於巖石之下一。〔注〕善曰、仲容・庭堅、八愷之二。㊁宋、潘牥(**7－18236**‥79)の字。㊂明、高瑤(**12－45313**‥44)の字。

【庭喧】60 テイケン 庭がやかましい。〔韓維、遊二城南雙塔寺一詩〕房掩僧獨禪、庭喧鴉正哺。

【庭戶】61 テイコ ㊀庭に設けた戶。にはと。〔杜甫、題二衡山縣文宣王廟新學堂一詩〕林木在二庭戶一、密幹疊二蒼翠一。〔韓愈、新修滕王閣記〕陽開陰閉、令レ修二於庭戶一。〔方干、新秋獨夜寄二戴叔倫一詩〕遙夜獨不レ臥、寂寥庭戶中。㊁入口。いとぐち。〔陸倕、未レ至二潯陽郡一教〕光武靈臺之籍、較涉二根基一、張華聚土之書、略見二庭戶一。

【庭午】62 テイゴ 日月が正南卽ち中天にある時をいふ。正午。亭午(**1－303**‥20)に同じ。〔項斯、憶二朝陽峰前居一詩〕雪殘猿到レ閣、庭午鶴離レ松。〔孫覿、華亭朱師實中大燕超堂詩〕高臥水國秋、靜憩月庭午。

【庭梧】63 テイゴ 庭のあをぎり。〔敬括、豫章賦〕門柳不レ可レ齊レ華、庭梧不レ能二獨秀一。

【庭壼】64 テイコン 宮中をいふ。〔宋史、樂志十六〕金穰壽而康、庭壼樂無レ疆。

【庭莎】65 テイサ 庭のはますげ。〔元稹、遣レ病詩〕庭莎病看レ長、林果閑知レ數。

【庭鎖】66 テイサ 庭がとざされてゐる。〔薛能、秋夜旅舍寓レ懷詩〕庭鎖荒蕪獨夜吟、西風吹動故山心。

【庭座】67 ニハザ 庭に設けた座席。〔江次第、十、賀茂臨時祭〕使渡二次人一、後拔レ笏起レ座、又揖被レ著二庭座一。

【庭際】68 テイサイ 庭さき。〔後漢書、何敞傳〕異鳥翔二於殿屋一、怪草生二於庭際一。〔陸機、晉平西將軍孝侯周處碑〕墳前之樹、染淚先枯、庭際之禽、聞レ悲乃下。〔謝朓、郡內高齋閑望答二呂法曹一詩〕窗中列二遠岫一、庭際俯二喬林一。〔柳宗元、田家詩〕庭際秋蟲鳴、疎麻方寂歷。

【庭爭】69 テイサウ 朝廷で君主と爭ひ諫める。臣下同士が爭ふ。廷爭。〔史記、公孫弘傳〕每二朝會議一、開二陳其端一、令二人主自擇一、不二肯面折庭爭一。〔蜀志、張翼傳〕維議二復出一レ軍、唯翼廷爭、以爲二國小民勞、不一レ宜レ黷レ武。〔嵆康、釋私論〕王陵庭爭、而陳平順レ旨。〔潘岳、世祖武皇帝誄〕腹心庭爭、爪牙疑沮。

【庭草】70 テイサウ 庭の草。〔張協、雜詩〕房櫳無二行跡一、庭草萋以綠。〔宋書、孔淳之傳〕會稽太守謝方明、苦要レ入レ郡、終不レ肯レ往、茅屋蓬戶、庭草蕪徑、惟牀上有二數卷書一。〔李嘉祐、春日憶レ家詩〕空餘庭草色、日日伴愁襟。〔劉禹錫、送下周使君罷二渝州一歸中郢中別墅上詩〕池荷雨後衣香起、庭草春深綬帶長。〔羅隱、城西作詩〕野禽鳴聒レ耳、庭草綠侵レ階。

〖庭草無レ人隨レ意綠〗71 テイサウヒトナクイニシタガツテミドリナリ 庭前の草の繁茂に委せるをいふ。隋の王胄の詩句。〔隋唐嘉話〕煬帝爲二燕歌行一、文士皆和、著作郎王胄、獨不レ下レ帝、帝每銜レ之、胄竟坐レ此見レ害、而誦二其警句一曰、庭草無レ人隨レ意綠、復能作二此語一邪。〔漁隱叢話〕古今詩人、以レ詩名レ世者、或只一句、或只一聯、夫豈在レ多哉、如二庭草無レ人隨レ意綠一、則王胄也。

【庭霜】72 テイサウ 庭のしも。〔王維、賦三得淸如二玉壺冰一詩〕氣似二庭霜積一、光言二砌月餘一。〔白居易、寄二庾侍郎一詩〕庭霜封二石稜一、池雪印二鶴跡一。〔方夔、早行詩〕開レ門半山月、立レ馬一庭霜。

【庭作】73 ニハヅクリ 庭の樹木・泉石などを作ること。又、其の職人。

【庭參】74 テイサン 屬吏が長官に初見する時の儀禮。文官は北面跪拜して、長官は立つて受け、武官は北面跪叩して、自ら銜名を宣べ、長官は坐して受ける。庭趨。〔宋史、鄭剛中傳〕都統每二入

謁一、必庭參、然後就レ坐。〔福惠全書、保甲部、功罪賞罰〕不レ准下入二保長班一庭參上。

【庭子】75（ニハコ） 農家で、奴婢が夫婦となつて生んだ子が、兩親に引きつづき其の家に仕へるもの。

【庭氏】76（テイシ） 周官の名。秋官の屬。夭鳥を射るを掌る。〔周禮、秋官、庭氏〕掌レ射二國中之夭鳥一、若不レ見二其鳥獸一、則以三救レ日之弓與二救レ月之矢一射レ之。

【庭戺】77（テイシ） 庭のみぎり。〔玉堂雜記、御製詩〕都護萬年觴、何當レ至二庭戺一。

【庭枝】78（テイシ） 庭の木のえだ。〔張喬、贈二初上人一詩〕井氣春來歇、庭枝雪後低。

【庭芷】79（テイシ） 清、呂耀斗（**2**－**3386**··166）の字。

【庭師】80（ニハシ） 庭作の人。

【庭州】81（テイシウ） 州の名。唐、置く。漢代、車師後王の朝廷の地。故治は今、新疆省迪化縣。〔廣韻〕庭、亦州名、卽漢車師後王庭之地、本烏孫國土也、其前王庭卽交河縣是也。〔唐書、地理志四〕庭州貞觀十四年置、長安二年、爲二北庭都護府一。

【庭秀】82（テイシウ） 明、梁蘭（**6**－**14825**··192）の字。

【庭秋】83（テイシウ） 庭の秋色。〔羅隱、寄二徵士魏員外一詩〕窗曉雞譚倦、庭秋蝶夢闌。

【庭楸】84（テイシウ） 庭のひさぎ。〔韓愈、庭楸詩〕庭楸止五株、共生十步間。

【庭獸】85（テイジウ） 庭のけもの。〔李紳、趨二翰苑一遭二誣構一詩〕庭獸方呈レ角、階蓂始效レ莩。

【庭質】86（テイシツ） 庭中につらねた貢物。〔福惠全書、刑名部、問擬〕庭質之時、又稱受二世偉地一頃五十畝、銀三十兩一。

【庭實】87（テイジツ） ❶庭一ぱいに陳列せられたみつぎ物。〔儀禮、聘禮〕習レ享、士執二庭實一。〔禮、郊特牲〕庭實私覿、何爲二乎諸侯之庭一。〔後漢書、班固傳下〕於レ是庭實千品。❷宋、宋旅（**3**－**7078**··211）の字。

〖庭實旅百〗88（テイジツリヨヒヤク） 庭中に陳ねた物品の多いことをいふ。旅百とは百品をつらねること。〔左氏、莊、二十二〕庭實旅百、奉レ之以二玉帛一、天地之美具焉。〔注〕旅、陳也、百、言二物備一。〔左氏、僖、二十二〕九獻、庭實旅百、加二籩豆六品一。〔注〕庭中所レ陳品數百也。〔左氏、宣、十四〕小國之免二於大國一也、聘而獻レ物、於レ是乎有二庭實旅百一。

【庭舍】89 tʻing^{2} shê^{4} 家屋。建物。

【庭章】90（テイシヤウ） 明、過儀（**11**－**39002**··37）の字。

【庭牆】91（テイシヤウ） 庭の土塀。〔左氏、定、四〕申包胥如レ秦乞レ師、云云、立依二於庭牆一而哭、日夜不レ絶レ聲、勺飮不レ入レ口七日。

【庭上】92（テイジヤウ） ❶庭さき。〔漢書、王尊傳〕尊於レ是出坐二庭上一、取二不孝子一、縣磔著レ樹。〔曹植、贈二丁儀一詩〕初秋涼氣發、庭上微銷落。❷（ニハアゲ） 農家で行ふ稻の刈りをさめの祝。

【庭樹】93（テイジユ） 庭に植ゑた樹木。〔陶潛、祭二從弟敬遠一文〕庭樹如レ故、齋宇廓然。〔宋書、樂志四〕黃雀應二清化一、翔集何翩翩、和鳴棲二庭樹一、徘徊雲日間。〔謝莊、宋孝武宣貴妃誄〕庭樹驚兮中帷響、金釭曖兮玉座寒。〔岑參、山房春事詩〕庭樹不レ知人去盡、春來還發舊時花。〔劉禹錫、秋風引〕朝來入二庭樹一、孤客最先聞。〔劉滄、旅館書レ懷詩〕忽看庭樹換二風煙一、兄弟飄零寄二海邊一。

【庭如】94（テイジヨ） 清、顧嘉穎（**12**－**43689**··229）の字。

【庭序】95（テイジヨ） 庭と牆。序は東西の牆。〔夏侯湛、東方朔畫贊〕周二旋祠宇一、庭序荒蕪。〔注〕善曰、爾雅曰、東西牆謂二之序一。

【庭訟】96（テイシヨウ） 役所へのうつたへ。〔宋史、錢勰傳〕復知二開封一、臨レ事益精、蘇軾乘二其据案一、時遺二之詩一、勰操レ筆立就、以報レ軾曰、電二埽庭訟一、響二答詩筒一、近所レ未レ見也。

【庭色】97（テイシヨク） 庭の景色。〔鄭谷、題二莊嚴寺休公院一詩〕秋深庭色好、紅葉閒二青松一。

【庭植】98（テイシヨク） 宋、董槐（**9**－**31433**··54）の字。

【庭辱】99（テイジヨク） 公衆の前で辱しめること。廷辱（**4**－**9571**··94）に同じ。

【庭心】100（テイシン） 庭の中心。〔儲光羲、薔薇詩〕一莖秀當二庭心一、數枝分作滿二庭陰一。

【庭訊】101（テイジン） 法廷でしらべる。〔福惠全書、刑名部、姦情、鞫姦〕庭訊之下、雖レ未二便明言一云云。

【庭陬】102（テイスウ） 庭のすみ。陬は隅。〔蔡邕、翠鳥詩〕庭陬有二若榴一、綠葉含二丹榮一。

【庭趨】103（テイスウ） 庭參（74）に同じ。〔宋史、李全傳上〕全上謁、賓贊戒レ全曰、節使當二庭趨一、制使必免レ禮、及二庭趨一、國端坐二納全一、拜不レ爲レ止、全退怒曰、庭參立常禮、全歸二本朝一拜レ人多矣、但恨汝非二文臣一、本與レ我等、汝向以二惟西都統一謁二賈制帥一、亦免二汝拜一、汝有二何勛業一、一旦位二我上一、便不二相假借一邪。

【庭砌】104（テイセイ） 庭のいしだたみ。〔常達、山居詩〕日明庭砌暖、霜苦藥苗衰。〔孟郊、喜與二長文上人一宿二李秀才小山池亭一詩〕燈盡語不レ盡、主人庭砌幽。〔李咸用、庭竹詩〕嫩綠與二老碧一、森然庭砌中。

【庭小】105（テイセウ） 庭が小さい。〔左氏、昭、十八〕鄭子產爲レ火故大爲レ社、祓二禳于四方一、振二除火災一、禮也、乃簡レ兵大蒐、將二爲レ蒐除一、子大叔之廟、在二道南一、其寢在二道北一、其庭小、過レ期三日、使三除徒陳二於道南廟北一。

【庭照】106（テイセウ） 庭が光りかがやく。〔庾信、周冠軍公夫人烏石蘭氏墓誌銘〕玉生庭照、蘭開室香。

【庭韶】107（テイセウ） 明、茅鏞（**9**－**30836**··96）の字。

【庭石】108（テイセキ） 庭の石。にはいし。〔唐語林、一、文學〕楊京兆兄弟皆能レ文、爲レ學甚苦、或同賦二一篇一、共坐二庭石一、霜積二襟袖一、課成乃已。

〖庭石傳〗109（ニハイシヅタヒ） 庭石をつたひゆくこと。

【庭碩】110（テイセキ） 清、張愉曾（**4**－**9812**··1556）の字。

【庭雪】111（テイセツ） 庭のゆき。〔姚合、早春閑居詩〕驚風起二庭雪一、寒雨長二檐澌一。〔薛能、早春歸二山中舊居一詩〕猨跡破二庭雪一、鼠蹤生二甑塵一。

【庭仙】112（テイセン） 清、張道浚（**4**－**9812**··1334）の字。

【庭泉】113（テイセン） 庭のいづみ。〔皮日休、所レ居首夏水木尤清詩〕潮期暗動庭泉碧、梅信微侵地障紅。

【庭塼】114（テイセン） 庭のしきかはら。〔宋史、張九成傳〕謫二居南安軍一、在二南安一十四年、每執レ書就レ明、倚二立庭塼一、歲久雙趺隱然。

【庭蟾】115（テイセン） 庭のひきがへる。〔陸龜蒙、秋日遣レ懷十六韻寄二道侶一詩〕蠹根延二穴蟻一、疎葉漏二庭蟾一。

【庭霰】116（テイセン） 庭に降るあられ。〔宋之問、苑中遇レ雪應制詩〕不レ知庭霰今朝落、疑是林花昨夜開。

【庭前】117（テイゼン） 庭さき。には。前栽。〔傅咸、神泉賦序〕余所レ居庭前有二湧泉一。〔晉書、曹毘傳〕流二玉醴乎華闥一、秀二朱草於庭前一。〔杜甫、丹青引〕玉花卻在二御榻上一、榻上庭前屹相向。

〖庭前爆竹〗118（テイゼンバクチク） 庭前で爆竹すること。正月一日の儀式。〔荊楚歲時記〕正月一日、鷄鳴而起、先於二庭前一爆竹、以辟二山臊惡鬼一。〔注〕案、神異經云、西方山中有レ人焉、其長尺餘、一足、性不レ畏レ人、犯レ之則令二人寒熱一、名曰二山臊一、以レ竹著二火中一、烞熚有レ聲、而山臊驚憚。

【庭蔬】119（テイソ） 庭の野菜。〔杜甫、登レ舟將レ適二漢陽一詩〕庭蔬尚在レ眼、浦浪已吹レ衣。

【庭苔】120（ニハゴケ） 庭に生えたこけ。

【庭臺】121（テイダイ） 庭のうてな。〔劉禹錫、尉遲郎中見レ示下自二南遷一牽復卻至二洛城東舊居一之作上因以和レ之詩〕竹含二天籟一清商樂、水遶二庭臺一碧玉環。

【庭堂】122（テイダウ） おもてざしきの前の庭。〔益部方物略記、一、瑞草〕翠蔓紺茗、回繚可レ喜、蒔二之庭堂一、珍以爲レ瑞。

【庭竹】123（テイチク） 庭に植ゑた竹。〔李頎、裴尹東溪別業詩〕庭竹垂二臥內一、村煙隔二南阜一。〔元稹、會眞詩〕龍吹過二庭竹一、鸞歌拂二井桐一。

【庭長】124（テイチヤウ） ❶官名。司正をいふ。〔禮、投壺〕司射庭長及冠士立者、皆屬二賓黨一。〔注〕庭長、司正也。〔疏〕案、鄉飮酒、將レ旅之時、使相爲二司正一、在二庭中一立二於觶南一、北面察二飮酒不レ如レ儀者一、故知二庭長司正一也。❷ tʻing^{2} chang^{3} 裁判所の部長又は裁判長をいふ。

【庭帳】125（ニハチヤウ） 年貢などを記す帳面。

【庭中】126（テイチユウ） 庭のなか。〔禮、投壺〕籌室中五扶、堂上七扶、庭中九扶。〔左氏、隱、十〕以二王命一討二不庭一。〔注〕下之事レ上、皆成二禮於庭中一。〔史記、叔孫通傳〕謁者治レ禮、引以レ次入二殿門一、庭中陳二車騎步卒一衞レ宮。〔漢書、藝文志〕至二元始中一、徵下天下通二小學一者上以レ百數、各令レ記二字於庭中一。

〖庭中言上〗127（テイチユウゴンジヤウ） 鎌倉時代、訴訟が滯つて決しない時、訴人・論人等が直ちに政所・評定座または引付座の庭中に出頭して訴へること。〔東鑑、二十二、建保四年十月五日〕將軍家令レ聞二諸人庭中言上事一給。

【庭宁】128（テイチヨ） 庭と宁。宁は門と塀との間。〔蜀志、郤正傳〕和鸞未レ調而身在二轅側一、庭宁未レ踐而棟折榱覆。

【庭除】129（テイチヨ） には。除は門と塀との間。〔曹攄、思二友人一詩〕密雲翳二陽景一、霖潦淹二庭除一。〔岑參、觀三楚國寺璋上人寫二一切經一詩〕雨氣濕二衣鉢一、

香煙泛二庭除一。〔李咸用、分題三雪霽望二爐峯一詩〕雪霽上二庭除一、爐峰勢轉孤。〔李紳、憶二東郭居一詩〕笙磬諒諧和、庭除還灑掃。

【庭椿】130（テイチン） 庭の椿木。〔雲仙雜記〕盧攜夢人贈レ句曰、若問二登庸日一、庭椿不レ染レ風、初不レ解二其言一、後數年擕拜レ相、庭下古椿一株、雖二狂風驟雨一、不レ濕不レ搖。

【庭丁】131 tʻing^2 ting^1 裁判所の小使。廷丁。

【庭鳥】132（ニハトリ） 雞のあて字。

〔庭鳥軍〕133（ニハトリイクサ） 遠方で鬨聲をあげるばかりで、近く攻め寄せない軍兵。

【庭內】134（テイナイ） 庭のうち。〔詩、大雅、抑〕夙興夜寐、洒二埽庭內一、維民之章。〔李頎、宴二陳十六樓一詩〕白日落二庭內一、黃花生二澗陰一。

【庭南】135（テイナン） 庭のみなみ。〔儀禮、少牢饋食禮〕宗人奉レ槃、東二面於庭南一。〔李商隱、深樹見二一顆櫻桃尚在一詩〕高桃留二晚實一、尋得小庭南。

【庭梅】136（テイバイ） 庭のうめ。〔高紹、晦日宴二高氏林亭一詩〕岸柳開二新葉一、庭梅落二早花一。〔孟郊、望遠曲〕行人未レ去植二庭梅一、別來三見庭花開。〔庾敬休、春雪映二早梅一詩〕清晨凝二雪彩一、新候變二庭梅一。

【庭芳】137（テイハウ） ❶庭のはな。〔方干、牡丹詩〕借問庭芳早晚栽、座中疑展畫屛開。❷元、胡一桂(**9**－**29400**・・398)の字。

【庭舞】138（テイブ） 庭に舞ふ。〔宋書、樂志二〕四縣既序、籥管既擧、堂獻二六瑚一、庭舞二八羽一。

【庭廡】139（テイブ） 庭さき。廡は廊下。〔潘岳、懷舊賦〕步二庭廡一以徘徊、涕泫流而霑レ巾。〔劉禹錫、遊二桃源一一百韻詩〕如何庭廡際、白日振二飛翮一。

【庭蕪】140（テイブ） 庭先の草が繁つて荒れる。〔顏延之、秋胡詩〕寢興日已寒、白露生二庭蕪一。〔白居易、春日閑居三首〕是時三月半、花落庭蕪綠。

【庭風】141（テイフウ） 庭に吹く風。〔李益、春晚賦二得餘花落一詩〕自委不レ勝レ愁、庭風那更起。〔雍陶、和二劉補闕秋園寓興一詩〕庭風吹二故葉一、階露淨二寒莎一。

【庭聞】142（テイブン） ❶清、曾畹(**5**－**14299**・・15)の字。❷清、黃澄(**12**－**47926**・・655)の字。

【庭平】143（テイヘイ） 庭がたひらか。〔詩、小雅、斯干、殖殖其庭、疏〕庭平柱直、處所寬明。

【庭表】144（テイヘウ） 清、黃與堅(**12**－**47926**・・1335)の字。

【庭廟】145（テイベウ） 宮中のみたまや。〔宋書、禮志五〕夫宗社疑レ文、庭廟闕レ典、或上降二制書一、下協二朝議一。

【庭辯】146（テイベン） 朝廷であきらかに辯論する。〔漢書、公孫弘傳〕弘奏レ事有レ不レ可、不三庭二辯之一。〔王先謙補注〕宋祁曰、庭當レ作レ廷。〔宋史、董樞傳〕太祖並召レ之、庭二辯曲直一。

【庭圃】147（テイホ） には。その。〔晉書、許孜傳〕鹿與二猛獸一、擾二其庭圃一。

【庭木】148（テイボク） 庭の樹木。にはき。〔李益、奉下酬二崔員外副使攜レ琴宿二使院一見上レ示詩〕庭木已衰空月亮、城砧自急對レ霜繁。

〔庭木戶〕149（ニハキド） 庭園に設けた木戶。

【庭萬】150（テイマン） 朝庭の樂舞。〔詩、邶風、簡兮〕碩人俁俁、公庭萬舞。〔傳〕萬舞、非三但在二四方一、親在二宗廟朝廷一。〔文心雕龍、樂府〕逮二於晉世一、則傅玄曉レ音、創二定雅歌一、以詠二祖宗一、張華新篇、亦充二庭萬一。〔謝莊、宋宗廟登歌、開封府君歌〕堂獻六瑚、庭萬八羽。

【庭門】151（テイモン） 庭と門。〔淮南子、天文訓〕陰陽刑德有二七舍一、何謂二七舍一、室・堂・庭・門・巷・術・野。

【庭問】152（テイモン） 朝廷で問ふ。天子自ら問ふこと。〔宋史、孫何傳〕擇二將帥一、則莫レ若三文武之內、參二用謀臣一、防二壅閼一、則莫レ若下凡奏二邊防一、陛見庭問上、合二救援一、則莫レ若下督以二軍令一、聽中其便宜上、運二糗糧一、則莫レ若三輕齎疾驅、角二彼趫捷一。

【庭抑】153（テイヨク） 朝廷でおさへつける。廷爭して抑壓する。廷折。〔魏書、源賀傳論〕源賀堂堂、非二徒武節一而已、其翼二戴高宗一、庭二抑禪讓一、殆社稷之臣也。

【庭閾】154（テイヨク） 庭のしきみ。〔林景熙、賓月堂賦〕初流二光於檐楹一、忽散二彩於庭閾一。

【庭蘭】155（テイラン） 明、謝瑾(**10**－**35827**・・52)の字。

【庭立】156（ニハダチ） ❶庭さきに下りたつこと。〔新撰六帖、二〕殿もりのとのゐやつれの庭立に姿かしこき朝ぎよめかな。❷昔、禁中の庭上に立つて、音樂を奏したこと。〔江家次第、六、二孟旬儀〕御幼主之時、無二官奏幷庭立一。

【庭旅】157（テイリヨ） 庭にならべる。庭實旅百(88)を見よ。〔陸機、愍懷太子誄〕庭旅二舊物一、堂有二故臣一。

【庭燎】158（テイレウ） ❶昔、君主の庭中で、夜中參內の諸臣を照らすために焚いた炬火。かがりび。にはび。ゑじの焚く火。〔詩、小雅、庭燎〕夜如何其、夜未レ央、庭燎之光。〔傳〕庭燎、大燭也。〔釋文〕鄭云、在レ地曰レ燎、熱レ之曰レ燭、又云、樹二之門外一曰二大燭一、於レ內曰二庭燎一、皆是照レ衆爲レ明。〔疏〕是天子庭燎用レ百、古制未二得而聞一、要以二物百枚一幷而纏二束之一、今則用二松葦竹一、灌以二脂膏一也。〔周禮、春官、司烜氏〕凡邦之大事、具二墳燭庭燎一。〔注〕墳、大也、樹二於門外一曰二大燭一、於二門內一曰二庭燎一。〔禮、郊特牲〕庭燎之百、由二齊桓公一始也。〔注〕僭二天子一也、庭燎之差、公蓋五十、侯伯子男皆三十。〔左氏、襄、三十一〕諸侯賓至、甸設二庭燎一。〔漢書、王褒傳〕昔周公躬二吐捉之勞一、故有二圄空之隆一、齊桓設二庭燎之禮一、故有二匡合之功一。〔說苑、尊賢〕齊桓公設二庭燎一、爲下士之欲二造見一者上、朞年而士不レ至、於レ是東野鄙人有下以二九九之術一見者上、桓公曰、九九何足二以見一乎、鄙人對曰、臣非下以二九九一爲上レ足二以見一也、臣聞、主君設二庭燎一以待レ士、朞年而士不レ至、夫士之所二以不レ至者、君天下賢君也、四方之士、皆自以二論而不レ及レ君、故不レ至也、夫九九薄能耳、而君猶禮レ之、況賢二於九九一乎。❷詩經、小雅、鴻鴈之什の篇名。周の宣王を褒めた詩。〔詩、小雅、庭燎序〕庭燎美二宣王一也、因以箴レ之。

【庭列】159（テイレツ） 庭につらねる。〔宋書、樂志二〕庭列二宮縣一、陛羅二琴瑟一、翿籥繁會、笙磬諧音。

【庭籠】160（ニハコ） 鳥を飼ふために、庭に据ゑておくかご。

【庭論】161（テイロン） 朝廷で論ずる。又、そのこと。〔史記、灌夫傳〕上怒二內史一曰、公平生數言二魏其武安長短一、今日庭論、局趣效二轅下駒一、吾幷斬二若屬一矣。

【庭和】162（テイワ） 明、冒鸞(**2**－**1538**・・85)の字。

【塡レ庭】163（テイヲウツム） 庭いつぱいになる。〔王褒、四子講德論〕莫レ不二風馳雨集、襲雜並至、塡レ庭溢レ闕。

【庭見草】164（ニハミグサ） ❶萩の異名。❷橘の異名。❸芭蕪の異名。

【庭津鳥】165（ニハツドリ） 雞の古名。〔萬葉集、七〕庭津鳥かけの垂り尾の亂り尾の。

【庭井戶】166（ニハヰド） 庭園內に設けた井戶。

【庭無二留事一】167（テイニリウジナシ） 官廳に事務の停滯してゐるものがない。〔舊唐書、李適之傳〕李適之拜二刑部尚書一、適之雅好二賓友一、飮レ酒一斗不レ亂、夜則宴賞、晝決二公務一、庭無二留事一。

【過レ庭有レ訓】168（テイヲスグルニヲシヘアリ） 孔子が其の子、鯉の趨つて庭を過ぎるのを見て詩や禮の學ぶべきを教へた故事。庭訓(36)を見よ。〔精註雅俗故事讀本、上、祖孫父子〕孔子以二詩禮一傳レ家、過レ庭有レ訓。

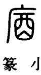
【分レ庭伉禮】169（テイヲワカチカウレイス） 同じ庭內で、席を分ち同等の禮を爲す。〔莊子、漁父〕萬乘之主、千乘之君、見二夫子一、未三嘗不二分レ庭伉禮一。〔疏〕伉、對也、分二處庭中一相對、設二禮位一望、相三似無二階降一也。

【庮】9338

一 イウ ユ 〔集韻〕以九切 有

二 イウ ユ 〔集韻〕夷周切 尤

三 イウ ユ 〔集韻〕余救切 宥



小篆

一二三 ❶**古い家の朽ちた木。又、其の臭。**〔說文〕庮、久屋朽木、从レ广酉聲、周禮曰、牛夜鳴則庮、臭如二朽木一。〔段注〕久屋而後有二朽木一。〔周禮、天官、內饔〕牛夜鳴則庮。〔注〕庮、朽木臭也。❷**のきづけ。**〔集韻〕庮、簷槐謂二之庮一。❸或は⿸广卣(**4**－**9331**)に作る。〔集韻〕庮、或从レ卣。

【⿸广弄】9339

ロウ ル 〔集韻〕盧貢切 送

❶**おほひ。**庰屛。〔廣韻〕⿸广弄、庰屛。❷**いへ。**〔集韻〕⿸广弄、廈也。

【庯】9340

ホ フ 〔集韻〕奔模切 虞

庯庩は、いへの平かでないこと。〔集韻〕庩、庯庩、屋不レ平也。

【庯峭】1 ホセウ 人の手本となる者。又、屋勢の曲折あるもの。波峭。〔湘煙錄〕北齊魏收謂、庯峭難レ爲、齊魏間以三人之有二儀矩可レ喜者一、則謂二之庯峭一、今造屋勢有二曲折一者、曰二庯峭一、俗又轉語爲二波峭一。

【𢇲】9341 ソウ 𢋈(4－9450)の本字。〔正字通〕𢇲、𢋈本字。

【庘】9342 カフ ゲフ 〔集韻〕轄甲切 洽 虎が物をうつことを習ふさま。〔集韻〕庘、虎習レ搏皃。

【𢇢】9343 テン 廛(4－9483)に同じ。〔集韻〕廛、或作レ𢇢。

【𢇛】9344 シン 親(10－34918)の古字。〔篇海〕𢇛、古文親字。

【𢇜】9345 音義未詳 〔字彙補〕音未詳。〔山海經、中山經〕又東三百里曰二葱聾之山一、無二草木一、多二𢇜石一。〔注〕未レ詳。

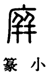
【𢇞】9346 イウ 庮(4－9331)の譌字。〔字彙補〕𢇞、音由、屋久木也、疑卽庮字之譌。

【𢇙】9347 シン 義未詳。〔篇海類編〕𢇙、音身。

【𢇟】9348 セウ 痟(7－22208)の譌字。〔篇海類編〕音消、揚雄蜀都賦、味蠲二𢇟厲一。〔康熙字典〕𢇟、按、揚賦本作レ痟。

八畫

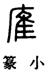
【庰】9349 ［一］ヘイ ヒヤウ 〔集韻〕必郢切 梗 ［二］ヘイ ビヤウ 〔集韻〕毗正切 敬 ［三］ヘイ ビヤウ 〔集韻〕步定切 徑


小篆

［一］［二］［三］❶**おほひ。おほふ。**〔說文〕庰、蔽也、从レ广幷聲。〔集韻〕庰、一曰、覆也。〔六書故〕庰、門閒屛蔽者、所謂塞門也。❷**をさめる。**〔廣雅、釋詁四〕庰、藏也。❸**かくれ家。**〔說文通訓定聲〕庰、謂二隱蔽無レ人之所一也、思玄賦、坐二太陰之庰室一兮。❹**かはや。**〔廣雅、釋宮〕庰、廁也。❺或は帡(4－8879)に作る。〔集韻〕庰、或从レ巾。❻屛(4－7734)に通ず。〔張衡、思玄賦、坐二太陰之庰室一兮、注〕善曰、屛、與レ庰古字通。❼偋(1－1053)に同じ。〔廣韻〕庰、同レ偋。

【𢈀】9350 ソウ 〔海篇〕音總 董 **屋中の舍。**〔海篇〕𢈀、屋中舍。

【㢈】9351 タイ ツイ 〔集韻〕都回切 灰


小篆

❶**家がかたむく。**くづれる。〔說文〕㢈、屋從レ上傾レ下也、从レ广隹聲。❷或は𢉴(4－9362)・庴(4－9314)に作る。〔集韻〕㢈、或作二𢉴・庴一。❸堆(3－5211)に同じ。〔集韻〕堆、聚土、或作レ㢈。

【𢇇】9352 ［一］タ ダ 〔集韻〕直加切 麻 ［二］タク チヤク 〔集韻〕陟格切 陌

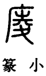
小篆

［一］［二］❶**屋を開き張る。又、縣名。**〔說文〕𢇇、開二張屋一也、从レ广乇聲、濟陰有二𢇇縣一。❷拓(5－11958)に通ず。〔說文通訓定聲〕𢇇、今開𢇇字、以レ拓爲レ之。

【𢇽】9353 ケイ キヤウ 〔集韻〕居卿切 庚 **くら。**〔廣雅、釋宮〕𢇽、倉也。

【𢇻】9354 ［一］アイ エ 〔集韻〕倚蟹切 蟹 ［二］イ 〔類篇〕隱綺切 紙 ［一］**坐して倚りかかるさま。**又、躸(10－38101)に作る。〔廣韻〕𢇻、坐倚皃、又作レ躸。［二］**たな。**とだな。〔玉篇〕𢇻、庋也。

【𢈌】9355 ［一］チヨウ 〔集韻〕丑拯切 迥 ［二］チヨウ 〔集韻〕丑升切 蒸 ［三］リヨウ 〔集韻〕閭承切 蒸


小篆

［一］［二］［三］**地名。一說に、亭の名。**江蘇省武進縣の西。晉の咸和三年、蘇峻の亂の時、郗鑒、丹徒を守つて、𢈌亭壘を築く。〔說文新附〕𢈌、地名、从レ广、未レ詳。〔玉篇〕𢈌、亭名、在二吾志一。〔吳志、孫權傳〕(建安)二十三年十月、權將レ如レ吳、親乘レ馬、射二虎於𢈌亭一。〔元和郡國志〕𢈌亭、在二丹陽縣東四十七里一。

【𢈃】9356 キヤウ カウ 〔篇韻〕驅羊切 陽 **空谷のさま。**〔篇韻〕𢈃、空谷貌。

【庲】9357 ライ 〔集韻〕郎才切 灰 ❶**いへ。**〔廣雅、釋宮〕庲、舍也。❷長庲は齊のうてなの名。〔集韻〕庲、一曰、長庲、齊臺名。❸庲降は地名。雲南省曲靖縣の境。〔集韻〕庲、庲降、蜀地名。〔蜀志、李恢傳〕章武元年、庲降都督鄧方卒。

【㢒】9358 ［一］イ 〔類篇〕西字切 寘 ［二］シ 〔海篇〕音斯 ［一］**よこしま。**〔類篇〕㢒、邪也。［二］㢒祈は地名。〔海篇〕㢒祈、地名。

【庳】9359 ［一］ヒ ビ 〔集韻〕部弭切 ㄅㄧˋ pi⁴ 紙 ［二］ヒ ビ 〔集韻〕頻彌切 支 ［三］ヒ ビ 〔集韻〕毗至切 寘

小篆

［一］❶**中央のひくいいへ。**〔說文〕庳、中伏舍、从レ广卑聲、或讀若レ逋。〔段注〕謂下高二其兩旁一而中低伏之舍上也。❷**いへがひくい。**〔說文〕庳、一曰、屋卑。〔左氏、襄、三十一〕宮室卑庳。❸通じて埤(3－5167)に作る。〔集韻〕庳、通作レ埤。❹**ならぶ。**〔周禮、夏官、司弓矢〕恒矢・庳矢、用二諸散射一。〔注〕恒矢、安居之矢也、庳矢象レ焉、二者皆可二以散射一也、謂二禮射及習射一也、前後訂二其行平一也、云云、恒矢之屬、軒輖中、所謂志也、云云、庳、讀如二痺病之痺一、

庳之言、倫比。〖二〗❶ひくい。卑(2－2738)に通ず。〔集韻〕庳、下也。〔正字通〕庳、與レ卑通。〔史記、循吏、孫叔敖傳〕楚民俗好二庳車一。〔注〕索隱曰、庳、下也。❷低い土地。池澤。〔國語、周語下〕墮レ高堙レ庳。〔注〕庳、謂二池澤一。❸くだる。〔法言、孝至〕庳則秦・儀・鞅・斯、亦忠嘉矣。〔注〕卑、下也。❹みじかい。蜱(8－25794)に通ず。〔說文通訓定聲〕庳、段借爲レ蜱。〔周禮、地官、大司徒〕其民豐肉而庳。〔注〕庳、猶レ短也。❺あつまる。鞞(5－14325)に通ず。〔說文通訓定聲〕庳、段借爲レ鞞。〔太玄經、增〕澤庳其容。〔注〕庳、衆水所レ湊也。❻たすける。毗(6－16752)に通ず。〔說文通訓定聲〕庳、段借爲レ毗。〔荀子、宥坐〕天子是庳。〔注〕庳、讀爲レ毗。❼埤(3－5167)に通ず。〔潘岳、射雉賦〕不レ高不レ埤、注〕善曰、埤、與レ庳古字通。❽うずらの雌。〔集韻〕庳、一曰、鶉牝名。❾姓。〔萬姓統譜〕庳、見二姓苑一。〖三〗❶有庳は國の名。或は卑(2－2738)に作り、通じて鼻(12－48498)に作る。〔集韻〕庳、有庳、國名、象レ所レ封、或作レ卑、通作レ鼻。❷低い家。〔集韻〕庳、下舍也。

【庳下】1 カヒ　低くさがる。卑下(2－2738‥9)に同じ。〔大戴禮、勸學〕孔子曰、夫水者、其流行庳下倨句、皆循二其理一似レ義。〔魏志、文昭甄皇后傳〕后舊陵庳下、十二月、改葬二朝陽陵一。

【庳車】2 ヒシヤ　低い車。〔史記、循吏、孫叔敖傳〕楚民俗好二庳車一。〔注〕索隱曰、庳、下也。

【庳淺】3 ヒセン　低く淺い。〔國史略、正親町天皇〕寺庳淺而无レ備。

【庳側】4 ヒソク　低くてかたよる。〔柳宗元、嶺南節度使饗軍堂記〕隅奥庳側、庭廡下陋。

【庳短】5 ヒタン　短かい。〔周禮、地官、大司徒〕其民豐肉而庳、注〕庳、猶レ短也。

【⿸广畀】9360　ヒ　庳(4－9359)に同じ。〔韻會〕⿸广畀、同レ庳。

【⿸广念】9361　デフ ネフ　〔集韻〕諾叶切　葉　おす。〔玉篇〕⿸广念、壓也。

【⿸广阜】9362　タイ　⿸广隹(4－9351)に同じ。〔集韻〕⿸广隹、或作レ⿸广阜。

【⿸广回】9363　リン　廩(4－9515)の古字。〔集韻〕廩、古作レ⿸广回。

【⿸广疌】9364　セフ ゼフ　〔字彙〕疾葉切　葉　人名。〔字彙〕⿸广疌、人名、衞康叔之後⿸广疌伯。

【⿸广卒】9365　スイ　〔玉篇〕綏醉切　寘　たふれる。〔玉篇〕⿸广卒、顚也。

【⿸广戔】9366　サン ゼン　〔集韻〕仕諫切　諫　瓦の下のしき板。えつり。〔集韻〕⿸广戔、屋笮。

【⿸广昔】9367　〖一〗セキ シヤク　〔集韻〕七迹切　陌　〖二〗シヤク　〔集韻〕七約切　藥　〖一〗〖二〗縣名。〔集韻〕⿸广昔、縣名、在二清河一。〔漢書、地理志上〕清河郡、云云、⿸广昔、莽曰二⿸广昔治一。

參考　厝(2－2961)は別字。〔字彙、辨似〕二字相似、⿸广昔、與レ措同、厝、音籍、漢陵寢名。

【⿸广侈】9368　シ　〔集韻〕敞尒切　紙

小篆

❶廣い。廣く大きい。〔說文〕⿸广侈、廣也、从レ广侈聲、春秋國語曰、俠レ溝而⿸广侈レ我。〔廣雅、釋詁一〕⿸广侈、大也。〔玉篇〕⿸广侈、廣大也。❷大きい。❸横から擊つ。〔國語、呉語〕將二夾レ溝而⿸广侈レ我。〔注〕旁擊曰レ⿸广侈。〔說文、段注〕旁擊者、開拓自廣之意也。❹或は⿸广多(4－9312)に作る。〔集韻〕⿸广侈、或省。

【庵】9369　〖一〗アン オン　〔集韻〕烏含切　覃　ㄢ an1　〖二〗アフ オフ　〔集韻〕遏合切　合

〖一〗❶いほ。いほり。〔釋名、釋宮室〕草圓屋曰レ蒲、又謂二之庵一、庵、奄也、所二以自覆奄一也。〔玉篇〕庵、廁也。〔廣韻〕庵、小草舍也。〔南齊書、竟陵王子良傳〕編レ草結レ庵、不レ違二涼暑一。〔周伯琦、答二見心長老一詩〕蒲庵上士坐忘レ年。❷僧尼の小舍。〔辭海〕今僧尼奉レ佛之小舍、皆謂二之庵一。❸いへ。〔廣雅、釋宮〕庵、舍也。❹雅號にそへる稱呼。〔宋史、李衡傳〕號曰二樂庵一。❺かくれる。奄(3－5881)に通ず。〔字彙補〕庵、與レ奄同、漢衡府君碑、庵離寢疾。❻或は菴(9－31227)に作る。〔集韻〕庵、或从レ艸。❼古は葊(9－31721)に作る。〔正字通〕奄、古作レ葊、隋唐以來、皆作レ庵。〖二〗❶ひくい。〔廣韻〕庵、低也。❷ぶたごや。〔集韻〕庵、豕屋。

參考　熟語は菴(9－31227)の字を見よ。

【庵我】1 エンガ　丹波國の地名。

【庵居】2 アンキヨ　いほりずまひ。〔陸游、詩〕庵居渾似二罷レ參僧一。

【庵原】3 イハラ イホハラ　駿河國の郡名。

【庵寺】4 アンデラ　もと僧と尼との住する寺であったのが、後には多く尼寺の稱となる。

【庵室】5 アンシツ　いほり。僧の住居。〔和名抄、居處、屋宅類〕庵室、唐韻云、庵、小草舍也。

【庵主】6 アンシユ　❶いほりをかまへて居る僧。〔庭訓往來、十月〕且過之庵、山主、庵主、沙彌。〔臥雲日件錄拔尤〕(文安三年)十月十二日、云云、定水庵主、携下胡餅號二唐山水一者上來。❷庵のあるじ。❸ジユアン　あま。尼。比丘尼。

【庵堂】7 an1 t'ang2　尼寺。佛堂。

【庵裏】8 アンリ　いほりのうち。草舍の中。〔白居易、山中與二元九書一因題二書後一詩〕今夜封レ書在二何處一、廬山奄裏曉燈前。

【庵廬】9 アンリヨ　いほり。菴廬(9－31227‥10)を見よ。

【庵看板】10 イホリカンバン　劇場の前に掲げる看板の一。木札の上に、屋根形を作り、一座の主なる俳優の名を書いたもの。

【⿸广取】9370　ソウ ス　〔玉篇〕七侯切　尤　物の崩れる聲。〔玉篇〕⿸广取、崩聲。

【⿸广或】9371　ワク　或(5－11563)の古字。〔玉篇〕⿸广或、古文或字。

【⿸广雨】9372　ロウ　漏(7－18120)に同じ。〔字彙〕⿸广雨、同レ漏。

【庶】9373　〖一〗シヨ　〔集韻〕商署切　御　ㄕㄨˋ shu4　〖二〗シヨ　〔集韻〕賞呂切　語　〖三〗セキ シヤク　〔韻補〕之石切　陌

庻 小篆 🈩❶**おほい。ゆたか。**庻(4—9374)に同じ。〔正字通〕庶、說文庻。〔說文〕庻、屋下衆也、从二广炗一、炗、古文光字。〔爾雅、釋詁〕庶、衆也。〔爾雅、釋言〕庶、侈也。〔孫注〕庶、豐多也。〔詩、大雅、卷阿〕既庶且多。〔箋〕庶、衆也。〔詩、小雅、小明〕我事孔庶。〔箋〕庶、衆也。❷**肥える。**〔詩、小雅、楚茨〕爲レ豆孔庶。〔箋〕庶、⿰月多也。❸**もろもろ。**㋑いろいろ。さまざま。〔國語、鄭語〕以品二處庶類一者也。〔注〕庶、衆也。〔太玄經、玄圖〕閎二入庶物一。〔注〕庶、衆也。〔後漢書、班彪傳下〕庶類混成。〔注〕庶類、萬物也。㋺もろびと。民草。〔書、大禹謨〕惟茲臣庶。〔詩、大雅、生民〕庶無二罪悔一。〔後漢書、崔駰傳〕黎庶愷以鼓舞。❹**位のない人。**〔左氏、昭、三十二〕三后之姓、于レ今爲レ庶。〔杜甫、贈二曹將軍霸一詩〕將軍魏武之子孫、于レ今爲レ庶爲二清門一。❺**めかけばら。** 妾出。〔釋名、釋親屬〕庶、摭也、拾二摭之一也、謂下拾二摭微陋一待中遇之上也。〔正字通〕庶、嫡庶、妾所レ出曰二庶子一。〔左氏、文、十八〕殺レ適立レ庶。❻**分家。 支族。**〔漢書、吳芮傳贊〕傳レ號五世、慶流二支庶一。❼**賤しい。**〔晉書、吳隱之傳〕勤苦同二于貧庶一。〔宋書、恩幸傳論〕自レ此以還、遂成二卑庶一。❽**こひねがふ。こひねがはくは。**度(4—9313)・慮(4—11132)・覬(10—34945)に通ず。〔說文通訓定聲〕庶、叚借爲レ度、爲レ慮、爲レ覬。〔爾雅、釋言〕庶、幸也。〔注〕庶幾、僥倖也。〔詩、檜風、素冠〕庶見二素冠一兮。〔傳〕庶、幸也。〔傅咸、贈二何劭王濟一詩〕斯榮非レ攸レ庶。〔注〕善曰、賈逵國語注曰、庶、冀也。❾**ちかい。**〔論語、先進〕回也其庶乎。〔皇疏〕庶、庶幾也。〔淮南子、繆稱訓〕吏聲陽、句吳其庶乎。〔注〕庶、幾也。❿古は⿸厂巫(2—2986)・⿸厂炗(2—3021)に作る。〔集韻〕庶、古作二⿸厂巫・⿸厂炗一。⓫**姓。**〔萬姓統譜〕庶、衞公族子思之出母、庶氏、郕庶其來奔、後亦爲二庶氏一。🈔**のぞく。**毒蟲を驅除する。祛(8—24670)に通ず。〔說文通訓定聲〕庶、叚借爲レ祛。〔集韻〕庶、驅二除毒蟲一之言。〔周禮、秋官、序官、庶氏、注〕庶、讀如二藥煑之煑一、驅二除毒蟲一之言。〔周禮、秋官、翦氏〕凡庶蠱之事。〔注〕庶、除二毒蠱一者。🈪**ひろふ。**〔釋名、釋親屬〕庶、摭也、拾二摭之一也。

名乘 モリ。チカ。モロ。

解字 會意。說文、庻に作る。广と炗との合字。炗は古文、光の字。故に屋下に燭の多く輝く意。古、屋下、燭のあるところに人多く聚まる。故に說文通訓定聲は、屋下の衆なりと訓ずる。それより一般におほいの意となり、又、もろもろの意、民草の意に用ひる。〔說文通訓定聲〕庶、屋下衆也、从二广炗一、會意、炗、古文光字、按、屋下光多也、云云、轉注、爾雅釋詁、庶、衆也。

【庶位】1 ショヰ 多くの官位。衆官。〔書、說命下〕旁招二俊乂一、列二于庶位一。〔傳〕廣招二俊乂一、使レ列二衆官一。

【庶威】2 ショヰ もろもろの威虐を爲すもの。〔書、呂刑〕惟時庶威奪貨、斷二制五刑一、以亂二無辜一。〔傳〕惟是衆爲二威虐一者。

【庶彙】3 ショヰ たみ。人民。又、庶物。庶類(100)に同じ。〔李商隱、爲二安平公一謝レ除二兗海觀察使一表〕陶二鈞庶彙一、亭二毒萬方一。〔宋史、樂志七〕白藏啓レ予、庶彙向レ成。

【庶尤】4 ショイウ もろもろのとがめ。衆人が罪せられること。〔書、呂刑〕惟府二辜功一、報以二庶尤一。〔傳〕其報則以二衆人見一レ罪。

【庶尹】5 ショイン もろもろの役人の長。衆官の長。庶正。〔書、益稷〕庶尹允諧。〔傳〕尹、正也、衆正官之長、信皆和諧。〔蔡傳〕庶尹者、衆百官府之長也。〔漢書、韋賢傳〕庶尹羣后。

【庶殷】6 ショイン 多くの殷人。殷の大衆。〔書、召誥〕太保乃以二庶殷一、攻二位于洛汭一。〔蔡傳〕庶殷、殷之衆庶也。

【庶可】7 ショカ 元、熊復(7—19294··113)の字。

【庶幸】8 ショカウ こひねがふ。〔晉書、武十三王、清河康王遐傳〕今者後宮未レ有二孕育一、不レ可下庶二幸將來一、而虛中天緒上。

【庶卉】9 ショキ 庶草(34)に同じ。〔後漢書、班固傳下〕百穀溱溱、庶卉蕃蕪。〔注〕尙書曰、庶草蕃蕪。

【庶其】10 ショキ 複姓。〔通志、氏族略、以レ名爲レ氏〕庶其氏、郕大夫庶其之後。

【庶姬】11 ショキ めかけ。衆妾。〔張華、女史箴〕女史「司レ箴、敢告二庶姬一。

【庶幾】12 ショキ ❶幾を知るにちかい。〔易、繫辭下〕顏氏之子、其殆庶レ幾乎。〔疏〕其殆庶レ幾乎者、言、聖人知レ幾、顏子亞聖、未レ能レ知レ幾、但殆近庶慕而已。❷近似の辭。ちかし。ちかからん。〔論語、先進〕其庶乎、皇疏〕庶、庶幾也。〔孟子、梁惠王下〕王之好レ樂甚、則齊國其庶幾乎。〔集注〕庶幾、近辭也。〔莊子、天地〕墮二汝形骸一、而庶幾乎。〔疏〕幾、近也、云云、庶二近於道一。❸こひねがふ。こひねがはくは。希望の辭。〔爾雅、釋言〕庶、幸也、注、庶幾、僥倖也。〔詩、小雅、車舝〕雖レ無二旨酒一、式飮庶幾、雖レ無二嘉殽一、式食庶幾。〔中庸〕庶幾夙夜以永終レ譽。〔孟子、公孫丑下〕王庶幾改レ之。〔晏子、問、下〕不二庶幾一、不二要幸一。〔史記、秦始皇紀〕庶幾息二兵革一。〔漢書、李尋傳〕庶幾可下以保二身命一、全二子孫一、安中國家上。〔後漢書、馮衍傳下〕觀二覽乎孔老之論一、庶二幾乎松喬之福一。❹賢人の稱。孔子が顏回を稱した語に本づく。〔論語、先進〕子曰、回也其庶乎、屢空。〔論衡、別通〕孔子之門、講二習五經一、五經皆習、庶幾之才也。〔吳志、張承傳〕凡在二庶幾之流一、無レ不レ造レ門。〔王羲之、祭墓文〕母兄鞠育、得レ漸二庶幾一。〔韓愈、潮州請レ置二鄉校一牒〕今此州戶萬有餘、豈無二庶幾者一邪。

〔庶幾堂今樂】13 ショキダウキンガク 戲曲の篇名。清、余治作。皮黃調の曲本を新作し、四十種を收める。今世に傳はるもの二十八種の多きに達する。

【庶揆】14 ショキ もろもろのつかさ。庶官。庶僚。〔江淹、爲二蕭相國一讓二進レ爵爲レ王第二一表〕包二括庶揆一、總二納儀刑一。

【庶⿺辶幾】15 ショキ 庶幾(12)の❸に同じ。〔漢費鳳別碑〕庶⿺辶幾夙夜。

【庶舊】16 ショキウ 故舊(5—13161··48)に同じ。〔墨子、明鬼下〕庶舊鰥寡、號咷無レ告也。

【庶貨】17 ショクワ もろもろの貨物。多くの貨物。〔沈亞之、淮南都梁山倉記〕擇レ官分レ曹、以推二庶貨一。

【庶官】18 ショクワン もろもろのつかさ。百官。百僚。庶揆。庶僚。〔書、皐陶謨〕無レ曠二庶官一。〔干寶、晉紀總論〕內外混淆、庶官失レ才。

【庶頑】19 ショグワン 多くのかたくなでおろかな者。〔書、益稷〕庶頑讒說。〔傳〕衆頑愚讒說之人。

【庶兄】20 ショケイ 妾腹の兄。〔史記、宋微子世家〕微子開者、殷帝乙之首子、而紂之庶兄也。〔新序、節士〕僚者長子之庶兄也。

〔庶兄弟】21 ショケイテイ ❶多くの兄弟。〔儀禮、士喪禮〕庶兄弟襚、使三人以將二命于室一。〔注〕庶兄弟、卽衆兄弟也。❷妾腹の兄弟。〔國史略、文武天皇〕豈以二庶兄弟一、亂二嫡孫一乎。

【庶桀】22 ショケツ 多くの傲慢な者。〔干寶、晉紀總論〕務伐二英雄一、誅二庶桀一。〔注〕濟曰、桀、傲也、云云、誅二其傲慢一。

【庶孽】23 ショゲツ めかけばら。妾腹の子。〔類書纂要〕庶孽子、衆庶竝庶出之子、非二嫡長一也。〔公羊、襄、二十七〕臣僕庶孽之事也。〔注〕庶孽、衆賤子、猶三樹之有二孽生一。〔戰國、燕策〕及レ至下棄二羣臣一之日上、遺令詔二後嗣一之餘義、執レ政任レ事之臣、所三以能循二法令一、順二庶孽一者、施及二萌隸一、皆可三以敎二於後世一。〔韓非子、難三〕夫分レ勢不レ二、庶孽卑レ寵無レ藉、雖下處二耄老一、晚置中太子上可也。

〔庶孽公子】24 ショゲツノコウシ 妾腹の公子。〔史記、商君傳〕商君者、衞之庶孽公子也。

【庶言】25 ショゲン ❶號令。〔書、立政〕庶言、庶獄、庶愼。〔蔡傳〕庶言、號令也。❷大勢の者の言。衆言。輿論。〔書、君陳〕庶言同則繹。傳、衆言同、則陳而布レ之。

【庶乎】26 チカキカ チカカランカ ちかい。庶幾。〔論語、先進〕回也其庶乎。〔集注〕庶、近也。

【庶蠱】27 ショコ もろもろの毒蟲を驅除すること。〔周禮、秋官、翦氏〕凡庶蠱之事。〔注〕庶除二毒

蠱一者、蠱蠹之類、或熏以二莽草一則去。

【庶功】28 ショコウ 多くの事業。〔淮南子、主術訓〕姦邪滅レ迹、庶功日進。

【庶國】29 ショコク 多くの國。〔書、酒誥〕越庶國飲惟祀。〔傳〕於二所レ治衆國一飲レ酒。〔墨子、天志下〕是以天下之庶國、莫下以二水火毒藥兵刃一以相害上也。

【庶獄】30 ショゴク もろもろの獄訟。〔書、立政〕文王罔レ攸レ兼二于庶言庶獄庶愼一。〔蔡傳〕庶獄、獄訟也。〔晉書、武帝紀〕深二愍黎元一、哀二矜庶獄一。〔潘岳、楊荊州誄〕庶獄明愼、刑辟端詳。

【庶妻】31 ショサイ めかけ。庶妾。〔唐書、王世充傳〕世充祖死、其妻與二霸城人王粲一爲二庶妻一。

【庶齋】32 ショサイ 元、盛如梓(8－23005··216)の號。

【庶齋老學叢談】33 ショサイラウガクソウダン 書名。三卷。元、盛如梓撰。經史を辨論し、詩文を評定し、時に朝野の軼事に及ぶ。〔四庫提要、子、雜家類〕。

【庶草】34 ショサウ 多くの草。庶卉。〔書、洪範〕庶草蕃廡。〔呂覽、功名〕庶草茂、則禽獸歸レ之。〔漢書、王莽傳下〕百穀豐茂、庶草蕃殖。

【庶士】35 ショシ ❶結婚の媒妁人。〔詩、召南、摽有梅〕求レ我庶士、迨二其吉一兮。〔會箋〕庶士、周禮媒氏也。❷多くの人。衆士。〔詩、召南、摽有梅、求レ我庶士、箋〕庶、衆、求二女之當レ嫁者一之衆士。❸官にある人々。〔書、畢命〕茲殷庶士、席レ寵惟舊。〔傳〕此殷衆士。〔書、泰誓〕嗟我友邦冢君、越我御事庶士、明聽レ誓。〔禮、喪大記〕有司庶士哭二于堂下一。〔漢書、王莽傳中〕更二名秩一、百石曰二庶士一。❹軍士・下士をいふ。〔國語、魯語下〕自二庶士一以下、皆衣二其夫一。〔注〕庶士、下士也。〔荀子、正論〕庶士介而夾レ道。〔注〕庶士、軍士也。

【庶子】36 ショシ ❶周官の名。周禮、夏官の諸子に同じ。諸侯卿大夫の庶子に對する其の戒令と教理とを掌る。秦・漢、之に因り、中庶子・庶子員を置き、吳に至つて始めて東宮職と爲る。後世、之に因り、隋、左右庶子に改め、唐代、左右春坊を分掌させ、侍中・中書令に擬し、歷代、之に因り、清末、始めて廢す。〔書、康誥〕不レ率二大戛一、矧惟外庶子訓レ人。〔傳〕況在レ外掌二衆子一之官、主二訓民一者而親犯乎。〔禮、燕義〕古者周天子之官、有二庶子官一、庶子官職二諸侯卿大夫士之庶子之卒一、掌三其戒令與二其教治一、別二其等一、正二其位一。〔注〕庶子、猶二諸子一也、周禮諸子之官、司馬之屬也。〔孫希旦集解〕庶子官、周禮夏官之諸子也、諸庶皆衆也、此官掌二公卿大夫士之子一、因以名二其官一、公卿大夫士適庶之子非レ一、故曰二諸子一、亦曰二庶子一也。〔漢書、百官公卿表上〕太子太傅・少傅、古官、屬官有二太子門大夫・庶子・先馬・舍人一。〔通典、職官、太子庶子〕古者天子有二庶子之官一、職四諸侯卿大夫之庶子、掌三其戒令與二其教理一、有二大事一則帥二國子一而致二於太子一、唯所レ用之、秦因レ之、置二中庶子・庶子員一、漢因レ之、有二遮子員五人一、史丹・王商・歐陽・地餘、並爲二中庶子一、後漢員五人、職如二侍中一、而庶子無レ員、職如二三署中郎一、凡庶子主二宮中幷諸吏之適子及支庶版籍一、魏因レ之、在レ吳爲二親近之官一、晉、中庶子・庶子、各四員、職比二散騎常侍及中書監令一、皆以二儁茂者一爲レ之、或以二郡守一參レ選、云云、宋與レ晉同、云云、至レ齊其庶子用人卑雜、梁天監七年、詔革レ選、其年以二太子中舍人・司徒從事中郎一爲レ之、云云、陳因二梁制一、後魏亦有二中庶子庶子官一、北齊、門下坊、中庶子四人領レ之、典書坊、庶子四人領レ之、隋分爲二左右庶子各二人一、分二統門下・典書二坊事一、大唐亦各二人、分二掌左右春坊事一、龍朔二年、改二左右庶子一爲二左右中護一、咸亨初、復レ舊、左擬二侍中一、而右擬二中書令一。〔事物紀原、特憲儲闈部、庶子〕禮記燕義曰、古者周天子之官有二庶子一、周禮夏官司馬之屬、謂二之諸子一、秦置二中庶子詹事員一、漢因レ之、晉以爲二東宮官一、晉書鄭默爲二中庶子一、朝官以爲二太子官一是也、隋分二左右一、通典曰、品官命數篇、漢有二太子庶子一、魏有二太子中庶子一、則非三晉以爲二東宮官一也。❷妾腹の子。〔禮、內則〕適子庶子、見二於外寢一。〔注〕庶子、妾子也。〔左氏、宣、二〕其庶子爲二公行一、晉於レ是有二公族餘子公行一。〔注〕庶子、妾子也。〔史記、張叔傳〕安丘侯說之庶子也。❸嫡男以外の子をいふ。〔徐灝說文解字注箋〕古者諸侯之世子曰二適子一、餘子、謂二之庶子一、庶猶レ眾也、後世專以二側室所レ生爲二庶子一、古無レ是也。〔儀禮、喪服傳〕庶子不レ得下爲二長子一三年上、不レ繼レ祖也。〔疏〕庶子、妾子之號、適妻所レ生第二者、是衆子、今同名二庶子一、遠別二於長子一、故與二妾子一同號也。❹婚姻關係の無い男女の間に生れた子で、父の認知した私生兒。❺星の名。北極五星の第三星。北極(2－2574··130)を見よ。❻元、陳秀民(11－41698··939)の字。

〖採二庶子之春華一、忘二家丞之秋實一〗37 ショシノシュンクワヲトリ、カジョウノシウジツヲワスル 庶子の文辭に巧なのを愛して、家令の實務に長じ實あるのを忘れる。〔資治通鑑、漢紀〕魏公操擊二孫權一、留二少子臨菑侯植一守レ鄴、操爲二諸子一高二選官屬一、以二邢顒一爲二植家丞一、顒防閑以レ禮、無レ所二屈撓一、由レ是不レ合、庶子劉楨美二於文辭一、植親二愛之一、楨以レ書諫レ植曰、君侯採二庶子之春華一、忘二家丞之秋實一、爲レ上招レ謗、其罪不レ小、愚實懼焉。

【庶氏】38 ショシ 周官の名。秋官の屬。毒蠱を除くことを掌る。〔周禮、秋官、庶氏〕掌レ除二毒蠱一。〔注〕毒蠱、蟲物而病二害人一者。

【庶侈】39 ショシ おほい。衆多。〔國語、楚語上〕不レ羞二珍異一、不レ陳二庶侈一。

【庶事】40 ショジ よろづの事。すべてのこと。〔書、益稷〕股肱良哉、庶事康哉。〔漢書、外戚恩澤侯表序〕庶事草創、日不レ暇レ給。〔資治通鑑、周紀〕(威烈王二十三年)裁二羣物一、制二庶事一。

【庶羞】41 ショシウ もろもろの美味の御馳走。〔儀禮、公食大夫禮〕士羞庶羞。〔注〕羞、進也、庶、眾也、進二眾珍味可レ進者一也。〔胡培翬正義〕云二羞進也一者、此釋二經上羞字一也、郝氏敬云、肴美曰レ羞、品多曰レ庶。〔禮、王制〕庶羞不レ踰レ牲。〔荀子、禮論〕祭齊二大羹一、而飽二庶羞一。〔史記、禮書〕口甘二五味一、爲レ之庶羞酸鹹、以致二其美一。

【庶室】42 shu⁴ shih⁴ 妾。

【庶習】43 ショシフ もろもろの近習。〔書、立政〕乃惟庶習逸德之人。〔蔡傳〕庶習、備二諸衆醜一者也。

【庶常】44 ショジヤウ ❶常事を理めることを掌る衆士。〔書、立政〕太史尹伯、庶常吉士、司徒司馬司空亞旅。〔傳〕衆掌二常事一之善士。❷庶吉士をいふ。庶常館を見よ。

〖庶常館〗45 ショジヤウクワン 學館の名。清、置く。庶吉士を教育する處。庶吉士(106)を見よ。〔淸會典、翰林院〕庶常館教習滿洲一人、漢一人、掌レ教二庶吉士一、提調二人、掌二庶吉士廩餼一。

【庶出】46 shu⁴ ch'u¹ 妾腹の出。

【庶庶】47 ショショ 動物などを逐ひ拂ふ聲。しつしつ。〔通俗編、語辭、庶庶〕周禮秋官有庶氏注曰、驅二除毒蠱一之言、字從レ聲、疏曰、庶、是去之意取レ聲也、按、今凡驅レ物作レ聲曰二庶庶一、其字乃如レ此、正字通以レ嘑爲二驅レ雞聲一謬。

【庶心】48 ショシン ❶多くの人の心。衆心。〔史記、秦始皇紀〕庶心咸服。❷心にこひねがふ。〔任昉、爲二齊明帝一讓二宣城郡公一第一表〕庶レ心弘レ議。

【庶神】49 ショシン 多くの神。諸神。〔國語、齊語〕與二諸侯一飾レ牲爲二載書一、以約二誓於上下庶神一。

【庶愼】50 ショシン もろもろのつつしむべきこと。〔書、立政〕文王罔レ攸レ兼二于庶言庶獄庶愼一。〔蔡傳〕庶愼、國之禁戒儲備也。

【庶人】51 ショジン ❶民の官に在る者をいふ。府史・胥徒の屬。〔書、胤征〕嗇夫馳、庶人走。〔蔡傳〕庶人、庶人之在レ官者。〔儀禮、喪服〕庶人爲二國君一。〔疏〕庶人謂二府史胥徒一、經不レ言レ民而言二庶人一、庶人或有二在レ官者一、據二在レ官者一而言レ之。〔禮、曲禮上〕庶人齕レ之。〔疏〕庶人、府史之屬也。〔禮、王制〕庶人在レ官者、其祿以レ是爲レ差也。〔注〕庶人在レ官、謂二府史之屬一、官長所レ除、不レ命二於天子國君一者。❷一般の人民。平民。庶民。庶氓。〔論語、季氏〕天下有レ道、則庶人不レ議。〔大學〕自二天子一以至二於庶人一、壹是皆以レ修レ身爲レ本。〔孝經、庶人章〕此庶人之孝也。〔國語、周語上〕庶人工商、各守二其業一、以共二其上一。〔莊子、徐無鬼〕庶人有二旦暮之業一則勸。〔荀子、勸學〕君子不レ近、庶人不レ服。〔史記、萬石傳〕贖免爲二庶人一。〔漢書、薛宣傳〕宣坐免爲二庶人一、歸二故郡一卒二於家一。

〖庶人劍〗52 ショジンノケン 一般平民の持つつるぎ。〔莊子、說劍〕有二天子劍一、有二諸侯劍一、有二庶人劍一。

〖庶人風〗53 ショジンノカゼ 庶人の悲慘な生活を風に喩へていふ。庶人之雌風。〔宋玉、風賦〕王曰、善哉論レ事、夫庶人之風、豈可レ聞乎、宋玉對曰、夫庶人之風、塕然起二於窮巷之閒一、堀レ堁揚レ塵、勃鬱煩冤、衝レ孔襲レ門、動二沙堁一、吹二死灰一、駭二溷濁一、揚二腐餘一、邪薄入二甕牖一、至二於室廬一、故其風

中レ人、狀直憿溷鬱邑、毆レ溫致レ濕、中心慘怛、生レ病造レ熱、中レ脣爲レ胗、得レ目爲レ矆、啗齰嗽獲、死生不レ卒、此所謂庶人之雌風也。

〖庶人之憂〗54（ショジンノウレヒ） 一般人民の心配。〔莊子、漁父〕妻妾不レ和、長少無レ序、庶人之憂也。

〖庶人食レ力〗55（ショジンハチカラニハム） 無官の平民は各〻其の力役によつて生計を立てる。〔國語、晉語四〕庶人食レ力、工商食レ官。

〖庶人之雌風〗56（ショジンノシフウ） 雌風は卑惡の風。庶人風を見よ。大王之雄風（**3－5831**・・2410）の對。〔宋玉、風賦〕此所謂庶人之雌風也。〔注〕良曰、雌風、卑惡之風。

〖庶人者水也〗57（ショジンハミヅナリ） 一般人民は、君を舟に喩へるならば、其の舟をのせる水のやうなものである。〔荀子、王制〕君者舟也、庶人者水也。

【庶襚】58（ショスイ） 多くの人が死者を弔して遺る衣服。襚は死者に遺る衣服。〔儀禮、士喪禮〕庶襚繼陳不レ用。〔注〕庶、衆也。

【庶正】59（ショセイ） 衆官の長。庶尹。〔詩、大雅、雲漢〕鞫哉庶正、疚哉冢宰。〔箋〕庶正、衆官之長也。

【庶生】60（ショセイ） 庶民(92)に同じ。〔南齊書、樂志〕神錫懋祉、四緯昭明、仰福二帝徽一、俯齊二庶生一。

【庶姓】61（ショセイ） 王家とは異姓で、親戚でない諸侯。〔詩、小雅、伐木、兄弟無レ遠、疏〕庶姓、與レ王無レ親者。〔左氏、隱、十一〕薛、庶姓也。〔注〕庶姓、非二周之同姓一也。

【庶政】62（ショセイ） もろもろの政事。〔易、賁〕山下有レ火賁、君子以明二庶政一、无二敢折一レ獄。〔書、周官〕庶政惟和。〔列女傳、母儀、魯季敬姜傳〕講二其庶政一。〔後漢書、楊震傳〕留二思庶政一。

〖庶政丕新〗63（ショセイオホイニアラタナリ） もろもろの政事が大いに面目を改めて一新された。〔芳野金陵、新建二新田公祠堂一記〕庶政丕新、墜典擧、廢禮興。

【庶績】64（ショセキ） もろもろの功績。衆多の功業。〔潘岳、西征賦〕讚二庶績於帝室一。

〖庶績咸熙〗65（ショセキミナヒロマル） 政事が能く行き届き、衆功皆廣まるをいふ。〔書、堯典〕允釐二百工一、庶績咸熙。〔傳〕績功、咸皆、熙廣也、云云、衆功皆廣。〔後漢書、邊讓傳〕百揆時敘、庶績咸熙。

【庶妾】66（ショセフ） めかけ。庶妻。〔穆天子傳、六〕宮賢庶妾倍レ之。〔注〕庶妾、衆散妾也。〔晉書、左貴嬪傳〕嗚呼庶妾、感二四時一焉。

【庶族】67（ショゾク） ❶もろもろの氏族。〔北史、魏孝明帝紀〕八月戊戌、宴二道武以來宗室年十五以上於顯陽殿一、申二家人禮一、己亥詔二庶族子弟一、年未二十五一、不レ聽二入仕一。❷庶民。庶人。平民。〔唐書、柳沖傳〕漢高帝興二徒步一有二天下一、命レ官以レ賢、詔レ爵以レ功、誓曰、非二劉氏一王、無レ功侯者、天下共誅レ之、先王公卿之胄、才則用、不才棄レ之、不レ辨三士與二庶族一、然則始尙レ官矣。

【庶屬】68（ショゾク） もろもろの屬官。〔張華、章懷皇后誄〕經二綸庶屬一、積二思萬機一。

【庶孫】69（ショソン） ❶嫡孫以外の孫をいふ。庶孫之婦を見よ。〔史記、晉世家〕成師封二曲沃一、號爲二桓叔一、靖侯庶孫欒賓相二桓叔一。❷庶出の孫をいふ。〔史記、衞將軍驃騎傳〕將軍韓說、弓高侯庶孫也。

〖庶孫之婦〗70（ショソンノフ） 庶孫の妻。〔儀禮、喪服子夏傳〕庶孫之婦。〔疏〕適孫之婦小功、庶孫之婦緦。

【庶男】71（ショダン） 妾腹の男の子。〔史記、齊悼惠王世家〕齊悼惠王劉肥者、高祖長庶男也。

【庶長】72（ショチヤウ） ❶庶出の長子。〔白虎通、姓名〕適長稱レ伯、伯禽是也、庶長稱レ孟、魯大夫孟氏是也。❷爵位の名。秦代、武爵で功勞を賞し、漢、之に因る。第十級を左庶長といひ、第十一級を右庶長といふの類。〔左氏、襄、十一〕秦庶長鮑・庶長武、帥レ師伐レ晉以救レ鄭。〔注〕庶長、秦爵也。〔漢書、百官公卿表上〕爵、一級曰二公士一、二上造、三簪褭、四不更、五大夫、六官大夫、七公大夫、八公乘、九五大夫、十左庶長、十一右庶長、十二左更、十三中更、十四右更、十五少上造、十六大上造、十七駟車庶長、十八大庶長、十九關內侯、二十徹侯。〔注〕師古曰、庶長言レ爲二衆列之長一也。〔後漢書、明帝紀〕其賜二天下男子爵人二級一、〔注〕商鞅爲レ秦制レ爵二十級、云云、十左庶長、十一右庶長、云云、十七駟車庶長、十八大庶長。❸複姓。〔通志、氏族略、以レ爵爲レ氏〕庶長氏、秦爵也、左傳、秦庶長鮑、庶長武、庶長無地。❹組頭の稱。

【庶女】73（ショヂヨ） 平民のをんな。しづのめ。〔江淹、詣二建平王一上書〕庶女告レ天。

〖庶女叫レ天〗74（ショヂヨテンニサケブ） 庶賤の女が天を呼んで寃罪を訴へること。庶女は庶賤の女。〔淮南子、覽冥訓〕庶女叫レ天、雷電下擊、景公臺隕、支體傷折、海水大出。〔注〕庶賤之女、齊之寡婦、無レ子不レ嫁、事レ姑謹敬、姑無レ男有レ女、女利二母財一、令二母嫁一レ婦、婦益不レ肯、女殺レ母以誣二寡婦一、婦不レ能二自明一、寃結叫レ天、天爲作二雷電下擊一。

〖庶女振風〗75（ショヂヨシンプウ） 蒙求の標題。庶賤の女、寡婦となつて姑に事へて謹敬であつたが、姑の娘、母を殺して其の罪を庶女にきせた。庶女は己の無實を明かにする術なく、泣いて天に訴へ、天がそれに感じて風を吹き起した故事。庶女叫天を見よ。

【庶徵】76（ショチヨウ） 書經洪範篇、九疇の一。多くのしるし。人事の得失によつて、天から下されるもろもろの象徵。〔書、洪範〕八、庶徵、曰雨、曰暘、曰燠、曰寒、曰風、曰時。〔疏〕庶、衆也、徵、驗也、將レ說二其驗一、先立二其名一、其名曰レ雨、所三以潤二萬物一也、曰レ暘、所二以乾二萬物一也、曰レ燠、所三以長二萬物一也、曰レ寒、所三以成二萬物一也、曰レ風、所三以動二萬物一也、曰レ時、言四五者各以レ時來、所三以爲二衆事之驗一也。〔蔡傳〕庶徵曰レ念、所二以省驗一也。〔漢書、五行志中之下〕庶徵之恒奧。

【庶弟】77（ショテイ） 妾腹に出來た弟。〔史記、吳王濞傳〕庶弟元王、王二楚四十餘城一。

【庶方】78（ショハウ） 多くの國々。諸方。〔禮、曲禮下〕庶方小侯入二天子之國一、曰二某人一。〔晉書、文帝紀〕弘敷二訓典一、光二澤庶方一。

【庶邦】79（ショハウ） 多くの國々。〔書、酒誥〕厥誥二毖庶邦庶士、越少正御事一。〔書、召誥〕太保乃以二庶邦冢君一、出取レ幣。

【庶萌】80（ショハウ） 庶民をいふ。庶甿。〔宋書、謝靈運傳〕君子橫流、庶萌分析。〔顏延之、三月三日曲水詩序〕思下對二上靈之心一、以惠中庶萌之願上。

【庶甿】81（ショバウ） もろもろの民。庶萌。〔韋應物、縣齋詩〕閑齋始延矚、東作興二庶甿一。

【庶旄】82（ショバウ） 多くのはたのかざり。〔漢書、禮樂志〕金支翠華、庶旄翠旌。〔注〕張晏曰、旄、鍾之旄也、師古曰、庶、衆也、庶旄翠旌、謂下析二五采羽一注二翠旄之首一、而爲中旌耳。

【庶望】83（ショバウ） こひねがひのぞむ。〔後漢書、桓帝紀〕庶望羣吏、惠二我勞民一。

【庶蕃】84（ショバン） 淸、曾燠（**5－14299**・・6）の字。

【庶品】85（ショヒン） いろいろのもの。多くの階級の官人。〔孔子家語、五儀解〕協二庶品之自然一。〔陸倕、拜二吏部郞一表〕銓二衡庶品一、歷二選賓寮一。

【庶府】86（ショフ） 內府の屬をいふ。轉じて、もろもろの役所。又、もろもろの役人。〔書、立政〕左右攜僕、百司庶府。〔蔡傳〕庶府、若二內府之屬一也。

【庶婦】87（ショフ） 嫡長子を除く次男以下の妻をいふ。〔爾雅、釋親〕子之妻爲レ婦、長婦爲二嫡婦一、衆婦爲二庶婦一。〔儀禮、喪服〕庶婦、君母之父母、從母。〔胡培翬正義〕馬氏云、庶子婦也。

【庶物】88（ショブツ） いろいろの物。又、おほくの事柄。諸物。萬物。〔易、乾〕首出二庶物一、萬國咸寧。〔禮、哀公問〕三者正、則庶物從レ之矣。〔孟子、離婁下〕舜明二於庶物一、察二於人倫一。〔漢書、貨殖傳〕蕃二阜庶物一。〔易林〕坤厚地德、庶物蕃息。

〖庶物崇拜〗89（ショブツスウハイ） 超人的な咒力を有し、人間に禍福を來すと信ぜられる庶物を崇拜すること。咒物崇拜。

【庶母】90（ショボ） 父の妾をいふ。〔爾雅、釋親〕父之妾爲二庶母一。〔儀禮、喪服子夏傳〕士爲二庶母一。〔禮、喪服小記〕爲二慈母後一者、爲二庶母一可也。〔朱子全書、禮、喪〕父妾之有レ子者、禮經謂二之庶母一。

【庶味】91（ショミ） いろいろのあぢはひ。〔王禹偁、啄木詩〕如今知二庶味一、恣擇二蟲與一レ粟。

【庶民】92（ショミン） ❶もろもろのたみ。衆庶。百姓。〔書、梓材〕厥庶民暨厥臣。〔詩、大雅、靈臺〕經始勿レ亟、庶民子來。〔禮、大傳〕庶民安、故財用足。〔中庸〕子二庶民一、則百姓勸。〔孟子、離婁下〕人之所三以異二於禽獸一者、幾希、庶民去レ之、君子存レ之。〔注〕衆民去レ義、君子存レ義也。〔集注〕庶、衆也。❷甸師氏の掌るところの民で、王の籍田を耕すもの。〔國語、周語上〕王乃使三司徒咸戒二公卿百吏庶民一。〔注〕庶民、甸師氏所レ掌之民也、主三耕耨二王之籍田一者。

【庶務】93（ショム） いろいろのつとめ。各種の事務。〔任昉、王文憲集序〕明二練庶務一。〔南史、齊宜都王鑑傳〕雖レ未レ經二庶務一、而雅得二人心一。〔隋書、

百官志中〕置二三公三孤一、以爲二論道之官一、次置二六卿一、以分二司庶務一。〔宋史、司馬光傳〕躬親二庶務一。

【庶務係】94（ショムガカリ） 特別の名目のない種々一般の事務に與るもの。

【庶明】95（ショメイ） ❶多くの事理に明かな人。多くの賢人。〔書、皐陶謨〕惇敍二九族一、庶明勵翼、邇可レ遠在レ茲。〔傳〕衆庶皆明二其教一、而自勉勵。❷明、袁均哲（**10－34152**‥177）の字。

【庶老】96（ショラウ） 士及び庶人の官に在る者が、年老いて致仕したるをいふ。國老（**3－4798**‥540）の對。〔禮、王制〕有虞氏養二國老於上庠一、養二庶老于下庠一。〔疏〕熊氏云、國老、謂二卿大夫致仕者一、庶老、謂レ士也、皇氏云、庶老兼二庶人在レ官者一、其致仕之老大夫以上、當三養從二國老之法一、士養從二庶老之法一。

【庶吏】97（ショリ） 多くの役人。〔逸周書、酆保解〕庶吏出送二于郊一。

【庶流】98（ショリウ） ❶庶子の系統。庶族。❷本家の次男三男などで別家した家筋。

【庶戮】99（ショリク） 多くの者が殺されること。〔書、呂刑〕虐威庶戮、方告二無辜于上一。〔傳〕三苗虐政作レ威、衆被レ戮者、方方各告二無罪於天一。

【庶類】100（ショルイ） もろもろのたぐひ。いろいろの物ども。森羅萬象。庶彙。〔楚辭、遠遊〕庶類以成兮、此德之門。〔班固、典引〕庶類混成。〔後漢書、郞顗傳〕順二助元氣一、含二養庶類一。〔束晳、補亡詩〕蠢蠢庶類、王亦柔レ之。〔注〕向曰、言二庶物之類、王者以レ道安一レ之。〔魏書、高祖孝文帝紀上〕今東作方興、庶類萌動。

【庶黎】101（ショレイ） もろもろのたみ。黎庶。庶民。〔崔駰、南巡頌〕淑雨施二于庶黎一。

【庶僚】102（ショレウ） もろもろの役人。百僚。庶官。〔後漢書、劉愷傳〕考レ功量レ才、以序二庶僚一。〔沈約、齊故安陸昭王碑文〕庶僚如レ貫。〔舊唐書、解琬傳〕激二勵頹俗一、儀二刑庶僚一。

【庶僚百揆】103（ショレウヒヤクキ） もろもろの役人。諸司百官。揆はつかさ、官吏。〔日本外史、源氏前記、平氏〕官論二品流一、因習成レ俗、庶僚百揆、概世二其職一。

【庶寮】104（ショレウ） もろもろの役所。〔庾亮、讓二中書令一表〕庶寮咸允。〔白居易、李彤云云兼二侍御史一賜二緋紫一制〕實在二庶寮叶レ力以濟一。

【庶路】105（ショロ） 北海道釧路國の地名。

【庶吉士】106（ショキツシ） 官名。明の太祖、書經立政の庶常吉士の義に則つて庶吉士を置く。始め各署に分設したが、永樂中、翰林院に專屬し、進士の文學に優れた者、及び書を善くする者を以て之に任ず。清、之に因つて庶常館を置き、翰林官を以て教習とし、三年閒修養せしめた後、試驗を經て職を授く。之を散館といふ。〔續文獻通考、職官四〕庶吉士、自二洪武初一、有二六科庶吉士一、十八年、以二進士一在二翰林院一、承レ敕監等二近侍衙門一者、倶稱二庶吉士一、永樂二年、始定爲二翰林庶吉士一、選二進士文學優等及善レ書者一爲レ之、三年試レ之、其留者、二甲授二編修一、三甲授二檢討一、不レ得レ留者、則爲二給事中御史一、或出爲二州縣一。〔蓉塘詩話〕國初庶吉士、或在二中書省一、或在二文華堂一、後改置二翰林一。〔未軒集故事〕自二十月朔日一始賜二庶吉士酒一、至二四月晦日一止、歲以爲レ常。〔清會典事例、翰林院〕順治三年、定二進士殿試一畢卽簡二授庶吉士一、先由二吏部一移咨到レ院、題二請日期一。

【庶曾孫】107（ショソウソン） 妾腹のひまご。〔日本外史、足利氏後記、武田氏上杉氏〕藤景、本藤原氏也、藤原重房、從二皇子宗尊一、適二東國一、食二丹波上杉邑一、因氏レ焉、子孫爲二足利氏外戚一、管二領東國一、藤景其庶曾孫也。

【庹】9374

ショ 庶（**4－9373**）に同じ。〔正字通〕庶、說文庹。

【⿸广朋】9375

ホウ 〔玉篇〕方登切 蒸

くづれる。〔玉篇〕⿸广朋、崩也。

【康】9376

［一］カウ 〔集韻〕丘岡切 陽 ㄎㄤ kʻang^{1}

［二］カウ 〔集韻〕古浪切 漾

［一］❶**やすらか。又、やすんずる。** 康（**3－7279**）に通ず。〔說文通訓定聲〕康、或曰、借爲レ康。〔爾雅、釋詁〕康、安也。〔禮、禮運〕是謂二小康一。〔注〕康、安也。〔國語、周語下〕成王不二敢康一。〔注〕康、安也。〔荀子、王制〕文王康レ之。〔注〕康、安也。〔楚辭、離騷〕日康娛以自忘兮。〔注〕康、安也。❷**しづか。**〔爾雅、釋詁〕康、靜也。❸**やはらぐ。** むつむ。〔史記、樂書〕而民康樂。〔注〕正義曰、康、和。❹**たのしむ。** 愷（**4－11015**）に通ず。〔說文通訓定聲〕康、叚借爲レ愷、康・愷、一聲之轉、猶三慷慨・梗槩・硫礚之爲二雙聲字一也。〔爾雅、釋詁〕康、樂也。〔詩、唐風、蟋蟀〕無二已大康一。〔傳〕康、樂也。❺**ふける。** すごす。〔淮南子、要略〕康樂沈湎。〔注〕康樂、耽樂也。❻**とりうしなふ。**〔逸周書、文政解〕五教用康レ經。〔注〕康、逸也。❼**ひろい。** 廣（**4－9493**）に通ず。〔說文通訓定聲〕康、叚借爲レ廣。〔易、晉〕康侯。〔釋文〕康、鄭云、廣也。❽**大きい。**〔史記、屈原賈生傳〕而寶二康瓠一。〔注〕索隱曰、李巡云、康、謂レ大。❾**さかん。**〔淮南子、天文訓〕十二歲一康。〔注〕康、盛也。❿**たつとい。**〔易、晉、釋文〕康、鄭云、尊也。⓫**ほめる。たたへる。**〔禮、祭統〕康二周公一。〔注〕康、猶二褒大一也。⓬**おほぢ。** 五達の道路。〔爾雅、釋宮〕五達謂二之康一。〔釋名、釋道〕五達曰レ康、康、昌也、昌、盛也、車步併二列並三用之、言二充盛一也。⓭**むなしい。** 漮（**7－18168**）に通ず。〔說文通訓定聲〕康、叚借爲レ漮。〔詩、小雅、賓之初筵〕酌二彼康爵一。〔箋〕康、虛也。〔史記、屈原賈生傳〕而寶二康瓠一。〔注〕集解曰、康、空也。⓮**みのりがない。** 不作。⿰禾荒（**8－25209**）に通ず。〔說文通訓定聲〕康、叚借爲レ歉、實爲レ⿰禾荒。〔穀梁、襄、二十四〕四穀不レ升、謂二之康一。〔注〕康、虛也。⓯**もみがら。** 穅（**8－25250**）に同じ。もと[illegible]（**2－3199**）・⿱庚米（**8－27012**）に作る。〔字彙補〕[illegible]、古文康字。〔正字通〕康、說文、从レ米庚聲、本作レ⿱庚米。〔說文〕穅、穀之皮也、从二禾米一庚聲、康、穅或省作。⓰**くるしい。** 苦（**9－30797**）に通ず。〔說文通訓定聲〕穅、叚借爲レ苦。〔爾雅、釋言〕康、苛也。⓱**國の名。周の圻內の國。**〔書、康誥序〕以二殷餘民一封二康叔一。〔馬注〕康、國名。〔書、康誥、傳〕康、圻內國名。⓲**州名。** 康州（78）を見よ。⓳**諡。**〔逸周書、諡法解〕豐年好樂曰レ康、安樂撫民曰レ康、令二民安樂一曰レ康。〔書、康誥序〕以二殷餘民一封二康叔一。〔鄭注〕康爲二號諡一。⓴**姓。** ㋑衛の康叔の後。〔通志、氏族略、以レ諡爲レ氏〕康氏姬姓、衛康叔支孫以レ諡爲レ氏。〔尚友錄〕康、望出二會稽東平京兆一。㋺西域康居の移民の子孫。〔梁書、康絢傳〕漢置二都護一盡臣二西域康居一、亦遣侍、子待二詔於河西一、因留爲二黔首一、其後卽以レ康爲レ姓。㉑［現］㋑大根が凍つて中身のなくなつたもの。㋺地名。西藏の最東境。今、西康省の地。［二］**あげる。あがる。** 通じて亢（**1－288**）に作る。〔集韻〕康、擧置也、通作レ亢。〔禮、明堂位〕崇坫康レ圭。〔注〕康、讀爲レ亢。〔疏〕亢、擧也。

［名乘］ ミチ。ヤス。

［參考］ 今は穅（**8－25250**）と康とを同義に用ひず、康は專ら假借の意にのみ用ひる。

【康安】1（カウアン） 北朝、後光嚴天皇の年號。（1361－1362）〔菅原高嗣勘文〕唐紀曰、作二治康凱安之舞一。

〔菅原長綱勘文〕史記正義曰、天下衆事咸得二康安一、以致二天下太平一。

【康貽】2 カウイ 清、翁嵩年(9−28635‥81)の字。

【康飴】3 カウイ 清、翁嵩年(9−28635‥81)の字。

【康懿】4 カウイ 謚號。❶宋、向經(2−3301‥19)の謚。❷宋、任中正(1−416‥237)の謚。❸明、陳俊(11−41698‥344)の謚。❹遼、楊遵勗(6−15112‥617)の謚。❺明、林庭㭿(6−14551‥403)の謚。

【康祐】5 カウイウ 明の神宗の時、越の莫敬止の年號。(1592)

【康逸】6 カウイツ やすんじたのしむ。〔李百藥、登二葉縣故城一謁二沈諸梁廟一詩〕館宇肅而靜、神心康且逸。

【康宇】7 カウウ 明、王象晉(7−20823‥1639)の字。

【康永】8 カウエイ 北朝、光明天皇の年號。(1342−1345)〔紀行親勘文〕漢書志曰、海內康平、永保二國家一。

【康榮】9 カウエイ やすらかでさかえる。〔易林〕生二長太平一、仁政流行、四方歸レ德、社稷康榮。

【康曄】10 カウエフ 元、康顯之(176)の名。

【康淵】11 カウエン 宋の人。字は叔臨。南渡の後、巴陵に流寓す。講學極めて盛。

【康應】12 カウオウ 北朝、後小松天皇の年號。(1389−1390)〔菅原秀長勘文〕文選曰、國富民康、神應休臻、屢獲二嘉祥一。

【康歌】13 カウカ 太平の歌。〔北齊書、崔伯謙傳〕世宗以爲二京畿司馬一、勞レ之曰、卿騁二足瀛部一、已著二康歌一、督府務殷、是用相授。〔梁簡文帝、菩提樹頌〕稟二識康歌一、昆蟲得レ性。〔隋書、食貨志〕禹制二九等一而康歌興、周人十一而頌聲作。

【康介】14 カウカイ 明、郭宗皋(11−39474‥368)の謚。

【康海】15 カウカイ ❶明、武功の人。字は德涵。號は對山。沜東漁父。弘治十才子の一。弘治の進士。官は修撰。李夢陽と相倡和して盛名あり、王九思と共に樂律に明かに、詞曲を能くす。正德の初、劉瑾の黨に坐して落職す。〔明史、二百八十六〕・〔萬斯同明史、三百八十八〕・〔明史稿、二百六十七〕・〔國朝獻徵錄、二十一〕❷清の人、泰の弟。功を以て涼州總兵を拜命。兄に隨って西藏に入り、陣中に歿す。〔清史稿、二百八十七〕・〔國朝耆獻類徵、三百四十六〕・〔漢名臣傳、十四〕。

【康乂】16 カウガイ やすらかに治まる。乂は治。〔書、康誥〕若レ保二赤子一、惟民其康乂。〔後漢書、章帝紀〕緝熙康乂。〔後漢書、孝順帝紀〕政致二康乂一。

【康愷】17 カウガイ 清の人。綬の子。字は飮和。號は起山三硯齋。書法を擅にし、山水士女畫を能くし、詩文に巧。著に三硯齋吟草がある。〔清畫家詩史、戊、下〕。

【康孝】18 カウカウ 宋、趙惟吉(10−37171‥395)の謚。

【康誥】19 カウカウ 書經、周書の篇名。眞古文。成王、既に管叔・蔡叔を伐ち、殷の餘民を以て康叔を封じた時に作ったもの。一說に、周公が、成王及び康叔を戒めるために作ったものとし、又、此の篇を以て武王の書とする。〔書、康誥序〕成王既伐二管叔・蔡叔一、以二殷餘民一、封二康叔一、作二康誥・酒誥・梓材一。〔蔡傳〕康叔、文王之子、武王之弟、武王誥命爲二衞侯一。

【康干】20 カウカン 川の名。回紇に在るといふ。又、此の河に松を斷つて投ずると三年にして石となり、之を康干石といふといふ。〔六帖〕回紇拔野古有二康干河一、斷レ松投レ之、三年化爲レ石、色蒼、節理猶在、號二康干石一。

【康簡】21 カウカン 謚號。❶陳、陳叔獻(11−41698‥978)の謚。❷明、楊守隨(6−15112‥606)の謚。

【康逵】22 カウキ 五達のみちと九達のみち。〔周邦彥、汴都賦〕正二南面一而負レ扆、擧二天下於康逵一。

【康熙】23 カウキ 清、聖祖、仁皇帝、玄燁(7−20814‥34)の年號。(1662−1722)

〔康熙窯〕24 カウキエウ 陶器の名。清の康熙年閒、景德鎭の官窯が復興され、幾多の新釉法が發見されたが、此の製品を總稱していふ。

〔康熙帝〕25 カウキテイ 清、聖祖(9−29074‥191)を見「よ。

〔康熙綴〕26 カウキトヂ 上下の隅に穴をあけ、竪横に綴つて笹形を現はし出した書籍製本の樣式。康熙年閒に始めたからいふ。

〔康熙乾隆〕27 カウキケンリユウ 康熙も乾隆も共に年號。清の聖祖と高宗との時代。聖祖は豪邁仁厚、世宗(雍正帝)は英明剛毅、高宗は雄材大略の君主で、三世明君相繼ぎ、百三十餘年に亘り、清朝の基礎確立し、制度文物見るべきものが多く、官制を改革し、兵制を整へ、租稅の法を改め、學制を施き、選擧の法を釐革し、碩儒を督勵し、勅して各種の編纂に從はしめ、彼の四庫全書提要(百二十卷)等も、亦此の時代に成つた。世に制度文物をいふもの皆康熙乾隆を稱す。〔東華錄、康熙六十一年〕上仁孝性成、智勇天錫、早承二大統一、親奉二重闈一、尊養兼隆、竭レ誠致レ愛、敬レ天法レ祖、對越維虔、敷政寧レ人、孜孜罔レ倦、御レ門聽レ政、日理二萬幾一、講二幄紬書一、寒暑不レ輟、當二三逆背レ恩、負レ嵎蠢動、西南半壁、所在震驚一、上睿謨廣運、命レ將專征、指二授方略一、不レ動二聲色一、而元兇巨憝、以レ次削平、遂下二臺灣一、征二羅刹喀爾一、喀鄂羅斯、稽顙請レ附、厄魯特噶爾丹、奔亡授レ首、天威所レ讋、西藏傾レ心、疆宇之廣、極二於無外一、雖レ曰二守成一、實同二剏造一焉、暑雨祁寒、惟以二四海蒼生一爲レ念、小有二災祲一、蠲レ租賜レ復、動逾二千萬一、寬大之詔、史不レ絕レ書、愷澤所レ流、歲無二虛月一、又復愼レ刑恤レ獄、爰書覆奏、必至二再三一、好レ生之德、洽二於民心一、眷レ禮親レ賢、保二全勳舊一、辨レ材任レ官、靡レ不レ稱レ職、崇レ儒重レ道、登二闕里之堂一、升二考亭之配一、萬幾餘暇、御二纂經書性理一、集二羣聖之大成一、以レ是廣厲二士風一、故人材奮興、道同風一、又以二河防務重一、屢勤二鑾輅一、指二示機宜一、遂得二地平天成一、一勞永逸、至二聖學高深一、含レ經味レ道、染レ翰則光騰二雲漢一、鳳翥鸞翔、摛レ文則祕二抉圖書一、金聲玉振、以至二天文歷數、樂律義圖一、莫レ不二搆レ思造レ微、研レ幾入レ妙、非二臣下淺識所二能窺測一也、史氏稱、漢文景之際、刑措不レ用、幾至二大平一、又稱、唐貞觀中、斗米三錢、終歲斷レ刑、止二二十九人一、又云、宋仁宗在位四十二年、刑以レ不レ殺爲レ威、財以レ不レ蓄爲レ富、兵以レ不レ戰爲レ功、並書之典冊、以爲二美談一、上臨御日久、超二越往代一、六十一年中、兵不レ觀而壯、財不レ聚而豐、政教不レ肅而成、風俗不レ言而喩、光二天之下一、至二於海隅一、蒼生鼓腹嬉遊、熙熙皥皥、樂二其樂一利二其利一、民日遷レ善而不レ知、豈漢唐而下、所レ得二同レ年而語一者哉、昔人謂、貞元會合之運、在二唐虞宇宙閒一、至二成周一而再見、上久道化成、深仁厚澤、無二遠弗レ居、含レ生有レ識、淪二於骨髓一、浹二於肌膚一、下至二昆蟲草木一、並育二於太和一、黃髮兒齒、同臻二於壽域一、信乎貞元會合之運、兼二唐虞成周一而有レ之矣、傳曰、爲二人君一止二於仁一、於戲自二生民一以來、未レ有下盛二於此一者上也。〔東華續錄、嘉慶四年〕諭自レ古帝王功德顯著、並有二隆稱懿號一、昭二垂萬世一、典至鉅也、我皇考大行太上皇帝、御レ極六十年、撫二御萬邦一、法二天行健一、遇二郊廟大祀一、必親必敬、崇二奉皇祖一、妣孝聖憲皇后四十二年、大孝彌隆、尊養備至、綜二攬萬機一、愛レ民勤レ政、普免二天下錢糧一者五、漕糧者二、積欠者再、偶遇二水旱偏災一、蠲貸兼施、以及三築レ塘捍レ海、底二績河防一、所レ發帑金、不レ下二億萬一、至下於披二覽章奏一、引中對臣工上、董戒激揚、共知二廉法一、禮二勳舊一而敦二宗族一、廣二登進一而育二人才一、征二討不庭一、則平二定準部回部一、闢レ地二萬餘里、土爾扈特擧部內附、征二剿大小金川一、擒レ渠獻レ馘、餘若三緬甸・安南・廓爾喀、僻在二荒服一、戈鋋所レ指、獻レ盡投レ誠、其臺灣等處、偶作二不靖一、莫レ不二立卽殲除一、此十全紀績、武功之極二於無外一也、而且聖哲多能、聰明天縱、聖製詩文全集之富、尤爲三度二越百家一、又開二四庫一、以網二羅載籍一、刊二石經一以嘉二惠士林一、集二石鼓之遺文一、復二辟雍之古制一、精二研六律一、纂二輯羣編一、此聖學淵深、文德之昭二於千古一也。

【康熙三家】28 カウキサンカ 清の康熙閒の文人、魏禧・侯方域・汪琬をいふ。

【康熙字典】29 カウキジテン 書名。四十二卷。清、康熙四十九年、大學士張玉書・陳廷敬等奉勅撰。十二集一百十九部より成る。說文・玉篇の二書を本とし、普く諸氏の書を蒐羅し、字每に其の聲音訓詁を詳かにし、皆今韻を先にし古韻を後にし、正義を先にし旁義を後にし、又古文を載せ、兼ねて俗體を列し、以て其の譌を訂してゐる。義例精密、考證賅洽、字數は、汪汲の字典紀字に依れば、十二集二百十四部及び備考・補遺に載せる所、四萬七千三十五字、本文下に載せる所の古文一千九百九十五字、計四萬九千三十字である。〔御製康熙字典序〕易傳曰、上古結繩而治、

後世聖人易㆑之以㆓書契㆒、百官以治、萬民以察、周官外史、掌㆑達㆓書名於四方㆒、保氏養㆓國子㆒、教以㆓六書㆒、而考㆑文列㆓於三重㆒、蓋以㆔其爲㆓萬事百物之統紀㆒、而足㆔以助㆓流政教㆒也、古文篆隸、隨㆑世遞變、至㆓漢許氏㆒、始有㆓說文㆒、然重㆑義而略㆓於音㆒、故世謂、漢儒識㆓文字㆒、而不㆑識㆓子母㆒、江左之儒、識㆓四聲㆒、而不㆑識㆓七音㆒、七音之傳、肇㆑自㆓西域㆒、以㆓三十六字㆒爲㆑母、從爲㆓四聲㆒、橫爲㆓七音㆒、而後天下之聲、總㆓於是㆒焉、嘗考㆓管子之書所㆑載、五方之民、其聲之清濁高下、各象㆓其川原泉壤淺深廣狹㆒而生、故于㆓五音㆒、必有㆑所㆓偏得㆒、則能全備㆓七音㆒者鮮矣、此歷代相傳取㆑音者、所㆓以不㆑能㆔較若㆓畫一㆒也、自㆓說文㆒以後、字書善者、於㆑梁則玉篇、於㆑唐則廣韻、於㆑宋則集韻、於㆑金則五音集韻、於㆑元則韻會、於㆑明則洪武正韻、皆流㆓通當世㆒、衣㆓被後學㆒、其傳而未㆓甚顯㆒者、尚數十百家、當㆓其編輯㆒皆自謂、毫髮無㆑憾、而後儒推論、輒多㆓同異㆒、或所㆑收之字、繁省失㆑中、或所㆑引之書、濫疎無㆑準、或字有㆓數義㆒而不㆑詳、或音有㆓數切㆒而不㆑備、曾無㆚善兼美具、可㆘奉爲㆓典常㆒而不㆖㆑易者㆙、朕每念、經傳至博、音義繁賾、據㆓一人之見㆒、守㆓一家之說㆒、未㆓必能會通罔㆑缺也、爰命㆓儒臣㆒、悉取㆓舊籍㆒、次第排纂、切㆑音解㆑義、一本㆓說文・玉篇㆒、兼用㆓廣韻・集韻・韻會・正韻㆒、其餘字書、一音一義之可㆑採者、靡㆑有㆓遺逸㆒、至㆓諸書引證未㆑備者㆒、則自㆓經史百子㆒、以及㆓漢・晉・唐・宋・元・明以來、詩人文士所㆑述、莫㆑不㆓旁羅博證、使㆑有㆓依據㆒、然後古今形體之辨、方言聲氣之殊、部分班列、開㆑卷了然無㆓一義之不㆑詳、一音之不㆑備矣、凡五閱㆑歲而其書始成、命曰㆓字典㆒、於以昭㆓同文之治㆒、俾㆘承學稽古者、得㆔以備知㆓文字之源流㆒、而官府吏民、亦有㆖所㆓遵守㆒焉、是爲㆑序、康熙五十五年閏三月十九日。〔四庫提要、經、小學類〕。

〘參考書〙【字典考證】十二卷清、王引之撰。康熙字典の過誤を訂正するもの二千五百八十八條。〔王引之、字典考證序〕臣等欽遵㆓諭旨㆒、細㆓檢原書㆒、凡字句譌誤之處、皆照㆓原文㆒逐一校訂、共更㆓正二千五百八十八條㆒。【康熙字典撮要】不分卷。英人、湛約翰撰。清、王楊安譯。【字典琢屑】一卷都賀庭鐘撰。【康熙字典考異正誤】二卷渡邊溫撰。

〖康熙文學〗30 カウキブンガク 清の康熙六十一年間の文學をいふ。上に康熙帝あつて、文運の奬勵に務め、下には學者に閻若璩・毛奇齡・湯斌・陸隴其等、文章家に汪琬・姜宸英・邵長蘅・方苞等、詩人に宋琬・施閏章・陳維崧・尤侗・王士禎・朱彝尊・趙執信等、小說戲曲家に孔尚任・洪昇・曹雪芹等が排出して、清代文運の極盛時を現出した。

【康僖】31 カウキ 諡號。㊀明、朱珵堦(6−14424‥935)の諡。㊁明、邵銳(11−39343‥6)の諡。㊂明、屠勳(4−7761‥20)の諡。㊃明、陸瑜(11−41708‥237)の諡。㊄明、王承裕(7−20823‥1707)の諡。㊅清、梁雲構(6−14825‥210)の諡。

【康毅】32 カウキ 諡號。㊀明、王憲(7−20823‥359)の諡。㊁清、武賴(6−16273‥374)の諡。

【康驥】33 カウキ 明、泰和の人。字は德良。景泰の進士。官は監察御史。天順の初、石亨・曹吉祥を劾して獄に下され、後、福建按察使を拜命す。〔明史、一百六十二〕・〔蘭臺法鑒錄、十〕・〔本朝分省人物攷、六十六〕。

【康沂】34 カウギ 沂水をいふ。魯の城南に在り。〔王勃、上㆓絳州上官司馬㆒書〕藩維克振、既參㆓來暮之歌㆒、邦國不㆑空、自有㆓康沂之相㆒。

【康義】35 カウギ 縣名。王莽、置く。厹猶(2−3065‥2)に同じ。又、秉義に作る。江蘇省宿遷縣の東南。〔水經、泗水注〕泗水東南逕㆓下相縣故城東㆒、云云、又逕㆓宿預城之西㆒、又逕㆓其城南㆒、故下邳之宿留縣也、王莽更名㆑之曰㆓康義㆒矣。

【康強】36 カウキヤウ 康彊に同じ。〔韓愈、祭㆓十二郎㆒文〕諸父與㆓諸兄㆒、皆康強而早世。

【康彊】37 カウキヤウ すこやか。ぢやうぶ。康強。康健。〔書、洪範〕身其康彊、子孫其逢㆑吉。〔後漢書、和帝紀〕太尉鄧彪、聰明康彊、可㆑謂㆓老成黃耇㆒矣。〔杜牧、春日言㆑懷寄㆓虢州李常侍㆒詩〕願公如㆓衞武㆒、百歲尙康彊。

【康居】38 カウキヨ 漢魏時代の西域の國の名。土耳古族に屬し、中央亞細亞のシル河下流域から、キルギス曠野を中心とし、東は烏孫、西は奄蔡、南は大月氏、東南は大宛國に接した。しかし、康居の名稱は西晉時代から史上に見えず、唐書には康國を以て其の後裔としてゐる。〔史記、大宛傳〕發㆓導驛㆒、抵㆓康居㆒。〔漢書、西域上、康居國傳〕康居國王、冬治㆓樂越匿地㆒、到㆓卑闐城㆒、去㆓長安㆒、萬二千三百里。

【康共】39 カウキヨウ 共に安らかなこと。〔書、盤庚中〕承㆑汝俾㆑汝、惟喜㆓康共㆒。〔蔡傳〕惟喜㆓與㆑汝同安㆒爾。〔疏〕惟歡㆓喜安樂㆒、皆與㆑汝共㆑之。「名。

【康勤】40 カウキン 後梁、朱友文(6−14424‥642)の本

【康衢】41 カウク 道の四方八方に通じて居るちまた。非常に繁華な町。康莊。康は五達の道、衢は四つ辻。〔爾雅、釋宮〕四達謂㆓之衢㆒、五達謂㆓之康㆒。〔後漢書、馬融傳〕目矖㆓鼎俎㆒、耳聽㆓康衢㆒。〔晉書、戴若思傳〕若得㆑托㆓迹康衢㆒、則能結㆓軌驥騄㆒。

〖康衢謠〗42 カウクノウタ 歌謠の名。堯の時、堯の德によつて天下が自然に治まつたのを謳歌した童謠。市井民間に流行謳歌されたからいふ。〔列子、仲尼〕堯治㆓天下㆒五十年、不㆑知㆓天下治歟、不㆑治歟㆒、不㆑知㆓億兆之願㆑戴㆑己歟、不㆑願㆑戴㆑己歟㆒、云云、乃微服遊㆓於康衢㆒、聞㆓兒童謠㆒曰、立㆓我烝民㆒、莫㆑匪㆓爾極㆒、不㆑識不㆑知、順㆓帝之則㆒、堯喜問曰、誰教㆔爾爲㆓此言㆒、童兒曰、我聞㆓之大夫㆒、問㆓大夫㆒、大夫曰、古詩也。

【康和】44 カウクワ ㊀やすんじやはらぐ。〔王羲之、夫人帖〕夫人涉㆑道康和、足下小大皆佳。㊁明、李充嗣(6−14459‥1424)の諡。㊂カウワ 第七十三代堀河天皇の年號。(1099−1104)〔藤原正家勘文〕崔寔政論曰、四海康和、天下同㆑樂。

【康回】45 カウクワイ 共工の名。〔楚辭、天問〕康回馮怒、地何故以㆓東南㆒傾。〔注〕康回、共工名也。

【康荒】46 カウクワウ 安逸荒亂をいふ。〔淮南子、主術訓〕人主好㆓鷙鳥猛獸、珍怪奇物㆒、狡躁康荒、不㆑愛㆓民力㆒。〔注〕康、安、荒、亂也。

【康圭】47 カウケイ 賓客から圭を受けて、之を坫の上に擧げおくこと。〔禮、明堂位〕崇坫康圭、疏屛、天子之廟飾也。〔注〕康、讀爲㆓亢龍之亢㆒。〔疏〕崇坫康圭者、崇、高也、亢、擧也、爲㆓高坫㆒、受㆓賓之圭㆒、擧㆓於其上㆒也。

【康惠】48 カウケイ ㊀安らかで惠みに浴する。〔魏志、陳留王傳〕至㆔於愛㆑民全㆑國、康㆓惠庶類㆒、必先㆓脩文教㆒。㊁諡號。㋑宋、趙德芳(10−37171‥821)の諡。㋺明、胡富(9−29400‥323)の諡。㋩明、周季鳳(2−3441‥588)の諡。㋥明、楊志學(6−15112‥568)の諡。㋭明、李承勛(6−14459‥1492)の諡。

【康傑】49 カウケツ 宋の人。官は權知扶風縣。金將馮宜と戰つて敗死す。〔宋史、四百五十二〕。

【康健】50 カウケン すこやか。健康。康彊。〔白居易、苦㆑熱喜㆑涼詩〕簟枕遂㆓清涼㆒、筋骸稍康健。〔金史、張行信傳〕父暐以㆓御史大夫㆒致仕、猶康健。

【康絢】51 カウケン 梁の人。穆の孫。字は長明。官は齊の華山太守。梁に入り司州刺史衞尉卿。〔梁書、十八〕・〔南史、五十五〕。

【康縣】52 カウケン 縣名。民國、置く。甘肅省武都縣の東。陝・川・甘三省交通の要衝。

【康獻】53 カウケン ㊀晉、康帝の后。〔晉書、后妃傳論〕明穆康獻、仍世臨㆑朝、時屬㆓委裘㆒、躬行㆓負扆㆒、各免㆓華陽之釁㆒、竟躡㆓和熹之蹤㆒。㊁五代吳越、錢弘億(11−40563‥309)の諡。

〖康獻褚皇后〗54 カウケンチヨクワウゴウ 晉、褚后(10−34457‥17)をいふ。

【康元】55 カウゲン 第八十九代後深草天皇の年號。(1916)

【康古】56 カウコ 清、汪孟鋗(6−17154‥343)の字。

【康瓠】57 カウコ 瓦で造つたつぼ。つまらぬ品物の喩。〔說文、瓦部、甈〕康瓠、破甖也。〔段注〕康之言、空也、瓠之言、壺也、空壺謂㆓破甖㆒也、甖已破矣、無㆑所㆑用㆑之、空之而已。〔爾雅、釋器〕康瓠、謂㆓之甈㆒。〔注〕瓠、壺也。〔賈誼、弔㆓屈原㆒文〕斡㆓棄周鼎㆒、寶㆓康瓠㆒兮。

【康壺】58 カウコ 康瓠に同じ。〔方言、五、甇甈謂㆓之盎㆒、注〕案爾雅、甈、康壺、而方言以爲㆑盎、未㆑詳也。

【康娛】59 カウゴ 安らかにたのしむ。〔楚辭、離騷〕日康娛以淫游。〔注〕康、安也、云云、日自娛樂、以遊戲自恣。〔楚辭、離騷〕日康娛而自忘。〔韓愈、復志賦〕竟㆓歲年㆒以康娛。

【康護】60 カウゴ やすんじまもる。〔符載、九日陪㆓劉中丞貫常侍㆒宴㆓合江亭㆒序〕非㆓常侍㆒無㆔以康㆓護全蜀㆒、非㆓中丞㆒無㆔以恢㆓建盛烈㆒。

【康功】61 カウコウ 人民を安んずるしごと。〔書、無逸〕

文王卑レ服、卽二康功田功一。〔傳〕以就二其安レ人之功、以就二田功一。〔蔡傳〕康功、安レ民之功。

【康侯】62カウコウ ❶國を安んずる大名。〔易、晉〕康侯用錫レ馬蕃庶。〔通解〕康侯、安レ國之侯也。❷康字號。㋑宋、胡安國（9−29400‥390）の字。㋺宋、杜庶（6−14477‥153）の字。㋩明、易三接（5−13814‥198）の字。㋥明、何如寵（1−511‥301）の字。㋭明、朱謀瑋（6−14424‥996）の字。㋬明、李光壂（6−14459‥1061）の字。㋣清、賀隆錫（10−36725‥161）の字。㋠清、周士晉（2−3441‥671）の字。㋷清、張晉（4−9812‥443）の字。㋦清、佟世晉（1−522‥14）の字。㋸清、畢定邦（7−21829‥113）の字。㋾清、閔元衢（11−41251‥48）の字。

【康國】63カウコク ❶國を安らかにする。〔後漢書、百官志贊〕寧レ民康レ國。❷唐代、西域の國名。昭武九姓の一。今の撒馬爾罕の地。唐書は康國を康居の後となす。康居（38）を見よ。〔舊唐書、音樂志二〕康國樂、舞急轉如レ風、俗謂二之胡旋一。❸宋代、西遼、德宗、耶律大石の年號。（1127−1135）

〖康國猧〗64カウコクワ 康國の犬。〔開元天寶遺事、猧子亂レ局〕一日、明皇與二親王一棋、令三賀懷智獨奏二琵琶一、妃子立二於局前一觀レ之、上欲レ輸レ次、妃子將二康國猧子一、令下放二局上一、亂中其輸贏上、上甚悅焉。

【康崐】65カウコン 清、莆田の人、字は子玉、號は藥莊。每秋、高風起れば、酒を携へて山に登り、天を仰ぎて大叫す。時人、阮嗣宗に比す。

【康哉】66カウサイ やすいかな。やすらかであるよ。〔書、益稷〕帝庸作レ歌曰、勅二天之命一、惟時惟幾、乃歌曰、股肱喜哉、元首起哉、百工熙哉、皐陶拜手稽首、颺言曰、念哉、率作二興事一、愼二乃憲一、欽哉、屢省二乃成一、欽哉、乃賡載レ歌曰、元首明哉、股肱良哉、庶事康哉、又歌曰、元首叢脞哉、股肱惰哉、萬事墮哉、帝拜曰、兪、欽哉。〔潘尼、贈二侍御史王元貺一詩〕協レ心毗二聖世一、畢レ力讚二康哉一。〔唐太宗、元日詩〕穆矣薰風茂、康哉帝道昌。〔張九齡、奉三和聖製早渡二蒲津關一詩〕還聞股肱郡、元首詠二康哉一。

〖康哉之詠〗67カウサイノエイ 康哉之歌に同じ。〔國朝漢學師承記、卷一、敍〕家懷二克讓之風一、人誦二康哉之詠一。

〖康哉之歌〗68カウサイノウタ 歌謠の名。帝舜が歌を作り、治を保つの事を以て臣下に責めた時、皐陶が之に答へて作つたもの。元首明哉、股肱良哉、庶事康哉の歌をいふ。康哉を見よ。〔魏志、陳思王傳〕冀聞二康哉之詞、偃武行文之美一。〔呉志、陸凱傳〕則二康哉之歌一作二刑錯之理清一。

〖康哉之詩〗69カウサイノシ 康哉之歌に同じ。〔何晏、景福殿賦〕家懷二克讓之風一、人詠二康哉之詩一。〔注〕善曰、尙書曰、允恭克讓、又咎繇乃歌曰、元首明哉、股肱良哉、庶事康哉。

【康濟】70カウサイ 民を安んじ助ける〔書、蔡仲之命〕蕃二王室一以和二兄弟一、康二濟小民一。〔傳〕爲レ政當下安二小民之居一、成中小民之業上。〔晉書、武帝紀〕兢兢祗畏懼、無三以康二濟寓內一。

〖康濟錄〗71カウサイロク 書名。六卷。清、倪國璉撰。清の陸曾禹の舊本に因り、其の精要を檢擇して、前代救援之典・先事之政・臨事之政・事後之政の四門に分つ。原名は救饑譜。乾隆の時進呈し、高宗內直の諸臣に命じて其の詞を刪潤せしめ、此の名を賜うた。〔四庫提要、史、政書類〕。

【康莊】72カウサウ ❶康衢（41）に同じ。康は五達の道、莊は六達の道。〔爾雅、釋宮〕五達爲二之康一、六達爲二之莊一。〔釋名、釋道〕五達曰レ康、康、昌也、六達曰レ莊、莊、裝也、裝二其上一使レ高也。〔晏子、問、下〕異日、君過二於康莊一、聞二寗戚歌一、止レ車而聽レ之、則賢人之風也、擧以爲二大田一。〔史記、孟子荀卿傳〕騶奭者、齊諸騶子、亦頗采二騶衍之術一、以紀レ文、於レ是齊王嘉レ之自如、淳于髡以下、皆命曰二列大夫一、爲二開第康莊之衢、高門大屋一、尊二寵之一。〔鹽鐵論、國病〕里有レ俗、黨有レ場、康莊馳逐、窮巷蹹鞠。〔沈約、郊居賦〕固無レ情二於輪奐一、非レ有レ欲二於康莊一。〔李嶠、旌詩〕告レ善康莊側、求レ賢市肆中。❷地名。㋑河北省延慶縣の西南。京綏鐵路の沿線。㋺山東省茌平縣の東北。㋩山東省清平縣の西。㋥山東省濟寧縣の北。

【康山】73カウザン 山名。❶江蘇省江都縣治の東南隅。〔江南通志〕相傳濬レ河積レ土所レ成。〔揚州府志〕其上構レ堂、董其昌題曰二康山草堂一、爲下康海與レ客燕飲彈二琵琶一處上。❷江西省樂平縣の東。一名、東山。〔讀史方輿紀要、江西、饒州府、樂平縣〕康山、縣北五里、一名東山、縣之主山也。❸江西省餘干縣の西北、鄱陽湖の中。本名は抗浪山、後譌して康郎山といひ、又、單に康山といふ。明初陳友諒、此に於て明軍に抗す。❹四川省江油縣の西。又、大匡山といふ。〔杜甫、不見詩〕康山讀書處、頭白好二歸來一。

【康子】74カウシ 春秋魯、季孫肥（3−6965‥176）の諡。

【康事】75カウジ 天下を安んずること。〔書、洛誥〕我惟無レ斁二其康事一、公勿レ替レ刑、四方其世享。〔傳〕我惟無レ厭下其安二天下一之事上。

【康時】76カウジ 安らかな時。〔顏延之、請レ立二渾天儀一表〕七晷運變、無レ匪二康時一。

〖康時具〗77カウジノグ 世を安らかにする才能。〔王勃、常州刺史平原郡開國公行狀〕山川倒徙、太階懷二息レ亂之臣一、天地離乖、元首佇二康時之具一。

【康州】78カウシウ 州名。❶後周、置く。今の甘肅省成縣治。〔讀史方輿紀要、陝西、鞏昌府、成縣、同谷廢縣〕西魏改レ縣曰二同谷一、後周又置二康州一治レ焉。❷唐、置き、宋、升せて德慶府となす。今の廣東省德慶縣治。〔讀史方輿紀要、廣東、肇慶府、德慶州〕唐武德四年、置二康州一、九年州廢、貞觀元年、復置二南康州一云云、紹興初、升爲二德慶府一。

【康日】79カウジツ やはらぎやすらかな日。〔李頻、府試老人星見詩〕海內逢二康日一、天邊見二壽星一。

【康正】80カウシヤウ 第百二代、後花園天皇の年號。（1455−1457）〔藤原長綱勘文〕尙書曰、平康正直、注曰、世平安、正直治レ之。

【康城】81カウジヤウ 縣名。後魏、置く。夏の小康の故邑。故城は河南省禹縣の西北。〔讀史方輿紀要、河南、開封府、禹州〕康城、在二州西北三十里一、水經注、潁水又東歷二康城南一、夏少康故邑也、魏明帝封二尙書衞臻一爲二康鄕侯一、邑二於此一、晉大寧二年、石勒將二石生一、攻二郭誦於陽翟一、爲二誦所レ敗、退保二康城一、後魏孝昌中、置二康城縣一、屬二陽城郡一、隋仁壽四年、廢入二陽城縣一、大業末、李密起二兵于滎陽梁郡閒一、敗二隋兵于密一、西至二康城一、說二下數城一、是也、唐武德三年、復置二康城縣一、屬二嵩州一、貞觀三年省、今爲二安康里一。

【康爵】82カウシヤク からのさかづき。一說に、大杯。又、安爵に同じ。酒は病を養ひ體を安んずるものであるからいふといひ、又、康は抗で、坫上の杯をいふといふ。〔詩、小雅、賓之初筵〕酌二彼康爵一、以奏二爾時一。〔箋〕康、虛也。〔集傳〕康、安也、酒所二以安レ體也、或曰、康、讀曰レ抗、記曰、崇坫康レ圭、此亦謂二坫上之爵一也。

【康綬】83カウジユ 清、上海の人。字は鎭卿。諸工藝に巧で、書は二王を法とし、能く鴿鈴を製した。〔墨香居畫識、一〕。

【康叔】84カウシユク ❶康叔封を見よ。❷宋、朱壽昌（6−14424‥846）の字。

〖康叔封〗85カウシユクホウ 周の武王の第九弟。初め、康に封ぜらる。故に康叔といふ。周公、武康を誅し、康叔を衞君に封じ、ために康誥・酒誥・梓材を作る。成王の時、司冠となる。〔史記、二十七〕。

【康肅】86カウシユク 諡號。❶宋、陳堯咨（11−41698‥807）の諡。❷宋、呉芾（2−3365‥370）の諡。❸元、邢溫（11−39301‥5）の諡。

【康順】87カウジユン やすらかにしたがふ。〔舊五代史、樂志〕皇帝食擧奏二德成一、請改爲二康順之樂一。

【康諝】88カウシヨ 宋の人。諡は忠定。宦官。高宗の時、內侍省押班となり、後、均州觀察使に累官す。〔宋史、四百六十九〕。

【康舒】89カウジヨ 北齊、高孝瑜（12−45313‥1077）の諡。

【康勝】90カウシヨウ すこやか。康健。康寧。〔徐陵、與二王呉郡僧智一書〕體中何如、願保二康勝一。

【康食】91カウシヨク 食物のゆたかなこと。康は安。〔書、西伯戡黎〕故天弃レ我、不レ有二康食一。〔蔡傳〕康、安。

【康植】92カウシヨク 唐、靈州の人。開元の時、六胡州を平定す。玄宗の時、左武衞大將軍に擢んでられ、天山縣男に封ぜらる。〔唐書、一百四十八〕。

【康臣】93カウシン 宋、余良肱（1−515‥130）の字。

【康辰】94カウシン 清、錢塘の人。字は左璇。號は青浦。晚號、伊嵩老人・欽賜擧人。畫は趙孟頫を師法とす。〔清畫家詩史、己、上〕。

【康生】95カウセイ 清、高皐（12−45313‥808）の字。

【康成】96カウセイ 後漢、鄭玄の字。〔後漢書、鄭玄傳〕鄭玄、字康成。

〖康成婢〗97カウセイノヒ 後漢の鄭玄の下婢。鄭玄の家

に於ては、奴婢に至るまでが詩に通じて居た故事。〔世說新語、文學〕鄭玄家奴婢、皆讀レ書、嘗使二一婢一不レ稱レ旨、云云、玄怒、使三人曳二著泥中一、須臾、復有二一婢一、來問曰、胡爲乎二泥中一、答曰、薄言往愬、逢二彼之怒一。

【康青】98カウセイ 陶器製造者などのよく使用する語で、康熙帝時代の陶器の色彩中、青色のあでに美しいことから特によんだもの。

【康靖】99カウセイ ❶安らかに治まる。〔國語、吳語〕不三唯下士之不二康靖一、今伯父曰二戮レ力同レ德。❷諡號。㋑宋、趙槩(10－37171‥61)の諡。㋺宋、李若谷(6－14459‥1406)の諡。㋩宋、王貽永(7－20823‥1125)の諡。㋥元、孟夢恂(3－6960‥38)の諡。㋭明、鄒幹(11－39562‥11)の諡。

〔康靖皇帝〕100カウセイクワウテイ 西夏、李秉常(6－14459‥1927)をいふ。

〔康靖先生〕101カウセイセンセイ 宋、崇大年(4－8152‥228)の私諡。

【康照】102カウセウ 遼、康默記(198)の本名。

【康韶】103カウセウ 樂曲の名。〔隋書、音樂志上、元會儀、注〕帝出二黃門一、侍郎舉二麾於殿上一、掌故應レ之、舉二於階下一、奏二康韶之樂一。

【康績】104カウセキ 清、陝西の人。字は方陸。生平、豪俠にして義を好む。某王、其の義を重んじ、運糧員に任用す。王、嘗て女樂と極飮するや、すすんで侍飮者を拳擊す。王、ために跽請して乃ち已む。〔國朝耆獻類徵、三百二十八〕。

【康節】105カウセツ 諡號。❶北周、王操(7－20823‥427)の諡。❷宋、張昇(4－9812‥428)の諡。

〔康節先生〕106カウセツセンセイ 宋、邵雍(11－39343‥83)の諡。

〔康節邵先生〕107カウセツセウセンセイ 宋の邵雍をいふ。康節は其の諡。邵雍(11－39343‥83)を見よ。

【康俗】108カウゾク 風俗をやはらげる。〔任昉、梁武帝初封二諸功臣一詔〕草昧權輿、事深レ締レ搆、康レ俗成レ務、義在レ庇レ民。

【康村】109カウソン 地名。河北省望都縣の東北。宋の咸平六年、王繼忠が望都を救はんとし、此處に至つて敵に困しめらる。今、訛つて狼村鋪といふ。〔讀史方輿紀要、直隸、保定府、慶都縣〕康村、在二縣東北一、宋咸平六年、契丹寇二定州之望都一、高陽關一、將二王繼忠等一赴救、至二康村一、爲二敵所一レ困、且戰且行處也、今譌爲二狼村鋪一、道出二滿城縣一。

【康泰】110カウタイ ❶やはらぎ安らかなこと。〔王勃、拜二南郊頌一序〕天下隷人、知二四海之安樂一、寰中殊域、奉二三靈之康泰一。❷清、張掖の人。諡は壯勇。行伍より孫思克に從つて噶爾丹を征して功あり、官は四川提督に至る。康熙の間、兵を西藏に進め、陣中に歿す。〔清史稿、二百八十七〕・〔國朝耆獻類徵、三百四十六〕・〔漢名臣傳、十四〕。

【康濤】111カウタウ 清、錢塘の人。字は石舟。號は天篤山人。別號、蓮蕊峯頭不朽人。書を善くし、山水花卉畫に巧。〔清畫家詩史、丙、下〕。

【康鐸】112カウタク 明の人。茂才の子。字は伯聲。諡は忠愍。爵は蘄春侯。辰州蠻を征し、施疊諸州を平定す。後、大將軍徐達に從つて北征し、又、傅友德に從つて雲南を征し、軍中に歿す。蘄國公に追封さる。〔明史、一百三十〕・〔萬斯同明史、一百六十五〕・〔明史稿、一百十九〕。

【康治】113カウヂ 第七十六代近衞天皇の年號。(1142－1144)〔藤原永範勘文〕宋書曰、以レ康治レ道。

【康疇】114カウチウ 清、陳均(歙の人)(11－41698‥157)の字。

【康仲】115カウチユウ 宋、潘拯(7－18236‥55)の字。

【康定】116カウテイ ❶府名。清、置く。四川省に屬し、裏化廳及び河口・稻成の二縣を領す。〔清史稿、地理志〕四川、康定府、領二廳一、縣二一、裏化廳、河口・稻成。❷縣名。民國、置く。漢の蜀郡の旄牛縣と徙縣との徼外の地。今、西康省に屬す。大渡河の西、折多山の麓に當り、四川から康藏に入る最初の都邑で、西康第一の商業地。❸宋の仁宗、趙禎の年號。(1040－1041)

【康帝】117カウテイ 東晉第四代の帝。司馬岳(2－3257‥234)を見よ。

【康狄】118カウテキ 杜康と儀狄。古の酒を釀した人。〔曹植、七啓〕乃有二春清縹酒一、康狄所レ營。〔注〕善曰、博物志曰、杜康作レ酒、戰國策曰、梁王請下爲二魯君一舉上レ觴、魯君曰、昔帝女儀狄作レ酒而美、進二之於禹一、禹飮而甘レ之、遂疏二儀狄一、乃絕二旨酒一。

【康途】119カウト 五達のみち。又往來繁き大路。〔天祿閣外史〕優二游於樂歲一、括二淡於康途一。

【康德】120カウトク ❶滿洲國、康德帝の年號。(1934－1945)❷北齊、代の人。高歡に從つて兵を起す。官は尙書左僕射開府儀同三司。爵は新蔡王。〔北史、五十三〕。

〔康德皇帝〕121カウトククワウテイ 溥儀(7－17957‥4)を見よ。

〔康德先生〕122カウトクセンセイ 元、淩緯(2－1669‥3)の尊稱。

【康內】123カウナイ 大通り。康は五達の所。〔晏子、諫、上〕公驅及二之康內一。

【康腦】124カウナウ 山名。四川省萬縣の西。清の嘉慶四年、參贊德楞泰が教匪を破つた處。因つて又、得勝坡ともいふ。

【康納】125カンネ カンネ。伊太利、アプリヤ地方の古戰場。Cannae の音譯。

【康寧】126カウネイ やすらか。患ひのないこと。〔書、洪範〕九、五福、一曰壽、二曰富、三曰康寧、四曰攸レ好德、五曰、考終レ命。〔傳〕無二疾病一。〔蔡傳〕康寧者、無二患難一也。〔王先謙孔傳參正〕康寧、人平安也。〔書、多方〕非三我有周秉レ德不二康寧一。〔漢書、元帝紀〕黎庶康寧、考終二厥命一。〔易林〕冠帶垂レ衣、天下康寧。

【康年】127カウネン 五穀豐熟の年をいふ。〔詩、周頌、臣工〕明昭上帝、迄二用康年一。〔箋〕至レ今用レ之有二樂歲一、謂二五穀豐孰一。〔集傳〕康年、猶二豐年一也。〔傅玄、晉郊祀歌、饗神歌〕撫二寧四海一、保二有康年一。

【康伯】128カウハク ❶みその一種。〔本草、大豆豉〕發明、時珍曰、陶說康伯豉法見二博物志一、云、原出二外國一、中國謂二之康伯一、乃傳二此法一之姓名耳。〔事物異名錄、飮食、豉〕博物志、外國有二豉法一、以二苦酒一浸レ豆、暴令二極燥一、以二麻油一蒸、蒸訖復暴、三過乃止、然後細二擣椒屑一、隨二多少一合レ之、中國謂二之康伯一、能下レ氣調和者也。❷晉、韓伯(12－43159‥188)の字。

【康敏】129カウビン 諡號。❶宋、竇舜卿(8－25695‥72)の諡。❷元、黃超然(12－47926‥1263)の私諡。❸明、趙鑑(10－37171‥81)の諡。❹明、白昂(8－22678‥150)の諡。

【康阜】130カウフ 安らかでゆたかなこと。〔宋史、樂志八〕何以錫レ之、貽二爾眉壽一、何以格レ之、永二爾康阜一。

【康福】131カウフク ❶後晉、蔚州の人。諡は武安。諸戎語を善くす。唐の明宗に歸し、飛龍使となる。安重誨之を惡み、涼州刺史・河西軍節度使と爲す。鎭に至つて吐蕃を擊走し、威聲大に振ふ。晉の高祖の時、河中に徙つて鎭す。〔五代史、四十六〕・〔舊五代史、九十一〕。❷安らかで福祉あること。〔憲法發布敕語〕。

【康平】132カウヘイ ❶世の治まつて安らかなこと。康泰。平康。〔漢書、宣帝紀〕上下和洽、海內康平。〔後漢書、梁統傳〕文帝寬惠柔克、遭二世康平一。❷縣名。清、置く。滿洲遼寧省遼源縣の南。縣城は遼河の支流、馬連河の西岸に瀕す。〔清史稿、地理志〕奉天、昌圖府、縣三、康平。❸第七十代後冷泉天皇の年號。(1058－1065)

【康駢】133カウベン 唐、池陽の人。字は駕言。乾符の進士。田顒、宣州の守と爲り、駢を招聘す。官は崇文館校書郎に終る。著に劇談錄がある。〔四庫提要、一百四十二〕。

【康甫】134カウホ 清、吳廷康(2－3365‥785)の字。

【康保】135カウホ ❶やすんじたもつ。〔書、康誥〕別求三聞二由古先哲王一、用康二保民一。〔傳〕以安レ民。❷縣名。民國、置く。察哈爾省張北縣の西北。❸第六十二代村上天皇の年號。(964－968)

【康穆】136カウボク ❶南朝宋の人。後秦の河南尹。宋、永初中、鄉族三千餘家を擧げて襄陽の峴南に入る。宋、ために華山郡藍田縣を置き、穆を秦・梁二州の刺史に拜せんとしたが、未だ就かずして卒す。〔梁書、十八〕。❷宋、程戡(8－25081‥25)の諡。

【康民】137カウミン ❶西戎の民。〔逸周書、王會解〕康民以二桴苡一者、其實如二李食一レ之宜レ子。〔注〕康亦西戎之別名也。❷明、鄭安(11－39647‥2)の字。

【康務】138カウム つとめをたのしむ。〔謝莊、搜才表〕必欲レ崇二本康一レ務、庇レ民濟レ俗、非二更惁滯一、奚取二九成一。

【康愈】139カウユ 病がなほる。〔大唐西域記、二〕其二

窣堵波、今猶現在、有㆘嬰㆓疾病㆒欲㆑祈㆓康愈㆒者㆖、塗㆑香散㆑花、至誠歸命、多蒙㆓瘳差㆒。

【康浪】140 カウラウ 川の名。山東省益都縣の東。〔水經、巨洋水注〕巨洋水、又東北合㆓康浪水㆒。水發㆓縣西南峴山㆒、北流注㆓于巨洋㆒。〔三齊略〕康浪水在㆓齊城西南康衢側㆒、卽寧戚叩㆑角而歌之地。

【康狼】141 カウラウ 山名。晉、義熙四年、西秦の乞伏熾磐が、城を築いて據つた處。一名、可狼山。甘肅省皐蘭縣の西。〔元和志〕康狼山、亦名㆓熱薄山㆒。〔太平寰宇記〕亦名㆓可狼山㆒。

【康郎】142 カウラウ 山名。明初、舟師、南昌を救ひ陳友諒と此處に戰ふ。一名、康山。本名は抗浪山。江西省餘干縣の西北、鄱陽湖中。〔太平寰宇記〕康郎山在㆓餘干㆒、卽鄱陽湖之南涯山、昔姓康者居㆑之、故名。

【康朗】143 カウラウ 明、惠安の人。字は用晦。嘉靖の進士。官は刑部主事。尋で參議に遷り、劇寇傅伯玉等三省を流剽するや、矢石を冒し死戰して之を破り、僉都御史に陞進す。後、副都御史に轉ず。〔明史、二百八十六〕・〔明史稿、二百六十七〕・〔萬斯同明史、三百八十八〕。

【康樂】144 カウラク ❶安んじたのしむ。安樂。〔周禮、秋官、小行人〕其康樂和親安平爲㆓一書㆒。〔禮、樂記〕嘽諧慢易、繁文簡節之音作、而民康樂。〔漢書、禮樂志〕闡諧慢易之音作、而民康樂。〔風俗通、正失〕天下殷富、百姓康樂。❷縣名。㋑晉、置く。故城は江西省萬載縣の東。〔太平寰宇記〕宋武帝封㆓謝靈運㆒爲㆓康樂侯㆒、卽此地也、其城周㆓迴山水㆒、有㆓謝公書堂㆒、石硯猶存。㋺金、置く。故治は甘肅省狄道縣の西。〔讀史方輿紀要、陝西、臨洮府、狄道縣〕安樂城、在㆓州西三十六里㆒、唐武德中、分㆓狄道縣㆒置㆓安樂縣㆒、屬㆓蘭州㆒、天寶中、屬㆓狄道郡㆒、乾元中改爲㆓長樂縣㆒、後廢、宋熙寧六年、置㆓康樂寨於此㆒、金升爲㆑縣、屬㆓臨洮府㆒、元廢。❸設治局の名。甘肅省に屬す。もと臨洮縣西部の地。❹南朝宋、謝靈運の封號。〔南史、謝靈運傳〕從叔混特知㆓愛之㆒、襲㆓封康樂公㆒。〔李白、春夜宴㆓桃李園㆒序〕羣季俊秀、皆爲㆓惠連㆒、吾人詠歌、獨慚㆓康樂㆒。❺カウガク 舞曲の名。〔史記、孔子世家〕於㆑是選㆓齊國中女子好者八十人㆒、皆衣㆓文衣㆒而舞㆓康樂㆒。〔注〕康樂、舞曲名也。

【康樂園】145 カウラクエン 明、郝敬（**11－39430**・・10）の室名。

〔康樂公〕146 カウラクコウ 南朝宋、謝靈運（**10－35827**・・373）の封號。

【康理】147 カウリ 宋、楊應詢（**6－15112**・・441）の諡。

【康履】148 カウリ 宋の人。諡は榮節。宦者。康王の時、妄りに威福を作し、統制苗傅に誅せらる。〔宋史、四百六十九〕。

【康流】149 カウリウ 清、朱朝瑛（**6－14424**・・937）の號。

【康梁】150 カウリヤウ ❶樂に耽る。〔淮南子、要略〕文王之時、紂爲㆓天子㆒、賦斂無㆑度、戮殺無㆑止、康梁沈湎、宮中成㆑市。〔注〕康梁、耽㆑樂也。❷清末の康有爲（159）と梁啓超（**6－14825**・・231）を見よ。

【康曆】151 カウリヤク 北朝、後圓融天皇の年號。（1379－1381）。〔菅原長嗣勘文〕唐書曰、承㆓成康之曆業㆒。

【康陵】152 カウリヨウ 陵の名。❶漢、平帝の陵。陝西省咸陽縣の西北。〔漢書、平帝紀〕元始五年冬十二月丙午、葬㆓康陵㆒。〔注〕臣瓚曰、康陵在㆓長安北六十里㆒。〔陝西通志〕康陵在㆓西安府咸陽縣西二十五里㆒。❷後漢、殤帝の陵。河南省洛陽縣の東。〔後漢書、安帝紀〕延平元年九月丙寅、葬㆓孝殤皇帝於康陵㆒。〔注〕陵在㆓愼陵塋中庚地㆒、高五丈五尺、周二百八步。〔文獻通考、王禮考、山陵、東漢皇帝葬儀〕康陵、山周二百八步、高五丈五尺、行馬四出、司馬門・寢殿・鐘虡在㆓行馬中㆒、因㆓寢殿㆒爲㆓廟園㆒、東寺舍在㆓殿北㆒、提封田十三頃十九畝二百五十步、帝王世紀曰、高五丈四尺、去㆓雒陽㆒四十八里。❸明、武宗の陵。河北省昌平縣金嶺山の東。〔明史、武宗紀〕（正德十六年）五月己未、上㆓尊謚㆒、廟號㆓武宗㆒、葬㆓康陵㆒。〔昌平山水記〕康陵、在㆓金嶺山㆒、距㆓泰陵㆒西南二里、自㆓泰陵橋下㆒分㆓西南㆒、爲㆓康陵神路㆒、山勢自㆑此折而南、故康陵東向㆑路、有㆓石橋五空㆒、錐石口水逕焉、又前有㆓石橋三空㆒、制如㆓泰陵㆒、榜曰㆓康陵㆒、碑曰㆓大明武宗毅皇帝之陵㆒、明樓爲㆓賊所㆑焚、垣內外樹二三百株。〔畿輔通志〕康陵在㆓昌平州八寶蓮花山㆒。

【康麟】153 カウリン 明、順德の人。字は文瑞。景泰の進士。御史を拜命。後、僉事に轉任。詩に巧。著に雅音彙編あり。〔四庫提要、一百九十一〕。

【康了】154 カウレウ 落第。不合格。唐の柳冕が應試した時、樂が落に通ずるのを諱んで、安樂を安康と變へたが、合格者の發表に際し、其の僕をして見に行かせたところ、僕は落字を諱んで、康に置き換へ、康了と歸り報じた故事。〔遯齋閑覽〕柳冕應㆑擧多㆑忌、謂㆓安樂㆒爲㆓安康㆒、榜出、令㆓僕探㆑名、報曰、秀才康了。〔書言故事、不捷類〕落榜曰㆓康了㆒。

【康王】155 カウワウ ❶姬釗（**3－6230**・・62）を見よ。❷封號。㋑晉、禿髮利鹿孤（**8－24910**・・36）の封號。㋺後梁、朱友孜（**6－14424**・・638）の封號。㋩宋、高宗の封號。趙構（**10－37171**・・165）を見よ。

〔康王之誥〕156 カウワウシカウ 書經、周書の篇名。眞古文。舊、顧命と合して一篇であつたが、東晉の世、二篇に分たる。周の康王、新に位に卽き、召公畢公が諸侯を率ゐて朝見し、訓戒の詞を陳したのに對して、報誥したもの。〔書、康王之誥序〕康王既尸㆓天子㆒、遂誥㆓諸侯㆒、作㆓康王之誥㆒。

【康以泰】157 カウイタイ 康國器（180）を見よ。

【康偉然】158 カウヰゼン 清、漳州の人。字は中江。官は興化府教授。著に釁祀紀蹟がある。〔四庫提要、六十三〕。

【康有爲】159 カウイウヰ 民國、廣東南海の人。原名は祖詒。字は廣夏（廣廈）・更生。號は長素（長孺）・西樵山人・明夷。世、南海先生と號す。初め、同鄉の朱九江に師事す。又、佛教及び西洋の學說に精通す。後、廖平の影響を受けて公羊學に入り、之を集大成す。日清役後、北京に強學會を設けて革新自彊を唱へ、弟康廣仁と共に保國會を立て、東西書籍の飜譯、新聞・雜誌の刊行、政治學校の設立等によつて同志を糾合す。光緒二十四年五月、擢んでられて庶政改革の任に當り、同八月、反對黨に排斥されて海外に亡命す。之を百日改革といふ。後、上海に閑居して著述に潛念し、民國十六年二月歿す。其の學、周禮を好み、繼いで公羊を研究し、著書立言、創造力に富む。ただ、獨斷と附會との弊を免れざるを短所とする。書室を長興學舍・萬木草堂といふ。著に孔子改制考・新學僞經考・大同書・春秋公羊傳注・春秋筆削大義微言考・禮運篇注・孟子微・論語新注等がある。

【康有溥】160 カウイウフ 清の人。康廣仁（173）を見よ。

【康永韶】161 カウエイセウ 明、祁門の人。字は用和。成化の間、御史を拜命し、後、太常少卿に拔擢せらる。欽天監の事を掌る。尋いで禮部侍郞に拔擢されたが、後、曆に訛字多きに坐し、職を奪はる。〔明史、一百八十〕・〔萬斯同明史、二百三十四〕・〔明史稿、一百六十三〕。

【康延孝】162 カウエンカウ 後唐、代の人。初、梁の末時に仕へ、左右先鋒指揮使を拜命したが、其の必ず亡びん事を知り、百騎を率ゐて莊宗に歸服す。取汴策を獻じて梁を滅ぼし、姓名を李紹琛と賜はり、保義軍節度使に陞遷す。尋いで蜀を征して歸り、郭崇韜等の殺さるるを聞き、禍の及ばんことを懼れ、衆を擁して蜀に返り、西川節度と自稱す。後、任圜・孟知祥に執へられ、鳳翔に至つて殺さる。〔五代史、四十四〕・〔舊五代史、七十四〕。

【康延壽】163 カウエンジユ 遼の人。默記の孫。字は允昌。景宗の時、千牛衞大將軍を拜命す。宋人が南京を攻めるや、延壽奮擊して之を敗り、保大軍節度使に陞る。〔遼史、七十四〕。

【康延澤】164 カウエンタク 宋の人。延詔の弟。天福中、蔭を以て官に補せられ、廣順の間、內染院副使に遷る。宋初、湖・湘を平定し、又、蜀を征し、成都府都監と爲り、全師雄の亂を平げ、東川七州招安巡檢使に陞進す。後、事に坐し官を失ふ。〔宋史、二百五十五〕。

【康喀喇】165 カンコラ 清、滿洲鑲紅旗人。姓は完顏氏。順治の間、蘇尼特部を破り、貴州苗を征して功あり。康熙の間、從つて吳三桂を討ち、湖南・廣西に轉戰す。官は鑲紅旗滿洲副都統。〔清史稿、二百三十三〕・〔國朝耆獻類徵、二百六十五〕・〔滿洲名臣傳、十一〕。

【康喀賚】166 カンコライ 清、滿洲鑲藍旗人。姓は瑚爾喀氏。天命の間、屢〻從征して功あり。官は天聰の間、鑲藍旗理事聽訟大臣・鑲藍旗滿洲副都統。

〔國朝耆獻類徵、二百六十三〕・〔滿洲名臣傳、二十四〕。

【康喀勒】167（カンコロ）　清、滿洲鑲紅旗人。姓は納喇氏。崇德の間、松山・錦州・塔山を征し、順治の間、關に入つて李自成を擊破す。官は鎭守江寧副都統に至る。〔清史稿、二百三十六〕・〔國朝耆獻類徵、二百六十四〕・〔滿洲名臣傳、十二〕。

【康基田】168（カウキデン）　清、興縣の人。乾隆の進士。官は江南河道總督。事に坐して奪職さる。後、再び起用されて又しても躓き、三品卿銜を以て終る。〔清史稿、三百六十六〕・〔國朝耆獻類徵、一百八十四〕・〔清代學者象傳、三〕・〔國史列傳、六十五〕。

【康義誠】169（カウギセイ）　後唐、代北三部落の人。字は信成。李克用に事ふ。明宗の時、節度使となる。閔帝の時、潞王從珂に降つて殺さる。〔五代史、二十七〕・〔舊五代史、六十六〕。

【康果禮】170（カウクワレイ）　清、滿洲正白旗人。先世、那木都魯に居り、地を以て氏と爲す。爵は三等子。太祖に從つて瀋陽に克ち、太宗の時、官は護軍統領。〔清史稿、二百三十三〕・〔清史列傳、四〕・〔國朝耆獻類徵、二百六十二〕・〔滿洲名臣傳、七〕。

【康瓦爾】171（コーンウォール）　イギリスの州名。イングランドの西南端。Cornwall の音譯。

【康懷英】172（カウクワイエイ）　後梁、兗州の人。李茂貞・楊行密と戰つて功あり。官は保義軍節度使。李克用・劉知俊・朱友謙と戰つて敗る。〔五代史、二十二〕・〔舊五代史、二十三〕。

【康廣仁】173（カウクワウジン）　清、南海の人。名は有溥。字を以て行はる。號は幼博。別號、大广（大菴）。少より擧業を事とせず。光緒の間、德宗を佐けて新政を推行し、孝欽后に誅せらる。戊戌六君子の一。〔清史稿、四百七十〕。

【康君立】174（カウクンリツ）　後唐、興唐の人。乾符中、雲州牙校を拜命し、李克用に從つて黃巢を伐ち、汾州刺史に陞る。後、克用に酖殺さる。〔舊五代史、五十五〕。

【康繼英】175（カウケイエイ）　宋の人。保裔の子。官は左衞大將軍貴州團練使。〔宋史、四百四十六〕。

【康顯之】176（カウケンシ）　元、高唐の人。原名は曄。字を以て行はる。號は澹軒。金の詞賦科に登る。官は儒林祭酒。四方の學ぶ者雲集す。著に澹軒文集がある。

【康元弼】177（カウゲンヒツ）　金、雲中の人。字は輔之。正隆の進士に擧げらる。大理丞に累官。大定の間、河を治めて功あり、官は南京路轉運使に終る。〔金史、九十七〕。

【康公弼】178（カウコウヒツ）　金、宛平の人。字は伯迪。諡は忠肅。進士。官は寧遠令・權乾州節度使。〔金史、七十五〕。

【康谷子】179（カウコクシ）　明、劉養微(**2－2224**・・1340)の號。

【康國器】180（カウコクキ）　清、南海の人。初名は以泰。字は交修。號は友之。咸豐の間、贛州桂源司巡檢を以て、洪秀全を攻む。官は廣政布政使。〔清史稿、四百三十九〕・〔清史列傳、六十二〕・〔續碑傳集、三十九〕。

【康薩陀】181（カウサツタ）　唐の人。一に善陁に作る。官は振威校尉。畫に巧。

【康子元】182（カウシゲン）　唐、會稽の人。獻陵令に歷任。開元中、易老莊の學に詳し。官は祕書少監・宗正少卿。〔唐書、二百〕。

【康志睦】183（カウシボク）　唐の人。日知の子。字は得衆。馳射に巧。官は大將軍。張韶を討つて、平盧節度使に陞り、又、李同捷を討つて、檢校尙書左僕射に陞る。封は會稽郡公。〔唐書、一百四十八〕。

【康思立】184（カウシリツ）　後唐、山陰諸部の人。莊宗に從つて梁を破る。官は明宗の時、昭武保義節度使。廢帝の時、右神武統軍。〔五代史、二十七〕・〔舊五代史、七十〕。

【康日知】185（カウジツチ）　唐の人。植の孫。官は德宗の時、趙州刺史・深趙觀察使・奉誠軍節度使・檢校尙書左僕射。封は會稽郡王。〔唐書、一百四十八〕。

【康承訓】186（カウショウクン）　唐の人。志睦の子。字は敬辭。龐勛を討つて之を斬る。官は同平章事・河東節度。後、恩州司馬に貶せらる。僖宗の時、左千牛衞大將軍に復す。〔唐書、一百四十八〕。

【康正宗】187（カウセイソウ）　明、邵陽の人。字は賓峯。官は廣昌知縣。著に游涉集・廣騷・蘭閨繡譜・崔鶯鶯辨がある。

【康紹鏞】188（カウセウヨウ）　清、興縣の人。字は鏄南。號は蘭皋。嘉慶の進士。官は兵部主事・巡撫。安徽・廣東・廣西・湖南四省に歷任し、後、京に入り、光祿寺卿を拜命す。〔清史稿、三百八十七〕・〔清史列傳、三十三〕・〔國朝耆獻類徵、一百十二〕・〔續碑傳集、十六〕。

【康善陁】189（カウゼンダ）　康薩陀(181)を見よ。

【康乃心】190（カウダイシン）　清、郃陽の人。字は太乙。一字は孟謀。康熙の擧人。隱居して仕へず。著に毛詩箋・莘野集がある。〔清史列傳、六十六〕・〔國朝耆獻類徵、四百五〕・〔碑傳集、一百三十九〕。

【康德輿】191（カウトクヨ）　宋、洛陽の人。字は世基。官は幷代兵馬鈐轄。後、元昊に降り、東染院使と爲り、後、趙州知に轉任し、尋いで陳州鈐轄となり、卒す。〔宋史、三百二十六〕。

【康買得】192（カウバイトク）　唐、京兆の人。穆宗の時、年十七、父の仇を報ず。詔して死を減ず。〔唐書、一百九十五〕。

【康保裔】193（カウハウエイ）　宋、洛陽の人。龍捷指揮使を拜命し、屢〻戰功あり。眞宗の時、官は高陽關都部署。契丹と戰つて陣中に歿す。〔宋史、四百四十六〕。

【康萬民】194（カウバンミン）　明の人。海の孫。字は無沴。著に璿璣圖詩讀法あり。〔四庫提要、一百四十八〕。

【康復誠】195（カウフクセイ）　朝鮮、李朝の信川の人。字は明之。號は竹磵。官は知中樞。〔人物考〕。

【康茂才】196（カウボウサイ　カウモサイ）　明、蘄の人。字は壽卿。諡は武毅。元末、義兵を擧げ、後、明の太祖に降り、官は都水營田使・同知大都督府事。漢中を征するに從ひ、道に卒す。蘄國公に追封せらる。〔明史、一百三十〕・〔萬斯同明史、一百六十五〕・〔明史稿、一百十九〕。

【康孟詳】197（カウマウシヤウ）　後漢の人。慧學の譽高く、獻帝、興平元年より建安四年に至る迄、洛陽に於て遊四衢等の經六部を譯す。〔開元釋敎錄、一〕。

【康默記】198（カウモクキ）　遼の人。本名は照。少にして薊州衙校を拜命す。太祖、薊州を侵して之を得、其の材を愛んで麾下に置く。後、官は左尙書。〔遼史、七十四〕。

【康與之】199（カウヨシ）　宋、滑州の人。嘉禾に流寓。字は伯可。一の字は叔聞。號は退軒。建炎の初、中興十策を奏上す。秦檜に附して進を求め、臺郎に擢んでられ、後、專ら應制して歌詞を作り、檜死するや坐して貶せらる。著に順菴樂府・昨夢錄がある。〔四庫提要、一百四十三〕。

【康老子】200（カウラウシ）　樂府の曲名。長安の富家の子、康老子が落魄して、氷蠶の絲で織つた錦繡を賣つて生計をたててゐたのを、樂人が惜しんで此の曲を作つたといふ。〔樂府雜錄〕康老子、卽長安富家子、落魄不レ事二生計一、常與二國樂一游處、一旦家産蕩盡、偶一老嫗持二舊錦褥一貸鬻、乃以二半千一獲レ之、尋有二波斯一見、大驚、謂レ康曰、何處得レ此、是冰蠶絲所レ織、若暑月陳二於座一、可レ致二一室淸涼一、卽酬二千萬一、康得レ之、還與二國樂一追歡、不レ經レ年復盡、尋卒、後樂人嗟二惜之一、遂製二此曲一、亦名二得至寶一。

【康呂賜】201（カウリヨシ）　清、武功の人。字は復齋。號は一峯・南阿山人。諸生。致良知を以て宗主とし、愼獨を以て工夫を爲し、其の齋を愼獨と稱し、著に愼獨齋日錄がある。〔清史稿、六十六〕・〔國朝耆獻類徵、四百六〕・〔清儒學案小識、末〕。

【康齋先生】202（カウサイセンセイ）　明、吳與弼(**2－3365**・・881)の尊稱。

【康齋文集】203（カウサイブンシウ）　書名。十二卷。明、吳與弼撰。詩七卷。奏・疏・書・雜著共一卷。序一卷。記一卷。目錄一卷。跋・贊・銘・啓・墓誌・墓表・祭文共一卷。〔四庫提要、集、別集類〕。

【康涅狄格】204（コネクティカット）　アメリカ合衆國の州名。大西洋岸にある。Connecticut の音譯。

【康藏國師】205（カウザウコクシ）　唐、法藏(**6－17290**・・132)の追號。

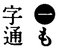
【康範詩集】206（カウハンシシフ）　書名。一卷。附錄三卷。宋、汪晫撰。康範は私諡。詩詞七十首を載す。附錄は進曾子子思表・褒贈指揮・行狀銘誄の類、及び唱酬題贈の作を載す。〔四庫提要、集、別集類〕。

【康里脫脫】207（カンリートト）　元の人。康里國の王族。諡は忠獻。世祖の時、宿衞に入る。仁宗の時、官は江西行省左丞相。和寧王を追贈す。〔元史、一百三十八〕。

【庴】9377 クヮン 〔玉篇〕古丸切 寒

もてあそぶ。〔玉篇〕庴、玩也。

【庸】9378 ヨウ ユ 〔集韻〕餘封切 ㄩㄥ yung$^{1\cdot 2}$ 冬


小篆

❶**もちひる**。もと𤰈に作る。〔正字通〕庸、篆作㆑𤰈。〔說文〕𤰈、用也、从㆓用庚㆒、庚、更㆑事也、易曰、先㆑庚三日。〔書、堯典〕疇咨若㆑時登庸。〔傳〕庸、用也。〔禮、內則〕勿㆑庸㆓疾怨㆒。〔注〕庸之言、用也。〔左氏、僖、二十四〕庸㆑勳。〔注〕庸、用也。〔禮、中庸、疏〕鄭目錄云、名曰㆓中庸㆒者、以㆔其記㆓中和之爲㆑用也。〔漢書、王尊傳〕靖言庸違。〔注〕師古曰、庸、用也。❷**もつて**。〔書、說命〕王庸作㆑書以誥。〔左氏、襄、二十五〕以㆓元女太姬㆒、庸配㆓胡公㆒。〔注〕庸、用也。〔國語、晉語六〕吾庸知㆓天之不㆑授㆑晉。〔注〕庸、用也。❸**もつてする**。〔法言、重黎〕天子制㆓公侯伯子男㆒也庸㆑節。〔注〕庸、以也。❹**てがら**。いさを。〔書、舜典〕能奮㆑庸熙㆓帝之載㆒。〔周禮、天官、司勳〕民功曰㆑庸。〔左氏、僖、二十七〕車服以㆑庸。〔注〕庸、功也。〔張衡、東京賦〕厥庸孔肆。〔注〕綜曰、庸、功也。〔後漢書、朱景王杜馬劉傅堅馬傳贊〕庸功是存。〔注〕庸、勳也。❺**ほねをり**。つかれ。苦勞。〔爾雅、釋詁〕庸、勞也。〔詩、王風、兔爰〕尙㆑無㆑庸。〔箋〕庸、勞也。❻**功勞ある人**。〔周禮、天官、太宰〕五曰、保庸。〔注〕保庸、安㆓有㆑功者㆒。❼**つね**。一定して變らない。〔爾雅、釋詁〕庸、常也。〔易、文言〕庸言之信、庸行之謹。〔疏〕庸、常也。〔書、皋陶謨〕自㆓我五禮㆒有㆑庸哉。〔傳〕庸、常也。〔禮、中庸〕庸德之行。〔注〕庸、常也。❽**のり**。法度。〔太玄經、玄文〕故首尾可㆓以爲㆑庸也。〔注〕庸、法也。❾**よい**。〔小爾雅、廣言〕庸、善也。❿**やはらぐ**。〔一切經音義、二十三〕庸、和也。〔廣韻〕庸、和也。⓫**なみ**。あたりまへ。凡常。中(**1－73**)・衆(**10－33981**)に通ず。〔說文通訓定聲〕庸、叚借爲㆑中、爲㆑衆。〔國語、齊語〕君之庸臣也。〔注〕庸、凡庸也。〔淮南子、原道訓〕此俗世庸民之所㆓公見㆒也。〔注〕庸、衆也。〔左思、魏都賦〕超㆓百王之庸庸㆒。〔注〕善曰、庸、謂㆔凡常無㆓奇異㆒也。⓬**凡人**。常人。〔莊子、德充符〕其與㆑庸亦遠矣。〔釋文〕崔云、庸、常人也。⓭**おろか**。〔集韻〕庸、一曰、愚也。⓮**大きい**。〔太玄經、內〕遇㆓庸夷㆒。〔注〕庸、大也。⓯**代へる**。〔方言、三〕庸、代也。⓰**償ふ**。〔小爾雅、廣言〕庸、償也。⓱**唐の賦法**。國中の丁年以上の男子に、歲ごとに二十日間力役に服させる。役に從はない者には日に絹三尺を納めさせ、閏には二日を加へた。〔唐書、食貨志序〕取㆑之以㆓租庸調之法㆒。〔文獻通考、田賦考〕用㆓人之力㆒、歲二十日、閏加㆓二日㆒、不㆑役者日爲㆑絹三尺、謂㆓之庸㆒、有㆑事而加㆑役二十五日者免㆑調、三十日租調皆免、通㆓正役㆒並不㆑過㆓五十日㆒。⓲**かき**。しろ。墉(**3－5419**)に通ず。〔說文通訓定聲〕庸、叚借爲㆑墉。〔字彙〕庸、與㆑墉同。〔詩、大雅、崧高〕以作㆓爾庸㆒。〔釋文〕庸、本亦作㆑墉。〔禮、郊特牲〕君南向㆓于北庸㆒。〔釋文〕庸、本亦作㆑墉。⓳**ひ**。溝渠の門。〔禮、郊特牲〕祭㆔坊與㆓水庸㆒。〔注〕水庸、溝也。〔疏〕庸、所㆓以受㆑水、亦所㆓以泄㆑水。⓴**やとふ**。**やとひ人**。傭(**1－1007**)に通ず。〔說文通訓定聲〕庸、叚借爲㆑傭。〔字彙〕庸、與㆑傭同。〔廣雅、釋詁一〕庸、使也。〔楚辭、九章、懷沙〕誹㆑俊疑㆑桀兮、固庸態也。〔注〕庸、厮賤之人也。〔漢書、食貨志上〕教㆓民相與庸輓犂㆒。〔注〕師古曰、庸義亦與㆓庸賃㆒同。〔漢書、周勃傳〕取㆓庸苦之不㆑與㆑錢。〔注〕師古曰、庸、謂㆑賃也。〔漢書、司馬相如傳上〕與㆓庸保㆒雜作。〔注〕師古曰、庸卽謂㆓賃作者㆒。㉑**大鐘**。鏞(**11－40808**)に通ず。〔詩、商頌、那〕庸鼓有㆑斁。〔傳〕大鐘曰㆑庸。〔釋文〕庸、依㆑字作㆑鏞。㉒**あに**。〔正字通〕庸、豈也。〔左氏、莊、十四〕庸非㆑貳乎。〔漢書、文帝紀〕雖㆓王之國㆒、庸獨利乎。㉓**なんぞ**。〔經傳釋詞、三〕庸、猶㆑何也、安也、詎也。〔管子、大匡〕雖㆑得㆑賢、庸必能用㆑之乎。〔注〕庸、猶㆑何也。㉔**すなはち**。〔古書虛字集釋〕庸猶㆑乃也、書皋陶謨篇、帝庸作㆑歌。㉕古は亯(**1－334**)に作る。〔集韻〕庸、古作㆑亯。㉖**國の名**。殷代の國。春秋の時、楚に滅ぼさる。湖北省竹山縣の東南。〔書、牧誓〕庸蜀羌髳微盧彭濮人。〔傳〕庸・濮、在㆓江漢之南㆒。〔左氏、文、十六〕楚滅㆑庸。〔注〕庸、今上庸縣、屬㆑楚之小國。㉗**姓**。〔通志、氏族略、以㆑國爲㆑氏〕庸氏、商時侯國、周武王時、來助伐㆑紂、今房州西二百五十里、故上庸城是、文十六年、楚滅㆑之、子孫以㆑國爲㆑氏。〔詩、鄘風、桑中〕美孟庸矣。〔傳〕庸、姓也。

名乘 ノブ。モチ。ツネ。

解字 會意形聲。用と庚とを合す。本義を用ひるの意とする。庚は更に同じく、事を更めかへる意。故に事を更めかへて用に供する義。一說に、庚は續の義、繼續の意、故に用と合して、事を繼續して施行し得ることをいふと。又、用は音符。〔說文通訓定聲〕庸、用也、从㆑用从㆑庚、會意、庚、更㆑事也、易曰、先㆑庚三日、按、庚猶㆑續也、事可㆓施行㆒、謂㆓之用㆒、行而有㆑繼、謂㆓之庸㆒云云、用亦聲。

【庸安】1 ナンゾ　なんぞ。なんすれぞ。庸何。庸詎。〔經傳釋詞、三〕庸與㆑安同意、故亦稱㆓庸安㆒。〔荀子、宥坐〕女庸安知㆓吾不㆑得㆓之桑落之下㆒。

【庸菴】2 ヨウアン　字號。❶明、宋僖(**3－7078**‥49)の號。❷清、顧樞(**12－43689**‥115)の字。❸清、薛福成(**9－32123**‥243)の字。

〔庸菴集〕2′ ヨウアンシフ　書名。十四卷。元、宋禧撰。詩文集。〔四庫提要、集、別集類〕。

【庸暗】3 ヨウアン　おろか。暗愚。昏愚。闇愚。〔歐陽脩、論㆔臺諫官唐介等宜㆓早牽復㆒劄子〕臣材識庸暗、碌㆓碌於衆人中㆒。

【庸盦】4 ヨウアン　清、薛福成(**9－32123**‥243)の字。

【庸闇】5 ヨウアン　庸暗に同じ。〔劉孝綽、與㆓東宮㆒啓〕幸得㆑躅㆓於庸闇㆒、裁下㆓免黜之書㆒、仍頒㆓朝會之旨㆒。

【庸醫】6 ヨウイ　やぶいしや。平凡な醫師。〔宋史、食貨志上六〕(仁宗在㆑位、京師大疾)令㆘太醫擇㆓善察㆑脈者㆒、卽㆓縣官㆒、授㆑藥審㆓處其疾狀㆒予㆖之、〔蘇軾、策略一〕此庸醫之所㆓以爲㆑無㆑足㆑憂。無㆑使㆘貧民爲㆓庸醫所㆑誤夭㆗閼其生㆖。

〔庸醫殺傷人〕7 ヨウイサツシヤウヒトヲ　やぶ醫者が誤つて人を殺傷する。〔六部成語、刑部、庸醫殺㆓傷人㆒注解〕醫士用㆑藥錯誤、以致㆓傷人㆒也。

〔庸醫司性命〕8 ヨウイツカサドルセイメイヲ　やぶ醫者が人命を支配する。危險な喩。〔陸游、春殘詩〕庸醫司㆓性命㆒、俗子議㆓文章㆒。

【庸韋】9 ヨウヰ　庸違に同じ。王先謙補注本は庸違に作る。〔漢書、王尊傳〕靖言庸韋、象龔滔㆑天。〔注〕師古曰、引㆓虞書堯典之辭㆒也、靖、治也、庸、用也、韋、僻也、滔、漫也、謂㆘其言假㆓託於治㆒、實用違僻、貌㆓象恭敬㆒、過惡漫㆖天也。〔王先謙補注〕宋祁曰、浙本作㆓庸韋㆒、注云、韋、違也、王念孫曰、浙本、是也、說文、韋、相背也、是古違背字、本作㆑韋、古文尙書酒誥、薄韋農夫、見㆓群經音辨㆒、馬注、韋 違行也、見㆓釋文㆒、是其證、後人依㆓今本尙書㆒改㆑韋爲 違、故又改㆓注文㆒耳。

【庸違】10 ヨウヰ 用ひれば違背する。〔書、堯典〕帝曰、疇咨若予采、驩兜曰、都共工、方鳩僝レ功、帝曰、吁靜言庸違、象恭滔レ天。〔傳〕靜、謀、滔、漫也、言共工自爲二謀言一、起用行レ事、而違二背之一。〔蔡傳〕靜言庸違者、靜則能言、用則違背也。

【庸音】11 ヨウイン 平凡の音。〔陸機、文賦〕故踸二踔於短韻一、放二庸音一以足レ曲。〔注〕濟曰、放二情常音一。

【庸何】12 ヨウカ なんぞ。なんすれぞ。庸安。庸詎。〔經傳釋詞、三〕庸與レ何同意、故亦稱二庸何一。〔左氏、襄、二十五〕將庸何歸。〔會箋〕庸亦何也、何歸之爲二庸何歸一、猶三何傷之爲二庸何傷一。〔國語、魯語下〕醉而怒、醒而喜、庸何傷。

【庸丐】13 ヨウカイ やとはれ者や乞食。下賤な者。〔柳宗元、寄二許京兆孟容一書〕想田野道路、士女遍滿、皁隷庸丐、皆得レ上二父母邱墓一。

【庸駭】14 ヨウガイ おろか。庸愚。〔後漢書、戴就傳〕薛安庸駭、忸行無レ義。

【庸行】15 ヨウカウ ❶中庸を得た行。〔易、乾〕子曰、庸言之信、庸行之謹。〔疏〕庸、謂二中庸一、庸、常也。❷平生の行。素行。〔荀子、不苟〕庸言必信レ之、庸行必愼レ之。〔注〕庸、常也、謂二言常信、行常愼一。〔逸周書、大戒解〕庸行信レ貳。〔注〕常信レ貳、則難レ得レ中也。〔法言、問明〕庸行翳レ路。

【庸棋】16 ヨウカウ やとはれて耕やす。棋は耕の古字。傭耕。〔呂覽、爲欲〕疾二庸棋一、爲二煩辱一、不二敢休一。

【庸客】17 ヨウカク ヨウキヤク やとひ人。〔韓非子、外儲說左上〕夫賣庸而播耕者、主人費レ家而美レ食、調レ布而求二易錢一者、非レ愛二庸客一也。

【庸器】18 ヨウキ ❶功勞を銘記した器。一說に、敵から獲た器。〔周禮、春官、典庸器〕掌レ藏二樂器庸器一。〔注〕庸器、伐レ國所レ獲之器。〔周禮、春官、序官、典庸器、注〕庸、功也、鄭司農云、有レ功者、鑄レ器以銘二其功一。〔文心雕龍、銘箴〕呂望銘二功於昆吾一、仲山鏤二績於庸器一、計レ功之義也。❷つねなみの器量。〔江淹、雜體、盧郎中感交詩〕大廈須二異材一、廊廟非二庸器一。〔注〕善曰、爾雅曰、庸、常也、謂非二凡常之器一。

【庸議】19 yung^1 i^4 相談する。詮議する。

【庸渠】20 ヨウキヨ 水鳥の名。一名、章渠。又、鷛鸈に作る。〔司馬相如、上林賦〕煩鶩庸渠。〔注〕善曰、郭璞曰、庸渠似レ鳧、灰色而雞腳、一名章渠。

【庸虛】21 ヨウキヨ 平凡で才がない。おろかではたらきがない。〔北史、劉炫傳〕以二此庸虛一、屢動二宸眷一。〔白居易、杭州刺史謝上表〕上分二憂寄一、內省二庸虛一。〔資治通鑑、陳紀〕(宣帝、太建十二年)吾以二庸虛一、受二茲顧命一。〔注〕庸、言二身無レ所レ能、虛、言二胸中無レ所レ有、謙辭也。

【庸詎】22 ナンゾ なんぞ。なにをもつて。庸・詎は共に何。又、庸は用。庸安。庸何。〔經傳釋詞、三〕庸、與レ詎同意、故亦稱二庸詎一。〔莊子、齊物論〕庸詎知二吾所謂知之非レ不レ知邪。〔釋文〕李云、庸、用也、詎、何也、猶レ言二何用一也。〔楚辭、嚴忌、哀時命〕願舒レ志而抽レ馮兮、庸詎知二其吉凶一。〔潘岳、秋興賦〕庸詎識二其躁靜一。

【庸遽】23 ナンゾ 庸詎に同じ。〔淮南子、齊俗訓〕庸遽知下世之所二自窺レ我者上乎。

【庸玉】24 ヨウギヨク 清、黃汝成(**12**−**47926**‥1161)の字。

【庸近】25 ヨウキン おろかな近臣。〔任昉、讓二宣城郡公一第一表〕雖二自見之明一、庸近所レ蔽。

【庸狗】26 ヨウク おろかな犬。人を罵る詞。〔後漢書、董卓傳〕(呂)布曰、有レ詔討二賊臣一、董大罵曰、庸狗敢如レ是邪。

【庸愚】27 ヨウグ 凡庸で愚劣なこと。〔國史略、後光嚴天皇〕尊氏庸愚、不レ知二兵道一。

【庸回】28 ヨウクワイ 才智がなく、性質のねぢけてゐること。〔左氏、文、十八〕少皞氏有二不才子一、毀レ信廢レ忠、崇二飾惡言一、靖二譖庸回一、服レ讒蒐レ慝、以誣二盛德一、天下之民、謂二之窮奇一。〔注〕庸、用也、回、邪也。〔後漢書、劉瑜傳〕幸得レ引レ錄、備二荅聖問一、泄二寫至情一、不二敢庸回一。〔注〕庸、用也、回、邪也。〔論衡、恢國〕驩兜之行、靖二言庸回一、共工私レ之、稱二薦於堯一。〔吳志、陸抗傳〕靖二譖庸回一、唐書攸レ戒。

【庸君】29 ヨウクン 愚かな君。凡庸の君主。庸主(61)に同じ。

【庸勳】30 ヨウクン 功績ある人を用ひる。功勳者を任用する。〔左氏、僖、二十四〕庸レ勳親レ親。〔注〕庸、用也。〔國語、周語中〕庸レ勳長レ老。〔注〕庸、用也、勳、功也。〔任昉、宣德皇后敦勸二梁王一令〕夫功在不レ賞、故庸勳之典蓋闕。

【庸敬】31 ヨウケイ つねの敬。常に敬ふこと。〔孟子、告子上〕庸敬在レ兄、斯須之敬在二鄉人一。

【庸怯】32 ヨウケフ 凡庸で臆病な人。〔宋史、夏守贇傳〕然守贇性庸怯、寡二方略一、不レ爲二士卒所一レ服。

【庸軒】33 ヨウケン 森尙蔚の號。森庸軒(**6**−**14974**‥44)を見よ。

【庸蹇】34 ヨウケン おろか者。人なみでない者。〔胡曾、謝レ賜レ錢啓〕朝乏二半千一、夕盈二五萬一、豈期二庸蹇一、忽忝二遭逢一。

【庸言】35 ヨウゲン ❶中庸を得た言語。〔易、乾〕文言曰、庸言之信、庸行之謹。〔疏〕庸、謂二中庸一、庸、常也。〔中庸〕庸德之行、庸言之謹。❷平生の言葉。〔荀子、不苟〕庸言必信レ之。〔注〕庸、常也、謂二言常信一。

【庸固】36 ヨウコ おろかでかたくな。凡庸固陋。〔任昉、奏二彈曹景宗一文〕惟此庸固、理絕二言提一。

【庸故】37 ヨウコ 平生のやりきたり。〔荀子、王制〕立レ身則從二傭俗一、事行則遵二傭故一。〔集解〕郝懿行曰、傭、與レ庸同、庸者常也。

【庸鼓】38 ヨウコ 大鐘と大鼓。庸は大鐘。〔詩、商頌、那〕庸鼓有レ斁、萬舞有レ奕。〔傳〕大鐘曰レ庸。

【庸伍】39 ヨウゴ 平生のなかま。〔後漢書、劉玄傳〕尙書顯官皆出二庸伍一。

【庸工】40 ヨウコウ 平凡な工匠。〔賴山陽、松詩〕免得庸工加二刻削一、萬層雪底歲寒色。

【庸功】41 ヨウコウ てがら。いさをし。勳功。〔後漢書、朱祐傳贊〕贊曰、帝績思レ乂、庸功是存。〔注〕庸、勳也。

【庸才】42 ヨウサイ なみの器量。平凡の人。〔十六國春秋〕豈非二庸才一耶。〔任昉、讓二宣城郡公一第一表〕臣本庸才、智力淺短。

【庸材】43 ヨウサイ ヨウザイ 庸才(42)に同じ。〔漢書、薛宣傳〕仁重職大、非三庸材所二能堪一。

【庸齋】44 ヨウサイ 字號。❶宋、趙汝騰(**10**−**37171**‥693)の號。❷宋、趙必曅(**10**−**37171**‥851)の號。❸清、楊峴(**6**−**15112**‥130)の號。

【庸齋集】45 ヨウサイシフ 書名。六卷。宋、趙汝騰撰。詩文集。〔四庫提要、集、別集類〕。

【庸齋先生】46 ヨウサイセンセイ 宋、陸九皋(**11**−**41708**‥285)の號。

【庸作】47 ヨウサク やとはれて仕事をすること。賃仕事をすること。傭作。〔韓非子、外儲說左上〕夫挾二相爲一則責望、自爲則事行、故父子或怨譟、取二庸作一者進二美羹一。〔漢書、匡衡傳〕至レ衡好レ學、家貧庸作、以供二資用一。〔注〕師古曰、庸作、言下賣二功庸一、爲レ人作レ役而受上レ雇也。〔王先謙補注〕周壽昌曰、庸作、卽司馬相如傳所レ云與二庸保一雜作也。

【庸三】48 ヨウサン 清、盛世佐(**8**−**23005**‥219)の字。

【庸士】49 ヨウシ なみの人。〔荀子、王制〕進二退貴賤一、則擧二傭士一。〔集解〕郝懿行曰、傭、與レ庸同、庸者常也。

【庸子】50 ヨウシ 古の人。能く劍の利鈍を鑑別したといふ。〔淮南子、氾論訓〕薛燭・庸子、見下若二爪甲一於劍上、而利鈍識矣。〔注〕兪氏曰、言燭、庸子之於レ劍、止見下若二爪甲一者上、而已識二其利鈍一矣。

【庸之】51 ヨウシ 字號。❶明、黃哲(**12**−**47926**‥689)の字。❷明、包大中(**2**−**2506**‥160)の字。

【庸止】52 ヨウシ 平生の容姿。〔逸周書、大戒解〕庸止生レ郄。〔注〕止、容也。

【庸恣】53 ヨウシ 庸次に同じ。〔方言、三〕庸恣、比侹、更迭、代也、齊曰レ佚、江淮陳楚之間曰レ侹、餘四方之通語也。

【庸祇】54 ヨウシ 用ふべきを用ひ、敬むべきを敬む。庸は用、祇は敬。〔書、康誥〕庸レ庸祇レ祇、威レ威顯レ民。〔傳〕用レ可レ用、敬レ可レ敬。〔左氏、宣、十五〕周書所謂庸レ庸祇レ祇者、謂二此物一也夫。〔王儉、褚淵碑文〕以二帷幄之功一、膺二庸祇之秩一。〔注〕濟曰、庸、用、祇、敬。

【庸次】55 ヨウジ かはるがはる。庸恣。〔左氏、昭、十六〕昔我先君桓公、與二商人一皆出レ自レ周、庸次比耦、以艾二殺此地一。〔注〕庸、用也、用次更相從耦耕。

【庸相】56 ヨウシヤウ 凡庸な宰相。〔日本政記、伏見天皇論〕猶君之置レ相爲レ民也、非レ爲レ相也、而庸相以爲レ爲レ己也。

【庸將】57 ヨウシヤウ 平凡な大將。〔李衞公、問對上〕雖二庸將一未レ敗。

【庸常】58 ヨウジヤウ つね。なみ。尋常。〔康熙字典〕尋、俗謂二庸常一爲二尋常一。〔福惠全書、保甲部、選保、甲長〕觀二其狀貌一不レ類二庸常一。

【庸情】59 ヨウジヤウ 常人の心情。〔沈約、郊居賦〕將二

通人之遠旨一、非二庸情之所一レ見。

【庸弱】60（ヨウジャク） 平凡でよわい。〔江淹、爲二蕭驃騎一讓二太尉增封一第三表〕咨二此庸弱一、何以任レ忝。〔唐書、宦者傳序〕肅代庸弱、倚爲二扞衞一。

【庸主】61（ヨウシュ） 暗愚な君主。おろかな主人。〔韓非子、守道〕立レ法非三所二以避二曾史一也、所四以使三庸主能止二盜跖一。〔史記、范雎傳〕庸主賞レ所レ愛。〔新書、過秦下〕有二庸主之行一。〔潘岳、西征賦〕値二庸主之矜愎一。〔杜甫、行次二昭陵一詩〕舊俗疲二庸主一、羣雄問二獨夫一。

【庸豎】62（ヨウジュ） おろかな人。平凡な人。〔陶弘景、肘後百一方序〕今搢紳君子、云云、說從二祿外邑一、將二命遠途一、云云、若便探二之枕笥一、則可二庸豎成一レ醫。

【庸儒】63（ヨウジュ） 平凡な學者。〔史通、外篇、惑經〕豈與三夫庸儒末學、文レ過飾レ非、使二夫問者、緘レ辭杜レ口、懷レ疑不レ展、若レ斯而已哉。

【庸孺】64（ヨウジュ） 平凡な子供。〔謝應芳、歸二田舍一作詩〕鴉鳴鵲噪總無レ靈、庸孺訛言更莫レ聽。

【庸衆】65（ヨウシュウ） 平凡な人々。庸衆人。〔荀子、脩身〕不レ由レ禮、則夷固僻違、庸衆而野。〔注〕庸、凡庸、衆、衆人。

〖庸衆人〗66（ヨウシュウジン） 平凡な人々。〔方孝孺、戇窩記〕其肯泯然、與二庸衆人一等乎。〔岡鹿門、海國兵談序〕幾豈庸人所二能知一乎。

【庸孰】67（ナンゾ） 庸詎(22)に同じ。〔經傳釋詞、三〕庸孰、猶二庸詎一也。〔大戴禮、曾子制言〕則雖二汝親一、庸孰能親レ汝乎。

【庸織】68（ヨウショク） 庸職に同じ。〔說苑、復恩〕齊懿公之爲二公子一也、與二邴歜之父一爭レ田、不レ勝、及レ卽レ位、乃掘而刖レ之、而使二歜爲一レ僕、奪二庸織之妻一、而使三織爲二參乘一。

【庸職】69（ヨウショク） 春秋、齊の人。左氏、文、十八に閻職に作る。姓は閻、名は職。庸とは雇職を受くるの意であらう。其の妻の美色なるを以て、懿公之を宮に入れ、庸職をして驂乘せしむ。〔史記、三十二〕。

【庸臣】70（ヨウシン） 平凡な家來。〔管子、小匡〕君之庸臣也。〔漢書、賈誼傳贊〕爲二庸臣所一レ害。

【庸人】71（ヨウジン） 平凡な人。凡庸な人。〔戰國、趙策〕始以二先生一爲二庸人一、吾乃今日而知三先生爲二天下之士一也。〔荀子、榮辱〕固非二庸人之所一レ知也。〔韓非子、內儲說上〕故今有二人於此一、曰下予二汝天下一而殺中汝身上、庸人不レ爲也。〔史記、陳餘傳〕亦知三陳餘非二庸人一也。〔漢書、東方朔傳贊〕爲二庸人一誦說。〔王褒、四子講レ德論〕精鍊藏二於鑛璞一、庸人視レ之忽焉。

〖庸人自擾〗72（ヨウジンミヅカラミダス） 天下は元來無事なものであるが、愚かな人が之をみだすから自然に亂れるやうになる。〔唐書、陸象先傳〕天下本無事、庸人自擾レ之。

〖庸人之毀譽〗73（ヨウジンノキヨ） 平凡な人がほめたりそしつたりすること。〔愼思錄、一〕不レ可下因二庸人之毀譽一而爲中喜慍上。

【庸世】74（ヨウセイ） 平凡な治世。〔魏志、司馬芝傳〕不レ失レ有レ罪、庸世之治耳。

【庸生】75（ヨウセイ） 庸譚をいふ。〔前漢書、八十八〕。

【庸績】76（ヨウセキ） いさを。てがら。〔晉書、周處傳贊〕威略冠二于本朝一、庸績書二於王府一。〔北史、李弼傳論〕方面宜二其庸績一、帷幄盡二其謀猷一。

【庸說】77（ヨウセツ） 平凡な所說。〔戰國、趙策〕客曰、不レ然天望レ人而笑、是和也、言而不レ稱レ師、是庸說也、交淺而言深、是忠也。

【庸淺】78（ヨウセン） 平凡であさはか。〔梁昭明太子、止二三郡民丁就一レ役疏〕臣意見庸淺、不レ識二事宜一。〔曹鄴、梅妃傳〕太眞聞レ之、訴二明皇一曰、江妃庸賤。

【庸租】79（ヨウソ） 庸役とみつぎ。夫役と年貢。字解の㊆及び租庸調(**8**－**24988**‥58)を見よ。〔唐書、宋渾傳〕至三重二取民一年庸租一。

【庸俗】80（ヨウゾク） 平凡な俗人。品格低くいやしい人。〔荀子、王制〕立レ身則從二傭俗一。〔注〕傭、與レ庸同、庸、常也。〔宋史、范正平傳〕潁昌唐君益爲レ守、表二其所一レ居爲二忠直坊一、取二所レ賜世濟忠直碑額一也、正平告レ之曰、此朝庭所レ賜、揭二於墓隧一、假二寵於范氏子孫一、則可、若於二通途廣陌中一、爲二往來之觀一、以聳二動庸俗一、不可。〔避暑錄話〕以二俗方一治二庸俗人一。

【庸愞】81（ヨウダ） 平凡で柔弱。〔隋書、宇文化及傳贊〕化及庸愞下才、負レ恩累レ葉。

【庸懦】82（ヨウダ） 庸愞に同じ。〔韓愈、合江亭詩〕蕭條綿二歲時一、契濶繼二庸懦一。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕其老稺孤貧庸懦者。

【庸怠】83（ヨウタイ） おろかで怠る者。〔劉峻、辨命論〕立レ教以進二庸怠一。

【庸態】84（ヨウタイ） 身分の賤しい人。又、庸人の態。〔楚辭、九章、懷沙〕邑犬羣吠兮、吠レ所レ怪也、非レ俊疑レ傑兮、固庸態也。〔集注〕庸、廝賤之人也。〔岡松辰、考〕庸態、謂二庸人之態一。〔史記、屈原傳〕邑犬羣吠兮、吠レ所レ怪也、誹レ俊疑レ桀兮、固庸態也。〔注〕索隱曰、尹文子云、千人曰レ俊、萬人曰レ桀、今乃誹レ俊疑レ桀、固是庸人之態也。

【庸體】85（ヨウタイ） 凡庸の身體。〔北堂書鈔、儀飾〕漢末雜事、詔賜二陳留蔡邕金龜紫紱一、邕上表云、退省二金龜紫紱之飾一、非三臣庸體所二能當一也。

【庸短】86（ヨウタン） おろか。庸劣。庸愚。〔南史、梁邵陵攜王綸傳〕性頗庸短。

【庸譚】87（ヨウタン） 漢、膠東の人。古文尚書に通ず。孔安國再傳の弟子。其の學を以て清河の胡常に傳ふ。〔後漢書、百九〕。

【庸知】88（ナンゾシラン） ㊀問ふ所でない。問題にしない。〔韓愈、師說〕夫庸知三其年之先二後生於吾一乎。㊁考へ及ばない。

【庸築】89（ヨウチク） やとはれてきづく。庸は傭。〔墨子、尙賢中〕傳說被レ褐帶レ索、庸二築乎傅巖一。

【庸中】90（ヨウチュウ） 平凡な人の中。庸中佼佼を見よ。

〖庸中佼佼〗91（ヨウチュウノカウカウ） 平凡の中でやや勝れた者。〔後漢書、劉盆子傳〕(光武)帝曰、卿所レ謂鐵中錚錚、庸中佼佼者也。

【庸賃】92（ヨウチン） 人にやとはれる。傭賃。〔史記、范雎傳〕須賈曰、今叔何事、范雎曰、臣爲レ人庸賃。〔魏志、韓曁傳〕曁陽不二以爲一レ言二庸賃一。

【庸丁】93（ヨウテイ） 夫役に當る壯丁。〔主計寮式、下〕勘二大帳損益一者、皆須下相二折損進一、檢中其損益上。

【庸亭】94（ヨウテイ） 淸、錢中諧(**11**－**40563**‥388)の號。

【庸調】95（ヨウテウ） 庸は夫役、調はみつぎもの。字解の㊆及び租庸調(**8**－**24988**‥58)を見よ。

【庸田】96（ヨウデン） 下等の田。〔管子、山權數〕高田十石、閒田五石、庸田三石、其餘皆屬二諸荒田一。〔纂詁〕庸、凡庸、庸田、下田也。

【庸奴】97（ヨウド） 愚かなしもべ。〔史記、張耳傳〕外黃富人女甚美、嫁二庸奴一、亡二其夫一。〔漢書、張耳傳〕外黃富人女甚美、庸二奴其夫一。

【庸駑】98（ヨウド） やくざもの。〔福惠全書、莅任部、稟帖贅說〕以二庸駑之質一受二事荒郯一。

【庸德】99（ヨウトク） 平常の德。又、かはらない德。〔中庸〕庸德之行、庸言之謹、有レ所レ不レ足、不二敢不一レ勉。〔章句〕庸、平常也。

【庸能】100（ヨウノウ） ㊀役だつ才能。〔後漢書、卓茂傳論〕卓茂斷斷小宰、無二它庸能一。㊁（ヨウタイ） 庸態(84)に同じ。〔論衡、累害〕屈平潔白、邑犬羣吠、吠レ所レ怪也、非レ俊疑レ傑、固庸能也。

【庸馬】101（ヨウバ） 駄馬。〔太平御覽、獸、馬五〕桓譚新論曰、顏淵所二以命短者慕一、孔子所三以傷二其年一也、若下庸馬良馬、相追至レ暮、共列二宿所一、良馬鳴食如レ故、庸馬垂レ頭不中復食上、何異下顏淵與二孔丘優劣上。

【庸輩】102（ヨウハイ） 平凡なやから。〔宋史、劉儀鳳傳〕然頗慕二晉人簡傲之風一、不レ樂下與二庸輩一接上。

【庸保】103（ヨウハウ・ヨウホ） 證人を立てて傭はれること。又、其の人。庸は傭、保は證。傭保。〔史記、刺客、荊軻傳〕高漸離變二名姓一、爲レ人庸保。〔注〕索隱曰、案謂三庸二作酒家一、言可二保信一、故云二庸保一。〔漢書、司馬相如傳上〕相如與二庸保一雜作。〔注〕師古曰、庸、卽謂二賃作者一、保、謂下庸之可二信任一者上也。〔續列女傳、梁鴻妻傳〕雜二庸保之中一。

【庸亡】104（ヨウバウ） 奴僕のやうに逃げる。〔漢書、翟方進傳〕義與二劉信一棄レ軍庸亡。〔注〕孟康曰、謂三挺レ身逃亡如二奴庸一也。

【庸伯】105（ヨウハク） 淸、朱蘭泰(**6**－**14424**‥1018)の字。

【庸帛】106（ヨウハク） 普通のきぬ。〔論衡、量知〕恒絲庸帛、何以異哉。

【庸薄】107（ヨウハク） 平凡で德のうすいもの。〔任昉、褚諮議蓁讓二代レ兄襲レ封表〕遠謬推レ恩、近萃二庸薄一。

【庸伐】108（ヨウバツ） 功伐(**2**－**2295**‥96)に同じ。〔北史、叔孫建傳論〕少展二誠勤一、終著二庸伐一。

【庸鄙】109（ヨウヒ） ゐなか。村里。〔福惠全書、教養部、總論〕市井庸鄙。

【庸岷】110（ヨウビン） 蜀をいふ。庸は春秋の國名、湖北省竹山縣の東。岷は四川省西北境の山名。〔陸

機、答二賈長淵一詩〕庸岷稽顙、三江改レ獻。〔注〕善曰、庸岷、蜀境也、庸、國名也、岷、山名也、銑曰、庸岷、蜀也。

【庸夫】111（ヨウフ）　平凡な男。凡庸な男。凡夫。〔戰國、秦策〕夏育・太史啓、叱呼駭二三軍一、而身死二於庸夫一。〔史記、平原君虞卿傳贊〕庸夫且知二其不可一。〔說苑、尊賢〕管仲故成陰之狗盜也、天下之庸夫也。〔揚雄、解嘲〕故世亂則聖哲馳騖而不レ足、世治則庸夫高レ枕而有レ餘。

〖庸夫愚婦〗112（ヨウフグフ）　平凡な人々。愚夫愚婦。〔歐陽脩、相州晝錦堂記〕所謂庸夫愚婦者、奔走駭汗、羞愧俯伏。

【庸布】113（ヨウフ）　夫役の代りに、上に納める布。ちからしろのぬの。〔續日本紀、三、慶雲三年二月庚寅〕准令、正丁歲役收二庸布二丈六尺一。

【庸部】114（ヨウブ）　益州をいふ。王莽の時、庸部と改む。四川省西川道成都縣。〔漢書、西南夷傳〕王莽更遣三寧始將軍廉丹與二庸部牧史熊一。〔注〕師古曰、莽改二益州一爲二庸部一。〔讀史方輿紀要、四川〕成都府、王莽改二益州一曰二庸部一。

【庸蔽】115（ヨウヘイ）　おろか。〔顏延之、赭白馬賦序〕末臣庸蔽、敢同獻レ賦。

【庸編】116（ヨウヘン）　凡才で狹量なこと。〔謝靈運、孝感賦〕顧二微臣之庸編一、謝二精靈之昭晰一。

【庸僕】118（ヨウボク）　下男。〔後漢書、左雄傳〕貴爲二天子一、而庸僕羞二與爲レ比者、以二其無レ義也。

【庸米】119（ヨウマイ）　王朝時代、夫役の代りに納めた米。ちからしろのよね。〔日本後紀、二十一、弘仁二年五月辛丑〕諸國所レ進、舂米庸米。〔三代實錄、十七、貞觀十二年三月二十三日〕庸米幷雜米、總納二稅庫一。

【庸民】120（ヨウミン）　普通の人民。轉じて、庶民。〔墨子、親士〕雖レ雜二庸民一、終無二怨心一。〔商子、懇令〕庸民無レ所二於食一。〔淮南子、原道訓〕此俗世庸民之所二公見一也。

【庸命】121（ヨウメイ）　命を用ひる。〔書、堯典〕汝能庸レ命、巽二朕位一。〔傳〕四岳能用二帝命一、故欲レ使三順二行帝位之事一。〔蔡傳〕汝四岳能用二我之命一、而可レ遜二以此位一乎。

【庸庸】122（ヨウヨウ）　❶もちひる。〔廣雅、釋訓〕庸庸、用也。❷ほねをるさま。〔爾雅、釋訓〕庸庸、勞也。❸平凡なさま。又、平凡のもの。〔漢書、外戚、孝成趙皇后傳〕豈當世庸庸斗筲之臣所二能及一哉。〔論衡、答佞〕庸庸之君、不レ能レ知レ賢。〔左思、魏都賦〕超二百王之庸庸一。〔注〕馮衍顯志賦曰、非二庸庸之所レ識、庸、謂三凡常無二奇異一也。❹微小なさま。〔漢書、梅福傳〕毋レ若二火始庸庸一。〔注〕師古曰、周書洛誥之辭也、庸庸、微小貌也、言下火始微小、不二早撲滅一、則至中熾盛上。❺（モチフベキヲモチフ）用ふべき者を用ひる。庸レ庸祗レ祗を見よ。❻（ヨウヲヨウトス）功績ある者を稱して之に報いる。庸レ庸勞レ勞を見よ。

〖庸庸之徒〗123（ヨウヨウノト）　つねなみの平凡な人。〔魏志、王昶傳〕況庸庸之徒、而輕毀譽哉。

〖庸レ庸祗レ祗〗124（モチフベキヲモチヒツツシムベキヲツツシム）　用ふべきを用ひ、敬しむべきをつつしむ。〔書、康誥〕不三敢侮二鰥寡一、庸レ庸祗レ祗、威レ威顯レ民。〔傳〕用レ可レ用、敬レ可レ敬。〔左氏、宣、十五〕周書所謂庸レ庸祗レ祗者、謂二此物一也夫。

〖庸レ庸勞レ勞〗125（ヨウヲヨウトシラウヲラウトス）　功勞ある者を稱して之に報いる。〔荀子、大略〕親レ親故レ故、庸レ庸勞レ勞、仁之殺也。〔注〕庸、功也、庸レ庸勞レ勞、謂下稱二其功勞一、以報中有二功勞一者上。

〖庸庸多厚福〗126（ヨウヨウコウフクオホシ）　平凡なものが福をうける。〔陔餘叢考、成語〕庸庸多二厚福一、虞詡薦二左雄一、謂下當時公卿多以二拱默一爲上レ賢、相戒曰、庸庸多二厚福一。

【庸俚】127（ヨウリ）　いやしいこと。〔北齊書、張景仁傳〕一旦開府侍中封レ王、音辭事事庸俚。

【庸流】128（ヨウリウ）　平凡のもの。〔謝朓、拜二中軍記室一辭二隨王一牋〕朓實庸流、行能無レ算。

【庸力】129（ヨウリヨク）　❶力を用ひること。〔後漢書、竇憲傳論〕庸レ力之不レ暇、思レ鳴之無レ晨。❷民功と治功。庸力行務を見よ。

〖庸力行務〗130（ヨウリヨクカウム）　庸は民功、力は治功。行は德教を行ふこと、務は時要を務めること。〔左氏、昭、二十五〕爲二政事庸力行務一、以從二四時一。〔注〕民功曰レ庸、治功曰レ力、行二其德教一、務二其時要一。

【庸劣】131（ヨウレツ）　おろか。凡愚。庸愚。〔沈約、謝下立二皇太子一賜上絹表〕幣帛嘉貺、猥班二庸劣一。

【庸陋】132（ヨウロウ）　いやしい。〔任昉、奉三答勅示二七夕詩一啓〕謹輙牽二率庸陋一。〔沈約、奏二彈王源一文〕源雖二人品庸陋一、胄レ實參レ華。

〖庸陋之筆墨〗133（ヨウロウノヒツボク）　平凡で下品な文章。〔賴山陽、上二樂翁公一書〕以二其庸陋之筆墨一、裨二補萬一一。

【庸碌】134（ヨウロク）　平凡な人。

【庸閒齋】135（ヨウカンサイ）　清の陳其元（**11－41698··724**）の號。

【庴】9379　シヤ　〔集韻〕始野切　馬

❶**小さい室**。〔集韻〕庴、小室。❷**いへのむね**。〔篇海〕庴、屋頭。

【𢇋】9380　キン　廞（**4－9488**）に同じ。〔集韻〕廞、或作レ𢇋。

【庹】9381　㊀タ　〔海篇〕音佗　ㄊㄨㄛˇ　tʻuo³

㊁タク　〔字彙補〕音託

㊀**姓**。〔萬姓統譜〕庹、見二直音一。㊁**ひろ**。兩腕をさしのばした長さ。〔字彙補〕庹、兩腕引長、謂二之庹一。

【庈】9382　キン　ゴン　〔篇韻〕巨禁切　沁

いしぢ。〔篇韻〕庈、石地也。

【𢇲】9383　シヨウ　松（**6－14516**）の古字。〔海篇〕𢇲、古文松字。

【庢】9385　音義未詳　〔呂氏春秋〕厚糠多粃庢辟、米不レ得レ恃。

【𢇫】9386　シヤウ　牆（**7－19806**）に同じ。〔字彙補〕𢇫、與レ牆同。

【𢇦】9387　㊀エン　〔篇海類編〕音炎　㊁カウ　〔篇海類編〕音爻

㊀㊁**あつい**。〔篇海類編〕𢇦、熱𢇦。

【𢇢】9388　ドウ　ヌ　〔篇海類編〕乃吼切　有

小さい乳。〔篇海類編〕𢇢、小乳也。

【𢇮】9389　ドウ　䰮（**12－42502**）に同じ。〔篇海類編〕𢇮、同レ䰮。

【𢇴】9390　キヨク　義未詳。〔篇海類編〕𢇴、音極。

【𢇵】9391　タン　義未詳。〔龍龕手鑑〕𢇵、都干切、又他干切。

【𢇳】9392　ダイ　〔搜眞玉鏡〕音乃

九畫

【𢈁】9392′　テイ　タイ　〔字彙補〕丁計切　霽

【⿸广悤】 9393 ソウ ⿸广悤（4－9450）に同じ。〔字彙〕⿸广悤、同㆑⿸广悤。

こまよせ。 馬を防ぐ柵。〔字彙補〕⿸广建、桇也。

【庴】 9394 ㊀ト ヅ 〔集韻〕動五切 麌 ㊁ト ヅ 〔集韻〕同都切 虞

㊀いへ。〔集韻〕庴、舍也。㊁**平な家。又、いほり。** 廜（4－9484）に同じ。〔集韻〕廜、廜蘇、博雅、庵也、一曰、屋平曰㆑廜、或省。

【庽】 9395 グウ 寓（3－7243）に同じ。〔説文〕寓、庽、寓或从㆑广作。

【⿸广畏】 9396 ヰ 〔海篇〕音畏

かくれた處。 〔海篇〕⿸广畏、隱處也。

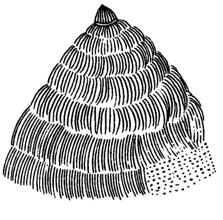
【⿸广扁】 9397 ヘン 〔玉篇〕音偏

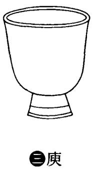
かたひさしの家。 〔玉篇〕⿸广扁、㾖也。

【庾】 9398 ㊀ユ 〔集韻〕勇主切 ㄩˇ yü³ 麌 ㊁ユ 〔集韻〕容朱切 虞

小篆

㊀❶**くら。** 水邊の米倉。〔説文〕庾、水漕倉也、从㆑广臾聲。〔段注〕謂㆓水轉穀至而倉㆑之也。〔廣雅、釋室〕庾、倉也。〔史記、文帝紀〕發㆓倉庾㆒。〔注〕集解曰、應劭曰、水漕倉曰㆑庾。❷**屋根のないくら。** 野の倉。〔説文〕庾、一曰、倉無㆑屋者。〔段注〕無㆑屋、無㆓上覆㆒者也、小雅楚茨傳曰、露㆓積穀㆒曰㆑庾。〔釋名、釋宮室〕庾、裕也、言㆓盈裕㆒也、露積之言也、盈裕不㆑可㆓勝受㆒、所㆔以露㆓積之㆒也。〔詩、小雅、楚茨〕我庾維億。〔傳〕露積曰㆑庾。〔史記、文帝紀〕發㆓倉庾㆒。〔注〕集解曰、胡公曰、在㆑野曰㆑庾、索隱曰、庾、倉無㆑屋也。❸**容量の稱呼。又、量器の名。** 十六斗。又、二斗四升。匬（2－2637）に通ず。〔説文通訓定聲〕庾、叚借爲㆑匬、考工、陶人、爲㆓庾實二斛㆒、按、量名、二斗四升也。〔周禮、考工記、陶人〕庾實二斛、厚半寸、脣寸。〔左氏、昭、二十六〕粟五千庾。〔注〕庾、十六斗也。〔論語、雍也〕與㆓之庾㆒。〔集解〕包氏曰、十六斗爲㆑庾。❹**弓の名。** 弱弓。曲りの多い弓。臾（9－30178）に通ず。〔説文通訓定聲〕庾、叚借爲㆑臾。〔周禮、夏官、司弓矢〕夾弓庾弓。〔注〕往體多來體寡曰㆓夾臾㆒。❺或は⿸广俞（4－9411）・⿷匚臾（2－2636）に作る。〔集韻〕庾、或作㆓⿸广俞・⿷匚臾㆒。❻**姓。**〔元和姓纂〕堯時有㆓掌庾大夫㆒、以㆑官命㆑氏。㊁**草の名。** 萸（9－31979）に同じ。〔爾雅、釋草〕薜、庾草。〔釋文〕庾、字或作㆑萸。


（三才圖會）❷庾


❸庾（禮器圖）

参考 廋（4－9438）は別字。

【庾易】 1 イユ 南齊、新野の人。江陵に徙る。字は幼簡。高帝・武帝・明帝三朝を歷徵、召されて皆就かず。〔南齊書、五十四〕・〔南史、五十〕。

【庾域】 2 ユヰキ 梁、新野の人。字は司大。齊、永明の末、錄事參軍となり、華陽太守を兼ぬ。魏軍が南鄭州を包圍するや、衆心を安んじて堅守し、之を退かしめ、功を以て羽林監を拜命し、尋いで懷寧太守に遷る。梁に入り、寧朔將軍、巴西・梓潼二郡の太守を拜命す。魏の巴西を襲ふや、固守して之を敗退せしめ、廣牧縣伯に封ぜられ、尋いで寧蜀太守に遷る。〔梁書、十一〕・〔南史、五十六〕。

【庾懌】 3 ユエキ 晉の人。亮の弟。字は叔豫。諡は簡。左衞將軍の時、蘇峻を討伐して、廣饒男に封爵。官は梁州刺史・豫州刺史。嘗て江州刺史王允に毒酒を餉り、成帝に奏聞されしを聞き、鴆を飲んで自殺す。〔晉書、七十三〕。

【庾悅】 4 ユエツ 南朝宋の人。亮の曾孫。字は仲豫。初め晉に仕へ、宋の武帝の時、江州刺史を拜命。江州都督劉毅と屢〻相挫辱し合ふ。〔宋書、五十二〕・〔南史、三十五〕。

【庾億】 5 ユオク 米倉がみちてゐる。〔詩、小雅、楚茨〕我倉既盈、我庾惟億。〔傳〕露積曰㆑庾、萬萬曰㆑億。〔潘岳、楊荊州誄〕倉盈庾億、國富兵彊。〔注〕良曰、庾亦倉屬、十萬曰㆑億。

【庾何】 6 ユカ 唐の人。光烈の子。朱泚の反に弟倬と山谷の間に逃れ節を守る。官は兵部郎中。〔唐書、一百六十一〕。

【庾楷】 7 ユカイ 晉の人。義の子。官は孝武帝の時、豫州刺史。安帝の時、元顯と謀反し、誅に伏す。〔晉書、八十四〕。

【庾敳】 8 ユガイ 晉の人。珉の弟。字は子嵩。官は吏部郎。東海王越大傅の軍事に參し、軍諮祭主に轉任。後、石勒の難に殺さる。〔晉書、五十〕。

【庾敳墮幘】 9 ユガイダサク 蒙求の標題。晉の庾敳は劉輿の座に醉ひ、幘が机上に墮ちたのを頭を以て穿ち取り、輿、乃ち服した故事。〔晉書、庾敳傳〕時劉輿見㆑任㆓於越㆒、人士多爲㆑所㆑構、惟敳縱㆓心事外㆒、無㆓迹可㆒㆑間、後以㆓其性儉家富㆒、說㆑越令㆔就換㆓錢千萬㆒、冀其有㆑吝因㆑此可㆑乘、越於㆓衆坐中㆒問㆓於敳㆒、而敳乃頹然已醉、幘墮㆓机上㆒、以㆑頭就穿取、徐答云、下官家有㆓二千萬㆒、隨㆓公所㆒㆑取矣、輿於㆑是乃服、越甚悅、因曰、不㆑可㆘以㆓小人之慮㆒度㆗君子之心㆖。

【庾岳】 10 ユガク 庾業延（58）を見よ。

【庾希】 11 ユキ 晉の人。冰の子。字は始彥。冰の女、海西公妃となり、ために兄弟皆顯貴を得た。後、桓溫に誅せらる。〔晉書、七十三〕。

【庾義】 12 ユギ 晉の人。彬の弟。字は義叔。吳興內史を拜命す。時に穆帝頗る文義を愛するにより、郡に至つて詩を獻じ、授用されて卒す。〔晉書、七十三〕。

【庾弓】 13 ユキユウ 六弓の一。弱弓で、豻侯・鳥獸を射るに用ひる。〔周禮、夏官、司弓矢〕夾弓・庾弓、以授㆘射㆓豻侯・鳥獸㆒者㆖。〔注〕往體多來體寡曰㆓夾庾㆒、云云、豻侯五十步、及射㆓鳥獸㆒、皆近射也、近射用㆓弱弓㆒。

【庾龢】 14 ユクワ 晉の人。義の弟。字は道季。官は升平中、丹陽尹。重役六十餘事を除き、中領軍に終る。〔晉書、七十三〕。

【庾儉】 15 ユケン 隋の人。質の子。父の業を傳ふ。官は襄武令。恭帝の初、太史令。〔隋書、七十八〕。

【庾公】 16 ユコウ ❶晉の庾亮をいふ。〔許渾、酬㆘杜補闕初春雨中舟次㆓橫江㆒喜㆓裴郎中相迎㆒見㆖㆑寄詩〕江館維㆑舟爲㆓庾公㆒、暖波微淥雨濛濛。❷樓の名。庾樓（49）を見よ。〔杜甫、秋日寄㆓題鄭監湖上亭㆒詩〕月靜庾公樓。〔白居易、題㆓崔使君新樓㆒詩〕從㆑此潯陽風月夜、崔公樓替㆓庾公樓㆒。

【庾后】 17 ユコウ ❶晉、廢帝の后。名は道憐。司馬奕（2－3257・・221）を見よ。〔晉書、三十二〕。❷晉の康帝の后。子の穆帝が年二歲で卽位したので、朝に臨んで政を執ること十二年に及んだ。諡して明穆庾皇后と稱す。〔晉書、八十八〕。

【庾袞】 18 ユコン 晉、鄢陵の人。字は叔褒。明穆皇后の伯父。勤儉篤學。性至孝、世に庾異行と號す。〔晉書、八十八〕。

【庾積】 19 ユシ 露天に積んだ穀物。〔國語、周語中〕野有㆓庾積㆒、場功未㆑畢。〔注〕唐尙書云、十六斗曰㆑庾、昭謂、此庾積、露積穀也。

【庾質】 20 ユシツ 隋の人。季才の子。字は行修。八才にして童子郎を拜命。大業の初、官は太史令。

立言忠鯁、帝の怒に觸れて獄死す。〔隋書、七十八〕・〔北史、八十九〕。

【庾實】21ユジツ　庾に一杯に滿ちること。庾は量器の名。字解の㊂を見よ。〔周禮、考工記、陶人〕庾實二觳、厚半寸、脣寸。

【庾峻】22ユシユン　晉、鄢陵の人。道の子。字は山甫。魏の博士。時に老莊を重んじて經史を輕んじたが、峻は獨り經典に潛心した。高貴鄕公の太學に幸するに從ひ、尙書の義を問はれ、師說を援引し、累旨を發明す。尋いで祕書丞・侍御史を歷任す。晉に入り、關內侯に封ぜられ、侍中・諫議大夫となる。〔晉書、五十〕。

【庾純】23ユジユン　晉、鄢陵の人。峻の弟。字は謀甫。博學にして才義あり、儒宗と稱せらる。官は黃門侍郞・中書令・河南尹・少尉。〔晉書、五十〕。

【庾準】24ユジユン　唐、常州の人。幸を王縉に得。官は中書舍人・司農。〔唐書、一百四十五〕。

【庾乘】25ユジヨウ　後漢、鄢陵の人。字は世游。學宮に游び、諸生の傭となり、能く講論す。召されて起たず、時人徵君といふ。〔後漢書、九十八〕。

【庾信】26ユシン　北周、新野の人。肩吾の子。字は子山。小字は蘭成。文藻豔麗、徐陵と名を齊しくし、其の文を徐庾體といふ。梁に仕へて右衞將軍を拜命す。封は武康縣侯。元帝、周に聘せしむ。明帝・武帝、文學を好んで之を厚遇し、驃騎大將軍・開府儀同三司に累遷す。世に庾開府と稱す。著に庾開府集がある。〔周書、四十一〕・〔北史、八十三〕。

【庾詵】27ユシン　梁、新野の人。字は彥寶。諡は貞節處士。篤學にして林泉を愛し、普通中、黃門侍郞に召されて、起たず。晚年、佛教を信ず。著に帝曆・易林がある。〔梁書、五十一〕・〔南史、七十六〕。

【庾震】28ユシン　梁、新野の人。字は彥文。性至孝。南陽の劉虯、ために孝子傳を撰す。〔南史、七十三〕。

【庾生】29ユセイ　淸、沈起鯨（6－17189··458）の字。

【庾闡】30ユセン　晉の人。東の子。字は仲初。諡は貞。性孝悌。蘇峻の難に司空と爲り、軍に參して功あり、吉陽縣男を賜はる。官は零陵太守・給事中。詩賦銘頌がある。〔晉書、九十二〕。

【庾粟】31ユソク　こめぐらの粟。〔說苑、善說〕君將下掘二君之偶錢一、發二君之庾粟一以補上士。

【庾道】32ユダウ　三國、魏の人。乘の子。志を養つて仕へず。其の子峻の貴官を得るに及び、太中大夫を拜命す。〔晉書、五十〕。

【庾導】33ユダウ　後魏、潁川の人。史傳を博覽し、草隸に巧。官は初、梁に仕へて右中郞將。後、正光中、魏の饒安令となる。〔魏書、七十一〕。

【庾持】34ユヂ　陳の人。沙彌の子。字は允德。性至孝。もと梁に仕へ、陳に入つて尙書左丞に累遷、崇德縣子に封爵された。後、大中大夫となり、步兵校尉を領す。〔陳書、三十四〕・〔南史、七十三〕。

【庾塵】35ユヂン　晉の王導が庾亮の權勢をねたみ、西風起つて塵を揚げるや、扇を以て塵を拂ひ、庾元規（亮の字）の塵、人を汚すと罵つた語。〔晉書、王導傳〕時庾亮雖レ居二外鎭一、而執二朝廷之權一、既據二上流一、擁二彊兵一、趣向者多歸レ之、導內不レ能レ平、常遇二西風塵起一、擧レ扇自蔽、徐曰、元規塵汙レ人。〔世說新語、輕詆〕庾公權重、足レ傾二王公一、庾王在二石頭王治城一坐、大風揚レ塵、王以レ扇拂レ塵曰、元規塵汙レ人。

【庾條】36ユデウ　晉の人。氷の弟。字は幼序。官は臨川太守。〔晉書、七十三〕。

【庾東】37ユトウ　晉、鄢陵の人。武帝の時、西域の健胡を撲殺し、名、外國に震ふ。〔晉書、九十二〕。

【庾抱】38ユハウ　唐の人。隋の文帝の時、延州參軍・元德太子學士となり、唐の高祖の時、記室・中書舍人となる。〔唐書、二百一〕・〔舊唐書、一百九十上〕。

【庾蓽】39ユヒツ　梁、新野の人。字は休野。もと齊に仕へて、荊州別駕・通直散騎常侍となり、梁の武帝の時、會稽行事となる。〔梁書、五十三〕・〔南史、四十九〕。

【庾冰】40ユヒヨウ　晉の人。懌の弟。字は季堅。諡は忠成。官は祕書郞。華軼を討つて都鄕侯に封ぜられ、尋いで吳興內史・中書監に累遷す。賢相の稱あり。〔晉書、七十三〕。

【庾彬】41ユヒン　晉の人、亮の子。雅量人に過ぐ。蘇峻の亂に殺さる。〔晉書、七十三〕。

【庾珉】42ユビン　晉の人。峻の子。字は子琚。諡は貞。官は散騎常侍・侍中。爵は長岑男。懷帝に侍して平陽に在り、劉聰に殺さる。〔晉書、五十〕。

【庾旉】43ユフ　晉の人。純の子。字は允臧。淸節の士。官は散騎侍郞・國子祭酒。〔晉書、五十〕。

【庾翼】44ユヨク　晉の人。條の弟。字は稚恭。諡は肅。初、陶侃の太尉府參軍を拜命し、南蠻校尉に累遷。尋いで都亭侯に封爵さる。後、都督江荊司雍梁益六州諸軍事・荊州刺史を拜命し、軍功多し。〔晉書、七十三〕。

【庾亮】45ユリヤウ　晉の人。袞の弟の子。明穆皇后の兄。字は元規。諡は文康。中興の初、中書郞を拜命し、東宮の侍講となる。明帝立つや、中書監に累遷し、左衞將軍を加へられ、永昌縣侯に封ぜらる。成帝の初、中書令に徙り、郭默の叛を平定して、都督江荊豫益梁雍六州諸軍事・征西將軍に陞進す。時に晉室偏安、亮、力めてその恢復を圖つたが成らずして卒す。〔晉書、七十三〕。

【庾廩】46ユリン　こめぐら。囷庾。廩囷。〔金史、胥鼎傳〕衣甲器械極少、庾廩無二兩月食一。

【庾嶺】47ユレイ　山名。梅花の名所。一名、梅嶺・大庾嶺。江西省大庾縣。大庾嶺（3－5831··2235）を見よ。〔舊唐書、地理志四〕韶州、始興、漢南野縣地、屬二豫章郡一云云、縣界東嶠、一名大庾嶺。〔白孔六帖〕大庾多レ梅、南枝既落、北枝始開。〔聞見近錄〕庾嶺險絕、通レ渠流レ泉、涓涓不レ絕、紅白梅夾レ道、仰視二青天一、如二一線一然。〔伯顏、過二梅嶺岡一留題詩〕馬首經二從庾嶺一回、王師到處悉平レ夷。

〔庾嶺坂〕48ユレイザカ　東京都新宿區若宮神社に登る坂の名。德川秀忠、若宮神社境內の梅花を稱して、恰も中國の庾嶺の如しといつたのに因む。梅林坂。幽靈坂。

【庾樓】49ユロウ　樓の名。江西省九江縣。晉の庾亮が江州の鎭であつた時建てたものと傳へる。一名、庾公樓。〔九江府志〕庾樓在二府治後一、濱二大江一、晉庾亮鎭二江州一時所レ建。〔入蜀記、三〕（八月）五日、羣二集於庾樓一、樓正對二廬山之雙劍峯一、北臨二大江一、氣象雄麗、自二京口一以西、登覽之地多矣、無下出二庾樓右一者上。

【庾於陵】50ユヲリヨウ　梁の人。黔婁の弟。字は子介。官は、齊の永元末、東陽遂安令となり、梁の天監の初、太子洗馬・鴻臚卿となる。〔梁書、四十九〕・〔南史、五十〕。

【庾應圭】51ユオウケイ　高麗の人。初名は元規。官は工部侍郞。〔高麗史〕。

【庾開府】52ユカイフ　庾信（26）を見よ。

〔庾開府集箋注〕53ユカイフシフセンチユウ　書名。十卷。周、庾信撰、淸、吳兆宜箋注。庾信の集は明に至つて佚し、此の本は諸書より鈔撮したもの。〔四庫提要、集、別集類〕。

【庾杲之】54ユカウシ　南齊の人。華の從子。字は景行。淸貧。官は尙書左丞・王儉の衞軍長史・太子右衞率。蕭沔、書を王儉に與へ、庾景行は綠水芙蕖の如しといふ。故に時人蓮花幕と稱す。〔南齊書、三十四〕・〔南史、四十九〕。

【庾季才】55ユキサイ　隋の人。曼倩の子。字は叔奕。好んで玄象を占す。官は開皇の初、散騎常侍。著に靈臺祕苑、垂象志がある。〔隋書、七十八〕・〔北史、八十九〕。

【庾光烈】56ユクワウレツ　唐、新野の人。弟光先と安祿山の僞官を受けずして遁れ去る。官は大理少卿。〔唐書、一百六十一〕。

【庾敬休】57ユケイキウ　唐の人。何の子。字は順之。進士。又、弘辭に中り、宣州幕府に徵辟さる。文宗の時、尙書左丞となる。〔唐書、一百六十一〕。

【庾業延】58ユゲフエン　後魏、代の人。後、名を岳と賜ふ。道武に嘉され、外朝大臣と爲り、軍國に參預し、從つて中原を平定、安遠將軍を拜命す。爵は西昌侯。尋いで司空に遷り、誣告されて誅に伏す。〔魏書、二十八〕・〔北史、二十〕。

【庾肩吾】59ユケンゴ　梁の人。於陵の弟。字は子愼。初、晉に仕へて太子率更令・中庶子に歷任し、高齋學士と號さる。梁の簡文帝の卽位するや、度支尙書を拜命し、後、江州刺史に遷り、武庫縣侯に爵せらる。嘗て、侯景の將宋子仙に捕へられたが、詩を能くするを以て釋さる。著に書品・文集がある。〔梁書、四十九〕・〔南史、五十〕。

【庾黔婁】60 ユケンル　梁の人。易の子。字は子貞。初、齊に仕へて編令・孱陵令・蜀郡太守に歷任、梁に入り累遷して散騎常侍に至る。〔梁書、四十七〕・〔南史、五十〕。

【庾公差】61 ユコウサ　春秋、衞の人。字は子魚。孟子には、庾公之斯に作る。大夫。射の名人。射を公孫丁に學び、尹公佗に傳ふ。〔左氏、襄、十四〕・〔孟子、離婁下〕。

〔庾公之斯〕61′ ユコウシシ　春秋、衞の人。庾公差を見よ。

【庾弘遠】62 ユコウエン　南齊の人。炳之の子。字は士操。官は江州刺史。陳顯達に從ひ、兵を擧げて敗れ、其の子の子耀と共に殺さる。〔宋書、五十三〕・〔南史、三十五〕。

【庾子輿】63 ユシヨ　梁の人。域の子。字は孝卿。性至孝。齊の永明の末、州主簿を拜命し、梁の天監の初、尙書郞と爲り、尋いで中郞司馬に歷官す。大通の初、巴陵內史を拜し、道に卒す。〔南史、五十六〕。

【庾司本】64 ユシホン　書局本の一種。地方の庾司で作られたもの。〔書林淸話、宋司庫州軍郡府縣書院刻書〕浙東庾司本無㆓年號刻㆒。

【庾自直】65 ユジチヨク　隋、潁川の人。大業中、官は著作佐郞。詩に巧。後、知起居舍人事となる。江都の變に激憤發病して卒す。〔隋書、七十六〕・〔北史、八十三〕。

【庾沙彌】66 ユシヤミ　梁の人。氷の六世の孫。孝子。純孝に擧げらる。官は武帝の時、歙令・邵陵王參軍、長城令。〔梁書、四十七〕・〔南史、七十三〕。

【庾肅之】67 ユシユクシ　晉の人。闡の子。文藻を以て稱せられ、官は給事中・湘東太守。太元中、卒す。〔晉書、九十二〕。

【庾承先】68 ユシヨウセン　梁、鄢陵の人。字は子通。劉虬の弟子。鄱陽王蕭恢、老子を講ぜしむ。大通中、卒す。〔梁書、五十一〕・〔南史、七十六〕。

【庾道愍】69 ユダウビン　南朝宋の人。氷の玄孫。性至孝。官は宋の廣州綏寧府佐。後、齊に仕へて射聲校尉に至る。〔南史、七十三〕。

【庾仲遠】70 ユチユウエン　南朝宋の人。登之の子。初、官は明帝府佐。明帝卽位するや、錄事參軍より太子中庶子となり、豫章太守に終る。〔宋書、五十三〕。

【庾仲容】71 ユチユウヨウ　梁の人。登之の從孫。字は子仲。篤學。官は安西法曹參軍・太子舍人。後、安西王の記室と爲り、尙書左丞に至る。〔梁書、五十〕・〔南史、三十五〕。

【庾天錫】72 ユテンセキ　元、大都の人。字は吉甫。官は中書員外郞。樂府に巧。雜劇薦馬周等がある。

【庾登之】73 ユトウシ　南朝宋の人。氷の曾孫。字は元龍。官は武帝の鎭軍參軍。桓玄を討つて曲江縣男に封爵された。後、司徒長史となり、彭城王義康が政事を專攬するのを諫めて、吳郡太守に左遷され、尋いで豫章太守、江州刺史に遷る。〔宋書、五十三〕・〔南史、三十五〕。

【庾炳之】74 ユヘイシ　南朝宋の人。登之の弟。字は仲文。錢唐令を拜命。治績があり、吏部尙書に累遷す。〔宋書、五十三〕・〔南史、三十五〕。

【庾曼倩】75 ユマンセン　梁の人。詵の子。字は世華。元帝のとき主簿、後、荊州諮議參軍に轉じた。著に喪服儀・文字體例・老莊義疏・注算經・七曜曆術等がある。〔梁書、五十一〕。

【庾子山集注】76 ユシザンシフチユウ　書名。十六卷。淸、倪璠撰。庾信の集は漏略が多いので、重ねて補葺し、併せて年譜を作つたもの。首に張溥の原序・倪璠の題辭・年譜・世系圖・本傳・滕王序・目錄があり、賦一卷・詩二卷・樂府一卷・表一卷・啓・書（共一卷）・連珠一卷・讚一卷・敎・文・序・傳（共一卷）・銘一卷・碑二卷・誄・銘（共一卷）・誌銘一卷、別に庾集總釋を附す。〔四庫提要、集、別集類〕。

【⿸广艮】9399

ヘイ　ビヤウ　〔字彙〕蒲徑切　敬

❶**外から見えない處**。〔海篇〕⿸广艮、隱僻無㆑人處。❷**かはや**。〔海篇〕⿸广艮、厠房也。

【庿】9400

ベウ　廟(**4-9489**)の古字。〔說文〕廟、庿、古文。

【庽】9401

ウ　宇(**3-7067**)の籀文。〔集韻〕宇、籀从㆑禹、或从㆑广。

【⿸广矣】9402

シ　⿸疒矣(**8-25770**)に同じ。〔集韻〕⿸疒矣、或作㆑⿸广矣。

【⿸广胡】9403

コ　ゴ　〔字彙〕洪孤切　虞

たひらか。〔海篇〕⿸广胡、平也。

【⿸广英】9404

㊀エイ　ヤウ　〔集韻〕於境切　梗

㊁エイ　ヤウ　〔集韻〕於驚切　庚

㊀㊁❶**長廊下**。ほそどの。〔玉篇〕⿸广英、長廊也。❷**ひさし**。〔集韻〕⿸广英、廡也。

【⿸广保】9405

ハウ　宲(**3-7164**)に同じ。〔康熙字典〕⿸广保、說文、與㆑宲同。

【廀】9406

㊀ソウ　ス　〔廣韻〕蘇后切　有

㊁サウ　ソウ　〔集韻〕蘇遭切　豪

㊂シウ　シユ　〔字彙〕疏鳩切　尤

㊀㊁㊂❶**かくす**。**かくれる**。〔廣雅、釋詁四〕廀、隱也。〔廣雅、釋言〕廀、匿也。❷**くま**。〔廣雅、釋邱〕廀、隈也。〔楚辭、劉向、九歎、憂苦〕歩從㆓容於山廀㆒。〔注〕廀、隈也。❸**もとめる**。搜(**5-12486**)に通ず。〔廣雅、釋詁三〕廀、求也。㊃廋(**4-9438**)に同じ。〔字彙〕廀、與㆑廋同。

【⿸广架】9407

カ　ケ　〔集韻〕居迓切　禡

❶**家のあひだ**。〔廣韻〕⿸广架、屋閒也。❷**家をかまへる**。〔集韻〕⿸广架、構屋也。❸架(**6-14586**)の俗字。〔正字通〕⿸广架、俗字、通作㆑架。

【⿸广亩】9408

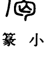
セフ　〔集韻〕莊輒切　葉

❶**かくす**。をさめる。〔集韻〕⿸广亩、藏也。❷**いへのひくいさま**。〔集韻〕⿸广亩、一曰、屋庳皃。

【⿸广曷】9409

㊀エツ　オチ　〔集韻〕於歇切　月

㊁アツ　アチ　〔集韻〕烏曷切　曷

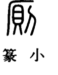

小篆

㊀㊁**いへがせまい**。〔說文〕⿸广曷、屋迫也、从㆑广曷聲。

【廁】9410

㊀シ　〔集韻〕初吏切　寘　ㄘˋ tʻzŭ⁴　ㄙˋ ssŭ⁴

㊁シヨク　シキ　〔集韻〕察色切　職　ㄘㄜˋ tsʻê⁴


小篆

㊀❶**かはや**。便所。〔說文〕廁、淸也、从㆑广則聲。〔段注〕淸・圊、古今字。〔釋名、釋宮室〕廁、雜也、言㆓人雜廁在㆑上非㆒一也。〔玉篇〕廁、圊溷也。〔左氏、成、十〕晉侯如㆑廁、陷而卒。〔史記、項羽紀〕沛公起如㆑廁。❷**ぶたごや**。〔漢書、燕刺王旦傳〕廁中豕羣出。〔注〕師古曰、廁、養㆑豕圂也。❸**まじる**。**まぜる**。次(**6-15992**)・雜(**11-42122**)に通ず。〔說文通訓定聲〕廁、段借爲㆑次、或爲㆑雜、廁・雜・次、皆雙聲。〔廣雅、釋言〕廁、閒也。〔玉篇〕廁、雜

也。〔廣韻〕廁、次也。〔集韻〕廁、一曰、閒也。〔史記、樂毅傳〕廁㆓之賓客之中㆒。〔潘岳、秋興賦〕猥廁㆓朝列㆒。〔注〕善曰、蒼頡篇曰、廁、次也、雜也。❹厠(２－2981)に同じ。〔正字通〕廁、同㆑厠。〔說文通訓定聲〕廁、字亦誤作㆑厠。㊂❶そばだてる。仄(１－352)に同じ。〔集韻〕仄、亦作㆑廁。〔集韻〕廁、側也。〔莊子、外物〕廁㆑足而墊㆑之。❷かたはら。側(１－897)に通ず。〔說文、段注〕古多假㆑廁爲㆑側。〔史記、張釋之傳〕居㆑北臨㆑廁。〔注〕集解曰、蘇林曰、廁、邊側也。〔史記、汲黯傳〕上踞㆑廁而視㆑之。〔注〕集解曰、如淳曰、廁、謂㆓牀邊㆒。❸かたすみ。邊隅。仄(１－352)に通ず。〔說文通訓定聲〕廁、叚借爲㆑仄。〔史記、陳餘傳〕要㆑之置㆑廁。〔注〕索隱曰、廁者、隱側之處。

【廁役】1（シエキ）　こもの。廝役の誤用。〔墨子、非攻下〕道路遼遠、粮食不㆑繼、傺㆓食飲之時㆒、廁役以㆑此飢寒凍餒疾病、而轉㆓死溝壑中㆒者、不㆑可㆓勝計㆒也。〔閒詁〕王云、廁役二字、義無㆑所㆑取、當㆑爲㆓廝役之誤㆒。宣十二年、公羊傳、廝役扈養、死者數百人、是其證。

【廁簡】2（シカン）　廁籌(13)に同じ。〔南唐書、浮屠傳〕後主與㆓周后㆒、親削㆓僧徒廁簡㆒、試㆑之以㆑頰、少有㆓芒刺㆒、則再加㆓修治㆒。

【廁簡子】3（シカンシ）　廁籌(13)に同じ。〔江南野錄〕李後主親爲㆓桑門㆒、削作㆓廁簡子㆒。

【廁鬼】4（シキ）　雪隱の神。廁神。〔酉陽雜俎、諸臯記上〕瑣、天笠・廁鬼也。〔柳宗元、李赤傳〕然後其友知㆓赤之所㆑遭乃廁鬼㆒也。

【廁溷】5（シコン）　かはや。〔歸田錄〕見㆓廁溷閒、燭淚在㆑地往往成㆑堆。〔雲林遺事〕其溷廁以㆓高樓㆒爲㆑之。

【廁坐】6（シザ）　雜り坐る。列坐する。〔吳質、荅㆓魏太子㆒牋〕昔侍㆓左右㆒、廁㆓坐衆賢㆒。〔注〕良曰、廁、列也。

【廁棗】7（シサウ）　晉の王敦が便所で臭氣止めの乾棗を食べた故事。〔世說新語、紕漏〕王敦初尙㆑主、如㆑廁、見㆔漆箱盛㆓乾棗㆒、本以塞㆑鼻、王謂廁上亦下㆑果、食至㆑盡。

【廁牀】8（シシヤウ）　かはや。便所。廁竇。〔英雄記鈔、黃蓋〕置㆓廁牀中㆒。

【廁所】9（シシヨ）　tsʻê^4 suo^3　便所。毛廁。茅廁。

【廁神】10（シシン）　かはやの神。廁鬼。後帝(４－10098・・521)の❷を見よ。〔異苑〕陶侃曾如㆑廁、見㆔數十人悉持㆓大印㆒、有㆓一人㆒、朱衣平上幘、自稱㆓後帝㆒、云以㆓君長者㆒故來相報、三載勿㆑言、富貴至極、侃便起旋、失㆑所㆑在、有㆓大印㆒作㆓公字㆒、當㆓其穢處㆒、雜五行書曰、廁神曰㆓後帝㆒。

【廁圊】11（シセイ）　かはや。便所。圊廁。〔釋名、釋宮室〕廁或曰㆑圊、至穢之處、宜㆔常修治使㆓潔淸㆒也。〔法苑珠林〕各作㆓圊廁㆒、給㆓人便利㆒。

【廁足】12（シソク）　足をそばだてる。側足。〔莊子、外物〕莊子曰、知㆓無用㆒而始可㆓與言㆑用矣、夫地非㆑不㆓廣且大㆒也、人之所㆑用容㆑足耳、然則廁㆑足而墊㆑之、致㆓黃泉㆒、人尙有㆑用乎、惠子曰、無㆑用、莊子曰、然則無用之爲㆑用也、亦明矣。〔釋文〕音側、又音測。

【廁籌】13（シチウ）　印度の風習で、便所で紙の代りに使用する竹べらをいふ。中國でも僧侶にこの風があつた。〔甲乙剩言〕有㆑客謂㆑余曰、嘗客㆓安平㆒、其俗如㆑廁、男女皆用㆓瓦礫㆒代㆑紙、殊爲㆓嘔穢㆒、余笑曰、安平晉唐閒、爲㆓博陵縣鶯鶯縣人㆒也、爲㆓奈何㆒、客曰、彼大家閨秀、當㆓必與㆑俗自異㆒、余復笑曰、請爲㆑君盡㆓廁中二事㆒、北齊文宣帝如㆑廁、令㆔楊愔執㆓廁籌㆒、是皇帝之尊用㆓廁籌㆒、而不㆑用㆑紙也、三藏律部宣律師上㆑廁、法亦用㆓廁籌㆒、是比丘之淨、用㆓廁籌㆒、而不㆑用㆑紙、觀㆑此廁籌瓦礫均也、不㆑能不㆑爲㆓鶯鶯要處掩㆑鼻耳、客爲噴飯滿㆑案。〔輟耕錄、廁籌〕今寺觀削㆑木爲㆑籌、置㆓溷圊中㆒、名曰㆓廁籌㆒、北史、齊文宣王嗜㆑酒淫泆、肆行狂暴、雖㆘以㆓楊愔㆒爲㆖相、使㆑進㆓廁籌㆒、然則愔所㆑進者、豈卽此與、按㆓說文㆒廁、淸也、從㆑廁聲韻、初吏切、閒也、雜也、次也、圊也、居㆑高臨㆓垂邊㆒曰㆑廁、高岸夾㆑水曰㆑廁、史記大倉公傳、豎奉㆑劍從㆑王之㆑廁、汲黯傳、衞靑大將軍侍中上踞㆑廁見㆑之、注、如淳曰、廁音則、謂㆓牀邊㆒、據㆑牀視㆑之、一云、溷、廁也、廁牀邊側、漢書注、如淳曰、廁、溷也、孟康曰、廁、邊側也、師古曰、如說是也、仲馮曰、廁當㆑從㆓孟說㆒、愚意、古者見㆓大臣㆒、則御坐爲起、夫武帝固以㆓奴隸㆒待㆑青、亦不㆑應㆘踞㆓溷圊㆒而見㆖之、然漢文居㆓灞北㆒、臨㆑廁使㆓愼夫人鼓㆑瑟、注、韋昭曰、高岸夾㆑水爲㆑廁、卽㆑此推㆑之、則凡廁者皆取㆔其在㆓兩物閒㆒爲㆑義、又郅都傳、賈姬如㆑廁、有㆓野彘㆒入㆑廁、命㆑都擊㆑之、則此之如㆑廁、亦恐非㆓是溷圊㆒、他如㆓劉安別傳㆒、謫㆓守都廁㆒三年、莊子庚桑篇、適㆓其偃㆒、注、偃屛廁也、屛廁則以偃溲、儀禮旣夕禮、甸人築㆓坅坎㆒、隸人溫㆑廁塞㆑廁、萬石君傳、建取㆓親中裙廁牏㆒、身自澣洒、注、孟康曰、廁行淸、牏行中受㆓糞函㆒也、至㆘於晉侯食㆑麥脹、如㆑廁、陷而卒、趙襄子如㆑廁、執㆓豫讓㆒、高祖鴻門會、如㆑廁召㆓樊噲㆒等、及如㆑廁見㆓柏人㆒、金日磾如㆑廁擒㆓莽何羅㆒、范雎佯死置㆓廁中㆒、李斯如㆑廁見㆑鼠、陶侃如㆑廁見㆓朱衣㆒、王敦如㆑廁食㆑棗、劉寔誤入㆓石崇廁㆒、郭璞被㆓髮廁上㆒、劉季和廁上置㆓香爐㆒、沈慶之夢㆔鹵簿入㆓廁中㆒、崔浩焚㆑經投㆓廁中㆒、錢義廁神、李赤廁鬼、蒯聵盟㆓孔悝於廁㆒、曹植戒㆓露頂入㆑廁之類㆖、則眞溷圊矣。

【廁中】14（シチユウ）　❶便所の中。〔史記、呂后紀〕飮㆓瘖藥㆒使㆑居㆓廁中㆒、命曰㆓人彘㆒。〔史記、范雎傳〕雎佯死、卽卷以㆑簀、置㆓廁中㆒。❷ぶたごやの中。〔漢書、燕剌王旦傳〕廁中豕羣出、壞㆓大官竈㆒。

【廁牏】15（シトウ）　❶かはやのかこひ。〔史記、萬石君傳〕取㆓親中帬廁牏㆒、身自浣滌。〔注〕集解曰、徐廣曰、廁牏、謂㆓廁溷垣牆㆒、建隱㆓於其側㆒浣滌也。❷はだぎ。〔漢書、萬石君傳〕建取㆓親中帬㆒、廁牏身自澣洒。〔注〕師古曰、廁牏者、近身之小衫、若㆓今汗衫㆒也。〔事物異名錄、服飾、近身衣〕庶物異名疏、漢石建取㆓親中帬廁牏㆒、身自浣滌、晉灼云、今世謂㆓反閉小袖衫㆒爲㆓侯牏㆒、此最近廁㆓近身㆒之衣也、釋名、反閉襦之小者也、卻向着㆑之、領反㆓於背㆒、後閉㆓其襟㆒也。❸廁は側、牏は竇にて小竇、牆をうがつて水を出す穴に身をちかづける。〔漢書、萬石君傳、王先謙補注〕廁訓爲㆑側、牏當㆑作㆑竇、一切經音義九引㆓三蒼㆒云、竇、門邊小竇也、廣韻、竇、水竇也、然則竇當㆓是傍室中門牆、穿㆑穴入㆑地、空㆑中以出㆑水、建取㆓親中帬㆒、隱㆑身側㆓近竇邊㆒、自澣㆓洒之㆒耳。

【廁竇】16（シトウ）　糞便を洗除する穴。かはや。便所。雪隱。廁牀。溷廁。圊廁。〔史記、萬石君傳〕取㆓親中裙廁牏㆒。〔注〕集解曰、一讀㆑牏爲㆑竇、竇音豆、言㆔建又自洗㆓蕩廁竇㆒、廁竇瀉㆓除穢惡㆒之穴也。

【如㆑廁】17（カハヤへユク）　便所へ行く。〔左氏、成、十〕晉侯欲㆑麥、使㆓甸人獻㆑麥、饋人爲㆑之、召㆓桑田巫㆒、示而殺㆑之、將㆑食、張、如㆑廁、陷而卒。〔史記、項羽紀〕沛公起如㆑廁。

【⿸广兪】 9411

㊀トウ・ヅ　〔集韻〕徒侯切　尤
㊁ユ　〔集韻〕容朱切　虞
㊂ユ　〔集韻〕勇主切　麌

㊀❶**おまる**。便器。〔集韻〕⿸广兪、行圊、受㆓糞函㆒也。❷**きぶね**。〔玉篇〕⿸广兪、木槽也。❸通じて牏(７－19868)に作る。〔集韻〕⿸广兪、通作㆑牏。㊁**おまる**。㊀の❶に同じ。〔集韻〕⿸广兪、行圊。㊂**水ぎはの米倉。又は、屋なき米倉**。庾(４－9398)に同じ。〔集韻〕庾、說文、水漕倉也、一曰、倉無㆑屋者、或作㆑⿸广兪。

【⿸广軍】 9412

クン　〔集韻〕擧蘊切　吻

たくはへつむ。〔集韻〕⿸广軍、儲積也。

【⿸广臣】 9413

㊀ラン　〔集韻〕盧甘切　覃
㊁レン　〔集韻〕離鹽切　鹽

㊀**大きなかご**。籃(８－26648)に同じ。〔集韻〕籃、說文、大篝也、古作㆑⿸广臣。㊁**かたはら。又、かどかどしい**。廉(４－9436)の古字。〔集韻〕廉、說文、仄也、一曰、自檢也、古作㆑⿸广臣。

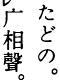
【⿸广剌】9414 ラツ ラチ 〔集韻〕郎達切 曷。

❶**いほり**。〔廣雅、釋宮〕⿸广剌、庵也。❷**ひとや**。〔集韻〕⿸广剌、一曰、獄室。❸或は⿸广束(4－9334)に作る。〔集韻〕⿸广剌、或省。

【⿸广音】9415 イン オン 〔玉篇〕於今切 侵。

地名。〔玉篇〕⿸广音、地名。

【廂】9416 シヤウ サウ 〔集韻〕思將切 陽 ㄒㄧㄤ hsiang¹


小篆

❶**ほそどの**。わたどの。〔說文新附〕廂、廊也、从ㇾ广相聲。〔集韻〕廂、廡也。❷**ひさし**。正堂の兩わきのへや。〔爾雅、釋宮〕室有㆓東西廂㆒曰ㇾ廟。〔注〕廂、夾室前堂。〔李注〕廂、謂㆔宗廟殿有㆓東西小堂㆒也。〔史記、周昌傳〕呂后側㆓耳於東廂㆒聽。〔注〕索隱曰、小顏云、正寢之東西室、皆號曰ㇾ箱、言ㇾ似㆓箱篋之形㆒。〔張衡、東京賦〕下㆓雕輦於東廂㆒。〔注〕綜曰、殿東西次爲ㇾ廂。❸**正殿の東西のかべ**。序(4－9253)に通ず。〔儀禮、鄉飲酒禮〕奠㆓爵於序端㆒、注、東西牆謂㆓之序㆒、疏、廂卽牆。〔王延壽、魯靈光殿賦〕西廂踟蹰。〔注〕西廂、西序也。❹箱(8－26209)に通ず。〔儀禮、公食大夫禮〕公揖退㆓于箱㆒。〔後漢書、虞詡傳、趨就㆓東箱㆒、注〕箱、序也、字或作ㇾ廂。〔阮籍、大人先生傳〕依㆓瑤廂㆒而一顧兮、哀㆓下士之憔悴㆒。❺鑲(11－41053)に通ず。廂黃旗(10)を見よ。❻**城市**。〔清國行政法汎論、地方自治、保甲、備考〕城中曰ㇾ坊、近ㇾ城曰ㇾ廂、在ㇾ鄉曰ㇾ里、各設以ㇾ長。邦**ひさし**。軒の下に添へた小さいのき。

【廂閒】1（ヒサシノマ） 昔、母屋（ヤモ）の四面にあつた狹いへや。

【廂官】2（シヤウクワン） 官名。宋、置く。都城の各坊廂の居民を治め、民に鬭訟があれば輕い者は判決することが出來る。元の廂巡檢司、明・清の五城兵馬司が之に當る。〔宋史、職官志六〕左右廂公事幹當官四人、掌㆓檢覆推問㆒、凡鬭訟事輕者聽㆓論決㆒、領㆓縣十有八、鎭二十有四㆒、令ㇾ佐㆓訓練・征榷・監臨・巡警之官㆒、知㆓府事㆒者率統隸焉、分案六、置㆓吏六百㆒、開封典司轂下、自㆓建隆㆒以來、爲㆓要劇之任㆒、至㆓熙寧閒㆒、增㆓給吏祿㆒、禁㆓其受ㇾ賕、省衙前役以寬㆓民力㆒、釐折獄訟、歸㆓於廂官㆒、而治ㇾ事視㆓前日㆒損㆓去十四㆒。

【廂軍】3（シヤウグン） 唐宋の軍隊の名。宋に於ては特に諸州の鎭兵をいふ。始め唐の肅宗の時、禁軍中の騎射の名手を選んで左右廂に分置したが、五代の梁になると、京師には四廂、諸軍には兩廂が置かれるやうになつた。宋の太祖は、唐末に於ける方鎭の跋扈に鑒み、州兵の勇壯な者を選んで、京師に置いて禁衞に當らせ、其の餘は本城に留め置いて、これを廂軍と稱した。皇祐以後は、州兵の伉健な者を廂軍に當て、禁軍と同じやうな訓練を施した。〔稱謂錄、親軍、廂軍〕宋史、諸州之鎭兵、以分給役使曰㆓廂軍㆒。〔蘇軾、上㆓神宗皇帝㆒書〕禁軍三犯、廂軍五犯。〔玉海、兵制、宋朝四廂軍〕左右廂起㆓於唐㆒、云云、朱梁以㆓方鎭㆒建ㇾ國、云云、京師兵有㆓四廂㆒、而諸軍兩廂、其廂使ㇾ掌㆓城郭煙火之事㆒、而軍旅漸有㆓廂軍之名㆒、云云、太祖作㆓階級法㆒、專治㆓禁軍㆒、而天下鎭兵通謂㆓之廂軍㆒。〔文獻通考、兵考〕其後以㆓廂軍團㆒併爲ㇾ額、則今之兩浙崇節、福建保節之類是也。

【廂公】4（シヤウコウ） 正寢の東西に在る部屋づきの人。又、親任された人。又、おそばづきの人。〔南史、侯景傳〕其親寄隆重者、號曰㆓左右廂公㆒、勇力兼ㇾ人者、名爲㆓庫直都督㆒。

【廂車】5（ヒサシノクルマ） 太上皇・親皇などの御召になつた車。網代廂車の略。〔東鑑、十、建久元年十一月三十日〕右大將家毛車幷廂車。

【廂房】6（シヤウバウ） 正房の左右に建て並べた二棟の建物。正房と直角をなし、中に庭を圍む。東にあるを東廂房、西にあるを西廂房といふ。〔明會典、王府制度〕弘治八年定、家廟一所、正房五間、廂房六間、門三間。

【廂兵】7（シヤウヘイ） 廂軍(3)に同じ。〔玉海、兵制、慶曆兵錄〕慶曆五年、樞密副使丁度、捜㆓次首末㆒、鉤㆓考纖微㆒、掇㆓其攻守戰者㆒、爲㆓禁兵民兵兵錄五篇㆒、宋祁爲ㇾ序、略曰、宋興、經ㇾ武制ㇾ眾、凡軍有ㇾ四、一曰、禁兵、殿前馬步三司隸ㇾ焉、二曰、廂兵、諸州隸ㇾ焉、三曰、役兵、羣有司隸ㇾ焉、四曰、民兵、農之健而材者籍ㇾ之。〔文獻通考、兵考四、兵制〕制兵之額有ㇾ四、曰禁兵、曰廂兵、曰鄉兵、曰藩兵。

【廂廊】8（シヤウラウ） ひさし。わたどの。〔陶弘景、授㆓陸敬游㆒十賚文〕今故賚㆓爾四霤飛軒、廂廊側室㆒、可㆓以安ㇾ身。

【廂禁軍】9（シヤウキングン） 唐代、軍隊の一種。諸州に置く。〔文獻通考、兵考八、郡國兵〕廂軍者諸州之鎭兵也、各隸㆓其州之本城㆒、專以給ㇾ役、內總㆓於侍衞司㆒、而尙書兵部掌㆓其政令㆒、一軍之額、有㆘分㆓隸數州㆒者㆖、或一州之管、兼屯㆓數軍㆒、其教閱者、始號㆓廂禁軍㆒。

【廂黃旗】10（シヤウクワウキ） 清代、八旗の一。黃地紅邊旗。鑲黃旗(11－41053‥7)をみよ。

【廂紅旗】11（シヤウコウキ） 清代、八旗の一。紅地白邊旗。鑲黃旗(11－41053‥7)をみよ。

【廂白旗】12（シヤウハクキ） 清代、白地紅邊旗。八旗の一。鑲黃旗(11－41053‥7)をみよ。

【廂藍旗】13（シヤウランキ） 清代、八旗の一。藍地紅邊旗。鑲黃旗(11－41053‥7)をみよ。

【⿸广柴】9417 シ

庛(4－9282)に同じ。〔集韻〕庛、或作ㇾ⿸广柴。

【⿸广東】9418 カン

東(6－14744)に同じ。〔集韻考正〕⿸广東、按、說文、⿸广東作ㇾ東、宋本及類篇同、今據正。

【⿸广垔】9419 エイ

黟(12－48091)に同じ。〔海篇〕⿸广垔、同ㇾ黟。

【⿸广家】9420 タイ ヅイ 〔篇海〕徒回切 灰。

下が重い。〔篇海〕⿸广家、下重也。

【⿸广是】9421 ウ

傴(1－1020)に同じ。〔篇海類編〕⿸广是、同ㇾ傴。

【⿸广昊】9422 フ

腐(9－29625)に同じ。〔奚韻〕⿸广昊、同ㇾ腐。

【庴】9423 シヨ

義未詳。〔奚韻〕庴、音阻。

【⿸广岀】9424 ダウ

義未詳。〔捜眞玉鏡〕⿸广岀、音惱。

十畫

【廃】9425 ハイ

廢(4－9492)の略字。

【⿸广隹】9426 サイ スイ 〔字彙〕蘇回切 灰。

屋がゆるむ。〔字彙〕⿸广隹、屋邪。

【廅】9427 ㊀アフ 〔集韻〕乙盍切 合。㊁カフ ガフ 〔集韻〕轄臘切 合。

㊀❶**山のわきにある穴**。〔玉篇〕廅、山旁

穴也。❷をさめる。〔集韻〕廅、藏也。〔太玄經、闕〕廅㆓其缺㆒。

【廅藥】1 カフヤク 藥草の名。蕃國に生じ、精力劑に用ひられる。〔本草、廅藥〕藏器曰、生㆓胡國㆒、似㆓乾茅㆒、黃赤色、味鹹溫、無㆑毒、主㆓折傷內損瘀血㆒。

【⿸广馬】9428

バ メ 〔集韻〕莫駕切 禡

いほり。〔廣雅、釋宮〕⿸广馬、庵也。

【廆】9429

㈠クヮイ グヮイ 〔集韻〕戶賄切 賄
㈡グヮイ グヮイ 〔集韻〕吾賄切 賄
㈢クヮイ 〔集韻〕姑回切 灰

㈠かべ。かき。〔集韻〕廆、廦也。㈡人名。〔集韻〕廆、闕、人名、晉有㆓慕容廆㆒。㈢山名。河南省洛陽縣の西南。今の名は谷口山。〔集韻〕廆、山名、在㆓中山西㆒。〔山海經、中山經〕又西十里有㆓廆山㆒、其陰多㆓㻬琈之玉㆒。

【⿸广虎】9430

シ 〔玉篇〕思移切 支

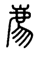
地名。〔玉篇〕⿸广虎、地名。

【庡】9431

イ 虒（4−9358）に同じ。〔篇海類編〕庡、同㆑虒。

【廌】9432

㈠タイ ダイ 〔集韻〕丈蟹切 蟹
㈡チ ヂ 〔集韻〕丈尒切 紙 ㄓˋ chih⁴


小篆

㈠❶獸の名。解廌。〔說文〕廌、解廌獸也、佀㆑牛一角、古者決㆑訟、令㆑觸㆓不直者㆒、象形、从㆓豸省㆒。〔易、豫〕殷廌之上帝㆒。〔釋文〕廌、獸。❷のり。法則。〔廣雅、釋詁一〕廌、灋也。❸すすめる。薦（9−32143）に通ず。〔說文通訓定聲〕廌、叚借爲㆑薦、實爲㆑荐、易豫、殷㆓廌之上帝㆒、此借㆑薦爲㆑荐、廌・薦又形近而誤。❹或は⿰虎虒（10−35108）・⿰角豸（10−35085）・⿰犭豸（7−20421）に作る。〔集韻〕廌、或作㆓⿰虎虒・⿰角豸・⿰犭豸㆒。❺通じて豸（10−36496）に作る。〔集韻〕廌、通作㆑豸。㈡獸の名。㈠の❶に同じ。通じて豸（10−36496）に作る。〔集韻〕廌、解廌、獸名、通作㆑豸。

解字 象形。一角にて鹿に似た神獸。その獸の形にかたどる。罪の疑はしいものはこの獸にふれさせてその有罪を知つたといふ。〔說文通訓定聲〕廌、解廌獸也、似㆓山牛㆒一角、古者決㆑訟、令㆑觸㆓不直者㆒、象形、从㆓豸省㆒、按、豸省聲、論衡、一角之羊、皐陶治㆑獄令㆑觸㆓有皐者㆒、漢書司馬相如傳、弄㆓解廌㆒、注、似㆑鹿一角、人君刑罰得㆑中、則生㆓于朝廷㆒、主㆑觸㆓不直者㆒。

【廌青】1 チセイ 淸、姚元之の號。

【廌青山人】2 チセイサンジン 淸、李鍇の號。

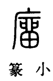
【廌山先生】3 チザンセンセイ 宋、游酢（7−17792・・140）の尊稱。

【⿸广鳥】9433

チ 廌（4−9432）に同じ。〔正字通〕⿸广鳥、說文、解⿸广鳥獸也。

【廇】9434

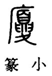
リウ ル 〔集韻〕力救切 宥


小篆

❶庭の中央。中庭。もと⿸广畱（4−9501）に作る。〔中華大字典〕廇、本作㆑⿸广畱。〔說文〕⿸广畱、中庭也、从㆑广畱聲。〔楚辭、劉向、九歎、愍命〕刜㆓讒賊於中廇㆒兮。〔注〕中廇、堂中央也。❷うつばり。〔爾雅、釋宮〕杗廇謂㆓之梁㆒。〔集韻〕廇、一曰、屋大梁。❸霤（12−42396）に通ず。〔玉篇〕廇、一作㆑霤。

【廈】9435

㈠カ ゲ 〔集韻〕亥雅切 馬 ㄒㄧㄚˋ hsia⁴
㈡サ シャ 〔集韻〕所嫁切 禡 ㄕㄚˋ sha⁴


小篆

㈠❶いへ。〔說文新附〕廈、屋也、从㆑广夏聲。〔太玄經、彊〕大廈微。〔注〕廈、屋也。❷ひさし。屋根を四方に葺き下した家。〔玉篇〕廈、今之門廡。〔張衡、西京賦〕大廈眈眈。〔注〕綜曰、屋之四下者爲㆑廈。❸大きい家。〔集韻〕廈、大屋。❹夏（3−5720）に通ず。〔韻會〕廈、通作㆑夏。㈡ひさし。或は庌（4−9226）に作る。〔集韻〕廈、旁屋也、或作㆑庌。

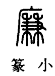
【廈屋】1 カヲク 大きな家。夏屋。〔左思、魏都賦〕廈屋一㆑揆、華屛齊㆑榮。〔注〕翰曰、廈、大廈之屋。〔白居易、有㆑木詩〕匠人愛㆓芳直㆒、裁截爲㆓廈屋㆒。

【廈門】2 アモイ ❶島の名。福建省同安縣の東南。淸代、廈門廳を設く。廈門港あり、南京條約の通商港で、沿海五港の一。貿易頗る盛。紅茶・砂糖・紙・菸絲を輸出する。又、嘉禾嶼・鷺嶼ともいふ。〔讀史方輿紀要、福建、泉州府、同安縣、五通嶺〕嘉禾嶼、在㆓縣西南七十里海中㆒、舊嘗產㆓嘉禾㆒因名、一名鷺嶼、一名廈門、廣袤五十餘里、五峯並立、而無盡巖居㆓其中㆒、最高者曰㆓洪濟山㆒、有㆓巖嶺洞石之勝㆒、其最著者有㆓雲頂巖㆒、亦曰㆓留雲洞㆒、又有㆑嶺曰㆓薛嶺㆒、前後居民舊凡千餘家。❷道名。民國、置く。福建省に屬し、思明・莆田・仙游・金門・晉江・南安・惠安・安溪・同安・永春・德化・大田の十二縣を管轄す。

【廈漳鐵路】3 カシヤウテツロ 鐵道の名。福建省海澄縣の東北の崇嶼から龍溪縣に至る。

【廉】9436

レン 〔集韻〕離鹽切 鹽 ㄌㄧㄢˊ lien²


小篆

❶かたはら。はし。〔說文〕廉、仄也、从㆑广兼聲。〔段注〕此與㆑廣爲㆓對文㆒、謂㆓逼仄㆒也。〔說文通訓定聲〕廉、按、堂之側邊曰㆑廉。〔儀禮、鄉飲酒禮〕設㆓席于堂廉東上㆒。〔注〕側邊曰㆑廉。❷かど。すみ。〔廣雅、釋言〕廉、棱也。〔書、顧命〕夾㆓兩階戺㆒、〔傳〕堂廉曰㆑戺。〔釋文〕廉、稜也。❸かどかどしい。かどがある。磏（8−24519）に通ず。〔說文通訓定聲〕廉、按、凡稜利之義、實借爲㆑磏、磏、厲也、存參。〔釋名、釋言語〕廉、斂也、自檢斂也。〔論語、陽貨〕古之矜也廉。〔皇疏〕廉、隅也。〔墨子、經上〕廉、作㆑非也。❹なほい。〔國語、晉語二〕殺㆑君以爲㆑廉。〔注〕廉、直也。❺いさぎよい。淸く欲がない。濂（7−18441）に通ず。〔說文通訓定聲〕廉、按、凡潔淸之義、實借爲㆑濂、儉、濂、薄也、儉、約也、存參。〔廣雅、釋詁一〕廉、淸也。〔大戴禮、文王官人〕潔廉而果敢者也。〔注〕潔廉、謂㆑不㆑營㆓於貨色㆒。〔鬼谷子、摩〕廉者潔也。〔楚辭、招魂〕朕幼淸以廉潔兮。〔注〕不㆑受曰㆑廉。〔新書、道術〕辭㆑利刻謙、謂㆓之廉㆒。❻つづまやか。つましい。〔廣韻〕廉、儉也。〔淮南子、原道訓〕不㆓以㆑廉爲㆑悲。〔注〕廉、猶㆑儉也。❼やすい。廉價。〔王禹偁、黃州新建㆓小竹樓㆒記〕是以其價廉而工省也。❽てがるい。簡略。〔韓愈、原毀〕其責㆑人也詳、其待㆑己也廉。❾するどい。熑（7−19303）に通ず。〔說文通訓定聲〕廉、叚借爲㆑熑。〔呂覽、孟秋記〕其器廉以深。〔注〕廉、利也。❿たえる。絕つ。〔周禮、考工記、輪人〕外不㆑廉而內不㆑挫。

〔注〕廉、絕也。⓬**みきはめる**。覝(**10－3486**4)に通ず。〔說文通訓定聲〕廉、叚借爲覝。〔漢書、高帝紀〕且廉問有不如吾詔者、以重論之。〔注〕師古曰、廉、察也、廉字本作覝、其音同耳。〔漢書、何武傳〕武使從事廉得其罪。〔注〕師古曰、廉、察也。〔後漢書、魯恭傳〕親往廉之。〔注〕廉、察也。〔張衡、西京賦〕察貳廉空。〔注〕向曰、察・廉、皆視也。⓭**算法の稱呼**。廉法(95)を見よ。⓮古は〓(**4－9536**)・槏(**6－15321**)・〓(**4－9413**)・磏(**8－24519**)に作る。〔集韻〕廉、古作〓・槏・〓。〔字彙補〕磏、古文廉字。⓯**州名**。〔集韻〕廉、亦州名。⓰**姓**。〔通志、氏族略、以名爲氏〕廉氏、顓帝曾孫大廉之後、以王父字爲氏、古者帝王猶以名行、況臣下乎、此以名爲氏者、起於商周之世、今此廉氏未有所徵、且從大廉之號焉。

［邦］**かど**。㋑箇條・箇所。又、條件。㋺きは。だん。格別。

［名乘］ユキ。カド。ヲサ。

【廉按】1 レンアン　明かにとりしらべる。廉察。〔唐書、郎餘令傳〕積薪自焚、試廉按、果得其姦。

【廉衣】2 レンイ　清、李中簡(**6－14459**‥1724)の字。

【廉價】3 レンカ　やすね。あんちよく。廉直。〔王禹偁、黃州新建小竹樓記〕是以其價廉而工省也。

【廉介】4 レンカイ　いさぎよく正しい。〔魏志、管輅傳注〕輅別傳曰、輅常謂忠孝信義、人之根本、不可不厚、廉介細直、士之浮飾、不足爲務也。〔海上紀聞〕在任廉介正直、門無私謁。

【廉江】5 レンカウ　❶川の名。㋑廣東省廉江縣の西。一名、南廉水。〔化州志〕廉江在石城縣西、源出博白縣界、南流經石城、爲橫山江、至遂溪入海。㋺一名、南流江。源は廣西省北流縣の大容山。下流を羅成江といひ、合浦縣の北で、三派に分れて海に注ぐ。支流は羅望江・武利江・洪潮江。舊唐志は合浦江、九域志は宴水といふ。〔讀史方輿紀要、廣東、廉州府、合浦縣〕廉江、府北三十里、一名合浦江、亦名南流江、又名晏江、源出廣西容縣大容山、南流入府界、地名州、江口分爲五江、曰州江、曰王屋屯江、曰白沙塘江、曰大橋江、曰新村江、環流至府城西南入海。❷縣名。唐、置く。漢の高涼縣、南朝梁の石龍縣の地。廣東省化縣の西。〔讀史方輿紀要、高州府、化州〕石城縣、漢高涼縣地、劉宋爲羅州屬地、隋廢、入石龍縣、唐武德五年、析置石城縣、以石城水爲名、屬羅州、六年移羅州至此、天寶初改爲廉江縣、又改州曰招義郡、後復曰石城。❸清、錢綸光(**11－40563**‥447)の字。

【廉孝】6 レンカウ　廉直で純孝。又、其の人。〔班固、西都賦〕總禮官之甲科、羣百郡之廉孝。

【廉郊】7 レンカウ　唐の樂工。曹綱に師事す。嘗て池上に於て蕤賓調を彈じたが、忽ち芰荷の間に物(方響一片)有り、跳躍して岸に出た。時人、これを蕤賓鐵といふ。〔琅琊代醉編、十八〕。

【廉高】8 レンカウ　行が高潔。〔後漢書、列女、曹世叔妻傳〕天下服其廉高。〔曹冏、六代論〕使夫廉高之士、畢志于衡軛之內。

【廉恪】9 レンカク　いさぎよくてつつしみ深い。〔後漢書、吳良傳〕資質敦固、公方廉恪。

【廉覈】10 レンカク　あきらかにしらべただす。〔福惠全書、教養部、講學學規〕會宗廉覈、果如所告。

【廉鍔】11 レンガク　よくとがつて銳利な刃。〔文心雕龍、封禪〕義吐光芒、辭成廉鍔。

【廉悍】12 レンカン　かどだつて強い。きびきびしてゐる。〔韓愈、柳子厚墓誌銘〕儁傑廉悍、議論證據今古、出經史百子、踔厲風發、率常屈其座人、名聲大振。

【廉幹】13 レンカン　心が清らかでよく物を處理する。〔後漢書、陳球傳〕以廉幹知名。

【廉愧】14 レンキ　心清く私慾の行をはぢる。〔漢書、賈誼傳〕終不知反廉愧之節、仁義之厚。

【廉毅】15 レンキ　いさぎよくてつよい。〔柳宗元、興州江運記〕唯公和恒直方、廉毅信讓、敦尚儒學、揖損貴位。

【廉義】16 レンギ　心がきよくて正しい。〔北史、魏孝文紀〕孝悌廉義、文武應求者、皆以名聞。

【廉薑】17 レンキヤウ　草の名。薑に似て大きく、香氣がつよい。〔本草、廉薑〕釋名、薑彙、蔟葰。集解、時珍曰、按、異物志云、生沙石中、似薑大如贏、氣猛近於臭。

【廉倨】18 レンキヨ　廉裾に同じ。〔史記、酷吏、張湯傳〕禹爲人廉倨、爲吏以來、舍毋食客。

【廉裾】19 レンキヨ　心にかどがあつて傲る。裾は倨。〔漢書、酷吏、趙禹傳〕禹爲人廉裾、爲吏以來、舍無食客。〔注〕裾、亦傲也、讀與倨同。

【廉均】20 レンキン　よくととのふ。〔新論、辯樂〕使其曲繁省而廉均。

【廉謹】21 レンキン　無欲でつつしみぶかい。律義。謹廉。廉愼。〔史記、申屠嘉傳〕皆以列侯繼嗣、娖娖廉謹、爲丞相備員而已。〔漢書、申屠嘉傳〕〓〓廉謹、爲丞相備員而已。

【廉隅】22 レングウ　❶物のかど。轉じて、品行方正で節操の堅固なこと。几張面。律義。〔漢書、元后傳〕不修廉隅、好酒色。〔王褒、洞簫賦〕聽之而廉隅兮。〔南史、宋武紀〕帝雄傑有大度、不事廉隅小節。❷算術の開方法で、邊を廉、角を隅といふ。

【廉隅細謹】23 レングウサイキン　行が正しく謹しみ深い。〔蘇洵、御將〕不可責以廉隅細謹。

〔砥厲廉隅〕24 レングウヲシレイス　節義を立てる。節操を堅くする。廉隅は物の角、砥厲はとぎはげむ。〔禮、儒行〕儒有上不臣天子、下不事諸侯、愼靜而尚寬、強毅以與人、博學以知服、近文章、砥厲廉隅、雖分國如錙銖、不臣不仕、其規爲有如此者。〔疏〕近文章砥厲廉隅者、言儒者習近文章、以自磨厲、使成己廉隅也。

【廉勁】25 レンケイ　いさぎよくてかたい。清廉で剛直。〔後漢書、袁敞傳〕敞廉勁不阿權貴。

【廉卿】26 レンケイ　字號。❶五代吳越、錢文奉(**11－40563**‥427)の字。❷明、紀汝清(**8－27234**‥101)の字。❸明、華清(**9－31214**‥245)の字。❹清、張裕釗(**4－9812**‥1558)の字。

【廉敬】27 レンケイ　心がきよらかでつつしみぶかい。〔周禮、天官、小宰〕以聽官府之六計、弊羣吏之治、一曰廉善、二曰廉能、三曰廉敬、四曰廉正、五曰廉灋、六曰廉辨。

【廉劌】28 レンケイ　するどい。銳利。〔莊子、在宥〕淖約柔乎剛強、廉劌彫琢。〔釋文〕廉劌、廣雅云、利也。

【廉絜】29 レンケツ　いさぎよい。心が清く貪らない。廉潔。廉白。〔後漢書、周澤傳〕公正廉絜、奉祿不及妻子。

【廉潔】30 レンケツ　❶ただしくいさぎよい。廉白。廉絜。〔孟子、盡心下〕居之似忠信、行之似廉潔。〔戰國、楚策〕今王之國有柱國令尹司馬典令、其任官置吏、必曰、廉潔勝任。〔管子、明法解〕廉潔之吏失其治。〔論衡、刺孟〕不處不食、廉潔之至也。〔人物志、體列〕清介廉潔、節在儉固。〔南史、郭祖深傳〕廉潔者、自進無途。貪苛者、取入多徑。❷春秋衞の人。字は庸。又は子操(子曹)。孔子の弟子。〔史記、六十七〕。

〔廉潔可辱〕31 レンケツナルハハヅカシメラルベシ　清廉潔白の將は、敵より侮辱せられる。〔孫子、九變〕忿速可侮也、廉潔可辱也。

【廉儉】32 レンケン　いさぎよくてつづまやか。〔漢書、朱博傳〕博爲人廉儉、不好酒色游宴。〔北史、高閭傳〕乃更廉儉自謹。

【廉縣】33 レンケン　縣名。❶漢、置く。故治は甘肅省固原縣の東北。〔漢書、地理志下〕北地郡、縣十九、廉。❷唐、置く。故治は廣東省合浦縣の東南。

【廉彥】34 レンゲン　宋、周鍔(**2－3441**‥70)の字。

【廉賈】35 レンコ　廉潔な商人。〔史記、貨殖傳〕貪賈三之、廉賈五之。

【廉公】36 レンコウ　❶清廉で私がない。〔後漢書、馬援傳〕龍伯高敦厚周愼、口無擇言、謙約節儉、廉公有威、吾愛之重之。❷戰國、趙の廉頗をいふ。〔盧諶、覽古詩〕廉公何爲者、負荊謝厥愆。〔注〕善曰、史記曰、於是舍人相與諫相如曰、今君與廉君同列、廉君宣惡言、而君畏匿、且庸人尚羞之、相如曰、相如雖駑、獨畏廉將軍哉、顧吾念之、彊秦所以不敢加兵於趙者、徒以吾兩人在也、今兩虎自鬪、其勢必不俱生、吾所以爲此者、以先國家之急、而後私讐也、廉頗聞之、肉袒負荊、因賓客至藺相如門、謝罪曰、鄙賤之人、不知將軍寬之至

也、卒相與歡爲二刎頸之交一。

【廉察】37 レンサツ 明細にしらべる。吟味しただす。廉按。〔後漢書、第五種傳〕使二冀州一、廉二察災害一。〔注〕廉、察也。〔王褒、洞簫賦〕若乃徐聽二其曲度一兮、廉二察其賦歌一。〔注〕善曰、廉、亦察也。

【廉三】38 レンサン 清、萬承紀(9－31339··598)の字。

【廉山】39 レンサン 字號。❶清、姚埜(3－6202··55)の字。❷清、吳大鈞(2－3365··746)の號。❸清、萬承紀(9－31339··598)の字。

【廉士】40 レンシ 心のいさぎよい人。操守あつて妄りに營求せぬ人。欲の少い人。正直潔白な男。廉夫。〔孟子、滕文公下〕陳仲子豈不二誠廉士一哉。〔趙注〕陳仲子、齊一介之士、窮不二苟求一者。〔集注〕廉有二分辨一、不二苟取一也。〔史記、韓長孺傳〕貪二嗜於財一、所二推擧一皆廉士。〔漢書、景帝紀〕其唯廉士、寡欲易レ足。〔淮南子、詮言訓〕天下非レ無二廉士一也。〔說苑、立節〕廉士不レ辱レ名。〔舊唐書、許圉師傳〕有二官吏犯贓事露一、犯者愧懼、遂改レ節爲二廉士一。

〖廉士重レ名〗41 レンシハナヲオモンズ 欲少くて潔い士は名を大切にする。〔莊子、刻意〕衆人重レ利、廉士重レ名。

【廉使】42 レンシ ❶清廉な使者。〔劉長卿、送三李摯赴二延陵令一詩〕明君加二印綬一、廉使託二惸嫠一。〔賈島、送二劉侍御重使二江西一詩〕前者已聞廉使薦、兼言有レ畫靜邊塵。❷官名。按察使(5－12038··26)の異稱。〔事物異名錄、爵位、按察使〕通典、官制有二廉訪使廉使一、正字通、今稱二臬司一。

【廉州】43 レンシウ ❶府名。明、置く。清、廣東省に屬し、合浦靈山の二縣を領す。〔清史稿、地理志〕廣東、廉州府、領二縣二一、合浦、靈山。❷州名。唐、置く。今の廣東省合浦縣の地。〔唐書、地理志七上〕廉州本合州、武德四年、曰二越州一、貞觀八年、更レ名。〔讀史方輿紀要、廣東〕廉州府、古百越地、秦爲二象郡一、漢初屬二南越國一、武帝平二南越一、屬二合浦郡一、後漢因レ之、三國吳、黃武七年、改曰二珠官郡一、尋復レ故、晉亦曰二合浦郡一、宋置二越州一、齊因レ之、梁爲二越州治一、隋平レ陳、廢レ郡存レ州、大業初、改爲二祿州一、尋又改爲二合州一、三年、復曰二合浦郡一、唐武德四年、仍置二越州一、貞觀八年、改爲二廉州一、天寶初、曰二合浦郡一、乾元初、復曰二廉州一。

【廉肉】45 レンジウ 音樂の語、廉は聲のかどあるもの、肉は聲の太く大きなもの。〔禮、樂記〕使四其曲直繁瘠、廉肉節奏、足三以感二動人之善心一而已矣。〔釋文〕肉、而救反。〔疏〕廉、謂二廉稜一、肉、謂二肥滿一。

【廉質】46 レンシツ いさぎよくすなほなこと。〔趙良器、進賢冠賦〕脅二讒佞一爲二忠貞一、革二貪侈一爲二廉質一。

【廉車】47 レンシヤ 按察使(5－12038··26)の異稱。〔稱謂錄、按察使、廉車〕舊唐書崔鄲傳、凡三按廉車、率由清簡。

【廉讓】48 レンジヤウ ❶心がきよく能く人にゆづる。〔潛夫論、遏利〕世人之論也、靡レ不下貴二廉讓一而賤中財利上焉、及二其行一也、多釋レ廉而甘レ利。〔後漢書、周燮傳〕燮生而欽頤折頞、醜狀駭レ人、其母欲レ弃レ之、其父不レ聽、曰、吾聞、賢聖多有二異貌一、興二我宗一者、乃此兒也、於レ是養レ之、始在二髫髻一而知二廉讓一、十歲就レ學、能通二詩・論一。〔論衡、書虛〕廉讓之行。❷川の名。今の名は小江河。源は四川省平武縣の南。涪江に注ぐ。南齊の范柏年の住んだ所。此の水を飲めば人を廉讓にするといふ。〔南史、胡諧之傳〕范柏年、本梓潼人、土斷屬二梁州華陽郡一、初爲二州將劉亮使一、出レ都諮レ事、見二宋明帝一、帝言次及二廣州貪泉一、因問二柏年一、卿州復有二此水一不、答曰、梁州唯有二文川武鄉、廉泉讓水一、又問、卿宅在二何處一、曰、臣所レ居廉讓之間、帝嗟二其善答一。❸地名。李祖仁兄弟の住んだ處。〔交州記〕李祖仁兄弟十人、竝慈孝廉讓、因レ此名レ鄉曰二廉讓一。

【廉叔】49 レンシユク 清、白乃貞(8－22678··1350)の字。

〖廉叔度來何暮〗50 レンシユクドキタルコトナンゾオソキヤ 後漢の廉范、字は叔度が蜀を治めて治績大いに擧り、百姓、廉范の來ること晚きを歎じた故事。〔後漢書、廉范傳〕建初中、遷二蜀郡太守一、云云、成都民物豐盛、邑宇逼側、舊制禁二民夜作一、以防二火災一、而更相隱蔽、燒者日屬、范乃毀二削先令一、但嚴使レ儲レ水而已、百姓爲レ便、乃歌レ之曰、廉叔度、來何暮、不レ禁レ火、民安作、平生無レ襦、今五袴。

【廉恕】51 レンジヨ いさぎよくて思ひやりのあること。〔宋史、周執羔傳〕比レ治レ郡、廉恕有二循吏風一。

【廉稱】52 レンシヨウ 清廉だといふほまれ。〔宋史、馬亮傳〕亮有二智略一、敏二於政事一、然其所レ至無二廉稱一。

【廉深】53 レンシン 心きよらかでつつしむ。〔顏延之、陶徵士誄〕廉深簡絜、貞夷粹溫。

【廉愼】54 レンシン 廉謹(21)に同じ。〔于邵、漢源縣廳壁記〕非二貞固一不レ足二以幹一レ事、非二廉愼一不レ足二以率一レ人。

【廉水】55 レンスイ ❶川の名。㋑源は陝西省南鄭縣の南の巴嶺山。北流して廉水鎭を經て漢江に入る。太平寰宇記に廉津、通志に廉泉に作る。〔讀史方輿紀要、陝西、漢中府、褒城縣〕廉水、在二縣南三十里一、自二南鄭縣一流入レ境、經二中梁山下一、入二於漢水一。㋺廉讓(48)の❷を見よ。❷縣名。後魏、置く。梁、省き、宋、復た置く。故城は陝西省南鄭縣の西南の廉水鎭。〔讀史方輿紀要、陝西、漢中府、褒城縣〕武鄉城、縣西南有二廉水城一、亦後魏延昌中、置レ縣屬二褒中郡一、梁大同中、廢、宋紹興四年、亦置二廉水縣一、屬二興亢府一、嘉定中、廢、一統志、宋置二廉水縣一、在二今府南五十里一。

【廉正】56 レンセイ 心がきよらかで正しい。廉直。〔周禮、天官、小宰〕三曰廉敬、四曰廉正。〔史記、石奢傳〕石奢者、楚昭王相也、堅直廉正、無レ所二阿避一。〔漢書、朱雲傳〕絜白廉正、經術通明。〔後漢書、班固傳下〕嗜欲之原滅、廉正之心生。〔吳志、顧雍傳、注〕吳書曰、雍族人悌、字子通、以二孝悌廉正一聞二於鄉黨一。

【廉制】57 レンセイ 音樂用語。聲にかどがあり、きまりがあることをいふ。〔荀子、樂論〕鐘統實、磬廉制。〔集解〕先謙案、廣雅釋詁、廉、稜也、磬有二隅稜一曰レ廉、禮記樂記疏、制、謂二裁斷一也、磬以明二貴賤親疏長幼之節一、是有レ制也、詳二白虎通禮樂篇一、下文莫レ不二廉制一、亦謂二舞之容節、莫一レ不三廉稜而有二裁斷一也。

【廉政】58 レンセイ 廉正(56)に同じ。〔晏子、問、下〕景公問二晏子一、廉政而長久、其行何也。

【廉清】59 レンセイ 心がいさぎよい。〔史記、秦始皇紀〕咸化二廉清一、大治二濯俗一。〔北史、劉芳傳〕廉清寡欲、無レ撓二公私一。

【廉靖】60 レンセイ 心清く、やすらか。廉靜。〔漢書、劉向傳〕向爲レ人簡易無二威儀一、廉靖樂レ道、不レ交二接世俗一。

【廉靜】61 レンセイ 廉靖に同じ。〔論語、憲問〕公綽之不欲。〔集注〕然則公綽、蓋廉靜寡欲、而短二於才一者也。〔李華、三賢論〕沈邃廉靜。

【廉石】62 レンセキ ❶石の名。吳の陸績が鬱林太守となつて廉潔を守り、罷め歸り海を涉るに及んで一物の荷なく、舟輕くして覆へらんことを恐れ、僅かに石を以て底荷とした故事。〔唐書、陸龜蒙傳〕陸氏在二姑蘇一、其門有二巨石一、遠祖績嘗事レ吳爲二鬱林太守一、罷歸無レ裝、舟輕不レ可レ越レ海、取レ石爲レ重、人稱二其廉一、號二鬱林石一、世保二其居一云。〔西樵野記〕昔漢末、吳郡陸公績、爲二鬱林太守一、泛レ海而歸、唯一空舟、因レ恐レ覆レ舟、載二一巨石一鎭レ之、至レ吳棄二於婁門之野一、埋二沒土中一、已爲二民家居址一久矣、然亦有二識者一過而謠曰、此鬱林太守石也、弘治丁巳間、有二代巡樊柱史一、命二有司一督二役夫一、曳置二察院之側一、題二其楣一曰二廉石一、建レ亭覆レ之。❷清、金光筋(11－40152··1232)の字。

〖廉石居〗63 レンセキキヨ 清、孫星衍(3－6987··459)の室名。

【廉折】64 レンセツ 音樂用語。音の鋭く急なのをいふ。〔史記、田敬仲完世家〕小弦廉折以清者相也。〔注〕索隱曰、蔡邕曰、凡絃以二緩急一爲二清濁一、琴緊二其絃一則清、縵二其絃一則濁。

【廉節】65 レンセツ 清い節操。〔荀子、君道〕貪利者退、而廉節者起。〔史記、儒林傳〕其治二官民一、皆有二廉節一。〔漢書、陳平傳〕不レ能レ得二廉節之士一。〔國史略、繼體天皇〕二十四年、詔擧二廉節之士一。

【廉川】66 レンセン 城の名。甘肅省碾伯縣の東。東晉の時、南涼の禿髮烏孤、築き、後、從弟洛回を廉川の鎭とす。〔讀史方輿紀要、陝西、西寧鎭〕廉川城、漢破羌縣地、晉太元二十年、禿髮烏孤擊二降乙弗折掘等部一、築二廉川堡一而都レ之、隆安二年、後涼楊軌等、擧レ兵攻二姑臧不克等一敗、屯二廉川一、收二集彝夏衆一至二萬餘一、既而降二於烏孤一、三年、烏孤使三從弟洛回鎭二廉川一、其後爲二北涼所一レ取、宋、元嘉三年、西秦王熾磐、伐二河西王蒙遜一至二廉川一、卽此、後魏廢、胡氏曰、廉川在二湟中一、是也。

【廉泉】67 レンセン ❶泉の名。江西省贛縣の東南。〔明一統志〕劉宋元嘉中、一夕霹靂、忽泉湧出、時郡守以レ廉名、故曰二廉泉一、蘇軾有レ詩。❷廣東省東莞縣の南の黃嶺山下。❸廉水をいふ。廉水(55)の❶の㋑を見よ。❹淸、楊昌泗(6－15112‥596)の字。❺lien² ch'uan¹ 他人の錢貨をいふ。

【廉泉讓水】68 レンセンジヤウスイ 川の名。廉讓(48)の❷を見よ。〔南史、胡諧之傳〕范柏年、見二宋明帝一、帝言次及二廣州貪泉一、因問二柏年一、卿州復有二此水一不、答曰、梁州唯有二文川武鄕、廉泉讓水一、又問、卿宅在二何處一、曰、臣所レ居廉讓之閒、帝嗟二其善答一。

【廉苫】69 レンセン かどばりひらめくさま。〔晉書、索靖傳〕窕嬈廉苫、隨レ體散布。

【廉瀸】70 レンセン 微雨のさま。廉纖。〔駢雅、釋天〕廉「瀸、小雨也。

【廉纖】71 レンセン ❶微雨のさま。小雨のそぼ降るさま。〔陳師道、馬上口占呈二立之一詩〕廉纖小雨濕二黃昏一、十里塵泥不レ受レ辛。〔韓愈、晚雨詩〕廉纖晚雨不レ能レ晴、池岸草閒蚯蚓鳴。❷細いさま。〔錢霍、西湖竹枝詩〕北高峯上廉纖月、西子湖頭一寸眉。

【廉纖鬼】73 レンセンキ 賤小な鬼。つまらない下つ端の鬼。〔還魂記、診崇〕須レ不二是依レ花附レ木廉纖鬼一。

【廉善】74 レンゼン 心がきよらかでよい。〔周禮、天官、小宰〕一曰廉善、二曰廉能。

【廉村】75 レンソン 地名。福建省福安縣の西南。唐の薛令之の故宅がある。唐の肅宗、令之の舊德を念ひ、居所を廉村、川を廉溪、山を廉嶺とす。

【廉退】76 レンタイ 心が淸く遠慮ぶかい。廉潔謙退。〔北史、高允傳〕是時貴臣之門、竝羅二列顯官一、而允子弟皆無二官爵一、其廉退若レ此。〔愼思錄、三〕躁進孰二若乎廉退之過一。

【廉貪】77 レンタン 廉潔と貪欲。〔莊子、盜跖〕廉貪之實、非二以迫レ外也。

【廉恥】78 レンチ 心がきよくて惡をはぢる。無慾ではぢを知る。廉愧。〔詩、小雅、六月序〕白華廢則廉恥缺矣。〔荀子、修身〕無二廉恥一而嗜二飲食一。〔管子、權修〕男女無レ別、則民無二廉恥一。〔漢書、地理志下〕上二禮義一重二廉恥一。〔淮南子、泰族訓〕民無二廉恥一、不レ可レ治也、非レ修二禮義一、廉恥不レ立。〔干寶、晉紀總論〕廉恥篤二於家閭一。〔舊唐書、楊綰傳〕居レ家者必修二德業一、從レ政者皆知二廉恥一。

【廉忠】79 レンチユウ 心ただしく忠實なこと。〔史記、魯周公世家〕君子曰、季文子廉忠矣。

【廉直】80 レンチヨク ❶いさぎよくて正しい。無慾正直。〔禮、樂記〕廉直勁正、莊誠之音作。〔國語、晉語八〕文子曰、夫陽子行二廉直於晉國一、不レ免二其身一、其知不レ足レ稱也。〔注〕廉直、剛而無レ計。〔史記、老莊申韓傳〕悲二廉直不レ容二於邪枉之臣一。〔漢書、董仲舒傳〕仲舒爲レ人廉直。❷チレン 低い價。やすね。安價。安直。廉價。〔春渚紀聞〕就二廉直一取二此馬一以代レ步。

【廉鎭】81 レンチン 按察司の別稱。〔舊唐書、李德裕傳〕德裕身居二廉鎭一、傾二心王室一。〔稱謂錄、按察使、廉鎭〕按、廉鎭、卽觀察使也。

【廉貞】82 レンテイ いさぎよくて正しい。〔韓非子、五蠹〕今兄弟被レ侵必攻者廉也、知友被レ辱隨レ仇者貞也、廉貞之行成、而君上之法犯矣。〔楚辭、卜居〕吁嗟默默兮、誰知二吾之廉貞一。

【廉得】83 レントク 調べる。〔漢書、何武傳〕及三武爲二刺史一、行二部錄一、囚徒有レ所レ擧以屬レ郡、聖曰、後進生何知、廼欲レ亂二人治一、皆無レ所レ決、武使三從事廉二得其罪一、聖懼自免。〔注〕師古曰、廉、察也。〔淸學案小識、翼道學案、睢州湯先生〕奸巫淫尼、競相煽惑、先生廉二得其狀一。

【廉能】84 レンノウ 心がきよらかで才能がある。〔周禮、天官、小宰〕天官以聽二官府之六計一、蔽二羣吏之治一、云云、二曰廉能。〔書言故事、淸廉類〕淸而有二政事一曰二廉能一。

【廉頗】85 レンパ 戰國、趙の名將。惠文王の時、齊を伐つて上卿に拜せられ、藺相如と刎頸の交を結び、秦、敢へて兵を加へず。孝成王の時、秦を攻む。王、秦の閒者を信じ、趙括を以て頗に代へ、秦に破らる。尋いで燕、兵を擧げて趙を伐つや、頗之を擊破して、信平君に封ぜらる。悼襄王立つや、樂乘をして、頗に代らしむ。頗、魏に奔り、魏用ふる能はず。後、趙は、秦に困しみ、再び頗を用ひんとしたが、郭開の中傷によつて遂に召されず、尋いで楚に事へ、壽春に於て死す。〔史記、八十一〕。

【廉頗彊レ食】86 レンパシヨクニツトム 老いて尙用ひられようと努めること。廉頗が再び趙に用ひられんことを欲して、趙の使者の面前に於て大食した故事。〔史記、廉頗傳〕廉頗亦思三復用二於趙一、趙王使三使者視二廉頗尙可レ用否一、廉頗之仇郭開、多與二使者金一、令レ毀レ之、趙使者既見二廉頗一、廉頗爲レ之一飯斗米、肉十斤、被レ甲上レ馬、以示二尙可レ用、趙使還報レ王曰、廉將軍雖レ老尙善飯、然與レ臣坐頃之、三遺失矣、趙王以爲レ老、遂不レ召。〔魏志、滿龍傳〕廉頗彊レ食、馬援據レ鞍。

【廉頗負荊】87 レンパフケイ 蒙求の標題。藺相如が、秦王を屈して上卿となり、廉頗の右に在るや、頗は、相如を辱かしめんとしたが、相如の、國家の急を先にして私讎を後にするを聞き、肉袒して荊を負うて謝した故事。〔史記、廉頗藺相如傳〕既罷歸レ國、以二相如功大一、拜爲二上卿一、位在二廉頗之右一、云云、廉頗宣言曰、我見二相如一、必辱レ之、云云、相如曰、夫以二秦王之威一、而相如廷二叱之一、辱二其羣臣一、相如雖レ駑、獨畏二廉將軍一哉、顧吾念レ之、彊秦之所四以不三敢加二兵於趙一者、徒以二吾兩人在一也、今兩虎共鬭、其勢不二俱生一、吾所三以爲レ此者、以下先二國家之急一、而後中私讎上也、廉頗聞レ之、肉袒負レ荊、因二賓客一至二藺相如門一、謝レ罪。

【廉賣】88 レンバイ 品物を安く賣る。

【廉方】89 レンハウ 淸、劉曉華(2－2224‥869)の字。

【廉昉】90 レンハウ 淸、何栻(1－511‥113)の字。

【廉訪】91 レンバウ 官名。按察使の異名。元代、按察司を改めて肅政廉訪司を置き、各路の政治を巡察せしむ。明に至つて提刑按察使といふ。故に按察使を稱して廉訪使といひ、其の役所を廉訪司といふ。按察使(5－12038‥26)の❶を見よ。〔續文獻通考、職官考、按察使司〕元提刑按察司、國初立後、改爲二肅政廉訪司一、凡二十二道、每道使副使各二人、僉事四人、兩廣海南、止二人、初世祖至元六年三月、以立二四道提刑按察司一、云云、二十七年、以二雲南按察司所レ治、立二雲南行御史臺一、三月增二提刑按察司僉事二人一、總二勸農事一、二十八年、改爲二肅政廉訪司一、成宗大德元年、徙二雲南行臺於陝西一、復立二雲南道一、其後遂定爲二二十二道一、設レ官如レ上、云云、內八道隸二御史臺一、云云、江南十道、隸二江南行臺一、云云、陝西四道、隸二陝西行臺一。〔西湖志餘〕元之將レ亂也、上下以レ墨爲レ政、時廉訪司官分二巡州縣一例、用二巡尉司弓兵旗幟金鼓一迎送。〔宣和遺事、前集、上〕將官郭師中士曹椽等、禦レ賊遇レ害、陷二杭州一、守臣趙霆遁去、廉訪趙約戰死。〔淸國行政法、地方官廳、中國本部總論、行政區劃及地方官廳〕官職古名、按察使、臬司・臬臺・廉訪。

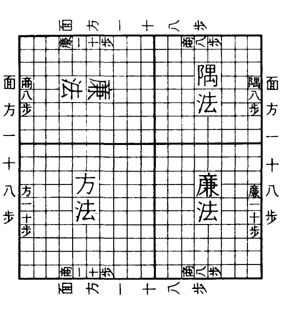
【廉訪使者】92 レンパウシシヤ 官名。宋、置く。諸路に各〻一人あり、經略安撫總管司に屬す。もと走馬承受といふ。〔續通志、職官略、唐五代宋官制下、走馬承受〕宋制、隸二經略安撫總管司一、諸路各一人、政和六年、改爲二廉訪使者一、靖康初、復レ舊。〔宣和遺事、後集〕童貫至二太原一、遣二保州路廉訪使者馬擴一。

【廉白】93 レンパク 心がいさぎよく淸い。廉淸。廉潔。潔白。〔後漢書、桓帝紀〕令二廉白守レ道者、得レ信二其操一。〔魏志、管寧傳〕淸虛足二以侔レ古、廉白可二以當レ世。

【廉伯】94 レンパク 明、石簡(8－24024‥108)の字。

【廉法】95 レンパフ 數學用語。開平方で根の第一項(二桁ならば單位十)の平方を方法といひ、第一項と第二項との積を廉法といふ。圖に就いて說明すれば方法の一十步は根の第一項に當り、隅法の八步は根の第二項に當り、其の兩側にある長方形が廉法となる。今代數式によつて示せば(十步を a、八步を b とす) $(a+b)^2=a^2+2ab+b^2$ の公式に當り、a^2 は方法、b^2 は隅法、ab は廉法となる。〔算法統宗、少廣章、方廉隅圖〕廉法、謂下一方帶二兩邊一、直以助二其壯一爲上レ廉也、隅法、謂下一方帶二兩廉一、餘二一小方角一爲上レ隅也。法曰、置積二三百二十四步一爲レ實、約二初商一十步於實左一、另置二下法一十步於實右一、名曰二方法一、與二上商一相二呼一一一、除二實一百步一、餘實二百二十四步、就以二方法一十步一、倍レ之得二二十一、名曰二廉法一、又約二次商八步於左一、初商一十之次一、共得二一十八步一、亦置二八步於實右一、廉法二十步之次一、名曰二隅法一、共得二二十八步一、與二左次位商八步一、相二呼一八一、除二實一百六十步一、又將二左八一對二右八一、相二呼八八一、除二實六十

四歩一恰盡、若還原自乘是也、右法以明二方廉隅之名一也。



方廉隅法（算法統宗）

【廉灋】96 レンパフ　心がきよらかで、法を守つて曲げない。〔周禮、天官、小宰〕五曰廉灋、六曰廉辨。

【廉范】97 レンパン　後漢、杜陵の人。字は叔度。初、薛漢に事へ、永平の初、鄧融の功曹を拜命し、後、公府に徵辟さる。薛漢が楚王の事に坐して誅せられるや、獨り往いて之を收殮す。尋いで茂才に擧げられ、雲中太守に遷り、蜀郡太守に遷る。〔後漢書、六十一〕。

【廉范五袴】98 レンパンゴコ　蒙求の標題。後漢の廉范は、蜀を治めて治績あり、百姓歌つて、平生襦無く、今は五袴といつた故事。廉叔度來何暮(50)を見よ。

【廉貧】99 レンピン　慾がすくなくてまづしい。〔列子、楊朱〕凡爲レ名者必廉、廉斯貧、爲レ名者必讓、讓斯賤。

【廉夫】100 レンプ　㊀心のいさぎよい男。廉士。〔唐書、后妃傳上〕盜泉飛溢、廉夫不レ飮。㊁字號。㋑明、楊維楨(**6**-**15112**··417)の字。㋺明、華清(**9**-**31214**··245)の字。㋩清、單鉊(**2**-**3993**··176)の字。㋥清、王連瑛(**7**-**20823**··2186)の號。

【廉布】101 レンプ　宋、山陽の人。字は宣仲(仲宣)。號は射澤老農。進士。官は武學博士。畫に巧。

【廉武】102 レンブ　廉士(40)に同じ。楚人、士を謂つて武といふ。〔史記、酷吏傳〕尹齊以二刀筆一、稍遷至二御史一、事二張湯一、張湯數稱以爲二廉武一。

【廉平】103 レンペイ　心が淸らかで偏頗でない。淸廉公平。〔史記、吳起傳〕文侯以二吳起善用レ兵、廉平盡レ能、得二士心一、乃以爲二西河守一、以拒二秦韓一。〔說苑、政理〕臨レ官莫レ如レ平、臨レ財莫レ如レ廉、廉平之守、不レ可レ攻也。〔漢書、宣帝紀〕吏不二廉平一、則治道衰。〔後漢書、童恢傳〕執レ法廉平。〔白居易、除二許孟容河南尹兼常侍一制〕以二廉平淸肅一馭レ吏。

【廉平堂】104 レンペイダウ　淸、劉謙(**2**-**2224**··255)の室名。

【廉辨】105 レンベン　心がきよらかで、事にのぞんでまどはない。〔周禮、天官、小宰〕五曰廉灋、六曰廉辨。

【廉甫】106 レンポ　淸、王宗誠(**7**-**20823**··1846)の字。

【廉捕】107 レンポ　典史の異名。〔淸國行政法、地方官廳、中國本部總論、行政區劃及地方官廳〕官職古名、典史、捕廳・右堂・少尉・少尹・廉捕・少府。

【廉俸】108 レンポウ　養廉と俸銀。養廉は、淸の雍正の頃、正俸の外に給せられたもので、正俸と合はせて廉俸といふ。〔淸會典事例、戶部、俸餉〕熱河道學教授、改爲二承德府學教授一、各員俸廉俱仍二其舊一。〔福惠全書、蒞任部、待紳士〕分二廉俸一、資二之膏火一。

【廉峯】109 レンポウ　淸、徐寶善(**4**-**10110**··604)の號。

【廉明】110 レンメイ　欲がすくなく智識の明かなこと。廉潔明察。〔宋史、豐稷傳〕登第爲二穀城令一、以二廉明一稱。

【廉問】111 レンモン レンブン　しらべる。吟味する。廉察。尋問。〔史記、秦始皇紀〕諸生在二咸陽一者、吾使二人廉問一、或爲二妖言一以亂二黔首一。〔漢書、高帝紀下〕且廉問有下不レ如二吾詔一者上、以レ重論レ之。〔注〕師古曰、廉、察也。〔後漢書、梁冀傳〕著乃變二易姓名一、後託レ病僞死、結レ蒲爲レ人、市レ棺殯送、冀廉問知二其詐一、陰求得三笞二殺之一。〔注〕廉、察也。

【廉約】112 レンヤク　儉約。〔後漢書、祭遵傳〕遵爲レ人廉約、小心克レ己、奉公賞賜、輒盡與二士卒一。〔梁武帝、拜二苑述曾大中大夫一詔〕往蒞二永嘉一、治レ身廉約。

【廉譽】113 レンヨ　廉潔のほまれ。〔宋史、選擧志六〕幹レ事而無二廉譽一、淸白而無二治聲一者爲レ次。

【廉吏】114 レンリ　心のきよく欲のすくない役人。〔史記、滑稽、優孟傳〕念爲二廉吏一、奉レ法守レ職、竟レ死不二敢爲レ非、廉吏安可レ爲也。〔漢書、文帝紀〕廉吏、民之表也。〔新書、時變〕廉吏釋レ官而歸。

【廉吏傳】115 レンリデン　書名。二卷。宋、費樞撰。唐代までの廉吏一百十四人を錄す。徽宗の時、意を寓して著はしたものといふ。〔四庫提要、史、傳記類〕。

【廉利】116 レンリ　かどだつてよく切れる。〔韓愈、送二區冊一序〕江流悍急、橫波之石、廉利侔二劍戟一。

【廉里】117 レンリ　地名。今の江蘇省銅山縣の東北。〔漢書、龔勝傳〕龔勝居二彭城廉里一、後世刻石表二其里門一。

【廉稜】118 レンリヨウ　かど。〔禮、聘義、廉而不レ劌、疏〕言、玉體雖レ有二廉稜一、而不三傷二割于物一也。〔白居易、太湖石記〕有下廉稜銳劌如二劍戟一者上。

【廉藺】119 レンリン　廉頗と藺相如。〔曹攄、感舊詩〕廉藺門易レ軌、田竇相奪移。〔注〕銑曰、廉頗失レ權、而門下賓客、皆望二於藺相如門一、後復レ位門客復來。

【傷レ廉】120 レンヲヤブル　いさぎよい德をそこなふ。〔孟子、離婁下〕可二以取一、可二以無一レ取、取傷レ廉。

【廉希賢】121 レンキケン　元の人。希憲の從弟。一名、中郎海牙。字は達甫。官は兵部尙書。宋に使し、廣德軍獨松關に至り、關を守る者に殺さる。〔元史、一百二十六〕。

【廉希憲】122 レンキケン　元、畏吾の人。布魯海牙の子。字は善甫。諡は文正。十九歲の時、世祖に侍して孟子の性善義理の旨を以て對し、因つて世祖呼んで廉孟子といふ。官は中書平章政事・丞相。卒して大傅を贈られ、魏國公に追封さる。書室を萬柳堂といふ。〔元史、一百二十六〕。

【廉信若】123 レンシンジヤク　高麗、峰城郡の人。字は公可。諡は孝文。官は敬堂文學禮部尙書。〔高麗史〕。

【廉則挫】124 レンナレバスナハチクジカル　淸廉であると人ににくまれてくぢかれる。〔莊子、山木〕廉則挫、尊則議。〔疏〕淸廉則被二剉傷一。

【廉仲祥】125 レンチユウシヤウ　明、澄城の人。字は天瑞。讀書、窮理を先とし、一時の宗となる。

【廉兆綸】126 レンテウリン　淸、寧河の人。字は琴舫。道光の進士。工部侍郎を歷、江西に視學たり。洪楊の軍、撫州・建昌・饒州を陷れ、廣信に逼るや、知府沈葆楨と堅守し、全を得。官は戶部侍郎倉場總督。書室を深柳堂といふ。著に深柳堂集がある。〔淸史稿、四百二十八〕・〔大淸畿輔先哲傳、六〕。

【廉孟子】127 レンマウシ　元の廉希憲をいふ。廉希憲(122)を見よ。〔元史、廉希憲傳〕希憲年十九、得二入侍見一、其容止議論、恩寵殊絕、希憲篤好二經史一、手不レ釋レ卷、一日方讀二孟子一、聞レ召急懷以進、世祖問二其說一、遂以二性善義利仁暴之旨一爲レ對、世祖嘉レ之、目曰二廉孟子一、由レ是知レ名。

【廉遠堂高】128 レントホクダウタカシ　堂が地上に高く作られてゐること。人主の尊嚴なのをいふ。廉は堂の庭に面した側隅。〔漢書、賈誼傳〕人主之尊譬如レ堂、羣臣如レ陛、衆庶如レ地、故陛九級上、廉遠レ地則堂高、陛亡レ級、廉近レ地則堂卑、高者難レ攀、卑者易レ陵、理勢然也。〔注〕師古曰、廉、側隅也。

【廉可レ寄レ財】129 レンナレバザイヲヨスベシ　淸廉潔白な人には、財產を寄せまかせることが出來る。〔孔叢子、陳士義〕仁可二與託一レ孤、廉可二以寄一レ財者。

【廉而有レ化】130 レンニシテクワアリ　齊の田稷子の母が廉潔で田稷子を化した故事。田稷子は、齊の相となつて下吏の賄賂の貨金を受け、其の母に遺つたが、母は不義の金は我が有にあらず、不孝の子は我が子にあらずといつて拒んだので、恥ぢて罪を請うた。宣王はその母の廉直さに動かされて、罪を許し、母には金を贈つたといふ。〔列女傳、母儀、齊田稷母傳〕田稷子相レ齊、受二下吏之貨金百鎰一以遺二其母一、母曰、子爲レ相三年矣、祿未二嘗多若一レ此也、豈修二士大夫之費一哉、安所レ得レ此、對曰、誠受二之于下一、其母曰、吾聞、士修レ身潔レ行、不レ爲二苟得一、竭レ情盡レ實、不レ行二詐僞一、非義之事不レ計二於心一、非理之利不レ入二於家一、言行如レ一、情貌相副、今君設レ官以待レ子、厚レ祿以奉レ子、言行則可二以報一レ君、夫爲二人臣一而事二其君一、猶下爲二人子一而事中其父上也、盡レ力竭レ能、忠信不レ欺、務在レ效レ忠、必死奉レ命、廉潔公正、故遂而無レ患、今子反レ是、遠レ忠矣、夫爲二人臣一不レ忠、是爲二人子一不レ孝也、不義之財非二吾有一也、不孝之子非二吾子一也、子起、田稷子慙而出、反二其金一云云、君子謂、稷母廉而有レ化。

【廉而不レ劌】131 レンニシテヤブラズ　玉がかどだつてゐても

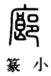
他の物を傷つけることのないやうに、君子は義によつて裁制するが、そのために外物を傷害することをしない。〔禮、聘義〕君子比二德於玉一、廉而不レ劌、義也。〔疏〕廉、稜也、劌、傷也、言、玉體雖レ有二廉稜一、不三割二傷於物一、人有レ義者、亦能斷割而不レ傷レ物、故云レ義也。〔老子、五十八〕是以聖人方而不レ割、廉而不レ劌。〔注〕廉、清廉也、劌、傷也、以二清廉一清レ民、令レ去二其邪一、令レ去二其汙一、不下以二清廉一劌中傷於物上也。

【寡レ廉鮮レ恥】132（レンスクナクハヂナシ） 風俗が惡くなつて人人が耻を知らないこと。〔史記、司馬相如傳〕寡レ廉鮮レ恥、而俗不二長厚一也。

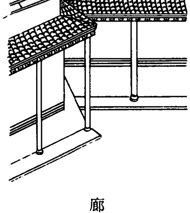
【興レ廉擧レ孝】133（レンヲオコシカウヲアグ） 廉直・至孝の人を擧げ用ひること。〔漢書、武帝紀〕興レ廉擧レ孝、庶幾成レ風。

【廉惠山海牙】134（レンケイサンカイガ） 元の人。希憲の從子。字は公亮。孝子。至治の進士。官は、至正中、翰林學士承旨・知制誥。國史を編修す。〔元史、一百四十五〕。

【廊】9437 ラウ 〔集韻〕盧當切 ㄌㄤ lang² 陽


小篆

㊀ひさし。堂の東西のへや。〔說文新附〕廊、東西序也、从レ广郎聲。㊁らうか。ほそどの。わたどの。〔玉篇〕廊、廡下也。〔廣韻〕廊、殿下外屋也。〔漢書、竇嬰傳〕賜金陳二廊廡下一。〔注〕師古曰、廊、堂下周屋也。㊂いへ。〔廣雅、釋宮〕廊、舍也。㊃通じて郞(11－39431)に作る。〔說文新附〕廊、漢書通作レ郞。


廊
（三才圖會）

參考 廊(4－9461)は別字。

【廊宇】1（ラウウ） ひさし。のき。〔白居易、旅次景空寺宿二幽上人院一詩〕月隱雲樹外、螢飛廊宇間。〔唐彥謙、遊二南明山一詩〕金銀拱二梵刹一、丹青照二廊宇一。

【廊腰】2（ラウエウ） 堂の周圍のわたどのの壁。〔杜牧、阿房宮賦〕廊腰縵迴、簷牙高啄。

【廊屋】3（ラウヲク） ㊀廊下をいふ。〔史記、樂書〕平公恐懼、伏二於廊屋之閒一。〔易林〕棟撓榱壞、廊屋大敗。㊁（ラウヤ）廊下の屋根をいふ。

【廊下】4（ラウカ） 室と室との閒の細長い板じきの通路。ほそどの。わたどの。廻廊。〔魏志、閻溫傳、注〕郡功曹趙息、呵二廊下一。〔唐書、儀衛志上〕列二于東西廊下一。〔唐書、嚴綬傳〕始就二廊下一食、在二百官上一。〔張籍、寒食內宴詩〕廊下御廚分二冷食一、殿前香騎逐二飛毬一。

【廊下橋】5（ラウカバシ） 家と家との閒の廊下。

【廊閣】6（ラウカク） わたどのとうてな。〔華陽國志、後賢志〕每升二降趨三翔廊閣之下一、盛容可レ觀。

【廊瓦】7（ラウグワ） 廊下の屋根のかはら。〔史記、樂書〕大風至而雨隨レ之、飛二廊瓦一。

【廊座】8 lang² tsuo⁴ 劇場の二階の下に當る部分、池座の兩側で最も安價な場席。

【廊飡】9（ラウサン） 廊餐に同じ。〔事物紀原、朝廷注措部、廊飡〕唐會要曰、正觀四年、詔二所司一於二外廊一置レ食一頓、五代會要曰、唐室升平日、常參官每日朝退賜レ食、謂二之廊飡一、今起居幕中賜二酒饌一是也、蓋自二唐太宗一始也。

【廊餐】10（ラウサン） 每日出勤の官吏に對し、朝退の時賜はる食を廊下で食すること。唐代に始まる。廊下食。廊下餐。〔五代會要、廊下餐〕唐制常參官、每日朝退賜レ食、謂二之廊餐一。〔文獻通考、王禮考、朝儀〕廊下食起二唐貞觀一、其後常參官每日朝退賜レ食、謂二之廊餐一、唐末浸廢、但於二入閤起居日一賜レ食、今循二其制一。〔通雅〕廊餐賜二食廊下一也。

【廊市】11（ラウシ） ひさしのある家が並んだまち。〔宋史、李允則傳〕始州民多以レ艸覆レ屋、允則取二材木西山一、大爲二倉廩營舍一、始教レ民陶二瓦甓一、標二里閈一、置二廊市邸舍水磑一、城上悉累レ甓、下環以二溝塹一、蒔二麻植楡柳一。

【廊肆】12（ラウシ） 朝廷。〔顏延之、車駕幸二京口一侍二游蒜山一作詩〕空食疲二廊肆一、反稅事二巖耕一。〔注〕善曰、廊、巖廊、朝廷所レ在也、文頴漢書注曰、巖廊、殿下小屋、杜預左氏傳注曰、肆、列肆也、翰曰、言三已素餐疲二倦於朝廊之列一。

【廊室】13（ラウシツ） 側室をいふ。〔韓非子、十過〕平公恐懼、伏二于廊室之閒一。〔論衡、感虛〕平公恐懼、伏二乎廊室一。

【廊中】14（ラウチユウ） わたどのの中。〔皮日休、館娃宮懷古詩〕響二屧廊中一金玉步、采二蘋山上一綺羅身。

【廊第】15（ラウテイ） たてもの。建築物。〔漢書、天文志〕宮廟廊第。

【廊房】16（ラウバウ） ㊀廊下の室。廊室。側室。正房(6－16255··372)の㊀を見よ。〔張說、清遠江峽山寺詩〕簷牖飛花入、廊房激水通。〔昌平州志〕東廊房五閒爲二吏戶禮一、西廊房五閒爲二兵刑工一。㊁明の永樂の初、北京の四門鐘鼓樓等の處に鋪房を作り、商民に貸して其の賃を取り、宴賞の用に備へた。今、正陽門外の廊房胡同は此の名殘りを止めたもの。〔北京指南、食宿遊覽、園林寺觀〕商品陳列所、舊在二正陽門外廊房頭條一。

【廊廡】17（ラウブ） おもて御殿の下に副へて設けた建物。殿下の外屋。ひさし。廊閣。〔史記、魏其武安侯傳〕所レ賜金、陳二之廊廡下一。〔漢書、竇嬰傳〕賜金陳二廊廡下一。〔錢俶、宮中作詩〕廊廡周遭翠幕遮、禁林深處絕二喧譁一。

【廊廟】18（ラウベウ） ひさしのある堂。おもて御殿の義で、政事を執る所をいふ。正殿。廟堂。〔國語、越語下〕范蠡進諫曰、謀二之廊廟一、失二之中原一、其可乎、王姑勿レ許也。〔戰國、秦策〕夫賢人在而天下服、一人用而天下從、故曰、式二於政一、不レ式二於勇一、式二於廊廟之內一、不レ式二於四境之外一。〔史記、貨殖傳〕賢人深謀二於廊廟一、論二議朝廷一、守レ信死レ節、隱二居巖穴一之士、設爲二名高一者、安歸乎、歸二於富厚一也。〔後漢書、循吏、孟嘗傳〕廊廟之寶、棄二于溝渠一。〔魏志、高堂隆傳〕今陛下所下與共坐二廊廟一、治中天下上者、非二三司九列一、則臺閣近臣、皆腹心造膝、宜レ在二無諱一、若見二豐省一、而不二敢以告一、從レ命奔走、惟恐レ不レ勝、是則具臣非二鯁輔一也。〔晉書、王沉傳〕出監二豫州諸軍事奮武將軍豫州刺史一、至レ鎭乃下レ敎曰、自レ古賢聖、樂下聞二誹謗之言一、聽中輿人之論上、芻蕘有二可レ錄之事一、負薪有二廊廟之語一故也。〔潘岳、在二懷縣一作詩〕器非二廊廟姿一、屢出固二其宜一。〔蘇味道、使二嶺南一聞三崔馬二御史竝拜二臺郎一詩〕喜レ得二廊廟擧一、嗟レ爲二臺閣分一。

【廊廟具】19（ラウベウノグ） 朝政を執る大臣となるに足る才能。廊廟才。〔晉書、王羲之傳〕羲之遂報書曰、吾素自無二廊廟具一。〔杜甫、自レ京赴二奉先一詠懷五百字詩〕方今廊廟具、構レ廈豈云レ缺。

【廊廟華】20（ラウベウノハナ） 廟堂の盛位。朝廷に於ける立派な位。〔南史、張充傳〕與レ儉書曰、彯二纓天閣一、既謝二廊廟之華一、綴二組雲臺一、終愧二衣冠之秀一。

【廊廟才】21（ラウベウノサイ） 廊廟具に同じ。〔宋書、裴松之傳〕高祖敕レ之曰、裴松之廊廟之才、不レ宜三久尸二邊務一、今召爲二世子洗馬一。〔唐書、張行成傳〕行成體局方正、廊廟才也。

【廊廟宰】22（ラウベウノサイ） 朝政を執る大臣。〔李陵、答二蘇武一書〕妨レ功害レ能之臣、盡爲二萬戶侯一、親戚貪佞之類、悉爲二廊廟宰一。

【廊廟材】23（ラウベウノザイ） 廊廟才に同じ。〔白居易、雪中晏起偶詠二所懷一云云詩〕上無二皐陶伯益廊廟材一、既不レ能三匡レ君輔レ國活二生民一。

【廊廟之器】24（ラウベウノキ） 廊廟に在つて政事に參與するに足る才能。宰相大臣たるに適する人物。廊廟具。〔蜀志、許靖傳評〕蔣濟以爲、大較有二廊廟之器一。〔陳書、杜之偉傳〕特以二彊識俊才一、頗有レ名二當世一、吏部尙書張纘深知レ之、以爲二廊廟器一也。〔柳宗元、遊二南亭一夜還敍レ志七十韻詩〕進乏二廊廟器一、退非二鄉曲豪一。

【廊廟之計】25（ラウベウノケイ） 大臣宰相となつて政を執る計。〔後漢書、申屠剛傳〕廊廟之計、既不二豫定一。〔注〕廊、殿下屋也、廟、太廟也。

【廊廟之志】26（ラウベウノココロザシ） 廟堂の上に立つて天下の大政を料理する志。〔文中子、禮學〕子遊二汾亭一、坐鼓レ琴、有二舟而釣者一、過曰、美哉琴意、傷而和、怨而靜、在二山澤一而有二廊廟之志一、非三太公之都二磻溪一、則仲尼之宅二泗濱一也。

【廊廟之材非二一木之枝一】27（ラウベウノザイハイチボクノシニアラズ） 正堂を作る材は一木の枝では間に合はない。小

才の士は天下の宰相とはなれない喩。〔愼子、君人〕廊廟之材、非二一木之枝一、狐白之裘、非二一狐之皮一。〔魏志、杜畿傳〕廊廟之材、非二一木之支一、帝王之業、非二一士之略一。

【廊門】28 ラウモン 回廊の門。〔史記、樂書〕一奏レ之、有三玄鶴二八集二乎廊門一。〔風俗通、聲音〕進二於廊門之扈一。

【廋】9438

㊀シウ シユ 〔集韻〕疎鳩切 尤 ㄙㄡ sou¹

㊁ソウ ス 〔集韻〕蘇后切 有

㊀㊁❶**かくす。かくれる。**〔方言、三〕廋、隱也。〔注〕謂二隱匿一也。〔集韻〕廋、廣雅、匿也。〔論語、爲政〕人焉廋哉。〔集解〕孔安國曰、廋、匿也。〔國語、晉語五〕有二秦客廋二辭於朝一。〔注〕廋、隱也、謂下以二隱伏詭譎之言一問中於朝上也。〔淮南子、詮言訓〕日月廋而無レ溉二於志一。〔注〕廋、隱也。❷**もとめる。**さがす。搜(5－12486)に通ず。〔集韻〕廋、一說、索レ室曰レ廋。〔漢書、趙廣漢傳〕廋二索私屠酤一。〔注〕師古曰、廋、讀與レ搜同、謂二入レ室求一レ之也。❸**かぞへる。**數(5－13363)に通ず。〔周禮、夏官、序官〕廋人。〔注〕廋之言、數也。❹廀(4－9406)に同じ。〔字彙〕廀、與レ廋同。㋑くま。山の隅。〔楚辭、劉向、九歎、憂苦〕步從二容於山廀一。〔注〕廀、隈也、廀、一作レ廋。㋺もとめる。〔孟子、盡心下、若レ是乎從者之廀也、校勘記〕廖本、廀作レ廋、音義出二廋字一云、或作レ廀。❺**官名。**廋人。〔儀禮、聘禮記〕盼肉及二廋車一。〔注〕廋、廋人、車、巾車也、二人掌レ祖二車馬一之官也。

參考 庾(4－9398)は別字。

【廋語】1 シウゴ かくしことば。なぞ。隱語。〔五代史、李業傳〕時天下旱蝗、黃河決溢、云云、而帝方與二業及聶文進・後贊郭允明等一狎昵、多爲二廋語一相誚戲。〔孫覲、何嘉會寺丞嫁遣二侍兒襲明一有レ詩次韻詩〕廋語尙傳黃絹婦、多情好在紫髯翁。

【廋索】2 シウサク さがしもとめる。搜索(5－12486‥15)の❶に同じ。〔漢書、趙廣漢傳〕直突二入其門一、廋二索私屠酤一。

【廋詞】3 シウシ 廋語に同じ。〔曹鄴、梅妃傳〕江妃庸賤、以二廋詞一宣二言怨望一。

【廋辭】4 シウジ なぞ。廋語に同じ。〔國語、晉語五〕有三秦客廋二辭於朝一、大夫莫二之能對一也、吾知レ三焉。〔注〕廋、隱也、謂下以二隱伏詭譎之言一問中於朝上也。〔資治通鑑、後漢紀〕(隱帝、乾祐二年)郭允明以二諂媚一得レ幸、帝好與レ之爲二廋辭一。〔齊東野語〕古之所謂廋辭、卽今之隱語、而俗所謂謎。

【廋人】5 シウジン 周官の名。夏官の屬、馬を養ふことを掌る。單に廋ともいふ。〔周禮、夏官、廋人〕掌二十有二閑之政敎一。〔儀禮、聘禮記、盼肉及廋車、注〕廋、廋人也。

【廋疏】6 シウソ さがしもとめる。搜索(5－12486‥15)に同じ。〔馬融、廣成頌〕廋二疏嶁領一、犯二歷嵩巒一。

【廋伏】7 シウフク 伏兵をいふ。〔唐書、段秀實傳〕請大索、悉得二其廋伏一。

【⿸广啚】9439

シヤウ 廧(4－9547)に同じ。〔集韻〕廧、或省。

【⿸广坴】9440

エイ 〔集韻〕於例切 霽

❶**うづめる。**古、陸(11－41790)に作る。〔集韻〕⿸广坴、埋也、古作レ陸。❷瘞(7－22395)に同じ。〔韻會〕⿸广坴、與レ瘞同。

【⿸广夏】9441

キ 〔五音集韻〕許規切 支

すがた。〔五音集韻〕⿸广夏、姿也。

【⿸广追】9442

ツイ ヅイ 〔篇韻〕池僞切 寘

いへがつぶれる。〔篇韻〕⿸广追、舍潰也。

【⿸广秝】9443

レキ 歷(6－16340)に同じ。〔字彙補〕⿸广秝、與レ歷同。

【⿸广畏】9444

ワイ 〔篇韻〕音穢

うつる。〔篇韻〕⿸广畏、映⿸广畏也。

【⿸广烋】9445

キウ 〔篇海類編〕音休

こかげ。〔篇海類編〕⿸广烋、樹陰也。

【⿸广沓】9446

ラン 〔韻學集成〕力甘切 覃

さへぎる。〔韻學集成〕⿸广沓、遮也。

【⿸广耎】9447

シツ 瑟(7－21133)に同じ。〔字義總略〕⿸广耎、同レ瑟。

【⿸广豖】9448

ロ 廗(4－9506)の譌字。〔康熙字典〕⿸广豖、按、卽廗字之譌。

十一畫

【廎】9449

㊀ケイ キヤウ 〔集韻〕窺營切 庚

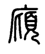
㊁ケイ キヤウ 〔集韻〕犬潁切 梗 ㄑㄧㄥˇ ch'ing³

㊂ケイ キヤウ 〔集韻〕棄挺切 迥

㊃ケイ キヤウ 〔集韻〕傾敻切 敬

㊄テイ

小篆

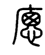

或體

㊀いへのかたはら。〔集韻〕廎、屋側也。㊁㊂㊃**小さな堂。**高(12－45315)に同じ。〔說文〕高、小堂也、从二高省一冋聲、廎、高或从レ广頃聲。㊄亭(1－303)・廳(4－9562)に通ず。〔說文、廎、段注〕元次山唐廎、宋人多謂二廎卽亭字一、非也、今按、可三讀如二今之廳一。

【⿸广悤】9450

㊀ソウ ス 〔集韻〕麤叢切 東

㊁ソウ ス 〔集韻〕祖動切 董


小篆

東西兩階の中央。〔說文〕⿸广悤、屋階中會也、从レ广悤聲。

【⿸广深】9451

シン 〔集韻〕式禁切 沁

奥深く大きい家。〔廣韻〕⿸广深、廕⿸广深、大屋。〔集韻〕⿸广深、廕⿸广深、屋深。

【⿸广查】9452

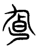
サ ジヤ 〔集韻〕鉏加切 麻

壞れかけた家。〔玉篇〕⿸广查、屋欲レ壞也。〔廣韻〕⿸广查、壞也、淮南子云、⿸广查屋之下、不レ可レ坐也。〔集韻〕⿸广查、屋隤皃。

【廏】9453

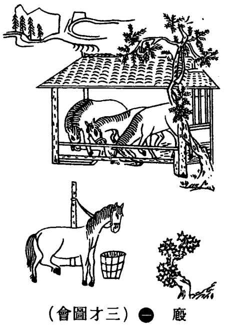
キウ ク 〔集韻〕居又切 宥 ㄐㄧㄡˋ chiu⁴

小篆


古文

❶**うまや。**〔說文〕廏、馬舍也、从レ广𣪘聲、周禮曰、馬有二二百十四匹一爲レ廏、廏有二僕夫一、

⿱九皀、古文从レ九。〔周禮、夏官、校人〕三乘爲レ皁、三皁爲レ繫、六繫爲レ廄、六廄爲レ校。〔注〕自レ乘至レ廄、其數二百一十六匹。〔左氏、襄、十五〕養由基爲二官廄尹一。㊁**あつまる**。牛馬のあつまる所。〔釋名、釋宮室〕廄、勼也、勼、聚也、牛馬之所レ聚也。〔唐律、廄庫、疏議〕廄者、鳩聚也、馬牛之所レ聚。㊂古は⿱九皀(2-2583)に作る。〔集韻〕廄、古从レ九。㊃俗に廐(4-9454)に作る。〔集韻〕廄、俗作レ廐、非レ是。㊄**姓**。〔萬姓統譜〕廄、見二姓苑一。



廄 ㊀（三才圖會）

參考 字形は說文・玉篇・廣韻・集韻等に依れば、廄十二畫に作るを可とするが、今姑く康熙字典に從ふ。

【廄尹】1（キウイン） 複姓。〔通志、氏族略、以レ官爲レ氏〕廄尹氏、芈姓、姓纂云、楚大夫廄尹然之後。

【廄苑】2（キウエン） うまかひ場。〔星經〕天廄十星在二壁北一、主二天子馬坊廄苑一之官也。

【廄閑】3（キウカン） うまや。閑は動物を飼ふ所。馬舍。廄舍。〔魏書、常季賢傳〕位至二殿中將軍司藥丞一、仍主二廄閑一。

【廄庫】4（キウコ） うまやと武器のくら。兵用財帛の倉庫をいふ。廄は鳩聚の義で、牛馬を聚めて養ふ所。廄庫律を見よ。〔禮、曲禮下〕君子將レ營二宮室一、宗廟爲レ先、廄庫爲レ次、居室爲レ後。〔史記、天官書〕倉府廄庫、四通之路。〔新語、無爲〕設二房闥一、備二廄庫一。〔梁武帝、禁二止私利一詔〕或供二廚帳一、或供二廄庫一、或遣二使命一、或待二賓客一。〔白居易、竹牕詩〕未レ暇レ作二廄庫一、且三先營二一堂一。

【廄庫律】5（キウコリツ） 牛馬と倉庫とに關する刑法典の一編。漢代、蕭何が秦の六律に廄・戸・興の三篇を加へて九章律を作り、始めて廄律を置き、晉は之に牧事を附して廄牧律を置いた。後魏の太和中、牧產律と改めたが、隋の開皇の時、廄に庫事を附し、廄庫律とし、唐、之に因る。明は倉庫を戸律に、廄牧を兵律に編入し、清、亦之に因る。廄律(26)を見よ。〔隋書、刑法志〕敕二蘇威牛弘等一、更定二新律一、除二死罪八十一條、流罪一百五十四條、徒杖等千餘條一、定留二唯五百條凡十二卷一、一曰名例、二曰衞禁、三曰職制、四曰戸婚、五曰廄庫、六曰擅興、七曰盜賊、八曰鬪訟、九曰詐僞、十曰雜律、十一曰捕亡、十二曰斷獄。〔文獻通考、刑考、刑制〕律之爲レ書、因二隋之舊一、爲二十有二一、第一曰名例、二曰衞禁、三曰職制、四曰戸婚、五曰廄庫、六曰擅興、七曰盜賊、八曰鬪訟、九曰詐僞、十曰雜律、十一曰捕亡、十二曰斷獄。〔唐律、廄庫、疏議〕廄庫律者、漢制九章、創加二廄律一、魏以二廄事一散二入諸篇一、晉以二牧事一合レ之、名爲二廄牧律一、自レ宋及レ梁、復名二廄律一、後魏大和中、名二牧產律一、至正始年、復二名廄牧律一、歷二北齊後周一、更無二改作一、隋開皇以二庫事一附レ之、更二名廄庫律一、廄者鳩聚也、馬牛之所レ聚、庫者舍也、兵甲財帛之所レ藏、故齊晉謂レ庫爲レ舍。

【廄齋】6（キウサイ） 清、王蔭昌(7-20823・・171)の號。

【廄舍】7（キウシヤ） うまや。〔宋史、兵志十二〕所レ餘一監、毋レ毀二廄舍一。

【廄將】8（キウシヤウ） 官名。〔史記、留侯世家〕沛公將二數千人一、略二地下邳一、遂屬レ焉、沛公拜レ良爲二廄將一。〔注〕集解曰、服虔曰、廄將、官名也。

【廄人】9（キウジン） 馬を掌る人。〔韓詩外傳、二〕俄而廄人以二東野畢馬佚一聞矣。

【廄芻】10（キウスウ） うまやのまぐさ。〔唐書、裴延齡傳〕它日帝畋二苑中一、而神策軍訴下度支不レ賦二廄芻一者上。

【廄騶】11（キウスウ） 騎士で馬を掌る人。〔漢書、敍傳〕舞陽鼓刀、滕公廄騶。〔後漢書、梁冀傳〕桓帝使三黃門令具瑗將二左右廄騶虎賁羽林戟士、合千餘人一、與二司隷校尉張彪一共圍二冀第一。〔注〕騶、騎士也。

【廄卒】12（キウソツ） うまやの番人。〔宋史、食貨志上五〕大中祥符五年、段惟幾發二中牟縣夫二百一、修二馬監倉一、羣牧制置、使三代以二廄卒一、因下レ詔禁レ之。

【廄置】13（キウチ） 驛遞の一種。うまつなぎば。馬を置いてつぎ傳へる義。〔史記、田横傳〕田横迺與二其客二人一、乘レ傳詣二雒陽一、未レ至三三十里、至二尸郷廄置一。〔注〕集解曰、廄置、置レ馬以傳レ驛也。〔宋史、外戚上、劉文裕傳〕詐爲二使者一、夜抵二廄置一、呼レ卒索レ馬。

【廄長】14（キウチヤウ） 馬を掌る人の長。〔稱謂錄、馬廄官役、廄長〕會典、京師各廄、均設二廄長一人、廄副二人、廄丁二十人一。

【廄中】15（キウチユウ） うまやの中。〔公孫龍子、跡府〕求二白馬於廄中一。〔後漢書、袁譚傳〕乃先置二精勇于廄中一。

【廄丁】16（キウテイ） うまやの番人。廄長を見よ。

【廄馬】17（キウバ） うまやの中に居る馬。〔戰國、齊策〕君之廄馬百乘、無乙不下被二繡衣一而食中菽粟上者甲、豈有二騏驎騄耳一哉。〔漢書、貢禹傳〕廄馬百餘匹。〔後漢書、周燮等傳序〕廄馬萬匹。〔何承天、鼓吹鐃歌、君馬篇〕疲民甘二藜藿一、廄馬患二盈肥一。

【廄副】18（キウフク） 廄長の次官。廄長を見よ。

【廄焚】19（キウフン） うまやがやける。〔禮、雜記下〕廄焚、孔子拜二鄉人爲レ火來者一、拜レ之、士壹拜、大夫再、亦相弔之道也。〔論語、鄕黨〕廄焚、子退レ朝曰、傷レ人乎、不レ問レ馬。

【廄父】20（キウホ） 宋、宋駒(3-7078・・63)の字。

【廄牧】21（キウボク） うまや。廄閑。〔唐書、百官志一〕駕部郎中員外郎各一人、掌二輿輦車乘、傳驛廄牧、馬牛雜畜之籍一。〔唐六典、太僕寺〕太僕卿之職掌二邦國廄牧車輿之政令一、總二乘黃典廄典牧車府四署一。

【廄牧署】22（キウボクシヨ） 主馬署の唐名。〔職原抄〕主馬署、唐名廄牧署。

【廄牧令】23（キウボクレイ） 主馬首の唐名。〔職原抄〕主馬署、首一人、唐名、廄牧令。

【廄養】24（キウヤウ） 牛馬を養ふもの。〔六韜、龍韜、將威〕賞及二牛豎・馬洗・廄養之徒一。〔李衞公問對、上〕廄養五人、樵汲五人。

【廄吏】25（キウリ） 馬匹の飼養をつかさどる役人。〔管子、小問〕桓公觀二於廄一、問二廄吏一。〔漢書、朱買臣傳〕長安廄吏乘二駟馬車一、來迎二買臣一。

【廄律】26（キウリツ） 牛馬の徵發取締に關する刑法典の一編。漢代、蕭何が秦の六律に加へたもの。廄は鳩聚の義。律九章(4-10097・・72)・廄庫律(5)を見よ。〔晉書、刑法志〕興律有二上獄之法一、廄律有二待捕之事一。

【廄令】27（キウレイ） 天子のうまやの長官。〔漢書、外戚上、孝昭上官皇后傳〕上奇二其材力一、遷二未央廄令一。〔通典、職官、諸卿上、太僕卿〕乘黃署、後漢太僕有二未央廄令一、魏改爲二乘黃廄一、乘黃、古之神馬、因以爲レ名。〔劉潛、彈二賈執傳湛一文〕未央馬瘦、不レ覩二廄令之忠一。

【廄鎭祭】28（キウチンサイ） 陰陽道で、新たに廄を作る時に行はれる祭。〔東鑑脫漏、嘉祥元年十二月九日〕故右府將軍御時、廄鎭之外悉被レ行、云云、十八日甲辰、宅鎭祭親職、石鎭晴孝、七十二星兩條國道、廄鎭晴職等奉二仕之一。

【廐】9454

キウ

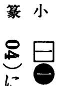
廄(4-9453)の俗字。〔集韻〕廄、俗作レ廐、非レ是。

【⿸广章】9455

シヤウ

㊀障(11-41821)に同じ。〔廣韻〕障、界也、隔也、又步障也、云云、⿸广章、上同。〔玉篇〕⿸广章、之讓切、蔽也、亦作レ障。㊁墇(3-5416)に通ず。〔集韻〕墇、或作レ⿸广章。

【廑】9456



小篆

㈠ キン ゴン 〔集韻〕渠巾切 文

㈡ キン ゴン 〔集韻〕渠吝切 震 ㄐㄧㄣˋ chin³・⁴

㈢ キン ゴン 〔集韻〕巨靳切 問

㈣ キン コン 〔集韻〕几隱切 吻

㈠㊀**小さいへ**。或は⿸广勤(4-9504)に作る。〔說文〕廑、少劣之尻、从レ广堇聲。〔集韻〕廑、說文、少劣之名、或从レ勤。㊁**あまる**。〔增韻〕廑、餘也。㊂**わづ**

か。わづかに。僅（1－1048）に通ず。〔說文通訓定聲〕廑、叚借爲レ僅。〔增韻〕廑、纔也。〔漢書、賈誼傳〕其次廑得二舍人一。〔注〕師古曰、廑、與レ僅同、劣也、言三纔得二舍人一也。❹**つとめる**。勤（2－2424）に通ず。〔說文通訓定聲〕廑、叚借爲レ勤。〔漢書、揚雄傳下〕其廑至矣。〔注〕師古曰、廑、古以爲二勤字一。

㈡❶**おほふ**。〔集韻〕廑、博雅、廕也。❷**小さいいへ**。㈠の❶に同じ。〔集韻〕廑、一曰、小屋。㈢**おほふ**。㈡の❶に同じ。〔集韻〕廣、廣雅、蔭也。㈣**人名**。〔集韻〕廑、闕、人名、衞有二治廑一。

【廑身】1 キンシン 身をつとめる。勤身（2－2424・・55）に同じ。〔漢書、文帝紀〕今廑レ身從レ事。〔注〕晉灼曰、廑、古勤字。

【廑注】2 キンチュウ 意を注ぎつとめる。書信等に常用する語。

【㢨】9457 ソウ ス 〔集韻〕祖動切 董

❶**多いさま**。〔玉篇〕㢨、眾兒。〔集韻〕㢨、衆立也。❷**むねつづき**。兩屋が合する。〔集韻〕㢨、一曰、兩屋合。

【𢋐】9458 バク マク 〔集韻〕末各切 藥

❶**さだめる**。〔廣韻〕𢋐、定也。〔集韻〕𢋐、定也。❷**むなしい**。〔玉篇〕𢋐、空也。〔集韻〕𢋐、空也。

【𢋍】9459 イ 〔玉篇〕於其切 支

かたむく。〔玉篇〕𢋍、急也。

【廒】9460 ガウ ゴウ 〔篇韻〕五牢切 ㄠˊ ao² 豪

米ぐら。〔篇海〕廒、倉廒也。

【廓】9461 クワク 〔集韻〕闊鑊切 ㄎㄨㄛˋ k'uo⁴ 藥

❶**おほきい**。〔爾雅、釋詁〕廓、大也。〔詩、大雅、皇矣〕憎二其式レ廓。〔傳〕廓、大也。❷**ひろい。ゆるやか**。〔華嚴經音義、下〕廓、爾雅曰、廓、大也、今謂二寬大一。〔吳志、周瑜傳〕性度恢廓。❸**むなしい**。〔廣雅、釋詁三〕廓、空也。〔一切經音義、十二〕廓、空也。〔集韻〕廓、虛也。〔淮南子、精神訓〕處二大廓之宇一。〔注〕廓、虛也。❹**ひらく。ひろげる**。はる。〔方言、一〕張レ小使レ大、謂二之廓一。〔淮南子、原道訓〕廓二四方一。〔注〕廓、張也。❺**ひらける**。はれる。〔禮、檀弓上〕祥而廓然。〔釋文〕廓、何云、開也。〔木華、海賦〕廓如靈變。〔注〕善曰、廓、猶レ開也。〔司馬相如、長楊賦〕廓然已昭矣。〔注〕善曰、廓、除兒。❻**ただす**。〔張衡、東京賦〕是廓是極。〔注〕綜曰、廓、猶レ規也。❼**さや**。刀室。〔方言、九〕劍削、自レ關而東、或謂二之廓一、或謂二之削一。❽**かた**。様式。〔詩、大雅、皇矣〕憎二其式廓一。〔集傳〕式廓、猶レ言二規模一也。❾**くるわ**。〔釋名、釋宮室〕郭、廓也、廓落在二城外一也。❿或は郭（11－39474）に作る。〔集韻〕廓、或省。〔韓愈、徐偃王廟碑〕堅嶠之後、達夫郭レ之。⓫古は𢉨（4－9563）に作る。〔集韻〕廓、古作レ𢉨。

名乘 ヒロ。アキラ。

參考 廓（4－9437）は別字。

【廓菴】1 クワクアン 淸、劉醇驥（2－2224・・1057）の號。

【廓焉】2 クワクエン 心の空しいこと。〔盧諶、贈二劉琨一詩〕處二其玄根一、廓焉靡レ結。〔注〕善曰、廣雅曰、廓、空也。

【廓開】3 クワクカイ 大きくしひらく。ひろげて大きくする。〔張衡、西京賦〕廓二開九市一。〔後漢書、班勇傳〕廓二開朝廷之德一。

【廓恢】4 クワククワイ 大きくしひろくす。〔魏志、高堂隆傳〕文帝受二天明命一、廓二恢皇基一。

【廓廓】5 クワククワク むなしいさま。〔唐書、李密傳〕天下廓廓無レ事矣。

【廓慶】6 クワククワク 空しく遠いさま。〔集韻〕慶、廓慶、空遠兒。

【廓爾】7 クワクジ 開悟のさま。〔曹植、七啓〕今予廓爾、身輕若レ飛。〔注〕銑曰、廓爾、開悟兒。

【廓州】8 クワクシウ 州名。❶東魏、置く。山西省崞縣。〔讀史方輿紀要、山西、太原府、代州〕崞縣、漢崞縣地、屬二鴈門郡一云云、東魏置二廓州一、北齊改爲二北顯州一、後周州廢。❷北周、置く。甘肅省貴德縣の澆河城。太平寰宇記は之を故廓州城といふ。〔廣韻〕廓、亦州名、漢西羌地、前涼遑河郡、周爲二廓州一也。〔宋史、地理志三〕廓州南、至二黃河一、不レ及レ里。〔太平寰宇記〕廓州北至二光州一一百八十里。

【廓惝】9 クワクシヤウ むなしくひろいさま。〔淮南子、精神訓〕廓惝而虛、淸靖而無二思慮一。

【廓如】10 クワクジヨ 空しいさま。がらりと開くさま。豁然。〔法言、吾子〕古者楊墨塞レ路、孟子辭而闢レ之、廓如也。〔木華、海賦〕廓如靈變。〔注〕善曰、廓、猶レ開也。〔韓愈、與二孟尙書一書〕古者楊墨塞レ路、孟子辭而闢レ之、廓如也。

【廓淸】11 クワクセイ 世のみだれをさつぱりとはらひきよめる。掃蕩しつくす。肅淸。〔陸贄、李晟兼二副元帥一制〕一鼓而兇徒懾北、再駕而都邑廓淸。〔李漢、唐吏部侍郎昌黎先生韓愈文集序〕先生於レ文、摧二陷廓淸之功一、比二於武事一、可レ謂二雄偉不レ常者一矣。〔佐久間象山、題二奈波利翁像一詩〕自奮能成遠大計、自屈難レ樹廓淸功。

【廓然】12 クワクゼン ほがらかで空しいさま。心の廣くさつぱりしてゐるさま。〔禮、檀弓上〕祥而廓然。〔疏〕祥而廓然者、至二大祥一而寥廓、情意不レ樂而已。〔管子、輕重乙〕四萬二千金廓然空。〔漢書、東方朔傳〕魁然無レ徒、廓然獨居。〔淮南子、泰族訓〕廓然無レ形。〔法言、問道〕大哉聖人言之至也、開レ之廓然見二四海一。〔揚雄、長楊賦〕廓然已昭矣。〔後漢書、楊終傳〕高祖平レ亂、約二法三章一、太宗至仁、除二去收孥一、萬姓廓然、蒙被更生、澤及二昆蟲一、功垂二萬世一。

【廓然子】13 クワクゼンシ 明、董傳策（9－31433・・244）の號。

【廓然大公】14 クワクゼンタイコウ 廣く萬事萬物に偏頗なく公平なこと。聖人の心を學ぶ君子の學の心構を述べた語。近思錄、道體類にも出てゐる。〔明道文集、三、定性書〕夫天地之常、以下其心普二萬物一而無レ心上、聖人之常、以下其情順二萬事一而無レ情上、故君子之學、莫レ若二廓然大公、而物來而順應一。〔傳習錄、上〕便又多二了這分意志一、便不二是廓然大公一。〔聖學格物通、正心中〕子絕レ四、毋レ意毋レ必毋レ固毋レ我、臣若水通曰、云云、惟聖人之心、廓然大公、物來順應。

【廓大】15 クワクダイ 廣げておほきくする。ひらけて大きい。〔柳宗元、道州文宣王廟碑〕廟舍峻整、階序廓大。

【廓大率】16 クワクダイリツ レンズ其の他機械の力によつて物體の形が廓大して見ゆる率をいふ。

【廓地】17 クワクチ 廓土に同じ。〔孫子、軍爭〕廓レ地分レ利、懸レ權而動。〔漢書、夏侯勝傳〕廓レ地斥レ境、立二郡縣一。

【廓澄】18 クワクチヨウ からりと淸くすむ。〔張仲素、山呼萬歲賦〕文物芬郁、寰瀛廓澄。

【廓塡】19 クワクテン 書執筆法の一。雙鉤（11－42116・・102）に同じ。〔丹鉛錄〕六朝人尙二字學一、臨摹特盛、其曰二廓塡一者、卽今之雙鉤。

【廓土】20 クワクド 地をひろめる。又、廣濶な土地。〔後漢書、朱浮傳〕六國之時其勢各盛、廓土數千里、勝兵將二百萬一。〔晉書、齊王冏傳〕廓土殊分、跨二兼吳楚一。

【廓寧】21 クワクネイ ひろめやすんずる。〔魏書、樂志〕革二靜荒隅一、廓二寧宇內一。

【廓平】22 クワクヘイ ひろめたひらげる。〔後漢書、杜篤傳〕乃廓二平帝宇一、濟二蒸人於塗炭一。

【廓明】23 クワクメイ 淸、金敞（11－40152・・562）の字。

廓然大公、物來順應。

【廓落】24（クワクラク） ㊀大きいさま。〔爾雅、釋詁、弘廓宇穹昄晊大也、注〕廓落宇宙、穹隆至極、亦爲大也。〔疏〕廓落、大貌。〔神仙傳、麻姑〕蔡經常從王君遊山海、或暫歸家、王君亦有書與陳尉、多是篆文、或眞書、字廓落而大、陳尉世世寶之。㊁むなしくさびしいさま。又、志を失ふさま。零落。寂寞。〔楚辭、宋玉、九辯〕廓落兮羈旅而無友生。〔注〕喪妃失耦、塊獨立也、五臣云、廓落空寂也。〔漢書、揚雄傳上〕淋離廓落。〔易林〕大過之剝、廓落失業。〔王勃、遊冀州韓家園序〕家童掃地、蕭條仲舉之園、長者盈門、廓落東平之室。㊂心が廣くさつぱりしてゐるさま。磊落。〔晉書、姚萇載記〕少聰哲、多權略、廓落任率、不修行業、諸兄皆奇之。〔李白、送趙判官赴黔府詩〕廓落青雲心、結交黃金盡。〔白居易、讀謝靈運詩〕謝公才廓落、與世不相遇。

【廓落帶】25（クワクラクタイ） 帶の名。〔太平御覽、服章、帶〕典略曰、文帝嘗賜劉楨廓落帶。

【廓寥】26（クワクレウ） ひろい大空。寥廓。〔皇甫湜、鶴處雞羣賦〕志在廓寥、跡依泥塗。

【繞廓】27（クワクヲメグル） くるわをめぐる。〔林希、吳興詩〕繞廓芙蕖拍岸平、花深蕩槳不聞聲、萬家語在荷香裏、知是人間極樂城。

【廓爾喀】28（グルカ） ネパール中央部に住し、同國の政治軍事の實權を握つた民族。ヒンズー種族に屬し、パルバチア語を用ひる。もとカシミール地方に住したが、漸次ネパールに進出して其の支配權を收め、遂に西藏に侵入す。後、清の乾隆帝に敗られ、清に入貢し、又、英國と國交を結ぶ。Gurkha〔東華錄、乾隆五十七年〕・〔清史稿、高宗紀〕・〔清國行政法汎論、行政組織、藩部、西藏〕。

【廔】9462

🈩（ロウ ル） 〔集韻〕郎侯切 ㄌㄡˊ lou² 〔尤〕

🈔（リュ ル） 〔集韻〕龍珠切 〔虞〕

小篆

🈩㊀まど。あかりまど。〔說文〕廔、屋麗廔也、从广婁聲。〔徐鍇注〕窗疏之屬、麗廔、猶玲瓏也、漏明之象。〔廣韻〕廔、麗廔、綺窻。㊁むね。のき。〔玉篇〕廔、屋脊也。㊂種蒔き道具。耬(9-28971)に通ず。〔說文〕廔、一曰、所㠯種也。〔說文通訓定聲〕廔、別義、按、謂所以種之具、卽杸也、字亦作耬。〔集韻〕廔、一曰、穜也。🈔まど。🈩の㊀に同じ。〔集韻〕廔、窻也。

【廕】9463

イン オン 〔集韻〕於禁切 ㄧㄣˋ yin⁴ 〔沁〕

㊀おほふ。かばふ。かげ。〔玉篇〕廕、庇廕也。〔集韻〕廕、庇也。㊁おかげ。父母の餘澤が子孫に及ぶものをいふ。廕監生(11)を見よ。㊂通じて蔭(9-31840)に作る。〔集韻〕廕、通作蔭。〔爾雅、釋詁、毗・劉、暴、樂也、注〕謂樹木葉缺落廕疏。〔釋文〕廕、又作蔭。㊃陰(11-41691)に通ず。〔禮、祭儀〕陰爲野土。〔注〕陰、讀爲依廕之廕。

【廕庥】1（インキウ） おほひかばふ。〔左氏、文、七〕葛藟猶能庇其本根、〔注〕葛之能藟蔓繁滋者、以本枝廕庥之多。

【廕官】2（インクワン） 父のおかげによつて得る官。廕生(5)・廕監生(11)を見よ。〔清國行政法汎論、文官仕途種類、廕生〕廕官有二種、國家有大慶典、施恩授官於文武官員之子、稱曰恩廕官、又授官於殉難陳亡、或死公事者之子、稱曰難廕官。

【廕子】3（インシ） 功臣の子を優遇すること。蔭子(9-31840··19)に同じ。〔續文獻通考、選擧考、任子〕凡廕無論去任致仕身故、承廕、以嫡長子、有廢疾、立嫡長子之子孫、如無則立嫡長子同母弟及其子孫、如無則立繼室所生、如無則立次室所生、如無則立婢子、絕嗣者旁廕其親、兄弟各及子孫、如無則旁廕伯叔及其子孫、諸用廕者、孫降子、曾孫降孫、婢生子及旁廕者、皆於合敍品、降一等、其廕子入品職者、各循其資考、流升轉遷、自九品依例、遷至三品、止於本等、流轉二品以上選、自特旨、諸職官廕子之後、若有餘子、不得於諸官府自求職事。

【廕敍】4（インジヨ） 父祖の功勞によつて、子孫を官に敍すること。廕補(10)・蔭補(9-31840··39)・蔭敍(9-31840··24)に同じ。任子(1-416··78)の㊀を見よ。〔唐亡名氏撰、李林甫外傳〕自後以廕敍累官至贊善大夫。〔續文獻通考、選擧考、任子、定廕敍法〕金海陵貞元二年定廕敍法、熙宗天眷中、門廕之制、凡一品至八品、皆不限所廕之人、至是定一品至七品各限以數、削八品用廕之制、泰和元年正月、以太府監孫復言門廕太濫、更定廕敍法頒行之、至二年定制、凡諸色出身文武官、一品廕子孫、至曾孫及弟兄姪孫五人、因門廕則五人、二品則子孫至曾孫及弟兄姪五人、因門廕則四人、三品子孫兄弟姪四人、因門廕則三人、四品五品三人、因門廕則二人、六品二人、七品一人、因門廕則六品七品皆一人、爲進納官、正班三品廕四人、雜班三人、正班武略子孫兄弟一人、雜班明威一人、懷遠以上二人、鎭國以上三人、又舊制司天太醫內侍長行、雖至四品、非特恩換授文武官資、不許用廕、以本人見充承廕難使係班故也、是年定、司天太醫遷至四品、文換武官者、廕一人、年六十以上退、與患疾身故者、雖非文武官資、除存習本業外、亦聽廕一人、止一子者則不須習卽廕、成宗大德四年、定諸職官廕敍之制、正一品子則正五品、從一品子則從五品、正二品子則正六品、從二品子則從六品、正三品子則正七品、從三品子則從七品、正四品子則正八品、從四品子則從八品、正五品子則正九品、從五品子則從九品、正六品子流官於巡檢內用、從六品子近上錢穀官、正七品子酌中錢穀官、從七品子近下錢穀官、諸色目人、視漢人優一等、達嚕噶齊子孫與民官同、旁廕依例降等。

【廕生】5（インセイ） 清代、父祖の勳功によつて立身出世する者をいふ。恩廕・難廕の別がある。父祖が現に高官に在るものの子孫は恩廕とし、父祖が王事に歿したものは、其の爵秩を論ぜず、必らず一人を監生として採つた。之を難廕といふ。〔清會典、吏部〕辨任職之等、滿洲蒙古漢軍廕生差以品、其等四、一品官廕生爲一等、二品官廕生爲二等、三品官廕生爲三等、四品官廕生爲四等、公侯伯廕生照一品官、子廕生照三品官、男廕生照四品官。〔清會典事例、吏部、除授〕雍正元年覆准、尚書給予一品官廕生、以員外郎用、侍郎給予二品官廕生、以主事用、總督與尚書同、巡撫與侍郎同。〔清國行政法汎論、文官仕途種類、廕生〕廕生者、謂藉父庇廕得官也。

【廕勢】6（インセイ） 人のおかげによる勢力。〔後漢書、梁皇后紀〕后藉姊兄廕勢、恣極奢靡。

【廕除】7（インヂヨ） 父や先祖のおかげで官位を授けられること。除は任命。廕敍に同じ。

【廕調】8（インテウ） 廕敍に同じ。〔歐陽脩、送楊寘序〕及從廕調、爲尉於劍浦。

【廕庇】9（インピ） おほひかばふ。保護する。おかげを蒙る。おかげ。〔戰國、趙策〕昔者堯見舜於草茅之中、席隴畝而廕庇、桑陰移而天下傳。〔論衡、指瑞〕遇遭雨而廕庇也。〔于邵、爲薛岌謝賜宅狀〕私賜以廕庇之地、永爲子孫之業。

【廕補】10（インポ） 廕敍(4)・蔭補(9-31840··39)に同じ。補は補任。〔續文獻通考、選擧考七、任子〕陶安曰、有虞世賞、岐周世祿、而不世官者、人賢否殊也、逮至周官、以禮樂德行、掌國子之教、然猶考藝進退、未嘗悉世其官、而必任焉、後世廕補法行、或曰、顯官必公卿子弟爲之、以幼習其業、熟朝庭臺閣之儀、或曰、驕驁不通古今、無益於民、宜明選求賢、除任子之令、皆偏見耳、及考漢制、二千石以上、得任子弟、擇茂廉者補令丞、其法良而未備、今制廕補五品以上受命於朝、降自六品省銓掌金穀、且第其上中下、以歲月爲差、至滿始受朝命、許典民政、蓋治民者爲

國之大端㆒、理ㇾ財者經國之要務、將ㇾ俾㆘因ㇾ仕知ㇾ學、練㆓世故㆒涉㆓艱難㆒、以倍㆗其才㆖、然後移以治ㇾ民、故不ㇾ得ㇾ不㆓自ㇾ理ㇾ材始㆒、此則古所ㇾ無也。

【廕監生】11 インカンセイ 清代、文武官の子孫は、父祖の廕によつて、國子監に入つて學生となることが出來た。之を廕監生といふ。廕監生に恩監生・難監生の二種があり、恩監生とは、在京四品以上在外三品以上の文官、及び二品以上の武官の嫡子孫で國子監に入つたものをいひ、難監生とは、公務中、外海・長江・黃河・大湖等で飄歿した大小各官、及び內海・內河で飄歿し、又は軍營勤務中に病死した七品以上の文武官の嫡子孫で、國子監に入つたものをいふ。〔清會典、國子監〕監生之別四、曰廕監生、遇㆓恩詔㆒予ㇾ廕、在京四品以上、在外三品以上文職官、在京在外二品以上武職官、皆廕㆓一子㆒入ㇾ監、又大小各官因ㇾ公差委、在㆓大洋大江黃河洞庭洪澤等湖㆒、遭ㇾ風飄沒身故者、七品以上官、在㆓內洋內河㆒飄沒者、軍營辦事因ㇾ病身故者、均廕㆓一子㆒入ㇾ監。

【廖】
9464

一 レウ 〔集韻〕憐蕭切 蕭

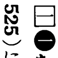
二 レウ 〔集韻〕力弔切 嘯

三 リウ ル 〔集韻〕力救切 宥

ㄌㄧㄠˋ liao⁴

四 チウ チユ 〔集韻〕丑鳩切 尤

五 リウ ル 〔集韻〕力求切 尤


小篆

一 ❶むなしい。うつろ。廫(4-9525)に同じ。〔玉篇〕廫、空虛也、廖、同ㇾ廫。〔韓愈、華山女詩〕座下廖落如㆓明星㆒。❷人名。〔集韻〕廖、闕、人名。〔左氏、昭、二十〕王使㆔召伯廖賜㆓齊侯命㆒。二 姓。三 の❶に同じ。〔集韻〕廖、姓也。三 ❶姓。〔說文新附〕廖、人姓也、从ㇾ广未ㇾ詳、當㆓是省ㇾ廫爾。〔廣韻〕廖、姓、周文王子伯廖之後。〔尙友錄〕廖、汝南武威角音、古有㆓廖叔安㆒、春秋伯飂、其後也、今衡閩中多㆓此姓㆒。❷國の名。〔集韻〕廖、一曰、國名。四五 人名。〔集韻〕廖、闕、人名、春秋周有㆓瑕廖㆒。

【廖寅】1 レウイン 清、鄰水の人。字は亮工。號は復堂。乾隆の進士。朱子學者。初、葉縣の知。後、兩淮鹽運使に累官す。著に詩文集がある。〔清史稿、三百六十八〕・〔國朝耆獻類徵、二百十二〕・〔續碑傳集、三十四〕。

【廖瑀】2 レウウ 宋、雩都の人。字は伯禹。十五歲にして五經に精通し、鄉人、廖五經と稱す。建炎中、茂異を以て薦められたが第せず。堪輿術に通じ、金精山人と自稱した。其の著九星穴法は、後人の僞作といふ。〔四庫提要、一百十一〕。

【廖燕】3 レウエン 清、曲江の人。初名は燕生。字は柴舟。明末甲申崇禎國變の歲に生れ、抗節仕へず、布衣を以て終る。草書を善くし、古文辭に巧。書室を二十七松堂といふ。著に二十七松堂集がある。〔國朝耆獻類徵、四百三十〕・〔國朝詩人徵略、初編、十四〕。

【廖衙】4 レウガ 宋の人。字は仲辰。楊時の姪壻。時の門下に在つて、羅從彥と交遊す。〔宋元學案、二十五〕。

【廖⿰王孝】5 レウカウ 空虛のさま。〔駢雅、釋詁下〕廖⿰王孝、空虛也。〔劉歆、遂初賦〕天烈烈以厲高兮、廖⿰王孝窻以梟窂。

【廖剛】6 レウガウ 宋、順昌の人。字は用中。號は高峯。陳瓘・楊時の弟子。崇寧の進士。宣和の初、監察御史・興化軍知となり、紹興の初、吏部員外郎・御史中丞・工部尙書となる。直言の士。著に高峯文集がある。〔宋史、三百七十四〕・〔宋元學案、二十五・三十五〕。

【廖漢】7 レウカン 明、蒲圻の人。字は天章。弘治の進士。官は南京戶部主事。孤介を以て有名。正德の初、時政を抗論して報いられず、五洪山に隱れて終る。〔本朝分省人物攷、七十六〕。

【廖紀】8 レウキ ❶明、九江衞の人。字は維脩。弘治の進士。官は工部郎中。後、廣政按察副使。❷明、東光の人。字は時陳。諡は僖靖。弘治の進士。嘉靖の初、官は吏部尙書。著に大學管窺・中庸管窺がある。〔明史、二百二〕・〔萬斯同明史、二百七十〕・〔明史稿、一百八十四〕・〔國朝獻徵錄、二十五・二百四〕・〔明名臣言行錄、四十八〕。

【廖玖】9 レウキウ 宋、連州の人。字は粹老。徐州教授より、循潯二州の守となる。

【廖凝】10 レウギヨウ 南唐、衡陽の人。字は熙績。南岳に隱居す。後、連州刺史に起用されたが、尋いで歸隱して仕へず。

【廖顒】11 レウギヨウ 宋の人。玖の子。字は季卬。紹興の進士。官は淳熙中、廣南西路提點刑獄。

【廖欽】12 レウキン 明の人。官は河內丞。廉能の士。〔明史、二百八十一〕・〔萬斯同明史、三百八十九〕・〔國朝獻徵錄、二十二〕。

【廖謹】13 レウキン 明、南海の人。字は愼初。字を以て行はる。博く經史に通じ、世に寥五經と號せらる。解縉が交趾參議となり、謹と議論し、加ふる能はず、名儒を以て之を稱す。明經を以て擧げられて四會訓導・南安教授に至る。著に澹交文集がある。〔國朝獻徵錄、八十九〕・〔明名人傳、二十五〕。

【廖化】14 レウクワ 蜀漢、襄陽の人。本名は淳。字は元儉。關羽の主簿。後、劉備に歸し、宜都太守を拜命。劉禪の時、右車騎將軍幷州刺史に遷り、中鄉侯に封爵さる。〔三國志、四十五〕。

【廖廓】15 レウクワク 廣く遠いさま。寥廓。〔素問、天元紀大論〕太虛廖廓、肇基化元、萬物資ㇾ始、五運終ㇾ天。〔白虎通、號〕虛無廖廓、與㆓天地㆒通ㇾ靈也。

【廖嶢】16 レウゲウ 宋、順昌の人。字は次山。文に巧。元符中、太學に入る。著に雲漢集がある。

【廖謙】17 レウケン 宋、衡陽の人。字は益仲。朱熹に從ひて南嶽に講學す。

【廖洪】18 レウコウ 唐、筠州の人。孝子を以て著る。唐書孝友傳序に、萬載人に作る。〔唐書、一百九十五〕。

【廖莊】19 レウシヤウ レウサウ 明、吉水の人。字は安止。號は東山。諡は恭敏。宣德の進士。官は刑科給事中南大理少卿。景泰中、代宗に上奏して善く上皇に事へんことを勸めて、定羌驛丞に貶謫され、天順の初、召還されて刑部左侍郎に歷任す。著に廖恭敏佚稿がある。〔明史、一百六十二〕・〔萬斯同明史、二百十九〕・〔明史稿、一百四十七〕・〔國朝獻徵錄、三十七・四十六〕。

【廖叔】20 レウシユク 複姓。〔通志、氏族略、以㆓國系㆒爲ㇾ氏〕廖叔氏、古飂叔安之後、秦惠公有㆓大夫廖叔㆒。

【廖淳】21 レウジユン 廖化(14)を見よ。

【廖昇】22 レウシヨウ 明、襄陽の人。方孝儒の友。洪武の末、左府斷事より太常少卿に拔擢さる。燕師江を渡ると聞き、自縊す。著に太祖實錄がある。〔明史、一百四十三〕・〔萬斯同明史、一百八十五〕・〔明史稿、一百三十二〕・〔國朝獻徵錄、七十〕・〔明名臣言行錄、十〕。

【廖井】23 レウセイ 廖氏の井。長壽の水を出すといふ井。〔抱朴子、仙藥〕余亡祖鴻臚少卿、曾爲㆓臨沅令㆒、云、此縣有㆓廖氏家㆒、世世壽考、或出㆓百歲㆒、或八九十、後徙去、子孫多㆓夭折㆒、他人居㆓其故宅㆒、復如ㇾ舊、後累世壽考、由ㇾ此覺㆓是宅之所ㇾ爲、而不ㇾ知㆓其何故㆒、疑㆓其井水殊赤㆒、試掘㆓井左右㆒、得㆓丹古人埋砂數十斛㆒、此丹砂汁因ㇾ泉漸入ㇾ井、是以飮㆓其水㆒而得ㇾ壽。〔蘇軾、和㆔陶讀㆓山海經㆒詩〕廖井窖㆓丹砂㆒、紅泉湧㆓尋常㆒。

【廖棠】24 レウタウ 晉、將樂の人。字は實卿。泰寧の雲蓋山に隱れて讀書し、終歲出でず。王羲之、其の賢を聞いて徵するも固辭して赴かず。

【廖中】25 レウチユウ 明、順昌の人。字は用中。成化の進士。官は刑部員外郎・山東副使。

【廖沖】26 レウチユウ 梁、桂陽の人。字は清虛。儒教を以て名を知らる。官は主簿・西曹祭酒。湖東王繹の常侍となり、規諫する所多かつたが、後、疎薄となり、靜福山中に廬を結んだ。

【廖扶】27 レウフ 後漢、平輿の人。字は文起。召されたが就かず。時人、北郭先生といふ。韓詩・歐陽尙書、及び天文・讖緯・風角・推步の術に通ず。〔後漢書、一百十二上〕。

【廖平】28 レウヘイ 清、四川井研の人。字は季平。又、登廷。號は學齋。光緒の進士。成都に在つて孔教扶輪社を組織し、專ら子弟の教育に從事したが、一九三二年病逝した。春秋公羊學の泰斗で、近代中國第一の學者。書室を六譯館といふ。著に五經註疏・六譯館叢書等がある。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【廖謨】29（レウボ） 明、泰和の人。字は文續。永樂の進士。正統の間、河閒府の長官となる。〔萬斯同明史、二百十二〕・〔國朝獻徵錄、八十二〕。

【廖融】30（レウユウ） 五代、楚の衡陽の人。一名は容。字は元素。衡山に隱れ、衡山居士と號す。任鵠・凌蟾・王正己・王元相と親交があつた。

【廖容】31（レウヨウ） 廖融を見よ。

【廖鏞】32（レウヨウ） 明の人。永忠の孫。官は散騎舍人・都督。建文の時、殿廷に宿衞。方孝孺の弟子。〔明史、一百二十九〕・〔萬斯同明史、一百八十三〕・〔明史稿、一百三十二〕・〔國朝獻徵錄、一百六〕。

【廖落】33（レウラク） きはめてまれなこと。〔韓愈、華山女詩〕座下廖落如㆓明星㆒。

【廖立】34（レウリツ） 蜀漢、臨沅の人。字は公淵。劉備の時、官は長沙太守・侍中。劉禪の時、長永校尉に轉ず。〔三國志、四十〕。

【廖有衡】35（レウイウカウ） 宋の人。翰の孫。字は致平。熙寧の進士。官は朝議大夫。家に荔枝二株あり、黃庭堅が綠荔廖氏といつた。

【廖雲錦】36（レウウンキン） 清、江蘇華亭の人。字は織雲。號は錦香居士・蕊珠。馬氏に嫁し、早くより寡となる。著に織雲樓詩稿がある。〔清畫家詩史、癸、上〕・〔清代閨閣詩人徵略、六〕。

【廖永安】37（レウエイアン） 明、巣の人。字は彥敬。謚は武閔。元末、明、太祖に歸して戰功あり、同知樞密院事に拔擢さる。吳將呂珍と戰ひ、執へられ、吳に死す。鄖國公に改め封ぜらる。〔明史、一百三十三〕・〔萬斯同明史、一百六十九〕・〔明史稿、一百二十一〕・〔國朝獻徵錄、六〕。

【廖永忠】38（レウエイチュウ） 明の人。永安の弟。太祖を巣湖に迎ふ。永安が吳に敗れるや、其の職を襲いで樞密僉院と爲り、其の軍を總べて戰功あり。洪武の初、閩中諸郡を略定して、征南將軍を拜命し、德慶侯に封爵さる。後、事に坐して死を賜はる。〔明史、一百二十九〕・〔萬斯同明史、一百六十三〕・〔明史稿、一百十八〕・〔國朝獻徵錄、八〕。

【廖瑩中】39（レウエイチュウ） 宋、邵武の人。字は羣玉。號は藥洲。賈似道の客となる。咸淳中、淳化閣帖・絳帖を翻刻す。書室を世綵堂といふ。

【廖燕生】40（レウエンセイ） 廖燕(3)を見よ。

【廖應淮】41（レウオウワイ） 宋、南城の人。字は學海。號は溟涬生。嘗て漢陽軍に配され、蜀人杜可大之を營將にいひ、戍籍を脫するを得、且つ邵康節の先天易數を授く。著に曆髓・星野指南・象滋說會補・畫前妙旨がある。〔新元史、二百四十二〕・〔宋元學案、七十八〕。

【廖家沖】42（レウカチュウ） 地名。㊀湖南省鳳凰縣の東北。清の嘉慶元年、福康安が苗を征して、此處に病歿す。硝を產す。㊁湖南省安化縣。石炭を產す。

【廖行之】43（レウカウシ） 宋、衡州の人。字は天民。號は省齋。淳熙の進士。巴陵尉を拜命。老親の故を以て歸り、寧鄉主簿を授けられて就かず。著に省齋集・省齋詩餘がある。〔四庫提要、一百六十二〕。

【廖希賢】44（レウキケン） 明、茶陵の人。字は叔愚。嘉靖の進士。官は工部主事・郎中・山西提學・浙江按察使。〔勝朝殉節諸臣錄、九〕。

【廖匡圖】45（レウキヤウヅ） 五代、楚の虔州の人。字は贊禹。馬氏の幕下に辟されて天策府學士となる。

【廖君玉】46（レウクンギョク） 宋、荊州の人。字は國華。元祐中、朝請郎を以て英州の長官となる。書堂を桂山に建て紫桂堂といふ。

【廖元度】47（レウゲンド） 清、長沙の人。字は大隱。諸生。經史に通じ、詩に巧。吳三桂の亂に、其の財を毀り、僧寺に孑居す。書室を息機園・雪蕉堂といふ。著に雪蕉堂・息機園集あり。〔國朝耆獻類徵、四百二十八〕。

【廖五經】48（レウゴケイ） 廖謹(13)を見よ。

【廖鴻章】49（レウコウシャウ） 清、福建永定の人。字は羽明。號は南厓。乾隆の進士。官は檢討。書室を南雲書屋といふ。著に南雲書屋文集がある。

【廖鴻荃】50（レウコウセン） 清、侯官の人。字は鈺夫。謚は文恪。嘉慶の進士。官は道光中、工部尚書。後、太常寺卿。

【廖國遴】51（レウコクリン） 明、長沙の人。字は孟符。崇禎の進士。官は揚州推官・戶科給事中。守邊策を上奏す。後、同鄉の熊開元が周延儒を劾するや、國遴を忌む者が、疏は國遴の手に出づと謂ふ。他事を以て下獄す。〔小腆紀年、四〕。

【廖執象】52（レウシッシャウ） 宋、順昌の人。字は遜父。七歲にして詩を能くし、甫めて冠して京師に入り、詩文を獻ず。省試に赴いたが、疾を以て卒す。初め、陳摶が之を見たとき、子は謫仙人なり、久しく塵世に留る能はずといつた。文集がある。

【廖壽恒】53（レウジュコウ） 清の人。壽豐の弟。字は仲山。同治の進士。官は內閣學士・河南學政・禮部尚書・軍機大臣。拳匪の變に壽恒を忌む者に排せられ、罷め歸る。〔清史稿、四百四十五〕・〔清史列傳、六十一〕・〔碑傳集補、五〕。

【廖壽豐】54（レウジュホウ） 清、嘉定の人。字は穀似。一の字は闇齋。晚號は止齋。同治の進士。官は編修・浙江巡撫。其の學は孔孟程朱を宗とし、勾股算經に通じた。〔續碑傳集、三十二〕。

【廖人俊】55（レウジンシュン） 元、寧都の人。號は冰崖。好學にして詩に巧。李白の詩を愛し、補注を作る。著に冰崖集がある。

【廖正一】56（レウセイイツ） 宋の人。正古の弟。字は明略。元豐の進士。元祐中、館職に召試され、正字に除せらる。出でて常州の長官となる。後、元祐黨籍に入り、自ら竹林居士と號す。著に白雲・雲溪の二集がある。

【廖正古】57（レウセイコ） 宋、將樂の人。字は明遠。治平の進士。官は西安縣知。著に歸田集がある。

【廖大受】58（レウタイジュ） 清、福建の人。字は君可。畫に秀づ。〔國朝畫識、十三〕。

【廖道南】59（レウダウナン） 明、蒲圻の人。字は鳴吾。號は玄素子(元素子)。正德の進士。翰林侍講學士に歷官。歸田の後、世宗のために楚紀六十卷を作り、又、殿閣詞林記を著す。〔國朝獻徵錄、十九〕・〔明人小傳、二〕・〔本朝分省人物攷、七十六〕。

【廖仲愷】60（レウチュウガイ） 民國、惠陽の人。名は恩煦。字を以て行はる。米國に生る。年十七にして歸國し、日本に留學し、經濟學を專攻す。清末、孫文に從ひて革命に奔走す。民國になつて官は財政部長・廣東省長・財政廳長に歷任す。後、暗殺さる。譯著に全民政治がある。

【廖廷相】61（レウテイシャウ） 清、南海の人。字は澤羣。光緒の進士。翰林に入る。詞章を爲るに專ら漢魏六代を法とす。

【廖天覺】62（レウテンカク） 宋、順昌の人。字は仲先。紹聖の進士。官は餘姚知縣。後、朝請大夫。著に魚山集がある。

【廖騰煃】63（レウトウケイ） 清、將樂の人。字は占五。號は蓮山。康熙の擧人。官は戶部侍郎。

【廖德明】64（レウトクメイ） 宋、順昌の人。字は子晦。朱熹の弟子。乾道の進士。官は吏部左選郎官。著に文公語錄・春秋會要・槎溪集がある。〔宋史、四百三十四〕・〔宋元學案、六十九〕。

【廖邦傑】65（レウハウケツ） 宋、順昌の人。字は懷英。官は淳祐中、建寧縣知。政績あり。

【廖復之】66（レウフクシ） 宋、建寧の人。字は仁敬。嘉定の進士。官は沅陵簿。後、陵水に轉じ、羅鑾を諭し服させた。

【廖文昌】67（レウブンシャウ） 明、福建沙縣の人。字は克盛。永樂の擧人。官は御史・兩廣巡按。致仕して歸り、鄧茂七の亂に執へられて死す。〔崇禎五十宰相傳、五〕・〔本朝分省人物攷、七十三〕。

【廖用賢】68（レウヨウケン） 明、建寧の人。字は賓宇。號は吸露齋。諸生。同鄉の陳一言等と詩社を結ぶ。著に尚友錄・吸露齋集がある。〔四庫提要、一百三十八〕。

【廗】9465 タイ 〔集韻〕當蓋切 泰

㊀**いへがゆがむ**。〔玉篇〕廗、邪廗也。〔集韻〕廗、屋邪。㊁**川の名**。〔魏書、宕昌羌傳〕其地自㆓仇池㆒以西、東西千里、廗水以南、南北八百里。

【廘】9466 ロク 〔集韻〕盧谷切 屋

こめぐら。〔玉篇〕廘、庾也、倉也。

【⿸广向】9467 セウ 鍪(**11－40642**)に同じ。〔集韻〕鍪、或作㆑⿸广向。

【⿸广雍】9468 ヨウ 廱(**4**－**9554**)に同じ。〔玉篇〕⿸广雍、同レ廱。

【⿸广徙】9469 シ 義未詳。〔玉篇〕⿸广徙、色倚切。

【⿸广崔】9470 サイ スイ 〔集韻〕祖猥切 賄 ⿸广崔⿸广崔は、物の垂れるさま。〔集韻〕⿸广崔、⿸广崔⿸广崔、垂兒。

【⿸广脹】9471 ヘイ 〔篇海〕音病 **奥まつた人氣のないところ。又、かたはら。**〔篇海類編〕⿸广脹、隱僻無レ人處、又側也。

【⿸广尻】9472 シヤク 〔篇韻〕戸灼切 藥 **病を治す。**〔篇韻〕⿸广尻、治レ病也。

【⿸广恢】9473 クワイ 恢(**4**－**10577**)に同じ。〔字彙補〕⿸广恢、與レ恢同。

【⿸广魚】9474 ギヨ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿸广魚、音魚。

【⿸广祭】9475 ド ⿸广祭(**2**－**3011**)の譌字。〔康熙字典〕⿸广祭、按、卽⿸广祭字之譌。

十二畫

【⿸广番】9476 ハン 〔集韻〕鋪官切 寒 ㊀**そばだつたいへ。**〔集韻〕⿸广番、峙居也。㊁**たくはへる。**〔集韻〕⿸广番、儲レ物也。

【⿸广衮】9477 チツ 秩(**8**－**24998**)の古字。〔海篇〕⿸广衮、古文秩。〔康熙字典〕⿸广衮、按、諸字書、秩字無二此文一、當二是譌字一。

【廙】9478 [一]ヨク イキ 〔集韻〕逸織切 職 [二]イ 〔集韻〕羊吏切 寘 [三]イ 〔集韻〕羊至切 寘

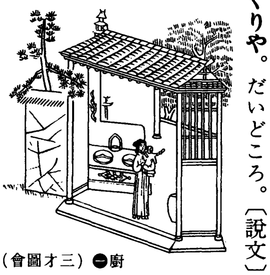
小篆

[一]㊀**てんまく。**幕舍。或は弋(**4**－**9228**)に作る。〔說文〕廙、行屋也、从レ广異聲。〔段注〕行屋、所謂幄也。〔集韻〕廙、或作レ弋。㊁**つつしむ。**うやまふ。翼(**9**－**28818**)に通ず。〔說文通訓定聲〕廙、叚借爲レ翼、魏丁廙、字敬禮。〔廣韻〕廙、敬也。㊂**姓。**〔萬姓統譜〕廙、見二姓苑一。[二]**つつしむ。**うやまふ。[一]の㊁に同じ。〔廣韻〕廙、恭也、敬也。[三]**ひさし。**〔集韻〕廙、廡也。

【廚】9479 チユウ ヂユ 〔集韻〕重株切 虞 ㄔㄨˊ ch'u² 慣チユウ・ヅ

小篆

㊀**くりや。**だいどころ。〔說文〕廚、庖室也、从レ广尌聲。㊁**たてば。**街道の飲食店。〔漢書、王莽傳中〕廚傳勿レ舍。〔注〕師古曰、廚、行道飲食處。㊂**料理人。**〔一切經音義、十五〕廚、主レ食者也。㊃**仁惠ある人士。主人。**〔玉篇〕廚、主也。〔後漢書、黨錮傳〕度尙・張邈・王考・劉儒・胡母班・秦周・蕃嚮・王章爲二八廚一、廚者、言三能以レ財救二人者一也。㊄**やづつ。**〔集韻〕廚、一曰、箭室。㊅**はこ。ひつ。**簞笥。〔字彙〕廚、櫝也。〔晉書、文苑、顧愷之傳〕嘗以二一廚畫一、糊二題其前一、寄二桓玄一。〔南史、齊陸澄傳〕王儉戲レ之曰、陸公、書廚也。㊆**木の名。**〔集韻〕廚、一曰、斯條國有二廚木一、汁肥、可二用煑一レ餠。㊇**俗に厨(2－3005)に作る。**〔說文通訓定聲〕廚、俗字誤作レ厨。㊈**姓。**〔字彙〕廚、姓。


(三才圖會) ㊀廚

【廚煙】1 チユウエン くりやのけむり。〔岑參、漢上題二韋氏莊一詩〕水痕侵二岸柳一、山翠借二廚煙一。〔杜甫、題二新津北橋樓一詩〕池水觀二爲政一、廚煙覺二遠庖一。〔李端、贈二薛戴一詩〕廚煙當レ雨絕、階竹連レ窗暝。

【廚園】2 チユウエン くりやの用に供する菜園。〔晉書、陳騫傳〕親兵百人、廚田十頃、廚園五十畝、廚士十人、器物經用、皆留給焉。

【廚屋】3 チユウヲク くりや。〔世範〕蓋廚屋多時不レ掃、則埃墨易レ得二引火一。

【廚下】4 チユウカ だいどころ。〔晉書、衞恒傳〕恒還經二廚下一、收レ入正レ食、因而遇レ害。〔王建、新嫁娘詩〕三日入二廚下一、洗レ手作二羹湯一。

【廚下兒】5 チユウカジ 料理人。廚夫。〔吳志、甘寧傳〕寧廚下兒曾有レ過、走投二呂蒙一、蒙恐二寧殺一レ之、故不二卽還一、後寧齎レ禮、禮二蒙母一、臨二當與升一レ堂、乃出二廚下兒一還レ寧、寧許レ蒙不レ殺、斯須還レ船、縛置二桑樹一、自挽レ弓射二殺之一。

【廚家】6 チユウカ だいどころ。〔太政官式〕凡廚家「雜物。

【廚香】7 チユウカウ くりやのにほひ。〔白居易、偶吟詩〕廚香炊レ黍調二和酒一、窗暖安レ絃拂二拭琴一。

【廚寒】8 チユウカン くりやがさむい。〔白居易、村居詩〕門閉仍逢レ雪、廚寒未レ起レ煙。

【廚監】9 チユウカン くりやの長官。〔後漢書、順帝紀〕永寧元年、立爲二皇太子一、延光三年、安帝乳母王聖・大長秋江京・中常侍樊豐、譖二太子乳母王男・廚監邴吉一殺レ之。

【廚櫃】10 チユウキ 鼠入らず。戸棚。簞笥とひつ。櫥櫃。

【廚饎】11 チユウキ チユウシ くりや。酒食を造るところ。〔唐書、刑法志〕凡役、男子入二于蔬圃一、女子入二于廚饎一。

【廚廏】12 チユウキウ ㊀官名。漢、置く。太子官の屬。廚廏を掌る。〔漢書、百官公卿表上〕詹事、秦官、掌二皇后太子家一、有レ丞、屬官有二太子率更・家令丞・僕・中盾衞率・廚廏長丞一。㊁くりやとうまや。〔唐書、李朔傳〕其爲レ賊、執二事帳內一、廚廏斯役、悉用二其舊一使レ不レ疑。

【廚畫】13 チユウグワ くりやにゑがいた畫。〔庾肩吾、謝二東宮古迹一啓〕石書有レ暗、廚畫猶飛。

【廚宰】14 チユウサイ くりやで烹飪を主る者。料理人。〔急就篇、三〕廚宰切割給二使令一。〔注〕廚、庖屋也、宰主二烹飪一者。〔魏志、王粲傳、注〕魏略曰、乃命二廚宰一、酒炙交至。〔唐書、韓思彥傳〕思彥敕二廚宰一、飮以レ乳。

【廚倉】15 チユウサウ くりや。〔鹽鐵論、西域〕此所謂食二於廚倉一、而戰二於門郊一者也。

【廚竈】16 チユウサウ 臺所のかまど。〔李白、玉眞公主別館苦レ雨贈二衞尉長卿一詩〕廚竈無二青煙一、刀机生二綠蘚一。〔世範〕火之所レ起、多從二廚竈一。

【廚萐】17 チユウサフ 帝堯の時、庖廚に生じた瑞草。萐莆。〔梁昭明太子、七契〕廚萐梃茂、堦蓂吐レ芳。〔張九齡、謝レ賜二御書喜雪篇一狀〕雖二廚萐每搖、而野芹徒獻一、豈云二堯舜之膳一、冀レ達二臣子之情一。

【廚爨】18 チユウサン くりやでかしぐ。〔張喬、隱巖陪二鄭少師一夜坐詩〕硯磨清澗石、廚爨白雲樵。

【廚士】19 チユウシ くりやの事に服する士。〔晉書、陳騫傳〕親兵百人、廚田十頃、廚園五十畝、廚士十人、器物經用、皆留給焉。

【廚子】20 チユウシ ㊀料理人。〔李商隱雜纂、失本體〕不レ持二刀砧一、失二廚子體一。㊁シツ ㋑側面に兩扉などを附け、中に棚がある容器。調度・書籍等を入れる。〔箋注倭名類聚抄、器皿部、木器〕廚子、云云、竪櫃、廚子別名也。〔續日本後紀、十九〕其獻物、黑漆平文廚子十基。㋺佛像を安置する兩扉の容器。〔下學集、下〕廚子、佛舍。㋩中古の家作に於

て、今の押入のやうに家に取附けた棚で、兩扉があるもの。〔長門本平家物語、三〕民の家につしといふ所あり。㊁見世棚をいふ。京都の方言。〔嬉遊笑覽〕。

【廚司】21 チュウシ　くりやのつかさ。料理人。〔雲仙雜記〕成都薛氏家、士風甚美、廚司以二半瓠一爲レ杓、子孫就レ食、鰕羹肉臠一取レ之、飯再取レ之。〔胡銓、經筵玉音問答〕旨二呼內侍廚司一滿頭花辦酒。

【廚車】22 チュウシャ　食物を載せる車。〔漢書、劉屈氂傳〕有レ詔載二屈氂廚車一以徇。〔注〕師古曰、廚車、載レ食之車也。

【廚城】23 チュウジャウ　漢の長安城北の第二門の名。〔三輔黃圖、一、都城十二門〕長安城北第二門曰二廚城門一、長安廚在二門內一、因爲二門名一、王莽更名二建子門廣世亭一。

【廚處】24 チュウショ　くりや。〔新書、匈奴〕善二廚處一、大二困京一。

【廚食】25 チュウショク　くりやの食物。食料。〔應璩、與二韋仲將一書〕人非二神仙一、須レ仰二衣食一、方今體寒心飢、憂在二旦夕一、而欲下東希二許昌治レ生之物一、西望中陵縣廚食之祿上、誠恐レ將下爲二牛蹄中魚一、卒中鮑氏之肆上矣。

【廚食錢】26 チュウショクセン　宋代、職事官に本俸以外に賜はつた食費。〔宋史、職官志十二〕內外官有二添支料錢一、職事官有二職錢廚食錢一、職二纂修一者有二折食錢一。

【廚人】27 チュウジン　❶料理人。廚夫。庖人。〔戰國、燕策〕與二代王一飮、而陰告二廚人一曰、卽酒酣樂、進二熱歠一、卽因反レ斗擊レ之。〔史記、張儀傳〕廚人進斟。〔南史、梁安成康王秀傳〕性仁恕、喜慍不レ形二於色一、在レ都、旦臨二公事一、廚人進レ食、誤覆レ之、去而登レ車、竟レ朝不レ飯、亦弗二之誚一也。❷複姓。〔萬姓統譜〕廚人氏、周禮廚人、因レ官爲レ氏。

【廚船】28 チュウセン　食物を造つて他船に配給する船。〔花蕊夫人、宮詞〕廚船進レ食簇時新、侍坐無レ非二列近臣一。〔續聞見近錄〕諸綱有二廚船一、今則爲二押綱廚船一矣、故事置二廚船一者爲二全綱一、諸船不レ得レ動レ火、惟廚船造レ飯以給二諸船一、一無二火燭之虞一、二無二盜米之弊一。

【廚錢】29 チュウセン　くりやのまかなひ錢。〔魏志、毌丘儉傳、注〕儉欽等表曰、近者領軍許允當下爲二鎭北一、以二廚錢一給賜上。〔宋史、舒亶傳〕亶在二翰林一、受二廚錢一越レ法、三省以聞、事下二大理一。

【廚饌】30 チュウセン　膳立した食物。〔列子、周穆王〕王之廚饌、腥螻而不レ可レ饗。〔宋書、庾悅傳〕悅廚饌甚盛、不二以及レ毅。

【廚膳】31 チュウゼン　調理した食物。食膳。膳部。〔列子、黃帝〕徹二鍾懸一、減二廚膳一。〔張衡、南都賦〕若二其廚膳一、則有二華薌重秬一。〔晉書、何曾傳〕廚膳滋味、過二於王者一。

【廚刀】32 チュウタウ　庖刀。〔國朝漢學師承記、徐復〕俄頃婦醒、遽入レ廚、取二廚刀一自刎死。

【廚帳】33 チュウチャウ　くりやのとばり。〔南史、梁宗室上、蕭明傳〕太淸元年、爲二豫州刺史一、百姓詣レ闕、拜表言二其德政一、樹二碑于州門內一、及二碑匠採レ石出レ自二肥陵一、明乃廣營二廚帳一、多召二人物一、躬自率領牽至レ州、識者笑レ之曰、王自立レ碑、非二州人一也。〔梁武帝、禁二止私利一詔〕至三于民閒誅二求萬端一、或供二廚帳一、或供二廏車一、或遣二使命一、或待二賓客一、皆無二自費一、取二給於民一。

【廚娘】34 チュウヂャウ　くりやの仕事に從事する女。〔玉臺書史、姬侍、宋〕廚娘、京師中下之戶、每育レ女、則愛二護之一、稍長則隨二其資質一、教以二藝業一、用備三士大夫採二擇娛侍一、名目不レ一、就レ中廚娘最爲二下色一、然非二極豪貴家一不レ可レ用。〔江行雜錄〕士太夫採二拾娛侍一、名目不レ一、有二所謂身邊人・本事人・供過人・針線人・堂前人・劇雜人・拆洗人・琴童・棋童・廚娘等級一、截乎不レ紊、就レ中廚娘最下色、然非二極富貴家一不レ可レ用。

【廚中】35 チュウチュウ　くりやの中。〔說苑、尊賢〕田饒對曰、廚中有二臭肉一、則門下無二死士一。〔宋書、符瑞志上〕廚中自生レ肉、其薄如レ箑、搖動則風生、食物寒而不レ臭、名曰二箑脯一。〔魏書、高允傳〕是日幸二允第一、惟草屋數閒、布被縕袍、廚中鹽菜而已。〔高適、漣上題二樊氏水亭一詩〕亭上酒初熟、廚中魚每鮮。

【廚丁】36 チュウテイ　料理人。〔陳造、戲作詩〕佳辰府公約把レ酒、嚴斥廚丁預節レ口。

【廚田】37 チュウデン　くりやの用に供する田。〔晉書、陳騫傳〕親兵百人、廚田十頃、廚園五十畝、廚士十人、器物經用、皆留給焉。

【廚傳】38 チュウデン　飮食と旅舍。廚庖と驛傳。〔漢書、宣帝紀〕或擅興二繇役一、飾二廚傳一。〔注〕韋昭曰、廚、謂二飮食一、傳、謂二傳舍一。〔蘇軾、上二神宗皇帝一書〕若凋弊太甚、廚傳蕭然、則似二危邦之陋風一、恐非三太平之盛觀一。〔演繁露〕漢宣帝、元康二年詔曰、吏或擅興二徭役一、飾二廚傳一、以稱二過使者一、按廚傳、兩事也、廚、庖也、以二好飮食一供二過客一、則爲レ飾レ廚也、傳者驛也、具二車馬一、資二行役一、則爲レ飾レ傳也、今人合二廚傳一爲レ一、槩謂二豐饌一爲二廚傳一、非也。

【廚庖】40 チュウハウ　くりや。庖廚。轉じて、料理をいふ。〔長孫佐輔、山行書レ事詩〕翁喜二客來至一、客來羞二廚庖一。

【廚房】41 チュウバウ　だいどころ。くりや。正房（6－16255・・372）の❶を見よ。〔鄉談正音〕廚房又廚下。〔紅樓夢、二十二回〕彼時惠能在二廚房一碓レ米。

【廚畔】42 チュウハン　くりやのかたはら。〔羅隱、撫州別二阮兵曹一詩〕內史宅邊今獨恨、步兵廚畔舊相容。

【廚婢】43 チュウヒ　廚娘（34）に同じ。〔膳夫錄〕蔡太師京、廚婢數百人、庖子亦十五人。

【廚費】44 チュウヒ　くりやの入費。〔魏書、甄琛傳〕乃納二晰女一爲レ妻、婚日詔給二廚費一。

【廚夫】45 チュウフ　料理人。コック。〔淸國行政法汎論、宦官、備考一〕在二屋內之職務一、則爲二廚夫女婢之事一。

【廚府】46 チュウフ　くりや。〔雲笈七籤〕第二十神仙經曰、胃爲レ倉、三皇五帝之廚府也、房心爲二天子之宮一、諸神皆就二太倉中一飮食、故胃爲二大倉一。

【廚釜】47 チュウフ　くりやの釜。〔宋史、李濤傳〕時中書廚釜鳴者數四。

【廚婦】48 チュウフ　くりやの仕事をする婦人。〔陳造、謝三韓幹送二絲糕一詩〕國家廚婦一百技、三春九浙付二重羅一。

【廚兵】49 チュウヘイ　くりやの仕事をする兵士。〔魏書、崔光傳〕供頓候迎、公私擾費、廚兵幕士、衣履敗穿、晝暄夜凄、罔レ所二覆藉一。

【廚米】50 チュウベイ　くりやに用ひる米。〔唐書、選擧志上〕頃年戎車屢駕、諸生輟レ講、宜下追二學生一在レ館習業、度支給中廚米上。

【廚吏】51 チュウリ　廚房係の役人。〔雲仙雜記〕吳興米炊レ之甑香、白馬豆食レ之齒醉、虢國夫人廚吏鄧連、以二此米一擣爲二透花餻一、以レ豆洗レ皮、作二靈沙臛一、以供二翠鴛堂一。〔劉孝威、謝三東宮賚二鹿脯等一啓〕遠歸二於廚吏一、入二貢於腊人一。

【廚廩】52 チュウリン　くりやと米ぐら。〔宋史、胡仲堯傳〕累世聚居、至二數百口一、構二學舍於華林山別墅一、聚二書萬卷一、大設二廚廩一、以延二四方遊學之士一。

【廚冷】53 チュウレイ　くりやのひややかなこと。貧乏の形容。〔白居易、酬二夢得貧居詠懷見一レ贈詩〕廚冷難二留レ烏止一レ屋、門閑可二與レ雀張一レ羅。

【廚料】54 チュウレウ　くりやのまかない料。〔宋史、職官志十一、廚料〕節度使、副以下、各給二廚料六斗、麪一石二斗一。

【廚鹿】55 チュウロク　くりやに在つて料理されるしか。〔南齊書、王融傳〕雖二窮鳥必啄一、固等二命于梁鶉一、困獸斯驚、終竝二懸于廚鹿一。

【廚簏】56 チュウロク　竹のはこ。竹篋。又、はこ。〔南齊書、崔慰祖傳〕臨レ卒與二從弟緯書一云、常欲三更注二遷固二史一、採二史漢所レ泥二百餘事一、在二廚簏一、可三檢寫レ之以存二大意一。〔皮日休、秋晚訪二李處士所一レ居詩〕書閣鼠穿廚簏破、竹園霜後桔槔閑。

【廚養臣】57 チュウヤウシン　臺所を司るしもべ。料理人。〔說苑、臣術〕晏子侍二於景公一、朝寒請レ進二熱食一、對曰、嬰非二君之廚養臣一也、敢辭、公曰、請進二服裘一、對曰、嬰非二田澤之臣一也、敢辭。

【⿸广貴】9480

タイ　ヅイ　〔字彙〕徒回切　灰

❶**下が重い**。〔字彙〕⿸广貴、下重也。❷隤（11－41849）の譌字。〔正字通〕⿸广貴、隤字之譌。

【⿸广爲】9481

ヰ　〔玉篇〕王委切　紙

うつくしい。〔玉篇〕⿸广爲、美也。

【⿸广散】9482 セン

⿸广散(4－9533)に同じ。〔集韻〕⿸广散、或作㆑⿸广散。

【廛】9483 テン デン 〔集韻〕澄延切 先 ㄔㄢˊ ch'an^{2}

小篆

㊀やしき。すまひ。一家の居住する二畝半の宅地。〔說文〕廛、二畝半也、一家之凥、从㆓广里八土㆒。〔段注〕古者、在㆑野曰㆑廬、在㆑邑曰㆑里、各二畝半、云云、里、卽廛也、云云、里者、凥也、八土、猶㆓分土㆒也、亦謂㆓八夫同井㆒也、以㆓四字㆒會意。〔方言、三〕廛、凥也、東齊海岱之閒、或曰㆑廛。〔周禮、地官、載師〕以㆓廛里㆒任㆓國中之地㆒。〔注〕廛、民居之區域也。〔孟子、滕文公上〕願受㆓一廛㆒而爲㆑氓。〔注〕廛、居也。〔荀子、王制〕定㆓廛宅㆒。〔注〕廛、謂㆓市內百姓之居㆒。㊁田。百畝の田。〔潘岳、藉田賦〕儼㆓儲駕於廛左㆒兮。〔注〕善曰、在㆓廛左㆒、以待㆓天子躬親履㆑之、耕以儲畜㆒、云云、晉灼漢書曰、廛、一百畝也。㊂みせ。又、店舖稅。〔集韻〕廛、一曰、市㆑物邸舍。〔禮、王制〕市廛而不㆑稅。〔注〕廛、市㆑物邸舍、稅㆓其舍㆒、不㆑稅㆓其物㆒。〔孟子、公孫丑上〕市廛而不㆑征、法而不㆑廛。㊃川の名。瀍(7－18602)に通ず。〔淮南子、本經訓〕導㆓廛澗㆒。〔書、禹貢〕瀍澗。㊄或は壥(3－5572)・壇(3－5372)・㕓(4－9343)・鄽(11－39718)に作る。〔集韻〕廛、或从㆑土、亦作㆓壥・壇・㕓・鄽㆒。

解字 會意。广と里と八と土との合字。广は屋、里は居、八土は分土。男一人に屋をたてるために配分せられた村里の土地を意味する文字。故に、本義をやしきの義とす。轉じて、みせの義に用ふ。〔說文〕廛、从㆓广里八土㆒、〔段注〕里者凥也、八土猶㆓分土㆒也、亦謂㆓八夫同井㆒也、以㆓四字㆒會意。〔說文通訓定聲〕廛、按、周禮廛人注、民居區域之稱。

【廛閈】1（テンカン） ㊀閭里の門。〔鮑照、蕪城賦〕廛閈撲㆑地、歌吹沸㆑天。〔注〕善曰、廛、民居區域之稱、閈、閭也。銑曰、廛、里也、閈、里門、言㆓閭里之門㆒也。㊁まちの店。市肆。〔唐書、杜佑傳〕俄遷㆓嶺南節度使㆒、佑開㆓大衢㆒、疏㆓析廛閈㆒、以息㆓火災㆒。

【廛閒】2（テンカン） みせのあるまちなか。〔宋史、李瀆傳〕所㆑乘馬、嘗爲㆓宗人借㆒、憩㆓於廛閒㆒、人有㆓見者㆒、以語㆑瀆、瀆卽鬻㆑之、其惡㆑囂如㆑此。

【廛廓】3（テンクワク） やしきのくるわ。邸宅。鄽廓。〔謝惠連、三月三日曲水集詩〕攜㆑朋適㆓郊野㆒、昧爽辭㆓鄽廓㆒。

【廛左】4（テンサ） ㊀廛の左。廛は百畝の地で天子親耕の處をいふ。〔潘岳、藉田賦〕儼㆓儲駕于廛左㆒兮。〔注〕善曰、駕㆑牛儼然在㆓廛左㆒、以待㆓天子躬親履㆑之耕㆒、以儲畜、云云、晉灼漢書曰、廛、一百畝也。㊁店の左。〔唐書、張建封傳〕是時宦者主㆓宮市㆒、置㆓數十百人㆒、閱㆓物廛左㆒、謂㆓之白望㆒。

【廛肆】5（テンシ） みせ。〔宋書、謝莊傳〕貴戚競㆑利、興㆓貨廛肆㆒者、悉皆禁制。

【廛人】6（テンジン） 周官の名。地官の屬。商店の稅賦を掌る。〔周禮、地官、廛人〕掌㆘斂㆓市絘布・總布・質布・罰布・廛布㆒、而入㆗于泉府㆖、凡屠者斂㆓其皮角筋骨㆒、入㆓于玉府㆒、凡珍異之有㆑滯者、斂而入㆓于膳府㆒。

【廛稅】7（テンゼイ） 店に課する稅。〔孟子、公孫丑上、市廛而不㆑征、焦循正義〕但明曰㆓廛而不㆑征、是不㆑征、卽不㆑征㆓此廛之稅㆒。

【廛宅】8（テンタク） 人民の住宅。廛は市內百姓の居。宅は邑內の居。〔荀子、王制〕順㆓州里㆒、定㆓廛宅㆒。〔注〕廛、謂㆓市內百姓之居㆒、宅、謂㆓邑內居㆒也。

【廛頭】9（テントウ） みせさき。店頭に同じ。

【廛布】10（テンプ） 役所の倉庫に貨物を預けて置く稅。〔周禮、地官、廛人〕掌㆘斂㆓市絘布・總布・罰布・廛布㆒、而入㆗于泉府㆖。〔注〕廛布者、貨賄諸物邸舍之稅。〔疏〕官有㆓邸舍㆒、人有㆑置㆓物於中㆒、使㆓之出㆑稅、故曰㆓廛布㆒。

【廛舖】11（テンポ） みせ。廛肆。店舖に同じ。

【廛野】12（テンヤ） 町と田舍。〔唐書、田游巖傳〕騎㆑牛帶㆑瓢、出㆓入廛野㆒。

【廛里】13（テンリ） 邑里の居。住宅をいふ。一說に、庶人の住宅と士大夫の住宅。又、市廛と村里。〔周禮、地官、載師〕以㆓廛里㆒任㆓國中之地㆒。〔注〕玄謂、廛里者、若㆔今云㆓邑里居㆒矣、廛、民居之區域也、里、居也。〔孫詒讓正義〕通㆓言之㆒、廛里皆居宅之稱、析㆓言之㆒、則庶人農工商等所㆑居、謂㆓之廛㆒、士大夫等所㆑居、謂㆓之里㆒。〔張衡、西京賦〕廛里端直。〔宋書、樂志、二〕諠醜之製、日盛㆓於廛里㆒、風流之韻、獨盡㆓於衣冠㆒。〔傅亮、爲㆘宋公至㆓洛陽㆒謁㆗五陵㆖表〕廛里蕭條。〔注〕銑曰、廛、市也、里、居里。

【廜】9484 ト ヅ 〔集韻〕同都切 虞

㊀いほり。たひらな家。草菴。廜⿸广穌。〔廣雅、釋宮〕廜⿸广穌、庵也。〔廣韻〕廜、廜⿸广穌、草菴、通俗文曰、屋平曰㆓廜⿸广穌㆒。〔集韻〕廜、一曰、屋平曰㆑廜。〔袁桷、次韻繼學途中竹枝詞〕土屋苫㆑草成㆓廜⿸广穌㆒、前牀翁媼後㆓小姑㆒。㊁酒の名。廜⿸广穌。〔廣韻〕⿸广穌、廜⿸广穌酒、元日飲㆑之、可㆑除㆓瘟氣㆒。㊂或は⿸广者(4－9394)に作る。〔集韻〕廜、或省。

【⿸广賁】9485 フン ブン 〔字彙〕符分切 文

くづれる。〔字彙〕⿸广賁、崩也。

【⿸广森】9486 シン 〔字彙〕所錦切 寑

のぞく。のける。〔字彙〕⿸广森、除也。

【廝】9487 シ 〔集韻〕相支切 支 ㄙ ssŭ^{1}

㊀めしつかひ。微賤の者。〔廣雅、釋詁一〕廝、使也。〔一切經音義、七〕廝、後也、謂㆓賤後者㆒也。〔集韻〕廝、析㆑薪養㆑馬者。㊁いやしい。〔後漢書、鄭玄傳〕廝役之吏。〔注〕廝、賤也。〔後漢書、鮮卑傳〕廝輿之卒。〔注〕廝、微也。㊂ちる。ちらす。〔廣雅、釋詁三〕廝、散也。㊃わける。釃(11－40106)・斯(5－13563)に同じ。〔集韻〕斯、析也、亦作㆑廝。〔正韻〕廝、與㆑釃通。〔史記、河渠書〕乃廝㆓二渠㆒、以引㆓其河㆒。〔唐書、高儉傳〕附㆓故渠㆒、廝引旁出。㊄あひ。互に。廝咬(4)を見よ。㊅或は⿰亻斯(1－1130)に作る。〔集韻〕廝、或作㆑⿰亻斯。㊆或は凘(2－3026)に作る。〔韻會〕廝、亦作㆑凘。㊇現勉める。

【廝挨】1（シアイ） 押し分ける。〔宣和遺事、前集下〕肩兒廝挨、手兒廝把。

【廝役】2（シエキ） しもべ。又、人の下に使はれること。〔公羊、宣、十二〕廝役扈養。〔注〕艾㆑草爲㆑防者曰㆑廝、汲㆓水漿㆒者曰㆑役。〔戰國、燕策〕馮㆑几據㆑杖、眄視指使、則廝役之人至。〔史記、李斯傳〕高曰、高固內官之廝役也。〔漢書、張耳陳餘傳贊〕張耳陳餘世所㆑稱㆑賢、其賓客廝役、皆天下俊桀。〔後漢書、趙曄傳〕曄恥㆓於廝役㆒、遂棄㆓車馬㆒去。

【廝下】3（シカ） 賤しい者。しもべ。〔世說新語、任誕〕卒曰、出㆑自㆓廝下㆒、不㆑願㆓名器㆒。

【廝咬】4（シカウ） かみあふ。嘶齩。〔米芾、畫史〕華堂之上清晨、一羣驢子廝咬、是何氣象。

【廝會】5 ssŭ^{1} huei^{4} 會合する。

【廝乩】6（シケイ） 西戎で羊を用ひて卜する卜師をいふ。〔夢溪筆談、技藝〕西戎用㆑羊卜、謂㆓之跋焦㆒、卜師謂㆓之廝乩㆒、以㆑艾灼㆓羊髀骨㆒、視㆓其兆㆒、謂㆓之死跋焦㆒、其法、兆之上爲㆓神明㆒、近㆓脊處㆒爲㆓坐位㆒、坐位者主位也、近㆓旁處㆒爲㆓客位㆒、蓋西戎之俗、所㆑居正寢、常留㆓中一閒㆒、以奉㆓鬼神㆒、不㆓敢

居レ之、謂二之神明一、主人乃坐二其旁一、以レ此占二主客勝負一、又有二先呪レ粟以食レ羊、羊食二其粟一、則自搖二其首一、乃殺レ羊、視二其五臟一、謂二之生跋焦一、其言極有レ驗、委細之事、皆能言レ之、生跋焦、土人尤神レ之。

【廝見】7 ssŭ^{1} chien^{4} 相見える。

【廝混】8 ssŭ^{1} huen^{4} ふざけまはる。騷ぐ。

【廝炒】9 シサウ 互に爭ひせめぐ。〔國老談苑〕潘邠老詩、多犯二老杜一、正直方云、老杜復生、須二與レ潘十廝炒一。

【廝殺】10 シサツ ❶互に殺し合ふこと。戰鬪をいふ。〔蹇駒甃亮記〕須臾合レ軍、皆曰、有二分付一、好二廝殺一。❷其の勢を分ち割いて衰へさせる。〔唐書、李昭德傳〕洛有二二橋一、司農卿韋機徙二其一一、直二長夏門一、民利レ之、其一橋廢、省二巨萬計一、然洛水歲淙二齧之一、繕者告レ勞、昭德始累レ石代レ柱、銳二其前一、廝二殺暴濤一、水不レ能レ怒、自レ是無レ患。

【廝舍】11 シシャ 賤役の人の住む家。しもべの居る家。〔後漢書、桓帝紀〕十一月甲申、詔曰、今京師廝舍、死者相枕。〔注〕廝舍、賤役人之舍也。

【廝守】12 ssŭ^{1} shou^{3} 伺候する。交換する。

【廝豎】13 シジュ めしつかひ。廝徒。豎は童僕。〔唐書、李素立傳〕雖二廝豎一、一閱輒記二姓名居業一。〔唐書、曹華傳〕至二廝豎一、必待以二誠信一。

【廝庶】14 シショ いやしい人。賤人。〔沈約、奏二彈王源一文〕姻婭淪雜、罔レ計二廝庶一。〔注〕濟曰、廝庶、皆賤人也。

【廝人】15 ssŭ^{1} jen^{2} めしつかひ。下男。僕。

【廝繞】16 ssŭ^{1} jao^{4} 附き纏ふ。からかふ。

【廝說】17 シセツ 小言をいふ。こそこそ話する。〔雞肋編〕浙西諺、蘇杭兩浙、春寒秋熱、對面廝啜、背地廝說。

【廝打】18 シダ けんくわ。喧嘩。うちあひする。〔福惠全書、刑名部、問擬〕與二某人一爭鬪廝打。

【廝替】19 シタイ 互にかはる。〔宣和遺事、前集下〕便上弄交番廝替。

【廝臺】20 シダイ 身分の卑しいもの。賤人。〔後漢書、黨錮傳序〕擧二中於理一、則強梁褫レ氣、片言違レ正、則廝臺解レ情。〔注〕廝臺、賤人也。〔唐書、安樂公主傳〕安樂公主與二長寧定安三家廝臺一、掠二民子女一爲二奴婢一。

【廝鬧】21 シタウ さわぐ。あばれる。〔桃花扇、鬧謝〕只恐遇二著輕薄廝鬧一。〔福惠全書、刑名部、逃人、拉攦〕自稱二旗下一、等レ人廝鬧。

【廝丁】23 シチャウ 炊事夫。火頭。〔令集解、賦役令〕廝、猶レ役也、言三給二使汲炊一、卽與二火頭一同也。

【廝女】24 シヂョ 炊事をんな。〔類聚國史、百七十三〕天長三年正月庚午亥刻、失二火左公衞廚院一、灰二滅廝女一人一。

【廝耨】25 シヂョク ❶相狎れる。〔西廂記、草橋店夢鶯鶯雜劇〕一箇啞聲兒廝耨。❷たわごと。風流情事をいふ。〔長成殿、尸解〕好結二果一場廝耨一。

【廝徒】26 シト 雜役夫。又、軍卒。廝養卒(33)に同じ。〔史記、蘇秦傳〕廝徒十萬。〔注〕索隱曰、廝、謂二廝養之卒一、廝二養馬一之賤者、今起レ之爲レ卒。正義曰、廝、謂二炊烹供養雜役一。〔史記、張儀傳〕料二大王之卒一、悉レ之不レ過二三十萬一、而廝徒・負養、志二其中一矣。〔注〕索隱曰、廝徒、謂二雜役之賤者一。

【廝把】28 シハ 互に取り合ふ。〔宣和遺事、前集下〕肩兒廝挨、手兒廝把。

【廝波】29 シハ 宴席などで、客のとりもちをして金を得るもの。〔東京夢華錄〕有下向レ前換レ湯斟レ酒歌唱、或獻二果子香藥之類一、客散得上レ錢、謂二之廝波一。〔夢粱錄、閒人〕更有二一等不本色業藝一、專爲二探聽妓家賓客一、趕趁唱喏、買レ物供過、及遊湖酒樓飲宴所レ在、以獻レ香送レ歡爲レ由、乞三覓贍二家財一、謂二之廝波一。

【廝乜】30 シバ 巫をいふ。〔康熙字典、乜〕西夏語、以レ巫爲二廝乜一、見二遼史一。

【廝養】31 シヤウ 卑しいこもの。薪を取り馬を養ふしもべ。廝役。〔戰國、齊策〕士大夫之所レ匿、廝養士之所レ竊、十年之田而不レ償也。〔吳子、治兵〕弱者給二廝養一。〔史記、淮陰侯傳〕夫隨二廝養之役一者、失二萬乘之權一。〔漢書、路溫舒傳〕時詔書令下公卿選中可レ使二匈奴一者上、溫舒上書、願下給二廝養一、暴二骨方外一、以盡中臣節上。〔後漢書、馬融傳〕昔毛遂廝養、爲二衆所レ蚩、終以二一言一克定二從要一。〔魏志、臧洪傳〕雖二卒伍廝養一、莫レ不二激揚一。

【廝養戶】32 シヤウコ いやしいへ。〔稱謂錄、僕、廝養戶〕魏書孝文帝紀、詔、廝養之戶、不レ得下與二士民一婚上。

【廝養卒】33 シヤウノソツ 軍卒。廝徒(26)を見よ。〔史記、張耳陳餘傳〕有二廝養卒一。

【廝輿】34 シヨ 賤役の人。廝は薪を取る者、輿は駕をかつぐ者。〔管子、治國〕廝輿之事、此四時亦當二一倍貸一矣。〔纂詁〕采レ薪曰レ廝、輿、將レ輦者、及牽レ旁之屬。〔商子、墾令〕廝輿徒重。

【廝輿卒】35 シヨノソツ 廝輿に同じ。〔漢書、嚴助傳〕廝輿之卒、有二一不レ備而歸者一、雖レ得二越王之首一、臣猶竊爲二大漢一羞レ之。〔注〕師古曰、廝、析レ薪者、輿、主二駕車一者、此言二皆賤役之人一。

【廝輿白徒】36 シヨハクト 廝輿と白徒。白徒は白衣の徒で、僮僕をいふ。〔呂覽、決勝〕雖二廝輿白徒一、方數百里皆來會。〔注〕廝役・輿衆・白衣之徒。

【廝羅】37 シラ 廝鑼に同じ。〔酉陽雜俎續集、支諾皐〕浙米匠人蘇潤、本是王家炊人、云云、言宅南有二一井一、每夜常沸湧有レ聲、晝窺レ之、或見二銅廝羅一、或見二銀熨斗一者、水腐不レ可レ飮。〔金史、儀衞志上〕茶酒班執從物十一人、水罐二一、香毬二一、唾盂一、廝羅一、手巾一、御椅三人、踏床一。

【廝鑼】38 シラ 銅で作った盆のやうなもので、物を洗ひすすぐ物。かなだらひ。廝鑼。鐁鑼。〔正字通〕鈔、宋志、駕前皆捧二廝鑼一、云云、蓋水盆以二金銀一爲レ之、如二今之銅面盆一。〔雲麓漫抄〕今人呼レ洗爲二沙鑼一、又曰二廝鑼一、國朝賜二契丹西夏一、使三人皆用二此語一、究二其說一、軍行不レ暇レ持レ洗、以レ鑼代レ之、又中原人以二擊鑼一爲二篩鑼一、東南方亦有二言レ之者一、篩沙音相近、篩文爲レ廝、又小轉也、書傳目二養レ馬者一爲レ廝、以二所レ執之鑼一爲レ洗、曰二廝鑼一、軍中以レ鑼爲レ洗、正如下秦漢用二刁斗一、可二以警レ夜、又可中以炊上飯、取二其便一耳。

【廝賴】39 シライ ❶相賴る。〔侯鯖錄〕韓子華宴會、出二家伎十餘人一、專レ寵者曰二魯生一、當レ舞爲二遊蜂所レ螫、子華不レ懌、久レ之呼出、持二白團扇一、從二東坡一乞レ詩、坡書二詩云云一、上句記レ姓、下句書二蜂事一、子華大喜、坡云、惟恐二他姬廝賴一、故云耳。❷だます。しらばくれる。〔長生殿、見月〕如何廝賴。

【廝濫】40 シラン おろかなこと。〔北史、穆提婆傳〕提婆雖二庸品廝濫一、而性乃和善、不二甚害レ物。

【廝留】41 シリウ 離れ離れにとどまる。〔漢武帝、輪臺詔〕朕發二酒泉驢橐駝一、負レ食出二玉門一、迎レ軍吏卒一、起二張掖一不二甚遠一、然尚廝留甚衆。

【廝隷】42 シレイ めしつかひ。はしたもの。〔南史、梁武帝諸子、邵陵攜王綸傳〕車服僭擬、肆行二非法一、遨二遊市里一、雜二於廝隷一。〔唐書、史朝義傳〕公門華胄、爲二我廝隷一。〔劉知幾、思愼賦〕覩二廝隷一其如レ萍。

【廝弄】43 シロウ ❶蹴鞠の一種。〔蹴踘譜〕一人使二雜踢一、名二廝弄一。㊁ssŭ^{1} nung^{4} 互に戲れること。

【廝猥】44 シワイ 賤しい人。〔顏氏家訓、雜藝〕廝猥之人、以二能書一拔擢者多矣。

【廝里忽】45 シリコツ 金、完顏宗秀(3－7079‥110)の「本名。

【廞】
9488

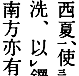
㊀キン コン 〔集韻〕虛金切 侵 くㄧㄣ ch'in^{1}

㊁キン コン 〔集韻〕羲錦切 寑

㊂ギン ゴン 〔集韻〕牛錦切 寑

㊃カン ケン 〔集韻〕丘銜切 咸

㊄ケン 〔集韻〕丘廉切 鹽



小篆

㊀❶**つらねる**。〔說文〕廞、陳二輿服於庭一也、从レ广欽聲、讀若レ歆。〔小爾雅、廣言〕廞、陳也。〔周禮、天官、司服〕廞二衣服一。〔注〕廞、陳也。❷**おこす**。始める。〔爾雅、釋詁〕廞、興也。〔周禮、春官、笙師〕廞二其樂器一。〔注〕廞、興也、興、謂レ作レ之。❸**けはしいさま**。廞巇。〔廣韻〕廞、又廞巇、山險皃。㊁**おこす**。㊀の❷に同じ。或は㾓(4－9380)に作る。〔集韻〕廞、興也、喪禮有レ廞二車服一、或从レ今。㊂❶**おこす**。㊀の❷に同じ。〔集韻〕廞、興也。❷**怒るさま**。〔太玄經、衆〕虎虓振廞。〔注〕振廞、盛怒貌也。❸**ふさがる**。泥でうづまる。〔字彙

補〕廞、游塞也。〔唐書、循吏、薛大鼎傳〕無棣渠、久廞塞、大鼎浚治、屬二之海一。四**けはしいさま**。嶔(**4－8279**)に同じ。〔集韻〕嶔、巖山嶮、亦作レ廞。五**山の高峻なさま**。嶔(**4－8464**)に同じ。〔集韻〕嶔、山高皃、或从レ广。

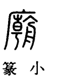
名乘 ノブ。

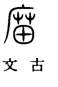
【廞淤】1 ギンオ ギンヨ 泥で塞がる。〔唐書、劉晏傳〕河汴自二寇難一以來、不二復穿治一、崩岸滅レ水、所在廞淤。

【廞飾】2 キンシヨク 輿服を庭に陳列して飾ること。〔杜甫、京兆杜氏墓誌〕其所二廞飾一、咸遵二儉素一。

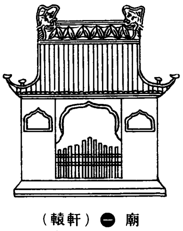
【廟】9489

ベウ メウ 〔集韻〕眉召切 ㄇㄧㄠ miao^4 嘯


小篆


古文

❶**たまや**。みたまや。祖先の尊像木主等を安置して拜するところ。〔說文〕廟、尊二先祖一皃也、从レ广、朝聲、庿、古文。〔段注〕古者廟以祀二先祖一、凡神不レ爲レ廟也、爲レ神立レ廟者、始二三代以後一。〔說文通訓定聲〕廟、按、周制天子七廟、太祖四親之外、有二文武世室二祧一也、諸侯五廟、大夫三廟、士一廟、其制、太祖廟在レ中、昭東穆西、皆別爲二宮院一、凡親過二高祖一、則毀二其廟一、以レ次而遷。〔釋名、釋宮室〕廟、貌也、先祖形貌所レ在也。〔詩、周頌、淸廟序、箋〕廟之言、貌也、死者精神、不レ可二得而見一、但以二生時之居一、立二宮室一、象レ貌爲レ之耳。〔公羊、桓、二〕納二于太廟一。〔注〕廟之言、貌也、思二想儀貌一而事レ之。❷**ゐはい**。かたしろ。〔荀子、彊國〕負二三王之廟一、而辟二於陳蔡之閒一。〔注〕廟、主也。❸**かりもがりするところ**。〔儀禮、士喪禮〕巫止二于廟門外一。〔注〕凡宮有二鬼神一曰レ廟。〔禮、雜記上〕至二於廟門一。〔注〕廟、所レ殯宮。〔大戴禮、諸侯遷廟〕從至二於廟一。〔注〕廟、殯宮。❹**たまやの拜殿**。〔禮、月令〕寢廟必備。〔注〕凡廟、前曰レ廟、後曰レ寢。❺**王宮の正殿**。表御殿。〔爾雅、釋宮〕室有二東西廂一曰レ廟。〔注〕夾室前堂。〔疏〕凡大室有二東西廂夾室及前堂一、有二序牆一者曰レ廟。〔呂覽、季夏〕天子居二太廟太室一。〔注〕南向中央室曰二太廟一。❻**政事をとるところ**。政堂。〔說文通訓定聲〕廟、按、古者行レ禮必于レ廟、謀レ事必于レ廟、故儀禮士冠禮、筮二於庿門一、禮記祭統、廟中者竟內之象、凡國功曰二廟算廟謨一也。〔六書故〕廟、宮前曰レ廟、後曰レ寢、今王宮之前殿、士大夫之聽レ事、是也。〔吳志、步隲傳〕不レ下二堂廟一、而天下治也。〔文中子、禮樂〕在二山澤一而有二廊廟之志一。❼**みや**。やしろ。鬼神賢聖をまつった堂舍。〔史記、封禪書〕於レ是作二渭陽五帝廟一。〔蔡邕、王子喬碑〕咨二訪其驗信一而有レ徵、乃造二靈廟一以休二厥神一。〔杜甫、武侯廟詩〕遺廟丹青落、空山草木長。❽**てら**。〔晉書、何準傳〕惟誦二佛經一、修二營塔廟一而已。❾古は庿(**4－9400**)に作る。〔說文、廟〕庿、古文。〔集韻〕廟、古作レ庿。❿現 社寺の緣日。


廟❶ (軒轅)
(三才圖會)

名乘 イヘ。

參考 七廟(**1－6‥433**)を見よ。

【廟院】1 ベウイン ❶先祖のみたまや。〔摭言〕鄭薰侍郎主レ文、誤謂二顏標乃魯公之後一、時徐方未レ寧、意在三激二勸忠烈一、即以レ標爲二狀元一、及二謝恩日一、從容問及二廟院一、標曰、寒畯未二嘗有一也、始知二誤取一、或嘲曰、主司頭腦太冬烘、錯二認顏標一作二魯公一。❷てら。寺院。〔鄭谷、同志顧雲下レ第出レ京偶有二寄勉一詩〕吟聒暮鶯歸二廟院一、睡消遲日寄二僧家一。

【廟宇】2 ベウウ みたまや。やしろ。〔漢書、郊祀志上〕作二渭陽五帝廟一同レ宇。〔注〕師古曰、宇、謂二屋之覆一也、言、同二一屋之下一、而列爲二五廟一、各立二門室一也。〔水經、汾水注〕舊有二介子推祠一、祠前有レ碑、廟宇傾頹、惟單碑獨存矣。〔宋書、禮志三〕廟宇之制、理據未レ分。

【廟楹】3 ベウエイ みたまやの柱。〔唐書、高郢傳〕昔魯莊公、丹二桓公廟楹一、而刻二其桷一、春秋書レ之。

【廟垣】4 ベウエン みたまやの垣。〔史記、申屠嘉傳〕錯擅穿二宗廟垣一爲レ門。〔宋史、禮志五〕親謁二華陰西嶽廟一、羣臣陪レ位、廟垣內外、列二黃麾杖一。

【廟垣鼠】5 ベウエンノソ 廟垣內の鼠。轉じて、君側の姦臣をいふ。城狐社鼠(**3－5120‥50**)を見よ。〔唐書、魏元忠傳〕君側之人、衆所二畏懼一、所謂鷹頭之蠅、廟垣之鼠者也。

【廟屋】6 ベウヲク みたまや。〔宋書、禮志一〕選二公卿二千石子弟一爲レ生、增二造廟屋一百五十五間一、而品課無レ章、士君子恥レ與二其列一。〔韓愈、衢州徐偃王廟碑〕開元初、徐姓二人相屬爲二刺史一、帥二其部之同姓一、改二作廟屋一、載二事於碑後一。

【廟街】7 ベウガイ 地名。シベリヤ東岸ニコライエフスク Nikolaievsk の舊名。

【廟號】8 ベウガウ 宗廟の稱號。天子の靈を太廟に祀る時、追尊して贈る名。此の制は、舜が高陽を祖とし、堯を宗と爲したのに始まり、商の時、太甲を中宗と爲し、武帝を高宗と爲して、宗廟の號に列し、唐代に至り、諸帝之を稱するを例とした。〔漢書、文帝紀〕四年、秋九月、絳侯周勃有レ罪、逮詣二廷尉一、詔レ獄作二顧成廟一。〔注〕應劭曰、文帝自爲レ廟、制度卑狹、若二顧望而成一、猶三文王靈臺不レ日成二レ之、故曰二顧成一、如淳曰、身存而爲レ廟、若二尙書之顧命一也、景帝廟號德陽、武帝廟號龍淵、昭帝廟號徘徊、宣帝廟號樂游、元帝廟號長壽、成帝廟號陽池。〔晉書、成帝紀〕(咸康八年、六月)癸巳、帝崩二于西堂一、時年二十二、葬二興平陵一、廟號二顯宗一。〔舊唐書、禮儀志五〕自二光武一已下、皆有二廟號一、則祖宗之名、莫レ不レ違也。〔宋史、禮志九〕按、禮天子七廟、親廟五、祧廟二、據レ古、則僖順二祖當レ遷、國家道觀佛寺、竝建二別殿一、奉二安神御一、豈若三每主爲二一廟一一寢一、或前立二一廟一、以二今十六間一爲レ寢、更立二一祧廟一、逐室各題二廟號一、鈿二寶神御物一、宜三銷二毀之一。〔事物紀原、禮祭郊祀部、廟號〕王者祖レ有レ功、宗レ有レ德、始レ自二有虞一、祖二高陽一而宗レ堯、故舜典有下歸二格於藝祖一、受中終於文祖上、大禹謨、亦有下受二命於神宗一之文上、商有二天下一、太甲號二太戊一爲二中宗一、武丁爲二高宗一、始列二宗廟之號一、故漢氏因レ之、西京有二太宗世宗一、東京有二顯宗肅宗一、而唐室諸帝、乃例稱レ之、蓋其事原二於虞舜一、而備二於商人一也。

【廟客】9 ベウカク 藝妓などに養はれてゐる遊人。〔北里志〕多有丁游隋者於二三曲中一爲丙諸倡所乙豢養甲、號爲二廟客一。

【廟閣】10 ベウカク 朝廷。政堂。〔江淹、爲二蕭領軍一拜二侍中刺史一章〕臣功乏レ至レ道、不レ足三以題二象魏一、績非レ振レ民、無レ可三以書二廟閣一。

【廟樂】11 ベウガク 廟で奏する音樂。〔漢書、景帝紀〕明象二乎日月一、而廟樂不レ稱、朕甚懼焉、其爲二孝文帝廟一、爲二昭德之舞一、以明二休德一。〔宋書、樂志一〕武皇帝廟樂未レ稱二其議一、定二廟樂及舞一。

【廟學】12 ベウガク 廟の敷地內にある學校。〔周伯琦、釋二奠宣聖廟一記〕曲阜林廟、宣聖所レ生之地、非二他廟學比一。

【廟學典禮】13 ベウガクテンレイ 書名。六卷。撰者不詳。原本は佚し、永樂大典から錄出したもの。元の太宗から成宗に至るまでの廟學の制を敍述す。蓋し元人の記であらう。〔四庫提要、史、政書類〕。

【廟額】14 ベウガク みたまやの扁額。〔宋史、禮志八〕太常博士王右請、自レ今諸神祠、無二爵號一者賜二廟額一、已賜レ額者加二封爵一。

【廟幹】15 ベウカン 廟を守るもの。みやもり。〔宋史、顏復傳〕孔宗翰請三尊二奉孔子祠一、復因上二五議一、欲下專二其祠饗一、優二其田祿一、蠲二其廟幹一、司二其法則一、訓中其子孫上、朝廷多從レ之。

【廟器】17 ベウキ みたまやの器物。祭器。〔史記、張釋之傳〕上大怒曰、人之無道、乃盜二先帝廟器一、吾屬二廷尉一者、欲レ致レ族レ之、而君以レ法奏レ之、非

吾所三以共二承宗廟一意上也。〔漢書、禮樂志〕盜者取二廟器一。

【廟諱】18 ベウキ 廟中に祭られてゐる先帝の諱をいふ。〔唐書、百官志一〕祠部郎中・員外郎、各一人、掌二祠祀享祭天文漏刻國忌廟諱卜筮醫藥僧尼之事一。〔五代史、職方考〕鎭州故曰二成德軍一、梁初以三成音犯二廟諱一、改曰二武順一。

【廟議】19 ベウギ ㊀廟についての議論。〔唐書、朱子奢傳〕始武德時、太廟享、止四室、高祖崩、將レ祔二主於廟一、帝詔二有司一詳議云云、於レ是歷代廟議不レ能一、且天子七廟、諸侯五、降殺以レ兩、禮之正也。㊁朝廷の評議。朝議。〔吳志、吳主孫權傳〕廊廟之議、王者所レ不レ得レ專。〔朱熹、答二蔡季通一書〕廟議亦不二盡記一。

【廟享】20 ベウキヤウ 太廟の祭。〔六部成語、禮部、廟享、注解〕太廟卽皇帝祖廟、享者祭也、猶レ言二太廟之祭一。

【廟火】21 ベウクワ みたまやの火災。〔禮、曾子問〕曾子問曰、當レ祭而日食、大廟火、其祭也如二之何一。〔宋書、禮志四〕案二禮記一、孔子答二曾子一、當レ祭而日蝕、太廟火、如牲至未レ殺則廢、然則祭非レ無二可レ廢之道一也、但權二所レ爲之輕重一耳、日蝕廟火、變之甚者、故乃牲至、尙猶可レ廢。

【廟貨】22 miao^4 huo^4 緣日で賣る品物。

【廟會】23 miao^4 huei^4 寺社の緣日。

【廟畫】24 ベウクワク 朝廷の計畫。〔李商隱、爲二舍人絳郡公一上二李相公一啓〕頒二宣詔條一、祇暢二廟畫一。

【廟官】25 ベウクワン 廟を守る者。みやもり。〔列仙傳〕新鄕廟廟官。

【廟闕】26 ベウケツ 廟の門觀。〔漢書、劉向傳〕孝宣廟闕災、其晦、日有レ蝕レ之。〔晉書、刑法志〕大風之後、廟闕屋瓦、有二數枚傾落一。

【廟見】27 ベウケン ㊀廟に參拜すること。〔史記、秦始皇紀〕令四子嬰齋、當三廟見受二玉璽一。㊁婦が嫁して始めて夫家の廟に參拜すること。〔禮、曾子問〕三月而廟見、稱二來婦一也。〔注〕謂二舅姑沒者一也。〔疏〕婦入三月之後、而於二廟中一、以レ禮見二舅姑一、其祝辭告レ神、稱二來婦一也。〔韓詩外傳、二〕三月而廟見、稱二來婦一也。

【廟戸】28 ベウコ みたまやを守る人。〔元史、祭祀志六、三皇廟祭祀禮樂〕明年、祭器樂器俱備、以二醫籍百四十有八戸一充二廟戸一。

【廟庫】29 ベウコ みたまやのくら。〔魏書、高道悅傳〕兼二御史中尉一留二守洛京一時、宮極初基、廟庫未レ構、車駕將二水路幸一レ鄴、已詔二都水一、回二營構之材一、以造二舟檝一。

【廟攻】30 ベウコウ 廟堂の上に坐して謀をめぐらし他國を攻める。〔韓非子、內儲說下〕參疑廢置之事、明主絕二之於內一、而施二之於外一、資二其輕者一、輔二其弱者一、此謂二廟攻一。

【廟災】31 ベウサイ 廟の火災をいふ。廟火。〔公羊、成、三〕廟災、三日哭、禮也。

【廟象】32 ベウザウ 廟の像。〔宋書、禮志四〕止二於私門一、廟象闕而莫レ立、百姓巷祭、戎夷野祀、非四所三以存レ德念レ功、述二追在昔一也。

【廟策】33 ベウサク 朝廷のはかりごと。古、大事を謀る時、祖廟に於て行つたからいふ。廟畫。廟略。〔後漢書、隗囂傳〕至レ使下窮二廟策一竭中征傜上。〔資治通鑑、漢紀〕（安帝、永寧元年）孝明皇帝、深惟二廟策一。〔注〕賢曰、古者謀レ事必就二祖廟一、故言二廟策一也、余謂、古者遣レ將必於レ廟、先定二制勝之策一、故謂二之廟策一。〔徐彥伯、奉レ和レ送三金城公主適二西蕃一應制詩〕羌庭遙築レ館、廟策重二和親一。

【廟算】34 ベウサン 朝廷のはかりごと。戰を始める前に、先づ廟堂で作戰計畫をするからいふ。又、古、將を命ずるに廟に於て齋戒し、成算を授けるからいふ。廟策を見よ。〔孫子、始計〕夫未レ戰而廟算、勝者得レ算多也、未レ戰而廟算、不レ勝者得レ算少也。〔注〕張預曰、古者興レ師命レ將、必致二齋於廟一、授以二成算一、然後遣レ之、故謂二之廟算一。〔商子、戰法〕若其政出二廟算一者。〔魏志、辛毗傳〕夫廟算而後出レ軍。〔張九齡、奉四和聖製送三尙書燕國公說赴二朔方軍一詩〕宗臣事二有征一、廟算在レ休レ兵。〔李商隱、爲二濮陽公涇原一謝二冬衣一狀〕臣謬領二藩垣一、適當二戎狄一、唯憑二廟算一、麤振二軍威一。

【廟山】35 ベウザン 鎭名。一名、廟山寨。浙江省餘姚縣の西北、廟山の下。〔讀史方輿紀要、浙江、紹興府、餘姚縣〕廟山鎭、今臨山衞也、舊置二廟山巡司於此一。

【廟史】36 ベウシ 廟の歷史。〔蘇軾、巫山詩〕巉巉隔二江波一、一一問二廟史一。

【廟司】37 ベウシ 筑前國の香椎神宮の宮司の稱。〔三代實錄、九、貞觀六年八月十五日〕筑前國香椎廟司、以二六年一爲二任限一。

【廟祀】38 ベウシ みたまや。又、廟にまつること。〔漢書、百官公卿表上〕武帝太初元年、更曰二廟祀一、初置二太卜一。

【廟祠】39 ベウシ ㊀廟にまつる。〔戰國、韓策〕秦韓并レ兵南鄕、此秦所二以廟祠而求一也。㊁みたまや。〔水經、河水注〕岸上并有二廟祠一、祠前有二石碑三所一。

【廟事】40 ベウジ 宗廟で行ふ事をいふ。〔韓愈、衢州徐偃王廟碑〕太末之里、姑蔑之城、廟事時修、仁孝振レ聲。

【廟室】41 ベウシツ みたまや。やしろ。〔公羊、文、二、用レ栗者藏主也、注〕藏二於廟室中堂一、所レ當レ奉レ事也。〔宋書、禮志三〕廟室當下以二客主一爲上レ限。

【廟社】42 ベウシヤ みたまや。やしろ。〔魏書、城陽王鸞傳〕古者軍行必載二廟社之主一、所三以示二其威惠各有一レ攸レ歸。〔韓愈、元和聖德詩〕來獻二闕下一、以告二廟社一。〔胡銓、上二高宗一封事〕陛下一屈レ膝、則祖宗廟社之靈、盡汙二夷狄一。

【廟上】43 ベウジヤウ みたまやのうへ。〔北史、張季珣傳〕百姓何罪、致二此焚燒一、神其有レ靈、可二降レ雨相救一、言訖、廟上雲起、雨降而火遂滅。

【廟主】44 ベウシュ 廟の神、又その木主。〔孔叢子、問軍禮〕廟主居二於道左一、社主居二於道右一。〔後漢書、光武紀下〕遷二呂太后廟主于園一、四時上祭。

【廟受】45 ベウジュ 廟堂で接受する。〔禮、聘義〕君使三士迎二于竟一、大夫郊勞、君親拜迎二于大門之內一而廟受、北面拜レ貺、拜二君命之辱一、所二以致一レ敬也。

【廟樹】46 ベウジュ みたまやの樹木。〔南史、侯景傳〕時都下王侯庶姓五等廟樹、咸見二殘毀一、唯文宣太后廟、四周柏樹獨鬱茂。

【廟祝】47 ベウシュク 廟社內で香火の事を司る者。廟の道士。はふり。〔稱謂錄、讀祝官、廟祝〕漢百官公卿表、奉常屬官有二太祝令丞一、景帝中六年、更名二太祝一、爲二祠祀一、武帝太初元年、更レ名曰二廟祝一。〔水滸傳、二回〕今晚先去分二付廟祝一。

【廟勝】48 ベウショウ 朝廷にゐて必勝の計畫を立て、居ながらにして勝つこと。古は宗廟に於て必勝の策を定めたからいふ。廟策(33)を見よ。廟戰。〔孫子、謀攻、不レ戰而屈二人之兵一、善之善者也、注〕孟氏曰、重二廟勝一也。〔漢書、趙充國傳〕非三素定二廟勝之冊一。〔魏志、袁紹傳〕今釋二廟勝之策一、而決二成敗於一戰一。〔吳志、賀邵傳〕誠非二長策廟勝之要一也。〔曹植、封二二子一爲レ公謝レ恩章〕文無二升堂廟勝之功一、武無二摧鋒接刃之效一。〔孫楚、爲二石仲容一與二孫皓一書〕廟勝之算、應レ變無レ窮。〔注〕善曰、孫子曰、夫未レ戰而廟算、勝者得レ算多。

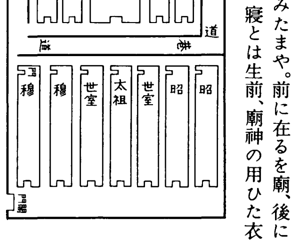
【廟頌】49 ベウショウ 廟前で奏する頌德の樂歌。〔後漢書、傅毅傳〕孝明皇帝功德最盛、而廟頌未レ立。

【廟鐘】50 ベウショウ みたまやのかね。〔宋史、陳襄傳〕某廟鐘能辨レ盜、犯者捫レ之輒有レ聲、餘則否。

【廟食】51 ベウショク みたまやにまつられること。〔史記、滑稽、優孟傳〕齊趙陪二位於前一、韓魏翼二衞其後一、廟二食太牢一、奉以二萬戸之邑一。〔後漢書、梁竦傳〕大丈夫居レ世、生當二封侯一、死當二廟食一。〔蘇軾、潮州韓文公廟碑〕能信二於南海之民一、廟食百世、而不レ能レ使三其身一日安二於朝廷之上一。

【廟神】52 ベウシン 廟に祭つてある神。〔南齊書、王敬則傳〕治下廟神甚酷烈、百姓信レ之、王敬則引レ神爲レ誓、必不二相負一。〔張祜、晚秋江上作詩〕煙霞山鳥散、風雨廟神歸。

【廟寢】53 ベウシン みたまや。前に在るを廟、後にあるを寢といふ。寢とは生前、廟神の用ひた衣服を藏するところ。〔禮、月令、寢廟、注〕凡廟、前曰レ廟、後曰レ寢。〔晉書、賀循傳〕殷之盤庚、不レ序二陽甲一、漢之光武、不レ繼二成帝一、別立二廟寢一、使二臣下祭一レ之。



廟寢（名物圖）

【廟數】54 ベウスウ みたまやの數。〔唐書、儒學上、賈大隱傳〕悰損二國廟數一、悖二大義一、不レ可二以訓一。〔宋

史、禮志九〕今僖祖雖レ非二始封之君一、要爲三立廟之祖一、方三廟數未レ過二七世一、遂毀二其廟一、遷二其主一、考二之三代禮一、未レ有レ此。

【廟制】55 ベウセイ みたまやのさだめ。〔宋史、禮志九〕自レ唐至レ周、廟制不レ同、而皆七世、自レ周以上、所謂太祖、非二始受レ命之主一、特始封之君而已。

〔廟制圖考〕56 ベウセイヅカウ 書名。一卷。清、萬斯同撰。秦漢から元明に至る迄の廟制沿革を圖說したもの。王肅の說に從つて鄭玄を黜け、偏するところがある。〔四庫提要、史、政書類〕。

【廟牲】57 ベウセイ みたまやに供へる犧牲。〔淮南子、齊俗訓〕犧牛粹毛、宜二于廟牲一、其于二以致レ雨、不レ若二黑蜧一。

【廟戰】58 ベウセン 朝廷にゐて謀をめぐらし、勝を制すること。廟勝。〔淮南子、兵略訓〕故廟戰者帝、神化者王。〔淮南子、兵略訓〕凡用レ兵者、必先自二廟戰一。

【廟前】59 ベウゼン ❶みたまやの前。〔李商隱、商於詩〕清渠州外月、黃葉廟前霜。〔溫庭筠、老君廟詩〕廟前晚色連二寒水一、天外斜陽帶二遠帆一。❷鎭の名。㋑山西省榮河縣の北、黃河の東岸。渡場がある。㋺福建省連城縣の西南。

【廟堧】60 ベウゼン 廟のには。堧は外垣の內、內垣の外をいふ。〔漢書、鼂錯傳〕內史府居二太上廟堧中一。〔注〕師古曰、堧者、內垣之外之游地也。

【廟壖】61 ベウゼン 廟堧に同じ。〔漢書、景十三王、臨江閔王榮傳〕坐下侵二廟壖地一爲上宮。

【廟胙】62 ベウソ 宗廟の祭祀に供へた肉。〔魏武帝、短歌行〕民受二其恩一、賜二與廟胙一。

【廟屬】63 ベウゾク 祖先を同じうし、姓を同じうするもの。〔詩、周南、麟之趾、于嗟麟兮、疏〕傳云二公族公同レ祖、則謂下與レ公同二高祖一、有中廟屬之親上。

【廟島】64 ベウタウ 島の名。山東省蓬萊縣の北。黃海と渤海との分界の處。今、附近の島嶼を通稱して廟羣島、又は眉山列島といふ。最北に北城隍島・南城隍島、最南に長山島・廟島、中に紗帽・陀磯・大欽・小欽等の十五島があり、黃海と渤海の分界を爲す。

【廟堂】65 ベウダウ ❶宗廟をいふ。祖先の靈を祀つた建物。みたまや。廟宇。廟兆。〔書、益稷、戛二擊鳴球一、搏二拊琴瑟一、傳〕此舜廟堂之樂。〔疏〕謂二廟內堂上之樂一。〔禮、禮器〕廟堂之上、罍尊在レ阼、犧尊在レ西、廟堂之下、縣鼓在レ西、應鼓在レ東。〔管子、形勢〕抱レ蜀不レ言、而廟堂既脩。〔纂詁〕知二君將レ祭、故臣既修二治廟堂一。❷宗廟と明堂。轉じて、朝廷をいふ。古、政事を議し事を行ふ前に、宗廟で祖先の靈に告げ、後、明堂で羣臣に諮つたからいふ。〔楚辭、劉向、九歎、逢紛〕始結二言於廟堂一兮、信中塗而叛レ之。〔集注〕廟者、先祖之所レ居也、言人君爲レ政擧レ事、必告二於宗廟一、議二之於明堂一也。〔莊子、在宥〕萬乘之君、憂二慄乎廟堂之上一。〔呂覽、召數〕夫脩二之於廟堂之上一、而折二衝乎萬里之外一。〔漢書、徐樂傳〕賢王獨觀二萬化之原一、明二於安危之機一、修二之廟堂之上一、而銷二未レ形之患一也。〔後漢書、班固傳上〕時固始弱冠、奏レ記說レ蒼曰、將軍養レ志和レ神、優二游廟堂一。〔顏氏家訓、涉務〕處二廟堂之下一、不レ知レ有二戰陣之急一。

【廟堂碑】66 ベウダウヒ 孔廟の碑。唐、虞世南撰、幷書。北宋の時、既に殘缺したが、翻刻本の佳なるものの一は饒州の錦江書院本で、雲烟過眼錄に見え、他の一は域武刻本で、觀妙齋金石文考略に見えてゐる。〔集古錄跋尾、唐孔子廟堂碑、武德九年〕右孔子廟堂碑、虞世南撰幷書、余爲二童兒一時、嘗得二此碑一以學レ書、當時刻畫完好、後二十餘年、復得二斯本一、則殘缺如レ此、因感下夫物之終弊、雖二金石之堅一、不上能二以自久一、於レ是始欲下集二錄前世之遺文一而藏上之、迨レ今蓋十有八年而得二千卷一、可レ謂レ富哉、嘉祐八年九月二十九日書、右眞蹟。〔黃庭堅、豫章集〕頃見二摹刻虞永興孔子廟堂碑一、甚不レ厭二人意一、今觀二舊刻一、雖二姿媚一而造筆之勢甚遒、固知三名下無二虛士一也。

【廟堂之高】67 ベウダウノタカキ 朝廷の貴い官職。又、貴く高い朝廷。〔范沖淹、岳陽樓記〕居二廟堂之高一、則憂二其民一、處二江湖之遠一、則憂二其君一。

【廟堂之器】68 ベウダウノキ 天下の政令を執るべき器量。國家の政治を行ふに足る人物。〔李白、贈二華州王司士一詩〕知君先負二廟堂器一、今日還須レ贈二寶刀一。〔劉基、賣柑者言〕峩二大冠一、拖二長紳一者、昂昂乎廟堂之器也。

【廟堂之用】69 ベウダウノヨウ 朝廷の御用。國家の政治を行ふはたらき。〔中村栗園、練二心膽一論〕可三以充二廟堂之用一、可三以應二軍國之務一。

【廟堂之量】70 ベウダウノリヤウ 天下の政令を執るべき器量。〔晉書、桓沖傳〕謝安乃有二廟堂之量一。

〔端二委廟堂一〕71 ベウダウニタンヰス 禮服を着け威儀を正して朝廷に臨むこと。〔晉書、謝鯤傳〕明帝在二東宮一、見レ之甚相親重、問曰、論者以レ君方二庾亮一、自謂如何、答曰、端二委廟堂一、使二百僚準則一、鯤不レ及レ亮、一丘一壑、自謂過レ之。

【廟塔】72 ベウタフ 佛像を安置する所。〔唐書、蘇瓌傳〕武后鑄二浮屠一、立二廟塔一。

【廟壇】73 ベウダン 父母・祖先を祀る祭場。〔榮華物語、疑〕礙二一恩父母之廟壇一。

【廟竹】74 ベウチク みたまやの竹林。〔溫庭筠、江岸卽事詩〕廟竹唯聞レ鳥、江帆不レ見レ人。

【廟中】75 ベウチユウ みたまやの中。〔詩、周頌、訪落、箋〕成王始卽レ政、自以、承二聖父之業一、懼レ不レ能レ遵二其道德一、故於二廟中一與二羣臣一謀二我始卽レ政之事一。〔禮、祭統〕是故以二四簋黍一見三其脩二於廟中一也、廟中者、竟內之象也。〔揚雄、長楊賦〕聽二廟中之雍雍一、受二神人之福祐一。

【廟柱】76 ベウチユウ みたまやのはしら。〔杜甫、橋陵詩〕瑞芝產二廟柱一、好鳥鳴二巖扃一。

【廟廷】77 ベウテイ みたまや。〔魏志、齊王芳紀〕正始四年秋七月癸卯、詔祀二故大司馬曹眞・曹休云云於太祖廟廷一。〔晉書、裴秀傳〕咸寧初、與二石苞等一、並爲二王公一、配二享廟廷一。

【廟庭】78 ベウテイ 廟廷に同じ。〔吳子、勵士〕於レ是武侯設二坐廟庭一。

【廟兆】79 ベウテウ みたまや。兆は墓地。

【廟祧】80 ベウテウ 宗廟と祧。祧は遐で、上去の意、七世以上の遠祖の廟主を遷して藏する處。〔周禮、春官、守祧〕守祧掌レ守二先王先公之廟祧一。〔注〕廟、謂二太祖之廟、及三昭三穆一、遷主所レ藏曰レ祧、先公之遷主、藏二于后稷之廟一、先王之遷主、藏二于文武之廟一。〔魏志、明帝紀〕其餘四廟、親盡迭毀、如二周后稷文武廟祧之制一。

【廟朝】81 ベウテウ 朝廷をいふ。廟堂。〔戰國、秦策〕臣今見三王獨立二於廟朝一矣。〔韓愈、送三李愿歸二盤谷一序〕坐二于廟朝一、進二退百官一、而佐二天子一出レ令。

【廟殿】82 ベウデン みたまや。〔魏書、崔光傳〕鴟鵲巢二於廟殿一、梟鵬鳴二於宮寢一。

【廟拜】83 ベウハイ 廟に參拜すること。〔中古記、寬治八年八月八日〕釋尊也、云云、上卿廟拜。

【廟庖】84 ベウハウ 宗廟のくりや。〔國語、魯語上〕設二穽鄂一以實二廟庖一、畜二功用一也。

【廟貌】85 ベウバウ みたまや。死者の容貌を偲んで事へる所の意。一說、生前の居所に象つて造つた建物の意。〔詩、周頌、清廟序、箋〕廟之言、貌也、死者精神、不レ可二得而見一、但以二生時之居一、立二宮室一、象レ貌爲レ之耳。〔公羊、桓、二、納二于太廟一、注〕廟之爲レ言、貌也、思二想儀貌一而事レ之。〔釋名、釋宮室〕廟者、貌也。〔諸葛亮、黃陵廟碑〕廟貌廢去、使二人太息一。〔唐書、于公異傳〕鐘簴不レ移、廟貌如レ故。〔宋史、禮志八〕或廟貌猶在、久廢二牲牢一。

【廟碑】86 ベウヒ みたまやに立てる石ぶみ。〔韓愈、答二魏博田僕射一書〕頃者又蒙不レ以二文字鄙薄一、令レ譔二廟碑一。〔元史、文宗紀〕賜二上都孔子廟碑一。

【廟府】87 ベウフ みたまや。〔張衡、週天大象賦〕瞻二廟府於室壁一、諒二有衞之封畿一。

【廟兵】88 ベウヘイ みたまやを守る兵。〔宋史、韓世忠傳〕聞二鼓聲一、岸兵先入、廟兵合擊レ之、金人果五騎闖入、廟兵喜先レ鼓而出、僅得二二人一。

【廟壁】89 ベウヘキ みたまやのかべ。〔唐書、禮樂志五〕開元七年、圖二七十子及二十二賢于廟壁一。〔劉克莊、謁二南嶽一詩〕詩成投二褚中一、何必題二廟壁一。

【廟墓】90 ベウボ みたまやとはか。〔南齊書、劉祥傳〕永明元年、坐二廟墓不レ修、削レ爵。

【廟謨】91 ベウボ 朝廷のはかりごと。廟略。廟謀。廟算。〔後漢書、光武紀贊〕明明廟謨、赳赳雄斷。〔元稹、連昌宮詞〕廟謨顚倒四海搖、五十年來作二瘡痏一。

【廟謀】92 ベウボウ 朝廷のはかりごと。廟謨。廟略。〔杜甫、白水縣崔少府十九翁高齊詩〕猛將紛塡委、廟謀蓄二長策一。

【廟門】93 ベウモン みたまやの門。又、路寢（表御殿）の門。〔書、顧命〕諸侯出二廟門一俟。〔蔡傳〕廟門、路寢之門也、成王之殯在レ焉、故曰レ廟。〔周禮、天官、閽人〕設二門燎一、蹕二宮門廟門一。〔注〕廟在二中門

之外二。〔禮、檀弓上〕父之友、吾哭二諸廟門之外一。

【廟廊】94 ベウラウ 朝廷をいふ。〔王羲之、報二殷浩一書〕吾素志無二廟廊一。〔廼賢、贈二趙祭酒一詩〕冰蘗操持心似レ鐵、廟廊贊畫鬢成レ絲。

【廟律】95 ベウリツ みたまやのおきて。又、朝廷のおきて。〔宋書、黃回傳〕異規既扇、廟律幾殆。

【廟梁】96 ベウリヤウ 宗廟のうつばり。〔戰國、秦策〕懸二之廟梁一、宿昔而死。〔說苑、尊賢〕湣王以弑二死廟梁一。

【廟略】97 ベウリヤク 朝廷のはかりごと。廟議で決定した計畫。廟謨。廟謀。〔晉書、羊祜傳〕外揚二王化一、內經二廟略一。〔陸機、晉平西將軍周處碑銘〕式揚二廟略一、克清二天步一。〔庾信、哀江南賦〕宰衡以二干戈一爲二兒戲一、縉紳以二清談一爲二廟略一。〔楊烱、送二劉校書從レ軍詩〕坐謀資二廟略一、飛檄佇二文雄一。

【廟禮】98 ベウレイ 廟に禮拜して先君に告げること。又、廟で行ふ禮。〔國語、越語上〕四方之士、來者必廟二禮之一。〔注〕禮二之於廟一、告二先君一也。〔韓非子、難三〕桓公曰、善、不レ擇レ日而廟二禮太子一。〔宋書、樂志一〕至二於樂號廟禮一、未レ該二往正一。

【廟靈】99 ベウレイ 祖先の神靈。〔宋書、孝武帝紀〕憑二七廟之靈一、獲二上帝之力一。〔鄭谷、廻鑾詩〕廟靈安二國步一、日角動二天顏一。

【廟列】100 ベウレツ みたまやがつらなる。〔李商隱、登二霍山驛樓一詩〕廟列二前峰一迥、樓開二四望一窮。

【廟論】101 ベウロン 朝廷の議論。廟議。〔歐陽脩、謝二參知政事一表〕贊二貳國鈞一、參二聞廟論一。

【廟灣】102 ベウワン 鎭の名。❶河南省汝南縣の東。❷江蘇省阜寧縣の東南。諸鹽場の中心區。古、鹽亭といひ、鹽を產することが最も古い。〔河防一覽〕元歲漕二江南之粟一、由二揚州一直北、出二廟灣一入レ海。❸福建省浦城縣の西北。

【成レ廟】103 ベウヲナス 宗廟が初めて出來あがること。〔禮、雜記下〕成レ廟則釁レ之。〔疏〕成レ廟則釁レ之者、謂二宗廟初成、則殺レ羊取レ血以釁レ之、尊而神レ之也。

【廟行鎭】104 ベウカウチン 鎭の名。一に廟巷鎭に作る。長江と上海の間に位す。昭和七年の上海事變に十九路軍の據る所となつたが、爆彈三勇士等の奮闘により、之を陷落せしめた。

【廟磯灘】105 ベウキタン 灘の名。長江の急流で江面が甚だ狹く、迴水沱といふ。淸の嘉道年間、工事を施して平坦となす。四川省雲陽縣の東。

【廟兒溝】106 ベウジコウ 地名。❶河北省遵化縣。銀の產地。❷滿洲遼寧省本溪縣の南。磁鐵鑛の產地。❸滿洲遼寧省海城縣。滑石の產地。❹湖北省竹山縣。銅の產地。

【廟陵監】107 ベウリヨウカン 諸陵助、また諸陵頭の唐名。〔職原抄〕諸陵寮、助一人、唐名廟陵監。〔拾芥抄、中本〕諸陵頭、廟陵令、廟陵監。

【廟陵署】108 ベウリヨウシヨ 諸陵寮の唐名。〔職原抄〕諸陵寮、唐名廟陵署。〔百寮訓要抄〕諸陵寮、廟陵署。

【廟陵丞】109 ベウリヨウジヨウ 諸陵允の唐名。〔職原抄〕諸陵寮、允、大少、唐名廟陵丞。〔拾芥抄、中本〕諸陵頭、允、諸陵丞、廟陵丞。

【廟陵令】110 ベウリヨウレイ 諸陵頭の唐名。〔職原抄〕諸陵寮、頭一人、唐名廟陵令。

【殯二于廟一】111 ベウニヒンス 葬むる時、殯宮から出て廟に告げること。一說に、廟中に殯するをいふ。〔左氏、僖、八〕凡夫人不レ薨二于寢一、不レ殯二于廟一、不レ赴二于同一、不レ祔二于姑一、則弗レ致也。〔注〕將レ葬、又不二以レ殯過レ廟。〔疏〕殯過レ廟者、將レ葬之時、從二殯宮一出告レ廟、乃葬。〔會箋〕殷人尚レ質、敬二鬼神一而遠レ之、死則爲レ神、故朝而殯二於祖廟一、云、殯レ廟者魯禮也、魯禮何以殯レ廟、殷禮也。

【廟陵小監】112 ベウリヨウセウカン 諸陵助の唐名。〔拾芥抄、中本〕諸陵頭、助、四人、廟陵小監。

【廠】9490

㊀シヤウ 〔集韻〕齒兩切 ㄔㄤˇ ch'ang3 養

㊁シヤウ 〔集韻〕尺亮切 漾

㊀㊁❶**うまや**。〔玉篇〕廠、馬屋。❷**壁のない家**。〔廣韻〕廠、露舍。〔集韻〕廠、無レ壁屋也。〔韓偓、南安寓止詩〕枳籬茅廠共二桑麻一。❸**工作所**。**工場**。〔淸會典事例、工部〕琉璃廠亮瓦廠房屋、向レ例徵二收地租一。❹現㋑みせ。㋺人の會聚するところ。㋩小屋。物置。㋥滿洲で未開の地をいふ。

【廠營】1 シヤウエイ 軍の臨時宿營をする宿舍。

【廠衞】2 シヤウエイ 東廠と錦衣衞。明の成祖が東廠を北京の東安門の北に立て、大監をおいて謀反や妖言を監督させ、錦衣衞（もと禁衞軍で鹵簿の侍從を掌つたが、後、民の情僞を察し、刑獄を掌つた）と權勢を均しくしたからいふ。〔明史、刑法志三〕亦自二永樂時一、廠與レ衞相倚、故言者竝稱二廠衞一、初成祖起二北平一、刺二探宮中事一、多以二建文帝左右一爲二耳目一、故卽位後、專倚二宦官一、立二東廠於東安門北一、令三嬖暱者提二督之一、緝二訪謀逆妖言大奸惡等一、與二錦衣衞一均二權勢一、蓋遷都後事也。〔明史、刑法志三〕六年、侍郞張璁等言、祖宗設二三法司一、以糾二官邪一、平二獄訟一、設二東廠錦衣衞一、以緝二盜賊一、詰二奸宄一、自レ今貪官寃猿仍責二法司一、其有二徇情曲法一、乃聽二廠衞一覺二察盜賊奸宄一、仍責二廠衞一、亦必送二法司一擬レ罪、詔如レ議行。

【廠廈】3 ch'ang3 sha4 廊下。

【廠獄】4 シヤウゴク 明代、勅命によつて捕へた罪人を收容した牢獄。東西の二廠あり、成祖始めて東廠を置き、寧宗の時、西廠を置いた。廠衞を見よ。〔方苞、左忠毅公逸事〕及二左公下二廠獄一、史朝二夕獄門外一。

【廠子】5 ch'ang4 tzŭ4 仕事場又は其の店。

【廠址】6 ch'ang3 chih3 工場所在地。

【廠絲】7 ch'ang3 ssŭ1 工場製の生絲。

【廠肆】8 ch'ang3 ssŭ4 琉璃廠の古書籍店。

【廠車】9 ch'ang3 ch'ê1 河南地方で用ひられる貨物運搬用の車。一名、長車。

【廠舍】10 シヤウシヤ 四方に圍ひの無い屋舍。かりや。

【廠所】11 ch'ang3 suo3 ❶倉庫。❷兵器廠。

【廠地】12 ch'ang3 ti4 作事場。置場。

【廠甸】13 シヤウデン 北京琉璃廠の異名。著名な繁華街で、正月元日から半月、玩具等を商つて賑はふ。〔燕京歲時記、廠甸兒〕廠甸在二正門外二里許一、古曰二海王村一、卽今工部之琉璃廠也、街長二里許、廛肆林立、南北皆同、所レ售之物、以二古玩字畫紙張書帖一爲二正宗一、乃文人鑒賞之所也、惟至二正月一、自二初一日一起、列レ市半月、兒童玩好、在二廠甸紅貨一、在二火神廟一珠寶晶瑩鼎彝羅列、豪富之輩、日事二搜求一、冀レ得二異寶一、而紅貨之內、以二翡翠石一爲二最尊一、一搬指翎管、有下價至二萬金一者上、翡翠之外、並重二料壺一、然必須二官窰古月軒者一、方爲二上品一、新料不レ足レ道也、蓋玩好之物、風尚不レ同、乾隆間、重二珊瑚一、賤二碧霞璽一、後又重二碧霞璽一、近更重二翡翠石及料壺一、風雅之士、亦間有下重二舊玉一者上、笛頭劍隔、古色盎然、而眞僞殊不レ易レ辨、故予嘗曰、物而能言、免二去許多聚訟一、蓋指二此物一也、至二於舊磁一類一、甚屬二寥寥一、已多爲二外洋一買去矣、謹按、日下舊考、琉璃廠東、有二遼御史大夫李內貞墓一、及二乾隆三十六年一、工部郞中孟澔、得二其誌石於土中一、有下葬二於海王村一之語上。

【廠房】14 シヤウバウ 工場。〔訓蒙字會〕如二工作廳一、俗呼二廠房一。

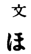
【廠棚】15 シヤウホウ かりごや。〔福惠全書、刑名部、人命上、總論〕搭二蓋廠棚一、掃二除場地一。

【廡】9491

㊀ブ ム 〔集韻〕罔甫切 ㄨˇ wu3 麌

㊁ブ ム 〔集韻〕微夫切 虞

小篆


籀文

㊀❶**らうか**。**わたどの**。**ほそどの**。もと⿸广橆（4―9558）に作る。〔說文〕⿸广橆、堂周屋也、从レ广橆聲。〔正字通〕廡、篆作レ⿸广橆。〔漢書、竇嬰傳〕所レ賜金、陳二廊廡下一。〔後漢書、順帝紀〕恭陵百丈廡、灾。〔注〕廡、廊屋也。〔後漢書、侯覽傳〕石槨雙闕、高廡百尺。〔注〕廡、廊下周屋也。❷**いへ**。〔廣雅、釋室〕廡、舍也。〔後漢書、張酺傳〕可下作二稾蓋廡一施中祭其下上而已。〔注〕廡、屋也。❸**大きいいへ**。〔釋名、釋宮室〕大屋曰レ廡、廡、幠也、幠、覆也、幷冀人謂二之庌一。〔左思、蜀都賦〕千廡萬室。〔注〕劉曰、廡、庌也。❹**ひさし**。**のき**。〔字彙〕廡、堂下周廊、卽大屋四邊重簷也。〔南史、馬樞傳〕有二白燕一雙一、巢二前庭樹一、

馴二狎櫚廡一、時至二几案一。❺籀文は𢋠(4－9518)に作り、或は㡃(4－9233)に作る。〔集韻〕廡、籀从レ舞、或作レ㡃。〘三〙**草木が繁茂する**。蕪(6－15514)に通ず。〔說文通訓定聲〕廡、叚借爲レ蕪。〔集韻〕廡、蕃廡、艸木盛皃。〔書、洪範〕庶草蕃廡。〔傳〕廡、豐也。〔張衡、東京賦〕草木蕃廡。〔注〕綜曰、廡、盛也。

【廡下】1（ブカ）のきした。又、屋根の下。〔史記、李斯傳〕居二大廡之下一、不レ見二人犬之憂一。〔唐書、舒元輿傳〕乃得下入列二棘闈一席中坐廡下上。〔陳謨、苦レ雨詩〕寄二人廡下一苦二淹留一。

【廡舍】2（ブシャ）家。家屋。〔戰國、魏策〕蘇子說二魏王一曰、大王之地、云云、名雖レ小、然而廬田廡舍、曾無下所三芻二牧牛馬一之地上、人民之衆、車馬之多、日夜行不二休已一、無三以異二于三軍之衆一。

【廡傍】3（ブバウ）のきのわき。〔福惠全書、刑命部、逃人、拿獲〕假如レ廁、命暫帶二廡傍一伺候、廼入レ內。

【廢】9492

ハイ　〔集韻〕放吠切　ㄈㄟˋ　fei4　隊

小篆

❶**いへがかたむく。かたむく**。くづれる。〔說文〕廢、屋頓也、从レ广發聲。〔說文通訓定聲〕按、傾圮無レ用之意。〔淮南子、覽冥訓〕四極廢。〔注〕廢、頓也。❷**ふす**。ふせる。〔史記、淮陰侯傳〕千人皆廢。〔注〕索隱曰、孟康曰、廢、伏也、張晏曰、廢、偃也。❸**おちる**。〔左氏、定、三〕邾子自投二于牀一、廢二於爐炭一。〔注〕廢、隋也。❹**すたれる**。㋑こはれる。やぶれる。〔禮、少儀〕廢則少而更二張之一。〔注〕廢、政敎壞亂、無レ可レ因也。㋺ゆるむ。〔禮、學記〕敎之所二由廢一也。〔注〕廢、弛。㋩うせる。〔呂覽、誣徒〕道術之廢也。〔注〕廢、失。㋥うごかない。きかない。〔莊子、讓王〕左手攫レ之、則右手廢。〔釋文〕李云、廢、棄也、司馬云、廢、病也。㋭行はれない。〔老子、十八〕大道廢、有二仁義一。❺**器物に足がない**。〔儀禮、士喪禮〕廢敦重鬲。〔注〕廢敦、敦無レ足者。〔疏〕凡物無レ足稱レ廢。〔儀禮、士虞禮〕主人洗二廢爵一。〔注〕爵無レ足曰二廢爵一。❻**すてる**。〔說文、廢、段注〕頓之言、鈍、謂二屋鈍置無レ居之者一也、引二伸之一、凡鈍置皆曰レ廢、云云、古謂レ存レ之爲レ置、棄レ之爲レ廢、亦謂レ存レ之爲レ廢、棄レ之爲レ置。㋑やめる。やむ。〔爾雅、釋詁〕廢、止也。〔禮、中庸〕半塗而廢。〔注〕廢、猶二罷止一也。〔管子、內業〕飽而不レ廢。〔注〕廢、止也。〔淮南子、原道訓〕輪轉而無レ廢。〔注〕廢、休也。㋺さる。のぞく。〔詩、小雅、楚茨〕廢撤不レ遲。〔箋〕廢、去也。〔禮、檀弓下〕廢レ輴而設レ撥。〔注〕廢、去也。〔禮、曾子問〕廢レ喪。〔疏〕廢、猶レ除也。㋩しりぞける。用ひない。〔周禮、天官、大宰〕三曰、廢置、以馭二其吏一。〔注〕廢、猶レ退也。㋥はなつ。やる。〔爾雅、釋詁〕廢、舍也。〔注〕舍、放置。〔周禮、天官、大宰〕七曰、廢以馭二其罪一。〔注〕廢、猶レ放也。〔楚辭、劉向、九歎、愍命〕廢二周邵於遐夷一。〔注〕不レ用曰レ廢。❼**おく**。とめておく。〔小爾雅、廣言〕廢、置也。〔集韻〕廢、一曰、置也。〔公羊、宣、八〕廢二其無レ聲者一。〔注〕廢、置也、置者、不レ去也、齊人語。❽**たくはへる**。つむ。〔史記、仲尼弟子傳〕好二廢擧一。〔注〕集解曰、廢擧、謂二停貯一也。❾**かはる**。〔詩、小雅、四月〕廢爲二殘賊一。〔集傳〕廢、變。❿**大きい**。奔(3－5885)に通ず。〔說文通訓定聲〕廢、叚借爲レ奔。〔爾雅、釋詁〕廢、大也。〔列子、楊朱〕廢虐之主。〔注〕廢、大也。⓫**ならふ**。忕(4－10325)に通ず。〔說文通訓定聲〕廢、叚借爲レ忕。〔詩、小雅、四月〕廢爲二殘賊一。〔傳〕廢、忕也。⓬**やむ。又、不具**。癈(7－22520)に通ず。〔說文通訓定聲〕廢、叚借爲レ癈。〔周禮、地官、小司徒〕以辨二其貴賤老幼廢疾一。〔注〕廢疾、謂二癃疾一也。〔淮南子、覽冥訓〕走獸廢レ腳。〔注〕廢レ腳、跛蹇也。⓭**うごく**。發(7－22669)に通ず。〔說文通訓定聲〕廢、叚借爲レ發。〔論語、微子〕廢中レ權。〔釋文〕廢、鄭作レ發、動皃。⓮**はねる**。撥(5－12727)に通ず。〔周禮、考工記、梓人〕必撥爾而怒、〔注〕故書撥作レ廢、鄭司農云、廢、讀爲レ撥。

參考　癈(7－22520)は別字。

【廢案】1（ハイアン）廢止されて行はれない議案、又は考案。

【廢衣】2（ハイイ）役にたたない衣。〔禮、少儀〕臣致二襚於君一、則曰レ致二廢衣於賈人一。

【廢遺】3（ハイヰ）やめわすれる。〔劉歆、移レ書讓二太常博士一文〕比レ意同レ力、冀得二廢遺一。

【廢邑】4（ハイイフ）荒れすたれた邑。〔管子、地圖〕名邑廢邑、困殖之地。

【廢員】5（ハイヰン）免官となつた人。老朽官吏。〔國朝漢學師承記、武億〕詔各擧下所レ知廢員可二起用一者上。

【廢營】6（ハイエイ）荒れすたれた陣營。〔李商隱、淮陽路詩〕荒村倚二廢營一、投宿旅魂驚。

【廢易】7（ハイエキ）❶すたれかはる。〔荀子、正論〕不レ至二於廢易遂亡一。❷やめて取りかへる。〔魏志、齊王芳紀〕中書令李豐、與二皇后父光祿大夫張緝等一、謀二廢易一。

【廢捐】8（ハイエン）すてる。やめる。廢棄。〔班倢伃、自悼賦〕猶被二覆載之厚德一兮、不三廢二捐於罪郵一。

【廢淹】9（ハイエン）世にすてられて用ひられない人。〔國語、晉語七〕逮二鰥寡一、振二廢淹一。〔注〕廢淹、謂下本賢人以二小罪一久見上レ廢。

【廢堰】10（ハイエン）破れすたれたせき。〔宋史、王安石傳〕四方爭言二農田水利一、古陂・廢堰、悉務二興復一。

【廢苑】11（ハイエン）廢園に同じ。〔廼賢、南城詠古、壯臺詩〕廢苑鶯花盡、荒臺燕麥生。

【廢園】12（ハイエン）あれた庭園。〔陸游、晚步詩〕看レ竹入二廢園一、望二江上高城一。

【廢遠】13（ハイエン）養ふことを止めて遠く離れる。〔李密、陳情表〕是以區區不レ能二廢遠一。〔注〕良曰、廢遠、謂三廢レ養而遠二離祖母一。

【廢屋】14（ハイヲク）住む人のゐないあばらや。破屋。廢宅。〔謝翺、廢居行〕經レ年廢屋無二居人一、孕婦夜向二船中一產。

【廢家】15（ハイカ）❶家督相續人がなくて血統が絕えた家。絕家。❷戶主の意志によつて其の家を廢滅すること。

【廢懈】16（ハイカイ）やめおこたる。事務を廢しおこたる。〔鹽谷宕陰、昭代記〕雖二公事繁劇一、未二嘗廢懈一。

【廢校】17（ハイカウ）學校を廢止すること。又、廢止された學校。

【廢講】18（ハイカウ）講義をやめる。〔南史、韓懷明傳〕(劉)虬嘗一日廢レ講、獨居涕泣。

【廢格】19（ハイカク）行はれないやうに邪魔をすること。〔史記、淮南王傳〕廢二格明詔一、當二棄市一。〔注〕索隱曰、漢律所謂廢格、案、如淳注二梁孝王傳一云、謂二攱閣不レ行也。〔漢書、義縱傳〕天子聞、使二杜式治一、以爲二廢格沮レ事。〔注〕孟康曰、此爲下廢二格詔書一、沮中已成之事上也。〔鹽鐵論、刺復〕故憯急之臣進、而見知廢格之法起。

【廢格沮誹】20（ハイカクソヒ）行はれないやうに邪魔をしてそしる。〔史記、平準書〕於レ是見知之法生、而廢格沮誹窮治之獄用矣。〔注〕集解曰、如淳曰、廢格、廢二格天子文法一、使レ不レ行也、誹、謂レ非二上所一レ行。

【廢閣】21（ハイカク）荒れはてたたかどの。〔後漢書、五行志一〕黃門北寺、始見二廢閣一。

【廢學】22（ハイガク）中途で學問をやめる。〔禮、學記〕燕レ辟廢二其學一。〔疏〕墮レ學之徒、好褻慢、笑二師之譬喩一、是廢學之道也。〔蘇洵、送二石昌言使一レ北引〕昌言聞二吾廢レ學、雖レ不レ言、察二其意一甚恨。

【廢學如二斷機一】23（ハイガクハダンキノゴトシ）學問を半途で廢するを誡めた語。孟母斷機(3－6960··255)を見よ。〔列女傳、母儀、鄒孟軻母傳〕孟母以レ刀斷二

其織一、孟子懼而問二其故一、孟母曰、子之廢レ學、若三吾斷二斯織一也。

【廢刊】24 ハイカン 新聞雜誌等の刊行をやめること。

【廢艦】25 ハイカン 古い軍艦を艦籍から除くこと。又、艦籍から除かれた軍艦。

【廢棄】27 ハイキ ❶すてる。やめる。〔書、大禹謨、疏〕不三苛二虐鰥寡孤獨無レ所レ告者一、必哀二矜之一不二廢棄一。〔後漢書、黃琬傳〕琬被二廢卒一幾二十年。❷控訴又は故障の申立等によつて原裁判を取消すこと。

【廢隳】28 ハイキ すたれやぶれる。隳廢(**11―41895**‥9)に同じ。

【廢丘】29 ハイキウ 地名。犬丘の別名。又、槐里といふ。項羽が章邯を立てて雍王とし、咸陽以西の主として此處に都せしめた。今の陝西省興平縣。〔史記、秦紀、注〕正義曰、犬丘故城、一名槐里、亦曰二廢丘一、在二雍州始平縣東南十里一。

【廢腳】30 ハイキヤク 足をいためる。〔淮南子、覽冥訓〕飛鳥鎩レ翼、走獸廢レ腳。〔注〕廢レ腳、跛蹇也。

【廢虐】31 ハイギヤク 大虐をいふ。〔列子、楊朱〕凡此諸閼、廢虐之主。〔注〕廢、大也。

【廢去】32 ハイキヨ すてさる。やめる。〔漢書、鼂錯傳〕廢二去淫末一、除レ苛解レ嬈。

【廢居】33 ハイキヨ ❶貨物を貯へて置いて、物價の騰貴を待つこと。一說に、廢は出して賣ること、居は停め蓄へること。廢擧。〔史記、平準書〕轉轂百數、廢居居レ邑。〔注〕集解曰、徐廣曰、廢居者、貯蓄之名也、有レ所レ廢、有レ所レ蓄、言二其乘レ時射レ利也、如淳曰、居二賤物於邑中一、以待レ貴也、索隱曰、劉氏云、廢、出賣也、居、停蓄也。❷住む人のゐないあばらや。廢屋。

【廢渠】34 ハイキヨ すたれたみぞ。〔王建、縣丞廳卽事詩〕雨水洗二荒竹一、溪沙塡二廢渠一。

【廢墟】35 ハイキヨ 城又は家屋或は市街などのほろびすたれたあと。廢址。〔韓維、城西書レ事詩〕野竹濛二荒塹一、寒花亂二廢墟一。

【廢擧】36 ハイキヨ 物價の低い時に買入れ、高い時に賣出す。廢居を見よ。〔史記、仲尼弟子傳〕子貢好二廢擧一、與レ時轉二貨貲一。〔注〕集解曰、廢擧、謂二停貯一也、與レ時、謂レ逐レ時也、夫物賤則買而停貯、値貴卽逐レ時、轉易貨賣、取二資利一也、索隱曰、王肅云、廢擧、謂二買レ賤賣レ貴也、云云、劉氏云、廢、謂二物貴而賣レ之、擧、謂三物賤而收二買之一。

【廢壞】37 ハイクワイ すたれ破れる。くづれ破れる。荒廢。破壞。〔韓詩外傳、五〕禮義廢壞、人倫不レ理。〔後漢書、章德竇皇后紀〕家既廢壞。〔白虎通、五經〕綱散紀亂、五教廢壞。

【廢曠】38 ハイクワウ すてる。すたる。すたれなくなる。曠は空。〔白居易、題二西亭一詩〕荒淫卽不可、廢曠將何如。〔遼史、耶律室魯傳〕自三韓德讓知二北院一、職多二廢曠一。

【廢官】39 ハイクワン ❶廢絕した官職。〔論語、堯曰〕謹二權量一、審二法度一、脩二廢官一、四方之政行焉。〔漢書、律歷志上〕脩二廢官一、擧二逸民一。❷fei⁴ kuan¹ 墮落した官吏。

【廢軍】40 ハイグン 如何にしても敵に勝つ事の出來ない軍。廢滅する軍隊。〔尉繚子、天官〕背レ水陳爲二絕地一、向レ阪陳爲二廢軍一。

【廢缺】41 ハイケツ すたれかける。廢闕。〔女誡、夫婦〕夫不レ御レ婦、則威儀廢缺。〔注解〕毀損喪失也。〔後漢書、曹世叔妻傳〕夫不レ御レ婦、則威儀廢缺。

【廢闕】42 ハイケツ すたれかける。廢缺。〔顏氏家訓、書證〕儻削二此文一、頗成二廢闕一。

【廢業】43 ハイゲフ ❶學問の修業をやめる。〔顏氏家訓、勉學〕哀聲動レ鄰、猶不レ廢レ業。❷今までの仕事をやめる。世業を廢する。〔禮、檀弓上〕大功廢レ業。〔陸倕、新漏刻銘〕司曆亡レ官、疇人廢レ業。❸仕事を務めない。〔後漢書、王丹傳〕每歲農時、載二酒肴於田閒一、候二勤者一而勞レ之、云云、其輕黠游蕩、廢レ業爲レ患者、輒曉二其父兄一、使三黜二責之一。❹すたれた仕事。〔後漢書、許楊傳〕明府今興二立廢業一、富レ國安レ民。

【廢券】44 ハイケン 無効になつた證券。〔福惠全書、刑命部、問擬〕退約久爲二廢券一。

【廢戶】45 ハイコ 廢家(15)に同じ。〔戶口規則、第六條、三項、十七號〕廢戶及絕戶。

【廢痼】46 ハイコ 不治の疾。廢疾。〔郭鈺、丁未人日詩〕麴生二廢痼一交情絕、看二徧梅花一晚獨行。

【廢錮】47 ハイコ 官吏の資格をとりあげること。又、一生涯役人となることの出來ないやうにすること。〔漢書、息夫躬傳〕躬同族親屬素所レ厚者、皆免廢錮。〔注〕師古曰、絕レ身不レ得レ仕。〔後漢書、李燮傳〕邵遂廢錮終レ身。〔潛夫論、實貢〕乃賢者廢錮、而不レ得レ達二於聖主之朝一爾。

【廢語】48 ハイゴ 現在通用してゐないことば。死語。活語(**6―17423**‥31)の❶の對。

【廢功】49 ハイコウ 功をやぶる。事を害する。〔國語、晉語四〕信二於令一、則時無レ廢レ功。

【廢后】50 ハイコウ ❶皇后の位を奪つて其の資格を取り消すこと。〔漢書、景帝紀〕六年秋九月、皇后薄氏廢。〔後漢書、光武紀下〕建武十七年冬十月辛巳、廢二皇后郭氏一爲二中山太后一、立二貴人陰氏一爲二皇后一。❷廢された皇后。〔魏書、后妃傳〕孝文廢皇后馮氏、太師熙之女也。〔唐書、后妃下、肅宗廢后庶人張氏傳〕鄧州向城人、家徙二新豐一、祖母竇、昭成皇女弟也。

【廢喉】51 ハイコウ のどを使はない。のどで呼吸をしないこと。〔蘇軾、聞二正輔表兄將レ至以レ詩迎レ之詩〕目聽不レ任レ耳、踵息殆廢レ喉。

【廢興】52 ハイコウ すたることとおこること。衰へることと盛になること。興亡。隆替。興廢。〔詩、周南、關雎序〕言三王政之所二由廢興一也。〔周禮、地官、州長〕以贊二卿大夫廢興一。〔左氏、襄、二十七〕廢興存亡昏明之術。〔孟子、離婁上〕國之所二以廢興存亡一者亦然。〔韓非子、解老〕無二常操一、是以死生氣稟焉、萬智斟酌焉、萬事廢興焉。

【廢國】53 ハイコク ❶ほろびたくに。亡國。〔中庸〕繼二絕世一、擧二廢國一。❷羣公子を害すること。〔國語、晉語一〕廢レ國而向レ己、不レ可レ謂レ禮。〔注〕廢レ國、謂三盡害二羣公子一。

【廢齊】54 ハイサイ 婚禮に父が子に酒を酌んで之を前に迎へること。〔史記、禮書〕大昏之未レ廢レ齊也。〔注〕索隱曰、廢、齊、謂三婚禮父親醮レ子而迎二之前一、故曲禮云、齊戒以告二鬼神一、是婚禮有レ齊也。

【廢倉】55 ハイサウ すたれやぶれた倉。〔韓愈、唐故江西觀察使韋公墓誌銘〕因二其廢倉大屋一。

【廢喪】56 ハイサウ やみすたれる。〔顏氏家訓、雜藝〕廢喪實多、不レ可レ常也。

【廢札】57 ハイサツ 通用しない紙幣。

【廢殘】58 ハイザン ❶病人・不具者をいふ。〔明律、名例、軍官有犯、集解〕其在レ外致仕・優給・退職・借職・篤廢・殘疾者、雖二奏題一、不レ論レ功定レ議。❷いためる。そこなふ。又、いたむ。

【廢止】59 ハイシ すてる。やめる。

【廢弛】60 ハイシ すたれゆるむ。〔漢書、王莽傳上〕朝政崩壞、綱紀廢弛。〔吳融、祝風詩〕田畯不レ勝レ荒、農功皆廢弛。〔王冕、劍歌行〕我來四十鬢已斑、學レ書學レ劍俱廢弛。〔弘道館記述義、下〕乘二我政教廢弛一、乃敢布二其妖教一。

【廢址】61 ハイシ ほろびたあと。廢墟。〔陳孚、葛嶺行〕我偶過レ此訪二廢址一、狐兔縱橫草焦枯。〔邵長蘅、夜游二孤山一記〕宋賈似道後樂園廢址、在二今葛嶺一。

【廢志】62 ハイシ 志をすてる。〔魏志、三少帝、陳留王奐紀〕姜維虐二用其衆一、曾無レ廢レ志。

【廢紙】63 ハイシ 不用になつたかみ。ほご。〔唐書、李繁傳〕從レ吏求二廢紙一、握レ筆著二家傳十篇一。

【廢絲】64 fei⁴ ssŭ¹ 繭から糸を採る時、棄て去る屑糸をいふ。上海では絲吐といふ。

【廢寺】65 ハイジ 荒れすたれた寺院。〔顧況、經二廢寺一詩〕石路無二人掃一、松門被二火燒一。〔王建、廢寺詩〕廢寺亂來爲二縣驛一、荒松老柏不レ生レ煙。

【廢事】66 ハイジ 仕事をやめる。又、すたれた事。〔漢書、成帝紀〕故官無レ廢レ事、下無二逸民一。〔淮南子、泰族訓〕使二其君生無レ廢レ事、死無レ遺レ憂。〔論衡、道虛〕使二黃帝廢レ事修レ道、則心意調和。

【廢失】67 ハイシツ すたりうせる。疎略。閑却。〔後漢書、明帝紀〕不レ知二稼穡之艱難一、懼レ有二廢失一。

【廢疾】68 ハイシツ なほらないやまひ。又、かたはもの。不具。癈疾。〔周禮、地官、鄕師〕辨二其老幼貴賤廢疾一。〔注〕廢疾、謂二癃病一也。〔禮、禮運〕矜寡孤獨廢疾者、皆有レ所レ養。〔荀子、大略〕廢疾非レ人不レ養者、一人不レ事。

【廢瑟】69 ハイシツ やぶれて使用出來なくなつた琴。〔鮑溶、古意詩〕新人易レ如レ玉、廢瑟難レ爲レ絃。

【廢日】70 ハイジツ 空しく日を費す。〔左氏、哀、十五〕廢レ日共レ積。〔注〕廢二行道之日一。〔會箋〕言、當レ行而不レ行、廢二棄日力一。

【廢舍】71 ハイシヤ 拾てる。廢捨。〔管子、白心〕不レ可二常居一也、不レ可二廢舍一也、隨レ變斷レ事也。

【廢娼】72 ハイシヤウ 娼妓の公許をやめる。廢倡。

【廢爵】73 ハイシヤク 脚のないさかづき。〔儀禮、士虞禮〕主人洗㆓廢爵㆒、酌㆑酒酳㆑尸。〔注〕爵無㆑足曰㆓廢爵㆒。

【廢戍】74 ハイジユ ㊀警備のまもりをやめる。〔春秋、僖、二十八〕公子買戍㆑衞不㆑卒㆑戍刺㆑之、〔杜注〕公實畏㆑晉、殺㆓子叢㆒、而誣㆑叢以㆓廢㆑戍之罪㆒、恐㆑不㆑爲㆓遠近所㆒㆑信。㊁すたれた兵營のあと。〔劉長卿、奉㆑使至㆓申州㆒傷㆑經㆓陷沒㆒詩〕廢戍山烟出、荒田野火行。

【廢書】75 ハイシヨ 讀みかけた書物をやめて讀まないこと。〔史記、孟軻傳〕未㆔嘗不㆓廢㆑書而歎㆒也。

【廢飾】76 ハイシヨク 姿を飾らない。化粧をしない。〔女誡、專心〕出無㆓冶容㆒、入無㆓廢飾㆒。〔注解〕廢飾、不㆑施㆑飾也、紅粉・笄簪・雜佩之類、皆是飾也。〔後漢書、曹世叔妻傳〕出無㆓冶容㆒、入無㆓廢飾㆒。

【廢職】77 ハイシヨク ㊀職務を怠る。〔禮、明堂位〕各揭㆓其職㆒、百官廢㆑職。〔吳志、吳主孫權傳〕長吏無㆓廢㆑職之負㆒。㊁すたれた官職。〔左思、魏都賦〕繼㆓絕世㆒、修㆓廢職㆒。㊂官職を廢止する。〔左氏、桓、六〕以㆑官則廢㆑職。

【廢辱】78 ハイジヨク 官職をやめさせられること。〔史記、高祖功臣侯年表〕觀㆘所㆔以得㆓尊寵㆒及所㆗以廢辱㆖。

【廢心】79 ハイシン 我意我執を去り心を靜虛にすること。〔列子、仲尼〕孔丘能廢㆑心而用㆑形。

【廢人】80 ハイジン 不治の病氣のために世の役に立たぬ人。又、世捨人の自稱。〔北齊書、韓軌傳〕告㆑人云、廢人飮㆓美酒㆒、對㆓名勝㆒、安能作㆓刀筆吏㆒、返㆓披故紙㆒乎。

【廢井】81 ハイセイ 荒れはてた井戶。使用しない井戶。〔李白、謝公宅詩〕荒庭衰草徧、廢井蒼苔積。

【廢聲】83 ハイセイ 聲を出さない。〔魏志、陳思王植傳〕輪不㆑輟㆑運、鸞無㆑廢㆑聲。

【廢銷】84 ハイセウ 廢止してとかす。〔史記、平準書〕諸郡國所㆓前鑄㆒錢、皆廢㆓銷之㆒。

【廢絕】85 ハイゼツ すたれて無くなる。〔劉歆、移㆑書讓㆓太常博士㆒〕不㆑思㆓廢絕之缺㆒。〔後漢書、光武紀上〕漢遭㆓王莽㆒、宗廟廢絕。

【廢然】86 ハイゼン 今までの事を忘れはてるさま。〔莊子、德充符〕適㆓先生之所㆒、則廢然而反。〔疏〕廢㆓向者之怒㆒、而復㆓於常性㆒也。

【廢措】87 ハイソ すておく。〔周禮、考工記、梓人〕必如㆑將㆓廢措㆒。〔孫詒讓正義〕古、廢・置、皆曰㆑措。

【廢贈】88 ハイゾウ おくりものをやめる。〔論衡、定賢〕同盟無㆑廢㆑贈。

【廢塞】89 ハイソク すたれふさがる。おちぶれる。〔宋書、謝惠連傳〕坐被㆑徙、廢塞不㆑豫㆓榮位㆒。「熄。

【廢熄】90 ハイソク すたれやむ。〔呂覽、本味〕名號必廢熄。

【廢損】91 ハイソン すたれへる。こはれたりしてだめになる。

【廢退】92 ハイタイ 官職を退かせる。黜退。〔漢書、鼂錯傳〕廢㆓退姦邪㆒、除㆓去陰刑㆒。〔論衡、累害〕位廢退者、謂㆓之惡㆒。〔韓愈、柳子厚墓誌銘〕謂、功業可㆓立就㆒、故坐廢退。

【廢敦】93 ハイタイ 穀物を盛る器で脚のないもの。敦は盤の類で、穀を盛つて神に供へる器。〔儀禮、士喪禮〕新盆盤瓶、廢敦重鬲。〔注〕廢敦、敦無㆑足者。

【廢替】94 ハイタイ やめてかへる。やめてすてる。〔潛夫論、賢難〕夫體㆓至行仁義㆒、據㆓南面㆒、師㆓尹卿士㆒、且猶不㆑能㆑無㆑難、然則夫子削㆑迹、叔嚮縲紲、屈原放沈、賈誼貶黜、鍾離廢替、何敞束縛、王章抵㆑罪、平阿斥逐、蓋其輕士者也。

【廢滯】95 ハイタイ 長い間やめさせられて居つた賢者。〔左氏、成、十八〕始命㆓百官㆒、施舍已㆑責、逮㆓鰥寡㆒、振㆓廢滯㆒、匡㆓乏困㆒。〔注〕起㆓舊德㆒。〔會箋〕廢㆓于家㆒而滯淹者、言㆓賢者㆒也。〔晉書、景帝紀〕魏嘉平四年、命㆓百官㆒舉㆓賢才㆒、明㆓少長㆒、卹㆓窮獨㆒、理㆓廢滯㆒。

【廢頹】96 ハイタイ すたれくづれる。頹廢(**12－43517**‥52)に同じ。

【廢刀】97 ハイタウ 帶刀をやめること。明治維新後、士人の帶刀を廢止された時にいつた語。

【廢宅】98 ハイタク 住む人のないあばらや。廢屋。〔吳融、廢宅詩〕風飄㆓碧瓦㆒雨摧㆑垣、却有㆓鄰人爲鏁㆑門。〔輟耕錄、買㆑宅有㆑讖〕買㆓廢宅㆒、修㆓葺前廳㆒。

【廢奪】99 ハイダツ 臣下が大罪ある場合に、官を廢して追放するを廢といひ、其の身を刑殺して、家財を沒收するを奪といふ。〔周禮、天官、大宰〕以㆓八柄㆒詔㆑王、馭㆓羣臣㆒云云、六曰奪、以馭㆓其貧㆒、七曰廢、以馭㆓其罪㆒。〔疏〕六曰奪、以馭㆓其貧㆒者、謂㆘臣有㆓大罪㆒、身殺奪㆗其家資㆖、故云㆔以馭㆓其貧㆒、七曰廢、以馭㆓其辠㆒者、廢、放也、謂㆘臣有㆓大罪㆒、若不㆑忍㆓刑殺㆒、放㆑之以遠㆖、故云㆔以馭㆓其辠㆒。

【廢地】101 ハイチ ㊀荒れ果てた土地。無用の土地。〔劉克莊、爲㆑圃詩〕屋邊廢地稍平治、裝㆓點風光㆒要㆓自怡㆒。〔齊民要術、旱稻〕其高田種者、不㆑求㆓極良㆒、唯須㆓廢地㆒。㊁重要でない地位。〔劉禹錫、上㆓中書李相公㆒啓〕雖㆔身居㆓廢地㆒、而心恃㆓至公㆒。

【廢池】102 ハイチ 荒れた池。〔杜甫、君不㆑見簡㆓蘇徯㆒詩〕君不㆑見道邊廢棄池、君不㆑見前者摧折桐。

【廢置】103 ハイチ ㊀撤廢と存置。㊁免職と登庸。㋑不能を退け賢者を登庸すること。〔周禮、天官、大宰〕三曰廢置、以馭㆓其吏㆒。〔注〕廢、猶㆑退也、退㆓其不能者㆒、舉㆑賢而置㆑之。〔後漢書、卓茂傳〕初茂到㆑縣、有㆑所㆓廢置㆒。㋺賢者を退け佞者を用ひること。〔韓非子、內儲說下〕敵之所㆑務、在㆓淫㆑察而就㆑靡、人主不㆑察、則敵廢置矣。〔集解〕先愼曰、敵得㆔以廢㆓置我之人才㆒矣。㊂天子を廢立すること。〔公羊、文、十四〕不㆑與㆔大夫專廢㆓置君㆒也。〔漢書、霍光傳贊〕處㆓廢置之際㆒、臨㆓大節㆒而不㆑可㆑奪。

【廢馳】104 ハイチ すたれる。わるくなる。〔福惠全書、郵政部、總論〕彼驛務廢馳已極。

【廢逐】105 ハイチク やめさせて追放する。〔日本政記、正親町天皇論〕至㆓於義昭㆒、既爲㆓織田氏所㆒㆑立、又爲㆔其所㆓廢逐㆒。

【廢廳】106 ハイチヤウ 官廳を廢止する。又、廢止された官廳。〔清國行政法汎論、最近廢止之官廳〕通政使司之爲㆓廢廳㆒、亦理所㆑當㆑然。

【廢嫡】107 ハイチヤク 長男の相續をやめさせること。家督相續人たる身分を廢止すること。〔後漢書、袁紹傳〕若公違㆑禮任㆑情、廢㆑嫡立㆑庶、恐衆議未㆑安。〔魏志、劉表傳評〕廢㆑嫡立㆑庶、舍㆑禮崇㆑愛。

【廢黜】108 ハイチユツ 官職をやめさせしりぞける。〔漢書、外戚恩澤侯表〕卒用廢黜。〔後漢書、順帝紀〕以㆓廢黜㆒不㆑得㆓上殿㆒。〔魏志、武帝紀〕后廢黜死。

【廢著】109 ハイチヨ 廢居(33)の㊀に同じ。〔史記、貨殖傳〕子贛既學㆓於仲尼㆒、退而仕㆓於衞㆒、廢著鬻㆓財於曹魯之閒㆒。〔注〕集解曰、徐廣曰、著、猶㆑居也、著、讀如㆑貯、索隱曰、漢書亦作㆑貯、說文、貯、積也。

【廢除】110 ハイヂヨ ㊀やめのぞく。除廢(**11－41669**‥66)に同じ。㊁被相續人が裁判所に訴へて、法定の推定家督相續人、又は遺留分を有する推定遺產相續人を其の地位から排斥すること。法律用語。

【廢隊】111 ハイツイ 廢墜に同じ。隊は墮。〔左氏、昭、九〕文武成康之建㆓母弟㆒、以蕃㆓屛周㆒、亦其廢隊是爲。

【廢墜】112 ハイツイ すたれおちる。〔白居易、華嚴經社石記〕俾㆑無㆓廢墜㆒。

【廢帝】113 ハイテイ ハイダイ ㊀天子をやめさせること。〔魏志、齊王芳紀〕大將軍司馬景王、將㆑謀㆑廢㆑帝、以聞㆓皇太后㆒。㊁位を奪はれた君の稱。廢せられた皇帝。㋑漢、昌邑王賀をいふ。劉賀(**2－2224**‥81)を見よ。㋺後漢、第十四代の少帝をいふ。劉辯(**2－2224**‥600)を見よ。㋩三國魏、第三代の齊王をいふ。曹芳(**5－14297**‥150)を見よ。㋥三國魏、第四代の高貴鄕公をいふ。曹髦(**5－14297**‥160)を見よ。㋭三國吳、第二代の會稽王をいふ。孫亮(**3－6987**‥296)を見よ。㋬東晉、第七代の海西公をいふ。司馬奕(**2－3257**‥221)を見よ。㋣成漢、第四代の幽公をいふ。李期(**6－14459**‥179)を見よ。㋠後趙、第二代の王をいふ。石弘(**8－24024**‥304)を見よ。㋷後趙、第四代の王をいふ。石世(**8－24024**‥452)を見よ。㋦前秦、第三代の王をいふ。苻生(**9－30825**‥11)を見よ。㋸南朝宋、第二代の少帝をいふ。劉義符(**2－2224**‥798)を見よ。㋾南朝宋、第五代の前廢帝をいふ。劉子業(**2－2224**‥963)を見よ。㋻南朝宋、第七代の後廢帝をいふ。劉昱(**2－2224**‥15)を見よ。㋕南齊、第三代の鬱林王をいふ。蕭昭業(**9－32012**‥430)を見よ。㋵南齊、第四代の海陵王をいふ。蕭昭文(**9－32012**‥434)を見よ。㋟南齊、第六代の東昏侯をいふ。蕭寶卷(**9－32012**‥503)を見よ。㋹陳、第三代の臨海郡王をいふ。陳伯宗(**11－41698**‥1204)を見よ。㋞後魏の節閔帝、前

廢帝をいふ。拓跋恭(5－11958‥28)を見よ。㋡西魏、第三代の帝をいふ。拓跋欽(5－11958‥29)を見よ。㋧北齊、第二代の帝をいふ。高殷(12－45313‥32)を見よ。㋤唐、第四代の王をいふ。李從珂(6－14459‥1427)を見よ。㋶金、第四代の海陵王をいふ。完顏亮(3－7079‥46)を見よ。㋰金、第七代の衞紹王をいふ。完顏允濟(3－7079‥52)を見よ。㋒安南陳朝、第十代の王をいふ。名は晛。在位十二年。

【廢停】114 ハイテイ やめとどめる。停廢(1－864‥82)に同じ。

【廢掉】115 fei^4 tiao^4 無效にする。破壞する。

【廢朝】116 ハイテウ 皇室の凶事又は其の他の事故のために、天子が政務をとらないこと。輟朝。〔魏志、劉劭傳〕或云、當㆑廢㆑朝。〔晉書、武帝紀〕咸寧二年春正月、以㆓疾疫㆒廢㆑朝。〔唐書、太宗紀〕貞觀四年七月、太上皇不豫、廢㆑朝。

【廢適】117 ハイテキ 廢嫡(107)に同じ。〔漢書、外戚、孝成趙皇后傳〕繼嗣失㆑統、廢㆑適立㆑庶。

【廢徹】118 ハイテツ やめてとりのぞく。〔詩、小雅、楚茨〕諸宰君婦、廢徹不㆑遲。〔箋〕廢、去也。〔漢書、元后傳〕既至見㆓孝元廟㆒、廢徹塗㆑地。

【廢鐵】119 fei^4 t'ieh^3 古鐵。

【廢帖】120 ハイテフ 用を爲さない書帖。〔王氏書苑〕余臨㆓大令法帖一卷㆒、何人取作㆓廢帖㆒、裝背以與㆓沈括㆒。

【廢典】121 ハイテン すたれた儀式。〔後漢書、明帝紀贊〕永懷㆓廢典㆒、下㆑身遵㆑道。〔庾信、賀㆓新樂㆒表〕樂正無㆓缺章㆒、秩宗無㆓廢典㆒。

【廢田】122 ハイデン 荒れはてた田地。〔報德記、八〕。

【廢屠】123 ハイト 賤業者をいふ。世に棄てられ、屠殺を業とする者。〔戰國、秦策〕姚賈曰、太公望、齊之逐夫、朝歌之廢屠、子良之逐臣、棘津之讎不㆑庸、文王用㆑之而王。

【廢頓】124 ハイトン すたれやむ。〔漢書、五行志下之下〕王者失㆑道、綱紀廢頓。〔漢書、王莽傳中〕司空之職、尤獨廢頓、下將叛去。〔蜀志、楊戲傳〕後儼痼疾廢頓。

【廢農】125 ハイノウ 農事を廢する。農事をしない。〔潛夫論、愛日〕民既廢㆑農、遠來詣㆑闕。

【廢牌】126 ハイハイ すつべきふだ。〔福惠全書、涖任部、清號件〕其銷過廢牌、卽勾抹。

【廢放】127 ハイハウ 官職をやめさせて追放する。すて去つて用ひない。〔漢書、霍光傳〕古者、廢放之人、屛㆓於遠方㆒、不㆑及㆑以政。

【廢亡】128 ハイバウ すたれほろびる。〔管子、君臣上〕罰㆑之以㆓廢亡之辱、僇死之刑㆒。〔後漢書、天文志〕其廢亡之徵。

【廢忘】129 ハイバウ 捨てる。〔像法決疑經〕廢㆓忘經業㆒。

【廢法】130 ハイハフ 法をやめる。〔莊子、讓王〕今大王欲㆓廢㆑法毀㆑約而見㆑說。〔唐書、食貨志二〕武宗卽位、廢㆓浮屠法㆒。

【廢藩】131 ハイハン 藩を廢止すること。廢藩置縣を見よ。

【廢藩置縣】132 ハイハンチケン 明治四年十一月、諸藩を廢し、改めて全國を三府七十二縣に分ち、郡縣の制を定めたことをいふ。

【廢罷】133 ハイヒ すてやめる。〔宋書、周朗傳〕宜㆑通㆓廢罷㆒。

【廢罷訴權】134 ハイヒソケン 債權者が詐害行爲の取消を裁判所に請求することを得る權利。詐害行爲廢罷訴權の略。

【廢備】135 ハイビ 警備をやめる。〔漢書、燕剌王旦傳〕毋㆑廢㆓迺備㆒。〔注〕師古曰、禦㆑邊之備、不㆑可㆑廢。

【廢蕪】136 ハイブ すたれ荒れる。〔越絕書、越絕外傳記吳王占夢〕社稷廢蕪、父子離散。

【廢伏】137 ハイフク のがれかくれる。〔呂覽、振亂〕天子既絕、賢者廢伏。

【廢物】138 ハイブツ 世の用を爲さないもの。役にたたないもの。〔吳越春秋、王僚使公子光傳〕不㆑能㆑報㆑仇、畢爲㆓廢物㆒。

【廢物利用】139 ハイブツリヨウ 廢物を役にたたせること。

【廢病】140 ハイヘイ 長い間身にもつ病。持病。〔後漢書、鄧皇后紀〕頃以㆓廢病沈滯、久不㆑得㆑侍㆑祠、自力上㆓原陵㆒。

【廢斃】141 ハイヘイ すたれたふれる。〔吳志、吳主孫權傳評〕讒說殄㆑行、胤嗣廢斃。

【廢米】142 ハイベイ 役に立たない米。〔六部成語、戶部、除挑廢米、注解〕霉爛無㆑用之廢米、挑揀而除㆓去之㆒。

【廢慢】143 ハイマン すたれゆるむ。あなどり廢する。廢棄侮慢。〔後漢書、和殤帝紀〕今廢慢懈弛。〔歐陽脩、吉州學記〕廢㆓慢天子之詔㆒。

【廢民】144 ハイミン やくに立たない民。〔晏子、問、上〕治無㆓怨業㆒、居無㆓廢民㆒。

【廢務】145 ハイム ❶事務をおこたる。〔晉書、謝安傳〕虛談廢㆑務、浮文妨㆑要。❷廢朝などのため臣下が政務又は事務を執らないこと。〔文獻通考、王禮考〕命㆓有司㆒廢㆑務禁㆑樂三日。

【廢滅】146 ハイメツ すたれほろびる。又、すてほろぼす。〔晏子、諫、下〕讒諛萌通、而賢良廢滅。〔墨子、非攻下〕廢㆓滅先王㆒、賊㆓虐百民㆒。

【廢免】147 ハイメン やめさせる。〔管子、明法解〕不㆑勝㆓其任㆒者廢免。〔史記、平準書〕法既益嚴、吏多㆓廢免㆒。

【廢約】148 ハイヤク 契約解除。條約の廢棄、或は商業上の契約解除をいふ。

【廢藥】149 ハイヤク 投藥する。藥石にも當る善言をのべる。廢は、置くこと。〔列子、黃帝〕先生既來、曾不㆑廢㆑藥乎。〔注〕廢、置也、曾無㆔善言以當㆓藥石㆒也。〔諸葛晃、考〕廢藥、猶㆑云㆓投藥㆒也。

【廢亂】150 ハイラン すたれみだれる。〔鮑照、紹古辭其二〕緜纚多㆓廢亂㆒、篇帛久塵緇。

【廢懶】151 ハイラン やめおこたる。〔春渚紀聞〕近者百事廢懶。

【廢利】152 ハイリ 利益を捨てる。商賣を怠ることをいふ。〔管子、法法〕商無㆑廢㆑利、民無㆓游日㆒。

【廢離】153 ハイリ すてはなれる。〔李密、陳情表〕臣侍㆓湯藥㆒、未㆓曾廢離㆒。

【廢立】154 ハイリツ 今の君主をやめさせて別の人を君主とすること。〔史記、太史公自序〕諸侯廢立分削、譜記不㆑明。〔後漢書、安帝紀〕司空周章、密謀㆓廢立㆒。〔曹冏、六代論〕託㆓廢立之命于奸臣之口㆒。

【廢禮】155 ハイレイ 禮儀をすてる。〔左氏、桓、六〕以㆓器幣㆒則廢㆑禮。〔晉書、謝安傳論〕史臣曰、云云、廢㆓禮於嬀薄之俗㆒、崇㆓侈於耕戰之秋㆒。

【廢曆】156 ハイレキ 今、用ひてゐない舊曆。陰曆。

【廢話】157 fei^4 hua^4 無用の話。無駄話。

【廢王】158 ハイワウ ❶退位した王。〔元稹、景申秋詩〕三元推㆓廢王㆒、九曜入㆓乘除㆒。❷前涼の廢王祚をいふ。張祚(4－9812‥504)を見よ。

【興㆑廢】159 ハイヲオコス すたれてゐるのを盛にする。〔班固、兩都賦序〕以興㆑廢繼㆑絕。

【廢株是守】160 ハイシユヲコレマモル 宋人が切株を見守つて兎を待つた故事。舊習に拘泥して時勢に順應しない喩。守株(3－7071‥112)を見よ。〔尾藤二洲、文〕乃拘拘焉、廢株是守。

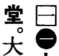
【廢督裁兵】161 fei^4 tu^1 ts'ai^2 ping^1 督軍を廢し其の部下の兵を裁撤して、中央の支配に屬せしめること。

【廣】9493

[一]クヮウ 〔集韻〕古晃切 養 ㄍㄨㄤˇ kuang^3

[二]クヮウ 〔集韻〕古曠切 漾

[三]クヮウ 〔集韻〕姑黃切 陽



小篆

[一]❶大屋根があり四壁のない堂。大ひろま。〔說文〕廣、殿之大屋也、从㆑广黃聲。〔說文通訓定聲〕按、堂無㆓四壁㆒者、秦謂㆓之殿㆒、所謂堂皇也、覆以㆓大屋㆒曰㆑廣、尙書大傳、天子之堂廣九雉、注、榮間相去也。❷ひろば。には。〔莊子、田子方〕是求㆓馬于唐肆㆒也、釋文〕司馬本作㆓廣肆㆒、云、廣、庭也、求㆓馬於市肆廣庭㆒、非㆓其所㆒也。❸ひろい。㋑はば・ひろがりがある。〔廣雅、釋詁四〕廣、博也。〔集韻〕廣、一曰、闊也。〔禮、曲禮上〕車上不㆓廣欬㆒。〔注〕廣、猶㆑宏也。㋺おほきい。〔廣雅、釋詁一〕廣、大也。〔素問、陰陽離合論〕前曰㆓廣明㆒。〔注〕廣、大也。㋩おほい。〔戰國、西周策〕地廣而益重。〔注〕廣、多也。㋥とほい。〔方言、六〕廣、遠也。〔荀子、解蔽〕廣焉能弃㆑方矣。〔注〕廣、讀爲㆑曠、遠也。㋭あまねし。〔書、大禹謨〕帝德廣運。〔注〕廣、謂㆓所㆑覆者大㆒。㋬ゆるやか。寬大。〔左氏、文、十八〕齊聖廣淵。〔疏〕廣者、寬也、器宇宏大、度量寬宏也。㋣ゆるい。〔禮、樂記〕廣則容㆑姦。〔注〕廣、

謂二聲緩一也。❹ひろめる。㋑大きくする。〔禮、明堂位〕言レ廣二魯於天下一也。〔注〕廣、大也。〔國語、周語中〕必廣二其身一。〔注〕廣、大也。㋺しきのべる。〔字彙〕廣、播也。㋩ます。〔禮、樂記〕廣二其節奏一。〔注〕廣、謂三增二習之一。㋥ひろげる。〔史記、淮南衡山傳〕廣二長楡一。〔注〕集解曰、廣、謂三斥二大之一也。㋭おもひをやる。うさをはらす。〔史記、屈原賈生傳〕乃爲レ賦以自廣。〔注〕索隱曰、廣、猶レ寬也。❺ひろまる。ひろがる。〔呂覽、長利〕是故地日廣。〔注〕廣、大也。〔後漢書、和帝紀〕齊民歲增、闢土世廣。❻**廣東・廣西兩省の略稱**。〔皇朝文獻通考、兵考〕順治十年、設二兩廣總督一、駐二廣州府一。❼**姓**。〔萬姓統譜〕廣、廣成子之後。❽[現]左の肩窩から右の指先までの廣さ。

[二]❶**ひろさ**。ひろがり。〔集韻〕廣、度廣曰レ廣。〔左氏、莊、二十八、爲レ旆、注〕廣充レ幅長尋曰レ旆。❷**よこ**。東西の長さ。横(**6－15594**)に通ず。〔說文通訓定聲〕廣、叚借爲レ横。〔周禮、地官、大司徒〕周知二九州地域廣輪之數一。〔注〕東西爲レ廣、南北爲レ輪。〔國語、越語上〕廣運百里。〔注〕東西爲レ廣。〔張衡、西京賦〕考二廣袤一。〔注〕綜曰、東西爲レ廣。❸**さしわたし**。直徑。〔周禮、考工記、輪人〕信二其程圍一、以爲二部廣一。〔注〕廣、謂レ徑也。〔周髀算經、上、注〕應二圓之周一、横者、謂二之廣一。❹**兵車の名**。横につらねるもの。〔集韻〕廣、一曰、兵車名。〔周禮、春官、車僕〕廣車之萃。〔注〕廣車、横陳之車也。〔左氏、宣、十二〕晉人或以二廣隊一不レ能レ進。〔注〕廣、兵車也。❺**兵車十五乘の稱呼**。〔左氏、宣、十二〕廣有二一卒一。〔注〕十五乘爲二一廣一。❻**ひらき安らかなさま**。〔荀子、王霸〕人主胡不二廣焉一。〔注〕廣焉、開泰貌。❼**むなしい**。曠(**5－14245**)に通ず。〔正字通〕廣、與レ曠通。〔漢書、五行志中之上〕師出過レ時、之謂レ廣。〔注〕韋昭曰、謂二怨曠一也。❽**つか**。壙(**3－5576**)に通ず。〔說文通訓定聲〕廣、叚借爲レ壙。〔孔子家語、困誓〕自望二其廣一。〔注〕廣、宜レ爲レ壙。❾**ひかる**。光(**1－1350**)に通ず。〔說文通訓定聲〕廣、叚借爲レ光。〔國語、周語下〕熙、廣也。〔注〕鄭後司農云、廣、當レ爲レ光。

[三]**馬の名**。𩧯(**12－4506**)に同じ。〔集韻〕𩧯、馬回毛在レ脊曰二闋𩧯一、或作レ廣。〔爾雅、釋畜〕回毛在レ背、闋廣。〔釋文〕廣、本或作レ𩧯、同。

【廣阿】1 クヮウア ❶縣名。漢、置く。もと侯邑。現今の河北省隆平縣の東。〔漢書、地理志上〕鉅鹿郡、縣二十、廣阿。〔讀史方輿紀要、直隸、眞定府、趙州〕隆平縣、漢廣阿縣、屬二鉅鹿郡一。❷大陸澤の一名。大陸(**3－5831**‥2301)の❷を見よ。

【廣阿侯】2 クヮウアコウ 漢の任敖(**1－416**‥27)の封號。

【廣愛】3 クヮウアイ 廣く他を愛する。又、愛情を廣く他に及ぼす。又、死者に對して生前の愛情を持ち續けること。〔晏子、諫、下〕今朽レ尸以留レ生、廣レ愛以傷レ行、修レ哀以害レ性、君之失矣。

【廣安】4 クヮウアン ❶州名。㋑明、置く。民國、縣に改む。〔淸史稿、地理志〕四川、順慶府、州二、廣安州。㋺元、置く。故治は甘肅省固原縣の東。❷縣名。㋑後魏、置く。故城は陝西省延長縣の南。〔讀史方輿紀要、陝西、延安府〕延長縣、云云、西魏置二廣安縣一、隋改二延安縣一。㋺元、置く。故治は甘肅省固原縣の東南。〔讀史方輿紀要、陝西、平涼府、固原州〕廣安城、州東南四十里、舊志云、在二開成縣東四十五里一、宋咸平中、置二東山砦一、金升爲レ縣、隸二鎭戎州一、元至元七年、幷二入鎭原州一、尋改置二廣安縣一、又升爲レ州、隸二開成路一。㋩民國、置く。四川省大竹縣の西南。渠江の西岸。❸城の名。新疆省吐魯番縣の治。〔新疆要略〕城外交河二一道、源出二金嶺一、環漑二田畝一、回人稱爲二安樂城一、乾隆閒、賜二今名一。❹年號。㋑北魏、孝明帝の時、葛榮の僭年號。(526－528)㋺宋時、南詔の段連義の僭年號。(1077－1079)

【廣菴】5 クヮウアン 字號。❶淸、周金然(**2－3441**‥613)の號。❷淸、梁萬方(**6－14825**‥315)の字。

【廣易】6 クヮウイ ひろくたひらかなこと。〔道德指歸論〕肥饒廣易、方數千里。

【廣頤】7 クヮウイ ひろいあご。大きなあご。〔唐書、諸帝公主、太平公主傳〕方額廣頤、而多二陰謀一。

【廣威】8 クヮウヰ 明、徐威(**4－10110**‥4)の字。

【廣威王】9 クヮウヰワウ 唐の李文昌の死後の封號。〔八閩通志〕李文昌、唐天寶中、仕レ閩、掛二冠居城南精舍一卒、僧爲立レ祠、鄕民懷二其德一、請二于刺史陸長源一、移二祀建寧府城東南將相里一、建中二年、始建二廟宇一、鄕民夢レ神、指示云、此有二儲錢一倉一、掘二其處一果得レ錢、土木之費、皆取レ給焉、因名二錢倉一、乾符閒、黃巢亂、神師見二雲中一、有二旗幟一、曰、建安錢倉廟、俄而怒風飛レ石、王師遂大捷、奏封二廣威王一。

【廣囿】10 クヮウイウ 廣い狩場。〔說苑、善說〕野遊則馳二騁弋三獵乎平原廣囿一。

【廣祐】11 クヮウイウ 北宋の神宗・哲宗の代に越(安南)の仁宗、李乾德の年號。(1085－1092)

【廣溢】12 クヮウイツ ひろくあふれる。〔後漢書、明帝紀〕漭瀁廣溢、莫レ測二圻岸一。

【廣印】13 クヮウイン 明の高僧。嘉善の人。字は聞谷。徑山に住し、紫柏・雲棲・海印三老の眞傳を得た。〔明人小傳、五〕・〔明詩綜、九十二〕・〔列朝詩集小傳〕。

【廣韻】14 クヮウヰン 書名。五卷。隋の開皇の初、陸法言が主任となり、在來の韻書に據り討論刪定すること十數年の後、仁壽元年に至って完成したものを切韻と名付ける。唐の玄宗の天寶十年、孫愐がこれに字を增加して唐韻と稱してから切韻は廢れた。宋の眞宗の景德四年、陳彭年に命じて增廣せしめ、大中祥符元年、完成と共に名を大宋重修廣韻と賜はり、後に丁度等が撰した集韻と共に並び行はれ、略して廣韻といふ。此の書は二百六韻に分けて文字を排錄し、每字音訓を注解したものである。各卷の首に目錄があり、每韻其の反切及び獨用同用を注し、卷末に雙聲疊韻法・六書・八書・辯字五音法・辯十四聲例法・辯四聲輕淸重濁法を附してゐる。所收の字は凡て二萬六千一百九十四、注文は十九萬一千六百九十二字。唐の封演の聞見記に、陸法言韻凡一萬二千一百五十八字とあるから、一萬四千三十六字を增したことがわかる。〔四庫提要、經、小學類〕・〔古逸叢書、第二十四－二十七冊〕・〔四部叢刊、八十二－八十六〕。

〔參考書〕【重修廣韻】書名。宋の大中祥符四年、陳彭年等奉敕撰。此の書は二百六部、其の注は引據に資すべきものが多いと同時に、冗漫に失するものも亦少くない。唯、考證家は、其の該博を取るが故に、之を重んずること原本に過ぐるものがある。〔四庫提要、經、小學類〕。

【廣宇】15 クヮウウ 大きな屋根。〔張衡、冢賦〕奕奕將將、崇棟廣宇。

【廣鬱】16 クヮウウツ 縣名。❶漢、置く。今、廣西省貴縣の地。〔漢書、地理志下〕鬱林郡、縣十二、廣鬱。❷南朝宋、置く。廣西省舊南寧府の境。

【廣運】17 クヮウウン ❶ひろくゆきわたる。覆ふ所が廣大で及ぶ所が遠い。〔書、大禹謨〕帝德廣運、乃聖乃神、乃武乃文。〔傳〕廣、謂二所レ覆者大一、運、謂二所レ及者遠一。〔疏〕廣者、闊之義、故爲二所レ覆者大一、運者、動之言、故爲二所レ及者遠一。❷ひろさ。東西を廣、南北を運といふ。〔國語、越語上〕廣運百里。〔注〕東西爲レ廣、南北爲レ運。❸年號。㋑南朝後梁、莒公、蕭琮の時。(582－583)㋺五代北漢、英武帝、劉繼元の時。(974－979)㋩宋時、夏の景宗、李元昊の時。(1034－1035)㋥宋時、南詔の段正嚴の時。(1108－1146)

【廣運公】18 クヮウウンコウ 西海神の封號。〔事物異名錄、坤輿、海〕唐會要、天寶十載、封二東海廣德公、南海廣利公、西海廣運公、北海廣澤公一。

【廣運潭】19 クヮウウンタン 潭名。開元中、長安に掘って作ったもの。〔唐書、食貨志〕開元中、韋堅、兼二水陸運使一、治二漢隋運渠一、又於二長樂坡瀕苑牆一、鑿二潭望春樓下一、以聚二漕舟一、堅因使下諸舟各揭二其郡名一、陳二其土地所レ產寶貨諸奇物於袱上一、衆艘以レ次輳中樓下上、天子望見而大悅、賜二其潭名一、

曰二廣運潭一。

【廣蘊】20 クヮウウン 淸、金浴(11－40152··1071)の字。

【廣映】21 クヮウエイ ひろくてらす。〔江淹、爲二建平王一慶二少帝登レ祚章〕紫雲垂蓋、效異二於劉后一、實乃深賜二天衷一、廣映二祇迹一。

【廣窯】22 クヮウエウ 磁器の一種。廣東省陽江縣所産のものをいふ。この地は最も早く洋風をまねて、出品類が頗る華麗である。

【廣耀】23 クヮウエウ ひろくかがやかす。〔吳志、是儀傳〕宣二揚美德一、廣二耀威靈一。

【廣益】24 クヮウエキ ひろく益する。〔諸葛亮、出師表〕必能裨二補闕漏一、有レ所二廣益一。

【廣延】25 クヮウエン ひろく人々を招く。〔漢書、律歷志上〕今廣延二羣儒一、博謀二講道一。〔漢書、董仲舒傳〕廣延二四方之豪儁一。〔後漢書、班固傳上〕幕府新開、廣延二羣俊一。

【廣衍】26 クヮウエン ❶ひろくたひらか。曠衍。〔史記、司馬相如傳〕注二平皐之廣衍一。〔張衡、西京賦〕爾乃廣衍沃野、厥田上上。❷ひろくはびこる。〔墨子、非攻中〕廣衍數二於萬一。〔晉書、裴頠傳〕虛無之言、日以廣衍。❸縣名。漢、置き、後漢之に因る。陝西省の境。〔漢書、地理志下〕西河郡、縣三十六、廣衍。

【廣宴】27 クヮウエン 盛大なさかもり。盛大にさかもりする。〔顏延之、三月三日曲水詩序〕排二鳳闕一以南游、開二爵園一而廣宴。

【廣淵】28 クヮウエン 大きく深い。廣大で深遠。〔書、微子之命〕乃祖成湯、克齊聖廣淵。〔蔡傳〕廣、言二其大一、淵、言二其深一也。〔左氏、文、十八〕齊聖廣淵、明允篤誠、天下之民、謂二之八愷一。〔注〕淵、深也。

【廣焉】29 クヮウエン 廣いさま。〔荀子、王霸〕人主胡不下廣焉無レ卹二親疏一、無レ偏二貴賤一、唯誠能之求上。〔注〕廣焉、開泰貌。

【廣筵】30 クヮウエン 廣宴に同じ。〔殷仲文、南州桓公九井作詩〕廣筵散二泛愛一、逸爵紆二勝引一。

【廣演】31 クヮウエン ひろくのべる。〔謝靈運、廬山彗遠法師誄〕廣二演慈悲一、饒二益衆生一。〔五燈會元〕益州保唐寺無住禪師、雖三廣二演言教一、而惟以二無念一爲レ宗。

【廣緣】32 ヒロエン 廣い緣の廊下。昔、寢殿造の家の母屋のまはりに在つた幅一間の廂。

【廣讌】34 クヮウエン 廣宴に同じ。〔顏延之、皇太子釋奠會作詩〕獻終襲レ吉、卽レ宮廣讌。

【廣讌堂】35 クヮウエンダウ 明、朱翊鈏(6－14424··1014)の室名。

【廣苑】36 クヮウエン ひろい庭苑。〔謝偃、聽歌賦〕臨二廣苑一陟二崇臺一。

【廣員】37 クヮウエン 廣さ。廣圓。〔山海經、東山經〕諸鉤之山、廣員百里。

【廣圓】38 クヮウエン 周圍の大きさ。廣さ。〔水經、湘水注〕凡此四水、同注二洞庭一、北會二大江一、湖水廣圓五百餘里、日月若三出二沒於其中一。

【廣遠】39 クヮウエン ひろくとほい。又、その範圍。〔國語、晉語八〕夫樂以開二山川之風一、以耀二德於廣遠一也。〔後漢書、安帝紀〕羣飛蔽レ天、爲レ害廣遠。

【廣屋】40 クヮウヲク 廣い家。〔續列女傳、班婕妤傳〕廣屋蔭兮帷幄暗。

【廣恩】41 クヮウオン 恩をひろくほどこす。又、廣大な恩惠。〔史記、太史公自序〕廣レ恩博レ施。

【廣夏】42 クヮウカ 廣く大きな家。廣廈に同じ。廣夏細旃を見よ。〔後漢書、邊讓傳〕歸二平生風之廣夏一兮、脩二黃軒之要道一。〔注〕說苑、雍門周說二孟嘗君一曰、廣夏邃房、下二羅幃一、來二淸風一。

【廣夏細旃】43 クヮウカサイセン 大きな建物と立派なしき物。〔漢書、王吉傳〕吉上疏諫二昌邑王一曰、廣夏之下、細旃之上、明師居レ前、勸誦在レ後、上論二唐虞之際一、下及二殷周之盛一。〔注〕師古曰、廣夏、大屋也、旃、與レ氈同。

【廣廈】44 クヮウカ ❶廣く大きな家。〔韓詩外傳、五〕天子居二廣廈之下、帷帳之內、旃茵之上一。〔列子、力命〕若二廣廈之蔭一。〔鹽鐵論、鹽鐵下〕廣廈洞房。〔資治通鑑、漢紀〕(昭帝、元平元年)夫廣廈之下、細旃之上。〔注〕師古曰、廣廈、大屋也。〔後漢書、崔駰傳〕廣廈成而茂木暢。❷民國、康有爲(4－9376··159)の字。

【廣廈千閒】45 クヮウカセンゲン 廣廈萬閒に同じ。〔國朝漢學師承記、朱筠〕飢者食レ之、寒者衣レ之、有二廣廈千閒之槩一。

【廣廈萬閒】46 クヮウカバンゲン 廣く大きい家。庇護する所の多いことをいふ。〔杜甫、茅屋爲二秋風所レ破歌〕安得二廣廈千萬閒一、大庇二天下寒士一俱歡顏。

【廣霞】47 クヮウカ 山名。九日の出る處。日帝、之を司るといふ。〔雲笈七籤〕廣霞者、玉淸天中山名、乃九日之所レ出、日帝之所レ司也。

【廣雅】48 クヮウガ 書名。十卷。魏、張揖撰。此の書は爾雅の舊目に因つて博く漢儒の箋注及び三蒼・說文の諸書を採つて增廣したもの。隋の曹憲が音釋を作り、煬帝の諱を避けて博雅とし、今日まで二名並び稱されてゐる。其の目は、釋詁・釋言・釋訓・釋親・釋宮・釋器・釋樂・釋天・釋地・釋丘・釋山・釋水・釋草・釋木・釋蟲・釋魚・釋鳥・釋獸・釋畜の十九篇である。〔四庫提要、經、小學類〕・〔增定古今逸史、第三冊〕。

〔參考書〕【廣雅疏證】十卷 淸、王念孫撰。廣雅について、諸書を參酌し、譌字五百八十、脫字四百九十、衍字三十九、先後錯亂する者一百二十三字を漢以前の古訓によつて補正したもの。〔皇淸經解、第一百八十二－一百八十九冊〕。

【廣雅堂】49 クヮウガダウ 淸、張之洞(4－9812··1102)の室名。

【廣海】50 クヮウカイ 寨名。廣東省台山縣の東南の海濱。明、衞を置く。〔讀史方輿紀要、廣州府附見〕廣海衞、在二新海縣南一、云云、舊爲二褥州巡司一、洪武二十七年、改建レ衞。

【廣開】51 クヮウカイ 廣く開く。〔漢書、食貨志下〕益廣開二置左右輔一。〔漢書、藝文志〕大收二篇藉一、廣開二獻書之路一。〔後漢書、鄭玄傳〕無三騁牡之路可二廣開一。

【廣階】52 ヒロシナ 姓氏。

【廣解】53 クヮウカイ 大いに辯ずる。〔荀子、性惡〕恬レ禍而廣解。〔注〕廣自解說、言二以レ辭勝レ人也。

【廣欬】54 クヮウガイ 聲高のせきばらひ。〔禮、曲禮上〕車上不二廣欬一。〔疏〕廣、弘大也、欬、聲欬也、車已高、若在レ上而聲大欬、似二自驕矜一、又驚レ衆也。

【廣蓋】55 ヒロブタ もと衣服を納れる匣の蓋で、賜與の服などを載せて與へたもの。後世、其の形に模して製し、食物を盛るに用ひた。〔東鑑、四十六、康元元年八月廿三日〕卷絹三十疋、云云、扇五十本、積二廣蓋一。

【廣交】56 クヮウカウ 交際を廣くする。〔晉書、皇甫謐傳〕或勸二謐修レ名廣レ交、謐以爲非二聖人一、孰能兼二存出處一。

【廣行】57 kuang^3 hang^2 洋品雜貨店。

【廣孝】58 クヮウカウ ❶父に對する孝を推して、廣く父の友に及ぼすこと。〔禮、坊記〕子曰、於二父之執一、可三以乘二其車一、不レ可三以衣二其衣一、君子以廣レ孝也。❷宋、折繼閔(5－11890··232)の字。

【廣孝徵君】59 クヮウカウチヨウクン 唐、賈會(10－36755··43)の私諡。

【廣樂】60 クヮウガク ❶廣大な音樂。〔列子、周穆王〕鈞天廣樂。〔史記、趙世家〕廣樂九奏、萬舞。〔張衡、西京賦〕饗以二鈞天廣樂一。❷音樂の義理をひろめて他に應用すること。〔禮、樂記〕是故君子反レ情以和二其志一、廣レ樂以成二其教一。〔疏〕寬二廣樂之義理一、以成二就其政教之事一也。❸城の名。漢、建つ。更始の故將蘇茂の降つたところ。今の河南省虞城縣。〔讀史方輿紀要、河南、歸德府、虞城縣〕廣樂城、在二縣西一、漢時有二此城一、建武二年、更始故將蘇茂、據二廣樂一降。

【廣額】61 クヮウガク 廣いひたひ。〔史記、老子傳、注〕正義曰、朱韜玉禮及神仙傳云、老子、云云、長耳大目、廣額疎齒、方口厚脣、額有二三五達理一。〔左思、嬌女詩〕鬢髮覆二廣額一、雙耳似二連璧一。〔袁淑、盧山公九錫文〕靑脊隆身、長頰廣額。

【廣寒】62 クヮウカン 月宮殿。廣寒宮に同じ。〔開元天寶遺事〕唐明皇遊二月宮一、見二天府一、榜曰二廣寒淸虛府一、素娥十餘人、皓衣乘二白鸞一、舞二于桂城下一。〔趙元、大暑詩〕不レ到二廣寒冰雪窟一、扇頭能有二幾多風一。

【廣寒宮】63 クヮウカンキユウ 月中の宮殿の名。〔宣和遺事、前集下〕若到二廣寒宮一、須レ有二一萬億一。〔陳樵、待月壇詩〕倒騎二玉蟾一飛二廣寒一、廣寒宮殿殊淸絕。

【廣寒秋】64 クヮウカンシウ 曲調の名色の名。 折桂令の異名。〔輟耕錄、廣寒秋〕虞邵菴先生在二翰苑一時、宴二散散學士家一、歌兒郭氏順時秀者唱二今樂府一、其折桂令起句云、博山銅細裊二香風一、一句而兩韻、名曰二短柱一、極不レ易レ作、先生愛二其新奇一、席上偶談二蜀漢事一、因命二紙筆一、亦賦二一曲一曰、鸞輿三顧二茅廬一、漢祚難レ扶、日莫二桑榆一、深渡二南瀘一、長驅二西蜀一、力拒二東吳一、美乎周瑜妙術、悲夫關羽云

殂、天數盈虛、造物乘レ除、問汝何ニ如早賦レ歸歟、蓋兩字一韻、比ニ之一句兩韻者一爲ニ尤難一、先生之學問該博、雖ニ一時娛戲一、亦過レ人遠矣、折桂令、一名廣寒秋、一名天香第一枝、一名蟾宮引、今中州之韻、入聲似ニ平聲一、又可レ作ニ去聲一、所以蜀・術等字、皆與ニ魚・虞一相近。

〖廣寒仙〗65 クヮウカンセン 桂の異名。〔陸游、嘉陽絕無ニ木樨一偶得ニ一枝一戲作詩〕久客ニ紅塵一不ニ自憐一、眼明初見ニ廣寒仙一。

〖廣寒梯〗66 クヮウカンテイ 戲曲の篇名。清、夏倫作。王生が善行を爲して遂に科擧に及第した事を演じたもの。新曲六種の一。

〖廣寒殿〗67 クヮウカンデン 廣寒宮(63)に同じ。〔陸游、八月十四日夜三叉市對レ月詩〕一言欲レ報廣寒殿、茅簷華屋均相見。

〖廣寒府〗68 クヮウカンフ 廣寒宮に同じ。〔龍城錄〕上皇申天師與ニ道士鴻都客一、八月望日夜、因ニ天師作術一、三人同遊ニ月中一、見ニ一大官府一、榜曰ニ廣寒清虛府一。

〖廣寒仙裔〗69 クヮウカンセンエイ 宋、陳元靚(**11－41698**・・829)の號。

〖廣寒仙子〗70 クヮウカンセンシ 月宮殿の仙子。嫦娥をいふ。〔琵琶記、中秋望月〕香霧雲鬟、清輝玉臂、廣寒仙子也堪レ並。

【廣閒】71 ヒロマ 玄關の次にある廣い座敷。

【廣漢】72 クヮウカン ㊀郡名。漢、置く。今の四川省梓橦縣の治。〔漢書、地理志上〕廣漢郡、縣十三、廣漢。〔讀史方輿紀要、四川〕漢州、秦蜀郡地、漢爲ニ廣漢郡一。㊁縣名。㋑漢、置く。南齊、改めて小漢と名づく。故城は四川省遂寧縣の東北。〔讀史方輿紀要、四川、潼川州〕遂寧縣、州東西二百四十里、云云、漢廣漢縣地。㋺漢の侯國。今缺く。甘肅省の境。㋩南朝宋、置く。故城は四川省成都縣の治。㋥民國、置く。四川省成都縣の東北。沱江の支流、馬水河の北。㊂字號。㋑明、張津(**4－9812**・・441)の字。㋺清、鍾淵映(**11－40672**・・140)の字。

〖廣漢羌〗73 クヮウカンノキャウ 廣漢地方に居た羌族。〔後漢書、西羌、羌無弋爰劍傳〕或爲ニ白馬種一、廣漢羌、是也。

〖廣漢鉤距〗74 クヮウカンコウキョ 蒙求の標題。前漢の趙廣漢が京兆の尹となつて巧に奸惡を發いた故事。鉤距とは、距のある鉤針で、被告の逃れるすべのないやうな訊問のやり方の喩。〔漢書、趙廣漢傳〕廣漢爲レ人彊力、天性精ニ於吏職一、見ニ吏民一、或夜不レ寢至レ旦、尤善爲ニ鉤距一、以得ニ事情一、鉤距者、設欲レ知ニ馬賈一、則先問レ狗、已問レ羊、又問レ牛、然後及レ馬、參ニ伍其賈一、以レ類相準、則知ニ馬之貴賤一、不レ失レ實矣。

〖廣漢樓記〗75 クヮウカンロウキ 朝鮮の小說。李桃隣と妓の春香との情事を敍す。孝・烈・友の人倫の三綱を綴つた沈湘傳・春香傳・燕脚の三種の中、春香傳を漢文體にしたもの。

〖廣漢魏叢書〗76 クヮウカンギソウショ 叢書の名。漢魏六朝の羣書を輯めたもの。漢魏叢書(**7－18153**・・40)を見よ。

【廣己】77 クヮウキ 己の道德を立派にする。〔莊子、山木〕廣レ己而造レ大也、愛レ己而造レ哀。〔疏〕廣ニ己道德一而規ニ造大位之心一。

【廣軌】78 クヮウキ 鐵道の軌間は、歐米では一米四三五(四呎八吋五分)を標準軌間とし、これより廣いのを廣軌、狹いのを狹軌といふ。我國では、國有鐵道の軌間は一米〇六七(三呎六吋)で、一般に歐米の標準軌間を廣軌、我が三呎六吋のものを狹軌といつてゐる。狹軌(**7－20428**・・6)の對。

〖廣軌鐵道〗79 クヮウキテツダウ 廣軌の鐵道をいふ。

【廣記】80 クヮウキ 廣く記載する。〔杜預、春秋左氏傳序〕必廣記而備言レ之。

【廣基】81 クヮウキ 晉、郤詵(**11－39440**・・20)の字。

【廣期】82 クヮウキ 字號。㊀清、焦袁熹(**7－19119**・・125)の字。㊁清、儲方慶(**1－1284**・・91)の字。

【廣熙】83 クヮウキ 西夏の李元昊の年號。年次不明。〔歷代建元考〕。

【廣僖】84 クヮウキ 西夏(**10－34763**・・66)の年號。年次不明。〔玉海、十三〕。

【廣義】85 クヮウギ ㊀意義をひろめる。〔禮、曲禮下、祭ニ王父一曰ニ皇祖考一、王母曰ニ皇祖妣一、父曰ニ皇考一、母曰ニ皇妣一、夫曰ニ皇辟一、疏〕此更爲レ神設ニ尊號一、亦廣ニ其義一也。㊁ひろい意味。狹義の對。〔清國行政法汎論、行政意義及分類〕行政之意義、隨レ時變化、時有ニ廣義一、又有ニ狹義一。

【廣求】86 クヮウキウ ひろくもとめる。〔漢書、師丹傳〕人情無レ子、年雖ニ六七十一、猶博取而廣求。

【廣橘】87 kuang^3 chü^2 廣東產の蜜柑。

【廣鄉】88 クヮウキャウ 縣名。漢、置く。河北省任縣の界。〔漢書、地理志下〕廣平國、縣十六、廣鄉。

【廣居】89 クヮウキョ ㊀ひろいゐどころ。仁に喩へていふ。〔孟子、滕文公下〕居ニ天下之廣居一、立ニ天下之正位一、行ニ天下之大道一。〔集注〕廣居、仁也。㊁字號。㋑宋、熊方(**7－19294**・・98)の字。㋺元、查居廣(**6－14643**・・86)の字。㋩清、周金然(**2－3441**・・613)の字。

【廣虛】90 クヮウキョ ㊀廣々として空虛なところをいふ。〔呂覽、貴卒〕於レ是令ニ貴人往實ニ廣虛之地一、皆甚苦レ之。〔漢書、鼂錯傳〕臣聞、古之徙ニ遠方一、以實ニ廣虛一也。㊁ひろい虛空。おほぞら。そら。〔曾鞏、七月十四日韓持國直ニ廬同一觀ニ山海經一詩〕高閣在ニ清禁一、長軒馮ニ廣虛一。

【廣裾】91 クヮウキョ ひろいすそ。〔曾鞏、七月十四日韓持國直ニ廬同一觀ニ山海經一詩〕竹影散ニ良席一、花香浮ニ廣裾一。

【廣擧】92 クヮウキョ 廣く擧げる。〔管子、宙合〕不レ可ニ以廣擧一。

【廣旴】93 クヮウク 廣く大きくする。〔漢書、谷永傳〕又廣ニ旴營表一。〔注〕晉灼曰、吁、音旴、旴、大也。

【廣衢】94 クヮウク ひろいみち。〔楊巨源、和三元員外題ニ昇平里新齋一詩〕遂肯高齋枕ニ廣衢一。〔梅堯臣、依レ韻和ニ持國新植西軒一詩〕開レ池臨ニ廣衢一。

【廣化】95 クヮウクヮ 縣名。㊀三國吳、置く。故治は廣東省陽江縣の西。〔讀史方輿紀要、廣東、肇慶府、陽江縣〕廣化廢縣、在ニ縣西北一、三國吳析ニ高涼縣地一、置ニ廣化縣一。㊁後魏、置く。甘肅省徽縣の西。〔讀史方輿紀要、陝西、鞏昌府、徽州〕河池廢縣、云云、後魏得ニ其地一、置ニ河池鎭一、尋置ニ廣化縣一。

【廣花】96 kuang^3 hua^1 廣東產の藍。

【廣貨】97 kuang^3 huo^4 廣東で輸入する品物。西洋雜貨。

【廣會】98 クヮウクヮイ 盛大な宴會。〔水滸傳、八十九回〕大設ニ廣會一、犒ニ勞三軍一、重ニ賞衆將一。

【廣廣】99 クヮウクヮウ ひろいさま。〔荀子、解蔽〕恢恢廣廣、孰知ニ其極一。〔漢書、燕刺王旦傳〕橫術何廣廣兮。

〖廣廣乎〗100 クヮウクヮウコ 廣廣に同じ。〔莊子、天道〕廣廣乎其無レ不レ容也。

〖廣廣然〗101 クヮウクヮウゼン 廣廣に同じ。〔荀子、非十二子〕恢恢然、廣廣然、昭昭然。〔注〕恢恢・廣廣、皆容レ衆之貌。

【廣闊】102 クヮウクヮツ ひろい。曠濶(**5－14245**・・23)に同じ。

【廣觀】103 クヮウクヮン ひろくみる。〔論衡、別通〕不レ好ニ廣觀一。

【廣畦】104 クヮウケイ ひろい畦。〔潘岳、在ニ懷縣一作詩〕薑芋紛ニ廣畦一。

【廣教】105 クヮウケウ ［佛］律宗の語。佛が成道後の十二年間は、ただ諸惡莫作等の倫理的な敎で弟子達の行法を規定してゐたのを畧教といふのに對し、十二年を經て以後、弟子の中に非法が多くなつた際に、廣く戒律を說いて一々持犯を示したものを廣教といふ。〔南山戒疏、一上〕言ニ廣教一者、由ニ略名含一、未レ曉ニ前相一、雖レ造ニ諸非一、不レ謂ニ有犯一、故須下廣張ニ綱目一、收ニ攝罪聚一、鈍根之流聞便得上レ解、因ニ廣說一故、名爲ニ廣教一。

【廣劇】106 クヮウゲキ 多くてはげしいこと。〔唐書、殷侑傳〕元和八年、回鶻請ニ和親一、朝廷以ニ仰レ費廣劇一、欲ニ紓以レ期。

【廣狹】107 クヮウケフ ひろさとせまさ。ひろいこととせまいこと。〔禮、王制〕幅廣狹不レ中レ量、不レ粥ニ於市一。〔管子、山權數〕君通ニ於廣狹之數一。〔孫子、始計〕地者遠近險易、廣狹死生也。〔後漢書、百官志五〕隨ニ事廣狹一、置ニ令長及丞一。

【廣業】108 クヮウゲフ 功業を廣く立派に行ふこと。〔易、繫辭上〕夫易、聖人所ニ以崇レ德而廣一レ業也。

【廣絹】109 クヮウケン 廣幅の絹織物。〔延喜式、二十四、主計〕廣絹、長四丈六寸、廣二尺五寸。

【廣縣】110 クヮウケン 縣名。漢、置く。故城は山東省益都縣の西南。〔漢書、地理志上〕齊郡、縣十二、廣。〔讀史方輿紀要、山東、青州府、益都縣〕廣縣城、在ニ府西四里瀑水澗側一、漢縣屬ニ齊郡一。

【廣元】111 クヮウゲン ㊀縣名。明、置く。四川省昭化縣の東北。漢の葭萌縣の地。嘉陵江の東岸に瀕し、秦蜀の要道をなし、秦中から北來する第一の險所。城の西門に全蜀咽喉の四字がある。縣の北の千佛崖は唐の韋杭の刻で、龍門の千佛崖と同じく天下の絕品である。〔讀史方輿紀要、四

川保寧府〕廣元縣、秦葭萌縣地、漢屬二廣漢郡一、云云、至元十四年、改爲二廣元路一、明洪武七年、收爲二廣元府一、是年改レ府爲レ州、云云、十四年、又改レ州爲レ縣。〔清史稿、地理志〕四川、保寧府、縣七、廣元。❷清、莫春暉（**9**－**31078**‥115）の字。

【廣言】112 クヮウゲン　おほぐちをきく。無遠慮にいふ。大言。荒言。

【廣源】113 クヮウゲン　州名。宋、羈縻廣源州を置く。後、蠻に沒せらる。安南の涼山の北。廣西省龍州縣の界。〔讀史方輿紀要、廣西附考、安南諒山府〕廣源城、在二府西北境一、云云、宋爲二羈縻廣源州一、屬二邕州都督府一、宋史、廣源州在レ邕、管二西南鬱江之南一、云云、後沒二於蠻一、仍曰二廣源一。

〔廣源公〕114 クヮウゲンコウ　揚子江水神の封號。〔通典、禮、吉、山川〕天寶六載、河瀆封爲二靈源公一、濟瀆封爲二清泉公一、江瀆封爲二廣源公一、淮瀆封爲二長源公一、會稽山爲二永興公一、岳山爲二成德公一、霍山爲二應聖公一、醫巫閭山爲二廣寧公一、八載閏六月、封二太白山一爲二神應公一、其九州鎭山、除レ入二諸岳一外、並宜レ封レ公。

【廣乎】115 クヮウコ　ひろいさま。〔莊子、天道〕廣廣乎其無レ不レ容也、淵乎其不レ可レ測也。

【廣固】116 クヮウコ　城の名。晉の曹嶷築く。今、山東省益都縣の西北、堯山の南。〔晉書、地理志下〕永嘉亂、青州淪沒、東萊人曹嶷爲二刺史一、造二廣固城一。〔水經、淄水注〕廣固城、四周絕澗、阻水深隍。〔元和志〕廣固城、有二大澗甚廣固一、故名、晉隆安中、南燕慕容德都レ此、後劉裕克二廣固一、毀二其城隍一、而改築二東陽城一。

【廣弘】117 クヮウコウ　ひろいこと。又、ひろめる。ひろまる。〔雲笈七籤〕廣二弘天上一。

【廣弘明集】118 クヮウグミヤウシフ　書名。三十卷。唐、釋道宣撰。僧祐の弘明集についだもので、體例は少しく異るが大旨は同じで、歸正・辨惑・佛德・法義・僧行・慈濟・戒功・啓福・悔罪・統歸の十篇に分ち、每篇の首に道宣の序を附してゐる。〔四庫提要、子、釋家類〕。

【廣厚】119 クヮウコウ　❶廣く厚い。〔中庸〕及二其廣厚一、載二華嶽一而不レ重。〔白虎通、封禪〕下禪二梁甫之山一、基二廣厚一也。❷クアンホウ　清の滿洲鑲黃旗人。姓は高佳氏。乾隆の進士。甘肅按察使となる。嘉慶の間、湖北の教匪が甘境に入るや、堅守して功あり、湖南巡撫となる。〔清史稿、三百四十九〕・〔國朝耆獻類徵、一百九十一〕。

【廣鉤】120 kuang^3 kou^1　廣東製の釦。

【廣興】121 クヮウコウ　縣名。❶晉、置く。故城は江西省蓮花縣の東。〔讀史方輿紀要、江西、吉安府、永新縣〕廣興城、晉太康初、置二廣興縣一、屬二安成郡一。❷後魏、置く。今缺く。河北省密雲縣の地。❸後魏、置く。故治は河北省徐水縣の西。❹後魏、置く。遼寧省錦縣の地。

【廣告】122 クヮウコク　❶世間に廣く告げ知らせること。❷顧客を誘致するために、廣く大衆に知らせること。又、其の物。

〔廣告屋〕123 クヮウコクヤ　自分の事を吹聽する人。

【廣谷】124 クヮウコク　ひろい谷。〔禮、王制〕廣谷大川異レ制、民生二其間一者異レ俗。

【廣坐】125 クヮウザ　❶衆人の坐つて居る場所。〔戰國、趙策〕衆人廣坐之中、未二嘗不レ言二趙人之長者一也。〔魏志、齊王芳紀〕脩二於廣坐之中一。❷廣い坐席。〔劉楨、贈二五官中郎將一詩〕衆賓會二廣坐一。

【廣才】126 クヮウサイ　秀才をいふ。〔琵琶記、副末開場〕施レ仁施レ義張廣才。

【廣采】127 クヮウサイ　ひろく採用する。〔呉志、陸凱傳〕廣采博察、以成二其謀一。

【廣濟】128 クヮウサイ クヮウセイ　❶ひろくすくふ。〔蜀志、費詩傳評〕以二先主之廣濟、諸葛之準繩一。〔唐太宗、樂章〕神州陰祀、洪恩廣濟。❷川の名。㋑沁水の分流。河南省濟源縣の北で沁水から分れて黃河に注ぐ。其の濟源・沁陽に在るものを、朱溝水といひ、其の溫縣に至つて黃河に入るものを、沙溝水といふ。〔元史、河渠志二、廣濟渠〕中統間、王學士亦爲二天旱一、奉レ詔開二此渠一、募二自願人戶一、於二太行山下沁口古蹟一、置二分水渠口一、開二濬大河四道一、歷二溫・陟一入二黃河一、約五百餘里、渠成、名曰二廣濟一。㋺河南省開封縣の北。一名、五丈河。五丈河（**1**－**257**‥826）を見よ。〔宋史、河渠志四〕廣濟河、導二河水一、自二開封一、歷二陳留・曹・濟・鄆一、其廣五丈。〔九域志〕五丈河卽禹貢之菏澤、從二都北一歷二陳留及鄆一、其廣五丈、舊名二五丈河一、宋開寶六年、詔改名二廣濟河一。❸湖の名。滿洲熱河省。〔遼史、地理志一〕上京臨潢府有二廣濟湖一。❹縣名。唐、置く。湖北省蘄春縣の東。〔讀史方輿紀要、湖廣、黃州府、蘄州〕廣濟縣、漢蘄春縣地、唐武德四年、析二置永寧縣一、屬二蘄州一、天寶初、改曰二廣濟一、宋因レ之。〔清史稿、地理志〕湖北、黃州府、縣七、廣濟。❺遼、行均（**10**－**34029**‥108）の字。

〔廣濟渠〕129 クヮウセイキョ　運河の名。❶山東省壽張縣の西。明の景泰四年、徐有貞が疏鑿して通じたもの。河沁に達す。渠の口は通源閘。❷河南省陝縣の東。唐の武德元年、長孫操の開いたもの。水を引いて城に入れ、井の代用とす。❸汴河をいふ。〔宋史、河渠志三〕汴河、自二隋大業初一、疏二通濟渠一、引二黃河一通レ淮、至レ唐改名二廣濟一。

【廣齋】130 クヮウサイ　明、秦旻（**8**－**24995**‥25）の字。

【廣顙】131 クヮウサウ　ひろいひたひ。博顙。闊顙。廣額。〔易、說卦〕其於レ人也、爲二寡髮一、爲二廣顙一。〔唐書、揚收傳〕廣顙深頤、疏二眉目一、寡二言笑一。

【廣騷】132 クヮウサウ　騷の名。漢、揚雄作。〔漢書、揚雄傳上〕旁二離騷一、作二重一篇一、名曰二廣騷一。

【廣參】133 クヮウサン　❶［佛］大衆が一堂に參會するをいふ。〔禪林象器箋、十二〕。❷kuang^3 shen^1　なまこ。海參（**6**－**17503**‥216）に同じ。

【廣棧】134 kuang^3 chan^4　唐物店。

【廣塹】135 クヮウザン　大きなみぞ。ほり。〔六韜、虎韜、必出〕前有二大水・廣塹・深坑一。

【廣之】136 クヮウシ　金、紇石烈德（**8**－**27246**‥14）の字。

【廣至】137 クヮウシ　縣名。漢、置く。甘肅省安西縣の西。〔漢書、地理志下〕敦煌郡、縣六、廣至。

【廣侈】138 クヮウシ　廣く大きくする。〔國語、呉語〕王不レ如下設レ戎約レ辭行レ成、以喜二其民一、廣中侈呉王之心上。〔注〕侈、大也。

【廣施】139 クヮウシ　施しを廣くする。廣く施す。〔司馬相如、難二蜀父老一文〕博レ恩廣レ施、遠撫二長駕一。

【廣時】141 クヮウシ クヮウジ　地祇を祭る所。〔漢書、郊祀志下〕宜レ令下地祇稱二皇墬后祇一、兆曰中廣時上。

【廣嗣】142 クヮウシ　後嗣の數を多くする。後嗣を絕やさないやうにする。〔漢書、杜欽傳〕禮壹娶九女、所下以極二陽數一廣レ嗣重中祖也上。〔王先謙補注〕白虎通義、天子諸侯、一娶九女、何、重レ國廣二繼嗣一也。〔後漢書、郞顗傳〕郞顗條二便宜七事一、四事曰、方今之福、莫レ若レ廣レ嗣、廣嗣之術、可レ不二深思一、宜下簡二出宮女一、恣中其姻嫁上、則天自降レ福、子孫千億。

【廣肆】143 クヮウシ　❶ひろいみせ。〔高道素、上元賦〕通衢廣肆、大邑都城。❷とりとめなくほしいまなこと。〔韓非子、說難〕慮レ事廣肆、則曰二草野而倨侮一。〔張耒、遣憂賦〕我則顧步而廣肆。

【廣州】144 クヮウシウ　❶府名。明、置く。秦漢の時、南海郡。漢初、南越王の趙佗が據つた所。清は南海・番禺・順德・東莞・從化・龍門・新寧・增城・香山・新會・三水・清遠・新安・花の十四縣を領し、廣東省治と爲す。民國、廢して廣州市となす。〔清史稿、地理志〕廣東、廣州府、領二縣十四一、南海・番禺・順德・東莞・從化・龍門・新寧・增城・香山・新會・三水・清遠・新安・花。❷州名。㋑三國呉、置く。廣東・廣西二省から舊廉・州瓊州の二府を除いた地。〔讀史方輿紀要、廣東〕廣州府、禹貢揚州南境、云云、三國呉始於レ此置二廣州一、晉宋以後因レ之、並治二南海郡一。㋺東魏、置く。治は魯陽。河南省魯山縣の治。〔讀史方輿紀要、河南、南陽府、汝州〕魯山縣、云云、後魏太和十一年、置二魯陽鎭一、十八年、改爲二荊州一、尋改爲二廣州一、二十二年、復改置二魯陽郡一、永安二年、復置二廣州一、東魏武定中、廣州移二置于襄城縣一、西魏得二其地一、仍置二廣州一、尋改曰二魯州一。㋩遼、置く。故治は滿洲遼寧省瀋陽縣の西南。〔讀史方輿紀要、山東、遼東都指揮使司、瀋陽中衞〕章義城、云云、開泰七年、復置二廣州一、治二昌義縣一。

〔廣州市〕145 クヮウシウシ　地名。廣東省城及び其の附近の地。珠江に臨み、外國との交通が最も早い。南京條約の通商港、沿海五港の一。南部の一大都市で、廣九・奧漢・廣三の三鐵道は皆之を起點としてゐる。

〔廣州灣〕146 クヮウシウワン　灣の名。廣東省呉川縣の西南。雷州半島の東。清の光緒二十四年、佛蘭西人に占領され、翌年、遂に其の借用を許し、租借期九十九年とした。灣は靈州半島の東に位し、南北西の三面は陸、東の一面は南海に臨む。

佛蘭西の租借後、自由貿易港となり、安南總督の管轄を受く。

〖廣州人物傳〗147（クヮウシウジンブツデン） 書名。二十四卷。明、黃佐撰。漢から明迄の廣州の人物の諸記に散見するもの凡て一百五十餘人の傳を時代順に配列したもの。卷一から卷十六までは一人每に就いて傳を立て、卷十七からは忠義・孝友・卓行・方技・宦者・流寓の六類に分ち、一節の士を合せ錄してゐる。〔四庫提要、史、傳記類存目〕。

〖廣州四先生詩〗148（クヮウシウシセンセイシ） 書名。四卷。撰者不明。四先生とは、明初の廣州の詩人、黃哲・李德・王佐・趙介をいふ。粵東詩派の先を開く。〔四庫提要、集、總集類〕。

【廣岫】149（クヮウシウ） 山の廣いほら穴。〔王勃、遊ニ武擔山寺一序〕雖ニ珠衣玉匣一、下レ賁窮レ泉、而廣岫長林、終成ニ勝境一。

【廣修】150（クヮウシウ） ひろさとながさ。縱橫。堅白（3－5210‥113）に同じ。〔墨子、經說下〕二二不ニ相盈一、廣修堅白。〔公孫龍、堅白論〕若ニ廣修而相盈一也。

【廣袖】151（クヮウシウ） ㊀廣いそで。〔梁簡文帝、小垂手〕廣袖拂ニ紅塵一。〔梁元帝、歌曲名詩〕縠衫廻ニ廣袖一、團扇掩ニ輕紗一。㊁（ヒロソデ）㋑袖口の下方、袂の部分を縫ひ合せない袖。㋺鎧の袖の一種。

〖廣袖高髻之謠〗152（クヮウシウカウケイノエウ） 廣い袖、高いもとどり姿でうたふ謠。〔白居易、進士策問第三道〕聞ニ廣袖高髻之謠一、則知ニ風俗之奢蕩一也。

【廣繡】153（クヮウシウ） 廣東產の刺繡。ポルトガル人が廣東にてこの種のものを買ひつけ、國王に獻じて賞揚され、それより評判を得たといはれる。

【廣柔】154（クヮウジウ） 縣名。漢、置く。蜀郡に屬す。故城は四川省汶川縣の西北。〔漢書、地理志上〕蜀郡、縣十五、廣柔。〔讀史方輿紀要、四川成都府、茂州、汶川縣〕廣柔廢縣、在ニ縣西一、漢縣、屬ニ蜀郡一。

【廣室】155（クヮウシツ） 廣い室。〔韓非子、說林上〕錦衣九重、高臺廣室也。〔春秋繁露、循天之道〕高臺多レ陽、廣室多レ陰。

【廣隰】156（クヮウシフ クヮウシツ） 廣い澤。〔潘尼、迎ニ大駕一詩〕青松蔭ニ脩嶺一、綠蘩被ニ廣隰一。

【廣車】157（クヮウシャ） ㊀橫陣の車をいふ。戰車。〔周禮、春官、車僕〕戎路之萃、廣車之萃。〔注〕廣車、橫陳之車也。〔左氏、襄、二十四〕使下御ニ廣車一而行上。〔注〕廣車、兵車。㊁大車。〔戰國、西周策〕昔智伯欲レ伐ニ厹由一、遺ニ之大鐘一、載以ニ廣車一。〔韓非子、喩老〕智伯將レ襲ニ仇由一、遺レ之以ニ廣車一。〔集解〕廣、大車也。

【廣榭】158（クヮウシャ） ひろいうてな。〔水經、穀水注〕連蕪函蔭、墉比廣榭、炎暑之日、高視常以避レ暑。〔王勃、兜率寺浮圖碑〕廣榭崇臺、時令レ著ニ高明之宅一。

【廣昌】159（クヮウシャウ） ㊀鳳凰の一種。〔廣雅、釋鳥〕廣昌、鳳皇屬也。㊁縣名。㋑漢、置く。故城は河北省淶源縣の北。漢の高祖の末年、樊噲が陳豨を擊ち、綦母卬を得た處。〔漢書、地理志下〕代郡、縣十八、廣昌。〔讀史方輿紀要、山西、大同府、蔚州〕廣昌縣、云云、漢置ニ廣昌縣一、屬ニ代郡一。〔淸史稿、地理志〕直隸、易州直隸州、縣一、廣昌。㋺三國吳、置く。故城は江西省鄱陽縣の北。〔讀史方輿紀要、江西、饒州府、鄱陽縣〕廣晉城、云云、三國吳置ニ廣昌縣一、晉武帝太康元年、更ニ名廣晉一。㋥宋、置く。湖北省棗陽縣の治。㋩北周、置く。江西省南豐縣の南。汝水の上流の西北岸。〔讀史方輿紀要、江西、建昌府〕廣昌縣、云云、宋紹興八年、析ニ置廣昌縣一、仍屬ニ建昌軍一。〔淸史稿、地理志〕江西、建昌府、縣五、廣昌。

【廣敞】161（クヮウシャウ） ひろくほがらか。〔杜牧、雪中書レ懷詩〕明庭開廣敞、才儁受ニ羈維一。

【廣衆】162（クヮウシュウ） 多くの人。〔史記、灌夫傳〕稠人廣衆、薦ニ寵下輩一。

【廣順】163（クヮウジュン） ㊀州名。明、置く。貴州省廣順縣。〔讀史方輿紀要、貴州、貴陽軍民府〕廣順州、本水西地、崇禎三年開、置ニ今州一、屬ニ貴陽府一。〔淸史稿、地理志〕貴州、貴陽府、州三、廣順州。㊁縣名。民國、置く。貴州省安順縣の東。白雲山と兩架山との間。㊂五代後周、太祖、郭威の年號。（951－554）

【廣潤】164（クヮウジュン） ㊀廣くうるほふ。〔王融、淨住子頌、敬重正法篇頌〕廣潤湛ニ淵流一。㊁川の名。廣成澤（188）を見よ。

〖廣潤王〗165（クヮウジュンワウ） 西海の海神の封號。廣利王（381）を見よ。

【廣初】166（クヮウショ） ㊀五代十國の一、吳越の太祖、錢鏐の年號。年次不明。〔玉海、十三〕。㊁宋、徐休復（4－10110‥374）の字。

【廣從】167（クヮウショウ クヮウジュウ） 東西をいふ。從は縱。〔戰國、秦策〕張儀知ニ楚絕レ齊也、乃出見ニ使者一曰、從レ某至レ某、廣從六里。〔注〕橫度爲レ廣、直爲レ從。

【廣乘】168（クヮウジョウ） 山名。東海に在るといふ。〔天中記〕廣乘山者、天之東岳也、在ニ東海之中一。

【廣飾】169（クヮウショク） 立派に飾る。〔淮南子、時則訓〕天子乃厲服廣飾、執レ弓操レ矢以獵。〔注〕廣ニ其所レ佩之飾一以取レ禽也。

【廣心】170（クヮウシン） 淸、淩之調（2－1669‥137）の字。

【廣信】171（クヮウシン） ㊀府名。明、置く。故治は江西省上饒縣。淸は上饒・玉山・弋陽・貴溪・鉛山・廣豐・興安の七縣を領す。〔讀史方輿紀要、江西〕廣信府、禹貢揚州地、云云、明初曰ニ廣信府一、今領ニ縣七一。〔淸史稿、地理志〕江西、廣信府、領縣七、上饒・玉山・弋陽・貴溪・鉛山・廣豐・興安。㊁縣名。漢、置く。廣西省蒼梧縣。〔漢書、地理志下〕蒼梧郡、縣十、廣信。

【廣津】172（クヮウシン） ㊀ひろいわたしば。〔鮑照、行樂至ニ城東橋一詩〕蔓草緣ニ高隅一、脩楊夾ニ廣津一。㊁唐、王涯（7－20823‥122）の字。

【廣神】173（クヮウシン） 佛 廣大神王の畧。此の神王に二種あり、一を鳩那耶神王と稱し、他を遮毘佉羅神王と稱す。大海中に在つて、種々の吉祥神主と過患神主とを出生するといふ。〔釋摩訶衍論〕。

【廣仁】174（クヮウジン） ㊀廣大な仁愛。〔管子、小問〕吾欲下行ニ廣仁大義一、以利中天下上。㊁城の名。淸の乾隆年間、築く。新疆省綏定縣の西北。地名は烏克爾博羅素克。俗名は大蘆草溝。㊂宋、唐充之（2－3709‥436）の字。

〖廣仁宮〗175（クヮウジンキュウ） 北京に在る西頂碧霞元君廟を康熙五十一年に重修して改名したもの。〔北京指南、名勝、廟宇〕碧霞元君廟、云云、度レ橋爲ニ廣仁宮一、供ニ碧霞元君一、舊名護國洪慈宮、俗稱ニ西頂一、淸康熙五十一年、改ニ今名一。

〖廣仁嶺〗176（クヮウジンレイ） 山名。熱河省承德縣の西。古の墨斗嶺。

【廣崇】177（クヮウスウ） ㊀廣大で崇高なこと。〔史記、屈原傳〕明ニ道德之廣崇、治亂之條貫一、靡レ不ニ畢見一。㊁橫と高さ。〔周禮、考工記、梓人〕梓人爲レ侯、廣與レ崇方。〔注〕崇、高也、方、猶レ等也、高廣等者、謂ニ侯中一也。

【廣世】178（クヮウセイ） 前秦、苻洪（9－30825‥6）の字。

【廣西】179（クヮンシー クヮウセイ） ㊀省名。淸、置く。治は桂林。東南は廣東省、北は湖南・貴州の二省、西は雲南省、西南はベトナムと界す。禹貢の荊州の南徼、春秋の時、百粵の地に當る。粵東と區別して粵西（8－26935‥10）といふ。秦代に桂林・象郡を置いたので、別稱を桂（6－14755）といふ。漢初、南越國に屬し、後改めて蒼梧・鬱林二郡として、交州に屬す。民國の初、省治を邕寧に移す。もと六道八十六縣を領す。地勢は萌渚・都龐・越城・苗嶺の南に當り、句漏山脈が南に盤結し、黔江・鬱江・桂江の三川が衆水を集めて縱橫に流れ、下流は合して西江となる。水運甚だ便。鐵道は、佛領の安南から龍州に達して居る。氣候炎熱で、瘴厲多く、地味もまたおほむね磽瘠であるが、唯〻黔・桂二江の合流する所は較〻肥沃である。農產は多く江濱の低地から出で、多く甘庶を產す。鬱江の上流域には八角茴香が多い。其の他の植物には苧麻猺桂があつて、多く輸出する。〔讀史方輿紀要、廣西〕禹貢荊州南徼地、商周時、皆爲ニ蠻夷國一、所謂百越地也、亦謂ニ之南越一、其在ニ天文一、則翼軫分野也、秦始皇平ニ南越一、此爲ニ桂林・象郡地一、秦末趙佗兼據レ此、漢元鼎六年、討ニ平之一、其地分ニ領於荊交二州刺史一、後漢因レ之、三國屬ニ於吳一、此爲ニ荊州及廣州地一、晉時屬ニ於廣州一、宋屬ニ湘廣二州一、齊梁因レ之、隋屬ニ揚州部一、而不レ詳レ所レ統、隋末爲ニ蕭銑所レ據、唐討ニ平之一、貞觀初、屬ニ嶺南道一、咸通三年、始分爲ニ嶺南西道一、唐末屬ニ於湖南一、馬氏五代周、廣順初、屬ニ於南漢一、宋初屬ニ廣南路一、至道三年、分爲ニ廣南西路一、元初置ニ廣西等宣慰司一、隸ニ湖廣行省一、至正中、始分ニ置廣西等處行中書省一、明朝洪武九年、改ニ置廣西等處承宣布政使司一、今領ニ府十一、州四十七、縣五十三一、又羈縻長官司四、而衞所參ニ列其中一、今仍爲ニ廣西布政使司一、東

達二湘水一、南控二交趾一、西接二滇黔一、北逾二五嶺一。❷路名。㋑宋、置く。十五路の一。廣東省の電白信義以西、廣西省の興安以南、那地土州から向都縣以東に至る地。桂・昭・梧・龔・藤・白・容・鬱林・潯・貴・横・邕・賓・象・柳・融・宜・高・化・雷・廉・欽・瓊・儋・萬安・崖の二十六州を統ぶ。〔讀史方輿紀要、州域形勢、宋〕高宗南渡、以二臨安府一爲二行都一、後遂定レ都焉、分二天下一爲二十五路一、云云、廣西路、桂州・昭州・梧州・龔州・藤州・白州・容州・鬱林州・潯州・貴州・横州・邕州・賓州・象州・柳州・融州・宜州・高州・化州・雷州・廉州・欽州・瓊州・儋州・萬安州・崖州。㋺元、置く。故治は雲南省瀘西縣。〔讀史方輿紀要、雲南〕廣西府、禹貢梁州南徼、漢爲二牂牁郡地一、云云、元初內附、隷二落蒙萬戸府一、至元十二年、立二廣西路一。❸州名。清、直隷州となし、雲南省に屬し、師宗・彌勒・邱北の三縣を領す。民國、縣に改め、又、瀘西と改む。〔清史稿、地理志〕雲南、廣西、直隷州、領縣三、師宗、彌勒、邱北。❹縣名。民國の初、廣西州を改めて置き、雲南省に屬す。後、瀘西縣と改む。

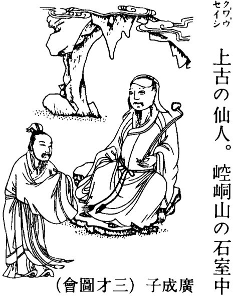
【廣西派】180（クヮンシーハ） 地方政黨の一。一名、桂系。清の宣統三年九月、清朝に對する叛亂が各地に起るや、廣西巡撫沈秉堃が省城桂林に獨立を宣言して都督を號し、尋いで桂林に兵變が起つて、陸榮廷が之に代り、大廣西主義を唱道したのが、其の發端を爲してゐる。民國十五年一月、廣東に國民黨第二次全國代表大會が開かれた頃から、國民黨內の新軍閥として擡頭し、武漢政府の倒壞、蔣介石の下野後、中央部は一時全く其の統制下に歸したが、十八年初頭から南京派との對立が表面化し、十九年、其の勢力は中央部から除かれ、二十年、廣東派と提携して西南派を結成し、廣東系沒落の翌二十七年、廣西派も亦中央に歸順した。其の主要人物は、李宗仁・白崇禧・黃紹雄・李宗黃・張知本等である。

【廣西通志】181（クヮウセイツウシ） 書名。❶一百二十八卷。清、金鉷等監修。廣西の山川・物產・谿峒・風俗を載せてゐる。〔四庫提要、史、地理類〕。❷四十卷。清、吳興祚等監修。明の嘉靖中、巡撫林富が撰した廣西通志六十卷を、清の康熙二十二年、吳興祚等が命を奉じ、再修して四十卷としたもので、次の三十五門に分つ。圖經・繪圖・沿革・分野・氣候・風俗・山川・溝洫・秩官・公署・學校・書院・選擧・財賦・兵防・壇廟・寺觀・仙釋・宮室・臺榭・關梁・古蹟・陵墓・名宦・人物・遷客・流寓・節婦・烈女・土司・安南・朝貢・藝文・雜記・祥異。〔清史稿、藝文志〕。

【廣成】183（クヮウセイ） ❶縣名。漢、置く。滿洲遼寧省瀋陽縣の西北。〔漢書、地理志下〕右北平郡、縣十六、廣成。❷古の仙人の名。廣成子を見よ。〔史記、五帝紀、太史公曰〕余嘗西至二空峒一、〔注〕空峒山在二原州高平縣西百里一、黃帝問二道於廣成子一處。〔江淹、從二冠軍建平王一登二廬山香爐峯一詩〕廣成愛二神鼎一、淮南好二丹經一。〔注〕善曰、神仙傳曰、廣成子者、古之仙人也、居二崆峒之山石室中一。❸明、神宗の時、越の莫茂洽の年號。(1573－1578)❹複姓。〔元和姓纂〕廣成子後。❺字號。㋑唐、元浩(**1－1340**‥81)の字。㋺唐、孔昌寓(**3－6933**‥321)の字。

【廣成苑】184（クヮウセイエン） 苑の名。河南省臨汝縣の西。漢の桓帝の狩場。靈帝の時、八關の一。〔後漢書、鍾離意傳〕車駕數幸二廣成苑一。〔郡國志〕河南新城廣成聚、有二廣成苑一。

【廣成子】185（クヮウセイシ） 上古の仙人。崆峒山の石室中に隱居す。黃帝が嘗て至道の要を問ふ。〔莊子、在宥〕・〔淮南子、詮言訓〕・〔神仙傳、一〕。


廣成子（三才圖會）

【廣成集】186（クヮウセイシフ） 書名。十二卷。蜀、杜光庭撰。原本は一百卷。其の文は異教の詞が多く、又正史の參考となるものがある。〔四庫提要、集、別集類〕。

【廣成頌】187（クヮウセイショウ） 文章の名。後漢、馬融撰。蒐狩の義を述べたもの。〔後漢書、馬融傳〕臣愚以爲、雖三尙頗有二蝗蟲一、今年五月以來、雨露時澍、祥應將レ至、方涉二冬節一、農事閒隙、宜丙幸二廣成一、覽二原隰一、觀二宿麥一、勸二收藏一、因講レ武校獵、使丁寮庶百姓、復覩二羽旄之美一、聞二鍾鼓之音一、歡嬉喜樂、鼓中舞疆畔上、以迎二和氣一、招乙致休慶甲、小臣螻蟻、不レ勝二區區一、職在二書籍一、謹依二舊文一、重述二蒐狩之義一、作二頌一篇一、幷封上、淺陋鄙薄、不レ足二觀省一。

【廣成澤】188（クヮウセイタク） 川の名。一名、廣潤河。河南省臨汝縣の西。〔水經、汝水注〕廣成澤水合、水出二狼皐山北澤中一、云云、東南入二于汝水一。〔輿地廣記〕廣成澤、今名二廣潤河一、蓋避二朱梁諱一改レ名。

【廣成傳】189（クヮウセイテン） 秦代、驛傳に設けた客館。〔史記、廉頗藺相如傳〕遂許、齋五日、舍二相如廣成傳舍一。〔注〕索隱曰、廣成、是傳舍之名。〔左思、魏都賦〕廣成之傳無二以儔一、藁街之邸不レ能レ及。〔注〕翰曰、廣成傳、秦之客館。

【廣成先生】190（クヮウセイセンセイ） 賜號。❶唐、杜光庭(**6－14477**‥298)の賜號。❷唐、劉元靖(**2－2224**‥88)の賜號。

【廣政】191（クヮウセイ） 五代十國、後蜀の後主、孟昶の年號。(938－965)

【廣宵】192（クヮウセウ） 墓穴をいふ。〔陸機、挽歌詩〕廣宵何寥廓、大暮安可レ晨。〔注〕翰曰、宵・暮、皆夜、謂二壙中一也。

【廣照】193（クヮウセウ） 滁州（今の安徽省滁縣）琅琊山の廣照禪師をいふ。名は慧覺。法を汾陽の昭禪師に得て緣に滁州に應じ、明州の雪竇山の顯禪師と同時に唱導す。時に二甘露門といふ。〔稽古、四〕。

【廣饒】194（クヮウゼウ） ❶土地がひろく物產が多い。〔詩、衞風、碩人、庶士有レ朅、箋〕齊地廣饒。〔史記、平準書〕貧民無二產業一者、募徙二廣饒之地一。❷縣名。㋑漢、置く。山東省臨淄縣の北。〔漢書、地理志上〕齊部、縣十二、廣饒。〔讀史方輿紀要、山東、青州府〕樂安縣、云云、漢置二廣饒縣一、屬二齊郡一、云云、金改爲二樂安縣一。㋺南齊、置く。隋、東海と改む。故治は江蘇省東海縣の東北。

【廣斥】195（クヮウセキ） ひろい干潟。斥は、ひがた。〔書、禹貢〕厥土白墳、海濱廣斥。〔蔡傳〕海涯之地、廣漠斥鹵、許愼曰、東方謂二之斥一、西方謂二之鹵一、斥鹵、鹹地可二煑爲一レ鹽者也。

【廣席】196（クヮウセキ） ひろい座席。〔五代史、南唐李昇世家〕宗族七百口、每食設二廣席一、長幼以レ次坐而共レ食。

【廣戚】197（クヮウセキ） 縣名。漢、置く。故城は江蘇省沛縣の東北。〔漢書、地理志上〕沛郡、縣三十七、廣戚。〔續漢書、郡國志〕徐州、彭城國、廣戚、故屬二沛國一。〔讀史方輿紀要、江南、徐州、沛縣〕廣戚城、漢縣、屬二沛郡一、云云、後漢屬二彭城國一、晉因レ之、後省。

【廣舄】198（クヮウセキ） 廣斥(195)に同じ。〔木華、海賦〕襄二陵廣舄一。〔注〕善曰、尙書曰、懷レ山襄レ陵、又曰、海濱廣斥、史記斥爲レ舄、古今字也。

【廣摭】199（クヮウセキ） ひろくとる。廣く拾ひ集める。〔國朝漢學師承記、江永〕廣摭博討、從二吉凶軍賓嘉五禮之次一、名曰二禮經綱目一。

【廣潟】200（クヮウセキ） 廣いひがた。廣斥。〔史記、夏紀〕海濱廣潟。〔注〕集解曰、徐廣曰、一作レ澤、又作レ斥。

【廣磧】201（クヮウセキ） ひろいすなはら。〔諸葛亮、心書〕長山廣磧、足二以自衞一、餓則捕レ獸飮レ乳、寒則寢レ皮服レ裘。

【廣川】202（クヮウセン） 縣名。❶漢、置く。後漢、廣川王國を置く。故城は河北省棗強縣の東。〔漢書、地理志下〕信都國、廣川。〔注〕中有二長河一爲レ流、故曰二廣川一也。❷東晉、僑置す。故城は山東省長山縣の東南。〔讀史方輿紀要、山東、濟南府、長山縣〕廣川城、在二縣東南一、東晉僑二置廣川縣一、屬二齊郡一。

【廣川公】203（クヮウセンコウ） 北周、宇文測(**3－7067**‥63)の封號。

【廣川畫跋】204（クヮウセングヮバツ） 書名。六卷。宋、董逌撰。古の圖畫について考證する所が多い。〔四庫提要、子、藝術類〕。

【廣川惠王】205（クヮウセンケイワウ） 漢、劉越(**2－2224**‥50)の封謚號。

【廣川書跋】206（クヮウセンショバツ） 書名。十卷。宋、董逌撰。鐘鼎款識及び漢唐の碑刻を收載考證したもの。〔四庫提要、子、藝術類〕。

【廣宣】207（クヮウセン） ❶ひろくのべる。㋑廣くのべひろ

める。〔漢書、武帝紀〕朕嘉二賢者一、樂レ知三其人廣宣二厥道一。㋺廣く發揮する。〔曹植、王仲宣誄〕材技廣宣、彊記洽聞。㊁唐の高僧。蜀中の廖氏の子。元和・長慶の兩朝に內供奉となり、居を安國寺紅樓院に賜ふ。著に江樓集がある。〔唐詩紀事、七十二〕。

〖廣宣流布〗208 クワウセンルフ 佛 佛教を四方に流行させること。〔法華經、藥王菩薩本事品〕是故宿王華、以二此藥王菩薩本事品一、囑二累於汝一、我滅度後、後五百歲中、廣三宣流二布閻浮提一、無レ令二斷絕一。

【廣前】209 ヒロマヘ 神祇の前。大前。前の敬語。〔祝詞式、春日祭〕皇神等能廣前仁白久。

【廣阼】211 クワウソ 廣い階段。〔潘岳、藉田賦〕結二崇基之靈址一兮、啓二四塗之廣阼一。〔注〕善曰、阼、主階也、良曰、阼、階也。

【廣宗】212 クワウソウ 縣名。㊀後漢、置く。隋、宗城縣と改め、元、又、廣宗縣と改む。明・清・民國、皆之に因る。河北省清河縣の東。漢末に盧植が黃巾の張角を此處に圍む。〔讀史方輿紀要、直隸、順德府〕廣宗縣、云云、後漢章帝、分二置廣宗縣一、仍屬二鉅鹿郡一、云云、隋仁壽初、改曰二宗城縣一、云云、元復曰二廣宗一。〔清史稿、地理志〕直隸、順德府、縣九、廣宗。㊁南朝宋、置く。山東省舊濟南府の境。

【廣增】213 クワウゾウ 廣め增す。〔史記、文帝紀〕其廣二增諸祀墠場珪幣一。

【廣孫】214 クワウソン 金、完顏永功（**3－7079**··56）の本名。

【廣隊】215 クワウタイ 廣車を備へた軍隊。廣車（157）の㊀を見よ。〔左氏、宣、十二〕晉人或以二廣隊一不レ能レ進。〔注〕廣、兵車。

【廣大】216 クワウダイ ㊀ひろくおほきい。又、其のこと。宏大。〔易、繫辭上〕廣大配二天地一。〔禮、樂記〕廣大象レ地。〔大戴禮、曾子疾病〕高明廣大、不レ在二於他一、在レ加二之志一而已矣。〔中庸〕及二其廣大一、艸木生レ之。〔荀子、脩身〕廓レ之以二廣大一。〔管子、八觀〕山澤廣大。〔史記、孔子世家〕博辨廣大。㊁五代十國、前蜀の高祖、王建の年號、光天の一稱。（918）

〖廣大會〗217 クワウダイエ 佛 阿彌陀佛の異稱。衆生が往生してみな極樂に集り、廣大の集會をなすは全く彌陀の德によるからいふ。

〖廣大智〗218 クワウダイチ 佛 佛智をいふ。佛の智慧は廣大で識量することが出來ないからいふ。〔大日經、三〕奇哉眞言行、能具二廣大智一。

〖廣大無邊〗219 クワウダイムヘン 佛 廣くてかぎりのないこと。

〖廣大教化主〗220 クワウダイケウクワシュ 白居易をいふ。唐の張爲の稱した語。〔唐詩紀事、張爲〕爲作二詩人主客圖序一曰、云云、以二白居易一爲二廣大教化主一。

〖廣大智慧觀〗221 クワウダイチヱクワン 佛 觀世音菩薩の五觀智の一。中道實相の理を觀ずる智をいふ。〔法華經、普門品〕眞觀・淸淨觀・廣大智慧觀・悲觀及慈觀、常願常瞻仰。

〖廣大發願頌〗222 クワウダイホツグワンショウ 佛 書名。一卷。龍樹菩薩造。宋、施護等譯。〔藏帙、九〕。

【廣內】223 クワウダイ 圖書を藏する室の名。〔梁簡文帝、上二昭明太子集一表〕謹撰二昭明太子別傳文集一、請備二之延閣一、藏二諸廣內一、永彰二茂實一、式表二洪徽一。〔江總、皇太子大學講碑〕外史所レ掌、廣內所レ司、靡レ不下飾以二鉛槧一、雕以中緗素上。〔李善、進二文選注一表〕敢有レ塵二於廣內一、庶無レ遺二於小說一。

【廣潒】224 クワウタウ 水の廣々としてゐるさま。〔張衡、西京賦〕前開二唐中一、彌望廣潒。〔注〕善曰、字林曰、潒、水潒潒也、良曰、廣潒、寬大也。

【廣道】225 クワウダウ 廣いみち。履み行ふべき正しい道。〔管子、樞言〕爲二人臣一者之廣道也。

〖廣道大師〗226 クワウダウダイシ 唐、山康（**4－7869**··142）の賜號。

【廣宅】227 クワウタク 廣いいへ。〔後漢書、許荊傳〕共割二財產一、以爲二三分一、武自取二肥田廣宅一。

【廣拓】228 クワウタク 廣めひらく。廣めたがやす。〔後漢書、杜詩傳〕修二治陂池一、廣二拓土田一。

【廣澤】229 クワウタク ㊀廣いさは。〔管子、輕重甲〕廣澤遇レ雨、十人之力、不レ可二得而恃一。〔墨子、明鬼下〕廣澤鬼神之明、不レ可レ爲二幽閑・廣澤・山林・深谷一。〔司馬相如、子虛賦〕平原廣澤。㊁細井知愼の號。細井廣澤（**8－27344**··334）を見よ。

〖廣澤王〗230 クワウタクワウ 北海の海神の封號。廣利王（381）を見よ。

〖廣澤文齋〗231 ヒロサハブンサイ 江戶の人。名は維直。字は溫卿。通稱は文內。號は文齋。歿年は未詳。著に左國占義俚解・詩學砭俗・性習講義・文齋摘稿がある。〔近代著述目錄後篇〕。

【廣達】232 クワウタツ 隋、李徹（**6－14459**··617）の字。

【廣闥】233 クワウタツ 廣い王宮の內。闥は宮中の小門をいふ。〔梁書、武帝紀中〕趨二步廣闥一。

【廣榻】234 クワウタフ 廣いこしかけ。〔大隱子〕重裀廣榻。

【廣地】235 クワウチ 土地を廣める。又、廣い土地。〔史記、秦紀〕秦繆公廣レ地益レ國。

【廣池】236 クワウチ 廣いいけ。〔韋應物、慈恩精舍南池作詩〕重門布二綠陰一、菡萏滿二廣池一。

【廣知】237 クワウチ ㊀知識をひろめる。〔黃石六書素〕博志切問、所二以廣レ知。㊁酉陽雜俎の篇名。

【廣智】238 クワウチ 宋の僧。廷慶寺の尙賢をいふ。號を廣智と賜はる。四明尊者法智に依つて教觀を學び、性宗の旨を悟る。〔佛祖統紀、十二〕。

【廣腸】239 クワウチヤウ 廣いはらわた。〔史記、倉公傳、注〕正義曰、廣腸、大八寸、徑二寸半、長二尺八寸。

【廣場】240 クワウヂヤウ 廣い場所。ひろば。〔白居易、宣州試射中二正鵠一賦〕廣場闢而堵墻開。

【廣仲】241 クワウチユウ 宋、胡實（**9－29400**··169）の字。

【廣貯】242 クワウチヨ 元代の穀物倉の一。〔元史、兵志二、看守軍〕城外豐閏・豐實・廣貯・通濟四倉無二守者一、至レ是收レ糧頗多。

【廣除】243 クワウヂヨ 廣い庭。除は庭。〔謝惠連、七月七日夜詠二牛女一詩〕蹀レ足循二廣除一。〔注〕向曰、除、庭也。

【廣徵】244 クワウチヨウ 廣くもとめる。〔舊唐書、宇文融傳〕僉議二廟堂一、廣徵二異見一。

【廣通】245 クワウツウ 縣名。元、置く。雲南省楚雄縣の東北。〔讀史方輿紀要、雲南、楚雄府〕廣通縣、云云、元初、置二路賧千戶一、至元十二年、改二廣通縣一、隸二南安州一。〔清史稿、地理志〕雲南、楚雄府、縣西、廣通。

〖廣通渠〗246 クワウツウキヨ 運河の名。陝西省の境。〔隋書、食貨志〕命二宇文愷一鑿レ渠、引二渭水一、自二大興城東一至二潼關一、凡三百餘里、名二廣通渠一。

〖廣通壩〗247 クワウツウハ 堰の名。江蘇省高淳縣の東の廣通鎭。又、東壩といふ。

〖廣通王〗248 クワウツウワウ 明、朱徽煠（**6－14424**··710）の封號。

【廣汀】249 クワウテイ 廣い汀。〔超昂、浮萍賦〕初冉二弱兮碕岸一、乍連二延兮廣汀一。

【廣廷】250 クワウテイ ㊀廣い宮廷。〔韓非子、難三〕廣廷嚴居、衆人之所レ肅也。〔說苑、善說〕今臣居二廣廷一。㊁清、阿桂（**11－41599**··72）の字。

【廣庭】251 クワウテイ 廣いには。〔公孫龍、跡府〕尹文曰、使下此人廣庭大衆之中、見二侵侮一而終不中敢鬭上、王將二以爲レ臣乎。〔何劭、雜詩〕廣庭發二暉素一。

【廣聽】252 クワウテイクワウチヤウ 廣く聽く。〔新語、思務〕君子博思而廣聽。

【廣眺】253 クワウテウ 廣く眺める。〔阮籍、首陽山賦〕聊仰レ首以廣眺兮。

【廣哲】254 クワウテツ 明、歐陽哲（**6－16185**··90）の字。

【廣廛】255 クワウテン 廣い田。廛は、田百畝。〔顏延之、應詔觀二北湖田收一詩〕淸蹕巡二廣廛一。〔注〕善曰、漢書曰、揚雄有二田一廛一、晉灼曰、廛、一百畝也。

【廣簟】256 クワウテン 廣い竹むしろ。〔許渾、宿二望亭館一寄二蘇州一二同志一詩〕江湖水落高樓迥、河漢秋歸廣簟涼。

【廣田】257 クワウデン 縣名。漢、置く。山西省の境。〔漢書、地理志下〕西河郡、縣三十六、廣田。

【廣殿】258 クワウデン 廣い御殿。〔唐書、辛替否傳〕殫レ府虛レ帑、捐レ人也、廣殿長廊、榮レ身也。

【廣途】259 クワウト 廣塗（262）に同じ。〔謝靈運、會吟行〕飛燕躍二廣途一、鷁首戲二淸沚一。

【廣都】260 クワウト ㊀地名。都廣（**11－39509**··35）の㊀に同じ。〔山海經、海內西經〕后稷之葬、山水環レ之。〔注〕在二廣都之野一。〔張衡、思玄賦〕躔二建木於廣都一兮。〔注〕良曰、廣都、地名。㊁縣名。㋑漢、置く。故城は四川省華陽縣の東南。〔漢書、地理志上〕蜀郡、縣十五、廣都。〔讀史方輿紀要、四川、成都府、華陽縣〕廣都城、云云、漢元朔二年、置レ縣屬二蜀郡一。㋺後魏、置く。故治は河北省徐水縣の西。㋩後魏、置く。遼寧省北鎭縣の地。㋥唐、置く。故城は四川省雙流縣の東南。〔讀史方輿紀要、四川、成都府、雙流縣〕廣都廢縣、云云、此唐所レ置之廣都縣也、舊唐書、隋改二廣都一曰二雙流一、唐龍朔二年、復析二雙龍一置二廣都縣一、仍屬二益州一。

【廣都紙】261 クヮウトシ　四川省の廣都に産する紙。〔蜀紙譜〕廣都紙有二四色一、一曰二假山南一、二曰二假榮一、三曰二冉村一、四曰二竹紙一、皆以二楮皮一爲レ之。

【廣途】262 クヮウト　幅の廣いみち。廣途。〔左思、蜀都賦〕闢二二九之通門一、畫二方レ軌之廣塗一。

【廣土】263 クヮウド　❶廣い土地。〔孟子、盡心上〕廣土衆民、君子欲レ之、所レ樂不レ存焉。❷領地を廣める。〔漢書、夏侯勝傳〕有下攘二四夷一廣レ土斥レ境之功上。❸kuang^{3} t'u^{3} 廣東から來る外國製の阿片をいふ。

【廣度】264 クヮウド　❶廣大な度量。〔嵇康、與二山巨源一絶レ交書〕使二長才廣度、無レ所レ不レ淹、而能不レ營、乃可レ貴耳。〔傅毅、舞賦〕舒二恢炱之廣度一兮。❷後魏、封軌(**4**－**7426**・・26)の字。

【廣東】265 クヮントン　❶省名。清、置く。東は福建、西は廣西、北は湖南・江西の二省と界し、南は南海にのぞみ、西南の一小部分は安南と界す。禹貢の荊・揚二州の南裔。春秋の時、百粤の地。故に別稱を粵といひ、粵西に對して粵東といふ。秦の南海郡、漢初の南越國。隋、廣・循二州を置く。又、改めて南海・龍州・義安・高梁・信安・永熙・蒼梧・合浦・珠崖・寧越・熙平等の郡を置く。唐、諸郡を改めて州とし、嶺南道を置き、又、諸州を改めて郡とし、分つて嶺南東道とす。明、廣東布政使司を置き、清、省を置き、民國、之に因る。治は廣州市。もと六道、八十六縣を領す。九連山及び大庾騎の二嶺が北に連り、羅浮山が東に盤繞し、山が多い。唯、東西北の三江の沿岸に傾斜地があつて、三角江附近の沖積の沙洲は尤も平坦肥沃である。鐵道は粵漢鐵道・廣三鐵道・新寧鐵道・潮汕鐵道等があり、氣候は熱帶性を帶びてゐるが、海風によつて緩和され、農產物は米を主とし、煙草・茶及び果實が之に次ぐ。韓江の流域には甘庶が多く、砂糖は輸出品の主なるものである。鑛產物は石炭・鐵が尤も多く、端溪の硯は著名である。沿海には海產物及び鹽が多い。〔讀史方輿紀要、廣東〕禹貢、揚州徼外地、三代時、爲二蠻彝國一、後爲二百越地一、亦曰二揚越一、其在二天文一、則牽牛婺女之分野、秦幷二天下一、置二南海等郡一、亦謂二之南越一、秦末、趙佗王二其地一、漢元鼎六年、討二平之一、尋置二交阯刺史一、後漢因レ之、三國吳分二交州一、立二廣州一、晉因レ之、宋又分二置越州一、齊梁因レ之、隋亦屬二揚州部一、大業末、屬二蕭銑一、唐討二平之一、貞觀初、置二嶺南道一、咸通二年、分爲二嶺南東道一、五代時、屬二於南漢一、宋淳化四年、爲二廣南路一、至道三年、分爲二廣南東路一、元置二廣東道及海北海南道宣慰等司一、隸二江西行省一、明洪武九年、改置二廣東等處承宣布政使司一、領二府十、直隸州一、屬州七、屬縣七十六一、而諸司衞所參二列其中一、今仍爲二廣東布政使司一、東連二七閩一、南濱二大海一、西距二安南一、北據二五嶺一。❷路名。宋、置く。十五路の一。廣東省陽春縣以東の全境の地。廣・連・韶・南雄・英・楨・循・梅・潮・端・康・新・春・恩・封・賀の十六州を統ぶ。〔讀史方輿紀要、州域形勢、宋〕高宗南渡、以二臨安府一爲二行都一、後遂定レ都焉、分二天下一爲二十五路一、云云、廣東路、廣州・連州・韶州・南雄州・英州・楨州・循州・梅州・潮州・端州・康州・新州・春州・恩州・封州・賀州。

【廣東派】266 クヮントンハ　地方政黨の一。一名、粵系。清の光緒二十年、孫文が布哇に赴き、其の兄孫德彰及び鄧蔭南等と興中會を起し、尋いで民主革命主義を唱導して革命運動を畫策し、二十一年、康有爲が立憲黨の活動を開始した。此の兩者が廣東派の淵源を爲してゐる。民國元年八月、興中會の後身たる同盟會は、統一共和黨・國民共進會・共和實進會・國民公黨と合して國民黨を結成した。六年、國會解散に伴ひ、國民黨系議員は廣東に歸り、翌七年、政學會・民友社・益友社の三系に分れて小黨分立の傾向を示したが、十四年七月、汪兆銘を政治委員長とする合議制の國民政府が成立した。尋いで蔣介石の北伐成功によつて廣東派は分散擴大し、二十年、廣西派と提携し、尋いで廣東國民政府が成立され、廣東派・廣西派の名稱は消滅し、新に西南派と稱されるに至つたが、同年十二月、南京政府と妥協し、二十五年七月、陳濟棠の下野により廣東派は完全に沒落した。其の主要人物は、汪兆銘・胡漢民・陳烔明・廖仲愷・張繼・鄒魯・戴季陶・林森・岑春煊・谷鐘秀・張耀曾・章士釗・楊永泰・唐紹儀・吳景濂・王正廷・伍朝樞・李濟琛・陳濟棠等である。

【廣東灣】267 クヮントンワン　廣州市の南方、珠江が注いでゐる海灣。

【廣東新語】268 クヮントンシンゴ　書名。二十八卷。清、屈大均撰。廣東通志(269)を補つたもので、每卷一類として天地・人物等を記し、また考證を附してゐる。清史稿藝文志に著錄さる。

【廣東通志】269 クヮントンツウシ　書名。六十四卷。清、郝玉麟等監修。明代に修めた廣東の地誌を清の康熙二十二年に續修したもので、雍正九年五月に完成した。其の門は典謨・星野・輿圖・疆域・沿革・編年・禮樂・海防・山川・城池・水利・學校・公署・坊都・貢賦・兵防・屯田・鹽法・職官・選舉・封廕・名宦・謫宦・人物・烈女・風俗・物產・古蹟・壇祠・塋墓・仙釋・嶺蠻・外蕃・藝文・雜事の三十五門。此の書は他省の通志に比して極めて速に成り、又、舊本の闕略を補正して條理を具へ、嶺南地方の輿記・古籍を載せて參考に資すべきものが多い。〔四庫提要、史、地理類〕

【廣東七十二行】270 kuang^{3} tung^{1} ch'i^{1} shih^{2} êrh^{4} hang^{2}　廣東に於ける七十二種類の商業の行。行は組合組織を有するものをいふ。現在は九十以上に增加してゐる。一、銀行。二、金行。三、番行。四、絲行。五、出口車絲行。六、茶行。七、熟膏行。八、生膏行。九、柴行。十、米行。十一、油行。十二、醬料雜貨行。十三、酒行。十四、海味行。十五、姑蘇行。十六、土麵行。十七、乾檳行。十八、牛皮行。十九、鹹魚行。二十、鮮魚行。二十一、豬肉行。二十二、靴鞋行。二十三、皮革行。二十四、鷄鴨行。二十五、菜欄行。二十六、高樓行。二十七、餅行。二十八、布行。二十九、蛋頭行。三十、染料行。三十一、帽行。三十二、顧誘行。三十三、新衣行。三十四、故衣行。三十五、玉器行。三十六、烟絲行。三十七、藥材行。三十八、洋參行。三十九、綢緞行。四十、鈕頂行。四十一、腊丸行。四十二、參茸行。四十三、豆腐行。四十四、銅行。四十五、缸瓦行。四十六、磚瓦行。四十七、檀香行。四十八、鏡燈行。四十九、南北行。五十、泥水木匠行。五十一、杉行。五十二、磁器行。五十三、洋油行。五十四、糖行。五十五、生藥行。五十六、書籍行。五十七、麥子行。五十八、荳行。五十九、樸木行。六十、石行。六十一、竹器行。六十二、搭棚行。六十三、鐵梨行。六十四、花梨行。六十五、料器行。六十六、車花行。六十七、油漆行。六十八、牌扁行。六十九、儀仗行。七十、洋燈行。七十一、紅白紙劄行。七十二、打餉行。七十三、香行。七十四、山貨行。七十五、顏料行。七十六、錫器行。七十七、種香行。七十八、長生行。七十九、茶箱行。八十、鮮菓行。八十一、南番兩屬押行。八十二、洋貨行。八十三、花席行。八十四、桂皮行。八十五、戲班行。八十六、官粉行。八十七、絨線行。八十八、包花行。八十九、生燈行。九十、金線行。九十一、象牙行。九十二、花紗行。九十三、紙料行。九十四、機房行。

【廣德】271 クヮウトク　❶廣く大きい德。〔老子、四十一〕廣德若レ不レ足。〔逸周書、太子晉解〕其孰有二廣德一。〔揚雄、劇秦美新〕制二成六經一、洪業也、北懷二單于一、廣德也。❷湖の名。浙江省鄞縣の西。もと鷺脰湖といふ。今僅かに故跡を存す。〔讀史方輿紀要、浙江、寧波府、鄞縣〕廣德湖、府西十二里、舊溉田四百頃、云云、今亦堙廢。❸軍の名。軍は、行政區畫の名。宋、置く。今の安徽省廣德縣治。❹路名。元、置く。今の安徽省廣德・郎溪二縣の地。治は廣德。今の安徽省廣德縣治。❺州名。明、置く。清、直隸州とし、建平縣を管轄す。民國、縣に改む。安徽省宣城縣の東。〔清史稿、地理志〕安徽、廣德直隸州、領二縣一一、建平。❻縣名。㋑後漢、置く。漢の鄣縣の地。安徽省廣德縣の東。〔讀史方輿紀要、江南、廣德州〕廣陽廢縣、云云、漢爲二故鄣縣地一、屬二丹陽郡一、後漢中平二年、析二置廣德縣一、仍屬二丹陽郡一、云云、至德二載、改二綏安一曰二廣德一、以二廣德故城一名也。㋺民國、置く。❺を見よ。❼年號。㋑唐、代宗、李豫の時。(763－764) ㋺五代後周の代、南詔の至道廣治帝、段思聰稱の時。(953－970) ㋩宋代、南詔の昭明帝、段素英の年號。(991) ㋥滿洲國、溥儀帝の時。(1934－1945) ❽北周、柳靖(**6**－**14662**・・155)をいふ。❾唐、李懷遠(**6**－**14459**・・1044)の字。

【廣德王】272 クヮウトクワウ　東海の海神の封號。廣利王(381)を見よ。

〖廣德從橋〗273 クワウトクショウケウ　蒙求の標題。前漢の薛廣德が御史大夫であつた時、元帝が樓船に御せんとするのを、宜しく橋よりすべしと死を決して直諫し、直臣の名を得た故事。〔漢書、薛廣德傳〕上酎二祭宗廟一、出二便門一、欲レ御二樓船一、廣德當二乘輿車一、免レ冠頓首曰、宜レ從レ橋、詔曰、大夫冠、廣德曰、陛下不レ聽レ臣、自刎以レ血汙二車輪一、陛下不レ得レ入レ廟矣、上不レ說、先敺光祿大夫張猛進曰、臣聞、主聖臣直、乘レ船危、就レ橋安、聖主不レ乘レ危、御史大夫言可レ聽、上曰、曉レ人不レ當レ如レ是邪、乃從レ橋。

【廣南】274 クワウナン　❶路名。宋、淳化中、置く。唐の嶺南道の地。熙寧以後、廣南東路と廣南西路に分つ。❷府名。明、置く。故治は雲南省廣南縣。宋代の蠻名を特磨道といひ、儂智高の後裔、之に居る。〔讀史方輿紀要、雲南〕廣南府、古蠻夷地、云云、明初、改置二廣南府一、領二州一一。❸縣名。民國、清の廣南府治なる寶寧縣を改め稱す。雲南省富州縣の西北。縣城は鬱江の上流、西洋江の北岸。❹城の名。廣西省龍勝縣の西北。

【廣寧】275 クワウネイ　❶郡名。㋑東晉、置く。故治は河北省涿鹿縣の西。❸の㋑を見よ。㋺東晉の時、西秦、置く。故治は甘肅省漳縣の西南。㋩南齊、置く。故治は今、缺く。廣西省の境。㋥東魏、置く。故城は河南省修武縣の東南。㋭後魏、置く。故城は山西省壽陽縣の東。㋬北齊、置く。故治は河南省新蔡縣の治。❷府名。金、置き、廣寧縣に治す。❸の㋩を見よ。❸縣名。㋑漢、置く。故城は河北省宣化縣の西北。〔漢書、地理志下〕上谷郡、縣十五、廣寧。〔讀史方輿紀要、直隸、保安州〕廣寧城、云云、漢置二廣寧縣一、屬二上谷郡一、云云、晉置二廣寧郡一、治二下落城一。㋺遼、置く、金、昌黎と改稱す。河北省昌黎縣の治。〔讀史方輿紀要、直隸、永平府〕昌黎縣、云云、五代梁末、契丹以二定州俘戶一、置二廣寧縣於故柳城縣境一。㋩金、置く。元、省き、清、復置く。故治は滿洲遼寧省北鎭縣。〔讀史方輿紀要、直隸、萬全都指揮使司、附見大寧衞〕營州故城、云云、廣寧廢縣、在二柳城南一。〔清史稿、地理志〕奉天、錦州府、縣三、廣寧。㋥明、置く。廣東省四會縣の西北。北江の支流、綏江の東北岸。〔讀史方輿紀要、廣東、肇慶府〕廣寧縣、云云、嘉靖三十七年、平二大羅山賊一、因析二置廣寧縣一、治二大圃村一。〔清史稿、地理志〕廣東、肇慶府、縣九、廣寧。❹衞名。明、置く。秦漢の遼東郡。金の廣寧府。滿洲遼寧省の境。〔讀史方輿紀要、山東、遼東都指揮使司〕廣寧衞、秦漢遼東郡地、晉因レ之、云云、金改爲二廣寧府一、亦曰二鎭寧軍一、云云、明洪武二十三年、改二今衞一。

〖廣寧公〗276 クワウネイコウ　醫巫閭山神の封號。廣源公（114）を見よ。

〖廣寧通玄太古眞人〗277 クワウネイツウゲンタイコシンジン　金、郝大通（**11**－**39430**・・52）の贈號。

【廣年】278 クワウネン　縣名。漢、置く。故城は河北省永年縣の西北。北齊、治名を曲梁に移し、隋、煬帝の諱を避けて永年と改名。卽ち、今の永年縣治。〔漢書、地理志下〕廣平國、縣十六、廣年。〔讀史方輿紀要、直隸、廣平府、永年縣、廣平城〕廣年城、亦在二縣境一、漢縣、屬二廣平國一。

【廣農】279 クワウノウ　農業を發展させる。〔夏竦、廣農頌序〕廣二我農事一、肇二修家政一。

【廣包】280 クワウハウ　廣くかねる。〔揚雄、劇秦美新〕博覽廣包、參レ天貳レ地。

【廣帮】281 kuang^3 pang^1　廣東省出身の商人の組織する同業組合。中國に於ける商業界に偉大な勢力を有してゐる。

【廣望】282 クワウバウ　❶高殿の名。〔顏延之、赭白馬賦〕臨二廣望一、坐二百層一。〔注〕良曰、廣望・百層、皆臺名。❷縣名。漢、置く。故城は河北省清苑縣の西南。〔漢書、地理志上〕涿郡、縣二十九、廣望。

【廣伯】283 クワウハク　清、錢馥（**11**－**40563**・・192）の字。

【廣陌】284 クワウハク　廣いみち。廣小路。〔陶潛、詠二荊軻一詩〕衆驥鳴二廣陌一、慷慨送二我行一。〔沈約、直二學省一愁臥詩〕秋風吹二廣陌一、蕭瑟入二南闈一。

【廣博】285 クワウハク　ひろい。特に、學問見識などのひろいこと。〔禮、經解〕廣博易良、樂教也。〔漢書、外戚恩澤侯表〕滈廣博矣。〔枚乘、七發〕皓侈廣博之樂也。

〖廣博物志〗286 クワウハクブツシ　書名。五十卷。明、董斯張撰。凡て二十二門、一百六十七子目。唐宋の古書を引く所が多い。〔四庫提要、子、類書類〕。

〖廣博嚴淨不退轉輪經〗287 クワウハクゴンジヤウフタイテンリンキヤウ　佛書名。四卷。劉宋、智嚴・寶雲の共譯。文殊が佛を供養し、一切の菩薩を集めて祇園に還り、不退の法輪を轉ずることを請うた時、佛が密語を說いたのを、會衆が驚き疑つたので、文殊が之を釋したもの。其の他、菩薩の密語、佛の解釋、菩薩の讚偈等がある。〔盈帙、三〕。

【廣莫】288 クワウバク　ひろびろとして大きい。廣く遠い。廣漠。莫は漠。〔左氏、莊、二十八〕狄之廣莫、於レ晉爲レ都。〔注〕廣莫、狄地之曠絕也。

〖廣莫子〗289 クワウバクシ　明、莫維賢（**9**－**31078**・・93）の號。

〖廣莫風〗290 クワウバクフウ　北方のかぜ。八風（**2**－**1450**・・475）の一。〔史記、律書〕廣莫風居二北方一。〔淮南子、天文訓〕廣莫風至、則閉二關梁一決二刑罰一。〔易緯通卦驗〕冬至、廣莫風至。〔白虎通、八風〕四十五日廣莫風至、廣莫者、大莫也、開二陽氣一也。

〖廣莫之野〗291 クワウバクノヤ　無際限にひろびろとした野原。〔莊子、逍遙遊〕無何有之鄕、廣莫之野。〔釋文〕謂二寂絕無爲之地一也、簡文云、莫、大也。〔疏〕莫、無也。

【廣漠】292 クワウバク　ひろびろとして大きい。又、其の所。廣莫に同じ。〔書、禹貢、海濱廣斥、蔡傳〕廣漠而斥鹵。〔楚辭、王褒、九懷、思忠〕歷二廣漠一兮馳騖、覽二中國兮冥冥一。

【廣被】294 クワウヒ　あまねくおほふ。あまねくゆきわたる。〔漢書、禮樂志〕聖主廣被之資。〔後漢書、章帝紀〕威靈廣被、無二思不レ服。〔張衡、東京賦〕惠風廣被。

【廣眉】295 クワウビ　廣いまゆ。〔後漢書、馬廖傳〕城中好二廣眉一、四方且レ半レ額。

【廣微】296 クワウビ　字號。❶晉、束晳（**6**－**14480**・・37）の字。❷宋、袁甫（**10**－**34152**・・140）の字。

〖廣微子〗297 クワウビシ　元、張羽材（**4**－**9812**・・793）の號。

【廣賓】298 クワウヒン　明の高僧。天竺の李金庭志を刪補して、上天竺志を作る。

【廣布】299 クワウメ　海藻の名。昆布アコンの異稱。幅が廣いから祝意を寓していふ。

【廣敷】300 クワウフ　❶清、陸爾熙（**11**－**41708**・・349′）の字。❷ヒロシキ　㋑廣間ヒロマの異稱。〔五人女、二〕。㋺大名の臺所向、又は奧向の稱。㋩江戶幕府で、營中及び西丸の大奧にあつた一局。〔東職紀聞、二〕廣敷御用人三人、布衣、掌二後庭廣敷事一之職也。

【廣武】301 クワウブ　❶山名。一名、三皇山。河南省成皐縣の東北。❹の㋺を見よ。❷郡名。㋑前涼、置く。故城は甘肅省平番縣の東南。南涼の禿髮烏孤、此處に都す。〔讀史方輿紀要、陝西、臨洮府、蘭州〕廣武城、云云、亦在二州西一、前涼廣武郡、蓋治二永登縣一云。㋺後魏、置く。故治は河南省中牟縣の東。〔讀史方輿紀要、河南、開封府〕中牟縣、云云、東魏初、增二置廣武郡一治レ此。❸縣名。㋑秦、置き、漢、之に因る。隋、改めて雁門といふ。故城は山西省代縣の西。〔漢書、地理志上〕太原郡、縣二十一、廣武。〔讀史方輿紀要、山西、太原府、代州〕廣武城、云云、秦縣、屬二鴈門郡一、漢七年、韓王信與二匈奴一謀レ攻レ漢、匈奴使下左右賢王、將二萬餘騎一與二王黃一屯中廣武上、以南至二晉陽一、又高祖械二婁敬於廣武一、卽此也。㋺後魏、置く。河北省昌平縣の西。〔讀史方輿紀要、直隸、昌平州、萬年城〕廣武廢縣、在二州西境一、後魏武定初、置二偏城郡一、領二沃野・廣武二縣一。㋩後魏、置く。故城は陝西省膚施縣の東南。〔讀史方輿紀要、陝西、延安府、膚施縣〕豐林城、亦漢膚施縣地、後魏僑二置廣武縣於此一。㋥後魏、置く。故城は甘肅省平番縣の東南。㋭五代、晉、置く。山西省崞縣の南。㋬民國、置く。河南省成皐縣の東北。後、成皐縣に合す。❹城の名。㋑山東省無棣縣の北。鬲津河の東。〔海豐縣志〕相傳、漢初李左車所レ築、故名、今半爲二河流所一レ沒。㋺河南省河陰縣の廣武山の上。〔史記、項羽紀〕漢之四年、項王已定二東海一來、西與レ漢俱臨二廣武一而軍。〔注〕孟康曰、於二滎陽一築二兩城一相對、爲二廣武一、在二敖倉西、三皇山上一。〔西征記〕三皇山、或謂二三室山一、上有二二城一、東曰二東廣武一、西曰二西廣武一、各在二一山頭一、相去二百餘步、其間隔二深澗一、漢高祖與二項籍一語處。❺複姓。〔萬姓統譜〕廣武、漢李左車封二廣武君一、因氏焉。

〖廣武廬〗302 クワウブロ　晉の張華が廣武侯に封ぜられたときの家。〔何劭、贈二張華一詩〕周二旋我陋

圃㆒、西瞻㆓廣武廬㆒。〔注〕善曰、臧榮緒晉書曰、吳滅、封㆓張華廣武侯㆒。

【廣廡】303 クワウブ 廣いひさし。高大な建物をいふ。〔張衡、西京賦〕長廊廣廡、連閣雲蔓。〔西京雜記、三〕客舘皆廣廡高軒、屛風幃褥甚麗。

【廣騖】304 クワウブ ひろくはしる。〔史記、禮書〕步驟馳騁、廣騖不㆑外。

【廣福】305 クワウフク 鎭の名。❶江蘇省寶山縣の西南。〔嘉定縣志〕廣福鎭、以㆑寺名。❷四川省中江縣の東南。〔讀史方輿紀要、四川、潼川州、遂寧縣〕廣福鎭、在㆓縣西百里㆒、有㆓鹽課司㆒。

【廣賁】306 クワウフン 樂聲が廣大で憤氣が充滿してゐること。〔禮、樂記〕粗厲猛起奮末廣賁之音作、而民剛毅。〔注〕賁、讀爲㆑憤、憤、怒氣充實也。〔疏〕廣賁、謂㆓樂聲廣大、憤氣充滿㆒、如㆑此音作、而民感㆑之、則性氣剛毅也。〔史記、樂書〕粗厲猛起奮末廣賁之音作。〔注〕正義曰、王肅曰、廣賁、廣、大也、賁、氣充也。

【廣文】307 クワウブン ❶廣大な文德。〔商子、徠民〕以㆓廣文㆒安㆓其嗣㆒。❷教授の異稱。〔書言故事、教授類、廣文〕稱㆓教授㆒曰㆓廣文㆒、自言曰㆓冷官㆒。

【廣文館】308 クワウブンクワン 唐代の學校の名。七學の一。廣く文學に關する學科を教授し、大學に準ずる。廣文館博士一人、助教一人を置く。唐の鄭虔が始めて廣文館博士となつた。〔唐書、鄭虔傳〕虔坐㆑謫十年、還㆓京師㆒、明皇愛㆓其才㆒、欲㆑置㆓左右㆒、以㆑不㆑事㆑事、更爲置㆓廣文館㆒、以㆑虔爲㆓博士㆒、虔聞㆑命、不㆑知㆓廣文曹司何在㆒、訴㆓宰相㆒、宰相曰、上增㆓國學㆒置㆓廣文館㆒、以居㆓賢者㆒、令㆔後世言㆓廣文博士㆒、自㆑君始、不㆓亦美㆒乎、虔乃就㆑職、時號㆓鄭博士㆒。〔通典、職官、諸卿下、國子監〕廣文館博士一人、助教一人、並以㆓文士㆒爲㆑之、大唐天寶九載置。

【廣文類】309 クワウブンルイ 佛 書名。眞宗に於て、親鸞作の教行信證六卷をいふ。淨土文類聚鈔を略文類といふに對す。

【廣文先生】310 クワウブンセンセイ ❶唐の鄭虔をいふ。友人の杜甫の稱した語。虔は玄宗に仕へて廣文館博士となる。廣文館を見よ。〔杜甫、醉時歌〕諸公袞袞登㆓臺省㆒、廣文先生官獨冷、甲第紛紛厭㆓粱肉㆒、廣文先生飯不㆑足。❷明、仝敬(1-378··4)の尊稱。

【廣平】311 クワウヘイ ❶博局をいふ。〔方言、五〕簙謂㆓之蔽㆒、云云、所㆓以投㆑簙、謂㆓之枰㆒、或謂㆓之廣平㆒。❷晉の周處をいふ。周處は廣平太守となり、滯訟を一朝にして斷決した。〔謝朓、新亭渚別㆓范零陵㆒詩〕廣平聽方㆑籍、茂陵將㆑見㆑求。〔注〕良曰、周處爲㆓廣平太守㆒、三十年滯訟、一朝斷決。❸郡名。㋑漢、置く。治は廣平。後漢の時、吳漢を此處に封ず。河北省雞澤縣の東。㋺東晉、置く。故治は湖北省光化縣の北。❹府名。明、置く。清、直隸省に屬し、磁州及び永平・曲周・肥鄉・雞澤・廣平・邯鄲・成安・威・清河の九縣を管轄す。〔清史稿、地理志〕直隸、廣平府、領㆓州一、縣九㆒、永平・曲周・肥鄉・雞澤・廣平・邯鄲・成安・威・清河・磁州。❺縣名。㋑漢、置く。故城は河北省雞澤縣の東。〔讀史方輿紀要、直隸、廣平府、永年縣〕廣平城、杜佑曰、在㆓永年縣北㆒、漢置㆓廣平縣㆒、蓋治㆑此。㋺東晉、置く。河南省鄧縣の地。㋩晉の時、漢以來の廣年縣を訛つていふ。廣年(278)を見よ。㋥南朝宋、置く。今缺く。江蘇省の境。㋭後魏、置く。故治は安徽省宿縣の西南。㋬北周、置く。故治は四川省松潘縣の疊溪營の西。㋣唐、置く。河北省宛平縣の西北。㋠金、置く。河北省大名縣の西北。〔讀史方輿紀要、直隸、廣平府〕廣平縣、云云、金大定七年、置㆓廣平縣㆒、屬㆓洺州㆒、元因㆑之。〔清史稿、地理志〕直隸、廣平府、縣九、廣平。❻字號。㋑三國吳、杜契(6-14477··87)の字。㋺清、葉堂(9-31387··102)の字。

【廣平侯】312 クワウヘイコウ 封號。❶漢、薛歐(9-32123··10)の封號。❷後漢、吳漢(2-3365··80)の封號。

【廣平賦】313 クワウヘイノフ 文章の名。唐、宋璟作。廣平は璟の字。梅の花を賦したもの。〔錦子箋〕宋璟、字廣平、貞操勁質、其鐵腸石心、疑不㆑能㆑吐㆓媚辭㆒、乃作㆓梅花賦㆒、則清便艷麗也、其警句云、鶯語猶澀、蜂房未㆑喧、獨步㆓早春㆒、自全㆓其天㆒。〔周霆震、歲暮詩〕向餘平生友、示㆓我廣平賦㆒。

【廣平郡公】314 クワウヘイグンコウ 唐、宋璟(3-7078··14)の封號。

【廣平王俶】316 クワウヘイワウシユク 唐の代宗をいふ。李豫(6-14459··772)を見よ。

【廣袂】317 クワウベイ ひろい袖。〔陳與義、同㆓家弟㆒賦㆓蠟梅㆒詩得㆓四絕句㆒〕黃羅作㆓廣袂㆒、絳帳作㆓中單㆒。

【廣闢】318 クワウヘキ 廣くひらく。〔抱朴子、博喩〕四聰廣闢、則義和納㆑景。〔王勃、平臺祕略論〕月庭廣闢、風閨洞啟。

【廣捕】319 クワウホ 罪人等をひろくたづね廻ること。〔福惠全書、刑名部、問擬〕給㆓廣捕之牌㆒。

【廣牡】320 クワウボ クワウボウ 大きな牲牢。廣は大。〔詩、周頌、雝〕於薦㆓廣牡㆒、相㆑予肆祀。〔傳〕廣、大也。〔箋〕於進㆓大牡之牲㆒。

【廣豐】321 クワウホウ 縣名。❶南朝梁、置く。故城は江西省豐城縣の東。〔讀史方輿紀要、江西、南昌府、豐城縣〕富城舊縣、云云、縣東南又有㆓廣豐縣㆒、梁大同二年、分㆓豐城縣㆒置。❷清、置く。江西省上饒縣の東。〔清史稿、地理志〕江西、廣信府、縣七、廣豐。

【廣矛】322 ヒロホコ 幅の廣い矛。〔日本書紀、神代紀下〕乃以㆓平㆑國時所㆑杖之廣矛㆒授㆓二神㆒。

【廣袤】323 クワウボウ 地の面積をいふ。廣は東西、袤は南北。〔墨子、備城門〕廣袤各丈六尺。〔史記、楚世家〕從㆑某至㆑某、廣袤六里。〔漢書、賈捐之傳〕立㆓儋耳・珠厓郡㆒、皆在㆓南方海中㆒、洲居廣袤可㆓千里㆒。〔張衡、西京賦〕量㆓輕輪㆒、考㆓廣袤㆒。〔注〕綜曰、南北爲㆑徑、東西爲㆑廣、善曰、說文曰、南北曰㆑袤。

【廣牧】324 クワウボク ❶廣大な牧養の地。〔管子、小匡〕平原廣牧。❷縣名。㋑漢、置く。綏遠省鄂爾多斯右翼後旗の胡朔方城の西。〔漢書、地理志下〕朔方郡、縣十、廣牧。〔讀史方輿紀要、山西、太原府、壽陽縣〕廣牧城、在㆓縣北㆒、漢廣牧縣、本屬㆓朔方郡㆒。㋺晉、置く。湖北省江陵縣の地。〔讀史方輿紀要、湖廣、荊州府、江陵縣〕安興城、在㆓府西北㆒、江左僑㆓立新興郡㆒、領㆓廣牧・定襄・雲中・九原・宕渠・新豐六縣㆒。

【廣密】325 クワウミツ 廣く且つこまやかなこと。〔史記、秦始皇紀〕聖德廣密。

【廣民】326 クワウミン 宋の仁宗の代、西夏の景宗、李元昊の年號。(1034-1035)

【廣明】327 クワウメイ ❶廣めあきらかにする。〔說苑、建本〕惟學問可㆔以廣㆓明德慧㆒也。❷未央殿の東にある宮殿の名。〔三輔黃圖、二、漢宮〕未央宮、有㆓宣室・麒麟・金華・承明・武臺・鉤弋等殿㆒、又有㆓殿閣三十有二㆒、有㆓壽成・萬歲・廣明・椒房・清涼・水延・玉堂・壽安・平就・宣德・東明・飛雨・鳳皇・通光・曲臺・白虎等殿㆒。❸年號。㋑唐の僖宗、李儇の時。(880-881)㋺宋代、南詔の昭明帝、段素英の時。975-1007)❹字號。㋑後魏、成公興(5-11544··101)の字。㋺清、葉堂(9-31387··102)の字。

【廣面】328 クワウメン ひらたい顏。だだつ廣い顏。〔博物志、五方人民〕北方太陰、土平廣深、其人、廣面縮頸。

【廣野】329 クワウヤ ❶廣い野原。廣壄。〔墨子、兼愛下〕平原廣野。〔呂覽、節喪〕古之人、有㆘藏㆓於廣野深山㆒而安者㆖矣。〔史記、天官書〕海旁蜃氣象㆓樓臺㆒、廣野氣成㆓宮闕㆒。〔漢書、鼂錯傳〕平原廣野、此車騎之地。❷山名。〔天中記〕廣野山者、天之北岳也、在㆓北海弱水之中㆒。❸明、陳與郊(11-41698··1281)の字。

【廣野君】330 クワウヤクン 漢、酈食其(11-39753··13)の號。

【廣陽】331 クワウヤウ ❶川の名。㋑河北省良鄉縣の東。一名、廣陽河・義河。源は房山縣の北の公村。鹽溝河と合して牤牛河となり、桑乾河に注ぐ。〔讀史方輿紀要、直隸、順天府、良鄉縣〕廣陽水、在㆓縣東㆒、源出㆓房山縣北三十里之公村㆒、經㆓廣陽故城下㆒、南流與㆓鹽溝水㆒合、注㆓於桑乾河㆒。㋺甘肅省隴西縣の西。又、西河といふ。〔水經、渭水注〕廣陽水出㆓西山㆒、二源合注、共成㆓一川㆒、東北流注㆓於渭㆒。❷郡名。漢、置く。秦の上谷・漁陽二郡の地。故治は河北省北京市內城北壁德勝門外。〔讀史方輿紀要、直隸〕順天府、禹貢、冀州地、其在㆓顓頊時㆒曰㆓幽陵㆒、帝堯時、曰㆓幽都㆒、帝舜時、爲㆓幽州地㆒、夏商時、皆爲㆓冀州地㆒、周亦置㆓幽州㆒、春秋戰國時、爲㆓燕國㆒、秦爲㆓上谷・漁陽二郡地㆒、漢初爲㆓燕國㆒、又分㆓置涿郡㆒、元鳳初、改㆓燕國㆒爲㆓廣陽郡㆒、本始初、更爲㆓廣陽國㆒、東漢省㆓廣陽㆒入㆓上谷㆒、永平八年、復置㆓廣陽郡㆒、三國魏、改爲㆓燕郡㆒。㋺後魏、置く。故治は河北省密雲縣の東北。

㊂縣名。㋑漢、置く。又、小廣陽といふ。故城は河北省良鄕縣の東北。〔漢書、地理志下〕廣陽國、縣四、廣陽。〔讀史方輿紀要、直隸、順天府、良鄕縣〕廣陽城、縣東八里、漢縣、屬二廣陽國一。㋺晉、置く。漢の汶江縣の地。故治は四川省茂縣の西北。〔讀史方輿紀要、四川、成都府、茂州、湔氐廢縣〕廣陽城、云云、晉置二廣陽縣一屬二汶山郡一。㋩晉、置く。漢の陵陽縣の地。故治は安徽省石棣縣の東北。〔讀史方輿紀要、江南、池州府、青陽縣〕陵陽廢縣、云云、晉咸康二年、避二杜后諱一改曰二廣陽一。㋥後魏、置く。故城は陝西省臨潼縣の北。〔讀史方輿紀要、陝西、西安府、臨潼縣〕廣陽城、云云、景明初、又分二彰縣一置二廣陽縣一、俱屬二馮翊郡一。㋭唐、置く。故城は山西省平定縣の東南。㋬明、置く。故治は安徽省廣德縣。

〖廣陽侯〗332 クヮウヤウコウ　漢、甄豐（7－21557‥47）の封號。

〖廣陽子〗333 クヮウヤウシ　清、劉獻廷（2－2224‥877）の號。

【廣裕】334 クヮウユウ　㊀廣まる。〔管子、小匡〕名聲廣裕、不レ可レ掩也。㊁大いにゆたかにする。〔國語、周語下〕廣二裕民人一之謂也。

【廣譽】335 クヮウヨ　廣いほまれ。〔孟子、告子上〕令聞廣譽施二於身一。〔韓非子、說疑〕主有四明二名廣三譽於國一。〔漢書、王吉傳〕美聲廣譽、登而上聞。

【廣絡】336 クヮウラク　廣くとりまく。〔唐書、許胤宗傳〕廣二絡原野一。

【廣覽】337 クヮウラン　廣く見る。〔漢書、董仲舒傳〕廣覽兼聽、極二羣下之知一。〔王褒、聖主得二賢臣一頌〕無レ有二游觀廣覽之知一。〔晉書、郭璞傳〕陛下玄鑒廣覽。

【廣攬】338 クヮウラン　廣くとる。〔賈公彥、序周禮廢興〕鄭玄序云、云云、斯可レ謂二雅達廣攬者一也。

【廣里】339 クヮウリ　地名。山東省長清縣の西南。〔左氏、襄、十八〕塹二防門一而守二之廣里一。〔讀史方輿紀要、山東、濟南府、長清縣〕廣里、在二縣西南一、志云、平陰城北有二防門一、又北有二光里一、齊人言、廣、音與レ光同、左傳所謂塹二防門一而守二之廣里一者也。

【廣裏】340 kuang³ li³　廣東省。

【廣柳】341 クヮウリウ　廣柳車の略。〔陸機、挽歌詩〕龍帨被二廣柳一、前驅矯二輕旗一。

〖廣柳車〗342 クヮウリウシャ　喪に用ひる大車。柳は諸色で飾つた喪車。後、車の通稱となる。〔史記、季布傳〕迺髡二鉗季布一、衣二褐衣一、置二廣柳車中一。〔注〕集解曰、服虔曰、東郡謂二廣轍車一爲レ柳、鄧展曰、皆棺飾也、載以二喪車一、欲二人不一レ知也、李奇曰、大牛車也、車上覆爲レ柳、瓚曰、茂陵書中有二廣柳車一、每縣數百乘、是今運轉大車、是也、索隱曰、案、服虔・臣瓚所レ據、云云、則凡大車任二載運一者、通名二廣柳車一、然則柳爲二車通名一、鄧展所レ說、柳皆棺飾、載以二喪車一、欲二人不一レ知也、事義相協、最爲二通允一、故禮曰、設二柳翣一爲レ使二人勿一レ惡也、鄭玄注二周禮一云、柳、聚也、諸飾所レ聚也、則是喪車稱レ柳、故後人通謂二車爲一レ柳也。

【廣陸】343 クヮウリク　廣い土地。〔夏侯湛、梁田賦〕嬉二于夷寧之廣陸一、步二于大野之長京一。

【廣略】344 クヮウリャク　㊀廣々としてしまりがない。〔歐陽脩、與二張秀才一第二書〕洪荒廣略爲レ古。㊁字號。㋑北周、田弘（7－21723‥99）の字。㋺唐、崔鄖（4－8178‥17）の字。

【廣陵】345 クヮウリョウ　㊀郡名。㋑後漢、置く。治は廣陵。故城は江蘇省江都縣の東北。〔讀史方輿紀要、江南、揚州府、江都縣〕廣陵城、云云、後漢爲二廣陵郡治一。㋺後魏、置く。故城は河南省息縣治。〔讀史方輿紀要、河南、汝寧府、光州、息縣〕廣陵城、云云、興和中、置二廣陵郡一、兼置二宋安縣一、爲二郡治一。㊁縣名。㋑秦、置く。戰國の時、楚の懷王が城を築いた所。故城は江蘇省江都縣の東北。〔讀史方輿紀要、江南、揚州府、江都縣〕廣陵城、在二府城東北一、楚舊縣、史記表、懷王十年、城二廣陵一、秦因レ之、云云、漢因レ之、吳王濞都レ此。㋺南朝宋、置く。今、缺く。江蘇省の境。㋩南朝宋、置く。今、缺く。廣西省の境。㋥五代唐、置く。山西省廣靈縣の治。〔讀史方輿紀要、山西、大同府、蔚州〕廣靈縣、云云、五代唐同光初、析二興唐縣一、置二廣陵縣一、遼因レ之。㊂城の名。㋑江蘇省江都縣の東北。㊀の㋑を見よ。㋺河北省文安縣の西北。宋代、糧を聚めて、益津關を守る。㋩河南省息縣治。常に兵爭の地となる。㊀の㋺を見よ。㊃清、陳元龍（11－41698‥836）の字。

〖廣陵月〗346 クヮウリョウゲツ　明曲の篇名。汪廷訥作。樂府雜錄に見える韋青と許永新と張紅紅との事を合し、許永新と張紅紅とを同一人として作つたもの。全本七齣。

〖廣陵散〗347 クヮウリョウサン　琴曲の名。晉の嵆康が隱者から授けられたもので、其の死後、傳へる者が無いといふ。〔晉書、嵆康傳〕康將レ刑二東市一、太學生三千人、請二以爲一レ師、弗レ許、康顧二視日影一、索レ琴彈レ之曰、昔袁孝尼、嘗從レ吾學二廣陵散一、吾每靳二固之一、廣陵散於レ今絕矣、時年四十、海內之士、莫レ不レ痛レ之、帝尋悟而恨焉、初康嘗游二乎洛西一、暮宿二華陽亭一、引レ琴而彈、夜分忽有レ客詣レ之、稱、是古人、與レ康共談二音律一、辭致清辯、因索レ琴彈レ之、而爲二廣陵散一、聲調絕倫、遂以授レ康、仍誓レ不レ傳レ人、亦不レ言二其姓字一。〔靈鬼志、嵆康〕乃手挈二其頭一曰、聞二君奏一レ琴、不レ覺心開神悟、悅若二暫生一、遂與共論二音聲之趣一、辭甚清辯、謂二中散一曰、君試以レ琴見レ與、乃彈二廣陵散一、便從受レ之、果悉得。〔夢溪筆談、樂律一〕盧氏雜說、韓皐謂二嵆康一琴曲有二廣陵散者一、以下王陵・毋丘儉輩、皆自二廣陵一敗散上言、魏散亡、自二廣陵一始、故名二其曲一曰二廣陵散一、以レ予考レ之、散、自是曲名、如二操弄摻淡序引之類一、故潘岳笙賦、輟二張女之哀彈一、流二廣陵之名散一、又應璩與二劉孔才一書云、聽二廣陵之清散一、知下散爲二曲名一明上矣、或者、康借二此名一、以諫二諷時事一、散取二曲名一、廣陵乃其所レ命、相附爲レ義耳。

〖廣陵集〗348 クヮウリョウシフ　書名。三十卷。拾遺一卷。宋、王令撰。凡て詩賦十八卷・文十二卷で、拾遺には墓誌・事狀等を載す。〔四庫提要、集、別集類〕。

〖廣陵思王〗349 クヮウリョウシワウ　後漢、劉荆（2－2224‥228）の封謚號。

〖廣陵厲王〗350 クヮウリョウレイワウ　漢、劉胥（2－2224‥379）の封謚號。

〖廣陵之名散〗351 クヮウリョウノメイサン　廣陵散に同じ。〔潘岳、笙賦〕輟二張女之哀彈一、流二廣陵之名散一。〔注〕銑曰、廣陵散、曲名。

【廣輪】352 クヮウリン　ひろさ。廣は東西、輪は南北。廣袤。廣運。〔周禮、地官、大司徒〕周知二九州之地域廣輪之數一。〔疏〕馬融曰、東西爲レ廣、南北爲レ輪。〔孫詒讓正義〕按、地以二南北一爲レ縱、則輪之義、猶レ運也、運聲又近レ鄖、毛詩、幅隕既長、傳曰、幅、廣也、隕、均也、彼均字當二讀作一レ運、山海經西山經、廣員百里、輪・運・隕・員・均、聲並相近。

【廣麗】353 クヮウレイ　廣くうるはしい。〔禮、檀弓下〕廣輪揜レ坎、其高可レ隱也。〔史記、秦始皇紀〕觀望廣麗。

【廣靈】354 クヮウレイ　縣名。金、置く。山西省靈丘縣の北。滱水の東北岸。〔讀史方輿紀要、山西、大同府、蔚州〕廣靈縣、云云、漢代郡延陵縣地、云云、金曰二廣靈一、仍屬二蔚州一。〔清史稿、地理志〕山西、大同府、縣七、廣靈。

【廣遼】355 クヮウレウ　廣くはるかな。又、其の所。〔雲笈七籤〕風生二廣遼一。

【廣路】356 クヮウロ　廣いみち。〔古詩十九首〕松柏夾二廣路一。〔班固、西都賦〕披二三條之廣路一。〔劉楨、贈二五官中郎將一詩〕廣路揚二埃塵一。

【廣露】357 クヮウロ　一面に置いたつゆ。〔謝朓、奉二和隨王殿下一詩〕高秋夜方靜、神居肅且深、閒階塗二廣露一、涼宇澄二月陰一。

【廣論】358 クヮウロン　廣く道理を述べる。〔人物志、上、材理〕夫辯有二理勝一、有二辭勝一、理勝者、正二白黑一以廣論、釋二微妙一而通レ之。

【廣和】359 クヮウワ　明、世宗の時、大越の莫福海の年號。（1541－1546）

【廣慧力】360 クヮウヱリキ　佛如來の深廣な智慧の力。卽ち廣く衆生を攝化する光明の力。

【廣孝泉】361 クヮウカウセン　泉の名。山西省永濟縣の東南。もと舜井といふ。二井あり、泉脈が相通じ、酒を釀造するに宜しといふ。宋の大中祥符中、廣孝泉の名を賜はり、王欽若に命じて碑文を撰せしめた。〔平陽府志、蒲州〕舜井、州城東舜廟後、東西二井、相去不二數武一、宋眞宗幸レ廟作レ贊、名二廣孝泉一。

【廣渠門】362 クヮウキョモン　北京外城の東にある門。俗に沙窩門といふ。〔讀史方輿紀要、直隸、順天府〕嘉靖二十三年、又築二重城一、云云、爲二七門一、南曰二永定門・左安門・右安門一、東曰二廣渠門・東便門一、西曰二廣寧門・西便門一。

【廣果天】363 クヮウクヮテン　佛色界第四禪天の八天中、第

三天の名。第四禪天に於て凡夫の生れることの出來る天處の最勝處。〔倶舍頌疏、八〕於二色界中一異生生中、此最殊勝故、名二廣果天一。

【廣惠倉】364 クワウケイサウ 倉の名。宋の嘉祐二年に置く。老幼貧疾の者に給するために貯へる慈善倉。〔宋史、食貨志上四〕嘉祐二年、詔二天下一置二廣惠倉一、初天下沒二入戸絕田一、官自鬻レ之、樞密使韓琦、請下畱勿レ鬻、募レ人耕、收二其租一、別爲レ倉貯レ之、以給中州縣郭內之老幼貧疾不レ能二自存一者上、歲十月、遣レ官驗二視應レ受レ米者一、書二名於籍一、自二十一月一始、三日一給、人米一升、幼者半レ之、次年二月止、有レ餘乃及二諸縣一、量二大小一均給レ之、其大略如レ此。〔通鑑綱目〕嘉祐二年秋八月、詔二諸州一置二廣惠倉一、初天下沒二入戸絕田一、官自粥レ之、至レ是、韓琦請下畱勿レ粥、募レ人耕而收二其租一、別爲レ倉貯レ之、以給中州縣之老幼貧疾不レ能二自存一者上、名二廣惠倉一。

【廣惠寺】365 クワウケイジ 寺の名。青海の名寺で大通縣境にあり、全寺が喇嘛寺である。

【廣經室】366 クワウケイシツ 清、劉恭冕(2—2224‥816)の室名。

【廣慶寺】367 クワウケイジ 寺の名。廣東省清遠縣の東北。もと飛來寺といふ。附近に歸猿洞・金芝巖・凝碧灣・金鎖澤・釣里潭・獅子石等の諸名勝がある。

【廣巖城】368 クワウゴンジヤウ 佛地名。中印度に在り、佛が藥師經維摩經等を說いた處。Vaiśālī の譯名。音譯は毘舍離。〔藥師本願經〕一時、薄伽梵、遊二化諸國一、至二廣巖城一、住二樂音樹下一。

【廣象棋】369 クワウシヤウギ 象棋の一種。從來の象棋の規模を大きくしたもの。廣象戲圖(389)に同じ。〔五雜組、人部〕晁無咎有二廣象棋一、局十九路九十一字、今不レ傳矣、司馬溫公製二七國象棋法一、亦是推二廣象戲遺意一、而近二於腐爛一、至二魏游執一、肇製二儒棋一、有二仁義禮智信之目一、則益令二人嘔噦不レ堪、戲者戲也、若露二出大儒本色一、則不レ如レ讀レ書矣。

【廣新公】369′ クワウシンコウ 漢、甄豐(7—21557‥47)の號。

【廣小路】370 ヒロコウジ 幅のひろい街路。東京都の上野廣小路の類。

【廣疏記】371 クワウソキ 佛書名。唐、湛然撰。維摩疏記六卷を同著の維摩略疏十卷に對していふ。〔諸宗章疏錄、一〕。

【廣卒偏】372 クワウソツヘン 春秋時代、楚の兵車の編法。王の親兵を二部に分ち、一部は兵車十五乘で、之を偏といひ、偏二つ、卽ち隨從する全兵車を卒と爲す。廣は兵車の名。〔左氏、宣、十二〕其君之戎、分爲二二廣一、廣有二一卒一、卒偏之兩、右廣初駕、數及二日中一、左則受レ之、以至二于昏一。〔會箋〕廣、兵車名、以二其親兵一、分二左右二部一、故名二二廣一。

【廣長舌】373 クワウチヤウゼツ 佛三十二相の一。舌が廣く長く柔軟で薄紅、能く面を覆ひ髮際に至るもの。轉じて、勝れた辯舌。長々と大いに語ること。長廣舌。〔智度論、八〕問曰、如二佛世尊一、大德尊重、何以故、出二廣長舌一、似二如輕相一、答曰、舌相如レ是、語必眞實、如昔佛出二廣長舌一、覆二面上一、至二髮際一、語二婆羅門一言、汝見二經書一、頗有二如レ此舌一、人而作二妄語一不、婆羅門言、若人舌能覆レ鼻無二虛妄一、何況至二髮際一、我心信レ佛、必不二妄語一。〔法華經、神力品〕現二大神力一、出二廣長舌一、上至二梵世一。〔蘇軾、贈二東林總長老一詩〕溪聲便是廣長舌、山色豈非二清淨身一。

【廣儲司】374 クワウチヨシ 官名。清、置く。內務府に屬し、收藏を掌る。〔清國行政法汎論、內務府〕廣儲司、總辦郎中四人。

【廣燈錄】375 クワウトウロク 佛書名。三十卷。宋、李遵勖撰。禪宗廣燈錄。〔稽古略、四〕。

【廣動植】376 クワウドウシヨク 酉陽雜俎の篇名。

【廣胖窩】376′ クワウハンクワ 藤原肅の號。藤原惺窩(9—32340‥61)を見よ。

【廣法寺】377 クワウホフジ 寺の名。四川省懋功縣の西北の噶爾崖。もと雍中喇嘛寺といふ。

【廣目天】378 クワウモクテン 佛四天王の一。帝釋の外臣で、西方を守るもの。其の眼目が廣大であるからいふ。惡人を罰し、苦に遇はせて佛心を起させることを司るといふ。〔太平記、十六〕。

【廣輿記】379 クワウヨキ 書名。二十四卷。明、應陽撰。大明一統志に倣ひ、歷代の史、地方の地志を參酌して作つたもので、之を北直隸・南直隸・山西・山東・河南・陝西・浙江・江西・湖廣・四川・福建・廣東・廣西・雲南・貴州・九邊・外夷に分ち、各省を各〻府州に分ち、府毎に先づ建置沿革を記し、次に形勝・山川・土產・關梁・祠廟・古蹟・名宦・人物を列記してゐる。清の蔡方炳が增補して增訂廣輿記を作る。〔四庫提要、史、地理類〕。

【廣來津】380 ヒロキツ 姓氏。〔新撰姓氏錄考證、七〕。

【廣利王】381 クワウリワウ 南海の海神、祝融の封號。唐の天寶十年正月、詔して南海の神、祝融を封じて廣利王とした。〔通典、禮、山川〕天寶十載正月、以二東海一爲二廣德王一、南海爲二廣利王一、西海爲二廣潤王一、北海爲二廣澤王一。

【廣隆寺】382 クワウリユウジ 寺の名。京都市右京區太秦。もと蜂岡寺といふ。眞言宗に屬し、推古天皇十一年、秦河勝が聖德太子の命を奉じて建立す。

【廣客蛇影】383 クワウカクダエイ 蒙求の標題。晉の樂廣が河南の尹の時、親友が酒を御馳走になり、其の後、暫く來なかつたので、其の譯を聞くと、盃の中に蛇の居るのを見、それを飮んだので病氣になつたといふ。當時、河南の役所の壁上に蛇を畫いた角弓がかかつてゐたので、之が盃に映つたのであらうと察し、再び招いて前のやうに酒をすすめ、また見えるかと聞くと、見えると答へたので、樂廣は其の譯を話すと客はからりと了解して病がなほつた故事。〔晉書、樂廣傳〕嘗有二親客一、久闊不二復來一、廣問二其故一、答曰、前在レ坐蒙レ賜レ酒、方欲レ飮、見二盃中有一レ蛇、意甚惡レ之、既飮而疾、于レ時、河南聽事壁上、有レ角、漆畫作レ蛇、廣意、盃中蛇卽角影也。復置二酒於前處一、謂レ客曰、酒中復有レ所レ見不、答曰、所レ見如レ初、廣乃告二其所以一、客豁然意解、沈痾頓愈。

【廣九鐵路】384 クワウキウテツロ 鐵道の名。廣東省城から九龍に至る。二部に分れ、一は廣東省境內、一は英國の九龍租借地內にある。

【廣宮大囿】385 クワウキユウタイイウ 廣い宮殿と禽獸を放ちがひする大きな園。〔莊子、徐無鬼〕擇二疏鬣一、自以爲二廣宮大囿一。

【廣羣芳譜】386 クワウグンパウフ 書名。一百卷。清、汪灝等奉勅撰。明の王象晉の羣芳譜に因つて、清の康熙四十七年、汪灝等が勅を奉じて刪改增補したもので、象晉の舊文の面目は殆ど存せず、彙考・集藻・別錄の三種に分つてゐる。〔四庫提要、子、譜錄類〕。

【廣三鐵路】387 クワウサンテツロ 鐵道の名。粤漢鐵路の支線。三水鐵路ともいふ。廣州の石圍塘から三水縣城に達す。

【廣而不レ宣】388 ヒロクシテアラハレズ 廣く行きわたつてゐて而も其の形跡があらはれない。中庸を得てゐるために目立つことがないのである。〔左氏、襄、二十九〕用而不レ匱、廣而不レ宣。

【廣象戲圖】389 クワウシヤウギヅ 將棊の一種。從來の將棊を改めて大きくしたもの。圖は板面。〔晁補之、廣象戲圖〕象戲局、縱橫十一路、棋三十二、試以二局縱橫十九路、棋九十八一廣レ之、其新舊二法、皆與二今縱十路橫九路者一不レ同、古十一路、蓋兵卒相去中三路、今中二路、其第一路、磤居二兩旁一、兵卒則居二縱路之二四六八十一、磤馬士兩敵相對、磤無レ架馬旁行、士不レ出二帷幄一、三者俱不レ啓レ釁也。

【廣絕交論】390 クワウゼツカウロン 文章の名。梁、劉峻撰。任昉の諸子西華兄弟等の零落を見て歎じて作る。〔劉峻、廣絕交論、注〕善曰、劉峻見二任昉諸子西華兄弟等、流離不レ能二自振一、生平舊交、莫レ有二收恤一、西華、冬月著二葛布帔練裙一、路逢レ峻、峻泫然矜レ之、乃廣二朱公叔絕交論一、到漑見二其論一、抵二几於地一、終レ身恨レ之。

【廣長輪相】391 クワウチヤウリンサウ 佛大日如來が眞言を說くに、法界に周遍する廣長舌を出して、其の言の誠實なることを證するをいふ。〔大日經、二〕如來有二如來出世廣長輪相一。

【廣播電臺】392 kuan^3 po^4 tien^1 t‘ai^2 放送局。

【廣方言館】393 クワウハウゲンクワン 清の同治年間、李鴻章が上海の敬業書院に設立した外國語學校。

【廣百論本】394 クワウヒヤクロンホン 佛書名。一卷。聖天菩薩作。唐、玄奘譯。二百偈、皆五言よりなり、我見等の一切法を破してゐる。〔署帙、二〕。

【廣謀從レ衆】395 ヒロクハカツテシユウニシタガフ 多くの人と相談して多數の意見に從ふ。〔漢書、郊祀志下〕廣謀從レ衆、則合二於天心一。

【廣瀨旭莊】396 ヒロセキヨクサウ 豐後の人。淡窓の弟。名は謙。字は吉甫。號は秋村・旭莊・梅暾(梅墩)。通稱は謙吉。私謚は文敏先生。文久三年八月十七日歿す、年五十七。龜井昭陽・菅茶山に師事。塾

を豐後・江戸・大阪・堺・池田に開く。博覽強記、殊に詩學を以て知られ、勤王の志が深かつた。從五位を贈らる。著に異船議・高青邱詩鈔・學校議・九桂草堂隨筆・旭莊小稿・宜園百家詩初編・宜園百家詩二編・宜園百家詩三編・怪史・雜肋集・克己編・識小篇・淡巷集・追思錄・東游稿・塗說・貳臣傳・日間瑣事備忘錄・梅墩遺稿（光吉文編）・梅墩叢書・梅墩詩鈔・梅墩文鈔・梅墩漫筆・病榻囈語・明史小批・錄海がある。〔近代著述目錄後篇〕・〔大阪名家著述目錄〕。

【廣瀨青邨】397 ヒロセセイソン 豐前の人。廣瀨林外の養子。名は範治。字は世叔。號は青邨・東宜園。私諡は文通先生。明治十七年二月三日歿す、年六十六。廣瀨淡窓に師事し、師の塾咸宜園を總理す。明治元年、京に入り、漢學所に直す。後、岩手縣七等出仕兼七等判事・修史局三等修選・華族女學校教師・山梨縣學典徽館司教に歷任。其の學は陽明を宗とし、晩年に老莊を好む。最も詩に巧。著に攝西六家詩評・青邨遺稿がある。

【廣瀨淡窓】398 ヒロセタンサウ 豐後の人。名は建。初名は簡。字は子基・廉卿。通稱は求馬・寅之助。號は淡窓・苓陽・青溪・遠思樓主人。私諡は文玄先生。安政三年十一月一日歿す、年七十五。僧法幢・椋野元俊・松下竹陰・龜井南溟・龜井昭陽に師事。鄕に私塾桂林園、後、咸宜園を開き、教育に從事すること五十年、贄を執る者四千七百餘人に及ぶ。其の學風は訓詁に拘らず、大觀を主とし、敬天を以て大本とす。最も詩に巧。又、老子を喜ぶ。從四位を贈らる。著に迂言・迂言附錄・遠思樓詩鈔・遠思樓詩鈔二編・遠思樓小品・遠思樓文集・遠思樓雜文錄・義府（一名、放言）・懷舊樓筆記・再新錄・自新錄・醒齋語錄（中島種任・廣瀨林外筆記）・性善論・拆玄・淡窓詩話・淡窓小品（一名、鼠壤餘疏）・淡窓題跋・讀左傳（廣瀨林外筆錄）・讀孟子・讀論語（廣瀨林外筆記）・日記（淡窓日記・遠思樓日記・欽齋日記・醒齋日曆・進集錄・再修錄・甲寅新曆）・廣瀨家譜（淡窓・南陔・棣園・旭莊同撰）・廣瀨氏略系譜・文稿拾遺・萬善簿・夜雨寮筆記（劉君平編次）・約言・約言補・約言或問・約言或問（國文）・老子摘解・六橋紀聞（廣瀨林外纂輯）・論言三言解がある。〔近代著述目錄、後篇〕・〔淡窓全集〕。

【廣瀨蒙齋】399 ヒロセモウサイ 陸奥の人。名は典。字は以寧・仁重。通稱は臺八。號は蒙齋。文政十二年二月歿す、年六十二。林大學頭・昌平黌に學ぶ。官は白河藩儒。後、幕政に參與す。經學は程朱を宗とし、尤も詩文に長ず。著に有力錄・榮使錄・轘轍錄・山谷題跋・讚藪・酬夢編・しがらみ・使日光錄・杖屏記・白河古事考・白河結城歷世事實・南湖記・筆林・夢遊編・蒙齋小稿・蒙齋先生文集別錄・蒙齋存稿・蒙齋文集がある。〔近代著述目錄、後篇〕・〔諸藩藏版書目筆記〕・〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕。

【廣瀨林外】400 ヒロセリングワイ 豐後の人。名は孝。字は維孝。號は林外。私諡は文靖先生。明治七年五月十四日歿す、年三十九。廣瀨淡窓に師事。淡窓の歿後、塾政を掌る。後、東京に來り、史館に入り、最も史學に精通。又、詩文に巧。著に林外遺稿（清浦奎堂校訂）がある。〔墓銘〕。

【廣利泉涌】401 クワウリセンヨウ 蒙求の標題。前漢の貳師將軍、李廣利が、陣中で水の無いのに苦しんだ時、佩刀を拔いて山に刺し、泉を湧出させた故事。〔後漢書、耿恭傳〕匈奴遂於二城下一擁二絶澗水一、恭於二城中一穿レ井、十五丈不レ得レ水、吏士渴乏、笮二馬糞汁一而飮レ之、恭仰歎曰、聞、昔貳師將軍拔二佩刀一刺レ山、飛泉湧出。

【廣利大師】402 クワウリダイシ 宋、洪蘊（**6**−**17402**‥10）の號。

【廣亮大門】403 kuang^3 liang^4 ta^4 men^2 廣く立派な大門。

【廣藝舟雙楫】404 クワウゲイシウサウシフ 書名。六卷、二十七篇。清、康有爲撰。包世臣の藝舟雙楫を廣めて以て、書名としたもので、碑學を帖學に對抗せしめた有力の書である。

【廣百川學海】404′ クワウヒヤクセンガクカイ 清、馮可賓編。次の百二十種を收める。聖學範圍圖說（明岳元聲撰）・成申立春考證（明邢雲路撰）・正朔考（宋魏了翁撰）・龍興慈記（明王文祿撰）・在田錄（明張定撰）・一統肇基錄（明夏原吉撰）・聖君初政記（明沈文撰）・逐鹿記（明王褘撰）・東朝紀（明王泌撰）・龔起雜事（明楊儀撰）・椒宮舊事（明王達撰）・造邦賢勳錄畧（明王褘撰）・掾曹名臣錄（明王鴻儒撰）・明良錄畧（明沈士謙撰）・從政錄（明薛瑄撰）・致身錄（明史仲彬撰）・殉身錄（亡名氏撰）・備遺錄（明張芹撰）・平夏錄（明黃標撰）・復辟錄（明亡名氏撰）・建州女直考（天都山臣撰）・夷俗記二卷（明蕭大亨撰）・翦勝野聞（明徐禎卿撰）・觚不觚錄（明王世貞撰）・谿山餘話（明陸深撰）・清暑筆談（明陸樹聲撰）・吳中故語（明楊循吉撰）・甲乙剩言（明胡應麟撰）・三朝野史（元吳萊撰）・熙朝樂事（明田汝成撰）・委巷叢談（明田汝成撰）・蜩笑偶言（明鄭瑗撰）・玉笑零音（明田藝蘅撰）・春雨雜述（明解縉撰）・病榻寤言（明陸樹聲撰）・褚氏遺書（齊褚澄撰）・耳目記（唐張鷟撰）・括異志（宋魯應龍撰）・枕譚（明陳繼儒撰）・猥談（明祝允明撰）・語怪（明祝允明撰）・異林（明徐禎卿撰）・羣碎錄（明陳繼儒撰）・物異考（宋方鳳撰）・眞靈位業圖（梁陶弘景撰）・空同子（明李夢陽撰）・宴寥子游（明屠隆撰）・廣莊（明袁宏道撰）・貧士傳（明黃姬水撰）・長者言（明陳繼儒撰）・香案牘（明陳繼儒撰）・清言（明屠隆撰）・續清言（明屠隆撰）・歸有園塵談（明徐太室撰）・偶譚（明季鼎撰）・木几冗談（明彭汝讓撰）・金石契（明祝肇撰）・山齋志（明高濂撰）・茶箋（明屠隆撰）・盆玩品（明屠隆撰）・金魚品（明屠隆撰）・巖棲幽事（明陳繼儒撰）・友論（西域利瑪竇撰）・農說（明馬一龍撰）・蜀都雜抄（明陸深撰）・金山雜志（明楊君謙撰）・泉南雜志（明陳懋仁撰）・武夷雜記（明吳拭撰）・海槎餘錄（明顧岕撰）・瀛涯勝覽（明馬觀撰）・滇載記（明楊愼撰）・閩部疏（明王世懋撰）・吳中勝記（明華鑰撰）・田家五行（明婁元禮撰）・明月編（明王穉登撰）・丹青志（明王穉登撰）・書畫史（明陳繼儒撰）・畫說（明莫是龍撰）・畫麈（明沈顥撰）・畫禪（明釋蓮儒撰）・竹派（明釋蓮儒撰）・詞旨（元陸輔之撰）・詞評（明王世貞撰）・曲藻（明王世貞撰）・曲豔品（明潘之恒撰）・後豔品（明潘之恒撰）・樂府指迷（宋張炎撰）・陽關三疊圖譜（明田藝蘅撰）・秇圃擷餘（明王世懋撰）・學古編（元吾丘衍撰）・古今印史（明徐官撰）・古奇器錄（明陸深撰）・硯譜（明沈仕撰）・奕律（明王思任撰）・葉子譜（明潘之恒撰）・茶疏（明許次紓撰）・岕茶牋（明馮可賓撰）・觴政（明袁宏道撰）・瓶史（明袁宏道撰）・餅花譜（明張謙德撰）・藝花譜（明高濂撰）・藝菊（明黃省曾撰）・蘭譜（明高濂撰）・種樹書（元兪宗本撰）・學圃雜疏三卷（明王世懋撰）・瀟湘錄（唐李隱撰）・清尊錄（宋廉宣撰）・昨夢錄（宋康譽之撰）・就日錄（元虞集撰）・驚聽錄（宋皇甫枝撰）・劇談錄（宋鄭景壁撰）・解酲語（元李材撰）・已瘧編（明劉玉記撰）・野蔌品（明高濂撰）・稻品（明黃省曾撰）・蠶經（明黃省曾撰）・養魚經（明黃省曾撰）・獸經（明黃省曾撰）・虎苑二卷（明王穉登撰）。

【廣百論釋論】405 クワウヒヤクロンシヤクロン 佛書名。十卷。護法菩薩作。唐、玄奘譯。廣百論本を釋したもの。〔往帙、十〕。

【廣黃帝本行記】406 クワウクワウテイホンカウキ 書名。一卷。唐、王瓘撰。王瓘は閬州晉安縣の主簿。唐書藝文志に王瓘の廣軒轅本紀三卷とあるのは此の書である。〔四庫、未收書目提要、四〕。

【廣釋菩提心論】407 クワウシヤクボダイシンロン 佛書名。四卷。宋、施護譯。諸經を引いて大悲を本とすること、及び聞思修の三慧を明かにしたもの。〔成帙、十四〕。

【⿸广喬】9494

ケウ 〔集韻〕丘召切 嘯

高いいへ。〔集韻〕⿸广喬、高屋。

【⿸广柴】9495

シ 庛（**4**−**9282**）に同じ。〔集韻〕庛、或作レ⿸广柴。

【⿸广奩】9496

レン 奩（**3**−**5991**）に同じ。〔五音篇海〕⿸广奩、同レ奩。

【⿸广鼻】9497

ビ 鼻（**12**−**48498**）に同じ。〔字彙補〕⿸广鼻、與レ鼻同、人名。

【廎】 9498 ケイ

廎(**4**−**9449**)の譌字。〔字彙補〕廎、廎字之譌。

【⿸广尞】 9499 レウ

遼(**11**−**39137**)に同じ。〔川篇〕⿸广尞、同レ遼。

【⿸广訾】 9500 シ

訾(**10**−**35344**)に同じ。〔集韻〕訾、或作レ⿸广訾。

【⿸广畱】 9501 リウ

廇(**4**−**9434**)の本字。〔中華大字典〕廇、本作レ⿸广畱。

十三畫

【⿸广暑】 9502 ショ 〔字彙〕賞呂切 語

いへ。〔字彙〕⿸广暑、舍也。

【⿸广亶】 9503 タン 〔集韻〕黨旱切 旱

かたひさしのいへ。〔集韻〕⿸广亶、偏舍謂ニ之⿸广亶一。

【⿸广勤】 9504 キン

❶廑(**4**−**9456**)に同じ。〔集韻〕廑、或从レ勤。❷僅(**1**−**1048**)に同じ。〔集韻〕僅、或作レ⿸广勤。

【廥】 9505 クワイ ケ 〔集韻〕古外切 泰 ㄎㄨㄞˋ k'uai^4

小篆

❶**まぐさぐら。**〔說文〕廥、芻藁之藏也、从レ广會聲。❷**くら。**〔廣雅、釋宮〕廥、倉也。〔唐書、李頻傳〕頻發ニ官廥一。

【廥藏】1（クワイザウ） くら。倉の中のたくはへ。〔唐書、牛徽傳〕王室方復、廥藏殫耗、當下協ニ和諸侯一、以爲中藩屛上。

【廥聚】2（クワイシユウ） 倉庫にあつめたくはへてあるもの。〔唐書、朱粲傳〕粲所レ克州縣、皆發ニ藏粟一以食、遷徙無レ常、去輒燔ニ廥聚一、毀ニ城郭一、不レ務ニ稼穡一、專以レ劫爲レ資。

【廥積】3（クワイセキ） 星の名。天倉の南の衆星。〔史記、天官書〕胃爲ニ天倉一、其南衆星曰ニ廥積一。

【廥錢】4（クワイセン） 倉の中に貯へてある金。〔唐書、崔彥曾傳〕勛陷ニ宿州一、發ニ廥錢一募レ兵。

【廥畜】5（クワイチク） 倉の中のたくはへ。〔唐書、渾鎬傳〕鎬引レ兵壓ニ鎭境一而屯、距レ賊三十里、鼓角聲相聞、賊始亦畏、見三鎬無ニ斥候一、乃潛レ師入ニ定境一、焚ニ廥畜一、屠ニ鄕聚一、鎬軍遂搖。

【廥中】6（クワイチユウ） 倉の中。〔後漢書、蘇不韋傳〕潛入ニ廥中一、夜則鑿レ地、晝則逃伏、如レ此經レ月、遂得三傍ニ達暠之寢室一。

【廥儲】7（クワイチヨ） 倉の中のたくはへ。〔唐書、殷侑傳〕所レ賜戶口滋饒、廥儲盈腐、上下便安。

【廥廩】8（クワイリン） まぐさぐらとこめぐら。又、くら。〔唐書、顏眞卿傳〕陽託ニ霖雨一、增レ陴濬レ隍、料ニ才壯一、儲ニ廥廩一。

【⿸广虜】 9506 ㈠ロ 〔集韻〕籠五切 麌 ㈡ロ 〔集韻〕龍都切 虞

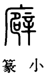
小篆

㈠❶**ひさし。**堂下の周屋。廊下。〔說文〕⿸广虜、廡也、从レ广虜聲、讀若レ鹵。❷**くら。**〔玉篇〕⿸广虜、府也。❸**いほり。**〔廣雅、釋宮〕⿸广虜、庵也。❹或は廬(**4**−**9524**)に作る。〔集韻〕⿸广虜、或作レ廬。㈡**ひさし。**㈠の❶に同じ。〔集韻〕⿸广虜、廡也。

【⿸广雋】 9507 セン ゼン 〔篇韻〕祀兗切 銑

大きいいへ。〔篇韻〕⿸广雋、大屋也。

【廦】 9508 ㈠ヘキ ヒャク 〔集韻〕必歷切 錫 ㈡ヘキ ヒャク 〔集韻〕匹辟切 陌



小篆

㈠㈡❶**かき。**〔說文〕廦、牆也、从レ广辟聲。❷**へや。**旁室。〔廣韻〕廦、室屋。〔說文通訓定聲〕廦、愚按、當レ訓ニ旁室一也、幽隱之處。

【廧】 9509 シヤウ ザウ 〔廣韻〕在良切 陽 ㄑㄧㄤˊ ch'iang^2

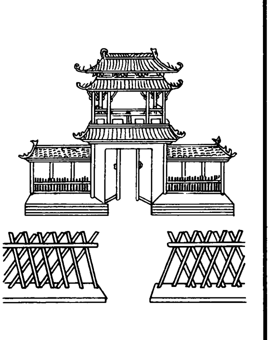
❶**赤狄の別種。**〔字彙〕廧、赤狄之別種也。〔左氏、成、三〕晉郤克・衞孫良夫、伐ニ廧咎如一、討ニ赤狄之餘一焉。❷**かき。**牆(**7**−**19806**)に通ず。〔廣韻〕牆、垣牆、廧、上同。〔漢書、鄒陽傳〕牽ニ帷廧之制一。❸**小臣。**嗇(**2**−**4053**)に通ず。〔字彙補〕廧、與レ嗇同。〔戰國、周策〕廧夫空。〔注〕廧、小臣也、空、其名。

【廧陰】1（シヤウイン） かきのかげ。〔大戴禮、曾子制言上〕鄙夫鄙婦、相ニ會於廧陰一、可レ謂レ密矣、明日、則或揚ニ其言一矣。

【廧咎如】2（シヤウコウジヨ） 春秋時代の赤狄の一種。〔左氏、僖、二十三〕狄人伐ニ廧咎如一。〔注〕廧咎如、赤狄別種也、隗姓。〔左氏、成、三〕晉郤克・衞孫良夫、伐ニ廧咎如一、討ニ赤狄之餘一焉。

【廨】 9510 カイ ケ 〔集韻〕居隘切 卦 ㄒㄧㄝˋ hsieh^4 ㄐㄧㄝˋ chieh^4 慣ゲ

やくしよ。役所。官衙。〔玉篇〕廨、公廨也。〔集韻〕廨、公舍。



廨 （三才圖會）

【廨宇】1（カイウ） やくしよ。官衙。〔宋書、張茂度傳〕郡經ニ賊寇一、廨宇焚燒、民物凋散、百不レ存レ一。〔孟浩然、永嘉上浦館逢ニ張八子容一詩〕廨宇鄰ニ蛟室一、人烟接ニ島夷一。〔皮日休、初夏卽事寄ニ魯望一詩〕廨宇有ニ幽處一、私游無ニ定程一。

【廨舍】2（カイシヤ） 役所の建物。〔宋書、沈慶之傳〕軍未レ至レ郡、已被レ破、焚ニ燒城內倉儲及廨舍一。〔南齊書、州郡志上〕官長無ニ廨舍一、寄ニ止民村一、及ニ州治立一、見ニ省民戶帖屬一。

【廨署】3（カイシヨ） やくしよ。官廳。〔班固、吳都賦〕營屯櫛比、廨署棊布。〔注〕劉曰、廨、猶レ署也。〔晉書、徐寧傳〕上レ岸見ニ一室宇有レ似ニ廨署一、訪レ之。〔杜甫、橋陵詩〕主人念ニ老馬一、廨署容ニ秋螢一。

【廨中】4（カイチユウ） 役所の中。〔唐書、柳玭傳〕出爲ニ嶺南節度副使一、廨中橘熟、旣食乃納ニ直於官一。

【⿸广歈】 9511 ㈠ユ 〔集韻〕羊朱切 虞 ㈡イウ ユ 〔集韻〕夷周切 尤

㈠㈡❶**からかふ。**手でいたづらする。邪⿸广歈。歋⿸广歈。〔廣韻〕⿸广歈、邪⿸广歈、擧レ手相弄、或作ニ歋⿸广歈一。〔廣韻〕⿸广歈、歋⿸广歈、以レ手相弄。❷歈(**6**−**16143**)の俗字。〔正字通〕⿸广歈、俗歈字。

【⿸广僉】 9512 ㈠ゲン ゴン 〔玉篇〕魚欠切 釅 ㈡カン コン 〔類篇〕丘凡切 咸

㊀小さいさま。〔玉篇〕㢛、小皃。㊁ひつ。〔類篇〕㢛、櫃也。

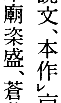
【廞】9513 キン コン 〔集韻〕火禁切 沁

はやる。心が或るものに向ひはやる。〔集韻〕廞、猛意、謂㆓物新美者、意嚮㆒㆑之。

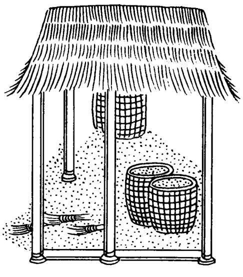
【𢋂】9514 エウ 〔廣韻〕餘昭切 蕭

ゐどころ。座席。〔廣韻〕𢋂、座也。

【廩】9515 ㊀リン 〔集韻〕力錦切 寑 ㄌㄧㄣˇ lin³ ㊁ラン



㊀❶米ぐら。本、㐭(1－300)に作る。〔康熙字典〕廩、說文、本作㆑㐭。〔說文〕㐭、穀所㆓振入㆒也、宗廟粢盛、蒼黃㐭而取㆑之、故謂㆓之㐭㆒、从㆑入从㆑回、象㆓屋形㆒、中有㆓戶牖㆒、廩、㐭或从㆓广稟㆒。〔廣韻〕廩、倉有㆑屋曰㆑廩。〔詩、周頌、豐年〕亦有㆓高廩㆒。〔傳〕廩、所㆔以藏㆓齍盛之穗㆒也。〔周禮、地官、序官〕廩人。〔注〕盛㆑米曰㆑廩。〔禮、月令〕命㆓有司㆒發㆓倉廩㆒。〔疏〕蔡氏云、穀藏曰㆑倉、米藏曰㆑廩。〔荀子、富國〕垣窌倉廩。〔注〕米藏曰㆑廩。〔漢書、昭帝紀〕朕虛㆓倉廩㆒。〔注〕師古曰、廩、穀所㆓振入㆒也。〔漢書、五行志上〕御廩、夫人八妾所㆓舂米、藏以奉㆓宗廟㆒者也。❷くら。〔廣雅、釋室〕廩、倉也。〔釋名、釋宮室〕廩、矜也、寶物可㆓矜惜㆒者、投㆓之於其中㆒也。〔荀子、榮辱〕餘刀布有㆓囷廩㆒。〔注〕圓曰㆑囷、方曰㆑廩。❸しまふ。藏する。〔管子、山國軌〕君已廩㆑之也。〔注〕廩、藏也。❹つむ。あつまる。〔素問、皮部論〕廩㆓於腸胃㆒。〔注〕廩、積也、聚也。❺扶持米。❻を見よ。〔管子、問〕死㆑事之寡、其餼廩何如。〔注〕餼廩、米粟之屬。❻あたへる。官から扶持米、又は食糧を與へる。又、其のもの。稟(8－25127)に通ず。〔說文通訓定聲〕廩、叚借爲㆑稟。〔漢書、貢禹傳〕廩㆓食太官㆒。〔注〕師古曰、謂㆔太官給㆓其食㆒。〔後漢書、章帝紀〕人稍受㆑廩、往來煩劇。〔注〕廩、給也。❼治める。臨(9－30087)・理(7－21014)に通ず。〔說文通訓定聲〕廩、叚借爲㆑臨、或爲㆑理、廩・理亦雙聲。〔廣雅、釋言〕廩、治也。〔公羊、桓、十四〕御廩者何。〔注〕廩者、釋㆓治穀㆒名。❽すくない。兼(2－1483)・歉(6－16159)に通ず。〔說文通訓定聲〕廩、叚借爲㆑兼、或爲㆑歉、兼・廩一聲之轉。〔爾雅、釋言〕廩、廯也。〔疏〕舍人云、廩、少鮮也。〔公羊、文、十三〕羣公廩。〔疏〕廩者、希少之名。❾おそれる。癝(7－22565)・懍(4－11335)に通ず。〔說文通訓定聲〕廩、叚借爲㆑癝。〔字彙〕廩、與㆑懍同、危懼也。〔左氏、哀、十五〕廩然隕㆓大夫之尸㆒。〔注〕廩然、傾動貌。❿凜(2－1717)に通ず。〔漢書、循吏傳序〕此廩廩庶㆓幾德讓君子之遺風㆒矣。〔注〕師古曰、廩廩、言㆑有㆓風采㆒也。⓫或は𢊁(4－9363)・𥢓(8－25185)・稟(8－25127)に作る。〔集韻〕㐭、古作㆓𢊁・𥢓㆒、或作㆓廩・稟㆒。㊁懍(4－11335)に同じ。〔集韻〕懍、或作㆑廩。


❶ 廩（三才圖會）

解字 會意形聲。もと㐭に作る。入と回との合字。本義は米ぐら。段注によれば、外の口はくらの外形、中の小さな口は米の蒸熱しないやうに設けた牖、入は穀物を收め入れる意といふ。故に穀物を收容するくらの意。但し、一說に、回の上部の亠は屋根、又は舍倉の省畫に從ふ。今、更に广を加へ、稟に從ふ。禾は穀物の意、广は家の意、稟はまた音符。〔說文、廩、段注〕穀所㆑入、故从㆑入、回之訓、轉也、而此从㆑回之意、則如㆓下所㆑云、象㆓屋形㆒、謂㆓外口㆒、舍下云、口、象㆑築、此云㆑象㆑屋者、屋在㆑上者也、㐭之戶牖多在㆑屋、中有㆓戶牖㆒、謂㆓內口㆒、小徐曰、戶牖以防㆓蒸熱㆒也。

【廩院】1 リンヰン 王朝時代、諸國の租米・庸米を收納した處。民部省に屬す。〔令義解、官衙令〕御垣周廻及大藏民部廩院等、令㆓衞士守㆒。

【廩延】2 リンエン 地名。春秋、鄭の邑。河南省延津縣の北。〔左氏、隱、元〕太叔又收㆑貳以爲㆓己邑㆒、至㆓于廩延㆒。〔會箋〕廩延、在㆓今河南衞輝府延津縣北十五里㆒。

【廩鎧】3 リンガイ 穀物と武器。〔唐書、吐蕃傳下〕牛羊廩鎧甚衆、獻㆓之朝㆒。

【廩江】4 リンカウ 川の名。禹貢の九江の一。〔書、禹貢、九江孔殷、疏〕九江、潯陽地記云、一曰烏白江、二曰蚌江、三曰烏江、四曰嘉靡江、五曰畎江、六曰源江、七曰廩江、八曰提江、九曰箘江。

【廩餼】5 リンキ ❶扶持。手當。餼廩。〔南史、梁宗室上、蕭正德傳〕今當㆘有㆑汝以㆑遠、無㆑令㆓房累自隨㆒、敕㆓所在㆒給㆗汝廩餼㆖。❷清代、府州縣學の學生、卽ち廩膳生・增廣生・附生等に支給する學資料。〔清會典事例、禮、學校〕二十年覆准、嗣後選拔生、於㆓會考出榜後㆒、開㆓除廩餼㆒、其取㆓准優生㆒、亦照㆓選拔之例㆒、一律辦理。

【廩犧】6 リンギ 官名。漢、置く。內史の屬。秩、六百石。穀を藏し牲を養つて、祭祀に供することを掌る。〔漢書、百官公卿表上〕內史、周官、秦因㆑之、云云、左內史更名㆓左馮翊㆒、屬官有㆓廩犧令丞尉㆒。〔注〕師古曰、廩主㆑藏㆑穀、犧主㆑養㆑牲、皆所㆔以供㆓祭祀㆒也。〔漢書、韓延壽傳〕望之在㆓馮翊㆒時、廩犧官錢放散百餘萬、廩犧吏掠治。〔晉書、溫嶠傳〕古者、親耕㆓藉田㆒、以供㆓粢盛㆒、舊制㆓藉田・廩犧之官㆒、今臨㆑時市求、既上黷㆓至敬㆒、下費㆓生靈㆒、非㆘所㆔以虔奉㆓宗廟蒸嘗㆒之旨㆖、宜㆘如㆓舊制㆒、立㆗此二官㆖。

【廩丘】7 リンキウ ❶地名。㋑春秋、齊の邑。山東省范縣の東南。〔左氏、定、八〕公侵㆑齊、攻㆓廩丘之郛㆒。〔左氏、襄、二十六〕齊烏餘以㆓廩丘㆒奔㆑晉。㋺戰國、周の邑。韓が嘗て東周に寇して其の地を取る。今の河南省の境。❷縣名。㋑漢、置く。故城は山東省范縣の東南、義東保。〔漢書、地理志上〕東郡、縣二十二、廩丘。㋺南朝宋、置く。今、缺く。江蘇省の境。❸複姓。〔萬姓統譜〕廩丘、齊大夫廩丘子之後。

【廩廏】8 リンキウ 米ぐらとうまや。〔唐書、張茂昭傳〕治㆓廩廏㆒、列㆓亭候㆒、平㆓易道路㆒、以待㆓西平軍㆒。

【廩麴】9 リンキク 米ぐらの中にあるかうぢ。〔唐書、劉昌傳〕今廩麴尙多、若屑以食、可㆑支㆓二十日㆒。

【廩給】10 リンキフ 官吏の俸給。〔柳宗元、賀㆘平㆓淄青㆒後肆赦㆖狀〕憐㆓刃傷之肌㆒、存㆓其廩給㆒。〔六部成語、兵部、廩給、注解〕官員月給曰㆓廩給㆒。〔福惠全書、蒞任部、詳文贅說〕驛使廩給與㆓馬夫口糧㆒、必有㆑不㆑給。

【廩虛】11 リンキヨ こめぐらがからであること。〔宋書、王弘傳〕頃年以來、斯務弛廢、田蕪廩虛、實亦由㆑此。

【廩囷】12 リンキン 米倉。四角に作つたのを廩といひ、圓く作つたのを囷といふ。〔荀子、榮辱、餘刀布有㆓囷窌㆒、注〕囷、廩也、圓曰㆑囷、方曰㆑廩。〔論衡、藝增〕廩囷不㆑空、口腹不㆑飢。

【廩銀】13 リンギン 教育奬勵のために學生に支給する廩米を銀に換算して支給する銀。〔六部成語、戶部、廩銀、注解〕諸生應㆑領廩米、折㆑銀給發。

【廩空】14 リンクウ こめぐらがからである。〔皮日休、貧居秋日詩〕門小愧㆓車馬㆒、廩空慙㆓雀鼠㆒。

【廩君】15 リンクン 南蠻の君長の名。〔後漢書、南蠻傳〕巴郡・南郡蠻、本有㆓五姓㆒、巴氏・樊氏・瞫氏・相氏・鄭氏、皆出㆓於武落鍾離山㆒、未㆑有㆓君長㆒、倶事㆓鬼神㆒、乃共擲㆓劍於石穴㆒、約㆓能中者、奉以爲㆑君、巴氏子務相、乃獨中㆑之、衆皆歎、又令㆔各乘㆓土船㆒、

約三能浮者、當二以爲レ君、餘姓悉沈、唯務相獨浮、因共立レ之、是爲二廩君一。〔後蜀李特錄〕李特、字元休、巴西宕渠人、其先廩君之苗裔、秦併二天下一、以爲二黔中郡簿一。

【廩繈】16 リンケン 米粟と布帛。〔後漢書、杜茂傳〕坐下斷二兵馬廩繈一、使中軍吏殺上レ人、免レ官削二戶邑一。

【廩庫】17 リンコ こめぐら。又、くら。〔吳志、陸凱傳〕當下務息レ役養レ士、實二其廩庫一、以待中天時上。

【廩倉】18 リンサウ こめぐら。又、くら。〔東方朔、答二客難一〕身處二尊位一、珍寶充レ內、外有二廩倉一。

【廩賜】19 リンシ 扶持米。廩食。〔後漢書、董卓傳〕牢直不レ畢、廩賜斷絕。

【廩秋】20 リンシウ ぞつと寒さを感ずる秋。凜秋。涼秋。〔楚辭、宋玉、九辯〕皇天平二分四時一兮、竊獨悲二此廩秋一。〔洪興祖補注〕廩與レ凜同、寒也。〔馮子振、十八公賦〕未二廩秋一而絮繒、聊卒レ歲而毾㲪。

【廩食】21 リンショク 官から賜はる扶持米。給料。又、扶持米を與へる。扶持米を與へられる。稟食。〔韓非子、內儲說〕廩レ食以二數百人一。〔翼毳〕廩食、命二廩人一給レ食也。〔管子、國蓄〕一人廩レ食、十人得レ餘。〔漢書、貢禹傳〕廩二食太官一。〔注〕師古曰、謂三太官給二其食一。〔漢書、蘇武傳〕武既至二海上一、廩食不レ至。

【廩辛】22 リンシン 殷の第二十三代の王。祖甲の子。祖甲崩じて廩辛立つ。漢書古今人表及び帝王世紀は皆、馮辛に作る。卜辭には未だ見えない。在位六年。〔史記、三〕。

【廩振】23 リンシン 米倉を開いて貧民を救助する。官から施米する。振は賑。〔魏志、劉馥傳〕鰥寡孤獨、蒙二廩振之實一。

【廩人】24 リンジン 周官の名。地官の屬。米穀の出納を掌る。〔周禮、地官、廩人〕掌三出二納米穀一。〔孟子、萬章下〕廩人繼レ粟、庖人繼レ肉。

【廩生】25 リンセイ 廩膳生(30)の略。科擧の時、府縣學の生員で食料を給せられる者。官費生。〔清會典事例、禮、學校〕十年議准、四等廩生、仍依レ限送レ考、不レ許レ作レ缺。〔清國行政法汎論、文官仕途種類、科目〕生員又有二附生・廩生・貢生之別一、俗閒總稱曰二秀才一。

【廩稍】26 リンセウ 官から給與する食料。稍は、少しづつ給すること。廩稍之供。〔儀禮、聘禮〕惟稍受レ之。〔注〕稍、廩食也。〔疏〕以二其稍稍給一レ之、故謂二米廩一爲レ稍。〔宋濂、送二東陽馬生一序〕今諸生學二於太學一、縣官日有二廩稍之供一。

【廩籍】27 リンセキ 米倉にそなへつけた帳面。〔張華、大司農箴〕家有二廬井一、王有二廩籍一、阜茂豐レ物、和鈞關レ石。

【廩然】28 リンゼン 心がかたむき動くさま。おそれおののくさま。〔左氏、哀、十五〕無下乃廩然隕二大夫之尸一、以重中寡君之憂上。〔注〕廩然、傾動貌。

【廩膳】29 リンゼン ❶毎日の食事。〔宋史、錢若水傳〕廩膳不レ充、則官爲二支給一。❷官から支給する膳食。〔元史、選擧志、學校〕成宗大德十年春二月、增二生員廩膳一、通二前三十員一爲二六十員一。〔清會典事例、禮、學校〕又題准、廩膳緣レ事三月以上不レ給。

【廩膳生】30 リンゼンセイ 明の太祖の洪武二年、府州縣の學を設け學生を生員といひ、廩膳生・增廣生・附生の三種に分ち、廩膳生には每月廩米六斗を給し、其の後、添設增附して、專ら廩生と稱するやうになつた。〔明會典、禮〕二年、令下順天府學、每年起二送二名一充上貢、應天府同、又府准、貴州宣撫司儒學生員一年一貢、又增二順天廩膳生員二十名一。〔六部成語、禮部、廩膳生、注解〕秀才之優者、月給二廩米一、曰二廩膳生一。

【廩增】31 リンゾウ 廩膳生と增廣生。〔清會典事例、禮、學校〕順治九年題准、幇二補廩增一、新舊相閒、以二考案一爲レ新。

【廩粟】32 リンゾク くらにある米。官の米倉の米。又、官から給する米。〔韓非子、外儲說右上〕於レ是反レ國、發二廩粟一以賦二衆貧一、散二府餘財一以賜二孤寡一。〔韓愈、進學解〕月費二俸錢一、歲靡二廩粟一。〔皮日休、苦雨雜言寄二魯望一詩〕府金廩粟虛請來、憶著先生便如レ媿。〔宋史、眞宗紀三〕詔、蘇・湖・秀州民飢、貸以二廩粟一。

【廩臺】33 リンダイ 臺の名。鹿臺ともいふ。紂が此處で自殺した。〔列女傳、孽嬖、殷紂妲己傳〕武王遂受レ命、興レ師伐レ紂、戰二于牧野一、紂師倒レ戈、紂乃登二廩臺一、衣二寶玉衣一而自殺。

【廩蓄】35 リンチク 米倉のたくはへ。〔唐書、劉蕡傳〕省二不急之費一、以贍二黎元一、則廩蓄不レ乏矣。

【廩帑】36 リンド 米倉とかねぐら。〔唐書、韋嗣立傳〕今廩帑耗竭、無二一歲之儲一。

【廩入】37 リンニフ 官から支給される米粟の收入。俸給。〔唐書、劉晏傳〕晏厚以二廩入一奉レ之。〔黃庭堅、和二王世弼一詩〕學宮尸二廩入一、奉養闕二豐腆一。

【廩俸】38 リンポウ 扶持米。俸給。廩奉。〔梁書、嚴植之傳〕疾後便不レ受二廩俸一、妻子困乏。〔福惠全書、郵政部、總理〕宜下推レ心置レ腹、而厚二其廩俸一、俾上無二內顧一。

【廩米】39 リンマイ くらの中の米。〔韓愈、處州孔子廟碑〕置二本錢廩米一、令レ可二繼處以守一。

【廩庾】40 リンユ くら。米倉。邑にあるを廩、野に在るを庾といふ。〔史記、平準書〕都鄙廩庾皆滿、而府庫餘二貨財一。

【廩予】41 リンヨ 米粟を與へる。〔太平御覽、器物、斗〕史記曰、田乞仕二齊景公一爲二大夫一、其收二賦稅于民一以二小斗一受レ之、其廩二予民一以二大斗一、行二陰德于民一、而景公弗レ禁、由レ此田氏得二衆心一。

【廩吏】42 リンリ 米倉を司る役人。〔韓非子、內儲說下〕其說在二楚兵至而陳需相、黎種貴而廩吏覆一。

【廩糧】43 リンリヤウ 扶持米。〔後漢書、劉平傳〕出二所レ在布粟一、給二其廩糧一。〔晉書、庾龢傳〕廩糧有二鈔截之患一、遠略乏二率然之勢一。

【廩廩】44 リンリン ❶威儀の正しいさま。風采あるさま。一說に、進み近づく・こひねがふ意。〔駢雅、釋訓下〕廩廩・躪躪、持整也。〔漢書、循吏傳序〕此廩廩庶二幾德讓君子之遺風一矣。〔注〕師古曰、廩廩、言レ有二風采一也。〔王先謙補注〕廩廩者、漸近之意、卽所謂庶幾也。❷危いさま。〔漢書、食貨志上〕可三以爲二富安天下一、而直爲二此廩廩一也。〔注〕李奇曰、廩廩、危也。

【廩料】45 リンレウ 扶持米。俸米。〔唐書、楊收傳〕不三敢當二兩使廩料一。〔唐書、柳璟傳〕戶部供二筆札廩料一。

【廩祿】46 リンロク 扶持米。俸給。〔白居易、初除二戶曹一喜而言レ志詩〕廩祿二百石、歲可レ盈二倉囷一。〔蘇軾、上二神宗皇帝一書〕減二刻兵吏廩祿一。

【廩出貢】47 リンシユツコウ 府州縣學の學生中、廩膳生の最優等者を國子監に進貢すること。〔清會典事例、國子監〕四十一年奏准、廩生出貢、各該學政給二予貢單一、其赴レ監肄レ業者、仍取二地方官文結一、並親齎二貢單一投驗。

【倒レ廩傾レ囷】48 リンヲタフシキンヲカタムク ある限りの蓄積をなげ出すこと。廩・囷はともに倉で、四角のものを廩といひ、圓いのを囷といふ。〔韓愈、答二竇秀才一書〕倒レ廩傾レ囷、羅列而進也。

【⿸广惪】9516 カウ 〔餘文〕音慷

大きい。〔餘文〕⿸广惪、大也。

【⿸广夋】9517 キ 〔篇海〕許規切 支

すがた。〔海篇〕⿸广夋、姿⿸广夋也。

十四畫

【⿸广舞】9518 ブ 廡(4－9491)・⿸广橆(4－9558)の籀文。〔說文〕⿸广橆、⿸广舞、籀文从レ舞。〔集韻〕廡、籀从レ舞。

【⿸广蒦】9519 クワク ワク 〔集韻〕黃郭切 藥

空しく遠いさま。廓⿸广蒦。〔集韻〕⿸广蒦、廓⿸广蒦、空遠皃。

【⿸广⿱𦰩土】9520 キン 廑(4－9456)の本字。〔正字通〕⿸广⿱𦰩土、廑本字。

【⿸广⿱虍皿】9521 〔一〕ケン 〔集韻〕丘廉切 鹽 〔二〕カン コン 〔集韻〕丘凡切 咸

〔一〕〔二〕❶**ひつ。衣を納めるひつ。**〔集韻〕⿸广⿱虍皿、吳人謂二盛レ衣櫝一曰レ⿸广⿱虍皿。❷或は⿸广欠(4－9243)に作る。〔集韻〕⿸广⿱虍皿、或从レ欠。

【𢋡】9522 バ 〔川篇〕音麻

ほね。〔川篇〕𢋡、骨也。

【𢋠】9523 カイ 〔搜眞玉鏡〕苦海切 賄

かくれる。〔搜眞玉鏡〕𢋠、隱也。

十五畫

【𢋯】9524 ロ 𢋔(4-9506)に同じ。〔集韻〕𢋔、或作㆑𢋯。

【廖】9525 🈩 レウ 〔集韻〕憐蕭切 蕭 🈔 ラウ レウ 〔集韻〕力交切 肴

小篆

🈩❶むなしい。うつろ。〔說文〕廖、虛空也、从㆑广膠聲。❷或は寥(3-7292)・廫に作る。〔集韻〕廖、或作㆓寥・廫㆒。🈔室の中の空虛なさま。〔集韻〕廖、室中虛皃。

【廧】9526 シヤウ 廧(4-9509)の本字。〔正字通〕廧、廧本字。

【𢋕】9527 シヨク 嗇(2-4053)に同じ。〔餘文〕𢋕、與㆑嗇同。

【𢋧】9528 イウ ウ 〔集韻〕於求切 尤

地名。〔玉篇〕𢋧、地名。

【𢌄】9529 レイ 厲(2-3041)に同じ。〔字彙補〕𢌄、與㆑厲同。

【𢋅】9530 ライ 癩(7-22605)の譌字。〔康熙字典〕𢋅、按、卽癩字之譌。

【𢋈】9531 コ 虎(9-32675)の古字。〔說文〕虎、𢋈、古文虎。

十六畫

【𢋩】9533 セン 〔集韻〕先見切 霰

❶いへ。〔玉篇〕𢋩、舍也。❷或は廠(4-9482)に作る。〔集韻〕𢋩、或从㆑散。

【𢋿】9534 ソ 〔集韻〕孫租切 虞

❶廜𢋿は、いほり。〔廣雅、釋宮〕廜𢋿、庵也。❷廜𢋿は、酒の名。〔廣韻〕廜、又廜𢋿、酒、元日飲㆑之、可㆑除㆓瘟氣㆒。

【廬】9535 🈩 リヨ 〔集韻〕淩如切 魚 ㄌㄨˊ lu² 🈔 ロ 〔集韻〕龍都切 虞

小篆

🈩❶**かりや。いほり**。㋑古、官から支給された田に耕作の便のため設けた假の屋舍。〔說文〕廬、寄也、秋冬去、春夏居、从㆑广盧聲。〔說文通訓定聲〕按、去・居皆與㆑盧疊韻。〔詩、小雅、信南山〕中田有㆑廬。〔漢書、食貨志上〕餘㆓二十晦㆒、以爲㆓廬舍㆒。〔注〕師古曰、廬、田中屋也。㋺喪中に墓側に作つて住む假小屋。假小屋。倚廬。〔周禮、天官、宮正〕大喪則授㆓廬舍㆒、辨㆓其親疏貴賤之居㆒。〔注〕廬、倚廬也、舍、堊室也、親者・貴者居㆓倚廬㆒、疏者・賤者居㆓堊室㆒。㋩くさや。粗末な屋舍。〔集韻〕廬、一曰、粗屋揔名。〔荀子、正名〕屋室廬庾。〔注〕廬、草屋也。❷**かりずまひ。かりずまひする**。〔釋名、釋宮室〕寄止曰㆑廬、廬、慮也、取㆓自覆慮㆒也。〔國語、齊語〕衞人出廬㆓於曹㆒。〔注〕廬、寄也。❸**はたご**。やどや。〔周禮、秋官、序官、野廬氏、注〕廬、賓客行道所㆑舍。〔周禮、地官、遺人〕十里有㆑廬、廬有㆓飲食㆒。〔注〕廬、若㆓今野候㆒、徒有㆑庌也。〔疏〕漢時候㆓迎賓客㆒之處、皆有㆓庌舍㆒、與㆑廬相似。❹**やどる**。〔左氏、閔、二〕立㆓戴公㆒以廬㆓於曹㆒。〔注〕廬、舍也。❺**居る**。〔張衡、西京賦〕恨㆓阿房之不㆒㆑可㆑廬。〔注〕綜曰、廬、居也。❻**いへ**。〔廣雅、釋室〕廬、舍也。〔後漢書、儒林傳論〕精廬暫建。〔注〕精廬、講讀之舍。❼**とのゐの間**。詰所。〔漢書、嚴助傳〕君厭㆓承明之廬㆒。〔注〕張晏曰、直宿所㆑止曰㆑廬。〔漢書、金日磾傳〕日磾小疾臥㆑廬。〔注〕師古曰、殿中所㆑止曰㆑廬。〔漢書、王莽傳下〕數俱至㆓國師殿中廬㆒。〔注〕師古曰、廬者、宿止之處。❽**とま**。おほひ。〔釋名、釋船〕其上屋曰㆑廬、象㆓廬舍㆒也。❾**國名**。〔國語、周語中〕廬由荊嬀。〔注〕廬、嬀姓之國。❿**邑名**。〔國語、楚語上〕以㆑王如㆑廬。〔注〕廬、楚邑。⓫**山名**。廬山。〔唐書、地理志〕江南道、蓋古揚州之地、其名山、衡・廬・茅・蔣。⓬**姓**。〔通志、氏族略、以㆑國爲㆑氏〕廬氏、亦作㆑盧、音通、盧子戢黎之後、此南蠻也、今襄州有㆓中廬㆒、卽其地。🈔❶**ほこの柄**。籚(8-26736)に同じ。〔集韻〕籚、或作㆑廬。〔周禮、考工記、總目〕秦無㆑廬。〔注〕廬、讀爲㆑纑、謂㆓矛戟柄、竹欑柲㆒。〔周禮、考工記、總目〕攻㆑木之工、輪・輿・弓・廬・匠・車・梓。〔注〕廬、矛戟矜柲也。❷**やすり**。鑢(11-41021)に通ず。〔說文通訓定聲〕廬、借爲㆑鑢。〔周禮、考工記、總目〕秦無㆑廬。〔注〕或曰、廬、摩鑢之器。❸蘆(9-32425)に通ず。〔周禮、考工記、總目、秦無㆑廬、釋文〕廬、本或作㆑蘆。

【廬堊】1 ロアク 墓の側に建てて喪に服する屋舍。倚廬と堊舍。廬舍(35)の❷を見よ。〔南齊書、禮志下〕廬堊相閒、元素雜糅。

【廬庵】2 ロアン いほり。庵舍。〔韻府引、趙孟頫、詩〕相期結㆓廬庵㆒。

【廬宇】3 ロウ いほり。家屋。すまゐ。〔宋書、文帝紀〕頃年、岳牧遷㆓回軍民㆒、徙㆓散廛里㆒、廬宇不㆑逮㆓往日㆒。

【廬塋】4 ロエイ 死者に仕へるために墓の側に構へたいほり。墓上の草庵。墓もりの小屋。〔方干、哭㆓胡珪㆒詩〕才高登㆓上第㆒、孝極歿㆓廬塋㆒。

【廬園】5 ロヱン いほり。小屋。〔謝靈運、初去㆑郡詩〕廬園當㆓棲巖㆒、卑位代㆓躬耕㆒。〔注〕向曰、廬、小屋也。

【廬屋】6 ロヲク いほり。又、家屋。〔荀子、富國〕若㆓廬屋妾㆒。〔廼賢、居庸關詩〕環㆑邨列㆓墟市㆒、鑿㆑翠構㆓廬屋㆒。

【廬下】7 ロカ いほりの下。いほりの中。いほり。〔後漢書、承宮傳〕鄉里徐子盛者、以㆓春秋經㆒授㆓諸生數百人㆒、宮過息㆓廬下㆒、樂㆓其業㆒、因就聽㆑經、遂請留㆓門下㆒爲㆓諸生㆒。〔黃庭外景經〕坐㆓於廬下㆒見㆓小童㆒、內息㆑思存㆓神明光㆒。〔韓愈、集賢院校理石君墓誌銘〕君從㆓事河陽節度㆒、烏大夫重胤、閒以㆑幣先走㆓廬下㆒。

【廬江】8 ロカウ ❶川の名。安徽省婺源縣の西北。一名、廬源水。〔山海經、海內東經〕廬江、出㆓三天子都㆒入㆑江。〔楚辭、宋玉、招魂〕路貫㆓廬江㆒兮左㆓長薄㆒。〔補注〕前漢地理志、廬江、出㆓陵陽東南㆒、北入㆑江。❷郡名。㋑漢、置く。故治は安徽省廬江縣の西。〔讀史方輿紀要、江南、廬州府〕舒城縣、云

云、漢置二舒縣一、爲二盧江郡一。㋺後漢末、置く。故治は安徽省潛山縣。㋩三國魏、置く。安徽省六安縣の北。㋥晉、置く。故治は安徽省霍丘縣の西。㋭南朝宋、置く。故治は安徽省霍山縣の東北。〔讀史方輿紀要、江南、盧州府、六安州、霍山縣〕灊城、云云、劉宋爲二盧江郡一。㋬隋、置く。安徽省合肥縣の治。〔讀史方輿紀要、江南〕盧州府、云云、大業初、曰二盧江郡一。㋣南齊、置く。安徽省盧江縣の治。❸縣名。隋、置く。安徽省合肥縣の南。〔讀史方輿紀要、江南、盧州府〕盧江縣、云云、隋仍曰二盧江縣一、屬二盧州一。〔清史稿、地理志〕安徽、盧州府、縣四、盧江。

【盧岳】9（ロガク） ❶盧山(21)に同じ。〔張喬、城東寓居寄二知己一詩〕病來久絶洞庭信、年長卻思盧岳耕。〔李山甫、賦二得寒月一寄二齊己一詩〕已知盧岳塵埃絶、更憶寒山雪月深。❷明、勞堪(2－2410‥19)の號。

【盧壑】10（ロガク） 盧山のたに。〔岑參、劉相公中書江山畫障詩〕瀟湘在二簾間一、盧壑橫二座中一。

【盧器】11（ロキ） 戈・戟・殳・矛の柄をいふ。字義の㈡の❶を見よ。〔周禮、考工記、盧人〕爲二盧器一。

【盧九】12（ロキウ） 盧江・九江の二郡。〔宋書、律曆志上〕朝爲二零桂之士一、夕爲二盧九之民一。〔陸倕、石闕銘〕折簡而禽二盧九一。〔注〕銑曰、盧江・九江、二郡名。

【盧居】13（ロキヨ） ❶假住居に居る。〔漢書、王尊傳〕祀二水神河伯一、云云、因止宿盧二居堤上一。❷墓側のいほりに居る。又、そのこと。字解の❶の㋺を見よ。〔風俗通、正失〕盧居枕レ塊如レ禮。

【盧朐】14（ロク） 匈奴の地名。一説に、山名。〔史記、匈奴傳〕築二城郭列亭一、至二盧朐一。〔注〕正義曰、括地志云、五原郡相陽縣北、出二石門鄣一、得二光祿城一、又西北得二支就縣一、又西北得二頭曼城一、又西北得二牢城河一、又西北得二宿虜城一、按、卽築二城郭列亭一、至二盧朐一、服虔云、盧、匈奴地名也、張晏云、山名也。

【盧霍】15（ロクワク） 盧山と霍山。〔謝靈運、初發二石首城一詩〕游當二羅浮行一、息必盧霍期。〔注〕濟曰、羅浮・盧・霍、皆山名。〔江淹、雜體、謝臨川遊レ山詩〕平明登二雲峰一、杳與二盧霍一絶。〔注〕翰曰、盧・霍、二山名。〔杜甫、昔游詩〕杖レ藜望二清秋一、有レ興入二盧霍一。

【盧觀】16（ロクワン） いほりと樓觀。〔後漢書、楊震傳〕各起二家・舍・園・池・盧・觀一、役費無レ數。

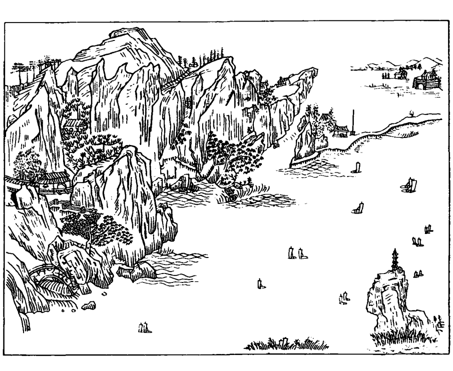
【盧君】17（ロクン） 周の匡俗をいふ。盧山(21)の❶を見よ。〔盧山記〕周威王時、有二匡俗盧君一。〔地理通釋〕盧山、本名二彰山一、有三匡俗盧二於此山一、俗號二盧君一、故名、按、盧山又名二匡盧一、卽指レ是。

【盧徼】18（ロケウ） いほりと木柵。徼は、木柵、又、とりで。〔唐書、河間王孝恭傳〕欲下以二威重一夸中遠俗上、乃築二第石頭城一、陳二盧徼一自衞。

【盧原】19（イホハラ） 姓氏。〔新撰姓氏錄考證、五〕。

【盧戶】20（ロコ） 墓側のいほりの戶。〔南史、夏侯詳傳〕年十六、遭二父艱一居レ喪、哀毀三年、盧二于墓側一、嘗有二三足雀一、來集二其盧戶一、衆咸異レ焉。

【盧山】21（ロザン） ❶山名。江西省星子縣の西北、九江縣の南。古、南障山といふ。周の時、匡俗が此の山に隱れ、定王の徵辟に應じないので、使者をやつて之を訪ふたところ、既に登仙して空盧があつた、依つて盧山と名づけたといふ。又、匡山ともいひ、匡盧ともいふ。朱子は禹貢の敷淺原は此の地であるといふ。海拔二千五百呎。風景は極めて清く、氣候は溫和で、避暑地となる。山中には滴水巖・佛手巖・天池・捨身崖・白鹿昇仙臺・文殊臺・神龍宮・金竹坪・青玉峽・黃龍潭・黃龍寺・大目山・五老峯・白石寺・木瓜洞・恩德嶺・玉川門・三疊泉・東方寺・海會寺・白鹿洞・萬杉寺・香爐峯・雙劍峯・小天地・秀峯寺・仙人洞・黃巖寺・歸宗寺・右軍墨池・三峽澗・玉淵・棲賢寺・東林寺・西林寺の諸名勝がある。〔史記、河渠書贊〕余南登二盧山一、觀三禹疏二九江一。〔潯陽記〕匡俗、周武王時人、屢逃二徵聘一、結二盧此山一、後登仙、空盧尙在、弟子稱爲二盧山一、又名二匡山一、蓋稱二其姓一也。〔讀史方輿紀要、江西、名山〕盧山、在二南康府西北二十里、九江府南二十里一、高二千三百六十丈、周二百五十里、疊嶂九層、川流九派、禹貢、過二九江一至二敷淺原一、說者謂、盧山高而其中原田連亙、卽敷淺原矣、史記、太史公南登二盧山一、觀二禹所レ疏九江一、名山記、山南濱二宮亭湖一、北對二小江山一、去二小江一三十餘里、其大嶺凡七重、圓基周迴垂二三五百里一、豫章古今志、山本名二南嶂一、殷周時、有二匡俗兄弟七人一、結二盧於此一、故曰二盧山一、漢盧江郡之名本レ此、又漢祀典、以二盧山一貳二於灊嶽一、蓋南方巨鎭也、梁天監初、江州刺史陳伯之、起二兵尋陽一、其長史程元沖失レ職家居、因聚レ衆襲二攻伯之一不レ勝、逃入二盧山一、唐六典、盧、江南道名山之一也、今峯巖洞壑在二南康界一者、不レ可二悉數一、而最著者曰二五老峯・石鏡峯・紫霄峯・凌霄峯・鐵船峯・漢陽峯一、漢陽峯者、在二盧山絶頂一、望二數百里一、極二目江漢一、故名也、漢陽峯之水、西流爲二康王谷之谷簾泉一、東流爲二開先寺之雙瀑一、李白云、掛流三百丈、噴壑數十里、是也、盧山之南、瀑布以レ十數、而開先之雙瀑爲二最勝一、五老峯下爲二棲賢谷一、其西爲二三峽澗一、澗受二大小支流九十九派一、水行二石間一、聲如二雷霆一、擬二於三峽之險一、相近曰二白鹿洞一、南唐昇元中、建二學館於其下一、宋時爲二白鹿書院一、又有二白雲洞一、南唐主李璟、嘗遊二此原一、曰二栗里原一、爲二晉陶潛隱居處一、此南康之勝也、其在二九江界一者、曰二雙劍峯・蓮華峯・香鑪峯・石耳峯・大林峯・上霄峯一、上霄源亦在二盧山一、絶頂有二石室一、又有二石梁瀑布一、秦始皇嘗登二其上一、謂、與二霄漢一相接也、又石門在二盧山西南一、雙闕壁立千仞、瀑布出二其中一、山疏云、石門者、山之天池・鐵船二峯、對峙如レ門也、慧遠詩序略云、石門、一名障山、雙闕對峙、其前重巖映帶、其後七嶺之美、蘊二奇於此一、周景式云、石門澗水、出二康王谷一、源深遠爲二衆泉之宗一、每二夏霖秋潦一、轉レ石發レ樹、動數十里、此九江之盛也、廣記云、盧山、三面阻レ水、西臨二大陸一、爲三羣山所二犇輳一、山無二主峯一、蜿蜒蟬連、指列調數、各自爲レ勝、濱湖距レ江、回環垂二五百里一、亦嘗爲二盜賊藪一、正德中、盧山左湖湓塘賊作レ亂、指揮周憲討二平之一、山藪藏慝由來舊矣。❷明、胡直(9－29400‥263)の號。



盧山（古今圖書集成）

【盧山高】22（ロザンカウ） 詩篇の名。宋、歐陽脩作。此の詩は盧山をうたつて劉煥に贈つたもので、其の明妃曲と共に傑作とされ、自在に險韻を用ひ、長短錯落怪異離奇の趣を盡してゐる。〔歐陽脩、盧山高云云詩〕盧山高哉幾千仞兮、根盤幾百里、巀然屹二立乎長江一、長江西來走二其下一、是爲二揚瀾左里一兮、洪濤巨浪日夕相舂撞、雲消風止水鏡淨、泊レ舟登レ岸而遠望兮、上摩二青蒼一以晻靄、下厭二后土之鴻厖一、試往造二乎其間一兮、攀二緣石磴一窮二空谾一、千巖萬壑響二松檜一、懸崖巨石飛流淙、水聲聒聒亂二人耳一、六月飛雪灑二石矼一、仙釋翁子亦往往而逢兮、吾嘗恐二其學幻而言哤一、但見丹霞翠壁遠近映二樓閣一、晨鐘暮鼓杳靄羅二幡幢一、幽花野艸不レ知二其名一兮、風吹露濕香二澗谷一、時有二白鶴飛來雙一、幽尋遠去不レ可レ極、便欲三絶レ世遺二紛厖一、羨君買レ田築レ室老二其下一、插レ秧盈レ疇兮釀レ酒盈レ缸、欲レ令三浮嵐暖翠千萬狀、坐臥常對二乎軒窓一、君懷磊砢有二至寶一、世俗不レ辨珉與レ玒、策レ名爲レ吏二十載、青衫白首困二一邦一、寵榮聲利不レ可二以苟屈一兮、自レ非三青雲白石有二深趣一、其氣兀硉何由降、丈夫壯節似レ君少、嗟我欲レ說安得三巨筆如二長杠一。

【盧山記】23（ロザンキ） 書名。三卷。附、盧山紀略一卷。宋、陳聖兪撰。原本は五卷であつたが、今は前三卷を存するのみ。明初に佚したものであらう。〔四庫提要、史、地理類〕。

【盧山公】24（ロザンコウ） 驢馬の異名。〔袁淑、盧山公九錫文〕若乃三軍陸邁、糧運艱難、謀臣停レ算、武夫吟歎、爾乃長鳴、上黨慷慨、應官崎嶇、千里荷レ囊致レ餐、用捷二大勳一、歷世不レ刊、斯實爾之功也、音

隨レ時興、晨夜不レ默、仰契二元象一、俯協二漏刻一、應レ更長鳴、分毫不レ忒、雖二挈壺著稱一、未レ足レ比レ德、斯又爾之智也、若乃六合昏晦、三晨幽冥、猶憶二天時一、用不レ廢レ聲、斯又爾之明也、青脊絳身、長頬廣額、修尾後垂、巨耳雙磔、斯又爾之相也、嘉麥既熟、實須二精麫一、負磨廻衡、迅若二轉電一、惠二我衆庶一、神祇獲レ薦、斯又爾之能也、爾有下濟二師旅一之勳上、而加レ之以二衆能一、是用遣二中大夫閭丘驟一、加二爾使銜勒大鳴鴻臚班腳大將軍宮亭侯一、以二揚州之廬江、江州之廬陵、吳國之桐廬、合浦之珠廬一、封レ爾爲二廬山公一。

〖廬山精〗25 ロザンセイ　駱駝の異名。廬山の精の意。〔事物異名錄、獸畜、駝〕三水小牘、劉秉仁爲二江州刺史一、自レ京將二駱駝一至レ郡、放二之山下一、野人見而大驚、共射レ之、乃以レ狀白レ州曰、獲二廬山精於某處一、劉命致レ之、乃所レ放駝耳。

〖廬山三害〗27 ロザンサンガイ　廬山の三人の惡者。廬山に居て患害をなした南唐の盧絳・諸葛濤・蒯鼇の三人をいふ。〔陸游南唐書、盧絳傳〕絳入二廬山白鹿洞書院一、猶亡賴以二屠販一爲レ事、多脅二取同舍生金一、又持二權貨一、誣二山中浮屠一、以邀二賄謝一、人皆患二苦之一、與二諸葛濤・蒯鼇一、號二廬山三害一。

〖廬山瀑布〗28 ロザンノバクフ　廬山に在るたき。〔李白、望二廬山瀑布水一詩〕日照二香鑪一生二紫煙一、遙看瀑布掛二長川一、飛流直下三千尺、疑是銀河落二九天一。

【廬寺】30 ロジ　廬舍と寺院。廬舍は墓側で喪に服する者のいほり。〔宋史、葉清臣傳〕震至二五日一不レ止、壞二廬寺一、殺二人畜一、凡十之六。

【廬事】31 ロジ　廬器の堅否。廬器の堅牢度。廬器(1)を見よ。〔周禮、考工記、廬人〕凡試二廬事一、置而搖レ之、以眡二其蜎一也、灸二諸牆一、以眡二其橈之均一也、橫而搖レ之、以眡二其勁一也。〔孫詒讓正義〕凡試二廬事一者、記下廬人爲二廬器一成後、試中其利用與上レ不。

【廬兒】32 ロジ　官府の賤役に從事するもの。めしつかひ。〔漢書、鮑宣傳〕蒼頭・廬兒、皆用致レ富。〔注〕孟康曰、漢名レ奴爲二蒼頭一、諸給二殿中一者、所レ居爲レ廬、蒼頭・侍從、因呼爲二廬兒一。〔韋應物、長安道詩〕既請二列侯一封二部曲一、還將二金印一授二廬兒一。〔宋史、食貨志上二〕蒼頭・廬兒、漿酒・藿肉。

【廬州】33 ロシウ　㊀府名。明、置く。清、安徽省に屬し、無爲州及び合肥・舒城・廬江・巢の四縣を領す。故治は合肥縣。〔清史稿、地理志〕安徽、廬州府、領二州一縣四一、合肥・舒城・廬江・巢・無爲州。㊁州名。唐、置く。明、府に改む。故治は安徽省合肥縣。〔唐書、地理志五〕廬州廬江郡。

【廬室】34 ロシツ　いほり。草庵。又、家屋。又、家室。〔漢書、蓋寬饒傳〕躬案二行士卒廬室一。〔新序、雜事〕試二之堂廡之下、廬室之閒一。

【廬舍】35 ロシヤ　㊀田野の閒に建て、飲食を給し、休息に資する屋舍。田舍。〔急就篇〕室宅・廬舍・樓・殿堂。〔注〕廬、別室也、一曰、田野之室也、舍、謂下人於二其中一舍息上也。〔漢書、食貨志上〕井方一里、是爲二九夫一、八家共レ之、各受二私田百畮・公田十畮一、是爲二八百八十畮一、餘二十畮一、以爲二廬舍一。㊁墓の側に建てて喪に服する屋舍。倚廬と堊室。倚廬は親貴の居。堊室は疏賤の居。〔周禮、天官、宮正〕大喪則授二廬舍一、辨二其親疏貴賤之居一。〔注〕廬、倚廬也、舍、堊室也、親者・貴者居二倚廬一、疏者・賤者居二堊室一。㊂古、途上適當な距離を距てて設置し、旅人に便した建物。〔周禮、地官、遺人〕凡國野之道十里有レ廬、廬有二飲食一。〔疏〕公劉詩云、於レ時廬レ旅、鄭云、廬舍、安レ民館舍。㊃假に作つたいほり。軍隊が一時滯留するために建てた假屋などをいふ。〔史記、項羽紀〕皆沈レ船、破二釜甑一、燒二廬舍一、持二三日糧一、以示二士卒必死一。

〖廬舍那佛〗36 ルシヤナブツ　佛毗廬遮那佛の略。其の德が照らさない所のない佛。毗廬遮那(6−16752‥40)を見よ。〔翻譯名義集、一、通別三身〕賢首、梵網疏云、梵本、廬舍那、此云二光明遍照一。

【廬上】37 ロジヤウ　墓の側に建てた廬舍のほとり。〔柳宗元、壽州安豐縣孝門銘〕廬上產二紫芝白芝二本一、各長一寸、廬中醴泉湧出、奇形異狀、應レ驗二圖記一。

【廬寢】38 ロシン　墓側の廬舍。〔後漢書、韋彪傳〕彪孝行純至、父母卒哀毀、三年不レ出二廬寢一、服竟羸瘠、骨立異形、醫療數年乃起。

【廬人】39 ロジン　周官の名。考工記の屬。戈・戟などの柄を造ることを掌る。〔周禮、考工記、廬人〕廬人爲二廬器一。

【廬井】40 ロセイ　古、井田の制で方一里を九夫とし、八家共に耕し、各私田百畝を受け、公田百畝の中の二十畝を八家の廬舍とし、之を廬井といふ。廬舍(35)の㊀を見よ。〔左氏、襄、三十〕田有二封洫一、廬井有レ伍。〔注〕廬、舍也、九夫爲レ井、使二五家相保一。〔會箋〕廬、中田之廬也、云二廬井有一レ伍、則井田之伍也、若是邑中之伍、不レ當レ言レ井、五井相保、周禮無二此法一、春秋之時、風俗漸漓、子產刱意制レ之、以防二民僞一耳。〔漢書、王莽傳中〕滅二廬井一而置二阡陌一。

【廬前】41 ロゼン　墓の側に建てた廬舍の前。〔後漢書、徐穉傳〕林宗有二母憂一、穉往弔レ之、置二生芻一束于廬前一而去。〔魏書、崔鴻傳〕三年、鴻以二父憂一解レ任、甘露降二其廬前樹一。〔唐書、崔沔傳〕爲二太子左庶子一、母亡、受二弔廬前一。

【廬側】42 ロソク　墓の側に建てた廬舍の側。〔南史、庾子輿傳〕有二雙鳩一、巢二舟中一、及レ至又栖二廬側一、每レ聞二哭泣之聲一、必飛二翔簷宇一、悲鳴激切。

【廬宅】43 ロタク　家宅。いほり。廬舍。廬庵。〔後漢書、光武紀下〕廬宅尤破壞者、勿二收責一。〔魏志、文帝紀〕建安四年六月、太白晝見、是月、大雨、伊・洛溢、殺二人民一、壞二廬宅一。

【廬帳】44 ロチヤウ　蠻夷の住居。塞外の蠻夷の住居はとばりなどを以て作つた粗末なものであるからいふ。〔後漢書、西域、蒲類傳〕廬帳而居。〔宋書、鮮卑吐谷渾傳〕逐二廬帳一居、以二肉駱一爲レ糧。〔宋史、王韶傳〕焚二其廬帳一而還。

【廬中】45 ロチユウ　墓の側の廬舍の中。〔柳宗元、壽州安豐縣孝門銘〕廬上產二紫芝白芝二本一、各長一寸、廬中醴泉湧出、奇形異狀、應レ驗二圖記一。

【廬冢】46 ロチヨウ　廬と塚。いほりとはか。〔王安石、遊二褒禪山一記〕褒禪山、亦謂二之華山一、唐浮圖慧褒、始舍二於其址一、而卒葬レ之、云云、今所謂慧空禪院者、褒之廬冢也。

【廬第】47 ロテイ　邸宅。〔後漢書、王符傳〕今京師貴戚、衣服・飲食・車輿・廬第、奢過二王制一、固亦甚矣。

【廬阜】48 ロフ　廬山をいふ。〔高僧傳〕慧遠、居二廬阜一三十餘年、化普二道俗一。〔孟浩然、夜泊二廬江一、聞三故人在二東林寺一以レ詩寄レ之詩〕江路經二廬阜一、松門入二虎溪一。

〖廬阜逸史〗49 ロフイツシ　清、王大經(7−20823‥1873)の號。

【廬廡】50 ロブ　いへ。屋宇。〔史記、蘇秦傳〕田舍廬「廡之數、曾無レ所二芻牧一。

【廬墓】51 ロボ　㊀墓に廬す。父母又は長者の死後、其の墓の旁に廬を結んで住むこと。〔史記、孔子世家〕孔子葬二魯城北泗上一、弟子皆服三年、三年心喪畢、相訣而去、云云、唯子貢廬二于冢上一、凡六年、然後去。〔水經、泗水注〕子貢廬レ墓處也。㊁廬舍と墳墓。〔後漢書、申屠蟠傳〕同郡緱氏女玉、爲レ父報レ讐、殺二夫氏之黨一、吏執レ玉以告二外黃令梁配一、欲二論殺一レ玉、蟠時年十五、爲二諸生一、進諫曰、玉之節義、足下以感二無恥之孫一、激中忍辱之子上、不レ遭二明時一、尙當三表二旆廬墓一、況在二清聽一而不レ加二哀矜一、配善二其言一、乃爲讞得二減レ死論一。

【廬峰】52 ロホウ　廬山のみね。〔崔護、山雞舞石鏡詩〕廬峰開二石鏡一、人說舞二山雞一。

【廬門】53 ロモン　㊀春秋、宋の東城の南門。〔左氏、昭、二十一〕華氏居二廬門一、以二南里一叛。〔注〕廬門、宋東城南門也。㊁岡崎信好の號。岡崎廬門(4−7962‥44)を見よ。

【廬庾】54 ロユ　粗末な住居。くさのいほり。一說に、蘆の簾。〔荀子、正名〕屋室廬庾、葭稾蓐、尙二机筵一、而可二以養一レ形。〔注〕廬、草屋也、庾、屋如レ廩、庾者、葭蘆也、以レ廬爲二屋室一、葭稾爲二席蓐一者、貧賤人之居也。〔集解〕王念孫曰、以二廬庾一爲二屋室一、而云二屋室廬庾一、則文義不レ明、且與二葭稾蓐一文非二一律一、初學記器物部引、作二局室蘆簾稾蓐一、於レ義爲レ長、說文、局、促也、局室、謂二促狹之室一、蘆簾・稾蓐、謂下以レ蘆爲レ簾、以レ稾爲上レ蓐也、屋室、蓋局室之誤、廬庾、蓋蘆簾之誤。

【廬落】55 ロラク　住居。落は居、又、垣。〔後漢書、應劭傳〕無二君長之帥、廬落之居一、而天性貪暴、不レ拘二信義一。〔後漢書、仇覽傳〕吾近日過レ舍、廬落整頓、耕耘以レ時。〔注〕廣雅曰、落、居也、案、今人謂レ院爲レ落也。

【廬柳】56 ロリウ　地名。山西省猗氏縣の西北。〔左氏、僖、二十四〕二月甲午、晉師軍二于廬柳一。〔會箋〕今猗氏縣西北有二廬柳城一。

【廬旅】57 ロリヨ　旅人を廬せしむ。賓旅を館舍に安息させる。〔詩、大雅、公劉〕于レ時處レ處、于レ時廬レ

旅。〔箋〕於㆑是處㆓其所㆑當㆑處者㆒、廬㆓舍其賓旅㆒。

【廬陵】58（ロリョウ）❶道名。民國、置く。江西省治の西南部、吉安・宜春・泰和・吉水・永豐・安福・遂川・萬安・永新・寧岡・蓮花・淸江・新淦・新喩・峽江・分宜・萍鄕・萬載・高安・上岡・宜豐の二十一縣を管轄す。❷郡名。三國の時、孫策置く。治は高昌。今の江西省吉安縣西高昌故城。〔讀史方輿紀要、江西〕吉安府、云云、建安四年、孫策始分㆓豫章㆒立㆓廬陵郡㆒。❸縣名。漢、置く。故城は江西省吉安縣の南。隋、復置き、後皆之に因る。境内に山水の佳景が多く、宋の歐陽脩及び文天祥が此處に生長す。〔漢書、地理志上〕豫章郡、縣十八、廬陵。〔歐陽脩、醉翁亭記〕太守謂㆑誰、廬陵歐陽脩也。〔讀史方輿紀要、江西、吉安府〕廬陵縣、附郭、漢縣、屬㆓豫章郡㆒、後漢末、孫策於㆑縣置㆓廬陵郡㆒、晉移㆓郡治石陽縣㆒屬焉、宋以後因㆑之、隋改置㆓吉州㆒、還㆓治廬陵㆒、自㆑是州郡皆治㆑此、今編戶六百有三里。〔淸史稿、地理志〕江西、吉安府、縣九、廬陵。❹宋、歐陽脩(6-16185‥69)の號。〔宋元學案、廬陵學案〕歐陽脩、字永叔、吉州廬陵人、四歲而孤、母鄭守㆑節、親誨㆓之學㆒。

【廬陵孝獻王】60（ロリョウノカウケンワウ）南朝宋、劉義眞(2-2224‥795)の封謚號。

【剝㆑廬】61（ロヲハグ）家の屋根まで盡く剝ぎ落す。困窮の極點に達して、一身を容れる地のないことをいふ。〔易、剝〕上九、碩果不㆑食、君子得㆑輿、小人剝㆑廬。

【廬源水】62（ロゲンスイ）川の名。安徽省婺源縣の西北。源は廬嶺山。下流は樂安江となる。山海經に廬江水に作る。

【廬草拙】63（ロサウセツ）長崎の人。字は元敏。號は淸素・葆眞・草拙。通稱は元右衞門。享保十四年五月十日歿す、年五十九。官は長崎鎭臺の掌書監・淸館譯士。又、辟に應じて屢〻關東に來る。華音を善くす。著に喩蠻錄・天地一指歸・長崎先民傳(男驥編)がある。〔先哲叢談、後、三〕。

【⿸广⿻秝⺕】9536 レン

廉(4-9436)の古字。〔集韻〕廉、古作㆑⿸广⿻秝⺕。

【⿸广⿱無林】9537 ブ

廡(4-9491)の本字。〔正字通〕⿸广⿱無林、廡本字。

【⿸广⿱隹鳥】9538 サク ザク 〔玉篇〕仕促切 覺

すみやか。〔玉篇〕⿸广⿱隹鳥、速也。

参考 字形、集韻は鷹に作る。

【⿸广臭】9539 フ 〔海篇〕音父

❶**くさい。**〔海篇〕⿸广臭、臭也。❷**くさる。**〔海篇〕⿸广臭、敗爛朽也。

【⿸广⿰林林】9540 ブ

義未詳。〔龍龕手鑑〕⿸广⿰林林、音無。

十七畫

【廞】9541 ギン ゴン 〔玉篇〕魚錦切 寢

大きいいへ。〔玉篇〕廞、大屋。

参考 集韻には廞に作り、字彙には廞、俗作㆑廞とある。

【廙】9542 エキ ヤク 〔篇韻〕夷益切 陌

いへがひろい。〔篇韻〕廙、屋通也。

【廮】9543 エイ ヤウ 〔集韻〕於郢切 梗

小篆

おちつく。〔說文〕廮、安止也、从㆑广嬰聲、鉅鹿有㆓廮陶縣㆒。

【廮遙】1（エイエウ）縣名。後魏、置く。故治は河北省寧晉縣治。〔魏書、地形志上〕鉅鹿郡廮遙、永安二年、分㆓廮陶㆒置、治㆓楊城㆒。〔淸一統志〕楊氏故城、今寧晉縣治、後燕錄、慕容寶永康元年、趙王麟攻㆓楊城㆒。

【廮陶】2（エイタウ）縣名。漢、置く。故治は河北省寧晉縣の西南。〔漢書、地理志上〕鉅鹿郡、縣二十、廮陶。〔淸一統志〕廮陶故城、在㆓直隸寧晉縣西南㆒、後魏爲㆓鉅鹿郡治㆒。

【廯】9544 ㈠セン 〔集韻〕息淺切 ㄒㄧㄢˇ hsien³ 銑 ㈡セン 〔集韻〕相然切 先

㈠㈡**こめぐら。**一說に、あざやか、又、すくない。〔爾雅、釋言〕廩、廯也。〔注〕或說云、卽倉廩、所㆑未㆑詳。〔疏〕廣雅云、廯、倉也、則廩・廯皆囷倉之別名、孫炎曰、廯、藏穀鮮潔也、舍人云、廩、少鮮也。〔集韻〕廯、博雅、囷倉也。

【⿸广⿰虚戈】9545 キ 〔集韻〕虛宜切 支

❶**山が險しい。**嶔⿸广⿰虚戈。〔集韻〕⿸广⿰虚戈、嶔⿸广⿰虚戈、山險。❷或は巇(4-8608)・嶬(4-8510)に作る。〔集韻〕⿸广⿰虚戈、或作㆓巇・嶬㆒。

【⿸广⿰亭阝】9546 クヮク

廓(4-9461)に同じ。〔字彙〕⿸广⿰亭阝、卽廓字。

【廧】9547 シヤウ ザウ 〔集韻〕慈良切 陽

❶廧咎如は、赤狄の別種。或は廧(4-9439)に作る。〔集韻〕廧、廧咎如、赤狄別種、或省。❷廧(4-9509)の古字。〔韻會〕廧、集韻、古作㆑廧。

【⿸广齊】9548 サイ 〔篇海〕莊皆切 佳

かやぶきの小屋。〔海篇〕⿸广齊、小茅舍也。

【⿸广⿱覀夂】9549 カ

廈(4-9435)に同じ。〔搜眞玉鏡〕⿸广⿱覀夂、同㆑廈。

【⿸广褻】9550 セツ

褻(10-34536)に同じ。〔龍龕手鑑〕⿸广褻、同㆑褻。

【⿰言麻】9551 テン

義未詳。〔字彙補〕⿰言麻、音展。

【廰】9552 チヤウ

廳(4-9562)の略字。

十八畫

【⿸广瞿】9553 ク グ 〔集韻〕權俱切 虞

くら。倉。〔集韻〕⿸广瞿、倉也。

【廱】9554 ヨウ ユ 〔廣韻〕於容切 ㄩㄥ yung¹ 冬

小篆

❶**天子の學舍。**辟廱。辟廱(10-38642‥112)を見よ。〔說文〕廱、天子饗㆓飮辟廱㆒、从㆑广雝聲。❷**やはらぐ。**雝(11-42123)に通ず。〔說文通訓定聲〕廱、叚借爲㆑雝。〔禮、王制〕天子曰㆓辟廱㆒、〔注〕廱、和也。❸**ふさがる。**壅(3-5524)に通ず。〔字彙〕廱、與㆑壅通用。〔漢書、五行志下之上〕成公五年夏、梁山崩、穀梁傳曰、廱㆑河三日不㆑流。〔注〕師古曰、廱、讀曰㆑壅。❹**むね。**擁(5-12781)に通ず。〔說文通訓定聲〕廱、叚借爲㆑擁、莊子徐无鬼、雞廱也、按、卽芡、其包似㆓雞胸㆒。❺**官名。**饔(12-4416)に通ず。〔說文通訓定聲〕廱、叚借爲㆑

饔。〔漢書、百官公卿表上〕有㆓廱太宰、云云㆒。〔注〕文穎曰、廱、主㆓熟食㆒官。❻雍(**11**－**42000**)に通ず。〔詩、大雅、文王有聲〕鎬京辟廱。〔鹽鐵論、繇役〕鎬京辟雍。

【廱偃】1 ヨウエン　やはらげしたがへる。〔後漢書、杜篤傳〕置㆓列汧隴㆒、廱㆓偃西戎㆒。

【廱河】2 ヨウカ　河流をふさぎとめる。〔漢書、五行志下之上〕穀梁傳曰、廱㆑河三日不㆑流。〔注〕師古曰、廱、讀曰㆑壅。

【廱廚】3 ヨウチユウ　官名。漢、置く。右扶風の屬。雍縣(故城は陝西省鳳翔縣の南)の五畤(**1**－**257**‥**463**)に奉仕して廚を司る。〔漢書、百官公卿表上〕主爵中尉、秦官、掌㆓列侯㆒、云云、武帝太初元年、更名㆓右扶風㆒、云云、又有㆓都水・鐵官・廱廄・廚四長丞㆒、皆屬焉。〔注〕如淳曰、五畤在㆑廱、故有㆑廚。

【廱蔽】4 ヨウヘイ　ふさがりおほふ。〔楚辭、宋玉、九辯〕卒廱㆓蔽此浮雲㆒兮、下暗漠而無㆑光。

【廱廱】5 ヨウヨウ　和ぎ樂しむさま。雍雍。〔爾雅、釋訓〕廱廱・優優、和也。〔郝懿行義疏〕廱者、說文以爲㆓辟廱字㆒、王制注云、辟、明、廱、和也、文選笙賦注引㆓爾雅㆒、作㆓雍雍和也㆒、四子講德論注、又作㆓邕邕和也㆒、釋詁云、噰噰、音聲和也。

【廱和】6 ヨウワ　やはらぎをさまる。〔後漢書、陳紀傳〕兄弟孝養、閨門廱和。

【廱太宰】7 ヨウタイサイ　官名。漢、置く。太常の屬。雍縣(故城は陝西省鳳翔縣の南)の五畤(**1**－**257**‥**463**)に奉仕して、熟食を司る官の長。〔漢書、百官公卿表上〕奉常、秦官、掌㆓宗廟禮儀㆒、有㆑丞、景帝中六年、更名㆓太常㆒、云云、有㆓廱太宰・太祝令丞㆒、五畤各一尉、又博士及諸陵縣皆屬焉。〔注〕文穎曰、廱、主㆓熟食㆒官、如淳曰、五畤在㆑廱、故特置㆓太宰以下諸官㆒、師古曰、如說是也、雍、右扶風之縣也、太宰卽是熟食之官、不㆑當㆔復置㆓饔人㆒也。

十九畫

【⿸广離】9555　リ　〔集韻〕鄰知切　支

大きいいへ。〔集韻〕⿸广離、廈也。

【⿸广⿱⿱百冖夊】9556　カ　廈(**4**－**9435**)の古字。〔字彙補〕⿸广⿱⿱百冖夊、廈字古文。

【廲】9557　㊀レイ ライ　〔集韻〕憐題切　齊　㊁リ　〔集韻〕鄰知切　支

㊀㊁廲廔は、きぬを張つたまど。〔集韻〕廲、廲廔、綺窗也。

【⿸广森】9558　ブ　廡(**4**－**9491**)の本字。〔正字通〕廡、篆作㆑⿸广森。

二十畫

【⿸广⿰兼兼】9559　ケン　〔海篇〕音謙

つつしむ。〔海篇〕⿸广⿰兼兼、謹也。

二十一畫

【⿸广⿱林黍】9560　ビ　糜(**8**－**27097**)に同じ。〔字彙補〕⿸广⿱林黍、同㆑糜。

【⿸广麗】9561　レイ　廲(**4**－**9557**)に同じ。〔篇海類編〕⿸广麗、同㆑廲。

二十二畫

【廳】9562　テイ チヤウ　〔集韻〕湯丁切　ㄊㄧㄥˉ　青　t'ing^1

❶**やくしよ。**官衙。聽(**9**－**29211**)に同じ。〔廣韻〕廳、廳屋。〔集韻〕廳、古者治官處、謂㆓之聽事㆒、後語、省直曰㆑聽、故加㆑广。〔增韻〕廳、聽㆑事、言㆓受㆑事察㆒㆑訟、於㆑是漢晉皆作㆑聽、六朝以來、乃始加㆑广。❷**いへ。**〔洛陽名園記〕涼榭錦廳。❸**客のためのくりや。**〔玉篇〕廳、客廚也。❹**清代、府の下にある行政區。**〔清會典、吏部〕廳・州・縣之缺、有㆑揀、有㆑題。〔清國行政法汎論、行政區劃及地方官廳府之下〕有㆓廳・州・縣㆒、廳之長官、曰㆓撫民同知通判・理民同知通判等㆒。❺**宮中。**庭(**4**－**9337**)に通ず。〔說文通訓定聲〕庭、宮中也、从㆑广廷聲、今俗謂㆓之廳㆒、字作㆑廳。❻現 ㋑へや。客室。㋺民國で各省に置いて地方政務を掌らせた役所。政務廳・財政廳の類。㋩裁判所。審判廳。邦 ❶**ちやう。**㋑檢非違使の役所。使廳。廳始(9)の❶を見よ。㋺院の廳。廳始(9)の❷を見よ。❷コバナハ 姓氏。

【廳員】1 チヤウヰン　役所の職員。〔清會典、都察院〕廳員分掌。

【廳宇】2 チヤウウ　役所のたてもの。〔魏書、李崇傳〕府寺初營、頗亦壯美、然一造至㆑今、更不㆓修繕㆒、廳宇凋朽、牆垣頹壞。

【廳屋】3 チヤウノヤ　❶神社で神官が神事を議し、又、事務を執る建物。〔壬生家文書、鳥〕文殿勘㆔賀茂別雷社司言上、今月二十八日午時、見㆓付當社廳屋板敷下犬死倒㆒事。❷檢非違使廳の建物。〔山槐記、治承三年正月三日〕渡㆓此亭㆒立㆓廳屋㆒。

【廳額】4 チヤウガク　やくしよの扁額。〔宋史、蘇易簡傳〕帝嘗以㆓輕綃飛白㆒、大書㆓玉堂之署四字㆒、令㆔易簡牓㆓于廳額㆒。

【廳官】5 チヤウクワン　院中の職で、主典代に次ぐ官。〔東鑑、六、文治二年七月八日〕院廳官定康。

【廳館】5′ チヤウクワン　官廳の建物。〔蜀檮杌、上〕十月下㆓僞詔㆒、改㆓堂宇廳館㆒爲㆓宮殿㆒。

【廳裁】6 チヤウサイ　廳の裁斷。

【廳司】7 t'ing^1 ssŭ^1　應接係。取次役。

【廳使】8 チヤウシ　檢非違使廳の別稱。

【廳始】9 チヤウハジメ　❶年の始め、又は檢非違使別當の新任の時、檢非違使廳で行ふ執務の開始の式。〔山槐記、治承三年正月三日〕今日有㆓廳始事㆒。❷院の廳で行ふ執務の開始の式。〔資朝卿記、文保二年三月十日〕新院今日廳始也、予奉㆓行之㆒。

【廳事】10 チヤウジ　❶官府の事を治める處。役所。官衙。〔後漢書、郭丹傳、注〕黃堂、太守之廳事。〔魏志、曹爽傳、注〕魏略曰、廳事前屠蘇壞、令㆓人更治㆒㆑之。〔吳志、諸葛恪傳〕出行之後、所㆑坐廳事、屋棟中折。〔晉書、韓友傳〕殷祐有㆑病、友筮㆑之曰、七月晦日、將㆑有㆔大鸛鳥在、集㆓廳事上㆒、宜㆓勤伺取㆒。〔唐書、選擧志下〕降㆓墨敕斜封㆒授㆑官、號㆓斜封官㆒、凡數千員、內外盈溢、無㆓廳事以居㆒。❷私宅の庭をいふ。〔魏書、夏侯夬傳〕夢見、征虜將軍房世寶、來至㆓其家㆒、直上㆓廳事㆒、與㆓其父㆒坐、屛㆑人密言。

【廳事之前僅容㆑旋㆑馬】11 チヤウジノマヘワヅカニウマヲメグラスベシ　玄關前のせまい喩。宋の李沆が宰相と爲り、第宅を作つた時の故事。〔宋史、李沆傳〕沆性直諒、內行修謹、言無㆓枝葉㆒、識㆓大體㆒、居㆑位愼密、不㆑求㆓聲譽㆒、動遵㆓條例㆒、云云、治㆓第封邱門內㆒、廳事前僅容㆑旋㆑馬、或言㆓其太隘㆒、沆笑曰、居第當㆑傳㆓子孫㆒、此爲㆓宰相廳事㆒誠隘、爲㆓太祝奉禮廳事㆒已寬矣。

【廳上】13 チヤウジヤウ　役所の中。又、役所。〔琵琶記、義倉賑濟〕強㆑如㆓廳上縣丞㆒。

【廳所】14 チヤウシヨ　役所。〔國史略、後冷泉天皇〕帝避㆓「之太政官廳所㆒。

【廳丞】15 チヤウジヨウ　官名。淸、置く。巡警總廳の長官。巡警(**4**－**8684**‥**28**)の❷を見よ。

【廳宣】16 チヤウセン　❶檢非違使別當から令達する公文。敕宣に准じて重んぜられる。別當宣。〔職原抄〕別當宣、則廳宣也、古來被㆑准㆓敕宣㆒、仍天下重㆑之、違㆓背廳宣㆒者、可㆑准㆓違敕㆒。❷院の廳から下す公文。〔官職難儀〕。❸國司から令達する公文。〔朝野羣載、二十二〕初任國司廳宣。〔東大寺文書〕可㆘且依㆓文書理㆒、且任㆓國司廳宣㆒、永爲㆗當寺領㆖。

【廳側】17 チヤウソク　役所のかたはら。〔山居新語〕張

司空齊賢、罷㆑相知㆓安陸㆒、賓客會㆑廚、吏密具㆓一金漆大桶㆒、廳側窺㆔公所㆓飲食㆒、以㆓其物㆒投㆓桶中㆒、至㆑暮漲㆓溢桶外㆒。

【廳尊】18 チャウソン うはやく。〔福惠全書、錢穀部、漕項、米色刁難〕近雖㆑有㆓監兌廳尊㆒、不㆑過㆓下㆑倉點卯樣米呈驗㆒。

【廳堂】19 チャウダウ 役所。政事堂。朝堂。又、おもて座敷。〔北史、楊逸傳〕兄弟、旦則聚㆓於廳堂㆒、終日相對、未㆓曾入㆑內、有㆓一美味㆒、不㆑集不㆑食、廳堂閒、往往幃幔隔㆑障、爲㆓寢息之所㆒、時就休偃、還共談笑。

【廳長】20 チャウチャウ ❶官廳の首長。❷もと臺灣總督府の地方官の一。廳を其の管轄區域とし、總督の指揮・監督を受け、法律命令を執行し、管內の行政事務を管理する奏任官。

【廳頭】21 チャウトウ チャウヅウ 近衞舍人を取締る役。〔台記、保延二年〕左近廳頭府生久季。

【廳內】22 t'ing^1 nei^4 客室內。

【廳房】23 t'ing^1 fang^2 客室。應接室。

【廳旁】24 チャウバウ 役所のかたはら。廳側。〔家世舊事〕族父文簡公、應㆑擧來㆓京師㆒、館㆓於廳旁㆒。

【廳票】25 t'ing^1 p'iao^4 各裁判所から出す、搜索・拘引・捕縛等の令狀。

【廳壁】26 チャウヘキ 役所のかべ。〔宋史、范旻傳〕割㆓己俸㆒市㆑藥以給㆓病者㆒、愈者千計、復以㆓方書㆒刻㆑石置㆓廳壁㆒、民感㆓化之㆒。

【廳務】27 チャウム ❶官廳の事務。❷檢非違使廳の事務。〔源平盛衰記、四十六〕廳務の時も樣樣の事。❸門跡家の役人。坊官。〔貞丈雜記〕。

【廳令】28 チャウレイ 廳で發する命令。卽ち廳長（道長官・警視總監等）の名で發する行政命令。

【廳例】29 チャウレイ 檢非違使廳の慣例。〔宇槐記抄、仁平二年五月十二日〕式其來雖㆑无㆑改㆑法、格旣尙、名曰㆓廳例㆒。

【廳簾】30 チャウレン 役所のすだれ。〔白居易、司馬廳獨宿詩〕府吏下㆓廳簾㆒、家僮開㆓被幞㆒。

二十三畫

二十四畫

【⿸广⿱亠邑】9563 クヮク 廓(**4－9461**)の古字。〔集韻〕廓、古作㆑⿸广⿱亠邑。

【⿸广靈】9564 レイ リヤウ 〔集韻〕郎丁切 靑

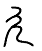
岩の穴。 或は⿰谷靈(**10－36244**)に作る。〔集韻〕⿸广靈、岩穴、或从㆑谷。

【⿸广䜌】9565 レン 〔類篇〕閭員切 先

よぢる。 すがりつく。〔類篇〕⿸广䜌、樊也。

廴　部

【廴】9566 🈩イン 〔集韻〕以忍切 ㄧㄣˇ yin^3 軫　🈔イン 〔集韻〕羊進切 震

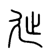

小篆

🈩❶**ながくあゆむ。**〔說文〕廴、長行也、从㆓彳引㆑之。〔段注〕引長㆑之也。❷引(**4－9699**)に通ず。〔玉篇〕廴、今作㆑引。🈔**のばす。** ひきのばす。〔集韻〕廴、延也。邦 **いんねう。** えんねう。漢字の部首の一つ。

解字 指事。彳の字を延長す。彳は少しく步むの意、その少しく步む文字を延長して長く步む意を示す。

三　畫

【㢟】9567 🈩テン 〔集韻〕抽延切 先　🈔テン 〔集韻〕丑展切 銑


小篆

🈩**しづかにあるくさま。**〔說文〕㢟、安步㢟㢟也、从㆓廴止㆒。〔段注〕引而復止、是安步也。🈔**しづかにあるくさま。** 🈩に同じ。或は邅に作る。〔集韻〕㢟、安步也、或作㆑邅。

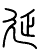
解字 會意。止と廴との合字。廴はひく、止はとどまる。引いて止まる、故に安步の意を示す。

參考 ⿺廴正(**4－9570**)・⿺辶正(**11－38796**)・延(**4－9569**)は別字。〔康熙字典、辨似、四字相似〕㢟、音川、安步。⿺廴正、音貞、行也。⿺辶正、同上。延、音沿、長也。

【廵】9568 ジュン 巡(**4－8684**)の譌字。〔字彙補〕廵、巡字之譌。

四　畫

【延】9569 🈩エン 〔集韻〕夷然切 ㄧㄢˊ yen^2 先　🈔エン 〔集韻〕以淺切 銑　🈪エン 〔集韻〕延面切 霰


小篆

🈩❶**ながくゆく。**〔說文〕延、長行也、从㆑㢟丿聲。❷**ひく。** ㋑ひきのばす。〔呂覽、順說〕莫㆑不㆓延㆑頸擧㆒㆑踵。〔注〕延㆑頸、引㆑領也。㋺みちびく。〔禮、曲禮上〕主人延㆑客祭。〔注〕延、道也。㋩すすめる。〔爾雅、釋詁〕延、進也。〔儀禮、特牲饋食禮〕祝延㆑尸。〔注〕延、進也、在㆑後詔侑曰㆑延。㋥ひきいれる。〔正韻〕延、納也。〔漢書、公孫弘傳〕開㆓東閤㆒以延㆓賢人㆒。❸**つらなる。つらねる。**〔爾雅、釋詁〕延、陳也。〔疏〕鋪陳也。〔左思、魏都賦〕延閣胤㆑宇以經營。〔注〕善曰、延、相連延也。❹**のびる。のばす。** ㋑つらなりのびる。〔集韻〕延、一曰、陳也。〔班固、西都賦〕歷㆓十二之延祚㆒。㋺ながびく。〔左氏、成、十三〕君亦悔㆓禍之延㆒。〔注〕延、長也。㋩はびこる。ひろがる。〔詩、周南、葛覃〕葛之覃兮。〔傳〕覃、延也。〔疏〕延蔓兮而移㆓於谷中㆒。〔揚雄、甘泉賦〕颺㆓翠氣之宛延㆒。〔注〕善曰、宛延、長曲貌。㋥ゆきわたる。〔書、呂刑〕延及㆓于平民㆒。㋭しく。しきほどこす。〔國語、晉語七〕使㆔張老延㆓君譽於四方㆒。〔注〕延、陳也。㋬およぶ。およぼす。〔集韻〕延、一曰、及也。〔書、大禹謨〕賞延㆓于世㆒。〔傳〕延、及也。〔戰國、齊策〕倍㆓楚之割㆒而延㆑齊。〔注〕延、猶㆑饒也、及也。❺**ながい。**〔爾雅、釋詁〕延、長也。〔方言、一〕延、長也。❻**たかい。**〔淮南子、本經訓〕延樓棧道。〔注〕延樓、高樓也。❼**とほい。**〔廣韻〕延、遠也。〔史記、蒙恬傳〕延袤萬餘里。❽**あまねし。**〔方言、十三〕延、徧也。❾**ちる。**〔小爾雅、廣言〕延、散也。❿**はかみち。** 延道(143)を見よ。〔爾雅、釋詁〕延、閒也。〔疏〕謂㆓閒隙㆒、今墓道也。〔左氏、隱、元〕隧而相見、注〕隧、若㆓今延道㆒。⓫**とる。** 稅。〔廣韻〕延、稅也。⓬**言ふ。**〔廣韻〕延、言也。⓭**州名。**〔廣韻〕延、亦州名。⓮**姓。**〔通志、氏族略〕延氏、見㆓姓苑㆒、又河南官氏志、可地延氏、改爲㆓延氏㆒。🈔**冕の上部のおほひ。** 或は綖(**8－27516**)に作る。〔集韻〕延、冕上覆、

或作㆑綖。〔禮、玉藻〕天子玉藻十有二旒、前後邃延。〔注〕延、冕上覆也。🈪❶およぶ。🈩の❸の㊇に同じ。〔集韻〕延、及也。❷相互に通じあふ。〔張衡、西京賦〕重閨幽闥、轉相踰延。〔注〕綜曰、宮中之門小者曰㆑闥、互相周通、延、言㆓互相周通㆒。

名乘 スケ。トホ。ナガ。ノブ。

參考 延(**4－9567**)・延(**4－9570**)・延(**11－38796**)は別字。〔康熙字典、辨似、四字相似〕延、音川、安步。延、音貞、行也。延、同上。延、音沿、長也。

【延挨】1（エンアイ） ひきのばす。延引。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕互作㆓延挨躱閃之計㆒。

【延渥】2（エンアク） 宋、宋偓(**3－7078**・・1)の本名。

【延安】3（エンアン） ❶府名。宋、置く。西魏の延州、隋の延安郡。元、延安路と改め、明初、舊に復す。舊治は陝西省膚施縣。清は膚施・安塞・甘泉・安定・保安・宜川・延川・延長・定邊・靖邊の十縣を管轄す。〔讀史方輿紀要、陝西〕延安府、禹貢雍州地、春秋時、白翟所㆑居、秦屬㆓上郡㆒、漢初屬㆓翟國㆒、尋屬㆓上郡㆒、後漢亦爲㆓上郡地㆒、晉爲㆓雍州塞外翟地㆒、魏延昌二年、置㆓東夏州㆒、西魏改爲㆓延州㆒、隋初因㆑之、大業初、改爲㆓延安郡㆒、唐復爲㆓延州㆒、天寶初、亦曰㆓延安郡㆒、乾元初、復爲㆓延州㆒、中和三年、置㆓保塞軍節度㆒、光化初、改曰㆓寧塞軍㆒、朱梁改爲㆓忠義軍㆒、後唐曰㆓彰武軍㆒、宋仍曰㆓延州㆒、元祐四年、升爲㆓延安府㆒、金因㆑之、元改㆓延安路㆒、明初復曰㆓延安府㆒、領㆓州三、縣十六㆒、今仍曰㆓延安府㆒。〔清史稿、地理志〕陝西、延安府、領㆓縣十㆒、膚施、安塞、甘泉、安定、保安、宜川、延川、延長、定邊、靖邊。❷縣名。㋑隋、置き、尋いで廢す。陝西省延長縣の南。㋺唐、隋の故治に置く。後、延長と改め、今の治に移す。㊇民國、膚施縣を改稱す。陝西省延長縣の西。❸北齊、孝昭帝、高演(**12－45313**・・53)の字。

【延醫】4 yen^2 i^1 醫者を呼ぶ。

【延維】5（エンヰ） 神人の名。人首蛇身。〔山海經、海內經〕有㆑神焉、人首蛇身、長如㆑轅、左右有㆑首、衣㆓紫衣㆒、冠㆓旃冠㆒、名曰㆓延維㆒、人主得而饗㆓食之㆒、伯㆓天下㆒。

【延祐】6（エンイウ） ❶元、仁宗、愛育黎拔力八達の年號。(1314－1320) ❷前趙、李景年(**6－14459**・・1089)の字。

〖延祐四明志〗7（エンイウシメイシ） 書名。十七卷。元、袁桷撰。十二門に分る。原本は二十卷。今、第九卷・第十卷・第十一卷を佚す。〔四庫提要、史、地理類〕。

【延引】8（エンイン） ❶ひきのばす。長びく。おくれる。遲延。〔資治通鑑、唐紀〕(懿宗、咸通元年)延㆓引歲月㆒、賊勢益張。❷ひきいれる。みちびきいれる。〔李白、答㆓高山人㆒兼呈㆓權顧二侯㆒詩〕延㆓引故鄉人㆒、風義未㆓淪替㆒。

【延飮】9（エンイン） 客を引きいれて酒もりをする。〔程史〕戎州有㆓蔡次律者㆒、家㆓於近郊㆒、山谷常遇㆑之、延以飮。

【延宇】10（エンウ） 長く出たのきば。〔柳宗元、桂州訾家洲亭記〕延宇垂阿、步簷更衣。

【延英】11（エンエイ） 唐・宋の宮殿の名。皇帝が上奏を受ける所。又、門の名。〔唐六典、尙書、工部〕宣政之左曰㆓東上閤㆒、右曰㆓西上閤㆒、次西曰㆓延英門㆒、其內之左曰㆓延英殿㆒。〔事物紀原、朝廷注措部、延英〕唐書、韓皐曰、延英之置、肅宗以㆓苗晉卿年老難㆒㆑步、故設㆑之耳、後代因以爲㆓故事㆒、宋朝會要曰、康定二年八月、宋庠奏、唐自㆓中葉㆒已還、雙日及非時、大臣奏㆑事、別開㆓延英㆒賜㆑對、今假日御㆓崇政延和㆒是也。

【延延】12（エンエン） ❶ながいさま。つらなりつづくさま。久しいさま。又、多いさま。〔廣雅、釋訓〕延延、長也。〔墨子、親士〕分議者延延。〔閒詁〕分議者皆延延以念長久。〔楚辭、王逸、九思、哀歲〕鱣鮎兮延延。〔後漢書、五行志一〕桓帝之末、京都童謠曰、白蓋小車何延延。〔注〕延延、衆貌也。〔陸雲、張二侯頌〕延延紫極、穎衍皇寧。❷（ノビノビ）次第に物事ののびること。

【延緣】13（エンエン） ぐづぐづして進まぬさま。長くとどまるさま。〔莊子、漁父〕乃刺㆑船而去、延㆓緣葦閒㆒。〔疏〕延緣止㆓蘆葦之閒㆒。

【延應】14（エンオウ） 第八十七代四條天皇の年號。(1239－1240)〔藤原經範勘文〕廊廟惟清、俊乂是延、擢㆓應嘉擧㆒。

【延音】15（エンオン） 一音が延びて二音となること。やがやうやうとなり、よそふがよそほふとなる類。延言ともいふ。約音(**8－27242**・・6)の對。

【延恩】16（エンオン） 恩澤を後世に及ぼす。〔清會典事例、宗人府、封爵〕凡親王以㆑次遞降者、至㆓鎭國公㆒而止、郡王以㆑次遞降者、至㆓輔國公㆒而止、其公爵、均著㆓世襲㆒罔㆑替、蓋襲㆑爵延㆑恩、若不㆔定以㆓等次㆒、則國家億萬年之久、王爵愈積愈多、又不㆑免㆓於冗濫㆒。

【延嘉】17（エンカ） 瑞草の名。王者に至德があると現はれるといふ。〔太平御覽、休徵部、延嘉〕孫氏瑞應圖曰、延嘉、王者有㆑德則見、孝經援神契曰、天子至德、屬㆓於四海㆒、則延嘉生。

【延乂】18（エンガイ） 五代周、趙延義(**10－37171**・・426)の一名。

【延捱】19（エンガイ） 延引する。期限をのばす。〔福惠全書、錢穀部、比較〕每有㆘臨㆑限延捱、希㆓圖避㆒㆑卯者㆖。

〖延捱科銀〗20 yen^2 ai^2 k‘ê^1 yin^2 延滯金。

〖延捱日息〗21 yen^2 ai^2 jih^4 hsi^2 延滯日步。

【延江】22（エンカウ） 川の名。今の四川省の黔江。〔水經、延江水〕延江水、至㆓巴郡涪陵縣㆒、注㆓更始水㆒。〔注〕更始水、卽延江枝分之始也、延江水、北入㆓涪陵水㆒。〔清一統志〕黔江卽延江水。

【延行】23（エンカウ） 長いみちのり。〔新書、解縣〕延行數千里、糧食餽饟、至難矣。

【延香】24（エンカウ） 清、徐元端(**4－10110**・・414)の字。

【延康】25（エンカウ） 年號。❶後漢の獻帝、劉協の時。(220) ❷隋末唐初、楚の林士宏の僭年號、太平の一稱。(616－622) ❸唐初、沈法興の僭年號。(619－620) ❹元初、林桂芳の僭年號。(1383)

【延客】26（エンカク） 客をみちびく。〔禮、曲禮上〕主人延㆑客祭。〔注〕延、道也。

【延閣】27（エンカク） ❶長くつづいてゐる高どの。〔左思、蜀都賦〕結㆓陽城之延閣㆒、飛㆓觀榭乎雲中㆒。〔注〕向曰、陽城、閣名、延、長也。〔左思、魏都賦〕延㆑閣胤㆑宇以經營。〔注〕善曰、延、相連延也。〔拾遺記、三、周靈王〕宗景公之世、有㆘善㆓星文㆒者㆖、處㆓於層樓延閣之上㆒、以望㆓氣象㆒。❷漢代の朝廷の書庫の名。轉じて、宮廷の書庫をいふ。〔晉書、摯虞束晳傳論〕或攝㆓官延閣㆒、裁㆓成言事之書㆒。〔梁簡文帝、上㆓昭明太子集別傳等㆒表〕謹撰㆓昭明太子別傳文集㆒、請備㆓之延閣㆒、藏㆓諸廣內㆒、永彰㆓茂實㆒、式表㆓洪徽㆒。〔唐六典〕漢書、府有㆓延閣㆒、內庫書也。

【延擱】28 yen^2 kê^1 延引。長引く。延引する。

【延瞰】29（エンカン） 遠くながめる。〔鮑照、行樂至㆓城東橋㆒詩〕嚴車臨㆓迥陌㆒、延瞰歷㆓城闉㆒。

【延企】30（エンキ） 首をのべ足を爪だてて遠く望む。延頸企踵(68)を見よ。〔後漢書、張奐傳〕屛營延企、側待歸㆑命。〔曹植、閑居賦〕登㆓高丘㆒以延企。

【延季】31（エンキ） 後魏、楊暐(**6－15112**・・8)の字。

【延起】32（エンキ） つらなりおこる。〔傳毅、舞賦〕朱火曄其延起兮。

【延基】33（エンキ） 唐、許叔牙(**10－35298**・・312)の字。

【延喜】34（エンキ） ❶喜びを延ばす。天が禹に賜つた玄圭に、延喜の玉と刻してあつたことから、轉じて、玉の名となる。〔初學記、九〕昭華・延喜。〔注〕尙書璇璣鈐曰、禹授㆓啓握玄珪㆒出、刻曰、延喜之玉、受㆑德、天賜㆓之佩㆒。〔王融、三月三日曲水詩序〕昭華之珍既徙、延喜之玉攸㆑歸。〔注〕善曰、尙書旋璣鈐曰、玄圭出、刻曰、延喜之玉、銑曰、舜時、西王母獻㆓昭華玉㆒、天錫㆓禹玄珪㆒、刻曰、延喜之玉。❷縣名。五代晉、置く。湖南省寧遠縣。〔讀史方輿紀要、湖廣、永州府、道州〕寧遠縣、漢營道縣地、屬㆓營陽郡㆒云云、晉天福七年、改㆓延喜縣㆒。❸（エンギ）第六十代醍醐天皇の年號。(910－923)

〖延喜式〗35（エンギシキ） 書名。五十卷。醍醐帝の朝、藤原忠平等奉敕撰。禁中の年中儀式、百官臨時の作法、諸國の恒式等を記す。

〖延喜樂〗36（エンギラク） 雅樂曲の名。又、花榮樂といふ。醍醐天皇延喜年閒の作。高麗樂の中に入り、狛壹越調、中曲。拍子十一。舞があり、舞者六人、鳥甲を冠り、綠衣を着く。慶賀の際に用ひる。〔樂家錄〕・〔教訓抄〕・〔舞樂圖說〕。

〖延喜之治〗37（エンギノチ） 醍醐天皇が親しく民意を察せられて仁政を施し、世の中がよく治まつたから、世に善政の模範として之を延喜之治と稱す。延喜は醍醐天皇の年號。〔國史略、醍醐天皇〕

帝臨御日久、勵レ精圖レ治、哀ニ矜百姓一、搜ニ訪疾苦一、至下寒夜脫ニ御衣一、以想中察民閒凍餒上云云、國家無事、民庶安堵、世以比ニ仁德帝一、後之言レ治者、皆稱ニ延喜一。〔注〕特擧ニ延喜之治一、爲ニ中世之稱首一。

【延期】38 エンキ 日のべ。定めた期限をのばす。展期。〔論衡、解除〕以興ニ延期之祀一。〔魏志、傅嘏傳〕猶足ニ以延一レ期。

【延熙】39 エンキ 年號。❶三國蜀の後主、劉禪の時。(238－257)❷五胡十六國、後趙の廢帝、石弘、武帝、石虎の時。(333－334)

【延嬉】40 エンキ 延喜(34)の❶に同じ。〔宋書、符瑞志下〕延嬉、王者孝道行則至。「7」

【延熹】41 エンキ 後漢の桓帝、劉志の年號。(158－167)

【延徽】42 エンキ 元、徐哲(**4**－**10110**‥235)の字。

【延禧】43 エンキ 遼、天祚帝(**3**－**5833**‥945)の名。

〖延禧堂〗43' エンキダウ 淸、汪昂(**6**－**17154**‥21)の室名。

【延儀】44 エンギ 宋、蘇竦(**9**－**32427**‥101)の字。

【延羲】45 エンギ 五代閩、王曦(**7**－**20823**‥218)の初名。

【延久】46 エンキウ ❶ながく久しい。永久。〔書、君奭、我道惟寧王德延、傳〕我以レ道惟安ニ寧王之德一、謀レ欲ニ延久一。❷第七十一代後三條天皇・第七十二代白河天皇の年號。(1069－1074)

【延休】47 エンキウ ❶晉の宮殿の名。〔太平御覽、居處部、殿〕晉宮閣、名曰ニ延休殿一。❷唐、韋承慶(**12**－**43108**‥200)の字。

〖延休堂〗48 エンキウダウ 明、羅鳳(**9**－**28397**‥248)の室名。

【延庥】49 yen² hsiu¹ 御多祥。

【延吉】50 エンキツ ❶縣名。民國、置く。滿洲吉林省敦化縣の東南。城は海蘭河の支流なる土門河の東岸に臨み、吉林東南の要區。縣治は局子街。又、延吉岡・煙集岡ともいふ。淸の宣統元年、商埠に開放す。西に天寶山銀鑛がある。❷道名。民國、置く。滿洲、吉林省治の東。淸の延吉・寧安二府の地。延吉・寧安・琿春・東寧・敦化・額穆・汪淸・和龍の八縣を管轄す。❸府名。淸、置く。吉林省に屬す。治は延吉。〔淸史稿、地理志〕吉林、延吉府、淸初爲ニ南荒圍場一、光緒七年、弛墾、二十八年、置ニ延吉廳一、宣統元年、升。❹五代唐、趙光逢(**10**－**37171**‥483)の字。

【延及】51 エンキフ ひきおよぶ。又、ひきおよぼす。〔春秋、定、二、夏五月壬辰、雉門及兩觀災、疏〕或是災起ニ雉門一、而延ニ及兩觀一也。〔韓詩外傳、一〕有聲之聲、不レ過ニ百里一、無聲之聲、延ニ及四海一。

【延享】52 エンキヤウ 第百十五代櫻町天皇の年號。(1744－1748)〔菅原長香勘文〕藝文類聚曰、聖主壽延、享レ祚元吉、自レ天之祐、莫レ不ニ抃舞一。

【延鄕】53 エンキヤウ 縣名。漢、置く。侯國。故城は山東省桓臺縣の東。〔漢書、地理志上〕千乘郡、縣十五、延鄕。

【延仰】54 エンギヤウ 頸をのばしてあふぐ。拜謁する。〔陸機、謝ニ平原內史一表〕臣不レ勝ニ屛營延仰一。

【延居】55 エンキヨ 怪鳥の名。〔廣雅、釋鳥〕延居、怪鳥屬也。

【延金】56 ノベガネ 鍛へてのべひろげた金屬。

【延鈞】57 エンキン 五代閩、王鏻(**7**－**20823**‥1086)の本名。

【延和】58 エンクワ ❶年號。㋑北魏の世祖太武帝、拓跋燾の時。(432－434)㋺唐の睿宗、李旦の時。(712)❷後魏、楊順(**6**－**15112**‥215)の字。

【延會】59 エンクワイ ❶會議を延期すること。〔立法院議事規則〕委員出席不レ足ニ法定人數一時、主席得下酌ニ定時刻一、命ニ書記一計ニ算之一、計算二次仍不レ足ニ法定人數一時、卽宣中告延會上。❷淸、楊長世(**6**－**15112**‥692)の字。

【延光】60 エンクワウ ❶名聲を長くつたへる。又、名聲を廣める。〔漢書、揚雄傳下〕延ニ光於將來一、比ニ榮乎往號一。〔江淹、爲ニ始安王一拜ニ征虜將軍丹陽尹一章〕飮レ惠延レ光、佪レ爵假息。❷後漢の安帝、劉祜の年號。(122－125)❸五代吳越、杜建徽(**6**－**14477**‥306)の字。

【延款】61 エンクワン 人と應對する。〔剪燈新話、翠翠傳〕賓客盈レ門、無ニ人延款一、書啓堆レ案、無ニ人裁答一。

【延緩】62 yen² huan² おくらせる。延引する。

【延君】63 エンクン 字號。❶漢、秦恭(**8**－**24995**‥49)の字。❷漢、戴德(**5**－**11685**‥110)の字。

【延敬】64 エンケイ 北齊、任祥(**1**－**416**‥92)の字。

【延溪】65 エンケイ ❶川の名。湖南省桃源縣の東。源を高崖山に發し、沅水に注ぐ。〔太平寰宇記〕延溪有ニ柘樹千餘頃一、枝條茂暢、昔有レ烏集ニ其上一、枝下垂著レ地、烏去、枝偶振折、羣烏號嘯、楚人以ニ其枝一爲レ弓、名曰ニ烏號一。❷淸、陳長鎭(**11**－**41698**‥1131)の號。

【延慶】66 エンケイ ❶さいはひをのばす。餘慶を後世に殘すこと。〔范曄、後漢書二十八將傳論〕建武之世、侯者百數、若ニ夫數公一者、則與ニ參國議一、分ニ均休咎一、其餘並優以ニ寬科一、完ニ其封祿一、莫レ不下終以ニ功名一、延中慶于後上。〔梁簡文帝、唱導文〕馮レ法致レ安、積レ善延レ慶。❷州名。明、置く。淸の時、直隸省宣化府に屬す。民國、縣に改む。❸の㋺を見よ。〔淸史稿、地理志〕直隸、宣化府、州三、延慶州。❸縣名。㋑後魏、置く。故治は甘肅省慶陽縣の東北。〔讀史方輿紀要、陝西、慶陽府、安化縣〕延慶縣、本漢郁郅縣地、後魏嘗置ニ延慶縣一、旋廢、劉昫曰、唐武德六年、分ニ合川縣一置ニ白馬縣一、天寶元年、改爲ニ延慶縣一。㋺民國、置く。漢の居庸縣。河北省懷來縣の東北。居庸關の北口に當る。❹年號。㋑西遼の德宗、耶律大石の時。(1124－1126)㋺ エンギヤウ 第九十五代花園天皇の御代。(1308－1311)❺後魏、楊播(**6**－**15112**‥307)の字。

【延頸】67 エンケイ くびをのばす。頸を長くする。望み見る・待ち望む・願ひ望むさまなどにいふ。翹首。鶴首。延領。〔史記、樂書〕延レ頸而鳴。〔蜀志、張飛傳〕思レ漢之士、延レ頸鶴望。

〖延頸企踵〗68 エンケイキシヨウ 頸をのべ、足をつまだてる。望み見る・待ち望む・願ひ望むさまなどにいふ。延頸擧踵。〔漢書、蕭望之傳〕是以天下之士、延レ頸企レ踵、爭願ニ自效以輔ニ高明一。

〖延頸脅翼〗69 エンケイケフヨク 頸を延ばし、翼を張る。〔蔡邕、篆勢文〕揚波振激、鷹跱鳥震、延レ頸脅レ翼、勢似レ凌レ雲。

〖延頸擧踵〗70 エンケイキヨシヨウ 頸をのべ、かかとをあげてつまだつ。延頸企踵に同じ。〔列子、黃帝〕延レ頸擧レ踵。〔荀子、榮辱〕延レ頸擧レ踵而願。〔呂覽、順說〕天下丈夫女子、莫レ不四延レ頸擧レ踵、而願三安ニ利之一。〔淮南子、主術訓〕延レ頸擧レ踵而望。

【延見】71 エンケン ひきみる。客を引き入れて對面する。引見。接見。〔漢書、金安上傳〕數臨ニ正殿一、延ニ見羣臣一。

【延娟】72 エンケン 周の昭王の時、東甌の獻じた女の名。〔拾遺記、二、周〕(昭王二十四年)東甌獻ニ二女一、一名ニ延娟一、二名ニ延娛一、云云、此二人辯口麗辭、巧善ニ歌笑一、步ニ塵上一無レ跡、行ニ日中一無レ影。

【延賢】73 エンケン ❶山名。四川省綿陽縣の南。古、榜山といふ。漢の郭玉が讀書した處。方輿勝覽には南山と稱す。今、南山十賢堂がある。淸の雍正中、屠用謙が佛塔を山上に建て、塔子山とも呼ぶ。❷明、申良(**7**－**21726**‥157)の字。

【延元】74 エンゲン ❶第九十六代後醍醐天皇の年號。(1336－1340)〔菅原長員勘文〕梁書曰、沈休文等奏言、聖德所レ被、上自ニ蒼蒼一、下延ニ元元一。❷字號。前趙、王延(**7**－**20823**‥75)の字。

〖延元陵〗75 エンゲンノミササギ 後醍醐天皇の御陵。大和國吉野山にある。〔賴杏坪、遊ニ芳野一詩〕恨殺殘紅飛向レ北、延元陵上落花風。

【延言】76 エンゲン 延音(15)に同じ。

【延古】77 エンコ 後唐、李敬義(**6**－**14459**‥1094)の初名。

【延亙】78 エンコウ ながくつらなる。〔福惠全書、雜課部、蘆課〕兩岸產レ蘆、瀰漫延亙。

【延貢】79 エンコウ 呰の名。四川省大邑縣の東南。〔讀史方輿紀要、卭州、大邑縣〕延貢呰、在ニ縣東南二十里一、志云、在ニ安仁廢縣北一、是也、唐中和二年、高仁厚降ニ阡能之衆於此一、胡氏曰、自ニ成都雙流縣西南一、出ニ新穿口一、又西至ニ新津縣一、又西至ニ延貢呰一、相去皆不レ過ニ四五十里一、宋志、安仁縣有ニ延貢呰一。

【延構】80 エンコウ 字號。❶唐、韋嗣立(**12**－**43108**‥189)の字。❷宋、蘇伯材(**9**－**32427**‥284)の字。

【延興】81 エンコウ 年號。❶北魏の高祖孝文帝、拓跋宏の時。(471－476)❷南齊の海陵王、蕭昭文の時。(494)

【延根】82 エンコン 後魏、崔振(**4**－**8178**‥107)の字。

【延載】83 エンサイ 唐の武后の年號。(694)

【延算】84 エンサン ながいき。〔福惠全書、稟啓附、賀ニ

上臺午節一〕炎景之曦馭方升、延算偏宜二綵縷一。

【延之】85 エンシ 字號。❶晉、戴祚（5－11685··100）の字。❷宋、尤袤（4－7543··38）の字。❸宋、袁逢吉（10－34152··246）の字。❹宋、郭申錫（11－39474··336）の字。❺明、朱大典（6－14424··910）の字。❻明、祝世祿（8－24672··139）の字。❼明、諸壽賢（10－35743··249）の字。❽明、徐伯齡（4－10110··608）の字。

【延至】86 エンシ まねきいたる。つれて來る。つれて行く。〔陶潛、桃花源記〕餘人各復延至二其家一、皆出二酒食一。

【延思】87 エンシ 晉、陳頵（11－41698··166）の字。

【延祉】88 エンシ さいはひを廣く及ぼす。又、永くさいはひをうける。〔孫綽、丞相王導碑〕玄聖陶化以啓レ源、靈仙延レ祉以分レ流。

【延師】89 エンシ 教師を招聘する。先生を雇ふ。〔還魂記、延師〕。

【延紙】90 ノベガミ 縱七寸、横九寸ほどの小形の杉原紙。鼻紙などに用ひる。

【延視】91 エンシ ながく見る。又、頸をのばして見る。〔宋玉、神女賦〕望二余帷一而延視兮、若二流波之將一レ瀾。

【延嗣】92 エンシ 南唐、馮延己（12－44579··169）の一名。

【延嗣寧國】93 エンシネイコク 宋代、夏の毅宗、李諒祚の年號。（1049）

【延璽】94 エンジ 明、張瑄（4－9812··490）の字。

【延州】95 エンシウ ❶州名。㋑西魏、置く。故治は陝西省膚施縣の東南。〔夢溪筆談、雜誌一〕延州、今有二五城一、說者以謂、舊有二東西二城一、夾レ河對立、高萬典レ郡、始展二南北東三關城一、予因下讀二杜甫詩一、云中五城何迢迢、迢迢隔二河水一、延州秦北戶、關防猶可レ倚、乃知三天寶中已有二五城一矣。〔元一統志〕州城舊在二延水東一、宋慶曆五年、改ト二水西一、卽今路城、與二故城一相値、人呼二故城一爲二東川一。㋺唐、置く。羈縻州。今、缺く。四川省の境。㋩金、置く。故治は河南省延津縣。〔讀史方輿紀要、河南、開封府〕延津縣、在二府西北九十里一、金置二延州一、尋廢。❷複姓。〔通志、氏族略〕吳季札、又封二於州來一、曰二延陵州來一、因氏焉。

【延州來】96 エンシウライ 延陵と州來。共に春秋の吳の地名。吳の季札が始め延陵に封ぜられ、後、州來に封ぜられたからいふ。〔左氏、昭、二十七〕使三延州來季子聘二于上國一。〔注〕季子本封二延陵一、後復封二州來一、故曰二延州來一。

【延秋】97 エンシウ 唐の宮城の門の名。〔舊唐書、玄宗紀下〕淩晨自二延秋門一出、微雨霑濕。〔雍錄〕唐禁苑、西北包二漢長安故城未央宮一、唐後改爲二通光殿一、西出卽延秋門。

【延秋吟館】98 エンシウギンクワン 清、張聯桂（4－9812··1589）の室名。

【延袖】99 エンシウ 袖をのべる。〔左思、嬌女詩〕從容好二趙舞一、延レ袖象二飛翮一。

【延日】100 エンジツ 日をのばす。幾日間にも亙ること。〔墨子、號令〕其延レ日持レ久。

【延昌】101 エンシヤウ 北魏、宣武帝、拓跋恪の年號。（512－515）

【延獎】102 エンシヤウ ひきすすめる。〔宋史、文苑二、柳開傳〕竝加二延獎一。

【延璋】103 エンシヤウ 明、龔炯（12－48837··19）の字。

【延賞】104 エンシヤウ 明、侯懋功（1－633··155）の字。

【延城】105 エンジヤウ 漢代、西域の龜茲國の王城の名。〔漢書、西域傳下〕龜茲國、王治二延城一。

【延首】106 エンシユ 延頸(67)に同じ。〔魏文帝、濟川賦〕俯唼二菁藻一、仰餐二若芳一、永號長吟、延レ首相望。

【延壽】107 エンジユ ❶よはひをのばす。ながいきする。又、ながいよはひ。ながいき。長命。延年。〔史記、封禪書〕新垣平使下人持二玉杯一、上二書闕下一獻上之、平言上曰、闕下有二寶玉氣來者一、已視レ之、果有下獻二玉杯一者上、刻曰二人主延壽一。〔漢書、淮南王傳〕羣臣皆得二延壽於下一。〔王延壽、魯靈光殿賦〕養レ性保二延壽一而宜二子孫一。〔阮籍、大人先生傳〕養レ性延レ壽、與二自然一齊レ光。〔蘇軾、與二李公擇一書〕口體之欲、何窮之有、毎加二節儉一、亦是惜レ福延レ壽之道。❷縣名。㋑後漢、置く。故治は甘肅省玉門縣の東南。〔讀史方輿紀要、陝西、肅州衞、綏彌城〕延壽城、在二衞西南一、後漢置レ縣、屬二酒泉郡一、晉因レ之、後廢。㋺南朝宋、置く。陝西省の境。㋩縣名。民國、置く。金の同賓縣、卽ち烏濟赫部。螞蜒河に臨む。今、滿洲吉林省珠河縣の東北。❸宋の高僧。蓮宗の第六祖。杭州の王氏の子。字は仲玄。號は抱一子。五代、吳越の時、永明寺に住し、開寶中卒す。法號を智覺禪師といふ。著に宗鏡錄がある。〔五燈會元、十〕・〔佛祖統紀、二十六〕・〔佛祖通載、二十六〕・〔稽古略、三〕。❹後魏、楊椿（6－15112··281）の字。

【延壽客】108 エンジユカク 菊の異名。延齡客。〔歲時雜記〕茱萸爲二辟邪翁一、菊花爲二延壽客一、故九日假二此二物一、以消二陽九之厄一。

【延壽經】109 エンジユキヤウ 〖佛〗佛經の名。一卷。延壽妙門陀羅尼經の略。宋、法賢譯。佛が菩提道場で金剛手菩薩の請によつて、延壽の妙咒を說いたもの。〔成帙、八〕。

【延壽館】110 エンジユクワン 漢代の甘泉宮の館の名。〔漢、郊祀志下〕甘泉則作二益壽・延壽館一。

【延壽帶】111 エンジユタイ 宋代、先天節・降聖節等に、臣下が天子に延壽を祝して奉つた帶。〔宋史、禮志十五〕七月一日、聖祖降日爲二先天節一、十二月二十四日、降二延恩殿一日爲二降聖節一、休假宴樂並如二天慶節一、中書・親王・節度・樞密・三司以下、至二駙馬・都尉一、詣二長春殿一、進二金樓延壽帶・金絲續命縷一、上二保生壽酒一。

【延壽堂】112 エンジユダウ 〖佛〗❶病僧の療養室。一に省行堂・涅槃堂といふ。〔禪林象器箋〕禪林實訓音義云、延壽堂、撫二安老病一之所也、古者叢林老僧送二安樂堂一、病者送二延壽堂一、又今涅槃堂是也。❷禪家の語。火葬場の忌詞。茶毘所をいふ。〔塵添壒囊鈔、十三〕。

【延宿】113 エンシユク 幾日も止宿する。逗留。

【延初】114 エンシヨ 五胡十六國、前秦の苻崇の年號。（394）

【延升】115 エンシヨウ みちびきのぼせる。〔後漢書、鄭玄傳〕玄最後至、乃延二升上座一。

【延岑】116 エンシン 後漢、南陽の人。字は叔牙。始め漢中に據り、後、公孫述に降る。述が敗れた時、漢に降り族滅せられた。〔後漢書、四十二〕。

【延津】117 エンシン ❶渡場の名。河南省延津縣の北。今、堙沒す。〔左氏、隱、元〕至二于廩延一、〔注〕廩延、鄭邑、陳留酸棗縣北有二延津一。❷縣名。宋、置く。春秋鄭の廩延邑。秦の酸棗縣。河南省封丘縣の西北、黃河の北。〔讀史方輿紀要、河南、開封府〕延津縣、本鄭之廩延、秦置二酸棗縣一、漢屬二陳留郡一、晉因レ之、云云、宋改二延津縣一、金置二延州一、尋廢、復爲二延津縣一。〔清史稿、地理志〕河南、衞輝府、縣九、延津。❸遼、置く。故治は滿洲遼寧省鐵嶺縣。〔讀史方輿紀要、山東、遼東都指揮使司、鐵嶺衞〕新興城、今衞治、本渤海富壽縣、爲二富州治一、境有二延津一、遼更名二延津縣一、銀州治レ焉、金皇統三年、州廢、更置二新興縣一、屬二咸平府一、金末廢、元因レ之。

【延水】118 エンスイ 川の名。❶古の清水。源を陝西省靖邊縣の東の蘆關嶺に發し黃河に注ぐ。一名、濯筋水。〔水經、河水注〕山海經西次四經之首曰、陰山西北百七十里曰二申山一、其上多二穀柞一、其下多二杻橿一、其陽多二金玉一、區水出焉、而東流注二于河一、世謂二之清水一。〔清一統志〕按二元和志一、西魏置二延川一、以二界內延水一爲レ名、此延水、本指二延川縣界之吐延水一、一名二秀延水一者也、明以二古清水一爲二延水一、近多從レ之。❷二水あり、南は大延水、北は小延水。源は並に甘肅省寧縣の東北。合して馬蓮河に注ぐ。

【延綏】119 エンスイ 明代九邊の一。陝西の延安から山西の綏德に至る一帶の地方。〔延安府志〕六年、延綏賊首鑽天嘯・開山斧、據二永寧關一。

【延髓】120 エンズイ 腦の一部。後頭窩底部の斜臺下にあつて下部が脊髓に連なる。

【延世】121 エンセイ 字號。❶晉、劉兆（2－2224··515）の字。❷五代吳越、錢弘億（11－40563··309）の字。

【延成】122 エンセイ 明、穆宗の時、大越の莫茂洽の年號。（1572・一說1581）

【延性】123 エンセイ 物質の具有する性質の一。引きのばし得る性質。のびる力。

【延清】124 エンセイ 字號。❶唐、宋之問（3－7078··291）の字。❷清、劉統勳（2－2224··1233）の字。

【延清室】125 エンセイシツ 漢代の宮殿清涼殿の異名。〔三輔黃圖、三、未央宮〕清涼殿、夏居レ之則清涼也、亦曰二延清室一。

【延請】126 エンセイ 客を招く。招聘する。〔漢書、雋不疑傳〕盛服至レ門上謁、門下欲レ使レ解レ劍、不疑曰、劍者君子武備、所二以衞一レ身、不レ可レ解、請退、吏白二勝之一、勝之開レ閤延請、望二見不疑一、容貌尊

嚴、衣冠甚偉、勝之躧レ履起迎。〔北史、裴儁之傳〕初司徒趙彥深、起レ自二孤微一、爲二子如管記一、儁之甚相忽略、不レ爲二之禮一、及三彥深爲二宰相一、朝士輻輳、儁之自念、故被二延請一、永不レ至レ門、每二與相見一、捧レ袂而已。

【延聲】127（エンセイ） 名聲をひろめる。〔宋書、顧覬之傳〕不二矯レ俗以延一レ聲、不二依レ世以期一レ榮。

【延照】128（エンセウ） ながくてらす。〔楚辭、劉向、九歎、靈懷〕指二日月一使二延照一兮、撫二招搖一以質正。

【延燒】129（エンセウ） ひろがりやく。火事が燃えひろがつて燒くこと。又、ひいてやける。他に起つた火事で類燒すること。〔史記、汲黯傳〕河南失レ火、延二燒千餘家一。〔漢書、汲黯傳〕家人失レ火、屋比延燒。〔吳志、周瑜傳〕延二燒岸上營落一。

【延石】130（エンセキ） 石をならべ敷く。〔說苑、正諫〕楚莊王築二層臺一、延二石千里一、延レ壤百里。

【延錫】131（エンセキ） 明、何喬福（**1－511**··259）の字。

【延接】132（エンセツ） 人をひきいれて面接する。延見。〔後漢書、蓋勳傳〕帝方欲二延接一。〔宋史、王沔傳〕許下於二都堂一延接上。

【延川】133（エンセン） 縣名。隋、置く。漢の高奴・膚施二縣の地。陝西省延長縣の北。縣城は秀延河と永平川との會口に當る。〔讀史方輿紀要、陝西、延安府〕延川縣、漢膚施縣地、西魏置二文安縣一、兼二文安郡一、隋開皇初、郡廢、改レ縣爲二延川一、取二界內吐延川一爲レ名、屬二延州一、唐因レ之。〔清史稿、地理志〕陝西、延安府、縣十、延川。

【延薦】134（エンセン） ひきすすめる。とりたてる。引薦。〔元稹、奉二和浙西大夫李德裕述夢一四十韻詩〕賓親多謝絕、延薦必英豪。

【延祖】135（エンソ） 字號。❶晉、嵇紹（**4－8272**··9）の字。❷宋、范世京（**9－30834**··212）の字。❸明、吳彥芳（**2－3365**··554）の字。

【延祚】136（エンソ） ❶永く續くさいはひ。年久しい幸福。又、祖先の餘德によるさいはひ。〔後漢書、光武紀下〕子孫賴レ福、延祚至レ今。〔班固、西都賦〕歷二十二之延祚一。❷晉、司馬宗（**2－3257**··284）の字。

【延促】137（エンソク） のびちぢみ。歌聲の長い・短い。〔謝偃、聽歌賦〕延促合レ度、舒縱有レ所。

【延族】138（エンゾク） 唐、許敬宗（**10－35298**··275）の字。

【延屬】139（エンゾク） ❶つらなり續く。〔左思、吳都賦〕長干延屬、飛甍舛互。〔注〕向曰、延屬、言二邑室相連一也。❷首を長くして待ち望むこと。〔資治通鑑、漢紀〕（靈帝、熹平四年）今者闕レ職經レ時、吏民延屬。〔注〕延屬者、延レ頸而屬望也。

【延滯】140（エンタイ） ながくとどこほる。又、事務等のとどこほつて捗らぬこと。淹滯。〔姚合、題二貞女祠一詩〕我來方謝レ雨、延滯失二歸期一。

【延宕】141（エンタウ） ぐづぐづする。延引する。遲延する。〔違警律〕督二促條理一、而延宕不レ遵者。

【延唐】142（エンタウ） 縣名。唐、置く。故治は湖南省寧遠縣。〔讀史方輿紀要、湖廣、永州府、道州〕寧遠縣、漢營道縣地、屬二零陵郡一、云云、唐天寶初、改曰二延唐一、五代梁初・馬氏改爲二延昌縣一、唐同光初、復曰二延唐一。

【延道】143（エンダウ） ❶地を闕いて設けた、墓穴に至る通路。はかみち。つかみち。又、とんねる。地道。埏道。羨道。〔禮、喪服大記、凡封用レ綍去レ碑負引、注〕禮、唯天子葬有レ隧、〔釋文〕隧、音遂、延道也。〔左氏、隱、元、隧而相見、注〕隧、若二今延道一。❷河の本流が延びひろがる。一說に、延は正の誤。河の本流をいふ。〔史記、河渠書〕延道弛兮離二常流一。〔注〕集解曰、徐廣曰、延、一作レ正、索隱曰、言、河之決、由二其源道一延長弛溢、故使三其道皆離二常流一也。

【延智】144（エンチ） 後魏、薛聰（**9－32123**··95）の字。

【延遲】145 yen² chʻih² 遲滯。延引。

【延紐】146（エンチウ） 冕の覆ひと冠のひも。〔周禮、夏官、弁師〕掌二王之五冕一、皆玄冕、朱裏延紐。

【延長】147（エンチヤウ） ❶ながくのびる。のばしてながくする。又、そのこと。〔漢書、禮樂志〕神嘉虞申二貳觴一、福滂洋邁延長。〔班固、東都賦、白雉詩〕永延長兮膺二天慶一。〔顏延之、赭白馬賦〕齒算延長、聲價隆振。〔宋史、天竺國傳〕福壽圓滿、壽命延長。❷縣名。唐、置く。陝西省膚施縣（延安縣）の東。延水の東北岸。縣境に多く石油を產す。〔讀史方輿紀要、陝西、延安府〕延長縣、本膚施縣地、云云、唐廣德二年、改爲二延長縣一。〔清史稿、地理志〕陝西、延安府、縣十、延長。❸有限直線の一端から外へひきのばした部分。❹第六十代醍醐天皇の年號。（923－931）❺晉、司馬道生（**2－3257**··343）の字。

【延長線】148（エンチヤウセン） ひきのばした線。又、のびた線。

【延長石油鑛】149（エンチヤウセキユクワウ） 石油鑛の名。陝西省延長縣の境。宋代、范仲淹が西陲を鎭守し、其の利を知り、取つて軍中の燃料とす。清には官有とし、官署の用に供した。其の量は極めて多く、油質が頗る優れ、揮發油十分の三、燈油十分の六、其の餘が重油である。〔夢溪筆談、雜誌一〕鄜延境內有二石油一、舊說、高奴縣出二脂水一、卽此也。〔本草、石、石腦油〕集解、時珍曰、石油所レ出不レ一、出二陝之肅州・鄜州・延州・延長、及雲南之緬甸・廣之南一。

【延着】150（エンチヤク） 豫定よりおくれて到着すること。

【延仲】151（エンチユウ） 字號。❶宋、季陵（**3－6965**··268）の字。❷宋、孫祖德（**3－6987**··472）の字。

【延駐】152（エンチユウ） 長く生きのびる。長く此の世にとどまり住む意。長生。〔雲笈七籤〕大丹可レ治レ疾、並無二延駐之功一。

【延佇】153（エンチヨ） 長い閒たたずむ。頸をのべてたたずみ望む。立ちどまつて望み待つ。〔楚辭、離騷〕延佇乎吾將レ反。〔注〕延、長也、佇、立貌。〔補注〕佇、久立也。〔後漢書、張衡傳〕會二帝軒之未レ歸兮、悵相佯而延佇。〔禰衡、鸚鵡賦〕望二故鄉一而延佇。〔曹植、洛神賦〕翳二修袖一以延佇。〔陶潛、停雲詩〕良朋悠邈、搔レ首延佇。〔沈約、麗人賦〕薄暮延佇、宵分乃至。

【延竚】154（エンチヨ） 延佇に同じ。〔楚辭、九歌、大司命〕結二桂枝一兮延竚。〔注〕延、長也、竚、立也。

【延貯】155（エンチヨ） 延佇（153）に同じ。段玉裁の說に、貯は眝の誤、延眝は長望をいふとある。〔漢書、外戚上、孝武李夫人傳〕飾二新宮一以延貯兮、泯不レ歸二乎故鄉一。〔注〕師古曰、貯、與レ佇同、佇、待也。

【延鼎】156（エンテイ） ふせたかなへ。一說に、楕圓形のかなへ。〔墨子、非樂上〕鍾猶二是延鼎一也。〔閒詁〕延鼎、蓋謂二偃覆之鼎一、玉藻鄭注云、延、冕上覆也、是延有二覆義一、鍾上弇下侈、與レ鼎相反、虛縣弗レ擊、則與二鼎偃覆一相類、又疑、延當三讀爲二璧羨之羨一、周禮玉人鄭注云、羨、猶レ延也、典瑞注云、羨、不レ圜之貌、延鼎、謂三如レ鼎而楕、不二正圜一、鳧氏賈疏云、古鍾如二今之鈴不一レ圜。

【延眺】157（エンテウ） 頸を延べて遠くながめる。又、遠いながめ。〔唐書、韋弘機傳〕延眺良久、歎二其美一。〔張九齡、高齋閑望言レ懷詩〕高齋復晴景、延眺屬二清秋一。

【延纏】158 yen² chʻan² ながびく。延引。

【延脰】159（エントウ） 頸をのばす。〔梁昭明太子、殿賦〕延レ脰觀レ之、欣然俯仰。

【延登】160（エントウ） 漢代、丞相・御史大夫を任命するとき、君主が親ら詔を下すために、宮殿に招き登らせること。又、人材を招き登庸すること。〔漢書、元帝紀〕延二登賢俊一、招二顯側陋一。〔漢書、五行志中之下〕御史大夫朱博爲二丞相一、少府趙玄爲二御史大夫一、臨延登受レ策、有二大聲一如二鐘鳴一。〔注〕師古曰、延入而登レ殿也、漢舊儀云、丞相・御史大夫初拜、皇帝延登親詔也。

【延頭】161（エントウ） 戍の名。湖北省黃陂縣の西。〔讀史方輿紀要、湖廣、黃州府、黃陂縣、長岐戍〕延頭戍、在二縣西一、舊爲二安陸界一、宋元嘉五年、謝晦據二江陵一以叛、敗走至二安陸延頭一、爲二戍主光順之所一レ執。

【延德】162（エントク） 第百三代後土御門天皇の年號。（1489－1492）〔式部大輔長直勘文〕孟子曰、開二延道德一。

【延篤】163（エントク） 後漢、犨の人。字は叔堅。經傳及び百家の言に通ず。官は京兆尹。永康の初、卒す。著に詩・論・銘・書・應訊表・教令、凡そ二十篇がある。〔後漢書、九十四〕。

【延捺】164（エンナツ） のべおく。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕該承延捺揹差諸弊。

【延納】165（エンナフ） ひきいれる。引納。〔後漢書、北海靖王傳〕睦少好レ學、博通二書傳一、光武愛レ之、數被二延納一。〔吳質、在二元城一與二魏太子一牋〕前蒙二延納一、侍レ宴終レ日。

【延入】166（エンニフ） ひき入れる。〔史記、晏嬰傳〕越石父請レ絕、晏子懼然、攝二衣冠一謝曰、嬰雖二不仁一、免二子於戹一、何子求レ絕之速也、石父曰、不レ然、吾聞、君子詘二於不一レ知レ己、而信二於知一レ己者、方三吾在二縲紲中一、彼不レ知レ我也、夫子既已感寤而贖レ我、

是知㆑己、知㆑己而無㆑禮、固不㆑如㆑在㆓縲紲之中㆒、晏子於㆑是、延入爲㆓上客㆒。

【延寧】167 エンネイ ❶明、代宗の時。大越の仁宗、黎濬（黎邦基）の年號。（1454－1459）❷字號。㋑遼、蕭孝先（9－32012‥318）の字。㋺遼、蕭護思（9－32012‥351）の字。㋩遼、蕭朴（9－32012‥252）の字。㋥遼、天祚帝（3－5833‥945）の字。

【延年】168 エンネン ❶年をのばす。壽命をのばす。長く生きのびる。又、長生き。長命。長壽。〔史記、淮南衡山傳〕願請㆓延年益壽藥㆒。〔後漢書、郎顗傳〕宋景以延㆑年。〔阮籍、詠懷詩〕獨有㆓延年術㆒。〔宋書、樂志三〕今日樂相樂、延年壽千秋。〔隋書、蕭吉傳〕洪範傳云、歲之朝、月之朝、日之朝、主王者、經書並謂㆓三長㆒、應㆑之者、延年福吉。❷年を迎へる。迎年。〔漢書、郊祀志下〕登㆓之罘㆒、浮㆓大海㆒、用事㆓八神㆒延㆑年。〔注〕師古曰、延㆑年、卽迎㆑年。❸漢の李延年をいふ。〔漢書、佞幸、李延年傳〕李延年、中山人、身及父母兄弟、皆故倡也。〔駱賓王、帝京篇〕延年女弟雙飛入、羅敷使君千騎歸。❹字號。㋑晉、司馬羕（2－3257‥316）の字。㋺南朝宋、顏延之（12－43591‥132）の字。㋩明、曾鶴齡（5－14299‥174）の字。

〖延年火〗169 エンネンクワ 灸の異名。〔清異錄、藥、火輪三昧〕凡病㆓膏肓之際㆒、藥難㆑效、此鍼灸之所㆓以用㆒也、云云、古人謂㆓之延年火㆒、又曰㆓火輪三昧㆒。

〖延年草〗170 エンネンサウ 延齡草（224）の異名。

〖延年杖〗171 エンネンヂヤウ 老臣優遇の意を以て天子から賜ふ杖の名。〔魏志、文帝紀、注〕魏書曰、引㆓故漢太尉楊彪㆒、待以㆓客禮㆒、詔曰、其賜㆓公延年杖及馮几㆒、謁請之日、便使㆑杖之。〔北史、于謹傳〕保定二年、謹以㆓年老㆒乞㆓骸骨㆒、優詔不㆑許、三年、以㆑謹爲㆓三老㆒、固辭、又不㆑許、賜㆓延年杖㆒。

〖延年益壽〗172 エンネンエキジユ 長く生き延びる。〔宋玉、高唐賦〕九竅通㆑鬱、精神察㆑滯、延年益壽千萬歲。〔漢書、李尋傳〕宜㆓急改㆑元易㆑號、廼得㆓延㆑年益㆑壽、皇子生、災異息㆒矣。

〖延年卷雪〗173 エンネンクワンセツ 藥の名。桑白皮（6－14772‥168）の異名。〔清異錄、藥、藥譜〕延年卷雪、桑白皮。

【延保】174 エンポウ 北周、令狐整（1－387‥57）の字。

【延寶】175 エンパウ 第百十二代靈元天皇の年號。（1673－1681）〔菅原爲庸勘文〕分㆓四序㆒綴㆓三光㆒、延㆓寶祚㆒無㆑疆。

【延望】176 エンバウ ❶頸をのべて遠くのぞむ。〔後漢書、李南傳〕旦日、稜延㆓望景晏㆒、以爲、無㆑徵。❷招待する。〔柳宗元、先侍御史府君神道表〕尙父汾陽王居㆓朔方㆒、備㆑禮延望、授㆓左金吾衞倉曹參軍㆒。

【延美】177 エンビ 唐、鄭處晦（11－39647‥444）の字。

【延賓】178 エンピン 客を招きいれる。延客。〔吳志、諸葛瑾傳〕秋冬則射獵講㆑武、春夏則延㆑賓高會。

【延符】179 エンプ 梁、張充（4－9812‥389）の字。

【延福】180 エンプク さいはひを長くする。長く幸をうける。〔摯虞、思遊賦序〕覆㆑信思㆑順、所㆓以延㆒㆑福。

【延拂】181 ノベハラヒ 支拂期日をのべること。

【延文】182 エンブン 北朝の後光嚴天皇の年號。（1356－1361）〔藤原忠光勘文〕漢書曰、延㆓文學儒者數百人㆒。

【延平】183 エンペイ ❶府名。明、置く。故治は福建省南平縣。淸には南平・順昌・將樂・沙・永安・尤溪の六縣を領す。府境は極めて險固で、邵武府と相倚る。諺に、銅延平、鐵邵武といふ。〔讀史方輿紀要、福建〕延平府、禹貢揚州地、周閩粵地、秦屬㆓閩中郡㆒、漢屬㆓會稽郡㆒、云云、元曰㆓南建路㆒、大德六年、改㆓延平路㆒、明初曰㆓延平府㆒、今領㆓縣七㆒。〔淸史稿、地理志〕福建、延平府、領㆓縣六㆒、南平・順昌・將樂・沙・永安・尤溪。❷渡場の名。福建省南平縣の東。又、劍津といふ。今の建溪。〔讀史方輿紀要、福建、延平府、南平縣〕劍溪、在㆓城東南㆒、卽建江也、相傳、晉雷煥之子、佩㆑劍渡㆓延平津㆒、劍忽躍入㆑水、化爲㆑龍。❸年號。㋑後漢の殤帝、劉隆の時。（106）㋺五胡十六國、後燕の慕容麟の僭年號。（397）❹宋の李侗をいふ。〔宋元學案、豫章學案〕文靖李延平先生侗。

〖延平劍〗184 エンペイケン 龍泉・太阿の二名劍の倂稱。晉の雷煥が龍泉と太阿の二名劍を得、一を自ら佩び、一を張華に與へた。華が誅せられた後、其の劍の所在を失ふ。後、煥の子が父の劍を佩びて、延平津を過ぎた時、劍が自ら脫して、水に入り、華の劍と共に兩龍に化したといふ故事によつていふ。〔晉書、張華傳〕華聞㆔豫章人雷煥妙㆓達緯象㆒、云云、補㆑煥爲㆓豐城令㆒、煥到㆑縣、掘㆓獄屋基㆒、入㆑地四丈餘、得㆓一石函㆒、光氣非㆑常、中有㆓雙劍㆒、並刻題、一曰龍泉、一曰太阿、云云、遣㆑使送㆓一劍幷土㆒與㆑華、留㆑一自佩、云云、華誅、失㆓劍所㆒㆑在、煥卒、子華爲㆓州從事㆒、持㆑劍行、經㆓延平津㆒、劍忽於㆓腰閒㆒躍出墮㆑水、使㆓人沒㆑水取㆒㆑之、不㆑見㆑劍、但見㆓兩龍各長數丈㆒、蟠縈有㆓文章㆒、沒者懼而反、須臾光彩照㆑水、波浪驚疑、於㆑是失㆑劍、華歎曰、先君化去之言、張公終合之論、此其驗乎。〔剪燈新話、聯芳樓記〕延平之劍、不㆑知何時而再合也。

〖延平郡王〗185 エンペイグンワウ 明、鄭成功（11－39647‥470）の封號。

〖延平先生〗186 エンペイセンセイ 宋、李侗（6－14459‥635）の尊稱。

〖延平答問〗187 エンペイタフモン 書名。一卷。附錄、一卷。宋、朱熹撰。李侗と往來して學を論じた書札問答の語を載せ、其の附錄は、朱子の門人が、朱子の李侗を論ずる語、及び祭文行狀等を載せてゐる。〔四庫提要、子、儒家類〕

【延聘】188 yen^2 p'in^4 招聘。

〖延聘員〗189 yen^2 p'in^4 yüan^2 囑託員。招聘した係員。

【延邊】190 エンヘン 地名。滿洲吉林省、舊延吉府の邊境をいふ。卽ち朝鮮半島との接壤地である閒島の別名。

【延父】191 エンポ 宋、孫昭先（3－6987‥464）の字。

【延慕】192 エンボ 頸をのべて望みしたふ。〔吳志、陸遜傳〕延㆓慕光塵㆒、思㆑稟㆓良規㆒。

【延峯】193 エンボウ 前蜀、牛嶠（7－19922‥59）の字。

【延袤】194 エンボウ 土地のひろがり。ひろさ。延は橫で東西、袤は縱で南北。又、長さ。〔史記、蒙恬傳〕築㆓長城㆒、因㆓地形㆒、用制㆓險塞㆒、起㆓臨洮㆒至㆓遼東㆒、延袤萬餘里。〔越絕書、越絕外傳記地傳〕壇高三尺、土階三等、延袤一畝。〔王褒、聖主得㆓賢臣㆒頌〕崇臺五層、延袤百丈。

【延曼】195 エンマン 延蔓に同じ。〔史記、司馬相如傳〕布㆓濩閎澤㆒、延㆓曼太原㆒。〔漢書、王莽傳下〕朝廷忽略、不㆓輒督責㆒、遂至㆔延㆓曼連州㆒。〔注〕師古曰、曼、與㆑蔓同。

【延蔓】196 エンマン のびはびこる。〔詩、周南、葛覃、葛之覃兮、箋〕葛延㆓蔓於谷中㆒。〔司馬相如、上林賦〕布㆓濩閎澤㆒、延㆓蔓太原㆒。〔阮籍、詠懷詩〕不㆑見林中葛、延蔓相勾連。

【延命】197 エンメイ エンミヤウ ながいき。又、壽命を延ばす。長命。延壽。延齡。〔參同契〕養㆑性延㆑命。〔漢書、劉向傳〕淮南有㆓枕中鴻寶苑祕書㆒、書言㆓神僊使㆑鬼物爲㆑金之術、及鄒衍重道延命方㆒、世人莫㆑見。

〖延命菊〗198 エンメイギク 草の名。ひなぎくの異名。

〖延命草〗199 エンメイサウ 藥草の名。一名、延齡草。百合科、延齡草屬の多年生草本。山地陰濕の地に生じ、地下莖を藥用に供す。たちあふひ。延年草。養老草。〔和漢三才圖會、芳草類、延命草〕按、延命草、和州・河州及西國山麓有㆑之、叢生、高二三尺、方莖、葉並似㆓狗茴麻㆒、六七月枝杈開㆓小花㆒作㆓細穗㆒、結㆑子、其花實似㆓紫蘇㆒而有㆑香、其葉味甚苦、能治㆓蟲積腹痛㆒。

〖延命袋〗200 エンメイブクロ エンミヤウブクロ 俗閒に傳へる寶繪の一。錦の袋の腹を脹らせ、口を括つた形を畫いたもの。

〖延命法〗201 エンミヤウホフ 〘佛〙延命の修法。〔金剛壽命經略讚〕。

〖延命息災〗202 エンメイソクサイ エンミヤウソクサイ 長壽で災厄のないこと。〔本朝文粹、匡衡願文〕左府殿下息災延命、千秋萬歲。〔淨土和讚〕息災延命。

〖延命菩薩〗203 エンミヤウボサツ 〘佛〙延命法を修するときの本尊、金剛薩埵をいふ。〔金剛壽命經略讚〕此經本尊延命菩薩、延命菩薩、卽金剛薩埵、今經護摩法軌云、於㆓花胎中㆒想㆓阿字㆒、光明徧照、成㆓金剛壽命菩薩㆒、今經儀軌云、復想㆓金剛薩埵㆒、卽結㆓金剛壽命菩薩陀羅尼印㆒。

〖延命地藏經〗204 エンミヤウヂザウキヤウ 〘佛〙書名。一卷。延命菩薩の利生を說く經。不空譯といふが、經錄には載せてをらず、其の眞僞を疑はれてゐる。〔谷響集、二〕至㆓眞僞之辨㆒者、世人多信㆓敬彼延命經㆒、於㆑理無㆑妨矣。〔地藏經抄〕覺鑁地藏式、擧㆓每日晨朝入諸定等文㆒、爲㆓伽陀㆒、是以博㆓檢地藏經部㆒、唯此經有㆓彼文㆒、然則先德所㆑用、足㆑爲㆓龜鏡㆒。

也。

【延命地藏菩薩】205 エンミヤウヂザウボサツ 佛地藏菩薩に延命・利生の德があるからいふ。〔延命地藏經〕佛告二帝釋一、有二一菩薩一、名曰二延命地藏菩薩一、每日晨朝、入二於諸定一、遊二化六道一、拔レ苦與レ樂。

【延明】206 エンメイ 後魏、劉昞(2－2224··590)の字。

【延問】207 エンモン 召し入れて問ふ。〔後漢書、章帝紀〕帝躬二親萬機一、每レ有二災異一、輒延二問公卿一、極二言得失一。

【延譽】208 エンヨ ほまれをのべひろめる。又、廣く知れわたつた名譽。世間の好評。〔晉書、張華傳〕至二于窮賤候門之士一、有二一介之善一者、每咨嗟稱詠、爲レ之延レ譽。〔任昉、宣德皇后敦勸二梁王一令〕薦二名宰府一、則延譽自高。

【延譽之美】209 エンヨノビ 廣く知れわたる美名。〔袁宏、三國名臣序贊〕子布佐レ策、致二延譽之美一。

【延老】210 エンラウ 宋、李壽朋(6－14459··1420)の字。

【延朗】211 エンラウ 宋、楊延昭(6－15112··434)の本名。

【延攬】212 エンラン ❶ひきよせて味方にする。〔後漢書、鄧禹傳〕於二今之計一、莫レ如下延二攬英雄一、務悅中民心上。❷拔擢する。引立てる。

【延釐】213 yen² hsi¹ 御多祥。延庥(49)に同じ。

【延留】214 エンリウ ながくとどまる。〔宋史、大食國傳〕就レ館、延留數月。

【延領】215 エンリヤウ 頸をのばして待つ。引領(4－9699··183)の❶に同じ。

【延曆】216 エンリヤク 第五十代桓武天皇の年號。(782－806)

【延陵】217 エンリヨウ ❶地名。春秋、吳の邑。季札の封ぜられた所。江蘇省武進縣の治。延陵季子(219)を見よ。〔王粲、贈二文叔良一詩〕延陵有レ作、僑肸是與。〔讀史方輿紀要、江南、常州府〕武進縣、附郭、本吳之延陵邑、季札所レ居。❷陵の名。漢の成帝の陵。陝西省咸陽縣の西北。〔漢書、成帝紀〕(綏和二年)四月己卯、葬二延陵一。〔陝西通志〕成帝延陵、在二今西安府咸寧縣西北一十五里一。❸縣名。㋑漢、置く。故城は察哈爾省興和縣の境。〔讀史方輿紀要、山西、大同府、大同縣〕延陵城、在二府東北塞外一、戰國時趙邑也、史記趙世家、孝成王十八年、延陵鈞帥レ師、從二信平君廉頗一、助レ魏攻レ燕、卽此、漢置二延陵縣一、屬二代郡一、後漢廢、風俗記、當二城西北一有二延陵鄉一、故縣也。㋺晉、置く。江蘇省丹陽縣の南の延陵鎭。〔讀史方輿紀要、江南、鎭江府、丹陽縣〕延陵城、本曲阿縣之延陵鄉、晉太康二年、分置二延陵縣一、屬二毘陵郡一。㋩西魏、置く。故城は陝西省綏德縣の東南。〔讀史方輿紀要、陝西、延安府、綏德州〕延福城、西魏置二延陵縣一、隋開皇中、改曰二延福一。❹鎭の名。江蘇省丹陽縣の南。簡瀆河に臨み、南は金壇縣に通ず。晉の延陵縣の舊治。❸の㋺を見よ。❺複姓。〔尙友錄〕延陵、姬姓、吳季札居二延陵一、因氏焉。

【延陵子】218 エンリヨウシ 延陵季子に同じ。〔曹植、贈二丁儀一詩〕思二慕延陵子一、寶劍非レ所レ惜。〔陸機、吳趨行〕穆穆延陵子、灼灼光二諸華一。

【延陵季子】219 エンリヨウノキシ 吳の季札をいふ。延陵に封ぜられたからいふ。季札(3－6965··96)を見よ。〔史記、吳太伯世家〕季札封二於延陵一、故號曰二延陵季子一。

【延陵挂レ劍之心】220 エンリヨウケンヲカクルノココロ 吳の季札が徐君のため千金の劍を墓の樹にかけて其の信をあらはした心。季札(3－6965··96)を見よ。

【延累】221 yen² lei⁴ 迷惑をかける。

【延齡】222 エンレイ ❶命をのばす。又、ながいき。延命。延壽。〔梁元帝、謝三東宮賚二寶枕一啓〕泰山之藥、既使レ延レ齡。〔梁簡文帝、謝三勅二賜長生米一啓〕食二乃民天之貴粒一、有二延齡之名一。〔宋之問、奉レ敕云云遊二九龍潭一序〕探レ道之期、賤レ物貴レ身、尙二延齡之術一。❷字號。㋑晉、廢帝の字。司馬奕(2－3257··221)を見よ。㋺宋、孫億(3－6987··22)の字。

【延齡客】223 エンレイカク 菊花の異名。延壽客。〔事物異名錄、花卉、菊〕仙書、菊花爲二延齡客一。「名。

【延齡草】224 エンレイサウ 藥草の名。延命草(199)の一名。

【延齡丹】225 エンレイタン 藥の名。德川時代に常用された。〔雍州府志、六〕門人玄朔爲レ婿、傳二醫術一、玄朔相續、仕二公方家一、號二延壽院一、自製二延齡丹一而救レ人。

【延歷】226 エンレキ 延年(168)に同じ。〔後漢書、崔寔傳〕夫熊經鳥伸、雖二延歷之術一、非二傷寒之理一。

【延路】227 エンロ 鄙俗の歌曲の名。延露。〔淮南子、人間訓〕夫歌二采菱一發二陽阿一、鄙人聽レ之、不レ若二此延路陽局一。〔注〕延路陽局、鄙歌曲也。

【延魯】228 エンロ 宋、孔道輔(3－6933··346)の初名。

【延露】229 エンロ 曲名。延路に同じ。〔左思、吳都賦〕或超三延露而二駕辯一、或踰三綠水而二採菱一。〔注〕善曰、淮南子曰、夫歌二采菱一、發二陽阿一、鄙人聞レ之、不レ若二延露以和一、高誘曰、延露、曲也。〔馬融、長笛賦〕下采二制於延露巴人一。〔注〕銑曰、延露・巴人、小曲名。〔謝靈運、擬二魏太子鄴中集一、應瑒詩〕始奏二延露曲一、繼以二闌夕語一。

【延樓】230 エンロウ たかい樓閣。高樓。〔淮南子、本經訓〕延樓棧道、雞棲・井幹。〔注〕延樓、高樓也。

【延胡索】231 エンコサク 藥草の名。罌粟科に屬す。中國の西北の諸省に產する。本名は玄胡索。宋の眞宗の諱を避け玄を延と改めた。〔本草、延胡索〕釋名、玄胡索、好古曰、本名、玄胡索、避二宋眞宗諱一、改レ玄爲レ延也、集解、藏器曰、延胡索、生二奚國一、從二安東一來、根如二半夏一、色黃、時珍曰、奚乃東北夷也、今二茅山上西龍洞種レ之、每年寒露後栽、立春後生レ苗、葉如二竹葉樣一、三月長三寸、高根叢生、如二芋卵樣一、立夏掘起。

【延取引】232 ノベトリヒキ 取引所の賣買取引の一。賣買契約の履行を一定の期間延期し得るもの。此の期間は、契約成立の當日から起算して、三日以上百五十日以內。直取引・定期取引の對。

【延人員】233 ノベジンヰン 工事などに使用した總人員を、日を異にする同一人の重複をも、一日每に一人分として數へて合計した人數。

【延生社】234 エンセイシヤ 清代の貧民救恤を掌る官署の一。西關外に在つた。〔清國行政法汎論、四〕。

【延靑閣】235 エンセイカク 清、汪士通(6－17154··237)の室名。

【延定之】236 エンテイシ 明、平定の人。字は主靜。擧人。官は成化中、寧州の長官。〔尙友錄、六〕。

【延芳淀】237 エンハウテン 湖の名。河北省通縣の西南。一說に、南海子の舊名。今、南海子の側に延芳村がある。〔遼史、地理志四〕漷陰縣、云云、延芳淀、方數百里、春時鵞鶩所レ聚、夏秋多二菱芡一、遼時、國主春獵、衞士皆衣二墨綠一、各持二連鎚一。

【延姆斯】238 エムス Emsの音譯。❶川の名。ドイツ西部を流れ北海に入る。約二百十哩。❷ドイツの地名。ライン東岸にある著名な溫泉地。

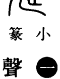
【延綠閣】239 エンリヨクカク 清、華希閔(9－31214··482)の室名。

【延遼館】240 エンレウクワン もと濱離宮の北門に在つた御殿。遠來の國賓を接待した所。

【延爲二西席一】241 ヒイテセイセキトナス 賓師として招待すること。西席は師を尊んで設けた席。轉じて、師を西席と稱する。〔藤森弘庵、春雨樓記〕主人延爲二西席一、付以二育英之任一。

【延綠吟館】242 エンリヨクギンクワン 清、孫勷(3－6987··150)の室名。

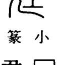
【延】9570


小篆

セイ シヤウ 〔集韻〕諸盈切 庚

❶ゆく。〔說文〕延、行也、从レ廴正聲。❷𨑨(11－38796)・征(4－10077)に同じ。〔說文、段注〕此與二辵部𨑨・征字一音義同。

【廷】9571


小篆

一 テイ ヂヤウ 〔集韻〕唐丁切 ㄊㄧㄥˊ t'ing² 靑

二 テイ ヂヤウ 〔集韻〕徒徑切 徑

一二 ❶ひろには。諸侯が朝し、君主が政事を執り、儀式を行ふひろば。〔說文〕廷、朝中也、从レ廴壬聲。〔段注〕朝中者、中二於朝一也、古、外朝・治朝・燕朝、皆不レ屋在レ廷、故雨霑レ服失レ容則廢。〔釋名、釋宮室〕廷、停也、人所二停集一之處也。〔楚辭、王逸、九思、逢尤〕虎兕爭二於廷中一。〔注〕廷、朝廷也。〔漢書、陸賈傳〕游二漢廷公卿閒一。〔注〕師古曰、廷、朝廷也。❷**つかさ**。官廳。官吏が政務を執り、庶民の訟を決するところ。〔廣雅、釋室〕廷、官也。〔後

漢書、郭太傳〕母欲レ使三給二事縣廷一。〔注〕蒼頡篇曰、廷、直也、風俗通、廷、平也、言、縣廷・郡廷・朝廷、皆取二平均正直一也。㊂**たひらか**。〔廣雅、釋詁三〕廷、平也。〔正字通〕廷、平也。〔漢書、百官公卿表上、廷尉、注〕師古曰、廷、平也、治レ獄貴レ平、故以爲レ號。㊃**ただしい**。直い。〔集韻〕廷、正也、直也。㊄**朝廷での地位**。〔正字通〕廷、朝位也。㊅庭(**4**-**9337**)に通ず。〔說文通訓定聲〕廷、叚借爲レ庭。〔正字通〕廷、古者廷不レ屋、諸侯相朝、雨沾レ衣失レ容則廢、後世始屋レ之、故加レ广、廷・庭、實一字也。〔左氏、定、十四〕夫差使三人立二于廷一。〔釋文〕廷、本又作レ庭。

名乘 タカ。タダ。

【廷安】1 テイアン 古、遠國の諸侯が、朝廷の安否を問はしめるために京師に留めた官名。〔管子、幼官〕三千里之外、諸侯世一至、置二大夫一以爲二廷安一、入共受レ命焉。〔纂詁〕廷安、官名、三千里之外、地既遠、不レ能二數朝聘一、置二大夫於京師一、使レ問二朝廷安否一、故名二廷安一耳。

【廷彝】2 テイイ 明、張經(侯官の人)(**4**-**9812**··255)の字。

【廷威】3 テイヰ 字號。㊀明、仇鉞(**1**-**355**··6)の字。㊁明、莫震(**9**-**31078**··43)の字。

【廷偉】4 テイヰ 明、劉俊(**2**-**2224**··361)の字。

【廷尉】5 テイヰ ㊀官名。又、官署の名。秦、置く。周官の司寇の職に當り、刑辟を掌る。漢初、秦制を受け廷尉を置き、景帝の中元六年、大理と改め、武帝の建元四年、廷尉に復す。後漢は概ね廷尉と稱し、長官を卿とし、其の下に廷尉監・廷尉平があり、專ら獄訟を掌り、郡國の疑獄を兼審す。以後、歷代置き、或は廷尉と稱し、或は大理と稱す。北齊以後は大理寺と稱し、清末、大理院と改め、民國之に因る。我が大審院に當る。大理(**3**-**5831**··2291)の㊃・大理寺(**3**-**5831**··2295)を見よ。〔史記、張釋之傳〕今已下二廷尉一、廷尉天下之平也、壹傾、天下用レ法、皆爲レ之輕重、民安所レ錯二其手足一、唯陛下察レ之。〔漢書、百官公卿表上〕廷尉、秦官、掌二刑辟一、有二正左右監一、秩皆千石。〔注〕師古曰、廷、平也、治レ獄貴レ平、故以爲レ號。〔通典、職官、諸卿、大理卿〕今大理者、亦舜攝二帝位一、皋繇作レ士、正二五刑一、周秋官之任、秦爲二廷尉一、漢因レ之、掌二刑辟一、凡獄必質二之朝廷一、與レ衆共レ之之義也、兵・獄同レ制、故曰二廷尉一、景帝中元六年、更二名大理一、武帝建元四年、復爲二廷尉一、哀帝元壽二年、復爲二大理一、後漢廷尉卿、凡郡國讞疑、皆處レ當以報、皆以二世家一爲レ之、而郭氏尤盛、建安中、復爲二大理一、魏黃初元年、改爲二廷尉一、歷代皆爲二廷尉一、梁國初建曰二大理一、天監元年、復改爲二廷尉一、舊用二黃門一、後視二祕書監一、有二正・監・平三人一、元會廷尉三官、與二建康三官一、皆法冠元衣朝服、以監二東西中華門一、手執二方木一、長三尺一寸、謂二之執方一、陳因レ之、後魏亦曰二廷尉一、北齊曰二大理寺一、置二卿・少卿各一人一、後周有二刑部中大夫一、掌二五刑之法一、附二萬人之罪一、屬二大司寇一、亦其任也、隋初與二北齊一同、至二煬帝一、加二置少卿二人一、大唐龍朔二年、改二大理一爲二詳刑一、咸亨元年復レ舊、光宅元年、改爲二司刑一、神龍元年復レ舊、卿一人、掌下鞫レ獄定二刑名一決中諸疑讞上、少卿二人、正二人、丞六人、主簿二人、司直六人、評事十二人。〔歷代職官表、大理寺、漢〕謹案、廷尉在二西漢一亦稱二大理一、故百官表二名互見、又號爲二理官一、禮志謂、叔孫通所レ撰禮儀與二律令一同錄藏二於理官一、是也、當日尙書雖下有二三公曹一主上レ斷レ獄、而廷尉專掌二邦刑實一、即司寇之任、然考二之於史一、則御史中丞・司隸校尉、亦各有二治獄奏讞之責一、不三盡在二廷尉一、如下薛宣傳、宣子況遮斫二由咸一、中丞奏レ當二棄市一、廷尉以爲レ當三完爲二城旦一、公卿皆是中廷尉上、此則廷尉與二中丞一兩議以上也、蓋寬饒傳、寬饒爲二司隸校尉一、劾奏衆多、廷尉處二其法一、半用半不レ用、此則司隸所レ奏、曲二廷尉一覆治也、陳湯傳、丞相・御史、奏二湯惑レ衆不道一、廷尉增壽議、湯不レ可レ謂レ惑レ衆、非レ所レ宜レ言二大不敬一、制曰、廷尉當レ是、此則兩府所レ治、廷尉亦得二駁奏一也、蓋廷尉與二中丞司隸一、頗似二今之三法司一、而丞相・御史奏當者、則如二今之大學士九卿會議一耳。㊁相術家の語。右の小鼻をいふ。流年運氣(**6**-**17431**··307)を見よ。㊂檢非違使の佐ケスの唐名。〔和漢三才圖會、官位部、檢非違使〕佐、左右、唐名、廷尉、凡名家譜第之中、清撰之職也。

【廷尉監】6 テイヰカン 官名。廷尉の屬。秦、置く。漢には左右監があり、後漢の光武帝の時、右監を省く。魏晉以後は左右無く、廷尉監のみを置く。廷尉を見よ。〔漢書、丙吉傳〕丙吉、字少卿、魯國人也、治二律令一爲二魯獄史一、積二功勞一稍遷至二廷尉右監一、坐レ法失レ官、歸爲二州從事一、武帝末、巫蠱事起、吉以二故廷尉監一徵。〔宋書、百官志〕廷尉監一人、本有二左右監一、漢光武省レ右、猶云二左監一、晉以來直云レ監。〔通典、職官、大理寺〕秦置二廷尉監一、漢有二左右監一、光武省二右監一、唯有二左監一人一、魏晉以來無二左右一、而直云二廷尉監一。

【廷尉卿】7 テイヰケイ 官名。後漢、置く。廷尉を見よ。〔稱謂錄、大理寺職官古稱、廷尉卿〕初學記、梁加二卿字一、曰二廷尉卿一、後並因レ之。

【廷尉正】8 テイヰセイ 官名。秦、置く。廷尉の屬。各時代皆置く。隋以後は大理寺正といふ。廷尉を見よ。〔通典、職官、大理寺〕秦置二廷尉正一、漢因レ之、後漢一人、魏晉謂二正・監・平一爲二廷尉三官一、其後皆有、隋開皇三年、增爲二四員一、煬帝增爲二六員一、大唐二人、通二判寺事一、龍朔二年、改爲二詳刑大夫一、咸亨初、復レ舊。

【廷尉評】9 テイヰヒヤウ 廷尉平を見よ。

【廷尉平】10 テイヰヒヤウ 官名。漢の宣帝、置く。廷尉の屬。又、廷尉評といふ。左右があつたが、後漢の光武の時、右平を省く。魏晉以來は直ちに廷尉評といふ。隋以後は大理寺評事といふ。廷尉を見よ。〔漢書、宣帝紀〕(地節三年)十二月、初置二廷尉平四人一、秩六百石。〔通典、職官、大理寺〕廷尉評事、漢宣帝地節三年、初於二廷尉一置二左右平員四人一、後漢光武省二右平一、唯有二左平一人一、掌下平二決詔獄一冠中法冠上、魏晉以來無二左右一、而直謂二之廷尉評一、後魏・北齊及隋、廷尉評各一人、開皇三年、罷、至二煬帝一、乃置二評事四十八人一、掌與二司直一同、其後官廢、唐貞觀二十二年、褚遂良議レ重二法官一、復奏置二評事十員一、掌二出使推覆一、後加二二人一爲二十二員一。

【廷尉泣獄】11 テイヰキフゴク 後漢の盛吉が廷尉となつて冬至の夜、泣き乍ら獄を決した故事。〔歲華紀麗、冬至〕後漢盛吉爲二廷尉一、每二冬至夜一定レ罪決レ斷、妻執レ燭、吉持二丹筆一、夫妻相向、垂レ泣決レ事。

【廷尉決事】12 テイヰケツジ 書名。二十卷。唐書藝文志に見ゆ。廷尉の裁判に關する判決例を集めたもの。廷尉挈令を見よ。〔唐書、藝文志二〕廷尉決事、二十卷。

【廷尉挈令】13 テイヰケツレイ 廷尉の裁判に關する判決例を集めたもの。廷尉決事を見よ。〔史記、張湯傳〕奏二讞疑事一、必豫先爲レ上分二別其原一、上所レ是、受而著二讞決法廷尉絜令一、揚二主之明一。〔注〕集解曰、韋昭曰、在二板絜一也、正義曰、按、謂二律令一也、古以レ板書レ之、言、上所レ是著レ之爲二正獄一、以二廷尉法令一、決二平之一、揚二主之明監一也。〔後漢書、應劭傳〕輒撰二具律本章句・尙書舊事・廷尉板令・決事比例・司徒都目・五曹詔書、及春秋斷獄、凡二百五十篇一、蠲二去復重一爲二之節文一、又集二駁議三十篇一、以レ類相從。

【廷尉三官】14 テイヰサンクワン 廷尉の屬の三官。廷尉正・廷尉監・廷尉平。廷尉を見よ。〔魏志、鮑勛傳〕勛收付二廷尉一、廷尉法議二正刑五歲一、三官駁、依レ律罰二金二斤一、帝大怒、收二三官已下一付二刺姦一。〔孫逢吉、職官分紀〕魏廷尉三官、通視二蘭臺治書一、舊爲二尙書郎下遷一。〔歷代職官表、大理寺、三國〕謹案、自レ漢而後、以二正・監・平一爲二廷尉三官一、而如二鮑勛傳所一レ言、則廷尉所レ處當者、三官又將レ爲二駁議一、是三官雖レ屬二廷尉一、實各舉二其職一、不二必盡相沓稟一矣。

【廷尉駁事】15 テイヰバクジ 書名。十一卷。唐書藝文志に見ゆ。廷尉が其の下級審の裁判に對して反對の意見を附して返付した文書を集めたもの。〔唐書、藝文志二〕廷尉駁事、十一卷。

【廷祐】16 テイイウ 明、錢瓚(**11**-**40563**··109)の字。

【廷筠】17 テイヰン 唐、溫庭筠(**7**-**17968**··284)の一名。

【廷羽】18 テイウ 明、吳廷(**2**-**3365**··314)の一名。

【廷永】19 テイエイ 明、黃譽(**12**-**47926**··886)の字。

【廷益】20 テイエキ 字號。㊀明、于謙(**1**-**252**··42)の字。㊁明、龔謙(**12**-**48837**··21)の字。

【廷延】21 テイエン 明、韓士英(**12**-**43159**··293)の字。

【廷嘉】22 テイカ 明、陳璲（11−41698‥388）の字。

【廷楷】23 テイカイ 清、侯康（1−633‥14）の原名。

【廷皓】24 テイカウ 唐、溫庭皓（7−17968‥285）の一名。

【廷綱】25 テイカウ 明、鄭紀（11−39647‥59）の字。

【廷誥】26 テイカウ 明、周洪（2−3441‥197）の字。

【廷諤】27 テイガク 清、王鳴韶（7−20823‥2127）の號。

【廷鶚】28 テイガク 高麗の學者。官は書學博士。〔東國通鑑〕・〔東史綱目〕。

【廷韓】29 テイカン 明、莫是龍（9−31078‥110）の字。

【廷鑑】30 テイカン 字號。㊀明、邵智（11−39343‥49）の字。㊁清、王文清（7−20823‥2075）の字。

【廷寄】31 テイキ 清代、軍機大臣が天子から直接承った軍事上の機密事項を、兵部に封交し、各省に遞送する文書。〔脅曝雜記、一〕軍機處有二廷寄諭旨一、凡機事慮二漏泄一不レ便二發抄一者、則軍機大臣面承後、撰擬進呈發出、卽封二入紙函一、用二辦理軍機處銀印一、鈐レ之交二兵部一、加レ封發レ驛馳遞。

【廷貴】32 テイキ 字號。㊀明、桑琳（6−14772‥153）の字。㊁明、唐珣（2−3709‥179）の字。㊂明、王輿（7−20823‥1031）の字。

【廷毀】33 テイキ 廷譏（37）に同じ。〔史記、袁盎傳〕今兒廷二毀我一。

【廷暉】34 テイキ 字號。㊀明、夏葵（3−5720‥51）の字。㊁明、蔣暉（9−31820‥20）の字。

【廷輝】35 テイキ 字號。㊀宋、姚舜明（3−6202‥170）の字。㊁明、夏葵（3−5720‥51）の字。㊂明、曹璘（5−14297‥191）の字。㊃明、褚璵（10−34457‥34′）の字。㊄明、汪杲（6−17154‥20）の字。

【廷器】36 テイキ 字號。㊀漢、東野環（6−14499‥688）の字。㊁元、聶珪（9−29179‥6）の字。㊂明、袁璘（10−34152‥157）の字。㊃明、韓鼎（12−43159‥175）の字。㊄明、洪彝（6−17402‥135）の字。㊅明、薛希璉（9−32123‥150）の字。㊆明、張鎣（4−9812‥55）の字。㊇明、陳璉（11−41698‥610）の字。㊈明、勞鉞（2−2410‥11）の字。㊉明、王瑜（7−20823‥1025）の字。

【廷譏】37 テイキ 朝廷でそしる。他人を朝廷の衆人の前でそしること。〔風俗通、正失〕誼又惡二通爲一レ人、數廷二譏之一。

【廷儀】38 テイギ ㊀朝廷の儀式。宸儀。〔韻府引、唐會要〕廷儀肅穆、升降俯仰、衆人不レ宜レ得レ見。㊁字號。㋑明、紀紘（8−27234‥20）の字。㋺明、喬縉（2−3990‥36）の字。㋩明、白昂（8−22678‥150）の字。㋥明、李文鳳（6−14459‥1921）の字。

【廷議】39 テイギ ㊀朝廷で評議する。政府の意見。朝議。〔魏書、孫惠蔚傳〕廷二議得失一。㊁明、許論（10−35298‥225）の字。

【廷炬】40 テイキョ 唐、陳元光（11−41698‥824）の字。

【廷琚】41 テイキョ 明、貝瓊（10−36656‥16）の字。

【廷擧】42 テイキョ 字號。㊀明、許翀（10−35298‥172）の字。㊁明、周能（2−3441‥407）の字。㊂明、蕭選（9−32012‥202）の字。

【廷玉】43 テイギョク 字號。㊀元、張德琪（4−9812‥1417）の字。㊁元、白斑（8−22678‥827）の字。㊂明、侯璡（1−633‥51）の字。㊃明、周璽（遷安の人）（2−3441‥234）の字。㊄明、周瑄（2−3441‥336）の字。㊅明、孫玘（3−6987‥53）の字。㊆明、田玹（7−21723‥90）の字。㊇明、東野玘（6−14499‥685）の字。㊈明、邊珪（11−39216‥58）の字。㊉明、柳瑛（6−14662‥14）の字。⓫明、陸瑜（11−41708‥237）の字。

【廷衿】44 テイキン 宋、王梁材（7−20823‥2173）の字。

【廷和】45 テイクヮ 字號。㊀明、曾鈞（5−14299‥34）の字。㊁明、王鑾（大庾の人）（7−20823‥1053）の字。

【廷槐】46 テイクヮイ 庭の槐樹。〔呂覽、過理〕一二於此一不レ若レ死、乃觸二廷槐一而死。

【廷魁】47 テイクヮイ 科擧時代の廷試の首選者。〔揮麈前錄、二〕本朝狀元登庸者、呂文穆・李文定・王文正・宋元憲、後數十年、李士美・何文縝、亦以二廷魁一而歷二至鼎席一。

【廷鑛】48 テイクヮウ 清、程晉芳（8−25081‥236）の初名。

【廷祼】49 テイクヮン 明、陳瓚（11−41698‥278）の字。

【廷訓】50 テイクン 明、方鯉（5−13620‥454）の字。

【廷圭】51 テイケイ 字號。㊀明、袁珪（10−34152‥48）の字。㊁明、薩琦（9−32189′‥2）の字。

【廷奎】52 テイケイ 明、鄭瑞星（11−39647‥462）の字。

【廷桂】53 テイケイ 清、滿洲正白旗人。姓は輝發那拉氏。字は芳宇。道光の擧人。官は永州知府。著に仿玉局黃樓詩集がある。

【廷珪】54 テイケイ 字號。㊀元、三寶柱（1−12‥1882）の字。㊁明、王珙（7−20823‥248）の字。

【廷敬】55 テイケイ 清、顧宗瑋（12−43689‥311）の字。

【廷逆】56 テイゲキ 朝廷でさからふこと。〔論衡、定賢〕無二廷逆之郄一、則無二斥退之患一。

【廷杰】57 テイケツ 明、賈俊（10−36755‥79）の字。

【廷傑】58 テイケツ 字號。㊀宋、蔡和（9−31818‥132）の字。㊁元、張惠（4−9812‥252）の字。㊂明、陳賢（11−41698‥228）の字。

【廷見】59 テイケン 朝廷でまみえる。〔史記、萬石傳〕屛レ人恣言極切、至二廷見一、如二不レ能レ言者一。

【廷堅】60 テイケン 字號。㊀明、任壇（1−416‥140）の字。㊁明、汪存（6−17154‥95）の字。㊂清、盛錦（8−23005‥46）の字。

【廷憲】61 テイケン 字號。㊀明、姜立綱（3−6205‥123）の字。㊁明、譚紀（10−35978‥8）の字。

【廷獻】62 テイケン ㊀字號。㋑明、項穎（12−43343‥5）の字。㋺明、黃琛（12−47926‥659）の字。㋩明、霍球（12−42321‥12）の字。㋥明、吳璋（2−3365‥216）の字。㋭明、曹珪（5−14297‥68）の字。㋬明、陶珪（11−41705‥53）の字。㋣明、張瓚（4−9812‥337）の字。㋠明、翟瓚（9−28727‥18）の字。㋷明、萬琛（9−31339‥356）の字。㊁清、譚獻（10−35978‥15）の原名。

【廷言】63 テイゲン 字號。㊀唐、蘇詵（9−32427‥128）の字。㊁明、柯昌（6−14658‥11）の字。㊂明、費閶（10−36717‥13）の字。「字。

【廷彥】64 テイゲン 清、陳德榮（11−41698‥1167）の

【廷孔】65 テイコウ 婦人の前陰の穴。尿道の端。〔素問、骨空論〕督脈者起二於少腹以下骨中央一、女子入繫二廷孔一、其孔、溺孔之端也。〔注〕繫二廷孔一者、謂二窈漏近一、所謂前陰穴也、以二其陰廷一繫二屬於中一、故名レ之。

【廷功】66 テイコウ 明、莊敏（9−31035‥124）の字。

【廷佐】67 テイサ 字號。㊀宋、宋之才（3−7078‥287）の字。㊁明、華仲賢（9−31214‥505）の字。㊂明、謝佑（10−35827‥8）の字。㊃明、莫相（9−31078‥35）の字。㊄明、盧雍（江寧の人）（8−23050‥173）の字。

【廷采】68 テイサイ 字號。㊀明、張璞（松江の人）（4−9812‥607）の字。㊁明、王璟（7−20823‥327）の字。

【廷爭】69 テイサウ 朝廷の多數の面前で諫めあらそふこと。廷諍。〔史記、呂后紀〕面折廷爭。〔史記、周昌傳〕及丁帝欲丙廢二太子一、而立二戚姬子如意一爲乙太子甲、周昌廷二爭之一彊。〔漢書、外戚恩澤表序〕王陵廷爭。〔後漢書、李固傳〕無二廷爭之忠一。

【廷諍】70 テイサウ 廷爭に同じ。〔後漢書、王陵傳〕于二面折廷諍一、臣不レ如レ君。〔歐陽脩、論三杜衍范仲淹等罷二政事一狀〕公言廷諍。

【廷作】71 テイサク 清、沈紹賓（6−17189‥575）の字。

【廷贊】72 テイサン 字號。㊀清、鄭三才（11−39647‥392）の字。㊁清、郎際昌（11−39431‥65）の字。

【廷瓚】73 テイサン 清、郎際昌（11−39431‥65）の字。

【廷史】74 テイシ 廷尉の書記。史は書記。〔史記、酷吏傳〕杜周、初徵爲二廷史一。

【廷試】75 テイシ ㊀科擧時代、朝廷で行ふ試驗、卽ち殿試・朝考をいふ。科擧（8−24950‥13）を見よ。〔宋史、劉攽傳〕廷試始用レ策、初考官呂惠卿列二阿レ時者一在二高等一、訐レ直者反居レ下、攽覈考悉反レ之。〔宋史、秦檜傳〕師遜等初知二貢擧一、卽語レ人曰、吾曹可二以富貴一矣、及二廷試一、檜又奏。〔老學庵筆記、九〕紹興初、張子韶亦夢レ魁二天下一、比省試類榜坐位圖出、其第一人則張九成也、公殊快快、及二廷試一、唱名亦冠二多士一、與二元憲一事正同。〔明史、選擧志二〕會試中式者、天子親策二於廷一、曰二廷試一、亦曰二殿試一。㊁明、劉憲（益陽の人）（2−2224‥253）の字。

【廷贄】76 テイシ 字號。㊀明、秦巘（8−24995‥67）の字。㊁明、屠琛（4−7761‥56）の字。

【廷璽】77 テイジ 字號。㊀明、黃珣（12−47926‥479）の字。㊁明、周琦（2−3441‥88）の字。

【廷秀】78 テイシウ 字號。㊀宋、楊萬里（6−15112‥758）の字。㊁明、何喬新（1−511‥258）の字。㊂明、叢蘭（2−3220‥91）の字。㊃明、孫芝（3−6987‥135）の字。㊄明、蘭茂（9−32519‥261）の字。

【廷式】79 テイシキ 字號。㊀明、張憲（4−9812‥278）の

字。❷明、童品(8－25775‥94)の字。

【廷叱】80 テイシツ　朝廷でしかる。〔史記、藺相如傳〕夫以二秦王之威一而相如廷二叱之一。

【廷實】81 テイジツ　字號。❶五代呉越、裴堅(10－34362‥33)の字。❷宋、文復之(5－13450‥1034)の字。❸明、張詡(4－9812‥221)の字。❹明、趙璜(10－37171‥125)の字。❺明、聞璋(9－29104‥29)の字。❻明、邊貢(11－39216‥70)の字。

【廷輯】82 テイシフ　明、林日瑞(6－14551‥348)の字。

【廷祥】83 テイシヤウ　明、張元禎(4－9812‥1011)の字。

【廷章】84 テイシヤウ　字號。❶明、姚鏞(3－6202‥112)の字。❷明、夏崇文(3－5720‥334)の字。❸明、過儀(11－39002‥37)の字。❹明、沐璘(6－17201‥40)の字。「字。

【廷璋】85 テイシヤウ　明、趙善瑛(10－37171‥742)の字。

【廷受】86 テイジユ　清、黄丹書(12－47926‥1235)の字。

【廷授】87 テイジユ　❶朝廷で官爵等を授けること。〔韓愈、平二淮西一碑〕蔡帥之不二廷授一、于レ今五十年。❷清、黄丹書(12－47926‥1235)の字。

【廷肅】88 テイシユク　明、林紀(6－14551‥59)の字。

【廷述】89 テイジユツ　明、姚紹(3－6202‥79)の字。

【廷俊】90 テイシユン　❶明の僧。樂平の人。字は用章。號は泊川。元の至正の末、錢塘の淨慈寺の住持となる。明初、鍾山に徙り、端坐して逝く。著に泊川集がある。〔明詩綜、九十〕❷字號。㋑宋、汪伯彥(6－17154‥324)の字。㋺明、柴傑(6－14664‥29)の字。

【廷書】92 テイシヨ　明、宋琰(3－7078‥18)の字。

【廷曙】93 テイシヨ　明、張旭(4－9812‥205)の字。

【廷辱】94 テイジヨク　朝廷の滿座の中で辱かしめる。廷折。〔史記、袁盎傳〕廷二辱之一、使二其毀不一レ用。〔漢書、張釋之傳〕嘗召居二廷中一、公卿盡會立、王生顧謂二釋之一、爲レ我結レ韈、釋之跪而結レ之、既已人或讓二王生一、獨奈何廷二辱張廷尉一如レ此、王生曰、吾老且賤、自度終亡レ益二於張廷尉一、廷尉方天下名臣、吾故聊使レ結レ韈、欲二以重一レ之。

【廷心】95 テイシン　字號。❶元、余闕(1－515‥21)の字。❷明、張萊(4－9812‥714)の字。

【廷臣】96 テイシン　❶朝廷の家來。政府の官吏。朝臣。〔史記、田叔傳〕漢廷臣毋下能出二其右一者上。❷字號。㋑宋、陳朝老(11－41698‥1151)の字。㋺明、何忠(1－511‥158)の字。㋩明、黄諫(12－47926‥161)の字。㋥明、孟忠(3－6960‥202)の字。㋭明、俞蓋(1－1437‥41)の字。㋬明、貝瓊(10－36656‥16)の字。

【廷信】97 テイシン　字號。❶明、孫璽(代州の人)(3－6987‥141)の字。❷明、陶琰(11－41705‥21)の字。❸明、劉璋(南平の人)(2－2224‥343)の字。

【廷振】98 テイシン　明、呂紀(2－3386‥30)の字。

【廷進】99 テイシン　明、崔陞(4－8178‥101)の字。

【廷愼】100 テイシン　字號。❶明、許伯旅(10－35298‥380)の字。❷明、胡謐(9－29400‥316)の字。

【廷縉】101 テイシン　明、葉紳(9－31387‥86)の字。

【廷吹】102 テイスイ　明、周詩雅(2－3441‥695)の字。

【廷推】103 テイスイ　明代、官吏の銓選の法。すべて三品以上及び九卿・僉都御史・祭酒等の官は、二人或は三人の推薦によつて、君主が任用を決定すること。〔明史、選擧志三〕內閣大學士、吏部尙書、由二廷推一或奉二特旨一、侍郎以下及祭酒、吏部會同三品以上廷推、太常卿以下部推、外官惟督撫廷推、九卿共レ之、吏部主レ之。〔明會典〕推陞、舊制、陞必滿レ考、若員缺當レ補、不レ待二考滿一者曰二推陞一、類推上一人、單推上二人、三品以上、九卿及僉都祭酒、廷推上二人、閣臣吏兵二部尙書會大九卿、五品以上、官及科道、廷推上二人、或再上三四人、皆請自レ上裁。

【廷瑞】104 テイズイ　❶字號。㋑宋、卓琮(2－2741‥56)の字。㋺元、察罕帖木兒(3－7283‥15)の字。㋩明、和鸞(2－3490‥404)の字。㋥明、鄺璠(11－39711‥1)の字。㋭明、孫玘(3－6987‥53)の字。㋬明、張緒(常熟の人)(4－9812‥420)の字。㋣明、童琥(8－25775‥36)の字。❷明、胡美(9－29400‥312)の初名。

【廷韶】106 テイセウ　明、秦夔(8－24995‥38)の字。

【廷碩】107 テイセキ　字號。❶唐、蘇頲(9－32427‥151)の字。❷唐、武儒衡(6－16273‥440)の字。❸宋、崔貢(4－8178‥80)の字。❹宋、錢俁(11－40563‥83)の字。

【廷錫】108 テイセキ　字號。❶元、沈禧(6－17189‥99)の字。❷明、何喬福(1－511‥259)の字。

【廷折】109 テイセツ　朝廷の多數の面前で辱かしめること。廷辱。〔唐書、柳澤傳〕澤從祖範、貞觀中爲二侍御史一、時呉王恪好二田獵一、範彈二治之一、太宗曰、權萬紀不レ能三輔二道恪一、罪當レ死、範進曰、房玄齡事二陛下一、猶不レ能三諫二止畋獵一、豈宜三獨罪二萬紀一、帝怒、拂レ衣起、頃之召謂曰、何廷二折我一、範謝曰、主聖則臣直、陛下仁明、敢不レ盡レ愚、帝乃解。

【廷說】110 テイセツ　朝廷で說くこと。〔戰國、秦策〕伏レ軾撙レ銜、横二歴天下一、廷二說諸侯之士一、杜二左右之口一、天下莫二之伉一。

【廷節】111 テイセツ　字號。❶明、江柏(6－17140‥377)の字。❷明、戴琥(5－11685‥59)の字。

【廷先】112 テイセン　清、張道浚(4－9812‥1334)の字。

【廷選】113 テイセン　朝廷でえらぶ。〔韓愈、故幽州節度判官贈給事中清河張君墓誌銘〕父子繼續、不二廷選一且レ久。

【廷薦】114 テイセン　明、涂一榛(6－17518‥19)の字。

【廷善】115 テイゼン　明、姜寶(3－6205‥66)の字。

【廷對】116 テイタイ　❶朝廷で天子の問にこたへること。〔後漢書、邳彤傳論〕彤廷對曰、議者之言、皆非也。〔宋史、高登傳〕紹興二年廷對、極レ意盡レ言、無レ所二顧避一。❷明、馮士元(12－44579‥219)の字。

【廷道】117 テイダウ　朝廷の道路。〔穀梁、襄、二十四〕廷道不レ除。〔注〕廷內道路不二脩除一。

【廷張】118 テイチヤウ　明、李綱(6－14459‥128)の字。

【廷杖】119 テイチヤウ　官吏に過失があり、或は諫を犯して旨に忤つた場合、殿陛の下で杖撃すること。杖刑は古來から有つたが、明代に至つて遂に常刑となつた。〔林俊、諫二廷杖一疏〕昔成湯、改レ過不レ吝、陛下儷二德堯舜一、于レ湯何有哉、伏望蚤降二溫旨一、以答二幽明一、慰二人望一、臣又聞、古者撻二人于朝一、與レ衆辱レ之而已、非丁必欲丙壞二爛其體膚一而致乙之死甲也、亦非四所三以待二士大夫一也。〔朱國楨、湧幢小品、廷杖〕隋文帝本紀、稱二殿廷撻一レ人、唐玄宗時、御史蔣挺決二杖朝堂一、爲二廷杖之始一、成化以前、凡廷杖者不レ去レ衣、用二厚綿底衣一、重レ氈疊レ帊、示レ辱而已、然猶臥レ牀數月而後得レ愈、正德初年、逆瑾用レ事、惡二廷臣一、始去レ衣、遂有二杖死者一。

【廷中】120 テイチユウ　朝廷の中。〔史記、高祖紀〕廷中吏無レ所レ不二狎侮一。

【廷椿】121 テイチユン　清、侯度(1－633‥67)の原名。

【廷直】122 テイチヨク　字號。❶明、黄諤(餘姚の人)(12－47926‥147)の字。❷明、唐侃(2－3709‥40)の字。❸明、史忠(2－3249‥123)の字。❹明、趙弼(太和の人)(10－37171‥315)の字。❺明、王諤(奉化の人)(7－20823‥158)の字。

【廷珍】123 テイチン　字號。❶宋、呉縝(2－3365‥251)の字。❷明、徐待聘(4－10110‥544)の字。❸明、宋玉(3－7078‥56)の字。❹明、戴珊(5－11685‥65)の字。❺明、張琦(慈溪の人)(4－9812‥170)の字。❻明、劉琦(2－2224‥151)の字。

【廷丁】124 テイテイ　裁判所で、法廷の雜務、又は其の書類の送達に任ずる雇員。

【廷肇】125 テイテウ　明、陳建(11－41698‥222)の字。

【廷內】126 テイナイ　朝廷のなか。宮中。〔詩、唐風、山有樞〕子有二廷內一、弗レ洒弗レ埽。

【廷佩】127 テイハイ　字號。❶明、魏紳(12－45872‥90)の字。❷明、阮琳(11－41569‥47)の字。❸清、胡鳴玉(9－29400‥622)の字。

【廷芳】128 テイハウ　字號。❶明、夏芷(3－5720‥139)の字。❷明、周蕙(2－3441‥148)の字。❸明、潘蕃(7－18236‥80)の字。❹明、沐琮(6－17201‥28)の字。

【廷寶】129 テイハウ　五代呉越、呉仁璧(2－3365‥687)の字。

【廷美】130 テイビ　字號。❶唐、鄭處晦(11－39647‥444)の字。❷元、黄元實(12－47926‥1077)の字。❸明、夏叟(3－5720‥192)の字。❹明、許讚(10－35298‥99)の字。❺明、黄瑜(12－47926‥884)の字。❻明、曹玉(5－14297‥50)の字。❼明、劉玨(2－2224‥116)の字。❽明、梁璟(6－14825‥70)の字。

【廷謐】131 テイヒツ　明、鮑寧(12－46074‥66)の字。

【廷賓】132 テイヒン　明、梁覲(6－14825‥58)の字。

【廷平】133 テイヘイ　唐代、大理評事の別名。〔容齋四筆、官稱別名〕大理爲二棘卿一、評事爲二廷平一。

【廷璧】134 テイヘキ　字號。❶元、李元珪(6－14459‥11

63）の字。❷明、霍瑄（12－42321‥32）の字。❸明、周玉（2－3441‥111）の字。❹明、戴珙（5－11685‥38）の字。❺明、樊瑩（6－15414‥5）の字。

【廷辯】135テイベン 朝廷で論判すること。〔宋史、職官志四〕大事則廷辯、小事則奏彈。

【廷甫】136テイホ 明、貢珊（10－36665‥24）の字。

【廷輔】137テイホ 字號。❶明、袁旭（10－34152‥34）の字。❷明、謝輔（10－35827‥209）の字。

【廷鳴】138テイメイ 明、畢鏘（7－21829‥31）の字。

【廷茂】139テイモ 明、蘇韡（9－32427‥4）の字。

【廷揚】140テイヤウ 宋、羅孝芬（9－28397‥309）の字。

【廷颺】141テイヤウ 清、吳熙載（2－3365‥494）の原名。

【廷裕】142テイユウ 唐、裴庭裕（10－34362‥151）の一名。

【廷予】143テイヨ 明、蔡錫（9－31818‥60）の字。

【廷用】144テイヨウ 字號。❶明、印寶（2－2848‥148）の字。❷明、溫琮（7－17968‥162）の字。❸明、黃寶（長沙の人）（12－47926‥750）の字。❹明、阮玘（11－41569‥8）の字。❺明、崔璽（4－8178‥90）の字。❻明、石璟（8－24024‥34）の字。❼明、錢輅（11－40563‥235）の字。❽明、浦鏞（6－17475‥33）の字。

【廷雍】145テイヨウ 清、滿洲人。姓は覺羅氏。字は紹民（邵民）。號は晝巢・溪山野客。官は直隸布政使。光緒庚子年、義和團に參加したと疑はれ、各國聯合軍に殺さる。〔清史稿、四百七十二〕。

【廷老】146テイラウ 宋、饒幹（12－44400‥13）の字。

【廷吏】147テイリ 朝廷の役人。〔韓非子、八姦〕大臣廷吏、人主之所㆓與度計㆒也。

【廷理】148テイリ 廷尉（5）に同じ。刑法を掌る官。〔韓非子、外儲說右上〕荊莊王有㆓茅門之法㆒、曰、羣臣大夫諸公子入朝、馬蹄踐㆑霤者、廷理斬㆓其輈㆒、戮㆓其御㆒。〔說苑、至公〕凡立㆓廷理㆒者、將㆘以司㆑犯㆓王令㆒而察㆖觸㆓國法㆒也。

【廷良】149テイリヤウ 明、李貴（6－14459‥182）の字。

【廷綸】150テイリン 字號。❶明、何詔（1－511‥130）の字。❷明、許誥（10－35298‥35）の字。❸明、蒙詔（9－31555‥107）の字。❹清、章詔（8－25761‥111）の字。

【廷禮】151テイレイ 元、姚登孫（3－6202‥191）の字。

【廷論】152テイロン 朝廷の論議。〔史記、武安侯傳〕今日廷論局趣、效㆓轅下駒㆒。

【廷巴克圖】153チンブクツー 地名。アフリカ、スダンの都邑でニジエル河に臨む。隊商貿易の中心地。Timbuktu

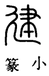
五畫

【⿺廴㐱】9572 チン 趁（10－37083）に同じ。〔集韻〕趁、或从㆑廴。

【廽】9573 クワイ 廻（4－9575）に同じ。〔康熙字典〕廽、按、韻書無㆓此廽字㆒、據㆓廣韻㆒廽當㆑作㆑廻。

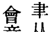
六畫

【建】9574 [一]ケン コン 〔集韻〕居萬切 ㄐㄧㄢˋ chien⁴ 願 [二]ケン コン 〔集韻〕紀偃切 阮


小篆

[一]❶たつ。㋑おきてをたてる。定める。〔說文〕建、立㆓朝律㆒也、从㆑聿从㆑廴。〔說文通訓定聲〕建、从㆓律省・廷省㆒、會意。〔注〕建、立也。〔素問、五運行大論〕考㆓建五常㆒。〔注〕建、謂㆓建立㆒也。㋺おこす。封ず。〔周禮、天官、序官〕惟王建㆑國。〔注〕建、立也。〔周禮、夏官、量人〕掌㆓建㆑國之灋㆒。〔禮、祭法〕分㆑地建㆑國。〔注〕建㆑國、封㆓諸侯㆒也。㋩まつすぐにする。樹立する。〔儀禮、大射禮〕建㆑鼓在㆓阼階西㆒。〔注〕建、猶㆑樹也。〔尙書大傳、略說〕九十、枝而朝、見㆑君建㆑杖。〔注〕建、樹也。〔老子、五十四〕善建者不㆑拔。〔河上公注〕建、立也。㋥置く。〔韻會〕建、置也。㋭設ける。〔老子、四十一〕故建言有㆑之。〔河上公注〕建、設也。㋬布告する。〔周禮、天官、小宰〕掌㆓建㆑國之宮刑㆒。〔注〕建、明布㆓告之㆒。㋣建議する。意見を陳べる。〔漢書、鄒陽傳〕皆建以爲㆓不可㆒。〔注〕師古曰、建、謂㆑立㆑議。〔漢書、東平思王宇傳〕建欲㆑使㆔我輔㆓佐天子㆒。〔注〕師古曰、建、謂㆑立㆓其議㆒。㋠なす。〔戰國、秦策〕然後可㆑建㆓大功㆒。❷をさす。北斗星の斗柄が或る方向を指す。〔後漢書、律曆志〕斗建移㆑辰。❸たつ。建除家で吉凶によつて附けた日の名。建寅の年には、正月には寅、二月には卯、三月には辰の日が之に當る。建除十二神（118）を見よ。〔淮南子、天文訓〕寅爲㆑建。❹星の名。北斗の上に在る六星。〔周髀算經、下〕日月俱起㆓建星㆒。〔注〕建、六星、在㆓斗上㆒。❺すきのくさび。〔耒耜經〕犁評之上曲而衡者曰㆑建、斲㆑木爲㆑之、建、捷也、所㆔以抳㆓其轅與㆒㆑評、無㆑是則二物躍出、箭不㆑能㆑止。❻はさむ。捷（5－12216）の誤字。〔說文通訓定聲〕建、爲㆓捷之誤字㆒、按、古多借㆑捷爲㆑插、儀禮注皆訓㆑扱、扱者、插也。〔儀禮、士冠禮〕建㆑柶。〔注〕建㆑柶、扱㆓柶於醴中㆒。〔儀禮、士昏禮〕建㆑柶興。〔注〕建、猶㆑扱也。❼およぶ。逮（11－38931）の誤字。〔說文通訓定聲〕建、爲㆓逮之誤字㆒。〔國語、周語上〕使㆓於晉㆒者、道相建也。〔注〕建、及也。❽かぎ。鍵（11－40654）に通ず。〔說文通訓定聲〕建、叚借爲㆑鍵。〔禮、樂記〕名㆑之曰㆓建櫜㆒。〔注〕建、讀爲㆑鍵、字之誤也。❾かんぬき。楗（6－15136）に通ず。〔說文通訓定聲〕建、叚借爲㆑楗、按、左、襄廿五傳、楚屈建、哀十六傳、太子建、皆字子木。❿木の名。〔廣韻〕建、木名、在㆓弱水㆒、直上百仞無㆑枝。⓫ながい。おほきい。〔後漢書、馬融傳〕建木叢生。〔注〕建木、長木也。⓬**福建省の略稱**。建茗（157）・建蘭（160）を見よ。⓭**姓**。〔萬姓統譜〕建、羋姓、晉大夫子建之後。[二]❶くつがへす。建瓴（167）を見よ。〔集韻〕建、覆也。❷或は攓（5－12599）に作る。〔集韻〕建、或作㆑攓。

名乘 タケ。タテ。

解字 會意。律の省畫聿と廷の省畫廴との合字。故に朝律をたてるを本義とする。おきてを定める義。廷は朝廷の意。〔說文通訓定聲〕建、立㆓朝律㆒也、从㆑聿从㆑廴、按、从㆓律省・廷省㆒、會意。▽ （金文）會意。聿と廴との合字。眞直にのびやかに立つ筆の意。

【建安】1ケンアン ❶道名。民國、置く。福建省治の西北。南平・將樂・沙・尤溪・順昌・永安・建甌・建陽・崇安・浦城・政和・松溪・邵武・光澤・泰寧・建寧の十六縣を管轄す。❷郡名。㋑三國吳、置く。宋、建寧府といふ。故治は福建省建甌縣。〔讀史方輿紀要、福建〕建寧府、禹貢揚州地、周爲㆓閩越地㆒、秦屬㆓閩中郡㆒、漢屬㆓會稽郡㆒、後漢因㆑之、三國吳、永安三年、始置㆓建安郡㆒、晉以後因㆑之、隋平㆑陳廢㆑郡屬㆓泉州㆒、大業中屬㆓建安郡㆒、唐武德四年、置㆓建州㆒、天寶初曰㆓建安郡㆒。㋺南齊、建安左郡を置く。今缺く。湖北省の境。㋩南齊、置く。故治は湖北省天門縣の北。〔讀史方輿紀要、湖廣、安陸府、沔陽州、景陵縣〕雲杜城、在㆓縣北㆒、齊梁置㆓京山縣㆒、後齊置㆓建安郡治㆒焉、西魏改㆑郡曰㆓光川㆒。㋥後魏、置く。故治は山西省祁縣の東。㋭後魏、置く。今の山西省崞縣の地。〔讀史方輿紀要、山西、太原府、代州、崞縣〕崞縣故城在㆓縣西三十五里㆒、東魏於㆓石城縣㆒置㆓廓州㆒、領㆓廣安・永定・建安三郡㆒。❸縣名。㋑後漢の末、孫策、置く。故治は福建省建甌縣。〔讀史方輿紀要、福建、建寧府〕建安縣、附郭、在㆓府治西㆒、本漢治縣地、志云、建安初分㆓侯官之北鄉㆒、置㆓建安縣㆒、一云、建安十二年、孫策所㆑置也、孫

權初建安民亂、討平レ之、尋爲二建安郡治一、晉宋以後因レ之、隋廢レ郡而縣仍レ舊、唐爲二建州治一、自レ是州郡皆治レ此。〔淸史稿、地理志〕福建、建寧府、縣七、建安。㋺南朝宋、置く。今缺く。雲南省舊大理府の境。㋩南朝宋、置く。今缺く。雲南省の境。㋥南朝宋、置く。今缺く。廣西の境。㋭後魏、置く。今缺く。河南省正陽縣の南。〔讀史方輿紀要、河南、汝寧府、眞陽縣、江城〕建安城、在二縣南五十里一、魏收志、建安縣屬二馮翊郡一、蓋東魏僑置郡也。㋬北周、置く。故城は甘肅省平羅縣。〔讀史方輿紀要、陝西、寧夏鎭〕靈武城、在二鎭南一、漢置レ縣屬二北地郡一云云、後魏亦置二靈武縣於此一、屬二靈州一、後周改置二建安縣一。㋣唐、置く。故治は貴州省思南縣の西。〔讀史方輿紀要、貴州、思南府、蠻夷長官司〕牂牁廢縣、在二府西一、唐武德二年、改レ縣曰二建安一。㋠遼、置く。故治は滿洲遼寧省蓋平縣治。〔讀史方輿紀要、山東、遼東都指揮使司、蓋州衞、平郭城〕建安城、在二衞東南一、漢平郭縣地、高麗置二建安城於此一、唐貞觀十八年伐二高麗一、張儉進渡二遼水一趣二建安城一、又李世勣言、建安在二南安市一、在二北安市一、先下然後向二建安一、二城蓋相近也、儀鳳初徙二熊津都督府於建安故城一、其百濟戸口先徙二徐兗等州一者、皆置二建安一、舊志自二遼東城一西南行三百里、至二建安城一、遼置二建安縣一、蓋循二故名一耳、非二卽舊城一也。❹城の名。甘肅省成縣の北。後魏の太和元年、皮喜、楊鼠を仇池に討ち、軍を建安に進む。鼠、城を棄てて遁る。〔水經、漾水注〕建安水經二建安城南一、其地故西縣之歷城也、云云、後改爲二建安一。❺年號。㋑後漢の獻帝、劉協の時。（196－220）㋺宋代、南詔の保定帝、段正明の時。（約1082－1099）❻明、郭遇卿（**11－39474**・・273）の字。

〖建安骨〗2ケンアンコツ　詩篇に建安七子の風骨のあること。建安體を見よ。〔李白、餞二校書叔雲一詩〕蓬萊文章建安骨、中閒小謝又淸發。〔滄浪詩話、詩評〕黃初之後、惟阮籍詠懷之作、極爲二高古一、有二建安風骨一。

〖建安體〗3ケンアンタイ　詩の一風。建安は後漢の獻帝の年號。時の文豪曹操父子及び建安七子が盛に作つた詩の體をいふ。建安七子を見よ。〔滄浪詩話、詩體〕建安體、漢末年號、曹子建父子及鄴中七子之詩。〔馮班、滄浪詩話糾繆〕子建・公幹、文章之聖、仲宣・休璉、多有二名作一、若二元瑜・孔璋一、書記翩翩、不下以二詞賦一稱上、建安詩體、似レ不レ在二此人一、不レ當三兼二言七子一也。

〖建安七子〗4ケンアンシチシ　後漢の建安年間、詩文を以て世に名を博した七人、孔融・陳琳・王粲・徐幹・阮瑀・應瑒・劉楨。鄴中に居たから又鄴中七子ともいふ。〔魏文帝、典論、論文〕今之文人魯國孔融文擧、廣陵陳琳孔璋、山陽王粲仲宣、北海徐幹偉長、陳留阮瑀元瑜、汝南應瑒德璉、東平劉楨公幹、斯七子者、于レ學無レ所レ遺、于レ辭無レ所レ假、咸以下自騁二驥騄于千里一、仰齊レ足而並馳上、以レ此相服亦良難矣。〔小學紺珠、名臣類下、建安七子〕孔融字文擧、陳琳字孔璋、王粲字仲宣、徐幹字偉長、阮瑀字元瑜、應瑒字德璉、劉楨字公幹。

〖建安文學〗5ケンアンブンガク　建安年間の文學。この時代には魏の武帝・文帝・曹植及び建安七子等が輩出して、六朝の先路を開いた。其の詩風は格調高く、或は戰亂の悲慘を、或は征夫思婦の情を述べ、又は兵馬の閒に遊宴するを敍したものが多く、世相の一般を窺ふに足る。

【建威】6ケンヰ　縣名。後周、置く。甘肅省武都縣の北。蜀漢の建興七年、諸葛亮の取つた所。〔讀史方輿紀要、陝西、鞏昌府、階州〕建威城、後漢末所二置レ戍守一處也、蜀漢建興七年、諸葛武侯遣レ兵攻二武都陰平一、魏雍州刺史郭淮、引レ兵救レ之、武侯自出至二建威一、淮退走、武侯遂取二二郡一、延熙中、姜維請レ置二建威諸圍戍一、卽此、炎興初、張翼董厥以二鍾會一來侵二漢中一、將兵詣二陽安關口一、至二陰平一、聞二魏將諸葛緒將レ向二建威一、留住月餘待レ之、後爲二仇池氏所レ據、後魏太平眞君九年、於レ此置二白水郡一、尋改爲レ縣、屬二武都郡一、既而宋取二其地一、泰始二年、武都王楊亢和、治二白水一、棄レ國奔レ魏、是也、西魏復置二白水郡一、又改爲二綏戎郡一、後周郡廢、後改レ縣曰二建威一、屬二武州一、隋因レ之、大業初屬二武都郡一、唐貞觀初、省入二將利一。

〖建威將軍〗7ケンヰシヤウグン　淸代、正一品の武官の封號。〔皇朝通典、兵、武職封蔭〕滿漢武職官階、正一品建威將軍、從一品振威將軍、正二品武顯將軍、從二品武功將軍。

【建猷】8ケンイウ　淸、吳大勳（**2－3365**・・747）の字。

【建寅】9ケンイン　北斗星の斗柄が、初昏に寅の方位をさすこと。夏歷は此の月を以て正月とする。〔論語、衞靈公、行二夏之時一疏〕夏之時、謂下以二建寅之月一爲上正也。〔曹松、客中立春詩〕臘盡星回次、寒餘月建寅。

【建永】10ケンエイ　第八十三代土御門天皇の年號。（1206－1207）〔藤原範光勘文〕文選曰、流二惠不民一、建二永世之業一。

【建窯】11ケンエウ　磁器の名。福建省德化縣の產。其の色白潤、佛像が尤も佳い。德化瓷。〔遵生八牋、論二諸品窯器一〕建窯器多二甆口碗盞一、色黑而滋、有二黃兔毫斑滴珠大者一爲レ眞、但體極厚、薄者少レ見。〔陶說、說古、古窯考〕建窯、在二福泉建州府德化縣一。

【建炎】12ケンエン　南宋、高宗、趙構の年號。（1127－1130）

〖建炎通寶〗13ケンエンツウハウ　宋の高宗の鑄た貨幣。〔古今圖書集成、錢鈔部彙考、宋〕高宗建炎元年九月壬辰、鑄二建炎通寶錢一。

〖建炎以來繫年要錄〗14ケンエンイライケイネンエウロク　書名。二百卷。宋、李心傳撰。高宗の朝、三十六年の事を述ぶ。國史日曆を以て主とし、稗官・野史・家乘・誌狀・案牘・奏議・百司の題名を參へて、最も考證によい。〔四庫提要、史、編年類〕。

〖建炎以來朝野雜記〗15ケンエンイライテウヤザツキ　書名。四十卷。宋、李心傳撰。南渡以後の事蹟を記す。甲乙二集各〻十三門に分る。〔四庫提要、史、政書類〕。

【建烟】16 chien⁴ yen¹　福州產の煙草。

【建甌】17ケンオウ　縣名。民國、置く。舊の建安・甌寧二縣を併せたもの。福建省建陽縣の東南。縣城は松溪と南浦溪との會する所に瀕し、浙閩二省の交通の要衝、建溪流域の茶、每年の輸出、數百萬を下らず、總べて此處に集る。

【建家】18タテヤ　建ててある家。

【建嘉】19ケンカ　南宋の時、安南、惠宗、李旵の年號。（1211－1224）

【建霞】20ケンカ　字號。❶淸、江標（**6－17140**・・405）の字。❷淸、朱鳳標（**6－14424**・・989）の號。

〖建霞樓〗21ケンカロウ　明、李孫宸（**6－14459**・・1653）の室名。

【建牙】22ケンガ　❶軍隊を出す時に牙旗をたてること。轉じて、武臣が兵を率ゐて鎭撫するにいふ。〔南史、宋孝武帝紀〕三月乙未、建二牙于軍門一。〔劉長卿、獻二淮寧軍節度李相公一詩〕建牙吹角不レ聞レ喧、三十登壇世所レ尊。〔南部新書、庚〕近代通謂二府庭一爲二公衙一、卽古之公朝也、字本作レ牙、詩曰、祈父予王之爪牙、祈父司馬、掌二武備一、象下猛獸以二爪牙一爲上衞、故軍前大旗謂二之牙旗一、出レ師則有二建牙禡牙之事一。〔封氏聞見記、五、公牙〕故軍前大旗謂二之牙旗一、出レ師則有二建牙禡牙之事一。❷淸代、督撫をいふ。皆兵權を兼ねたからいふ。

【建江】24ケンカウ　川の名。建溪（47）の❷を見よ。

【建康】25ケンカウ　❶郡名。前涼、置く。唐、建康郡とす。故城は甘肅省高臺縣の南。〔讀史方輿紀要、陝西、甘肅鎭、甘州後衞〕建康城、鎭西二百里、前涼張駿置二建康郡一、屬二涼州一、後涼因レ之、後魏廢、唐嗣聖末、王孝傑置二建康軍一、天寶初屬二河西節度使一、後廢二於吐蕃一、名勝志、高臺所西南四十里有二故建康城一。❷縣名。晉、置く。三國吳の建業の地。晉、業を鄴に改め、更に愍帝の諱を避けて建康といふ。故城は今、南京市の南。〔讀史方輿紀要、江南、江寧府、江寧縣〕建康城、在二府治南一、本秦秣陵縣地、江表傳、張紘謂二孫權一曰、秣陵、楚武王置、本名二金陵一、地勢岡阜、連二接石頭一、秦始皇東巡、望氣者言、金陵地形、有二王者都邑之氣一、故掘二斷連岡一、改二名秣陵一、今處所具存、宜レ爲二都邑一、劉備東過二秣陵一、亦勸レ權居レ之、獻帝春秋、建安十七年、孫權自二京口一徙二秣陵一曰、秣陵有二小江百餘里一、可三以安二大船一、吾方理二水軍一、當二移據レ之、尋改曰二建業一、吳赤烏十年、繕二修宮室一、改作二太初宮一居レ之、王氏曰、建業本秣陵地、非二秣陵治一也、孫權作二石頭城一、因徙二秣陵一、改置二建業縣一、晉平レ吳復爲二秣陵一、太康三年、復分二秣陵之水北一置二建鄴縣一、爲二丹陽郡治一、建興初改曰二建康一、宋白曰、晉分二秣陵一爲二二邑一、自二淮水一南爲二秣陵一、北爲二建業一、是也、隋平レ陳省二建康一入二江寧一、元和志、建康縣城、在二上元縣南二里一。

㊂年號。㋑後漢、順帝、劉保の時。（144）㋺晉の時、南陽王保の僭號。（319－320）㋩元初、林桂芳の僭年號、延康の一稱。（1283）㊃唐、吳恬（2－3365‥331）の字。

〖建康實錄〗26 ケンカウジツロク 書名。二十卷。唐、許嵩撰。吳の大帝から、陳の後主に至るまで凡そ四百年間の六朝の事蹟を記し、末に高梁を附す。六朝は皆建康に都したから書名とす。〔四庫提要、史、別史類〕。

【建衡】27 ケンカウ 三國吳、歸命侯、孫皓の年號。（269－271）

【建櫜】28 ケンカウ 武器を袋にいれて再び用ひぬこと。世が治まる喩。建は鍵。櫜は武器を入れる袋。倒戈。偃武。〔禮、樂記〕車甲衅而藏㆓之府庫㆒、而弗㆓復用㆒、倒㆓載干戈㆒、包㆑之以㆓虎皮㆒、將帥之士使㆑爲㆓諸侯㆒、名㆑之曰㆓建櫜㆒、然後天下知㆔武王之不㆓復用㆒㆑兵也。〔注〕建、讀爲㆑鍵、字之誤也、兵甲之衣曰㆑櫜、鍵櫜、言㆔閉㆓藏兵甲㆒也。〔疏〕鍵、籥牡也、櫜、兵甲之櫜也、言㆘鎧及兵戈悉櫜㆓韜之㆒、置㆓於武庫㆒而鍵㆗閉之㆖、故云㆔名㆑之曰㆓鍵櫜㆒也。

【建號】29 ケンガウ 名號を建てる。〔魏志、任城威王彰傳〕彰謂㆓左右㆒曰、丈夫一爲㆓衞霍㆒、將㆓十萬騎㆒、馳㆓沙漠㆒、驅㆓戎狄㆒、立㆑功建㆑號耳。

【建基】30 ケンキ 基を建てる。〔弘道館記述義、上〕天祖之垂㆑統、天孫之建㆑基、事皆屬㆓神代㆒。

【建熙】31 ケンキ ㊀五胡十六國の一、前燕の幽帝、慕容暐の年號。（360－370）㊁晉、費立（10－36717‥77）の字。

【建旗】32 ケンキ 旗をたてる。〔周禮、春官、司常〕師都建㆑旗。〔周禮、夏官、大司馬〕田之日建㆓旗于後表之中㆒。〔後漢書、馮異傳〕卒擊㆑鼓建㆑旗而出。

【建麾】33 ケンキ さしづばたを建てる。麾は將帥が軍隊を指揮する旗。〔沈約、齊故安陸昭王碑文〕建麾作㆑牧、明德攸㆑在。

【建義】34 ケンギ ㊀正義を行ふ。義兵を興す。〔顏氏家訓、養生〕唯吳郡太守張嵊、建㆑義不㆑捷、爲㆓賊所㆑害。㊁年號。㋑北魏、敬宗、孝莊帝、拓跋子攸の時。（528）㋺五胡十六國の一、西秦の烈祖宣烈王、乞伏國仁の時。（385－388）㋩南朝宋、文帝の代、氏の楊難當の僭號。（432）㋥齊の東昏侯の代、雍道晞の僭號。（500）

【建議】35 ケンギ ㊀朝廷や會議などで自分の意見を申述べる。又、其の議論。〔漢書、宣帝紀〕建議定策、以安㆓宗廟㆒。〔後漢書、劉焉傳〕建㆑議改㆓置牧伯㆒、鎭㆓安方夏㆒。〔吳志、陸遜傳〕遜建議曰、古今英雄、棊跱豺狼。〔南史、司馬褧傳〕天監初、詔㆓通儒㆒定㆓五禮㆒、褧所㆓建議㆒多見㆓施行㆒。〔唐書、顏眞卿傳〕屢建議釐正。㊁一の國家機關が同等或は上級の國家機關に、又は私人が官廳に對して行ふ希望の陳述。

〖建議案〗36 ケンギアン 建議の草案。又は議案。

【建久】37 ケンキウ 第八十二代後鳥羽天皇の年號。（1190－1199）〔藤原光輔勘文〕吳志曰、安㆑國和㆑民、建㆓久長之計㆒。

【建鄕】38 ケンキヤウ 縣名。漢、置く。侯國。山東省の境。〔漢書、地理志上〕東海郡、縣三十八、建鄕。

【建極】39 ケンキヨク ㊀人倫道德の模範標準をたてて萬民の法則を定める。極は中。皇極（8－22701‥52）の㊀を見よ。〔書、洪範〕皇建㆓其有極㆒。〔疏〕人君爲㆓民之主㆒、當㆔大自立㆓其有中之道㆒。㊁唐、懿宗の時、南詔の景莊帝、世隆の年號。一に建樞（92）に作る。（860－876）

【建玉】40 ケンギヨク ㊀淸、魯瑗（12－46013‥5）の字。㊁タテギヨク 取引所で賣買約定した物件。賣建玉・買建玉の類。

【建具】41 タテグ 屋內に取りつけた戶・障子などのすべて引き閉てするものの稱。〔五人女、一〕。

【建和】42 ケンクワ 年號。㊀後漢の桓帝、劉志の時。（147－149）㊁五胡十六國の一、南涼の烈祖武王禿髮利鹿孤の時。（400－402）

【建光】43 ケンクワウ ㊀年號。㋑後漢、安帝、劉祜の時。（121－122）㋺五胡十六國の一、後燕の世祖武成帝の代翟遼の僭號。（388－391）㊁後漢、沈鸞（6－17189‥389）の字。

【建曠】44 ケンクワウ 租稅の徵收は月の大小に拘らず、一箇月を三十日と算して徵集する。然るに地方から中央に轉納の際は、一日分を控除して戶部に上納し、其の一日分の剩餘を地方の收入に充てることを建曠といふ。〔六部成語注解〕凡徵㆓收關稅㆒、無㆑論㆓月大小㆒、均按㆓三十日㆒徵收、而按㆓二十九日㆒解㆑部、謂㆓之小建銀㆒、其大建一日所㆑餘之欵、存留辦㆑公、謂㆓之建曠㆒。〔六部成語、兵部、建曠銀、注解〕凡馬之食料、皆按㆓每月㆒共三十日、每月發㆓給若干㆒、若値㆓小建㆒、則曠㆓一日之費㆒、其銀應㆓充辦㆑公之需㆒。

【建官】45 ケンクワン 官を設ける。〔書、周官〕唐虞稽古、建官惟百。

【建勳】46 ケンクン 勳功を立てる。〔晉書、樂志上〕文武發揮、茂建㆓嘉勳㆒。

【建溪】47 ケンケイ ㊀地名。茶の名所。福建省建甌縣。轉じて、茶の異名。〔詩人玉屑〕建溪先曖氷微開、溪邊奇茗冠㆓天下㆒。〔蘇軾、和㆔錢安道寄㆓惠建茶㆒詩〕建溪所㆑產雖㆑不㆑同、一一天與㆓君子性㆒、森然可㆑愛不㆑可㆑慢、骨淸肉膩和且正。㊁川の名。閩江の北源。二源あり、一は東溪、源は浙江省慶元縣の東の光石山。松溪縣に入り松溪となる。一は西溪、上流を崇溪といふ。源は福建省崇安縣の東北の石臼里。建陽縣を經て建陽溪となる。建溪ともいふ。建甌縣の東北に至つて東溪と會し、閩江となる。〔讀史方輿紀要、福建、大川〕建江、亦曰㆓閩江㆒、亦曰㆓建溪㆒、至㆓延平府境㆒、亦曰㆓劍江㆒、至㆓福州府境㆒、亦曰㆓西江㆒、往往隨㆑地立㆑名、實同一建江也、其源出㆓建寧府浦城縣北四十里漁梁山㆒、繞流經㆓縣城南㆒、達㆓經西㆒。

【建業】48 ケンゲフ ㊀事業の基を建設すること。〔荀悅、高祖贊〕非㆑德無㆓以建㆑業、非㆑命無㆓以定㆑衆。〔孔子家語、入官〕修㆑事而能建㆑業。㊁三國吳の孫權の都。江蘇省江寧縣の南。後、建康と改む。建康（25）の㊁を見よ。〔讀史方輿紀要、江南、江寧府、江寧縣〕權自㆓京口㆒徙㆓秣陵㆒、改爲㆓建業㆒。㊂前秦、苻健（9－30825‥2）の字。

〖建業水〗49 ケンゲフノミヅ 吳の都、建業の水。〔吳志、陸凱傳〕童謠言、寧飮㆓建業水㆒、不㆑食㆓武昌魚㆒、寧還㆓建業㆒死、不㆘止㆓武昌㆒居㆖。

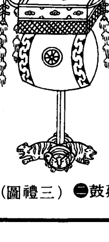
【建見】50 ケンケン 唐、李思訓（6－14459‥1314）の字。

【建元】51 ケンゲン ㊀年號を制定する。紀元。〔李之紹、賀㆓聖節㆒表〕寶曆建元、協㆓重華之嘉運㆒。㊁年號。㋑漢、武帝、劉徹の時。年號の創始。〔史記、孝武紀〕一元曰㆓建元㆒。（B.C.139－B.C.134）㋺東晉、康帝、司馬岳の時。（343－344）㋩南齊、高帝、蕭道成の時。（479－482）㋥五胡十六國の一、前趙（北漢）烈宗昭武帝、劉聰の時。（315）㋭五胡十六國の一、前涼の沖王、張玄靚の時。（357－361）㋬五胡十六國の一、前秦の世祖宣昭帝、苻堅の時。（365－385）㋣梁代、新羅の法興王の時。（536－550）㊂明、方于魯（5－13620‥483）の字。

【建言】52 ケンゲン ㊀確乎として廢することの出來ない古人の語をいふ。一說に、言を設けていふ。〔老子、四十一〕故建言有㆑之。〔河上公注〕建、設也。〔全解〕建言者、古人不拔之論、千歲不㆑可㆑廢者也。㊁上に意見を申し上げる。〔漢書、哀帝紀〕待詔夏賀良等建言。〔魏志、衞覬傳〕誰能犯㆓顏色㆒觸㆓忌諱㆒、建㆓一言㆒開㆓一說㆒哉。

〖建言書〗53 ケンゲンシヨ 意見を上申する文書。建白書。

【建鼓】54 ケンコ ㊀鼓を並べたてる。〔左氏、哀、十三〕建㆑鼓整㆑列、二臣死㆑之、長幼必可㆑知也。㊁樂器の名。太鼓の一。柱を以て胴を貫いて立て、上に華蓋を施し、その四隅に房あり、頂部に鳥形の裝飾を置き、柱下の四足に獅子の飾りを刻す。明代、應鼓といふ。植鼓。楹鼓。〔儀禮、大射儀〕建鼓在㆓阼階西㆒。〔注〕建、猶㆑樹也、以㆑木貫而載㆑之、樹㆑之跗也。〔莊子、天運〕負㆓建鼓㆒而求㆓亡子㆒。〔淮南子、兵略訓〕建鼓不㆑出㆑庫。〔漢書、何並傳〕令㆘騎奴還至㆓寺門㆒、拔㆑刀剝㆗其建鼓㆖。〔注〕師古曰、建鼓、一名植鼓、建、立也、謂㆓植㆑木而旁懸㆑鼓焉、縣有㆓此鼓㆒者、所㆔以召集號令爲㆓開閉之時㆒。〔文獻通考、樂考、革之屬、建鼓〕陳氏樂書曰、明堂位曰、殷楹鼓、以㆓周官㆒考㆑之、太僕建㆓路鼓於大寢之門外㆒、儀禮大射、建鼓在㆓阼階西南㆒、鼓則其所㆑建楹也、是楹爲㆓一楹而四稜㆒也、貫㆓鼓於端㆒、猶㆓四植之桓圭㆒也、莊子曰、負㆓建鼓㆒、建鼓可㆑負、則以㆑楹貫而置㆑之矣、商頌曰、置㆓我鞉鼓㆒是也、魏晉以後、復商置而植㆑之、亦謂㆓之建鼓㆒、隋唐又棲㆓翔鷺於其上㆒、國朝因㆑之、其制高六尺六寸、中植以㆑柱、設㆓重斗方蓋㆒、蒙



建鼓㊁（三禮圖）

以二珠綱一、張以二降紫繡羅一、四角有二六龍竿一、皆銜二流蘇璧璜一、以二五綵羽一爲レ飾、竿首亦爲二翔鷺一、旁又挾二鞞應二小鼓一、而左右然、詩言、應田縣鼓、則周制應田、在二縣鼓之側一、不レ在二建鼓旁一矣。㊂山名。湖北省房縣の東南。〔元和志〕建鼓山、與二馬騣山一連接、二山並高峻、冬夏積雪。〔太平寰宇記〕袁崧云、登二句將山一、見二馬鬛・建鼓一、凝然半レ天。

【建公】55ケンコウ 後漢、司馬防(2―3257‥301)の字。

【建弘】56ケンコウ 五胡十六國の一、西秦の太祖文昭王乞伏熾磐の年號。(420―428)

【建功】57ケンコウ 功をたてる。〔陸機、豪士賦序〕立レ德之基有レ常、而建レ功之路不レ一。

【建侯】58ケンコウ ㊀諸侯を建てる。諸侯を封ずる。〔易、豫〕建レ侯行レ師。〔韋孟、諷諫詩〕建二侯于楚一。㊁字號。㋑唐、席豫(4―8926‥66)の字。㋺唐、李鄘(6―14459‥779)の字。㋩明、鄧思銘(11―39630‥154)の字。㋥清、王豫嘉(7―20823‥2154)の字。

【建興】59ケンコウ ㊀郡名。㋑晉、太元中、慕容永、置く。故治は山西省晉城縣の西北。〔讀史方輿紀要、山西、澤州〕高都城、戰國時魏地、秦莊王三年、蒙驁拔二魏高都一、漢置二高都縣一、屬二上黨郡一、魏晉因レ之、慕容永置二建興郡於此一、後魏眞君九年省、和平五年復置レ郡、永安初、改置二建州一、又置二高都郡一治焉。㋺陳、置く。南朝梁の建興苑。故治は江蘇省江寧縣の東南。〔輿地紀勝〕建興苑、在二秦淮南岸一。㊁縣名。㋑三國吳、置く。故治は廣西省賀縣の東北。〔讀史方輿紀要、廣西、平樂府、賀縣、封陽廢縣〕桂嶺廢縣、在二縣東北一、吳置二建興縣一。㋺晉、置く。故城は湖南省寶慶縣の西。〔讀史方輿紀要、湖廣、寶慶府、邵陽縣〕新城、建興廢縣、在二府西一、晉太康初置、屬二邵陵郡一、宋齊因レ之、隋廢。㋩後魏、置く。今、缺く。河南省舊南陽府の境。㊂年號。㋑三國蜀、後主劉禪の時。(223―237)㋺三國吳の廢帝、侯官侯、孫亮の時。(252―253)㋩五胡十六國の一、成漢の太祖武帝、李雄の時。(304―306)㋥晉、愍帝、司馬鄴の時。(313―316)㋭五胡十六國の一、前涼、張寔の時。(313―319)㋬前涼、張玄靚の時。(319―361)㋣五胡十六國の一、後燕、慕容垂の時。(386―396)㋠唐憲宗の代、渤海の宣王、大仁秀の時。(818―829)

【建國】60ケンコク ㊀國家の基をたてる。國を肇める。帝業を創める。又、そのこと。開國。肇國。〔任昉、梁武帝初封二諸功臣一詔〕竝宣建レ國開レ宇、藩二屛王室一、山河之誓、永永無レ窮。〔庾信、哀江南賦〕彼凌レ江而建レ國、始播二遷于吾祖一。〔謝翺、九日詩〕只今王二江州一、建國功第一。㊁王城をたてること。國都を建設する。〔周禮、天官、序官〕惟王建レ國、辨レ方正レ位、體レ國經レ野。〔注〕乃建二王國一焉。〔疏〕乃建二王國一者、於二百物盛安之處一、乃立二王國一、王國則洛邑王城是也、鄭引レ此者、破三賈馬之徒、建レ國爲二諸侯國一。〔孫詒讓正義〕說文國部云、國、邦也、案、太宰注云、大曰レ邦、小曰レ國、邦之所レ居、亦曰レ國、此建レ國、卽建二邦之所レ居、謂レ營レ都也。㊂天子が諸侯の國を建てること。又、その國。〔易、比〕地上有レ水、比、先王以建二萬國一、親二諸侯一。〔禮、祭法〕天下有レ王、分レ地建レ國、置レ都立レ邑。〔注〕建レ國、封二諸侯一也。〔左氏、桓、二〕天子建レ國、諸侯立レ家。〔注〕立二諸侯一也。〔荀子、王霸〕建國諸侯之君、分レ土而守。〔漢書、高帝紀下〕齊古之建國也、今爲二郡縣一、其復以爲二諸侯一。㊃晉の時、代の什翼犍の年號。(338―376)

【建國祭】61ケンコクサイ もと紀元節に行った祭典。大正十五年二月十一日、第一回の祭典を行った。

【建國大綱】62ケンコクタイカウ 孫文の革命理論の根本たる三民主義の實行方法を確定したもので、中華民國十三年廣東で發表す。全文は二十五條から成る。〔中國政治思想史大綱、現代政治思想史、孫中山〕建國大綱的頒佈。(一)國民政府、本二革命之三民主義・五權憲法一、以建二設中華民國一。(二)建設之重要在二民生一、故對二於全國人民之衣食住行四大需要一、政府當下與二人民一協力、共謀二農業之發展一、以足二民食一、共謀二織造之發展一、以裕二民衣一、建二築大計劃之各式屋舍一、以樂二民居一、修二治道路運河一、以利中民行上。(三)其次爲二民權一、故對二於人民之政治知識能力一、政府當下訓二導之一、以行二使其選擧權一、行二使其罷官權一、行二使其創制權一、行中使其複決權上。(四)其次爲二民族一、故對二於國內之弱小民族一、政府當下扶二植之一、能中自決自治上、對二於國外之侵略強權一、政府當下抵二禦之一、並同時修二改各國條約一、以恢中復我國際平等、國家獨立上。(五)建設之程序、分爲二三期一、一曰軍政時期、二曰訓政時期、三曰憲政時期。(六)在二軍政時期一、一切制度、悉隸二於軍政之下一、政府一面用二兵力一、以掃二除國內之障礙一、一面宣二傳主義一、以開二化全國之人心一、而促二進國家之統一一。(七)凡一省完全底定之日、則爲二訓政開始之時一、而軍政停止之日一。(八)在二訓政時期一、政府當下派二曾經訓練考試合格之員一、到二各縣一、協二助人民一、籌中備自治上、其程度以二全縣人口調查清楚、全縣土地測量完竣、全縣警衞辦理妥善、四境縱橫之道路修築成功一、而其人民曾受二四權使用之訓練一、而完二畢其國民之義務一、實二行革命之主義一者、得下選二擧縣官一、以執中行一縣之政事上、得下選二擧議員一、以議中立一縣之法律上、始成二爲一完全自治之縣一。(九)一完全自治之縣、其國民有下直接選二擧官員一之權上、有下直接罷二免官員一之權上、有下直接創二制法律一之權上、有下直接複二決法律一之權上。(十)每縣開二創自治一之時、必須三先規二定全縣私有土地之價一、其法由二地主一自報レ之、地方政府、則照二價徵稅一、並可二隨レ時照レ價收買一、自二此次報レ價之後一、若土地因二政治之改良、社會之進步一、而增レ價者、則其利益當レ爲三全縣人民所二共享一、而原主不レ得而私レ之。(十一)土地之歲收、地價之增益、公地之生產、山林川澤之息、鑛產水力之利、皆爲二地方政府之所有一、而用以經三營地方人民之事業、及育幼・養老・濟貧・救災・醫病、與二夫種種公共之需一。(十二)各縣之天然富源、與二及大規模之工商事業一、本縣之資力、不レ能三發展與二興辦一、而須二外資一乃能經營者、當下由二中央政府一爲中之協助上、而所レ獲之純利、中央與二地方政府一、各佔二其半一。(十三)各縣對二於中央政府之負擔一、當下以二每縣之歲收百分之幾一、爲中中央歲費上、每年由二國民代表一定レ之、其限度不レ得レ少二於百分之十一、不レ得レ加二於百分之五十一。(十四)每縣地方政府成立之後、得下選二國民代表一員一、以組二織代表會一、參中預中央政事上。(十五)凡候選及任二命官員一、無レ論三中央與二地方一、皆須下經二中央考試一、銓二定資格一者上乃可。(十六)凡一省全數之縣、皆達二完全自治一者、則爲二憲政開始時期一、國民代表會、得下選二擧省長一、爲中本省自治之監督上、至二於該省內之國家行政一、則省受二中央之指揮一。(十七)在二此時期一、中央與レ省之權限、采二均權制度一、凡事務有二全國一致之性質一者、劃歸二中央一、有二因レ地制レ宜之性質一者、劃歸二地方一、不レ偏二於中央集權、或地方分權一。(十八)縣爲二自治之單位一、省立二於中央與レ縣之間一、以收二聯絡之效一。(十九)在二憲政開始時期一、中央政府、當下完二成設三立五院一、以試中行五權之治上、其序列如レ下、曰行政院、曰立法院、曰司法院、曰考試院、曰監察院。(廿)行政院暫設、如二下各部一、一內政部、二外交部、三軍政部、四財政部、五農鑛部、六工商部、七教育部、八交通部。(廿一)憲法未二頒布一以前、各院長皆歸二總統任免一、而督二率之一。(廿二)憲法草案、當下本二於建國大綱、及訓政憲政兩時期之成績一、由二立法院議訂一、隨レ時宣二傳於民衆一、以備中到レ時採擇施行上。(廿三)全國有三過半數省分達二至憲政開始時期一、卽全省之地方自治完全成立時期、則開二國民大會一、決二定憲法一、而頒二布之一。(廿四)憲法頒布之後、中央統治權、則歸二於國民大會一行二使之一、卽國民大會對二於中央政府官員一、有二選擧權一、有二罷免權一、對二於中央法律一、有二創制權一、有二複決權一。(廿五)憲法頒布之日、卽爲二憲政告成之時一、而全國國民則依二憲法一、行二全國大選擧一、國民政府、則於二選擧完畢之後三個月一解レ職、而授二政於民選之政府一、是爲二建國之大功告レ成。

【建國方略】63ケンコクハウリヤク 書名。孫文が新中國建設に關する意見を述べたもの。其の內容は心理的建設・物質的建設及び社會的建設の三部門から成る。

【建齋】64ケンサイ 元、黃極(12―47926‥210)の字。

【建造】65ケンザウ つくりたてる。〔後漢書、李通傳〕建二造大策一。〔王子先、笏賦〕請レ原爲二用之本一、特申二建造之始一。

【建造物】66ケンザウブツ 造りたてたもの。たてもの。「建築物。

【建柵】67ケンサク とりでを設ける。柵は矢來を設けたとりで。〔國史略、文武天皇〕多褹叛、遣レ兵征討、薩摩國司言、於二國內要害之地一、建レ柵置レ戍、

乃許焉。

【建策】68 ケンサク　はかりごとを考へたてる。大計を定める。策略を建言する。又、そのこと。〔揚雄、解嘲〕掉二三寸之舌一、建二不拔之策一。〔後漢書、西南夷傳〕巴郡李顒、建レ策討伐。〔班固、西都賦〕奉春建レ策、留侯演成。

【建三】69 ケンサン　清、滕綱(**7－18036**・・10)の字。

【建盞】70 ケンサン　建窯で造つた茶盞。天目の一種。建窰(11)を見よ。〔茶錄、上、茶盞〕茶色白宜二黑盞一、建安所レ造者紺黑、紋如二兎毫一、其杯微厚、熁レ之久、熱難レ冷、最爲二要用一、出二他處一者、或薄或色紫、皆不レ及也。

【建之】71 ケンシ　唐、李虞仲(**6－14459**・・1037)の字。

【建始】72 ケンシ　❶縣名。晉、置く。湖北省恩施縣の東北。〔讀史方輿紀要、四川、夔州府〕建始縣、漢巫縣地、晉泰始初、置二建始縣一、屬二建平郡一。〔清史稿、地理志〕湖北、施南府、縣六、建始。❷年號。㋑漢、成帝、劉驁の時。(B.C.31－B.C.28)㋺後漢の時、劉盆子の年號、建世の一稱。(25－26)㋩晉の時、趙王倫の時。(301)㋥五胡十六國の一、後燕、慕容詳の僭號。(397)㋭五胡十六國の一、後燕の昭文帝、慕容熙の時。(407)

【建州】73 ケンシウ　❶州名。㋑後魏、置く。故治は山西省晉城縣の東北。〔讀史方輿紀要、山西〕澤州、禹貢冀州地、春秋屬レ晉、戰國屬レ韓、後屬レ趙、秦屬二上黨郡一、漢爲二上黨河東二郡地一、後漢及魏晉因レ之、後魏置二建州一、云云、唐貞觀初、改置二澤州一。㋺唐、置く。故治は湖南省寶慶縣の北。〔讀史方輿紀要、湖廣〕寶慶府、禹貢荊州之域、春秋戰國時屬レ楚、秦屬二長沙國一、後漢屬二零陵郡一、云云、唐武德四年、置二建州一、尋改二南梁州一。㋩唐、置く。宋、建寧府とす。故治は福建省建甌縣。〔讀史方輿紀要、福建〕建寧府、禹貢揚州地、周爲二閩越地一、秦屬二閩中郡一、漢屬二會稽郡一、後漢因レ之、三國吳、永安三年、始置二建安郡一、云云、唐武德四年、置二建州一、天寶初曰二建州郡一、乾元初、復曰二建州一。㋥唐代、渤海、置く。故城は滿洲吉林省敦化縣。卽ち滿洲の鄂多理城。〔滿洲源流考〕建州之名、置二於渤海一、本在二今吉林境一、至二遼時一一移二於淩河之南一、再移二於淩河之北一、金元相承、而建州遂在二今錦州邊一矣。㋭宋、置く。羈縻州。今、缺く。四川省舊敍州府の境。㋬遼、置く。故城は滿洲國、熱河省朝陽縣境の黃河灘。蒙古は喀喇城といふ。〔讀史方輿紀要、直隸、萬全都指揮使司、附見、大寧衞〕建州城、唐武德初、嘗置二昌樂縣一、屬二營州一、五代初、契丹置二建州保靜軍于此一、云云、遼志、州在二靈河南一、屢遭二水患一、契丹主隆緒時、又遷二于河北一、卽唐之故崇州城治焉、初曰二武寧郡一、後曰二保寧軍一、金因レ之、元亦曰二建州城一、明初廢。❷衞の名。明の成祖、置く。其の地の酋長を指揮等の官とす。戶口は皆女眞族、吉林附近及び穆稜河の流域に據る。成祖、又建州左衞を增置し、猛哥帖木兒を長とす。英宗又左衞を分つて右衞を增置す。是れを建州三衞といふ。清朝の祖は此の地より起る。

【建修】74 chien^4 hsiu^1　修繕する。

【建昌】75 ケンシヤウ　❶川の名。盱江の別名。〔讀史方輿紀要、江西、建昌府、南城縣〕盱江、在二府城東一、一名建昌江。❷道名。民國、置く。四川省治の西南。雅安・名山・滎經・蘆山・漢源・西昌・冕寧・鹽源・昭覺・天全・會理・鹽邊・越雋・樂山・峨眉・洪雅・峨邊・夾江・犍爲・榮・威遠・眉山・丹稜・彭山・青神・邛崍・大邑・蒲江の二十八縣を管轄す。❸府名。㋑唐の懿宗の時、蒙詔之に據り、建昌府と改む。四川省西昌縣の地。この地は漢代、西南夷住し、建昌夷と稱す。白夷・黑夷の兩種がある。細別すれば九種となる。邛・猓玀・白夷・西番・麼些・格鹿・韃靼・回子・漁人。猓玀種は最も強悍である。〔讀史方輿紀要、四川〕四川行都指揮使司、禹貢梁州之域、後爲二西南夷所一レ據、漢初邛都國地、元鼎六年、置二越嶲郡一、云云、唐咸通三年、爲二蒙詔所一レ據、改爲二建昌府一。㋺明、置く。故治は江西省南城縣。清は南城・新城・南豐・廣昌・瀘溪の五縣を領す。〔讀史方輿紀要、江西〕建昌府、禹貢揚州地、春秋時爲二吳南境一、戰國屬レ楚、秦屬二九江郡一、兩漢屬二豫章郡一、三國吳太平二年、分二豫章東部一置二臨川郡一、晉宋以後因レ之、隋平レ陳屬二撫州一、大業初屬二臨川郡一、唐仍屬二撫州一、宋開寶二年、南唐主李煜、始置二建武軍於此一、宋太平興國二年、改爲二建昌軍一、元曰二建昌路一、明初改二肇昌府一、旋曰二建昌府一、領二縣五一。〔清史稿、地理志〕江西、建昌府、領二縣五一、南城、新城、南豐、廣昌、瀘溪。㋩明、置く。故治は安南東京の東南。〔讀史方輿紀要、廣西、附考、安南〕建昌府、在二交州府東南二百里一、永樂二年置、領二州一一、曰快州、縣六、曰建昌・布縣・眞利・東結・芙蓉・永涸、宣德後仍屬二山南承政司一。❹路名。㋑元、置く。江西省豫章道の東南部の地。治は南城。江西省南城縣の治。❸の㋺を見よ。㋺元、置く。四川省建昌道中部及び雲南省滇中道の西北部の地。治は建安州。四川省西昌縣の治。〔讀史方輿紀要、四川〕四川行都指揮使司、禹貢梁州之域、後爲二西南夷所一レ據、漢初、邛都國地、元鼎六年、置二越嶲郡一、云云、唐咸通三年、爲二蒙詔所一レ據、改爲二建昌府一、宋時羈二屬於大理一、元得二其地一、置二建昌路一。❺縣名。㋑後漢、置く。故治は江西省永修縣。〔讀史方輿紀要、江西、南康府〕建昌縣、漢豫章郡海昏縣地、後漢永元十六年、分置二建昌縣一、仍屬二豫章郡一、晉因レ之、劉宋元嘉二年、廢二海昏一移二建昌治一焉。〔清史稿、地理志〕江西、南康府、縣四、建昌。㋺南朝宋、置く。故治は四川省成都縣の北。㋩南齊、置く。今、缺く。湖北省舊襄陽府の境。㋥南朝梁、置く。故治は湖北省辰溪縣の西北。〔讀史方輿紀要、湖廣、辰州府、辰溪縣〕建昌廢縣、在二縣西北一、隋志、梁置二建昌縣南陽郡治一焉。㋭西魏、置く。故城は甘肅省文縣の西南。〔讀史方輿紀要、陝西、鞏昌府、階州、文縣〕長松城、本陰平縣地、西魏析置二建昌縣一、爲二盧北郡治一、兼置二文州於此一、隋開皇初、郡廢、十八年改レ縣曰二長松一、仍爲二州治一。㋬清、置く。河北省に屬す。民國、淩源縣と改め、熱河省に屬す。〔清史稿、地理志〕直隸、朝陽府、縣一、建昌。❻營の名。河北省遷安縣の東北。〔讀史方輿紀要、直隸、永平府、遷安縣〕冷口關、縣北七十里、明初三衞貢道由二冷口一入、有二關城一、關內三十里、曰二建昌營一。❼南北朝時代、柔然(蠕蠕)の豆羅伏跋豆可汗の年號。(508－519)

【建倡】76 ケンシヤウ　唱へはじめる。〔蜀志、諸葛瞻傳〕雖レ非三瞻所二建倡一、百姓皆傳相告。

【建章】77 ケンシヤウ　漢の宮殿の名。陝西省長安縣の西。〔史記、衞將軍傳〕青時給二事建章一。〔漢書、武帝紀〕太初元年、柏梁臺災、起二建章宮一。〔漢書、郊祀志下〕(柏梁災)勇之乃曰、粵俗、有二火災一復起レ屋、必以大、用勝二服之一、於レ是作二建章宮一、度爲二千門萬戶一。〔三輔黃圖、二、漢宮〕建章宮、武帝太初元年、柏梁殿災、粵巫勇之曰、粵俗有二火災一、卽復起二大屋一以厭二勝之一、帝於レ是作二建章宮一、度爲二千門萬戶一、宮在二未央宮西、長安城外一。

【建章監】78 ケンシヤウカン　建章宮を監護する官。〔史記、李將軍傳〕選爲二建章監一。

【建章營騎】79 ケンシヤウエイキ　官名。漢の武帝、置く。行幸の送從を掌る。後、羽林騎と改む。羽林騎(**9－28614**・・139)を見よ。〔漢書、百官公卿表上〕羽林掌二送從一、次二期門一、武帝太初元年初置、名曰二建章營騎一、後更名二羽林騎一。

【建城】80 ケンジヤウ　縣名。漢、置く。故治は江西省高安縣治。漢書の志表は建成に作り、後漢書の志以下は皆建城に作る。〔太平寰宇記〕雷次宗豫章記云、漢帝高置、以三其創二建城邑一、故曰二建城一、唐避二隱太子諱一、改爲二高安一。

【建常】81 ケンジヤウ　旌旗を建てる。〔周禮、秋官、大行人〕建常九斿。〔注〕常、旌旗也。

【建樹】82 ケンジユ　たてる。設置する。〔陳書、衡陽憲王昌傳〕欽若二姬漢一、建二樹賢戚一。

【建絨】83 chien^4 jung^2　南京で織造せられるビロードの一種。

【建春】84 ケンシユン　洛陽城門の名。〔謝莊、宋孝武宣貴妃誄〕經二建春一而右轉。〔注〕善曰、河南郡境界簿曰、洛陽縣東城、第一建春門。

【建初】85 ケンシヨ　年號。❶後漢、章帝、劉炟の時。(76－84)❷五胡十六國の一、成漢の始祖景皇帝、李特の時。(302－303)❸五胡十六國の一、後秦の太祖武昭帝、姚萇の時。(386－394)❹五胡十六國の一、西涼の太祖武昭王、李暠の時。(405－417)

【建信】86 ケンシン　縣名。漢、置く。故城は山東省高苑縣の西北。〔漢書、地理志上〕千乘郡、縣十五、建信。

「號。

【建信侯】87 ケンシンコウ　漢、劉敬(**2－2224**・・233)の

【建新】88 ケンシン 明初、越(安南)の少帝、陳寏の年號。(1398－1400一說に1399－1400)

【建水】89 ケンスイ ❶川の名。㋑源は湖北省荊門縣の南の虎牙關。今、建陽河、又は大漕河といふ。長湖に注ぐ。湕水。〔讀史方輿紀要、湖廣、安陸府、荊門州〕建水、州北百三十里、一名湕水、梁太清末、蕭詧自二襄陽一攻二江陵一、會三其將杜崱等、叛二襲襄陽一、詧棄二糧食鎧仗於湕水一而還、明年西魏將楊忠救レ詧、乘レ勝至二石頭一、將レ趣二江陵一、湘東王繹遣二使說一レ忠、忠遂停二湕北一、大寶二年、岳陽王詧、以三侯景攻二巴陵一、遣二其將蔡大寶一、軍二武寧一以規二江陵一、湘東王繹遣レ使謂曰、君忽頓二武寧一、卽當下遣二勁甲一頓二湕水一、待レ時進上レ軍也、湕水蓋襄陽江陵之襟要矣、亦名二建陽河一、又名二楊水一、亦名二大漕河一、流入二江陵縣界一。㋺源は甘肅省慶陽縣の東北の子午嶺。下流を合水といひ、馬蓮河に注ぐ。古の樂蟠水。支流は北川・瓦罐川。〔讀史方輿紀要、陝西、慶陽府、合水縣〕建水、在二縣治東一、源出二子午山一、西南流二府東境之北一、岔河流合焉、謂二之合水一、西南流入二馬蓮河一、地理志、華池縣有二二淵一、二川合流、因名、卽此水也。㋩廣東省羅定縣。卽ち瀧水。縣治の西を經て建水といふ。❷池の名。雲南省建水縣の南。廣さ五畝。今、過半は堙塞す。〔讀史方輿紀要、雲南、臨安府〕建水州、附郭、唐時烏麼蠻地、古稱二步頭一、亦曰二巴甸一、元和間、蒙氏築レ城、名二惠劚一、漢語曰二建水一、段氏時爲二麼些二蠻苴劚所一レ據、元初內附、置二建水千戶所一、屬二阿僰萬戶一、至元十三年、改二建水州一、屬二臨安路一、今因レ之。❸縣名。㋑唐、置く。故治は廣東省羅定縣の東北。今、建水鎭といふ。〔讀史方輿紀要、廣東、羅定州、東安縣〕建水鎭、在二縣西一、卽建水廢縣也、洪武中置二巡司一、本屬二瀧水縣一、萬歷中改二今屬一。㋺淸、置く。漢の賁古縣、唐時の烏麼蠻の地。雲南省曲溪縣の南。瀘江の北岸。〔淸史稿、地理志〕雲南、臨安府、縣五、建水。❹茶道の語。みづこぼし。こぼし。建は覆。字解[二]の❶を見よ。〔下學集、下、態藝門〕魚道者、建二殘盃一器也。

〖建水十五猛〗90 ケンスイジフゴマウ 地名。雲南省建水縣。雲南土司、多く其の所轄の地を猛と呼ぶ。十五猛は猛弄・猛喇・猛丁・猛梭・猛賴・猛蚌・英通壩・五畝・五邦・者米・馬龍・瓦遮・斗巖・阿土・水塘。淸の光緒十六年、猛丁は流官に改む。二十年、猛梭・猛賴・猛蚌は佛國に屬す。

【建瑞】91 ケンズイ 北宋の初、大瞿越(安南)臥朝王、黎龍鋌の年號、景瑞の一稱。(1008－1009)

【建樞】92 ケンスウ 唐末、懿宗の時、南詔(大禮)景莊帝、世隆の年號、建極の一稱。(860－876)

【建世】93 ケンセイ ❶後漢の初、劉盆子の年號。一に建始と稱す。(25－26) ❷後漢、劉盆子(**2**－**2224**・・1327)の號。

【建成】94 ケンセイ ❶山名。河北省獻縣の境。〔獻縣志〕漢嘗以レ此名レ縣、高祖封二曹參一爲二建成侯一、又封二呂澤一爲二建成侯一、又公沙穆嘗居二建成山一、依レ林阻爲レ室。❷縣名。㋑秦、置く。漢、侯國とす。故治は河南省永城縣の東南。〔漢書、地理志上〕沛郡、縣三十七、建成。〔注〕侯國。㋺漢、置く。故城は河北省交河縣の東。〔讀史方輿紀要、直隸、河閒府、獻縣、景城廢縣〕建成廢縣、在二故景城東南三十里一、漢縣、屬二渤海郡一、武帝封二長沙定王子拾一爲二侯邑一、又宣帝封二黃霸于此一、後漢省。㋩漢、置く。故治は江西省高安縣治。建城(80)を見よ。〔漢書、地理志上〕豫章郡、縣十八、建成。

〖建成侯〗95 ケンセイコウ 漢、黃霸(**12**－**47926**・・734)の封號。

【建星】96 ケンセイ 星の名。北斗星の上に在る六星。〔禮、月令〕旦建星中。〔史記、天官書〕南斗爲レ廟、其北建星、建星者旗也。〔注〕正義曰、建六星在二斗北一、臨二黃道一、天之都關也、斗建之閒、七曜之道、亦主二旗輅一。〔史記、律書〕東至二於建星一。〔漢書、天文志〕其北建星。

【建旃】97 ケンセイ 旗をたてる。〔中論、爵祿〕夫登レ高而建レ旃、則其所レ視者廣矣、順レ風而振レ鐸、則其所レ聞者遠矣。

【建昭】98 ケンセウ 漢、元帝、劉奭の年號。(B.C.37－B.C.33)

【建醮】99 ケンセウ 法會を營む。〔桃花扇、入道〕七月中元建醮。

【建戚】100 ケンセキ 親戚を建てて諸侯とする。〔顏延之、三月三日曲水詩序〕選レ賢建レ戚、則宅二之於茂典一。

【建設】101 ケンセツ たてまうける。創め造る。〔禮、祭義〕建二設朝事一。〔史記、秦始皇紀〕建二設長利一。〔漢書、敍傳下〕建二設藩屛一、以強二守圉一。

【建設廳】102 ケンセツチヤウ 民國政府、省政府の一部で、國家產業の建設に任ずる役所。各縣には建設局があつて建設廳に隸屬す。

〖建設的文學革命論〗103 ケンセツテキブンガクカクメイロン 書名。民國、胡適撰。從來の古典文學を死文學とし、白話體を用ひて新文學を建設すべきことを說く。

【建節】104 ケンセツ ❶使者のしるしとして賜はつた節旄をたてる。節は古、遣外使臣に賜はるしるしばた。〔史記、司馬相如傳〕乃拜二相如一爲二中郎將一、建レ節往使。〔顏延之、家傳銘〕建二節中平一、分二竹黃初一。❷節操を建てる。〔論衡、齊世〕立レ義建レ節、實核二其操一。

【建泉】105 ケンセン 宋、郭咸(**11**－**39474**・・35)の字。

【建堂】106 ケンダウ 殿堂をたてる。〔歐陽脩、集古錄、唐重摹吳季子墓銘〕正元中、鄭播又爲レ記、盧國遷、建レ堂樹レ碑、則今本又非二仲容所一レ模者。

【建置】107 ケンチ たておく。設置。〔漢書、武五子傳贊〕略二取河南一、建二置朔方一。〔曹冏、六代論〕樹猶二親戚一、土猶二士民一、建置不レ久、則輕レ下慢レ上。〔柳宗元、四門助教廳壁記〕其建置之道弘也。

【建治】108 ケンヂ 第九十一代後宇多天皇の年號。(1275－1278)〔元祕別錄、略頌抄〕菅原在匡勘申、周禮、以レ治建レ國爲レ政。

【建築】109 ケンチク 家屋橋梁等を造る。建立。

〖建築學〗110 ケンチクガク 建築の原理を科學的に研究する學問。

〖建築物〗111 ケンチクブツ 建築した物。家屋・倉庫などの類。

【建長】112 ケンチヤウ 第八十九代後深草天皇の年號。(1249－1255)〔藤原經光勘文〕後漢書曰、建二長久之策一。

【建中】113 ケンチユウ ❶中正の道を定める。標準とすべき道をたて示す。建極(39)に同じ。〔書、仲虺之誥〕王懋昭二大德一、建二中于民一。❷年號。㋑唐、德宗、李适の時。(780－783)㋺宋の寶慶中、交趾の陳昊の時。(1225－1231)

〖建中靖國〗114 ケンチユウセイコク 宋、徽宗、趙佶の年號。(1101)

【建除】115 ケンヂヨ 建除十二神(118)を見よ。〔遼史、曆象志下〕日有二晷景一、月有二明魄一、斗有二建除一、星有二昏旦一。〔日知錄、天象術數、建除〕建除之名、自レ斗而起、始見二於太公六韜一云、開二牙門一常背レ建向レ破、越絕書、黃帝之元、執辰破レ巳、霸王之氣、見二於地戶一、淮南子天文訓、寅爲レ建、卯爲レ除、辰爲レ滿、巳爲レ平、午爲レ定、未爲レ執、申爲レ破、酉爲レ危、戌爲レ成、亥爲レ收、子爲レ開、丑爲レ閉、漢書王莽傳、十一月壬子直レ建、戊辰直レ定、蓋是戰國後語、史記日者傳、有二建除家一。

〖建除家〗116 ケンヂヨカ 建除十二神で日の吉凶を定める者。建除十二神(118)を見よ。〔史記、日者傳〕孝武時聚二會占家一問レ之、其日可レ取レ婦乎、建除家曰、不吉、叢辰家曰、大凶、……先生曰、云云、建除家曰、不吉。

〖建除詩〗117 ケンヂヨシ 詩篇の名。南朝宋、鮑照の作。句の首に建・除・平・定等の十二神の文字を用ふ。〔鮑照、建除詩〕建レ旗出二燉煌一、西討二屬國羌一、除去徒與レ騎、戰車羅二萬箱一、滿レ山又塡レ谷、投レ鞍合二營牆一、平原亘二千里一、旗鼓轉相望、定レ舍後未レ休、候騎敕二前裝一、執レ戈無二暫頓一、彎弧不レ解レ張、破二滅西零國一、生二虜郅支王一、危亂悉平蕩、萬里置二關梁一、成レ軍入二玉門一、士女獻二壺漿一、收レ功在二一時一、歷世荷二餘光一、開レ壤襲二朱紱一、左右佩二金章一、閉レ帷草二太玄一、茲事殆愚狂。

〖建除十二神〗118 ケンヂヨジフニシン 建除家で十二支に配してそれぞれ吉凶の意ある名を附けた十二の神。建（タツ）・除（ノゾク）・滿（ミツ）・平（タヒラ）・定（サダム）・執（トル）・破（ヤブル）・危（アヤフシ）・成（ナル）・收（ヲサム）・開（ヒラク）・閉（トヅ）。其の辰は月建と同じく十二辰を順行し、建寅の年には寅に起つて、正月には寅の日を建とし、卯を除、辰を滿、巳を平、午を定、未を執、申を破、酉を危、戌を成、亥を收、子を開、丑を閉とする。二月には卯を建とし、三月には辰を建とし、以下之に準じて十二支の順に移行する。又、建卯の年には卯、建辰の年には辰に起る。其の吉凶は大體に於て除・危・定・執・成・開を吉とし、建・破・平・收・滿・閉を凶とする。〔淮南子、天文訓〕太陰元

始、建㆓于甲寅㆒、一終而建㆓甲戌㆒、一終而建㆓甲午㆒、三終而復得㆓甲寅之元㆒、歲徙㆓一辰㆒、立春之後、得㆓其辰㆒而遷㆓其所㆑順、前㆓三後五、百事可㆑舉、太陰所㆑建、蟄蟲首㆑穴而處、鵲巢鄉而爲㆑戶、太陰在㆑寅、朱鳥在㆑卯、勾陳在㆑子、玄武在㆑戌、白虎在㆑酉、蒼龍在㆑辰、寅爲㆑建、卯爲㆑除、辰爲㆑滿、巳爲㆑平、主㆑生、午爲㆑定、未爲㆑執、主㆑陷、申爲㆑破、主㆑衡、酉爲㆑危、主㆑杓、戌爲㆑成、主㆓小德㆒、亥爲㆑收、主㆓大德㆒、子爲㆑開、主㆓太歲㆒、丑爲㆑閉、主㆓太陰㆒。〔錢塘補注〕此建除法也、越絕書云、黃帝之元、執㆑辰破㆑巳、霸王之氣、見㆓於地戶㆒、漢書王莽傳云、十一月壬子直㆑建、戊辰直㆑定、是也、建除有㆓二法㆒、越絕書從㆓歲數㆒、淮南書及漢書從㆓月數㆒、後人惟用㆑月也。〔協紀辨方書、義例二、建除十二神〕曆書曰、曆家以㆓建・除・滿・平・定・執・破・危・成・收・開・閉、凡十二日、周而復㆑始、觀㆑所㆑指以定㆓吉凶㆒、每月交節、則疊㆓兩値日㆒、其法從㆓月建上㆒起、建與㆓斗杓所㆑指相應、如㆔正月建寅、則寅日起㆑建順㆓行十二辰㆒是也、考原曰、按、月建十二神、除・危・定・執・成・開爲㆑吉、建・破・平・收・滿・閉爲㆑凶、曆書所謂建・滿・平・收・黑・除・危・定・執・黃・成・開皆可㆑用、閉破不㆓相當㆒者也、選擇宗鏡以㆓四利三元諸神㆒相配、吉凶亦未㆓盡合㆒、如㆘以㆑建爲㆓太歲㆒、除爲㆓太陽㆒、滿爲㆓喪門㆒、破爲㆓歲破㆒、危爲㆗龍德㆖、此相合者也、至㆘以㆑平爲㆓太陰㆒、定爲㆓官符㆒、執爲㆓死氣㆒、成爲㆓白虎㆒、收爲㆓福德㆒、開爲㆗弔客㆖、此不㆓相合㆒者也、大抵凡日、吉神多則吉、凶神多則凶、又各視㆓其神之宜忌㆒以爲㆓趨避㆒、亦未㆑可㆓以執㆑一而論㆒也。

【建定】119 ケンテイ 建て定める。〔史記、秦始皇紀〕建㆓定法度㆒。〔漢書、郊祀志下〕稽㆑古建㆓定天地之大禮㆒、郊㆓見上帝㆒。

【建貞】120 ケンテイ 唐末、僖宗の時、襄王熅の僭年號。(886)

【建斗】121 ケント 明、盧象昇(**8－23050**・・232)の字。

【建都】122 ケント 都を建てる。〔班固、東都賦〕建㆓都河洛㆒。

【建同】123 ケンドウ 異魚の名。四足あつて鱗無く、水を高く噴き上げる。〔隋書、南蠻、眞臘傳〕九眞海中有㆑魚、名㆓建同㆒、四足無㆑鱗、其鼻如㆑象、吸㆑水上噴、高五六十尺。

【建德】124 ケントク ❶確立して動かない德。又、德を行ふ。德政を施す。〔老子、四十一〕建德若㆑偸。〔史記、平準書〕禹湯之法、不㆑同㆑道而王、所㆑由殊㆑道、而建㆑德一也。❷有德者を建てて諸侯とする。〔左氏、隱、八〕衆仲對曰、天子建㆑德、因㆑生以賜㆑姓。〔注〕立㆓有德㆒以爲㆓諸侯㆒。❸縣名。㋑三國吳、置く。浙江省桐廬縣の南。縣城は蘭溪徽港合流の處に瀕し、浙西の要地。〔讀史方輿紀要、浙江、嚴州府〕建德縣、附郭、東漢吳都富春縣地、吳黃武四年、析置㆓今縣㆒、仍屬㆓吳都㆒、晉以後因㆑之、梁屬㆓東陽郡㆒、隋省入㆓金華縣㆒、唐武德四年復置、屬㆓嚴州㆒、七年省、永壽二年復置、屬㆓睦州㆒、尋爲㆓州治㆒。〔清史稿、地理志〕浙江、嚴州府、縣六、建德。㋺五代の楊吳、置く。故治は安徽省至德縣。〔讀史方輿紀要、江南、池州府〕建德縣、漢彭澤・石城二縣地、唐至德二載、置㆓至德縣㆒、屬㆓潯陽郡㆒、乾元初、改隸㆓饒州㆒、永泰初、又改屬㆓池州㆒、楊吳順義二年、改曰㆓建德㆒、仍屬㆓池州縣㆒。〔清史稿、地理志〕安徽、池州府、縣六、建德。❹年號。㋑北周、高祖武帝宇文邕の時。(572－578)㋺南宋の初、後理(南詔)の景帝、段正興の時。一に盛明に作る。(約1148－1171)㋩第九十八代長慶天皇の御代。(1370－1372)

〖建德鄉〗125 ケントクキャウ 有德な人の居る國。〔莊子、山木〕南越有㆑邑焉、名爲㆓建德之國㆒。〔江淹、雜體、謝臨川靈運詩〕幸遊㆓建德鄉㆒。

【建南】126 ケンナン 鎭の名。湖北省利川縣の西北。

【建仁】127 ケンニン 第八十三代土御門天皇の年號。(1201－1204)〔藤原宗業勘文〕文選曰、竭㆑智附㆑賢者、必建㆓仁策㆒。

〖建仁寺〗127′ ケンニンジ 京都五山の一。建仁二年、土御門天皇の勅願により源頼家これを開創し、榮西禪師を開山とす。〔興禪護國論、序〕禪師、云云、尋入㆑京、建仁三年壬戌、鴨川第五橋畔、創㆓一禪刹㆒、賜㆓建仁號㆒、一唱㆓佛心宗㆒。

〖建仁寺垣〗128 ケンニンジガキ 竹を割つて皮を外に平たく並べて結んだ垣。建仁寺に始まるからいふ。

【建寧】129 ケンネイ ❶府名。明、置く。三國吳の建安郡。故治は福建省建甌縣。清は建安・甌寧・建陽・崇安・浦城・松溪・政和の七縣を管轄す。〔讀史方輿紀要、福建〕建寧府、禹貢揚州地、周爲㆓閩越地㆒、秦屬㆓閩中郡㆒、漢屬㆓會稽郡㆒、後漢因㆑之、三國吳永安三年、始置㆓建安郡㆒、晉以後因㆑之、隋平㆑陳、廢㆑郡屬㆓泉州㆒、大業中屬㆓建安郡㆒、唐武德四年、置㆓建州㆒、天寶初曰㆓建安郡㆒、乾元初、復曰㆓建州㆒、五代時屬㆓於王閩㆒、後又屬㆓於南唐㆒、宋仍曰㆓建州㆒、紹興三十二年、升爲㆓建寧府㆒、元曰㆓建寧路㆒、明初復曰㆓建寧府㆒。〔清史稿、地理志〕福建、建寧府、領㆓縣七㆒、建安・甌寧・建陽・崇安・浦城・松溪・政和。❷郡名。㋑三國蜀、置く。南齊、建平郡と改む。故治は雲南省典靖縣の西。〔讀史方輿紀要、雲南〕曲靖軍民府、禹貢梁州南境、漢爲㆓益州郡地㆒、蜀漢改置㆓建寧郡㆒。㋺南朝宋、置く。故城は湖北省麻城縣の西南。〔讀史方輿紀要、湖廣、黃州府、麻城縣、北西陽城〕建寧城在㆓縣西㆒、宋置㆓建寧左郡㆒、大明八年、省爲㆓建寧左縣㆒、屬㆓西陽郡㆒、齊梁復爲㆓建寧郡㆒、後魏因㆑之、領㆓建寧縣㆒、隋志、麻城有㆓建寧・陰平・定城三郡㆒、開皇初、與㆓亭州㆒俱廢。㋩南齊、置く。今缺く。湖北省の境。㋥南齊、置く。今缺く。四川省の境。❸縣名。㋑三國吳、置く。故城は湖南省湘潭縣の北。〔讀史方輿紀要、湖廣、長沙府、湘潭縣、湘潭故城〕建寧城在㆓縣北㆒、三國吳分㆓醴陵㆒置。㋺南朝宋、置く。故城は湖北省麻城縣の西南。❷の㋺を見よ。㋩南朝宋、置く。廣東省高明縣の地。㋥南齊、置く。今缺く。湖北省の境。㋭後魏、置く。今缺く。河南省舊南陽府の境。㋬後魏、置く。今缺く。河南省の境。㋣唐、置く。故城は湖北省石首縣の東南。〔讀史方輿紀要、湖廣、荊州府、石首舊城〕建寧城、在㆓縣東㆒、本華容縣地、宋乾德三年、析㆓石首縣地㆒置㆓建寧縣㆒。㋠唐、置く。故城は廣西省博白縣の西。〔讀史方輿紀要、廣西、梧州府、鬱林州、博白縣〕建寧廢縣、唐武德四年置、幷置㆓郎平・周羅・淳良等縣㆒、皆屬㆓南州㆒、貞觀十二年、省㆓郎平・淳良二縣㆒、而建寧如㆑故、宋開寶五年、廢入㆓博平縣㆒。㋷金、置く。故治は陝西省府谷縣の西北。〔讀史方輿紀要、陝西、延安府、葭州、府谷縣、建寧堡〕元志、金置㆓建寧縣㆒屬㆓葭州㆒。㋦宋初、南唐、置く。漢、治縣の地。福建省泰寧縣の西南。縣の西北に朝天隘あり。贛に入るの孔道なり。〔讀史方輿紀要、福建、邵武府〕建寧縣、晉綏成縣地、唐垂拱中爲㆓將樂縣及撫州臨川縣地㆒、乾符二年、置㆓黃連鎭於此㆒、五年鎭人陳巖以㆓鎭兵㆒禦㆓黃巢㆒、因表爲㆓義寧軍㆒、五代時南唐罷爲㆓永安鎭㆒、又改爲㆓永安場㆒、宋建隆元年、南唐升爲㆓建寧縣㆒、屬㆓建州㆒、太平興國五年、改屬㆓邵武軍㆒、咸淳二年、始城㆑之、明朝宏治四年、因㆓舊址㆒改拓、正德十二年、復營繕。〔清史稿、地理志〕福建、邵武府、縣四、建寧。❹後漢、靈帝、劉宏の年號。(168－172)

【建保】130 ケンパウ 第八十四代順德天皇の年號。(1213－1219)〔藤原宗業勘文〕尙書曰、惟天丕建、保㆓乂有殷㆒。

〖建保役〗131 ケンパウノエキ 順德天皇の建保元年、和田義盛が、北條義時を怨み、兵を擧げて幕府の四方を圍み、泰時が之に當つて力戰した事變。〔日本外史、源氏後記、北條氏〕與㆓建保・承久二役㆒、奚擇。

【建坊】132 ケンバウ 忠義・節孝等の美事善行を奬勵するため、善行者の所在地に標坊を建てて表彰すること。〔清會典事例、禮部〕乾隆二年題准、山西省翼城縣生員李煊、七世同居、給㆑銀建㆑坊、於㆓忠孝節義祠內㆒題㆑碑。〔六部成語、禮部、建坊、注解〕旌表之事、應㆔賜㆑金建㆓坊於所居㆒、坊或石或木爲㆑之、古所謂華表也。

【建旄】133 ケンバウ 旗をたてる。旄は旗竿の頭部につけた犛牛の尾。〔詩、小雅、出車〕設㆓此旐㆒矣、建㆓彼旄㆒矣。〔傳〕旄、干旄。

【建白】134 ケンパク 意見をたてて上に言上する。建言。〔漢書、霍光傳〕建㆓白太后㆒。〔唐書、宦者下、田令孜傳〕宰相盧攜、素事㆓田令孜㆒、每㆓建白㆒、必阿邑倡和。〔胡銓、上㆓高宗㆒封事〕乃建白令㆔臺諫從臣僉㆓議可否㆒。

〖建白書〗135 ケンパクショ 建白の趣意を記した文書。

【建法】136 ケンパフ 法を定める。〔新書、服疑〕建㆑法以習㆑之。

【建碑】137 ケンピ 碑を建立する。〔晉書、羊祜傳〕建㆑碑立㆑廟、歲時饗祭焉。

【建扶】138ケンフ 後魏、元匡(**1－1340**・・126)の字。

【建武】139ケンブ ㊀營の名。四川省興文縣の南。邊疆の要地。〔讀史方輿紀要、四川、敍州府、興文縣〕雞冠嶺砦、在二縣南一、云云、內官砦曰二武寧砦一、其地廣衍、旁皆沃壤、遂均田授レ甿、卽其列雉爲レ城、設二官兵一屯戍、詔名爲二建武所一、是也。㊁城の名。四川省珙縣の東南。㊂年號。㋑後漢、光武帝、劉秀の時。(25－56)㋺晉、惠帝、司馬衷の時。(304)㋩東晉、元帝、司馬睿の時。(317－318)㋥南齊、明帝、蕭鸞の時。(494－498)㋭五胡十六國の一、後趙の太祖武帝、石虎の時。(335－348)㋬五胡十六國の一、西燕の慕容忠の時。(386)㋣ケンム第九十六代後醍醐天皇の御代。(1334－1336)

〖建武軍〗140ケンブグン 行政區劃の名。唐、置く。もとの邕管經略使。咸通の初、改めて嶺南西道節度使を置く。後梁の貞明の初、建武軍節度を置く。宋、之に因り、元、廢す。今の廣西省南寧縣治。〔讀史方輿紀要、歷代州域形勢、唐〕嶺南西、治邕州、本邕管經略使、咸通初廢、容管經略使入焉、二年改置二嶺南西道節度使一、四年又割二桂管・龔象二州一隸焉、五年復以二容管一爲二經略使一、而藤・巖二州隸二於嶺南西道一、又龔・象二州亦還隸二於桂管一、天復末亦曰二建武軍一、葉廣略有二其地一、五代梁貞明初、爲二劉巖所レ拜。

〖建武之役〗141ケンムノエキ 後醍醐天皇が北條高時を討つて建武中興の大業を成就せられた戰。〔川田甕江、得閒瑣錄、畫島鎌倉〕建武之役、新田義貞沈二寶劍一、以祈二於龍神一。

〖建武中元〗142ケンムチユウゲン 後漢、光武帝、劉秀の年號。一に中元といふ。(56－57)

〖建武中興〗143ケンムチユウコウ 後醍醐天皇が北條氏を滅ぼし、皇室の權力を復興し、年號を建武と改め、自ら萬機を統べ給ひ、全國再び朝廷の政令を奉ずるに至つたこと。

【建福】144ケンプク 年號。㊀南北朝時代、新羅の眞平王、金白淨の時。(584－633)㊁北宋の末、遼の天祚帝の代、晉王耶律淳の僭號。一に天福に作る。(1122)㊂淸の德宗の時、大南(越)の簡宗、誼皇帝の時。(1884)

【建物】145タテモノ 家屋・倉庫・殿堂などの建築物。

【建分】146ケンブン 土地を分けて諸侯を建てる。〔新書、藩傷〕其子未レ有レ子者、建分以須二之子生一而立。

【建文】147ケンブン 明、惠帝・朱允炆の年號。(1399－1402)

〖建文帝〗148ケンブンテイ 明の惠帝をいふ。朱允炆(**6－14424**・・667)を見よ。

【建平】149ケンペイ ㊀府名。明、置く。安南東京の東南。〔讀史方輿紀要、廣西、附考、安南〕建平府、在二交州府東南三百里一、永樂二年置。㊁郡名。㋑三國吳、置く。隋、廢す。故治は四川省巫山縣。〔讀史方輿紀要、四川、夔州府〕巫山縣、楚之巫郡也、秦昭襄王三十年、蜀守張若取二巫郡一、尋改置二巫縣一、屬二南郡一、漢因レ之、後漢建安中、先主改屬二宜都郡一、二十四年、孫權分二宜都・巫・秭歸一爲二固陵郡一、章武元年、先主遣二吳班馮習等一、破二權將李異等於巫一、進二兵秭歸一、尋敗還、孫休改置二建平郡一治二信陵一、魏滅レ蜀、亦置二建平郡尉一治レ巫、晉咸寧元年、改二都尉一爲レ郡、仍置レ巫、宋齊亦曰二建平郡一、隋廢レ郡改レ縣曰二巫山一、屬二信州一。㋺南齊、置く。梁末、廢す。故治は雲南省曲靖縣の西。〔讀史方輿紀要、雲南、曲靖軍民府〕廢味縣、或云、在二府西一、齊屬二左建平郡一。㋩後魏、置く。齊・周の間に廢す。故治は山西省孝義縣の西。〔讀史方輿紀要、山西、汾州府、孝義縣〕六壁城、魏收志、永安中置二顯州一、治二六壁城一、領二定戎・建平・眞君等郡一。㊂縣名。㋑漢、置く。故城は河南省永城縣の西南。〔讀史方輿紀要、河南、歸德府、永城縣〕建平城、在二縣西南一、漢置レ縣屬二沛郡一、景帝封二程嘉一爲二侯邑一。㋺三國吳、置く。故治は福建省建陽縣。〔讀史方與紀要、福建、建寧府、建陽縣〕大潭城、郡志、縣一名建平、相傳、漢建安十年、吳析二建安之桐鄉一置。㋩宋、置く。故治は安徽省郎溪縣。〔讀史方輿紀要、江南、廣德州〕建平縣、本廣德縣、宋端拱初、置レ縣治二廊埠鎭一、屬二廣德郡一。㋥淸、置く。滿洲熱河省朝陽縣の西北。老哈河の東。〔淸史稿、地理志〕安徽、廣德直隸州、縣一、建平。㊃晉、元帝の陵名。江蘇省江寧縣の雞籠山に在る。〔晉書、明帝紀〕太寧元年、春二月、葬二元皇帝於建平陵一。〔江寧府志〕建平陵、在二鷄籠山一、不レ起レ墳。㊄年號。㋑漢、哀帝、劉欣の時。(B.C.5－B.C.4, B.C.4－B.C.2)㋺五胡十六國の一、後趙の高祖明帝、石勒の時。(330－333)㋩五胡十六國の一、西燕、慕容瑤の時。(386)㋥五胡十六國の一、後燕の世宗獻武帝、慕容盛の時。(398)㋭五胡十六國の一、南燕の中宗昭武帝、慕容德の時。(400－405)㋬南朝宋の時、南郡王義宣の僭稱。(454)㋣北魏の時、白亞栗斯の僭稱。(415－416)㋠北魏の時、京兆王元愉の僭號。(508)㊅字號。㋑隋、張衡(**4－9812**・・120)の字。㋺淸、毛宗文(**6－16772**・・304)の字。

〖建平侯〗150ケンペイコウ 漢、杜延年(**6－14477**・・286)の封號。

〖建平宣簡王〗151ケンペイセンカンワウ 南朝宋、劉宏(**2－2224**・・208)の封謚號。

【建坪】152タテツボ 建築物の坪數。一坪は六尺四方の面積。

【建輔】153ケンポ 明、方佑(**5－13620**・・8)の字。

【建木】154ケンボク ㊀巨木の名。〔山海經、海內南經〕有レ木、其狀如レ牛、引レ之有レ皮、若二櫻黃蛇一、其葉如レ羅、其實如レ欒、其木若レ蓲、其名曰二建木一、在二窫窳西弱水上一。〔注〕建木、青葉紫莖、黑花黃實。〔山海經、海內經〕有レ木、青葉紫莖、玄花黃實、名曰二建木一、百仞無レ枝、有二九欘一、下有二九枸一、其實如レ麻、其葉如レ芒、大皥爰レ過、黃帝所レ爲。〔呂覽、有始〕白民之南、建木之下、日中無レ影、呼而無レ響、蓋天地之中也。〔注〕白民之國、在二海外極內一、建木在二廣都南方一、衆帝所二從上下一也、復在二白民之南一。〔淮南子、墬形訓〕建木在二都廣一。〔後漢書、馬融傳〕珍林嘉樹、建木叢生。〔注〕建木、長木也。㊁淸、姚楗(**3－6202**・・48)の字。

【建本】155ケンポン ㊀本を建てる。〔魏志、毛玠傳〕未レ有二樹レ基建レ本者一也。㊁說苑の篇名。

【建明】156ケンメイ ㊀事を興し明かにする。〔漢書、韓王信傳〕保レ身固レ寵、不レ能レ有レ所二建明一。〔楊惲、報二孫會宗一書〕曾不レ能下以二此時一有レ所二建明一、以宣中德化上。〔蘇洵、上二韓昭文一論二山陵一書〕何愛二一時之勞一、而無レ所二建明一。㊁年號。㋑五胡十六國の一、西燕の慕容顗の時。(386)㋺北魏の時、呂苟兒の僭號。(506)㋩北魏の敬帝の時。(530－531)

【建茗】157ケンメイ 建溪に產する茶。建茶。建溪(47)の㊀を見よ。〔開元天寶遺事、敲レ冰煑レ茗〕逸人王休、居二太白山下一、日與二僧道異人一往還、每レ至二冬時一、取二溪冰一敲二其精瑩者一、煑二建茶一、共二賓客一飮レ之。

【建陽】158ケンヤウ ㊀縣名。㋑漢、置く。故城は山東省嶧縣の西。〔讀史方輿紀要、山東、兗州府、嶧縣〕建陽城、在二縣西一、漢縣、屬二東海郡一、宣帝封二魯孝王子咸一爲二侯邑一、後漢亦曰二建陽縣一、建武五年、董憲招二五校餘賊一、拒二守建陽一、是也。㋺漢、置く。故城は安徽省滁縣の東。〔漢書、地理志上〕九江郡、縣十五、建陽。〔讀史方輿紀要、江南、滁州〕建陽城、本秦縣、漢屬二九百郡一、後漢省入。㋩晉、置く。漢の治縣、三國吳の建平縣の地。福建省建甌縣の西北。崇溪の西岸。〔讀史方輿紀要、福建、建寧府〕建陽縣、本建安縣地、晉太康四年、析置二建陽縣一、屬二建安郡一、宋齊因レ之、隋復省入二建安縣一、唐武德四年、仍置二建陽縣一、屬二建州一、八年省、垂拱四年復置、宋景定元年、以二縣之唐石里嘉禾生一改爲二嘉禾縣一、元復レ舊。〔淸史稿、地理志〕福建、建寧府、縣七、建陽。㊁鎭の名。㋑江蘇省鹽城縣の西北。㋺湖北省荊門縣の南。㊂朝鮮の高宗、李熙の年號。(1896)㊃後漢、丁原(**1－2**・・58)の字。㊄ヤユ 姓氏。〔姓名錄抄〕。

〖建陽八座〗159ケンヤウハチザ 草の名。蛇床子の異名。蛇牀(**10－32964**・・40)を見よ。〔淸異錄、藥、藥譜〕建陽八座、蛇床子也。

【建蘭】160ケンラン 福建省に產する蘭の一種。莖の上部に數花を開き、淡黃綠色で香氣幽雅である。〔王貴學蘭譜、白蘭〕建蘭色白而潔、味穹而幽、葉不二甚長一、只近二二尺許一、深綠可レ愛、最怕二霜凝一、日曬則葉尾皆焦、愛レ肥惡レ燥、好レ濕惡レ濁、淸香皎潔、勝二於漳蘭一、但葉不レ如二漳蘭修長一、此南建之奇品也、品第亦多、而予尚未レ造二奇妙一、宜二黑泥和レ沙。

【建立】161ケンリツ ㊀たて設ける。定める。樹立する。〔書、洪範〕擇建二立卜筮人一、乃命二卜筮一。〔史記、李斯傳〕非三上所二建立一。〔漢書、朱博傳〕建二立鴻業一。〔後漢書、章帝紀〕建二立五經一。㊁佛コンリフ 堂塔・伽藍等を造りたてる。〔法華經、方便品〕若人爲レ佛故、建二立佛形像一。

【建隆】162（ケンリュウ）　宋、太祖、趙匡胤の年號。（960－963）

【建陵】163（ケンリョウ）　㊀山名。江蘇省沭陽縣の西北。一名、張倉山。〔魏書、地形志中〕建陵、有建陵山。㊁縣名。㋑漢、置く。故城は江蘇省沭陽縣の西北。〔讀史方輿紀要、江南、淮安府沭陽縣〕建陵城、在縣西北、古郯國地、亦曰中城、後屬魯、左傳成九年、城中城、杜預曰、厚邱縣西南有中城、是也、漢置建陵縣於此、屬東海郡、景帝時、封衞綰爲侯邑、又宣帝封魯孝王子遂於此、後漢縣省、或謂之不其城云云、後魏復置建陵縣、縣有建陵山、郯郡治焉、齊建武二年、拔魏建陵城又梁普通五年、裴邃等攻魏克建陵城、是也、後周廢。㋺三國吳、置く。故城は廣西省修仁縣の南。〔讀史方輿紀要、廣西、平樂府〕修仁縣、漢荔浦縣地、吳析置建陵縣、屬蒼梧郡、晉因之、劉宋末、改屬始建國、齊曰建陵左縣、仍屬始安郡、梁置建陵郡治焉。㋩晉、置く。故治は江蘇省泰縣の東北。〔讀史方輿紀要、江南、揚州府、泰州〕建陵廢縣、本東海郡屬縣、晉義熙中、僑置於此、屬山陽郡。㊂唐の肅宗の陵名。郭子儀を陪葬す。陝西省醴泉縣の北、武將山に在る。〔唐書、代宗紀〕廣德元年、三月庚午、葬文明武德大聖大宣孝皇帝於建陵。〔文獻通考、王禮考、山陵〕建陵、在京兆府醴泉縣界。〔醴泉縣志〕建陵、唐肅宗陵也、縣西北三十里武將山、下宮去陵五里。

〔建陵侯〕164（ケンリョウコウ）　漢、衞綰（**10－34074**・・120）の封號。

【建龍】165（ケンリョウ）　中唐、南詔（大理國）の孝恆帝の年號、見龍の一稱。（779－793）

【建伶】166（ケンレイ）　縣名。漢、置く。今、雲南省昆明縣の境。〔漢書、地理志上〕益州郡、縣二十四、建伶。

【建瓴】167（ケンレイ）　瓶の水を屋上からくつがへす。勢の強い喩。建は覆、瓴は瓶。〔史記、高祖紀〕猶居高屋之上、建瓴水也。〔漢書、高帝紀、注〕如淳曰、瓴、盛水瓶也、居高屋之上而幡覆其瓴水、言其向下之勢易也、建、音蹇。〔王先謙補注〕沈欽韓曰、瓴、瓴敵也、屋檐寫水者、或以板爲之、如説誤。〔周書、韋孝寬傳〕持建瓴之勢。〔六部成語、工部、建瓴而下、注解〕河水自高處下注、如房瓦之層層而下。

【建禮】168（ケンレイ）　㊀漢の宮門の名。〔沈約、和謝宣城詩〕晨趨游建禮。〔注〕善曰、漢書典職曰、尚書郎、晝夜更直於建禮門內。㊁禮部の別稱。〔錦字箋、一〕。

〔建禮門〕169（ケンレイモン）　大內裏外郭十二門の一。皇居南面中央にあり。白馬陣といふ。又、南面僻仗中門とも名づける。

【建曆】170（ケンレキ）　㊀曆法をたてる。〔後漢書、律曆志中〕建曆之本必立元、元正然後定日法、法定然後度周天、以定分至。㊁（ケンリャク）　第八十四代順德天皇の年號。（1211－1213）

【建路】171 chien⁴ lu⁴　鐵道を敷設する。

【建華冠】172（ケンクワクワン）　冠の名。鐵で柱卷を作り、大銅珠を貫く。舞樂に用ひる。〔獨斷〕大樂郊祀舞者、冠建華冠。〔後漢書、輿服志下〕建華冠、以鐵爲柱卷、貫大銅珠九枚、制似縷鹿。

【建華車】173（ケンクワシヤ）　古代の獸車。〔晉書、輿服志〕建華車、駕四、凡二乘、行則分居左右。

【建蓮子】174 chien⁴ lien² tzŭ　福建省から產する蓮の實。

【建類一首】175（ケンルイイツシユ）　文字の六書に關する後漢の許愼の轉注說で、文字の義類を分けたてて、その部首を一にすること。例へば、考とか老とかの文字を一所の部首にまとめて、考を老に、老を考の意味に通じ用ひること。〔許愼、說文解字敍〕轉注者、建類一首、同意相受、考・老是也。

【廻】9575

［一］（クワイ　グワイ）〔篇海〕胡隈切　灰　ㄏㄨㄟ huei²

［二］（クワイ　グワイ）〔篇海〕胡對切　隊

慣 ヱ

［一］［二］㊀**まはる**。めぐる。〔太玄經、玄攡〕天日廻行。〔注〕廻、猶運也。㊁**まがる**。〔張衡、東京賦〕廻行道乎伊闕。〔注〕綜曰、廻、曲也。㊂**さける**。〔淮南子、氾論訓〕天下納其貢職者廻也。〔注〕回、迂難也。㊃**とほる**。**ゆきわたる**。〔呂覽、上德〕德廻乎天地。〔注〕廻、通也。㊄**よこしま**。〔班固、幽通賦〕叛廻穴其若茲兮。〔注〕善曰、曹大家曰、廻、邪也。㊅囘（**2－1521**）に同じ。〔字彙〕廻、同囘。㊆逥（**11－38818**）に同じ。〔正字通〕廻、同囘、蓋囘、卽雷、水囘爲囘、後人欲別之加廻。

参考　㊀回（**3－4690**）に同じ。今、廻は、其の用途狹く、多く「めぐる」の意にのみ用ひる。尚熟語は回を併せ見よ。㊁迴（**11－38786**）は別字。

【廻斡】1（クワイアツ）　廻轉すること。〔謝惠連、七月七日夜詠牛女詩〕傾河易廻斡、款情難久悰。〔注〕善曰、如淳漢書注曰、斡、轉也。〔杜甫、三川觀水漲詩〕乘陵破山門、廻斡裂地軸。

【廻漪】2（クワイイ）　めぐりまはる水波。〔沈約、上巳華光殿詩〕河宗海若生蛟螭、浮梁徑度跨廻漪。

【廻迂】3（クワイウ）　まはりどほい。〔陳師道、贈石先生詩〕臨事廻迂種種遲。

【廻縈】4（クワイエイ）　まはりめぐる。〔李白、憶舊遊寄譙郡元參軍詩〕相隨迢迢訪仙城、三十六曲水廻縈。

【廻易】5（クワイエキ）　物品の交易。回易（**3－4690**・・9）に同じ。〔舊唐書、德宗紀上〕諸節度觀察使、於揚州置廻易邸、並罷之。

【廻淵】6（クワイエン）　めぐり流れる淵。回淵。〔潘岳、閑居賦〕環林縈映、圓海廻淵。

【廻緣】7（マハリエン）　室のまはりにめぐらして附けた緣側。

【廻崖】8（クワイガイ）　めぐり廻つてゐるがけ。〔李白、廬山謠、寄盧侍御虛舟〕廻崖沓嶂凌蒼蒼。〔李紳、山出雲詩〕廻崖時掩鶴、幽澗或隨人。

【廻向】9（エカウ）　回向（**3－4690**・・17）に同じ。

【廻江】10（クワイカウ）　めぐりまはつてゐる河。〔王褒、洞簫賦〕廻江流川而溉其山。

【廻行】11（クワイカウ）　まがり行く。〔張衡、東京賦〕廻行道乎伊闕。〔注〕綜曰、廻、曲也。

【廻耗】12（クワイカウ）　返事。返信。〔李朝威、柳毅傳〕脫獲廻耗、雖死必謝。

【廻航】13（クワイカウ）　處處を經めぐつて航海する。又、處處をめぐつて元の地點にかへる航海。

〔廻航委員〕14（クワイカウヰヰン）　外國に註文して落成した軍艦を引受けて廻航するために任命差遣される委員。

【廻鶴】15（クワイカク）　飛びめぐる鶴。〔王融、雙聲詩〕廻鶴橫淮翰、遠越合雲霞。

【廻合】16（クワイガフ）　めぐりあふ。〔謝靈運、入彭蠡湖口作詩〕洲島驟廻合、圻岸屢崩奔。〔沈約、反舌賦〕駢浮廻合、喦危瑣散。〔劉廷芝、公子行〕馬聲廻合青雲外、人影搖動綠波裏。〔李白、明堂賦〕翠楹廻合、蟬聯汗漫。〔邵長蘅、夜遊孤山記〕兩高南屏諸峯、廻合如大環。

【廻含】17（クワイガン）　取りまく。〔劉恭伯、梁公功績記〕崇廊四注以廻含、層構中開而嶕崒。

【廻逆】18（クワイギャク）　めぐりさからふ。逆にまはる。〔吳志、陸凱傳〕風氣廻逆。

【廻渠】19（クワイキョ）　めぐりまがつた溝。〔陸機、答張士然詩〕廻渠繞曲陌。

【廻曲】20（クワイキョク）　めぐりまがる。彎環。〔江總、庚寅年二月十二日遊虎丘山精舍詩〕縱棹憐廻曲、尋山靜見聞。

【廻廻】21（クワイクワイ）　大きなさま。〔束皙、補亡詩〕漫漫方輿、廻廻洪覆。〔注〕翰曰、漫漫・廻廻、大貌。

【廻皇】22（クワイクワウ）　廻遑に同じ。〔馬融、長笛賦〕長矕遠引、施復廻皇。〔注〕翰曰、施復廻皇、皆聲去住不定、高下不常貌。

【廻遑】23（クワイクワウ）　まはりうろたへる。たちもとほる。旁皇。佪徨。回遑。〔謝莊、月賦〕滿堂變容、廻遑如失。

【廻環】24（クワイクワン）　めぐりまはる。〔顏延之、應詔觀北湖田收詩〕飛奔互流綴、緹縠代廻環。〔注〕翰曰、廻環、周行也。

【廻還】25（クワイクワン）　廻環に同じ。〔劉峻、辨命論〕交錯糾紛、廻還倚伏。

【廻溪】26（クワイケイ）　めぐり曲る谷。〔枚乘、七發〕依絕區兮臨廻溪。〔柳宗元、桂州訾家洲亭記〕其隙則抗月檻於廻谿。

【廻谿】27（クワイケイ）　廻溪に同じ。〔潘岳、金谷集作詩〕

廻谿縈二曲阻一。

【廻穴】28 クヮイケツ ㊀風向きの定まらぬさま。一說に、急なこと。〔宋玉、風賦〕耾耾雷聲、廻穴錯迕。〔注〕善曰、廻穴、此卽風不レ定貌、濟曰、廻穴、猶レ急也。㊁よこしま。かたよる。又、めぐる。回穴。〔班固、幽通賦〕叛廻穴其若レ茲兮。〔注〕善曰、曹大家曰、廻、邪也、穴、僻也、韓詩曰、謀猶廻穴。

【廻眷】29 クヮイケン 己になさけをかける。〔謝靈運、還二舊園一作見二顏范二中書一詩〕聖靈昔廻眷、微尙不レ及レ宣。〔注〕善曰、廻眷、謂三眷二顧於己一也。

【廻顧】30 クヮイコ ふりかへる。回顧。〔北史、序、李禮成傳〕此兒平生、未二嘗廻顧一、當レ爲二重器一。〔崔駰、七依〕廻顧百萬、一笑千金。

【廻亙】31 クヮイコウ めぐりわたる。〔木華、海賦〕廻二亙萬里一。〔注〕翰曰、廻亙、廻轉也。

【廻國】32 クヮイコク 國々をめぐり歩く。又、順禮となつて札所を巡拜すること。〔謠曲、安達原〕。

【廻鵠】33 クヮイコク 飛び廻つてゐる鵠。〔謝靈運、擬二魏太子鄴中集一、平原侯植詩〕哀音下二廻鵠一、餘哇徹二清昊一。

【廻忽】34 クヮイコツ 雅樂の一。又、廻骨といふ。唐樂。新樂の中曲。平調曲に屬し、拍子十二、舞は無い。〔樂考〕・〔樂曲考〕。

【廻紇】35 クヮイコツ ウヰグル 廻鶻に同じ。

【廻鶻】36 クヮイコツ ウヰグル 西域部落の名。唐の德宗の時、廻紇の紇の字を鶻に改めた。回紇。〔舊唐書、廻紇傳〕廻紇、其先匈奴之裔也。〔唐會要、廻紇〕五年七月、公主至二衙帳一、廻紇使李義進請、因二咸安公主下降一、改二紇字一爲二鶻字一、蓋欲レ誇二國俗俊建如レ鶻也、德宗允二其奏一、自レ是改爲二廻鶻一。

【廻漕】37 クヮイサウ 船で旅客・物品をはこぶこと。回漕に同じ。

〖廻漕店〗38 クヮイサウテン 廻漕業の家。廻漕問屋。

【廻霜】39 クヮイサウ 霜をかへし收める。霜は威光をいふ。天子の威をゆるめる喩。〔陸機、謝二平原內史一表〕重蒙二陛下愷悌之宥一、廻レ霜收レ電、使レ不二隕越一。〔注〕向曰、霜電喩レ威、隕越、死也、蒙二天子寬一、廻二收其威一、使レ至二不死一也。

【廻匝】40 クヮイサフ めぐる。〔左思、魏都賦〕築二曾宮一以廻匝。

【廻散】41 クヮイサン めぐりちる。〔謝惠連、雪賦〕皓汗皦潔之儀、廻散縈積之勢。

【廻殘】42 クヮイザン 殘りものを安く賣る。又、あまり。剩餘。回殘(3-4690‥111)に同じ。〔陔餘叢考、廻殘〕凡買レ物應二用後仍減レ價賣一レ之、俗謂二之回殘一、此二字見二舊唐書、王毛仲傳一、毛仲管二閑廐馬一、凡芻粟之類、吏下不二敢盜竊一、每歲廻殘常致二數萬斛一。

【廻車】43 クヮイシャ 車をかへす。回車。〔曹植、與二吳質一書〕墨翟不レ好レ妓、何爲過二朝歌一而廻レ車乎。〔人物志、釋爭〕藺相如以二廻車一決二勝於廉頗一、寇恂以二不鬪一取二賢於賈復一、物勢之反、乃君子之所謂道也。

〖廻車戍〗44 クヮイシャジュ 壘の名。陝西省鳳縣の南。回車戍(3-4690‥128)に同じ。

【廻斜】45 クヮイシャ ななめにめぐる。〔梁簡文帝、行雨山銘〕紫水廻斜。

【廻掌】46 クヮイシャウ 掌を運らす。疾い喩。〔鮑照、升天行〕翩翻類二廻掌一、怳惚似二朝榮一。〔注〕善曰、廻掌、言レ疾也。

【廻翔】47 クヮイシャウ かけめぐる。走りめぐる。翱翔。〔楚辭、九歌、大司命〕君廻翔兮以下、踰二空桑一兮從レ女。〔補注〕廻翔、猶二翱翔一也。〔吳越春秋、句踐入臣外傳〕越王夫人哀吟曰、彼飛鳥兮鳶鳥、已廻翔兮翕蘇。〔枚乘、七發〕廻二翔靑篾一、銜二枚檀桓一。〔班彪、覽海賦〕翼二飛風一而廻翔。〔沈約、詠二湖中鴈一詩〕旅鴈每廻翔。〔白居易、崔公墓誌銘〕廻二翔壇上一。

【廻狀】48 クヮイジャウ ㊀名宛を連名にして順次にまはして通知する書狀。回章。觸狀。廻文。移文。㊁返事の手紙。返書。

【廻首】49 クヮイシュ 首をめぐらして顧みる。回首。〔李咸用、送二從兄坤載一詩〕那堪廻レ首處、殘照滿二衣裳一。

【廻渚】50 クヮイショ めぐりまはつてゐる水際。〔謝靈運、於二南山一往二北山一經二湖中一瞻眺詩〕舍レ舟眺二廻渚一、停レ策倚二茂松一。

【廻誦】51 huei^2 sung^4 繰返し讀む。廻環。

【廻心】52 クヮイシン ㊀心をかへる。心を改める。回心。〔潘岳、悼亡詩〕僶俛恭二朝命一、廻心反二初役一。㊁石の名。陝西省華陰縣の華山の下。華山に登らんとする者が此處に至つて千仞の絕壁を仰視するに、臆病の者は恐れをののき、心をかへて退く。故に廻心の二字を刻んだ石を建て、廻心石といふ。〔三才圖會、華山圖攷〕度二石橋一、從レ左徑上可二里許一、有二回心石一、從レ此上千尺撞、遊人見レ險、心悸率退轉、是名二回心一。

【廻身】53 クヮイシン 身體をひるがへす。〔傅毅、舞賦〕廻レ身還入、迫二於急節一。〔孫綽、情人碧玉歌〕感レ君不二羞赧一、廻レ身就二郞抱一。

【廻軫】54 クヮイシン 車をかへす。軫はくるま。〔揚雄、羽獵賦〕因廻レ軫還レ衡。

【廻睛】55 huei^2 ching^1 眼の玉をまはす。

【廻橈】56 クヮイゼウ かいをめぐらし舟をかへす。舟の方向を變へる。回棹。〔蕭慤、濟二黃河一詩〕廻レ橈避二近磧一、放レ舳下二前洲一。

【廻折】57 クヮイセツ 折れ曲る。〔虞集、金人出塞圖詩〕束身直上不二廻折一。

【廻雪】58 クヮイセツ 舞ひ翻る雪。舞のさま。回雪。〔白居易、新樂府、胡旋女詩〕廻雪飄颻轉蓬舞、左旋右轉不レ知レ疲。

【廻阡】59 クヮイセン 廻つてゐる道。〔謝混、游二西池一詩〕廻阡被二陵闕一、高臺眺二飛霞一。〔注〕銑曰、阡、道也。

【廻旋】60 クヮイセン めぐりまはる。めぐらす。回旋。〔列子、湯問〕廻旋進退。〔史記、五宗世家、王二卑溼貧國一、注〕集解曰、應劭曰、臣國小地狹、不レ足二廻旋一。〔舊唐書、廻紇傳〕元和四年、改爲二廻鶻一、義取二廻旋輕捷如一レ鶻也。

【廻船】61 クヮイセン ㊀船をめぐらす。〔吳志、吳主孫權傳、注〕權因廻レ船、復以二一面一受レ箭。〔晉書、王濬傳〕於二長流之中一、廻レ船過レ渾。㊁廻漕に用ひる船。

〖廻船問屋〗62 クヮイセンドヒヤ 廻漕店(38)に同じ。廻船屋。

【廻送】63 クヮイソウ 貨物を船や車で送り屆けること。

【廻贈】64 クヮイソウ 官吏が己の得べき封誥を奏請して、改めて遠祖等に授けること。貤封。〔唐懿宗、登二寶位一赦書〕父母未レ經二追贈一者、並二予追贈一、品秩已崇、請三廻二贈祖父母一者亦聽。

【廻帶】65 クヮイタイ とりまきめぐる。〔左思、吳都賦〕虹蜺廻二帶於雲館一。

【廻棹】66 クヮイタウ 廻橈(56)に同じ。〔白居易、杭州廻舫詩〕欲三將レ此意憑二廻棹一。

【廻塘】67 クヮイタウ ㊀つつみをめぐる。〔張衡、南都賦〕收レ歡命レ駕、分レ背廻レ塘。㊁めぐつてゐるつつみ。〔謝惠連、西陵遇レ風獻二康樂一詩〕廻塘隱二艫栧一、遠望絕二形音一。

【廻遲】68 クヮイチ 躊躇する。たちもとほる。〔陸機、挽歌詩〕廻遲悲二野外一。

【廻持】69 マハリモチ 數人で順次に持つこと。

【廻腸】70 クヮイチャウ ㊀腸をめぐらす。感動する喩。〔宋玉、高唐賦〕感レ心動レ耳、廻レ腸傷レ氣。〔注〕善曰、言下上諸聲、能廻二轉人腸一、傷中斷人氣上。㊁まがりくねつてゐる腸。道などの曲りくねるさま。〔柳宗元、登二柳州城樓一寄二漳汀封連四州一詩〕嶺樹重遮二千里目一、江流曲似二九廻腸一。

【廻汀】71 クヮイテイ まはりくねつてゐるみぎは。曲汀。〔李商隱、雨詩〕蕭灑傍二廻汀一、依微過二短亭一。〔李君房、獨繭綸詩〕魚既得兮心亦冥、收二纖縷一兮旋二廻汀一。

【廻睇】72 クヮイテイ ふりかへつて見る。〔歐陽詹、送二巴東林明府之一レ任序〕游二盤貴境一、爲レ池爲レ墉、退レ公多レ暇、爲レ我廻睇。

【廻艇】73 クヮイテイ 船をひきかへす。〔屈同仙、烏江女詩〕見レ人羞不レ語、廻レ艇入二溪藏一。

【廻眺】74 クヮイテウ ふりかへりながめる。〔左思、吳都賦〕曠瞻迢遞、廻眺冥蒙。〔夏侯湛、春可レ樂賦〕登二夷岡一以廻眺。〔李嶠、奉レ敎追赴二九成宮一途中口號詩〕長驅歷二川阜一、廻眺窮二原澤一。

【廻潮】75 クヮイテウ ひきしほ。退潮。〔謝惠連、泛レ湖歸出二樓中一翫レ月詩〕憩レ榭面二曲汜一、臨レ流對二廻潮一。〔注〕濟曰、廻潮、潮落之名。

【廻天】76 クヮイテン 天を廻轉させる。廻天之力を見よ。

〖廻天之力〗77 クヮイテンノチカラ 天を廻轉させる力。君主の心をひきもどす力。時勢を一變する力。〔唐書、張玄素傳〕魏徵名二梗挺一、聞二玄素言一、歎曰、張公論レ事、有二廻天之力一。

〖廻天挽日〗78 クヮイテンバンジツ 天を廻轉させ落日をひき戾すこと。力の極めて壯大なこと。〔福惠全書、蒞任部、稟帖贅說〕廻レ天挽レ日之功、皆出二憲臺起一レ死噓レ枯之賜一矣。

【廻天倒日之力】79（クヮイテンタウジツノチカラ）　天を廻轉させ、日を倒にする力。力の極めて大きな喩。〔陸機、弔㆓魏武帝㆒文〕夫以㆓廻天倒日之力㆒、而不㆑能㆑振㆓形骸之內㆒。

【廻轉】80（クヮイテン）　くるくるめぐる。〔禮、曲禮上、疏〕初將㆑入時、視必下而竟不㆑得㆔廻轉廣有㆓瞻視㆒也。〔謝靈運、從㆓斤竹澗㆒越㆑嶺溪行詩〕乘㆑流翫㆓廻轉㆒。

【廻轉窓】81（クヮイテンマド）　廻轉するやうに作つた窓。

【廻轉運動】82（クヮイテンウンドウ）　❶くるくるとめぐる運動。❷胡瓜などの卷鬚が他物にくるくるとまきつくこと。

【廻途】83（クヮイト）　まはつてゐる途。〔班固、西都賦〕巡㆓廻途㆒而下低。

【廻嶝】84（クヮイトウ）　曲りくねつた坂路。〔王冷然、清冷池賦〕連㆓小山㆒而夾㆓廻嶝㆒、截㆓長河㆒而分㆓半水㆒。

【廻頭】85（クヮイトウ）　頭をめぐらす。回頭。〔元稹、望㆓雲騅馬㆒歌〕分㆑騣擺㆑袂頭太高、擘㆑肘廻㆑頭項難㆑轉。

【廻旆】86（クヮイハイ）　旗をめぐらす。〔張衡、西京賦〕廻㆑旆右移。

【廻望】87（クヮイバウ）　みまはす。かへりみる。回望。

【廻陌】88（クヮイハク）　廻つてゐる道。〔鮑照、行藥至㆓城東橋㆒詩〕嚴車臨㆓廻陌㆒、延瞰歷㆓城闉㆒。

【廻薄】89（クヮイハク）　めぐりせまる。〔素問、五常政大論〕太虛寥廓、五運廻薄。〔水經、江水注〕楚諺云、洲不㆑百、故不㆑出㆓王者㆒、今上在㆑西、忽有㆓一洲自生㆒、沙流廻薄、成不㆑淹㆑時、其後未㆑幾、龍飛㆓江漢㆒矣。〔潘岳、秋興賦〕四時忽其代序兮、萬物紛以廻薄。

【廻番】90（マハリバン）　順を逐ひ代りあつて事に當ること。順番。

【廻避】91（クヮイヒ）　❶さける。遠慮する。〔漢書、蓋寬饒傳〕刺擧無㆑所㆓廻避㆒。〔後漢書、光武紀下〕吏雖㆓逗留廻避㆒、故縱者皆勿㆑問。〔後漢書、逸民傳論〕或廻避以全㆓其道㆒。〔晉書、姚弋仲載記〕屬㆓獻讜言㆒、無㆑所㆓廻避㆒。〔北史、李冏傳〕冏性鯁烈、敢直言、常面㆓折孝文㆒、彈㆓駁公卿㆒、無㆑所㆓廻避㆒、百僚皆憚㆑之。❷清代、一般官吏が私情で公義を紊る嫌疑を避けるため設けた制度。例へば、親族關係、師弟關係、又は統屬の關係のある者は、同一の官廳に奉職するを得ず、地位の卑い者から之を避ける類。此の風は既に南史に見えて居る。〔清會典事例、吏部〕官員廻避、康熙三年題准、外任官員、現在㆓上司中㆒有㆑係㆓宗族㆒者、皆令㆓廻避㆒、九年議准、官員有㆑應㆓廻避之缺㆒、不㆑行㆓申說廻避㆒者、降㆓一級㆒調用、四十二年議定、選補官員所㆑得之缺、在㆓五百里以內㆒、均行㆓廻避㆒、若有㆘以㆑遠報㆑近、以㆑近報㆑遠、希㆓圖規避㆒、擇缺之美惡者㆖、或經㆑部察出、或到㆑任後督撫題參、照㆑規避㆑例革㆑職、如無㆓規避捏報之處㆒、不㆑行㆓申說廻避㆒者、照㆘不㆑行㆓廻避㆒例㆖降㆓一級㆒調用。〔清國行政法汎論、官吏分限、廻避〕廻避者、謂遇㆑有㆓特定事情㆒、使㆘官吏必去㆓其任㆒、或不㆖得㆔新就㆓其任㆒、以杜㆘絕爲㆓私情㆒誤㆓公義㆒之弊害㆖、或遠避㆓其嫌疑㆒也。〔六部成語、吏部、廻避、注解〕同省爲㆑官者、如係㆓父子叔姪兄弟親戚㆒、皆令㆔官小者廻㆓避他省㆒。

【廻付】92（クヮイフ）　廻しかへすこと。〔議院法、第五十五條〕。

【廻鶩】93（クヮイブ）　めぐりはせる。〔鮑照、舞鶴賦〕帀㆓日域㆒以廻鶩。

【廻風】94（クヮイフウ）　❶つむじかぜ。旋風、羊角。回風。〔阮籍、詠懷詩〕廻風吹㆓四壁㆒。〔杜甫、對㆑雪詩〕急雪舞㆓廻風㆒。〔柳宗元、南澗中題詩、四〕廻風一蕭瑟、林影久參差。❷曲の名。〔洞冥記、四〕帝所㆑幸宮人、名麗娟、年十四、云云、每㆑歌、李延年和㆑之、於㆓芝生殿㆒唱㆓廻風之曲㆒、庭中花皆翻落。

【廻風磯】95（クヮイフウキ）　地名。❶江西省九江縣の東の大江の南岸。❷湖北省蘄水縣の西南の大江の中。石質の一小山。〔入蜀記〕廻風磯、無㆓大山㆒、蓋江濱石磧耳、然水急浪湧、舟過其難。

【廻復】96（クヮイフク）　めぐりかへる。回復。〔左思、吳都賦〕廻㆓復萬里㆒。

【廻文】97（クヮイブン）　❶始から讀んでも、終から讀んでも、又、中央から旋回して讀んでも意味をなすやうに作つた詩文。傅咸に廻文反覆詩、金石索に六朝の廻文鏡銘、梁簡文帝に廻文紗扇銘がある。廻文詩（100）を見よ。〔江淹、別賦〕織錦曲兮泣已盡、廻文詩兮影獨傷。❷㋑廻文歌の略。㋺まはしぶみ。回狀。回章。

【廻文歌】98（クヮイブンカ）　始から讀むも終から逆に讀むも、同じ語になるやうに作つた和歌。詠㆓草花㆒古歌に「むらくさにくさのなはもしそなはらば、なぞしも花のさくにさくらむ」。

【廻文錦】99（クヮイブンキン）　❶廻文錦字詩（103）を見よ。〔梁元帝、蕩婦秋思賦〕妾怨廻文之錦、君思出塞之歌。〔袁桷、觀㆓閑閑齋紅梅㆒次㆓蘇公姿字韻㆒詩〕團團似㆑就廻文錦、薄暮凝愁下㆓翠枝㆒。❷戲曲の名。清、洪昇撰。蘇蕙が錦字廻文の詩を夫に寄せた故事を潤色したもの。

【廻文詩】100（クヮイブンシ）　詩の別體。詩句を碁盤の目のやうに排列し、始から讀み下すも、終から逆に讀み返すも、又、中央から旋回して讀むも平仄も韻も相かなふやうに作つたもの。魏の曹植に鏡銘あり、回環して讀むに皆、文を爲す。前秦の蘇伯玉の妻の盤中詩、竇滔の妻、蘇蕙の廻文旋圖詩に至つて、其の體制が大いに備はる。後人の廻文詩は多く逆讀するのみで、反覆するものはない。回文詩（**3－4690**・・247）及び璇璣圖（**7－21203**・・5）を見よ。〔王融、春遊廻文詩〕枝分柳塞北、葉暗榆關東、垂條逐㆑絮轉、落蕊散㆓花叢㆒、池蓮照㆓曉月㆒、幔錦拂㆓朝風㆒、低吹雜㆓綸羽㆒、薄粉豔㆓粧紅㆒、離情隔㆓遠道㆒、歎結深閨中。〔蘇軾、題㆓金山寺㆒回文體詩〕潮隨㆓暗浪㆒雪山傾、遠浦漁舟釣㆓月明㆒、橋對㆓寺門㆒松逕小、檻當㆓泉眼㆒石波清、迢迢綠樹江天曉、靄靄紅霞晚日清、遙望㆓四山㆒雲接㆑水、碧峯千點數鷗輕。〔詩林廣記〕皮日休雜體詩序曰、晉溫嶠始有㆓廻文詩㆒。〔陔餘叢考、廻文詩〕廻文詩、世皆以爲㆑始㆓於蘇蕙㆒、然劉勰謂、回文所㆑興、道原爲㆑始、則非㆑起㆓於蘇蕙㆒矣、道原不㆑知㆓何姓何時人㆒、按、梅慶生注㆓文心雕龍㆒云、宋有㆓賀道慶㆒、作㆓四言廻文詩一首㆒、計十二句、從㆑尾至㆑首、讀亦成㆑韻、勰所謂道原、或卽道慶之訛也、但道慶宋人、而蘇蕙苻秦人、則蕙仍在㆓道慶前㆒、而勰謂始㆑自㆓道原㆒、意或當時南北朝分裂、蕙所㆑作尙未㆔傳㆓播江南㆒、而道慶在㆓南朝㆒、實剏㆓此體㆒、故以爲㆑首耳、今道慶廻文不㆑傳、惟蕙詩見㆓於記載㆒、亦名㆓璇璣圖㆒、其序云、前秦安南將軍竇滔、與㆓寵姬趙陽臺㆒之㆑任、而遺㆓其妻蘇蕙於家㆒、蕙織㆑錦廻文題㆓詩二百餘首、計八百餘字㆒、縱橫反覆、皆爲㆓文章㆒、名曰㆓璇璣圖㆒、寄㆑滔、滔感㆓其意㆒、仍迎㆓蘇氏㆒、而遺㆓陽臺㆒、此廻文之祖也、北史刑臧傳、臧與㆓裴敬憲盧觀等㆒、共讀㆓廻文集㆒、臧獨先通、東觀餘論云、璇璣圖、讀者惟曉㆓外繞七言㆒、至㆓其中㆒、多不㆑能㆑讀、少常沈公亦謂、詞句脫落、讀不㆑成㆑文、不㆑知此詩本以㆓五色㆒織成、因以別㆓三四五七言之異㆒、後人流傳、不㆓復施㆒㆑采、故迷㆓其句讀㆒耳、予在㆓洛陽於王晉玉處㆒、得㆓程士南倣㆒㆑此、並申㆓誠之㆒、釋而後曉然、是詩本不㆓舛脫㆒云云、若蘭之後、罕有㆓繼㆑之者㆒、隋書王劭傳、有㆔人浴㆓於黃鳳泉㆒、得㆓二白石㆒、頗有㆓文理㆒、劭遂附㆓致其文㆒以爲㆑字、復廻㆓互其字㆒、作㆓詩二百八十篇㆒奏㆑之、此蓋彷㆓蘇蕙之體㆒、而今不㆑傳、唐人惟皮陸偶爲㆑之、宋以後則無㆓人不㆒㆑作矣。

【廻文體】101（クヮイブンタイ）　廻文詩に同じ。〔詩體明辯、雜體詩〕八曰、廻文體、按、廻文詩始㆓於苻秦㆒、竇滔妻蘇氏、織㆑錦廻文反覆成㆑章、而陸龜蒙則曰、悠悠遠道獨煢煢、由㆑是反覆興焉、及考㆓詩苑㆒云、廻文反覆舊本㆓二體、止兩韻者謂㆓之廻文㆒、擧㆓一字㆒皆成㆑讀者、謂㆓之反覆㆒、則蘇氏詩正反覆體也、後人所㆑作直可㆑謂㆓之廻文㆒耳、其文甚長、今不㆑錄。

【廻文織㆑錦】102（クヮイブンニシキヲオル）　廻文錦字詩を見よ。〔西廂記、張君瑞害㆓相思㆒雜劇〕則爲㆓儞彩筆題㆑詩、廻文織㆑錦。

【廻文錦字詩】103（クヮイブンキンジノシ）　前秦の竇滔の妻、蘇蕙が、錦に織込んで、遠地の夫に送つた廻文詩。〔晉書、列女傳〕竇滔妻蘇氏、始平人也、名蕙、字若蘭、善屬㆑文、滔苻堅時爲㆓秦州刺史㆒、被㆑徙㆓流沙㆒、蘇氏思㆑之、織㆑錦爲㆓廻文旋圖詩㆒以贈㆑滔、宛轉循環以讀㆑之、詞甚悽惋、凡八百四十字、文多不㆑錄。〔侍兒小名錄〕前秦安南將軍竇滔有㆓寵姬趙陽臺㆒、置㆓之別所㆒、妻蘇求而獲焉、苦加㆓撻辱㆒、滔深恨㆑之、滔鎭㆓襄陽㆒、與㆓陽臺㆒之㆑任、絕㆓蘇氏音問㆒、蘇悔恨自傷、因織㆑錦廻文題㆓詩二百餘首計八百餘字㆒、縱橫反覆、皆爲㆓文章㆒、名㆓璇璣圖㆒、遺㆓蒼頭㆒齎至㆓襄陽㆒、滔覽㆓錦字㆒、感㆓其妙絕㆒、因具㆓車徒㆒迎㆓蘇氏㆒。

【廻袂】104（クヮイベイ）　袂をかへす。舞の動作。〔梁簡文

帝、詠㆓獨舞㆒詩〕因㆑羞強正㆑釵、顧㆑影時廻㆑袂。

【廻猋】105 クヮイヘウ　つむじ風。回猋。廻飆。〔揚雄、甘泉賦〕廻猋肆其碭駭兮。〔張協、雜詩〕廻猋扇㆓綠竹㆒。

【廻飄】106 クヮイヘウ　つむじ風。廻猋。廻飆。〔爾雅、釋天〕廻風爲㆑飄。〔曹攄、思㆓友人㆒詩〕心與㆓廻飄㆒俱。

【廻飆】107 クヮイヘウ　つむじ風。回飆。廻猋。〔馬融、長笛賦〕感㆓廻飆㆒而將㆑頽。〔顏延之、秋胡詩〕廻飆卷㆓高樹㆒。

【廻面】108 クヮイメン　面をめぐらす。心服する。回首。回面。〔吳志、吳主孫權傳、注〕江表傳、載㆓權詔㆒曰、遠人廻面、莫㆑不㆓影附㆒。

【廻輿】109 クヮイヨ　車をめぐらす。〔孔叢子、記問〕廻㆑輿而旋。

【廻廊】110 クヮイラウ　長く曲折した廊下。回廊。〔杜甫、涪城縣香積寺官閣詩〕小院廻廊春寂寂、浴鳧飛鷺晚悠悠。

【廻樂】111 クヮイラク　縣名。北周、置く。故城は寧夏省寧夏縣の西南。〔讀史方輿紀要、陝西、靈州守禦千戶所〕廻樂廢縣、在㆓所西南㆒、本漢靈州富平二縣地、後魏置㆑縣爲㆓普樂郡治㆒。

【廻瀾】112 クヮイラン　衰へたものごとを挽回すること。廻㆓狂瀾於既倒㆒(**7－20287**··149)を見よ。

【廻覽】113 クヮイラン　一物を衆人が順送りにまはしてみる。回覽。

【廻鑾】114 クヮイラン　回鑾(**3－4690**··276)に同じ。

【廻鸞】115 クヮイラン　舞曲の名。回鸞。〔初學記、樂部上、舞〕古之舞曲、有㆓廻鸞舞・七槃舞㆒。〔庾信、春賦〕陽春綠水之曲、對鳳廻鸞之舞。〔沈約、侍㆓皇太子釋奠宴㆒詩〕廻鸞獻爵、摐金委奠。

【廻慮】116 クヮイリョ　思慮をめぐらす。〔司馬相如、封禪文〕遷思廻慮、揔㆓公卿之議㆒。

【廻龍】117 クヮイリョウ　鎭の名。❶回隆鎭をいふ。回隆(**3－4690**··281)を見よ。❷福建省上杭縣の西北の汀江の西岸。❸廣東省河源縣の西北。新豐江の左岸。

【廻龍記】118 クヮイリョウキ　戲曲の名。清、洪昇撰。韓原睿が妻を棄てて忠を盡し、其の妻、節操を守り、其の孝子が父親を尋ねる事を敍す。

【廻龍峯】119 クヮイリョウホウ　峯の名。河北省房山縣の上方山錦繡峯の西。下に文殊殿がある。兜率寺七十二庵の一。

【廻遼】120 クヮイレウ　はるかなさま。〔陸雲、歲暮賦〕望㆓故疇之廻遼㆒兮、泝㆓南風㆒而頽泣。

【廻繚】121 クヮイレウ　まはりくねる。〔左思、魏都賦〕山林幽映、川澤廻繚。

【廻連】122 クヮイレン　めぐりつらなる。〔孔叢子、記問〕梁甫廻連。

【廻路】123 マハリミチ　まはつて遠い路。迂回。

【廻艫】124 クヮイロ　船を廻らす。〔孟浩然、登㆓鹿門山㆒懷㆑古詩〕探討意未㆑窮、廻艫夕陽晚。

【廻血管】125 huei² hsieh³ kuan³　靜脈管をいふ。

【廻雙六】126 マハリスゴロク　道中雙六のやうに采の目の數で順次に區劃を立て、早くあがりに達したものを勝とする一種の遊戲。

【廻梯子】127 マハリハシゴ　螺旋狀に造つた梯子。

【廻燈籠】128 マハリドウロウ　外側に紙を張り、中框に種々の畫の切拔を貼り、中心に軸を立て、上に風車を設けて、風力でまはるやうに造つた燈籠。走馬燈。〔鷹筑波集〕。

【廻波詞】129 クヮイハノシ　舞曲歌辭の名。回波(**3－4690**··224)の❷を見よ。〔本事詩、嘲戲〕中宗朝御史大夫裴談、崇㆓奉釋氏㆒、妻悍妬、談畏㆑之如㆓嚴君㆒、嘗謂㆑人、妻有㆓可㆑畏者三㆒、少妙之時、視㆑之如㆓生菩薩㆒、及㆓男女滿㆑前、視㆑之如㆓九子魔母㆒、安有㆓人不㆑畏㆓九子母㆒耶、及㆓五十六十㆒、薄施㆓粧粉㆒、或黑㆓視之㆒、如㆓鳩槃茶㆒、安有㆓人不㆑畏㆓鳩槃茶㆒、時韋庶人頗襲㆓武氏之風軌㆒、中宗漸畏㆑之、內宴唱㆓廻波詞㆒、有㆓優人詞㆒曰、廻波爾時栲栳、怕㆑婦也是大好、外邊祇有㆓裴談㆒、內裏無㆑過㆓李老㆒、韋后意色自得、以㆓束帛㆒賜㆑之。

【廻舞臺】130 マハリブタイ　中央部が廻るやうに造つた芝居の舞臺。

【廼】9576　ダイ　迺(**11－38831**)の俗字。〔正字通〕迺、俗作㆑廼、非。

七畫

【廽】9577　クヮイ　廻(**4－9575**)の俗字。〔篇海〕廻、俗作㆑廽。

八畫

【⿺廴致】9578　タウ　ヂヤウ　〔集韻〕丈梗切 [梗]　**つきる。**〔集韻〕⿺廴致、廣雅、盡也。〔廣雅、釋訓〕⿺廴致⿺廴致、盡也。

九畫

【⿺廴⿱产目】9579　エン　⿰目延(**8－23389**)の本字。〔康熙字典〕⿰目延、說文、本作㆑⿺廴⿱产目。

十畫

【⿺廴亶】9580　テン　〔篇海類編〕丑延切 [先]　**相顧みながら行く。**〔篇海類編〕⿺廴亶、相顧而行也。

十一畫

【⿰耳延】9581　テイ　義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿰耳延、音挺。

【⿰⿱罒十延】9582　タン　義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿰⿱罒十延、音誕。

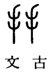
廾部

【廾】9583

㊀キョウ　ク　〔集韻〕古勇切 [腫]　ㄍㄨㄥˇ kung³

㊁キョウ　ク　〔集韻〕居容切 [冬]

小篆


古文

㊀❶**ささげる。**兩手で物を上げる。もと収(**2－3126**)に作る。〔正字通〕卄、隸作㆑収。〔說文〕収、竦㆑手也、从㆓𠂇又㆒。〔段注〕謂㆘竦㆓其兩手㆒以有㆖所㆑奉也。〔說文義證〕収・竦、聲相近、經典用㆓拱字㆒。〔說文通訓定聲〕収、與㆑捧略同、與㆑拱別、収者、兩手捧㆑物、拱者、沓㆑手致㆑敬也。❷𢪒(**5－11891**)に通ず。㊁❶**ささげる。**㊀の❶に同じ。〔說文〕収、𢪒、揚雄說、収从㆓兩手㆒。〔集韻〕廾、竦㆑手也。❷或は昇(**5－13755**)に作る。〔集韻〕廾、或作㆑昇。

解字　會意。左手と右手とを合はす。もと収(**2－3126**)に作る。兩手を合して物をささげる意。

參考　卄(**2－2698**)は別字。

【卄】9584　キョウ　廾(**4－9583**)に同じ。〔字彙〕卄、同㆑廾。

【共】9585　キウ　九(**1－167**)に同じ。〔字彙補〕共、同㆑九。

一畫

【廿】9586

㊀ジフ ニフ 〔集韻〕日執切 緝。 ㄋㄧㄢˋ nien⁴
㊁デン 〔正字通〕俗讀若㆑念。

廿 小篆

㊀㊁二十。數の名。十を二つよせた數。卄(2－2698)に同じ。〔說文〕廿、二十幷也、古文省㆑多。〔段注〕省㆑多者、省㆓作二十兩字㆒爲㆓一字㆒也、云云、至㆓唐石經㆒、二十皆作㆑廿。〔容齋隨筆、廿卅卌字〕今人書㆓二十字㆒爲㆑廿、三十字爲㆑卅、四十爲㆑卌、皆說文本字也、廿、音入、二十幷也、卅、音先合反、三十之省、便古文也、卌、音先立反、數名、今直以爲㆓四十字㆒、按、秦始皇凡刻㆓石頌德之辭㆒、皆四字一句、泰山辭曰、皇帝臨㆑位、二十有六年、琅琊臺頌曰、維二十六年、皇帝作始、之罘頌曰、維二十九年、時在㆓中春㆒、東觀頌曰、維二十九年、皇帝春游、會稽頌曰、德惠脩長、三十有七年、此史記所㆑載、每稱㆑年者、輒五字一句、嘗得㆓泰山辭㆒石本乃書爲㆓廿有六年㆒、想其餘皆如㆑是、而太史公誤易㆑之、或後人傳寫之訛耳、其實四字句也。〔六書正譌〕廿、俗作㆑廾。邦つづ。にじふ。

解字 會意。十を二つ合はせ、二十の意を示す。

【廿屋】1 ツヅヤ 美濃國の地名。
【廿原】2 ツヅハラ 美濃國の地名。
【廿山】3 ツヅヤマ ❶姓氏。〔姓林全書〕。❷河內國の地名。
【廿枝】4 ハタチ 土佐國の地名。
【廿治】5 ハタチ 肥前國の地名。
【廿樂】6 ツヅラ 姓氏。
【廿九日】7 ヒヅメ 能登國の地名。
【廿五里】8 ツイヒヂ 上總國の地名。
【廿四考】9 ニジフシカウ 唐の郭子儀が中書令に至るまで凡そ二十四回の試驗を經たこと。〔桃花扇、設朝〕舊黃扉、新丞相、喜一旦、廿四考中書模樣。
【廿日草】10 ハツカグサ 牡丹の異名。白居易、牡丹芳の詩の花開花落二十日、一城之人皆如㆑狂の句に本づく。〔夏山雜談〕。
【廿六木】11 トドロキ 羽前國の地名。
【廿止醒人】12 ジフシセイジン 清、黃丕烈(12－47926・・1296)の號。

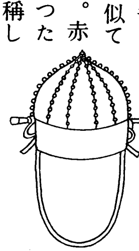
二畫

【廾】9587

トウ 等(8－25992)に同じ。〔五音集韻〕廾、同㆑等。

【弁】9588

㊀ヘン ベン 〔集韻〕皮變切 霰。 ㄅㄧㄢˋ pien⁴
㊁ハン バン 〔集韻〕薄官切 寒。 ㄆㄢˊ p'an²


❶弁（禮器圖）

㊀❶かんむり。㋑古、冕に次いだ冠。大夫以上は冕・弁を幷用したが、士は弁だけを用ひる。兩手を合掌した形に似て上に延がない。赤黑色の布で作ったものを爵弁と稱して文官が服し、白鹿の皮で作ったものを皮弁と稱して武官が著ける。覍(4－7504)の或體で、籀文は𢍜(4－9618)に作る。〔說文〕覍、冕也、周曰㆑覍、殷曰㆑吁、夏曰㆑收、从㆑皃、象形、𢍜、籀文覍、从㆑収、上象形、弁、或覍字。〔段注〕當㆑云㆓冕屬㆒、云云、冠下云、弁、冕之總名也、云㆓總名㆒、則弁與㆑冕、固有㆑分矣。〔釋名、釋首飾〕弁、如㆓兩手相合抃時㆒也。〔詩、衞風、淇奧〕會弁如㆑星。〔傳〕弁、皮弁。〔禮、雜記上〕大夫冕而祭㆓於公㆒、弁而祭㆓於己㆒、士弁而祭㆓於公㆒、冠而祭㆓於己㆒。〔注〕弁、爵弁也。〔公羊、宣、元〕已練可㆓以弁冕㆒。〔注〕皮弁、武冠、爵弁、文冠。㋺かんむりの總稱。〔詩、齊風、甫田〕突而弁兮。〔傳〕弁、冠也。〔疏〕周禮掌㆓冠冕㆒者、其職謂㆓之弁師㆒、則弁者、冠之大號也。〔周禮、夏官、序官〕弁師。〔注〕弁者、冠之大稱。㋩馬にかぶせるおほひ。〔張衡、西京賦〕璿弁玉纓。〔注〕綜曰、弁、馬冠也。❷はやい。いそぐ。〔禮、玉藻〕弁行、剡剡起㆑屨。〔釋文〕弁、急也。〔疏〕弁、疾也。❸おそれる。をののく。手を撫でる。拚(5－11966)に通ず。〔說文通訓定聲〕弁、段借爲㆑拚。〔漢書、王莽傳下〕予甚弁焉。〔注〕師古曰、弁、疾也、一曰、弁、撫㆑手也、言㆓驚懼㆒也。〔漢書、嚴延年傳、股弁、注〕師古曰、弁、謂㆑撫㆑手也。❹うつ。柔術の一種。あてみ。〔漢書、甘延壽傳〕試㆑弁爲㆓期門㆒。〔注〕孟康曰、弁、手搏也。❺地名。今の山東省泗水縣の卞縣城。〔左氏、襄、二十九〕季武子取㆑弁。❻卞(2－2778)に通ず。〔說文通訓定聲〕弁、字俗作㆑卞。〔左氏、成、十八〕弁糾御㆑戎。〔釋文〕弁、本又作㆑卞。❼姓。〔正字通〕弁、姓。㊁たのしむ。般(9－30388)に同じ。〔集韻〕般、爾雅、樂也、或作㆑弁。〔詩、小雅、小弁〕弁彼鸒斯。〔傳〕弁、樂也。邦辨(10－38657)・辮(8－27991)・辯(10－38677)の略字として用ひる。

【弁纓】1 ベンエイ かんむりのひも。〔北史、何稠傳〕魏晉以來、皮弁有㆑纓、而無㆓笄導㆒。
【弁行】2 ベンカウ いそいで行く。急行する。〔禮、玉藻〕弁行、剡剡起㆑屨。〔釋文〕弁、急也。〔疏〕弁、急也、既是疾趨、宜㆓急行㆒也。
【弁韓】3 ベンカン 古の國名。今の朝鮮の東南部。慶尙南道の大部分を據有す。馬韓・辰韓と共に三韓の一。弁辰。〔魏志、東夷傳〕韓、在㆓帶方之南㆒、東西以㆑海爲㆑限、南與㆑倭接、方可㆓四千里㆒、有㆓三種㆒、一曰㆓馬韓㆒、二曰㆓辰韓㆒、三曰㆓弁韓㆒。〔傅若金、送㆔幻上人還㆓高麗㆒詩〕梵宇通㆓遼海㆒、僧居屬㆓弁韓㆒。〔讀史方輿紀要、山東外國附考、朝鮮〕新羅、今朝鮮之慶尙道、卽其地、弁韓苗裔也。
【弁騏】4 ベンキ かんむりの色が騏馬の毛なみのやうに青黑いこと。〔詩、曹風、鳲鳩〕其弁伊騏。〔傳〕騏、騏文也、弁、皮弁也。〔疏〕馬之青黑色者、謂㆓之騏㆒、此字從㆑馬、則謂㆔弁色如㆓騏馬之文㆒也。
【弁冠】5 ベンクワン かんむり。又、皮弁冠・爵弁冠の略。字解㊀の❶を見よ。
【弁言】6 pien⁴ yen² 書物のはしがき。序言。卷頭書。
【弁工】7 ベンコウ かんむりを作る職人。〔通典、職官、秩品〕後周官品、云云、正二命、云云、弁工。
【弁山】8 ベンザン 山名。浙江省吳興縣の西北。卞山。〔太平寰宇記〕弁山在㆓烏程縣㆒、一名卞山、山石瑩然如㆑玉。〔趙孟頫、次㆓韻李秀才見㆑贈詩〕何當㆔便理㆓南歸棹㆒、呼㆑酒登㆑樓看㆓弁山㆒。
【弁山小隱】9 ベンザンセウイン 元、黃玠(12－47926・・108)の號。
【弁山小隱吟錄】10 ベンザンセウインギンロク 書名。二卷。宋、黃玠撰。詩は近體を作らず、中に勸戒の詞が多い。〔四庫提要、集、別集類〕。
【弁師】11 ベンシ 周官の名。夏官の屬。王の五冕を掌る。〔周禮、夏官、弁師〕掌㆓王之五冕㆒、皆玄冕、朱裏、延紐。
【弁裳】12 ベンシヤウ かんむりとも。〔吳師道、章華臺詩〕弁裳伏㆑地走㆓諸侯㆒、鐘鼓淩㆑空振㆓三楚㆒。
【弁色】13 ベンシヨク かんむりの色。〔詩、曹風、鳲鳩、其弁伊騏、疏〕馬之青黑色者、謂㆓之騏㆒、此字從㆑馬、則謂㆔弁色如㆓騏馬之文㆒也。
【弁辰】14 ベンシン 古の國名。弁韓(3)に同じ。〔後漢書、東夷傳〕韓有㆓三種㆒、一曰㆓馬韓㆒、二曰㆓辰韓㆒、

三日二弁辰一。

【弁帶】15（ベンタイ） かんむりとおび。〔魏書、東陽王丕傳〕晩乃稍加二弁帶一、而不レ能三修二飾容儀一。

【弁當】16（ベンタウ） 外出先で食事をするために携へる食物。辨當(10-38657‥49)の❶に同じ。

【弁丁】17（ベンテイ） 武官の人足。〔福惠全書、錢穀部、漕項〕弁丁顧二惜廉隅一。

【弁絰】18（ベンテツ） 爵弁に似て色白く、麻の帶をつけた冠。〔周禮、春官、司服〕凡弔事、弁絰服。〔注〕弁絰者、如二爵弁一而素、加二環絰一、國君於二其臣一弁絰、大夫士有二朋友之恩一亦弁絰。〔周禮、夏官、弁師〕王之弁絰、弁而加二環絰一。〔注〕弁絰、王弔所レ服也、其弁如二爵弁一而素、所謂素冠也。〔禮、雜記上〕大夫之哭二大夫一弁絰、大夫與レ殯亦弁絰。〔注〕弁絰者、大夫錫衰相弔之服也、如二爵弁一而素、加二繯絰一曰二弁絰一。

【弁髦】19（ベンバウ） 無用の物をいふ。弁は元服の時に一度被る緇布冠、髦は童子の垂髫（ソヘガミ）で、共に元服の式が終れば再び用ひない。一說に、髦はまへがみで、父母の歿後に取り去るといふ。秋扇夏爐。〔左氏、昭、九〕豈如二弁髦一、而因以敝レ之。〔注〕童子垂髦、始冠、必三加レ冠成レ禮、而弃二其始冠一、故言二弁髦因以敝一レ之、弁、亦冠也。〔疏〕豈如二弁髦一因以敝レ之者、弁、謂二緇布冠一、髦、謂二童子垂髦一、凡加冠之禮、先用二緇布之冠一、斂括垂レ髦、三加之後、去二緇布之冠一、不二復更用一、故云、因以敝レ之、云云、案、禮未レ髻之時、必垂髦、故云、童子垂髦也、士冠禮、始冠、緇布冠、次加二皮弁一、次加二爵弁一、是始冠、必三加冠也、其記冠義云、始冠、緇布之冠、冠而敝レ之可也、玉藻亦云、始冠、緇布冠、自二諸侯一下達、冠而敝可也、鄭玄云、本二大古一、非二時王之法服一也、是言、本レ古而暫冠、既加而卽弃、是禮成而弃二其始冠一、故云、弁髦而因以敝レ之也、弁有二爵弁・皮弁一、嫌二緇布之冠不一レ得レ名レ弁、故云二弁亦冠一也、周禮弁師掌レ冕、是弁爲二大名一也、劉炫以爲、弁髦二物、以二童子垂髦一爲レ髦二彼兩髦一、又云、因以敝レ之者、謂二親沒不一レ髦、案、禮加冠以後、親沒以前、身既成人、獨自垂髦、何得レ云二童子垂髦、髦既親沒乃弃一、杜注、何以不レ言二親沒一也、若三加之後弃レ弁不レ弃レ髦、杜注、何得レ云レ弃二其始冠一、故言二弁髦因以敝一レ之、既連レ髦而言、明非二親沒之髦一也、髦之形像、鄭注二士喪禮一云、未レ聞。〔小爾雅、廣服〕弁髦、太古布冠、冠而敝レ之者也。

【弁服】20（ベンブク） 弁と服。韋弁服・皮弁服・冠弁服・服弁服等の種類がある。〔周禮、春官、司服〕凡兵事、韋弁服、眂レ朝、則皮弁服、凡甸、冠弁服、凡凶事、服弁服。

【弁兵】21 pien⁴ ping¹ 下級の武官。弁目。武弁。

【弁冕】22（ベンベン） ❶かんむり。冠。〔禮、雜記下〕尸弁冕而出。〔左氏、昭、元〕吾與レ子弁冕端委、以治レ民臨二諸侯一。〔注〕弁冕、冠也。❷pien⁴ mien³ さきがけ。主なもの。首魁。

【弁冕雖レ舊必加二於首一】23（ベンベンフルシトイヘドモカナラズクビニクハフ） 冠はふるくなつても頭につける。如何にふるく破れても、貴いものはあくまで貴ばねばならない喩。〔穀梁、僖、八〕朝服雖レ敝、必加二於上一、弁冕雖レ舊、必加二於首一。

【弁目】24 pien⁴ mu⁴ 下級の武官。兵士の頭目。又は總目といふ。弁兵に同じ。

【弁冔冕】25（ベンクベン） 弁・冔・冕、共にかんむり。〔儀禮、士冠禮〕周弁、殷冔、夏收。〔注〕弁名出二於槃一、槃、大也、言レ所二以自光大一也、冔名出二於幠一、幠、覆也、言レ所二以自覆飾一也、收、言四所三以收二斂髮一也。〔公羊、宣、元、已練可二以弁冕一注〕弁、禮所謂皮弁・爵弁也、夏曰レ收、殷曰レ冔、周曰レ弁、加レ旒曰レ冕。

【弁陽嘯翁】26（ベンヤウセウヲウ） 宋、周密(2-3441‥482)の號。

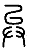
【弁陽老人】27（ベンヤウラウジン） 宋、周密(2-3441‥482)の號。

【⿱人廾】9589 カイ 界(7-21775)に同じ。〔康熙字典〕弁、集韻、與レ界同。

【⿱亠廾】9590 ロウ 義未詳。〔龍龕手鑑〕⿱亠廾、音弄。

三畫

【异】9591 ㊀イ 〔集韻〕盈之切 一ˋ i⁴ 支 ㊁イ 〔集韻〕羊吏切 寘


小篆

㊀❶あげる。〔說文〕异、擧也、从レ廾㠯聲、虞書曰、嶽曰、异哉。❷やめる。しりぞける。已(4-8743)に通ず。〔書、堯典〕异哉。〔傳〕异、已也、退也。〔疏〕异聲近レ已、已、訓爲レ止、是停住之意、故爲レ退也。❸ああ。〔集韻〕异、發レ歎也。❹姓。〔萬姓統譜〕异、見二姓苑一。㊁ことなる。ことにする。異(7-21866)に通ず。〔說文通訓定聲〕异、叚借爲レ異。〔書、堯典〕异哉。〔釋文〕异、鄭音異、孔王音怡。〔列子、楊朱〕何以异哉。〔釋文〕异、古異字。

【⿻廾㐅】9592 キ 箕(8-26143)の古字。〔說文〕箕、⿻廾㐅、古文箕。

【𢌿】9593 ヨ 與(9-30212)の古字。〔說文〕與、𢌿、古文與。

四畫

【弃】9594 キ 〔集韻〕詰利切 ㄑ一ˋ ch'i⁴ 寘 すてる。棄(6-14913)の古字。〔說文〕棄、捐也、弃、古文棄。〔禮、喪大記、棄レ杖者、釋文〕棄、本亦作二古弃字一。〔荀子、王制〕不レ安レ職則弃。〔注〕弃、謂下投二四裔一之比上也。〔史記、殷紀〕故天弃レ我。

參考 熟語は棄(6-14913)を見よ。

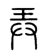
【弃疾】1（キシツ） 複姓。〔通志、氏族略、以レ名爲レ氏〕弃疾氏、楚平王名弃疾、後人爲レ氏。

【⿱肉廾】9595 キ ギ 〔集韻〕渠龜切 支

小篆

にぎり。弩の持つところ。〔說文〕⿱肉廾、持レ弩拊、从レ廾肉聲、讀若レ逵。

【弄】9596 ロウ ル 〔集韻〕盧貢切 ㄋㄨㄥˋ nung⁴ ㄌㄨㄥˊˋ lung²·⁴ ㄋㄥˋ nêng⁴ ㄋㄡˋ nou⁴ 送


小篆

❶もてあそぶ。㋑手の中で玉をまさぐる。〔說文〕弄、玩也、从二廾玉一。〔漢書、周昌傳〕持二御史大夫印一弄レ之。㋺おもちやにする。〔李尤、圍碁銘〕翫弄游意。㋩たくみにあつかふ。〔史記、貨殖傳〕舞レ文弄レ法。〔張衡、周天大象賦〕搖レ機弄レ杅。〔隋書、王克傳〕舞二弄文墨一。㋥ほしいままにする。〔後漢書、竇武傳〕操二弄國權一。〔晉書、刑法志〕傾二弄朝權一。㋭あなどる。〔韻會〕弄、又侮也。〔左氏、襄、四〕愚二弄其民一。〔漢書、東方朔傳〕自二公卿在位一、朔皆敖弄、無レ所レ爲レ屈。㋬このむ。めでる。〔梁簡文帝、七勵〕永弄二林泉一。❷あそび。たはむれ。〔左氏、僖、九〕夷吾弱不レ好レ弄。〔注〕弄、戲也。〔後漢書、陳寔傳〕自レ爲二兒童一、雖レ在二戲弄一、爲二等類所一レ歸。

❸**おもちや**。なぐさみのしな。〔郭璞、金錢贊〕務經㆓軍農㆒、爰及㆓雕弄㆒。❹**かなでる**。ひく。樂を奏する。〔嵇康、琴賦〕改㆑韻易㆑調、奇弄乃發。〔沈約、六憶詩〕或歌㆓四五曲㆒、或弄㆓兩三絃㆒。〔王涯、秋夜曲〕銀箏夜久殷勤弄。❺**事をなす**。〔新方言、釋言〕盧之合肥、黃之蘄州、皆謂㆑作㆑事爲㆑舞、長沙及揚越、多言㆑弄。❻**小曲**。輕少な樂曲。樂府の一。〔王褒、洞簫賦〕時奏㆓狡弄㆒。〔注〕善曰、弄、小曲也。❼**ちまた**。巷(**4-8756**)に通ず。〔說文通訓定聲〕弄、叚借爲㆑巷。〔漢書、昭帝紀〕上耕㆓于鉤盾弄田㆒。〔南史、齊鬱林王紀〕帝竟無㆓一言㆒、出㆓西弄㆒遇㆑弑。❽現㋑こしらへる。㋺あしらふ。

解字 會意。玉と収との合字。兩手で玉をもてあそぶこと。故に本義をもてあそぶとする。

【弄優】1 ロウイウ 雜技。戲劇を演ずる人。わざをぎ。俳優。〔鹽鐵論、鹽鐵取下〕耳聽㆓五音㆒、目視㆓弄優㆒。

【弄印】2 ロウイン 漢の高祖が御史大夫の印を弄んだ故事。轉じて、御史大夫に任命することをいふ。〔漢書、周昌傳〕高祖持㆓御史大夫印㆒、弄㆑之曰、誰可㆑爲㆓御史大夫㆒者。〔蘇頲、授㆓尹思貞御史大夫㆒制〕宜㆘承㆓弄印之榮㆒、式允㆗登車之志㆖。〔于邵、送㆓河南王少府㆒序〕今大夫當㆓弄印之貴㆒、積㆓蒼生之望㆒。

【弄圓】3 ロウヱン 蟲の名。蜣蜋(**10-33154‥1**)の異名。弄丸。〔海錄碎事、鳥獸、雜蟲〕蜣蜋、一名弄圓、一名轉圓。

【弄開】4 nung^{4} k‘ai^{1} 搔き立てる。

【弄巧】5 ロウカウ 技巧を用ひすぎる。小刀細工。〔黃庭堅、拙軒頌〕弄㆑巧成㆑拙、爲㆑蛇圖㆑足。

【弄客】6 ロウカク もてあそびもの。なぶりもの。〔日本外史、足利氏正記、足利氏上〕出㆓入府中㆒、爲㆓將士弄客㆒。

【弄翰】7 ロウカン 筆をとつて書畫などをかくこと。慰みがき。〔古詩源、詠史八首〕弱冠弄㆓柔翰㆒。〔蘇軾、書㆓王奧所㆑藏太宗御書後㆒〕天縱之能、溢㆓于筆墨㆒、摛㆓藻尺素之上㆒、弄㆓翰團扇之中㆒。〔宣和書譜〕弄㆑翰遊戲。

【弄翰戲語】8 ロウカンギゴ 氣をつけずに書いたものや、たはむれの談話。〔蘇軾、范文正公文集序〕雖㆓弄翰戲語、率然而作㆒、必歸㆓於此㆒。

【弄鬼】9 nung^{4} kuei^{3} 巧な手段を用ひる。詭計を弄する。

【弄鬼妝么】10 ロウキシヤウエウ 人を馬鹿にしてしらばくれる。〔長生殿、絮閣〕嘴喳喳、弄㆑鬼妝㆑么。

【弄鬼弄神】11 nung^{4} kuei^{3} nung^{4} shen^{2} 魔術を弄する。

【弄器】12 ロウキ おもちや。玩具。弄具に同じ。

【弄機】13 ロウキ 政事の大切な實權をほしいままにする。政權を專らにする。弄權。〔魏志、蔣濟傳〕又非㆓管夷吾之公㆒、則有㆓弄機敗官之弊㆒。〔蜀志、諸葛亮傳〕宦人黃皓、竊弄㆓機柄㆒。

【弄戲】14 ロウギ もてあそびたはむれる。〔國語、晉語二〕夷吾之少也、不㆑好㆓弄戲㆒。

【弄局】15 nung^{4} chü^{2} 賭場を開く。

【弄玉】16 ロウギヨク 春秋、秦の穆公の女。穆公が簫を吹いて鳳の鳴聲を善くする簫史に弄玉を嫁した。簫史、弄玉に吹簫を教へ、弄玉、簫を吹けば鳳鳴をなし、ために鳳が飛び來つて其の屋に止まるに至つたので、公、ために鳳臺を作つた。後、弄玉は鳳に乘り簫史は龍に乘つて、共に昇天し去つたといふ。〔後漢書、矯愼傳、注〕列僊傳曰、簫史、秦繆公時、善吹㆑簫、公女弄玉好㆑之、以妻㆑之、遂教㆓弄玉㆒作㆓鳳鳴㆒、居數十年、吹㆓鳳皇聲㆒、鳳來止㆓其屋㆒、爲作㆓鳳臺㆒、夫婦止在㆑上、一旦皆隨㆓鳳皇㆒飛去。〔水經、渭水注〕又有㆓鳳臺鳳女祠㆒、秦穆公時、有㆓簫史者㆒、善吹㆑簫、能致㆓白鵠孔雀㆒、穆公女弄玉好㆑之、公爲作㆓鳳臺㆒以居㆑之、積數十年、一旦隨㆑鳳去云。〔剪燈餘話、連理樹記〕弄玉簫聲怨㆓嗚咽㆒、咫尺秦臺隔㆓弱流㆒。

【弄琴】17 ロウキン 琴を奏する。〔史記、司馬相如傳〕及㆘飮㆓卓氏㆒弄㆖琴、文君竊從㆑戶窺㆑之。

【弄狗】18 ロウク なぐさみもてあそぶ狗。〔後漢書、靈帝紀〕弄狗著㆓進賢冠㆒帶㆑綬。

【弄具】19 ロウグ おもちや。玩具。〔後漢書、王符傳〕或作㆓泥車瓦狗諸戲弄之具㆒。〔晉書、禮志下〕元帝又詔罷㆓三日弄具㆒。

【弄火】20 lung^{2} huo^{3} 火をおこす。

【弄花】21 ロウクワ ❶花をもてあそぶ。〔沈佺期、芳樹樂府〕啼鳥弄㆑花疎、遊蜂飮㆑香遍。〔于良史、春山夜月詩〕掬㆑水月在㆑手、弄㆑花香滿㆑衣。❷草花などを栽培して手入する。〔陸游、天彭牡丹譜、風俗記第三〕最喜㆓陰晴相半時㆒、謂㆓之養花天㆒、栽接剔治、各有㆓其法㆒、謂㆓之弄花㆒、其俗有㆓弄花一年、看花十日之語㆒。❸花がるたをもてあそぶこと。はなあはせ。

【弄花一年看花十日】22 ロウクワイチネンカンクワジフジツ 一年の間、花いぢりして花を眺めるのは僅かに十日間。勞多くして功少い喩。〔通俗編、草木、弄花一年看花十日〕天彭牡丹譜、栽接剔治、各有㆓其法㆒、謂㆓之弄花㆒、時人有㆓弄花一年、看花十日之語㆒。

【弄瓦】23 ロウグワ 女子を生むこと。女子の生まれること。瓦は紡塼（イトマキ）。弄璋(50)の對。〔詩、小雅、斯干〕乃生㆓女子㆒、載寢㆓之地㆒、載衣㆓之裼㆒、載弄㆓之瓦㆒。〔傳〕瓦、紡塼也。〔疏〕玩弄以㆓紡塼㆒、習㆓其所㆒㆑有㆑事也。〔書言故事、子孫類、弄璋弄瓦〕生㆑子曰㆓弄璋㆒、生㆑女曰㆓弄瓦㆒。

【弄瓦之喜】24 ロウグワノヨロコビ 女子を生んだよろこび。弄瓦を見よ。

【弄壞】25 nung^{4} huai^{4} いぢりこはす。

【弄丸】26 ロウグワン ❶たまを空中に投げて手で受けとめる技藝。中國古代の市南宜僚といふ人が巧妙であつたといふ。しなだま。たまとり。〔莊子、徐無鬼〕市南宜僚、弄㆑丸而兩家之難解。〔補義莊子因、標注〕羅曰、市南宜僚善弄㆓丸鈴㆒、常八箇在㆓空中㆒、一箇在㆑手、楚與㆑宋戰、宜僚披㆑胸受㆑刃、於㆓軍前㆒弄㆓丸鈴㆒、一軍停㆑戰、遂勝㆑之。〔釋文〕司馬云、宜僚、楚之勇士也、善弄㆑丸。〔和名抄、術藝部、雜藝類〕弄丸、梁武帝千字文注云、宜遼者、楚人也、能弄㆑丸、此間云、多末斗利、八在㆓空中㆒、一在㆓手中㆒、今人之弄鈴是也。❷蟲の名。蜣蜋の異名。〔古今注、魚蟲〕蜣蜋能以㆑土苞㆑糞、推轉成㆓丸圓㆒、正無㆓斜角㆒、莊周所謂、蛣蜣之智、在㆓於轉丸㆒、故一名㆓蛣蜣㆒、一名㆓轉丸㆒、一名㆓弄丸㆒。

【弄丸山人】27 ロウグワンサンジン 明、朱約佶(**6-14424‥1006**)の號。

【弄玩】28 ロウグワン なぐさみもてあそぶ。玩弄。〔幽明錄〕漢武帝、云云、一人受㆑命、下㆓沒淵底㆒、倏忽還到、得㆓一大珠徑數寸㆒、明耀絕世、帝甚弄玩。

【弄戟】29 ロウゲキ 戟をもてあそぶ。〔北齊書、魏收傳〕收年十五、頗已屬㆑文、及㆓隨㆑父赴㆑邊、好習㆓騎射㆒、欲㆘以㆓武藝㆒自達㆖、滎陽鄭伯調㆑之曰、魏郎弄戟多少、收慚、遂折㆑節讀㆑書。

【弄月】30 ロウゲツ 月をもてあそぶ。月をながめ樂しむ。〔謝靈運、怨㆓曉月㆒賦〕滅㆓華燭㆒兮弄㆓曉月㆒。〔陳後主、三婦艷詞〕小婦春粧罷、弄月當㆓宵楹㆒。〔宋之問、太平公主山池賦〕披㆑煙弄㆑月兮宵未㆑歸、桂枝青露兮溼㆓羅衣㆒。〔李白、別㆓山僧㆒詩〕何處名僧到㆓水西㆒、乘㆑舟弄㆑月宿㆓涇溪㆒。〔宋史、周敦頤傳〕顥之言曰、自㆔再見㆓周茂叔㆒後、吟㆑風弄㆑月以歸、有㆓吾與㆑點也之意㆒。

【弄塤】31 ロウケン でたらめを言ふ者をいふ。〔康熙字典、壎〕塤、乃土器不㆑堅之物、故時俗稱㆘人慣㆓弄虛譊㆒者㆖曰㆓弄塤㆒。

【弄劍】32 ロウケン 劍をもてあそぶ。〔列子、說符〕弄㆓七劍㆒、迭而躍㆑之、五劍常在㆓空中㆒。

【弄權】33 ロウケン 私に政權をもてあそぶ。僭越して權力を濫用する。〔貢師泰、河決詩〕縣官出巡㆑防、小吏爭弄㆑權。

【弄言】34 ロウゲン よくしやべること。無用の言の多いこと。弄舌(59)に同じ。

【弄絃】35 ロウゲン 琴を彈くこと。弄琴。〔江總、賦詠得㆑琴詩〕田文垂睫淚、卓女弄絃心。

【弄口】36 ロウコウ ❶でたらめなことを言ふ。讒言をいふ。讒間に同じ。〔漢書、文三王、梁懷王劉揖傳〕左右弄㆑口、積使㆓上下不㆒㆑和。〔任昉、奏㆓彈范縝㆒文〕弄㆑口鳴㆑舌、祇足㆑飾㆑非。❷よくしやべること。弄舌(59)に同じ。

【弄才】37 ロウサイ 才智にまかせて事をする。弄智。

【弄菜】38 nung^{4} ts‘ai^{4} 菜をこしらへる。料理する。御馳走をこしらへる。

【弄槍】39 ホコトリ ❶古、雜藝の一種。槍を手玉にとること。〔倭名類聚抄、術藝部、雜藝類〕弄槍、保古斗利。❷散樂の技。〔續日本紀、十二〕天平七年五月、唐人奏㆓唐國新羅樂㆒、弄㆑槍、五位已上賜㆑祿有㆑差。

【弄糟】40 nung^{4} tsao^{1} 失敗する。

【弄髒】41 ロウサウ けがす。〔紅樓夢、四十一回〕並沒㆔

弄二髀了床一。

【弄錯】42 nung^4 ts'uo^4 失敗する。弄糟。

【弄死】43 nung^4 ssŭ^3 打ちころす。なぶりころす。

【弄姿】44（ロウシ） すがたをかざつて媚びる。媚態を作ること。〔後漢書、李固傳〕胡粉飾レ貌、搔頭弄姿。〔趙至、與二嵆茂齊一書〕弄二姿帷房之裏一。

【弄嘴】45 nung^4 tsuei^3 よくしやべること。弄舌。

〔弄嘴弄舌〕46 nung^4 tsuei^3 nung^4 shê^2 饒舌する。喋り立てる。

【弄兒】47（ロウジ） めしつかはれてもてあそびものとなる子供。〔漢書、元后傳〕太后旁弄兒、病在二外舍一。〔注〕服虔曰、官婢侍史生レ兒、取以作二弄兒一也。〔漢書、金日磾傳〕日磾子二人、皆愛爲二帝弄兒一。

【弄醜】48（ロウシウ） ぶざまをしでかす。〔西廂記、草橋店夢二鶯鶯一雜劇〕出レ乖弄レ醜。

【弄瑟】49（ロウシツ） ことを彈き樂しむ。〔李白、擬古詩〕含レ情弄二柔瑟一、彈作陌上桑。〔徐延壽、南州行〕弄レ瑟嬌垂レ幌、迎レ人笑下レ堂。

【弄璋】50（ロウシヤウ） ❶男子の生まれること。男子が生れると璋（タマ）のおもちやを與へ、女子が生れると瓦（イトマキ）のおもちやを與へるといふ故事から、弄璋を男子出生、弄瓦を女子出生の義に用ひる。〔詩、小雅、斯干〕乃生二男子一、載寢二之牀一、載衣二之裳一、載弄二之璋一、云云、乃生二女子一、載寢二之地一、載衣二之裼一、載弄二之瓦一。〔箋〕男子生、云云、玩以レ璋者、欲二其比レ德焉。〔集傳〕半圭曰レ璋、弄レ之以レ璋、尙二其德一也、云云、瓦、紡塼也、弄レ之以レ瓦、習二其所レ有レ事也。〔書言故事、子孫類〕生レ子曰二弄璋一。❷南齊、荀伯玉（**9－30929··61**）の字。

〔弄璋之喜〕51（ロウシヤウノヨロコビ） 男子を生んだよろこび。弄璋(50)を見よ。

【弄麞】52（ロウシヤウ） 弄璋の誤。唐の李林甫が弄璋を誤つて弄麞と書いた故事。〔舊唐書、李林甫傳〕林甫舅子姜度妻誕レ子、林甫手書慶レ之曰、聞レ有二弄麞之慶一、客視レ之皆掩レ口。〔蘇軾、賀二陳述古弟章生レ子詩〕甚欲三去爲二湯餅客一、惟愁錯二寫弄麞書一。〔書言故事、子孫類、錯寫弄麞〕賀レ生レ子詩詞、用三錯寫二弄麞一、唐姜度生レ子、李林甫手書慶レ之曰、聞有二弄麞之喜一、客視レ之掩レ口。

【弄出】53 nung^4 ch'u^1 しでかす。

〔弄出事來〕54 nung^4 ch'u^1 shih^4 lai 口論する。騷動を起す。

【弄繩】55（ロウジヨウ） 繩をもてあそぶ。南齊の蕭鉉が幼時、寢てゐる父の高帝の腹の上で繩をもてあそび、帝から其の繩をもらひ、帝の死後、それを大切に保存して昔を偲んだ故事。〔南史、河東王鉉傳〕初鉉年三四歲、高帝嘗晝臥纏レ髮、鉉上二高帝腹上一弄レ繩、高帝因以レ繩賜レ鉉、及二崩後一、鉉以二寶函一盛レ繩、歲時輒開視、流涕嗚咽。

【弄臣】56（ロウシン） 人君のなぐさみものとなる臣。〔史記、申屠嘉傳〕（文帝）謝二丞相一曰、此吾弄臣、君釋レ之。〔漢書、毋將隆傳〕今賢等便僻弄臣。

【弄晴】57（ロウセイ） 晴天に乘じて遊び樂しむこと。〔蘇軾、雪後到二乾明寺一遂宿詩〕且看二鴉鵲一弄二新晴一。

【弄簫】58（ロウセウ） ふえをふく。〔陳陶、將進酒詩〕巫娥弄レ簫香雨收、江嬪迸レ瑟魚龍愁。

【弄舌】59（ロウゼツ） よくしやべること。多言。饒舌。〔唐寅、散步詩〕弄舌鉤輈繞レ樹啼。

【弄妾】60（ロウセフ） めかけぐるひ。

【弄錢】61 nung^4 ch'ien^2 賭をすること。

【弄孫】62（ロウソン） 孫をあやし樂しむ。〔後漢書、明德馬后紀〕吾但當二含レ飴弄レ孫、復能關レ政矣。

【弄蛇】63（ロウダ） 蛇をもてあそぶ。〔張衡、西京賦〕蟾蜍與レ龜、水人弄レ蛇。〔五燈會元〕如禁蛇人信二其咒力藥力一、以レ蛇綰弄、揣二懷袖中一無レ難。

【弄濤】64（ロウタウ） 弄潮に同じ。〔王應麟、地理通釋〕浙江濤、每日晝夜再上、常以二月十日十五日一最小、月三日十八日極大、小則水漸漲、不レ過二數尺一、大則濤湧高至二數丈一、每年八月十八日、數百里士女共觀、舟人漁子、泝レ濤觸レ浪、謂二之弄濤一。

【弄智】65（ロウチ） 才智にまかせて事をする。弄才(37)に同じ。

【弄痛】66（ロウツウ） 分娩前の腹痛。陣痛。〔女科百效全書〕十月未レ足、臨レ產腹痛或止不レ定、名曰二弄痛一。

【弄潮】67（ロウテウ） 浙江で、手に旗等を持つて海に浮び、浪と遊び戲れること。〔蘇轍、競渡詩〕父老不レ知招二屈恨一、少年爭作二弄潮游一。〔夢粱錄、觀潮〕杭人有下一等無賴不レ惜二性命一之徒上、以二大綵旗或小清涼繖紅綠小繖兒一、各繫二繡色緞子一滿レ竿、伺レ潮出二海門一、百十爲レ羣、執レ旗泅二水上一、以迓二子胥一、弄潮之戲、或有下手脚執二五小旗一、浮二潮頭一而戲弄上、向于二治平年間一、郡守蔡端明內翰、見三其往往有二沈沒者一、作下戒二約弄潮一文上。

〔弄潮兒〕68（ロウテウジ） 弄潮をする者。一種の遊俠の徒。〔李益、江南曲〕早知二潮有レ信、嫁二與弄潮兒一。

〔弄潮聲〕69（ロウテウノコエ） 水に棹す音。〔白居易、池邊卽事〕老去親朋零落盡、蘭塘越棹弄潮聲。

【弄笛】70（ロウテキ） ふえを吹いて樂しむ。〔趙嘏、憶二山陽一詩〕芰荷香遶垂鞭袖、楊柳風橫弄笛船。

【弄田】72（ロウデン） 宴遊の田。天子の戲弄する所。未央宮中にある。〔漢書、昭帝紀〕上耕二于鉤盾弄田一。〔注〕應劭曰、時帝年九歲、未レ能二親耕一、帝籍二鉤盾一、宦者近署、故往試耕、爲二戲弄一也、臣瓚曰、西京故事、弄田在二未央宮中一、師古曰、弄田、爲三宴游之田、天子所二戲弄一耳、非下爲二昭帝年幼一創中有此名上。

【弄棟】73（ロウトウ） 縣名。漢、置く。故城は雲南省姚安縣。後漢書郡國志に梇棟に作る。〔漢書、地理志上〕益州郡、縣二十四、弄棟。

【弄馬】74（ロウバ） 馬を乘りまはして遊ぶ。〔左氏、定、三〕君以二弄レ馬之故一、隱二君身一、棄二國家一、羣臣請相二夫人一、以償レ馬必如レ之。〔漢書、韓延壽傳〕又使二騎士戲車弄馬盜驂一。

【弄牌】75 nung^4 p'ai^2 かるたあそび。

【弄法】76（ロウハフ） おきてをもてあそぶ。法律をまげる。〔史記、貨殖傳〕吏士舞レ文弄レ法、刻章僞書。

【弄飯】77 nung^4 fan^4 飯をこしらへる。食事を整へる。

【弄媚】78 nung^4 mei^4 じやれつく。媚を呈する。

【弄筆】79（ロウヒツ） 筆に任せて事實をまげて書く。舞文。〔晉書、赫連勃勃載記〕吾死之後、汝輩弄レ筆、當レ置二吾何地一。〔韓愈、寄二盧仝一詩〕往年弄レ筆嘲二同異一、怪辭驚レ衆謗不レ已。

〔弄筆生〕80（ロウヒツセイ） 弄筆する人。〔唐書、祖君彥傳〕爲レ密草レ檄、深斥二主闕一、密敗、云云、郎將王拔柱曰、弄筆生有二餘罪一、乃蹙二其心一、卽死。

【弄物】81（ロウブツ） ❶物をもてあそぶ。〔漢書、地理志下〕作二姦巧一多弄レ物爲二倡優一。❷おもちや。玩弄物。〔王銍雜纂續、易圖謀〕小兒手中弄物。

【弄兵】82（ロウヘイ） みだりに兵を動かす。みだりに戰端を開くこと。〔漢書、龔遂傳〕海瀕遐遠、不レ霑二聖化一、其民困二於饑寒一、而吏不レ恤、故使三陛下赤子、盜二弄陛下之兵於潢池中一耳。〔杜牧、題二關亭一詩〕君王若悟二治安論一、安史何人敢弄レ兵。

【弄辯】83（ロウベン） よくしやべる。弄舌(59)に同じ。

【弄猢猻】84（ロウコソン） 猿廻し。〔通俗編、獸畜、弄猢猻〕太平廣記、蜀中楊于度、善弄二猢猻一、飼二養胡猻一十餘頭。

【弄參軍】85（ロウサングン） 漢の石聘が贓犯の罪を犯したが、和帝が其の才を惜しんで罪を免し、宴樂每に優伶として戲弄せしめたが、後參軍となつた故事。轉じて、役者中の副淨をいふ。第二主人。わき。〔文獻通考、樂考、散樂百戲、參軍戲〕樂府雜錄述、弄參軍之戲、自三後漢館陶令石聘有二贓犯一始也、蓋和帝惜二其才一、特免二其罪一、每レ遇二宴樂一、卽令レ衣二白夾衫一、命二優伶戲弄一辱レ之、經レ年乃釋、謂下之後爲二參軍一者誡上也、唐開元中、有二李仙鶴一善爲二此戲一、明皇特授二韶州同正參軍一、是以陸鴻漸撰レ詞云、韶州參軍蓋由レ此矣、武宗朝有二曹叔度・劉泉水一、咸通以來、有二范博康・上官唐卿・呂敬儉・馮季皋一、亦其次也、趙書謂二石勒參軍一、周延爲二館陶令一、如レ此豈傳聞之誤邪。〔通俗編、俳優、戲文〕樂府雜錄、開元中、黃幡綽・張野狐、善二弄參軍一、卽後世副淨矣。

【弄癡人】86（ロウチノヒト） 俳優。馬鹿げたなりをして人を笑はせるからいふ。〔北史、皇甫玉傳〕及二文宣卽位一、試二玉相術一、故以二帛巾一袜二其眼一、使三歷二摸諸人一、至二文宣一曰、此最大達官、至二任城王一曰、當レ至二丞相一、至二石動桶一曰、此弄癡人、至二供膳一曰、正得二好飲食一而已。

【弄椀珠】87（ロウワンシユ） 品玉取り。品玉使ひ。手品使ひ。〔通俗編、俳優、弄椀珠〕通典、梁有二弄椀珠伎一、宋都城紀勝、有二踢瓶弄椀一。

【不レ好レ弄】88（ロウヲコノマズ） 嬉戲を好まない。〔左氏、

僖、九〕夷吾弱不レ好レ弄。〔注〕弄、戲也。〔書言故事、幼敏類〕不二喜戲一、曰レ不レ好レ弄。

【弄假婦人】89 ロウカフジン　唐代の劇で女脚色をいふ。旦(5−13734)に同じ。〔通俗編、俳優、生旦淨末〕樂府雜錄稱、范傳康等弄假婦人、則唐末レ有二旦名一。

【弄神弄鬼】90 nung^4 shen^2 nung^4 kuei^3　利巧な手腕を使用す。

【弅】9597　㈠フン ブン　〔集韻〕符分切　文　㈡フン ブン　〔集韻〕父吻切　吻

㈠㈡**丘の高く起るさま。**〔集韻〕弅、丘高起皃。〔集韻〕弅、隱弅、丘高出皃。〔莊子、知北遊〕登二隱弅之丘一。

【𦬇】9598　キヨ　擧(5−12863)の古字。〔字彙補〕𦬇、古文擧字。邦ぼさつ。菩薩(9−31205··1)の略字。ささぼさつともいふ。〔東雅、十三、穀〕佛經を書寫するに、菩薩の字の文を省きて𦬇とする事あり。

參考　艸部三畫の𦬇(9−30687)とは字形酷似せるも本來は別字。

【𢍄】9599　カイ　戒(5−11548)に同じ。〔字彙補〕𢍄、與レ戒同。

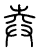
【𢍆】9600　サン　算(8−26146)に同じ。〔字彙補〕𢍆、同レ算。

【𢍇】9601　エキ　弈(4−9611)に同じ。〔龍龕手鑑〕𢍇、同レ弈。

【𢍈】9602　フク　義未詳。〔龍龕手鑑〕𢍈、音福。

五畫

【𢍏】9603　㈠ヰク　〔廣韻〕余六切　屋　㈡キク　〔集韻〕居六切　屋


小篆

㈠㈡❶**うける。**兩手にものをもる。〔說文〕𢍏、兩手盛也、从レ廾先聲。❷**兩手でささげる。**〔廣韻〕𢍏、兩手捧レ物。

【𢍑】9604　シヨウ　承(5−11852)に同じ。〔集韻〕承、或作レ𢍑。

【弆】9605　キヨ コ　〔集韻〕苟許切　ㄐㄩˇ chü^3　語

❶**をさめる。しまひこむ。**〔一切經音義、十三〕弆、藏也、通俗文曰、密藏曰レ弆。〔集韻〕弆、藏也。❷或は去(2−3070)に作る。〔集韻〕弆、或作レ去。〔左氏、昭、十九、以度而去レ之、疏〕去、卽藏也、字書、去作レ弆、羌莒反、謂レ掌レ物也、今關西仍呼爲レ弆、東人輕言爲レ去。

【弆晉庋唐閣】1 キヨシンキタウカク　清、王學浩(7−20823··1265)の室名。

【𢍚】9606　キヨウ ギヨウ　〔字彙補〕何仍切　蒸

酒を入れるかめ。たる。〔字彙補〕𢍚、酒器。

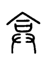
【𢍘】9607　エキ　弈(4−9611)に同じ。〔字彙補〕𢍘、與レ弈同。

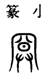
【𢍛】9608　ねはん。涅槃(6−17521··14)の略字。

六畫

【𢍜】9609　ソン　巽(4−8765)の本字。〔康熙字典〕𢍜、說文、巽本字。

【弇】9610　㈠エン　〔集韻〕衣檢切　ㄧㄢˇ yen^3　琰　㈡エン　〔集韻〕於贍切　豔　㈢カン コン　〔集韻〕姑南切　覃　㈣エン　〔集韻〕衣廉切　鹽　㈤ダン ナン　〔集韻〕那含切　覃


小篆


古文

㈠❶**おほふ。**〔說文〕弇、蓋也、从レ廾合聲。〔廣雅、釋詁二〕弇、覆也。❷**あはせる。**〔爾雅、釋言〕弇、同也。❸**ふかい。**〔呂覽、孟冬〕其器宏以弇。〔注〕弇、深也。〔呂覽、仲冬〕處必弇。〔注〕弇、深邃也。❹**中がひろい。**口が小さく、中がひろい器物。〔周禮、春官、典同〕侈聲筰、弇聲鬱。〔注〕弇、謂二中央寛一也。〔釋文〕弇、沈戚音掩。❺**せまい。**〔左氏、襄、二十五〕行及二弇中一。〔注〕弇中、狹道。❻**つぐ。おそふ。**ふむ。〔荀子、賦〕法二禹舜一而能弇レ迹者邪。〔注〕弇、襲也。❼**内に向ふ。**〔周禮、考工記、輿人〕棧車欲レ弇。〔疏〕棧車、無二革鞔一、輿易レ可二坼壞一、故當二弇向一レ內爲レ之。❽**長い。**〔爾雅、釋魚〕龜、俯者靈、仰者謝、前弇諸果、後弇諸獵。〔注〕前弇、甲前長、後弇、甲後長。❾古は穿(4−9625)・寑(8−25570)に作る。〔集韻〕弇、古作二穿・寑一。㈡**中がひろい。**㈠の❹に同じ。〔集韻〕弇、鐘形中央寛也、周禮、弇聲鬱、劉昌宗讀。㈢❶**おほふ。**㈠の❶に同じ。古は穿(4−9625)に作る。〔集韻〕弇、說文、蓋也、古作レ穿。❷**あはせる。**㈠の❷に同じ。〔廣韻〕弇、同也。㈣❶**せまい。**〔集韻〕弇、弇中、隘道。❷**山名。**弇茲(6)を見よ。㈤**姓。**〔集韻〕弇、姓也。

【弇蓋】1 エンガイ　おほふこと。〔爾雅、釋言〕弇、蓋也。〔注〕謂二覆蓋一。〔說文〕弇、蓋也。

【弇汗】2 エンカン　馬の汗を防ぐ具。防汗。〔廣雅、釋器〕防汗謂二之幹一。〔王念孫疏證〕說文、幹、防汗也、防汗、一名二弇汗一、鹽鐵論散不足篇云、今富者黃金琅勒、罽繡弇汗。〔鹽鐵論、散不足〕罽繡弇汗、垂珥胡鮮。

【弇山】3 エンザン　❶山名。古、西王母の居つた所といふ。〔列子、湯問〕周穆王西巡狩、越二崑崙一、不レ至二弇山一反還。〔穆天子傳、三〕紀二跡於弇山之石一、而樹二之槐一、眉曰二西王母之山一。❷園の名。江蘇省太倉縣の隆福寺の西。明の王世貞、築く。中に三峯を疊み、上弇・中弇・下弇といふ。園亭林木極めて景勝。世貞の著に弇山堂別集がある。〔婁東園林志、弇州園〕弇州園、俗呼二王家山一、在二隆福寺西一、云云、三山者、曰二西弇中弇東弇一。❸清、畢沅(7−21829··26)の號。

【弇山堂】4 エンザンダウ　明、王世貞(7−20823··1763)の室名。

【弇山堂別集】5 エンザンダウベツシフ　書名。一百卷。明、王世貞撰。弇山堂は世貞の別號。弇山堂四部稿中にあり、首に王世貞の小引、陳文燭の序及び目錄あり、紀事は凡て明代の典故を載せてゐる。其の目は、盛事述五卷・異典述十卷・奇事述四卷・史乘考誤十一卷・表三十四卷・考三十六卷。右の中、史乘考誤及び諸侯王百官表は辨析精賅、民間野史の能く及ぶ所ではないが、盛事奇事の諸篇は頗る談諧に涉り、史體を具へてゐない。〔四庫提要、史、雜史類〕。

【弇茲】6 エンジ　❶神の名。〔山海經、大荒西經〕西

海渚中有レ神、人面鳥身、珥二兩青蛇一、踐二兩赤蛇一、名曰二弇茲一。❷山名。崦嵫。〔穆天子傳、三〕升二於弇山一。〔注〕弇、弇茲山、日入所也。

【弇州】7 エンシウ ❶古の州名。〔淮南子、墬形訓〕正西弇州曰二并土一。❷山名。〔山海經、大荒西經〕西有二弇州之山一。

【弇州山人】8 エンシウサンジン 明、王世貞(**7−20823‥1763**)の號。

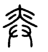
【弇州山人四部稿】9 エンシウサンジンシブカウ 書名。一百七十四卷。續稿、二百七卷。明、王世貞撰。正稿は世貞が鄖陽巡撫の時の自刊。續稿は致仕後、自ら晩年の作を集めて其の子士駿に授けたものを、崇禎中、其の孫刊行す。正稿は賦・詩・文・説の四部、續稿は賦・詩・文の三部に分かる。其の目は、【正稿】〘賦部二卷〙賦騷共二卷。〘詩部五十二卷〙卷三風雅集類、卷四—七擬古樂府、卷八三言古・四言古・五言古、卷九—十五五言古、卷十六—二十二七言古、卷二十三—二十八五言律、卷二十九・三十 五言律・五言排、卷三十一・三十二五言律・六言排、卷三十三—四十三 七言律、卷四十四七言律・七言排、卷四十五 五言絶句、卷四十六 五言絶句・六言絶句、卷四十七—五十二七言絶句、卷五十三七言絶句・雜體、卷五十四詞。〘文部八十四卷〙卷五十五—七十一序、卷七十二—七十六記、卷七十七記・書事、卷七十八紀行、卷七十九・八十志、卷八十一—八十五傳、卷八十六—九十三墓誌銘、卷九十四・九十五墓表、卷九十六神道碑・墓碣銘、卷九十七墓碑・碑、卷九十八—一百行狀・述、卷一百一頌、卷一百二頌・贊、卷一百三銘・誄・哀辭、卷一百四・一百五祭文、卷一百六—一百九奏疏・表・公移、卷一百十史論、卷一百十一論・辨・説・雜説・議、卷一百十二讀、卷一百十三雜著・募緣疏、卷一百十四—一百十六策、卷一百十七—一百二十八書牘、卷一百二十九雜文跋、卷一百三十—一百三十二墨蹟跋、卷一百三十三—一百三十六墨刻跋、卷一百三十七・一百三十八畫跋。〘説部三十六卷〙卷一劄記內篇、卷二劄記外篇、卷三左逸、卷四・五短長、卷六—十三藝苑巵言、卷十四—十七附錄、卷十八—三十六宛委餘論。【續稿】〘賦部一卷〙卷一賦・哀辭・辭共一卷。〘詩部二十四卷〙卷二擬古樂府・樂府變、卷三四言古・五言古、卷四—八五言古、卷九—十一七言古、卷十二五言律、卷十三五言律・六言律、卷十四—十八七言律、卷十九七言律・五言排、卷二十五言排・七言排、卷二十一五言絶句・六言絶句、卷二十二—二十五七言絶句。〘文部百八十二卷〙卷二十六—五十五序、卷五十六—六十五記、卷六十六紀、卷六十七—七十九傳、卷八十—八十九史傳、卷九十—一百二十四墓誌銘、卷一百二十五—一百二十八墓表、卷一百二十九—一百三十三神道碑、卷一百三十四 神道碑・墓碑、卷一百三十五墓碑、卷一百三十六—一百四十行狀、卷一百四十一志、卷一百四十二—一百四十四疏、卷一百四十五偈・頌、卷一百四十六—一百五十一像贊、卷一百五十二—一百五十五 祭文、卷一百五十六佛經書後、卷一百五十七道經書後・書後・議・説・讀、卷一百五十八・一百五十九 書道經後、卷一百六十雜文跋、卷一百六十一—一百六十五墨蹟跋、卷一百六十六・一百六十七墨刻跋、卷一百六十八—一百七十畫跋、卷一百七十一 佛教畫跋、卷一百七十二—二百七書牘。〔四庫提要、集、別集類〕。

【弇聲】10 エンセイ こもった聲。〔周禮、春官、典同〕侈聲筰、弇聲鬱。〔注〕弇、謂二中央寬一也、弇、則聲鬱勃不レ出也。

【弇中】11 エンチュウ 狹い路。こみち。細路。〔左氏、襄、二十五〕行及二弇中一、將レ舍。〔注〕弇中、狹道。

【弇斂】12 エンレン 掩うて外に表はさないこと。弇は掩、斂は收。〔呂覽、士容〕客所二弇斂一、士所二術施一也。

【弈】9611


小篆

エキ ヤク 〔集韻〕夷益切 ㄧˋ i4 陌。

❶**碁をうつあそび。碁をかこむ。碁をうつ。**〔説文〕弈、圍棊也、从レ廾亦聲。〔小爾雅、廣服〕棊局謂二之弈一。〔左氏、襄、二十五〕不レ如二弈棊一。〔注〕弈、圍棋也。〔疏〕圍棊、稱レ弈者、取二其落弈之義一也。〔論語、陽貨〕不レ有二博弈者一乎。〔集注〕弈、圍碁也。❷**ばくち。**〔廣韻〕弈、又博弈。〔孟子、告子上〕今夫弈之爲レ數。〔注〕弈、博也、或曰、圍棋。❸**うつくしい姿態。**〔廣韻〕弈、美皃。❹**とばり。たれぬの。**〔逸周書、王會解〕墠上張二赤弈陰羽一。❺**もる。いれる。**〔集韻〕弈、一曰、盛也、容也。

名乘 シゲ。シク。

參考 奕(**3−5922**)とは別字。誤つて通ずることがある。〔正字通〕弈、通作レ奕。〔字彙、醒誤〕弈、博弈、今誤作レ奕。奕、奕葉、累世。

【弈棋】1 エキキ 碁を打つこと。圍棋。〔左氏、襄、二十五〕今甯子視レ君、不レ如二弈棋一、其何以免乎、弈者擧レ棋不レ定、不レ勝二其耦一、而況置レ君而弗レ定乎、必不レ免矣。〔注〕弈、圍棋也。〔墨子、號令〕弈二棋軍中一。〔西京雜記、二〕杜陵杜夫子善二弈棋一、爲二天下第一一。〔李衛公問對、下〕譬如二弈棋一。

【弈具】2 エキグ 圍碁の道具。〔南部新書、庚〕李訥性躁急而酷、尙二弈具一、每レ下レ子安詳極二于寬緩一、往往躁怒作、家人輩則密以二弈具一陳二於前一、訥便忻然改レ容、以取二其子一布弄、都忘二其恚一矣。

【弈旨】3 エキシ 書名。一篇。後漢、班固撰。圍棋に關する最古の書。元の晏天章が玄玄集を刻した時、棋經の首に冠した。〔班固、弈旨〕大冠言レ博既終、或進而問レ之曰、孔子稱レ有二博弈一、今博行二於世一、而弈獨絶、博義既弘、弈義不レ述、問二之論家一、師不レ能レ說、其聲可レ聞乎。

【弈思】4 エキシ 博弈に就いての思考。〔沈約、齊故安陸昭王碑文〕弈思之微、秋儲無二以競レ巧。〔注〕良曰、博弈之事也、儲、謂レ蓄二精思一也、弈秋、天下之善レ弈也、言、王之弈思、雖二弈秋之儲思一、無三以競二其巧妙一也。

【弈秋】5 エキシウ 古の圍棋の名人。秋は其の名。〔孟子、告子上〕弈秋、通國之善レ弈者也。〔集注〕弈秋、善レ弈者、名秋也。

【弈楸】6 エキシウ ごばん。碁盤。棊局。〔段成式、觀レ棊詩〕閒對二弈楸一傾二一壺一。

【弈者】7 エキシャ ごうち。〔左氏、襄、二十五〕弈者擧レ棋不レ定、不レ勝二其耦一。〔會箋〕弈者、卽後世棊客也。

【弈聖】8 エキセイ 淸の儀徵の黃龍士。弈を善くし、周東侯と名を齊しくす。康熙の時、弈聖と稱せられた。

【弈徒】9 i t'u 博徒。

【弈敗】10 エキハイ 碁に敗ける。〔新論、專學〕弈敗算撓者、是心不二專一一、游二情外務一也。

【弈律】11 エキリツ 書名。四十二條。明、王思任撰。弈棋の禁令を定めたもの。各〻明代の律文を前に列し、弈者の犯す所と比較參照するやうにしてある。〔說郛、續編、三十五〕。

七畫

【〓】9612

ホン 奔(**3−5921**)の本字。〔正字通〕奔、本作レ〓。

【〓】9613

シ 思(**4−10462**)の古字。〔字彙補〕〓、古文思字。

【〓】9614

クヮン 奐(**3−5916**)の本字。〔正字通〕奐、本作レ〓。

【〓】9615

キ 義未詳。〔龍龕手鑑〕〓、音忌。

【〓】9616

ヱン 義未詳。〔搜眞玉鏡〕〓、音冤。

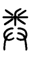
【〓】9617

ケイ 契(**3−5917**)の譌字。〔康熙字典〕〓、按、字彙補作レ〓、疑卽契字之譌。

【⿱囟廾】9618 ベン 弁(4−9588)の籀文。〔正字通〕⿱囟廾、籀文弁。

【⿱告廾】9619 カウ 誥(10−35549)の古字。〔玉篇〕⿱告廾、古文誥。

【⿱釆廾】9620 ケン 〔集韻〕古倦切 霰


小篆

㊀**飯をまろめる**。〔說文〕⿱釆廾、摶飯也、从㆑廾釆聲、釆、古文辨字、讀若㆓書卷㆒。㊁或は⿱釆収(11−40119)・⿱龹弓(4−9769)に作る。〔集韻〕⿱釆廾、或从㆑収、亦作㆑⿱龹弓。㊂隸は尖に作る。〔廣韻〕⿱釆廾、隸省作㆑尖、畚字類從㆑此。㊃俗に⿱龹廾に作る。〔廣韻〕⿱釆廾、俗作㆑⿱龹廾。

【⿱𠔀廾】9621 シユウ 終(8−27372)の古字。〔字彙補〕⿱𠔀廾、古文終字。

【⿱采廾】9622 ケン ⿱釆廾(4−9620)に同じ。〔五音篇海〕⿱采廾、與㆑⿱釆廾同。

【⿰亻⿱白廾】9623 キ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿰亻⿱白廾、音其。

【⿱⿱亠目廾】9624 カイ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿱⿱亠目廾、音改。

八畫

【⿱穴廾】9625 エン 弇(4−9610)の古字。〔說文〕弇、⿱穴廾、古文弇。

【⿱龹廾】9626 ケン クヮン 〔篇韻〕去願切 願

㊀**牛の鼻をうがつ**。〔篇韻〕⿱龹廾、穿㆓牛鼻㆒。㊁桊(6−14764)の譌字。〔康熙字典〕⿱龹廾、按、諸韻書、桊訓㆓穿牛鼻㆒、音眷、無㆓⿱龹廾字㆒、當㆓是桊字之譌㆒。

【⿵冂⿱叀廾】9627 ヰ ⿱叀廾(4−9631)の篆文。〔字彙〕⿵冂⿱叀廾、⿱叀廾字宜㆑从㆑此。〔康熙字典〕⿵冂⿱叀廾、說文、⿱叀廾字之篆文。

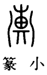
【⿱⿰夕夕廾】9628 ゲン 言(10−35205)の古字。〔玉篇〕⿱⿰夕夕廾、古文言。

【⿱㒳廾】9629 ベン 弁(4−9588)の籀文。〔五音篇海〕⿱㒳廾、籀文弁字。

【⿱皃廾】9630 ベン 弁(4−9588)の籀文。〔說文〕覍、⿱皃廾、籀文覍从㆑廾、上象形、弁、或覍字。

九畫

【⿱叀廾】9631 ヰ 〔集韻〕于貴切 未


小篆

㊀**さかん**。草木の生ひしげつたさま。もと、⿵冂⿱叀廾(4−9627)に作る。〔說文〕⿵冂⿱叀廾、艸木⿱叀廾孛之皃、从㆑𣎵畀聲。㊁或は東(6−14984)・蕢(9−31439)に作る。〔集韻〕⿱叀廾、或作㆓東・蕢㆒。

十畫

【⿱利廾】9632 リ ⿱利力(2−2152)に同じ。〔集韻〕⿱利力、或从㆑廾。

【⿱酋廾】9633 ソン 尊(4−7445)に同じ。〔說文〕⿱酋廾、酒器也、从㆑酋廾以奉㆑之、周禮六尊、犧尊・象尊・箸尊・壺尊・大尊・山尊、以待㆓祭祀賓客之禮㆒、尊、⿱酋廾或从㆑寸。

【⿱彖廾】9634 レイ 蠡(10−33796)の古字。〔韻會小補〕⿱彖廾、古文蠡字。

【⿱亠⿱日廾】9635 キ 棄(6−14913)の古字。〔集韻〕棄、古作㆑⿱亠⿱日廾。

【⿱执廾】9636 ケイ 契(3−5917)に同じ。〔字彙補〕⿱执廾、同㆑契。

【⿱⿵冂釆廾】9637 アウ 奧(3−5985)の本字。〔字彙〕⿱⿵冂釆廾、奧本字。

【⿱𣏟廾】9638 キョク ⿱𣏟米(8−27957)に同じ。〔集韻〕⿱𣏟米、隸作㆑⿱𣏟廾。

十一畫

【⿱將廾】9639 シャウ 奬(3−5997)に同じ。〔玉篇〕⿱將廾、同㆑奬。

【⿱⿱冖夂廾】9640 フ ⿱⿱冖攵廾(4−9646)の譌字。〔正字通〕⿱⿱冖夂廾、⿱⿱冖攵廾字之譌。

【⿱罒廾】9641 チ おく。置(9−28298)に同じ。〔中華大字典〕⿱罒廾、按、說文、置、赦也、疑⿱罒廾、卽置之變體。

【⿱𠔉廾】9642 フン 坌(3−4996)に同じ。〔康熙字典〕⿱𠔉廾、集韻同㆑坌。

【⿰耒开】9643 ケン 〔字彙補〕公殄切 銑

小さい束。〔字彙補〕⿰耒开、小束也。

参考 字形、集韻は⿰耒井に作り、⿱耒廾(4−9184)に同じとする。

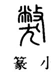
十二畫

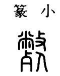
【弊】9644

㊀ ヘイ ベイ 〔集韻〕毗祭切 霽 ㄅ一ˋ pì

㊁ ヘツ ベチ 〔集韻〕蒲結切 屑

㊂ ヘツ ヘチ 〔韻補〕筆別切 屑


小篆


或體

㊀㊁㊀**たふれる。たふす。犬がたふれる**。獘(7−20672)・斃(5−13417)に同じ。〔說文〕獘、頓仆也、从㆑犬敝聲、春秋傳曰、與㆑犬犬獘、斃、獘或从㆑死。〔說文通訓定聲〕獘、字亦作㆑弊、按、誤爲㆑大、又作㆑廾也。〔爾雅、釋言〕獘、踣也。〔釋文〕獘、字亦作㆑弊、又作㆑斃。〔爾雅、釋木〕木自獘、柛。〔釋文〕獘、字又作㆑斃。〔玉篇〕獘、頓仆也。〔周禮、天官、獸人〕及㆑弊㆑田。〔注〕弊、仆也。〔國語、晉語八〕信反必弊。〔注〕弊、踣也。㊁**やぶれる。やぶる**。敝(5−13245)に通ず。〔說文通訓定聲〕獘、叚借爲㆑敝。〔玉篇〕弊、壞也、敗也。〔論語、公治長〕弊㆑之而無㆑憾。〔皇疏〕

弊、敗也。〔戰國、西周策〕是公以ㇾ弊二高都一得ㇾ完ㇾ周也。〔注〕弊、破也。〔戰國、秦策〕黑貂之裘弊。〔注〕弊、壞也。㊂**わるい**。〔廣韻〕弊、惡也。〔周禮、夏官、司弓矢〕句者謂二之弊弓一。〔注〕弊、猶ㇾ惡也。〔呂覽、音初〕土弊則草木不ㇾ長。〔注〕弊、惡也。㊃**かはる**。〔說文通訓定聲〕獘、禮記祭義、骨肉斃二于下一、按、猶ㇾ化也。㊄**自分の物事にそへる謙稱**。〔左氏、隱、四〕弊邑以ㇾ賦與二陳蔡一從。㊅**つかれる**。疲(**7－22084**)に通ず。〔說文通訓定聲〕獘、叚借爲ㇾ疲。〔廣韻〕弊、困也。〔戰國、西周策〕兵弊二於周一。〔注〕弊、罷也。〔戰國、秦策〕不ㇾ如下南攻二襄陵一以弊上ㇾ魏。〔注〕弊、罷也。㊆**やむ**。**つきる**。**つくす**。斁(**5－13348**)に通ず。〔說文通訓定聲〕獘、叚借爲ㇾ斁。〔周禮、夏官、大司馬〕火弊。〔注〕火弊、火止也。〔管子、侈靡〕澤不ㇾ弊而養足。〔注〕弊、竭也。〔鄒陽、上ㇾ書諫二吳王一〕弊二無窮之極樂一。〔注〕弊、猶ㇾ盡也。㊇**かくれる**。蔽(**9－31888**)に通ず。〔說文通訓定聲〕獘、叚借爲ㇾ蔽。〔戰國、秦策〕南陽之弊幽。〔注〕弊、隱也。㊈**たつ**。**さだめる**。きめる。擊(**5－12677**)に通ず。〔說文通訓定聲〕獘、叚借爲ㇾ擊、或爲ㇾ制。〔周禮、天官、大宰〕以弊二邦治一。〔注〕弊、斷也。〔周禮、天官、小宰〕弊二羣吏之治一。〔注〕弊、斷也。〔周禮、秋官、掌囚〕以待ㇾ弊ㇾ罪。〔注〕弊、猶ㇾ斷也。〔史記、范雎蔡澤傳〕弊二御於諸侯一。〔注〕索隱曰、弊者、斷也。㊉**きぬ**。幣(**4－9088**)に通ず。〔說文通訓定聲〕獘、叚借爲ㇾ幣、莊子則陽、史鰌奉御而進、所二搏弊一而扶翼、按、搏弊者、敷ㇾ幣也。〔莊子、則陽〕搏弊而扶翼。〔釋文〕弊、郭作ㇾ幣、帛也。⑪**つとめるさま**。弊弊(63)を見よ。⑫**まじる**。瀎(**7－18606**)に通ず。〔說文通訓定聲〕獘、叚借爲ㇾ瀎、淮南俶眞、不二與ㇾ物相弊瀎一注、猶二雜揉一。

参考　熟語は敝(**5－13245**)をも併せ見よ。

【弊衣】1 ヘイイ　やぶれごろも。敝衣。〔新書、屬遠〕彊提二荷弊衣一而至。〔顏氏家訓、治家〕麻鞋一屋、弊衣數庫。

【弊帷】2 ヘイヰ　やぶれた帷。敝帷。〔任昉、爲二范始興一作求ㇾ立二太宰碑一表〕弊帷毀蓋、未ㇾ蕣二螻蟻一。

【弊幽】3 ヘイイウ　困窮して幽隱した者。〔戰國、秦策〕管仲其鄙人之賈人也、南陽之弊幽、魯之免囚、桓公用ㇾ之而伯。

【弊邑】4 ヘイイフ　自國の謙稱。敝邑。〔左氏、隱、四〕君若伐ㇾ鄭、以除二君害一、君爲ㇾ主、弊邑以ㇾ賦與二陳蔡一從、則衞國之願也。〔管子、小匡〕弊邑寡君。〔新序、雜事四〕辱到二弊邑一。〔歐陽脩、與二王郎中一簡〕值三某遷二郡淮南一、扶二挈老幼一、凡再登ㇾ舟、再出ㇾ陸、始至二弊邑一。

【弊屋】5 ヘイヲク　㊀破損した家。〔太平記、三十七、新將軍京落〕此の弊屋へ御入りぞ候はんずらん。㊁己の家の謙稱。敝屋(**5－13245‥12**)に同じ。

【弊家】6 ヘイカ　己の家の謙稱。敝屋(**5－13245‥1**「2」)に同じ。

【弊害】7 ヘイガイ　よろしくないこと。害となること。害毒。

【弊鎧】8 ヘイガイ　やぶれたよろひ。〔資治通鑑、晉紀〕以二羸兵弊鎧一給ㇾ之。〔高啓、若哉遠征人〕霜露鑠二飢膚一、弊鎧蟣虱生。

【弊梗】9 ヘイカウ　やぶれふさがる。弊敗し梗塞する。一説に、弊は幣の誤り。幣帛を神に獻じて災害を豫防する祈禱の名。〔管子、四時〕其事號令、修二除神位一、謹禱二弊梗一、宗ㇾ正ㇾ陽。〔注〕梗、塞也、時方開通、而有二弊敗梗塞者一、則禱ㇾ神以通二道之一。〔纂詁〕劉績以ㇾ弊爲二幣譌一、是也、梗亦禱名、禦ㇾ未ㇾ至曰ㇾ梗、梗上言ㇾ弊者、兼二上下一也。

【弊甲】10 ヘイカフ　やぶれたよろひ。敝甲。〔新序、善謀下〕宛完二繕弊甲一。〔資治通鑑、梁紀〕(武帝、大同四年)王思政每ㇾ戰、常著二破衣弊甲一、敵不ㇾ知二其將帥一、故得ㇾ免。

【弊攰】11 ヘイキ　疲れ困しむこと。〔顏氏家訓、書證〕有ㇾ人訪ㇾ吾曰、魏志、蔣濟上書云、弊攰之民、何字也、余應ㇾ之曰、意、爲ㇾ攰、卽是皷倦之皷耳。

【弊久】12 ヘイキウ　舊くなつてやぶれた物。〔管子、度地〕取二完堅一、補二弊久一。

【弊裘】13 ヘイキウ　やぶれたかはごろも。敝裘(**5－13245‥22**)に同じ。

【弊鄉】14 ヘイキヤウ　己の鄉里の謙稱。

【弊蹻】15 ヘイキヤウ　やぶれたわらぐつ。〔蜀志、董和傳〕違ㇾ覆而得ㇾ中、猶下棄二弊蹻一而獲中珠玉上。

【弊弓】16 ヘイキユウ　惡い弓。〔周禮、夏官、司弓矢〕句者謂二之弊弓一。〔注〕弊、猶ㇾ惡也。

【弊居】17 ヘイキヨ　己の家の謙稱。我が家。拙宅。敝居。〔白居易、履道西門詩〕履道西門有二弊居一。〔剪燈新話、牡丹燈記〕弊居咫尺、佳人可二能回顧一否。

【弊御】18 ヘイギヨ　決斷制御すること。處理しておさへる。〔戰國、秦策〕戰勝攻取、則利歸二陶國一、弊二御於諸侯一。〔注〕弊、斷也、御、制也、謂下乘二戰勝之威一、而斷中制於諸侯上。

【弊句】19 ヘイク　つたない句。〔白居易、元稹除二中書舍人翰林學士賜紫金魚袋一制〕芟二繁詞一剗二弊句一。

【弊壞】20 ヘイクワイ　やぶれこはれること。〔魏志、和洽傳〕形容不ㇾ飾、衣裘弊壞者、謂二之廉潔一。〔晉書、石勒載記〕衣冠弊壞。「弊冠反裘」

【弊冠】21 ヘイクワン　やぶれたかんむり。〔晏子、雜、上〕

【弊源】22 ヘイゲン　わざはひのもと。〔福惠全書、蒞任部、出堂規〕欲ㇾ求三清二絕弊源一。

【弊袴】23 ヘイコ　やぶれたはかま。〔韓非子、內儲說上〕韓昭侯使三人藏二弊袴一、侍者曰、君亦不仁矣、弊袴不三以賜二左右一而藏ㇾ之、昭侯曰、吾聞、明主之愛二一嚬一笑一、嚬有二爲嚬一、笑有二爲笑一、今夫袴豈特嚬笑哉、吾必待ㇾ有二功者一。〔曹植、賞罰令〕諺曰、穀二千駑馬一、不ㇾ如ㇾ養二一驥一、又曰、穀二駑馬一、養二虎犬一、無ㇾ益也、乃知、韓昭侯之藏二弊袴一、良有ㇾ以也。

【弊國】24 ヘイコク　自國の謙稱。敝國(**5－13245‥40**)に同じ。

【弊困】25 ヘイコン　つかれ苦しむ。困弊。〔蕭穎士、與二從弟評事一書〕志力弊困、未ㇾ堪ㇾ詣ㇾ府。

【弊摋】26 ヘイサツ　まじる。雜揉。〔淮南子、俶眞訓〕不二與ㇾ物相弊摋一。〔注〕弊摋、猶二雜揉一也。

【弊帚】27 ヘイサウ　やぶれた箒。弊帚千金(29)を見よ。

〖弊帚詩話〗28 ヘイサウシワ　書名。二卷。附錄一卷。西島長孫撰。一名、孜々齋詩話。此の書は石川丈山・木下順庵・貝原益軒・伊藤仁齋・東涯以下諸家の詩を評したもの。〔日本詩話叢書、四〕。

〖弊帚千金〗29 ヘイサウセンキン　やぶれた箒を千金の價ありとする。身の程を知らない過失の喩。又、自分の有するものを善しとする喩。敝帚。〔魏文帝、典論論文〕里語曰、家有二弊帚一、享二之千金一、斯不二自見一之患也。〔注〕翰曰、帚、謂ㇾ除ㇾ地之帚一也、言、家有二弊破之帚一、自以爲二寶重一者、乃通二比於千金一、此則不二自見一之甚患也。

【弊策】30 ヘイサク　鞭策をはげしく用ひる。〔王褒、聖主得二賢臣一頌〕庸人之御二駑馬一、亦傷ㇾ吻弊ㇾ策、而不ㇾ進二於行一。〔注〕向曰、弊、勞、策、鞭也、言、人駕二劣馬一、則傷二馬口一、勞二鞭策一、而不二進行一。

【弊屣】31 ヘイシ　やぶれた履。敝屣。〔蘇洵、御將〕捐二數千里之地一以畀ㇾ之、如ㇾ棄二弊屣一。

【弊事】32 ヘイジ　惡い事柄。〔顏氏家訓、名實〕治二點子弟文章一以爲二聲價一、大弊事也。〔韓愈、左遷至二藍關一示二姪孫湘一詩〕欲下爲二聖明一除中弊事上、肯將二衰朽一惜二殘年一。

〖弊事悉革〗33 ヘイジコトゴトクアラタマル　これまでの弊政を全く一新すること。〔賴山陽、高山彥九郎傳〕其後弊事悉革。

【弊習】34 ヘイシフ　惡いならはし。よからぬ風習。弊風(62)に同じ。

【弊車】35 ヘイシヤ　やぶれた車。〔周禮、春官、巾車〕歲時更續、共二其弊車一。〔晏子、雜、下〕晏子朝、乘二弊車一、駕二駑馬一。

〖弊車羸馬〗36 ヘイシヤルイバ　破れた車と瘦せ疲れた馬。〔吳志、劉繇傳、注〕八居二九列一、四登二三事一、家不ㇾ藏ㇾ賄、無二重寶器一、弊車羸馬、號爲二寠陋一。

【弊社】37 ヘイシヤ　己の屬する會社の謙稱。

【弊舍】38 ヘイシヤ　己の家の謙稱。敝屋(**5－13245‥12**)に同じ。

【弊牀】39（ヘイシヤウ） ふるびたとこ。破れ穢れた床。〔宋史、舒璘傳〕弊牀疏席、總是佳趣、櫛㆓沐風雨㆒、反爲㆓美境㆒。

【弊處】40（ヘイシヨ） 弊害の存する點。

【弊絮】41（ヘイジヨ） ふるわた。著㆓弊絮㆒行㆓荊棘㆒を見よ。

【著㆓弊絮㆒行㆓荊棘㆒】42（ヘイジヨヲツケテケイキヨクヲユク） ふる綿を著ていばらの中を行く。到る處に障碍のある喩。〔世說新語、排調〕法師今日如㆘着㆓弊絮㆒在㆗荊棘中㆖觸㆑地挂閡。

【弊世】43（ヘイセイ） よくない世の中。〔新書、立後〕行㆔弊世德與㆓其功烈風俗㆒也。

【弊制】44（ヘイセイ） 弊害のある制度。わるい制度。〔唐書、元結傳〕結上言、天子能行㆓已言之令㆒、必㆓將來之法㆒、雜徭弊制、拘忌煩令、一切蠲蕩。

【弊政】45（ヘイセイ） 惡いまつりごと。秕政。惡政。〔漢書、公孫弘傳〕行㆓弊政㆒、用㆓倦令㆒。

【弊席】46（ヘイセキ） ❶やぶれたむしろ。〔史記、陳丞相世家〕以㆓弊席㆒爲㆑門。❷敷物をやぶりそこなふ。久しく居ること。敝席。〔戰國、楚策〕嬖女不㆑敝㆑席、寵臣不㆑避㆑軒。〔續注〕不㆑敝㆑席、言㆓不㆑久之意㆒、不㆑避是敝字無㆑疑、眞誥曰、女寵不㆑弊㆑席、男愛不㆑盡㆑輪、或出㆓於此㆒、軒輪相近。

【弊俗】47（ヘイゾク） 惡いならはし。敝俗(**5**－**13245··64**)に同じ。

【弊村】48（ヘイソン） 己の村の謙稱。

【弊宅】49（ヘイタク） 破れた家。あばらや。己の家の謙稱。〔王維、戲題㆓示蕭氏外甥㆒詩〕老夫何足㆑似、弊宅倘因㆑之。

【弊端】50（ヘイタン） 弊害となる端緒。〔福惠全書、編審部、嚴飭里胥〕種種弊端、牢不㆑可㆑破。

【弊店】51（ヘイテン） 己の店の謙稱。

【弊田】52（ヘイデン） やせつかれた田地。〔周禮、地官、山虞〕山田之野及弊田。

【弊竇】53（ヘイトウ） 弊害の存する點。竇は穴。〔福惠全書、蒞任部、馭衙役〕嚴爲㆓法制㆒、使㆑無㆓弊竇之可㆒㆑乘。

【弊方】54（ヘイハウ） ❶己の方の謙稱。當方。❷己の妻の謙稱。

【弊邦】55（ヘイハウ） 自國の謙稱。弊國(24)に同じ。

【弊袍】56（ヘイハウ） やぶれたどてら。敝緼袍(**5**－**13245··10**)に同じ。

【弊薄】57（ヘイハク） そまつなこと。〔蜀志、姜維傳〕宅舍弊薄、資材無㆑餘。

【弊藩】58（ヘイハン） 己の藩の謙稱。

【弊病】59 pi^4 ping^4 惡弊。弊害。

【弊仆】60（ヘイフ） たふれ死ぬ。〔文欽、降㆑吳敎〕在㆓三之義㆒、期㆓於弊仆㆒。

【弊布】61（ヘイフ） やぶれたぬの。〔說苑、敬愼〕見㆓道側巾弊布擁蒙而衣㆑衰。

【弊風】62（ヘイフウ） わるいならはし。善くない風俗。弊俗。〔淸國行政法汎論、新設官廳〕此實淸國一大弊風。

【弊弊】63（ヘイヘイ） 骨折つて經營する。勉め勵んで心身をつからせるさま。一說に、こせこせするさま。〔莊子、逍遙遊〕孰弊弊焉以㆓天下㆒爲㆑事。〔釋文〕簡文云、弊弊、經營貌、司馬本作㆓蔽蔽㆒。

【弊補】64（ヘイホ） やぶれをつくろふ。〔漢書、周仁傳〕仁爲㆑人陰重不㆑泄、常衣㆓弊補衣㆒、溺㆑袴故爲㆑不㆓絜淸㆒。

【弊鋪】65（ヘイホ） 己の店の謙稱。弊店(51)に同じ。

【弊民】66（ヘイミン） つかれた人民。疲弊してゐるたみ。〔漢書、鄒陽傳〕兵不㆓留行㆒、收㆓弊民之倦㆒。

【弊落】67（ヘイラク） つかれおとろへる。〔鹽鐵論、地廣〕今中國弊落不㆑憂、務在㆓邊境㆒。

【弊履】68（ヘイリ） やぶれた草履。ふる草履。敝屣。〔何遜、賦詠聯句詩〕弊履常決㆑踵、眉高起㆓半額㆒。

【弊廬】69（ヘイロ） 己の家の謙稱。敝廬。〔羊祜、讓㆓開府㆒表〕願㆔復守㆓先人弊廬㆒、豈可㆑得哉。〔孟浩然、歲暮歸㆓南山㆒詩〕北闕休㆑上㆑書、南山歸㆓弊廬㆒。

【弊陋】70（ヘイロウ） やぶれてみにくい。〔北史、烈女、姚氏婦楊氏傳〕以㆓姚氏婦衣裳弊陋㆒、特免㆓其辠㆒。

【承㆑弊】71（ヘイヲウク） 國家疲弊の餘を引き受ける。承㆑敝。〔魏志、文帝紀、注〕六國力戰、強秦承㆑弊。

【弊則新】72（ヤブルレバスナハチアラタナリ） 古くなつて破れると新しくなる。謙讓なれば其の德が自ら見はれる喩。〔老子、二十二〕窪則盈、弊則新、少則得、多則惑。

【弊絕風淸】73（ヘイゼツフウセイ） 惡事が無くなつて風習がよくなる。政治がよく行き屆く喩。〔周敦頤、拙賦〕天下拙刑政徹、上安下順、風淸弊絕。

【⿱言廾】9645 ゲン 言(**10**－**35205**)の古字。〔字彙補〕⿱言廾、古文言字。

十三畫

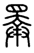
【⿱巫廾】9646 フ 巫(**4**－**8728**)の古字。〔說文〕巫、⿱巫廾、古文巫。

參考 集韻では⿱巫夊(**2**－**3218**)に作る。

【⿱敬廾】9647 ケイ 擎(**5**－**12808**)に同じ。〔集韻〕擎、或从㆑廾。

【⿱⿴𦥑同廾】9648 キヨウ 興(**9**－**30226**)の本字。〔正字通〕興、本作㆑⿱⿴𦥑同廾。

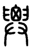
【⿱睪廾】9649 ㊀エキ ヤク 〔集韻〕夷益切 陌。 ㊁タク チヤク 〔集韻〕直格切 陌。



小篆

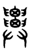
㊀**ひきのばす。**〔說文〕⿱睪廾、引繒也、从㆑廾睪聲。〔段注〕各本引給也、不㆑可㆑通、惟廣韻作㆓引繒皃㆒、似㆑是、云云、蓋作僞之事。㊁**えらぶ。**擇(**5**－**12796**)に同じ。〔集韻〕擇、說文、柬選也、或从㆑廾。

【䙲】9650 セン 〔字彙〕親然切 先。



小篆

或體



古文

❶**うつる。高くのぼる。**〔說文〕䙲、升㆑高也、从㆑舁囟聲。❷或は⿱⿴𦥑囟㔾(**2**－**2889**)に作り、古は⿱⿴𦥑囟大(**9**－**30273**)に作る。〔說文〕䙲、⿱⿴𦥑囟㔾、䙲、或从㆑卩、⿱⿴𦥑囟大、古文䙲。

參考 字形臼部の⿱⿴𦥑囟大(**9**－**30230**)と同字であるが、康熙字典に従つて兩存する。

十四畫

【⿱酋廾】9651 ジユン 遵(**11**－**39118**)の古字。〔集韻〕遵、古作㆑⿱酋廾。

【⿱頁廾】9652 ソン 巽(**4**－**8765**)に同じ。〔字彙補〕⿱頁廾、同㆑巽。

十九畫

【⿱䜌廾】9653 ハン ⿱䜌手(**5**－**13533**)に同じ。〔集韻〕⿱䜌手、或从㆑廾。

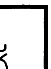
二十四畫

【⿸厂⿱秝廾】9654 レキ 曆(**5**－**14171**)の古字。〔字彙補〕⿸厂⿱秝廾、古文曆字。〔說文先訓〕古文⿸厂⿱秝廾、紀歲之首也、後人以㆓此文㆒分作㆓三字㆒、一作㆑歷、爲㆓經歷之歷㆒、一作㆑曆、爲㆓曆數之曆㆒、一作㆑厤、爲㆓的厤之厤㆒、禾苗之疏也。

【⿱⿰魚敬廾】9655 ケイ ⿱敬廾(**4**－**9647**)に同じ。〔龍龕手鑑〕⿱⿰魚敬廾、同㆑⿱敬廾。

弋部

【弋】9656 ヨク イキ 〔集韻〕逸織切 職。 一ˋ i^4

 小篆 ㊀くひ。杙(6－14473)に同じ。〔說文〕弋、橜也、象㆓折木衺銳者形㆒、厂、象㆓物挂㆒之也。〔段注〕俗用㆑杙爲㆑弋、顧以㆑弋爲㆓隿射字㆒。〔詩、王風、君子于役〕雞棲㆓于桀㆒。〔傳〕雞棲㆓于弋㆒、曰㆑桀。〔釋文〕弋、本亦作㆑杙。㊁いぐるみ。矢に絲を著けて飛鳥を射る。隿(11－41950)に通ず。〔說文通訓定聲〕弋、叚借爲㆑隿。〔玉篇〕弋、繳射也。〔詩、鄭風、女曰雞鳴〕弋㆓鳧與㆒㆑鴈。〔箋〕弋、繳射也。〔論語、述而〕弋不㆑射㆑宿。〔集解〕孔安國曰、弋、繳射也。〔淮南子、時則訓〕田獵罼弋。〔注〕弋、繳㆓射飛㆒也。〔淮南子、脩務訓〕銜㆑蘆而翔、以備㆓矰弋㆒。〔注〕弋、繳。㊂網。鳥網。〔李紳、翡翠塢賦〕虞人掠㆑水輕浮㆑弋、翡翠驚飛飛不㆑息。㊃とる。〔書、多士〕非㆔我小國敢弋㆓殷命㆒。〔傳〕弋、取也。〔管子、侈靡〕弋㆓其能者㆒。〔注〕弋、取也。㊄狩獵する。〔呂覽、處方〕韓昭釐侯出弋。〔注〕弋、獵也。〔晉書、謝安傳〕出則漁㆓弋山水㆒、入則言詠屬㆑文。㊅かはる。代(1－386)に通ず。〔說文通訓定聲〕弋、叚借爲㆑代、書多士、敢弋㆓殷命㆒、按、更也、云云、傳、取也、失㆑之。㊆黑い色。黓(12－48052)に通ず。〔說文通訓定聲〕弋、叚借爲㆑黓。〔漢書、文帝紀贊〕身衣㆓弋綈㆒。〔注〕如淳曰、弋、皁也、師古曰、弋、黑色也。㊇婦官。妷(3－6052)に通ず。〔韻會〕妷、說文、婦官、云云、通作㆑弋、又漢有㆓鉤弋夫人㆒。㊈翼(9－28818)に通ず。〔書、多士、釋文〕弋、馬本作㆑翼。〔書、多士、疏〕弋、鄭玄・王肅本作㆑翼。㊉鳥の名。〔大戴禮、夏小正〕十有二月、鳴弋。〔傳〕弋也者、禽也。⑪姓。似(1－485)に通ず。〔說文通訓定聲〕弋、叚借爲㆑似。〔詩、鄘風、桑中〕美孟弋矣。〔傳〕弋、姓也。〔公羊、襄、四〕夫人弋氏。

解字 象形。木を折つて横にとがつたところがあり、物をそこにかけた形にかたどる。故に本義は物をかけて表識としたくひ。後世は杙の字を弋の意に用ひ、弋を隿の意に用ふ。〔說文通訓定聲〕弋、橜也、象㆓折木衺銳者形㆒、从㆑丿象㆓物挂㆒之也、凡用㆑橜有㆑所㆓表識㆒者、如㆓酒旗之類㆒。

【弋雲】1ヨクウン　清、丁景鴻(1－2··246)の字。

【弋腔】2ヨクカウ　雜曲の曲調の名。弋陽腔(16)を見よ。

【弋獲】3ヨククワク　いぐるみでとる。射得。〔詩、大雅、桑柔〕如㆓彼飛蟲㆒、時亦弋獲。〔箋〕猶㆔鳥飛行自恣、東西南北、時亦爲㆓弋射者所㆒㆑得。〔陳奐傳疏〕弋獲、弋取擭獲、喩㆓貪忍㆒。

【弋溪】4ヨクケイ　川の名。源は江西省上饒縣の靈山。弋陽江に注ぐ。弋陽(15)の㊀を見よ。〔太平寰宇記〕水口有㆓大石㆒、面如㆔鐫㆓成弋字㆒、故名。

【弋謙】5ヨクケン　明、代州の人。永樂の進士。官は副都御史。景泰の初、卒す。〔明史、一百六十四〕・〔萬斯同明史、二百六〕・〔明史稿、一百五十〕。

【弋者】6ヨクシヤ　いぐるみで鳥を射る人。〔張九齡、感遇詩〕今我遊㆓冥冥㆒、弋者何所㆑慕。

【弋射】7ヨクシヤ　いぐるみを放つて飛鳥をいる。〔呂覽、情欲〕周遊田獵、馳騁弋射。〔漢書、匡衡傳〕未㆑有㆓遊虞弋射之宴㆒。〔宋史、眞德秀傳〕盤游弋射之娛、禽獸狗馬之玩。

【弋繳】8ヨクシヤク　いぐるみ。繳射。弋矰。〔敬括、蜘蛛賦〕隼終嬰㆓于弋繳㆒。

【弋矰】10ヨクソウ　矢に絲をつけ、飛鳥を射る具。いぐるみ。弋繳。〔雷淵、詩〕韶箾向來儀形鳳、弋矰何苦慕㆓冥鴻㆒。

【弋綈】11ヨクテイ　黑色のつむぎ。一說に、厚いつむぎ。〔漢書、文帝紀贊〕身衣㆓弋綈㆒、所㆑幸愼夫人、衣不㆑曳㆑地、帷帳無㆓文繡㆒、以示㆓敦朴㆒。〔注〕如淳曰、弋、皂也、師古曰、弋、黑色也、綈、厚繒。〔王先謙補注〕沈欽韓曰、後書王符傳注、引㆓前書音義㆒云、弋、厚也、說文、綈、厚繒也、則訓㆓弋厚㆒者、是也、何必定以㆓黑色㆒爲㆑衣乎。〔漢書、東方朔傳〕孝文皇帝之時、身衣㆓弋綈㆒。〔注〕師古曰、弋、黑色也、綈、厚繒。〔文中子、事君〕衣㆓弋綈㆒、傷㆓乎禮㆒。

【弋釣】12ヨクテウ　いぐるみで鳥をとらへ、つり針をたれて魚をとらへる。〔嵇康、與㆓山巨源㆒絕㆑交書〕抱㆑琴行吟、弋㆓釣草野㆒。〔注〕向曰、弋、繳射也。〔晉書、翟莊傳〕惟以㆓弋釣㆒爲㆑事。

【弋磻】13ヨクハ　石で造つた矢の根のついたいぐるみ。〔左思、吳都賦〕弋磻放稽㆓鷦鵬㆒、虞機發留㆓鵁鶄㆒。〔注〕翰曰、弋、取㆑鳥之名、磻、箭名。

【弋門】14ヨクモン　複姓。〔萬姓統譜〕弋門、姓苑云、漢陽人。

【弋陽】15ヨクヤウ　㊀川の名。江西省の信江の弋陽縣を經る部分をいふ。信江(1－707··22)を見よ。〔讀史方輿紀要、江西、廣信府、弋陽縣〕弋陽江、志云、弋溪、源出㆓靈山㆒、西流合㆓葛溪㆒、曰㆑弋者、以㆓水形横斜似㆒㆑弋也、又西南會㆓於上饒江㆒、俗名㆓弋陽江㆒。㊁山名。河南省光山縣の西北。浮光・浮弋・扶弋・弋山・光山の諸名がある。〔讀史方輿紀要、河南、汝寧府、光州、光山縣〕浮光山、一名、浮弋山、卽弋陽山也、山巖聳秀、俯映㆓長淮㆒、每有㆓光耀㆒、因名、亦曰㆓濮公山㆒、相傳、舊有㆓濮公者㆒、隱㆓于此㆒。㊂郡名。三國魏、置く。漢の弋陽國。治は弋陽縣。河南省潢川縣の西。〔讀史方輿紀要、河南、汝寧府〕光州、禹貢揚州境、春秋時黃國、亦爲㆓弦・蔣二國地㆒、戰國屬㆑楚、秦屬㆓九江郡㆒、漢爲㆓汝南・江夏二郡㆒、魏分置㆓弋陽郡㆒、晉爲㆓弋陽・汝陰二郡地㆒、宋齊爲㆓光城・弋陽・新蔡等郡地㆒、梁置㆓光州及南郢州㆒、東魏因㆑之、後周爲㆓淮南郡㆒、隋復爲㆓光州㆒、大業初、改㆓弋陽郡㆒、唐復爲㆓光州㆒、天寶初、改㆓弋陽郡㆒、乾元初復㆑故、宋仍曰㆓光州㆒。㊃縣名。㋑漢、置く。故城は河南省潢川縣の西。〔漢書、地理志上〕汝南郡、縣三十七、弋陽。〔讀史方輿紀要、河南、汝寧府、光州〕弋陽城、在㆓州東北㆒、漢縣屬㆓汝南郡㆒、昭帝封㆓任宮㆒爲㆓侯邑㆒、後漢仍屬㆓汝南郡㆒、三國魏屬㆓弋陽郡㆒、晉及劉宋因㆑之、後魏置㆓弋陽郡㆒、於㆑此又分㆓南北二弋陽縣㆒、高齊省㆓北弋陽㆒、入㆓南弋陽㆒、又改爲㆓定遠縣㆒、而弋陽之名隱。㋺漢初、置く。景帝の時、改めて陽陵といふ。故城は陝西省咸陽縣の東。㋩隋、置く。江西省貴溪縣の東北。〔讀史方輿紀要、江西、廣信府〕弋陽縣、漢豫章郡餘汗縣地、孫吳析置㆓葛陽縣㆒、屬㆓鄱陽郡㆒、晉・宋以後因㆑之、隋平㆑陳、縣屬㆓饒州㆒、開皇十二年、改曰㆓弋陽縣㆒、以㆑縣治㆓弋水之陽㆒也、唐仍屬㆓饒州㆒、乾元初、改屬㆓信州㆒、宋元因㆑之。〔清史稿、地理志〕江西、廣信府、縣七、弋陽。

【弋陽腔】16ヨクヤウカウ　南戲の一種。江西省の弋陽に起り、江西を中心とし、湖南・廣東・福建から、南北兩京にまで蔓延したもので、崑曲以前に行はれ、明の嘉靖中に絕えたが、後、江西の宜興の大司馬譚綸が、浙江地方に流行した海鹽腔に本づいて再興した。鼓・鑼等を用ひて絲竹を用ひず、極めて勇壯喧囂である。〔祝允明、猥談〕南戲出㆓於宣和之後㆒、南渡之際、謂㆓之溫州雜劇㆒、今遂徧滿㆓四方㆒、輾轉改益、蓋已略無㆓音律腔調㆒、如㆓餘姚腔・海鹽腔・弋陽腔・崑山腔之類㆒、趁逐悠揚、杜撰百端、眞胡說耳。〔顧曲麈談〕王實甫北詞、止便㆓於絃索㆒、而不㆑利㆓於笙笛㆒、止便㆓於弋陽俗腔㆒、而不㆑利㆓於崑調雅奏㆒。〔梨園佳話〕弋陽梆子秧腔、俗稱㆓揚州梆子㆒者是也、崑曲盛時、此調僅演㆓雜劇㆒、如㆓今劇打櫻桃之類㆒、是其正宗。〔金臺殘淚記〕亂彈卽弋陽腔、南方謂㆓之下江調㆒。

【弋陽曲】17ヨクヤウキヨク　雜曲の曲調の名。弋陽腔に同じ。

【弋陽陂】18ヨクヤウヒ　池の名。河南省潢川縣の東。魏の賈逵が豫州刺史となつて造る。今、堙沒す。

【弋陽山樵】19ヨクヤウサンセウ　元、李瓚(6－14459··370)の號。

【弋羅】20ヨクラ　いぐるみとあみ。共に鳥を獲るもの。〔白居易、贈㆓諸少年㆒詩〕老慙㆔退馬霑㆓芻秣㆒、高喜㆔歸鴻脫㆓弋羅㆒。

【弋林】21ヨクリン　人々が鳥を射る林。〔鮑照、蕪城賦〕弋林釣渚之館。〔注〕濟曰、弋林、射㆑鳥之處。

【弋獵】22ヨクレフ　かりをする。かる。又、かり。弋は鳥、獵は獸にいふ。〔國語、越語下〕王其且馳騁弋獵、無㆑至㆓禽荒㆒。〔管子、任法〕馳騁弋獵。〔史記、李斯傳〕入㆓上林㆒齊戒、日游弋獵。〔漢書、賈山傳〕馳騁弋獵之娛。〔後漢書、循吏傳序〕騁望弋獵。〔魏志、曹仁傳〕少好㆓弓馬弋獵㆒。

【弋人何簒】23ヨクジンナンゾウバハン　鳥も高所に居れば弋者

も射落すことができない。物外に遊んで世事に關係しなければ身を完うし得る喩。〔法言、問明〕鴻飛二冥冥一、弋人何簒。〔後漢書、逸民傳序〕揚雄曰、鴻飛二冥冥一、弋者何簒焉、言二其違レ患之遠一也。〔注〕宋衷曰、簒、取也、鴻高飛二冥冥一薄レ天、雖レ有二弋人一、何施レ巧而取也、喩二賢者隱處不レ離二暴亂之害一也。

【弋不レ射レ宿】24（イグルミシテネトリヲイズ）　鳥を射落すのに、木に止つてゐる鳥の不意をねらつて取ることはしない。仁者の心をいふ。〔論語、述而〕子釣而不レ綱、弋不レ射レ宿。〔集解〕孔安國曰、弋、繳射也、宿、宿鳥。

【弋下二高雲之鳥一】25（ヨクスレバカウウンノトリヲクダス）　いぐるみで鳥を射れば高く雲間を飛ぶ鳥を射落す。鳥を射ることの上手なこと。〔應瑒、與二從弟君苗君冑一書〕弋下二高雲之鳥一、餌出二深淵之魚一。

【七】9657　ヨク　弋(**4－9656**)に同じ。〔字彙補〕七、同レ弋。

一　畫

【弌】9658　イチ　一(**1－1**)の古字。〔說文〕一、弌、古文一。

【𢎀】9659　ジュウ　戎(**5－11539**)に同じ。〔字彙補〕𢎀、與レ戎同。

【𢍻】9660　リツ　義未詳。〔海篇〕𢍻、音栗。

二　畫

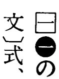
【弍】9661　ニ　二(**1－247**)の古字。〔說文〕二、弍、古文二。

三　畫

【弎】9662　サン　三(**1－12**)の古字。〔說文〕三、弎、古文三。

【式】9663

㊀ショク　シキ　〔集韻〕設職切　ㄕˋ shih⁴　職
㊁トク　〔集韻〕惕德切　職
㊂チョク　チキ　〔集韻〕蓄力切　職
㊃シ　〔集韻〕式吏切　寘


小篆

㊀❶**のり**。㋑てほん。模範。〔說文〕式、法也、从レ工弋聲。〔廣雅、釋詁一〕式、灋也。〔詩、大雅、下武〕下土之式。〔傳〕式、法也。〔老子、二十八〕爲二天下式一。〔注〕式、模則也。〔太玄經、常〕履二靈式一。〔注〕式、法也。〔謝莊、宋孝武宣貴妃誄〕皇胤璿式。〔注〕善曰、式、法。㋺かため。規格。〔增韻〕式、樣也。〔禮、仲尼燕居〕車得二其式一。〔注〕凡言レ得者、得二法於禮一也、云云、式、謂レ載也、所レ載有二尊卑一。〔北史、周高祖紀〕議二權衡度量一、頒二于天下一、其不レ依二新式一者、悉追二停之一。〔陳書、孔奐傳〕儀注體式。㋩おきて。法律。〔增韻〕式、制也。〔北史、周太祖紀〕帝以二帝前後所レ上二十四條及十二條一、新制定爲二中興永式一。〔舊唐書、刑法志〕格式律令。㋥ほど。節度。〔周禮、天官、大宰〕以二九式一均二節財用一。〔注〕式、謂レ用レ財之節度一。❷**のつとる**。〔詩、大雅、烝民〕古訓是式。〔箋〕式、法也。〔孟子、公孫丑下〕皆有レ所二矜式一。〔注〕式、法也。❸**のりとなる**。〔詩、大雅、江漢〕式二辟四方一。〔箋〕式、法也。❹**あらはす**。表彰する。〔漢書、張良傳〕式二箕子門一。〔注〕師古曰、式、亦表也。❺**うらなひの具**。栻(**6－14748**)に同じ。楓子棗の心木を以て作り、吉凶を判斷するもの。〔史記、日者傳〕旋レ式正レ棊。〔注〕索隱曰、按、式、卽栻也、栻之形、上圓象レ天、下方法レ地、用レ之則轉二天綱一、別二地之辰一。❻**車の前方の手すり**。❼を見よ。軾(**10－38285**)に通ず。〔說文通訓定聲〕式、叚借爲レ軾。〔周禮、考工記、輿人〕參二分其隧一、一在レ前、二在レ後、以揉二其式一、以二其廣之半一、爲二之式崇一。〔注〕兵車之式、高三尺三寸。〔疏〕謂三人所二馮依而式敬一。❼**敬禮をする**。車軾に手をのせ、身を俯せて敬禮をする。〔書、武成〕式二商容閭一。〔疏〕式、車上之橫木、男子立乘、有レ所レ敬、則俯而憑レ式、遂以レ式爲二敬名一。〔漢書、張良傳〕式二箕子門一。〔注〕師古曰、一說、至二其門一而撫二車式一、所二以敬一レ之。〔漢書、薛宣傳〕禮、下二公門一、式二路馬一。〔注〕師古曰、過二公門一則下レ車、見二路馬一則撫レ式、蓋崇敬也、式、車前橫木。❽**頭を垂れて敬禮をする**。〔儀禮、士喪禮〕君式レ之。〔注〕式、謂三小俛以禮二主人一也。〔禮、曾子問〕尸必式。〔注〕式、小俛禮レ之。❾**用ひる**。試(**10－35415**)に通ず。〔說文通訓定聲〕式、叚借爲レ試。〔爾雅、釋言〕式、用也。〔書、仲虺之誥〕式レ商受レ命。〔傳〕式、用也。〔左氏、成、二〕不レ式二王命一。〔注〕式、用也。❿**ぬぐふ**。拭(**5－11589**)に通ず。〔荀子、禮論〕不レ浴則濡レ巾、三式而止。〔注〕式、與レ拭同。⓫**もつて**。以。接續の助辭。〔經傳釋詞、九〕式、語詞之用也、詩斯干曰、式相好矣、是也、常語也。〔詩、小雅、南有嘉魚〕嘉賓式燕以樂。〔箋〕式、用也。〔詩、大雅、瞻卬〕式救二爾後一。〔箋〕式、用也。⓬**それ。ああ**。發聲の助辭。〔經傳釋詞、九〕式、發聲也、爾雅曰、式微式微者、微乎微者也、詩式微箋、用二爾雅一云、式、發聲也。⓭**姓**。〔集韻〕式、亦姓。㊁**たがふ。わるい**。慝(**4－11100**)に同じ。〔集韻〕慝、惡也、或作レ式。〔詩、小雅、賓之初筵〕式勿二從謂一。〔箋〕式、讀曰レ慝。㊂**占繇の文**。〔集韻〕式、占文也、古者大出レ師、則大師主レ抱レ式。〔周禮、春官、太史、大師抱二天時一與二大師一同レ車、注〕大出レ師、則太師主レ抱レ式、以知二天時一、主二吉凶一。㊃**もちひる**。試(**10－35415**)に同じ。〔集韻〕試、說文、用也、或省。邦**しき**。㋑古の制度の書。格式の稱。特に朝廷の禮儀を定めたもの。㋺計算の順序を文字及び符號で書いたもの。㋩式神(3－6)の略。陰陽家の使ふ鬼神。㋥ばかり。ほど。㋭儀式。一定の仕方又は設備。

名乘　ツネ。ノリ。モチ。

【式藹】1（シキアイ）　淸、陳英猷(**11－41698**··668)の字。

【式遏】2（シキアツ）　ただし止める。式は助辭。〔魏志、高貴鄕公紀〕不レ能下匡二救禍亂一、式中遏姦逆上。

【式夷】3（シキイ）　戰國、衞の人。又、齊の人といふ。〔漢書、古今人表、中上〕衞視夷。〔注〕師古曰、卽式夷也、見二呂氏春秋一。

【式宴】4（シキエン）　安樂する。式は助辭。〔張衡、東京賦〕上下通レ情、式宴且盤。〔注〕綜曰、式、用也。

【式仰】5（シキカウ）　のつとり仰ぐ。〔獨志、先主劉備傳〕海內惶惶、靡レ所二式仰一。

【式高】6（シキカウ）　高きにのつとる。〔楚辭、嚴忌、哀時命〕願尊レ節而式レ高兮、志猶卑二夫禹湯一。

【式監】7（シキカン）　てほん。〔逸周書、嘗麥解〕式監不レ遠、以有二此人一。

【式九】8（シキキウ）　淸、湯光啓(**7－17874**··162)の字。

【式虞】9（シキグ）　淸、宋元徵(**3－7078**··272)の字。

【式廓】10（シキクワク）　❶高位にあつて大政を行ふ。又、

惡を爲すことの大なるをいふ。〔詩、大雅、皇矣〕上帝耆レ之、憎二其式一レ廓。〔傳〕廓、大也、憎下其用二大位一、行中大政上。〔箋〕憎下其所二用爲レ惡者浸大上也。㊁規模。〔詩、大雅、皇矣〕憎二其式廓一。〔集傳〕式廓、猶レ言二規模一也。

【式煥】11 シキクヮン あきらかなこと。式は助辭。〔宋史、樂志十四〕華榱璧璫、有二馨椒殿一、備物來陳、多儀式煥。

【式家】12 シキケ 藤原氏四家の一。不比等の子宇合を祖とす。參議式部卿を兼ねたからいふ。

【式外】13 シキゲ 延喜式の神名帳に掲載せられてゐない神社。式內(50)の對。

【式刑】14 シキケイ 手本として則り行ふ。〔詩、周頌、我將〕儀二式刑文王之典一。

【式敬】15 シキケイ うやまふ。尊びうやまふ。〔釋名、釋車〕軾、式也、所二伏以式敬一者也。

【式教】16 シキケウ 教へさとす。式は助辭。〔書、多方〕天惟式教レ我用休。

【式乾】17 シキケン 晉代の洛陽の宮殿。〔太平御覽、居處部、殿〕洛陽宮殿簿曰、明光殿・徽音殿・式乾殿。

【式賢】18 シキケン 宋、吳龍翰(**2**－**3365**··897)の字。

【式權】19 シキケン もちひて平かにする。〔國語、齊語〕式權以相應。〔注〕式、用也。

【式言】20 シキゲン 式場で述べる挨拶。

【式侯】21 シキコウ 清、李慈銘(**6**－**14459**··1361)の字。

【式穀】22 シキコク 善人(又は善道)を用ひること。式は用、穀は善。〔詩、小雅、小明〕神之聽レ之、式レ穀以レ女。〔箋〕式、用、穀、善也、其用二善人一則必用レ女。〔詩、大雅、桑柔〕維此良人、作爲式レ穀。〔箋〕賢者在レ朝、則用二其善道一。

【式齋】23 シキサイ 明、陸容(**11**－**41708**··239)の號。

【式子】24 シキシ shih^4 tzŭ 見本。

【式之】25 シキシ 字號。㊀宋、戴復古(**5**－**11685**··207)の字。㊁明、毛憲(**6**－**16772**··64)の字。

【式事】26 シキジ 禮儀の作法。しきたりの禮儀。儀式の行事。

【式辭】27 シキジ 式場で陳べる挨拶の言葉。式言。

【式周】28 シキシウ 清、潘德馨(**7**－**18236**··213)の字。

【式式】29 シキシキ うやまひつつしむさま。恭敬のさま。〔晉書、樂志上〕百辟朝二三朝一、式式明二儀形一。

【式日】30 シキジツ ㊀儀式のある日。又、定まつた執務の日。〔侍所沙汰篇〕式日事、毎月上旬・中旬・下旬、三ケ度也、日限者、依二于時一、或相替乎、至二急事一、雖レ非二式日一、被三執二行之一。㊁大祭日。祝日。

【式車】31 シヨクシヤ 車に式する。車上の橫木に手をかけて敬禮をする。〔漢書、周亞夫傳〕天子爲動、改レ容式レ車。〔注〕師古曰、古者立乘、凡言レ式レ車者、謂二俛レ身撫一レ式、以レ禮敬レ人、式、車前橫木也。

【式社】32 シキシヤ 延喜式の神名帳に記載せられた神社。其の掲載せられた神社を式內、掲載せられない神社を式外といふ。

【式儒】33 シキジユ 清、徐士林(**4**－**10110**··441)の字。

【式如】34 シキジヨ 字號。㊀清、嚴鉦(**2**－**4589**··56)の字。㊁清、林克鉦(**6**－**14551**··322)の字。

【式序】35 シキジヨ 次第をもつてする。もつて列ねる。又、もつて述べる。もつて其の功を敍べる。〔詩、周頌、時邁〕明昭有周、式序在レ位。〔箋〕用二次第一處レ位。〔後漢書、鄭玄傳〕克堪二王臣一、故宜二式序一。〔注〕式、用也、序、列也。〔後漢書、周擧傳〕予錄二乃勳一、用登二九列一、方欲三式二序百官一。〔王融、三月三日曲水詩序〕睟容有レ穆、賓儀式序。〔注〕銑曰、式、用也、言三賓客之儀用有二次序一也。〔資治通鑑、漢紀〕(靈帝、光和二年)陛下旣已式序。〔注〕式、用也、式序者、用敍二其功一也。

【式神】36 シキガミ シキジン 陰陽家で、呪詛につかはれ、怪しいわざをなすといふ神。シキノカミ。又はシキといふ。識神。〔大鏡、花山院天皇〕式神一人內裏へ參れ。

【式政】37 シキセイ 法律政治。〔管子、四稱〕式政旣輮、刑罰則烈。〔纂詁〕式、法也。

【式占】38 シキセン 六壬・太乙・雷公の三種の占卜の總稱。式盤を用ひて占ふからいふ。〔唐六典、大卜署〕凡式占、辨二三式之同異一、一曰雷公式、二曰大乙式、竝禁二私家畜一、三曰六壬式、士庶通用レ之。

【式瞻】39 シキセン のつとり仰ぎ見る。仰望する。瞻仰。〔任昉、出二郡傳舍一哭二范僕射一詩〕式瞻在二國楨一。

【式則】40 シキソク 人の從ひ守るべきさだめ。〔劉向、上二關尹子一序〕有二式則一、使二人冷冷輕輕一、不レ使二人狂一。

【式退】41 シキタイ 式體。色體。色代。㊀挨拶。會釋。㊁世辭。追從。

【式體】42 シキタイ 式退に同じ。

【式臺】43 シキダイ 玄關の前にある板じき。敷臺。

【式道】44 シキダウ 官名。式道候を見よ。

【式道候】45 シキダウコウ 官名。漢、置く。車駕が出還する時、式道候が麾を持つて宮門に至れば、門が開く。〔漢書、百官公卿表上〕式道左右中候・候丞、及左右京輔都尉・尉丞・兵卒、皆屬焉。〔注〕應劭曰、式道凡三候、車駕出還、式道候持レ麾至二宮門一、門乃開、師古曰、式、表也。

【式場】46 シキヂヤウ ㊀儀式を行ふ場所。㊁シキバ 姓氏。

【式條】47 シキデウ 制度の箇條書。式目。〔東鑑、二十八〕貞永元年九月十一日、五十箇條式條。

【式典】48 シキテン ㊀舊法にのつとる。〔任昉、王文憲集序〕望二側階一而容レ賢、候二景風一而式レ典。〔注〕良曰、式、法也。㊁儀式典禮。㊂儀式。

【式度】49 シキド 清、金輅(**11**－**40152**··1163)の字。

【式內】50 シキナイ 延喜式の神名帳に載つてゐる神社。式社(32)に同じ。其の他を式外といふ。

【式望】51 シキバウ のつとりのぞむ。仰ぎ慕ふ。〔蜀志、劉備傳〕率土式望、在二備一人一。

【式帽】52 シキバウ 儀式に用ひる規定の帽子。

【式法】53 シキハフ 式灋に同じ。

【式灋】54 シキハフ 舊來から定まつてゐる樣式。法式。〔周禮、天官、宰夫〕以二式灋一掌三祭祀之戒具、與二其薦羞一。〔疏〕言二式法一者、謂下祭祀大小皆有二舊法式一、依而戒敕使中共具上レ之。

【式盤】55 シキバン 羅針盤。〔輿地紀勝〕建昌紅屛山有二楓人一、生二樹下一、似二人形一、長三四尺、夜雷雨、驟長與レ樹齊、見レ人輒縮依レ舊、古人取以爲二式盤一、極神驗。

【式微】56 シキビ ㊀國勢が衰へる。式は發語の辭。〔詩、邶風、式微〕式微式微、胡不レ歸。〔集傳〕式、發語辭、微、猶レ衰也。〔謝靈運、擬二魏太子鄴中集一、王粲詩〕式微何由往。㊁詩經、邶風の篇名。邶の黎侯が狄人に逐はれて衞に寄寓してゐた時、其の臣が歸國を勸めた詩。〔詩、邶風、式微序〕式微、黎侯寓二于衞一、其臣勸以レ歸也。〔曹植、情詩〕遊者嘆二黍離一、處者歌二式微一。

【式部】57 シキブ ㊀式部省の略。㊁女官の呼名。

【式部卿】58 シキブキヤウ 式部省の長官。四品以上の親王が專ら之に任ぜられた。唐名は吏部尙書。〔職原抄〕式部省、卿一人、唐名、吏部尙書。

【式部官】59 シキブクヮン 宮內省の式部職に屬する高等官。宮中の儀式・接待等を掌る。

【式部職】60 シキブシキ 明治十七年十月三日、式部寮を廢して置いた宮內省の一部局。皇室の祭典・禮式・接待を掌り、及び雅樂・狩獵・飜譯の事を管理する。今、宮內廳の一部局。

【式部省】61 シキブシヤウ 古の八省の一。禮儀・貢擧・考課及六位以下の文官敍任を掌る。のりのつかさ。唐名は吏部。〔職原抄〕式部省、唐名、吏部。

【式部長】62 シキブチヤウ 式部職の長官。

【式部錄】63 シキブノサカン 式部省の主典。大小がある。唐名は吏部主事。〔職原抄〕式部省、錄、大小、唐名、吏部主事。

【式部少丞】64 シキブノセウジヨウ 式部省の判官。唐名は吏部侍郎。〔職原抄〕式部省、少丞二人、丞又云二侍郎一、吏部侍郎歟。

【式部少輔】65 シキブセフ シキブセウフ 式部省の次官。唐名は吏部郎中、或は吏部員外郎、又は大常少弼。〔職原抄〕式部省、少輔一人、唐名、吏部郎中、又吏部員外郎、或大常少弼。

【式部大丞】66 シキブノタイジヨウ 式部省の判官。唐名は吏部郎中。〔職原抄〕式部省、大丞二人、唐名、吏部郎中。

【式部大輔】67 シキブタイフ 式部省の次官。唐名は吏部大卿、又、吏部侍郎、或は考功郎中。〔職原抄〕式部省、大輔一人、唐名、吏部大卿、又吏部侍郎、或考功郎中。

【式服】68 シキフク 儀式の時に著用する衣服。禮服。

【式璧】69 シキヘキ たまを用ひる。人を招聘するに璧玉を用ひること。〔管子、輕重丁〕桓公曰、糶賤、寡人恐三五穀之歸二於諸侯一、寡人欲下爲二百姓萬民一藏上レ之、爲レ此有レ道乎、管子曰、今者夷吾過レ市、有下新成二囷京一者二家上、君請式レ璧而聘レ之、桓公曰諾、行レ令半歲、萬民聞レ之、舍二其作業一而

爲二囨京一、以藏二菽粟五穀一者過レ半。〔注〕式、用也、璧、石璧也。

【式目】70シキモク 規則等の箇條書。式條。

【式樣】71シキヤウ かた。形式。樣式。〔朱有燉、元宮詞〕新頒二式樣一出二宮門一、不レ許二倡家服用新一。〔錢氏、寄二夫衣一詩〕長短只依二元式樣一、不レ知二肥瘦近如何一。

【式閭】72シヨクリヨ 閭に式す。賢人の居住した里門を過ぎる時、車の橫木によつて禮する。軾閭。式は軾、車上で禮を行ふこと。閭は村里の門。〔書、武成〕釋二箕子囚一、封二比干墓一、式二商容閭一。〔蔡傳〕式、車前橫木、有レ所レ敬、則俯而憑レ之、商容、商之賢人、閭、族居里門也。〔史記、魏世家〕文侯受二子夏經藝一、客二段干木一、過二其閭一、未二嘗不一レ軾也。

【式禮】73シキレイ ❶禮法。式は法。〔詩、小雅、楚茨〕我孔熯矣、式禮莫レ愆。〔箋〕式、法。❷禮法にのつとり遵ふ。〔陶潛、孝經傳贊〕二子承レ親、式レ禮遵レ誥。

【馮レ式】74シヨクニヨル 車の軾によりかかつて禮する。馮レ軾(**10－38285**··2)に同じ。

【式古堂】75シキコダウ 室名。❶清、張雲翼(**4－9812**··800)の室名。❷清、卞永譽(**2－2778**··29)の室名。

【式古堂書畫彙考】76シキコダウシヨグワヰカウ 書名。六十卷。清、卞永譽撰。〔四庫提要、子、藝術類〕。

【式三番】77シキサンバ 三人で舞ふ三番叟。

【不レ中レ式】78シキニアタラズ 法式に中らない。〔鹽鐵論、錯幣〕廢二天下之諸錢一、專命二水衡二官一作レ吏、近侵レ利、或不レ中レ式、故有二薄厚輕重一。〔通俗編、品目、不レ中レ式〕五代史張筠傳、弟籛、市二馬于回鶻一、坐二馬不一レ中レ式、有司理二其價值一、籛因鬱鬱而卒。

【式古訓齋】79シキコクンサイ 清、閔萃祥(**11－41251**··54)の號。

【式叉摩尼】80シキシヤマニ 佛 佛弟子七衆の一。式叉摩那尼(83)の略。

【式符頌禱】81 shih^4 fu^2 sung^4 tao^3 眞に意の如く萬事順應する。

【式訓堂叢書】82シキクンダウソウシヨ 叢書の名。清、章壽康編。近儒の著述中、經史及び目錄の學に裨益あるものを輯む。其の目は《第一集》第一冊、古易音訓二卷(清、宋咸熙)。第二冊、傳經表一卷(清、畢沅)。第三冊、通經表一卷(清、畢沅)。第四冊、漢書西域傳補注二卷(清、徐松)。第五冊、晉書地理志新補正五卷(清、畢沅)。第六冊、乾道臨安志三卷(宋、周淙)。第七冊、弟子職集解一卷(清、莊述祖)。呂子校補二卷(清、梁玉繩)。第八・九冊、拜經樓藏書題跋記五卷・附錄一卷(清、吳壽暘)。第十冊、經籍跋文一卷(清、陳鱣)。第十一冊、漑亭述古錄二卷(清、錢塘)。第十二冊、誌銘廣例二卷(清、梁玉繩)。金石例補二卷(清、郭麐)。《第二集》第十三冊、春秋夏正二卷(清、胡天游)。第十四・十五冊、家語疏證六卷(清、孫志祖)。第十六冊、知聖道齋讀書跋二卷(清、彭元瑞)。第十七冊、鍾山札記四卷(清、盧文弨)。第十八冊、龍城札記三卷(清、盧文弨)。第十九・二十冊、晚學集八卷(清、桂馥)。

【式叉摩那尼】83シキシヤマナニ 佛 佛弟子七衆の一。梵語 Sikṣamāṇā の音譯。意譯の舊譯は學法女、新譯は正學女。出家の未だ具足戒を受けない沙彌尼で、十八歲から二十歲の滿二年間、不淫・不盜・不殺・不虛誑語・不飲諸酒・不非時食の六法を學ばせられ、胎の有無を驗せられ、且つ行の眞固を試みられる者をいふ。〔俱舍光記、十四〕式叉摩那、唐云二正學一、正、謂三正學二六法一、言二六法一者、謂二不婬・不盜・不殺・不虛誑語・不飲諸酒・不非時食一。

【⿰尢弋】9664 チウ 義未詳。〔字彙補〕⿰尢弋、音抽。

四畫

【⿰爿弋】9665 サウ 〔集韻〕茲郎切 陽 ❶くひ。ふなぐひ。〔集韻〕⿰爿弋、博雅、⿰爿弋⿰同弋、杙也。❷牂(**7－19774**)に通ず。〔正字通〕⿰爿弋、⿰爿弋⿹弋可、卽牂柯、郡名。

【⿱弋月】9666 ヨク イキ 〔集韻〕逸織切 職 **缺盆骨**。或は⿹弋骨(**12－45113**)に作る。〔集韻〕⿱弋月、缺盆骨也、或从レ骨。

【⿹弋亾】9667 ブ 武(**6－16273**)に同じ。〔字彙〕⿹弋亾、同レ武。

【⿹弋日】9668 ヨク 〔字彙補〕音弋 **はたらき**。よくする。〔字彙補〕⿹弋日、能也。

【⿹弋夂】9669 サイ 義未詳。〔金鏡〕⿹弋夂、音裁。

五畫

【⿰口弋】9670 カ ⿰哥弋(**4－9682**)に同じ。〔集韻〕⿰哥弋、或省。

【⿹弋可】9671 カ 義未詳。〔篇韻〕⿹弋可、音歌。

六畫

【⿹弋至】9672 テツ デチ 〔字彙〕徒結切 屑 ❶**さとい。又、國の名**。〔字彙〕⿹弋至、利也、又國名。❷戜(**5－11610**)の譌字。〔康熙字典〕⿹弋至、按、字書無二⿹弋至字一、玉篇、戜、利也、國名也、當二是戜字之譌一。

【⿰同弋】9673 ㊀トウ ヅ 〔集韻〕徒弄切 送 ㊁トウ ヅ 〔集韻〕徒東切 東 ㊀㊁くひ。船を繫ぐ杙。〔玉篇〕⿰同弋、船左右大木。〔集韻〕⿰同弋、舟纜所レ繫曰レ⿰同弋。〔韻會擧要〕⿰同弋、繫レ船杙也。

【⿹弋手】9674 サイ 灾(**7－18881**)に同じ。〔字彙補〕⿹弋手、同レ灾。

【⿹弋禾】9675 シ ⿹弋⿱禾灬(**4－9688**)に同じ。〔字彙補〕⿹弋禾、同レ⿹弋⿱禾灬。

【⿹弋目】9676 シ 義未詳。〔海篇〕⿹弋目、音脂。

【⿹弋巾】9677 ヨク 義未詳。〔字彙補〕⿹弋巾、音弋。

七畫

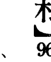
【⿹弋杏】9678 サイ 義未詳。〔海篇〕⿹弋杏、音哉。

八畫

【⿰彑式】9679 シ 弑(**4－9680**)に同じ。〔集韻〕弑、或作レ⿰彑式。

九畫

【弑】9680 シ 〔集韻〕式吏切 寘 ㄕˋ shih⁴



小篆

㊀しいす。臣が君を殺す。子が父を殺す。下の者が上の者を殺す。〔說文〕弑、臣殺㆑君也、易曰、臣弑㆓其君㆒、从㆓殺省㆒式聲。〔釋名、釋喪制〕下殺㆑上曰㆑弑、弑、伺也、伺㆑閒而後得㆑施也。〔集韻〕弑、殺也、自㆑外曰㆑戕、自㆑內曰㆑弑。〔易、坤〕文言曰、臣弑㆓其君㆒、子弑㆓其父㆒、非㆓一朝一夕之故㆒、其所㆓由來㆒者漸矣。〔左氏、宣、十八〕凡自㆑內虐㆓其君㆒曰㆑弑、自㆑外曰㆑戕。〔公羊、隱、四〕與㆑弑㆑公也。㊁ころす。〔禮、明堂位〕君臣未㆓嘗相弑㆒也。㊂或は殺(6－16638)・煞(7－19210)・鉽(4－9679)に作る。〔集韻〕弑、或作㆓殺・煞・鉽㆒。

参考　シイは延音。

【弑虐】1（シギャク・シイギャク）臣子が君父を殺すこと。弑戕。弑逆。〔後漢書、孔融傳論〕是以孔丘正㆑色、不㆑容㆓弑虐之謀㆒。

【弑逆】2（シギャク・シイギャク）臣子が君父を殺すこと。〔范甯、穀梁傳序〕弑逆篡盜者國有。〔歐陽脩、春秋論〕弑逆大惡也。

【弑戕】3（シシャウ・シイシャウ）君を殺す。內部の者が殺すのを弑といひ、外部の者が殺すのを戕といふ。弑逆。〔左氏、宣、十八〕凡自㆑內虐㆓其君㆒曰㆑弑、自㆑外曰㆑戕。

【⿰自弋】9681 ソ 〔字彙補〕心布切 遇

姓。〔字彙補〕⿰自弋、姓也。

十畫

【⿰哥弋】9682 カ 〔集韻〕居何切 歌 ㄍㄜ kê¹

㊀くひ。ふなぐひ。〔集韻〕⿰哥弋、博雅、⿰同弋⿰哥弋、杙。〔韻會〕⿰哥弋、杙也、所㆓以繫㆑舟。㊁或は⿰可弋(4－9670)・牁(7－19767)に作る。〔集韻〕⿰哥弋、或省、亦从㆑爿。㊂通じて柯(6－14658)に作る。〔集韻〕⿰哥弋、通作㆑柯。〔正字通〕⿰爿弋、⿰爿弋⿰哥弋、卽牂柯、郡名。

【⿰哥弋⿰同弋】1（カトウ）くひ。杙。〔米萬鍾、招寶山閱㆑兵觀㆑海賦〕俯㆓營竈㆒矗㆓旄纛之懸㆒、察㆓艅艎㆒侈㆓⿰哥弋⿰同弋㆒之比㆒。

【⿹弋⿸厂貝】9683 ジ 二(1－247)に同じ。〔字彙補〕⿹弋⿸厂貝、同㆑二。

【⿹弋⿱二由】9684 エツ 義未詳。〔字彙補〕⿹弋⿱二由、音鉞。

【弒】9685 シ 弑(4－9680)の本字。

十一畫

【⿹弋異】9686 タイ 戴(5－11685)に同じ。〔字彙補〕⿹弋異、同㆑戴。

十二畫

【⿹弋曾】9687 ソウ 矰(8－24017)に同じ。〔集韻〕矰、或从㆑弋。

十三畫

【⿹弋煞】9688 シ 弑(4－9680)に同じ。〔字彙補〕⿹弋煞、同㆑弑。

十四畫

【⿹弋曷】9689 ケツ 義未詳。〔字彙補〕⿹弋曷、音竭。

十五畫

【⿹弋齒】9690 シン 義未詳。〔字彙補〕⿹弋齒、音襯。

十八畫

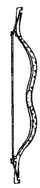
【⿹弋瞿】9691 キョ 義未詳。〔篇韻〕⿹弋瞿、音渠。

弓部

【弓】9692 キュウ ク 〔集韻〕居雄切 東 ㄍㄨㄥ kung¹

小篆

㊀ゆみ。〔說文〕弓、窮也、以㆑近窮㆑遠者、象形、古者揮作㆑弓、周禮曰、六弓、王弓・弧弓、以射㆓甲革甚質㆒、夾弓・庾弓、以射㆓干侯鳥獸㆒、唐弓・大弓、以授㆓學㆑射者㆒。〔爾雅、釋器〕弓有㆑緣者、謂㆓之弓㆒、無㆑緣者、謂㆓之弭㆒。〔注〕緣、謂㆓繳束而漆㆑之。〔李注〕骨飾㆓兩頭㆒曰㆑弓。〔釋名、釋兵器〕弓、穹也、張㆑之穹隆然也。〔正字通〕弓、揉㆑木而弦㆑之以發㆑矢、六材所㆑成、幹角筋膠絲漆、其末曰㆑簫、剡㆑之差斜似㆑簫、故名、亦作㆑彇、又謂㆓之弭㆒、以㆑骨飾㆑之、滑弭也、中央把處曰㆑弣、弣、撫也、人所㆓撫持㆒也、簫弭之中曰㆑淵、淵、宛也、言㆓宛曲㆒也、世本、黃帝臣揮作㆑弓。〔漢書、韓安國傳〕弧弓射獵。〔注〕師古曰、以㆑木曰㆑弧、以㆑角曰㆑弓。㊁弓術。弓法。〔關尹子、五鑑〕善㆑弓者、師㆑弓不㆑師㆑羿。㊂弓なり。弓形のもの。〔西陽雜俎、諸皐記上〕汝不㆑見㆔我作㆓弓腰㆒乎。〔蕭楚材、奉㆘和展㆓禮岱宗㆒塗經㆗濮濟㆖詩〕葉箭凌㆑寒矯、烏弓望㆑曉驚。㊃弓の長さ。的までの距離をはかる單位。轉じて、土地の長短をはかる單位。㋑六尺。〔儀禮、鄉射禮記〕侯道五十弓、弓二寸以爲㆓侯中㆒。〔疏〕六尺爲㆑步、弓之下制六尺、與㆑步相應、而云㆑弓者、侯之所㆑取㆑數、宜㆓於射器㆒也、云云、弓弣把㆓中側骨之處㆒、博二寸、故於㆓此處㆒取㆑數焉。㋺八尺。〔度地論〕二尺爲㆓一肘㆒、四肘爲㆓一弓㆒、三百弓爲㆓一里㆒。㊄かさぼね。〔周禮、考工記、輪人〕弓、鑿廣四枚。〔注〕弓、蓋橑也。〔疏〕漢世名㆓弓蓋㆒爲㆓橑子㆒。㊅肱(9－29315)に通ず。〔說文通訓定聲〕弓、叚借爲㆑肱。〔儀禮、鄉射禮記〕侯道五十弓。〔注〕今文改㆑弓爲㆑肱也。〔公羊、昭、三十〕黑弓以㆑濫來奔。〔注〕二傳作㆓黑肱㆒。㊆穹(8－25414)に通ず。〔說文通訓定聲〕弓、叚借爲㆑穹。〔史記、天官書〕如㆓羣畜穹閭㆒。〔注〕索隱曰、一作㆓弓閭㆒。㊇**姓**。〔通志、氏族略、以㆑名爲㆑氏〕弓氏、魯大夫叔弓之後。㊈現五尺を一弓とす



弓（禮器圖）

る。

解字 象形。ゆみの形にかたどる。矢を發する具。〔說文通訓定聲〕弓、兵也、所二以發一レ矢、說文曰、象形。

參考 弓(**4-9693**)・弓(**4-9694**)・弖(**4-9700**)とは別。〔康熙字典、辨似、四字相似〕弓、音宮、弓矢。弓、乃本字。弓、含上聲、弓嘾也。弓、古及字。

【弓鞋】1 キュウアイ 中國婦人の纏足用の靴。〔郭鈺、美人折花歌〕花刺鉤レ衣花落レ手、草根露濕弓鞋繡。〔西廂記、草橋店夢二鶯鶯一雜劇〕動レ人處弓鞋鳳頭窄。

【弓安】2 キュウアン 弓の腰がゆるく弱い。安は張りの弱いことで、危の對。弓危(18)を見よ。〔周禮、考工記、弓人〕其人安、其弓安、其矢安、則莫二能以速中一、且不レ深、其人危、其弓危、其矢危、則莫二能以愿中一。

【弓菴】3 キュウアン 淸、湯秀琦(**7-17874**··177)の號。

【弓衣】4 キュウイ ゆぶくろ。ゆみぶくろ。弓袋。〔詩、周頌、時邁、載二櫜弓矢一、疏〕櫜者、弓衣、一名韜。〔禮、檀弓下、赴車不レ載二櫜韔一、注〕櫜、甲衣、韔、弓衣。〔漢書、韓延壽傳、騎士從者帶二弓韣一羅レ後、注〕師古曰、韣、弓衣也。

【弓雄】4′ ユヲ 弓術に長じた人。又、もののふ。弓取。〔萬葉集、九〕きの國のむかし弓雄のなり矢もて。

【弓影】5 キュウエイ ㊀弓のかげ。又、弓のすがた。弓の形。〔李白、塞下曲〕邊月隨二弓影一、胡霜拂二劍花一。〔元稹、店臥聞二幕中諸公徵樂會飲一詩〕蛇蠱迷二弓影一、鵰翎落二箭鞦一。㊁蛇と誤った弓の影。弓蛇(101)を見よ。〔劉炳、鄱城歸舟詩〕弓影浮レ杯疑二老病一、雞聲牽レ夢動二離愁一。

【弓珧】6 キュウエウ 蛤の貝殼で飾った弓。〔爾雅、釋器〕弓有レ緣者、謂二之弓一、無レ緣者、謂二之弭一、以レ金者、謂二之銑一、以レ蜃者、謂二之珧一、以レ玉者、謂二之珪一。〔注〕用二金蚌玉一、飾二弓兩頭一、因取二其類一以爲レ名、珧、小蚌。〔左思、魏都賦〕弓珧解レ檠、矛鋋飄レ英。〔注〕良曰、以二蛤骨一飾レ弓曰レ珧。

【弓腰】7 キュウエウ ㊀弓のやうにしなやかに曲ること。舞ふ時のしなやかなこしつき。〔酉陽雜俎、諾皐記上〕舞袖弓腰渾忘卻、蛾眉空帶九秋霜。㊁腰を中心にして弓なりにそりかへること。〔誠齋雜記〕梁羊侃妾孫荊玉、能反レ腰貼レ地、銜二席上之珍一、謂二之弓腰一。

【弓鉞】8 キュウエツ ゆみとまさかり。〔韓愈、司徒兼侍中中書令贈太尉許國公神道碑銘〕俱授二弓鉞一。

【弓河】9 キュウガ 川の名。江蘇省無錫縣にある。〔明一統志〕弓河、在二常州府無錫縣東一、旁有二九河一號二九箭一。

【弓開】10 キュウカイ 弓がひらき張る。〔庾信、周大將軍崔訦神道碑銘〕劍起沈レ犀、弓開伏レ石。〔李紳、憶レ至二鞏縣河宿待家一累迫懷詩〕弓開二後騎一低二初月一、鶚駐二前旌一拂二暮鴉一。

【弓鎧】11 キュウガイ ゆみとよろひ。〔元史、郝和尚拔都傳〕復賜二馬六騎一、金錦・弓鎧、有レ差。

【弓高】12 キュウカウ 縣名。㊀漢、置く。故城は河北省景縣の東北。〔讀史方輿紀要、直隸、河閒府、景州〕弓高城、漢縣、屬二河閒國一、文帝封二韓穨當一爲二侯邑一、後漢仍爲二弓高縣一、晉省、隋開皇十六年、復置屬二德州一、劉昫曰、弓高城、漢平原郡高縣地也。㊁隋、置く。故城は河北省東光縣の西。〔讀史方輿紀要、直隸、河閒府、景州、東光縣〕順成城、志云、城蓋與二弓高城一相近。

【弓膠】13 キュウカウ 弓の材を結合させるに用ひるにかは。〔史記、田敬仲完世家〕弓膠昔幹、所二以爲一レ合也。

【弓翮】14 キュウカク ゆみや。翮は、矢ばね。〔杜甫、兩當縣吳侍御江上宅詩〕哀哀失二木狖一、矯矯避二弓翮一。

【弓甲】15 キュウカフ ゆみとよろひ。轉じて、武裝・戰鬪をいふ。〔晉書、文帝記〕(景元)三年夏四月、肅愼來、獻二楛矢・石砮・弓甲・貂皮等一。〔韓愈、唐故贈絳州刺史馬府君行狀〕朝二行在一扞衞、獻二御服・用物・弓甲・煮器・幄幕一、奔二走危難一。〔李益、五城道中詩〕寢興倦二弓甲一、勤役傷二風露一。

【弓竿】16 キュウカン 弓幹に同じ。〔晉書、苻健載記〕以引二南金・奇貨・弓竿・漆蠟一、通二關市一、來二遠商一、於レ是、國用充足、而異賄盈積矣。

【弓幹】17 キュウカン ゆみとやがら。〔何承天、安邊論〕今承平未レ久、邊令弛縱、弓幹利鐵、既不二都斷一。

【弓危】18 キュウキ 弓の腰がつよい。弓安(2)を見よ。

【弓箕】19 キュウキ 立派な弓づくりの子は、其の家業を繼ぐために、父兄が幹角を撓めるのを見習つて、柳の枝を和らげ撓め、箕を作ることを學ぶ。父祖傳來の家業をいふ。弓裘。箕裘之業。〔禮、學記〕良冶之子、必學レ爲レ裘、良弓之子、必學レ爲レ箕。〔鹿門隱書〕以レ儉而獲レ罪、猶遠二乎奢一、以レ退而遇レ謗、尙愈二乎進一、弓箕之家、生レ子而捨二乎弓箕一、陶旒之家、生レ子而捨二乎陶旒一、噫吾之道、猶二弓箕・陶旒一乎。

【弓騎】20 キュウキ 弓術と馬術。〔王融、永明十一年策二秀才一文〕專二士女於耕桑一、習二鄉閭一以二弓騎一。

【弓裘】21 キュウキウ 弓を作ることと、裘を作ること。裘は、良冶の子が其の父祖傳來の家業を繼ぐために、父兄が金鐵を陶熔して、破器を補ひ治めるを見習つて、獸皮を繼ぎ合はせ袍裘を作ることを學ぶをいふ。箕裘之業。弓箕(19)を見よ。〔禮、學記〕良冶之子、必學レ爲レ裘、良弓之子、必學レ爲レ箕。〔高適、飛龍曲留上二陳左相一詩〕相門連二戶牖一、卿族嗣二弓裘一。〔李東陽、對鷗閣賦〕存二弓裘之舊物一、慨二堂構之餘情一。〔李嘉祐、送二王牧一詩〕年華初冠帶、文體舊弓裘。

【弓裘之業】22 キュウキウノゲフ 父祖傳來の家業。弓裘に同じ。〔白居易、答二劉總一謝二檢校工部尙書范陽節度使一表〕能遵二忠孝之風一、不レ墜二弓裘之業一。

【弓響】23 キュウキャウ 弓弦の響。〔隋煬帝、白馬篇〕山虛弓響徹、地迥角聲長。

【弓腳】24 キュウキャク 弓形の脚。〔宋史、儀衞志一〕素方織、四十四人、弓腳幞頭、碧襴衫、塗二金銅一革帶、烏皮履。

【弓局】25 キュウキョク 官署の名。元、置く。〔元史、百官志六〕成吉里弓局、大使・副使各一員、通州弓局、院長一員。

【弓琴】26 キュウキン 琴の一種。〔宋書、蕭思話傳〕太祖賜以二弓琴一。

【弓戈】27 キュウクワ ゆみとほこ。〔韓愈、魏博節度觀察使沂國公先廟碑銘〕東二縛弓戈一、考二校度程一。

【弓臥】28 キュウグワ 弓なりに身を曲げてねる。〔善住、詩〕船窓作二弓臥一。

【弓筈】29 ユハズ 弓弭(141)に同じ。

【弓筈調】30 ユハズノミツギ 弓弭調(142)に同じ。

【弓形】31 キュウケイ ユミガタ 弓のやうに彎曲したさま。ゆみなり。

【弓勁】32 キュウケイ ゆみがつよい。又、軍勢の盛強なこと。〔宋史、趙普傳〕時渉二秋序一、邊庭早涼、弓勁馬肥、我軍久困。

【弓檠】33 キュウケイ 弓の歪むのを防ぐ器。ゆだめ。ゆみだめ。〔詩、秦風、小戎、竹閉緄縢、集傳〕閉、弓檠也、儀禮作レ䩭。〔倭名抄、調度部、弓劍具、檠〕野正案、檠、所三以正二弓弩一也。〔注〕由美多女。〔箋注〕既夕記、說二明器之弓一、有レ柲、注云、柲、弓檠也、云云、檠者、弓弛レ弦、施レ之不レ令二弓邪曲一之物、非下令二弓之邪曲復正一之器上、令二邪曲復正一之器、謂二之檃栝一。

【弓矯】34 ユミダメ 弓檠に同じ。

【弓戟】35 キュウゲキ ゆみとほこ。〔賈誼、過秦論〕陳渉以二戍卒一散二亂之一、衆數百、奮レ臂大呼、不レ用二弓戟之兵一。

【弓月】36 キュウゲツ 唐代の西域の部族の名。熱海の附近、或は此處から疏勒に通ずるナリン河の溪谷に住した。〔唐書、高宗紀〕龍朔三年十二月、安西都護高賢、爲二行軍總管一、以伐二弓月一。〔唐書、地理志〕西突厥弓月部叛、屢侵二疏勒及于闐一、發レ兵討レ之、弓月來降。

【弓劍】37 キュウケン ゆみとつるぎ。〔禮、曲禮上〕受二弓劍一者以レ袂。〔淮南子、氾論訓〕古之兵、弓劍而已矣。〔魏志、管輅傳、注〕此郡官舍、每有二變怪一、輒聞二鼓角聲音一、或見二弓劍形象一。〔柳宗元、韋道安詩〕道安本儒士、頗擅二弓劍名一。

【弓劍遠】38 キュウケントホシ 人の死をいふ。黃帝が死んで、上天する時、弓を墮したことと、黃帝を葬つた橋山が崩れた時、其の棺中にただ劍と履物だけあつたといふ故事。〔史記、五帝紀、黃帝崩、注〕正義曰、列仙傳云、軒轅自擇二亡日一、與二羣臣一辭還、葬二橋山一、山崩棺空、唯有二劍舃在一レ棺焉。〔史記、封禪書〕有レ龍垂二胡髯一下迎二黃帝一、黃帝上騎、羣臣後宮從レ上者七十餘人、龍乃上去、餘小臣不レ得レ上、乃悉持二龍髯一、龍髯拔墮、墮二黃帝之弓一、百姓仰望、黃帝既上レ天、乃抱三其弓與二胡髯一號、故後世因名二其處一曰二鼎湖一、其弓曰二烏號一。〔剪燈新話、天台訪隱錄〕度皇晏駕弓劍遠、賈相

出レ師笳鼓驚。

【弓鞬】39キュウケン　弓袋。弓衣(4)に同じ。〔詩、小雅、采薇、象弭魚服、疏〕其皮雖二乾燥一、以爲二弓鞬矢服一。〔漢書、韓延壽傳〕騎士從者、帶二弓鞬一羅レ後。〔注〕師古曰、鞬、弓衣也。〔後漢書、南匈奴傳〕弓鞬韇丸。

【弓懸】40キュウケン　❶弓がかかる。〔李洞、送二龍州田使君舊詩家一詩〕劍淬號猿岸、弓懸宿鶴枝。❷ユガケ 弓を射る時、右手の指にはめる皮袋。〔名義抄〕。

【弓弦】41キュウゲン　ゆみづる。ゆづる。弓にはる絲。まつすぐなさまの喩。又、路などがまつすぐで近いことの喩。〔越絕書、越絕外傳記地傳〕種レ麻以爲二弓弦一。〔岑參、送三郭司馬赴二伊吾郡一請レ示二李明府一詩〕安西美少年、脫レ劍卸二弓弦一。〔宋史、張莊傳〕迺上言、湖北至二廣西一、繇二湖南一則迂若二弓背一、自二渠陽一而往、猶二弓弦一耳。

【弓弧】42キュウコ　弓。又、弓術。角で作つたのを弓、木で作つたのを弧といふ。字解の❶を見よ。〔魏書、高聰傳〕詔曰、此乃弓弧小藝、何足三以示二後葉一。

【弓壺】43キュウコ　弓字或は弓の形を刻みつけた壺。〔博古圖〕商貫耳弓壺、一。〔鐘鼎款識〕弓壺、銘二一弓字一、此器以レ弓銘レ之、壺酒之下尊也、商之酒器、間有二以レ弓名者一、蓋射者、未三嘗不二繼レ之以レ飮也。

【弓工】44キュウコウ　弓を造る人。弓師。弓工妻を見よ。

【弓工妻】45キュウコウノツマ　春秋時代の晉の弓造りの妻。〔列女傳、辯通傳〕弓工妻者、晉繁人之女也、當二平公之時一、使二其夫爲レ弓、三年乃成、平公引レ弓而射、不レ穿二一札一、平公怒將レ殺二弓人一、弓人之妻請レ見曰、云云、今妾之夫、治二造此弓一、其爲レ之亦勞矣、其幹生二於太山之阿一、一日三觀レ陰、三觀レ陽、傳以二燕牛之角一、纏以二荊麋之筋一、云云、而君不レ能三以穿二一札一、是君之不レ能レ射也、而反欲レ殺二妾之夫一、不二亦謬一乎、云云、平公以二其言一爲レ儀而射、穿二七札一、繁人之夫、立得レ出、而賜二金三鎰一。

【弓齋】46キュウサイ　清、姚覲元(3－6202・・146)の號。

【弓材】47キュウザイ　弓をつくる材。〔唐書、地理志一〕商州上洛郡、土貢二麝香弓材一、有二洛源監錢官一。

【弓槍】48キュウサウ　ゆみとやり。〔宋史、王繼恩傳〕領二河州刺史一、掌二軍器弓槍庫一。

【弓燥】49キュウサウ　ゆみがかわく。弓が乾燥して強くなること。〔典論、自敍〕歲之暮春、勾芒司レ節、和風扇レ物、弓燥手柔、草淺獸肥。〔劉潛、從軍行〕木落雕弓燥、氣秋征鴈肥。

【弓藏】50キュウザウ　弓がかくれる。不用の物として藏せられること。〔史記、淮陰侯傳〕上令二武士一縛レ信載二後車一、信曰、果若二人言一、狡兔死良狗烹、高鳥盡良弓藏、敵國破謀臣亡、天下已定、我固當レ烹。

【弓削】51ユゲ　❶地名。㋑丹後國の地名。㋺河內國の地名。㋩近江國の地名。㋥備前國の地名。㋭肥後國の地名。❷姓氏。〔明治新撰姓氏錄〕。

【弓削川】52ユゲガハ　丹波國に源を發する川。

【弓削島】53ユゲシマ　伊豫國の東北方に在る島。

【弓削濱】54ユゲハマ　伯耆國夜見濱の別稱。

【弓矟】55キュウサク　ゆみとほこ。〔唐書、高開道傳〕諸義子將二搏戰一、亡二弓矟一、君立擧レ火、城外應レ之。

【弓插】56 kung¹ ch'a¹　弓をさす具。

【弓子】57キュウシ　ゆみ。〔開元天寶遺事、射團〕宮中每レ到二端午節一、造二粉團角黍一、貯二於金盤中一、以二小角一造二弓子一、纖妙可レ愛。〔宋史、宋琪傳〕折二木梢一屈レ之、爲二弓子一。

【弓矢】58キュウシ　❶ゆみとや。ゆみや。弓箭。〔書、費誓〕備二乃弓矢一。〔詩、大雅、公劉〕弓矢斯張、干戈戚揚。〔禮、王制〕諸侯賜二弓矢一、然後征。〔後漢書、光武紀下〕戢二弓矢一而散二馬牛一。〔應貞、晉武帝華林園集詩〕於レ是肆レ射、弓矢斯御。❷ユミヤ ㋑武道をいふ。弓矢の道。〔源平盛衰記、廿一、梶原助二佐殿一事〕。㋺戰。戰爭。〔常山紀談、九〕。

【弓矢家】59ユミヤノイヘ　代々弓矢の道にたづさはる家。武家をいふ。

【弓矢臺】60ユミヤダイ　弓矢をさしておく臺。

【弓矢道】61ユミヤノミチ　武士の道。

【弓矢瑕瑾】62ユミヤノカキン　武道の名折れ。

【弓矢八幡】63ユミヤハチマン　❶弓矢の神である八幡神をいふ。❷神かけて眞實であることを表はす語として用ひられる。㋑武士が誓約の時にいふ。〔謠曲、調伏曾我〕弓矢八幡・箱根權現も照覽あれ。㋺少しも僞りのない意を表はす。眞實。必ず。〔壽門松、下〕弓矢八幡、堪忍せぬ氣。❸失敗を悟つた時、口惜しがる時、不意の出來事に驚いた時などにいふ語。弓矢八幡の名を呼んで之に助を求める意を有する。南無三寶。しまつた。さあ大變。〔蟬丸、二〕弓矢八幡、射損ぜし。

【弓師】64キュウシ　❶弓を造る人。ゆみし。〔大法句經〕弓師調レ角、水人調レ船。❷弓の師匠。〔三才圖會、器用、弓弩〕令二弓師一而能教二百人一善レ弓、則善レ弓者、得下以二一人一兼中二人之食上、而弓師且賞レ之以二百金一、而署レ之爲二百人將一矣。

【弓式】65キュウシキ　弓に就いての法式。〔宋史、兵志十一〕判監呂惠卿、言二其所レ上弓式、及其他兵器制度一。

【弓室】66キュウシツ　ゆみぶくろ。〔詩、秦風、小戎、虎韔鏤膺、傳〕韔、弓室也。

【弓日】67キュウジツ　弓を照らす日。又、弓が日に照りかがやくこと。〔李紳、渡二西陵一詩〕弓日鞬櫜動、旗風虎豹爭。

【弓車】68キュウシャ　ゆみとくるま。〔周禮、考工記、總目〕胡之無二弓車一也、非レ無二弓車一也、夫人而能爲二弓車一也。

【弓射】69キュウシャ　弓をいること。弓術。〔北史、高閭傳〕今爲二三軍一、二萬人專習二弓射一、二萬人專習二刀楯一、二萬人專習二騎矟一。

【弓匠】70キュウシャウ　❶弓を造る人。弓師。〔宋史、魏矼傳〕內侍李廙、飮二韓世忠家一、刃二傷弓匠一、事下二廷尉一。〔輟耕錄、治天下匠〕治レ弓尙須二弓匠一、豈治二天下一不レ用下治二天下一匠上耶。❷官署の名。弓匠提擧司。元、置く。弓の政を掌る。〔元史、百官志六〕大都弓匠提擧司、秩正五品、云云、其屬雙搭弓局、大使・副使各一員。

【弓狀】71キュウジャウ　ゆみなり。弓のやうなかたち。

【弓繳】72キュウシャク　矢に絲をつけて飛鳥を射ること。又、其の具。いぐるみ。射繳。〔孟子、告子上〕思下援二弓繳一而射上レ之。〔注〕繳、以レ繩繫レ矢而射也。

【弓弱】73キュウジャク　弓がよわい。〔宋史、夏國傳上〕浦曰、羌部弓弱矢短、但見二此長大人一則已遁矣、況敢敵乎。

【弓手】74キュウシュ　❶宋代、差役を以て徵せられた者の中、耆長・壯丁と共に盜賊を逐捕する事を掌る者。元代にも置かれた。差役(4－8732・・10)の❶を見よ。〔宋史、季陵傳〕既招二弓手一、又募二民兵一、民力竭矣。〔文獻通考、職役考〕耆長・弓手・壯丁、以逐二捕盜賊一。〔元史、兵志四、弓手〕元制、郡邑設二弓手一、以防レ盜也。❷長さをはかるさを持つ係。〔福惠全書、淸丈部、責經手〕丈地弓步不レ眞、責二之弓手一。❸ユンデ ㋑弓を持つ方の手。左手。〔保元物語、一、新院御所各門門固事〕ゆんでのひぢ、めてに四寸伸び。㋺左の方。左。〔保元物語、二、白河殿攻落事〕弓手・馬手より馳せ寄つて。

【弓取】75ユミトリ　❶弓を執り持つこと。又、其の者。特に武士の稱。〔源平盛衰記、四十二、屋島合戰事〕楯突一人、弓取一人、打物一人。❷勝れた射手。〔吾妻鏡、四〕元曆二年八月二十四日、行事日本無雙之弓取也。❸相撲で、興行千秋樂の日、勝大關に代り、土俵に出て弓を振ふ力士。

【弓銃】76キュウジュウ　弓と鐵砲。〔日本外史、德川氏前記、豐臣氏上〕乞二毛利氏一、假二弓銃各五百、旗三十、騎士一隊一。

【弓術】77キュウジュツ　弓を射る術。弓道。

【弓楯】78キュウジュン　ゆみとたて。〔晉書、馬韓傳〕善用二弓楯矛櫓一。〔南史、齊廢帝紀〕執二弓楯一欲レ戰。

【弓如】79キュウジョ　複姓。〔姓譜〕魯大夫叔弓之後。

【弓神】80キュウシン　弓の神。〔猗覺寮雜記〕弓神名二曲張一。

【弓人】81キュウジン　周官の名。冬官の屬。弓を作ることを掌る。轉じて、弓を造る人。弓師。弓工。〔周禮、考工記、弓人〕弓人、爲レ弓取二六材一、必以二其時一。

【由二弓人而恥レ爲レ弓】82ナホキュウジンニシテユミヲツクルヲハヅルガゴトシ　弓師でありながら、弓を作るのを恥づるやうなものである。事の矛盾した喩。〔孟子、公孫丑上〕人役而恥レ爲レ役、由二弓人而恥レ爲レ弓、矢人而恥レ爲レ矢也。

【弓正】83キュウセイ　古の官名。弓に關する事を掌る。〔唐書、宰相世系表二下〕張氏出レ自二姬姓一、黃帝子少昊青陽氏第五子揮、爲二弓正一、始制二弓矢一、子孫賜二姓張氏一。

【弓旌】84キュウセイ　ゆみとはた。古、徵聘の禮物。士を招くには弓を以てし、大夫を招くには旌を以て

する。左傳昭公二十年に、招二虞人一以レ弓、孟子滕文公篇に、招二虞人一以レ旌とある。〔任昉、宣德皇后敦勸二梁王一令〕爰在二弱冠一、首應二弓旌一。〔鮑溶、寄二李都護一詩〕去年河上迸二行人一、萬里弓旌一武臣。

【弓旌召】85キユウセイノセウ　高官に採用せられること。弓旌を見よ。〔李元成、賢良方正策〕臣素微二經藝之術一、謬忝二弓旌之召一。

【弓勢】86キユウセイ　❶弓の形。弓なり。〔白居易、秋思詩〕獸形雲不レ一、弓勢月初三。❷弓のいきほひ。〔趙秉文、盧州城下詩〕角聲寒水動、弓勢斷鴻驚。❸ユンゼイ弓を引き張る力。弓に矢をつがへて射當てる力量。〔保元物語、二、白河殿攻落事〕・〔扶桑略記、康平五年十一月十七日〕。

【弓聲】87キユウセイ　弓弦の鳴るおと。〔北史、長孫晟傳〕長孫總管、聞二其弓聲一、謂爲二霹靂一、見二其走馬一、稱爲二閃電一。

【弓招】88キユウセウ　士を聘する禮。弓旌を見よ。〔左氏、莊、二十二〕詩云、翹翹車乘、招レ我以レ弓。〔左氏、昭、二十年〕弓以招レ士。〔疏〕古者聘レ士以レ弓、故弓以招レ士也。〔北史、邢邵傳〕虞官弓招不レ進。〔舊唐書、趙隱傳〕會昌中、方應二弓招一、累爲二從事一。

【弓弰】89キユウセウ　弓末。ゆはず。〔庾信、擬二詠懷一詩〕輕雲飄二馬足一、明月動二弓弰一。〔王昌齡、城傍曲〕射殺空營兩騰虎、廻レ身卻月佩二弓弰一。〔射經〕出二弓弰一、爲二懷中吐レ月。

【弓梢】90キユウセウ　ゆはず。〔畫梅譜〕弓梢鹿角、下レ筆忌レ繁。

【弓彇】91ユハズ　ゆはず。弓弭(141)に同じ。〔日本書紀、神代紀上〕振二起弓彇一、急二握劍柄一。

【弓箭】92キユウセン　❶ゆみとや。弓矢。〔後漢書、五行志五〕靈帝光和中、雒陽男子夜龍、以二弓箭一射二北闕一。〔杜甫、兵車行〕車轔轔馬蕭蕭、行人弓箭各在レ腰。〔王建、遼東行〕戰回各自收二弓箭一、正西回レ面家鄕遠。❷武士をいふ。〔源平盛衰記、二十八、經正竹生島詣事〕。❸戰爭をいふ。〔謠曲、忠度〕また弓箭に携はりて。❹戰爭の勝利。〔常山紀談、七〕。

【弓箭社】93キユウセンシヤ　宋代、弓箭を備へて非常に備へた民間の團體。〔宋史、兵志四〕今弓箭社、一切兵器、民皆自藏二於家一。

【弓箭雄】94キユウセンノユウ　弓矢の道に達した雄將。すぐれた武將。〔賴山陽、八幡公詩〕結髮從レ軍弓箭雄、八州草木識二威風一。

【弓箭之士】95キユウセンノシ　武士。弓箭の道を以て身を立てるもの。〔近古史談、織篇、了伯聽二平語二〕今日弓箭之士、果能以二二子之心一爲レ心。

【弓箭冥加】96キユウセンノミヤウガ　弓矢の神が冥冥に加護すること。

【弓束】97ユツカ ユミツカ　弓の、手で握る部分。弓柄。〔萬葉集、十一〕梓ゆみ弓束まきかへ。

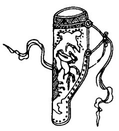
【弓足】98キユウソク　纏足のために弓形になつた足。〔陔餘叢考、弓足〕婦女弓足、不レ知レ起二於何時一、有下謂レ起二於五代一者上。

【弓鏃】99キユウソク　弓と矢。鏃は、やじり。〔班固、竇車騎北征頌〕櫜二弓鏃一而戢レ戈、回二雙麾一以東運。

【弓垜】100キユウダ　的をかける所。あづち。〔宋史、兵志九〕神臂弓垜、遠二百二十步一。

【弓蛇】101キユウダ　物を見誤ること。晉の樂廣の客が盃中に映つた角弓の影を蛇と見誤つたといふ故事。蛇弓。〔晉書、樂廣傳〕嘗有二親客一、久闊不二復來一、廣問二其故一、答曰、前在レ坐蒙二賜酒一、方欲レ飲見二盃中一有レ蛇、意甚惡レ之、既飲而疾、于レ時、河南聽事壁上有レ角、漆畫作レ蛇、廣意、盃中蛇卽角影也、復置二酒於前處一、謂レ客曰、酒中復有レ所レ見不、答曰、所レ見如レ初、廣乃告二其所以一、客豁然意解、沈痾頓愈。〔謝應芳、詩〕酒杯已辨弓蛇悞、藥杵無レ勞玉兔將。

【弓袋】102キユウタイ・ユミブクロ・ユブクロ　弓を入れる袋。弓衣。〔事物紀原、戎容兵械部、弓袋〕實錄曰、器仗皆自二有虞氏一始、鞨・鹿施・弓袋、通謂二之三仗一、蓋大將備儀也。〔倭名抄、調度部、弓劍具、弓袋〕說文云、韔、弓衣也、唐式云、弓袋。〔注〕由美布久路。



弓袋
（武備志）

【弓袋差】103ユブクロザシ　主君の弓袋を携へて騎馬で先驅する者。弓袋持。〔吾妻鏡、九、文治五年七月十九日、凡鎌倉出御勢一千騎也次二御駕一、注〕御弓袋差・御旗差・御甲著等、左二御馬前一。

【弓袋持】104ユブクロモチ　弓袋差に同じ。

【弓刀】105キユウタウ　ゆみとかたな。弓劍。〔唐書、吐蕃傳上〕喜二浮屠法一、習二咒詛一、多佩二弓刀一。〔王建、東征行〕同時賜レ馬幷賜レ衣、御レ樓看下帶二弓刀一發上。〔盧綸、和二張僕射塞下曲一詩〕欲下將二輕騎一逐上、大雪滿二弓刀一。〔周亮工、示レ友詩〕海水羣飛百丈高、同レ君城上擁二弓刀一。

【弓刀石】106キユウタウセキ　清代、武藝の練習に用ひた弓・大刀・力石。〔清會典事例、兵部、武科〕將二新中武擧馬步箭枝數、弓刀石斤重號數一、詳細造レ冊送レ部。

【弓韜】107キユウタウ　ゆみぶくろ。〔周禮、考工記、輈人、弧旌枉矢以象レ弧也、疏〕以レ衣韜二其弓一、謂二之弓韜一。

【弓彈】109キユウタン　弓を用ひて行ふ一種の遊戲。〔呉志、諸葛瑾傳〕或有二博奕一、或有二摴蒱・投壺・弓彈一。

【弓斷】110ユダチ　弓を射る時に行ふ物忌。

【弓長】111キユウチヤウ　張氏をいふ。張の字は弓と長とから成るからいふ。〔宋書、王景文傳〕張永累二經軍旅一、又疑二其將來難レ信、乃自爲二謠言一曰、一士不レ可レ親、弓長射二殺人一、一士、王字、弓長、張字也。

【弓長嶺】112キユウチヤウレイ　山名。滿洲遼寧省遼陽縣の西南。附近に多く鐵を產す。

【弓張】113キユウチヤウ　❶弓が張る。〔詩、魯頌、泮水、角弓其觩、箋、角弓觩然言二持レ弦急一也、疏〕言二持レ弦急一、謂二弓張一、故弦急也。〔方干、新月詩〕潭魚驚二釣落一、雲鴈怯二弓張一。❷ユミハリ㋑弓張月の略。〔大和物語、三〕。㋺弓張提燈の略。〔臨時客應接〕。

【弓張月】114ユミハリヅキ　弓の弦を張つたやうな形の月をいふ。弦月。〔平家物語、鵺事〕弓はり月のいるにまかせて。

【弓張提燈】115ユミハリヂヤウチン　竹を弓形にたわめ、其の上下にかけ張つて開くやうに造つた提燈。〔萬金產業袋、挑灯類〕。

【弓韔】116キユウチヤウ　ゆみぶくろ。弓袋。弓衣。〔宋史、曹瑋傳〕瑋以二宿將一爲二丁謂所レ忌、卽日上レ道、從二弱卒十餘人一、不下以二弓韔・矢箙一自隨上。

【弓丈】117ユミタケ ユンダケ　一張の弓の長さ。普通は七尺三寸。或は七尺五寸とする。〔太平記、六波羅攻事〕弓だけ三杖計。

【弓杖】118ユミヅエ・ユンヅエ・ユヅエ　❶戰に疲れた時等、暫し弓を杖としてよりかかること。〔平治物語、待賢門軍事〕大將左衞門佐は弓杖突いて。❷弓丈に同じ。〔太平記、住吉松折事〕弓杖三杖計ゾ。

【弓場】119ユバ　ゆみば。弓術を習ふために設けた所。特に古、紫宸殿の前庭の西隅に設けた、射術練習の場所。矢場。弓庭。〔運步色葉集〕弓場。〔中古記、寬治八年閏三月十一日〕中宮侍盛家、給二左衞門弓場一。〔吾妻鏡、四十二、建長四年十一月二十一日〕於二新造御所弓場一、有二御的始一。

【弓場殿】120ユバドノ　古、禁中の射術、天覽の御殿。いばどの。〔拾芥抄、中、末、宮城之部、武德殿、注〕豐樂院北、謂二之弓場殿一、騎射・競馬、於二此所一覽レ之。

【弓墜】121キユウツイ　弓が落ちる。天子の崩御をいふ。黃帝が昇天する時、弓を落した故事。弓劍遠(38)を見よ。〔牧野藻洲、先朝遺聞、力レ疾行二幸大學一〕龍隱、弓墜。

【弓兆】122キユウテウ　周官卜師の四兆の一。龜甲をやいて表はれる文によつて名づけたもの。〔周禮、春官、卜師〕掌レ開二龜之四兆一、一曰方兆、二曰功兆、三曰義兆、四曰弓兆。

【弓調】123キユウテウ　弓が調ふ。弓調馬服を見よ。〔姚合、窮邊詞〕箭利弓調四鎭兵、蕃人不二敢近東行一。

【弓調馬服】124キユウテウバフク　弓がよく調ひ馬が善く服すること。先づ基礎を作るべきことの喩。〔荀子、哀公〕弓調而後求レ勁焉、馬服而後求レ良焉、士信愨而後求二知能一焉。〔孔子家語、五儀解〕弓調而後求レ勁焉、馬服而後求レ良焉、士必愨而後求二智能者一。

【弓弩】125キユウド　ゆみといしゆみ。ゆみ。〔周禮、夏官、司弓矢〕中春獻二弓弩一、中秋獻二矢箙一。〔莊子、胠篋〕弓弩畢弋。〔管子、問〕弓弩之張。〔呉子、治兵〕長者持二弓弩一。〔宋玉、高唐賦〕弓弩不レ發。

【弓弩持レ滿】126キユウドマンヲヂス　ゆみが十分に張る。〔魏志、田豫傳〕弓弩持二滿於內一、疑兵塞二其隙一。

【弓弩藥箭】127キユウドヤクセン　一度に數矢を發するいし

ゆみとやじりに毒藥をつけた箭。〔六部成語、兵部、弓弩藥箭、注解〕弩箭者、一弩發㆓數矢㆒、箭鏃有㆓毒藥㆒、中㆑人卽死。

【弓凍】128（キユウトウ）　ゆみがこほる。〔庾信、出自薊北門行樂府詩〕笳寒蘆葉脆、弓凍紵絃鳴。

【弓頭】129（キユウトウ）　ゆはず。弓末。〔禮、曲禮上、右手執㆑簫、疏〕簫、弓頭、頭稍剡差邪似㆑簫、故謂爲㆑簫也。

【弓韣】130（キユウトク）　ゆみぶくろ。弓袋。〔禮、月令〕帶以㆓弓韣㆒、授以㆓弓矢㆒。〔漢書、王莽傳下〕佩㆓印韍㆒執㆓弓韣㆒。〔王安石、賀㆑生㆓皇子㆒表〕傳類有㆑祥、弓韣之祠屢應。

【弓把】131（キユウハ）　ゆづか。弓束(97)に同じ。〔禮、曲禮上、左手承㆑弣、疏〕弣、謂㆓弓把㆒也。

【弓馬】132（キユウバ）　弓と馬。弓術と馬術。射騎。弓騎。轉じて、武藝・武士等の意に用ひる。〔後漢書、陳龜傳〕家世邊將、便習㆓弓馬㆒、雄㆓於北州㆒。〔吳志、韓當傳〕以㆘便㆓弓馬㆒有㆗膂力㆖、幸㆓於孫堅㆒。〔晉書、王濟傳〕好㆓弓馬㆒、勇力絕㆑人。

【弓馬家】133（キユウバノイヘ）　武士の家柄。武家。武門。〔吾妻鏡、六、文治二年三月二十六日〕此上人者、云云、出㆓累葉弓馬之家㆒、入㆓一實圓乘之門㆒。

【弓馬士】134（キユウバシ）　武士。もののふ。〔晉書、孝愍帝紀論〕彼元海者、離石之將兵都尉、王彌者、靑州之散吏也、蓋皆弓馬之士、驅走之人、非㆑有㆓吳先主・諸葛孔明之能㆒也。

【弓馬術】135（キユウバジユツ）　武道をいふ。

【弓馬之閒】136（キユウバノカン）　弓を射、馬を馳せる處。戰場をいふ。〔日本外史、德川氏前記、豐臣氏上〕秀吉起㆓微賤㆒、爲㆔先右府所㆓拔擢㆒、攻城野戰、立㆓功弓馬之閒㆒。

【弓背】137（キユウハイ）　弓の背。又、路などの曲りくねつてゐるさまの喩。〔令狐楚、少年行〕弓背霞明劍照㆑霜、秋風走㆑馬出㆓咸陽㆒。〔宋史、張莊傳〕湖北至㆓廣西㆒、繇㆓湖南㆒、則迂若㆓弓背㆒、自㆓渠陽㆒而往、猶㆓弓弦㆒耳。

【弓撥】138（キユウハツ）　ゆみがそりかへる。〔戰國、西周策〕夫射㆓柳葉㆒者、百發百中、而不㆓以㆑善息㆒、少焉氣力倦、弓撥矢拘、一發不㆑中、前功盡矣。〔注〕撥、弓反也。

【弓拔】139（キユウバツ）　やはず。矢筈。〔竹譜〕夷人破以爲㆓弓拔㆒。

【弓皮】140（キユウヒ）　蛇の脫殼（ヌケガラ）。〔本草、蛇蛻〕釋名、蛇皮・蛇殼・龍退・龍子衣・龍子皮・弓皮・蛇符・蛇筋。

【弓弭】141（ユハズ）　弓の兩端の、弓弦を懸けるところ。ゆみはず。上を上筈、下を本筈といふ。弓筈。〔神武卽位前紀、十四〕金色靈鵄、飛來止㆓于天皇弓弭㆒。

【弓弭調】142（ユハズノミツギ）　昔、男子の奉る貢物。弓で射て獲た肉及び皮を貢するからいふ。〔日本書紀、崇神紀〕十二年秋九月甲辰朔己丑、始校㆓人民㆒、更科㆓調役㆒、此謂㆓男之弓弭調、女之手末調㆒也。

【弓父】143（キユウフ）　弓を造る人。弓工。弓人。〔後漢書、蔡邕傳〕弓父畢㆓精於筋角㆒、佽飛明㆓勇於赴流㆒。〔注〕弓父、弓工也。

【弓服】144（キユウフク）　❶ゆみぶくろ。弓袋。〔韓愈、畫記〕雜兵器、弓矢・旌旗・刀劍・矛楯・弓服・矢房・甲冑之屬。❷弓と服。〔唐書、高麗傳〕初師還、帝以㆓弓服㆒賜㆓蓋蘇文㆒。

【弓兵】145（キユウヘイ）　元・明時代の州・縣の役所の下役。〔明律、兵律、關津、私役弓兵〕凡私㆓役弓兵㆒者、一人笞四十。〔纂注〕凡府州縣巡檢衙門、皆設有㆓弓兵㆒、本爲㆓地方守㆒、把㆓盤詰之用㆒、若有㆑人私借而役使者、一人笞四十。〔西湖志餘〕元之將㆑亂也、上下以㆑墨爲㆑政、時廉訪司官、分㆓巡州縣㆒、例用㆓巡尉司弓兵・旗幟・金鼓㆒迎送。

【弓柄】146（キユウヅカ）　弓束(97)に同じ。

【弓步】147（キユウホ）　長さをはかるさを。〔福惠全書、淸丈部、責經手〕丈地弓步不㆑眞、責㆓之弓手㆒。

【弓矛】148（キユウボウ）　ゆみとほこ。〔史記、大宛傳〕其屬邑、大小七十餘城、衆可㆓數十萬㆒、其兵弓矛騎射。〔漢書、韓王信傳、請令㆘彊弩傅㆓兩矢㆒外鄉㆖、注〕李奇曰、言㆔唯弓矛無㆓雜仗㆒也。

【弓末】149（キユウマツ）　弓のはし。ゆはず。〔儀禮、大射儀、左執㆑弣右執㆑簫、注〕簫、弓末。

【弓鳴】150（キユウメイ）　ゆみがなる。〔李嶠、軍師凱旋自㆓邕州㆒順㆑流舟中詩〕弓鳴蒼隼落、劍動白猿悲。

【弓冶】151（キユウヤ）　父子相承ける事業をいふ。弓裘(21)に同じ。〔北史、魏季景傳論〕季景父子、雅業相傳、抑弓冶之義。〔張九齡、大唐故光祿大夫云云徐文公神道碑幷序〕家有㆓榮業㆒、紹㆓其弓冶㆒。〔白居易、阿崔詩〕弓冶將㆑傳汝、琴書勿㆑墜㆑吾。

【弓里】152（キユウリ）　複姓。〔萬姓統譜〕弓里戍、騎都尉、建武二年、將㆑兵平㆓定北州㆒。

【弓里戍】153（キユウリジユ）　後漢の人。官は騎都尉。建平中、北州を平定し、英俊を歷訪し、溫序を薦めて侍御史とした。〔後漢書、一百十一〕。

【弓量】154（キユウリヤウ）　土地を測量すること。弓は土地測量の長さの單位。一弓は八尺。〔宋史、藝文志四、子類、農家〕王居安經界弓量法、一卷。

【弓隆】155（キユウリユウ）　神の名。水に入る時、其の名を呼べば、溺れないといふ。〔酉陽雜俎、諾皐記上〕甲子神名㆓弓隆㆒、欲㆑入㆓水內㆒呼㆑之、河伯九千導引、入㆑水不㆑溺。

【弓閭】156（キユウリヨ）　❶帳幕を張つた屋舍。穹閭。〔史記、天官書〕北夷之氣、如㆓羣畜穹閭㆒。〔注〕索隱曰、鄒氏云、一作㆓弓閭㆒。❷川の名。弓盧(160)に同じ。〔史記、衞將軍驃騎傳〕歷㆓涉離侯㆒、濟㆓弓閭㆒。〔注〕集解曰、晉灼曰、水名也。

【弓力】157（キユウリヨク）　弓の力。又、弓を射る力。〔北史、陳留王虔傳〕虔姿貌魁傑、武力絕倫、其弓力倍㆓加常人㆒。〔典故紀聞〕汝等知㆓弓力㆒乎。

【弓輪】158（キユウリン）　弓と車。〔易、說卦〕坎爲㆑水、爲㆓溝瀆㆒、爲㆓隱伏㆒、爲㆓矯輮㆒、爲㆓弓輪㆒。

【弓寮】159（キユウレウ）　宋の林泳の號。林泳(**6−14551・・2**)を見よ。〔圖繪寶鑑、四〕林泳、興化人、膚齋希逸子、善㆓墨竹㆒、自號㆓弓寮㆒。

【弓盧】160（キユウロ）　川の名。弓閭(156)に同じ。〔漢書、霍去病傳〕歷㆓度離侯㆒、濟㆓弓盧㆒。〔注〕晉灼曰、水名也。

【弓彎】161（キユウワン）　弓がまがる。又、ゆみのやうにまがる。〔異聞錄〕其詞曰、長安少女翫㆓春陽㆒、何處春陽不㆑斷㆑腸、舞袖弓彎渾忘卻、羅帷空度九秋霜、鳳卒㆑吟請曰、何謂㆓弓彎㆒、曰、昔年父母敎㆓妾此舞㆒、美人乃起、振㆑衣張㆑袖舞數拍、爲㆓弓彎狀㆒、旣罷去、鳳亦尋覺㆔于襟袖得㆓其詞㆒。〔李白、送㆓白利從㆒詩〕劍決浮㆓雲氣㆒、弓彎明㆓月輝㆒。

【引㆑弓】162（ユミヲヒク）　❶弓を射る。〔司馬遷、報㆓任少卿㆒書〕擧㆓引㆑弓之人㆒。〔盧綸、和㆓張僕射塞下曲㆒詩〕林暗草驚㆑風、將軍夜引㆑弓。❷反抗する。叛く。

【援㆑弓】163（ユミヲヒク）　引㆑弓に同じ。

【牽㆑弓】164（ユミヲヒク）　引㆑弓に同じ。〔南史、齊東昏侯紀〕甚有㆓筋力㆒、牽㆑弓至㆓三斛五斗㆒。

【韔㆑弓】165（ユミヲフクロニス）　弓をゆみぶくろにをさめる。〔禮、檀弓下〕射㆑之斃㆓一人㆒、韔㆑弓。

【彎㆑弓】166（ユミヲヒク）　引㆑弓(162)に同じ。〔賈誼、過秦論〕士不㆓敢彎㆑弓而報㆑怨。〔崔融、擬古詩〕彎㆑弓射㆓小棘㆒。

【弓小手】167（ユゴテ）　弦の衝擊を防ぐために、左臂を被ふ具。たまき。〔運步色葉集〕弓小手、弓籠手。

【弓太郞】168（ユミタラウ）　❶昔、弓場始の時の射手の頭をいふ。又、賭弓などで、弓の支配をする者。〔齋藤親基日記、文正二年正月十七日〕。❷射場で、第一番に出る射手。〔高忠聞書〕一番弓太郞、其次三どめのまへ弓。

【弓以招㆑士】169（ユミハモッテシヲマネク）　士を招くには弓を以てする。弓旌(84)を見よ。〔左氏、昭、二十〕弓以招㆑士、皮冠以招㆓虞人㆒。

【弓折箭盡】170（ユミヲレヤツク）　戰鬪力が盡きて戰へなくなること。百計盡きて奈何ともしがたい喩。刀折矢盡。〔景德傳燈錄、十七、吉州靈巖慧宗禪師〕定慧出㆓法堂外㆒歎曰、今日擬㆑打㆓羅山寨㆒、弓折箭盡也、休、休。

【弓灣式樣】171　kung¹ wan¹ shih⁴ yang⁴　弓形。

【弓必待㆑檠而後能調】172（ユミハカナラズケイヲマッテシカルノチニヨクトトノフ）　弓はゆみだめにかけられて始めて正しく調ふ。人は必ず師に從つて、始めて身を修めることができる喩。檠は、ゆみだめ。〔淮南子、脩務訓〕弓必待㆑檠而後能調、劍待㆑砥而後能利。

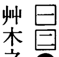
【弓】9693

ダイ　乃(**1−113**)の古字。〔正字通〕弓、古文乃作㆓𠄎・弖㆒、篆作㆓弓・弖㆒、舊注弓爲㆓古文乃字㆒、蓋沿㆓篆形㆒而譌。

參考　弓(**4−9692**)・弓(**4−9694**)・弓(**4−9700**)は別字。〔康熙字典、辨似、四字相似〕弓、音宮、弓矢。弓、乃本字。弓、含上聲、弓嘾也。弓、古及字。

【𢎘】9694

🈩カン ゴン 〔集韻〕戶感切 感
🈔カン ゴン 〔集韻〕胡南切 覃 ㄏㄢˊ han²

小篆 

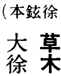
🈩🈔㊀**つぼみ**。〔說文〕𢎘、嘾也、艸木之𠌶未㆑發函然、象形、讀若㆑含。〔徐灝、說文解字注箋〕華之菡萏、謂㆓之𢎘㆒、芙蕖華最大、遂專㆓其名㆒、𢎘、卽菡萏之合聲、其小者、謂㆓之蓓蕾㆒。㊁或は吗(**2−3262**)に作る。〔集韻〕𢎘、或、从㆑口。㊂注音符號の韻符の一。附聲韻母。單母音ㄚを發すると同時に（實際は發音に關係する舌の位置はㄚより稍〻前方に移る）舌の前部は上升して、舌尖音のㄋを以て收聲すれば此の音となる。アヌ。an 正形はㄢ。

解字 象形。本義を含（ふくむ）とし、草木の華の未だひらかずして函然たる貌にかたどる。莖のはしに蕾のついてゐるさま。〔說文通訓定聲〕𢎘、嘾也、艸木之𠌶未㆑發函然、象形、讀若㆑含、象㆓莖耑蓓蕾之形㆒也。

參考 弓(**4−9692**)・𠄎(**4−9693**)・弓(**4−9700**)は別字。〔康熙字典、辨似、四字相似〕弓、音宮、弓矢。𠄎、乃本字。𢎘、含上聲、𢎘嘾也。弓、古及字。

【𢎙】9695

ケン ゲン 〔集韻〕胡先切 先

小篆（徐鉉本） 

草木のつぼみがおほい。〔說文〕（大徐本）𢎙、艸木𢎘盛也、从㆓二𢎘㆒。〔集韻〕𢎙、說文、艸木𢎘盛也。

解字 會意。𢎘の字を二つ合す。𢎘は蕾、つぼみを二つ合して蕾のおほい意とする。

參考 𢎙(**4−9712**)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕𢎙、音賢、草木盛也・𢎙、古乃字。

一畫

【𢎗】9696

ダン 彈(**4−9865**)に同じ。〔正字通〕𢎗、弘・彈同、見㆓六書故㆒。

參考 弖(**4−9697**)・弓(**4−9702**)は別字。〔康熙字典、辨似、三字相似〕𢎗、同㆑彈。弖、同㆑卪。弓、同㆑卷。

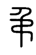
【弖】9697

セツ 節(**8−26243**)に同じ。〔正字通〕弖、舊註、卽卪字、按㆓六書㆒、骨卪・符卪、篆作㆑弖、隸作㆑節。〔康熙字典〕弖、說文篆卪字。

參考 𢎗(**4−9696**)・弓(**4−9702**)は別字。〔康熙字典、辨似、三字相似〕𢎗、同㆑彈。弖、同㆑卪。弓、同㆑卷。

【弔】9698

🈩テウ 〔集韻〕多嘯切 嘯 ㄉㄧㄠˋ tiao⁴
🈔テキ チャク 〔集韻〕丁歷切 錫

小篆 

🈩㊀**とむらふ**。とぶらふ。㋑死をいたむ。もと弔(**4−9706**)に作る。〔正字通〕弔、篆作㆑弔。〔說文〕弔、問㆑終也、从㆓人弓㆒、古之葬者、厚衣㆑之以㆑薪、故人持㆑弓、會敺㆑禽也、弓、蓋往復弔問之義。〔玉篇〕弔、弔㆑生曰㆑唁、弔㆑死曰㆑弔。㋺靈魂をなぐさめる。〔史記、賈生傳〕爲㆑賦以弔㆓屈原㆒。㋩くやみをいふ。遺族をなぐさめる。〔禮、曲禮上〕知㆑生者弔、知㆑死者傷。〔注〕弔傷皆謂㆑致㆓命辭㆒也。㊁**みまふ**。〔莊子、山木〕孔子圍㆓於陳蔡之閒㆒、七日不㆓火食㆒、太公任往弔㆑之。〔史記、宋微子世家〕魯使㆓臧文仲弔㆒㆑水。〔注〕集解曰、賈逵曰、問㆑凶曰㆑弔。㊂**とふ**。安否をたづねる。〔孟子、滕文公下〕三月無㆑君、則弔。㊃**いたむ**。**なげく**。〔詩、檜風、匪風〕中心弔兮。〔傳〕弔、傷也。〔左氏、僖、二十四〕昔周公弔㆓二叔之不㆒㆑咸。〔注〕弔、傷也。㊄**あはれむ**。〔詩、小雅、節南山〕不㆑弔㆓昊天㆒。〔集傳〕弔、愍也。〔左氏、襄、十四〕有㆑君不㆑弔。〔注〕弔、恤也。㊅**よしとする**。〔孔子家語、終記解〕昊天不㆑弔。〔注〕弔、善也。㊆**わにの類**。一名、吉弔。〔正字通〕弔、龍種曰㆑弔。〔廣州記〕弔、生㆓嶺南㆒、蛇頭龜身、水宿木棲、其脂至輕利、能透㆑物、一名吉弔。㊇**つる**。**つるす**。**かける**。弔橋(21)を見よ。㊈**千錢をいふ**。〔四友齋叢說〕。㊉俗に吊(**2−3291**)に作る。〔字彙〕吊、俗弔字。⓫**ひきよせしらべる**。〔福惠全書、刑名部、人命上、檢驗〕別委㆓他官㆒、別弔㆓仵作㆒。⓬［現］もちだす。🈔**いたる**。𨑩(**11−38745**)に同じ。〔爾雅、釋詁〕弔、至也。〔集韻〕𨑩、說文、至也、或省。〔詩、小雅、天保〕神之弔矣、詒㆓爾多福㆒。〔傳〕弔、至。

解字 會意。もと弔に作る。人と弓との合字。人を葬り薪で屍を蔽ふ時、弓で禽獸を驅除する意。

參考 吊と弔とは、もと同字。ただ我が國では、吊はつる、弔はとむらふの意に慣用する。

【弔案】1 tiao⁴ an⁴ 事件を提起する。

【弔意】2（テウイ） 悲みとむらふ心。哀悼の心。

【弔慰】3（テウヰ） 喪中の人をとむらひ慰める。〔梁書、文學上、劉昭傳〕祖、伯龍、居㆓父憂㆒以㆑孝聞、宋武帝敕㆓皇太子諸王㆒竝往弔慰。

【弔引】4（テウイン） 他地方の商人が貨物を運んで或る土地の關門を入る時、輸送貨物に對する官給の證明書を關門に懸けて關吏の閱に供すること。引は免許證。〔明律、戶律、課程、匿稅〕入㆑門不㆑弔㆑引、同㆓匿稅法㆒。

【弔影】5（テウエイ） 訪ねとむらふ姿。訪ねとむらふ人の身をいふ。又、訪ねとむらふ人の寂しい姿。影は、孤影悄然などの影で、形・姿・像の意。〔北史、房彥謙傳〕遂使㆓禾黍生㆒㆑廟、霧露沾㆑衣、弔影撫心、何嗟及矣。〔杜甫、秋日夔府詠懷詩〕弔影夔州僻、回腸杜曲煎。〔陸游、鄰山縣道上作詩〕客路一身眞弔影、故園萬里欲㆑招㆑魂。

【弔炎】6 tiao⁴ yen² 芥子の粉末のやうな刺戟性の藥を病者の皮膚に敷いて、病を外に引き出すこと。皮膚が紅色になるからいふ。引赤。

【弔歌】7（テウカ） とむらひのうた。悼歌。

【弔賀】8（テウガ） とむらひといはひ。慶弔。〔左氏、文、九〕諸侯相弔賀也、雖㆑不㆑當㆑事、苟有㆑禮焉、書也。

【弔孝】9（テウカウ） 他人の父母の喪のくやみにゆくこと。〔通典、禮〕凡賓客來弔孝、皆當㆑位、東階下西面。〔李商隱雜纂、失本體〕弔孝不㆑哀。

【弔拷】10（テウカウ） つりあげてせめる。〔福惠全書、刑名部、賊盜上、審盜〕預先私行㆓弔拷㆒、失㆓凶禮體㆒。

【弔客】11（テウカク） ㊀とむらひに來る客。弔者。〔吳志、虞翻傳、注〕生無㆓可㆑與語㆒、死以㆓青蠅㆒爲㆓弔客㆒。〔老學庵筆記、三〕秦檜既死、葬㆓於建康㆒、有㆓蜀人史叔夜者㆒、懷㆓雞絮㆒號㆓慟墓前㆒、其家人大喜、因厚遺㆑之、遂爲㆓弔客㆒。㊁叢辰の名。歲の凶神。此の方位に向つて興造・問病・尋醫・弔孝・送喪を忌む。〔協紀辨方書、利用二、喪門弔客〕紀歲曆曰、喪門所㆑理之地、不㆑可㆓興舉㆒、弔客所㆑理之地、不㆑可㆓興造及問病・尋醫・弔孝・送喪㆒。㊂tiao⁴ k'ê⁴ ㋑縊死人。㋺ばくちうち。

【弔鶴】12（テウカク） 弔客をいふ。晉の陶侃の弔客が鶴に化したといふ故事。〔晉書、陶侃傳〕爲㆓江夏太守㆒、後以㆓母憂㆒去㆑職、嘗有㆓二客㆒來弔、不㆑哭而退、化爲㆓雙鶴㆒、沖㆑天而去、時人異㆑之。〔庾信、周車騎大將軍贈小司空宇文顯墓誌銘〕室進㆓巢雋㆒、門通㆓弔鶴㆒。〔李白、自㆓溧水㆒道哭㆓王炎㆒詩〕海內故人泣、天涯弔鶴來。

【弔起】13（テウキ） つりあげる。〔福惠全書、刑名部、監禁〕將㆓犯人足㆒弔起、頭下向臥。

【弔詭】14（テキキ） 大いに俗と異なること。一說に、憰恑の意で、人をいつはりたぶらかすこと。〔莊子、齊物論〕丘也與㆑女、皆夢也、予謂㆓女夢㆒、亦夢也、是其言也、其名爲㆓弔詭㆒。〔釋文〕弔、音的、至也、詭、異也。〔馬敍倫義證〕朱駿聲曰、詭、借爲㆑恑、倫按、弔當㆑作㆑憰、憰、從㆓矞聲㆒、矞字從㆑矛、云云、其矛字、形與㆓金文弔字㆒相似、故憰字爛奪

成レ弔、傳寫成レ弔、說文曰、憰、權詐也、恑、變也。

【弔旗】15 テウキ 不幸を悲しみとむらふ意を表はすために掲げるはた。半旗。

【弔儀】16 テウギ とむらひの儀式。〔清國行政法汎論、皇室、國禮權〕凡君主之家有二吉禮一、則爲二國之賀典一、或有二凶禮一、則爲二國之弔儀一、擧國人民、相共慶弔。

【弔屈】17 テウクツ 屈原の靈を弔ふ。楚の屈原が五月五日に汨羅（今の湖南省長沙府湘陰縣）に投じて死んだといふ傳說に本づいて後人が其の死を哀傷し、此の日に舟を浮べて、其の靈を弔ふこと。弔屈原文を見よ。〔荊楚歲時記〕按、五月五日、爲三屈原投二汨羅一、傷二其死一、故竝命二舟檝一以拯レ之。〔顏延之、和二謝監靈運一詩〕弔レ屈汀洲浦、謁レ帝蒼山蹊。〔韓翃、桂客遊二江南一詩〕遙想汨羅上、弔レ屈秋風初。

〖弔屈原文〗18 テウクツゲンノブン 文章の名。漢の賈誼が長沙王の大傅となつた時、湘水を渡つて其の左遷を悲しみ、屈原に託して不遇を歎じた賦。史記の賈生傳、文選卷六十、古文眞寶後集に載錄す。〔賈誼、弔屈原文序〕誼爲二長沙王太傅一、既以レ謫去、意不二自得一、及レ渡二湘水一、爲レ賦以弔二屈原一、屈原、楚賢臣也、被レ讒放逐、作二離騷賦一、其終篇曰、已矣哉、國無レ人兮、莫二我知一也、遂自投二汨羅一而死、誼追二傷之一、因自喩。

【弔會】19 テウクワイ とむらひあつまる。〔後漢書、馬援傳〕賓客故人、莫二敢弔會一。

【弔棺】20 テウクワン 棺をひきよせる。〔福惠全書、莅任部、稟帖贅說〕弔レ棺開驗、動須二旬月一。

【弔橋】21 テウケウ つりばし。釣橋。鐵索などで吊り支へて架した橋。〔武備志〕亦稱二釣橋一、城濠上所レ設之橋、可二以起落一者、其制上施二二鐵環一、貫以二鐵索一、副以二廂繩一、繫二屬於城樓上一、橋後去レ城約三步、立二二柱各長二丈五尺一、上置二熟鐵轉輪一爲レ槽、以架二鐵索一、城外有レ警、則城上挽起以斷二其路一、亦以護レ門。〔福惠全書、保甲部、建築〕視二門大小一、造以二弔橋一、如二運河閘座橋式一。

【弔卷】22 テウケン 試驗の答案を取出す。〔通俗編、政治、弔卷〕青藤山人路史、釣・調字、今俱作レ吊、如二吊生員考試・吊文卷查勘一俱誤、吊生員、應レ作レ調、吊文卷、應レ作レ釣也、寓圃雜記、移文中字、有二日用不レ知所レ自而未レ能レ正者一云云、弔、本傷也、愍也、今云二弔卷・弔冊一、有二索取之義一。

【弔驗】23 テウケン ひきだしてしらべる。〔福惠全書、刑名部、問擬〕弔二驗身契一。

【弔言】24 テウゲン とむらひのことば。

【弔唁】25 テウゲン とむらふこと。弔は死者をとむらひ、唁は生者をとむらふこと。〔詩、鄘風、載馳、歸唁二衞侯一、疏〕若對二弔レ死曰レ弔、則弔レ生曰レ唁。〔列女傳、仁智、許穆夫人傳〕許夫人馳驅、而弔二唁衞侯一。〔說苑、脩文〕賓客弔唁、無二不レ哀者一。

【弔喭】26 テウゲン 弔唁に同じ。〔世說新語、任誕上〕阮步兵喪レ母、裴令公往弔レ之、阮方醉、散レ髮坐レ牀、箕踞不レ哭、裴至、下席二於地一哭、弔喭畢便去。

【弔古】27 テウコ 古をとむらふ。舊事に感じていたみかなしむ。〔朱熹、短句奉二迎荊南幕府一詩〕弔レ古寧忘レ恨、開レ尊且破レ愁。〔林景熙、詩〕寥落一觴誰弔レ古、漁郎烟景客平分。

【弔哭】28 テウコク とむらひ哭する。〔漢書、賈山傳〕古之賢君、於二其臣一也、尊二其爵祿一而親レ之、疾則臨二視之一、亡レ數、死則往弔二哭之一。

【弔查】29 テウサ ひきとらへてしらべる。〔福惠全書、錢穀部、解給〕上司一時弔查、揭開不レ便。

【弔災】30 テウサイ 災難に遭つた人を訪ひ慰める。〔左氏、文、十五〕兄弟致レ美、救レ乏、賀レ善、弔レ災、祭敬、喪哀、情雖レ不レ同、毋レ絕二其愛一、親之道也。

【弔祭】31 テウサイ 死者の靈をとむらひまつる。又、そのこと。〔後漢書、班超傳〕使者弔祭、贈賵甚厚。〔魏志、田疇傳〕乃往弔祭。〔李華、弔二古戰場一文〕弔祭不レ至、精魂無レ依。

【弔窓】32 テウサウ 推出してつり上げる窓戶。〔宣和遺事、前集下〕四壁挂二山水翎毛一、打二起綠油弔窓一、看二修竹湖山之景一。

【弔喪】33 テウサウ 喪をとむらふ。〔禮、禮運〕諸侯非二問レ疾弔レ喪、而入二諸臣之家一。〔後漢書、禰衡傳〕衡曰、文若可二借レ面弔レ喪、稚長可レ使二監廚請レ客。〔注〕典略曰、衡見二荀儀容一、但有レ貌耳、故可レ弔レ喪。

【弔葬】34 テウサウ 葬をとむらふ。〔周禮、秋官、小行人〕若國札喪則令二賻補レ之、疏〕案、宗伯云、以二喪禮一哀二死亡一、此云三國札喪則令二賻補レ之、彼據レ弔葬致レ哀、此據レ設二財物一補二其不足一也。

【弔冊】35 テウサツ 引合せの帳簿。〔福惠全書、莅任部、查二交代一清查之法〕歷年經管弔冊、亦易二稽查一。

【弔子】36 tiao^4 tzŭ 藥罐。

【弔死】37 テウシ ❶人の死をとむらふ。〔史記、燕召公世家〕燕王弔レ死問レ孤。〔孔子家語、子路初見〕不レ得二弔レ死問レ疾。❷首をつつて自殺する。縊死。又、其の人。〔福惠全書、刑名部、人命下、驗二各種死傷一法〕人于二家中一弔死、移レ屍外掛者、亦有二兩痕一、原痕紫有二血痕一、移痕白無二血痕一。

【弔使】38 テウシ くやみのつかひ。〔開元禮〕其賵賻之禮、與二弔使一俱行、則有司先備二物數一。

【弔祠】39 テウシ とむらひまつる。〔史記、秦紀〕五十六年秋、昭襄王卒、子孝文王立、尊二唐八子一爲二唐太后一、而合二其葬於先王一、韓王衰經入弔祠、諸侯皆使三其將相來弔祠視二喪事一。〔史記、楚世家〕楚王使三春申君弔二祠于秦一。〔後漢書、楚王英傳〕持レ節弔祠。

【弔紙】40 tiao^4 chih^3 葬式に燃す紙。

【弔詞】41 テウシ 人の死を悼み悲しむ意をのべることば。くやみのことば。弔辭。弔文。

【弔詩】42 テウシ 人の死を悼み悲しむ意を詠じた詩。〔蘇軾、弔二李臺卿一詩〕我初未レ識レ君、人以レ君爲レ笑。

【弔事】43 テウジ 天子が人をつかはして諸侯・諸臣をとむらふこと。〔周禮、天官、宰夫〕凡邦之弔事、掌三其戒令、與二其幣器財用凡所レ共者一。〔注〕弔事、弔二諸侯・諸臣一也。

【弔辭】44 テウジ 弔詞（41）に同じ。〔禮、喪服大記、君稱レ言、疏〕君稱レ言者、稱擧也、君擧二其所レ來之言一、謂二弔辭一也。

【弔車】45 tiao^4 chʻe^1 起重機(**10－37048**··20「1)をいふ。

【弔者】46 テウシヤ くやみに來た者。〔儀禮、士喪禮〕弔者致レ命。〔孟子、滕文公上〕弔者大悅。

〖弔者在門賀者在閭〗47 テウシヤモンニアリガシヤリヨニアリ 弔者が家門に在り、賀者が之に繼いで既に里門に到る。禍を憂へ恐れてゐるうちに、福が來る。禍福は互に表裏をなしてゐる喩。〔唐書、柳玭傳〕董生有レ云、弔者在レ門、賀者在レ閭。〔蘇軾、遷二居臨皐亭一詩〕未レ見レ可二弔賀一。〔王注〕董仲舒曰、弔者在レ門、賀者在レ閭、言二憂則恐懼、恐懼則福至一、賀者在レ門、弔者在レ閭、言二受レ福則驕奢、驕奢則禍至一。

【弔床】48 tiao^4 chʻuang^2 吊床。ハンモツク。

【弔牀】49 tiao^4 chʻuang^2 弔床に同じ。

【弔傷】50 テウシヤウ 死をとむらひいたむ。死者をとむらひ祭る。〔管子、君臣下〕夫賞重則上不レ給也、罰虐則下不レ信也、是故、明君飾二食飲弔傷之禮一。〔注〕飲食謂二享燕一、弔傷謂二喪祭一也。

【弔取】51 テウシユ 帳簿を取り寄せて對看調查する。〔福惠全書、莅任部、查二交代一清查之法〕本任徵收、弔三取流水日收串根、與二拆封庫簿一、查二對均同一。

【弔恤】52 テウジユツ とむらひあはれむ。〔劉跂、謝二執政一啓〕貶降之秩未レ還、弔恤之恩尙闕。

【弔書】53 テウシヨ ❶とむらふ文章。又、くやみの手紙。〔風俗通、正失〕（賈誼）遷爲二長沙太傅一、既之レ官、內不二自得一、及レ渡二湘水一、投二弔書一。〔開元禮〕使者取二弔書一、持レ案者退復レ位。❷書物をつるして置くだけで、利用を知らぬこと。弔書子を見よ。

〖弔書子〗54 テウシヨシ 腐儒をいふ。〔還魂記、祕議〕正是天下少レ信弔書子、世外有レ情持素人。

【弔水】55 テウスイ ❶水害をみまふ。〔史記、宋世家〕齊桓公卽位九年、宋水、魯使二臧文仲往弔レ水。〔注〕集解曰、賈逵曰、問レ凶曰レ弔。❷ tiao^4 shuei^3 水をくみ上げる。

【弔襚】56 テウスイ 天子から諸侯・諸臣の死者に衣服を遺ること。〔周禮、天官、宰夫、凡邦之弔事、疏〕凡喪、始死、弔而含襚、葬而賵賻、其閒加二恩厚一、則有レ賻焉。〔儀禮、士喪禮、襚者入衣レ尸出主人拜送如レ初唯君命出、注〕唯君命出、以明二大夫以下、時來弔襚不レ出也。

〖弔襚祠賵〗57 テウスイシボウ 天子から諸侯・諸臣の死者に衣服・飲食・車馬を遺ること。〔漢書、景帝紀〕王薨、遣二光祿大夫一、弔襚祠賵、視二喪事一。〔注〕應劭曰、衣服曰レ襚、祠、飲食也、車馬曰レ賵。

【弔生】58 テウセイ 生きのこつてゐる人を弔慰する。〔左氏、隱、元〕贈レ死不レ及レ尸、弔レ生不レ及レ哀。

【弔睛】59 テウセイ つりあがつた眼。〔水滸傳、楔子〕弔睛白額、錦毛大蟲。

【弔線】60 tiao⁴ hsien⁴ おもりを下げる紐。錘線。

【弔贈】61 テウソウ 天子が死者に贈物をすること。〔說苑、敬愼〕先君薨而不二弔贈一。〔唐書、百官志一〕凡出二蕃冊一授二弔贈一者、給二衣冠一。

【弔打】62 テウダ しばつて打つ。〔福惠全書、蒞任部、馭衙役〕不レ令下鞭二毆衙役一弔中打馬牌上。

【弔朶】63 テウダ 婦人の首飾。〔東京夢華錄〕公主出降、有二宮嬪數十一、皆眞珠釵插・弔朶玲瓏。

【弔壇】64 テウダン 弔祭を行ふために土を高く盛つたところ。

【弔場】65 テウヂヤウ 芝居の舞臺などで、後に一人殘つて見渡すこと。〔長生殿、禊游〕小生、淨、先下、丑、弔レ場、叫介。

【弔梯】66 tiao⁴ tʻi¹ エレベーター。電梯。

【弔鳥】67 テウテウ 山名。雲南省大理縣の西北にある。〔水經、葉楡河注〕漢武帝元封二年、使二唐蒙開一レ之、以爲二益州郡一、郡有二葉楡縣一、縣西北八十里有二弔鳥山一、衆鳥千百爲レ羣、其會鳴呼啁哳、每歲七八月至、十六七日則止、一歲六至、雉雀來弔、夜燃レ火伺取レ之、其無レ嗉不レ食、似二特悲者一、以爲レ義則不レ取也、俗言下鳳凰死二于此山一、故衆鳥來弔上、因名。

【弔奠】68 テウテン 死者へのおくり物。香奠。〔大學衍義補、明二禮樂一、家鄉之禮〕今世俗於二親賓來弔奠一、往往設レ席以待レ之。

【弔電】69 テウデン 弔意を表明するための電報。

【弔桶】70 テウトウ つるべ。釣瓶。〔水滸傳、一回〕那心頭、一似二十五箇弔桶七上八落的響一。

【弔藤】71 テウトウ 草の名。鉤藤の異名。かぎかづら。〔本草、釣藤〕釋名、弘景曰、出二建平一、亦作二弔藤一、療二小兒一。

【弔砲】72 テウハウ 弔意を表はすために放つ禮砲。

【弔膀】73 tiao⁴ pang⁴ 富貴の裝ひをして婦女子をたらし、金錢を捲上げることを業とする者。

【弔伐】74 テウバツ とむらふこととうつこと。其の君を伐ち、其の民を慰問する。〔張鳳翼、喜雨賦〕仰二弔伐於成湯一者、象レ之而親二其澤一、美二匡襄於傳說一者、比レ之而大二其功一。〔宣和遺事、後集〕我興レ兵來此弔伐。〔千字文〕弔レ民伐レ罪、周發殷湯。

【弔愍】75 テウビン あはれみとむらふ。〔詩、大雅、常武、不レ留不レ處、疏〕由三弔二愍其民一、故不二久留處一。

【弔賻】76 テウフ 死者をとむらふために贈る金品。〔歐陽脩、孫明復墓誌銘〕相與弔賻、治二其喪一。

【弔服】77 テウフク とむらひの時に著る衣。〔通典、禮〕朋友弔服有レ絰。

【弔文】78 テウブン 文體の名。死者をとむらひ、愛惜痛悼の情を致すもの。其の體に四言體と騷體とがある。〔東晳、弔二衞巨山一文序〕赴二其喪一、作二弔文一篇一、以告二其柩一。〔文體明辯、弔文〕按、弔文者、弔レ死之辭也、劉勰云、弔者、至也、詩曰、神之弔矣、言二神至一也、賓之慰レ主、以三至到一爲レ言、故謂二之弔一、古者弔レ生曰レ唁、弔レ死曰レ弔、亦此意也、或驕貴而殞レ身、或狷忿而乖レ道、或有志而無レ時、或美才而兼レ累、後人追而慰レ之、並名爲レ弔、若三賈誼之弔二屈原一、則弔之祖也、然不レ稱レ文、故不レ得レ列二之此篇一、而後人又稱爲レ賦、則其失愈遠矣、其有下稱二祭文一者上、則幷列レ之、以二其實爲一レ弔也、其文濫二觴於唐末一、故有下弔二戰場一、弔二鑄鐘一之作上、今亦附レ焉、大抵弔文之體、髣二髴楚騷一、而切要惻愴、似二稍不一レ同、否則華過韻緩、化而爲レ賦、其能逃二乎奪レ倫之譏一哉、作者熟二讀乎所レ列之文一、庶三乎有二以得一レ之矣。

【弔勉】79 テウベン なぐさめはげます。〔後漢書、虞詡傳〕初除之日、士大夫皆見二弔勉一。

【弔民】80 テウミン 人民を慰問する。暴虐の君を討伐して人民を救ふこと。〔魏明帝、櫂歌行〕伐レ罪以弔レ民、清二我東南疆一。〔宋書、索虜傳〕弔レ民伐レ罪、積二後己之情一。〔沈約、應レ詔樂遊苑餞二呂僧珍一詩〕伐二罪芒山曲一、弔二民伊水滸一。〔千字文〕弔レ民伐レ罪、周發殷湯。

【弔名】81 テウメイ 名譽を求める。釣名。〔論衡、自紀〕不二鬻レ智以干一レ祿、不二辭レ爵以弔一レ名。

【弔問】82 テウモン ❶たづねなぐさめる。又、其の人。〔後漢書、東夷、高句麗傳〕宜下遣二弔問一、因責二讓前罪一、赦不レ加レ誅、取中其後善上。❷死者を弔ひ、病人を見舞ふこと。〔後漢書、荀爽傳〕時人多不レ行二妻服一、雖レ在二親憂一、猶有下弔二問喪疾一者上。

【弔勞】83 テウラウ 勞苦をとひなぐさめる。〔周禮、夏官、太僕〕掌二三公孤卿之弔勞一。〔周禮、夏官、小臣〕掌二士大夫之弔勞一。

【弔晾】84 テウリヤウ つりあげさらす。〔福惠全書、郵政部、腰站〕有下隙地可三以弔二晾馬匹一之處上。

【弔臨】85 テウリン 往いてとむらふ。又、其のこと。〔周禮、天官、世婦〕掌三弔二臨于卿大夫之喪一。〔周禮、春官、內宗〕凡卿大夫之喪、掌二其弔臨一。〔注〕王后弔二臨諸侯一而已。

【弔禮】86 テウレイ ❶死者をとむらふ禮。〔禮、雜記下〕婦人非二三年之喪一、不二踰レ封而弔一、如三年之喪、則君夫人歸、以二諸侯之弔禮一。❷禍をみまふ禮。〔周禮、春官、大宗伯〕以二弔禮一哀二禍烖一。〔注〕禍烖謂二水火一、宋大水、魯莊公使二人弔一焉、曰、天作二淫雨一、害二於粢盛一、如何不レ弔。〔孫詒讓正義〕說文人部云、弔、問レ終也、案、弔之本義、爲レ弔レ喪、引申爲二弔烖之通語一。

【不レ弔】87 アハレマズ フテウ あはれまない。慈愛がない。又、他人の喪をいたまないこと。〔詩、小雅、節南山〕不レ弔昊天。〔左氏、襄、十三〕君子以レ吳爲二不弔一。〔會箋〕不弔、不レ恤二人之喪一也。

【弔合戰】88 トムラヒガツセン 前役の戰死者を弔ふための仇討ち合戰。〔甲陽軍鑑、十下〕父の弔合戰する心ばせ。

【弔腳痧】90 tiao⁴ chiao³ sha¹ 病名。霍亂病の俗稱。霍亂(**12－42321・45**)を見よ。

【弔鐘花】91 テウシヨウクワ 草花の名。吊鐘に似てゐるから名づく。〔粵遊小志〕弔鐘花、一苞數葩、狀如二弔鐘一、色紅、以二九鐘者一佳。

【弔皮襖】92 tiao⁴ pʻi² ao³ 裏に皮毛をつけた皮襖。

【弔琵琶】93 テウビハ 戲曲の名。清、尤侗撰。王嬙の事を演じたもので、漢宮秋雜劇にもとづく。

【弔襪帶】94 tiao⁴ wa⁴ tai⁴ 靴下止。

【弔胆提心】95 tiao⁴ tan³ tʻi² hsin¹ 心中びくびくする。

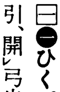
【弔簿清理】96 テウボセイリ 帳簿に引き合はせて勘定の始末をする。〔福惠全書、陞遷部、清二監倉一〕監羈人犯、時宜二弔簿清理一、固不レ俟二卸レ任日一、爲レ然也。

【弔半零三兒錢】97 tiao⁴ pan⁴ ling² san¹ êrh chʻien² 十五錢三厘。僅かの錢。

【引】
9699

[一]イン〔集韻〕以忍切 ㄧㄣˇ yin³ 軫

[二]イン〔集韻〕羊進切 震


小篆

[一]❶ひく。㋑弓をひく。〔說文〕引、開レ弓也、从二弓丨一。〔孟子、盡心上〕引而不レ發。〔集注〕引、引レ弓也。㋺綱や車などをひく。〔禮、王制、五十不レ從二力征一、疏〕力征、挽引築作之事。〔楚辭、劉向、九歎、遠遊〕回二朕車一俾二西引一。㋩張りわたす。〔南史、章昭達傳〕江上横二引大索一、編レ葦爲レ橋。㋥たなびく。〔張說、大唐封禪頌〕千旗雲引、萬戟林行。㋭みちびく。〔集韻〕引、一曰、導也。〔左氏、文、六〕引二之表儀一。〔注〕引、道也。〔史記、韓長孺傳〕奉引墮レ車蹇。〔注〕集解曰、爲二天子一導引。㋬ひきよせる。ひきいれる。〔禮、檀弓上〕喪服、兄弟之子、猶レ子也、蓋引而進レ之也。〔注〕牽引進レ之、同二於己子一。〔國語、晉語八〕引レ黨以封レ己。〔注〕引、取也。〔張衡、西京賦〕五都貨殖、既遷既引。〔注〕綜曰、引、致也、善曰、云云、引、謂レ納二之於此一。〔江淹、恨賦〕濁醪夕引。㋣まねく。〔晉書、庾冰傳〕廣引二時彥一、詢二於政道一。㋠ひきぬく。ひきだす。〔淮南子、俶眞訓〕引二楯萬物一。〔注〕引楯、拔擢也。〔素問、離合眞邪論〕候レ呼引レ鍼。〔注〕引、謂二引出一。㋷あげもちひる。〔陳書、世祖紀〕隨レ才銓引、庶レ收二力用一。㋦ひきたてる。ひいきする。推薦する。〔史記、灌夫傳〕兩人相爲引重。

〔注〕集解曰、張晏曰、相薦達爲㆓聲勢㆒。㋸引用する。證據・根據・例證などとして引用する。〔何休、公羊傳序〕援㆓引他經㆒、失㆓其句讀㆒。〔中庸、子曰射有㆑似㆓乎君子㆒云云、章句〕子思引㆓孔子之言㆒、以結㆓上文之意㆒。㋾ながくする。のばす。つづける。〔爾雅、釋詁〕引、長也。〔詩、小雅、楚茨〕子子孫孫、勿㆑替引㆑之。〔傳〕引、長也。〔班固、典引、注〕邕曰、引、伸也、長也、云云、漢紹㆓其緒㆒、伸而長㆑之也。〔後漢書、班固傳〕作㆓典引篇㆒。〔注〕引、猶㆑續也。〔繁欽、與㆓魏文帝㆒牋〕喉囀引㆑聲。〔張衡、思玄賦〕取㆓蜀禪㆒而引㆑世。〔注〕衡曰、引、長也。㋻ひさしくつづく。〔爾雅、釋訓〕子子孫孫、引無㆑極也。〔釋文〕引、長多也。〔字彙〕引、久也。㋕ながくひく。聲が長くのびる。〔王勃、上巳浮㆑江宴序〕榜歌齊引、漁歌互起。㋵時を經る。〔傳亮、爲㆓宋公㆒謁㆑陵表〕淹㆓引時月㆒。㋟うべなふ。承知する。引受ける。せめを負ふ。〔後漢書、光武紀上〕深引㆑過而已。〔後漢書、明帝紀〕深自引㆑咎。〔魏書、刑罰志〕或拷不㆓承引㆒。㋹ひきつる。ちぢむ。收縮する。〔素問、五常政大論〕是謂㆓收引㆒。〔注〕引、斂也。〔素問、至眞要大論〕是謂㆓收引㆒。〔注〕引、謂㆑急也。〔素問、痿論〕帶張不㆑引。〔注〕引、謂㆓牽引㆒也。㋞しりぞく。しりぞける。〔禮、玉藻〕必引而去㆓君之黨㆒。〔注〕引、卻也。〔戰國、齊策〕軍乃引退。❷のびる。盛になる。〔國語、齊語〕國家不㆓日引㆒。〔注〕引、申也。❸つづく。つらなる。〔沈約、愍㆓衰草㆒賦〕秋鴻兮疏引、寒鳥兮聚飛。〔江淹、悼㆓室人㆒詩〕蜻引知㆓寂寥㆒。〔張率、舞馬賦〕雀躍燕集、鵠引鳧飛。❹ひろがる。はびこる。〔孔子家語、入官〕民引而不㆑從。〔注〕引、宏也。〔元史、烏古孫澤傳〕枝連蔓引。❺つらねる。のべる。引疾(69)・引年(138)の❸を見よ。〔爾雅、釋詁〕引、陳也。❻うるほす。かざる。〔釋名、釋姿容〕引、演也。❼すすむ。進發する。〔顏延之、北使㆑洛詩〕臨㆑塗未㆑及㆑引。〔注〕善曰、引、猶㆑進也。❽ただす。〔左氏、昭、元〕引㆓其封疆㆒。〔注〕引、正也。❾あらそふ。〔管子、五輔〕上下交引而不㆓和同㆒。〔韓非子、說難〕引爭而不㆑罪。〔翼毳〕引、亦爭也。〔漢書、梅福傳〕資質忠直、敢面引廷爭。❿死ぬ。自殺する。責を引いて自殺する。〔潘岳、寡婦賦〕甘損㆑生而自引。〔注〕善曰、自引、自殺也。⓫とも。朋友。〔殷仲文、南州桓公九拜詩〕逸爵紆㆓勝引㆒。〔注〕勝引、勝友也、引、猶㆑進、良友所㆓以進㆑己、故通呼曰㆓勝引㆒。⓬ながさ。〔元史、輿服志三〕縱引橫引三丈。⓭長さの單位。十丈。〔漢書、律歷志上〕一黍之廣、云云、一爲㆓一分㆒、十分爲㆑寸、十寸爲㆑尺、十尺爲㆑丈、十丈爲㆑引、而五度審矣。⓮長さ十丈のものさし。〔漢書、律歷志上〕用㆑竹爲㆑引、高一分、廣六分、長十丈。⓯ただす。尹(**4-7631**)に通ず。〔說文通訓定聲〕引、段借爲㆑尹。〔左氏、昭、元〕引㆓其封疆㆒。〔注〕引、正也。⓰てがた。小切手。〔宋史、食貨志下五〕令㆔商人入㆓芻糧塞下㆓、云云、授以㆓要券㆒、謂㆓之交引㆒、至㆓京師㆒、給以㆓緡錢㆒。⓱紙幣。〔金史、食貨志下五〕復㆓鈔引法㆒、遂製㆓交鈔㆒、與㆑錢並用。⓲許可證。㋑官營品の販賣免許證。〔宋史、食貨志下六〕產茶州軍、許㆓其民赴㆑場輸息㆒、量㆓限斤數㆒、給㆓短引於旁近㆒、郡縣便㆑鬻、云云、凡不㆑限㆓斤重㆒茶、委㆓官司㆒秤製、毋㆑得㆓止憑㆒、批㆑引爲㆑定、有㆓贏數㆒、即沒㆑官。㋺鹽の運輸許可證。宋の鹽鈔は一鈔を以て鹽三百斤を輸送することを許したが、後、鈔法を廢す。元に至つて引を以て代へ、一引を以て鹽四百斤の輸送を許した。〔續文獻通考、征榷考〕至元三十年二月、改㆓造鹽引㆒、自㆑平㆓江南㆒後、鹽引未㆑經㆓更改㆒、至㆑是、從㆓中書省奏㆒、令㆘戶部從㆓新印㆒造㆖。⓳鹽の重さの單位。一引(許可證一枚)ごとに輸送を許可される重量を以て計る單位。現今は一引は二袋から成る。明初は元の制に依つたが、後、二百斤一袋のものを一小引、六百斤一包のものを一大引といふ。清は元・明の制に依らず、百斤以上、數千斤に至る。〔續文獻通考、征榷考〕元太宗二年、始行㆓鹽法㆒、每鹽一引、重四百斤、價銀十兩。⓴樂府の一體。事の本末を順序よくのべたもの。〔文體明辯、樂府〕述㆓事本末㆒、先後有㆑序、以抽㆓其臆㆒曰㆑引。〔王勃、滕王閣序〕敢竭㆓鄙誠㆒、恭疏㆓短引㆒。㉑文體の名。序文に似たもの。〔文體明辯、引〕按、唐以前文章、未㆑有㆓名㆑引者㆒、漢班固雖㆑作㆓典引㆒、然實爲㆓符命之文㆒、如㆓雜著㆒、命題各用㆓己意㆒耳、非㆔以㆑引爲㆓文之一體㆒也、唐以後、始有㆓此體㆒、大略如㆑序、而稍爲㆓短簡㆒、蓋序之濫觴也、若㆓其名㆑引之義㆒、難㆓妄臆說㆒、俟㆓博聞者㆒詳㆑之。㉒樂曲。㋑聲を引き拍子をつける小曲。宋代には六拍子のもの。㋺ふし。しらべ。〔馬融、長笛賦〕故聆㆓曲引㆒者。〔注〕善曰、引、亦曲也。〔嵆康、琴賦〕曲引向㆑闌、衆音將㆑歇。〔注〕善曰、引、亦曲也。〔柳宗元、王氏伯仲唱和詩序〕雅引更和。㉓古は抙(**5-11809**)に作る。〔集韻〕引、古从㆑手。㉔姓。〔萬姓統譜〕引、見㆓姓苑㆒。㉕［現］㋑役者が舞臺にあらはれる。㋺呑む。㋩旅券。

［二］❶柩車のひきづな。〔儀禮、既夕禮〕屬㆑引。〔注〕引、所㆔以引㆓柩車㆒、在㆓軸輴㆒曰㆑紼、古人引㆑柩。❷たづな。〔集韻〕引、牽㆑牛紖也。❸むながひ。靷(**12-42735**)に通ず。〔說文通訓定聲〕引、段借爲㆑靷。〔荀子、王霸〕結㆑引馳㆑外。〔注〕引、讀爲㆑靷。❹樂曲。音樂のふし。曲引。〔集韻〕引、一曰、曲引也。〔樂府詩集、琴曲歌辭〕古琴曲有㆓五曲九引㆒、云云、九引、一曰列女引、二曰伯妃引、三曰貞女引、四曰思歸引、五曰霹靂引、六曰走馬引、七曰箜篌引、八曰琴引、九曰楚引。［邦］❶ひく。㋑つれる。㋺ひきずる。㋩ゑがく。一線を劃す。㋥へらす。のぞく。㋭ひそかにぬすむ。㋬さそふ。いざなふ。㋣ためす。こころみる。㋠ひいきにする。㋷まきちらす。㋦あたへる。引出物とする。㋸ゆあみする。㋾接頭語の一。❷ひき。㋑ひきたて。ひいき。㋺ひきでものの略稱。㋩ひきあはせがみの略稱。㋥つて。緣故。㋭江戶時代、災害をうけた田の租稅を減免すること。

［名乘］ ヒサ。ノブ。

［解字］ 會意。弓と丨との合字。丨はすすむ、卽ち開く意。從つて、引は弦を次第に引き開く意。弓に弦を施すを張といひ、矢が弦を制して之を開き、次第に滿つるを引といひ、既に滿つるを彎といふ。又、引伸して申・陳・道・引長などの意に用ひる。〔說文〕引、開㆑弓也、从㆓弓丨㆒。〔說文通訓定聲〕按、弓施㆑弦曰㆑張、矢括㆓檃弦㆒開㆑之由㆑漸而滿曰㆑引、已滿曰㆑彎。

【引誘】1 イン イウ いざなふ。誘引。引動。〔宋書、廬陵

王義眞傳〕引㆓誘情性㆒、導㆓達聰明㆒。

〖引誘逃走〗2（インイウタウソウ） かどはかしてにげさる。〔六部成語、刑部、引誘逃走、注解〕甘㆓騙人子女㆒、引㆑之逃去也。

【引腰】3（ヒキゴシ） 女子の正裝用の裳の左右に取り附ける裝飾用の紐。〔新六帖、五〕わぎも子がみもの引腰。

【引曜】4（インエウ） 光を引く。光を長く流し引く。光をかがやかす。〔張衡、西京賦〕流景內照、引㆓曜日月㆒。〔注〕綜曰、言㆔皆朱畫華采、流㆓引日月之光耀於宇內㆒。〔江總、芳林園天淵池銘序〕南北紆縈、虹蜺之所㆑引㆑曜。〔崔融、代賀㆓明堂㆒表〕三辰引㆑曜、相㆓望於複道之閒㆒。

【引繹】5（インエキ） 絲をひきつむぐ。〔喬潭、素絲賦〕典絲瞻臨、帨氏引繹。

【引越】6（ヒツコシ） 引きこすこと。やうつり。轉居。〔皇都午睡、三上〕宿替へ・變宅を江戶にては引越といふ。

【引鹽】7（インエン） 政府賣買の鹽。字解❿を見よ。〔續文獻通考、征榷考〕洪武時、歲辨㆓大引鹽六萬三千一百五十三引有奇㆒。〔淸會典事例、戶部、鹽法、長蘆〕二十二年奏准、長蘆引鹽、每斤加㆓價二文㆒。

【引援】8（インエン） ひく。ひつぱる。ひきつれる。又、つれだつ。〔莊子、山木〕東海有㆑鳥焉、其名曰㆓意怠㆒、其爲㆑鳥也、翂翂翐翐而似㆑無㆑能、引援而飛、迫脅而棲、進不㆓敢爲㆑前、不㆓敢爲㆑後。

【引河】9（インカ） 河をひく。人工で掘り開いて川から水を引くこと。又、其の河。〔史記、河渠書〕乃厮㆓二渠㆒、以引㆓其河㆒。〔史記、河渠書〕朔方・西河・河西・酒泉、皆引㆓河及川谷㆒以漑㆑田。〔漢書、溝洫志〕滎陽下引㆑河、東南爲㆓鴻溝㆒。〔六部成語、工部、引河、注解〕引㆓水他流之支河㆒也。

【引考】10（インカウ） 壽命を長く保つ。〔書、洛誥〕無㆑有㆑遘㆓自疾㆒、萬年猒㆓于乃德㆒、殷乃引㆑考。〔蔡傳〕殷人亦永㆓壽考㆒也。

【引行】11 yin³ hsing² 人を導いてゆく。道案內する。

【引吭】12（インカウ） のどぶえを引きのばす。鳥の鳴くこと。轉じて、歌者の發聲をいふ。〔禽經〕搏則利㆑觜、鳴則引㆑吭。〔宋史、陳洪進傳〕陳洪進在㆓泉州㆒、日方晝、有㆔蒼鶴翔㆓集內齋前㆒、引㆑吭向㆑洪進。

【引港】13 yin² chiang³ 汽船が港灣に出入する時、水先案內をすること。

【引號】14 yin³ hao⁴ 標點符號の一種。引用語の始と終とに付する『』・「」をいふ。

【引額】15（インガク） 官鹽を販賣する許可額。字解の❾を見よ。〔淸會典事例、戶部、鹽法、兩浙〕十年覆准、兩浙鹽務、由㆔票運改辦㆓票綱㆒、每年共認㆓引額三十三萬六千六百引㆒、實徵㆓銀五十萬七千二百四十七兩㆒。

【引喝】16（インカツ） 聲を長く引いて叫ぶ。〔東齊遺事〕引喝傳呼。

【引合】17（ヒキアハセ） ❶㋑引きあはせること。紹介。〔傾城島原蛙合戰、二〕。㋺照らし合はせること。帳簿の引合など。㋩鎧の胴の前と後とを引締めて合はせる所。鎧の右脇の脇立の上。〔平家物語、七、忠度都落事〕。㊁引合紙の略。〔貞丈雜記、紙類〕。❷（ヒキアヒ）㋑賣買の取引。又、其の證書。㋺まきぞへ。連累。〔小町踊〕。㋩引證。引合人の略。〔牧民金鑑、一〕。

〖引合紙〗17′（ヒキアハセガミ） 昔、男女を引合はせる艷書用の皺のない檀紙。みちのくがみ。後には普通の檀紙の異稱となる。ひき。

〖引合人〗17″（ヒキアヒニン） 訴訟事件の關係者として法廷に召喚せられ、審理・判決の材料を提供させられる人。證人・參考人など。ひきあひ。

【引岸】18（インガン） 引地(120)に同じ。〔淸會典事例、戶部、鹽法、長蘆〕今擬除㆘津武口岸並永平七屬、均近㆓灘坨㆒不㆖計外、其餘直隸各引岸、並蘆鹽所㆑行引岸、請㆘每包於㆓向斤兩之外㆒、酌㆗加二十斤㆖。

【引氣】19（インキ） ❶氣息を用ひて吹く。又、樂器などを吹く時に出す氣息。〔魏文帝、典論論文〕至㆔於引㆑氣不㆑齊、巧拙有㆑素、雖㆑在㆓父兄㆒、不㆑能㆔以移㆓子弟㆒。〔注〕良曰、譬如㆓簫管之類㆒者、言㆓其用㆑氣吹㆑之、各不㆑同也。❷道家の鍊氣の術。〔春秋繁露、循天之道〕天氣常下施㆓於地㆒、是故、道者亦引㆓氣於足㆒。

【引起】20 yin² ch'i³ ひきおこす。惹起。

【引戲】21（インギ） 五花爨弄の一。女形の役者。〔夢粱錄、妓樂〕且謂、雜劇中末泥爲㆑長、每㆓一場㆒四人或五人、先做㆓尋常熟事一段㆒、名曰㆓豔段㆒、次做㆓正雜劇㆒、通名㆓兩段㆒、末泥色主張、引戲色分付、副淨色發喬、福末色打諢、或添㆓一人㆒、名曰㆓裝孤㆒、先吹曲破斷送、謂㆓之把色㆒、大抵全以㆓故事㆒、務在㆓滑稽㆒。〔輟耕錄、院本名目〕院本則五人、一曰㆓副淨㆒、古謂㆓之參軍㆒、一曰㆓副末㆒、古謂㆓之蒼鶻㆒、鶻能擊㆓禽鳥㆒、末可㆑打㆓副淨㆒、故云、一曰㆓引戲㆒、一曰㆓末泥㆒、一曰㆓孤裝㆒、又謂㆓之五花爨弄㆒。〔莊嶽委談〕引戲、卽末也、而元雜劇之末、乃今戲中之生。

【引咎】22（インキウ） とがめをひきうける。責を負ふ。引責。引愆。〔後漢書、明帝紀〕深自引㆑咎。〔吳志、孫權傳〕權信㆓任校事呂壹㆒、壹性苛慘、用㆑法深刻、大臣莫㆓敢言㆒、後壹姦罪發露伏㆑誅、權引㆑咎責㆑躬。〔王義之、又遺㆓殷浩㆒書〕引㆑咎責㆑躬。〔北史、周武帝紀〕大旱、公卿各引㆑咎自責、其夜澍雨。

【引強】23（インキヤウ） ❶強い弓を引く。〔後漢書、第五倫傳〕引㆑強持㆑滿、以拒㆑之。❷漢代、強い弓を引く官。引彊。〔漢書、周勃傳〕材官引強。〔注〕服虔曰、能引㆓強弓弩㆒官也、孟康曰、如㆓今挽強司馬㆒也。

【引彊】24（インキヤウ） 漢代、強い弓をひく官。挽彊司馬の類。引強。〔史記、絳侯周勃世家〕材官引彊。〔注〕集解曰、漢書音義曰、能引㆓彊弓㆒官、如㆓今挽彊司馬㆒也。

【引鏡】25（インキヤウ） ❶鏡をひきよせる。かがみを手にとる。〔後漢書、朱浮傳〕引㆑鏡窺㆑影。〔王融、三月三日曲水詩序〕引㆑鏡皆明㆑目。〔注〕善曰、蜀人任永、乃託㆓目盲㆒、及㆓述誅㆒、永澡盥、引㆑鏡自照曰、時淸目明。❷かがみを細く引きのばす。〔神仙傳〕孫博能引㆑鏡爲㆑刀、屈㆑刀爲㆑鏡。

【引卻】26（インキヤク） ひきのく。ひきしりぞく。

【引弓】27（インキユウ） ❶弓術に巧なこと。又、射に巧な人。匈奴をいふ。〔史記、匈奴傳〕長城以北、引弓之國、受㆓命單于㆒。〔漢書、李陵傳〕悉擧㆓引弓之民㆒、共攻㆓圍之㆒。〔司馬遷、報㆓任少卿㆒書〕悉徵㆓其左右賢王㆒、擧㆓引弓之人㆒。〔注〕善曰、漢書曰、匈奴至㆓冒頓㆒最強大、置㆓左右賢王㆒、以㆓其善射㆒、故曰㆓引弓之人㆒。❷弓を引く。弓を射る。〔戰國、楚策〕更嬴謂㆓魏王㆒曰、臣爲㆑王引㆑弓、虛發而下㆑鳥。〔盧綸、和㆓張僕射塞下曲㆒詩〕林暗草驚㆑風、將軍夜引㆑弓。

【引去】28（インキヨ） 誘ひ去る。〔吳子、料敵〕必先示㆑之以㆑利、而引㆓去之㆒。

【引據】29（インキヨ） 引いてよりどころとする。又、ひきごと。〔後漢書、荀爽傳〕引㆓據大義㆒、正㆓之經典㆒。

【引御】30（インギヨ） 引きよせてとぎをさせる。〔後漢書、順烈梁皇后紀〕遂以爲㆓貴人㆒、常特被㆓引御㆒。

【引金】31（インキン） ❶黃金を引き出す。〔雲笈七籤〕撥㆑霧開㆑日、汰㆑沙引㆑金。❷（ヒキガネ） 小銃等を發火させるために裝置した彎曲せる金具。〔國姓爺後日合戰、二〕鐵砲の引きがね。

【引磬】32（インキン） 佛小さい磬。手磬。之を打つて衆を引き導く。〔禪林象器箋、十八〕。

【引火】33（インクワ） 火を導く。火がつく。導火。

〖引火點〗34（インクワテン） 可燃性物體が燃え始めるに要する最低溫度。

【引過】35（インクワ） ❶あやまちの責任を負ふ。引責。〔後漢書、光武紀上〕深引㆑過而已。❷拘引すること。〔大學衍義補、愼㆓刑憲㆒、議㆓當㆑原之辟㆒〕乃詔、自㆑今三品以上犯㆑罪、不㆑須㆓引過㆒、聽㆘於㆓朝堂㆒俟㆗進止㆖。

【引課】36（インクワ） 鹽稅をいふ。鹽を販賣するに、若干斤を以て一引とし、引に按分して稅を課する。引稅。字解の❿を見よ。〔淸會典事例、戶部、鹽法〕又題准、直隸省宣化東西兩城・深井堡三處、將㆓額引㆒除去、聽㆘民自行㆓煎鹽㆒、包㆗納引課㆖。

【引迴】37（ヒキマハシ） ❶引きまはすこと。❷圓形に切りぬくに用ひる小さいのこぎり。❸德川時代、斬罪以上に課した附加刑。本刑執行前に、犯人を束縛したまま馬に乘せ、罪狀を紙幟に記し、府內・犯罪地などを引き廻して公衆に示したこと。〔御定書百箇條〕。

【引壞】38 yin³ huai⁴ 人を導いて惡くする。「惑する。だます。

【引喤】39（インクワウ） さきばらひ。〔通雅、禮儀〕引喤、卽騶唱也、梁制、令・僕・中丞、各給㆓威儀十人㆒、武冠絳韝、皆呼入㆑殿、引喤至㆑堦、一人執㆓儀囊㆒不㆑喤。

【引經】40（インケイ） ❶經書の文を引きのばす。〔杜預、春秋左氏傳序〕又引㆑經、以至㆓仲尼卒㆒。❷經書

の文を引用する。〔杜甫、同㆓元使君舂陵行㆒詩〕賈誼昔流慟、匡衡常引㆑經。

【引經據典】41（インケイキヨテン） 經書を引用し典故に據る。〔後漢書、荀爽傳〕引㆓據大義㆒、正㆓之經典㆒。

【引頸】42（インケイ） くびをのばす。待望・期待・思慕の心を以て遠くを眺め望む動作。引領。延頸。〔唐書、甄濟傳〕祿山反、使㆓蔡希德封㆑刀召㆒㆑之曰、即不㆑起、斷㆓其頭㆒見㆑我、濟色不㆑動、使者持㆑刀趨前、濟引㆑頸待㆑之。〔宋史、朱台符傳〕中外引㆑頸、觀㆓聽德音㆒。

【引擎】43 yin³ chʻing² 機關。發動機。engineの音譯。

【引繼】44（ヒキツグ ヒキツギ） 後を受けつぐ。又、そのこと。

【引決】45（インケツ） 責を負うて自ら處置する。責めを負うて自殺する。〔漢書、王嘉傳〕君侯宜㆓引決㆒。〔司馬遷、報㆓任少卿㆒書〕及㆓罪至㆒㆑罔加、不㆑能㆓引決自裁㆒、云云、且夫臧獲婢妾、由能引決。〔潘岳、西征賦〕激㆓義誠㆒而引決。

【引訣】46（インケツ） 引決に同じ。〔隋書、薛道衡傳〕帝怒令㆓自盡㆒、道衡殊不㆑意、未㆑能㆓引訣㆒。〔資治通鑑、陳紀〕（宣帝、太建十二年）逼令㆓引訣㆒。〔注〕漢書多作㆓引決㆒、謂㆓引㆑分自裁㆒也、訣、別也。

【引結】47（インケツ） 引きよせ結ぶ。又、近づき交はる。引はひきよせる、結は交はる。〔莊子、外物〕相引以㆑名、相結以㆑隱。〔注〕相結以㆑隱、謂㆔相結以㆓私恩㆒。

【引夾】48（インケフ） 左右から引き持つ。又、其の人。〔唐書、儀衞志上〕朱雀隊建㆓朱雀旗㆒、一人執、引夾皆二人。

【引見】49（インケン） ㊀引き入れて對面する。呼び寄せてあふ。延見。引接。〔左氏、定、四〕王使㆑見、〔注〕王喜㆓其意㆒、欲㆘引㆓見之㆒以比㆗王臣㆖。〔漢書、董賢傳〕召㆓大司馬賢㆒引㆓見東廂㆒。〔後漢書、寇恂傳〕恂至引見。〔風俗通、過譽〕引見詰問。〔陳書、虞寄傳〕文帝尋勅㆓都督章昭達㆒、以㆑理發遣、令㆓寄還㆒㆑朝、及㆑至、即日引見。㊁導き會はせる。陸補すべき官員を皇帝に謁見させること。〔六部成語、吏部、引見、注解〕應㆓陸補㆒之員、吏部引㆓見皇帝㆒。㊂清代、吏部の題奏により、君主が謁見を賜ひて後、官吏を黜陟することをいふ。〔清會典事例、吏部、滿洲銓選〕於㆓每年十月㆒、查辦一次、帶領引見。〔清國行政法汎論、官吏分限、京察、引見〕引見者、謂㆔吏部題奏、君主賜㆑謁、後行㆓黜陟㆒。

【引牽】50（インケン） ひく。牽引。〔韓愈、示㆑爽詩〕日昏不㆑能㆑散、起坐相引牽。

【引嫌】51（インケン） 嫌疑をさける。疑をさけて責任をとる。〔宋史、賈易傳〕蘇轍爲㆓中丞㆒、易引㆓前嫌㆒求㆑避、改㆓度支員外郎㆒。〔郤埽編〕近歲、中書舍人當㆑制、而兄弟有㆓除授㆒、多引㆑嫌俾㆘以㆓次官㆒行㆖。

【引愆】52（インケン） 責を負ふ。引咎。愆は過失。〔後漢書、皇后上、鄧皇后紀〕克㆑己引㆑愆、顯㆓揚仄陋㆒。〔蜀志、諸葛亮傳〕引㆑愆深自貶抑。

【引賢】53（インケン） 賢者をあげ用ひる。〔韓詩外傳、七〕知㆑賢、智也、推㆑賢、仁也、引㆑賢、義也。

【引繭】54（ヒキマユ） 一疋の蠶の作った繭。ひとつまゆ。〔古今和歌集、十一〕引繭のいとかく身をも。

【引言】55（インゲン） ㊀他人の言を引用する。〔日知錄、引㆑古必用㆓原文㆒〕凡引㆓前人之言㆒、必用㆓原文㆒。㊁yin³ yen² 序文。

【引戶】56（インコ） ㊀つらなる家。又、戶毎に。〔禮、王制、凡三王養㆑老皆引㆑年、注〕引戶校㆑年。㊁（ヒキド）敷居と鴨居の溝にはめて左右に引き交へて開閉する戶。やりど。開戶（11－41233・・130）の㊂㋑の對。

【引業】57（インゴフ） 佛來世の果報を引き起すべき力のある吾人の所業。〔俱舍論〕若由㆓宿世善業引發㆒、生㆓於人中㆒、則感㆓貧窮困乏㆒、受㆓諸苦惱㆒、是名㆓引業㆒。

【引佐】58（イナサ） ㊀姓氏。〔和爾雅〕。㊁遠江國の地名。

【引柴】59 yin³ chʻai² 附木。つけぎ。

【引罪】60（インザイ） 罪をひきうける。引咎。〔重野成齋、橋本景岳墓表〕其遭㆓訊鞫㆒、務引㆓罪於己㆒。

【引爭】61（インサウ） あらそふ。ただしあらそふ。諫諍。〔韓非子、說難〕深計而不㆑疑、引爭而不㆑罪、則明㆓割利害㆒、以致㆓其功㆒。〔翼毳〕史記、引作㆑交、引、亦爭也、管子五輔篇云、上下交引而不㆓和同㆒、左昭元年傳云、引㆓其封疆㆒、注、引、正也。

【引窓】62（ヒキマド） 屋根に開いた窓。日光を入れ、又竈の烟を排出する。天窓。〔五元集〕飼猿の引窓つたふ時雨かな。

【引錯】63 yin³ tsʻuo⁴ 案內し誤る。

【引札】64（ヒキフダ） 商賣などの廣告として諸方に配る紙片。〔浮世風呂、四上〕藥の引き札を團扇へ張って。

【引算】65（ヒキザン） 一數から他數を引去る算法。減法。

【引子】66（インシ） ㊀子を引連れる。〔杜甫、晴詩〕啼烏爭引㆑子、鳴鶴不㆑歸㆑林。㊁藥をよくきかせるための補助藥。〔燕子箋、入闈〕此劑藥、是甚麼引子、我好去煎。㊂樂曲の開始。〔琵琶記、高堂稱慶〕正宮引子。㊃yin³ tzŭ ㋑梗概。要點。主意。㋺酵母。㋩櫛の一。けすぢたて。

【引之】67（インシ） 明、屈伸（4－7669・・77）の字。

【引視】68（インシ） 案內して見せる。〔福惠全書、蒞任部、戒躁怒〕多托㆑故繞避、不㆑爲㆓引視㆒。

【引疾】69（インシツ） 病氣を理由とする。病氣を口實にする。引は、陳述する。〔唐書、裴度傳〕太和四年、數引㆑疾、不㆑任㆓機重㆒。〔唐書、李光弼傳〕安思順、愛㆓其材㆒、欲㆓以㆑子妻㆒㆑之、光弼引㆑疾去。〔王珪、富弼乞㆑罷不㆑允詔〕引㆑疾以屢辭。

【引日】70（インジツ） 日をつづける。日を經る。〔何承天、安邊論〕必未㆑能㆔摧㆑鋒引㆑日、規㆓自開張㆒。

【引商】71（インシヤウ） ㊀商調の樂を奏する。〔宋玉、對㆓楚王問㆒文〕引㆑商刻㆑羽、雜以㆓流徵㆒、國中屬而和者、不㆑過㆓數人㆒而已。〔閻伯璵、歌賦〕或引㆑商刻㆑角、或潰㆑渭通㆑涇。㊁yin³ shang¹ 鹽の特許販賣を許された商人。清代、鹽若干斤を以て一引とするに由る。字解の㊅を見よ。

【引翔】72（インシヤウ） 港の名。江蘇省上海縣の東北。又、尹翔港といふ。水傍に市街がある。

【引觴】73（インシヤウ） さかづきを手にとる。〔柳宗元、始得㆓西山㆒宴游記〕引㆑觴滿酌、頹然就㆑醉。

【引請】74（インジヤウ） 佛禪林で、未だ坐作進退を知らない沙彌を引導して教授する者をいふ。〔禪林象器箋、八〕引請阿闍梨。

【引繳】75（インシヤク） いぐるみをひく。〔潘岳、西征賦〕收㆑罟課㆑獲、引㆑繳舉㆑效。

【引手】76（インシユ） ㊀手を引く。他人の手を引くこと。〔儀禮、鄕飮酒禮、賓厭㆑介、注〕引㆑手曰㆑厭。㊁手をのばす。〔蘇軾、眞興寺閣詩〕側㆑身送㆓落日㆒、引㆑手攀㆓飛星㆒。㊂弓を引く者。〔宣和遺事、前集下〕宋江天曉谷將㆓文字㆒呈㆓押差董平㆒、引手三十人、至㆓石竭村㆒、根捕。㊃（テヒキ）㋑障子や襖等の、開閉に便するために設けた、手を掛ける所。㋺導く人。誘ふ人。

【引手茶屋】77（ヒキテヂヤヤ） 遊廓で、遊客を案內する茶屋。

【引取】78（インシユ） ㊀獲得する。〔穀梁、哀、十四〕西狩獲㆑麟、引㆓取之㆒也。〔注〕言㆔引㆓取之㆒、解㆓經言㆒㆑獲也。〔北史、郭榮傳〕護令㆘榮督㆓便㆑水者㆒引㆗取其筏㆖。㊁（ヒキトリ）受け取ること。引き取ること。

【引受】79（ヒキウケ） 爲替手形の支拂人が手形金額の支拂の債務を負擔すること。

【引樹】80（インジユ） 清、李超孫（6－14459・・1790）の號。

【引楯】81（インジユン） 拔き出す。ひきぬく。〔淮南子、俶眞訓〕引㆓楯萬物㆒、羣美萌生。〔注〕引楯、拔擢也。

【引證】82（インシヨウ） 證據を引く。又、引かれた證據。〔南史、王儉傳〕每博議引證、先儒罕㆑有㆓其例㆒。〔聞見後錄〕老蘇云、學者於㆑文用㆓引證㆒、猶㆔訟事之用㆓引證㆒也、既引㆓一人㆒得㆓其事㆒、則止矣、或一人未㆑能㆑盡、方可㆓他引㆒。

【引繩】83（インジヨウ） ㊀繩をひく。繩を張る。〔史記、叔孫通傳、爲㆓綿蕞㆒、注〕索隱曰、韋昭云、引㆑繩爲㆑綿、立㆑表爲㆑蕞。㊁（ヒキナハ）物にかけて引く繩。

【引繩批根】84（インジヨウヘイコン） 繩をつけて引き、根こそぎとりはらふ。二人が繩をより合はせるやうに力を合はせ、他を排してそれと交はらぬようにすること。一說に、人の枉れるを正し、其の株を鋤くことで、報復して憾みを晴らすをいふ。〔史記、灌夫傳〕灌夫家居、雖㆑富然失㆑勢、卿相侍中賓客益衰、及㆓魏其侯失㆒㆑勢、亦欲㆜倚㆓灌夫㆒引㆚繩批㆛根生平慕㆑之、後棄㆑之者㆙。〔注〕集解曰、蘇林曰、二人相倚引㆑繩直㆑之、意批㆓根賓客㆒也、棄㆑之者、不㆓與交通㆒也、孟康曰、根、根括、引㆑繩以持彈、索隱曰、案、劉氏云、二人相倚、事如㆑合㆑繩、共相依引也、批、音步結反、批者、排也、漢書作㆓排根㆒、小顏云、根、音痕、括、音汩、謂㆘人生平慕㆓嬰夫㆒、後見㆓其失㆒㆑職而頗弛慢、如㆑此者、共排㆓退之㆒、不㆗復與交㆖也、譬㆑如㆔相對挽㆑繩而根㆓括之㆒也。〔中井履軒、史記雕題〕引㆑繩、規㆓人之枉㆒也、批㆑根、鋤㆓其株㆒也、俱謂㆔報復而究㆑之、以逞㆓其憾㆒。

【引色】85（ヒキイロ） 引き退かうとする樣子。まけいろ。〔太平記、先帝船上山行幸事〕寄手已に引色に

成つて。

【引申】85′ インシン 引伸に同じ。

〔引申義〕85″ インシンギ 一つの意味から引き延ばして用ひる他の意味。申は伸と同義。引伸を見よ。〔經解入門、說レ經必先識二文字一〕字有レ義、義不レ一、有二本義一、有二引申義一、有二通借義一。

【引伸】86 インシン ひきのばす。應用する。融通する。運用する。引申。引申義を見よ。〔說文、循行也、段注〕引伸爲二撫循一、爲二循循有一レ序。

〔引伸觸類〕87 インシンシヨクルイ 一つの原理を引きのばして類似の他のものを導き出すことと、一つの原理を類似の他のものの上に推し及ぼして解決を計ること。〔易、繫辭上〕引而伸レ之、觸レ類而長レ之。〔疏〕引而伸レ之者、謂下引二長八卦一而伸中盡之上、謂三引レ之爲二六十四卦一也。觸レ類而長レ之者、謂下觸二逢事類一而增中長之上、若觸二剛之事類一、以レ次增二長於剛一、若觸二柔之事類一、以レ次增二長於柔一。〔國朝漢學師承記、惠周惕〕精擘三十年、引伸觸類、始得三貫二通其旨一。

【引身】88 インシン 身を退ける。〔宋玉、神女賦〕遷延引レ身、不レ可二親附一。

【引信】89 yin³ hsin⁴ 着發信管。

【引進】90 インシン ㊀ひきすすめる。ひきたてる。擧げ用ひる。〔南史、劉峻傳〕有二高才一者、多被二引進一。〔南史、江智深傳〕智深常爲二其首一、同侶未レ及レ前、輒獨蒙二引進一。㊁案內する。連れて入る。引進使を見よ。

〔引進使〕91 インシンシ 官名。宋、置く。其の官署を引進司といひ、使・副使等の官があり、蕃國が進奉する禮物を掌る。金にも此の官を置く。〔宋史、職官志六〕引進司使副各二一人、掌二臣僚蕃國進奉禮物之事一。〔金史、百官志二〕引進使、正五品、副使、從六品、掌レ進二外方人使貢獻禮物事一。

〔引進人〕92 yin³ chin⁴ jen² 小作の仲介者。

【引入】93 インジン ㊀案內人。〔周禮、天官、宮正〕幾二其出入一。〔疏〕有二門籍及引入一、乃得二出入一也。㊁人を引き入れる。他人を自分の仲間として引き入れること。〔唐律、斷獄〕諸囚在レ禁妄引レ人爲二徒侶一者、以二誣告罪一論、卽本犯應レ死、仍準二流徒一加二杖及贖法一。

【引水】94 インスイ ㊀水を引く。水流を導く。〔史記、高祖紀〕引レ水灌二廢丘一。〔魏志、鄧艾傳〕宜レ開二河渠一、可二以引レ水澆溉一。〔南史、戴顒傳〕聚レ石引レ水、植レ林開レ澗、少時繁密、有レ若二自然一。㊁yin² shuei³ 水先案內をする。

〔引水人〕95 yin² shuei³ jen² 水先案內者。

【引雛】96 インスウ 雛を引き連れる。〔白居易、歸來二周歲詩〕池藕重生レ葉、林鵶再引レ雛。

〔引雛詩〕97 インスウシ 子供の出生を祝ふ詩。〔白居易、談氏外孫生三日喜二是男一偶吟成レ篇兼戲呈二夢得一詩〕明日貧翁具二雞黍一、應須三詶二賽引レ雛詩一。〔自注〕前年談氏外孫女初生、劉夢得有二賀詩一云、從レ此引二鵷雛一、今幸是男、前言似レ有レ徵、故云。

【引騶】98 インスウ 前に立つて案內する。〔南史、王僧孺傳〕引騶清レ道。

【引聲】99 インセイ ㊀聲を長く引く。聲に節つけること。〔繁欽、與二魏文帝一牋〕喉囀引レ聲、與レ笳同レ音。㊁〖佛〗インジヤウ 佛名、又は經文、若しくは偈頌を唱へる曲節ある音聲。〔根本說一切有部毘奈耶雜事、六〕苾芻不レ應二歌詠引聲一。

〔引聲念佛〕100 インジヤウネンブツ 〖佛〗聲明法に依つて長く聲を引いて唱へる念佛。〔天台座主記、天台霞標二之二〕。

【引稅】101 インゼイ 鹽稅をいふ。引課。字解の㊉を見よ。〔清會典事例、戶部、鹽法、兩淮〕今永順・永綏、增設引目、原議照二吉安一例一、納課行銷、吉安口岸、並無二引稅之例一、免三其輸二納稅銀一。

【引紹】102 インセウ 明、顏孕紹(**12－43591**··194)の一名。　「又、其のこと。

【引責】103 インセキ せめをひく。責任を引き受ける。

【引籍】104 インセキ 引人と門籍。案內人と宮門の出入に示す名札。〔周禮、天官、宮正、幾二其出入一、注〕鄭司農云、幾二其出入一、若下今時宮中、云云、無二引籍一、不上レ得レ入二宮司馬殿門一也。〔疏〕先鄭引二今時一者、謂二漢法一、言二引籍一者、有二門籍及引人一、皆得二出入一也。〔史記、外戚世家〕詔二副車一載レ之、廻レ車馳還、而直入二長樂宮一、行詔レ門著二引籍一。〔注〕正義曰、武帝道上詔、令レ通二名狀於門一、使三引入至二太后所一。

【引接】105 インセツ ㊀引き入れて面會する。引見。〔晉書、陶侃傳〕引二接疏遠一、門無二停客一。〔宋書、武帝紀上〕每二遊集一、輒引接殷勤、贈レ賜甚厚。㊁〖佛〗インゼフ 彌陀如來が來迎して衆生を極樂へ引き導くこと。〔往生要集、上〕與二無量聖衆一、同時讚嘆、授レ手引接。

【引節】106 インセツ みさをを立てて身をひく。引責。〔司馬遷、報二任少卿一書〕至二於鞭箠之間一、乃欲レ引レ節、斯不二亦遠一乎。

【引船】107 インセン ㊀船をひく。〔漢書、郊祀志上〕且レ至則風輒引レ船而去、終莫二能至一云。〔南史、孝義上、郭原平傳〕自引レ船、不レ假二旁人一。〔來南錄〕以二竹索一引レ船、乃可レ上。㊁ヒキフネ 船に繩をつけて引いて行くこと。又、其の船。

【引線】108 インセン ㊀絲を引く。〔韓愈、贈二侯喜一詩〕擧レ竿引レ線忽有レ得、一寸纔分鱗與レ鬐。㊁yin³ hsien¹ ㋑手引する。案內する。㋺縫針。

【引薦】109 インセン 紹介してとりなす。人を推薦すること。

【引奏】110 インソウ 人をひきゐて天子に奏する。〔還魂記、榜下〕正此引奏、前日先生看二定狀元試卷一。

【引卒】111 インソツ 引率に同じ。

【引率】112 インソツ ひきゐる。ひきつれる。

【引退】113 インタイ ㊀官を辭して野に下る。世事を避けて閑居する。隱退。〔吳志、呂蒙傳〕曹公引退。〔謝莊、與二江夏王義恭一牋〕前以二聖道初開一、未レ遑二引退一。〔錢起、晚歸二藍田舊居一詩〕才微甘二引退一、應レ得レ遂二霞棲一。㊁後方に退く。〔戰國、秦策〕軍乃引退、幷二於李下一。

【引帶】114 インタイ ㊀おびを引く。〔傅亮、奉二迎大駕一詩〕敷レ衽銘二篤誨一、引レ帶佩二嘉謀一。〔李端、荊州泊詩〕移レ帷望二星漢一、引レ帶思二容貌一。㊁yin³ tai⁴ ベルト。㊂ヒキオビ 袍、又は直衣等を締め結ぶ小さい帶。〔雅亮裝束抄、童殿上〕。

【引對】115 インタイ 召し入れて對面する。引見する。〔舊唐書、德宗紀〕每御二延英一、令三諸司官長二人、奏二本司事一、又敕二常參官一、每二一日一、二人引對、以訪二政事一、謂二之巡對一。〔宋史、太祖紀贊〕州郡司牧、下至二令錄幕職一、躬自引對、務レ農興レ學、愼レ罰薄レ斂、與レ世休息。〔宋史、高宗紀五〕詔、未レ經二上殿一臣僚、先令二三省審察一、然後引對。

〔引對磨勘〕116 インタイマカン 試驗官の定めた試驗成績表に對し、更に京朝官を派して、本人に面對の上、再調査をさせること。〔大學衍義補、正二百官一、嚴二考課之法一〕受代京朝官、引對磨勘、非レ有二勞績一、不レ許レ進レ秩。

【引黨】117 インタウ 仲間を引き入れる。黨派をつくる。〔國語、晉語八〕引レ黨以封レ己。〔注〕引、取也。

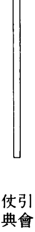
【引道】118 インダウ ㊀道にすすむ。出發する。〔後漢書、吳漢傳〕每二當出一レ師、朝受レ詔、夕卽引レ道。㊁yin³ tao⁴ 道案內をする。

【引導】119 インダウ ㊀道の案內をする。又、あんない。てびき。〔南史、王僧辯傳〕有二羣魚一、躍レ水飛レ空引導。〔異苑〕傅承爲二江夏守一、有二雙鵝一、失レ之三年、忽引二導得二十餘頭一、來向二承家一。〔桃花扇、哭主〕軍校、旗仗鼓吹引導。㊁道家の養生法の名。又、其の法を行ふこと。導引。道引。〔論衡、自紀〕服レ藥引導。〔貴耳集〕郭尚賢躭書落魄、嘗云、服レ餌引導之餘、有二二事一、乃養生之大要、梳レ頭浴レ脚、是也。㊂〖佛〗みちびく。㋑衆生をみちびいて善道に入らせる。〔法華經、方便品〕但以二假名字一、引二導衆生一。㋺葬式のとき、僧侶が死者に對して極樂往生の法を說くこと。〔百通切紙、三〕。

【引地】120 インチ 官鹽の行銷區域。鹽商が販賣を許可せられた一區域。字解の㊅を見よ。〔清會典事例、戶部、鹽法〕其引地行二銷於廣東之潮州、嘉應、福建之汀州一者、爲二大河一。

【引致】121 インチ ㊀ひきよせる。めしつれる。ひき立てる。拘引する。〔吳志、張溫傳〕溫引二致之一。〔周書、宇文深傳〕欲下引二致左右一、圖中議政事上。㊁取調べのために、權力を以て强制し、檢事局・裁判所・警察署等に出頭せしめること。

【引仗】122 インヂヤウ 清代、輿衞に用ひた杖。〔清會典圖、輿衞、引仗〕引仗、削竹、長四尺三寸八分、闊一寸七分、厚二分、髹朱、首加二圓木一、長九寸二分、闊



引杖
（清會典圖）

如レ之、厚五分、髤黃、繪二金雲龍一、通高五尺三寸。

【引杖】123 インチャウ　つゑを引きよせる。つゑを手に執る。〔韓詩外傳、八〕曾子有レ過、曾晳引レ杖擊レ之。〔柳宗元、夏初雨後尋二愚溪一詩〕引レ杖試二荒泉一、解レ帶圍二新竹一。

【引重】124 インチョウ　❶推薦して重からしめる。〔史記、灌夫傳〕兩人相二爲引重一。〔注〕集解曰、張晏曰、相薦達爲二聲勢一。❷重いものを引く。〔易、繫辭下〕服牛乘馬、引レ重致レ遠、以利二天下一、蓋取二諸隨一。

【引艇】125 インテイ　鹽引(**12－47579**‥1)を各所に分配する小船。〔六部成語、戶部、引艇、注解〕分二送鹽引於各所一之小船也。

【引鳥】126 ヒキトリ　春になつて歸り行く渡り鳥。〔續猿蓑、春〕。

【引擢】127 インテキ　引きあげて用ひる。〔北齊書、儒林傳〕張景仁、遂被二引擢一。

【引渡】128 ヒキワタシ　❶ひきわたすこと。❷拘束した人、又は占有した物を、他人に交附すること。❸賣買約定によつて、金錢と商品とを交付し合ふこと。❹本膳に盃を三つ添へた膳部。〔甲陽軍鑑、十六〕。

【引逗】129 yin³ tou⁴　誘ふ。おびき出す。〔還魂記、閨塾〕引逗小姐哩、待俺當眞打一下。

【引頭】130 イントウ　❶かうべを延ばす。〔徐積、和二倪敦復一詩〕吟行時引レ頭、吟坐卽搖レ筆。❷［佛］大法會の時、衆僧の先導を爲す僧。いんづ。〔江家次第、十三、興福寺供養〕次引頭率二衆僧等一隨レ之。

【引藤】131 イントウ　❶ふぢのつるを引く。藤の枝を茂らせる。〔陸游、書レ喜詩〕井上引レ藤初滿レ架、池南移レ竹漸成レ陰。❷ふぢづるの一。太くて中は空。古、之に酒などを盛つた。❸を見よ。❸山名。四川省忠縣の南。藤枝を產す。〔方輿勝覽〕山出二藤枝一、其大如レ指、中空可レ吸、謂二之引藤一、屈二其端一置二醅中一、注レ之如二晷漏一、本夷俗所レ尙、土人效レ之、白居易春至詩、悶取二藤枝一引レ酒嘗、卽此。〔白居易、春至詩〕閑拈二蕉葉一題レ詩詠、悶取二藤枝一引レ酒嘗。

【引鬭】132 イントウ　引き寄せて戰ふ。近づいて戰ふ。〔白居易、雞距筆賦〕似二乎奮レ拳引鬭之時一。〔宋史、兵志九〕引鬭五十二次、不レ令二刀頭至一レ地。

【引得】133 イントク　索引。index の音意譯。〔四庫全書總目引得、敍例〕引得係下由二英文 index 一字一譯出上、卽索引之改譯也。

【引慝】134 イントク　惡を負ふ。罪惡を自分の責任として引受けること。引咎。〔書、大禹謨〕帝初于二歷山一、往二于田一、日號二泣于旻天于父母一、負レ罪引レ慝。〔傳〕慝、惡、言、舜負レ罪引レ惡、敬以レ事見二于父一。〔疏〕自引二其惡一。〔蔡傳〕引レ慝、自引二其慝一、不三敢以爲二父母之慝一也。〔柳宗元、唐故秘書少監陳公行狀〕天子加二惠羣臣一、而引レ慝焉、德至厚也。

【引納】135 インナフ　ひきいれる。延納。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕引二納羣子一、置二之學官一。〔後漢書、劉陶傳〕靈帝宿二聞其名一、數引二納之一。

【引入】136 インニフ　❶はいる。〔南史、何點傳〕點以二巾褐一、引二入華林園一。❷ひきいれる。〔北史、魏道武帝紀〕諸士大夫詣二軍門一者、無二少長一皆引入。❸ヒキイレ　元服の時に、冠をとつて被らせること。又、其の人。烏帽子親。〔源氏物語、桐壺〕ひきいれの大臣のみこばらに。

【引入聲】137 ヒキイレゴヱ　かすかに物言ふこゑ。〔枕草子、二二〕ことなる事なき男のひきいれごゑして。

【引年】138 インネン　❶戶每に年齡をしらべくらべる。一說に、引は、引伸・引進で、引年は、年齡の多い者ほど恩賜を厚くする意。〔禮、王制〕凡三王養レ老、皆引年。〔注〕已而引戶校レ年。〔義疏〕陳祥道曰、引年、養老以レ年爲レ主故也。❷年齡をのばす。〔韓愈、進學解〕訾下醫師以二昌陽一引上レ年。❸年老いたことを理由とする。年老いたことを口實とする。引は、陳述する。〔金史、完顏守道傳〕秉レ政以來、效二竭忠勤一、朕甚嘉レ之、今引レ年求レ退、甚得二宰相體一。

【引馬】139 yin² ma³　❶馬・車・轎などの前に立つて案內する者。❷ヒキウマ　昔、貴人又は諸侯などの外出の際、裝飾として其の行列に加へ、引き連れた馬。〔吾妻鏡、十〕建久二年二月四日、次御引馬、次御甲著。

【引拔】140 インバツ　ひきぬく。拔擢する。〔南史、張纘傳〕後門寒素一介者、皆見二引拔一。

【引板】141 ヒキイタ　鳴子(**12－46672**‥79)に同じ。〔下學集、下、器財門〕。

【引挽】142 インバン　ひきのばす。又、ひつぱる。〔後漢書、華佗傳〕引二挽腰體一、動二諸關節一、以求レ難レ老。

【引比】143 インピ　❶引いてくらべる。〔韓愈、唐故國子司業竇（公墓誌銘）〕聖愕旋レ河犢引比、相嬰撥レ漢納二孔軌一。〔注〕引比、引以爲レ比。❷比を引くこと。比とは、類似の條項を準用した既往の判例で、其の事に該當する法令の條文がない時に、之に依據することがある。〔明律、刑律、斷獄、斷罪引律令〕其特旨斷レ罪、臨時處治、不レ爲二定律一者、不レ得二引レ比爲一レ律、若輒引レ比斷レ罪、致三罪有二出入一者、以二故失一論。

【引費】144 yin³ fei⁴　水先案內料。

【引避】145 インピ　❶引いてさける。退きさける。〔後漢書、章帝紀〕勑二侍御史司空一曰、方レ春所レ過、無レ得レ有レ所二伐殺一、車可二以引避一、引二避之一。〔唐書、蕭至忠傳〕至忠少與レ友期、諸路會雨雪、人引避、至忠曰、寧有二與レ人期一、可二以失一レ信、友至乃去。❷引退する。〔歐陽脩、乞レ出第三劄子〕引避去レ位、而以二是非曲直一付二之公議一、乃爲レ合レ理。❸裁判官が自ら事件の取扱を遠慮する手續。

【引譬】146 インピ　たとへを引く。〔淮南子、要略〕言二天地四時一、而不二引レ譬援一レ類、則不レ識二精微一。〔蔡邕、短人賦〕是以陳レ賦、引レ譬比レ偶。

【引眉】147 ヒキマユ　眉毛を剃つて其の痕に墨で描いた眉。

【引眉毛】148 ヒキマユゲ　引眉に同じ。

【引筆】149 インピツ　筆を持ち上げる。筆をとる。〔晉書、衞恆傳〕或引レ筆奮レ力、若二鴻雁高飛、邈邈翩翩一。〔元史、朶爾直班傳〕引レ筆書レ之。〔王周、落齒詞〕開レ尊復開レ懷、引レ筆作二長句一。

【引布】150 インプ　❶ぬのを引く。又、引いた布。〔晉書、天文志中〕附二漢・河一水氣、如二引布一。〔隋書、天文志下〕附二漢・河一水氣、如二引布一。❷柩車を曳くために輿の兩端につないだ白布。〔吾學錄、喪禮〕古以レ車載レ柩、挽レ車之索、謂二之引一、亦謂二之紼一、今以二整疋白布一爲レ之、繫二於杠之兩端一、前屬二於翣一、柩行、引レ布前導、禮記所謂執レ引執レ紼、皆是物也、凡有レ服親屬、皆在二引布之內一、孝子最後。

【引負】151 ヒキオヒ　❶商家の使用人が請賣（ウケウリ）して、主人に對して滯つてゐる代金。❷使用人が主人の金を使ひ込んだりして、主人に對する負債となつてゐる金。❸人に代つて賣買し、其の損失が自分の負擔となること。〔五十年忌歌念佛、下〕御主の銀を引負ひし。

【引伏】152 インプク　罪を引き受けて服する。引服。〔棠陰比事、下〕密以二他事一攝二馬生一至、對款、取二匿名書一較レ之、字無二少異一、訊鞫引伏、此乃用二淵竅レ奸之術一。

【引服】153 インプク　罪を引き受けて服する。引伏。〔資治通鑑、晉紀〕（穆帝、升平二年）人生會當二一死一、何堪二楚毒如一レ此、不レ若二引服一。〔注〕引服、自引而誣服也。

【引副】154 ヒキソヘ　乘馬にそへて引き行く馬。そへ馬。引副馬。〔鎌倉年中行事〕引副は裸馬也。

【引紼】155 インフツ　ひつぎなはをひく。〔呂覽、孟冬〕引レ紼者、左右萬人、以行レ之。

【引物】156 ヒキモノ　❶引出物(198)の略。❷祝儀などの時、客の膳部へ添へる菓子などの稱。〔榮花物語、御裳着〕御ひき物など、いひつくすべからず。

【引吻】157 インプン　くちびるをのばす。頸を延べて唇を前にさし出すこと。〔宋史、張昷傳〕阿遇袖二佩刀一、貫二大臠一啗レ昷、昷引レ吻就レ刀食レ肉、無レ所レ憚。

【引分】158 インブン　❶責任をとつて自ら處理する。自殺する。引決(45)に同じ。〔資治通鑑、漢紀〕（文帝十年）將軍薄昭、殺二漢使者一、帝不レ忍レ加レ誅、使二公卿從一レ之飲酒、欲レ令二自引分一。〔注〕引分、猶レ言二引決一也。❷咎を引きうけ分にしたがふ。〔韓愈、瀧吏詩〕官不二自謹愼一、宜二卽引分往一。❸ヒキワケ　㋑引き分けること。㋺相撲で永く勝負の決しない時、分けて中止せしめること。〔相撲今昔物語、六〕。㊇勝負をつけずに止めること。㊁古、八月の駒牽の時、國から奉る馬を院・東宮・執柄家に分け賜はること。〔江家次第、八、信濃御馬〕奏問之次、奏二引分事一。㋭比喩すること。〔俚言集覽〕。

【引票】159 インペウ　❶鹽商に發給して、鹽を運ぶことを許す鑑札。字解の❻を見よ。〔清會典事例、戶部、鹽法、長蘆〕五十三年議准、長蘆各引票、通二行直隸・河南一、鹽價每斤加二制錢二文一、以資二轉

運一。●二 yin^3 p'iao^4 常關の納稅告知書。

【引甫】160（インホ） 明、孫繼先(3－6987‥386)の字。

【引保】161 yin^2 pan^3 保證。

〖引保人〗161′ yin^2 pao^3 jen^2 保證人。

【引蓬】162（ヒキヨモギ） 草の名。玄參科に屬す。蓬に似て、夏秋の頃、黃色の花を開く。ははこぐさ。菴蕳。

【引墨】163（インボク） ●一墨繩で墨を引くこと。轉じて、法度を設け標準を示すこと。〔晉書、劉毅傳〕正レ色立レ朝、擧レ綱引レ墨、朱紫有レ分、鄭衛不レ雜。●二（ヒキズミ） ㋑書狀の封じ目に墨を引くこと。又、其の墨。〔園太歷、二上〕。㋺眉を剃つた跡に墨を引くこと。又、其の墨。〔薩摩歌、源五兵衞御萬夢分船〕。

【引網】164（ヒキアミ） ●一地引網の略。〔曾丹集〕みほの浦のひきあみの綱。●二なづさふ(水に浸る・水にただよふ)の枕詞。

【引幕】165（ヒキマク） 橫に引いて開閉する幕。〔浮世風呂、下〕芝居の引きまくを寢卷に直したる。

【引滿】166（インマン） ●一一ぱいに弓を引きしぼる。〔資治通鑑、宋紀〕(順帝、昇明元年)畫レ腹爲レ的、自引滿將レ射レ之。〔傳習錄〕學レ射則、必張レ弓挾レ矢、引滿中レ的。●二なみなみと酒を盛る。〔漢書、敍傳上〕皆引滿擧レ白。〔晉書、王羲之傳〕雖レ不レ能二興言高詠銜レ杯引滿一、語二田里所レ行故一、以爲二撫レ掌之資一、其爲二得意一、可レ勝レ言邪。〔陶潛、遊二斜川一詩〕提レ壺接二賓侶一、引滿更獻酬。〔唐書、陽城傳〕客欲二諫止一者、城揣二知其情一、彊飮レ客、客辭、卽引滿。

【引務】167 yin^3 wu^4 水先案內の事務。

【引無】168（インム） 蚯蚓（ミミズ）の異名。〔廣雅、釋蟲〕蚯蚓、蛩蟺、引無也。

【引明】169（ヒキアケ） あけがた。あかつき。

【引綿】170（ヒキワタ） もめん綿の上に薄くのべた眞綿。〔今鏡、中〕。ひきわたの狩衣を着け給へり。

【引羊】171（インヤウ） 祭祀の少牢を進める際、列前に居て少牢の前導をする一頭の羊。〔居易錄〕凡祭進二少牢一、以二黃旗一前導、一羊居レ前、謂二之引羊一、引羊終身豢レ之、不二復屠宰一。

【引喩】172（インユ） ●一喩をひく。〔諸葛亮、前出師表〕不レ宜三妄自菲薄、引レ喩失レ義、以塞二忠諫之路一也。●二修辭法の一。前人の言を引いて其の事を證するやり方。〔文則、上〕引喩、援二取前言一、以證二其事一、左氏傳曰、諺所謂庇焉而縱、尋レ斧焉者也、禮記曰、蛾子時術レ之、其此之謂乎、此類是也。

【引用】173（インヨウ） 引いて用ひる。●一ひきあげて用ひる。取りたてて用ひる。〔後漢書、李膺傳〕引二用天下名士一。●二根據とするためや考證するために、他の文句・事例などを引いて用ひる。〔日知錄、藝文、科場禁約〕雜燒之生員、有下引二用佛書一句一者上、廩生停レ廩一月。〔淸會典事例、吏部、處分例〕十三年覆准、嗣後議二處官員一、引二用律文一。

〖引用語〗174（インヨウゴ） 根據とするためや考證するために引用する他書の文章、又は古人の言語等をいふ。〔困學紀聞集證、凡例〕一、王氏引用之語與二論斷之語一、有下致二相亂一者上。

〖引用書〗175（インヨウシヨ） 引用に供した書物。〔太平廣記、引用書目〕。

〖引用文〗175′（インヨウブン） 或る目的のために引用された文章。

【引翼】176（インヨク） みちびきたすける。〔詩、大雅、行葦〕黃耇台背、以引以翼。〔箋〕以レ禮引レ之、以レ禮翼レ之、在レ前曰レ引、在レ旁曰レ翼。

【引來】177（インライ） 人を連れて來る。

【引落】178（ヒキオトシ） ●一引きおとすこと。●二相撲の手。相手方の體を前方に引き、膝を地面につかせて倒すこと。●三芝居で、場面を變化させること。

【引立】179（ヒキタテ） ●一ひきたてること。ひきおこすこと。●二ひいき。

〖引立烏帽子〗180（ヒキタテエボシ） 烏帽子の一種。薄紙で作り、梨打烏帽子に似て、後方を引きたてる。〔源平盛衰記、法皇自二天台山一還御事〕。

【引繂】181（インリツ） 太繩を引張る。〔蘇轍、河冰復結復次二前韻一詩〕引レ繂低徊疑レ上レ坂、打レ凌甚苦辛レ攻レ城。

【引兩】182（ヒキリヤウ） 紋所の名。新田氏・足利氏などの紋。輪の中に二畫を引く。丸二つ引き。二つ引き兩。〔源平盛衰記、佐佐木賜二生唼一事〕。

【引領】183（インリヤウ） ●一くびをひく。頸を伸ばす。領は、くび。㋑待望・期待・思慕の情を以て遠くを眺め望む動作。引頸。延頸。〔左氏、襄、二十六〕引レ領南望。〔孟子、梁惠王上〕天下之民、皆引レ領而望レ之矣。〔國語、楚語上〕緬然引レ領南望。㋺遠くを眺め望む。〔新書、過秦下〕天下莫レ不三引レ領而觀二其政一。●二ひきつれる。案內する。領は、すべる・をさめる。〔漢書、元后傳〕敕令三親屬引領以避二丁傳一。〔水滸傳、二回〕董將士使下箇人、將二着書簡一引二領高俅一、逕中到學士府內上。

〖引領牙人〗184（インリヤウガジン） 鹽の密賣者を案內する問屋業者。〔明律、戶律、課程、鹽法〕引領牙人及窩藏寄頓者、杖九十、徒二年半。

【引力】185（インリヨク） ●一物理學用語。空間的に相隔つた物體・物質が相互に相引く力。●二迷はす力。魅惑する力。

【引類】186（インルイ） 同類を引き近づける。仲間を作ること。〔漢書、劉向傳〕賢人在二上位一、則引二其類一而聚二之于朝一。〔淮南子、要略〕攬レ物引レ類。

【引例】187（インレイ） 例を引く。例證として引く。〔揮麈後錄、十一〕比年以來、旁緣出入、引レ例爲レ弊、殊失二刑政之中一。

【引路】188（インロ） ●一路にすすむ。出發する。引道。〔北史、李弼傳〕弼每レ有二征討一、朝受レ命、夕便引レ路、略不レ問二私事一、亦未三嘗宿二于家一。●二道案內する。又、其の人。〔駱賓王、上二張司馬一啓〕漢臺引路、夕翊二浮雲之陰一、晉閣垂瑞、朝曄二文星之苑一。〔北夢瑣言〕有レ人引レ路、獲レ免二崎嶇一。

【引輅】189（インロ） 輅をひき進める。輅は、天子の車。〔唐書、百官志四上〕每番三衞一人、爲二太僕寺一引レ輅。

【引籠】190（インロウ） ●一印籠(2－2848‥179)に同じ。●二（ヒキコモル） 退いて內にこもる。閉ぢこもる。

【引和】191（インワ） ●一引きよせ和合する。近づき仲よくする。〔易林、艮之第五十二、蠱〕引二和貴長一、以レ富永存。●二引と和。引は一人が首唱すること、和は衆人が唱和すること。〔張衡、西京賦〕發二引和一、校二鳴葭一。〔注〕綜曰、發二引和一、言二一人唱、餘人和一也。

【引惑】192 yin^3 huo^4 誘ひまどはす。誘惑。

【引光奴】193（インクワウド） 附木。つけぎ。〔淸異錄、器具、火寸〕夜有レ急、苦二於作レ燈之緩一、有二智者一、批二杉條一染二硫黃一、置レ之待レ用、一與レ火遇、得二餤穗一然、既神レ之、呼二引光奴一。

【引絃彄】194（インゲンコウ） ゆがけ。〔周禮、夏官、繕人、抉拾、注〕抉、謂二引絃彄一也。

【引口醪】195（インコウラウ） 飲みやすいにごりざけ。〔椒宮舊事〕皇淑妃李氏、霍縣李傑之女也、性不レ愛レ酒、上爲造二引口醪一、每二宴飮一、特設以供レ妃。

【引正王】196（インジヤウワウ） 佛中印度憍薩羅國の王。龍樹菩薩に歸依し、佛法を崇敬し、廣く仁政を布く。其の太子が、父王の長命は龍樹の福力によるものとして龍樹を殺したら、ついで王も死んだといふ。〔西域記、十〕。

【引首印】197（インシユイン） 書幅の首に押す印章。〔梅庵雜志〕古來印章、官爵而外、止有二名印一、卽表字亦不二多見一、宋後取二閑雜字一作レ字、印二於書幅之首一、謂二之引首印一。

【引出物】198（ヒキデモノ） 饗應の時、主人から客へ贈る物。馬を引き出して贈つたことに始まる。〔西宮記、正月上〕引出物馬一匹。

【引場詞】200 yin^2 ch'ang^3 tz'ŭ^2 口上。ざつけ。

【引直衣】201（ヒキナホシ） 昔、天子又は貴人などのめされた直衣。〔右京大夫集〕內の上渡らせ給へりし御引直衣の姿。

【引典故】202 yin^2 tien^3 ku^4 故事を引用する。

【引倍木】203（ヒキヘギ） 衣服の名。下重の裏をひきへがして、綿をぬきとつたもの。四月から九月頃まで、晴れの場合に、束帶の下に着用した。〔西宮記、十三、臨時〕・〔榮華物語、音樂〕。

【引龍回】204 yin^3 lung^2 huei^2 陰曆三月三日、田舍に行はれる行事。外門の外から灰を家の內に散らし、廚房の水缸附近にまで撒き散らすこと。婦人の厄除けにするといふ。

【引龍直】205（インリヨウチヨク） 宋代、天子の巡幸の時、樂を奏して道案內する者。後、鈞容直と改めた。〔宋史、樂志十七〕太平興國三年、詔、籍二軍中之善レ樂者一、命曰二引龍直一、每二巡省遊幸一、則騎導二車駕一而奏レ樂、云云、淳化四年、改名二鈞容直一、取二鈞天之義一。

【引駕大師】206（インガダイシ） 佛唐代の僧職。四大師の一で、天子の車駕を引き迎へる役。〔元亨釋書、二十七〕太宗貞觀中、封二智威一爲二引駕大師一。〔佛祖統記、七〕師在二太宗朝一、名德昇聞、召補二朝散大夫一、封二四大師一。〔注〕耆老相傳云、唐有二四大師一、謂二引駕大師・護國大師一、餘二一闕レ聞、今詳考二

隋・唐傳、但有㆓引駕之名㆒、其員有㆑四。

【引据剪裁】207（インキョセンサイ） 故事・古傳から古人の文章をきりとつて綴り合はせること。〔賴山陽、上㆓樂翁公㆒書〕引据剪裁、皆成㆓一家私乘之體㆒。

【引換證券】208（ヒキカヘショウケン） 證券上の債務者が、其の證券と引換でなければ、支拂ひすることを要しない證券をいふ。又受戾證券といふ。

【引而伸㆑之】209（ヒイテコレヲノブ） 引いてのばす。應用する。引伸(86)を見よ。〔易、繫辭上〕引而伸㆑之、觸㆑類而長㆑之。

【引而不㆑發】210（ヒキテハッセズ） 弓を引きしぼるが矢を發しない。人に射を教へる者は、ただ其の弓を引きしぼる法を教へるだけで、之がために矢を發しない。君子の人を教へるの法は、學ぶ者が自得するやうに導き、徒にすべてを教へ授けることをしない喩。〔孟子、盡心上〕君子引而不㆑發、躍如也、中道而立、能者從㆑之。〔集注〕引、引㆑弓也、發、發㆑矢也、躍如、如㆓踊躍而出㆒也、因㆓上文彀率㆒而言、君子教㆑人、但授以㆓學㆑之之法㆒、而不㆔告以㆓得㆑之之妙㆒、如㆓射者之引㆑弓而不㆑發㆑矢、然其所㆑不㆑告者、已如㆔踊躍而見㆓於前㆒矣。

【引出事來】211 yin^3 ch'u^1 shih^4 lai 事を惹起する。

【引盜入室】212 yin^3 tao^2 ju^4 shih^4 盜賊を案內して室に入らせる。自ら禍を招く喩。

【引飯大師】213（インパンタイシ） [佛]佛寺で、食事の合圖をするために打つ槌をいふ。食事に案內する大師の意。〔清異錄、釋族、引飯大師〕僧家未㆓粥飯㆒、先鳴㆑槌、云云、目㆓淨槌㆒爲㆓引飯大師㆒。

【引風吹火】214 yin^3 fêng^1 ch'uei^1 huo^3 風を引いて火を吹かせる。己は手を下さず人をそそのかして事をさせる意。

【引込思案】215（ヒッコミシアン） 進んで事をしようとしない、因循な考。

【引込主義】216（ヒッコミシュギ） 萬事手控へして、自ら進んで事に當らないやうにする主義。

【弓】9700 キフ 及(2-3118)の古字。〔說文〕及、弓、古文及。

【弓】9701 ダン 彈(4-9865)の古字。〔說文長箋〕弓、古彈字。

[參考] 弓(4-9692)・弓(4-9693)・弓(4-9694)は別字。〔康熙字典、辨似、四字相似〕弓、音宮、弓矢。弓、乃本字。弓、含上聲、嘾也。弓、古及字。

【弓】9702 ケン 卷(2-2860)に同じ。〔眞誥〕弓、同㆑卷。

[參考] 弓(4-9696)・弓(4-9697)は別字。〔康熙字典、辨似、三字相似〕弓、同㆑彈。弓、同㆑卩。弓、同㆑卷。

【弖】9703 古文書でテの字に假り用ひる。一說に、氏(6-17027)の古字の省畫。

【𢎜】9704 セツ 義未詳。〔龍龕手鑑〕𢎜、音節。

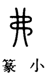
二畫

【𢎝】9705 イン 引(4-9699)に同じ。〔廣韻〕引、𢎝、上同、玉篇云、挽㆑弓也。

【弔】9706 テウ 弔(4-9698)の本字。〔正字通〕弔、弔本字。

【㢧】9707 シャ 射(4-7434)の本字。〔正字通〕㢧、射本字、石鼓文作㆑㢧。

【弗】9708 [一]フツ フチ 〔集韻〕分物切 ㄈㄨˊ fu^2 [物]。 [二]ヒツ ビチ 〔易釋文〕薄密切 [質]。 [慣]フ


小篆

[一]❶もとる。〔說文〕弗、撟也、从㆓丿乀㆒、从㆓韋省㆒。〔玉篇〕弗、不㆑正也。〔韻會〕弗、徐曰、弗者、違也。❷をさめる。拂(5-11936)に通ず。〔說文通訓定聲〕弗、叚借爲㆑拂。〔爾雅、釋詁〕弗、治也。❸のぞく。はらふ。祓(8-24658)に通ず。〔說文通訓定聲〕弗、叚借爲㆑祓。〔詩、大雅、生民〕以弗㆑無㆑子。〔傳〕弗、去也。〔太平御覽、禮儀部、高禖〕五經異義曰、以祓㆑無㆑子。❹うれへる。怫(4-10486)に同じ。〔集韻〕怫、說文、鬱也、或作㆑弗。〔漢書、溝洫志〕魚弗鬱兮柏㆓冬日㆒。〔注〕師古曰、弗鬱、憂不㆑樂也。❺ほのか。にかよふ。佛(1-517)に通ず。〔說文通訓定聲〕弗、叚借爲㆑佛、漢書眭兩夏侯傳贊、仿㆓弗一端㆒。❻ず。あらず。打消の助辭。不(1-19)に通ず。不より強いともいふ。〔廣雅、釋詁四〕弗、不也。〔正字通〕弗、與㆑不通。〔經傳釋詞、十〕不、弗也、常語。〔公羊、僖、二十六〕其言㆑弗㆑遇何。〔注〕弗者、不之深也。〔論語、公治長〕弗㆑如也。〔皇疏〕弗、不也。❼はやいさま。さかんなさま。弗弗(21)を見よ。❽沸(6-17251)に通ず。〔漢書、溝洫志〕魚弗鬱兮柏㆓冬日㆒。〔王先謙補注〕弗鬱、讀爲㆓沸渭㆒。❾姓。〔萬姓統譜〕弗讋、見㆓印藪㆒。〔魏書、官氏志〕後魏黜弗氏・鐵弗氏・燕弗氏、皆改爲㆓弗氏㆒。❿[現]㋑元素の一。弗素 fluorine の略稱。㋺米國の貨幣單位 dollar の記號にあてた字。[二]たすける。弼(4-9826)に通ず。〔說文通訓定聲〕弗、叚借爲㆑弼。〔易、頤、拂㆓經于邱頤㆒、釋文〕拂、子夏傳作㆑弗、弗、薄密反、輔弼也。

[解字] 會意。丿と乀と韋省の合字。左し右して違ひそむく意。

[參考] 熟語は不(1-19)を倂せ見よ。

【弗鬱】1（フツウツ） うれへて樂しまないさま。一說に、衆多のさま。〔漢書、溝洫志〕魚弗鬱兮柏㆓冬日㆒。〔注〕師古曰、弗鬱、憂不㆑樂也。〔王先謙補注〕弗鬱、讀爲㆓沸渭㆒、沸渭、猶㆓汾沄㆒、魚衆多之貌。

【弗學】2 fu^2 hsiao^2 學ばない。習はない。

【弗忌】3（フッキ） 複姓。〔萬姓統譜〕弗忌、姬姓、晉大夫欒弗忌後。

【弗湟】4（フックワウ） 周、魯惠公(12-46013‥158)の名。

【弗諼】5 fu^2 hsüan^1 忘れない。

【弗乎】6（フツナルカナ） 否なる哉。不遇を歎ずる語。〔史記、孔子世家〕子曰、弗乎弗乎、君子病㆓沒㆑世而名不㆑稱焉。

【弗興】7（フツコウ） 三國吳、曹不興(5-14297‥302)の一名。

【弗祥】8（フツシャウ フシャウ） わざはひ。不祥。〔書、盤庚中〕丕乃崇降㆓弗祥㆒。

【弗人】9（フツジン） 明、曾異撰(5-14299‥157)の字。

【弗生】10（フツセイ） 周、晉穆侯(5-13898‥155)の名。

【弗石】11 fu^2 shih^2 螢石。flourspar の音意譯。

【弗素】12 fu^2 su^4 化學元素の一。fluorine の音意譯。

【弗措】13 fu^2 ts'uo^4 不十分な。不滿足な。

【弗打】14 fu^2 ta^3 電氣壓力の單位。ボルト。volt の音譯。

【弗陀】15 fu^2 t'uo^2 清明節に墓を祭る時、墓前に立てる四尺ばかりの木質の棚。之に紙錢を懸ける。

【弗治】16（フッチ） 命に從はない。又、其の者。〔魏文帝、露陌刀銘〕利用衞㆑身、以威㆓弗治㆒。

【弗遲】17（フッチ） 清、陳洪綬(11-41698‥862)の號。

【弗底】18 fu^2 ti^3 云云するに至らない。

【弗庭】19（フッテイ フテイ） 來庭しないこと。朝廷に來貢しないこと。歸順しないこと。又、其の者。〔書、周官〕四㆓征弗庭㆒、綏㆓厥兆民㆒。〔蔡傳〕庭、直也、葛氏曰、弗庭、弗㆓來庭㆒者。

【弗鄭】20（フッテイ） 春秋、齊の人。桓公の時、宮室を修めることを掌る。〔管子、大匡〕賓胥無爲㆓西土㆒、弗鄭爲㆑宅。

【弗弗】21（フツフツ） ❶風の疾いさま。又、盛なさま。發

發。〔詩、小雅、蓼莪〕南山律律、飄風弗弗。〔傳〕弗弗、猶二發發一也。㊁うなづかないこと。贊同しないこと。否否。咈咈。〔墨子、親士〕君必有二弗弗之臣一。〔注〕弗、讀爲レ咈、說文口部云、咈、違也。

【弗藥】23 フツヤク　服藥しないで病の癒えること。藥がいらぬ。

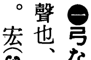
【弗豫】24 フツヨ　たのしまない。轉じて、やまひにかかること。不豫。〔書、金縢〕王有レ疾、弗レ豫。〔蔡傳〕弗レ豫、不二悅豫一也。

【弗如堂】25 フツジョダウ　清、蔣知廉(9－31820··191)の室名。

【弗父何】26 フツホカ　春秋、宋の人。孔子の祖先。宋の襄公の子。〔史記、孔子世家、注〕宋襄公生二弗父何一、以讓二弟厲公一、弗父何生二宋父周一、周生二世子勝一、勝生二正考父一。〔孔子家語、觀周〕其祖弗父何、始有レ國而授二厲公一。〔注〕弗父何、緡公世子、厲公兄也。

【弘】9709

コウ　グ　〔集韻〕胡肱切　ㄏㄨㄥˊ　蒸　hung²



小篆

㊀**弓なり**。弓の音。〔說文〕弘、弓聲也、从レ弓厶聲、厶、古文厷字。㊁**大きい**。宏(3－7086)に通ず。〔說文通訓定聲〕弘、叚借爲レ宏。〔爾雅、釋詁〕弘、大也。〔集韻〕弘、一曰、大也。㊂**ひろい**。〔詩、大雅、民勞〕而式弘大。〔箋〕弘、猶レ廣也。㊃**ひろめる**。〔正韻〕弘、大レ之也。〔論語、衞靈公〕人能弘レ道。㊄**あつい**。〔法言、修身〕其爲レ中也弘深。〔注〕弘深、敦重也。㊅**たかい**。〔漢書、揚雄傳上〕正瀏濫以弘惝兮。〔注〕師古曰、弘惝、高大也。㊆**のびひろがる**。〔張衡、西京賦〕乃隆崇而弘敷。〔注〕綜曰、弘敷、猶二延蔓一也。㊇**山名**。恒(4－10527)に通ず。〔尙書大傳、虞夏傳〕幽都弘山。〔注〕弘山、恒山也。㊈**姓**。〔通志、氏族略、以レ名爲レ氏〕弘氏、風俗通、衞大夫。

名乘　ミツ。ヒロ。

參考　清代、高宗乾隆帝の諱、弘曆を避けて、代りに宏の字を用ひた。〔清國行政法汎論、皇室、御名敬避〕高宗純皇帝、廟諱曰二弘曆一、弘以レ宏代レ之、弘道・弘毅等、字皆不レ得レ用、泓・紘等字、皆缺二一點一。

【弘安】1 コウアン　第九十一代後宇多天皇の年號。(1378－1388)〔藤原茂範勘文〕太宗實錄曰、弘二安レ民道一。

〖弘安役〗2 コウアンノエキ　後宇多天皇の弘安四年、元將范文虎・忻都等が再び兵十萬を將ゐて來寇し、進んで筑前に迫り、我が軍は殊死防戰した。會〻大風が起つて敵艦は殆んど沈沒し、元兵は溺死し、我が軍が機に乘じて之を掩擊殲滅した戰役。〔國史略、後宇多天皇〕弘安四年、忽必烈遣二兵十萬餘一、入二寇我鎭西一。九州之兵、防戰大敗レ之、元兵得レ還者財三人。

【弘庵】3 コウアン　藤森大雅の號。藤森弘庵(9－32340··64)を見よ。

【弘懿】4 コウイ　大きく美しい。才智・德行が廣大で善美なこと。懿は美。〔後漢書、班固傳〕體二弘懿之姿一、據二高明之勢一。〔張衡、南都賦〕且其君子、弘懿明叡、允恭溫良。

【弘瑋】5 コウキ　南朝宋、顧琛(12－43689··148)の「字。

【弘宥】6 コウイウ　ひろくゆるやか。又、ゆるやかにすること。〔宋書、武帝紀〕詔曰、雖二約レ法從レ簡、務思二弘宥一。

【弘育】7 コウイク　㊀ひろく民をやしなふこと。〔晉書、刑法志〕愛レ人弘育。㊁唐、韋溫(12－43108··15)の字。

【弘隱】8 コウイン　遼、耶律化哥(9－29008··65)の字。

【弘益】9 コウエキ　益をひろめる。ひろく益する。〔任昉、爲二蕭揚州一薦レ士表〕竦坐鎭二雅俗一、弘益已多。

【弘演】10 コウエン　春秋、衞の人。懿公の忠臣。命を奉じ遠く使し、未だ還らない間に、狄人が衞を攻め、懿公を殺して盡く其の肉を食ひ、肝だけを捨てて置いた。弘演は還つて肝に報告し、自ら腹を刳り、懿公の肝を腹中に入れて死んだ。〔呂覽、忠廉〕衞懿公有レ臣、曰二弘演一、翟人攻レ衞、及二懿公於榮澤一、殺レ之、盡食二其肉一、獨舍二其肝一、弘演曰、臣請爲レ襮、因自殺、先出二其腹實一、內二懿公之肝一、桓公聞レ之曰、今有二臣若一レ此、不レ可レ不レ存、於レ是復立二衞於楚丘一、弘演可レ謂レ忠矣。〔魏志、陳矯傳〕縱無二申胥之效一、敢忘二弘演之義一乎。

【弘遠】11 コウエン　ひろくとほい。ひろい。大きい。宏大。〔漢書、高帝紀下〕雖二日不レ暇レ給、規摹弘遠矣。〔晉書、鄧騫傳〕騫有二節操忠信一、兼識量弘遠。〔陸機、辨亡論下〕聰明叡達、懿度弘遠矣。

【弘舸】12 コウカ　おほきな舟。〔左思、吳都賦〕弘舸連レ舳、巨艦接レ艫。

【弘雅】13 コウガ　ゆつたりとして上品なこと。又、心が廣く正しいこと。〔後漢書、袁紹劉表傳贊〕紹姿弘雅、表亦長者。〔吳志、諸葛瑾傳〕服二其弘雅一。〔蜀志、黃權等傳評〕黃權弘雅思量。

【弘乂】14 コウガイ　隋、郭儁(11－39474··122)の字。

【弘簡】15 コウカン　心がひろびろとしてゐておほまかなこと。〔羊祜、讓二開府一表〕莅レ政弘簡、在レ公正レ色。〔宋書、柳元景傳〕風度弘簡、體曲深沈。

〖弘簡錄〗16 コウカンロク　書名。二百五十四卷。明、邵經邦撰。正篇は鄭樵の通志に繼いで作つたもので、唐に始まり金に終る。首に嘉靖三十六年の自序、史傳重刻序・讀史筆記七條・凡例十二則、康熙二十七年、五世の孫、錫蔭の重刻後序、及び目錄がある。其の目は、天王・宰輔・功臣・侍從・臺諫・庶官・皇后・天主・系屬・儒學・文翰・旌德・雜行・附載・載記。

〖弘簡錄續篇〗17 コウカンロクゾクヘン　書名。四十二卷。目錄一卷。清、邵遠平撰。

【弘基】18 コウキ　㊀大きなもとゐ。〔晉書、干寶傳〕斯誠雍熙之至美、王者之弘基也。〔晉書、孫楚傳〕遂廓二弘基一、奄二有魏域一。㊁唐、池陽の人。劉弘基(2－2224··914)を見よ。〔唐書、劉弘基傳〕劉弘基、云云、封二夔國一。㊂北齊、李廣(6－14459··249)の字。㊃明、黎弘業(12－47994··101)の初名。

【弘規】19 コウキ　㊀おほきなはかりごと。〔吳志、陸遜傳〕有レ罰無レ恕、非二懷レ遠之弘規一也。㊁おほきなかまへ。宏大な規模。〔左思、魏都賦〕造二文昌之廣殿一、極二棟宇之弘規一。

【弘毅】20 コウキ　心がひろく志がつよい。〔論語、泰伯〕士不レ可三以不二弘毅一、任重而道遠。〔集注〕弘、寬廣也、毅、強忍也。〔蜀後主、出軍詔〕諸葛丞相弘毅忠壯、忘レ身憂レ國。〔潘尼、益州刺史楊恭侯碑〕忠肅弘毅、柔嘉溫克。

〖弘毅公〗21 コウキコウ　清、額宜都(12－43586··50)の封號。

【弘義】22 コウギ　㊀大きな節義。〔後漢書、曹世叔妻傳〕信天地之弘義、人倫之大節也。〔任昉、爲二褚諮議蓁一讓二代レ兄襲一レ封表〕能以レ國讓、弘義有レ歸。㊁唐の高祖の武德五年に造られた宮殿の名。〔唐書、高祖紀〕武德五年七月甲申、作二弘義宮一。

【弘休】23 コウキウ　大なる美。又、大なる美德。立派な行爲。〔漢書、武帝紀〕賜二朕弘休一。〔王績、遊二北山一賦〕玉殿金輿之事業、郊レ天祀レ地之弘休。

【弘吉】24 コウキツ　明、祁彪佳(8－24634··44)の字。

〖弘吉剌皇后〗24′ コウキツラツクワウゴウ　元の顯宗の后。泰定帝の母。名は普顏怯里迷失。弘吉剌は其の氏。泰定帝の元年に追尊して宣懿淑聖皇后と謚す。〔元史、百十六〕。

【弘鉅】25 コウキョ　おほきな任務。〔長生殿、牧京〕雖下則暫總二綱維一、獨肩中弘鉅上、同レ心早晚協レ力。

【弘恭】26 コウキョウ　漢、沛の人。少くして法に坐して腐刑を受け、中黃門に進み、法令故事に明習す。宣帝の時、中書令に擢んでらる。元帝の立つや、石顯と俱に信任を得、遂に權を擅にし、譖して蕭望之等を殺す。〔漢書、九十三〕。

【弘化】27 コウクワ　㊀ひろく德化をしく。又、大きい德化。〔書、周官〕貳レ公弘レ化。〔褚遂良、唐太宗於二寢殿側一置二太子院一諫疏〕弘化懿德、乃作二元良一。㊁郡名。隋、置く。もと慶州。今の甘肅省安化縣。〔讀史方輿紀要、陝西〕慶陽府、禹貢雍州地、隋開皇十六年、置二慶州一、大業初、改二弘化郡一、唐復爲二慶州一、天寶初、曰二安化郡一、至德初、曰二順化郡一、乾元初、復爲二慶州一。㊂第百二十代仁孝天皇と第百二十一代孝明天皇の年號。(1844－1848)

【弘光】28 コウクワウ　明末、福王、朱由崧の年號。(1745)

〖弘光帝〗29（コウクワウテイ）　明、朱由崧(**6**－**14424**‥649)の號。

【弘廣】30（コウクワウ）　ひろい。〔劉表、遺㆓袁尚㆒書〕度數弘廣。〔曹植、求㆑通㆓親親㆒表〕夫天德於㆓萬物㆒、可㆑謂㆓弘廣㆒矣。

【弘曠】31（コウクワウ）　ひろい。弘廣。〔魏志、王昶傳〕其爲㆑人、弘曠不㆑足。〔晉書、王沈傳〕胸胎者、以㆑無㆑檢爲㆓弘曠㆒。

【弘願】32（ググワン）　〘佛〙弘大な誓願。一切衆生を救はうとする大願。〔觀經玄義分〕安樂能人、顯㆓別意弘願㆒云云、言㆓弘願㆒者、如㆓大經說㆒。〔王勃、兜率寺浮圖碑〕兆基弘願、繼㆓發淨因㆒。〔白居易、和㆓微之㆒詩二十三首、和㆓晨霞㆒詩〕弘願在㆓救拔㆒、大悲忘㆓辛勤㆒。

【弘景】33（グケイ）　唐の僧。南山律師の弟子。天台の章安大師に隨つて天台宗を學び、則天武后の時、實叉難陀等と華嚴經を譯す。武后より中宗に至るまで、三度宮中に入つて戒師となる。〔佛祖統紀〕。

【弘教】34（コウケウ）　㊀ひろいをしへ。〔梁簡文帝、大法頌序〕啓㆓眞慧之深宗㆒、明㆓度彼之弘教㆒。㊁をしへをひろめる。〔王儉、釋奠采議〕皇朝屈㆑尊弘㆑教、待以㆓師資㆒。㊂元、了性(**1**－**226**‥29)の諡。

【弘曉】35（コウゲウ）　清の人。世宗の子。封は怡親王。諡は僖。藏書を好み、樂善堂を建て、積書室に盈つ。

【弘業】36（コウゲフ）　㊀事業を大にする。事業を發展させる。〔漢書、敍傳下〕受命之初、贊㆑功剖㆑符、奕世弘㆑業、爵土迺昭。㊁おほきな事業。〔後漢書、章帝紀〕復㆓禹弘業㆒。㊂字號。㋑南齊、江祏(**6**－**17140**‥262)の字。㋺北周、韓褒(**12**－**43159**‥186)の字。

【弘儉】37（コウケン）　隋、敬肅(**5**－**13303**‥126)の字。

【弘憲】38（コウケン）　唐、李吉甫(**6**－**14459**‥1017)の字。

【弘旿】39（コウゴ）　清の宗室。字は恕齋・醉迂。號は一如居士・瑤華道人・卓亭。封は固山貝子。畫を善くし、篆隷を擅にし、詩詞に巧。著に恕齋集がある。〔清畫家詩史、丁、上〕。　「初名。

【弘佐】40（コウサ）　五代呉越、錢佐(**11**－**40563**‥92)の

【弘載】41（コウサイ）　字號。㊀明、商輅(**2**－**3803**‥257)の字。㊁明、錢象坤(**11**－**40563**‥338)の字。

【弘齋】42（コウサイ）　宋、李燔(**6**－**14459**‥671)の號。

【弘操】43（コウサウ）　大きなみさを。立派なみさを。大節。〔潘岳、景獻皇后哀策文〕撫㆓翼齊藩㆒、訓㆓成弘操㆒。

【弘算】44（コウサン）　大きなはかりごと。〔宋書、何尚之傳〕救㆑弊之弘算、增㆑貨之良術。

【弘贊】45（コウサン）　明、茅襄(**9**－**30836**‥46)の字。

【弘山】46（コウザン）　㊀山名。恒山(**4**－**10527**‥57)の㊀に同じ。〔尙書大傳、虞夏傳〕幽都弘山。〔注〕弘山、恒山也。㊁明、張後覺(**4**－**9812**‥1040)の號。

〖弘山先生〗47（コウザンセンセイ）　明、張後覺(**4**－**9812**‥1040)の尊稱。

【弘志】48（コウシ）　唐、王潛(**7**－**20823**‥701)の字。

【弘侈】49（コウシ）　㊀大きくひろい。〔國語、楚語上〕私欲弘侈、則德義鮮少。㊁大いにおごる。奢侈。〔隋書、宇文愷傳〕愷揣㆔帝心在㆓弘侈㆒、於㆑是、東京制度、窮㆓極壯麗㆒、帝大悅㆑之。

【弘始】50（コウシ）　㊀五胡十六國、後秦の高祖文桓帝姚興の年號。(399－416)　㊁晉、郗隆(**11**－**39413**‥14)の字。　「字。

【弘嗣】51（コウシ）　三國呉、韋昭(**12**－**43108**‥92)の

【弘昌】52（コウシヤウ）　五胡十六國、南涼の景王禿髮傉檀の年號。(402－408)

【弘惝】53（コウシヤウ）　廣い。大きい。たかく大きい。弘敞。〔漢書、揚雄傳上〕目冥眴而亡㆑見、正瀏濫以弘惝兮、指㆓東西之漫漫㆒。〔注〕師古曰、弘惝、高大也。

【弘敞】54（コウシヤウ）　ひろい。大きい。〔嵆康、琴賦〕羨㆓斯嶽之弘敞㆒、心慷慨以忘㆑歸。〔晉書、地理志上〕星象麗㆑天、山河紀㆑地、端揆裁㆓其弘敞㆒、崤函判㆓其都邑㆒。〔皇甫謐、三都賦序〕弘敞豐麗。〔謝朓、直㆓中書省㆒詩〕紫殿肅陰陰、彤庭赫弘敞。

【弘奬】55（コウシヤウ）　大いにはげます。ひろくすすめる。〔任昉、天監三年策㆓秀才㆒文〕弘奬之路、斯既然矣。〔南史、梁武帝紀〕豈所㆘以弘㆓奬風流㆒、希㆗向後進㆖。〔任昉、王文憲集序〕弘㆓奬風流㆒、增㆓益標勝㆒。

【弘綽】56（コウシヤク）　ひろくゆるやか。ひろくゆつたりとしてゐること。〔鍾嶸詩品〕雖㆑不㆓弘綽㆒、而文體勁淨。

【弘若】57（コウジヤク）　明、都任(**11**－**39509**‥98)の字。

【弘充】58（グジユウ）　南朝宋の僧。涼州の人。初、多寶寺に居り、後、湘宮寺に移る。文殊問菩提經・首楞嚴經に注す。〔梁高僧傳、八〕。　「の初名。

【弘俶】59（コウシユク）　五代呉越、錢俶(**11**－**40563**‥120)

【弘順】60（コウジユン）　隋、來和(**1**－**581**‥78)の字。

【弘潤】61（コウジユン）　ひろくてうるほひがあること。心がひろく情ぶかい。〔嵆康、琴賦〕寬明弘潤、優游躇跱。〔沈約、齊故安陸昭王碑文〕惟公少而英明、長而弘潤。

【弘初】62（コウシヨ）　明、汪浩(**6**－**17154**‥22)の字。

【弘舒】63（コウジヨ）　晉、司馬歆(**2**－**3257**‥245)の字。

【弘偁】64（コウシヨウ）　五代呉越、錢弘偁(**11**－**40563**‥311)の名。

【弘深】65（コウシン）　ひろくふかい。又、あつい。〔法言、修身〕其爲㆑中也弘深。〔注〕弘深、敦重也。〔後漢書、左雄等傳論〕淵謨弘深。〔趙岐、孟子題辭〕其文不㆑能㆓弘深㆒。〔蔡邕、郭泰碑〕夫其器量弘深、姿度廣大。

【弘愼】66（コウシン）　唐、張公謹(**4**－**9812**‥1028)の字。

【弘仁】67（コウジン）　㊀心がひろくなさけぶかい。又、ひろくめぐむ。〔晉書、樂志上〕於皇聖明后、天覆弘且仁。〔晉書、周嵩傳〕以㆓時濟弘仁之功㆒、崇㆓謙謙之美㆒。㊁南朝宋、劉湛(**2**－**2224**‥484)の字。㊂清、江韜(**6**－**17140**‥291)の本名。㊃（コウニン）第五十二代嵯峨天皇の年號。(810－824)

【弘正】68（コウセイ）　㊀唐、裴佶(**10**－**34362**‥24)の字。㊁唐、盧弘止(**8**－**23050**‥216)の一名。

〖弘正七子〗69（コウセイノシチシ）　明の弘治・正德間に出た七人の文學の士。李夢陽・何景明・徐禎卿・邊貢・康海・王九思・王廷相。弘正文學・七子(**1**－**6**‥157)の㊄㋑を見よ。

〖弘正文學〗70（コウセイブンガク）　明の弘治・正德中、文學に復古の氣運が起り、文は必ず秦漢、詩は必ず盛唐以上として、力めて永樂以後の臺閣體を矯めようとした。其の最も著名なものに李夢陽・何景明・邊貢・徐禎卿等の七子がある。

【弘靜】71（コウセイ）　㊀心を弘く靜かにする。〔雲笈七籤〕靜者、元氣未㆑分之初、形㆓於元氣之中㆒、故能生㆓天地萬物㆒、亦猶㆘人弘㆓靜其心㆒不㆑撓、則能生㆗天下萬物㆖。㊁鹽池の名。唐代、靈州にあり、太陽熱によつて食鹽を採つた所。〔唐書、食貨志四〕靈州有㆓溫泉池・兩井池・長尾池・五泉池・紅桃池・回樂池・弘靜池㆒。㊂縣名。隋、置く。故城は甘肅省寧夏縣の東南。〔讀史方輿紀要、陝西、寧夏中衞〕溫池廢縣、在㆓衞治東南㆒、漢北池郡富平縣地、隋爲㆓弘靜縣地㆒。

【弘濟】72（コウセイ・コウサイ）　㊀ひろくすくふ。〔書、顧命〕用敬㆓保元子釗㆒、弘㆓濟于艱難㆒。〔穀梁、莊、二十三、公會㆓齊侯㆒盟㆓于扈㆒注〕霸主降㆑心、親與㆑之盟、實有㆓弘濟之功㆒。〔後漢書、郎顗傳〕求㆑善贊㆑務、弘㆓濟元元㆒。〔唐大宗、大唐三藏聖教序〕弘㆓濟萬品㆒。㊁字號。㋑五代呉越、成及(**5**－**11544**‥53)の字。㋺明、楊溥(**6**－**15112**‥336)の字。㊂（グサイ）元の僧。餘姚の姚氏の子。字は同舟。號は天岸。著に四教儀紀正・天岸外集がある。〔明高僧傳、二〕・〔新續高僧傳、二〕。

【弘誓】73（グゼイ）　〘佛〙弘大誓願の意。佛の大なるちかひ。佛がひろく衆生を救はうとするちかひ。〔無量壽經、上〕發㆓斯弘誓㆒、建㆓此願㆒已、一向專志、莊㆓嚴妙土㆒。〔謝靈運、無量壽佛頌〕願言㆓四十八弘誓㆒、拯㆓羣生㆒。〔隋煬帝、寶臺經藏願文〕寶臺四藏、將㆓十萬軸㆒、因發㆓弘誓㆒、永事㆓流通㆒、仍書㆓願文㆒、悉連㆓卷後㆒。

〖弘誓海〗74（グゼイノウミ）　〘佛〙衆生を救はうとする佛の誓の廣く深いことを海に喩へていふ。〔法華經、普門品〕弘誓深如㆑海。

〖弘誓鎧〗75（グゼイノヨロヒ）　〘佛〙佛・菩薩が衆生を濟度せんとする弘誓の堅固なことを鎧に喩へていふ。〔無量壽經、上〕爲㆓衆生㆒故、被㆓弘誓鎧㆒、積㆓累德本㆒、度㆓脫一切㆒。

〖弘誓相〗76（グゼイノサウ）　〘佛〙弘誓の意志の現はれた相貌。〔榮花物語、玉の臺〕。

〖弘誓船〗77（グゼイノフネ）　〘佛〙佛がひろく衆生を救はうとする誓を立てて、一切衆生を彼岸に渡すことを船に喩へていふ。〔往生要集、中本〕無量清淨覺經云、阿彌陀佛、與㆓觀世音大勢至㆒、乘㆓大願船㆒、泛㆓生死海㆒、就㆓此娑婆世界㆒、呼㆓喚衆生㆒、令㆑乘㆓大願船㆒、送㆓着西方㆒。

【弘誓房】78（グセイノバウ） 佛説教師をいふ。

【弘績】79（コウセキ） おほきな功績。〔盧諶、答二魏子悌一詩〕多士成二大業一、羣賢濟二弘績一。

【弘説】80（コウセツ） 大いに説く。又、盛な言。〔班固、東都賦〕讜言弘説、咸含レ和而吐レ氣。

【弘浹】81（コウセフ） あまねくひろい。〔梁簡文帝、菩提樹頌〕豈如二道樹一、覆潤弘浹。

【弘先】82（コウセン） 南朝宋、沈慶之(6－17189‥491)の字。

【弘宣】83（コウセン） ひろくのべる。大いにのべる。又、ひろめのべる。ひろめあきらかにする。廣宣。〔晉書、禮志上〕禮經三百、威儀三千、皆所下以弘二宣天意一、雕中刻人理上。〔隋書、牛弘傳〕爻畫肇二于庖犧一、文字生二于倉頡一、聖人所三以弘宣教導、博二通古今一。〔陳子昂、爲二鄭資州一讓レ官表〕弘宣二帝典一、大啓二皇猷一。

【弘瞻】84（コウセン） 清の世宗の第七子。號は經畬道人。謚は恭。詩詞を善くし、幼時から業を沈德潛に受けた。封は果親王。〔清史稿、二百二十六〕。

【弘祖】85（コウソ） 晉、石喬(8－24024‥253′)の字。

【弘宗】86（コウソウ） 宋、劉揚祖(2－2224‥1339)の字。

【弘倧】87（コウソウ） 五代呉越、錢倧(11－40563‥136)の初名。

【弘多】88（コウタ） 甚だおほい。たくさん。〔詩、小雅、節南山〕喪亂弘多。〔左氏、襄、三十一〕魯不レ堪二晉求一、讒慝弘多。〔晉書、輿服志〕雅制弘多、式二遵遺範一。〔金史、賈鉉傳〕久參二機務一、補益弘多。

【弘大】89（コウダイ） ㊀ひろくおきほい。又、其のもの。〔詩、大雅、民勞〕戎雖二小子一、而式弘大。〔左氏、昭、八〕康叔所三以服二弘大一也。〔韓非子、揚權〕夫道者弘大而無レ形、德者覈理而普至。〔漢書、禮樂志〕治本約澤弘大。〔後漢書、馮衍傳下〕禍寖淫而弘大。〔夏侯湛、東方朔畫贊序〕夫其明濟開豁、包含弘大。㊁唐、裴矩(10－34362‥27)の字。

【弘大而辟】90（コウダイニシテヘキ） ひろくおほきくて開け通じてゐる。辟は開通。〔莊子、天下〕弘大而辟、深閎而肆。

【弘道】91（コウダウ） ㊀道をひろめる。〔論語、衞靈公〕子曰、人能弘レ道、非二道弘レ人也。〔史記、外戚世家〕人能弘レ道、無二如レ命何一。〔漢書、敍傳上〕復心弘レ道、惟賢聖兮。〔陸機、皇太子宴二玄圃宣猷堂一有レ令賦詩〕皇上纂レ隆、經レ教弘レ道。㊁唐の高宗、李治の年號。(684)㊂字號。㋑晉、謝奉(10－35827‥212)の字。㋺隋、陳政(11－41698‥390)の字。㋩隋、明克讓(5－13805‥641)の字。㋥宋、宋道(3－7078‥161)の字。㋭元、邵光祖(11－39343‥100)の字。㋬明、伍驥(新會の人)(1－435‥7)の字。㋣明、竺淵(8－25842‥1)の字。

【弘道館】92（コウダウクワン） ㊀水戸藩の藩黌。水戸城内第三郭内。延寶年中、德川光圀が藩黌を立てようとしたが果さず、天保九年に至り、德川齊昭が創立した。中を文武二館に分ち、文館には居學・講習・句讀・寄宿の四寮を置き、編輯局・系纂局・講習別局が之に附屬す。武館には兵學・軍用・劍術・槍術・居合・薙刀・柄大刀・柔術・馬術・射術・砲術などの教場を置く。別に歌學局・音樂局・諸禮局・天文數學所・醫學館を設けた。弘道館記を見よ。㊁谷田部藩の藩黌。寛政六年、藩主細川興德の創立。㊂出石藩の藩黌。安永四年、藩主仙石政辰の創立。初め學問所と稱し、天明二年、弘道館と改稱。㊃佐賀藩の藩黌。天明元年、藩主鍋島治茂の創立。㊄彦根藩藩黌の前名。稽古館。㊅福山藩藩黌の前名。誠之館。

【弘道館記】93（コウダウクワンキ） 文章の名。德川齊昭撰。天保九年、弘道館の創立に當り、其の建學の本旨を明示したもの。碑に刻して館中に建てた。〔德川齊昭、弘道館記〕弘道者何、人能弘レ道也、道者何、天地之大經、而生民不レ可二須臾離一者也、弘道之館、何爲而設也、恭惟、上古神聖、立レ極垂レ統、天地位焉、萬物育焉、其所下以照二臨六合一、統中御宇內上者、未三嘗不レ由二斯道一也、寶祚以レ之無窮、國體以レ之尊嚴、蒼生以レ之安寧、蠻夷戎狄以レ之率服、而聖子神孫、尚不三肯自足一、樂下取二於人一以爲上善、乃若二西土唐・虞・三代之治教一、資以贊二皇猷一、於レ是斯道愈大愈明、而無二復尚一焉、中世以降、異端邪說、誣レ民惑レ世、俗儒曲學、舍レ此從レ彼、皇化陵夷、禍亂相踵、大道之不レ明二於世一也、蓋亦久矣、我東照宮撥レ亂反レ正、尊レ王攘レ夷、允武允文、以開二太平之基一、吾祖威公、實受二封於東土一、夙慕二日本武尊之爲レ人、尊二神道一、繕二武備一、義公繼述、嘗發二感於夷齊一、更崇二儒教一、明レ倫正レ名、以藩二屛於國家一、爾來百數十年、世世承二遺緒一、沐二浴恩澤一、以至二今日一、則苟爲二臣子一者、豈可レ弗下思所三以推二弘斯道一、發中揚先德上乎、此則館之所二以爲設一也、抑夫祀二建御雷神一者何、以下其亮二天功於草昧一、留中威靈於茲土上、欲戊原二其始一、報二其本一、使丁民知丙斯道之所乙繇來甲也、其營二孔子廟一者何、以三唐・虞・三代之道、折二衷於此一、欲戊欽二其德一、資二其教一、使丁人知丙斯道之所二以益大且明一不乙偶然甲也、嗚呼、我國中士民、夙夜匪レ解、出二入斯館一、奉二神州之道一、資二西土之教一、忠孝无レ二、文武不レ岐、學問事業、不レ殊二其效一、敬レ神崇レ儒、無レ有二偏黨一、集二衆思一、宣二羣力一、以報二國家無窮之恩一、則豈徒祖宗之志弗レ墜、神皇在天之靈、亦將二降鑒一焉、設二斯館一、以統二其治教一者誰、權中納言從三位源朝臣齊昭也。

【弘道館記述義】94（コウダウクワンキジユツギ） 書名。二卷。藤田東湖撰。弘道館記を詳細に述義解釋したもの。〔松平棣山、標注弘道館記述義序〕惇興曾讀二舊水藩東湖藤田翁弘道館記述義一、上自二神聖建國之大旨一、下至二德川氏撥亂反正之業一、本藩治教一致之制、頗爲二詳晰一。

〔參考書〕【標注弘道館記述義】二卷 龜山雲平撰。【弘道館記述義譯注】一冊 菊池謙二郎撰。【弘道館記述義小解】一冊 加藤虎之亮撰。

【弘達】95（コウタツ） ㊀字號。㋑南齊、全景文(1－1424‥210)の字。㋺梁、蕭恢(9－32012‥85)の字。㊁五代呉越、曹仲達(5－14297‥287)の本名。

【弘治】96（コウチ） ㊀治績をひろめる。〔王隱晉書〕詔曰、太保朕所二毗倚一、以隆レ道弘レ治者也。㊁年號。㋑明の孝宗、朱祐樘の時。(1488－1505)㋺（コウヂ） 第百五代後奈良天皇の御代。(1555－1558)㊂晉、杜乂(6－14477‥35)の字。

【弘治帝】97（コウチテイ） 明の孝宗、朱祐樘をいふ。

【弘治凝脂】98（コウチギヨウシ） 蒙求の標題。晉の杜乂、字は弘治は、成恭皇后の父で性は純粹溫和、姿容は端美。王羲之がこれを稱して、膚は凝つた脂のやうであり、眼は漆を點じたやうである、これ神仙の人であるといつた故事。〔晉書、外戚、杜乂傳〕性純和、美姿容、有三盛二名於江左一、王羲之見而目レ之曰、膚若二凝脂一、眼如レ點レ漆、此神仙人也。

【弘治七子】99（コウチノシチシ） 弘正七子(69)に同じ。

【弘治通寶】100（コウチツウハウ） 明の孝宗の鑄た貨幣。〔續文獻通考、錢幣考五〕考宗弘治十六年二月、鑄二弘治通寶錢一。

【弘致】101（コウチ） ㊀ひろく招く。〔後漢書、章帝紀〕勉二勸農桑一、弘二致勞三來羣公一。㊁一般のおもむき。普遍的なありさま。〔後漢書、仲長統傳論〕斯實弛張之弘致、可三以徵二其統一乎。㊂大なる考。立派な考。大旨。〔任昉、百辟勸二進今上一牋〕受二金於府一、通人之弘致。〔劉峻、廣絶交論〕蓋聖人握二金鏡一、闡二風烈一、龍驤蠖屈、從二道汙隆一、日月聯レ璧、贊二亹亹之弘致一、雲飛電薄、顯二棣華之微旨一。

【弘智】102（コウチ） 清、方以智(5－13620‥472)の名。

【弘長】103（コウチヤウ） ㊀ひろめ盛にする。〔任昉、王文憲集序〕弘二長風流一、許二與氣類一。㊁おほきくとほい。ひろく大きい。心がひろく大きい。〔袁宏、三國名臣序贊〕士元弘長、雅性內融。〔注〕翰曰、弘、大、長、遠也。〔任昉、天監三年策二秀才一文〕將恐二弘長之道、別有レ未レ周。〔注〕善曰、檀道鸞晉陽秋曰、謝安爲二桓溫司馬一、不レ存二小察一、盡二弘長之風一也。㊂第九十代龜山天皇の年號。(1261－1264)

【弘暢】104（コウチヤウ） ひろめのべる。〔論衡、超奇〕弘二暢雅言一、審二定文讀一而教授。

【弘中】105（コウチユウ） 字號。㊀唐、裴垍(10－34362‥18)の字。㊁明、鄭建(11－39647‥112)の字。

【弘著】106（コウチヨ） ひろくあらはれる。大いにあらはれる。〔晉書、荀顗傳〕訓二傳東宮一、徽猷弘著。

【弘陳】107（コウチン） ひろくおほきな言葉。立派な言葉。偉大なをしへ。〔班固、典引〕蓄二炎上之烈精一、蘊二孔佐之弘陳一。

【弘通】108（コウ グヅウ） 佛廣く世に行はれる。ひろまる。又、廣く世に行ふ。ひろめる。〔高僧傳、三、寶雲傳〕於二晉宋之際一、弘二通法藏一。

【弘定】109（コウテイ） 明の神宗の時、大越の敬宗簡輝帝(一に惠帝、黎維新)の年號。(1600一說に1617－1619)

【弘哲】110コウテツ 大いに事理に明かである。又、其の人。〔阮瑀、紀征賦〕惟弘哲而爲レ紀。

【弘田】111コウデン ひろい田。〔六部成語、戸部、弘田、注解〕開廣之田也。

【弘度】112コウド ❶大きなはかりごと。〔孫登、樂毅贊〕樂生誕節、實立二弘度一。❷大きな度量。〔白居易、祭二中書韋相公一文〕沖襟弘度。❸字號。㋑晉、司馬柬(**2**－**3257**··235)の字。㋺晉、李充(**6**－**14459**··432)の字。㋩唐、薛濤(**9**－**32123**··96)の字。㋥唐、褚无量(**10**－**34457**··55)の字。㋭明、黃憲卿(**12**－**47926**··1071)の字。

【弘德】113コウトク 大きな德。〔後漢書、鄧皇后紀〕弘德洋溢、充二塞宇宙一。

【弘德殿】114コウトクデン 北京の紫禁城內、乾清宮の後の右に在る。清の穆宗が學を講じた處。〔北京指南、地理、故宮志〕乾清宮、宮之西爲二弘德殿一。

【弘忍】115コウニン 唐の高僧。黃梅の周氏の子。諡は大滿禪師。禪宗東土の第五祖。黃梅山中に入り、四祖道信禪師に遇つて心印を得、遂に法統を紹ぐ。其の弟子の慧能と神秀とは、分れて南北の二宗を創めた。〔宋高僧傳、八〕。

【弘農】116コウノウ ❶郡名。㋑漢、置く。今の河南省洛陽・嵩・內鄉等の縣以西、陝西省商縣以東の閒の地。治は弘農縣。河南省靈寶縣の南。後魏、恒農と改む。〔讀史方輿紀要、州域形勢、漢〕弘農郡、武帝元鼎四年、分二河南郡一置二弘農郡一、領二弘農等縣十有一一、今河南府以西至二陝州一、又南陽府西境、及西安府之商州、皆是其地、弘農縣、今見二陝州靈寶縣境一。㋺南朝宋、假に置く。故治は湖北省襄陽縣の北。㋩南齊、置く。四川省の境。❷縣名。漢の武帝、置く。故城は河南省靈寶縣。後魏の時、恒農と改む。〔讀史方輿紀要、河南、河南府、陝州〕靈寶縣、本秦函谷關地、漢爲二弘農縣地一、魏晉因レ之。

【弘農澗】117コウノウカン 川の名。源は河南省靈寶縣の西南。又、門水・鴻臚澗ともいひ、黃河に注ぐ。〔讀史方輿紀要、河南、河南府、陝州、靈寶縣〕弘農澗、在二縣治西一、會二崤・澠諸水一、北入二於河一、漢興平二年、李傕等亂二長安一、楊奉・董承、奉レ帝幸二弘農一、李傕・郭汜、共追二乘輿一、大戰二于弘農東澗一、奉等大敗、卽是處也。

【弘播】118コウハ ひろく布く。ひろくひろがる。〔陸雲、答二孫顯世一詩〕惠音弘播、淸風駿集。

【弘博】119コウハク ひろい。學識などのひろいこと。〔漢書、公孫賀等傳贊〕彬彬然弘博君子也。〔魏志、陳羣傳〕其弘博不レ伐、皆此類也。〔吳志、王蕃傳評〕器量綽異、弘博多通。

【弘美】120コウビ おほきくうるはしい。又、立派な德。〔傅咸、贈二何劭王濟一詩〕但願隆二弘美一、王度日淸夷。〔盧諶、贈二劉琨一詩序〕抑不レ足三以揄二揚弘美一。

【弘敏】121コウビン ❶心がおほきくさとい。〔陸機、辨亡論上〕皆弘敏而多奇、雅達而聰哲。❷唐、徐有功(**4**－**10110**··327)の名。

【弘布】122コウフ [佛]ひろめしく。ひろめる。

【弘普】123コウフ ひろい。あまねくゆきわたる。〔傅咸、申懷賦〕何天施之弘普、厠二瓦礫于瓊瑛一。〔傅玄、辟雍鄉飮酒賦〕知二禮教之弘普一也。

【弘敷】124コウフ ひろくしき施す。ひろくゆきわたる。〔書、君牙〕弘敷二五典一、式和二民則一。〔張衡、西京賦〕處二甘泉而爽塏一、乃隆崇而弘敷。

【弘覆】125コウフ ひろくおほふ。恩德などの廣くゆきわたること。〔荀子、富國〕康誥曰、弘覆乎天、若レ德裕二乃身一。〔漢書、宣帝紀〕朕之不レ逮レ德、不レ能二弘覆一。〔嵇康、卜疑集〕寧愷悌弘覆、施而不レ德乎。

【弘武】126コウブ 晉、冉瞻(**2**－**1514**··14)の字。

【弘文】127コウブン ❶學問をひろめる。弘文館の❶を見よ。❷晉、邴郁(**11**－**39341**··2)の字。❸第三十九代の帝諡。

【弘文院】128コウブンヰン 延曆年閒、和氣廣世が、父淸麿の遺志をうけついで同族のために設立した私立學校。藏書數千卷。校舍は彼の私宅をあて、費用は彼の墾田四十町の收入を以てした。〔日本後紀〕延曆十八年二月乙未、贈正三位行民部卿兼造宮大夫美作備前國造和氣朝臣淸麿薨、長子廣世、俄授二從五位下一、爲二式部少輔一、便爲二大學別當一、大學南邊、以二私宅一置二弘文院一。

【弘文館】129コウブンクワン ❶官署の名。唐、置く。門下省の屬。高祖の武德四年、始めて修文館を置き、學士・直學士の員を設け、九年に至り、弘文館と改む。もと四部の圖籍を收藏した所。學士は定員無く、圖籍を詳かに正し、生徒に教授することを掌り、朝廷の制度・禮儀のことに參議するを得、學生三十人、校書郞二人以下を統ぶ。則天武后の垂拱以後は必ず宰相が兼任した。宋は昭文館を置き、明初にまた弘文館と稱したが、閒もなく罷む。宣德中、復、弘文閣を建て、尋いで文淵閣に倂入す。〔唐書、百官志二〕武德四年、置二修文館于門下省一、九年、改曰二弘文館一。〔通典、職官、宰相、侍中〕弘文館、大唐武德初、置二修文館一、後改名二弘文館一、神龍初、改爲二昭文一、二年、又卻爲二修文一、尋又爲二昭文一、開元七年、又稱二弘文一焉、儀鳳中以下館中多二圖籍一、未中詳正上、委二學士一校理、自二垂拱一以來、多大臣兼領、館中有二四部書一、自三貞觀初、褚亮檢二校館務一、學士號爲二館主一、因爲二故事一、每令二給事中一人一判二館事一、校書二人、學生三十人。❷昌平坂學問所の前身。寬永七年、德川家光が林羅山に忍岡(今の上野)五千三百五十三坪の地を與へ、ここに學校を興させ、旗本の子弟に學を講ぜしめた。其の後、家光は更に尾張の德川義直、其の他をして學校の傍に孔子の廟(大成殿)を造營させ、彼自らここに參拜し、羅山から尙書堯典の講義を聽いたりしたので、諸大名も爭つて家光にならひ、家臣を羅山の學校へ入學させた。家綱の寬文二年に至り、初めて之を弘文館と命名した。學科は經科・史科・讀書科・文科・倭學科の五、各科を上・中・下の三等に分け、上等に甲・乙・丙の三級を設けて之を特生といひ、中等に丁・戊・己の三級を置いて之を萌生と稱し、下等を庚・辛・壬・癸の四級として之を下等生と名づく。塾舍も之を擴張して東・西・南・北の四塾とした。元祿三年には綱吉の命に依つて之を湯島臺に遷し、名を昌平坂學問所と改めた。〔昌平志〕事實、萬治三年癸卯十二月、林恕號二書院一曰二弘文館一。〔注〕遜按、前レ是林恕進二講經幄一、五經終レ篇、是年十二月二十六日、列相連署傳二特旨一、賜二號弘文院一、因號二書院一曰二弘文館一、館名二弘文一昉二于此一、又貞享四年丁卯、賜二林信篤號弘文院學士一、又元祿三年七月、改作二孔廟於昌平一。

【弘璧】130コウヘキ ❶たまの名。大璧。〔書、顧命〕赤刀・大訓・弘璧・琬琰、在二西序一。〔蔡傳〕弘璧、大璧也。❷明、姚琛(**3**－**6202**··96)の字。

【弘辯】131コウベン 辯論の博く大きなこと。〔戰國、秦策下〕燕客蔡澤、天下駿雄、弘辯之士也。〔史記、蔡澤傳〕燕客蔡澤、天下雄俊、弘辯智士也。

【弘補】132コウホ ひろくおぎなふ。大いに補ふ。〔後漢書、方術傳序〕可三以弘二補時事一。

【弘謀】133コウボウ ひろいはかりごと。大なるはかりごと。又、ひろくはかる。〔晉書、東萊王蕤傳〕此先哲之弘謀、百王之達制也。〔先賢行狀〕衞玆首贊二弘謀一、合二兵三千人一、從二太祖一入二滎陽一。〔韋慶復、鳳翔鼓角樓記〕非二大君子淵慮弘謀一、則玆樓何從而興也哉。

【弘懋】134コウボウ おほきくさかん。盛大。〔宋書、江夏王義恭傳〕況公德猷弘懋、彝典未レ殊者哉。

【弘法】135グホフ ❶[佛]佛法をひろめる。又、廣大な佛法。〔無量壽經、上〕弘二宣正法一。〔佛祖統紀、八〕弘レ法傳レ道、何世無レ之。❷コウボフ 僧空海の諡號。弘法大師を見よ。

【弘法麥】136コウボフムギ 草の名。莎草科に屬し、海邊の沙原に生ずる。穗狀花序で、花は黃。實は小麥に似、藥用にする。いぬむぎ。

【弘法大師】137コウボフダイシ 僧空海の諡號。空海(**8**－**25415**··21)を見よ。〔元亨釋書、一〕。

【弘務】138コウム おほきなつとめ。〔後漢書、左雄傳論〕王者得二其人一、進仕、勸二其行一、經レ邦、弘務所レ由久矣。〔潘岳、藉田賦〕展二三時之弘務一、致二倉廩於盈溢一。〔韋鎭、讀二春令一賦〕諒皇家之弘務、將二永レ世而觀レ光。

【弘明】139コウメイ 南齊、劉休(**2**－**2224**··168)の字。

【弘明集】140グミヤウシフ 書名。十四卷。梁、釋僧祐撰。東漢から梁時に至るまでの、道を弘め教を明かにするに足る諸論を集む。唐の釋道宣が之を增補して廣弘明集三十卷を作る。〔四庫提要、子、釋家類〕。

【弘妙】141コウメウ 大いにすぐれてゐる。又、其のこと。〔馬融、長笛賦〕言三其所二由出一、而不レ知二其弘妙一。

【弘茂】142コウモ ひろくさかん。〔晉書、裴秀傳〕佐レ

命翼レ世、動業弘茂。〔晉書、荀勖傳〕著勳弘茂。

【弘羊】143（コウヤウ）　漢の人。桑弘羊(6−14772··159)をいふ。〔孔融、薦二禰衡一表〕弘羊潛計、安世默識。〔注〕善曰、漢書曰、桑弘羊、雒陽賈人子、以二心計一、年十三拜二侍中一。〔柳宗元、招二海賈一文〕弘羊心計、登二謀謨一。

【弘羊心計】144（コウヤウシンケイ）　蒙求の標題。前漢の桑弘羊が算用に巧で、武帝の時、十三にして侍中となり、大農丞の東郭咸陽、孔僅と三人で物の利益について論じ、毛ほどの細小なことまでこまかに分析檢討した故事。〔漢書、食貨志下〕弘羊・洛陽賈人之子、以二心計一、年十三侍中、故三人言二利事一、析二秋毫一也。

【弘裕】145（コウユウ）　ひろくゆるやか。〔後漢書、朱穆傳〕貴二丙張之弘裕一、賤二時俗之誹謗一。〔蔡邕、荊州刺史度尙碑〕溫溫然弘裕虛引、落落然高風起レ世。〔周書、尉遲迥傳〕父俟兜、性弘裕、有二鑑識一。

【弘理】146（コウリ）　字號。❶晉、杜乂(6−14477··35)の字。❷後晉、石重義(8−24024··993)の字。

【弘立】147（コウリフ）　陳、全緩(1−1424··46)の字。

【弘量】148（コウリヤウ）　❶大きい度量。〔管子、形執、小謹者不二大立一、注〕言下人無二弘量一、但有二小謹一、不上レ能二大立一也。〔世說新語、品藻〕瑾在レ吳、吳朝服二其弘量一。❷度量をひろくする。〔任昉、王文憲集序〕約レ己不二以廉一レ物、弘レ量不二以容一レ非。❸多くの量。〔韋應物、扈亭西陂燕賞詩〕有レ酒今滿盈、願君盡二弘量一。〔戴叔倫、感懷詩〕但當レ盡二弘量一、觴至無二復辭一。

【弘麗】149（コウレイ）　すぐれてうるはしい。大きくうつくしい。〔漢書、揚雄傳上〕蜀有二司馬相如一、作レ賦、甚弘麗溫雅。〔後漢書、杜篤傳〕高顯弘麗。〔論衡、定賢〕爲二弘麗之文一爲レ賢乎。〔嵇康、琴賦〕姣妙以弘麗、何變態之無レ窮。

【弘曆】150（コウレキ）　清の高宗の名。清高宗(7−17695··856)を見よ。

【弘烈】151（コウレツ）　大きな事業。烈は業。〔後漢書、章帝紀〕朕以二不德一、受二祖宗弘烈一。〔潘勖、冊二魏公九錫一文〕奉二答天命一、導二揚弘烈一。〔注〕向曰、弘、大、列、業也。〔魏志、文帝紀〕昭二爾考之弘烈一。

【弘和】152（コウワ）　第九十八代長慶天皇の年號。(1381−1389)

【弘徽殿】153（コキデン　コウキデン）　禁中の御殿の名。清涼殿の右、登華院の左に在り、女御・后妃の住居に當てられた。〔榮花物語、若水〕こうきでんに、御裝束具したれば。

【弘藝錄】154（コウゲイロク）　書名。三十二卷。明、邵經邦撰。〔四庫提要、集、別集類存目〕。

【弘聖寺】155（コウセイジ）　寺の名。雲南省大理縣、點蒼山七峯の麓にある。〔楊愼、游二點蒼山一記〕弘聖寺有二浮圖一、高二百尺、規制嚴整、考二之野史一、爲二隋文帝時敕建者一、或曰二阿育王一。〔雲南通志〕弘聖寺、在二太和縣城西南一、有レ塔、高十丈爲二級十一、世傳二周時阿育王建一、明嘉靖閒、郡人李元陽重修、修二撰楊愼記一。

【弘覺禪師】156（コウカクゼンジ）　清、道忞(11−39010··395)「の封號。

【⿻弓丨】9710　キウ　糾(8−27227)に同じ。又、卷帙を數へる名。〔楊愼、轉注古音〕⿻弓丨、音樛、卽說文糾字、道經借爲二卷帙之卷一。

【⿱亼弓】9711　シユ　殳(6−16613)に同じ。〔廣韻〕⿱亼弓、同レ殳、出二道經一。

【⿱弓弓】9712　ダイ　乃(1−113)の古字。〔說文〕乃、⿱弓弓、古文乃。〔集韻〕乃、古作レ⿱弓弓。

參考　弖(4−9695)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕弖、音賢、草木盛也、⿱弓弓、古乃字。

【⿰弓几】9713　タン　〔字彙補〕都嘆切　翰

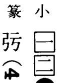
人名。〔字彙補〕⿰弓几、人名。〔柳宗元、趙矜墓誌銘〕矜曾祖曰二⿰弓几安一。

【⿰弓九】9714　ダン　⿰弓丸(4−9720)の譌字。〔字彙補〕⿰弓九、按、⿰弓丸字之譌。

三畫

【⿻弓木】9715　テウ　弔(4−9698)に同じ。〔康熙字典〕⿻弓木、說文長箋、同レ弔。

【弙】9716　[一]ヲ ウ　〔集韻〕汪胡切　虞　[二]コ ク　〔集韻〕空胡切　虞


小篆

[一][二]❶**弓をはつてねらふ**。もと、弙(4−9717)に作る。〔正字通〕弙、本作レ⿰弓亏。〔說文〕⿰弓亏、滿レ弓有レ所レ鄉也、从レ弓亏聲。〔廣雅、釋詁一〕弙、張也。❷**さしまねく**。〔玉篇〕弙、指麾也。❸**もつ**。〔玉篇〕弙、持也。❹通じて扜(5−11799)に作る。〔說文、弙、段注〕大荒南經、有三人方扜レ弓射二黃蛇一、郭曰、扜、挽也、音紆、按、此叚レ扜爲レ弙也。

【⿰弓亏】9717　ヲ　弙(4−9716)の本字。〔正字通〕弙、本作レ⿰弓亏。

【⿰弓亐】9718　ヲ　⿰弓亏(4−9717)に同じ。〔康熙字典〕⿰弓亐、廣韻、弙、作レ⿰弓亐。

【⿰弓干】9719　カン　〔集韻〕侯旰切　翰

❶**ふせぐ**。〔廣韻〕⿰弓干、拒也。〔集韻〕⿰弓干、弓拒也。❷**關名**。〔廣韻〕⿰弓干、關名、在二巫縣一。❸**縣名**。〔集韻〕⿰弓干、一曰、縣名。❹或は⿰弓旱(4−9790)に作る。〔集韻〕⿰弓干、或不レ省。

【⿰弓丸】9720　ダン　彈(4−9865)に同じ。〔玉篇〕⿰弓丸、同レ彈。

【⿰弓八】9721　ダン　彈(4−9865)の本字。〔正字通〕⿰弓八、彈本字。

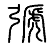
【⿰弓勺】9722　テキ チヤク　〔集韻〕丁歷切　錫

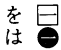
❶**いる**。〔廣韻〕⿰弓勺、射也。❷**まと**。或は勺(2−2494)に作り、通じて的(8−22692)に作る。〔集韻〕⿰弓勺、射質也、或省、通作レ的。

【弚】9723　タイ ツイ　〔集韻〕徒回切　灰

弚靡は、くるしむさま。又、へりくだりふすさま。〔集韻〕弚、弚靡、困窮皃、一曰、遜伏。

【弛】9724　[一]シ　〔集韻〕賞是切　紙　ㄕˇ hsih^{3}　ㄔˊ ch'ih^{2}
[二]シ　〔集韻〕商支切　支
[三]イ　〔集韻〕余支切　支
[四]チ　〔集韻〕丑豸切　紙


小篆


或體

[一]❶**ゆるめる**。㋑弓の弦をはづす。㢮(4−9839)に同じ。〔說文〕弛、弓解レ弦也、从レ弓也聲、㢮、弛或从レ虒。〔段注〕弦字、各本無、今補。〔禮、曲禮上〕弛弓尙レ角。〔釋文〕弛、謂レ不レ張也。〔禮、雜記下〕一張一弛。〔疏〕弛、謂レ落レ弦。㋺とく。はづす。取去る。〔廣韻〕弛、釋也。〔周禮、春官、大司樂〕令レ弛レ縣。〔注〕弛、謂三釋二下之一。〔左氏、昭、三十二〕弛二周室之憂一。〔注〕弛、猶レ解也。〔謝莊、月賦〕收二妙舞一弛二清縣一。〔注〕濟曰、弛、釋也、解也。㋩ゆるくする。〔廣雅、釋詁二〕弛、緩

也。㋥おく。手ばなす。〔廣雅、釋詁四〕弛、置也。〔淮南子、原道訓〕人不レ弛レ弓。〔注〕弛、舍也。㋭やすめる。やめる。〔周禮、地官、大司徒〕四曰、弛レ力。〔注〕弛レ力、息二繇役一也。

❷ゆるむ。㋑しまらない。〔素問、刺要論〕春病二熱而筋弛一。〔注〕弛、猶二縱緩一也。㋺すたれる。〔荀子、王制〕大事殆二乎弛一。〔注〕弛、廢也。㋩ほしいまま。〔漢書、武帝紀〕跅弛之士。〔注〕師古曰、弛者、放廢不レ遵二禮度一也。

❸すてる。〔集韻〕弛、一曰、捨也。〔穀梁、襄、二十四〕弛レ侯。〔注〕弛、廢也。〔張衡、東京賦〕慕二天乙之弛一レ罟、因教祝以懷レ民。〔注〕綜曰、弛、廢也。〔傳毅、舞賦〕縱弛殟歿。〔注〕善曰、弛、捨也。

❹こはす。こはれる。〔國語、魯語上〕文公欲レ弛二孟文子之宅一。〔注〕弛、毀也。

❺さる。取去る。〔禮、樂記〕庶民弛レ政。〔注〕弛レ政、去二其紂時苛政一也。〔左氏、莊、二十二〕弛二于負擔一。〔注〕弛、去離也。

❻わすれる。〔禮、坊記〕君子弛二其親之過一而敬二其美一。〔注〕弛、猶二棄忘一也。

❼のびる。〔素問、生氣通天論〕弛長爲レ痿。〔注〕弛、引也。

❽おこたる。あなどる。〔爾雅、釋詁〕弛、易也。〔說文通訓定聲〕弛、按、怠緩卽慢易。〔漢書、賈山傳〕臣恐二朝廷之解弛一。

❾あふ。あはせる。〔法言、五百〕弛而不レ失二其良一。〔注〕弛、合。

❿のびる。ながれる。貤(**10**−36667)に通ず。〔說文通訓定聲〕弛、叚借爲レ貤、延也、流也。

⓫或は㢮(**4**−9747)・𢐗(**4**−9839)に作る。〔集韻〕弛、或作二㢮・𢐗一。

⓬矢(**8**−23929)に通ず。〔說文通訓定聲〕弛、詩作レ矢、矢・弛雙聲。

㈡**ほどこす**。通じて施(**5**−13629)に作る。〔集韻〕弛、施也、通作レ施。〔周禮、天官、小宰〕斂弛之聯事。〔釋文〕弛、劉本作レ施。〔禮、孔子閒居〕弛二其文德一。〔注〕弛、施也。

㈢**あらためる**。或は施(**5**−13629)に作る。〔集韻〕弛、改易也、或作レ施。

㈣**おちる**。**おとす**。〔集韻〕弛、落也。〔論語、微子〕君子不レ施二其親一、〔釋文〕弛、一音勅紙反、落也、本今作レ施。〔淮南子、說林訓〕有レ時而弛。〔注〕弛、落也。

参考 段玉裁は从レ弓也聲として弛を形聲字とするが、大徐本では从レ弓从レ也として會意の字としてゐる。〔大徐本說文〕弛、弓解也、从レ弓从レ也、施氏切。

【弛惡】1（シアク） ゆるんでわるくなる。〔唐書、突厥上、頡利可汗傳〕弓矢皆弛惡、遂解而還。

【弛維】2（シヰ） すたれた法度。〔盧諶、贈二劉琨一詩〕振二厥弛維一、光二闡遠韻一。〔注〕善曰、韋昭漢書注曰、弛、廢也。

【弛易】3（シイ） ❶ゆるみおこたる。〔荀子、君道〕天下之變、境內之事、有二弛易齵差者一矣。〔集解〕先謙案、易繫辭、易者使二傾注一、易、慢易也、弛易、猶レ言二弛慢一、齒不レ正曰レ齵、齵差、參差不レ齊。❷（イエキ）改まり變る。

【弛解】4（シカイ） ゆるめとく。〔後漢書、光武紀下〕「徒皆弛二解鉗一」。

【弛弓】5（シキユウ） ❶弦をゆるめた弓。〔儀禮、鄉射禮〕加二弛弓于其上一。〔禮、曲禮上〕張弓尙レ筋、弛弓尙レ角。❷弓の弦をゆるめる。〔左氏、襄、十八〕乃弛レ弓而自後縛レ之。

【弛馭】6（シギヨ） 馬を使ふ手をゆるめる。轉じて、政治が寬に失すること、又政治を怠ることをいふ。〔晉書、李特等載記贊〕晉圖弛レ馭。

【弛壞】7（シクワイ） こはれくづれる。〔史記、河渠書、延道弛兮離二常流一、注〕集解曰、駰按、晉灼曰、言二河道皆弛壞一也。

【弛緩】8（シクワン） ゆるむ。〔漢書、五行志中之下〕盛夏日長、暑以養レ物、政弛緩、故其罰常奧也。〔漢書、五行志〕公懼而弛緩、不三敢行二誅罰一。

【弛刑】9（シケイ） 罪人の桎梏を解くこと。又、桎梏を解かれた刑徒。〔漢書、趙充國傳〕時上已發二三輔太常徒弛刑一。〔注〕師古曰、弛刑、謂下不レ加二鉗鈦一者上也、弛之言、解也。〔後漢書、光武紀下〕雲中・五原・朔方・北地・定襄・鴈門・上谷・代八郡、民歸二於本土一、遣下謁者分將二施刑一、補中理城郭上。〔資治通鑑、漢紀〕(光武帝、建武二十六年)令二中郎將一、將二弛刑五十人一、隨二單于所一レ處、參二辭訟一、察二動靜一。〔注〕弛刑者、弛二刑徒一也、說文、弓解曰レ弛、此謂下解二其罪一、而輸作者上。

【弛縣】10（シケン） 懸を解く。懸けてある樂器・兵鼓等を釋き下ろすこと。〔周禮、春官、大司樂〕凡國之大憂、令レ弛レ縣。〔注〕弛、謂三釋二下之一。〔馬融、長笛賦〕瓠巴聑レ柱、磬襄弛レ縣。

【弛罟】11（シコ） 網をはづす。殷の湯王が四面に張つた獵者の網の三面を除いた故事。〔張衡、東京賦〕慕二天乙之弛一レ罟、因教祝以懷レ民。〔注〕綜曰、天乙、殷湯名也、弛、廢也、善曰、呂氏春秋曰、湯見三罔置二四面一、湯拔二其三面一、置二其一面一。

【弛縱】12（シシヨウ） ゆるんでしまりがない。〔洪範五行傳〕肅者、侯王縮朒不レ任レ事、臣下弛縱、故月行遲也。〔蔡邕、陳二政要七事一疏〕綱網弛縱、莫三相擧察一。〔南齊書、丘靈鞠傳〕靈鞠、宋世文名甚盛、入レ齊頗減、蓬髮弛縱、無二形儀一、不レ治二家業一。

【弛政】13（シセイ） 虐政を去り除く。一說に、虐政から逃し去らせる。〔禮、樂記〕庶民弛レ政、庶士倍レ祿。〔注〕弛レ政、去二其紂時苛政一也。〔疏〕庶民弛レ政者、弛、去也、庶民被二紂虐政一者、而放二去之一也。

【弛絕】14（シゼツ） ゆるみすたれる。すたれたえる。〔陳琳、爲二袁紹一檄二豫州一文〕方今漢室陵遲、綱維弛絕。

【弛然】15（シゼン） のびのびとしたさま。〔柳宗元、捕蛇者說〕弛然而臥、謹食レ之。

【弛惰】16（シダ） ゆるみおこたる。〔南史、宋孝武帝紀〕凭レ几惛睡、若二大醉者一、或外有二奏事一、便肅然整レ容、無二復酒色一、外內服二其神明一、莫二敢弛惰一。〔北史、李士謙傳〕李氏宗黨豪盛、每二春秋二社一、必高會極宴、少長肅然、無二敢弛惰一。

【弛擔】17（シタン） になつて居るものをおろす。〔春渚紀聞〕一日、樵歸二於山一、道遇二二道人對碁一、弛レ擔就觀。〔黃滔、杭州送二兒姪歸一レ里詩〕息レ肩弛レ擔今何處、明朝過二我三釜山一。

【弛張】18（シチヤウ） ゆるむこととはること。緩やかにすることと嚴にすること。興廢。張弛。〔禮、雜記下〕張而不レ弛、文武弗レ能也、弛而不レ張、文武弗レ爲也、一張一弛、文武之道也。〔注〕張弛、以二弓弩一喩レ人也、弓弩久張レ之、則絕二其力一、久弛レ之、則失二其體一。〔韓非子、解老〕萬物必有二盛衰一、萬事必有二弛張一、國家必有二文武一、官治必有二賞罰一。〔後漢書、和帝紀論〕自二中興一以後、逮二于永元一、雖三頗有二弛張一、而俱存不レ擾。〔盧諶、覽古詩〕智勇冠二當世一、弛張使二我歎一。

〔弛張熱〕19（シチヤウネツ） 日暮になると發し、朝になれば平溫になる熱。肺結核など慢性病の特徵。潮熱(**7**−18277··64)に同じ。

【弛徵】20（シチヨウ） 徵集をゆるめる。稅の取立をゆるめること。〔福惠全書、錢穀部、比較〕半宜二弛レ徵停レ比之日一。

【弛墜】21（シツイ） ゆるみおちる。〔孔叢子、嘉言〕堯舜文武之道、或弛而墜。〔謝莊、密詣二世祖一啓事〕使三弛墜之構、更獲二締造一、垢辱之恥、復得二明目一。

【弛廢】22（シハイ） ゆるみすたれる。行はれなくなる。〔晉書、儒林傳序〕遂使二憲章弛廢一、名教頽毀一。

【弛放】23 shi^3 fang^4 ゆるめはなつ。ゆるしてやる。

【弛騖】24（シブ） ほしいままにかけまはる。自由に活動する。又、自由に活動できる。〔吳志、步隲傳〕若乃經二國家一、當二軍旅一、於二弛騖之際一、立二霸王之功一、此五者未レ爲レ過レ人。

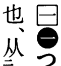
【弛紊】25（シブン） ゆるみみだれる。嚴重でなくなる。だらしがなくなる。〔陸機、辨亡論上〕皇綱弛紊、王室遂卑。〔南史、梁武帝紀下〕政刑弛紊。

【弛辮】26（シベン） 編んだ頭髮をときほどく。〔唐書、房玄齡傳〕相次束レ手弛レ辮。

【弛落】27（シラク） ゆるんですたれる。〔梁武帝、差二等品流一詔〕頃因二多難一、治綱弛落。

【弛力】28（シリヨク） 周官大司徒の十二荒政の一。人民の徭役を省くことをいふ。力は力役。〔周禮、地官、大司徒〕四曰、弛レ力。〔注〕弛レ力、息二繇役一也。〔疏〕弛二放其力役之事一。〔周禮、地官、大司徒〕舍レ禁弛レ力、薄レ征緩レ刑。

【弜】9725 ［一］キヤウ ガウ〔集韻〕巨兩切 ㄐㄧㄤ chiang⁴ ［養］ ［二］キヤウ ガウ〔集韻〕渠良切 ［陽］ ［三］キ ギ〔集韻〕翹移切 ［支］


小篆

［一］❶つよい。〔說文〕弜、彊也、重也、从㆓二弓㆒、闕。〔段注〕重、當㆑作㆑緟、見㆓糸部㆒、重弓者、彊之意也。❷弜頭虎子は、西南夷の名。〔華陽國志、一〕秦昭襄王時、白虎爲㆑害、云云、乃作㆓白竹弩於高樓上㆒、射㆑虎中㆑頭三節、云云、高祖因復之、以㆑射㆓白虎㆒爲㆑事、云云、世號㆓白虎復夷㆒、一曰㆓板楯蠻㆒、今所謂弜頭虎子者也。［二］つよい弓。彊(4－9872)に同じ。〔集韻〕彊、說文、弓有㆑力也、或作㆑弜。［三］弓のつよいさま。㢋(5－13093)に同じ。〔集韻〕㢋、弓彊皃、或作㆑弜。

解字 會意。弓に力があつて強いこと。二つの弓を合はせてその意を示す。引伸して、つよい意に用ひる。

【弡】9726 キン〔集韻〕居銀切 ［眞］

ゆはず。〔集韻〕弡、弰也。

【⿱⿱弓大一】9727 テイ 氐(6－17027)の古字。〔字彙補〕⿱⿱弓大一、古文氐字、星名也。

【⿻弜⿰丨丨】9728 コ 義未詳。〔字彙補〕⿻弜⿰丨丨、音弧。

【⿱弓大】9729 ヒヨウ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿱弓大、音冰。

【⿱弓木】9730 テウ 弔(4－9698)に同じ。〔說文長箋〕⿱弓木、同㆑弔。

四畫

【⿰弓旁】9731 バウ 髣(4－9837)に同じ。〔玉篇〕⿰弓旁、同㆑髣。

【彋】9732 クワウ 彉(4－9874)に同じ。〔類篇〕彋、同㆑彉。

【⿰弓互】9733 テイ 弤(4－9751)に同じ。〔字彙〕⿰弓互、同㆑弤。

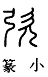
【弝】9734 ハ ヘ〔集韻〕必駕切 ㄅㄚ pa⁴ ［禡］

❶ゆづか。弓のにぎり。〔廣韻〕弝、弓弝。〔韻會擧要〕弝、弓弣中手執處也。〔王維、出塞詩〕玉弝角弓珠勒馬。❷つか。〔李賀、申胡子觱栗歌〕劍弝縣㆓蘭纓㆒。

【⿰弓夬】9735 ケツ ケチ〔集韻〕古穴切 ［屑］

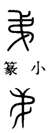
ゆがけ。夬(3－5836)に同じ。〔集韻〕夬、所㆓以闓㆑弦者、或从㆑弓。

【弞】9736 ［一］シン〔集韻〕矢忍切 ［軫］ ［二］イン〔集韻〕以忍切 ［軫］


小篆

［一］❶わらふ。ゑむ。相好をくづさずに笑ふ。〔說文繫傳〕弞、笑不㆑壞㆑顏曰㆑弞、从㆑欠引省聲。〔宋書、王弘傳〕昔孫叔未㆑進、優孟見㆑弞、展李在㆑下、臧文貽㆑譏。❷木の名。〔山海經、中山經〕西七十里曰㆓丙山㆒、其木多㆓梓檀㆒、多㆓弞杻㆒。❸改(6－16003)に同じ。〔說文、改、段注〕各本篆作㆑弞、今正、云云、淺人因㆓己與㆑弓略相似㆒妄合㆑之耳。❹或は哂(2－3583)・吲(2－3364)に作る。〔集韻〕弞、或作㆓哂・吲㆒。［二］わらふ。［一］の❶に同じ。〔集韻〕弞、笑不㆑壞㆑顏曰㆑弞。

【弟】9737 ［一］テイ ダイ〔集韻〕待禮切 ㄉㄧˋ ti⁴ ［薺］ ［二］テイ ダイ〔集韻〕大計切 ㄊㄧˋ t'i⁴ ［霽］ ［三］テキ ヂヤク〔集韻〕待亦切 ［陌］ ［四］タイ ヅイ〔集韻〕徒回切 ［灰］


小篆 古文

［一］［二］❶おとうと。〔爾雅、釋親〕男子、先生爲㆑兄、後生爲㆑弟。〔釋名、釋親屬〕弟、第也、相次第而生也。〔國語、吳語〕長弟許諾。〔注〕弟、後也。〔白虎通、三綱六紀〕男子先生稱㆑兄、後生稱㆑弟。❷いもうと。〔孟子、萬章上〕彌子之妻、與㆓子路之妻㆒兄弟也。❸としした。としわか。〔禮、鄉飲酒義〕知㆓其能弟長而無㆑遺矣。〔疏〕弟、少也。❹自己を謙遜していふ稱呼。〔杜甫、狂歌行〕與㆑兄同年校㆓一歲㆒、賢者是兄愚者弟。❺弟子。師に就いて教をうける者。〔管子、弟子職〕先生施㆑教、弟子是則。❻しだい。順序。或は第(8－25943)に作る。〔說文〕弟、韋束之次弟也、从㆓古文之象㆒。〔段注〕說文小篆、有㆘从㆓古文之像㆒似㆓者凡三㆖、曰弟、曰革、曰民、皆各像㆓其古文㆒爲㆑之。〔集韻〕弟、或从㆑竹、弟、一曰、順也。〔呂覽、原亂〕亂必有㆑弟。〔注〕弟、次也。❼すなほ。つつしむ。弟が兄に、年少者が長上につかへる從順の道。悌(4－10642)に同じ。〔說文通訓定聲〕弟、字亦作㆑悌、釋名、悌、弟也。〔禮、曲禮上〕僚友稱㆓其弟㆒也。〔疏〕弟者、事㆑長次第之名。〔孟子、告子下〕徐行後㆓長者㆒、謂㆓之弟㆒。〔漢書、惠帝紀〕王制〕能以事㆑兄、謂㆓之弟㆒。〔荀子、王制〕能以事㆑兄、謂㆓之弟㆒。〔漢書、惠帝紀〕擧㆓民孝弟力㆑田者㆒。〔注〕師古曰、弟者、言㆘以㆓順道㆒事㆗其兄㆖也。〔白虎通、三綱六紀〕弟者、悌也、心順行篤也。❽やすらか。たのしい。悌(4－10642)に同じ。〔爾雅、釋詁〕弟、易也。〔詩、大雅、旱麓〕豈弟君子。〔釋文〕弟、本亦作㆑悌。〔禮、表記〕凱弟君子。〔注〕弟、易也。❾易で艮にあてる。〔易、家人〕弟弟。〔虞注〕艮爲㆑弟。❿あきらか。圛(3－4850)の誤字。〔說文通訓定聲〕弟、叚借爲㆑圛、古文尚書洪範、曰弟曰克、葢睪之誤字、借㆑睪爲㆑圛耳、據㆓鄭意㆒、明也、則謂㆓借爲㆑圛。⓫發語の助辭。㋑ただ。第(8－25943)・但(1－495)に通ず。〔史記、五帝紀〕顧弟弗㆓深考㆒。〔注〕集解曰、弟、但也。〔漢書、司馬相如傳〕弟俱如㆓臨卭㆒。〔史記、司馬相如傳〕弟俱如㆓臨卭㆒。㋺かつ。〔史記、孫武吳起傳〕君弟重射。〔注〕索隱曰、弟、且也。⓬姓。〔宋史、王霆傳〕霆知㆓高郵軍㆒、流民弟邦僯、聚㆓衆三千人㆒爲㆑盜。［三］やすらか。悌(4－10642)に同じ。〔集韻〕悌、易也、或省。［四］弟靡(31)を見よ。〔集韻〕弟、弟靡、不㆑窮皃、一曰、遜伏。

名乘 クニ。ツギ。フト。

解字 象形。韋で物を束ねて、上から下へ卷き下る象。轉じて、順序次第ある意に用ひる。男子の先に生れたのを兄とするに對し、後に生れたのを弟とするのは、次第に生れる意である。更に引伸して兄に事へることを弟といひ、後に悌の字ともなつた。〔說文〕弟、韋束之次弟也。〔段注〕以㆑韋束㆑物、云云、有㆓次弟㆒也、引㆓伸之㆒爲㆓凡次弟之弟㆒、爲㆓兄弟之弟㆒、爲㆓豈弟之弟㆒。

参考 苐(9－30773)・苐(9－30769)は別字。〔康熙字典、辨似、三字相似〕苐、同レ苐。苐、同レ荸。弟、兄弟。

【弟友】1（テイ イウ） 兄長に事へてすなほなこと。悌友。〔墨子、非儒下〕事レ兄不二弟友一、遇レ人不二貞良一。

【弟窯】2（テイ エウ） 宋代に著名な磁器の一種。宋の章生一の弟、生二の燒いた磁器。哥窯(2－3641‥2)を見よ。〔春風堂隨筆〕哥窯、淺白斷紋、號二百圾碎一、宋時有二章生一・生二兄弟一、皆處州人、主二龍泉之琉田窯一、生二所レ陶青器、純粹如二美玉一、爲二世所一レ貴、卽官窯之類、生一所レ陶者色淡、故名二哥窯一。

【弟嫁】3（オトヨメ オトウトヨメ） 弟の妻。弟妻。

【弟姬】4（オト ヒメ） 乙姬(1－161‥8)に同じ。❶妹姬。妹。〔皇極紀、三年正月〕。❷年若い姬。❸龍宮に居るといふ仙女。

【弟恭】5（テイ キヨウ） 弟が兄に對して恭敬を盡すこと。〔左氏、文、十八〕擧二八元一、使レ布二五教于四方一、父義、母慈、兄友、弟恭、子孝、內平外成。

【弟兄】6（テイ ケイ） ❶きやうだい。兄弟。〔管子、山至數〕弟兄十人、分レ國爲レ十。〔墨子、非儒下〕伯父・叔父・弟兄・庶子。〔史記、楚世家〕始寡人與レ王約爲二弟兄一。〔古詩、爲二焦仲卿妻一作〕我有二親父母一、逼迫兼二弟兄一。〔白居易、長恨歌〕姊妹弟兄皆列レ土、可レ憐光彩生二門戶一。❷他人を親しんでいふ。〔宣和遺事、前集下〕弟兄心何必如レ此。

〖弟兄們〗7 ti^{4} hsiung^{1} men 兄弟達。

〖弟兄相獄〗8（テイケイ アヒゴクス） 兄弟が互に訟へあふ。〔呂覽、高義〕弟兄相獄、親戚相忍。

【弟敬】9（テイ ケイ） 弟が兄を敬ふ。〔管子、版法解〕父慈、子孝、兄愛、弟敬。

【弟月】10（オト ヅキ） 十二月の異名。正月を太郎月といふの對。乙月。〔倭訓栞〕。

【弟見】11（オト ミ） 乳呑兒ある母が、再胎したこと。

【弟昆】12（テイ コン） 兄弟。弟兄に同じ。〔杜甫、彭衙行〕誓將下與二夫子一、永結爲中弟昆上。

【弟妻】13（テイ サイ） 弟の妻。おとよめ。おとうとよめ。弟婦。〔倭名抄、人倫部、婚姻類、娣婦〕爾雅云、長婦謂二幼婦一爲二娣婦一。〔注〕娣、音弟、和名、於斗與女。〔箋注〕按、於斗與女・於保與女、蓋謂二弟妻兄妻一。

【弟子】14（テイ シ） ❶師に從つて學業を習ふ者。師を父兄に比していふ。門人。でし。〔易、師〕弟子輿レ尸。〔儀禮、士相見禮〕與二老者一言、言二使弟子一。〔疏〕雷次宗云、學生事レ師、雖レ無レ服、有二父兄之恩一、故稱二弟子一。〔禮、曲禮上〕從二於先生一不二越レ路而與一レ人言。〔疏〕自稱爲二弟子一者、言下己自處如二弟子一、則尊レ師如中父兄上也、云云、雷次宗以爲、師如二父兄一、故自稱二弟子一也。〔孟子、公孫丑上〕若レ是則弟子之惑滋甚。〔管子、弟子職〕先生施レ教、弟子是則。〔史記、儒林傳〕爲二博士官一、置二弟子五十人一。❷人の弟であり、子であるもの。年の若い者。幼年。少年。〔儀禮、士相見禮〕與二老者一言、言二使弟子一。〔論語、學而〕子曰、弟子入則孝、出則弟。〔劉寶楠正義〕弟子者、對二兄父一之稱、謂二人幼少爲レ弟爲レ子時一也。❸倡伎をいふ。〔程大昌、演繁露、六、樂營將弟子〕開元二年、玄宗選二樂工數百人一、自教二法曲於梨園一、謂二之皇帝梨園弟子一、至レ今謂二優女一爲二弟子一、命二伶魁一爲二樂營將一者、此其始也。〔元曲、謝天香〕賣弄的有二伎倆一、賣弄的有二豔姿一、則落的臨老來呼二弟子一。

〖弟子員〗15（テイシ ヰン） 學生。生員。〔漢書、武帝紀〕丞相弘請爲二博士一、置二弟子員一、學者益廣。〔漢書、儒林傳贊〕武帝立二五經博士一、開二弟子員一。

〖弟子屈〗16（デシ カガ） 北海道釧路國の地名。

〖弟子行〗17（テイシ カウ） 孔子家語の篇名。

【弟子職】18（テイシ シヨク） 管子の篇名。弟子の學則を述べ、蚤作・受業・對客・饌饋・乃食（命食）・灑掃・執燭・退習等に分ち說く。漢書藝文志によると孝經に附す。〔漢書、藝文志〕弟子職、一篇。〔注〕管子所レ作。〔困學紀聞、諸子〕弟子職、漢志附二于孝經一、朱子謂、疑是作二內政一時、士之子常爲レ士、因作レ此以教レ之。〔集證〕漢志考、弟子職、管子雜篇第五十九、有二學則・蚤作・受業・饌饋・命食・灑掃・執燭・請衽・退習等章一。〔參考書〕【弟子職集解】一卷 清、莊述祖撰。【弟子職箋解】清、洪亮吉撰。【弟子職正音】一卷 清、汪筠撰。

〖弟子籍〗19（テイシ セキ） ❶孔子の門人の姓名を記した帳簿。前漢の魯の共王が孔子の宅を壞した時、壁中から出たといふ。〔史記、仲尼弟子傳贊〕弟子籍出二孔氏古文一、近レ是。❷弟子にするかきつけ。〔淮南子、道應訓〕昔者公孫龍、在レ趙之時、謂二弟子一曰、人而無レ能者、龍不レ能二與遊一、有レ客、衣レ褐帶レ索而見曰、臣能呼、公孫龍顧謂二弟子一曰、門下故有二能呼者一乎、對曰、無レ有、公孫龍曰、與二之弟子之籍一。

〖弟子入〗20（デシ イリ） 弟子となること。又、入門。

〖弟子孩兒〗21（テイシ ガイジ） 年若い兒。幼兒。又、徒弟を罵る語。〔西廂記、張君瑞慶二團圞一雜劇〕這椿事、都是那長老禿驢・弟子孩兒、我明日慢慢的和レ他說話。

〖弟子入則孝出則弟〗22（テイシ イリテハスナハチカウ イデテハスナハチテイ） 人の弟であり子である者は、家にある時は父母に孝行を盡し、外に出でては長者に對して從順であるべきである。〔論語、學而〕子曰、弟子入則孝、出則弟、謹而信、汎愛レ衆而親レ仁、行有二餘力一、則以學レ文。

【弟矢】23（オト ヤ） 一手二本の中、第二番目の矢をいふ。乙矢。

【弟順】24（テイ ジユン） 弟が兄に對して從順である。又、其のこと。又、年少の者が年上の者に仕へてへりくだり順ふこと。悌順。〔顧雲、唐風集序〕其雅麗淸苦激越之句、能使二貪夫廉、邪臣正、父慈、子孝、兄良、弟順一、人倫綱紀備矣。

【弟媳】25（テイ ソク） 弟の妻をいふ。

【弟孫】26（テイ ソン） 後漢、祭遵(8－24700‥50)の字。

【弟佗】27（テイ タ） 冠の伏したさま。一本に芾佗、又、第作に作る。第作は、第迮で、ちぢまつて小さいさま。〔荀子、非十二子〕弟二佗其冠一、神二禫其辭一。〔注〕弟佗其冠、未詳。〔集解〕盧文弨曰、弟、本或作レ芾、集韻、音徒回反、莊子應帝王篇有二弟靡一、此芾陀義當レ近レ之、與二上所レ云其冠絻一亦頗相似、先謙案、盧主本作二第作一、與二盧說一合。

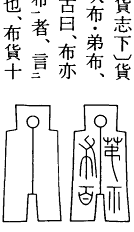
【弟台】28 ti^{4} t'ai^{2} 己より年少の者に對する稱呼。あなた。老弟。

【弟長】29（テイ チヤウ） ❶年が少いことと多いこと。又、年少年と年長者。長少。長幼。〔禮、鄕飮酒義〕知二其能弟長而無一レ遺矣。〔疏〕弟、少也。〔荀子、樂論〕知二其能弟長而無一レ遺也。❷或は年少者としての道を盡し、或は又、年長者としての道を盡す。〔墨子、非命上〕入則不三慈二孝於親戚一、出則不三弟二長於鄕里一。〔韓愈、柳州羅池廟碑〕出相弟長、入相慈孝。

【弟弟】30（テイ テイ） ❶弟、弟たり。弟が弟たるの道を盡してよく兄に順ふ。〔易、家人〕父父、子子、兄兄、弟弟。❷弟たるの道を盡す弟。〔漢書、劉向傳〕舜禹忠臣、周公弟弟。〔漢書、循吏、黃霸傳〕孝子弟弟、貞婦順孫。

【弟靡】31（タイ ビ） 窮まらないさま。一說に、したがひ伏すさま。又、一說、草の靡くさま。弟は一に茅に作る。〔莊子、應帝王〕因以爲二弟靡一、因以爲二波流一。〔釋文〕弟靡、不レ窮之貌、崔云、猶二遜伏一也。〔郭慶藩集釋〕盧文弨曰、正字通、弟作レ芾、後來字書、亦因レ之、而於レ古無レ有也、類篇弟字下有二徒回反一音一、正本レ此、列子黃帝篇作二茅靡一。〔莊子故〕弟、列子作レ茅、盧重元注云、如二草之靡一。

【弟布】32（テイ フ） 漢代の錢の名。〔漢書、食貨志下〕貨布五品、大布・次布・弟布、云云。〔注〕師古曰、布亦錢耳、謂二之布一者、言二其分布流行一也、布貨十品、有二弟布一。



新王莽弟布
（金石索）

【弟婦】33（テイ フ） 弟の妻。弟嫁。弟妻。〔正字通〕姒、說者惑二于弟婦之稱一レ姒、遂謂以二婦之長幼一爲二娣姒一。

【弟分】34（オトウト ブン） 假に弟と定めた者。義弟。

【弟父】35（テイ ホ） 上古の醫師の名。說苑には苗父に作る。〔韓詩外傳、十〕上古醫曰二弟父一、弟父之爲レ醫也、以レ莞爲レ席、以レ蒭爲レ狗、北面而祝レ之、發二十言一耳、諸扶輿而來者、皆平復如レ故。

【弟妹】36（テイ マイ） 弟と妹。年下の兄弟。〔北史、崔亮傳〕弟妹饑寒、豈容二獨飽一。〔杜甫、九日詩〕弟妹蕭條各何往、干戈衰謝兩相催。〔白居易、除夜寄二弟妹一詩〕感レ時思二弟妹一、不レ寐百憂生。

〖弟妹夫人〗37 ti^{4} mei^{4} fu^{1} jen^{2} 己より年少者の妻君の呼稱。奧樣。

【弟小父】38（オト ヲヂ） 父の弟。叔父。

【弟切草】39（オトギリ サウ） 草の名。おとぎりさう科の宿根草で、山野路傍等に生じ、夏、黃色の花を開く。

【弟者悌也】40（テイハテイナリ）　弟とは悌といふ意味である。悌は、兄長に從順なこと。〔白虎通、三綱六紀〕弟者、悌也、心順行篤也。

【弟男子姪】41（テイダンシテツ）　自己より目下の者。又、年若い者。〔通俗編、倫常、弟男子姪〕元典章、有下新附軍人弟男子姪、結二連惡少一爲レ害上、四字始見。

【不レ友二于弟一】42（テイニイウナラズ）　兄が弟に親切でない。友は、兄弟間の道。〔書、康誥〕于レ弟弗レ念二天顯一、乃弗レ克レ恭二厥兄一、兄亦不レ念二鞠レ子哀一、大不レ友二于弟一。

【⿰弓亣】9738　ゲン　弦（4－9754）の本字。〔正字通〕⿰弓亣、弦本字。

【⿰弓予】9739　ヨ　〔玉篇〕與魚切　魚　ゆみ。〔玉篇〕⿰弓予、弓也。

【灵】9740　スイ　〔字彙補〕音水　**人名。**〔字彙補〕灵、人名、明寧河王知灵。

【弦】9741　テイ　弤（4－9751）に同じ。〔篇海類編〕弦、同レ弤。

【弯】9742　リ　義未詳。〔龍龕手鑑〕弯、音里。

【弜】9743　キヤウ　義未詳。〔搜眞玉鏡〕弜、音強。

【⿰弓斤】9744　イン　義未詳。〔龍龕手鑑〕⿰弓斤、音引。

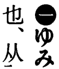
五畫

【弡】9745　🈩クツ　グチ　〔玉篇〕巨勿切　物　🈔チヤウ　🈩**つよくいさましい。**〔玉篇〕弡、彊勇也。🈔張（4－9812）の古字。〔字彙補〕弡、古文張字。

【⿰弓古】9746　コ　ク　〔字彙〕空胡切　虞　**こゆみ。**〔字彙〕⿰弓古、小弓也。

【⿰弓㐌】9747　シ　弛（4－9724）に同じ。〔集韻〕弛、或作レ⿰弓㐌。

【弢】9748　タウ　トウ　〔集韻〕他刀切　豪　ㄊㄠ　t'ao¹


小篆

㊀**ゆみぶくろ。**〔說文〕弢、弓衣也、从二弓𢎘一、𢎘、𠂹飾、與レ鼓同意。〔左氏、成、十六〕楚共王召二養由基一、與二之兩矢一、使レ射二呂錡一、中レ項、伏レ弢。〔注〕弢、弓衣也。〔國語、齊語〕弢無レ弓。〔注〕弢、弓衣也。㊁**えびら。**〔小爾雅、廣器〕矢服謂二之弢一。㊂**はたぶくろ。**〔左氏、成、十六〕內二旌於弢中一。〔疏〕弢、是盛レ旌之囊也。㊃**つつむ。**韜（12－43189）に通ず。〔莊子、徐無鬼〕從說レ之則以二金版・六弢一。〔釋文〕司馬崔云、金版・六弢、皆周書篇名、或謂、祕讖也、本又作二六韜一、謂二太公六韜、文・武・虎・豹・龍・犬一也。〔陸機、漢高祖功臣頌〕弢レ迹匿レ光。〔注〕善曰、弢、與レ韜古字通也。

解字　會意。弓と𢎘との合字。𢎘の中は弓の袋の飾りの垂れるさま、又は手に持つ意を示す。故に弓と𢎘とを合して、ゆみぶくろの意を表はす。〔說文、段注〕然則弢・鼓从レ屮者、皆象二其飾一云云、弢从レ又、則謂二手執一レ之也。

【弢菴】1（タウアン）　字號。㊀清、曾煜（5－14299‥5）の號。㊁民國、陳寶琛（11－41698‥1191）の號。

【弢園】2（タウエン）　清、史念祖（2－3249‥258）の號。

〖弢園老民〗3（タウヱンラウミン）　清、王韜（7－20823‥749）の號。

【弢子】4（タウシ）　清、劉棨（2－2224‥232）の字。

【弢叔】5（タウシユク）　字號。㊀清、江湜（6－17140‥219）の字。㊁清、張聯桂（4－9812‥1589）の字。

【弢仲】6（タウチユウ）　清、閻興邦（11－41379‥63）の字。

【弢武】7（タウブ）　明、杜文煥（6－14477‥384）の字。

【弢甫】8（タウホ）　清、桑調元（6－14772‥166）の號。

【弢盧】9（タウロ）　清、柳以蕃（6－14662‥235）の號。

〖弢盧處士〗10（タウロシヨシ）　清、汪宗沂（6－17154‥28 1）の號。

【弢堂主人】11（タウダウシユジン）　清、汪宗沂（6－17154‥28 1）の號。

【弣】9749　フ　〔集韻〕斐父切　麌　ㄈㄨˇ　fu³　㊀**ゆづか。**弓の中央部の手で握る處。〔釋名、釋兵器〕弓中央曰レ弣、弣、撫也、人所二持撫一也。〔集韻〕弣、弓把中也。〔禮、曲禮上〕左手承レ弣。㊁通じて柎（6－14616）・拊（5－11947）に作る。〔集韻〕弣、通作二柎・拊一。

【⿱聿弓】9750　ヒツ　弻（4－9824）・弼（4－9826）に同じ。〔說文〕弻、⿱聿弓、弻或如レ此。〔集韻〕弼、古作レ⿱聿弓。

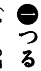
【弤】9751　🈩テイ　タイ　〔集韻〕典禮切　薺　ㄉㄧˇ　ti³　🈔テウ　〔集韻〕丁聊切　蕭　🈩**朱うるしをかけた弓。**〔玉篇〕弤、舜弓名。〔集韻〕弤、弓名。〔孟子、萬章上〕琴朕弤朕。〔注〕弤、彫弓也、天子曰二彫弓一、堯禪二舜天下一、故賜二之彫弓一也。〔疏〕彫弓、漆赤弓也、尙書云、彤弓一、彤矢百、孔安國云、諸侯有二大功一賜二弓矢一、然後專二征伐一、彤弓所三以講レ德習レ射、藏示二子孫一也。🈔**朱うるしをかけた弓。**敦（5－13276）に同じ。〔集韻〕敦、畫弓也、亦作レ弤。

名乘　ユミ。

【⿰弓民】9752　🈩トン　〔集韻〕都昆切　元　🈔ビン　ミン　〔集韻〕彌鄰切　眞　🈩**うるしぬりの弓。**弴（4－9808）に同じ。〔集韻〕弴、說文、畫弓也、或从レ民。🈔㊀**はた。**〔玉篇〕⿰弓民、旗也。㊁**旗をはりひろげるゆみ。**〔集韻〕⿰弓民、旗弧。

【弥】9753　ビ　彌（4－9877）に同じ。〔玉篇〕弥、同レ彌。

【弦】9754　ケン　ゲン　〔集韻〕胡千切　先　ㄒㄧㄢˊ　hsien²


小篆

㊀**つる。ゆづる。**弓のいと。もと⿰弓亣（4－9738）に作る。〔正字通〕⿰弓亣、弦本字。〔說文〕⿰弓亣、弓弦也、从レ弓、象二絲軫之形一。〔儀禮、鄉射禮〕左執レ弣、右執レ弦。㊁**つるを張る。**〔易、繫辭下〕弦レ木爲レ弧。㊂**つるなり。**ゆづるのひびき。〔漢書、李廣

傳〕應レ弦而倒。❹**ゆみはりづき**。半圓形の月。〔釋名、釋天〕弦、月半之名也、其形、一旁曲、一旁直、若二張レ弓施一レ弦也。〔漢書、律歷志上〕躔離弦望。〔論衡、四諱〕月中分、謂二之弦一。❺**直角三角形の斜邊。又、弧の兩端を結ぶ直線**。〔周禮、考工記、磬氏、倨句一矩有半、注〕必先度二一矩一爲レ句、一矩爲レ股、而求二其弦一。〔疏〕弦、謂二兩頭相望者一。〔周髀算經、句股方圓圖、注〕句・股各自乘、幷レ之爲二弦實一、開方除レ之、卽弦也。❻**つるがた**。弦の形をしたもの。〔晉書、趙至傳〕根萌未レ樹、而牙淺弦急。❼**かたくただしい**。〔莊子、外物、詳稽二乎譏一、釋文〕向本作レ弦、云二堅正一也。❽**つよい。きびしい。はげしい**。急。〔說文、段注〕弦、有二急意一、故董安于、性緩、佩レ弦以自急。〔任昉、王文憲集序〕夷稚之體、無レ待二韋弦一。〔注〕向曰、弦、弓弦、喩レ急也。❾**血管が張って脈搏の急なこと**。弦脈(72)を見よ。〔史記、倉公傳〕脈長而弦。❿**樂器のいと**。〔說文、弦、段注〕弓弦以レ絲爲レ之、張二於弓一、因レ之張二於琴瑟一者、亦曰レ弦。〔禮、樂記〕舜作二五弦之琴一、以歌二南風一。⓫**絲を張った樂器**。琴瑟。弦樂器。〔淮南子、原道訓〕列二管弦一。〔注〕弦、琴瑟也。⓬**かきならす。かなでる。ひく**。弦樂器を奏する。〔禮、文王世子〕春誦夏弦。〔注〕弦、謂二以レ絲播一レ詩。〔疏〕謂下以二琴瑟一播中彼詩之音節上、詩音則樂章也。〔禮、樂記〕北面而弦。〔注〕弦、謂レ鼓二琴瑟一也。⓭**うたふ**。弦樂器にあはせてうたふ。〔莊子、讓王〕匡坐而弦。〔釋文〕案、弦、謂二弦歌一。⓮**妻**。古、琴瑟の諧和を夫婦の交情にたとへたところからいふ。〔通俗編、婦女〕今俗謂レ喪レ妻曰レ斷レ弦、再娶曰レ續レ弦、村農・市賈、無レ不レ言レ之。⓯**周代の國名**。子爵。春秋の時、楚に滅された。今の河南省潢川縣の西南の弦城の地。〔左氏、僖、五〕楚人滅レ弦、弦子奔レ黃。⓰絃(**8－27373**)に通ず。〔說文、弦、繫傳注〕今別作レ絃。〔段注〕弦、俗別作レ絃、非。⓱**姓**。〔通志、氏族略、以レ國爲レ氏〕弦氏、江黃道柏之姻、杜預云、在二弋陽軑縣東南一、按、古軑城、今在二光州仙居北四十里一、僖五年、楚滅レ之、子孫以レ國爲レ氏。⓲現ゼンマイ。發條。邦**つる**。㋑鍋の提手。提梁。㋺ますのかね。斗梁。

名乘 ヲ。イト。フサ。

解字 本義は弓の弦のこと。弓をもととし、玄は絲軫の形に象る。弓弦は絲でつくつて弓に張る。故に琴瑟に張るものも亦弦といふ。絃の字を用ひるは後のことで、絃が會意であるところから、弦をも會意とする說がある。絲軫とは絲をかけるところ。〔說文〕弦、弓弦也、从レ弓、象二絲軫之形一。〔段注〕弓弦以レ絲爲レ之、張二於弓一、因レ之張二於琴瑟一者、亦曰レ絃、俗別作レ絃、非也、云云、軫者、系レ弦之處。

參考 ❶絃(**8－27373**)は弦の俗字。或は誤つて弦歌の意に絃を用ひる。❷清代、聖祖康熙帝の諱、玄燁を避けて、弦の字も一點を缺いて弦の字を用ひた。〔清國行政法汎論、皇帝、御名敬避〕聖祖仁皇帝、廟諱曰二玄燁一、玄用レ元代レ之、玄德・玄黃等字、皆不レ得レ用、弦・絃・炫・率等字、皆缺二一點一、並改二寫弦・絃・炫・率等字一。

【弦韋】1（ゲンヰ） ゆみづるとなめしがは。戰國、魏の西門豹が性急なるを以て韋を佩び、春秋、晉の董安于は性緩なるを以て弦を佩び、各〻己の短を補つて反省に資した故事。緩急の喩。〔韓非子、觀行〕西門豹之性急、故佩レ韋以緩レ己、董安于之心緩、故佩レ弦以自急、故以レ有レ餘、補レ不レ足、以レ長續レ短、之謂二明主一。〔後漢書、第五倫傳論〕昔人以二弦韋一爲レ佩、蓋猶レ此矣。

【弦姻】2（ゲンイン） 弦國の外親。弦は、春秋時代の國の名。〔左氏、僖、五〕楚鬭穀於菟滅レ弦、弦子奔レ黃、於レ是江黃道柏、方睦二於齊一、皆弦姻也。〔注〕姻、外親也。

【弦影】3（ゲンエイ） ゆみはり月の光。〔李嶠、雁詩〕望レ月驚二弦影一、排レ雲結二陣行一。

【弦音】4（ゲンオン） ゆみづるの音。〔戰國、楚策〕其飛徐者、其瘡痛也、鳴悲者、久失レ羣也、故瘡未レ息、而驚心未レ去也、聞二弦音一、引而高飛、故瘡隕也。

【弦歌】5（ゲンカ） 琴瑟(弦樂器)に合はせてうたふ。絃歌。〔周禮、春官、小師〕小師掌レ教二鼓鼗柷敔塤簫管弦歌一。〔注〕弦、謂二琴瑟一也、歌依二詠詩一也。〔孫詒讓正義〕漢書藝文志云、誦二其言一謂二之詩一、詠二其聲一謂二之歌一、依詠、謂下依二於琴瑟一以爲上レ節。〔禮、樂記〕正二六律一、和二五聲一、弦二歌詩頌一。〔疏〕弦二歌詩頌一者、謂下以二琴瑟之弦一、歌中此詩頌上也。〔論語、陽貨〕子之二武城一、聞二弦歌之聲一。〔集注〕弦、琴瑟也。〔莊子、讓王〕弦二歌於室一。〔淮南子、俶眞訓〕弦歌鼓舞。

【弦歌臺】6（ゲンカダイ） 臺の名。山東省武城縣の西。上に子游祠がある。〔山堂肆考、臺〕弦歌臺、在二東昌府武成縣西一十里一、上有二子游祠一。

【弦歌不レ衰】7（ゲンカシテオトロヘズ） 弦歌不レ輟に同じ。〔史記、孔子世家〕聞三孔子在二陳・蔡之間一、云云、陳・蔡大夫謀曰、云云、於レ是乃相與發二徒役一、圍二孔子於野一、不レ得レ行、絕レ糧、從者病、莫二能興一、孔子講誦弦歌不レ衰。

【弦歌不レ輟】7′（ゲンカシテヤメズ） 琴をひいて歌ふことをやめない。弦歌不レ衰を見よ。孔子が陳・蔡の間や匡で厄に遭つた時にも弦歌し續けたことから、轉じて、苦難に遭遇しても學問の講習を續ける意。弦歌は學業の一。〔莊子、秋水〕孔子遊二於匡一、宋人圍レ之數匝、而弦歌不レ惙。

【弦巧】8（ゲンカウ） 琴の音曲がすぐれてゐる。〔劉禹錫、歷陽書事七十韻詩〕管清疑二警鶴一、弦巧似二嬌鸎一。

【弦高】9（ゲンカウ） 春秋、鄭の商人。秦人が鄭を滅さうとした時、鄭人が之を知らず、高が偶〻滑に於て秦の軍隊に遭ひ、詐つて鄭伯の命であるとして、十二牛を以て秦の軍隊を犒らひ、遽かに鄭に告げて備を爲させたので、秦の將の孟明は事の敗れることを知つて還つた。鄭の穆公が高を賞しようとしたが、辭して東夷に徙つた。〔左氏、僖、三十三〕及レ滑、鄭商人弦高、將レ市二於周一、遇レ之、以二乘韋一先二牛十二一犒レ師、云云、孟明曰、鄭有レ備矣、不レ可レ冀也、攻レ之不レ克、圍レ之不レ繼、吾其還也、滅レ滑而還。〔淮南子、說山訓〕弦高誕而存レ鄭。〔謝靈運、述二祖德一詩〕弦高犒二晉師一、仲連卻二秦軍一。〔注〕善曰、呂氏春秋曰、云云、候二晉之道一也、高誘曰、晉、國名也、音晉、今爲レ晉、字之誤也。〔高士傳、上〕。

【弦膠】10（ゲンカウ） にかはづけにした弓のつる。〔顏子家訓、歸心〕漢武不レ信二弦膠一、魏文不レ信二火布一。

【弦樂】11（ゲンガク） ❶弦樂器。絃樂器。〔說文〕瑟、庖犧所レ作弦樂也。〔段注〕凡弦樂以レ絲爲レ之、象二弓弦一、故曰レ弦。❷弦樂器を用ひて奏する音樂。絃樂。

【弦樂器】12（ゲンガクキ） 總て絲を張つて作り、それを彈奏して音を發する樂器をいふ。

【弦輝】13（ゲンキ） ゆみはりづきのひかり。〔謝莊、七夕夜詠二牛女一應制詩〕夕清豈淹拂、弦輝無二久臨一。

【弦機】14（ゲンキ） ゆみづるのしかけ。ゆみづる。轉じて、優れた才能。〔戰國、齊策〕堅箭利金、不レ得二弦機之利一、則不レ能二遠殺一矣。〔庾信、後魏荊州刺史賀拔夫人元氏墓誌銘〕弦機虛掩、郭門路轉。

【弦徽】15（ゲンキ） 琴の絲と琴柱（コトヂ）。〔晉書、陶潛傳〕性不レ解レ音、而畜二素琴一張一、絃徽不レ具。

【弦妓】16（ゲンギ） 藝妓。

【弦急】17（ゲンキフ） ❶弦がきびしい。弓のつるが強く張られてゐること。〔杜顏、從軍行〕秋草馬蹄輕、角弓持レ弦急。❷つるがたの枝蔓のあやふいこと。〔晉書、趙至傳〕至レ若二蘭茝傾頓、桂林移植一、根萌未レ樹、而牙淺弦急、每恐二風波潛駭、危機密發一、此所三以怵二惕於長衢一也。

【弦驚】18（ゲンキヤウ） ゆみづるの音に驚く。〔鮑照、東門行〕傷禽惡二弦驚一、倦客惡二離聲一。〔注〕善曰、戰國策、云云、其飛徐者、其創痛也、悲鳴者、久失レ群也、故創未レ息、而驚心未レ忘、聞二弦音一、引而高飛、故創隕、翰曰、禽傷二於弓一、惡二於聞一レ弦。

【弦局】19（ゲンキヨク） 官署の名。元、置く。軍器監の屬。

〔元史、百官志六〕大都弦局、大使・副使各一員、至元三十年、改二提擧司一置レ局。

【弦琴】20ゲンキン　ことをかなでる。〔後漢書、鍾皓傳〕林慮懿德、非レ禮不レ處、悅二此詩書一、弦レ琴樂レ古。

【弦掛】21ツルカケ　弦を弓筈にかけること。

【弦栝】22ゲンクワツ　ゆみづるとためぎ。〔南齊書、孔稚珪傳〕如二身手之相驅一、若二弦栝之相接一。

【弦卷】23ツルマキ　豫備の弓弦を卷いて置く具。革等で環のやうに作り、太刀などに下げて携へる。つるぶくろ。〔運步色葉集〕

【弦管】24ゲンクワン　琴と笛。弦樂器と管樂器。又、その音。又、それをかなでること。〔宋書、樂志一〕登哥人上レ殿、弦管在レ下。〔南齊書、陸厥傳〕若以二文章之音韻一、同二弦管之聲曲一、則美惡姸蚩、不レ得二頓相乖反一。〔高適、行路難〕五侯相逢大道邊、美人弦管爭二留連一。〔劉基、憶昔詩〕憶昔揚州看二月華一、滿城絃管滿二人家一。

【弦緩】25ゲンクワン　琴の絲のゆるいこと。〔四十二章經〕曾爲二何業一、對曰、愛レ彈レ琴、佛言、弦緩如何、對曰、不レ鳴矣。

【弦月】26ゲンゲツ　一邊は曲り、一邊は直くて、弓に弦を張つたやうに見える月の稱。陰曆七・八・九日頃を上弦、二十二・三・四日頃を下弦といふ。ゆみはりづき。半月。〔釋名、釋天〕弦、月半之名也、其形、一旁曲、一旁直、若二張レ弓施一レ弦也。〔宋孝武帝、七夕詩〕白日傾晩照、弦月升初光。〔陳山毓、七夕賦〕怨二輕絲之多一レ亂、傷二弦月之易一レ零。

【弦喧】27ゲンケン　弦の鳴るやうにやかましい。〔庾信、陝州弘農郡五張寺經藏碑銘〕翔禽歌轉、流澗弦喧。

【弦國】28ゲンコク　周代の國名。子爵。春秋、楚に滅された。今の河南省潢川縣西南の弦城の地。〔春秋、僖、五〕秋八月、楚人滅レ弦、弦子奔レ黃。〔杜注〕弦國、在二弋陽軑縣東南一。

【弦齋】29ゲンサイ　明、鄭瑛（**11－39647**・・18）の號。

【弦朔】30ゲンサク　月のはじめ。〔雲笈七籤、心藏圖〕常以二四月・五月・六月弦朔淸旦一、南面端坐。

【弦索】31ゲンサク　樂器のいとすぢ。又、總て絲で聲を發する樂器。琴・琵琶・胡弓等。〔元稹、連昌宮詞〕夜半月高弦索鳴、賀老琵琶定二場屋一。〔顧雲、池陽醉歌贈二匡廬處士姚巖傑一詩〕弦索緊快管聲脆、急曲碎拍聲相連。〔韓維、琵琶伎詩〕客來呼レ童理二弦索一、滿面狼籍施二鉛朱一。〔蘇軾、老人行詩〕美人如レ花弄二弦索一、只恨尊前明月落。

〔弦索西廂〕32ゲンサクセイシヤウ　戲曲の名。西廂搊彈詞の別稱。元、董解元撰。唐の會眞記に材を取り、之に多くの人物、多樣の事件を錯へてゐる。北曲西廂記は之に依つて作られた。

【弦子】33ゲンシ　弦國の君。弦國は子爵の國であるからいふ。〔春秋、僖、五〕秋八月、楚人滅レ弦、弦子奔レ黃。〔左氏、僖、五〕楚鬭穀於菟滅レ弦、弦子奔レ黃、於レ是江黃道柏、方睦二於齊一、皆弦姻也、弦子恃レ之而不レ事レ楚、又不レ設レ備、故亡。

【弦矢】34ゲンシ　ゆみづると矢。〔司馬相如、上林賦〕弦矢分レ藝殪仆。

【弦指】35ゲンシ　琴の絲を奏でるゆび。〔王昌齡、琴詩〕髣髴弦指外、遂見二初古人一。

【弦施】36ゲンシ　春秋、齊の人。一に弦多といふ。友人の東郭書が魯・吳の連合軍と戰ふために出陣する時、形見として弦施に琴を贈つた。〔左氏、哀、四・六・十一〕

【弦瑟】37ゲンシツ　つるを張つた瑟。瑟をいふ。〔李賀、上雲樂詩〕三千宮女列二金屋一、五十弦瑟海上聞。

【弦實】38ゲンジツ　直角三角形の斜邊の平方。〔周髀算經、句股方圓圖、注〕趙君卿曰、句股各自乘、倂レ之爲二弦實一、開方除レ之、卽弦也。

【弦者】39ゲンシヤ　琴瑟を鼓する人。樂工をいふ。〔禮、投壺〕命二弦者一曰、請奏二貍首一、閒若レ一、太師曰、諾。〔注〕弦、鼓レ瑟者也。

【弦匠】40ツルサシ　弓のつるを造る人。

【弦章】41ゲンシヤウ　春秋、齊の景公の臣。〔晏子、問、上〕左右多レ過、獄讞不レ中、則弦章暱侍。〔說苑、君道〕昔先君桓公、身體墮懈、辭令不レ給、則隰朋侍、左右多レ過、刑罰不レ中、則弦章侍。

【弦酒】42ゲンシユ　弦樂器とさけ。〔謝莊、北宅祕園詩〕伊人儻同愛、弦酒共棲尋。

【弦誦】43ゲンシヨウ　琴瑟等を彈いて歌ふ。又、琴瑟を彈きながら朗誦する。學業の一。弦歌。〔晉書、儒林傳序〕東序西膠、未レ聞二於弦誦一。〔蘇軾、和二陶飮酒一詩〕嘵嘵六男子、弦誦各一經。〔廼賢、讀二汪水雲詩集一詩〕兵臨二魯國一猶弦誦、客過二殷墟一獨嘯歌。

【弦刃】44ゲンジン　弓と刀。轉じて、武器をいふ。〔史記、日者傳〕攻而不レ用二弦刃一者也。

【弦甚】45ゲンジン　脈搏の甚だ急なこと。〔素問、至眞要大論〕沈甚曰レ病、弦甚曰レ病、濇甚曰レ病、數甚曰レ病。

【弦盡】46ゲンジン　琴の絲が盡きる。〔宋史、崔遵度傳〕弦盡則聲減。

【弦吹】47ゲンスイ　弦樂器と管樂器。管弦。絲竹。〔顏延之、拜二陵廟一作詩〕萬紀載二弦吹一、千載託二旒旗一。〔注〕濟曰、弦吹、弦管也。〔舊唐書、溫庭筠傳〕能逐二弦吹之音一。

【弦生】48ゲンセイ　琴の音曲が生硬である。琴の彈き方の未熟なこと。〔白居易、答下蘇庶子月夜聞二家僮奏樂一見上レ贈詩〕弦生管澁未レ堪レ聽。

【弦聲】49ゲンセイ　❶琴瑟の絲の聲。弦樂器の音。〔禮、樂記、朱弦而疏越、疏〕朱弦、謂下練二朱絲一爲上レ弦、練則聲濁也、越、謂二瑟底孔一也、疏二通之一使二聲遲一、故云二疏越一、弦聲既濁、瑟音又遲、是質素之聲、非二要妙之響一。〔李白、擬古詩〕含レ情弄二柔瑟一、彈作二陌上桑一、弦聲何激烈、風卷遶二飛梁一。❷弓づるの音。〔白居易、詩序〕發レ矢中レ的、兼聽二弦聲一。

【弦節】50ゲンセツ　琴瑟などの調子。〔神仙傳〕葛元、手拍、牀蝦蟆、及諸蟲・飛鳥・燕雀・魚鼈之屬、使二之舞一、皆應二弦節一如レ人、元止レ之卽止。

【弦絕】51ゲンゼツ　ゆみづるや樂器の絲がきれる。〔吳志、潘濬傳、注〕濬曰、天下未レ定、萬機務多、射レ雉非レ急、弦絕括破、皆能爲レ害。〔庾信、思舊銘〕匣中絃絕、鄰人笛悲。

【弦走】52ツルバシリ　❶弓に張つたつるが自然に切れること。❷大鎧の胴の、腹に當る所。多くは染革で包む。

【弦奏】53ゲンソウ　弦樂器が鳴る。〔武平一、奉下和幸二韋嗣立山莊一侍宴上應制詩〕弦奏魚聽レ曲、機忘鳥狎レ人。〔楊炯、送二臨津房少府一詩〕煙霞駐二征蓋一、弦奏促二飛觴一。

【弦多】54ゲンタ　❶血脈が張つて脈搏の多いこと。〔素問、平人氣象論〕春胃微弦曰レ平、弦多胃少曰二肝病一。❷春秋、齊の人。弦施（36）の一名。

【弦打】55ツルウチ　矢を放たずに弓弦を鳴らすこと。

【弦袋】56ツルブクロ　弓弦を卷いて入れておく袋。革又は籐でつくり、腰にさげる。〔貞丈雜記、武具〕

【弦鼗】57ゲンタウ　秦代にあつた樂器。鼗（フリツヅミ）に弦を張つたもの。三弦をいふ。琵琶の起原と稱せられる。〔舊唐書、音樂志二〕琵琶四弦、漢樂也、初秦長城之役、有二弦レ鼗而鼓一レ之者一、云云、是弦鼗之遺製。〔西河詞話〕三弦起二於秦時一、本三代鼗鼓之製、而改レ形易レ響、謂二之弦鞉一、唐時樂人多習レ之、世以爲二胡樂一、非也。

【弦彈】58ツルハジキ　ゆがけ。弓懸（**4－9692**・・40）の❷に同じ。

【弦斷】59ゲンダン　弦が切れる。弓のつる、或は樂器の絲が切れること。又、夫婦關係の絕えること。字解⓮を見よ。〔劉孝綽、銅雀妓樂府〕危弦斷復續、妾心傷二此時一。

【弦張】60ゲンチヤウ　弦のはり。又、弦が強く張る。〔傅毅、舞賦〕弛二緊急之絃張一兮、慢二末事之委曲一。

【弦柱】61ゲンチユウ　樂器の絃絲の柱。ことぢ。〔魏書、李彪傳〕恐閨門既異、出入生レ疑、弦柱既易、善者或謬。〔宋史、樂志十七〕革爲二燥濕所一レ薄、絲有二弦柱一、緩急不レ齊、故二者其聲難レ定。

【弦直】62ゲンチヨク　弓弦が眞直である。又、張つた弓弦のやうに眞直で、少しも邪曲のないこと。〔後漢書、李固杜喬傳贊〕燮同二趙孤一、世載二弦直一。〔李白、君子有所思行〕萬井驚二畫出一、九衢如二弦直一。〔杜甫、寫懷詩〕達士如二弦直一、小人似二鉤曲一。

【弦桐】63ゲンドウ　琴をいふ。〔謝莊、月賦〕弦桐練レ響、音容選レ和。〔注〕善曰、弦桐、琴也、桓譚新論曰、神農始削レ桐爲レ琴、練レ絲爲レ弦。

【弦匏】64ゲンバウ　絲を張つた樂器とひさごを胴とした樂器。琴瑟の類と笙竽の類。〔禮、樂記〕弦匏笙簧會守。〔晏殊、庭莎記〕車馬不レ至、弦匏不レ設。

【弦望】65ゲンバウ　弦月と望月。〔漢書、律歷志上〕定二朔・晦・分・至・躔・離・弦・望一。〔李陵、與二蘇武一詩〕安知レ非二日月一、弦望自有レ時。〔謝靈運、撰征賦〕涉二弦望一而懷レ期、詔二微臣一而勞問。

【弦繁】66ゲンパン　弦がしげく鳴る。弦樂器の音の急調子なこと。〔白居易、樂世詩〕管急弦繁拍漸稠、

綠腰宛轉曲終頭。

【弦悲】67（ゲンビ） 琴瑟の音がかなしく響く。〔晉書、庾闡傳〕張高弦悲聲激、柱落淸唱未レ和、而桑濮代作。〔王昌齡、聽三彈風入二松闋一贈二楊補闕一詩〕弦悲與レ林寂、淸景不レ可レ度。

【弦浮】68（ゲンブ） 血脈がふくれ上つて、脈搏の多いこと。〔素問、陰陽類論〕三陽脈至二手太陰一、而弦浮而不レ沈、決以レ度、察以レ心、合二之陰陽之論一。

【弦圃】69（ゲンポ） 弦蒲に同じ。〔說文〕藪、大澤也、雝州弦圃。

【弦蒲】70（ゲンポ） 古の藪澤の名。九藪の一。今、陝西省隴縣の西に在る。又、弦圃・汧浦に作る。〔周禮、夏官、職方氏〕正西曰二雍州一、其山鎭曰二嶽山一、其澤藪曰二弦蒲一。〔注〕鄭司農云、弦、或爲レ汧、蒲、或作レ浦。〔漢書、地理志上〕正西曰二雍州一、其山曰レ嶽、藪曰二弦蒲一。〔水經、渭水注〕水出二汧縣之蒲谷鄕弦中谷一、決爲二弦蒲藪一。

【弦木】71（ゲンボク） 木に弦をはる。又、其の弓。〔易、繫辭下〕弦レ木爲レ弧、剡レ木爲レ矢。〔庾信、周上柱國宿國公河州都督普屯威神道碑〕況以二弦木六鈞、函犀七屬一、門多懸レ冑、箭必中レ鞍、山二積器械一、谷二量牛馬一、軍吏計レ功、司勳賞レ策。〔楊弘貞、貫七札賦〕弦木之出、貫レ革爲レ先。

【弦脈】72（ゲンミャク） 血管が張つて脈搏の急なこと。〔素問、陰陽別論〕鼓陽勝急曰レ弦。〔傷寒論〕脈浮而緊者、名曰レ弦、弦者、狀如二弓弦一、按レ之不レ移也。

【弦縷】73（ゲンル） つるいと。細い喩。〔素問、大奇論〕脈至如二弦縷一、是胞精予不レ足也。

【絕レ弦】74（ゲンヲタツ） 春秋時代、伯牙が鍾子期の死後、音を知る者の無いことを歎じて琴の絲を絕つた故事。〔列子、湯問〕伯牙善鼓レ琴、鍾子期善聽、伯牙鼓レ琴、志在レ登二高山一、鍾子期曰、善哉、峩峩兮若二泰山一、志在二流水一、鍾子期曰、善哉、洋洋兮若二江河一、伯牙所レ念、鍾子期必得レ之、云云、曲每レ奏、鍾子期輒窮二其趣一、伯牙乃舍レ琴而嘆曰、善哉善哉、子之聽、夫志象猶二吾心一也、吾於レ何逃レ聲哉。〔呂覽、本味〕鍾子期死、伯牙破レ琴絕レ弦、終身不二復鼓レ琴。〔說苑、談叢〕鍾子期死、伯牙絕レ弦破レ琴、知二世莫レ可二爲鼓一也。〔後漢書、陳元傳〕夫至音不レ合二衆聽一、故伯牙絕レ弦。

【佩レ弦】75（ゲンヲオブ） 弓のつるを佩びる。春秋、晉の董安于が弦を佩び、自ら戒めて緩漫な性質を矯めようとした故事。弦はきびしくはげしい意を表はす。〔韓非子、觀行〕西門豹之性急、故佩レ韋以緩レ己、董安于之性緩、故佩レ弦以自急。〔白居易、何士又可河南縣令制〕佩レ弦以自導、帶レ星以自勤。

【弦上聲】76（ゲンジャウノコエ） 弦樂器のつるから出る音。〔晉書、陶潛傳〕蓄二素琴一張一、絃徽不レ具、每二朋酒之會一、則撫而和レ之曰、但識二琴中趣一、何勞二絃上聲一。〔李益、奉二和武相公春曉聞レ鶯詩〕分明似レ寫二文君恨一、萬怨千愁弦上聲。

【弦上箭】77（ゲンジャウノヤ） 弓につがへた矢。すみやかな喩。又、一度去つて歸らない喩。又、束縛されて不自由な喩。〔李益、游子吟〕君看二白日馳一、何異二弦上箭一。〔李賀、休洗紅詩〕封レ侯早歸來、莫レ作二弦上箭一。

【弦唐子】78（ゲンタウシ） 戰國の人。墨子の從遊者。〔墨子、貴義、魯問〕。

【聞レ弦驚】79（ゲンヲキイテオドロク） 弓づるの音をきいて心に驚く。〔海錄碎事、鳥獸、鳥〕太宗烏詩、近日毛雖レ煖、聞レ弦心已驚。

【應レ弦而倒】80（ゲンニオウジテタフル） 弓のつる音がする途端に敵が倒れる。弓勢が鋭くて外れのない喩。〔史記、李將軍傳〕發卽應レ弦而倒。〔魏志、任城威王彰傳〕胡騎應レ弦而倒。〔晉書、楊濟傳〕猛獸突出、帝命二王濟一射レ之、應レ弦而倒。

【⿰弓吕】9755

シン 〔字彙〕之引切 軫

弓がつよい。弫(**4―9765**)の譌字。〔字彙〕⿰弓吕、弓強也。〔康熙字典〕⿰弓吕、按、卽弫字之譌。

【⿰弓皮】9756

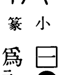
ヒ ビ 〔集韻〕平義切 寘

❶絲又は皮で弓を飾る。〔集韻〕⿰弓皮、絲皮飾レ弓也。**❷いしゆみをはる具。**〔集韻〕⿰弓皮、一曰、所二以張レ弩。**❸弓がまがる。**〔集韻〕⿰弓皮、一曰、弓曲也。

【弧】9757

🈩 コ ゴ 〔集韻〕洪孤切 ㄏㄨˊ hu^{2} 虞

🈔 ウ ヲ 〔集韻〕汪胡切 虞


小篆

🈩**❶弓。**〔說文通訓定聲〕弧、又爲二弓之通稱一。〔易、睽〕先張二之弧一。〔釋文〕弧、弓也。〔左思、魏都賦〕燕弧盈レ庫而委勁。〔注〕劉曰、弧、弓也。㋑木の弓。素樸な弓。〔說文〕弧、木弓也、从レ弓瓜聲。〔易、繫辭下〕弦レ木爲レ弧。〔漢書、五行志下之上〕檿弧萁服。〔注〕師古曰、木弓曰レ弧。〔漢書、韓安國傳〕弧弓射獵。〔注〕師古曰、以レ木曰レ弧、以レ角曰レ弓。㋺強い弓。弧弓(2)を見よ。〔說文〕弧、一曰、往體寡、來體多、曰二弧弓一。〔周禮、夏官、司弓矢〕王弓・弧弓。〔注〕往體寡、來體多、曰二王・弧一。**❷旗を張りひろげるもの。**ゆみなりの竹。〔儀禮、覲禮〕載二龍旂弧韣一。〔注〕弧、所二以張レ縿之弓也。〔禮、明堂位〕乘二大輅一、載二弧韣一。〔注〕弧、旌旗所二以張レ幅也。〔疏〕弧、以レ竹爲レ之、其形爲レ弓、以張二縿之幅一。**❸星の名。**弧星。〔說文通訓定聲〕弧、楚辭守志、彀二天弧一兮躲レ姦、西京賦、弧旌枉矢、按、弧矢九星、在二天狼一巨星之左一、形似二張レ弓發レ矢、故以爲レ名。〔史記、天官書〕狼下四星爲レ弧。**❹弓なりに曲つた線。**圓周又は曲線の一部の稱。〔四庫提要、子、天文算法類〕分二周天一爲二三百八十四一、更以二分弧一爲二逐限一。**❺ひとり。**孤(**3―6966**)に通ず。〔柳宗元、天對〕擧レ土作レ仇、徒怙二身弧一。❻壺(**3―5662**)に通ず。〔易、睽〕後說二之弧一。〔釋文〕弧、本亦作レ壺。❼狐(**7―20333**)に通ず。〔春秋、莊、十八、有レ蜮、杜注〕蜮、短弧也。〔釋文〕弧、又作レ狐。🈔**まがる。**ゆがむ。もとる。窊(**8―25467**)に通ず。〔說文通訓定聲〕弧、叚借爲レ窊。〔廣雅、釋詁四〕弧、盭也。〔集韻〕弧、曲也。〔周禮、考工記、輈人〕凡揉レ輈、欲三其孫而無二弧深一。〔注〕杜子春云、弧、讀爲二淨而不レ汙之汙一。〔楚辭、東方朔、七諫、謬諫〕正法弧而不レ公。〔注〕弧、戾也。

【弧角】1（コカク） 球面上で兩大圓の相交つて成す角。また球面角ともいふ。

【弧弓】2（コキュウ） ❶木で造つた弓。六弓の一。其の力が強く、甲革等、堅いものを射るに用ひる。〔周禮、夏官、司弓矢〕王弓・弧弓、以授下射二甲革椹質一者上。〔注〕往體寡、來體多、曰二王・弧一。〔周禮、考工記、弓人〕往體寡來體多謂二之王弓之屬一、利レ射二革與レ質。〔孫詒讓正義〕此王弓、謂二弓之最強者一也、亦兼二有弧弓一、云レ利レ射二革與レ質者、賈疏云、卽司弓矢職云、王弓・弧弓、以授下射二甲革椹質一者上、亦一也。❷木で造つた弓と角で造つた弓。〔漢書、韓安國傳〕弧弓射獵、逐レ獸隨レ草。〔注〕師古曰、以レ木曰レ弧、以レ角曰レ弓。

【弧建】3（コケン） 弧星と建星。〔禮、月令、仲春之月日在レ奎昏弧中旦建星中、疏〕擧二弧建一、定二其昏旦之中一也。

【弧弦】4（コゲン） 弓につるを張る。〔鹽鐵論、和親〕丁壯弧弦而出鬭、老者超越而入レ葆。

【弧矢】5（コシ） ❶弓と矢。又、木で作つた弓と木で作つた矢。弧矢之利を見よ。又、弓矢の術。〔班固、答賓戲〕逢蒙絕二技於弧矢一、般輸摧二巧於斧斤一。〔高啓、猛虎行〕目光曈曈當レ路坐、將軍一見弧失墮。❷星の名。〔史記、天官書、狼下有二四星一曰レ弧直レ狼、注〕正義曰、弧九星、在二狼東南一、天之

弓也、弧矢向レ狼。〔宋史、天文志〕弧矢九星、在二狼星東南一、天弓也。

【弧矢形】6コケイ　弓形。〔算法統宗、方田章第一、弧矢形〕此是細二半箇圓一、比二前平半一稍異。

【弧矢算術】7コシサンジュツ　書名。一卷。明、顧應祥撰。幾何學の書。〔四庫提要、子、天文算法類〕。

【弧矢之利】8コシノリ　木に弦をつけて造つた弧と、木を削つて造つた矢との鋭利さ。〔易、繫辭下〕弦レ木爲レ弧、剡レ木爲レ矢、弧矢之利、以威二天下一、蓋取二諸睽一。〔漢書、王莽傳下〕應二協於易弧矢之利一、以威二天下一。

【弧星】9コセイ　星の名。狼星の下の四星。〔禮、月令〕仲春之月日在レ奎昏孤中旦建星中、〔疏〕此昏云二弧中一、旦云二建星中一、獨非二二十八宿一者、以下弧星近二井星一、建星近上斗、以二井斗度多、其星體廣一、不レ可三以的指二昏旦之中一。〔新論、命相〕張良感二弧星一、樊噲感二狼星一。

【弧旌】10コセイ　旗を張る弓形の具。〔周禮、考工記、輈人〕弧旌枉矢、以象レ弧也。〔注〕覲禮曰、侯氏載二龍旂弧韣一、則旌旗之屬、皆有レ弧也、弧以張二縿之幅一、有レ衣、謂二之韣一、又爲設レ矢、象二弧星有一レ矢也。〔疏〕云二弧旌一者、弧、弓也、旌旗有レ弓、所三以張二縿幅一、故曰二弧旌一也。〔張衡、西京賦〕弧旌枉矢、虹旃蜺旄。

【弧精】11コセイ　弧星(9)に同じ。〔張鏡、觀象賦〕弧精引レ弓以持レ滿、狼星搖二動於霄端一。

【弧張】12コチヤウ　鳥獸をおひおとすために設けるあみ。一說に、禽獸を捕へる弓とあみ。〔周禮、秋官、冥氏〕掌下設二弧張一、爲二阱擭一、以攻二猛獸一、以二靈鼓一敺レ之。〔注〕弧張、罿罦之屬、所三以扃二絹禽獸一。〔疏〕弧、弓也、謂三張レ弓以取二猛獸一。〔孫詒讓正義〕輈人注云、弧、木弓也、則是機弩之類、弧與二罔羅一、不三必竝設二一所一。

【弧中】13コチユウ　弧星が正南に來る。〔禮、月令〕仲春之月、日在レ奎、昏弧中、旦建星中。

【弧燈】14コトウ　電燈の一種。二本の炭素棒の尖端を對向させ、之に電流を通じて弧狀放電を起させ、それによつて白熱光を放たせる電燈。アーク燈。arc lamp の譯語。

【弧韣】15コトク　旗を張りひろげる弓とゆみぶくろ。〔儀禮、覲禮〕載二龍旂弧韣一。〔注〕弧、所三以張二縿之弓一也、弓衣曰レ韣。〔禮、明堂位〕是以魯君孟春乘二大路一、載二弧韣一。

【弧餘】16 hu^{2} yü^{2}　球面三角形の角の和と二直角との差。球面過剩。

【弧剌】17コラツ　❶ゆみのゆがみ。〔鹽鐵論、申韓〕聖人審二于是非一、察二于治亂一、故設二明法一、陳二嚴刑一、防レ非矯レ邪、若三隱括輔檠之正二弧剌一也。〔注〕弧剌、弓之不レ正者也。❷ヲ ラツ ゆがむ。弧も剌も、ゆがむ。〔鹽鐵論、非鞅〕弧剌之鑿、雖二公輸子一、不レ能レ善二其枘一。

【弧光燈】18コクワウトウ　弧燈(14)に同じ。

【弧三角】19 hu^{2} san^{1} chiao^{3}　球面三角法の略稱。三角法(**1**－**12**‥209)を見よ。

〖弧三角形〗20 hu^{2} san^{1} chiao^{3} hsing^{2}　三つの大圓の弧で圍まれた球面の一部分。

【弧度法】21 hu^{2} tu^{4} fa^{3}　測角法の一。百度法。六十分法の外に在り、專ら理論上に用ひる。

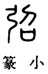
【弧多角形】22 hu^{2} tuo^{1} chiao^{3} hsing^{2}　弧多邊形に同じ。

【弧多邊形】23 hu^{2} tuo^{1} pien^{1} hsing^{2}　三箇以上の大圓弧で圍んだ球面の一部分。弧多角形。球面多邊形、球面多角形。

【弨】9758

㈠セウ〔集韻〕蚩招切　ㄔㄠ ch'ao^{1}　蕭

㈡セウ〔集韻〕齒紹切　篠



小篆

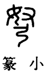
㈠❶**弓がそりかへる。弓がゆるむ。**弓がゆるんでそりかへる。〔說文〕弨、弓反也、从レ弓召聲、詩曰、彤弓弨兮。〔玉篇〕弨、弓弛貌。〔詩、小雅、彤弓〕彤弓弨兮。〔傳〕弨、弛貌。〔疏〕謂二弛レ之而體反一也。❷**弓の名**。〔正韻〕弨、弓名。〔韓愈、寄二崔二十六一詩〕大弨懸レ壁何由彎。❸或は彯(**4**－**9854**)に作る。〔集韻〕弨、或作レ彯。㈡**弓がそりかへる。**㈠の❶に同じ。〔集韻〕弨、弓反曲也。

【弳】9759

キウ　⿰弓舊(**4**－**9901**)に同じ。〔集韻〕⿰弓舊、或作レ弳。

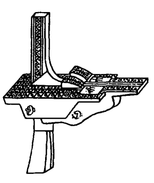
【弩】9760

ド ヌ〔集韻〕暖五切　ㄋㄨˇ nu^{3}　麌



小篆

❶**おほゆみ。いしゆみ。**しかけを設けて矢石を發射する武器。〔說文〕弩、弓有レ臂者、从レ弓奴聲、周禮四弩、夾弩・庾弩・唐弩・大弩。〔釋名、釋兵〕弩、怒也、有二勢怒一也、其柄曰レ臂、似二人臂一也、鉤レ弦曰レ牙、似二齒牙一也、牙外曰レ郭、爲二牙之規郭一也、下曰二懸刀一、其形然也、合二名之一曰レ機、言レ如二機之巧一也、亦言レ如二門戶樞機、開闔有レ節也。〔史記、孫子傳〕萬弩夾レ道而伏。❷**聲のはげしいさま。**〔方言、一〕凡人語而過、謂二之遍一、云云、東齊謂二之劍一、或謂二之弩一、弩、猶レ怒也。❸努(**2**－**2314**)に通ず。〔正字通〕弩、今別作レ努。

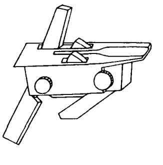


（圖器禮）❶ 弩

【弩牙】1ドガ　❶いしゆみの弦をひつかけるところ。弩機。字解の❶を見よ。〔書、太甲上〕虞機張、〔傳〕機、弩牙也。〔南齊書、東昏侯紀〕金銀鏤二弩牙一、瑇瑁帖レ箭。〔舊唐書、韓滉傳〕以二佛寺銅鐘一、鑄二弩牙兵器一。❷山名。四川省平武縣の東南。〔明一統志〕弩牙山、在二龍安府城東南一百六十五里一、狀如二弩牙一。

【弩鎧】2ドガイ　いしゆみとよろひ。〔漢書、王莽傳中〕禁レ民不レ得レ挾二弩鎧一、徙二西海一。

【弩機】3キド　❶いしゆみの、矢を發するしかけ。弩牙。〔呂覽、察微〕夫弩機、差以レ米、則不レ發。❷弩の一種。古代の銅弩機。〔古今圖書集成、經濟、戎政、弩、古銅弩機全圖說〕右舊制大弩機也、余以レ之制二腰開之強弩一、射頗準而有レ力。

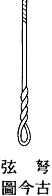


古銅弩機（古今圖書集成）

【弩弓】4キユウド　おほゆみ。いしゆみ。〔史記、梁孝王世家〕梁多作二兵器弩弓矛數十萬一。

【弩阹】5キヨド　漢代、甘泉苑内にあつた宮觀の名。〔漢書、揚雄傳上〕宮外近則洪厓・旁皇・儲胥・弩阹、遠則石關・封巒・技鵲・露寒・棠梨・師得。〔注〕師古曰、棠梨宮在二甘泉苑垣外一、師得宮在二櫟陽界一、其餘皆甘泉苑垣内之宮觀也、阹、音祛。

【弩弦】7ゲンド　いしゆみのつる。〔海内十洲記〕兩帝幸二華林園一、射レ虎而弩弦斷、使者時從レ駕、又上二膠一分一、使二口濡一以續二弩弦一、帝驚曰、異物也。〔宋史、馬懷德傳〕嘗因レ戰、流矢中二其顙一、鏃入二於骨一、以二弩弦一繫レ鏃、發レ機而出レ之。



弩弦（古今圖書集成）

【弩士】8シド　弩を射る兵士。〔晉書、楊駿傳〕令二弩士一於二閣上一臨二駿府一而射レ之、駿兵皆不レ得レ出。〔唐書、王栖曜傳〕矢集二帳前一、驚曰、江淮弩士入矣、遂不二敢東一。〔宋史、林廣傳〕乞弟擁二千人一出降、匿二弩士氈裘一、猶豫不レ前。

【弩矢】9シド　いしゆみと矢。又、弩から發した矢。〔史記、司馬相如傳〕縣令負二弩矢一先驅。〔漢書、霍光傳〕河東太守郊迎、負二弩矢一先驅。〔後漢書、天文志上〕弩矢雨集、城中負レ戶而汲。

【弩師】10シド　いしゆみの射術の指導者。〔本朝文粹、三善清行、意見十二箇狀〕伏望、令三六衞府宿衞等、練二習弩射之術一、試二其才伎一、隨二其功勞一、充二任件國弩師一。

【弩式】11シキド　いしゆみの方式。〔宋史、兵志十一〕江上諸軍、有二弩式一、皆廢不レ修、詔二兩淮荊襄沿邊城守一、各製二二十枝一、御前軍器所亦如レ之。

【弩車】12シヤド　いしゆみを載せたくるま。〔宋史、魏勝傳〕列レ陣則如意車在レ外、以レ旗蔽二障弩車一、

當二陣門一、其上寘二床子弩矢一、大如レ鑿、一矢能射二數人一、發二三矢一可二數百步一。

【弩射】13 ドシャ　いしゆみをいること。〔漢書、百官公卿表上、少府、若盧、注〕如淳曰、若盧、官名也、藏二兵器一、品令曰、若盧郎中二十人、主二弩射一。〔唐書、兵志〕擇二材勇者一爲二番頭一、頗習二弩射一。

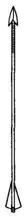
【弩手】14 ドシユ　いしゆみを引くに巧な者。弓手。〔宋書、索虜傳〕募二天下弩手一、不レ問レ所レ從。〔宋史、兵志五〕諸路行二保甲一、司農寺請下令二全・邵二州土丁・弩手・弩團一、與二本村土人一、共爲中保甲上。

【弩楯】15 ドジユン　いしゆみとたて。〔後漢書、公孫瓚傳〕糧盡食レ馬、馬盡煑二弩楯一、力戰不レ敵、乃與二士卒一辭訣、各分散。

【弩神】16 ドシン　いしゆみの神。〔猗覺寮雜記〕弩神名二遠望一。

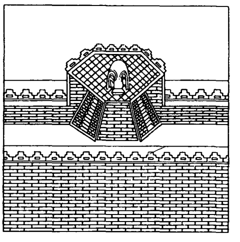
【弩人】17 ドジン　いしゆみを造ることを職とする人。弩師。〔唐書、李德祐傳〕請二甲人於安定、弓人河中、弩人浙西一、繇レ是蜀之器械皆犀銳。

【弩箭】18 ドセン　いしゆみのや。〔漢書、韓延壽傳、抱レ弩負レ蘭、注〕如淳曰、蘭、盛二弩箭一箙也。〔李商隱、射魚曲〕思牢弩箭磨二青石一、繡額蠻渠三虎力。



鐵箭頭圖（古今圖書集成）

【弩臺】19 ドダイ　㊀弩の臺。今の砲臺の類。〔皮日休、館娃宮懷古詩〕弩臺雨壞逢二金鏃一、香徑泥銷露二玉釵一。〔明一統志〕石城山、在二湖州府城西南三十里一、昔烏程人嚴白虎、於レ此壘レ石爲レ城、與二呂蒙一戰、至レ今山上有二弩臺遺址一。〔桃花扇、截磯〕場上設二弩臺一架レ砲、鐵鎖闌レ江。㊁陳の呉明徹の築いた呉公臺の別名。江蘇省江都縣の西北。〔太平寰宇記〕呉公臺、一名弩臺、呉明徹圍二北齊一築。



弩臺㊀（武備志）

【弩團】20 ドダン　弩射を習ふ兵隊。〔宋史、兵志五〕諸路行二保甲一、司農寺請下令二全・邵二州土丁・弩手・弩團一、與二本村土人一、共爲中保甲上。

【弩彈】21　nu^{3} tan^{4}　いしゆみに用ひるたま。

【弩張】22 ドチヤウ　いしゆみを張る。又、いしゆみのやうに張る。弩張劍拔を見よ。

【弩張劍拔】23 ドチヤウケンバツ　いしゆみが張り、劍が拔き放たれたやうなさまをいふ。氣勢の厲しい喩。〔袁昂書評〕韋誕書如二龍威虎振、劍拔弩張一。〔豐道生、眞賞齋賦〕弩張劍拔、虎踞龍盤。

【弩肉】24 ドニク　こぶ。〔近古史談、織篇、光秀反形、附記〕久之不レ瘥、遂生二弩肉一。

【弩砲】25 ドハウ　しかけを用ひて石を發射する器。〔宋史、兵志一〕別置二牀子弩砲手一。

【弩父】26 ドフ　役卒。〔方言、三〕楚東海之間、亭父謂二之亭公一、卒謂二之弩父一、或謂二之褚一。

【弩柄】27 ドヘイ　いしゆみのえ。㊀字解の㊀を見よ。㊁いしゆみ形の柄。〔宋史、儀衞志六〕鐙杖、黑漆弩柄也、以二金銅一爲レ鐙、及飾二其末一、紫絲絛繫レ之。

【弩渝】28 ドユ　樂曲の名。〔晉書、樂志上〕弩渝、本歌曲。〔宋史、樂志〕弩渝之樂壹何奇。

【弩力】29 ドリヨク　いしゆみのちから。〔淮南子、泰族訓〕夫矢之所二以射レ遠貫一レ牢者、弩力也。

【弩類】30 ドルイ　いしゆみのたぐひ。〔宋史、兵志十一〕若水進所レ造神臂弓、實李宏所レ獻、蓋弩類也。

【煑レ弩爲レ糧】31 ドヲニテリヤウトナス　弩を煑て糧とする。籠城して糧乏しく困苦する喩。〔後漢書、耿恭傳〕耿恭以二單兵一固二守孤城一、云云、鑿レ山爲レ井、煑レ弩爲レ糧、出二於萬死一、無二一生之望一。

【挽レ弩自射】32 ドヲヒイテミヅカライル　自分でいしゆみをひいて自分を射る。自殺行爲をする。飼犬に手を嚙まれると同意。〔晉書、崔洪傳〕薦二雍州刺史郤詵一、代レ己爲二左丞一、詵後糾レ洪、洪謂レ人曰、我擧二郤丞一而還奏レ我、是挽レ弩自射也。

【⿰弓易】9761　スイ　㒸(1−155)の古字。〔集韻〕㒸、古作レ⿰弓易。

【弞】9762　シン　哂(2−3583)に同じ。〔龍龕手鑑〕弞、同レ哂。

【弡】9763　フツ　義未詳。〔龍龕手鑑〕弡、音弗。

【⿰弓四】9764　シ　義未詳。〔龍龕手鑑〕⿰弓四、音四。

六畫

【弫】9765　シン　〔集韻〕止忍切　軫

弓がつよい。〔集韻〕弫、弓強也。

參考　弬(4−9766)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕弫、音軫、弓強。弬、音移、弓名。

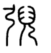
【弬】9766　イ　〔集韻〕盈之切　支

弓の名。〔五音集韻〕弬、弓名。

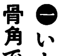
參考　弫(4−9765)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕弫、音軫、弓強。弬、音移、弓名。

【⿱宀弓】9767　ケン　⿱宀弓(3−6979)に同じ。〔字彙〕⿱宀弓、同レ⿱宀弓。

【弭】9768　ビ　ミ　〔集韻〕母婢切　ㄇㄧˇ　mi^{3}　紙



小篆



或體

㊀**いとでまかず兩端を骨角で飾つてある弓。角弓。**馬のたづなをさばく弓。弓(4−9692)に同じ。〔說文〕弭、弓無レ緣、可三吕解二轡紛一者、从レ弓耳聲、⿰弓兒、弭或从レ兒。〔爾雅、釋器〕有レ緣者、謂二之弓一、無レ緣者、謂二之弭一。〔孫注〕緣、謂二繳束而漆一レ之、弭、謂下不二以レ繳束一、骨飾二兩頭一者上也。〔注〕弭、今之角弓。〔儀禮、既夕禮〕有二弭飾一焉。〔注〕弭、以二骨角一爲レ飾。㊁**ゆはず**。〔釋名、釋兵〕弓、穹也、云云、其末曰レ簫、言レ簫、梢也、又謂二之弭一、以レ骨爲レ之、滑弭弭也。〔詩、小雅、采薇〕象弭魚服。〔傳〕象弭、弓反末也、所二以解一レ紛也。〔箋〕弭、弓反末彆者、以二象骨一爲レ之、以助三御者解二轡紛一、宜レ滑也。〔疏〕弭者、弓弰之名、以二象骨一爲レ之。〔禮、曲禮上、右手執レ簫、注〕簫、弭頭也。〔釋文〕弭、弓末也。㊂**器具の尖端**。〔荀子、禮論、絲末彌龍、注〕弭、末也、謂下金二飾衡軛之末一爲中龍首上也。㊃**やむ。やめる。とめる**。止(6−16253)・峙(6−16293)に通ず。〔說文通訓定聲〕弭、叚借爲レ止、實爲レ峙。〔左氏、成、十六〕若レ之何、憂猶未レ弭。〔注〕弭、息也。〔左氏、襄、二十五〕兵其少弭矣。〔注〕弭、止也。〔國語、周語上〕吾能弭レ謗矣。〔注〕弭、止也。〔國語、楚語下〕弭二其百苛一。〔注〕弭、止也。〔淮南子、主術訓〕譬猶二揚レ堁而弭一レ塵。〔注〕弭、止也。㊄**おさへる。ひかへる**。〔楚辭、離騷〕吾令二義和弭一レ節兮。〔注〕弭、按也。㊅**やすめる。安んずる**。〔逸周書、作雒解〕內弭二父兄一。〔注〕弭、安也。㊆**ほろぼす。なくする**。〔玉篇〕弭、滅也。〔列子、說符〕絕レ塵弭レ轍。〔鬳齋口義〕弭レ轍者、無レ迹也。〔後漢書、趙壹傳〕消二弭時災一。㊇**したがふ**。〔後漢書、呉漢傳〕城邑莫レ不二望レ風弭從一。〔注〕弭、猶レ服也。㊈**たれる**。〔史記、司馬相如傳〕弭レ節裴回。〔注〕索隱曰、弭、猶レ低也。〔司馬相如、子虛賦〕弭レ節徘徊。〔注〕

善曰、郭璞曰、弭、猶㆑低也。❿**わすれる**。〔江淹、雜體、潘黄門述哀詩〕俯仰未㆑能㆑弭。〔注〕善曰、賈逵國語注曰、弭、忘也。⓫**まよふ**。迷(11－38825)に通ず。〔說文通訓定聲〕弭、叚借爲㆑迷。⓬古は㢱(4－9804)に作る。〔集韻〕弭、古从㆑兒。⓭通じて彌(4－9877)に作る。〔集韻〕弭、通作㆑彌。〔漢書、王莽傳上、以彌㆑亂發㆑姦、注〕師古曰、彌、讀曰㆑弭、止也。⓮敉(5－13191)に通ず。〔說文通訓定聲〕弭、叚借爲㆑敉。〔周禮、春官、男巫〕春招㆑弭以除㆓疾病㆒。〔注〕杜子春讀㆑弭如㆓彌兵之彌㆒、玄謂、弭讀爲㆑敉、字之誤也。⓯**地名**。春秋、鄭の地。今の河南省密縣の境。〔左氏、莊、二十一〕胥㆓命于弭㆒。⓰**姓**。〔通志、氏族略〕弭氏、三輔決錄云、王莽時有㆓弭彊、漢末、新豐人弭仲叔、亦見㆓決錄、望出㆓新豐㆒。

【弭口】1 ビコウ　口をとめる。言ふことを止める。〔戰國、秦策〕楚王不㆑聽曰、吾事善矣、子其弭㆑口無㆑言、以待㆓吾事㆒。

【弭散】2 ビサン　やめてちる。やめてちりぢりになる。〔後漢書、馮緄傳〕曉喩降集、虜皆弭散。〔注〕弭、止也。〔後漢書、李固傳〕以㆓恩信㆒招㆓誘之㆒、未㆑滿㆑歲、賊皆弭散。

【弭耳】3 ビジ　耳を垂れ伏す。〔六韜、武韜、發啓〕猛獸將㆑搏、弭㆑耳俯伏。〔淮南子、精神訓〕禹南省㆑方濟㆓於江㆒、黄龍負㆑舟、舟中之人、五色無㆑主、禹云云視㆑龍猶㆓蝘蜓㆒、顏色不㆑變、龍乃弭㆑耳掉㆑尾而逃。

【弭攘】4 ビジヤウ　はらひのぞく。〔福惠全書、典禮部、總論〕弭㆓攘災變㆒。

【弭從】5 ビジユウ　したがふ。服從。〔後漢書、吳漢傳〕城邑莫㆑不㆓望㆑風弭從㆒。〔注〕弭、猶㆑服也。

【弭飾】6 ビシヨク　ゆはずのかざり。〔儀禮、既夕禮〕有㆓弭飾㆒焉、亦可㆑張也。

【弭生】7 ビセイ　漢の新豐の人。字は仲叔。少くして重名があり、命世の才と稱せられた。

【弭節】8 ビセツ　❶歩く調子をひかへる。ゆるやかに歩む。節は、さだめ・ほどあひ。一說に、節もとどめる・檢制するの意で、弭と同意。又一說に、信節をたれる。〔楚辭、離騷〕吾令㆘羲和弭㆑節兮、望㆓崦嵫㆒而勿㆖迫。〔注〕弭、按也、按㆑節、徐步也。〔漢書、司馬相如傳上〕於㆑是楚王乃弭㆑節俳佪、翱翔容與。〔注〕郭璞曰、弭、猶㆑低也、節、所㆑杖信節也、師古曰、弭節者、示㆓安徐㆒也。〔顏延之、祭㆓屈原㆒文〕弭㆓節羅潭㆒、艤㆓舟汨渚㆒。❷しばらく。少時。〔宋玉、高唐賦〕弭節奄忽、蹄足灑㆑血。〔注〕翰曰、弭節、猶㆓少時㆒也。

【弭息】9 ビソク　とどめる。やめさせる。〔郭璞、日有㆓黑氣㆒疏〕上所㆔以充㆓塞天意㆒、下所㆔以弭㆓息羣謗㆒。〔宋書、劉敬宣傳〕劫盜之患、亦爲弭息。

【弭櫂】10 ビタウ　舟のかいを動かすことをやめる。〔續幽怪錄〕游人弭㆑櫂、莫㆑不㆓登眺㆒。〔陳旅、游㆓蔡山㆒詩〕弭㆑櫂丹陽郭、鳴㆑鞭白下山。

【弭調】11 ユハズノミツギ　昔、男子の奉る貢物。弓で射とめた禽獸の肉及び皮を貢するからいふ。弓弭貢。

【弭蹩】12 ビテツ　奔走することが極めてはやく、轍のあとをみせないこと。迅速な喩。弭轍。〔列子、說符〕絕㆑塵弭㆑蹩。〔膚齋口義〕弭㆑蹩者、無㆑迹也。

【弭轍】13 ビテツ　弭蹩に同じ。〔淮南子、道應訓〕若㆓此馬㆒者、絕㆑塵弭㆑轍。〔注〕弭㆑轍、引㆑迹疾也。

【弭頭】14 ビトウ　ゆはず。〔禮、曲禮上〕右手執㆑簫、注〕簫、弭頭也。

【弭忘】15 ビバウ　止み忘れる。〔詩、小雅、沔水〕心之憂矣、不㆑可㆓弭忘㆒。〔毛傳〕弭、止也。〔謝靈運、郡東山望㆓溟海㆒詩〕非㆔徒不㆓弭忘㆒、覽㆓物情彌遒㆒。

【弭謗】16 ビバウ　そしりをとどめる。そしることをやめさせる。止謗。〔國語、周語上〕厲王虐、國人謗㆑王、云云、王怒、得㆓衞巫㆒使㆑監㆓謗者㆒、以告則殺㆑之、國人莫㆓敢言㆒、道路以㆑目、王喜告㆓召公㆒曰、吾能弭㆑謗矣。〔李商隱、哭㆓虔州楊侍郎㆒詩〕本矜能弭㆑謗、先議取㆓非辜㆒。

【弭兵】17 ビヘイ　戰をやめる。息兵。〔左氏、襄、二十七〕人曰㆑弭㆑兵、而我弗㆑許、則固攜㆓吾民㆒矣。

【弭翼】18 ビヨク　翼をとどめおさめる。〔陸機、留侯贊〕怡㆑顏高覽、弭㆑翼鳳戢。〔劉義恭、擧㆑才表〕潛虬聳㆑鱗、佇㆓利見之期㆒、翔鳳弭㆑翼、應㆓來儀之感㆒。

【弭亂】19 ビラン　亂をやめる。亂ををさめ安んずる。〔蜀志、先主劉備傳〕心存㆓國家㆒、念在㆑弭㆑亂。

【弭德超】20 ビトクテウ　宋、清池の人。官は太宗の時、樞密副使。〔宋史、四百七十〕・〔宋史新編、一百八十五〕・〔東都事略、三十三〕・〔隆平集、九〕・〔宋大臣年表、三〕。

【弮】9769

㊀ケン　〔集韻〕驅圓切　ㄑㄩㄢ ch'üan¹　先

㊁ケン　〔集韻〕古倦切　霰

㊀❶**いしゆみ**。おほゆみ。絭(8－27442)に同じ。〔集韻〕絭、弩絭、或从㆑弓。〔漢書、司馬遷傳〕張㆓空弮㆒、冒㆓白刃㆒。〔注〕李奇曰、弮、弩弓也。❷**縣名**。〔廣韻〕弮、古縣名、在㆓滎陽㆒。㊁❶**いしゆみ**。㊀の❶に同じ。〔集韻〕弮、連弩也、通作㆑絭。❷**まがる**。〔廣韻〕弮、曲也。❸**まき**。卷(2－2860)に通ず。〔廣韻〕弮、書弮、今作㆑卷。❹**飯をにぎる**。𢍏(4－9620)に同じ。〔集韻〕𢍏、說文、摶飯也、亦作㆑弮。

【⿰弓同】9770

トウ ヅ　〔集韻〕徒東切　東

象牙のゆはず。〔玉篇〕⿰弓同、弓飾。〔集韻〕⿰弓同、象弭謂㆓之⿰弓同㆒。

【⿱羽弓】9771

ゲイ　羿(9－28625)に同じ。〔海篇〕⿱羽弓、同㆑羿。

【𢏚】9772

㊀ゲイ　〔集韻〕研計切　霽

㊁ケイ ゲイ　〔集韻〕胡計切　霽

小篆

㊀㊁**人名**。又、⿰弓幵(4－9773)に作り、通じて羿(9－28625)に作る。〔說文〕𢏚、帝嚳䠶官、夏少康滅㆑之、从㆑弓幵聲、論語曰、𢏚善㆑䠶。〔集韻〕⿰弓幵、通作㆑羿。〔考正〕⿰弓幵、案、說文、⿰弓幵、作㆑𢏚。

【⿰弓幵】9773

ゲイ　❶𢏚(4－9772)に同じ。〔集韻考正〕⿰弓幵、案、說文、⿰弓幵作㆑𢏚。❷或は羿(9－28625)に作る。〔集韻〕⿰弓幵、或作㆑羿。

【⿱弓共】9774

ソン　巽(4－8765)に同じ。〔康熙字典〕⿱弓共、廣韻、巽作㆑⿱弓共。

【张】9775

ロ　❶旅(7－20818)に同じ。〔字彙〕张、同㆑旅。❷姓。〔姓氏急就篇、弋䠶张弓羽弭弦、注〕张、音盧、张氏、史記功臣表、盧卿、索隱曰、漢表姓张、张卽盧。

【⿸弓囟】9776

セイ　西(10－34763)の古字。〔集韻〕西、古作㆑⿸弓囟。

【⿰弓合】9777

㊀ケフ コフ　〔集韻〕迄業切　葉

㊁ケフ　〔集韻〕虛涉切　葉

㊀**弓がつよい**。〔集韻〕⿰弓合、弓強。㊁**ゆがけ**。弽(4－9833)に同じ。〔集韻〕弽、射決也、或从㆑合。

【⿰弓羊】9778

ヤウ　〔集韻〕余章切　陽

弓がまがる。〔集韻〕⿰弓羊、弓曲。

【⿱𠅘弓】9779

㊀シウ ジユ　〔集韻〕時流切　尤

㊁チウ ヂユ　〔集韻〕陳留切　尤

一二**耕地**。𤳜(**7**－**21912**)に同じ。〔集韻〕𢐅、耕治之田也、本作ㇾ𤳜。

【𢏷】9780 フツ 髴(**12**－**45414**)に同じ。〔字彙補〕𢏷、同ㇾ髴。

【弫】9781 ヒツ 弼(**4**－**9826**)に同じ。〔五音篇海〕弫、與ㇾ弼同。

【𥙆】9782 ヒ 黻(**12**－**42355**)に同じ。〔字彙補〕𥙆、同ㇾ黻。

【𢏗】9783 タ 義未詳。〔龍龕手鑑〕𢏗、音陁。

【𢏚】9784 キョク・サツ 義未詳。〔龍龕手鑑〕𢏚、紀力切、又則割切。

【𢏡】9785 シウ 義未詳。〔龍龕手鑑〕𢏡、音州。

【𢏛】9786 キャウ 義未詳。〔五音篇海〕𢏛、音狂、又音強。

七畫

【𢐉】9787 シュン 〔集韻〕須閏切 震 **ゆはず**。〔玉篇〕𢐉、彇也。〔集韻〕𢐉、弓簫。

【𢐇】9788 ヒツ 弼(**4**－**9826**)・弻(**4**－**9824**)の古字。〔說文〕弻、𢐇、亦古文弻。〔玉篇〕𢐇、古文弼字。

【弰】9789 サウ セウ 〔集韻〕師交切 肴 ㄕㄠ shao¹ ❶**ゆはず**。〔集韻〕弰、弓末。❷**つがへる**。弓に箭をあてる。〔玉篇〕弰、弓使ㇾ箭也。

【𢐋】9790 カン 弙(**4**－**9719**)に同じ。〔集韻〕弙、或作ㇾ𢐋。

【弱】9791 ジャク ニャク 〔集韻〕日灼切 藥 ㄖㄨㄛˋ juo⁴

小篆

❶**よわい**。㋑たわむ。まがる。もと、弱(**4**－**9835**)に作る。〔中華大字典〕弱、本作ㇾ弱。〔說文〕弱、橈也、上象㆓橈曲㆒、彡、象㆓毛氂橈弱㆒也、弱物幷、故从㆓二𢎗㆒。〔說文通訓定聲〕弱、按、當ㇾ从㆓二㆒㐱㆒、會意、㐱、新生羽也、云云、一曰、字从㆓弜彡㆒指事、弓力少也。㋺なよやか。強固でない。〔釋名、釋言語〕弱、衄也、又言ㇾ委也。〔史記、貨殖傳〕妻子軟弱。〔漢書、息夫躬傳〕墮弱不ㇾ堪ㇾ職。〔淮南子、原道訓〕志弱而事強。〔注〕弱、柔也。㋩おとる。〔楚辭、離騷〕理弱而謀拙兮。〔注〕弱、劣也。㋥ちひさい。〔戰國、秦策〕是其所㆓以弱㆒也。〔注〕弱、小也。㋭にぶい。おろか。決斷力がない。〔玉篇〕弱、尫劣也。〔書、洪範〕六曰、弱。〔鄭注〕愚懦不㆓壯毅㆒曰ㇾ弱。〔傳〕尫劣。〔疏〕尫劣、爲㆓筋力弱㆒、亦爲㆓志氣弱㆒。㋬いきほひがない。〔左氏、宣、十二〕衆散爲ㇾ弱。❷**よわる**。おとろへる。〔正字通〕弱、衰也。〔左氏、昭、三〕姜族弱矣、而嬀將㆓始昌㆒。❸**よわめる**。おとろへさせる。〔左氏、昭、三〕又弱㆓一个㆒焉。〔左氏、昭、二十七〕專禍㆓楚國㆒、弱㆓寡王室㆒。❹**あなどる**。をかしあなどる。〔左氏、襄、十七〕華臣弱㆓皐比之室㆒。〔注〕弱、侵㆓易之㆒。❺**弱者**。〔書、仲虺之誥〕兼ㇾ弱攻ㇾ昧。〔疏〕力少爲ㇾ弱。❻**すくない**。數がたりない。〔晉書、天文志一〕黃道、日之所ㇾ行也、半在㆓赤道外㆒、半在㆓赤道內㆒、與㆓赤道㆒東交㆓於角五少弱㆒、西交㆓於奎十四少彊㆒。❼**わかい**。**としわか**。〔左氏、文、十二〕有ㇾ寵而弱。〔注〕弱、年少也。〔史記、五帝紀〕弱而能言。〔注〕索隱曰、弱、謂㆓幼弱時㆒也。❽**はたち**。又、二十歲未滿。〔釋名、釋長幼〕二十曰ㇾ弱、言㆓柔弱㆒也。〔禮、曲禮上〕二十曰ㇾ弱。〔國語、楚語上〕昔莊王方弱。〔注〕方弱、未㆓二十㆒。❾**こども**。年少者。〔孟子、滕文公下〕老弱饋ㇾ食。❿**やぶれる**。〔左氏、襄、二十六〕頡遇㆓王子㆒、弱焉。〔注〕弱、敗也、言ㇾ爲㆓王子所㆒ㇾ得。〔逸周書、武順解〕兩爭曰ㇾ弱。⓫**ほぞ**。車輻の、轂に陷入する部分。〔周禮、考工記、輪人〕以爲㆓之弱㆒。〔注〕弱、菑也、今人謂㆘蒲本在㆓水中㆒者㆖爲ㇾ弱、是其類也。⓬**水中にある根**。蒻(**9**－**31623**)に通ず。〔說文通訓定聲〕弱、叚借爲ㇾ蒻、考工輪人、以爲㆓之弱㆒、注、弱、菑也、今人謂㆘蒲本在㆓水中㆒者㆖爲ㇾ弱、是其類也。⓭溺(**7**－**17990**)に通ず。〔說文通訓定聲〕弱、叚借爲ㇾ溺、書禹貢、導㆓弱水㆒。〔易、大過、剛過而中、注〕拯ㇾ弱興ㇾ衰。〔釋文〕弱、本亦作ㇾ溺。

解字 象形。もと弱に作る。𢎗は、木の橈み曲った形、彡は毛の橈んで弱いのに象る。弱いものは獨立することができないから、𢎗を二つ幷せた。一說に、新に生ずる羽は弱いから、鳥の羽莖の力なく立つことができないのに象るとする。〔說文〕橈也、上象㆓橈曲㆒、彡、象㆓毛氂橈弱㆒也、弱物幷、故从㆓二𢎗㆒。〔段注〕橈者曲木也、引伸爲㆓凡曲之偁㆒、直者多強、曲者多弱、云云、弱似㆓毛氂㆒、故以ㇾ彡像ㇾ之。〔說文通訓定聲〕新生羽也、弱意。

【弱腰】1 ヨワゴシ ❶腰の左右の肉の細いところ。おびしばり。❷態度の弱いこと。

【弱葉】2 ジャクエフ わかい葉。〔左思、招隱詩〕弱葉棲㆓霜雪㆒、飛榮流㆓餘津㆒。〔謝朓、高松賦〕紛㆓弱葉㆒而凝照、競㆓新藻㆒而抽ㇾ英。

【弱翁】3 ジャクヲウ 字號。❶漢、魏相(**12**－**45872**‥73)の字。❷唐、孔巢父(**3**－**6933**‥305)の字。❸唐、馬炫(**12**－**44572**‥189)の字。❹宋、鍾傅(**11**－**40672**‥104)の字。❺宋、鮑剛(**12**－**46074**‥10)の字。❻明、史玄(**2**－**3249**‥61)の字。

【弱行】4 ジャクカウ ❶ちんば。跛。〔左氏、昭、七〕孟縶之足不良、能行。〔注〕跛也。〔校勘記〕石經此處缺、監本・毛本、能作ㇾ弱。❷物事を爲しとほす強い意志のないこと。實行力の弱いこと。

【弱綱】5 ジャクカウ 綱紀の確立しないこと。力のない規律。〔陸機、五等諸侯論〕六臣犯㆓其弱綱㆒、七子衝㆓其漏網㆒。〔注〕向曰、弱綱、謂㆓漢初綱紀尙弱㆒。

【弱甲】6 ジャクカフ 堅固でないよろひ。弱兵。〔唐書、吐蕃傳上〕唐必不ㇾ能ㇾ入、則弱甲孱將、易㆔以爲㆓蕃患㆒。

【弱翰】7 ジャクカン 筆の異名。〔揚雄、答㆓劉歆㆒書〕雄常把㆓三寸弱翰㆒、齎㆓油素四尺㆒、以問㆓其異語㆒。〔陸雲、答㆓大將軍祭酒顧令文㆒詩〕企㆓予朔都㆒、非ㇾ子孰念、豈無㆓弱翰㆒、才不㆓克膽㆒。

【弱顏】8 ジャクガン 人に顏を見られるのを羞ぢる。はにかむ。〔楚辭、宋玉、招魂〕弱顏固植、謇其有ㇾ意些㆓。〔注〕言、美女內多㆓廉恥㆒、弱顏易ㇾ媿、心志堅固、不ㇾ可㆓侵犯㆒、則謇然發言、中㆓禮意㆒者也。〔北齊書、祖珽傳〕珽又付㆓陸媼㆒求ㇾ爲㆓領軍㆒、後主許ㇾ之、高元海明旦面奏、具陳㆓珽不合之狀㆒、珽亦求㆓面見㆒、帝令㆓引入㆒、珽自分疏、竝云、與㆓元海㆒素相嫌、必是元海譖ㇾ臣、帝弱顏不ㇾ能ㇾ諱、曰然。〔資治通鑑、陳紀、(宣帝、太建四年)、注〕見ㇾ人輒自羞而顏有㆓忸怩者㆒、爲㆓弱顏㆒。〔表異錄〕見ㇾ人自羞者、謂㆓之弱顏㆒。

【弱弓】9 ジャクキュウ はりのよわい弓。〔左氏、定、八〕顏高奪㆓人弱弓㆒。〔列子、湯問〕弱弓纖繳、乘ㇾ風振ㇾ之。〔說苑、指武〕枉矢弱弓。

【弱金】10 ジャクキン 唐、高鍇(**12**－**45313**‥90)の字。

【弱寡】11 ジャククワ おとろへさせる。よわめる。〔詩、

幽風、鴟鴞、曰予未レ有二室家一、疏〕管蔡之輩、無道之人、輕二侮稚子一、弱二寡王室一。〔左氏、昭、二十七〕專禍二楚國一、弱二寡王室一。

【弱檜】12ジャククワイ 木の名。さはら。椹。

【弱冠】13ジャククワン 男子二十歳の稱。周制では、男子は二十歳に至れば冠を加へ元服の式を行つた。轉じて、二十歳前後の年齡をいふ。としわか。〔禮、曲禮上〕人生十年曰レ幼、學、二十曰レ弱、冠、三十曰レ壯、有レ室、四十曰レ強、而仕。〔漢書、敍傳下〕賈生矯矯、弱冠登レ朝。〔後漢書、章帝紀〕朕在二弱冠一、未レ知二稼穡之艱難一。〔白虎通、紼冕〕男子陽也、成二於陰一、故二十而冠、曲禮曰、二十弱、冠、言レ見レ正。〔風俗通、怪神〕惟王弱冠、內侍二帷幄一。〔魏志、夏侯玄傳〕玄、字太初、少知レ名、弱冠爲二散騎黃門侍郎一。〔晉書、石季龍載記上〕安定人侯子光、弱冠美二姿儀一、自稱二佛太子一。〔任昉、宣德皇后敦勸二梁王一令〕爰在二弱冠一、首應二弓旌一。

【弱君】14ジャククン 幼い君主。又、おろかな君主。〔韓非子、解老〕姦起則上侵二弱君一、禍至則民人多傷。

【弱笄】15ジャクケイ 成年に達したことをいふ。又、成年に達した女。妙齡の婦女。周代は女子十五に達すれば笄を加へ、成人の式を擧げた。〔神女傳、太眞夫人〕有二一女一、年已弱笄、冥數應レ爲二君婦一。

【弱莖】16ジャクケイ よわいくき。〔卞敬宗、懷香贊〕濛濛綠葉、荏苒弱莖。

【弱肩】17ヨワガタ なよやかな肩。やさしげな肩。〔祝祠式、祈年祭〕忘部能弱肩爾。

【弱孤】18ジャクコ 力が弱く且つ孤立してゐること。又、年が若く且つ助の無いこと。〔史記、南越王尉佗傳〕王・王太后、弱孤不レ能レ制。

【弱口】19ジャクコウ 年の若い者。〔易林〕張季弱口、被レ髮比走。〔後漢書、西羌、滇良傳〕沒二入弱口一、爲二奴婢一。

【弱侯】20ジャクコウ 字號。㊀明、焦竑(**7－19119‥26**)の字。㊁淸、姚文然(**3－6202**‥208)の字。

【弱國】21ジャクコク よわいくに。〔列子、說符〕衞侯曰、吾弱國也、而攝二乎大國之閒一。〔管子、幼官〕強國爲レ圈、弱國爲レ屬。〔史記、蘇秦傳〕燕固弱國、不レ足レ畏也。〔賈誼、過秦論〕彊國請レ伏、弱國入朝。

【弱骨】22ジャクコツ 細くよわよわしい骨骼。なよなよとした骨骼。〔列子、湯問〕柔心而弱骨、不レ驕不レ忌。〔王粲、七釋〕豐膚曼肌、弱骨纖形。〔西京雜記、一〕昭儀弱骨豐肌、尤工二笑語一。〔梁簡文帝、七勵〕舒二蛾眉之窈窕一、委二弱骨之逶迤一。

【弱才】23ジャクサイ 貧弱な才能。〔蜀志、諸葛亮傳〕臣以二弱才一叨竊。〔周書、文帝紀上〕吾以二弱才一、猥當二藩牧一。

【弱歲】24ジャクサイ 二十歲。又、其の年頃。少年。弱年。弱齡。〔晉書、姚泓載記論〕景國弱歲英奇。〔江總、讓二尚書令一表〕臣弱歲立レ朝、本無二奇志一。〔張南容、靜女歌〕妙年工二詩書一、弱歲勤二組織一。

【弱齋】25ジャクサイ 唐、鄭虔(**11－39647**‥113)の字。

【弱草】26ジャクサウ よわいくさ。若い草。嫩草。〔沈約、傷春詩〕弱草半抽レ黃、輕條未レ全レ綠。〔南史、魚弘傳〕丈夫生、如下輕塵棲二弱草一、白駒之過上レ隙。〔新續列女傳、曹文叔妻傳〕人生在二世閒一、如三輕塵棲二弱草一耳。

【弱喪】27ジャクサウ 年若くして他鄉に流亡する。又、年少の時から他鄉に流亡してゐること。〔莊子、齊物論〕予惡乎知三惡レ死之非二弱喪而不レ知レ歸者一邪。〔注〕少而失二其故居一、名爲二弱喪一、夫弱喪者、遂安二於所一レ在、而不レ知レ歸二於故鄉一也。〔疏〕弱者、弱齡、喪之言、失。〔江淹、雜體、許徵君詢自敍詩〕遣二此弱喪情一、資レ神任二獨往一。〔沈約、佛記序〕行迷復レ路、弱喪知レ歸。

【弱藻】28ジャクサウ かよわい藻草。なよなよとしてゐる藻。又、生氣の無い水藻。〔沈約、郊居賦〕曳二參差之弱藻一、戲二瀺灂之輕軀一。〔沈約、詠二湖中鴈一詩〕唼レ流牽二弱藻一、斂レ翮帶二餘霜一。〔杜甫、太平寺泉眼詩〕北風起二寒文一、弱藻舒二翠縷一。

【弱子】29ジャクシ をさなご。年若いこども。稚子。〔韓非子、解老〕慈母之於二弱子一也、務レ致二其福一。〔管子、形勢〕弱子下レ瓦、慈母操レ箠。〔新書、權重〕萬年之後、傳二之老母弱子一。〔蜀志、趙雲傳〕雲身抱二弱子一、卽後主也。

【弱子孩】30ジャクシガイ 弱子に同じ。〔墨子、經說上〕忠不レ利二弱子孩一、足將レ入正レ容。

【弱志】31ジャクシ ㊀よわい意志。〔逸周書、官人解〕已諾無レ決曰二弱志一者也。㊁心をおだやかにする。なほにする。又、欲心を少くする。〔老子、三〕弱二其志一、強二其骨一。〔淮南子、主術訓〕虛レ心而弱レ志。

【弱枝】32ジャクシ 枝をよわくする。宗家に對し、分家等の勢力を弱める。〔白虎通、誅伐〕誅不レ避二親戚一何、所三以尊レ君卑レ臣、強レ幹弱レ枝、明二善レ善惡レ惡之義一也。〔班固、西都賦〕彊レ幹弱レ枝、隆二上都一而觀二萬國一。

【弱枝之棗】33ジャクシノナツメ 棗の一種。〔西京雜記、一〕初修二上林苑一、羣臣遠方、各獻二名果異樹一、云云、棗七、弱枝棗。〔潘岳、閑居賦〕周文弱枝之棗、房陵朱仲之李。〔注〕善曰、西京雜記曰、上林苑有二弱枝棗一、翰曰、周文王時、有二弱枝棗樹一、味甚美。

【弱思】34ジャクシ 卑俗な考。俗慮。〔江淹、雜體、謝光祿郊遊詩〕行光自容裔、無レ使二弱思侵一。〔注〕銑曰、弱思、謂二俗事一。

【弱翅】35ジャクシ よわいはね。〔虞世南、詠レ螢詩〕的歷流光小、飄颻弱翅輕。〔貢奎、賦二牡丹一詩〕細翎層擁レ鶴、弱翅獨迎レ蟬。

【弱質】36ジャクシツ よわい體質。よわいからだ。蒲柳の質。〔駱賓王、螢火賦〕彼翮翮之弱質、尙矯レ翼而凌レ空。〔貢奎、舟中雜書詩〕弱質辭二官責一、歸心數二驛程一。

【弱者】37ジャクシャ よわい者。無力者。〔吳子、治兵〕勇者持二金鼓一、弱者給二斯養一。〔蘇軾、稼說送二張琥一〕弱者養レ之、以至二於剛一。

【弱將】38ジャクシャウ 弱い大將。〔阪田警軒、日本刀說〕弱將執レ焉、敵國輕レ之。

【弱主】39ジャクシュ 幼い君。又、勢力のない君。弱君。〔陳琳、爲二袁紹一檄二豫州一文〕彊秦弱主、趙高執レ柄。

【弱守】40ジャクシュ 弱い守り。守りの堅固でないこと。〔韓非子、亡徵〕怯懾而弱守、蚤見而心柔懦、知レ有レ謂レ可レ斷、而弗二敢行一者、可レ亡也。

【弱植】41ジャクショク 弱くて自ら樹立し得ないこと。又、操守のしつかりしてゐないこと。植は、たつ。〔左氏、襄、三十〕(子產曰)陳、亡國也。其君弱植、公子侈、太子卑、大夫敖。〔會箋〕周禮謂二草木一爲二植物一、植爲二樹立之義一、草木之植、有レ強有レ弱、此君植、得二荏弱一、故曰二弱植一。〔顏延之、和二謝監靈運一詩〕弱植慕二端操一、窘步懼二先迷一。

【弱震】42ジャクシン 垂下物・液體等の動搖を目擊し、戶障子の音を感ずる程度の地震。強震より弱く、微震より強いもの。

【弱人】43ジャクジン 勢力のない人。〔史記、春申君傳〕李園弱人也、僕又善レ之。

【弱水】44ジャクスイ ㊀川の名。㋑禹貢の弱水。源は甘肅省に發し、北、寧夏省に至り、居延海に入る。卽ち坤都倫河。〔書、禹貢〕導二弱水一、至二于合黎一、餘波入二于流沙一。〔書、禹貢〕弱水既西。〔蔡傳〕地志云、在二張掖郡刪丹縣一、薛氏曰、弱水出二吐谷渾界窮石山一、自二刪丹西一至二合黎山一、與二張掖縣河一合。〔水經、禹貢山水澤地所在注〕弱水入二流沙一、流沙、沙與レ水流行也。〔漢書、地理志下、張掖郡、刪丹、原注〕桑欽以爲、道二弱水一自レ此西、至二酒泉合黎一。〔讀史方輿紀要、川瀆、禹貢山川〕蔡氏曰、此導二西流之川一也、弱水今見二陝西甘州衞一、合黎山亦在焉、流沙、今衞西北境居延海、漢志注云、古文以爲二流沙一也。〔程大昌、禹貢論〕賈耽以二張掖郡之張掖河一當レ之。〔徐昌、西域水道記〕弱水、今謂二之黑河一、又曰二張掖河一、漢儒不レ知三本爲二一河一、分二張掖河一當二禹貢之弱水一、黑河當二禹貢之黑水一、誤矣。㋺禹貢以外の弱水。(甲)條支(**6－14859**‥27)の弱水。〔書、禹貢〕弱水既西。〔蔡傳〕程氏據二西域傳一、以二弱水一爲レ在二條支一、援引甚悉、然長安西行一萬二千二百里、又百餘日、方至二條支一、其去二雍州一、如レ此之遠、豈禹應三窮レ荒而導二其流一也哉、其說非レ是。〔史記、大宛傳〕安息長老傳聞、條枝有二弱水・西王母一、而未二嘗見一。〔程大昌、禹貢論〕經曰、弱水既西、故臣本下漢書初通二西域一時、長老所レ傳條支弱水上、以爲二經證一、其水西流注二於西域一。〔韓邦奇、禹貢詳略〕弱水自二西海之山一、西海今在二西寧衞城西三百餘里一、窮石之山、當レ在二其左右一、自レ東而西一千五十里、至二甘州古掖地一、過二合黎山一、又五百一十里、至二蕭州古酒泉地一、又八百餘里、至二沙州古敦煌地一、以上皆雍域也、又二萬餘里至二條支一、以入二西海一。〔夏允彝、禹貢合注〕弱水在二甘州衞西一、條支去二長安一四萬里、則又一弱水也。(乙)涿邪山の弱

水。涿邪山は今の外蒙古の境。〔書、禹貢〕弱水既西。〔蔡傳〕弱水在㆓苑囿水之西、涿邪山之東㆒矣。〔資治通鑑、宋紀〕（元嘉六年）魏主循㆓弱水㆒、西行至㆓涿邪山㆒。(丙)臨羌縣の弱水。臨羌縣は甘肅省西寧縣の西。〔漢書、地理志下〕金城郡、臨羌、有㆓弱水・昆侖山祠㆒。(丁)夫餘國(3－5835‥72)の㊁の北の弱水。〔後漢書、東夷、夫餘傳〕夫餘國北有㆓弱水㆒。(戊)大秦國(3－5831‥1209)の㊀の弱水。〔後漢書、西域、大秦國傳〕大秦國、西有㆓弱水流沙㆒、近㆓西王母所㆑居處㆒、幾㆓於日所㆑入也。(己)崑崙山の弱水。〔史記、大宛傳、有㆓弱水西王母㆒、注〕正義曰、然先儒多引㆓大荒西經㆒云、弱水云㆑有㆓二源㆒、倶出㆓女國北阿耨達山㆒、南流會㆓於女國㆒、東去㆑國一里、深丈餘、闊六十步、非㆓毛舟㆒不㆑可㆑濟、南流入㆑海、阿耨達山、卽崑崙山也。〔唐書、西域上、東女國傳〕有㆓弱水㆒、南流、縫㆑革爲㆑船。(庚)西海の弱水。〔山海經、大荒西經〕西海之南、流沙之濱、赤水之後、黑水之前、有㆓大山㆒、名曰㆓崑崙之丘㆒、有㆑神、人面虎身有㆑文、有㆑尾皆白、處㆑之、其下有㆓弱水之淵㆒環㆑之。〔注〕其水不㆑勝㆓鴻毛㆒。(辛)勞山の弱水。〔山海經、西山經〕北五十里曰㆓勞山㆒、多㆓茈草㆒、弱水出焉、而西流注㆓于洛㆒。㊁清、潘澂(7－18236‥74)の字。

【弱水之隔】45 ジャクスイノヘダテ　遠くて到ることの出來ない喩。〔書言故事、地理類〕遠不㆑能㆑到、云㆑如㆑有㆓弱水之隔㆒。

【弱生】46 ジャクセイ　明、王志堅(7－20823‥1572)の字。

【弱小】47 ジャクセウ　㊀よわくて小さい。〔管子、重令〕德不㆑加㆓於弱小㆒、威不㆑信㆓於彊大㆒。〔史記、燕世家贊〕崎㆓嶇彊國之閒㆒、最爲㆓弱小㆒。㊁年わか。弱少。又、年少者。又、弱い者と年の少い者。〔漢書、匈奴傳下〕匈奴頗殺㆓人民㆒、敺㆓婦女弱小㆒。

【弱析】48 ジャクセキ　弱緆に同じ。〔揚雄、蜀都賦〕其布則細絺弱析。

【弱緆】49 ジャクセキ　ねりぬの。細布。〔淮南子、齊俗訓〕詭文繁繡、弱緆羅紈。〔注〕弱緆、細布也。

【弱錫】50 ジャクセキ　弱緆に同じ。〔事物異名錄、布帛、布〕庶物異名疏、淮南子云、弱錫、細布也、揚雄、蜀都賦、細絺弱析、析卽錫也。

【弱節】51 ジャクセツ　柔弱を旨とする身の持し方。徐靜從順を主とする身の處し方。〔管子、勢〕賢者、安徐正靜、柔節先定、行㆓於不敢㆒、而立㆓於不能㆒、守㆓弱節㆒而堅處㆑之、故不㆑犯㆓天時㆒、不㆑亂㆓民功㆒、秉㆑時、養㆑人、先㆑德後㆑刑、順㆓於天㆒、微度㆑人。〔江淹、爲㆓蕭驃騎㆒讓㆓太尉增封㆒表〕弱節兼㆑誠、誓思不㆑淺。

【弱線】52 ジャクセン　ほそいいとすぢ。弱縷。〔杜甫、小至詩〕刺繡五紋添㆓弱線㆒。

【弱息】53 ジャクソク　自分のむすこをいふ謙辭。せがれ。愚息。〔南史、周盤龍傳〕小人弱息、當㆑得㆓一子㆒。

【弱卒】54 ジャクソツ　弱い兵卒。弱兵。〔六韜、虎韜、必出〕弱卒車騎居㆑中。〔唐書、王雄誕傳〕雄誕伏㆓兵山谷㆒、以㆓弱卒數千㆒鬭。

【弱孫】55 ジャクソン　幼いまご。〔王羲之、與㆓吏部郎謝萬㆒書〕率㆓諸子㆒抱㆓弱孫㆒、遊㆓觀其閒㆒、有㆓一味之甘㆒。

【弱竹】56 ナヨタケ　㊀細くしなやかな竹。又、わか竹。〔宇津保物語、田鶴村鳥〕なよ竹の茂れる宿にまとゐして。㊁めだけの異名。

【弱女】57 ジャクヂョ　少女。〔稱謂錄、女、弱女〕陶詩、弱女雖㆑非㆑男、慰情聊勝㆑無。〔燕子箋、收女〕誰知道、弱女顚連。

【弱弟】58 ジャクテイ　幼いおとうと。小弱弟。幼弟。〔蔡邕、太傅胡廣碑〕上奉㆓繼親㆒、下慈㆓弱弟㆒。〔晉書、諸葛長民傳〕老母弱弟。

【弱蔕】59 ジャクテイ　よわいへた。轉じて、葉柄のよわいこと。〔古今注、草木〕移楊、圓葉弱蔕、微風大搖、一名高飛、一名獨搖。

【弱條】60 ジャクデウ　わかい枝。又、なよなよとした枝。〔曹植、白鶴賦〕狹㆓單巢于弱條㆒兮、懼㆓衝風之難㆑當。〔張協、雜詩〕弱條不㆓重結㆒、芳蕤豈再馥。

【弱敵】61 ジャクテキ　敵を弱める。又、よわい敵。〔史記、孟軻傳〕秦用㆓商君㆒、富㆑國彊㆑兵、楚魏用㆓吳起㆒、戰勝弱㆑敵。〔吳志、全琮傳〕今分㆑兵捕㆑民、得失相半、豈可㆑謂㆑全哉、縱有㆑所㆑獲、猶不㆑足㆔以弱㆑敵而副㆓國望㆒也。

【弱點】62 ジャクテン　よわみ。よわいかど。缺點。

【弱土】63 ジャクド　㊀西方の地。〔淮南子、墬形訓〕弱土之氣、御㆓于白天㆒。〔集解〕弱土、西方土也。㊁やはらかな土。又、やはらかな土質の土地。〔孔子家語、執轡〕堅土之人剛、弱土之人柔。

【弱年】64 ジャクネン　年わか。又、二十歲。弱歲。〔宋書、劉湛傳〕弱年便有㆓宰㆑世情㆒、常自比㆓管夷吾・諸葛亮㆒。〔南史、王儉傳〕儉弱年、便留㆓意三禮㆒、尤善㆓春秋㆒。〔南史、王彧傳論〕景文弱年立㆑譽、芳聲籍甚。

【弱輩】65 ジャクハイ　㊀なんぢがともがら。汝等。若曹。㊁わかもの。弱年の人々。青年。若輩。㊂年少で未熟なこと。

【弱半】66 ジャクハン　半ば近く。半分近く。

【弱夫】67 ジャクフ　唐、蘇源明(9－32427‥235)の字。

【弱兵】68 ジャクヘイ　よわい兵卒。弱卒。〔韓非子、八姦〕大國之所㆑索、小國必聽、強兵之所㆑加、弱兵必服。

【弱步】69 ジャクホ　なよなよとしてしなやかなあゆみ。〔梁簡文帝、詠㆑舞詩〕嬌情因㆑曲動、弱步逐㆑風吹。

【弱毛】70 ジャクマウ　やはらかな毛。〔桓驎、七說〕蒸㆓剛肥之豚㆒、庖㆓弱毛之羜㆒。

【弱末】71 ジャクマツ　末をよわくする。末は、天子に對する諸侯・屬國、宗家に對する支家などをいふ。〔漢書、婁敬傳〕此彊㆑本弱㆑末之術也。

【弱民】72 ジャクミン　㊀貧乏な民。資力にとぼしい民。〔管子、禁藏〕貸㆑無㆑種與㆑無㆑賦、所㆔以勸㆓弱民㆒。㊁商子の篇名。

【弱約】73 ジャクヤク　柔弱をいふ。淖約。〔大戴禮、勸學〕夫水弱約微通、似㆑察。

【弱亂】74 ジャクラン　國が亂れて弱いこと。〔韓非子、外儲說左上〕夫慕㆓仁義㆒而弱亂者、三晉也、不㆑慕而治強者、秦也。

【弱柳】75 ジャクリウ　㊀なよやかな柳。柳をいふ。又、柳の若枝。柳のなよやかな枝。〔賈至、早朝㆓大明宮㆒呈㆓兩省僚友㆒詩〕千條弱柳垂㆓青瑣㆒、百囀流鶯遶㆓建章㆒。〔賈至、春思詩〕紅粉當㆑壚弱柳垂、金花臘酒解㆓酴醿㆒。〔盧照鄰、長安古意〕弱柳青槐拂㆑地垂、佳氣紅塵暗㆑天起。㊁妓女をいふ。〔桃花扇、偵戲〕白門弱柳許㆓誰攀㆒。

【弱流】76 ジャクリウ　緩かな流。〔西王母傳〕越㆓積石之峯㆒、濟㆓弱流之津㆒。

【弱縷】77 ジャクル　弱いいとすぢ。〔沈約、甘焦詩〕流甘撿㆓椰實㆒、弱縷冠㆓絺衣㆒。

【弱累】78 ジャクルイ　子女の結婚費・教育費をいふ。兒女債。〔蘇軾、憶㆓江南㆒寄㆓純如㆒五首〕弱累已償㆑俗盡、老身將㆓件㆑僧居㆒。

【弱齡】79 ジャクレイ　わかい年。若い年の頃。としわか。弱年。少年。〔陶潛、始作㆓鎭軍參軍㆒經㆓曲阿㆒作詩〕弱齡寄㆓事外㆒、委㆑懷在㆓琴書㆒。〔任昉、天監三年策㆓秀才㆒文〕弱齡有㆑志、閉㆑戶自精。

【弱劣】80 ジャクレツ　よわくておとる。〔後漢書、單超傳〕臣等弱劣、未㆑知㆓聖意何如㆒耳。〔魏書、崔浩傳〕臣稟性弱劣。

【弱腕】81 ジャクワン　なよなよとしてしなやかなかひな。〔後漢書、邊讓傳〕攜㆓西子之弱腕㆒兮、援㆓毛嬪之素肘㆒。〔成公綏、隸書體文〕爾乃動㆓纖指㆒、舉㆓弱腕㆒、握㆓素紈㆒、染㆓玄翰㆒。〔謝朓、三日侍㆓華光殿曲水宴㆒代㆑人應詔詩〕弱腕纖腰、遷延妙舞。

【弱勝㆑強】82 ジャクキャウニカツ　弱いものが強いものに勝つ。弱能制㆑強。〔老子、七十八〕弱之勝㆑強、柔之勝㆑剛、天下莫㆑不㆑知、莫㆓能行㆒。

【弱身子】83 juo⁴ shen¹ tzŭ　虛弱の身。病身。

【弱而能強】85 ジャクニシテヨクキャウ　外見はかよわいが內實は甚だ強い。〔淮南子、原道訓〕弱而能強、柔而能剛。

【弱肉強食】86 ジャクニクキャウショク　弱者の肉は強者の食物。弱者の肉を強者が食ふこと。強大なものが弱小なものを侵し虐げる意。〔韓愈、送㆓浮屠文暢師㆒序〕夫鳥俛而啄、仰而四顧、夫獸深居而簡出、懼㆔物之爲㆓己害㆒也、猶且不㆑免焉、弱之肉、強之食。〔劉基、秦女休行〕有㆔生不幸遭㆓亂世㆒、弱肉強食官無㆑誅。

【弱能制㆑強】87 ジャクヨクキャウヲセイス　弱者が強者を十分に押さへつける。弱勝㆑強。〔三略、上略〕柔能制㆑剛、弱能制㆑強。

【弱不㆑好㆑弄】88 ワカクシテロウヲコノマズ　幼くして嬉戲することを好まぬ。〔左氏、僖、九〕夷吾弱不㆑好㆑弄。〔注〕弄、戲也。〔顏延之、陶徵士誄序〕弱不㆑好㆑弄、長實素心。

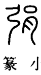
【以㆑弱勝㆑強】88′ ジャクヲモッテキャウニカツ　弱い力で強者に勝つ。弱い身でありながら強者に勝つ。〔蜀志、譙周傳〕往古之事、能以㆑弱勝㆑強。

【兼ㇾ弱攻ㇾ昧】89（ジャクヲカネクラキヲセム）弱いものを併合し、不德のものを攻撃する。衰弱した國を併取すること。〔書、仲虺之誥〕兼ㇾ弱攻ㇾ昧、取ㇾ亂侮ㇾ亡。〔傳〕弱則兼ㇾ之、闇則攻ㇾ之、亂則取ㇾ之、有㆓亡形㆒則侮ㇾ之、言㆓正義㆒。〔左氏、宣、十二〕兼ㇾ弱攻ㇾ昧、武之善經也。〔注〕昧、昏亂也。

【馮ㇾ弱犯ㇾ寡】90（ジャクヲシノギクワヲヲカス）力の弱いもの・人數の少ないものを、しのぎをかす。〔周禮、夏官、大司馬〕馮ㇾ弱犯ㇾ寡、則眚ㇾ之。

【弱】9791　ジャク　弱（4－9791）に同じ。

【弲】9792　［一］ケン　〔集韻〕隳緣切　［先］　［二］エン　〔集韻〕縈玄切　［先］


小篆　［一］［二］❶**つのゆみ**。〔說文〕弲、角弓也、从ㇾ弓肙聲。❷**おほゆみ。いしゆみ**。〔說文〕弲、雒陽名ㇾ弩曰ㇾ弲。❸**ゆづる**。弦。〔集韻〕弲、廣雅、彈弲、弦也。❹**弓のいきほひ**。〔廣韻〕弲、弓勢。

【⿰弓矢】9793　シン　〔集韻〕矢忍切　［軫］　**ながい**。〔集韻〕⿰弓矢、長也。

【⿰弓角】9794　ケン　クワン　〔海篇〕許元切　［元］　**弓のまがつたさま**。〔海篇〕⿰弓角、弓曲皃。

【⿱折弓】9795　ヘツ　彆（4－9859）に同じ。〔玉篇〕⿱折弓、與ㇾ彆同。

【⿴囗乃】9796　ダイ　乃（1－113）の古字。〔字彙補〕⿴囗乃、古文乃字。

【⿱大弓】9797　ヘン　ベン　〔字彙補〕扶劍切　［豔］　**浮ぶさま**。⿱大弓⿱大弓。〔字彙補〕⿱大弓、⿱大弓⿱大弓、浮也。

【⿰弓坐】9798　ザ　脞（9－29508）の譌字。〔字彙補〕⿰弓坐、脞字之譌。

【⿰弓㐬】9799　リウ　義未詳。〔龍龕手鑑〕⿰弓㐬、音流。

八畫

【⿰弓𣶒】9800　エン　〔集韻〕縈玄切　［先］　❶**弓はずと中央との間の曲りうねつたところ**。〔釋名、釋兵〕弓末曰ㇾ簫、中央曰ㇾ弣、簫弣之間曰ㇾ⿰弓𣶒、⿰弓𣶒、宛也、言㆓曲宛㆒也。〔玉篇〕⿰弓𣶒、弓上下曲中。〔集韻〕⿰弓𣶒、弓隈也。❷通じて淵（6－17692）に作る。〔集韻〕⿰弓𣶒、通作ㇾ淵。

【⿰弓妾】9801　ケン　ゲン　〔字彙〕胡田切　［先］　❶**ゆみ**。〔字彙〕⿰弓妾、弓也。❷**姓**。〔字彙〕⿰弓妾、又姓。〔萬姓統譜〕⿰弓妾、見直音。

【⿰弓虎】9802　［一］チ　ヂ　〔字彙〕直意切　［寘］　［二］コ　ゴ　〔海篇〕音胡

［一］［二］**ゆみ**。〔字彙〕⿰弓虎、弓別名。〔海篇〕⿰弓虎、弓也。

【⿰弓爭】9803　サウ　シヤウ　〔篇海〕側迸切　［梗］　**弓を開き張る**。〔篇海〕⿰弓爭、弓開也。

【⿰弓兒】9804　ビ　弭（4－9768）に同じ。〔說文〕弭、⿰弓兒、弭或从ㇾ兒。

【⿰弓朵】9805　セフ　弽（4－9833）に同じ。〔海篇〕⿰弓朵、同ㇾ弽。

【⿰弓委】9806　［一］ズイ　ニ　〔集韻〕而睡切　［寘］　［二］ヰ　〔集韻〕於僞切　［寘］　［三］ダイ　ナイ　〔字彙〕奴對切　［隊］

［一］［二］［三］❶**弓が開き張つたさま**。⿰弓委⿰弓皮。〔廣韻〕⿰弓委、⿰弓委⿰弓皮、弓皃。〔集韻〕⿰弓委、⿰弓委⿰弓皮、張弓皃。〔字彙〕⿰弓委、⿰弓皮⿰弓委、弓張貌。❷**弓が曲る**。〔集韻〕⿰弓委、弓曲謂㆓之⿰弓委㆒。❸**いしゆみを張る**。〔集韻〕⿰弓委、一曰、張ㇾ弩。❹或は⿰弓垂（4－9809）に作る。〔集韻〕⿰弓委、或从ㇾ垂。

【⿰弓并】9807　ハウ　ヒヤウ　〔集韻〕悲萌切　ㄅㄥ pêng^{1}　［庚］　❶**はじく**。通じて拼（5－12012）に作る。〔集韻〕⿰弓并、彈也、通作ㇾ拼。❷**弓を張る**。〔字彙〕⿰弓并、張ㇾ弓也。❸［現］だます。騙る。繃（8－27852）と同じ。

【⿰弓并騙】^{1} pêng^{1} p'ien^{4}　だます。騙る。

【⿰弓并子手】^{2} pêng^{1} tzŭ^{3} shou^{3}　かたり。詐欺師。

【弴】9808　［一］トン　〔集韻〕都昆切　［元］　［二］テウ　〔集韻〕丁聊切　［蕭］

小篆　［一］❶**朱うるしをかけた弓**。もと、⿰弓𦎧に作る。〔正字通〕弴、本作ㇾ⿰弓𦎧。〔說文〕⿰弓𦎧、畫弓也、从ㇾ弓𦎧聲。❷或は⿰弓民（4－9752）に作る。〔集韻〕弴、或从ㇾ民。［二］❶**朱うるしをかけた弓**。敦（5－13276）に同じ。〔集韻〕敦、畫弓也、或从ㇾ弓。❷弤（4－9751）・彫（4－9995）に通ず。〔說文通訓定聲〕弴、公羊注、天子彫弓、詩、敦弓既堅、孟子、弤朕、弴・敦・彫・弤、一聲之轉。

【⿰弓垂】9809　ズイ　⿰弓委（4－9806）に同じ。〔集韻〕⿰弓委、或从ㇾ垂。

【⿺走弓】9810　サン　⿰弓朁（4－9863）に同じ。〔玉篇〕⿺走弓、同ㇾ⿰弓朁。

【⿰弓直】9811　チ　⿰弓虎（4－9802）に同じ。〔字彙〕⿰弓直、同ㇾ⿰弓虎。

【張】9812　［一］チヤウ　〔集韻〕中良切　ㄓㄤ chang^{1}　［陽］　［二］チヤウ　〔集韻〕知亮切　ㄓㄤˋ chang^{4}　［漾］

小篆　［一］❶**はる**。㋑弓のつるをはる。〔說文〕張、施㆓弓弦㆒也、从ㇾ弓長聲。〔詩、小雅、吉日〕既張㆓我弓㆒。〔禮、雜記下〕一張一弛。〔疏〕張、謂ㇾ張ㇾ弦。㋺琴瑟の絲をはる。〔禮、檀弓上〕琴瑟張而不ㇾ平。㋩とばりをはる。〔史記、高祖紀〕高祖復留止、張飲三日。〔注〕集解曰、張晏曰、張㆓帷帳㆒也。㊁網をはる。鳥魚をあみどりにする。

〔公羊、隱、五〕百金之魚、公張レ之。〔注〕張、謂レ張二罔罟障谷之屬一。〔後漢書、王喬傳〕輒有二雙鳧飛來一、擧レ羅張レ之。㋭ほどこす。まうける。つらねる。〔廣雅、釋詁三〕張、施也。〔戰國、秦策〕張レ樂設レ飮。〔注〕張、施也。〔楚辭、九歌、湘夫人〕與レ佳期兮夕張。〔注〕張、施也。〔史記、武帝紀〕張二羽旗一、設二供具一、以祀二神君一。㋬ひらく。もよほす。〔廣雅、釋詁二〕張、開也。〔左氏、昭、二十〕魯瑟張、字子開。〔陳旅、瓊茅賦〕鸞旂罷レ獵、張二宴廣漢一。㋣大きくする。ひろげる。のばす。〔廣雅、釋詁一〕張、大也。〔左氏、桓、六〕我張二吾三軍一。〔老子、三十六〕將欲レ翕レ之、必固張レ之。〔荀子、王霸〕不レ務レ張二其義一。〔注〕張、開也。㋠つよくする。さかんにする。〔左氏、昭、十四〕臣欲レ張二公室一也。〔注〕張、彊也。〔戰國、西周策〕破レ秦以張二韓魏一。〔注〕張、彊也。㋷のびる。ひろがる。さかんになる。〔宋書、何承天傳〕經略既張、宏圖將レ擧。〔北史、辛雄傳〕軍威必張。〔魏文帝、浮レ淮賦〕衆帆張、羣櫂起。〔劉楨、鬭雞詩〕勁翮正敷張。㋦のべる。大げさに言ふ。言ひはる。〔魏志、留王奐紀〕稱二張形勢一、感二激衆心一。〔韓愈、送窮文〕各有二主張一、私立二名字一。〔資治通鑑、漢紀〕張レ解設レ難。〔注〕張レ解者、開二張其說一以爲レ解。㋸つき出す。むき出す。〔易林、同人之第十三、大有〕白虎張レ牙。〔曹植、七啓〕張レ牙奮レ鬣。❷おほきい。〔詩、大雅、韓奕〕孔脩且張。〔傳〕張、大。❸つよい。さかん。〔後漢書、董皇后紀〕汝今輈張、怙二汝兄一耶。〔注〕輈張、猶二彊梁一也。❹もとる。たがふ。〔司馬貞、補史記序〕其中遠近乖張。❺たぶらかす。〔書、無逸〕民無レ或二胥譸張爲レ幻。〔傳〕譸張、誑也。❻はり。弓弩・幕幄・紙帛・琴瑟等を數へる單位。〔左氏、昭、十三〕子產以二幄幕九張一行。〔後漢書、明帝八王傳〕有二強弩數千張一。〔白居易、閑居偶吟〕竹閒琴一張。〔韓愈、厭二花落一詩〕紅紙千張言不レ盡。❼星宿の名。二十八宿の一。ちりこ。〔史記、律書〕西至二于張一。❽姓。〔通志、氏族略、以レ字爲レ氏〕張氏、世仕レ晉、晉分爲レ三、又世仕レ韓、此卽晉之公族、以レ字爲レ氏者、譜家謂、黃帝子少昊靑陽氏第五子揮、爲二弓正一、觀二弧星一始制二弓矢一、主レ祀二弧星一、賜二姓張氏一、此非下命二姓氏一之義上也、按、晉有二解張字張侯一、自レ此晉國世有二張氏一、則因二張侯之字一以命レ氏、可レ無レ疑也。❾［現］うかがふ。すきみをする。［二］❶はる。㋑まうける。つらねる。〔集韻〕張、陳設也。㋺ほこる。おごる。〔集韻〕張、一曰、自侈大也。〔左氏、桓、六〕隨張、必棄二小國一。〔注〕張、自侈大也。㋩はれる。ふくれる。脹（**9－29570**）に通ず。〔正字通〕張、與二脹痮一同。〔左氏、成、十〕晉侯將レ食、張、如レ廁。〔注〕張、腹滿也。〔山海經、中山經〕豐山、多二羊桃一、云云、可三以爲二皮張一。〔注〕治二皮腫起一。❷とばり。帳（**4－8939**）に通ず。〔說文通訓定聲〕張、叚借爲レ帳。〔正字通〕張、與レ帳通。［邦］**はる**。❶**自動詞**。㋑芽が出る。㋺ふくれる。「腹が張る。」㋩一面に滿ちふさがる。「氷が張る。」㋥筋肉がこわばる。「肩が張る。」㋭狹くて窮屈に感ずる。「洋服の袖が張る。」㋬緊張する。「氣が張る。」㋣強く盛になる。「欲が張る。」㋠度を越して多くなる。「經費が張る。」❷**他動詞**。㋑事物をおしひろげる。（甲）のべひろげる。（乙）一面に延べわたす。（丙）紙・板等を糊・釘等で他の物に附ける。（丁）布に糊等を附けて皺のないやうにのばす。（戊）大きく開く。「眼を張る。」（己）液體を容器等に滿たす。「桶に水を張る。」（庚）突き出す。「肱を張る。」（辛）打つ。なぐる。「頭を張る。」㋺物事を強硬にする。（甲）頑張る。〔源氏物語、眞木柱〕いとさがなげに睨みてはりゐたれば。（乙）おし通す。「情を張る。」（丙）強く盛にする。「欲を張る。」「聲を張りあげる。」（丁）緊張させる。「氣を張る。」（戊）對抗する。「人の向うを張る。」㋩構へ設ける。（甲）設備する。〔古事記、中〕宇陀のたかきに鴫わな張る。（乙）ひらく。催す。「宴を張る。」「店を張る。」（丙）勝負事に賭物をする。「錢を張る。」（丁）得ようとしてつけねらふ。又、警戒して待つてゐる。「張番・見張。」（戊）はりぬきに作る。中空の器を作る。（己）唱妓が客をひくために店頭に居ならぶ。㋥取引用語。市場で思惑賣買を試みる。㋭隱語。（甲）盜んだ著物を著る。（乙）剛情で容易に白狀しない。

［名乘］ハル。ツヨ。

【張靄】1（チャウアイ） 宋、浦城の人。字は伯雲。官は侍御史。太祖の彈雀を極諫す。〔尙友錄、八〕。

【張渥】2（チャウアク） 元、淮南の人。字は叔厚。自ら貞期生（貞明生・眞閑生）と號す。博學明經、累擧するも志を有司に得ず、遂に意をほしいままにして詩章を作るを事とした。畫に巧。著に貞期生稿がある。〔元詩紀事、二十四〕。

【張安】3（チャウアン） 明、大同の人。字は定之。正德中、征西前將軍となり、總兵官に充てられ、大同の地を鎭す。才、智勇を兼ね、敵陣に出入して往來飛ぶが如く、未だ嘗て敗北しなかつた。〔明史、一百四十六〕・〔明史稿、一百三十四〕・〔國朝獻徵錄、一百八〕。

【張晏】4（チャウアン） 三國、魏の中山の人。字は子傳。著に西漢書音釋四十卷がある。〔尙友錄〕。

【張庵】5（チャウアン） 細合幸の號。細合張庵（**8－27344··49**）を見よ。

【張鞍】6（ハリグラ） 革を張つた鞍。張革鞍。〔鎌倉年中行事〕公方樣御張鞍、虎豹皮、裏切付。

【張怡】7（チャウイ） 淸、上元の人。字は瑤星。初名は鹿徵。號は白雲先生（白雲老人）。明末の諸生。後、攝山僧舍に住んだ。〔淸史列傳、六十六〕・〔國朝耆獻類徵、四百七十八〕・〔國朝先正事略、四十六〕。

【張彝】8（チャウイ） 後魏、東武城の人。字は慶賓。諡は文。孝文帝の時、侯爵を襲ぐ。官は光祿大夫。〔魏書、六十四〕・〔北史、四十三〕。

【張位】9（チャウヰ） 明、新建の人。字は明成。諡は文端。隆慶の進士。書室を閒雲館といふ。官は吏部尙書。著に問奇集・詞林典故・誓心類編・周易參同契注解・悟眞篇注解・閒雲館集鈔がある。〔明史、二百十九〕・〔萬斯同明史、三百十〕・〔明史稿、二百二〕。

【張威】10（チャウヰ） ❶隋の人。騎射の名人。官は周の瀘州總官。隋の相州刺史。〔隋書、五十五〕・〔北史、七十三〕。❷宋、成州の人。字は德遠。官は沔州都統制。金人と戰つて屢〻功があり、兩眼が赤かつたので、金人は張鶻眼といつて之を憚つた。〔宋史、四百三〕・〔宋史新編、一百五十〕・〔南宋書、四十八〕。

【張偉】11（チャウヰ） 後魏、中都の人。字は仲業。諡は康。諸經に精通す。官は平東將軍・營州刺史。〔魏書、八十四〕・〔北史、八十一〕。

【張渭】12（チャウヰ） 淸、錢塘の人。字は且湜。畫に巧。〔國朝畫識、七〕。

【張爲】13（チャウヰ） 唐の人。詩を能くし、詩人主客圖を作る。後、釣臺山に入りて道を訪ふ。〔唐詩紀事、六十五〕・〔全唐詩、二十七〕。

【張暐】14（チャウヰ） ❶唐、襄城の人。臨淄王に事ふ。官は殿中監・太僕卿。〔唐書、一百二十一〕・〔舊唐書一百六〕。❷金、日照の人。字は明仲。正隆の

進士。官は御史大夫。後、安武軍節度使。太常禮部に在ること二十餘年、古今の禮法に明通した。〔金史、一百六〕。

【張煒】15 チャウヰ　金、永年の人。字は子明。本名は燝。章宗の名を避けて煒と改む。大定の進士。喜んで功利を言ひ、廉節が寡い。官は安國軍節度使。〔金史、一百〕。

【張瑋】16 チャウヰ　明、武進の人。字は席之。謚は清惠。學を東林書院に講じ、孫愼行に師事す。其の學は愼獨研幾を以て宗とす。萬曆の進士。官は戶部主事・左副都御史。〔明史、二百五十四〕・〔萬斯同明史、三百六十二〕・〔明史稿、二百四十一〕。

【張禕】17 チャウヰ　晉の人。邵の兄。劉裕が禕をして恭帝を毒殺させようとした時、自ら之を飲んで死んだ。〔晉書、八十九〕。

【張維】18 チャウヰ　㊀宋、蜀の人。字は公言。書を善くし、懷素の筆法を得た。〔事實類苑〕。㊁宋、烏程の人。官は仁宗の時、衞尉寺丞。書室を曾樂軒といふ。著に曾樂軒集がある。〔四庫提要、一百七十四〕。㊂明、常熟の人。字は叔維。號は西泠寓客。西湖に僑居し、詩畫に巧。〔明史、三百一〕・〔明詩綜、八十七〕。㊃清、順天の人。字は四之。山水畫に巧。㊄朝鮮李朝、德水の人。字は持國。號は谿谷。謚は文忠。官は右議政。〔海東名臣傳〕。

【張謂】19 チャウヰ　唐、河南の人。字は正言。天寶の進士。官は大曆中、禮部侍郎。詩集がある。〔唐詩紀事、二十五〕。

【張有】20 チャウイウ　宋、吳興の人。字は謙中。黃冠に隱れ、篆書を善くす。著に復古編がある。〔四庫提要、四十一〕。

【張祐】21 チャウイウ　㊀後魏、安定の人。字は安福。謚は恭。文明太后の寵臣。官は尙書左僕射。爵は新平王。〔魏書、九十四〕・〔北史、九十二〕。㊁唐、清河の人。張祜(296)を見よ。㊂明、南海の人。字は天祐(天吉)。世職を襲いで廣州衞指揮使と爲る。正德中、累りに戰功を立て、官は副總兵。屢、劇賊を破る。〔明史、一百六十六〕・〔萬斯同明史、二百六十四〕・〔明史稿、一百七十五〕。

【張琇】22 チャウイウ　唐、解の人。父の審素が巂州都督を以て誣ひられて、御史楊汪に誅せられた時、琇は嶺南に徙されたが、暫くして逃れ還つて汪を殺し、捕へられて刑死す。〔舊唐書、一百十八〕・〔唐書、一百九十五〕。

【張昱】23 チャウイク　元、廬陵の人。字は光弼。號は一笑居士。又、可閒老人。官は左右司員外郎・行樞密院判官。後、官を棄てて出でず。明の太祖が徵して京師に至らしめ、其の老を閔んで閒す可しといふ。よつて自ら可閒老人と號し、西湖山水の間に徜徉して終る。著に廬陵集がある。〔明史、二百八十五〕・〔萬斯同明史、二百八十六〕・〔明史稿、二百六十六〕。

【張佚】24 チャウイツ　後漢の人。官は國子博士。光武帝が太子のために傅を擇んだ時、羣臣は皆太子の舅陰識がよいと言つたが、佚は、色を正して、天下のために太子の傅を求めるならば、天下の賢才を用ふべきであるといふ。帝は善しと稱して、佚を太子太傅に拜す。〔後漢書、六十七〕。

【張逸】25 チャウイツ　㊀宋、滎陽の人。字は大隱。進士。官は樞密直學士・知益州。〔宋史、四百二十六〕・〔宋史新編、一百六十八〕・〔北宋經撫年表、一百十五〕。㊁清、嘉善の人。字は泰菴。又、日休。號は溪叟。山水畫に巧。琴を善くす。〔清畫家詩史、甲、下〕。

【張鎰】26 チャウイツ　㊀唐の人。字は季權。又、公度。官は鳳翔隴右節度使。李楚琳に殺された。〔唐書、一百五十二〕・〔舊唐書、一百二十五〕。㊁宋の人。後、滁州に居る。字は季萬。書畫に巧。〔圖繪寶鑑〕。㊂高麗の人。初名は敏。字は弛之。謚は章簡。官は知僉議府事寶文署大學士修國史。〔高麗史〕。

【張揖】27 チャウイフ　後魏、清河の人。字は稚讓。官は太和中の博士。其の著、埤蒼・古今字詁は已に佚し、廣雅が存してゐる。〔四庫提要、四十〕。

【張熠】28 チャウイフ　後魏、西鄂の人。字は景世。謚は懿。官は東徐州の刺史。〔魏書、七十九〕。

【張允】29 チャウイン　五代、漢の鎭州の人。少くして張文禮の參軍となり、唐に降つて水部員外郎・知制誥となる。晉漢に歷事す。郭威が京師に入るや、佛殿の承塵に匿れ、墜ちて卒す。〔舊五代史、一百八〕・〔五代史、五十七〕。

【張尹】30 チャウヰン　清、桐城の人。字は无咎。號は莘農。乾隆の進士。官は福建長樂縣知。書室を石冠堂といふ。著に石冠堂集がある。

【張愔】31 チャウイン　唐の人。建封の子。官は工部尙書。〔唐書、一百五十八〕。

【張湮】32 チャウイン　張諲(34)を見よ。

【張飲】33 チャウイン　とばりを張りまはして酒もりをする。帳飲。〔史記、高祖紀〕高祖復留止、張飲三日。〔注〕集解曰、張晏曰、張㆓帷帳㆒也。〔唐書、田悅傳〕悅與㆓巢父㆒張飲、門階皆徹㆑衞。

【張諲】34 チャウイン　唐の人。一に湮に作る。官は刑部員外郎。草隸を善くし、山水畫に巧。王維・李頎と詩酒丹青の友となる。〔唐詩紀事、二十〕。

【張隱】35 チャウイン　後漢の人。靈帝の時、張儉と同鄕。八顧の一。〔後漢書、九十七〕。

【張昀】36 チャウヰン　唐、婁縣の人。字は寓寅(嵎寅)。號は友竹。畫は董其昌を法とし、乾隆中、進御して緞を賜はる。詩に巧。書室を賜錦堂といふ。著に賜錦堂詩集がある。〔墨香居畫識、一〕。

【張員】37 チャウヰン　明、餘姚の人。字は壹民(一民)。又、天民。號は雲帆。左目に瞳子が無く、自ら左瞽と稱す。官は洪武の初、開化教諭。書畫に巧。〔紹興府志〕。

【張筠】38 チャウヰン　五代、唐の海州の人。初、梁に仕へ、後、唐の左驍衞上將軍となる。財鉅萬を積み、洛陽に家居す。世人が地仙と呼んだ。〔五代史、四十七〕・〔舊五代史、九十〕。

【張奫】39 チャウヰン　隋、東武城の人。淮陰に家す。字は文懿。謚は莊。初、周に仕へて州主簿となる。後、隋に仕へ陳を平げて功があり、官は潭州總管。〔隋書、六十四〕・〔北史、七十八〕。

【張宇】40 チャウウ　元の人。字は彥升。號は石泉先生。詩に巧。著に石泉集がある。

【張羽】41 チャウウ　㊀明、潯陽の人。父が江浙に宦となるに從ひ、吳興に卜居す。字は來儀。後、字を以て行はれ、更に附鳳と字す。號は靜居。元末、鄕薦を領して、安定書院の山長となる。詩文に巧。尤も五言古詩を能くし、高啓・楊基・徐賁と共に吳中の四傑と稱せられた。官は洪武中、太常寺丞。後、事に坐して嶺南に謫せられ、龍江に投じて死す。畫は米友仁の弟子。著に靜居集がある。〔明史、二百八十五〕・〔萬斯同明史、三百八十六〕・〔明史稿、二百六十六〕・〔明人小傳、一〕・〔明詩綜、九〕。㊁明、泰興の人。字は鳳擧。弘治の進士。官は保定の守。著に東田遺稿がある。〔明史、二百九十〕・〔萬斯同明史、二百四十八〕・〔明史稿、一百三十四〕。㊂明、南鄭の人。字は伯翔。性、至孝。弘治の進士。官は南京工部侍郎。〔明史、一百九十一〕・〔萬斯同明史、二百八十四〕。

【張雨】42 チャウウ　㊀元、錢塘の人。一名、天雨。字は伯雨。號は句曲外史・貞居子・山澤臞者。書畫・詩詞に巧。趙孟頫・楊載・虞集と交る。二十にして家を棄てて道士となり、茅山に居る。書室を開元草樓・半隱堂といひ、著に茅山志・句曲外史集がある。〔明史、二百八十五〕・〔明史稿、二百八十六〕。㊁張雨森(794)を見よ。

【張禹】43 チャウウ　㊀漢、清河の人。字は長子。貫長卿に從つて、春秋左氏の學を受く。官は待詔。〔前漢書、八十八〕。㊁漢、軹の人。字は子文。謚は節。經學に明通し、博士を授けられ、元帝の時、光祿大夫に遷り、太子に論語を授けた。成帝の河平中、相となる。封は安昌侯。王氏が外戚を以て政を專らにするによつて歸を乞ふ。けれども國家に大政ある每に多く諮詢せられ、帝は王氏を疑つて禹に問うたが、禹は己の老い、子孫の弱きを以て敢て直言しなかつた。張侯論(309)を見よ。〔前漢書、八十一〕。㊂後漢、襄國の人。字は伯達。官は太傅。封は安鄕侯。〔後漢書、七十四〕。

【張運】44 チャウウン　宋、貴溪の人。字は南仲。宣和の進士。官は大理少卿・敷文閣待制。〔宋史、四百四〕・〔宋史新編、一百四十四〕・〔南宋書、三十三〕。

【張氳】45 チャウウン　唐、晉州の人。號は洪崖子。姑射洞に隱る。玄宗が召見し、官に拜したが受けないで山に還る。洪州に大疫があつた時、狂道士があつて藥を賣り、得るものは必ず愈つた。玄宗は必ず氳であらうと考へ、三たび召したが赴

かず、天寶の末、尸解せられた。〔全唐詩、三十一〕。

【張蘊】46（チャウウン） 宋、開封の人。字は積之。謚は榮毅。安南を征す。官は開德河陽馬步軍副總管。〔宋史、三百五十〕・〔宋史新編、一百二十〕。

【張永】47（チャウエイ） ㊀南朝宋の人。裕の子。字は景雲。封は孝昌縣侯。官は兗州刺史。文章を作り、隸書を善くす。〔宋書、五十三〕。㊁明、保定新城の人。劉瑾の黨となり、八虎の一。後、瑾の行事を惡み、瑾を誅せんことを奏す。官は嘉靖の時、提督團營。〔明史、三百四〕・〔萬斯同明史、四百六〕・〔明史稿、二百八十四〕。

【張英】48（チャウエイ） ㊀元、諸暨の人。字は仁傑。花鳥畫に巧。〔紹興志〕。㊁明の人。謚は忠壯。官は京衞指揮使。武宗の南巡を諫め、杖下に死す。〔明史、一百八十九〕・〔萬斯同明史、二百六十二〕・〔明史稿、一百七十四〕。㊂清、桐城の人。字は敦復。號は樂圃・聽訓齋。謚は文端。康熙の進士。書室を篤素堂といふ。官は文華殿大學士・禮部尙書。清一統志・國史方略・淵鑑類函・政治典訓等の編纂の總裁を命ぜられ、又、當年の典誥の文は多く其の手に出た。著に恒產瑣言・聽訓齋語・篤素堂文集・易書衷論がある。〔國朝先正事略、七〕・〔清儒學案小識、十二〕・〔四庫提要、六〕。㊃清、海寧の人。海鹽に籍す。字は仲張。康熙の進士。官は廣東提學道。張文端の弟子。師弟同一の姓名で當時の佳話とせられた。書室を一經堂といひ、著に一經堂集がある。

【張詠】49（チャウエイ） 宋、鄄城の人。字は復之。號は乖崖。謚は忠定。太平興國の進士。官は樞密直學士、後、吏部尙書。著に乖崖集がある。〔宋史、二百九十三〕・〔宋史新編、八十二〕・〔東都事略、四十五〕・〔隆平集、十三〕・〔名臣碑傳琬琰集、上、十六・中、四十四〕。

【張瑛】50（チャウエイ） 明、浙江建德の人。字は彥華。永樂の擧人。官は建寧の知府。鄧茂七の亂に死す。〔明史、二百八十九〕・〔萬斯同明史、二百二十一〕・〔明史稿、二百七十〕。

【張裔】51（チャウエイ） 三國、蜀の成都の人。字は君嗣。公羊春秋に精通。官は益州太守。後、諸葛亮の參軍となり、更に輔漢將軍を加へられた。楊善恭と友交があり、其の死後、母子を撫養す。〔三國志、四十一〕。

【張榮】52（チャウエイ） ㊀元、歷城の人。字は世輝。官は山東行尙書省・知濟南府事。封は濟南公。〔元史、一百五十〕。㊁元、青州の人。鄢陵に居る。初、金に仕へ、後、元の鎭國上將軍・砲水手元帥となる。〔元史、百五十一〕。㊂清、江蘇華亭の人。字は景桓。號は空明子。著に空明子詩文集・雜錄がある。〔四庫提要、一百八十四〕。㊃清、嘉定の人。字は采南。號は巢南子(巢雲子)。山水人物畫に巧。〔墨香居畫識、一〕。

【張銳】53（チャウエイ） ㊀明、秦州の人。字は抑之。成化の進士。官は山東參政。世人は隴西張夫子と稱す。〔陝西通志〕。㊁明の人。宦官。東廠を掌る。又、豹房に侍す。〔明史、三百四〕・〔萬斯同明史、四百六〕・〔明史稿、二百八十三〕。

【張穎】54（チャウエイ） 五代、周の太原の人。官は安州防禦使。曹澄の女を娶らうと強要し、澄に殺された。〔舊五代史、一百二十九〕。

【張鎣】55（チャウエイ） 明、松江華亭の人。字は廷器。謚は莊懿。正統の進士。官は南京兵部尙書。〔明史、一百八十五〕・〔萬斯同明史、二百四十二〕・〔明史稿、一百六十七〕。

【張瑤】56（チャウエウ） 明、蓬萊の人。天啓の進士。官は開封府推官。李九成と戰ひ敗死す。〔明史、二百九十〕・〔萬斯同明史、三百七十八〕・〔明史稿、二百七十二〕。

【張曜】57（チャウエウ） ㊀清、大興の人。原籍は錢塘。字は朗齋。謚は勤果。軍功によつて河南布政使に擢んでられたが、御史劉楠に一丁字を識らないと彈劾せられて總兵に改められ、後、廣東陸路提督となる。劾せられて武官に改められてから、學に志し、遂に圖史に淹通し、其の詩文には皆古法があり、目不識丁の四字を印に刻して自ら警めた。〔清史稿、四百六十〕・〔續碑傳集、二十八〕。㊁張耀の㊀を見よ。

【張耀】58（チャウエウ） ㊀北齊、昌平の人。耀、北史は曜に作る。字は靈光。謚は貞簡。學者。官は祕書監。〔北齊書、二十五〕・〔北史、五十五〕。㊁明、三原の人。字は融我。萬曆の擧人。官は貴州布政使。孫可望の難に死す。〔明史、二百九十五〕・〔明史稿、二百七十七〕。

【張易】59（チャウエキ） 元、太原の人。字は仲疇。初、世祖に潛邸に侍し、至元中、樞密副使・知祕書監・太史院司天臺事に累官す。時に丞相阿合馬が權を擅にし、人々が憤怨したので、太子の矯令を受け、兵を以て阿合馬を誅せんとしたが、事敗れて棄市せられた。〔新元史、二百二十三〕。

【張奕】60（チャウエキ） 金の人。其の先は澤州高平の人。字は彥微。官は齊の歸德府通判、金の戶部尙書。〔金史、一百二十八〕。

【張益】61（チャウエキ） 明、江寧の人。字は士謙。號は惷菴。謚は文僖。永樂の進士。官は侍讀學士。也先が入寇するや、土木の難に死す。書畫に巧。著に書法がある。〔明史、一百六十七〕・〔萬斯同明史、二百十七〕・〔明史稿、一百三十八〕。

【張掖】62（チャウエキ） ㊀川の名。禹貢の弱水、漢書の羌谷水、括地志の鮮水。又、合黎水・覆袁水・副投河ともいふ。二源あり、一は山丹河、一は張掖河。山丹河の源は甘肅省山丹縣の西南の祁連山。張掖河の源は張掖縣の西南。其の下流を通じて張掖河といふ。俗に黑河といひ、蕃名を額濟納河といふ。毛目縣に至り、白河と會す。蕃名を坤都倫河といふ。額濟納舊土爾扈特部に入り、分れて二泊に入る。古の居延泊。山丹河の支流に洪水河があり、窮石山から出る。〔讀史方輿紀要、陝西、甘肅鎭、甘州後衞〕張掖水、在㆓鎭城西十里㆒、經㆓合黎山下㆒弱水入焉、水經注、張水歷㆓紺峻山南㆒與㆓張掖河㆒合、一名鮮水、亦謂㆓之合黎水㆒、又名㆓羌谷水㆒、自㆓吐谷渾界㆒流入、一統志、張掖河、源出㆓擺通川㆒、經㆓祁連山西㆒、出㆓合黎北㆒、流入、亦集㆓乃界㆒、河西岸有㆓泉數十處㆒、俱生㆓蘆草㆒飼秣資焉。㊁郡名。漢、置く。北涼の沮渠蒙遜、此處に都し、唐代、回鶻、之に據る。今の甘肅省張掖・山丹諸縣の地。〔漢書、地理志下〕張掖郡。〔注〕故匈奴昆邪之地、武帝太初元年開、應劭曰、張國臂掖、故曰㆓張掖㆒。〔讀史方輿紀要、歷代州域形勢、漢〕張掖郡、故匈奴渾邪王地、武帝開㆓河西㆒、元鼎六年、分㆓武威・酒泉地㆒、置㆓張掖郡㆒、領㆓觻得等縣十㆒、觻、讀祿、今甘州山丹等衞、是其地、觻得縣、卽今甘州衞治、杜佑曰、武帝元狩初、置㆓張掖郡㆒、張掖屬國㆒、治㆓居延㆒、考、元狩初、未㆑置㆓張掖郡㆒、杜氏誤也、居延、今見甘州衞。㊂縣名。㋑漢、置く。故治は甘肅省武威縣の南。〔漢書、地理志下〕武威郡、縣十、張掖。㋺隋、置く。漢の觻得縣の地。甘肅省武威縣の西北。故の縣城は紅水河と張掖河との中間。西域に通ずる要道。〔讀史方輿紀要、陝西、甘肅鎭、甘州後衞〕張掖廢縣、卽今鎭治、漢爲㆓觻得縣㆒、云云、隋大業初、改爲㆓張掖縣㆒。〔清史稿、地理志〕甘肅、甘州府、縣二、張掖。

【張繹】63（チャウエキ） ㊀梁、吳郡の人。字は士和。道術を學び、八體書を善くし、雲篆を製す。著に茅山南洞記がある。〔蘇州府志〕。㊁宋、壽安の人。字は思叔。程頤の門人。〔宋史、四百二十八〕・〔宋史新編、一百六十一〕・〔皇朝道學名臣言行外錄、九〕・〔伊洛淵源錄、十二〕・〔宋元學案、三十〕。

【張悅】64（チャウエツ） 明、松江華亭の人。字は時敏。號は定菴。謚は莊簡。天順の進士。官は孝宗の時、吏部左侍郎、後、兵部尙書。著に定菴集がある。〔明史、一百八十五〕・〔萬斯同明史、二百四十二〕・〔明史稿、一百六十七〕。

【張說】65（チャウエツ チャウセツ） ㊀漢の人。謚は懿。司馬を以て項羽を擊つ。封は安丘侯。〔前漢書、四十六〕。㊁南朝宋の人。暢の弟。晉安王子勛が僞號を尋陽に建てるや、鄧琬と共に政を輔けたが、事敗れ、琬を殺して降る。官は南郡太守。〔宋書、五十九〕。㊂唐、洛陽の人。字は道濟、又、說之。謚は文貞。永昌中、賢良方正に擧げらる。封は燕國公。官は校書郎・中書令。朝廷の大述作は皆其の手に出で、時人は蘇頲と並稱して大手筆といふ。其の文は沈雄清壯、直に東漢を追ひ、魏晉以來匹儔少く、尤も碑誌に長ず。既に岳州に謫せられて詩は益〻凄婉、時人は彼を江山の助を得てゐるといつた。著に張燕公集がある。〔唐書、一百二十五〕・〔舊唐書、九十七〕。㊃宋、開封の人。壽聖皇后の女弟を娶る。官は簽書樞密院事。〔宋史、四百七十〕・〔宋史新編、一百八十五〕・〔南宋書、六十八〕・〔宋史翼、一〕。

【張炎】66（チャウエン） 宋、臨安の人。循王五世の孫。字

は叔夏。號は玉田、又は樂笑翁。宋が亡びて後は仕へず。長短句に巧。春水詞を以て名を得、時人が張春水と呼んだ。著に詞源・山中白雲詞・樂府指迷等がある。〔四庫提要、一百九十九〕。

【張衍】67（チヤウエン）　五代、梁の人。字は元用。官は唐の昭宗の時、翰林學士、梁の太祖の時、右諫議大夫。〔舊五代史、二十四〕。

【張宴】68（チヤウエン）　酒宴をひらく。〔陳旅、瓊茅賦〕鸞旂罷レ獵、張宴廣漠。

【張掞】69（チヤウエン）　宋の人。揆の弟。字は文裕。進士。孝子。官は知益都縣。後、戶部侍郎に至る。〔宋史、三百三十三〕・〔宋史新編、一百十〕・〔北宋經撫年表、四十八〕。

【張淵】70（チヤウエン）　❶後魏の人。占候に通ず。苻堅・姚興・赫連昌に歷仕。官は驃騎軍謀祭酒。〔魏書、九十一〕・〔北史、八十九〕。❷明、歸安の人。字は子靜。號は夢坡・古愚齋。詩を善くし、呉興の詩人、丘大祐・唐惟勤が亟〻之を稱す。文を作るに數千言立どころに成る。心に憤慨する所があれば聲を抗げて慟哭す。世人は之を唐衢に比す。〔萬斯同明史、三百九十六〕・〔明詩綜、二十三〕。

【張堰】71（チヤウエン）　鎭の名。江蘇省金山縣の東南。張溪に臨んで市を爲す。もと張涇堰といひ、俗に張堰といふ。又、赤松里・留溪・張溪ともいふ。張良が赤松子に從つて居た處と傳へる。宋の知州岳寚が海水を防いだ遺跡十八所の一。〔讀史方輿紀要、江南、松江府、華亭縣〕張堰鎭、府南六十里、亦曰二張涇堰一、舊置レ堰、以堰二柘河入レ海之流一。

【張綖】72（チヤウエン）　明、高郵の人。字は世文。號は南湖。正德の擧人。官は光州知州。著に杜詩通・詩餘圖譜・南湖詩集がある。〔明詩綜、三十七〕。

【張燕】73（チヤウエン）　三國、魏の眞定の人。本姓は褚。張牛角の後を襲ぎ、張と改姓。官は平北將軍。封は安國亭侯。性、剽捷、軍中の者が號して飛燕といふ。〔三國志、八〕。

【張琬】75（チヤウエン）　明、鄱陽の人。字は宗琰。官は戶部主事。後、左侍郎に至る。卒年二十七。時人が之を惜んだ。〔明史、一百三十八〕・〔萬斯同明史、一百七十三〕・〔明史稿、一百二十六〕。

【張遠】76（チヤウエン）　❶宋、楡次の人。字は行之。政和中、山間に隱居す。❷清、蕭山の人。字は邇可。康熙中、貢生から縉雲縣教諭となる。著に杜詩會粹・張邇可集がある。〔四庫提要、一百七十四〕。❸清、侯官の人。字は超然。號は无悶道人（無悶道人）。耿精忠の難を避けて常熟に居る。康熙中、鄉薦を領し、官は祿豐知縣。書は晉人を法とし、尤も詩に巧。著に超然詩集がある。〔清史列傳、七十〕・〔國朝耆獻類徵、二百二十五〕。

【張歐】77（チヤウオウ）　漢の人。說の子。字は叔。文帝の時、刑名の言を治めて太子に事へた。官は武帝の時、御史大夫。〔史記、一百三〕・〔前漢書、四十六〕。

【張應】78（チヤウオウ）　後魏の人。官は京兆太守。〔魏書、八十八〕・〔北史、八十六〕。

【張溫】79（チヤウヲン）　❶後漢、穰の人。字は伯愼。官は靈帝の時、司空。後、車騎將軍。董卓に誣告されて殺された。〔後漢書、九十九〕。❷三國呉、呉郡の人。字は惠恕。官は太子太傅。孫權が其の名聲を嫌惡し、後に罷斥す。〔三國志、五十七〕。❸五代、唐の魏縣の人。字は德潤。官は梁の左右捉生都指揮使。南唐の莊宗が邢臺を伐つた時に捕へられ、後、戰功を以て南唐の晉州節度使となる。〔舊五代史、五十九〕。❹明の人。官は都督僉事。封は洪武中、會寧侯。藍玉の黨に坐して死す。〔明史、一百三十二〕・〔萬斯同明史、一百六十四〕・〔明史稿、一百十八〕。

【張河】80（チヤウカ）　唐の張道源をいふ。河は名。張道源(1333)を見よ。

【張柯】81（チヤウカ）　清、海鹽の人。字は晉樵。又、東谷。官は杭州府訓導。書室を攟雲樓といひ、著に攟雲樓詩稿がある。

【張夏】82（チヤウカ）　❶鎭の名。山東省長清縣の東南。津浦鐵路に沿ふ。❷清、無錫の人。字は秋紹。高世泰の門人。學者。著に孝經解義・小學論注・雒閩源流錄がある。〔清史稿、四百八十六〕・〔清史列傳、六十六〕・〔國朝耆獻類徵、四百二〕・〔碑傳集、一百二十八〕・〔國朝先正事略、二十八〕・〔宋學淵源記、二〕・〔清儒學案小識、四〕。

【張家】83（チヤウカ）　地名。❶河南省潢川縣の東南。❷湖北省穀城縣の東北。

【張家橋】84（チヤウカケウ）　鎭の名。❶江蘇省上海縣の黃浦江の東。❷江蘇省泰興縣の東南。

【張家口】85（チヤウカコウ）　地名。❶察哈爾省萬全縣。北は察哈爾省張北縣の界に接す。邊外長城の要口。京綏鐵道の中樞。上下二堡あり、下堡を張家口といひ、明の宣德四年に築く。上堡を來遠堡と名づけ、明の萬曆四十一年に築く。馬市を開いて蒙古と貿易す。咸豐十年に露國と條約を結び、開放して商埠とし、五百萬方尺の地を劃して、露國の租界とす。西北、庫倫に自動車路が通じてゐる。下堡は又、萬全縣治。〔讀史方輿紀要、直隸、萬全都指揮使司、萬全右衞〕張家口堡、衞東三十五里、東南至二鎭城一四十四里、宣德四年築、嘉靖十二年・萬曆二年、增築、堡周四里、其附近臺等處爲二最衝一、口外有二獅子屯一、一帶屬部駐牧處也、堡爲三互市之所二關防一、最密二邊略一。〔清史稿、地理志〕直隸、張家口廳、順治初、爲二張家口路一隸二宣府鎭一、康熙中、置二縣丞一、雍正二年、改二理事廳一、光緒七年、改二撫民一。❷河北省磁縣の西彭城鎭の南。

【張家店】86（チヤウカテン）　地名。❶山東省肥城縣の西。❷江蘇省東海縣の南。❸湖北省黃陂縣の西北。❹湖北省黃陂縣の東。

【張家嶺】87（チヤウカレイ）　山名。❶江西省崇仁縣。石炭を產す。❷江西省都昌縣の東北。❸湖南省東安縣。アンチモニーを產す。

【張家樓】88（チヤウカロウ）　鎭の名。江蘇省上海縣の黃浦江の東。又、永寧橋市といふ。〔上海縣志〕永寧橋市、俗呼二南張家樓一、近年始成レ市。

【張家灣】89（チヤウカワン）　地名。❶河北省通縣の南。元代、張瑄が海運を督して此處に至つたから名づけた。盧溝と白河の會する所。客船が集る。側に廣福寺がある。明の嘉靖三十一年、城を築く。〔讀史方輿紀要、直隸、順天府、通州〕渾河、在二州西南一、自二盧溝橋一分流、經二州南十五里一、謂二之張家灣一、志云、張家灣以下元時萬戶張瑄督二海運一至上此而名、云云、燕錄、白河至二州東一折而迤レ西處、曰二張家灣一、蓋盧溝河與二白河一會流處也、今置二張家灣巡司于此一。❷湖北省襄陽縣の東北。❸滿洲吉林省德惠縣の西、飲馬河の西岸。濱長鐵路支線の沿線。

【張荷】90（チヤウカ）　宋、壽光の人。种放に師事し、呉質・魏野・楊朴・宋澥と交はる。性、高潔、文章を能くす。詩文集がある。〔尙友錄、八〕。

【張遐】91（チヤウカ）　後漢、餘干の人。幼にして聰明、日に萬言を記す。年十九にして楊震に從ふ。震、人に語つて張遐當に天下後世の儒宗となるべしといふ。建寧中、召されて五經博士となり、尋いで疾を以て還り教授す。著に五經通義・易傳・筮原・龜原・呉越春秋等がある。〔尙友錄、八〕。

【張檟】92（チヤウカ）　❶明、江西新城の人。字は叔養。號は心吾。嘉靖の進士。官は南京工部右侍郎。著に存笥錄がある。〔明史、二百十〕。❷清、崑山の人。字は士美。畫に巧。

【張牙】93（チヤウガ）　きばをむき出す。〔易林〕白虎張レ牙、征二伐東華一。〔曹植、七啓〕哮闞之獸、張レ牙奮レ鬣。

【張賀】94（チヤウガ）　漢の人。湯の子。諡は哀。衞太子の幸臣。宣帝の時、恩德侯に追封せられた。〔前漢書、五十九〕。

【張匄】95（チヤウカイ）　春秋、宋の人。華費遂を劫して叛いたが、公子城が晉師を以て宋を救ひ、匄は射られて死んだ。〔左氏、昭、二十一〕。

【張戒】96（チヤウカイ）　宋、正平の人。進士。紹興中、趙鼎の薦により國子監丞を授けられ、司農少卿に累進す。趙鼎が外任に改められた時、其の留任運動に坐し、佐宣教郎を以て台州崇道觀を主管す。書室を歲寒堂といひ、著に歲寒堂詩話がある。錢曾の讀書敏求記には誤つて趙戒に作る。〔四庫提要、一百九十五〕。

【張開】97（チヤウカイ）　金、景州の人。姓、完顏氏を賜はる。官は同知青州防禦事・西面元帥。哀宗を歸德に衞り、民間に殺された。〔金史、一百十八〕。

【張楷】98（チヤウカイ）　❶後漢の人。霸の子。字は公超。嚴氏春秋・古文尙書及び道術に通曉す。弘農山中に隱居し、道術を好み、能く五里霧を作す。

〔後漢書、六十六〕。❷明、慈谿の人。永樂の進士。官は僉都御史。〔明史、一百六十一〕。❸清、漢軍正藍旗人。字は瞻式。號は蒿亭・灌畦子・雪泉。康熙の擧人。官は戶部尙書。〔碑傳集、二十九〕。

【張解】99チヤウカイ 說を述べて辯解をすること。〔後漢書、西羌傳〕公卿選レ儒、容頭過レ身、張レ解設レ難。〔資治通鑑、漢紀〕（順帝、永建四年）公卿選レ儒、容頭過レ身、張レ解設レ難。〔注〕張レ解者、開二張其說一以爲レ解。

【張闓】100チヤウカイ 晉、丹陽の人。字は敬緒。元帝の時、爵は丹陽縣侯。蘇峻の亂に、王導と宮に入つて侍衞し、峻を討つを謀る。亂の平定した後、宜陽伯に封ぜられた。官は金紫光祿大夫。〔晉書、七十六〕。

【張崖】101チヤウガイ 陳、晉陵の人。三禮を劉文勍に傳へた。官は國子博士。〔陳書、三十三〕・〔南史、七十一〕。

【張蓋】102チヤウガイ 清、永年の人。字は覆輿、又、命士。明の諸生。詩及び草書に巧。清に入つて、外部の人と接せず、狂死す。〔清史稿、四百八十九〕・〔清史列傳、七十〕・〔國朝耆獻類徵、四百六十六〕・〔國朝先正事略、四十七〕。

【張亢】103チヤウカウ ❶晉の人。載の弟。字は季陽。音樂伎術を解し、載・協と倶に三張と稱せられた。中興の初、官は散騎常侍・領佐著作。〔晉書、五十五〕。❷宋の人。奎の弟。字は公壽。官は徐州總管。〔宋史、三百二十四〕・〔宋史新編、一百四〕・〔東都事略、六十一〕・〔隆平集、十九〕。

【張行】104チヤウカウ 清、安吉の人。同治の擧人。小學に精通す。著に說文發疑・說文揭原・汲古閣說文解字校記がある。

【張亭】105チヤウカウ 金、[illegible]陰の人。字は彥通。皇統の進士。官は章宗の時、河東南北路提刑使。〔金史、九十七〕。

【張沆】106チヤウカウ 五代、周の徐州の人。字は太元。進士。詞賦に巧。晉初の學士。周の刑部尙書。釋氏を好む。〔舊五代史、一百三十一〕。

【張庚】107チヤウカウ 清、秀水の人。原名は燾。字は溥三（浦山）。後、浦山と易へて號とし、公之于と字す。號は瓜田逸史・彌伽居士・白苧村桑者・強恕齋。詩・古文及び書畫に巧。乾隆の初、布衣から鴻博に擧げられた。著に強恕齋詩文集・畫徵錄・續錄がある。〔清史列傳、七十一〕・〔國朝耆獻類徵、四百三十三〕・〔碑傳集、一百四十〕。

【張杲】108チヤウカウ 宋、新安の人。字は季明。伯祖は醫を以て京洛に名があり、杲は能く家學を承け繼いだ。著に醫說がある。〔北宋經撫年表、四十五・四十九・六十〕・〔四庫提要、一百三〕。

【張浩】109チヤウカウ ❶金、遼陽の人。字は浩然。號は華表山人。諡は文康。本姓は高。官は太師。封は南陽郡王。著に華表山人集がある。〔金史、八十三〕。❷清、元和の人。字は學圃。官は廬州同知。書に巧。〔墨香居畫識、四〕。

【張珩】110チヤウカウ 明、石州の人。諡は襄毅。正德の進士。官は監察御史。兵部侍郎・總督陝西。官に居つて剛介を以て著はれ、西陲を經略して功があつた。〔萬斯同明史、二百八十四〕・〔國朝獻徵錄、五十八〕。

【張崗】111チヤウカウ 清、長洲の人。字は崑南。號は古樵。醫に隱れ、古琴を好み、詩を能くす。書室を鶴健堂といひ、著に鶴健堂詩鈔がある。〔國朝詩人徵略初編、三十三〕。

【張康】112チヤウカウ 元、湘潭の人。字は汝安。號は明遠。幼にして孤。學に力め、旁ら術數に通ず。宋の滅亡後、衡山に隱れたが、元の世祖が召し出して著作郎を授け、厚く禮遇した。官は祕書監丞。〔元史、二百三〕・〔新元史、二百四十二〕。

【張晧】113チヤウカウ 清の人。惟赤の子。字は小白。號は皜亭。康熙の擧人。官は中書、後、刑部主事。書室を賦閒樓といひ、著に賦閒樓詩集がある。

【張淏】114チヤウカウ 宋、開封の人。會稽に僑寓す。字は清源。官は奉議郎。著に會稽續志・艮嶽記・雲谷雜記がある。〔四庫提要、六十八〕。

【張皓】115チヤウカウ 後漢、武陽の人。字は叔明。良の六世の孫。官は司空。〔後漢書、八十六〕。

【張綱】116チヤウカウ ❶後漢の人。皓の子。字は文紀。經學に通曉。諫官。漢安の初、風俗を徇行せよと命ぜられた時、行くことを肯んぜず、其の車輪を洛陽都亭に埋め、豺狼道に當る、安んぞ狐狸を問はんとて、大將軍梁冀・河南尹不疑等の姦惡十五事を劾奏す。廣陵太守となり、廣陵の賊、張嬰を喩し降す。〔後漢書、八十六〕。❷宋、丹陽の人。字は彥正。號は華陽老人。諡は文定。官は吏部侍郎・參知政事。文に巧。著に華陽集がある。〔宋史、三百九十〕・〔宋史新編、一百四十二〕・〔南宋書、二十三〕・〔京口耆舊傳、七〕・〔宋大臣年表、二十三〕。

【張綱埋輪】117チヤウカウマイリン 蒙求の標題。後漢の張綱が命を奉じて風俗を徇行するに當り、車輪を洛陽都亭に埋め、豺狼道に當る、安んぞ狐狸を問はんといつた故事。〔後漢書、張綱傳〕漢安元年、選遣三八使徇二行風俗一、皆耆儒知名、多歷二顯位一、唯綱年少、官次最微、餘人受レ命之レ部、而綱獨埋二其車輪於洛陽都亭一曰、豺狼當レ路、安問二狐狸一。

【張誥】118チヤウカウ 清、平湖の人。字は士周。號は耜洲。著に耜洲詩鈔がある。

【張[illegible]】119チヤウカウ 張煒（15）を見よ。

【張衡】120チヤウカウ ❶後漢、西鄂の人。字は平子。少くして文を善くし、五經に通じ、六藝に淹貫す。構思十年、二京賦を作る。天文曆算に精しく、渾天儀及び候風地動儀を造る。官は安帝の時、太史令、後、尙書。著に靈憲算罔論・周易訓詁及び遺文數十篇がある。〔後漢書、八十九〕。❷隋、河內の人。字は建平。諡は忠。官は御史大夫。後、怨望に坐し、死を賜はる。〔隋書、五十六〕・〔北史、七十四〕。❸元、樂陵の人。字は士衡（士衡）。少くして才學を以て名があり、書畫に巧。〔書史會要〕。

【張鎬】121チヤウカウ 唐、博州の人。字は從周。官は代宗の時、江南西道觀察使。封は平原郡公。布衣から起つて、二度、宰相に至る。〔唐書、一百三十九〕・〔舊唐書、一百十二〕。

【張敖】122チヤウガウ 漢の人、耳の子。嗣いで趙王となる。後、宣平侯に封ぜらる。〔史記、八十九〕・〔漢書、三十二〕。

【張角】123チヤウカク 後漢、鉅鹿の人。黃老の道を奉じ、五斗米道を行ひ、符水咒說を以て病を療し、太平道と號し、大賢良師と自稱す。弟子數十萬。靈帝の時、亂をなし、自ら黃天と稱す。其の部衆が皆黃巾を著けてゐたので、時人は之を黃巾の賊といふ。皇甫嵩に討平せられた。〔後漢書、一百一〕。

【張玨】124チヤウカク 宋、鳳州の人。字は君玉。四川虓將と稱せらる。官は重慶府知。元兵が來攻した時、萬戶鐵木兒に執へられ、經死す。〔宋史、四百五十一〕・〔宋史新編、一百七十四〕・〔南宋書、六十〕・〔昭忠錄〕・〔宋季忠義錄、八〕。

【張格】125チヤウカク 前蜀の人。濬の子。字は義師。朱全忠が唐を簒はんと謀り、盜をやつて濬を殺したので、格は蜀に奔り、官、中書侍郎同平章事に至る。〔十國春秋〕。

【張愨】126チヤウカク 宋、樂壽の人。字は誠伯。諡は忠穆。元祐の進士。官は建炎の初、戶部尙書左丞、後、中書侍郎。〔宋史、三百六十三〕・〔宋史新編、一百二十八〕・〔南宋書、十九〕・〔京口耆舊傳、六〕・〔宋大臣年表、十九・二十〕。

【張赫】127チヤウカク 明、臨淮の人。諡は莊簡。官は後軍都督僉事。封は洪武の時、航海侯。〔明史、一百三十〕・〔萬斯同明史、一百六十六〕・〔明史稿、一百十九〕。

【張閣】128チヤウカク 宋、河陽の人。字は臺卿。進士。官は兵部尙書。〔宋史、三百五十三〕・〔宋史新編、一百十八〕・〔北宋經撫年表、八十三〕。

【張確】129チヤウカク 宋、宜祿の人。字は子固。元祐の進士。官は隆德の知府。金兵と戰つて死す。〔宋史、四百四十六〕・〔宋史新編、一百七十二〕・〔東都事略、一百十一〕。

【張翮】130チヤウカク 明、長洲の人。字は鳳儀。畫に巧。

【張覺】131チヤウカク 宋、義豐の人。遼の進士。興軍節度副使。金の臨海軍節度使となる。徽宗の時、內附し、金人に襲はれ、宋に奔り、後、王安中に殺された。〔宋史、四百七十二〕・〔宋史新編、一百八十六〕・〔金史、一百三十三〕。

【張鷽】132チヤウカク 宋、福州の人。字は柔直。進士。蔡京の子弟の師となる。官は祕閣修撰。〔宋史、三百七十九〕・〔宋史新編、一百三十七〕・〔南宋書、二十八〕。

【張鶴】133チヤウカク 清、瑞安の人。字は芝田。鶴田。

又、靜薌。號は玉清宮道人。歲貢生。詩に巧。書畫を善くす。著に琴學入門がある。

【張岳】134チャウガク ❶明、惠安の人。字は維喬。號は淨峯。諡は襄惠。正德の進士。幼より學を好み、大儒を以て自ら期す。陳琛・林希元と倶に戸を閉ぢて讀書し、出でては市中を徒走し、泉州の三狂と稱せられた。其の學は程朱を宗とし、陽明の良知を攻擊す。官は右都御史。著に小山類稿がある。〔明史、二百〕・〔萬斯同明史、二百九十二〕・〔明史稿、一百八十六〕・〔明詩綜、三十六〕・〔明儒學案、五十二〕。❷明、餘姚の人。字は汝宗。嘉靖の進士。官は刑部右侍郎。〔明史、二百二十七〕・〔萬斯同明史、三百二十五〕・〔明史稿、二百十三〕。

【張樂】135チャウガク 樂器をつらねる。管弦樂を奏する意。〔司馬相如、上林賦〕張二樂乎膠葛之寓一。〔謝朓、新亭渚別二范零陵一詩〕洞庭張レ樂地。〔注〕善曰、帝張二咸池之樂於洞庭之野一。

【張諤】136チャウガク 宋、新安の人。字は昌言。初、南唐に仕へ、後、宋に歸す。官は荊湖江浙等の道の制置茶鹽副使。書室を允中亭といふ。〔宋史、三百一〕・〔宋史新編、九十四〕・〔京口耆舊傳、六〕・〔北宋經撫年表、一百二十四〕。

【張洽】137チャウカフ 宋、清江の人。字は元德。諡は文憲。朱熹の弟子。嘉定の進士。官は端平の初、直祕閣。若い時から力を敬に用ひ、主一を以て齋に名づく。著に春秋集注集傳・左氏蒙求・續通鑑長編事略・歷代地理沿革表、及び文集がある。〔宋史、四百三十〕・〔宋史新編、一百六十二〕・〔南宋書、四十四〕・〔宋元學案、五十・六十九〕。

【張郃】138チャウカフ 三國、魏の鄭の人。字は儁乂。諡は壯。初、袁紹に從ひ、後、魏に歸す。官は左將軍。封は都鄕侯。諸葛亮と木門に戰つて死す。〔三國志、十七〕。

【張合】139チャウガフ 明の人。含の弟。字は懋觀。書畫に巧。性、學を嗜む。嘉靖の進士。官は湖廣副使。疾を以て歸る。時に朝廷が夷田を清査せんとしたので、人心洶洶。合が五千言を上書するに及んで、遂に其の事は中止せられた。〔國朝獻徵錄、八十八〕。

【張侃】140チャウカン 宋の人。巖の子。字は直夫。號は拙軒。官は上虞丞。著に拙軒集がある。〔宋史、二百七十〕。

【張邯】141チャウカン 漢、九江の人。詩を穎川の滿昌に學んだ。〔前漢書、八十八〕。

【張咸】142チャウカン 宋、綿竹の人。元豐の進士。官は成都節度判官。六藝百家歷代の文史に精通す。〔宋史、三百六十一〕。

【張堪】143チャウカン 後漢、宛の人。字は君游。少くして聖童と稱せらる。官は漁陽の太守。〔後漢書、六十一〕。

〖張堪折轅〗144チャウカンセツエン 蒙求の標題。後漢の張堪は蜀に在任中、仁惠を施し、又、姦賊を討つて治績をあげたが職を去るの日、折轅車に乘つたといふ故事。〔漢書、張堪傳〕蜀郡計掾樊顯進曰、漁陽太守張堪、昔在レ蜀、其仁以惠レ下、威能討レ姦、前公孫述破時、珍寶山積、捲握之物、足レ富二十世一、而堪去レ職之日、乘二折轅車一、布被囊而已。

【張甝】145チャウカン 晉、敦煌の人。鄕人、氾衷・索靖・索紾・索永と倶に太學に詣つて名聲があり、敦煌の五龍と號す。五龍(1－257‥1096)の❷㊇を見よ。〔晉書、六十〕。

【張漢】146チャウカン 清、石屛の人。字は月槎。康熙の進士。乾隆中、鴻博に擧げられ、檢討を授けられ、後、御史となつて廉直の名が高かつた。著に月槎集がある。〔鶴徵後錄、二〕。

【張翰】147チャウカン ❶晉、吳郡の人。字は季鷹。文を能くし、江東の步兵と號せられた。齊王冏に仕へ、官は東曹掾。秋風に遭つて吳中の菰菜・蓴羹・鱸魚膾を思ひ、遂に官を辭し、駕を命じて歸る。性、至孝。〔晉書、九十二〕。❷金、秀容の人。字は林卿。諡は達義。大定の進士。官は戸部尚書。〔金史、一百五〕。

〖張翰適意〗148チャウカンテキイ 蒙求の標題。晉の張翰は吳の人。洛に入つて東曹掾となる。秋風の起るを見、吳中の菰菜・蓴羹・鱸魚膾を思ひて、人生は意に適ふを貴ぶ、何ぞ官に數千里に羈せられて、名爵を要めんやといひ、駕を命じて歸つた故事。〔晉書、文苑、張翰傳〕張翰、字季鷹、吳郡吳人也、云云、齊王冏辟爲二大司馬東曹掾一、云云、翰因レ見二秋風起一、乃思二吳中菰菜・蓴羹・鱸魚膾一、曰、人生貴レ得レ適レ志、何能羈二宦數千里一、以要二名爵一乎、遂命レ駕而歸。

【張誠】149チャウカン 清、平湖の人。字は希和。號は熙和・五嶽山人。乾隆の擧人。書室を嬰山小園といひ、著に嬰山小園詩文集・梅花詩話・峩眉山小志がある。

【張簡】150チャウカン 明、吳縣の人。字は仲簡。號は雲丘道人、又、白羊山樵。洪武中、元史を編修す。詩・書・畫に巧。著に雲丘道人集がある。〔明史、二百八十五〕・〔萬斯同明史、三百八十六〕・〔明史稿、二百六十六〕・〔明詩綜、六〕。

【張瀚】151チャウカン 明、仁和の人。字は子文。號は元洲。諡は恭懿。嘉靖の進士。官は右副都御史、後、吏部尚書。張居正の怒に觸れて罷めた。著に奚囊蠹餘・臺省疏稿・明疏議輯略がある。〔明史、二百二十五〕・〔萬斯同明史、三百十二〕・〔明史稿、二百九〕・〔明詩綜、四十二〕。

【張鑑】152チャウカン ❶宋の人。藏英の孫。字は德明。太平興國の進士。監察御史に累遷し獄を江左に決し、頗る冤滯を雪ぐ。官は眞宗の時、工部侍郎。出でて相州の知となり、卒す。〔宋史、二百七十七〕・〔宋史新編、七十九〕・〔北宋經撫年表、一百十八〕。❷明、南充の人。嘉靖の進士。初、會稽知縣を授けられて治績があり、御史に擢んでられ、山西按安使に陞進し、山東を巡撫す。疾によつて歸り、薦起されて糧儲を總督す。官に在ること八年。夙弊が盡く革まつた。卒した時、囊に一金も無かつたといふ。著に皇極經世衍義・賦役法がある。〔明史、一百三十四〕・〔萬斯同明史、三百五〕・〔明史稿、一百三十〕・〔國朝獻徵錄、一百十五〕。❸清、天津の人。嘉慶中、川陝楚の教匪を攻むるに從ひ、勇奮力戰して大いに功をたつ。官は建昌鎭總兵。四川提督に署せられて卒す。〔國朝耆獻類徵、三百十一〕・〔大清畿輔先哲傳、九〕。❹清、烏程の人。字は春治(春沼)。號は秋水・荀鶴・秦餘山人。官は嘉慶中、武義教諭。步算・樂律・音韻・地理・水利の學に通曉す。書室を冬青館・蠅須館といひ、著書凡そ三百卷。刊行したのは冬青館甲乙集だけ。〔續碑傳集、七十三〕。

【張含】153チャウガン 明、永昌衞の人。字は愈光。正德中、鄕試に擧げらる。楊愼と同學。詩に巧。著に禺山文集・禺山詩選・禺山七言律鈔がある。〔萬斯同明史、三百八十七〕・〔明詩綜、三十七〕。

【張巖】154チャウガン 宋、大梁の人。字は肖翁。乾道の進士。韓侂胄に阿附す。官は知樞密院事。江淮の軍馬を督視す。侂胄が誅せられた後、致仕す。〔宋史、三百九十六〕・〔宋史新編、一百四十六〕・〔南宋書、四十九〕・〔慶元黨禁〕・〔宋元學案、九十七〕。

【張圻】155チャウキ 清、崑山の人。字は邑翼。著に學仕要箴がある。〔四庫提要、一百三十三〕。

【張岐】156チャウキ 宋、崇安の人。字は邠卿。端拱の進士。官は大理評事。後、永新縣知。〔萬姓統譜〕。

【張杞】157チャウキ ❶明、黃陂の人。字は迂公。著に和花間詞がある。〔明詞綜、八〕。❷明、湖州の人。字は成夫。萬曆の擧人。官は福清教諭。著に麟經統一篇がある。〔四庫提要、三十〕。

【張玘】158チャウキ 宋、澠池の人。字は伯玉。官は領御營宿衞前軍都統。金人と海州に戰つて死す。〔宋史、四百五十三〕・〔宋史新編、一百三十三〕・〔南宋書、二十七〕。

【張奇】159チャウキ 清、江都の人。字は正甫。畫に巧。兼ねて篆刻に長ず。〔國朝畫識、十〕。

【張季】160チャウキ 張釋之(1166)を見よ。

【張祁】161チャウキ 宋、歷陽の人。字は晉彥。兄、邵が金に使した恩を以て官に補せらる。氣を負ひ義を尙び、詩文に巧。趙鼎・張浚は皆之を器遇す。直祕閣に累遷し、淮南轉運通判と爲り、金人の謀を諜知し、屢〻朝に上報す。粟を貯へ兵を閱し、大いに備を爲したが、論者のために妨げられた。明年、果して敵が大擧來攻した。祁は蕪湖に居を卜し、堂を築いて歸去來といふ。吟詩を好み、晩に禪學を嗜み、總得翁と號す。文集がある。〔宋史新編、一百三十五〕・〔宋元學案、四十一〕。

【張垍】162チャウキ 唐の人。說の次子。寧親公主に尙す。玄宗の寵臣。官は太常卿。安祿山の亂に、賊中に死す。〔唐書、一百二十五〕・〔舊唐書、九十七〕。

【張洎】163チャウキ 宋、全椒の人。字は師黯、又、偕

仁。南唐の進士。官は知制誥。機密に參預す。宋に入つて給事中・參知政事。著に賈氏談錄がある。〔宋史、二百六十七〕・〔宋史新編、七十四・一百七〕・〔東都事略、三十七〕・〔隆平集、六〕・〔宋人軼事彙編、一百二十二〕。

【張紀】164 チヤウキ　明、海鹽の人。字は文正（文止）。畫に巧。〔明畫錄、一〕。

【張軌】165 チヤウキ　❶晉、烏氏の人。字は士彥。謚は武。少くして器望があり、張華が之と經義及び政治の損益を論じ、甚だ之を器とす。官は永寧の初、涼州刺史、後、太尉・涼州牧に至り、西平公に封ぜられた。州に在ること十三年、其の威は西州に著はれ、其の化は河右に行きわたつた。子の茂は涼王に封ぜられ、史家は前涼といふ。〔晉書、八十六〕。❷北周、臨邑の人。字は元軌。謚は質。魏の孝武の時、河北郡守。後、姓を宇文氏と賜はる。官は恭帝の時、隴右府長史。〔周書、三十七〕・〔北史、七十〕。

【張耆】166 チヤウキ　宋、開封の人。字は元弼。謚は榮僖。傳記及び術數の學に通曉す。官は左僕射護國軍節度。封は徐國公。後、太子太師を以て致仕す。〔宋史、二百九十〕・〔宋史新編、八十九〕・〔東都事略、五十〕・〔隆平集、十〕・〔宋人軼事彙編、二百三十四〕。

【張既】167 チヤウキ　三國、魏の高陵の人。字は德容。謚は肅。官は京兆尹。後、雍州刺史。封は西鄉侯。〔三國志、十五〕。

【張淇】168 チヤウキ　宋、鄱陽の人。字は伯大。齊煕と與に朱子讀書法を編す。

【張揆】169 チヤウキ　宋、歷城の人。字は貫之。進士。官は翰林侍讀學士。〔宋史、二百九十四〕・〔宋史新編、九十二〕。

【張琦】170 チヤウキ　❶明、慈谿の人。字は廷珍。天資穎異、書を讀むこと二遍にして終身忘れず、文を作る才に秀でてゐた。海鹽の張寧、餘姚の魏瀚、嘉興の姚綬と倶に才名があり、時人は之を浙江四才子と稱す。天順中、甲第に登り、幾くもなくして卒す。〔尙友錄、八〕。❷明、鄞の人。字は君玉。弘治の進士。官は興化府知。本司左參政に陞進し、致仕して歸る。詩を作るに、力めて陳腐の言を去る。書室を竹里館といひ、著に自齋竹里集がある。〔萬斯同明史、三百八十七〕・〔明詩綜、二十七下〕。❸清、嘉興の人。字は玉可。寫生畫に巧。〔國朝畫識、十三〕。❹清、陽湖の人。初名は翊。字は翰風。號は宛鄰。道光の舉人。官は章丘・館陶等の縣知。輿地の學に精通す。著に戰國策釋地・素問釋義・古詩錄・宛鄰文集がある。〔清史稿、四百八十四〕・〔清史列傳、七十六〕・〔國朝耆獻類徵、二百四十七〕・〔續碑傳集、四十一〕・〔國朝先正事略、五十四〕。

【張貴】171 チヤウキ　宋の人。度宗の時、襄陽が圍まれるや、張順と共に募に應じ、輕舟に乘り、重圍を犯して襄城に到る。援を求めようとして郢に赴き戰死す。〔宋史、四百五十〕・〔宋史新編、一百七十四〕・〔南宋書、六十〕・〔昭忠錄〕・〔宋季忠義錄、四〕。

【張逵】172 チヤウキ　明、餘姚の人。字は懋登。正德の進士。官は嘉靖の時、刑科給事中。闕に伏して大禮を爭ひ、獄に下さる。後、右給事中に進み、郭勛に譏せられた。〔明史、二百六〕・〔萬斯同明史、二百八十〕・〔明史稿、一百九十〕・〔明詩綜、三十七〕。

【張暉】173 チヤウキ　宋、大城の人。五代の唐・晉・漢・周に歷仕す。官は冀州刺史。宋の西川行營先鋒都指揮使。〔宋史、二百七十二〕・〔宋史新編、七十七〕。

【張煇】174 チヤウキ　宋、永嘉の人。字は子充。天資謹飭にして學問を好み、六經史傳より諸子百家の說に及ぶまで、皆通習して辨析す。性、篤孝、喪に居つて哀毀自ら勝へず、日に活氣養心の術に從事す。官は國子學錄。著に草堂語錄がある。學者、草堂先生と稱す。〔宋元學案、三十二〕。

【張撝】175 チヤウキ　明、新會の人。字は彥謙。業を羅蒙正に受く。洪武の初、屢〻薦められたが應ぜず、心を經籍に留む。縣令はために書堂を象山の麓に構へて與へた。其の學は明理を以て要とし、詩文は典雅を務む。晚年、自ら病叟と號し、世人、象山先生と稱す。〔蘭臺法鑒錄、四〕。

【張毅】176 チヤウキ　古の、禮を好んだ人。〔淮南子、人閒訓〕張毅好レ恭。〔注〕張毅、好レ禮之人。

【張翬】177 チヤウキ　明、太倉の人。字は文翥。畫に巧。〔梅花草堂集、三〕・〔明畫錄、三〕。

【張機】178 チヤウキ　❶後漢、棗陽の人。字は仲景。醫を張伯祖に學び、盡く其の傳を得、世人、醫中の亞聖と稱す。官は長沙太守。著に傷寒論（十卷）・金匱玉函要略（三卷）がある。〔尙友錄〕・〔四庫提要、一百三〕。❷明、祁陽の人。孝子。弘治中、旌表さる。〔明史、二百九十六〕。

【張錤】179 チヤウキ　宋、三陽の人。字は深父。官は兩浙轉運幕。〔尙友錄、八〕。

【張徽】180 チヤウキ　❶宋、竟陵の人。司馬光・范純仁と交る。詩を以て名があり、著に滄浪集がある。〔萬姓統譜〕。❷明、秀水の人。字は德卿。正德の進士。官は嘉靖の初、大理評事。大禮の議に旨に忤つて廷杖せられ、尋いで官に復す。後、南雄府の長官。〔明史、一百九十二〕。

【張禧】181 チヤウキ　元、東安の人。益都に徙る。官は鎭國上將軍・都元帥。范文虎等と共に日本遠征の軍に從ひ、會〻颶風に遇ふ。全軍覆滅の中に在つて禧の所部だけが完きを得た。〔元史、一百六十五〕。

【張譏】182 チヤウキ　陳、武城の人。字は直言。孝經・論語に精通す。周弘正の弟子。官は梁の士林館學士、陳の武帝の初、太常丞、後、國子博士。隋に入つて長安に終る。著に周易・尙書・毛詩・孝經・論語・老子・莊子等の義及び玄部通義・游玄桂林等一百數十卷がある。〔陳書、三十三〕・〔南史、七十一〕。

【張麒】183 チヤウキ　明、永城の人。洪武二十年、女を燕世子の妃と爲し、兵馬副指揮を授けられ、京衞指揮使に進む。〔明史、三百〕・〔萬斯同明史、三百九十九〕・〔明史稿、二百八十二〕。

【張夔】185 チヤウキ　宋、海陽の人。字は致堯。政和の進士。官は新州の長官。〔尙友錄、八〕。

【張驥】186 チヤウキ　明、安化の人。字は仲德。永樂の舉人。官は宣德中、監察御史、後、大理寺少卿・浙江巡撫。〔明史、一百七十二〕・〔萬斯同明史、二百二十一〕・〔明史稿、一百五十六〕。

【張義】187 チヤウギ　堡の名。❶宋、置く。甘肅省固原縣の西南。〔讀史方輿紀要、陝西、平涼府、固原州〕張義堡、云云、宋志、張義堡、本名二安邊堡一、熙寧四年、廢入二開遠堡一、五年、改置二張義堡一、仍屬二鎭戎軍一、今爲二張義砦一。❷甘肅省武威縣の東南。

【張儀】188 チヤウギ　❶樓の名。四川省成都縣。〔太平寰宇記〕張儀樓、卽宣明門樓也、重閣複道、跨二陽城門一、故左思賦云、結二陽城之延閣一、飛觀射二於雲中一。❷戰國、魏の人。鬼谷子の弟子。蘇秦と同學。秦の惠王のために、連衡の策を以て六國に遊說し、六國をして蘇秦の縱約に背いて秦に事へさせ、秦は之を武信君と號す。惠王が卒して武王が立つや、羣臣に讒せられ、且、六國が合縱して秦に叛いたので去つて魏に行き、其の相となる。〔史記、七十〕。

〔張儀舌〕189 チヤウギノシタ　張儀が楚に游說し、楚相の璧を失ふに會して疑を蒙り、笞刑を受けて歸つた時、妻が歎じて、游說せずんば、この恥辱無からんと言ふと、我が舌を視よ、尙、在りや否やと言ひ、辯舌によつて、將來立身すべき自信を誇示した故事。〔史記、張儀傳〕張儀者、魏人也、始嘗與二蘇秦一俱事二鬼谷先生一學レ術、蘇秦自以、不レ及二張儀一、張儀已學而游二說諸侯一、嘗從二楚相一飮、已而楚相亡レ璧、門下意二張儀一曰、儀貧無レ行、必此盜二相君之璧一、共執二張儀一、掠笞數百、不レ服、醳レ之、其妻曰、嘻子毋二讀レ書游說一、安得二此辱一乎、張儀謂二其妻一曰、視二吾舌一、尙在不、其妻笑曰、舌在也、儀曰、足矣。〔李白、贈二崔侍郎一詩〕笑吐二張儀舌一、愁爲二莊舃吟一。〔劉兼、自遺詩〕家人莫レ問張儀舌、國士須レ知豫讓心。

【張吉】190 チヤウキツ　❶宋の人。慶州の卒。節に死し、內殿崇班を追贈せられた。〔宋史、四百五十二〕。❷明、餘干の人。字は克修。號は古城。成化の進士。官は貴州左布政使。諸經及び宋儒の書を窮む。象山の學を以て禪學であるとし、陸學訂疑を作つて之を正す。著に古城集がある。〔明史、二百八十六〕・〔萬斯同明史、二百四十五〕・〔國朝獻徵錄、一百二〕・〔明名臣言行錄、三十七〕・〔明詩綜、二十五〕・〔明儒學案、四十六〕。

【張佶】191 チヤウキツ　❶五代、梁の長安の人。孫儒の軍の指揮使。官は永順軍節度使。〔舊五代史、十七〕。

㊁宋の人。もと燕の人。華州渭南に徙居す。字は仲雅。一に張信に作る。官は天禧中、涇原鈐轄。〔宋史、三百八〕・〔宋史新編、八十五〕・〔北宋經撫年表、七十四〕。

【張急】192（チャウキフ） 琴の絃が強く張られていること。轉じて、政令の苛酷な喩。〔韓詩外傳、一〕理㆑國者、譬若㆓乎張㆑琴然。大絃急、則小絃絶矣。〔後漢書、循吏傳贊〕政畏㆓張急㆒、理善㆑烹㆑鮮。

【張歙】193（チャウキフ） ひろげ又ちぢめる。外に去らしめ又内に引きよせる。伸縮。〔莊子、山木〕有㆔一人在㆓其上㆒、則呼張㆓歙之㆒。〔釋文〕張、開也、歙、斂也。〔淮南子、本經訓〕開闔張歙、不㆑失㆓其敍㆒。

【張匡】194（チャウキャウ） 後漢、山陽の人。字は文通。韓詩の章句を作る。有道博士に徵されたが就かなかつた。〔後漢書、一百九下〕。

【張狂】195（チャウキャウ） ㊀大いに狂ふ。狂暴。〔易林、恆之㆑兌〕張狂妄行、竊食盜粮。㊁眼をみはつてきよろきよろする。〔水滸傳、八十二回〕眼目張狂、墜㆓額角㆒、塗㆓一道明戧㆒。㊂chang^{1} k'uang^{2} 傲慢な。橫柄な。

【張鏡】196（チャウキャウ） 南朝宋の人。裕の子。少くして顏延之と鄰居す。延之は高談放論、飲酒喧呼を常としたが、鏡の客と談ずる辭義の清玄なるを聞き、遂に己の行を改めたといふ。〔宋書、四十六〕。

【張弓】197（チャウキュウ） 弓をはる。又、はつた弓。〔儀禮、鄕射禮〕遂命㆓勝者㆒執㆓張弓㆒。〔禮、曲禮上〕張弓尚㆑筋。〔老子、七十七〕天之道、其猶㆑張㆑弓乎。〔韓非子、外儲說左上〕夫工人張㆑弓也、伏㆑檠三旬而蹈㆑弦、一日犯㆑機。

【張巨】198（チャウキョ） 宋、武進の人。胡瑗の門人。蔣之奇・胡宗愈・丁隙と親交があり、四友と稱せられた。官は國子監直講。王安石の新法が行はれて後去る。著に易解、及び文集がある。〔宋元學案、十四〕。

【張渠】199（チャウキョ） 清、武強の人。號は筠谷。雍正の副貢。官は刑部郎中・大通橋監督・湖北巡撫。〔國朝耆獻類徵、一百七十三〕。

【張擧】200（チャウキョ） ㊀三國、呉の人。句章令となる。夫を殺して家に放火し、夫が自ら火に死んだと詐稱する妻があり、夫の家人が之を訴へた。擧は因つて死んでゐる豬と生きてゐる豬とを火中に入れて焼いたところ、死んでゐた豬の口中には灰がなく、生きてゐた豬の口中には灰があつた。其の夫の口中には灰が無かつたので、其の妻を責め正し、白狀せしめたといふ。〔尚友錄、八〕。㊁宋、常州の人。字は子厚。元祐の進士。讀書四十年、手校數萬卷に至る。范祖禹・蘇軾等が其の高行を推薦したので、校書郎に拜する詔があつたが、竟に出仕しなかつた。謚を正素先生と賜はる。〔宋史、四百五十八〕・〔宋史新編、一百七十八〕。㊂明、欒城の人。成化の進士。官は戶部主事。京倉及び宣武門の稅を監し、大いに清操を著はす。岳州府の長官に遷り、民に便ならざる者十餘事を罷む。御史行部が意に望む所有り、主簿を撻つて死に至らしめた事件を憤り、劾文を草したが、憤にたへず、筆を投じて卒す。〔萬斯同明史、二百六十一〕・〔國朝獻徵錄、八十九〕。

【張御】201（チャウギョ） 帷帳の設備。〔漢書、黥布傳〕張御・食飲・從官、如㆓漢王居㆒。〔注〕師古曰、已而美㆓其帷帳㆒、厚㆓其飲食㆒云云、張、若㆔今言㆓張設㆒。

【張敔】202（チャウギョ） ㊀明、合肥の人。字は伯起。永樂中、貢せられて太學に入る。官は陝西按察使僉事。著に京氏易考がある。〔蘭臺法鑒錄、三〕。㊁明、饒州の人。官は禮部員外郎。律曆に詳しい。著に雅樂發微がある。〔四庫提要、三十九〕。㊂清、桐城の人。江寧に遷る。字は芷園（芷沅・茝園）。號は雪鴻、又、木者・虎臣・止止道人。乾隆の擧人。官は湖北知縣。畫・詩に巧。眞・草・篆・隸・飛白書に精通す。〔國朝耆獻類徵、二百四十一〕。

【張恭】203（チャウキョウ） ㊀三國、魏の燉煌の人。爵は關內侯。官は戊己校尉。〔三國志、十八〕。㊁元、偃師の人。孝子。〔元史、一百九十七〕。

【張凝】204（チャウギョウ） 宋、無棣の人。官は殿前都虞侯。清廉の士。〔宋史、二百七十九〕・〔宋史新編、八十・一百五〕・〔隆平集、十八〕。

【張旭】205（チャウキョク） ㊀唐、呉の人。字は伯高。草書に巧。酒を嗜み、奇矯の行が多く、頭髮に墨を含ませて書す、世に張顚といふ。又、草聖といはれた。官は常熟尉。文宗の時、李白の歌詩、裴旻の劍舞、張旭の草書を三絕といふ。〔唐書、二百二〕。㊁明、休寧の人。字は廷曙。成化の擧人。孝豐・伊陽・高明の知縣に歷官す。詩は集句に長ず。著に梅巖小稿がある。〔明詞綜、二〕。

【張旭草聖】206（チャウキョクサウセイ） 唐の張旭が草書に巧であつたからいふ。〔唐史〕張旭草書入㆓神品㆒。〔杜甫、飲中八仙歌〕張旭三杯草聖傳。〔韓愈、送㆓高閑上人㆒序〕往時張旭善㆓草書㆒、不㆑治㆓他伎㆒。

【張玉】207（チャウギョク） ㊀宋、保定の人。字は寶臣。狄青の麾下。善く鐵簡を用ひたので、軍中、張鐵簡と號す。儂智高を征して功があり、官は副都總官。河北に三十七將を置くや、玉を第一とす。〔宋史、二百九十〕・〔宋史新編、八十九〕。㊁明、祥符の人。字は世美。謚は忠武。官は元の樞密知院。明に入つて都指揮僉事。建文の初、東昌を攻めて戰死す。封は河閒王。〔明史、一百四十五〕・〔萬斯同明史、一百八十九〕・〔明史稿、一百三十四〕・〔國朝獻徵錄、五〕。㊂清、呉縣の人。字は子美。汪鏞繼の妻。行書・楷書に巧。擘窠書を善くす。〔清畫家詩史、癸、下〕・〔國朝書畫家筆錄、四〕。㊃清、安鄉の人。字は非石。號は慥堂。康熙の恩貢。母に事へて孝。日常、理學に專心し、孝廉方正に擧げられたが辭して就かず。著に慥堂集がある。〔國朝耆獻類徵、四百二〕。

【張嶷】208（チャウギョク） 三國、蜀の充國の人。字は伯岐。官は盪寇將軍。魏將と戰つて死す。〔三國志、四十三〕。

【張均】209（チャウキン） ㊀唐の人。說の長子。官は天寶の時、刑部尚書。安祿山の僞命を受け中書令となる。肅宗の立つや合浦に謫遷せられた。詩集がある。〔唐書、一百二十五〕・〔舊唐書、九十七〕。㊁元、濟南の人。武功があり、位は鎭國上將軍。〔元史、一百六十六〕。

【張忻】210（チャウキン） 清、掖縣の人。明の天啓の進士。官は刑部尚書。李自成が京師を陷れるや、忻は賊に從ひ、順治中、兵部右侍郎を授けられ、天津に巡撫す。後、事に坐して降され、病を以て致仕す。〔清史列傳、七十九〕。

【張芹】211（チャウキン） 明、峽江の人。字は文林。弘治の進士。官は浙江右布政使。繼母に仕へて至孝。著に備邊錄がある。〔明史、二百八〕・〔萬斯同明史、二百五十七〕・〔明史稿、一百九十二〕・〔國朝獻徵錄、八十三〕。

【張近】212（チャウキン） 宋、開封の人。字は幾仲。官は大理正顯謨閣待制直學士、後、太原府の長官。〔宋史、三百五十三〕・〔宋史新編、一百十九〕・〔北宋經撫年表、四十一・五十四〕。

【張金】213（チャウキン） 明、呉江の人。字は德純。字を以て行はる。梅里に隱居す。畫に巧。〔明畫錄、五〕。

【張欽】214（チャウキン） ㊀明、順天通州の人。字は敬之。號は心齋。正德の進士。官は工部左侍郎。〔明史、一百八十八〕・〔萬斯同明史、二百五十九〕・〔明史稿、一百七十四〕。㊁明、祥符の人。字は士敬。號は震齋。官は都司。畫に巧。〔明畫錄、三〕。

【張琴】215（チャウキン） 琴の絃をはる。〔韓詩外傳、一〕治㆑國者、譬若㆓乎張㆑琴然。

【張鈞】216（チャウキン） ㊀後漢、中山の人。官は靈帝の時、郎中。張讓等に陷られて獄死す。〔後漢書、一百八〕。㊁宋、江源の人。字は子和。少くして名行があり、一時の名流、相從つて益を請ふ。光宗の初めに、布衣を以て上書し、國家の大恥・列聖の深仇を論じた。官は祕書丞兼兵部郎。〔南宋館閣續錄、七〕・〔宋元學案、七十二〕。㊂明、石州の人。孝子。嘉靖の閒、父が亂賊に殺された時、鈞は之を救はうとしたが及ばず、悲痛して死す。〔明史、二百九十七〕。㊃清、歙の人。字は右衡、又、鏡潭・石甫。性、淳樸。陳倉・石鼓・禹穴・嶧山の諸碑を購ひ、日夕研究し、遂に兼ねて製印に巧なるを得、刀法蒼勁にして古雅。著に鏡潭印賞がある。〔飛鴻堂印人傳、三〕。

【張嶔】217（チャウキン） 清、泰州の人。初名は崟。字は石樓。知州を授けられたが仕へず。畫に巧。〔國朝書識、十〕。

【張錦】218（チャウキン） 明、岷州の人。字は尚絅。成化の進士。官は弘治の初、刑部左侍郎。〔明史、一百七十四〕・〔萬斯同明史、二百四十四〕・〔國朝獻徵錄、四十六〕。

【張崟】219（チャウギン） ㊀清、丹徒の人。字は寶巖（寶厓・賓巖）。號は夕菴、又、且翁・觀白居士。晩年、城

東蟄叟と號す。書畫に巧。書室を逃禪閣といひ、著に逃禪閣詩集及び雜文がある。〔續碑傳集、八十四〕。㊁張欽(217)を見よ。

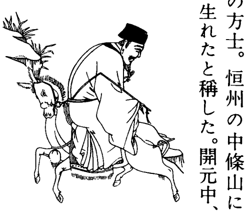
【張煦】220 チヤウク　宋、開封の人。字は輔陽。官は天禧の間、磁州の長官。術數に明通し、相宅を善くす。〔宋史、三百八〕・〔宋史新編、八十五〕。

【張詡】221 チヤウク　明、南海の人。字は廷實。號は東所。成化の進士。陳獻章の弟子。其の學は自然を宗とす。官は正德中、南京通政司左參議。著に白沙遺言纂要・東所文集・南海雜詠がある。〔明史、二百八十三〕・〔萬斯同明史、二百八十四〕・〔明史稿、二百六十五〕・〔國朝獻徵錄、六十七〕・〔明名臣言行錄、三十九〕・〔明儒學案、六〕。

【張榘】222 チヤウク　宋、潤州の人。字は方叔。著に芸牕詞がある。〔四庫提要、二百〕。

【張遇】223 チヤウグウ　五代、唐の墨工、李廷珪の製作した墨の名。其の面に龍文があり、眉を畫くに用ひた。〔澠水燕談錄〕李廷珪張遇墨、著二名當世一、其面多二龍文一、宮中以レ畫レ眉。

【張果】224 チヤウクワ　唐の方士。恒州の中條山に隱居し、自ら堯の時に生れたと稱した。開元中、使を遣して京に迎へ、銀青光祿大夫を賜ひ、通玄先生と號す。玄宗はために棲霞觀を建てて與ふ。世、傳へて八仙の一となし、或は張果老と稱す。〔唐書、二百四〕・〔舊唐書、一百九十一〕・〔太平廣記〕。



張果老(三才圖會)

【張華】225 チヤウクワ　㊀晉、方城の人。字は茂先。博學で讖緯方技の書に至るまで詳覽せざる無く、時人、子產に比す。嘗て鷦鷯賦を著はすや、阮籍が嘆じて王佐の才ありといふ。晉の儀禮・憲章、及び詔誥は、多く其の草定に係る。武帝の時、中書令となり、吳を伐つて功があり、度支尚書となり、廣武侯に封ぜらる。官は惠帝の時、太子少傳・右光祿大夫に至る。趙王倫に殺さる。卒年六十九。性、人物を好み、後進を誘進し、人に善あれば推稱して措かず。死するの日、家に餘財なく、唯文史のみ篋に溢るといふ。著に博物志がある。〔晉書、三十六〕。㊁清、杭州の人。字は秋谷。號は西冷徒釣。乾隆の畫家。中年、我が國に渡り、畫名甚だ著はる。〔國朝耆獻類徵、三百七十二〕。

【張華台坼】226 チヤウクワダイタク　蒙求の標題。華の少子韙が、中台星が坼けたので位を遜らんことを華に勸めたが、華從はず、德を修めて應ぜんといつた。後、趙王倫・孫秀のために害せらる。〔晉書、張華傳〕華第舍及監省、數有二妖怪一、少子韙以二中台星坼一、勸レ華遜レ位、華不レ從曰、天道玄遠、惟修レ德以應レ之耳、不レ如靜以待レ之、以俟二天命一、及三倫秀將レ廢二賈后一、秀使三司馬雅夜告レ華曰、今社稷將レ危、趙王欲下與レ公共匡二朝廷一、爲中霸者之事上、華知三秀等必成二簒奪一、乃距レ之、雅怒曰、刃將レ加レ頭而吐レ言如レ此、不レ顧而出、華方晝臥、忽夢見二屋壞一、覺而惡レ之、是夜難作、詐稱レ詔召レ華、遂與二裴頠一俱被レ收。

【張畫】227 チヤウグワ　清、長洲の人。字は文始。號は研山(硯山)。寫生畫に巧。〔國朝畫識、七〕。

【張璝】228 チヤウクワイ　明、番禺の人。字は德潤。天順の進士。撫州・潯州・潼州の諸府の守に歷任。〔皇明名臣琬琰錄、后、二十〕。

【張懷】229 チヤウクワイ　明、餘姚の人。字は德珍。正德の進士。官は禮部主事。大禮を議して廷杖を受く。〔明史、一百九十一〕・〔國朝獻徵錄、九十九〕。

【張瓌】230 チヤウクワイ　㊀南齊の人。永の子。字は祖逸。官は劉宋の順帝の時、輔國將軍。齊に入つて光祿大夫。封は平都侯。〔南齊書、二十四〕。㊁宋の人。洎の孫。字は唐公。官は淮南轉運使。敢言の士。〔宋史、三百三十〕・〔宋史新編、一百八〕・〔東都事略、三十七〕・〔北宋經撫年表、九十四〕。

【張光】231 チヤウクワウ　晉、鍾武の人。字は景武。身長八尺、眉目は明かに聲音は美。劉弘、之を南楚の秀と稱す。官は材官將軍・梁州刺史。賊に圍まれて憤激し、疾を發して死す。〔晉書、五十七〕。

【張宏】232 チヤウクワウ　㊀大荒にある國の名。又、其の國人。手が長い。長肱。〔山海經、大荒南經〕有レ人、名曰二張宏一、在二海上一、捕二魚海中一、有二張宏之國一、食レ魚、使二四鳥一、有レ人焉、鳥喙有レ翼、方捕二魚於海一。㊁明、碭山の人。字は君度。號は鶴澗。天性孝友。己を律するに廉潔。官は荊州府の長官。門に私謁を絶ち、世人、閉門張と號す。〔國朝獻徵錄、一百十七〕。

【張皇】233 チヤウクワウ　㊀擴張して宏大にする。又、擴大する。皇は大。〔書、康王之誥〕張二皇六師一、無レ壞二我高祖寡命一。〔蔡傳〕皇、大也。〔韓愈、進學解〕補二苴罅漏一、張二皇幽眇一。〔柳宗元、三良詩〕霸基弊不レ振、晉楚更張皇。〔朱熹、拜二張魏公墓下一詩〕士心既豫附、國威亦張皇。㊁あわてる。張惶。慌張。〔福惠全書、刑名部、賊盜上、失事〕自不二敢張皇妄報一。

【張紘】234 チヤウクワウ　三國、吳の廣陵の人。字は子綱。張昭と共に孫策の參謀となる。官は會稽東部都尉。〔三國志、五十三〕・〔英雄記鈔〕。

【張惶】235 chang^1 huang^2　あわてる。狼狽する。

【張廣】236 チヤウクワウ　明、無錫の人。字は秋江。畫に巧。嘉靖中、內廷に待詔す。〔無錫志〕。

【張擴】237 チヤウクワク　㊀宋、德興の人。字は彥實、又、子微。崇寧の進士。官は祕書省校書郎。南渡の後、中書舍人を歷、左史に擢んでられ、外制を掌る。初、秦檜に因りて進むを得、曾慥・朱翌・呂本中の輩と交る。文才があり、著に東窗集がある。〔四庫提要、一百五十六〕。㊁宋、歙の人。字は子允。醫に精し。蜀人、王朴善に從學す。〔歙縣志〕。

【張官】238 チヤウクワン　官を設ける。〔後漢書、桓譚傳〕因上疏、陳二時政所一レ宜曰、夫張レ官置レ吏、以理二萬人一、縣レ賞設レ罰、以別二善惡一。〔白虎通、封公侯〕張レ官設レ府。

【張奐】239 チヤウクワン　後漢、酒泉の人。字は然明。賢良對策第一に擧げられ、後、恩德を以て匈奴を撫寧す。官は護匈奴中郎將。王寓に陷られ、田里に放歸され、光和中、卒す。〔後漢書、九十五〕。

【張桓】240 チヤウクワン　元、藁城の人。字は彥威。謚は忠潔。官は監察御史。退官後、賊に捕へられ、帥と爲らんことを請はれたが肯ぜず、刺殺せられた。〔元史、一百九十四〕。

【張煥】241 チヤウクワン　明、長洲の人。字は揚華、又、茂實。號は新槐。嘉靖の進士。官は南京太僕寺卿。倭寇が兩浙を犯すや、平倭十三策を上る。官は督理南京倉儲・右副都御史。著に平倭四疏・華陽漫稿がある。〔皇明開國功臣錄、二十七〕。

【張關】242 チヤウクワン　山名。四川省江北縣の北。山上に天池・巖峯の二洞がある。元末、張坤氏が石寨を建てた。

【張瓘】243 チヤウクワン　五代、漢の同州の人。承業の從子。官は晉の天福中、密州刺史。〔舊五代史、一百六〕。

【張觀】244 チヤウクワン　㊀宋、毘陵の人。字は仲賓。南唐の進士。官は宋の廣南西路轉運使。〔宋史、二百七十六〕・〔宋史新編、七十九〕。㊁宋、絳縣の人。字は思正。謚は文孝。官は仁宗の時、觀文殿學士・知許州。〔宋史、二百九十二〕・〔宋史新編、九十〕・〔東都事略、五十五〕・〔隆平集、十〕・〔宋大臣年表、八・九〕。

【張飌】245 チヤウクワン　張風(650)を見よ。

【張勳】246 チヤウクン　㊀宋、洛陽の人。五代の晉・周に歷仕し、宋の彬州刺史となる。性、殘忍。時人が張且斬と呼んだ。〔宋史、二百七十一〕・〔宋史新編、七十六〕。㊁民國、江西省奉新縣の人。字は少軒。前清時代の廣西提督蘇元春の下から身を起し、第一及第二革命に際し夫々江南提督・江蘇都督となつたが共に失敗。袁世凱の帝政を翼贊して一等公に封ぜられ、徐州の要衝に據つて中部支那の一大勢力を形成し、宗社黨の巨頭となる。清の宣統帝の復辟を劃策したが段祺瑞に破られ、爾來、天津に隱棲す。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【張奎】247 チヤウケイ　宋、臨濮の人。字は仲野。進士。官は河東都轉運使・知河南府。〔宋史、三百二十四〕・〔宋史新編、一百四〕・〔名臣碑傳琬琰集、中、十〕・〔琬琰集刪存、二〕・〔宋人軼事彙編、三百八十九〕。

【張挂】248 チヤウケイ　張りかける。〔淸會典事例、禮部、貢擧〕張二挂黃榜於長安左門外一。

【張迥】249 チヤウケイ　唐の人。五色の雲が天から下つたのを取つて呑んだ夢を見、遂に雅道に精通す。〔全唐詩、二十七〕。

【張涇】250 チヤウケイ　張經(255)の㊀を見よ。

【張珪】251 チヤウケイ　㊀宋、衢州の人。七世同居す。眞宗

の時、旌表せられ、租調を寛にせられた。〔宋史、四百五十六〕・〔宋史新編、一百七十六〕。㊁元の人。弘範の子。字は公端。號は澹庵。鄧光薦の弟子。官は翰林學士承旨。封は蔡國公。〔元史、一百七十五〕・〔宋元學案、八十八〕。

【張惠】252 チャウケイ 元、新繁の人。字は廷傑。世祖の初、燕京宣慰副使を授けられ、伯顏が宋を伐つた時、饋餉を主る。官は平章政事。〔元史、一百六十七〕。

【張景】253 チャウケイ ㊀宋、公安の人。字は晦之。柳開に從學す。官は房參二州文學參軍。著に洪範王霸論數十篇がある。〔宋史翼、二十六〕。㊁清、常熟の人。字は仲若。號は雨田。馬元敍に從學す。畫に巧。

【張暌】254 チャウケイ 隋の人。羨の子。字は士鴻。官は初、周の膳部大夫、後、隋の冀州刺史。爵を侯に進められた。〔隋書、四十六〕・〔北史、七十五〕。

【張經】255 チャウケイ ㊀宋、姑蘇の人。經は一に涇に作る。畫に巧。〔圖畫見聞志〕・〔畫繼〕。㊁明、侯官の人。字は廷彝。謚は襄敏。正德の進士。官は右都御史。倭寇を討つ。著に半洲稿がある。〔明史、二百五〕・〔萬斯同明史、二百九十五〕・〔明史稿、一百八十八〕。㊂明、瀋陽中衞の人。字は天敍。正德の進士。新樂知縣を授けられ、監察御史に擢んでられた。鎭守太監丁喜の貪肆の罪を劾し、喜に訐かれて河內縣典史に謫せられ、憂憤して途に卒す。〔明史、一百八十八〕・〔萬斯同明史、二百五十七〕・〔明史稿、一百七十三〕。㊃清、當塗の人。字は我絲。山水畫に巧。〔大清畿輔先哲傳、二十九〕。

【張瓊】256 チャウケイ ㊀北齊、代の人。字は連德。爾朱榮の都督。後、神武に歸す。官は夏州の鎭。後、周の文帝に陷れられて卒す。〔北齊書、二十〕・〔北史、五十三〕。㊁宋、館陶の人。太祖の帳下に隷屬す。官は殿前都虞侯。性、兇暴。史珪・石漢卿の譖に遇ひ、死を賜はる。〔宋史、二百五十九〕・〔宋史新編、七十〕。

【張繼】257 チャウケイ ㊀唐、兗州の人。字は懿孫。天寶の進士。官は大曆の末、檢校戶部員外郎。其の作、楓橋夜泊の詩は人口に噲炙す。詩集一卷がある。〔唐才子傳、三〕。㊁民國、河北省滄縣の人。字は溥泉。我が國の弘文書院及び日本大學に學ぶ。次いで佛國に赴き革命思想の宣揚に努む。第一革命の際、歸國して參議院議員として北京政界に活躍す。爾來、孫文を輔けて活躍したが、孫文の死後、共產黨排除、國民黨の改組を主張して左派と對抗す。武漢・南京兩派合體後、國民政府委員、同司法院副院長に擧げられ、後國民政府立法院長に至る。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【張鯨】258 チャウゲイ 明、新城の人。東廠を掌り、威福を恣にし、萬曆中、御史何出光等に彈劾せられた。〔明史、三百五〕。

【張教】259 チャウケウ 教育を盛にする。〔孫復、答㆓張洞㆒書〕司㆔以張㆓其教㆒。

【張喬】260 チャウケウ ㊀漢の人。順帝の時、日南・象林・徼外の蠻酋區林等數千人が叛し、州郡が之を討つて破り得なかつたが、喬が交州刺史となり、單車、州に至ると、寇は自らやんだ。〔後漢書、一百十六〕。㊁唐、池州の人。咸通の進士。黃巢の亂に、罷めて九華山に隱る。詩に巧。〔唐詩紀事、七十〕・〔全唐詩、二十三〕。

【張嶠】261 チャウケウ 宋、崇安の人。字は景山。五代の亂に武夷山に隱れ、江南が平定した後、宋に歸す。官は御史中丞。〔尙友錄、八〕。

【張橋】262 チャウケウ 明、雲南府の人。字は衡如。嘉靖の進士。官は寧夏兵備僉書。

【張翹】263 チャウケウ 宋、沅陵の人。神宗の時、章惇が湖北を經略するや、上書して南北江の利害をいふ。晚年、山中に居り、文史を以て自ら娛しみ、門を閉ぢて出でざること二十年。鄉人は之を高しとした。〔宋史、四百九十三〕。

【張傑】264 チャウケツ 明、鳳翔の人。字は立夫。號は默齋。正統中、鄉薦を領す。官は趙城訓導。講學を以て事と爲し、五經を用ひて教授す。學者、五經先生と稱す。〔明儒學案、七〕。

【張頡】265 チャウケツ 宋、桃源の人。字は仲擧。進士。官は瀛州の長官。後、荊南の長官。〔宋史、三百三十一〕・〔宋史新編、一百十〕・〔北宋經撫年表、四十・一百九・一百二十・一百二十三〕。

【張嵲】266 チャウゲツ 宋、襄陽の人。字は巨山。官は敷文閣待制。詩文に巧。著に紫微集がある。〔宋史、四百四十五〕・〔宋史新編、一百七十一〕・〔南宋書、二十三〕・〔南宋館閣錄、七・八〕。

【張協】267 チャウケフ 晉の人。載の弟。字は景陽。兄の載と名を齊しくす。官は河閒內史。天下が亂れ、盜が所在に起るに及び、人事を棄てて草澤に屛居し、詠詩を以て嗜む。永嘉の初、黃門侍郎に徵されたが就かなかつた。〔晉書、五十五〕。

【張業】268 チャウゲフ 清、餘姚の人。字は維勤。號は味琴（味齋）。諸生。寫生畫に巧。〔墨香居畫識、三〕。

【張肩】269 チャウケン 清、吳江の人。墨竹畫に巧。〔國朝書畫家筆錄、二〕。

【張建】270 チャウケン 金、蒲城の人。字は吉甫。號は蘭泉。官は同知華州防禦使。詩を善くし、詩集がある。〔金史、一百二十六〕。

【張弮】271 チャウケン いしゆみを張る。一說に、拳を振り擧げる。〔漢書、司馬遷傳〕然李陵一呼勞㆑軍、士無㆑不㆘起㆑躬流㆑涕、沫㆑血飲㆑泣、張㆓空弮㆒、冒㆓白刃㆒、北㆑首爭死㆖㆑敵。〔注〕師古曰、弮、音丘權反、云、讀者乃以爲㆓拳弩之拳㆒、大謬矣、拳則屈㆑指、不㆑當㆑言㆑張、陵時矢盡、故張㆓弩之空弓㆒、非㆓是手拳㆒也。

【張拳】272 チャウケン 拳を振り擧げる。張弮を見よ。〔司馬遷、報㆓任少卿㆒書〕然李陵一呼勞㆑軍、士卒無㆚不㆘起㆑躬自流㆑涕、沫㆑血飲㆑泣、更張㆓空拳㆒、冒㆓白刃㆒、北嚮爭㆖㆑死㆑敵者㆙。〔注〕善曰、拳、或作㆑捲、此言㆘兵已盡、但張㆓空拳㆒以擊㆖耳、翰曰、張、擧也。

【張堅】273 チャウケン ㊀仙人の名。〔酉陽雜俎、諸皐記上〕天翁、姓張、名堅、字刺渴、漁陽人、少不霸、無㆑所㆓拘忌㆒、常張㆑羅得㆓一白雀㆒、愛而養㆑之、夢天劉翁責怒、每欲㆑殺㆑之、白雀輒以報㆑堅、堅設㆓諸方㆒待㆑之、終莫㆓能害㆒、天翁遂下觀㆑之、堅盛㆓設賓主㆒、及竊騎㆓天翁車㆒、乘㆓白龍㆒、振㆑策登㆑天、天翁乘㆓餘龍㆒、追㆑之不㆑及、堅既到㆓玄宮㆒、易㆓百官㆒、杜㆓塞北門㆒、封㆓白雀㆒爲㆓上卿侯㆒、改㆓白雀之胤㆒、不㆑產㆓於下土㆒、劉翁失㆑治、徘㆓徊五獄㆒作㆑災、堅患㆑之、以㆓劉翁㆒爲㆓大山太守㆒、主㆓生死之籍㆒。㊁宋、諸暨の人。字は適道。胡瑗に從つて游び、盡く六經の奧旨に通ず。後、八行を以て官を得、尋いで京秩に改められた。時人、醇儒と稱す。著に易解がある。〔宋元學案、一〕。㊂清、江蘇江寧の人。字は齊元。號は漱石。屢〻試に應じて第せず、江南一秀才歌を作つて憤をもらしたので、時人、因つて江南一秀才と稱す。乾隆の初、朝廷が音律館を開いた時、應召を勸めた者があつたが辭して就かず。傳奇四種を作り、玉燕堂四種曲といふ。

【張塤】274 チャウケン 清、吳縣の人。字は商言。號は瘦銅・石公山人・竹葉菴。乾隆の進士。官は內閣中書。金石書畫題跋を考證して詳贍を極む。著に竹葉菴集がある。〔國朝耆獻類徵、一百四十六〕。

【張煊】275 チャウケン 清、介休の人。明、崇禎の進士。知縣から河南道御史に累官す。順治の初、原官を授けられた。陳名夏の十罪兩不法を劾した時、譚泰が名夏に左袒し、煊の言ふ所は多く事實でないとし、絞死に論ぜられたが、後日、太常寺卿を贈られた。〔清史稿、二百五十〕・〔清史列傳、七十八〕。

【張萱】276 チャウケン ㊀唐、京兆の人。人物畫に巧。嘗つて金井梧桐秋葉黃の句を以て長門怨を畫く。〔全唐文、四百三〕。㊁明、博羅の人。字は孟奇。號は九岳、又、西園。官は萬曆中、平越知府。好學博識、經史百氏に淹通す。書畫に巧。著に彙雅がある。〔明史、二百八十七〕・〔國朝獻徵錄、八十八〕・〔明詩綜、五十三〕。

【張儉】277 チャウケン ㊀後漢、高平の人。字は元節。茂才に擧げられ、官は延熹中、東部督郵。侯覽の不軌を疏劾し、覽の怒によつて黨事を誣ひられ、遁れ去る。後、東萊に至り、黨事解けて還る。獻帝の初、百姓が饑荒した時、財產を傾け竭して之を救ふ。後、徵されて衞尉となる。〔後漢書、九十七〕。㊁唐、新豐の人。字は師約。謚は密。官は檢校代州都督、封は皖城郡公。兄大師は太僕卿、弟延師は左衞大將軍となり、倶に門に戟を立ててゐたので、世に三戟張家と號す。〔唐書、一百十一〕・〔舊唐書、八十三〕。㊂遼、宛平の人。統和の進士。官は太師中書令。韓王に封ぜられた。

〔遼史、八十〕。

【張憲】278チヤウケン ㊀五代、唐の晉陽の人。字は允中。官は莊宗の時、太原尹・北京留守。明宗が洛に入るや、永王存霸と倶に死す。〔五代史、二十八〕・〔舊五代史、六十九〕。㊁宋の人。岳飛の愛將。金人と戰ふ。岳飛が秦檜に誣告せられて罪殺された時、之に坐して死す。〔宋史、三百六十八〕・〔宋史新編、一百三十三〕・〔南宋書、十五〕。㊂元、山陰の人。字は思廉。玉笥山に家し、玉笥生と號す。少くして才を恃んで不羈。晩年、張士誠に招かれて、官は樞密院都事。元の滅亡後、姓名を變じて僧寺に寄食して終る。著に玉笥集がある。〔四庫提要、一百六十八〕。㊃明、德興の人。字は廷式。永樂の進士。官は浙江右布政使、後、兵部尚書。〔明史、一百七十二〕・〔萬斯同明史、二百五十一〕・〔明史稿、一百五十六〕。

【張縣】279チヤウケン 縣名。漢、置く。春秋、晉の張趯邑。一名、渚陽城。河北省任縣の西南。〔漢書、地理志下〕廣平國、縣十六、張。

【張壎】280チヤウケン 清、長洲の人。字は牖如。官は廣西南寧通判。惠政を行つたので、死後、民衆が祠を立て、榜して天下清官第一といふ。〔清史稿、四百八十二〕・〔清史列傳、七十四〕・〔國朝耆獻類徵、二百五十〕・〔碑傳集、九十三〕・〔國朝先正事略、五十〕。

【張謇】281チヤウケン 民國、江蘇省南通縣の人。字は季直。初名は育才。光緒の進士。官は修撰、日清戰爭後、實業界に入り、南通州に紡績その他各種工場を創設し、又、上海及び長江を中心として各種事業に關係し、長江の財權を把握した。下野後は又、子弟の教育、貧民の救濟に盡力した。革命期から再び政事に關係し、實業部總長・農林總長等を歷任。共和黨の領袖。一九二六年歿。後人、張季子九錄・張季直事業歷史を輯す。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【張謙】282チヤウケン ㊀明、慈谿の人。字は子受。嘉靖の進士。討賊の功があつた。官は按察使。鄒守益の弟子。〔明史、二百七十七〕・〔萬斯同明史、三百一〕・〔國朝獻徵錄、七十二〕・〔明詩綜、四十一〕。㊁清、海鹽の人。字は地山。號は雲槎。詩畫に巧。㊂清、常熟の人。字は益士。號は臥雪道人。詩畫に巧。㊃清、武昌の人。字は子吉。康熙の進士。珙縣の長官となり、諸〻の供應を革め、民に勸めて荒地を開墾せしめ、民生を圖る。又、江中の歐・趲二灘を焚鑿し、行旅に便にす。雍正中、貴州巡撫に遷り、未だ至らない中に、道に卒す。〔國朝耆獻類徵初編、一百六十六〕。

【張騫】283チヤウケン 漢、漢中成固の人。もとは商賈。建元中、郎となる。武帝が從來の匈奴和親策を放擲し、當時、匈奴に追はれて伊犂地方に移つてゐた大月氏と同盟し、匈奴を東西から挾擊する策を樹て、匈奴の地を横切つて大月氏に使する者を募つた時、志願して選ばれ、建元二年(B.C.139)頃、從者百餘人と長安を發したが、隴西の長城を離れると忽ち匈奴に捕へられ、單于の幕庭に拉致せられて、留まること十年餘。隙を覗つて脫走。天山山脈の南麓を通つて大宛に至り、更に康居を經て大月氏に到着。併し、此の時、大月氏は更に烏孫に追はれ、嬀水（オクサス河）の許で、大夏を服屬させて定住して居り、土地の肥饒に滿足して、匈奴に復仇する志を失つてゐたから、漢の申込みに應じなかつた。張騫は留まること歲餘、アム河を溯り、崑崙山脈の南麓から羌中（ツアイダム盆地）を經て歸國しようとしたが、再び匈奴に捕へられた。一年餘の後、匈奴の內訌に乘じて逃走。元朔三年(B.C.126)に歸國。大中大夫に任ぜられた。此の行の主目的は達せられなかつたが、張騫の見聞は漢の西域經營に資する所大きく、彼自身も亦、漢のために活躍した。元朔六年(B.C.123)、大將軍衞青の匈奴征伐に從つて功を建て、博望侯に封ぜられ(能く水草の處を知り、軍を利すること多く、廣博瞻望の故に此の名を賜はつたといふ)、翌元狩元年、西域での見聞を基とした想定から、印度への道を開拓する目的を以て、西南夷(今の雲南省)に探檢隊を派遣した。後、伊犂地方に據る烏孫と結んで匈奴を伐つべきことを建策して、中郎將に拜せられ、元鼎元年(B.C.116)、自ら正使となつて、再度西域に使した。烏孫が匈奴の威を憚つて應じないため、目的は達しなかつたが、貿易使節として各國に派遣した彼の部下は、彼の死後、夫々の國の貿易使節を伴つて歸國し、ここに初めて公の東西交通が始まつた。而して、張騫は烏孫から一年餘で歸り、大行に拜せられ、間もなく歿した。時に元鼎三年。〔史記、一百十一〕・〔漢書、六十一〕。

【張元】284チヤウゲン ㊀北周、芮城の人。字は孝始。性、謙謹。孝子。〔周書、四十六〕・〔北史、八十四〕。㊁前蜀、簡州の人。畫に巧。尤も羅漢を善くしたので、時人、張羅漢と呼ぶ。〔圖畫見聞志〕。㊂宋、華州の人。呉昊・姚嗣宗と共に倜儻にして縱横の才があり、後、昊と西夏に奔り、謀主となる。

【張玄】285チヤウゲン ㊀後漢、河陽の人。字は君夏。光武の時、博士となる。少くして嚴氏春秋に習ひ、兼ねて數家の注に通ず。難ずる者があると數家の說を述べて、相手が適切だと思ふ說を擇ばせたので、諸儒は其の多通に服す。〔後漢書、一百九下〕。㊁後漢の人。楷の子。字は處虛。亂世を厭つて仕へず、魯陽山中に隱る。〔後漢書、六十六〕。㊂三國、呉の人。紘の子。字は希祖。范寧は之を稱して呉中の秀となす。〔三國志、五十三〕。

【張言】286ハリゴト 互に爭ふ言葉。張りあつていふ言「葉。

【張弦】287チヤウゲン 樂器や弓に弦を張ること。又、張つた弦。〔蔡琰、胡笳十八拍〕兩拍㆓張弦㆒兮弦欲㆑絕。〔論衡、譴告〕鼓㆑瑟者、誤㆓於張弦㆒。

【張彥】288チヤウゲン 明、嘉定の人。字は伯美。畫に巧。〔蘭臺法鑒錄、六〕。

【張炫】289チヤウゲン 明の人。字は德昭。成化の擧人。官は博羅縣知。著に金石遺音がある。

【張原】290チヤウゲン 明、三原の人。字は士元。正德の進士。官は吏科給事中。直言の士。著に玉坡奏議がある。〔明史、一百九十二〕・〔萬斯同明史、二百七十八〕・〔明史稿、一百八十九〕。

【張鉉】291チヤウゲン 元、陝西の人。字は用鼎。嘗て奉元路學古書院の山長となり、博雅を以て稱せられた。著に大金陵新志がある。〔四庫提要、六十八〕。

【張儼】292チヤウゲン ㊀後漢、餘杭の人。賢德があつた。嘗て圃を開いて瓠を作り、之を賣つて橋を作る。鄉人に重んぜらる。〔尙友錄、八〕。㊁三國、呉の呉郡の人。翰の父。字は子節。博聞多識。官は大鴻臚。〔尙友錄、八〕。

【張乎】293チヤウコ 廣いさま。〔莊子、大宗師〕張乎其虛而不㆑華也。

【張固】294チヤウコ ㊀唐の人。著に幽閒鼓吹がある。㊁明、新喩の人。字は公正。宣德の進士。官は景泰の初、大理寺少卿。四川建昌の鎭となる。〔明史、一百六十〕・〔萬斯同明史、二百二十二〕・〔明史稿、一百四十九〕。

【張弧】295チヤウコ ㊀弓を張る。又、張つた弓。〔易、睽〕先張㆓之弧㆒、後說㆓之弧㆒。〔太玄經、毅〕豨毅㆓其牙㆒、發以㆓張弧㆒。〔魏志、王朗傳〕張㆑弧而後登㆑輿。㊁唐の人。官は大理評事。著に素履子がある。〔四庫提要、九十一〕。

【張祜】296チヤウコ 唐、清河の人。字は承吉。號は釣鼇客。宮詞を以て名を得た。丹陽曲阿の地に隱居す。唐詩選、張祜に作る。〔全唐詩小傳〕。

【張琥】297チヤウコ 張瑑(325)の㊁を見よ。

【張口】298チヤウコウ 口を開く。〔爾雅、釋魚、鯊鮀、疏〕魚狹而小、常張㆑口吹㆑沙。〔詩、大雅、生民、實覃實訏、箋〕訏、謂㆓張㆑口鳴呼㆒也。〔晉書、郭文傳〕有㆓猛獸㆒忽張㆑口向㆑文、文視㆓其口中㆒、有㆓横骨㆒。〔顏氏家訓、勉學〕蒙然張㆑口、如㆑坐㆓雲霧㆒。

〖張口結舌〗299 chang^1 k'ou^3 chieh^2 shê^2 開いた口がふさがらない。あきれてものが言へない。

【張公】300チヤウコウ ㊀紅銅(**8－27243**‥290)の異名。〔事物異名錄、珍寶、銅〕格古論、和氣子者、卽紅銅、又名㆓張公㆒。㊁山名。江蘇省宜興縣の東南。張道陵が居たから名づけたと傳へる。〔讀史方輿紀要、江南、常州府、宜興縣、卭山〕張公洞、在㆓縣東南五十三里㆒、亦曰㆓張公山㆒、高千仞、周五里、三面皆飛崖絕壁、惟北向一竇可㆑入、最爲㆓奇勝㆒、道書以爲㆓第五十八福地㆒。

〖張公橋〗301チヤウコウケウ 橋の名。㊀河北省邢臺縣の西北。〔讀史方輿紀要、直隸、順德府、邢臺縣〕張公橋、在㆓府西北㆒、或云、其下卽野河所㆑經、舊爲㆓通道㆒、唐末、李克用爭㆓河北㆒、每出㆓青山口㆒、必經㆓張公橋㆒、然後至㆓邢・洺諸州㆒。㊁安徽省和縣の西北。

〖張公泉〗302チヤウコウセン 涿水(**7－17609**‥5)の異名。

〔水經、灅水注〕涿水、出㆓涿鹿山㆒、世謂㆓之張公泉㆒。

【張公棃】303（チヤウコウリ） 梨の一種。洛陽の北芒山に産す。甚だ甘い。棃は梨に同じ。〔廣志〕洛陽北芒山、有㆓張公夏棃㆒、甚甘、海內惟有㆓一株㆒。〔潘岳、閒居賦〕張公大谷之棃、梁侯烏椑之柿。

【張公喫㆑酒李公醉】304（チヤウコウサケヲキッシテリコウヱフ） 張公が酒を飲んだのに、李公が醉つたといはれる。無實の疑を受ける喩。〔通俗編、飮食、張公喫㆑酒李公醉也〕張鷟耳目記、則天時謠言、云云、張公者、易之兄弟、李公、言㆓王室㆒也、張公喫㆑酒李公醉也。〔遁齋閑覽〕郭朏有㆓才學㆒而輕脫、夜出爲㆓醉人所㆑誣、太守詰問、朏笑曰、張公喫㆑酒李公醉者、朏是也、太守令㆑作㆓張公喫㆑酒李公醉賦㆒、朏云、事有㆑不㆑可㆑測、人當㆑防㆓未然㆒、何張公之飮也、乃李老之醉焉、清河丈人方肆㆓杯盤之樂㆒、隴正公子俄遭㆓酩酊之愆㆒、守笑而釋㆑之。

【張弘】305（チヤウコウ） ㊀三國、呉の呉郡の人。字は敬禮。篤學にして仕へず、常に烏巾を著く。時人、張烏巾といふ。篆隸に巧。飛白尤も絶妙。〔書斷〕。㊁宋、益都の人。字は巨卿。太平興國の進士。官は知登聞鼓院。

【張后】306（チヤウコウ） ㊀漢の惠帝の后。張敖の女。母は惠帝の姉、魯元公主。呂后の計らひで惠帝の后となり、呂后の崩後、后廢せられて北宮に處る。〔漢書、三・九十七上〕。㊁五代、梁の太祖の后。諡は元貞。〔五代史、十三〕。㊂明、永城の人。仁宗の皇后。諡は誠孝。宣宗の卽位に尊んで皇太后とし、英宗が立つや尊んで太皇太后とした。〔明史、一百十三〕・〔萬斯同明史、一百五十〕・〔明史稿、一百六〕。㊃明、興濟の人。孝宗の后。諡は孝康。〔明史、一百十四〕。㊄明、祥符の人。熹宗の后。諡は懿安。李自成が都城を陷れるや自縊す。〔明史、一百十四〕。

【張肱】307（チヤウコウ） 清、寶應の人。字は良亭。諸生。官は戶部主事。陳際新と名を齊しくし、同じく業を明安圖に受け、際新と割圓密率捷法を續成す。〔清史稿、五百十一〕。

【張侯】308（チヤウコウ） ㊀春秋、晉の大夫。卽ち、解張。魯の成公の時、晉が齊と鞌に戰つた際、御となつて力戰し、齊師を破る。〔左氏、成、二〕。㊁漢、張禹をいふ。張禹(43)の㊁を見よ。

【張侯論】309（チヤウコウロン） 漢末、安昌侯張禹は魯論を夏侯建に、齊論を庸生・王吉に學び、二者を比較折衷して論語を整理し、之を張侯論と名づけ、成帝に授く。後漢に至り、包咸・周氏等が章句を作り、學官に列す。鄭玄は此の書を主とし、更に齊論・古論と參酌す。〔何晏、論語集解敍〕安昌侯張禹、本受㆓魯論㆒、兼講㆓齊說㆒、善者從㆑之、號曰㆓張侯論㆒、爲㆓世所㆑貴、包氏・周氏章句出焉。〔隋書、經籍志一〕漢張禹、本授㆓魯論㆒、晚講㆓齊論㆒、後遂合而考㆑之、刪㆓其煩惑㆒、除㆓去齊論問王・知道二篇㆒、從㆓魯論二十篇㆒爲㆑定、號㆓張侯論㆒、當世重㆑之。〔經典釋文、敍錄、論語〕安昌侯張禹、受㆓魯論于夏侯建㆒、又從㆓庸生・王吉㆒受㆓齊論㆒、擇㆑善而從、號曰㆓張侯論㆒。

【張恆】310（チヤウコウ） ㊀明、嘉定の人。字は伯常、又、明初。萬曆の進士。建昌の守となり、片言もて獄を裁いたので、世人は之を張半升といふ。江西參議に累遷し、右參政に進む。母の老を以て歸を乞ふ。著に因明子・學蔀撤辨・明志稿・續稿・長吟草がある。〔明詩綜、五十三〕。㊁清、松江の人。字は北山。著に明儒林錄がある。〔四庫提要、六十三〕。㊂清、元和の人。字は聖基。號は菊溪。畫に巧。〔清畫家詩史、辛、上〕。㊃清、錢塘の人。字は牧之。官は陝西縣丞。畫に巧。

【張洪】311（チヤウコウ） 明、常熟の人。字は宗海。官は洪熙の初、翰林修撰。著に南夷書・使規がある。〔明史、一百六十七〕・〔萬斯同明史、三百八十三〕・〔明詩綜、十七〕。

【張轂】312（チヤウコウ） 金、臨潁の人。字は伯英。大定の進士。官は同州判官、後、河東南路轉運使。〔金史、一百二十八〕。

【張興】313（チヤウコウ） ㊀後漢、鄢陵の人。字は君上。梁丘易を學ぶ。官は太子太傅。明帝が數〻經術を問ひ、弟子は萬人に至り、梁丘學派の宗となる。〔後漢書、一百九上〕。㊁唐、束鹿の人。官は玄宗の時、饒陽裨將。安祿山の亂に史思明の勸降に從はず、鋸殺せられた。〔唐書、一百九十三〕。㊂明、壽州の人。卒伍から起り、官は都指揮同知。〔明史、一百四十六〕・〔萬斯同明史、一百八十九〕・〔明史稿、一百三十四〕。

【張鴻】314（チヤウコウ） 清、江寧の人。字は衍文。號は鶴澗。畫に巧。〔墨香居畫識、十〕。

【張根】315（チヤウコン） 宋、德興の人。字は知常。號は呉園先生。元豐の進士。官は淮南轉運使。性、至孝。著に春秋指南・呉園易解がある。〔宋史、三百五十六〕・〔宋史新編、一百二十四〕。

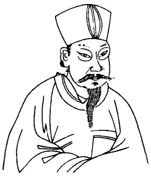
【張袞】316（チヤウコン） ㊀後魏、沮陽の人。字は洪龍。諡は文康。道武帝の參謀。官は幽州の刺史。爵は臨渭侯。〔魏書、二十四〕・〔北史、二十一〕。㊁明、江陰の人。字は補之。號は水南。正德の進士。官は南京光祿寺卿。諫垣に在つて建白するところが頗る多い。嘉靖中、倭寇が東南を擾した時、家居して危城の中に在り、書を政府に馳せて禦倭五事を上る。其の詩文集を張水南集といふ。〔四庫提要、一百七十六〕。

【張焜】317（チヤウコン） 清、南昌の人。字は大啓。官は順治中、永壽縣の長官。

【張魂】318（ハリダマシヒ） 勝氣な氣象をいふ。意地を張つて一徹な氣象。〔源平盛衰記、三十四、法住寺城郭合戰〕。

【張采】319（チヤウサイ） 明、太倉の人。字は受先。崇禎の進士。張溥と同里。官は福王の時、禮部員外郎。書室を知畏堂といひ、著に知畏堂集・太倉州志がある。〔明史、二百八十八〕・〔明史稿、二百六十九〕・〔明詩綜、六十八〕。

【張載】320（チヤウサイ） ㊀晉、安平の人。字は孟陽。性、閑雅。博學で文章を善くし、太康の初、蜀に至り、劍閣を經て銘を作る。武帝は之を賞し、使を遣して之を劍閣山に鐫らせた。官は中書侍郎。二弟、協・亢も皆文名があり、三張と稱せられた。〔晉書、五十五〕。㊁宋、郿縣橫渠鎭の人。字は子厚。諡は明。嘉祐中、進士に擧げられ、官は崇政院校書。尋いで南山の下に屛居し、諸生に教授す。其の學は二程子と相切磋し、深く道學の要を得、易を宗とし、中庸を的とし、禮を體とし、孔孟を極とす。嘗て、天地のために心を立て、生民のために命を立て、往聖のために絶學を繼ぎ、萬世のために太平を開くと言つた。世に橫渠先生と稱し、橫渠が關中の人であるから、其の學を傳へる者を稱して關學といふ。著に正蒙西銘・易說がある。〔宋史、四百二十七〕・〔宋史新編、一百六十一〕・〔東都事略、一百十四〕・〔皇朝道學名臣言行外錄、四〕・〔伊洛淵源錄、六〕・〔宋元學案、十七・十八〕。㊂清、桐城の人。字は子容。明末の諸生。少くして氣節があり、射を善くす。流賊が桐城を圍んだ時、矢を發して賊を斃し、ために賊が近づくを得なかつた。明が亡びて後、松山に隱居し、城市に入らなかつた。小楷に巧。年七十餘にして地輿圖を著はす。尺幅に數千字を書したが、其の字は細小なること秬黍の如くで、精巧を極めた。〔國朝耆獻類徵、四百七十六〕。



張橫渠㊁（三才圖會）

【張綵】321（チヤウサイ） 明、安定の人。弘治の進士。官は吏部尙書・太子少保。後、獄に投ぜられて死す。〔明史、三百六〕・〔萬斯同明史、四百二〕・〔明史稿、二百八十六〕。

【張莊】322（チヤウサウ） ㊀地名。㋑河北省武清縣の南。京山鐵路に沿ふ。㋺山東省禹城縣の西北。津浦鐵路に沿ふ。㊁宋、應天府の人。元豐の進士。官は集賢殿修撰・知桂州・黔南路經略安撫使・知靖州。安化蠻を輕信して蠻に掩はれ、連州に貶せられた。後、渭・亳・襄州・鎭江・東平府の長官に歷任し、事に坐して兩官を降されて卒す。〔宋史、三百四十八〕・〔宋史新編、一百二十〕・〔北宋經撫年表、九十三・一百十・一百二十四〕。

【張蒼】323（チヤウサウ） 漢、陽武の人。諡は文。もと秦の御史。罪があつて亡げ、漢に降る。律曆圖書計籍に明通す。封は北平侯。官は孝文の初、丞相。〔史記、九十六〕・〔前漢書、四十二〕。

【張澡】324（チヤウサウ） 明の人。字は子新。六安衞指揮を襲職す。後の官は南京都督。

【張璪】325（チヤウサウ） ㊀唐、呉郡の人。璪は一に藻に作る。字は文通。官は檢校祠部員外郎・鹽鐵判官。後、事に坐して衡州司馬に貶せられた。畫に巧。著に繪畫鏡がある。〔歷代名畫記〕。㊁宋の人。瓌

の弟。初の名は琥。字は邃明。諡は簡翼。官は資政殿大學士。後、鄭州の長官。〔宋史、三百二十八〕・〔宋史新編、一百七〕・〔東都事略、八十三〕・〔宋大臣年表、十三・十四〕・〔北宋經撫年表、三十七・四十四・九十九〕。

【張藻】326（チヤウサウ）　❶張璪の❶を見よ。❷清、婁東の人。字は子湘。號は蘭芳。畢沅の母。詩詞に巧。經術に深通。卒するに及び、高宗が經訓克家の四字を書して之を褒す。〔清代閨閣詩人徵略、三〕。

【張策】327（チヤウサク）　五代梁の敦煌の人。字は少逸。章句に精通す。太祖が之を稱して張夫子といふ。官は中書侍郎。〔五代史、三十五〕・〔舊五代史、十八〕。

【張鷟】328（チヤウサク）　唐、陸澤の人。字は文成。號は浮休子。調露中の進士。時人は其の文を青銅錢の如しといひ、青錢學士と稱す。著に遊仙窟・龍筋鳳髓判・朝野僉載・耳目記がある。〔唐書、一百六十一〕。

【張札】329（ハリフダ）　事を記して掲げ示す札。

【張詧】330（チヤウサツ）　民國、江蘇省南通縣の人。字は退菴。曾て通海總商會々長であつた。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【張參】331（チヤウサン）　唐の人。大曆中の名儒。官は國子司業。初、五經の書を講論堂の東西の廂壁に詳定した。六十餘載の後、木版に易へ、開成中、石刻に易へた。今、傳へる所の五經文字の一書は參の書に從つて轉輾摹印したものである。〔四庫提要、四十一〕。

【張傘】332 chang¹ san³　傘をさす。

【張澯】333（チヤウサン）　❶明、平南の人。字は仲湜。成化の進士。官は兵部尚書。〔國朝獻徵錄、四十二〕・〔國朝列卿記、二十・二十七・三十四・四十二・五十〕・〔明名人傳、十五〕・〔本朝分省人物攷、一百十・一百十三〕。❷明、順德の人。字は景川。正德の進士。官は禮部員外郎。後、大禮を諫め、杖せられて死す。〔明史、一百九十二〕・〔萬斯同明史、二百七十八〕・〔明史稿、一百八十九〕。

【張燦】333′（チヤウサン）　清、湘潭の人。字は豈石。號は湘門青陽子。康熙の擧人。古文辭及び書法に巧。無錫の令となつて治行があり、善く獄を決す。後、大理寺少卿。〔大清畿輔先哲傳、八〕。

【張璨】334（チヤウサン）　明、嵊縣の人。字は蘊之。天性孝友。父が跛で歩けないので、終身背に負ふ。羅頎に從つて學び、經史を一讀すれば忘れず、文を能くし、詩名があつた。〔萬斯同明史、三百八十九〕・〔明詩綜、十九上〕。

【張繖】335（チヤウサン）　傘をさす。張傘。〔水經、江水注〕翼帶鹽井一百所、巴川資以自給、粒大者方寸、中央隆起、形如㆓張繖㆒、故因名㆑之曰㆓繖子鹽㆒。〔紀昀等校〕案、近刻作㆑傘、繖卽古傘字。

【張纂】336（チヤウサン）　❶後魏、無極の人。字は伯業。經史に通曉。官は樂陵の太守。受納する所が多くて除名せられた。〔魏書、六十八〕。❷北齊、平城の人。字は徽纂。爾朱榮に事ふ。後、神武に事へ、護軍將軍となる。〔北齊書、二十五〕・〔北史、五十五〕。

【張瓚】337（チヤウサン）　❶明、孝感の人。字は宗器。正統の進士。官は左副都御史。著に東征紀行錄がある。〔明史、一百七十二〕。❷明の人。先世は滄州の人。後、京師に家居す。字は廷獻。諡は恭襄。弘治の進士。官は兵部尚書。〔明史、一百七十二〕・〔萬斯同明史、二百三十一〕・〔明史稿、三十〕。❸清、雲南武定の人。字は公執。號は容菴。官は浙江新城知縣。著に東安詩詞草がある。

【張纘】338（チヤウサン）　梁の人。緬の弟。字は伯緒。諡は簡憲。官は平北將軍・寧蠻校尉。岳陽の王詧に殺された。著に鴻寶・文集がある。〔梁書、三十四〕・〔南史、五十六〕。

【張子】339（チヤウシ）　❶戰國の人。張儀(188)をいふ。〔漢書、藝文志〕張子、十篇。〔注〕名儀。❷宋の張載(320)をいふ。〔四庫提要、子、儒家類〕張子全書、十四卷、附錄一卷、宋張載撰、云云、張子之學、主㆓於深思自得㆒㆑本、不㆘以㆓著作繁富㆒爲㆖長。❸（ハリコ）　張兒。張拔(610)に同じ。

【張子抄釋】340（チヤウシセウシヤク）　書名。六卷。明、呂柟撰。張載の書を摘錄したもの。〔四庫提要、子、儒家類〕。

【張子全書】341（チヤウシゼンシヨ）　書名。十四卷、附錄一卷。宋、張載撰。張載の學は、易を宗とし、中庸を的とし、禮を體とし、孔孟を極とした。是の編は、全書といふが、西銘一卷・正蒙二卷・經學理窟五卷・易說三卷・語錄鈔一卷・文集鈔一卷・拾遺一卷と附載の行狀の類の一卷だけであり、而も西銘・易說以外は皆、宋志の卷數と合はず、全本ではないが、世に通行するは此の刻本だけである。〔四庫提要、子、儒家類〕。

【張氏】342（チヤウシ）　❶唐、向城の人。肅宗が太子の時に良娣となり、太子に從つて靈武に駐り、子を產んで三日目に起つて戰士の衣を縫ふ。乾元中、皇后となる。代宗の卽位後、羣臣が后を廢して庶人となさんと請ひ、遂に之を殺す。〔唐書、七十七〕。❷五代、梁の碭山の人。太祖の若いとき聘せられ、末帝を生む。賢明にして精悍、剛暴な太祖も亦之を畏れた。天福の初、卒す。末帝の時、元貞太后と追諡す。〔五代史、十三〕。❸五代、南平の人。高季興の姬。從海を生む。〔五代史、六十九〕。

【張氏可書】343（チヤウシカシヨ）　書名。一卷。宋、張知甫撰。徽宗の朝廷の故事を主とし、神怪詼諧を交へ記す。東京夢華の類。〔四庫提要、子、小說家類〕。

【張氏銅鉤】344（チヤウシドウコウ）　蒙求の標題。扶風の張氏に銅鉤があり、其のために出世して數郡の太守となり、遂に九卿になつたが、後、鉤を失つて衰へた故事。〔蒙求上、張氏銅鉤〕三輔決錄、扶風張氏之先、爲㆓郡功曹㆒、晨起當㆑朝、有㆑鳩從㆓承塵上㆒、飛下㆓几前㆒、功曹曰、鳩何來、爲㆑禍飛上㆓承塵㆒、爲㆑福飛入㆓我懷㆒、開㆑懷待㆑之、鳩乃飛入㆓懷中㆒、探得㆓銅鉤㆒帶㆑之、官至㆓數郡太守・九卿㆒、有㆔蜀客至㆓長安㆒、私賂㆓張氏婢㆒、婢賣㆑鉤與㆓蜀客㆒、客家喪禍、懼而還㆓張氏㆒、張氏得㆑鉤、復爲㆓二千石㆒、後失㆑鉤、張氏遂衰。

【張氏拙軒集】345（チヤウシセツケンシフ）　書名。六卷。宋、張侃の撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【張弛】346（チヤウシ）　はることとゆるむこと。盛になることと衰へること。弛張。〔禮、雜記下〕一張一弛、文武之道也。〔楚辭、九章、悲回風〕伴㆓張弛之信期㆒。〔後漢書、崔駰傳〕道無㆓常稽㆒、與㆑時張弛。

【張旨】347（チヤウシ）　宋、河內の人。字は仲微。范仲淹・歐陽脩が其の武略を稱揚した。官は光祿卿・知潞晉二州。〔宋史、三百一〕・〔宋史新編、九十四〕・〔北宋經撫年表、一百八〕。

【張孜】348（チヤウシ）　宋、開封の人。內侍、張景宗の養子。初名は茂實。英宗の諱を避けて孜と改む。諡は勤惠。官は馬軍副都指揮使。〔宋史、三百二十四〕・〔宋史新編、一百四〕・〔東都事略、六十二〕・〔宋人軼事彙編、一百二〕。

【張芝】349（チヤウシ）　後漢、酒泉の人。奐の子。字は伯英。少くして高操があり、張有道といふ。草書に巧。池に臨んで書を學び、水、之がために墨となる。時人、草聖と稱す。〔後漢書、九十五〕。

【張芝筆】350（チヤウシノフデ）　張芝の用ひたやうな立派な筆。張芝を見よ。〔三輔決錄〕夫欲㆑善㆓其事㆒、必先利㆓其器㆒、請用㆓張芝筆・左伯紙・任及墨㆒。

【張施】351（チヤウシ）　ひろげはる。又、其のこと。〔劉璉、詩〕鵾鵬趨㆓下風㆒、尉羅絕㆓張施㆒。

【張紙】352（ハリガミ）　貼紙。❶糊で物に貼りつける紙。❷意見を書いて貼りつけおく紙。符箋。❸法度・命令・注意等を記して人に示すために貼り掲げる紙。張札。〔慣習例、屋敷帳張紙〕。

【張翅】353（チヤウシ）　つばさをはる。〔易林〕施㆑枝張㆑翅。

【張詩】354（チヤウシ）　明、北平の人。號は崑崙山人。其の文は雄奇變怪、書は放勁、人を驚かす。〔萬斯同明史、三百九十六〕・〔國朝獻徵錄、一百十五〕・〔明詩綜、三十八〕。

【張嘴】355 chang¹ tsuei³　口を開く。口をきく。

【張摯】356（チヤウシ）　漢の人。釋之の子。字は長公。官は大夫。〔史記、一二〕・〔前漢書、五〕。

【張翨】357（チヤウシ）　明、嘉興の人。一に張翼に作る。字は翔南。羣書を博覽し、其の文は奇捷、好んで奇語を爲す。元の至正中、金絅と倶に龍門賦を以て鄉擧に高第し、明初、徵されて禮局に入る。仕事を成し遂げ、金を賜はつて鄉里に歸る。著に梓宇集がある。〔明人小傳、一〕・〔明詩綜、七〕。

【張耳】358（チヤウジ）　漢、大梁の人。諡は景。初、魏の外黃令となり、陳餘と刎頸の交があつたが、秦末、趙の相となり、後、仲違ひをし、漢に走つて陳餘を泜水の上に斬る。趙王に封ぜられた。〔史記、八十九〕・〔前漢書、三十二〕。

【張事】359（チヤウジ）　帷幕を張る仕事。〔周禮、天官、掌

次〕掌㆓王次之濼㆒、以待㆓張事㆒。

【張兒】360 ハリコ はりこ。張子。張拔(610)に同じ。〔禁祕抄、上〕高倉院御時、張兒爲㆓主上㆒不吉事。

【張鎡】361 チヤウジ 宋、西秦の人。字は功甫(功父)。號は亦菴・千歲菴・長不昧齋・南湖・碧宇・無所要齋・約齋。官は奉議郞・直祕閣。畫に巧。書室を鷗渚亭・安閒堂・詠永軒・宴頤軒・煙波觀・豔香館・駕霄軒・界華精舍・綺互亭・宜雨亭・凝薰堂・玉照堂・羣仙繪幅圖・現樂堂・蒼寒堂・餐霞軒・詩禪堂・寫經寮・尙有軒・儒閒堂・眞如軒・水北書院・清夏堂・靜高堂・叢奎閣・泰定軒・聽鶯亭・疊翠亭・天鏡亭・傳衣軒・都徽別館・讀易軒・芳草亭・美芝亭・俯窠軒・滿霜亭・味空亭・閬風堂・綠畫軒・書葉軒・把菊軒・撫鶴亭・摘星軒・文光軒・憑暉亭・德勳堂・恬虛菴・應鉉齋・景白軒・楚佩亭といひ、著に仕學規範・南湖集がある。〔四庫提要、一百二十三〕・〔宋人軼事彙編、七百三十八〕。

【張洲】362 チヤウシウ 清、武功の人。字は蓬峯。號は南林。乾隆の進士。官は德清縣の長官。書室を對雪亭といひ、著に對雪亭集がある。〔國朝耆獻類徵、二百三十九〕・〔碑傳集、一百七〕。

【張秋】363 チヤウシウ 鎭の名。山東省東阿縣の西南。運河の沿岸。宋には景德鎭といふ。明の弘治七年、劉大夏が潦水石壩を築き、安平鎭の名を賜ふ。〔讀史方輿紀要、山東、兗州府、東平州、東阿縣〕安平鎭、縣西南六十里、運河所㆑經、與㆓壽張・陽穀二縣㆒接㆑界、本名㆓張秋㆒。

【張修】364 チヤウシウ 清、長洲の人。號は損之。秣陵に家す。性、狷介。自ら三徑を鷲峯寺側に闢き、常に鐘樓に獨坐す。畫に巧。〔清畫家詩史、乙、上〕・〔國朝畫識、四〕。

【張就】365 チヤウシウ ❶漢、山陽の人。栗豐に韓詩を受く。〔前漢書、八十八〕。❷三國、魏の燉煌の人。恭の子。戊己校尉を嗣ぐ。官は金城太守。〔三國志、十八〕。

【張繡】366 チヤウシウ 三國、魏の祖厲の人。諡は定。麴勝に殺された祖厲の長のために讎を報じ、後、魏に仕ふ。封は宣威侯。官は破羌將軍。〔三國志、八〕。

【張鷲】367 チヤウシウ 清、陝州の人。康熙中、蕪湖・霍邱知縣に歷任す。書室を道善堂といひ、著に四書精解・雞足山詩集・道善堂文集がある。

【張柔】368 チヤウジウ 元、定興の人。字は德剛。諡は忠武。官は河北東西路等の都元帥。封は蔡國公。〔元史、一百四十七〕。

【張瑟】369 チヤウシツ 瑟の絃を張る。〔漢書、禮樂志〕張瑟員八人、七人可㆑罷。〔李嶠、扈從還㆑洛呈㆓侍從羣官㆒詩〕祝鳥旣開㆑羅、調人更張㆑瑟。

【張質】370 チヤウシツ 宋、高唐の人。字は守朴。官は眞宗の時、都承旨。〔宋史、三百九〕・〔宋史新編、八十五〕。

【張拾】371 チヤウシフ 元、遵化の人。幼にして孤。母に仕へて孝。〔明史、二百九十六〕。

【張緝】372 チヤウシフ 元、膠州の人。字は士朝。詩文を能くす。官は澤州儒學正、後、泰州の幕職となる。揚州に家居し、母の身代りとなつて賊に殺された。〔元史、一百九十八〕。

【張輯】373 チヤウシフ 宋、鄱陽の人。字は宗瑞。號は東澤。詩法を姜夔に受く。著に東澤綺語債がある。

【張昌】374 チヤウシヤウ ❶晉の人。もと義陽の蠻。姓名を李辰と改め、丘沈を立てて天子とし、自ら相國となる。陶侃等が之を誅す。〔晉書、一百〕。❷張敬則(977)を見よ。

【張庠】375 チヤウシヤウ 宋、永新の人。字は元道。經書に博通す。嘗て斥蠹・正言の二書を著して、佛老を攻擊。玄經圖を作つて五行六度の祕を推す。鄭獬・吳處厚・錢明逸等皆之に師事し、白雲先生と號す。〔尙友錄、八〕。

【張祥】376 チヤウシヤウ 隋、京兆の人。官は開皇中、幷州司馬、後、靈武太守。〔隋書、七十一〕。

【張敞】377 チヤウシヤウ 漢、平陽の人。字は子高。左氏傳を貫長卿より受く。宣帝の時、太僕となつて切諫の名聲があり、膠州の相に遷つて治績があり、京兆尹となつて朝廷の大事に參與す。後、冀州刺史となり、元帝が立つて左馮翊にしようとしたが病みて卒す。嘗て妻のために眉を畫く。〔漢書、七十六〕。

〖張敞筆〗378 chang¹ ch'ang² pi³ 夫婦の狎れ親む喩。張敞爲㆑婦畫㆑眉を見よ。

〖張敞畫眉〗379 チヤウシヤウグワビ 蒙求の標題。張敞爲㆑婦畫㆑眉を見よ。

〖張敞爲㆑婦畫㆑眉〗380 チヤウシヤウフノタメニマユヲエガク 漢の張敞が、妻のために眉を畫いた故事。京兆眉。〔漢書、張敞傳〕爲㆑婦畫㆑眉、長安中、傳㆓張京兆眉憮㆒、有司以奏㆑敞、上問㆑之、對曰、臣聞、閨房之內、夫婦之私、有㆘過㆓於畫㆑眉者㆖、上愛㆓其能㆒、弗㆓備責㆒也。

【張城】381 チヤウジヤウ 清の人。字は大宗。畫に巧。〔國朝畫識、七〕。

【張讓】382 チヤウジヤウ 後漢、潁川の人。官は靈帝の時、中常侍。列侯に封ぜらる。帝が崩じ、袁紹が宦官を捕へた時、讓は少帝を劫して河上に走り、河に投じて死す。〔後漢書、一百八〕。

【張主】383 チヤウシユ いひはる。又、其のこと。主張。〔水滸傳、二十一回〕押司自做㆓箇張主㆒。

【張守】384 チヤウシユ 宋、晉陵の人。字は全眞、又、子固。諡は文靖。崇德中の進士。官は資政殿學士、洪州の長官、後、紹興府の長官。著に毘陵集がある。〔宋史、三百七十五〕・〔宋史新編、一百二十八〕・〔南宋書、十九〕・〔四朝名臣言行錄、下、一〕・〔宋中興學士院題名錄〕。

【張種】385 チヤウシユ 陳、吳郡の人。字は士苗。諡は元。官は梁の貞威將軍・治中從事、陳の中書令。〔陳書、二十一〕。

【張䇓】386 チヤウシユ 元、導江の人。字は達善。王柏の門人。世に導江先生と呼ぶ。著に經說及び文集がある。〔元史、一百八十九〕・〔宋元學案、八十二〕。

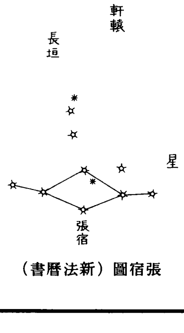
【張鑄】387 チヤウシユ 宋、洛陽の人。字は司化。後梁の進士。官は周の祕書監・判光祿事、宋の檢校刑部尙書。〔宋史、二百六十二〕・〔宋史新編、七十二〕。

【張澍】388 チヤウジユ 清、武威の人。字は伯淪、又、時霖。號は介侯・介白。嘉慶の進士。官は玉屛の長官。書室を二酉堂といひ、著に姓氏五書・續黔書・養素堂集がある。又、二酉堂叢書を輯刊した。〔清史稿、四百九十二〕・〔清史列傳、七十三〕・〔續碑傳集、七十七〕・〔顏李師承記、二〕。

【張充】389 チヤウジユウ 梁の人。緒の子。字は延符。諡は穆。老・易に曉通し、清言を能くす。官は散騎常侍・金紫光祿大夫。〔梁書、二十一〕。

【張叔】390 チヤウシユク ❶漢、葉楡の人。司馬相如が若水に至ると聞き、笈を負うて經學を受け、歸つて鄕里の子弟に敎へた。〔史記、一百三〕・〔前漢書、四十六〕。❷張歐(77)を見よ。

【張宿】391 チヤウシユク ❶二十八宿の一。ちりこ。朱鳥七宿の第五宿で、六星ある。海蛇座のλμφ星附近に當る。〔廣雅、釋天〕張謂㆓之鶉尾㆒。〔史記、天官書〕張素爲㆑廚、主㆓觴客㆒。〔漢書、天文志〕張嗉爲㆑廚主㆑觴客。〔丹元子、步天歌〕張六星似㆑軫在㆓星傍㆒、張下只有㆓天廟光㆒、十四之星冊㆓四方㆒、長垣少微雖㆓向上㆒、數星倚在㆓大微傍㆒、太尊一星直上黃。〔宋史、天文志四〕漢永元銅儀、張宿十七度、唐開元游儀十八度、舊去㆑極九十七度、景祐測驗張十八度、距㆑西第二星、去㆑極一百三度。〔觀象玩占〕張六星爲㆓天府㆒、一曰御府、一曰天昌、實爲㆓朱鳥之嗉㆒、火星也。❷唐の人。性、狡譎、好んで人を中傷す。官は諫議大夫。〔唐書、一百七十五〕・〔舊唐書、一百五十四〕。



張宿圖（新法曆書）

【張肅】392 チヤウシユク ❶後漢の人。張儉の鄕人朱並が上書し、儉と同鄕の二十四人の署號を上奏して共に部黨となし、儉及び肅等を八俊となした。〔後漢書、九十七〕。❷宋、舒城の人。官は廣東轉運判官、後、江東提點刑獄。〔宋史、四百八十九〕。

【張出】393 ハリダシ ❶張り出すこと。又、其のもの。❷張紙。張札。❸番附の欄外に記すこと。又、其の記されるもの。張出大關など。

〖張出大關〗394 ハリダシオホゼキ 相撲の番附の欄外に記された別格の大關。正大關の下、關脇の上に位する。

【張述】395 チヤウジユツ 宋、小溪の人。字は紹明。進士。官は太常博士、後、尙書職方員外郞。〔宋史、三百三〕・〔宋史新編、九十五〕。

【張俊】396 チヤウシユン ❶後漢、蜀郡の人。官は尙書郞。〔後漢書、七十五〕。❷宋、成紀の人。字は伯英。

才氣があり、若い時盜となつたが、後、宋に仕へ、金人と戰ひ、屢〻奇功を立て、樞密使に累官す。韓世忠・劉錡・岳飛と倶に當時の名將。秦檜に附き、益國侯に封ぜられ、清河郡公に進み、太師に至る。岳飛の獄を成して、世人から鄙まれたが、卒して循王に追封せられた。〔宋史、三百六十九〕・〔宋史新編、一百三十二〕・〔南宋書、十七〕・〔宋朝南渡十將傳、六〕・〔四朝名臣言行錄、上、七〕。❸明、宣府前衞の人。世職を嗣ぎ、本衞指揮使となる。後、都督同知。〔明史、一百七十五〕・〔萬斯同明史、二百六十三〕・〔明史稿、一百七十五〕。

【張春】397（チヤウシユン） ❶明、新喩の人。官は嘉靖の時、太僕丞。後、嚴嵩の黨に坐して謫せられた。〔明史、三百八〕。❷明、同州の人。字は泰宇。萬曆の擧人。官は崇禎の時、永平兵備參議。清兵と戰つて死す。〔明史、二百九十一〕・〔明史稿、二百七十一〕。

【張悛】398（チヤウシユン） 晉、呉の人。字は士然。元康中、呉令謝詢が孫氏のために守冢人を置くよう上表した時、悛、其の文を作る。官は太子庶子。〔全上古三代秦漢三國六朝文、晉文、一百五〕。

【張浚】399（チヤウシユン） 宋、綿竹の人。九皐の後裔。字は德遠。諡は忠獻。官は高宗の時、川陝京西諸路宣撫使。宋國の恢復を志し、力めて金人を扼したが、秦檜のために永州に貶せられた。孝宗の時、樞密使・都督江淮軍馬に至る。封は魏國公。著に紫巖易傳がある。〔宋史、三百六十一〕・〔宋史新編、一百二十六〕・〔南宋書、十四〕・〔名臣碑傳琬琰集、中、五十五〕・〔宋元學案、四十四〕。

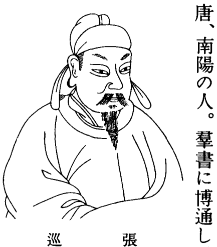
【張雋】400（チヤウシユン） 清、呉江の人。一名、僧願。字は非仲、又、文通。明の諸生。藏書に富む。南潯の莊廷鑨に聘せられて明史を修め、明の理學諸儒傳を作つたが、未だ發表せられない中に、罪せられることを豫知し、恐れて僧舍に逃る。後、史獄が起り、杭州で捕へられ誅を受けた。著に三部略・易序測象・西廬詩草がある。

【張儁】401（チヤウシユン） 五代、梁の人。字は彥臣。五言詩に巧。官は唐の僖宗の時、萬年縣の令、後梁の太祖の時、吏部郎中。〔舊五代史、二十四〕。

【張濬】402（チヤウシユン） 唐、河閒の人。字は禹川。書史に精通。官は太常博士、後、諫議大夫・尙書右僕射。朱全忠が簒立を謀り、夜盜をして濬を殺させた。〔唐書、一百八十五〕・〔舊唐書、一百七十九〕。

【張駿】403（チヤウシユン） ❶十六國、前涼の人。寔の子。字は公庭。叔父茂の後を嗣いで涼王と稱す。在位二十二年。私諡は文。年號は太元。晉の穆帝が諡を忠成と賜はり、後に張祚が僭位して世祖と追尊す。〔晉書、八十六〕。❷明、松江華亭の人。字は天駿。號は南山。書法に巧。行書隸篆とも張東海と名を齊しくし、時人が二張と號す。景泰中、鄕に擧げられ、禮部尙書を以て致仕す。〔國朝獻徵錄、三十三〕。

【張巡】404（チヤウジユン） 唐、南陽の人。羣書に博通し、戰陣の法に曉通す。開元の進士。官は清河令、後、眞源令に遷る。天寶中、安祿山の反に、兵を起して之を討ち、睢陽の太守許遠と共に城を守つて賊將尹子琦と戰ふ。詔して御史中丞に拜せらる。屢〻賊を破り、固守すること數月。臨淮の節度使賀蘭進明に救を乞うたが、進明は巡の聲威を忌んで坐視して救はなかつたため、遂に城が陷り、賊に殺された。其の死に當り大いに賊を罵る。後、揚州大都督を追贈せられた。〔唐書、一百九十二〕・〔舊唐書、一百八十七〕・〔琅琊代醉編、三十四〕。



張巡（三才圖會）

【張盾】405（チヤウジユン） 南齊の人。瓌の次子。盾は一に循に作る。字は士宣。謹重を以て稱せられた。湘東王の記室となり、出でて宣陽令を監す。死んだ時には、唯〻文集并びに書千餘卷、酒米數甕があつただけである。〔南史、三十一〕。

【張恂】406（チヤウジユン） ❶後魏、沮陽の人。字は洪讓。諡は宣。官は常山太守、後、太中大夫。清白の士。〔魏書、八十八〕。❷清、涇陽の人。字は稚恭、又、壺山。明の崇禎の進士。官は康熙中、江南推官。畫・詩・古文に巧。〔碑傳集、一百三十九〕・〔國朝先正事略、二十八〕。

【張純】407（チヤウジユン） ❶後漢の人。安世の六世の孫。字は伯仁。諡は節。封は光武の時、武始侯。故事に明習し、郊廟・婚冠・喪紀・禮儀等、正定するところが多い。官は大司空。〔後漢書、六十五〕。❷明、江陵の人。字は志忠。永樂の進士。官は宣德の初、監察御史・右僉都御史・兵部尙書。忠愛を以て心と爲し、上言は皆大臣の體を得、官に居ること四十年にして致仕。〔國朝獻徵錄、四十二〕。❸明、永嘉の人。嘉靖の擧人。官は南康府の長官。著に存愚錄がある。〔四庫提要、一百二十四〕。

【張淳】408（チヤウジユン） ❶宋、永嘉の人。字は忠甫。乾淳の閒の大儒。薛士龍・鄭景望と名を齊しくす。著に儀禮識誤がある。〔宋史翼、二十五〕・〔宋元學案、五十二〕・〔四庫提要、二十〕。❷明、合肥の人。字は宗厚。成化の進士。官は正德の時、右副都御史。保定を巡撫す。〔明史、一百八十〕・〔萬斯同明史、二百五十六〕・〔國朝獻徵錄、六十一〕。❸明、桐城の人。字は希古。隆慶の進士。官は陝西布政。〔明史、二百八十一〕・〔萬斯同明史、三百九十一〕・〔明史稿、二百六十二〕。

【張循】409（チヤウジユン） 張盾(405)を見よ。

【張閏】410（チヤウジユン） 元、延長の人。軍籍に在り。八世同居して少しの不和もなく、至元中、表旌せられた。〔元史、一百九十七〕。

【張順】411（チヤウジユン） ❶宋の人。官は度宗の時、民兵部將。襄陽が圍れた時、張貴と重圍を侵して力戰し、遂に戰死。〔宋史、四百五十〕・〔宋史新編、一百七十四〕・〔南宋書、六十〕・〔昭忠錄〕・〔宋季忠義錄、四・九〕。❷金、淄州の人。士伍となり、元兵と戰つて節に死す。〔金史、一百二十二〕。

【張詢】412（チヤウジユン） ❶唐、南海の人。字は正言。百藝にすぐれ、尤も書に巧。蜀に至つて僧夢休のために早晚午の三景を壁に作り、三時山といふ。僖宗が蜀に幸した時、之を見て歎賞す。〔益州名畫錄〕・〔圖畫見聞志〕・〔宣和畫譜〕。❷宋、咸陽の人。字は仲謀。官は知施州。黃庭堅との唱和が甚だ多く、詩集がある。〔北宋經撫年表、七十八・八十七〕。

【張馴】413（チヤウジユン） 後漢、定陶の人。字は子儁。春秋左氏傳に精しく、又、大夏侯尙書を以て教授す。蔡邕と六經の文字を校定す。官は大司農。〔後漢書、一百九上〕。

【張潤】414（チヤウジユン） 明、臨汾の人。字は汝霖。諡は恭肅。弘治の進士。官は戶部尙書。〔明史、一百九十一〕・〔萬斯同明史、二百七十〕・〔國朝獻徵錄、二十七〕。

【張遵】415（チヤウジユン） 三國、蜀の人。苞の子。官は尙書。鄧艾と戰つて死す。〔三國志、三十六〕・〔宋元學案、三十四〕。

【張初】416（チヤウシヨ） 張允孝(785)を見よ。

【張所】417（チヤウシヨ） 宋、青州の人。進士。高宗の時の敢言の士。官は河北招撫使。〔宋史、三百六十三〕・〔宋史新編、一百三十四〕・〔南宋書、九〕。

【張庶】418（チヤウシヨ） 宋の人。浚の從孫。字は晞顏。再從叔なる栻に師事し、栻に侍すること九年、栻の講學に當つては、筆を執つて筆錄を司る。〔宋元學案、五十〕。

【張渚】419（チヤウシヨ） 鎭の名。江蘇省宜興縣の西南。元、茶園提領所二箇處を設けて茶稅を掌り、明、批驗茶引所を此處に設く。清、張渚巡司を置く。〔讀史方輿紀要、江南、常州府、宜興縣〕張渚鎭、元設二茶園提領所一處一、以掌二茶稅一、明初、改設二批驗茶引所於此一、尋廢、洪武三十五年、復設、今商旅駢二集於此一、有二張渚巡司一戍守。

【張緒】420（チヤウシヨ） ❶南齊、呉郡の人。裕の孫。字は思曼。諡は簡。寡欲にして清雅。叔父鏡が之を稱譽して今世の樂廣といふ。官は國子祭酒。〔南齊書、三十三〕。❷明、常熟の人。字は廷瑞。永樂中、才名を以て薦められ、會昌侯府教授となる。書畫に巧。〔明畫錄、七〕。❸明、漢川の人。字は文綸。嘉靖の擧人。業を安福の鄒守益に受く。官は戶部員外郎。耿定向・汝芳と講學して輟めず、ために貶謫せられた。學者、甑山先生といひ、鄕人、介肅と私諡す。〔萬斯同明史、三百八〕・〔國朝獻徵錄、九十八〕。

【張翥】421（チヤウシヨ） ❶元、晉寧の人。字は仲擧。世に蛻菴先生と稱す。業を李存に受け、道德性命の說を得、詩を仇遠に學んで其の音律の奧を得た。

官は國子助教、後、河南平章。詩詞に巧。書室を虛游軒といひ、著に蛻菴集・蛻巖詞がある。〔元史、一百八十六〕。❷清、常熟の人。字は運南。號は北林。詩に巧。著に北林小集がある。

【張曙】422 チヤウショ 唐、成都の人。小字は阿灰。龍紀の進士。官は右補闕。詩に巧。〔全唐詩、二十五〕・〔全唐文、八百二十九〕。

【張恕】423 チヤウジョ 清、鄞の人。字は貫一。號は鐵峯。道光の擧人。考試して八旗官學教習を取つた時、之に應じ、京に留つて職に供すること一年、親老いたるを以て歸る。書室を長春花館・南蘭書屋といひ、著に詩書周禮管見・四明水利考・長春花館詩集・南蘭書屋文集及び筆記等がある。

【張敍】424 チヤウジョ 清、鎭洋の人。字は冰潢、又、賓王、或は鳳岡。雍正の擧人。經術に深く、乾隆中、鴻博に擧げられた。著に易貫・詩貫・孝經精義後錄・或問餘論がある。〔鶴徵後錄、六〕。

【張舒】425 チヤウジョ 清、元和の人。字は懷鷗。號は醉鷗。畫に巧。內廷に供奉すること二十年。

【張升】426 チヤウショウ 後漢、尉氏の人。字は彥眞。官は外黃令。黨錮に遇つて誅せられた。著に賦誄頌碑書凡そ六十篇がある。〔後漢書、一百十下〕。

【張承】427 チヤウショウ ❶三國、魏の人。範の弟。字は公先。袁術の帝と稱するを諫めて聽かれず、魏に歸す。官は趙郡太守。〔三國志、十一〕。❷三國、吳の人。昭の長子。字は仲嗣。諡は定。封は都鄕侯。官は奮威將軍。〔三國志、五十二〕。

【張昇】428 チヤウショウ ❶後魏、滎陽の人。孝子。盜賊も其の閭を侵さなかつたといふ。〔魏書、八十六〕・〔北史、八十四〕。❷宋、韓城の人。字は杲卿。諡は康節。進士。王曾が公輔の器であると稱譽した。官は英宗の時、太子太師。〔宋史、三百十八〕・〔宋史新編、一百二〕・〔東都事略、七十二〕・〔宋大臣年表、十一・十二〕・〔宋人軼事彙編、三百三〕。❸元、平州の人。字は伯高。諡は文憲。官は集賢侍講學士。〔元史、一百七十七〕。❹元、順昌の人。字は伯起。官は江南等處儒學提擧。至正の末、陳友諒が豫章を陷れた時、食を絕つて死す。〔延平府志〕。❺明、保山の人。字は德輝。天文地理に通ず。王驥に從つて麓川を征す。著に地理圖說・中星圖說がある。〔明史、三百〕・〔萬斯同明史、三百九十九〕・〔明史稿、二百八十二〕。❻明、南城の人。字は啓照。號は柏崖。諡は文喜。成化の進士。劉吉の十罪を劾す。官は禮部尙書。著に柏崖文集及び詩集がある。〔明史、一百八十四〕・〔萬斯同明史、二百四十一〕・〔明史稿、一百六十八〕・〔國朝獻徵錄、三十三〕・〔明詩綜、二十四〕。

【張松】429 チヤウショウ 後漢の人。才辯があり、劉璋の別駕となる。璋が松を曹操の所に遣した時、楊修が與に語つて之を器とし、松を操に薦めたが、納れられず、復た蜀に歸る。後、先主劉備が四川に入るや、地圖を獻ず。〔後漢書、一百五〕・〔琅琊代醉編、十八〕。

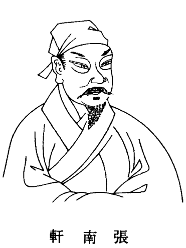
【張勝】430 チヤウショウ 漢の人。天漢の初、蘇武と匈奴に使し、繫留されて降る。〔前漢書、五十四〕。

【張竦】431 チヤウショウ 漢の人。紹の從弟。字は德松、又、伯松。封は淑德侯。官は丹陽の太守。後、賊と戰つて敗死す。〔前漢書、九十九上〕。

【張嵊】432 チヤウショウ 梁の人。稷の子。字は四山。諡は忠貞。官は吳興の太守。兵を擧げて侯景を討ち、敗死す。〔梁書、四十三〕。

【張式】433 チヤウショク 清、無錫の人。字は抱翁。號は荔門、又、夫椒山人。書に巧。能く臂を懸けて蠅頭楷を作す。〔清畫家詩史、庚、上〕。

【張栻】434 チヤウショク チヤウチヨク 宋の人。浚の子。字は敬夫、又、樂齋。諡は宣。衡陽に住む。學者、南軒先生と稱す。少くして穎悟、長じて理學に心を潛め、胡宏に師事し、朱子と交る。官は吏部侍郎・右文殿修撰。著に南軒易說・癸巳論語解・癸巳孟子說・伊川粹言・南軒集がある。〔宋史、四百二十九〕・〔宋史新編、一百六十二〕・〔南宋書、十四・四十五〕・〔皇朝道學名臣言行外錄、十三〕・〔宋元學案、四十四・五十〕。


張南軒
(三才圖會)

【張寔】435 チヤウショク 十六國、前涼の人。軌の子。字は安遜。諡は元。晉の元帝の時の大都督涼州牧。西平公を襲爵。在位五年。妖賊に殺さる。年號は建興。張祚が僭位して高祖と追尊す。〔晉書、八十六〕・〔魏書、九十九〕。

【張稷】436 チヤウショク 梁の人。瓌の弟。字は公喬。孝子。官は青・冀二州の刺史、鎭北將軍。魏が朐山に寇した時、州人徐道角が魏に應じて之を殺す。族兄充・融・卷と倶に名を知られ、時人は之を四張と稱す。〔梁書、十六〕。

【張燭】437 チヤウショク ともし火をかきたてる。〔齋藤拙堂、月瀨紀勝〕獨奈㆓日已落、黑雲覆㆑天、意殊悵悵、張㆑燭欲㆑飮。

【張臣】438 チヤウシン 明、榆林衞の人。官は陝西總兵官。良將で、甘肅の鎭と稱せられた。〔明史、二百三十九〕・〔萬斯同明史、三百二十三〕・〔明史稿、二百二十一〕。

【張杓】439 チヤウシン 宋の人。浚の次子。字は定叟。官は端明殿學士・知建康府。治辦の士。〔宋史、三百六十一〕・〔宋史新編、一百二十六〕・〔南宋書、十四〕・〔南宋制撫年表、四・九・十四・十九・三十六〕。

【張信】440 チヤウシン ❶明、臨淮の人。封は隆平侯。官は成祖の時、都督僉事。〔明史、一百四十六〕・〔萬斯同明史、一百九十〕・〔明史稿、一百三十四〕。❷明、膚施の人。孝子。〔明史、二百九十三〕・〔萬斯同明史、三百七十九〕・〔明史稿、二百七十四〕。❸張佶(191)を見よ。

【張津】441 チヤウシン 明、博羅の人。字は廣漢。成化の進士。官は戶部右侍郎・巡撫應天諸府。〔明史、一百八十六〕・〔萬斯同明史、二百五十六〕・〔明史稿、一百七十〕・〔國朝獻徵錄、六十〕。

【張宸】442 チヤウシン 清、上海の人。字は青琱。官は兵部主事。著に平圃遺稿がある。〔國朝耆獻類徵、一百四十一〕。

【張晉】443 チヤウシン 清、狄道の人。字は康侯。順治の進士。官は丹徒縣の長官。詩に巧。著に張康侯詩草がある。〔大清畿輔先哲傳、三十一〕・〔國朝詩人徵略、一〕。

【張深】444 チヤウシン ❶清の人。崟の子。字は叔淵。號は浪客・茶農。嘉慶の擧人。官は博平縣の長官。詩に巧。畫を善くす。〔清畫家詩史、己、上〕・〔國朝書畫家筆錄、三〕。❷清、鎭洋の人。字は徹侯。畫に巧。

【張紳】445 チヤウシン ❶明、濟南の人。字は士行、又、仲紳。號は雲門山樵・雲門遺老・龍門遺老。官は洪武の時、浙西布政。書畫に巧。著に法書通釋がある。〔明史、一百三十七〕・〔明詩綜、十三〕。❷清、建寧の人。字は怡亭。諸生。少くして豪傑の行を慕つたが、後、瘵を病み、習靜三月にして病癒えてから、節を折つて儒となり、詩古文辭に專心す。著に怡亭詩文集がある。〔清史列傳、七十二〕。

【張森】446 チヤウシン 清、睢州の人。字は玉標。諸生。同里の蘭芳に從つて性命の學を修む。著に皇極韻譜・易經卦變等がある。〔清史列傳、六十六〕・〔國朝耆獻類徵、四百五〕・〔碑傳集、一百三十九〕。

【張進】447 チヤウシン 宋、曲阜の人。拳勇にして射を善くす。官は幷代副都部署。〔宋史、二百七十九〕・〔宋史新編、八十〕。

【張愼】448 チヤウシン 清、海鹽の人。字は謹臣。號は南廬。諸生。山水畫に巧。尤も小楷に精通。〔清畫家詩史、丁、上〕。

【張溍】449 チヤウシン ❶清、磁州の人。字は尙若。順治の進士。篤學。身心性命の理を窮め、孫奇逢と往復辨論す。書室を讀書堂といひ、著に讀書堂杜詩注解・澹寧集がある。〔清史列傳、六十六〕・〔國朝耆獻類徵、一百十五〕・〔碑傳集、四十三〕・〔國朝先正事略、二十八〕・〔清儒學案小識、十〕。❷清、江蘇華亭の人。字は子晉。諸生。畫詩に巧。

【張詵】450 チヤウシン 宋、浦城の人。字は樞言。進士。官は龍圖閣直學士・知杭州。〔宋史、三百三十一〕・〔宋史新編、一百九〕・〔北宋經撫年表、七十五・七十七・八十二・一百十六〕。

【張震】451 チヤウシン ❶宋、休寧の人。字は嗣之。乾道の進士。陸九淵と義理を講明し、民訟を剖析し、編類して書を輯す。著に聽詞類稿がある。〔宋史、三百十〕・〔宋元學案、九十六〕。❷宋、益寧の人。字は東父(東甫)。號は無隱居士。官は孝宗の時、中書舍人。著に詞集がある。〔宋史翼、二十〕・〔南宋館閣錄、七・八〕・〔南宋制撫年表、四十

七〕。㊂張家駒(846)を見よ。

【張瑞】452 チャウズイ 清、長洲の人。字は維四。畫に巧。

【張崇】453 チャウスウ 五代、吳の愼縣の人。官は德勝軍節度使。不法を好む。〔十國春秋〕。

【張樞】454 チャウスウ ㊀元、陳留の人。字は夢辰。華亭に徙居す。行・楷書に巧、子弟に春秋を講じて仕宦せよとの勸めに應じなかつたので、時人が呼んで林泉民といふ。㊁元、金華の人。字は子長。至正の間、脫脫が國史を監修する時、樞を召したが應じなかつた。〔元史、一百九十八〕・〔宋元學案、八十二〕。

【張數】455 チャウスウ 紙かず。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕命㆓直堂吏㆒點㆓明張數㆒。

【張井】456 チャウセイ 清、膚施の人。字は芥航。號は畏堂・二竹齋。官は道光中、南河總督。著に二竹齋文鈔がある。〔清史稿、三百八十九〕・〔清史列傳、三十五〕・〔國朝耆獻類徵、二百〕・〔續碑傳集、三十三〕・〔碑傳集補、十六〕。

【張生】457 チャウセイ ㊀戰國、齊の人。將軍田瞶の出軍に當り、之を郊に送り、王事を以て諷諫す。〔說苑、尊賢〕。㊁漢、濟南の人。伏生に尙書を受け、博士となる。〔前漢書、八十八〕。

〖張生煮海〗458 チャウセイシヨカイ 戲曲の名。元代の人の撰。潮州の張羽が龍女の瓊蓮と結婚することを筋書とす。

【張成】459 チャウセイ ㊀清、上海の人。字は修己(仲居)。號は澹菴・華陽山外山人・贅疣先生。乾隆の擧人。竹を畫くに巧。書は歐虞を法とす。醫術に精し。書室を萬竹居といひ、著に萬竹居詩集がある。〔清畫家詩史、乙、下〕・〔墨香居畫識、九〕。㊁張伯端(1450)を見よ。

【張星】460 チャウセイ ㊀二十八宿の一。南方にあり。ちりこ。張宿。〔晉書、天文志上〕張六星、主㆓珍寶宗廟所㆑用及衣服㆒、又主㆓天廚・飲食・賞賚之事㆒。㊁明、永城の人。崇禎の進士。官は光祿寺署丞。著に顏子繹がある。〔國朝列卿記、一百三十六〕。

【張齊】461 チャウセイ 梁、馮翊の人。謚は壯。武帝の時、翊戴の功によつて安昌縣侯に封ぜられた。大いに魏軍を葭萌に破る。官は信武將軍。〔梁書、十七〕・〔南史、四十六〕。

【張整】462 チャウセイ 宋、鄮陽の人。字は成伯。蠻を大田に破る。官は涇原・眞定・京東等の鈐轄、後、威州刺史。〔宋史、三百五十〕・〔宋史新編、一百二十〕。

【張濟】463 チャウセイ 後魏、西河の人。字は士度。道武帝の愛臣。官は勝兵將軍。道武に從つて屢〻北伐す。〔魏書、三十三〕・〔北史、二十七〕。

【張聲】464 チャウセイ 聲をはりあげる。〔吳志、陸遜傳〕張㆑聲大視。

【張劭】465 チャウセウ 後漢、汝南の人。字は元伯。少くして太學に游び、山陽の苑式と交る。〔後漢書、一百十一〕。

【張弨】466 チャウセウ 清、江蘇山陽の人。字は力臣。號は亟齋。書畫に巧。六書に精しく、金石學に通ず。顧炎武の音學五書は弨の寫定したもの。著に昭陵六駿圖贊・瘞鶴銘辨がある。〔清史列傳、六十八〕・〔國朝耆獻類徵、四百十四〕・〔國朝先正事略、二十七〕・〔國朝漢學師承記、二〕。

【張邵】467 チャウセウ ㊀南朝宋の人。裕の弟。字は茂宗。謚は簡。晉の琅邪內史。封は宋武帝の時、臨沮伯。官は文帝の時、吳興太守。〔宋書、四十六〕・〔南史、三十二〕。㊁宋、烏江の人。字は才彥。建炎中、金に使す。官は敷文閣待制・提擧江州太平興國宮・知池州。〔宋史、三百七十三〕・〔宋史新編、一百三十五〕・〔南宋書、二十九〕・〔宋史翼、十三〕・〔皇朝名臣言行續錄、五〕。

【張昭】468 チャウセウ ㊀三國、吳の彭城の人。字は子布。謚は文。左氏春秋に通ず。漢末の大亂に難を避けて江を渡り、孫策の長史・撫軍中郎將となる。孫權が立つに及び、昭を輔吳將軍・婁侯に封じ、張公と呼んで名をいはず。著に春秋左氏傳解・論語注がある。〔三國志、五十二〕・〔英雄記鈔〕。㊁陳、吳郡の人。字は德明。孝子。〔陳書、三十二〕・〔南史、七十四〕。㊂宋の人。鄭國公直の子。字は潛夫。五代の唐・晉・漢・周に歷仕す。官は宋初、吏部尙書。封は鄭國公。著に嘉善集・名臣事迹がある。〔宋史、二百六十三〕・〔宋史新編、七十二〕・〔東都事略、三十〕・〔隆平集、十三〕。㊃明の人。官は天順の初、忠義前衞吏。英宗が復辟して馬雲等を西洋に派遣しようとした時、之を諫止す。〔明史、一百六十四〕・〔萬斯同明史、二百二十〕・〔明史稿、一百五十〕。

〖張昭塞門〗469 チャウセウソクモン 蒙求の標題。吳の張昭が孫權に恨まれて其の門を土で塞がれた時、昭もまた自ら內から土を以て門を封じた故事。〔吳志、張昭傳〕昭忿㆓言之不㆑用、稱㆑疾不㆑朝、權恨㆑之、土塞㆓其門㆒、昭又於㆑內以㆑土封㆑之。

【張炤】470 チャウセウ 元、濟南の人。字は彥明。謚は敬惠。戰功が多く、官は東昌路總管。書室を萬卷堂といふ。〔元史、一百七十〕。

【張紹】471 チャウセウ 漢の人。劉崇と共に王莽を誅せんとして敗る。〔前漢書、九十九上〕。

【張詔】472 チャウセウ 宋、成州の人。字は君卿。張俊の帳下。官は興州諸軍都統制。〔宋史、四百二〕・〔宋史新編、一百五十〕・〔南宋書、四十八〕・〔南宋制撫年表、五十四〕。

【張照】473 チャウセウ 清、江蘇華亭の人。字は得天。號は涇南・天瓶居士。謚は文敏。康熙の進士。官は雍正の間、刑部尙書。法律・音樂に精通。書に巧。書室を世澤堂・塔射園といふ。〔清史稿、三百十〕・〔清史列傳、十九〕・〔國朝耆獻類徵、七十一〕・〔國朝先正事略、十四〕・〔清代學者象傳、二〕。

【張裼】474 チャウセキ 唐、河間の人。字は公表。會昌の進士。官は天平節度使。〔舊唐書、一百七十八〕。

【張錫】475 チャウセキ ㊀唐、武城の人。則天武后の時、鳳閣侍郎・同平章事となる。廬陵王を還さんと請ひ、坐して循州に流された。韋后が朝に臨むや、相に復したが、旬日にして出でて絳州刺史となる。詩に巧。〔唐詩紀事、九〕・〔全唐詩、四〕。㊁宋、閩縣の人。五代の梁・唐・晉・漢・周に歷仕す。官は宋初に給事中。〔宋史、二百六十二〕・〔宋史新編、七十二〕。㊂宋、漢陽の人。字は晛之。進士甲科。官は太常博士から翰林侍讀學士・判太常寺・國子監。〔宋史、二百九十四〕・〔宋史新編、九十一〕・〔名臣碑傳琬琰集、中、九〕。

【張績】476 チャウセキ 清、長安の人。乾隆中、甘肅の回匪を勦伐するに從ひ、臺灣の林爽文を攻め、黔楚の苗を征し、皆功があつた。嘉慶中、教匪の征伐に從ふ。官は山西大同鎭總兵。〔國朝耆獻類徵、三百八〕。

【張籍】477 チャウセキ 唐、烏江の人。字は文昌。進士。韓愈に薦められて國子博士となる。古體詩を善くし、尤も樂府に長じ、王建と名を齊しくす。官は國子司業。著に張司業集がある。〔唐書、一百七十六〕・〔舊唐書、一百六十〕。

〖張籍飮㆓杜詩㆒〗478 チャウセキトシヲノム 張籍が名詩人とならうとして、杜甫の詩集を燒き、其の灰に膏蜜を混じて飮んだ故事。〔雲仙雜記〕張籍取㆓杜甫詩一帙㆒焚、取㆓灰燼㆒副以㆓膏蜜㆒頻飮㆑之曰、令㆓吾肝腸從㆑此改易㆒。

【張岊】479 チャウセツ 宋、府谷の人。字は子雲。天聖中、浪黃黨兒の兩族を破る。官は洛苑使。〔宋史、三百二十六〕・〔宋史新編、一百五〕。

【張設】480 チャウセツ ㊀はりまうける。十分に備へる。又、はりそなはる。十分に備はる。〔漢書、朱博傳〕網絡張設。〔後漢書、申屠傳〕張㆓設重法㆒。㊁發展し活動すること。〔吳子、論將〕三軍之衆、百萬之師、張設輕重、在㆓於一人㆒。

〖張設布列〗481 チャウセツフレツ つらなりそなはりしきならぶ。〔孔穎達、周易正義序、第一論㆓易之三名㆒〕此言㆓其張設布列不㆑易者㆒也。

【張節】482 チャウセツ 明、涇陽の人。字は介夫。號は石谷。湛若水・呂柟の弟子。〔明史、二百八十二〕・〔萬斯同明史、三百八十五〕・〔明史稿、二百六十四〕・〔明儒學案、八〕。

【張涉】483 チャウセフ 唐、蒲州の人。文章を能くし、嘗て有司に請うて日に萬言を試み、張萬言と稱せられた。德宗も嘗て經を涉に學んだ。官は散騎常侍。〔舊唐書、一百二十七〕。

【張捷】484 チャウセフ 明、丹陽の人。萬曆の進士。官は福王の時、吏部尙書。南都が守を失つた時、縊死す。〔明史、二百七十五〕・〔萬斯同明史、三百五十九〕・〔明史稿、二百四十〕・〔小腆紀年、七〕。

【張爕】485 チャウセフ ㊀明、龍溪の人。字は紹和。號は霏雲主人。萬曆の擧人。博學多通。書室を萬石山房といひ、著に東西洋考がある。〔四庫提要、七十一〕。㊁清、常熟の人。字は子和。乾隆の進士。官は至寧紹台道。詞章を以て名があり、藏書を好

み、黃丕烈と共に兩書淫と目せられた。其の藏書の處を小嫏嬛福地といふ。又、書室を味經書屋といひ、著に味經書屋集・小嫏嬛隨筆がある。

【張仙】486 チャウセン 神の名。小兒の病を治すことを主る。其の像は、彈弓を挾み、貴者の裝をなす。〔金臺紀聞〕爲二蜀主孟昶之挾レ彈圖一、花蕊夫人攜入二宋宮一、嘗懸二於壁一、大祖詰レ之、詭曰、此張仙神也。〔陔餘叢考、張仙〕世所レ稱張仙像、張レ弓挾レ彈、似二貴游公子一、或曰、卽張星之神也、陸文裕金臺紀聞云、後蜀主孟昶挾レ彈圖、花蕊夫人攜入二宋宮一、念二其故主一、嘗懸二于壁一、一日太祖詰レ之、詭曰、此蜀中張仙神也、祀レ之能令二人有一レ子、于レ是傳二之人閒一、遂爲二祈レ子之祀一云、郎瑛七修類稿、亦載二此說一、又王弇州勘書跋、宋初降王、惟孟昶具二天人相一、見二于花蕊夫人所レ供、其童子爲二元喆一、武士爲二趙廷隱一、當時進御者、以二勝國一故不三敢具二其寔一、乃目爲二文皇一耳、據レ此則此像又有下托レ之爲二唐太宗一者上、余謂、此二說皆未二必然一、祀之入レ汴也、宋祖親見レ之、花蕊果攜二其像一、宋祖豈不レ能二識別一、而敢以二詭辭一對、至三托爲二唐文皇一、則更無レ謂、按、高青邱有下謝海雪道人贈二張仙像一詩上云、余未レ有レ子、海雪以二此像一見レ贈、蓋蘇老泉嘗禱レ之、而得二二子一者、因賦レ詩以謝云、道人念二我書無一レ傳、畫二圖卷一贈二成都仙一云、昔蘇夫子、建二之玉局一禱甚虔、乃生二五色兩鳳鵷一、和鳴上下相聯翩、然則此像本起二于蜀中閨閣祈一レ子、久已成レ俗、是以花蕊攜以入レ宮、後人以二其來レ自二蜀道一、轉疑爲二孟昶像一耳。

【張先】487 チャウセン ㊀宋、博州の人。遜の孫。字は子野。天聖の進士。官は亳州の長官。〔宋史、二百六十八〕。㊁宋、烏程の人。齊東野語には湖州の人に作る。字は子野。康定の進士。官は都官郎中。詞に巧。柳惲と名を齊しうす。其の詞中に心中事・眼中事・意中人があるので、時人は彼を張三中といひ、其の得意の作の詞に皆、影の字があるので、自らは稱して張三影といふ。著に安陸集二卷、詞一卷がある。〔宋史翼、二十六〕・〔宋人軼事彙編、四百二十五〕・〔石林詩話〕・〔浙江通志〕。

【張宣】488 チャウセン ㊀五代、吳の人。字は致用。官は武昌軍節度使。〔十國春秋〕。㊁明、江陰の人。字は藻重。洪武の初、元史の纂修に預る。官は翰林編修。太祖は彼を小秀才と呼ぶ。〔明史、二百八十五〕・〔萬斯同明史、三百八十六〕・〔明史稿、二百六十六〕・〔明詩綜、六〕。

【張臶】489 チャウセン 三國、魏の鉅鹿の人。字は子明。漢魏の閒、徵されたが皆就かず、常山に遁る。卒年百五歲。〔三國志、十一〕。

【張瑄】490 チャウセン ㊀元、嘉定の人。少くして朱清と同じく盜となり、結んで兄弟となる。清が大司農となつた時、瑄は資善大夫江南行省參知政事となる。〔新元史、一百八十二〕。㊁明、江浦の人。字は廷璽。正統の進士。刑部主事を授けられて、名聲があり、廣東右布政使に累擢せられ、廣西陽江の諸賊を平定す。後、南京刑部尙書。著に南征錄がある。〔明史、一百六十〕・〔萬斯同明史、二百二十八〕・〔明史稿、一百六十一〕。

【張羨】491 チャウセン 隋、鄭の人。謚は定。官は南北朝の魏の蕩難將軍、周の司成中大夫。著に道言五十二篇がある。〔隋書、四十六〕。

【張詮】492 チャウセン 晉の人。野の族子。字は秀碩。墳典を嗜む。庾悅が尋陽令に起用しようとしたが、廬山に入つて遠公に依る。〔蓮社高賢傳〕。

【張戩】493 チャウセン 宋の人。載の弟。字は天祺。進士。熙寧の初、監察御史裏行となり、王安石の亂法を論じて公安縣の長官に出され、夏縣の長官に徙り、更に鳳翔府司竹監に徙る。關中の學者は兄の載と併せて二張と稱した。〔宋史、四百二十七〕・〔宋史新編、一百六十一〕・〔東都事略、一百十四〕・〔皇朝道學名臣言行外錄、四〕・〔宋元學案、十八〕。

【張銑】494 チャウセン 唐の人。呂尙・延濟・劉良・李周翰と共に文選の五臣注を作る。〔唐書、二百二〕。

【張銓】495 チャウセン ㊀明、定遠の人。官は都督僉事。五溪・烏撒の諸蠻を征す。封は洪武の時、永定侯。〔明史、一百三十〕・〔萬斯同明史、一百六十六〕・〔明史稿、一百十九〕。㊁明、沁水の人。字は宇衡。謚は忠烈。萬曆の進士。官は熹宗の時、遼東巡按。忠節の士。寇賊に捕へられて自經す。著に國史紀聞がある。〔明史、二百九十一〕・〔萬斯同明史、三百七十七〕・〔明史稿、二百七十一〕・〔明詩綜、七十二〕。

【張潛】496 チャウセン 金、武清の人。字は仲升。幼くして志節があり、荊軻・聶政の人と爲りを慕ふ。三十にして始めて節を折つて學に志す。時人、其の行義を高しとし、張古人といふ。五十にして孫氏を娶る。賢行が多い。天興の閒、兵を少室山に避けて餓死す。〔金史、一百二十七〕。

【張遷】497 チャウセン 後漢、陳留己吾の人。字は公方。景氏易を治む。官は穀城の長、後、蕩陰令。

【張遷碑】498 チャウセンノヒ 漢の碑。張遷の德を追頌したもの。碑文は東京の風格があり、書風は豐茂にして質實、婁壽碑に似る。〔金石文字記、蕩陰令張遷碑〕八分書、今在二東平州一、儒學歐陽趙洪三家、皆無二此碑一、山東通志曰、近掘レ地得レ之、豈好事者、得二古本一而摹二刻之一耶。

【張選】499 チャウセン 明、無錫の人。字は舜擧。號は靜思。嘉靖の進士。官は穆宗の初、通政參議。著に張靜思文集がある。〔明史、二百七〕・〔萬斯同明史、二百八十二〕・〔明史稿、一百九十一〕。

【張薦】500 チャウセン 唐の人。鷟の孫。字は孝擧。謚は憲。周官・左氏春秋を修む。代宗の時、史館修撰に充てられ、裴延齡に忌まれた。三度回紇・吐蕃に使す。官は御史中丞。〔唐書、一百六十一〕・〔舊唐書、一百四十九〕。

【張闡】501 チャウセン 宋、永嘉の人。字は大猷。號は三溪釣徒。宣和の進士。官は孝宗の時、權工部侍郎、後、工部尙書、兼侍讀。胡銓と共に金人と媾和することの不可を極言す。〔宋史、三百八十一〕・〔宋史新編、一百三十九〕・〔南宋書、二十四〕・〔四朝名臣言行錄、下、六〕・〔南宋館閣錄、七・八〕。

【張全】502 チャウゼン 張三丰(1075)を見よ。

【張然】503 チャウゼン 清、嘉定の人。詩畫に巧。康熙中、內廷に供奉すること三十年、恩寵が甚だ厚かつた。〔國朝耆獻類徵、四百二十七〕・〔國朝畫識、八〕。

【張祚】504 チャウソ ㊀十六國、前涼の人。駿の子。字は太伯。謚は威。既に立ち、自ら大都督・大將軍・涼州牧・涼公と稱す。晉の永和中、帝位を僭稱し、後、宗人に殺された。在位三年。年號は和平。〔晉書、八十六〕。㊁明、松江華亭の人。字は永錫。景泰の進士。官は廣東按察僉事。後、河南副使。〔蘭臺法鑒錄、九〕。

【張組】505 チャウソ 帷をはる。〔謝靈運、從二游京口北固一應詔詩〕張レ組眺二倒景一、列レ筵矚二歸潮一。〔注〕濟曰、組、組帷也。〔譚子化書〕張レ組設レ繡、食之惑也。

【張訴】506 チャウソ 江戶時代、人民が訴訟を起すために、訴狀を評定所、其の他の役所の門等に張附けること。〔牧民金鑑、二十、文化十一年六月申渡〕各役所・陣屋等江張訴・捨訴有レ之節取計方之儀。

【張嗉】507 チャウソ 星宿の名。張宿(391)を見よ。〔漢書、天文志〕張嗉爲レ廚、主レ觴レ客。

【張楚】508 チャウソ 秦の滅亡後、陳涉の建てた國の名號。楚國を張大にする意。〔史記、陳涉世家〕三老豪傑皆曰、將軍誅二暴秦一、復立二楚國之社稷一、功宜レ爲レ王、陳涉乃立爲レ王、號爲二張楚一。〔注〕索隱曰、欲三張二大楚國一、故稱二張楚一。

【張礎】509 チャウソ 元、北通州の人。字は可用。謚は文敏。世祖に從つて宋を伐つ。檄文は多くは其の手に成る。官は安豐路總管。〔元史、一百六十七〕。

【張宗】510 チャウソウ 後漢、魯陽の人。字は諸君。鄧禹の偏將となり、赤眉を拒ぐ。官は大夫・琅邪相。〔後漢書、六十八〕。

【張僧】511 チャウソウ 金の徒單航(**4**－**10121**‥70)の一名。

【張璁】512 チャウソウ 明、永嘉の人。字は秉用。後、名を孚敬、字を茂恭と賜はる。謚は文忠。正德の進士。官は華蓋殿大學士。著に諭對錄・奏對錄・保和冠服圖・張文忠集がある。〔明史、一百九十六〕。

【張熷】513 チャウソウ 清、仁和の人。字は曦亮。號は南漪。乾隆の擧人。著に南漪遺集がある。〔國朝耆獻類徵、四百三十四〕。

【張率】514 チャウソツ チャウシュツ ㊀梁の人。瓌の子。字は士簡。作文に巧。武帝が相如・枚皐を兼ぬと稱譽した。官は新安太守。〔梁書、三十三〕。㊁明、廣信の人。字は孟循。元末、詩を以て名があり、徵されて嘉定州の長官となり、秩滿ちて歸る。著に張嘉定

集がある。〔明詩綜、十三〕。

【張存】515 チャウソン　宋、冀州の人。字は誠之。諡は恭安。進士。官は天禧中、禮部尚書。性、孝友。〔宋史、三百二十〕・〔宋史新編、一百二〕・〔名臣碑傳琬琰集、中、十一〕。

【張村】516 チャウソン　鎭の名。❶河南省鄧縣の西北。湍河の南岸。〔金史、地理志〕南陽云云、鎭一、張村。❷江西省樂平縣の境。

【張巽】517 チャウソン　宋、泉州の人。字は子文。張栻・朱熹に師事す。草堂が錦溪に在つたので錦溪先生と稱す。〔宋元學案、七十一〕・〔元祐黨人傳、九〕。

【張遜】518 チャウソン　❶唐の人。官は乾寧の初、山陰令。董昌が反し、百官を署置して招いたが從はず、遂に殺された。〔唐書、一百九十三〕。❷宋、高唐の人。官は右驍衞大將軍・知江陵府。〔宋史、二百六十八〕・〔宋史新編、七十五〕・〔東都事略、三十三〕・〔隆平集、九〕。❸元、呉郡の人。字は仲敏。號は溪雲。竹を畫くに巧。〔元史、一百九十七〕。

【張岱】519 チャウタイ　❶南齊の人。裕の子。字は景山。諡は貞。官は高帝の時、給事中、武帝の時、呉興太守。兄寅・鏡・永、弟辯と倶に張氏の五龍と稱せられた。〔南齊書、三十二〕。❷清、劍州の人。錢塘に僑寓す。字は陶菴。號は蝶菴居士。著に西潮夢尋がある。〔四庫提要、七十六〕。

【張泰】520 チャウタイ　❶明、太倉の人。字は亨父。天順の進士。官は修撰。陸釴・陸容と共に婁東の三鳳と稱せられた。著に滄洲集がある。〔明史、二百八十六〕・〔萬斯同明史、二百三十六〕・〔明史稿、二百六十七〕・〔明人小傳、二〕・〔明詩綜、二十二〕。❷明、順德の人。字は叔亨。成化の進士。官は南京戸部尚書。〔明史、一百八十六〕・〔萬斯同明史、二百四十九〕・〔明史稿、一百七十〕。

【張大】521 チャウダイ　ひろげておほきくする。擴大する。盛にする。張皇。擴張。〔書、康王之誥、張二皇六師一、傳〕言レ當三張二大六師之衆一。〔韓愈、送二楊少尹一序〕太史氏又能張二大其事一、爲レ傳繼三二疏蹤跡二否。

【張鼐】522 チャウダイ　❶明、歷城の人。字は用和。學者、柏山先生と稱す。成化の進士。官は右僉都御史、遼東巡撫。〔明史、一百八十六〕・〔萬斯同明史、二百四十九〕・〔明史稿、一百七十〕・〔小腆紀年、二〕。❷明、松江華亭の人。字は世調。萬曆の進士。官は南京吏部右侍郎・詹事府詹事。著に呉淞甲乙倭變志・餤堂考故がある。〔四庫提要、五十四〕。

【張棠】523 チャウタウ　清、江蘇華亭の人。字は吟樵。康熙の擧人。官は桂林府の長官。詩に巧。書室を耘書樓・賦清草堂といひ、著に賦清堂詩鈔がある。〔四庫提要、一百八十四〕。

【張湯】524 チャウタウ　漢、杜陵の人。幼少の時、鼠に肉を盜まれ、父に笞うたれるや、搜索して鼠及び餘肉を得、鼠を劾し、訊鞫して獄を具し、鼠を堂下に磔す。其の文辭は老練の獄吏の如し。官は武帝の時、御史大夫。獄を治めて深文刻酷、朱買臣等に陷れられて自殺す。〔史記、一百二十二〕・〔前漢書、五十九〕。

〖張湯母〗525 チャウタウノハハ　漢の武帝の時、張湯は御史となり、好んで人を勝陵し、母が數〻責怒したが改悛せず、後、罪に坐して自殺す。昆弟が厚く葬らうとすると、母が湯は天子の大臣となり、惡言を被りて死す、何ぞ厚く葬らんとて、棺ありて槨なく、牛車に載す。武帝は之を聞き、此の母に非ざればこの子を生む能はずとて、湯を陷れた者を案じて誅す。〔列女傳、八〕。

〖張湯巧詆〗526 チャウタウカウテイ　蒙求の標題。漢の張湯が廷尉となり、文を弄し、巧に罪を誣ひた故事。〔漢書、張湯傳〕湯爲二廷尉一、云云、所レ治、卽上意所レ欲レ辠、予二監吏深刻者一、卽上意所レ欲レ釋、予二監吏輕平者一、所レ治卽豪、必舞レ文巧詆。〔注〕師古曰、詆、誣也。

【張燾】527 チャウタウ　❶宋の人。奎の子。字は景元。進士。官は通議大夫。〔宋史、三百三十三〕・〔宋史新編、一百十〕。❷宋の人。根の子。字は子公。諡は忠定。宣和の進士。官は兵部侍郎。上疏して和議を力詆し、秦檜に忤ひ、出でて成都府の長官となる。惠政が多い。〔宋史、三百八十二〕・〔宋史新編、一百三十九〕・〔南宋書、二十四〕・〔四朝名臣言行錄、下、三〕・〔南宋館閣錄、八〕。❸清、連江の人。小字は洪居。順治の閒、海寇が至り、一門が皆死んだが獨り父の震公は他に行つてゐたので免れた。燾は時に七歲、捕へられて厚門清漳に轉徙す、稍〻長じて其の親を痛念し、連江に奔つて道に哭し、父に遇つて歸るを得た。〔清史稿、五百三〕・〔國朝耆獻類徵、三百八十五〕・〔國朝先正事略、五十六〕。❹張庚(107)を見よ。

【張鐄】528 チャウタウ　宋、衡山の人。浚の後。官は朝奉郎。義兵を擧げて文天祥と相應じ、節に死す。〔宋史、四百五十四〕・〔宋季忠義錄、七〕。

【張讜】529 チャウタウ　後魏、東武城の人。字は處言。諡は康。官は宋の孝武帝の時、魏郡太守。後、魏に仕へ、封は魏の平陸侯。官は平遠將軍。〔魏書、六十一〕・〔北史、四十五〕。

【張倬】530 チャウタク　清の人。登の弟。字は飛疇。醫術に精通。著に傷寒證析義がある。〔大清畿輔先哲傳、三十〕。

【張澤】531 チャウタク　明、桐城の人。字は大被。嘉靖中、選貢生から沅江・巫山兩縣の長官を歷、衢州通判、廣安州の長官に遷り、治行が卓異なるを以て雲南僉事に擢んでられた。武定の土酋鳳繼祖が叛して新城を圍むや、兵を督して馳せ救ひ、執へられて殺された。〔萬斯同明史、三百一〕・〔國朝獻徵錄、一百二〕。

【張囊】532 チャウタク　ふくろを大きくひろげる。袋をひろげて物を入れること。相手を、自分の袋の中に入れてゐる品物のやうに、自由にする意。囊は兩方に口のあるふくろ。〔南史、宋明帝紀〕中書舍人胡母顥、專レ權、奏無レ不レ可、時人語曰、禾絹閉レ眼諾、胡母大張レ囊、禾絹、謂レ上也。

【張鐸】533 チャウタク　宋、河朔の人。少くして軍籍に入り、初、五代の漢に仕へ、周を歷て、宋に入る。官は京城內外都巡檢・鄜州刺史。〔宋史、二百六十一〕・〔宋史新編、七十一〕。

【張達】534 チャウタツ　明、涼州の人。諡は忠剛。嘉靖の閒、總兵官を以て大同を鎭す。俺答と戰つて敗死す。〔萬斯同明史、三百〕・〔明史稿、一百七十五〕。

【張丹】535 チャウタン　清、錢塘の人。原名は綱孫。字は祖望。號は秦亭、又、竹隱君。性、恬淡、交遊を樂まず、山水を好む。其の詩は悲涼沈遠にして、丁彭等と共に西泠十子と稱せられた。書室を從野堂といひ、著に從野堂集がある。〔清史稿、四百八十九〕・〔清史列傳、七十〕・〔國朝耆獻類徵、四百二十四〕。

【張旦】536 チャウタン　宋、趙州の人。勇敢にして射を善くす。經學を以て及第し、國子博士と爲り、淳化中、陵州の長官となり、賊數萬を破る。眞宗の時、知德清軍。景德中、契丹と戰つて敗死す。〔宋史、三百八〕・〔宋史新編、八十五〕。

【張紞】537 チャウタン　明、富平の人。字は昭季。洪武中、明經に擧げらる。官は建文の時、吏部尚書。彈劾に遇つて縊死す。著に雲南機務鈔黃・冢宰文集がある。〔明史、一百五十一〕・〔萬斯同明史、一百八十八〕・〔明史稿、一百四十〕。

【張單】538 チャウタン　竈神の姓名。〔酉陽雜俎、諾皐記上〕竈神、名隗、狀如二美女一、又姓張、名單、字子郭、云云、常以二月晦日一上レ天、白二人罪狀一、大者奪レ紀、紀三百日、小者奪レ算、算一百日。

【張湛】539 チャウタン　❶後漢、平陵の人。字は子孝。中東門侯舍に居たので、時人は之を中東門君と稱す。官は太子太傅。〔後漢書、五十七〕。❷後魏、敦煌の人。字は子然、又、仲元。沮渠蒙遜に仕へ、後、魏に入る。清貧の士。〔魏書、五十二〕・〔北史、三十四〕。

〖張湛白馬〗540 チャウタンハクバ　蒙求の標題。後漢の張湛が常に白馬に乘り、よく光武帝を諫めた故事。〔後漢書、張湛傳〕光武臨レ朝、或有二惰容一、湛輒陳二諫其失一、常乘二白馬一、帝每レ見レ湛、輒言、白馬生且二復諫一矣。

【張端】541 チャウタン　❶元、江陰の人。字は希尹。博學好修。官は江浙行樞密院都事。世人、溝南先生と稱す。著に溝南漫存稿がある。〔元詩紀事、二十三〕。❷清の人。忻の子。號は寄亭。諡は文安。明の崇禎の進士。順治中、弘文院檢討を授けられ、明史纂修官に充てられ、國史院大學士に累官す。〔清史稿、二百四十四〕・〔清史列傳、七十九〕。

【張澹】542 チャウタン　❶宋、南陽の人。字は成文。五代晉の開運閒の進士。官は五代周の時、右司員外郎・知制誥、宋初、權檢點三司事。〔宋史、二百六十九〕・〔宋史新編、七十五〕。❷清、震澤の人。字は春水。號は耕雲。山水畫を善くし、詩に巧。書室

を風雨草堂といひ、著に風雨草堂稿がある。〔清畫家詩史、庚、上〕。

【張膽】543 チャウタン　膽を大いにはる。勇氣を振ふ。〔史記、張耳陳餘傳〕將軍瞋㆑目張㆑膽。〔後漢書、班超梁慬傳論〕發㆑憤張㆑膽。〔唐書、韋思謙傳〕明㆑目張㆑膽、以報㆓天子㆒。

【張枏】544 チャウダン　宋の人。字は材仲。官は遂安縣の長官。後、泰・潤・衡の三州の長官に歷任。〔尙友錄、八〕。

【張治】545 チャウチ　明、茶陵の人、字は文邦。謚は文肅。正德中、會試第一。官は南京吏部尙書。入りて文淵閣大學士となり、太子太保に進む。著に龍湖文集がある。〔萬斯同明史、二百六十六〕・〔明人小傳、二〕・〔明詩綜、三十七〕。

【張智】546 チャウチ　智をてらふ。偉がる。〔燕子箋、購倖〕做㆓張智妝喬㆒。

【張丑】547 チャウチウ　明の人。應文の子。原名は謙德。字は叔益。後、丑と名を改む。字は青父。號は米菴・亭亭山人・眞晉齋。法書・名畫を好む。著に名山藏・清河書畫舫十二卷・眞蹟日錄がある。〔四庫提要、一百十三〕・〔明人小傳、二十四〕・〔明詩綜、六十七〕。

【張肘】548 ハリヒヂ　❶肘を左右に張ること。❷意地を立てること。我を張ること。〔源氏冷泉節、五〕。

【張籌】549 チャウチウ　明、無錫の人。字は惟中。官は禮部尙書。著に昭鑑錄がある。〔明史、一百三十六〕・〔萬斯同明史、一百七十五〕・〔明史稿、一百二十四〕・〔明人小傳、一〕・〔明詩綜、四〕。

【張昶】550 チャウチャウ　後漢の人。芝の弟。字は文舒。書は其の兄に類し、八分に巧。時人は之を亞聖といふ。官は黃門侍郎。華嶽廟堂碑文を自ら撰して書す。建安中、卒す。〔後漢書、九十五〕。

【張昶】551 チャウチャウ　明、長洲の人。字は景春。著に吳中人物志がある。〔明史、三百〕・〔萬斯同明史、三百九十九〕・〔明史稿、二百八十二〕。

【張暢】552 チャウチャウ　南朝宋の人。禕の子。字は少微。謚は宣。官は吏部尙書。封は夷道縣侯。〔宋書、五十九〕。

【張中】553 チャウチユウ　明、臨川の人。字は景華。進士の試驗に應じたが及第せず、常に鐵冠を戴き、鐵冠子（鐵冠道人）と稱せられた。〔明史、二百九十九〕・〔萬斯同明史、三百九十七〕・〔明史稿、二百八十一〕。

【張仲】554 チャウチユウ　❶周の賢臣。性孝。尹吉甫の友。〔詩、小雅、六月〕侯誰在矣、張仲孝友。❷張負の子。張負(643)を見よ。〔史記、五十六〕。

〔張仲簠〕555 チャウチユウホ　周器の名。張仲は人名。薛尙功の彝器款識に此の簠を載す。孫詒讓が曾て阮摹宋搨本に據って之を攷釋した。

【張沖】556 チャウチユウ　❶南齊、吳郡の人。字は思約。封は定襄侯。官は輔國將軍。〔南齊書、四十九〕。❷隋、吳郡の人。字は叔玄。官は漢王侍讀。著に春秋義・喪服義・孝經義・論語義・前漢書義等がある。〔隋書、七十五〕・〔北史、八十二〕。

【張忠】557 チャウチユウ　❶晉、中山の人。字は巨和。謚は安道先生。永嘉の亂に、泰山に隱居す。苻堅が徵して長安に至らしめ、衣冠を賜うたが辭して受けなかった。〔晉書、九十四〕。❷宋、開封の人。字は聖毗。官は澶州總管。〔宋史、三百二十三〕・〔宋史新編、一百四〕。❸宋、開封の人。龍猛軍に隷す。官は英州團練使。賊に遇って死す。〔宋史、三百二十六〕・〔宋史新編、一百五〕。❹明、霸州の人。官は正德の時、御馬監太監。宸濠の賂を受け斬られた。〔明史、三百四〕・〔萬斯同明史、四百六〕・〔明史稿、二百八十三〕・〔國朝獻徵錄、七十一〕。

【張翀】558 チャウチユウ　❶明、潼川の人。字は習之。正德の進士。官は禮科都給事中。世宗の時、大禮を爭ひ廷に杖せられた。〔明史、一百九十二〕・〔萬斯同明史、二百七十九〕・〔明史稿、一百八十九〕。❷明、柳州の人。字は子儀。嘉靖の進士。謚は忠簡。官は穆宗の時、刑部右侍郎。著に渾然子がある。〔明史、二百十〕・〔萬斯同明史、三百六〕・〔明史稿、一百九十四〕・〔明人小傳、三〕・〔明詩綜、四十四〕。❸明、江都の人。字は圖南。號は子羽。畫に巧。〔明畫錄、一〕。❹清、麗水の人。字は南溟。官は康熙中、羅源縣の長官。❺清、青浦の人。字は東谷。號は晚翠老人。畫に巧。〔國朝書畫家筆錄、二〕・〔國朝畫識、十二〕。

【張著】559 チャウチヨ　明、永嘉の人。字は則明。元末、游學して常熟に至り、舉げられて州學訓導となる。洪武中、鄉薦を領し、官は臨江府同知。〔明詩綜、十三〕。

【張女】560 チャウヂヨ　古の曲名。その聲は哀しといふ。張女彈。〔潘岳、笙賦〕輟㆓張女之哀彈㆒、流㆓廣陵之名散㆒。〔注〕善曰、閔洪琴賦曰、汝南鹿鳴、張女羣彈、然蓋古曲、未㆑詳㆑所㆑起、銑曰、張女彈、曲名也、其聲哀。〔江總、雜曲〕曲中惟聞㆓張女調㆒、定有㆓同姓可㆑憐人㆒。

〔張女彈〕561 チャウヂヨダン　古の曲名。張女に同じ。〔陸機、擬㆓今日良宴會㆒詩〕齊僮梁甫吟、秦娥張女彈、哀音繞㆓梁宇㆒、遺響入㆓雲漢㆒。

【張直】562 チャウチヨク　❶唐、濮州の人。父が黃巢の亂にあって行方不明になり、直は徒行丐食して父を求めたが得ず、哀を發し、服を行ひ、躬ら海濱に耕し、周易・春秋を以て教授す。時人、逍遙先生といふ。〔宋史、二百六十三〕・〔萬姓統譜〕。❷宋、范縣の人。性、至孝。後唐の莊宗の時、官は監察御史裏行。後晉の天福の初、汴州に從幸、宰相桑維翰が薦めて翰林學士とす。官は宋初、吏部尙書。封は鄭國公。〔尙友錄、八〕。

【張琛】563 チャウチン　明、東平の人。孝子。官は福建左布政使。〔明史、二百九十六〕・〔蘭臺法鑒錄、五〕・〔本朝分省人物攷、九十五〕。

【張椿】564 チャウチン チャウチユン　張瑃に同じ。

【張瑃】565 チャウチン　清、陽城の人。清一統志に張椿に作る。字は伯珩。明の崇禎の進士。清に入って官は陝西巡撫。〔國朝耆獻類徵、一百五十〕・〔碑傳集、六十二〕。

【張丁】566 チャウテイ　明の張孟兼をいふ。丁は名。張孟兼(1526)を見よ。

【張底】567 チャウテイ　唐の崔湜が、張嘉貞を輕んじて呼んだ語。〔隋唐嘉話〕崔湜輕㆓張嘉貞㆒、呼爲㆓張底㆒、後因㆑議㆑事、皆出㆓人右㆒、湜曰、張底乃是我一般人。

【張貞】568 チャウテイ　清、安丘の人。字は起元。號は杞園・渠亭・鄔波索解心禪。康熙の拔貢。鴻博に舉げられたが遂に試みられなかった。官は翰林院孔目。書室を寶墨樓といひ、著に渠亭・潛州・娛老の諸集がある。〔清史列傳、七十〕。

【張庭】569 チャウテイ　明、蒲州の人。萬曆の進士。官は戶部郎中。〔明史、二百三十五〕・〔萬斯同明史、三百四十一〕・〔明史稿、二百二十九〕。

【張悌】570 チャウテイ　三國、吳の襄陽の人。字は巨先。官は孫休の時、屯騎校尉。後、晉兵に殺された。〔襄陽記〕。

【張棣】571 チャウテイ　宋の人。もと金の人。宋に入って其の見聞を述べ、正隆事迹記・金圖經の二書を著はす。〔四庫提要、五十二〕。

【張楨】572 チャウテイ　元、汴の人。字は約中。元統の進士。官は僉山南道肅政廉訪司事。也先不花等が權を弄して國を誤るのを彈劾したが報いられず、後、山谷に幽居す。〔元史、一百八十六〕。

【張鼎】573 チャウテイ　明、陝西咸寧の人。字は大器。成化の進士。官は戶部右侍郎。薛瑄の門人。師說を守り、瑄の文集を搜輯校正す。學者、自在先生と稱す。〔明史、二百九十六〕・〔萬斯同明史、二百四十四〕・〔國朝獻徵錄、三十〕・〔明儒學案、七〕。

【張嵿】574 チャウテイ　明、蕭山の人。字は時俊。成化の進士。黃鏐・蔡猛三等の賊を討つ。佛郎機國人別都盧が新會に入寇するや、海に出でて之を擒にす。官は工部尙書。〔明史、二百〕・〔萬斯同明史、二百九十二〕・〔明史稿、一百八十〕。

【張朝】575 チャウテウ　群臣百姓の列すべき場所を臨時に設けること。朝は、朝廷で、臣下が參列する所。〔呂覽、開春〕昔王季歷、葬㆓於渦山之尾㆒、欒水齧㆓其墓㆒、見㆓棺之前和㆒、文王曰、譆、先君必欲㆔一見㆓群臣百姓㆒也、天故使㆓欒水見㆒㆑之、於㆑是、出而爲㆑之張㆑朝、百姓見㆑之、三日而後更葬。

【張超】576 チャウテウ　❶後漢、鄚の人。良の後。字は子並。靈帝の時、朱雋に從って黃巾を討つ。官は別駕司馬。草書に巧。〔後漢書、一百一下〕。❷清、婁縣の人。字は文圃。又、雯補。號は樵水。書畫に巧。〔墨香居畫識、四〕。

〔張超谷〕577 チャウテウコク　谷の名。陝西省華陰縣の華山毛女峯の東北。後漢の張楷(字は公超)が此處に家居したので張超谷といふ。又、霧谷・霧市谷ともいふ。宋の陳摶が此處に石室を作った。〔讀史方輿紀要、陝西、名山、泰華山〕有㆓霧谷㆒、後漢張超居㆑此、宋陳摶命㆓弟子㆒鑿㆓張超谷中石室㆒、是也。

【張潮】578（チヤウテウ）　清、歙縣の人。字は山來、又、心齋。號は三在道人。歲貢を以て翰林孔目となる。著に昭代叢書・檀几叢書・虞初新志・花影詞がある。〔四庫提要、一百三十四〕。

【張雕】579（チヤウテウ）　北齊、中山北平の人。北史に彫武に作る。五經に通じ、尤も三傳に明かにして、弟子の業を受けるもの百をもつて數ふ。神武に召されて其の諸子と講讀す。官は平原太守、後、侍中。韓長鸞の譖に遇つて誅せられた。〔北齊書、四十四〕・〔北史、八十一〕。

【張迪】580（チヤウテキ）　明、松江華亭の人。字は文海。著に日本東夷朝貢考がある。〔明詩綜、十五下〕。

【張適】581（チヤウテキ）　㊀明、長洲の人。字は子宜。號は甘白先生。七歲にして詩經を習ひ、一讀すれば誦を成す。十三の時、鄉試に赴き、時人、奇童と稱した。洪武の初、宋濂の薦めによつて元史を修む。官は水部郎中。幾くも無く辭し歸る。高啓・楊基等と十才子と稱せられた。著に甘白集がある。〔明人小傳、一〕・〔明詩綜、十二〕。㊁張希顏(893)を見よ。

【張趯】582（チヤウテキ）　春秋、晉の大夫。鄭の游吉が晉に行つて少姜の葬を送つた時、張趯を見、人に告げて、張趯、知あり、其れ猶ほ君子の後に在らんかと言つた。〔左氏、昭、三・五・九〕。

【張店】583（チヤウテン）　鎭の名。㊀山東省桓臺縣の東南。膠濟鐵路は此處から支線を出し博山に至る。民國十二年、開放して商埠とす。㊁金、置き、今缺く。河南省陝西の境。㊂金、置く。山西省平陸縣の東北。〔讀史方輿紀要、山西、平陽府、解州、平陸縣〕張店鎭、在二縣西北一、唐乾寧四年、陝虢王珙攻二河中王珂一、李克用遣二將李嗣昭一救レ之、敗二陝兵於猗氏一、又敗二之於張店一、遂解二河中之圍一、金人對レ境、圖二張店・平陸所レ屬鎭一也。〔平陸縣志〕即古虞城外郭、南扼二顚軨一、北控二鹽坂一、向爲二南北孔道一。㊃河南省西平縣の西境。

【張顚】584（チヤウテン）　唐の張旭(205)の異稱。〔唐書、李白傳〕張旭、蘇州吳人、嗜レ酒、每二大醉一、呼叫狂走、乃下レ筆、或以レ頭濡レ墨而書、既醒自視、以爲レ神、不レ可二復得一也、世呼二張顚一。

【張田】585（チヤウデン）　㊀宋、澶淵の人。字は公載。進士。官は廣州の長官。性、伉直。嫚罵を喜ぶ。〔宋史、三百三十三〕・〔宋史新編、一百十〕。㊁明、丹陽の人。號は種學齋。相術に巧。〔鎭江府志〕。

【張圖】586（チヤウト）　後梁、洛陽の人。字は仲謀。太祖が藩鎭に在つた時、行軍の資糧簿籍を掌る。故に時人は之を張將軍といふ。丹青に巧。〔五代名畫補遺〕。

【張度】587（チヤウド）　㊀明、增城の人。字は景儀。洪武の進士。監察御史に擢んでられ、彈劾する時には權貴にも遠慮しなかつた。官は吏部尙書。後、詿誤を以て譴を受け、門を閉ぢ、憤惋して卒す。〔國朝獻徵錄、二十四〕。㊁清、桐城の人。字は齡谷。號は辟非老人・松隱先生。性、至孝。詩・古文に巧。兼ねて書畫を善くし、書室を蟋蟀窩といひ、著に蟋蟀窩集がある。〔清畫家詩史、壬、上〕。

【張棟】588（チヤウトウ）　㊀明、崑山の人。字は伯任、又、可菴。萬曆の進士。官は給事中。論建する所多い。著に可菴書牘がある。〔明史、二百三十三〕・〔萬斯同明史、三百三十七〕・〔明史稿、二百十五〕・〔明名臣言行錄、七十六〕。㊁清、吳江の人。字は鴻勳。號は玉川・看雲山人。諸生。博學にして詩古文に巧。書法は王原祁に私淑し、著に青雲詩稿がある。〔清畫家詩史、丙、下〕・〔國朝詩人徵略初編、三十三〕。

【張登】589（チヤウトウ）　清、吳江の人。字は誕先。醫に精しく、著に傷寒舌鑑がある。〔四庫提要、一百四〕。

【張侗】590（チヤウドウ）　清、諸城の人。字は同人、又、石民。號は放鶴村。孝行、奇節が多い。著に放鶴村文集がある。〔四庫提要、一百八十五〕。

【張洞】591（チヤウドウ）　宋、祥符の人。字は仲通。進士。官は英宗の時、工部郎中。〔宋史、二百九十九〕・〔宋史新編、九十三〕。

【張讀】592（チヤウトク・チヤウドク）　唐の人。薦の孫。字は聖朋、又、聖用。年十九にして進士に登第。官は尙書左丞。著に宣室志がある。〔唐書、一百六十一〕・〔舊唐書、一百四十九〕。

【張敦】593（チヤウトン）　三國、吳の吳郡の人。字は叔方。文詞に巧。官は海昏令。〔三國志、五十二〕。

【張南】594（チヤウナン）　鎭の名。山西省介休縣の東。堡がある。古、張難堡といふ。唐の太宗が金剛を追つて張難堡に至るといふは此處。今、張蘭鎭といふ。

【張寧】595（チヤウネイ）　明、海鹽の人。字は靖之。號は方洲。景泰の進士。官は都給事中。後、汀州の長官。詩・書・畫に巧。著に奉使錄・方洲雜言・方洲集がある。〔明史、一百八十〕・〔萬斯同明史、二百三十四〕・〔明史稿、一百六十三〕・〔明名臣言行錄、二十七〕・〔明人小傳、一〕・〔明詩綜、二十一〕。

【張霸】596（チヤウハ）　㊀漢、東萊の人。世に傳へる古文尙書の百兩篇は霸の手になる。〔前漢書、八十八〕。㊁後漢、成都の人。字は伯饒。諡は憲文。年數歲にして孝讓を知つてゐたので、鄉人は之を張曾子と呼んだ。七歲にして春秋に通じ、五經を博覽し、孝廉に擧げられた。官は和帝の時、侍中に至る。〔後漢書、六十六〕。

【張培】597（チヤウハイ）　清、平湖の人。字は抱一。文聲があり、醫を以て顯はれ、山水畫を善くし、自ら畫禪と號した。〔國朝耆獻類徵、四百八十一〕。

【張方】598（チヤウハウ）　㊀晉、河間の人。河間王顒の幸臣。官は中領軍・錄尙書事・領京兆太守。後、顒に殺された。〔晉書、六十〕。㊁宋、資中の人。字は義立。慶元の進士。學者、亨泉先生と稱す。官は簡州の教授、後、兵部侍郎。著に亨泉稿百卷がある。〔宋元學案、七十二〕・〔宋史翼、二十二〕。

【張放】599（チヤウハウ）　漢の人。湯の玄孫。皇后の弟、許嘉の女を娶る。官は侍中・中郎將。〔前漢書、五十九〕。

【張昉】600（チヤウハウ）　㊀元、汶上の人。字は顯卿。諡は莊憲。官は至元の初、刑部尙書。〔元史、一百七十〕。㊁清、商丘の人。字は子東。號は匏客。明の滅亡後、田野に隱居す。著に四書正がある。〔國朝耆獻類徵、四百六十二〕・〔碑傳集、一百二十三〕。

【張苞】601（チヤウハウ）　三國、蜀の人。飛の子。早逝した。〔三國志、三十六〕。

【張倣】602（チヤウハウ）　宋、崇安の人。字は希古。進士。官は工部侍郎。〔尙友錄、八〕。

【張旄】603（チヤウバウ）　戰國、魏の臣。張儀が事を楚に用ひた頃、魏に重んぜられた。〔戰國、魏策・楚策〕。

【張望】604（チヤウバウ）　清、武寧の人。字は稷壇。號は閏榻。著に閏榻先生集がある。

【張榜】605（チヤウバウ）　はりだす。〔福惠全書、保甲部、獎擧善惡〕張二榜城鄉保甲一。

【張白】606（チヤウハク）　唐、衢州の人。道術を好み、常に一鐵葫蘆をになひ、錢を得れば便ち酒を飮み、自ら白雲子と號す。死して武陵城西に葬る。半歲を經て、或る人が酒肆で張白に遇ひ、數日間共に酒を飮んだといふ話が傳はつたので、人々が其の棺を開いたところ、棺が空になつてゐたといふ。〔全唐詩、三十二〕。

【張璞】607（チヤウハク）　㊀明、江夏の人。字は中善。弘治の進士。正德の間、雲南を巡按し、後、梁裕に誣告されて獄死す。〔明史、一百八十八〕・〔明史稿、一百七十三〕。㊁明、松江の人。字は廷采。號は友山。正統中、陳州・沂州の學正に歷任す。書を善くし、詩に巧。〔華亭志〕。

【張幕】608（チヤウバク）　幕を張る。〔左氏、成、十六〕曰、合レ謀也、張レ幕矣、曰、虔二卜於先君一也、徹レ幕矣。

【張邈】609（チヤウバク）　後漢、壽張の人。字は孟卓。任俠の士。官は陳留太守。董卓の亂に、曹操と義兵を擧げ、後、呂布と共に兗州に據り、其の部下に殺された。〔三國志、七〕。

【張抜】610（ハリヌキ）　型に紙を貼り重ね、糊の乾いた後に、其の型を抜去つたもの。張子。張貫。〔夕霧阿波鳴渡、上〕富山の山の張抜きも樂なこと。

〔張抜石〕611（ハリヌキイシ）　中は空で外側に紙を張り、色彩を施して石のやうに見せかけたもの。

〔張抜筒〕612（ハリヌキヅツ）　張抜にした筒。又、張抜で作つた鐵砲。

【張凡】613（チヤウハン）　張名由(1537)を見よ。

【張板】614（ハリイタ）　洗つた布、又は漉紙などを張る板。

【張范】615（チヤウハン）　㊀南朝宋の張永と梁の范懷約。倶に書を善くす。〔庾肩吾、書品論、五〕敬仁淸擧、致二畏逼之詞一、張范逢レ時、倶二東南之美一。㊁後漢の張劭と范式、倶に親しく交る。〔江淹、傷二友人一賦序〕雖レ乏二張范通靈之感一、庶同二嵇向篤徒之哀一。㊂漢の張良と越の范蠡。〔白居易、司徒令公分二守東洛一移二鎭北都一奉二寄五言四十韻一以抒二下情一詩〕公雖レ慕二張范一、帝未レ捨二伊皐一。

〔注〕張良・范蠡也。

【張磐】616（チヤウハン） 後漢、丹陽の人。字は子石。胡蘭の餘黨を破る。官は盧江の太守。〔後漢書、六十八〕。

【張範】617（チヤウハン） 三國、魏の修武の人。字は公儀。董卒の亂に、揚州に逃れ、後、魏の議郞となり、丞相の軍事に參す。〔三國志、十一〕。

【張磻】618（チヤウハン） 宋、福州の人。字は渭老。嘉定の進士。官は參知政事。〔宋史、四百二十〕・〔宋史新編、一百五十三〕・〔南宋書、五十八〕・〔南宋館閣續錄、七〕。

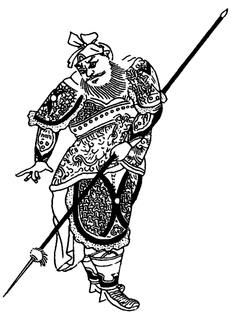
【張攀】619（チヤウハン） 宋、常熟の人。字は從龍。淳熙の進士。官は起居郞・崇政殿說書。著に益齊文集・奏議・漢唐論がある。〔南宋館閣續錄、七〕・〔尙友錄、八〕。

【張番】620（ハリバン） 見張番。〔甲陽軍鑑、九上〕味方より は り番をも一人出さず。

【張伾】621（チヤウヒ） 唐の人。德宗の時、澤潞の將、馬燧と田悅を擊つ。官は泗州刺史。〔唐書、一百九十三〕・〔舊唐書、一百八十七下〕。

【張泌】622（チヤウヒ） ㊀五代、唐の淮南の人。泌は一に佖に作る。字は子澄。官は句容尉。上書して治道を陳べ、李煜に徵されて監察御史・內史舍人となる。煜に隨つて宋に歸し、史館に入り、郞中に遷る。詞に巧。集がある。〔全唐詩、二十七〕・〔全唐文、八百七十二〕。㊁宋、浦城の人。字は順之。進士。官は仁宗の時、右正言。後、刑部尙書。〔淳熙薦士錄〕。㊂明、潁州の人。字は淑清。洪武中、太學生から光祿寺卿に累官す。容貌は豐偉、識見は廣大。後、吏部が光祿官を奏除する每に、成祖は必ず張泌の如きを得るや否やと問ふ。〔萬斯同明史、二百三十〕・〔國朝獻徵錄、七十二〕。

【張飛】623（チヤウヒ） 三國、蜀の涿郡の人。字は益德、又、翼德に作る。諡は桓。少くして關羽と俱に先主劉備に事へ、備が當陽に敗れた時、二十騎を以て長坂に立つて追ふ者を拒ぎ、敵を寄せつけなかつたので、魏の程昱等が之を萬人の敵と稱した。先主が江南を定めた後、宜都太守となり、益州を定めた後、車騎將軍に進み、西鄉侯に封ぜられた。生平、君子を敬愛すれども、小人を恤まず、章武中、吳が關羽を殺し、先主が兵を興して仇を報いんとして發するに際し、帳下の將、張達・范彊に殺された。〔三國志、三十六〕。



張 飛（第一才子書）

【張飛髯】624（チヤウヒノコ） 張飛のひげ。〔通俗編、身體、張飛髯〕 李商隱、騎兒詩、或謔張飛髯、或笑鄧艾吃。

【張斐】625（チヤウヒ） 清、餘姚の人。字は非文。初名は宗升。號は霞池。明の滅亡後、天下を周游して自ら客星散人と號し、陰かに志士と結んで明室の再造を圖る。師を我が國に乞うて恢復を圖らんとして、再度長崎に至るも、卒に成る無く、後、終る所を知る者が無い。書室を莽蒼園といひ、著に莽蒼園集及び筆語があり、我が國に傳はる。〔碑傳集補、三十五〕。

【張賁】626（チヤウヒ） ㊀唐、南陽の人。字は潤卿。大中の進士。唐末、廣文博士となり、嘗て茅山に隱れ、後、吳中に寓す。詩に巧。〔唐詩紀事、六十四〕・〔全唐詩、二十三〕。㊁清、錢塘の人。一名は賁孫。字は祖明。號は繡虎。明の貢生。著に白雲集がある。

【張美】627（チヤウビ） 宋、淸河の人。字は元珪。諡は恭惠。官は五代、周の三司使、宋の檢校太尉、後、左驍衞上將軍。〔宋史、二百五十九〕・〔宋史新編、七十〕・〔東都事略、二十一〕・〔隆平集、十一〕。

【張湄】628（チヤウビ） 清、錢塘の人。字は鷺洲。號は南漪、又、柳漁。雍正の進士。官は兵科給事中。著に柳漁詩鈔がある。〔國朝耆獻類徵、一百三十六〕。

【張彪】629（チヤウヒウ） 梁、襄陽の人。少時、盜となつたが、後、臨城公大連に歸す。官は東揚州の刺史。〔南史、六十四〕。

【張佖】630（チヤウヒツ） ㊀宋、常州の人。字は子澄。南唐に仕へて內史舍人となる。宋に歸して官は虞部郞中。其の親舊が嘗て佖の家に立寄つた時、ただ菜羹を饗應しただけであつたので、時人は菜羹張家といつた。後、河南に官す。〔宋人軼事彙編、一百二十二〕。㊁張泌（622）を見よ。

【張弼】631（チヤウヒツ） ㊀宋、仙遊の人。字は舜元。號を葆光處士と賜はる。易に通じ、著に易解がある。〔宋史、一百五十九〕。㊁明、松江華亭の人。字は汝弼。號は東海（東海翁）。成化の進士。官は南安府の長官。詩文・草書に巧。書室を天趣軒といひ、著に鶴城・東海諸稿がある。〔明史、二百八十六〕・〔萬斯同明史、三百八十二〕・〔明史稿、二百六十七〕・〔明人小傳、二〕・〔明詩綜、二十四〕。

【張憑】632（チヤウヒヨウ） 晉、吳郡の人。字は長宗。孝廉に擧げられ淸言を能くした。官は吏部郞・御史中丞。〔晉書、七十五〕。

【張憑理窟】633（チヤウヒヨウリクツ） 蒙求の標題。晉の張憑の言旨が深遠なので、簡文帝が與に語つて張憑を理窟（道理の藏せられてゐる岩屋）だと言つた故事。〔晉書、張憑傳〕會㆓王濛就ㇾ惔清言有ㇾ所ㇾ不ㇾ通、憑於㆓末坐㆒判ㇾ之、言旨深遠、足ㇾ暢㆓彼我之懷㆒、一坐皆驚、云云、簡文帝召與語、歎曰、張憑勃窣爲㆓理窟㆒。

【張玭】634（チヤウヒン） 明、石州の人。字は席玉。嘉靖の進士。官は南京戶部右侍郞。嘗つて永平の守となる。郡に淸德廟があつて伯夷叔齊を祀つてあるのに因つて、歷代の祀典、諸家の藝文を輯めて夷齊錄を作る。〔國朝獻徵錄、五十一〕。

【張斌】635（チヤウヒン） 明、永平の人。正統の進士。官は戶部主事。權閹王振に忤つて遼東に謫戍され、後、復職す。浙江鹽法の夙弊を清理し、權倖に忌まれて毒殺せられた。〔國朝獻徵錄、九十〕。

【張賓】636（チヤウヒン） ㊀十六國、後趙の中山の人。字は孟孫。諡は景。經史に通ず。石勒の謀主。石勒は右侯と呼んで名をいはなかつた。封は濮陽侯。官は右長史大執法。〔晉書、一百五〕。㊁明、宿遷の人。八世同居して內外二百餘口に及んだが、少しの不和もなかつたので、成化中、表旌せられた。〔明史、二百九十六〕・〔萬斯同明史、二百四十四〕・〔國朝獻徵錄、七十二〕。

【張鋻】637（チヤウヒン） 清、襄城の人。字は太阿。明の諸生。詩に巧。草書を善くし、康熙中、明經に擧げられたが廷試に赴かなかつた。居る所を龍雷館といひ、日に著作を事とし、彼の詩と字とを求める者が陸續と來訪した。著に青霞閣集がある。〔國朝耆獻類徵、四百二十七〕・〔國朝書人輯略、二〕。

【張蠙】638（チヤウヒン） 前蜀、淸河の人。字は象文。唐の乾寧の進士。王建に仕へて膳部員外郞となり、後、金堂令となる。性、詩を嗜み、咸通中、張喬・許棠・喩坦之・劇燕・任濤・吳宰・周繇・鄭谷・李棲遠等とともに十哲と稱せられた。少年の時、白日地中出、黃河天上來の句を作り、當時に稱せられた。〔全唐詩、二十六〕・〔唐詩紀事、七十〕。

【張敏】639（チヤウビン） 後漢、鄭の人。字は伯達。建初の間、孝廉に擧げられ、四遷して尙書となる。官は司空。〔後漢書、七十四〕。

【張扶】640（チヤウフ） 前蜀、廣都の人。字は子持。博學にして文辭を善くす。官は工部郞中。後、王宗信に毒殺せられた。〔十國春秋、前蜀〕。

【張附】641（ハリツケ） ㊀昔の刑罰の名。板や柱などに身體を張附けて刺殺するもの。磔。㊁ものを糊などで附著させること。

【張附柱】642（ハリツケバシラ） 張附の刑に用ひる柱。磔柱。

【張負】643（チヤウフ） 漢、戶牖の富人。女孫を陳平に妻す。〔史記、五十六〕。

【張符】644（チヤウフ） 唐の人。號は煙波子。牛を畫くに巧。〔圖繪寶鑑〕・〔牛戩畫評〕。

【張傅】645（チヤウフ） 宋、譙の人。字は巖卿。進士。官は工部侍郞。七度、監司となる。〔宋史、三百〕・〔宋史新編、九十三〕。

【張鈇】646（チヤウフ） 明、慈谿の人。字は子威。嘉靖の進士。朱熹を宗としてゐるが、往々迂緩に失す。著に郊外農談・議論がある。〔四庫提要、一百二十七〕。

【張溥】647（チヤウフ） 明、太倉の人。字は天如。號は七錄齋。崇禎の進士。同里の張采と同學で且つ共に有名になつたので、世に婁東の二張と稱せられた。崇禎中、郡中の名士と古學を復し、其の文社を復社と呼ぶ。其の文章評は當時に權威視されたが、高慢な風があり、遂に執政に忌まれた。

著に詩經注疏大全合纂・春秋三書・歷代史論二編・漢魏六朝一百三家集等がある。〔明史、二百八十八〕・〔明史稿、二百六十九〕・〔明人小傳、四〕・〔明詩綜、六十八〕。

【張敷】648 チャウフ　南朝宋の人。邵の子。字は景胤。玄書を好む。官は黃門侍郞。〔宋書、六十二〕。

【張武】649 チャウブ　❶上古の人。智伯の師。〔墨子、所染〕知伯瑤染二於智國張武一。〔淮南子、人閒訓〕張武敎三智伯奪二韓魏之地一。❷後漢、由拳の人。孝子。孝廉に擧げられた。〔後漢書、一百十一下〕。❸明、瀏陽の人。諡は忠毅。成祖に從つて兵を擧ぐ。封は咸陽侯。官は都督同知。〔明史、一百四十六〕・〔萬斯同明史、一百八十九〕・〔明史稿、一百三十四〕。

【張風】650 チャウフウ　清、上元の人。一名、飌。字は大風。號は上元老人。明の諸生。清に入つて後、やめ去る。書畫は皆特別の趣があり、款に眞香佛空と署し、或は昇州道士と稱す。書室を雙鏡亭といひ、著に雙鏡亭詩がある。〔國朝耆獻類徵、四百七十三〕。

【張虙】651 チャウフク　宋、慈谿の人。字は子宓。諡は文靖。慶元の進士。官は國子祭酒・工部侍郞。著に月令解がある。〔宋史、四百七〕・〔宋史新編、一百五十四〕・〔南宋書、五十七〕・〔南宋館閣續錄、七・八〕。

【張復】652 チャウフク　❶明、休寧の人。字は子遠。著に爨下語がある。〔四庫提要、一百二十五〕。❷明、太倉の人。或は無錫の人といふ。字は元春。號は苓石。山水人物畫に巧。初、錢穀に師事し、後、出藍の譽を擅にした。〔明畫錄、五〕。

【張芾】653 チャウフツ　清、涇陽の人。諡は文毅。道光の進士。官は咸豐中、江西巡撫。洪楊の軍を禦ぐ。同治の初、回民を勸諭して殺された。〔清史稿、四百五〕・〔清史列傳、四十九〕・〔續碑傳集、五十四〕。

【張紱】654 チャウフツ　清、淄川の人。字は孔繡。酒を嗜み、詩を能くし、書法に巧。〔國朝書人輯略、一〕。

【張黻】655 チャウフツ　明、吉水の人。字は秉素。成化の進士。官は後軍都督府經歷。獄を治めて、廉直だと評判せられた。〔明史、一百九十四〕・〔萬斯同明史、二百六十七〕・〔明史稿、一百七十八〕。

【張奮】656 チャウフン　❶後漢の人。純の子。字は稚通。官は永元の閒、司空。〔後漢書、六十五〕。❷三國、吳の人。昭の弟の子。軍功があり、官は平州都督。封は樂鄕亭侯。〔三國志、五十二〕。

【張雯】657 チャウブン　元、吳の人。字は子昭。著に繼潛錄がある。

【張平】658 チャウヘイ　❶十六國、前秦の代郡の人。或は譙國の銍の人といふ。初、石虎に仕へ、後、苻堅に降り、祖逖に破られた。〔前秦錄〕。❷宋、臨朐の人。官は太宗の時、右班殿直、後、鹽鐵使。〔宋史、二百七十六〕・〔宋史新編、七十九〕。

【張秉】659 チャウヘイ　❶三國、吳の陽羨の人。字は仲節。顧劭と交る。官は雲陽太守。❷宋の人。諤の子。字は孟節。太平興國の進士。官は樞密直學士。〔宋史、三百一〕・〔宋史新編、九十四〕。

【張邴】660 チャウヘイ　漢の張良と邴漢。共に淸行を以て稱せられた。〔謝靈運、還二舊園一作見二顔范二中書一詩〕偶與二張邴一合、久欲レ還二東山一。〔注〕善曰、漢書、張良曰、今以二三寸舌一爲二帝師一、封二萬戸一、位二列侯一、此布衣之極、於レ良足矣、願弃二人間事一、欲下從二赤松子一學レ道輕擧上、又曰、琅邪邴漢亦有二清行一、兄子曼容亦養レ志自修、爲レ官不三肯過二六百石一、輒自免去。

【張昺】661 チャウヘイ　❶明、澤州の人。洪武の擧人。官は建文の時、北平布政使。靖難の時、節に死す。〔明史、一百四十二〕・〔萬斯同明史、一百八十四〕・〔明史稿、一百三十三〕。❷明の人。楷の孫。字は仲明。成化の進士。官は四川副使。〔明史、一百六十一〕・〔萬斯同明史、二百四十六〕・〔明史稿、一百六十九〕・〔國朝獻徵錄、九十八〕。

【張炳】662 チャウヘイ　宋の人。字は明肅。少くして奇疾があり、太學に在つて醫方の妙を極む。鄕里に歸つて後、心を推して物を救ひ、全治するものが多く、鄕人が之を德とした。學を嗜み、文を能くし、老いても倦むを知らなかつた。〔宋史、四百九十二〕。

【張陛】663 チャウヘイ　明、浙江山陰の人。字は登子。崇禎中、山陰地方に大饑饉があつた時、劉宗周が賁粥を倡議し、祁彪が平糶を倡議したが、陛は更に其の家粟五百石を出して二人の及ばない所を佐け、又、情形を斟酌し、十法を創爲し、因つて救荒事宜の一書を著はした。〔國朝獻徵錄、七十九〕。

【張袂】664 チャウベイ　たもとをはりひろげる。〔晏子、雜、下〕張レ袂成レ陰。

【張璧】665 チャウヘキ　明、石首の人。字は崇象。諡は文簡。正德の進士。官は禮部尙書・東閣大學士。著に陽峯家藏集がある。〔國朝獻徵錄、十六〕・〔明人小傳、二〕・〔明詩綜、三十四〕。

【張汴】666 チャウベン　宋、蜀の人。字は朝宋、又、汝山。韜略に習ひ、文天祥の下に祕閣修撰となり、廣東提擧を領す。軍が敗れ、亂兵のために殺された。〔宋史、四百五十四〕・〔昭忠錄〕・〔宋季忠義錄、五〕・〔文丞相督府忠義傳〕。

【張勉】667 チャウベン　明、劍川の人。字は希安。官は弘治中、黔江縣の長官。膽略があり、官に到つて未だ一月も經たない中に巨寇を平げ、民衆が安きを得た。學者、龍溪先生といふ。〔煙艇永懷、三〕。

【張冕】668 チャウベン　清、丹徒の人。字は冠伯。貢生。書室を春雨樓といひ、著に春雨樓詞がある。〔大淸畿輔先哲傳、二十九〕。

【張步】669 チャウホ　後漢、浪邪の人。字は文公。光武帝が初めて起つた時、步が衆を擁して本郡に據つたので光武が伏隆を遣して步を東萊太守に拜せしめたが、步は隆を殺した。後、耿弇に破られて漢に降る。封は安丘侯。後、其のもとの部下を招いて海上に逃れようとし、浪邪の太守陳俊に擊斬せられた。〔後漢書、四十二〕。

【張甫】670 チャウホ　金の人。姓を完顏氏と賜はる。爵は高陽公。官は中都東路經略使、後、金紫光祿大夫。〔金史、一百十八〕。

【張蒲】671 チャウホ　後魏、修武の人。字は玄則。諡は文恭。官は初、慕容寶の尙書左丞、後、魏の相州刺史。翟猛雀を平げた。〔魏書、三十三〕・〔北史、二十七〕。

【張輔】672 チャウホ　❶晉、西鄂の人。字は世偉。官は御史中丞、後、秦州刺史。〔晉書、六十〕。❷明の人。玉の長子。字は文弼。諡は忠烈。封は英國公。官は永樂中、右副將軍。安南を破り、正統の時、土木の難に死し、定興王に追封せられた。〔明史、一百五十四〕・〔萬斯同明史、一百九十二〕・〔明史稿、一百三十六〕・〔國朝耆獻類徵、五〕。

【張酺】673 チャウホ　後漢、細陽の人。字は孟侯。尙書を祖父の充に受け、章帝が太子の時、侍講す。官は和帝の時、司徒。〔後漢書、七十五〕。

【張奉】674 チャウホウ　後漢、南陽の人。廬江の毛義の孝行を慕ふ。〔後漢書、六十九〕。

【張鳳】675 チャウホウ　明、安平の人。字は子儀。宣德の進士。官は正統中、刑部右侍郞、後、南京戶部尙書。〔明史、一百五十七〕・〔萬斯同明史、二百十三〕・〔明史稿、一百四十一〕。

【張鵬】676 チャウホウ　❶五代、漢の鼓城の人。幼時、僧であつたが、後、還俗す。唐の末帝の供奉官。晉に入り、官は乾祐の初、鎭州副使。晉が亡び、高行周の左右の者に殺された。〔舊五代史、一百六〕。❷明、淶水の人。字は騰霄。諡は懿簡。景泰の進士。官は兵部尙書。〔明史、一百六十〕・〔萬斯同明史、二百二十八〕・〔明史稿、一百四十七〕・〔國朝獻徵錄、三十八〕。❸明、沁州の人。字は鳴南。嘉靖の進士。官は河南推官・御史・大理寺右丞。〔國朝獻徵錄、六十八〕。❹明、甌寧の人。字は應秋。號は雲程。書畫に巧。〔圖繪寶鑑續纂〕。❺清、丹徒の人。字は搏萬。號は南溟・寧遠。順治の進士。官は吏部左侍郞。著に寧遠集がある。〔國朝耆獻類徵、五十二〕・〔碑傳集、十九〕。

【張懋】677 チャウボウ　元の人。子良の子。字は之美。諡は宣敏。至元の閒、伯顏に從つて南征す。官は懷遠大將軍・吉州路總管。〔元史、一百五十二〕。

【張北】678 チャウホク　縣名。民國、置く。漢の代郡北塞の地。察哈爾省萬全縣の北。

【張樸】679 チャウボク　宋の人。根の弟。字は見素。官は太常少卿・侍御史・祕書少監。〔宋史、三百五十六〕・〔宋史新編、一百二十四〕。

【張穆】680 チャウボク　❶清、東莞の人。字は穆之。號は鐵橋。羅浮山の石洞に讀書し、生氣ある山水を畫く。擊劍を能くし、年八十餘に至つても飛ぶやうに早く步いた。詩を善くし、著に鐵橋山人稿がある。〔國朝耆獻類徵、四百七十四〕・〔清畫家詩史、甲、上〕。❷清、平定の人。本名は瀛暹。

字は誦風、又、碩州・石舟。號は㐆齋。道光の優貢生。官は白旗漢教習。經史を治め、善く地理をいひ、篆籀に精通。著に蒙古遊牧記・延昌地形志・顧閻年譜・㐆齋居士文集がある。〔清史稿、四百九十〕・〔清史列傳、七十三〕・〔續碑傳集、七十三〕。

【張渤】681 チャウボツ　漢、吳興郡烏程縣の人。曾つて河流を導いて廣德縣に到らしめようと、陰兵を役使して聖瀆を鑿つ。偶〻夫人に大豕と爲つて陰兵を役使する姿を見られて之を恥ぢ、廣德縣の西なる横山に隱れてしまつたが、居民は其の功を德とし、之を祀つて廣德王といふ。〔宋稗類鈔〕廣德軍、祠二廣德王一、姓張、名渤、前漢吳興郡烏程縣横山人、始於二本郡長興縣顯靈鄕一發レ跡、役二陰兵一導二河流一、欲レ抵二廣德縣一、故東自二長興荆溪一疏二鑿聖瀆一、王先時與二夫人李氏一密期、每二餉至一、鳴レ鼓三聲、王卽自至、不レ令三夫人至二開レ河之所一、厥後因三夫人遺二飧於鼓一、烏啄而鼓鳴、王以爲二餉至一、至則無レ有、逡巡夫人至、鳴二其鼓一、王反不レ至、夫人遂親至二河所一、見下王爲二大豕一、驅二役陰兵一開中河瀆上、王見二夫人一、未レ及レ變レ形、從レ此恥レ之、遂不下與二夫人一相見上、聖瀆之功遂息、逃二於廣德縣西五里横山之頂一、居民思レ之、立二廟於山西南隅一、夫人李氏亦至二縣東二里一而化、時人亦立二其廟一、由レ是歷二漢唐五代一以至二本朝一、水旱災沴、禱レ之無レ不レ應。

【張本】682 チャウホン　❶後に書く文章の本となるものを前に記したもの。伏線。又、物事の原因。〔左氏、隱、五〕翼侯奔レ隨、注〕晉內相攻伐不レ告レ亂、故不レ書、傳具二其事一、爲二後晉事張本一。〔白居易、六讚偈〕爲二來世張本一。〔蘇軾、前赤壁賦、少焉月出二於東山之上一、注〕前言二清風一、此言二月出一、一篇張本在レ此。〔書言故事、評論類〕預爲二後地一曰二張本一。❷金、觀津の人。字は敏之。正大中、翰林學士を以て北に使して留められ、遂に隱れて黃冠となり、燕京の長春宮に居る。❸元、茌平の人。篤孝。伯父・叔父に事へて甚だ謹しむ。〔元史、一百九十七〕。❹明、東阿の人。字は致中。號は五湖漫士。官は南京兵部尙書。廉介の士。時人に窮張と稱せられた。〔明史、一百五十七〕・〔萬斯同明史、一百五十七〕・〔明史稿、一百八〕。❺惡事などを唱へ起すこと。又、その人。〔保元物語、二、白河殿義朝夜討〕強盜の張本。

〔張本人〕683 チャウホンニン　惡事などを企て唱へ出した人。惡事の發頭人。首謀者。〔柴田退治記〕玄蕃助、今度矛楯張本人、而罪多數、車渡二洛中一、於二六條河原一誅レ之。

【張網】684 チャウマウ　あみをはる。〔戰國、楚策〕陳軫對曰、舍レ之、王勿レ據也、以二韓侈之智一、於レ此困矣、今山澤之獸、無レ黠二於麋一、麋知下獵者張二網前一而驅上レ己也、因還走而冐レ人、至二數獵者一、知二其詐僞一、擧レ網而進レ之、麋因得矣。

【張滿】685 チャウマン　弓を十分に引きしぼること。引滿。〔漢書、李廣傳〕廣乃令二持レ滿毋一レ發、注〕師古曰、注二矢於弓弩一而張二滿之一、不レ發レ矢也。

【張脈】686 チャウミャク　張つた血脈。〔左氏、僖、十五〕亂氣狡憤、陰血周作、張脈僨興、外彊中乾。

【張銘】687 チャウメイ　張僧乙(1299)を見よ。

【張綿】688 ハリワタ　張りのべた綿。

【張緬】689 チャウメン　梁の人。弘策の子。字は元長。官は豫章の內史。〔梁書、三十四〕・〔南史、五十六〕。

【張茂】690 チャウモ　❶晉、會稽山陰の人。字は偉康。官は元帝の時、吳興內史。沈充の反に、三子と倶に殺された。〔晉書、七十八〕。❷十六國、前涼の主。軌の子、寔の弟。字は成遜。寔に繼いで涼州の長官となり、涼王に封ぜられ、威が大いに行はれた。在位五年にして卒す。〔晉書、八十六〕。

【張目】691 チャウモク　目をみはる。目を大きく開く。目をむく。〔史記、藺相如傳〕左右欲レ刃二相如一、相如張レ目叱レ之、左右皆靡。〔後漢書、嚴光傳〕張レ目熟視。

【張沐】692 チャウモク　清、上蔡の人。字は仲誠。號は起菴。順治の進士。官は內黃・資縣の長官。孫奇逢の弟子。其の學は主敬を以て中心とし、易を治めて心得す。晩年、白龜圃を築き、子弟を教授し、著に圖書祕典溯流・史學鈔・一隅解諸書等がある。〔清史稿、四百八十二〕・〔清史列傳、七十四〕・〔國朝耆獻類徵、二百十八〕・〔碑傳集、八十九〕・〔國朝先正事略、二十九〕・〔宋學淵源記、一〕・〔顏李師承記、十五〕・〔清儒學案小識、末〕。

【張紋】693 ハリモン　紋を畫いた布を張りつけた紋。切附紋。

【張問】694 チャウモン　宋、襄陽の人。字は昌言。新法が行はれても獨り時好に阿らなかつた。官は正議大夫。〔宋史、三百三十一〕・〔宋史新編、一百九〕・〔元祐黨人傳、三〕。

【張野】695 チャウヤ　晉、柴桑の人。字は萊民。陶淵明と婚姻の契があつた。學は華梵を兼ね、文を作るに巧。田宅は悉く弟に與へ、廬山に入つて遠公に依る。〔蓮社高賢傳〕。

【張揚】696 chang¹ yang²　吹聽する。誇張する。

【張楊】697 チャウヤウ　後漢、雲中の人。字は稚叔。官は董卓の時、建義將軍・河內太守。曹操が呂布を圍んだ時、其の將、楊醜に殺された。〔三國志、八〕。

【張愈】698 チャウユ　宋、郫の人。字は少愚。屢〻擧げられたが及第せず。薦によつて祕書省校書郞に除せられた時、之を父顯忠に授けて自らは家に隱れたいと願ふ。後、致仕し、門を閉ぢて讀書す。文彥博が蜀を治めるに及び、室を青城山の白雲溪に築いて處らしめ、白雲先生(白雲隱居・白雲片鶴)と號す。一本、張俞に作る。著に白雲集がある。〔宋史、四百五十八〕・〔宋史新編、一百七十七〕・〔東都事略、一百十八〕。

【張勇】699 チャウユウ　❶明の人。興の兄の子。洪武の初、行伍から起り、功を以て燕山左護衞指揮僉事を授けられた。靖難の兵が起つた時、興に從つて行陣に在り、每戰克捷し、後、繼いで其の衆を領す。功によつて安鄕伯に封ぜられた。〔明史、一百四十六〕・〔明史稿、一百三十四〕。❷清、陝西咸寧の人。諡は襄壯。明の副將。清に降り、回を討ち、吳三桂と戰ふ。官は太子太師。封は一等侯。〔清史稿、二百六十二〕・〔清史列傳、七十八〕・〔國朝耆獻類徵、二百七十三〕・〔碑傳集、十四〕。

【張裕】700 チャウユウ　❶三國、蜀の蜀郡の人。字は南和。官は州後部司馬。先主劉備が其の不遜を銜み、遂に之を棄市す。〔三國志、四十二〕。❷南朝宋、吳郡の人。良の後裔。字は茂度。諡は恭。官は會稽太守。生來吏能があり、郡縣に在つてよく職事をさめた。〔宋書、五十三〕。

【張雄】701 チャウユウ　❶唐、漣水の人。武寧軍の偏將。後、蘇州に據り、自ら天成軍鎭海節度使と號す。官は大順の初、昇州刺史。〔唐書、一百九十〕。❷明の人。豹房に侍して寵を受け、張忠・張銳と共に恣肆。時に三張と稱せられ、世宗の時、獄に下された。〔明史、三百四〕・〔萬斯同明史、四百六〕・〔明史稿、二百八十三〕。

【張熊】702 チャウユウ　清、秀水の人。字は子祥。詩に巧。花卉畫を善くし、塡詞を喜び、音律を諳ず。自ら鴛湖外史と號す。書室を銀藤花館といひ、著に銀藤花館詩鈔・題畫集がある。〔清畫家詩史、辛、下〕。

【張融】703 チャウユウ　南齊の人。暢の子。字は思光。海に浮んで交州に至り、海賦を作る。官は太子中庶子、司徒左長史。太祖が之を奇とし愛して、此の人、一無かるべからず、二あるべからずと言つた。玉海といふ文集がある。〔南齊書、四十一〕。

【張預】704 チャウヨ　宋、東光の人。字は公立。著に百將傳がある。〔四庫提要、一百〕。

【張輿】705 ハリゴシ　疊表などで周圍を張つた粗末な輿。〔源平盛衰記、十二、教盛夢二忠正・爲義一〕讚岐院を張輿に載せ奉りて。

【張容】706 チャウヨウ　とばりと屛風の類。〔荀子、正論〕居則設二張容一、〔注〕爾雅曰、容、謂二之防一、郭璞云、如二今牀頭小曲屛風一。

【張庸】707 チャウヨウ　元、溫州の人。字は存中。太乙數に精通す。官は刑部尙書。明兵を駱駝谷に拒いで戰死す。〔元史、一百九十六〕。

【張雍】708 チャウヨウ　宋、安德の人。毛詩に曉通す。開寶の進士。官は尙書右丞。〔宋史、三百七〕・〔宋史新編、八十五〕。

【張墉】709 チャウヨウ　明、錢塘の人。字は石宗。號は竹香齋。嘗て史中の佳事雋語を采つて分類排纂し、廿一史識餘を作り、又、竹香齋類書摘錄と名づく。〔國朝耆獻類徵、二百二十二〕。

【張翊】710 チャウヨク　張琦(170)の❹を見よ。

【張翼】711 チャウヨク　❶三國、蜀の人。綱の曾孫。字は伯恭。建安の末、孝廉に擧げられた。封は都亭侯。官は左車騎將軍。後、鍾會の亂兵に殺された。〔三國志、四十五〕。❷明、臨淮の人。官は前軍都督僉事。封は洪武の時、鶴慶侯。藍玉の黨に坐死す。〔明史、一百三十二〕・〔萬斯同明史、三百九

十二〕・〔明史稿、一百十八〕。❸明、泰安の人。永樂中、諸生から國學に入る。孝子。〔明史、二百九十六〕。❹明、餘杭の人。字は二星。古書を好み、雋語僻事を採摭して清賞錄をつくる。〔四庫提要、一百三十二〕。

【張羅】712 チヤウラ ❶網を張る。〔周禮、夏官、羅氏〕掌レ羅二烏鳥一蜡則作二羅襦一。〔注〕昆蟲已蟄、可二以レ火田、今俗放レ火張レ羅、其遺教。〔淮南子、說山訓〕有二鳥將レ來、張レ羅而待レ之。〔論衡、幸偶〕獵者張レ羅。❷世話する。接待する。人のために事を行ふこと。〔直語補證〕俗以二與レ人幹レ事曰二張羅一、取二設レ法搜索之義一。〔戰國策、譬レ之如二張レ羅者一、張二于無レ鳥之所一、則終日無レ所レ得矣、張二于多レ鳥處一、則又駭レ鳥矣、必張二于有レ鳥無レ鳥之際一、然後能多得レ鳥矣、當レ本レ此。〔西廂記、崔鶯鶯夜聽レ琴雜劇〕省二人情一的嬭嬭忒慮過、恐二怕張羅一。❸ chang^1 lo^2 用意する。工面する。

【張耒】713 チヤウライ 宋、淮陰の人。字は文潛。官は太常少卿、後、潁・汝二洲の長官。詩文に巧。著に兩漢決疑・詩說・宛丘集がある。〔宋史、四百四十四〕・〔宋史新編、一百七十一〕・〔東都事略、一百十六〕・〔元祐黨人傳、四〕・〔宋元學案、九十九〕・〔琅琊代醉編、十五〕。

【張萊】714 チヤウライ 明、丹徒の人。字は廷心。弘治の擧人。著に京口三山志がある。〔四庫提要、七十六〕。

【張老】715 チヤウラウ 春秋、晉の大夫。獻文子が室を造つた時、其の美し過ぎることを譏る。〔左氏、成、十八。襄、三〕。

【張朗】716 チヤウラウ 五代、晉の蕭縣の人。官は梁祖の時、衞州刺史。常に征伐に從ふ。晉に仕へて光祿大夫・檢校太傅に至る。〔舊五代史、九十〕。

【張烺】717 チヤウラウ 清、仁和の人。字は日生。畫に巧。

【張巒】718 チヤウラン 明の人。孝宗の敬皇后の父。封は弘治の閒、壽寧伯、尋いで侯に進む。能く士大夫を禮遇した。〔明史、三百〕・〔萬斯同明史、三百九十九〕・〔明史稿、二百八十二〕・〔國朝獻徵錄、三〕。

【張里】719 チヤウリ 漢の人。馬醫。家業が榮えて富裕。一說に、張里は里の名。〔漢書、貨殖、宣曲任氏傳〕濁氏以二胃脯一而連レ騎、張里以二馬醫一而擊レ鍾、皆越レ法矣。〔張衡、西京賦〕若二夫翁伯濁質張里之家一、擊レ鐘鼎食。〔注〕善曰、晉灼曰、張里、里名也。

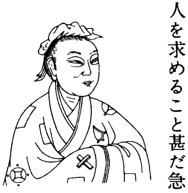
【張理】720 チヤウリ ❶はりととのへる。〔後漢書、朱穆傳〕穆張二理天網一、補二綴漏目一。❷元、清江の人。字は仲純。官は延祐中、福州儒學提擧。著に大易象數鉤深圖・易象圖說內篇がある。〔宋元學案、九十二〕・〔四庫提要、四〕。

【張履】721 チヤウリ 清、震澤の人。字は淵甫。嘉慶の擧人。句容教諭。其の學は宋儒を宗とし、德業を以て士に課す。陶澍・林則徐が極めて之を欽禮す。著に宗法通考・喪禮辨誤・課經偶記がある。〔清史稿、四百九十〕・〔清史列傳、七十二〕・〔續碑傳集、七十二〕。

【張鏐】722 チヤウリウ ❶清、樂陵の人。號は紫峯。雍正の擧人。官は內閣中書。儀封の張伯行が刻した張子全書に訛謬あるので、近思・淵源の二錄の意に倣つて張子淵源錄を作る。〔清史列傳、六十七〕・〔國朝耆獻類徵、三百五十四〕・〔四庫提要、九十八〕。❷清、江都の人。字は子貞。號は老薑。性、懶惰で、邊幅を修めず、窮老を以て死す。詩に巧。書を善くし、又、山水畫及び彫刻に巧。〔清畫家詩史、戊、下〕・〔國朝書畫家筆錄、三〕。

【張立】723 チヤウリツ ❶五代、蜀の人。號は早江漁翁。吟詠に巧。詩を以て後主を諷諫し、國人は之を詩諫と稱す。〔舊五代史、九十四〕。❷元、長清の人。嚴實の麾下、昭勇大將軍となる。〔元史、一百六十五〕。

【張良】724 チヤウリヤウ 漢の人。字は子房。謚は文成。其の先は韓王の五代に亘つて宰相を勤めた。秦が韓を滅した後、良は全財產を擧げて刺客を探し求め、秦王を刺して韓のために仇を報いんとし、力士を得て始皇を博浪沙に狙擊したが、誤つて副車に中る。秦が犯人を求めること甚だ急なるに因り、姓名を更へ、下邳に亡匿し、太公の兵法を圯上の老人に受けたといふ。漢の高祖が兵を起すや、良は常に畫策し、項羽を滅して天下を定む。高祖が卽位するに及び、留侯に封ぜられた。晚年、黃老を好み、神仙辟穀の術を學ぶ。蕭荷・韓信と共に三傑と稱せられた。〔史記、五十五〕・〔前漢書、四十〕。



張良 (三才圖會)

【張良椎】725 チヤウリヤウノツイ 張良が東海に力士を得、重さ百二十斤の鐵椎を作り、韓のために秦王を博浪沙に狙擊した故事。〔史記、留侯世家〕秦滅レ韓、良年少、未三宦二事韓一、韓破、良家僮三百人、弟死不レ葬、悉以二家財一求レ客、刺二秦王一、爲レ韓報レ仇、以二大父父五世相レ韓故、良嘗學二禮淮陽一、東見二倉海君一、得二力士一、爲二鐵椎一、重百二十斤、秦皇帝東游、良與レ客、狙二擊秦皇帝博浪沙中一、誤中二副車一、秦皇帝大怒、大索二天下一、求レ賊甚急、爲二張良一故也、良乃更二名姓一、亡二匿下邳一。〔文天祥、正氣歌〕在レ秦張良椎、在レ漢蘇武節。

【張良燒棧】726 チヤウリヤウセウサン 蒙求の標題。漢の張良が漢王となつた沛公にすすめて蜀の棧道を燒き、以て永く巴蜀の地に留る決意を示し、項羽の信用を得させようとした故事。〔漢書、張良傳〕漢元年、沛公爲二漢王一王二巴蜀一、云云、漢王之レ國、良送至二褒中一、遣レ良歸レ韓、良因說二漢王一、燒二絕棧道一示三天下無二還心一、以固二項王意一、迺使三良還、行燒二絕棧道一。

【張亮】727 チヤウリヤウ ❶北齊、隰城の人。字は伯德。初、爾朱兆に事へ、後、神武に仕へた。官は丞相參軍、後、光祿勳。封は安定縣男。〔北齊書、二十五〕・〔北史、五十五〕。❷唐、滎陽の人。太宗に從つて天下を定め、數〻奇功を立てた。官は刑部尙書。後、事に坐して誅せられた。〔舊唐書、六十九〕・〔唐書、九十四〕。❸明、內江の人。鄉に擧げられ、後、官は崇禎の閒、右僉都御史。安・廬・池・太の四府を巡撫す。〔明史、二百七十七〕・〔明史稿、二百五十五〕・〔小腆紀年、六〕。

【張梁】728 チヤウリヤウ 清、婁縣の人。字は大木、又、奕山。號は幻花居士。康熙の進士。武英殿纂修官に充てられ、後、假歸し、仕進の意を絕ち、黃之雋・繆謨等と觴詠して日を送る。書室を澹吟樓といひ、著に澹吟樓詩鈔・幻花奄詞鈔がある。〔國朝詩人徵略初編、二十一〕。

【張諒】729 チヤウリヤウ 宋の人。字は武翼。字を以て行はれる。畫に巧。著に畫家格範がある。〔圖繪寶鑑〕。

【張陵】730 チヤウリヨウ ❶後漢の人。楷の子。字は處沖。官は桓帝の朝に、尙書。抗直の士。〔後漢書、六十六〕。❷後漢の人。正一派道教の祖。世に張道陵といふ。張道陵(1335)を見よ。

【張龍】731 チヤウリヨウ 明、鳳陽の人。西番を征す。封は洪武の時、鳳翔侯。又、雲南を平ぐ。〔明史、一百三十〕・〔萬斯同明史、一百六十六〕・〔明史稿、一百十九〕。

【張力】732 チヤウリヨク ❶はりのびる力。はりひろがる力。❷物體の互に引合ふ力。

【張林】733 チヤウリン 後漢の人。官は章帝の時、尙書。縣官の費用が足らないので、武帝の行つた均輸の法を復活すべきことを上言した。〔後漢書、七十六〕。

【張倫】734 チヤウリン ❶明の人。河北諸衞指揮使。勇悍にして氣節があり、靖難に戰功をたてた。〔明史。一百四十二〕・〔萬斯同明史、一百八十四〕・〔明史稿、一百三十三〕。❷明、潞州の人。孝子。〔明史、二百九十六〕。❸明の人。字は秉彝。畫に巧。〔畫史會要〕。

【張琳】735 チヤウリン ❶遼、瀋州の人。官は天祚の時、南府宰相。〔遼史、一百二〕。❷清、錢塘の人。字は佩嘉、又、玉田。書室を秋葉軒といひ、著に秋葉軒詩がある。〔國朝畫識、五〕。

【張綸】736 チヤウリン ❶宋、汝陰の人。字は公信。王均を蜀に討つ。官は乾州刺史、後、潁州の長官。〔宋史、四百二十六〕・〔宋史新編、一百六十八〕・〔東都事略、一百十二〕・〔隆平集、十九〕・〔名臣碑傳琬琰集、上、十八〕。❷明、宣城の人。字は大經。成化の進士。官は鹽山令・監察御史・右都御史。武宗の時、中官事を用ひたので、綸、巨璫・蕭敬等の罪は誅に當ると劾奏したが、久しく報ぜられなかつたので、歸を乞ふ。〔萬斯同明史、三百八十〕・〔明史稿、一百八十六〕・〔國朝獻徵錄、三十〕。

【張令】737 チヤウレイ 明、永寧宣撫司の人。初、奢崇明に從ふ。明に仕へて副總兵となり、川北の鎭となる。年七十餘にして馬上で五石弩を用ひ、軍中神弩將と呼ばれた。崇禎の末、張獻忠と戰つて

陣沒。〔明史、二百六十九〕・〔萬斯同明史、三百七十四〕・〔明史稿、二百五十〕・〔小腆紀年、二〕。

【張黎】738 チヤウレイ 後魏、雁門平原の人。爵は明元帝の時、廣平公。景穆帝の時、百揆を總べ、崔浩等と輔政す。文成帝の時、旨に忤つて誅殺せられた。〔魏書、二十八〕・〔北史、二十五〕。

【張禮】739 チヤウレイ 宋、浙江の人。字は茂中。元祐の初、友と長安城南に遊び、唐代都邑の舊址を訪ひ、因つて遊城南記を著す。〔四庫提要、七十二〕。

【張礪】740 チヤウレイ 遼、磁州の人。初、南唐に仕へ、後、遼に入る、敢言の士。官は翰林承旨。〔舊五代史、九十八〕・〔遼史、七十六〕。

【張靈】741 チヤウレイ 明、呉縣の人。字は夢晉。畫を善くし、詩に巧。〔萬斯同明史、三百八十七〕・〔國朝獻徵錄、一百十五〕・〔明詩綜、三十八〕。

【張遼】742 チヤウレウ 三國、魏の馬邑の人。字は文遠。諡は剛。先に呂布に從ひ、後、曹操に歸した。官は中郎將。封は關內侯。袁譚を討ち、柳毅を破り、數〻戰巧をたてた。嘗て合肥に鎭し、敢死の士八百人を率ゐて孫權の衆十萬を破り、征東大將軍となり、名、江東に振ひ、曹丕の卽位後、晉陽侯に封ぜられた。〔三國志、十七〕・〔英雄記鈔〕。

〖張遼止啼〗743 チヤウレウシテイ 蒙求の標題。三國、魏の張遼は性が勇猛で、彼が來たと言へば小兒が泣き聲を止めた故事。〔蒙求、上、張遼止啼〕魏志、張遼、字文遠、鴈門馬邑人、武力過㆑人、數有㆓戰功㆒、累㆓轉前將軍㆒、舊注曰、江東小兒啼、怖㆑之曰㆓遼來遼來㆒、無㆓不㆑止者㆒。

【張列】744 チヤウレツ つらなりならぶ。又、つらねならべる。〔孔穎達、周易正義序、第一論㆓易之三名㆒〕日月星辰、布設張列。

【張烈】745 チヤウレツ ❶後魏、武城の人。字は徽仙。經史に通じ。崔徽伯・房徽叔と共に三徽と稱せられた。官は瀛州刺史。〔魏書、七十六〕・〔北史、四十五〕。❷清、大興の人。字は武承。康熙の進士。官は編修。理學に專心し、篤く朱熹の說を守る。著に王學質疑・讀易日鈔がある。〔清史列傳、六十六〕・〔國朝耆獻類徵、一百十八〕・〔國朝先正事略、三十〕・〔清儒學案小識、三〕。

【張漣】746 チヤウレン 清、江蘇華亭の人。秀水に徙る。字は南垣。少くして畫を學び、山水に巧。〔清史稿、五百十〕・〔國朝耆獻類徵、四百八十一〕。

【張璉】747 チヤウレン ❶明、耀州の人。字は汝器。進士から御史に擢んでられた。官は戶部侍郎。張璁に忤ひ、休歸を乞ふ。〔萬斯同明史、二百八十五〕・〔國朝獻徵錄、三十〕。❷明、醴泉の人。字は商鼎。孝子。〔陝西通史〕。

【張鍊】748 チヤウレン 明、武功の人。字は伯純。號は太乙山人。嘉靖の進士。官は湖南按察司僉事。著に經濟錄・太乙詩集がある。〔四庫提要、一百二十四〕。

【張鹵】749 チヤウロ 明、儀封の人。字は召和。號は滸東。嘉靖の進士。官は右僉都御史・大理卿・南京太常卿。張居正に忤つて致仕。著に嘉隆疏草・張滸東集がある。〔萬斯同明史、三百十六〕・〔國朝獻徵錄、六十八〕・〔明詩綜、四十四〕。

【張路】750 チヤウロ 明、大梁の人。字は天馳。號は平山。諸生。畫に巧。〔明畫錄、一〕。

【張魯】751 チヤウロ 三國、魏の人。道陵の孫。字は公祺。道陵の道を繼ぎ、漢中に據り、鬼道を黃巾の賊なる張角に敎へ、自ら師君と號す。曹操に降り、鎭南將軍となり、閬中侯に封ぜられた。〔三國志、八〕。

【張璐】752 チヤウロ 清、呉江の人。字は路玉。號は石頑老人・白圭樹。醫に精通し、著に張氏醫通・傷寒纘論・本經逢源・論宗三昧がある。〔清史稿、五百七〕。

【張祿】753 チヤウロク ❶戰國の人。范雎(9-30834・・59)の一名。〔史記、范雎傳〕魏人鄭安平聞㆑之、乃遂操㆓范雎㆒亡伏匿、更㆓名姓㆒曰㆓張祿㆒。〔左思、魏都賦〕四海齊鋒、一口所㆑敵、張儀張祿、亦足㆑云也。〔李白、送㆔魯郡劉長史遷㆓弘農長史㆒詩〕他日見㆓張祿㆒、綈袍懷㆓舊恩㆒。❷戰國、齊の人。孟嘗君に見えて道を說く。〔說苑、善說〕張祿見㆓孟嘗君㆒曰、衣新而不㆑舊、倉庾盈而不㆑虛、爲㆑之有㆑道、君亦知㆑之乎、孟嘗君曰、爲㆑之奈何、張祿曰、願君貴則擧㆑賢、富則振㆑貧、若㆑是、則衣新而不㆑舊、倉庾盈而不㆑虛矣。

【張崙】754 チヤウロン 明、仁和の人。五歲にして失明。易を學び、卜筮諸書に通ず。〔明史、一百五十四〕・〔萬斯同明史、三百九十七〕・〔明史稿、一百三十六〕。

【張掄】755 チヤウロン 宋の人。字は材甫(材父)。號は灌園老圃・蓮社居士。詞章を以て寵を得、官は知閤。其の著、紹興內府古器評は、中に嘉定以後得る所の古器があるによつて、後人は明代の僞作であらうと疑つてゐるが、毛晉は刻して津逮祕書に入れてゐる。又、蓮社詞の作がある。〔南宋書、六十三〕・〔四庫提要、一百十六〕。

【張和】756 チヤウワ ❶明、崑山の人。字は節之。號は篠菴先生。正統の進士。官は浙江提學副使。讀書すれば數行を一度に讀み、文を作れば立どころに成る。漢書を讀むこと三十遍。著に篠菴集がある。〔萬斯同明史、二百十一〕・〔國朝獻徵錄、八十四〕・〔明詩綜、二十〕。❷清、江都の人。字は履中。乾隆の武進士。官は提督。詩に巧。書室を雙杏堂といひ、著に雙杏堂詩集がある。〔國朝耆獻類徵、二百八十四〕。

【張淮】757 チヤウワイ 清、寶山の人。字は子東。號は桐山。貢生。繪畫に巧。著に雨泉集がある。〔清畫家詩史、己、上〕。

【張王】758 チヤウワウ ❶さかん。さかんである。さかんになる。汪盛。〔韓愈、和㆓侯協律詠㆑笋詩〕得㆑時方張王、挾㆑勢欲㆓騰騫㆒。〔注〕方云、莊子所謂、王㆓長其間㆒、是也、並去聲讀、公與㆓劉夢得㆒蒲萄詩、皆用㆓張王字㆒。❷張氏と王氏。張王李趙を見よ。

〖張王李趙〗759 チヤウワウリテウ 我が國の源平藤橘といふが如く、中國の姓の中、最も古く且つ普通なもの。轉じて、つまらぬ人々をいふ。〔曲洧舊聞〕俚語有㆓張王李趙之語㆒、猶㆑言㆓是何等人㆒、無㆑足㆑挂㆓齒牙㆒之意也、宣和間、張子能・王履道・李士英・趙聖從、俱在㆓政府㆒、張王李趙之語、喧㆓于朝野㆒。〔陔餘叢考、張王李趙〕見㆓朱弁曲洧舊聞㆒、俚語有㆓張王李趙之語㆒、猶㆑言㆓是何等人㆒也、然梁范鎭神滅論、已有㆓張甲王乙李丙趙丁之語㆒、是張王李趙俗語、其來已久。

【張旺】760 チヤウワウ 清、興縣の人。字は月宇。官は福建提督。卒して太子少保を贈られた。

【張綰】761 チヤウワン 梁の人。纘の弟。字は孝卿。湘東王が嘗て之に百事を策せしめたところ、其の對が六つ闕けてゐたので、號して百六公といふ。官は散騎常侍・御史中丞・尙書右僕射。〔梁書、三十四〕・〔南史、五十六〕。

【張安國】762 チヤウアンコク 明、定海の人。號は夢回居士。官は建文の朝に工部郎。靖難の師が起きた時、舟に乘つて太湖中に入り、金陵陷落の後、其の妻と舟を鑿つて自沈す。〔勝朝粤東遺民錄、二〕。

【張安上】763 チヤウアンジヤウ 宋、棣州の人。字は仲禮。慶曆の進士。官は恩州通判、後、乾寧軍判。其の八子は皆貴顯となり、能く世德を守る。時人、高陽里といふ。

【張安世】764 チヤウアンセイ 漢の人。湯の子。字は子孺。諡は敬。官は武帝の時、光祿大夫、昭帝の時、右將軍、宣帝の時、大司馬。封は富平侯。〔前漢書、五十九〕。

【張安祖】765 チヤウアンソ 後魏、河陽の人。任俠の士。〔魏書、八十七〕・〔北史、八十五〕。

【張安茂】766 チヤウアンボウ 清、松江の人。字は蓼匪。順治の進士。官は浙江提學僉事。著に泮宮禮樂全書がある。〔四庫提要、八十三〕。

【張晏之】767 チヤウアンシ 北齊の人。張宴之(827)を見よ。

【張以誠】768 チヤウイセイ 明、松江華亭の人。字は君一。萬曆の進士第一。官は翰林院修撰。著に毛詩微言がある。〔明詩綜、五十九〕。

【張以寧】769 チヤウイネイ 元、古田の人。字は志道。泰定中、春秋を以て進士に擧げられ、官は翰林侍讀學士に至る。博學強記。時人、小張學士といふ。安南に使し、中途で卒す。嘗て翠屏山下に家居。因つて翠屏先生(翠屏叟)と稱し、著に春王正月攷・翠屏集がある。〔明史、二百八十五〕・〔萬斯同明史、一百七十七〕・〔明史稿、一百二十五〕・〔國朝獻徵錄、二十〕・〔宋元學案、六十四〕。

【張彝憲】770 チヤウイケン 明の人。崇禎の初、戶・工二部に出入し、戶工總理と稱せられた。官は南京守備。〔明史、三百五〕・〔萬斯同明史、四百六〕・〔明史稿、二百八十四〕。

【張位中】771 チヤウヰチユウ 清、上海の人。字は立人。乾隆の進士。官は嘉慶中、權大竹縣。敎匪を防ぎ、力竭きて戰死す。書室を萬竹居といひ、著に萬竹居詩がある。〔國朝耆獻類徵初編、三百六十五〕。

【張惟孝】772 チヤウヰカウ 宋、襄陽の人。字は仲友。春秋に

通じ、騎射に巧。呂文德が之を招いたが行かなかつた。〔宋史、四百十二〕・〔宋史新編、一百五十八〕・〔南宋書、五十〕。

【張惟吉】773 チヤウヰキツ　宋、開封の人。字は祐之。謚は忠安。官は領皇城司。〔宋史、四百六十七〕・〔宋史新編、一百八十四〕。

【張惟儉】774 チヤウヰケン　唐の人。左氏・穀梁春秋に精通す。進士。官は和州刺史。侍御柳鎭と交り、鎭の子宗元が先友記を作るや、惟儉もこれに與かる。〔全唐詩、十〕。

【張惟赤】775 チヤウヰセキ　清、海鹽の人。字は侗孩。號は螺浮。進士から給事中に累官す。直節を以て著はれた。三藩の亂に履畝加賦の議が起つた時、力爭して可としなかつた。既に歸り、城南の烏夜邨に涉園を築き、亭池林木の勝は東南第一を以て稱せらる。圖書彝鼎を多く藏す。書室を退思軒（思退軒）といひ、著に螺浮奏議・退思軒集がある。〔國朝耆獻類徵、一百三十四〕。

【張維世】776 チヤウヰセイ　明、太康の人。萬曆の進士。官は崇禎の間、右僉都御史。李自成が太康を陷れた時、節に死す。〔明史、二百九十三〕・〔萬斯同明史、三百七十九〕・〔明史稿、二百七十四〕。

【張維屏】777 チヤウヰヘイ　清、番禺の人。字は子樹、又、南山。號は珠海老漁・松心子・松軒。道光の進士。官は黃梅・廣濟縣の長官。醫學に通じ、尤も詩に巧。林伯桐・黃喬松・譚敬昭・梁佩蘭・黃培芳・孔繼勳等六人と雲泉山館を白雲山に築く。世に七子詩壇といふ。書室を聽松廬といひ、著に聽松廬文鈔・詩話・松心日錄・松軒隨筆・老漁閒話・清詩人徵略等がある。〔清史稿、四百九十一〕・〔清史列傳、七十三〕・〔續碑傳集、七十九〕・〔國朝先正事略、四十四〕。

【張又新】778 チヤウイウシン　唐の人。薦の子。字は孔昭。元和の進士。性、傾邪。官は左司郎中。著に煎茶水記がある。〔唐書、一百七十五〕・〔舊唐書、一百四十九〕。

【張友正】779 チヤウイウセイ　宋の人。士遜の子。字は義祖。門を閉ぢて書を學ぶこと三十年。神宗が其の草書を宋朝第一と賞した。〔宋史、三百十一〕。

【張右民】780 チヤウイウミン　清、錢塘の人。字は用霖。號は東皐。著に東皐集がある。〔國朝耆獻類徵、六十四〕。

【張游卿】781 チヤウイウケイ　漢の人。長安の兄の子。官は諫大夫。詩を元帝に授く。〔前漢書、八十八〕。

【張一鶚】782 チヤウイツガク　清、金山の人。字は友鴻。號は忍齋、又、釣灘逸人。順治の進士。官は雲南推官。山水畫を善くし、詩に巧。著に埜廬三集・河存草がある。〔清畫家詩史、甲、下〕・〔國朝詩人徵略初編、四〕。

【張一元】783 チヤウイツゲン　明、鄒平の人。字は鳴春。隆慶の進士。官は右僉都御史・河南巡撫。

【張一是】784 チヤウイツシ　張蘭皐(1572)を見よ。

【張允孝】785 チヤウインカウ　明、松江華亭の人。初と改名。字は太初。諸生。少くして文徵明に從學す。晚年、沙關に居り、城市を踏まず。書・畫・詩に巧。時人は貞白先生と呼んだ。〔松江志〕。

【張允濟】786 チヤウインサイ　唐、北海の人。隋の武陽令。官は貞觀の初、幽州刺史。〔唐書、一百九十七〕・〔舊唐書、一百八十五上〕。

【張允伸】787 チヤウインシン　唐、范陽の人。字は逢昌。謚は忠烈。封は燕國公。官は中書平章事兼侍中。卒して太尉を贈られた。〔唐書、二百十二〕・〔舊唐書、一百八十〕。

【張允隨】788 チヤウインズイ　清、漢軍鑲黃旗人。字は覲臣。號は時齊。謚は文和。官は乾隆中、雲南總督・東閣大學士・禮部尙書。〔清史稿、三百十三〕・〔清史列傳、十六〕・〔國朝耆獻類徵、十八〕・〔碑傳集、二十六〕。

【張允登】789 チヤウイントウ　明、漢州の人。萬曆の進士。咸寧・咸陽の長官に歷任して善政を行ひ、後、河西兵備副使。崇禎中、餉を督して甘泉に至り、降卒が賊に通じて餉を劫した時、力戰して死す。〔明史、二百九十二〕・〔萬斯同明史、三百八十一〕。

【張蔭桓】790 チヤウインクワン　清、南海の人。字は皓巒。號は樵野。中歲、始めて學に努め、文詩ともに卓然として一家を成し、畫も亦巧。光緒中、道員を以て召されて太常寺少卿となり、總理衙門大臣に充てられ、出でて米國に使す。後、戶部侍郎。德宗が新政を推行した時に、陳奏する所が多い。孝欽の垂簾の政に及び、新疆に遣戍せられ、拳匪の亂が起るや、露國に通ずと誣ひられて却けられたが、和議の成つた後、原官に復す。書室を鐵畫樓・百尺山房といひ、著に三洲日記・英軺日記・鐵畫樓詩文鈔・荷戈集がある。〔清史稿、四百四十八〕・〔碑傳集補、六〕。

【張宇初】791 チヤウウシヨ　明の人。正常の子。字は信甫、又、子濬。號は無爲子。畫に巧。洪武中、道教を襲掌す。著に硯泉集がある。〔明詩綜、八十九〕。

【張宇清】792 チヤウウセイ　明の人。宇初の弟。號は崇謙守靜眞人。道教を襲掌す。山水畫に巧。〔明名人傳、十四〕。

【張羽材】793 チヤウウザイ　元、貴谿の人。字は國梁（國樑）。號は薇山。別號は廣微子。書畫に巧。〔國繪寶鑑〕・〔丹青志〕。

【張雨森】794 チヤウウシン　清、江北の人。初名は雨。字は作霖（甘霖）。號は蒼埜（蒼野）・紫琅。山水畫に巧。〔國朝畫識、十一〕。

【張雲鶴】795 チヤウウンカク　清、海鹽の人。字は紫田。號は抱山。畫に巧。著に抱山詩鈔がある。

【張雲錦】796 チヤウウンキン　清、平湖の人。字は龍威。號は順所然齋。監生。詞に巧。厲鶚と唱和す。書室を紅蘭閣・蘭玉堂といふ。著に紅蘭閣詞がある。〔清畫家詩史、癸、上〕・〔清代閨閣詩人徵略、三〕・〔國朝畫識、十七〕。

〖張雲錦妻〗797 チヤウウンキンノツマ　清の人。鮑詩(**12−46074‥35**)を見よ。

【張雲卿】798 チヤウウンケイ　宋、洛陽の人。字は伯紀。孝子。官は國子監說書。學問該洽。文彥博は經史注疏に於て遺忘した所のある時、雲卿に質した。〔宋元學案、八〕。

【張雲章】799 チヤウウンシヤウ　清、嘉定の人。字は漢瞻。號は樸村。康熙の諸生。陸隴其に從つて學ぶ。嘗て徐乾學の客となり、經解を校勘す。隴其が當路に排せられた時、大學士徐元文に上書して之を救ひ、時人が其の風節を稱した。著に樸村集がある。〔清史列傳、六十七〕・〔國朝耆獻類徵、初編、四百三十二〕。

【張雲翼】800 チヤウウンヨク　清の人。勇の子。字は又南。靖逆侯に襲封せられ、七閩を總叔す。書室を式古堂といひ、著に式古堂集がある。〔國朝耆獻類徵、一百七十三〕。

【張雲鸞】801 チヤウウンラン　明、無錫の人。字は羽臣。號は泰巖。崇禎の初、嘗て輯めた所の經書講義を以て闕下に獻ず。著に五經總類がある。〔四庫提要、一百三十八〕。

【張運桂】802 チヤウウンケイ　清の人。運蘭の弟。字は稚園。咸豐中、運蘭と徽州を守つて名聲があり、運蘭の假歸後、五千人を以て賴裕新・古隆賢の三萬の衆を歙東に破る。官は總兵。〔中興將帥列傳、十九下〕。

【張運蘭】803 チヤウウンラン　清、湘鄉の人。字は凱章。謚は忠毅。官は福建按察使。後、閩を救ひ、汀州に敗死。巡撫を贈られた。〔清史稿、四百三十八〕・〔續碑傳集、六十〕。

【張蘊古】804 チヤウウンコ　唐、洹水の人。書傳に精通す。太宗の時、大寶箴を上る。官は大理丞。後、事に坐して誅せられた。〔唐書、二百一〕・〔舊唐書、一百九十上〕。

【張永安】805 チヤウエイアン　明、石州の人。嘉靖中、父が寇に逐はれたのを救はうとし、數十創を被つて死す。〔明史、二百九十七〕・〔萬斯同明史、二百九十三〕・〔明史稿、二百七十八〕。

【張永祺】806 チヤウエイキ　清、襄城の人。字は多祝。明の天啓の擧人。崇禎中、李自成と戰ひ、城が陷つて執へられた。清に入つてからは隱居して出でず。著に詩文集がある。〔明史、二百六十二〕・〔國朝詩人徵略、二〕。

【張永銓】807 チヤウエイセン　清、江蘇華亭の人。字は賓門。康熙の擧人。官は徐州學正。書室を閑存堂（閒存堂）といひ、著に閑存堂集がある。

【張永祚】808 チヤウエイソ　清、錢塘の人。字は景詔。號は兩湖。諸生。星象を知るを以て擧げられ、欽天監博士を授けられ、二十二史の天文律歷志を校するに與る。山水畫に巧。著に天象原委がある。〔清史稿、五百七〕・〔國朝耆獻類徵、一百四十五〕。

【張永德】809 チヤウエイトク　宋、陽曲の人。字は抱一。官は後周の忠孝軍節度使。宋の左衞上將軍・彰德軍節度・知天雄軍。〔宋史、二百五十五〕・〔宋史新編、六十八〕・〔東都事略、二十一〕・〔隆平集、十

八〕・〔琅琊代醉編、十五〕。

【張永明】810 チヤウエイメイ　明、烏程の人。字は鍾誠。謚は莊僖。嘉靖の進士。官は左都御史。直言の士。著に文集がある。〔明史、二百二〕・〔萬斯同明史、二百八十八〕・〔明史稿、一百八十四〕。

【張映辰】811 チヤウエイシン　清、仁和の人。字は星指。號は藻川。雍正の進士。官は兵郞右侍郞。詩に巧。書室を露香書屋といふ。〔國朝耆獻類徵、八十〕。

【張映斗】812 チヤウエイト　清、烏程の人。字は雪子。號は秋水齋。雍正の進士。官は編修。著に秋水齋詩集がある。〔大淸畿輔先哲傳、二十〕。

【張榮實】813 チヤウエイジツ　元、保定の人。官は湖北道宣慰使・諸路水軍萬戶。〔元史、一百六十六〕。

【張睿卿】814 チヤウエイケイ　明、歸安の人。字は稚通。號は心嶽。山川を游歷して書を著すを以て樂しみとし、著に峴山志がある。〔四庫提要、七十六〕。

【張瀛暹】815 チヤウエイセン　張穆(680)の❷を見よ。

【張曜孫】816 チヤウエウソン　淸の人。惠言の從子。字は仲遠。號は昇甫。晚に復生と號す。道光の擧人。官は湖北道員。兵を論じ、醫に精通す。書室を謹言愼行之居といひ、著に謹言愼好之居詩集がある。〔續碑傳集、三十六〕。

【張耀靈】817 チヤウエウレイ　十六國、前涼の人。重華の子。字は元舒。謚は哀。十歲にして嗣いで立つ。伯父祚が政を輔けたが、重華の母馬氏が祚に通じ、耀靈を廢して涼寧侯とし、祚を立てた。祚は尋いで耀靈を東苑に害す。〔晉書、八十六〕。

【張易之】818 チヤウエキシ　唐、定州の人。行成の族子。音技に通曉す。武后の幸臣。官は奉宸郞。封は恒國侯。中宗の復位後、張昌宗と共に張柬之に殺さる。〔唐書、一百四〕・〔舊唐書、七十八〕。

【張奕樞】819 チヤウエキスウ　淸、平湖の人。字は今培。諸生。詞に巧。著に紅螺詞がある。

【張曰韜】820 チヤウエツタウ　明、莆田の人。字は席珍。正德の進士。官は世宗の時、御史。後、抗疏力爭し、杖を受けて死す。〔明史、一百九十二〕・〔萬斯同明史、二百七十八〕・〔明史稿、一百八十九〕。

【張延翰】821 チヤウエンカン　五代、唐の睢陽の人。字は德華。官は吳に仕へて鹽城令。唐に入つて中書侍郞同平章事に至る。〔十國春秋、南唐〕。

【張延賞】822 チヤウエンシヤウ　唐の人。嘉貞の子。謚は成肅。經史を博涉す。官は中書侍郞同平章事。〔唐書、一百二十七〕・〔舊唐書、一百二十九〕。

【張延通】823 チヤウエンツウ　宋、潞城の人。官は開寶中、西川兵馬都監。丁德裕の怨を受けて斬られた。〔宋史、二百七十四〕・〔宋史新編、七十八〕。

【張延播】824 チヤウエンハ　五代、晉の汶陽の人。官は唐の鳳陽防禦使。晉の高祖の時、東都副留守。張從賓の亂の平定後、延播之に附いてゐた故を以て、誅せられた。〔舊五代史、九十七〕。

【張延朗】825 チヤウエンラウ　五代、唐の開封の人。初め梁に事へ、後、唐の忠武軍節度使・三司使となる。後、晉に殺さる。〔五代史、二十六〕・〔舊五代史、六十九〕。

【張衍瑞】826 チヤウエンズイ　明、汲の人。字は元承。弘治の進士。直諫を以て屢〻獄に下された。官は太常少卿。〔明史、一百八十九〕・〔萬斯同明史、二百六十二〕・〔明史稿、一百七十四〕。

【張宴之】827 チヤウエンシ　北齊の人。北史には張晏之に作る。彝の孫。字は熙德。官は北徐州刺史。〔北齊書、三十五〕・〔北史、四十三〕。

【張淵懿】828 チヤウエンイ　淸、靑浦の人。字は硯銘。順治の擧人。書室を月聽軒といひ、著に月聽軒詩餘がある。

【張燕卿】829 チヤウエンケイ　民國、河北省南皮縣の人。字は耐甫。靑島特別高等學校及び我が國の學習院文科卒業。各縣知事・實業廳々長等に歷任し、滿洲國成立後は實業總長を經て、實業部大臣・外交部大臣となる。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【張燕公】830 チヤウエンコウ　張說(65)の❸を見よ。

〖張燕公集〗831 チヤウエンコウシウ　書名。二十五卷。唐、張說撰。唐志は三十卷に作る。宋以來の書目は皆、二十五卷と著錄す。淸初、五卷の佚篇を類によつて補入し、二十五の卷數に合はせた。尙、全唐文は十三卷に作る。我が國には平安朝の初期に渡來。明刊八卷本の內容は、卷一、賦・五古。卷二、五古。卷三、五七古。卷四・五、五律。卷六・七、五排。卷八、七律・五六七絕。〔四庫提要、集、別集類〕。

【張燕昌】832 チヤウエンシヤウ　淸、海鹽の人。字は芑堂。號は文漁、又、金粟山人・石窻山人。嘉慶中、孝廉方正に擧げられた。金石を嗜み、畫を善くし、篆隸・彫刻に巧。書室を石鼓亭といひ、著に金石契・續鴛鴦湖櫂歌・芑堂印存・金粟逸人逸事がある。〔詩畫家詩史、丁、上〕。

【張燕翼】833 チヤウエンヨク　❶明、長洲の人。字は叔詒（叔貽）。詩・書・畫に巧。時に吳中の皇甫の四子、沖・涍・汸・濂と、張翼其及び其の弟兄二人と、皆才名があり、吳人が前に四皇、後に三張といふ。〔明史、二百八十七〕・〔明人小傳、三〕・〔明詩綜、四十五〕。❷淸、江夏の人。字は安仲。官人が奉じて楷模とした。嘗て金を寄附した人があつたが、其の人の歿後、其の孤を訪うて之を還す。〔國朝耆獻類徵、一百四十一〕。

【張應均】834 チヤウオウキン　淸、元和の人。字は星纏（星躔）。號は東畬。乾隆中、兩度、副貢に擧げられ、終西陽州判となり、西昌縣の長官に署せられ、養を以て歸る。書畫を善くし、詩に巧。著に入蜀草がある。〔淸畫家詩史、丁、上〕。

【張應昌】835 チヤウオウシヤウ　淸の人。師誠の子。字は仲甫。號は寄菴。嘉慶の擧人。官は中書。書室を壽彝堂・彝壽軒といひ、著に烟波漁唱・壽彝堂詩集・春秋屬辭辨例篇・南北史識小錄補正・寄菴雜著がある。〔淸史列傳、六十九〕。

【張應治】836 チヤウオウチ　明、秀水の人。字は休徵。嘉靖の進士。力めて權倖に抗す。官は萬曆の初、南京兵備副使。〔明史、二百十五〕・〔萬斯同明史、三百八〕・〔明史稿、一百九十九〕・〔國朝獻徵錄、九十五〕。

【張應文】837 チヤウオウブン　明、崑山の人。字は茂實。號は彝甫、又、被褐先生。古今を博綜し、王世貞と交る。嘉定から長州に徙居す。古今の法書・名畫を搜して淸祕藏張氏藏書を著す。〔四庫提要、一百二十三〕。

【張應遴】838 チヤウオウリン　明、常熟の人。字は選卿。著に海虞文苑がある。〔四庫提要、一百九十三〕。

【張昷之】839 チヤウヲンシ　宋の人。字は景山。進士。官は光祿卿。〔宋史、三百三〕。

【張可久】840 チヤウカキウ　元、慶元の人。字は仲遠。號は小山。路吏から首領に轉ず。詞曲に巧。喬吉と名を齊しくし、著に小山樂府がある。〔四庫提要、二百〕。

【張可前】841 チヤウカゼン　淸、江陵の人。字は著漢。順治の進士。官は刑部侍郞、後、兵部に轉ず。

【張可大】842 チヤウカダイ　明、應天の人。字は觀甫。謚は莊節。萬曆の武進士。官は登萊總兵官・右都督。孔有德の反に戰死す。好學、詩を能くし、儒將の風があつた。〔明史、二百七十〕・〔萬斯同明史、三百八十一〕・〔明史稿、二百四十九〕・〔明人小傳、四〕・〔明詩綜、七十二〕。

【張可復】843 チヤウカフク　五代、周の平原の人。字は伯恭。儒術に通ず。梁・唐・晉・漢に歷仕し、周の右散騎常侍となる。〔舊五代史、一百三十一〕。

【張佳胤】844 チヤウカイン　明、銅梁の人。字は肖甫。號は居來山人（崌崍山人）。謚は襄憲。嘉靖の進士。馬文英・劉延用の亂を平定す。官は太子太保。王世貞等と唱和し、嘉靖七子の一。書室を居來山房といひ、著に居來山房集がある。〔明史、二百二十二〕・〔萬斯同明史、三百十三〕・〔明史稿、二百五〕・〔明人小傳、三〕・〔明詩綜、四十七〕。

【張家玉】845 チヤウカギヨク　明、東莞の人。字は元子。號は芷園。謚は文烈。崇禎の進士。官は唐王の時、編修・給事中。後、李成棟と戰つて敗死す。〔明史、二百七十八〕・〔萬斯同明史、三百七十二〕・〔明史稿、二百五十九〕・〔明人小傳、四〕・〔明詩綜、七十四〕・〔小腆紀年、四〕。

【張家駒】846 チヤウカク　淸、吳縣の人。初名は震。字は敬修。號は恂哉。諸生。畫に巧。

【張嘉祐】847 チヤウカイウ　唐の人。嘉貞の弟。官は金吾衞將軍。每朝、訪客が閭巷に盈ちた。時人は彼の居る所の坊を鳴珂里といふ。〔唐書、一百二十七〕。

【張嘉祥】848 チヤウカシヤウ　張國樑(1059)の❷を見よ。

【張嘉貞】849 チヤウカテイ　唐、猗氏の人。字は嘉貞。謚は恭肅。官は開元中、中書令。〔唐書、一百二十七〕・〔舊唐書、九十九〕。

【張嘉昺】850 チヤウカヘイ　淸、鄞の人。字は石渠。繪事に巧。風節が甚だ高く、寓客の僧と萍社を爲り、日日唱和す。醫を能くし、收入を以て朝夕の費に

給す。〔清畫家詩史、甲、上〕。

【張嘉玲】851 清、呉江の人。字は佩葱、又、岵瞻。明の諸生。號は安孝先生。張履祥の弟子。著に安孝先生遺集がある。〔清史列傳、六十六〕・〔碑傳集、一百二十七〕・〔國朝先正事略、二十七〕・〔清儒學案小識、十二〕。

【張我正】852 明、陝州の人。俠豪。崇禎中、賊を禦いで勇奮し、自刎して死す。〔明史、二百九十二〕・〔萬斯同明史、三百七十八〕。

【張我德】853 明、陝州の人。崇禎中、賊に遭ひ、自ら焚死す。〔明史、二百九十二〕・〔萬斯同明史、三百七十八〕。

【張介然】854 唐、猗氏の人。本名は六郎。官は河南節度採訪使。安祿山を禦いで戰死す。〔唐書、一百九十二〕・〔舊唐書、一百八十七下〕。

【張介賓】855 明、浙江山陰の人。字は惠卿。號は景岳。醫家。十三の年、父に隨つて京に至り、金夢石から醫術を受く。好んで熟地黃を用ひたので、時人は張熟地と呼ぶ。著に景岳全書・類經・古方八陣・新方八陣がある。〔會稽縣志〕。

【張介福】856 明の人。字は子祺。懷慶から呉中に徙る。許衡の弟子。仕へず。〔明史、二百九十八〕・〔萬斯同明史、三百九十六〕・〔明史稿、二百七十九〕。

【張海珊】857 清、震澤の人。字は越來、又、鐵甫。道光の擧人。程・朱・陸・王の學に通ず。書室を小安樂窩といひ、著に小安樂窩詩文集がある。〔清史稿、四百九十〕・〔清史列傳、七十二〕・〔碑傳集、一百四十一〕。

【張海鵬】858 ❶清、昭文の人。字は若雲。號は子瑜。諸生。藏書を好み、治經の暇に古書を剞劂することを以て己の任となす。書室を借月山房・照曠閣といひ、刊書に墨海金壺・學津討源・借月山房彙鈔がある。❷民國、奉天省蓋平縣の人。字は仙濤。奉天講武堂に學び東北陸軍第四旅長を經て洮遼鎭守使兼東北騎兵第三十二師長となる。滿洲事變の起るや、中立を宣言し、昂昂溪・大興等に馬占山と戰ひ、新國家建設に奔走し、滿洲國の成立と共に侍從武官長・陸軍上將となる。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【張開東】859 清、蒲圻の人。字は白蒓。詩に巧。嘗て隻輪車に坐して五嶽を偏遊したので、畢沅が海嶽遊人の四字を題して之に贈つた。〔國朝詩人徵略初編、四十六〕。

【張開福】860 清の人。燕昌の子。字は質民。號は石匏。諸生。金石を好み、善く鼎彝碑版を鑒別す。詩に巧。陝西に客遊して歸り、自ら太華歸雲叟と號す。著に石匏小稿がある。〔清畫家詩史、己、下〕。

【張好好】861 ❶唐の人。名妓。唱歌に巧。〔杜牧、張好好詩序〕牧、太和三年、佐㆓故吏部沈公江西幕㆒、好好年十三、始以㆑善㆑歌來㆓樂籍中㆒、後一歲、公移㆓鎭宣城㆒、復置㆓好好於宣城籍中㆒、後二歲、爲㆑沈著㆓作述師㆒、以㆓雙鬟㆒納㆑之、後二歲、於㆓洛陽東城㆒覩㆓好好㆒、感㆑舊傷懷、故題㆑詩贈㆑之。❷宮女などが好んで自稱した姓名。〔聞見後錄〕鳳翔府祁陽鎭法門寺塔、葬㆓佛手指骨一節㆒、塔下層有㆓石芙蕖㆒、工製精妙、每㆓一葉上㆒、刻㆘一施㆓金錢㆒人姓名㆖、殆數千人、宮女姓名、爲㆑多㆘如㆑曰㆓張好好・李水水㆒之類㆖。

【張好古】862 元の人。晉亭の子。字は信甫。宋人と戰つて死す。〔元史、一百五十二〕。

【張行簡】863 金の人。暐の子。字は敬甫。諡は文正。大定の進士。官は太子太傅。經史に淹貫し、著に文章十五卷・禮例纂一百二十卷がある。〔金史、一百六〕。

【張行言】864 清、江浦の人。字は躬先。著に聖門禮樂統がある。〔四庫提要、八十三〕。

【張行信】865 金の人。行簡の弟。字は信甫。初名は行忠。正直の臣。大定の進士。官は哀宗の時、尚書左丞。書室を靜隱亭といふ。〔金史、一百七〕。

【張行成】866 ❶唐、義豐の人。字は德立。諡は定。官は太宗の時、太子少傅。〔唐書、一百四〕・〔舊唐書、七十八〕。❷宋、臨邛の人。字は文饒、又、子饒。學者、觀物先生と稱す。官は兵部郎中。著に皇極經世索隱・皇極經世觀物外篇・演義・易通變・翼元がある。〔宋元學案、七十八〕・〔宋史翼、二十八〕。

【張行忠】867 張行信(865)を見よ。

【張孝傑】868 遼、永霸の人。清寧の間、北府宰相となる。耶律乙辛と忠良を誣害したため、乾統の初、屍を戮せられた。〔遼史、一百十〕。

【張孝思】869 清、丹徒の人。字は則之。號は懶逸(嬾逸)。諸生。潔癖・茶癖・法書名畫癖があり、書に巧で畫を善くす。家に培風閣があり、鑒賞に精しく、收藏に富む。〔國朝耆獻類徵、四百六十七〕。

【張孝秀】870 梁、宛の人。字は文逸。建安王の別駕。職を去つて東林寺に隱居。釋典に曉通す。〔梁書、五十一〕・〔南史、七十六〕。

【張孝昌】871 清の人。滔の子。字は綏右。諸生。詩・書・畫に巧。著に燕遊草がある。

【張孝祥】872 宋の人。祁の子。字は安國。紹興の進士。官は平江靜江荆南の長官。翰墨に巧。著に于湖居士集がある。〔宋史、三百八十九〕・〔宋史新編、一百四十四〕・〔南宋書、三十一〕・〔皇宋書錄、下〕・〔宋元學案、四十一〕。

【張孝忠】873 唐の人。諡は貞武。安祿山の偏將。後、歸順す。官は貞元の時、檢校司空。〔唐書、一百四十八〕・〔舊唐書、一百四十一〕。

【張孝直】874 宋、臨川の人。字は英甫。陸九淵の門人。先儒の經學に滿足せず、伊洛諸儒の議論にも、悉くは從はず。著に易詩書語孟中庸口義五十餘篇がある。〔宋元學案、七十七〕。

【張康國】875 宋、揚州の人。字は賓老。諡は文簡。進士。官は知樞密院事。帝の意を受けて、蔡京の奸暴を沮止す。〔宋史、三百五十一〕・〔宋史新編、一百二十一〕・〔東都事略、一百三〕。

【張綱孫】876 張丹(535)を見よ。

【張各莊】877 地名。❶河北省三河縣の西北。❷河北省灤縣の西南。❸河北省豐潤縣の西南。

【張革之】878 宋、潼川の人。字は西仲。呉曦の叛に義兵を擧げ、功を嫉まれて安丙に殺された。楊巨源のために、誅呉錄を作つて其の冤を明かにした。〔四庫提要、五十二〕。

【張覺民】879 宋、文州の人。元祐の進士。黨錮に坐し、退いて成都に居り、張正己等と交り、草堂先生と號す。著に歌詩雜著百餘篇がある。〔尚友錄、八〕。

【張鶴鳴】880 明、潁川の人。字は元平。萬曆の進士。官は太子太師。崇禎中、流賊に殺された。〔明史、二百五十七〕・〔萬斯同明史、三百四十八〕・〔明史稿、二百七十二〕。

【張鶴齡】881 ❶明の人。巒の子。侯を嗣ぐ。性、驕肆。官は正德中、太傅。封は昌國公。後、事に坐して捕へられ、瘦死す。〔明史、三百〕・〔萬斯同明史、三百九十九〕。❷清、陽湖の人。字は長儒。號は嘯圃。光緒の進士。官は奉天提學使。博通にして文章を善くし、譯籍を博覽して中外の掌故に通ず。京師大學堂の章程は多く其の規畫に係る。〔碑傳集補、二十〕。

【張岳崧】882 清、安定の人。字は翰山。號は海山道人。嘉慶の進士。官は湖北布政使。書に巧。書室を筠心草堂といひ、著に筠心草堂集がある。〔國朝書畫家筆錄、三〕。

【張岳齡】883 清、平江の人。字は子衡。號は鐵瓶。官は甘肅按察使。著に鐵屏詩文鈔がある。

【張學顏】884 明、肥鄉の人。字は子愚。嘉靖の進士。張居正に阿附す。官は太子太保。〔明史、二百二十二〕・〔萬斯同明史、三百十三〕・〔明史稿、二百五〕。

【張學曾】885 清、會稽の人。字は爾唯。號は約菴。官は順治中、蘇州府の長官。書に巧。山水畫を善くす。〔國朝耆獻類徵、二百十七〕・〔國朝畫識、二〕。

【張學良】886 民國、奉天省海城縣の人。字は漢卿。張作霖の長子。東三省陸軍講武堂卒業。第二奉直戰後、諸要職を兼ね、傍ら銀行・會社の重役に任じ、張作霖の世嗣として次第に重きを加へた。父の死後、東三省保安總司令となり、滿洲の主權を握り、國民政府と妥協し、國民政府委員に就任す。以後、蔣介石と親しく、監察委員・軍事委員等に擧げられたが、一九三六年、突如蔣介石を監禁して、所謂西安事件を起し、ために職を解かれて、日支事變中は貴州に幽閉せられてゐた。戰後、國民政府の臺灣遷都後、其

の地へ移された。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【張柬之】 887 チヤウカンシ　唐、襄陽の人。字は孟將。諡は文貞。賢貞對策第一。狄仁傑は彼を宰相の才が有りと推薦した。官は同平章事。武后の嬖臣、張昌宗・易之を誅し、唐の社稷を復す。功によつて官は天官尙書。封は漢陽郡王。後、武三思に誣られ、瀧州に謫死す。〔唐書、一百二十〕・〔舊唐書、九十一〕。

【張漢卿】 888 チヤウカンケイ　明、儀封の人。字は元傑。正德の進士。官は戶科給事中。興獻帝に皇號を加へる議に極力反對し、斥けられて民となる。〔明史、一百九十二〕・〔萬斯同明史、二百九十四〕・〔明史稿、一百八十八〕。

【張嫺倩】 889 チヤウカンセン　明、廬州の女子。字は蓼山。詞に巧。著に蕉窗逸韻がある。〔明詞綜、十二〕。

【張含輝】 890 チヤウガンキ　清、掖縣の人。字は韞璘。順治の進士。康熙中、鴻博に擧げられ、後、官は吏部郎中、後、四川督學。詩詞に巧。著に東山吟蜀草がある。〔國朝詩人徵略、二編、一〕・〔鶴徵錄、五〕。

【張巖叟】 891 チヤウガンソウ　金の人。大節の子。字は孟弼。大定の進士。官は沁南節度使。〔金史、九十七〕。

【張希崇】 892 チヤウキシユウ　五代、唐の薊の人。字は德峯。左氏春秋・星曆に精し。官は明宗の時、靈武節度使。〔五代史、四十七〕・〔舊五代史、八十八〕。

【張希顏】 893 チヤウキガン　❶宋の人。官は景德中、萍鄉縣の長官。〔尙友錄、八〕。❷宋、漢州の人。初名は適。畫に巧。著に蜀州推官がある。〔畫繼〕。

【張希復】 894 チヤウキフク　唐、常山の人。字は善繼。牛僧孺の壻。官は集賢校理、後、學士。段成式・鄭符と聯句詩がある。〔全唐詩、二十〕。

【張希良】 895 チヤウキリヤウ　清、黃安の人。字は石虹。康熙の進士。官は翰林・左右春坊贊善。三朝國史・一統志・明史・春秋講議類函を纂修す。侍郎に累官し、浙江に督學し、致仕して歸る。詩文に巧。尤も古學に深い。書室を寶宸堂といひ、著に春秋大義・宋史刪・文章翰海・格物內外編・寶宸堂集がある。〔四庫提要、三十一〕。

【張季珣】 896 チヤウキシユン　隋の人。祥の子。官は大業の末、鷹擊郎將。李密を拒ぎ、死守三年。翟讓に殺された。〔隋書、七十一〕・〔北史、八十五〕。

【張起雲】 897 チヤウキウン　清、大寧の人。諡は恪毅。行伍から南澳總兵に擢んでられ、海盜を防緝す。官は廣東提督。〔國朝耆獻類徵、二百八十二〕。

【張起鼇】 898 チヤウキガウ　清、新野の人。嘉慶中、川楚の教匪を討伐するに隨ひ、江南・四川・甘肅・陝西に轉戰し、功によつて甘肅河州鎭總兵となる。〔國朝耆獻類徵、三百十三〕。

【張起巖】 899 チヤウキガン　元、禹城の人。字は夢臣。號は華峯。諡は文穆。延祐の進士。遼・金・宋三史を纂修す。官は翰林承旨。著に華峯漫稿・華峯類稿・金陵集がある。〔元史、一百八十二〕。

【張貴謨】 900 チヤウキボ　宋、遂昌の人。字は子智。官は朝議大夫。封は遂昌縣開國男。著に九經圖述・韻略補遺がある。〔慶元黨禁〕・〔淳熙薦士錄〕・〔南宋館閣續錄、九〕。

【張熙純】 901 チヤウキジユン　清、上海の人。字は策時。號は少華。乾隆の擧人。官は中閣中書。塡詞に巧。書室を曇華閣といひ、著に曇華閣詩がある。〔國朝詩人徵略初編、三十八〕。

【張龜年】 902 チヤウキネン　宋、諸暨の人。范浚の弟子。〔宋元學案、四十五〕。

【張龜齡】 903 チヤウキレイ　張志和(1111)を見よ。

【張歸厚】 904 チヤウキコウ　五代、梁の人。歸霸の弟。字は德坤。官は鎭國軍節度使。〔五代史、二十二〕・〔舊五代史、十六〕。

【張歸霸】 905 チヤウキハ　五代、梁の清河の人。少くして黃巢に從ひ、後、梁に歸して、戰功があり、官は河陽節度使。〔五代史、二十二〕・〔舊五代史、十六〕。

【張宜尊】 906 チヤウギソン　清、澧州の人。號は少白山人(少伯山人)。官は嘉慶の間、巢縣柘皐巡檢。書畫に巧。〔國朝耆獻類徵、二百六十〕・〔續碑傳集、八十四〕。

【張義潮】 907 チヤウギテウ　唐、沙州の人。會昌中、吐蕃が沙州を侵したのに乘じ、衆を率ゐて守者を逐ひ、自ら州事を攝し、次弟に諸州を復し、捷を朝に告げ、十一州の圖籍を獻じて、歸義軍節度を授けられた。咸通中、自ら將として涼州を復し、回鶻の首領僕固俊に命じて吐蕃の將尙恐熱を擒斬させ、河隴を肅淸す。後、入朝し、右神武統軍に拜せられた。〔唐書、二百十六下〕。

【張義方】 908 チヤウギハウ　五代、唐の人。初名は元達。李昇の命によつて義方と改名。昇が吳の禪を受けた後、侍御史となり、上疏直言し、大いに稱賞せられた。道士陳友と丹を牛頭山に合し、未だ成らない中に疾み、丹を食ひ、瘖を病んで卒す。〔全唐詩、二十七〕・〔全唐文、八百七十〕。

【張義年】 909 チヤウギネン　清、餘姚の人。字は淳初。號は潛亭。拔貢を以て教諭に任ぜられ、四庫で書を徵した時に選ばれ、後、修書の勞によつて、進士を賜はつた。

【張九一】 910 チヤウキウイツ　明、新蔡の人。字は助甫。號は周田。嘉靖の進士。官は右僉都御史。書室を綠波樓といひ、著に綠波樓詩集がある。〔明史、二百八十七〕・〔萬斯同明史、三百八十八〕・〔明詩稿、二百六十八〕・〔明人小傳、三〕・〔明詩綜、四十七〕。

【張九鎰】 911 チヤウキウイツ　清の人。九鍵の弟。字は橘洲。號は退谷。乾隆の進士。性、伉直。著に退谷詩鈔がある。〔清史列傳、七十二〕・〔國朝耆獻類徵、二百十〕・〔國朝先正事略、四十三〕。

【張九鉞】 912 チヤウキウエツ　清、湘潭の人。字は度西。號は紫峴・陶園。乾隆の擧人。十三の年、采石磯に登つて長歌を賦し、時人に太白の後身といはれた。官は江西・南昌・廣東・始興縣の長官。書室を得瓠軒といひ、著に陶園詩文集・歷代詩話・晉南隨筆がある。〔清史列傳、七十二〕・〔國朝耆獻類徵、二百二十三〕・〔國朝先正事略、四十三〕。

【張九皐】 913 チヤウキウカウ　唐の人。九齡の弟。官は嶺南節度使。書室を聽鶴軒といふ。〔唐書、一百二十六〕・〔舊唐書、九十九〕。

【張九鍵】 914 チヤウキウケン　清の人。九鉞の弟。字は石園。乾隆の擧人。官は直隸隆平縣の長官。詩に巧。書室を漱石園といひ、著に漱石園詩集がある。〔清史列傳、七十二〕・〔國朝耆獻類徵、二百二十三〕・〔國朝先正事略、四十三〕。

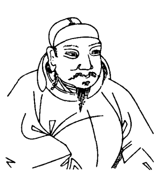
【張九思】 915 チヤウキウシ　❶金、錦州の人。字は全行。官は御史中丞。〔金史、九十〕。❷元、宛平の人。字は子有。妖僧高和尙・千戶王著が皇太子を謀殺しようとしたのを擊つ。官は大司徒。書室を遂初堂といふ。〔元史、一百六十九〕。❸清、善化の人。字は聿修。號は洞井山人。乾隆の優貢。官は寧遠訓導。著に蒙泉文集・枘芝詩集がある。〔國朝耆獻類徵、二百五十四〕。

【張九鐔】 916 チヤウキウシン　清の人。九鎰の弟。字は竹南。號は蓉湖。乾隆の進士。官は編修。經學に精通す。書室を笙雅堂といひ、著に笙雅堂集がある。〔清史列傳、七十二〕・〔國朝耆獻類徵、一百三十二〕・〔國朝先正事略、四十三〕。

【張九成】 917 チヤウキウセイ　宋、錢塘の人。字は子韶。號は橫浦居士、又、無垢居士。追諡は文忠。楊時の弟子。紹興中、廷對第一。官は禮部侍郎。秦檜と和せずして謫せられたが、檜の死後、起用せられ、卒して太師を贈られ、崇國公に封ぜられた。經學を研思し、多く訓解があるが、早くから佛者と游び、議論に偏頗なものが多い。朱熹は其の書を斥けて、洪水猛獸に比した。九成の一派を世に橫浦學派といふ。著に尙書中庸大學孝經語孟說及び孟子傳・橫浦集がある。〔宋史、三百七十四〕・〔宋史新編、一百三十九〕・〔南宋書、二十三〕・〔四朝名臣言行錄、上、九〕・〔宋詩鈔〕・〔宋元學案、四十〕。

【張九韶】 918 チヤウキウセウ　明の張美和をいふ。九韶は名。張美和(1463)を見よ。

【張九齡】 919 チヤウキウレイ　唐、曲江の人。字は子壽。世に曲江公といふ。諡は文獻。景龍の進士。官は尙書右丞相。李林甫を抑へて反つて退けられ、相を罷めて家居して卒す。其の文學は一時に冠絕し、著に曲江集がある。〔唐書、一百二十六〕・〔舊唐書、九十九〕。



張九齡（三才圖會）

【張鏡心】 920 チヤウキヤウシン　清、磁州の人。字は孝仲。號は湛虛、又、晦臣。明の天啓の進士。官は兵部尙書。馬士英・阮大鋮が事を用ひるに及んで辭去す。順治中、屢〻薦められたが起たず。晚年、戶を閉ぢて易に注し、性命の旨を極め、自ら雲隱居士

と稱す。著に易經增注がある。〔國朝耆獻類徵、四百六十三〕。

【張競光】921 清、杭州の人。字は覺菴。書室を寵壽堂といひ、著に寵壽堂詩集がある。〔四庫提要、一百八十三〕。

【張去爲】922 宋の人。張見道の養子。秦檜・王繼先と倶に事を用ふ。官は內侍省都知。〔宋史、四百六十九〕・〔宋史新編、一百八十四〕・〔南宋書、六十八〕。

【張去華】923 宋、襄邑の人。字は信臣。建隆の進士。官は工部侍郎。眞宗の命により、其の元元論を寫して龍圖閣の四壁に列置した。著に文集がある。〔宋史、三百六〕・〔宋史新編、八十四〕。

【張去疾】924 戰國、韓の人。張良の祖。〔荀子、臣道〕韓之張去疾、趙之奉陽、齊之孟嘗、可ㇾ謂㆓篡臣㆒也。〔注〕蓋張良之祖、漢書、良其先韓人、大父開地、相㆓韓昭侯・宣惠王・襄哀王㆒、父平相㆓釐王・悼惠王㆒、五世事ㇾ韓、戰國策、韓有㆓張翠㆒、納㆓賂於宣太后㆒。

【張巨源】925 宋、襄陽の人。五世同居し、旌表せられた。太平興國中、明法及第を賜はつた。〔宋史、四百五十六〕・〔宋史新編、一百七十六〕。

【張居翰】926 五代、唐の人。字は德卿。官は唐の昭宗の時、范陽軍監軍。後唐の莊宗の時、樞密使。〔五代史、三十八〕・〔舊五代史、七十二〕。

【張居正】927 明、江陵の人。字は叔大。號は太岳。謚は文忠。嘉靖の進士。神宗の時、高拱に代つて首輔となる。宰相となること十年、海內、治を稱す。帝は之を元輔張少師先生と呼び、師禮を以て遇す。後、張誠に譖せられ、家は籍沒せられた。著に書經直解・太岳集・太岳雜著・帝鑑圖說がある。〔明史、二百十三〕・〔萬斯同明史、三百二〕・〔明史稿、一百九十七〕・〔明人小傳、三〕・〔明詩綜、四十三〕。

【張虛白】928 宋、南陽の人。號は白雲子。太乙六壬の術に通ず。官は太虛大夫。金門羽客と號し、禁中に出入す。〔尙友錄、八〕。

【張拱乾】929 清、吳江の人。字は九臨。號は愧菴・枯木道人。明末の諸生。文名、吳下に高く、淸に入つて後、薙髮せざるを以て繫がれ、尋いで釋さる。晚年、好んで禪を學ぶ。書法に巧。書室を獨倚樓といひ、著に倚樓集がある。〔國朝耆獻類徵、四百七十六〕。

【張恭祖】930 後漢、東郡の人。鄭玄に從つて周官禮・左氏春秋・韓詩・古文尙書を學び、世の名儒となる。〔後漢書、六十五〕。

【張玉穀】931 清、吳縣の人。字は蔭嘉。諸生。詩・書に巧。尤も樂府に長ず。著に樂圃詞がある。

【張玉書】932 清、丹徒の人。字は素存。順治の進士。官は文華殿大學士。謚は文貞。歷官凡そ五十年、二十年閒宰相の地位を保つ。其の作る所の古文辭は舂容典雅、一代の大手筆と稱せられる。〔淸史稿、二百七十二〕・〔淸史列傳、十〕・〔國朝耆獻類徵、九〕・〔國朝先正事略、七〕。

【張玉娘】933 元、松陽の人。字は若瓊。號は一貞居士。宋の提擧官、張懋の女。生れながらにして殊色があつた。沈佺との婚約中に沈佺が卒したので、玉娘は鬱鬱として死んだ。文章・詩詞に秀で、著に蘭雪集がある。〔四庫提要、一百七十四〕。

【張玉珍】934 清、華亭の人。字は藍生。金鋤の妻。書室を得樹樓といひ、著に得樹樓詞がある。〔淸代閨閣詩人徵略、六〕。

【張欣泰】935 南齊、竟陵の人。字は義亨。少くして志節があつたが、武業を好まず、隸書を好み、子史を讀む。官は持節督雍涼南北秦諸州軍事。少帝が昏亂なので、密かに廢立を謀つて誅せられた。〔南齊書、五十一〕・〔南史、二十五〕。

【張金吾】936 清、昭文の人。字は愼旃、又、月霄。道光の諸生。藏書を好み、八萬餘卷に至る。資治通鑑長編等の書を刊行す。書室を求舊書莊詩史閣・詒經堂・愛日精廬といひ、著に愛日精廬藏書志がある。〔碑傳集補、四十八〕。

【張金鏞】937 清、平湖の人。字は良甫。號は海門。道光の進士。官は翰林院侍講。書室を躬厚堂・跗山館(絳跗山館)といひ、著に躬厚堂集・跗山館詞がある。〔淸畫家詩史、辛、上〕。

【張僅言】938 金の人。覺の子。幼名は元奴。官は勸農使。〔金史、一百三十三〕。

【張錦芳】939 清、廣東順德の人。字は粲夫(燦夫)。號は藥房。乾隆の進士。官は編修。說文に通じ、詩に巧。馮敏昌・胡亦常と共に嶺南の三子、黎簡等と共に、嶺南の四家と稱せられた。書室を逃虛閣・南雪軒といひ、著に逃虛閣詩鈔・南雪軒文鈔・詩餘がある。〔淸史稿、四百九十〕・〔淸史列傳、七十二〕・〔國朝耆獻類徵、一百三十二〕・〔國朝先正事略、四十四〕。

【張錦麟】940 清の人。錦芳の弟。字は瑞夫。乾隆の擧人。卒年、僅かに二十九。著に少游集がある。〔淸史稿、四百九十〕・〔淸史列傳、七十二〕。

【張果中】941 清、直隸新城の人。字は于度。明の諸生。鹿善繼の弟子。左光斗・魏大中と共に范陽の三烈士と稱せられる。明の滅亡後、蘇門に隱居す。〔國朝耆獻類徵、四百六十四〕・〔碑傳集、一百二十七〕。

【張華原】942 北齊、代郡の人。字は國滿。官は兗州の刺史。惠政が多く、ために寇盜が絕えた。〔北齊書、四十六〕・〔北史、八十六〕。

【張懷瓘】943 唐、海陵の人。官は開元中、翰林院供奉。嘗て古今の書體及び能書の人名を錄し、各〻其の源流を述べ、品第を定めて、書斷の一書を著す。又、古文大篆書祖・書估・書議・六體論・用筆十法・評書藥石論等の著書がある。〔四庫提要、一百十二〕。

【張光緯】944 清、無錫の人。字は次民。號は息廬。明の諸生。隱居して仕へず。著に息廬剩稿がある。

【張光奎】945 明、澤州の人。官は山東右布政使。崇禎の閒、流賊と戰つて死す。〔明史、二百九十二〕・〔萬斯同明史、三百七十八〕・〔明史稿、二百七十二〕。

【張光晟】946 唐、盩厔の人。官は單于都護。朱泚が僭逆した時、光晟を任じて僞節度使兼宰相と爲す。後、李晟に降り、誅せられた。〔舊唐書、一百二十七〕。

【張光前】947 明、澤州の人。字は爾荷。萬曆の進士。官は大理少卿。〔明史、二百四十二〕・〔明史稿、二百十八〕。

【張光亮】948 清、合肥の人。謚は壯烈。官は提督。光緒中、臺灣に赴き、番社を討伐して死す。

【張宏敏】949 清、丹徒の人。字は訥夫。號は紅洲。康熙の擧人。官は孝感縣の長官。才譽があり、乾隆中、鴻博に擧げられたが試に與らなかつた。詩に巧。著に紅洲詩集がある。〔鶴徵後錄、三〕。

【張煌言】950 明、鄞縣の人。字は元著。號は蒼水。追謚は忠烈。崇禎の擧人。明末、南京陷落の際、同郡の錢肅樂等と共に大義を倡へ、屢〻淸師に抵抗し、後、敗死す。著に奇零草・水槎集・北征錄・採薇吟がある。〔明史、二百七十六〕・〔明人小傳、四〕・〔明詩綜、七十五〕・〔小腆紀年、十二〕。

【張廣泗】951 清、漢軍鑲紅旗人。雍正中、知府から貴州巡撫に累擢せられた。苗疆を平定して功があり、官は川陝總督。兩金川を征し、久しくして功無く、軍機を誤つたので、逮問されて法に伏す。〔淸史稿、三百三〕・〔淸史列傳、十七〕。

【張完臣】952 清、平原の人。字は良哉。順治の進士。著に周易滴露集がある。〔四庫提要、九〕。

【張桓侯】953 三國、蜀の張飛(623)をいふ。桓侯は謚。〔蜀志、張飛傳〕追㆓謚飛㆒曰㆓桓侯㆒。

【張煥相】954 民國、奉天省撫順縣の人。字は召棠。我が國の陸軍士官學校步兵科卒業。歸國後、鮑貴卿の參謀長・東省特別區行政長官等に歷任し、日本留學派の中堅として重きをなした。後、日本留學派の沒落により閑地に轉じたが、滿洲國の成立後、協和會指導部長・司法大臣となる。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【張煥綸】955 清、上海の人。字は經甫。諸生。經世の學に志し、尤も輿地に長ず。光緒中、正蒙書院を創立し、中國の學堂建設の先驅を爲す。後、梅溪學堂と改名。該學堂は、義理を明かにし、時務を識るを以て宗旨とす。時人、宏毅先生といふ。

【張觀光】956 元、東陽の人。字は直夫。詩に巧。著に屏巖小稿がある。〔四庫提要、一百六十六〕。

【張紈英】957（チヤウグワンエイ）　淸の人。琦の五女。字は若綺。太倉の王曦に嫁いだが、曦が早く卒したので、後、弟に依つて居る。尤も古文篆法に巧。書室を餐楓館・鄰雲友月之居といひ、著に餐楓館文集・鄰雲友月之居詩集がある。〔淸史稿、五百十三〕。

【張君寶】958（チヤウクンパウ）　張三丰（1075）の❷を見よ。

【張君房】959（チヤウクンパウ）　宋、安陸の人。景德の進士。官は尙書度支員外郞・集賢校理。祥符中、御史臺から寧海に謫官せられた。帝が道教を崇尙し、祕閣の道書を杭州に付し、戚綸等に校正させた時、綸等が君房を薦めて其の事を主らせた。君房は編次して四千五百六十五卷を得て之を進め、復、其の精要萬餘條を撮つて雲笈七籤一百二十二卷を編し、道藏の菁華が是に具備した。〔宋人軼事彙編、二百二十五〕・〔四庫提要、一百四十六〕。

【失二卻張君房一】960（チヤウクンパウヲシツキヤクス）　張君房を失ふ。宋の祥符中、祕書省の職に在る者が文章があまり上手でなく、學士張君房をして代作させてゐた。偶〻眞宗が日本からの使者に一寺記を贈らうとして、祕書の詞臣に命じて撰せしめたところ、張君房が不在であつたため、詞臣が大いに苦しんだ故事。己が賴みとする人を失ふ喩。〔湘山野錄、上〕祥符中、日本國徽梯航稱レ貢、非二常貢一也、蓋因下本國之東有二祥光現一、其國素傳中中原天子聖明則此光現上、眞宗喜、敕二本國一建二一佛祠一以鎭レ之、賜レ額曰二神光一、朝辭日、上親臨、遣二夷使回一、乞レ令三詞臣撰二一寺記一、時當直者、雖三偶中二魁選一、詞學不二甚優贍一、居常止以二張學士君房一代レ之、蓋假二其稽古才雅一也、既傳二宣令一、急撰二寺記一、時張尙爲二小官一、醉二飮於礬樓一、遣レ人偏二京城一尋レ之不レ得、而夷人在二閤門一、翹レ足而待、又中人三促レ之、紫微大窘、後錢・楊二公、玉堂暇日、改二閑忙令一、大年曰、世上何人最得レ閑、司諫拂レ衣歸二華山一、蓋种放得二告還レ山養レ藥之時也、錢希白曰、世上何人最號レ忙、紫微失二卻張君房一、時傳二此事一爲二雅笑一。〔書言故事、古今喩類〕失二所レ資人一、曰三失二卻張君房一。

【張君平】961（チヤウクンペイ）　宋、滏陽の人。字は士衡。官は天聖中、修河都監、後、鈴轄。水利に通ず。〔宋史、三百二十六〕・〔宋史新編、一百五〕・〔隆平集、十九〕。

【張訓禮】962（チヤウクンレイ）　張敦禮（1428）を見よ。

【張契眞】963（チヤウケイシン）　五代、吳越の錢塘の人。藥笈琅函の祕を繙譯して深く微旨を得。後、宋に歸し、玄靜大師の號を賜はる。〔十國春秋、吳越〕。

【張奎文】964（チヤウケイブン）　民國、河北省の人。字は彬沈。馮玉祥の舊部下で卒伍出身。孫良誠が山東省主席の際、濟南警察廳長となり、山東省政府參議を經て、一九三二年、芝罘公安局長に就任す。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【張惠言】965（チヤウケイゲン）　淸、武進の人。字は皋文（皋聞）。號は茗柯。少くして詞賦を作り、嘗て司馬相如・揚雄の文に擬す。壯年に及び又、韓愈・歐陽脩に效ふ。其の學は易・禮に深く、禮は鄭康成を主とし、易は虞翻を主とし、尤も孤經絕學を硏究す。嘉慶の進士。官は編修。詞文篆書に巧。著に周易虞氏義・虞氏消息・虞氏易禮・易候・易事・易言・周易鄭荀義・易義別錄・易圖條辨・儀禮圖・說文諧聲譜・茗柯詩文集がある。〔淸史稿、四百八十八〕・〔淸史列傳、六十九〕・〔國朝耆獻類徵、一百三十二〕・〔碑傳集、五十一・一百三十五〕・〔國朝先正事略、三十六〕・〔國朝漢學師承記、四〕・〔淸儒學案小識、十四〕。

【張惠紹】966（チヤウケイセウ）　梁、義陽の人。字は德繼。諡は忠。齊に仕へて竟陵橫桑戍主となる。後、武帝に歸し、石陽縣侯に封ぜられた。官は左衞將軍。〔梁書、十八〕・〔南史、五十五〕。

【張惠明】967（チヤウケイメイ）　宋、趙州の人。道術があり、廬を中條山に結ぶ。太宗が詔して內殿に入れ、妙濟大師に封ず。尋いで西嶽に入つて尸解す。〔平陽府志〕。

【張景祁】968（チヤウケイキ）　淸、錢塘の人。字は蘊梅（韻梅）。號は蘩甫、又、新蘅主人。同治の進士。官は連江縣の長官。詩詞に巧。書室を硏雅堂といひ、著に硏雅堂詩・新蘅詞がある。

【張景惠】969（チヤウケイケイ）　民國、錦州省臺安縣の人。字は敍五。張作相と共に張作霖を扶け、顧維鈞內閣に陸軍總長、潘復內閣に實業總長となる。張作霖爆死の際、重傷を負ふ。爾來、張作相と共に奉天舊派の重鎭として國民政府軍事參議院長等に就任したが、滿洲事變が勃發するや日本側と折衝、治安維持に務め、滿洲國の成立後、參議府議長・國務總理大臣等を歷任した。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【張景憲】970（チヤウケイケン）　宋の人。師德の子。字は正國。官は河東郡轉運使、後、知同州。性、至孝。〔宋史、三百三十〕・〔宋史新編、一百八〕。

【張景修】971（チヤウケイシウ）　宋、常州の人。字は敏叔。詩・文・詞に巧。治平の進士。官は元豐の末、饒州浮梁令、後、祠曹郞中に至る。〔石林詩話〕。

【張景仁】972（チヤウケイジン）　❶梁、廣平の人。父の仇を報ず。〔南史、七十四〕。❷北齊、濟北の人。書家。性、恭謹。後主が尊んで博士と呼んだ。官は中書監。〔北齊書、四十四〕・〔北史、八十一〕。❸金、遼西の人。字は壽甫。官は大定の時、御史大夫。敢言の士。宋との和議に、往復の七書を皆作り、世宗に能文の士と稱譽せられた。〔金史、八十四〕。

【張景陽】973（チヤウケイヤウ）　張協（267）を見よ。

【張敬堯】974（チヤウケイゲウ）　民國、安徽省霍邱縣の人。字は勳臣。保定陸軍軍官學校卒業。段祺瑞に從ひ、白狼匪剿討の功に依つて第七師長に任ぜられ、江蘇・安徽・山東・河南省境方面の剿匪督辨として土匪討伐に從事す。綏遠都統・湖南督軍兼省長等に歷任して後、張宗昌の下に直魯聯軍第二軍長となり、國民革命軍と戰つたが、後、山西軍に投じた。後、天津で暗殺せられた。〔現代中華民國滿洲帝國人命鑑〕。

【張敬兒】975（チヤウケイジ）　南齊、冠軍の人。初名は苟兒。膽氣があり、好く猛獸を射る。初、宋に仕へ、官は寧朔將軍。齊に入つて、車騎將軍。後、誅せられた。〔南齊書、二十五〕・〔南史、四十五〕。

【張敬詢】976（チヤウケイジユン）　五代、唐の金河の人。太祖の時、甲坊を掌ること十五年。官は滑州節度使。〔舊五代史、六十一〕。

【張敬則】977（チヤウケイソク）　唐の人。本名は昌。後、名を敬則と賜はる。初、劉玄佐を助けて軍功があり、後、官は鳳翔節度使。番戎を征す。〔舊唐書、一百四十四〕。

【張敬達】978（チヤウケイタツ）　五代、唐の代州の人。字は志通。小字は生鐵。官は太原四面招討使。契丹が入寇するに及んで、楊光遠に殺された。〔五代史、三十三〕・〔舊五代史、七十〕。

【張敬夫】979（チヤウケイフ）　張栻（434）を見よ。

【張經田】980（チヤウケイデン）　淸、湘潭の人。字は壺山。乾隆の進士。官は貴陽兵備道。書室を無所住齋といひ、著に無所住齋隨筆がある。〔國朝耆獻類徵、二百十一〕。

【張慶之】981（チヤウケイシ）　宋、吳の人。字は子善。經史百氏に出入し、意を仕進に絕つ。好んで山水の游をなし、虎丘賦を著し、因つて海峯野逸と號す。五柳先生に倣つて海峯遺民傳を作り、伯夷・蔣詡・陶潛・司空圖を以て自ら況ふ。時人は其の狷介を賞した。〔宋史翼、三十五〕・〔宋季忠義錄、十五〕・〔新元史、二百四十一〕。

【張慶燾】982（チヤウケイタウ）　淸、嘉興の人。字は裕之、又、拙餘。號は古藤齋。張山の麓に居る。因つて張山樵夫と號す。善く蘭を畫き、世人が張蘭といふ。詩・文に巧。六書に精通す。書室を羣仙繪幅樓といひ、著に茗雲詩鈔・北征・楚游・中州草・玉楮文集・羣仙繪幅樓詩餘・拙餘印譜がある。〔飛鴻堂印人傳、二〕・〔墨香居畫識、五〕。

【張憬藏】983（チヤウケイザウ）　唐、長社の人。人の吉凶禍福を占ひ、效驗があつた。〔唐書、二百四〕・〔舊唐書、一百九十一〕。

【張繼庚】984（チヤウケイカウ）　張炳垣（1506）を見よ。

【張繼祚】985（チヤウケイソ）　五代、晉の人。全義の子。官は唐の西衞上將軍。天福の初、張從賓の亂に與つて誅せられた。〔舊五代史、九十六〕。

【張繼能】986（チヤウケイノウ）　宋、太原の人。字は守拙。官は眞宗の時、崇儀使。〔宋史、四百六十六〕・〔宋史新編、一百八十四〕。

【張繼孟】987（チヤウケイマウ）　明、扶風の人。字は伯功。萬曆の進士。官は天啓中、南御史、後、川西道副使。張獻忠が城を陷れた時、屈せずして死す。〔明史、二百九十五〕・〔萬斯同明史、三百八十一〕・〔明史稿、二百七十七〕・〔小腆紀年、七〕。

【張堯恩】988（チヤウゲウオン）　明、杭州の人。字は孺承。畫に巧。〔圖繪寶鑑續纂〕。

【張堯佐】989（チヤウゲウサ）　宋、永安の人。字は希元。溫成

皇后の世父。進士。官は鎭天平軍。吏治・法律に明通。〔宋史、四百六十三〕・〔宋史新編、一百八十二〕・〔東都事略、一百十九〕・〔隆平集、十一〕。

【張見陞】990（チヤウケンシヨウ）　淸、東莞の人。嘉慶中、守備から福寧鎭總兵に擢んでられた。李長庚と海盜蔡牽を討伐し、勇奮力戰、功を累ね、官は福建水師提督となり、尋いで事に坐して革職せられた。〔淸史列傳、三十一〕・〔國朝耆獻類徵、三百六〕。

【張建封】991（チヤウケンポウ）　唐、南陽の人。字は本立。德宗の時、李希烈の反を拒ぐ。官は徐泗濠節度使。卒して司徒を贈られた。〔唐書、一百五十八〕・〔舊唐書、一百四十〕。

【張虔威】992（チヤウケンヰ）　隋の人。宴之の子。字は元敬。周・隋に仕ふ。官は謁者大夫。河內の張衡と共に二張と稱せられた。〔隋書、六十六〕。

【張虔釗】993（チヤウケンセウ）　五代、蜀の遼州の人。官は後唐の山南西道節度使、後蜀の北面行營招討使。〔舊五代史、七十四〕。

【張虔雄】994（チヤウケンユウ）　隋の人。虔威の弟。官は壽春・陽城二縣の令。〔隋書、六十六〕。

【張甄陶】995（チヤウケンエウ）　淸、閩縣の人。字は希周。號は惕菴。諸生。乾隆の間、鴻博に擧げられた。官は高要縣の長官。著に讀書翼注がある。〔淸史稿、四百八十三〕・〔淸史列傳、七十五〕・〔國朝耆獻類徵、二百三十五〕・〔碑傳集、一百六〕。

【張憲載】996（チヤウケンサイ）　淸、狄道の人。字は仰原。官は陝西興安總兵。

【張謙宜】997（チヤウケンギ）　淸、膠州の人。號は稚松・䚡齋。康熙の進士。詩に巧。香山・劍南の間に出入し、著に䚡齋詩選がある。〔四庫提要、一百八十四〕。

【張謙德】998（チヤウケントク）　張丑(547)を見よ。

【張獻忠】999（チヤウケンチユウ）　明、延安衞の人。陰謀多智、黃面虎頷、世人、黃虎と號す。李自成と山陝・河南の地に寇し、武昌に據り、成都を陷れ、大西國王と稱し、大順と建元す。事遂に成らず、自ら刎死す。〔明史、三百九〕・〔萬斯同明史、四百八〕・〔明史稿、二百八十八〕・〔小腆紀年、二〕。

【張獻翼】1000（チヤウケンヨク）　明、崑山の人。字は幼于。後、敉と改名。官は嘉靖中、國子監生。書室を文起堂といひ、著に讀易紀聞・讀易韻考・舞志・文起堂集・紈綺集がある。〔明史、二百八十〕・〔明人小傳、三〕・〔明詩綜、四十五〕。

【張顯光】1001（チヤウケンクワウ）　朝鮮李朝、仁同の人。字は德晦。號は旅軒。諡は文康。官は右參贊、後、知中樞。著に易學圖說・圖書發揮・易卦摠說・經緯說・晚學要會・宇宙說・宇宙要括錄・疑俟質耄戒等がある。〔人物考〕。

【張顯宗】1002（チヤウケンソウ）　明、寧化の人。字は明遠。洪武の進士。官は建文の末、工部右侍郞。詔を奉じて義兵を江西に起す。燕王が入京した時、捕へられ興州に謫遷せられたが、交阯が平いで後、布政使に起用せられた。〔明史、一百六十三〕・〔萬斯同明史、一百八十八〕・〔國朝獻徵錄、一百三〕。

【張元凱】1003（チヤウゲンガイ）　明、吳縣の人。字は左虞。號は伐檀齋。世職を以て蘇州衞指揮と爲り、再び漕を督して北上し、功があつたが敍せられず、自ら免じて歸る。少くして毛詩を學び、節を折つて讀書す。詩に巧。著に伐檀齋集がある。〔明詩綜、四十八〕。

【張元幹】1004（チヤウゲンカン）　宋、長樂の人。字は仲宗。號は蘆川居士。紹興中、胡銓を送つた事、及び李綱に詞を寄せた事に坐して名を除かれた。著に歸來集・蘆川詞がある。〔宋史翼、八〕・〔宋詩鈔〕・〔四庫提要、一百五十八〕。

【張元簡】1005（チヤウゲンカン）　宋、淸江の人。字は敬父。黃幹の高弟。官は直寶章閣・沿江副制置使。〔宋元學案、六十三〕。

【張元勳】1006（チヤウゲンクン）　明、浙江太平の人。字は世臣。官は都督。屢〻戰功をたてた。〔明史、二百十二〕・〔萬斯同明史、三百二十〕・〔明史稿、一百九十六〕。

【張元濟】1007（チヤウゲンサイ）　民國、浙江省海鹽縣の人。字は菊生。前淸の進士。光緒時代、郵傳部左參議となつたが、幾何もなくして辭し、それ以來、上海商務印書館に在つて編輯と經營とに當り、傍ら二十四史の校勘に從事し、之を完成した。著に百衲本二十四史等がある。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【張元素】1008（チヤウゲンソ）　金、易州の人。字は潔古。進士に試みられたが及第せず、去つて醫術を治む。著に珍珠囊引經佐使・病機氣宜保命集・臟腑標本藥式・醫學啓源・潔古家珍等がある。〔金史、一百三十一〕。

【張元達】1009（チヤウゲンタツ）　張義方(908)を見よ。

【張元沖】1010（チヤウゲンチユウ）　明、浙江山陰の人。字は叔謙。號は浮峯。王守仁の弟子。嘉靖の進士。直諫の士。官は左副都御史・江西巡撫。〔明儒學案、十四〕。

【張元禎】1011（チヤウゲンテイ）　明、南昌の人。字は廷祥。諡は文恪。號は東白。天順の進士。英宗實錄の編修に預る。執政と意見が合はず、歸つて家居し、性命の學を講求すること二十年。憲宗に太極圖說・通書・西銘の諸書を讀むことを勸む。官は弘治中、詹事、武宗の時、吏部左侍郞。著に東白集がある。〔明史、一百八十四〕・〔萬斯同明史、二百四十三〕・〔明史稿、一百六十八〕・〔明人小傳、二〕・〔明詩綜、二十二〕・〔明儒學案、四十五〕。

【張元汴】1012（チヤウゲンベン）　明、浙江山陰の人。字は子蓋。號は陽和・不二齋。諡は文恭。隆慶の進士。官は翰林侍讀。性、至孝。其の學は王守仁を信奉。著に紹興府志・雲門志略・翰林諸書選粹・不二齋文選がある。〔明史、二百八十三〕・〔萬斯同明史、二百三十八〕・〔明史稿、二百六十五〕・〔明儒學案、十五〕。

【張玄化】1013（チヤウゲンクワ）　晉の人。葛玄の弟子。嘗て汝州に寓す。前知の明があつた。尙友錄には張元化に作る。〔尙友錄、八〕。

【張玄靚】1014（チヤウゲンセイ）　十六國、前涼の人。重華の子。字は元安。諡は沖。叔父祚が殺されて後、立つて涼州牧となり、後、季父天錫に害せられた。在位九年。年號三、太始・建興・升平。〔晉書、八十六〕。

【張玄素】1015（チヤウゲンソ）　●一唐、虞鄕の人。隋に仕へて景城縣の戶曹となる。太宗に擢んでられて侍御史を拜し、後、給事中となり、潮州・鄧州の刺史に徙る。太宗が洛陽宮を修めんとした時、上書して極諫し、遂に役を免ぜられた。〔舊唐書、七十五〕・〔唐書、一百三〕。●二金の人。字は子貞。浩と曾祖を同じくす。仕へて興平軍節度となり、正隆の末、天下に盜が起つた時も、興平は備があり、平穩であつた。官は戶部尙書。出でて定武を鎭す。性、厚く且つ剛毅、人に畏憚せられた。〔金史、八十三〕。

【張彥遠】1016（チヤウゲンエン）　唐、猗氏の人。弘靖の孫。字は愛賓。博學にして文辭に巧。官は乾符中、大理寺卿。著に法書要錄・歷代名畫記がある。〔四庫提要、一百十二〕。

【張彥士】1017（チヤウゲンシ）　淸、定陶の人。字は龍弼。順治の貢生。官は黃縣訓導。著に讀史讐疑がある。〔四庫提要、九十〕。

【張彥眞】1018（チヤウゲンシン）　淸、嘉定の人。字は農聞。號は復菴。經史古文の學に通じ、兼ねて小篆に巧、又、畫法に精通した。〔國朝書畫家筆錄、七〕。

【張彥成】1019（チヤウゲンセイ）　五代、周の潞城の人。女は漢の隱帝の妃。官は廣順中、右金吾衞上將軍。〔舊五代史、一百二十三〕。

【張彥澤】1020（チヤウゲンタク）　五代、晉の人。其の先は突厥部の人。後、太原に移住。唐・晉に歷仕す。官は右武衞大將軍。後、契丹に降り、耶律德光に殺された。〔五代史、五十二〕・〔舊五代史、九十八〕。

【張彥超】1021（チヤウゲンテウ）　五代、周の沙陀部の人。唐の蔚州刺史。後、契丹に投じた。〔舊五代史、一百二十九〕。

【張彥方】1022（チヤウゲンハウ）　明、龍泉の人。官は樂平縣の長官。詔を奉じて王に勤め、所部を率ゐて湖口に至り、靖難の兵に遇つて害せられた。〔明史、一百四十二〕・〔萬斯同明史、一百八十六〕・〔明史稿、一百三十三〕。

【張源德】1023（チヤウゲントク）　五代、梁の人。初、孝罕之に從ひ、後、晉に叛いて、梁に降る。官は蔡州の刺史。貞明中、晉と戰つて敗死す。〔五代史、三十三〕。

【張古人】1024（チヤウコジン）　張潛(496)を見よ。

【張午山】1025（チヤウゴザン）　明の人。名里未詳。戲曲家。雙烈記の作がある。

【張吾貴】1026（チヤウゴキ）　後魏、中山の人。字は吳子。少くして聰慧、年十八にして太學博士となる。酈詮に從つて禮を學び、牛天祐から易を受く。新異詭說を好み、左氏を講じて新異が多い。〔魏

書、八十四〕・〔北史、八十一〕。

【張吾瑾】1027 チヤウゴキン 清、金堂の人。字は石仙。順治の進士。官は夏津縣の長官、後、行人司に轉じ、致仕して歸る。〔國朝耆獻類徵、一百四十〕。

【張公謹】1028 チヤウコウキン 唐、繁水の人。字は弘愼。謚は襄。封は鄒國公。官は襄州都督。突厥を經略す。〔唐書、八十九〕・〔舊唐書、六十八〕。

【張公藝】1029 チヤウコウゲイ 唐、壽張の人。九世同居す。帝が其の宅に幸して帛を賜ふ。〔唐書、一百九十五〕・〔舊唐書、一百八十八〕。

【張公素】1030 チヤウコウソ 唐、范陽の人。列將を以て張允伸に事へ、平州刺史に累擢せられ、後、節度使・同中書門下平章事となる。性、暴厲。眸子に白い所が多いので、燕人が呼んで白眼相公といふ。〔舊唐書、一百八十〕・〔唐書、二百十二〕・〔日知錄、二十二〕。

【張孔孫】1031 チヤウコウソン 元の人。字は夢符。其の先は遼の烏若部。官は戶部員外郞・集賢殿大學士。畫と彈琴に巧。騎射を善くす。〔元史、一百七十四〕。

【張弘綱】1032 チヤウコウカウ 元の人。禧の子。字は憲臣。謚は武宣。官は昭勇大將軍・河南諸翼征行萬戶。八百媳婦を征して戰死す。〔元史、一百六十五〕。

【張弘策】1033 チヤウコウサク 梁、方城の人。字は眞簡。謚は愍。孝子。官は武帝の時、輔國將軍。封は洮陽縣侯。〔梁書、十一〕・〔南史、五十六〕。

【張弘至】1034 チヤウコウシ 明の人。弼の子。字は時行。弘治の進士。武宗の時、安南に使す。官は都給事中。〔明史、一百八十〕・〔萬斯同明史、二百四十七〕・〔明史稿、一百六十九〕。

【張弘靖】1035 チヤウコウセイ 唐の人。延賞の子。字は元理。性、倨傲。官は太子少師。〔唐書、一百二十七〕。

【張弘範】1036 チヤウコウハン 元、定興の人。柔の第九子。字は仲疇。賜名は拔都。謚は獻武。官は世宗の時、都元帥。宋軍を襄陽・樊城に破り、兵を督して南下し、文天祥を五坡嶺に執へ、張世傑・陸秀夫を崖山に破る。宋は之に因つて亡んだ。著に淮陽集がある。〔元史、一百五十六〕。

【張弘略】1037 チヤウコウリヤク 元の人。柔の第八子。字は仲傑。謚は忠毅。謀略があり、經史に精通す。官は世祖の時、河南行省參知政事。〔元史、一百四十七〕。

【張肯堂】1038 チヤウコウダウ 明、松江華亭の人。字は載寧。天啓の進士。唐王が閩に入つて後、太子少保となる。唐王の敗死の後、魯王に舟山に從ひ、城が破れて死んだ。〔明史、二百七十六〕・〔萬斯同明史、三百七十一〕・〔明史稿、二百五十七〕。

【張後胤】1039 チヤウコウイン 唐、崑山の人。字は嗣宗。謚は康。官は太宗の時、國子祭酒。〔唐書、一百九十八〕・〔舊唐書、一百八十九上〕。

【張後覺】1040 チヤウコウカク 明、茌平の人。字は志仁。號は弘山。學者、弘山先生と稱す。性、至孝。官は華陰訓導。著に弘山集がある。〔明史、二百八十三〕・〔萬斯同明史、三百八十五〕・〔明史稿、二百六十五〕・〔明儒學案、二十九〕。

【張紅橋】1041 チヤウコウケウ 明、閩縣の張氏の女。紅橋に居り、因つて自ら號とす。聰敏で詩を能くす。後、福清の林鴻に歸嫁す。〔明詩綜、八十六〕。

【張紅紅】1042 チヤウコウコウ 唐の妓女。初、門附の歌うたひであつたが、後、敬宗が召して宮中に入れ、號して記曲娘子といふ。〔樂錄〕唐妓張紅紅、歌丐二于市一、韋青納爲レ姬、敬宗召入レ宮、號二記曲娘子一。

【張苟兒】1043 チヤウコウジ 張敬兒(975)を見よ。

【張興芝】1044 チヤウコウシ 清、上海の人。字は蓮君。書畫・彫刻に巧。弟の之樹(字は希棠)も亦、書畫・彫刻を善くした。

【張興世】1045 チヤウコウセイ 南朝宋、竟陵の人。字は文德。蠻を休ち、江陵を平定す。封は作唐縣侯。官は光祿大夫。〔宋書、五十〕・〔南史、二十五〕。

【張鴻逑】1046 チヤウコウキウ 明、慈谿の人。字は琴友。姚與祁の妻。詞に巧。著に清音詞がある。〔明詞綜、十一〕。

【張鴻烈】1047 チヤウコウレツ 清、江蘇山陽の人。字は毅文。號は涇原、又、岸齋。官は康熙の時、檢討。淮南の水患を救ふ。詩詞に巧。書室を依綠園といふ。〔國朝耆獻類徵、一百十九〕・〔國朝先正事略、三十九〕。

【張克嶷】1048 チヤウコクギヨク 清、聞喜の人。字は偉公。號は拗齋。康熙の進士。官は刑部郞中・潮州知府。〔清史稿、四百八十二〕・〔清史列傳、七十四〕・〔國朝耆獻類徵、二百二十二〕・〔碑傳集、九十八〕。

【張克儉】1049 チヤウコクケン 明、屯留の人。字は禹型。崇禎の進士。湖廣僉事に擢んでられ、鄖襄諸軍を監し、賊を破つた功を以て右僉都御史に累官し、河南を巡撫す。張獻忠が襄陽に入つた時、執へられて死す。〔明史、二百九十二〕・〔萬斯同明史、三百七十九〕・〔明史稿、二百七十四〕。

【張克公】1050 チヤウコクコウ 宋、陽翟の人。字は介仲。御史中丞となり、張商英を彈劾す。官は吏部尙書。〔宋史、三百四十八〕・〔宋史新編、一百十九〕・〔東都事略、一百五〕。

【張克戩】1051 チヤウコクセン 宋の人。耆の曾孫。字は德祥。謚は忠確。官は靖康の初、汾州の長官。金兵と戰つて敗死す。〔宋史、四百四十六〕・〔宋史新編、一百七十二〕・〔東都事略、一百十一〕・〔皇朝名臣言行續錄、六〕。

【張谷貞】1052 チヤウコクテイ 張國樑(1059)の❶を見よ。

【張國維】1053 チヤウコクヰ 明、東陽の人。字は九一。號は玉笥。天啓の進士。官は少傅・兵部尙書・武英殿大學士。東陽を守り、敗れて水に投じて死す。著に吳中水利書がある。〔明史、二百七十六〕・〔萬斯同明史、三百六十七〕・〔明史稿、二百五十七〕・〔明人小傳、四〕・〔明詩綜、七十四〕・〔小腆紀年、三〕。

【張國紀】1054 チヤウコクキ 明、祥符の人。熹宗の張皇后の父。封は天啓の初、太康伯、崇禎の末、侯に進む。流賊に殺された。〔明史、三百〕・〔萬斯同明史、三百九十九〕・〔明史稿、二百八十二〕・〔小腆紀年、三〕。

【張國燾】1055 チヤウコクタウ 民國、江西省の人。北京大學卒業。イルクウツクに於ける極東弱少民族會議及び共產黨第二次大會に代表として出席した。國共合作と共に國民黨に入り、第一次中央執行委員候補に擧げられ、國共分離後除名されたが、後再び中國共產黨駐露代表として入露、中國共產黨中央執行委員會副主席に任ぜられた。其の後、中國共產黨の不利になるやうな自分勝手の行動をすることが多く、一九三八年、遂に國民黨側に奔り、反共工作の手先となつた。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【張國柱】1056 チヤウコクチユウ 清、鐵嶺の人。明の副將。順治の初、兵を率ゐて降る。戰功を積み、官は雲南提督。太子少保を加へられた。吳三桂に從つて雲南を定め、向ふ所皆勝つ。三桂が叛した時には率先して之に附き、連りに衡州・長沙・岳州を陷れた。清軍が湖南・貴州を復するに及び、雲南に遁れたが、後、降を乞ひ、誅に伏した。〔清史列傳、八十〕。

【張國寶】1057 チヤウコクハウ 張國賓を見よ。

【張國賓】1058 チヤウコクヒン 元、大都の人。國賓は一に國寶に作り、又、酷貧に作る。官は教坊句管。作る所の戲曲凡て四種。今存するものは相國寺公孫合汗衫・薛仁貴歸故里・羅李郞大鬧相國寺等。〔嘯餘譜〕。

【張國樑】1059 チヤウコクリヤウ ❶清、寧朔の人。初名は谷貞。康熙中、趙良棟に從つて、四川・雲南・噶爾丹に出征す。官は雲南提督。〔國朝耆獻類徵、二百八十一〕。❷清、高要の人。字は殿臣。初名は嘉祥。謚は忠武。亡命して羣盜となる。咸豐中、洪秀全が起るや、之に附き、後、向榮に降る。常に少を以て衆を擊ち、敵を恐れさせた。官は江南提督。丹陽に戰死す。〔清史稿、四百七〕・〔清史列傳、四十四〕・〔續碑傳集、六十六〕。

【張酷貧】1060 チヤウコクヒン 張國賓(1058)を見よ。

【張鶻眼】1061 チヤウコツガン 張威(10)の❷を見よ。

【張焜芳】1062 チヤウコンバウ 明、會稽の人。字は九山。崇禎の進士。官は南京戶科給事中。清兵と戰ひ敗死す。〔明史、二百九十一〕・〔明史稿、二百七十三〕。

【張際亮】1063 チヤウサイリヤウ 清、建寧の人。字は亨甫。號は松寥山人。道光の擧人。詩に巧。書室を婁光堂といふ。著に松寥山人集・婁光堂稿・南來錄・金臺殘淚記・南浦秋波錄がある。〔清史稿、四百九十一〕・〔清史列傳、七十三〕・〔國朝耆獻類徵、四百四十二〕・〔續碑傳集、七十八〕。

【張在辛】1064 チヤウザイシン 清、安丘の人。字は卯君。號は柏庭。書法に巧。書室を相印軒といふ。著に隸法瑣言がある。〔清畫家詩史、乙上、補〕。

【張莊僖】1065 チヤウサウキ 明の人。張永明(810)を見よ。

『張莊僖文集』1065′ チヤウサウキブンシフ 書名。六卷。明、張永明撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【張藏英】1066（チヤウザウエイ）宋、范陽の人。後唐の末、一族賊に殺さる。藏英、仇を報じ、世に報仇張孝子といふ。官は後周の刺史。宋初に、瀛州團練使。〔宋史、二百七十一〕・〔宋史新編、七十六〕。

【張作功】1067（チヤウサクコウ）清、皐蘭の人。嘉慶中、教匪を陝西に討伐するに隨ひ、李文成を高橋滑縣に破り、青海口外の野番を討伐して皆功あり。官は重慶鎭總兵。〔國朝耆獻類徵、二十二〕。

【張作相】1068（チヤウサクサウ）民國、奉天省義縣の人。字は輔沈。早くより張作霖に從つて綠林に入り、作霖と共に歸順す。一九二四年、東三省保安副司令兼吉林省長となり、吉林に入り爾來吉林の主であつた。張作霖死後は張學良の後見役として重きをなし、東北邊防副司令長官・國民政府委員・國民黨中央政治會議委員・國民政府軍事委員會分會委員を歷任した。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【張作楠】1069（チヤウサクナン）清、金華の人。字は丹村。嘉慶の進士。官は徐州の長官。算術に通ず。書室を翠微山房といひ、著に翠微山房數學がある。〔清史稿、四百八十四〕・〔清史列傳、七十三〕・〔續碑傳集、四十〕。

【張作霖】1070（チヤウサクリン）民國、奉天省、海城の人。字は雨亭。東三省軍閥の巨頭。農夫の子より、身を綠林に投じ、後、東三省總督張爾巽に歸順し、遂に東三省保安總司令に至り、更に北京に入り、大元帥に就任す。一九二八年、國民革命軍に厭迫されて關外に撤退し、同年六月、皇姑屯爆破事件に遭つて死す。年五十五。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【張三影】1071（チヤウサンエイ）宋の張先、字は子野の異稱。詞に巧。その得意の句に、影字を用ひたものが三あるからいふ。〔古今詩話〕有レ客謂二子野一曰、人皆謂二公張三中一、卽心中事、眼中淚、意中人也、公曰、何不三目レ之爲二張三影一、客不レ曉、公曰、雲破月來花弄レ影、嬌桑嬾起、簾押二捲花影一、柳徑無レ人、墮二飛絮一無レ影、皆公得意句也。〔道山清話〕張先詩有三浮萍斷處見二山影一、又有下雲破月來花弄レ影、隔レ牆風弄二鞦韆影一之詞上、人目爲二張三影一。

【張三世】1072（チヤウサンセイ）孔子が春秋を制作する時、二百四十二年を三世に區分し、隱公・桓公・莊公・閔公・僖公の九十六年を所傳聞の世、文公・宣公・成公・襄公の八十五年を所聞の世、昭公・定公・哀公の六十一年を所見の世となし、時代の遠近に從つて恩愛の親疎を設け、春秋の筆法を異にし、所見の世には最も微辭を用ひ、所聞の世、所傳聞の世と時代の遠く溯るに從ひ書法を簡略にして褒貶をあらはにしたといふ說。漢代公羊學者の唱へたもので、三世異辭とも言ひ、更に所傳聞の世を衰亂の世、所聞の世を升平の世、所見の世を太平の世となし、衰亂より升平、升平より太平と、時代の進むに從つて社會政治の進化することを說いた。〔公羊、隱、元、題疏〕案、宋氏之注二春秋說一、三科者、一曰張三世、二曰存三統、三曰異外內、是三科也。〔公羊、隱、元〕何以不レ日、遠也、所レ見異レ辭、所レ聞異レ辭、所二傳聞一異レ辭。〔注〕所レ見者、謂二昭定哀一、己與レ父時事也、所レ聞者、謂二文宣成襄一、王父時事也、所二傳聞一者、謂二隱桓莊閔僖一、高祖曾祖時事也、異レ辭者、見下恩有二厚薄一、義有中深淺上、時恩衰義缺、將下以理二人倫一、序二人類一、因制中治レ亂之法上、故於テ二所レ見之世一、恩三己與レ父之臣二尤深、大夫卒、有レ罪無レ罪、皆日二錄之一、云云、於テ二所レ聞之世一、王父之臣、恩少殺、大夫卒、無レ罪者日錄、有レ罪者不レ日略レ之、云云、於テ下所二傳聞一之世上、高祖曾祖之臣恩淺、大夫卒、有レ罪無レ罪、皆不レ日略レ之也、云云、於テ下所二傳聞一之世上、見三治起二於テ衰亂之中一、用レ心尙麤觕、故內二其國一而外二諸夏一、先詳レ內而後治レ外、錄レ大略レ小、內小惡書、外小惡不レ書、云云、於テ二所レ聞之世一、見二治升平一、內二諸夏一而外二夷狄一、書二外離會一、云云、至二所レ見之世一、著二治大平一、夷狄進、至二於テ爵一、天下遠近小大若レ一、用レ心尤深而詳、故崇二仁義一、譏二二名一。〔春秋繁露、楚莊王〕春秋分二十二世一、以爲二三等一、有レ見有レ聞有二傳聞一、有レ見三世、有レ聞四世、有二傳聞一五世、故哀定昭、君子之所レ見也、襄成文宣、君子之所レ聞也、僖閔莊桓隱、君子之所二傳聞一也、所レ見六十一年、所レ聞八十五年、所二傳聞一九十六年、於テレ所レ見微二其辭一、於テレ所レ聞痛二其禍一、於テ二傳聞一殺二其恩一、與レ情俱也。

【張三頭】1073（チヤウサントウ）唐の張又新が進士狀頭・宏詞敕頭・京兆解頭であつたのでかくいはれた。〔全唐詩話、張又新〕時號二又新張三頭一、謂二進士狀頭・宏詞敕頭・京兆解頭一。

【張三峯】1074（チヤウサンポウ）張三丰の㊀を見よ。

【張三丰】1075（チヤウサンポウ）㊀宋の武當の人。又、張三峯に作る。拳法の名手。徽宗に召さる。〔寧波府志〕。㊁明、遼東懿州の人。名は全、又、君寶。號は三丰、又、張邋遢・元元子。明初の道士。諡は通微顯化眞人。〔明史、二百九十九〕。

【張山翁】1076（チヤウサンヲウ）宋、普州の人。字は君壽。景定の進士。官は德祐の初、荆湖宣撫使幹官。後、黃鵠山に居り、徒を聚めて教授す。〔宋史、四百五十四〕・〔宋史新編、一百五十九〕・〔南宋書、六十二〕・〔宋季忠義錄、十〕。

【張山拊】1077（チヤウザンプ）漢、平陵の人。字は長賓。小夏侯建に師事して博士となり、石渠に論ず。官は少府。〔前漢書、八十八〕。

【張產碑】1078（チヤウサンノヒ）十六國時代の石刻。一名、廣武將軍碑。初、陝西宜君縣に在り、百餘年來、之を訪ねて、獲られず、蓋し清の乾嘉の閒既に佚す。拓本の世に傳はる者も亦稀で、今、隸の開宗を見るべきものと謂はれる。〔寰宇訪碑錄、前秦〕廣武將軍□產碑、八分書、幷額、建元二年十月、陝西、宜君。

【張士郁】1079（チヤウシイク）清、惠安の人。明、崇禎の副榜。明朝滅亡の際、臺灣に遯入し、開拓の事に從ふ。壽九十九。〔國朝先正事略、四十六〕。

【張士衡】1080（チヤウシカウ）唐、樂壽の人。博士。劉軌思より詩禮を受け、又、熊安生・劉焯より經を受く。官は崇賢館學士。禮を以て諸生に教へ、賈公彥・李玄植等は其の門下生。〔唐書、一百九十八〕・〔舊唐書、一百八十九上〕。

【張士巖】1081（チヤウシガン）唐、汴州の人。性、至孝。〔唐書、一百九十五〕。

【張士貴】1082（チヤウシキ）唐、盧氏の人。隋末に、群盜中に在り、忽峍賊と號す。後、高祖に降る。官は左領軍大將軍。爵は虢國公。〔唐書、九十二〕・〔舊唐書、八十三〕。

【張士元】1083（チヤウシゲン）清、震澤の人。字は翰宣。號は鱸江。乾隆の擧人。書室を嘉樹山房といひ、著に嘉樹山房集がある。〔清史稿、四百九十〕・〔清史列傳、七十二〕・〔國朝耆獻類徵、四百六十〕・〔續碑傳集、七十六〕。

【張士俊】1084（チヤウシシユン）清、吳縣の人。自ら六浮閣主人と號す。書室を澤存堂といふ。宋本廣韻・玉篇及び佩觿・字鑑・羣經音辨を合刻して、澤存堂五種となす。

【張士誠】1085（チヤウシセイ）元、泰州の人。小字は九四。元末に兵を起し、誠王と稱し又、吳王と稱し、國を大周と號す。其の據る所、南は紹興、北は徐州、西は汝穎、東は海に至り、約二千里、帶甲數十萬あり。後、明將、徐達等に執へられ、縊死。兵を起してより滅亡に至るまで凡そ十四年。書室を香桐館・芳蕙館・春錦園といふ。〔明史、一百二十三〕・〔萬斯同明史、一百五十七〕・〔明史稿、一百十四〕。

【張士遜】1086（チヤウシソン）宋、陰城の人。字は順之。諡は文懿。淳化の進士。官は同中書門下平章事。封は鄧國公。〔宋史、三百十一〕・〔宋史新編、九十七〕・〔東都事略、五十二〕・〔隆平集、五〕・〔名臣碑傳琬琰集、上、四〕。

【張士南】1087（チヤウシナン）張世南（1240）を見よ。

【張士佩】1088（チヤウシハイ）明、韓城の人。字は濂濱。嘉靖の進士。官は南京戶部尙書。事を以て劾せられて職を罷む。著に六書賦音義がある。〔蘭臺法鑒錄、十七〕。

【張士隆】1089（チヤウシリユウ）明、安陽の人。字は仲修。弘治の進士。官は陝西副使。漢中の賊王大等を擒にして滅す。〔明史、一百八十八〕・〔萬斯同明史、二百五十九〕・〔明史稿、一百七十三〕。

【張子畏】1090（チヤウシヰ）清、武進の人。畫に巧。〔國朝書畫家筆錄、二〕。

【張子蓋】1091（チヤウシガイ）宋の人。俊の從子。字は德高。諡は恭莊。初、世忠に從つて苗傅を討ち、俊に從つて劉猊を擊ち、又、大いに金人を柘皐・海州に破る。官は鎭江府都統。孝宗の初、檢校少保・淮東招撫使を授けらる。〔宋史、三百六十九〕・〔宋史新編、一百三十二〕・〔南宋書、十七〕・〔宋朝南渡

十將傳、八〕・〔四朝名臣言行錄、下、十二〕。

【張子信】1092（チヤウシシン） 北齊、河內の人。少くして醫を以て名を知らる、白鹿山に隱れ、時に京邑に遊び、甚だ魏收・崔季舒等に禮せらる。後魏の時、太中大夫を以て徵さる。又、易卜風角を善くす。齊亡びて卒す。〔北齊書、四十九〕・〔北史、八十九〕・〔琅琊代醉編、三十九〕。

【張子貞】1093（チヤウシテイ） 明、英山の人。字は彥誠。洪武中、國子生より車駕司主事を授けられ、事を言ひて嶺海に謫戍され、復、山東僉事に起用さる。切直を以て時に忤ひ、苑馬寺に謫降され、尋いで官に復す。〔本朝分省人物攷、三十三〕。

【張子房】1094（チヤウシバウ） 張良をいふ。子房は良の字。張良(724)を見よ。

【張子布】1095（チヤウシフ） 張昭(468)の❶を見よ。

【張子明】1096（チヤウシメイ） 明、太倉の人。字は蘭雪。號は大頑、又、雲山道人。繪畫に巧。〔明史、一百三十三〕・〔萬斯同明史、一百六十九〕・〔明史稿、一百二十一〕。

【張子容】1097（チヤウシヨウ） 唐の人。先天中、進士に擢んでられ、樂城尉となる。孟浩然と交る。〔唐詩紀事、二十三〕。

【張子良】1098（チヤウシリヤウ） 元、范陽の人。字は漢臣。謚は翼敏。官は昭勇大將軍・大名路總管兼府尹。〔元史、一百五十二〕。

【張子麟】1099（チヤウシリン） 明、槀城の人。成化の進士。官は刑部尙書。性、柔軟にして特操無く、大いに諸嬖倖と通じ、時と浮沈す。官は太子太保。世宗の時、致仕す。〔萬斯同明史、二百五十三〕・〔明史稿、一百七十二〕・〔國朝獻徵錄、四十四〕。

【張之翰】1100（チヤウシカン） 元、邯鄲の人。字は周卿。號は西巖老人。至元の末、松江府を治め、古の循吏の風あり。時に民、凶荒に苦しみ、租額、十萬を以て計る。之翰、力めて其の弊を除き、減額するを得。著に西巖集がある。〔四庫提要、一百六十七〕。

【張之象】1101（チヤウシシヤウ） 明、松江華亭の人。字は元超。官は嘉靖中、浙江按察司知事となる。書室を猗蘭堂といふ。著に太史史例・楚範・楚騷綺語・彤管新編・唐雅・唐詩類苑・古詩類苑がある。〔明史、二百八十七〕・〔明史稿、二百六十八〕・〔國朝獻徵錄、八十四〕・〔明人小傳、三〕・〔明詩綜、四十八〕。

【張之洞】1102（チヤウシドウ） 清、南皮の人。字は香濤、又、孝達・香巖。號は壺公、又、無競居士。謚は文襄。同治二年の進士。經史實學を提唱す。督撫に在ること三十年、兩湖に在ること最も久しく、京漢鐵路・漢陽鐵廠・萍鄉煤礦は、皆其の創始に係る。官は光緒末、軍機大臣。後、體仁閣大學士。夙に文名あり、兪樾と並稱して南兪北張と稱せらる。書室を廣雅堂・抱冰堂といふ。著に勸學篇・書目答問・廣雅堂詩集がある。〔清史稿、四百四十三〕・〔清史列傳、六十四〕・〔碑傳集補、二〕。

【張之萬】1103（チヤウシバン） 清の人。之洞の兄。字は子青。號は鑾坡。道光の進士。謚は文達。官は東閣大學士。卒して太保を贈らる。胸中、區劃無く、寬仁にして衆を容る。畫は王時敏の神髓を得。〔清史稿、四百四十四〕・〔清史列傳、五十七〕・〔碑傳集補、一〕。

【張仕敬】1104（チヤウシケイ） 清、祿勸の人。字は儼菴、又、覺夫。康熙の武舉人。官は都司僉書。武功を以て顯れるを恥ぢ、門を杜ぢて讀誦し、晚年易に通ず。著に雪山集がある。〔國朝耆獻類徵、四百五十五〕・〔碑傳集、一百十五〕。

【張司業】1105（チヤウシゲフ） 唐の人。張籍(477)を見よ。

〖張司業詩集〗1106（チヤウシゲフシシフ） 書名。八卷。唐、張籍撰。南唐の張洎・張籍の詩四百餘篇を十二卷に編輯、木鐸集と名づけ、宋の湯中は、諸本を校定、張司業集八卷を作る。明の萬曆中、張尙儒、再び異本を校合して、凡そ詩四百四十九首、書二首を得。唐詩百名家集本に依れば、首に張洎の序、目錄、湯中の識語があり、其の目は、樂府二卷・古詩一卷・五律二卷・七律一卷・五七言絕句一卷・聯句一卷。聯句の外は總て四百二十篇。籍の樂府は、王建・皇湜と相伯仲し、韓愈は、ために籍・湜を並稱して居る。〔四庫提要、集、別集類〕。

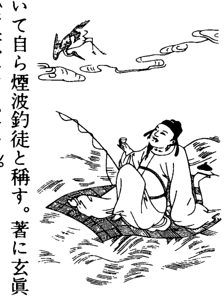
【張四維】1107（チヤウシヰ） 明、蒲州の人。字は子維。謚は文毅。嘉靖の進士。官は萬曆の間、禮部尙書・東閣大學士。〔明史、二百十九〕・〔萬斯同明史、三百十一〕・〔明史稿、二百一〕。

【張四科】1108（チヤウシクワ） 清、臨潼の人。字は喆士（哲士）。號は漁川。江都に寓居す。著に響山詞がある。

【張四箴】1109（チヤウシシン） 清、山東新城の人。字は心勿。明末の諸生。清に入って後、隱居して仕へず。書室を濯足軒といひ、著に濯足軒詩集がある。〔國朝耆獻類徵、四百六十八〕。

【張至發】1110（チヤウシハツ） 明、淄川の人。萬曆の進士。官は崇禎中、首輔となる。〔明史、二百五十三〕・〔萬斯同明史、三百五十七〕・〔明史稿、二百三十八〕。

【張志和】1111（チヤウシクワ） 唐、金華の人。字は子同。初名は龜齡。肅宗より志和の名を賜はる。年十六にて明經の第に擢んでらる。官は左金吾衞錄事參軍。退いて自ら煙波釣徒と稱す。著に玄眞子がある。〔唐書、一百九十六〕。



張志和（三才圖會）

【張志寬】1112（チヤウシクワン） 唐、安邑の人。孝子。官は高祖の時、散騎常侍。〔唐書、一百九十五〕。

【張志淳】1113（チヤウシジユン） 明、江寧の人。雲南に籍す。字は進之。號は南園野人。成化の進士。官は戶部侍郎。劉瑾の黨に坐して致仕す。嘗て山茶杜鵑の二花を考證して永昌二芳記を作り、又、洪齋隨筆・鶴林玉露の二書に倣って南園漫錄を作る。皆考證に裨益あり。〔國朝列卿記、三十七〕・〔本朝分省人物攷、一百十四〕。

【張志林】1114（チヤウシリン） 清、緜州の人。乾隆中、行伍より金川に從征し、噶爾丹を攻め、甘肅の回を討伐し、臺灣の林爽文を擊って皆功あり。嘉慶中、松龍の教匪を勦捕して屢〻之を破る。官は高廉鎭總兵。〔國朝耆獻類徵、三百十一〕。

【張始均】1115（チヤウシキン） 後魏の人。彝の子。字は子衡。文才があった。官は著作佐郎。陳壽の魏志を編年體に改作し、異聞を廣益して三十卷とす。〔魏書、六十四〕。

【張芝元】1116（チヤウシゲン） 清、清溪の人。乾隆中、金川に出征す。官は松潘鎭總兵。〔清史稿、三百三十五〕・〔國朝耆獻類徵、三百九十三〕。

【張思孝】1117（チヤウシカウ） 元、華州の人。性、至孝。〔元史、一百九十七〕。

【張思鈞】1118（チヤウシキン） 宋、沙河の人。官は唐州防禦副史。體軀小にして精悍、太宗其の樓羅なるを稱す。これより時人、小樓羅といふ。〔宋史、二百八十〕・〔宋史新編、八十〕。

【張思齊】1119（チヤウシセイ） ❶明、蘄州の人。字は希賢。弘治の進士。官は四會知縣。後、四川僉事。❷清、順德の人。字は無山。優貢生。梅の畫に巧。

【張思伯】1120（チヤウシハク） 北齊、樂城の人。左氏傳・毛詩に精し。官は武平の初、國子博士。〔北齊書、四十四〕・〔北史、八十一〕。

【張思明】1121（チヤウシメイ） 元、輝州の人。字は士瞻。謚は貞敏。官は中書左丞。平生、產を治めず、書三萬七千卷を蓄へ、穎悟人に過ぐ。尤も律に明るく、謝仲和・曹鼎新と共に三絕と稱せらる。〔元史、一百七十七〕。

【張師禹】1122（チヤウシウ） 宋の人。字は虞佐。仕進を求めず。時人、鄉先生といふ。〔尙友錄、八〕。

【張師愚】1123（チヤウシグ） 元、寧國の人。字は仲愚。嘗て、延祐・天曆の鄉薦を兩領す。汪澤民と共に宛陵羣英集を編す。〔四庫提要、一百八十八〕。

【張師載】1124（チヤウシサイ） ❶明、潛江の人。字は巨卿。嘉靖の進士。官は南京給事中。後、萊州府知に至る。〔勝朝殉節諸臣錄、十〕。❷清の人。伯行の子。字は又渠。號は愚齋・改過齋。謚は愨敬。康熙の舉人。官は河東總督。宋の五子の書を精研し、報國活民を以て心となす。著に治水方略・改過齋文集・讀書日鈔がある。〔清史稿、二百七十二〕・〔國朝耆獻類徵、一百六十八〕・〔碑傳集、七十六〕・〔國朝先正事略、十〕。

【張師正】1125（チヤウシセイ） 宋の人。字は不疑。甲科に擢んでらる。熙寧中、辰州の帥となり、宦遊すること四十年。志を得ず。乃ち變怪の理を推し、見聞の異を參して、括異志を著はす。〔四庫提要、一百四十四〕。

【張師誠】1126（チヤウシセイ） 清、歸安の人。字は心友。號は蘭渚・一西居士。乾隆の進士。官は福建巡撫・浙閩總督。海盜蔡牽を平定す。倉場侍郎に終る。書室

を省縁室といふ。著に省縁室全集・折颺存稿がある。〔清史稿、三百六十五〕・〔國朝耆獻類徵、一百七〕。

【張師曾】1127 チヤウシソウ　元の人。師愚の弟。著に梅堯臣年譜がある。〔四庫提要、五十九〕。

【張師德】1128 チヤウシトク　宋の人。去華の子。字は尙賢。進士。官は左諫議大夫。著に文集がある。〔宋史、三百六〕・〔宋史新編、八十四〕・〔隆平集、十四〕。

【張師泌】1129 チヤウシヒ　清、歸安の人。字は耐軒。嘉慶の進士。官は翰林院侍讀。後、刑部郞中に左遷さる。書室を緘華室といひ、著に緘華室詩鈔がある。

【張紫芝】1130 チヤウシシ　清、杭州の人。字は鷺山、又、秀山。著に律呂圖說がある。〔四庫提要、三十九〕。

【張嗣成】1131 チヤウシセイ　元の人。與才の子。號は大元（太玄）。能く龍を畫き、兼ねて草書を善くす。〔元史、二百二〕・〔新元史、二百四十三〕。

【張嗣德】1132 チヤウシトク　元の人。號は太乙（一に太一に作る）。畫に巧。〔畫史會要〕。

【張詩日】1133 チヤウシジツ　清、湘鄕の人。諡は勤武。咸豐中、從軍して洪楊の軍と戰ひ、同治中、江寧を擊ち、奮戰す。官は直隸宣化鎭總兵。捻匪を征討し、蘇皖齊豫を歷、功、甚だ著る。〔清史稿、四百二十〕。

【張賜寧】1134 チヤウシネイ　清、滄州の人。字は桂巖。號は坤一・十三峯老人。官は江南通州管河州判。維揚に旅寓す。畫に巧。又、小詩に巧。〔清畫家詩史、戊、下〕。

【張次夔】1135 チヤウジキ　宋の人。大年の子。字は和仲。官は西安令・興國軍通判。〔尙友錄、八〕。

【張次咼】1136 チヤウジクワ　宋の人。字は寬夫。次夔の弟。官は南劍州の長官。後、雍州の長官。〔尙友錄、八〕。

【張次公】1137 チヤウジコウ　漢、河東の人。匈奴を擊ち、岸頭侯に封ぜらる。後、法に坐して侯を失ふ。〔史記、一百十一〕・〔漢書、五十五〕。

【張次仲】1138 チヤウジチユウ　明、海寧の人。字は元岵。號は待軒。又、鈍菴・浙汜遺農。天啓の擧人。清に入つて仕へず。書室を一經堂といふ。著に周易玩辭・困學記・待軒詩記・待軒集がある。〔萬斯同明史、三百八十五〕・〔明詩綜、六十六〕。

【張次立】1139 チヤウジリツ　宋の人。官は殿中丞。嘉祐中、國子石經に篆す。又、徐鍇の繫傳の補を作る。今の繫傳中に臣次立案の語あるのはこれがためである。〔皇宋書錄、中〕。

【張自勳】1140 チヤウジクン　明、南昌の人。字は卓菴。著に綱目續麟・二十一史獨斷・卓菴心書がある。〔四庫提要、四十七〕。

【張自忠】1141 チヤウジチユウ　民國、山東省臨清縣の人。字は藎忱。一九一四年入隊。爾來第十五旅々長・國民革命軍第二集團軍軍官學校長兼第二十八師師長・第二十九軍第三十八師師長を經て、一九三五年察哈爾省政府主席代理に至る。一九三六年天津市長・冀察政府委員會委員となる。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【張自超】1142 チヤウジテウ　清、高淳の人。字は彝嘆。康熙の進士。經史に精しく、躬行實踐を期す。著に春秋宗朱辨義がある。〔清史列傳、六十七〕・〔國朝耆獻類徵、四百十五〕・〔國朝先正事略、三十〕。

【張自德】1143 チヤウジトク　清、豐潤の人。字は元公。號は潔源。順治の進士。官は河南の巡撫。河務を諳習す。著に四要六弊がある。〔碑傳集、六十二〕・〔大清畿輔先哲傳、三〕。

【張自牧】1144 チヤウジボク　高麗の人。官は明宗の朝に侍郞。後、大僕卿寶文閣直學士。崔讜等と耆老會を爲し、世人、地上仙といふ。詩文・書に巧。〔高麗史〕・〔李相國集〕。

【張自烈】1145 チヤウジレツ　明、宜春の人。字は爾公。博學洽聞、累りに徵されたが就かず。晩年、廬山に卜居す。著に四書大全辨・諸家辨・古今文辨・正宗通等十餘種がある。〔四庫提要、三十七〕。

【張時爲】1146 チヤウジヰ　清、餘干の人。字は景明。號は界軒。明の福王の時の貢生。著に張界軒集がある。〔四庫提要、九十七〕。

【張時泰】1147 チヤウジタイ　清、嘉興の人。字は平山。號は六可・實嬾齋。官は桐城縣の長官。著に實嬾齋詩集がある。〔四庫提要、一百八十五〕。

【張時徹】1148 チヤウジテツ　明、鄞の人。字は維靜。號は東沙・芝園。嘉靖の進士。官は南京兵部尙書。著に芝園定集・善行錄・明文範・攝生衆妙方・救急良方がある。〔明史、二百一〕・〔萬斯同明史、二百八十七〕・〔明史稿、二百六十四〕・〔明人小傳、二〕・〔明詩綜、三十九〕。

【張爾岐】1149 チヤウジキ　清、濟陽の人。字は稷若。號は蒿菴。明末の諸生。清に入つては、聞達を求めず、隱居して敎授す。其の學、篤志力行を以て本となし、程朱の說を確守す。嘗て、學者一日の志は、天下治亂の源にして、生人憂樂の本と言ふ。尤も三禮に精通す。著に儀禮鄭注句讀・儀禮考注訂誤・周易說略・春秋傳義・夏小正傳注・蒿菴集・蒿菴閒話・天道論・篤終論・學辨・立命說・詩說略・老子說略がある。〔清史稿、四百八十七〕・〔清史列傳、六十八〕・〔國朝耆獻類徵、三百九十九〕・〔碑傳集、一百三十〕・〔國朝先正事略、二十七〕。

【張爾素】1150 チヤウジソ　清、陽城の人。字は賁園。順治の進士。江南參政・陝西按察使・湖廣右布政使に歷官し、三たび刑部左侍郞となる。

【張爾葆】1151 チヤウジハウ　明、松江の人。字は葆生。號は二酉・聯芳。山水畫に巧。李流芳・董其昌と名を齊しくす。〔山陰志〕。

【張日新】1152 チヤウジツシン　明、建德の人。字は心白。崇禎中、歲貢生より齊東敎諭となる。海內の寇起るを見、諸生と藝を講じ、射を習ふ。土寇の安守夏を招いて之を降す。齊東が圍まれるに及び、守夏と城壁に登つて守り、城陷つて死し、守夏も亦從ひ死す。〔崇禎忠節錄、二十三〕。

【張實居】1153 チヤウジツキヨ　清、鄒平の人。字は蕭亭、又、賓公。順治中、居を大谷に卜し、彈琴詠歌して自ら娛しむ。著に蕭亭詩選がある。〔國朝耆獻類徵、四百七十六〕。

【張習孔】1154 チヤウシフコウ　清、歙の人。字は念難。號は黃嶽道人。順治の進士。官は山東提學僉事。書室を貽清堂（詒清堂）といふ。著に雲谷臥餘・貽清堂集がある。〔四庫提要、一百二十九〕。

【張集馨】1155 チヤウシフケイ　清、儀徵の人。道光の進士。官は同治中、陝西巡撫。〔續碑傳集、三十七〕。

【張赦提】1156 チヤウシヤテイ　後魏、安喜の人。賊魁虎子・豹子を捕獲す。官は冠軍將軍・幽州刺史。貪虐を以て死を賜はる。〔魏書、八十九〕・〔北史、八十七〕。

【張尙瑗】1157 チヤウシヤウエン　清、吳江の人。字は宏蘧、又、損持。康熙の進士。官は江西興國縣の長官。初、朱鶴齡に從游し、春秋の學を講ず。著に三傳折諸がある。折諸と言つたのは、揚雄の群言淆亂、折㆓諸聖之語㆒に本づく。〔國朝耆獻類徵、二百二十三〕・〔清儒學案小識、十三〕。

【張昌宗】1158 チヤウシヤウソウ　❶唐、南宮の人。官は太宗の時、太子舍人・修文館學士。著に古文紀年新傳數十篇がある。〔唐書、二百一〕。❷唐の人。易之の弟。容姿美にして音技に通ず。易之と共に武后に幸せられ、宮中稱して六郞となす。武后病むや、易之と共に張柬之等に殺さる。〔唐書、一百四〕。

【張昌齡】1159 チヤウシヤウレイ　唐の人。昌宗の弟。官は崑山道記室。後、北門修撰に至る。〔唐書、二百一〕・〔舊唐書、一百九十上〕。

【張商英】1160 チヤウシヤウエイ　宋の人。唐英の弟。字は天覺。號は無盡居士。諡は文忠。忠直の士。官は大觀中、尙書右僕射。〔宋史、三百五十一〕・〔宋史新編、一百二十一〕・〔東都事略、一百二〕・〔名臣碑傳琬琰集、下、十六〕・〔元祐黨人傳、一〕。

【張祥鳶】1161 チヤウシヤウエン　明、金壇の人。字は道卿。號は虛齋。嘉靖の進士。官は雲南府の長官。著に華陽洞稿がある。〔明詩綜、四十四〕。

【張祥河】1162 チヤウシヤウカ　清、婁縣の人。字は元卿。號は法華山人・四銅鼓齋・謝舫・詩舲・鶴在。諡は溫和（文和）。嘉慶の進士。官は道光中、內閣中書より陝西巡撫に累遷し、西安同州等の府の刀匪を平定す。後、工部尙書に至る。詩詞に巧。山水花卉畫を善くす。書室を小重山房といひ、著に小重山房集がある。〔清史稿、四百二十七〕・〔清史列傳、四十六〕。

【張常洧】1163 チヤウジヤウヰ　唐、句容の人。字は巨川。孝子。〔唐書、一百九十五〕。

【張襄莊】1164 チヤウジヤウサウ　張勇(699)の❷を見よ。

〔張襄莊奏疏〕1165 チヤウジヤウサウソウソ　書名。六卷。清、張勇撰。其の子雲翼の編。〔四庫提要、史、詔令奏議類〕。

【張釋之】1166 チヤウシヤクシ　漢、堵陽の人。字は季。官は文帝の時、僕射。後、廷尉。法を守ること嚴にして

議を持すること公平。時人語つて、張釋之廷尉となりて天下に冤民なしといふ。景帝の時、出でて淮南王の相となる。〔史記、一百二〕・〔前漢書、五十〕。

【張若靄】1167 チヤウジヤクアイ　清の人。廷玉の子。字は晴嵐。號は鍊雪道人。雍正の進士。官は禮部尙書。繪畫に巧。書室を佳夢軒・蘊眞閣・藕香書屋といふ。〔淸史稿、二百九十四〕・〔淸史列傳、十四〕・〔國朝先正事略、十三〕。

【張若筠】1168 チヤウジヤクキン　淸、丹徒の人。字は竹鄰。乾隆の貢生。詩を能くし、鑑賞に長ず。藏書二萬卷を踰え、法書名畫吉金貞石の文は別に卷軸を爲して藏す。嘗て風雪を冒して揚州に至り、宋槧書數部を購ふ。兄の子崟、風雪載書の圖を作り、一時の名士、皆題詠を爲す。著に竹鄰山館詩集がある。又、京口耆舊の詩を選して蒙拾集を作る。〔國朝耆獻類徵、四百四十〕。

【張若麒】1169 チヤウジヤクキ　淸、膠州の人。明の崇禎の進士。楊嗣昌に阿附し、官は兵部職方司郎中。洪承疇、錦州を援ふや、若麒屢〻速戰を促し、大捷を虛報し、光祿卿に擢んでられたが、劾せられて死罪に論ぜられ獄に繫がる。李自成が京師を陷れるや僞職を受けて山海防禦使となり、多爾袞が入京するや迎へ降る。官は通政使。〔淸史列傳、七十九〕。

【張若虛】1170 チヤウジヤクキヨ　唐、揚州の人。官は兗州兵曹。賀知章・張旭・包融と共に、吳中の四士と號せらる。其の七言長古の春江花月夜一篇は古今の絕唱と稱せらる。〔舊唐書、一百九十中〕。

【張若化】1171 チヤウジヤククワ　淸、漳浦の人。字は雨玉。號は蒼巒。明の崇禎の擧人。官は明の御史。淸に入つて、苦節すること四十年、城市に入らず。〔國朝耆獻類徵、四百七十六〕・〔國朝先正事略、四十八〕。

【張若谷】1172 チヤウジヤクコク　宋、沙縣の人。字は德繇。進士。官は尙書左丞。〔宋史、二百九十九〕・〔宋史新編、九十三〕。

【張若需】1173 チヤウジヤクジユ　淸の人。文端公英の孫。字は樹彤。乾隆の進士。官は左春坊左贊善。書室を見吾軒といひ、著に見吾軒詩がある。〔國朝耆獻類徵、一百十七〕。

【張若震】1174 チヤウジヤクシン　淸の人。廷璐の子。字は宗岳。號は靜春齋。官は雍正中。浙江天台縣の長官・布政使。乾隆中、湖北巡撫に至る。著に靜春齋集がある。〔淸史列傳、二十二〕・〔國朝耆獻類徵、一百七十〕。

【張若仲】1175 チヤウジヤクチユウ　淸の人。若化の弟。字は聲玉。號は次巒。明の崇禎の進士。官は明の益府長史。鼎革の後、山居五十年、鄉人、其の兄弟を丹山の二先生といふ。〔國朝耆獻類徵、四百七十六〕・〔國朝先正事略、四十八〕。

【張守珪】1176 チヤウシユケイ　唐、陝州の人。突厥を破つて功あり。官は輔國大將軍。〔唐書、一百三十三〕・〔舊唐書、一百三〕。

【張守節】1177 チヤウシユセツ　唐の人。官は諸王侍讀率府長史。其の學、地理に長ず。著に史記正義がある。〔四庫提要、四十五〕。

【張守中】1178 チヤウシユチユウ　明、聞喜の人。字は大石。嘉靖の擧人。官は保定通判。萬曆の初、右僉部御史となる。延綏を巡撫し、功により、右副都御史に進む。〔萬斯同明史、三百十六〕。

【張守約】1179 チヤウシユヤク　宋、濮洲の人。字は希參。官は康州の刺史。〔宋史、三百五十〕・〔宋史新編、一百二十〕。

【張酒酒】1180 チヤウシユシユ　道士の名。錢を得れば直ちに酒を買つて飲む。一朝、飄然、王屋山に入つて死す。〔括異志〕道士張酒酒、得レ錢卽沽レ酒、一旦入二王屋山一尸解。

【張須陁】1181 チヤウシユタ　隋、閿鄉の人。西爨及び漢王諒を討つ。官は大業中、齊郡丞。李密・翟讓と戰ひ敗死す。〔隋書、七十一〕・〔北史、八十五〕。

【張壽榮】1182 チヤウジユエイ　淸、鎭海の人。字は鞠齡。號は舫廬。同治の擧人。書室を花雨樓・秋樹根齋といふ。著に舫廬文存がある。又、花雨樓叢書を彙刻す。

【張樹珊】1183 チヤウジユサン　淸の人。樹聲の弟。字は海柯。諡は勇烈。李鴻章・曾國藩に從つて出征す。官は提督。〔續碑傳集、六十七〕。

【張樹聲】1184 チヤウジユセイ　淸、合肥の人。字は振軒。諡は淸達。同治中、進軍を領して李鴻章に從ひ、江蘇・浙江に轉戰して屢〻功あり。官は光緒中、直隸總督。法越の役に廣東に赴き、軍に卒す。樹聲、官文書を善くし、軍に在るも官に在るも、事を決するに規準あり、記覽を廢せず。淮軍中に於て儒將と稱せらる。〔淸史稿、四百五十三〕・〔淸史列傳、五十四〕。

【張從恩】1185 チヤウジユウオン　宋、太原の人。官は晉の潞州の鎭・漢の右衞上將軍。爵は周の時、褒國公。宋初、許國公。〔宋史、二百五十四〕・〔宋史新編、六十七〕。

【張從訓】1186 チヤウジユウクン　五代、晉の人。李存信の子。字は德泰。父存信は姓を李と賜はる。從訓、張姓に復す。晉の高祖に從つて出征す。官は石州の刺史・絳州の刺史。〔舊五代史、九十一〕。

【張從正】1187 チヤウジユウセイ　金、考城の人。字は子和。號は戴人。醫に通ず。官は興定中、太醫。著に儒門事親がある。〔金史、一百三十一〕。

【張從楚】1188 チヤウジユウソ　後唐、李紹文(**6－14459**‥159 3)の本姓名。

【張從賓】1189 チヤウジユウヒン　五代、晉の人。官は唐の侍衞步軍都指揮使。後、晉の高祖に從ひ、范延光の反に應ず。後、杜重威等と戰つて敗死す。〔舊五代史、九十七〕。

【張叔振】1190 チヤウシユクシン　宋、長溪の人。字は振之。乾道の進士。官は蒲城縣の長官。後、太府丞に遷り、信州の長官に至る。〔尙友錄、八〕。

【張叔夜】1191 チヤウシユクヤ　宋の人。耆の孫。字は稽仲。諡は忠文。金人を拒ぐ。官は簽書樞密院。徽宗の、金に捕はれるや、之に從ひ、道中食はず、嗚咽して死す。〔宋史、三百五十三〕・〔宋史新編、一百二十二〕・〔東都事略、一百八〕・〔皇朝名臣言行續錄、六〕。

【張春華】1192 チヤウシユンクワ　晉、平皐の人。司馬懿の妻。懿、嘗て風痺に罹り足が立たないといふ理由を以て魏の武帝の命を辭す。偶〻書を曝して暴風に遇ひ、覺えず起つて、自ら收め、一婢に見らる。春華、事の泄れるを恐れ、遂に婢を殺して口を滅す。晉の武帝、受禪し、宣穆皇后と追尊す。〔晉書、三十一〕。

【張舜民】1193 チヤウシユンミン　宋、邠州の人。字は芸叟。號は浮休居士、又、矴齋。進士。官は吏部侍郎。元祐の黨に坐す。著に畫墁錄・畫墁集がある。〔宋史、三百四十七〕・〔宋史新編、一百十七〕・〔東都事略、九十四〕・〔元祐黨人傳、三〕・〔宋元學案、三十一〕。

【張純修】1194 チヤウジユンシウ　淸、奉天の人。字は子敏。號は見陽・敬齋。書畫に巧。尤も印章を鐫るを善くす。〔淸畫家詩史、乙、上〕・〔國朝畫識、六〕。

【張循之】1195 チヤウジユンシ　唐、洛陽の人。弟、仲之と共に篤學。武后の時、上書して忌諱に觸れ誅せらる。〔唐書、一百二十八〕。

【張潤之】1196 チヤウジユンシ　宋、金華の人。字は伯成(伯誠)。號は思誠子。專心學問し、地を長山に避け、其の幽勝を賞して十詠を作る。〔南宋書、六十五〕・〔宋元學案、八十二〕。

【張遵誨】1197 チヤウジユンクヴイ　五代、唐の魏州の人。官は絳州の刺史。〔舊五代史、六十一〕。

【張所望】1198 チヤウシヨバウ　明、上海の人。字は叔翹。萬曆の進士。官は廣東按察司副使。書室を寶穡堂といふ。著に閱耕餘錄がある。〔四庫提要、一百二十八〕。

【張如蘭】1199 チヤウジヨラン　明の人。南京羽林衞。字は德馨。指揮使を世襲す。官は淮徐漕運參將。羣書を博覽し、古今の事を談ずるに掌を指すが如し。著に文章兵法譜、及び詩文集がある。〔明詩綜、四十九〕。

【張汝瀛】1200 チヤウジヨエイ　淸、樂陵の人。字は仙洲。道光の擧人。官は咸豐中、漢黃德道。舟師を率ゐ、洪楊の軍を田家鎭に防ぎ戰死す。〔淸史稿、四百六〕・〔續碑傳集、五十八〕。

【張汝元】1201 チヤウジヨゲン　明、江寧の人。字は太初。萬曆の諸生。詩を以て學使陳文燭の知遇を得。著に張太初集がある。〔四庫提要、一百八十〕。

【張汝瑚】1202 チヤウジヨコ　淸、晉江の人。字は夏鍾。明の崇禎の擧人。淸に入つて淸源縣の長官となる。著に匏野文集がある。

【張汝士】1203 チヤウジヨシ　宋、襄邑の人。字は堯夫。官は河南府推官。書詩に巧。〔歐陽文忠公集〕。

【張汝弼】1204 チヤウジヨヒツ　金の人。玄素の兄の子。字は仲佐。正隆の進士。官は尙書右丞。〔金史、八十

三〕。

【張汝明】1205（チャウジョメイ）　宋、眞州の人。字は舜文。進士。官は大觀中、監察御史。蔡京を上疏して彈劾す。學は經史百家に淹貫し、詞文に巧。著に易索書・張子卮言・大究經がある。〔宋史、三百四十八〕・〔宋史新編、一百十九〕・〔宋史翼、二十二〕。

【張汝霖】1206（チャウジョリン）　❶金の人。浩の子。字は仲澤。諡は文襄。貞元の進士。官は平章政事。封は芮國公。〔金史、八十三〕。❷明、浙江山陰の人。字は明若。萬曆の進士。官は江西布政司參議。著に易經澹窩因指がある。〔明史、二百八十三〕。❸清、宣城の人。字は芸墅。號は半巖樵子・悟眞道人。官は拔貢より澳門同和。印光任と共に澳門紀略を著す。〔國朝耆獻類徵、二百五十三〕。

【張序晟】1207（チャウジョセイ）　清、邵陽の人。醫に精し。著に極危備要・廣濟類篇等がある。〔國朝耆獻類徵、四百八十四〕。

【張承廕】1208（チャウショウイン）　明の人。臣の子。官は萬曆中、都督同知。撫順に於て戰死す。〔明史、二百三十九〕・〔萬斯同明史、三百二十三〕・〔明史稿、二百二十一〕。

【張承業】1209（チャウショウゲフ）　後唐の人。字は繼元。諡は正憲。唐の僖宗の時の宦者。本姓は康。內常侍張泰の養子。唐亡び、晉に仕へ、李克用が病篤き時、顧命を受けて幼主存勖を輔く。後、莊宗(存勖)の卽位を諫めて聽かれず、食はずして死す。〔五代史、三十八〕。

【張承烈】1210（チャウショウレツ）　清、武功の人。字は爾晉。號は澹菴。書室を洗心齋といふ。諸生。初、任俠にして心を學に留めず、後、節を折つて、讀書す。著に洗心齋集がある。〔國朝耆獻類徵、四百四〕・〔國朝先正事略、二十九〕・〔清儒學案小識、十〕。

【張松溪】1211（チャウショウケイ）　明、寧波の人。張三峯の法を傳へ、拳法を以て名あり。〔萬斯同明史、三百九十七〕。

【張勝祿】1212（チャウショウロク）　清、湘鄉の人。諡は壯勇。咸豐中、曾國藩に從つて洪秀全を攻め、屢〻殊勳を建つ。官は總兵。

【張信民】1213（チャウシンミン）　明、澠池の人。孟化鯉の門人。王陽明の良知の學を傳へ、從學者頗る衆し。著に印正稿がある。〔四庫提要、九十六〕。

【張振淵】1214（チャウシンエン）　明、仁和の人。字は彥陵。著に周易說統がある。〔四庫提要、八〕。

【張振岳】1215（チャウシンガク）　清、蕭山の人。字は崧高。詩・書・山水畫・鼓琴を善くす。〔國朝耆獻類徵、四百二十六〕。

【張振德】1216（チャウシントク）　明、崑山の人。字は季修。諡は烈愍。貢生より、官は四川興文縣の長官となる。天啓の初、叛臣樊龍と戰ひ、敗死す。〔明史、二百九十〕・〔萬斯同明史、三百七十七〕・〔明史稿、二百七十二〕・〔明人小傳、四〕・〔明詩綜、七十二〕。

【張晉亨】1217（チャウシンガウ）　元、南宮の人。字は進卿。官は懷遠大將軍・淄萊路總管軍事。宋を攻めて、焦山・瓜洲に戰ひ功あり。〔元史、一百五十二〕。

【張神武】1218（チャウシンブ）　明、新建の人。萬曆中、武會試第一に中る。武功あり。〔明史、二百七十一〕・〔明史稿、二百三十四〕。

【張進之】1219（チャウシンシ）　南朝宋、固安の人。郡の大族。貧窮を救濟す。〔宋書、九十一〕・〔南史、七十三〕。

【張愼言】1220（チャウシンゲン）　明、陽城の人。字は金銘。號は藐山・泊水齋。萬曆の進士。官は崇禎の時、南京吏部尙書。京師陷り、福王、南京に立つや、愼言に部事を理めしむ。尋いで休を乞ひ、國亡びて後、疽が背にできて卒す。著に泊水齋文鈔がある。〔明史、二百七十五〕・〔萬斯同明史、三百五十八〕・〔明史稿、二百三十九〕・〔明詩綜、六十〕・〔小腆紀年、五〕。

【張愼思】1221（チャウシンシ）　五代、梁の清河の人。初め黃巢の軍に在り、後、來降す。官は金吾大將軍・蔡州刺史。〔舊五代史、十五〕。

【張新集】1222（チャウシンシフ）　地名。江蘇省蕭縣の西。

【張縉彥】1223（チャウシンゲン）　清、新鄉の人。明の崇禎の進士。官は兵部尙書。李自成が京師を陷れるや、百官を率ゐて表賀し、自成が敗走するや、逃れ歸る。福王の時、原官を授けられ、河北・山西・河南の軍務を總督す。江南定まるや迎へ降る。官は工部右侍郎。無聲戲二集を編刊するに坐す。自ら不死英雄と稱し、詭詞衆を惑はす。寧古塔に流徙されて死す。〔清史稿、二百五十一〕・〔清史列傳、七十九〕。

【張仁熙】1224（チャウジンキ）　清、廣濟の人。字は長人。諸生。よく詩を論じ、時弊を痛憤す。著に藕灣集がある。〔清史列傳、七十〕・〔國朝耆獻類徵、四百七十六〕・〔國朝先正事略、三十七〕。

【張仁愿】1225（チャウジンゲン）　❶唐、下邽の人。突厥を防ぐ。官は同中書門下三品。封は韓國公。〔唐書、一百十一〕・〔舊唐書、九十三〕。❷五代、晉の人。存敬の子。孝子。法令に通じ、梁・唐・晉に歷仕す。官は大理卿に至る。〔舊五代史、九十三〕。

【張任學】1226（チャウジンガク）　明、安岳の人。天啓の進士。官は河南總兵官。後、張獻忠と戰つて敗死す。〔明史、二百六十〕・〔萬斯同明史、三百七十三〕・〔明史稿、二百四十九〕。

【張紉茝】1227（チャウジンシ）　清の人。棟の子。字は芬揚。畫に巧。

【張睢陽】1228（チャウスイヤウ）　唐の張巡をいふ。睢陽を守つて安祿山の兵と戰つたからいふ。張睢陽齒を見よ。

【張睢陽齒】1229（チャウスイヤウノハ）　唐の張巡、安祿山の亂に睢陽城を守り、戰を督するに大呼して、皆裂け面に血し、齒を嚼んで皆碎けた故事。〔唐書、張巡傳〕(睢陽)城遂陷、云云、(尹)子琦謂レ巡曰、聞公督レ戰、大呼、輒眥裂血レ面、嚼レ齒皆碎、何至レ是、答曰、吾欲三氣呑二逆賊一、力屈耳。〔蘇軾帖〕張睢陽生猶罵レ賊、嚼レ齒穿レ齦、顏平原死不レ忘レ君、握レ拳透レ爪。〔文天祥、正氣歌〕爲二張睢陽齒一、爲二顏常山舌一。

【張瑞衡】1230（チャウズイガウ）　宋、鎭江の人。一に端衡に作る。官は句容縣の長官。

【張瑞圖】1231（チャウズイト）　明、晉江の人。字は長公。號は二水・白毫菴道者。萬曆の進士。官は建極殿大學士。畫を善くし、尤も書に巧。邢侗・米萬鍾・董其昌と名を齊しくす。〔明史、三百六〕・〔萬斯同明史、三百五十四〕・〔明史稿、二百二十五〕。

【張崇貴】1232（チャウスウキ）　宋、眞定の人。射に巧。官は昭宣使。〔宋史、四百六十六〕・〔宋史新編、一百八十四〕・〔東都事略、一百二十〕。

【張崇德】1233（チャウスウトク）　清、順天の人。字は懋修。官は渾源州の長官。著に恆嶽志がある。〔四庫提要、七十六〕。

【張世偉】1234（チャウセイヰ）　明、吳縣の人。字は異度。萬曆の舉人。周順昌・文震孟・姚希孟・朱陛宣と吳門五君と稱せらる。歿して鄉人、孝節先生といふ。〔明詩綜、七十〕。

【張世傑】1235（チャウセイケツ）　宋、范陽の人。官は保康軍承宣使に至る。時に元兵が臨安に迫るや、二王に從つて福州に入り、益王の死後、衞王に從つて崖山に至る。官は簽書樞密院事。封は越國公。元の將、張弘範が崖山を攻めるや、世傑は十餘艦を以て逃れ去つた。帝昺、海に入つて死す。後、また兵を崖山に收め、趙氏の後を求めて之を立てんとし、俄に颶風に遭ひ溺死す。〔宋史、四百五十一〕・〔宋史新編、一百七十五〕・〔南宋書、六十一〕・〔昭忠錄〕・〔宋季忠義錄、三〕。

【張世賢】1236（チャウセイケン）　明、寧波の人。字は天成。正德中の名醫。著に圖注難經・圖注脈訣がある。〔四庫提要、一百五〕。

【張世則】1237（チャウセイソク）　明、諸城の人。萬曆の進士。官は四川安縣兵備副使。著に貂璫史鑑がある。〔四庫提要、六十二〕。

【張世澤】1238（チャウセイタク）　元、昌平の人。伯顏に從つて征戰。官は副萬戶・明威將軍。〔元史、一百五十一〕。

【張世忠】1239（チャウセイチュウ）　明、山海衞の人。字は顯甫。諡は忠愍。嘉靖の武舉人。官は大同參將。寇兵大擧して入り掠めるや、諸將と兵を合して之を襲ひ、軍、潰え、力戰して死す。左部督を贈らる。〔萬斯同明史、三百〕・〔明史稿、一百七十五〕・〔國朝獻徵錄、一百十〕。

【張世南】1240（チャウセイナン）　宋、鄱陽の人。又、士南に作る。字は光叔。嘗て、永福に官たり。著に游宦紀聞がある。〔四庫提要、一百二十一〕。

【張世法】1241（チャウセイハフ）　清、九鍵の子。字は平度。號は鶴泉。乾隆の進士。官は直隸・甘肅の長官。書室を瞻麓堂(瞻麓堂)といひ、著に瞻麓堂文集がある。〔國朝耆獻類徵、二百二十三〕。

【張正見】1242（チャウセイケン）　陳、東武城の人。字は見賾。年十三にして頌を梁の簡文帝に獻じ、賞せらる。官は陳の通直散騎侍郎。詩に巧。〔陳書、三十

四〕・〔南史、七十二〕。

【張正常】1243 チヤウセイジヤウ　明の人。字は仲紀。道士。漢の張道陵四十二世の孫。世〻貴溪龍虎山に家居す。元の時、號を天師と賜ひ、正常に至り、明の洪武元年、太祖より正一嗣教眞人の稱を賜はる。〔明史、二百九十九〕・〔明史稿、二百八十一〕・〔國朝獻徵錄、一百十八〕。

【張正甫】1244 チヤウセイホ　唐、南陽の人。字は踐方。進士。官は吏部尚書。卒して太師を追贈さる。〔舊唐書、一百六十二〕。

【張西銘】1245 チヤウセイメイ　明、寧州の人。字は希載。成化の進士。官は金谿縣の長官。後、遼東巡撫より順天督學に至る。〔蘭臺法鑒錄、十三〕・〔本朝分省人物攷、一百十四〕。

【張成孫】1246 チヤウセイソン　清の人。惠言の子。字は彥惟。小學に通じ、算術に明達す。書室を端虛勉一居といふ。著に端虛勉一居士文集・說文諧聲譜がある。〔清史稿、四百八十八〕・〔清史列傳、六十九〕。

【張成龍】1247 チヤウセイリヨウ　清、崇明の人。道光中、盜を捕へた功によつて、川沙營參將に任ぜらる。勇往直進、事に遇ひて險難を避けず。官は浙江提督。〔國朝耆獻類徵、三百二十五〕。

【張青雲】1248 チヤウセイウン　清、富平の人。字は楠亭。嘉慶の武進士。官は廣東陸路提督。〔續碑傳集、五十〕。

【張青口】1249 チヤウセイコウ　地名。河北省新鎭縣の西。商業地。〔日下舊聞考〕爲㆓保定正定河閒三府行鹽之地㆒。

【張星耀】1250 チヤウセイエウ　清、錢塘の人。原名は台柱。字は砥中。著に洗鉛詞・屑雲別錄がある。〔大清畿輔先哲傳、三十〕。

【張星鑑】1251 チヤウセイカン　清、新陽の人。字は緯餘。號は南鴻。諸生。書室を仰蕭樓(仰簫樓)といひ、著に仰蕭樓文集がある。〔四庫提要、三十二〕。

【張星徽】1252 チヤウセイキ　清、永城の人。號は北山。著に孝經集解がある。〔四庫提要、三十二〕。

【張清雅】1253 チヤウセイガ　明、潛山の人。孝子。〔明史、二百九十七〕・〔萬斯同明史、三百九十三〕・〔明史稿、二百七十八〕。

【張齊賢】1254 チヤウセイケン　❶唐、陝州の人。聖曆の初、太常奉禮郎となり、告朔の禮を議す。官は諫議大夫。〔唐書、一百九十九〕。❷宋、冤句の人。字は師亮。諡は文定。太宗の寵臣。官は眞宗の時、兵部尚書・同中書門下平章事。後、司空。著に洛陽縉紳舊聞記がある。〔宋史、二百六十五〕・〔宋史新編、七十三〕・〔東都事略、三十二〕・〔隆平集、四〕・〔名臣碑傳琬琰集、下、二〕。

【張聲玠】1255 チヤウセイカイ　清、湘潭の人。字は奉玆、又、玉夫。道光の擧人。官は元氏縣の長官。書室を蘅芷莊といひ、著に蘅芷莊詩文集がある。

【張聲訓】1256 チヤウセイクン　清、桂陽の人。後、聲恆と改む。官は都司。後、同知となる。屢〻洪楊の軍を嚴杭に破る。〔中興將帥列傳、八〕・〔尚友錄、八〕。

【張聲恆】1257 チヤウセイコウ　張聲訓を見よ。

【張昭允】1258 チヤウセウイン　宋、衢州の人。字は仲孚。官は楚州團練副使・右神武大將軍。〔宋史、二百七十九〕・〔宋史新編、八十〕。

【張昭遠】1259 チヤウセウヱン　宋の人。凝の子。字は持正。年十八にして契丹を拒ぐ。官は左龍武大將軍。〔宋史、三百二十六〕・〔宋史新編、一百五〕・〔隆平集、十八〕。

【張紹祖】1260 チヤウセウソ　❶元、潁州の人。字は子讓。孝子。官は河南路學教授。〔元史、一百九十八〕。❷清、婁縣の人。字は篠田。號は震園。國子生。性、孝友にして施與を好む。畫に巧。〔國朝畫識、十二〕。

【張紹登】1261 チヤウセウトウ　明、南城の人。字は振夫。崇禎の擧人。官は應城縣の長官。流賊と戰つて敗死す。〔明史、二百九十二〕・〔萬斯同明史、三百七十八〕・〔明史稿、二百七十二〕。

【張紹齡】1262 チヤウセウレイ　清、績溪の人。字は度如。號は梅谷老人。詩を能くし畫に巧。

【張錫懌】1263 チヤウセキエキ　清、上海の人。字は越九。號は宏軒。順治の進士。官は泰安州の長官。善政あり。詩詞に巧。著に張子近言・嘯閣餘聲集・南歸稿・涉江稿・漫遊稿がある。〔國朝耆獻類徵、三百十七〕。

【張錫嶸】1264 チヤウセキクワウ　清、靈壁の人。咸豐の進士。官は編修。曾國藩が捻匪を討伐するや、湘軍に隨つて戰守し、後、劉松山と陝西を援けて西安に戰死し、侍講學士を贈らる。著に孝經章句讀・朱子就正錄・孝經問答がある。〔清史稿、四百九十五〕・〔碑傳集補、三十二〕。

【張錫爵】1265 チヤウセキシヤク　清、嘉定の人。字は擔伯。號は中巖・吾友于齋・鈍翁詩老。吳江に寄居す。詩に巧。著に吾友于齋集がある。〔四庫提要、一百八十四〕。

【張錫祚】1266 チヤウセキソ　清、吳縣の人。字は永夫。年五十餘にして窮餓して死す。書室を啖蔗軒といひ、著に啖蔗軒集がある。〔碑傳集補、三十七〕。

【張錫璁】1267 チヤウセキソウ　清、鄞の人。字は德符。號は轀山。性、友愛にして酒豪。著に轀山集がある。〔國朝耆獻類徵、三百八十五〕。

【張錫德】1268 チヤウセキトク　清、江蘇華亭の人。字は南仲。號は南垞(南頌)。乾隆の副貢。靑陽に司鐸す。山水畫を善くし、詩・古文詞に巧。著に愼菴詩集がある。〔墨香居畫識、一〕。

【張拙齋】1269 チヤウセツサイ　張忠恕(1366)を見よ。

【張縉英】1270 チヤウセフエイ　清の人。琦の女。字は孟媞。常熟の吳廷鈖に嫁す。經史を博覽し、詩に巧。書室を澹鞠軒といひ、著に澹鞠軒詩存がある。〔清史稿、五百十三〕・〔清代閨閣詩人徵略、九〕。

【張千載】1271 チヤウセンサイ　宋、廬陵の人。字は毅甫。文天祥の交友。天祥が執はれて北行するや、その囚所の近側に住み、飲食を供送して缺くこと無し。天祥の死後、其の遺骸を葬る。〔南宋書、六十一〕・〔宋史翼、三十五〕・〔宋季忠義錄、十二〕・〔宋元學案、八十八〕。

【張千秋】1272 チヤウセンシウ　漢の人。安世の子。官は宣帝の時、中郎將。烏桓を擊つ。〔前漢書、五十九〕。

【張仙喬】1273 チヤウセンケウ　唐の人。本名は愛兒。玄宗の命によりこの名に改む。畫に巧で、揑像を善くす。〔歷代名畫記〕。

【張倩娘】1274 チヤウセンヂヤウ　唐の人。張鎰の女。衡州に居る鎰の甥に王宙といふものあり、幼にして聰慧、鎰、女を以て妻すことを許す。長ずるに及び兩人互に愛慕す。鎰、遽に倩娘を以て別人に許嫁するや、女聞いて鬱抑し、宙も亦恚恨す。宙、言に託して京に赴き、舟を買ひて行く。夜半、倩娘、忽ち至る。因つて携へて倶に遁れ、蜀に居ること五年、二子を生む。後、共に衡州に歸り、宙、倩娘を殘し、鎰の家に詣つて自ら謝す。鎰、大いに驚き、倩娘は固より室にあり、病むこと數年、未だ閨闥を離れずと。宙驚きて倩娘を伴ひ來る。病中の女も又起ちて之を迎ふ。兩女相見るに及び、翕然として合して一體となるといふ。陳玄祐、ために離魂記を作る。

【張船山】1275 チヤウセンザン　張問陶(1550)を見よ。

【張薦明】1276 チヤウセンメイ　五代、晉の燕の人。初、儒者。後、道士となる。老子莊周の說に通じ、道德經を以て高祖の師となる。高祖、通玄先生の號を賜ふ。終るところを知らず。〔五代史、三十四〕。

【張全義】1277 チヤウセンギ　五代、梁の臨漢の人。字は國維。諡は忠肅。初、李罕と河陽洛陽に分據し、尋いで梁に歸附す。官は太師尚書令。封は齊王。〔五代史、四十五〕・〔舊五代史、六十三〕。

【張善安】1278 チヤウゼンアン　唐、方與の人。初、盜賊であつたが、後、洪州總管を授けられて唐に歸し、尋いで誅せらる。〔唐書、八十七〕・〔舊唐書、五十六〕。

【張善友】1279 チヤウゼンイウ　戲曲の名。元代の人の撰。冤家債主ともいふ。張善友に二子あり、一人は殖財をよくし、一人は其の財を費し果したことをのべ、因果應報を知らせようとした。

【張善相】1280 チヤウゼンシヤウ　唐、襄城の人。大業の末、李密に歸附す。密敗れて後、唐に來歸す。官は伊州總管。王世充に殺さる。〔唐書、一百九十一〕・〔舊唐書、一百八十七〕。

【張祖年】1281 チヤウソネン　清、湯溪の人。字は申伯。書室を笏峙樓といふ。著に道驛集・笏峙樓集がある。〔四庫提要、一百二十九〕。

【張祖武】1282 チヤウソブ　清、長安の人。乾隆の擧人。嘗て明の來知德の易注の原注を取つて、其の繁冗を去り、易傳本義の諸說を補ひて、來易增刪と名づく。〔四庫提要、十〕。

【張楚金】1283 チヤウソキン　唐の人。道源の族孫。官は秋官尚書。爵は南陽侯。酷吏に計畫され、嶺表に謫遷さる。〔唐書、一百九十一〕・〔舊唐書、一百八十七上〕。

【張宗說】1284 チヤウソウエツ　❶宋、崇安の人。字は巖夫。

朱熹の弟子。厚徳の士。官は歸州推官。〔宋元學案、六十九〕。㊁清、夏邑の人。字は蓬宰。雍正の進士。母に事へて至孝。書室を怡雲草堂といひ、著に怡雲草堂詩がある。〔國朝耆獻類徵、一百二十六〕。

【張宗演】1285（チヤウソウエン） 元の人。漢の張道陵の三十六代の孫。世〻信州の龍虎山に居る。世祖、江南を平定し、召致して、待つに客禮を以てし、命じて江南の道教を主領せしむ。〔元史、二百二〕・〔新元史、二百四十三〕。

【張宗衡】1286（チヤウソウカウ） 明、臨清の人。萬曆の進士。官は崇禎中、兵部右侍郎。〔明史、二百九十一〕・〔萬斯同明史、三百六十四〕・〔明史稿、二百四十一〕。

【張宗顏】1287（チヤウソウガン） 宋、延安の人。字は希顏。謚は壯敏。金人と戰ひ敗る。官は河州防禦使。〔宋史、三百六十九〕・〔宋史新編、一百三十三〕・〔南宋書、十七〕・〔宋朝南渡十將傳、九〕。

【張宗誨】1288（チヤウソウクワイ） 宋の人。齊賢の子。字は習之。兵法及び陰陽象緯學に通ず。元昊の寇を防ぐ。官は祕書監。〔宋史、二百六十五〕・〔宋史新編、七十三〕・〔東都事略、三十二〕。

【張宗蒼】1289（チヤウソウサウ） 清、吳縣の人。字は默存、又墨岑。號は篁村。山水畫に巧。主簿の銜を以て河工を理め、高宗南巡するや、吳十六景の書冊を進む。官は戶部主事。〔清史稿、五百九〕・〔國朝耆獻類徵、一百四十五〕。

【張宗之】1290（チヤウソウシ） 後魏、鞏の人。字は益宗。謚は敬。忠謹の士。官は侍御中散・鎭東將軍・冀州刺史。〔魏書、九十四〕・〔北史、九十二〕。

【張宗昌】1291（チヤウソウシヤウ） 民國、山東省掖縣の人。字は效坤。第一革命には民軍に投じて活躍、第二革命には民軍團長として戰つたが、北軍に降り馮國璋の麾下に投じた。後、張作霖の高等軍事顧問となり、次いで山東省長となつた。張作霖が安國軍總司令に就任するや其の副司令となつて革命軍と戰ふ。其の後失脚して我が國に亡命。一九三二年凶刃に倒る。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【張宗橚】1292（チヤウソウシユク） 清の人。芳湄の子。字は詠川。號は思巖。太學生。書室を清綺齋といふ。著に藕村詞存がある。

【張宗升】1293（チヤウソウシヨウ） 張斐(625)を見よ。

【張宗松】1294（チヤウソウシヨウ） 清、海鹽の人。字は青在。又、楚良・蠖廬。號は捫腹齋。吟詠に耽り、藏書の鑒別最も精。著に寒坪詩鈔・捫腹齋詩鈔・詩餘がある。

【張宗泰】1295（チヤウソウタイ） 清、甘泉の人。字は登封。號は筠巖。乾隆の拔貢生。天長・合肥の教諭。著に周官爾雅注疏正誤・孟子七篇諸國年表・天長縣志・質疑偶存がある。〔續碑傳集、七十六〕。

【張宗璉】1296（チヤウソウレン） 明、吉水の人。字は重器。永樂の進士。官は南京大理丞。〔明史、二百八十一〕・〔萬斯同明史、三百八十九〕・〔明史稿、二百六十二〕。

【張宗魯】1297（チヤウソウロ） 明、鈞州の人。孝子。〔明史、二百九十六〕・〔萬斯同明史、三百九十二〕。

【張曾子】1298（チヤウソウシ） 張霸(596)の㊁を見よ。

【張曾乙】1299（チヤウソウイツ） 清、嘉定の人。初名は銘。字は西又（西友）。又、紫庭。好んで彝鼎圖書を蓄へ、詩詞書畫篆刻に巧。著に駛雨閣詩稿・東樂軒詩鈔・紫庭詩草・梨花掩門集・題畫詩・二家詩選がある。〔清畫家詩史、乙、上〕・〔國朝書畫家筆錄、二〕。

【張僧繇】1300（チヤウソウエウ） 梁、吳の人。畫家。官は右軍將軍・吳興の太守。龍や人物畫に巧。〔歷代名畫記〕・〔琅琊代醉編、十八〕。

【張僧皓】1301（チヤウソウカウ） 後魏の人。烈の弟。字は山客。徵辟に應ぜず、世人、徵君と號す。產業を營むを好み、巨萬の富を藏す。尤も博弈を好み、世に譏らる。〔魏書、七十六〕。

【張僧願】1302（チヤウソウグワン） 張雋(400)を見よ。

【張聰咸】1303（チヤウソウカン） 清、桐城の人。字は阮林、又、小阮。號は傅巖。嘉慶の擧人。官は八旗教習。詩古文に巧。姚鼐、目して異才と爲す。左氏傳及び音韻の學に通じ、又、漢晉の逸事に熟す。著に左傳杜注辨正・經史質疑錄がある。〔國朝耆獻類徵、四百二十一〕・〔碑傳集、一百四十一〕。

【張即之】1304（チヤウソクシ） 宋の人。孝伯の子。字は溫夫。官は司農寺丞・嘉興の知。書に巧。〔宋史、四百四十五〕・〔宋史新編、一百七十一〕・〔南宋書、六十三〕・〔皇宋書錄、下〕。

【張存敬】1305（チヤウソンケイ） 五代、梁の譙郡の人。太祖に事へて戰功あり。官は宋州刺史。〔五代史、二十一〕・〔舊五代史、二十〕。

【張存紳】1306（チヤウソンシン） 明、華容の人。字は叔行。號は見其。天啓の貢生。官は蒲圻訓導。著に雅俗稽言がある。〔四庫提要、一百二十六〕。

【張存仁】1307（チヤウソンジン） 清、漢軍鑲藍旗人。謚は忠勤。明に仕へて寧遠副將となる。太宗の時、投降し、一等副將の世職を授けらる。錦州を破り、太原を攻め、江南河南浙江を定め、皆功あり、官は兵部尚書。直隸山東河東を總督す。〔清史稿、二百四十三〕・〔清史列傳、七十八〕・〔碑傳集、五〕。

【張太華】1308（チヤウタイクワ） 五代、後蜀の孟昶の妃。少くして殊色を擅にし、眉目畵くが如し。廣政の初、孟昶と同輦して青城山に遊び、九天文人觀に宿し、月餘にして返らず。李廷珪等屢〻諫めたが聽かず。居ること數日、雷雨大いに作り、震死す。〔五代史、六十四〕。

【張太素】1309（チヤウタイソ） 唐の人。醫家。著に太素脈一卷がある。〔舊唐書、六十八〕。

【張台柱】1310（チヤウタイチユウ） 張星耀(1250)を見よ。

【張泰開】1311（チヤウタイカイ） 清、金匱の人。字は履安。謚は文恪。乾隆の進士。官は禮部侍郎。後、左都御史に至る。胡中藻、詩を作つて朝政を謗り、誅せらる。泰開之が序を作つて罪を得。〔清史稿、三百十〕・〔清史列傳、二十四〕・〔國朝耆獻類徵、八十七〕。

【張泰階】1312（チヤウタイカイ） 明、上海の人。字は爰平。萬曆の進士。家に寶繪樓あり、名畫眞迹を藏すること甚だ多く、著に寶繪錄がある。〔四庫提要、一百十四〕。

【張泰交】1313（チヤウタイカウ） 清、陽城の人。字は公孚、又、洎谷。康熙の進士。官は浙江巡撫。清廉の士。〔國朝耆獻類徵、一百六十二〕・〔碑傳集、六十七〕。

【張泰亨】1314（チヤウタイカウ） 元、堂邑の人。宋及び女兒阿塔・西川・潭州に出征す。官は武節將軍。〔元史、一百六十六〕。

【張泰青】1315（チヤウタイセイ） 清、永嘉の人。字は孟平。號は秋帆。嘉慶の擧人。官は雲南永北廳同知。書室を小東山草堂といひ、著に小東山草堂文鈔がある。

【張體乾】1316（チヤウタイケン） 清、浮山の人。字は確齋。官は刑部郎中。詩に巧。著に東遊紀略がある。〔四庫提要、六十四〕。

【張大有】1317（チヤウダイイウ） 清、郃陽の人。謚は文敬。康熙の進士。編修を授けらる。官は漕運總督。漕政の各事を進言し、議多く行はる。後、禮部尚書に終る。〔國朝耆獻類徵、六十五〕。

【張大猷】1318（チヤウダイイウ） 清、遼陽の人。後、漢軍鑲黃旗に隸す。崇德中、鑲黃旗副都統を授けらる。順治中、太原を征し、江南浙江を定む。官は提督江南總兵官。封は三等子。〔清史稿、二百四十九〕・〔清史列傳、四〕・〔國朝耆獻類徵、二百六十五〕。

【張大亨】1319（チヤウダイカウ） 宋、湖州の人。字は嘉父。元豐の乙科に登る。官は直祕閣。著に春秋五禮例宗・春秋通訓がある。〔四庫提要、二十七〕。

【張大觀】1320（チヤウダイクワン） 清、偃師の人。孝子。〔清史稿、五百三〕・〔國朝耆獻類徵、三百八十八〕・〔碑傳集、一百四十五〕・〔國朝先正事略、五十九〕。

【張大經】1321（チヤウダイケイ） ㊀宋、南城の人。字は彥文。謚は簡肅。紹興の進士。官は徽猷閣學士・建寧府の長官。病、革るや諸子に告げて曰く、吾目瞑すべきも吾が愛君憂國の心瞑すべからずと。〔宋史、三百九十〕・〔宋史新編、一百四十三〕・〔南宋書、三十五〕。㊁清、山西鳳臺の人。乾隆の武進士。陝西興漢鎭總兵を以て金川に從征し、澤旺を擒にして功あり、木果木、利を失ふや、力戰して死す。〔清史稿、三百四十〕・〔國朝耆獻類徵、三百五十三〕。

【張大受】1322（チヤウダイジユ） 清、長洲の人。字は日容。康熙の進士。官は檢討。詩文に巧。書室を匠門書屋といひ、著に匠門書屋文集がある。〔清史列傳、七十一〕・〔國朝耆獻類徵、一百二十三〕・〔碑傳集、四十七〕・〔國朝先正事略、四十〕。

【張大純】1323（チヤウダイジユン） 清、長洲の人。吳江の徐崧、嘗て吳地の古蹟を綴集して百城烟水を爲り、未だ終らずして歿す。大純、重ねて纂輯を加へて

刊行す。〔四庫提要、七十六〕。

【張大振】1324（チヤウダイシン）　清、長安の人。乾隆中、甘肅石峯堡の回、臺灣の林爽文、及び廓爾喀に從征して皆功あり。嘉慶中、川楚の教匪及び河南の教匪を討伐す。官は直隸正定鎭總兵。〔國朝耆獻類徵、三百十二〕。

【張大節】1325（チヤウダイセツ）　金、五臺の人。字は信之。天德の進士。官は震武軍節度使。弈碁を善くし、當世第一に推さる。〔金史、九十七〕。

【張大復】1326（チヤウダイフク）　❶明、崑山の人。字は元長。號は聞雁齋。書室を梅花草堂といふ。著に崑山人物傳・崑山名宦傳・梅花草堂筆談・聞雁齋筆談がある。〔明詩綜、六十七〕。❷清、蘇州の人。字は星期、又、心其。號は寒山子。傳奇二十三種を作る。散齣の今に行はれるもの、如是觀・醉菩提等がある。〔曲錄、五〕。

【張大烈】1327（チヤウダイレツ）　明、錢塘の人。字は言沖。著に詩餘類函がある。〔明詞綜、八〕・〔崇禎忠節錄、十四〕。

【張唐英】1328（チヤウタウエイ）　宋、新津の人。字は次功。號は黃松子。進士。官は神宗の時、殿中侍御史。史才あり。著に仁宗政要・宋名臣傳・蜀檮杌等がある。〔宋史、三百五十一〕・〔宋史新編、一百二十一〕・〔東都事略、一百二〕・〔名臣碑傳琬琰集、中、十四〕・〔琬琰集删存、二〕。

【張道渥】1329（チヤウダウアク）　清、渾源の人。字は水屋。號は竹畦・封紫。蔚州の長官となる。書及び詩に巧。山水畫を善くす。性、不羈。世人、張風子と呼ぶ。よつて自ら號とす。〔清畫家詩史、戊、上〕・〔國朝書畫家筆錄、二〕。

【張道隱】1330（チヤウダウイン）　姜道隱 (**3－6205**··110) を見よ。

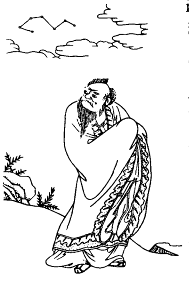
【張道洽】1331（チヤウダウカウ）　宋、開化の人。字は澤民。號は實齋。端平の進士。官は襄陽府推官。梅花詩三百餘首がある。

【張道岸】1332（チヤウダウガン）　清、湖州の人。字は閒鶴。號は懸度。性、簡傲。飲酒を嗜み、醉へば輒ち喜んで蘭を畫く。〔國朝耆獻類徵、四百六十五〕・〔國朝書畫家筆錄、三〕。

【張道源】1333（チヤウダウゲン）　唐、祁の人。名は河。字を以て著る。諡は節。孝子。縣令郭湛、其の德を稱へて、其の里を復禮鄉・至孝里と呼ぶ。官は綿州刺史。〔唐書、一百九十一〕・〔舊唐書、一百八十七上〕。

【張道濬】1334（チヤウダウシユン）　清、新安の人。常熟に寓す。字は廷先。又、庭仙。號は小顚。畫を善くし、詩に巧。書室を鶴還堂といひ、著に鶴還堂集がある。〔清畫家詩史、乙、下〕。

【張道陵】1335（チヤウダウリヨウ）　後漢、沛國の人。本名は陵。永平中、江州令に拜せられ、官を棄てて洛陽の北邙山に隱れ、章和中、度々召されたが就かず、策を杖いて龍虎山に遊び、道術を修錬して成り、蜀に入り、符水禁呪の法を行ふ。從學者より謝禮として米五斗を徵收す。ために、其の道を五斗米道といふ。又、其の徒、道陵を天師と稱す。後世の所謂張天師は其の後裔。〔神仙傳、四〕。



張道陵（三才圖會）

【張擇行】1336（チヤウタクカウ）　宋、益都の人。字は行先。進士。官は戶部郎中・集賢殿修撰。〔宋史、三百一〕・〔宋史新編、九十四〕。

【張擇端】1337（チヤウタクタン）　宋、東武の人。字は正道。畫に巧で、清明上河圖を作り、世に稱せらる。〔寓意編〕。

【張澤瑊】1338（チヤウタクカン）　清、青浦の人。字は虛受。號は實甫。康熙の擧人。雍正中、鴻博に擧げられたが赴かず。畫は逸品にして、兼ねて書に巧。書室を懷古堂・天香閣といひ、著に懷古堂集・天香閣草がある。〔國朝耆獻類徵、四百二十九〕・〔清畫家詩史、乙、下〕。

【張澤棨】1339（チヤウタクボク）　清、江蘇華亭の人。字は文五。號は道復・芳草齋。康熙の擧人。鐸鹽城を司る。畫を善くし、詩に巧。著に芳草齋集・喁噞集・滇海從親集がある。〔清畫家詩史、乙、下〕。

【張端衡】1340（チヤウタンカウ）　張瑞衡(1230)を見よ。

【張端義】1341（チヤウタンギ）　宋、鄭州の人。字は正夫。號は荃翁。著に貴耳集がある。〔宋元學案、七十四〕・〔宋史翼、二十九〕。

【張端木】1342（チヤウタンボク）　清、上海の人。字は崑喬。書室を紺珠室といふ。乾隆の進士。諸曁縣の長官。著に錢錄がある。〔四庫提要、八十四〕。

【張端亮】1343（チヤウタンリヤウ）　清、蒙化の人。字は寅揆。號は退菴。康熙の擧人。濰縣の長官。著に撫松吟集がある。

【張澹然】1344（チヤウタンゼン）　明の人。天師となる。號は九歸道人。山水畫に巧。〔明畫錄、三〕。

【張豸冠】1345（チヤウチクワン）　清、海寧の人。字は神羊。號は芝岡。乾隆の副貢。算學に精し。著に景獻初編・算術隨錄・讀書偶識がある。

【張知謇】1346（チヤウチケン）　唐、方城の人。字は匪躬。兄弟五人、知元・知晦・知泰・知默等、皆明經に及第す。十一州の刺史に歷任し、臨む所威嚴あり。武后、其の貌を奇とし、畫工をして圖せしめ、其の兄弟の容才を稱して兩絕といふ。官は中宗の時、大理卿。〔唐書、一百〕・〔舊唐書、八十五下〕。

【張知白】1347（チヤウチハク）　宋、清池の人。字は用晦。諡は文節。篤學。官は仁宗の時、工部尙書・同中書門下平章事。〔宋史、三百十〕・〔宋史新編、九十六〕・〔東都事略、五十一〕・〔隆平集、五〕・〔宋人軼事彙編、二百三十七〕。

【張致遠】1348（チヤウチエン）　宋、沙縣の人。字は子猷。宣和の進士。官は臺省侍從。〔宋史、三百七十六〕・〔宋史新編、一百三十八〕・〔南宋書、二十二〕・〔慶元黨禁〕。

【張治中】1349（チヤウヂチユウ）　民國、安徽省巢縣の人。字は文白。保定軍官學校卒業後、廣東軍政府に入り、參謀長・教育長・訓練處長等を經て軍政視察のため、歐米に派遣せらる。歸國後、中央陸軍軍官學校教育長に任ぜられ、將校養成に當り、上海事件には第五軍長及び第八十七師長を兼ね、我が軍と戰つて敗る。第五期中央執行委員。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【張胄玄】1350（チヤウチウゲン）　隋、蓨の人。術數に精し。官は員外散騎侍郎・太史令。〔隋書、七十八〕・〔北史、八十九〕。

【張長安】1351（チヤウチヤウアン）　漢、山陽の人。字は幼君。王式の弟子。官は淮陽中尉。申公の詩に通じ、魯詩張氏學を創む。〔前漢書、八十八〕。

【張長庚】1352（チヤウチヤウカウ）　清、漢軍鑲黃旗人。順治中、祕書院編修を授けられ、湖廣總督となる。康熙中、明の桂王の將、郝搖旂・劉汝魁を擒にして斬し、李來亨の餘黨を平らぐ。吳三桂の反に、四川を征し、功無くして回り、尋いで卒す。〔清史列傳、七〕・〔國朝耆獻類徵、一百五十四〕。

【張長叔】1353（チヤウチヤウシユク）　漢、雒陽の人。王莽に用ひらる。〔前漢書、九十一〕。

【張長遜】1354（チヤウチヤウソン）　唐、櫟陽の人。馳射に精通す。官は隋の五原太守・唐の遂夔二總管。〔唐書、八十八〕・〔舊唐書、五十七〕。

【張中彥】1355（チヤウチユウゲン）　金の人。中孚の弟。字は才甫。初、宋に仕へ、後、金に降る。官は吏部尙書。封は崇國公。〔金史、七十九〕。

【張中丞】1356（チヤウチユウジヨウ）　唐の張巡。御史中丞に拜せられたからいふ。〔韓愈、張中丞傳後序〕元和二年四月十三日夜、愈與ニ吳郡張籍一閱ニ家中舊書一、得ニ李翰所レ爲張巡傳一。

【張中孚】1357（チヤウチユウフ）　金の人。字は信甫。官は南京留守。封は崇王。其の軍規嚴にして西人に畏愛さる。〔金史、七十九〕。

【張仲蔚】1358（チヤウチユウウツ）　後漢、扶風の人。少くして同郡の魏景卿と隱身して仕へず。天官に精通し博學にして好んで詩賦を作る。〔高士傳、中〕。

【張仲儀】1359（チヤウチユウギ）　元、絳の人。字は伯威。元末、杭州路總管府判官となり、能吏の稱あり。江西行中書省左右司徒使に轉ず。後、撫州路總官となる。

【張仲擧】1360（チヤウチユウキヨ）　清、漢軍鑲紅旗人。康熙中、福建泉州府の長官となる。鄭錦、泉州を圍むや、仲擧、固守すること兩月餘、功により福建巡撫を授けらる。後、庫帑を侵蝕するを以て、獄に卒す。〔滿洲名臣傳、三十四〕。

【張仲堅】1361（チヤウチユウケン）　隋、西京の人。赤髯にして其の形は虯の如し。故に虯髯客と號す。雄才にして大略あり。隋末、天下亂れるや、事を中原に起さんとし、旅邸にて李靖に遇ひ、よりて唐太宗を見、其の眞天子たるを知り、悉く其の家の所有を以て靖に贈る。此の後十餘年、東南數千

里外に異事ありしに、これ吾が意を得たるの秋と言ひ訖つて去り、遂に復た見えず。後、貞觀中、南蠻奏していふ、仲堅、海船千艘、甲兵數十萬を有し、扶餘國に入り、其の主を殺して自立すと。〔尙友錄、八〕。

【張仲師】1362（チヤウチユウシ）　古の人。身長一尺二寸、古より今に至つて死せずといふ。〔梁書、劉杳傳〕少好レ學、博綜二羣書一、沈約云、何承天纂文奇博、其書載二張仲師及長頸王事一、此何出、杳曰、仲師長尺二寸、唯出二論衡一、長頸是毗騫王、朱建安扶南以南記云、古來至レ今不レ死、約卽取二一書一尋檢、一如二杳言一。

【張仲素】1363（チヤウチユウソ）　唐の人。建封の子。字は繪之。詞に巧。元和中、翰林學士となる。韋貫之に彈劾さる。後、中書舍人に終る。〔唐詩紀事、四十二〕。

【張仲方】1364（チヤウチユウハウ）　唐の人。九皋の曾孫。謚は成。貞元の進士。官は祕書監。〔唐書、一百二十六〕・〔舊唐書、一百七十一〕。

【張仲武】1365（チヤウチユウブ）　唐、范陽の人。謚は莊。回鶻を破る。官は檢校司徒・同中書門下平章事。〔唐書、二百十二〕・〔舊唐書、一百八十〕。

【張忠恕】1366（チヤウチユウジヨ）　宋の人。浚の孫。字は行父。學者、拙齋先生と稱す。官は直祕閣・贛州の長官。〔宋史、四百九〕・〔宋史新編、一百二十六〕・〔南宋書、四十五〕・〔宋元學案、五十〕。

【張忠輔】1367（チヤウチユウホ）　宋の人。宣和末の將。金人と戰ひ、節に死す。〔宋史、四百四十八〕・〔南宋書、二十六〕。

【張重華】1368（チヤウヂユウクワ）　❶十六國、前涼の人。駿の第二子。字は泰臨。涼王を嗣ぐ。在位九年。〔晉書、八十六〕。❷明、松江華亭の人。字は虞侯。號は滄漚。著に滄漚集がある。〔四庫提要、一百七十八〕。

【張直方】1369（チヤウチヨクハウ）　唐の人。仲武の子。官は左金吾衞大將軍。黃巢の京師を侵すや、直方は謀を以て之をおびやかしたが、賊に覺られ、其の族を屠らる。〔唐書、二百十二〕・〔舊唐書、一百八十〕。

【張陳典】1370（チヤウチンテン）　清、嘉定の人。字は徽五、又、毅庭。本姓は陳。外祖に養はれ、其の姓を承く。

乾隆の進士。銅仁縣の長官となる。詩文書畫に巧。書室を燕翼堂といふ。著に燕翼堂集・閒窗偶吟・陸舟賸稿・韓昌黎編年詩集詮釋がある。

【張鎭孫】1371（チヤウチンソン）　宋、南海の人。字は鼎卿。咸淳の廷對第一。祕書監正字を授けらる。後、官は經略按撫使。元兵に執へられ大庾に死す。書室を見面亭といふ。〔南宋書、六十〕・〔宋季忠義錄、八〕。

【張通古】1372（チヤウツウコ）　金、易縣の人。字は樂之。博學、文章を善くす。遼の天慶の進士。官は金の天會中、中京副留守・平章政事。封は曹王。宰相に居ると雖も、自ら奉ずること寒素の如し。〔金史、八十三〕。

【張廷蘊】1373（チヤウテイウン）　五代、唐の襄邑の人。常に莊宗の征伐に從ふ。官は左監門衞上將軍。〔五代史、四十七〕・〔舊五代史、九十四〕。

【張廷楷】1374（チヤウテイカイ）　清、成都の人。乾隆中、黔楚の苗を、嘉慶中、川楚の教匪を伐ち、湖北陝西甘肅四川に轉戰して功あり。官は鎭篁鎭總兵。〔國朝耆獻類徵、三百十三〕。

【張廷岳】1375（チヤウテイガク）　清、漢軍鑲藍旗人。謚は威勤。道光中、三等を襲ぐ。官は正白旗蒙古都統。

【張廷翰】1376（チヤウテイカン）　❶宋、信都の人。官は五代、漢の時、本州刺史。宋初、冀亳二州の長官となる。〔宋史、二百七十一〕・〔宋史新編、七十六〕。❷宋、陵川の人。官は後周の右二軍虞度侯・宋の彰國軍節使。蜀に出征す。〔宋史、二百五十九〕・〔宋史新編、七十〕。

【張廷玉】1377（チヤウテイギヨク）　❶明、延安の人。字は汝光。號は石初。萬曆の進士。官は工部郎中。著に理性元雅がある。〔四庫提要、一百十四〕。❷清、桐城の人。文端公英の仲子。字は衡臣、又、硯齋。謚は文和。康熙の進士。官は內閣學士。雍正中、禮戶兩部尙書より、保安殿大學士に至る。世宗封は三等勤宣伯。太保を加へらる。世宗遺詔して太廟に配享せしむ。朝に立つこと五十年、富貴壽考、清一代の最となる。雍正中、初めて軍機を立てるや、鄂爾泰と軍機大臣となる。世宗の恩遇最も渥し。書室を傳經堂・澄懷園といふ。著に傳經堂集がある。〔清史稿、二百九十四〕・〔清史列傳、十四〕・〔國朝耆獻類徵、十四〕・〔碑傳集、二十二〕・〔國朝先正事略、十三〕。

【張廷珪】1378（チヤウテイケイ）　唐、濟源の人。謚は貞穆。慷慨の士。進士。官は少府監。書に巧。〔唐書、一百十八〕・〔舊唐書、一百一〕。

【張廷濟】1379（チヤウテイサイ）　清、嘉興の人。字は叔未。號は竹田・說舟・仙華子・學老學菴・學壽齋・眉壽老人・海嶽菴門弟子。嘉慶の舉人。後、隱居し、圖書金石を以て自ら娛しむ。書・詩に巧。書室を八甎精舍・清儀閣・桂馨堂といふ。著に桂馨堂集・清儀閣題跋がある。〔清史稿、四百九十一〕・〔清史列傳、七十三〕。

【張廷臣】1380（チヤウテイシン）　明、崑山の人。字は元忠。嘉靖の舉人。著に張氏說詩がある。〔梅花草堂集、七〕。

【張廷瑑】1381（チヤウテイテン）　清の人。文端公英の第四子。字は桓臣、又、思齋。雍正の進士。官は內閣學士兼禮部侍郎。〔清史稿、二百七十三〕・〔清史列傳、十四〕・〔國朝耆獻類徵、七十四〕・〔碑傳集、三十一〕・〔國朝先正事略、七〕。

【張廷枚】1382（チヤウテイバイ）　清、漢軍の人。字は卜臣。世襲の佐領より福建布政使に遷る。嘗て三度高麗に使し、各〻詩紀事有り。書室を春暉堂といひ、著に春暉堂詩鈔がある。〔國朝耆獻類徵、一百七十〕。

【張廷範】1383（チヤウテイハン）　唐、優の人。官は太常卿。朱全忠に愛さる。〔唐書、二百二十三下〕。

【張廷裕】1384（チヤウテイユウ）　五代、唐の代北の人。晉主に從つて黃巢・王行瑜を討つ。官は新州節度使。〔舊五代史、六十五〕。

【張廷璐】1385（チヤウテイロ）　清の人。文端公英の子。字は寶臣。號は藥齋。康熙の進士。官は禮部侍郎。學は經史に本づき、詩古文に巧。書室を詠花軒といふ。著に詠花軒詩がある。〔清史稿、二百七十二〕・〔清史列傳、十四〕・〔國朝耆獻類徵、七十四〕・〔國朝先正事略、七〕。

【張廷祿】1386（チヤウテイロク）　清、湘陰の人。字は雪川。乾隆の副貢。詩・草書を善くす。京師に遊ぶや、大學士蔡新、之を激賞す。著に樵古堂詩集がある。〔國朝耆獻類徵、四百三十三〕。

【張定和】1387（チヤウテイクワ）　隋、萬年の人。字は處謚。謚は壯武。官は左屯衞大將軍。後、吐谷渾を征し、戰死す。〔隋書、六十四〕・〔北史、七十八〕。

【張貞觀】1388（チヤウテイクワン）　明、沛の人。字は惟誠。號は惺宇。萬曆の進士。官は禮科給事中。直言の士。著に掖垣諫草がある。〔明史、二百三十三〕・〔萬斯同明史、三百三十七〕・〔明史稿、二百十五〕。

【張貞生】1389（チヤウテイセイ）　清、廬陵の人。字は幹臣、又、篔山。順治の進士。官は侍講學士。理學を以て名あり、初、良知の說を主とし、後、魏象樞・熊賜履と往來講學し、よつて朱熹を宗とし、愼獨主敬を以て歸となす。誠意書院を創立す。著に庸書・聖門戒律・玉山遺響集がある。〔清史稿、四百八十六〕・〔清史列傳、六十六〕・〔國朝耆獻類徵、一百十六〕・〔碑傳集、四十四〕・〔國朝先正事略、二十九〕。

【張庭堅】1390（チヤウテイケン）　宋、廣安軍の人。字は才叔。元祐の進士。官は徽宗の時、右正言。蔡京のために鼎州に徙さる。〔宋史、三百四十六〕・〔宋史新編、一百十八〕・〔東都事略、一百〕・〔元祐黨人傳、六〕・〔宋元學案、十九〕。

【張庭瑞】1391（チヤウテイズイ）　元の人。庭珍の弟。字は天表。兵法・地志・星曆・卜筮に通ず。官は潭州路總管。〔元史、一百六十七〕。

【張庭珍】1392（チヤウテイチン）　元、全州の人。字は國寶。官は南京路總管・開封府尹。〔元史、一百六十七〕。

【張鼎思】1393（チヤウテイシ）　明、安陽の人。字は愼吾。萬曆の進士。著に琅邪曼衍・琅邪代醉編がある。〔四庫提要、一百二十六〕。

【張兆棟】1394（チヤウテウトウ）　清、濰縣の人。字は伯隆。號は友山。道光の進士。鳳翔府の長官となり、光緒中、福建巡撫に至る。〔清史稿、四百六十四〕・〔續碑傳集、三十一〕。

【張兆熊】1395（チヤウテウユウ）　清、洋縣の人。字は宜男。明末の舉人。流賊が至るや、縣令郭一龍と鄉勇數百を募つて之を伐つ。順治中、御史に擢んでられ、淮・徐・郴・桂の參政に歷任し、至る所、名聲があつた。〔國朝耆獻類徵、二百八〕。

【張彫武】1396（チヤウテウブ）　北齊の人。張雕（579）を見よ。

【張朝臣】1397（チヤウテウシン） 清、山海衞の人。字は鼎望。武進士。官は浙江處州右營都司。康熙中、衢賊が境を亂すや、協都司孫奇豹と前後夾擊し、敗れて戰死す。〔大清畿輔先哲傳、三十六〕。

【張朝晉】1398（チヤウテウシン） 清、海寧の人。字は萃皋。號は北湖・六有齋。著に省克錄・聞喪雜錄・六有齋劄記がある。〔國朝耆獻類徵、四百九〕・〔碑傳集、一百二十九〕。

【張朝瑞】1399（チヤウテウズイ） 明、海州の人。字は子禎。諡は清恪。隆慶の進士。官は安丘・鹿邑二縣の長官・湖廣參政・應天府丞。著に忠節錄・明貢擧考がある。〔萬斯同明史、三百二十九〕・〔國朝獻徵錄、七十六〕。

【張朝龍】1400（チヤウテウリヨウ） 清、大同の人。貴州に寄籍す。諡は壯果。乾隆中、緬甸・金川に從征して功あり。官は福建南澳鎭總兵。〔清史稿、三百四十〕・〔國朝耆獻類徵、三百五十六〕。

【張朝璘】1401（チヤウテウリン） 清、漢軍正藍旗人。順治中、江南に隨征し、紅衣礮を以て揚州及び江陰に克ち、湖南山西を平定す。封は一等男。官は福建總督。〔清史稿、二百三十七〕・〔國朝耆獻類徵、一百五十〕・〔碑傳集、六十二〕。

【張肇岑】1402（チヤウテウシン） 清、江都の人。字は蘭坡。號は石鼓齋。篆隸に巧で、足跡全國に遍し。官は按察司照磨。著に石鼓齋印存がある。

【張鐵簡】1403（チヤウテツカン） 張玉(207)の❶を見よ。

【張天雨】1404（チヤウテンウ） 元、張雨の一名。張雨(42)の❶を見よ。

【張天永】1405（チヤウテンエイ） 元、秦郵の人。字は長年。號は雪篷・溝亭。官は江浙行省都事。詩文に巧。著に雪篷行稿・溝亭集がある。

【張天英】1406（チヤウテンエイ） 元、永嘉の人。字は羲上、又、楠渠。號は石渠居士。官は國子助教。詩・古樂府に巧。著に石渠居士集がある。

【張天綱】1407（チヤウテンカウ） 金、益津の人。字は正卿。官は御史中丞・權參知政事。哀宗に從つて、蔡に遷る。〔金史、一百十九〕。

【張天師】1408（チヤウテンシ） ❶後漢の張道陵の後裔の張宗演。元の順帝の至元中、輔漢天師に封ぜられ、明の洪武の初、其の後裔張正常を改封して正一嗣教護國闡祖通誠崇道宏德大眞人とす。清、之に因り、民國に至つて廢止さる。❷戲曲の名。辰鉤月(**10**−**38682**・・48)を見よ。

【張天錫】1409（チヤウテンセキ） ❶十六國、前涼の人。駿の少子。字は純嘏。小名は獨活。玄靚を弑して自立す。在位十二年。苻堅に降り、復、晉に來歸す。官は桓玄の時、護羌校尉涼州刺史。〔晉書、八十六〕。❷金、河中の人。字は君用。號は錦溪老人。官は機察。楷書は柳誠懸の法を得、草書は晉宋を師とし、亦、大字を善くす。著に草書韻會がある。〔書史會要〕。

【張天柱】1410（チヤウテンチユウ） 清、秀水の人。字は孟高。號は擊菴。康熙中、南京に寄寓す。著に進善集がある。〔四庫提要、一百二十五〕。

【張天復】1411（チヤウテンフク） 明、浙江山陰の人。號は内山。嘉靖の進士。官は雲南按察司副使。著に皇輿攷がある。〔皇明詞林人物攷、十〕。

【張天祿】1412（チヤウテンロク） 清、楡林の人。明の總兵。順治中、迎へ降り、漢軍正黃旗に隸す。金聲、徽州に據るや、聲を生擒し、黃道周、徽州を攻めるや、復、之を擒す。江南提督に擢んでられ、福建江南陝西諸省に轉戰す。官は本旗都統。〔清史稿、二百五十四〕・〔清史列傳、七十八〕。

【張登鈞】1413（チヤウトウキン） 清、河南新安の人。字は權與。號は種梅居士。嘗て朱熹の社倉の法に倣つて善會を立て、里人之に賴る。著に就景亭・梅磵・寒香等の集がある。〔國朝耆獻類徵、三百八十六〕。

【張騰蛟】1414（チヤウトウカウ） 清、寧化の人。字は孟詞。乾隆の進士。嘗て山海精良の一書を撰し、未だ成らずして卒す。〔國朝耆獻類徵、四百四十〕・〔國朝詩人徵略初編、五十二〕。

【張同敞】1415（チヤウドウシヤウ） 明の人。居正の曾孫。字は別山。桂王の時、兵部侍郎となる。清兵に桂林に殺さる。〔明史、二百十三〕・〔萬斯同明史、三百七十二〕・〔明史稿、一百九十七〕・〔小腆紀年、十六〕。

【張特立】1416（チヤウトクリツ） 金、東明の人。字は文擧。泰和の進士。官は正大の時、監察御史。金の亡後、田里に優游し、門弟子と講學す。程氏易に精し。元の世祖、中庸先生の號を賜ふ。著に易集說・歷年繫事記がある。〔金史、一百二十八〕・〔元史、一百九十九〕・〔宋元學案、十六〕。

【張德琪】1417（チヤウトクキ） 元、燕の人。字は廷玉。草書及び畫に巧。〔書史會要〕。

【張德輝】1418（チヤウトクキ） ❶元、交城の人。字は耀卿。官は至元中、參議中書省事。博學、經濟の才あり。後、元裕・李治と龍山に游ぶ。時人、龍山の三老と號す。〔元史、一百六十三〕。❷明、慈谿の人。字は秋蟾(秋蟬)。號は雲巢老人。善く龍を畫く。〔明畫錄、五〕。

【張德純】1419（チヤウトクジユン） 清、長洲の人。字は能一。號は松南。康熙の進士。常山縣の長官となる。著に孔門易緖がある。〔國朝耆獻類徵、二百二十五〕。

【張德勝】1420（チヤウトクシヨウ） 明、合肥の人。字は仁輔。諡は忠毅。陳友諒と戰つて、陣歿す。封は蔡國公。〔明史、一百三十三〕。

【張德地】1421（チヤウトクチ） 清、漢軍鑲藍旗人。康熙中、四川巡撫となり、張獻忠の亂後、民少く地荒れたるを恢復す。彭時亨、廣元を攻めるや、德地、之を禦ぎて敗走し、改職せられて卒す。〔清史稿、二百六十二〕。

【張德容】1422（チヤウトクヨウ） 清、衢州の人。字は少微。號は松坪。岳州府の長官となる。書室を二銘草堂といふ。著に金石聚がある。

【張篤行】1423（チヤウトクカウ） 清の人。號は四藝山人。世宗の朝の內侍。人物畫に巧。〔清畫家詩史、甲、上〕。

【張篤慶】1424（チヤウトクケイ） 清、淄川の人。字は歷友。崑崙山に隱居す。書室を崑崙山房といふ。著に八代詩選・班范肪截・五代史肪截・崑崙山房集がある。〔國朝先正事略、三十七〕。

【張敦頤】1425（チヤウトンイ） 宋、婺源の人。字は養正。紹興の進士。南劍教授より舒衡二州の長官を歷任して致仕す。著に柳集音辯・六朝事迹編類がある。〔宋史翼、二十一〕・〔四庫提要、七十〕。

【張敦義】1426（チヤウトンギ） 宋、建寧の人。字は行可。紹興の進士。官は豐陵尉。後、衡州司理。〔尚友錄、八〕。

【張敦仁】1427（チヤウトンジン） 清、陽城の人。字は古餘。乾隆の進士。官は雲南鹽驛道。書室を省訓堂・與古樓といふ。著に開方補記・撫本禮記鄭注考異がある。〔清史稿、四百八十四〕・〔清史列傳、六十九〕・〔續碑傳集、四十〕・〔國朝漢學師承記、一〕。

【張敦禮】1428（チヤウトンレイ） 宋、汴の人。光宗の諱を避け訓禮と改名。英宗の女、祁國長公主を娶る。官は徽宗の時、寧遠軍節度使。〔宋史、四百六十四〕・〔宋史新編、一百八十三〕。

【張納陛】1429（チヤウナフヘイ） 明、宜興の人。字は以登（似登）。號は文石。萬曆の進士。官は禮部主事。畫に巧。著に易學飲河がある。〔明史、二百三十一〕・〔萬斯同明史、三百三十八〕・〔明史稿、二百十六〕。

【張南軒】1430（チヤウナンケン） 宋の人。張栻(434)を見よ。

【張南史】1431（チヤウナンシ） 唐、幽州の人。字は季直。弈を好む。後、節を折つて讀書し、遂に詩境に入る。亂を避けて揚州に居り、再び召されたが赴かず。〔全唐詩、十二〕。

【張南皮】1432（チヤウナンピ） 清、張之洞(1102)をいふ。

【張能鱗】1433（チヤウノウリン） 清、宛平の人。字は玉甲、又、西山。順治の進士。官は川南副使。著に儒家理要がある。〔清史列傳、六十六〕・〔國朝耆獻類徵、二百六〕・〔清儒學案小識、十〕。

【張佩綸】1434（チヤウハイリン） 清、豐潤の人。字は幼樵。號は簣山。同治の進士。官は光緒中、侍講學士・左副都御史。福建の軍務を辦じた時、佛人が馬江を攻めたが、佩綸、和議に心を許し、備を怠つたため、軍艦砲臺及び船廠を破摧され、遁走す。後、釋され、四品京卿となる。〔清史稿、四百五十〕・〔碑傳集補、五〕。

【張買奴】1435（チヤウバイド） 北齊、平原の人。經義に通じ、門徒千餘人。官は太學博士・國子助教。〔北齊書、四十四〕・〔北史、八十二〕。

【張方平】1436（チヤウハウヘイ） 宋、南京の人。字は安道。號は樂全居士。諡は文定。進士。官は神宗の時、參知政事・陳州の長官。慷慨氣節あり、王安石に屈せず。著に樂全集がある。〔宋史、三百十八〕・〔宋史新編、一百二〕・〔東都事略、七十四〕・〔三朝名臣言行錄、三〕・〔宋元學案、三〕・〔琅琊代醉編、十六〕。

【張邦奇】1437（チヤウハウキ） 明、鄞の人。字は常甫。號は甬川、又、兀涯。諡は文定。弘治の進士。官は南京吏部尚書。兵部に改められ、機務に參與す。程

朱派の學者。著に學庸傳・五經說・兀涯西漢書議がある。〔明史、二百二〕・〔萬斯同明史、二百八十七〕・〔明史稿、二百六十四〕・〔明人小傳、二〕・〔明詩綜、二十八〕・〔明儒學案、五十二〕。

【張邦昌】1438（チヤウハウシヤウ）　宋、東光の人。字は子能。進士。官は少宰。靖康の初、金人汴京を陷れ、二帝を執へて北去するや、邦昌、金の冊を受けて楚帝と爲るも、諸臣附かず。孟太后に迫つて政を聽く。內庭に僭居すること四十餘日、後、東京に詣り、康王の卽位を請ひ、同安郡王に封ぜらる。李綱の彈劾によつて潭州に徙居し、死を賜はる。〔宋史、四百七十五〕・〔金史、七十七〕・〔宋史新編、一百八十八〕・〔東都事略、一百二十二〕・〔南宋書、十二〕。

【張邦翼】1439（チヤウハウヨク）　明、蘄州の人。字は君弼。萬曆の進士。官は廣東提學副使・江西布政使。崇禎中、家居し、張獻忠が蘄を陷れるや害せらる。著に嶺南文獻がある。〔勝朝殉節諸臣錄、八〕。

【張芳湄】1440（チヤウハウビ）　淸の人。皓の子。字は象賢。號は葭士・篔谷。康熙の拔貢。官は戶部主事。後、刑部郞中。著に篔谷詩選がある。

【張彭祖】1441（チヤウハウソ）　晉、吳郡の人。官は龍驤將軍。書家。隸書を善くす。〔書斷〕。

【張寶華】1442（チヤウハウクワ）　淸、江蘇華亭の人。康熙の擧人。歸德に流寓す。畫に巧。〔續碑傳集、六十三〕。

【張白澤】1443（チヤウハクタク）　後魏の人。袞の孫。諡は簡。太和の初、文明太后が懷州の叛民を盡く誅せんとしたので之を諫止す。官は殿中尙書。〔魏書、二十四〕。

【張伯威】1444（チヤウハクヰ）　宋、大安軍人。孝子。官は神泉尉。〔宋史、四百五十六〕・〔宋史新編、一百七十六〕。

【張伯行】1445（チヤウハクカウ）　淸、儀封の人。字は孝先。號は敬菴。諡は淸恪。康熙の進士。內閣中書より、福建巡撫に遷り、禮部尙書に至る。歷官二十年、淸廉剛直を以て稱せらる。其の學、程朱を以て主となし、從學者數千人。太子太保を追贈さる。書室を正誼堂といふ。編輯の書に、道學源流・道統錄・伊洛淵源錄・小學衍義・小學集解・養正類編・訓蒙詩選・續近思錄・廣近思錄・家規類編・閨中寶鑑・濂洛關閩集解(後四書)があり、自著に困學錄・續錄・正誼堂文集がある。〔國朝先正事略、十〕・〔碑傳集、十七・七十六〕。

【張伯儀】1446（チヤウハクギ）　唐、魏州の人。孝光弼の軍に隸し、浙賊袁晁を平定す。官は江陵節度使。〔唐書、一百三十六〕。

【張伯玉】1447（チヤウハクギヨク）　宋、建安の人。字は公達。進士。范仲淹に賢良方正直言極諫科に擧げらる。官は嘉祐中、御史。後、太平知府。詩に巧。飮酒を善くし、時人、張百杯といひ、又、張百篇といふ。著に蓬萊集がある。〔宋人軼事彙編、九百六十六〕。

【張伯鯨】1448（チヤウハクゲイ）　明、江都の人。字は繩海。萬曆の進士。官は崇禎中、兵部左侍郞。揚州の戰に、城破れ、自ら經死す。〔明史、二百六十七〕・〔明史稿、二百五十一〕・〔小腆紀年、四〕。

【張伯淳】1449（チヤウハクジユン）　元、崇德の人。字は師道。號は養蒙。官は翰林直學士。著に養蒙集がある。〔元史、一百七十八〕。

【張伯端】1450（チヤウハクタン）　宋、天台の人。熙寧中、蜀に遊び、劉海蟾に遇ひ、金液還丹火候の祕訣を授けられ、乃ち名を用成と改む。字は平叔。號は紫陽。治平中、扶風の馬處厚を河東に訪ひ、著はす所の悟眞編を處厚に授け、此の書を流布せば會意するところ有りといふ。元豐の初、趺坐して化す。年九十九。〔四庫提要、一百四十六〕。

【張伯龍】1451（チヤウハクリヨウ）　淸、永安の人。字は慈長。畫に巧。

【張伯麟】1452（チヤウハクリン）　宋、當塗の人。字は慶符。紹興の初、明經を以て太學に入る。秦檜の和議を主とするを毀り、吉陽軍に流されたが、檜死して釋しかへさる。〔尙友錄、八〕。

【張伯苓】1453（チヤウハクレイ）　民國、河南省天津縣の人。名は壽春。初、北洋水師學堂を卒業、海軍に勤務したが幾何もなくして辭し、富豪王桂昌及び嚴修の子弟教育に當り、王及び嚴等の後援にて、直隸高等學堂を開設、遂にそれを南開大學に迄發展せしめた。其の閒我が國及び歐米各國を歷遊し、教育制度及び教育學を研究す。當代中國有數の教育家である。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【張發奎】1454（チヤウハツケイ）　民國、廣東省始興縣の人。字は向華。武昌軍官學校卒業後、李濟深の麾下に入り、北伐軍に投じてより武漢派の重鎭となり、廣東の實權を握るに至つたが、共產黨と結托し廣東を攪亂したといふ理由により、討伐令を發せられた。北伐完了後第四師長となつたが、蔣と反目し反蔣運動に奔走した。其の後國民黨中央監察委員・蘇浙邊區主任等に擧げられた。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【張拔都】1455（チヤウバツト）　元、昌平の人。戰功あり、太祖、名を拔都と賜はる。後、漢都虎に代り、眞定を守る。〔元史、一百五十一〕。

【張萬和】1456（チヤウバンクワ）　唐、諸暨の人。經學に通ず。孝子。〔唐書、一百九十五〕。

【張萬公】1457（チヤウバンコウ）　金、東阿の人。字は良輔。諡は文貞。正隆の進士。官は平章政事。封は壽國公。輔政八年、廉讓の士を多く薦引す。〔金史、九十五〕。

【張萬進】1458（チヤウバンシン）　❶五代、梁の雲州の人。劉守光の裨將。守光の子を弑し、晉に歸し、末帝の時、再び梁に降る。官は兗州節度使。貞明中、謀叛し、族誅さる。〔舊五代史、十三〕❷五代、晉の突厥南鄙の人。少くして無賴。騎射に巧。初、後唐に仕ふ。官は晉の時、新義軍節度使。〔舊五代史、八十八〕。

【張萬選】1459（チヤウバンセン）　淸、濟南の人。字は擧之。官は太平府推官。著に太平三書がある。〔四庫提要、七十六〕。

【張萬迪】1460（チヤウバンテキ）　五代、晉の人。初、唐に仕ふ。官は晉の登州刺史。揚光遠の謀叛に加はり、誅せらる。〔五代史、三十三〕。

【張萬福】1461（チヤウバンフク）　唐、元城の人。騎射に巧で軍功あり。直諫の士。官は工部尙書。〔唐書、一百七十〕・〔舊唐書、二百五十二〕。

【張賁孫】1462（チヤウヒソン）　張賁(626)の❷を見よ。

【張美和】1463（チヤウビワ）　明、淸江の人。名は九韶。字は美和、字を以て行はる。詞賦に巧。官は翰林院編修。著に元史節要・理學類編・羣書拾唾がある。〔明史、一百三十七〕・〔萬斯同明史、一百七十八〕・〔明史稿、一百二十五〕・〔國朝獻徵錄、二十一〕。

【張必剛】1464（チヤウヒツガウ）　淸、潛山の人。字は健夫。乾隆の進士。官は澄邁縣の長官。著に三禮會通・濬元書がある。〔四庫提要、二十五〕。

【張百熙】1465（チヤウヒヤクキ）　淸、長沙の人。字は治秋(野秋)。諡は文達。同治の進士。官は郵傳部尙書。淸末、科擧を廢し、學校を興したのは、百熙、管學大臣となりて大いに提倡した結果による。書室を退思軒といふ。〔淸史稿、四百四十九〕・〔淸史列傳、六十二〕。

【張孚敬】1466（チヤウフケイ）　張璁(512)を見よ。

【張符驤】1467（チヤウフジヤウ）　淸、泰州の人。字は良御。康熙の進士。官は庶吉士。著に依歸草がある。〔碑傳集補、八〕。

【張普惠】1468（チヤウフケイ）　後魏、九門の人。字は洪賑。諡は宣恭。三禮・春秋百家の說に精し。官は豫州刺史。〔魏書、七十八〕・〔北史、四十六〕。

【張敷華】1469（チヤウフクワ）　明、安福の人。字は公實。諡は簡肅。天順の進士。林瀚・林俊・章懋と共に、南部四君子と稱せらる。官は正德中、左都御史。〔明史、一百八十六〕・〔萬斯同明史、二百四十〕・〔明史稿、一百七十〕・〔國朝獻徵錄、五十四〕。

【張風子】1470（チヤウフウシ）　淸、張道渥(1329)をいふ。

【張復亨】1471（チヤウフクカウ）　元、烏程の人。字は剛父(剛甫)。趙孟頫・牟應龍・蕭中子・陳無逸・陳仲信・姚式・錢選等と詩を以て名あり、吳興の八俊と稱せらる。官は泰州同知。〔元史、一百九十七〕。

【張福僖】1472（チヤウフクキ）　淸、烏程の人。字は南坪。諸生。算學を研究し、汽船の理に通ず。同治の初、洪楊の軍、湖州を攻めるや、母が城中に圍まれたので、城に入らんとして捕へられ遂に城下に烙死す。著に彗星考略がある。〔淸史稿、五百十二〕。

【張文蔚】1473（チヤウブンヰ）　五代、梁の河閒の人。字は右華。唐の中書侍郞・同中書門下平章事。梁初に相となる。〔宋史、二百五十五〕。

【張文嘉】1474（チヤウブンカ）　淸、錢塘の人。字は仲嘉。著に白鹿彙編・齊家寶要等がある。〔國朝耆獻類徵、

四百四十七〕・〔清儒學案小識、十三〕。

【張文介】1475（チヤウブンカイ）明、龍游の人。字は惟守。號は少谷。詩に巧。盛明十二家の一。〔明詩綜、五十〕。

【張文衡】1476（チヤウブンカウ）清、赤城の人。字は聚垣。先世、指揮を以て開平衞に隸す。天官輿圖風角の學に通じ、尤も易に詳し。順治中、僉都御史に累官し、甘肅に巡撫す。總督孟喬芳、回兵を調して四川を征するや、其の酋、米喇印・丁國棟、生光に連結し、閒に乘じて蘭州に至つて亂を爲し、總兵劉良臣を執ふ。文衡、巷戰し、十餘人と倶に屈せずして死す。〔清史稿、二百四十三〕・〔國朝耆獻類徵、三百三十四〕。

【張文洽】1477（チヤウブンカフ）清、烏程の人。字は海門。號は小海。諸生。著に十三經釋正・經文篆正・說文集證・古文纂がある。

【張文貴】1478（チヤウブンキ）元、宣城の人。官は百戶。明兵が寧國路を降すや、文貴執へられ、屈せずして死す。〔明史、一百二十四〕。

【張文恭】1479（チヤウブンキヨウ）唐の人。貞觀中、房玄齡等と晉書を修む。〔唐詩紀事、三〕。

【張文錦】1480（チヤウブンキン）明、安丘の人。字は闇夫。諡は史愍。弘治の進士。宸濠を拒ぐ。官は右副都御史、大同に巡撫す。亂卒に殺さる。〔明史、二百〕・〔萬斯同明史、二百九十〕・〔明史稿、一百八十六〕。

【張文詡】1481（チヤウブンク）隋、河東の人。三禮・易・書・詩・春秋三傳に通ず。家貧にして園に灌いで業とし、仁壽中、辟擧されたが應ぜず、其の母に事へて孝を以て聞ゆ。時人、之を閔子騫・原憲に比す。〔隋書、七十七〕。

【張文瓘】1482（チヤウブンクワン）唐の人。文琮の弟。字は稚圭。諡は懿。子四人皆三品の位に至り、萬石の張家と稱せらる。官は黃門侍郎・大理卿。〔唐書、一百十三〕・〔舊唐書、八十五〕。

【張文謙】1483（チヤウブンケン）元、沙河の人。字は仲謙。諡は忠宣。官は樞密副使。封は魏國公。劉秉忠に從つて術數を研究し、晚年、許衡と交り、尤も義理の學を修む。〔元史、一百五十七〕・〔宋元學案、九十〕。

【張文虎】1484（チヤウブンコ）清、南匯の人。字は孟彪、又、嘯山。號は天目山樵。諸生。羣籍を博覽し、經學・小學・曆算・樂律に至るまで皆精研深造し、尤も校勘に長ず。同治中、曾國藩の軍營に從ふ。書室を舒藝室といふ。校する所の書は、守山閣叢書・小萬卷叢書等數百種。著に、古今樂律考・周初歲朔考・校刊史記札記・舒藝室隨筆・詩文賸稿がある。〔清史稿、四百八十八〕・〔清史列傳、七十三〕・〔續碑傳集、七十五〕。

【張文之】1485（チヤウブンシ）宋、樂平の人。字は子經。官は亳州通判。金兵至り、力竭きて執へられたが屈せず、土窟に幽囚さる。〔尙友錄、八〕。

【張文瑞】1486（チヤウブンズイ）清、蕭山の人。字は雲表。號は六湖。官は靑州府同知。著に六湖遺集がある。〔四庫提要、七十五〕。

【張文樞】1487（チヤウブンスウ）元、德清の人。字は石隱。幼時、嘗て僧となる。書畫に巧。〔圖繪寶鑑〕・〔江月松風集〕。

【張文成】1488（チヤウブンセイ）張鷟(328)を見よ。

【張文琮】1489（チヤウブンソウ）唐、武城の人。書寫を好む。官は建州刺史。〔唐書、一百十三〕・〔舊唐書、八十五〕。

【張文仲】1490（チヤウブンチユウ）唐、洛陽の人。醫家。官は武后の時、尙藥奉御特進。〔唐書、二百四〕・〔舊唐書、一百九十一〕。

【張文柱】1491（チヤウブンチユウ）明、崑山の人。字は仲立。萬曆の擧人。官は臨淸縣の長官。書室を絲涎館といふ。著に溟池集がある。〔萬斯同明史、二百三十七〕・〔明詩綜、五十五〕。

【張文貞】1492（チヤウブンテイ）張玉書(932)を見よ。

〖張文貞集〗1493（チヤウブンテイシフ）書名。十二卷。淸、張玉書撰。其の記述は掌故の資料となる。〔四庫提要、集、別集類〕。

【張文德】1494（チヤウブントク）淸、湖南鳳凰廳の人。咸豐中、洪楊軍の討伐に從ひ、江南・福建・浙江各省に轉戰して功あり。同治中、江南既に定まるや、師を率ゐて貴州に入り、古州諸苗を勦滅す。官は貴州提督。〔淸史稿、四百三十五〕。

【張文寶】1495（チヤウブンパウ）五代、唐の人。初、朱友謙に依る。官は莊宗の時、吏部侍郎。長興の初、浙中に使す。〔舊五代史、六十八〕。

【張文葳】1496（チヤウブンフウ）淸、蕭山の人。字は風林、又、樹聲。康熙の擧人。官は成都縣の長官。著に大學偶言・螺江日記がある。〔四庫提要、三十七〕。

【張文炳】1497（チヤウブンヘイ）淸、絳州の人。字は明德。號は闇如・虎別。官は康熙中、泗州知州。著に易象數鉤深圖・公餘筆記がある。〔國朝耆獻類徵、二百二十三〕。

【張文明】1498（チヤウブンメイ）明、陽曲の人。字は應奎。正德の進士。官は御史。張忠のために讒言されて左遷されたが、世宗の立つに及び、故官に復す。〔明史、一百八十八〕・〔萬斯同明史、二百五十九〕・〔明史稿、一百七十三〕。

【張文禮】1499（チヤウブンレイ）五代、唐の人。劉仁恭の裨將。性、兇險。姦謀の士。〔舊五代史、六十二〕。

【張平高】1500（チヤウヘイカウ）唐、綏州の人。官は隋の鷹揚府校尉。唐の丹州の刺史。封は蕭國公。高祖に從つて京城を平定す。〔唐書、八十九〕・〔舊唐書、六十八〕。

【張平山】1501（チヤウヘイザン）張路(750)を見よ。「よ。

【張平子】1502（チヤウヘイシ）後漢の人。張衡(120)の❶を見

【張秉曜】1503（チヤウヘイエウ）淸の人。羅俊の從孫。號は老園。祖父が流寇に殺されたのを痛み、自ら耕し、書を著はして其の身を終る。王餘佑・李塨皆之を稱す。著に老園詩草がある。〔大淸畿輔先哲傳、十七〕・〔顏李師承記、七〕。

【張秉文】1504（チヤウヘイブン）明、桐城の人。字は含之。萬曆の進士。官は崇禎の時、山東左布政。淸軍、濟南を破るや、水に投じて死す。〔明史、二百九十一〕・〔萬斯同明史、三百七十八〕・〔明史稿、二百七十三〕。

〖張秉文妻〗1505（チヤウヘイブンノツマ）明の人。方孟式(**5**－13**620**··618)を見よ。

【張炳垣】1506（チヤウヘイエン）淸、江寧の人。名は繼庚。廩生。咸豐中、洪楊軍、江寧に逼るや、力戰するも城陷り、姓名を葉知發と變じ、向榮の軍至るや、洪楊の黨を紿いて內應を爲す。國子監典籍の銜を贈らる。

【張表臣】1507（チヤウヘウシン）宋の人。字は正民。官は右承議郎・通判常州軍州事。紹興中、司農丞に終る。其の著、珊瑚鉤詩話は惠洪の冷齋夜話と伯仲の閒に在ると稱さる。〔四庫提要、一百九十五〕。

【張辟彊】1508（チヤウヘキキヤウ）漢の人。良の子。惠帝が崩じた時に、彊、年十五にして侍中となる。陳平に言ひて、呂台・呂產を拜して將となし、兵に將として南北軍に居らしめんと請ふ。呂氏の權これより起る。〔漢書、九十七上〕。

【張璧娘】1509（チヤウヘキヂヤウ）明、閩の良家の女。嫁して半歲にして夫を亡ふ。妖美絕倫なり。善く簫を吹く。林子眞の才を愛し、遂に與に通じ、常に潛かに子眞の烏石山房に詣り、梅花に倚りて簫を吹く。子眞、後に家を臨淸に移すや、璧娘戀慕して歿す。〔列朝詩集小傳、閏〕。

【張保皐】1510（チヤウホカウ）唐、新羅の人。初、徐州少將となり、後、歸つて其の王に謁し、淸海を鎭す。國亂れるや、兵を分つて反者を誅し、王を立てて相となる。〔唐書、二百二十〕。

【張保續】1511（チヤウホゾク）宋、萬年の人。字は嗣光。梁・唐・晉・漢・周に歷仕す。官は宋初、四方館客省閤門事。〔宋史、二百七十四〕・〔宋史新編、七十八〕。

【張保洛】1512（チヤウホラク）北齊、代の人。弓馬に巧。官は滄州刺史。封は㓨城郡王。聚斂を好み、ために官・爵を削らる。〔北史、五十三〕。

【張保和】1513（チヤウホワ）淸、師宗の人。咸同中、貴州の苗、及び雲南の回を平げて功あり。官は永州鎭總兵。〔淸史稿、四百六十二〕。

【張鳳翮】1514（チヤウホウカク）明、城固の人。字は健沖。天啓の進士。官は江西巡撫。流寇と戰つて敗死す。〔明史、二百九十四〕・〔明史稿、二百七十六〕。

【張鳳翔】1515（チヤウホウシヤウ）❶明、洵陽の人。字は光世。號は伎陵。生れて異稟あり、目、日中は近視なれども、暗處には反つて明かにして、燈月の下、猶ほ晝の如し。左手橫書し、興到れば筆飛び、瞬時にして紙に滿つ。弘治の進士。戶部に官す。卒年僅かに三十。著に張伎陵集がある。〔萬斯同明史、三百八十八〕・〔明詩綜、二十七下〕。❷淸、堂邑の人。字は蓬元。明、崇禎の進士。官は工部尙書・兵部侍郎。李自成、京師を陷れるや、拷掠を受く。尋いで、福建に至り、唐王の浙直總督となり、淸に入つて工部尙書となり、太子太

保を加へらる。著に禮經集注・樂經集注がある。〔清史列傳、七十六〕。

【張鳳孫】1516 チャウホウソン 清、江蘇華亭の人。字は少儀。雍正の副貢。乾隆中、鴻博に擧げられ、又、經學に薦めらる。官は刑部郎中。詩・騈文に巧。書室を柏香書屋といふ。著に寶田詩鈔がある。〔國朝耆獻類徵、一百四十四〕。

【張鳳奴】1517 チャウホウド 金の倡女。北兵に捕へられ、城下に至り、城中の兵を勵まして、濠に投じて死す。〔金史、列女傳〕天興元年、北兵攻㆑城、矢石之際、忽見㆔一女子呼㆓于城下㆒、曰、我倡女張鳳奴也、許州破、被㆑俘至㆑此、彼軍不㆑日去矣、諸君努力爲㆑國堅守、無㆑爲㆑所㆑欺也、言竟、投㆑濠而死、朝廷遣㆑使馳祭㆓于西門㆒。

【張鳳翼】1518 チャウホウヨク ❶明、長洲の人。字は伯起。嘉靖の擧人。弟、獻翼・燕翼と共に才名あり、時人、三張といふ。塡詞を好み、紅拂記・祝髮記・六竊符記・灌園記・扊扅記・虎符記の七種の戲曲を作る。書室を處實堂・陽春堂といふ。著に處實堂集・占夢類考・文選纂注・海内名家工畫能事等がある。〔明史、二百八十〕。❷明、代州の人。萬曆の進士。官は崇禎の時、兵部尙書。清兵を抗禦して敗退す。〔明史、二百五十七〕・〔萬斯同明史、三百六十三〕・〔明史稿、二百四十〕・〔明人小傳、三〕・〔明詩綜、四十五〕。

【張豐亨】1519 チャウホウカウ 清、烏程の人。字は慶來。號は歐亭。諸生。著に釣青集がある。

【張鵬翮】1520 チャウホウカク 清、麻城の人。遂寧に籍す。字は運青。諡は文端。康熙の進士。治河に長ず。官は雍正の初、武英殿大學士。著に忠武誌・敦行錄・信陽子卓錄がある。〔清史稿、二百八十五〕・〔清史列傳、十一〕・〔國朝耆獻類徵、十一〕・〔碑傳集、七十六〕・〔國朝先正事略、九〕。

【張鵬翀】1521 チャウホウチユウ 清、嘉定の人。字は天扉（天飛）。號は南華。時人、漆園散仙と呼ぶ。雍正の進士。官は乾隆の時、詹事。詩・畫に巧。書室を南華山房といひ、著に南華山房集がある。〔清史稿、五百九〕・〔清史列傳、七十一〕・〔國朝耆獻類徵、一百二十五〕・〔國朝先正事略、四十一〕。

【張鵬年】1522 チャウホウネン 清、錢塘の人。妻丁瑜と倶に畫に巧。〔碑傳集、七十六〕。

【張鵬翼】1523 チャウホウヨク ❶明、西充の人。貢生。官は衡陽知縣。張獻忠と戰ひ、屈せずして死す。〔明史、二百九十四〕・〔萬斯同明史、三百八十〕・〔明史稿、二百七十五〕・〔小腆紀年、二〕。❷清、連城の人。字は蜚子。號は謦菴。貢生。薛瑄の讀書錄を見、專ら持敬寡欲の功を用ひ、銳意學問し、四子五經を讀みて自ら心得を識し、說略と名づく。著に理學入門・後四書・相將諫二譜・史案・中華世統圖說がある。〔碑傳集、一百二十八〕・〔清史稿、四百八十六〕・〔清史列傳、六十六〕・〔國朝耆獻類徵、四百七〕・〔國朝先正事略、三十〕。❸清、寶山の人。字は培風。書畫に巧。〔墨香居畫識、八〕。

【張夢鯉】1524 チャウボウリ 明、萊陽の人。字は汝化。嘉靖の進士。官は兵部郎中・開封府長官・大理卿。張居正、政を秉るや、九卿多く絀けられたが、夢鯉獨り免れた。仕官二十年、家に贏資無し。〔萬斯同明史、三百十六〕・〔國朝獻徵錄、六十八〕。

【張懋建】1525 チャウボウケン 清、鎭海の人。字は介石。號は石癡。雍正の擧人。乾隆中、鴻博に擧げられたが遇せられず。長泰縣の長官となる。經史に通ず。著に易學・五經韻纂・讀書樂續・越書肯綮錄・學校祀典考・蛟川耆舊詩・庭學草・介石初集がある。〔鶴徵後錄、七〕。

【張孟兼】1526 チャウマウケン 明、浦江の人。名は丁。字を以て行はる。洪武の初、徵されて國子監學錄となり、元史の編修に預る。官は山東按察司副使。吳印に、誣られて棄市さる。書室を白石山房といひ、著に白石山房逸稿がある。〔明史、二百八十五〕・〔萬斯同明史、三百八十六〕・〔明史稿、二百六十六〕・〔明人小傳、二〕・〔明詩綜、六〕。

【張孟男】1527 チャウマウダン 明、中牟の人。字は元嗣。嘉靖の進士。官は戶部尙書。〔明史、二百二十一〕・〔萬斯同明史、三百三十一〕・〔明史稿、二百七〕。

【張孟談】1528 チャウマウダン 戰國、趙の人。史記は張孟同に作る。襄子の家臣。嘗て襄子に勸めて、居を晉陽に定む。知伯が晉陽を攻めること急なるに及び、使を韓魏に奉じ、共に知氏を滅して其の地を分たんことを約す。〔戰國、趙策〕・〔史記、一百七〕。

【張孟同】1529 チャウマウドウ 張孟談を見よ。

【張孟陽】1530 チャウマウヤウ 張載(320)の❶を見よ。

【張猛龍】1531 チャウマウリヨウ 後魏、南陽白水の人。軌の八世の孫。字は神囧。父の喪に哀毀禮に過ぐ。家貧にして、母に事へて孝。熙平中、魯郡の太守となる。時に朝野、佛老を崇ぶ。猛龍獨り克く祖父に從つて聖人の學を修め、禮教を興して民を化す。郡人、碑を立てて之を頌す。〔金石史〕・〔金石粹編〕。

【張猛龍碑】1532 チャウマウリヨウノヒ 北魏の碑。今、山東省曲阜の孔廟にある。猛龍は晉の平西公軌八世の孫で、史書に明文なく、此の碑が唯一の證據となる。〔金石文字記、魯郡太守張猛龍碑〕行書、正光三年正月、今在㆓曲阜縣孔子廟㆒、其陰書陽原縣義士州主簿王人生造、頌文多㆓剝缺㆒。

【張民表】1533 チャウミンペウ 明、中牟の人。字は林宗。又、法幢・塞菴。號は旃然漁隱、又、蕊淵道人。萬曆の擧人。藏書數萬卷、皆自ら點定す。著に原圃塞菴詩集がある。〔明史、二百九十三〕・〔萬斯同明史、三百七十九〕・〔明史稿、二百七十四〕・〔明人小傳、三〕・〔明詩綜、五十六〕・〔小腆紀年、一〕。

【張無故】1534 チャウムコ 漢、山陽の人。字は子儒。張山拊より尙書を受け、善く章句を修む。官は廣陵太傅。〔前漢書、八十八〕。

【張無擇】1535 チャウムタク 唐、句章の人。字は君選。性、篤孝。中散大夫となり、後、和州刺史に至る。〔尙友錄、八〕。

【張無夢】1536 チャウムボウ 宋の人。字は靈隱。號は鴻濛子。种放・劉海蟾と方外の交をなす。陳摶に事へて多く微旨を得。天台に遊び、赤城に登り、瓊臺觀に廬す。眞宗召對し、著作郎を授けたが受けず。著に瓊臺集がある。

【張名由】1537 チャウメイイウ 明、嘉定の人。初名は凡。字は公路。古今の學に通じ、奇計を好む。平居、好んで兵を談じ、毎に古戰場に遊ぶ。詩に巧。詩集がある。〔明詩綜、六十三〕。

【張名振】1538 チャウメイシン ❶唐の人。初、李懷光の都將。懷光の倨傲を諫めて誅せらる。〔唐書、一百九十三〕・〔舊唐書、一百八十七下〕。❷明、江寧の人。字は侯服。崇禎中、台州石浦遊擊を授けらる。南都破れるや、舟山の黃斌卿と與に閩浙の命を受く。錢塘の師破れ、魯王に扈從して閩に走る。封は定西伯。復、浙に還つて斌卿を討ち、魯王を迎へて舟山に居り、太師に進めらる。清軍至るや、阮駿を留めて橫水洋を守らしめ、弟、名揚と留守張肯堂とに城を守らしめ、自ら兵を率ゐ、王を奉じて吳淞を襲つて、之を牽制す。舟山陷るや、復、王に扈從して鷺門に駐屯し、後、屢〻軍を以て長江に入り金陵を窺ふも、事終に成らずして病歿す。〔小腆紀年、十三〕。

【張名揚】1539 チャウメイヤウ 明の人。名振の弟。官は魯王の時、左都督。清兵を防ぎ、戰死す。〔明史、二百七十六〕・〔明史稿、二百五十七〕。

【張明卿】1540 チャウメイケイ 元、天台の人。字は子晦。里中に教授し、其の學、朱子を以て宗とす。又、畫に巧。〔宋元學案、八十二〕。

【張明先】1541 チャウメイセン 清、安鄉の人。字は雪書。康熙の進士。官は中允。文詞に巧。書室を後樂堂といふ。著に後樂堂宧稿・洞庭文集がある。〔國朝耆獻類徵、一百二十一〕。

【張明道】1542 チャウメイダウ 明、羅田の人。字は希程。嘉靖の進士。官は江西按察副使。官に居りて清廉質素、一時有能吏の冠となる。著に綱目發明がある。〔本朝分省人物攷、七十八〕。

【張鳴珂】1543 チャウメイカ 清、嘉興の人。字は公束（公之束）。號は玉珊。晚に窳翁と號す。咸豐の拔貢。官は德興知縣。詞に巧。書室を寒松閣といふ。著に寒松閣集がある。〔國朝耆獻類徵、四百八〕。

【張鳴鳳】1544 チャウメイホウ ❶明、上海の人。弘治の進士。正德の初、八黨を彈劾し獄に下さる。官は湖廣副使。〔明史、一百八十八〕・〔萬斯同明史、二百五十八〕・〔明史稿、一百七十三〕・〔明人小傳、三〕・〔明詩綜、四十八〕。❷明の人。字は羽王。嘉靖の擧人。官は桂林府通判。著に西遷注・桂勝・漕書・羽王先生集略がある。〔四庫提要、六十四〕。

【張妙淨】1545 チャウメウジヤウ 明、錢塘の女子。字は惠連。詩章音律を善くす。春夢樓に居り、時に楊維禎と倡和す。〔列朝詩集小傳、甲前〕。

【張茂先】1546 チャウモセン 晉の人。張華(225)の❶を見よ。

【張茂則】1547チヤウモソク　宋、開封の人。字は平甫。性儉約質素。官は哲宗の初、寧國軍留後となる。〔宋史、四百六十七〕・〔宋史新編、一百八十四〕・〔元祐黨人傳、九〕。

【張茂直】1548チヤウモチヨク　宋、瑕丘の人。字は林宗。詩に巧。開寶の進士。官は眞宗の時、知制誥。後、祕書少監となり、出でて潁州の長官となる。〔宋史、二百九十六〕・〔宋史新編、八十三〕・〔宋人軼事彙編、九百六十七〕。

【張問之】1549チヤウモンシ　明、慶雲の人。嘉靖の進士。官は工部郎中。嘉靖中、殿宮を建造するや、往いて其の工事を監督し、甎を造ること五萬、三年有餘に至る。採鍊燒造の艱を以て、每年圖を繪いて貼說し、造甎圖說一書を作る。〔四庫提要、八十四〕。

【張問陶】1550チヤウモンタウ　清、遂寧の人。鵬翮の曾孫。字は仲治。號は船山。又、蜀山老猿・老船・船山・藥菴退守・豸冠仙史・寶蓮亭主・羣仙之不欲昇天者・樂祖。乾隆の進士。萊州府の長官となる。後、吳門に僑居し、居室に題して樂天天隨鄰屋といふ。清代蜀中詩人の冠。著に船山詩文集がある。〔清史稿、四百九十〕・〔清史列傳、七十二〕・〔國朝耆獻類徵、二百四十四〕・〔國朝先正事略、四十四〕。

【張問達】1551チヤウモンタツ　❶明、涇陽の人。字は德允。萬曆の進士。官は天啓の初、吏部尙書。內外の大計を掌り、悉く公論に協ふ。挺擊・紅丸・移宮の三大案を定む。太子太保を加へらる。〔明史、二百四十一〕・〔萬斯同明史、三百四十二〕・〔明史稿、二百二十六〕。❷清、江都の人。字は天民。陽明の良知の學を墨守す。著に易經辨疑がある。〔清史列傳、六十六〕・〔國朝耆獻類徵、四百二〕・〔清儒學案小識、末〕。

【張楊園】1552チヤウヤウエン　張履祥(1573)を見よ。

【張楊園先生全集】1553チヤウヤウエンセンセイゼンシフ　書名。清、張楊履祥撰。第一冊、經正錄一卷・願學記一卷・問目一卷。第二・三冊、備忘四卷・備忘錄遺一卷。第四・五冊、詩一卷・書四卷・初學備忘一卷・學規一卷・訓子語二卷。第六冊、答問一卷・門人所記一卷・言行見聞錄一卷。第七冊、近古錄四卷・近鑑一卷・喪祭雜說一卷。第八冊、農書二卷。〔清史稿、藝文志〕。

【張養浩】1554チヤウヤウカウ　元、濟南の人。字は希孟。號は齊東野人。諡は文忠。官は翰林直學士。禮部尙書。濱國公に追封さる。著に三事忠告・牧民忠告・歸田類稿がある。〔元史、一百七十五〕。

【張養蒙】1555チヤウヤウモウ　明、澤州の人。字は泰亨。諡は敏毅。萬曆の進士。官は戶部右侍郎。〔明史、二百三十五〕・〔萬斯同明史、三百三十五〕・〔明史稿、二百十一〕。

【張愉曾】1556チヤウユソウ　清、徽州の人。字は庭碩。著に十六國年表がある。〔四庫提要、六十六〕。

【張裕葉】1557チヤウユウエフ　清、桐城の人。字は侍喬。副貢生。官は乾隆中、滁州學正。經術に深く、旁ら天文算術に及ぶ。嘗て開方捷法を撰し、又、己の意を以て燥濕表をつくり、晴雨を預知す。學者、華嚴先生といふ。

【張裕釗】1558チヤウユウセウ　清、武昌の人。字は廉卿（濂卿）。道光の擧人。曾國藩の弟子。官は內閣中書。武昌の經心書院の主講となり、訓詁を研究し、專ら音義を主とす。書を善くし、古文に巧。著に左氏服賈注考證・今文尙書考證・濂亭文鈔がある。〔清史稿、四百九十一〕・〔碑傳集補、五十一〕。

【張雄飛】1559チヤウユウヒ　元、臨沂の人。字は鵬擧。官は參知政事。〔元史、一百六十三〕。

【張與材】1560チヤウヨザイ　元、貴溪の人。字は國梁。號は廣微子。世〻道教を掌る。時に鹽官・海鹽の兩州に潮害あり、與材、術を以て之を治め、潮患遂にやむ。草書に巧にして、能く龍を畫く。〔元史、二百二〕・〔新元史、二百四十三〕。

【張用成】1561チヤウヨウセイ　張伯端(1450)を見よ。

【張用直】1562チヤウヨウチヨク　金、臨潢の人。少くして學行を以て稱せられ、海陵、其の兄の充と、之に從學す。海陵卽位するに及び、簽書徽政院事となる。〔金史、一百五〕。

【張用天】1563チヤウヨウテン　清、婁の人。字は用六。號は誠菴・嬾眞。著に嬾眞初集詩選がある。〔四庫提要、一百八十五〕。

【張雍敬】1564チヤウヨウケイ　清、秀水の人。字は珩佩、又、簡菴。曆術に精し。後、梅文鼎と交友。著に定曆玉衡・宣城游學記がある。〔碑傳集、一百三十二〕・〔國朝書畫家筆錄、二〕。

【張榕端】1565チヤウヨウタン　清、磁州の人。字は子大。康熙の進士。編修を授けられ、江南に視學し、能文の士を拔擢す。官は內閣學士・禮部侍郎。書室を賀蘭山樵といふ。〔大清畿輔先哲傳、十九〕。

【張翼星】1566チヤウヨクセイ　清、直隸左衞の人。字は三明。明の崇禎の擧人。理學・易學に精し。卜を業として仕へず。〔國朝先正事略、四十八〕・〔大清畿輔先哲傳、十〕。

【張羅俊】1567チヤウラシユン　明、清苑の人。字は元美。瞽女を娶り、終身妾を置かず。崇禎の進士。鄉郡の兵難に殉死す。〔明史、二百九十五〕・〔萬斯同明史、三百八十二〕・〔明史稿、二百七十六〕・〔小腆紀年、四〕。

【張來儀】1568チヤウライギ　明の張羽をいふ。來儀は字。張羽(41)の❶を見よ。

【張洛行】1569チヤウラクカウ　張洛型を見よ。

【張洛刑】1570チヤウラクケイ　張洛型を見よ。

【張洛型】1571チヤウラクケイ　清、安徽の人。又、洛刑・洛行に作る。咸豐中、雉河集に據り、捻黨の巨魁となり、太平の封號を受け、楚豫江皖の間に跳梁すること十年。僧格林沁に破られ、遁れて宿州に至り、英翰に擒へられて誅に伏す。

【張蘭皋】1572チヤウランカウ　清、武進の人。原名は一是。字は天隨。著に周易析義がある。〔四庫提要、十〕。

【張履祥】1573チヤウリシヤウ　清、桐鄉の人。字は考夫。邑の楊園村に居り、世人、楊園先生と稱す。明の諸生。劉宗周に從つて愼獨の學を聞き、晚に程朱を學ぶ。黃宗羲が蕺山を紹述し、天下を鼓動するや、此れ名士なり、純儒に非ずといふ。著に楊園全書がある。〔清史稿、四百八十六〕・〔清史列傳、六十六〕・〔國朝耆獻類徵、三百九十六〕・〔碑傳集、一百二十七〕・〔國朝先正事略、二十七〕・〔宋學淵源記、二〕・〔清儒學案小識、一〕。

【張柳朔】1574チヤウリウサク　春秋、晉の人。范吉射の臣、王生は張柳朔を惡んだが其の賢なるを知つて、之を范吉射に言つて柏人の宰となす。後、晉師、柏人を圍むや、范吉射、荀寅と齊に奔る。張柳朔、其の子にいひて、汝は主に從つて勉めよ、我は止りて死せん、王生、我に死地を與へりとて、遂に晉師を拒いで死す。〔左氏、哀、五〕。

【張留孫】1575チヤウリウソン　元、貴溪の人。字は師漢。少くして龍虎山に入つて道士となる。易者其の人相をみて、神仙宰相と爲るといふ。世祖の時、張宗演に從つて入朝し、立教宗師を授けられ、崇眞に居る。時に天下大いに定まり、民と休息す。留孫、因つて治道・清靜を貴ぶの旨を論ず。帝之に大宗師の號を加ふ。〔元史、二百二〕・〔新元史、二百四十三〕。

【張六郎】1576チヤウリクロウ　張介然(854)を見よ。

【張立道】1577チヤウリフダウ　元、大名の人。字は顯卿。世祖の北征に從ひ、未だ嘗て左右を去らず。昆明池を治めて、萬餘頃の地を得、皆良田となし、爨僰に蠶桑の法を教ふ。雲南これより富裕となる。官は雲南行省參政。著に效古集・平蜀總論・安南錄・雲南風土記・六詔通說がある。〔元史、一百六十七〕。

【張良裔】1578チヤウリヤウエイ　宋、寧化の人。字は景先。程氏の學を好む。官は武平丞。〔尙友錄、八〕。

【張良臣】1579チヤウリヤウシン　宋、襄邑の人。字は武子、又、漢卿。四明に家す。隆興の進士。學者、雪窗先生と稱す。詩に巧。著に雪窗集がある。〔宋元學案、二十五〕。

【張亮基】1580チヤウリヤウキ　清、銅山の人。字は石卿。道光の擧人。官は咸豐の初、巡撫湖南。洪楊の軍を防ぐ。後、雲南總督。〔清史稿、四百三十〕・〔清史列傳、四十九〕・〔續碑傳集、二十六〕。

【張亮則】1581チヤウリヤウソク　後漢、南鄭の人。字は元脩。牂牁の太守となり、威名、南土に著はれ、臥虎と號す。官は梁州刺史・魏郡太守。〔漢中士女志〕。

【張龍章】1582チヤウリヨウシヤウ　明、吳の人。字は伯雲。號は古塘（古堂）。畫に巧。

【張龍翼】1583チヤウリヨウヨク　明、松江の人。字は羽明。著に兵機類纂がある。〔四庫提要、一百〕。

【張綸英】1584チヤウリンエイ　清の人。琦の四女。字は婉紃。孫劼に嫁す。北朝の書法に巧。日本・朝鮮の使節、其の書を購ひて歸る。詩は魏晉を宗とす。一門の風雅、自ら師友を成し、弟妹、生む所の子

女、皆書を綸英に受け、各〻其の傳を得。〔清史稿、五百十三〕・〔清代閨閣詩人徵略、九〕。

【張令鐸】1585（チヤウレイタク） 宋、猒次の人。唐・晉・漢・周に歷仕す。性、仁恕。官は宋の鎭寧軍節度使。〔宋史、二百五十〕・〔宋史新編、六十五〕。

【張澧中】1586（チヤウレイチユウ） 清、潼關の人。嘉慶の進士。官は道光中、山東巡撫。捻幅各匪を擒捕すること七百餘人に至る。〔清史稿、三百八十七〕・〔國朝耆獻類徵、二百四〕。

【張麗華】1587（チヤウレイクワ） 陳の後主の妃。十歲にして、選ばれて宮に入る。性聰惠、後宮の人望を得。百司の奏事に、後主常に麗華を膝に抱いて共に決す。遂に寵を恃んで權を弄し、綱紀を紊亂す。隋軍が臺城を陷れた時、後主と倶に景陽井中に隱れたが、引出されて青溪中橋に斬らる。〔陳書、七〕。

【張聯奎】1588（チヤウレンケイ） 清、甘肅安化の人。乾隆の武進士。嘉慶中、川楚の教匪を討伐するに隨ふ。官は山東登州鎭總兵。〔國朝耆獻類徵、三百十六〕。

【張聯桂】1589（チヤウレンケイ） 清、江都の人。字は丹叔、又、弢叔。號は問心齋。官は咸豐中、太常博士。後、廣西巡撫。書室を延秋吟館といふ。〔續碑傳集、三十二〕。

【張鹿徵】1590（チヤウロクチヨウ） 張怡(7)を見よ。

【張旺舅】1591（チヤウワウキウ） 元、霍丘の人。孝子。〔元史、一百九十七〕。

【張橫渠】1592（チヤウワウキヨ） 張載(320)の❷を見よ。

【張殷六妻】1593（チヤウインリクノツマ） 清の人。曹鑑冰(**5－14297**··210)を見よ。

【張顥墮鵲】1594（チヤウカウダジヤク） 蒙求の標題。漢の張顥が梁の相となつた時、山鵲の如き鳥が多く集まり、市人が之を打ち落したところ一つの圓石となつたので、命じて之を槌で破らしめ、忠孝侯印といふ字のある金印を得た故事。〔蒙求、下、張顥墮鵲〕博物志、張顥爲㆓梁相㆒、新雨後、有㆑鳥如㆓山鵲㆒、飛翔近㆑地、市人擲㆑之墮㆑地、民爭取㆑之、卽爲㆓一圓石㆒、顥令㆓搥破㆑之、得㆓一金印㆒、文曰㆓忠孝侯印㆒、顥、字智伯、常山人、漢靈帝時爲㆓太尉㆒。

【張恰鐵路】1595（チヤウカフテツロ） 鐵道の名。張家口から蒙古の恰克圖に至る。

【張錦雲妻】1596（チヤウキンウンノツマ） 清の人。鮑詩(**12－46074**··35)を見よ。

【張冠李戴】1597（チヤウクワンリタイ） 張さんの帽子を李さんが冠る。名と實の相副はない喩。はきちがへる。〔留青日札〕俗諺云、帳公帽掇在㆓李公頭上㆒、有㆑人作㆑賦云、物各有㆑主、貌貴㆓相宜㆒、竊㆓張公之帽㆒也、假㆓李老㆒而戴㆑之。

【張庫鐵路】1598（チヤウコテツロ） 鐵道の名。張家口から庫倫に至る。三支線がある。❶歸綏から托克托に至る。❷張家口から熱河に至る。❸庫倫から恰克圖に至る。

【張三李四】1599（チヤウサンリシ） 張氏の三男と李氏の四男。平平凡凡のつまらぬ人の意。張と李は假設の氏で、中國に多い姓。邦語の權兵衞・太郞作の類。宋代の俗語。〔景德傳燈錄、十九、漳州保福超悟禪師〕異日上堂、大衆雲集、師曰、有㆑人從㆓佛殿後㆒過、見㆓是張三李四㆒。〔朱子語錄〕易惟說㆓這箇道理如㆑此、何曾有㆑甚㆓張三李四㆒。〔王安石、擬㆓寒山詩㆒詩〕張三袴口窄、李四帽簷長。〔恒言錄〕林酒仙詩、張三也識㆑我、李四也識㆑我、王介甫詩、張三袴口窄、李四帽簷長、莫㆑言張三惡、莫㆑愛李四好、朱子語類、有㆓張三㆒有㆓李四㆒、李四不㆑可㆑爲㆓張三㆒、張三不㆑可㆑爲㆓李四㆒、又云、張三有㆑錢不㆑會㆑使、李四會㆑使又無㆑錢、張三李四、猶㆑云㆓某甲某乙㆒也、蓋宋時俗語也。

【張三呂四】1600（チヤウサンロシ） 張三李四に同じ。〔何承裕、戲爲㆓擧子對句㆒詩〕曉來狗吠張三婦、日暮猨啼呂四妻。

【張山樵夫】1601（チヤウザンセウフ） 清、張慶燾(982)の號。

【張綏鐵路】1602（チヤウスイテツロ） 張家口から綏遠歸綏縣に至る鐵道の名。平綏鐵路の一部。

【張知縣菜】1603（チヤウチケンサイ） 野菜の名。大根の異名。宋の張詠が鄂州崇陽縣を治めたとき、農民の市に往いて野菜を買つたものを罰し、農民をして各各菜園を作らしめた故事に本づく。〔補筆談、官政〕忠定張尙書、曾令㆓鄂州崇陽縣㆒、云云、民有㆓入㆑市買㆑菜者㆒、公召諭㆑之曰、邑居之民、無㆓地種㆑植㆒、且有㆓他業㆒、買㆑菜可也、汝村民皆有㆓土田㆒、何不㆓自種㆒、而費㆑錢買㆑菜、笞而遣㆑之、自後人皆置㆑圃、至㆑今謂㆓蘆菔㆒爲㆓張知縣菜㆒。

【張文端公】1604（チヤウブンタンコウ） 張英(48)の❸を見よ。

【張萬家奴】1605（チヤウマンカド） 元の人。官は至元の閒、副都元帥。緬に出征して戰死す。〔元史、一百六十五〕。

【張邱建算經】1606（チヤウキウケンサンケイ） 書名。三卷。張邱建撰といふ。時代不明。問答體の敍法を用ひ、文詞も亦簡潔にして深奧である。〔四庫提要、子、天文算法類〕。

【張而不㆑弛文武不㆑能】1607（ハリテユルメザレバブンブモアタハズ） 弓の弦を張つてばかりゐて弛めなければ、其の弓勢が遂に絕えるやうに、民を勞せしめることが久しくて休息させぬ時は、民の困窮其の極に達して文武の如き聖王と雖も之を救ふことが出來ない。民を使役するに時あつて勞せしめ、時あつて休息させるべきをいふ。嚴格に過ぎれば何事も成らない喩。〔禮、雜記下〕張而不㆑弛、文武弗㆑能也、弛而不㆑張、文武弗㆑爲也、一張一弛、文武之道也。〔注〕張弛、以㆓弓弩㆒喩㆑人也、弓弩久張㆑之、則絕㆓其力㆒、久弛㆑之、則失㆓其體㆒。〔疏〕言、弓一時須㆑張、一時須㆑弛、喩㆓民一時須㆑勞、一時須㆑逸、勞逸相參若㆑調㆑之、以㆑道化㆑之、以㆑理張弛、以㆑時勞逸、以㆑意則㆓文武㆒、得㆓其中道㆒也、使㆑可㆓以治㆒、文武爲㆑政之道、治㆑民如㆑此、故云㆓文武之道㆒也。

【弶】9813

キヤウ ガウ 〔集韻〕其亮切 漾

❶**あみをはる。わなをかける。**〔集韻〕弶、字林、施㆓罟於道㆒。❷**弓で鳥獸を捕へる。**〔集韻〕弶、一曰、以㆑弓罥㆓鳥獸㆒。❸或は摾(**5－12653**)に作る。〔集韻〕弶、或作㆑摾。

【⿰弓屈】9814

キヨク ゴク 〔海篇〕渠玉切 沃

いさましいさま。〔海篇〕⿰弓屈、勇貌。

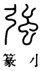
【強】9815

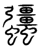
㈠キヤウ ガウ 〔集韻〕渠良切 ㄑㄧㄤˊ chʻiang^{2} 陽

㈡キヤウ ガウ 〔集韻〕巨兩切 ㄑㄧㄤˇ chʻiang^{3} 養

㈢キヤウ カウ 〔集韻〕擧兩切 ㄐㄧㄤˋ chiang^{4} 養

㈣キヤウ ガウ 〔字彙〕其亮切 漾


小篆


籀文

㈠❶**つよい。**彊(**4－9872**)に通ず。〔說文、強、段注〕段借爲㆓彊弱之彊㆒。〔禮、中庸〕子路問㆑強。〔注〕強、勇者所㆑好。❷**すこやか。**〔一切經音義、六〕強、健也。❸**さかん。**〔戰國、秦策〕兵革之強。〔注〕強、盛也。❹**おほきい。**〔戰國、齊策〕天下強國、無㆓過㆑齊者㆒。〔注〕強、大也。❺**あらい。**〔廣韻〕強、暴也。❻**力がある者。**勢のある者。〔莊子、山木〕從㆓其強梁㆒。〔釋文〕強梁、多力也。〔史記、田延年傳〕誅㆓鉏豪強㆒。❼**ます。**ふえる。〔小爾雅、廣詁〕強、益也。❽**あまる。**おほい。〔九章算術〕凡有㆓餘贏㆒命曰㆑強。〔古詩、木蘭詩〕賞賜百千強。〔蘇軾、山邨詩〕一年強半在㆓城中㆒。❾**四十歲。**〔禮、曲禮上〕四十曰㆑強。❿**強弓。**〔後漢書、第五倫傳〕引㆑強持㆑滿。⓫**歲の名。**強圉(46)の❶を見よ。⓬**こくざう。**米實を食ふ小さな黑い蟲。籀文は⿱彊䖵(**10－33944**)に作る。〔說文〕強、蚚也、从㆑虫弘聲、⿱彊䖵、籀文強、从㆑蚰从㆑彊。〔玉篇〕強、米中蠹小蟲。⓭羌(**9－28429**)に通ず。〔水經、河水注〕強水、卽羌水也。⓮**姓。**〔萬姓統譜〕強、商音、天水丹陽有㆓強氏㆒。㈡❶**つとめる。**或は彊(**4－9872**)に作る。〔爾雅、釋詁〕強、勤也。〔集韻〕強、勉也、或作㆑彊。〔禮、學記〕知㆑困然後能自強也。〔注〕強、

修レ業不レ倦也。〔淮南子、脩務訓〕是故田者不レ強。〔注〕強、力也。❷せまる。しひる。しひて。むりに。勥(2－2425)に通ず。〔說文通訓定聲〕強、叚借爲レ勥。〔周禮、考工記、梓人〕強飲強食。❹すすめる。〔周禮、地官、司諫〕正二其行一而強二之道藝一。〔注〕強、猶レ勸也。［三］小兒を負ふ衣。襁(10－34545)に同じ。〔集韻〕襁、說文、負レ兒衣、或省。［四］❶かたい。〔字彙〕強、木強不二柔和一也。〔禮、月令〕可三以美二土彊一。〔注〕強檗之地。〔疏〕強、是不レ柔。〔漢書、周昌傳贊〕周昌、木強人也。〔注〕師古曰、言下其強質如二木石一然上。❷もとる。かたくな。〔荀子、宥坐〕強足二以反レ是獨立一。〔注〕強、剛愎也。❸したがはない。やはらがない。〔素問、玉機眞藏論〕名曰二重強一。〔注〕強、謂三氣不二和順一。❹こはい。こはばる。〔書言故事、惡貌類〕殷仲堪自言、三日不レ讀二道德經一、便覺二舌本閒強一矣。

［名乘］コハ。スネ。

［參考］熟語は彊(4－9872)を併せ見よ。

【強惡】1ガウアク　きはめてわるいこと。猛惡。凶惡。

【強握】2キヤウアツ　強ひて引拔く。無理にぬきんでさせる。〔蘇洵、衡論下、養才文〕才不レ可二強握以進一也。

【強押】3キヤウアフ　作詩法の語。韻字の合はぬのをむりに合はすこと。鮑照の詩、離心壯爲レ劇、飛念如二懸旗一の如く、韻字にとらはれ、懸旄といふ慣用語をむりに變へて懸旗とするの類。

【強引】4キヤウイン　❶強く引く。〔論衡、效力〕力不レ任二強引一。❷ガウイン　はげしく頑張るさま。

【強淫】5ガウイン　強姦する。

【強飲】6キヤウイン　つとめて飲む。強ひて飲ませる。又、多量に飲酒する。〔周禮、考工記、梓人〕強飲強食、詒二女曾孫諸侯百福一。〔北史、鹿悆傳〕更レ卜後、圖爲設レ食、悆強飲多食、向二敵數人一。〔唐書、陽城傳〕強飲レ客、客辭、卽自引レ滿。

【強韻】7キヤウヰン　詩を作るにむづかしい韻。險韻。〔南史、王筠傳〕筠又能用二強韻一、每二公宴一幷作、辭必妍靡。〔皮日休、寒夜文宴聯句〕清言聞後醒、強韻壓來艱。〔蘇軾、詩〕贈レ我皆強韻、知三君得二異書一。

【強耘】8キヤウウン　つとめてくさぎる。除草に努力する。〔淮南子、人閒訓〕文侯曰、民春以力耕、暑以強耘、秋以收斂、冬閒無レ事、以伐レ林而積レ之。

【強要】9キヤウエウ　強ひてもとめる。むりじひ。〔新序、善謀下〕呂澤強要曰、爲レ我畫計。

【強援】10キヤウエン　強いたすけ。強力な援助。〔春秋、宣、十一〕納二公孫寧儀行父于陳一。〔杜注〕內結二強援於國一。

【強嫁】11キヤウカ　再嫁の意志がない寡婦に周圍の人々が強ひて再嫁させること。〔明律、戶律、婚姻〕其夫喪服滿願レ守レ志、非二女之祖父母父母一、而強嫁レ之者杖八十、期二親強嫁一者減二一等一、婦人不レ坐、追二歸前夫之家一、聽二從守一レ志、娶者亦不レ坐、追二還財禮一。

【強匃】12キヤウカイ　強ひて乞ひもとめる。勢を恃んで取る。匃は乞に同じ。〔左氏、昭、六〕不レ樵レ樹、不レ采レ蓺、不レ抽レ屋、不二強匃一。〔釋文〕匃、本或作レ丐、音蓋、乞也。〔會箋〕匃、乞也、不二就レ人強乞一也。

【強亢】13キヤウカウ　つよ過ぎること。自ら恃み過ぎること。〔易、萃、萃聚也、順以說、剛中而應、注〕但順而說、則邪佞之道也、剛而違二於中應一、則強亢之德也。

【強行】14キヤウカウ　おしきつて行ふ。勉強する。〔老子、三十三〕知レ足者富、強行者有レ志。

〖強行軍〗15キヤウカウグン　行軍の一種。行軍間の休日を廢し、或は休宿の時間を減少し、晝夜を通じてなす行軍。最も急速なる行軍。

【強梗】16キヤウカウ　彊梗(4－9872‥7)に同じ。❶柔順でない。片意地。❷てづよい。てごはい。つよくて屈しない。又、其の者。強硬。強鯁。〔韓愈、原道〕爲二之政一、以率二其怠勌一、爲二之刑一、以鋤二其強梗一。〔韓琦、論二西夏請レ和疏〕西戎強梗未レ衰。

【強硬】17キヤウカウ　強梗に同じ。

【強項】18キヤウカウ　うなじがつよく、たやすく頭を下げない。剛直の意に用ひる。〔後漢書、董宣傳〕帝令二小黃門持一レ之、使三宣叩頭謝二レ主、宣不レ從、強使レ頓レ之、宣兩手據レ地、終不レ肯レ俯、云云、因勅、強項令出。〔後漢書、楊震傳〕帝不レ悅曰、卿強項、眞楊震子孫。

〖強項令〗19キヤウカウレイ　「強項」を見よ。

【強鯁】20キヤウカウ　強梗の❷に同じ。鯁は魚骨、喉に通らない義から、梗と同じく用ひる。〔唐書、白居易傳論〕對二殿中一、居易論執強鯁。

【強剛】21キヤウガウ　強くて屈しないこと。手剛いこと。

【強學】22キヤウガク　❶學問につとめる。勉強する。彊學。〔禮、儒行〕儒有下席上之珍、以待レ聘、夙夜強學、以待レ問、懷二忠信一、以待レ擧、力行以待上レ取。〔荀子、性惡〕今人之性、固無二禮義一、故強學而求レ有レ之也。〔陳書、姚察傳〕前秘書丞北絳郡開國公姚察、強學待レ問、博極二羣典一。❷宋、謝子強(10－35827‥286)の字。

〖強學會〗23キヤウガククワイ　清の光緒年間に維新黨の首領康有爲の組織した會の名。後、張之洞を會長とし、分會を上海に設け、改めて強學書局とし、二十二年に改めて官書局といふ。

【強合】24キヤウガフ　暴力を以て婦人を姦淫すること。強姦。強合和成を見よ。

〖強合和成〗25キヤウガフワセイ　始め暴力を以て姦淫された婦人が後に許して和合すること。〔淸律、刑律、犯姦、注〕若二以レ強合、以レ和成一、猶非レ強也。〔福惠全書、刑名、姦情、鞫レ姦〕如但始而聞レ聲、鄰人方且竊聽、忽喧聲乍止、是始レ強而終以レ和成者也、迨二姦夫既出一、旋復追悔、或鄰已聞レ喧、未二便緘默一、又不レ得レ不下以二強姦之事一泣訴中本夫上、而本夫或未レ知二始強終和之情一、咬レ恨報レ仇、定求レ強論、在二問官一亦不レ能下以二爾時情狀一、細鞫中兩人上、在二聞者一亦不レ便下以二始喧忽息一、直白中公庭上、然則竟以レ強論可乎、按二律以レ強合以レ和成、猶非レ強之文一、則不レ得二以レ強坐一レ絞矣、或曰、強合和成、蓋謂二初次強合後皆和成一、非下指二此一次一而言上也。

【強姦】26ガウカン　暴力を用ひて婦人ををかす。手ごめにする。和姦(2－3490‥57)の對。強合和成(25)を見よ。〔漢書、王子侯表下〕永光二年、坐三強二姦人妻一、會レ赦免。〔唐律、雜律、姦徒一年半〕姦二佗人部曲妻・雜戶官戶婦女一者、杖一百、強者各加二一等一、折傷者各加二鬬折傷罪一等一。〔疏議〕官戶雜戶佗人部曲妻・官私奴婢、各從二本鬬罪上一加、與二強姦一爲二二罪一、從レ重而科。〔舊五代史、晉少帝紀四〕前商州刺史李俊、殺二部曲孫漢榮一、強二姦其妻一、準レ法棄市。〔福惠全書、刑名、姦情、總論〕于レ是有三目挑心與而共篤二鴛盟一、如レ此者謂二之和姦一、有二計賺昏勾而毀レ貞喪レ節、如レ此者謂二之刁姦一、有三挾レ刃排レ闥而強行二玷汚一、如レ此者謂二之強姦一。〔六部成語、刑部、強姦、注解〕女本不レ願而男以レ力制姦レ之也。

〖強姦罪〗27ガウカンザイ　暴行または脅迫を以て十三歲以上の婦女を姦淫し、又、人を心神喪失または抗拒不能におとし入れて姦淫することに依つて成立する罪。十三歲未滿の婦女に對する場合も之に準ぜられ、未遂も罰せられる。

【強看】28キヤウカン　しひて見る。〔司空圖、歌者詩〕桃李更開須二強看一、明年兼恐聽レ歌聾。

【強悍】29キヤウカン　つよくてあらあらしい。〔蘇洵、送二石昌言使レ北引〕乃爲二天子一出使二萬里之外、強悍不屈之虜庭一。

【強幹】30キヤウカン　❶木の幹を強くする。轉じて、物事の根本を強固にする。中央の權力を強くすること。〔漢書、地理志下〕蓋亦以強レ幹弱レ支、非二獨爲レ奉二山園一也。〔白虎通、誅伐〕尊レ君卑レ臣、強レ幹弱レ枝。❷根氣が強い。〔北齊書、唐邕傳〕唐邕強幹、一人當レ千。〔顏氏家訓、涉務〕強幹習レ事。

【強諫】31キヤウカン　逆らひいさめる。つよく忠告する。固諫。切諫。彊諫。〔左氏、莊、十九〕初鬻拳強二諫楚子一。〔左氏、僖、二〕宮之奇之爲レ人也、懦而不レ能二強諫一。〔戰國、趙策〕大后不レ肯、大臣強諫。〔韓非子、有度〕詐レ說逆レ法、倍レ主強諫、臣不レ謂レ忠。〔史記、殷紀〕比干曰、爲二人臣一者、不レ得レ不二以レ死爭一、迺強二諫紂一。〔漢書、韓延壽傳〕燕王爲二無道一、韓義出レ身強諫、爲二王所一レ殺。

【強壏】32キヤウカン　堅く大きい。〔玉篇〕壏、強壏、堅大。

【強顏】33キヤウガン　つらの皮が厚い。あつかましい。恥を知らぬ。厚顏。鐵面皮。彊顏。〔新序、雜事二〕

齊有二婦人一、極醜無雙、號曰二無鹽女一、云云自詣二宣王一、願二一見一、謂二謁者一曰、妾齊之不レ售女也、聞二君王聖德一、願備二後宮之掃除一、頓二首司馬門外一、唯王幸許レ之、謁者以聞、宣王方置二酒於漸臺一、左右聞レ之、莫レ不二揜レ口而大笑一、曰、此天下強顏女子也。〔蘇軾、乞二常州居住一表〕強顏忍レ恥。

【強氣】35 キヤウキ ❶氣が強い。〔孔子家語、好生〕君子而強氣、則不レ得二其死一。❷ツヨキ ㋑勢又は元氣などが盛なこと。剛氣。㋺相場が將來上騰すると豫想すること。また、それを豫想して買ひ出ること。

【強記】36 キヤウキ 物おぼえがよい。記憶力が強い。彊氣。〔大戴禮、保傅〕博聞而強記、接給而善對者、謂二之丞一。〔孔叢子、嘉言〕治聞強記。

【強起】37 キヤウキ しひてたつ。又、むりに起用する。強ひて官に就かせること。彊起。〔晉書、郭翻傳〕安西將軍庾翼、以二帝舅之重一、躬往造レ翻、欲三強二起之一、翻曰、人性各有レ所レ短、焉可二彊逼一。

〔強起班レ春〕38 キヤウキシテハルヲワカツ 後漢の崔篆が王莽の官となるを潔とせず、建新大尹となつて事を視ざること三年、其の老母兄弟あるがために、門下の諫を納れ、強ひてたつて春令を班布した故事。〔後漢書、崔駰傳〕後以レ篆爲二建新大尹一、篆不レ得レ已、乃歎曰、吾生二無妄之世一、値二澆羿之君一、上有二老母一、下有二兄弟一、安得三獨潔レ己而危二所生一哉、乃遂單車到レ官、稱レ疾不レ視レ事、三年不レ行レ縣、門下椽倪敞諫レ篆、乃強起班レ春。〔注〕班二布春令一。

【強鬼】39 キヤウキ つよい魔物。〔禮、郊特牲、鄉人禓、注〕禓、強鬼也、謂三時儺索二室敺一疫逐二強鬼一。

【強毅】40 キヤウキ つよいこと。彊毅。〔禮、儒行〕強毅以與レ人、博學以知レ服。〔周書、崔謙傳〕莅レ政強毅、百姓畏レ之。

【強仇】41 キヤウキウ つよいあだ。強い相手。強大な敵。〔戰國、燕策〕燕無レ故而得二十城一、燕亦德レ王、是棄二強仇一而立二厚交一也。

【強求】42 キヤウキウ chʻiang^{3} chʻiu^{2} 無理やりに要求する。彊求（**4－9872**‥23）に同じ。

【強急】43 キヤウキフ せつかち。性急。〔宋書、庾炳之傳〕弟炳之爲レ人、強急而不レ耐レ煩。

【強弓】44 キヤウキユウ ガウキユウ つよい弓。強力の弓。〔戰國、韓策〕地方千里、帶甲數十萬、天下之強弓勁弩、皆自レ韓出。

〔強弓易レ折〕45 キヤウキユウハヲレヤスシ 強い弓は折れ易い。頑強な者は破れ易い喩。

【強圉】46 キヤウギヨ ❶十干の丁の異名。丁の歲の異稱。史記曆書には彊梧に作る。〔爾雅、釋天〕太歲在レ丁曰二強圉一。〔注〕李巡曰、萬物皆剛盛未レ通、故曰二強圉一。〔淮南子、天文訓〕巳在レ丁曰二強圉一。❷多力。又、其の者。強禦。〔楚辭、離騷〕澆身被二服強圉一兮。〔注〕強圉、多力也。〔洪興祖補注〕詩曰、曾是彊禦、彊禦、彊梁也。〔漢書、王莽傳中〕不レ畏二強圉一。

【強禦】47 キヤウギヨ わるづよくて善をしりぞける。又、武勇すぐれるをいふ。又、其の者。彊禦。〔漢書、敍傳〕曾是強禦、掊克爲レ雄。〔後漢書、竇融傳〕夫負二虛交一而易二強禦一。〔孔子家語、弟子行〕不レ畏二強禦一、不レ侮二矜寡一。

【強瞿】48 キヤウク 百合の異名。〔本草、百合〕釋名、䪥・強瞿・蒜腦藷、時珍曰、此物花葉根皆四向、故曰二強瞿一、凡物旁生謂二之瞿一。〔名醫別錄〕百合、一名強瞿。

【強果】49 キヤウクワ つよくてきぱきしてゐること。〔韓詩外傳、二〕勇毅強果、則輔レ之以二道術一。

【強懷】50 キヤウクワイ 強い心。〔韓愈、秋懷詩〕強懷張不レ滿。

【強獷】51 キヤウクワウ つよくあらあらしい。わるずるい。凶獷。〔晉書、楊佺期傳〕兄廣及弟子思平等、皆強獷粗暴。〔蘇軾、和二陶雜詩一十一首〕陶頑鑄二強獷一、枉費塵與レ糠。

【強活】52 キヤウクワツ しひて生氣を呈するをいふ。〔程俱、旅舍寫レ懷詩〕病木作レ花眞強活、長魚沈レ陸恐レ摧レ鱗。

【強聒】53 キヤウクワツ しひて喧しく說く。〔莊子、天下〕雖二天下不レ取、強聒而不レ舍者也。

【強猾】54 キヤウクワツ 勢のつよくて心のわるがしこいこと。〔魏志、田豫傳〕摧抑兼幷、乖散強猾。〔徐陵、陳武帝下二州郡璽一書〕愛惠以撫二孤貧一、威刑以禦二強猾一。

【強冠】55 キヤウクワン しひて冠禮を行ふ。無理に元服させる。〔西京雜記、四〕自レ非二顯才高行一、安可三強二冠之一哉。

【強頑】56 キヤウグワン かたくな。頑固。固陋。又、其の者。〔曾鞏、靖安幽谷亭詩〕豈如二此中吏一、明心懾二強頑一。

【強勁】57 キヤウケイ つよい。〔墨子、非命上〕命雖二強勁一何益哉。〔論衡、狀留〕楓桐之樹、生而速長、故其皮肌不レ能二堅剛一、樹檀以二五月一生レ葉、後二彼春榮之木一、其材強勁、車以爲レ軸。

【強教】58 キヤウケウ つとめ教へる。〔禮、表記〕凱以強二教之一、弟以說二安之一。

【強刦】59 キヤウケフ 民財をかすめとること。又、其の者。彊刦。〔長生殿、偵報〕乘レ勢去行二強刦一。〔六部成語、刑部、強刦、注解〕刦奪之大賊也。

【強拳】60 キヤウケン 力強いこぶし。

【強健】61 キヤウケン つよくすこやか。達者。彊健。〔論衡、命祿〕致二強健之勢一。〔白居易、花下對レ酒詩〕況是血肉身、安能長強健。

【強牽】62 キヤウケン しひて取り去る。〔唐律、雜律〕諸負債、不レ告二官司一、而強二牽財物一、過二本契一者、坐レ賦論。

【強言】63 キヤウゲン つよくいふ。強諫する。〔管子、宙合〕夫強言以爲レ僇、而功澤不レ加。「〇」に同じ。

【強固】64 キヤウコ つよくかたい。彊固（**4－9872**‥4

【強虎】65 キヤウコ 地名。湖南省乾城縣の西南。

【強哭】66 キヤウコク むりに表面だけ哭する。〔莊子、漁父〕故強哭者雖レ悲不レ哀、強怒者雖レ嚴不レ威。〔淮南子、齊俗訓〕故強哭者、雖レ病不レ哀、強親者、雖レ笑不レ和。

【強國】67 キヤウコク ❶つよい國。彊國。〔管子、幼官〕強國爲レ圈。〔戰國、齊策〕說二齊王一曰、天下強國、無二過レ齊者一。❷國を強くする。〔荀子、議兵〕禮者治辨之極也、強レ國之本也。〔注〕強國、謂レ強二其國一也。

【強濟】68 キヤウサイ つとめて事を爲すこと。彊濟。〔北史、蘇椿傳〕椿當レ官強濟、特爲二周文帝所一レ知。

【強齋】69 キヤウサイ 字號。❶明、殷奎（**6－16627**‥46）の號。❷清、李棠階（**6－14459**‥1676）の號。

〔強齋集〕70 キヤウサイシフ 書名。九卷。明、殷奎撰。詩文集、誌狀一卷を附す。〔四庫提要、集、別集類〕。

【強壯】71 キヤウサウ ❶つよくさかん。血氣盛なこと。壯健。働き盛り。〔左氏、昭、三十二〕雷乘レ乾曰二大壯一、〔注〕君臣易レ位、猶二臣大強壯一、若二天上有レ雷。❷四十を強、三十を壯といふ。〔禮、曲禮上〕三十曰レ壯、有レ室、四十曰レ強而仕。

〔強壯劑〕72 キヤウサウザイ 身體の衰弱又は營養不良を回復して、體力を增進するために用ひる藥劑。

【強爭】73 キヤウサウ むりにあらそふ。〔左氏、宣、十二〕無レ德而強二爭諸侯一。

【強搶】74 キヤウサウ 暴力を用ひて爭ひとること。〔清律、戶律、婚姻〕凡女家悔レ盟另許、男家不レ告二官司一強搶者、照二強娶律一減二二等一。

【強作】75 キヤウサク 強ひてなす。〔孔叢子、執節〕魯仲連強作レ之者、非レ體二自然一也。

【強策】76 キヤウサク つよいむち。〔楚辭、九辯〕馭安用二「夫強策一。

【強仕】77 キヤウシ ❶四十歲に至つて始めて官につかへること。轉じて、四十歲の年齡。彊仕。〔禮、曲禮上〕四十曰レ強而仕。〔戴溪注〕四十志氣堅定、強立不レ反、不レ奪二於利害一、不レ怵二於禍福一、可二以出仕一矣。〔鮑照、擬二行路難一詩〕丈夫四十強而仕、余當二二十弱冠辰一。❷明、無錫の人。字は甫登。嘉靖の擧人。官は廣昌尹。嘗て碧山吟社を結ぶ。著に家食編がある。〔明詞綜、四十八〕。

【強市】78 キヤウシ おしうり。彊市。〔唐律、職制〕強市者笞五十、有二剩利一者、計レ利準二枉法一論。

【強矢】79 キヤウシ つよい矢。〔尉繚子、守權〕勁弩強矢。

【強死】80 キヤウシ 殺されたり自殺するなど不自然に死ぬこと。非業の死。〔左氏、文、十〕謂三成王與二子玉子西一曰、三君皆將二強死一。〔疏〕強、健也、無レ病而死、謂レ被レ殺也。〔會箋〕強、健也、強死、謂二無レ病而死一、被レ殺或自縊之類、皆是也。〔左氏、昭、七〕匹夫匹婦強死、其魂魄猶能馮二依於人一、以爲二淫厲一。〔注〕強死、不レ病也。

【強至】81 キヤウシ 宋、錢塘の人。字は幾聖。慶曆の進士。官は祠部郎中。著に韓忠獻遺事・祠部集がある。〔宋史、三百五十六〕・〔宋史翼、二十六〕。

【強志】82 キヤウシ 物覺えがよい。よく覺える。強識。彊志。〔淮南子、齊俗訓〕博聞強志、口辯辭給、人智之美也。

【強忮】83キヤウシ　つよくて頑固なこと。〔宋史、地理志二二〕大率氣勇尚レ義、號爲二強忮一。〔宋史、王安石傳〕安石性強忮、遇レ事無二可否一、自信レ所レ見、執レ意不レ回。

【強恣】84キヤウシ　勢つよくほしいまま。〔晉書、五行志中〕是時桓溫強恣、權制二朝廷一。〔唐書、李吉甫傳〕常病二方鎭強恣一。

【強詞】85キヤウシ　一所縣命にいふ。又、強辯する。屁理窟をならべて相手に勝たうとすること。〔日本政記、後龜山天皇論〕北人強詞求レ勝レ之。

【強嘴】86 chʻiang^{2} tsuei^{3}　口剛情な。口ごたへする。言ひ張る。

【強識】87キヤウシ　物覺えがよい。よく覺える。彊識。彊志。〔禮、曲禮上〕博聞強識而讓、敦二善行一而不レ怠、謂二之君子一。

【強似】88 chʻiang^{2} ssŭ^{4}　好い。云云よりもましである。

【強實】89キヤウジツ　つよくて實力がある。眞に強い。〔後漢書、袁紹傳〕冀部強實、而韓馥庸才。

【強襲】90キヤウシフ　敵の抵抗防禦を冒して、無理にせめこむこと。強行襲擊。

【強車】91キヤウシヤ　堅固な兵車。〔吳子、應變〕馳二其強車一。

【強者】92キヤウシヤ　つよいもの。弱者の對。〔中庸〕衽二金革一、死而不レ厭、北方之強也、強者居レ之。〔吳子、治兵〕強者持二旌旗一。〔戰國、趙策〕強者善攻、而弱者不レ能二自守一。〔韓愈、祭二十二郎一文〕孰謂少者歿而長者存、強者夭而病者全乎。

【強將】93キヤウシヤウ　つよい大將。強將下無二弱兵一を見よ。

〖強將下無二弱兵一〗94キヤウシヤウノモトジヤクヘイナシ　強い大將の部下には弱い兵卒はない。英俊の士の下には、自ら人材の集まるをいふ。勇將下無二弱卒一。〔蘇軾、題二連公壁一〕俗語云、強將下無二弱兵一、眞可レ信、吾觀二安國連公之子孫一、無二一不レ好レ事者一、此寺當二日盛一矣。〔恒言錄〕死人頭邊有二洿鬼一、強將手下無二弱兵一。

【強情】95ガウジヤウ　心の頑固なこと。心のすなほでないこと。我意を張ること。

【強弱】96キヤウジヤク　強いことと弱いこと。彊弱。〔荀子、富國〕觀二國之強弱貧富一有レ徵。〔韓非子、亡徵〕亡王之機、必其治亂其強弱相踦者也。〔戰國、齊策〕由レ此觀レ之、則強弱大小之禍、可レ見二前事一矣。〔六韜、龍韜、兵徵〕知二敵人之強弱一。〔三略、上略〕卜二其強弱一。〔管子、幼官〕強弱之應、八。〔漢書、蕭何傳〕具知二天下阸塞、戶口多少強弱一。

【強取】97キヤウシユ　しひて取る。暴力を用ひてうばひ取る。強奪。〔左氏、襄、二十三〕既有二利權一、又執二民柄一、將何懼焉、欒氏所レ得、其唯魏氏乎、而可二強取一也。

【強首】98キヤウシユ　新羅、中原京沙梁の人。文章を以て名高く、九經を後學に傳ふ。〔三國史記〕・〔東史綱目〕。

【強娶】99キヤウシユ　しひて娶ること。〔明律、戶律、婚姻〕期約未レ至、而男家強娶、及約期已至、而女家故違レ期者、並笞五十。

【強壽】100キヤウジユ　長生。長壽。〔公孫龍子、通變論〕其有二君臣之於レ國焉、故強壽矣。〔注〕有字、若字之譌。

【強俊】101キヤウシユン　強くて人にすぐれてゐる。〔國史補〕嚴武少以二強俊一知二名蜀中一。

【強循】102キヤウジユン　唐、鳳州の人。字は季先。華原に渠を造る。號して強公渠といふ。官は大理少卿・右庶子。〔唐書、一百〕・〔舊唐書、一百八十五、下〕。

【強如】103 chʻiang^{2} ju^{2}　云云よりもましである。

【強恕】104キヤウジヨ　つとめて己を推して人に及ぼすこと。努力して忠恕の道を行ふこと。〔孟子、盡心上〕反レ身而誠、樂莫レ大焉、強恕而行、求レ仁莫レ近焉。〔注〕當三自強勉以二忠恕之道一求レ仁之術、此最爲レ近。

〖強恕齋〗105キヤウジヨサイ　字號。㊀清、張庚(**4**－**9812**‥107)の號。㊁清、楊以儼(**6**－**15112**‥405)の號。

〖強恕堂〗106キヤウジヨダウ　清、高之騄(**12**－**45313**‥1186)の室名。

〖強恕先生〗107キヤウジヨセンセイ　宋、柴元裕(**6**－**14664**‥102)の尊稱。

【強乘】108キヤウジヨウ　つよいのりもの。強い車馬。〔韓詩外傳、六〕割二國之強乘一以賂レ之、則割定而欲無レ厭。

【強食】109キヤウシヨク　㊀つとめて飲食を取つて身體を養ふこと。強飯。彊食。〔周禮、考工記、梓人〕強飲強食、詒二女曾孫諸侯百福一。〔漢書、翟方進傳〕將軍強君其自思二強食愼レ職。〔漢書、趙充國傳〕將軍強食、愼二兵事一自愛。㊁強い者のゑじき。弱肉強食。〔韓愈、送二浮屠文暢師一序〕懼三物之爲二己害一也、猶且不レ免焉、弱之肉、強之食。

【強心】110キヤウシン　つよい心。

【強臣】111キヤウシン　權力のさかんな臣。彊臣。〔後漢書、天文志中〕(永初三年)太白晝見、爲二強臣一。

【強伸】112キヤウシン　金の人。本、河中射糧軍の子弟。官は天興の初、中京元帥府簽事。北兵を拒ぐ。偃師に轉戰して敗死す。〔金史、一百十一〕。

【強進】113キヤウシン　勢するどく進む。又、無理に進む。〔管子、制分〕強進則銳士挫。〔羊祜、讓二開府一表〕常以二智力一不レ可二強進一、恩寵不レ可二久謬一。

【強震】114キヤウシン　強い地震。液體がこぼれ、時計の振子が止る程度の地震。

【強親】115キヤウシン　強ひて親しむ。うはべばかり親しむ。〔莊子、漁父〕強親者雖レ笑不レ和。〔淮南子、齊俗訓〕強哭者雖レ病不レ哀、強親者雖レ笑不レ和。

【強人】116キヤウジン　㊀宋代、敵境をおびやかし、かすめるために使用した兵。〔宋史、兵志四〕咸平四年、募下河北民諳二契丹道路一、勇銳可レ爲二間伺一者上、充二強人一、置二都頭指揮使一、無レ事散二處田野一、寇至追集、遣下出レ塞、偸二斫賊壘一、虜中財物上。㊁わるもの。〔宣和遺事、前集下〕以二次人吳加亮・李進義兩人一、做二落草強人首領一。㊂強盜。〔水滸傳、二回〕李吉道、大郎原來不レ知、如今山上面添二了一夥強人一、扎二下一箇山寨一。

【強靭】117キヤウジン　しなやかでねばりの強いこと。彊靭(**4**－**9872**‥67)に同じ。

【強水】118 chʻiang^{2} shuei^{3}　酸類。鏹水。

【強醉】119キヤウスイ　ひどく酒に醉ふこと。大醉。洪醉。〔韋莊、對レ酒賦二友人一詩〕亂離俱老大、強醉莫レ霑レ襟。〔蘇軾、寄二劉孝叔一詩〕憂來洗レ盞欲二強醉一。

【強制】120キヤウセイ　㊀しひて人におしつけること。㊁法律の力によつて人の意志行爲を束縛し、其の自由を奪ふ處置。

〖強制法〗121キヤウセイハフ　個人の意志の如何に拘らず強制する法律。

〖強制執行〗122キヤウセイシツカウ　裁判の結果により、執達吏などが義務者を強制して、其の義務を行はせる手續。

〖強制處分〗123キヤウセイシヨブン　刑事訴訟の進行中に於て、國家が被告人及び證據物を保全するため、人または物に對して、強制の處置を實行すること。

〖強制保險〗124キヤウセイホケン　國家が公力を以て、或職業に從事するものに強制的に加入させる保險。

〖強制豫算〗125キヤウセイヨサン　監督官廳が地方自治體に對し、強制的に立てさせた豫算。

〖強制履行〗126キヤウセイリカウ　債務者が債務を履行しない場合に、債權者が裁判所に訴訟し、國家の公力で履行させること。

【強盛】127キヤウセイ　強く盛なこと。彊盛。〔漢書、息夫躬傳〕烏孫兩昆彌弱、卑爰疐強盛。〔北史、外夷傳序〕漢武士馬強盛、肆二志於遠略一。

【強勢】128キヤウセイ　つよいいきほひ。又、勢を強める。彊勢(**4**－**9872**‥70)に同じ。

【強請】129キヤウセイ ガウセイ　強ひてこふ。むりにねがふ。むりに貰ふ。ゆする。彊制。〔後漢書、五行志一〕憲於レ是強請奪二沁水長公主田一。〔論衡、道虛〕太子頓首強請。

【強笑】130キヤウセウ　しひて笑ふ。つくりわらひ。〔遼史、蕭塔剌葛傳〕察割不レ能レ答、強笑曰、何戲之虐也。〔歸田錄〕溫顏強笑。

【強切】131キヤウセツ　強くはげしい。〔後漢書、蘇章傳〕性強切而持二毀譽一、士友咸憚レ之。

【強啜】132キヤウセツ　㊀はげしく泣く。〔周曇、高祖詩〕愛子從烹報レ主時、安知二強啜不レ含レ悲。㊁むやみにすする。〔蘇軾、飲酒詩〕我醉方不レ啜、強啜忽復醒。

【強竊】133ガウセツ　強盜とこそどろぼう。〔福惠全書、刑名部、賊盜下、問擬〕盜一也、而分二強竊一。

【強占】134キヤウセン　暴力を以て奪つて自己の有とすること。〔明律、戶律、婚姻〕強二占良家妻女一。

【強僭】135キヤウセン　勢がつよく我がままなこと。〔朱熹、論語序說〕季氏強僭、其臣陽虎、作レ亂專レ政。

【強戰】136キヤウセン　無理に戰爭を起す。又、はげしく戰ふ。〔孟子、離婁上〕況於レ爲二之強戰一、爭レ地以

戰、殺レ人盈レ野、爭レ城以戰、殺レ人盈レ城、此所謂率二土地一而食二人肉一、罪不レ容二於死一。

【強珇】137キャウソ　元の人。字は彥栗。詩に巧。田里に隱居す。至正中、常熟州判官に薦授されたが就かず。〔尙友錄、十二〕。

【強訴】138ガウソ　無理を押してうつたへること。又、なかまを組んで訴へること。〔東鑑、十二〕建久二年四月十六日、延曆寺衆徒、可三申二請定重黨類一之由、及二強訴一之旨、罪科無レ所レ遁者。

【強鉏】139キャウソ　春秋、鄭の人。祭仲に黨して足切りの罪を蒙る。〔左氏、莊、十六〕。

【強宗】140キャウソウ　つよくさかんな家がら。勢力ある宗族。豪族。彊宗。〔三略、上略〕強宗聚姦、無レ位而尊。〔後漢書、郭伋傳〕強宗右姓、各擁レ衆保レ營、莫二肯先附一。

【強族】141キャウゾク　勢力あるやから。彊族。〔國史略、朱雀天皇〕先レ是秀鄕聚二強族一在レ東、聞二將門反一、輒詣見レ之。

【強賊】142キャウゾク　凶器や暴力で人をおどして金品を強奪する賊徒。強暴な盜賊。がうぞく。

【強卒】143キャウソツ　強い兵卒。弱卒の對。

【強大】144キャウダイ　強く大きい。又、其の者。〔老子、七十六〕強大處レ下。〔呂覽、壹行〕強大行レ之危、小弱行レ之滅。〔戰國、秦策〕向使二四君却レ客而不レ內、疏レ士而不レ用、是使下國無二富利之實一、而秦無中強大之名上也。〔漢書、吳芮傳贊〕見レ疑二強大一、懷不二自安一。

【強臺】145キャウダイ　臺の名。又、荊臺に作る。〔戰國、魏策〕楚王登二強臺一而望二崩山一、左レ江而右レ湖、以臨彷徨、其樂忘レ死、遂盟二強臺一而弗レ登、曰、後世必有下以二高臺陂池一亡中其國上者。

〖強臺初上〗146 chʻiang^{2} tʻai^{2} chʻu^{1} shang^{4}　初めて官途に就くこと。

【強討】147 chʻiang^{3} tʻao^{3}　催促する。糾問する。

【強盜】148ガウタウ　兇器又は暴力を以て人を脅かし、或は傷害して金品を強奪するぬすびと。おしいり。おしこみ。〔宋史、黃洽傳〕強盜異二他盜一。〔水滸傳、三十四回〕花榮結二連清風山強盜一、時刻清風寨不レ保。〔六部成語、刑部、強盜、注解〕強橫劫奪之大盜也。

〖強盜頭巾〗149ガウタウヅキン　紺染の麻絲でつくつた頭巾。賤しい人のかぶるもの。

【強奪】150キャウダツ ガウダツ　無理に奪ひ取る。強取。彊奪。〔左氏、昭、十六〕今吾子以レ好來辱、而謂三敝邑強二奪商人一。〔後漢書、竇憲傳〕強二奪財貨一。

〖強奪奸占〗151キャウダツカンセン　暴力で他人の婦女を奪つてわがものとすること。〔六部成語、刑部、強奪奸占、注解〕以二強力一奪二人婦女一、姦而占二據之一也。

【強貪】152キャウタン　強くむさぼる。あくまでむさぼる。強慾。〔戰國策、趙策〕鄭同北見二趙王一、云云、曰、今有二強貪之國一、臨二王之境一、索二王之地一、告以レ理、則不レ可、說以レ義、則不レ聽、王非二戰鬪守圉之具一、其何以當レ之。

【強談】153ガウダン　手づよくかけあふ。無理押に話をつける。又、のつぴきならない談判。又、しひて談じこむ。

【強地】154キャウチ　強大な土地。〔後漢書、盧芳等傳贊〕寵負二強地一、憲縈二深江一。

【強致】155キャウチ　無理に招く。無理につれてくる。〔後漢書、王扶傳〕國相張宗、謁請不レ應、欲二強致レ之、遂杖レ策歸二鄕里一。

【強持】156キャウヂ　強く持ちこたへる。〔愼思錄、六〕須二小心祇異、堅忍強持一也。

【強扭】157キャウチウ　むりじひにする。〔水滸傳、三十三回〕宋江道、恭人全不レ記、我一力救レ儞下レ山、如何今日到把レ我強扭做レ賊。

【強中】158キャウチユウ　むりに中に入つて世話をする。彊中(**4－9872**‥82)を見よ。

〖強中更有二強中手一〗159キャウチユウサラニキャウチユウノテアリ　上には上がある意。〔通俗編、武功、強中更有二強中手一〕見二元人桃花女劇、及楊愼墨池瑣錄一。

【強寵】160キャウチヨウ　大なる寵愛。又、君主の大なる寵愛を受けてゐる者。〔逸周書、武穆解〕要下權二文德一不上畏二強寵一。

【強直】161キャウチヨク　㊀つよくまつすぐ。強硬正直。彊直。〔唐書、韓滉傳〕性強直、明二吏事一。㊁唐、李佐之(**6－14459**‥1256)の號。

【強珍】162キャウチン　明、滄州の人。字は庭貴。成化の進士。官は弘治中、南京右通政。剛直の士。〔明史、一百八十〕・〔萬斯同明史、二百三十五〕・〔明史稿、一百六十三〕。

【強陣】163キャウヂン　固くて破りがたい陣だて。強い軍隊。堅陣。〔徐陵、九錫文〕山靡二堅城一、野無二強陣一。

【強通】164キャウツウ　無理に通じさせる。〔國朝漢學師承記、洪榜〕苟得二其解一、皆不レ可二以強通一。

【強調】165キャウテウ　㊀強く主張すること。㊁取引所用語。相場がしつかりとして下落に向かはないこと。

【強敵】166キャウテキ　つよい敵。勁敵。大敵。彊敵。〔戰國、楚策〕吾被レ堅執レ銳、赴二強敵一而死、此猶一卒也。〔六韜、虎韜、軍用〕陷二堅陳一敗二強敵一。〔吳子、應變〕三軍服レ威、士卒用レ命、則戰無二強敵一、攻無二堅陳一矣。〔韓非子、亡徵〕太子已置、而娶二於強敵一、以爲二后妻一、則太子危。〔史記、仲尼弟子傳〕子貢說二吳王一曰、王者不レ絕レ世、霸者無二強敵一。

【強佔】167 chʻiang^{3} chan^{4}　橫領する。

【強弩】168キャウド　つよい大弓。彊弩。〔戰國、西周策〕周君懼焉、以二蔡厹由一戒レ之、故使二長兵在レ前、強弩在レ後、名曰レ衛レ疾、而實囚レ之也。〔六韜、龍韜、奇兵〕強弩長兵。〔吳子、應變〕守以二強弩一。〔韓非子、八說〕狸首射侯、不レ當二強弩趨發一。〔後漢書、袁紹傳〕精兵八百、強弩千張。

〖強弩末勢不レ能レ穿二魯縞一〗169キャウドノマツセイロカウヲウガツアタハズ　英雄も衰へては何事もなし得ぬ喩。彊弩末勢不レ能レ穿二魯縞一(**4－9872**‥87)を見よ。

【強怒】170キャウド　強ひていかる。無理に表面だけいかる。〔莊子、漁父〕強怒者雖レ嚴不レ威。

【強入】171キャウニフ　無理やりにはいる。〔春秋、隱、八、我入レ祊、胡傳〕入者、不レ順之詞、義不可而強入レ之也。

【強忍】172キャウニン　忍び難いのを強ひて忍ぶ。彊忍。〔史記、留侯世家〕爲二其老一、強忍、下取レ履。

【強派】173キャウハ　むりなわりつけ。〔福惠全書、雜課部、新墾〕開二鄕戶一、強派新增。

【強霸】174キャウハ　㊀強いはたがしら。彊霸(**4－9872**‥91)に同じ。㊁亂暴すること。〔長生殿、埋玉〕可レ憐一對鴛鴦、風吹浪打、直恁的遭二強霸一。

【強媒】175キャウバイ　無理な媒介。おしつけの仲人。〔水滸傳、三回〕便使二強媒硬保一、要レ奴作レ妾。

【強賣】176 chʻiang^{3} mai^{4}　おしうりする。押賣。

【強葆】177キャウハウ キャウホ　強は、小兒を負ふ衣。葆は、小兒の衣。うぶぎ。繈褓(**10－34545**‥3)に同じ。〔史記、魯周公世家〕成王少在二強葆之中一。〔注〕索隱曰、強葆、卽繈褓、古字少、假借用レ之。

【強暴】178キャウバウ　㊀つよくあらあらしい。又、其の者。彊暴。〔荀子、富國〕事二強暴之國一難。〔六韜、犬韜、練士〕有二銳氣壯勇強暴者一。〔史記、三王世家〕內褻二有德一、外討二強暴一。㊁法律の許さぬ暴力、又は強迫をいふ。平穩(**4－9167**‥71)の對。

【強迫】179キャウハク　㊀無理じひする。つよくせまる。㊁不當に害惡を豫告して相手方に恐怖心を起させ、其の自由意志の決定を妨げること。

〖強迫押擔〗180 chʻiang^{3} pʻo^{4} ya^{1} tan^{4}　強制擔保。

〖強迫觀念〗181キャウハククワンネン　自分で取除かうと努力しても強迫的に意識の中に割込んでくる不快な觀念。

【強半】182キャウハン　半分以上。大半。過半。四分の三を強半といひ、四分の一を弱半といふ。〔論語、鄕黨、君召使レ擯、疏〕若主君是公、則擯者五人、侯伯、則擯者四人、子男、則擯者三人、所二以不レ隨二命數一者謙也、故竝用二強半之數一也。〔隋煬帝、憶二韓俊娥一詩〕須レ知潘岳鬢、強半爲二多情一。〔杜牧、貴池縣亭子詩〕蜀江雪浪西江滿、強半春寒去郤來。〔蘇軾、山邨詩〕贏得兒童語音好、一年強半在二城中一。

【強飯】183キャウハン　㊀努めて食量を增す。身體を大切にする義。強食。強飯加餐。〔漢書、外戚、孝武衞皇后傳〕子夫爲二平陽主謳者一、云云、帝祓二霸上一、還過二平陽主一、云云、主因奏二子夫一、送入レ宮、子夫上レ車、主拊二其背一曰、行矣、強飯勉レ之、卽貴願無二相忘一。〔漢書、貢禹傳〕生其強飯愼レ疾、以自輔。㊁コハメシ　糯米を蒸籠で蒸したもの。おこは。赤飯。〔柳樽、二十二〕。

【強藩】184キャウハン　強大な大名。〔日本政記、九條廢帝論〕王師東伐、強藩伏レ誅。

【強蛘】185キャウビ　米穀中に生ずる小さい黑い蟲。こめむし。〔爾雅、釋蟲〕蛄䗐、強蛘。〔注〕今米穀

中蠹、小黑蟲、是也、建平人呼爲二蛘子一。〔疏〕江東謂二之蛪一、建平人呼二蛘子一。〔方言、十一〕姑蠻、謂二之強蛘一。

【強偪】186 キャウヒョク　力を以てせまること。〔蜀志、王連傳〕先主起二事葭萌一、進レ軍來南、連閉レ城不レ降、先主義レ之、不二強偪一也。

【強逼】187 chʻiang^3 pi^4　❶無理に。❷強制する。

【強敏】188 キャウビン　つよくすばしこい。彊敏(4—9872··98)に同じ。

【強夫】189 キャウフ　つよい男。〔唐書、戴胄傳〕比三關中河外置二軍團一、強夫富室悉爲レ兵。〔唐書、南蠻中、南詔傳〕州縣繕レ甲厲レ兵、犄角相從、皆蠻之深讐、雖二女子一、能齰齘薄レ賊、況強夫烈士哉。

【強扶】190 キャウフ　しひて扶持する。〔後漢書、隗囂傳〕但駑馬鉛刀、不レ可二強扶一。

【強負】191 キャウフ　小兒を負ふこと。強は襁に通じ、縷で織つた小兒を負ふ紐。襁負。〔孔叢子、自敍〕子思曰、君修二禮義一、富二百姓一、而伋得下寄二孥於君之境內一、從中強負之列上、其榮多矣。

【強武】192 キャウブ　強くたけだけしい。〔管子、大匡〕夫管仲智、召忽強武。〔墨子、明鬼下〕勇力強武。〔韓詩外傳、三〕勇猛強武、氣勢自御。

【強風】193 キャウフウ　つよく吹くかぜ。氣象學上では、秒速十米以上のものを強風といふ。

【強伏】194 キャウフク　きびしく拷問し、其の罪を白狀させること。

【強兵】195 キャウヘイ　つよい兵。彊兵。〔呉子、圖國〕二曰、強兵。〔戰國、秦策〕今太后使者、分二裂諸侯一、而符布二天下一、操二大國之勢一、徵二強兵一伐二諸侯一。〔韓非子、八姦〕國小則事二大國一、兵弱則畏二強兵一。

【強勉】196 キャウベン　しひてつとめる。勉強。彊勉。〔董仲舒、賢良策第一〕事在二強勉一而已矣。

【強辨】197 キャウベン　よくわきまへる。〔後漢書、劉祐傳〕閑二練故事一、文札強辨、每レ有二奏議一、應對無レ滯。

【強辨】197′ chʻiang^3 pan^4　しひて行ふ。強行する。

【強辯】198 キャウベン　❶盛な辯論。〔北史、張彫武傳〕遍通二五經一、尤明二三傳一、弟子遠方就レ業者、以レ百數、諸儒服二其強辯一。❷強ひて議論を立てる。〔舊唐書、陸象先傳〕雖二才學不一レ逮二子昂等一、而風流強辯過レ之。

【強輔】199 キャウホ　強い輔佐。彊輔。〔列女傳、辯通、楚處莊姪傳〕國無二強輔一、外內崩壞。

【強募】200 キャウボ　むりじひにつのる。〔宋史、兵志七〕希レ賞之人、抑勒強募。

【強名】201 キャウメイ　明、袁登(10—34152··123)の號。

【強盟】202 キャウメイ　しひてちかはせる。〔左氏、哀、十五〕迫二孔悝於廁一、強盟レ之。

【強蒙】203 キャウモウ　唐の人。大曆の時、論語を以て著はる。〔唐書、二百〕。

【強陽】204 キャウヤウ　❶よく動く。〔莊子、知北遊〕天地之強陽也。〔注〕強陽、猶二運動一耳。〔莊子、寓言〕彼強陽、則我與レ之強陽。〔集解〕宣云、強陽、謂二健動一也。❷付け元氣。〔蘇軾、上二神宗皇帝一書〕伐二眞氣一而助二強陽一。

【強勇】205 キャウユウ　つよくいさましい。又、其の人。彊勇。〔六韜、文韜、上賢〕強勇輕レ戰。〔韓非子、安危〕強勇之所レ不レ能レ行。

【強雄】206 キャウユウ　強くすぐれてゐること。〔韓愈、月蝕效二玉川子作一詩〕星如レ撒レ沙出、攢集爭二強雄一。

【強欲】207 ガウヨク　飽くことを知らない欲心。ひどい欲ばり。強慾。

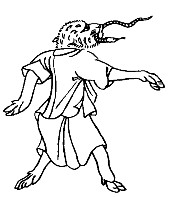
【強欲非道】208 ガウヨクヒダウ　強欲を遂げるために、道ならぬことをするをいふ。

【強覽】209 キャウラン　力めてひろくみる。多く書を讀む。博覽。〔宋史、劉琦傳〕博學強覽、立レ志峻潔。

【強留】210 chʻiang^3 liu^2　無理に引きとめる。

【強立】211 キャウリツ　信念ができて獨立し、事に臨んで惑はぬことをいふ。彊立。〔禮、學記〕古之教者、云云、一年視二離レ經辨一レ志、云云、九年知レ類通達、強立而不レ反、謂二之大成一。〔注〕強立、臨レ事不レ惑也、不レ反、不レ違二失師道一。

【強良】212 キャウリャウ　十二神の一。よく不吉を食ふといはれる。強梁の❸及び彊良(4—9872··112)に同じ。


強良（三才圖會）

【強梁】213 キャウリャウ　彊梁(4—9872··113)に同じ。❶強くさかん。又、頑固で氣力がつよい。〔老子、四十二〕強梁者不レ得二其死一。〔注〕強梁、謂下不レ信二玄妙一、背二叛道德一、不レ從二經教一、尙レ勢任上レ力也。〔老子翼〕木絕レ水曰レ梁、木負レ棟亦曰レ梁、取二其力之強一也、故曰二強梁一、金人銘曰、強梁者不レ得二其死一、好レ勝者必遇二其敵一。〔晏子、問、上〕其言彊梁而信。〔墨子、公孟〕身體強梁、思慮徇通。❷つよいちから。〔莊子、山木〕來者勿レ禁、往者勿レ止、從二其強梁一。〔注〕順二乎衆一也。〔釋文〕彊梁、多力也。❸不吉を食ふといふ十二神の一。彊良。強良。〔後漢書、禮儀志中〕黃門令奏曰、侲子備、請逐レ疫、於レ是中黃門倡、侲子和、曰、甲作食レ殉、胇胃食レ虎、雄伯食レ魅、騰簡食二不祥一、攬諸食レ咎、伯奇食レ夢、強梁・祖明共食二磔死寄生一、委隨食レ觀、錯斷食レ巨、窮奇・騰根共食レ蠱、凡使二十二神追二惡凶一、赫二女軀一、拉二女幹節一、解二女肉一、抽二女肺腸一、女不二急去一、後者爲レ糧。

【強膂】214 キャウリョ　草の名。おほかぐま。狗脊の異名。〔本草、狗脊〕釋名、強膂・扶筋・百枝・狗靑、時珍曰、強膂・扶筋、以レ功名也。

【強陵】215 キャウリョウ　つよくしのぐ。〔後漢書、五行志二〕諸侯強二陵王一。

【強力】216 キャウリョク　❶強い力。又、其の者。彊力。〔文子、精誠〕故神明事、不レ可下以二智巧一爲上也、不レ可下以二強力一致上也。〔論衡、効力〕長巨之物、強力之人。❷心を用ひてつとめること。〔禮、禮器〕季氏祭、逮レ闇而祭、日不レ足、繼レ之以レ燭、雖レ有二強力之容、肅敬之心一、皆倦怠矣。〔莊子、讓王〕湯曰、伊尹何如、曰強力忍レ垢。〔漢書、成帝紀〕薄二其租稅一、寵二其強力一。❸ガウリキ 登山者の荷物を背負つて案內する者。

【強令】217 キャウレイ　強力な命令。〔左氏、文、十七〕居二大國之閒一、而從二於強令一、豈其罪也。

【強烈】218 キャウレツ　強くはげしいこと。彊烈。

【強練】219 キャウレン　北周の人。名・字は不詳。好んで未來の事をいふこと魏の李順興に類す。人、順興を李練と號するのに對し、彼を呼んで強練となす。大象の末、底のない囊をさげて長安市中に乞ふ。人、米麥を與へれば隨つて地に漏る。人、その故を問へば、但〻人に空に盛るを見させるのみといふ。後、終る所を知らず。〔周書、四十七〕・〔北史、八十九〕。

【強橫】220 キャウワウ　つよくほしいままなこと。亂暴。又、その者。〔左氏、昭、二十五、以妻二季平子一昭子如レ宋聘且逆レ之、注〕平子人臣、而因レ卿逆、季氏強橫。〔後漢書、鮑永傳〕示レ誅二強橫一、而鎭二撫其餘一。〔宋史、王審琦傳〕五代以來、諸侯強橫。〔宋史、王曾傳〕卿嘗言、利二用強橫一、今何解也。

【挫レ強】221 キャウヲクジク　つよいものをくじく。〔戰國、齊策〕約而好レ主レ怨、伐而好レ挫レ強也。

【強有力】222 キャウイウリョク　強くて力がある。〔禮、聘義〕勇敢強有力者、將二以行一レ禮也。

【強淵明】223 キャウエンメイ　宋の人。至の子。字は隱季。諡は文憲。蔡京と刎頸の交を結ぶ。官は禮部尙書。〔宋史、三百五十六〕・〔宋史新編、一百二十三〕・〔宋史翼、二十六〕。

【強行健】224 キャウカウケン　清、上海の人。字は順之。號は易窗道人。醫に通じ、詩・書・篆刻に精し。著に印管・印論・易窗小草・瞥心錄・醫案・學吟小草・傷寒直指がある。〔飛鴻堂印人傳、二〕。

【強嶽立】225 キャウガクリツ　清、韓城の人。字は健齋。王心敬の弟子。學行を以て自ら勵み、當時の名輩多く師友となる。乾隆中、卒す。〔國朝耆獻類徵、四百六〕・〔碑傳集、一百二十九〕。

【強口馬】226 キャウコウバ　口の達者な人の喩。〔世說新語、文學〕孫安國、往二殷中軍許一、共論、往反精苦、殷語レ孫曰、卿莫レ作二強口馬一、我當レ穿二卿鼻一、孫曰、卿不レ見二決鼻牛一、人當レ穿二卿頰一。

【強克捷】227 キャウコクセフ　清、韓城の人。諡は忠烈。嘉慶の進士。滑縣の長官となる。教匪李文成が京師の林清と事を起さんとするや、克捷、期に先だつて文成を捕へ、これを獄に置く。其の黨、文成を劫して亂をなし、克捷之に死す。〔清史稿、四百九十四〕・〔清史列傳、六十五〕・〔國朝耆獻類徵、三百七十〕。

【強汝詢】228 キャウジョジュン　清、溧陽の人。字は蕘叔。號は賡廷(賽廷)、又、求益齋。咸豐の擧人。著に大學衍義・續春秋測義等がある。〔續碑傳集、四十六〕。

【強存仁】229 キャウソンジン　明、呉縣の人。字は善良(善長)。畫に巧。〔呉縣志〕・〔畫史會要〕。

【強棠古】230 キャウタウコ　遼の耶律棠古。人に不善があれ

ば言葉を盡して明かにしたのでかくいはれた。〔遼史、耶律棠古傳〕耶律棠古、字蒲速宛、六院郎君葛剌之後、太康中補二本班郎君一、累遷至二大將軍一、性坦率、好別二白黑一、人有二不善一、必盡レ言無レ隱、時號二強棠古一。

【強團練】231（キヤウダンレン）　剛情な人をいふ。宋の常州の團練使趙仁澤が、吳越の錢氏に執へられて王を拜せず、丞相の元德昭に強團練なりと稱せられた故事。〔楓窗小牘〕臨安有二諺語一、凡見レ人不二下禮一、呼曰二強團練一、故事、吳越錢氏改二常州一、執二團練使趙仁澤一以歸、見レ王不レ拜、丞相元德昭云、此強團練也、故至レ今爲二美談一。

【強凌レ弱】232（キヤウ ジヤク ヲ シノグ）　強いものが弱いものを侵しのぐ。〔新書、過秦中〕是以諸侯力政、強凌レ弱、衆暴レ寡、兵革不レ休、士民罷弊。

【強折賤賣】233（キヤウセツセンバイ）　強制的に廉賣させること。〔後漢書、宦者、張讓傳〕發二太原河東狄道諸郡林木及文石一、每三州郡部送至二京師一、黃門常侍輒令三譴二呵不レ中者一、因強折賤賣、十分雇レ一。

【強理勁直】234（キヤウリケイチヨク）　つとめて道理に從ひ、強く正しいこと。〔白虎通、謚〕強理勁直、謚曰レ武。

【抑レ強扶レ弱】235（キヤウヲオサヘジヤクヲタスク）　強い者をおさへて弱い者を助ける。抑レ彊扶レ弱。〔魏志、王脩傳〕爲レ治抑レ彊扶レ弱、明二賞罰一、百姓稱レ之。

【強尋二偏旁一推二點畫一】236（シヒテヘンバウヲタヅネテンクワクヲオス）　無暗に偏やつくりの跡を辿つて勝手に文字の構造を推量する。〔蘇軾、石鼓歌〕舊聞二石鼓一今見レ之、文字鬱律蛟蛇走、云云、強尋二偏旁一推二點畫一、時得二一二一遺二八九一。

【彅】9816　ヘツ　彆(**4**－**9859**)に同じ。〔集韻〕彆、或作レ彅。

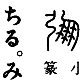
【弸】9817

㊀ハウ　ビヤウ　〔集韻〕蒲萌切　ㄆㄥˊ　pêng²　庚

㊁ハウ　ヒヤウ　〔集韻〕披耕切　庚

㊂ヒヨウ　〔集韻〕悲陵切　蒸

㊃ホウ　〔集韻〕悲朋切　蒸



小篆

㊀㊁㊂❶**弓のつよいさま。**〔說文〕弸、弓彊皃、从レ弓朋聲。❷**みちる。みたす。**〔廣雅、釋詁一〕弸、滿也。〔法言、君子〕君子、言成レ文、動成レ德、何以也、曰、以二其弸一中而彪レ外也。〔注〕弸、滿也。❸**弓弦。**〔太玄經、止〕絕レ弸破レ車。〔注〕弸、弦也。❹**風でとばりがひるがへる音。**弸環の❶を見よ。❺**弓なり。**弸弦。〔集韻〕弸、弸弦、弓聲。㊃**弓なり。**弸環。〔集韻〕弸、弸環、弓聲。

【弸環】1（ハウクワウ）　❶風が牀帳をひるがへす音。〔揚雄、甘泉賦〕帷弸環其拂汨兮。〔注〕善曰、弸環、風吹二帷帳一之聲也。❷（ホウクワウ）　弓弦の音。弓なり。〔集韻〕弸、弸環、弓聲。

【弸中】2（ハウチユウ）　中を滿たす。〔法言、君子〕君子言成レ文、動成レ德、何以也、曰、以二其弸一中而彪レ外也。〔注〕弸、滿也、彪、文也、積行內滿、文辭外發。

【𢐇】9818　ゲン　弦(**4**－**9754**)に同じ。〔字彙補〕𢐇、同レ弦、見二漢景君碑一。

【張】9819　ロ　旅(**7**－**20818**)に同じ。〔集韻〕旅、或作レ張。

【弽】9820　セフ　弽(**4**－**9805**)に同じ。〔篇海類編〕弽、同レ弽。

【弜】9821　ヰ　爲(**7**－**19686**)に同じ。〔字彙補〕弜、與レ爲同。

九畫

【强】9822　キヤウ　強(**4**－**9815**)の俗字。〔正字通〕强、俗強字。

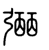
【𢐅】9823　ゲン　弦(**4**－**9754**)の俗字。〔字彙〕𢐅、同レ弦。〔正字通〕𢐅、俗弦字。

【㢸】9824　ヒツ　弼(**4**－**9826**)に同じ。〔正字通〕㢸、與レ弼同。

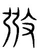
【弻】9825　ヒツ　弼(**4**－**9826**)に同じ。

【弼】9826　ヒツ　ビチ　〔集韻〕薄密切　ㄅㄧˋ　pi⁴　質

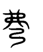
小篆



或體（說文）古文（段注本）



古文



古文（說文）或體（段注本）

❶**弓だめ。弓體を正しくする器。**もと、㢸(**4**－**9824**)に作る。〔康熙字典〕㢸、說文、弼本字。〔說文通訓定聲〕㢸、按、當レ訓二弓輔一也、从二重弓一从レ西、會意、云云、西者、竹上皮也、凡弛レ弓、則縛二于裏一以備二損傷一、用二竹若木一爲レ之、亦曰レ檠、曰レ榜、曰レ閉、曰レ柲。〔正韻〕弼、正レ弓之器、以二竹若木一爲レ之。〔荀子、臣道〕謂二之拂一、〔注〕拂、讀爲レ弼、弼、所三以輔二正弓弩一者也。❷**たすける。**〔爾雅、釋詁〕弼、俌也。〔書、大禹謨〕以弼二五教一。〔傳〕弼、輔也。❸**ただす。**〔字彙〕弼、正也。〔書、益稷〕予違汝弼。❹**たすけ。**そへ。輔佐役。〔大戴禮、保傳〕絜廉而切直、匡レ過而諫レ邪者、謂二之弼一。〔國語、越語下〕憎レ輔遠レ弼。〔注〕矯レ過爲レ弼。❺**天子の輔佐役。**右に侍するもの。〔禮、文王世子〕設二四輔及三公一。〔疏〕其四輔者、案、尙書大傳云、古者天子必有二四鄰一、前曰レ疑、後曰レ丞、左曰レ輔、右曰レ弼。❻**かさなる。**たかい。うへ。𢏹(**4**－**7989**)に通ず。〔爾雅、釋詁〕弼、重也。〔方言、十二〕弼、高也。〔廣雅、釋詁一〕弼、上也。〔說文通訓定聲〕弼、叚借爲レ𢏹。❼**もとる。**弗(**4**－**9708**)に通ず。〔說文通訓定聲〕弼、叚借爲レ弗。❽古は㔸(**2**－**2312**)・弢(**4**－**9788**)・卲(**2**－**2850**)・怫(**4**－**10485**)・甹(**4**－**9750**)・狒(**5**－**13187**)に作る。〔康熙字典〕弼、古文㔸・弢・卲・怫・甹・狒。❾或は彌(**4**－**9868**)・拂(**5**－**11936**)に作る。〔集韻〕彌、或从二二西一、隸作レ弼、或作レ拂。❿通じて佛(**1**－**517**)に作る。〔集韻〕彌、通作レ佛。〔詩、周頌、敬之〕佛二時仔肩一。〔箋〕佛、輔也。〔釋文〕佛、鄭音弼。邦**すけ。**古の官制で禪正臺の次官。大弼と少弼に分ける。

名乘　タネ。スケ。ノリ。

【弼違】1（ヒツヰ）　道に背いてゐるのをただす。〔書、益稷〕予違汝弼。〔傳〕我違レ道、汝當三以レ義輔二正我一。〔晉書、武帝紀〕擇下其能正レ色弼レ違、匡二救不レ逮者上以兼二此選一。〔晉書、郭璞傳〕古之令主、開二納忠讜一以弼二其違一。〔抱朴子、臣節〕匡レ過弼レ違者、社稷之骾也。

【弼諧】2（ヒツカイ）　たすけほどよくする。〔書、皐陶謨〕謨明弼諧。〔疏〕以輔二弼和三諧其政一。〔盧諶、贈二劉琨一詩〕弼諧靡レ成、良謨莫レ陳。〔注〕銑曰、弼、輔、諧、和也。〔王儉、褚淵碑文〕弼諧允正、徽猷弘遠。〔杜甫、奉二贈太常張卿垍一二十韻詩〕弼諧方一展、班序更何躋。

【弼疑】3（ヒツギ）　君の輔佐役。古、君の輔作役は、左を輔、右を弼、前を疑、後を丞といふ。字解の❺を見よ。〔漢書、杜鄴傳〕分二職於陝一、並爲二弼疑一。〔注〕師古曰、弼疑、謂二左輔・右弼・前疑・後丞一也。

【弼匡】4（ヒツキヤウ）　たすけ正す。〔梁昭明太子、文選序〕次則箴興二於補闕一、戒出二於弼匡一。

【弼教】5（ヒツケウ）　刑罰に依つて教の及ばないところ

を補ふ。〔書、大禹謨〕明二于五刑一、以弼二五教一、期二于予治一。〔傳〕弼、輔、期、當也、歎三其能以レ刑輔レ教、當二於治體一。〔僧一行、起義堂頌〕明レ刑弼レ教、道尊二老氏一。

【弼教坊】6 ヒツケウバウ 街の名。宋代に睦親坊と名づけ、宗學のあつたところ。〔西湖志〕弼教坊、宋時立二宗學於此一、名二睦親坊一、今有二睦親井一尚存。

【弼佐】7 ヒツサ たすける。又、其の人。〔江總、爲二陳六宮一謝章〕何以弼二佐王風一、克柔二陰化一。

【弼士】8 ヒツシ 輔弼の士。直諫して憚らない人。拂士。

【弼之】9 ヒツシ 明、左輔(**4－8720**··398)の字。

【弼臣】10 ヒツシン ❶輔佐の臣。〔蘇軾、代二張方平一諫レ用レ兵書〕弼臣執二國命一者、無二憂深思遠之心一。❷清、許佑(**10－35298**··8)の字。

【弼針】11 ヒツシン 孔のない針。ぴん。別針。〔說文通訓定聲〕廣雅釋器、鍤、鍼也、按、今製二衣裘一用レ之、蘇俗謂二之弼針一。

【弼成】12 ヒツセイ ❶たすけて成就させる。輔成。〔書、益稷〕惟荒度二土功一、弼二成五服一、至二于五千一。❷元代、宗廟の祭祀に用ひた樂章の名。〔元史、禮樂志二〕皇伯考朮赤曰二弼成之曲一、皇伯考察合帶曰二協成之曲一。

【弼導】13 ヒツダウ たすけみちびく。補導。〔晉書、荀覬傳〕實有二佐命弼導之勳一。

【弼直】14 ヒツチョク 輔弼の臣は正しい者を用ひなければならぬ。〔書、益稷〕惟幾惟康、其弼直。〔傳〕其輔臣必用二直人一。〔疏〕其輔弼之臣、必用二正直之人一。

【弼寧】15 ヒツネイ 輔けてやすらかにする。〔晉書、元帝紀〕用能弼二寧晉室一、輔二余一人一。

【弼非】16 ヒツヒ 君の非を正す。〔孔叢子、抗志〕中正弼レ非、則君疏レ之。

【弼甫】17 ヒツポ 明、諸葛應科(**10－35743**··46)の字。

【弼亮】18 ヒツリヤウ たすける。輔佐。〔書、畢命〕弼二亮四世一、正レ色率レ下。〔傳〕輔二佐文武成康一四世爲二公卿一。〔疏〕亮、佐也。〔樓鑰、送三張定叟鎭二襄陽一詩〕功高歸未レ晚、會見登二弼亮一。

【弼德院】19 ヒツトクヰン 清の宣統三年四月に置いた官廳の名。我が樞密院に當る。〔清史稿、職官志六〕弼德院、院長副院長各一人、顧問大臣三十有二人、掌下參二預密勿一、朝夕論思、並審中議洪疑大政上云云、宣統三年設。

【⿰弓百】9827 ヒツ 弼(**4－9826**)に同じ。〔篇海類編〕⿰弓百、同レ弼。

【⿰弓是】9828
🈩シ ジ 〔集韻〕上紙切 紙
🈔シ ジ 〔集韻〕是義切 寘
🈪チ 〔集韻〕竹吏切 寘

🈩🈔🈪**はじきゆみ**。また、はじく。〔玉篇〕⿰弓是、青州謂レ彈曰レ⿰弓是。〔集韻〕⿰弓是、彈也。

【⿲弓耳弓】9829 ジ 餌(**12－44146**)に同じ。〔集韻〕餌、或作レ⿲弓耳弓。

【⿰弓扁】9830 ヘン ベン 〔集韻〕紕延切 先

弓がそりかへる。〔集韻〕⿰弓扁、弓反張也。

【⿰弓彖】9831 エン 〔集韻〕愈絹切 霰

弓のまきいと。〔集韻〕⿰弓彖、弓緣也。

【⿰弓垔】9832
🈩ケン 〔集韻〕規掾切 霰
🈔ケン 〔集韻〕稽延切 先
🈪セン 〔集韻〕諸延切 先

🈩🈔🈪**つのはず。**〔集韻〕⿰弓垔、博雅、䉤⿰弓垔、弓弭也。〔集韻〕⿰弓垔、弓弭。

【弽】9833
🈩セフ 〔集韻〕失涉切 葉
🈔ケフ 〔集韻〕呼牒切 葉

🈩**ゆがけ。**韘(**12－43175**)に同じ。〔集韻〕韘、說文、射決也、或从レ弓。🈔**ゆがけ。**或は⿰弓合(**4－9777**)に作る。〔集韻〕弽、射決也、或从レ合。

【⿰弓来】9834 セフ 弽(**4－9833**)に同じ。〔篇海類編〕⿰弓来、與レ弽同。

【⿰⿱弓彡⿱弓彡】9835 ジヤク 弱(**4－9791**)の篆字。〔正字通〕弱、篆作レ⿰⿱弓彡⿱弓彡。

【⿲弓口弓】9836 ケン 〔海篇〕經天切 先

わな。あみ。〔海篇〕⿲弓口弓、羂也。

【弾】9836′ ダン 彈(**4－9865**)の略字。

十　畫

【⿰弓旁】9837 ハウ バウ 〔集韻〕蒲光切 陽

つるが強く張つてゐること。或は⿰弓方(**4－9731**)に作る。〔集韻〕⿰弓旁、弦急也、或省。

【⿱𡨄弓】9838
🈩ケン コン 〔集韻〕紀偃切 阮
🈔ケン 〔集韻〕九件切 銑

🈩🈔**弓がつよい。**〔集韻〕⿱𡨄弓、弓強也。

【⿰弓虒】9839 シ 弛(**4－9724**)に同じ。〔說文〕弛、⿰弓虒、弛或从レ虒。

【⿰弓虒】9840 シ 弛(**4－9724**)に同じ。〔龍龕手鑑〕⿰弓虒、與レ弛同。

【⿰弓眞】9841 チン 〔集韻〕陟刃切 震

はじき弓。また、はじく。〔集韻〕⿰弓眞、彈也。

【⿰弓莆】9842 ヒ ビ 〔集韻〕平祕切 寘

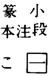
❶**筋で弓をまく。**〔廣韻〕⿰弓莆、以レ筋貼レ弓。❷**絲で弓をかざる。**〔集韻〕⿰弓莆、以レ絲被レ弓也。

【⿰弓鬲】9843
🈩ガク ギヤク 〔集韻〕逆革切 陌
🈔カク キヤク 〔集韻〕各核切 陌

🈩🈔**ゆみぶくろ。**〔集韻〕⿰弓鬲、束二弓弩一衣。

【彀】9844
🈩コウ ク 〔集韻〕居候切 宥 ㄍㄡˋ kou⁴
🈔コウ ク 〔集韻〕墟侯切 尤

（小說
篆文）


（小段
篆本注）

🈩❶**はる。**弓を一杯にひきしぼる。轉じて、滿ちる。足る。〔說文〕彀、張レ弩也、从レ弓㱿聲。〔廣雅、釋詁一〕彀、張也。〔列子、湯問〕彀レ弓而獸伏鳥下。〔釋文〕彀レ弓、張レ弓也。〔史記、絳侯周勃世家〕彀二弓弩一。〔注〕索隱曰、彀者、張也。❷**やごろ。ねらひ。**彀中

(6)を見よ。㊂**射る**。〔史記、廉頗藺相如傳〕彀者十萬人。〔注〕索隱曰、彀、謂㆓能射㆒也。㊃**まと。的のくろぼし**。〔管子、小稱〕羿有㆔以感㆓弓矢㆒、故彀可㆑得㆑中也。〔注〕彀、謂㆓射質棲㆑皮者㆒也。㊄**よい**。〔爾雅、釋詁〕彀、善也。㊅句(**2**－**3234**)に通ず。〔詩、大雅、行葦〕敦弓既句。〔疏〕彀與㆑句、字雖㆑異、音義同。[二]**ゆはず**。彄(**4**－**9853**)に同じ。〔集韻〕彄、說文、弓弩耑、弦所㆑居也、或作㆑彀。

【彀騎】1 コウキ 弓を射る騎兵。〔史記、馮唐傳〕彀騎萬三千。〔注〕索隱曰、彀騎、張㆑弓之騎也。〔北史、周太祖紀〕彀騎千羣。〔顏延之、赭白馬賦〕環㆓彀騎㆒而清㆑路。〔注〕向曰、彀騎、弓騎也。〔左思、吳都賦〕輶軒蓼擾、彀騎熠煌。〔注〕劉曰、彀騎、張㆓弓弩㆒之騎也。

【彀弓】2 コウキユウ ひきしぼつた弓。又、弓をひきしぼること。〔禮、檀弓下〕子手㆑弓而可、〔疏〕手㆑弓者、令㆓其彀㆑弓而射㆒㆑之。

【彀者】3 コウシヤ 弓を射る人。いしゆみを射る人。〔史記、李牧傳〕彀者十萬人。〔注〕索隱曰、彀、謂㆓能射㆒也。〔漢書、馮奉世傳〕今發㆓三輔河東弘農越騎迹射佽飛彀者羽林孤兒及呼速絫嗕種㆒。〔注〕劉德曰、彀者、謂㆓能張㆑弩者㆒也。

【彀受】4 kou⁴ shou⁴ ㊀つらい。困難。㊁甚だ。ひどく。

【彀瞧】5 kou⁴ ch'iao² 好い。立派な。

【彀中】6 コウチユウ ㊀矢ごろのうち。矢の及ぶ範圍。〔莊子、德充符〕遊㆓於羿之彀中㆒、中央者、中地也、然而不㆑中者命也。〔注〕弓矢所㆑及爲㆓彀中㆒。〔疏〕言、羿善㆑射、矢不㆓虛發㆒、彀中之地、必被㆓殘傷㆒。〔郭慶藩集釋〕玉篇、彀、張㆓弓弩㆒、漢書周亞夫傳、彀㆑弓持㆑滿、遊㆓於羿之彀中㆒、觸處皆危機也。㊁術中に陷る。籠絡する。藥籠中。術中。入㆓彀中㆒を見よ。

〖入㆓彀中㆒〗7 コウチユウニイル 矢ごろの範圍に入る。術中に入る。人を籠絡する。〔摭言、十五〕天下英雄、入㆓吾彀中㆒矣。〔權德輿、賀㆑破㆓吐蕃㆒表〕盡落㆓彀中㆒。〔資治通鑑、宋紀〕明帝、泰始三年、願更審㆑計、無㆑墮㆓賊彀中㆒。〔注〕張子厚曰、彀、指拇也、彀㆑弓既持㆑滿、以㆓指拇㆒爲㆑度、而發㆑矢、以志㆓於中㆒、墮㆓彀中㆒者、言㆘敵彀㆑弓指㆑我、而我不㆑知㆑避、則矢必集㆓于我㆒而受㆗其害㆖。

【彀弩】8 コウド いしゆみをはる。〔唐書、儀衞志上〕張㆑弓捻㆑箭彀㆑弩。

【彀本】9 kou⁴ pen³ 原價に當る。原價相應。

【彀用】10 kou⁴ yung⁴ 足りる。役に立つ。

【彀率】11 コウリツ 弓を引きしぼる度合。標準。〔孟子、盡心上〕羿不㆘爲㆓拙射㆒變㆗其彀率㆖。〔注〕羿不㆘爲㆓新學拙射㆒、變㆗其彀率之法㆖也。〔焦循正義〕彀・率亦是兩事、彀、謂㆑張㆑弩、率、謂㆔省㆓括於度㆒、所㆑張之彀、合㆓乎所㆑擬之率㆒、則釋㆑之乃必中也。〔集注〕彀率、彎㆑弓之限也。〔射經〕周官保氏、教㆓國子五射㆒、曰、白矢、白鏃至㆑指也、此彎㆑弓之法、所謂彀率也。

【彀多麼】12 kou⁴ tuo¹mo 甚だ。十分。

【彀多了】13 kou⁴ tuo¹la 十分な。

【不㆑能㆑彀】14 コウスルアタハズ 力が弱くて弓をひくことが出來ない。轉じて、任に勝へない、意に滿たない意に用ひる。〔通俗編、語辭、不㆑能㆑彀〕漢書、匈奴傳、平城之下、亦誠苦、七日不㆑食、不㆑能㆑彀㆑弩、按、世凡不㆑勝㆑任、不㆑滿㆑意、俱借㆑此以爲㆑辭。〔唐書、張巡傳〕士才千餘人、皆癯劣不㆑能㆑彀。

【彀嚼過兒】15 kou⁴ chiao² kuo êrh 生計にさしつかへない。

【⿲弓束弓】 9845 ソク 餗(**12**－**44180**)に同じ。〔海篇〕⿲弓束弓、同㆑餗。

【⿲弓玄弓】 9846 ケン 義未詳。〔川篇〕⿲弓玄弓、音弦。

【⿰弓兼】 9847 タン 義未詳。〔五音篇海〕⿰弓兼、音賺。

十一畫

【彃】 9848 ヒツ ヒチ 〔集韻〕壁吉切 質

小篆

㊀**いる**。〔說文〕彃、䠶也、从㆑弓畢聲、楚辭曰、夫羿焉彃㆑日也。㊁**ゆみづる**。〔集韻〕彃、一曰、弦也。

【⿰弓崩】 9849 [一]ハウ ヒヤウ 〔玉篇〕必耕切 庚 [二]ホウ フ 〔字彙〕補工切 東

[一][二]**ゆみ**。〔字彙〕⿰弓崩、弓也。〔海篇〕⿰弓崩、弓也。

【⿱張弓】 9850 シヤウ 鏘(**11**－**40802**)の古字。〔海篇〕⿱張弓、古文鏘字。

【⿰弓從】 9851 ソウ ス 〔集韻〕麤叢切 東

川の名。〔山海經、大荒南經〕大荒之中、有㆓不庭之山㆒、榮水窮焉、云云、有㆓淵四㆒、云云、南旁名曰㆓⿰弓從淵㆒、舜之所㆑浴也。

【⿲弓鬲弓】 9852 シユク 鬻(**12**－**45721**)に同じ。〔集韻〕鬻、或作㆑⿲弓鬲弓。

【彄】 9853 コウ ク 〔集韻〕墟侯切 尤 ㄎㄡ k'ou¹

小篆

㊀**ゆはず**。或は彀(**4**－**9844**)に作る。〔說文〕彄、弓弩耑、弦所㆑凥也、从㆑弓區聲。〔集韻〕彄、或作㆑彀。〔蔡邕、黃鉞銘〕弓不㆑受㆑彄。㊁**環の類**。〔西京雜記、一〕戚姬以㆓百鍊金㆒爲㆓彄環㆒、照㆓見指骨㆒、上惡㆑之、以賜㆓侍兒鳴玉・耀光等各四枚㆒。㊂**ゆごて**。韝(**12**－**43190**)に通ず。〔說文通訓定聲〕彄、叚借爲㆑韝。〔周禮、夏官、繕人、注、韝于㆓左臂裏㆒、釋文〕韝、彄字之異者。㊃嫗(**3**－**6640**)・區(**2**－**2691**)に通ず。〔公羊、哀、十三〕陳夏彄夫。〔釋文〕彄、一本作㆑嫗、二傳作㆓夏區夫㆒。㊄**姓**。〔韻會〕彄、魯公子彄之後。

【彯】 9854 セウ 弨(**4**－**9758**)に同じ。〔集韻〕弨、或作㆑彯。

【⿰弓畀】 9855 ヒ ⿰弓甫(**4**－**9842**)に同じ。〔海篇〕⿰弓畀、同㆑⿰弓甫。

【弻】 9856 ヒツ 弼(**4**－**9826**)に同じ。〔字彙補〕弻、同㆑弼。

【⿱殸弓】 9857 コウ 彀(**4**－**9844**)の譌字。〔康熙字典〕⿱殸弓、按、卽彀字之譌。

【⿰弓國】 9858 クワク 義未詳。〔龍龕手鑑〕⿰弓國、音摑。

十二畫

【彆】 9859 [一]ヘツ ヘチ 〔集韻〕必結切 屑 ㄅㄧㄝˋ pieh⁴ [二]ヘイ 〔集韻〕必袂切 霽

㈠㈡❶**弓がそる。ゆはずがそる。**或は⿰弓扁(**4−9816**)・⿱折弓(**4−9795**)・⿰矢扁(**8−23994**)に作る。〔集韻〕⿰弓扁、弓戻謂二之⿰弓扁一、或作二彆・⿱折弓・⿰矢扁一。〔詩、小雅、采薇、象弭魚服、箋〕弭、弓反末彆者。〔釋文〕彆、埤蒼云、弓末反戻也。❷〖現〗㋑みつける。みぬく。㋺とらへる。㋩破れる。㋥萎える。枯れる。

【彆拗】1 ヘツアウ たがふ。そむく。あらそひもとる。争ふ。〔水滸傳、六十回〕遮莫怎地要三去走二一遭一、宋江那裏彆拗得住、晁蓋引レ兵渡レ水去了。

【彆裂】2 pieh^4 lieh^4 破裂する。

【彆寶的】3 pieh^4 pao^3 tê 物の外面を見て其の中に何があるかをいひあてる人。

【⿰弓渠】 9860 キョ ゴ 〔玉篇〕巨魚切 〖魚〗

❶**弓力のつよいさま。**〔玉篇〕⿰弓渠、弓力強皃。❷**ゆはず。**〔五音集韻〕⿰弓渠、弓弰也。

【彇】 9861 セウ 〔集韻〕先彫切 〖蕭〗

ゆはず。或は⿰弓蕭(**4−9895**)に作り、通じて簫(**8−26560**)に作る。〔廣韻〕彇、弓弭。〔集韻〕彇、弓弭頭也、或作レ⿰弓蕭、通作レ簫。

【⿰弓曾】 9862 サウ ジヤウ 〔集韻〕鋤耕切 〖庚〗

つるおと。〔集韻〕⿰弓曾、弓弦聲。

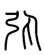
【⿰弓朁】 9863 ㈠サン ザン 〔集韻〕徂感切 〖感〗 ㈡サン 〔集韻〕祖含切 〖覃〗

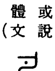
㈠㈡❶**ゆみがつよい。**〔玉篇〕⿰弓朁、弓強。❷**ゆみづる。**〔廣韻〕⿰弓朁、弓弦也。❸**弦をはる。**〔集韻〕⿰弓朁、弓張レ弦也。❹或は⿺弓疌(**4−9810**)に作る。〔廣韻〕⿰弓朁、又作レ⿺弓疌。

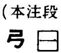
【⿰弓喬】 9864 ケウ 〔集韻〕牽幺切 〖蕭〗

ゆみをひく。〔玉篇〕⿰弓喬、引也。〔集韻〕⿰弓喬、引レ弓也。

【彈】 9865 ㈠タン ダン 〔集韻〕徒案切 〖翰〗 ㄉㄢˋ tan^4 ㈡タン ダン 〔集韻〕唐干切 〖寒〗 ㄊㄢˊ t'an^2


小篆


或體（說文）


或體（段注本）

㈠❶**はじき弓。**たまをはじき飛ばす弓。〔太平御覽、兵部、彈〕字林曰、彈、行レ丸者。〔戰國、楚策〕左挾レ彈、右攝レ丸。〔莊子、山水〕執レ彈而留レ之。〔疏〕把二彈弓一而伺候。〔說苑、善說〕彈之狀如レ弓、而以レ竹爲レ弦。❷**たま。**㋑はじきだま。はじき弓の石丸。或は⿰弓丸(**4−9720**)・弖(**4−9696**)に作る。〔說文〕彈、行丸也、从レ弓單聲、弖、或說、彈从二弓持レ丸如レ此。〔集韻〕彈、或从二弓持レ丸、亦作レ弖。〔徐陵、紫騮馬詩〕珠彈落二雙鴻一。㋺鐵砲の丸。〔明會典〕隆慶二年、改鑄二鐵彈一。〔陔餘叢考、火砲火槍〕鉛彈則嘉靖四十三年、始用、云云、火技至レ此而極、是倭人用以肆二其巧于中國一、而中國習レ之者也。❸**み。**果實。〔徐夤、荔枝詩〕朱彈星丸燦二日光一。〔程鉅夫、送三人赴二浙東木綿提擧一詩〕柿實紅垂橘彈圓。㈡❶**はじく。**たたく。指の端でうつ。〔廣雅、釋言〕彈、拼也。〔韻會〕彈、又鼓レ爪曰レ彈。〔字彙〕彈、擊也。〔楚辭、漁父〕新沐者必彈レ冠。〔史記、孟嘗君傳〕馮驩彈二其劍一而歌。❷**うつ。**いる。〔廣韻〕彈、射也。〔左氏、宣、二〕從二臺上一彈レ人、而觀二其避レ丸也。❸**ただす。**せめる。そしる。〔廣韻〕彈、糾也。〔增韻〕彈、劾也。〔周禮、地官、里宰〕趨二其耕耨一、〔注〕街彈之室。〔疏〕街彈之室者、鄭以二漢法一況レ之、漢時、在レ街置レ室、檢二彈一里之民於此一。〔後漢書、史弼傳〕州司馬不二敢彈糾一。〔曹植、與二揚脩一書〕僕嘗好三人譏二彈其文一。〔宋書、蕭惠開傳〕使三門下推二彈之一。❹**ひく。**かなでる。かきならす。〔字彙〕彈、鼓レ琴曰レ彈レ琴。〔史記、五帝紀〕舜彈二五弦之琴一、歌二南風之詩一。〔晉書、嵇康傳〕引レ琴而彈。❺**ふるへる。**〔太平御覽、兵部、彈〕字林曰、彈、拼也、拼、使二戰動一掉彈一也。〔周禮、考工記、廬人〕句兵欲レ無レ彈。〔注〕彈、謂レ掉也。❻或は⿰弓丸(**4−9720**)に作る。〔集韻〕彈、或从レ丸。

〖名乘〗 タダ。

〖參考〗 殫(**6−16581**)は別字。

【彈壓】1 ダンアツ 蹴りふみつける。又、ただしおさへる。そしりおさへる。又、權力を以て抑へつけること。〔淮南子、本經訓〕牢二籠天地一、彈二壓山川一。〔王融、三月三日曲水詩序〕彈二壓山川一。〔注〕向曰、彈壓、猶二蹴蹋一也。〔唐書、柳中郢傳〕輦轂之下、彈壓爲レ先、郡邑之治、本二惠養一。〔宋史、林栗傳〕師闇不レ能二彈壓一、縱二其至レ此。〔六部成語、兵部、彈壓、注解〕壓制管轄之意。

【彈違】2 ダンヰ 道にそむいたのをただす。〔晉書、應詹傳〕擧レ善彈レ違斷截。〔孫逖、授二許王瓘太子詹事王暐守同州刺史一制〕彈二違是屬一、宜レ肅二事於來朝一。

【彈緯】3 ダンヰ 張つてある絃をひく。絃樂器を彈奏する。彈徽(13)を見よ。〔楚辭、劉向、九歎、愍命〕破二伯牙之號鍾一兮、挾二人箏一而彈レ緯。〔注〕緯、張絃也、云云、急張二其弦一而彈レ之也。〔補注〕文選注引下挾二秦箏一而彈レ徽上。

【彈隱】4 ダンイン 遼、蕭普達(**9−32012**‥515)の字。

【彈雨】5 ダンウ 彈丸の烈しく飛來するのを雨の降り注ぐに譬へていふ語。雨の如く飛び來る彈丸。彈の雨。

【彈界】6 tan^4 chieh^4 着彈距離。彈の到達する限界。

【彈劾】7 ダンガイ 官吏の罪をしらべて上に告げる。〔北史、魏收傳〕南臺將レ加二彈劾一、賴二尚書辛雄一爲二言於中尉綦儁一乃解。〔唐書、百官志三〕凡有二彈劾一、御史以白二大夫一。〔金史、雷淵傳〕拜二監察御史一、言二五事稱旨一、又彈劾不レ避二權貴一。

【彈劾上奏案】8 ダンガイジヤウソウアン 議會が、國務大臣の責任を彈劾して上奏する議案。

【彈汗】9 ダンカン 山名。山西省大同縣の東北。〔讀史方輿紀要、山西、大同府、大同縣〕彈汗山、在二府東北一、東漢桓帝時、鮮卑檀石槐、立二庭於彈汗山歠仇水上一。

【彈棊】10 ダンキ 遊戲の名。中の凸起した局盤に二人が對し、黑白の棊子六個或は八個を持ち、雙方、盤の隅に一個を置き、指で彈いて敵の碁子にあて、中れば其の碁子を取り、中らねば相手に取られ、早く盡きた方を負とする。彈碁を見よ。〔後漢書、梁冀傳〕能二挽滿・彈棊・格五・六博・蹴鞠・意錢之戲一。〔注〕藝經曰、彈棊、兩人對レ局、白黑棊各六枚、先列レ棊相當、更先彈也、其局以レ石爲レ之。〔徐廣、彈棊經〕彈棊、二人對レ局、黑白各六枚、先列レ棊相當、下呼レ上擊レ之。〔傅玄、彈棊序〕漢成帝好二蹴鞠一、勞二人體一、非二至尊所レ御、因二其體一而作二彈棊之戲一、起レ自二漢代一矣。〔柳宗元、序レ棊〕本局隆二其中一而規焉、其下方以直、置二棋二十有四一、貴者半賤者半、貴曰レ上、賤曰レ下、咸自二第一一至二十二一、下者二乃敵レ一、用二朱墨一以別焉。〔酉陽雜俎、續集、貶誤〕世說云、彈棊起レ自二魏室粧奩戲一也、典論云、予於二他戲弄之事一少レ所レ喜、唯彈棊略盡二其巧一、京師有二馬合鄉侯東方世安張公子一、恨不下與二數子一對上、不レ起二於魏室一明矣、今彈棊用二棊二十四一、以レ色別二貴賤一、棊絕二後一豆一、座右方云、白墨各六棊、依二六博棊形一、頗似二枕狀一、又魏戲法、先立二一棊於局中一、鬭二

餘者㆒、思白黑圍㆓繞之㆒、十八籌成㆑都。

【彈碁】11 ダンキ 彈棊に同じ。〔魏文帝、與㆓梁朝歌令吳質㆒書〕彈碁閒設、終以㆓六博㆒。〔注〕善曰、藝經曰、碁正彈法、二人對㆑局、白黑碁各六枚、先列㆑碁相當、更先控㆓三彈㆒不㆑得、各去控㆓一碁㆒、先補㆑角。世說曰、彈碁出㆓魏宮內㆒、帝以㆓巾角㆒拂㆓碁子㆒也。〔事物紀原、博弈嬉戲部、彈碁〕西京雜記曰、漢成帝好㆓蹴鞠㆒、羣臣以爲、勞㆑體非㆓至尊所㆒㆑宜、帝曰、朕好㆑之、可㆘擇㆓似而不㆒㆑勞者㆒奏㆖、劉向作㆓彈碁㆒以獻、傅玄彈碁賦序曰、漢成帝好㆓蹴鞠㆒、勞㆓人體㆒非㆓至尊所㆒㆑御、因㆓其體㆒而作㆓彈碁之戲㆒、起㆑自㆓漢代㆒矣、宋臨川王義慶著㆓世說㆒、以爲、彈碁始㆑自㆓魏宮裝奩戲㆒、文帝於㆓此伎㆒特妙、用㆓手巾角㆒以拂㆑碁、帝客又能低㆑頭以㆓葛冠巾角㆒拂㆑碁、妙逾㆓於帝㆒、酉陽雜俎曰、彈碁起㆑自㆓魏室粧奩戲㆒也、典論曰、予於㆓他戲弄㆒、少㆑所㆑喜、唯彈碁略盡㆓其巧㆒、京師有㆓馬合鄉侯東方安世張公子㆒、恨不㆘與㆓數子㆒對㆖、起㆓於魏室㆒明矣、二說非也、今世尙或有㆓其法㆒、而爲㆑之者亦少。

【彈機】12 ダンキ はじきばね。ばね。發條。

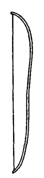
【彈徽】13 ダンキ ことをひく。徽はこといと。彈緯(3)を見よ。〔潘岳、笙賦〕況齊瑟與㆓秦箏㆒、〔注〕善曰、楚辭曰、挾㆓秦箏㆒而彈㆑徽。

【彈議】14 ダンギ せめそしつて議する。又、せめそしりの論議。せめそしり。〔顏氏家訓、風操〕乃儒雅之罪人、彈議所㆑當㆑加也。

【彈糾】15 ダンキウ 罪をただす。彈劾。糾彈。〔後漢書、史弼傳〕州司馬不㆓敢彈糾㆒。

【彈詰】16 ダンキツ 過をただしなじる。指彈して難詰する。〔蘇轍、罷提㆓擧太平宮㆒欲㆔還㆓居潁川㆒詩〕閉㆑門便㆓衰病㆒、杜㆑口謝㆓彈詰㆒。

【彈弓】17 ダンキユウ ㊀ゆるづるをならす。〔唐書、百官志四上〕晨夜有㆓行人㆒必問、不㆑應則彈㆑弓而嚮㆑之、復不㆑應則旁射、又不㆑應則射㆑之。㊁はじきゆみ。彈丸を飛ばす弓。〔元史、順帝紀〕禁㆓彈弓弩箭袖箭㆒。〔山西通志〕溫徽、字世美、介休人、嫻㆓於彈弓㆒、流賊圍㆑城、徽發㆓三彈㆒、而中㆓三賊之目㆒、賊解去。〔水滸傳、五十二回〕將㆓引閒漢三二十人㆒、手執㆓彈弓川弩吹筒氣毬粘竿樂器㆒、城外遊翫了。㊂綿をうつてやはらかくする弓のやうな具。わたゆみ。〔農桑通訣〕彈弓、以㆑竹爲㆑之、長可㆓四尺許㆒、上截頗長而彎、下截稍短而勁、控以㆓繩弦㆒、用彈㆓棉花㆒、如㆘彈㆓氈毛㆒法㆖、務使㆓結者開、實者虛㆒。



㊂木綿彈弓（三才圖會）

【彈琴】18 ダンキン ことをひく。琴をかなでる。〔禮、檀弓上〕孔子既祥五日、彈㆑琴而不㆑成㆑聲。〔戰國、齊策〕臨淄甚富而實、其民無㆘不㆓吹㆑竽鼓㆑瑟、擊㆑筑彈㆑琴、鬭㆑雞走㆑犬、六博蹹鞠㆒者㆖。〔史記、蘇秦傳〕其民無㆑不㆓吹㆑竽鼓㆑瑟彈㆑琴擊㆒㆑筑。〔韓詩外傳、二〕雖㆑居㆓蓬戶之中㆒、彈㆑琴以詠㆓先王之風㆒。〔向秀、思舊賦〕顧㆓日影㆒而彈㆑琴。〔王維、竹里館詩〕獨坐㆓幽篁裏㆒、彈㆑琴復長嘯。

【彈花】19 tʻan^2 hua^1 綿を打つ。彈弓の㊂を見よ。

【彈窩】20 ダンクワ 水浸によつて表面に圓く穴のあいた石。彈子窩(38)に同じ。〔太湖石志〕石生㆓水中㆒者良、歲久波濤衝激成㆓嵌空㆒、石面鱗鱗作㆑靨、名曰㆓彈窩㆒、亦水痕也、扣㆑之鏗然、聲如㆑磬。

【彈簧】22 tʻan^2 huang^2 發條。ばね。スプリング。

【彈冠】23 ダンクワン ㊀冠をはじいて塵を拂ふ。世の汙を受けない喩。〔史記、屈原傳〕新沐者必彈㆑冠、新浴者必振㆑衣。〔韓詩外傳、一〕新沐者必彈㆑冠、新浴者必振㆑衣。㊁出仕の準備に冠の塵をはらふ。君のお召しを待つ。御前に出る用意をする。〔漢書、王吉傳〕王吉、字子陽、與㆓貢禹㆒友、世稱、王陽在㆑位、貢公彈㆑冠、言㆓其取舍同㆒也。〔注〕師古曰、彈㆑冠者、且㆓入仕㆒也。〔後漢書、李固傳〕彈㆑冠振㆑衣、樂㆑欲㆑爲㆑用。〔魏志、楊俊傳〕自㆓初彈㆒㆑冠、所㆑歷垂㆑化。〔王維、酌㆑酒與㆓裴迪㆒詩〕白首相知猶按㆑劍、朱門先達笑㆓彈冠㆒。

【彈冠以待㆑薦】24 ダンクワンシテモッテススメヲマツ 漢の貢禹は親友の王吉が位にあつた時、己も出仕しようとして冠の塵を拂つてお召しを待つた故事。轉じて、友と進退を同じうするをいふ。彈冠の㊁を見よ。〔故事成語考、朋友賓主〕王陽在㆑位、貢禹彈㆑冠以待㆑薦。

【彈丸】25 ダングワン ㊀はじき飛ばせて鳥雀を取るに用ひるたま。はじきだま。〔說苑、正諫〕不㆑知㆔彈丸在㆓其下㆒也。〔漢書、五行志中之下〕大如㆓彈丸㆒。〔晉書、天文志上〕是以知㆔天體圓如㆓彈丸㆒。㊁せまい土地の形容。彈丸墨子・彈丸之地を見よ。㊂山名。廣西省桂林縣の東。〔水經、灕水注〕彈丸山有㆓湧泉㆒、奔流衝激、山嶕及溪中有㆑石若㆑丸、自然珠圓、狀彈丸矣、故山水卽名焉。㊃鐵砲のたま。てつぱうだま。

【彈丸雨注】26 ダングワンウチユウ 彈丸が雨の注ぐやうに烈しく來ること。彈丸雨飛。

【彈丸黑子】27 ダングワンコクシ はじき丸とほくろ。土地の極めてせまい喩。〔庾信、哀江南賦〕地惟黑子、城猶㆓彈丸㆒。〔日本外史、新田氏前記、楠氏論〕故子孫能守㆓其遺訓㆒、護㆓正統天子於彈丸黑子之地㆒。

【彈丸黑痣】28 ダングワンコクシ 彈丸黑子に同じ。〔名臣言行錄、趙普〕帝曰、吾欲㆑下㆓太原㆒、普默然久㆑之曰、非㆓臣所㆒㆑知也、帝問㆓其故㆒、普曰、太原當㆓西北二邊㆒、使㆓一擧而下㆒、則二邊之患、我獨當㆑之、何不㆕姑留以俟㆔削㆓平諸國㆒、則彈丸黑痣之地、將㆑無㆑所㆑逃、帝笑曰、吾意正如㆑此、特試㆑卿耳。

【彈丸之地】29 ダングワンノチ はじきだまのやうな極めてせまい土地をいふ。〔戰國、趙策〕誠不㆑知㆓秦力之所㆒㆑至、此彈丸之地、猶不㆑予也。〔史記、虞卿傳〕趙郝曰、虞卿誠能盡㆓秦力之所㆒㆑至乎、誠知㆓秦力之所㆒㆑不㆑能㆑進、此彈丸之地弗㆑予、令㆓秦來年復攻㆒㆑王、王得㆘無㆑割㆓其內㆒而媾㆖乎。

【彈鋏】30 ダンケフ 窮乏の境遇に居て希望する所ある意に用ひる。孟嘗君の客馮諼(驩)が其の劍の鋏をたたきながら歌つて自分の希望を諷し訴へた故事。〔戰國、齊策〕齊人有㆓馮諼者㆒、貧乏不㆑能㆓自存㆒、使㆔人屬㆓孟嘗君㆒、願㆔寄㆓食門下㆒、孟嘗君曰、客何好、曰、客無㆑好也、曰、客何能、曰、客無㆑能也、孟嘗君笑而受㆑之曰、諾、左右以、君賤㆑之也、食以㆓草具㆒、居有㆑頃、倚㆑柱彈㆓其劍㆒歌曰、長鋏歸來乎、食無㆑魚、左右以告、孟嘗君曰、食㆑之、比㆓門下之魚客㆒、居有㆑頃、復彈㆓其鋏㆒歌曰、長鋏歸來乎、出無㆑車、左右皆笑㆑之以告、孟嘗君曰、爲㆑之駕、比㆓門下之車客㆒、於㆑是乘㆓其車㆒、揭㆓其劍㆒、過㆓其友㆒曰、孟嘗君客㆑我、後有㆑頃、復彈㆓其劍鋏㆒曰、長鋏歸來乎、無㆓以爲㆒㆑家、左右皆惡㆑之、以爲㆓貪而不㆒㆑知㆑足、孟嘗君問、馮公有㆑親乎、對曰、有㆓老母㆒、孟嘗君使㆘人給㆓其食用㆒、無㆖使㆑乏、於㆑是馮諼不㆓復歌㆒。〔陶弘景、答㆓趙英才㆒書〕復懶㆓彈鋏求㆒㆑通。〔駱賓王、上㆓張司馬㆒啓〕薛邑聞㆑歌、揖㆓馮諼于彈鋏㆒、夷門命㆑駕、顧㆓侯嬴于抱關㆒。〔釋常談〕諷㆓主人㆒覓㆑食、謂㆓之彈鋏㆒。

【彈劍】31 ダンケン 彈鋏に同じ。〔史記、孟嘗君傳〕客復彈㆑劍而歌曰、長鋏歸來乎、出無㆑輿、孟嘗君遷㆓之代舍㆒、出入乘㆓輿車㆒矣。〔蘇轍、次㆔韻王適食㆓茅栗㆒詩〕故國霜蓬如㆓盌大㆒、夜來彈㆑劍似㆓馮驩㆒。

【彈絃】32 ダンケン 琴瑟の類をひく。〔漢書、地理志下〕女子彈㆑絃跕㆑躧。〔左思、蜀都賦〕巴姬彈㆑絃、漢女擊㆑節。

【彈孔】33 ダンコウ ㊀たまをこめるあな。㊁彈丸でうち拔いた孔。彈痕。

【彈骨】34 ダンコツ 胡人盟約の法。酒を人の頭骨中に入れて飮み、盟ひをすること。〔淮南子、齊俗訓〕故胡人彈㆑骨、越人嚙㆑臂、中國歃㆑血也、所㆑由各異、其於㆑信一也。〔注〕胡人之盟約、置㆓酒人頭骨中㆒、飮以相詛、刻㆑臂出㆑血、殺㆑牲歃㆑血、相與爲㆑信。

【彈箏】35 ダンサウ ㊀ことをひく。〔戰國、秦策〕夫擊㆑甕叩㆑缻、彈㆑箏搏㆑髀、歌呼嗚嗚、快㆓耳目㆒者、眞秦之聲也。〔史記、李斯傳〕退㆓彈箏㆒而取㆓昭虞㆒。㊁峽の名。甘肅省平涼縣の西。後魏の永熙三年、宇文泰が杜朔周を據らしめたところ。水聲が箏の音に似てゐるので名づけた。〔元和志〕涇水南流徑㆓都盧山㆒、山路之中、常如㆓彈箏之聲㆒、行旅因謂㆓之彈箏峽㆒。

【彈子】36 ダンシ ㊀船を牽くつな。〔齊東野語、舟人稱謂有㆑據〕余生㆓長澤國㆒、每聞㆘舟子呼㆓造帆㆒曰㆑歡、以㆓牽船之索㆒曰㆗彈子㆖、云云、意謂吾諺耳、云云、而鍾會呼㆓捉船索㆒爲㆓百丈㆒、趙氏註云、百丈者、牽㆓船篾㆒、內地謂㆓之宣㆒、音彈、云云、是知㆓方言俗語皆有㆒㆑所㆑據。㊁たま。彈丸。〔洞微志〕有㆓術志㆒、于㆓腕閒㆒出㆓彈子二丸㆒、皆五色、叱令㆑變、卽化㆓雙燕㆒、飛騰上下。㊂tan^4 tzŭ 球戲。

【彈子渦】37 ダンシクワ 彈子窩に同じ。〔蘇軾、文登蓬萊閣下、石壁千丈、爲㆓海浪所㆒㆑戰、時有㆓碎裂㆒、淘灑歲久、皆圓熟可㆑愛、土人謂、此彈子渦也云云詩〕。〔札樸〕蓬萊閣下、海中有㆓白石㆒、大者如㆓鴿

卵一、小如二雀卵一、人多取舖レ地砌レ壁、用レ之不レ盡、卽東坡所レ云土人謂二之彈子渦一也。

〖彈子窩〗38（ダンシクワ ダンシワ） 風浪に洗はれて縱横に紋理を生じた石。彈窩。〔杜綰、雲林石譜〕太湖石產二洞庭水中一、紋理縱横、籠絡而遍、多二坳坎一、蓋因二風浪中一激成、謂二之彈子窩一。

〖彈子石〗39 ダンシセキ 地名。四川省江北縣の城外。

〖彈子蛇〗40 ダンシダ 石彈に似た毒蛇の一種。〔閩雜記〕彈子蛇最毒、漳泉海灘上、夏日暴雨後、常有レ之、形如二石彈大一、子如二鴨蛋一、兩頭有二細竅一、周圍五色彩紋、或不レ知而拾、得二人氣一、則竅中迸二出首尾一、齧レ人立死。

〖彈子檯〗41 tan^{4} tzŭ t'ai^{2} 玉突臺。

【彈指】42 ダンシ ❶つまはじきする。食指の爪先を親指の腹にあててはじく。指彈。〔舊唐書、敬暉傳〕暉每椎レ牀嗟惋、或彈レ指出レ血。❷［佛］㋑指を一度はじく時間。極めて短い時間。〔觀無量壽經〕隨二從佛後一、如二彈指頃一。〔戒疏、二下〕僧祇云、二十念爲レ瞬、二十瞬爲二彈指一。〔翻譯名義集〕二十瞬爲二一彈指一。〔宣和遺事、前集下〕窗外日光彈指過、蓆前花影座間移。㋺(甲)許諾の意をあらはす。〔增一阿含經〕如來許請、或默然、或儼頭、或彈指。(乙)歡喜の意をあらはす。〔法華經、神力品〕一時謦欬、俱共彈指。〔法華文句、十〕彈指者、隨喜也。(丙)警告の意をあらはす。〔法華義疏、十二〕爲レ令二覺悟一、是故彈指。

〖彈指頃〗43 ダンシノケイ 指をはじく間。極めて短い時間。〔觀無量壽經〕如二彈指頃一、卽生二彼國一。〔曹學佺、除夕詩〕半百已過彈指頃、尙留殘燭照二黃昏一。

【彈絲】44 ダンシ 絃を張つた樂器をひく。彈絃。〔江總、宴樂脩堂應令詩〕彈レ絲命二琴瑟一、吹レ竹動二笙簧一。

【彈詞】45 ダンシ 韻語中に故事を多く讀みこみ、樂器にあはせて唱はせるやうにしたもの。〔曲海〕倭袍・珍珠塔・三笑姻緣、皆彈詞也。

【彈事】46 ダンジ ❶人を彈刻すること。〔南史、王淮之傳〕淮之嘗作二五言詩一、范泰嘲レ之、卿唯解二彈事一耳。〔魏書、孫惠蔚傳〕崔光以二惠蔚書一呈二宰輔一、乃召二惠蔚與二邢巒一庭二議得失一、尙書令王肅又助レ巒、而巒理終屈、彈事遂寢。❷文體の名。文選に彈事の門あり、彈刻の章疏を輯む。彈奏(72)の❷を見よ。〔文心彫龍、奏啓〕後之彈事、迭相斟酌。〔文體明辯、奏疏〕又按劾之奏、別稱二彈事一。

【彈搊】47 ダンシウ 絃をひくこと。〔剪燈餘話、至正妓人行〕塗抹伊誰識二阿婆一、彈搊競自矜二纖手一。

【彈瑟】48 ダンシツ おほごとをひく。〔孔子家語、曲禮公西赤問〕入彈レ瑟以散レ情。〔王建、白紵歌〕青娥彈瑟白紵舞。

【彈射】49 ダンシヤ ❶はじきうつ。たまを發して射ること。〔漢書、宣帝紀〕彈二射飛鳥一。〔賈島、黃鵠下二太液池一詩〕太液無二彈射一、靈禽翅不レ垂。〔陸龜蒙、練瀆詩〕彈射盡二高鳥一、杯觥醉二潛魚一。❷言を以て他人の缺點を指摘する。〔蜀志、孟光傳〕孟光曰、吾好二直言一、無レ所二回避一、每彈二射利病一、爲二世人所二譏嫌一。〔晉書、五行志上〕吳之風俗、相驅以レ急、言論彈射、以二刻薄一相尙。〔崔顥、孟門行〕本擬レ報二君恩一、如何反彈射。

【彈邪】50 ダンジヤ よこしまな者をとがめただす。〔魏志、陶謙傳、注〕旌レ善以興レ化、彈レ邪以矯レ俗。

【彈唱】51 t'an^{2} ch'ang^{4} 彈き歌ふ。

【彈章】52 ダンシヤウ 人を彈劾する文章。彈事。

【彈雀】53 ダンジヤク 雀を射る。〔莊子、讓王〕今且有レ人二於此一、以二隨侯之珠一、彈二千仞之雀一、世必笑レ之。〔論衡、書解〕蛢彈レ雀則失レ鶴。〔張正見、艶歌行〕調レ鷹向二新市一、彈レ雀往二睢陽一。

【彈手】54 テヒキ 琴・三味線などを彈く人。又、彈くに巧な人。

【彈準】55 ダンジユン はかりただす。〔福惠全書、蒞任部、親查閱〕逐レ平彈準、紋足不レ少。「と。

【彈初】56 ソヒキメ 初めて琴や三味線などを彈くこと。

【彈正】57 ダンセイ ❶惡い事をただす。〔後漢書、仲長統傳〕至レ如二近世外戚宦豎一、請託不レ行、意氣不レ滿、立能陷二人於不測之禍一、惡可レ得二彈正者一哉。❷ダンジヤウ 彈正臺の官吏。卽ち彈正尹・彈正弼・彈正忠・彈正疏などの總稱。〔公式令〕凡彈正、別勅令三權檢二校餘官一者、不レ得三仍知二彈正事一。〔考課令〕訪察嚴明、糺擧必當、爲二彈正之最一。

〖彈正尹〗58 ダンジヤウノカミ 令制、彈正臺の長官。唐名は御史大夫。〔職原抄〕彈正臺、尹一人、唐名、御史大夫。

〖彈正疏〗59 ダンジヤウノサクワン 令制、彈正臺の主典。唐名は御史錄事。〔職原抄〕彈正臺、疏、大少、唐名、御史錄事。

〖彈正臺〗60 ダンジヤウダイ 官司の名。❶飛鳥朝よりあつたが大寶令で職制が定まる。內外の非違を糺彈し風俗の肅清を掌る。親王・左右大臣を彈劾することを得、其の彈劾は太政官を經ず直ちに奏問す。尹・弼・忠・疏以下の職員あり、奈良朝に一時糺政臺と改めたが間もなく復舊す。平安朝に至り、其の職權は檢非違使に移り、其の存在は有名無實となつた。ただすのつかさ。唐名は御史臺・霜臺・憲臺。〔續日本紀、二〕大寶元年十一月丁丑、令三彈正臺巡二察畿內一。〔職員令〕彈正臺、尹一人、掌下肅二清風俗一、彈二奏內外非違一事上、弼一人大忠一人、掌下巡二察內外一、糺中彈非違上、少忠二人、掌同二大忠一、大疏一人少疏一人、巡察十人、掌下巡二察內外一、糺中彈非違上。〔職原抄〕彈正臺、唐名、御史臺、又云二霜臺一、又云二憲臺一。❷明治二年五月設置し、非違を糺彈することを掌る官廳。令制と同名の職員を置く。後、屢〻改革あり、同四年七月廢し、事務を司法省に移した。

〖彈正忠〗61 ダンジヤウノチユウ 令制、彈正臺の判官。大少あり。唐名は侍御史。〔職原抄〕彈正臺、忠、大少、唐名、侍御史。

〖彈正弼〗62 ダンジヤウノヒツ 令制、彈正臺の次官。唐名は御史中丞。〔續日本紀、十五〕天平十五年六月丁酉、外、從五位下紀朝臣男楫、爲二彈正弼一。

〖彈正少忠〗63 ダンジヤウノセウチユウ 令制、彈正臺の判官の下位。〔職員令、一〕彈正臺、尹一人、云云、少忠二人、掌同二大忠一。

〖彈正少弼〗64 ダンジヤウノセウヒツ 令制、彈正臺の次官。唐名は御史中丞。〔職原抄〕彈正臺、少弼一人、唐名、御史中丞。

〖彈正大忠〗65 ダンジヤウノダイチユウ 令制、彈正臺の判官の上位。〔職員令、一〕彈正臺、尹一人、云云、大忠一人。

〖彈正大弼〗66 ダンジヤウノダイヒツ 令制、彈正臺の次官の上位。唐名は御史中丞。〔職原抄〕彈正臺、大弼一人、唐名、御史中丞。

【彈性】67 ダンセイ 外部から壓力を加へられた時、之をはねかへす性質。

〖彈性體〗68 ダンセイタイ 彈性のある物體。特に護謨のやうに彈性の強い物體をいふ。

〖彈性護謨〗69 ダンセイゴム 彈性のあるゴム。

【彈舌】70 ダンゼツ 口に唱へ念ずること。〔李洞、送三三藏歸二西天國一詩〕十萬里程多少磧、沙中彈舌授二降龍一。〔自注〕奘公彈舌念二梵語心經一、以授二流沙之龍一。〔廼賢、鐵鉢盂詩〕山僧偶彈舌、引得老龍蟠。

【彈儉】71 ダンセン 屁理窟をいふ。又、屁理窟。道理に合はぬ議論。〔方言、七〕皮傳・彈儉、強也、秦・晉、言レ非二其事一、謂二之皮傳一、東齊・陳・宋・江淮之間、曰二彈儉一。〔注〕謂二強語一也、音僉。

【彈奏】72 ダンソウ ❶事をただして上に申上げる。彈劾。〔晉書、劉隗傳〕隗之彈奏、不レ畏二彊禦一、皆此類也。〔唐書、溫造傳〕授二侍御史一、知二彈奏一。〔六部成語訂正、吏部、彈奏、注解〕參劾也、言レ如三以レ手彈二擊之一也、古人或謂二之抨擊一。❷文體の名。一に彈文といひ、又、彈事ともいふ。彈劾の上奏文で、或は權臣の罪過を繩し、或は貴戚の邪侈を糺して天子の裁決を促すもの。其の起源は漢にあり、王尊の劾二奏丞相衡等一文、翟方進の劾二奏陳咸一文等があり、皆奏といふ。文選には彈事の目で、任昉の奏二彈曹景宗一文、奏二彈劉整一文、及び沈約の奏二彈王源一文を載す。❸琴・ピアノなどをかなでる。

【彈兌】73 ダンダ 兩替する。銀の重量をはかる。〔六部成語、戶部、彈兌、注解〕稱レ銀也、凡稱レ銀、必勝二天平一、彈二正高下一如レ一、故曰二彈兌一。

【彈腿】74 ダンタイ 拳法の名。潭腿(**7**－**18271**··27)を見よ。

【彈道】75 ダンダウ 發射された彈丸の空中を通る路。

【彈治】76 ダンチ ただしなほす。惡弊を正してよく治める。〔漢書、張敞傳〕梁國大都、吏民凋敝、且當下以二柱後惠文一彈中治之上耳。〔宋史、杜莘老傳〕內侍張去爲取二御馬院西兵二百一、髡二其項一、都人異レ之、口語籍籍、莘老彈治。

【彈黜】77 ダンチユツ そしりしりぞける。〔風俗通、過譽〕不三卽彈二黜姦佞一、而須二於萬人之中一、乃暴二引之一、是爲二陷君一。〔晉書、李重傳〕在職三年、彈二黜四縣一。

【彈塵】78 t'an² ch'ên² 煤掃。

【彈的】79（ダンテキ） 樂器を扱ふ藝妓をいふ。〔訓蒙字會〕俗呼㆓作樂之妓㆒曰㆓彈的㆒。

【彈鑷】80（ダンデフ） 理髮師などが鑷などを持つて鳴らしながら步くこと。鑷は鋏・毛拔などの類。〔黃庭堅、陳留市隱詩〕彈鑷送㆓飛鴻㆒。〔日貫齊塗說〕山谷陳留市隱刀鑷工一首、末句云、彈鑷送㆓飛鴻㆒、余幼年所㆑見、凡業㆓是工㆒者、皆手持㆓大鑷㆒、彈㆑之作㆑聲、今則絕㆑響矣、始知㆓彈鑷乃古㆒也、村野人名曰㆓喚子㆒。

【彈塗】81（ダント） 魚の名。一名、闌胡。形はかじかに似て短い。よくはね跳ぶのでこの名がある。めくらはぜ。とびはぜ。〔寧波府志〕彈塗、一名闌胡、形似㆓小鰍㆒而短、以㆔其彈㆓跳於塗㆒、故云。

【彈抨】82（ダンハウ） 彈劾(7)に同じ。〔唐書、陽嶠傳〕楊再思素與㆑嶠善、知㆓其意不㆑樂㆓彈抨事㆒。

【彈拍】83（ダンパク） はじきうつ。琴などをかき鳴らす。〔梅堯臣、聽㆓張令彈㆑琴詩〕彈拍未㆑終脂駕速。

【彈駁】84（ダンバク） 彈劾(7)に同じ。〔魏書、李冏傳〕性鯁烈、敢直言、常彈㆓駁公卿㆒、無㆑所㆓回避㆒。

【彈撥】85 t'an² po¹ 三味線類のばち。

【彈文】86（ダンブン） 彈奏(72)の❷を見よ。

【彈墨】87（ダンボク） ❶人を彈劾する文章。彈事(46)に同じ。〔宋史、趙鼎傳〕鼎上言 薦擧之人、除命甫下、彈墨已行、臣日待㆓宸衷㆒、所㆑陳已艱難、況在㆓萬里之外㆒乎。❷t'an² mo⁴ 大工などが墨をつけること。

〖彈墨線〗88 t'an² mo⁴ hsien⁴ すみなは。

【彈綿】89 t'an² mien² 綿を打つ。彈弓(17)の❷を見よ。

〖彈綿花〗90 t'an² mien² hua¹ 綿を打つてやはらかくする。彈花。

〖彈綿匠〗91 t'an² mien² chiang⁴ 綿打工。

【彈葯】92（ダンヤク） 彈丸(25)の❶に同じ。

【彈藥】93（ダンヤク） 鐵砲のたまと發射するくすり。彈丸と硝藥。又、たまぐすり。火藥。〔賴山陽、前兵兒謠〕北客能來何以酬、彈丸硝藥是膳羞。

【彈力】94（ダンリヨク） はじく力。はねかへす力。反撥力。〔酉陽雜俎、詭習〕張芬曾爲㆓韋南康親㆒隨㆓行軍㆒、曲藝過㆑人、力擧㆓七尺碑㆒、定㆓雙輪水磑㆒、常於㆓福感寺㆒趯㆑鞠、高及㆓半塔㆒、彈力五斗。

【彈條秤】95 t'an² t'iao² ch'êng⁴ ぜんまい秤。

【彈尾類】96（ダンビルイ） 昆蟲類の一。眼は一對の單眼、翅がなく、長い尾で地上をはじいて飛躍する。

【見㆑彈求㆓鴞炙㆒】97（ダンヲミテクワウシヤヲモトム） 彈丸を見て、直ちに鴞のあぶり肉を求める。早計の喩。〔莊子、齊物論〕且女亦大早計、見㆑卵而求㆓時夜㆒、見㆑彈而求㆓鴞炙㆒。

【執㆑彈而招㆑鳥】98（ダンヲトリテトリヲマネク） 鳥を射落すはじき弓を持つて鳥を呼びよせようとする。目的達成に反する手段をとる喩。〔淮南子、說山訓〕執㆑彈而招㆑鳥、揮㆑棁而呼㆑狗。

【⿰弓番】9866 ハン
⿰弓蕃(4-9882)に同じ。〔集韻〕⿰弓蕃、或省。

【彉】9867 クヮク 〔集韻〕忽郭切 藥

小篆
❶弩を張る。〔說文〕彉、滿㆑弩也、从㆑弓黃聲、讀若㆑郭。〔段注〕滿㆑弩者、張而滿㆑之、或作㆓弩滿㆒、非也。〔釋名、釋兵〕彉、張也。〔孫子、兵勢〕勢如㆓彉弩㆒。❷或は彍(4-9881)に作る。〔集韻〕彉、或作㆑彍。❸通じて擴(5-12895)に作る。〔集韻〕彉、通作㆑擴。

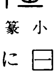
十三畫

【⿲弓西弓】9868 ヒツ
弼(4-9826)の古字。〔說文〕⿲弓西弓、古文弼如㆑此。

【弻】9869 ヒツ
弼(4-9826)に同じ。〔篇海類編〕弻、同㆑弼。

【⿰弓䍃】9870 エウ
⿰弓繇(4-9896)に同じ。〔集韻〕⿰弓繇、或从㆓二弓㆒。

【⿱辟弓】9871 ヘイ バイ 〔集韻〕蒲計切 霽
わな。あみ。〔集韻〕⿱辟弓、弶也。

【彊】9872
㊀キヤウ ガウ 〔集韻〕渠良切 くㄧㄤˊ 陽 ch'iang²
㊁キヤウ ガウ 〔集韻〕巨兩切 くㄧㄤˇ 養 ch'iang³
㊂キヤウ カウ 〔集韻〕居亮切 ㄐㄧㄤˋ 漾 chiang⁴

小篆
㊀❶つよい弓。或は弜(4-9725)に作る。〔說文〕彊、弓有㆑力也、从㆑弓畺聲。〔集韻〕彊、或作㆑弜。〔史記、絳侯世家〕材官引彊。〔注〕索隱曰、能引㆓彊弓㆒官、如㆓今挽彊司馬㆒也。❷つよい。勍(2-2370)に通ず。〔說文通訓定聲〕彊、叚借爲㆑勍。㋑すこやか。〔廣韻〕彊、健也。〔易、乾〕君子以自彊不㆑息。〔疏〕健者、強壯之名。〔呂覽、審時〕其米多沃而食㆑之彊。〔注〕彊、有㆓勢力㆒也。㋺さかん。〔增韻〕彊、壯盛也。〔書、皐陶謨〕彊而義。〔傳〕無㆑所㆓屈撓㆒也。〔詩、周頌、載芟〕侯彊侯以。㋩力がある。勢がある。〔左氏、昭、五〕羊舌四族、皆彊家也。〔太玄經、疑〕疑彊昭。〔注〕彊、彊梁也。㊁あらい。〔爾雅、釋言〕彊、暴也。〔注〕彊梁、淩暴。㋭かたい。〔玉篇〕彊、堅也。〔管子、地員〕赤壚歷彊肥。〔注〕彊、堅也。㋬かつ。まさる。すぐれる。〔集韻〕彊、一曰、勝也。〔國語、晉語一〕天彊㆓其毒㆒。❸霸者。霸となる。〔呂覽、悔過〕若㆑是而擊、可㆓大彊㆒。〔注〕彊、霸也。❹あたる。〔爾雅、釋詁〕彊、當也。〔注〕彊者、好與㆑物相當値。❺髮あぶらの類。〔釋名、釋首飾〕彊、其性凝強、以制㆓服亂髮㆒也。❻相伴ふさま。彊彊(24)を見よ。❼くにざかひ。畺(7-21895)に同じ。疆(7-21961)に通ず。〔集韻〕畺、說文、界也、或作㆓疆・彊㆒。〔說文通訓定聲〕彊、叚借爲㆑疆。〔左氏、襄、二十四〕楚薳啓㆑彊。〔國語、楚語上〕啓㆑疆。❽姜(3-6205)に通ず。〔詩、鄘風、鶉之奔奔〕鵲之彊彊。〔禮、表記〕鵲之姜姜。❾強(4-9815)に通ず。〔莊子、則陽、推而強㆑之、釋文〕強、字亦作㆑彊。❿姓。〔通志、氏族略〕彊氏、望出㆔丹陽與㆓扶風㆒、姓苑云、丹陽有㆓彊氏㆒。

㊁❶つとめる。強(4-9815)に同じ。〔集韻〕強、勉也、或从㆑畺。〔國語、楚語下〕彊忍㆓不義㆒。〔注〕彊、彊力也。〔淮南子、脩務訓〕功可㆓彊成㆒。〔注〕彊、勉也。❷せまる。勥(2-2425)に通ず。〔說文、彊、段注〕段借爲㆓勥迫之勥㆒。❸しひる。しひて。むりに。〔正字通〕彊、牽彊、假合也、又、自是不㆑肯資㆑人曰㆑彊、又、人不㆓我然㆒而抑㆑之使㆑然、亦曰㆑彊。〔孟子、滕文公下〕彊而後可。❹たすける。〔太玄經、彊〕莫㆑不㆓彊梁㆒。〔注〕彊、助也。〔荀子、解蔽〕輔㆑賢之謂㆑彊。

㊂❶こはる。かたまる。畺(7-21895)に同じ。〔廣韻〕彊、屍勁硬也。〔集韻〕畺、死不㆑朽也、或从㆑弓。❷つよい。果敢。〔逸周書、謚法解〕猛以彊果曰㆑威。〔注〕彊、甚㆓於剛㆒也。〔韓非子、喩老〕自勝之謂㆑彊。

名乘 タケ。コハ。

參考 ❶彊(7-21961)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕彊、彊弱之彊、與㆑強同、从㆑弓。疆、封疆之

彊、加レ土。㊁熟語は強(4－9815)を併せ見よ。

【彊陰】1 キヤウイン 縣名。漢、置く。故治は山西省大同縣の西北。〔漢書、地理志下〕鴈門郡、縣十四、彊陰。

【彊要】2 キヤウエウ しひてもとめる。むりじひ。強要。〔史記、留侯世家〕呂澤彊要曰、爲レ我畫計。

【彊家】3 キヤウカ 勢力の強い家。〔左氏、昭、五〕羊舌四族、皆彊家也。

【彊亢】4 キヤウカウ つよ過ぎる。自ら恃み過ぎる。強亢(4－9815‥13)に同じ。

【彊伉】5 キヤウカウ わるづよい。強く反抗する。〔資治通鑑、漢紀〕(獻帝、建安二十四年)臣光曰、云云、以二魏武之暴戾彊伉一、加有三大二功於天下一、其蓄二無レ君之心一久矣。

【彊行】6 キヤウカウ しひて行く。また、むりに行ふ。強行。〔史記、李斯傳〕處二卑賤之位一而計不レ爲者、此禽鹿視レ肉、人面而能彊行者耳。

【彊梗】7 キヤウカウ てづよい。てごはい。強梗。〔商子、賞刑〕彼能戰者、踐二富貴之門一、彊梗焉。

【彊項】8 キヤウカウ 剛直をいふ。強項(4－9815‥18)を見よ。

【彊學】9 キヤウガク つとめ學ぶこと。強學。〔荀子、性惡〕今人之性、固無二禮義一、故彊學而求レ有レ之也。〔法言、修身〕君子彊學而力行。

【彊姦】10 キヤウカン 暴力を用ひて婦女を手ごめにすること。強姦(4－9815‥26)に同じ。〔魏書、景穆十二王下、安定王休、願平傳〕彊二姦妻妹於妻母之側一。

【彊悍】11 キヤウカン つよくてあらい。〔唐書、五行志二〕火爲二盛陽一、陽氣彊悍、故聖人制レ禮以節レ之。〔柳貫、渡レ湖宿二廡子港口一詩〕舊聞萑蒲閒、弱肉飽二彊悍一。

【彊奸】12 キヤウカン 強姦(4－9815‥26)に同じ。〔墨子、號令〕諸以レ衆彊凌、及彊二奸人婦女一者、皆斷二諸城內一。

【彊幹】13 キヤウカン みきをつよくする。本をつよくする。中央の權力をつよくする。強幹。〔史記、漢興以來諸侯年表序〕彊二本幹一弱二枝葉一之勢也。〔後漢書、盧植傳〕簡二其良能一、隨レ用爵レ之、彊レ幹弱レ枝之道也。〔班固、西都賦〕彊レ幹弱レ枝、隆二上都一而觀二萬國一。

【彊鉗】14 キヤウケン しひて人を服し、その口をふさぐこと。〔荀子、解蔽〕彊鉗而利口。〔注〕彊、彊服レ人、鉗、鉗二人口一也。

【彊諫】15 キヤウカン つよくいさめる。爭つて諫める。強諫。〔史記、伍子胥傳〕子胥專愎彊諫、沮二毀用一レ事。〔論衡、禍虛〕不レ能二以彊諫一、故致二此禍一。

【彊檗】16 キヤウカン 強くかたい。又、かたい地。〔周禮、地官、草人〕彊檗用レ蕡。〔注〕彊檗、強堅者。〔孫詒讓正義〕月令季夏可三以美二土彊一、注云、彊、強檗之地、又左傳襄二十五年、數二彊潦一、孔疏云、賈逵以レ彊爲二彊檗磽确之地一、蓋土強則磽确、賈・鄭義亦同。〔禮、月令〕可三以美二土彊一。〔注〕土彊、強檗之地。

【彊顏】17 キヤウガン 顏の皮が厚い。あつかましいこと。恥知らず。強顏。〔漢書、司馬遷傳〕及二已至一レ此、言不レ辱者、所謂彊顏耳、曷足レ貴乎。

【彊忌】18 キヤウキ 強情で人を忌みにくむ。〔後漢書、何皇后紀〕后、性彊忌、後宮莫レ不二震懾一。

【彊記】19 キヤウキ よく記憶する。物覺えがよい。彊識。強記。〔史記、淳于髡傳〕博聞彊記、學無レ所レ主。〔魏志、王粲傳〕其彊記默識如レ此。

【彊鬼】20 キヤウキ つよい鬼。強鬼(4－9815‥39)を見よ。〔通俗篇、神鬼、彊鬼〕禮記、郊特牲、鄕人禓、鄭注、禓、彊鬼、周禮司巫疏、引レ之云、彼逐二疫厲一之事、故以レ禓爲二彊鬼一。

【彊起】21 キヤウキ 希望しない者をしひて仕へしめる。強起。〔史記、李牧傳〕乃復彊起使レ將レ兵。

【彊毅】22 キヤウキ つよい。つよくたけだけしい。強毅。〔國語、晉語九〕彊毅果敢則賢。〔漢書、五行志中之下〕朱博、爲レ人彊毅、多二權謀一。

【彊求】23 キヤウキウ しひて求める。強求。〔呂覽、貴當〕名號大顯、不レ可二彊求一、必繇二其道一。

【彊彊】24 キヤウキヤウ 雌雄離れず相伴ふさま。一説に、爭ひ惡むさま。〔詩、鄘風、鶉之奔奔〕鶉之奔奔、鵲之彊彊。〔箋〕奔奔・彊彊、言下其居有二常匹一、飛則相隨之貌上。〔疏〕序云、鶉鵲之不レ若、則以二奔奔彊彊一爲二相匹之善一、故爲三居有二常匹一、定本・集註皆云、居有二常匹一、則爲レ俱者誤也、表記引レ此、證三君命逆、則臣有二逆命一、故註云、彊彊・奔奔、爭鬬惡貌也。

【彊弓】25 キヤウキユウ つよいゆみ。強弓。〔史記、蘇秦傳〕天下之彊弓勁弩、皆從レ韓出。

【彊梧】26 キヤウギヨ 十干の丁の異名。丁の歲の異稱。強圉(4－9815‥46)の㊀に同じ。〔史記、歷書〕彊梧、大荒落、四年。〔注〕索隱曰、彊梧、丁也。

【彊禦】27 キヤウギヨ わる強くて善をしりぞける。又、武勇の勝れてゐるのをいふ。又、其の者。強禦。彊梁。〔詩、大雅、烝民〕不レ侮二矜寡一、不レ畏二彊禦一。〔疏〕不三畏二懼於彊梁禦レ善之人一。〔左氏、昭、元〕且夫以二千乘一去二其國一、彊禦已甚。〔公羊、莊、十二〕仇牧可レ謂レ不レ畏二彊禦一矣。〔漢書、蓋寬饒傳〕絜白公正、不レ畏二彊禦一。〔後漢書、第五種傳〕不レ畏二彊禦一。

【彊近】28 キヤウキン 勢力があり關係が近い。強近。〔李密、陳情表〕外無二朞功彊近之親一、內無二應門五尺之僮一。

【彊禁】29 キヤウキン しひて禁ずる。無理にとめる。〔嵇康、養生論〕知二名位之傷一レ德、故忽而不レ營、非二欲而彊禁一也。

【彊屈】30 キヤウクツ しひて屈服せしめる。〔魏志、張範傳〕範稱レ疾不レ往、術不二彊屈一也。

【彊華】31 キヤウクワ 後漢の人。光武が長安に居つた時、光武と同舍生となる。嘗て關中より赤伏符を奉じて鄗に至る。羣臣よつて受命符となす。〔後漢書、一上〕。

【彊獷】32 キヤウクワウ つよくあらあらしい。強獷(4－9815‥51)に同じ。

【彊猾】33 キヤウクワツ つよくわるがしこい。〔徐陵、陳武帝下二州郡一璽書〕愛惠以撫二孤貧一、威刑以禦二彊猾一。

【彊勸】34 キヤウクワン しひてすすめる。無理に勸める。〔漢書、王式傳〕我本不レ欲レ來、諸生彊勸、我竟爲二豎子所一レ辱。〔唐書、元結傳〕逮レ長不レ仕、年過二四十一、親婭彊二勸之一、再調二春陵丞一。

【彊霓】35 キヤウゲイ 宋の人。金から宋に歸す。官は環慶路統制軍馬・沿邊安撫使。隆興の閒、金兵が環州を圍むや、之を防いで死す。〔宋史、四百五十二〕。

【彊閱】36 キヤウゲキ 激しくせめぐ。〔法言、重黎〕若秦楚彊閱、震撲胎藉、三正播二其虐於黎苗一。

【彊桀】37 キヤウケツ すぐれて強い。又、勢が強くて人を害ひやぶる。強くて人をそこなふ。〔崔伯易、感山賦〕彊桀相師。

【彊劫】38 キヤウケフ せまりおどす。強劫。〔史記、項羽紀〕彭越彊二劫外黃一、外黃恐。

【彊健】39 キヤウケン つよい。すこやか。強健。〔魏志、華陀傳〕卿今彊健、我欲レ死、何忍下無二急去一レ藥、以待中不詳上。〔宋書、張暢傳論〕大將雖レ不レ須二筋力一、軍中猶宜二彊健一。〔杜甫、曲行陪二鄭八丈南史一飲詩〕丈人才力猶彊健、豈傍二青門一學レ種レ瓜。〔金史、夾谷清臣傳〕臣母年八十三矣、別十年、幸頗彊健。

【彊固】40 キヤウコ つよくかたい。堅固。強固。〔荀子、王霸〕彊固榮辱、在二於取一レ相矣。〔史記、禮書〕治辨之極也、彊固之本也。〔吳志、陸凱傳〕器幹彊固。〔權德輿、沛國武公神道碑文〕伉直純厚、彊固博洽。

【彊胡】41 キヤウコ つよいえびす。〔司馬遷、報二任少卿一書〕垂二餌虎口一、橫挑二彊胡一。〔李陵、答二蘇武一書〕出二大漢之外一、入二彊胡之域一。

【彊悟】42 キヤウゴ さとりのよいこと。〔唐書、宦者上、高力士傳〕武后以二其彊悟一、敕給二事左右一。

【彊寇】43 キヤウコウ 優勢なあだ。強いあだ。〔魏志、劉曄傳、注〕外有二彊寇一、衆心不レ安。〔杜甫、八哀詩、贈二司空王公司禮一詩〕短小精悍姿、屹然彊寇敵。

【彊國】44 キヤウコク ㊀つよい國。強邦。強國。〔史記、張儀傳〕凡天下彊國、非レ秦而楚、非レ楚而秦。〔史記、匈奴傳〕當二是之時一、秦晉爲二彊國一。〔賈誼、過秦論〕宰二割天下一、分二裂河山一、彊國請レ伏、弱國入朝。㊁荀子の篇名。

【彊很】45 キヤウコン 氣が強くて人の言ふことを聽かない。〔南史、王誕傳〕王藻雖二復彊很、頗經學一、涉二戲笑之事一、遂爲二寃魂一。〔宋史、趙安易傳〕安易略涉二書傳一、性彊很、好レ談二世務一、而疎濶不レ可レ用。

【彊最】46 キヤウサイ 最もつよい。第一の強者。〔管子、霸言〕諸侯合則彊、孤則弱、驥之材而百馬伐レ之、驥必罷、彊最一伐而天下共レ之、國必弱矣。

【彊濟】47 キヤウサイ つとめて事を爲す。〔北史、尉遲

運傳〕運少彊濟、志在レ立レ功。〔南史、毛惠素傳〕惠素吏才彊濟、而臨レ事清刻。

【彊壯】48キャウサウ つよくさかん。働き盛り。壯健。強壯。〔史記、趙世家〕李兌謂二肥義一曰、公子章、彊壯而志驕。〔漢書、蘇武傳〕武留二匈奴一凡十九歲、始以二彊壯一出、及レ還鬚髮盡白。

【彊索】49キャウサク しひてもとめる。〔國語、越語下〕彊索者不祥。

【彊殺】50キャウサツ 無理に殺す。〔漢書、高帝紀上〕又彊二殺秦隆王子嬰一、罪五也。

【彊仕】51キャウシ 四十歲をいふ。強仕(4－9815‥76)の㊀に同じ。〔後漢書、胡廣傳〕甘奇顯用、年乖二彊仕一。〔注〕禮記曰、四十彊而仕。

【彊市】52キャウシ 押賣りする。又、不當の利をはかること。強市。〔唐書、張易之傳〕昌宗彊市、罪當レ贖。

【彊死】53キャウシ 天命でない死。橫死。強死。〔論衡、死僞〕子產言曰、彊死者能爲レ鬼、何謂。

【彊志】54キャウシ よくおぼえる。物覺えがよい。志は識。強志。彊記。〔國語、晉語七〕彊志而用レ命、守レ業而不レ淫。〔注〕志、識也。〔荀子、解蔽〕博聞彊志、不レ合二王制一、君子賤レ之。〔史記、屈原傳〕博聞彊志。〔漢書、劉歆傳〕父子俱好レ古、博見彊志。

【彊識】56キャウシ 記憶力がよい。彊志。彊記に同じ。〔枚乘、七發〕世之君子、博覽彊識。〔魏志、文帝紀評〕博聞彊識。

【彊執】57キャウシツ 強くて志を守る。〔漢書、鄭吉傳〕吉爲レ人彊執、習二外國事一。〔注〕彊力而有レ執レ志者。

【彊澀】58キャウジフ 文章のむつかしく堅苦しい形容。〔唐書、徐彥伯傳〕晚爲レ文、稍彊澀。

【彊借】59キャウシャク しひて借りうけること。〔南史、王洪軌傳〕或彊二借百姓麥地一。〔朱熹、戲答三楊廷秀問二訊離騷一詩〕不レ甘二彊借一二三峯面、且下爲二靈均一作中杜衡上。

【彊弱】60キャウジャク つよいこととよわいこと。強弱。〔列子、周穆王〕性剛悍、彊弱相藉。〔孫子、兵勢〕彊弱形也。〔史記、范雎蔡澤傳贊〕垂二功於天下一者、固彊弱之勢異也。

【彊孰】61キャウジュク 無理に成熟させる。溫室で人工を加へて成熟させる。〔資治通鑑、漢紀〕〔安帝、永初六年〕詔曰、凡供二薦新味一、多非二其節一、或鬱養彊孰。〔注〕謂下爲二土室一蓄レ火、使二土氣蒸鬱一而養レ之、彊使中成孰上也。

【彊勝】62キャウショウ つよくて勝つ。〔荀子、彊國〕自二四五萬一而往者、彊勝。

【彊食】63キャウショク つとめて飲食をとつて身體を養ふ。自愛。強食。〔晏子、諫、上〕錄錄彊食。〔史記、衡山王賜傳〕孝與二王御者一姧、無采與レ奴姧、王彊食。

〖彊食自愛〗64キャウショクジアイ 努めて飲食をとつて身體を大切にすること。〔越絕書、越絕外傳記吳王占夢〕汝彊食自愛、愼勿二相忘一。

〖彊食靡角〗65キャウショクビカク 爭ひ食ひ力を競ふ。〔列子、說符〕彊食靡角、勝者爲レ制。

【彊臣】66キャウシン 勢力ある家臣。強臣。〔史記、仲尼弟子傳〕是君上無二彊臣之敵一、下無二民人之過一。〔干寶、晉紀總論〕羇二於彊臣一。〔漢書、五行志中之下〕菽、草之彊者、天戒若曰、加二誅於彊臣一。

【彊秦】66′キャウシン 強大な秦國。〔史記、蘇秦傳〕夫挾二彊秦之勢一、以內劫二其主一。

【彊靭】67キャウジン しなやかで強い。強靭。〔詩、鄭風、將仲子、無レ折二我樹檀一、傳〕檀、彊靭之木。

【彊正】68キャウセイ 勉めはげんで心が正しいこと。つとめて正しくする。〔晉書、程衛傳〕衛少立二操行一、彊正方嚴。

【彊盛】69キャウセイ つよく盛ん。強盛。〔左氏、定、十二〕將レ墮二三都一、〔注〕彊盛將レ爲二國害一、故仲由欲レ毀レ之。〔漢書、五行志下之上〕臣下彊盛者、將二動爲レ害。〔魏志、田豫傳〕文帝初、北狄彊盛、侵二擾邊塞一。

【彊勢】70キャウセイ つよい勢。〔後漢書、酷吏傳序〕揣二挫彊勢一、摧二勒公卿一、碎二裂頭腦一而不レ顧、亦爲レ壯也。〔魏志、毋丘儉傳、注〕欲下擅二彊勢一、以逞中姦心上。

【彊請】71キャウセイ しひてこふ。無理に求める。強請。〔漢書、高帝紀上〕漢王病レ創臥、張良彊二請漢王一、起行勞レ軍、以安二士卒一、毋レ令二楚乘レ勝。〔漢書、灌夫傳〕孟年老、潁陰侯彊二請之一。

【彊說】72キャウセツ しひて說く。一所懸命に說く。又、無理にこじつけて說く。又、其の言說。〔呂覽、精通〕豈必彊說乎哉。〔潛夫論、釋難〕吾聞問レ陰對レ陽、謂二之彊說一、論レ西詰レ東、謂二之彊難一。

【彊川】73キャウセン 川の名。甘肅臨潭縣の西。

【彊宗】74キャウソウ 強く盛な家柄。勢力ある宗族。強宗。〔漢書、趙廣漢傳〕其後彊宗大族、家家結爲二仇讎一。〔後漢書、周擧傳〕察二彊宗大姦一、以レ時禽討。

【彊族】75キャウソク 勢力あるやから。勢力ある家柄。〔史記、太史公自序〕徙二彊族一、都二關中一、和二約匈奴一、明二朝廷禮一、次二宗廟儀法一。〔吳志、呂範傳〕住二海西一、與二彊族嚴白虎一交通。〔南史、薛安都傳〕安都、河東汾陰人也、世爲二彊族一、族姓有二三千家一。

【彊對】76キャウタイ つよいあひて。強敵。勁敵。〔吳志、陸遜傳〕劉備、天下知名、曹操所レ憚、今在二境界一、此彊對也。〔吳志、陸抗傳、注〕今臣所レ統千里、受レ敵四處、外禦二彊對一、內懷二百蠻一。

【彊大】77キャウダイ つよく大きい。強大。〔荀子、王制〕伺二彊大之閒一。〔呂覽、名類〕國雖二彊大者一、曷爲レ攻矣。〔管子、重令〕德不レ加二於弱小一、威不レ信二於彊大一。〔史記、匈奴傳〕匈奴最彊大、盡服二從北夷一。〔漢書、諸侯王表序〕彊大弗二之敢傾一。

【彊奪】78キャウダツ しひてうばふ。無理にうばふ。強奪。〔史記、廉頗傳〕秦王度レ之、終不レ可二彊奪一、遂許、齋五日。

【彊斷】79キャウダン 無理にさばいて罪人とすること。〔漢書、于定國傳〕于公曰、孝婦不レ當レ死、前太守彊斷之咎、黨在レ是乎。

【彊致】80キャウチ 無理に連れて來る。〔資治通鑑、漢紀〕姑內自循省、而不三敢彊二致其人一。

【彊聽】81キャウチャウ 我慢してききいれる。〔史記、留侯世家〕留侯不レ得レ已、彊聽而食。

【彊中】82キャウチュウ むりに中に入つて世話をする。〔潛夫論、斷訟〕貞潔寡婦、云云、或私二其兒子一、則彊中欺二嫁處一、迫脅遣二送人一。

【彊直】83キャウチョク つよく正しい。強直。〔左氏、襄、三十〕子產曰、豈爲二我徒一、國之禍難、誰知レ所レ敝、或主二彊直一、難乃不レ生。〔注〕言二能彊能直一、則可レ弭レ難。

【彊敵】84キャウテキ つよいてき。大敵。強敵。〔管子、禁藏〕外無二彊敵之患一也。〔新書、壹通〕以二藩國一資二彊敵一。

【彊弩】85キャウド つよいしゆみ。強弩。〔史記、秦始皇紀〕長戟不レ刺、彊弩不レ射。〔史記、韓王信傳〕請令下彊弩傳二兩矢一外嚮上。〔漢書、韓安國傳〕譬猶下以二彊弩一射中且レ潰之癰上也。

【彊弩都尉】86キャウドトヰ 漢の官名。〔史記、匈奴傳〕使三彊弩都尉路博德築二居延澤上一。

〖彊弩末勢不レ能レ穿二魯縞一〗87キャウドノマツセイロカウヲウガツアタハズ 強い大弓から發射した矢も、其の力の盡きる遠くまで至つた時には、最早、魯國に產する薄絹を貫く程の力もない。英雄も衰へては何事も成し得ぬ喩。彊は一に強に作り、末勢は末力ともいふ。〔史記、韓長孺傳〕且彊弩之極矢、不レ能レ穿二魯縞一、衝風之末力、不レ能レ漂二鴻毛一、非二初不レ勁、末力衰也。〔漢書、韓安國傳〕衝風之衰、不レ能レ起二毛羽一、彊弩之末力、不レ能レ入二魯縞一。〔新序、善謀下〕夫衝風之衰也、不レ能レ起二毛羽一、彊弩之末力、不レ能レ入二魯縞一。〔蜀志、諸葛亮傳〕此所謂彊弩之末勢、不レ能レ穿二魯縞一者也。

【彊慝】88キャウトク 極くわるい。又、其の者。〔後漢書、和殤帝紀贊〕孝和沈烈、率二由前則一、王赫自中、賜二命彊慝一。〔注〕慝、惡也。

【彊忍】89キャウニン 忍び難いことを強ひて忍ぶ。〔史記、留侯世家〕爲二其老一、彊忍下取レ履。

【彊伯】90キャウハ つよいはたがしら。〔史記、天官書贊〕秦楚吳越、夷狄也、爲二彊伯一。

【彊霸】91キャウハ 強いはたがしらとなる。又、強いはたがしらにする。彊伯。〔史記、張儀傳〕聽二吾計一、可三以彊二霸天下一。〔史記、太史公自序〕鞅去レ衞適レ秦、能明二其術一、彊二霸孝公一。〔漢書、鄒陽傳〕晉文親二其讎一、彊二伯諸侯一。

【彊暴】92キャウバウ つよくてあらい。彊虣。〔荀子、議兵〕彊暴之國、莫レ不二趨使一。〔史記、田儋傳〕項王彊暴。〔吳志、張紘傳〕忽二彊暴之虜一。

【彊虣】93キャウバウ つよくてあらい。虣は暴の古字。〔鹽鐵論、詔聖〕法者、形罰也、所三以禁二彊虣一也。〔王褒、洞簫賦〕剛毅彊虣、反二仁恩一兮。〔注〕善曰、字書曰、虣、古文暴字也。

【彊半】94キャウハン 半ば過ぎ。大半。過半。強半(4－9815‥182)に同じ。

【彊飯】95キャウハン つとめて食量を增す。身體を大切にする義。強飯(4－9815‥183)に同じ。

【彊藩】96キャウハン つよい藩鎭。有力な諸侯。〔唐書、

憲宗紀贊〕彊藩悍將、皆欲ニ悔レ過而效レ順。

【彊敏】98 キヤウビン つよくてすばしこい。〔五代史、韋震傳〕爲レ人彊敏有ニ口辯一。〔宋史、劉綜傳〕綜彊敏有ニ吏材一。

【彊富】99 キヤウフ つよくて富む。富強。〔吳志、駱統傳〕臣聞、君レ國者、以レ據ニ彊土一爲ニ彊富一、制ニ威福一爲ニ尊貴一。

【彊服】100 キヤウフク いやいやながらしたがふ。力づくでしたがはせられる。〔漢書、韓信傳〕百姓不レ附、特劫ニ于威一彊服耳。

【彊兵】101 キヤウヘイ ❶兵力を充實すること。〔戰國、策〕司馬錯曰、欲レ富レ國者、務レ廣ニ其地一、欲レ彊レ兵者、務レ富ニ其民一。❷つよい軍隊。〔史記、蘇秦傳〕安能使下之步ニ行千里一、卻中齊之彊兵上。

【彊勉】102 キヤウベン つとめはげむ。強勉。〔漢書、董仲舒傳〕彊勉學問、則聞見博而知益明、彊勉行レ道、則德日起、而大有レ功。

【彊輔】103 キヤウホ つよいたすけ。強輔。〔漢書、李尋傳〕賢友彊輔。〔楚辭、東方朔、七諫、初放〕言語訥譅兮、又無ニ彊輔一。

【彊本】104 キヤウホン 本をつよくする。〔漢書、婁敬傳〕此彊レ本弱レ末之術也。

【彊本節用】105 キヤウホンセツヨウ 農業を重んじ、費用を節約する。本は農業。〔荀子、天論〕彊レ本而節レ用、則天不レ能レ貧。〔注〕本、謂ニ農桑一。〔史記、太史公自序〕要曰、彊レ本節レ用、則人給家足之道也、此墨子之所レ長、雖ニ百家一弗レ能レ廢也。

【彊密】106 キヤウミツ かたくしつかりしてゐること。〔南史、邵陵攜王綸傳〕蕃屏盤固、宗鎭彊密。

【彊明】107 キヤウメイ 氣強くて賢明なこと。〔唐書、德宗紀贊〕德宗猜忌刻薄、以ニ彊明一自任、恥レ見レ屈ニ於正論一、而忘レ受ニ欺於姦諛一。

【彊陽】108 キヤウヤウ 運り動くこと。強陽。〔莊子、知北遊〕天地之彊陽氣也。〔注〕彊陽、猶ニ運動一耳。

【彊勇】109 キヤウユウ つよくいさましい。強勇。〔後漢書、夫餘國傳〕其人麤大、彊勇而謹厚、不レ爲ニ寇鈔一。〔魏志、東夷、夫餘傳〕性彊勇謹厚。〔晉書、夫餘國傳〕其人彊勇、會同揖讓之儀、有レ似ニ中國一。

【彊予】110 キヤウヨ 餘力あるものに田を予へることをいふ。〔周禮、地官、遂人〕以ニ彊予一任レ甿。〔注〕彊予、謂下民有ニ餘力一復予中之田上。

【彊立】111 キヤウリフ キヤウリツ 確固として獨立し惑はぬこと。強立(4−9815··211)に同じ。〔逸周書、官人解〕彊立而無レ私。

【彊良】112 キヤウリヤウ 不吉を食ふ十二神の一。強梁(4−9815··213)の❸に同じ。〔山海經、大荒北經〕大荒之中有レ山、名曰ニ北極天櫃一、云云、又有レ神、銜レ蛇操レ蛇、其狀虎首人身、四蹏長肘、名曰ニ彊良一。〔郝懿行箋疏〕懿行案、後漢書禮儀志、說ニ十二神一云、強梁・祖明、共食ニ磔死寄生一、疑、強梁卽彊良、古字通也。

【彊梁】113 キヤウリヤウ ❶頑固で氣力の盛なこと。強梁(4−9815··213)の❶に同じ。〔後漢書、蘇竟傳〕良醫不レ能レ救レ無レ命、彊梁不レ能ニ與レ天爭一。❷力の多いこと。強梁(4−9815··213)の❷に同じ。❸複姓。〔潛夫論、姓氏志〕鄭恭叔之後爲ニ彊梁氏一。

【彊旅】114 キヤウリヨ 強い軍勢。旅は兵士の意。〔蜀志、諸葛亮傳、注〕昔世祖之創ニ迹舊基一、奮ニ羸卒數千一、摧ニ莽彊旅四十餘萬于昆陽之郊一。

【彊力】115 キヤウリヨク つよいちから。又、かたくしのぶこと。〔管子、牧民〕兵甲彊力、不レ足ニ以應レ敵。〔呂覽、離俗〕彊力忍訽。〔史記、張丞相傳〕昌爲レ人彊力。〔漢書、張騫傳〕騫爲レ人彊力、寬大信レ人。〔注〕師古曰、彊力、言三堅ニ忍於事一。

【彊而義】116 キヤウニシテギ つよくて正しい。〔史記、夏紀〕剛而實、彊而義。

【彊弗レ友】117 キヤウニシテイウナラズ つよくて從順でない。〔書、洪範〕彊弗レ友、剛克。〔蔡傳〕彊弗レ友者、彊梗弗レ順者也。

【彊以克レ弱】118 キヤウモツテジヤクニカツ つよい力でよわい者にかつ。〔左氏、昭、元〕彊以克レ弱、而安レ之、彊不義也。

【彊自取レ柱】119 キヤウハオノヅカラチユウヲトル 木が強いために、柱として用ひられること。才能が却つて身を苦しめる喩。〔荀子、勸學〕彊自取レ柱、柔自取レ束。〔注〕凡物強則以爲レ柱而任レ勞、柔則見レ束而約急、皆其自取也。

【彊者爲レ右】120 キヤウシヤイウトナル つよい者が優位となる。〔越絕書、越絕篇敍外傳記〕當時無ニ天子一、彊者爲レ右。

【彊者勝レ弱】121 キヤウシヤジヤクニカツ つよい者が弱い者にかつ。〔呂覽、謹聽〕無ニ天子一、則彊者勝レ弱。

【彊村叢書】122 キヤウソンソウシヨ 書名。民國、朱孝臧撰。唐より元に至る詞集百七十二種を集めたもの。精審の評がある。

【彊欲レ淩レ弱】123 キヤウジヤクヲシノガントホツス つよい者は弱い者を打ちまかさうとする。〔論衡、齊世〕彊欲レ淩レ弱、衆欲レ暴レ寡。

【違レ彊陵レ弱】124 キヤウヲサケジヤクヲシノグ つよいものを避けて弱いものをしのぐ。〔左氏、定、四〕違レ彊陵レ弱、非レ勇也。〔會箋〕違、避也。

【抑レ彊扶レ弱】125 キヤウヲオサヘジヤクヲタスク 強者を抑へて弱者を扶ける。〔越絕書、越絕外傳本事〕抑レ彊扶レ弱、絕レ惡反ニ之於善一。〔漢書、刑法志〕政在ニ抑レ彊扶レ弱、朝無ニ威福之臣一、邑無ニ豪桀之俠一。〔魏志、王脩傳〕爲レ治抑レ彊扶レ弱、明ニ賞罰一、百姓稱レ之。

【欲レ彊必以レ弱保レ之】126 キヤウヲホツセバカナラズジヤクヲモツテコレヲタモテ つよいことを欲するならば、常に柔弱な態度をもつて身を保て。柔弱が剛強に勝つ故にいふ。〔列子、黃帝〕欲レ剛必以レ柔守レ之、欲レ彊必以レ弱保レ之。

【彊足ニ以距レ諫智足ニ以飾レ非】127 キヤウハモツテカンヲフセグニタリチハモツテヒヲカザルニタル 其の心は強情で諫言をこばむに足り、其の奸智はすぐれて居て自己の非をつくろふに足る。〔史記、五宗世家〕彊足ニ以距レ諫、智足ニ以飾レ非。

【⿱敬弓】9873 ケイ ギヤウ 〔集韻〕渠京切 庚

ゆだめ。檠(6−15681)・⿰木敬(6−15682)に同じ。〔集韻〕⿰木敬、說文、榜也、或从レ弓。〔海篇〕⿱敬弓、正レ弓也、本作レ檠。

【彋】9874 一 クワウ ワウ 〔集韻〕乎萌切 庚 二 コ ゴ 〔集韻〕洪孤切 虞

一二 ❶とばりのひるがへるさま。弸彋。〔玉篇〕彋、弸彋、帷帳起皃。〔集韻〕彋、起皃。❷弓なり。〔集韻〕弸、弸彋、弓聲。❸弦(4−9732)に同じ。〔集韻〕弦、或作レ彋。

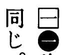
【⿰弓芻】9875 サウ 炒(7−18915)の古字。〔字彙〕⿰弓芻、古文炒字。

【⿰弓虽】9876 キヤウ ガウ 〔海篇〕渠良切 陽

すぢのさき。膙(9−29826)の譌字。〔海篇〕⿰弓虽、筋頭也。〔康熙字典〕⿰弓虽、按卽膙字之譌。

十四畫

【彌】9877 一 ビ ミ 〔集韻〕民卑切 ロ一 mi² 支 二 ビ ミ 〔集韻〕母婢切 紙 三 ゲイ 〔集韻〕研奚切 齊 四 ベイ マイ 〔集韻〕緜批切 齊


小篆

一❶ひさしい。镾(11−41195)に同じ。〔集韻〕镾、說文、久長也、通作レ彌。〔說文、镾、段注〕镾、今作レ彌、蓋用ニ弓部之⿰弓璽一代レ镾、而又省レ王也、彌行而镾廢矣。〔說文通訓定聲〕镾、按、實與レ⿱髟爾同字、今字作レ彌、蓋以レ⿰弓璽爲レ之。〔小爾雅、廣詁〕彌、久也。❷弓をゆるめる。⿰弓璽(4−9900)に同じ。〔說文通訓定聲〕⿰弓璽、字亦作レ彌。〔集韻〕彌、說文、弛レ弓也。❸をはる。をへる。とげる。〔爾雅、釋言〕彌、終也。〔集韻〕彌、一曰、終也。〔詩、大雅、卷阿〕俾三爾彌ニ爾性一。〔傳〕彌、終也。❹わたる。つらぬく。〔周禮、春官、眂祲〕七日、彌。〔注〕鄭司農

曰、彌者、白虹彌レ天也、玄謂、彌、氣貫レ日也。❺**あまねく。あまねし。**〔周禮、春官、大祝〕彌二祀社稷一禱祠。〔注〕彌、猶レ偏也。〔易、繫辭上〕故能彌二綸天地之道一。〔釋文〕彌、遍也。❻**きはめる。**〔張衡、西京賦〕態不レ可レ彌。〔注〕綜曰、彌、猶レ極也。❼**ひろい。**〔華嚴經音義、上〕彌、廣也。❽**とほい。**〔左氏、哀、二十三〕以二肥之得レ備二彌甥一也。〔注〕彌、遠也。〔張衡、西京賦〕彌望廣潒。〔注〕綜曰、彌、遠也。❾**ふかい。**〔廣雅、釋詁三〕彌、深也。❿**おほきい。**〔易、繫辭上、虞注〕彌、大也。〔太玄經、玄告〕天地彌陶、之謂二神明不レ窮。〔注〕彌、大也。⓫**みちる。みたす。**〔史記、司馬相如傳〕彌レ山跨レ谷。〔注〕正義曰、彌、滿也。⓬**いよいよ。ますます。**〔集韻〕彌、一曰、益也。〔小爾雅、廣詁〕彌、益也。〔儀禮、士冠禮記〕三加彌尊。〔注〕彌、猶レ益也。〔論語、子罕〕仰レ之彌高、鑽レ之彌堅。〔呂覽、貴生〕其虧彌甚者也。〔注〕彌、益也。⓭**おほふ。**罙(**9—28265**)に通ず。〔說文通訓定聲〕镾、叚借爲レ罙。〔司馬相如、子虛賦〕罘網彌レ山。〔注〕善曰、郭璞曰、彌、覆也。〔張衡、西京賦〕跨レ谷彌レ皐。〔注〕綜曰、彌、猶レ掩也。⓮**ぬふ。つくろふ。**襧(**10—34631′**)に通ず。〔說文通訓定聲〕镾、叚借爲レ襧。〔方言、十三〕镾、縫也。〔左氏、昭、二〕敢拜二子之彌二縫敝邑一。〔注〕彌縫、猶二補合一也。⓯**からむ。まつはる。**縻(**8—27839**)に通ず。〔說文通訓定聲〕镾、或曰、借爲レ縻。〔淮南子、原道訓〕橫レ之而彌二于四海一。〔注〕彌、猶レ絡也。⓰**威儀をたすける士。**〔逸周書、王會解〕其右泰士、臺右彌士。〔注〕泰・彌、相レ儀之士也。⓱**獸蹄の爪甲がかたくならない。**〔呂覽、明理〕有二豕生而彌一。〔注〕彌、蹄不レ甲也、於二五行傳一爲二青黑之祥一也。⓲**入る。**眯(**8—23289**)に通ず。〔說文通訓定聲〕镾、叚借爲レ眯、周禮眂祲、七日彌、注、氣貫レ日也、按、如三物入二目中一。〔左氏、宣、二〕提彌明。〔史記、吳世家〕提眯明。⓳或は弥(**4—9753**)に作る。〔集韻〕彌、或作レ弥。⓴古は𢐈(**4—9894**)に作る。〔集韻〕彌、古作レ𢐈。㉑迷(**11—38825**)に通ず。〔左氏、定、六〕彌子瑕。〔大戴禮、保傅〕迷子瑕。㉒**姓。**〔通志、氏族略、以レ字爲レ氏〕彌氏、姬姓、史記、衞公孫彌牟、彌牟孫子瑕、以二王父字一爲レ氏。

［二］❶**とめる。**安定する。或は辟(**10—38642**)に作り、通じて弭(**4—9768**)・敉(**5—13191**)に作る。〔集韻〕彌、止也、或作レ辟、通作レ弭。〔周禮、春官、小祝〕彌二烖兵一。〔注〕彌、讀曰レ敉、敉、安也。〔孫詒讓正義〕案、大祝先鄭注云、化祝、弭二災兵一也、字作レ弭、漢時通用レ弭爲レ彌、此經例用二古字一作レ彌、凡云レ彌者、並取二安息禦止之義一。❷**器具の先端。**ゆはずや衡軛などの先端。弭(**4—9768**)に通ず。〔荀子、禮論〕絲末彌龍、所二以養一レ威也。〔注〕彌、讀爲レ弭。〔史記、禮書〕鮫韅彌龍、所二以養一レ威也。〔注〕索隱曰、謂下金二飾衡軛一爲上龍。❸**をさめる。**〔漢書、揚雄傳上〕望舒彌レ轡。〔注〕師古曰、彌、斂也。❹**まねく。たれる。**擟(**5—13025**)に通ず。〔說文通訓定聲〕镾、叚借爲レ擟。〔穆天子傳、六〕彌レ旗以節レ之。〔注〕彌、猶レ低也。❺**みちる。水のみなぎるさま。**瀰(**7—18690**)に通ず。〔說文通訓定聲〕彌、叚借爲レ瀰。〔白孔六帖、六〕河水彌彌。〔詩、邶風、新臺〕河水瀰瀰。

［三］**みどりご。又、なきごゑ。又、婦人のみにくいさま。**嬭(**3—6414**)に同じ。〔集韻〕嬭、說文、嫛也、一曰、啼聲、一曰、婦人惡皃、或作レ彌。［四］**みどりご。**嫛彌。〔集韻〕彌、嫛彌、嬰兒。〔禮、雜記下〕中路嬰兒失二其母一焉、注〕嬰、猶二鷖彌一也。〔釋文〕彌、五兮反、一音迷。［邦］**いや。や。**いよいよ・ますますの意を表はす接頭語。

［名乘］イヤ。ミツ。マス。ヤス。ヒロ。マネ。

［參考］彌の原字を镾とする說、瓕とする說、古來混合して、今強ひて別ちがたい。故に兩字を併せ說いた。

【彌榮】1 イヤサカ いよいよ榮えに榮える意。萬歲の代りとして用ひられるに至つた。

【彌遠】2 ビエン いよいよ遠い。〔漢書、韋玄成傳〕歆又以爲、彌遠則彌尊、故禘爲レ重矣。〔後漢書、章帝紀〕詔曰、五經剖判、去レ聖彌遠。〔潘岳、寡婦賦〕思彌遠而逾深。

【彌澥】3 ビカイ 雜沓するさま。〔駢雅、釋詁上〕彌澥、紛沓也。〔揚雄、蜀都賦〕羅畏彌澥、蔓蔓沕沕。

【彌高】4 ビカウ ❶いよいよたかい。〔論語、子罕〕仰レ之彌高。〔後漢書、申屠蟠傳〕抗レ志彌高、所レ尙益固。❷明、邵高(**11—39343‥11′**)の字。

【彌朞】5 ビキ 滿一箇年。〔沈約、去二東陽一與二吏民一別詩〕下レ車如二昨日一、曳レ組忽彌朞。

【彌久】6 ビキウ ひさしきにわたる。長い時を經る。〔史記、孔子世家〕孔子循レ道彌久、溫溫無レ所レ試。〔史記、刺客、荊軻傳〕太傅之計、曠日彌久、心惛然、恐不レ能二須臾一。〔後漢書、律曆志論〕未レ有二書計一、曆載彌久。

【彌恭】7 ビキヨウ いよいようやうやしい。〔漢獻帝、進二魏公爵一爲二魏王一詔〕掩レ之以二謙讓一、守レ之以二彌恭一。

【彌光】8 ビクワウ いよいよひかる。〔傅亮、爲二宋公一脩二楚元王墓一教〕夫褒レ賢崇レ德、千載彌光。〔注〕向曰、彌、益也。

【彌曠】9 ビクワウ 月日を空しく過す。〔劉楨、贈二五官中郎將一詩〕自レ夏涉二玄冬一、彌曠十餘旬。〔注〕翰曰、彌、遠。〔宋之問、入二崖口一五渡寄二李適一詩〕彌曠十餘載、今來宛仍前。

【彌郡】10 イヤコホリ 姓氏。〔姓名錄抄〕。

【彌敬】11 mi^2 ching^4 誕生滿一箇月の祝に贈る祝物の包紙に書く文字。

【彌月】12 ビゲツ ❶懷胎十箇月の期を終る。滿十箇月。〔詩、魯頌、閟宮〕彌レ月不レ遲、是生二后稷一。〔箋〕終二人道十月一而生、子不二遲晚一。〔詩、大雅、生民〕誕彌二厥月一、先生如レ達。〔疏〕美二嫄之孕二后稷一、終二其孕之月一而生レ之。〔集傳〕彌、終也、終二十月之期一也。❷月をわたる。翌月に跨る。幾月も幾月も。〔韋應物、答二貢士黎逢一詩〕彌月曠不レ接、公門但驅馳。❸生後滿一箇月をいふ。

【彌堅】13 ビケン いよいよかたい。〔論語、子罕〕鑽レ之彌堅。

【彌彥】14 イヤヒコ 越後國の地名。

【彌亙】15 ビコウ ひろがりわたる。あまねくわたる。〔後漢書、馬防傳〕大起二第觀一、連閣臨レ道、彌二亙街路一。〔蜀志、蔣琬傳〕多張二旗幟一、彌亙百餘里。

【彌撒】16 ミサ ❶カトリック教會で最も重要な供犧の式。初めは聖餐式前の祝禱を意味したが、後、禮拜式、殊に其の主部の供犧式をいふ。❷彌撒式で信徒の歌ふ讚歌。

【彌士】17 ビシ 中士・下士をいふ。泰士(**6—17325‥70**)を見よ。〔逸周書、王會解〕中臺之外、其右泰士、臺右彌士。〔注〕彌、終也、云云、彌士、蓋中士・下士。

【彌之】18 ビシ 淸、鄧輔綸(**11—39630‥198**)の字。

【彌侈】19 ビシ ゆるみおごる。〔魏志、夏侯尙傳〕樸素之教、興二於本朝一、則彌侈之心、自消二於下一矣。

【彌事】20 ビジ 事をやめる。〔六部成語、刑部、彌事、注解〕息二止事端一也。

【彌日】21 ビジツ 日をわたる。日數を累ねる。幾日も幾日も。〔邊讓、章華臺賦〕冀彌二日而消一レ憂。〔曹植、與二季重一書〕雖二燕飲彌一レ日、其於二別遠會稀一、猶レ不レ盡二其勞積一也。〔南史、劉穆之傳〕言談賞笑、彌レ日亙レ時、未二嘗倦苦一、裁有二閑暇一、手自寫書。

【彌旬】22 ビジュン 十日にわたる。十日間つづく。〔杜甫、贈二王二十四侍御契一四十韻詩〕追隨不レ覺晚、欵曲動彌レ旬。

【彌生】23ヤヨヒ 陰曆三月の異名。〔海錄碎事、十三、三月〕通證云、彌生也、月令季春、是月也、生氣方盛。

【彌性】24ビセイ 宋、仲幷(**1**－**403**‥398)の字。

【彌甥】25ビセイ 甥孫。又、姉妹の孫。〔左氏、哀、二十三〕以二肥之得レ備二彌甥一也。〔注〕彌、遠也、康子父之舅氏、故稱二彌甥一。〔疏〕彌者、增益之義、故爲レ遠也、釋親云、母之昆弟爲レ舅、謂二我舅一者、吾謂二之甥一、季桓子爲二景公之甥一、景公爲二康子父之舅氏一也、桓子於二景公一爲二親甥一、故康子致二辭於景公一、自以爲二彌遠之甥一。〔會箋〕彌、自レ彼及レ此之義、前傳伍承彌縫、又彌二縫其闕一、繫辭彌二綸天地之道一、大雅誕彌二厥月一、皆同、彌甥亦隔二一閒一之名、康子是景公之甥之子、二十五年所謂從孫甥也、姉妹之子曰レ甥、姉妹之孫、是彌甥也、桓子於二景公一爲二親甥一、康子是從孫甥、故曰二彌甥一。

【彌盛】26ビセイ いよいよさかん。〔成公綏、晉四廟樂歌、正旦大會行禮歌〕於穆三皇、載レ德彌盛。〔北史、李渾傳〕伯陽之後、久而彌盛。

【彌節】27ビセツ 小安のさま。〔漢書、李廣傳〕將軍共率レ師東レ轅、彌二節白檀一。〔注〕李奇曰、彌節、少安之貌。

【彌川】28ビセン 堡の名。宋、置く。陝西省葭縣の北。〔讀史方輿紀要、陝西、延安府、葭州、神木縣〕本名二彌勒川一、宋元符二年築、東至レ河四十里、又西十五里爲二彌川堡一、地名二小紅崖一、亦是時所レ築、其南十五里、卽葭州寧河砦矣、元志、金末嘗置二彌川縣於此一、至元六年、省入二葭州一。

【彌姐】29ビソ 複姓。〔通志、氏族略〕彌姐氏、後秦冠軍大將軍彌姐婆觸、遼東侯彌姐要地、立節將軍彌姐威、後魏末都督彌姐元進、夏州酋望也、唐右領軍延州刺史彌姐長通。〔金石萃編〕北周聖母寺四面造像、後列題名中、有二姓レ此者一、王昶曰、周太祖文帝本紀、有二都督彌姐元進一。

【彌增】30ビゾウ ます。〔隋書、韋世康傳〕眼闇更劇、不レ見二細書一、足疾彌增、非レ可二趨走一。

【彌陀】31ミダ 阿彌陀如來の略。〔南史、庾詵傳〕擧室咸聞四空中唱三上行先生、已生二彌陀淨域一矣。〔盧思道、遼陽山寺願文〕願西遇二彌陀一、上征二兜率一。

〖彌陀經〗32ミダキャウ ［佛］佛說阿彌陀經の略稱。

〖彌陀名號〗33ミダノミャウガウ ［佛］阿彌陀如來が衆生濟度のために成就された名號。四字の名號と六字の名號とある。四字は「阿彌陀佛」、六字は「南無阿彌陀佛」。

【彌大】34ビダイ 金、黃久約(**12**－**47926**‥1035)の字。

【彌道】35ビダウ 經由すべき道。〔新書、壹通〕天子都二長安一、而以二淮南東南邊一爲二奉地一、彌道數千、不レ輕二致輸一。

【彌度】36ビタク 量り盡す。彌は終。〔揚雄、甘泉賦〕厥高慶而不レ可二乎彌度一。〔注〕善曰、爾雅曰、彌、終也。〔喬潭、羣玉山賦〕亭亭太虛、不レ可二彌度一。

【彌天】37ビテン ❶空に滿ちる。空一面にわたる。〔陰符經〕卷レ之、藏二于心一隱二于神一、施レ之、彌二于天一給二于地一。〔應璩、報二東海相梁季然一書〕頓二彌天之網一、收二萬仞之魚一。〔陸機、演連珠〕商飇漂レ山、不レ興二盈尺之雲一、谷風乘レ條、必降二彌天之潤一。❷志の高遠な喩。大德の喩。〔陸機、弔二魏武帝一文〕違二率土一以靜寐、戢二彌天乎一棺一。〔注〕善曰、彌天、喩二志高遠一也、尚書五行傳曰、雲起二於山一彌二於天一。

【彌渡】38ビト 縣名。民國、置く。雲南省祥雲縣の南。白巖江の東北岸。

【彌年】39ビネン 年から年にわたる。年を經る。年が長くたつ。彌久。〔後漢書、戴良傳〕擧二孝廉一不レ就、再辟二司空府一、彌年不レ到。〔晉書、陸機陸雲傳論〕蘭植二中塗一、必無二經時之翠一、桂生二幽壑一、終保二彌年之丹一。

【彌望】40ビバウ ひろく見わたす。又、遠く廣いながめ。見わたすかぎり。〔後漢書、杜篤傳〕沃野千里、原隰彌望。〔潘岳、西征賦〕黃壤千里、沃野彌望。〔宋史、劉錡傳〕彌望數十里。

〖彌望皜然〗41ビバウカウゼン みわたす限り白く見えるさま。

【彌發】42ビハツ 宋、范啓(**9**－**30834**‥28)の字。

【彌帆】43ヤホ 大船の舳の方に張る小さい帆。〔太平記、二十、奥州下向勢逢二難風一〕檣を吹き折られて彌帆にて馳する舟もあり。

【彌轡】44ビヒ たづなを斂める。〔漢書、揚雄傳上〕望舒彌レ轡。〔注〕師古曰、望舒、月御也、彌、斂也、言二天子之車斂レ轡徐行一、故假二望舒一爲レ言耳。

【彌彌】45ビビ ❶次第に增す。〔漢書、韋賢傳〕彌彌其失、岌岌其國。〔注〕應劭曰、彌彌、猶二稍稍一也、罪過滋甚也。〔後漢書、楊震傳〕方今災害發起、彌彌滋甚。❷みちひろがること。瀰瀰に同じ。瀰瀰(**7**－**18690**‥3)を見よ。

【彌靡】46ビビ 廣く散り失せる。〔淮南子、俶眞訓〕攙搶衡杓之氣、莫レ不二彌靡一。

【彌補】47ビホ 補ふ。補足する。つくろふ。

【彌封】48ビホウ 科擧の試驗に、答案の姓名の上に紙を貼り番號を記入すること。〔宋史、選擧志三〕彌封謄錄。〔夢梁錄、諸州府得解士人赴二省闈一〕所レ納卷子、徑發二下彌封一所レ封卷頭、云云、卻于二每卷上一打二號頭一、三場共二一號一。

〖彌封官〗49ビホウクワン 彌封の事を行ふ官。〔稱謂錄、外簾官、彌封官〕元史選擧志、彌封官一員、謄錄官一員、選二廉幹文資正官一充レ之。〔元史、選擧志一〕其受卷官具受二到試卷一、逐旋關二發彌封官一、將二家狀草卷一腰封用レ印。

〖彌封所〗50ビホウショ 彌封の事を行ふ役所。〔六部成語、禮部、彌封所、注解〕士子卷面、各書二姓名一、應下由二受卷所一交二彌封所一、將二其姓名一以レ紙封嚴、上蓋中圖章上、至下閱文取レ中塡二寫榜文一時上、始拆二其封一、蓋恐、士子與二主考一有二親友之誼一、先知二姓名一、未レ免レ存二偏向之意一也。

【彌縫】51ビホウ 補ひ合はす。つづりぬふ。とりつくろふ。缺點又は失敗をとりつくろふこと。とりなすこと。〔左氏、桓、五〕爲二魚麗之陳一、先レ偏後レ伍、伍承彌縫。〔左氏、僖、二十六〕桓公是以糾二合諸侯一、而謀二其不協一、彌二縫其闕一、而匡二救其災一、昭二舊職一也。〔左氏、昭、二〕敢拜三子之彌二縫敝邑一。〔注〕彌縫、猶二補合一也。〔後漢書、左雄等傳論〕彌二縫衮闕一。〔賈公彥、序周禮廢興〕其所二彌縫一、奄然如レ合二符復析一。

〖彌縫策〗52ビホウサク 失敗又は缺點を一時しのぎに取繕ふ謀。

【彌牟】53ビボウ ❶細い麻絲の名。〔通雅、布帛〕彌牟、細紵也、彌牟、言レ細也。〔唐書、地理志六〕漢州德陽郡、云云、土貢、交梭・雙紃・彌牟・紵布・衫段。❷ふせぎとどめること。〔正字通〕牟、郝敬云、彌牟、禦止塗抹之義。〔後漢書、禮儀志中〕日夏至、以二朱索一連二葷菜一、彌二牟朴蠱鍾一。❸複姓。〔姓苑〕出二衞大夫公孫彌牟之後一。

【彌猛】54ヤタケ いやましにいさみすすむ。いよいよたけるさま。躁急。矢猛。

〖彌猛心〗55ヤタケゴコロ いやましにいさみすすむ心。やたけにはやる心。勇みに勇む心。矢猛心。

【彌滿】56ビマン みちわたる。〔司空圖詩品〕精力彌滿、萬象在レ旁。

【彌漫】57ビマン ❶わたりひろがる。はびこる。徧漫。〔吳志、徐盛傳〕文帝到二廣陵一、望レ圍愕然、彌漫數百里。〔宋書、符瑞志下〕宣城宛陵廣野、蠶成レ繭、大如二雉卵一、彌二漫林谷一、年年轉盛。❷大水のさま。瀰漫。〔潘岳、西征賦〕其池則湯湯汗汗、滉瀁彌漫、浩如二河漢一。

【彌蔓】58ビマン はびこりしげる。〔後漢書、延篤傳〕遠取二諸物一、則草木之生、始二於萠芽一、終二於彌蔓一。

【彌羅】59ビラ ひろがりみちる。みちわたる。〔眞誥〕諸有二英雄之才一、彌二羅四海一、誅レ暴整レ亂、拓二平九州一、建二號帝王一、臣二妾四海一。〔范成大、白玉樓步虛詞〕梵氣彌羅融二萬象一、玉樓十二倚二晴空一。

【彌離】60ビリ 繁り蔽ふさま。蒙蘢。〔爾雅、釋詁、覭髳茀離也、注〕茀離、卽彌離、彌離、猶二蒙蘢一耳。

【彌留】61ビリウ ながびく。病の重いこと。病が久しく身に留る意。〔書、顧命〕嗚呼疾大漸、惟幾、病日臻、既彌留。〔蔡傳〕病日至、既彌甚而留連。〔王儉、褚淵碑文〕景命不レ永、大漸彌留。〔注〕銑曰、大漸彌留、謂二病甚一也。〔白居易、得甲在レ獄病久請二將レ妻入侍一判〕既軫二彌留之懼一。

【彌隆】62ビリユウ いよいよさかん。彌盛(26)に同じ。〔漢書、王吉傳〕自レ吉至レ崇、世名清廉、然材器名稱、稍不レ能レ及レ父、而祿位彌隆。

【彌龍】63ビリョウ 車の飾。車のながえの横木の末を龍首の形にしたもの。〔荀子、禮論〕寢兕・持虎・蛟韅・絲末・彌龍、所二以養一レ威也。〔注〕彌、如レ字、又讀爲レ弭、弭、末也、謂下金二飾衡軛之末一爲中龍首上也。〔史記、禮書〕寢兕持虎、鮫韅彌龍、所二以養一レ威也。〔注〕索隱曰、謂下金二飾衡軛一爲上レ龍。

【彌綸】64ビリン あまねく治める。〔易、繫辭上〕易

與二天地一準、故能彌二綸天地之道一。〔疏〕彌、謂二彌縫補合一、綸、謂二經綸牽引一、能補二合牽三引天地之道一、用二此易道一也。〔後漢書、馬融傳〕彌二綸阬澤一、皐二牢陵山一。〔李康、運命論〕行足三以應二神明一、而不レ能三彌二綸於俗一。〔注〕濟曰、彌、廣、綸、理也。

【彌歷】65 ビレキ　月日を經る。〔後漢書、周擧傳〕自二枯旱一以來、彌二歷年歲一、未レ聞二陛下改レ過之效一。

【彌勒】66 ミロク　❶〘佛〙Maitreya 昧怛履曳の訛。譯して慈氏といふ。南天竺波羅門の家に生れ、佛位を紹ぐ補處の菩薩となり、佛に先だつて入滅し、兜率天の內院に生じて、五十六億七千萬歲を經て、人間に下生して衆生を教化するといふ佛。〔法華義疏、二〕彌勒、是當來因位之人。〔大唐西域記、七〕梅呾麗耶、唐云二慈氏一、卽姓也、舊曰二彌勒一訛也。〔菩薩處胎經〕彌勒當レ知、汝復受レ記、五十六億七千萬歲、於二此樹下一成二無上等正覺一。❷布袋の異稱。〔運步色葉集〕布袋和尚。〔注〕支那散聖也、卽彌勒化身也。❸ビロク　縣名。清、置く。漢の牂牁郡の地。雲南省瀘西縣の南。縣城は南盤江の支流、瀑布河の北岸。唐宋の時、彌勒部の據つた所。〔清史稿、地理志〕雲南、廣西直隸州、縣三、彌勒。

【彌俄突】67 ビガトツ　北周、宇文震(**3－7067**··57)の「字。

【彌骨頂】68 ビコツチヤウ　遼、耶律朔古(**9－29008**··79)の「字。

【彌子瑕】69 ビシカ　春秋、衞の人。靈公の嬖大夫。衞國の法として、竊かに君車に駕するものは刖罪に處す、彌子瑕の母病むや、君命なりといつはり、君車に駕して出づ。公聞いて賢として、孝なる哉母のために刖罪を犯す、といふ。又、果園に從游して、桃を食ひて甘しとし、半を以て君に啖はしむ、公、我を愛すといふ。色衰へ愛弛み、罪を公に得るに及び、公曰く、是れ、嘗て吾が車に僞つて乘り、又、嘗て我に餘桃を啗はしむとて、其の罪を數へて之を黜く。〔左氏、定、六〕・〔韓非子、說難・內儲說上・難四〕・〔淮南子、泰族訓〕・〔新書、胎教〕・〔鹽鐵論、論儒〕・〔新序、雜事一〕・〔孔子家語、困誓〕。

【彌次馬】70 ヤジウマ ヤジンマ　強い悍馬。轉じて、人の後についてわけもなく騷ぎまはるもの。

【彌尾青】71 ビビセイ　大きい首かせ。〔北史、宋翻傳〕宋翻爲二河陰令一、縣舊有二大枷一、時人號曰二彌尾青一、未レ幾、有二內監楊小駒詣レ縣請レ事、辭色不レ遜、翻命取二尾青一鎖レ之、於レ是威振二京師一。「號。

【彌伽居士】72 ビカコジ　清、張庚(**4－9812**··107)の號。

【彌近レ理而大亂レ眞】73 イヨイヨリニチカクシテオホイニシンヲミダル　說く所が、益〻道理に合ひ、實は大いに眞理を亂して人を誤るをいふ。〔朱熹、中庸章句序〕異端之說、日新月盛、以至二於老佛之徒出一、則彌近レ理而大亂レ眞矣。

【彌偶可社句可汗】74 ミグカシヤクカカン　南北朝の時、蠕蠕の可汗。北魏の正光二年、涼州に詣つて降つたが、後叛して魏軍に擒へられた。〔魏書、一百三〕・〔北史、九十八〕。

【⿰弓⿱⺈言】9878　エウ　⿰⿱爫弓系(**4－9902**)に同じ。〔集韻〕⿰⿱爫弓系、或从二弓一。〔考正〕案、⿰⿱爫弓系、謠レ⿰⿱爫弓系、重文亦當レ作レ⿰弓⿱⺈言。

【⿲弓喜弓】9879　キ　喜(**2－3957**)の古字。〔玉篇〕⿲弓喜弓、古文喜。

【⿱義弓】9880　ギ　義(**9－28552**)に同じ。〔字彙補〕⿱義弓、同レ義。

十五畫

【彍】9881　クワク　〔集韻〕虛郭切　〘藥〙　ㄎㄨㄛˋ　k‘uo^{4}

❶**はる**。弩をひきしぼる。彉(**4－9867**)に同じ。〔玉篇〕彍、同レ彉、滿レ弩也。〔集韻〕彉、張レ弩也、或作レ彍。〔漢書、吾丘壽王傳〕十賊彍レ弩、百吏不二敢前一。〔注〕師古曰、引滿曰レ彍。❷**はしる**。**すばしこい者**。〔正字通〕彍、凡迅捷者曰レ彍。〔韓愈、送窮文〕駕レ塵彍レ風、與レ電爭レ先。

【彍騎】1 クワクキ　弓を持つ騎兵。唐代宿衞の兵。〔唐書、兵志〕蓋唐有二天下一二百餘年、而兵之大勢三變、其始盛時有二府兵一、府兵後廢而爲二彍騎一、彍騎又廢而方鎭之兵盛矣。〔王禹偁、大閲賦〕鑾兵神速、彍騎飈馳。

【彍弩】2 クワクド　弩をはる。〔孫子、兵勢〕是故善戰者、其勢險、其節短、勢如レ彍レ弩、節如レ發レ機。〔淮南子、兵略訓〕疾如レ彍レ弩。〔漢書、吾丘壽王傳〕十賊彍レ弩、百吏不二敢前一。〔李衞公問對、中〕勢如レ彍レ弩。

【⿰弓鬲】9882

〘一〙ハン ボン　〔集韻〕符袁切　〘元〙

〘二〙ヰク　〔集韻〕余六切　〘屋〙

〘三〙シユク　〔集韻〕之六切　〘屋〙

〘一〙❶**やしなふ**。生をやしなふ。〔玉篇〕⿰弓鬲、養レ生也。〔集韻〕⿰弓鬲、生育也。❷或は⿰弓番(**4－9866**)に作る。〔集韻〕⿰弓鬲、或省。〘二〙❶**やしなふ**。〘一〙の❶に同じ。〔集韻〕⿰弓鬲、生也。❷**へりくだるさま**。⿰弓鬲⿰弓鬲。〔集韻〕⿰弓鬲、⿰弓鬲⿰弓鬲、一曰、卑謙皃。〘三〙**へりくだるさま**。〘二〙の❷に同じ。通じて粥(**8－26938**)に作る。〔集韻〕⿰弓鬲、⿰弓鬲⿰弓鬲、卑謙皃、通作レ粥。

【⿰弓⿵冂㸚】9883　ヘツ ヘチ　〔啓顔錄、注〕卜結反　〘屑〙

みだれた尾。〔啓顔錄〕陳人聘レ隋、問二馬價貴賤一、答云、⿰弓薾尾燥蹄、絶無二伎使一、一錢不レ直。〔注〕⿰弓薾、卜結反。

【⿰弓⿱罒可】9884　キヤウ ギヤウ　〔篇海類編〕其上切　〘養〙

とる。〔篇海類編〕⿰弓⿱罒可、取也。

十六畫

【⿰弓薾】9885　ビ・ベツ　義未詳。〔五音篇海〕⿰弓薾、音彌、又音蔑。

【⿰弓盧】9886　ロ　玈(**7－20818**)の俗字。〔正字通〕⿰弓盧、俗玈字。

【⿰弓亶】9887　セン　饘(**12－44433**)に同じ。〔集韻〕饘、或作レ⿰弓亶。

【⿰弓煑】9888　シヨ　煑(**7－19187**)に同じ。〔字彙補〕⿰弓煑、同レ煑。

【⿲弓米弓】9889　ホツ ボチ　〔篇海類編〕蒲沒切　〘月〙

釜があふれる。〔篇海類編〕⿲弓米弓、釜溢也。

【⿱⿰目目⿰弓弓】9890　テイ　義未詳。〔字彙補〕⿱⿰目目⿰弓弓、音頂。

【⿱毒弓】9891　シ　死(**6－16365**)に同じ。〔字彙補〕⿱毒弓、同レ死。

【⿰弓芻】9892　サウ　炒(**7－18915**)に同じ。〔五音篇海〕⿰弓芻、與レ炒同。

十七畫

【⿰弓襄】9893　ジヤウ ニヤウ　〔集韻〕汝兩切　〘養〙

弓がまがる。〔集韻〕⿰弓襄、弓曲。

【⿰弓糜】 9894 ビ 彌(4－9877)の古字。〔集韻〕彌、古作㆑⿰弓糜。

【⿰弓蕭】 9895 セウ 彇(4－9861)に同じ。〔集韻〕彇、或作㆑⿰弓蕭。

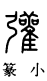
【⿰弓繇】 9896 エウ ⿰弓䌛(4－9902)の譌字。〔集韻、⿰弓繇、考正〕案、⿰弓䌛、譌㆑⿰弓繇。

【⿱䍃弓】 9897 エウ ⿰弓繇(4－9896)に同じ。〔中華大字典〕⿱䍃弓、同㆑⿰弓繇、見㆓字彙補㆒。

【⿰弓璽】 9898 ビ ⿰弓壐(4－9900)に同じ。〔康熙字典〕⿰弓壐、類篇作㆑⿰弓璽。

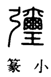
十八畫

【⿰弓雚】 9899 ㈠ケン ゲン 〔集韻〕逵員切 ［先］ ㈡ケン コン 〔集韻〕倶願切 ［願］ ㈢ケン コン 〔集韻〕苦遠切 ［阮］ ㈣カン ガン 〔集韻〕巨班切 ［刪］


小篆

㈠㈡**弓がまがる**。〔説文〕⿰弓雚、弓曲也、从㆑弓雚聲。㈢㈣**弓がまがる**。㈠に同じ。或は弓に作る。〔集韻〕⿰弓雚、弓曲謂㆓之⿰弓雚㆒、或作㆑弓。

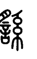
【⿰弓壐】 9900 ㈠シ 〔集韻〕想氏切 ［紙］ ㈡ビ ミ 〔集韻〕母婢切 ［紙］


小篆

㈠㈡**弓をゆるめる**。彌(4－9877)に同じ。〔説文〕⿰弓壐、弛㆑弓也、从㆑弓璽聲。〔説文通訓定聲〕⿰弓壐、字亦作㆑彌。

【⿰弓舊】 9901 キウ グ 〔集韻〕巨救切 ［宥］ **弓がつよい**。或は彄(4－9759)に作る。〔集韻〕⿰弓舊、弓強也、或作㆑彄。

【⿰弓䌛】 9902 エウ 〔集韻〕餘招切 ［蕭］

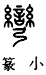

小篆

❶**弓が使ひよい**。〔説文〕⿰弓䌛、弓便利也、从㆑弓䌛聲、讀若㆑燒。〔段注〕⿰弓䌛之言、由也、所謂自由自便也。❷譌して⿰弓繇(4－9896)に作り、或は⿰弓䍃(4－9878)に作る。〔集韻〕⿰弓䌛、或从㆓二弓㆒。〔考正〕案、⿰弓䌛、譌㆑⿰弓繇、據㆓徐本㆒正、重文亦當㆑作㆑⿰弓䌛。

十九畫

【⿱䌛弓】 9903 エウ ⿰弓䌛(4－9902)に同じ。〔字彙補〕⿱䌛弓、同㆑⿰弓䌛。

【彎】 9904 ワン ヱン 〔集韻〕烏關切 ［刪］ ㄨㄢ wan¹


小篆

❶**ひく**。**はる**。矢をつがへる。〔説文〕彎、持㆑弓關㆑矢也、从㆑弓䜌聲。〔小爾雅、廣詁〕彎、引也。〔淮南子、原道訓〕彎㆓某衞之箭㆒。〔注〕彎、引也。〔張衡、西京賦〕彎㆑弓射㆓乎西羌㆒。〔注〕綜曰、彎、挽㆑弓也。❷**まがる**。〔字彙〕彎、曲也。〔丁澤、白玉環詩〕似㆑見㆓霜姿白㆒、如㆑看㆓月彩彎㆒。〔張耒、西山寒溪詩〕路作㆓九曲彎㆒。❸或は關(11－41470)に作る。〔集韻〕彎、左氏傳作㆑關。〔左氏、昭、二十一、豹則關矣、注、關引㆑弓、釋文〕關、本又作㆑彎。❹或は貫(10－36681)に作る。〔集韻〕彎、或作㆑貫。〔史記、伍子胥傳、貫㆑弓執㆑矢、注〕索隱曰、貫、音彎、謂㆔滿㆓張弓㆒。

【彎腰】1 wan¹ yao¹ ❶腰を曲げる。❷曲つた腰。

【彎蛾】2 ワンガ 眉の異稱。〔溫庭筠、江南曲〕橫波巧能笑、彎蛾不㆑識㆑愁。

【彎弓】3 ワンキウ 弓をひきしぼる。關弓。貫弓。〔史記、秦始皇紀〕士不㆓敢彎㆑弓而報㆑怨。〔新書、過秦上〕士不㆓敢彎㆑弓而報㆑怨。〔漢書、匈奴傳上〕士力能彎㆑弓、盡爲㆓甲騎㆒。〔張衡、西京賦〕彎㆑弓射㆓乎西羌㆒。〔注〕綜曰、彎、挽㆑弓也。

【彎曲】4 ワンキヨク 弓なりにまがる。まるくかがまる。

【彎屈】5 ワンクツ ゆみなりにかがむ。彎曲。

【彎環】6 ワンクワン 圓い形容。〔李賀、十月詩〕金鳳刺衣著㆓體寒㆒、長眉對㆑月鬪㆓彎環㆒。〔李遠、過㆓馬嵬山㆒詩〕唯餘㆓坡上彎環月㆒、時送㆓殘蛾㆒入㆓帝臺㆒。

【彎形】7 ワンケイ ゆみなりにまがつたかたち。弓形に曲つた形。

【彎月】8 ワンゲツ 弓張月。かたわれづき。三日月。〔書言字考節用、二、乾坤門〕朏、玉鉤、彎月、又云㆓纎月㆒。

【彎手】9 wan¹ shou³ 袖を折り入れる。

【彎尺】10 wan¹ ch'ih³ 大工の用ひる曲尺。

【彎入】11 ワンニフ まがつて入り込む。灣入。〔青山鐵槍齋、大八洲遊記〕海水彎入如㆓大湖㆒。

【彎彎】12 ワンワン 弓なりに曲るさま。〔張籍、樵客吟〕日西待㆑伴同下㆑山、竹擔彎彎向㆑身曲。〔剪燈餘話、鸞鸞傳〕彎彎柳葉秋邊蹙。

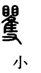
【彎彎曲曲】13 wan¹ wan¹ ch'ü¹ ch'ü¹ 彎曲する。まがりくねる。

【彎脚規】14 wan¹ chiao³ kuei¹ 圓の直徑を測る器械。

【⿰弓贊】 9905 サン ⿰弓朁(4－9863)に同じ。〔海篇〕⿰弓贊、同㆑⿰弓朁。

二十畫

【彏】 9906 キヤク クワク 〔集韻〕怳縛切 ［藥］ ㄐㄩㄝˊ chüeh²


小篆

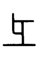
弓を急にひきしぼる。〔説文〕彏、弓急張也、从㆑弓矍聲。〔集韻〕彏、急弦謂㆓之彏㆒。〔漢書、揚雄傳上〕彏㆓天狼之威弧㆒。〔注〕師古曰、彏、急張也。

二十二畫

【⿰弓羹】 9907 カウ 羮(9－28584)に同じ。〔集韻〕羮、或作㆑⿰弓羹。〔説文〕鬻、⿰弓羹、或从㆓美鬻省㆒。

彐　部

【彐】 9908 ㈠ケイ 〔集韻〕居例切 ［霽］ ㄐㄧˋ chi⁴ ㈡セツ


小篆

㈠❶**豕のあたま**。もと彑(4－9909)に作る。〔廣韻〕彐、説文作㆑彑。〔説文〕彑、豕之頭、象㆓其鋭而上見㆒也、讀若㆑罽。❷**はりねずみの頭**。〔廣韻〕彐、彙頭。❸**はりねずみの類**。〔玉篇〕彐、彙類。㈡俗に雪を彐に作る。〔辭海〕彐、俗借作㆑雪。［邦］**けいがしら**。漢字の冠。

［解字］象形。もと彑に作る。豕の頭のとがつてゐる形にかたどる。

【彐彐】1 ケイケイ 緣覺(8－27656‥12)の略字。古記錄に見える。

【彑】9909　ケイ　彐(4―9908)に同じ。〔廣韻〕彐、說文作㆑彑。

二　畫

【归】9909′　归。　キ　歸(6―16349)の俗字。〔宋元以來俗字譜〕歸、通俗小說作㆑归。

三　畫

【玫】9910　カウ　好(3―6053)に同じ。〔字彙補〕玫、同㆑好。

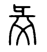
【𢑚】9911　タ　多(3―5756)に同じ。〔字學指南〕𢑚、同㆑多。

【当】9912　タウ　當(7―21890)の俗字。〔中華大字典〕当、當俗字。

【当】9913　タウ　當(7―21890)の略字。

四　畫

【㣇】9914　カ　ゲ　〔集韻〕何加切　麻


小篆

ゐのこ。ぶた。ゐ。〔說文〕㣇、豕也、从㆑彑、下象㆓其足㆒、讀若㆑瑕。

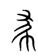
解字　象形。上部は豕の頭、下部はその足にかたどる。

五　畫

【㣈】9915　🈩イ　〔集韻〕羊至切　寘　🈔テイ　ダイ　〔集韻〕大計切　霽　🈪テイ　ダイ　〔集韻〕田黎切　齊

小篆

籀文


古文

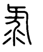
🈩🈔❶**毛の長い獸の名**。〔說文〕㣈、脩豪獸、从㆑彑、下象㆓毛足㆒、讀若㆑弟。❷**たぬきの子**。〔玉篇〕㣈、狸子也。❸**ぶた**。**ゐのこ**。〔說文〕㣈、一曰、河內名㆑豕也。❹古は帬(4―7674)・㣈に作る。〔玉篇〕帬、古文㣈。〔集韻〕㣈、古作㆑㣈。❺籀文は彖(10―36392)に作る。〔集韻〕㣈、籀作㆑彖。🈪**毛の長い獸の名**。🈩の❶に同じ。〔集韻〕㣈、脩毫獸。

解字　象形。上部は豕の頭、下部は長毛と足とにかたどる。故に、毛の長い獸の名とする。一說に、豕の意。

【𢑓】9916　チウ　疇(7―21967)の古字。〔字彙補〕𢑓、古文疇字。

【𢑛】9917　リク　勠(2―2418)に同じ。〔字彙補〕𢑛、與㆑勠同。

【彔】9918　ロク　〔集韻〕盧谷切　屋　ㄌㄨˋ　lu⁴


小篆

❶**木をきざむ**。彔(4―9921)に同じ。〔正字通〕彔、俗作㆑彔。〔說文〕彔、刻㆑木彔彔也、象形。❷**もと**。〔集韻〕彔、一曰、本也。

解字　象形。本義を木を刻む意とする。字形は木を刻んだ形にかたどる。說文通訓定聲は剝の古文とする。〔說文通訓定聲〕彔、刻㆑木彔彔也、象形、按、此字、實卽剝之古文。

參考　康熙字典、字形を彔に作り六畫に置く。今、玉篇・集韻等に依り、ここに置く。

【彔彔】1 ロクロク　一つ一つ數へ得るさま。歷歷に同じ。〔說文繫傳〕彔、臣鍇曰、彔彔、猶㆓歷歷㆒也、一一可㆑數之皃、通論詳矣。

六　畫

【𢑝】9919　シン　申(7―21726)の古字。〔集韻〕申、古作㆑𢑝。

【彖】9920　🈩タン　〔集韻〕吐玩切　翰　ㄊㄨㄢˋ　tʻuan⁴　🈔シ　〔集韻〕賞是切　紙

小篆

🈩❶**豕が走る**。〔說文〕彖、豕走也、从㆑彑从㆓豕省㆒。❷**とく**。〔廣雅、釋言〕彖、挩也。❸**易の一卦の意義**。彖辭を見よ。掾(5―12313)に通ず。〔說文、彖、段注〕劉瓛曰、彖者、斷也。〔周易正義〕彖、斷也、斷㆓定一卦之義㆒、所㆓以名爲㆑彖也。〔說文通訓定聲〕彖、叚借爲㆑掾、易繫辭傳、彖者、言㆓乎象㆒者也。〔集韻〕彖、一曰、易斷卦辭。🈔**豕の屬**。〔集韻〕彖、豕屬。

解字　會意。彑は豕の頭、豕は豕の省文で、本義は豕が走る意。假借して、斷の意とし、周易では一卦の義を斷定する意とする。〔說文〕彖、豕走也。〔段注〕劉瓛曰、彖者、斷也。〔周易正義〕彖、斷也、斷㆓定一卦之義㆒、所㆓以名爲㆑彖也。

【彖辭】1 タンジ　❶易經の一卦の義をすべ說いたことば。卦辭をいふ。文王の作と傳ふ。〔王弼、周易略例〕夫彖者、何也、統㆓論一卦之體㆒、明㆓其所㆑由之主㆒者也。〔易、乾、本義〕元亨利貞、文王所㆑繫之辭、以斷㆓一卦之吉凶㆒、所謂彖辭者也。〔易、繫辭下〕彖者、材也。〔注〕彖、言㆓成㆑卦之材㆒、以統㆓卦義㆒也。〔左氏、莊、二十二、觀㆓國之光㆒、注、觀、六四爻變而爲㆑否、疏〕卦下總爲㆓之辭㆒、名㆑之曰㆑彖。〔左氏、襄、九、隨元亨利貞无㆑咎、注〕義異則論㆑彖。〔疏〕周易卦下之辭、謂㆑之爲㆑彖。〔左氏、昭、二、周公之德、注、易象春秋、文王周公之制、疏〕孔子述㆓卦下總辭㆒、謂㆑之爲㆑彖、云云、故先代大儒鄭衆・賈逵等或以爲、卦下之彖辭、文王所㆑作、爻下之象辭、周公所㆑作。❷爻辭をいふ。〔易、繫辭下〕知者觀㆓其彖辭㆒、則思過㆑半。〔馬注〕彖辭、爻辭也。❸彖傳をいふ。彖傳を見よ。〔經典釋文、序、深解傳述人、易〕文王拘㆓於羑里㆒作㆓卦辭㆒、周公作㆓爻辭㆒、孔子作㆓彖辭・象辭・文言・繫辭・說卦・序卦・雜卦十翼㆒。

【彖多】2 タンタ　金、抹撚盡忠(5―11926・25)の本名。

【彖傳】3 タンデン　易、十翼の一。彖辭を解釋したもの。孔子の作と傳へられてゐるが、若干の關係ある程度のものであらう。〔史記、孔子世家〕孔子晩而喜㆑易、序㆓彖・繫・象・說卦・文言㆒。〔漢書、藝文志〕孔氏爲㆓之彖・象・繫辭・文言・序卦之屬十篇㆒。〔古周易、彖上傳第一彖下傳第二〕今王弼注本、首卷題曰㆓周易上經乾傳㆒、餘卷亦然、有㆓泰傳・噬嗑傳・咸傳・夬傳・豐傳之名㆒、蓋弼所㆑用者鄭氏本、鄭氏合㆓彖傳・象傳于經㆒、故合題㆑之耳。

【彖餘居士】4 タンヨコジ　淸、沈涵(6―17189・85)の號。

【彔】9921　ロク　彔(4―9918)の本字。〔正字通〕彔、本作㆑彔。

七　畫

【彖】9922　ビ　魅(12―45811)に同じ。〔海篇〕彖、同㆑魅。

【录】9923　ビ　魅(12―45811)の古字。〔玉篇〕录、古文魅。

【𢑚】9924 チウ 疇(**7―21967**)に同じ。〔字彙補〕𢑚、同レ疇。

【𢑛】9925 タン 義未詳。〔篇韻〕𢑛、音躭。

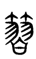
【彖】9926 ビ 𩬆(**12―45764**)の籀文。〔說文〕𩬆、彖、籀文从二彖首一尾省聲。

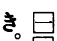
解字 會意。彑(豕の頭)と豕とを合す。本義はぶた。豕の異體字であらう。說文では形聲とする。〔說文通訓定聲〕彖、豕也、从レ彑从レ豕、讀若レ弛、與二彖字一音義倶別、按、卽豕之異體。

八畫

【彗】9927
㈠セイ ゼイ 〔集韻〕旋芮切 霽 ㄏㄨㄟˋ huei⁴
㈡スイ ズイ 〔集韻〕徐醉切 寘
㈢セイ サイ 〔集韻〕須銳切 霽
㈣エイ エ 〔廣韻〕于劌切 霽
㈤ケイ

小篆


或體


古文

㈠㈡㊀**はうき**。ははき。或は篲(**8―26392**)に作り、古は䇢(**8―26395**)に作る。〔說文〕彗、埽竹也、从二又持レ甡、篲、彗或从レ竹、䇢、古文彗、从二竹習一。〔禮、曲禮下〕國中以二策彗一卹勿。〔注〕彗、竹帚。〔史記、孟子荀卿傳〕擁レ彗先驅。〔注〕索隱曰、彗、帚也。㊁**はらふ**。〔後漢書、班固傳下〕戈鋋彗レ雲。〔注〕彗、埽也。㊂**はうきぼし**。彗星。〔爾雅、釋天〕彗星、爲二欃槍一。〔注〕彗、亦謂二之孛一、言三其形孛孛似二掃彗一。〔一切經音義、二〕彗、妖星也。〔左氏、昭、十七〕彗者、所二以除レ舊布レ新也。〔新序、雜事四〕天之有レ彗、以除レ穢也。〔山海經、海外南經〕三株樹、其爲レ樹若レ彗。〔注〕若レ彗、如二彗星狀一。㊃或は篲(**8―26721**)に作る。〔集韻〕彗、或从レ竹从レ慧。㈢㈣**あかるい**。〔廣韻〕彗、日中必彗。〔集韻〕彗、日中暴明也。〔六韜、文韜、守土〕日中不レ彗、是謂レ失レ時。㈤**さとい**。慧(**4―11116**)に通ず。〔史記、淮南王安傳〕淮南王有二女陵一、彗有二口辯一。〔漢書、淮南王安傳〕王有二女陵一、慧有レ口。〔注〕師古曰、性彗了而口辨。

解字 會意。甡と彐との合字。甡は甡、ははきの形。彐は手。故に二字を合して、ははき、及びはらふの義とする。又、篲に作る。剛い彗は竹にて作る故なり。轉じて、彗星の義に用ふ。〔說文通訓定聲〕彗、掃竹也、从二又持一甡、會意、按、甡訓二眾生並進一、於レ義爲レ迂、疑从レ甡、甡者、古文丰字、亦象二彗形一也。

【彗雲】1 セイウン スイウン 雲をはらふ。〔班固、東都賦〕元戎竟レ野、戈鋋彗レ雲。〔注〕濟曰、彗、掃也。〔後漢書、光武紀贊〕高鋒彗レ雲。〔注〕彗、埽也、音詳鋭反。〔高適、鶻賦〕始滅沒而略レ地、忽昇騰而彗レ雲。

【彗掃】2 スイサウ はうきではらひ淸める。はく。〔班固、封二燕然山一銘〕星流彗掃、蕭條萬里。〔呂溫、道州觀二野火一詩〕過處若二彗掃一、來時如二電激一。

【彗日】3 スイジツ 日をはらふ。〔徐彥伯、南郊賦〕青旆罥レ雲、紅旌彗レ日。

【彗星】4 スイセイ はうき星。星雲のやうな外觀を呈して太陽をめぐる天體で、顯著なものは光氣ある尾を有し、形がはうきに似てゐるからいふ。古、此の星が現れると天下に禍災が起るとされた。comet 〔爾雅、釋天〕彗星爲二欃槍一。〔注〕亦謂二之孛一、言三其形孛孛似二掃彗一。〔公羊、文、十四〕孛者何、彗星也。〔戰國、魏策〕夫專諸之刺二王僚一也、彗星襲レ月。〔管子、四時〕彗星見、則失レ和之國惡レ之。〔楚辭、九歌、小司命〕登二九天一兮撫二彗星一。〔史記、司馬相如傳〕抴二彗星一而爲レ髾。〔漢書、文帝紀〕有二長星一出二于東方一。〔注〕文穎曰、孛・彗・長三星、其占略同、然其形象小異、孛星光芒短、其光四出、蓬蓬孛孛也、彗星、光芒長、參參如二掃篲一、長星、光芒有レ一、直指或竟レ天、或十丈、或三丈二丈、無レ常也。〔晉書、天文志中〕彗星所謂掃星。〔國史略、天武天皇〕長星見、彗星出。

【彗孛】5 スイハイ はうき星。孛彗。〔漢書、天文志〕彗孛飛流。〔後漢書、盧植傳〕比年地震、彗孛互見。〔白居易、司徒令公分二守東洛一云云詩〕德星銷二彗孛一、霖雨洗二腥臊一。

【彗氾畫塗】6 スイハンクヮト 箒で水たまりの地を掃き、刀で泥中に畫する。極めて容易なこと。〔漢書、王襃傳〕水斷二蛟龍一、陸剸二犀革一、忽若二彗氾畫塗一。〔注〕師古曰、彗、帚也、氾、氾灑地也、塗、泥也、如下以レ帚埽二氾灑之地一、以レ刀畫中泥中上、言二其易一。

【擁レ彗掃レ門】7 スイヲヨウシモンヲハラフ 箒を持つて門を掃き淸めて、人を迎へる。人を敬うて迎へること。〔史記、高祖紀〕後高祖朝、太公擁レ篲、迎レ門卻行。〔史記、孟子荀卿傳〕騶子重二於齊一、適レ梁、惠王郊迎執二賓主之禮一、適レ趙、平原君側行撇レ席、如レ燕、昭王擁レ彗先驅、請下列二弟子之座一而受上レ業。〔周書、儒林、熊安生傳〕及二高祖入一レ鄴、安生遽令レ掃レ門、家人怪而問レ之、安生曰、周帝重レ道尊レ儒、必將レ見レ我矣、俄而高祖幸二其第一。〔故事成語考、朋友賓主〕擁レ篲掃レ門、迎迓之敬。

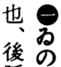
九畫

【𢑤】9928 ゴ 義未詳。〔字彙補〕𢑤、音五。

【𢑥】9929 タ 義未詳。〔字彙補〕𢑥、音陁。

【𢑦】9930 イ 希(**4―9915**)の籀文。〔說文〕希、𢑦、籀文。

【彘】9931
㈠テイ デイ 〔集韻〕直例切 霽 ㄓˋ chih⁴
㈡エイ エ 〔集韻〕于歲切 霽


小篆

㊀**ゐのこ**。ぶた。〔說文〕彘、豕也、後蹏廢謂二之彘一、从レ彑从二二匕一、矢聲、彘足與二鹿足一同。〔玉篇〕彘、豬也。〔方言、八〕豬、北燕朝鮮之閒謂二之豭一、關東西或謂二之彘一、或謂二之豕一。〔禮、月令〕(孟夏之月)天子乃以レ彘嘗レ麥。〔孟子、梁惠王上〕雞豚狗彘之畜。㊁**地名**。周の厲王が出奔したところ。山西省霍縣の東北。〔國語、周語上〕乃流二王于彘一。〔注〕彘、晉地、漢爲レ縣屬二河東一、今曰二永安一。㊂**姓**。〔萬姓統譜〕彘、士會支子魴、別食二菜彘邑一、後以爲レ氏。〔國語、晉語七〕使二智武子彘恭子如一レ周。〔注〕彘恭子、士魴也、食二邑於彘一。㈡**劍のつかがしらの玉飾**。璏(**7―21224**)に同じ。〔集韻〕璏、劍鼻玉、或省。

解字 會意形聲。彑と二つの匕と矢との合字。本義を後蹏の廢せる豕とする。ぶたの類の、前足僅に屈伸するのみで後足は思ふままに歩行出來ないことをいふ。矢は音符。〔說文、彘、後蹏廢謂二之彘一、从レ彑从二二匕一、矢聲、段注〕廢、鈍置也、彘之言、滯也、豕前足僅屈伸、後足行步蹇劣、故謂二之廢一。

【彘豪】1 テイガウ 豚の毛。〔山海經、北山經〕大咸之山、有レ蛇、名曰二長蛇一、其毛如二彘豪一。

【彘肩】2 テイケン 豚の肩の肉。〔史記、項羽紀〕張良至二軍門一、見二樊噲一、噲遂入披レ帷、西嚮立瞋レ目視二項王一、頭髮上指、目眦盡裂、項王按レ劍而跽曰、客何爲者、張良曰、沛公之參乘樊噲者也、項王曰、壯士、賜二之卮酒一、則與二斗卮酒一、噲拜謝起立而飮レ之、項王曰、賜二之彘肩一、則與二一生彘肩一、樊噲覆二其盾於地一、加二彘肩上一、拔レ劍切而啗レ之。

【彘縣】3 テイケン 縣名。漢、置く。今の山西省霍縣の東北。〔漢書、地理志上〕河東郡、縣二十四、彘。

【彘罟】4 テイコ 猪を捕へるあみ。彘網(16)に同じ。〔爾雅、釋器〕彘罟、謂二之羉一。〔注〕羉、幕也。〔疏〕彘、豬也、其罔名ㇾ羉、羉、幕也、言三幕二絡其身一也。

【彘山】5 テイザン 山名。〔山海經、中山經〕若山、又東南一百二十里曰二彘山一、多二美石一多ㇾ柘。

【彘子】6 テイシ 春秋、晉の先縠(1－1349‥72)の一稱。

【彘耳】7 テイジ 豚のみみ。〔山海經、北山經〕北嶽之山、多二枳棘剛木一、有ㇾ獸焉、其狀如ㇾ牛、而四角、人目彘耳、其名曰二諸懷一、其音如二鳴雁一、是食ㇾ人。

【彘城】8 テイジヤウ 地名。彘地に同じ。〔詩、小雅、雨無正、疏〕杜預云、平陽永安縣東北有二彘城一、晉時、郡分而縣移、故與二漢時一不ㇾ同。〔明一統志〕彘城在二平陽府霍州一、周厲王奔ㇾ彘、卽此、漢爲二彘縣一。〔讀史方輿紀要、山西、平陽府、霍州、呂城〕彘城、杜預曰、在二永安縣東北一、卽周厲王所ㇾ居、今州城東北有二厲王陵一。

【彘首】9 テイシユ 草の名。菊科、かんくびさう屬。高さ二三尺餘、花は黃色、頭狀花。天名精。彘顱。やぶたばこ。はまたかな。〔沈約、郊居賦〕其陸卉則紫鼈綠葹、天著山菲、鴈齒麋舌、牛脣彘首。

【彘身】10 テイシン ぶたのからだ。〔山海經、中山經〕其神狀、皆彘身人首。〔山海經、北山經〕其十四神狀、皆彘身而載ㇾ玉、其祠ㇾ之皆玉不ㇾ瘞、其十神狀、皆彘身而八足蛇尾、其祠ㇾ之皆用二一璧一瘞ㇾ之。

【彘椒】11 テイセウ 樹の名。山椒に似て、枝は柔軟。蔓椒。いたちはじかみ。ほそき。〔本草、蔓椒〕釋名、豬椒、豕椒、彘椒、狶椒、狗椒、金椒、時珍曰、此椒蔓生、氣臭如二狗彘一、故得二諸名一。

【彘地】12 テイチ 地名。今、山西省霍縣の東北。〔詩、小雅、雨無正 靡ㇾ所二上戾一、箋〕是時諸侯、不ㇾ朝ㇾ王、民不ㇾ堪ㇾ命、王流二於彘一、無ㇾ所二安定一也。〔疏〕韋昭云、彘地、漢時爲ㇾ縣屬二河東一、今永安是也。

【彘肉】13 テイニク 豚のにく。〔蘇軾、送二筍芍藥一與二公擇一詩〕我家拙廚膳、彘肉芼無菁。

【彘尾】14 テイビ 豚の尾。〔山海經、南山經〕雞山、黑水出焉、而南流注二于海一、其中有二鱄魚一、其狀如ㇾ鮒而彘尾、其音如ㇾ豚、見則天下大旱。〔山海經、中山經〕復州之山有ㇾ鳥焉、其狀如ㇾ鴞而一足彘尾、其名曰二跂踵一、見則其國大疫。

【彘毛】15 テイマウ 豚の毛。〔山海經、東山經〕其中多二堪孖之魚一、有ㇾ獸焉、其狀如二夸父一而彘毛、其音如ㇾ呼、見則天下大水。

【彘網】16 テイマウ 猪を捕へるあみ。彘罟。〔後漢書、馬融傳、罦罝羅羉、注〕罦、雉網也、罝、兔罟也、羉、彘網也。

【彘鳴】17 テイメイ 豚の鳴き聲。〔山海經、東山經〕東山經之首、曰二樕螽之山一、北臨二乾昧一、食水出焉、而東北流注二于海一、其中多二鱅鱅之魚一、其狀如二犂牛一、其音如二彘鳴一。

【彘牢】18 テイラウ 豚小屋。〔陸游、弊廬詩〕縛ㇾ木爲二彘牢一、附ㇾ垣作二雞塒一。

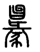
【彘鬣】19 テイレフ 豚のたてがみ。〔山海經、南山經〕堯光之山、有ㇾ獸、其狀如ㇾ人而彘鬣、穴居而冬蟄、其名曰二猾褢一。〔山海經、北山經〕北囂之山、有ㇾ獸焉、其狀如ㇾ虎、而白身犬首、馬尾彘鬣、名曰二獨狢一。

【彘盧】20 テイロ 彘顱に同じ。〔周禮、地官、掌染草、疏〕豕首者、爾雅云、茢薽、豕首、郭注云、本草曰、彘盧、一名蟾蠩蘭、今江東呼二豨首一、可三以燭二蠶蛹一、郭氏雖ㇾ有二此注一、不ㇾ言ㇾ可ㇾ染二何色一、則此槀盧豕首、未ㇾ審二鄭之所ㇾ據也。

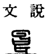
【彘顱】21 テイロ 草の名。彘首(9)に同じ。〔本草、天名精〕釋名、彘顱、時珍曰、天名精、乃天蔓菁之訛也、其氣如二豕彘一、故有二豕首・彘顱之名一。

【殺ㇾ彘教ㇾ子】22 テイヲコロシテコニヲシフ 曾子の妻が戲に子供に豚を殺して御馳走しようと約束したところ、曾子が豚を殺して食べさせ其の子を欺かなかつた故事。〔韓非子、外儲說左上〕曾子之妻之ㇾ市、其子隨ㇾ之而泣、其母曰、女還、顧反、爲ㇾ女殺ㇾ彘、適ㇾ市來、曾子欲二捕ㇾ彘殺一ㇾ之、妻止ㇾ之曰、特與二嬰兒一戲耳、曾子曰、嬰兒非ㇾ可二與戲一也、嬰兒非ㇾ有ㇾ知也、待二父母一而學者也、聽二父母之教一、今子欺ㇾ之、是教二子欺一也、母欺ㇾ子而不ㇾ信二其母一、非二以成ㇾ教也、遂烹ㇾ彘也。

【幂】9932 コツ コチ 〔集韻〕呼骨切 月。



小篆（說文）



小篆（段注本）

❶**家の類**。〔說文〕幂、豕屬、从ㇾ希冐聲。❷或は豨・豙(10－36346)に作る。〔類篇〕幂、或作二豨・豙一。

【㣇】9933 テイ 彘(4－9931)に同じ。〔海篇〕㣇、同ㇾ彘。

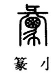
【彚】9934 ヰ 彙(4－9936)に同じ。〔字彙補〕彚、同ㇾ彙。

十畫

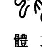
【韶】9935 セウ ゼウ 〔廣韻〕市昭切 蕭。

うつ。〔廣韻〕韶、擊也。

【彙】9936



小篆



或體

[一]ヰ 〔集韻〕于貴切 ㄏㄨㄟˋ huei^4 未

[二]ヰ 〔集韻〕羽鬼切 尾

[一]❶**はりねずみ**。本、𢑴(4－9954)に作り、或は蝟(10－33287)・䝉(10－36593)・猬(7－20536)に作る。〔康熙字典〕彙、說文本作ㇾ𢑴。〔說文〕𢑴、𢑴蟲也、似二豪豬一而小、从ㇾ希胃省聲、蝟、或从ㇾ虫作。〔爾雅、釋蟲〕彙、毛刺。〔注〕與ㇾ蝟同、今蝟狀如ㇾ鼠。〔疏〕彙、卽蝟也、其毛如ㇾ針。〔集韻〕𢑴、隸作ㇾ彙、或作二蝟・䝉・猬一。❷**たぐひ**。**とも**。〔集韻〕彙、一曰、類也。〔易、泰〕拔ㇾ茅茹、以二其彙一。〔虞注〕彙、類也。〔太玄經、掜〕各由二厥彙一。〔注〕彙、類也。❸**あつめる**。類をもつて集める。〔說文、彙、段注〕王弼云、類也、以爲二會之段借一。❹**つとめる**。謂(10－35759)に通ず。〔說文、彙、段注〕爲二謂之段借一。〔易、泰〕拔ㇾ茅茹、以二其彙一。〔鄭注〕彙、勤也。❺**うつくしい**。偉(1－837)に通ず。〔易、泰〕以二其彙一。〔釋文〕彙、傅氏注云、彙、古偉字、美也。❻**さかん**。**しげる**。𠷎(4－9631)に通ず。〔說文通訓定聲〕彙、段借爲ㇾ𠷎。〔漢書、敍傳上〕柯葉彙而靈茂。〔注〕師古曰、彙、盛也。[二]**すぐれる**。**うつくしい**。偉(1－837)に同じ。〔集韻〕偉、說文、奇也、一曰、美也、或作ㇾ彙。

名乘 シゲ。

【彙雅】1 ヰガ 書名。二十卷。續編二十八卷。明、張萱撰。字書で、每篇に爾雅を列し、小爾雅・廣雅・方言等を次し、下に注疏を載せ、萱の解釋を附してゐる。〔四庫提要、經、小學類存目〕。

【彙解】2 ヰカイ ❶幾つかの物件をとり集めて送る。解は送る意。〔六部成語、戶部、彙解、注解〕彙二集數款一一齊解送、曰二彙解一。〔福惠全書、蒞任部、查交代〕按舖彙解。❷注解を集めたもの。〔四庫提要、經、易類存目〕周易彙解衷翼、十五卷、國朝、許體元撰。

【彙交】3 ヰカウ 集めて一緒にわたす。〔福惠全書、錢穀部、比較〕彙二交糧房一送ㇾ宅、查對無ㇾ差。

【彙核】4 huei^4 hê^2 集め調べる。

【彙記】5 huei^4 chi^4 同種類の事柄を集めて記載する。

【彙繳】6 ヰケウ 物を取纏めて上納すること。〔福惠全書、庶政部、漕船催償〕將二昨日各幫船報單一、彙二繳本官一。

【彙查】7 ヰサ 集めて一緒に調査する。〔福惠全書、錢穀部、比較〕彙二查各限欠數一。

【彙造】8 huei^4 tsao^4 あつめて造る。調製する。

【彙冊】9 ヰサツ 總記の帳簿。〔六部成語、戶部、彙冊、注解〕總記之冊簿也。

【彙纂】10 ヰサン 種々の事柄を集め、分類して載せたもの。〔四庫提要、經、書類存目二〕欽定書經傳說彙纂、二十四卷、康熙末、聖祖仁皇帝敕撰。

【彙氏】11 ヰシ 姓氏を集め、分類して載せたもの。文竿彙氏の類。

【彙收】12 キシウ 集めて受取る。〔福惠全書、蒞任部、酬答書札〕回㆓書彙著㆒寫人㆒彙收。

【彙集】13 キシフ 類によつて集める。〔清國行政法汎論、大清律令〕清國所謂條例者、彙㆓集裁判前例之餘㆒、以爲㆓成文法㆒者。

【彙進】14 キシン 同類の者が朝廷にすすみ出る。類を以てあつまる。〔歐陽脩、讀㆓張李二生文㆒贈㆓石先生㆒詩〕朝廷清明天子聖、陽德彙進羣陰剝。

【彙成】15 キセイ こしらへる。〔福惠全書、錢穀部、比較〕照㆓圖里該經承彙成比冊㆒。

【彙征】16 キセイ つれだつてゆく。〔易、泰〕拔㆑茅茹、以㆓其彙㆒征吉。〔疏〕以㆓其彙㆒者、彙者、類也、以㆑類相從、征吉者、征、行也。

【彙征之途】17 キセイノト 賢を進めるをいふ。〔故事成語考、科第〕彙、類也、征、進也、是連㆑類同㆑進之象、故進㆑賢謂㆓之彙征之途㆒。

【彙齊】18 キセイ あつめそろへる。〔福惠全書、蒞任部、馭衙役〕定㆓限三日內㆒、彙齊送㆑宅。

【彙齊題奏】19 キセイダイソウ 數件の事柄を取纏めて奏上すること。〔六部成語、注解〕凡無㆑關㆓緊要㆒之事、不㆓必一事一奏㆒、可㆘以俟㆔集㆓有數件㆒彙齊題奏㆖。

【彙占】20 キセン 清、安吉（**3－7072**‥88）の字。

【彙旃】21 キセン 清、高世泰（**12－45313**‥1240）の字。

【彙奏】22 キソウ あつめて奏上する。〔清國行政法汎論、內閣、副本庫〕分㆔別其議了者與㆓未議了者㆒、每月一回彙㆓奏其效果㆒。

【彙送】23 キソウ あつめて送る。〔清高宗、乾隆三十七年諭〕正宜㆘及㆑時採集、彙㆓送師㆒、以彰㆗千古同文之盛㆖。

【彙題】24 キダイ 彙齊題奏の略。彙齊題奏を見よ。〔清會典事例、內閣、職掌、進本〕康熙四十七年諭、吏兵刑部彙題之事、朕先屢經㆓明諭㆒、應㆓十日彙題十五日彙題㆒者、卽如㆑期具奏。〔六部成語、吏部、彙題、注解〕凡無㆑關㆓緊要之事㆒、不㆓必一事一奏㆒、可㆘以俟㆔集㆓有數件㆒彙齊題奏㆖。〔清國行政法汎論、官吏權利、給假〕彙題者、謂㆘彙㆓集同一呈請文書㆒以具奏㆖也。

【彙單】25 キタン かきつけをあつめる。〔福惠全書、保甲部、訓練伍壯〕該保正彙㆑單指㆑名報㆑縣。

【彙注】26 キチユウ 注釋を集めたもの。明、江元祚の孝經彙注の類。

【彙塡】27 キテン 一緒にかきいれる。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕照㆓流水日收㆒彙塡。

【彙報】28 キハウ 種々の事を取りあつめた知らせ。種々の報知。雜報。〔清會典事例、戶部、關稅〕及㆓一年期滿㆒、彙㆓報稅銀贏虧數目㆒。〔清國行政法汎論、官廳、監督形式〕報告爲㆓具報之義㆒、大㆓別之㆒、爲㆓彙報隨報兩種㆒、彙報則有㆓年報㆒、有㆓月報㆒。

【彙編】29 キヘン 種々のことを集め編んだもの。〔四庫提要、史、政書類存目二〕邦計彙編、一卷、舊本題㆓宋李維撰㆒。

【彙類】30 キルイ たぐひ。類によつてあつめる。〔馬祖常、送㆓簡管勾㆒序〕年彌久而情益眞也、時益躓而義愈篤也、如㆑斯而已矣、彙類而觀㆑之、古之君子入㆓道之域㆒者、亦由㆓於是㆒矣。

【彙宗寺】31 キソウジ 寺の名。察哈爾省多倫縣の南。清の康熙三十年、諸部の請によつて寺を建て、百十二旗に命じて旗ごとに一僧を此處に居らせ、彙宗の額を賜つた。其の南一里許りに善因寺がある。規模の宏大も亦等しく、俗に彙宗を舊廟といひ、善因を新廟といふ。二廟共に住僧五千人あり、數千里內の蒙古人禮拜し、西藏の布達拉寺を除くの外、此のやうな大寺院は無い。

【彙刻書目】32 キコクショモク 書名。初編十卷。清、顧脩撰。十三經・二十四史を始めとして、凡そ古今の書で、一個の標題の下に、二種以上を合刻したものに就て、其の細目を列したもの。編纂の體裁は、別に明瞭に區分を立てないが、經は經、子は子と、類に依つて排列し、其の後、仁和の朱記榮、之を增補し、舊に仍つて彙刻書目と名づけた。故に同名の書に顧・朱の二本がある。我が國で刊行したものは、顧氏本で、近世、傅雲龍が、顧本の續篇を作つた。又、我が國の松澤老泉撰の外集六卷がある。其の書の體は、顧本に倣ひ、卷首に龜田鵬齋の序がある。〔昌平叢書、第二百三十一－二百四十冊〕。

【彚】9937 キ 彙（**4－9936**）に同じ。〔正字通〕彙、隷作㆑彚。

十一畫

【⿰彐束】9938 シツ 義未詳。〔字彙補〕⿰彐束、音膝。

【⿰彐彔】9939 シ 肆（**9－29226**）の古字。〔字彙補〕⿰彐彔、古文肆字。

【⿰彐來】9940 ライ 義未詳。〔字彙補〕⿰彐來、音來。

【⿰彐句】9941 ク 狗（**7－20345**）に同じ。〔字彙補〕⿰彐句、同㆑狗。

【⿰彐坴】9942 シウ 皺（**8－22899**）に同じ。〔字彙補〕⿰彐坴、同㆑皺。

【⿳彐冖巾】9943 キ ⿳彐冖巾（**4－9954**）に同じ。〔字彙〕⿳彐冖巾、與㆑⿳彐冖巾同。

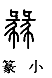
十二畫

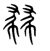
【⿰彐飛】9944 ヒ 義未詳。〔字彙補〕⿰彐飛、音非。

【⿱彐豕】9945 ビ 魅（**12－45811**）に同じ。〔字彙補〕⿱彐豕、同㆑魅。

十三畫

【㣊】9946 [一]シ 〔集韻〕息利切 寘　[二]イ 〔集韻〕羊至切 寘


小篆


古文

[一][二]❶**豕の類**。〔說文〕㣊、㣇屬、从㆓二㣇㆒、⿰⿱彑糸㣇、古文㣊、虞書曰、⿰⿱彑糸㣇類㆓于上帝㆒。❷**豕の聲**。〔玉篇〕㣊、豕聲也。❸**鼠の名**。〔廣韻〕㣊、鼠名。❹古は⿰⿱彑糸㣇（**2－3209**）・⿰⿱彑糸㣇（**2－3216**）に作る。〔集韻〕㣊、古作㆑⿰⿱彑糸㣇。〔康熙字典〕㣊、古文⿰⿱彑糸㣇。

【解字】會意。本義を豕の類とする。故に二㣇を合して其の意を示す。

【⿳彐口木】9947 キ 蜎（**10－33287**）に同じ。〔字彙補〕⿳彐口木、同㆑蜎。

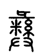
十四畫

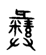
【彞】9948 イ 彝（**4－9950**）の俗字。〔正字通〕彝、俗作㆑彞、非。

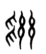
【⿱彐⿰犬系】9949 イ 彝（**4－9950**）に同じ。〔字彙補〕⿱彐⿰犬系、同㆑彝。

十五畫

【彝】9950 イ 〔集韻〕延知切 ㄧˊ i^2 支


小篆


古文

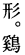

古文

❶**酒器**。常に宗廟に供へて置く器。鼎・酒樽の類。〔說文〕彝、宗廟常器也、从㆑糸、糸、綦也、廾、持㆑之、米、器中實

也、从レ彑象形、此與レ叡相佀、周禮六彝、雞彝・鳥彝・黃彝・虎彝・蜼彝・斝彝、㠯待二祼將之禮一。〔爾雅、釋器〕彝・卣・罍、器也。〔注〕皆盛レ酒尊、彝、其總名。〔周禮、春官、序官〕司尊彝。〔注〕鬱鬯曰レ彝、彝亦尊也。〔左氏、襄、十九〕取二其所レ得、以作二彝器一。〔注〕謂三鐘鼎爲二宗廟之常器一也。〔國語、周語下〕火二焚其彝器一。〔注〕彝、尊彝、宗廟之器。〔漢書、王莽傳上〕官司二彝器一。〔注〕師古曰、彝器、常用之器也、一曰、彝、祭二宗廟一酒器也。❷**つね**。**のり**。常道。常法。〔爾雅、釋詁〕彝、常也。〔詩、大雅、烝民〕民之秉レ彝。〔傳〕彝、常也。〔書、湯誥〕無二從匪レ彝。〔傳〕彝、常也。〔書、君奭〕茲迪二彝教一。〔疏〕彝、法也。❸古は彞(**4−9958**)・𢆶(**4−9213**)・辮(**10−35117**)に作る。〔集韻〕彝、古作二彞・𢆶・辮一。❹**姓**。〔萬姓統譜〕彝、見二通志氏族一。

名乘 ノリ。

解字 會意。彑と米と糸と廾との合字。宗廟の常器、かなへをいふ。かなへはその形、豕の頭に似る、故に彑を書き、內に五穀を盛る、又、一說に、酒を盛る、故に米を加へ、器に耳あり糸を以て飾る、故に糸を書き、捧持すべきものの義を廾を以て示す。卽ち、宗廟に供へ置く酒器の類をいふ。而して、宗廟の常器から轉じて、常・法の義に用ひる。一說に、彑は音符、會意形聲。〔說文通訓定聲〕彝、宗廟常器也、从レ糸、糸、幂也、廾、持、米、器中實也、按、酒也、彑聲、或曰、彑象形。

▽（甲骨文）象形。鷄を締め血を滴らせて兩手で捧げるさまに象る。

【彝翁】1 イヲウ 元、蕭生(**9−32012**・・186)の字。

【彝斝】2 イカイ 酒樽と玉杯。〔隋書、音樂志中〕彝斝應レ時、龍蒲代用。

【彝格】3 イカク のり。一定の標準。〔宋史、選擧志四〕酌以二時宜一、删二成彝格一。

【彝鑒】4 イカン 手本として常に守るべきもの。〔謝莊、上搜レ才表〕此先事之盛準、亦後王之彝鑒。

【彝器】5 イキ 宗廟に常に供へおく祭器。彝は常。周禮に六彝がある。一說に、彝は法。他の酒器を列べるに、彝を法とするからいふ。〔左氏、襄、十九〕取二其所レ得、以作二彝器一。〔注〕謂三鐘鼎爲二宗廟之常器一也。〔左氏、昭、十五〕故能薦二彝器於王一。〔注〕彝、常也、謂下可二常寶一之器、若中魯壺之屬上。〔會箋〕說文、彝、宗廟常器也、爾雅釋器、彝卣罍、器也、郭注云、皆盛レ酒尊、彝、其總名。〔左氏、定、四〕官司彝器。〔注〕彝器、常用器。〔疏〕常用之器、蓋罇罍俎豆之屬。〔國語、周語下〕火二焚其彝器一。〔注〕彝、尊彝、宗廟之器。〔國語、楚語下〕彝器之量。〔漢書、王莽傳上〕官司彝器。〔注〕師古曰、彝器、常用之器也、一曰、彝、祭二宗廟一酒器也、周禮有二六彝一、彝、法也、言下器有中所二法象一之貌上耳。〔抱朴子、臣節〕昆吾彝器、能者鐫レ勳。

【彝簋】6 イキ 食物を盛る祭器。〔趙昂、浮萍賦〕鑒堅芳二于楚客一、寧見羞二于彝簋一。

【彝訓】7 イクン 守るべき常のをしへ。〔書、酒誥〕聰二聽祖考之彝訓一。〔傳〕言、子孫皆聰二聽父祖之常教一。〔謝朓、爲二明帝一讓レ封二宣城公一表〕鑒二臣匪躬一、共申二彝訓一。〔韓愈、送二區弘南歸一詩〕爰有二區子一熒熒暉、觀以二彝訓一或從違。

【彝卿】8 イケイ 宋、黃倫(**12−47926**・・939)の字。

【彝教】9 イケウ 守るべき常のをしへ。〔書、君奭〕無三能往來茲迪二彝教一。〔蔡傳〕於レ此導二迪其常教一。

【彝憲】10 イケン 守るべき常ののり。常法。常道。〔書、冏命〕永弼二乃后于彝憲一。〔蔡傳〕彝憲、常法也。〔張九齡、祭二張燕公一文〕跡既拘二於彝憲一、情未レ展二於哀款一。

【彝工】11 イコウ 彝器の工匠。〔通典、職官、秩品〕車工・角工・彝工・器工。

【彝齋】12 イサイ 元、商琥(**2−3803**・・90)の號。

〖彝齋居士〗13 イサイコジ 宋、趙孟堅(**10−37171**・・899)の號。

〖彝齋文編〗14 イサイブンペン 書名。四卷。宋、趙孟堅撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【彝市】15 イシ 地名。又、夷市に作る。今の湖北省鄂城縣城の東。晉の陶侃が市場を設け、五水蠻と交易して大利を收めた處。〔讀史方輿紀要、湖廣、武昌府、武昌縣、鄂城〕吳王城、在二縣治東一里一、本灌嬰所レ築、云云、東門有二彝市一、亦侃所レ設也、土俗編云、晉西陽有二豫州五水蠻一、侃鎭二武昌一、作二彝市於吳城東一、以爲二交易之所一、大獲二其利一。

【彝舟】16 イシウ 清、徐鼒(**4−10110**・・138)の字。

【彝式】17 イシキ 手本としてのつとる。儀式に同じ。〔漢泰山都尉孔宙碑〕陟二名山一、采二嘉石一、勒レ銘示レ後、俾レ有二彝式一。〔北史、崔光傳〕帝族方衍、勳貴增遷、祗請遂多、將レ成二彝式一。

【彝章】18 イシヤウ 常に守るべき法則。〔任昉、爲二范尙書一讓二吏部封侯一表〕矜二臣所レ乞、特廻二寵命一、則彝章載穆、微物知レ免。〔白居易、得丁陷二賊庭一判〕臣節貴レ忠、國經懋レ賞、宜レ遵二善道一、難レ廢二彝章一。

【彝酒】19 イシユ 常に酒を飲む。〔書、酒誥〕有正有事、無レ彝レ酒。〔傳〕敎レ之皆無レ常二飲酒一。〔韓非子、說林上〕彝レ酒、常レ酒也。

【彝叔】20 イシユク 宋、种師道(**8−24942**・・12)の字。

【彝準】21 イジユン 法則をいふ。〔魏書、高祖紀上〕永爲二彝準一。

【彝初】22 イシヨ 民國、馬敍倫(**12−44572**・・831)の字。

【彝序】23 イジヨ 正しい順序。〔江淹、王僕射領二太子詹事一詔〕宜下總二二官一、以穆中彝序上。

【彝敍】24 イジヨ 守るべき常の道。〔劉峻、廣絕交論〕朱益州汨二彝敍一、粵二謨訓一。〔注〕善曰、公叔亂二常道一而絕レ之。

【彝正】25 イセイ 明、羅倫(**9−28397**・・278)の字。

【彝惜】26 イセキ 川の名。四川省峩眉縣の東南。又、夷惜に作る。〔讀史方輿紀要、四川、嘉定州、峩眉縣〕彝惜水、縣東南五十里。

【彝叟】27 イソウ 宋、范純禮(**9−30834**・・203)の字。

【彝則】28 イソク 守るべき常の法則。常道。〔江淹、蕭驃騎解レ嚴二輸黃鉞一表〕不レ宜下復假二殊服一取一缺中彝則上。

【彝樽】29 イソン さかだる。彝尊。〔書、益稷、宗彝、傳〕宗廟彝樽、亦以二山龍華蟲一爲レ飾。

【彝嘆】31 イタン 清、張自超(**4−9812**・・1142)の字。

【彝仲】32 イチユウ 明、夏允彝(**3−5720**・・283)の字。

【彝珍】33 イチン 清、屠曦(**4−7761**・・48)の字。

【彝鼎】34 イテイ 祭に供へる鼎。〔禮、祭統〕對揚以二辟之勤大命一、施二于烝彝鼎一。〔注〕刻二著於烝祭之彝鼎一、彝、尊也。〔歐陽脩、相州晝錦堂記〕銘二彝鼎一而被二弦歌一。

【彝典】35 イテン 守るべき常の道。〔北史、蘇綽傳〕克捐二厥華一、卽二厥實一、背二厥僞一、崇二厥誠一、勿レ愆勿レ忘、一二乎三代之彝典一、歸二於道德仁義一、用保二我祖宗之于命一。〔隋書、高祖文帝紀下〕删二正彝典一、日不二暇給一。

【彝把】36 イハイ 雲南邊界の彝人の頭目をいふ。〔六部成語、戶部、彝把、注解〕雲南邊界之彝、呼二頭目一爲レ把、言二彝人之頭目一也、有二大把二把之名一。

【彝伯】37 イハク 明、羅其綸(**9−28397**・・315)の字。

【彝父】38 イホ 宋、徐範(**4−10110**・・259)の字。

【彝甫】39 イホ 字號。❶宋、徐範(**4−10110**・・259)の字。❷明、張應文(**4−9812**・・837)の號。

【彝封】40 イホウ 清、黃鼎(崇慶の人)(**12−47926**・・676)の字。

【彝牢】41 イラウ 山名。四川省宜賓縣の西南。又、夷牢に作る。〔讀史方輿紀要、四川、敍州府、宜賓縣、朱提山〕彝牢山、在二府西北百四十里一、山高曠、彝人嘗會二聚於此一、土語樂爲レ牢也。

【彝良】42 イリヤウ 縣名。清末、置く。雲南省昭通縣の東。縣城は戈魁河の支流、洛澤河の右岸。四川・貴州との交通の要衝にて、滇北の重鎭。

【彝量】43 イリヤウ 量器の標準になるもの。〔通典、樂、權量〕魏初杜夔造レ斛、卽周禮所謂嘉量也、深尺方尺、實二一鬴一、臀一寸、實二一豆一、耳三寸、實二一升一、重一鈞、聲中二黃鐘一、晉氏播遷、亡二其彝量一。

【彝倫】44 イリン 人の守るべき常の道。〔書、洪範〕我不レ知二其彝倫攸一レ敍。〔蔡傳〕彝、常也、倫、理也、所謂秉彝人倫也。〔班固、典引〕彝倫斁而舊章缺。〔魏志、王烈傳〕上正二璇璣一、協二和皇極一、下阜二羣生一、彝倫攸レ敍。〔日知錄、經義、彝倫〕彝倫者天地人之常道。

〖敍二彝倫一〗45 イリンヲツイヅ 人として常に守るべき道を立てる。〔藤田東湖、和二文天詳正氣歌一詩〕

長在㆓天地間㆒、凜然敍㆓彝倫㆒。

〔彝倫攸㆑斁〕46（イリンノヤブルルトコロ）　天下の常道が敗れること。〔書、洪範〕帝乃震怒、不㆑畀㆓洪範九疇㆒、彝倫攸㆑斁、鯀則殛死。〔傳〕斁、敗也。〔後漢書、袁譚傳〕使㆓王室震蕩㆒、彝倫攸㆑斁。〔范甯、春秋穀梁傳序〕禮壞樂崩、彝倫攸㆑斁。

【秉㆑彝】47（イヲトル）　人として守るべき常の道を執り行ふ。人道をとり守る。〔詩、大雅、烝民〕天生㆓烝民㆒、有㆑物有㆑則、民之秉㆑彝、好㆓是懿德㆒。〔傳〕彝、常也。

【彝壽軒】48（イジュケン）　清、張應昌（**4－9812**‥835）の室名。

【播】9951　ハン　翻（**9－28814**）に同じ。〔字彙補〕播、同㆑翻。

【豬】9952　チョ　猪（**7－20534**）に同じ。〔字彙補〕豬、同㆑猪。

【戚】9953　ソウ　鏉（**11－40781**）に同じ。〔字彙補〕戚、同㆑鏉。

十六畫

【彚】9954　キ　彙（**4－9936**）に同じ。〔字彙〕彚、同㆑彙。

【豪】9955　ガウ　豪（**10－36406**）に同じ。〔海篇〕豪、同㆑豪。

【壷】9956　コ　壺（**3－5662**）に同じ。〔字彙補〕壷、同㆑壺。

十九畫

【那】9957　ダ　那（**11－39305**）に同じ。〔字彙補〕那、同㆑那。

二十畫

【彜】9958　イ　彝（**4－9950**）の古字。〔説文〕彝、彜、古文彝。

【纀】9959　ハク　穙（**8－23918**）の僞字。〔正字通〕纀、穙字之僞。

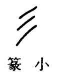
二十三畫

【彠】9960　クヮク　蒦（**9－31582**）に同じ。〔説文〕蒦、彠、蒦或从㆑尋、尋亦度也。

【橐】9961　ナウ　囊（**2－4633**）の古字。〔字彙補〕橐、古文囊字。

彡　部

【彡】9962
㊀サン　セン　〔集韻〕師銜切　ㄕㄢ　shan¹　咸
㊁セン　〔集韻〕思廉切　鹽
㊂セン　〔集韻〕纖琰切　琰


小篆

㊀❶**あや。はけめ**。〔説文〕彡、毛飾畫文也、象形。〔段注〕飾者、㕞也、飾畫者、㕞而畫㆑之也、毛者、聿也、云云、亦謂㆓之筆㆒、所㆓以畫㆒者也、其文則爲㆑彡、云云、毛所㆓飾畫㆒之文成㆑彡、須髮皆毛屬也、故皆以爲㆓彡之屬㆒而从㆑彡。〔康熙字典〕彡、徐鉉曰、毛髮繪飾之事。❷**毛が長い**。〔廣韻〕彡、毛長也。㊁❶**毛のかざり**。〔廣韻〕彡、毛飾。❷**くらのかざり**。〔集韻〕彡、鞧飾謂㆓之彡㆒。㊂❶**姓**。〔集韻〕彡、羌姓、漢有㆓西羌彡姐㆒。❷黃彡は、魚の名。〔閩中海錯疏〕黃彡、鱗細、色黃赤。邦**けかざり**。漢字の字畫上の名。

解字　象形。毛の㕞にて畫いたはけめを表はす。

【彡姐】1（センシ）　複姓。〔漢書、馮奉世傳〕隴西羌彡姐旁種反。〔注〕師古曰、彡、所廉反、又音先廉反、姐音紫、今西羌尚有㆓此姓㆒、而彡音先冉反。〔後漢書、西羌傳〕元帝時、彡姐等七種羌寇㆓隴西㆒。〔通志、氏族略〕今合㆓二字㆒爲㆑亶、音陝、唐有㆓關西節度使亶復弟震賁㆒。

二畫

【𢒀】9963　シン　㐱（**2－1746**）に同じ。〔正字通〕𢒀、本作㆑㐱。

【形】9964　シン　𢒀（**4－9963**）に同じ。〔字彙補〕形、同㆑𢒀。

三畫

【巧】9965　コウ　工（**4－8714**）に同じ。〔正字通〕巧、同㆑工。

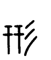
【𢒃】9966　コウ　巧（**4－9965**）の古字。〔正字通〕巧、古文本作㆑𢒃。

【㐱】9967　シ　施（**5－13629**）の古字。〔集韻〕施、古作㆑㐱。

四畫

【𢗊】9968　サン　義未詳。〔字彙補〕𢗊、音彡。

【形】9969　ケイ　ギャウ　〔集韻〕平經切　ㄒㄧㄥ　hsing²　青


小篆

❶**かたち**。㋑物のありさま。態貌。〔説文〕形、象也、从㆑彡幵聲。〔段注〕象、當㆑作㆑像、謂㆓像似可㆑見者㆒也。〔易、乾〕品物流㆑形。〔釋名、釋形體〕形有㆓形象之異㆒也。〔易、繫辭上〕形而上者謂㆓之道㆒。〔疏〕形、是有㆑質之稱。〔禮、樂記〕在㆑天成㆑象、在㆑地成㆑形。㋺からだ。肉體。〔禮、檀弓上〕斂㆓首足形㆒。〔注〕形、體也。〔素問、血氣形志論〕形樂志苦。〔注〕形、謂㆓身體㆒也。〔淮南子、原道訓〕形者生之舍也。㋩なり。すがた。〔廣雅、釋詁四〕形、容也。〔穀梁、桓、十四〕望㆑遠者察㆓其貌㆒、而不㆑察㆓其形㆒。〔注〕形、容色也。㋥やうす。さま。〔史記、秦紀〕問㆔其地形與㆓其兵勢㆒。㋭いきほひ。〔戰國、西周策〕周君形不㆑好㆓小利㆒。〔注〕形、勢也。㋬こと。ことわり。〔列子、仲尼〕形物甚著。〔注〕形物、猶㆓事理㆒也。㋣あと。〔淮南子、繆稱訓〕道之有㆓篇章形埒㆒者。〔注〕形埒、兆朕也。〔後漢書、黃瓊傳〕畫㆓功於無形之世㆒。〔注〕形、兆也。㋠おと。うごき。〔禮、樂記〕樂不㆑耐㆑無㆑形。〔注〕形、聲音動靜也。㋷圖畫。〔書、説命〕乃審㆓厥象㆒、俾㆔以㆑形旁求㆓

于天下一。❷**形する**。かたちづくる。㋑形象を構成する。〔國語、越語下〕天地未レ形而先爲二之征一。〔注〕形、見也。㋺かざる。手を加へる。〔列子、天瑞〕有二形者一、有二形レ形者一。❸**あらはれる**。〔廣雅、釋詁三〕形、見也。〔禮、樂記〕形二於動靜一。〔疏〕形、見也。〔禮、曲禮上〕毀瘠不レ形。〔注〕形、謂二骨見一。〔荀子、堯問〕形二於四海一。〔注〕形、見也。❹**あらはす**。しめす。〔國語、越語下〕天地形レ之。〔注〕形、見也。❺**さかひ**。かぎり。〔周禮、地官、遂人〕造二縣鄙形體之法一。〔注〕形、謂レ制二分界一也。❻**ただしい**。〔淮南子、原道訓〕五音形矣。〔注〕形、正也。❼**のつとる**。〔大戴禮、本命〕形二於一一、謂二之性一。〔注〕形、法象也。❽**のり**。しおき。刑(**2－1886**)に通ず。〔說文通訓定聲〕形、叚借爲レ刑。〔易、鼎〕其形渥。〔本義〕晁氏曰、形渥、諸本作二形剭一、謂二重刑一也。〔荀子、成相〕形是詰。〔注〕形、當レ爲レ刑。❾**かた**。**かたどる**。型(**3－5030**)に通ず。〔說文通訓定聲〕形、叚借爲レ型。〔左氏、昭、十二〕形二民之力一。〔注〕隨レ器而制レ形。〔疏〕鑄冶之家、將レ作二器而制二其模一、謂二之爲レ形。❿鉶(**11－40343**)に通ず。〔康熙字典〕形、與レ鉶同。〔史記、秦始皇紀〕飯二土塯一、啜二土形一。〔注〕集解曰、土形、飯器之屬、瓦器也。

名乘 スヱ。ナリ。ミ。ヨリ。カタ。

【形穢】1 ケイアイ ケイワイ すがたがみにくい。〔晉書、衞玠傳〕每見レ玠輒歎曰、殊玉在レ側、覺二我形穢一。〔徐陵、答二李顒之一書〕披レ素清レ顏、但覺二形穢一。

【形渥】2 ケイアク 身體がうるほふ。渥は霑。鼎が覆つて中の物がこぼれること。一說に、形渥は刑剭に同じ。重刑をいふ。〔易、鼎〕九四、鼎折レ足、覆二公餗一、其形渥、凶。〔注〕渥、沾濡之貌也。〔疏〕鼎足既折、則覆二公餗一也、渥、沾濡之貌也、既覆二公餗一、體則渥霑也。〔本義〕晁氏曰、形渥、諸本作二刑剭一、謂二重刑一也、今從レ之。

【形影】3 ケイエイ かたちとかげ。形體とかげ。常に相離れぬものにいふ。〔莊子、在宥〕若二形之於レ影、聲之於レ響。〔韓非子、功名〕名實相持而成、形影相應而立、故臣主同レ欲而異レ使。〔越絕書、越絕外傳枕中〕譬猶二形影聲響一。〔潘岳、寡婦賦〕睎二形影于几筵一兮。〔傅毅、舞賦〕顧二形影一自整レ裝。〔張九齡、照レ鏡見二白髮一詩〕誰知明鏡裏、形影自相憐。

〘形影相弔〙4 ケイエイアヒトムラフ 己の形體とかげとが互にとむらふ。ひとり身のたよりないさま。〔曹植、上二責レ躬應レ詔表〕形影相弔、五情愧赧。〔李密、陳情表〕煢煢孑立、形影相弔。

〘形影相同〙5 ケイエイアヒオナジ 形體の曲直によつて影も曲直する。心の善惡が行ひに表れることをいふ。〔列子、說符〕列子顧而觀レ影、形枉則影曲、形直則影正、然則枉直隨レ形而不レ在レ影、屈申任レ物而不レ在レ我。

【形役】6 ケイエキ 肉體のために精神を使役する。〔陶潛、歸去來辭〕既自以レ心爲二形役一。

【形鹽】7 ケイエン おし固めて虎の形に作つた鹽。祭祀に供へる。〔周禮、天官、籩人〕朝事之籩、其實麷蕡、白黑形鹽。〔注〕築レ鹽以爲二虎形一、謂二之形鹽一。〔左氏、僖、三十〕饗有二昌歜・白黑・形鹽一。〔注〕形鹽、鹽形象レ虎也。

【形音】8 ケイオン かたちと音。すがたとこゑ。〔謝惠連、西陵遇レ風獻二康樂一詩〕迴塘隱二艫栧一、遠望絕二形音一。

【形下】9 ケイカ 形而下(118)を見よ。

【形家】10 ケイカ 堪輿家の別稱。地形を相して宅地・墓地を卜ふもの。〔江西通志〕鐸長老、宋元間以二形家術一周二流郡中一、談二禍福一若二符契一。

【形解】11 ケイカイ ❶茫然自失すること。〔莊子、田子方〕吾形解而不レ欲レ動、口鉗而不レ欲レ言。❷仙人などの死をいふ。尸解。〔史記、封禪書〕宋毋忌・正伯僑・克尚・羨門子高、最後皆燕人、爲二方僊道一、形解銷化、依二於鬼神之事一。〔注〕集解曰、服虔曰、尸解也。〔顏延之、五君詠、嵇中散詩〕形解驗二默仙一、吐レ論和レ凝レ神。

【形骸】12 ケイガイ からだ。肉體。形體。又、外貌。〔莊子、逍遙遊〕豈唯形骸有二聾盲一哉、夫知亦有レ之。〔孔子家語、五儀解〕若二性命之形骸之不レ可レ易也。〔後漢書、郅惲傳〕裸二人形骸一。〔何劭、贈二張華一詩〕奚用遺二形骸一、忘レ筌在レ得レ魚。

〘形骸之外〙13 ケイガイノソト 肉體の外面。心德を內とするに對して肉體・形貌を外といふ。〔莊子、德充符〕今子與レ我、遊二於形骸之內一、而子索二我形骸之外一、不二亦過一乎。〔注〕形貌外矣、其德內也、今子與レ我德遊耳、非二與レ我形交一也。〔王羲之、三月三日蘭亭詩序〕放二浪形骸之外一。

〘形骸之內〙14 ケイガイノウチ 人の肉體の內。心・精神・道德をいふ。形骸之外を見よ。

〘土二木形骸一〙15 ケイガイヲドボクニス 外貌を土木のやうにして飾らぬこと。〔晉書、嵇康傳〕康字叔夜、身長七尺八寸、美二詞氣一、有二風儀一、而土二木形骸一、不二自藻飾一、人以爲二龍章鳳姿、天質自然一。〔世說新語、容止〕劉伶身長六尺、貌甚醜顇、而悠悠忽忽、土二木形骸一。

【形格】16 ケイカク 形がさからつて順を失ふこと。形格勢禁を見よ。

〘形格勢禁〙17 カタチハバミイキホヒトドム 形勢がはばみとどまること。自由の行動ができぬ。格は拒止の意。〔史記、孫子傳〕批レ亢擣レ虛、形格勢禁、則自爲レ解耳。〔注〕索隱曰、批二其相亢一、擊二擣彼虛一、則是事形相格、而其勢自禁止、則彼自爲レ解レ兵也。

【形學】18 hsing^2 hsüeh^2 幾何學。

【形幹】19 ケイカン からだ。形軀。〔南齊書、曹虎傳〕虎形幹甚毅。

【形顏】20 ケイガン からだとかほかたち。容貌。〔蔡琰、悲憤詩〕雖二苟活一兮無二形顏一。

【形氣】21 ケイキ かたちと氣。〔列子、湯問〕雖レ然形氣異也、性鈞已。〔漢書、藝文志〕形與レ氣相首尾。〔淮南子、泰族訓〕形氣動二於天一、則景星見。〔班固、幽通賦〕形氣發二於根柢一兮。〔吳志、韋曜傳〕形氣吶吃。

【形毀】22 ケイキ かたちがこはれる。からだがそこなはれる。〔論衡、四諱〕古者用レ刑者、形毀不レ全。

【形器】23 ケイキ 一定の形をしたもの。定形を有する器。〔袁宏、三國名臣序贊〕形器不レ存、方寸海納。〔注〕善曰、周易曰、形乃謂二之器一、翰曰、形器不レ存、謂下心存二萬物一、不丙專存乙一理甲。

【形儀】24 ケイギ みめかたち。たちゐふるまひ。容儀。〔南史、文學、丘靈鞠傳〕鞠不レ持二形儀一、惟取二笑適一。

【形倨】25 ケイキョ 容貌がおごること。〔莊子、山木〕君無二形倨一。

【形虛】26 ケイキョ 形體をむなしくする。〔莊子、列禦寇〕欲下兼二濟道物一、太一形虛上。〔疏〕望レ得下虛二空其形一、合中太一之玄道上者、終不可也。

【形軀】27 ケイク からだ。身體。〔莊子、在宥〕論頌形軀、合二乎大同一。〔管子、任法〕便二形軀一養二壽命一。

【形虞】28 ケイグ 藥草の名。阿魏の異名。〔本草、阿魏〕釋名、時珍曰、夷人自稱曰レ阿、此物極臭、阿之所レ畏也、波斯國呼爲二阿虞一、天竺國呼爲二形虞一、涅槃經謂二之央匱一、蒙古人謂二之哈昔泥一。

【形化】29 ケイクワ 形體の變化すること。死ぬこと。〔莊子、齊物論〕其形化、其心與レ之同。

【形君】30 ケイクン 形體の主。卽ち心をいふ。〔荀子、解蔽〕心者形之君、而神明之主也。

【形教】31 ケイケウ 形にあらはれたをしへ。尊卑・大小・拜伏等のことをいふ。〔禮、郊特牲、禮由レ陰作者也、疏〕陰、地也、地以レ形生、故制レ禮象レ之、禮以レ形爲レ教、是由レ陰作也、形教、謂二尊卑大小拜伏之事一也。

【形見】32 ケイケン ❶形があらはれる。〔淮南子、兵略訓〕智見者人爲二之謀一、形見者人爲二之功一、衆見者人爲二之伏一、器見者人爲二之備一、動作周還、倨句詘伸、可二巧詐一者、皆非二善者一也。〔謝靈運、江妃賦〕青袿神接、紫衣形見。❷カタミ 死んだ人、又は別れた人の代りに見るべき遺物。思ひ出の種となるもの。記念。遺物。〔萬葉集、十五〕わぎもこが可多美に見むを。

〘形見草〙33 カタミグサ ❶葵の異名。❷菊の異名。

〘形見種〙34 カタミグサ 思ひ出のよすが。卽ち形見となるべきもの。記念品。

【形檢】35 ケイケン 形貌の嚴整なこと。〔袁宏、三國名臣序贊〕元歎穆遠、神和形檢。〔注〕良曰、檢、整也、言二其志思美遠、神理清和、形貌嚴整一。

【形語】36 ケイゴ 口で言ふことが出來ず、手眞似で言語に替へて、其の意をあらはすこと。〔蘇軾、前怪石供文〕海外有二形語之國一、口不レ能レ言、而

相喩以レ形。

【形載】37（ケイサイ） 物を形にあらはして之を載せる。地のはたらきをいふ。〔列子、天瑞〕天職ニ生覆一、地職ニ形載一。

【形相】38（ケイサウ） ❶人相。容貌。形態。ぎやうさう。〔荀子、非相〕形相雖レ惡而心術善、無レ害ニ爲ニ君子一也。❷形によつてはかり考へる。〔羅隱、堠子詩〕君知ニ不識字一、第一莫ニ形相一。〔曹唐、小遊仙詩〕萬樹琪花千圃藥、心知不ニ敢輙形相一。❸質料(10―36833··109)の對。形而上學的には事物の成立及び發現の仕方を意味する。㊃（ギヤウサウ） ❶に同じ。

【形像】39 hsing^2 hsiang^4 かたち。様子。ありさま。

【形藏】40（ケイザウ） 臟物のうち形あるもの、頭角・耳目・口齒・胸中をいふ。〔素問、六節藏象論〕形藏四、神藏五、合爲ニ九藏一。〔注〕形藏、四者、一頭角、二耳目、三口齒、四胷中也、形分爲レ藏、故以名焉。

【形削】41（ケイサク） 身體がやせ衰へること。〔江淹、四時賦〕逐ニ長夜一而心隕、隨ニ白日一而形削。

【形殘】42（ケイザン） 神の名。形天(84)に同じ。〔淮南子、墬形訓〕西方有ニ形殘之尸一。〔注〕形殘之尸、于レ是以ニ兩乳一爲レ目、肥臍爲レ口、操ニ干戚一以舞、以レ無レ夢、天神斷ニ其手一、後天帝斷ニ其首一也。〔集解〕卽山海經之形天也、古聲天・殘相近。

【形紙】43（カタガミ） 種々の模様をきりぬいた厚紙。布帛にあてて模様を捺染するに用ひる。

【形似】44（ケイジ） 形が似る。形貌が似る。〔宋書、謝靈運傳論〕相如巧爲ニ形似之言一。〔世說新語、排調〕桓豹奴是玉丹陽外生、形似ニ其舅一、桓甚諱レ之。〔圖繪寶鑑〕得ニ其形似一而不レ失ニ規矩一者、謂ニ之能品一。

【形式】45（ケイシキ） ❶一定のきまり。かた。みえ。外形。〔通典、食貨、錢幣下〕廢帝景和二年、鑄ニ二銖錢一、文曰ニ景和一、形式轉細。❷手續。方法。

〖形式的〗46（ケイシキテキ） 形式を主とする。又は形式に關する等の意。

〖形式法〗47（ケイシキハフ） 國法學で憲法の規定した立法手續を經て制定した法律。手續法(**5**―11768··172)を見よ。

〖形式主義〗48（ケイシキシユギ） ❶Formalistic view 善惡は行爲又は意志の傾向に屬する性質で、直接に感知せられるといふ說。❷認識能力には、先天形式を具へてゐるといふ說。❸何事によらず、内容よりは形式に重きを置くこと。

【形質】49（ケイシツ） かたち。からだ。形狀性質。〔晉書、劉曜載記〕自以ニ形質異一、衆恐不レ容ニ于世一。〔南史、徐摛傳〕形質陋小、若レ不レ勝レ衣。

【形象】50（ケイシヤウ） すがたかたち。さま。〔書、說命〕乃審ニ厥象一、俾三以レ形旁ニ求于天下一。〔傳〕審ニ所レ夢之人一、刻ニ其形象一、以ニ四方旁一求之於民閒一。〔說苑、指武〕變無ニ形象一。〔後漢書、蔡茂傳〕大殿者宮府之形象也。〔魏志、管寧傳〕寧少而喪レ母、不レ識ニ形象一。

〖形象文字〗51（ケイシヤウモンジ） 有形物のかたちを、かたどつて作つた文字。漢字では六書の一。日(☉)・月(☽)の字などの類。音符文字(**12**―43265··78)の對。漢字以外にも埃及文字・楔形文字・繪文字など之に屬するものが多い。象形文字(**10**―36372··35)に同じ。

【形上】52（ケイジヤウ） 形而上。かたちを超えたもの。無形のもの。又、現象を超越する境界。形而下(118)の對。〔易、繫辭上〕形而上者、謂ニ之道一、形而下者、謂ニ之器一。

【形狀】53（ケイジヤウ） なりかたち。すがた。ありさま。狀態。〔荀子、非相〕相ニ人之形狀顏色一。〔史記、豫讓傳〕使ニ形狀不レ可レ知。〔後漢書、襄楷傳〕夫龍形狀不レ一、小大無レ常。〔魏志、武帝紀〕衆乃刻レ木如ニ信形狀一。〔南史、新安王伯固傳〕形狀眇小、而俊辯善ニ言論一。〔顏氏家訓、勉學〕吾嘗共レ人談レ書、言ニ及王莽形狀一。

【形釋】54（ケイシヤク） 形體がとける。體軀の存在を感ぜぬこと。〔列子、仲尼〕心凝形釋。

【形壽】55（ケイジユ） 人間の存生の閒をいふ。壽命。〔梁簡文帝、爲ニ諸寺檀越一願疏〕今願爲ニ武當山太平寺一、并ニ此鎭望楚白塔同安習善・延明頭陀・上鳳林・下鳳林・廣嚴等寺一、皆盡ニ形壽一、永爲ニ檀越一。

【形勝】56（ケイシヨウ） ❶地勢のすぐれてゐること。地の利に富むこと。〔荀子、彊國〕形勢便、山林川谷美、天材之利多、是形勝也。〔徐排、古意酬三到長史溉登ニ琅邪城一詩〕表裏窮ニ形勝一。〔趙翼、赤壁詩〕依然形勝扼ニ荊襄一、赤壁山前故壘長。❷景色のすぐれた地。景勝に同じ。

〖形勝之國〗57（ケイシヨウノクニ） 地形の勝れた國。地の利に富む國。要害の地。〔史記、高祖紀〕秦形勝之國、帶ニ河山之險一、縣ニ隔千里一、持戟百萬。〔注〕集解曰、秦地帶ニ山河一、得ニ形勢之勝便一者、索隱曰、地形險固、故能勝レ人也。

【形色】58（ケイシヨク） かたち。容色。形は形體、耳目鼻口の類。色は容貌にあらはれるもの。〔孟子、盡心上〕形色天性也、惟聖人然後可ニ以踐レ形。〔莊子、天道〕世人以ニ形色名聲一、爲レ足三以得ニ彼之情一。〔列子、天瑞〕自生自化、自形自色、自智自力、自消自息、謂ニ之生化形色智力消息一者非也。

【形神】59（ケイシン） 身體と精神。〔戰國、楚策〕士生ニ乎鄙野一、推選則祿焉、非レ不レ尊レ遂也、然而形神不レ全。〔列子、仲尼〕形神不ニ相偶一。〔向秀、思舊賦〕形神逝其焉如。

【形數】60（ケイスウ） ❶八卦の形と數とをいふ。〔漢書藝文志攷證、易〕古封禪羣祀二十二篇、云云、龜山楊氏曰、是書太古河圖代姓紀曰、博厚而濁、謂ニ之太易一、太易之數三、是以ニ形數一名レ易、知三其非ニ古書一也。❷hsing^2 shu^4 算學の名。

【形生】61（ケイセイ） 身體と生命。〔莊子、庚桑楚〕天全ニ其形生一之人、藏ニ其身一也、不レ厭ニ深眇一而已矣。

【形成】62（ケイセイ） かたちづくること。〔仲長敖、覈性賦〕形生有レ極、嗜欲莫レ限。

〖形成層〗63（ケイセイソウ） 木幹の靭皮（ジンピ）と木質との閒にあつて肉眼で分らぬほどの薄い膜。

【形制】64（ケイセイ） ❶地形で人を制服する。〔漢書、酈食其傳〕願足下急復進レ兵、收ニ取滎陽一、據ニ敖庾之粟一、塞ニ成皐之險一、杜ニ太行之道一、距ニ飛狐之口一、守ニ白馬之津一、以示ニ諸侯形制之勢一、則天下知レ所レ歸矣。〔注〕師古曰、以ニ地形一而制服。〔新序、善謀下〕示ニ諸侯形制之勢一。❷かたち。こしらへかた。形製。〔晉書、輿服志〕皁ニ輪車一、駕ニ四牛一、形制猶如ニ犢車一。〔岳陽風土記〕靈妃廟有ニ銅鼓一、元豐中永慶莊耕者得レ之、色正青綠、形制精巧、非三近世所ニ能爲一也。

【形性】65（ケイセイ） からだと天性。〔莊子、徐無鬼〕馳ニ其形性一、潛ニ之萬物一、終身不レ反。〔顏延之、應レ詔讌ニ曲水一作詩〕樹ニ之形性一。

【形埶】66（ケイセイ） ❶形勢に同じ。❷管子の篇名。

〖形埶解〗67（ケイセイカイ） 管子の篇名。

【形勢】68（ケイセイ） ありさま。やうす。おもむき。いきほひ。地の高下夷險のさま、及び人事の強弱盛衰等のさまにいふ。形埶。〔荀子、彊國〕非三劫レ之以ニ形勢一。〔管子、七法〕形勢器械未レ具也。〔史記、劉敬傳〕非ニ其德薄一也、而形勢弱也。〔淮南子、說林訓〕形勢所レ致者也。〔新書、藩彊〕其形勢然矣。〔漢書、張延壽傳〕還謁ニ大將軍光一、問ニ千秋戰鬬方略、山川形勢一。〔後漢書、馬援傳〕聚レ米爲ニ山谷一、指ニ畫形勢一。〔吳志、胡綜傳〕臣從ニ河北一席卷而南、形勢一連、根牙永固。

〖形勢之途〗69（ケイセイノト） 權力ある人々の居るところ。又、その地位。〔韓愈、送三李愿歸ニ盤谷一序〕伺ニ候於公卿之門一、奔ニ走於形勢之途一。

【形製】70（ケイセイ） 製成せられたかたち。刑制。〔圖畫見聞錄〕孫位曾于ニ成都應天寺門左壁一、畫ニ坐天王暨部從鬼神一、筆鋒狂縱、形製詭異。

【形聲】71（ケイセイ） ❶形と聲。〔漢書、董仲舒傳〕夫善惡之相從、如三景鄕之應ニ形聲一也。❷六書の一。又、諧聲・象聲ともいふ。兩文を合して一字とし、一半は形義を表はし、一半は音聲を表はすもの。賈公彥は之を左の六に分つ。左形右聲(江・河)、右形左聲(鳩・鴿)、上形下聲(草・藻)、上聲下形(婆・娑)、外形內聲(圃・囿)、外聲內形(問・輿)。形聲は其の數最も多く、漢字中八九割を占む。六書(**2**―1453··331)の❶を見よ。〔許愼、說文解字序〕形聲者、以レ事爲レ名、取レ譬相成、江河是也。〔段注〕劉歆班固謂ニ之象聲一、形聲卽象聲也、其字半主レ聲、半主レ義者、取ニ其義一而形レ之、半主レ聲者、取ニ其聲一而形レ之、不レ言レ義者不レ待レ言也、得ニ其聲之近似一、故曰ニ象聲一、曰ニ形聲一、鄭衆作ニ諧聲一、諧、詒也、非ニ其義一。

【形迹】72（ケイセキ） あとかた。行爲の形式。儀容行動の外に著はれるもの。痕跡。形跡。〔陶潛、始作ニ鎭軍參軍一經ニ曲阿一作詩〕眞想初在レ襟、誰謂形迹拘。〔舊唐書、魏徵傳〕徵爲ニ人臣一、須レ存ニ形迹一、不レ能三遠避ニ嫌疑一、遂招ニ此謗一。

【形跡】73（ケイセキ） あとかた。痕跡。形迹に同じ。

【形全】74ケイゼン　かたちが完全なこと。〔莊子、德充符〕形全猶足ニ以爲レ爾。

【形存】75ケイソン　身體の安らかに存すること。〔潘岳、寡婦賦〕雖ニ形存一而志殞。

【形能】76ケイタイ　形體の❷に同じ。〔荀子、天論〕耳目鼻口形能、各有レ接而不ニ相能一也、夫是之謂ニ天官一。〔集解〕王念孫曰、楊以ニ耳目鼻口形一連讀、而以ニ能字一屬レ下讀、於レ義未レ安、余謂、形能當ニ連讀一、能讀爲レ態、楚辭招魂注曰、態、姿也、形態卽形也、言、耳目鼻口形態、各與レ物接、而不レ能ニ互相爲レ用也。

【形態】77ケイタイ　かたち。ありさま。形狀。〔歷代名畫記、九、唐朝上〕馮紹正、云云、尤善畫ニ鷹鶻雞雉一、盡ニ其形態一。

〔形態學〕78ケイタイガク　Morphology　動植物の形態・構造及び器官の外形等を研究する學問。解剖學・發生學等に分ける。

【形體】79ケイタイ　❶分界をきめる。〔周禮、地官、遂人〕造ニ縣鄙形體之灋一。〔注〕經ニ形體一、皆謂レ制ニ分界一也。❷身體。なりかたち。精神に對していふ語。〔莊子、在宥〕墮ニ爾形體一、吐ニ爾聰明一。〔荀子、榮辱〕其形體又人、而好惡多同。〔韓非子、難三〕是以形體不レ勞而事治、智慮不レ用而姦得。〔管子、水地〕形體肥大。〔新語、道基〕種ニ桑麻一、致ニ絲枲一、以蔽ニ形體一。〔淮南子、精神訓〕夫精神者、所レ受ニ于天一也、而形體者、所レ稟ニ于地一也。〔孔子家語、問禮〕形體則降。

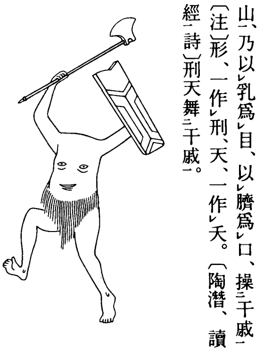
【形代】80カタシロ　❶昔、神を祭る時、其の神靈に代へて据ゑおくもの。❷陰陽家などで、祈禱を行ふ時に用ひる人形。

【形單】81ケイタン　ひとりみ。單身。形單影隻を見よ。

〔形單影隻〕82ケイタンエイセキ　からだも一つ影も一つ。ひとり身で、助けのないこと。〔韓愈、祭ニ十二郞一文〕承ニ先人後一者、在レ孫惟汝、在レ子惟吾、兩世一身、形單影隻。

【形兆】83ケイテウ　あらはれ。きざし。かたち。〔漢書、息夫躬傳〕豫圖ニ未形一、〔注〕師古曰、圖、謀也、未レ有ニ形兆一而謀レ之。〔論衡、明雩〕終不レ耐レ行、況雨無ニ形兆一。〔江淹、雜體、孫廷尉綽雜述詩〕太素既已分、吹萬著ニ形兆一。

【形天】84ケイテン　神の名。形殘。〔山海經、海外西經〕形天與レ帝至レ此爭レ神、帝斷ニ其首一、葬ニ之常羊之山一、乃以レ乳爲レ目、以レ臍爲レ口、操ニ干戚一以舞。〔注〕形、一作レ刑、天、一作レ夭。〔陶潛、讀ニ山海經一詩〕刑天舞ニ干戚一。



形天（山海經圖）

【形內】85ケイナイ　有形の中。形體の中。〔陸機、文賦〕籠ニ天地於形內一。

【形廢】86ケイハイ　無我になつて形體を忘れる。〔列子、湯問〕心死形廢、挫ニ萬物於筆端一。

【形方】87ケイハウ　古の人名。〔孔叢子、對魏王〕以ニ穆軀・形方之二子一、猶悉賢レ之。

〔形方氏〕88ケイハウシ　周官の名。夏官の屬。邦國の封疆を正すことを掌る。〔周禮、夏官、形方氏〕掌下制ニ邦國之地域一、而正中其封疆上。

【形皃】89ケイバウ　形貌に同じ。〔釋名、釋宮室〕廟、皃也、先祖形皃所レ在也。

【形貌】90ケイバウ　すがた。なりかたち。貌形。容貌。〔墨子、大取〕以ニ形貌一命者、必知ニ是之某一也。〔漢書、蘇武傳〕法ニ其形貌一、署ニ其官爵姓名一。〔後漢書、五行志五〕形貌似レ龍。〔魏志、典韋傳〕形貌魁梧。

【形須】91ケイバウ　形貌に同じ。〔戰國、齊策〕鄒忌修八尺有餘、而形須昳麗。

【形魄】92ケイハク　からだ。魄は身體の精氣。〔禮、郊特性〕魂氣歸ニ于天一、形魄歸ニ于地一。

【形疲】93ケイヒ　からだがつかれること。〔列子、周穆王〕心形俱疲、夜亦昏憊。〔土井贅牙、匹夫不レ可レ奪レ志論〕俄而形疲神倦、往往物未ニ來奪一。

【形服】94ケイフク　形勢で自然に屈服すること。〔史記、田敬仲完世家〕圖重而名尊、燕楚所ニ以形服一。

【形物】95ケイブツ　❶形あるもの。〔列子、湯問〕連於ニ形物一然。〔鬳齋口義〕形物、有レ形之物也。❷ことわり。事理。〔列子、仲尼〕形物其箸、其動若レ水、其靜若レ鏡、其應若レ響。〔注〕形物、猶ニ事理一也、事理自明、非ニ我之功一也。

【形兵】96ケイヘイ　我が兵の形を敵に示すこと。〔孫子、虛實〕故形レ兵之極、至ニ於無レ形。

【形表】97ケイヘウ　容貌。〔蔡邕、郭泰碑文〕望ニ形表一而影附。

【形便】98ケイベン　地形がすぐれて便利なこと。〔戰國、秦策〕沃野千里、蓄積饒多、地勢形便。〔注〕攻レ之不レ可レ得、守レ之不レ可レ壞、故曰ニ形便一也。〔淮南子、兵略訓〕地利形便、卒民勇敢。

〔形便之國〕99ケイベンノクニ　地勢がすぐれて便利な國。〔史記、秦始皇紀〕雖レ居ニ形便之國一、猶不レ得レ存。〔魏志、陳矯傳〕鄙郡雖レ小、形便之國也。

【形名】100ケイメイ　❶形と名。〔列子、仲尼〕髮引ニ千鈞一、勢至等也、白馬非レ馬、形名離也。〔鬳齋口義〕白、色也、以レ色而名曰レ白、馬、形也、以レ形名曰レ馬、謂レ色爲レ白則可、謂レ形爲レ馬則可、若以ニ白馬一爲レ馬、則白、色也、馬、形也、二物也、安得而一レ之、故曰ニ白馬非一レ馬、形名離也。〔淮南子、說山訓〕凡得レ道者、形不レ可ニ得而見一、名不レ可ニ得而揚一、今汝已有ニ形名一矣、何道之所レ能乎。❷臣下の議論（名）と其の實際の成績（形）。形名參同を見よ。身體と名譽。身を修めて名譽を致すこと。〔莊子、天道〕古之明ニ大道一者、先明レ天、而道德次レ之、道德已明、而仁義次レ之、仁義已明、而分守次レ之、分守已明、而形名次レ之、形名已明、而因任次レ之、因任已明、而原省次レ之、原省已明、而是非次レ之、是非已明、而賞罰次レ之、賞罰已明、而愚知處レ宜、貴賤履レ位、仁賢不肖襲レ情、必分ニ其能一、必由ニ其名一、以レ此事レ上、以レ此畜レ下、以レ此治レ物、以レ此修レ身、知謀不レ用、必歸ニ其天一、此之謂ニ大平一、治之至也、故書曰、有レ形有レ名、形名者古人有レ之、而非三所ニ以先一也、古之語ニ大道一者、五變而形名可レ擧、九變而賞罰可レ言也。〔疏〕形、身也、名守ニ其分一、不三相傾ニ奪次一、勸ニ修身一致ニ其名譽一也。❸旌旗（形）と金鼓（名）。〔孫子、兵勢〕孫子曰、凡治レ衆如レ治レ寡、分數是也、鬭レ衆如レ鬭レ寡、形名、是也。〔集注〕曹操曰、旌旗曰レ形、金鼓曰レ名。

〔形名參同〕100′ケイメイサンドウ　戰國時代の法家、申不害・韓非子などの唱へた學說。臣下の議論（名）と其の實際の成績（形）とをしらべて賞罰する方法。刑名（2－1886··132）の❸に同じ。〔韓非子、主道〕有レ言者自爲レ名、有レ事者自爲レ形、形名參同、君乃無レ事焉、歸ニ之其情一。〔韓非子、揚權〕不レ知ニ其名一、復脩ニ其形一、形名參同、用ニ其所レ生、二者誠信、下乃貢レ情。〔韓非子解詁、韓子綱領〕所謂刑名、形名也、非レ謂ニ重レ刑貴レ名之謂一也、云云、爲ニ人臣一者、陳レ事而言、君以ニ其言一授ニ之事一、專以ニ其事一責ニ其功一、功當ニ其事一、事當ニ其言一、則賞レ之、功不レ當ニ其功一、事不レ當ニ其言一、則罰レ之、是謂ニ形名之學一。〔呂覽、精諭〕此形名不ニ相當一、聖人之所レ察也。

【形面】101ケイメン　顏かたち。〔論衡、齊世〕形面醜惡。

【形容】102ケイヨウ　❶顏かたち。すがた。容貌。〔韓非子、姦劫弒臣〕及三襄子之殺ニ智伯一也、豫讓乃自黔劓、敗ニ其形容一、以爲ニ知伯一報ニ襄子之仇一。〔管子、心術下〕外見ニ於形容一。〔史記、孟嘗君傳〕形容狀貌甚辯。〔漢書、田儋傳〕形容尙未レ能レ敗。〔淮南子、脩務訓〕曚然未レ見ニ形容一。〔列女傳、母儀、周室三母傳〕生子形容端正。❷ありさま。狀態。形狀。形態。形象。〔易、繫辭上〕聖人有三以見ニ天下之賾一、而擬ニ諸其形容一、象ニ其物宜一。〔六韜、武韜、文啓〕變ニ於形容一。〔鬼谷子、反應〕策而無ニ形容一。❸狀態を言ひあらはす。〔李純甫、雪詩〕椎璋抵壁紛破碎、千奇萬巧難ニ形容一。

〔形容詞〕103ケイヨウシ　語學上の語。物事の性質・形狀等をあらはす詞で、其の語尾は活用する。又、形狀言ともいふ。「く」活用と「しく」活用とに分れ、「く」活を第一形容詞といひ、「しく」活を第二形容詞といふ。中國語では靜字といふ。

〔形容枯槁〕104ケイヨウコカウ　容貌が瘦せ衰へる。やつれる。〔戰國、秦策〕形容枯槁、面目犂黑、狀有ニ歸色一。〔楚辭、漁父〕顏色憔悴、形容枯槁。

【形勞】105ケイラウ　身體を勞すること。〔莊子、天下〕禹大聖也、而形勞ニ天下一也如レ此。

【形埒】106ケイラツ　かたちと分界。又、物のおこるきざし。〔淮南子、原道訓〕四支不レ動、聰明不レ損、而知ニ八紘九野之形埒一者、何也。〔淮南子、繆稱訓〕道之有ニ篇章形埒一者、非ニ至者一也、嘗レ之而無レ味、視レ之而無レ形、不レ可レ傳ニ於人一。〔注〕形埒、兆朕也。〔蜀志、郤正傳〕管闚筐擧、守ニ厥所一レ見、未レ

可下以言二八紘之形埒一、信中萬事之精練上也。

【形埒】107（ケイラツ） 形埒に同じ。〔列子、天瑞〕視レ之不レ見、聽レ之不レ聞、循レ之不レ得、故曰レ易也、易無二形埒一。〔釋文〕淮南子作二形埒一、乾鑿度作二形埒一。

【形累】108（ケイルイ） 形骸のわづらひ。〔莊子、列禦寇〕若レ是者迷二惑于宇宙一、形累不レ知二太初一。

【形羸】109（ケイルイ） からだがつかれる。〔南史、周盤龍傳〕盤龍父子由レ是名播二北國一、形甚羸、而臨レ軍勇果、諸將莫レ逮。

【形類】110（ケイルイ） 形と種類。〔孔叢子、記問〕物有二形類一。

【形臠】111（ケイレン） 肉體。形體。〔鶡冠子、泰錄〕精微者天地之始也、不レ見二形臠一而天下歸レ美焉。〔注〕臠、肉也。

【形和】112（ケイワ） 容貌を和げて打ちとける。〔漢書、公孫弘傳〕氣和則形和、形和則聲和。〔譚子化書〕樂者其形和、喜者其形逸。

【苦レ形】113（カタチヲクルシム） 肉體をくるしめること。〔史記、刺客傳〕何乃殘レ身苦レ形、欲二以求レ報二襄子一。

【忘レ形】114（カタチヲワスル） 己が肉體の存在をわすれる。道家の精神修養法の一。〔莊子、德充符〕德有レ所レ長、而形有レ所レ忘。

【分レ形】115（カタチヲワカツ） 肉體を別々にすること。〔曹植、求二自試一表〕臣敢陳二聞於陛下一者、誠與レ國分レ形同レ氣、憂患共レ之者也。〔注〕善曰、呂氏春秋曰、父母之於レ子也、子之於二父母一也、一レ體而分レ形、同二氣血一而異レ息。

【分レ形連レ氣】116（カタチヲワカチキヲツラヌ） 兄弟をいふ。兄弟は同じ父母から生れるものであるから、形は分れてゐても、其の氣脈は連つてゐる。〔小學、嘉言〕兄弟者、分レ形連レ氣之人也。

【形意拳】117（ケイイケン） 拳術の名。行意拳ともいふ。十二形あり。拳術中、最も簡單なもの。

【形而下】118（ケイジカ） 有形物の義。物質・器物をいふ。而は助字。形而上を見よ。

【形而下學】119（ケイジカガク） 有形の學。卽ち物質上の科學たる物理學・動物學等をいふ。

【形而上】120（ケイジジヤウ） 無形物の義。精神・道をいふ。而は助字。〔易、繫辭上〕形而上者、謂二之道一、形而下者、謂二之器一。

【形而上學】121（ケイジジヤウガク） 無形の學。卽ち精神界に關する學問で、哲學・論神學等をいふ。

【形レ形色レ色】122（カタチヲカタチトシイロヲイロトス） 品類の衆多なこと。〔列子、天瑞〕故有二生者一、有二生レ生者一、有二形者一、有二形レ形者一、有二聲者一、有二聲レ聲者一、有二色者一、有二色レ色者一、有二味者一、有二味レ味者一。

【形如二槁木一】123（カタチカウボクノゴトシ） 形は枯木の立つたやうに靜かで動かぬ。人の無爲無心なこと。〔莊子、齊物論〕南郭子綦隱レ几而坐、仰レ天而噓、嗒焉似レ喪二其耦一、顏成子游立二侍乎前一曰、何居乎、形固可レ使レ如二槁木一、而心固可レ使レ如二死灰一乎。

【形如二處女一】124（カタチシヨヂヨノゴトシ） すがたが處女のやうにたをやかなこと。〔列子、黃帝〕心如二淵泉一、形如二處女一。

【形親之國】125（ケイシンノクニ） 土地が接近してゐて互に親しむべき國。〔史記、張儀傳〕今秦與レ楚接二境壤界一、固形親之國也。

【形束壤制】126（ケイソクジヤウセイ） 土地の形勢で束縛制禦すること。〔史記、平津侯主父傳〕形束壤制、旁二脅諸侯一。〔漢書、嚴安傳〕形束壤制、帶二脅諸侯一。

【形同二木偶一】127（カタチモクグウニオナジ） 官吏となつて事務を處理することが出來ないことをいふ。木偶は木製の人形。〔六部成語、吏部、形同二木偶一、注解〕爲レ官而不レ能レ辨レ事、如二木製之偶像一然。

【形德八柄】128（ケイトクハツペイ） 刑罰を加へ、德惠を加へる八柄の法。形は刑、德は惠、八柄は周禮太宰の八柄、天子が群臣を御する爵・祿・予・置・生・奪・廢・誅の八つの權柄。八柄(**2**-1450‥486)を見よ。〔後漢書、張衡傳〕勿レ令二形德八柄不レ由二天子一。〔注〕周禮、太宰以二八柄一詔レ王、馭二羣臣一、一曰爵、二曰祿、三曰予、四曰置、五曰生、六曰奪、七曰廢、八曰誅。

【形枉影曲】129（カタチマガレバカゲマガル） 物の形が曲れば、その影は必ず曲る。原因と結果との相離れぬ喩。〔列子、說符〕形枉則影曲、形直則影正。

【吠レ形吠レ聲】130（カタチニホエコエニホユ） 一匹の犬が人の姿を見て吠えると他の犬がその聲を聞いて吠え、終に百犬皆吠えるに至る。一人虛言を傳へて、萬人之を事實として傳へる喩。〔潛夫論、賢難〕諺曰、一犬吠レ形、百犬吠レ聲、世之疾レ此、固久矣哉、吾傷二世之不レ察二眞僞之情一也。

【形息而名彰】131（カタチヤミテナアラハル） 死後に名聲があらはれる。〔呂覽、上德〕故古之人、身隱而功著、形息而名彰。〔注〕身沒二於前一、名明二於後世一。

【形本生二於精一】132（カタチノモトハセイヨリシヤウズ） 形體は本來、天地間の精から生ずる。〔莊子、知北遊〕形本生二於精一、而萬物以レ形相生。

【相レ形不レ如レ論レ心】133（カタチヲミルハココロヲロンズルニシカズ） 人の形體容貌を見て、吉凶禍福を論ずるよりは、心情を尋ねて、善惡を判斷する方がよい。〔荀子、非相〕古者、有二姑布子卿一、今之世梁有二唐擧一、相二人之形狀顏色一、而知二其吉凶妖祥一、世俗稱レ之、古之人無レ有也、學者不レ道也、故相レ形不レ如レ論レ心、論レ心不レ如レ擇レ術、云云、形相雖レ惡、而心術善、無レ害レ爲二君子一也、形相雖レ善、而心術惡、無レ害レ爲二小人一也、君子之謂レ吉、小人之謂レ凶、故長短小大、善惡形相、非二吉凶一也。

【形不レ如レ面面不レ如レ眼】134（カタチハメンニシカズメンハメニシカズ） 人をうらなふには形體よりは顏面を見るがよく、顏面を見るよりは眼を見るがよい。〔北史、皇甫玉傳〕又時有二御史賈子儒一、亦能相レ人、崔暹嘗將二子儒一私視二文襄一、子儒曰、人有二七尺之形一、不レ如二一尺之面一、一尺之面不レ如二一寸之眼一、大將軍臉薄眄速、非二帝王相一也、竟如レ言。

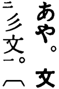
【形】9970

ケイ

形(**4**-**9969**)に同じ。〔說文通訓定聲〕形、字亦作レ形。

【彣】9971

ブン モン 〔集韻〕無分切 ㄨㄣˊ wen² 文



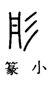
小篆

❶**あや**。**文章**。〔說文〕彣、戫也、从二彡文一。〔段注〕有二彣彰一、謂二之彣一。❷**青と赤とがまじる**。〔集韻〕彣、一曰、青與レ赤雜。❸通じて文(**5**-**13450**)に作る。〔集韻〕彣、古通作レ文。

解字 會意形聲。文と彡との合字。文はあや、彡もあや、故に二字を合して、あや、文章の意に用ひる。文は又、音符。

【彤】9972

トウ ヅ 〔集韻〕徒冬切 ㄊㄨㄥˊ t'ung² 冬



小篆

❶**あかぬり**。**朱塗り**。〔說文〕彤、丹飾也、从二丹彡一、彡、其畫也、彡亦聲。〔詩、邶風、靜女〕貽二我彤管一。〔箋〕彤管、筆赤管也。〔詩、小雅、彤弓〕彤弓弨矣。〔傳〕彤弓、朱弓也。〔左氏、哀、元〕器不二彤鏤一。〔注〕彤、丹也。〔釋文〕彤、丹漆也。❷**あか**。**あかい**。〔爾雅、釋畜〕彤白雜毛、騢。〔注〕彤、赤也。〔陸機、漢高祖功臣頌〕彤雲晝聚。〔注〕善曰、彤、丹色也。❸**彤筆の略稱**。珥レ彤(50)を見よ。〔王融、三月三日曲水詩序〕書レ笏珥レ彤。❹**周の國名**。伯爵。陝西省華縣の境。〔書、顧命〕乃同召二彤伯一。❺或は蚒(**10**-**32864**)に作る。〔集韻〕彤、或作レ蚒。❻**姓**。〔史記、夏紀〕禹爲二姒姓一、其後分封、用レ國爲レ姓、有二彤城氏一。〔注〕索隱曰、周有二彤伯一、蓋彤城氏之後、彤伯爲二成王宗枝一。〔通志、氏族略、以レ國爲レ氏〕彤氏、出二于彤伯一、周同姓之國、爲二成王宗伯一。

解字 會意形聲。丹と彡との合字。彡は毛ばけで畫く意。丹はあか。故に本義をあかぬりとする。彡は又、音符。

參考 肜(**9**-**29272**)は別字。〔字彙、辨似〕二字相似、肜、音容、祭名。彤、音同、赤色。

【彤幃】1（トウヰ） 赤いとばり。〔崔湜、景龍二年云云途中言レ志詩〕彤幃荷二新寵一、朱黻蒙二舊榮一。

【彤闈】2（トウヰ） 赤く塗つた宮門。〔謝朓、酬二王晉安德元一詩〕日旰坐二彤闈一。〔劉孝綽、校書秘書省對レ雪詠レ懷詩〕積照朗二彤闈一。〔庾信、贈二司寇淮南公一詩〕傳呼擁二絳節一、交戟映二彤闈一。

【彤雲】3（トウウン） あかい雲。〔陸機、漢高祖功臣頌〕彤雲晝聚、素靈夜哭。〔注〕善曰、彤、丹色也。〔孫綽、遊二天台山一賦〕彤雲斐亹以翼レ櫺、皦日炯二晃于綺疏一。〔宋之問、奉二和春日玩雪一應制詩〕北闕彤雲掩二曙霞一、東風吹レ雪舞二山家一。〔李益、登二天

壇一夜見レ海詩〕霓旌絳節倚二彤雲一。

【彤霞】4 トウカ 日の旁の赤色の雲氣。〔曹唐、小遊仙詩〕紅草青林日半斜、閑乘二小鳳一出二彤霞一。〔劉筠、槿花詩〕紫霧寒二燈檠一、彤霞逼二綺寮一。〔蘇舜欽、永叔石月屛圖詩〕彤霞爛レ石變二靈砂一、白虹貫レ巖生二美璞一。

【彤赫】5 トウカク 赤くかがやき光る。爍熱の太陽。〔朱灝、避暑賦〕陽精出而熒レ海兮、彤赫仇二乎淵客一。

【彤閣】6 トウカク 赤く塗つたたかどの。〔張協、七命〕翠觀岑青、彤閣霞連。〔曹唐、小遊仙詩〕彤閣鐘鳴碧鷺飛、皇君催熨紫霞衣。

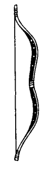
【彤曷】7 トウカツ 後魏時代の外國の名。〔魏書、顯祖獻文帝紀〕曹利彤曷國、各遣レ使朝獻。

【彤竿】8 トウカン 赤くぬつたさを。〔王彪之、閩中賦〕緗箬素筝、彤竿綠筒。

【彤几】9 トウキ 赤く塗つたつくゑ。〔周禮、春官、司几筵〕左二彤几一。

【彤輝】10 トウキ 赤く輝く。〔殷淡、宋宗廟樂舞歌、昭夏樂〕璇除肅炤、釭璧彤輝。〔鮑照、芙蓉賦〕測二淲池之光潔一、爍二彤輝之明媚一。

【彤弓】11 トウキユウ ㊀赤くぬつた弓。古、天子が有功の諸侯に與へたもので以て征伐を専ら行はせたもの。彤弧。〔書、文侯之命〕彤弓一、彤矢百。〔傳〕彤赤、諸侯有二大功一賜二弓矢一、然後專二征伐一、彤弓以講レ德習レ射、藏示二子孫一。〔詩、小雅、彤弓〕彤弓弨兮、受言藏レ之。〔傳〕彤弓、朱弓也。〔左氏、僖、二十八〕彤弓一、彤矢百、玈弓十、玈矢千。〔公羊、定、四、挾レ弓而去レ楚、注〕禮、天子雕弓、諸侯彤弓、大夫嬰弓、士盧弓。〔荀子、大略〕天子彫弓、諸侯彤弓、大夫黑弓、禮也。〔管子、輕重丁〕不レ以二彤弓石璧一。〔史記、晉世家〕彤弓矢百。〔韋孟、諷諫詩〕彤弓斯征。〔後漢書、袁紹傳〕彤弓玈矢之命。㊁詩經の小雅、南有嘉魚之什の篇名。天子が有功の諸侯に彤弓を賜ふことを詠んだもの。〔詩、小雅、彤弓序〕彤弓、天子錫二有功諸侯一也。


彤弓㊀（三禮圖）

【彤魚】12 トウギヨ 太古の國名。〔國語、晉語四〕黃帝之子、二十五人、其同姓者二人而已、唯青陽與二夷鼓一皆爲二己姓一、青陽、方雷氏之甥也、夷鼓、彤魚氏之甥也。〔注〕彤魚、國名。〔史記、五帝紀〕嫘祖爲二黃帝正妃一。〔注〕索隱曰、皇甫謐云、次妃彤魚氏女、生二夷鼓一、一名二蒼林一、按二國語一、夷鼓・蒼林是二人、又按二漢書古今人表一、彤魚氏生二夷鼓一、嫫母生二蒼林一、不レ得レ如二謐所レ說。

【彤管】13 トウクワン 赤いぢくの筆。古、女史の執る所で宮中の政令及び后妃の事を記すに用ひるもの。彤管貽を見よ。〔左氏、定、九〕靜女之三章取二彤管一焉。〔後漢書、皇后紀序〕女史彤管、記レ功書レ過。〔注〕彤管、赤管筆也。

〔彤管貽〕14 トウクワンノオクリモノ 彤管をおくりものとすること。轉じて、男女が物を相贈つて慇懃を結ぶこと。彤管を見よ。〔詩、邶風、靜女〕靜女其孌、貽二我彤管一、彤管有レ煒、說二懌女美一。〔傳〕古者后夫人、必有二女史彤管之法一、女史不レ記レ過、其罪殺レ之、后妃羣妾、以レ禮御二於君所一、女史書二其日月一、授レ之以レ環、以進二退之一、生レ子月辰、則以二金環一退レ之、當レ御者、以二銀環一進レ之、著二于左手一、既御著二于右手一、事無二大小一、記以成レ法。〔箋〕彤管、筆赤管也。〔疏〕必以レ赤者、欲レ使下女史以二赤心一事二夫人一而正中妃妾之次序上也。

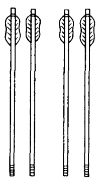
【彤軒】15 トウケン あかく塗つたのき。〔曹植、七啓〕彤軒紫柱。〔曹唐、長安客舍敍二邵陵舊宴一寄二永州蕭使君一詩〕粉雉彤軒畫障西、水雲紅樹窣璇題。

【彤弧】16 トウコ 赤く塗つた弓。彤弓。〔班固、典引〕乘下其命二賜彤弧黃鉞一之威上、用討二韋顧黎崇之不レ恪。

【彤彩】17 トウサイ 赤い色彩。赤い光。〔王延壽、魯靈光殿賦〕彤彩之飾。

【彤史】18 トウシ 女官の名。周代、女史の官あり、彤筆を執つて群后進御の事を羣記するを掌る。因つてこの官を稱して彤史といふ。唐に至り內宮に彤史あり、金・明には尙衣局に屬し、后妃群妾の進御にあたつて、其の月日を書くことを掌る。彤管を見よ。〔晉書、后妃傳序〕永言彤史、大練之範逾微、緬視靑蒲、脫レ珥之猷替矣。〔唐書、百官志二〕彤史二人、正六品。〔唐書、后妃傳序〕關雎之風行、彤史之化修。〔續文獻通考、職官考、女官〕金宮人女官、云云、女史・彤史各二人、掌二禮儀、班序設扳、贊拜之事一。〔勝朝彤史拾遺記、一〕彤史者、後宮女官名也、其制選二良家女子之知レ書充レ之、使三之記二宮闈起居及內廷燕褻之事一、用示二勸戒一、而惜其書不二外傳一、予幼時得二先子石阡府君教授所レ藏宮闈記聞一卷一、自二洪武一至二萬曆一凡十三朝、可レ謂二小備一、雖二所レ闕亦無レ幾、第載事未レ確、其文不二雅馴一、予承レ乏爲二史官一、値レ修二明史一、常鬮題起草、得二順成弘正四朝后妃列傳一、因歷二探中秘一、以爲必有二異聞畸事一、可レ補二疏略一、而遍搜二史宬一、但得レ詳二冊封年時、及后妃崩薨喪葬諸禮節一、而他無レ所レ有、乃不レ得レ已、仍取三外史所レ記與二實錄稍不一レ符者一、草成應レ之、而拾二其餘賸一、歸而雜二之先子之所一レ藏、復爲二斯篇一、大抵事取レ可レ驗、寧闕勿レ備、謂二之拾遺一、既無二彤史一、稱二彤史一者、曰レ非二史官之正史一焉。

【彤矢】19 トウシ 赤く塗つた矢。彤弓（11）を見よ。〔書、文侯之命〕彤弓一、彤矢百。〔左氏、僖、二十八〕彤弓一、彤矢百。〔注〕彤、赤也。〔潘勖、冊二魏公九錫一文〕是用錫二君彤弓一、彤矢百、旅弓十、旅矢千一。


彤矢（三禮圖）

【彤漆】20 トウシツ 赤色のうるし。〔鹽鐵論、散不足〕雕文彤漆。

【彤車】21 トウシヤ 赤色の車。〔史記、五帝紀〕彤車乘二白馬一。

【彤裳】22 トウシヤウ 赤色のもすそ。〔書、顧命〕太保・太史・太宗、皆麻冕彤裳。

【彤城】23 トウジヤウ 複姓。〔史記、夏紀贊〕禹爲二姒姓一、其後分封、用レ國爲レ姓、故有二夏后氏・有扈氏・有男氏・斟尋氏・彤城氏・褒氏・費氏・杞氏・繒氏・辛氏・冥氏・斟氏・戈氏一。〔注〕索隱曰、按、周有二彤伯一、蓋彤城氏後。

【彤爍】24 トウシヤク 赤く光りかがやく。〔宋武帝、遊二覆舟山一詩〕松磴含二青暉一、荷源煜二彤爍一。

【彤朱】25 トウシユ あかい色。〔漢書、外戚下、趙皇后傳〕其中庭彤朱、而殿上髹漆。

【彤珠】26 トウシユ 眞赤に燒いた鐵の火だま。〔潘岳、馬汧督誄〕彤珠星流、飛矢雨集。〔注〕善曰、彤珠星流、謂二治レ鐵以灌レ敵。

【彤楯】27 トウジユン 朱塗りのたて。〔隋書、禮儀志七〕左執二羆環一、右執二熊環一、長刀十二人、兼執二師子彤楯一。

【彤暑】28 トウシヨ 酷しい暑さ。〔唐高宗、玉華宮山銘〕炎生肇授、彤暑初融。

【彤臣】29 トウシン 淸、傅扆（**1**−**939**・・3）の字。

【彤騶】30 トウスウ トウシウ 顯官の前驅をする赤衣を着た騎卒。〔褚亮、和二御史韋大夫喜レ霽詩〕白簡光二朝幰一、彤騶出二禁中一。〔駱賓王、樂大夫挽詞〕彤騶朝二帝闕一、丹旐背二王畿一。〔藝林伐山〕褚亮詩、彤騶出二禁中一、蓋五伯戴二紅帽一以唱騶、自レ唐已然矣。

【彤精】31 トウセイ 赤色の精。太陽をいふ。〔梁簡文帝、南郊頌〕日耀二彤精一、天澄二翠色一。

【彤幨】32 トウセン 赤色の車のとばり。〔王昌齡、酬二鴻臚裴主簿雨後北樓見レ贈詩〕問レ禮侍二彤幨一、題レ詩訪二茅屋一。〔李白、宣州九日詩〕彤幨雙白鹿、賓從何輝赫。〔劉長卿、奉下餞元侍御加二豫章採訪一兼賜中章服上詩〕花對二彤幨一發、霜和二白雪一操。

【彤幢】33 トウタウ 赤色のはた。〔韓愈、陸渾山火和二皇甫湜一用二其韻一詩〕彤幢絳旆紫纛旛、炎官熱屬朱冠褌。

【彤丹】34 トウタン あか。赤。〔梁簡文帝、南郊頌〕山池壯麗、階閣彤丹。〔王廙、笙賦〕合二松蠟一以密レ際、糅二彤丹一以發レ光。

【彤墀】35 トウチ 宮中の庭。墀は石を敷いた階上の地。天子の墀は赤く塗るからいふ。〔皮日休、送下羊振文先輩往二桂陽一歸覲上詩〕桂陽新命下二彤墀一、彩服行當レ欲レ雪時。〔和凝、宮詞〕曉日曈曨瞻二玉案一、丁冬環佩滿二彤墀一。〔王起、彈冠賦〕吾方策二名於丹闕一、委二質於彤墀一、顧將二盡レ飾以爲レ美、豈薄汙而見レ嗤。

【彤杖】36 トウヂヤウ 赤くぬつたつゑ。〔論衡、死僞〕傳曰、趙簡公殺二其臣一、云云、莊子義起二於道左一、執二彤杖一而捶レ之、斃二於車下一。

【彤廷】37 トウテイ 彤庭に同じ。〔楊太眞外傳、下〕金衣爛白、色麗二彤廷一。

【彤庭】38 トウテイ 宮中の庭。天子の庭は赤く地に塗る。彤墀。〔班固、西都賦〕元墀釦砌、玉階彤庭。

〔張衡、西京賦〕彤庭煇煇。〔隋書、音樂志中〕彤庭爛景、丹陛流光。〔謝朓、直二中書省一詩〕紫殿肅陰陰、彤庭赫弘敞。

【彤殿】 39 トウデン 朱塗の御殿。〔宋孝武帝、擬二漢武帝李夫人一賦〕彤殿閒兮素塵積、翠帊蕪兮紫苔生。〔陸厥、李夫人及貴人歌〕彤殿向二蘼蕪一、靑蒲復萎絕。

【彤彤】 40 トウトウ 赤いさま。〔王延壽、魯靈光殿賦〕彤彤靈宮。

【彤白】 41 トウハク 赤と白。〔爾雅、釋畜〕彤白雜毛騢。〔注〕卽今之赬白馬、彤赤。

【彤伯】 42 トウハク 周の人。彤國の君。成王六卿の一人。〔書、顧命〕乃同召二太保奭・芮伯・彤伯・畢公・衞侯・毛公・師氏・虎臣、百尹御事一。〔疏〕定四年左傳云三康叔爲二司寇一、知下此六人依二周禮次第一爲中六卿上也、王肅云、彤、姒姓之國、其餘五國姬姓、畢・毛、文王庶子、衞侯、康叔所レ封武王母弟、依二世本・史記一爲レ說也。〔蔡傳〕六卿也、冢宰第一、召公領レ之、云云、宗伯第三、彤伯爲レ之。

【彤雯】 43 トウブン 赤いあやのある雲。〔廖道南、詠二日觀一詩〕重輪羨二彤雯一、疊玦瞻二黃珥一。

【彤陛】 44 トウヘイ 朱塗のきざはし。〔李東陽、詩〕早囊繁二出入一、彤陛儼二周旋一。

【彤鏤】 45 トウル 赤く塗ることと、金屬にほりものすること。轉じて、裝飾する義。〔左氏、哀、元〕室不レ崇レ壇、器不二彤鏤一。〔國語、周語下〕器無二彤鏤一儉也。〔注〕彤、丹也、鏤、刻金飾也。

【彤輦】 46 トウレン 赤く塗つた車。〔裴守眞、奉二和太子納レ妃太平公主出降一詩〕雲路移二彤輦一、天津轉二明鐘一。

【彤玈】 47 トウロ 赤と黑。〔書、文侯之命〕彤弓一、彤矢百、盧弓一、盧矢百。〔疏〕鄭玄以二此彤弓玈弓一爲二周禮唐弓大弓一、唐大是弓強弱之名、彤玈是弓赤黑之色、孔意亦當レ然也。〔校勘記〕古本盧並作レ玈。

【彤盧】 48 トウロ 彤玈に同じ。

【彤樓】 49 トウロウ 赤塗りのたかどの。〔鄧文原、詩〕彤樓風暖歌聲細、綺閣春深舞袖紅。

【珥レ彤】 50 トウヲトル 赤管の筆を執る。史官が君子の言動を記すをいふ。彤管(13)・彤史(18)を見よ。〔王融、三月三日曲水詩序〕書レ笏珥レ彤。〔注〕良曰、珥、執也、彤、赤管筆也、皆史臣所三以書二記君言一也。

【彤芝蓋】 51 トウシガイ 赤い傘。〔琵琶記、丹陛陳レ情〕龍鱗座、覆二著彤芝蓋一。

五畫

【㣎】 9973 タン 丹(**1**−**99**)の古字。〔說文〕丹、彬、亦古之丹。

【亘】 9974 セン 〔正字通〕失冉切 琰 **姓**。〔通志、氏族略〕彡且氏、今合二二字一爲レ亘、音陝、唐上元中、有二左金吾大將軍關西節度亘復弟震賁一。

【𢒐】 9975 サン セン 〔集韻〕所鑑切 陷 ㊀**物にまじはる**。〔集韻〕𢒐、相二接物一也。㊁**するどい**。〔集韻〕𢒐、一曰、利也。

【𢒚】 9976 タイ 〔篇海〕音台 **星の名**。〔篇海〕𢒚、星名。

【杉】 9977 サン 彬(**4**−**8788**)の譌字。〔字彙補〕杉、彬字之譌。

【𢒢】 9978 ヒ 義未詳。〔五音篇海〕𢒢、方未切。

【彦】 9979 ゲン 彥(**4**−**9980**)の俗字。〔正字通〕彦、俗从レ大。

六畫

【彥】 9980 ゲン 〔集韻〕魚戰切 霰 ㄧㄢˋ yen⁴

小篆

㊀**才德のすぐれた男子。又、その美稱**。〔說文〕彥、美士有レ彣、人所レ言也、从レ彣厂聲。〔爾雅、釋訓〕美士爲レ彥。〔注〕人所二嗟詠一。〔疏〕國有二美士一、爲三人所二言道一。〔書、太甲上〕旁二求俊彥一。〔傳〕美士曰レ彥。〔詩、鄭風、羔裘〕邦之彥兮。〔傳〕彥、士之美稱。㊁**姓**。〔萬姓統譜〕彥、見二姓苑一。邦 **ひこ**。男子の美稱。日子の意。

名乘 ヒコ。ヒロ。ヨシ。

【彥安】 1 ゲンアン 明、馬豫(**12**−**44572**··588)の字。

【彥威】 2 ゲンヰ 字號。㊀晉、習鑿齒(**9**−**28672**··106)の字。㊁梁、臧嚴(**9**−**30083**··20)の字。㊂唐、武士稜(**6**−**16273**··436)の字。㊃宋、魏勝(**12**−**45872**··87)の字。㊄元、張桓(**4**−**9812**··240)の字。㊅淸、田同之(**7**−**21723**··406)の字。

【彥偉】 3 ゲンヰ 字號。㊀南齊、蕭誕(**9**−**32012**··213)の字。㊁明、丁顯(**1**−**2**··57)の字。

【彥惟】 4 ゲンヰ 淸、張成孫(**4**−**9812**··1246)の字。

【彥游】 5 ゲンイウ 字號。㊀梁、柳偃(**6**−**14662**··25)の字。㊁宋、劉豫(**2**−**2224**··627)の字。

【彥猷】 6 ゲンイウ 字號。㊀宋、莊徽(**9**−**31035**··33′)の字。㊁宋、徐徽言(**4**−**10110**··370)の字。㊂宋、唐詢(**2**−**3709**··180)の字。㊃宋、王之道(**7**−**20823**··1557)の字。

【彥一】 7 ゲンイツ 宋、雷協(**12**−**42245**··50)の字。

【彥雲】 8 ゲンウン 三國魏、王淩(**7**−**20823**··1074)の字。

【彥永】 9 ゲンエイ 宋、陳大年(**11**−**41698**··1097)の字。

【彥英】 10 ゲンエイ 字號。㊀三國蜀、何宗(**1**−**511**··136)の字。㊁北齊、劉禕(**2**−**2224**··4)の字。

【彥穎】 11 ゲンエイ 晉、杜秀(**6**−**14477**··133)の字。

【彥益】 12 ゲンエキ 宋、薛朋龜(**9**−**32123**··248)の字。

【彥淵】 13 ゲンエン 字號。㊀南齊、陸澄(**11**−**41708**··197)の字。㊁宋、李韡(**6**−**14459**··557)の字。㊂明、鄭謐(**11**−**39647**··242)の字。

【彥遠】 14 ゲンエン 字號。㊀晉、丁穆(**1**−**2**··190)の字。㊁宋、趙善應(**10**−**37171**··743)の字。㊂宋、董逌(**9**−**31433**··8)の字。㊃淸、胡介(**9**−**29400**··43)の字。

【彥恩】 15 ゲンオン 明、魏澤(**12**−**45872**··113)の字。

【彥溫】 16 ゲンヲン 字號。㊀元、歸暘(**6**−**16349**··266)の字。㊁宋、孫沂(**3**−**6987**··52)の字。㊂元、羅良(**9**−**28397**··276)の字。

【彥可】 17 ゲンカ 字號。㊀宋、戴慶炣(**5**−**11685**··169)の字。㊁淸、文從簡(**5**−**13450**··1000)の字。

【彥夏】 18 ゲンカ 晉、華軼(**9**−**31214**··319)の字。

【彥遐】 19 ゲンカ 字號。㊀晉、陶臻(**11**−**41705**··101)の字。㊁北齊、徐遠(**4**−**10110**··28)の字。㊂梁、江祿(**6**−**17140**··446)の字。

【彥嘉】 20 ゲンカ 明、鄭賜(**11**−**39647**··158)の字。

【彥海】 21 ゲンカイ 後魏、鄧淵(**11**−**39630**··17)の字。

【彥解】 22 ゲンカイ 元、高鑭(**12**−**45313**··251)の字。

【彥亨】 23 ゲンカウ 字號。㊀宋、金安節(**11**−**40152**··1183)の字。㊁金、賈益謙(**10**−**36755**··145)の字。㊂元、孔元(**3**−**6933**··67)の字。㊃明、程通(**8**−**25081**··104)の字。㊄明、鐳換(**11**−**40866**··2)の字。

【彥高】 24 ゲンカウ 字號。㊀金、吳激(**2**−**3365**··153)の字。㊁元、郭昂(**11**−**39474**··30)の字。㊂元、陳世隆(**11**−**41698**··1037)の字。㊃明、高岳(**12**−**45313**··122)の字。

【彥衡】 25 ゲンカウ 宋、上官均(**1**−**13**··191)の字。

【彥剛】 26 ゲンガウ 元、史敬武(**2**−**3249**··198)の字。

【彥學】 27 ゲンガク 明、宣溫(**3**−**7132**··30)の字。

【彥幾】 28 ゲンキ 宋、溫豫(**7**−**17968**··232)の字。

【彥暉】 29 ゲンキ ㊀後梁の僧。陽武の孫氏の子。滑州明福寺に居る。乾化の初、歿す。著に滑臺集がある。〔宋高僧傳、七〕㊁字號。㋑宋、黃廣(**12**−**47926**··294)の字。㋺淸、姚炳(**3**−**6202**··108)の字。㊂元、崔彥輝(**4**−**8178**··248)の一名。

【彥旗】 30 ゲンキ 晉、愍帝(**4**−**10919**··20)の名。

【彥輝】 31 ゲンキ 字號。㊀明、金文璉(**11**−**40152**··13

79)の字。❷明、柳華(6−14662‥73)の字。

【彦吉】32（ゲンキツ） 明、鄒迪光(11−39562‥108)の字。

【彦及】33（ゲンキフ） 字號。❶宋、倪登(1−792‥25)の字。❷宋、汪勃(6−17154‥134)の字。

【彦擧】34（ゲンキヨ） 字號。❶北齊、堯奮(3−5272‥54)の字。❷北齊、孫搴(3−6987‥107)の字。❸宋、程令說(8−25081‥300)の字。❹明、王佐(7−20823‥414)の字。

【彦恭】35（ゲンキヨウ） 字號。❶隋、伊婁謙(1−432‥137)の字。❷宋、翁肅(9−28635‥34)の字。

【彦欽】36（ゲンキン） 金、牛德昌(7−19922‥353)の字。

【彦和】37（ゲンクワ） 字號。❶晉、周顗(2−3441‥160)の字。❷晉、沈穆夫(6−17189‥646)の字。❸梁、朱异(6−14424‥5)の字。❹梁、劉勰(2−2224‥244)の字。❺後魏、江悅之(6−17140‥460)の字。❻後魏、元勰(1−1340‥184)の字。❼宋、龔夬(12−48837‥14)の字。❽宋、徐常(4−10110‥155)の字。❾宋、方闓(5−13620‥108)の字。❿宋、李靚(6−14459‥504)の字。⓫宋、陸同(11−41708‥207)の字。⓬明、趙友同(10−37171‥401)の字。⓭明、李樂(6−14459‥786)の字。⓮清、徐秉義(4−10110‥624)の字。⓯清、陸鼎翰(11−41708‥397)の字。

【彦華】38（ゲンクワ） 字號。❶元、董文蔚(9−31433‥256)の字。❷明、張瑛(4−9812‥50)の字。

【彦回】39（ゲンクワイ） 字號。❶南齊、褚淵(10−34457‥5)の字。❷宋、薛顏(9−32123‥27)の字。

【彦恢】40（ゲンクワイ） 明、高廷禮(12−45313‥1281)の字。

【彦晦】41（ゲンクワイ） 明、黎貞(12−47994‥59)の字。

【彦會】42（ゲンクワイ） 秀才のあつまり。〔世說、文學〕支道林・許・謝盛德、共集㆓王家㆒、謝顧謂㆓諸人㆒、今日可㆑謂㆓彦會㆒。

【彦光】43（ゲンクワウ） 宋、王葆(7−20823‥883)の字。

【彦皇】44（ゲンクワウ） 三國魏、棧潛(6−14963‥17)の字。

【彦黃】45（ゲンクワウ） 三國吳、裴玄(10−34362‥35)の字。

【彦廣】46（ゲンクワウ） 字號。❶宋、周淙(2−3441‥345)の字。❷明、戴浩(5−11683‥14)の字。

【彦羣】47（ゲングン） 明、倫以詵(1−793‥37)の字。

【彦啓】48（ゲンケイ） 宋、丘迪(1−33‥84)の字。

【彦卿】49（ゲンケイ） 清、岑毓英(4−7937‥38)の字。

【彦敬】50（ゲンケイ） 字號。❶元、高克恭(12−45313‥1175)の字。❷明、廖永安(4−9464‥37)の字。

【彦謙】51（ゲンケン） 字號。❶元、杜和(6−14477‥75)の字。❷明、尹昌隆(4−7631‥123)の字。❸明、張撝(4−9812‥175)の字。

【彦玄】52（ゲンゲン） 北齊、崔劼(4−8178‥33)の字。

【彦古】53（ゲンコ） 宋、王漢英(7−20823‥1270)の字。

【彦公】54（ゲンコウ） 清、范承烈(9−30834‥209)の字。

【彦弘】55（ゲンコウ） 唐、溫大雅(7−17968‥279)の字。

【彦侯】56（ゲンコウ） 明、曾英(5−14299‥11)の字。

【彦鴻】57（ゲンコウ） 字號。❶北齊、李翥(6−14459‥454)の字。❷明、潛滇(7−18240‥203)の字。

【彦國】58（ゲンコク） 字號。❶晉、胡母輔之(8−29400‥340)の字。❷宋、富弼(3−7230‥145)の字。

〖彦國吐屑〗59（ゲンコクトセツ） 蒙求の標題。晉の胡母輔之、字は彦國といふ人がのこぎりくづのやうに續々と佳言を吐いた故事。〔晉書、胡母輔之傳〕王澄嘗與㆓人書㆒曰、彦國吐㆓佳言㆒、如㆓鋸木屑霏霏不㆑絕、誠爲㆓後進領袖㆒也。

【彦濟】60（ゲンサイ） 宋、羅汝楫(9−28397‥361)の字。

【彦材】61（ゲンザイ） 字號。❶元、董文用(9−31433‥262)の字。❷明、鍾梁(11−40672‥129)の字。

【彦士】62（ゲンシ） ❶すぐれた男子。〔魏志、徐邈等傳評〕可㆑謂㆓國之良臣、時之彦士㆒矣。❷字號。㋑三國魏、曹髦(5−14297‥160)の字。㋺北周、李彦(6−14459‥320)の字。

【彦之】63（ゲンシ） 唐、杜荀鶴(6−14477‥339)の字。

【彦思】64（ゲンシ） 字號。❶宋、葉默(9−31387‥133)の字。❷宋、曾伋(5−14299‥28)の字。❸宋、唐棣(2−3709‥275)の字。❹宋、楊伯嵒(6−15112‥750)の字。❺宋、李邈(6−14459‥667)の字。

【彦侍】65（ゲンジ） 清、姚覲元(3−6202‥146)の字。

【彦舟】66（ゲンシウ） 宋、王渙之(7−20823‥1357)の字。

【彦周】67（ゲンシウ） 字號。❶宋、許顗(10−35298‥27)の字。❷宋、侯寘(1−633‥40)の字。❸宋、方适(5−13620‥129)の字。❹明、宋文(3−7078‥189)の字。❺明、倫以諒(1−793‥38)の字。

〖彦周詩話〗68（ゲンシウシワ） 書名。一卷。宋、許顗撰。其の詩論は、元祐の學を宗とする故に蘇・黃・緒のものが最も多い。其の諸家を品第するは、頗る見識あるも、まま神怪の說を參ふ。〔四庫提要、集、詩文評類〕。

【彦修】69（ゲンシウ） 字號。❶宋、鄭可復(11−39647‥313)の字。❷宋、馮安國(12−44579‥158)の字。❸宋、劉子羽(2−2224‥955)の字。❹宋、劉拯(2−2224‥385)の字。

【彦柔】70（ゲンジウ） 宋、陳剛中(11−41698‥700)の字。

【彦式】71（ゲンシキ） 明、倫以訓(1−793‥36)の字。

【彦執】72（ゲンシツ） 宋、施德操(5−13629‥178)の字。

【彦質】73（ゲンシツ） 明、韋斌(12−43108‥135)の字。

【彦實】74（ゲンジツ） 字號。❶宋、張擴(德興の人)(4−9812‥237)の字。❷元、黃叔英(12−47926‥1143)の字。❸元、謝暉(10−35827‥38)の字。❹明、程信(8−25081‥76)の字。❺明、彭華(4−10003‥24)の字。

【彦將】75（ゲンシヤウ） 字號。❶唐、溫大有(7−17968‥278)の字。❷宋、李迎(6−14459‥294)の字。

【彦祥】76（ゲンシヤウ） 字號。❶明、袁仕鳳(10−34152‥205)の字。❷明、薛祥(9−32123‥70)の字。

【彦章】77（ゲンシヤウ） 字號。❶宋、易祓(5−13814‥149)の字。❷宋、謝巘(10−35827‥200)の字。❸宋、陳皓(11−41698‥79)の字。❹宋、汪藻(6−17154‥61)の字。❺元、袁士元(10−34152‥200)の字。❻元、項昕(12−43343‥10)の字。❼元、郭鈺(11−39474‥55)の字。❽元、朱宗文(6−14424‥897)の字。❾元、李端(6−14459‥573)の字。❿明、吳之俊(2−3365‥606)の字。⓫明、周尙文(2−3441‥701)の字。⓬明、鍾復(11−40672‥106)の字。⓭明、俞逢辰(1−1437‥137)の字。⓮明、林錦(6−14551‥70)の字。

【彦璋】78（ゲンシヤウ） 南齊、沈憲(6−17189‥146)の字。

【彦常】79（ゲンジヤウ） 字號。❶明、枚倫(6−14554‥23)の字。❷清、徐鉽(4−10110‥169)の字。

【彦叔】80（ゲンシユク） 晉、袁喬(10−34152‥52)の字。

【彦肅】81（ゲンシユク） 宋、戴良齊(5−11685‥217)の字。

【彦純】82（ゲンジユン） 字號。❶明、徐用誠(4−10110‥647)の字。❷明、陳瑄(11−41698‥412)の字。

【彦淳】83（ゲンジユン） 宋、袁韶(10−34152‥95)の字。

【彦循】84（ゲンジユン） 宋、舒卞(9−30300‥81)の字。

【彦準】85（ゲンジユン） 宋、汪介然(6−17154‥184)の字。

【彦醇】86（ゲンジユン） 宋、馬希孟(12−44572‥729)の字。

【彦初】87（ゲンシヨ） 明、宣嗣宗(3−7132‥271)の字。

【彦緒】88（ゲンシヨ） 字號。❶南齊、褚炫(10−34457‥15)の字。❷南齊、柳世隆(6−14662‥270)の字。

【彦如】89（ゲンジヨ） 明、趙友同(10−37171‥401)の字。

【彦舒】90（ゲンジヨ） 晉、荀綽(9−30929‥36)の字。

【彦升】91（ゲンシヨウ） 字號。❶晉、袁羊(10−34152‥146)の字。❷宋、陳薦(11−41698‥419)の字。❸元、張宇(4−9812‥40)の字。❹清、周家祿(2−3441‥564)の字。

【彦昇】92（ゲンシヨウ） 字號。❶梁、任昉(1−416‥161)の字。❷清、周家祿(2−3441‥564)の字。

【彦臣】93（ゲンシン） 後梁、張儁(4−9812‥401)の字。

【彦信】94（ゲンシン） 字號。❶後漢、趙謙(10−37171‥149)の字。❷宋、郭允升(11−39474‥240)の字。

【彦振】95（ゲンシン） 宋、林攄(6−14551‥189)の字。

【彦眞】96（ゲンシン） 字號。❶後漢、張升(4−9812‥426)の字。❷前燕、劉瓚(2−2224‥307)の字。❸明、王佑(7−20823‥24)の字。

【彦深】97（ゲンシン） 字號。❶南朝宋、孔淳之(3−6933‥327)の字。❷南朝宋、王蘊(7−20823‥53)の字。❸隋、魏澹(12−45872‥115)の字。❹清、彭洋中(4−10003‥204)の字。

【彦仁】98（ゲンジン） 南朝宋、魯宗之(12−46013‥179)の字。

【彦紉】99（ゲンジン） 宋、周綰(2−3441‥526)の字。

【彦正】100（ゲンセイ） 字號。❶宋、張綱(4−9812‥116)の字。❷元、董文直(9−31433‥259)の字。❸元、雷膺(12−42245‥158)の字。

【彦成】101（ゲンセイ） ❶字號。㋑五代、石丕(8−24024‥677)の字。㋺宋、歐陽凱士(6−16185‥111)の字。㋩宋、魏安行(12−45892‥152)の字。㋥宋、譚世勣(10−35978‥71)の字。㋭元、于立(1−252‥95)の字。❷明、沈彦誠(6−17189‥502)の一名。

【彦性】102（ゲンセイ） 宋、蒲堯仁(9−31611‥166)の字。

【彦星】103（ヒコボシ） 七夕にまつる牽牛星。いぬかひぼ

し。織女（8−27892··48）の❷の對。〔倭名類聚抄、天地部、景宿類〕牽牛、爾雅注云、牽牛、一名河鼓、和名比古保之。

【彦清】104（ゲンセイ）　字號。❶元、華幼武（9−31214··478）の字。❷元、譚澄（10−35978··29）の字。❸元、楊湜（6−15112··222）の字。❹明、趙光抃（10−37171··480）の字。❺清、孫德祖（3−6987··516）の字。❻清、劉履芬（2−2224··1349）の字。

【彦聖】105（ゲンセイ）　❶すぐれた人物。〔書、秦誓〕人之彦聖、其心好レ之。❷字號。㋑宋、胡宗炎（9−29400··529）の字。㋺宋、陳郛（11−41698··525）の字。

【彦靖】106（ゲンセイ）　三國魏、丁謐（1−2··176）の字。

【彦誠】107（ゲンセイ）　字號。❶元、岳存（4−8001··26）の字。❷元、董文忠（9−31433··258）の字。❸元、楊惟中（6−15112··412）の字。❹明、張子貞（4−9812··1093）の字。❺明、丁積（1−2··121）の字。

【彦齊】108（ゲンセイ）　南齊、裴顗（10−34362··13）の字。

【彦聲】109（ゲンセイ）　字號。❶晉、吳裔（2−3365··212）の字。❷明、南鏜（2−2750··521）の字。❸明、馬鐸（12−44572··415）の字。

【彦昭】110（ゲンセウ）　字號。❶宋、歐陽旻（6−16185··98）の字。❷宋、蔣俊明（9−31820··174）の字。❸宋、鍾炤之（11−40672··158）の字。❹宋、趙霄（10−37171··251）の字。❺宋、王漢之（7−20823··1271）の字。❻宋、王克明（7−20823··1477）の字。❼明、于潛（1−252··70）の字。❽明、鄭潛（11−39647··200）の字。❾明、王鑑（太原の人）（7−20823··176）の字。

【彦霄】111（ゲンセウ）　梁、吉翂（2−3289··158）の字。

【彦積】112（ゲンセキ）　宋、鄧富（11−39630··99）の字。

【彦節】113（ゲンセツ）　南朝宋、劉秉（2−2224··589）の字。

【彦先】114（ゲンセン）　字號。❶晉、賀循（10−36725··52）の字。❷晉、顧榮（12−43689··20）の字。❸後魏、劉藻（2−2224··297）の字。❹宋、高登（12−45313··720）の字。❺宋、孫思恭（3−6987··417）の字。❻宋、趙子覺（10−37171··593）の字。

【彦宣】115（ゲンセン）　南齊、褚炤（10−34457··26）の字。

【彦祖】116（ゲンソ）　字號。❶後漢、周燮（2−3441··330）の字。❷晉、劉紹（2−2224··439）の字。

【彦宗】117（ゲンソウ）　字號。❶南朝宋、垣護之（3−5060··47）の字。❷唐、韋湊（12−43108··96）の字。

【彦悰】118（ゲンソウ）　唐の僧。玄奘の弟子。惠立が慈恩三藏行傳を撰し、完成せずして卒したので、彦悰之を續成す。〔宋高僧傳、四〕

【彦琮】119（ゲンソウ）　隋の僧。柏人の李氏の子。仁壽中、敕を奉じて衆經目錄・西域傳を撰す。自著に沙門名義論・別集がある。〔續高僧傳〕

【彦泰】120（ゲンタイ）　南齊、劉懷慰（2−2224··828）の字。

【彦韜】121（ゲンタウ）　五代唐、溫韜（7−17968··171）の名。

【彦道】122（ゲンダウ）　字號。❶晉、袁耽（10−34152··105）の字。❷南齊、褚澄（10−34457··30）の字。

【彦澤】123（ゲンタク）　字號。❶宋、趙霑（10−37171··297）の字。❷明、何澄（1−511··160）の字。

【彦達】124（ゲンタツ）　字號。❶梁、蕭秀（9−32012··153）の字。❷宋、輔逵（10−38342··4）の字。❸明、雷境（12−42245··27）の字。

【彦冑】125（ゲンチウ）　晉、鍾雅（11−40672··11）の字。

【彦長】126（ゲンチヤウ）　字號。❶晉、范晷（9−30834··20）の字。❷宋、闞景仁（11−41470··241）の字。

【彦沖】127（ゲンチユウ）　宋、劉子翬（2−2224··958）の字。

【彦忠】128（ゲンチユウ）　宋、趙悰（10−37171··268）の字。

【彦翀】129（ゲンチユウ）　明、凌雲翰（仁和の人）（2−1669··128）の字。

【彦重】130（ゲンチヨウ）　南朝宋、孟顗（3−6960··49）の字。

【彦徵】131（ゲンチヨウ）　❶金、趙麟（10−37171··377）の字。❷金、趙彦正（10−37171··537）の一名。

【彦直】132（ゲンチヨク）　字號。❶宋、崔子方（4−8178··265）の字。❷宋、趙方（10−37171··305）の字。

【彦珍】133（ゲンチン）　字號。❶明、況眞（6−17264··13）の字。❷明、王桓（7−20823··306）の字。

【彦通】134（ゲンツウ）　字號。❶北齊、和士開（2−3490··432）の字。❷北齊、崔瞻（4−8178··119）の字。❸宋、方庚（5−13620··48）の字。❹金、張亨（4−9812··105）の字。

【彦傳】135（ゲンデン）　元、黃溥（12−47926··806）の字。

【彦度】136（ゲンド）　字號。❶晉、賈疋（10−36755··118）の字。❷晉、司馬瑋（2−3257··206）の字。❸梁、劉訏（2−2224··196）の字。

【彦德】137（ゲントク）　❶字號。㋑南朝宋、何尚之（1−511··291）の字。㋺後魏、崔勵（4−8178··179）の字。㋩宋、趙元亨（10−37171··512）の字。㋥元、周潤祖（2−3441··716）の字。㋭元、屠性（4−7761··46）の字。❷明、辛彦博（10−38630··101）の初名。

【彦能】138（ゲンノウ）　字號。❶宋、鄭僅（11−39647··83）の字。❷明、凌賢（2−1669··42）の字。

【彦方】139（ゲンパウ）　後漢、王烈（7−20823··1092）の字。

【彦寶】140（ゲンパウ）　梁、庾詵（4−9398··27）の字。

【彦白】141（ゲンパク）　明、譚青（10−35978··19）の字。

【彦伯】142（ゲンパク）　字號。❶晉、袁宏（10··34152··41）の字。❷晉、王沉（高平の人）（7−20823··810）の字。

【彦博】143（ゲンパク）　元、王約（7−20823··1021）の字。

【彦發】144（ゲンパツ）　字號。❶宋、黃伸（12−47926··513）の字。❷宋、呂天策（2−3386··244）の字。❸宋、婁機（3−6383··6）の字。

【彦法】145（ゲンパフ）　宋、竇卞（8−25695··49）の字。

【彦美】146（ゲンビ）　明、邢奇（11−39301··10）の字。

【彦微】147（ゲンビ）　金、張奕（4−9812··60）の字。

【彦謐】148（ゲンヒツ）　明、楊寧（6−15112··305）の字。

【彦賓】149（ゲンピン）　明、韓觀（12−43159··79）の字。

【彦孚】150（ゲンブ）　南齊、蕭諶（9−32012··181）の字。

【彦武】151（ゲンブ）　金、徐文（4−10110··276）の字。

【彦文】152（ゲンブン）　字號。❶南齊、蕭誄（9−32012··278）の字。❷梁、庾震（4−9398··28）の字。❸北周、席世雅（4−8926··80）の字。❹隋、郭衍（11−39474··16）の字。❺宋、仇博（1−355··51）の字。❻宋、黃棐（12−47926··794）の字。❼宋、孫緯（3−6987··6）の字。❽宋、張大經（4−9812··1321）の字。❾宋、李獻民（6−14459··1148）の字。❿明、晏壁（5−13914··58）の字。⓫明、龔理（12−48837··54）の字。

【彦聞】153（ゲンブン）　字號。❶宋、李孝稱（6−14459··947）の字。❷清、方履籛（5−13620··624）の字。

【彦平】154（ゲンペイ）　字號。❶宋、李衡（6−14459··130）の字。❷明、包衡（2−2506··17）の字。❸明、李隆（6−14459··796）の字。

【彦昺】155（ゲンペイ）　明、劉炳（2−2224··592）の字。

【彦炳】156（ゲンペイ）　明、劉炳（2−2224··592）の字。

【彦標】157（ゲンペウ）　梁、江蒨（6−17140··271）の字。

【彦甫】158（ゲンポ）　清、吳廷棟（2−3365··795）の字。

【彦輔】159（ゲンポ）　❶字號。㋑晉、樂廣（6−15399··72）の字。㋺後晉、曹國珍（5−14297··233）の字。㋩宋、史經臣（2−3249··201）の字。㋥金、祁宰（8−24634··13）の字。㋭明、郝杰（11−39430··12）の字。㋬清、潘德輿（7−18236··215）の字。❷元、崔彦輝（4−8178··248）の一名。

〖彦輔氷清〗160（ゲンポヒヨウセイ）　蒙求の標題。晉の樂廣、字は彦輔といふ人は氷のやうに清い人であつた故事。〔晉書、樂廣傳〕尙書令衞瓘、朝之耆舊、逮下與二魏正始中諸名士一談論上、見レ廣而奇レ之、曰、自二昔諸賢既沒一、常恐二微言將レ絕、而今乃復聞二斯言於君一矣、命二諸子一造焉、曰、此人之水鏡、見レ之瑩然、若下披二雲霧一而覩中青天上也。

【彦本】161（ゲンポン）　宋、練來（8−27689··81）の字。

【彦密】162（ゲンミツ）　宋、魏燮（12−45872··102）の字。

【彦明】163（ゲンメイ）　字號。❶宋、尹焞（4−7631··76）の字。❷宋、章夏（8−25761··17）の字。❸宋、邵清（11−39343··39）の字。❹宋、石亘（8−24024··305）の字。❺宋、薛開（9−32123··15）の字。❻金、李著（6−14459··590）の字。❼元、月魯不花（5−14330··428）の字。❽元、張炤（4−9812··470）の字。❾元、趙炳（10−37171··333）の字。❿元、董文炳（9−31433··260）の字。

【彦銘】164（ゲンメイ）　明、謝常（10−35827··108）の字。

【彦默】165（ゲンモク）　宋、練逢（8−27689··77）の字。

【彦約】166（ゲンヤク）　梁、甄恬（7−21557··36）の字。

【彦瑜】167（ゲンユ）　梁、蕭琛（9−32012··222）の字。

【彦譽】168（ゲンヨ）　北齊、白建（8−22678··365）の字。

【彦容】169（ゲンヨウ）　字號。❶宋、鄭伯海（11−39647··532）の字。❷明、姚堂（3−6202··88）の字。

【彦邕】170（ゲンヨウ）　後魏、李肅（6−14459··437）の字。

【彦膺】171（ゲンヨウ）　清、徐邦（4−10110··250）の字。

【彦鸞】172（ゲンラン）　後魏、崔鴻（4−8178··81）の字。

【彦理】173（ゲンリ）　元、陳大倫（11−41698··1101）の字。

【彦栗】174（ゲンリツ）　元、強珇（4−9815··137）の字。

【彦隆】175（ゲンリユウ）　宋、金梁之（11−40152··1408）の字。

【彥侶】176（ゲンリヨ） 清、吳求(2－3365‥102)の字。

【彥陵】177（ゲンリヨウ） 明、張振淵(4－9812‥1214)の字。

【彥龍】178（ゲンリヨウ） 字號。❶三國魏、孫資(3－6987‥138)の字。❷梁、范雲(9－30834‥7)の字。❸宋、王鯨(7－20823‥331)の字。

【彥林】179（ゲンリン） 字號。❶後漢、桓彬(6－14774‥65)の字。❷後漢、傅幹(1－939‥21)の字。❸晉、山遐(4－7869‥100)の字。

【彥琳】180（ゲンリン） 南朝宋、孔琳之(3－6933‥373)の字。

【彥倫】181（ゲンリン） 字號。❶南齊、周顒(2－3441‥108)の字。❷後魏、賈彝(10－36755‥2)の字。❸宋、儲敦敍(1－1284‥89)の字。

〔彥倫鶴怨〕182（ゲンリンカクエン） 蒙求の標題。南朝宋の周顒、字は彥倫といふ人が初め鍾山に隱れたが、後出て縣令となると、孔稚珪が鍾山の草堂を過ぎて北山移文を作り、其の中に香草の帳は空しくなつて夜の鶴は怨むといふことを述べた故事。〔蒙求、下、彥倫鶴怨〕南史、周顒、字彥倫、云云、初隱㆓鍾山㆒、及㆔出爲㆓縣令㆒、孔稚珪過㆓鍾山草堂㆒、作㆓北山移文㆒、其詞有㆑曰、蕙帳空兮夜鶴怨、山人去兮曉猿驚。

【彥霖】183（ゲンリン） 宋、王巖叟(7－20823‥1276)の字。

【彥禮】184（ゲンレイ） 字號。❶宋、蔣康國(9－31820‥129)の字。❷宋、劉子翼(2－2224‥978)の字。❸宋、王克恭(7－20823‥1471)の字。

【彥齡】185（ゲンレイ） 明、崔永(4－8178‥10)の字。

【彥吉保】186（ゲンキツハウ） 清、滿洲正黃旗人。姓は墨爾丹氏。官は乾隆中、前鋒侍衞、臺灣の林爽文を攻めて功をたて、護軍參領を授けらる。又、廓爾喀を征して功あり、嘉慶中、英吉沙爾領隊大臣となる。〔國朝耆獻類徵、三百七〕。

【彦】9981 ゲン 彥(4－9980)の俗字。〔正字通〕彥、俗从㆑立作㆑彦。

【形】9982 ケイ 形(4－9969)の本字。

七畫

【彧】9983 キク 〔集韻〕乙六切 ㄩ yü^{4} 屋

❶**あや。あやあるさま。**戫(4－10027)に同じ。〔廣雅、釋詁三〕彧、文也。〔疏證〕彧者、說文、戫、有㆓文章㆒也、論語八佾篇、郁郁乎文哉、彧、戫・郁、並通。〔集韻〕戫、說文、文有㆑章也、或作㆑彧。❷**茂るさま。**〔詩、小雅、信南山〕黍稷彧彧。〔傳〕彧彧、茂盛貌。❸**長いさま。**〔尙書大傳、虞夏傳〕夏伯之樂舞謾彧。〔注〕彧、長貌、言㆓萬物之滋曼彧然㆒也。

【彧彧】1（キクキク） ❶盛に茂るさま。〔詩、小雅、信南山〕疆場翼翼、黍稷彧彧。〔傳〕彧彧、茂盛貌。❷衆美のさま。又、多くあやあるさま。郁郁。〔何晏、景福殿賦〕嗟瓌瑋以壯麗、紛彧彧其難㆑分。〔注〕濟曰、紛彧彧、文章多貌。

【浦】9984 ホ 補(10－34320)の古字。〔集韻〕補、古作㆑浦。

【𢒉】9985 サ 〔篇海〕千臥切 箇

❶**かる。**〔篇海〕𢒉、芟也。❷**かたち。**〔玉篇〕𢒉、形也。〔篇海〕𢒉、一曰、刑也。

【𢒆】9986 シヤウ 祥(8－24689)の古字。〔字彙〕𢒆、古祥字。

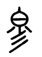
【徒】9987 ト 徒(4－10121)に同じ。〔字彙補〕徒、與㆑徒同。

【】9988 チヨク 義未詳。〔搜眞玉鏡〕、丑玉切。

【】9989 フウ 義未詳。〔龍龕手鑑〕、音浮。

八畫

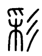
【㣎】9990 ㊀ボク モク 〔集韻〕莫六切 屋 ㊁ビウ ミユ 〔集韻〕亡幽切 尤


小篆

㊀㊁❶**こまかいあや。**〔說文〕㣎、細文也、从㆓彡省㆒。❷穆(8－25251)に通ず。〔說文、㣎、段注〕今皆从㆑禾作㆑穆、叚借字也。

【】9991 シヨ 諸(10－35743)の古字。〔玉篇〕、古文諸。

【彩】9992 サイ 〔集韻〕此宰切 ㄘㄞˇ tsʻai^{3} 賄


小篆

❶**あや。**〔說文新附〕彩、文章也、从㆑彡采聲。〔晉書、夏侯湛傳贊〕縟彩彫煥。❷**いろどり。**〔字彙〕彩、文色也。〔隋書、音樂志〕煙雲獻㆑彩、龜龍表㆑異。❸**いろ。**〔晉子夜四時歌〕山林多㆓奇彩㆒。❹**つや。**〔傅玄、李賦〕豐彩外盈。❺**ひかり。**〔廣韻〕彩、光彩。〔字彙〕彩、精光也。〔沈約、竟陵王顯佛光殿賦〕日華月彩。〔許渾、中秋翫月詩〕輪彩漸移金殿外。❻**たくみ。**〔宋書、顏延之傳〕以㆓詞彩㆒齊㆑名。❼**かざり。**〔沈約、彌陀佛銘〕物愛㆓彫彩㆒。❽**やうす。**みなり。かたち。風度。〔晉書、王戎傳〕幼而穎悟、神彩秀徹。〔謝莊、封㆓皇弟㆒表〕器彩明敏。❾**もやう。**〔鮑照、藥奩銘〕龍彩雲裳。❿**かけ。富籤。**〔鶴林玉露、天、留後門〕此擧有㆓萬全之策㆒乎、亦賭彩一擲也。⓫通じて采(11－40116)に作る。〔集韻〕彩、通作㆑采。⓬現㋑ほめそやす。㋺芝居の道具。㋩彩旦(47)の略稱。

参考 熟語は采(11－40116)を併せ見よ。

【彩靄】1（サイアイ） 美しいいろどりあるもや。〔沈約、前緩聲歌〕開霞泛㆓彩靄㆒、澄霧迎㆓香風㆒。

【彩衣】2（サイイ） ❶美しいもやうのある衣服。采衣(11－40116‥1)に同じ。❷tsʻai^{3} i^{1} 芝居に用ひる衣。

【彩雲】3（サイウン） 美しいいろどりのある雲。〔李白、早發㆓白帝城㆒詩〕朝辭白帝彩雲閒、千里江陵一日還。

〔彩雲箋〕4（サイウンセン） 色どつた雲の模様のある紙。〔琵琶記、拐兒紿誤〕見㆔這銀鈎飛㆓動彩雲箋㆒。

【彩暈】5（サイウン） いろどりのある日月のかさ。色どつた雲。〔遼后蕭氏、回心院詞〕剔㆓銀燈㆒須㆑知㆓一樣明㆒、偏是君來生㆓彩暈㆒、對㆑妾故作㆓青熒熒㆒。

【彩霞】6（サイカ） ❶五色のかすみ。美しい雲氣。〔江淹、蓮花賦〕見㆓彩霞之夕照㆒、觀㆓兄雲之晝臨㆒。〔李白、禪房懷㆓友人岑倫㆒詩〕沈吟彩霞沒、夢寐羣芳歇。❷相術家の語。右眉毛の下をいふ。流年運氣(6－17431‥307)を見よ。

【彩檻】7（サイカン） いろどつた美しいてすり。〔許渾、寄㆓郴州李相公㆒詩〕彩檻浮雲迥、綺窗明月深。

【彩巖】8（サイガン） 桂山義樹の號。桂山彩巖(6－14755‥51)を見よ。

【彩姬】9（サイキ） 明、趙今燕(10－37171‥474)の一名。

【彩氣】10（サイキ） tsʻai^{3} chʻi^{4} 幸運。幸福。

【彩旗】11（サイキ） 美しい旗。いろどつた旗。采旗(11－40116‥1

彩旗（清會典圖）

0)に同じ。〔清會典圖、輿衞、彩旗〕皇貴妃儀仗彩旗、雲緞殊紅黑二色、俱斜幅、不レ繡、餘如二鳳旗之制一、貴妃儀仗彩旗同。

【彩球】12 tsʻai^3 chiu^2 太陽を圍んでゐる赤色の氣球。光度の高熱によつて成るもの。日蝕の初終に見はれる。

【彩局】13 サイキョク 雙六の盤面。又、雙六。〔清異錄、君道、彩局兒〕開元中、後宮繁衆、侍二御寢一者難二于取捨一、爲二彩局兒一以定レ之、集二宮嬪一用二骰子一擲、最勝一人、乃得レ專レ夜。

【彩具】14 サイグ 繪の具。

【彩花】15 サイクワ 花かざり。色どりの花。造花。

〖彩花錦匣〗16 tsʻai^3 hua^1 chin^3 hsia^2 美しい模樣付きの小匣。

【彩畫】17 tsʻai^3 hua^1 彩色畫。采畫(**11－40116**‥17)に同じ。

〖彩畫舖〗18 tsʻai^3 hua^1 pʻu^4 繪草紙屋。

【彩繪】19 サイクワイ いろどり。もやう。ゑ。〔王安石、詩〕誠語無二彩繪一。

【彩管】20 サイクワン 繪筆。彩筆。

【彩蜺】21 サイゲイ サイゲツ 美しいいろどりのあるにじ。彩虹。蜺は雌にじ。〔增韻〕范忠文公鎭試二學士院一詩用二彩蜺字一、以三沈約郊居賦雌霓連蜷、讀レ霓爲二入聲一、謂レ鎭爲二失韻一、司馬文正公光曰、約賦但取二聲律便美一、非二義不一レ可三讀爲二平聲一也、當時有レ學者、皆爲二憤鬱一。〔司馬光、范景仁傳〕用二參知政事王公薦一、召試二學士院一、詩用二彩蜺字一、學士以三沈約郊居賦雌霓連蜷、讀レ霓爲二入聲一、謂二景仁失一レ韻、云云、當時有レ學者、皆爲二景仁積鬱一、而景仁處レ之晏然不二自辯一。〔楊愼、詩〕綺思生二松黛一、訛音辨二彩蜺一。

【彩轎】22 tsʻai^3 chiao^4 婚禮の時新婦の乘るかご。

【彩鷁】23 サイゲキ 美しいいろどりのある鷁を船首に畫いた船。鷁首船。よく水難を防ぐといふ。轉じて、船をいふ。鷁は鷺に似た水鳥の名。〔劉孝綽、釣竿篇〕釣舟畫二彩鷁一、漁子服二冰紈一。〔李嶠、汾陰行〕櫂歌微吟彩鷁浮、簫鼓哀鳴白雲秋。

【彩絢】24 サイケン いろどり。あや。〔王勃、乾元殿頌序〕彩絢祥雲、夾二珠旗一而曳レ影。〔入越記〕彩絢其華。

【彩褲】25 tsʻai^3 kʻu^4 婦人の穿く華やかなズボン。

【彩虹】26 サイコウ 美しいいろどりのあるにじ。文虹。虹は雄にじ。〔李白、秋登二宣城謝朓北樓一詩〕兩水夾二明鏡一、雙橋落二彩虹一。

【彩彩】27 サイサイ 采采(**11－40116**‥25)に同じ。

【彩子】28 tsʻai^3 tzŭ 結婚の時に飾りに用ひる色絹の類。

【彩幟】29 サイシ いろどりを施した旗。〔韋應物、酒肆行〕碧疏玲瓏含二春風一、銀題彩幟邀二上客一。

【彩綉】30 サイシウ 美しいぬひとりのある衣。〔紅樓夢、三回〕彩綉輝煌、恍若二神妃仙子一。

【彩繡】31 tsʻai^3 hsiu^4 色絲で刺繡する。

【彩色】32 サイシキ いろどる。又、いろどり。〔文子、道原〕日淫二于彩色一。〔江淹、雜體、班婕妤詠扇詩〕彩色世所レ重、雖レ新不レ代レ故。

【彩瑟】33 サイシツ いろどりを施した瑟。〔江淹、麗色賦〕雕柱彩瑟、九華六出。

【彩匠】34 tsʻai^3 chiang^4 彩紬を造る職人。

【彩章】35 サイシヤウ ❶あや。もやう。采章。〔何晏、景福殿賦〕既窮二巧於規摹一、何彩章之未レ殫。❷清、朱繡(**6－14424**‥358)の字。

【彩若】36 サイジヤク 清、徐玟(**4－10110**‥247)の字。

【彩繩】37 サイジヨウ いろどつたなは。〔後漢書、烏桓傳〕肥二養一犬一、以二彩繩一纓牽、幷取二死者所レ乘馬衣物一、皆燒而送レ之。

【彩飾】38 サイシヨク いろどりかざる。采飾(**11－40116**‥51)に同じ。

【彩翠】39 サイスイ 美しいみどり色。〔王維、木蘭柴詩〕彩翠時分明、夕嵐無二處所一。〔陸游、三峽歌〕十二巫山見二九峰一、船頭彩翠滿二秋空一。〔湘山野錄〕彩翠奪レ目。

【彩旌】40 サイセイ いろどつた旌旗。〔廣瀨淡窓、隈川雜詠詩〕畫戟彩旌空一夢、蘆花亂發月蒼蒼。

【彩聲】41 tsʻai^3 shêng^1 ❶作り聲。❷喝采。

【彩切】42 tsʻai^3 chʻieh^1 芝居の道具立。彩片。

【彩船】43 サイセン いろどりを施したふね。綵船。〔梁元帝、從軍行〕寶劍飾二龍淵一、長虹畫二彩船一。

【彩牋】44 サイセン 色紙。又、詩箋。采牋(**11－40116**‥65)に同じ。

【彩線】45 サイセン 淚の流れたあと。〔紅樓夢、三十四回〕彩線難レ收面上珠、湘江舊跡已模糊。

【彩蟾】46 サイセン 月をいふ。蟾は、月中に住むといふひきがへる。金蟾。〔長生殿、聞樂〕密召二芳魂一入二彩蟾一、來レ此已是唐宮之內。

【彩旦】47 tsʻai^3 tan^4 毒婦惡婢などに扮する役者。

【彩紬】48 tsʻai^3 chʻou^2 慶事ある時に、門口に張る紅黃綠各色の絹。

【彩綢】49 tsʻai^3 chʻou^2 彩紬に同じ。

【彩仗】50 サイヂヤウ 美しく飾つた兵仗。儀仗をいふ。〔長生殿、定情〕浴罷妝成趨二彩仗一。〔桃花扇、入道〕伏願彩仗隨レ車。

【彩女】51 サイヂヨ 後漢の宮女(**3－7156**‥184)の稱。〔稱謂錄、列宮古稱、彩女〕後漢書皇后紀序、光武置二美人宮人彩女三等一、並無二爵秩一。

【彩蝶】52 サイテフ 美しいいろどりのある蝶。〔盧綸、寄二夏侯侍御審侯倉曹釗一詩〕彩蝶戲二芳圃一、瑞雲凝二翠屛一。

【彩頭】53 tsʻai^3 tʻou^2 ❶めんぼく。面目。〔紅樓夢、十八回〕今兒得二了這樣的彩頭一。❷さいさき。幸先。彩氣。彩頭兒を見よ。

〖彩頭兒〗54 tsʻai^3 tʻou^2 êrh 家を出て第一に遭遇した事で前途の吉凶を卜すること。〔還魂記、旅寄〕我陳最良、爲レ求レ館衝レ寒到レ此、彩頭兒恰遇二著弔水之人一、且由レ他去。

【彩棚】55 サイハウ 婚禮・葬禮等で客を饗するために一時的に作る綺麗な小屋掛。〔紅樓夢、十四回〕路旁彩棚高搭、設レ席張レ筵、和音奏樂。

【彩筆】56 サイヒツ 繪具筆。繪筆。

【彩品】57 tsʻai^2 pʻin^3 景品。賞品。

【彩服】58 サイフク 色彩の美しい着物。綺麗な衣服。〔近世叢語、德行〕嘗有三人遺二彩服於其子一、遂不レ許レ服。

【彩文】59 サイブン いろどり。あや。〔李應三、立春日曉望二素雲一詩〕紅霓開二彩文一。

【彩屛】60 サイヘイ 美しいいろどりを施した屛風。綵屛。〔李白、觀二元丹丘坐巫山屛風一詩〕飛入二君家彩屛裏一。

【彩票】61 tsʻai^3 pʻiao^4 富籤の札紙。色紙に番號を記入する。一名、獎券。

【彩碧】62 サイヘキ 美しいみどりいろ。〔皮日休、雨中遊二包山精舍一詩〕松門互二五里一、彩碧高下絢。

【彩壁】63 サイヘキ いろどつたかべ。〔盧簡求、海昌院禪門大師塔碑〕修廓大殿、彩壁層甍。

【彩門】64 tsʻai^3 men^2 裝飾した門。アーチ。

【彩輿】65 tsʻai^3 yü^2 花嫁の乘るかご。

【彩瀾】66 サイラン 佐々木世元の號。佐々木琴臺(**1－506**‥77)を見よ。

【彩鴛鴦】67 サイエンアウ 美しいいろどりのあるをしどり。〔紅樓夢、三十回〕把二些綠頭鴨・花鸂鶒・彩鴛鴦一捉的捉。

【彩選格】68 サイセンカク 博戲の具。官位等級のすごろく。陞官圖。〔卻掃編〕彩選格、起二于唐李郃一、本朝踵レ之者、有二趙明遠・尹師魯一、元豐官制行、有宋保レ國、皆取二時制一爲レ之、至二劉貢父一獨因二其法一、取二西漢官一秩二陞黜次第一、又取下本傳所二以陞黜一之語上注二其下一、局終、遂可下次二第其語一爲中一傳上、博戲中最爲二雅馴一。

【彩涼牀】69 tsʻai^3 liang^2 chʻuang^2 南京で送葬日にかける彩色幕をいひ、其の內に故人の影像を掛けるもの。

【彩禮銀】70 tsʻai^2 li^3 yin^2 婚禮の支度金。

【彩樓配】71 サイロウハイ 支那劇脚本の一。唐の宰相王允の三女寶川が、或る時、花園に乞食を見て皇帝の相ありとし、方法をつくして竟に之と夫婦の契りを結ぶといふ筋。

【彩鳳隨鴉】72 サイホウズイア 女子が夫を遇するにしとやかでないこと。杜大中の妾が自らを彩鳳に比し、大中を鴉に比して譏つた故事。〔事文類聚〕杜大中起二於行伍一、妾能レ詞、有二彩鳳隨鴉之句一、杜怒曰、鴉且打レ鳳。〔紫釵記傳奇〕那裏有二彩鳳一去隨レ鴉、老鸛戲彈レ牙。

【彩翼雙棲】73 tsʻai^3 i^4 shuang^1 chʻi^1 夫婦の和合をいふ。

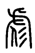
【錯レ彩鏤レ金】74 サイヲマジヘキンヲチリバム 彩色を施し、金を鏤ばめる。奇麗に飾り立てる。〔鍾嶸、詩品〕湯惠休曰、謝詩如二芙蓉出一レ水、顏詩如二錯レ彩鏤一レ金。

【彩豔不二相因一】75 サイエンアヒヨラズ 美しいものはお互にそばによりつかない。〔韓愈、春雪閒二早梅一詩〕梅將レ雪共春、彩豔不二相因一、逐レ吹能爭レ密、排レ枝巧妬レ新、誰令二香滿一レ座、獨使二淨無一レ塵。

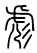
【彩鸞棲二張叟之筠一】76 サイランハチヤウソウノキンニスム 張虛靜天師の廬の竹に彩鸞が來り棲んだ故事。有德者

は、世人は之を知らないでも、天が能くこれを知る意。鸞は神鳥、筠は竹。〔故事成語考注〕張虛靜天師於二龍虎山一結レ廬而處、有二彩鸞一棲二鳴其上一、作レ詩、有下結二廬高處一無二人到一、夜半彩鸞棲二綠筠一之句上。

【彪】 9993 ヒウ ヒユ 慣ヘウ 〔集韻〕必幽切 ㄅㄧㄠ 尤 piao¹



小篆（說文）



小篆（段注本）

㊀**まだら。虎の斑文。**〔說文〕彪、虎文也、从二虎彡一、彡、象二其文一也。㊁**あや。**〔廣雅、釋詁三〕彪、文也。〔法言、君子〕或問、君子、言則成レ文、動則成レ德、何以也、曰、以二其弸中而彪外一也。〔注〕彪、文也。㊂**虎。小さい虎。**〔韻會〕彪、又小虎也。〔庾信、枯樹賦〕熊彪顧盼、魚龍起伏。㊃**明か。明かにする。**さとす。〔蔡邕、處士圂叔則銘〕童蒙來求、彪レ之用レ文。㊄**姓。**〔萬姓統譜〕彪、出二齊郡一、周有二衞大夫彪夫一、宋有二彪虎臣一、今河南均州有二彪氏一。

解字 會意。虎と彡との合字。彡は虎の斑文にかたどる。故に合して虎の斑文をいふ。〔說文、彪、彡象二其文一也、段注〕說二从レ彡之意一、彡、毛飾畫文也、故虎文之字從レ之。

【彪蔚】1 ヒウウツ あやもやうの盛なさま。〔文心雕龍、書記〕清美以惠二其才一、彪蔚以文二其響一、蓋牋記之分也。〔韓愈・張籍・張徹・孟郊、會合聯句〕格言多二彪蔚一、懸解無二梏拲一。〔梅堯臣、寄三題絳守園池一詩〕屋屢圬墁幾二太守一、壁上彪蔚遺二丹青一。

【彪嚇】2 ヒウカク 虎が人を威嚇すること。〔南史、檀珪傳〕飢彪能嚇レ人、遽與レ肉、餓驎不レ噬、誰爲二落毛一、雖二復孤微一、百世國士、姻媾位宦、亦不レ後レ物。

【彪休】3 ヒウキウ 怒るさま。〔嵇康、琴賦〕鬱怒彪休。〔注〕善曰、彪休、怒貌。

【彪外】4 ヒウグワイ あやが外にあらはれる。〔法言、君子〕或問、君子、言則成レ文、動則成レ德、何以也、曰、以二其弸中而彪外一也。〔注〕彪、文也、積行內滿、文辭外發。〔文心雕龍、程器〕固宜二蓄レ素以弸レ中、散レ采以彪レ外。

【彪煥】5 ヒウクワン きらびやか。光彩粲然たる形容。〔梁昭明太子、七契〕璇題昭晰、珠簾彪煥。

【彪傒】6 ヒウケイ 春秋、衞の大夫。靈王の時、晉の魏舒・韓不信が、京師に行き諸侯の大夫を狄泉に集めて盟ひ、且つ成周に城壁を築かせたが、時に魏子の南面するのを見て、彪傒は、魏子必ず大咎あらんといふ。明年、果して魏子卒す。〔左氏、昭、三十二、定、元〕。

【彪虎】7 ヒウコ 虎の類。〔中興徵祥說〕近代所謂白虎者、背斑而虎文、爾雅所謂彪虎者也。

【彪口】8 ヒウコウ 虎の口。危險な場所の喩。虎口(**9－32675**‥49)に同じ。〔南史、袁顗傳〕今日之行、本願三生出二彪口一。

【彪虥】9 ヒウサン 虎と山猫。〔韓愈、崔十六少府云云詩〕下言人吏稀、惟足彪與レ虥。

【彪子】10 ヒウシ ㊀後魏、薛虎子(**9－32123**‥178)の一名。㊁piao¹ tzŭ 惡事を働く者。わるもの。

【彪身】11 ヒウシン 虎のやうなもやうのある身體。〔北史、斛律光傳〕光字明月、馬面彪身、神爽雄傑。

【彪西】12 ヒウセイ 清、范鄗鼎(**9－30834**‥150)の字。

【彪駮】13 ヒウハク 虎の毛のぶち。〔喬彝、渥洼馬賦〕目散レ電兮彪駮、喙含レ丹而虎牙。

【彪尾】14 ヒウビ 虎の尾。〔晉書、天文志上〕土司空北二星曰二軍門一、主二營候一、彪尾威旗。

【彪昺】15 ヒウヘイ 彪炳に同じ。〔抱朴子、行品〕文彪昺而備レ體。

【彪炳】16 ヒウヘイ 虎の皮のあや模様のはつきりして美しいこと。又、きらびやかに美しい。〔左思、蜀都賦〕符采彪炳。〔沈約、內典序〕聖迹彪炳、日煥二於閻浮一。〔鍾嶸、詩品〕晉弘農太守郭璞詩、憲二章潘岳一、文體相輝、彪炳可レ翫。〔崔國輔、古意詩〕紅荷楚水曲、彪炳爍二晨霞一。〔李白、酬三殷明佐贈二五雲裘一歌〕文章彪炳光陸離、應三是素娥玉女之所レ爲。〔權德輿、祗命赴レ京途次二淮口一因書レ所レ懷詩〕彪炳覩二奇采一、淒鏘聞二雅音一。〔劉禹錫、壯士行〕彪炳爲二我席一、羶腥充二我庖一。

【彪卜】17 ヒウボク 古の占法。〔卜記〕彪卜者、彪知二衝破一、又能畫二地卜一、今人有二畫物上下一者、推二其奇偶一、謂二之彪卜一。

【彪蒙】18 ヒウモウ 愚かな者をさとして明かにすること。〔蔡邕、處士圂典碑〕童蒙來求、彪レ之用レ文。〔蔡邕、司徒袁公夫人馬氏碑〕義方之訓、如二川之流一、俾二我小子蒙昧以彪一。

【彪貍】19 ヒウリ 虎とたぬき。〔王令、古廟詩〕豈亦以レ此爲二人尸一、覗二其膚革一已彪貍。

【彪列】20 ヒウレツ かがやかしくならぶ。〔漢書、禮樂志〕景星顯見、信星彪列。

【彪居正】21 ヒウキヨセイ 宋の人。虎臣の子。字は德美。號は敬齋。胡宏の弟子。嶽麓書院堂長となる。〔宋元學案、四十二〕・〔宋史翼、二十三〕。

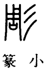
【彪虎臣】22 ヒウコシン 宋、湘潭の人。字は漢明。胡安國の弟子。經術を以て教授す。〔宋元學案、三十四〕・〔宋史翼、二十三〕。

【彪彪沜沜】23 ヒウヒウカンカン 水流のはやくはげしいさま。滮滮沜沜。〔陸倕、感二知己一賦〕或欲下涉二其涯涘一、求中其界畔上、則浩浩涽涽、彪彪沜沜、譬長二鋏於鞘中一、若三龍淵與二蜀漢一。

【彪彪玢玢】24 ヒウヒウフンフン あやのあるさま。〔夏侯嘉正、洞庭賦〕彪彪玢玢若三太虛之含二萬彙一、各循二其生一、而合二乎羣一者也。

【彪】 9994 ヒウ 彪(**4－9993**)に同じ。〔字彙補〕彪、同レ彪。

【彫】 9995 テウ 〔集韻〕丁聊切 ㄉㄧㄠ 蕭 tiao¹



小篆

㊀**ほり。ほつたもやう。**〔說文〕彫、琢文也、从レ彡周聲。〔段注〕凡琱琢之成文曰レ琱、故字從レ彡。㊁**ほる。ゑる。きざむ。**〔廣韻〕彫、彫刻。〔左氏、宣、二〕厚斂以彫レ牆。〔注〕彫、畫也。〔論語、公冶長〕朽木不レ可レ彫也。〔集解〕包氏曰、彫、彫琢、刻畫也。〔皇疏〕彫、彫鏤、刻畫也。㊂**ちりばめる。**ほつて金・玉などをはめこむ。〔廣雅、釋言〕彫、鏤也。〔詩、大雅、棫樸、追二琢其章一、傳〕金曰レ彫。㊃**かざる。又、かざり。**〔一切經音義、二〕彫、飾也。〔廣雅、釋詁三〕彫、畫也。〔史記、禮書〕救二其彫敝一。〔注〕索隱曰、彫、謂二彫飾一也。㊄**をさめる。**〔魏志、陳思王植傳〕任レ性而行、不二自彫勵一。㊅**ついばむ。**〔左思、吳都賦〕彫二啄蔓藻一。〔注〕劉曰、彫啄、鳥食貌。㊆**しぼむ。**凋(**2－1668**)に通ず。〔說文通訓定聲〕彫、叚借爲レ凋。〔論語、子罕〕歲寒然後知二松柏之後レ彫也。〔釋文〕彫、依レ字當レ作レ凋。㊇**いためる。いたむ。**〔荀子、大略〕勞苦彫萃。〔注〕彫、傷也。〔魏志、明帝叡紀〕於レ時百姓彫弊。㊈**玉にほる。**琱(**7－21074**)に通ず。〔說文通訓定聲〕彫、叚借爲レ琱。〔張衡、南都賦、琢琱狎獵、注〕善曰、爾雅曰、玉謂二之琱一、琱與レ彫、古字通也。㊉或は㓮(**2－2060**)に作る。〔集韻〕彫、或从レ刀。⑪通じて雕(**11－42080**)・琱(**7－21074**)に作る。〔集韻〕彫、通作二雕・琱一。〔一切經音義、二〕古文彫・琱二形、今作レ雕、同。〔禮、明堂位〕彫琱。〔釋文〕彫、本又作レ雕。⑫敦(**5－13276**)に通ず。〔詩、大雅、行葦、傳、敦弓、畫弓也、疏〕敦與レ彫、古今之異。

參考 熟語は雕(**11－42080**)を併せ見よ。

【彫雲】1 テウウン 雲氣をちりばめること。また、ちりばめたように美しい雲。雕雲(**11－42080**‥3)に同じ。〔顏延之、車駕幸二京口一三月三日侍二遊曲阿後湖一作詩〕彫雲麗二琁蓋一。〔注〕濟曰、琁蓋、以レ玉飾レ蓋、雕二鏤雲氣一、附二於其上一。

【彫楹】2 テウエイ 彫刻したはしら。雕楹。〔張衡、西京賦〕彫楹玉碣。

【彫葉】3 テウエフ 穴のあいた木の葉。又、しぼんだ

葉。雕葉。〔陸游、詩〕病樹有㆓彫葉㆒、芳春不㆑能㆑發。

【彫琰】4（テウエン）　彫刻した玉。〔梁簡文帝、謝㆔敕㆓賚善勝威勝力㆒啓〕冰錫含㆑彩、彫琰表㆑飾。

【彫耗】5（テウカウ）　衰へること。〔晉書、地理志上〕光武投㆑戈之歲、在㆓彫耗之辰㆒、羣國蕭條、幷㆑省者八。

【彫閣】6（テウカク）　彫刻采畫を施した閣道。〔張協、七命〕翠觀岑青、彫閣霞連。〔注〕翰曰、彫畫閣道、如㆓雲霞相連㆒。

【彫几】7（テウキ）　彫刻を施した机。〔周禮、春官、司几筵〕右㆓彫几㆒。〔孫詒讓正義〕彫者、礲而刻畫爲㆑文。

【彫劾】8（テウキ）　他國にさまよう人をいふ。〔稱謂錄、客民、彫劾〕衞志蔣濟傳、彫劾之民、劾、音貴、書敍指南、蘇瓌人流亡曰㆓彫劾㆒。

【彫暉】9（テウキ）　日月のかさ。〔戰國、趙策〕故日月彫㆓暉外㆒、其賊在㆑內、謹備㆓其所㆒㆑憎、而禍在㆓於所㆒㆑愛。

【彫璣】10（テウキ）　玉をちりばめる。雕璣。〔孔子家語、問禮〕車不㆓彫璣㆒、器不㆓彫鏤㆒。

【彫僞】11（テウギ）　飾りいつはる。〔孔子家語、相魯〕器不㆓彫僞㆒。

【彫弓】12（テウキユウ）　彫刻を施した弓。敦弓(**5－13276**‥22)に同じ。又、雕弓(**11－42080**‥16)に作る。〔荀子、大略〕天子彫弓。〔注〕彫、謂㆔彫畫爲㆓文飾㆒。〔司馬相如、子虛賦〕左㆓烏號之彫弓㆒。〔注〕良曰、郭璞曰、彫、畫也。

【彫玉】13（テウギヨク）　玉をちりばめる。ちりばめた玉。〔史記、滑稽傳〕臣請以㆓彫玉㆒爲㆑棺、文梓爲㆑椁。〔司馬相如、子虛賦〕乘㆓彫玉之輿㆒。〔注〕善曰、郭璞曰、刻㆑玉以飾㆑車也。

【彫戈】14（テウクワ）　ほりかざつた戈。雕戈。〔杜甫、日暮詩〕將軍別換㆑馬、夜出擁㆓彫戈㆒。

【彫煥】15（テウクワン）　光明のさま。〔謝惠連、秋懷詩〕金石終消毀、丹青暫彫煥。〔注〕翰曰、彫煥、光明貌。

【彫絢】16（テウケン）　いろどり。かざり。〔魏書、崔光傳〕基構已興、彫絢漸起、紫山華臺、卽其宮也。

【彫虎】17（テウコ）　虎をいふ。虎は斑紋があるから彫といふ。雕虎。〔左思、蜀都賦〕屠㆓麈麋㆒、剪㆓旄麈㆒、帶㆓文蚍㆒、跨㆓彫虎㆒。

【彫枯】18（テウコ）　しぼみかれる。凋枯。〔左思、詠史詩〕俛仰生㆓榮華㆒、咄嗟復彫枯。

【彫胡】19（テウコ）　菰（マコモ）の實。かつみ。はなかつみ。食用となる。彫胡米。菰米。彫蓬(72)を見よ。〔廣雅、釋草〕菰、蔣也、其米謂㆓之彫胡㆒。〔疏證〕說文云、苽、雕苽、一名蔣、苽・胡古聲近、雕苽、卽雕胡也。〔周禮、天官、食醫〕魚宜㆑苽、注〕苽、彫胡也。〔司馬相如、子虛賦〕東蘠彫胡。〔注〕善曰、張揖曰、彫胡、菰米也。〔西京雜記、一〕菰之有㆑米者、長安人謂爲㆓彫胡㆒。〔沈約、三月三日率爾成㆑篇詩〕長袂屢以拂、彫胡方自炊。

【彫胡飯】20（テウコハン）　まこもの實でつくつた飯。〔宋玉、諷賦〕爲㆑臣炊㆓彫胡之飯㆒、烹㆓露葵之羹㆒、來勸㆓臣食㆒。〔古文苑注〕西京雜記、顧翺母好食㆓彫胡飯㆒、菰之有㆑米者、長客人謂爲㆓彫胡㆒。

【彫菰】21（テウコ）　まこもの實。彫蓬(72)を見よ。

【彫工】22（テウコウ）　ほりもの師。

【彫刻】23（テウコク）　金石又は竹木などに文字繪畫の類をほりつける。又、ほりもの。彫斲。雕刻。〔莊子、天道〕覆㆓載天地㆒、彫㆓刻象形㆒、而不㆑爲㆑巧。〔法言、問道〕或問彫㆓刻衆形㆒者匪㆑天歟、曰以㆔其不㆓彫刻㆒也、如物刻而彫㆑之、焉得㆑力而給㆑諸。

【彫刻家】24（テウコクカ）　ほりもの師。

【彫困】25（テウコン）　家財の破れて苦しむこと。〔晉書、孝武帝紀〕宜㆔時拯卹、救㆓其彫困㆒。

【彫瘵】26（テウサイ）　つかれやむこと。凋瘵(**2－1668**‥16)に同じ。

【彫喪】27（テウサウ）　つひえうせる。意氣銷沈する。凋喪(**2－1668**‥17)に同じ。

【彫像】28（テウザウ）　物の形をほり刻む。又、その刻んだ形。雕像(**11－42080**‥34)に同じ。

【彫殘】29（テウザン）　いためそこなはれる。そこなはれいたむ。萎靡する。衰微する。又、其の者。〔後漢書、樊準傳〕百姓彫殘。〔劉琨、答㆓盧諶㆒詩序〕親友彫殘。〔魏志、蘇則傳、注〕內撫㆓彫殘㆒、外鳩㆓離散㆒。

【彫漆】30（テウシツ）　堆朱（ツイシユ）。雕漆(**11－42080**‥42)に同じ。

【彫匠】31（テウシヤウ）　彫刻家。

【彫章】32（テウシヤウ）　ほりかざつたもやう。又、もやうをほりかざる。雕章。〔任昉、王文憲集序〕豈直彫章縟采而已哉。〔注〕豈直爲㆔彫㆓飾文章㆒、以爲㆓縟采㆒乎。

【彫章琢句】33（テウシヤウタクク）　苦心して飾りととのへた文章辭句。刻章琢句(**2－1970**‥123)に同じ。

【彫傷】34（テウシヤウ）　しぼみやぶれる。いためそこなはれる。凋傷。〔後漢書、翟酺傳〕帑藏單盡、民物彫傷。〔魏志、文帝紀、注〕魏書曰、帝初在㆓東宮㆒、疫癘大起、時人彫傷。

【彫牆】35（テウシヤウ）　牆に彫刻する、又、其の牆。贅澤な建築にいふ。〔書、五子之歌〕其二曰、訓有㆑之、內作㆓色荒㆒、外作㆓禽荒㆒、甘㆑酒嗜㆑音、峻㆑宇彫㆑牆、有㆑一㆓于此㆒、未㆑或㆑不㆑亡。〔左氏、宣、二〕晉靈公不君、厚斂以彫㆑牆。

【彫觴】36（テウシヤウ）　彫刻のある盃。〔曹植、七啓〕酌以㆓彫觴㆒。

【彫弱】37（テウジヤク）　しぼみよわる。〔後漢書、梁統傳論〕屬㆓彫弱之期㆒、而匡㆑朝卹㆑患。

【彫飾】38（テウシヨク）　かざる。模樣をほりつけてかざる。雕飾。〔魏志、高堂隆傳〕帝愈增㆓崇宮殿㆒、彫㆓飾觀閣㆒。〔吳志、陸凱傳〕宮無㆓高臺㆒、物不㆓彫飾㆒。〔晉書、樂志下〕昔日貴㆓彫飾㆒、今尚㆓儉與㆒㆑素。〔江淹、雜體、劉文學楨感懷詩〕丹采既已過、敢不㆓自彫飾㆒。

【彫盡】39（テウジン）　しぼみつきる。よわりはてる。凋盡。〔左氏、昭、八〕今宮室崇侈、民力彫盡。〔國語、周語下〕民力彫盡、田疇荒蕪。〔注〕彫、傷也。〔魏志、棧潛傳〕民力彫盡、下不㆑堪㆑命也。

【彫衰】40（テウスイ）　しぼみおとろへる。〔沈約、奏㆓彈王源㆒文〕禮教彫衰。

【彫萃】41（テウスイ）　やせおとろへる。憔悴。彫顇。凋萃。〔荀子、子道〕勞苦彫萃、而能無㆑失㆓其敬㆒。〔注〕彫、傷也、萃與㆑顇同、雖㆓勞苦彫萃㆒而不㆓敢解惰失㆒㆑敬也。

【彫瘁】42（テウスイ）　しぼみつかれる。凋瘁。〔蜀志、譙周傳〕于㆑時軍旅數出、百姓彫瘁。

【彫顇】43（テウスイ）　やせ衰へる。彫萃に同じ。〔陸游、答㆓劉主簿㆒書〕耗㆑心疲㆑力、彫㆓顇齒髮㆒而爲㆑之。

【彫青】44（テウセイ）　入れ墨。雕青(**11－42080**‥51)に同じ。

【彫鐫】45（テウセン）　ほること。雕鐫(**11－42080**‥54)に同じ。

【彫俎】46（テウソ）　ほりものした俎。俎は祭祀燕饗に牲を載せるつくゑ。〔莊子、達生〕加㆓汝肩尻乎彫俎之上㆒。〔鮑照、數詩〕八珍盈㆓彫俎㆒。

【彫鎪】47（テウソウ）　きざむ。ちりばめる。〔左思、魏都賦〕木無㆓彫鎪㆒。〔注〕銑曰、鎪、鏤也、爲㆑木不㆓彫鏤㆒也。

【彫俗】48（テウゾク）　衰へた風俗。弊俗。〔管子、七法〕去㆓奇說㆒、禁㆓彫俗㆒也。〔纂詁〕彫、弊也。

【彫損】49（テウソン）　しぼみそこなふ。〔後漢書、陳忠傳〕禮義之方、實爲㆓彫損㆒。

【彫題】50（テウダイ）　額に入れ墨する。題は額。又、書物の欄外注の意に用ひる。雕題。〔戰國、趙策〕黑齒彫題、鯷冠秫縫、大吳之國也。

【彫啄】52（テウタク）　鳥が物を啄み食ふさま。〔左思、吳都賦〕彫㆓啄蔓藻㆒、刷㆓盪漪瀾㆒。〔注〕劉曰、彫啄、鳥食貌。

【彫琢】53（テウタク）　玉をきざみみがく。彫刻琢磨する。轉じて、字句又は行をつくろふこと。雕琢(**11－42080**‥59)を見よ。〔莊子、應帝王〕彫琢復㆑朴。〔荀子、富國〕彫琢刻鏤。〔管子、五輔〕刻鏤削、彫琢采。〔東方朔、非有先生論〕陰奉㆓彫琢刻鏤之好㆒、以納㆓其心㆒。〔論衡、量知〕簡㆓練其性㆒、彫㆓琢其材㆒。

【彫斲】54（テウタク）　ほりきざむ。彫刻。斲はけづる。〔北史、周武帝紀〕彫斲之物、並賜㆓貧人㆒。

【彫蟲】55（テウチユウ）　蟲が葉などをほりきざむこと。こまかい細工を施す。小技術の喩。雕蟲(**11－42080**‥62)を見よ。

【彫蟲小技】56（テウチユウノセウギ）　學問・技藝などを卑しめていふ。雕蟲小技(**11－42080**‥65)を見よ。

【彫蟲篆刻】57（テウチユウテンコク）　文を作るに餘りに字句を鏤飾すること。小刀細工。雕蟲篆刻(**11－42080**‥66)に同じ。〔法言、吾子〕或問、吾子少而好㆑賦、曰然、童子雕蟲篆刻、俄而曰、壯夫不㆑爲也。〔注〕彫蟲篆刻、少年之事、壯夫不㆑爲、悔㆑作㆑之也。

【彫飭】58（テウチヨク）　かざる。彫飾。〔抱朴子、鈞世〕古者事事醇素、今則莫㆑不㆓彫飭㆒。

【彫琢】59（テウテン）ゑる。きざむ。かざる。彫琢。〔漢書、揚雄傳下〕除㆓彫琢之巧㆒。

【彫篆】60（テウテン）刻んだ文字。刻んだ文章。雕篆（**11−42080**‥71）に同じ。

【彫薄】61（テウハク）衰へて人情が輕薄となること。〔後漢書、李固傳〕淳厚之風不㆑宣、彫薄之俗未㆑革。

【彫武】62（テウブ）北齊、張雕（**4−9812**‥579）の一名。

【彫服】63（テウフク）彫刻を施したえびら。〔鮑照、擬古詩〕氈帶佩㆓雙鞬㆒、象弧插㆓彫服㆒。

【彫佛】64 tiao^{1} fo^{2} 佛像彫刻師。佛師屋。

【彫物】65（ホリモノ）彫刻したもの。

【彫物師】66（ホリモノシ）彫刻家。

【彫文】67（テウブン）ほりかざつた模樣。〔管子、重令〕工以㆓彫文刻鏤㆒相穉也、謂㆓之逆㆒。〔晏子、諫、下〕彫文刻鏤之觀。〔說苑、反質〕彫文刻鏤、害㆓農事㆒者也。〔後漢書、郎顗傳〕減㆓彫文之飾㆒。〔范曄、宦者傳論〕狗馬飾㆓彫文㆒。

【彫紊】68（テウブン）すたれみだれる。〔唐書、殷盈孫傳〕時喪亂後、制度彫紊。

【彫兵】69（テウヘイ）つかれた兵。凋兵（**2−1668**‥35）に同じ。

【彫敝】70（テウヘイ）❶奢侈の弊害。〔史記、禮書〕故大路越席、朱弦洞越、皮弁布裳、大羹玄酒、所㆘以防㆓其淫侈㆒、救㆗其彫敝㆖。〔注〕索隱曰、彫、謂㆓彫飾㆒也、言、彫飾、是奢侈之弊也。❷いたみやぶれる。よわり疲れる。〔漢書、循吏傳序〕民用彫敝、姦軌不㆑禁。〔後漢書、仲長統傳〕時政彫敝。

【彫弊】71（テウヘイ）いたみやぶれる。よわり疲れる。又、いためやぶる。彫敝。雕敝。〔魏志、明帝叡傳評〕於㆑時百姓彫弊、四海分崩。〔魏志、楊阜傳〕古之聖帝明王、未㆑有㆘極㆓宮室之高麗㆒、以彫㆓弊百姓之財力㆒者㆖也。

【彫蓬】72（テウホウ）❶まこもの實。彫胡。〔爾雅、釋草〕齧、彫蓬。〔通志、昆蟲草木略、草類〕菰曰㆑蓬、今人謂㆓之茭㆒云云、彫蓬者、米茭也、其米謂㆓之彫胡㆒、可㆑作㆑飯、故曰㆑齧。〔本草、菰米〕釋名、茭米、彫蓬、彫苽、彫胡。❷よもぎ。〔爾雅、釋草、齧、彫蓬、義疏〕蓬乃蒿類、與㆓茭苽㆒別、通志說弁無㆓依據㆒、今驗、彫蓬卽秋蓬、葉似㆓松杉㆒、秋枯根拔、風卷爲㆑飛、所謂孤蓬自振也。

【彫本】73（テウホン）板本（**6−14518**‥70）・刻本（**2−1970**‥101）・刊本（**2−1865**‥29）に同じ。各條を見よ。〔國朝漢學師承記、閻若璩〕爲㆓炎武㆒寫㆓廣韻及音學五書㆒、今世傳彫本是也。

【彫摩】74（テウマ）ほりみがくこと。〔吳志、虞翻傳〕美寶爲㆑質、彫摩益㆑光。

【彫面】75（テウメン）おもてをかざりちりばめる。〔周禮、春官、巾車〕安車、彫面鷖總。〔注〕彫者、畫㆑之。

【彫落】76（テウラク）❶しぼむ。おちぶれる。おとろへる。又、人の死をもいふ。凋落。〔詩、小雅、天保、如㆓松柏之茂㆒、疏〕如㆓松柏之葉㆒、新故相承代、常無㆓彫落㆒。〔魏志、夏侯玄傳〕民人彫落。〔范甯、穀梁傳序〕業未㆑及㆑終、嚴霜夏墜、從弟彫落、二子泯沒、天實喪㆑予、何痛如㆑之。❷衰へさせる。廢し退ける。〔漢書、敍傳下〕彫㆓落洪支㆒、底㆓剭鼎臣㆒。〔注〕服虔曰、彫㆓落洪支㆒、廢㆓退王氏㆒也。

【彫龍】77（テウリヨウ）彫刻して龍のもやうを成すこと。文書言語をかざること。雕龍。〔江淹、別賦〕賦有㆓凌雲之稱㆒、辯有㆓彫龍之聲㆒。〔注〕向曰、鄒奭子修㆓鄒衍之術㆒、文㆓飾之㆒、若㆔彫鏤而成㆓龍文㆒。

【彫勵】78（テウレイ）をさめはげむ。修飾する。琱麗。〔魏志、陳思王植傳〕植任㆑性而行、不㆓自彫勵㆒、飲酒不㆑節。

【彫麗】79（テウレイ）飾りがあつてうつくしい。〔後漢書、梁皇后紀〕恣極㆓奢靡㆒、宮幄彫麗。

【彫輦】80（テウレン）金玉などをちりばめた輦。雕輦（**11−42080**‥93）に同じ。

【彫鏤】81（テウロウ・テウル）ほりちりばめる。ほりつけたり象眼したりして飾る。雕鏤。琱鏤。〔後漢書、鄧皇后紀〕彫鏤翫弄之物、皆絕不㆑作。〔王延壽、魯靈光殿賦〕龍桷彫鏤。〔魏志、棧潛傳〕宮觀崇侈、彫鏤極㆑妙。〔孔子家語、問禮〕而後治㆓其彫鏤文章黼黻㆒。

【彫籠】82（テウロウ）彫飾を加へたかご。〔禰衡、鸚鵡賦〕閉以㆓彫籠㆒、翦㆓其翅羽㆒。

【彫割業】83（テウカツゲフ）彫刻師をいふ。〔稱謂錄、百工、彫割業〕高麗靜空大師碑末、有㆓彫割業僧臣暹律奉敕刻字㆒、彫割業殆以㆓鐫刻㆒爲㆑業也、見㆓馮登府石經閣文集㆒。

【彫鑾匠】84 tiao^{1} luan^{2} chiang^{4} 佛師。

【彫】9995′

テウ　彫（**4−9995**）に同じ。

【彬】9996

㈠ヒン　〔集韻〕悲巾切　眞　ㄅㄧㄣ pin^{1}

㈡ハン　〔集韻〕逋還切　刪

㈠❶**文と質とがならびそなはる**。內容・外貌共によいさま。份（**1−418**）の古字。〔說文〕份、文質備也、从㆑人分聲、論語曰、文質份份、彬、古文份、从㆓彡林㆒、林者从㆓焚省聲㆒。❷俗に斌（**5−13468**）に作る。〔正字通〕彬、俗作㆑斌。❸**姓**。〔萬姓統譜〕彬、見㆓姓苑㆒。㈡**あきらか**。〔集韻〕彬、文采明也。

名乘　モリ。ヨシ。アキ。

【彬彧】1（ヒンヰク）文采あるさま。〔漢祝睦後碑〕文豔彬彧。

【彬蔚】2（ヒンウツ）文采の盛なさま。〔晉書、文苑傳序〕當塗基命、文宗鬱起、彬蔚之美、競㆓爽當年㆒。〔陸機、文賦〕頌優游以彬蔚。〔注〕向曰、彬蔚、華盛貌。

【彬卿】3（ヒンケイ）明、吳崇禮（**2−3365**‥692）の字。

【彬臣】4（ヒンシン）淸、宋曹（**3−7078**‥102）の字。

【彬臺】5（ヒンダイ）明、謝道齡（**10−35827**‥320）の字。

【彬駮】6（ヒンバク）文采の相雜はるさま。〔楊烱、靑苔賦〕爾其爲㆑狀也、冪歷緜密、浸淫布濩、彬駮兮長廊、夤緣兮枯樹。

【彬彬】7（ヒンピン）文飾と質と兩つながら備はるさま。〔論語、雍也〕子曰、質勝㆑文則野、文勝㆑質則史、文質彬彬、然後君子。〔集解〕包咸曰、彬彬、文質相半之貌也。〔皇疏〕彬彬、文質相半也。〔集注〕彬彬、猶㆓班班㆒、物相雜而適均之貌。〔史記、太史公自序〕文學彬彬稍進。〔漢書、敍傳下〕孝哀彬彬、克攬㆓威神㆒。〔注〕師古曰、彬彬、文質備也。〔晉書、虞溥傳〕文質彬彬、然後爲㆑德。

【彬父】8（ヒンポ）明、梅之煥（**6−14830**‥256）の字。

【彬甫】9（ヒンポ）宋、虞允文（**9−32723**‥158）の字。

【彬予】10（ヒンヨ）明、秦士文（**8−24995**‥224）の字。

【彬老】11（ヒンラウ）宋、沈躬行（**6−17189**‥469）の字。

【彧】9997

ヰク　彧（**4−9983**）に同じ。〔玉篇〕彧、同㆑彧、於六切、詩曰、黍稷彧彧、彧彧、茂盛貌。

【𢒉】9998

バ　馬（**12−44572**）の籀文。〔說文〕馬、𢒉、籀文馬、與㆑𢒉同、有㆑髦。

【𢒕】9999

チウ
チユ　〔搜眞玉鏡〕丁幽切　尤

とる。〔搜眞玉鏡〕𢒕、採也。

九畫

【𢒾】10000

ヘン　變（**10−36117**）に同じ。〔字彙補〕𢒾、同㆑變。

【𢓀】10001

ラン　〔集韻〕郎旰切　翰

❶**あやのあるさま**。粲𢓀。〔廣韻〕𢓀、粲𢓀、文章皃。〔玉篇〕𢓀、鮮明也。〔集韻〕𢓀、博雅、粲𢓀、文也。❷或は爛（**5−13486**）・闌（**11−41433**）に作る。〔集韻〕𢓀、或作㆑爛、亦省。

【𢓁】10002

ヘン　變（**10−36117**）の古字。〔玉篇〕𢓁、古文變。

【彭】10003

㊀ハウ ビヤウ　〔集韻〕蒲庚切　ㄆㄥˊ p'êng²　庚
㊁ハウ　〔集韻〕晡横切　庚
㊂ハウ バウ　〔集韻〕蒲光切　陽

彭（小篆）㊀❶**つづみの音**。〔說文〕彭、鼓聲也、从レ壴从レ彡。〔說文通訓定聲〕彡、卽三也、擊レ鼓以二三通一爲レ率、左莊十傳、一鼓作レ氣、再而衰、三而竭。❷**ゆく**。〔廣韻〕彭、行也。❸**みち**。〔廣韻〕彭、道也。❹**さかん**。〔廣韻〕彭、盛也。❺**川の名**。〔集韻〕彭、一曰、水名、在二衞地一。❻**國の名**。今、四川省彭山縣の彭亡城の地。〔集韻〕彭、一曰、國名。〔書、牧誓〕庸・蜀・羌・髳・微・盧・彭・濮人。〔疏〕彭、在二東蜀之西北一。❼**地名**。今の河南省中牟縣の縣境。〔詩、鄭風、清人〕清人在レ彭。〔傳〕彭、衞之河上地、鄭之郊也。❽**たて**。彭排(96)を見よ。❾**彭祖の略稱**。又、いのちの長い意。〔沈炯、獨酌謠〕彭殤無レ異レ葬、夷跖可レ同レ朝。❿**むちうつ**。搒(8―26336)に通ず。〔後漢書、獨行、戴就傳〕每レ上二彭考一。〔注〕彭、卽搒也。〔後漢書、虞延傳、加レ搒二百、注〕搒、棰也、音彭。⓫**姓**。〔通志、氏族略、以レ國爲レ氏〕彭氏、卽大彭之國、在二商時一爲二侯伯一、古祝融氏之後有二陸終氏六子一、第三子彭祖建二國于彭一、子孫以レ國爲レ氏。㊁**衆車の音**。〔集韻〕彭、衆車聲。〔漢書、衞青傳〕出車彭彭。〔注〕師古曰、彭彭、衆車聲也。㊂❶**さかん**。おごるさま。〔集韻〕彭、壯也、一曰、彭亨、驕滿皃、王肅說。❷**かたはら**。〔正韻〕彭、旁也。〔易、大有〕匪二其彭一。〔釋文〕子夏作レ旁、姚云、彭・旁、徐音同。❸**ちかい**。〔韻會〕彭、近也。❹**ふくれる**。〔韓愈・孟郊、城南聯句〕苦開腹彭亨。❺**もののさま**。彭彭(99)の❶❷を見よ。

名乘　ミチ。モリ。チカ。

解字　會意。壴と彡との合字。壴はつづみ、鼓の省略。彡は三の意。三は古、鼓を擊つに三たび擊った故といふ。一說に、三は多いの意。壴を擊つ音をあらはすともいふ。〔說文、彭、段注〕从レ彡、猶レ从レ三也、指之列多略不レ過レ三、故毛飾畫文之字作レ彡、彭亦从レ彡也。〔說文通訓定聲〕彭、按从二鼓省一从レ彡、會意、彡卽三也、擊レ鼓以レ三通爲レ率、左莊十傳、一鼓作レ氣、再而衰、三而竭。

【彭椅】1 ハウイ　彭桂(28)を見よ。

【彭蝟】2 ハウヰ　蟹の一種。彭越(6)を見よ。

【彭衞】3 ハウヱイ　宋の人。思永の子、字は明微。性至孝。父を養ひ官を棄てて家居すること十餘年、族里に稱せらる。〔宋史、三百二十〕・〔宋史新編、一百二二〕。

【彭窰】4 ハウエウ　磁器の名。元の時、彭君寶が、宋の窯器の制に倣って造る。宋のものに比して色は滋潤を缺き、質も亦粗脆で上品でない。又、霍窰といふ。〔格古要論〕彭君寶、效二古定器制一、折二腰樣一者甚整齊、故名曰二彭窰一、土脉細白者、與二定器一相似、比二青口一欠二滋潤一、極脆。〔文房清玩〕定窰者乃北宋定州窰也、其色白、閒有レ紫有レ黑、然俱白骨、加二之泑水一、有レ如二泪痕一爲レ最、元時彭君寶燒二于霍州一者、名曰二霍窰一、又曰二彭窰一、往往爲二牙行指作定器一。

【彭耀】5 ハウエウ　明、順德の人。官は永明王の時、給事中。蘇觀生に殺さる。〔明史、二百七十八〕。

【彭越】6 ハウエツ　❶蟹の一種。彭醢化レ蟹(207)を見よ。〔嶺表錄異〕彭蝟、吳呼爲二彭越一、蓋語訛也、足上無レ毛、堪レ食。❷漢、昌邑の人。字は仲。初、項羽に事へ、後、漢に歸す。魏を收め、梁を定め、楚を滅して多く奇功を建て、梁王に封ぜられ、定陶に都した。韓信誅せらるるや、己も亦誅せられんことを懼れ、兵を徵して自ら護り、高祖の怒に觸れ、其の首を梟せられた。〔史記、九十〕・〔前漢書、三十四〕。

【彭偃】7 ハウエン　唐の人。朱泚の中書舍人。朱泚の事平定の後、誅に伏した。〔舊唐書、一百二十七〕。

【彭遠】8 ハウヱン　明、南昌の人。字は務本。永樂の擧人。正統中、廣東布政使となり、政績をあげた。〔明史、二百八十一〕・〔萬斯同明史、三百九十〕。

【彭家】9 ハウカ　地名。❶湖北省沔陽縣の東。❷四川省雙流縣の西。

【彭衙】10 ハウガ　地名。春秋、秦の邑。陝西省白水縣の東北の衙縣の故城。今、彭衙堡といふ。〔左氏、文、二〕甲子、及二秦師一戰二于彭衙一。

【彭伉】11 ハウカウ　晉、蘭陵の人。字は武陽。官は尙書左丞。許遜に事へ、其の長女を娶る。永和中、登仙した。尙友錄には彭抗に作る。〔清一統志〕。

【彭考】12 ハウカウ　笞で擊つ拷問。彭は搒、むちうつ。掠拷。〔後漢書、獨行、戴就傳〕每レ上二彭考一、因止二飯食一、不二肯下一、肉焦毀墮レ地者、掇而食レ之。〔注〕彭、卽搒也。

【彭亨】13 ハウカウ　❶自強のさま。自ら氣の壯健を以て任じてゐるさま。炰烋。憉悙。〔詩、大雅、蕩、女炰二烋于中國一、傳〕炰烋、猶二彭亨一也。〔箋〕炰烋、自矜氣健之貌。〔疏〕炰烋、是人之形狀、故言、自矜莊氣健之貌、與二傳彭亨一一也。❷ふくれる。膨脹。膨脝。〔韓愈・孟郊、城南聯句〕澀旋皮卷臠、苦開腹彭亨。❸國の名。又、彭坑に作る。暹羅の西。丁機宜の西南。天產に富む。明の洪武・永樂年閒には屢〻入貢した。〔明史、外國、彭亨傳〕彭亨在二暹羅之西一、云云、其國土田沃、氣候常溫、米粟饒足、煑レ海爲レ鹽、釀二椰漿一爲レ酒、上下親狎、無二寇賊一、然惑二於鬼神一、刻二香木一爲レ像、殺レ人祭レ賽、以禳レ災祈レ福、所レ貢有二象牙・片腦乳・香速・香檀・香胡椒・蘇木之屬一。

【彭更】14 ハウカウ　戰國の人。孟子の弟子。〔孟子、滕文公下〕・〔論衡、刺孟〕。

【彭綱】15 ハウカウ　明、清江の人。字は性仁。成化の進士。員外郎となる。妖僧繼曉を彈劾し、出でて汝州の長官となる。〔明史、一百八十〕・〔萬斯同明史、二百三十五〕・〔明史稿、一百六十三〕・〔明詩綜、二十五〕。

【彭鏗】16 ハウカウ　❶鼓・鐘などを打つ音。〔蘇軾、和二蔡景繁海州石室一詩〕徑尋二我語一覓二餘聲一、柱杖彭鏗叩二銅鼓一。❷太古の人。姓は籛。名は鏗。帝顓頊の孫。彭祖(83)の❶を見よ。〔楚辭、天問〕彭鏗斟レ雉帝何饗、壽命永多、夫何久長。〔注〕彭鏗、彭祖也、彭祖、姓籛名鏗、帝顓頊之玄孫、善養レ性、能調レ鼎、進二雉羹於堯一、堯封二於彭城一、歷レ夏經レ殷至レ周、年七百六十七歲而不レ衰。〔神仙傳〕彭祖、姓籛名鏗。

【彭樂】17 ハウガク　北齊、安定の人。字は興。武勇あり、高歡に從ひ、宇文泰と戰ふ。天保の初、爵は陳留王。官は太尉。反を謀り、誅せられた。〔北史、五十三〕。

【彭咸】18 ハウカン　殷の賢臣。君を諫めて聽かれず。水に投じて死んだ。〔楚辭、離騷〕雖レ不レ周二於今之人一兮、願依二彭咸之遺則一。〔注〕彭咸、殷賢大夫也、諫二其君一不レ聽、自投レ水而死。

【彭蜞】19 ハウキ　蟹の一種。蟹に似て小。毒が有って食べられない。螃蜞。〔晉書、蔡謨傳〕初渡レ江、見二彭蜞一、大喜曰、蟹有二一螯八足一、加以二二螯一、令レ烹レ之、既食、吐下委頓、方知レ非レ蟹、謝尙曰、卿讀二爾雅一不レ熟、幾爲二勸學一死。〔剪燈新話、太虛司法傳〕團欒如二巨蟹一焉、衆又笑辱レ之、呼爲二彭蜞怪一。

【彭誼】20 ハウギ　明、東莞の人。字は景宜。正統中、鄕より擧げられ、成化中、右副都御史を以て遼東を巡撫し、治績をあげた。〔明史、一百五十九〕・〔萬斯同明史、二百三十〕・〔明史稿、一百四十九〕。

【彭戲】21 ハウギ　複姓。〔史記、秦紀〕秦武公元年、伐二彭戲氏一至二于華山下一、居二平陽宮一。

【彭勖】22 ハウキョク　明、吉安永豐の人。字は祖期。永樂の進士。官は正統中、御史。後、山東副使に至る。著に書傳通釋がある。〔明史、一百六十一〕・〔萬斯同明史、二百九〕・〔明史稿、一百五十一〕。

【彭欽】23 ハウキン　宋の人。龜年の子。字は仲恭。嘉定中、軍器監主簿となる。〔宋史、三百九十三〕。

【彭華】24 ハウクワ　明の人。時の族弟。字は彥實。謚は文思。景泰中、會試第一。官は禮部侍郞。後、內閣に入る。著に彭文思集がある。〔明史、一百六十八〕・〔萬斯同明史、二百二十五〕・〔明史稿、一百五十三〕・〔明詩綜、二十一〕。

【彭閎】25 ハウクワウ　後漢の人。少時、歐陽尙書を習ふ。桓榮と同門。官は光武の時、議郞。〔後漢書、六

十七〕。

【彭觥】26 ハウクワウ 金石の音。〔韓愈、記レ夢詩〕側レ身上視溪谷盲、杖撞二玉版一聲彭觥。

【彭螖】27 ハウクワツ 蟹の一種。〔爾雅、釋魚、螖蠌小者蟧、注〕螺屬見二埤蒼一、或曰、卽彭螖也、似レ蟹而小。〔太平御覽、鱗介、彭螖〕搜神記曰、晉太康四年、會稽彭螖化爲レ鼠、食レ稻爲レ災。〔太平御覽、鱗介、彭螖〕崔豹古今注曰、彭螖、小蟹也、一曰長卿。〔事物異名錄、水族、蟹〕蟹論、呂亢守二台州一、命レ工作二蟹圖一、凡十二種、一蝤蛑、二撥棹、三擁劍、四彭螖、五竭朴、六沙狗、七望潮、八倚望、九石蜐、十虾江、十一蘆虎、十二彭蜞。

【彭桂】28 ハウケイ 清、溧陽の人。本名は椅。字は上馨・爰琴。號は泊菴。諸生。康熙中、鴻博に薦められ、母の疾を以て辭す。著に泊菴詩詞がある。〔國朝詩人徵略初編、十四〕。

【彭教】29 ハウケウ 明、吉水の人。字は敷五。號は瀧江。天順の進士。官は翰林院修撰・侍講。著に瀧江集・東瀧遺稿がある。〔國朝獻徵錄、二十〕。

【彭曉】30 ハウゲウ 後蜀、永康の人。字は秀川。號は貞一子（眞一子）。官は孟昶の祠部員外郎。著に參同契分章通義がある。〔四庫提要、一百四十六〕。

【彭涓】31 ハウケン 彭祖と涓子。古の長壽の人。〔郭璞、客傲〕不レ壽二殤子一、不レ夭二彭涓一。〔陶弘景、尋山誌〕仰二彭涓一兮弗レ遠、必長年兮可レ期。

【彭縣】32 ハウケン 縣名。明、置く。漢の繁縣の地。今の四川省成都縣の西北。太平河の東北岸。縣北山に銅鑛がある。〔讀史方輿紀要、四川、成都府〕彭縣、周爲二彭國一、秦爲二蜀郡繁縣地一、漢晉因レ之、云云、唐垂拱二年、改置二彭州一、云云、宋仍曰二彭州一、元因レ之、明初改レ州爲レ縣。〔清史稿、地理志〕四川、成都府、縣十三、彭。

〔彭縣銅鑛〕33 ハウケンドウクワウ 鑛山の名。四川省彭縣の北。鑛區は、東は飛水嶺、南は牛圈溝、北は涼風洞、西南は蒿枝坪に至る。全面積九平方里強。現在の銅の產額は每年約二十萬斤。

【彭謙】34 ハウケン 明、湘陰の人。永樂の進士。官は四川按察副使・四川左參議。〔明詩綜、四十三〕。

【彭原】35 ハウゲン ❶郡名。唐、置く。甘肅省寧縣。安祿山の亂後、肅宗は恢復を圖り、靈武から彭原に幸した。〔讀史方輿紀要、陝西、慶陽府〕寧州、古公劉邑、春秋爲二義渠戎國一、秦屬二北地郡一、漢爲二北地郡及上郡一、云云、唐復曰二寧州一、天寶初曰二彭原郡一、乾原初復レ故。❷縣名。隋、置く。故城は甘肅省慶陽郡の南。〔讀史方輿紀要、陝西、平涼府、鎭原縣〕彭陽城、漢置レ縣屬二安定郡一、云云、後魏破二赫連一定二於此一、復置二彭陽縣一、又置二西北地郡治一焉、隋開皇初、郡廢、十八年改レ縣曰二彭原一。

【彭鉉】36 ハウゲン 宋の人。欽の弟。字は仲誠。官は贛州知・直寶謨閣。著に臨川可否錄・備寇議事錄がある。〔宋元學案、七十二〕。

【彭儼】37 ハウゲン 明、江西の人。字は若思。著に五侯鯖がある。〔四庫提要、一百三十八〕。

【彭湖】38 ハウコ 湖の名。鄱陽湖をいふ。鄱陽湖(11−39658・・5)を見よ。

〔彭湖嶼〕38′ ハウコショ 澎湖羣島(7−18332・・8)に同じ。〔讀史方輿紀要、福建、晉江縣〕彭湖嶼在二府東南海中一、山形平衍、東西約十五里、南北約二十里、周圍小嶼頗多。

【彭吳】39 ハウゴ 複姓。〔史記、平準書〕彭吳賈滅二朝鮮一、置二滄海之郡一、則燕齊之閒、靡然發動。

【彭公】40 ハウコウ ❶湖の名。西藝阿里の西北境。克什米爾の界に跨る。横は三百里に達するも、縱は二十里に過ぎず。土人は哥木克那喇令湖といふ。又、潘光湖に作る。❷清の彭鵬をいふ。彭公案を見よ。

〔彭公案〕41 ハウコウアン 小說の名。二十四卷、一百回。清の光緒十七年、貪夢道人撰。康熙の河南巡撫彭鵬の事蹟を述べたもの。

【彭弘】42 ハウコウ 漢、宛の人。官は哀帝の時、漁陽太守。王莽に從はなかつたので何武・鮑宣等と共に害せられた。〔後漢書、四十二〕。

【彭侯】43 ハウコウ 樹木の精。人面狗身の狀をしてゐるといふ。彭侯。〔搜神記、十八〕吳先主時、陸敬叔爲二建安太守一、使三人伐二大樟樹一、下二數斧一、忽有レ血出、樹斷、有レ物人面狗身、從二樹中一出、敬叔曰、此名二彭侯一、乃烹食レ之、其味如レ狗、白澤圖曰、木之精名二彭侯一、狀如二黑狗一、無レ尾、可二烹食一レ之。

【彭興】44 ハウコウ 彭樂(17)を見よ。

【彭根】45 ハウコン 草の名。たがらし。石龍芮の異名。〔本草、石龍芮〕釋名、地椹、天豆、石能、魯果能、水菫、苦菫、菫葵、胡椒菜、彭根。

【彭齋】46 ハウサイ 岡崎信好の號。岡崎廬門(4−7962・・44)を見よ。

【彭山】47 ハウザン ❶山名。河南省魯山縣の東南。〔水經、滍水注〕水出二魯陽縣南彭山蟻塢東麓一、北流逕二彭山西一、下有二彭山廟一、廟前有二彭山碑一、漢桓帝元嘉三年、杜仲長立。❷縣名。唐、置く。漢の武陽縣の地。今の四川省眉山縣の北。縣城は岷江に瀕す。〔讀史方輿紀要、四川、眉州〕彭山縣、秦置二武陽縣一、屬二蜀郡一、漢屬二犍爲郡一、云云、西魏改レ縣曰二隆山一、云云、唐先天初、改曰二彭山縣一、宋元因レ之、明洪武九年省、十三年復置。〔清史稿、地理志〕四川、眉州、直隸州、縣三、彭山。

【彭子】48 ハウシ 晉、穆帝(8−25251・・49)の字。

【彭尸】49 ハウシ 道家の說で、人の體內に在つて、害をなす虫。三尸(1−12・・630)を見よ。〔范成大、不レ寐詩〕彭尸不レ得レ去、罡騎無二行色一。

【彭止】50 ハウシ 宋、崇安の人。字は應期。號は漫者。詩は清麗典雅。著に刻鵠集がある。〔尚友錄、十一〕。

【彭俟】51 ハウシ 木の精。彭侯(43)に同じ。〔太平御覽、妖異、精〕白澤圖曰、木之精名二彭侯一、狀如二黑狗一、無レ尾、可二烹而食一レ之。

【彭絲】52 ハウシ 元、安福の人。父の應龍、弟の齊叔と共に專ら著述に從事し、算經圖釋・黃鍾律說・禮記集說・易庵・春秋辨疑の著がある。〔新元史、二百三十六〕。

【彭二】53 ハウジ 明の人。謚は武壯。官は建文の時、都指揮。燕城を攻めんとし、燕の健士に殺された。〔明史、一百四十二〕・〔萬斯同明史、一百八十四〕・〔明史稿、一百三十三〕。

【彭時】54 ハウジ 明、安福の人。字は純道。號は可齋。謚は文憲。正統の進士。官は憲宗の時、吏部尚書・文淵閣大學士。後、少保に進む。著に可齋雜記・彭文憲集がある。〔明史、一百七十六〕・〔萬斯同明史、二百二十四〕・〔明史稿、一百五十九〕。

【彭州】55 ハウシウ 州名。唐、置く。明、彭縣と改む。今の四川省彭縣の治。彭縣(32)を見よ。

【彭脩】56 ハウシウ 後漢、毗陵の人。字は子陽。孝義を以て聞ゆ。官は郡功曹。〔後漢書、一百十一〕。

【彭殤】57 ハウシヤウ 長命と短命。彭は彭祖、古の長壽者、殤は殤子、卽ちわかじに。〔沈炯、獨酌謠〕彭殤無レ異レ葬、夷跖可レ同レ朝。

〔齊二彭殤一〕58 ハウシヤウヲヒトシクス 長命と短命とを同一に視なす。世俗の差別觀を打破しようとする莊子の考。〔莊子、齊物論〕天下莫レ大二於秋豪之末一、而大山爲レ小、莫レ壽二乎殤子一、而彭祖爲レ夭。〔王羲之、三月三日蘭亭詩序〕固知下一二死生一爲二虛誕一、齊二彭殤一爲中妄作上。

【彭城】59 ハウジヤウ ❶地名。春秋、宋の邑。江蘇省銅山縣。〔春秋、成、十八〕楚子、云云、宋魚石復入二于彭城一。〔杜注〕彭城、宋邑、今彭城縣。❷洲の名。湖南省岳陽縣の東北。〔宋書、謝晦傳〕晦至二江口一、到彥之已至二彭城洲一。❸磯の名。湖南省臨湘縣、西江の中。〔水經、江水注〕江水又東逕二彭城口一、水東有二彭城磯一。❹郡名。漢、置く。今の江蘇省銅山縣治。〔讀史方輿紀要、江南〕徐州、禹貢徐州之域、古大彭氏國也、春秋戰國屬レ宋、後屬レ楚、秦屬二泗水郡一、項羽自立爲二西楚霸王一、都レ此、漢爲二楚國一、地節元年、改爲二彭城郡一、尋復レ故、後漢亦爲二楚國一、章帝改爲二彭城國一、晉因レ之、仍立二徐州一、以爲二重鎭一、宋亦爲二徐州及彭城二郡一、泰始中沒二於後魏一、亦置二徐州及彭城郡一。❺縣名。㋑秦・漢、置く。古、彭祖の封ぜられた地、之を大彭といふ。春秋には宋の邑。楚の懷王と項羽と俱に此處に都す。今の江蘇省銅山縣の治。〔讀史方輿紀要、江南、徐州〕彭城廢縣、世本、堯封二彭祖於彭城一、號二大彭氏一、國二於此一、國語大彭爲二商伯一、是也、春秋爲二宋地一、成十八年楚伐レ宋拔レ之、以納二魚石一、襄元年、諸侯之師救二宋國彭城一、彭城降レ晉、史記楚共王拔二宋彭城一、以封二宋左氏魚石一、四年諸侯共誅二魚石一、而歸二彭城於宋一、又韓世家、文侯二年、伐レ宋至二彭城一、執二宋君一、秦置二彭城縣一、屬二泗水郡一、始皇二十八年、自二琅邪一還、過二彭城一、欲レ出二周鼎泗水一、二世二年、秦嘉立二景駒一爲二楚王一、軍二彭城東一、既而楚懷王都レ此、史記、沛公項羽聞二項梁軍破一、乃與二呂臣軍一俱引而東、呂臣軍二彭城東一、項羽軍二彭城西一、沛公軍レ碭、是也、及三項羽自立爲二西楚霸王一、亦都レ此、漢三年、漢王入二彭城一、項王西從二蕭一晨擊レ漢、東至二

彭城、大破㆓漢軍㆒、漢六年爲㆓楚國治㆒、後漢爲㆓彭城國治㆒。㋺南齊、置く。今缺く。江蘇省舊鎭江府の境。㋩後魏、置く。今缺く。河南省の境。❻鎭の名。河北省磁縣の西。磁器を產す。輕便鐵道ありて馬頭鎭に通ず。❼（サカキ）姓氏。〔和訓栞〕。

【彭城集】60（ハウジヤウシフ） 書名。四十卷。宋、劉攽撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【彭城居士】61（ハウジヤウコジ） 宋、陳師道(**11**－**41698**‥923)の號。

【彭城靖王】62（ハウジヤウセイワウ） 後漢、劉恭(**2**－**2224**‥180)の封諡號。

【彭城老父】63（ハウジヤウラウフ） 漢の人。龔勝が年七十九で食はずして死んだ時、來て弔ひ、「薰は香を以て自ら燒き、膏は明を以て自ら銷す、龔生竟に天年を夭す、吾が徒に非ざるなり」といつて去つた。〔高士傳、中〕。

【彭城景思王】64（ハウジヤウケイシワウ） 北齊、高浟(**12**－**45313**‥18)の封諡號。

【彭聚】65（ハウシユウ） 明の人。官は北平都指揮。宋忠と懷來を守り、力戰して死んだ。〔明史、一百四十二〕。

【彭淑】66（ハウシユク） 清、長陽の人。字は秋潭。乾隆の擧人。官は吉水縣知。學問を好み、文章を能くす。著に蟾芝集がある。〔國朝詩人徵略、初編、四十三〕。

【彭春】67（ハウシユン） 清、朋春(**5**－**14340**‥27)の一名。

【彭乘】68（ハウジヨウ） ❶宋、華陽の人。字は利建。性、純孝。官は仁宗の朝の翰林學士。〔宋史、二百九十八〕・〔宋史新編、九十二〕・〔東都事略、六十〕・〔隆平集、十四〕。❷宋、高安の人。神宗の時に生る。著に墨客揮犀がある。〔四庫提要、一百四十一〕。

【彭宷】69（ハウシン） 元、廣陵の人。字は仲愈。五經に通じ、著に仲愈集がある。

【彭眞】70（ハウシン） 明の人。字は用實。官は戶部郎中。江浙巡撫。〔尚友錄、十一〕。

【彭進】71（ハウシン） 清の人。啓豐の族弟。字は晉蕃。號は淩凡・愚谷子。貢生。畫に巧。〔墨香居畫識、六〕。

【彭愼】72（ハウシン） 明、崑山の人。字は季常。官は御史。後、福建左參政。

【彭簪】73（ハウシン） 明、安城の人。號は石屋山人。衡山縣の長官となる。著に衡嶽志がある。〔萬斯同明史、三百一〕・〔國朝獻徵錄、八十九〕。

【彭任】74（ハウジン） 清、寧都の人。字は中叔・遜仕。明の諸生。鼎革の後、巘山に居り、居所を一草亭といふ。後、翠微峯に居る。易堂九子の一。著に禮法類編・草亭文集がある。〔清史列傳、六十六〕・〔國朝耆獻類徵、四百〕・〔國朝先正事略、三十七〕。

【彭尋】75（ハウジン） 宋、都昌の人。字は師繹。鄉里に推重せられ、東園先生といはれた。〔尚友錄、十一〕。

【彭水】76（ハウスイ） ❶川の名。㋑河南省魯山縣の東南。東北に流れて滍水に注ぐ。〔水經、滍水注〕彭水注㆑之、俗謂㆓之小滍水㆒。㋺湖北の筑水。今、南河といふ。〔左氏、桓、十二〕楚師分涉㆓于彭㆒。〔注〕彭水在㆓新城昌魏縣㆒。❷縣名。隋、置く。四川省黔江縣の西南。烏江の支流の郁江の南岸。〔讀史方輿紀要、四川、重慶府、涪州〕彭水縣、漢涪陵縣地、屬㆓巴郡㆒、晉屬㆓涪陵郡㆒、永嘉以後、沒㆓於蠻獠㆒、後周武帝保定四年、得㆓其地㆒置㆓羈縻奉州㆒、尋改㆓黔州㆒、隋開皇十三年、置㆓彭水縣㆒、爲㆓黔州治㆒。〔清史稿、地理志〕四川、酉陽直隸州、縣三、彭水。

【彭清】77（ハウセイ） 明、楡林の人。字は源潔。官は總兵官。西陲を鎭撫して威名をあぐ。〔明史、一百七十四〕・〔萬斯同明史、二百三十二〕・〔明史稿、一百五十八〕。

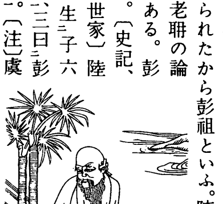
【彭韶】78（ハウセウ） 明、莆田の人。字は鳳儀。諡は惠安。天順の進士。官は孝宗の時、刑部尙書。著に政書・彭惠安集がある。〔明史、一百八十三〕・〔萬斯同明史、二百三十九〕・〔明史稿、一百六十六〕・〔明史綜、二十二〕。

【彭績】79（ハウセキ） 清、長洲の人。字は其凝・秋士。詩に巧。家貧しく家を賣つて親を葬り、先世の遺書二簏を携へて移り住み、常居なく、著に秋士遺集がある。〔清史稿、四百九十一〕・〔國朝耆獻類徵、四百三十八〕。

【彭薛】80（ハウセツ） 漢の彭宣と薛廣德。彭宣は哀帝の時、大司空となり、薛廣德は御史大夫となる。王莽、政を秉るに及んで共に骸骨を乞ふ。彭宣・薛廣德(**9**－**32123**‥164)を見よ。〔謝靈運、初去㆑郡詩〕彭薛裁知㆑恥、貢公未㆑遺㆑榮。

【彭宣】81（ハウセン） 漢、陽夏の人。字は子佩。諡は頃。張禹に師事して易を治む。禹は易を施讎に受けたから、易學では後、施家に張・彭の學が起つた。哀帝の時、官は大司空に至り、封は長平侯。王莽政を專にするに及んで致仕す。〔前漢書、七十一〕。

【彭蟾】82（ハウセン） 唐、宜春の人。字は東瞻。好學にして仕へず、處士を以て稱せられ、唐韻を重修した。著に鳳池本草・廟堂龜鑑がある。〔尙友錄、十一〕。


彭祖❶（三才圖會）

【彭祖】83（ハウソ） ❶古の長壽者。姓は籛。名は鏗。陸終氏の第三子、帝顓頊の孫。堯の時、擧げられ、夏を歷て、殷末に至り、八百餘歲なりといふ。常に桂芝を食ひ、導引の術を善くす。彭城に封ぜられたから彭祖といふ。陔餘叢考卷四に彭祖卽老聃の論がある。彭鏗。〔史記、楚世家〕陸終生㆓子六人㆒、三曰㆓彭祖㆒。〔注〕虞翻曰、名翦、爲㆓彭姓㆒、封㆓於大彭㆒。〔莊子、逍遙遊〕彭祖乃今以㆑久特聞。〔荀子、脩身〕扁善之度、以治㆑氣養㆑生、則後㆓彭祖㆒。〔注〕彭祖堯臣、經㆓虞夏㆒至㆑商、壽七百歲也。〔淮南子、說林訓〕莫㆑壽㆓於殤子㆒、而彭祖爲㆑夭矣。〔列仙傳、上〕彭祖者、殷大夫也、姓籛、名鏗、帝顓頊之孫、陸終氏之中子、歷㆓夏至㆓殷末㆒、八百餘歲、常食㆓桂芝㆒、善㆓導引行氣㆒、歷陽有㆓彭祖仙室㆒、云云、後昇仙而去。〔神仙傳、一〕。❷複姓。〔氏族譜〕大彭支孫、以㆑號爲㆑氏。❸字號。㋑三國吳、孫皓(**3**－**6987**‥37)の名。㋺晉、孔嚴(**3**－**6933**‥68)の字。㋩晉、羊聃(**9**－**28425**‥125)の字。㋥晉、王浚(**7**－**20823**‥571)の字。

【彭祖之壽】84（ハウソノジユ） 長壽の喩。彭祖が八百餘歲もの長壽であつたからいふ。彭祖を見よ。

【彭宗】84′（ハウソウ） 南朝宋、彭城の人。年二十、杜沖に學び、遂に仙術を得、後、太淸眞人と稱した。

【彭孫】85（ハウソン） 宋、連城の人。字は仲謀。嶺南・交趾等の賊を討つて功あり。官は萊州防禦使。靈州を復せんことを建言し、劄十五通を上る。〔宋史、四百八十六〕。

【彭瑠】86（ハウタウ） 後晉、崇安の人。字は武中。經史に通じ、釋典を喜む。官は殿中監。〔尙友錄、十一〕。

【彭澤】87（ハウタク） ❶晉の陶淵明をいふ。嘗て彭澤の令となつたからいふ。〔晉書、陶潛傳〕爲㆓鎭軍建威參軍㆒、謂㆓親朋㆒曰、聊欲㆔絃歌以爲㆓三逕之資㆒、可乎、執㆑事者聞㆑之、以爲㆓彭澤令㆒。〔杜甫、石櫃閣詩〕優游謝康樂、放浪陶彭澤。〔高啓、病㆑目不㆑飮詩〕暫從㆓彭澤止㆒、恐㆑學㆓左邱盲㆒。❷湖名。彭蠡(124)の❶に同じ。〔韓詩外傳、三〕左㆓洞庭之波㆒、右㆓彭澤之水㆒。❸縣名。漢、置く。江西省湖口縣の東。縣城は長江の東南岸に位し、縣の北の小孤山と九江縣の北の澎浪磯と互に長江の險を扼す。淸の彭玉麟が、洪楊の軍を此處で破つた。〔讀史方輿紀要、江西、九江府〕彭澤縣、漢豫章郡彭澤縣地、晉永嘉以後屬㆓潯陽郡㆒。〔淸史稿、地理志〕江西、九江府、縣五、彭澤。❹明、蘭州の人。字は濟物。諡は襄毅。弘治の進士。左都御史・兵部尙書となり、兵政を一新した。〔明史、一百九十八〕・〔萬斯同明史、二百六十七〕・〔明史稿、一百七十九〕・〔明詩綜、二十二〕。

【彭澤縣侯】88（ハウタクケンコウ） 晉、王舒(**7**－**20823**‥600)の封號。

【彭聃】89（ハウタン） 古の長壽者、彭祖と老聃。〔嵆紹、贈㆓石季論㆒詩〕遠希㆓彭聃壽㆒。〔孫楚、征西官屬送㆓於陟陽侯㆒作詩〕莫㆑大㆓於殤子㆒、彭聃猶爲㆑夭。

【彭仲】90（ハウチユウ） 彭越(6)の❷を見よ。

【彭寵】91（ハウチヨウ） 後漢の人。弘の子。字は伯通。官は更始の時、漁陽太守。後、光武に歸し、健忠侯に封ぜられ、大將軍の號を賜ふ。後、反を謀り、宗族夷滅せられた。〔後漢書、四十二〕。

【彭通】92（ハウツウ） ❶明、南海の人。字は萬里。官は山西布政使參政。詩に巧。〔萬斯同明史、一百八十二〕・〔國朝獻徵錄、九十七〕・〔明名人傳、十八〕・〔本朝分省人物攷、一百十〕・〔明書、一百十七〕。❷淸、蠡縣の人。書・畫に巧。順治中、上谷の張秉曜と北邛社を結ぶ。〔碑傳集、一百三十八〕・〔顏李師承記、二〕。

【彭程】93（ハウテイ） 明、鄱陽の人。字は萬里。成化の進

士。官は御史。後、諫に因つて錦衣獄に下された。〔明史、一百八十〕・〔萬斯同明史、二百四十六〕・〔明史稿、一百六十九〕。

【彭頭】94 ハウトウ 山名。浙江省壽昌縣の西の西湖の東岸。宋の胡楚材、此處に讀書す。〔讀史方輿紀要、浙江、嚴州府、壽昌縣〕彭頭山、縣治西一里、唐景福中、縣令戴筠開二湖於山下一、謂二之西湖一。

【彭年】95 ハウネン ❶明、長洲の人。字は孔嘉。號は隆池山樵。書室を雲光閣・寒綠堂といふ。著に隆池山樵集がある。〔明史、二百八十七〕・〔萬斯同明史、三百九十六〕・〔明史稿、二百六十八〕・〔明詩綜、五十〕。❷長壽をいふ。彭祖が長壽であつたからいふ。❸宋、于龕(1－252・・73)の字。

【彭排】96 ハウハイ たて。干盾。旁牌。〔釋名、釋兵〕彭排、彭、旁也、在レ旁排レ敵禦レ攻也。〔南史、朱超石傳〕設二彭排于轅上一。〔太平御覽、兵、狖槍〕謝靈運自理表曰、星言奔馳、歸二骨陛下一、及レ經二山陰一、方衞二彰赫一、彭排馬槍、斷二截衢巷一。

【彭湃】97 ハウハイ 波濤の相觸れて戻るさま。又、水のあふれるさま。澎湃。〔漢書、司馬相如傳上〕沸乎暴怒、洶涌彭湃。〔注〕師古曰、彭湃、相戾也。〔王先謙補注〕謂二水之旁溢一。

【彭方】98 ハウハウ 宋の人。尋の子。字は季正。諡は文定。朱熹に師事す。官は兵部右侍郎・龍圖閣學士。〔萬姓統譜〕。

【彭彭】99 ハウハウ ❶さかんなさま。又、多いさま。〔廣雅、釋訓〕彭彭、盛也。〔疏證〕說文、騯、馬盛也、引二詩四牡騯騯一、今詩小雅北山篇及大雅烝民・韓奕二篇、並作二四牡彭彭一、鄭風清人篇、駟介旁旁、王肅注云、旁旁、彊也、騯・旁・彭、並同義。〔詩、齊風、載驅〕行人彭彭。〔傳〕彭彭、多貌。〔南史、徐嗣伯傳〕見二背上一、彭彭有レ氣。❷盛に行くさま。〔詩、大雅、烝民〕四牡彭彭。〔箋〕彭彭、行貌。〔詩、小雅、北山〕四牡彭彭。〔傳〕彭彭然不レ得レ息。〔詩、小雅、出車〕出車彭彭。〔傳〕彭彭、四馬貌。❸力があり、禮容のあるさま。〔詩、魯頌、駉〕以レ車彭彭。〔傳〕彭彭、有レ力有レ容也。❹衆車のおと。〔漢書、衞青傳〕出車彭彭。〔注〕師古曰、彭彭、衆車聲也。

【彭彭魄魄】100 ハウハウハクハク 擊ち合ふ聲。〔通俗編、聲音、彭彭魄魄〕張舜民詩、打レ麥打レ麥彭彭魄魄、聲在二山南一應二山北一。

【彭寶】101 ハウホウ 明、桐城の人。字は惟善。諸生。父母に事へて至孝。〔國朝獻徵錄、一百十二〕・〔本朝分省人物攷、三十五〕。

【彭亡】102 ハウバウ 山名。四川省彭山縣の東。又、彭望・彭模・平模・平無・平望ともいふ。〔後漢書、岑彭傳〕及三彭至二武陽一、繞出二延岑軍後一、云云、彭所レ營地名二彭亡一、聞而惡レ之、欲レ徙、會二日暮一、蜀刺客詐爲二亡奴一降、夜刺二殺彭一。〔華陽國志〕述既殺レ彭、改二彭亡一曰二平無一、言レ無レ賊也。

【彭坊】103 ハウバウ 清、衡山の人。字は禮崇・儀岳。乾隆の擧人。官は浦江縣知。著に瓦卮集がある。〔國朝耆獻類徵、二百三十四〕。

【彭伯】104 ハウハク 明、王三善(7－20823・・1496)の字。

【彭魄】105 ハウハク ❶地形のひろがつてゐるさま。〔太玄經、中、昆侖旁薄幽、注〕旁薄、猶二彭魄一也、地之形也、幽、隱也。❷音響の擊ち合ふ聲。〔方岳、扣角詩〕東家打麥聲彭魄、西家繅絲雪能白。

【彭濞】106 ハウビ あつまり積るさま。澎濞。〔淮南子、俶眞訓〕譬若下周雲之龍蓯遼巢彭濞而爲レ雨、沈二溺萬物一、而不中與爲上濕也。〔注〕遼巢彭濞、蘊積貌也。

【彭賓】107 ハウヒン 清、江蘇華亭の人。字は燕又・穆如。號は大寂子。明の崇禎の擧人。官は清の汝寧府推官。夏允彝・陳子龍と交る。著に捜遺稿がある。〔四庫提要、一百八十一〕。

【彭孚】108 ハウフ 清、衡山の人。字は迥麓。貢生。著に白雲編がある。〔國朝耆獻類徵、四百三十七〕。

【彭富】109 ハウフ 明、鶴慶の人。字は仲禮。嘉靖の進士。官は四川布政。後、貴州巡撫。〔雲南通志〕。

【彭炳】110 ハウヘイ 元、崇安の人。字は元亮。經學に心を留め、詩に巧。至正中、端本堂說書に徵されたが就かず。著に元亮集がある。〔元詩紀事、二十二〕。

【彭鵬】111 ハウホウ 清、莆田の人。字は奮斯。號は無山・古愚。順治の擧人。官は給事中・廣東巡撫。著に古愚心言がある。〔清史稿、二百八十三〕・〔清史列傳、十〕・〔國朝耆獻類徵、一百五十七〕・〔碑傳集、六十七〕・〔國朝先正事略、七〕。

【彭勃】112 ハウボツ 草の名。しろよもぎ。白蒿をいふ。〔太平御覽、百卉、青蒿〕神仙服食經曰、十一月、採二彭勃一、彭勃、白蒿也。

【彭蒙】113 ハウモウ 戰國、齊の隱士。田駢の師。愼到等と稷下に游ぶ。〔莊子、天下〕彭蒙・田駢・愼到、聞二其風一而悅レ之。〔疏〕並齊之隱士、俱游二稷下一、各著書數篇。〔集釋〕兪樾云、據二下文一彭蒙當二是田駢之師一。

【彭門】114 ハウモン 山名。四川省彭縣の西北。兩峰對峙すること闕のやうであるから、天彭門とも又、天彭闕ともいふ。〔後漢書、郡國志五、蜀郡湔氏道、注〕前有二兩石一、對如レ闕、號曰二彭門一。〔讀史方輿紀要、四川、成都賦、彭縣〕彭門山、縣北三十里、兩峰對立、其高若レ闕、名二天彭門一、亦曰二天彭闕一、水經注、江水自二羊膊嶺東南一下百餘里、至二白馬嶺西一、歷二天彭闕一、亦謂二之天谷一。

【彭羕】115 ハウヤウ 三國蜀、廣漢の人。字は永年。先主の時、治中從事となり、後、江陽太守となる。怨言を出して誅せられた。〔三國志、四十〕。

【彭陽】116 ハウヤウ 縣名。❶漢、置く。故城は甘肅省鎭原縣の東。後漢の段熲、叛羌を討ち、彭陽から直ちに高平に至る。〔讀史方輿紀要、陝西、平涼府、鎭原縣〕彭陽城、縣東八十三里、括地志、城西去二臨涇一二十里、漢置レ縣、屬二安定郡一、文帝十二年、匈奴入犯至二彭陽一、後漢靈帝初、段熲討二叛羌一、自二彭陽一直指二高平一、是也。❷宋、置く。唐の豐城縣。故城は甘肅省鎭原縣の東南。

【彭兪】117 ハウユ 宋、宜春の人。字は濟川。易に精通し、連山子と號す。紹聖の進士。官は朝散郎。著に君子傳・循吏龜鑑・貫通篇・時議・文集等がある。〔尙友錄、十二〕。

【彭鏞】118 ハウヨウ 元、清江の人。字は聲之。春秋に通じ、詩に巧。晩號は清江酒民。又、匏菴道人。著に蕙櫋稿がある。

【彭翊】119 ハウヨク 清の人。啓豐の曾孫。字は仲山。號は無近名齋。畫・隸書に巧。

【彭浪】120 ハウラウ 彭郞に同じ。

【彭郞】121 ハウラウ ❶水神の名。〔入蜀記、八月一日〕紹興初、張魏公自二湖湘一還、嘗加二營葺一、有レ碑載二其事一、又有二別祠一、在二澎浪磯一、屬二江州彭澤縣一、三面臨レ江倒二影水中一、亦占二一山之勝一、舟過レ磯、雖レ無レ風亦浪湧、蓋以レ此得レ名也、昔人詩有下舟中估客莫二漫狂一、小姑前年嫁二彭郞一之句上、傳者因謂、小孤廟有二彭郞像一、澎浪廟有二小姑像一、實不レ然也。〔蘇軾、李思訓畫長江絕島圖詩〕舟中賈客莫二漫狂一、小孤前年嫁二彭郞一。〔孫覿、讀二類說一詩〕亡是談二烏有一、彭郞得二小姑一。❷磯の名。江西省彭澤縣。〔歸田錄〕江西有二大小孤山一、在二江水中一、世俗轉レ孤爲レ姑、江側有二石磯一、謂二之彭浪磯一、遂轉爲二彭郞磯一、云二彭郞一者、小姑壻也。

【彭琉】122 ハウリウ 明、安福の人。字は毓敬。永樂の進士。官は政和縣知。楊士奇に薦められて編修に擢んでられ、湖廣副使に終る。〔萬斯同明史、二百三十六〕・〔國朝獻徵錄、八十八〕。

【彭倫】123 ハウリン 明の人。成化中、邊防に功あり。官は都督僉事・貴州總兵。〔明史、一百六十六〕・〔萬斯同明史、二百三十二〕・〔明史稿、一百五十八〕。

【彭蠡】124 ハウレイ ❶湖の名。今の江西の鄱陽湖。〔書、禹貢〕彭蠡既豬。〔蔡傳〕彭蠡、所謂潘陽湖者是也。〔漢書、地理志上〕彭蠡澤、在レ南。〔荊州記〕宮亭湖、卽彭蠡澤也、亦謂二之彭澤湖一、一名二滙澤一、青草湖、一名二洞庭湖一、凡此竝昭昭尤著、又廣大也。❷鎭の名。江西省都昌縣。〔太平寰宇記〕西臨二彭蠡湖一、北連二釣磯山一、舊是戍、唐武德五年置レ鎭、景龍元年復爲レ戍、以爲二衝要一。❸宋の人。尋の弟。字は師範。朱熹が南康の守であつた時、從學す。積學を以て名あり、梅坡先生と號した。〔尙友錄、十二〕。

【彭蠡釣徒】125 ハウレイテウト 元、熊朋來(7－19294・・172)の號。

【彭連】126 ハウレン 彭汝器(165)を見よ。

【彭輅】127 ハウロ 明、海鹽の人。字は子殷。號は沖溪野叟。嘉靖の進士。官は南京刑部主事。著に彭比部集がある。〔明人小傳、三〕・〔明詩綜、四十三〕・〔明詩紀事、己、九〕・〔靜志居詩話、十三〕。

【彭瓏】128 ハウロウ 清、長洲の人。字は雲客。號は一菴・信好老人。私諡は仁簡先生。順治の進士。官は長寧知縣。惠政あり。初、釋老の書を好み、晩年、經學に反り、主敬を宗とす。其の室を志矩齋といふ。〔清史列傳、六十六〕・〔國朝耆獻類徵、二百十八〕・〔碑傳集、九十〕。

【彭友勝】129 ハウイウショウ 清、長沙の人。字は雲臺。官

は參將。李續賓に從つて皖を征し、力竭きて死す。〔續碑傳集、六十五〕。

【彭友信】130（ハウイウシン） 明、攸縣の人。洪武の進士。官は北平布政使。〔明詩紀事、八十一〕。

【彭昱堯】131（ハウイクゲウ） 清、平南の人。字は子穆・蘭畹。道光の擧人。古文辭に巧。書室を怡雲樓・彭昱堯・致翼堂といふ。著に怡雲樓稿がある。〔續碑傳集、七十八〕。

【彭毓橘】132（ハウイクキツ） 清、湘鄕の人。字は杏南。諡は忠壯。咸豐中、曾國荃に從つて江西を援く。官は布政使。後、捻匪と蘄水に戰ひ、執へられて死す。〔清史稿、四百二十〕・〔續碑傳集、六十〕。

【彭蘊章】133（ハウウンシヤウ） 清の人。啓豐の曾孫。字は琮達・詠莪。號は詒穀老人。諡は文敬(文勤)。道光の進士。官は工部尙書・武英殿大學士。著に詩文集・讀書記等がある。〔清史稿、三百九十二〕・〔清史列傳、四十五〕・〔續碑傳集、四〕。

【彭永思】134（ハウエイシ） 清、長沙の人。字は位存。號は兩峯。嘉慶の進士。治獄に精しく、官は戶部員外郞。〔國朝耆獻類徵、一百四十八〕・〔國朝先正事略、五十四〕。

【彭開祐】135（ハウカイイウ） 清、婁縣の人。字は孝緒。號は椒巖。康熙の進士。官は武岡州知。詩に巧。著に彭椒巖詩稿がある。〔四庫提要、一百八十三〕。

【彭行先】136（ハウカウセン） 清、長洲の人。字は務敏・貽令。號は竺里(竹里老人)。明の崇禎の貢生。亂後、隱居して教授し、書に巧で、金俊明・鄭敷教と吳中三老と稱せられた。〔國朝耆獻類徵、四百七十六〕。

【彭其位】137（ハウキヰ） 清、吳縣の人。字は素君。著に學宮備考がある。〔國朝耆獻類徵、四百五十二〕。

【彭龜年】138（ハウキネン） 宋、清江の人。字は子壽。號は止堂。諡は忠肅。乾道の進士。朱熹・張栻の弟子。官は寧宗の時、吏部侍郞。數〻韓侂胄の奸を論じ、著に止堂集がある。〔宋史、三百九十三〕・〔宋史新編、一百四十八〕・〔南宋書、四十一〕・〔慶元黨禁〕・〔宋元學案、五十・七十一〕。

【彭九萬】139（ハウキウバン） 元、崇安の人。字は好古。詞賦に巧。至元中、黃華の叛に脅かされたが從はずして害せられた。〔元詩紀事、六〕。

【彭玉麟】140（ハウギヨクリン） 清、衡陽の人。字は雪琴(雪岑)。號は退省菴主人。諡は剛直。咸豐中、曾國藩に從ひ、洪楊の軍と長江に戰ふ。兵部尙書となり、長江水師の制を定めた。〔清史稿、四百十六〕・〔清史列傳、五十八〕・〔續碑傳集、十四〕。

【彭光斗】141（ハウクワウト） 清、溧陽の人。字は賁園。號は退菴。乾隆の擧人。官は知縣。書室を雲溪草堂といふ。著に雲溪草堂文鈔がある。

【彭啓豐】142（ハウケイホウ） 清の人。定求の子。字は翰文。號は芝庭・香山老人。諡は文勤。雍正中、廷試第一。官は乾隆の中、兵部右侍郞。著に芝庭詩文集がある。〔清史稿、三百十〕・〔清史列傳、十九〕・〔國朝耆獻類徵、七十八〕・〔碑傳集、三十五〕・〔國朝先正事略、十六〕。

【彭景直】143（ハウケイチヨク） 唐、河閒の人。官は禮部郞中。〔唐書、一百九十五〕。

【彭繼凱】144（ハウケイガイ） 元、分宜の人。至正の末、歐普祥、袁州を陷れるや、繼凱、義軍を募つて大いに之を破る。適〻安福の義士袁明東等兵を率ゐて來り會し、袁城を復し、民を安んず。後、寶童に嫉まれ、殺された。〔新元史、二百三十二〕。

【彭元瑞】145（ハウゲンズイ） 清、南昌の人。字は掌仍・輯五。號は芸楣・身雲居士・知聖道齋。諡は文勤。乾隆の進士。官は工部尙書・協辦大學士。書室を恩餘堂といふ。著に恩餘堂稿がある。〔清史稿、三百二十六〕・〔清史列傳、二十六〕・〔國朝耆獻類徵、三十二〕・〔國朝先正事略、十七〕。

【彭元中】146（ハウゲンチユウ） 明の道士。號は檜亭。畫に巧。〔明畫錄、五〕。

【彭興宗】148（ハウコウソウ） 宋、金溪の人。字は世昌。陸九淵の弟子。淳熙中、精舍を應天山に築き、九淵をして之に居らしむ。〔宋史翼、三十六〕・〔宋元學案、七十七〕。

【彭國鈞】149（ハウコクキン） 民國、湖南省安化縣の人。字は全方。湖南省議會議員、湖南中路汽車自動車局長等を經、國民政府考試院詮敍部登記司長となり、其の後中央候補監察委員兼湖北省黨務特派員に擧げられた。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【彭國公】150（ハウコクコウ） 唐、李思訓(**6**−**14459**‥1314)の封號。

【彭鯤躍】151（ハウコンヤク） 清、濟南の人。字は南溟。畫に巧。

【彭在份】152（ハウザイヒン） 明、莆田の人。號は從野逸人。著に讀丹錄がある。〔四庫提要、一百四十七〕。

【彭三元】153（ハウサンゲン） 清、善化の人。字は春浦。諡は勤勇。咸豐の閒、戰功あり。官は參將。後、石達開と戰ひ陣歿した。〔清史稿、四百九十七〕・〔續碑傳集、六十五〕。

【彭士望】154（ハウシバウ） 清、南昌の人。本姓は危。字は躬菴・樹廬。經世の學に深く、明亡びて翠微峯に隱居した。易堂九子の一。卒年七十四。著に恥躬堂詩文集がある。〔清史列傳、六十六〕・〔國朝耆獻類徵、四百〕・〔碑傳集、一百三十七〕・〔國朝先正事略、三十七〕。

【彭之壽】155（ハウシジユ） 清、湖南寧鄕の人。字は公眉。康熙の貢生。吳三桂に招かれたが肯ぜず。善く後進を誘掖し、著に怡園集がある。〔國朝耆獻類徵、四百四十五〕。

【彭志德】156（ハウシトク） 清、湘鄕の人。字は道一。諡は武烈。咸豐中、戰功あり。官は千總・參將。三河鎭に戰死す。副將を追贈せらる。〔清史稿、四百九十七〕・〔續碑傳集、六十五〕。

【彭思永】157（ハウシエイ） 宋、廬陵の人。字は季長。天聖の進士。官は侍御史・戶部侍郞。〔宋史、三百二十〕・〔宋史新編、一百二〕・〔三朝名臣言行錄、五〕。

【彭師度】158（ハウシド） 清、江蘇華亭の人。字は古晉。號は省廬。吳兆騫・陳維崧と共に吳偉業に江左三鳳と稱せらる。著に彭省廬詩文集がある。〔國朝詩人徵略、初編、二十三〕。

【彭而述】159（ハウジジユツ） 清、鄧州の人。字は禹峯。明の崇禎の進士。官は陽曲縣知。清の貴州巡撫・雲南布政使。書室を讀史亭といふ。著に讀史亭詩文集がある。〔清史稿、二百五十三〕・〔碑傳集、七十七〕。

【彭修翼】160（ハウシウヨク） 明、長山の人。字は淩漢。萬曆の武進士。官は臨清參將。〔長山縣志〕。

【彭樹葵】161（ハウジユキ） 清、夏邑の人。字は覲之。號は水南。乾隆の進士。官は總督倉場・戶部右侍郞。著に中州詩選・喩言集古、及び詩文集がある。〔國朝耆獻類徵、八十二〕・〔碑傳集、三十四〕。

【彭叔夏】162（ハウシユクカ） 宋、廬陵の人。紹熙の擧人。著に文苑英華辨證がある。〔四庫提要、一百八十六〕。

【彭舜卿】163（ハウシユンケイ） 明、長興の人。號は素仙。畫に巧。〔明畫錄、二〕。

【彭遵泗】164（ハウジユンシ） 清の人。肇洙の弟。號は磐泉・丹溪生。乾隆の進士。官は編修。著に蜀碧がある。〔清史列傳、七十二〕。

【彭汝器】165（ハウジヨキ） 明、安福の人。名は連。字を以て行はる。永樂の進士。官は翰林學士。實錄編修に與る。書室を筆議軒といふ。著に扈從・五雲の二稿がある。〔蘭臺法鑒錄、二〕。

【彭汝實】166（ハウジヨジツ） 明、嘉定の人。字は子充。正德の進士。給事中となるも、大禮を力爭して職を奪はれた。〔明史、二百八〕・〔萬斯同明史、二百八十二〕・〔明史稿、一百九十二〕。

【彭汝楠】167（ハウジヨナン） 明、莆田の人。字は伯棟。萬曆の進士。官は給事中。上疏して紅丸一案を論じ、帝の怒に觸れ、尋いで魏忠賢に忤ひ職を奪はれた。崇禎の時、兵部左侍郞となる。〔明詩綜、六十一〕。

【彭汝方】168（ハウジヨハウ） 宋の人。汝礪の弟。字は宜老。諡は忠毅。宣化の初、衢州知となる。亂起るに會ひ、城を守つて死す。〔宋史、三百四十六〕・〔宋史新編、一百十七〕・〔東都事略、一百十〕。

【彭汝霖】169（ハウジヨリン） 宋の人。汝礪の弟。字は巖老。曾布に附し、侍御史に遷る。布の失脚するや、濮州團練使に謫せられ、後、顯謨閣待制となる。〔宋史、三百四十六〕・〔宋史新編、一百十七〕。

【彭汝礪】170（ハウジヨレイ） 宋、鄱陽の人。字は器資。治平中、進士第一。官は中書舍人・權吏部尙書。著に易義・詩義・鄱陽集がある。〔宋史、三百四十六〕・〔宋史新編、一百十七〕・〔東都事略、九十四〕・〔名臣碑傳琬琰集、中、三十二〕・〔三朝名臣言行錄、十〕・〔宋元學案、一〕。

【彭承堯】171（ハウシヨウゲウ） 清、松滋の人。乾隆の進士。官は廣西提督。嘉慶中、貴州・廣西等一帶の狆苗を平定し、歸途に卒す。〔清史列傳、二十七〕・

〔國朝耆獻類徵、二百九十五〕。

【彭震龍】172ハウシンリヨウ　宋、永新の人。字は雷可。文天祥の妹壻。天祥に應じて兵を起し、後、元兵に執へられて卒した。〔宋史、四百五十四〕・〔昭忠錄〕・〔宋季忠義錄、五〕・〔文丞相督府忠義傳〕。

【彭崧毓】173ハウスウイク　清、江夏の人。字は于蕃。號は稚宣。又、篯孫。室名は求是齋。道光の進士。官は雲南迤東道。著に求是齋文存がある。

【彭世騏】174ハウセイキ　明の人。一に世麒に作る。官は昭勇將軍。後、都指揮使。

【彭世麒】175ハウセイキ　彭世騏を見よ。

【彭世昌】176ハウセイシヤウ　清、宜春の人。字は襲之。楊行密、楚に據るや召されて長史となり、幾くもなく辭し歸る。後、豪滑子數百に擁せられたが從はずして害せられた。

【彭紹賢】177ハウセウケン　明、海鹽の人。字は孔嘉。官は萬曆中、參將。詞に巧。著に擊壺集がある。〔明詩綜、五〕。

【彭紹謙】178ハウセウケン　清、長洲の人。字は濟光。乾隆の擧人。官は曹州府桃源同知。著に閑家類纂がある。〔碑傳集補、二十二〕。

【彭紹升】179ハウセウシヨウ　清の人。啓豐の子。一名、際清。字は允初。號は尺木・知歸子。乾隆の進士。古文に巧。陸王學を喜ぶ。書室を二林居といふ。著に二林居集・居士傳・善女人傳等がある。〔清史列傳、七十二〕・〔國朝耆獻類徵、四百三十七〕・〔國朝先正事略、三十〕。

【彭紹封】180ハウセウホウ　清、益陽の人。字は漢池。諸生。著に漢池文集がある。

【彭祖賢】181ハウソケン　清の人。蘊章の子。號は芍亭。官は同治中、湖北巡撫。〔續碑傳集、二十八〕。

【彭孫貽】182ハウソンイ　清、海鹽の人。字は仲謀・羿仁。號は茗齋。管葛山人。謚は孝介。明の貢生。國亡びて後、閉居して母に仕ふ。畫を善くし、著に茗齋詩餘・茗齋雜記がある。〔清史列傳、七十〕。

【彭孫遹】183ハウソンイツ　清、海鹽の人。字は駿孫。號は羨門・金粟山人。順治の進士。官は吏部右侍郎。詩に巧、王士禛と並稱して彭王といふ。書室を松桂堂・柏悅堂といふ。著に松桂堂・南淮・香奩・唱和等の集がある。〔清史稿、四百八十九〕・〔國朝先正事略、三十九〕。

【彭泰來】184ハウタイライ　清、高要の人。字は子大。號は春洲。嘉慶の拔貢生。書室を詩義堂・昨夢軒といふ。著に昨夢軒文集がある。〔清史列傳、七十三〕。

【彭大翮】185ハウダイカク　明、竟陵の人。賊に襲はれて、水死。著に平賊權略がある。〔明史、二百九十四〕・〔萬斯同明史、三百八十〕・〔明史稿、二百七十五〕。

【彭大壽】186ハウダイジユ　清、孝感の人。字は松友。號は蓮陂居士。明の諸生。順治の時、雲夢の金蓮陂に於て生徒に教授す。著に魯岡或問・通禮がある。〔清史列傳、六十六〕・〔國朝耆獻類徵、四百二〕。

【彭大翼】187ハウダイヨク　明、揚州の人。字は雲擧・一鶴。諸生。著に山堂肆考がある。〔四庫提要、一百三十六〕。

【彭端淑】188ハウタンシユク　清、丹稜の人。字は樂齋。雍正の進士。官は吏部郎中。後、錦江書院の主講。書室を白鶴堂といふ。著に白鶴堂詩文集がある。〔清史列傳、七十二〕・〔國朝耆獻類徵、二百十一〕・〔國朝先正事略、四十四〕。

【彭仲剛】189ハウチユウガウ　宋、平陽の人。字は子復。乾道の進士。國子監丞・全州の長官となり、治績をあげた。〔國朝先正事略、六十一・七十三〕。

【彭廷棟】190ハウテイトウ　清、寧夏の人。乾隆の武進士。官は貴州提標參將。緬甸を征して功あり、貴州提督に遷る。黔楚苗を征して軍中に卒した。〔國朝耆獻類徵、二百九十四〕。

【彭定求】191ハウテイキウ　清の人。瓏の子。字は勤止・南昀。號は南昀老人。康熙中、會試・廷對皆第一。官は修撰侍講。著に陽明釋毀錄・儒門法語・南昀文集がある。〔清史稿、四百八十六〕・〔清史列傳、六十六〕・〔國朝耆獻類徵、一百十七〕・〔碑傳集、四十四〕・〔國朝先正事略、三十〕。

【彭定守】192ハウテイシユ　明、衡州の人。號は一峯。官は知崇慶州。後、烏撒府同知。著に中庸說旨がある。〔衡州府志〕。

【彭庭堅】193ハウテイケン　元、瑞安の人。字は允誠。至正の進士。官は同知建寧路總管府事・同知福建道宣慰使司副都元帥。鎭撫萬戶岳煥の兵に殺された。〔元史、一百九十五〕。

【彭兆蓀】194ハウテウソン　清、太倉の人。字は湘涵・甘亭。詩・駢文を善くす。道光の初、孝廉方正に擧げらる。書室を小謨觴館といふ。著に小謨觴館集がある。〔清史稿、四百九十〕・〔清史列傳、七十三〕・〔續碑傳集、七十六〕。

【彭肇洙】195ハウテウシユ　清、丹稜の人。字は仲尹。雍正の進士。官は御史。書室を撫松亭といふ。著に撫松亭詩集がある。〔清史列傳、七十一〕・〔國朝耆獻類徵、初編、一百三十六〕。

【彭天翔】196ハウテンシヤウ　明、江都の人。字は鵬父。萬曆の進士。官は副總兵。白蓮賊を討つて大捷す。〔揚州府志〕。

【彭天錫】197ハウテンセキ　元、湖州の人。字は仁仲。當時の法令を取り、科類を區別して政刑類要を著はした。〔四庫提要、一百二〕。

【彭殿元】198ハウデンゲン　清、廬陵の人。字は上虎。號は薌谷。康熙の進士。官は編修。明史の纂修に與かる。順天鄕試を主り、取る所名士多し。後、薌谷小隱を構へ、潛心講學す。著に薌谷稿がある。

【彭寧求】199ハウネイキウ　清の人。定求の從弟。字は文洽。號は瞻庭。康熙の進士。官は編修侍講。暢春苑に直す。著に歷代山澤征稅記がある。〔國朝先正事略、三十〕。

【彭比部】200ハウヒブ　明、彭輅（127）をいふ。

【彭百川】201ハウヒヤクセン　宋、眉山の人。字は叔融。著に太平治迹統類前集がある。〔四庫提要、五十一〕。

【彭百鍊】202ハウヒヤクレン　明、泰和の人。字は若金。永樂の進士。官は廣西道監察御史。著に若金集がある。〔蘭臺法鑒錄、六〕。

【彭復初】203ハウフクシヨ　宋、安福の人。進士。易に精通す。朱熹・邵雍の說に本づいて易學源流を著はす。〔宋元學案、七十八〕。

【彭洋中】204ハウヤウチユウ　清、湘鄕の人。字は彥深・曉杭。道光の擧人。書室を古香山樓といふ。著に古香山館存稿がある。〔續碑傳集、四十四〕。

【彭與明】205ハウヨメイ　明、萬安の人。官は建文の初、大理右丞。燕師と戰つて執へられ、慚憤して冠裳を裂き、姓名を變じて亡げ去り、終る所を知らない。〔萬斯同明史、一百八十五〕・〔國朝獻徵錄、六十八〕。

【彭希涑妻】206ハウキソクノツマ　清の人。顧蘊玉（**12－43689**・・220）を見よ。

【彭醢化レ蟹】207ハウカイカニニクワス　漢の高祖の臣、彭越が醢刑に處せられ、それを江中に投じた所、蟹に化したといふ故事。〔事物紀原、蟲魚禽獸部〕彭越似レ蟹而小、世傳、漢醢二彭越一、以賜二諸侯一、九江王英布獵得レ之、不レ忍レ視、盡以覆二江中一、化而爲レ此、故名二彭越一。〔山堂肆考〕蟛蜞、一名彭越、舊傳、漢醢二彭越一賜二九江王布一、布不レ知而食、俄覺而哇二出於江中一、化爲レ蟹、似二蟛蜞一而小、無レ毛、穴居易レ取。〔格物總論〕舊傳、漢醢二彭越一賜二九江王布一、不レ知而食、俄覺而哇二出于江中一、化爲レ蟹。

【彭惠安集】208ハウケイアンシフ　書名。十卷、附錄一卷。明、彭韶撰。其の文は臺閣の體に沿ふ。詩は散佚して、明詩綜・莆風清籟集などに收められてゐるものも此の集にはない。〔四庫提要、集、別集類〕。

【彭楚克林沁】209ハウソコクリンシン　清、敖漢部落の人。官は乾隆の時、台吉額駙。宿衞を掌ること數十年、遼金元諸代の事に通じ、高宗に敖漢先生と稱せられた。〔國朝耆獻類徵、二百九十四〕。

【⿰馬彡】10004　バ　馬（**12－44572**）の古字。〔説文〕馬、⿰馬彡、古文。

【⿰虫彡】10005　シツ　桼（**6－14818**）の古字。〔集韻〕桼、古作レ⿰虫彡。

【⿰⿱大申彡】10006　セイ　靜（**12－42578**）の古字。〔字彙補〕⿰⿱大申彡、古文靜字。

【⿱百彡】10007　シユウ　義未詳。〔龍龕手鑑〕⿱百彡、音終。

【⿰皃彡】10008 ヘン ⿰貞彡（4－10002）に同じ。〔字彙補〕⿰皃彡、同レ⿰貞彡。

十畫

【⿰彡圂】10009 コン 溷（7－17986）に同じ。〔字彙〕⿰彡圂、同レ溷。

【彮】10010 ヨウ ユ 〔集韻〕尹竦切 腫

㊀帶を垂れて飾つたさま。〔集韻〕彮、垂レ帶飾皃。㊁容（3－7172）の俗字。〔正字通〕彮、俗字、按、詩衞風、容兮遂兮、垂帶悸兮、本作レ容、譌作レ彮。

【⿰翏丩】10011 キウ 丩（1－68）に同じ。〔類篇〕⿰翏丩、同レ丩。

【⿰卤彡】10012 ヘン 變（10－36117）の古字。〔集韻〕變、古作レ⿰卤彡。

【⿰⺕彡】10013 バ 馬（12－44572）の籒文。〔康熙字典〕⿰⺕彡、說文、籒文馬字。

十一畫

【彯】10014 ㈠（ヘウ ベウ）〔集韻〕紕招切 蕭 ㈡ヘウ 〔集韻〕匹妙切 嘯 ㄆㄧㄠˋ p'iao^4

㈠㊀組糸の長いさま。〔集韻〕彯、彯彯、長組皃。㊁輕便なさま。〔集韻〕彯、一曰、彯搖、輕便也。㊂すてる。摽（5－12651）に通ず。〔袁淑、傚二曹子建樂府白馬篇一詩〕彯レ節去二函谷一。〔注〕善曰、劉兆曰、摽、辟也、彯、與レ摽字同。㊃嫖（3－6637）に通ず。〔王融、三月三日曲水詩序〕彯搖武猛、扛レ鼎揭レ旗之士。〔注〕善曰、霍去病爲二嫖姚校尉一、良曰、彯搖、輕便貌。㈡ゑる。ほる。かざる。〔玉篇〕彯、畫也。〔集韻〕彯、畫飾也。

【彯搖】1（ヘウエウ） 輕便なさま。嫖姚。〔王融、三月三日曲水詩序〕彯搖武猛、扛レ鼎揭レ旗之士。〔注〕良曰、彯搖、輕便貌。

【彯沙】2（ヘウサ） 沙が飛ぶこと。又、其のすな。〔木華、海賦〕彯沙礐石。〔注〕良曰、蕩沙礐石相擊。

【彯節】3（ヘウセツ） 信を示すべき符節をすてる。〔袁淑、傚二曹子建樂府白馬篇一詩〕彯レ節去二函谷一、投レ珮出二甘泉一。〔注〕善曰、公羊傳曰、曹子摽レ劍而去レ之、劉兆曰、摽、辟也、彯、與レ摽字同。

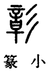
【彯然】4（ヘウゼン） 輕く擧るさま。飄然（12－43946・・35）の㊀に同じ。〔江淹、與二交友一論レ隱書〕彯然十載、竟不レ免二衣食之敗一。

【彯帶】5（ヘウタイ） 旌旗の旁に飾とする長い組糸。

【彯彯】6（ヘウヘウ） ㊀組紐の長いさま。〔廣韻〕彯、彯彯、長組之貌。㊁輕く擧るさま。飛ぶさま。〔左思、魏都賦〕增構峩峩、淸塵彯彯。〔注〕五臣作二剽剽一、翰曰、剽剽、輕擧貌。

【彯撇】7（ヘウヘツ） わたの飛ぶさま。輕い物のさま。漂潎。〔劉峻、廣絕交論〕若衡重二錙銖一、纊微二彯撇一。〔注〕良曰、彯撇、纊飛皃。

【彰】10015 シヤウ 〔集韻〕諸良切 陽 ㄓㄤ chang^1


小篆

㊀あや。〔說文〕彰、彣彰也、从二彡章一、章亦聲。〔張華、晉四廂樂歌〕禮文煥以彰。〔章炳麟、文學總略〕命二其形質一曰レ文、狀二其華美一曰レ彣、指二其起止一曰レ章、道二其素絢一曰レ彰、凡彣者必皆成レ文、凡成レ文者不二皆彣一。㊁あきらか。あらはれる。著明。〔廣雅、釋詁四〕彰、明也。〔呂覽、義賞〕忠信親愛之道彰。〔注〕彰、明也。㊂あらはす。あきらかにする。章（8－25761）に通ず。〔書、皐陶謨〕彰二厥有一レ常。〔傳〕彰、明也。〔史記、夏紀〕章二其有一レ常。㊃姓。〔萬姓統譜〕彰、見二姓苑一。

名乘 テル。アキラ。

解字 會意形聲。章（あや）と彡（毛飾畫文、卽ちあやに同じ）とを合す。故に本義はあや。章は又、音符。

【彰考】1（シヤウカウ） 過去をあきらかにし將來をかんがへる。彰レ往察レ來（4－10073・・140）を見よ。〔杜預、春秋左氏傳序〕若夫制作之文、所二以章一レ往考レ來、情見二乎辭一。〔疏〕其章レ往考レ來、情見二乎辭一、皆易下繫辭之文、彼作二彰レ往而察一レ來、意不レ異耳。

【彰考館】2（シヤウカウクワン） 德川光圀、明曆三年に史局を江戶駒込別邸に開き、寬文十二年、小石川の藩邸內に遷して彰考館と稱す。後、元祿十一年、史館編輯局を水戶に移したが、藏書の大半は江戶に留め、十五年には編輯局を江戶と水戶とに分ち置く。文政十二年に至り全く水戶に移し、明治十二年、偕樂園內に移す。三十九年、大日本史全部の編輯出版が完成すると共に水戶のもまた閉鎖した。今、水戶に彰考館文庫がある。

【彰義】3（シヤウギ） ㊀正義の道をあらはすこと。〔逸周書、謚法解〕彰レ義掩レ過曰レ堅。〔邵眞、義井記〕藏レ事彰レ義。㊁北京城門の名。〔讀史方輿紀要、直隸、順天府〕西曰二麗澤一、曰二顯華一、曰二彰義一。

【彰義軍】4（シヤウギグン） 行政區劃の名。㊀唐の乾元中、涇原節度使を置き、關內道に屬す。治は涇川、今の甘肅省涇川縣の治。甘肅省涇川・固原等の縣の地。大順の初、彰義軍の號を賜ふ。〔讀史方輿紀要、陝西、平涼府〕涇州、春秋時秦地、始皇時屬二北地郡一、漢屬二安定郡一、云云、唐復爲二涇州一、尋置二涇寧節度於此一、大順初、改曰二彰義軍一、宋仍曰二涇州一。㊁唐、淮寧軍節度を置き、後、彰義軍と號す。淮寧軍（7－17682・・48）を見よ。〔讀史方輿紀要、汝南〕汝寧府、唐初置二豫州一、云云、寶應初、又改二蔡州一、避二代宗諱一也、是後爲二淮西節度使治所一、尋又曰二淮寧軍一、後又爲二彰義軍一、皆治レ此。

【彰義隊】5（シヤウギタイ） 明治元年戊辰に、德川幕府の旗下の臣中、薩長の專橫を糾彈すべしとなす者が、淺草に屯集して彰義隊と稱し、尋いで上野寬永寺に據り、輪王寺宮公現法親王を奉じ、池田大隅守・澁澤誠一郎等隊長となり、三千餘人を率ゐて、官軍に抗したが、僅か一日で敗れ、四散した。

【彰偟】6（シヤウクワウ） さまよふ。章皇。〔抱朴子、正郭〕欲レ立レ朝則世已大亂、欲二潛伏一則悶而不レ堪、或躍則畏二禍害一、確爾則非レ所レ安、彰偟不レ定、載肥載臞。

【彰縣】7（シヤウケン） 縣名。㊀後魏、置く。故城は甘肅省漳縣の西南。〔讀史方輿紀要、陝西、鞏昌府、漳縣〕鄣縣故城、縣南五里、後漢置二鄣縣一、本治レ此、後魏亦爲二彰縣治一、唐沒二於吐蕃一、元因改置二鄣縣一、爲レ彰爲レ漳也。㊁後魏、置く。今缺く。甘肅省永昌縣の地。〔讀史方輿紀要、陝西、永昌衞、番禾城〕彰縣城亦在二衞西一、魏收志、番和郡領二彰縣及焉支縣一。

【彰顯】8（シヤウケン） あきらかにあらはす。知れわたらせる。又、其のこと。〔逸周書、克殷解〕其彰顯聞二於昊天上帝一。〔後漢書、王符傳〕不レ欲三彰二顯其名一。

【彰功】10（シヤウコウ） てがらをあらはす。表功。〔淮南子、覽冥訓〕然而不レ彰二其功一。

【彰示】11（シヤウシ） あきらかにしめす。明示。〔曹植、與二楊德祖一書〕辭賦小道、固未レ足下揄二揚大義一彰中示來世上也。

【彰施】12（シヤウシ） あきらかに施す。又、そのもの。〔書、益稷〕以二五采一彰二施于五色一作レ服。〔注〕以二五采一明二施于五色一、作二尊卑之服一。〔何晏、景福殿賦〕明二五采之彰施一。

【彰彰】13（シヤウシヤウ） あきらかなさま。章章。〔道德指歸論、萬物之奧篇〕照二察察一以二熒熒一、顯二的的一以二彰彰一。

【彰信】14（シヤウシン） まことをあきらかにすること。〔書、仲虺之誥〕克寬克仁、彰二信兆民一。

【彰旌】15（シヤウセイ） 人の美德をあらはす。旌は旗に記

して掲げあらはす。表旌。

【彰聖】16（シヤウセイ） 北宋の仁宗の時、越（安南）の聖宗、李日尊の年號。彰聖嘉慶の略。(1059－1066)

〔彰聖嘉慶〕17（シヤウセイカケイ） 北宋（仁宗）の時、越（安南）の聖宗、李日尊の年號。一に略して彰聖に作る。(1059－1066)

【彰善】18（シヤウゼン） よいことをあらはす。善行を表彰する。〔書、畢命〕旌二別淑慝一、表二厥宅里一、彰レ善癉レ惡、樹二之風聲一。〔疏〕彰二明其爲レ善、病二其爲レ惡。〔禮、表記〕彰二人之善一、而美二人之功一、以求レ下レ賢。

【彰癉】19（シヤウタン） 善惡をあきらかにして善をすすめ惡をこらすこと。〔禮、緇衣〕子曰、有二國家一者、彰レ善癉レ惡、以示二民厚一、則民情不レ貳。

【彰著】20（シヤウチヨ） 明かにいちじるしい。よく目だつ。顯著。〔後漢書、來歙傳〕憂レ國忘レ家、忠孝彰著。〔晉書、惠賈后傳〕威服二內外一、衆惡彰著。

【彰徹】21（シヤウテツ） よくあらはれる。〔顏延之、贈二王太常一詩〕雖レ秘猶彰徹。

【彰德】22（シヤウトク） ❶人の善心善行を明白に擧げあらはす。人の善を賞して廣く知れわたらせる。又、その德行。〔漢書、武帝紀〕可三以彰二先帝之洪業休德一。〔後漢書、光武紀下〕感二致神祇一、表二彰德信一。❷府の名。金、置く。戰國の魏の都。漢の魏郡の地。三國、魏の鄴都を建てた所。故治は河南省安陽縣。淸は安陽・臨漳・湯陰・林・武安・涉・內黃の七縣を管轄す。〔讀史方輿紀要、河南〕彰德府、漢爲二魏郡一、云云、五代晉天福三年、置二彰德軍一、宋仍爲二相州一、金爲二彰德府一、元曰二彰德路一、明初復爲二彰德府一、領二州一縣六一。〔淸史稿、地理志〕河南、彰德府、領二縣七一、安陽・臨漳・湯陰・林・武安・涉・內黃。

〔彰德軍〕23（シヤウトクグン） 行政區劃の名。五代晉、置く。河南省安陽縣。〔五代史、職方考〕相州故屬二天雄軍節度一、晉高祖置二彰德軍一。

【彰武】24（シヤウブ） 縣名。淸、置く。もとの薛魯克。科爾沁左翼前旗の西境及び土默特左翼旗の東境。淸の光緒二十八年、其の地に彰武縣を置く。今の遼寧省康平縣の西南。〔淸史稿、地理志〕奉天、新民府、縣二、彰武。

【彰聞】25（シヤウブン） あらはれきこえる。知れ渡る。〔書、泰誓中〕無辜籲レ天、穢德彰聞。

【彰炳】26（シヤウヘイ） あきらか。彰明に同じ。

【彰明】27（シヤウメイ） ❶あきらかにあらはれる。又、あらはし明にする。明白。彰炳。〔尉繚子、分塞令〕彰二明其塞令一。〔司馬法、仁本〕彰二明有罪一。〔史記、伯夷傳〕此其尤大彰明較著者也。❷縣名。宋、置く。四川省江油縣の南。涪江の上流に位す。〔讀史方輿紀要、四川、成都府、綿州〕彰明縣、漢涪縣地、晉移二益昌縣於此一、屬二巴西郡一、宋齊因レ之、西魏改曰二昌隆縣一、隋屬二綿州一、唐因レ之、先天初、改曰二昌明縣一、五代唐、諱レ昌改曰二彰明縣一、宋因レ之。〔淸史稿、地理志〕四川、龍安府、縣四、彰明。

【彰揚】28 chang^{1} yang^{2} 表彰。

【彰露】29（シヤウロ） あきらかにあらはれる。〔吳志、孫綝傳〕罪負彰露。

【彰往】30（シヤウワウ） 既往の事實を明かにする。彰考(1)を見よ。〔易、繫辭下〕夫易彰レ往而察レ來、而微レ顯闡レ幽。

【⿰庸彡】10016 ヨウ ユ 〔集韻〕餘封切 冬

❶**重なつたかげ。**〔集韻〕⿰庸彡、重影也。❷**かたち。**〔集韻〕⿰庸彡、一曰、形⿰庸彡。❸容(**3－7172**)の俗字。〔正字通〕⿰庸彡、俗容字。

【⿰彡𣥺】10017 シ 〔集韻〕所綺切 紙

❶**毛の垂れたさま。**〔集韻〕⿰彡𣥺、毛垂皃。❷毸(**6－16948**)に同じ。〔正字通〕⿰彡𣥺、按、毛部毸、音義同、贅作レ⿰彡𣥺。

【⿰彖彡】10018 ヘン 變(**10－36117**)の古字。〔集韻〕變、古作レ⿰彖彡。

十二畫

【影】10019 エイ ヤウ 〔集韻〕於境切 ㄧㄥˇ ying^{3} 梗

❶**かげ。**㋑物體が光をさへぎつて映し出す暗黑の象。〔玉篇〕影、形影。〔列子、天瑞〕形動不レ生レ形而生レ影。〔呂覽、功名〕猶二表之與レ影。〔淮南子、脩務訓〕吾日悠悠慙二于影一。〔魏志、陳思王植傳〕形影相弔。㋺物體が鏡・水などに映つて反射する光像。〔後漢書、朱浮傳〕引レ鏡窺レ影、何施二眉目一。㋩すがた。かたち。〔梁昭明太子、賦二書帙一詩〕擢二影兎園池一、抽二莖淇水側一。〔梁簡文帝、七勵〕遁レ跡埋レ影、剗二心人事一。〔梁簡文帝、藤詩〕弱影禦レ風斜。㋥ゑすがた。肖像。〔南史、梁宗室傳〕與二楚王廟神一交飲至二一斛一、每二酹祀一盡レ歡極レ醉、神影亦有二酒色一。❷**ひざし。**ひかげ。〔潘岳、送二別王世胄一詩〕情有二遷延一、日無二餘影一。〔王安石、獨臥詩〕茅簷午影轉悠悠。❸**ひかり。**かがやき。〔杜甫、贊公山房詩〕燈影照二夢寐一。❹**まぼろし。**假象。〔劉兼、自遣詩〕彭壽殤齡共兩空、幻緣泡影夢魂中。〔蘇軾、海市詩〕心知所レ見皆幻影。❺**たすけ。**おかげ。〔冊府元龜〕投二名於勢要一、以求二影庇一。❻**そへる。**文字の側に釋文を注加する。〔丹鉛總錄〕唐太宗集二右軍帖一、令三褚遂良帖傍黃二影之一。❼景(**5－13983**)に同じ。〔集韻〕景、葛洪始作レ影。〔顏氏家訓、書證〕凡陰景者、因レ光而生、故卽謂爲レ景、至二晉世葛洪字苑一、始加レ彡爲レ影。❽現㋑しきうつしにする。摸倣する。㋺映畫。

【影印】1（エイイン） 書籍を寫眞に撮り、石版・コロタイプ版等に作ること。又、古版の覆刻をいふ。〔四部叢刊、例言〕悉從二原書一影印。

【影娥】2（エイガ） 池の名。〔洞冥記、三〕帝於二望鵠臺西一起二俯月臺一、臺下穿レ池、廣千尺、登レ臺以眺、月影入二池中一、使三仙人乘レ舟弄二月影一、因名二影娥池一、亦曰二眺蟾臺一。〔上官儀、雪詩〕花明二棲鳳閣一、珠散二影娥池一。

【影戤】3 ying^{3} kai^{4} 商業語。他の商人の商標形式などを摸作し、買者を誤認せしめて利益を得ること。

【影向】4（ヤウカウ） 佛佛が此の世に其の身をあらはすこと。〔彌陀經義疏〕發起影向、必應二見聞一。

【影格】5 ying^{3} kê^{2} 幼年者が字を習ふ時、下に手本を置いて、しきうつしにすること。其の下敷にした手本を影格兒といふ。

【影戲】6（エイギ） ❶紙で作つた人形を操り、燈火に照らして、之を紙製の幕に映す戲。かげゑ。〔史記、封禪書〕齊人少翁、以二鬼神方一見レ上、上有二所レ幸王夫人一、夫人卒、少翁以二方蓋一、夜致二王夫人及竈鬼之貌一云、天子自二帷中一望見焉。〔東京夢華錄五、京瓦伎藝〕崇觀以來、在京瓦肆伎藝、云云、董十五・趙七・曹保義・朱婆見・沒困駝・風僧哥・俎六姐影戲。〔都城紀勝〕凡影戲、京師人、初以二素紙一雕簇、後用二彩色裝皮一爲レ之、公忠者雕以二正貌一、姦邪者雕以二醜貌一、其話本與二講史書一正同。❷ying^{3} hsi^{4} 活動寫眞。電影。

〔影戲院〕7 ying^{3} hsi^{4} yüan^{4} 活動寫眞館。映畫館。

〔影戲館〕8 ying^{3} hsi^{4} kuan^{3} 活動寫眞館。映畫館。

〔影戲燈〕9 ying^{3} hsi^{4} têng^{1} 幻燈。

【影嚮】10（エイキヤウ） 影響に同じ。〔荀子、議兵〕時使而誠愛レ之、下之和レ上也如二影嚮一。

【影響】11（エイキヤウ） ❶かげとひびき。〔鬼谷子、中經〕見レ形爲レ容、體レ象爲レ貌者、謂三爻爲二之主一也、可下以二影響形容象貌一而得上レ之也。❷形に影があり、聲に響があるやうに、關係の密接な喩。又、相應ずる喩。〔書、大禹謨〕禹曰、惠レ迪吉、從レ逆凶、惟影

響。〔疏〕吉凶之報、惟若三影之隨レ形、響之應レ聲、言二其無レ不レ報也。〔蔡傳〕猶三影響之出二於形聲一也。〔莊子、在宥〕大人之教、若二形之於レ影、聲之於レ響、有レ問而應レ之。〔荀子、富國〕三德者誠二乎上一、則下應レ之如二影響一。〔應璩、與二廣川長岑文瑜一書〕善否之應、甚二于影響一。〔顏氏家訓、歸心〕夫信謗之徵、有レ如二影響一。〔顏延之、秋胡詩〕影響豈不レ懷、自レ遠每相匹。〔注〕銑曰、猶二影之與一レ響、物而應レ之、雖二自レ遠而至一、因相匹偶、此言二夫婦之義、相感而合一。❸疾い喩。〔後漢書、郎顗傳〕天之應レ人、敏二於影響一。❹從順なこと。〔後漢書、列女、曹世叔妻班昭傳〕故女憲曰、婦如二影響一、焉可レ不レ賞。〔注〕影響、言二順從一。❺無形のもの。妄想。又、そらごと。虛言。應二影響一を見よ。

【影響衆】12ヤウカウシュ 佛四衆の一。諸佛及び法身の菩薩が、釋迦如來の教化・說法を讚歎するために、影の如く響の如く身を應現すること。文殊・普賢等の諸菩薩をいふ。〔法華文句、三〕影響者、往古諸佛、法身菩薩、隱二其圓極一、匡二補法王一、如二衆星遶一レ月、雖レ無二爲作一、而有二巨益一、此名二影響衆一。

【應二影響一】13エイキャウニオウズ 影と響とに應じて動く。無形の妄想などに驚くこと。〔列子、黃帝〕紀渻子爲二周宣王一養二鬬雞一、十日而問、雞可レ鬬已乎、曰、未也、方虛驕而恃レ氣、十日又問、曰、未也、猶レ應二影響一。〔鬳齋口義〕聞レ響而應、見レ影而動、則是此心猶爲レ物取レ動也。

【不レ得二影響一】14エイキャウヲエズ 其の人の姿も聲も得られない。何等の消息も判らないこと。〔黃宗羲、萬里尋レ兄記〕府君魂祈夢請卜レ之、瓊茅蚌殼之間、茫然不レ得二影響一。

【影居】15エイキョ 清、楊長世(**6**－**15112**‥692)の號。

【影曲】16エイキョク 影がまがる。〔北史、魏收傳〕源不レ清而流濁、表不レ端影曲。

【影供】17エイグ 神佛や尊い肖像などに物を供へること。〔續古今集、雜下〕柿本影供し侍りしに。

【影繪】18カゲエ うつしゑ。幻燈。影戲。影燈。

【影轎】19 ying³ chiao⁴ 南京地方で葬式當日に用ひるかご。

【影堅】20ヤウケン 佛頻毘娑羅王の譯名。佛在世の頃、摩揭陀國に君臨した王。佛教の外護者である。〔大唐西域記、八〕頻毘娑羅、唐言二影堅一、舊曰二頻婆娑羅一、訛也。

【影護】21ヤウゴ 佛影が形に隨ふやうに其の身から離れないで擁護する。〔觀念阿彌陀佛相海三昧功德法門〕隨逐影護、愛樂相見。

【影國】22エイコク 屬國をいふ。影は、つき從ふ意。附庸。〔藝林伐山故事〕影國、猶レ曰二附庸一。

【影祭】23カゲマツリ ❶芝居で曾我狂言後に行ふ樂屋の祭事。❷神社で例年の儀式を省いて、質素に行ふ祭。

【影犀】24エイサイ 犀の一種。其の角が光り、暗中でも影を生ずる。明犀。〔洞冥記〕吠勒國貢二犀四頭一、狀如二水兕一、角表裏有レ光、因名二明犀一、暗中有レ影、亦曰二影犀一、織以爲レ簟、如二錦綺之文一。

【影像】25ヤウザウ ❶佛物體が光線を遮るに依つて生ずる影。諸法の自性なき喩。〔圓覺經〕此菩薩及末世衆生、證二得諸幻一滅二影像一故、爾時便得二無方清淨一。❷エイザウ ゑすがた。肖像。畫像。

【影子】26 ying³ tzŭ かげ。かたち。

【影事】27ヤウジ 佛幻影の如くはかない事物。現象界の一切の事物は皆、影事。〔楞嚴經〕縱滅二一切見聞覺知一、內守二幽閑一、猶爲三法塵分二別影事一。〔晁補之、次三韻錢濟明贈二感慈長老一詩〕云何別二影事一、未レ免レ依二緣氣一。〔范成大、詩〕有爲皆影事、無念卽生涯。

【影兒】28 ying³ êrh かげ。〔紅樓夢、六回〕我如何連影兒也不知道。

【影質】29エイシツ 學問を教授するのにこつそり受取る禮物。〔北史、徐遵明傳〕遵明講二學於外一、二十餘年、海內莫レ不二宗仰一、頗好二聚斂一、與二劉獻之・張吾貴一、皆河北聚レ徒教授、懸納絲粟、留二衣物一以待レ之、名曰二影質一、有レ損二儒者之風一。

【影射】30エイシャ ❶姿をくらます。〔琵琶記、義倉賑濟〕若還官府親查、我便影射片時。❷他人の名義を借りるなどして眩惑する。詐る。蜮が人の影を射て害を爲す義に取る。〔明律、戶律、戶役〕詭二寄出糧一影二射左役一。〔六部成語、戶部、影射、注解〕借二此事一以爲二彼事一、如二蜮之射一レ影也。

【影射照レ茶】31エイシャチャヲテラス 使用濟の茶引、卽ち茶の免許鑑札を利用して人の眼を眩まし、其の記入の數に照して茶を受取ること。〔明律、戶律、課程〕如將二已批驗截角退引一入レ山、影射照レ茶者、以レ私茶論。

【影寫】32エイシャ うつす。まねる。〔文心雕龍、通變〕暨二楚之騷文一、矩二式周人一、漢之賦頌、影二寫楚世一、魏之薦制、顧二慕漢風一、晉之辭章、瞻二望魏采一。

【影從】33エイジュウ 影が形に從ふやうにつき從ふこと。景從(**5**－**13983**‥145)に同じ。

【影書】34エイショ 書寫法の一。廓塡(**4**－**9461**‥19)に對す。響搨(**12**－**43325**‥31)を見よ。〔丹鉛錄〕六朝人尙二字學一、臨摹特盛、其曰二廓塡一者、卽今之雙鉤、曰二影書一、如二今之響搨一。

【影身】35カゲミ 影が形に添ふやうに、或る人の身に添うて離れぬ身。〔謠曲、元服曾我〕祐成の影身になり給へ。

【影神】36エイシン 影の神。〔酉陽雜俎、廣知〕道士郭采眞言、人影數至レ九、云云、又說、九影各有レ名、影神、一名二右皇一、二名二魍魎一、三名二洩節樞一、四名二尺鳧一、五名二索關一、六名二魄奴一、七名二竈囟一、一名レ図、云云、八名二亥靈胎一、九魚全食不レ辨。

【影青】37エイセイインチン 白磁の表面に僅かな青色を帶びるもの。宋代、景德鎭の燃成が有名。青白磁。

【影鈔】38エイセウ 宋元時代の舊板の書を摸寫し、點畫行欵悉く原本に據つたもの。〔書林清話、宋元刻本歷朝之貴賤〕宋元刻本、在二明時一、尙不二甚昂貴一、觀二毛扆汲古閣珍藏祕本書目所レ列之價目一、在二今日一、十倍而廉矣、中如二宋版影鈔李鼎祚周易集解十本一、價五兩。

【影石】39エイセキ 明、李嵩(**6**－**14459**‥495)の字。

【影前】40エイゼン ❶すがたのあたり。〔梁簡文帝、詠二芙蓉一詩〕影前光照耀、香裏蝶徘徊。〔唐彥謙、歲除詩〕節物杯漿外、溪山鬢影前。❷祖先の畫像・位牌などの前。

【影堂】41エイダウ ❶先人の位牌を置く所。古は士大夫は廟に祭り、庶人は寢に祭る。後世は庶人、影堂を立つ。卽ち古の寢の名殘である。趙宋の世に至り、士大夫も家廟を立てることを禁ぜられて、影堂を建つ。〔杜光庭、題二本竹觀一詩〕帝子影堂香漠漠。〔李遠、聞二明道上人逝一寄二友人一詩〕他時若更相隨去、祇是含レ酸對二影堂一。❷佛ヤウダウ 佛祖の眞影を安置する所。〔雍陶、宿二大徹禪師故院一詩〕秋磬數聲天欲レ曉、影堂斜掩一燈深。

【影談】42エイダン 小說の名。四卷。清、管世灝撰。

【影柱】43エイチュウ 日影を測る柱。景柱(**5**－**13983**‥242)を見よ。〔文子、守無〕無レ爲者卽無レ累、無レ累之人、以二天下一爲二影柱一。

【影亭】44 ying³ t'ing² 南京で送葬日に影像を祀り置く亭をいふ。

【影殿】45エイデン 廟寺の、神佛に物を供へる所。〔宋之問、遊二韶州廣界寺一詩〕影殿臨二丹壑一、香臺隱二翠霞一。

【影燈】46エイトウ 廻り燈籠。走馬燈。〔雲仙雜記、四、上元影燈〕洛陽人家、上元以二影燈多者一爲レ上。〔吳郡志〕上元影燈巧麗、他郡莫レ及、有二萬眼羅及琉璃毬者一、尤妙二天下一。〔注〕燈以二碎羅紅白一間砌、多至二萬眼一、琉璃毬燈、每二一隙一映二成一花一。〔廣德神異錄〕唐明皇、於二正月望夜一、上陽宮大陳二影燈一、設二庭燎一、自二禁門一望二殿門一、設二臘炬一、熒煌如レ晝。〔委巷叢談〕有二五色蠟紙菩提葉者一、若二沙戲影燈一、人物旋轉如レ飛。

【影庇】47エイヒ かばふ。おかげ。影は蔭。庇護。〔舊五代史、唐明宗紀四〕兼二有富戶一、或投二名于勢要一、以求二影庇一。〔冊府元龜〕投二名於勢要一、以求二影庇一。

【影靡】48エイビ 光が走る。光が飛ぶ。〔王褒、聖主得二賢臣一頌〕縱騁馳騖、忽如二影靡一。

【影附】49エイフ 影が形に附くやうに附き從ふ。〔風俗通、十反〕四方影附。〔蔡邕、郭泰碑文〕望二形表一而影附。〔魏志、辛毗傳〕衆皆影附。

【影表】50エイヘウ 日影を測る柱。影柱。日時計。〔文獻通考、樂考、度量衡、審度〕蕭吉云、出爲二司馬一、法三梁朝刻二其度於影表一、以測レ影、按、此卽奉朝請祖暅所二算造一銅圭影表者也。

【影壁】51エイヘキ ❶壁塑の一種。宋の郭熙が唐の楊惠之の製作した壁塑を見、新工夫を凝して創始したもので、泥を手で壁に盛り上げ、山水に髣髴たる狀景を表現したもの。壁塑とは、壁面に人物・山水等の形を盛り上げて作つたもので、壁畫と塑像とを合成したやうなもの。〔升庵外集、

九、影壁〕楊惠之塑佛壁爲㆓天下第一㆒、郭熙見㆑之、又出㆓新意㆒、遂令㆓圬者不㆑泥㆑掌、以㆑手搶㆑泥、或凹或凸、乾則以㆑墨隨㆓其形跡㆒、暈㆓成峯巒林谷㆒、加㆓之樓閣人物㆒、宛然天成、謂㆓之影壁㆒、今衙門屛墻、亦曰㆓影壁㆒。❷門の入口に立てる墻壁。

【影片】52 ying^3 p'ien^4 ❶寫眞。❷活動寫眞のフイルム。

【影摹】53 ying^3 mo^2 圖樣などの上に紙をあてて摸寫すること。

【影木】54（エイボク） 木の名。〔拾遺記、十、瀛洲〕瀛洲有㆑樹、名影木、日中視㆑之如㆓列星㆒、萬歲一實、實如㆑瓜、青皮黑瓤、食㆑之骨輕。

【影本】55（エイホン） ❶石ずり。搨本。❷寫眞版をいふ。影印本。

【影面】56（カゲトモ） 「かげつおも」の約。背面（ソトモ）の對。影は日光。❶日光に向ふ面。南の面。南方。❷山の南。〔日本書紀、成務紀〕山陽曰㆓影面㆒、山陰曰㆓背面㆒。❸影面道の略。

【影面道】57（カゲトモノミチ） 山陽道の古稱。〔北山抄、三〕山陽道、加介止毛乃道。

【影面大御門】58（カゲトモノオホミカド） 大内裡の南門。

【影和】59（エイワ） 影の如く和する。影が形に付從ふやうに互に相和すること。〔唐書、李珏傳〕一㆓好惡㆒相影和、朋黨益熾矣。

【局㆑影】60（カゲヲセグクム） 影をかがめちぢめること。恐懼するさま。〔南史、江淹傳〕日者謬得㆘升㆓降承明之闕㆒、出㆗入金華之殿㆖、何嘗不㆘局㆓影凝嚴㆒、側㆗身局禁㆖者乎。〔李邕、淄州刺史謝上表〕撫㆑事捫㆑躬、慙㆑魂局㆑影。

【摶㆑影】61（カゲヲウツ） 影法師を摶つ。力を勞しても獲る所の無い喩。〔管子、兵法〕善者之爲㆑兵也、使㆓敵若㆑據㆑虛若㆑摶㆑景。〔纂詁〕摶㆑景、無㆑所㆑獲也。〔漢書、主父偃傳〕匈奴獸聚而鳥散、從㆑之如㆑摶㆑影。

【閉㆑影】62（カゲヲトザス） 外出しないことをいふ。〔南史、陶弘景傳〕除㆓奉朝請㆒、雖㆑在㆓朱門㆒、閉㆑影不㆑交㆓外物㆒。

【捕㆑影】63（カゲヲトラフ） 影法師をつかまへる。取り止めが無くあてにならぬ、荒誕無稽で捕捉し難い等の喩。雲をつかむ。風を繫ぐ。〔谷永、論㆓神怪㆒文〕求㆑之盪盪、如㆓繫㆑風捕㆑影、終不㆑可㆑得。

【影香窗】64（エイカウサウ） 清、許良臣(**10−35298‥397**)の室名。

【影日向】65（カゲヒナタ） 日光のさす部分とささぬ部分。轉じて、場合によつて其の行動を異にすること。〔唐船噺今國性爺、上〕憂い辛い毎日の役目に影日向なう勤めた人。

【影人形】66（カゲニンギヤウ） ❶かげゑ。影繪。❷裏面に在つて人をあやつり、又は助ける者。

【影人兒】67 ying^3 jen^2 êrh 影人形。

【影梅菴】68（エイバイアン） 清、冒襄(**2−1538‥36**)の號。

【影武者】69（カゲムシヤ） ❶敵を欺くため、主將などと同じ裝束をした武者。❷裏面に在つて指圖する者。

【影法師】70（カゲボフシ） ❶うつしゑ。影繪。❷人の影の障子や地上などに寫つたもの。

【慙㆓于影㆒】71（カゲニハヅ） 影を見てはぢ、身を謹むこと。〔淮南子、脩務訓〕吾日悠悠、慙㆓于影㆒。

【影影綽綽】72 ying^2 ying^3 ch'uo^4 ch'uo 見え隱れに。隱れ隱れに。

【影駭響震】73（エイガイキヤウシン） かげを見ておどろき、ひびきを聞いてふるへる。一寸したものに驚く。風聲鶴唳に驚く。薄（ススキ）の穗におぢる。〔班固、答賓戲〕使㆓見㆑之者影駭、聞㆑之者響震㆒。

【影山草堂】74（エイザンサウダウ） 清、莫友芝(**9−31078‥94**)の室名。

【影迹無㆑端】75（エイセキタンナシ） 影も足迹もなく、一つとして尋ぬべき手がかりのないこと。〔宋書、謝靈運傳〕今影迹無㆑端、假謗空設、終古之酷、未㆓之或有㆒。

【影不㆑離㆑身】76（カゲミヲハナレズ） 影は身を離れない。畏㆑影惡㆑迹を見よ。

【畏㆑影惡㆑迹】77（カゲヲオソレアトヲニクム） 影を畏れ、迹を惡み、之を去らうとして疾走し、遂に死に至つたといふ莊子に見える寓話。神心を靜にして其の天眞を養ふことを知らないで徒らに惡む喩。〔莊子、漁父〕甚矣、子之難㆑悟也、人有㆓畏㆑影惡㆑迹、而去㆑之走者㆒、擧㆑足愈數而迹愈多、走愈疾而影不㆑離㆑身、自以爲㆓尙遲㆒、疾走不㆑休、絕㆑力而死、不㆑知㆓處㆑陰以休㆑影、處㆑靜以息㆑迹、愚亦甚矣。〔枚乘、上書諫㆓吳王㆒書〕人性有㆘畏㆓其景㆒而惡㆓其迹㆒者㆖、郤背而走、迹逾多、景逾疾、不㆑知㆓就㆑陰而止、景滅迹絕㆒。

【如㆓影隨㆒㆑形】78（カゲノカタチニシタガフガゴトシ） 影が常に形につき從ふやうに、常に相隨つて離れぬ喩。又、影が形そのままをうつすやうに、順應してそむかぬ喩。〔列子、說符〕形枉則影曲、形直則影正、然則枉直隨㆑形而不㆑在㆑影。〔管子、任法〕然故下之事㆑上也、如㆓響之應㆒㆑聲也、臣之事㆑主也、如㆓影之從㆒㆑形也、故上令而下應、主行而臣從、此治之道也。〔法句經〕福樂角追、如㆓影隨㆒㆑形。

【吹㆑影鏤㆑塵】79（カゲヲフキチリニチリバム） 影を吹き出し、塵にほりきざむ。あとかたが見えぬ。とりとめのない喩。〔關尹子、一宇〕言㆑之如㆑吹㆑影、思㆑之如㆑鏤㆑塵、聖智造㆑迷、鬼神不㆑識、云云、故曰㆑天、曰㆑命、曰㆑神、曰㆑玄、合曰㆑道

【對㆑影成㆓三人㆒】80（カゲニタイシテサンニントナル） 自分と自分の影と月とで三人になることをいふ。〔李白、月下獨酌詩〕花下一壺酒、獨酌無㆓相親㆒、擧㆑盃邀㆓明月㆒、對㆑影成㆓三人㆒。

【履㆑影弔㆑心】81（カゲヲフンデココロヲトムラフ） 自分の影を履んで心をなぐさめる。自分の影を相手にして獨り心を慰める。患難にゐて助ける者の無い喩。〔南史、江淹傳〕迹墜㆓昭憲㆒、身限㆓幽圄㆒、履㆑影弔㆑心、酸鼻痛骨。

【影入㆓春潭㆒碧】82（カゲハシユンタンニイリテミドリナリ） 春の暮方に山影が碧水に映じた景色を詠じた句。〔宋之問、初至㆓崖口㆒詩〕崖口衆山斷、嶔崟聳㆓天壁㆒、氣衝㆓落日㆒紅、影入㆓春潭㆒碧。

【影不㆓與㆑形相依㆒】83（カゲハカタチトアヒヨラズ） 影と形とが相依り相從はない。兩人各〻相離れて居ること。〔韓愈、祭㆓十二郎㆒文〕生而影不㆘與㆓吾形㆒相依㆖、死而魂不㆘與㆓吾夢㆒相接㆖。

【⿰彡景】10020 エイ 影(**4−10019**)に同じ。〔集韻〕影、或書作㆑⿰彡景。

【⿰彡尋】10021 ジン 尋(**4−7447**)に同じ。〔正字通〕⿰彡尋、同㆑尋。

【⿰酋彡】10022 ㊀ソウ 〔集韻〕七曾切 蒸 ㊁シヨウ ソウ 〔集韻〕七孕切 徑

㊀㊁**毛がたつ。**〔玉篇〕⿰酋彡、毛張也。〔集韻〕⿰酋彡、毛張皃。

【⿰扁彡】10023 ヘン 變(**10−36117**)に同じ。〔集韻〕變、或作㆑⿰扁彡。

【⿰口彪】10024 ヒウ ヒユ 〔字彙補〕彼休切 尤

まだら。虎の皮のあや。〔字彙補〕⿰口彪、虎文也。

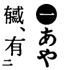
【⿱𠂉㣎】10025 ボク 㣎(**4−9990**)に同じ。〔龍龕手鑑〕⿱𠂉㣎、同㆑㣎。

十三畫

【⿰⿱𠂊米彡】10026 サン 〔集韻〕倉案切 翰

文彩のさかんなさま。〔集韻〕⿰⿱𠂊米彡、文彩盛皃。

【⿰有彧】10027 ヰク 〔集韻〕乙六切 ㄩˋ yü^4 屋


小篆

❶**あや。あやあるさま。**〔說文〕⿰有彧、有㆓彣彰㆒也、从㆑有彧聲。❷或は彧(**4−9983**)に作り、通じて郁(**11−39371**)に作る。〔說文、⿰有彧、段注〕⿰有彧、古多叚㆓彧字㆒爲㆑之、或者彧之隷變、今本論語、郁郁

平文戜、古多作二戜戜一。〔集韻〕戫、或作レ戜、通作レ郁。

【戫汩】1（キクイツ）　はやいさま。〔後漢書、張衡傳〕戫汩飂戾、沛以罔象兮、爛漫麗靡藐以迭逷。〔注〕疾貌。

【⿰毛徙】10028　シ　〔篇海類編〕所綺切　紙

❶**毛がたれる。**〔篇海類編〕⿰毛徙、毛垂也。❷徙（4-10142）に同じ。〔字彙補〕⿰毛徙、同レ徙。

【⿰尌彡】10029　ジユ　樹（6-15496）に同じ。〔韻會〕⿰尌彡、樹字、見二鐘鼎文一。

【⿰歲彡】10030　セイ　義未詳。〔字彙補〕⿰歲彡、音歲。

十四畫

【⿰禡彡】10031　バ　禡（8-24799）の古字。〔字彙補〕⿰禡彡、古文禡字。

十五畫

【⿰景彡】10032　ヘウ　影（4-10014）の本字。〔正字通〕⿰景彡、影本字。

十七畫

【⿱髟旨】10033　ホウ　鬐（12-45473）に同じ。〔五音篇海〕⿱髟旨、同レ鬐。

【⿰色彡】10034　シヨク　色（9-30602）の古字。〔說文〕色、⿰色彡古文。

十九畫

【彲】10035　チ　〔集韻〕抽知切　彳　ch'ih^1　支

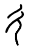
みづち。龍の類。螭（10-33494）に同じ。〔集韻〕螭、說文、若レ龍而黃、北方謂二之地螻一、或作レ彲。〔史記、齊世家〕非レ龍非レ彲、非レ虎非レ羆。〔注〕索隱曰、彲、本亦作レ螭。

【彨】10036　ヒン　〔海篇〕音彬

あやのさかんなさま。〔海篇〕彨、文盛貌。

彳部

【彳】10037　㊀テキ　チヤク　〔集韻〕丑亦切　彳　ch'ih^4　陌　㊁ホク　〔集韻〕甫玉切　沃


小篆

㊀❶**すこしすすむ。**〔說文〕彳、小步也、象二人脛三屬相連一也。〔潘岳、射雉賦〕彳亍中輟。〔注〕銑曰、彳亍、行貌。❷**たたずむ。**たちもとほる。〔潘岳、射雉賦〕彳亍中輟。〔注〕爰曰、彳亍、止貌。❸**左足をすすめる。**〔六書故〕彳、行之左、象二人之左足一、右象二人之右足一。〔字彙〕彳、左步爲レ彳。❹また、蹢（10-37821）・躑（10-37963）に作る。〔六書本義〕彳、字亦作レ蹢作レ躑。❺注音符號の聲符の一。舌葉音。發音法は出と同じであるが、氣息を烈しく外洩せしめる必要がある。チ。ch'ih。正形は彳。㊁**足もとがそろふ。**〔集韻〕彳、足下齊。

邦**ぎやうにんべん。**漢字の左扁。

解字　象形。彳は脚の形にかたどり、股と脛と足とをあらはし、歩きはじめることを意味する。〔說文、彳、段注〕三屬者、上爲レ股、中爲レ脛、下爲レ足也、單擧レ脛者、擧レ中以該二上下一、脛動而股與レ足隨レ之。

【彳亍】1（テキチヨク）　たたずむ。小歩する。〔正字通〕亍、一說、左步爲レ彳、右步爲レ亍、合則爲レ行、凡行者、彳先、亍必隨レ之。〔潘岳、射雉賦〕彳亍中輟。〔注〕爰曰、彳亍、止皃也、銑曰、彳亍、行皃。〔柳宗元、答二周君巢一書〕彳亍而無レ所レ趨。

一畫

【⿰彳乚】10038　ケウ　⿰彳丩（4-10039）に同じ。〔篇海類編〕⿰彳乚、同レ⿰彳丩。

二畫

【⿰彳丩】10039　ケウ　ゲウ　〔玉篇〕巨小切　篠

行くさま。〔玉篇〕⿰彳丩、行皃。

【⿰彳丁】10040　テイ　チヤウ　〔集韻〕當經切　ㄉㄧㄥ　ting^1　青

❶**獨り行くさま。**⿰⻊丁（10-37368）に同じ。〔集韻〕⿰⻊丁、跉⿰⻊丁、獨行、或从レ彳。❷亍（1-351）に通ず。〔正字通〕⿰彳丁、伶⿰彳丁、亦作二伶亍一。

【⿰彳巳】10041　ハン　犯（7-20238）の古字。〔玉篇〕⿰彳巳、古文犯。

三畫

【⿰彳弋】10042　ヨク　イキ　〔集韻〕逸職切　職

ゆく。〔集韻〕⿰彳弋、行也。

【彴】10043　㊀シヤク　〔集韻〕職略切　ㄓㄨㄛˊ　chuo^2　藥　㊁テキ　チヤク　〔集韻〕亭歷切　錫　㊂ハク　バク　〔集韻〕弼角切　覺　㊃ハク　バク　〔集韻〕白各切　藥　㊄シヤク　ジヤク　〔集韻〕實若切　藥

㊀㊁❶**まるきばし。**一本ばし。〔廣雅、釋室〕彴、獨梁也。〔廣韻〕彴、橫レ木渡レ水也。〔蘇軾、同二王勝之一游二蔣山一詩〕略彴橫二秋水一。❷**とびいし。**山間の溪流を渡渉する足がかり。〔玉篇〕彴、徛渡也。〔爾雅、釋宮、石杠謂二之徛一、注〕聚二石水中一、以爲二步渡彴一也。〔唐書、諸公主、中宗八女傳〕隥彴橫邪、回淵九折。㊂㊃㊄❶**流れぼし。よばひぼし。**彴約。〔爾雅、釋天〕奔星爲二彴約一。〔注〕奔星、卽流星。❷或は仢（1-385）に作る。〔集韻〕彴、或作レ仢。〔雷浚、說文外編〕玉篇人部、仢、爾雅曰、奔星爲二仢約一、卽流星也、彳部、彴、徛渡也、廣韻十八藥、彴、彴約、流星、彴、橫レ木渡レ水、皆分二仢・彴一爲二二字一、獨集韻四覺・十八藥、皆以二仢・彴一爲二一字一、集韻是也。

【彵】10044　タ　〔玉篇〕他可切　哿

しづかにゆく。〔玉篇〕彵、安行也。

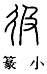
【㣌】10045 クヮン グヮン 〔龍龕手鑑〕戸官切 寒

道にまよふさま。儹㣌。〔龍龕手鑑〕㣌、儹㣌、失レ途皃。

四畫

【㣋】10046 ト 徒(4-10121)に同じ。〔字彙補〕㣋、同レ徒。

【彶】10047 キフ コフ 〔集韻〕訖立切 緝


小篆

❶**急いで行く**。あわただしい。〔說文〕彶、急行也、从レ彳及聲。〔段注〕急・彶、疊韻、凡用二汲汲一者、乃彶彶之叚借也。〔廣韻〕彶、遽也。❷或は圾に作る。〔集韻〕彶、或从レ去。

【彶彶】1 キフキフ あわただしい。〔廣雅、釋訓〕彶彶・偟偟、勮也。

【㣍】10048 ケイ 〔玉篇〕古禮切 薺

ゆく。〔玉篇〕㣍、行也。

【㣎】10049 ジユウ 從(4-10152)に同じ。〔玉篇〕㣎、同レ從。

【㣏】10050 グヮン 〔玉篇〕五丸切 寒

道にまよふさま。儹㣏。〔玉篇〕㣏、儹㣏、失レ途也。

【㣐】10051 🈩ダフ ナフ 〔集韻〕諾盍切 合 🈔タイ

🈩**ゆくさま**。䟜(10-37404)に同じ。〔集韻〕䟜、行皃、或从レ彳。🈔復(4-10122)に同じ。〔說文〕復、㣐、復或从レ内。

【彷】10052 🈩ハウ バウ 〔集韻〕蒲光切 ㄆㄤˊ p'ang² 陽 🈔ハウ 〔廣韻〕妃兩切 ㄈㄤˇ fang³ 養

🈩❶**さまよふ**。ゆきつもどりつする。たちもとほる。〔玉篇〕彷、彷徨也。〔集韻〕彷、彷徉、徘徊也。〔莊子、逍遙遊〕彷徨乎無レ爲二其側一。〔史記、吳王濞傳〕彷二徉天下一。❷**蟲の名**。彷徨(1)の❷を見よ。❸或は方(5-13620)に作る。〔集韻〕彷、或作レ方。〔莊子、逍遙遊、釋文〕彷徨、崔本作二方羊一。❹旁(5-13637)に通ず。〔莊子、天運〕有二上彷徨一。〔釋文〕彷徨、司馬本作二旁皇一。❺房(5-11714)に通ず。〔莊子、達生〕彷二徨乎塵垢之外一。〔釋文〕彷徨、元嘉本作二房皇一。❻徬(4-10200)に通ず。〔莊子、知北遊〕彷二徨乎馮閎一。〔釋文〕彷、本亦作レ徬。❼**そこなふ**。妨(3-6111)に同じ。〔集韻〕妨、說文、害也、或作レ彷。🈔❶**にかよふ**。**ほのか**。しかとさだめがたい。〔廣韻〕彷、彷佛。❷仿(1-420)に通ず。〔正字通〕彷、與レ仿通、彷佛、亦作二仿佛一。❸髣(12-45371)に通ず。〔正字通〕彷、別作二彷佛・髣髴一。

名乘 ユキ。ヤス。

參考 熟語は仿(1-420)を併せ見よ。

【彷徨】1 ハウクヮウ ❶ゆきつもどりつする。たちもとほる。さまよふ。彷徨。方皇。徬徨。〔莊子、逍遙遊〕彷徨乎無レ爲二其側一、逍遙乎寢二臥其下一。〔釋文〕彷徨、猶二翱翔一也、崔本作二方羊一、簡文同、廣雅云、彷徉、徙倚也。〔疏〕彷徨、縱任之名。〔莊子、大宗師〕芒然彷二徨乎塵垢之外一、逍二遙乎无爲之業一。〔戰國、魏策上〕楚王登二強臺一而望二崩山一、左レ江而右レ湖、以臨彷徨、其樂忘レ死。〔史記、刺客傳〕彷徨不レ能レ去。❷蟲の名。蛇に似、兩頭で、五采の模樣がある。〔莊子、達生〕野有二彷徨一、澤有二委蛇一。〔釋文〕司馬云、方皇、狀如レ蛇、兩頭、五采文。

【彷徨訪問音塵不レ接】2 ハウクヮウハウモンスレドモオンヂンセツセズ あちらこちら尋ねまはつたが少しも樣子がわからない。〔黃宗羲、萬里尋レ見記〕府君遂至二道州一、彷徨訪問音塵不レ接。

【彷佛】3 ハウフツ ぼんやりとして明かでないさま。かすかなさま。又、さも似たり。仿佛(1-420・・12)を見よ。髣髴。〔說文解字羣經正字〕彷彿、經典從レ俗作二彷佛一、禮記祭義鄭注言、想二見其彷佛來一、是也。〔賈誼、旱雲賦〕時彷佛而有レ似。〔揚雄、甘泉賦〕雖レ方三征僑與二偓佺一兮、猶彷佛其若レ夢。〔注〕善曰、說文曰、彷佛、相似視不レ諟也。〔傅毅、舞賦〕彷佛神動、廻翔竦峙。〔注〕善曰、說文曰、彷佛、見不レ審也。

【彷佯】4 ハウヤウ 彷徉に同じ。〔魏志、管輅傳〕君夜在二堂戶前一、有下一流光、如二燕爵一者上、入二君懷中一、殷殷有レ聲、內神不レ安、解レ衣彷佯、招二呼婦人一、覓二索餘光一。

【彷徉】5 ハウヤウ ゆきつもどりつする。たちもとほる。ぶらぶらあるく。方羊。徜徉。逍遙。徘徊。仿佯(1-420・・13)を見よ。〔楚辭、宋玉、招魂〕彷徉無レ所レ倚、廣大無レ所レ極些。〔補注〕廣雅云、彷徉、徙倚也。〔史記、吳王濞傳〕隨二大王後車一、彷二徉天下一。〔說苑、建本〕彷二徉乎塵埃之外一。

【㣑】10053 シユン 徇(4-10091)の本字。〔正字通〕㣑、徇本字。

【彸】10054 シヨウ シユ 〔集韻〕諸容切 ㄓㄨㄥ chung¹ 冬

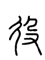
❶**あわててゆくさま**。〔廣韻〕彸、征彸、行皃。〔韻會〕彸、征彸、行遽。❷**おそれあわてるさま**。〔集韻〕彸、征彸、怖遽皃。〔王褒、四子講德論〕百姓征彸、無レ所レ措二其手足一。❸忪(4-10367)に通ず。〔一切經音義、十三〕忪、古文彸、同。

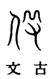
名乘 ユキ。

【㣒】10055 ヘン 返(11-38758)に同じ。〔說文〕返、㣒、春秋傳、返从レ彳。

【㣓】10056 シ 徙(4-10142)に同じ。〔說文〕徙、㣓、徙或从レ彳。

【役】10057 エキ ヤク 〔集韻〕營隻切 ㄧˋ i⁴ 陌


小篆


古文

❶**さきもり**。まもり。國境の守備。〔說文〕役、戍也、从二殳彳一。〔說文通訓定聲〕役、會意、執レ殳巡行也。〔詩、小雅、杕杜序〕勞二還役一也。〔鄭注〕役、戍役也。❷**いくさ**。たたかひ。〔戰國、秦策〕宜陽之役。〔注〕役、事也。❸**兵士**。戍卒。〔詩、小雅、漸漸之石序〕役久病在レ外。〔鄭注〕役、士卒也。〔國語、吳語〕寡人帥二不腆吳國之役一。〔注〕役、兵也。❹**えだち**。人民に課する勞役。徭役。又、其の勞役に從事する者。〔正字通〕役、徭役。〔左氏、襄、十二〕以二其役邑一入者。〔疏〕役、謂レ共二官力役一、則今之丁也。❺**つとめ**。官職。〔字彙〕役、官曰レ職、吏曰レ役。〔謝靈運、鄰里相二送方山一詩〕祗レ役出二皇邑一。〔注〕善曰、役、所レ莅之職也。❻**しごと**。〔周禮、地官、小司徒〕以作二田役一。〔注〕

役、功力之事。〔荀子、脩身〕程役而不レ錄。〔注〕役、勞役。〔呂覽、貴生〕生之役也。〔注〕役、事也。㊆**めしつかひ**。こもの。〔廣雅、釋詁一〕役、使也。〔公羊、宣、十二〕斷役扈養。〔注〕汲二水漿一者曰レ役。㊇**つかふ**。〔周禮、春官、典祀〕徵二役于司隸一而役レ之。〔注〕役レ之、作二使之一。〔淮南子、本經訓〕乘レ時應レ勢、以服二役人心一也。〔注〕役、使也。㊈**つかへる**。つかはれる。たすける。〔廣雅、釋詁二〕役、助也。〔周禮、春官、華氏〕遂役レ之。〔注〕役レ之、使二助之一。〔周禮、春官、瞽矇〕以役二大師一。〔注〕役、爲レ之使。㊉**なす**。いとなむ。つとめる。〔廣雅、釋詁三〕役、爲也。〔禮、表記〕君子恭儉、以求レ役レ仁。〔注〕役之言、爲也。〔左氏、成、二〕以役二王命一。〔注〕役、事也。〔國語、周語中〕以役二上令一。〔注〕役、爲也。〔國語、鄭語〕正二七體一以役レ心。〔注〕役、營也。⑪**なかま**。學徒。門弟。〔莊子、庚桑楚〕老子之役。〔釋文〕司馬云、役、學徒弟子。⑫**いやしい**。〔楚辭、大招〕不レ歡レ役只。〔注〕役、賤也。⑬**つらなる**。〔詩、大雅、生民〕禾役穟穟。〔傳〕役、列也。⑭穎（**8－25267**）に通ず。〔詩、大雅、生民〕禾役穟穟。〔說文〕穎、禾穎穟穟。⑮古は伇（**1－627**）に作る。〔集韻〕役、古作レ伇。⑯或は役（**1－429**）に作る。〔集韻〕役、隸省。邦㊀**やく**。㋑芝居で俳優が受持つやくめ。藝のうけもち。㋺おもだつた者といふ意を表はす接尾語。三役・顏役の類。㊁**あふせ**。姓。

名乘 ユキ。ツラ。

解字 會意。彳と殳（ほこ）との合字。殳を執つて邊陲を戍る義。彳は巡行の意。古文が人に從ふは、人の殳を執つて巡行する意に據る。〔說文、役、段注〕彳、取二巡行之意一。

【役員】1 ヤクヰン 或る役に當る人。一定の役を擔當する人。

【役要】2 エキエウ 徭役に遣はされた民族の數。又、役徒に關することを記した帳簿。〔周禮、地官、鄉師〕大役、則帥二民徒一而至、治二其政令一、既役、受二州里之役要一、以攷二司空之辟一、以逆二其役事一。〔注〕役要、所レ遣民徒之數。〔疏〕役要、則役人簿要。〔孫詒讓正義〕大司馬云、大役屬二其植一、受二其要一、注云、要、簿書也、卽此所謂役要。

【役役】3 エキエキ ㊀物事を經營苦心するさま。勞役して休まぬさま。勞勞。〔莊子、齊物論〕終身役役、而不レ見二其成功一。〔白居易、閉關詩〕役二役塵壤閒一。㊁輕薄でずるいさま。〔莊子、胠篋〕舍二夫種種之民一、而悅二夫役役之佞一。〔成玄英疏〕役役、輕黠之貌。〔釋文〕役役、李云、鬼黠貌、一云、有レ爲人也。

【役賀】4 マタガ 姓氏。〔姓林全書〕。

【役割】5 ヤクワリ 役をそれぞれ割りつけること。又、割りあてられた役。〔八笑人、四下〕定九郎と勘平のしてばかりあつて、役割がめんだうだ。

【役儀】6 ヤクギ ㊀役目。つとめ。職掌。〔傾城島原蛙合戰、一〕役儀に不念も有るまじ。㊁租稅。〔諏訪古文書〕役儀者粟佐起高ほど、新田より御申付け。

【役鳩】7 エキキウ 鳩の子をいふ。〔本草、斑鳩〕釋名、時珍曰、鳩之子曰二鵓鳩一、曰二役鳩一、曰二糠鳩一、曰二郎皐一、曰二辟皐一。

【役金】8 ヤクキン 江戶幕府で、遠國奉行などに對し金祿を以て支給した職俸。〔德川禁令考、十八〕別紙之通、役金被レ下候旨被二仰出一候事。

【役差】9 i^4 $\mathrm{ch'ai}^1$ 役人。小吏。

【役作】10 エキサク 徵發して政府の土木事業に使ふこと。ぶやく。えだち。〔詩、小雅、十月之交〕胡爲我作、〔箋〕女何爲役二作我一。〔周禮、地官、鄉師〕受二州里之役要一。〔疏〕司空、主二役作一。〔六韜、文韜、盈虛〕不下以二役作之故一、害中民之耕織之時上。

【役數】11 エキサク 工役がたびかさなることをいふ。〔皇甫憬、諫レ不レ置二勸農判官一疏〕無益之事繁、則不急之務重、務重則役數、役數則人疲、人疲則無レ聊レ生矣。

【役志】12 エキシ 心を勞する。心をつかふ。〔書、洛誥〕惟不レ役二志于享一、凡民惟曰二不享一。〔蔡傳〕諸侯惟不レ用二志於享一、則國人化レ之、云云。

【役使】13 エキシ めしつかふ。命令して使ふ。又、其の使はれるもの。使役。〔管子、輕重丁〕故智者役二使鬼神一、而愚者信レ之。〔史記、禮書〕役二使羣衆一。〔漢書、王子侯表下〕坐三役二使附落一免。〔注〕師古曰、有二聚落來附者一、輒役二使之一、非二法制一也。〔後漢書、高獲傳〕獲素善二天文一曉二遁甲一、能役二使鬼神一。

【役事】14 エキジ えだちの仕事。工役。〔周禮、地官、鄉師〕以攷二司空之辟一、以逆二其役事一。

【役車】15 エキシヤ 上に四角の箱を附けて物を載せる庶民の車。だいはちぐるま。〔詩、唐風、蟋蟀〕蟋蟀在レ堂、役車其休。〔箋〕庶人乘二役車一。〔周禮、春官、巾車〕大夫乘二墨車一、士乘二棧車一、庶人乘二役車一。〔注〕役車、方箱、可下載二任器一以共上レ役。〔疏〕庶人以二力役一爲レ事、故名レ車爲二役車一。

【役者】16 ヤクシヤ ㊀戲藝を演ずる賤者。〔唐國史補、中〕元和初、洪崖治有二役者一、將二化爲一レ虎。㊁役目に當る人。役人。〔東鑑、五〕文治元年十二月二十三日、可二言上一事、用二役者竝書狀一。㊂芝居で藝を演ずるもの。わざをぎ。河原者。俳優。技藝員。〔好色一代男、一〕男ふりのよき役者を太鼓持にして。

【役所】17 エキシヨ ㊀政府の土木工事をなす所。〔宋史、王能傳〕旦暮不レ離二役所一。㊁ヤクシヨ 役人が事務を執る所。官署。官衙。官廳。役場。〔侍所沙汰篇〕寄二役所一致二自由合戰一事。〔東鑑、五十〕弘長元年二月二十五日、早馬、云云、煩二役所一。

【役食】18 エキシヨク 役所で人夫に給する給金。〔清會典事例、戶部、俸餉、官役工食〕道光元年議准、雲南省添二設文山縣・江那縣丞一、門子一名、皁隸四名、民壯四名、馬夫一名、歲支工食銀六十兩。

【役心】19 エキシン 心をつかふ。〔成公綏、嘯賦〕近取二諸身一、役レ心御レ氣。

【役臣】20 エキシン 使はれる臣下。〔孔子家語、屈節解〕東海役臣勾踐使者臣種。

【役人】21 エキジン ㊀工役に從ふ人夫。〔左氏、僖、十六〕城レ鄫、役人病。㊁役目ある人。〔列子、黃帝〕周宣王之牧正、有二役人梁鴦者一。㊂ヤクニン 官職・公務を帶びる人。官公吏。〔大內家壁書〕彼盜物之事、預二置其所之役人一、可二批判一。

【役政】22 エキセイ 役は、田獵（かり）や役作（土木工事）など。政は、州射（州長の主宰する射禮）や黨正の主宰する飮酒の禮など。〔周禮、地官、閭胥〕凡春秋之祭祀・役政・喪紀之數。〔注〕役、田役也、政、若二州射・黨飮酒一也。

【役前】23 エキゼン ㊀戰爭の前。役は戰役。〔左氏、僖二十八、嚮レ役之三月、會箋〕嚮レ役之三月、猶レ曰二役前三月一。㊁ヤクマヘ 自分の取扱ふ役。

【役送】24 ヤクソウ ㊀神に供物、天皇の供御、或は大饗・節會等の場合の膳部を、陪膳に取次ぐこと。又、其の役。益送。役供。〔禁祕抄、御膳〕役送、四位五位六位隨候、近代漸絕、陪膳、上﨟四位、候二役送一常事也。㊁元服の時、冠具を運び送る役。〔冠儀淺寡抄、六〕役送、謂下運二送冠具一一人上、五位殿上人・院殿上人、或又諸大夫、及地下官人等、各二人、從二此役一。

【役僧】25 ヤクソウ 寺の事務を取扱ふ僧侶。

【役屬】26 エキゾク したがふ。手下（テシタ）としてつかへる。〔史記、南越尉佗傳〕以二兵威邊財物一賂二遺閩越・西甌駱一、役屬焉。〔漢書、南粵傳〕財物賂二遺閩粵・西甌駱一、役屬焉。〔後漢書、馬援傳〕遂役屬數百家。〔唐書、西域上、焉耆國傳〕焉耆國、云云、常役二屬西突厥一。

【役卒】27 エキソツ 手下につかはれるもの。人夫。役「丁（31）」に同じ。

【役替】28 ヤクガヘ 役をかへること。役職を轉ずること。〔玉露叢、十五〕役替仰付けらるる面面。

【役宅】29 ヤクタク おかみが役人を住ませるために建てた住宅。官舍。〔職掌錄〕町奉行御役宅、數寄屋橋御門內。

【役場】30 ヤクバ ㊀役所（17）の㊁に同じ。主として町村の役所にいふ。㊁公證人・執達吏などが事務を執る所。

【役丁】31 エキテイ 官役に使はれる者。にんそく。人夫。役夫。役卒。〔野客叢書、十一〕丁晉公治レ第、楊景宗爲督二役丁一。

【役調】32 エキテウ 民を公用に使役することと租稅をとりたてること。〔蜀志、趙雲傳、注〕益州人民、

初罹㆓兵革㆒、田宅皆可㆓歸還㆒、令㆓安ㇾ居復ㇾ業、然後可㆓役調㆒、得㆓其歡心㆒。

【役徒】33 エキト　人夫をいふ。役丁。役夫。〔左氏、桓、十二〕明日、絞人爭出、驅㆓楚役徒於山中㆒。〔左氏、襄、十八〕甚雨及ㇾ之、楚師多凍、役徒幾盡。

【役得】34 ヤクトク　其の役目についてゐるために得られる餘分の利得。

【役費】35 エキヒ　戰役に要する費用。〔後漢書、郅壽傳〕憲征㆓匈奴㆒、海內供㆓其役費㆒。〔魏志、明帝叡紀〕四萬兵多、役費難ㇾ供。

【役夫】36 エキフ　❶人に使はれる者。使用人。にんそく。役丁。〔荀子、王霸〕縣㆓天下㆒一㆓四海㆒、何故必自爲ㇾ之、爲ㇾ之者、役夫之道也。〔列子、周穆王〕尹氏聞㆓其友言㆒、寬㆓其役夫之程㆒、減㆓己思慮之事㆒。〔管子、輕重己〕處ㇾ里爲㆓下陳㆒、處ㇾ師爲㆓下通㆒、謂㆓之役夫㆒。〔後漢書、劉陶傳〕誠恐、卒有㆓役夫窮匠㆒、起㆓於板築之閒㆒。〔注〕役夫、謂㆓陳涉起ㇾ蘄也。❷人を賤んでいふ語。〔左氏、文、元〕呼、役夫、宜君王之欲㆓殺ㇾ女而立ㇾ職也。〔注〕呼、發聲也、役夫、賤者稱。

【役夫夢】37 エキフノユメ　晝間勞働に服する人足が夜は夢に王侯となる意で、人生の富貴榮華は、夢のやうにはかないといふ喩。〔列子、周穆王〕周之尹氏大治ㇾ產、其下趣ㇾ役者、侵㆓晨昏㆒而弗ㇾ息、有㆓老役夫㆒、筋力竭矣、而使ㇾ之彌勤、晝則呻呼而卽ㇾ事、夜則昏憊而熟寐、云云、精神荒散、昔昔夢爲㆓國君㆒、居㆓人民之上㆒、總㆓一國之事㆒、遊㆓燕宮觀㆒、恣㆓意所ㇾ欲、其樂無ㇾ比、覺則復役、人有㆘慰㆓喩其勤㆒者㆖、役夫曰、人生百年、晝夜各分、吾晝爲㆓僕虜㆒、苦則苦矣、夜爲㆓人君㆒、其樂無ㇾ比、何所ㇾ怨哉。

【役賦】38 エキフ　公事のために人民を使役することと租稅をとること。〔後漢書、荀淑傳〕寬㆓役賦㆒、安㆓黎民㆒。

【役物】39 エキブツ　物を使ふ。物を使役する。〔荀子、脩身〕君子役ㇾ物、小人役㆓於物㆒。〔注〕君子能役ㇾ物、小人爲㆓物所ㇾ役。〔漢書、刑法志〕必將㆓役ㇾ物以爲ㇾ養、任ㇾ智而不ㇾ恃ㇾ力。

【役兵】40 エキヘイ　宋代、軍制の名。邊境を守る兵卒。地方官の配下に屬する兵隊。〔玉海、兵制、慶曆兵錄〕序曰、凡軍有ㇾ四、一曰、禁兵、殿前馬步三司隸ㇾ焉、云云、二曰、廂兵、諸州隸ㇾ焉、云云、三曰、役兵、羣有司隸ㇾ焉、人知ㇾ游而惰者入ㇾ之、業壹事專處而無ㇾ更、四曰、民兵、農之健而材者籍ㇾ焉。

【役柄】41 ヤクガラ　役目の性質。職務の性質。役向。〔傾城島原蛙合戰、一〕御役がら不相應。

【役米】42 ヤクマイ　江戶幕府の中間・小者に給した祿米。〔吏徵、下〕御旗指之者、役米十五俵。

【役滿】43 エキマン　❶淸代、各衙門に出仕する書吏が滿期となり、更に詮衡を受けること。〔淸會典事例、吏部〕凡經制之吏、五年役滿則考職。❷ヤクマン（罪人の）服役期間が完了すること。〔延喜式、二十九、囚獄〕凡徒人役滿、具錄㆓役日幷作物色目㆒、申㆓道於省㆒。

【役民】44 エキミン　❶夫役に出る民。〔蘇軾、敎㆓戰守㆒〕役民之司ㇾ盜者、授以㆓擊刺之術㆒。❷民を使役する。〔馬端臨、文獻通考自序〕役ㇾ民者官也、役㆓於官㆒者民也、郡有ㇾ主、縣有ㇾ令、鄉有ㇾ長、里有ㇾ正、其位不ㇾ同、而皆役ㇾ民者也、在㆓軍旅㆒則執㆓干戈㆒、興㆓土木㆒則親㆓畚鍤㆒、調㆓征行㆒則負㆓羈紲㆒、以至㆓追胥力作之任㆒、其事不ㇾ同、而皆役㆓於官㆒者也。

【役務】45 エキム　公事の勞役のつとめ。

【役目】46 ヤクメ　つとめ。職務。〔津國女夫池、二〕いざ役目の三味線。

【役養】47 エキヤウ　使役すること。〔後漢書、宦者傳序〕然宦人之在㆓王朝㆒者、其來舊矣、將以㆘其體非㆓全氣㆒、情志專良、通㆓關中人㆒、易㆗以役養㆖乎。

【役利】48 エキリ　使役して利益を得ること。〔史記、平準書〕以致㆓富羨㆒、役㆓利細民㆒。〔鹽鐵論、復古〕以致㆓富業㆒、役㆓利細民㆒。

【役立】49 エダチ　❶國民を徵發して、種々の仕事に使ふこと。徭役。❷ヤクダツ 用に立つ意。〔狂言記拾遺、鐘の音〕これは破鐘ぢや、役立つまい。

【役料】50 ヤクレウ　役目に對して給せられる報酬。役俸。〔德川禁令考、十八〕寬文六年七月廿一日、今日出仕之面面、一同御前江被㆓召出㆒、何も役料被ㇾ下。

【于ㇾ役】51 エキニユク　戰爭に出かける。〔詩、王風、君子于役〕君子于ㇾ役、不ㇾ知㆓其期㆒。

【役行者】52 エンノギヤウジヤ　役小角をいふ。小角は大和の人。我が國修驗道の祖。性、佛を好み、呪術を善くした。文武天皇の時、讒によつて伊豆に流され、後、赦されて歸り、大和の金峰山を開いた。役の優婆塞ウバソク。

【役小角】53 エンノセウカク・エンノヲヅヌ　小角は名。役行者を見よ。

【彺】10058　ワウ　〔集韻〕雨方切 陽

急いで行くさま。〔玉篇〕彺、急行也。〔集韻〕彺、行遽皃。

【⿰彳卬】10059　ガウ　〔集韻〕魚浪切 漾

歩むことがおそい。⿰虎亢⿰彳卬。〔集韻〕⿰彳卬、⿰虎亢⿰彳卬、行不ㇾ耑。

【⿰彳冄】10060　ゼン・ネン　〔集韻〕如占切 鹽

遲々と進む。〔集韻〕⿰彳冄、遲行也。

【⿰彳玄】10061　チ　義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿰彳玄、音遲。

五畫

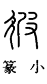
【⿰彳午】10062　ケウ　⿰彳丩(4－10039)の譌字。〔字彙補〕⿰彳午、⿰彳丩字之譌。

【⿰彳冉】10063　ゼン　⿰彳冄(4－10060)に同じ。〔五音篇海〕⿰彳冄、同ㇾ⿰彳冉。

【⿰彳乍】10064　サク　作(1－518)の古字。〔集韻〕作、古作ㇾ⿰彳乍。

【⿰彳句】10065　ク　跔(10－37466)に同じ。〔集韻〕跔、或从ㇾ彳。

【彼】10066　ヒ　〔集韻〕補靡切 ㄅㄧˇ pi^3 紙


小篆

❶**か。かれ。**代名詞。〔集韻〕彼、一曰、對ㇾ此之稱。㋑三人稱の代名詞。あの人。あの人々。〔論語、憲問〕彼哉、彼哉。〔呂覽、本味〕道者、止ㇾ彼在ㇾ己。〔注〕彼、謂㆓他人㆒。〔後漢書、崔駰傳〕彼採㆓其華㆒、我收㆓其實㆒。〔注〕彼、衆人也。㋺場所を指示する代名詞。かなた。かしこ。〔詩、周頌、振鷺〕在ㇾ彼無ㇾ惡、在ㇾ此無ㇾ射。〔呂覽、先己〕令㆓困於彼㆒。〔注〕彼、亦外也。〔史記、酷吏傳論贊〕在ㇾ彼不ㇾ在ㇾ此。㋩事物を指示する代名詞。助詞「の」を添へて「かの」と訓讀する。あの。〔詩、召南、小星〕嘒彼小星、三五在ㇾ東。〔詩、小雅、十月之交〕彼月而微、此日而微。❷頗(12－43415)・柀(4－7570)に通ず。〔說文通訓定聲〕彼、叚借爲ㇾ頗爲ㇾ柀。❸**あらず。**匪(2－2629)・非(12－42585)に通ず。〔說文通訓定聲〕彼、叚借爲ㇾ匪、實爲ㇾ非。〔詩、小雅、采菽〕彼ㇾ交匪ㇾ舒。〔荀子、勸學〕匪ㇾ交匪ㇾ舒。❹**おほふ。**加へる。被(10－34222)に通ず。〔說文〕彼、往有ㇾ所ㇾ加也、从ㇾ彳皮聲。〔說文通訓定聲〕經傳皆以ㇾ被爲ㇾ之。〔靈臺碑〕德彼㆓四表㆒。

名乘　ノブ。

【彼安】1 オチカタ　河內國の地名。

【彼我】2ガヒ 彼と我。自他。〔揚雄、解嘲〕世異事變、人道不レ殊、彼我易レ時、未レ知二何如一。〔晉書、王羲之傳〕夫廟算決レ勝、必宜下審二量彼我一、萬全而後動上。

【彼岸】3ヒガン 佛㊀梵語 fāramitā（波羅蜜多）の譯。むかうぎし。現世を此岸とし、煩惱を流れとし、涅槃の淨土を指して彼岸といふ。〔涅槃經〕彼岸者、喩二如來一也。〔智度論、十二〕以二生死一爲二此岸一、涅槃爲二彼岸一。〔王巾、頭陀寺碑文〕然爻繫所レ筌、窮二於此域一、則稱謂所レ絕、形二乎彼岸一矣。㊁春分と秋分の日を中央とし、其の前後三日づつ、合せて七日間をいふ。又、彼岸會の略。〔和漢三才圖會、時候、彼岸〕谷響集云、客問、春秋彼岸名目、經典不レ見、支那無レ說、若有レ所レ見耶、答云、未レ知、肇二于何代何人一、本邦小說中、雖三往往作二區區說一、多是臆說附會之言耳、如二彼岸功德成就經及龍樹天正驗記一、僞二作經文一、自欺二佛祖一、良以二春分秋分晝夜正等一、故世號二時正一、於二此二中一所レ殖善根、寧不レ成下到二彼岸一因緣上乎、按、彼岸如據二時正一、則其中日當二春秋二中一可也、而春秋二中後三日、爲二彼岸入一、始終七日、未レ知二其據一、蓋以、諸惡莫レ作、衆善奉行、浮屠平日雖レ所レ教、而惡易レ成、善難レ修、故假立二名目一、定二日數一、亦一方便、不レ可レ誣。

【彼岸櫻】4ヒガンザクラ 櫻の一種。春の彼岸頃、他の櫻に先立つて淡紅色の花を開く。

【彼岸會】5ヒガンヱ 春秋二季の彼岸に、一七日の法事を修すること。我が國古代に始まる。

【彼岸花】6ヒガンバナ 草の名。曼珠沙華の異名。しびとばな。てんがいばな。秋の彼岸頃、赤い花が咲く。

【彼己】7キヒ かれ。彼。人を指す辭。己は助辭。〔韻會〕己、對レ物而言、曰二彼己一。〔詩、鄭風、大叔于田、叔善射忌又良御忌、箋〕忌、讀如二彼己之子之己一。

【彼其】8キヒ かれ。彼己に同じ。〔詩、王風、揚之水〕彼其之子、不二與レ我戍一レ申。〔箋〕其、或作レ記、或作レ己、讀聲相似。〔詩、曹風、候人〕彼其之子、三百赤芾。

【彼記】9キヒ かれ。彼己に同じ。彼其。〔詩、大雅、崧高、往近王舅、箋〕近、辭也、聲如二彼記之子之記一。〔禮、表記〕詩云、彼記之子、不レ稱二其服一。

【彼曹】10カノサウ かれら。彼等。

【彼蒼】11ヒサウ そら。天。彼の蒼天。仰いで天に訴へる時などにいふ。詩經の彼蒼者天の句から生じた轉義。もと「彼の青い」の意。〔運步色葉集〕彼蒼、天。〔詩、秦風、黃鳥〕彼蒼者天、殲二我良人一。〔箋〕言二彼蒼者天一、愬レ之。〔疏〕彼蒼蒼者、是在レ上之天。〔韓愈、祭二十二郎一文〕彼蒼者天、曷其有レ極。〔杜甫、遣悶詩〕餘力浮二於海一、端憂問二彼蒼一。〔孟浩然、行出二東山一望二漢川一詩〕萬壑歸二於漢一、千峯劃二彼蒼一。〔菅原道眞、自詠詩〕萬事皆如レ夢、時時仰二彼蒼一。

【彼此】13シヒ ㊀彼と此。あの物事とこの物事。〔左氏、昭、元〕疆場之邑、一彼一此、何常之有。〔墨子、經說下〕彼正レ名者彼此、彼此可。〔舊唐書、張蘊古傳〕一二彼此于胸臆一。〔杜甫、哀江頭〕清渭東流劍閣深、去住彼此無二消息一。〔李頻、送三友人喩坦之歸二睦州一詩〕彼此無二依倚一、東西又別離。㊁pi^2 tzʻŭ^3 お互。御同樣。

【彼此安康】14ヒシアンカウ 彼の國も此の國もやすらかに治まる。〔中村敬宇、西國立志編序〕互相資益、彼此安康。

【彼此合符】15ヒシガフフ 書名。二卷。岡田挺之撰。我が國と中國の事跡の相似たものを搜求して、其の文を抄出對擧し、兩文共に出處を示し、漢籍より出たものは原文のままに記す。〔日本藝林叢書、四〕

【彼此相濟】16ヒシアヒナス 彼の國と此の國とが互に助け合ふ。〔戊申詔書〕東西相倚、彼此相濟、以共二其福利一。

【彼此彼此】17 pi^2 tzʻŭ^3 pi^2 tzʻŭ^3 御同樣。御互樣です。「名錄抄」。

【彼杵】18ソノギ ㊀肥前國の郡名。㊁ソフキ 姓氏。〔姓

【彼杵入江】19ソノギノイリエ 肥前國の入江。

【彼地】20チヒ かの地。かしこの地。〔春秋、宣、十一〕晉侯會二狄于欑函一。〔疏〕晉侯會レ狄、是狄在二彼地一、而晉往會レ之。

【彼等】21カレラ かの人達。又、人を賤しめていふ。〔史記、黥布傳〕如二彼等一者、無レ足三與計二天下事一。

【彼輩】22カノハイ かれら。彼等。

【彼方】23アナタ カナタ あちら。

【彼夫】24フヒ かの。〔讀書作文譜、文章諸法〕彼夫、別有レ所レ指之辭。

【彼狡童】25カノカウドウ 彼の狡猾な子供。人を罵る辭。〔詩、鄭風、狡童〕彼狡童兮、不二與レ我言一兮、維子之故、使二我不一レ能レ餐。〔箕子、麥秀歌〕麥秀漸漸兮、禾黍油油、彼狡童兮、不二與レ我好一兮。

【彼同分】26ヒドウブン 佛十八界を分別するに同分彼同分の二門あり、根・境・識の三、互に相交涉して自業を作すを同分とし、然らざるを彼同分と名づける。而して十八界の中に法界の一は唯同分にして餘の十七界は同分彼同分の二に通ずといふ。〔俱舍論、二〕根境識三、更相交涉、故名爲レ分、或復分者、是己作用、或復分者、是所生觸、同有二此分一、故名二同分一、與レ此相違、名二彼同分一、由下非二同分一與二彼同分一種類分同上、名二彼同分一。

【彼居之子】27ヒキヨノコ かれ。未だ仕へぬ者をいふ。〔東晳、補亡詩、南陔〕彼居之子、罔レ或二游盤一。〔注〕濟曰、彼居之子、謂二未レ仕之人一也。

【彼哉彼哉】28カレヲヤカレヲヤ 人をしりぞけいやしめる辭。〔論語、憲問〕或問二子產一、子曰、惠人也、問二子西一、曰、彼哉、彼哉。〔集解〕馬融曰、彼哉彼哉、言レ無レ足レ稱也。〔集注〕彼哉者、外レ之之辭。

【彼出二於是一】29カレハコレニイヅ 彼といふ概念は此といふ概念があるから生ずる。概念が相對的關係によつて生ずるをいふ。〔莊子、齊物論〕彼出二於是一、是亦因レ彼。

【彼黍離離】30カノショリリタリ 國が滅びてその城址に黍が盛に茂る。國家の滅亡を嘆ずる句。〔詩、王風、黍離〕彼黍離離、彼稷之苗、行邁靡靡、中心搖搖、知レ我者、謂二我心憂一、不レ知レ我者、謂二我何求一、悠悠蒼天、此何人哉。

【知レ彼知レ己】31カレヲシリオノレヲシル 兵法家の語。彼我の情勢を熟知すること。〔孫子、謀攻〕知レ彼知レ己、百戰不レ殆、不レ知レ彼而知レ己、一勝一負、不レ知レ彼不レ知レ己、每レ戰必敗。

【彼一時此一時】32カレモイチジコレモイチジ 昔湯武の出たのは王者の興るべき一個の時であり、今日も亦王者の當に興るべき一個の時であるといふ意。一說に、あの時はあの時、この時はこの時、各〻其の時に應じてなしたことで矛盾したものでないといふ意。〔孟子、公孫丑下〕孟子去レ齊、充虞路問曰、夫子若レ有二不豫色一然、前日虞聞二諸夫子一、曰、君子不レ怨レ天、不レ尤レ人、曰、彼一時、此一時也、五百年必有二王者興一、其閒必有二名レ世者一、由レ周而來、七百有餘歲矣、以二其數一則過矣、以二其時一考レ之則可矣。〔注〕彼前聖賢之出、是有レ時也、今此時亦是其一時也、五百年有二王者興一、有下興二王道一者上也、名レ世、次レ聖之才、物來能名二正一世一者、生二於聖人之閒一也、七百有餘歲、謂二周家王迹始興一、大王文王以來、考二驗其時一、則可レ有也。〔集說〕正義、趙氏以二彼一時一、爲下以前聖賢興二王道一之時上、此、卽今也、此一時、爲二孟子之時一、謂二今時已是聖賢當レ出之時一也、論衡引レ此、作二彼一時也此一時也一、觀二趙氏注一、則彼一時下、當レ有二也字一、江永云、孟子去レ齊、在二燕人畔之後一、蓋當二周赧王三年己酉一、孟子言、由レ周而來、七百有餘歲、邵氏皇極經世、金吉甫通鑑綱目前篇考レ之、周武王伐レ殷己卯、距二赧王己酉一、八百一十一年、與二孟子言一不レ合、蓋周初自二共和庚申一以前、有二誤衍之年一、其誤衍始二於劉歆秝譜一也、云云、按、趙氏蓋以、孟子去レ齊、在二顯王時一、衡案、彼一時此一時之時、卽下文以二其時一考レ之之時、言、彼湯武弔伐、王者當レ興、一箇之時、今日亦是王者當レ興一箇之時、其時則可矣、而王者不レ興者、天未レ欲三平二治天下一耳、我若レ有二不豫之色一者、蓋憂國之情、達二於面目一、非レ怨レ天尤一レ人也、集注以二彼一時一、爲下與二充虞一語之時上、則此一時、嫌二於怨レ天尤一レ人、且與二下文時字一不二相貫一、非也。〔集注〕彼、前日、此、今日。

【彼人也予人也】33カレモヒトナリワレモヒトナリ 彼も我も同じ人間である。我の人に及ばないのは恥であるといふ意。〔韓愈、原毀〕責二於己一曰、彼人也、予人也、彼能レ是、而我乃不レ能レ是。

【登二彼西山一采二其薇一】34カノセイザンニノボリソノビヲトル 伯夷叔齊が周の粟を食ふを恥ぢ、首陽山に隱れ、薇を采つて食つた時に作つたといふ歌の句。〔史記、伯夷傳〕武王已平二殷亂一、天下宗レ周、而伯夷叔齊

恥レ之、義不レ食ニ周粟一、隱ニ於首陽山一、采レ薇而食レ之、及ニ餓且レ死、作レ歌、其辭曰、登ニ彼西山一兮、采ニ其薇一矣、以レ暴易レ暴兮、不レ知ニ其非一矣、神農虞夏、忽焉沒兮、我安適歸矣、于嗟徂兮、命之衰矣、遂餓ニ死於首陽山一。

【彼丈夫也我丈夫也】35（カレモヂヤウフナリ　ワレモヂヤウフナリ）　彼も我も同じく丈夫である。我の彼に劣らないのをいつた語。〔孟子、滕文公上〕成覸謂ニ齊景公一曰、彼丈夫也、我丈夫也、吾何畏レ彼哉。

【⿰彳立】10067　サフ　〔玉篇〕蘇合切　合

行くさま。〔玉篇〕⿰彳立、行皃。

【⿰彳占】10068　イウ　冘(**2**－**1567**)に同じ。〔集韻〕冘、或作レ⿰彳占。

【彽】10069　🈩チ ヂ　〔集韻〕陳尼切　支　🈔テイ ダイ　〔集韻〕都黎切　齊　🈪タイ ヅイ　〔集韻〕徒回切　灰

🈩🈔🈪**たちもとほる。**彽徊。〔玉篇〕彽、彽徊、徘徊也。〔集韻〕彽、彽回、疑不ニ即進一。

参考　低(**1**－**504**)は別字。

【彾】10070　🈩レイ リヤウ　〔玉篇〕力郢切　梗　🈔レイ リヤウ　〔集韻〕郎丁切　青　ㄌㄧㄥˊ ling^2

🈩**雨あがりのこみち。**〔玉篇〕彾、雨後徑。🈔❶**行くさま。**跉(**8**－**25746**)に同じ。〔廣韻〕彾、彾⿰彳甹、行皃。〔集韻〕跉、跉⿰𧾷甹、行皃、或从レ彳。❷**ひとり行く。**〔韻會〕⿰彳丁、彾⿰彳丁、獨行也。

【彾⿰彳甹】1（レイヘイ）　ゆくかたち。行くさま。〔廣韻〕彾、彾⿰彳甹、行皃。

【彾⿰彳丁】2（レイテイ）　ひとりゆくこと。〔韻會〕⿰彳丁、彾⿰彳丁、獨行也。

【彿】10071　フツ フチ　〔集韻〕敷勿切　物　ㄈㄨˊ fu^2

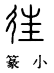
❶**にかよふ。ほのか。**しかとさだめがたい。彷彿。髴(**12**－**45414**)に同じ。〔廣韻〕彿、彷彿。〔集韻〕髴、說文、髴若レ似也、或从レ彳。❷佛(**1**－**517**)に通ず。〔正字通〕彷彿、亦作ニ仿佛一。

【⿰彳由】10072　🈩テキ ヂヤク　〔集韻〕亭歷切　錫　🈔トク ドク　〔集韻〕徒沃切　沃　🈪チウ ヂユ　〔集韻〕直祐切　宥

小篆

🈩🈔**行くさま。**〔說文〕⿰彳由、行⿰彳由⿰彳由也、从レ彳由聲。〔集韻〕⿰彳由、⿰彳由⿰彳由、行皃。🈪❶**時のきはまりのないこと。**宙(**3**－**7108**)に同じ。〔玉篇〕⿰彳由、古往今來無レ極之名也、與レ宙同。❷**行くことのきはまりないさま。**〔集韻〕⿰彳由、行無レ極也。

【往】10073　🈩ワウ　〔集韻〕雨兩切　養　ㄨㄤˇ、ˋ wang$^{3\cdot4}$　🈔ワウ　〔集韻〕雨方切　陽　🈪ワウ　〔集韻〕于放切　漾


小篆

古文

🈩❶**ゆく。**㋑めざしてゆく。もと徃(**4**－**10126**)・𨓏(**11**－**38955**)に作る。〔集韻〕徃、或省、古作レ𨓏。〔正字通〕往、本作レ徃。〔說文〕徃、之也、从レ彳㞷聲、𨓏、古文从レ辵。〔方言、一〕嫁・逝・徂・適、往也。往、凡語也。〔釋名、釋言語〕往、暀也、歸ニ往於彼一也、故其言レ之、卬レ頭以指レ遠也。〔詩、小雅、小明〕昔我往矣。〔疏〕往者、從レ此適レ彼之辭。〔禮、玉藻〕大夫有レ所レ往。〔注〕往、之也。〔史記、信陵君傳〕公子聞レ所レ在、乃閒步往從レ此、兩人游甚歡。〔後漢書、姜肱傳〕兄弟相戀、不レ能ニ別寢一、以ニ係嗣當一レ立、乃遞往就レ室。㋺いたる。〔廣雅、釋詁一〕往、至也。㋩おとづれる。訪問。〔陳書、袁樞傳〕居處率素、傍無ニ交往一。〔謝靈運、法師誄〕問來荅往。㋥さる。〔廣雅、釋詁一〕往、去也。〔左氏、昭、七〕取ニ而臣一以往。〔注〕往、去也。〔國語、晉語二〕吾言既往矣。〔注〕往、行也。㋭にげる。〔管子、權修〕無ニ以畜一レ之、則往而不レ可レ止也。〔注〕往、謂ニ亡去一也。㋬死ぬ。〔左氏、僖、九〕送レ往事レ居。〔注〕往、死者也。❷**みちのり。**行程。〔淮南子、原道訓〕歷レ遠彌レ高以極レ往。〔注〕往、行也。❸**むかし。**いにしへ。又、すぎ去つたこと。既往。〔玉篇〕往、古往也。〔論語、述而〕不レ保ニ其往一也。〔集解〕鄭玄曰、往、猶レ去也。〔公羊、桓、六、注〕生與ニ來日一、〔疏〕凡人謂ニ方至一爲レ來、已過爲レ往。〔荀子、解蔽〕不レ慕レ往。〔注〕往、古昔也。〔太玄經、玄攡〕往述。〔注〕往述、往事也。❹**のち。**あと。〔論語、八佾〕禘自ニ既灌一而往者、吾不レ欲レ觀レ之矣。〔皇疏〕往、猶レ後也。〔禮、喪大記〕自ニ小斂一以往、用ニ夷衾一。〔疏〕往、猶レ後也。❺**いたす。やる。**つかはす。〔康熙字典〕往、凡以レ物致レ人曰レ往。〔曹植、與ニ楊修一書〕今往ニ僕少小所レ著辭賦一通一、相與刊定也。〔王羲之、十七帖〕今往ニ絲布單衣財一端一、示ニ致意一。❻**つかれる。**〔方言、十二〕往、勞也。❼**時として。**概約をいふ詞。往往(129)を見よ。❽**きみ。**王(**7**－**20823**)に通ず。〔說文通訓定聲〕往、叚借爲レ王。〔呂覽、順說〕則難ニ與往一也。〔注〕往、王也。❾任(**1**－**416**)に通ず。〔禮、郊特牲〕束帛加レ璧、往レ德也。〔疏〕南本及定本、皆作ニ往德一、北本、皆作ニ任德一。❿現㋑方向を示す前置詞。へ。に。(去聲)。㋺動詞・形容詞が副詞となるときに、其の動作の程度を示す。🈔**ゆく。**🈩の❶に同じ。〔集韻〕往、之也。🈪**むかふ。おもむく。**徃(**4**－**10162**)に同じ。〔集韻〕徃、歸嚮也、隸作レ往。〔史記、孔子世家論贊〕雖レ不レ能レ至、然心嚮ニ往之一。

名乗　ナリ。ヒサ。ヨシ。ユキ。モチ。

参考　住(**1**－**505**)は別字。

【往矣】1（ワウイ　ユケリ）　過ぎ去つた。過去となつた。〔唐書、房玄齡傳〕創業之不レ易、既往矣、守文之難、與ニ公等一愼レ之。

【往游】2（ワウイウ）　往いてあそぶ。〔史記、齊太公世家〕及ニ其往游一、雍林人襲殺ニ無知一。

【往因】3（ワウイン）　前世の因緣。前因。〔周楷、詩〕樹老雲荒見ニ往因一。〔宗鏡錄〕隨レ機赴感、酧ニ其往因一。

【往役】4（ワウエキ）　まねきに應じて往き力役に從ふこと。〔孟子、萬章下〕萬章曰、庶人召レ之役、則往役、君欲レ見レ之召レ之、則不ニ往見一レ之、何也、曰、往役、義也、往見、不義也。

【往鷰】5（ワウエン）　遠地にゆくつばめ。〔陶潛、九日閒居詩〕往鷰無ニ遺影一、來雁有ニ餘聲一。

【往下】6 wang^4 hsia^4　❶下へ。下の方へ。❷續いて。續く。向後。今後。

【往駕】7（ワウガ）　去り行く馬者。人の死去をいふ。〔顏延之、宋文皇帝元皇后哀策文〕來方可レ述、往駕弗レ援。

【往行】8（ワウカウ）　❶むかしの人の行。古人の德行。〔易、大畜〕天在ニ山中一大畜、君子以多識ニ前言往

行一、以畜二其德一。❷過去の行爲。〔晏子、問、下〕事レ親孝、無レ悔二往行一。

【往犒】9 ワウカウ ゆいてねぎらふ。〔宋史、欽宗紀〕知州高世由、往犒レ之、乃去。

【往誥】10 ワウカウ むかしの天子が國民に告げ渡した文書。書經中の大誥・康誥の類。〔陳後主、勸農詔〕躬推爲レ勸、義顯二前經一、力農見レ賞、事昭二往誥一。

【往號】11 ワウガウ 三王をいふ。昔の天子の稱號の意。〔揚雄、長楊賦〕延二光于將來一、比二榮乎往號一。〔注〕善曰、張晏曰、往號、三王也。

【往漢】12 ワウカン 漢末、劉備のたてた蜀漢をいふ。〔張載、劍閣銘〕閉由二往漢一、開自二有晉一。〔注〕善曰、閉由二劉備一、故曰二往漢一。

【往鑒】13 ワウカン 昔の事で後人が手本とすべきもの。後世の模範となすべき事蹟。〔中論、貴言〕是以君子愼二諸己一、以爲二往鑒一焉。〔金史、楊伯雄傳〕張浩薦二伯雄一、起二復少詹事一、集二古太子賢不肖一爲レ書、號二瑤山往鑒一、進レ之。

【往氣】14 ワウキ 往く氣。〔墨子、迎敵祠〕有二往氣一、有二來氣一。

【往記】15 ワウキ 前代の歷史。〔顏延之、皇太子釋奠會作詩〕伊昔周儲、聿光二往記一。

【往饋】16 ワウキ 往いて食物をおくりあてがふ。〔漢書、五行志中之上〕鸜鵒之羽、公在二外野一、往饋二之馬一。

【往舊】17 ワウキウ むかし。以前。〔荀子、非十二子〕聞見雜博、案二往舊一造レ說、謂二之五行一。

【往句】18 ワウク 古人の詩文。又、以前に作った詩文。〔謝朓、酬德賦〕連二篇章之莫訓一、欲レ寄二言於往句一。

【往化】19 ワウクワ 死亡をいふ。〔謝靈運、廬陵王墓下作詩〕一隨二往化一滅、安用二空名一揚。

【往悔】20 ワウクワイ 後悔すべき過去のあやまち。去悔。〔戴表元、義蜂行〕前尤往悔、俱勿レ論。

【往誨】21 ワウクワイ むかしのをしへ。〔劉琨、與二石勒一書〕背レ聽則禍除、向レ主則福至、採二納往誨一、翻然改レ圖。

【往懷】22 ワウクワイ かんがへ。おもふところ。所懷。〔丘遲、與二陳伯之一書〕方思二僕言一、聊布二往懷一。

【往換】23 ワウクワン とりかへる。新官吏を舊官吏に代らせるなどにいふ。〔韓愈、送二水陸運使韓侍御歸一レ所レ治序〕公卿廷議、以二轉運使不一レ得二其人一、宜下選二才幹之士一往中換之上。

【往還】24 ワウクワン ❶ゆきかへりする。往復。〔列子、黃帝〕入レ火往還、埃不レ漫、身不レ焦。〔郭璞、江賦〕鯼鮆順レ時而往還。〔韋應物、答二李澣一詩〕楚俗饒二詞客一、何人最往還。❷ゆききする。交際する。往來。〔王維、答二張五弟一詩〕不レ妨飮レ酒復垂レ鉤、君但能來且往還。❸街道。往來。道路。

【往觀】25 ワウクワン 往いて之を觀る。〔楚辭、離騷〕將三往觀二乎四荒一。〔漢書、劉向傳〕季子不二歸葬一、孔子往觀。

【往迎】26 ワウケイ でむいてむかへる。〔韓詩外傳、三〕孟嘗君請二學於閔子一、使三車往迎二閔子一。〔唐書、裴敬彝傳〕醫許仁則者、躄不レ能レ乘、敬彝自爲レ輿往迎。

【往教】27 ワウケウ 出かけて行って教へる。〔禮、曲禮上〕禮聞二來學一、不レ聞二往教一。〔疏〕不レ聞二往教一者、不レ可二以屈レ師親來就一レ己。〔韓詩外傳、三〕孟嘗君請二學於閔子一、使三車往迎二閔子一、閔子曰、禮有二來學一、無二往教一、致レ師而學、不レ能レ學、往教、則不レ能レ化レ君也。〔後漢書、包咸傳〕禮有二來學一、而無二往教一。〔白虎通、辟雍〕有二來學者一、無二往教者一。

【往業】28 ワウゲフ 過去の事業。〔曹植、黃初六年令〕欲下修二吾往業一、守中吾初志上。〔沈約、佛記序〕迄二於前一、因二往業一。

【往愆】29 ワウケン 以前のあやまち。前非。〔後漢書、陽球傳〕今一蠲二往愆一、期二諸來效一。

【往賢】30 ワウケン 前代の賢者。むかしの賢者。〔梁書、何點傳〕此蓋前代盛軌、往賢所レ同。〔任昉、天監三年策二秀才一文〕雖三德慙二往賢一、業優二前事一。〔許善心、神雀頌序〕微臣慙二于往賢一。

【往憲】31 ワウケン 昔時の法令。昔の手本。〔魏書、高祖孝文帝紀上〕莫不聿稽二往憲一、以經二綸治道一。

【往蹇】32 ワウケン 進んでゆけば險難に遇ふをいふ。〔易、蹇〕往蹇來譽、象曰、往蹇來譽、宜レ待也。〔柳宗元、柳州謝上表〕幸躡二康衢一、意非二往蹇一。

【往獻】33 ワウケン 自ら出かけて行ってたてまつること。〔國語、周語上〕狸姓奉二犧牲粢盛玉帛一、往獻焉、無レ有レ祈也。

【往彥】34 ワウゲン 前代のすぐれた士。〔南史、王琳傳〕寔追二蹤于往彥一、信踵二武於前脩一。

【往古】35 ワウコ むかし。往昔。古昔。〔戰國、趙策〕臣觀二成事一、聞二往古一。〔韓非子、難言〕時稱二詩書一、道二法往古一、則見二以爲レ誦。〔韓詩外傳、七〕往古者、所二以知一レ今也。〔史記、欒布傳贊〕不三自重二其死一、雖二往古烈士一、何以加哉。〔漢書、賈捐之傳〕求二之往古一、則不レ合。

〖往古來今〗36 ワウコライコン 古から今に至るまで。〔鶡冠子、世兵〕往古來今、事孰無レ郵。〔淮南子、齊俗訓〕往古來今謂二之宙一、四方上下謂二之宇一。

【往後】37 wang^4 hou^4 ❶後へ。後の方へ。❷其の後。此の後。以後。

【往告】38 ワウコク 出かけて行って告げる。又、使者にもたらさせて言はせた言葉。〔孫楚、爲二石仲容一與二孫皓一書〕甕然改レ容、祗承二往告一。

【往恨】39 ワウコン むかしのうらみ。〔白居易、赴二杭州一重宿二棣華驛一見二楊八舊詩一感題二一絕一詩〕往恨今愁應レ不レ殊、題二詩梁下一又踟躕。

【往歲】40 ワウサイ 過ぎ去った年。往年。前年。〔左氏、隱、六〕往歲、鄭伯請二成于陳一。〔管子、國蓄〕夫往歲之糶賤。〔王惲、苦熱歎詩〕今年六月中、荼毒逾二往歲一。

【往載】41 ワウサイ 過ぎ去った年。往歲に同じ。〔范曄、宦者傳論〕或稱、伊霍之勳、無レ謝二於往載一。

【往相】42 ワウサウ 佛 二廻向の一。還相の對。❶自己の一切の善根功德を衆生に廻施して、共に彌陀の淨土に往生せんと願ふことをいふ。〔往生論注、下〕廻向有二二種相一、一者往相、二者還相、往相者、以二己功德一廻二施一切衆生一、作三願共往二生彼阿彌陀如來安樂淨土一。❷極樂往生の因果を總て彌陀が衆生に施し給ふこと。

【往造】43 ワウザウ 訪問する。人のところにゆく。〔晉書、嵇康傳〕康居レ貧、嘗與二向秀一共鍛二於大樹之下一、云云、潁川鍾會貴公子也、精練有二方辯一、故往造焉。〔北史、崔瞻傳〕有二一河東人士姓裴一、亦爲二御史一、伺二瞻食一、便往造焉、瞻不二與交一レ言。

【往事】44 ワウジ 過ぎ去った事。むかしのこと。既往のことがら。過去。〔荀子、成相〕觀二往事一、以自戒。〔管子、版法解〕百事盡止、往事畢登。〔史記、大史公自序〕述二往事一、思二來者一。〔春秋繁露、兪序〕引二史記一、理二往事一、正二是非一。〔鄭谷、慈恩寺偶題詩〕往事悠悠添二浩歎一、勞生擾擾竟何能。〔白居易、有レ感三首詩〕往事勿二追思一、追思多二悲愴一。

〖往事休題〗45 wang^3 shih^4 hsiu^1 t'i^2 すんだことはさておき。

〖往事不レ咎〗46 ワウジハトガメズ 過ぎ去った事はとがめない。既往不レ咎(**5**－**13725**・58)に同じ。

〖往事渺茫〗47 ワウジベウバウ 昔のことは遠くて明かでない。往事渺茫都似レ夢(50)を見よ。

〖往事不レ可レ及〗48 ワウジハオヨブベカラズ 過ぎ去ったことは追っても追ひつけない。〔說苑、談叢〕來事不レ可レ追也、往事不レ可レ及。

〖述二往事一思二來者一〗49 ワウジヲノベライシヤヲオモフ 過ぎ去ったことを顧み、將來の戒とする。〔史記、太史公自序〕此人皆意有レ所二鬱結一、不レ得レ通二其道一也、故述二往事一思二來者一。

〖往事渺茫都似レ夢〗50 ワウジベウバウスベテユメニニタリ すんだことは、ぼんやりして、ゆめのやうである。〔白居易、十年三月三十日別二微之於澧上一云云詩〕往事渺茫都似レ夢、舊遊零落半歸レ泉。

〖往事不レ諫來者可レ追〗51 ワウジハイサメズライシヤハオフベシ 過ぎ去った事は如何ともし難いが、將來の事は今後の考次第でどうにでもすることが出來る。〔陶潛、歸去來辭〕悟二已往之不一レ諫、知二來者之可一レ追。

【往時】52 ワウジ むかし。昔時。昔日。過去。〔漢書、史丹傳〕左將軍丹、往時導レ朕以二中正一。〔論衡、難歲〕見二今人之死一、則歸二禍於往時之徙一。〔劉禹錫、西塞山懷古詩〕人生幾回傷二往時一、山形依レ舊枕二寒流一。

【往辭】53 ワウジ 以前に言ったことば。〔晏子、問、下〕事レ君忠、無レ悔二往辭一。

【往日】54 ワウジツ 過ぎ去った日。先日。〔禮、曲禮上〕生與二來日一、死與二往日一。〔史記、蘇秦傳〕易王謂二蘇秦一曰、往日、先生至レ燕。

【往者】55 ワウシヤ ❶過ぎ去ったこと。既往。〔論語、微子〕往者不レ可レ諫。❷さきに。かつて。曩者。〔詩、大雅、召旻、維昔之富不レ如レ時、傳〕往者富二仁賢一、今也富二讒佞一。❸去りゆくもの。〔孟子、盡

心下〕夫子之設レ科也、往者不レ追、來者不レ拒。

〖往者可レ知〗56 ワウシヤシルベシ　過ぎ去つたことは知ることが出來る。〔墨子、魯問〕往者可レ知、來者不レ可レ知。

〖往者勿レ止〗57 ユクモノハトドムルコトナカレ　往くものは其の自然に順はせ、みだりにとどめてはならない。〔莊子、山木〕其送レ往而迎レ來、來者勿レ禁、往者勿レ止。

〖往者不レ可レ及〗58 ワウシヤハオヨブベカラズ　過ぎ去つたことは追つても及ばない。往事不レ可レ及(48)に同じ。〔呂覽、聽言〕往者不レ可レ及、來者不レ可レ待。

〖往者余弗レ及〗59 ワウシヤハワレオヨバズ　古の聖人には遇ふことが出來ない。〔楚辭、遠遊〕惟二天地之無レ窮兮、哀二人生之長勤一、往者余弗レ及兮、來者吾不レ聞。〔注〕三皇五帝不レ可レ逮也。

〖往者不レ可レ諫來者猶可レ追〗60 ワウシヤハイサムベカラズライシヤハナホオフベシ　過去の事はどうにもならないが、將來のことはどうとも出來る。孔子の隱去しないのを譏つてその隱棲の未だ遲くないのを諷した語。一說に、追ふべけんやと讀み、往世は正すことは出來ないが、來世の治は尙更期待出來ないと解する。〔論語、微子〕楚狂接輿、歌而過二孔子一曰、鳳兮鳳兮、何德之衰、往者不レ可レ諫、來者猶可レ追、已而已而、今之從レ政者殆而。〔集注〕接輿以比二孔子一、而譏二其不レ能レ隱、爲二德衰一也、來者可レ追、言三及レ今尙可二隱去一。〔疏〕諫、止也、言下已往所レ行者、不レ可二復諫止一也、自レ今已來、尤可中追而自止上、欲レ勸二孔子辟レ亂隱居一也。〔劉寶楠正義〕戴氏望論語注、據二莊子一解二此文一云、往、往世、諫、正也、言二禍亂相尋、已往不レ可下以二禮義一正上レ之、來、來世也、言下待二來世之治一、猶可レ追耶上、明レ不レ可レ追。

【往上】61 ワウジヤウ wang^4 shang^4　上へ。上の方へ。

【往生】62 ワウジヤウ　❶[佛]此の世を去つて極樂淨土にうまれること。娑婆世界を去つて阿彌陀佛の極樂淨土に往くを往といひ、極樂淨土の蓮花の中に化生するを生といふ。〔法華經、藥草喩品〕卽往二安樂世界阿彌陀佛大菩薩衆圍繞住處一、生二蓮華中寶座之上一。〔無量壽經、下〕諸有衆生、聞二其名號一、信心歡喜、乃至二一念一、至心廻向願レ生二彼國一、卽得二往生一、住二不退轉一。〔觀無量壽經〕願レ生二彼國一者、發二三種心一、卽便往生。〔淨土論〕願見二彌陀佛一、普共二諸衆生一、往二生安樂國一。❷㋑死ぬこと。又、死。㋺屈服すること。あきらめること。㋩罪を白狀する。

【往生院】63 ワウジヤウヰン　寺の名。河內國中河內郡池島村大字六萬寺に在り、行基の開基した寺。

【往生業】64 ワウジヤウゴフ　[佛]淨土に往生する業因。〔選擇集〕南無阿彌陀、佛往生之業、念佛爲レ本。

【往生傳】65 ワウジヤウデン　[佛]書名。極樂淨土に往生せんことを願ふ有德者の傳記を集錄したもの。〔本朝往生傳〕。

【往生人】66 ワウジヤウニン　[佛]極樂に行つて佛となるべき人。〔撰集抄二〕この中納言もいみじき往生人にていまそかりけん。

【往生要集】67 ワウジヤウエウシフ　[佛]書名。六卷。慧心僧都源信撰。淨土念佛に歸依すべきことを勸めた書。

〖往生素懷〗69 ワウジヤウノソクワイ　[佛]彌陀の淨土を信ずる人が、彼の國に往生せんと願ふ本來の希望。往生の本懷。

【往常】70 ワウジヤウ　つねづね。常に。平常。〔長生殿、絮閣〕往常見三紅日影弄二花梢一。

〖往常時〗71 ワウジヤウジ　いままで。〔水滸傳、二回〕往常時、你只是擔二些野味一、來二我莊上一賣。

【往術】72 ワウジユツ　古くから行はれた技術・やり方。〔馬融、上二論日蝕一疏〕知二變所レ自、審二得厥故一、修二復往術一、以答二天命一。

【往春】73 ワウシユン　過ぎ去つた春。〔應瑒、侍二五官中郎將建章臺集一詩〕往春翔二北土一。

【往初】74 ワウシヨ　むかし。いにしへ。〔漢書、司馬相如傳下〕陛下仁二育羣生一、義二征不譓一、德牟二往初一、功無二與二一。〔後漢書、馮衍傳上〕德冠二往初一、功無二與二一。〔張衡、東京賦〕宜レ無レ嫌二於往初一。

【往診】75 ワウシン　往つて診察する。醫者が病家に行つて診察すること。〔史記、倉公傳〕臣意未二往診一時、齊太醫先診二山跗病一。

【往數】76 ワウスウ　過去の情勢。〔隋書、律曆志中〕曆者、紀二陰陽之通變一、極二往數一以知レ來、可二以迎レ日授レ時、先レ天成一レ務者也。

【往世】77 ワウセイ　むかし。いにしへ。往日。往古。〔淮南子、精神訓〕望二於往世之前一、而視二於來事之後一、猶未レ足レ爲也。

〖往世不レ可レ追〗78 ワウセイハオフベカラズ　過ぎ去つた世は追つても及ばない。往事不レ可レ及(48)に同じ。〔莊子、人閒世〕孔子適レ楚、楚狂接輿遊二其門一曰、鳳兮鳳兮、何如德之衰也、來世不レ可レ待、往世不レ可レ追也。

【往聖】79 ワウセイ　むかしのひじり。古の聖人。〔陳基、秋懷詩〕往聖既莫レ作、後賢孰當レ繼。

【往昔】80 ワウセキ　むかし。いにしへ。往日。往古。〔戰國、秦策〕臣敢言二往昔一。〔漢書、揚雄傳上〕聊浮游以經營、樂二往昔之遺風一兮。〔張衡、西京賦〕美二往昔之松喬一、要二羨門乎天路一。

【往迹】81 ワウセキ　むかしのあと。往古の跡。古蹟。〔陶潛、桃花源詩〕往迹浸復湮、來逕遂蕪廢。

【往旋】82 ワウセン　ゆきつもどりつする。〔江淹、雜詞、悅曲池〕暮雲兮十里、朝霞兮千尺、千尺兮緜緜、青氣兮往旋。

【往前】83 ワウゼン　❶むかし。以前。〔漢書、杜欽傳〕展二盡其意一、加二於往前一。❷wang^4 ch'ien^2　前へ。前の方へ。

【往善】84 ワウゼン　過去の善事。〔論衡、率性〕善則且更宜三反過二於往善一。

【往則】85 ワウソク　むかしのをしへ。〔柳宗元、閔生賦〕列二往則一以考レ己兮、指二斗極一以自陳。

【往體】86 ワウタイ　❶弓の弦をはづした形。來體(1－582・・198)を見よ。〔周禮、考工記、弓人〕往體多、來體寡。❷古體の詩をいふ。〔四庫提要、集、別集類〕錢仲文集十卷、唐錢起撰、云云、凡古體詩皆題曰二往體一、考二陸龜蒙松陵集一、亦以二古體一爲二往體一。

【往代】87 ワウダイ　いにしへ。むかしの世。往世。〔夏侯湛、東方朔畫贊〕瞻二望往代一。〔晉書、阮种傳〕宜下師二蹤往代一、襲二迹三五一、矯レ世更レ俗以從中人望上。

【往答】88 ワウタフ　出むいて行つて相手の禮に答へる。出かけて行つて相手の意に應ずる。〔後漢書、李通傳〕會光武避レ事在レ宛、通聞レ之、卽遣三軼往迎二光武一、光武初以二通士君子一相慕也、故往答レ之、及二相見一、共語移レ日、握レ手極レ歡。

【往朝】89 ワウテウ　前代の朝廷。前代の王朝。〔張悛、爲二吳令謝詢一求下爲二諸孫一置中守冢人上表〕威震二羣狡一、名顯二往朝一。

【往哲】90 ワウテツ　むかしのすぐれた人。先哲。〔晉書、夏侯湛傳贊〕才高位卑、往哲攸レ歎。〔任昉、齊竟陵文宣王行狀〕齊二徽二南一、同二規往哲一。

【往牒】91 ワウテフ　いにしへの文章。昔の記錄。古文書。〔顏延之、赭白馬賦〕訪二國美於舊史一、考二方載於往牒一。〔注〕翰曰、牒亦書史之流。

【往圖】92 ワウト　前世の圖書。古書。〔孔稚珪、北山移文〕籠二張趙於往圖一、架二卓魯於前籙一。

【往牘】94 ワウトク　むかしの記錄。〔梁簡文帝、吳郡石像碑〕或傳二諸往牘一、或布在二前司一、或贊述盈レ耳、或壽宮虛置。

【往任】95 ワウニン　昔の聖王が委任する。〔書、立政〕桀德、惟乃弗レ作二往任一。〔傳〕桀之爲レ德、惟乃不レ爲三其先王之法、往所二委任一。

【往寧】96 ワウネイ　前に願つてゐたこと。以前の願。〔漢書、禮樂志〕穰穰復レ正直二往寧一。〔注〕師古曰、寧、願也、克當二往日所一レ願也。

【往年】97 ワウネン　過ぎ去つた年。往歲。前年。先年。〔左氏、襄、二十五〕我是以有二往年之告一。〔韓非子、外儲說左下〕豹對曰、往年、臣爲レ君治レ鄴、而君奪二臣璽一。〔史記、黥布傳〕往年殺二彭越一、前年殺二韓信一。〔白居易、重題二西明寺牡丹一詩〕往年君向二東都一去、曾歎花時君未レ回。

【往播】98 ワウハ　ゆきひろまる。ゆきわたる。〔陸雲、大將軍宴會被レ命作詩〕肅雍往播、福祿來臻。

【往訪】99 ワウハウ　出むいて人をたづねる。〔韻府引、王逢、詩〕往訪趙松雪、滿載九峯春。

【往反】100 ワウハン　ゆきき。ゆききする。又、往復の里程。往復の日數。往返。往復。〔魏文帝、又與二吳質一書〕雖二書疏往反一、未レ足レ解二其勞結一。〔五代史、王進傳〕往反不レ過二五六日一。

【往夫】101 ワウフ　進んで退かない勇士。〔管子、參患〕故一器成、往夫具。〔纂詁〕往夫、勇往不レ退之夫也。

【往復】102 ワウフク　ゆきき。ゆききする。往來。往還。往友。❶去つてまた來る。循環する。循環して極らない。又、循環。無窮。〔列子、天瑞〕不レ生者疑獨、不レ化者往復。〔北史、魏太武帝紀〕夫陰陽有二往

復㆒四時有㆓代謝㆒。❷ゆききして交際する。〔顏氏家訓、勉學〕賓主往復、娛㆑心悅㆑耳、非㆓濟㆑世成㆑俗之要㆒也。❸やりとり。やりとりする。手紙や言葉をやりとりすること。〔晉書、向秀傳〕與㆑康論㆓養生㆒、辭難往復、蓋欲㆑發㆓康高致㆒也。

【往弊】103（ワウヘイ） 前代の惡弊。〔晉書、嵆紹傳〕臣聞、改㆓前轍㆒者、則車不㆑傾、革㆓往弊㆒者、則政不㆑爽。

【往返】104（ワウヘン） ❶ゆきとかへり。往復。往反。〔王粲、從軍詩〕往返速如㆑飛。〔魏志、牽招傳〕遠汲㆓流水㆒、往返七里。❷やりとり。〔後漢書、儒林下、李育傳〕育以㆓公羊義㆒難㆓賈逵㆒、往返皆有㆓理證㆒。

【往篇】106（ワウヘン） 以前に作つた詩文。〔謝靈運、還㆓舊園㆒作見㆓顏范二中書㆒詩〕夫子照㆓情素㆒、探㆑懷授㆓往篇㆒。

【往妙】107（ワウメウ） いにしへのすぐれた人。〔沈佺期、餞㆓唐郎中洛陽令㆒詩〕一臺推㆓往妙㆒、三史佇㆓來修㆒。

【往來】108（ワウライ） ❶往と來。ゆきき。ゆききする。〔詩、小雅、巧言〕往來行言、心焉數㆑之。〔禮、曲禮上〕禮尚㆓往來㆒、往而不㆑來、非㆑禮也、來而不㆑往、亦非㆑禮也。〔左氏、僖、三十〕行李之往來、共㆓其乏困㆒、君亦無㆑所㆑害。〔老子、八十〕民至㆓老死㆒、不㆓相往來㆒。〔戰國、齊策〕使者數相往來。〔陶潛、桃花源記〕阡陌交通、雞犬相聞、其中往來種作。〔方干、題㆓龍泉寺絕頂㆒詩〕前後登臨思無㆑盡、年年改換往來人。〔高適、邯戰少年行〕且與㆓少年㆒飮㆓美酒㆒、往來射獵西山頭。❷反切法の一。往還ともいふ。反切（**2−3127**··158）を見よ。❸交際。つきあひ。❹やりとり。音信。贈答。❺道路。往還。街道。❻往來物の略。

【往來摺】109 wang^3 lai^2 chê^2 通帳の類。摺は折本手式帳をいふ。

【往來帖】110 wang^3 lai^2 tʻieh^3 貯金通帖。

【往來物】111（ワウライモノ） 圖書の一種。鎌倉・室町時代から江戶時代を經て明治初期に至る迄に、世俗教育の初等教科書として編纂されたものの總稱。平安朝末期に出た一種の模範書簡文集である明衡往來・東山往來等が其の先驅で、消息往來・庭訓往來・商賣往來・百姓往來・四民往來等が著名であり、往來の名があるものは勿論、實語教・童子教のやうに往來の名がなくとも、寺子屋の教科書、又は教科として編まれたものは皆往來物といふ。往來の意は大體、消息と同じとされてゐる。〔山崎美成刪補、庭訓往來證注大成序〕往來者、猶㆓消息㆒、謂㆓音信㆒也、消、言㆑往也、事已往、故曰㆑消、息、言㆑來也、使㆑無㆑所㆑求、故曰㆑息也。

【往來缺款】112 wang^3 lai^2 chʻüeh^1 kʻuan^3 當座貸付。

【往來缺息】113 wang^3 lai^2 chʻüeh^1 hsi^2 當座「貸付金の利子。

【往來相接】114（ワウライアヒセッス） 往くものと來るものと交錯する。生死などが連續してへだたりのないのをいふ。〔列子、天瑞〕損盈成虧、隨世隨死、往來相接、閒不㆑可㆑省。

【往來存款】115 wang^3 lai^2 tsʻuen^2 kʻuan^3 當「座預金。

【往來存息】116 wang^3 lai^2 tsʻuen^2 hsi^2 當座預金の利子。

【往來透支】117 wang^3 lai^2 tʻou^4 chih^1 當座貸「越。

【往來浮存款】118 wang^3 lai^2 fu^4 tsʻuen^2 kʻuan^3 當座預金。往來浮は當座の意。

【往來存款交易】119 wang^3 lai^2 tsʻuen^2 kʻuan^3 chiao^1 i^4 當座取引。

【往來存款章程】120 wang^3 lai^2 tsʻuen^2 kʻuan^3 chang^1 chʻêng^2 當座預金規則。

【往來存款透支】121 wang^3 lai^2 tsʻuen^2 kʻuan^3 tʻou^4 chih^1 當座貸越。往來透支に同じ。

【往來抵押透支】122 wang^3 lai^2 ti^3 ya^1 tʻou^4 chih^1 擔保附當座貸越。

【往來同㆑路不㆑同㆑時】123（ワウライミチヲオナジクシテトキヲオナジクセズ） 往きも還りも同じ路を通りながら、時を異にしたため逢ふことが出來なかつた。〔白居易、武關南見㆘元九題㆓山石榴花㆒見㆖寄詩〕往來同㆑路不㆑同㆑時、前後相思兩不㆑知、行過㆓關門㆒三四里、榴花不㆑見見㆓君詩㆒。

【往來不㆑窮謂㆓之通㆒】124（ワウライシテキハマラザルコレヲツウトイフ） 往くことが窮まれば來り、來ることが窮まれば往き、決して窮まることのないのを通といふ。通は、窮まらず暢び通ること。〔易、繫辭上〕往來不㆑窮、謂㆓之通㆒。

【往來存款交易請求書】125 wang^3 lai^2 tsʻuen^2 kʻuan^3 chiao^1 i^4 chʻing^3 chʻiu^2 shu^1 當座取引申込書。

【往利】126（ワウリ） 複姓。〔路史〕拓拔八姓之一、有㆓往利氏㆒。

【往留】127（ワウリウ） 往つたりとどまつたりすること。〔張華、歸田賦〕低佪往留、棲遲菴藹、存㆓神忽微㆒、遊㆓精域外㆒。

【往路】128（ワウロ） 往きのみち。歸路に對していふ。〔李陵、與㆓蘇武㆒詩〕行人懷㆓往路㆒、何以慰㆓我愁㆒。

【往往】129（ワウワウ） ときどき。をりをり。ともすれば。〔史記、五帝紀贊〕至㆘長老皆各往往稱㆓黃帝堯舜㆒之處㆖、風教固殊焉。〔史記、陳涉世家〕旦日、卒中往往語、皆指㆓目陳勝㆒。〔漢書、高帝紀下〕上居㆓南宮㆒、從㆓復道上㆒見、諸將往往耦語。〔杜甫、飮中八仙歌〕蘇秦長齋繡佛前、醉中往往愛㆓逃禪㆒。〔蘇頲、奉㆔和初春幸㆓太平公主南莊㆒應制詩〕往往花閒逢㆓綵石㆒、時時竹裏見㆓紅泉㆒。

【往回裏】130 wang^4 huei^2 li 後へ。もとへ。

【往亡日】131（ワウバウジツ） 陰陽道で、外出又は出陣等を忌み禁ずる凶日。〔資治通鑑、晉紀〕安帝、義熙六年、劉裕悉㆑衆攻㆑城、或曰、今日往亡、不㆑利㆑行師。〔注〕曆書二月以㆓驚蟄後十四日㆒爲㆓往亡日㆒。〔白孔六帖〕晉武帝攻㆓慕容超㆒、諸將請㆑忌㆓往亡日㆒、帝曰、我往彼亡、吉孰大㆑焉。〔許洞、虎鈐經〕天門日、亦謂㆓之往亡日㆒、不㆑可㆑出㆑軍。〔原田直、臥游漫抄〕時日方位、古今之所㆓專用㆒、而古之英雄有㆘不㆓必拘拘㆒者㆖矣、宋書、武帝以㆓往亡日㆒起㆑兵、軍吏以爲㆓不可㆒、帝曰、我往彼亡、果勝㆑之、唐書、李朔將㆑攻㆓吳房㆒、軍吏曰、往亡日、請避㆑之、朔曰、賊以㆓往亡㆒、謂㆓我不㆑來、正可㆑擊也、及㆑戰勝而歸。

【往而不㆑來】132（ユキテキタラズ） ❶去つて二度と歸つて來ない。歲月などにいふ。〔孔子家語、致志〕往而不㆑來者年也、不㆑可㆓再見㆒者親也。❷wang^3 ê-rh^2 pu^4 lai^2 此方から訪問しても先方が答禮に來ない。

【往先去罷】133 wang^3 hsien^1 chʻü^4 pa 先にお「でなさい。

【以㆑往察㆑來】134（ワウヲモツテライヲサツス） 過去の事を基礎として將來の事を推察する。〔吳子、圖國〕臣以㆑見占㆑隱、以㆑往察㆑來。

【因㆑往推㆑來】135（ワウニヨリテライヲオス） 過去の事をもととして將來の事を推しはかる。〔法言、五百〕因㆑往以推㆑來、雖㆓千一㆒不㆑可㆑知也。

【觀㆑往知㆑來】136（ワウヲミテライヲシル） 過去をみることによつて將來を推しはかる。以㆑往察㆑來に同じ。〔列子、說符〕聖人見㆑出以知㆑入、觀㆑往以知㆑來。

【繼㆑往開㆑來】137（ワウヲツギライヲヒラク） 往古の人のあとをつぎ、將來のために道をひらくこと。〔傳習錄、上〕先生曰、文公精神氣魄大、是他早年合下便要㆓繼㆑往開㆒㆑來。

【告㆑往知㆑來】138（ワウヲツゲテライヲシル） 既往の事を話すと、それによつて將來の事を察知する。一を聞いて二を知る。〔論語、學而〕子曰、賜也、始可㆓與言㆑詩已矣、告㆓諸往㆒而知㆑來者。

【章㆑往考㆑來】139（ワウヲアキラカニシライヲカンガフ） 過去のことを明かにして將來のことを考へる。彰考。彰㆑往察㆑來に同じ。〔杜預、春秋左氏傳序〕若㆓夫制作之文㆒、所㆓以章㆑往考㆒㆑來。

【彰㆑往察㆑來】140（ワウヲアキラカニシライヲサツス） 既往の事を明かにし、將來の得失を察知する。〔易、繫辭下〕夫易彰㆑往而察㆑來、而微㆑顯闡㆑幽。

【數㆑往者順】141（ワウヲカゾフルモノハジユン） 過去を調べ考へるのは、事後にすることであるから、自然なことである。〔易、說卦〕數㆑往者順、知㆑來者逆、是故易逆數也。

【數㆑往知㆑來】142（ワウヲカゾヘライヲシル） 既往の事を考へて將來の事を豫知する。〔易、說卦〕數㆑往者順、知㆑來者逆。

【送㆑往迎㆑來】143（ワウヲオクリライヲムカフ） 去る人を見おくり、來る人を迎へる。又、去る者をも來る者をも、其の自由に任せて干涉しないこと。又、死者を葬送し、生れて來た者を歡迎し世話すること。〔中庸〕送㆑往迎㆑來、嘉㆑善而矜㆓不能㆒、所㆔以柔㆓遠人㆒也。〔莊子、山木〕其送㆑往迎㆑來、來者勿㆑禁、往者勿㆑止。〔鼂錯、論㆑貴㆑粟〕送㆑往迎㆑來、弔㆑死問㆑疾、養㆑孤長㆑幼、在㆓其中㆒。

【徃】10074 ワウ 往（**4−10073**）の俗字。〔字彙〕往、俗作㆑徃、非。

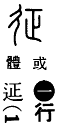
【㣔】10075 ヒ 〔集韻〕貧悲切 支

はしるさま。〔集韻〕㣔、走兒。

【𢓊】10076 シ 〔玉篇〕雌氏切 紙

ゆくさま。〔玉篇〕𢓊、行兒。

【征】10077 セイ シヤウ 〔集韻〕諸盈切 ㄓㄥ chêng¹ 庚



小篆 或體

❶**行く。**㋑正しく行く。延(**11－38796**)の或體。〔說文〕延、正行也、从レ辵正聲、征、延或从レ彳。〔繫傳〕謂下从二正道一行上也。〔爾雅、釋言〕征、行也。〔詩、召南、小星〕肅肅宵征。〔傳〕征、行也。〔楚辭、離騷〕濟二沅湘一以南征。〔注〕征、行也。㋺めぐる。〔張衡、東京賦〕トレ征考レ祥。〔注〕綜曰、征、巡行也。㋩とぶ。〔呂覽、季冬〕征鳥厲疾。〔注〕征、飛也。❷**とほい。**〔廣雅、釋詁一〕征、遠也。❸**うつ。**㋑上が下の無道をうちこらしめただす。〔禮、月令〕以征二不義一。〔注〕征之言、正也、伐也。〔孟子、盡心下〕征者、上伐レ下也。〔國語、周語上〕穆王將レ征二犬戎一。〔注〕征、正也、上討レ下之稱。㋺天子の命を奉じて無道をうちこらしめる。〔書、允征、傳〕奉レ辭伐レ罪曰レ征。〔疏〕奉二責讓之辭一、伐二不恭之罪一、名レ之曰レ征。〔尚書大傳、虞夏傳、皐繇謨〕雖レ不レ請二於天子一、而征レ之可也、征而歸二其地於天子一。〔注〕征、伐也。❹**とる。**〔孟子、梁惠王上〕上下交征レ利。〔注〕征、取也。❺**とりたてる。税をかける。**とりたて。賦税。徵(**4－10239**)に通ず。〔說文通訓定聲〕征、叚借爲レ徵、徵从レ壬、古亦讀从二壬聲一、故如レ征也。〔廣雅、釋詁二〕征、稅也。〔禮、王制〕夫圭田無レ征。〔注〕征、稅也。〔左氏、僖、十五〕於レ是秦始征二晉河東一。〔注〕征、賦也。〔孟子、梁惠王下〕關市譏而不レ征。〔集注〕征、稅也。〔孟子、盡心下〕有二布縷之征一。〔注〕征、賦也。〔國語、齊語〕使二關市幾而不一レ征。〔注〕征、稅也。❻**してう。**碁の手法の一。〔圍棋義例、詮釋〕征、殺也、兩邊逐レ之、殺而不レ止曰レ征。❼古は徰(**4－10210**)に作る。〔集韻〕延、或从レ彳、古作レ徰。❽正(**6－16255**)・政(**5－13135**)に通ず。〔周禮、天官、小宰、注〕政、謂レ賦也、凡其字或作レ政、或作レ正、或作レ征、以レ多言レ之、宜レ從レ征。〔周禮、地官、司門〕正二其貨賄一。〔注〕正、讀爲レ征。〔周禮、地官、均人〕掌レ均二地政一。〔注〕政、讀爲レ征。❾**姓。**〔漢書、司馬相如傳下〕厮二征伯僑一而役二羨門一兮。〔注〕師古曰、征伯僑者、仙人、姓征、名伯僑。〔尚友錄〕征、見二姓苑一、今淮南有二此姓一。

名乘 ユキ。モト。

【征奧】1 セイアウ 陸奧を征伐する。〔國史略、白河天皇〕欲レ聞二天喜中征奧之事一。

【征鞍】2 セイアン 征途にある鞍を置いた馬。征馬。〔杜審言、經二行嵐州一詩〕艱險促二征鞍一。〔長生殿、進果〕一身萬里跨二征鞍一、爲レ進二荔枝一受二艱難一。

【征夷】3 セイイ えびすを征伐する。賊をうつ。

【征夷使】4 セイイシ 上代、東夷の征伐・鎭撫のために遣はされた臨時の職。征東使に替るべきもので、大將軍・副將軍・軍監・軍曹等がある。〔日本紀略〕延曆十二年二月丙寅、改二征東使一爲二征夷使一。〔職官志、五〕在レ古、征夷使之號未レ建、其建レ號、以二多治比縣守一爲レ始、養老四年、縣守爲二持節征夷將軍一、云云、既而罷二征夷之號一、故神龜元年、以二藤原宇合一爲二持節大使一、大使卽大將軍也、云云、十三年、賜二征夷大將軍弟麻呂節刀一、征夷之號、重二於此一。

【征夷大將軍】5 セイイタイシヤウグン ❶古、東夷征伐につかはされた將軍。征夷使の總大將として臨時に任ずる職。〔日本紀略、前篇十三〕延曆十六年十一月、以二從四位下坂上大宿禰田村麻呂一、爲二征夷大將軍一。❷逆徒征伐の總大將として兵馬の權を與へ臨時に任ずる職。〔百練抄、十〕元曆元年正月十一日、以二伊豫守義仲一可レ爲二征夷大將軍一之由、被レ下二宣旨一。❸天下の兵馬の權を握り、政權の主宰となる者の職名。將軍。公方。大樹。〔書言字考節用集、官位〕征夷大將軍。〔注〕賴朝卿以來、爲二武家重任一。

【征衣】6 セイイ ❶旅行中の衣服。たびごろも。〔韓愈、宿二神龜一招二李二十八馮十七一詩〕夜宿二驛亭一愁不レ睡、幸來相就蓋二征衣一。〔張說、還至二端州驛一前與二高六一別處詩〕相逢傳二旅食一、臨レ別換二征衣一。〔許渾、塞下詩〕朝來有二鄕信一、猶自寄二征衣一。❷陣中のきもの。戎衣。軍服。

【征雲】7 セイウン 戰場を蔽ふ雲。戰雲。〔長生殿、勦寇〕不レ斷征雲鬖鬖、鬼哭神號、到處里、染二腥風一。

【征運】8 セイウン 出征することと物を運漕すること。〔北史、魏孝文帝紀〕七州之人、既有二征運之勞一、深乖二輕徭之義一。

【征營】9 セイエイ 自ら安んじないさま。大いに恐れて不安なさま。正營。怔營。〔後漢書、鄧隲傳〕惶窘征營、昧死陳乞。〔後漢書、鍾離意傳〕不レ勝二愚戇征營一、罪當二萬死一。〔注〕征營、不二自安一也。〔後漢書、蔡邕傳〕臣征營怖悸、肝膽塗レ地。

【征徭】10 セイエウ 賦稅と徭役。征役に同じ。〔後漢書、隗囂傳論〕使下窮二廟策一竭中征徭上。〔李嘉祐、早秋京口旅泊云云詩〕吳地征徭非二舊日一、秣陵凋弊不レ宜レ秋。

【征役】11 セイエキ 賦稅と徭役。租稅と義務勞働。〔周禮、地官、小司徒〕凡征役之施舍。〔疏〕征、謂レ稅之、役、謂二繇役一。〔尉繚子、制談〕征役、分レ軍而逃歸。〔魏志、鍾會傳〕舍二其賦調一、弛二其征役一。

【征俄】12 セイガ ロシア征伐。明治三十七八年の日露戰役。俄は俄魯斯で、露國をいふ。〔依田學海、靖國神社〕征淸・征俄諸役。

【征駕】13 セイガ ❶征伐にゆく車馬。行軍。〔江淹、雜體、鮑參軍戎行詩〕息レ徒稅二征駕一、倚レ劍臨二八荒一。❷旅人の乘物。旅程。〔鮑照、東門行〕遙遙征駕遠、杳杳落日晚。

【征行】14 セイカウ 征伐にゆく。又、其の人馬。又、旅ゆく。〔魏志、武帝紀〕自二命レ將征行一、但賞レ功而不レ罰レ罪。〔何晏、景福殿賦〕惟二岷越之不一レ靜、寤二征行之未一レ寧。〔注〕翰曰、征行、謂二戎馬一也。

【征客】15 セイカク たびびと。又、出征してゐる人。征人。〔王褒、出塞詩〕飛蓬似二征客一、千里自長驅。〔李白、秋思詩〕征客無二歸日一、空悲二蕙草摧一。

【征榷】16 セイカク 租稅を取りたてる。征は民の利を取る、搉は官が其の利を專らにする義。〔蔡襄、前福州錄事參軍李守寧云云制〕涖二于征榷之局一、夙夜思勉、毋レ空二厥官一。〔傅若金、長蘆詩〕轉輸分二使出一、征榷置二官監一。〔馬端臨、文獻通考自敍〕征榷之途有レ二、一曰、山澤・茶鹽・坑冶、是也、二曰、關市・酒酤・征商、是也。〔續文獻通考、征榷考〕臣等謹按、馬端臨作二征榷考一、自二征商・關市一以曁二雜征斂等門一、阜レ財足レ用之道、固已詳言レ之矣。

【征韓】17 セイカン 韓國を征伐する。征韓論を見よ。

【征韓論】18 セイカンロン 明治六年、朝鮮の不遜を怒つて征討の論が朝野に起り、西鄕隆盛・江藤新平・板垣退助・後藤象次郎等の主唱した說。岩倉具視・大久保利通等が歐州から歸り、之に反對して行はれなかつた。〔明治中興先覺志、西鄕隆盛〕六年十月、征韓論起、隆盛主二征韓一、三條公奏レ之、勅將レ發、而公病作不レ朝、岩倉右府及木戶孝允・大久保利通等、竝持二不可一、論奏甚力、事竟寢。

【征鴈】19 セイガン 遠方へ飛びゆく雁。旅雁。〔劉濬、從軍行〕木落雕弓燥、氣秋征鴈肥。〔褚亮、晚別二樂記室彥一詩〕風嚴征鴈遠、雪暗轉蓬遲。

【征旗】20 セイキ 出征軍の旗。〔服部南郭、牛門分得二出塞一詩〕征旗朝拂二塞雲一寒、直指二燕然一掌上看。

【征騎】21 セイキ ❶旅行の途上にある騎馬。〔韓愈、

送汴州監軍俱文珍序〕曉日驅征騎、春風詠采蘭。❷出征した軍隊。〔王褒、飲馬長城窟行〕北走長安道、征騎每經過。

【征裘】22（セイキウ） たびごろも。征衣(6)に同じ。〔范梈、贈李山人詩〕昔向貴溪尋講鼓、又從薊郡攬征裘。

【征羌】23（セイキヤウ） 縣名。後漢、置く。故城は河南省郾城縣の東南。〔讀史方輿紀要、河南、開封府、許州、郾城縣〕征羌城、在縣東南、後漢初置縣屬汝南郡、來歙封征羌侯邑於此、志云、光武以歙征羌有功、因築城以寵之、晉省、後魏復置、屬汝陽郡、高齊廢。

【征裾】24（セイキヨ） たびごろものすそ。旅衣。〔范成大、詩〕不堪迴首拂征裾。

【征和】25（セイクワ） 漢の武帝、劉徹（**2**－**2224**‥521）の年號。（B.C.92－B.C.89）

【征課】26（セイクワ） 租稅。征賦(96)に同じ。

【征僑】27（セイケウ） 古の仙人の名。〔揚雄、甘泉賦〕雖方征僑與偓佺兮、猶彷彿其若夢。〔注〕善曰、征僑、姓征、名僑也、司馬相如大人賦曰、斯征伯僑、漢書曰、正伯僑、並同也。

【征月】28（セイゲツ） ❶正月をいふ。秦の始皇の諱の政を諱んで征月と改む。〔野客叢書、避諱〕如秦始皇諱政、呼正月爲征月、史記年表、又曰端月。❷佛（シヤウツキ） 祥月をいふ。征は行くの意で、死亡した月をいふ。

【征勦】29（セイサウ） 征伐する。〔日本政記、後醍醐天皇論〕建藩鎭撫無事、遣將征勦於有事。

【征艘】30（セイサウ） 旅の舟。〔羅鄴、秋日懷江上友人詩〕行子豈知烟水勞、西風獨自泛征艘。

【征衫】31（セイサン） 旅の衣。たびごろも。〔水滸傳、十二回〕穿一領白段子征衫、繫一條縱線縧。

【征驂】32（セイサン） 遠くに行く車馬。驂はそへうま。〔王勃、桑泉別少府序〕高林靜而霜鳥飛、長路曉而征驂動。

【征矢】33（ソヤ） 戰陣に用ひる矢。征箭。〔軍防令〕凡兵士每人、云云、征矢五十隻、胡籙一具。

【征師】34（セイシ） 遠くへ行く軍隊。又、出征してゐる軍隊。〔詩、小雅、黍苗〕烈烈征師、召伯成之。〔箋〕征、行也。

【征收】35 chêng¹ shou¹ 稅を徵收する。

【征袖】36（セイシウ） 旅衣のそで。〔鄭谷、鷓鴣詩〕遊子乍聞征袖濕、佳人纔唱翠眉低。

【征車】37（セイシヤ） 旅の車。〔韓愈、送侯參謀赴河中幕詩〕別袖拂洛水、征車轉崤陵。〔白居易、送鄭谷詩〕郵亭已送征車發、山館誰將候火迎。

【征商】38（セイシヤウ） 商人から稅をとる。〔孟子、公孫丑下〕古之爲市也、以其所有、易其所無者、有司者治之耳、有賤丈夫焉、必求龍斷而登之、以左右望而罔市利、人皆以爲賤、故從而征之、征商自此賤丈夫始矣。〔集注〕後世緣此遂征商人也。

【征戍】39（セイジユ） 行いてまもる。國境に屯して入寇に備へる。國境警備兵。〔顏延之、還至梁城作詩〕憔悴征戍勤。〔隋書、食貨志〕遣倉部侍郎韋瓚、向蒲陝以東、募人能於洛陽運米四十石、經砥柱之險、達於常平者、免其征戍。〔舊唐書、德宗紀上〕不知稼穡之艱難、不恤征戍之勞苦。〔沈佺期、古意呈補闕喬知之詩〕十年征戍憶遼陽。

〖征戍兒〗40（セイジユノジ） 國境守備の兵士。〔岑參、胡笳歌送顏眞卿使赴河隴詩〕吹之一曲猶未了、愁殺樓蘭征戍兒。

【征伀】42（セイシヨウ） ❶あわただしく行くさま。〔廣韻〕伀、征伀、行遽也。❷おそれあわてるさま。怔忪。遑遽。〔集韻〕伀、征伀、惶遽皃。〔王褒、四子講德論〕百姓征伀、無所措其手足。〔注〕善曰、方言曰、征伀、惶遽也。

【征鐘】43（セイシヨウ） したおび。ふんどし。小褌。〔宋書、五行志二〕桓玄時民謠語云、征鐘落地桓迸走、征鐘、至穢之服、桓、四體之下稱、玄、自下居上、猶征鐘之厠歌謠、下體之詠民口也、而云落地、墜地之祥、迸走之言、其驗明矣。

【征蜀】44（セイシヨク） 蜀を征伐する。〔魏志、鄧艾傳〕景元四年秋、詔、諸軍征蜀。〔曹植、征蜀論〕今將以謀謨爲劍戟、以策略爲旌旗。

【征清】46（セイシン） 清を征伐する。日清戰爭をいふ。〔依田學海、靖國神社〕加以近時征清・征俄諸役死事者。

【征人】47（セイジン） ❶たびびと。游子。旅客。征客。〔李益、夜上受降城聞笛詩〕不知何處吹蘆管、一夜征人盡望鄕。❷いくさびと。出陣した人。〔陸機、飲馬長城窟行〕獫狁亮未夷、征人豈徒旋。〔李益、從軍北征詩〕磧裏征人三十萬、一時回首月中看。

【征西】48（セイセイ） 西方を征伐する。又、西方にゆく。〔杜甫、秦州雜詩〕薊門誰自北、漢將獨征西。〔杜仁傑、絕句〕不念征西人萬里、玉關霜重鐵衣寒。

〖征西府〗49（セイセイフ） 延元三年、懷良親王が征西將軍に任ぜられて筑紫を鎭撫し、八代に開き給うた本營。〔賴山陽、下筑後河過菊池正觀公戰處感而有作〕九國逡巡征西府。

〖征西將軍〗50（セイセイシヤウグン） 征南大將軍を見よ。

〖征西大將軍〗51（セイセイタイシヤウグン） ❶臨時の官。西方征伐の大將軍。〔蜀志、姜維傳〕遷中監軍征西將軍。〔十六國春秋、前秦錄、苻健〕及洪死、建嗣位、去秦王之號、稱晉征西大將軍都督關西諸軍事雍州刺史。❷西國鎭撫を掌る臨時の職名。養老年間に征西將軍の名が見えるが、これは征隼人將軍を指す。天慶四年五月、純友の亂に藤原忠文を征西大將軍に補したのに始り、延元二年、懷良親王をこれに補し、後村上天皇の正平中、良成親王を補す。以後、史に見えず。〔日本政記、後村上天皇〕正平十四年、肥後守菊池武光、奉征西將軍懷良親王。

【征稅】52（セイゼイ） 稅をとりたてる。又、租稅。〔禮、王制〕關譏而不征。〔疏〕雖無征稅、猶須譏禁。〔國語、楚語下〕王取經入焉以食萬官。〔注〕常入、征稅也。〔後漢書、呂強傳〕雖時有征稅、猶望其仁恩之惠。〔張衡、東京賦〕征稅盡、人力殫。

【征船】53（セイセン） 水上を行く船。旅の船。旅船。〔岑參、阻戎瀘間羣盜詩〕三江行人絕、萬里無征船。

【征箭】54（ソヤ） 戰陣に用ひる矢。箆は節陰（フシカゲ）を塗り、筈は節筈（ヨハズ）、鏃は劍尻（ケンジリ）・柳葉（ヤナギハ）・鳥舌（トリノシタ）・丸根（マルネ）等を用ひ、羽は三立（ミタテ）鷲の羽を本とす。〔倭名類聚抄、調度部、征戰具〕征箭、曾夜。〔續日本紀、四十〕延曆十年十月、令作征箭三萬四千五百餘具。〔伊勢大神式、神寶〕征箭、一千四百八十隻、長各二尺三寸、鏃長二寸五分、以鳥羽作之、鏃塗金漆、筈塗朱沙。

〖征箭尻〗55（ソヤジリ） 征矢に附ける鏃。〔東鑑、二十二〕建保元年六月二十五日、令用意征箭尻百腰、送遣之由。

【征戰】56（セイセン） いくさ。いくさにゆく。出征。戰爭。〔管子、小匡〕君有征戰之事。〔後漢書、皇甫規傳〕故每有征戰、鮮不挫傷。〔王翰、涼州詞〕醉臥沙場君莫笑、古來征戰幾人回。〔盧綸、晚次鄂州詩〕舊業已隨征戰盡、更堪江上鼓鼙聲。

【征繕】57（セイゼン） 租稅を取つて車馬を益し甲兵をつくろふ。又、車馬をとりたて甲兵をつくろふ。〔左氏、僖、十五〕征繕以輔孺子。〔注〕征、賦也、繕、治也。〔會箋〕征繕、言賦車馬治器械。〔劉基、詩〕一耕而十食、何以奉征繕。

【征舠】58（セイタウ） 旅の小舟。〔吳均、贈王桂陽別詩〕行衣侵曉露、征舠犯夜湍。

【征討】59（セイタウ） 上が下の非違を攻め撃つ。兵を出して罪あるものを征伐する。征伐。〔左氏、昭、元〕日尋干戈、以相征討。〔國語、周語上〕有征討之備。〔孫楚、爲石仲容與孫皓書〕征討暴亂、克寧區夏。

〖征討將軍〗60（セイタウシヤウグン） 明治維新當時臨時に置かれた職。征討大將軍。

【征櫂】61（セイタウ） 遠方にゆくためにこぐ船のかい。〔楊衡、冬夜舉公房送崔秀才歸南陽詩〕聞君動征櫂、犯夜故來尋。

【征鐸】62（セイタク） 旅の車の鈴。〔溫庭筠、商山早行詩〕晨起動征鐸、客行悲故鄕。

【征儔】63（セイチウ） 旅のつれ。儔は伴侶。〔王勃、焦岸早行詩〕侵星違旅館、乘月戒征儔。

【征軸】64（セイヂク） 遠方へ行く車。〔謝朓、和王著作八公山詩〕浩蕩別親知、連翩戒征軸。〔注〕濟曰、征軸、行車也。

【征誅】65（セイチユウ） 征伐して誅戮する。〔荀子、樂論〕故樂者、出所以征誅也、入所以揖讓也、征誅揖讓、其義一也。

【征鎭】66（セイチン） 魏晉以來、將軍の名號に征東・鎭東・征南・鎭南等があり、之を征鎭と總稱し、軍事を監督して地方を守備することを掌る。南北朝の

時、虛官となり、唐、廢す。〔魏志、高貴鄕公紀〕今羣公卿士、股肱之輔、四方征鎭、宣力之佐。

【征陣】67セイヂン 戰場におもむくこと。出征。又、戰場をいふ。〔尹文子、大道上〕絕レ衆之勇、不レ可レ與二征陣一。

【征塵】68セイヂン 旅の道に立つほこり。旅をいふ。旅中。〔王勃、別レ人詩〕自然堪レ下レ淚、誰忍レ望二征塵一。〔陸游、劍門道中遇二微雨一詩〕衣上征塵雜二酒痕一、遠游無二處不レ消レ魂。

【征鳥】69セイテウ 鷹隼の類。小鳥を捕へるからいふ。一說に、わたり鳥。〔禮、月令〕季冬之月、云云、征鳥厲疾。〔注〕征鳥、題肩也、齊人謂二之擊征一、或名曰レ鷹、仲春化爲レ鳩。〔疏〕征鳥、鷹隼之屬也。〔沈約、宿二東園一詩〕征鳥時相顧。〔注〕善曰、呂氏春秋曰、征鳥厲疾、高誘曰、征、猶レ飛也。

【征調】70セイテウ 戰爭に召し出されること。〔琵琶記、丹陛陳情〕四方戰爭、多二征調一。

【征調千家】71セイテウセンカ 盡く徵兵となつて出征すること。〔長生殿、收京〕征調千家、流離百室。

【征狄】72セイテキ 夷狄を征伐する。蝦夷を征討する。〔續日本紀、四〕和銅二年七月丁卯、令下越前・越中・越後・佐渡四國船一百艘、送中于征狄所上。

【征狄將軍】73セイテキシヤウグン 古、蝦夷の叛亂を鎭定するため、臨時に置いた職。〔續日本紀、四〕和銅二年九月乙丑、賜二征狄將軍等祿一、各有レ差。

【征敵】74セイテキ 敵を征伐する。〔戰國、秦策〕征レ敵伐レ國、莫二敢不一レ聽。

【征廛】75セイテン 商品稅と店鋪稅。〔周禮、地官、司關〕司二貨賄之出入一者、掌三其治禁與二其征廛一。〔注〕征廛者、貨賄之稅、與二所レ止邸舍一也、關下亦有二邸客舍一、其出レ布、如二市之廛一。〔疏〕征、謂レ稅、廛、謂二邸舍一、二事雙言也。

【征傳】76セイデン たびの車馬。征旅の傳馬。〔徐堅、詩〕征傳駸駸灞水前。

【征徒】77セイト 旅の從者。〔謝脁、休沐重還道中詩〕試與二征徒一望、鄕淚盡霑レ衣。〔注〕濟曰、征、行、徒、侶也。

【征途】78セイト ❶たびぢ。旅路。又、人生の行路。〔杜甫、玉華宮詩〕冉冉征途閒、誰是長年者。❷出陣の道中。出征のみち。〔太平記、十七、山門牒送二南都一〕今賊黨再窺二覦帝城一、官軍暫彷二徨征途一。

【征東】79セイトウ 東方を征伐する。征東將軍を見よ。

【征東將軍】80セイトウシヤウグン ❶臨時の官名。東方を征伐する將軍。〔蜀志、馬超傳、注〕初平中、拜二征東將軍一。❷東國の亂を鎭定するために遣はされた將軍。征夷大將軍(5)と同じ。大將軍・副將軍・判官・主典を置く。征東大使。〔源平盛衰記、二十六、平家東國發向〕征東將軍左兵衛督知盛卿。

【征東副使】81セイトウフクシ 征東大使の副として大使を補佐する將軍。〔續日本紀、三十六〕寶龜十一年三月甲午、以二征東副使正五位上大伴宿禰益立一爲二兼陸奧守一。

【征東大將軍】82セイトウタイシヤウグン 征東將軍中の最上の官。〔日本紀略、二〕天慶三年正月十九日、勅以二參議修理大夫藤原忠文一、任二右衛門督一、爲二征東大將軍一。

【征南】83セイナン ❶南方を征伐する。又、征南大將軍の略。〔徐陵、廣州刺史歐陽頠德政碑〕樊卿寶鼎、復述二台司之功一、羊叟高碑、更紀二征南之德一。〔杜甫、奉二和嚴中丞西城晚眺一十韻詩〕征南多二興緖一、事業闇相親。〔杜牧、懷二鍾陵舊遊一詩〕一謁征南最少年、虞卿雙璧截肪鮮。❷淸、王來咸(7－20823··2158)の字。

【征南錄】84セイナンロク 書名。一卷。宋、滕元發撰。孫沔が儂智高を平げた事を記した書。〔續金華叢書、史部〕。

【征南大將軍】85セイナンタイシヤウグン 臨時の官名。南方を征討する大將軍。〔後漢書、岑彭傳〕彭遷二征南大將軍一、與二吳漢一發レ卒會二荊門一、帝曰、大司馬習二用步騎一、不レ曉二水戰一、荊門之事、一由二征南公一爲レ重而已。〔晉書、羊祜傳〕詔曰、征南大將軍南城侯祜、蹈レ德沖素、思心淸遠。

【征入】86セイニフ 租稅の收入。又、租稅。〔韓愈、送二鄭尙書一序〕薄二其征入一。

【征念】87セイネン 旅のおもひ。旅情。〔鮑照、與二荀中書一別詩〕敷レ文勉二征念一、發レ藻慰二愁容一。

【征馬】89セイバ ❶旅の乘馬。道中馬。征途にある馬。〔江淹、別賦〕驅二征馬一而不レ顧、見二行塵之時起一。❷陣中に乘る馬。戰爭に從ふ馬。戰馬。〔李華、弔二古戰場一文〕鷙鳥休レ巢、征馬踟躕。〔樂府詩集、近代曲辭、涼州歌〕征馬長思青海北、胡笳夜聽隴山頭。〔資治通鑑、唐紀〕（穆宗、長慶元年）又獻二征馬萬五千匹一。〔注〕征馬、戰馬也。

【征旆】90セイハイ 征伐に用ひるはた。進みゆくはたじるし。〔張九齡、酬下趙侍御史西軍贈二兩省舊寮一之作上詩〕使車經二隴月一、征旆繞二河風一。〔陳子昂、東征至二淇門一答二宋參軍之問一詩〕西林改二微月一、征旆空自持。

【征伐】91セイバツ 罪あるものを伐ち正す。王者の討伐。征は正。征討。〔書、武成〕王朝步レ自レ周、于征二伐商一。〔詩、小雅、采芑〕征二伐玁狁一、蠻荊來威。〔左氏、莊、二十三〕征伐以討二其不然一。〔論語、季氏〕天下有レ道、則禮樂征伐、自二天子一出。〔史記、司馬穰苴傳贊〕雖二三代征伐一、未レ能レ竟二其義一。

【征帆】92セイハン 進み行く船の帆。旅の舟。〔庾信、應令詩〕路塵猶向レ水、征帆獨背レ關。〔溫庭筠、楊柳詩〕館娃宮外鄴城西、遠映二征帆一近拂レ堤。〔元稹、送二致用一詩〕遙看二逆浪一愁翻レ雪、漸失二征帆一錯認レ雲。

【征夫】93セイフ 遠くに行く人。使臣。又、たびびと。行人。〔詩、小雅、皇皇者華〕駪駪征夫、每懷靡レ及。〔傳〕征夫、行人。〔集傳〕征夫、使臣與二其屬一也。〔國語、晉語四〕莘莘征夫。〔陶潛、歸去來辭〕問二征夫一以二前路一。

【征布】94セイフ 稅として市場から取り立てる布。〔周禮、地官、泉府〕掌下以二市之征布一云云上。

【征婦】95セイフ 旅に出てゐる人の妻。〔劉績、征夫詞〕征夫語二征婦一、死生不レ可レ知。

【征賦】96セイフ 上に取り立てるみつぎもの。征稅。〔國語、吳語〕舍二其愆令一、輕二其征賦一。〔管子、五輔〕薄二徵斂一、經二征賦一。〔何遜、七召〕收二六穗於征賦一、玩二九莖於池沼一。

【征服】97セイフク 征伐して服從せしめること。

【征服欲】98セイフクヨク 他人を自分の意志に從はせようとする慾望。

【征甫】99セイホ 明、甘茹(7－21643··95)の字。

【征蓬】100セイホウ 飛びゆくよもぎ。又、旅人を風に吹かれて飛び行く蓬に比していふ。〔王維、使至二塞上一詩〕征蓬出二漢塞一、歸雁入二胡天一。

【征謀】101セイボウ 征伐の謀計。〔韓愈、送二石處士一序〕吾所レ處地、歸輸之塗、治法征謀、宜レ有レ所レ出。

【征北】102セイホク 城の名。河北省大興縣の境。後漢の末に、公孫瓚の築くところといふ。〔讀史方輿紀要、直隸、順天府、宛平縣〕征北小城、在二府東一、或曰二卽後漢末公孫瓚所一レ築。

【征利】103セイリ 利益を取得する。〔孟子、梁惠王上〕王曰三何以利二吾國一、大夫曰三何以利二吾家一、士庶人曰三何以利二吾身一、上下交征レ利、而國危。〔注〕征、取也。

【征旅】104セイリヨ ❶征伐の軍旅。討伐の軍隊。〔曹植、應レ詔詩〕命二彼掌徒一、肅二我征旅一。❷旅の客。〔潘岳、上客舍議〕使下客舍灑掃以待二征旅一、擇レ家而息上。

【征虜】105セイリヨ 亭の名。江蘇省江寧縣の東。〔晉書、謝萬傳〕謝萬嘗與二蔡系一送二客於征虜亭一。

【征輪】106セイリン 遠方に行く車。〔王維、觀二別者一詩〕揮レ淚逐二前侶一、含レ悽動二征輪一。

【征路】107セイロ たびのみち。征途。〔鮑照、還レ都道中詩〕鳴鷄戒二征路一、暮息落日分。〔張九齡、春江晚景詩〕征路那逢レ此、春心益眇然。

【征露】108セイロ 露西亞を征伐する。日露戰爭。征俄。〔土屋鳳洲、近世大戰紀略〕三十七年二月、征露之役興。

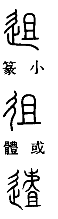
【征遼東】109セイレウトウ 晉の鼓吹曲の名。傅玄撰。〔晉書、樂志下〕改二艾如張一爲二征遼東一。

【征越後蝦夷將軍】110セイエチゴエゾシヤウグン 奈良時代、越後の蝦夷を征討するために、臨時に任ぜられた將軍。後、鎭狄將軍といふ。〔續日本紀、四〕和銅二年三月壬戌、民部大輔正五位下佐伯宿禰石湯、爲二征越後蝦夷將軍一。

【征隼人持節大將軍】111セイハヤトヂセツタイシヤウグン 王朝時代、大隅薩摩の隼人の叛亂を鎭定するため、節刀を賜うて臨時に派遣した將軍。〔續日本紀、八〕養老四年三月丙辰、以二中納言正四位下大伴宿禰旅人一、爲二征隼人持節大將軍一。

【徂】10078

ソ　ゾ　〔集韻〕叢租切　ㄘㄨˊ　$ts'u^2$　虞



❶ゆく。㋑おもむく。𨒪(11−38776)の或體。〔説文〕𨒪、往也、从レ辵且聲、徂、𨒪或从レ彳。〔方言、一〕徂、往也、齊語也。〔書、大禹謨〕汝徂征。〔傳〕徂、往也。〔詩、衞風、氓〕自レ我徂レ爾。〔箋〕徂、往也。〔詩、大雅、桑柔〕自レ西徂レ東。㋺すすむ。〔詩、魯頌、駉〕思二馬斯徂一。〔箋〕徂、猶レ行也。〔向秀、思舊賦〕遂旋反而北徂。〔注〕善曰、徂、行也。㋩及ぶ。〔詩、周頌、絲衣〕自レ堂徂レ基、自レ羊徂レ牛。㋥さる。〔楚辭、九章、抽思〕實沛徂兮。〔注〕徂、去也。❷しぬ。殂(6−16408)に通ず。〔六書故〕徂、徃也、人死、因謂二之徂一、生者來而死者徃也。〔説文通訓定聲〕徂、叚借爲レ殂。〔孟子、萬章上〕放勳乃徂落。〔注〕徂落、死也。〔集注〕徂、升也、落、降也、人死則魂升而魄降、故古者謂レ死爲二徂落一。〔史記、伯夷傳〕于嗟徂兮。〔注〕索隱曰、徂者、往也、死也。〔陸厥、奉二答内兄希叔一詩〕殂落固云是。〔注〕銑曰、徂落、死也。❸ながらへる。存(3−6943)に通ず。〔説文通訓定聲〕徂、叚借爲レ存。〔爾雅、釋詁〕徂、存也。〔注〕以レ徂爲レ存、猶二以レ亂爲レ治、以レ曩爲レ曏、以レ故爲レ今、義有二反覆旁通一、美惡不レ嫌二同名一。❹はじまる。はじめて。祖(8−24664)に通ず。〔説文通訓定聲〕徂、叚借爲レ祖。〔詩、小雅、四月〕六月徂暑。〔箋〕徂、猶レ始也。❺馬のわかくさかんなこと。駔(12−44665)に通ず。〔説文通訓定聲〕徂、叚借爲レ駔、詩駉、思馬斯徂、箋、猶レ行也、非レ是。❻にぶい。伹(1−482)に通ず。〔説文通訓定聲〕徂、叚借爲レ伹、書費征、徂茲淮夷。❼はばむ。阻(11−41593)に通ず。〔莊子、則陽〕已死不レ可レ徂。〔釋文〕徂、一本作レ阻。❽籀文は𨘢(11−39070)に作る。〔集韻〕𨒪、説文、往也、𨒪、齊語或从レ彳、籀从レ虘。❾國の名。周代の國。〔詩、大雅、皇矣〕侵二阮徂共一。〔箋〕阮也、徂也、共也、三國犯レ周、而文王伐レ之。

【徂音】1 ソオン あるくおと。歩音。〔顏延之、宋文皇帝元后哀策文〕飾二遺儀於組旒一、淪二徂音乎珩珮一。〔注〕濟曰、徂、往也。

【徂歳】2 ソサイ すぎ去つたとし。去りゆく年。徂年。〔謝靈運、傷レ己賦〕眺二徂歳之驟經一。〔陸游、詩〕杜陵雁下悲二徂歳一、笠澤魚肥夢二故鄕一。

【徂師】3 ソシ 征伐に行く軍隊。〔顏延之、還至二梁城一作詩〕昔邁先二徂師一、今來後二歸軍一。〔注〕向曰、昔邁、謂三前北使時、在二北伐之前師一也。

【徂茲】4 ソシ 過ぎた年。先の年。往者。〔書、費誓〕徂茲、淮夷徐戎竝興。〔蔡傳〕徂茲者、猶レ曰二往者一云。

【徂謝】5 ソシャ 去り行く。過ぎ去る。死亡する。衰退する。〔謝靈運、廬陵王墓下作詩〕徂謝易二永久一。〔注〕向曰、徂、往、謝、去也。〔程鉅夫、詩〕年運倏徂謝、春秋焉能託。

【徂暑】6 ソショ 去り行く暑さ。一説に、始めて暑い。始めて暑さがきびしくなる。轉じて、陰曆六月の異名。〔詩、小雅、四月〕四月維夏、六月徂暑。〔傳〕徂、往也、暑盛而往矣。〔箋〕徂、猶レ始也、四月而立夏矣、至二六月一乃始盛暑。〔疏〕徂、訓爲レ往、今言二徂始一者、義出二於往一也、言レ往者、因レ此往レ彼之辭、往到即是其始、暑自二四月一往、至二於六月一爲レ始也。〔孫逖、立秋日題二安昌寺北山亭一詩〕徂暑迎二秋薄一、涼風是日飄。〔杜甫、七月三日亭午已後校熱退云云詩〕密雲雖二聚散一、徂暑終衰歇。

【徂生】7 ソセイ 死に近づいて行く生命。死に向つて行く肉體。人間のやがて死ぬ肉體をいふ。〔顏延之、贈二王太常一詩〕靜惟浹二群化一、徂生入二窮節一。〔注〕善曰、爾雅曰、徂、往也、謂三往二之死一也。

【徂征】8 ソセイ ❶ゆいて伐つ。〔書、大禹謨〕惟時有苗弗レ率、汝徂征。❷ゆく。〔陸機、於二承明一作與二士龍一詩〕牽レ世嬰二時網一、駕言遠徂征。

【徂逝】9 ソセイ ゆく。ゆきさる。死亡する。〔爾雅、釋詁〕徂・逝、往也。〔蔡邕、議郎胡公夫人哀讚〕景命徂逝、不レ慭少レ留。〔曹大家、東征賦〕乃遂往而徂逝。

【徂年】10 ソネン すぎゆく年。〔後漢書、馬援傳贊〕徂年已流、壯情方勇。

【徂物】11 ソブツ すぎ去つてゆくもの。枯れたもの。〔顏延之、應レ詔觀二北湖田收一詩〕開冬眷二徂物一。〔注〕善曰、言三開冬而視二徂落之物一。

【徂歿】12 ソボツ 死ぬ。徂沒。〔陸機、駕言出北闕行〕念昔徂歿子、悠悠不レ可レ勝。

【徂沒】13 ソボツ 死ぬ。徂歿に同じ。〔江淹、雜體、顏平原機羇宦詩〕徂沒多二拱木一、宿草陵二寒煙一。

【徂來】14 ソライ ゆきき。往來。徂徠。〔詩、豳風、東山〕我徂二東山一、慆慆不レ歸、我來レ自レ東、零雨其濛。

【徂徠】16 ソライ ❶山名。山東省泰安縣の東南。別名、尤來・尤崍。宋の石介が此處に居り、徂徠先生と號した。元の許衡も亦隱居した。〔詩、魯頌、閟宮〕徂徠之松、新甫之柏。〔傳〕徂徠、山也。〔韻會〕徠、徂徠、山名。〔水經、汶水注〕汶水又西南流逕二徂徠山西一、山多二松柏一。〔宋史、石介傳〕石介、字守道、耕二徂徠山下一、以レ易教二授於家一。〔讀史方輿紀要、山東、濟南府、泰安州〕徂徠山、州東南四十里、詩徂來之松、謂レ此也、一名、尤來山、亦曰二尤崍山一。❷荻生雙松の號。荻生徂徠(9−31005··33)を見よ。

【徂徠集】17 ソライシフ 書名。❶二十卷。附錄一卷。宋、石介撰。其の文は、つとめて五代以後の卑靡の習を矯む。故に集中の諸作、倔強勁質にして唐人の風あり。内容は、宋頌一卷・古詩二卷・律詩一卷・說・辯・論等（共七卷）・書（六卷）・序一卷・記一卷・啓、表等（共一卷）。附錄は宋史本傳・歐陽脩の選んだ墓誌銘等を載す。〔四庫提要、集、別集類〕。❷三十卷。荻生徂徠撰。其の目は、卷一は古詩。卷二—四は律、卷五—七は絶句、卷八—十一は序、卷十二は論・記、卷十三は記、卷十四は贊銘碑誌、卷十五は紀行、卷十六—十九は說・題言、卷二十—三十は書牘文。外に補遺一卷。

【徂徠派】18 ソライハ 蘐園學派(9−32474··2)を見よ。

【徂徠先生】19 ソライセンセイ ❶宋の學者、石介をいふ。〔宋史、石介傳〕石介、字守道、耕二徂徠山下一、以レ易教二授於家一、魯人號二介徂徠先生一。❷荻生徂徠をいふ。

【徂徠先生學則】20 ソライセンセイガクソク 書名。一卷。三浦竹溪・伊藤南昌編。荻生徂徠の學則七條を述べ、答二安澹泊一書、與二平子彬一書等を附錄す。

【徂徠先生答問書】21 ソライセンセイタフモンショ 書名。三卷。服部元喬、根本伯修編。荻生徂徠の書簡集。

【徂落】22 ソラク 天子の崩御をいふ。崩殂。殂落。〔孟子、萬章上〕堯典曰、二十有八載、放勳乃徂落、百姓如レ喪二考妣一。〔注〕徂落、死也。〔漢書、揚雄傳上〕權二輿於内一、徂二落於外一。

【徂兩】23 ソリヤウ 行く車。進む車。〔謝朓、京路夜發詩〕肅肅戒二徂兩一。〔注〕向曰、徂、往也、兩、車也。

【徂旅】24 ソリヨ 行く軍隊。進む軍隊。行軍。進軍。〔詩、大雅、皇矣〕爰整二其旅一、以按二徂旅一。〔集傳〕徂、往也。

【⿰彳乂】10079 イン 義未詳。〔龍龕手鑑〕⿰彳乂、音引。

【⿰彳冬】10080 トウ 佟(1−522)の譌字。〔字彙補〕⿰彳冬、佟字之譌。

【径】10080′ ケイ 徑(4−10118)の略字。

六畫

【⿰彳同】10081 トウ ツ 〔集韻〕吐孔切 董

❶徿⿰彳同は、まつすぐ行く。〔集韻〕⿰彳同、徿⿰彳同、直行。❷こみち。衕(10−34048)に同じ。〔續字彙補〕⿰彳同、與レ衕同、見二漢太丘長碑一。

【⿰彳各】10082 カク キヤク 〔集韻〕各額切 陌

❶いたる。〔方言、一〕佫、至也、邠・唐・冀・兗之閒曰レ假、或曰レ佫。〔集韻〕佫、至也。❷きたる。〔方言、二〕佫、來也。❸のぼる。〔方言、一〕佫、登也、梁益之閒曰レ佫。❹或は佫(1－547)・假(4－10173)・假(1－835)・狢(9－30153)に作る。〔集韻〕佫、或作二佫・假・假・狢一。❺通じて格(6－14749)に作る。〔集韻〕佫、通作レ格。

【⿰彳兆】10083

㊀テウ デウ　〔集韻〕田聊切　蕭

㊁タウ トウ　〔集韻〕他刀切　豪

㊀獨りで行くさま。佻(1－569)に同じ。〔玉篇〕⿰彳兆、⿰彳兆⿰彳兆、獨行皃。〔集韻〕佻、詩傳、佻佻、獨行皃、或从レ彳。㊁挑(5－12055)に同じ。〔集韻〕挑、挑達、相見皃、一曰、往來皃、或从レ彳。

【⿰彳合】10084

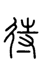
㊀タフ トフ　〔玉篇〕他合切　合

㊁クワイ ヱ　〔集韻〕黃外切　泰

㊀ゆくさま。〔玉篇〕⿰彳合、行皃。㊁會(5－14306)の古字。〔集韻〕會、說文、合也、古作レ⿰彳合。

【待】10085

タイ ダイ　〔集韻〕蕩亥切　ㄉㄞˋ　tai¹·⁴　賄


小篆

❶まつ。㋑まちうける。まちまうける。〔說文〕待、竢也、从レ彳寺聲。〔段注〕今人易二其語一曰レ等。〔廣雅、釋詁二〕待、逗也。〔疏證〕各本、逗訛作レ逼、惟影宋本不レ訛。〔易、繫辭下〕待レ時而動。〔漢書、項籍傳〕烏江亭長檥レ船待。〔晉書、宣帝紀〕列レ陣以待レ之。㋺そなへる。〔國語、晉語八〕厚戒二箴國一以待レ之。〔注〕待、備也。㋩ふせぐ。〔國語、楚語下〕其獨何力以待レ之。〔注〕待、猶レ禦也。㋥時日をかしあたへる。〔國語、晉語九〕其誰能待レ之。〔注〕待、猶レ假也。㋭もてなす。あしらふ。〔書、舜典、敬敷二五教一在レ寬、傳〕寬裕以待レ之也。〔論語、微子〕以二季孟之閒一待レ之。〔戰國、齊策〕將何以待レ之。〔注〕待、猶レ共也。〔史記、蘇秦張儀傳〕終皆歸レ齊、齊善待レ之。〔後漢書、蔡邕傳〕重二邕才學一、厚相遇待。㋬目をつける。のぞみをかける。〔張籍、祭二退之一詩〕薦待皆寒羸、但取二其才良一。㋣任用する。〔唐書、渾瑊傳〕帝終始信待。〔唐書、卓行、司空圖傳〕咸通末、擢二進士禮部侍郎一、王凝特所二獎待一。㋠あてがふ。〔周禮、天官、外府〕待二國之用一。〔注〕待、猶レ給也。〔周禮、春官、小宗伯〕以待二祭祀賓客一。〔注〕待者、有レ事則給レ之。〔周禮、地官、遺人〕以待二凶荒一。〔注〕待二凶荒一、謂下邦國所レ當二通給一者上也。㋷たすける。〔陶潛、勸農詩〕智巧既萌、資待靡レ因。❷たくはへる。庤(4－9310)に通ず。〔說文通訓定聲〕待、叚借爲レ庤、穆天子傳、乃命二邢侯一待二攻レ玉者一、注、留レ之也。❸もつ。持(5－12019)に通ず。〔說文通訓定聲〕待、叚借爲レ持。〔儀禮、公食大夫禮〕左人待レ載。〔注〕待、古文作レ持。❹はべる。侍(1－589)に通ず。〔說文通訓定聲〕待、叚借爲レ侍。〔禮、雜記上〕待猶レ君也。〔注〕待、或爲レ侍。〔莊子、漁父〕竊待二于下風一。〔釋文〕待、或作レ侍。❺たのむ。恃(4－10521)に通ず。〔說文通訓定聲〕待、叚借爲レ恃。〔呂覽、無義〕不レ窮奚待。〔注〕待、恃也。❻とき。時(5－13890)に通ず。〔易、歸妹〕有レ待而行也。〔釋文〕一本、待、作レ時。❼或は跱(8－25762)に作る。〔集韻〕待、或从レ立。❽姓。〔萬姓統譜〕待、見二姓苑一。❾現まさに云々しようとする。邦まち。㋑狩に用ひるまち木の略。㋺待針の略。

名乘　ナガ。ミチ。マチ。マツ。

參考　侍(1－589)は別字。

【待菴】1 タイアン　清、任辰旦(1－416・・225)の號。

『待菴居士』2 タイアンコジ　清、王大經(7－20823・・1873)の號。

【待要】3 tai⁴ yao⁴　云々せんとする。云々する「であらう。」

【待翁】4 タイヲウ　清、鮑鉁(12－46074・・63)の號。

【待賈】5 タイコ タイカ　よい商人を待つて賣る。賢君の聘を待つて仕へる義。時機を待つて仕へる義。一說に、カと讀み、よい價を待つて賣る。賈は價。〔論語、子罕〕子貢曰、有三美二玉於斯一、韞レ匱而藏レ諸、求二善賈一而沽レ諸、子曰、沽レ之哉、沽レ之哉、我待レ賈者也。〔集解〕包咸曰、沽レ之哉、不レ衒二賣一之辭、我居而待レ賈。〔劉寶楠正義〕君子於レ玉比レ德、時夫子抱レ道不レ仕、故子貢借二美玉一以觀二夫子藏用之意一、善賈、喩二賢君一也、雖レ有二賢君一、亦待レ聘乃仕、不レ能二枉レ道以事一レ人也、待レ賈、亦謂レ待二賈人一、包鄭均云二居而待一レ賈、御覽引、鄭作レ待レ價、字之誤。〔荻生徂徠、論語徵〕善賈者、賈人之善者也、賈、音古、何注蓋亦爾、自三刑昺以爲二善價一、而朱子因レ之、音嫁、云云、可レ謂レ謬矣、求二良賈一、謂レ求二先容之人一也、待レ賈、亦待二人之先容一也。

【待價】6 タイカ　❶人の來り求めるを待つ意。待賈に同じ。〔嵇康、琴賦〕經二千載一以待レ價兮、寂神跱而永康。〔注〕銑曰、價、求也、待レ價、謂レ待二人來求一也。❷字號。㋑唐、李珏(趙郡の人)の字。㋺宋、邊珝(11－39216・・44)の字。

【待好】7 タイカウ　やがて。〔桃花扇、草檄〕元帥左爺爺、待好回レ營麼。

【待客】8 タイカク　來客に接待すること。〔史記、孟嘗君傳〕待客坐語。

『待客廳』9 tai⁴ k'ê⁴ t'ing¹　應接室。

【待合】10 マチアヒ　❶まちあふ。約して互に待ち合はすこと。❷男女の密會、藝者と遊客と會合、遊宴する茶屋。待合茶屋。〔娘消息、初上〕待合と書きし懸行燈のある水茶屋の。

【待閒】11 タイカン　❶病のよくなるのを待つ。〔左氏、昭、十四〕司徒老・祁慮癸、僞二癈疾一、使レ請二於南蒯一曰、臣願レ受レ盟而疾興、若以二君靈一不レ死、請待レ閒而盟。〔注〕閒、差也。❷ひまになるのを待つ。〔楚辭、宋玉、招魂〕離榭脩幕、待二君之閒一些。〔史記、季布傳〕汝陰侯滕公、心知二朱家大俠一、意三季布匿二其所一、迺許曰、諾、待レ閒、果言如二朱家指一、上迺赦二季布一。

【待期】12 タイキ　約束の時期を待つ。〔沈約、齊故安陸昭王碑文〕弘二郭伋待レ期之信一。

【待機】13 タイキ　好機の來るのを待つ。時機の到るのを待つ。

【待擧】14 タイキョ　あげ用ひられるのを待つ。〔孔子家語、儒行解〕懷二忠信一以待レ擧。

【待遇】15 タイグウ　あしらふ。もてなす。〔史記、大宛傳〕立下宛貴人之故待二遇漢使一、善名者昧蔡上、以爲二宛王一。〔漢書、趙廣漢傳〕其尉三薦待二遇史一、殷勤甚備。〔魏志、曹植傳、注〕是時待二遇諸國一法峻。〔南史、王琳傳〕齊人亦以レ此重レ之、待遇甚厚。

【待月】16 タイゲツ　月の出るのをまつ。〔拾遺記、三、周靈王〕越有二美女二人一、一名二夷光一、二名二修明一、以貢二于吳一、吳處二于椒花之房一、貫二細珠一爲二簾幌一、朝下以蔽レ景、夕捲以待レ月。〔杜審言、義陽公主山池詩〕卷レ簾唯待レ月、應下在二醉中一歸上。〔李白、江上有レ懷詩〕待レ月月未レ出、望レ江江自流。

『待月簃』17 タイゲツイ　清、方濬頤(5－13620・・548)の號。

【待見】18 タイケン　面會をまつ。〔後漢書、仲長統傳〕賓客待レ見而不二敢去一。

【待賢】19 タイケン　賢人を待遇する。〔晉書、段灼傳〕留二心待賢一、遠求二異士一。〔王融、策二秀才一文〕永明九年、或揚レ旌求レ士、或設レ虡待レ賢。

『待賢門』20 タイケンモン　古、平安城の東面に在つた門。陽明門と郁芳門の中閒に位す。又、中御門

ともいふ。〔彈正臺式〕運二春宮坊雜物一、自二待賢門一竝聽二出入一。

〘待賢門院〙21 タイケンモンヰン 藤原公實の女璋子。鳥羽天皇の中宮で、崇德・後白河兩帝の御母。

【待厚】22 tai^4 hou^4 厚遇する。欵待する。

【待候】23 tai^4 hou^4 ❶待つ。欵待する。❷待遇。

【待罪】24 タイザイ ❶つみをまつ。過失があつて罪に問はれる義。官吏が其の職に在るのをいふ謙辭。俟罪。〔史記、季布傳〕臣無レ功竊レ寵、待二罪河東一。〔注〕索隱曰、季布言、已無二功能一、竊承二恩寵一、得レ待二罪河東一。〔史記、衞靑傳〕靑幸得下以二肺腑一待中罪行閒上。❷罪があつて罰をまつこと。〔唐書、安慶緒傳〕素服叩頭待レ罪。〔韓愈、送二區冊一序〕愈待二罪于斯一、且半歲矣。

【待死】25 tai^4 ssŭ^3 死を待つ。

【待至】26 タイシ 鎭の名。河南省修武縣の西。待王(78)に同じ。〔讀史方輿紀要、河南、懷慶府、修武縣〕承恩鎭、又縣西二十里、有二待至鎭一、皆以二武王伐レ紂時所レ經而名一レ之也。

【待字】27 タイジ 未だ許嫁しない娘。處女。古、女子は許嫁の時に笄して字をつけた。〔禮、曲禮上〕女子許嫁、笄而字。

〘待字閨門〙28 tai^4 tzŭ^4 kuei^1 men^2 未婚の婦女。處女。

【待次】29 タイジ 次序をまつ。官の次序に從つて遷任すること。又、遷任の命を待つ。〔荀子、王制〕賢能不レ待レ次而擧。〔注〕不レ以二官之次序一、若下傅說起二於版築一爲上レ相也。〔宋史、呂大臨傳〕待次之吏、歷歲不レ調。〔歐陽脩、徂徠石先生墓誌銘〕方待二次於徂徠一。

【待時】30 タイジ 時機の至るをまつこと。〔後漢書、鄭興傳〕武王以レ未レ知二天命一、還レ兵待レ時。

【待取】31 タイシュ 人の取り用ひるのを待つ。〔孔子家語、儒行解〕力行以待レ取。〔注〕力二行仁義道德一、以待二人取一。

【待酒】32 マチザケ 來客に飮ませようとして、かねて釀し設けて待つ酒。釀し待つ酒。〔古事記、中〕於レ是還上坐時、其御祖息長帶日賣命、釀二待酒一以獻。

【待須】33 タイシュ まつこと。〔管子、九守〕安徐而靜、柔節先定、虛心平氣以待須。〔纂詁〕須亦待也。

【待終】34 タイシュウ 死期の來るのをまつ。〔列子、天瑞〕貧者士之常也、死者人之終也、處レ常待レ終、當二何憂一哉。

【待戎】35 タイジュウ えびすをもてなす。〔左氏、襄、十一〕抑微レ子寡人無二以待レ戎、不レ能レ濟レ河。〔注〕待二遇接三納之一也。

【待承】36 tai^4 ch'êng あしらふ。待遇する。

【待稱】37 tai^4 ch'êng 待遇する。待承に同じ。

【待食】38 タイショク 食物を待つ。〔蘇軾、送二杭州杜戚陳三掾罷レ官歸一レ鄕詩〕期君正似二種宿麥一、忍レ飢待レ食明年麰。

【待臣】39 タイシン 臣下を待遇する。〔鹽谷賓山、山鹿素行傳〕公不レ以二臣之愚一、待レ臣以二國士一。

【待針】40 マチバリ 縫ひどめのしるしとして刺して置く針。〔薩摩歌、中〕。六道の縫目に待針して。

【待人】41 タイジン ❶處女が外出の時、人と一緒に行き、獨りでは行かないことにいふ。〔左氏、襄、三十〕女而不レ婦、女待レ人者也、婦義レ事也。〔注〕待レ人而行也。❷人をあしらふこと。人をもてなす。〔穀梁、僖、五〕以下待二人父一之道上待二人之子一、非レ正也。❸マチビト 來るべき人。〔狂言、居抗〕失物の、待ち人のと申すが。

【待尋】42 タイジン さがしたづねる。〔紅樓夢、二回〕令二其好生養贍一、以待二尋女兒下落一。

【待制】43 タイセイ ❶みことのりの下るのをまつ。待詔の❶に同じ。〔後漢書、蔡邕傳〕侍中祭酒樂松賈護、多引二無行趣埶之徒一、並待二制鴻都門下一、熹陳二方俗閭里小事一、帝甚悅レ之、待以二不次之位一。❷官名。唐、置く。文官六品以上の輪番で待制して顧問に備はるものをいふ。或は集賢門に待制す。宋は、殿閣に皆待制の官を置き、侍從顧問の職とした。金も亦翰林待制を置く。元明之に因り、後廢す。〔唐書、百官志二、注〕初太宗卽レ位、命二京官五品以上一、更二宿中書門下兩省一、以備二訪問一、永徽中、命二弘之館學士一人一、日待二制于武德殿西門一、文明元年、詔二京官五品以上淸官一、日一人待二制于章善明福門一、先天末、又命二朝集使六品以上二人一、隨レ仗待制、永泰時、勳臣罷節制無二職事一、皆待二制于集賢門一、凡十三人、崔祐甫爲レ相、建議、文官一品以上更直待制、其後著令正衙待制官日二人。〔文獻通考、職官考、總待制〕唐永徽中、命二弘文館學士一人一、日待二制於武德殿西門一、文明元年、詔二京官五品以上淸官一、日一人待二制於章善明福門一、先天末、又命二朝集使六品以上二人一、隨レ仗待制、永泰時、勳臣罷節制無二職事一、皆待二制於集賢門一、凡十三人、特給二餐錢一、以優二其禮一、崔祐甫爲レ相建議、文官六品以上更直待制、其後著令正待制官日二人、備二顧問一、仍有二公廨一、永泰元年、敕二裴冕等一、並集賢待制、此始有二待制之所一、然則蓋唐設レ官也。〔文獻通考、職官考〕按、學士待制二官、始二於唐一、皆以處二淸望儒臣一、俾レ備二顧問一、其初既無二專職一、亦無二定員一、宋因二其制一、而以二三館一爲二儲才之地一、故職名猶多。〔金史、百官志一〕翰林待制正五品、不レ限レ員。

〘待制集〙44 タイセイシフ 書名。附錄一卷。元、柳貫撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【待宵】45 マツヨヒ ❶人の來るのをまつ宵。特に戀人を待つ宵。〔新古今和歌集、戀三〕待つよひにふけ行く鐘の聲きけば。❷陰曆十四日の夜の稱。十五日の滿月をまつ夜の義。多く八月にいふ。〔好色一代男、一〕十三夜の月、待宵、名月、いづくはあれど。❸月見草をいふ。

〘待宵草〙46 マツヨヒグサ 草の名。やはずきんばい。あかばな科の二年草で海邊河岸等に自生し、夏、黃色の花を開く。月見草。

〘待宵小侍從〙47 マツヨヒノコジジユウ ❶高倉院の侍女。阿波の局。❷謠曲の曲名。

【待詔】48 タイセウ ❶みことのりの下るのをまつ。詔命の下るのをまつ。天子に召し出されて、未だ任命の辭令に接しない間の稱。〔史記、衞將軍驃騎傳〕以二待詔一爲二橫海將軍一。〔漢書、公孫弘傳〕天子擢二弘對一爲二第一一、召入見二容貌甚麗一、拜爲二博士一、待二詔金馬門一。❷官名。漢代、四方の上書する者は、皆、公車に待詔せしめたが、唐代は翰林院が待詔の所で、文詞經學の士から卜醫伎術家に至る迄、皆別院に直して宴見に備へた。かくて玄宗が翰林待詔を置き、四方の表疏批答應和文章を掌らしめるに及んで、始めて官名となる。遼は翰林醫待詔を置き、明は翰林院待詔を置き、應待に備へしめた。陔餘叢考、卷二十七に見える。〔文獻通考、職官考、學士院〕學士之職、本以二文學言語一被二顧問一、出入侍從、因得下參二謀議一、納中諫諍上、其禮尤寵、而翰林院者、待詔之所也、唐制、乘輿所レ在、必有二文詞經學之士一、下至二卜醫技術之流一、皆直二於別院一、以備二宴見一、而文書詔令、則中書舍人掌レ之、自二太宗時一、名儒學士、時時召以草レ制、然猶未レ有二名號一、乾封以後、始召二文士元萬頃・范履冰等一、草二諸文辭一、常於二北門一候二進止一、時人謂二之北門學士一、云云、玄宗初置二翰林待詔一、以二張說・陸堅・張九齡等一爲レ之、掌二四方表疏批答應和文章一。❸理髮師をいふ。〔稱謂錄、百工、待詔〕小知錄、鑷工稱二待詔一、元之舊習、古所謂修容、今所謂剃頭也。❹醫師をいふ。〔稱謂錄、醫、待詔〕唐張祜病宮人詩、藥餌無レ徵待詔愁、是醫亦稱二待詔一、蓋唐時醫亦待二詔翰林一也。

〘待詔廳〙49 タイセウチヤウ 官署の名。淸代、翰林院に屬し、章疏を校正することを掌る。〔淸國行政法汎論、翰林院、待詔廳〕待詔、滿漢各一人、專掌三校二正章疏文史一。

【待接】50 タイセツ もてなすこと。接待。〔吳志、孫登傳〕登爲二太子一、待二接僚屬一、略用二布衣之禮一。〔盧諶、贈二劉琨一詩序〕待接彌優。

【待絕】51 タイゼツ 死を待つこと。〔論衡、明雩〕然終不二肯安坐待一レ絕。

【待旦】52 タイタン ❶よあけをまつ。〔書、太甲上〕昧爽丕顯、坐以待レ旦。〔孟子、離婁下〕夜以繼レ日、幸而得レ之、坐以待レ旦。〔吳志、駱統傳〕統志在二補察一、苟所レ聞見、夕不レ待レ旦。❷宋代禁中の語。未明の前の時刻をいふ。〔老學庵筆記、七〕前代夜五更至二黎明一而終、本朝外廷及外郡、悉用二此制一、惟禁中未明前十刻更終、謂二之待旦一、蓋更終則上御二盥櫛一以俟レ明、出二御朝一也、祖宗勤二於政事一如レ此。

〘待旦軒〙53 タイタンケン 元、王惲(7-20823··49)の室名。

【待女】54 タイヂヨ 花の名。蘭の一種。〔採蘭雜志〕蘭待女子、同種則香、故名二待女一。〔瑯嬛記〕蘭待女子、同種則香、故名二待女一、待女花、宜男草、是絕レ對也。

〖待女郎〗55（マチヂョラウ） 婚禮のとき、新婦につき添つてせわをする女。伴姑。〔雪女五枚羽子板、中〕お輿添にも女ども、待女郎にも女ども。

【待除】56（タイヂョ） 採用を待つこと。〔書言故事、仕進類〕稱二呼待差一曰二待除一。

【待敵】57（タイテキ） 敵を待つ。〔孫子、軍形〕以待二敵之可レ勝。

【待等】58 tai⁴ têng³ 待つ。

【待年】59（タイネン） ㊀年が長ずるのを待つ。〔後漢書、獻穆曹皇后紀〕操進二三女憲節華一爲二夫人一、聘以二束帛玄纁五萬匹一、小者待二年於國一。〔注〕留二住於國一、以待二年長一。㊁tai⁴ nien² 女子の未だ許嫁しないものをいふ。待字。

【待放】60（タイハウ） 辭職。〔風俗通、過譽〕古既待放、須二起乃逝一。

【待望】61（タイバウ） まちのぞむ。〔後漢書、袁譚傳〕翹企延レ頸、待二望讎敵一。

【待伴】62（タイハン） 未だ消えない雪。〔西清詩話〕王君玉曰、雪未レ消者、俗曰二待伴一、詩曰、待伴不レ禁二鴛瓦冷一、羞明常怯二玉鉤斜一。

【待伏】63（マチブセ） 隱れて人を不意に襲ふこと。伏勢。〔惟任征伐記〕或寄二合外廳一、或行二當待伏一。

【待物】64（タイブツ） ㊀人物をもてなす。〔晉書、元帝紀〕帝性簡儉冲素、容二納直言一、虛レ己待レ物。㊁事物にそなへる。〔摯虞、公爲レ所レ寓服議〕備レ制待レ物、不下以二時衰一而除二盛典一、世隆而闕中衰教上也。

【待聘】65（タイヘイ） ㊀招聘を待つ。〔孔子家語、儒行解〕席二上之珍一以待レ聘。㊁明、許珍(**10－35298**··176)の字。

【待斃】66（タイヘイ） 死を待つ。〔五代史、任圜傳〕坐而待レ斃、曷若二伏而俟レ命。

【待哺】67（タイホ） 食物を待つ。〔宋史、富弼傳〕待レ哺數日、不レ得レ粥而仆。

【待補】68（タイホ） 宋代、官吏登用試驗で或る一部に合格したものに與へた資格。

【待網】69（マチアミ） 網を張り、魚の入るのをまつ。

【待命】70（タイメイ） ㊀命令をまつ。上の沙汰を待つ。又、運命にまかせる。〔左氏、文、十五〕惠叔猶毀、以爲レ請、立二於朝一以待レ命。〔戰國、東周策〕故留レ之十四日、以待レ命也。〔漢書、韓信傳〕靡衣媮食、傾レ耳以待レ命者。㊁官吏軍人などで、其の任所又は職務などが未定で、一定の職務に從事しないこと。

〖待命之士〗71（タイメイノシ） 上の命を待つて用をなす士。〔六韜、犬韜、練士〕能負レ重致レ遠者、聚爲二一卒一、名曰二待命之士一。

【待問】72（タイモン） ㊀試問を待つ。〔孔子家語、儒行解〕夙夜強學以待レ問。〔國朝漢學師承記、序〕所二以四海九州強學待問一者、咸沐二菁莪之雅化一。㊁字號。㋑北齊、朱才(**6－14424**··299)の字。㋺宋、蘇總龜(**9－32427**··256)の字。

【待用】73（タイヨウ） 明、林俊(**6－14551**··128)の字。

【待倫】74（タイリン） 唐、邵楚萇(**11－39343**··128)の字。

【待漏】75（タイロウ） 入朝の時刻。羣臣は漏刻を聽いて入朝するからいふ。待漏院を見よ。〔沈約、齊故安陸昭王碑文〕奉二待漏之書一、銜二如絲之旨一。〔注〕翰曰、奏事上書、皆晨起、駐レ車待二其刻漏一。〔白居易、早朝賀レ雪寄二陳山人一詩〕待漏午門之外、候對二三殿裏。

〖待漏院〗76（タイロウヰン） 官衙の名。唐、置く。百官が早朝、宮門の開くのを待つところ。〔宋史、禮志十九〕舊制、並早赴二待漏院一、候レ開二內門一、齊入伏レ緣。〔國史補〕元和初置二待漏院一、爲二朝臣晨集所一。〔事物紀原、京邑館閣部、待漏院〕唐元和中、方置二待漏院於朝門外一、令三百官朝以避二風霜一、國史補云。

〖待漏院記〗76′（タイロウヰンノキ） 文章の名。宋の王禹偁作。昔の宰相の政治に勵んだことを敍して、時の執政者を規箴したもの。

【待祿】77（タイロク） 祿を待つ。職につく。〔孔子家語、六本〕怵二於待祿一、愼二於治身一。

【待王】78（タイワウ） 鎭の名。河南省修武縣の西。道清鐵路に沿ふ。方輿紀要は待至に作る。武王が紂を伐つ時通つたので名づく。待至(26)を見よ。

【待雁樓】79（タイガンロウ） 淸、查士標(**6－14643**··95)の室名。

【待喜酒】80 tai⁴ hsi³ chiu³ 祝の酒をふるまふ。

【待診室】81 tai⁴ chen¹ shih⁴ 患者控室。

【待盡軒】82（タイジンケン） 明、方鵬(**5－13620**··421)の室名。

【待淸軒】83（タイセイケン） 明、鄒觀光(**11－39562**··82)の室名。

【待避線】84（タイヒセン） 單線の鐵道線路などで、前方から來る列車を、待ち受けるために設けた線路。

【待不好】85 tai⁴ pu⁴ hao³ 冷遇する。

【待不了】86 tai⁴ pu liao³ 待ち切れない。

【待我說來】87（タイガセツライ） さらば申し述べよう。〔桃花扇、先聲〕一時不レ能二領會一、還求三總二括數句一、待二我說來一。

【待軒詩記】88（タイケンシキ） 書名。八卷。明、張次仲撰。諸家の詩經に對する傳を抄錄したもの。〔四庫提要、經、詩類〕。

【待淸隱居】89（タイセイインキョ） 元、潘音(**7－18236**··8)の室名。

【待闕鴛鴦社】90（タイケツエンアウシャ） 唐の朱子春の室房。〔雲仙雜記〕唐朱子春未レ婚、先開二房室一、帷帳甚麗、以待二其事一、人謂二之待闕鴛鴦社一。

【待理不理的】91 tai⁴ li³ pu⁴ li³ tê むつつりとする。つんとする。

【待說不說兒的】92 tai⁴ shuo¹ pu⁴ shuo¹ êrh tê 言ひかけて言はない。思はせ振をする。

【⿰彳冊】10086 カウ ギャウ 〔字彙〕何庚切 ［庚］

ゆくさま。〔字彙〕⿰彳冊、行貌。

【⿰彳丞】10087 シヨウ 〔玉篇〕諸膺切 ［蒸］

正しく行かない。〔玉篇〕⿰彳丞、行不レ正。

【⿰彳戎】10088 シユウ シユ 〔集韻〕思融切 ［東］

姓。〔廣韻〕⿰彳戎、姓也。

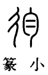
【⿰彳州】10089 シウ シユ 〔玉篇〕職救切 ［有］

ゆく。〔玉篇〕⿰彳州、行也。

【徆】10090 セイ サイ 〔玉篇〕息兮切 ［齊］

ゆく。〔玉篇〕徆、行也。

【徇】10091 ［一］シユン ジユン 〔集韻〕徐閏切 ［震］ Tㄩㄣˋ hsün⁴ ［二］シユン 〔集韻〕松倫切 ［眞］


小篆

［一］㊀**となへる**。㋑ふれる。あまねく示す。宣傳。もと⿰彳勻(**4－10053**)に作る。〔說文通訓定聲〕⿰彳勻、六書故引說文作レ徇、从二旬聲一。〔正字通〕⿰彳勻、徇本字。〔說文〕⿰彳勻、行示也、从レ彳勻聲、司馬法、斬以⿰彳勻。〔書、胤征〕以二木鐸一徇二于路一。〔周禮、地官、司市〕中刑徇レ罰。〔注〕徇、舉以示二其地之衆一也。〔漢書、陳勝傳〕車二裂畱一以徇。〔注〕師古曰、徇、行示也、以示レ衆爲レ戒。㋺軍中に號令を宣布する。〔左氏、桓、十三〕莫敖使レ徇二于師一。〔注〕徇、宣令也。㋩てらふ。ほこる。〔廣韻〕徇、自衒レ名行。〔左思、吳都賦〕徇二蹲鴟之沃一、則以爲二世濟陽九一。〔注〕劉曰、夸レ物示レ人、亦曰レ徇。㋥かすめる。〔史記、項羽紀〕徇二下縣一。〔注〕集解曰、徇、略也。〔史記、酈生陸賈傳〕諸將徇レ地。〔注〕正義曰、徇、略也。〔漢書、陳勝傳〕徇二蘄以東一。〔注〕李奇曰、徇、略也。㋭したがへる。〔史記、項羽紀〕徇二下縣一。〔注〕集解曰、如淳曰、徇、音撫徇之徇。〔漢書、高帝紀上〕時張良亦徇二韓地一。〔注〕師古曰、徇、撫二其民人一也。㊁**もとめる**。〔集韻〕⿰彳勻、一曰、求也。〔史記、伯夷傳〕貪夫徇レ財。〔注〕正義

曰、徇、求也。❸**したがふ**。順(**12−43349**)に通ず。〔說文通訓定聲〕㣧、叚借爲ㇾ順。㋑服從する。〔集韻〕㣧、一曰、順也。〔左氏、文、十一〕國人不ㇾ徇。〔注〕徇、順也。㋺おふ。追隨する。〔呂覽、貴生〕危ㇾ身棄ㇾ生以徇ㇾ物。〔注〕徇、隨也。〔漢書、賈誼傳〕貪夫徇ㇾ財、烈士徇ㇾ名。〔注〕臣瓚曰、以ㇾ身從ㇾ物曰ㇾ徇。㋩まきぞへになる。〔史記、韓世家〕將㆓以ㇾ楚徇ㇾ韓。〔注〕索隱曰、徇、從死也。❹**かへる**。〔集韻〕㣧、一曰、歸也。❺**めぐる**。循(**4−10187**)・巡(**4−8684**)に通ず。〔說文通訓定聲〕㣧、叚借爲ㇾ循爲ㇾ巡。㋑巡行する。〔廣雅、釋言〕徇、巡也。〔書、泰誓中〕王乃徇ㇾ師而誓。〔蔡傳〕徇、循也。〔釋文〕徇、巡也。㋺圍繞する。〔後漢書、班彪傳下〕徇以㆓離殿別寢㆒。〔注〕徇、猶ㇾ繞也。㋩まもる。〔太玄經、馴〕勤ㇾ躬徇ㇾ國。〔注〕徇、衞也。❻**はやい**。侚(**1−604**)に通ず。〔說文通訓定聲〕㣧、叚借爲ㇾ侚。〔素問、六節藏象論〕徇蒙招ㇾ尤。〔注〕徇、疾也。❼**さとい**。濬(**7−18524**)に通ず。〔說文通訓定聲〕㣧、叚借爲ㇾ濬。〔史記、五帝紀〕幼而徇齊。〔注〕索隱曰、徇、德也。❽或は甹(**4−10164**)に作る。〔集韻〕㣧、或从ㇾ旬、亦作ㇾ甹。❾殉(**6−16448**)に通ず。〔左氏、桓、六、周人以ㇾ諱事ㇾ神、名終將ㇾ諱ㇾ之、注〕以㆓木鐸㆒徇。〔釋文〕徇、本又作ㇾ殉。❿狥(**7−20377**)に通ず。〔說文通訓定聲〕㣧、字亦誤作ㇾ狥。〘二〙❶**あまねし**。旬(**5−13746**)・均(**3−4916**)に通ず。〔說文通訓定聲〕㣧、叚借爲ㇾ旬爲ㇾ均。〔爾雅、釋言〕徇、偏也。〔墨子、公孟〕思慮徇通。❷**あまねく示す**。〔集韻〕徇、一曰、偏示。❸**いとなむ**。營(**7−19457**)に通ず。〔說文通訓定聲〕㣧、叚借爲ㇾ營。〔一切經音義、一〕不徇、尙書、徇㆓于貨色㆒、註云、徇、干求也、亦營也。〔史記、項羽紀〕徇㆓其私㆒。〔注〕索隱曰、徇、營也。❹**つかふ**。〔集韻〕徇、使也。〔莊子、人閒世〕夫徇㆓耳目㆒、內通而外㆓於心知㆒。〔釋文〕徇、李云、使也。❺**まよふ**。〔廣雅、釋言〕徇、迷也。❻或は侚(**1−604**)・㣧に作る。〔集韻〕徇、或作㆓侚・㣧㆒。

【徇隱】1（ジュンイン）　かばひ隱す。上官が下僚の不正を隱庇する。〔淸會典、吏部、處分例、徇庇容隱〕康熙九年議准、總督貪婪、巡撫不ㇾ行㆓糾參㆒、巡撫貪婪、總督不ㇾ行㆓糾參㆒、如發覺審ㇾ實、無ㇾ論㆓同城・不同城㆒、皆降㆓三級㆒調用、藩臬兩司免ㇾ議、其方面以下大小官員貪婪之處、司道府等不ㇾ行㆓揭報㆒、被㆓督撫訪實題參㆒、將㆓同城之司道府㆒、各降㆓三級㆒調用、不同城者、各降㆓一級㆒留任。

【徇恩】2（ジュンオン）　身を捨てて恩にむくいる。〔唐書、尉遲敬德傳〕久陷㆓逆地㆒、秦王生ㇾ之、方以ㇾ身徇ㇾ恩。

【徇行】3（ジュンカウ）　めぐり歩く。巡行。循行。〔後漢書、張綱傳〕選㆓遣八使㆒、徇㆓行風俗㆒。〔後漢書、崔瑗傳〕光祿大夫杜喬爲㆓八使㆒、徇㆓行郡國㆒。

【徇義】4（ジュンギ）　正義のために身を棄てる。道義を第一として私情を顧みないこと。〔舊唐書、屈突通傳〕從㆓太宗㆒討㆓王世充㆒、時通有㆓二子㆒、並在㆓洛陽㆒、高祖謂ㇾ通曰、如㆓兩子㆒何、通對曰、身命奉㆓許國家㆒久矣、今此行也、臣願先驅、兩兒若死、自是其命、終不㆓以ㇾ私害㆒ㇾ義、高祖歎息曰、徇ㇾ義之夫、一至㆓於此㆒。

【徇國】5（ジュンコク）　身を棄てて國家のために盡すこと。殉國。〔後漢書、种劭傳〕昔我先父以ㇾ身徇ㇾ國。

【徇財】6（ジュンザイ）　命がけでたからを得ようとする。〔史記、伯夷傳〕貪夫徇ㇾ財、烈士徇ㇾ名。〔注〕正義曰、徇、求也、瓚云、己身從ㇾ物曰ㇾ徇。

【徇察】7（ジュンサツ）　あまねくしらべる。〔後漢書、杜喬傳〕以ㇾ喬守㆓光祿大夫㆒、使㆔徇㆓察兗州㆒。

【徇死】8（ジュンシ）　君主などの死にしたがつて死ぬこと。殉死(**6−16448・・4**)に同じ。

【徇私】9（ジュンシ）　❶私利を營む。私情に拘はれる。〔史記、項羽紀〕今不ㇾ恤㆓士卒㆒而徇㆓其私㆒、非㆓社稷之臣㆒。〔注〕索隱曰、徇、營也。❷hsün⁴ ssŭ¹　自分勝手にする。

【徇情】10　hsün⁴ ch'ing²　私情に拘る。自分勝手にする。

【徇縱】11　hsün⁴ tsung⁴　情實にとらはれる。

【徇齊】12（ジュンセイ）　幼にして聰敏なこと。〔素問、上古天眞論〕昔在黃帝、生而神靈、弱而能言、幼而徇齊、長而敦敏、成而登ㇾ天。〔史記、五帝紀〕弱而能言、幼而徇齊。〔注〕集解曰、徐廣曰、墨子曰、年踰㆓十五㆒、則聰明心慮、無ㇾ不㆓徇通㆒矣、駰案、徇、疾、齊、速也、言㆓聖德幼而疾速㆒也、索隱曰、孔子家語及大戴禮、並作㆓叡齊㆒、一本作㆓慧齊㆒、叡・慧皆智也、今裴氏注云、徇亦訓ㇾ疾、未ㇾ見ㇾ所ㇾ出。

【徇節】13（ジュンセツ）　みさをを守り、死に至るまで變らない。殉節。〔魏文帝、謚㆓龐德㆒策〕昔先軫喪ㇾ元、王蠋絕ㇾ脰、隕ㇾ身徇ㇾ節、前代美ㇾ之。〔顏延之、陽給事誄序〕豈能臨ㇾ敵引ㇾ義、以ㇾ死徇ㇾ節者哉。〔注〕良曰、以ㇾ身從ㇾ物曰ㇾ徇也。

【徇地】14（ジュンチ）　其の地を巡つて之を臣屬せしめる。略地。〔史記、陳涉世家〕當㆓此之時㆒、諸將之徇ㇾ地者、不ㇾ可㆓勝數㆒。

【徇智】15（ジュンチ）　智識の豐かなこと。又、その人。〔史記、趙世家〕臣聞、中國者、蓋聰明徇智之所ㇾ居也。

【徇珍】16（ジュンチン）　珍しいものを求める。〔左思、吳都賦〕哂㆓澹臺之見ㇾ謀、聊襲ㇾ海而徇ㇾ珍。

【徇通】17（ジュンツウ）　行きわたる。よくゆきとどく。〔墨子、公孟〕身體強良、思慮徇通。

【徇難】18（ジュンナン）　君主又は國家の危急を救ふために身を棄てること。殉難。〔南史、齊高帝紀〕公投ㇾ袂徇ㇾ難、超然奮發。〔弘道館記述義、上〕闔族徇ㇾ難、則有㆓楠氏㆒。

【徇罰】19（ジュンバツ）　罪人を罰するのに、其の地方の人人にふれ示して戒めるやりかた。〔周禮、地官、司市〕小刑憲罰、中刑徇罰、大刑扑罰。〔注〕徇、擧以示㆓其地之衆㆒也。〔疏〕徇者、徇列之名、故知㆘擧㆓其人㆒以示㆓其地肆之衆㆒、使㆗衆爲㆖戒也。

【徇庇】20（ジュンヒ）　かばふ。徇隱(1)を見よ。〔淸會典事例、吏部、書吏、承充〕該管官有㆕徇㆓庇客㆔留姦民㆒。

【徇名】21（ジュンメイ）　名譽を求めて身を忘れる。〔史記、伯夷傳〕貪夫徇ㇾ財、烈士徇ㇾ名。〔注〕正義曰、徇、求也、瓚云、以ㇾ身從ㇾ物曰ㇾ徇。

【徇蒙】22　hsün⁴ mêng²　病名。めまひ。

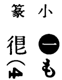
【徇欲】23（ジュンヨク）　欲望にしたがふ。〔弘道館記述義、上〕愚俗之信ㇾ佛、皆徇㆓其欲㆒也。

【徇華大夫】24（ジュンクワタイフ）　假設の人名。徇は營。華は浮華。〔張協、七命〕於ㇾ是徇華大夫聞而造焉、乃敕㆓雲路㆒、驂㆓飛黃㆒、越㆓奔沙㆒、輾㆓流霜㆒。〔注〕善曰、徇、營也、華、浮華。

【⿰彳先】10092　シン　〔集韻〕疏臻切　眞

ゆくさま。ゆきするさま。侁(**1−575**)に同じ。〔廣韻〕⿰彳先、往來之皃。〔集韻〕⿰彳先、說文、行皃、或作ㇾ侁。

【很】10093　コン　ゴン　〔集韻〕下懇切　ㄏㄣˇ　hen³　阮


小篆

❶**もとる**。㋑したがはない。もと⿰彳𥃩(**4−10132**)に作る。〔正字通〕很、本作ㇾ⿰彳𥃩。〔說文〕⿰彳𥃩、不㆓聽從㆒也、从ㇾ彳𥃩聲。〔左氏、襄、二十六〕太子痤美而很。〔服注〕很、戾不ㇾ從ㇾ敎。〔莊子、漁父〕見ㇾ過不ㇾ更、聞ㇾ諫愈甚、謂㆓之很㆒。㋺たがふ。〔說文〕很、一曰、盭也。〔一切經音義、三〕很、違也。〔國語、吳語〕今王將㆓很ㇾ天而伐㆒ㇾ齊。〔注〕很、違也。❷**せめぐ**。**あらそふ**。〔禮、曲禮上〕很毋ㇾ求ㇾ勝。〔注〕很、鬩也。〔詩、小雅、常棣、兄弟鬩㆓於牆㆒、傳〕鬩、很也。〔疏〕很者、忿爭之名。❸**うらむ**。〔廣雅、釋詁四〕很、恨也。❹**行きなやむ**。あるか

ない。〔説文〕很、一曰、行難也。〔段注〕堅下曰、牛很不レ從レ引。❺はなはだ。哏（2－3629）に通ず。〔通俗編、語辭〕元典章、有下哏不二便當一語上。按、哏字、未レ見二于諸字書一、而其辭則至レ今承レ之、如二哏好・哏是之類一、度二其義一、當レ猶レ云レ甚耳、世俗不レ知、或欲下以二很字一當上レ之、則無二義解一。❻俗に狠（7－20362）に作る。〔廣韻〕很、俗作レ狠。❼佷（1－563）に同じ。〔正字通〕佷、同レ很。

【很毆】1 コンオウ 全力で打つ。〔六部成語、刑部、很毆、注解〕極レ力打レ之也。

【很好】2 hen^{3} hao^{3} 甚だよい。

【很婞】3 コンケイ もとること。

【很忤】4 コンゴ もとりさからふ。さからひもとる。〔柳宗元、寄二許京兆孟容一書〕凡事壅隔、很二忤貴近一。

【很子】5 コンシ 親のいひつけをきかぬ子。佷子（1－563··2）を見よ。

【很心】6 hen^{3} hsin^{1} 思ひ切つて。勇氣を出す。喧嘩ずきの。

【很石】7 コンセキ 石の名。江蘇省固山の西南麓。孫權と劉備がこの石上で事を論じたと傳ふ。佷石。〔蔡寬夫詩話〕潤州甘露寺有二塊石一、狀如二伏羊一、形製略具、號二很石一、相傳孫權嘗據二其上一與二劉備一論レ事、壁間舊有二羅隱詩板一云、紫髯桑蓋兩沈吟、很石空存事莫レ尋、元符末、寺經レ火、詩板不二復存一、而石亦毀剝矣。

【很毒】8 hen^{3} tu^{2} 惡逆な。

【很愎】9 コンプク コンピヨク 心がねぢけもとる。〔文心雕龍、程器〕傅玄剛隘而詈レ臺、孫楚很愎而訟レ府。

【很命】10 hen^{3} ming^{4} 一所懸命に。

【很戾】11 コンレイ ねぢけもとる。道理にもとりたがふ。〔左氏、襄、二十六〕大子痤美而很、〔注〕貌美而心很戾。〔史記、張儀傳〕趙王之很戾無レ親、大王之所二明見一。〔北史、蘇威傳〕然其性很戾、不レ切二世要一。〔盧照鄰、釋疾文〕蹻二很戾兮南氾一、跖二叛渙兮東風一。

【很很的】12 hen^{3} hen^{1} tê 十分に。全く。

【徉】10094

ヤウ 〔集韻〕余章切 陽 ㄧㄤˊ yang^{2}

さまよふ。たちもとほる。〔玉篇〕徉、彷徉也。〔集韻〕徉、廣雅、彷徉、徙倚也。

【徊】10095

クワイ グワイ 〔集韻〕胡隈切 灰 ㄏㄨㄟˊ huei^{2}

❶さまよふ。たちもとほる。すすまない。佪（1－545）に同じ。〔集韻〕佪、徘佪、不レ進皃、或从レ彳。❷花の名。〔羣芳譜〕玫瑰、一名徘徊花、有レ香有レ色。

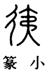
【徊徊】1 クワイクワイ ゆきつもどりつする。さまよふ。〔揚雄、甘泉賦〕徒徊徊以徨徨兮、魂眇眇而昏亂。

【徊徨】2 クワイクワウ さまよふ。たちもとほる。迴遑。回皇。〔梁武帝、孝思賦〕晨孤立而縈結、夕獨處而徊徨。

【徊翔】3 クワイシヤウ 飛鳥のめぐりまはること。轉じて、昇官のおそいのにいふ。〔沈佺期、紅樓院應制詩〕誰謂此中難レ可レ到、自憐深院得二徊翔一。〔宋史、蘇軾傳〕軾以二禮部郎中一遷二起居舍人一、軾起二於憂患一、不レ欲三驟履二要地一、辭二於宰相蔡確一、確曰、公徊翔久矣、朝中無下出二公右一者上。

【徥】10096

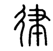
㈠イ ㈡テイ 〔集韻〕延知切 支


小篆

㈠たひらかにすすむ。なだらかにすすむ。夷（3－5852）に通ず。〔説文〕徥、行平易也、从レ彳夷聲。〔段注〕按、凡平訓皆當レ作レ徥、今則夷行徥廢矣。㈡徲（4－10113）に同じ。〔集韻〕徲、或作レ徥。

【律】10097

リツ リチ 〔集韻〕劣戌切 質 ㄌㄩˋ lü^{4}


小篆

❶のり。㋑おきて。きめ。法令の總稱。〔説文〕律、均布也、从レ彳聿聲。〔段注〕律者、所下以范二天下之不一レ一而歸中於一上、故曰二均布一也。〔爾雅、釋詁〕律、法也。〔釋名、釋典藝〕律、累也、累二人心一使レ不レ得二放肆一也。〔書、舜典〕同二律度量衡一。〔傳〕律、法制也。〔管子、七臣七主〕律者所二以定レ分止レ爭也。〔漢書、杜周傳〕前主所レ是著爲レ律、後主所レ是疏爲レ令。㋺刑法。刑罰に關する法令。〔正字通〕律、刑律。〔晉書、刑法志〕秦漢舊律、起レ自二李悝一、悝著二網捕二篇・雜律一篇一、又以二其律一具二加減一、故所レ著六篇而已。〔唐六典、尚書刑部、刑部郎中員外郎〕凡律以正レ刑定レ罪、令以設レ範立レ制。❷ほど。わりあひ。〔廣雅、釋言〕律、率也。〔淮南子、覽冥訓〕以治二日月之行律一。〔注〕律、度也。❸くらゐ。等級。〔禮、王制〕有三功二德於民一者、加レ地進レ律。❹のつとる。〔集韻〕律、一曰、法也。〔左氏、哀、十六〕無二自律一。〔注〕律、法也。❺のべる。〔爾雅、釋言〕律、述也。〔集韻〕律、一曰、述也。〔禮、中庸〕上律二天時一。〔注〕律、述也。❻はかる。〔爾雅、釋言〕律、銓也。〔樊注〕律、亦平。❼つね。〔爾雅、釋詁〕律、常也。❽はじめ。〔方言、十二〕律、始也。❾笛の音で定めた音階。陰陽に二大別し、更に各々六分して合せて十二律とする。之を一年十二箇月に配して時候の變化を察する。陽に屬する六律を六律とし、陰に屬する六律を六呂とする。〔書、舜典〕律和レ聲。〔傳〕律、六律六呂也。〔後漢書、張衡傳〕考二治亂於律均一。〔注〕律、十二律也。❿六律。陽の音調。陰律の呂に對していふ。〔集韻〕律、陽管謂二之律一。〔禮、禮運〕五聲六律十二管。〔注〕陽曰レ律。〔禮、樂記〕律、大小之稱。〔注〕律、六律也。〔漢書、律歷志上〕律十有二、陽六爲レ律、陰六爲レ呂。⓫音階を定める笛。〔説文通訓定聲〕律、蔡邕月令章句、截レ竹爲レ管、謂二之律一。〔周禮、春官、典同〕掌二六律六同之和一。〔注〕律、述レ氣者也、以レ銅爲レ之。〔禮、月令〕律中二大簇一。〔注〕律、候氣之管、以レ銅爲レ之。⓬くしけづる。〔荀子、禮論〕不レ沐則濡レ櫛、三律而止。〔注〕律、理レ髮也。⓭律詩。詩體の一。五言、又は七言の八句から成り、第三第四句と第五第六句が、各〻對句となつてゐる詩體。〔唐書、文藝、杜甫傳贊〕研二揣聲音一、浮切不レ差、而號二律詩一。⓮詩文の格調。〔唐書、文藝、宋之問傳〕魏建安後迄二江左一、詩律屢變。〔陸游、錦亭詩〕此邦句律方一新。⓯きる。剬（2－1910）に通ず。〔説文通訓定聲〕律、叚借爲レ剬。〔枚乘、七發〕上擊下律。⓰姓。〔萬姓統譜〕律、見二姓苑一、律子公、漢人。⓱佛㋑戒律。身と口と意から生ずる邪念を斷ついましめ。〔大乘義章、七〕禁制之法名レ律。〔張籍、律僧詩〕持齋唯一食、講律豈曾眠。㋺戒律を守ることを主として佛法を修める一派。律宗（37）を見よ。

名乘 ノリ。ヲト。

【律案】1 リツアン 法律の草案。

【律菴】2 リツアン 明、歸起先（6－16349··299）の號。

【律遊】3 リツイウ 御遊の際に律旋の樂を奏すること。〔西宮抄〕夫於二律遊一音平調。「也。

【律遹】4 リツイツ 申し述べる。〔爾雅、釋言〕律遹、述也。

【律高】5 リツカウ 縣名。漢、置く。故治は雲南省陸良縣の東。〔漢書、地理志上〕益州郡、縣二十四、律高。

【律格】6 リツカク 律詩の形式。律格詩を見よ。

『律格詩』7 リツカクシ 唐の張籍が晩年に立てた詩

の一體。晩唐の諸家、爭つて之に倣ふ。〔唐詩紀事、項斯〕始張水部籍爲㆓律格詩㆒、惟朱慶餘親授㆓其旨㆒、沿㆑流而下、有㆓任蕃・陳標・章孝標・司空圖㆒、咸及㆑門焉、寶曆開成之際、項斯尤爲㆓水部所㆑知、故其詩格與㆑之相類。

【律學】8 リツガク　法律を授ける學校。隋は大理寺に屬し、唐初は國子監に屬し、文武官の八品以下及び庶人の子で學生となつたものを教ふ。〔晉書、石勒載記下〕參軍續咸庾景爲㆓律學祭酒㆒。〔南史、孔珪傳〕至㆓九年㆒、珪表上㆓律文二十卷、錄序一卷㆒、又立㆓律學助教㆒、依㆓五經例㆒、詔報從㆑之、事竟不㆑行。〔文獻通考、學校考、太學〕高宗龍朔二年、東都置㆓國子監㆒、明年以㆓書學㆒隸㆓蘭臺㆒、算學隸㆓秘閣㆒、律學隸㆓詳刑㆒。〔宋史、神宗紀二〕熙寧六年三月、委㆓中書㆒選、置㆓諸路學官㆒、夏四月、置㆓律學㆒。〔宋史、選擧志三〕律學、國初置㆓博士㆒、掌㆑授㆓法律㆒、熙寧六年、始卽㆓國子監㆒設㆑學、置㆓教授四員㆒、凡朝廷有㆔新頒㆓條令㆒、刑部卽送㆑學。

〖律學館〗9 リツガククワン　宋の學子三館の一。熙寧六年置く。法律を授ける所。教授は四人、學生は定員が無い。〔宋史、職官志五〕監生無㆓定員㆒。〔注〕並有㆑蔭及京畿人、初隸㆑監授㆑業、後補㆓監生㆒、或隨㆓屬游官㆒、以㆔久離㆓本貫㆒、不㆑克㆑赴㆓鄕薦㆒、而文藝可㆑稱、亦許㆑隸㆓補試㆒、廣文教㆓進士㆒、太學教㆓九經五經三禮三傳學究㆒、律學館教㆓明律㆒、餘不㆓常置㆒。

〖律學士〗10 リツガクシ　明法博士の唐名。〔拾芥抄、中、官位唐名〕明法博士二人、律學博士、律師、律學士。

〖律學博士〗11 リツガクハカセ　㊀晉の官名。廷尉の屬。法學を教授することを職とす。〔事物紀原、五監總率部、律學博士〕晉初置㆓律學博士㆒屬㆓廷尉㆒、衞尉親置、請律學博士、輔相教授、唐移屬㆓國子監㆒、唐志曰、武德初也。㊁明法博士の唐名。〔類聚三代格、四〕大學寮、律學博士二人。〔職原抄〕大學寮、明法博士二人、唐名、律學博士。

【律紀】12 リツキ　おきて。のり。紀律。〔韻府引蘇軾詩〕老將練㆑兵精㆓律紀㆒。

【律儀】13 リチギ　㊀佛 堅く戒法を持し威儀を愼み、一切の惡をしないこと。戒律をいふ。律儀斷。〔大乘義章、十〕言㆓律儀㆒者、制惡之法、說名爲㆑律、行依㆓律戒㆒、故號㆓律義㆒、又復內調亦爲㆑律、外應㆓眞則㆒、目㆑之爲㆑儀。〔唐高僧傳〕遵㆓奉律儀㆒。㊁實直。義理がたい。

〖律儀者〗14 リチギモノ　實直な人。義理がたい人。〔天鼓、三〕この金目丸生れ付いてりちぎもの。

〖律儀斷〗15 リチギダン　佛律儀の者。律儀の㊀を見よ。〔雜阿含經〕謂堅持㆓戒律㆒愼守㆓威儀㆒、斷㆓一切惡㆒、是名㆓律儀斷㆒。

【律鈞】16 リツキン　音樂の十二律と五鈞。〔張衡、思玄賦〕考㆓治亂於律鈞㆒兮、意建㆑始而思㆑終。〔注〕衡曰、均、所㆑均㆑聲也、善曰、樂汁圖徵曰、聖人往承㆑天、助以立㆓五均㆒、均者、亦律調五聲之均也、宋均曰、均長八尺 施㆑絃以調㆓六律五聲㆒、銑曰、律、十二律、均、五均也。

【律句】17 リツク　近體詩の七言律詩・七言絶句のやうな嚴格な平仄式の規定ある句をいふ。例へば○○●●●○○又は●●○○●●○のやうな平仄によつた句をいふ。此の律句と異なり、而も古詩の格ではない句、例へば○○●●○●○又は●○●○○●○及び●●●●●●○のやうな平仄法によつたものを別律句といふ。

【律科】18 リツクワ　おきて。のり。律令で規定した條項。〔南史、齊東昏侯紀〕永泰元年、詔刪㆓省律科㆒。

【律魁】19 リツクワイ　大法に明かな賢智の士。〔楚辭、劉向、九歎、憂苦〕偓促談㆓於廊廟㆒兮、律魁放㆓乎山間㆒。〔注〕律、法也、魁、大也、明㆓於大法㆒賢智之士、棄在㆓山間㆒、而不㆑見㆑用也。

【律外】20 リツグワイ　規定によらない。破格。例外。〔唐書、魏徵傳〕怒則求㆓罪於律外㆒。

【律貫】21 リツクワン　法律のすぢみち。條理。條貫。〔荀子、成相〕後世法㆑之、成㆓律貫㆒。〔注〕律貫、法之爲㆓條貫㆒也。

【律管】22 リツクワン　律呂を定めるくだ。音律の管。〔六韜、龍韜、五音〕偏持㆓律管㆒。〔晁冲之、贈㆓僧法一墨㆒詩〕陰房風日不㆑可㆑到、律管吹盡灰無㆑蹤。

【律語】23 リツゴ　音律的に綴つた言語、又は文章。韻文をいふ。

【律谷】24 リツコク　谷の名。黍谷をいふ。もと寒くて五穀を生じないので、鄒衍が律を吹いて溫め、黍を生ぜしめたといふ。〔謝莊、宋孝武宣貴妃誄〕律谷罷㆑煖、龍鄕輟㆑曉。〔注〕善曰、律谷、黍谷也、吹㆑律以暖㆑之、故曰㆓律谷㆒、劉向別錄曰、鄒衍在㆑燕、有㆑谷、寒不㆑生㆓五穀㆒、鄒衍吹㆑律而溫㆑之、至㆑生㆑黍。

【律座】25 リツザ　佛佛教の戒を修める席。僧侶の修業をする席。〔歐陽詹、同㆓諸公㆒過㆓福先寺律院宣上人房㆒詩〕律座下㆑朝講、晝門猶掩㆑關。〔白居易、大唐泗州開元寺云云明遠大師塔碑銘序〕始出家、迄㆓於遷化㆒、志業行願、隨㆑日廣大、前後臨㆓戒壇㆒者八、登㆓律座㆒者十有五。

【律齋】26 リツサイ　淸、虔禮寶(**9**―32686‥39)の字。

【律藏】27 リツザウ　佛經・律・論の三藏の一で、佛教に說く凡ゆる戒律を包藏するから律藏といふ。小乘三藏では、四分五分十誦律等を律藏とし、大乘三藏では、梵網經等を律藏とする。

【律斬】28 リツザン　法律によつて斬罪にする。〔水滸傳、四十回〕結㆓連梁山泊強寇㆒、通同造㆑反、律斬。

【律師】29 リツシ　㊀唐代道士の三號の一。〔唐六典、尙書禮部、祠部郎中員外郎〕道士修行有㆓三號㆒、其一曰㆓法師㆒、其二曰㆓威儀師㆒、其三曰㆓律師㆒。㊁佛㋑善く戒律を解する者。又、十法を備へた人。持律の僧。〔涅槃經、三〕如㆑是能知㆓佛法所作㆒、善能解說、是名㆓律師㆒、能解㆓一字㆒。㋺我が國では、僧官の名で、僧都の次位僧綱の一。正權の二があつて、五位に准ずる。〔初例抄〕律師始、善住、文德天皇第二年三月任。㊂ lü^4 shih^1　辯護士。

〖律師公會〗31 lü^4 shih^1 kung^1 huei^2　辯護士會。

【律詩】32 リツシ　近體詩の名。律詩の名は、尙書堯典の、聲依㆑永、律和㆑聲から出たもので、聲律ある詩の意である。律詩は八句を以て常形とし、五言律・七言律の二種がある。又、三韻六句のものを三韻律又は六句格といひ、十句以上のものを排律又は長律といふ。排律は六韻十二句を正式とするが、短いのは十句、長いのは百韻・百五十韻に及ぶものもある。又、唐宋の世には必ずしも八句の詩だけに限られず、李漢が韓昌黎集を編し、元稹が白氏長慶集を編した時にも、絶句は皆、律詩中に收められてゐる。それが必ず八句に限定されたのは、元・明の際、律詩と絶句との分界が劃然としてからである。律詩といへば、初唐の詩人、沈佺期・宋之問の創めた詩體に限られ、沈宋體ともいふ。これは二家の詩が其の屬體最も精密で、聲律が最も穩順であるからであり、これを律詩と稱することは既に唐代から行はれてゐた。律詩は八句から成り、各〻二句づつを一組として聯と稱し、起聯・頷聯・頸聯・尾聯から成り、この四聯には異稱が多い。又、起承轉合を以て律詩の四聯に配當するものもあるが、今日では絶句に施すこととなつた。

第一句 第二句	起聯・發句・發端・破題・起首・首聯・開句
第三句 第四句	頷聯・撼聯・胸句・前聯
第五句 第六句	頸聯・腰句・腹聯・後聯
第七句 第八句	尾聯・結句・落句・結聯・末聯・結尾

律詩の押韻法は、五言なれば第二句・四句・六句・八句の末尾、七言なれば第一句・二句・四句・六句・八句の末尾の文字に韻を押す。變格として、七言律詩で第一句に韻を押さぬもの、五言律詩で第一句に韻を押したものなどもある。其の外、破題を對偶とし、頷聯を散句とする偸春體、第一句より第四句迄を散句とし、頸聯に至つて始めて對偶を用ひる蜂腰體等もある。其の平仄式は次の如し。○は平、●は仄、◑は平仄孰れにも可。

五言律詩平起式

起聯　◑○○●●　◑●●○○
頷聯　◑●○○●　◑○◑●○
頸聯　◑○○●●　◑●●○○
尾聯　◑●○○●　◑○◑●○

五言律詩仄起式

起聯　◑●○○●　◑○◑●○
頷聯　◑○○●●　◑●●○○
頸聯　◑●○○●　◑○◑●○
尾聯　◑○○●●　◑●●○○

七言律詩仄起式

起聯　◑●◑○◑●○　◑○◑●●○○

頷聯　◑○◑●○○●　◑●◑○◑●○

頸聯　◑●◑○○●●　◑○◑●●○○

尾聯　◑○◑●○○●　◑●◑○◑●○

七言律詩平起式

起聯　◑○◑●●○○　◑●◑○◑●○

頷聯　◑●◑○○●●　◑○◑●●○○

頸聯　◑○◑●○○●　◑●◑○◑●○

尾聯　◑●◑○○●●　◑○◑●●○○

〔唐書、文藝、杜甫傳贊〕唐興詩人、承㆓陳隋風流㆒、浮靡相矜、至㆓宋之問・沈佺期等㆒、研㆓揣聲音㆒、浮切不㆑差而號㆓律詩㆒。〔藝苑卮言〕五言律、六朝陰鏗・何遜・庾信、已開㆓其體㆒、但至㆓唐沈佺期、宋之問㆒、始可㆑稱㆑律。〔文體明辯、近體律詩〕律詩者、梁陳以下、聲律對偶之詩也、蓋自㆔邶風有㆓覯㆑閔既多、受㆑侮不㆑少之句㆒、其屬對已工、堯典有㆓聲依㆑永、律和㆑聲之語㆒、其爲㆑律已甚、梁陳諸家漸多㆓儷句㆒、雖㆑名㆓古詩㆒、實墮㆓律體㆒、唐興、沈・宋之流、研練精切、穩㆓順聲勢㆒、號爲㆓律詩㆒、其後寖盛、雖㆑不㆑及㆓古詩之高遠㆒、然對偶音律、亦文章之不㆑可㆑缺者、故今採㆘梁陳以下訖㆓于晚唐㆒、諸家律詩之工者㆖、而以㆓五七言㆒列之、中閒又以㆑類從、使㆓學者取㆑法焉、其詩、一二名㆓起聯㆒、又名㆓發句㆒、三四名㆓頷聯㆒、五六名㆓頸聯㆒、七八名㆓尾聯㆒、又名㆓落句㆒、閒有㆓變體㆒、各附㆓注之㆒、其三韻則五言中之別體也、故列㆓于五言之後㆒、嘗試論㆑之、梁陳至㆑隋、是爲㆓律祖㆒、至㆑唐而有㆓四等㆒、由㆓高祖武德初㆒至㆓玄宗開元初㆒爲㆓初唐㆒、由㆓開元㆒至㆓代宗大曆初㆒爲㆓盛唐㆒、由㆓大曆㆒至㆓憲宗元和中㆒爲㆓中唐㆒、自㆓文宗開成初㆒至㆓五季㆒爲㆓晚唐㆒。〔詩法詳論、律詩〕慈子六曰、律詩者、調㆓平仄㆒拘㆓對偶㆒、如㆓法律之嚴㆒也、一二句名㆓起聯㆒、又名㆓發句㆒、三四句名㆓頷聯㆒、五六句名㆓頸聯㆒、七八句名㆓落句結句㆒。〔詩法詳論、律詩、起承轉合〕起如㆔開㆑門見㆓山突兀崢嶸㆒、或如㆓閒雲出㆑壑、輕逸自在、承處如㆓草蛇灰線㆒、不㆑卽不㆑離、如㆔洪波萬頃、必有㆓高源㆒、合處風迴氣聚、淵泳含蓄、然一句有㆓一句起承轉合㆒、十首有㆓十首起承轉合㆒、今人做㆑詩、十首只是情景反覆、十首只有㆓一首意㆒也。

〖律詩天眼〗33リツシテンガン　書名。一卷。熊阪台州撰。律詩を作る要點を示す。

【律者】34リツシャ　佛持律持戒の僧。佛僧。

【律尺】35リツシャク　❶音律を調へる尺。〔晉書、律歷志上〕杜夔所㆑用調律尺、比㆓勖新尺㆒、得㆓一尺四分七釐㆒、云云、荀勖新尺、惟以調㆓音律㆒。〔隋書、律歷志上〕晉泰始十年、荀勖律尺爲㆓晉前尺㆒。❷黍百粒を横にならべた長さをいふ。縱にならべたのを部尺といふ。〔律呂新書、黍〕阮逸胡瑗尺、橫累㆓一百黍㆒、比㆓大府布帛尺㆒七寸八分六釐、與㆓景表尺㆒同、鄧保信尺、縱累㆓百黍㆒短㆓於大府尺九分㆒、長㆓於胡瑗尺㆒九分五釐。〔四庫提要、經部、樂類、樂律全書〕度本起㆓於黃鐘之長㆒、就㆓此黃鐘㆒而均分爲㆓十寸㆒、寸十分、命曰㆓一尺㆒、當㆓橫黍百粒㆒、是爲㆓度尺㆒、若以㆑此黃鐘分爲㆓八寸一分㆒、寸九分、凡八十一分、當㆓縱黍八十一粒㆒、是爲㆓律尺㆒。

【律手】36リツシュ　韻文を作る人。詩人。〔白居易、昨以㆓拙詩十首㆒寄㆓西川杜相公㆒相公亦以㆓新作十首㆒惠然報示首數雖㆑等工拙不㆑倫重以㆓一章㆒用伸㆓答謝㆒〕詩家律手在㆓成都㆒、權輿尋常將相殊。

【律宗】37リツシュウ　佛日本十三宗の一。戒律を守るのを主とする佛教の一派。唐の僧鑑眞が始めて說いたもので、戒律宗といひ、我が國では僧良辨を傳祖として律宗といふ。〔八宗綱要上、律宗〕問、何故名㆓律宗㆒乎、答、律爲㆓所依㆒、故名㆓律宗㆒。

〖律宗作業〗38リツシュウサゴフ　佛律宗の諸般の行事を執行すること。

【律書】39リツショ　史記八書の一。〔史記、太史公自序〕非㆑兵不㆑彊、非㆑德不㆑昌、黃帝湯武以興、桀紂二世以崩、可㆑不㆑愼歟、司馬法所㆓從來㆒尚矣、太公孫吳王子能紹而明㆑之、切㆓近世㆒、極㆓人變㆒、作㆓律書第三㆒。

【律乘】40リツジョウ　佛戒律の教法をいふ。〔釋門正統、三〕南山律乘。

【律切】41リツセツ　格律と音切。〔唐書、杜甫傳贊〕善陳㆓時事㆒、律切精深、至㆓千言㆒不㆓少衰㆒。

【律疏】42リツソ　刑律の注疏。〔事物紀原、律令刑罰部、律疏〕唐刑法志曰、自㆔玄齡等更㆓定律令㆒、訖㆓太宗世㆒、無㆑所㆓更改㆒、高宗卽㆑位、詔㆓律學之士㆒撰㆓律疏㆒、則律疏蓋起㆑自㆓唐高宗時㆒也、宣宗時、張戣以㆓刑律㆒分㆑類、爲㆓大中刑律統類㆒、故五代以來、又有㆓刑統㆒。

【律僧】43リツソウ　佛持律持戒の僧をいふ。

【律條】44リツデウ　律の條文。〔續日本紀、一〕文武四年三月、甲子、詔㆓諸王臣㆒讀㆓習令文㆒、又撰㆓成律條㆒。

【律度】45リツド　音律と尺度。又、度量衡をいふ。律度量衡を見よ。〔左氏、文、六〕爲㆓之律度㆒、陳㆓之藝極㆒。〔注〕鐘律度量、所㆓以治㆑曆明㆑時。

〖律度量衡〗46リツドリヤウカウ　律は音律、度は尺度の標準、量は斗斛、衡は物の輕重を量る器。〔書、舜典〕歲二月、東巡守、至㆓于岱宗㆒、柴望㆓秩于山川㆒、肆覲㆓東后㆒、協㆓時月㆒正㆑日、同㆓律度量衡㆒、修㆓五禮㆒。

【律動】47リツドウ　規律正しく反覆される運動。週期的の運動。

【律芳】48リツバウ　清、王衍梅(**7－20823**・・1209)の字。

【律髮】49リツバツ　髮を梳く。〔荀子、禮論〕不㆑沐則濡櫛三律而止、注〕律、理㆑髮也。

【律法】50リツパフ　❶のり。おきて。〔漢書、律歷志上〕律法也、莫㆑不㆑取㆑法焉。❷法律。刑律と令・格・式の四法の總稱。〔唐書、百官志一〕刑部郎中員外郎掌㆓律法㆒。❸律呂の法。〔事物紀原、樂舞聲歌部、律法〕通典曰、伏犧氏作㆑易、紀㆓陽氣㆒之初、以爲㆓律法㆒、此蓋其肇也。

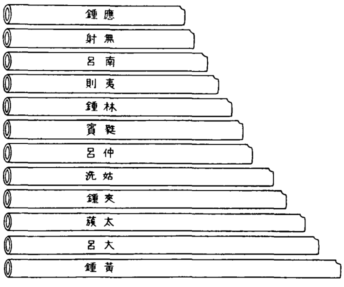
【律賦】51リツプ　賦の一種。一定の格律あるもの。唐人の體で、每句單に對偶音律聲調を主とし、情と理とは措いて論じないものをいふ。王勃の寒梧棲鳳賦、韓愈の明水賦の類がこれに屬する。〔文體明辯、賦〕至㆓於律賦㆒、其變愈下、始㆓於沈約四聲八病之拘㆒、中㆓徐庾隔句作對之陋㆒、終㆓於隋唐宋取士限韻之制㆒、但以㆓音律諧協、對偶精切㆒爲㆑工、而情與㆑辭皆置弗㆑論、嗚呼極矣、數代之習、乃令㆓元人洗㆒㆑之、豈不㆑痛哉、故今分爲㆓四體㆒、一曰、古賦、二曰、俳賦、三曰、文賦、四曰、律賦。〔容齋四筆、黃文江賦〕晚唐士人作㆓律賦㆒、多以㆓古事㆒爲㆑題、寓㆓悲傷之旨㆒。〔金史、劉昂傳〕昂天資警悟、律賦自成㆓一家㆒。〔齊東野語〕李壁、李臯同登科、皆以㆑文名、而律賦非㆓其所㆒㆑長。

【律文】52リツブン　❶法律文。〔南史、孔珪傳〕永明中、珪表上㆓律文二十卷・錄序一卷㆒、又立㆓律學助教㆒、依㆓五經例㆒、詔報從㆑之、事竟不㆑行。〔大學衍義補、愼㆓刑憲㆒、定㆓律令之制㆒〕今法可㆘於㆓律文之中㆒、往往有㆗不㆑盡㆑用者㆖、律文如㆑此、而所㆓以斷㆑罪者如㆑彼。❷書名。十二卷。撰者未詳。漢魏以來唐までの律令の變遷を敍したもの。音義は宋の孫奭等の撰。〔四庫未收書目提要、四〕。❸韻律ある文。韻文。

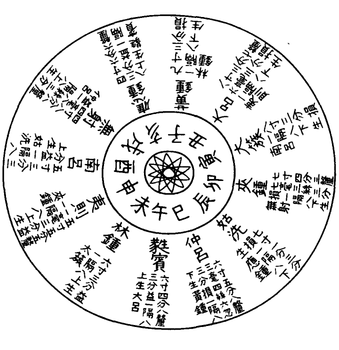
【律本】53リツポン　黃帝の制した十二筒で、六律六呂の根本となるもの。〔漢書、律歷志上〕制㆓十二筩㆒、以聽㆓鳳之鳴㆒、其雄鳴爲㆑六、雌鳴亦六、比㆓黃鐘之宮㆒、而皆可㆓以生㆒㆑之、是爲㆓律本㆒。〔注〕可㆓以生㆒㆑之、謂㆓上下相生㆒也、故謂㆓之律本㆒。〔宋史、樂志六〕黃鍾斷㆑竹爲㆑管、均㆓其長㆒得㆓九寸㆒、審㆓其圓㆒得㆓九分㆒、積㆓其實㆒得㆓八百一十分㆒、長九寸、圓九分、積㆓八百一十分㆒、是爲㆓律本㆒、度量權衡、於㆑是而受㆑法、十一律由㆑是損益焉。

【律律】54リツリツ　❶山のけはしく高大なさま。嵂嵂。〔詩、小雅、蓼莪〕南山律律、飄風弗弗。〔傳〕律律、猶㆓烈烈㆒也。❷惡いさま。〔莊子、庚桑楚〕然而其中津津乎猶有㆑惡也、釋文〕津津、崔本作㆓律律㆒、云㆓惡貌㆒。

【律呂】55リツリヨ　聲音を正す器。黃帝の時、伶倫が之を造る。竹を截つて筒とし、陰陽各〻六、筒に長短有り、之に因て聲音に清濁高下を生ず。皆之を以て比較して律呂を定める。陽を律といひ、黃鐘・太簇・姑洗・蕤賓・夷則・無射の六に分つて



十二律呂（清會典圖）



律呂相生（禮器圖）

六律といふ。陰を呂といひ、大呂・夾鍾・中呂・林鍾・南呂・應鍾の六に分つて六呂といふ。轉じて、音樂をいふ。十二律（2－2695··407）の❶を見よ。〔國語、周語下〕律呂不㆑易、無㆓姦物㆒也。〔漢書、律歷志上〕律十有二、陽六爲㆑律、陰六爲㆑呂。〔馬融、長笛賦〕律呂既和。〔傅玄、琵琶賦〕柱有㆓十二㆒、配㆓律呂㆒也、四絃法㆓四時㆒也。〔左思、吳都賦〕皆與㆓謠俗㆒叶協、律呂相應。〔後漢書、律歷志上〕聲有㆓清濁㆒、協以㆓律呂㆒。〔韓愈、答㆓陳商㆒書〕吾鼓㆑瑟、合㆓軒轅氏之律呂㆒。

〖律呂新書〗56 リツリョシンショ　書名。二卷。宋、蔡元定撰。律呂の定め方を研究したものであるが、科學的ではない。上卷を律呂本原とし、下卷を律呂證辨とする。〔四庫提要、經、樂類〕。

〖律呂新論〗57 リツリョシンロン　書名。二卷。清、江永撰。琴音を以て說を立て、科學的で新意が多い。〔四庫提要、經、樂類〕。

〖律呂正義〗58 リツリョセイギ　書名。四卷、續篇一卷。清、康熙五十二年勅撰。上編二卷は正律審音、下編二卷を和聲定樂とし、各〻圖說あり。續編一卷を協律度曲といふ。葡萄牙人徐日升・伊太利人德里格が、西人の說を參酌して、音調を研究したもの。後篇百二十卷は乾隆の勅撰で、朝廷で用ゐる樂と樂器などについて研究したもの。〔四庫提要、經、樂類〕。

〖律呂成書〗59 リツリョセイショ　書名。二卷。元、劉瑾撰。音樂を研究したもの。〔四庫提要、經、樂類〕。

〖律呂精義〗60 リツリョセイギ　書名。二十卷。明、鄭恭王の子、朱載堉の撰。樂調の基礎である尺度について研究したもの。〔樂律全書、第四－九冊〕。

〖律呂闡微〗61 リツリョセンビ　書名。十卷。清、江永撰。まだ律呂正義を見ない前の著述で、鄭世子の意見を宗としたもの。〔四庫提要、經、樂類〕。

【律令】62 リツレイ　❶國家のおきて。刑律と法令。大綱を律、條分を令といふ。〔史記、蕭相國世家〕何獨先入㆓收秦丞相御史律令圖書㆒藏㆑之。〔史記、酷吏傳〕杜周曰、前主所㆑是著爲㆑律、後主所㆑是疏爲㆑令。〔漢書、高帝紀下〕命㆓蕭何㆒次㆓律令㆒。〔王先謙補注〕刑法志曰、何攈㆓摭秦法㆒、取㆘其宜㆓於時㆒者㆖、作㆓律九章㆒。〔漢書、文翁傳〕或學㆓律令㆒。❷臺灣總督の發する命令。其の管轄内では法律と同等の效力がある。〔明治三十九年法律第三十一號第六條〕。❸リツリヤウ　令は民に示す法令。令を犯すものを刑する制を律といふ。律令格式の❷を見よ。〔日本書紀、天武紀下〕十年二月、朕今更欲㆘定㆓律令㆒改㆗法式㆖。

〖如㆓律令㆒〗63 リツレイノゴトシ　詔書檄文、或は符呪の末尾に用ひる語。法律命令の違背すべからざる義。又、律令は雷邊に居る捷鬼で、其の疾速を要する義から用ひる。〔資暇錄、急急如㆓律令㆒〕符呪之類末句、急急如㆓律令㆒者、令字宜㆓平聲㆒、讀爲㆑零、律令是雷邊捷鬼、學者豈不㆑知㆑之、此鬼善走、與㆑雷相疾速、故云㆑如㆓此鬼之疾走㆒也。

〖律令格式〗64 リツレイカクシキ　❶唐の四刑書の名。令は尊卑貴賤の等數、國家の制度。格は百官有司の常に行ふべき事、式はその常に守る所の法、律は以上三者に觸れる者、及び他の罪戾を犯す者を斷ずる規定を記した書。〔唐律、斷獄〕引㆓律令格式正文㆒、違者笞三十。〔文獻通考、刑制考、刑制〕唐之刑書有㆑四、曰、律令格式、律令者、尊卑貴賤之等數、國家之制度也、格者、百官有司之所㆓常行㆒之事也、式者、其所㆓常守㆒之法也、凡邦國之政、必從㆓事於此㆒、三者其有㆑所㆑違、及人之爲㆑惡而入㆓于罪戾㆒者、一斷以㆑律。❷リツリヤウキヤクシキ　古の制度の稱。又、それを記した書名。律は刑罪を記した書、罪人を罰する規定。令は一般に公布する法令。格は令・式・律の臨時の改定增補、又は執行の命令。式は官吏の職務に關する事務規定。〔本朝文粹、八、弘仁格序〕蓋聞、律以㆓懲肅㆒爲㆑宗、令以㆓勸戒㆒爲㆑本、格則量㆑時立㆑制、式則補㆑闕拾㆑遺、四者相須、足㆓以垂㆑範。

【律例】65 リツレイ　刑法。律は永久不變の根本法。例は條例で、時勢により酌量變通すべきもの。〔清會典事例、吏部、處分例、引用律例〕如律例並無㆓正條㆒、又無㆘可㆓旁引比照㆒之案㆖、令㆓該司官將案㆑情詳細察覈、酌定處分㆒。〔六部成語訂正、刑部、律例、注解〕原定者爲㆑律、後增者爲㆑例。

〖律例館〗66 リツレイクワン　官名。清代、刑部に屬し、律令の編纂を掌る。〔清國行政法汎論、附㆓屬刑部㆒之官廳〕律例館、專㆑掌㆓律例編纂㆒、無㆓定員㆒。

【律曆】67 リツレキ　一年十二箇月の陰陽季節に關する法則。こよみ。曆法。律歷。〔史記、張丞相傳〕好㆓書律曆㆒。

〖律曆志〗68 リツレキシ　史志の一。一朝の樂律及び曆法の因革を記したもの。史記の八書に律書・歷書があり、漢書で合して律歷志としたのに始まる。漢書・後漢書・晉書・隋書・宋史にある。〔漢書、敍傳下〕元㆑元本㆑本、數始㆓於一㆒、產㆓氣黃鐘㆒、造㆓計秒忽㆒、八音七始、五聲六律、度量權衡、歷筭逌㆑出、官失學微、六家分乖、壹㆑彼壹㆑此、庶研㆓其幾㆒、述㆓律歷志第一㆒。〔宋史、律歷志一〕帝王之治㆓天下㆒、以㆓律曆㆒爲㆑先、儒者之通㆓天人㆒、至㆓律曆㆒而止、曆以㆑數始、數自㆑律生、故律曆既正、寒暑以節、歲功以成。

【律歷】69 リツレキ　律曆に同じ。歷は曆。〔史記、律書〕〔史記、封禪書〕律歷、天所㆔以通㆓五行八正之氣㆒。〔史記、封禪書〕是時丞相張蒼好㆓律歷㆒、以爲、漢乃水德之初、故河決㆓金堤㆒其符也。〔淮南子、覽冥訓〕正㆓律歷之數㆒。

〖律歷志〗70 リツレキシ　律曆志に同じ。

【進㆑律】71 リツヲススム　爵命の等級を昇進すること。〔禮、王制〕有㆔功㆓德于民㆒者、加㆑地進㆑律。〔疏〕律、卽上宮九命、繅藉九寸、冕服九章、建常九游之等是也。

【律九章】72 リツキウシヤウ　漢の蕭何が李悝の六法、商鞅の六律の內の慘酷な條項を削除し、戶律・興律・廏律の三篇を加へて作つた法律。九章律。〔晉書、刑法志〕漢相蕭何定㆑律、除㆓參夷連坐之罪㆒、增㆓部主見知之條㆒、益㆓事律興廏戶三篇㆒、合爲㆓九篇㆒。

【律伯克】73 リユーベツク　地名。ドイツ自由市の一。バルト海の良港。盧卑克。Lubeck

【律用㆑竹】74 リツタケヲモチフ　古は調子笛を作るのに竹を用ひた。〔史記、律書、注〕索隱曰、古律用㆑竹、又用㆑玉、漢末以㆑銅爲㆑之。

【照㆑律論】75 リツニテラシテロンズ　官吏の不法行爲で、其の罪の輕い者は、行政法の處分である議處、又は罰俸に處し、其の重い者は、刑律に照して論ずる。〔清會典事例、吏部、處分例、引用律例〕雍正八年諭、國家法令科條、原一定而不㆑可㆑易、其有㆘應㆓行從㆑重者㆖、亦必待㆘朕酌㆓其情罪㆒、特頒㆗諭旨㆖、此加倍二字、非㆘臣工所㆑可㆓擅定㆒者㆖也、嗣後凡有㆓議罪議處之條㆒、皆應㆘照㆓本律㆒定議㆖、其有㆓負㆑恩犯㆑法、情罪重大㆒、應㆓從㆑重定擬㆒、必須㆑執㆓中於法之至平至允㆒、不㆑得㆘擅用㆓加倍字樣㆒開㆓蒙混苛刻之端㆒、負㆗朕立㆑法牖㆑人、儆省防閑之至意㆖。

【依㆑律發配】76 リツニヨリテハツパイス　軍籍に在る者は當然差役に充てるので、通常の丁傜と同じではない。故に軍屬で徒罪若しくは流罪を犯した時は、先づ杖を決行し、その後に律の規定に照して一定の土地に發遣して配置する。〔清會典事例、刑部、名例律、軍籍有㆑犯〕凡軍籍人犯㆑罪、該㆓徒流㆒者、各依㆑所㆑犯杖數決訖、徒五等、依㆑律發配。

【違㆑律爲㆑婚】77 リツニタガヒテコンヲナス　法律上禁ぜられた婚姻を爲すこと。親族間の婚姻、良賤間の婚姻等の類。〔唐律疏議、戶婚、違律爲婚〕依㆑律不㆑許㆑爲㆑婚、其有㆓故爲㆑之者㆒、是謂㆓違㆑律爲㆑婚。

【引㆑律比附】78 リツヲヒイテヒフス　犯罪に對し、律の引用すべき正條のない時、類似の條文を引き、比較對照して罪を定めること。〔明律、名例、斷罪無正條〕凡律令該載不㆑盡㆓事理㆒、若斷㆑罪而無㆓正條㆒者、引㆑律比附、應㆑加應㆑減、定㆓擬罪名㆒、轉㆓達刑部㆒、議定奏聞。

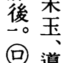
【律設㆓大法㆒禮順㆓人情㆒】79 リツハタイハフヲマウケレイハニンジヤウニシタガウ　法律は國家の大きなおきてをまうけるもので

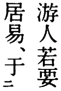
あり、禮は人情によりて定められたものである。〔通俗編、政治、律設二大法一禮順二人情一〕後漢書、卓茂語。

【後】10098

㊀コウ ゴ 〔集韻〕很口切［有］

㊁コウ ゴ 〔集韻〕下遘切［宥］ㄏㄡˋ hou4


小篆


古文

㊀❶**おそい。**〔說文〕後、遲也、从二彳幺夊一、幺夊者、後也、𨑒、古文後、从レ辵。〔段注〕幺者、小也、小而行遲、後可レ知矣。〔正韻〕後、遲後、本在レ後也。〔廣雅、釋詁三〕後、晚也。〔儀禮、有司徹〕兄弟之後生者。〔注〕後生、年少也。〔國語、晉語六〕君之殺レ我也後矣。〔注〕後、晚也。❷**おくれる。自然とおくれる。**㋑まにあはない。〔素問、五常政大論〕收氣迺後。〔注〕後、不レ及レ時也。〔漢書、匡衡傳〕戒二于後一レ時。㋺おそく來る。〔論語、先進〕子畏二於匡一、顏淵後、子曰、吾以レ汝爲レ死矣、曰、子在、回何敢死。㋩おとる。〔曹植、求レ通二親親一表〕竊自料度、不レ後二朝士一矣。❸**のち。あと。**㋑將來。後世。〔呂覽、長見〕知レ古則可レ知レ後。〔注〕後、來也。〔王延壽、魯靈光殿賦〕惡以誡レ世、差以傳レ後。〔宋書、謝靈運傳〕屈平・宋玉、導二清源於前一、賈誼・相如、振二芳塵於後一。㋺事がすんだのち。〔李山甫、柳詞〕游人若要二春消息一、直向二江頭臘後一看。〔白居易、于二武陵一詩〕舊國寄レ書後、涼天逢二雁來一。〔徐鉉、新茶詩〕碾後香彌遠、烹來色更鮮。㋩あとまはし。先の對。〔禮、曲禮下〕君子將レ營二宮室一、宗廟爲レ先、廏庫爲レ次、居室爲レ後。㋥あととり。ちすぢ。子孫。〔詩、大雅、瞻卬〕或救二爾後一。〔疏〕後、謂二子孫一也。〔左氏、桓、二〕臧孫達其有レ後二於魯一乎。〔國語、周語上〕其君必無レ後。〔注〕後、後嗣也。㋭あとの者。後續者。〔史記、范雎傳〕故僇辱以懲レ後。❹**うしろ。**〔莊子、外物〕末僂而後レ耳。〔釋文〕後レ耳、耳卻後。〔後漢書、袁紹傳〕擧レ兵襲二其後一。❺**しりへ。しり。**〔戰國、韓策〕寧爲二雞口一無レ爲二牛後一。〔傅玄、走狗賦〕脩頸濶腋、廣前捎後。❻**すゑ。**〔夏侯湛、祇疑〕隨二羣班之次一、伏二簡墨之後一。〔太平廣記〕聚レ書萬卷、每卷後必自題云、淸俸寫來手自校。❼**しも。**上言に對し下述の言をいふ。〔禮、哀公問〕昔之用レ民者由レ前、今之用レ民者由レ後。〔注〕由レ前、用二上所一レ言、由レ後、用二下所一レ言。❽**そへ。**〔詩、小雅、緜蠻〕命二彼後車一。〔箋〕後車、倅車也。〔禮、雜記上〕以三後路與二冕服一。〔注〕後路、貳車。❾古は𨑒(**11**－**38817**)に作る。〔說文〕後、𨑒、古文後、从レ辵。〔集韻〕後、古从レ辵。❿后(**2**－**3298**)に通ず。〔儀禮、聘禮記、君還而后退、注〕而后、猶二而後一也。⓫**姓。**〔萬姓統譜〕後、望出二東海一、今開封有二此姓一。㊁❶**みちびく。**前後から助け導く。先後。〔集韻〕後、詩傳、相導前後曰二先後一。〔詩、大雅、緜〕予曰有二先後一。❷**おくれる。**〔正韻〕後、此後二于人先一レ此而後二彼之後一。〔論語、雍也〕非二敢後一也、馬不レ進也。❸**あとにする。**〔論語、衞靈公〕事レ君敬二其事一、而後二其食一。［邦］❶**おくる。**㋑あとに殘る。留まる。㋺生きのこる。㋩氣おくれする。臆する。❷**おくれ。**㋑負けること。㋺氣おくれ。㋩おくれ毛の略。

［名乘］チカ。モチ。ノチ。

［解字］會意。彳(步く)と幺(ちひさい)と夊(すりあし)との合字。幺と夊とは幼少な者が足のはこびがおそくて、人よりおくれる意。故に本義をおそいとする。說文通訓定聲は、夊を緩の意といふ。〔說文、後、段注〕幺者、小也、小而行遲、後可レ知也、故从二幺夊一、會意。〔說文通訓定聲〕後、按、夊者、緩也、會意。

【後懊】1 コウアウ 鳥の名。杜宇の類。〔說鈴〕後懊鳥類二杜宇一、鄢陵以西多有レ之。〔汪琰詩〕丹泉汲罷楓林晚、亂聽深山後懊啼。

【後幄】2 コウアク うしろのとばり。〔宋史、儀衞志一〕紹興十五年正月朔旦、以下二殿經涂與二東都一異上、乃以二常御殿一爲二垂拱殿一、免二駐輦一、設二簾帷一、設二椅子一、稱レ賀畢、過二大慶殿後幄一。

【後惡】3 コウアク 惡いのをあとまはしにする。〔周禮、夏官、校人、辨二六馬之屬一、疏〕此六者先レ善後レ惡、次第而言也。

【後押】4 アトオサヘ ❶行列の最後を警護する役。〔柳樽、三十〕殿の名を引摺つて行く後押。❷アトオシ ㋑車を後から押し助けること。㋺かげで人を助ける。尻押。後楯。

【後案】5 コウアン 最後の考案。〔王鳴盛、尙書後案序〕予偏觀二羣書一、搜二羅鄭注一、惜已殘闕、聊取二馬王傳疏一益レ之、又作レ案以釋二鄭義一、馬王傳疏與レ鄭異者、條二析其非一、折二中于鄭氏一、名曰二後案一者、言二最後所一レ存之案一也。

【後菴】6 コウアン 明、華允誼(**9**－**31214**‥**475**)の號。

【後易】7 コウイ 後日になる程容易なこと。後に安樂を得ること。〔易、繫辭下〕損、先難而後易。〔注〕刻損以修レ身、故先難也、身修而无レ患、故後易也。〔管子、禁藏〕先易者後難、先難而後易。

【後威】8 コウヰ 威力を用ひるを後にする。あまり威力を用ひないこと。〔禮、表記〕先レ祿而後レ威、先レ賞而後レ罰。

【後闈】9 コウヰ 宮中のおくむき。〔張淵、觀象賦〕虎賁執二銳於前階一、常陳屯二聚於後闈一。

【後右】10 コウイウ 後體の右の部分。〔周禮、春官、太卜、卜二立君一、注〕春灼二後左一、夏灼二前左一、秋灼二前右一、冬灼二後右一。

【後憂】11 コウイウ 後日のうれひ。あとあとの心配。後患。〔戰國、齊策〕齊非下急以二銳師一合中三晉上、必有二後憂一。〔魏志、衞顗傳〕一旦變動、必有二後憂一。〔張華、門有車馬客行〕前悲尙未レ弭、後憂方復起。

【後一】12 コウイツ あとの一つ。〔論衡、逢遇〕商鞅三說二秦孝公一、前二說不レ聽、後一說用者、前二、帝王之論、後一、霸者之議也。

〘後一條〙13 ゴイチデウ 第六十八代の帝謚(1017－1036)〔日本紀略〕。

〘後一片石〙14 コウイツペンセキ 淸代劇曲の篇名。蔣士銓の作。藏園九種曲の一。明の寧王朱宸濠の妃婁氏の碑を立てて之を表識した始末を記したものに一片石があり、其の後、二十六年、官地に遷して修葺したことを述ぶ。第二碑ともいふ。

【後尹】15 コウイン 後の京兆尹。〔唐書、李叔明傳〕遷二京兆尹一、長安歌曰、前尹赫赫、具瞻二允若一、後尹熙熙、具瞻二允斯一。

【後引】16 アトヒキ 得るに從つて愈〻貪り求めること。〔俚言集覽〕いつもの後引で惡い癖だ。

【後因】17 コウイン 後の原因。〔雲笈七籤〕故天尊曰、心法亦爾、非レ有非レ無、念念生滅、前心滅、故不レ爲二後因一、後心生、故不レ爲二前果一、是故我言、一切衆生、心法如レ生。

【後胤】18 コウイン ちすぢの末。子孫。後裔。〔魏志、齊王紀〕祚及二後胤一。

【後陰】19 コウイン 肛門。〔方賢、奇效良方腸澼痔漏論〕足厥陰之脈、環二繞前後二陰一、故亦能爲レ痔矣。

【後院】20 コウヰン ❶正殿の後にある官衙。又、邸後の庭園。〔李白、題二東谿公幽居一詩〕好鳥迎レ春歌二後院一、飛花送レ酒舞二前檐一。〔白居易、奉レ和二汴州令狐令公一二十韻詩〕選レ幽開二後院一、占レ勝坐二前簷一。〔宋史、五行志三〕雍熙三年四月庚子、甘露降二後院草木一。❷天皇の讓位後の御所。ごゐん。〔新儀式、四〕後院事、代代多有二後院一。

【後裔】21 コウエイ 子孫。裔は衣のすそ。〔書、微子之命〕功加二于時一、德垂二後裔一。〔詩、小雅、斯干序、疏〕言、其夢得二吉祥一、生二育男女一、貴爲二王公一、慶流二後裔一。〔史記、三皇紀〕其後裔當二春秋時一。〔晉書、劉頌傳〕功被二無外一、光流二後裔一。〔郭璞、山海經序〕八荒之事、有レ聞二於後裔一、不二亦可一乎。

【後榮】22 コウエイ 後にさかえる。後日の榮華。〔何遜、七召〕嗟㆓向有而今無㆒、歎㆓後榮而前謝㆒。

【後影】23 ウシロカゲ 人のうしろすがた。背影。〔謠曲、知章〕うしろかげも失せにけりや。

【後衞】24 コウエイ ❶官名。元、置く。宿衞・扈從・屯田等を掌る。〔元史、百官志二〕後衞秩正三品、至元十六年、以㆓侍衞親軍㆒摠置、掌㆓宿衞扈從㆒、兼營㆓屯田㆒、國有㆓大事㆒、則調㆓度之㆒。❷㋑後方を守ること。㋺軍隊で後方の掩護に屬する部隊。前衞の對。

【後役】25 コウエキ 後の徭役。〔元史、河渠志一、滹沱河〕近年米價翔貴、民匱㆓於食㆒、有㆑丁者、正身應㆑役、單丁者、必須㆑募㆑人、人日傭直、不㆑下㆓三五貫㆒、前工未㆑畢、後役迭至。

【後越】26 コウエツ 後にこえる。〔後漢書、班固傳上〕前乘㆓秦領㆒、後越㆓九嵕㆒、東薄㆓河華㆒、西涉㆓岐雍㆒、宮館所㆑歷、百有餘區。〔北史、隋越王侗傳〕世祖明皇帝、則㆑天法㆑地、混㆓一華戎㆒、東暨㆓蟠木㆒、西通㆓細柳㆒、前踰㆓丹徼㆒、後越㆓幽都㆒。

【後葉】27 コウエフ 後代。後世。葉は代。〔司馬相如、上林賦〕恐後葉靡麗、遂往而不㆑返。〔蜀志、呂凱傳〕流㆓名後葉㆒、世歌㆓其美㆒。〔晉書、劉波傳〕惠被㆓蒼生㆒、勳流㆓後葉㆒。

【後弇】28 コウエン 甲の後が長くおほふ。南龜をいふ。〔爾雅、釋魚〕龜、俯者靈、仰者謝、前弇諸果、後弇諸獵。〔注〕甲後長。〔疏〕謂㆓甲前長弇覆者㆒名㆑果、甲後長弇覆者名㆑獵。〔義疏〕後弇者、南龜也。〔周禮、春官、卜師、注〕陰、後弇也、陽、前弇也。

【後宴】29 コウエン 大宴會又は節會・會合などののち、更に行ふ宴會。〔日本紀略〕延喜五年三月二十九日、踏歌後宴御賭。〔江家次第、十七〕御元服後宴事。

【後偃】30 コウエン 後方にかたむきふす。〔射經〕頤惡㆓旁引㆒、頸惡㆓卻垂㆒、胸惡㆓前凸㆒、背惡㆓後偃㆒、皆射之骨髓疾也。

【後掩】31 コウエン しりへをおほひかくす。〔歐陽詹、暗室箴〕勿㆑謂、旁帷上蓋、天鑒無㆑外、勿㆑謂、後掩前扃、神在無㆑形。

【後筵】32 コウエン 後の講義の席。〔陳書、傅縡傳〕使㆓浮辭無㆑所㆑用、詐道自然消㆒、請待㆓後筵㆒以觀㆓其妙㆒矣。

【後緣】33 コウエン 後のゆかり。將來の因由。〔蘇軾、悼㆓朝雲㆒詩〕傷心一念償㆓前債㆒、彈指三生斷㆓後緣㆒。

【後燄】34 コウエン 後から燃えるほのほ。後に在るほのほ。〔新論、惜時〕停㆓燈于缸㆒、先燄非㆓後燄㆒、而明者不㆑能㆑見。〔梁昭明太子、講席將㆑訖賦㆓三十韻㆒依㆑次用詩〕後燄難㆓堅明㆒、初心易㆓驚縮㆒。〔唐無名氏、從㆓火牛㆒攻圍賦〕喧聲震㆓乎厚地㆒、列炬迸㆓乎崇墉㆒、風敲㆓後燄㆒、血灑㆓前鋒㆒。

【後燕】35 コウエン 國の名。晉代、五胡十六國の一。東晉の太元九年、鮮卑族、慕容皝の子垂、前燕より離れて獨立し、燕王と稱し、中山に都し、十一年、皇帝と稱す。之を後燕といふ。死して子寶立つ。隆安二年、蘭汗、之を誘弑す。長樂王盛、汗を討つて帝を稱したが、五年、其の部下の段機に弑せらる。因つて盛の叔父熙、段機を討つて之を殺し、自立す。義熙三年、寶の養子高雲、熙を殺して自立し、天王となる。五年、國人、雲を殺し、馮跋が自立するに及んで滅ぶ。凡て二姓三世五主、二十六年。中山は今、河北省定縣の治。其の盛時には、今の河北・山東の二省及び河南省の北部、遼寧省の西部、山西省の東部の地を領す。その系圖は左の如くである。

- 燕文明王（皝）—㈠世祖成武帝（垂）
  - ㈡烈宗惠閔帝（寶）—㈢中宗昭武帝（盛）
    - ㈤惠懿帝（雲）
  - ㈣昭文帝（熙）

〔晉書、慕容垂載記〕垂引㆑兵至㆓滎陽㆒、以㆓太元八年㆒、自稱㆓大將軍大都督燕王㆒、承㆑制行㆑事、建元曰㆓燕元㆒。〔晉書、地理志〕惠帝之後、幽州沒㆓於石勒㆒、及㆓穆帝永和五年㆒、慕容儁僭㆓號於薊㆒、是爲㆓前燕㆒、七年、儁移㆓都于鄴㆒、儁死、子暐爲㆓苻堅所㆑滅、堅敗、地復入㆓慕容垂㆒、是爲㆓後燕㆒、垂死、寶遷㆓于和龍㆒。〔潛確類書〕慕容垂、皝子、苻堅以爲㆓將軍㆒、叛㆑秦稱㆑王、尋稱㆑帝、國號㆓後燕㆒。

〔**後燕惠懿帝**〕36 コウエンノケイイテイ 高雲（**12**－**45313**‥35）を見よ。

〔**後燕惠閔帝**〕37 コウエンノケイビンテイ 慕容寶（**4**－**11088**‥70）を見よ。

〔**後燕成武帝**〕38 コウエンノセイブテイ 慕容垂（**4**－**11088**‥64）を見よ。

〔**後燕昭武帝**〕39 コウエンノセウブテイ 慕容盛（**4**－**11088**‥65）を見よ。

〔**後燕昭文帝**〕40 コウエンノセウブンテイ 慕容熙（**4**－**11088**‥56）を見よ。

【後簷】41 コウエン 後方のひさし。〔江淹、麗色賦〕後簷丹葵、前軒碧桐。

【後怨】42 コウエン 後のうらみ。〔漢書、陳湯傳〕無㆓鄉從之心㆒、棄㆓前恩㆒立㆓後怨㆒。

【後苑】43 コウエン 後殿の苑囿。〔宋史、神宗紀〕熙寧元年十一月丙戌、廢㆓青城後苑㆒。〔宋史、兵志三〕牛馬司、御輦院、軍器庫、後苑造作所、後苑工匠、文思院、內弓箭庫、南作坊、北作坊、弓弩院、法酒庫、西染院、綾錦院、轉補分㆓隸三司提擧司㆒。

【後援】44 コウエン ❶後から來るたすけの兵。後救。〔周書、獨孤信傳〕孤軍數千、後援未㆑接。❷あとおし。うしろだて。聲援する。援助する。人の背後に居て助ける。〔唐書、高宗紀〕高侃爲㆓遼東道行軍總管㆒、左武衞將軍薛仁貴、左監門衞將軍李謹行爲㆓後援㆒。

〔**後援會**〕45 コウエンクワイ 援助するために組織した團體。

【後園】46 コウエン 家の後の庭園。〔漢書、曹參傳〕相舍後園近㆓吏舍㆒。〔司馬相如、子虛賦〕遊㆓於後園㆒。〔魏文帝、與㆓朝歌令吳質㆒書〕白日既匿、繼以㆓朗月㆒、同乘並載、以遊㆓後園㆒。〔謝朓、詠㆓落梅㆒詩〕逢㆑君後園燕、相隨巧笑歸。

【後轅】47 コウエン 後のながえ。〔元史、輿服志一、輿輅〕前轅引手、描㆓金象牙㆒、雕㆓螭頭三㆒、並繫以㆓蹲龍㆒、後轅方㆓罨頭三桄頭十有六㆒、繫以㆓蹲龍三㆒。

【後應】48 コウオウ 後者が前者に呼應する。あとから應ずる。〔禽經、舒鴈前鳴後和〕舒鴈飛成㆑行也、雌前呼、雄後應也。〔歐陽脩、醉翁亭記〕前者呼、後者應。

【後屋】49 コウヲク 奧座敷。〔白居易、郭虛舟相訪詩〕朝暖就㆓南軒㆒、暮寒歸㆓後屋㆒。

【後下】50 コウカ ❶うしろが低い。〔詩、邶風、旄丘序、傳〕前高後下曰㆓旄丘㆒。❷あとから降伏する。〔史記、吳王濞傳〕初吳王首反、幷將㆓楚兵㆒、連㆓齊趙㆒、正月起㆑兵、三月皆破、獨趙後下。

【後架】51 コウカ ❶禪家で、僧堂の後に架けわたして設けた洗面所。ごか。〔敕修百丈清規、六、日用規範〕輕手揭㆑簾出㆓後架㆒、云云、輕手取㆑盆洗㆑面。〔瑩山清規〕往㆓後架㆒洗面、往㆓東司㆒屙屎。❷便所。かはや。雪隱。〔園大曆、延文三年六月四日〕昨日酉刻、自㆓後架㆒謂㆓小便所㆒、還御之後絕㆑入。〔下學集、上〕後架、放尿所也。

【後我】52 コウガ 我をあと廻しにする。〔孟子、盡心下〕南面而征、北狄怨、東面而征、西夷怨、曰、奚爲後㆑我。

【後河】53 コウガ ❶川の名。又、石門溪。或は南湖といふ。安徽省秋浦縣の北。源は縣の東の石門嶺。江に注ぐ。❷シツカハ 姓氏。〔和爾雅〕。

【後駕】54 コウガ 君のお供をする車。〔陸厥、中山王孺子妾歌〕子瑕矯㆓後駕㆒、安陵泣㆓前魚㆒。

【後海】55 コウカイ 海の祭を後にする。〔禮、學記〕三王之祭㆑川也、皆先㆑河而後㆑海。

〔**後海學人**〕56 コウカイガクジン 清、王孝詠（**7**－**20823**‥1256）の號。

〔**後海書屋**〕57 コウカイショヲク 清、王孝詠（**7**－**20823**‥1256）の室名。

【後開】58 コウカイ 次に列記する。〔福惠全書、蒞任部、發到任示票〕照㆓依後開夫馬轎槓名數㆒。

【後害】59 コウガイ あとあとの弊害。のちのわざはひ。後患。〔漢書、董仲舒傳〕毋㆑悼㆓後害㆒。

【後街】60 hou^4 chieh^1 後側に在る町。又、裏町。裏通り。

【後巧】61 コウカウ 後に生ずるたくらみ。後に起る惡事。〔南齊書、顧憲之傳〕前檢未㆑窮、後巧復滋、網辟徒峻、猶㆑不㆑能㆑悛㆑竊。

【後交】62 コウカウ 後部が交り重る。〔宋書、律曆志中〕交會月蝕、如㆓朔望會數以下㆒、則前交後會、如㆓入交限數以上㆒、則前會後交。

〔**後交銀子**〕63 hou^4 chiao^1 yin^2 tzŭ 後金。

【後江】64 コウカウ 川の名。古の下蒲水。二つの源があり、一源は四川省萬源縣の北の大橫山、一は白沙河といひ、源は縣の北の華嶽頂の萬頃池。合して後江となり、宣漢縣の北境で中江と合す。

渠江の上流。〔讀史方輿紀要、四川、夔州府、達州、太平縣〕後江縣北二百里、志云、源出㆓陝西興安州萬山中㆒、下流匯㆓於萬頃池㆒。

【後行】65（コウ カウ）　後の隊列。〔漢書、李陵傳〕陵引ㇾ士出㆓營外㆒爲ㇾ陳、前行持㆓戟盾㆒、後行持㆓弓弩㆒、令曰、聞㆓鼓聲㆒而縱、聞㆓金聲㆒而止。〔隋書、禮儀志三〕勇者、持㆓鉦鼓刀楯㆒爲㆓前行㆒、戰士次ㇾ之、槊者次ㇾ之、弓箭爲㆓後行㆒。

【後岡】66（コウ カウ）　うしろのをか。〔葬經〕勢止形昂、前澗後岡、位至㆓侯王㆒、形止㆓細縮㆒。〔韋莊、山墅閑題詩〕邐迤前岡壓㆓後岡㆒、一川桑柘好㆓殘陽㆒。

【後巷】67（コウ カウ）　裏街。裏通り。〔范成大、曉枕詩〕陸續滿城鐘動、須臾後巷鷄鳴。

【後郊】68（コウ カウ）　郊祭を後にする。郊は天の祭の名。〔南齊書、禮志上〕經記所ㇾ論、禘祫與㆓時祭㆒、其言詳矣、初不㆘以㆓先ㇾ殷後ㇾ郊爲㆖嫌。

【後效】69（コウ カウ）　❶後にあらはれるしるし。〔後漢書、安帝紀〕且復重申、以觀㆓後效㆒。❷後のいさを。將來の功績。〔魏書、明帝紀〕伏㆓竄山澤㆒者、免㆓其往咎㆒、錄㆓其後效㆒。〔魏書、肅宗紀〕時四方多事、諸蠻復反、十有二月壬午、詔曰、云云、有㆘失ㇾ律亡ㇾ軍、兵戍逃叛、盜賊劫掠、伏㆓竄山澤㆒者㆖、免㆓其往咎㆒、錄㆓其後效㆒。

【後高】70（コウ カウ）　後部の高さ。〔宋書、禮志五〕進賢冠、前高七寸、後高三寸、長八寸。〔隋書、禮儀志六〕進賢冠、古緇布冠遺象也、斯蓋文儒者之服、前高七寸、後高三寸、長八寸。

【後港】71（コウ カウ）　川の名。源は江西省都昌縣の北。又、西洋水といふ。鄱陽湖に注ぐ。

【後項】72（コウカウ ゴカウ）　❶首の後側。えり。❷㋑後の條項。㋺數學用語。甲の乙に對する比に於ける乙の稱。前項の對。

【後閣】73（コウ カク）　うしろの殿閣。後殿。〔漢書、王莽傳下〕張㆓於西廂及後閣更衣中㆒。

【後覺】74（コウ カク）　❶後に道をさとる人。後進。先覺（**1－1349**‥25）の❶の對。〔孟子、萬章下〕天之生㆓斯民㆒也、使㆔先知覺㆓後知㆒、使㆔先覺覺㆓後覺㆒。❷唐、知玄（**8－23935**‥67）の字。

【後鶴】75（コウ カク）　後の鶴。〔葛長庚、麻姑賦〕先鸞後鶴、彈㆓壓天鈴㆒。

【後學】76（コウ ガク）　❶あとから進む學者。後進。後輩。又、學者の謙稱。〔漢書、董仲舒傳贊〕潛㆓心大業㆒、令㆓後學者有ㇾ所㆓統壹㆒、爲㆓羣儒首㆒。〔後漢書、徐防傳〕宜㆘爲㆓章句㆒、以悟㆗後學㆖。〔方干、處州獻㆓盧員外㆒詩〕直緣㆓後學㆒無㆓功業㆒、不ㇾ慮文翁不ㇾ至ㇾ公。〔蘇軾、答㆓周循州㆒詩〕前生自是盧行者、後學過呼韓退之。〔宋翔鳳、爾雅義疏序〕郝氏一家之言、遂有㆓完書㆒、誠盛事也、咸豐六年八月、後學長洲宋翔鳳謹記。〔金石綜例〕唐朝陽巖銘末題㆓零邑後學田玉書石㆒、王氏昶曰、後學之稱、始見㆓於此㆒。❷後日役にたつ事柄。〔曾我五人兄弟、上〕これぞ若君のこうがく、教訓の第一と申もの。

【後壑】77（コウ ガク）　うしろのたに。〔席豫、和㆕聖製答㆔張說南出㆓雀鼠谷㆒詩〕前林已暄景、後壑尚寒氛。

【後額】78（コウ ガク）　後側の正面。〔元史、輿服志、一、輿輅〕輅之前額、描㆓金象牙㆒、雕㆔行龍二㆒、奉㆓一水精珠㆒、後額如ㇾ之。

【後甲】79（コウ カフ）　❶甲よりおくれる。十干の甲の後をいふ。〔易、蠱〕先ㇾ甲三日、後ㇾ甲三日。〔李邕、日賦〕既中ㇾ時而必彗、亦後ㇾ甲而見ㇾ陽。❷龜甲の後部をいふ。〔周禮、春官、龜人、疏〕此龜前甲長、後甲短。

【後祫】80（コウ カフ）　祫祭を後にする。〔南齊書、禮志上〕右僕射王儉議、案、禮記王制、天子先ㇾ祫後㆓時祭㆒、諸侯先㆓時祭㆒後ㇾ祫。

【後閤】81（コウ カフ）　❶宮中の裏の小門。裏のくぐり。〔漢書、陳遵傳〕母廼令㆘從㆓後閤㆒出去㆖。〔注〕師古曰、以㆓其前門關閉㆒、故從㆓後閤㆒出ㇾ之也。〔魏書、蕭昭業傳〕昭業獨住㆓西州㆒、每ㇾ至㆓昏夜㆒、輒開㆓後閤㆒、與㆓諸小人㆒共至㆓諸營署㆒、恣㆓淫宴㆒。❷後にある殿閣。後殿。〔晉書、王敦傳〕乃開㆓後閣㆒、驅㆓諸婢妾數十人㆒竝放ㇾ之。〔唐書、蘇頲傳〕獨頲在㆓太極後閤㆒、口所㆓占授㆒、功狀百緒、輕重無ㇾ所ㇾ差。〔李商隱、曉坐詩〕後閤罷朝眠、前墀思黯然。

【後合】82　hou^4 hê^2　❶仰向く。❷（ウシロアハセ）互に背を向けあふ。後を向けあふ。〔今昔物語、二十七、白井君銀提入ㇾ井被ㇾ取語〕烏丸面に六角堂の後合せにぞ住し。

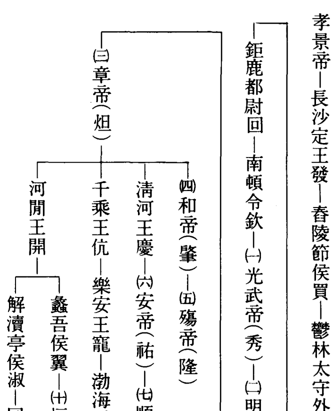
【後旱】83（コウ カン）　後にひでりする。〔唐書、魏知古傳〕今前水後旱、五穀不ㇾ立。

【後勘】84（コウ カン）　❶後日の勘當。後の咎め。〔保元物語、三、新院御遷幸〕宣旨の刻限移り候ひなば後勘いかがと恐れ申しければ。❷後々の事まで考へること。深謀遠慮。〔甲陽軍鑑、一二〕さすがの松永彈正も後勘やなかりけん。

【後閑】85（ゴ カン）　姓氏。

【後感】86（コウ カン）　後に感ずる。後に來る感慨。〔嵇康、答ㇾ難㆓養生㆒論〕夫不ㇾ慮而欲、性之動也、識而後感、智之用也。〔潘岳、夏侯常侍誄〕前思未ㇾ弭、後感仍集。

【後漢】87（ゴ カン）　朝代の名。❶前漢の景帝の裔、劉縯・劉秀が兵を起して王莽を亡ぼし、漢室を再興して秀が帝位に即き、洛陽に都す。その後、明帝・章帝等の間、内治に外征に、その隆運を見たが、和帝の頃から外戚宦官の内訌を生じて漸く衰運に傾き、次で羣雄割據して獻帝に至り、帝位は曹操の掌中に歸し、曹丕に至つて遂に簒奪された。凡て十二世、百九十六年。前漢に對して後漢といひ、又前漢が西方の長安に都したのに對して、東方の洛陽に都したから東漢といふ。その略系は次の如くである。


孝景帝―長沙定王發―舂陵節侯買―鬱林太守外
鉅鹿都尉回―南頓令欽―㈠光武帝（秀）―㈡明帝（初名陽、改ㇾ莊）
㈢章帝（炟）
㈣和帝（肇）―㈤殤帝（隆）
清河王慶―㈥安帝（祜）―㈦順帝（保）―㈧沖帝（炳）
千乘王伉―樂安王寵―渤海王鴻―㈨質帝（纘）
河間王開
蠡吾侯翼―㈩桓帝（志）
解瀆亭侯淑―同萇―㈪靈帝（宏）―㈫獻帝（協）

〔諸葛亮、前出師表〕親㆓賢臣㆒、遠㆓小人㆒、此先漢所㆓以興隆㆒也、親㆓小人㆒、遠㆓賢臣㆒、此後漢所㆓以傾頹㆒也。〔魏書、釋老志〕昔後漢荒君信惑邪。〔水經、河水注〕後漢、河南尹廣陵陳導、洛陽令徐循、與㆓處士平蘇騰南陽何進等㆒立。〔文獻通考、帝系考、帝號歷年〕東漢、世祖光武皇帝、名秀、南陽人、高祖九世孫、父南頓令欽、帝以㆓王莽簒位之十四年壬午㆒起ㇾ兵、乙酉即㆓皇帝位㆒、遷㆓都洛陽㆒、時年二十九、在位三十三年、丁巳崩、壽六十二、云云、孝獻皇帝名協、靈帝中子、母王美人、靈帝崩、董卓廢㆓少帝㆒爲㆓弘農王㆒、立ㇾ帝、年九歲、以㆓己巳㆒嗣立、在位三十二年、以㆓庚子㆒禪㆓位於魏㆒、十三年壬子崩、壽五十四、改元四、右東漢十二帝、共一百九十六年、首㆓乙酉㆒盡㆓庚子㆒。❷三國蜀をいふ。又、季漢といふ。蜀漢（**10－33086**‥5）の❷を見よ。❸（コウ カン）五代の一。後晉の將、劉知遠が契丹の大宗の北歸するに及び、その守兵を攘つて後晉に代り、自立して帝位に即き、開封（汴）に都す。之を後漢といふ。その子、隱帝に至り、鄴の鎭將の郭威が反して帝位に即き、漢を亡ぼす。凡て二世四年。開封は今の河南省開封縣治。今の河南・山東・陝西・甘肅・湖北、及び山西の長城以南、安徽の北部、河北直隸の南部の地を領す。其の系圖は

㈠高祖（暠　一年）―㈡隱帝（承祐　三年）

〔遼史、太宗紀〕大同元年二月辛未、河東節度使北平王劉知遠、自立爲ㇾ帝、國號ㇾ漢。〔文獻通考、帝系考、帝號歷年〕後漢、高祖睿文聖武昭肅孝皇帝、太原人、姓劉氏、名暠、初名知遠、契丹入㆓中國㆒、以㆓丁未㆒即㆓皇帝位於晉陽㆒、繼遷㆓於汴㆒、在位二年、戊申崩、壽五十四、云云、隱帝、名承祐、高祖第二子、封㆓周王㆒、以㆓戊申㆒嗣立、三年庚戌、郭威擁ㇾ兵犯ㇾ闕、遇ㇾ弑、壽二十、右後漢、二帝共四年、首㆓丁未㆒、盡㆓庚戌㆒。

【後漢紀】88（ゴ カンキ）　書名。三十卷。晉、袁宏撰。其

の體例は荀悅の漢紀に倣つたものであるが、亦一見識がある。班固等の世祖本紀・光武時功臣列傳載記、崔寔等の漢紀、馬日磾等の東觀漢紀、謝承後漢書、華嶠後漢書、其の他、司馬彪の書、起居注、漢名臣奏旁、諸郡舊先賢等を參考にしてゐる。〔四庫提要、史、編年類〕。

【後漢書】89（ゴカンジョ）　書名。百二十卷。南朝宋、范曄撰。志三十卷は晉司馬彪撰。後漢一代の歷史には、范曄以前既に東觀漢紀あり、又、謝承・薛瑩・華嶠・謝沈・袁山松・張璠・司馬彪の七家後漢書があつたが、范曄はこれ等に飽き足らず、衆家の書を刪して一家の見を立てた。本紀十卷、列傳八十卷は、唐、章懷太子注。志三十卷（律曆・禮義・祭祀・天文・五行・郡國・百官・輿服の八志）は梁劉昭注。彪の續漢書は五代の亂に亡佚し、志のみを存したのを、宋の眞宗元年、孫奭等が建議して後漢書に合した。〔四庫提要、史、正史類〕。
『參考書』【補後漢書年表】十卷 宋、熊方撰。【後漢書集解】九十卷 續志集解三十卷 清、王先謙撰。【後漢書補注】二十四卷 清、惠棟撰。〔粤雅堂叢書、第一百十二、一百十七冊〕。【後漢書補注】一卷 清、侯康撰。【後漢書補表】八卷 清、錢大昭撰。〔粤雅堂叢書、第一百十八－一百二十冊〕。【後漢書補逸】二十一卷 清、姚之駰編。東觀漢紀を始め散佚した後漢書の文を蒐集したもの。〔四庫提要、史、別史類〕。【後漢儒林傳補逸】一卷 續一卷 清、田普光撰。〔鄦齋叢書、第十冊〕。【補續漢書藝文志】二卷 清、錢大昭撰。〔積學齋叢書、第十三冊〕。【後漢書贅語】三卷 清、李祖陶撰。〔史論、五種、第三冊〕。【後漢書疏證】三十卷 清、沈欽幹撰。【後漢藝文志】四卷 清、姚振宗撰。〔適園叢書、第一百七十三－一百七十六冊〕。【補後漢書藝文志】四卷 清、侯康撰。〔嶺南遺書、第七十三冊〕。【續漢書百官志考】岡本保孝撰。〔岡本況齋雜著、第一百八十九冊〕。

【後漢安帝】90（ゴカンノアンテイ）　劉祜（2－2224‥14）を見よ。

【後漢隱帝】91（ゴカンノインテイ）　劉承祐（2－2224‥1070）を見よ。

【後漢高祖】92（ゴカンノカウソ）　劉知遠（2－2224‥1173）を見よ。

【後漢桓帝】93（ゴカンノクワンテイ）　劉志（2－2224‥319）を見よ。

【後漢獻帝】94（ゴカンノケンテイ）　劉協（2－2224‥243）を見よ。

【後漢質帝】95（ゴカンノシツテイ）　劉纘（2－2224‥308）を見よ。

【後漢章帝】96（ゴカンノシヤウテイ）　劉炟（2－2224‥480）を見よ。

【後漢殤帝】97（ゴカンノシヤウテイ）　劉隆（2－2224‥652）を見よ。

【後漢順帝】98（ゴカンノジユンテイ）　劉保（2－2224‥546）を見よ。

【後漢少帝】99（ゴカンノセウテイ）　劉辯（2－2224‥600）を見よ。

【後漢沖帝】100（ゴカンノチユウテイ）　劉炳（2－2224‥592）を見よ。

【後漢明帝】101（ゴカンノメイテイ）　劉莊（2－2224‥295）を見よ。

【後漢靈帝】102（ゴカンノレイテイ）　劉宏（2－2224‥208）を見よ。

【後漢和帝】103（ゴカンノワテイ）　劉肇（2－2224‥518）を見よ。

【後漢光武帝】104（ゴカンノクワウブテイ）　劉秀（2－2224‥328）を見よ。

【後監】105（コウカン）　後世のてほん。〔吳仲舒、南風之薰賦〕斯以發レ號施レ令、前規後監、三農以レ之協洽、兆人以レ之無レ咸。

【後澗】106（コウカン）　後の溪流。〔王勃、上巳浮レ江宴詩〕泉聲喧二後澗一、虹影照二前橋一。〔白居易、渭村退居寄二禮部崔侍郎翰林錢舍人一詩一百韻〕引レ泉來二後澗一、移レ竹下二前岡一。

【後諫】107（コウカン）　諫官を下位にする。〔宋史、胡舜涉傳〕又奏、上殿班、先レ臺後レ諫、祖宗法也、今臺臣在二諫臣下一、乞今後臺諫、同日上殿、以二臺諫雜壓一爲二先後一。

【後艱】108（コウカン）　のちのなんぎ。將來のなやみ。〔書、周官〕惟克果斷、乃罔二後艱一。〔詩、大雅、鳧鷖〕公尸燕飮、無レ有二後艱一。〔箋〕艱、難也。〔儀禮、士喪禮〕度二茲幽宅兆基一、無レ有二後艱一。

【後嵒】109（コウガン）　うしろのいは。〔方干、鏡湖西島言レ事寄二陶校書一詩〕風雷前壑雨、花木後嵒春。

【後己】110（コウキ）　㊀自分をあと廻しにする。〔易、謙、疏〕謙者屈レ躬下レ物、先レ人後レ己、以レ此待レ物、則所レ在皆通、故曰レ亨。〔漢書、文帝紀〕昔先王遠施不レ求二其報一、望祀不レ祈二其福一、右レ賢左レ戚、先レ民後レ己、至明之極也。〔易林〕先レ人後レ己、所レ願必得。〔宋書、索虜傳〕提二吳楚之勁卒一、總二八州之銳士一、紅旗絳レ天、素甲奪レ日、虎步二中原一、龍超二河渚一、興レ雲散レ雨、慰二大旱之思一、弔レ民代レ罪、積二後レ己之情一。㊁字號。㋑唐、李景讓（6－14459‥1086）の字。㋺宋、陳思讓（11－41698‥916）の字。

【後軌】111（コウキ）　後世の軌範。〔唐太宗、元日詩〕繼レ文遵二後軌一、循レ古鑒二前王一。

【後起】112（コウキ）　㊀後に起る。後で起つ。〔戰國、齊策〕夫後起者藉也、而遠レ怨者時也、是以聖人從レ事、必藉二於權一、而務興二於時一。〔漢書、谷永傳〕今之後起、天所レ不レ饗、什二倍於前一。㊁hou^4 chʻi^3 後輩。

【後掎】113（コウキ）　後から足をとる。制御する。〔何遜、七召〕鳥不レ及レ飛、獸不レ遑レ伏、既前躪而後掎、亦在レ左排而右蹴。

【後喜】114（コウキ）　後によろこぶ。〔易林〕初憂後喜、與レ福爲レ市、八佾列レ陳、飮御嘉レ友。〔戴叔倫、別二鄭諫議雲逵盧拾遺景亮一詩〕前悲涕未レ乾、後喜心已惑。

【後期】115（コウキ）　㊀約束の期に後れる。〔春秋、僖、二十七、杜注〕諸侯伐レ宋、公與レ楚有レ好、而往會レ之、非レ後レ期也。〔史記、司馬穰苴傳〕夕時莊賈乃至、穰苴曰、何後レ期爲。〔漢書、張騫傳〕騫與二李廣一俱出二右北平一、擊二匈奴一而騫後レ期。㊁後日に會ふ時。〔白居易、祭二中書韋相公一文〕豈無二後期一。〔徐賁、別詩〕酒盡歌終問二後期一、泛萍浮梗不レ勝レ悲。㊂前期（2－2011‥59）の㊃の對。

【後祺】116（コウキ）　清、無爲の人。字は咸吉。諸生。畫に巧。〔國朝書畫家筆錄、四〕。

【後機】117（コウキ）　機會に後れる。〔晉書、何攀傳〕詔レ攀參二濬軍事一、及二孫皓降二于濬一、而王渾恚二於後レ機、欲レ攻レ濬、攀勸レ濬送二皓與レ渾、由レ是事解。

【後龜】118（コウキ）　龜は北方の天に配する神獸の名で、玄武をいふ。周代、天子の後軍は此の圖を畫いた旗をたてたといふ。〔晁補之、上二皇帝一安南罪言〕臣不レ能レ畫レ地聚レ米、相レ險度レ夷、左レ青右レ白、前レ鳥後レ龜、無レ當二天牢一、無レ處二龍首一、高陵知レ逆、背丘知レ向。

【後龜山】119（ゴカメヤマ）　第九十九代の帝謚。（1383－1392）

【後騎】120（コウキ）　後れた騎兵。又、後に扈從する騎兵。あとに續く騎兵。〔晉書、明帝紀〕帝見二逆旅賣レ食嫗一、以二七寶鞭一與レ之曰、後有二騎來一、可二以レ此示一也。〔宋書、龍符傳〕賊遂退走、龍符乘レ勝奔、逐二後騎一不レ及、賊數千騎、圍繞攻レ之。〔周書、侯莫陳崇傳〕崇單騎入二賊中一、于二馬上一生二擒醜奴一、後騎益集、賊徒因悉逃散。〔梁簡文帝、傷離新體詩〕前驅經二御宿一、後騎歷二河濟一。

【後宜】121（コウギ）　遼代、宜州から募つた兵の名。〔遼史、天祚紀二〕天慶七年九月、上自レ燕至二陰涼河一、置二怨軍八營一、募レ自二宜州一者、曰二前宜・後宜一、自二錦州一者、曰二前錦・後錦一。

【後義】122（コウギ）　義をあとまはしにすること。義を重んじないこと。〔孟子、梁惠王上〕苟爲二後レ義先一レ利、不レ奪不レ饜。〔說苑、政理〕親レ親者、先レ內後レ外、先レ仁後レ義也。

【後疑】123（コウギ）　後のうたがひ。〔蔡邕、朱公叔鼎銘〕尋二綜六藝一、契濶馳レ思、所下以啓二前惑一而覺中後疑上者、亹亹焉、雖二商偃一其猶病レ諸。

【後儀】124（コウギ）　明、趙同魯（10－37171‥809）の號。

【後魏】125（コウギ）　朝代の名。姓は拓跋氏。漢魏以來、世〻索頭部の汗。西晉の末、拓跋猗盧が代王となり、數世を經て、珪に至つて諸部に推され、代王となり、尋いで國號を改めて魏と號し、盛樂に都す。三國の曹魏の後であつたから後魏といひ、之を太祖道武帝といふ。帝先づ後燕を伐ち、更に北燕を攻めて之を亡ぼし、吐谷渾を逐ひ柔然を破る。太武帝に至り、しきりに諸地を取り、遂に北方一帶の地を占有して南朝宋と對し、北朝と稱せらるるに至る。よりて北魏ともいふ。孝文帝に至り、大いに中華の文物を採用し、胡服胡語を禁じ、姓を元と改め、都を洛陽に遷す。これにより元魏の稱起る。孝明帝に至り、胡太后が政を攝して政綱大いに亂れたが、爾朱榮が之を弑して孝莊帝を立て、次で、高歡が爾朱を平らげて孝武帝を立てた。高歡は專權にして帝

と隙を生じ、帝は長安に走つて宇文泰に賴る。之を西魏といふ。よつて高歡は更に孝靜帝を鄴に立てて東魏と稱す。東魏はこの後、高澄・高洋、相次いで政權を握り、洋、遂に梁の亂に乘じて帝位を簒ふ。宇文泰の子の覺がまた西魏の禪を受けて帝となる。凡て十四世、百五十九年。內、西魏四世、東魏は一世、十七年。盛樂は今の綏遠省和林格爾縣。後、平城に遷る。今の山西省大同縣の東。今の河北・山東・山西・甘肅及び江蘇・河南・陝西の北部、遼寧の西部の地を領す。その略系は次の如くである。

【後　魏】　拓　跋　氏

- 始祖神元帝（力微）
  - 文帝（沙漠汗）
    - 桓帝（猗㐌）
      - 惠帝（賀傉）
      - 煬帝（紇那）
    - 穆帝（猗盧）
    - 思帝（弗）
      - 平文帝（鬱律）
      - 烈帝（翳槐）
      - 昭成帝（什翼犍）—世子獻明帝（寔）
        - ㈠太祖、道武帝（珪）—㈡太宗、明元帝（嗣）—㈢世祖太武帝（燾）
          - 景穆太子（恭宗景穆帝、晃）—㈣高宗文成帝（濬）—㈤顯祖獻文帝（弘）
            - ㈥高祖孝文帝（宏）
              - ㈦世宗宣武帝（恪）—㈧肅宗孝明帝（詡）
              - 京兆王（文景帝、愉）—(十二)西魏文帝（寶炬）
                - (十三)西魏廢帝（欽）
                - (十四)西魏恭帝（周、宗公、廓）
              - 苑陽、文獻王（懌）—清河、文宣王（亶）—【東魏】孝靜帝（北齊中山王、善見）
              - 廣平、文穆王（武穆王、懷）—(十一)【西魏】孝武帝（修）
            - 彭城、武宣王（肅祖文穆帝、勰）—㈨敬宗孝莊帝（子攸）
            - 廣陵、惠王羽—㈩節閔帝（恭）
  - 章帝（悉鹿）
  - 平帝（綽）
  - 昭帝（祿官）

〔魏書、道武帝紀〕詔曰、昔朕遠祖揔二御幽都一、控二制遐國一、雖レ踐二王位一、未レ定二九州一、逮二於朕躬一、處二百代之季一、天下分裂、諸華之主、民俗雖レ殊、撫レ之在レ德、故躬率二六軍一、掃二平中土一、凶逆蕩除、遐邇率服、宜下仍二先號一、以爲上レ魏焉、布二告天下一、咸知二朕意一。〔文獻通考、帝系考、帝號歷年〕後魏、太祖道武皇帝、其先世爲二代北鮮卑君長一、姓拓跋氏、名珪、以二丙戌一卽二代王位一、郊レ天改レ元、十三年戊戌、取レ燕卽二帝位一、又十二年己酉、爲二拓跋紹所一レ弑、壽三十九年、云云、恭皇帝名廓、文帝第四子、以二甲戌一嗣レ位、三年丙子、禪二於周一、未レ幾周人殺レ之、壽二十一、不二改元一、右魏十五帝、共一百七十一年、首二丙戌一盡二丙子一。

【後魏桓帝】126（コウギノクワンテイ）　拓跋猗㐌（**5**−11958‥72）を見よ。

【後魏獻帝】127（コウギノケンテイ）　拓跋隣（**5**−11958‥70）を見よ。

【後魏思帝】128（コウギノシテイ）　拓跋弗（**5**−11958‥65）を見よ。

【後魏章帝】129（コウギノシヤウテイ）　拓跋悉鹿（**5**−11958‥86）を見よ。

【後魏出帝】130（コウギノシユツテイ）　後魏の孝武帝。元修（**1**−1340‥271）を見よ。

【後魏成帝】131（コウギノセイテイ）　拓跋毛（**5**−11958‥66）を見よ。

【後魏昭帝】132（コウギノセウテイ）　拓跋祿官（**5**−11958‥101）を見よ。

【後魏宣帝】133（コウギノセンテイ）　拓跋推寅（**5**−11958‥89）を見よ。

【後魏廢帝】134（コウギノハイテイ）　後魏の節閔帝をいふ。拓跋恭（**5**−11958‥28）を見よ。

【後魏平帝】135（コウギノヘイテイ）　拓跋綽（**5**−11958‥43）を見よ。

【後魏穆帝】136（コウギノボクテイ）　拓跋猗盧（**5**−11958‥73）を見よ。

【後魏煬帝】137（コウギノヤウテイ）　拓跋紇那（**5**−11958‥83）を見よ。

【後魏烈帝】138（コウギノレツテイ）　拓跋翳槐（**5**−11958‥76）を見よ。

【後魏孝莊帝】139（コウギノカウサウテイ）　元子攸（**1**−1340‥668）を見よ。

【後魏孝靜帝】140（コウギノカウセイテイ）　元善見（**1**−1340‥697）を見よ。

【後魏孝武帝】141（コウギノカウブテイ）　元修（**1**−1340‥271）を見よ。

【後魏孝文帝】142（コウギノカウブンテイ）　元宏（**1**−1340‥155）を見よ。

【後魏孝明帝】143（コウギノカウメイテイ）　元詡（**1**−1340‥149）を見よ。

【後魏景穆帝】144（コウギノケイボクテイ）　拓跋晃（**5**−11958‥32）を見よ。

【後魏獻文帝】145（コウギノケンブンテイ）　拓跋弘（**5**−11958‥39）を見よ。

【後魏後廢帝】146（コウギノコウハイテイ）　元朗（**1**−1340‥591）を見よ。

【後魏神元帝】147（コウギノシンゲンテイ）　拓跋力微（**5**−11958‥100）を見よ。

【後魏聖武帝】148（コウギノセイブテイ）　拓跋詰汾（**5**−11958‥79）を見よ。

【後魏昭成帝】149（コウギノセウセイテイ）　拓跋什翼犍（**5**−11958‥104）を見よ。

【後魏節閔帝】150（コウギノセツビンテイ）　拓跋恭（**5**−11958‥28）を見よ。

【後魏宣武帝】151（コウギノセンブテイ）　元恪（**1**−1340‥90）を見よ。

【後魏前廢帝】152（コウギノゼンハイテイ）　後魏の節閔帝をいふ。拓跋恭（**5**−11958‥28）を見よ。

【後魏太武帝】153（コウギノタイブテイ）　拓跋燾（**5**−11958‥57）を見よ。

【後魏道武帝】154（コウギノダウブテイ）　拓跋珪（**5**−11958‥34）を見よ。

【後魏文成帝】155（コウギノブンセイテイ）　拓跋濬（**5**−11958‥45）を見よ。

【後魏平文帝】156（コウギノヘイブンテイ）　拓跋鬱律（**5**−11958‥75）を見よ。

【後魏明元帝】157（コウギノメイゲンテイ）　拓跋嗣（**5**−11958‥41）を見よ。

【後魏臨洮王】158（コウギノリンタウワウ）　拓跋釗（**5**−11958‥51）を見よ。

【後咎】159（コウキウ）　後日に受けるわざはひ。後日の災難。〔戰國、魏策〕公今言レ破二趙太易一、恐有二後咎一。〔漢書、趙充國傳〕得二避嫌之便一、而亡二後咎餘責一。

【後救】160（コウキウ）　後から來る援兵。後援。〔漢書、李陵傳〕陵軍無二後救一、射矢且盡。

【後詰】161（ゴツメ・アトツメ）　後に控へをる軍隊。後距。〔庭訓往來、六月〕後詰者、陳旅之軍致也。

【後鏡】162（コウキヤウ）　後のかがみ。後世のてほん。〔北史、李彪傳〕是以談遷世レ事而功立、彪固世レ事而名成、此乃前鑒之軌轍、後鏡之著龜也。

【後饗】163（コウキヤウ）　後で食物をたてまつる。後で御馳走する。〔淮南子、說山訓〕先祭而後饗則可、先饗而後祭則不可。

【後郤】164（コウギヤク）　しりへにしりぞく。退却。〔熊曜、琅琊臺觀日賦〕驚濤連レ山、前拒後郤。〔柳貫、袁伯長侍講云云詩〕巨敵無二前勍一、偏師當二後郤一。

【後腳】165（コウキヤク）　あとあし。後足。〔水經、濡水注〕始皇轉レ馬還、前腳猶立、後腳隨崩、僅得レ登レ岸。

【後宮】166（コウキユウ）　天子の住居される前殿の後にある宮殿。宮中の妃嬪の居る所。奥ごてん。內宮。後庭。轉じて、皇后又は女官の稱。〔禮、昏義、注〕古者天子后立二六宮一、天子六寢、而六宮在レ

後。〔宋玉、登徒子好色賦〕願王勿三與出二入後宮一。〔戰國、秦策〕不レ充二後宮一、而駿良駃騠。〔史記、周紀〕漦化爲二元黿一、以入二王後宮一。〔史記、平原君傳〕躄者至二平原君門一、請曰、臣聞、君之喜レ士、士不レ遠二千里一而至者、以二君能貴レ士而賤一レ妾也、臣不幸有二罷癃之病一、而君之後宮臨而笑レ臣、臣願得二笑レ臣者頭一。〔漢書、司馬相如傳上〕羅二乎後宮一、列二乎北園一。〔後漢書、明德馬皇后紀〕皇太后曰、馬貴人德冠二後宮一、卽其人也、遂立爲二皇后一。〔班固、西都賦〕後宮則有二掖庭・椒房・后妃之室一。〔白居易、長恨歌〕後宮佳麗三千人。〔令集解〕在二御所後一、故號二後宮一、其皇后亦有二後宮一。

【後拒】167 コウキョ 後に備へる軍隊。しんがり。殿軍。後距。〔後漢書、張宗傳〕禹軍到二栒邑一、赤眉大衆且レ至、禹以二栒邑不一レ足レ守、欲三引レ師進就二堅城一、而衆人多畏二賊追一、憚レ爲二後拒一。〔宋史、折克行傳〕大酋咩保吳良以二萬騎一來躡、克行爲二後拒一、度二賊半度一レ隘、縱擊大破レ之。〔駱賓王、又破設蒙儉露布〕先登陷レ敵、無レ遺二大樹之功一、後拒亂レ行、必致二曲梁之罰一。

【後倨】168 コウキョ 後になつて倨りたかぶる。〔五代史、趙犨傳〕自二先帝時一、嘗切齒紹レ威、以二其前恭而後倨一。

【後距】169 コウキョ ❶うしろにあるけづめ。〔淮南子、兵略訓〕凡有二血氣一之蟲、含レ牙戴レ角、前爪後距。❷後備の軍隊。後拒に同じ。〔漢書、李陵傳〕博德故伏波將軍、亦羞レ爲二陵後距一。〔漢書、西域上、鄯善國傳〕漢軍正任文將兵、屯二玉門關一、爲二貳師後距一。

【後裾】170 コウキョ すそをしりへにする。子供を背に負ふこと。〔顏氏家訓、兄弟〕兄弟者分レ形連レ氣之人、方二其幼一也、父母左提右挈、前襟後裾、食則同レ案、衣則傳レ服。

【後擧】171 コウキョ 後に事を擧げる。再擧。〔晉書、陶侃傳〕侃以三孤軍一隊力不二獨禦一、量レ宜三取レ全以俟二後擧一。〔魏書、高句麗傳〕樂平王丕等議レ待二後擧一、世祖乃止。

【後恭】172 コウキョウ 後にうやうやしくする。〔史記、蘇秦傳〕蘇秦笑謂二其嫂一曰、何前倨而後恭也。

【後曲】173 コウキョク うしろが曲つてゐる。〔易林〕前屈後曲、形體勁急、絞黑大索、困二於清室一。

【後巾】174 コウキン 頭巾をあとによせる。高山を登る形容。〔程俱、太湖沿檄西原道卽事詩〕上レ崖下レ谷鳥道中、前レ屩後レ巾魚貫從。

【後金】175 コウキン 清朝の前名。清の太祖が明の萬曆四十四年、自ら汗の位について金と稱してから、子の太宗が天聰十年、國號を清と改めるまでの二十一年間をいふ。〔皇朝通志、氏族略〕國姓、愛新覺羅氏、臣等謹按、愛新覺羅氏、國語以レ金爲二愛新一、覺羅乃姓也。

【後錦】176 コウキン 遼代、錦州から募つた兵の名。後宜(121)を見よ。

【後吟】177 コウギン 後で吟ずる。〔鄭巢、送三袁肇歸二山陰一詩〕南渡久誰語、後吟今獨歸。

【後矩】178 コウク 後世のてほん。後世に殘された手本。〔北史、崔光傳〕陛下遵二酌前王一、貽二厥後矩一。

【後驅】179 コウク 後をかける。〔唐書、南詔傳上〕犂レ田以二一牛三夫一、前挽、中厭後驅、然專二于農一、無二貴賤一、皆耕不二繇役一。

【後愚】180 コウグ 其の人より後の愚者。後世の愚者。〔張悛、爲二吳令謝詢一求下爲二諸孫一置中守冢人上表〕夫一國爲二一人一興、先賢爲二後愚一廢。

【後遇】181 コウグウ 後に出會ふ。〔鮑照、懷二遠人一詩〕屬レ期眇起遠、後遇邈無レ辰。

【後屈】182 コウクツ 後がまがつてゐる。又、後方にまがる。〔舊唐書、輿服志〕三品已下、前挫後直、五品已上、前挫後屈。

【後果】183 コウクワ 前業に對して生ずる結果。むくい。歸結。〔南齊書、褚伯玉等傳論〕今樹以二前因一、報以二後果一。〔宋之問、遊二法華寺一詩〕後果纏二三足一、前因感二六牙一。

【後科】184 コウクワ 等級を落された官吏の登庸試驗。〔宋史、高宗紀八〕于レ是有二官應レ試者一、所レ授階官、易レ左爲レ右、白身者駁放、占二用省額一、復還二後科一。

【後寡】185 コウクワ 後方が寡勢になる。〔孫子、虛實〕故備レ前則後寡、備レ後則前寡、備レ左則右寡、備レ右則左寡、無レ所レ不レ備、則無レ所レ不レ寡。

【後禍】186 コウクワ 後のわざはひ。後患。後憂。〔後漢書、順冲質帝紀〕王聖等懼レ有二後禍一。

【後挂】187 コウクワイ しりへにかける。〔梁簡文帝、鏡象詩〕後挂二七龍綱一、前發二四珠光一。

【後悔】188 コウクワイ 後からくやむ。前に行つたことを後で悔いる。〔詩、召南、江有汜〕不二我以一、其後也悔。〔左氏、哀、六〕作而後悔、亦無レ及也。〔荀子、非相〕後二悔其始一。〔楚辭、離騷〕後悔遁而有レ他。〔史記、張儀傳〕懷王後悔、赦二張儀一、厚禮レ之如レ故。〔漢書、疏廣傳〕宦成名立、如レ此不レ去、懼レ有二後悔一。

【後悔噬レ臍】189 コウクワイホゾヲカム 事が起つてから後悔しても及ばない。〔左氏、莊、六〕三甥曰、亡二鄧國一者、必此人也、若不二早圖一、後君噬レ齊。〔注〕若レ齧二腹齊一、喩レ不レ可レ及。〔晉書、慕容垂載記〕悔レ之噬レ臍、將何所レ及。〔書言故事〕悔レ事不レ及、曰レ噬レ臍。

【後悔無レ及】190 コウクワイハオヨブナシ 後になつて悔いても追ひつかない。〔後漢書、光武帝紀上〕反水不レ收、後悔無レ及。

【後會】191 コウクワイ 後にあふこと。後日の會合。〔孔叢子、儒服〕未レ知二後會何期一。〔謝惠連、雪賦〕怨二年歲之易一レ暮、傷二後會之無一レ因。〔杜甫、送三韋十六評事充二同谷郡防禦判官一詩〕中原正格鬪、後會何緣由。

【後會期遙】192 コウクワイノキハルカナリ 後に出會ふ時期が遙かに遠い。再會は期し難い。〔大江朝綱、於二鴻臚館一餞二北客一序〕前途程遠、馳二思於雁山之暮雲一、後會期遙、霑二纓於鴻臚之曉淚一。

【後誨】193 コウクワイ 後の教訓。〔嵇康、明膽論〕若未レ反二三隅一、猶三復有二疑思一、承二後誨一、得二一騁辭一。

【後外】194 コウグワイ 外のものをあとまはしにする。〔管子、禁藏〕先愼二於己一而後レ彼、官亦愼レ內而後レ外、民亦務レ本而去レ末。〔說苑、政理〕伯禽來朝、周公曰、何治之難、曰親レ親者、先レ內後レ外、先レ仁後レ義也。

【後光】195 ゴクワウ ［佛］佛の體から發するひかり。佛像の背に圓環、又は船形をつけるのは之を象つたもの。圓光。背光。〔賀古教信七墓廻、五〕法の絲筋金色の、光後光と御佛の。

【後光嚴】196 ゴクワウゴン 北朝第四代の院號。

【後光明】197 ゴクワウミヤウ 第百十代の帝謚。(1644—1654)

【後獲】198 コウクワク 己に得る利益をあと廻しにする。〔論語、雍也〕仁者先レ難而後レ獲、可レ謂レ仁矣。〔集注〕獲、謂レ得也。

【後穫】199 コウクワク 後のとりいれ。〔易、无妄、疏〕不二敢前耕一、但守二後穫一者、未下敢以二耕與一レ穫俱爲中己事上、唯爲二後穫一、不二敢先耕一、事既闕レ初、不レ擅二其美一、故云レ未レ富也。

【後官】200 コウクワン あとの役人。〔福惠全書、蒞任部、查交代〕後官初蒞、才復平庸。

【後患】201 コウクワン 後日の患ひ。後日のわざはひ。後禍。後憂。後害。〔詩、周頌、小毖〕予其懲、而毖二後患一。〔孟子、離婁下〕言二人之不善一、當下如二後患一何上。〔荀子、仲尼〕無二後患一之術。〔史記、春申君傳〕齊南以二泗水一爲レ境、東負レ海、北倚レ河、而無二後患一。〔晉書、傅玄傳〕欲レ取二一時之利一、不レ慮二後患一。

【後灌】202 コウクワン 灌祭を後にする。灌は酒を酌み地にそそいで、神を降してまつること。〔宋書、禮志三〕殷人先求二諸陽樂一、三闋然後迎レ牲、則殷人後レ灌也。

【後君】203 コウクン 後の主君。〔左氏、文、十六〕臣レ之而逃二其難一、若二後君一何。

【後裙】204 コウクン うしろのもすそ。〔樂府、捉搦歌〕誰家女子能行步、反著二裌禪一後裙露、天生二男女一共一處、願得二兩箇一成二翁嫗一。

【後勳】205 コウクン 後の勳功。〔後漢書、張衡傳〕曷若下卑レ體屈レ己、云云用二後勳一雪中前吝上。

【後軍】206 コウグン 後備の軍隊。あとぞなへ。後拒。〔宋書、文帝紀〕以二後軍參軍徐遵之一爲二兗州刺史一。〔魏書、蕭道成傳〕駿死子業以爲二後軍將軍直閤一。〔北史、薛琡傳〕不レ如下分爲二二軍一相繼而進上、前軍若勝、後軍合レ力、前軍若敗、後軍承レ之。〔皮日休、練濆詩〕艅艎六宮鬧、艨衝後軍肅。

【後羣】207 コウグン 後のむれ。〔梁元帝、晩棲烏詩〕風多前鳥駛、雲暗後羣迷。〔顧非熊、雁詩〕聲急奔二前侶一、低行續二後羣一。

【後家】208 ケゴ ❶夫の死後、その家を守つて居る婦。後室。〔五代帝王物語〕故右大將賴朝卿後家尼二品も、嘉祿元年七月に死亡。〔甲陽軍鑑、十、下〕討死仕りたる者の後家は。❷對(イツ)であるべ

きものが、一方缺けたものの稱。〔長町女腹切〕身ばかり買うて去なれたは、後家鞘に極まつた。

【後刑】209（コウケイ） ㊀刑罰をあと廻しにする。なるべく刑罰を行はないやうにすること。〔春秋繁露、王道通三〕以レ此見二天之顯レ經隱レ權、前レ德而後レ刑也。〔荀悅、漢治迹論〕或言、先レ敎而後レ刑。〔常袞、大曆四年大二赦天下一制〕勅至理之代、先レ德後レ刑。㊁鹽鐵論の篇名。

【後係】210（コウケイ） 後に備へた軍隊。殿軍。〔晉書、新蔡王騰傳〕幽州刺史和演、率レ衆討レ穎、穎遣二北中郎將王斌一距戰、浚率二鮮卑騎一擊レ斌、騰爲二後係一大破レ之。〔宋書、索虜傳〕募二敢死之士四百人一、參軍范道基率二二百人一爲二前驅一、參軍郭王符・劉規等、以二二百人一爲二後係一、出二賊圍外一、掩二襲其後一。

【後勁】211（コウケイ） 後づめの精兵。殿軍の精兵。〔左氏、宣、十二〕軍行、右轅、左追レ蓐、前茅慮レ無、中權、後勁。〔注〕中軍制レ謀、後以二精兵一爲レ殿。〔王僧孺、與二何炯一書〕不レ得下奉レ板中涓預二衣裳之會一、提レ戈後勁、厠中龍豹之謀上。〔徐陵、司空章昭達墓誌〕公奉二詔崇朝一、飲レ冰將レ力、前茅後勁、步驟奔馳、仍向二甌閩一、殄二其巢窟一。

【後計】212（コウケイ） のちのちの計略。後圖。〔隋書、豆盧毓傳〕今且僞從、以思二後計一。

【後逕】213（コウケイ） 後方のこみち。後徑。〔薛能、聖岡詩〕遠村通二後逕一、一郡隔二前岡一。〔王安石、和三平甫舟中望二九華山一詩〕尋レ奇出二後逕一、覽レ勝倚二前簷一。

【後景】214（コウケイ） うしろの方のけしき。又、舞臺の後壁に畫いた景色。書割。背景。

【後溪】215（コウケイ） 後方のたに。〔劉長卿、苕溪酬二梁耿別後見一レ寄詩〕白雲千里萬里、明月前溪後溪。〔皮日休、夜會問答詩〕憶二山月前溪一、後溪淸復絕。

【後經】216（コウケイ） 經文におくれる。經文よりおくれて其の說明をする。〔杜預、春秋左氏傳序〕或先レ經以始レ事、或後レ經以終レ義。

【後輕】217（コウケイ） うしろが輕い。〔吳子、料敵〕一陳兩心、前重後輕、故重而不レ堅。

【後慶】218（コウケイ） 後のさいはひ。〔後漢書、中屠剛等傳贊〕鮑永沈吟、晚乃歸レ正、志達義全、先號後慶。

【後繼】219（コウケイ） ㊀あとからつづくこと。ごづめ。あとづめ。〔魏志、鍾會傳〕衞將軍司馬文王爲二大軍後繼一。〔晉書、景帝紀〕帥二諸將一、以爲二後繼一。〔晉書、周處傳〕處曰、軍無二後繼一、必至二覆敗一。㊁後妻。〔唐書、韋公肅傳〕自レ秦以來、有二再娶一、前娶後繼皆嫡也。

〖後繼內閣〗220（コウケイナイカク） 前內閣を引繼ぐ內閣。前內閣に代つてこれを受繼ぐ內閣。

【後敎】221（コウケウ） 敎化をあと廻しにする。敎化をあまり重んじないこと。〔荀悅、漢治迹論〕或言、先レ敎而後レ刑、或言、先レ刑而後レ敎。

【後劇】222（コウゲキ） 後の病のはげしさ。〔沈約、與二徐勉一書〕解レ衣一臥、支體不二復相關一、上熱下冷、月增日篤、云云、後差不レ及二前差一、後劇必甚二前劇一。

【後擊】223（コウゲキ） 後からうつ。〔史記、高祖紀〕秦兵尙衆距レ險、今不レ下レ宛、宛從レ後擊、強秦在レ前、此危道也。

【後傑】224（コウケツ） 後のすぐれた者。〔唐書、藩鎭傳序〕運遭二孝武一、前英後傑、夕思朝議、故能大者誅鉏、小者惠來。

【後月】225（コウゲツ） ㊀翌月。來月。〔宋書、禮志二〕案、晉世及皇代以來、閏月亡者以二閏之後月一祥、宜下以二來七月一爲中祥忌上。〔隋書、禮儀志三〕若節屬二前月一、則宜下以二前月一爲上レ忌、節屬二後月一、則宜下以二後月一爲中忌祥上、逢レ閏則宜レ取二遠日一。〔丘爲、湖中寄二王侍御一詩〕毎有二南浦信一、仍期二後月遊一。㊁hou⁴ yüeh⁴ 來來月。㊂㋑（アトゲツ） 前の月。先月。㋺（ノチノツキ） 陰曆九月十三夜の月。八月十五日の月の對。㋩（シツキ） 備中國の郡名。㋥（シリツキ） 姓氏。〔姓林全書〕。

【後業】226（コウゲフ） ㊀繼續の事業。又、後世にのこす事業。〔吳志、韋曜傳〕乞下欲レ成二所レ造書一、以二後業一別有上レ所レ付。㊁（ゴゴフ） 後に其のむくいを受くべき行爲。〔沈約、謝三齊竟陵王示二華嚴瓔珞一啓〕因果悟二其初心一、菩提證二其後業一。〔蘇頲、淨信變讚〕道之元尊、洞二照前劫一、身也淨信、終二成後業一。

【後見】227（コウケン） ㊀會見に後れること。〔左氏、昭、四〕寡君將三墮レ幣焉、敢謝二後見一。〔注〕恨二其後至一、故言下將因二諸侯會一、布レ幣乃相見上。㊁㋑主人または家長の幼少なとき、家臣または家族がその補佐をすること。又、其の任に在る人。うしろみ。〔源平盛衰記、二十、石橋合戰〕女房も子供が後見して。㋺鎌倉時代に執權または連署の別稱。足利時代に、管領の別稱。〔東鑑、三十八〕寶治元年八月一日、兩御後見之外者、禁制。㋩禁治產者、又は親權を行ふ者のない未成年者を監督するやくめ。

【後見人】228（コウケンニン） ㊀うしろみする人。㊁被後見人の財產を管理し、其の財產に關する法律行爲につき被後見人を代表し、未成年者に代つて親權を行ふ者。

〖後見監督人〗229（コウケンカントクニン） 後見人を監督する責任ある人。卽ち後見人と被後見人が、利害を異にする場合に、被後見人を代表するもの。

【後肩】230（アトカタ） 駕籠・長持など擔棒の後方を擔ふもの。先肩の對。〔源氏冷泉節、上〕おのれさき肩昇け、後肩はこの法眼。

【後建】231（コウケン） 後に建てる。〔高允、徵士頌〕仰緣二朝恩一、俯因二德友一、功雖二後建一、祿實先受。

【後軒】232（コウケン） ㊀後方に在る家屋。〔歐陽脩、峴山亭記〕大二其後軒一、使二與レ亭相稱一。㊁金、閻詠（**11－41379**‥1）の號。

【後遣】233（コウケン） 使者を遣はすことを後にする。又、後でつかはす。〔詩、小大雅譜、疏〕使臣之聘、出卽遣レ之、反乃勞レ之、則遣先勞後矣、此所二以先一レ勞後一レ遣者、人之勞役苦二於上所一レ不レ知、則己勞而怨レ有レ勞。〔呂巖、七言詩〕先差二玉子一開二南殿一、後遣二青龍一入二紫微一。

【後劍】234（コウケン） しりへにあるつるぎ。〔無名氏、燕山八景賦〕前旗崇崇、後劍叢叢。

【後賢】235（コウケン） あとから出てくる賢者。後世の賢者。〔杜預、春秋左氏傳序〕有二疑錯一、則備論而闕レ之、以俟二後賢一。〔大學、君子賢二其賢一而親二其親一、章句〕君子謂二其後賢後王一。〔陳基、秋懷詩〕往聖既作レ莫、後賢孰當レ繼。

【後元】236（コウゲン） 漢武帝、劉徹の時の年號。（B.C.87－B.C.86）一說に、後の元年の意で、年號ではないといふ。尙、文帝・景帝にも、後の元年がある。

〖後元音〗237（コウゲンオン） 發音のとき、舌の全部が後退して前部が下に壓しつけられ、舌根が優越的地位をしめる發音。注音符號 ㄨㄚㄜ の三箇の韻符をいふ。

〖後元年〗238（コウグワンネン） 改めて元年とした後の元年。〔日知錄、藝文、後元年〕漢文帝、後元年、景帝中元年、後元年、當時只是改爲二元年一、後人追二紀之一、爲レ中爲レ後耳、若二武帝之後元元年一、則自名レ之爲レ後、光武之中元元年、梁武帝之中大通元年、中大同元年、則自名レ之爲レ中、不レ可二一例論一也。

【後言】239（コウゲン） 後に言ふ。又、蔭で惡口を言ふ。蔭口。〔易、繫辭上〕擬レ之而後言。〔書、益稷〕予違汝弼、汝無三面從、退有二後言一。〔傳〕無レ得下面二從我違一、而退後有上レ言二我不一レ可レ弼。〔晉書、崔洪傳〕人之有レ過、輒面二折之一、而退無二後言一。

【後彥】240（コウゲン） 後進の秀才。後世の秀才。〔魏書、常景傳〕景讚二楊子雲一曰、含光絕二後彥一。〔江淹、知己賦〕擬二余才兮前華一、比二余文兮後彥一。

【後戶】241（コウコ） うしろのとびら。〔獨斷、下〕上但以二青縑一爲レ蓋、羽毛爲二後戶一。〔南齊書、輿服志〕晉制尙書令施二黑耳後戶皂輪一、僕射中書監令直施二後戶皂輪一、尙書無二後戶一、皆漆二輪轂一。〔隋書、禮儀志五〕天監二年令、三公開府尙書令、則給二鹿幡軺一、施二耳後戶皂輞一、尙書僕射左右光祿大夫侍中中書監令祕書監、則給二鳳轄軺後戶皂輞一。

【後虎】242（コウコ） しりへのとら。背後に強敵を控へるにいふ。〔高邁、濟レ河焚レ舟賦〕哮闞兮前貔後虎、威稜兮左霜右雪。〔賴山陽、謁二楠河州墳一有レ作詩〕出將入相位未レ班、前狼後虎事復難。

【後枯】243（コウコ） 後に枯れ衰へる。〔李白、幽歌行上二新平長史兄粲一〕前榮後枯相翻覆、何惜三餘光及二棣華一。

【後扈】244（コウコ） 扈從する從者。御供。前導（**2－2011**‥259）の對。〔淸國行政法汎論、立皇后〕二品以上命婦四人爲二前導一、七人爲二後扈一、十人爲二恭侍一。

【後湖】245（コウコ） 湖の名。玄武湖の一名。江蘇省首都市の北。玄武湖（**5－20814**‥311）を見よ。〔讀史方輿紀要、江南、江寧府、江寧縣〕玄武湖在二府城北太平門外一、云云、三國吳謂二之後湖一。

〖後湖居士〗246（コウココジ） 宋、蘇庠（**9－32427**‥84）の號。

〖後湖病民〗247（コウコヘイミン） 宋、蘇庠（**9－32427**‥84）

の號。

【後顧】248 ❶うしろをかへりみる。あとをふりかへる。〔顏氏家訓、止足〕前望㆓五十人㆒、後顧㆓五十人㆒。〔元稹、有鳥詩〕朝偸暮竊恣昏飽、後顧前瞻高樹枝。❷あとの氣遣ひ。後の心配。後慮。後顧之憂を見よ。❸後日の恩顧。〔李商隱、爲㆓賀拔員外㆒上㆓李相公㆒啓〕未㆑報㆓前叨㆒、旋承㆓後顧㆒。

【後顧之憂】249 背後の心がかり。後に殘る氣遣ひ。〔魏書、李沖傳〕朕以㆓仁明忠雅㆒、委以㆓台司之寄㆒、使㆔我出㆑境無㆓後顧之憂㆒。〔宋史、柳開傳〕使㆓其掩襲㆒、令㆔彼有㆓後顧之憂㆒、乃可㆑制㆓其輕動㆒。

【後伍】250 伍を後にする。伍は步卒五人。車隊を前列とし、五人の步卒が其の後にならんで、車と車との隙のない樣にすること。〔左氏、桓、五〕曼伯爲㆓右拒㆒、祭仲足爲㆓左拒㆒、原繁・高渠彌、以㆓中軍㆒奉㆑公、爲㆓魚麗之陳㆒、先㆑偏後㆑伍、伍承彌縫。〔注〕司馬法、車戰廿五乘爲㆑偏、以㆑車居㆑前、以㆑伍次㆑之、承㆓偏之隙㆒、而彌㆓縫闕漏㆒也、五人爲㆑伍、此蓋魚麗陳法也。〔李衞公問對、中〕唐太宗曰、伍法有㆓數家㆒、孰者爲㆑要、李靖曰、春秋左氏傳云、先㆑偏後㆑伍、又司馬法曰、五人爲㆑伍、尉繚子有㆓束伍令㆒、漢制有㆓尺籍伍符㆒、云云、諸家兵法、惟伍法爲㆑要。〔徐晉卿、春秋經傳類對賦〕楚軍騰㆑轅而左㆑蓐、鄭師先㆑偏而後㆑伍。

【後悟】251 後のさとり。又、後になつてさとる。〔魏書、慕容白曜傳〕追㆓悔前惑㆒、改㆓圖後悟㆒。〔慧琳、均善論〕先覺翻㆓翔於上世㆒、後悟騰翥而不㆑紹、坎井之局、何以識㆓大方之家㆒乎。

【後功】252 後のいさを。〔晉書、馬隆傳〕今隆全軍獨克㆓西土㆒獲㆑安、不㆑得㆘便以㆓前授㆒塞㆗此後功㆖。

【後句】253 後に屈曲して列なる。〔史記、天官書〕後句四星、末大星正妃、餘三星後宮之屬也。〔注〕索隱曰、句音鉤、句、曲也。

【後攻】254 ❶先陣に代るため豫備として後に控へてゐる軍勢。うしろづめ。〔太平記、十八、金崎後攻〕後攻する者なくては、此城、今十日とも堪へ難し。❷敵軍をその背後から攻めること。又その軍勢。うしろぜめ。うしろづめ。うしろまき。ごぜめ。〔太平記、二、師賢登山〕豪譽後攻仕つて主上をば取り奉るべし。

【後鴻】255 あとからのたより。後信。後便。

【後尅】256 後にかつ。〔應瑒、奕勢〕見㆑可而進、先負後尅。

【後黑】257 黑色をあと廻しにする。〔淮南子、說山訓〕染者先㆑青而後㆑黑則可、先㆑黑而後㆑青則不可。

【後骨】258 あたまのうしろのほね。〔唐書、袁天綱傳〕近古君臣相遇、未㆑有㆓及㆑公者㆒、然面澤赤而耳無㆑根、後骨不㆑隆、壽不㆑長也。

【後昆】259 子孫。後世。昆は後。〔書、仲虺之誥〕王懋昭㆓大德㆒、建㆓中于民㆒、以㆑義制㆑事、以㆑禮制㆑心、垂㆓裕後昆㆒。〔漢書、敍傳下〕後昆承平、亦有㆑紹㆑土。〔後漢書、周擧傳〕所㆔以昭㆑忠厲㆑俗、作㆓範後昆㆒。〔顏延之、皇太子釋奠會作詩〕永瞻㆓先覺㆒、顧惟㆓後昆㆒。

【後恨】260 後日のうらみ。後の悔恨。〔荀子、成相〕不㆑知㆑戒、後必有㆑恨、後遂㆑過不㆓肯悔㆒、讒夫多進、反㆓覆言語㆒、生㆓詐態㆒。〔徐陵、諫㆓仁山深法師罷㆑道書〕悔㆑之在㆑前、無㆑勞㆓後恨㆒。

【後婚】261 hou^4 huen^1 再婚。二度目の結婚。

【後左】262 龜甲の後部の左側。〔周禮、春官、太卜、注〕作㆑龜、謂㆔以㆑火灼㆑之、以作㆓其兆㆒也、春灼㆓後左㆒、夏灼㆓前左㆒、秋灼㆓前右㆒、冬灼㆓後右㆒。

【後差】263 後の病の輕さ。〔沈約、與㆓徐勉㆒書〕解㆑衣一臥、支體不㆓復相關㆒、上熱下冷、月增日篤、云云、後差不㆑及㆓前差㆒、後劇必甚㆓前劇㆒。

【後廈】264 hou^4 sha^4 家の後方に設けた廊下。

【後西】265 第百十一代の帝諡。(1655－1662)〔兼輝公記〕貞享二年二月二十九日、午後參內、依㆑召候㆓御前㆒、敕云、新院御追號、如㆓予申狀㆒可㆑被㆑奉㆓號後西院㆒也。

【後災】266 後のわざはひ。後日に災害あること。〔孟子、梁惠王上〕緣㆑木求㆑魚、雖㆑不㆑得㆑魚、無㆓後災㆒。

【後妻】267 再び娶つた妻。のちぞひ。後配。うはなり。〔史記、五帝紀〕瞽叟愛㆓後妻子㆒、常欲㆑殺㆑舜。〔列女傳、節義、珠崖二義傳〕二義者、珠崖令之後妻及前妻之女也。〔顏氏家訓、後娶〕後妻必虐㆓前妻之子㆒。〔倭名抄、人倫部、夫妻類〕前後妻、倭名、前妻、古奈美、後妻、于波奈利。

【後妻打】268 ❶前妻が後妻をねたんで打ちたたくこと。〔謠曲、葵上〕あらあさましや、六條の御息所ほどの御身にて、うはなりうちの御振舞ひ。❷昔、夫が妻を離緣し、直に後妻を娶る時などに、前妻が親族の女をつれて、新妻の家を襲ふこと。〔色里三所世帶、中、目錄〕龍宮からのうはなりうち。

【後采】269 後に採る。後で採集する。〔詩、國風、疏〕鷄鳴之作、遠在㆓緇衣之前㆒、鄭國之風、必處㆓檜詩之後㆒、何當㆓後作先采、先作後采㆒乎。

【後祭】270 ❶祭を後にする。〔禮、玉藻〕侍㆓食于先生㆒、異㆑爵者、後㆑祭先㆑飯。❷事の既に後れたのをいふ。手後れとなつたこと。

【後細】271 うしろがほそくちひさい。〔徐幾、雞子賦〕一族百產、前鉅後細、非㆑黃非㆑白、圓轉譎詭。

【後歲】272 後の年。來歲。來年。〔周禮、春官、律師〕社之日涖㆑卜㆓來歲之稼㆒。〔注〕卜者問㆓後歲稼所㆒㆑宜。

【後際】273 後の際限。〔持世經〕是有無㆓前際㆒、無㆓後際㆒、無㆓中際㆒。

【後蔡】274 宋の蔡君謨をいふ。〔蘇軾、荔支歎〕君不㆑見武夷溪邊粟粒芽、前丁後蔡相籠加。〔注〕大小龍茶、始㆓於丁晉公㆒、而成㆓於君謨㆒。

【後齋】275 後方の燕居のへや。〔韓翃、贈㆓兗州孟都督㆒詩〕後齋草色連㆓高閣㆒、事簡人稀獨行樂。

【後材】276 船の龍骨の後に立てて、艫とすべき材。卽ちポストの稱。

【後財】277 貨財をあと廻しにする。あまり財貨を重んじないやうにすること。〔禮、鄉飲酒義〕此先㆑禮而後㆑財之義也、先㆑禮而後㆑財、則民作㆓敬讓㆒而不㆑爭矣。

【後罪】278 後日の罪。〔禮、哀公問〕公曰、寡人既聞㆓此言㆒也、無㆘如㆓後罪㆒何㆖、孔子對曰、君之及㆓此言㆒也、是臣之福也。〔注〕無㆚奈㆘後日過㆓於事㆒之罪㆖何㆙。

【後曹】279 賊曹(10－36759・・29)・決曹(6－17174・・31)の類の罪科をつかさどる法吏をいふ。〔漢書、蕭育傳〕傳召㆓茂陵令㆒詣㆓後曹㆒、當㆘以㆓職事㆒對㆖、育徑出、云云、曰、蕭育杜陵男子、何詣㆑曹也。〔注〕如淳曰、賊曹決曹、皆後曹。

【後喪】280 後に行つた喪禮。〔孟子、梁惠王下〕禮義由㆓賢者㆒出、而孟子之後喪踰㆓前喪㆒、君無㆑見焉。

【後窗】281 うしろのまど。〔李百藥、雨後詩〕後窗臨㆓岸竹㆒、前階枕㆓浦沙㆒。

【後裝】282 銃身、又は砲身の底部から彈丸を込める裝置のもの。もとごめ。

【後槽】283 うまや。槽は馬の飼料を入れるをけ。〔水滸傳、第二回〕王進自去備㆓了馬㆒、牽㆓出後槽㆒。

【後像】284 刺戟の去つた後までも意識中に殘る感覺。

【後藏】285 地名。又、藏とも、喀齊ともいふ。西藏の中部。東は前藏、南は英領の不丹・哲孟雄・尼泊爾、西は阿里と界し、北は新疆に通ず。十七城に分る。〔清會典、理藩院〕置㆓駐藏大臣㆒、以統㆓前藏後藏㆒、而理㆓喇嘛之事㆒。

【後作】286 後に作る。後に撰する。後采(269)を見よ。

【後三條】288 第七十一代の帝諡。(1069－1072)

【後三房】289 前の三房、大江匡房・藤原伊房・藤原爲房に對して、萬里小路宣房・萬里小路藤房・吉田定房を後の三房といふ。

【後贊】290 五代漢、瑕丘の人。其の母は倡。贊は謳を善くす。官は高祖の時、飛龍使。隱帝に愛幸せらる。隱帝の兵敗れ、捕へられて市に梟首さる。〔五代史、三十〕・〔舊五代史、一百七〕。

【後爨】291 後でかしぐ。〔史記、淮陰侯傳〕臣聞、千里餽㆑糧、士有㆓飢色㆒、樵蘇後爨、師不㆓宿飽㆒。

【後山】292 ❶うしろの山。〔貢師泰、題㆓山水圖㆒詩〕前山後山雲亂起、山脚入㆑溪清見㆑底。〔柳貫、爲㆓蔣英仲作顏輝㆒畫㆓青山夜行圖㆒歌〕前山濕霧方濡濡、後山蒸雲如㆓鬼驅㆒。❷字號。㋑宋、陳師道(11－41698・・923)の號。〔宋元學案、廬陵學案、正字陳後山先生師道〕陳師道、字履常、一字無己、彭城人。㋺清、汪泰來(6－17154・・289)の號。

【後山詞】293（コウザンシ） 書名。一卷。宋、陳師道撰。〔四庫提要、集、詞曲類存目〕。

【後山集】294（コウザンシフ） 書名。二十四卷。宋、陳師道撰。師道の詩名は蘇軾・黃庭堅に次ぎ、宋代、名家の一人。各體について云へば、五言古詩は孟郊・賈島の閒に出入し、七言古詩は韓愈を學び、五言律は杜甫に逼り、七言律は風骨磊落であり、五七言絕句は純乎として杜甫の格をそなへてゐる。又、其の古文は簡嚴密栗で李翺・孫樵より下らない。その目は、詩十二卷・序一卷・書一卷・記一卷・論一卷・策問一卷・表啓祭文共一卷・雜著一卷・墓銘・墓表・行狀・神道碑共一卷・談叢六卷・理究一卷・詩話二卷・長短句一卷。〔四庫提要、集、別集類〕。

【後山詩注】295（コウザンシチユウ） 書名。十二卷。宋、任淵撰。陳師道の詩を注したもの。體例は黃庭堅の詩の注と同じ。〔四庫提要、集、別集類〕。

【後山詩話】296（コウザンシワ） 書名。一卷。宋、陳師道撰。唐宋人の詩を論じ、時に六朝に涉る。〔四庫提要、集、詩文評類〕。

【後山談叢】297（コウザンダンソウ） 書名。四卷。宋、陳師道撰。一に僞作ともいふ。宋代の雜事を記す。〔四庫提要、子、小說家類〕。

【後子】298（コウシ） ❶あとつぎ。後嗣。〔墨子、非儒下〕妻後子三年。〔荀子、正論〕聖不㆑在㆓後子㆒、而在㆓三公㆒。〔注〕後子、嗣子。〔稱謂錄、長子、後子〕案、後子者、爲㆓父後㆒之子、卽長子也。❷汝をあと廻しにする。〔史記、蘇秦傳〕蘇秦曰、我非㆑忘㆑子、子之與㆑我至㆑燕、再三欲㆑去㆓我易水之上㆒、方㆓是時㆒我困、故望㆑子深、是以後㆑子、子今亦得矣。

【後市】299（コウシ） ❶市場を後にする。〔周禮、天官、序官、體㆑國經㆑野、注〕鄭司農云、營㆑國方九里、國中九經九緯、左㆑祖右㆑社、面㆑朝後㆑市、野則九夫爲㆑井、四井爲㆑邑之屬是也。〔潘岳、閑居賦〕退而閑㆓居于洛之涘㆒、身齊㆓逸民㆒、名綴㆓下士㆒、陪㆑京泝㆑伊、面㆑郊後㆑市。〔陳襄、咸陽宮賦〕分㆓左宗右社之規矱㆒、正㆓面朝後市之紀綱㆒。❷hou^4 shih^4 相場の後場。

【後此】300（コウシ） 此より以後。〔公羊、莊、四〕齊侯則其稱㆑人何、諱㆓與㆑讎狩㆒也、前㆑此者有㆑事矣、後㆑此者有㆑事矣、則曷爲獨於㆑此焉。

【後旨】301（コウシ） 後のみことのり。〔魏書、釋老志〕前制無㆓追㆑往之辜㆒、後旨開㆓自㆑今之恕㆒。

【後死】302（コウシ） 後に死ぬ者。後代の人。〔論語、子罕〕後死者不㆑得㆑與㆓於斯文㆒也。〔集解〕孔安國曰、文王既沒、故孔子自謂㆓後死㆒也。

【後至】303（コウシ） 後れて來る。〔周禮、夏官、大司馬〕建㆓大常㆒、比㆓軍衆㆒、誅㆓後至者㆒。〔左氏、僖、二十七〕國老皆賀㆓子文㆒、子文飲㆓之酒㆒、蔿賈尚幼、後至不㆑賀。

【後志】304（コウシ） ❶後の記錄。後世の記錄。〔宋史、儀衞志六〕氅本緝㆓鳥毛㆒爲㆑之、唐有㆓六色孔雀大小鵝毛雞毛之制㆒、後志云、今制有㆓青緋皁白黃五色㆒。❷（シリベシ） 北海道の地名。

【後私】305（コウシ） 自分のことを後にする。自分の事を餘り考へない。〔孔叢子、記義〕先㆑公而後㆑私。

【後使】306（コウシ） 後の使者。〔漢書、張騫傳〕諸後使往者、皆稱㆓博望侯㆒以爲㆑質㆓於外國㆒、外國由㆑是信㆑之。

【後祀】307（コウシ） 後からまつられる者。〔杜甫、別㆓張十三建封㆒詩〕宗臣則廟食、後祀何疎蕪。

【後指】308（コウシ） ❶後の指。〔相鶴經〕軒㆓于前㆒、故後指短。❷（ウシロユビ） うしろから人に指されること。嘲侮、又はそしられること。〔堀川浪鼓、上〕人閒の道に反くといひ、御家中の後指。

【後嗣】309（コウシ） 家をつぐ者。あとつぎ。子孫。〔書、多士〕在今後嗣王、誕罔㆑顯㆓于天㆒。〔書、伊訓〕敷㆓求哲人㆒、俾㆑輔㆓于爾後嗣㆒。〔左氏、隱、十一〕禮經㆓國家㆒、定㆓社稷㆒、序㆓民人㆒、利㆓後嗣㆒者也。〔國語、周語上〕害㆓於政㆒、而妨㆓於後嗣㆒。〔陸機、五等諸侯論〕猶保㆓名位㆒、祚垂㆓後嗣㆒。

【後試】310（コウシ） あとでためす。〔莊子、說劍〕臣有㆓三劍㆒、惟王所㆑用、請先言而後試。

【後齒】311（コウシ） うしろの齒。奧齒。前齒の對。〔孔子家語、執轡〕無㆑角無㆓後齒㆒者脂。

【後耳】312（コウジ） 耳がうしろにつきすぎてゐること。〔莊子、外物〕末僂而後耳。〔釋文〕後耳、司馬云、耳卻㆑後。

【後事】313（コウジ） ❶背後に生ずる事件。〔左氏、昭、三十二〕雖㆑有㆓後事㆒、晉勿㆓與知㆒可也。〔會箋〕城後有㆓禍亂之事㆒。❷前の事件の後に續いて起つた事件。〔裴駰、史記集解敍〕班固有㆑言、曰、司馬遷據㆓左氏國語㆒、采㆓世本戰國策㆒、述㆓楚漢春秋㆒、接㆓其後事㆒、訖㆓於天漢㆒。❸死後の事。死後の處置。〔晉書、王敦傳〕錢鳳謂㆑敦曰、脫其不諱、便當㆘以㆓後事㆒付㆖應。〔宋書、自序、林子傳〕忽死、可㆑謂㆓天誅㆒、於㆑是讚統㆓後事㆒、鳩㆓集餘衆㆒、復襲㆓林子㆒。❹將來の事。〔史記、秦始皇紀〕野諺曰、前事之不㆑忘、後事之師也。〔晉書、閻纘傳〕竟復成㆓就前事㆒、不㆑忘㆓後事之戒㆒。〔白居易、自㆓江陵㆒之㆓徐州㆒路上寄㆓兄弟㆒詩〕家貧憂㆓後事㆒、日短念㆓前程㆒。

【以㆓後事㆒屬㆑君】314（コウジヲモツテキミニシヨクス） 死後のことを貴方にまかせたのむ。〔魏志、明帝叡傳〕吾疾甚、以㆓後事㆒屬㆑君。

【後侍】315（コウジ） 後方に侍る役人。〔隋書、禮儀志七〕左右後侍、掌㆓御寢北門之左右並銀甲㆒、左執㆓犀環㆒、右執㆓兕環㆒、長刀左右騎、侍㆓立於寢之東西階㆒。

【後兒】316（コウジ） ❶雙生兒の中で後から生れる兒。〔後漢書、華佗傳〕佗曰、脉理如㆑前是兩胎、先生者去㆑血多、故後兒不㆑得㆑出也。❷hou^4 êrh 明後日。

【後時】317（コウジ） ❶後の時。後代。後世。〔晉書、羊祜傳〕議者多㆑不㆑同、祜歎曰、天下不㆑如㆑意、恒十居㆓七八㆒、故有㆓當㆑斷不㆑斷、天與不㆑取、豈非㆔更㆑事者、恨㆓於後時㆒哉。❷時に後れる。時期を失ふ。〔楚辭、賈誼、惜誓〕黃鵠後㆑時而寄處兮、鴟梟羣而制㆑之。〔漢書、食貨志上〕使㆔關中民益種㆓宿麥㆒、令㆑毋㆑後㆑時。〔易林〕踝踵足傷、右指病㆑癰、失㆑旅後㆑時、利㆑不㆓走歸㆒。

【後舟】318（コウシウ） 後方のふね。〔戴暠、釣竿詩〕聊載前魚童、還看後舟妾。

【後周】319（コウシウ） 朝代の名。❶北朝の一。宇文覺が西魏を滅して國を周と號した。世に之を後周、又は北周といふ。北周(**2**－**2574**··234)を見よ。〔周書、孝閔帝紀〕戊申詔曰、上天有㆑命、革㆓魏於周㆒、致㆓予一人㆒、受㆓茲大號㆒。〔通典、職官、一〕後周之初據㆓關中㆒、猶依㆓魏制㆒、及㆘平㆓江陵㆒之後㆖、別立㆓憲章㆒、酌㆓周禮之文㆒、建㆓六官之職㆒、其他官亦兼用㆓秦漢㆒、隋文帝踐㆑極、百度伊始、復廢㆓周官㆒、還依㆓漢魏㆒。❷五代の一。姓は郭氏。周の文王の弟、虢叔の後と稱す。五代の時、郭威が後漢に仕へ、三叛の亂を平げて功をたてたが、既にして隱帝が威を疑つて殺さうとしたので兵を起して帝を殺し、帝位に卽き、河南の汴に都し、國を周と號した。之を後周といひ、威を太祖皇帝といふ。威、位を柴后の姪柴榮に傳ふ、之を世宗といふ。世宗が立つて北漢に勝ち、後蜀を討ち、南唐を降し、又北、契丹を攻め、途に病死す。次で恭帝宗訓が立つて、契丹の入寇に遭ひ、趙匡胤をして防がしめたが、匡胤は衆に擁せられて帝位に卽く。凡て三世、九年。汴は今の河南省開封縣治。今の河南・山東・陝西・甘肅、湖北及び河北の南部、安徽の北部の地を領す。略系次の如し。

【後周】郭氏　二主　八年

(一)太祖、聖神恭肅文武孝帝　威　四年
(二)世宗、睿武孝文帝　榮　六年
(三)恭帝　宗訓　一年

〔舊五代史、周紀〕・〔五代史、周太祖紀〕廣順元年、春正月丁卯、皇帝卽㆑位、國號㆑周。〔文獻通考、帝系考、年號歷年〕後周、太祖聖神恭肅文武孝皇帝、邢州堯山人、姓郭氏、名威、辛亥以㆓鄴都留守㆒入㆑汴、卽㆓皇帝位㆒、三年癸丑崩、壽五十一、云云、恭帝、名宗訓、世宗子、封㆓梁王㆒、以㆓己未㆒嗣立、庚申禪㆓於宋㆒、後十四年癸酉崩、壽二十一、右後周、三世、共九年、首㆓辛亥㆒、盡㆓己未㆒。

【後周書】320（コウシウシヨ） 書名。五十卷。唐、令狐德棻等奉敕撰。單に周書といひ、又北周書ともいふ。後周の世二十五年閒の事を記す。本紀八、列傳四十二、志・表はない。殘闕多く、德棻の原本は遂に辨じがたい。〔四庫提要、史、正史類〕。

【後周恭帝】321（コウシウキヨウテイ） 郭宗訓(**11**－**39474**··368、)を見よ。

【後周世宗】322（コウシウセイソウ） 柴榮(**6**－**14664**··3)を見よ。

【後周靜帝】323（コウシウセイテイ） 宇文闡(**3**－**7067**··62)を見よ。

【後周宣帝】324（コウシウセンテイ） 宇文贇(**3**－**7067**··37)を見よ。

【後周太祖】325（コウシウノタイソ） 郭威（11－39474··3）を見よ。

【後周閔帝】326（コウシウノビンテイ） 宇文覺（3－7067··43）を見よ。

【後周武帝】327（コウシウノブテイ） 宇文邕（3－7067··72）を見よ。

【後周文紀】328（コウシウブンキ） 書名。八卷。明、梅鼎祚撰。周一代の文を錄したもの。〔四庫提要、集、總集類〕。

【後周文帝】329（コウシウノブンテイ） 宇文泰（3－7067··64）を見よ。

【後周明帝】330（コウシウノメイテイ） 宇文毓（3－7067··36）を見よ。

【後秋】331（コウシウ） 秋に後れる。秋が過ぎる。〔陸機、園葵詩〕豐條並レ春盛、落葉後レ秋衰。

【後修】332（コウシウ） あとで行ひをおさめつつしむ。〔晉書、劉毅傳〕器有二大小一、達有二早晚一、前鄙後修、宜レ受二日新之報一、抱レ正違レ時、宜レ有二質直之稱一。

【後羞】333（コウシウ） 後で受けるはづかしめ。〔漢書、廣陵厲王胥傳〕靡レ有二後羞一、王其戒レ之。

【後溲】334（コウシウ） 大便。〔史記、倉公傳〕不レ得二前後溲一、三日矣。〔羣談採餘〕俗以二人有レ分而已無レ分、慰レ之者曰レ待二後溲一、蓋戲慢之辭、今訛爲二搜索之搜一、因不二以爲一レ憾。

【後鞦】335（コウシウ） しりがい。〔宋史、儀衞志〕加二珂拂於前膺及後鞦一。

【後式】336（コウシキ） 後世のてほん。〔晉書、江統傳〕如レ此則高朗之風、扇二於前人一、弘範二令軌一、永爲二後式一。

【後色】337（ゴシキ） 後から生ずる形相。〔雲笈七籤〕前色已滅、後色生。

【後室】338（コウシツ） 貴人の寡婦。貴人の未亡人。〔東鑑、三十五〕承久三年八月一日、西條禪尼者、右府將軍後室也。

【後日】339（ゴジツ） ❶後の日。他日。〔書、盤庚上〕自レ今至二于後日一。〔韋應物、三臺詩〕一年一年老去、明日後日花開。❷hou^4 jih^4 明後日。後兒。

【後實】340（コウジツ） 實際のことをあとにする。實質をあまり重んじない。〔史記、淮陰侯傳〕兵固有二先レ聲而後レ實者一、此之謂也。〔南齊書、丘巨源傳〕先レ聲後レ實、軍國舊章、七德九功、將レ名當レ世。〔庾信、周柱國楚國公岐州刺史慕容寧神道碑銘〕運レ長擊レ短、後レ實先レ聲。

【後車】341（コウシヤ） ❶そへぐるま。副車。〔詩、小雅、緜蠻〕命二彼後車一、謂二之載レ之。〔箋〕車敗則命二後車一載レ之、後車、倅車也。〔集傳〕後車、副車也。〔楚辭、賈誼、惜誓〕建二日月一以爲レ蓋兮、載二玉女於後車一。❷後に扈從する從者の乘る車。〔孟子、滕文公下〕彭更問曰、後車數十乘、從者數百人、以傳二食於諸侯一、不二以泰一乎。〔焦循正義〕孟子後車、卽弟子所レ乘者。〔荀子、天論〕楚王後車千乘、非レ知也、君子啜レ菽飮レ水、非レ愚也、是節然也。❸後に續く車。前車の對。後車誡を見よ。

【後車誡】342（コウシヤノイマシメ） 前車のくつがへるのを見て後車の戒めとする意。前者の失敗を見て戒めとする。〔漢書、賈誼傳〕前車覆、後車誡。

【後舍】343（コウシヤ） 後方にある宿舍。前舍の對。〔楊炯、渾天賦〕趨二前舍一爲レ盈、退二後舍一爲レ縮。

【後者】344（コウシヤ） ❶後のもの。あとから來たもの。あとから續くもの。〔左氏、隱、九〕後者不レ救、則無レ繼矣。〔左氏、定、四〕若使二先濟者知レ免、後者慕レ之、蔑レ有二鬬心一矣。❷第二の事。

【後者處上】344′（オクルルモノカミニヲル） 人に先きを讓る者は、却つて人の上にをることとなる。〔文子、上德〕聖人虛無因循、常後而不レ先、譬若下積二薪燎一、後者處上上。

【後遮】345（コウシヤ） 後方でさへぎる。〔法苑珠林〕罝羅亘レ野、罘網彌レ山、或前絡後遮、左邀右截、埃塵漲レ日、煙火衝レ天。

【後相】346（コウシヤウ） 後任の丞相。〔史記、曹相國世家〕吾將二入相一、居無レ何、使者果召レ參、參去、屬二其後相一曰、以二齊獄市一爲レ寄、愼勿レ擾也、後相曰、治無下大二於此一者上乎。

【後省】347（コウシヤウ） 宮中の奧向きをいふ。〔宋史、職官志一〕遂詔二諫官一、案二計關臺一、察二給事中四人一、分二治六房一、掌下讀二中外出納一、及判中後省之事上。

【後唱】348（コウシヤウ） 後でとなへる。〔無名氏、七夕賦〕仙娥侍レ轂、玉女乘レ騑、嬴簫後唱、洛鼓前揮。

【後章】349（コウシヤウ） 後にある篇章。〔陸機、文賦〕或仰偪二于先條一、或俯侵二於後章一。

【後象】350（コウシヤウ） 唐、林滋（6－14551··122）の字。

【後鉦】351（コウシヤウ） 後方で打つどら。〔石延年、曹太尉西師詩〕士喜擊二中鼓一、虜疑レ聞二後鉦一。

【後賞】352（コウシヤウ） 賞譽を後にする。賞を與へることをあまり行はないこと。〔禮、表記〕殷人尊レ神、率レ民以事レ神、先レ鬼而後レ禮、先レ罰而後レ賞。

【後狀】353（コウジヤウ） あとで申上げる。〔北史、張須陀傳〕先開倉而後狀。

【後情】354（コウジヤウ） 心情をのべることをあと廻しにする。情趣を第二とする。〔陸雲、與二兄平原一書〕往日論レ文、先レ辭而後レ情、尚レ潔而不二敢悅澤一。

【後弱】355（コウジヤク） うしろが弱い。〔周禮、考工記、矢人〕前弱則俛、後弱則翔、中弱則紆、中強則揚。

【後手】356 hou^4 shou^3 ❶餘り。ゆとり。餘地。餘裕。❷（テゴ）㋑圍碁・將棊で後れて打ちはじめる方。又、敵に機先を制せられて防禦の手となること。先手（1－1349··104）の❶の對。〔運歩色葉集〕後手。㋺事をなすに人に後れること。手おくれ。〔冥土飛脚、中〕田舍の客が身請の事、云云、忠兵衞樣は後手といひ。

【後主】357（コウシユ） ❶後代の主君。又、嗣君。〔史記、杜周傳〕前主所レ是著爲レ律、後主所レ是疏爲レ令。〔後漢書、鄧禹傳論〕故必於下貽二釁後主一以至二顚敗一者上、其數有レ可レ言焉。〔注〕後主、謂二嗣君一也。❷史家が末葉の主君を稱する語。㋑三國蜀、第二代の主。劉禪（2－2224··459）を見よ。㋺北齊第五代の帝。高緯（12－45313··15）を見よ。㋩陳宣帝の嫡長子。陳叔寶（11－41698··983）を見よ。㋥五代南漢の王。劉鋹（2－2224··497）を見よ。㋭南唐の第三代の王。李煜（6－14459··32）を見よ。㋬五代前蜀の王。王衍（7－20823··78）を見よ。㋣五代蜀、第二代の王。孟昶（3－6960··198）を見よ。

【後取】358（シムトリ・シントリ） 古、よく酒を飮むものが選ばれて、宮中に於て新年の御齒固の時に集り、天盃の餘瀝を飮むもの。〔江家次第、一、供二御藥一事〕藏人定二後取一。

【後娶】359（コウシユ） 顏氏家訓の篇名。

【後種】360（コウシユ） 後にうゑる。〔詩、豳風、七月〕黍稷重穋、〔疏〕後熟者先種レ之、先熟者後種レ之。〔周禮、天官、内宰、生二穜稑之種一、注〕鄭司農云、先種後熟、謂二之穜一、後種先熟、謂二之稑一。

【後儒】361（コウジユ） 後代の儒者。〔劉克莊、答二惠州曾使君韻一詩〕若使三後儒穿二鑿說一、古人字字總堪レ疑。

【後聚】362（コウシユウ） 顏氏家訓の篇名。

【後從】363（コウジユウ） ❶後に從ふ。扈從する。〔楚辭、王褒、九懷、通路〕騰蛇兮後從、飛駏兮步レ旁。〔通典、職官、東宮官、太子六傅〕隋與二北齊一同、大唐六傅不二必備一、唯其人太子出、則乘レ輅備レ儀以爲二後從一。❷hou^4 tsʻung^2 後の始末。歸結。

【後熟】364（コウジユク） おそく熟する。他のものよりおくれて熟する。〔詩、豳風、七月、黍稷重穋、傳〕後熟曰レ重、先熟曰レ穋。〔周禮、天官、内宰、生二穜稑之種一、注〕鄭司農云、先種後熟、謂二之穜一。

【後出】365（コウシユツ） 後から出る。〔左氏、僖、六〕郤芮曰、後出同走、罪也、不レ如レ之レ梁。〔南齊書、丘靈鞠等傳論〕顏謝並起、乃各擅レ奇、休鮑後出、咸亦標世。〔韓愈、送二僧澄觀一詩〕僧伽後出淮泗上、勢到二衆佛一尤恢奇。

【後出師表】366（コウスイシノヘウ） 文章の名。諸葛亮の作。蜀志、諸葛亮傳注、及び古文眞寶後集に採錄す。〔諸葛亮、後出師表〕先帝慮下漢賊不二兩立一、王業不中偏安上、故託レ臣以レ討レ賊也。

【後餕】367（コウシユン） 後で餘りものを食べる。〔禮、祭統〕顧上先下後耳、〔疏〕君上先餕、臣下後餕、示レ恩則從レ上起也。

【後盾】368（コウジユン） 背後から聲援をする。後楯の❷に同じ。

【後閏】369（コウジユン） 後の閏。〔易、繫辭上、五歲再閏、疏〕五歲再閏者、凡前閏後閏相去、大略三十二月、在二五歲之中一、故五歲再閏。

【後順】370（コウジユン） 後に道理にしたがふ。〔易、坤〕先迷失レ道、後順得レ常。

【後楯】371（ウシロダテ） ❶楯となつて背面の防禦をなすもの。〔運歩色葉集〕後楯。❷後見となつて援ける人。蔭にゐて助ける。うしろみ。後見。〔曾我物語、九〕うしろだてにはなり申すべし、たのもしく思ひ給へ。

【後杵】372（コウシヨ） うしろのきね。〔劉駕、築城詞〕前杵與二後杵一、築レ城聲不レ住。

【後渚】373 コウショ　地名。秦淮の別渚。江蘇省南京市の西南。〔讀史方輿紀要、江南、江寧縣〕後渚在二府西南一、秦淮別渚也。

【後序】374 コウジョ　文體の名。卷首の序に對し、卷末に記す文をいふ。性質は、跋又は書後と同じであるが、體制よりすれば卷首の序と同じである。莊子の天下篇、荀子の堯問篇の末段等はその濫觴であらう。〔文體明辯、題跋〕凡經傳子史詩之圖書之類、前有二序引一、後有二後序一、可レ謂レ盡矣。

【後敍】375 コウジョ　人に後れて官位を授けられる。〔晉書、陳頵傳〕言重者先顯、言輕者後敍、遂相波扇、乃至二凌遲一。

【後升】376 コウショウ　❶おくれてのぼること。〔禮、曲禮上、解レ履不二敢當レ階、注〕爲レ妨二後升者一。❷清、戚珅（5－11594・・7）の字。

【後證】377 コウショウ　後日の證據。〔運歩色葉集〕後證。

【後丞】378 コウジョウ　補佐の臣をいふ。古、天子に、前に疑、後に丞、左に輔、右に弼があつた。四輔（3－4682・・723）の❶を見よ。〔晉書、潘尼傳〕左輔右弼、前疑後丞一、一日萬機、業業兢兢。

【後乘】379 コウジョウ　❶君の駕の後に扈從する騎馬。扈從の臣の乘る馬。〔東方朔、從二公孫弘一借二車馬一書〕朔當レ從二甘泉一、願借二外廄之後乘一。〔曹植、應レ詔詩〕前驅擧レ燧、後乘抗レ旌。〔陸雲、羊腸賦〕陪二俊臣于彫路一、列二名僚于後乘一。❷そへぐるま。副車。〔蔡邕、述行賦〕前車覆而未レ遠兮、後乘驅而競入。〔和名抄、舟車類、車類〕副車、漢書注云、副車、後乘也、曾閇久流万。

【後食】380 コウショク　俸祿の事を後廻しにして第一には考へない。〔論語、衞靈公〕子曰、事レ君敬二其事一而後二其食一。

【後蜀】381 コウショク　朝代の名。❶晉代十六國の一。氐族の李雄が蜀に據つて建てたもの。又、成漢といふ。成漢（5－11544・・33）を見よ。〔晉書、目錄〕載記、後蜀。❷五代十國の一。姓は孟氏。後唐の莊宗の時、邢州の人、孟知祥が劍南西川の節度使となり、明宗の時蜀王に封ぜられたが、閔帝の時、帝を稱し、成都に都し、國を蜀と號した。史に之を後蜀といふ。後、子昶が立ち、奢侈で政を修めず。宋の王全斌が來攻するに及んで降る。成都は今の四川省成都縣治で、今の四川及び陝西の南部の地を領す。略系は次の如し。

㈠高祖（知祥）—㈡宋秦公（昶）。

〔五代史、後蜀世家〕孟知祥字保胤、邢州龍岡人也、云云、季良等因レ請知祥稱レ王。

【後蜀哀帝】382 コウショクノアイテイ　李班（6－14459・・669）を見よ。

【後蜀高祖】383 コウショクノカウソ　孟知祥（3－6960・・324）を見よ。

【後蜀景帝】384 コウショクノケイテイ　李特（6－14459・・637）を見よ。

【後蜀廢帝】385 コウショクノハイテイ　李期（6－14459・・179）を見よ。

【後蜀武帝】386 コウショクノブテイ　李雄（6－14459・・769）を見よ。

【後燭】387 コウショク　しりへのともしび。〔潛夫論、釋難〕後燭入而益明也、此非二前燭昧而後燭彰一也、乃二者相因而成二大光一。〔晉書、后妃傳序〕後燭流レ景、所三以裁二其宴私一、房葉希聲、是用節二其容止一。

【後辱】388 コウジョク　後ではづかしめられる。〔史記、吳王濞傳贊〕鼂錯爲レ國遠慮、禍反近レ身、袁盎權說、初寵後辱。

【後心】389 コウシン　あとから起る心。〔雲笈七籤〕前心滅、故不レ爲二後因一、後心生、故不レ爲二前果一、是故我言、一切衆生、心法如レ生。

【後身】390 コウシン　❶うまれがはり。來世の身。〔顏氏家訓、歸心〕望二於後身一似レ不二相屬一。〔魏書、劉子業傳〕惟願後身不三復生二天王家一。〔商芸小說〕張衡死日、蔡邕始懷胎、二人才貌甚相類、人云、邕是張衡後身。〔宣和書譜〕李陽冰篆迹殊絕、自謂、倉頡後身。〔李白、答三湖州迦葉司馬問二白是何人一詩〕湖州司馬何須レ問、金粟如來是後身。〔鄭谷、忍公小軒詩〕後身唯願似二師身一。❷改革又は形を變じて成つた者を其の原形に對していふ。❸後の半生。生涯の下半。

【後身緣】391 コウシンエン　生れ代つた後の緣。〔本事詩〕開元中、頒二賜邊軍一纊衣、製二於宮中一、有二兵士一於二短袍中一得レ詩、曰、沙場征戍客、寒苦若レ爲レ眠、戰袍經手作、知レ落二阿誰邊一、畜レ意多添レ線、含レ情更著レ綿、今世已過也、重結二後身緣一、兵士以レ詩白二於帥一、帥進レ之、玄宗命以レ詩遍示二六宮一曰、有レ作者勿レ隱、吾不レ罪レ汝、有二一宮人一、自言二萬死一、玄宗深憫レ之、遂以嫁二得レ詩人一、仍謂レ之曰、我與レ汝結二今身緣一、邊人皆感泣。

【後辛】392 コウシン　月の最後の辛の日。〔南齊書、禮志上〕明年正月上辛、祀二昊天一、次辛、瘞二后土一、後辛、祀二明堂一。

【後辰】393 コウシン　時に後れる。〔張衡、思玄賦〕尙二前良之遺風一兮、恫二後レ辰而無レ及。

【後信】394 コウシン　❶後の信用。將來の信用。〔晉書、劉喬傳〕范陽亦將下悔二前之失一、思上崇二後信一矣。❷その後の便り。後便。〔薛能、蜀州鄭史君寄二鳥觜茶一因以贈答詩〕旋覺二前甌淺一、還愁二後信賒一。

【後晉】395 コウシン　朝代の名。五代の一。姓は石氏。沙陀の人。後唐の時、石敬瑭が河東節度使となるや、末帝李從珂の忌むところとなり、ために殺されようとしたが、契丹の太宗の後援を得て後唐を滅ぼし、帝位に卽き、汴に都し、國を晉と號した。史に之を後晉といふ。以來契丹に臣禮を執つたが、出帝重貴の時になつて屢〻禮を失ひ、契丹の太宗に滅ぼされた。凡て二世、十一年。汴は今の河南省開封縣治。今の河南・山東・陝西・甘肅、及び河北・山西の南部、安徽の北部の地を領した。略系次の如くである。

宋王敬儒—㈡出帝（重貴）
㈠高祖（敬瑭）

〔五代史、晉高祖紀〕天福元年十一月丁酉、皇帝卽位、國號レ晉。〔文獻通考、帝系考、帝號歷年〕後晉高祖聖文章武明德孝皇帝、太原汾陽里人、姓石氏、名敬瑭、丙申、以二北京留守一擧レ兵、入レ洛卽二皇帝位一、在位七年、壬寅崩、壽五十一、云云、右後晉二帝、共十一年、首二丙申一盡二丙午一。

【後晉高祖】396 コウシンノカウソ　石敬瑭（8－24024・・923）を見よ。

【後晉出帝】397 コウシンノシュツテイ　石重貴（8－24024・・992）を見よ。

【後秦】398 コウシン ゴシン　國の名。晉時十六國の一。姓は姚氏。羌族。初、羌人の姚弋仲は晉の封を受けて高陵郡公となり、其の第五子の襄に至つて大單于と自稱したが、秦の苻堅に殺された。後、東晉の太元九年、弋仲の第二十四子で前秦の司馬の姚萇が秦の衰頽に乘じて兵を北地に起し、苻堅を殺して自立し、秦王と稱し、十一年、長安に據つて皇帝と號した。之を後秦といふ。十八年、萇が死んで、子の興が立つた。十九年、前秦王の苻登を伐つて之を殺し、隆安四年、西秦を滅し、義熙十二年、歿した。子の泓立ち、十三年、劉裕に滅ぼさる。凡て三世、三十四年。長安は今の陝西省長安縣の西北。今の陝西の中部、河南の南部、甘肅の東部の地を領した。略系は次の如くである。

高陵公（始祖景元帝、弋仲）—㈠太祖武昭帝（萇）
㈡高祖文桓帝（興）—㈢泓。

〔晉書、地理志〕姚萇滅二苻氏一、是爲二後秦一。

【後秦武昭帝】399 ゴシンノブセウテイ　姚萇（3－6202・・94）を見よ。

【後秦文桓帝】400 ゴシンノブンクワンテイ　姚興（3－6202・・54）を見よ。

【後軫】401 コウシン　くるまの後の橫木。前軫の對。〔詩、秦風、小戎、小戎俴收、疏〕兵車當輿之內、從二前軫一至二後軫一、唯深四尺四寸也。

【後進】402 コウシン　後學の人。後輩の仕進する者。〔論語、先進〕後進於二禮樂一君子也。〔疏〕後進、謂二後輩仕進之人一也。〔管子、宙合〕傳以告二後進一。〔漢書、陳遵傳〕哀帝之末、俱著二名字一、爲二後進冠一。〔注〕如淳曰、爲二後進人士之冠者一也。〔後漢書、孔融傳〕性寬容、少レ忌好レ士、喜誘二益後進一。〔晉書、山簡傳〕後進儁才、鄉邑尤異才、堪二任用一者以レ名奏レ主。〔沈約、報二王筠一書〕不レ及二後進一、誠非二一人一。

【後進生】403 コウシンセイ　後進者をいふ。〔漢書、何武傳〕九江太守戴聖、禮經號二小戴一者也、行治多二不法一、前刺史以二其大儒一優二容之一、及三武爲二刺史一、行レ部錄二囚徒一、有レ所レ擧以屬レ郡、聖曰、後進生何知、廼欲レ亂二人治一、皆無レ所レ決、武使三從事廉得二其罪一、聖懼自免。

〖後進領袖〗404（コウシンノリヤウシウ） 後進の中で最も秀でたもの。〔晉書、裴秀傳〕秀、字秀彥、少好レ學、有二風操一、八歲能屬レ文、時人爲二之語一、後進領袖有二裴秀一。〔晉書、胡母輔之傳〕輔之、字彥國、王澄嘗與二人書一曰、彥國吐二佳言一、如二鋸木屑一、霏霏不レ絕、誠爲二後進領袖一也。

【後寢】405（コウシン） 後方のおたまや。前廟に對していふ。〔元史、祭祀志三〕至元十七年、新作下於二大都一前廟後寢上、正殿東西七間、南北五間、內分二七室一、殿階二一、成二三階一、中曰二泰階一、西曰二西階一、東曰二阼階一。

【後薪】406（コウシン） 後から積み加へるたきぎ。前功の無視せられる喩。後來者居レ上(668)を見よ。〔劉孝威、怨詩〕後薪隨復積、前魚誰更憐。

【後人】407（コウジン） ㊀後からくる人。後世の人。〔書、君奭〕告レ君乃猷レ裕、我不レ以二後人迷一。〔左氏、隱、十一〕度レ德而處レ之、量レ力而行レ之、相レ時而動、無レ累二後人一、可レ謂レ知レ禮矣。〔後漢書、襄楷傳論〕後人所レ當レ取レ鑑者也。〔宋書、律曆志下〕夏曆七曜西行、特違二衆法一、劉向以爲二後人所レ造、此可レ疑之二一據也。〔楊萬里、迓二新守一値レ雨詩〕前人失脚後人笑。㊁子孫。後嗣。〔書、西伯戡黎〕非二先王不レ相二我後人一。〔傳〕非二先祖不レ助二子孫一。〔書、康王之誥〕用敷二遺後人休一。〔傳〕言三施二及子孫無窮一。〔孟子、滕文公下〕書曰、丕顯哉文王謨、丕承哉武王烈、佑二啓我後人一、咸以レ正無レ缺。〔注〕佑二開後人一、謂三成康皆行二正道一。㊂人に後れる。又、人の背後になる。人に劣る。〔左氏、昭、二十一〕軍志有レ之、先レ人有レ奪二人之心一、後レ人有レ待二其衰一。〔孫子、軍爭〕後レ人發、先レ人至、此知二迂直之計一者也。〔史記、李將軍傳〕以二擊レ胡軍功一取レ侯者數十人、而廣不レ爲レ後レ人、然無三尺寸之功以得二封邑一者何也、豈吾相不レ當レ侯邪。〔注〕索隱曰、案謂レ不レ在二人後一。

【後刃】408（コウジン） 刃を後にする。武力を用ひない。〔禮、曲禮上〕進レ戈者前二其鐏一、後二其刃一。〔孔叢子、問軍禮〕出レ國先レ鋒、入レ國後レ刃。

【後仁】409（コウジン） 仁を後にする。仁道を二の次とする。〔蘇頲、奉二和聖製春臺望一應制詩〕暴嬴國レ此嘗圖レ霸、霸業後レ仁先以レ詐、東破二諸侯一西入レ秦、咸陽北阪南渭津。

【後垂】410（コウスイ） しりへにたれる。又、其のもの。〔隋書、禮儀志六〕通天冠平冕、俗所謂平天冠者也、其制、玄表朱綠裏、廣七寸、長尺二寸、加二於通天冠上一、前垂四寸、後垂三寸、前圓而後方。〔袁淑、驢山公九錫文〕修尾後垂、巨耳雙磔。

【後悴】411（コウスイ） 後におとろへる。〔潘岳、笙賦〕是乃有二始泰終約、前榮後悴一。

【後世】412（コウセイ） ㊀後の世。後代。〔易、繫辭下〕上古穴居而野處、後世聖人易レ之以二宮室一。〔禮、儒行〕今世行レ之、後世以爲二楷適一。〔中庸〕素レ隱行レ怪、後世有レ述焉。〔左氏、昭、三〕後世猶怠。〔論語、季氏〕今不レ取、後世必爲二子孫憂一。〔孝經、開宗明義章〕立レ身行レ道、揚二名於後世一、以顯二父母一、孝之終也。〔孟子、梁惠王上〕是以後世無レ傳焉。〔戰國、秦策〕且臣將レ恐下後世之有二秦國一者、非中王之子孫上也。㊁後の世繼ぎ。子孫。〔史記、秦始皇紀〕大義休明、垂二于後世一、順承勿レ革。〔史記、陳杞世家贊〕太史公曰、舜之德可レ謂レ至矣、禪二位於夏一、而後世血食者、歷二三代一。㊂［佛］（ゴセ） 我が身の死後をいふ。世來。〔無量壽經、下〕今世恨意微相憎嫉、後世轉劇至レ成二大怨一。

【後正】413（コウセイ） のちの正しいものをいふ。前失(2－2011··180)の㊀・前惡(2－2011··2)に對していふ。〔晉書、山濤傳論〕將下矯二前失一、歸中諸後正上、惠絕二臣名一、恩馳二天口一。

【後生】414（コウセイ） ㊀後から生れる。又、其のもの。先生(1－1349··136)の㊀の對。〔爾雅、釋親〕父之晜弟、先生爲二世父一、後生爲二叔父一。〔公羊、莊、二、注〕男謂二女先生一爲レ姊、後生爲レ妹、父之姊妹爲レ姑。㊁後を嗣ぐ子孫。後胤。後裔。〔詩、商頌、殷武〕壽考且寧、以保二我後生一。〔集傳〕我後生、謂二後嗣子孫一也。㊂年の少いもの。後輩。後進。〔論語、子罕〕子曰、後生可レ畏、焉知二來者之不一レ如レ今也。〔注〕後生、謂二年少一。〔墨子、非儒下〕夫爲二弟子後生期レ師、必修二其言一。〔晉書、王導傳〕先進忘二揖讓之容一、後生惟金鼓是聞。㊃生地を背後とする。生地は、草木の生じた地。〔孫子、行軍〕平陸處レ易、而右二背高一、前レ死後レ生、此處二平陸一之軍也。㊄㋑［佛］（ゴシヤウ） 後の世にうまれかはること。又、來世。未來。〔無量壽經、下〕後生二無量壽佛國一。〔法華經、藥草喩品〕後生二善處一。〔陸機、歎逝賦〕託二末契於後生一。㋺來世の安樂。〔續狂言記、六人僧〕これを菩提の種として後生を願はう。㋩折入つて物事を賴む時に使ふ語。〔傾城二筋道〕後生だからちよつと物云はずに居ておくんなんし。

〖後生子〗415（コウセイシ） 我より後に生れ來るもの。後進。後輩。〔鮑照、代三少年時至二衰老一行〕寄レ語後生子、作レ樂當レ及レ春。

〖後生樂〗416（ゴシヤウラク） ㊀後生は安樂と思ひ安心すること。〔東鑑、三〕羽林和二横笛一、先吹二五常樂一、爲二下官一以可レ爲二後生樂一、由稱レ之。㊁萬事を氣にかけぬ性質。樂天的な性格。また其の人。暢氣者。無神經な人。氣樂者。〔浮世床、初下〕あの地震をしらねへといふは、後生樂だの。

〖後生可畏〗417（コウセイオソルベシ） 後進者は、年少く氣力も強いから、學を積んで止まなければ、その進境は畏るべきものがあるのをいふ。〔論語、子罕〕後生可レ畏、焉知二來者之不一レ如レ今也。〔疏〕言、年少之人、足二以積レ學成一レ德、誠可レ畏、安知二將來者之道德不一レ如二我今日一也。

〖後生供養〗418（ゴシヤウクヤウ） ［佛］佛・法・僧の三寶に供養すること。卽ち、後世善所に生れようとして、佛に華・香を供へ、師僧に衣服・財貨等を施すをいふ。

〖後生善所〗419（ゴシヤウゼンシヨ） ［佛］來世で、極樂又は天上界等の善い所に生れるをいふ。〔榮花物語、本雫〕同じく現世安穩、後生善所の思ひを遂げしめんと。

〖後生大事〗420（ゴシヤウダイジ） ㊀死後の安心を求めることが甚だ大切なこと。〔狂言記、路蓮坊主〕後世を大事と心得願はせらるるが肝要でござる。㊁非常に物を大切にすることにいふ。〔浮世風呂、一〕手拭ひをいくぢなく前へあてごしやうだいじに向うをにらみつけて。

〖後生菩提〗421（ゴシヤウボダイ） 死後、佛果を得ること。〔謠曲、籠祇王〕。ただ願はしきは後生菩提。

【後成】422（コウセイ） 漢代、西域車師國中の小國の名。〔漢書、匈奴傳下〕孤蘭支與二匈奴一共入寇、擊二車師一殺二後成長一。〔注〕師古曰、後成、車師小國名也、長、其長帥也。

【後姓】423（アトカバネ） 後裔、又は子孫の意。〔大鏡、下〕もろきの宰相も今まであとかばねだにおはせず。

【後青】424（コウセイ） 青色をあとまはしにする。〔淮南子、說山訓〕染者先レ青而後レ黑、則可、先レ黑而後レ青、則不可。

【後星】425（コウセイ） 心星の後の星をいふ。〔史記、天官書〕前後星子屬。〔注〕索隱曰、鴻範五行傳曰、心之大星、天王也、前星太子、後星庶子。〔宋書、天文志四〕大明六年六月、月犯二心後星一、占曰、庶子惡レ之。

【後旌】426（コウセイ） 後車をいふ。後斿に同じ。〔劉孝威、行二幸甘泉宮一歌〕後旌猶二五柞一、前笳度二九嵏一。

【後斿】427（コウセイ） 後車をいふ。後乘。〔江淹、從二冠軍建平王一登二廬山香鑪峯一詩〕幸承二光誦末一、伏思レ託二後斿一。〔注〕五臣作レ旌、善曰、後斿、猶二後乘一也。

【後壻】428（コウセイ） 夫の死後に迎へた壻。〔宋書、五行志五〕其夫經二至女墓一、不レ勝二哀情一、便發レ冢開レ棺、女遂活、因與俱歸、後壻聞レ之、詣レ官爭レ之、所在不レ能レ決。

【後聖】429（コウセイ） 後世の聖人。〔孟子、離婁下〕先聖後聖、其揆一也。〔漢書、司馬遷傳〕以俟二後聖君子一。

【後醒】430（コウセイ） 後になつて目醒める。後覺者。〔新書、先醒〕故世主有二先醒者一、有二後醒者一。

【後靜】431（シリシユツ） 北海道釧路國の地名。

【後聲】432（コウセイ） 後のこゑ。後から起る聲。前聲の對。〔張說、山夜聞レ鐘詩〕前聲既舂容、後聲復晃盪。〔韋應物、聽鶯曲〕前聲後聲不二相及一、秦女學レ箏指猶澀。〔白居易、竹枝詞〕江畔誰人唱二竹枝一、前聲斷咽後聲遲。

【後小】433（コウセウ） 後に小さくなる。〔史記、天官書〕太白始出大後小、兵弱、出小後大、兵強。

〖後小松〗434（ゴコマツ） 第百代の帝謚。（1393－1412）〔續神皇正統記〕。

【後沼】435（コウセウ） うしろのぬま。〔范成大、次三韻袁起巖送二示郡沼雙蓮圖一詩〕壓倒小湖三級草、增

光後沼兩重蓮。

【後咲】436 オクレザキ 草や木の花が、通常の時期より後れて咲くこと。早咲の對。〔曾根崎心中〕おくれざきなるなたねやけしの。

【後笑】437 コウセウ 後で笑ふ。〔易、同人〕同人先號咷而後笑、大師克相遇。

【後席】438 コウセキ 席のうしろ。うしろの席。又、席の後方にさがること。前席(**2**－2011‥238)を見よ。

【後折】439 コウセツ しりへに曲る。〔兪安期、衡岳賦〕既前征而後折、亦歩㆑隆而降㆑卑。

【後節】439′ コウセツ 文章や詩句などのあとの節。節は、文章や詩句などのひとくぎり。前節の對。

【後說】440 コウセツ ❶後代の說。又、あとの說。〔詩、大序、是關雎之義也、疏〕鄭荅㆓劉琰㆒云、論語注、人閒行久、義或宜㆑然、故不㆓復定㆒、以遺㆓後說㆒、是鄭以爲㆑疑、故兩解㆑之也。〔雲笈七籤〕西昇須㆑說以㆓無欲㆒爲㆑體、故云、當㆘持㆓上慧源妙㆒眞一㆖、後說既盛明㆓眞一㆒、故以㆓眞一㆒爲㆑體。❷コウダツ 後に脫する。後に外づす。說は脫。〔易、睽〕睽孤、見㆓豕負㆑塗、載㆓鬼一車㆒、先張㆓之弧㆒、後說㆓之弧㆒、匪㆑寇婚媾、往遇㆑雨則吉。

【後絶】441 コウゼツ 後で絶える。後に絶える。〔南齊書、丘靈鞠等傳論〕若㆓陳思代馬羣章、王粲飛鸞諸製㆒、四言之美、前超後絶。

【後川】442 シツカハ 丹波國の地名。

【後川水】442′ コウセンスイ 一名横河。一名洪河。甘肅省固源縣治の東南なる陶家海子に發し、東流して鎭原縣に入り、更に東南流して涇河に注ぐ。

【後先】443 コウセン 後と先。あとさき。前後。先後。〔楚辭、宋玉、招魂〕與㆑王趨㆑夢兮課㆓後先㆒。〔張緒、離別詩〕忘㆓時輩之後先㆒、略㆓相知之年齒㆒。〔貢師泰、爲㆓郭宗道㆒題㆓韓滉移㆑居圖㆒詩〕一童鬅鬙隨㆓左右㆒、兩髯傴僂隨㆓後先㆒。

【後穿】444 コウセン うしろをうがちひらく。〔漢書、鄧通傳〕其衣後穿、夢中所㆑見也。

【後船】445 コウセン 後の船。後に來る舟。〔盧綸、渡㆓淅江㆒詩〕前船後船未㆓相及㆒、五兩頭平北風急。

【後撰】446 コウセン 後の述作。後の記錄。〔宋書、徐爰傳〕豈不㆘以㆓事先㆒歸㆓之前錄㆒、功偕著㆗之後撰㆖。

【後戰】447 コウセン ❶戰を後にする。戰を二の次とする。〔孫子、形篇〕勝兵先㆑勝而後求㆑戰、敗兵先㆑戰而後求㆑勝。〔魏志、賈詡傳〕用兵之道、先㆑勝後㆑戰、量㆑敵論㆑將、故舉無㆓遺策㆒。❷後の戰。〔舊唐書、李勣傳〕勣、前後戰勝、所㆑得金帛、皆散㆓之將士㆒。

【後前】448 コウゼン 後と前。前後。〔韓愈、雜詩〕古史散㆓左右㆒、詩書置㆓後前㆒。〔耶律楚材、和㆓冀先生韻㆒詩〕輔弼規㆓左右㆒、丞疑贊㆓後前㆒。

【後善】449 コウゼン 後の善事。後に行つた善い事。〔阮瑀、爲㆓曹公㆒作㆑書與㆓孫權㆒〕更與從㆑事、取㆓其後善㆒、亦掩㆓前惡㆒。〔梁武帝、立㆓神明㆒成㆓佛義㆒記〕後善雖㆑生、暗心莫㆑改。

【後壖】450 コウゼン 廟後のには。壖は、廟の外垣と內垣の遊地。〔宋史、王欽若傳〕欽若居第在㆓太廟後壖㆒、自言、出入訶導不㆓自安㆒、因易㆓賜宮第于定安坊㆒。

【後祖】451 コウソ 婚禮の濟んだ後で、祖廟に告げること。〔左氏、隱、八〕鄭公子忽、如㆑陳逆㆓婦嬀㆒、辛亥、以㆓嬀氏㆒歸、甲寅、入㆓於鄭㆒、陳鍼子送㆑女、先配而後祖、鍼子曰、是不㆑爲㆓夫婦㆒、誣㆓其祖㆒矣、非㆑禮也、何以能育。〔注〕禮逆㆑婦、必先告㆓祖廟㆒而後行、云云、鄭忽先逆㆑婦而後告㆑廟、故曰、先配而後祖也。〔徐晉卿、春秋經傳類對賦〕婦姜貴聘而賤逆、鄭忽先配而後祖。

【後素】452 コウソ ❶素は、胡粉。繪を書くに、最後に白色の繪の具で點綴すること。仕上げを重んずる意。一說に、初、胡粉を塗つておいて、後で五采を施すのをいふ。美質を貴ぶ意。轉じて、繪畫をいふ。〔周禮、考工記、畫繢〕凡畫繢之事、後㆓素功㆒。〔論語、八佾〕繪事後㆑素。〔集解〕凡繪畫、先布㆓衆色㆒、然後以㆑素分㆓布其閒㆒、以成㆓其文㆒、喩㆘美女雖㆑有㆓倩盼美質㆒、亦須㆗禮以成㆖㆑之。〔集注〕繪事、繪畫之事也、後㆑素、後㆓於素㆒也、考工記曰、繪畫之事後㆓素功㆒、謂㆘先以㆓粉地㆒爲㆑質、而後施㆗五采㆖、猶㆘人有㆓美質㆒、然後可㆖㆑加㆓文飾㆒。〔張仲素、繪事後㆑素賦〕表㆓其能㆒、故散彩而設、雜㆓其暈㆒、故後㆑素而分。〔下學集〕後素、繪異名也、見㆓論語㆒。❷大鹽平八郎の號。

【後礎】453 コウソ うしろのどだいいし。〔蘇轍、次㆓韻毛君山房遺㆑興詩〕白雲生㆓後礎㆒、孤鶩伴㆓殘霞㆒。

【後奏】454 コウソウ あとで奏上する。〔五代史、安重誨傳〕重誨嘗出過㆓御史臺門㆒、殿直馬延誤衝㆓其前導㆒、重誨怒卽㆓臺門㆒、斬㆑延而後奏。〔宋史、瀛國公紀〕使㆔孫虎臣總㆓統諸軍㆒、所㆑辟官屬、皆先命後奏。

【後送】455 コウソウ ❶あとから送り屆けること。❷後方に送ること。

【後足】456 コウソク ❶獸の尻の方のあし。あとあし。後脚。〔易、說卦、疏〕馬後足白爲㆑馵。〔韓詩外傳、五〕西方有㆑獸、名曰㆑蟨、前足鼠、後足兔、得㆓甘草㆒、必銜以遺㆑蛩。❷アシウシロ 足を後にして逃げんとして踵を後にすること。

【後息】457 コウソク あとでいこふ。あとでやすむ。又、あとでやめる。〔戰國、燕策〕先趨而後息、先問而後嘿、則十㆑己者至。〔司馬光、與㆓范景仁㆒書〕今若㆓喋喋爲㆑報、乃是求㆑勝而強相加、爭㆑言而競後息、非㆓素志㆒也。

【後鏃】458 コウゾク 後から射た矢。〔列子、仲尼〕能令㆔後鏃中㆓前括㆒。

【後續】459 コウゾク 後から續く。又、其のもの。

【後村】460 コウソン ❶後方の村。〔隱巒、牧童詩〕三箇五箇騎㆓羸牛㆒、前村後村來放牧。〔劉克莊、病後訪㆑梅九絶句詩〕後來誰判梅公案、斷自㆓孤山㆒迄㆓後村㆒。❷宋、劉克莊の號。〔宋元學案、艾軒學案、退翁家學、文定劉後村先生克莊〕劉克莊、字潛夫、彌正子、官至㆓工部尙書・龍圖閣學士㆒、謚文定。

【後村集】461 コウソンシフ 書名。五十卷。宋、劉克莊撰。克莊は眞德秀に從つてその學を講じ、年八十になつて賈似道に媚附す。人品・詩品並びに頽唐の風を存した。〔四庫提要、集、別集類〕。

【後村上】462 ゴムラカミ 第九十七代の帝諡。(1339－1367)〔神皇正統記〕。

【後村詩話】463 コウソンシワ 書名。說郛は一卷に作るが、適園叢書本は、前集二卷、後集二卷、續集四卷、新集六卷。宋、劉克莊撰。詩を論じて心得の言多し。〔四庫提要、集、詩文評類〕。

【後懦】464 コウダ 氣おくれ。いくぢのないもの。〔劉基、感㆑時述㆑事詩〕拒㆑捕斥㆓後懦㆒、爭㆑強夸㆓直前㆒。

【後退】465 コウタイ ❶後方へ退く。あとじさり。あとずさり。〔宋史、律曆志六〕爲㆓後退後留定差㆒。〔元史、曆志四〕後退者置㆓前段㆒、末日行分以㆓其日㆒差㆓減之㆒、爲㆓初日行分㆒。❷アトズサリ アトジサリ 蟻地獄の異名。

【後隊】466 コウタイ 後づめの軍隊。〔後漢書、光武帝紀上、王莽前隊、注〕南陽爲㆓前隊㆒、河內爲㆓後隊㆒、潁川爲㆓左隊㆒、弘農爲㆓右隊㆒。〔魏書、肅宗紀〕前驅後隊、左翼右師。〔李嶠、扈從還㆑洛呈㆓侍從羣官㆒詩〕後隊咽㆓笳簫㆒、前驅嚴㆓罕畢㆒。

【後代】467 コウダイ 後の代。すゑの世。後世。後葉。〔白虎通、爵〕漢制、天子稱㆓皇帝㆒、其嫡嗣稱㆓皇太子㆒、諸侯之嫡稱㆓代子㆒、後代咸因㆑之。〔晉書、元帝紀〕前事之不㆑忘、後代之元龜也。〔南史、陶潛傳〕自以㆓曾祖晉世宰輔㆒、恥㆔復屈㆓身後代㆒。

【後代哂】468 コウダイノワラヒ 後世に殘るはぢ。後世の人のあざけり。後の世に恥をさらすこと。〔晉書、宣帝紀論〕雖㆔自隱㆓過當年㆒、而終見㆑嗤㆓後代㆒。〔晉書、蔡謨傳〕我若爲㆓司徒㆒、將㆑爲㆓後代所㆑哂、義不㆓敢拜㆒也。〔梁武帝、答㆓陶弘景㆒書〕正足㆘見㆑嗤㆓於當今㆒、貽㆗笑於後代㆖。

【後台】469 hou^4 t'ai^2 劇場の樂屋。

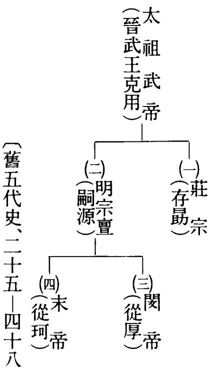
【後臺】470 コウダイ 後方のうてな。〔白居易、寄㆓韜光禪師㆒詩〕前臺花發後臺見、上界鐘聲下界聞。

【後到】471 コウタウ あとから到着する。〔後漢書、禰衡傳〕更相戒曰、禰衡勃虐無㆑禮、今因㆓其後到㆒、咸當㆘以㆑不㆑起折㆖㆑之、及㆓衡至㆒、衆人莫㆓敢興㆒。〔北史、崔悛傳〕趙郡李渾將㆑聘㆑梁、名輩畢萃、詩酒正讙、悛後到、一坐無㆓復談話㆒。〔白居易、渭村退居寄㆓禮部崔侍郎翰林錢舍人㆒詩〕下直閑如㆑社、尋㆓芳醉㆒似㆑狂、有㆑時還後到、無㆔處不㆓相將㆒。

【後唐】472 コウタウ 朝代の名。五代の一。本姓は朱邪氏。沙陀の人。唐、之に李姓を賜ふ。李克用の時、唐のために黃巢の亂を平げ、後、勢力を得て晉王に封ぜられたが朱全忠が後梁の江帝となるや、克用を惡み、頻りに晉を伐つ。克用の子、存勖、能く戰ひ、既に燕を亡ぼし、次いで梁を討つて大梁に入り、傳國の璽を得て帝位に卽き、大梁に都し、國を唐と號した。史に之を後唐の莊宗といふ。莊宗は岐を降し、蜀を併せ、江北を統一する程の勢があつたが、意滿ちて荒政を事としたの

で、將士が離叛して王族李嗣源を擁して卽位せしめた。之を明宗といふ。その養子の廢帝李從珂が立つに及んで河東の鎭將石敬瑭を忌み、之を殺さうとして却て敬瑭(後晉)に滅された。凡て二世四主、十四年。大梁は今の河南省開封縣治で河南・山東・山西・河北・陝西・甘肅・湖北・四川、及び安徽の北部の地を領した。略系は次の如くである。

【後唐】李氏(四主十四年)



〔舊五代史、二十五―四十八〕〔五代史、唐莊宗紀〕同光元年夏四月己巳、皇帝卽レ位大赦、改レ元、國號レ唐。〔五代史、職方考〕洛陽、云云、唐故爲二東都一、梁爲二西都一、後唐爲二洛京一。〔文獻通考、帝系考、帝號歷年〕後唐、莊宗光聖神閔孝皇帝、其先沙陀人、唐賜二姓李氏一、名存勖、武帝之子、以二癸未一卽二皇帝位一、滅レ梁、在位四年、丙戌兵亂、中二流矢一崩、壽四十二、云云、廢帝、名從珂、本姓王氏、明帝養爲レ子、封二潞王一、以二甲午一廢二閔帝一卽レ位、三年丙申、石敬塘擧レ兵犯レ闕、帝兵敗、自焚死、壽五十二、改元一、右後唐四帝共十四年、首二癸未一盡二丙申一。

【後唐莊宗】473（コウタウノサウソウ） 李存勖(**6－14459**‥164・5)を見よ。

【後唐太祖】474（コウタウノタイソ） 李克用(**6－14459**‥123・8)を見よ。

【後唐閔帝】475（コウタウノビンテイ） 李從厚(**6－14459**‥143・1)を見よ。

【後唐武帝】476（コウタウノブテイ） 李克用(**6－14459**‥123・8)を見よ。

【後唐末帝】477（コウタウノマツテイ） 李從珂(**6－14459**‥142・7)を見よ。

【後唐明宗】478（コウタウノメイソウ） 李嗣源(**6－14459**‥133・8)を見よ。

【後棹】479（コウタウ） 後方の舟のさを。〔程俱、借二居毘陵東門一詩〕前車接二來軫一、後棹紛相摩。

【後膛】480 hou^4 t'ang^2 銃砲のもとごめ。

【後堂】481（コウダウ） ❶后妃の居る室。おくざしき。〔漢書、張禹傳〕禹將レ崇入二後堂一飮食、婦女相對、優人筦弦、鏗鏘極レ樂。〔後漢書、明德馬皇后紀〕由レ是選レ后入二太子宮一、禮則修備、上下安レ之、遂見二寵異一、常居二後堂一。〔蘇軾、和二孔密州五絕一堂後白牡丹詩〕何似二後堂冰玉潔一、遊蜂非三意不二相干一。❷後方にある殿閣。〔李商隱、燕臺四首、夏詩〕前閣雨簾愁不レ卷、後堂芳樹陰陰見。

【後道】482（コウダウ） 道をあと廻しにする。〔詩、周南、汝墳序、疏〕上云二德廣所レ及、先レ德後レ道、事之次也。

【後卓】483（コウタク） 樹木の名。南燭の異名。南天。〔事物異名錄、百草、南燭草〕雲笈七籤、南燭草、一名猴藥、一名男續、一名後卓、一名惟那木。

【後拓】484（コウタク） しりへにひらく。〔雲笈七籤〕良久徐徐、乃以レ手、左拓右拓、上拓下拓、前拓後拓。

【後擇】485（コウタク） 後になつてからえらぶ。〔文中子、魏相〕君子先擇而後交、故寡レ尤、小人先交而後擇、故多レ怨。

【後澤】486（コウタク） 後の恩惠。〔任昉、爲二范始興一作求レ立二太宰碑一表〕實仰二覬後澤一。

【後躅】487（コウタク） 後代にのこる行跡。〔王孝友、豐水賦〕竦二屐前聞一、侈二觀後躅一。

【後闥】488（コウタツ） 宮中の裏の門。〔後漢書、張步傳〕卽帶劍至二宣德後闥一。

【後塔】489（コウタフ） 後方の塔。〔張祜、題二杭州靈隱寺一詩〕後塔聳二亭後一、前山橫二閣前一。

【後短】490（コウタン） あとがみじかい。〔宋史、律曆志九〕前長後短、頓差四寸、此曆景冬至、後天之驗也。

【後段】491（コウダン） 後の段。のちのくぎり。〔五代史、司天考第一〕初末行分、相減爲二差率一、累二計其段一、初行レ昏、後夜半、距二後段一。

【後彈】492（コウダン） 後でひき鳴らす。〔然藜餘筆〕李龜年、至二岐王宅一、聞レ琴曰、此秦聲、良久曰、此楚聲、主人入問レ之、則前彈者、隴西沈妍、後彈者、揚州薛滿兩人也。

【後斷】493（コウダン） 後がたちきれてゐる。〔韓愈、南山詩〕或前橫若レ剝、或後斷若レ姤。

【後治】494（コウチ） 後に處理すべき事。〔淮南子、兵略訓〕軍無二後治一。

【後知】495（コウチ） ❶人より後にさとり知る者。後覺。後進。〔孟子、萬章下〕天之生二斯民一也、使三先知覺二後知一、使三先覺覺二後覺一。❷後に知遇された人。後の知遇。先知(**1－1349**‥162)の對。〔呂覽、恃君覽〕豫讓笑而應レ之曰、是先知報二後知一也、爲二故君一賊二新君一矣。

〖後知堂〗496（コウチダウ） 清、蕭正模(**9－32012**‥427)の室名。

〖後知不足齋叢書〗497（コウチフソクサイソウショ） 叢書の名。六十四冊。清、鮑廷博編。知不足齋叢書の遺殘するものを補足したもの。多くは經義に關する書を聚む。第一冊、駁五經異義一卷(漢、許愼・鄭玄)・駁五經異義補遺一卷(漢、許氏)・箴膏肓一卷(漢、鄭玄)・起癈疾一卷(漢、鄭玄)。第二冊、鄭志三卷附錄一卷(漢、鄭玄)。第三・四冊、陸氏經典異文輯六卷(清、沈淑)。第五・六冊、陸氏經典異文補六卷(清、沈淑)。第七冊、注疏瑣語四卷(清、沈淑)。第八冊、春秋左傳分國土地名二卷(清、沈淑)・左傳列國職官一卷(清、沈淑)・左傳器物一卷(清、沈淑)。第九―十一冊、五經文字三卷(唐、張參)。第十二冊、新加九經字樣一卷(唐、唐玄度)・石經殘字考一卷(清、翁方綱)。第十三冊、干祿字書一卷(唐、顏元孫)。第十四・十五冊、班馬字類二卷(宋、婁機)。第十六冊、九經補韻一卷(宋、楊伯嵒・清、錢侗)。第十七冊、許氏說文解字雙聲疊韻譜一卷(清、鄧廷楨)。第十八―二十一冊、積古齋鐘鼎彝器款識十卷(清、阮元)。第二十二冊、兩漢五經博士考三卷(清、張金吾)。第二十三冊、漢魏六朝志墓金石例三卷附錄一卷(清、吳鎬)。第二十四冊、金石訂例四卷(清、鮑振方)。第二十五冊、稽瑞一卷(唐、劉賡)。第二十六―三十冊、崇文總目五卷補遺一卷附錄一卷(宋、王堯臣等)。第三十一・三十二冊、第六絃溪文鈔四卷(清、黃廷鑑)。第三十三冊、六藝論一卷(漢、鄭玄)・大誓答問一卷(清、龔自珍)・詩問一卷(清、汪琬)・檀弓訂誤一卷(清、毛奇齡)・五經今文古文考一卷(清、吳陳炎)・夏小正詁一卷(清、諸錦)。第三十四―四十冊、駢雅訓纂十六卷首一卷(明、朱謀瑋)。第四十一・四十二冊、春秋左氏古經十二卷(清、段玉裁)・春秋左氏傳五十凡一卷。第四十三冊、文字蒙求四卷(清、王筠)。第四十四冊、說文揭原二卷(清、張行孚)。第四十五―四十七冊、說文發疑六卷(清、張行孚)・論篆一卷(唐、李陽冰)・篆刻十三略一卷(清、袁三俊)。第四十八冊、京畿金石考二卷(清、孫星衍)。第四十九・五十冊、史略六卷(宋、高似孫)。第五十一冊、漢禮器制度一卷(漢、叔孫通)・漢官一卷、漢官解詁一卷(漢、王隆・漢、胡廣)・漢舊儀二卷補遺二卷(漢、衞宏)。第五十二冊、漢官儀二卷(漢、應劭)・漢官典職儀式選用一卷(漢、蔡質)。第五十三―五十五冊、漢儀一卷(吳、丁孚)・後漢書補表八卷(清、錢大昭)。第五十六冊、楚漢春秋一卷(漢、陸賈)・古金待問錄四卷補遺二卷(清、朱楓)。第五十七冊、州縣提綱四卷(宋、陳襄)・輿地形勢論一卷(清、鮑振方)。第五十八冊、九邊圖輪一卷(明、許論)・海防圖論一卷附錄一卷(明、胡宗憲)。第五十九―六十二冊、淳化祕閣法帖考正十二卷(清、王澍)、第六十三・六十四冊、蘇米齋蘭亭考八卷(清、翁方綱)。

【後智】498（コウチ） 後に智者になる。〔劉峻、辨命論〕寧前愚而後智、先非而終是。

【後稺】499（コウチ） おくれて遲くゆるやかなこと。〔管子、形勢〕曙戒勿レ怠、後稺逢レ殃。〔纂詁〕稺、讀爲レ遲。

【後衄】500（コウヂク） 後にやぶれる。後衂。〔溫子昇、爲二司徒高敖曹一謝表〕雖二復見レ義援レ戈、臨レ危奮レ劍、顧二慙後衄一、終謝二先鞭一。

【後長】501（コウチヤウ） うしろが長い。〔爾雅、釋魚〕前弇諸果、後弇諸獵、疏〕謂二甲前長弇覆者一名レ果、甲後長弇覆者名レ獵。

【後張】502（コウチヤウ） ❶唐の張仁愿を時人が稱した語。賈敦頤に次いで長史となつて政績があつたから、時人が前賈後張といふ。〔唐書、張仁愿傳〕先レ是、賈敦頤嘗爲二長史一、有二政績一、時人爲二之語一曰、洛有二前賈後張一、敵二京兆三王一。❷後方にひろがる。〔宋史、禮志二十四〕三鼓擧二赤旗一、變二

銳陣一、諸軍相屬、魚貫斜列、前利後張、爲二衝敵之

【後賬】503 hou⁴ chang⁴ 次期の計算。〔形〕。

【後廳】504 後方にある官廳。〔酉陽雜俎、藝絕〕李叔詹常識二一范陽山人一、云云、請後廳上掘レ地爲レ池、方丈深尺。

【後娘】505 hou⁴ niang² 繼母。後母。「の對。

【後場】506 取引所で午後に起る相場の稱。前場の對。

【後住】507 佛後任の住持。先住の對。〔運步色葉集〕後住。

【後重】508 輜重をいふ。〔漢書、陳湯傳〕康居副王抱闐將二數千騎一、寇二赤谷城東一、云云、頗寇二盜後重一。〔注〕師古曰、重、謂二輜重一也。

【後直】509 後のまつすぐなこと。〔禮、玉藻〕諸侯荼、前詘後直、讓二于天子一也。〔舊唐書、輿服志〕五品以上、執二象笏一、三品以下、前挫後直、五品以上、前挫後屈。

【後珍】510 後の珍しいもの。〔無名氏、昆田化爲レ金賦〕以二彼瑞一爲二茲瑞一、易二前珍一爲二後珍一。

【後鎭】511 うしろのおさへ。後方のしづめ。〔蜀志、黃權傳〕臣請爲二先驅一以嘗レ寇、陛下宜レ爲二後鎭一。〔晉書、宣帝紀〕張郃勸レ帝、分レ軍住二雍郿一爲二後鎭一。

【後鎭祭】512 地鎭祭に對して、宮殿竣工後、又は其の土地の使用終了の時行ふ祭儀。往古は一般に行はれたが、今は主として神宮式年または臨時の造替の場合、大嘗祭終了後に行はれる。一に返祭ともいふ。〔延喜大神宮式〕鎭二祭宮地一後鎭准レ此。

【後陣】513 後陳。❶後方の陣地。殿軍。〔六韜、虎韜、動靜〕後陣欲レ走、前陣數顧。〔南齊書、孔稚珪傳〕李陵歿二於後陣一。❷後方の列位。末席。〔後漢書、崔駰傳〕駰幸得下充二下館一序中後陣上。〔注〕陳、列也。

【後陳】513′ 後陣に同じ。〔張衡、東京賦〕總二輕武於後陳一、奏二嚴鼓之嘈囐一。〔崔駰、與二竇憲一書〕幸得下充二下館一序中後陳上。

【後塵】514 ❶あとにちりをたてる。また、そのちり。〔鮑照、舞鶴賦〕逸翮後レ塵、翱翥先レ路。〔注〕善曰、言二飛之疾一、塵起居二鶴之後一、鶴飛在二路之先一。❷人の下風。人のしりへ。〔張協、七命〕余雖二不敏一、請尋二後塵一。〔杜甫、戲作六絕句〕竊攀二屈宋一宜レ方レ駕、恐與二齊梁一作二後塵一。〔白居易、贈二江州李十員外一詩〕昔去曾同日、今來卽後塵。〔崔郊、贈二去婢一詩〕公子王孫逐二後塵一、綠珠垂淚滴二羅巾一。

【謁二後塵一】515 貴人の後に就き從ふ。〔古今詩話〕莫レ嫌恃レ酒輕二言語一、曾把二文章一謁二後塵一。

【拜二後塵一】516 先行の車馬の塵をおがむ。權貴の人にこびへつらふこと。〔晉書、石崇傳〕廣成君每レ出、崇降レ車、路左望レ塵而拜、其卑佞如レ此。

【後對】517 絕句の轉・結が對をなすもの。例へば王維の暮春過二廣武城一詩の、廣武城邊逢二暮春一、汶陽歸客淚沾レ巾、落華寂寂啼レ山鳥、楊柳青青渡レ水人の類。〔詩法詳論、絕句〕後對體、周弼曰、此體唐人用レ之亦少、必使二末句雖レ對而詞足意盡一、若未二嘗對一、不レ然則如三半二截長律一、皚皚齊整、略無二結合一、此荊公所二以見レ誚二於徐師川一也。

【後定】518 後から定める。魏の劉表が綦毋闓・宋忠等に撰せしめた五經章句をいふ。〔魏志、劉表傳、注〕英雄記曰、州界羣寇旣盡、表乃開二立學官一、博求二儒士一、使三綦毋闓宋忠等撰二五經章句一、謂二之後定一。

【後底】519 後方の水ぞこ。〔龐蘊、雜詩〕廻頭看二後底一、影亦不レ隨レ身。

【後亭】520 後方のあづまや。〔呂溫、道州奉レ寄二襄陽裴相公一詩〕最憶過時留宴處、豔歌催レ酒後亭深。〔白居易、睡起晏坐詩〕後亭晝眠足、起坐春景暮。

【後帝】521 ❶後の天子。前帝（**2**－**2011**‥290）の對。〔北史、隋文帝紀〕前帝後帝、沿革隨レ時。〔郝經、泰山賦〕前帝後帝、崇レ德報施。❷廁の神。〔南史、沈慶之傳〕初、慶之嘗夢下引二鹵簿一入中廁中上、占夢者爲解レ之曰、君必大富貴、然未レ在二旦夕一、問二其故一、答云、鹵簿固是富貴容、廁中所謂後帝也、知二君富貴不一レ在二今主一。〔異苑〕陶侃曾如レ廁、見三數十人悉持二大印一、有二一人一、朱衣平上幘、自稱二後帝一云、以二君長者一、故來相報、三載勿レ言二富貴至極一、侃便起旋、失レ所レ在、有二大印一、作二公字一、當二其穢處一、雜五行書曰二廁神一曰二後帝一。

【後庭】522 ❶宮中の奥むき。后妃宮女の居る處。轉じて、后妃宮女をいふ。後宮。〔列子、楊朱〕穆之後庭、比レ房數十、皆擇二稚齒婑媠者一以盈レ之。〔戰國、秦策〕君之駿馬盈二外廏一、美女充二後庭一。〔李斯、上二秦始皇一書〕趙衞之女、不レ充二後庭一、駿馬駃騠、不レ實二外廏一。〔漢書、王商傳〕後庭之事、皆受二命皇太后一。〔後漢書、劉玄傳〕日夜與二婦人一飮二讌後庭一。〔魏志、高柔傳〕後庭之數、或後過レ之。❷家の裏にある庭園。おくには。〔漢書、郊祀志下〕告二祠世宗廟一日、有二白鶴一集二後庭一。

【後庭宴】523 詞牌の名。〔庚溪詩話〕宋、宣和中、掘レ地得二石刻唐詞一、調名二後庭宴一。

【後庭花】524 ❶樂府清商曲、呉聲歌曲の名。陳の後主は每に賓客を引いて貴妃等と遊宴し、諸々の貴人・學士及び狎客等と新詩を賦して相贈答したが、其の尤も華麗なものを采つて曲調と爲し、宮女で容色のすぐれた者千數百人を選んで之を歌はしめた。其の曲に玉樹後庭花・臨春樂等がある。皆、張貴妃・孔貴嬪の容色を讚美したものである。〔樂府詩集、清商曲辭、呉聲歌曲、玉樹後庭花〕隋書樂志曰、陳後主於二清樂中一造二黃驪留及玉樹後庭花・金釵兩鬢垂等曲一、與二幸臣等一製二其歌詞一。〔陳書、後主張貴妃傳〕後主每引二賓客一、對二貴妃等一遊宴、則使下諸貴人、及女學士與二狎客一、共賦二新詩一、互相贈答上、採二其尤豔麗者一以爲二曲詞一、被以二新聲一、選下宮女有二容色一者上以二千百數一令二習而謌一レ之、分部迭進、持以相樂、其曲有二玉樹後庭花・臨春樂等一、大指所レ歸、皆美二張貴妃・孔貴嬪之容色一也。〔隋書、音樂志上〕陳後主於二清樂中一造二黃驪留及玉樹後庭花・金釵兩臂垂等曲一、與二幸臣等一製二其歌詞一、綺豔相高、極二於輕薄一、男女唱和、其音甚哀。❷詞牌の名。後庭花・玉樹後庭花・後庭花破子の三がある。後庭花破子は小令で仙呂調、他の二は曲調未詳。〔碧雞漫志〕玉樹後庭花、陳後主造、其詩皆以配二聲律一、遂取二一句一爲二曲名一、僞蜀時、孫光憲・毛熙震・李珣有二後庭花曲一、皆賦二後主故事一、不レ著二宮調一。〔樂書〕本清商曲賦二後庭花一、孫光憲・毛熙震、都賦レ之、又有二後庭花破子一、李後主・馮延巳、相率爲レ之、俱與二古體玉樹後庭花一異。〔詞譜、後庭花破子、注〕太平樂府注二仙呂調一、此金・元小令、與二唐詞後庭花・宋詞玉樹後庭花一異、所謂破子者、以二其繁聲入レ破一也。❸曲牌の名。北曲においては仙呂調隻曲に入れる。破子體の曲である。〔陳後主、玉樹後庭花〕麗宇芳林對二高閣一、新粧豔質本傾レ城、映レ戶凝嬌乍不レ進、出レ帷含レ態笑相迎、妖姬臉似二花含一レ露、玉樹流光照二後庭一。〔杜牧、泊二秦淮一詩〕商女不レ知亡國恨、隔レ江猶唱後庭花。❹戲曲の名。元、鄭廷玉作。原名は包龍圖智勘後庭花雜劇。趙忠の妾の翠鸞といふものが旅店で殺され、死屍を井中に投ぜられたが、此の時、旅店に宿泊した客の劉天義が女を匿した疑を受けたのを、名判官の包拯が裁判して一切を明白にする筋。❺雞頭花の一種。〔碧雞漫志〕呉蜀鷄冠有二一種小者一、高不レ過二五六寸一、目曰二後庭花一。

【後提】525 三段論法で、前提と結んで斷案をなす命題。小前提。

【後睇】526 しりへをながめる。〔江總、大莊嚴寺碑〕後睇則紫閣九重、連二雙闕之聳峭一。

【後霆】527 雷鳴の餘聲。雷の後まで續いて、ごろごろと鳴る音。〔李覯、長江賦〕前雷後霆、冰堆雪層。

【後鄭】528 東漢の經學者鄭玄を鄭衆に對して稱するよび名。先鄭（**1**－**1349**‥170）を見よ。

【後聽】529 後世にきく人。又、後日の噂。〔蜀志、楊戲傳〕並述二休風一、動二于後聽一。

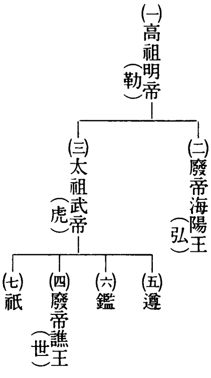
【後凋】530 後彫を見よ。

【後彫】531 凋むにおくれる。他のものの凋れた後まで凋れずに殘ること。君子の晚節ある喩。〔論語、子罕〕歲寒、然後知二松柏之後一レ彫也。〔晏殊、中園賦〕或後彫而秀出、或總翠以相先。〔杜甫、哭二王彭州掄一詩〕翠石俄雙表、寒松竟後彫。

【後彫節】532 しぼむにおくれるみさを。他の草木が霜雪に凋む時に、獨り踏み止まる松柏の意氣。艱苦に屈しない節操。〔論語、子罕〕歲寒、然後知二松柏之後一レ彫也。

【後朝】533（コウテウ） ❶後の朝廷。或る王朝の次に建つた王朝。〔隋書、李德林傳〕唯可㆓二代相涉、兩史並書㆒、必不㆑得㆘以㆓後朝創業之迹㆒斷入㆗前史㆖。❷其の翌朝。明くる朝。〔運步色葉集〕後朝。❸（キヌギヌ）男女相寐て、明朝各自の衣を着て別れること。又、男女が共に寢た翌朝。後朝の別れ。〔宇津保物語、國讓、中〕おのがきぬぎぬなるぞ悲しき。〔靑樓年中行事、下〕後朝のきぬぎぬに雨を見ては居續せんことを思ふは。

【後趙】534（コウテウ） 國の名。晉代十六國の一。姓は石氏。羯人。東晉の元帝の大興二年に、石勒が趙王と稱して鄴に都し、後、帝を稱して國號を趙とした。史に之を後趙といふ。石勒が死んで子の弘が立つた時、勒の從子の石虎が弘を弑し、自立して居攝天王といひ、穆帝の永和五年、皇帝と稱した。次いで子の世が立つたが兄の遵が弑して自立し、其の年、石鑒がまた遵を弑して自立し、明年、冉閔に弑せられた。閔立つて國を魏と號した。史に之を冉魏といふ。八年、冉閔は石祗を殺して自立した趙將の劉顯を殺したが、同年、燕に亡ぼされた。凡て二姓、八主三十三年、鄴は今、河南省臨漳縣の西南、襄國は今、河北省邢臺縣の西南。其の盛時には今の河北・山東・山西・河南・湖北、及び安徽の北部、陝西の中部、東北部、甘肅の東部の地を領し、十六國中の最強國であつた。略系は次の如くである。



〔十六國春秋、後趙錄〕十一月、勒卽位、改㆑元稱㆓趙王㆒。〔資治通鑑綱目〕晉元帝太興二年冬十一月、石勒卽㆓趙王位㆒稱㆓元年㆒、是爲㆓後趙㆒。

【後趙廢帝】535（コウテウノハイテイ） ❶石弘（8－24024・・304）を見よ。❷石世（8－24024・・452）を見よ。

【後趙武帝】536（コウテウノブテイ） 石虎（8－24024・・283）を見よ。

【後趙明帝】537（コウテウノメイテイ） 石勒（8－24024・・865）を見よ。

【後條】538（コウデウ） ❶後のすぢみち。〔沈約、内典序〕或詞義離斷、或文字互出、甫涉㆓後條㆒、已昧㆓前覽㆒。❷後に出てゐる條文。

【後敵】539（コウテキ） ❶後方で敵對する。〔摭言〕周緘爲㆓角觝賦㆒云、前衝後敵、無㆑非㆓有力之人㆒。❷後方の敵。

【後哲】540（コウテツ） 後世の哲人。先哲（1－1349・・174）の對。〔晉書、姚興載記下〕不㆘採㆓將於往賢㆒、求㆗相於後哲㆖。〔吳仲舒、南風之薰賦〕歌㆓南風之薰㆒兮肇㆑自㆓前烈㆒、美㆓凱風以時㆒兮流㆓乎後哲㆒。

【後跌】541（コウテツ） あとになつてつまづきたふれること。あとで失敗する。〔易林〕盛中後跌、衰者復掇。

【後轍】542（コウテツ） 今から後のみち。〔左思、魏都賦〕揆㆓既往之前跡㆒、卽㆓將來之後轍㆒。

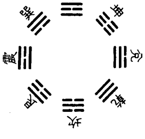
【後躡】543（コウデフ） 後から追ひかける。〔蘇轍、次㆓韻孔平仲著作見㆑寄詩㆒〕前瞻意不㆑遠、後躡愈難㆑逐。

【後天】544（コウテン） ❶天に後れる。大人は天地と德を同じくしてゐるので、天の時に後れて行動しても、天に違ふことが無い。先天（1－1349・・177）の對。〔易、乾〕文言曰、先㆑天而天弗㆑違、後㆑天而奉㆓天時㆒。〔疏〕先㆑天而天弗㆑違者、若在㆓天時之先㆒行㆑事、天乃在㆑後不㆑違、是天合㆓大人㆒也、後㆑天而奉㆓天時㆒者、若在㆓天時之後㆒行㆑事、能奉㆓順上天㆒、是大人合㆑天也。〔論衡、初稟〕夫大人與㆓天地㆒合㆓其德㆒、與㆓日月㆒合㆓其明㆒、與㆓四時㆒合㆓其序㆒、與㆓鬼神㆒合㆓其吉凶㆒、先㆑天而天不㆑違、後㆑天而奉㆓天時㆒、如㆘必須㆓天有㆑命乃以從㆖㆑事、安得㆓先㆑天而後㆑天乎、以㆘其不㆑待㆓天命㆒、直以㆑心發㆖、故有㆓先天後天之勤㆒、言合㆓天時㆒、故有㆓不㆑違㆑奉㆑天之文㆒。❷曆が天の正しい時に後れる。〔宋書、律曆志下〕古之六術、並同㆓四分㆒、四分之法、久則後㆑天、以㆑食檢㆑之、經㆓三百年㆒輒差㆓一日㆒。〔唐書、曆志三上〕古曆冬至、皆起㆓建星㆒、兩漢冬至、日皆後㆑天。〔宋史、律曆志七〕舊曆氣節加時、後㆑天半日、五星之行差半次、日食之候差十刻。❸長壽をいふ。〔李商隱、爲㆓榮陽公㆒賀㆓老人星見㆒表〕皇心載裕、靈鑒孔昭、況居㆓率土之濱㆒、皆慶㆓後㆑天之壽㆒。〔李白、飛龍引〕紫皇乃賜㆓白兔所㆑擣之藥㆒、方後㆑天而老㆓凋三光㆒。〔注〕言㆔三光有㆓時凋落㆒、而此之眞身則長存也。❹生れてから後に心身に受けた事柄。先天（1－1349・・177）の對。❺後天的の略。後天的を見よ。❻hou^4 t'ien^1 明後日。

【後天學】545（コウテンガク） 後天圖を見よ。

【後天性】546（コウテンセイ） 宋儒の說で、人が生後に、身體の狀況、社會の境遇習慣等の經驗によつて得た氣性、卽ち氣質の性。先天性（1－1349・・178）の對。

【後天圖】547（コウテンヅ） 文王八卦ともいひ、八卦の方位を示したもので、震を東、兌を西、離を南、坎を北、艮を東北、乾を西北、巽を東南、坤を西南とする。〔皇極經世心易發微、後天八卦圖〕後天爲㆓流行之用㆒、出㆓乎震㆒、齊㆓乎巽㆒、相㆓見于離㆒、致㆓役乎坤㆒、說㆓言乎兌㆒、戰㆓乎乾㆒、勞㆓乎坎㆒、成㆓言乎艮㆒、此文王方位之圖、易之用也、先天之離東坎西、象㆔日月之出㆓卯酉㆒、後天之離南坎北、象㆔日月之正㆓子午㆒、先天非㆓後天㆒、則無㆔以成㆓其變化㆒、後天非㆓先天㆒、則不㆑能㆓以自行㆒也。



後天八卦方位
（協紀辨方書）

【後天的】548（コウテンテキ） 既に得た結果から推理して得る知識。又、既に得た知識を本として、吾人の感官で知覺したものをいひ、又、經驗から生ずるものをいふ。

【後忝】549（コウテン） 後に恩命を拜する。〔李商隱、爲㆓崔從事㆒謝㆑辟問〕吳公之薦㆓賈誼㆒、未㆑塞㆓前叨㆒、竇融之擧㆓班彪㆒、仍當㆓後忝㆒。

【後添】550（ノチゾヒ） 再度の妻。後妻。

【後田】551（シレダ） 紀伊國の地名。

【後拈】552（ヲサマ） 姓氏。〔姓林全書〕。

【後傳】553（コウデン） 前傳に繼いで作つた傳。〔後漢書、班彪傳〕彪乃繼採㆓前史遺事㆒、傍貫㆓異聞㆒、作㆓後傳數十篇㆒、因斟㆓酌前史㆒、而譏㆓正得失㆒。

【後殿】554（コウデン） ❶后妃官女の居る所。奧御殿。〔後漢書、明德馬皇后紀〕時新平主家御者失㆑火、延及㆓北閣後殿㆒、太后以爲㆓己過㆒、起居不㆑歡。❷しんがり。殿軍。〔後漢書、輿服志上〕輕車爲㆓後殿㆒焉。〔陳書、陳寶應傳〕法氍戒㆓嚴中流㆒、以爲㆓後殿㆒。〔梁獻、出師賦〕後殿未㆑出㆓於朝廷㆒、前驅已羅㆓乎郊國㆒。

【後兔】555（コウト） 後の兔。〔郝經、虎文龍馬賦〕前鳳後兔、宛轉卻顧。

【後徒】556（コウト） 後の信徒。〔齊己、弔㆓雙泉大師眞塔㆒詩〕後徒遊禮者、猶㆓認㆑指迷㆒㆑津。

【後途】557（コウト） ❶後進の進む途。〔雲笈七籤〕纂㆓妙道之遺風㆒、可㆘以導㆓引末俗㆒、開㆗曉後途㆖者矣。❷後塗に同じ。〔夏侯湛、離㆑親詠〕仰戀㆓兮後途㆒、俯歎㆓兮前路㆒。

【後塗】558（コウト） 餘年。壽命。〔陸機、豫章行〕前路既已多、後塗隨㆑年侵。〔注〕善曰、前路後塗、喩㆓壽命㆒也。

【後圖】559（コウト） 將來の謀。今後の計。死後の計。〔左氏、桓、六〕鬬伯比曰、以爲㆓後圖㆒。〔淮南子、氾論訓〕使㆓管仲出㆑死捐㆑軀、不㆑顧㆓後圖㆒。〔魏志、楊阜傳〕宜㆑爲㆓後圖㆒。

【後衕】560（コウトウ） 後方のちまた。又、裏町。〔樓鑰、小谿道中詩〕後衕環村盡㆓遡遊㆒、鳳山寺下換㆓行舟㆒。

【後頭】561 hou^4 t'ou^4 後。後の方。後部。

【後頭葉】562 hou^4 t'ou^2 yeh^4 大腦の一部。視覺を掌管する處。

【後頭骨】563 hou^4 t'ou^2 ku^3 頭蓋骨（12－43490・・149）を見よ。

【後洞】564（コウドウ） ❶襃禪山にある洞穴の名。〔王安石、遊㆓襃禪山㆒記〕由㆑山以上五六里、有㆑穴窈然、入㆑之甚寒、問㆓其深㆒、則其好㆑遊者不㆑能㆑窮也、謂㆓之後洞㆒。❷うしろのほらあな。

【後動】565（コウドウ） 後に動く。後で動く。〔易、繫辭上〕議㆑之而後動。〔淮南子、原道訓〕先唱者窮之路也、後動者達之原也。〔北史、樊子蓋傳〕帝親以㆓金杯㆒屬㆓子蓋酒㆒曰、良算嘉謀、俟㆑公後動、卽以㆓此杯㆒賜㆑公、用爲㆓永年之瑞㆒。

【後得】566（コウトク） 報酬を得るを後にする。報酬を第一としない。〔論語、顏淵〕先㆑事後㆑得、非㆑崇㆑德與。〔集解〕孔安國曰、先勞㆓於事㆒、然後得㆑報。

【後得智】567（コウトクチ） 佛分別智、俗智等をいふ。根

本智より後れて得るものだからいふ。

【後牘】568 コウトク 後の書き物。〔謝靈運、山居賦〕山川澗石、洲岸草木、既標二異於前章一、亦列二同於後牘一。

【後黷】569 コウトク 晚年にけがれた行爲をすること。〔孔稚珪、北山移文〕或先貞而後黷。

【後毒】570 ゴドク 死刑の別名。〔東鑑、六、文治二年四月一日〕大藏卿殿刑部卿殿、竝北面人人事者、可レ處二霜刑一之族、不二思知一者也、後毒之眷也。

【後突】571 コウトツ うしろを突く。〔宋史、路振傳〕圍人負レ糾、武士索レ鐵、前遮後突、雷動地裂、忽挽レ一而制レ百、終伏レ檻而受レ紲。

【後腦】572 コウナウ 腦の一部。全身の運動を主宰するところ。小腦。

【後難】573 コウナン 後のなんぎ。後日の災難。後患。後艱。〔逸周書、祭公解〕丕則無レ遺二後難一。〔晉書、杜預傳〕雖二人心不レ同、亦由二恃レ恩不レ慮二後難一。

【後任】574 コウニン ❶後の任務。〔南史、王華傳〕文帝將三入奉二大統一、乃留レ華總二後任一。❷前任者に代つて後をつぐこと。又、其の人。〔元史、選擧志四、考課〕餘月日、與二後任月日一、依二准定資品一通理。

【後寧】575 コウネイ 明代、交趾の黎寧の年號。

【後年】576 コウネン ❶明年。後世には明後年をいふ。〔過庭錄〕晉書杜預傳、啓請二伐レ吳之期一、帝報待二明年一、預表二陳至計一、中云、若當レ待二後年一、天時人事、不レ得レ如レ常、後年謂二後一年一、卽明年也、與下今以二明年之後一年一爲二後年一者上異。❷のちの年。のちの世。

【後波】577 コウハ 後から起る波。〔劉禹錫、浪淘沙詞〕流水淘沙不二暫停一、前波未レ滅後波生。

【後派】578 コウハ 後の流れ。〔元好問、觀二浙江漲一詩〕千帆鼓二前浪一、萬馬接二後派一。

【後拜】579 コウハイ 後に拜する。〔隋書、禮儀志四〕皇后先拜後起、皇帝後拜先起、帝升レ自二西階一、詣同レ牢坐。

【後背】580 コウハイ うしろ。背面。〔劉因、渡江賦〕前喉後背、左排右掖。

【後旆】581 コウハイ うしろのはた。〔李紳、到二宣武一詩〕躍魚連二後旆一、騰虎耀二前旌一。

【後敗】582 コウハイ 後で敗れる。後の失敗。〔宋書、王鎭惡檀韶傳論〕後敗責二其前功一、一眚虧二其盛業一。

【後輩】583 コウハイ 後進のともがら。後進。先輩（1－1349・・208）の❶の對。〔蔡邕、陳二政要七事一疏〕前至得レ拜、後輩被レ遺。〔舊唐書、劉禹錫傳〕貞元末、王叔文於二東宮一用レ事、後輩務レ進、多附二麗之一。〔白居易、長洲曲新詞〕後輩風流是阿誰。〔全唐詩話〕使二前賢失レ歩、後輩卻立一。

【後踣】584 コウボク しりへにつまづきたふれる。〔孫樵、祭二梓潼帝君一文〕會昌五年、夜躋二此山一、凍雨如レ泣、滑不レ可レ陟、滿眼漆黑、索レ途不レ得、跛馬慍僕、前仆後踣。

【後方】585 コウハウ ❶後部が四角なこと。〔隋書、禮儀志七〕通天冠平冕、其制、玄表朱綠裏、廣七寸長尺二寸、加二於通天冠上一、前垂四寸、後垂三寸、前圓而後方。❷うしろのかた。うしろがは。

〖後方勤務〗586 コウハウキンム ❶後方に於ける務。❷出征軍の後方にあつて、其の軍の給養補充等をなすつとめ。

〖後方羊蹄〗587 シリベシ 北海道の地名。後方羊蹄山は蝦夷富士の別名。〔日本書紀〕。

【後報】588 コウハウ ❶報知を後にする。後で報らせる。❷あとからの報知。

【後萢】689 ウシロヤチ 陸奥國の地名。

【後亡】590 コウバウ 後に亡びる。後れて亡びる。〔左氏、襄、二十七〕詩以言レ志、志誣二其上一而公怨レ之、以爲二賓榮一、其能久乎、幸而後亡、云云、文子曰、其餘皆數世之主也、子展其後亡者也、在レ上不レ忘レ降、印氏其次也、樂而不レ荒、樂以安レ民、不レ淫以使レ之、後亡不二亦可一乎。〔史記、燕召公世家贊〕然社稷血食者八九百歲、於二姬姓一獨後亡、豈非二召公之烈一邪。

【後房】591 コウバウ 姬妾の居る所。おくむきのへや。後殿。後宮。〔史記、武安侯傳〕前堂羅二鐘鼓一、立二曲旃一、後房婦女以レ百數。〔漢書、史丹傳〕僮奴以レ百數、後房妻妾數十人、內奢淫好二飲酒一、極二滋味聲色之樂一。〔阮籍、清思賦〕太陰潛二乎後房一兮、明月耀二乎前庭一。〔晉書、石崇傳〕崇財產豐積、室宇宏麗、後房百數、皆曳二紈繡一、珥二金翠一。〔梁書、夏侯夔傳〕夔性奢豪、後房伎妾、曳二羅縠一飾二金翠一者、亦有二百數一。

〖後房水〗592 hou^4 fang^2 shuei^3 前房水と同じく眼球內の液體。無色透明で濃厚、睛珠座の內に在り。

〖後房夫人〗593 コウバウフジン 妾をいふ。〔還魂記、冥判〕判爺權收做二個後房夫人一。

【後貌】594 コウバウ 後の容貌。年をとつてからのすがた。〔白居易、香山居士寫眞詩〕前形與二後貌一、相去三十年。

【後白】595 コウハク しりへが白い。〔宋書、天文志四〕大明六年五月、有レ星、前赤後白、大如レ甌長十餘丈、出二東壁一北西行、沒二天市一啾啾有レ聲。

〖後白河〗596 ゴシラカハ 第七十七代の帝謚。（1156－1158）〔玉海〕建久三年三月十四日丙戌、昨日於二舊院一、院司公卿參集、被レ定二院號後白河院一。

【後麥】597 コウバク あとから來るむぎ。〔後漢書、朱浮傳〕浮上疏、詔報曰、今軍資未レ克、故須二後麥一耳。

【後罰】598 コウバツ 罰を後にする。人を罰することを二の次とする。〔禮、表記〕先レ賞而後レ罰。

【後法】599 コウハウ 後の世のおきて。後世ののり。〔漢書、張山拊傳〕公叔文子卒、衞侯加以二美謚一、著爲二後法一。〔魏志、明帝紀〕隨二時之宜一、未レ有二定制一、非四所三以永爲二後法一也。

【後半】600 コウハン 後の半分。前半の對。

〖後半天〗601 hou^4 pan^4 t'ien^1 午後。

〖後半夜〗602 hou^4 pan^4 yeh^4 夜中、夜半。

【後判】603 コウハン 後の裁判。後の判決。前判（2－2011・・346）の對。

【後範】604 コウハン 後世の規範。後法（599）に同じ。〔顏氏家訓、序致〕故留二此二十篇一、以爲二汝曹後範一耳。

【後挽】605 コウバン 後方にひく。〔柳貫、過閘行〕南檣北柁越レ埭來、後挽前抽爭二一跬一。

【後卑】606 コウヒ ❶身分のいやしい者を後にする。〔詩、大序、上以風二化下一、下以風二刺上一、疏〕上以風二化下一者、以二其教從レ君來、上下俱用、故先レ尊後レ卑。〔周禮、天官、小宰、以二官府之六敍一正二羣吏一、注〕敍秩次也、謂二先レ尊後レ卑也。〔黃庭內景經〕前昂後卑高下陳、執レ劍百丈無二錦幡一。❷後がひくい。

【後碑】607 コウヒ 碑陰をいふ。〔碑版廣例〕後碑者、卽碑陰也、漢碑陰、類多二題名一、或補二前碑所レ未レ及、無二大論著一、惟史晨及孫叔敖後碑所レ書雜事、猶二之續記後記一、乃創例也、亦卽昌黎上巳讌二太學一聽レ琴詩敍所二自出一。

【後尾】608 コウビ うしろ。しりへ。

【後備】609 コウビ ❶あとぞなへ。後詰の兵。〔范成大、太守出レ郊詩〕棨戟前驅留佳月、笙簫後備帶行春。❷後備兵の略。

〖後備役〗610 コウビエキ もと豫備兵役を經過した者の服する兵役。其の期間は、陸軍十年、海軍五年。之を經過すれば國民兵役となる。

〖後備軍〗611 コウビグン ❶後備兵を以て組織した軍隊。❷後方の備にある軍勢。

〖後備兵〗612 コウビヘイ もと後備役にある兵士。

【後謬】613 コウビウ のちのあやまり。〔宋書、孔琳之傳〕固當下式二遵先典一、釐中革後謬上。

【後賓】614 コウヒン 後れて從ひ服する。他の國々よりも後に來貢する。〔南齊書、竟陵文宣王子良傳〕荒服侍レ遠後賓、固亦恒事。

【後便】615 コウビン あとのたより。後信。〔運步色葉集〕後便。

【後敏】616 コウビン 明、當塗の人。永樂の進士。官は陝西布政司參議。人の怨を受けて陷られ、逮へられて途に死した。〔本朝分省人物攷、四十〕。

【後夫】617 コウフ ❶後れる。後れて至る。夫は助辭。〔易、比〕不レ寧方來、後夫凶。〔疏〕後夫凶者、夫、語辭也、親比貴レ速、若及レ早而來、人皆親レ己、故在レ先者吉、若在レ後而至者、人或疎レ己、親比不レ成、故後夫凶、或以レ夫爲二丈夫一、謂二後來之人一也。〔何承天、鼓吹鐃歌、雍離篇〕歸德戒二後夫一、賈勇尚二先鳴一。❷前夫の後に迎へた夫。二度目の壻。後添の亭主。〔顏氏家訓、後娶〕凡庸之性、後夫多寵二前夫之孤一、後妻必虐二前妻之子一。

〖後夫人〗618 コウフジン 後妻をいふ。〔稱謂錄、後妻、後夫人〕韓愈清邊郡王楊燕青碑文、後夫人、河南郡夫人雍氏、某官之孫、某官之女、有二男二人一、有二女一人一、案、此碑上文已載二夫人李氏一、而又載二後夫人稱一、王之後妻也。

【後父】619 コウフ 母に對して先に禮をつくして、父への禮をあとにする。蕃人の風俗。〔唐書、安祿山傳〕時楊貴妃有レ寵、祿山請レ爲二妃養兒一、帝許レ之、其拜必先レ妃後レ帝、帝怪レ之、答曰、蕃人先レ母後レ父、帝大悅。

【後婦】620 コウフ 二度目に迎へた妻。のちぞひ。後妻。〔襄陽耆舊傳〕漢末諸蔡最盛、蔡諷姊適二太尉張溫一、長女爲二黃承彥妻一、小女爲二劉景升後婦一。〔辛延年、羽林郎詩〕男兒愛二後婦一、女子重二前夫一。

【後武】621 コウブ 武力を後にする。武力を二の次とする。〔呂覽、上德〕周明堂、金在二其後一、有三以見二先レ德後レ武也。

【後部】622 コウブ ㊀後方の部落。前部の對。〔後漢書、西域傳〕自二伊吾一北通二車師高昌壁一千二百里、自二高昌壁一北通二後部金滿城一五百里。㊁百濟國の都下五部の一。〔北史、百濟國傳〕都下有レ方、分爲二五部一、曰、上部・前部・中部・下部・後部。㊂川の名。安徽省太湖縣の西北。源は潛山縣の天堂山、上流は銀河、下流は龍灣河となり、更に馬路河となる。〔讀史方輿紀要、江南、安慶府、太湖縣〕後部河、其上流爲二銀河一、源出二潛之天堂山一、入二縣境一、經二橫崖一而入二後部河一、又有二羊角河一、源出二英山縣界一、流八十里、而匯二於後部河一、並流而東南、凡六十里、合二龍灣河一、亦東達二於馬路河一。㊃うしろの部分。うしろの方。前部(**2**－**2011**・・357)の㊀の對。

【後舞】623 コウブ 武舞の名。晉の武帝の泰始九年に作る。宋の武帝の永初元年、正德を前舞、大豫を後舞と改めた。〔宋書、樂志一〕宋武帝永初元年十二月、改二正德舞一曰二前舞一、大豫舞曰二後舞一。〔南齊書、樂志〕前舞後舞、晉泰始九年造、正德・大豫舞、傅玄・張華各爲二歌辭一。

【後廡】624 コウブ 後方のひさし。〔宋史、禮志四〕禮官議二諸神位一未レ決、帝諭二文彥博等一曰、郊壇第一龕者在レ堂、第二第三龕設二於左右夾廡及龍墀上一、在二壝內外一者、列二於堂東西廂及後廡一、以象二壇壝之制一。

【後風】625 コウフウ 後にのこされたやうす。おもむき。遺風。〔孔叢子、答問〕子曰、先生眞聖人之後風也。

【後服】626 コウフク 後れて降服する。又、其のもの。〔公羊、僖、四〕楚有二王者一則後服、無二王者一則先叛。〔史記、張儀傳〕天下有二後服者一先亡。〔後漢書、皇甫嵩傳〕振レ武以臨二後服一。〔沈約、應レ詔樂游苑餞二呂僧珍一詩〕命レ師誅二後服一、授レ律綏二前禽一。

【後腹】627 アトバラ ㊀產後に腹の痛むこと。〔松風村雨束帶鑑〕後腹病まずの片破れ船。㊁事の果てたる後に障害を起すこと。〔好色一代女〕あとはらやまずに、仕切銀のうち二貫目出して。

【後福】628 コウフク 未來の幸福。後に受ける幸福。〔後漢書、蔡邕傳論〕資二同人之先號一、得二北叟之後福一。〔後漢書、左雄傳〕白璧不レ可レ爲、容容多二後福一。〔通俗編、境遇、後福〕御史臺記、陸元方爲二鸞臺鳳閣侍郎一、臨レ終曰、吾陰二騭于人一多矣、其後福必不レ衰也。

【後拂】629 アトバラヒ ㊀葬式が出たのち、そのあとを祓ひ清めること。㊁品物を受け取つて、あとから金錢を支拂ふこと。

【後佛】630 ゴブツ 佛後世にこの娑婆世界に色身を現ずる佛。釋迦の後、五十六億七千萬年を過ぎて出現すべしと傳へられる彌勒菩薩をいふ。〔沈約、千佛讚〕先佛後佛、跡冏二隆窊一。

【後忿】631 コウフン 後のいかり。〔後漢書、桓譚傳〕今人相殺傷、雖二已伏レ法、而私結二怨讎一、子孫相報、後忿深レ前、至三於滅レ戶殄レ業、而俗稱二豪健一、故雖レ有二怯弱一、猶勉而行レ之。

【後文】632 コウブン 文德を後にする。又、文飾を後にする。後は、二の次とする意。〔楚辭、大招〕先レ威後レ文、善美明只。〔春秋繁露、玉林〕春秋之序レ道也、先レ質而後レ文、右レ志而左レ物。

【後聞】633 コウブン ㊀後で上聞に達する。〔元史、世祖紀七〕凡中書省、樞密院、御史臺、及百司之事、皆先啓後聞。㊁のちに聞く。後のきこえ。後世の評判。〔源平盛衰記、三十八、熊谷送二敦盛頸一〕直實申所眞僞、定後聞無二其隱一候歟。

【後兵】634 コウヘイ 後づめの兵。後軍。〔梁簡文帝、隴西行〕減レ竈驅二前馬一、銜レ枚進二後兵一。

【後屛】635 コウヘイ 行列の後を守護する役。後方の垣となつておほひまもる義にとる。〔元史、輿服志三、儀衞〕執人佩レ劍、護人加二弓矢一、後屛五人、執二稍朱兜鍪朱甲雲頭靴一。

【後閉】636 コウヘイ しりへをとざす。〔雲笈七籤〕前閉後閉、天平地昂。

【後表】637 コウヘウ 田獵の時、進退の行列を正すために建てる最北の標識。最南を前表といふ。〔周禮、夏官、大司馬〕田之日、司馬建二旗于後表之中一。〔孫詒讓正義〕萊二所レ田之野一、廣平無二畔限一、故樹レ木爲レ表、標二識步數一、以正二進退之行列一也、云云、詒讓案、此謂二最北一表一爲二後表一、以二南五十步一爲二二表一、又南百步爲二三表一、又南百步爲二四表一、謂二之前表一。

【後壁】638 コウヘキ 後方のかべ。〔宋書、禮志二〕宋孝武大明五年閏月、皇太子妃薨、樟木爲レ櫬、號曰二樟宮一、載以二龍輴一、造二陵於龍山一、祔二文元皇后廟之陰一、室在二正堂後壁之外一北向。

【後篇】639 コウヘン 後の篇卷。後編。前篇の對。〔後漢書、班彪傳〕今此後篇、愼二覈其事一、整二齊其文一。

【後變】640 コウヘン 後の變事。〔隋書、梁士彥傳〕朕無二前慮一、惟恐二後變一、善爲レ我守レ之。〔唐書、韋陟傳〕是恐三廣琛有二後變一、乃馳往諭詔、恩釋二其疑一而後趨召。

【後勉】642 コウベン 後に勉める。〔詩、周南、汝墳序〕婦人能閔二其君子一、猶勉レ之以レ正也、〔疏〕閔者、情所二憂念一、勉者、勸レ之盡レ誠、欲レ見下情雖二憂念一、猶能勸勉上、故先閔而後勉也。

【後圃】643 コウホ 裏の畑。〔隋書、王貞傳〕前園後圃、從容丘壑之情。〔范成大、題二夫差廟一詩〕夢見三梧桐生二後圃一、眼看三麋鹿上二高臺一。

【後浦】644 コウホ 後方の水濱。〔王維、林園卽事寄二舍弟紞一詩〕後浦通二河渭一、前山包二鄢郢一。〔李白、月夜江行詩〕岸曲迷二後浦一、沙明瞰二前洲一。

【後母】645 コウボ 前妻の子が父の後妻を呼ぶ語。繼母。〔史記、平津侯傳〕公孫弘養二後母一孝謹。〔漢書、匈奴傳上〕父死妻二其後母一、兄弟死、皆取二其妻一妻レ之。〔後漢書、鮑永傳〕永少有二志操一、習二歐陽尙書一、事二後母一至孝、妻嘗於二母前一叱レ狗、而永卽去レ之。〔阮瑀、駕出二北郭門一行〕親母舍レ我歿、後母憎二孤兒一。〔顏氏家訓、後娶〕從舅殷外臣、云云、有レ子基諶、皆已成立、而再娶二王氏一、基每三拜二見後母一、嗚咽不レ能二自持一。

【後媽】646 hou^4 ma^1 繼母。後娘。

【後峯】647 ゴホウ うしろのみね。後方の山。〔韋莊、潁陽縣詩〕何處留二詩客一、茆簷倚二後峰一。

【後棒】648 アトボウ 駕の後方を舁く人夫。〔川傍柳、五〕後棒は肩にくらべて切つたやう。

【後卜】649 コウボク 卜を後にする。卜を第二とする。〔周禮、春官、簭人〕凡國之大事、先レ簭而後レ卜。〔疏〕此大事者、卽大卜之八命、及大貞大祭祀之事、大卜所レ掌者、皆是大事、皆先レ筮而後レ卜。

【後末】650 コウマツ ㊀末のことを後にする。先に本を務める。〔呂覽、孝行〕凡爲二天下一、治二國家一、必務レ本而後レ末。㊁終り。末。

【後民】651 コウミン 後世の人民。〔書、召誥〕越厥後王後民、茲服二厥命一。

【後名】652 コウメイ ㊀名聞を後にする。評判を第二と考へる。〔後漢書、龐參傳〕時人或譏二其太元靜、將二以後レ名失レ實、駟擬二揚雄解嘲一、作二達旨一以答焉。㊁後の名。〔宋書、州郡志一〕丹徒令、本屬二晉陽一、古名朱方、後名谷陽、秦改曰二丹徒一。㊂後世の名譽。死後に殘す名。〔運步色葉集〕後名。

【後命】653 コウメイ 後の命令。續いての命令。次の命令。〔左氏、僖、九〕王使三宰孔賜二齊侯胙一曰、天子有レ事二于文武一、使三孔賜二伯舅胙一、齊侯將二下拜一、孔曰、且有二後命一、天子使二孔曰一、以二伯舅耋老一、加勞賜二一級一、無二下拜一。〔國語、齊語〕且有二後命一。〔陸機、吳王郞中時從二梁陳一作詩〕契闊踰二三年一、薄言肅二後命一。〔陳書、武帝紀上〕又加二公九錫一、其敬聽二後命一。〔潘勖、冊二魏公九錫一文〕今又加二君九錫一、其敬聽二後命一。

【後明】654 コウメイ 明、莫是龍(**9**－**31078**・・110)の號。

【後盟】655 コウメイ 策書に於ては、會を先に記して、ちかひを後で書く。〔春秋、隱、元、公及二邾儀父一盟二于蔑一、疏〕劉炫云、策書之例、先レ會後レ盟者、上言レ會、下言レ盟。

【後銘】656 コウメイ あとから銘を作る。〔袁淑、防禦索虜議〕俾二高闕再勒一、燕然後銘。

【後面】657 コウメン うしろがは。背面。〔金闕帝君三元眞一歌訣〕陽明陰精一星在二後面一、元冥眞人在二前面一。〔楊萬里、舟過二桐廬一詩〕後面山無レ數、南頭柳更多。

【後嘿】658（コウモク） 後になつて沈默する。〔戰國、燕策〕先趣而後息、先問而後嘿、則什レ已者至。

【後門】659（コウモン） ❶後方の門。うしろの門。裏門。〔易林〕公孫幽遏、跛倚二後門一。〔南齊書、褚伯玉傳〕父爲レ婚、婦入二前門一、伯玉從二後門一出。〔南史、何點傳〕點從二後門一遁去。〔李商隱、蜂詩〕小苑華池爛熳通、後門前檻思無レ窮。〔朱舜水、南公贊〕諺云、前門拒レ狼、後門進レ虎。❷北京內城の後門。地安門をいふ。前門(2－2011‥376)の❷を見よ。❸門におくれる。日が暮れて城門が已に閉ざされること。宿る處のない意。〔呂覽、長利〕戎夷違レ齊如レ魯、天大寒而後レ門。〔注〕後レ門、日夕、門已閉也。

〖後門狼〗660（コウモンノオホカミ） 禍災が後から續いて起ること。前門拒レ虎後門進レ狼(2－2011‥377)を見よ。

【後夜】661（ゴヤ） 夜から朝までの稱。初夜(2－1911‥222)の對。〔劉長卿、喜下鮑禪師自二龍山一至上詩〕猿聲知二後夜一、華發見二流年一。〔曹松、秋日送三方干遊二上元一詩〕後夜分二遙念一、諸峯霧露生。〔戴叔倫、送二別錢起一詩〕後夜同二明月一、山窗定憶レ君。

【後楊】662（コウヤウ） 宋の楊泰之をいふ。張義の後を受けて、楊泰之が民に恩德を施したことをいふ。〔宋史、楊泰之傳〕民歌レ之曰、前張後楊、惠レ我無レ疆、張謂二張義一、實自發二其端一、而泰之踵二行之一。

【後約】663（コウヤク） 約束に後れる。〔史記、高祖紀〕西入レ關而北救レ趙、後二天下約一、乃曰、懷王者、吾家項梁所レ立耳、非レ有二功伐一、何以得二主約一。

【後輿】664（コウヨ） しりへのくるま。前の輿の後に續く輿。前輿の對。〔謝惠連、長安有狹邪行〕推レ劒馮二前軾一、鳴レ佩專二後輿一。

【後來】665（コウライ） ❶今からのち。こののち。ゆくすゑ。將來。以後。〔漢書、兩粵傳〕漢兵衆強、卽幸勝レ之、後來益多。❷おくれて來る。あとから來る。后來。〔楚辭、九歌、山鬼〕余處二幽篁一兮終不レ見レ天、路險難兮獨後來。〔論衡、指瑞〕或曰、后來、之子必大貴。

〖後來佳器〗666（コウライノカキ） 將來必ず立派になる人物。將來の傑物。〔南齊書、豫章文獻王嶷傳〕入爲二宋順帝車騎諮議參軍府掾一、轉二驃騎一、仍遷二從事中郞一、詣二司徒袁粲一、粲謂レ人曰、後來佳器也。

〖後來之秀〗667（コウライノシウ） 將來の秀才。〔晉書、郭舒傳〕舒、字雅行、幼請二其母一從レ師、歲餘、便歸、粗識二大義一、咸稱二舒當レ爲二後來之秀一、終成二國器一。〔晉書、王忱傳〕嘗造二其舅范寧一、寧謂曰、卿風流儁望、眞後來之秀、忱曰、不レ有二此舅一、焉有二此甥一。

〖後來者居レ上〗668（ノチニキタルモノカミニヲル） 新參者が古參者の上位に居るをいふ。後者處レ上(344、)を見よ。〔史記、汲黯傳〕陛下用二羣臣一如レ積レ薪耳、後來者居レ上。

【後浪】669（コウラウ） 後方のなみ。〔柳貫、旦發二漁浦一夕宿二大浪灘上一詩〕後浪疊亦舒、前山過如レ矢。

【後樂】670（コウラク） ❶後で安樂する。後で樂しむ。〔大戴禮、曾子立事〕先憂レ事者後樂レ事、先樂レ事者後憂レ事。〔說苑、說叢〕先憂レ事者後樂、先傲レ事者後憂。❷天下の人の樂におくれてたのしむ。〔范仲淹、岳陽樓記〕其必曰下先二天下之憂一而憂、後二天下之樂一而樂上歟。〔名臣言行錄、范仲淹〕公少有二大節一、其於二富貴貧賤毀譽歡戚一、不三一動二其心一、而慨然有レ志二於天下一、常自誦曰、士當下先二天下之憂一而憂、後二天下之樂一而樂上也。

〖後樂園〗671（コウラクエン） ❶岡山市の舊城址に在る。池田氏の別莊で、日本三名園の一。明治四年、公園として一般遊覽の地となる。❷東京都文京區にある。水戶藩祖賴房の經營にかかる。今、公園となる。

〖後樂翁〗672（コウラクヲウ） 明、黃福(12－47926‥812)の號。

〖後樂軒〗673（コウラクケン） 明、陳璧(11－41698‥547)の室名。

〖後樂集〗674（コウラクシフ） 書名。二十卷。別本は十卷、附錄二卷。宋、衞涇撰。奏疏草詔をあつむ。〔四庫提要、集、別集類〕。

〖後樂堂〗675（コウラクダウ） 室名。❶清、吳孔嘉(2－3365‥558)の室名。❷清、張明先(4－9812‥1541)の室名。❸清、陳玉澍(11－41698‥756)の室名。

〖後樂居士〗676（コウラクコジ） 字號。❶宋、衞涇(10－34074‥27)の號。❷明、官廉(3－7107‥373)の號。

【後吏】677（コウリ） 後の役人。前吏の對。〔尉繚子、兵令下〕前吏棄二其卒一而北、後吏能斬レ之、而奪二其卒一者賞。

【後利】678（コウリ） 機會に後れて利益を逸する。〔漢書、韓安國傳〕徐則後レ利、不レ至二千里一、人馬乏レ食、兵法曰、遺二人獲一也。〔注〕師古曰、後利、謂レ不レ及二于利一。

【後率】679（コウリツ） あとのわりあひ。〔宋史、天文志五〕既乃爲二後率前率之術一以求レ之、則其說自悖矣。

【後梁】680（コウリヤウ） 朝代の名。❶姓は蕭氏。南北朝の時、西魏が梁を攻めて襄陽を取り、武帝の孫蕭詧を江陵に徙して梁王とした。尋いで江陵にて帝位につく。之を後梁、又北梁といふ。明帝を經て琮に至る迄、常に西魏に臣屬し、隋に滅ぼされた。凡て三世、三十三年。江陵は湖北省江陵縣治、荊州の沿江一帶の地を領す。略系は次の如くである。

高祖武帝(衍)―高宗昭明帝(昭明太子)
㈠中宗宣帝(詧)―㈡世宗孝明帝(巋)
㈢隋莒公(琮)

〔北史、僭僞附庸、梁蕭氏傳〕魏恭帝元年、周文命二柱國于謹一、伐二江陵一、詧以レ兵會レ之、及二江陵平一、周文命レ詧主二梁嗣一、居二江陵東城一、資以二江陵一州之地一。❷五代の一。姓は朱氏。五代唐の末、朱全忠が昭宗に招かれて宦官の專橫を誅戮してから以後、權威を得て政を恣にし、遂に帝を弑して哀宗を立て、次いで迫つて帝位を讓らしめて汴に都し、國を梁と號した。之を後梁の太祖といふ。汴から洛陽に徙る。卽位の後、燕王劉守光と連和して晉を侵したが、却つて晉に滅ぼされた。凡て二世、十七年。汴は今の河南省開封縣治。河南及び陝西の北部、湖北の中部の地を領す。略系は次の如くである。

㈠大祖晃(全忠)―㈡末帝(瑱)

〔五代史、梁太祖紀〕開平元年、夏四月甲子、皇帝卽レ位、國號レ梁。〔文獻通考、帝系考、帝號歷年〕後梁、太祖神武元聖孝皇帝、單州碭山縣人、姓朱氏、名晃、初名溫、賜二名全忠一、以二丁卯一受二唐禪一、卽二皇帝位一、年五十六、在位六年、壬申、爲二其子郢王友珪所一レ弒、年六十一、改元二、末帝、名瑱、太祖第三子、母張皇后、對二均王一、友珪弒逆、討二誅之一、以二癸酉一嗣レ位、在位十一年、癸未、唐兵入レ汴、爲二其下所一レ弒、年三十六、改元三、右後梁、二帝、共十七年、首二丁卯一盡二癸未一。

〖後梁宣帝〗681（コウリヤウノセンテイ） 蕭詧(9－32012‥135)を見よ。

〖後梁太祖〗682（コウリヤウノタイソ） 朱全忠(6－14424‥892)を見よ。

〖後梁末帝〗683（コウリヤウノマツテイ） 朱瑱(6－14424‥479)を見よ。

〖後梁明帝〗684（コウリヤウノメイテイ） 蕭巋(9－32012‥68)を見よ。

【後涼】685（コウリヤウ） 國の名。晉代十六國の一。姓は呂氏。略陽の氐族。呂光、秦の苻堅に仕へ、太元九年、龜茲を破つて其の城に據り、十一年、酒泉公となる。十四年、三河王と稱し、二十一年、涼天王と稱して涼州姑藏に據る。之を後涼といふ。後、三主を經、元興三年に至つて後秦の姚興に滅ぼされた。凡て二世三主、十八年。涼州姑藏は今の甘肅省武威縣で、甘涼道の東部を領した。略系は次の如くである。

㈠太祖懿武帝(光)―㈡隱王(紹)
　　　　　　　　　㈢靈帝(纂)
文帝(寶)―㈣隆

〔十六國春秋、後涼錄〕龍飛元年、五龍見二于浩亹一、羣臣咸賀、勸レ光稱レ號、六月、僭卽二天王位于南郊一。

〖後涼殿〗686（コウリヤウデン） 古、內裏の淸涼殿の西、陰明門內にあつた御殿。こうらうでん。

〖後涼後主〗687（コウリヤウノコウシユ） 蕭琮(9－32012‥206)を見よ。

〖後涼靈帝〗688（コウリヤウノレイテイ） 呂纂(2－3386‥81)を見よ。

〖後涼懿武帝〗689（コウリヤウノイブテイ） 呂光(2－3386‥48)を見よ。

【後糧】690（コウリヤウ） 軍隊の後から供給する兵糧。〔史

記、彭越傳〕彭越常往來爲二漢游兵一、撃レ楚絶二其後糧于梁地一。

【後侶】691 コウリヨ 後から來る同伴者。〔陸龜蒙、舴艋詩〕倚レ石遲二後侶一、徐レ橈供二遠山一。

【後旅】692 コウリヨ 後から來る旅人。〔易林〕輹折輪破、馬倚レ僕臥、後旅失レ宿、右足跌踒。

【後慮】693 コウリヨ あとあとの心配。後顧。〔漢書、陳餘傳〕要以倶死立レ信、安知二後慮一。

【後倫】694 コウリン 人よりおくれること。〔莊子、漁父〕春秋後レ倫。〔釋文〕朝覲不レ及二等比一也。

【後類】695 コウルイ 後のともがら。後から出て來る同類のもの。〔呂覽、當染〕絶二其後類一。

【後令】696 コウレイ 後からの命令。〔史記、廉頗傳〕趙奢曰、胥二後令一。

【後戻】697 アトモドリ ❶來し方へ引きかへす。❷巧な位置から拙い位置に移ること。退歩する。

【後嶺】698 コウレイ うしろのみね。〔李適、侍二宴安樂公主山莊一應制詩〕前池錦石蓮花豔、後嶺香鑪桂蘂秋。〔杜牧、郡齋獨酌詩〕後嶺翠撲撲、前溪碧泱泱。〔蘇軾、江上看レ山詩〕前山槎牙忽變レ態、後嶺雜遝如二驚奔一。

【後禮】699 コウレイ ❶禮をあと廻しにする。禮を輕んじて二の次にする。〔禮、表記〕殷人尊レ神、率レ民以事レ神、先レ鬼而後レ禮、先レ罰而後レ賞。〔禮、坊記〕先レ財而後レ禮則民利。❷清、無爲の人。字は鐵峯。蘭竹の畫家として有名である。〔國朝書畫家筆錄、四〕。

【後列】700 コウレツ 後方につらねる。又、後方の列。〔後漢書、馬融傳〕常坐二高堂一、施二絳紗帳一、前授二生徒一、後列二女樂一、弟子以レ次相傳、鮮レ有下入二其室一者上。〔郝經、泰山賦〕前列如レ劫、後列如レ剝、拱捧旋護、見二百工之致恪一。

【後烈】701 コウレツ 後のてがら。又、後世にのこる功勳。〔揚雄、元后誄〕内則純備、後烈丕光。〔江淹、傷二友人一賦〕百年一盡兮、貴レ揚二蕤於後烈一。

【後聯】702 コウレン 律詩の第五と第六との對句。前聯の對。頸聯(**12**−**43515**··16)に同じ。〔詩法詳論、五律四實體〕周弼曰、發首兩句平穩者、多二奇健者一、然聲大重、後聯難レ稱。

【後路】703 コウロ 後方の路。〔謝靈運、嶺表賦〕顧二後路之傾巘一、眺二前磴之絶岸一。〔北史、崔浩傳〕晉齊郡太守王懿來降、陳レ計稱、劉裕在レ洛、勸以レ軍絶二其後路一、則裕軍不レ戰而可レ克、書奏、帝善レ之。

【後樓】704 hou^4 lou^2 家の最も後方にある二階建の一棟。

【後壟】705 コウロウ うしろのをか。〔貫休、春晩書二山家屋壁一詩〕前村後壟桑柘深、東鄰西舍無二相侵一。

【後祿】706 コウロク ❶後日の福祿。〔詩、小雅、楚茨〕樂具入奏、以綏二後祿一。〔箋〕安二後日之福祿一。❷祿を後まはしにする。〔禮、坊記〕子云、禮之先二幣帛一也、欲二民之先レ事而後レ祿也、先レ財而後レ禮、則民利、無レ辭而行レ情、則民爭。

【後錄】707 コウロク 前錄に續いて編纂した記錄。〔文獻通考、經籍考、子、小說家〕聞見後錄二十卷、陳氏曰、邵某撰。

【後賄】708 コウワイ 財貨を後にする。小國が大國に事へるに、みつぎものを陳ずるのを後にすること。〔左氏、襄、二十八〕陳文子曰、先レ事後レ賄、禮也。〔注〕小國事二大國一、當下先從二其政事一而後薦レ賄以副中己心上也。

【後王】709 コウワウ 今の王。後世の王。先王(**1**−**1349**··265)の對。〔書、召誥〕越厥後王後民、茲服二厥命一。〔荀子、不苟〕百王之道、後王是也。〔史記、六國表〕傳曰、法二後王一何也。〔漢書、董仲舒傳〕五百年之閒、守文之君、當塗之士、欲下則二先王之法一、以戴中翼其世上者甚衆、然猶不レ能レ反、日以仆滅、至二後王一而後止。〔隋書、高祖紀上〕前帝後王倶在二兼濟一、立レ功立レ事、爵賞仍行、苟利二於時一、其致一レ揆。〔謝晦、悲二人道一詩〕荷二隆遇於先主一、欲レ報二之於後王一。

【後王者天下之君也】710 コウワウハテンカノキミナリ 周の文王・武王は天下の民心を得た君である。後王とは孟子の所謂先聖後聖其揆一也の後聖と同じく、周の文王・武王をさす。〔荀子、非相〕後王者天下之君也、舍二後王一而道二上古一、譬レ之是猶下舍二己之君一而事中人之君上也。

【後灣】711 コウワン 後方の灣。〔徐照、何所歸詩〕笭箵下二後灣一。

【後鞆】712 シレトモ 北海道日高國の地名。

【後櫻町】713 ゴサクラマチ 第百十七代の帝諡(1763−1770)〔實久卿記〕文化十年閏十一月十一日、午刻參二舊院一、御追號奉レ稱二後櫻町院一、於二禁中一被レ定之由、被レ示二評定一了。

【後印本】714 コウインポン 後になつてから印刷された板本。

【後宇多】715 ゴウダ 第九十一代の帝諡(1275−1287)〔皇年代略記〕元亨四年、五月二十五日、崩二於大覺寺一、同二十八日、葬二蓮華峯寺傍山一、同日先追號奉レ號二後宇多院一。

【後圓融】716 ゴエンユウ 北朝第五代の院號。〔皇年代略記〕明德四年四月二十六日、崩、同二十七日、奉二葬泉涌寺一、諡二號後圓融院一。

【後堀河】717 ゴホリカハ 第八十六代の帝諡(1222−1232)〔百鍊抄〕。

【後花園】718 ゴハナゾノ 第百二代の帝諡(1429−1464)〔皇年代略記〕文明二年十二月二十七日、俄御惱、頓崩二室町第一、始奉二號後文德院一、後改爲二後花園院一。

【後五日】719 コウゴジツ 今日より後、五日目。後、單に後日の意に用ひられる。〔通俗編、時序、後五日〕史記留侯世家、圯上父曰、後五日平明、與レ我會レ此、云云、又扁鵲傳、入朝見二齊桓侯一曰、君有レ疾在二腠理一、後五日復見曰、有レ疾在二血脈一、云云、按、兩傳云後五日、皆的定是五日也、今俗因二其文一、凡言二後日一、率以二五字一綴レ之、宋劉一止詩、更看後五日、放過前一著、已如二今俗所レ綴。

【後五代】720 コウゴダイ 唐が亡びて後、梁・唐・晉・漢・周の五代をいふ。前五代に對す。五代(**1**−**257**··780)の❷を見よ。

【後嵯峨】721 ゴサガ 第八十八代の帝諡(1243−1246)〔皇年代略記〕文永九年二月十七日、崩二於龜山殿別院藥艸院一、注、五十三、號二後嵯峨院一、依二遺敕一也。

【後朱雀】722 ゴスザク 第六十九代の帝諡(1037−1045)〔扶桑略記〕。

【後如月】723 ノチノキサラギ 閏二月の稱。如月は二月の異名。

【後深草】724 ゴフカクサ 第八十九代の帝諡(1247−1259)〔皇年代略記〕嘉元二年七月十六日、崩、號二後深草院一。

【後新秋】725 コウシンシウ 地名。滿洲遼寧省康平縣の西南。

【後水尾】726 ゴミツノヲ 第百八代の帝諡(1612−1629)〔基熙公記〕延寶八年閏八月五日、御追號之事、奉レ稱二後水尾院一。

【後石湖】727 コウセキコ 清、羅天尺(**9**−**28397**··391)をいふ。

【後撰集】728 ゴセンシフ 書名。二十卷。後撰和歌集の略。村上天皇天曆五年、大中臣能宣・清原元輔・源順・紀時文・坂上望城等が勅を奉じて古今集に漏れた歌、並にそれ以後の歌を集めたもの。

【後髯生】729 コウゼンセイ 清、李鍇(**6**−**14459**··107)をいふ。

【後醍醐】730 ゴダイゴ 第九十六代の帝諡。(1319−1338)〔神皇正統記〕。

【後桃園】731 ゴモモゾノ 第百十八代の帝諡。(1771−1779)〔後桃園院崩御記〕。

【後擋車】732 ゴタウシヤ 清の紀昀が作つた車。三品以上の者が之に乘つて宮門を出入した。兩輪が後の方にあつて軸が門旁につかへないやうにしたもの。

【後鳥羽】733 ゴトバ 第八十二代の帝諡。(1186−1198)〔百鍊抄〕後嵯峨天皇、仁治三年七月八日戊子、被レ立二山陵使一、隱岐法皇改二顯德院一、爲二後鳥羽院一、依二御遺誡一、不レ被レ置二山陵國忌一之由、被レ申畢。

【後奈良】734 ゴナラ 第百五代の帝諡。(1527−1557)〔少外記康雄記〕。

【後二條】735 ゴニデウ 第九十四代の帝諡。(1302−1308)〔皇年代略記〕德治三年八月二十五日、崩二於二條高倉皇居一、同二十七日、追二號後二條院一。

【後廢帝】736 コウハイテイ ❶南朝宋の後廢帝。劉昱(**2**−**2224**··15)を見よ。❷後魏の後廢帝。元朗(**1**−**1340**··591)を見よ。

【後柏原】737 ゴカシハバラ 第百四代の帝諡。(1501−1526)〔二水記〕大永六年四月二十七日、御追號事、可レ爲二後柏原院一之由、有二其沙汰一、云云、今度依レ仰被レ撰申訖、御追號後柏原院治定了。

【後伏見】738 ゴフシミ 第九十三代の帝諡。(1299−1301)

【後邊戸】739 シレト 北海道日高國の地名。

【後陽成】740 ゴヤウゼイ 第百七代の帝諡。(1587−

1611）〔皇年代略記〕。

【後冷泉】741（ゴレイゼイ） 第七十代の帝諡。（1046―1068）〔扶桑略記〕。

【後老婆】742 hou^4 lao^3 p'o^2 後妻。

【後乙卯生】743（コウイツバウセイ） 清、查士標（**6―14643**··95）の號。

【後四聲猿】744（コウシセイエン） 清、桂馥の作曲四種を收めたもの。

【後拾遺集】745（ゴシフヰシフ） 書名。二十卷。後拾遺和歌集の略。藤原通俊奉敕撰。

【後尚左生】746（コウシヤウサセイ） 清、高鳳翰（**12―45313**··1334）の號。

【後如二脫兎一】747（ノチハダツトノゴトシ） 始はおとなしいが、後は網を脫した兎の如く、奔りにげることの速かなこと。〔孫子、九地〕始如二處女一、敵人開レ戶、後如二脫兎一、敵不レ及レ拒。

【後中書王】748（コウチユウシヨワウ） 具平親王の稱。中書は中務の唐名。具平親王は中務卿に任ぜられたからいふ。

【後土御門】749（ゴツチミカド） 第百三代の帝諡。（1465―1500）

【後藤芝山】750（ゴトウシザン） 讚岐の人。名は世鈞。字は守中。號は芝山。通稱は彌兵衞。天明二年四月三日、歿す。年六十二。林榴岡に師事し、後、昌平黌に學ぶ。官は高松藩儒。州學講道館を興す。經學は程朱を主とし、常に博洽を好み、又、有職故實に精しかつた。著に音訓五經・左傳古奇字音釋・元明史略・和漢年鑑・職原鈔考證・有職小錄・桑韓唱和・宮詞百首・玉藻詩乘・芝山集・五經集注點・四書集注點・小學句讀集注點がある。〔先哲叢談、續、十〕・〔近代名家著述目錄〕。

【後藤松陰】751（ゴトウシヨウイン） 美濃の人。名は機。字は世張。通稱は俊藏。號は松陰・春草・兼山。元治元年十月十九日、歿す。年六十八。篠崎小竹の女壻。賴山陽に師事し、大阪柁木町に塾を開いて教授した。詩に巧。著に好文字・三體詩校・春草詩鈔・松陰亭集・竹深荷淨書屋集・評注山陽詩鈔がある。〔大阪名家著述目錄〕。

【後藤松軒】752（ゴトウシヨウケン） 三河の人。名は進。享保二年沒す。年八十六。〔近世叢語、續、六〕。

【後力不佳】753 hou^4 li^4 pu^4 chia^1 後が續かない。

【後鈴廼舍】754（ノチノスズノヤ） 本居春庭の齋號。

【無レ後爲レ大】755（ノチナキヲダイナリトス） 子孫のないのを不孝の大なるものとする。〔孟子、離婁上〕孟子曰、不孝有レ三、無レ後爲レ大、舜不レ告而娶、爲レ無レ後也、君子以爲レ猶レ告也。

【後京極攝政】756（ゴキヤウゴクセツシヤウ） 藤原良經をいふ。建仁二年、攝政となる。

【後京極大臣】757（ゴキヤウゴクダイジン） 後京極攝政に同じ。

【後八千卷樓】758（コウハツセングワンロウ） 清、丁丙（**1―2**··185）の室名。

【後矢之括銜レ弦】759（コウシノクワツゲンヲフクム） 前矢の後に後矢が直ちに弦に注がれる。矢と矢が相つらなるをいふ。〔列子、仲尼〕後矢之括猶銜レ弦、視レ之若レ一焉。〔注〕箭相連屬无レ絕。

【後則爲二人所一レ制】760（オクルレバスナハチヒトノセイスルトコロトナル） 人におくれて事を行ふ時は、必ず人に先手を打たれること。〔史記、項羽紀〕吾聞、先卽制レ人、後則爲二人所一レ制。

【徍】10099 アイ エ 〔集韻〕於佳切 佳

徍徥は、ななめにゆくさま。〔集韻〕徍、徍徥、邪行皃。

【⿰彳夸】10100 クワ ケ 〔集韻〕枯化切 禡

ゆく。〔集韻〕⿰彳夸、行也。

【⿰彳兌】10101 タツ ダチ 〔集韻〕徒活切 曷

ゆく。〔集韻〕⿰彳兌、行也。

【⿰彳吉】10102 キツ キチ 〔集韻〕關吉切 質

ゆくさま。〔集韻〕⿰彳吉、行皃。

【⿰彳壬】10103 ニン

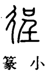
任（**1―416**）に同じ。〔字彙補〕⿰彳壬、與レ任同。

【⿰彳冬】10104 トウ

佟（**1―522**）に同じ。〔川篇〕⿰彳冬、同レ佟。

七 畫

【徎】10105 ㈠テイ チヤウ 〔集韻〕丑郢切 梗　㈡レイ リヤウ 〔集韻〕里郢切 梗　㈢テイ チヤウ 〔集韻〕他頂切 迥


小篆

㈠㈡❶**こみちを行く。**〔說文〕徎、徑行也、从レ彳呈聲。❷**こみち。**〔玉篇〕徎、徑也。❸**雨あがりの小みち。**〔廣韻〕徎、雨後徑也。㈢**こみち。**或は侱（**1―637**）に作る。〔集韻〕徎、徑也、或作レ侱。

【⿰彳矣】10106 シ

❶竢（**8―25770**）に同じ。〔集韻〕竢、或作レ⿰彳矣。❷⿰矣矣（**8―24006**）に同じ。〔說文〕⿰矣矣、⿰彳矣、⿰矣矣或从レ彳。

【⿰彳辛】10107 シン

侁（**1―575**）に同じ。〔集韻〕侁、或作レ⿰彳辛。

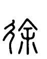
【⿰彳希】10108 ㈠カイ 〔廣韻〕喜皆切 佳　㈡キ

㈠**うつたへる。**〔廣韻〕⿰彳希、訟也。㈡俙（**1―698**）の譌字。〔正字通〕⿰彳希、俙字之譌。

【徏】10109 チヨク

陟（**11―41659**）に同じ。〔集韻〕陟、或作レ徏。

【徐】10110 シヨ ジヨ 〔集韻〕詳余切 魚 ㄒㄩ hsü^2


小篆

❶**やすらかに行く。**〔說文〕徐、安行也、从レ彳余聲。〔易、困〕來徐徐。〔釋文〕徐徐、馬云、安行貌。❷**おもむろ。**㋑しとやか。〔玉篇〕徐、威儀也。〔爾雅、釋訓〕其虛其徐、威儀容止也。〔注〕雍容都雅之貌。㋺おだやか。〔國語、越語下〕安徐而重固。㋩ゆるやか。〔廣韻〕徐、緩也。〔梁簡文帝、玩漢水詩〕豈若茲川麗、清流疾且徐。㋥おそい。〔廣雅、釋詁四〕徐、遲也。〔魏書、律曆志〕回舍有二疾徐一、推步有二疏密一。㋭しづか。〔薛能、折楊柳詩〕樓邊輕暖好風徐。❸**おもむろにする。**ゆるめる。〔戰國、宋策〕臣請受二邊城一、徐二其攻一、而留二其日一。〔注〕徐、緩也。❹**おもむろに。**ゆるやかに。しづかに。〔蘇軾、前赤壁賦〕清風徐來、水波不レ興。❺**みな。**ともに。〔公羊、成、十五〕魯人徐傷二歸父之無一レ後也。〔注〕徐者、皆共之辭也、關東語。❻**州名。**古、九州の一。徐州（146）を見よ。❼**國の名。**伯益の後。周初、王を僭稱して穆王に滅ぼされたが、後、復た封ぜらる。故城は安徽省泗縣の北。〔左氏、昭、三十〕吳滅レ徐、徐子奔レ楚。❽**姓。**〔通志、氏族略、以レ國爲レ氏〕徐氏、子爵、嬴姓、皐陶氏之後也、皐陶生二伯益一、伯益佐レ禹有レ功、封二其子若木於徐一、在二今徐城縣北三十里一、徐城幷入二臨泗一、今泗州臨淮有二徐城一、自二若木一至二偃王一三十二世、爲二周所一レ滅、復封二其子宗一

爲㆓徐子㆒、宗十一世孫章禹、昭三十年爲㆓吳所㆒ㇾ滅、子孫以ㇾ國爲ㇾ氏、又一族出㆓於嬴氏㆒、十四姓之一也。

名乘 ユキ。ヤス。

【徐愛】1（ジョアイ） 明、餘姚の人。字は曰仁。王守仁の弟子。正德中、進士に擧げらる。學者。官は南工部郎中。卒年三十一。傳習錄を編纂した。〔明史、二百八十三〕・〔明儒學案、十一〕。

【徐安】2（ジョアン） 明、鄞の人。洪武中、濟南府知となり、尋いで鳳陽に轉任し、心を民事に盡した。後、事に座して、雲南に謫戍さる。〔明史、二百九十六〕。

【徐夷】3（ジョイ） 周代、えびすの一種。〔後漢書、東夷傳序〕康王之時、肅愼復至、後徐夷僭號。

【徐威】4（ジョヰ） 明、泰和の人。字は廣威。弘治の擧人。官は鄖西教諭。成化中、桑悅に師事す。〔列朝詩集小傳、丙〕。

【徐渭】5（ジョヰ） 明、浙江山陰の人。字は文長・天池。號は鵬飛處人・田水月・水田月老人。晩號は青藤（青藤老人）。諸生。天才超拔で詩文・書畫に巧。胡宗憲の幕客となり、兵謀に參與し、屢〻功を立てた。書室を酬字堂といふ。著に路史分釋・筆元要旨・徐文長集・四聲猿・雲合奇蹤・南詞敍錄・煎茶七類・文長集闕篇・櫻桃館集・抄代集・抄小集・莊子內篇注・參同契注・黃帝素問注・郭璞葬書注・四書解・首楞嚴經解・會稽縣志・玄抄類摘・歌嘯臺・李長吉詩集批注がある。〔明史、二百八十八〕。

【徐遹】6（ジョイツ） 宋、甌寧の人。字は紹聞。崇寧中、對策第一。校書郎・直祕閣となり、後、知廣德軍となつた。

【徐允】7（ジョイン） 明の人。環の子。字は邦孝。著に水南集がある。

【徐胤】8（ジョイン） 後漢の人。穉の子。字は季登。篤行孝弟、隱居して躬耕し、倦めば經を誦した。〔後漢書、八十三〕。

【徐寅】9（ジョイン） ❶五代閩の莆田の人。一に徐夤に作る。字は昭夢。唐の乾寧の進士。王審知に辟されたが禮遇されず、衣を拂つて去り、妻の月君と偕に隱遁した。著に探龍釣磯等集がある。〔四庫提要、一百五十一・未、四〕。❷宋の人。立之の子。字は協恭。官は福建路檢法。後、廣東提刑。〔萬姓統譜〕。

【徐夤】10（ジョイン） 徐寅の❶を見よ。

【徐于】11（ジョウ） 明、常熟の人。字は夢雨。歌妓の王桂と親しかつたが、家が貧しくて娶ることが出來なかつた。桂は嘉木の富人の子に歸嫁したが、悒悒として樂まず、死せんとする時、于を召して訣別した。以後于は歲ごとに紙錢を墓下に捐てて情をつくした。しばらくして妓の徐三を識り、三も亦于に許嫁したので、于は其の資財を盡して庀裝をなしたが、病に臥した時、三、其の資財を竊んで他に適つたので、于は遂に食はずして死んだ。錢謙益に徐孃歌の作がある。

【徐盈】12（ジョエイ） ❶しづかにみちること。〔淮南子、原道訓〕源流泉浡、冲而徐盈。❷明、貴溪の人。字は子謙。正德の末、淮安守となり、尋いで嘉興守に遷る。居ること六年にして、讒を以て免官さる。郡人道に號泣し、ために徐侯墮淚碑を建てた。〔本朝分省人物攷、六十〕。

【徐榮】13（ジョエイ） 清、漢軍正黃旗人。原名は鑑。字は鐵孫。號は藥園。道光の進士。官は杭嘉湖道。洪楊の軍と戰つて陣歿した。詩・書畫に巧。書室を懷古田舍といふ。著に大戴禮補注・日新要錄・懷古田舍詩集がある。〔清史稿、四百九十五〕・〔清史列傳、七十三〕・〔續碑傳集、五十九〕。

【徐瑤】14（ジョエウ） ❶前蜀、長葛の人。字は伯玉。勇猛で善く鬪ひ、王建に從つて蜀に入つた。時に兵皆文身黥面、衣裝詭異。衆人之を鬼兵といひ、瑤を鬼魁といふ。成都に克つや、功により木昌軍使となる。太子元膺の變に所部を帥ゐて太子を奉じ、會同殿前に死す。〔十國春秋、前蜀〕。❷清、荊溪の人。字は天璧。詞に巧。著に離墨詞がある。

【徐易】15（ジョエキ） 清、杭の人。一に山陰の人といふ。字は象先（象九）。山水花卉畫に巧。〔國朝畫識、十三〕。

【徐奕】16（ジョエキ） 三國魏、東莞の人。字は季才。初、孫策に仕へて丞相長史と爲り、魏が建つや中尉を拜命した。〔三國志、十二〕。

【徐嶧】17（ジョエキ） 清、仁和の人。字は桐華。號は貢山・壽石齋。詩畫に巧。銘硯を藏し、阮元に重んぜられた。〔清畫家詩史、丁、下〕・〔國朝書人輯略、九〕。

【徐越】18（ジョエツ） 清、江南山陽の人。字は山琢。順治の進士。官は行人・御史・兵部督捕左理事官。書室を華平園といふ。〔碑傳集、五十三〕。

【徐樾】19（ジョエツ） 明、貴溪の人。字は子直。王守仁・王艮の弟子。進士。官は雲南左布政。沅江土酋の難に死す。〔明史、二百八十三〕・〔明儒學案、三十二〕。

【徐延】20（ジョエン） 漢の人。生の子。官は禮官大夫。後、其の官を世〻にした。〔前漢書、八十八〕。

【徐炎】21（ジョエン） ❶清の人。字は伯鈺。號は崑山。漢軍正藍旗に隸屬し、雍正の進士。官は吏部郎中。著に唐宋詩選がある。❷清の人。易の子。字は公燦。能く父の業を嗣ぐ。

【徐衍】22（ジョエン） 周末の人。亂世を惡み、石を負つて自ら海中に投じて死んだ。〔論語讖〕徐衍負ㇾ石、伐ㇾ子自貍、守ㇾ分亡ㇾ身、掘ㇾ石失ㇾ軀。〔鄒陽、於ㇾ獄上書自明書〕徐衍負ㇾ石入ㇾ海。〔注〕善曰、漢書音義曰、徐衍、周之末人也。

【徐偃】23（ジョエン） 古、筆を造つた人。〔晉書、王羲之傳論〕行行若ㇾ縈㆓春蚓㆒、字字如ㇾ綰㆓秋蛇㆒、臥㆓王蒙於紙中㆒、坐㆓徐偃於筆下㆒。〔黃庭堅、林爲之送ㇾ筆戲贈詩〕張鼎徒有ㇾ表、徐偃元無ㇾ骨。

〖徐偃筆〗24（ジョエンノヒツ） 徐偃の造つた筆。〔東坡、題跋〕魯直出㆓衆工筆㆒、使㆔僕歷㆓試之㆒、筆鋒如㆘著㆓鹽曲鱔㆒、詰㆗紙上㆖、魯直云、此徐偃筆也、有ㇾ筋無ㇾ骨、名不㆓虛得㆒。

【徐爰】25（ジョエン） 南朝宋、開陽の人。字は長玉。官は游擊將軍・尙書左丞。〔宋書、九十四〕・〔南史、七十七〕。

【徐媛】26（ジョエン） 明、蘇州の人。字は小淑。吟咏を好み、陸卿子と相倡和す。吳中の士大夫風を望んで交〻之を賞譽し、吳門二大家と稱した。著に絡緯吟がある。〔明人小傳、五〕・〔明詩綜、八十六〕・〔明詞綜、十二〕。

【徐琬】27（ジョエン） 元、東平の人。字は子方。號は容齋。又、養齋。汶叟。諡は文獻。少くして元好問に識拔さる。至元中、翰林學士承旨となる。〔元詩紀事、四〕。

【徐遠】28（ジョエン） ❶北齊、廣寧の人。字は彥遐。官は開府右光祿大夫。〔北齊書、二十五〕。❷清、錢塘の人。字は星友。畫を善くす。〔碑傳集補、五十六〕。

【徐溫】29（ジョヲン） 五代吳、海州の人。字は敦美。諡は忠武。少くして販鹽を業とし、楊行密に從つて盜となる。吳の建國にあたり、功によつて右衙指揮使となる。行密が卒して子の渥が嗣ぐや、溫は張顥と渥を弑して其の弟の隆演を立てた。後、また顥を殺して政を專らにし、大丞相となり、東海郡王に封ぜられた。李昇、僭號して溫を義祖と號す。〔五代史、六十一〕。

【徐柯】30（ジョカ） 清の人。枋の弟。字は貫時。號は東海一老・一老菴。諸生。詩文を善くし、書畫に巧。書室を二株園といふ。著に文選人表・示兒編・一老菴詩文集がある。〔清畫家詩史、甲、上〕・〔國朝詩人徵略二編、四〕。

【徐家】31（ジョカ） 渡場の名。❶江西省上高縣の西北、蜀水の濱。❷雲南省路南縣の西、鐵赤河の濱。滇越鐵道に沿ふ。

〖徐家匯〗32（ジョカクワイ） 地名。江蘇省上海縣の西。明の徐光啓の墓がある。滬杭鐵路に沿ふ。墓の東に天主堂があり、附近に光啓が天主教に歸依して建てた中國第一の天文臺がある。

〖徐家紫〗33（ジョカシ） 北京人の愛養する菊花の一種。〔燕京歲時記、九花山子〕謹按㆓日下舊聞考㆒、云云、蓋京師之菊種亟繁、云云、眞紫鈎・徐家紫。

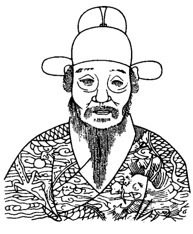
〖徐家肺〗34（ジョカハイノ） よく酒を飮む喩。酒豪。沈家脾（**6—17189**‥57）を見よ。〔語林〕徐晦嗜ㇾ酒、沈傳師善食、楊嗣復云、徐家肺、沈家脾、眞安穩耶。

【徐玠】35（ジョカイ） 南唐、彭城の人。字は蘊圭。李昇と結び、功によつて右丞相となつた。老いて益〻貪鄙、至る所の人を苦しめた。〔十國春秋、南唐〕。

【徐海】36（ジョカイ） 道名。民國、置く。江蘇省治の西北。治は銅山縣。銅山・豐・沛・蕭・碭山・邳・宿遷・睢寧・東海・灌雲・沭陽・贛榆の十二縣を管轄

す。

【徐階】37 明、松江華亭の人。字は子升。諡は文貞。嘉靖の進士。官は禮部尙書・東閣大學士。帝と結んで嚴嵩を逐ひ、朝政を一新した。後、高拱に扼せられて致仕す。書室を世經堂といふ。著に世經堂集・少湖文集がある。〔明史、二百十三〕・〔明儒學案、二十七〕。


徐文貞公（三才圖會）

【徐鍇】38 南唐、廣陵の人。鉉の弟。字は楚金。官は內史舍人。兄の鉉と倶に文名あり、二徐といふ。小學を能くす。著に說文繫傳・說文解字韻譜がある。〔宋史、四百四十一〕。

【徐愷】39 元、湖州の人。字は士元。一に士原(上原)に作る。畫に巧。〔圖繪寶鑑〕。

【徐行】40 そろそろゆく。ゆつくり歩く。〔公羊、宣、八〕聞レ喪、徐行而不レ反。〔史記、韓信傳〕徐行出レ圍。〔柳宗元、鈷鉧潭記〕流沫成レ輪、然後徐行。

【徐行後二長者一】41 ゆつくり歩いて長者の後からゆく。年少者が長者に對する禮儀。〔孟子、告子下〕徐行後二長者一、謂二之弟一、疾行先二長者一、謂二之不弟一、夫徐行者豈人所レ不レ能哉、所レ不レ爲也、堯舜之道、孝弟而已矣。

【徐沆】42 明、浙江西安の人。字は清之。嘉靖の擧人。官は巴州牧。子史に通じ、時人呼んで書廚といふ。

【徐校】43 清、太倉の人。字は範江。號は石渠。諸生。著に石渠文鈔がある。

【徐浩】44 唐の人。嶠の子。字は季海。諡は定。明經に擢んでられ、肅宗の時、中書舍人となり、德宗の初、彭王傅となる。爵は會稽郡公。書に巧。〔唐書、一百六十〕・〔舊唐書、一百三十七〕。

【徐耕】45 南朝宋、延陵の人。節儉力田し、惇にして行儀を尙ぶ。官は平原令。〔宋書、九十一〕・〔南史、七十三〕。

【徐棉】46 明、閩縣の人。字は子瞻。嘉靖の末、易學を以て著る。歲貢より永寧縣知に至る。著に徐令集がある。〔列朝詩集小傳、丁、上〕。

【徐綱】47 ㊀宋、崇顏の人。字は希顏。太學に學ぶ。時に金主亮卒す。綱は同志を率ゐて上書し、力めて和議を沮み、親征の策を決して國を誤るの奸臣を誅せよと論じた。官は提轄文思院。綱はまた先に史論百篇、邊防兵政十六事を進めしも、私請を事とせざるを以て報ぜられず。著に詩集がある。〔尙友錄、二〕。㊁明、武昌興國の人。字は浴泉。嘉靖の進士。官は兵科給事中。隆慶の初、工部侍郎に進む。〔國朝列卿記、一百四十五〕。

【徐鎬】48 清の人。璋の子。字は奇峯(寄峯)。畫に巧。〔墨香居畫識、二〕。

【徐敖】49 漢、虢の人。清河の胡常に事へて書經を受く。官は右扶風掾。解延年の弟子。〔前漢書、八十八〕。

【徐璈】50 清、桐城の人。字は六驤。號は樗亭・韻宣。嘉慶の進士。官は陽城知縣。著に詩經廣詁・牖景錄・河防類要・黃山紀勝・樗亭詩文集がある。〔清史列傳、四十二〕・〔續碑傳集、四十二〕。

【徐鏊】51 明、嘉定の人。本と高氏。舅に京師に依り、徐姓を冒し、醫を業とす。世宗の初、御醫に擢んでられ、三十年間調せられず。年七十、始めて院判に遷る。〔明史、一百八十九〕。

【徐恪】52 明、常熟の人。字は公肅。成化の進士。官は工部侍郎・河南巡撫。清廉の士。〔明史、一百八十五〕〔萬斯同明史、二百四十四〕・〔明史稿、一百六十七〕・〔國朝獻徵錄、五十三〕・〔明詩綜、二十四〕。

【徐確】53 宋、莆田の人。字は居易。元豐中、進士を以て江陰尉を授けらる。後、刑部員外郎となる。

【徐岳】54 ㊀三國魏、東萊の人。術數に精し。劉洪の乾象法を吳の中書令闞澤に授く。〔晉書、十七〕。㊁清、嘉善の人。字は季方。著に見聞錄がある。〔四庫提要、一百四十四〕。

【徐樂】55 漢、無終の人。武帝の時、官は郎中。〔前漢書、六十四〕。

【徐侃】56 清、來安の人。字は又陶。號は峴亭。乾隆の拔貢。著に峴亭文集がある。

【徐咸】57 明、海鹽の人。字は子正。正德の進士。官は襄陽知府。書室を餘春園といふ。著に近代名臣言行錄・四朝聞見錄・西園雜記がある。〔明人小傳、二〕・〔本朝分省人物攷、三十四〕・〔明詩綜、三十四〕。

【徐看】58 しづかにみる。〔杜甫、城西陂泛レ舟詩〕春風自信二牙檣動一、遲日徐看錦纜牽。

【徐幹】59 三國魏、北海の人。字は偉長。建安中、司空軍謀祭酒掾屬・五官將文學となる。建安七子の一。著に中論がある。〔三國志、二十一〕。

【徐緘】60 清、浙江山陰の人。字は伯調。明末に生れ、少くして、盛名を負ふ。書室を歲星堂といふ。著に經史傳注・歲星堂集がある。〔國朝耆獻類徵、四百十三〕・〔國朝詩人徵略二編、二〕。

【徐鑑】61 ㊀明、邵武の人。字は本昭。山水畫に巧。〔明史、二百八十一〕・〔萬斯同明史、三百九十〕。㊁徐縈(13)を見よ。

【徐巖】62 後燕、餘巖(**12**－**44185**‥50)の一「名。

【徐紀】63 明、東鄉の人。字は惟修。武昌學官を拜命。一日、陽明の傳習錄を讀んで省みる所あり、泮宮夜氣錄を著はす。〔明名人傳、二〕。

【徐軌】64 事をゆるやかにすすめる。〔江淹、尙書符〕六軍徐レ軌。

【徐起】65 ㊀宋、濮州の人。字は豫之。進士に擧げらる。官は祕書監。〔宋史、三百一〕・〔宋史新編、九十四〕。㊁朝鮮李朝、利川の人。後、洪州に徙る。字は待可。號は孤青樵老。家居して講學す。〔人物考〕。

【徐基】66 清、江蘇華亭の人。字は宗項。貢生より訓導となる。著に十峯集がある。〔清史稿、五百三〕。

【徐晞】67 明、江陰の人。字は孟初。正統中、兵部尙書となる。〔萬斯同明史、一百九十三〕・〔國朝獻徵錄、三十八〕・〔昭代明良錄、十八〕。

【徐軝】68 清、平湖の人。字は雲蔚。諸生。書室を鐵匏樓といふ。著に鐵匏樓詩集がある。

【徐幾】69 宋、崇安の人。字は子與。博學。易に精し。景定中、建寧府教授・建安書院山長となる。〔宋元學案、八十一〕。

【徐揆】70 宋、衢州の人。京師に游び、大學に入る。尋いで國難に遭ひ、欽宗、金營に詣つて歸らず。揆、盟を敗るを責め、虜酋に殺さる。〔宋史、四百四十七〕・〔宋史新編、一百七十二〕。

【徐琦】71 明、寧夏の人。字は良玉。諡は貞襄。永樂の進士。官は南兵部尙書。安南に使して命を辱めず。〔明史、一百五十八〕・〔萬斯同明史、二百八〕・〔明史稿、一百五十二〕・〔國朝獻徵錄、四十二〕・〔本朝分省人物攷、四十二〕。

【徐熙】72 ㊀晉、東陽の人。官は濮陽太守。黃老を好み、秦望山に隱れ、道士より扁鵲鏡經一卷を授けられ、之を學ぶ。〔南史、三十二〕。㊁南唐、鍾陵の人。世〻江南の顯族。善く花鳥を畫く。宋の太宗嘗て曰く、花果の妙、吾獨り熙あるを知ると。〔聖朝名畫評〕。㊂宋、南安の人。字は大雅。陳洪進が漳泉に據りし時、其の文を奇とし、弟の女を妻はす。府職に署せられたが就かず、楚雁賦を著はして志を見はす。宋に歸して熙寧の進士に擧げらる。官は越州通判。〔宋史翼、三十七〕・〔聖朝名畫評、五〕。

【徐毅】73 元、趙城の人。諡は文清。許衡の弟子。至大中、監察御史となり、後、御史中丞に至る。〔尙友錄、二〕。

【徐璣】74 宋の人。潮州守定の子。字は致中。號は靈淵。官は長泰令に至る。詩に巧。趙師秀・翁卷・徐照と倶に永嘉四靈と稱せられる。嘉定中、卒す。書室を二薇亭といふ。著に二薇亭集・山泉集がある。〔四庫提要、一百六十二〕。

【徐禧】75 宋、分寧の人。字は德占。諡は忠愍。時に新法が行はれ、布衣を以て、獻策して神宗に賞せらる。元豐の初、呂惠卿が兵制を更めんとした際、禧は獨り之を是とし、永樂に城き、猝に虜に遇ひ、之に死す。〔宋史、三百三十四〕・〔宋史新編、一百十一〕・〔東都事略、八十六〕・〔宋人軼事彙編、四百九十五〕。

【徐徽】76 宋、全椒の人。號は獨山居士。嘉祐の進士。官は提擧利平常平。曾肇と文字の交を爲す。掌て唐宋兩朝の文を采集して一編となして肇に示す。肇、後に裒集して滁陽曆集と

なす。〔尚友錄、二〕。

【徐夔】77 ジョキ 清、長洲の人。字は龍友。康熙の時の廩生。嘗て沈德潛と詩社を結ぶ。書室を挹爽堂といふ。著に義山詩注・西堂集がある。〔國朝耆獻類徵、初編、四百二十九〕・〔文獻徵存錄、十〕・〔飛鴻堂印人傳、一〕。

【徐驥】78 ジョキ 明、蒲城の人。字は尚德（光德）。博く經史に通ず。著に洪範解訂正・皇華詩がある。〔本朝分省人物攷、七十二〕。

【徐誼】79 ジョギ ❶宋、溫州の人。字は子宜。諡は忠文。乾道の進士。寧宗の時、工部侍郎・臨安府知となる。韓侂胄と合はずして左遷せられ、後、再び起用されて建康府知兼江淮制置使を拜命し、後、隆興府に知となる。嘗て紹興の老將を得、行陣奇正の法を指授す。〔宋史、三百九十七〕・〔宋史新編、一百四十八〕・〔南宋書、四十一〕・〔慶元黨禁〕・〔宋元學案、六十一〕。❷明、壽昌の人。字は宜叔。少くして春秋學を治む。先後、黄岡・鎭江・吉安等の郡縣に知たり。〔尚友錄、二〕。

【徐釚】80 ジョキウ 清、吳江の人。字は電發。號は虹亭・鞠莊・拙存・楓江漁父。詩・古文に巧。康熙中、鴻博に擧げられ、檢討に至る。書室を南州草堂・看奕軒といふ。著に南州草堂集・詞苑叢談・本事詩がある。〔清史稿、四百八十九〕・〔清史列傳、七十一〕・〔國朝耆獻類徵、一百十九〕・〔國朝先正事略、三十八〕・〔清代學者象傳、一〕。

【徐璆】81 ジョキウ 後漢の人。淑の子。字は孟玉。官は荊州刺史。中平の初、黄巾の賊を破り、尋いで汝南太守・東海相に歷任し、後、太常に陞る。〔後漢書、七十八〕。

【徐珦】82 ジョキヤウ 宋の人。字は溫甫。高宗の時、進士より、辰州教授となる。後、池州通判。著に語孟易解がある。學者多く其の說を宗とし、止齋先生といふ。〔尚友錄、二〕。

【徐鄕】83 ジョキヤウ 縣名。漢、置く。故城は山東省黄縣の西南。〔漢書、地理志上〕東萊郡、縣十七、徐鄕。〔讀史方輿紀要、山東、登州府、黄縣、惤城〕徐鄕城、在㆓縣西南㆒、漢東萊郡屬縣、武帝封㆓膠東共王子炔㆒爲㆓侯邑㆒、後漢仍屬㆓東萊郡㆒、魏因㆑之、晉省。

【徐兢】84 ジョキヨウ 宋の人。林の弟。字は明叔（叔明）。號は自信居士。宣和中、隨って高麗に使し、高麗圖經を撰して上り、徽宗に嘉悅さる。官は大宗丞。〔宋史翼、二十七〕・〔皇宋書錄、下〕。

【徐旭】85 ジョキヨク 明、樂平の人。字は孟昭。洪武の進士。官は國子祭酒。著に文集がある。〔萬斯同明史、二十〕・〔國朝獻徵錄、二十一〕。

【徐鈺】86 ジョギヨク 明、江夏の人。字は用礪。弘治の進士。官は御史。中官の橫恣を極論し、免官さる。後、四川布政使に終る。〔明史、一百八十八〕・〔萬斯同明史、二百五十七〕・〔明史稿、一百七十三〕・〔國朝列卿記、一百五十四〕・〔蘭臺法鑒錄、十三〕。

【徐均】87 ジョキン 明の人。洪武の時、官は陽春主簿。清廉を以て聞ゆ。〔明史、一百四十〕。

【徐沂】88 ジョギン ❶明、永康の人。字は希曾。弘治の進士。刑科給事中より南京工科に遷り、蘇州の細密苧布・福建の改機・陝西の駝絨を歲每に取るを罷めんことを奏し、民以て便と爲す。廣東副使に陞進す。〔本朝分省人物攷、五十三〕。❷清、泰州の人。字は清溪。世〻醫を業とす。

【徐栩】89 ジョク 後漢、由拳の人。字は敬卿。小黄令となり、善政あり。長沙太守に至る。〔萬姓統譜〕。

【徐詡】90 ジョク 宋、浦城の人。字は元敏。號は東野居士。紹興の進士。遂寧・泉州の知を歷任し、政績あり。後、江東轉運使となる。著に東野居士集がある。〔尚友錄、二〕。

【徐回】91 ジョクワイ しづかにめぐる。〔司馬相如、上林賦〕安翔徐回。

【徐晦】92 ジョクワイ 唐の人。楊憑に知られ、第に擢んでられ、官を授けらる。尋いで御史中丞李夷簡の薦を以て御史となり、禮部尚書に累官す。〔舊唐書、一百六十五〕。

【徐翽】93 ジョクワイ 徐士俊（437）を見よ。

【徐宏】94 ジョクワウ 晉、太末の人。字は聖通。孝廉に擧げらる。官は汝陰令。後、扶風太守。賊と戰ひて死す。

【徐晃】95 ジョクワウ 三國魏、河東の人。字は公明。諡は壯。楊奉に從って賊を討ち、後、曹操に歸す。官は右將軍。爵は陽平侯。〔三國志、十七〕。

【徐紘】96 ジョクワウ 明、武進の人。字は朝文。弘治の進士。官は雲南按察司副使。著に明名臣琬琰錄がある。〔四庫提要、五十八〕。

【徐廣】97 ジョクワウ 晉の人。邈の弟。字は野民。博學にして、官は祕書監。著に車服儀注・晉紀がある。〔晉書、八十二〕・〔宋書、五十五〕・〔南史、三十三〕。

【徐璜】98 ジョクワウ 後漢、下邳の人。桓帝の時、官は中常侍。梁冀を誅して、武原侯に封ぜらる。天下之を徐臥虎と稱す。〔後漢書、一百八〕。

【徐曠】99 ジョクワウ 唐の人。孝嗣の五世の孫。字は文遠。五經に通じ、左氏春秋に詳し。官は國子博士。〔唐書、一百九十八〕。

【徐豁】100 ジョクワツ 南朝宋の人。邈の子。字は萬同。晉の太學博士。宋に入って始興太守となり、尋いで持節督廣交二州諸軍事に擢んでられ、未だ拜せずして卒す。〔宋書、九十二〕・〔南史、三十三〕。

【徐官】101 ジョクワン 明、吳縣の人。字は元懋。魏校の門人。著に六書精蘊音釋・古今印史がある。〔四庫提要、四十三・一百十四〕。

【徐貫】102 ジョクワン 明、淳安の人。字は元一。諡は康懿。天順の進士。官は工部尚書に至る。著に餘力稿がある。〔清史列傳、二百四十一〕・〔國朝獻徵錄、五十〕・〔明名人傳、二〕。

【徐煥】103 ジョクワン 清、無錫の人。字は舫亭。嘉慶の進士。官は禮部主事。著に舫亭集がある。〔國朝耆獻類徵、一百四十八〕。

【徐寬】104 ジョクワン 明、臨海の人。字は仲栗。正德の進士。官は文選司郎中。世宗の時、興獻大禮を爭ひ、詔獄に下され、海南に戍せらる。隆慶の初、大理寺卿を贈らる。

【徐緩】105 ジョクワン ゆるやか。又、ゆつくりさせる。〔魏志、鄧艾傳〕大擧之後、將士疲勞、不㆑可㆓便用㆒、且㆑徐㆓緩之㆒。

【徐環】106 ジョクワン 明、無錫の人。字は伯樞。洪武中、茂才を以て上元縣主簿に擢んでられ、後、臨桂縣丞となる。著に臨桂集がある。

【徐觀】107 ジョクワン 明、松江華亭の人。字は尚賓。幼少より翰墨に巧。正統中、鄕に擧げられ、國學に游ぶ。尋いで武選司主事となる。〔國朝獻徵錄、一百二〕・〔本朝分省人物攷、四十〕。

【徐桂】108 ジョケイ 明、潛山の人。嘉慶の進士。號は大滌山人。官は鄖陽知府。著に鄖臺志略がある。〔明人小傳、三〕・〔明詩綜、五十三〕。

【徐珪】109 ジョケイ 明、應城の人。字は必信。弘治中、刑部吏となる。李廣の黨のために罪を得、後、推薦されて知州となる。〔明史、一百八十九〕・〔萬斯同明史、二百六十一〕・〔明名臣言行錄、四十〕・〔本朝分省人物攷、七十八〕。

【徐惠】110 ジョケイ 徐妃（261）を見よ。

【徐敬】111 ジョケイ 明、清江の人。字は敬仲。齋名は梅雪。洪武中、國子生を以て監察御史となり、尋いで知府に陞る。老母の故を以て歸り卒す。好んで墨梅を畫く。〔皇明開國功臣錄、三十一〕・〔蘭臺法鑒錄、一〕・〔本朝分省人物攷、九〕。

【徐瓊】112 ジョケイ 明、金谿の人。字は時庸。天順の進士。官は侍讀學士・尚書。〔國朝獻徵錄、三十三〕・〔國朝列卿記、四十一・四十五・一百六十〕・〔明名人傳、二〕。

【徐僑】113 ジョケウ 宋、義烏の人。字は崇甫。號は毅齋。諡は文清。淳熙の進士。朱熹の門弟。性、明白剛直。官は寶謨閣待制。〔宋史、四百二十二〕・〔宋史新編、一百五十四〕・〔南宋書、五十七〕・〔南宋館閣續錄、八・九〕・〔宋元學案、六十九・七十〕。

【徐嶠】114 ジョケウ 唐の人。堅の子。字は巨山。開元中の集賢院學士・中書舍人。父子相次いで學士となり、祖より孫に及び、三世中書舍人となる。〔唐書、一百九十九〕・〔舊唐書、一百二〕。

【徐業】115 ジョゲフ 後漢、琅邪の人。經術に通じ、扶風の大儒となる。〔後漢書、一百九下〕。

【徐汧】116 ジョケン 明、長洲の人。字は九一。性、至孝。崇禎の進士。官は春坊。國變の時、虎丘後湖橋下に投じて死す。〔明史、二百六十七〕・〔萬斯同明史、三百七十一〕・〔明史稿、二百五十一〕・〔明名臣言行錄、九十五〕・〔明人小傳、四〕・〔明詩綜、七十三〕・〔小腆紀年、十〕・〔明詩紀事、辛六〕。

【徐堅】117 ジョケン ❶唐の人。齊聃の子。字は元固。諡は文。秀才に擧げられ、三教珠英の編纂に預る。官は集賢院學士。〔唐書、一百九十九〕・

〔舊唐書、一百二〕。❷清、吳縣の人。字は孝先。號は友竹・鄧尉山人・絸亭・絸園・澡雪老人。篆刻を善くし、山水畫・隸書に巧。著に絸園詩鈔・西京職官印譜がある。〔清畫家詩史、丁、上〕・〔國朝詩人徵略初編、三十三〕・〔飛鴻堂印人傳、四〕。

【徐儉】118 ジョケン　陳の人。陵の子。勤學にして志操あり、梁の元帝之を歎賞す。陳に入り、尋陽內史を拜命す。後、御史中丞に陞る。〔陳書、二十六〕・〔南史、六十二〕。

【徐縣】119 ジョケン　縣名。❶漢、置く。周の徐子國。故城は安徽省泗縣の西北。〔漢書、地理志上〕臨淮郡、縣二十九、徐。〔讀史方輿紀要、江南、鳳陽府、泗州〕徐城廢縣、古徐子國、春秋莊二十六年、齊人伐レ徐、自レ是徐屢見ニ於春秋一、昭三十年、吳滅レ徐、徐子章禹奔レ楚、漢置ニ徐縣一、屬ニ臨淮郡治一。❷南朝宋、置く。今、缺く。江蘇省の境。

【徐謇】120 ジョケン　後魏、丹陽の人。文伯の弟。字は成伯。謚は靖。醫藥を善くす。官は光祿大夫。〔魏書、九十一〕・〔北史、九十〕。

【徐謙】121 ジョケン　明、嘉興の人。字は仲光。著に仁端錄がある。

【徐言】122 ジョゲン　❶しづかにものをいふ。ひくい聲でいふ。ささやき。〔呂覽、精諭〕徐言則不レ聞、疾言則人知レ之。〔後漢書、劉寬傳〕乃徐言曰、羹爛ニ汝手一。❷清、杭州の人。字は以時。山水畫に巧。

【徐彥】123 ジョゲン　唐の人。公羊傳何氏解詁疏二十八卷を著すといふ。十三經注疏(**2－2695**··169)を見よ。

【徐原】124 ジョゲン　三國吳、吳郡の人。字は德淵。慷慨にして才志あり、呂岱と親交し、岱の薦によつて孫權に仕へ、侍御史に至る。〔三國志、六十〕。

【徐源】125 ジョゲン　明、長洲の人。字は仲山。號は椒園道人。成化の進士。官は右副都御史。其の文章は博雅、書は米家父子の風がある。〔國朝獻徵錄、六十二〕・〔國朝列卿記、一百二十一〕・〔本朝分省人物攷、二十〕・〔明詩紀事、丙七〕。

【徐鉉】126 ジョゲン　宋、揚州の人。延休の子。字は鼎臣。初、南唐の吏部尙書。後、李煜に從つて宋に歸し、太子率更令・散騎常侍に累官す。小篆・隸書に巧。文苑英華を編輯す。著に騎省集がある。弟の鍇と倶に文名あり、二徐と稱せられ、又、鉉を大徐・鍇を小徐と稱す。小學に精通し、句中正等と說文を校定し、世に大徐本と稱せられる。〔宋史、四百四十一〕・〔宋史新編、一百七十〕・〔東都事略、三十八〕・〔隆平集、十三〕・〔名臣碑傳琬琰集、下、七〕。

【徐呼】127 ジョコ　しづかによぶ。〔韓非子、外儲說右上〕一曰、教レ歌者先揆以レ法、疾呼中レ宮、徐呼中レ徵、疾不レ中レ宮、徐不レ中レ徵、不レ可レ謂レ教。

【徐吾】128 ジョゴ　❶複姓。〔萬姓統譜〕徐吾、左傳、鄭大夫徐吾犯之後。❷齊の貧女。隣婦と夜、絲を績ぐ時、貧にして燭を照せず、隣婦之を厭ふ。然し、徐吾禮を守つて屈せず。遂に隣婦をして感ぜしむ。〔列女傳、辯通傳〕。

【徐后】129 ジョコウ　❶前蜀、王建の后。徐耕の女。妹と倶に王建の得る所となり、彭王を生み、妹は衍を生む。衍卽位して、順聖太后となし、宋、蜀を平ぐるに及んで、殺さる。〔五代史、六十三〕。❷明の人。中山王達の長女。謚は仁孝。書を好み、女諸生と稱せられる。洪武中、燕王妃となり、後、皇后となる。〔明史、一百十三〕。

【徐垢】130 ジョコウ　徐宗實(536)を見よ。

【徐洪】131 ジョコウ　唐の人。徐彥伯(419)を見よ。

【徐溝】132 ジョコウ　縣名。金、置く。山西省陽曲縣の南。〔讀史方輿紀要、山西、太原府〕徐溝縣、本清源縣之徐溝鎭、金大定二十九年、析ニ平晉・楡次・清源三縣地一置、今縣屬ニ太原府一。〔清史稿、地理志〕山西、太原府、縣十、徐溝。

【徐𢓋】133 ジョコウ　清、太倉の人。著に溪山琴況がある。〔四庫提要、一百十四〕。

【徐紇】134 ジョコツ　後魏、樂安の人。字は武伯、宣武帝の時、中書舍人となり、後、黃門侍郎に遷り、中書門下事を總攝す。尋いで、爾朱榮に惡まれ、蕭衍に奔る。〔魏書、九十三〕・〔北史、九十二〕。

【徐琨】135 ジョコン　三國吳、富春の人。孫堅の征伐に從つて功を立て、偏將軍となる。後、廣德侯に封ぜられ、平虜將軍に陞る。〔三國志、五十〕。

【徐錕】136 ジョコン　清、漢軍正藍旗人。嘉慶の初、李長庚に從つて海盜蔡牽を平げ、處州鎭總兵となり、福州將軍に累官す。〔國朝耆獻類徵、三百二十二〕。

【徐宷】137 ジョサイ　清、常熟の人。字は宷臣。號は鏡菴。詩・畫に巧。

【徐鼒】138 ジョサイ　清、六合の人。字は彝舟。號は亦才。道光の進士。官は福寧知府。書室を未灰室といふ。著に未灰室文集がある。〔清史列傳、七十三〕・〔碑傳集補、二十四〕。

【徐山】139 ジョサン　山名。❶江蘇省銅山縣の南。〔隋書、地理志下〕彭城有ニ徐山一。❷江蘇省邳縣の西南。〔元和志〕徐偃王北走ニ彭城武原縣東山之下一、百姓歸レ之、號曰ニ徐山一。

【徐珊】140 ジョサン　明、餘姚の人。號は三溪。官は辰州府同知。著に卯洞集がある。〔四庫提要、一百七十八〕。

【徐粲】141 ジョサン　徐燦を見よ。

【徐燦】142 ジョサン　❶清、崑山の人。字は朗亭。號は玉峯。乾隆の擧人。著に畫前易衍がある。❷清、長洲の人。陳之遴の妻。又、粲に作る。字は湘蘋。號は紫箮。詩文・書畫に巧。書室を拙政園といふ。著に拙政園詞がある。〔清史稿、五百三十一〕・〔清畫家詩史、癸、上〕・〔清代閨閣詩人徵略、二〕。

【徐泗】143 ジョシ　徐水と泗水。〔李白、經ニ下邳圯橋一懷ニ張子房一詩〕歎息此人去、蕭條徐泗空。

【徐嗣】144 ジョシ　南齊の人。文伯の從弟。字は叔紹。醫家。孝子。官は正員郎。南史に徐嗣伯に作る。〔南齊書、二十三〕・〔南史、三十二〕。

【徐賜】145 ジョシ　元、順昌の人。字は天錫。官は汀州路掾吏。後、寧德主簿。

【徐州】146 ジョシウ　❶州名。禹貢、九州の一。周、其の地を青州に幷合す。今の江蘇省の舊徐州府・邳縣、山東省の舊兗州府、安徽省の宿縣・泗縣にわたる地域。漢より清に至るまで、概ね其の名稱は廢されず、治城は各處に移つたが、略〻古九州の境域を沿襲す。〔爾雅、釋地〕濟東曰ニ徐州一。〔書、禹貢〕海岱及淮惟徐州。〔讀史方輿紀要、江南〕徐州、禹貢徐州之域、古大彭氏國也、春秋戰國、屬レ宋、後屬レ楚、秦屬ニ泗水郡一、項羽自立爲ニ西楚霸王一都レ此、漢爲ニ楚國一、地節元年、改爲ニ彭城郡一、尋復レ故、後漢亦爲ニ楚國一、章帝改爲ニ彭城國一、晉因レ之、仍立ニ徐州一以爲ニ重鎭一、宋亦爲ニ徐州及彭城沛二郡一、泰始中、沒ニ於後魏一、亦置ニ徐州及彭城郡一、隋初、廢レ郡、煬帝廢レ州、仍曰ニ彭城郡一、唐復爲ニ徐州一、天寶初、亦曰ニ彭城郡一、乾元初、復爲ニ徐州一、貞元十六年、建ニ武寧軍一、咸通十一年、改爲ニ感化軍一、石晉時、復曰ニ武寧軍一、宋仍爲ニ徐州一、金因レ之、元亦曰ニ徐州一、屬ニ歸德府一、至正八年、升ニ徐州路一、十二年、改曰ニ武安州一、明初、復曰ニ徐州一、隸ニ鳳陽府一、尋直ニ隸京師一、縣四、今仍曰ニ徐州一。❷府名。清、置く。邳州及び銅山・蕭・碭山・豐・沛・宿遷・睢寧の七縣を領す。故治は江蘇省銅山縣。〔清史稿、地理志〕江蘇、徐州府、領ニ縣七一、銅山・蕭・碭山・豐・沛・邳州・宿遷・睢寧。

【徐舟】147 ジョシウ　明、永豐の人。字は楫之。成化の進士。御史に擢んでられ、權幸を彈擊す。尋いで四川副使・撫諭琉球使・兵部侍郎に至る。〔蘭臺法鑒錄、十二〕。

【徐舍】148 ジョシヤ　鎭の名。江蘇省宜興縣の西。

【徐商】149 ジョシヤウ　唐、新鄭の人。有功五世の孫。字は義聲・秋卿。進士。宣宗の時。河中節度使となる。突厥を定めて、太子太保に累進す。〔唐書、一百十三〕・〔舊唐書、一百七十九〕。

【徐祥】150 ジョシヤウ　明、大冶の人。初、元の萬戶。後、明の太祖に歸し、功を以て燕山右護衞副千戶と爲り、屢〻戰功を立てて都指揮使に擢んでられ、興安伯に封ぜらる。〔明史、一百四十六〕・〔萬斯同明史、一百八十九〕・〔明史稿、一百三十四〕・〔國朝獻徵錄、九〕。

【徐詳】151 ジョシヤウ　三國吳、烏程の人。字は子明。胡綜等と倶に軍國の密事を典る。官は左部督兼左領軍。封は鄉侯。〔三國志、六十二〕。

【徐裳】152 ジョシヤウ　蒙古語、一色の衣服の意。bisii〔剪燈餘話、至正妓人行〕達拏珠絡ニ只徐裳一。

【徐璋】153 ジョシヤウ　清、婁縣の人。字は瑤園(瑤圃)。乾隆の初、推薦せられて畫院に入る。松郡先賢の像を摹寫し、凡そ明代二百七十年間の忠孝・廉節・文章・理學を以て著はれる者について皆之が圖像をつくる。〔國朝畫識、十三〕。

【徐橡】154 ジョシヤウ　清、錢塘の人。字は問蘧。金石を

多く藏す。篆刻に巧にして浙中の名手といはれる。

【徐常】155 ジョジャウ　宋、建安の人。字は彥和。登第して州縣の官を歷、神明と稱せられる。蘇軾兄弟と親交あり。〔尙友錄、二〕。

【徐驤】156 ジョジャウ　宋、浦城の人。字は士龍。太學に居つた時、二帝の北狩に會し、行在所に上書したが沮まれて用ひられず。〔尙友錄、二〕。

【徐壽】157 ジョジュ　清、無錫の人。號は雪村。律呂・數理・汽機より醫鑛理化等の學に通ず。同治の間、賓禮を以て曾國藩の幕下に招かれ、安慶機器局・上海製造局に歷辦し、始めて輪船を造り、諸爆藥を發明し、又、洋書の繙譯策を建て、格致書院を上海に創設し、布衣を以て終る。著に西藝知新・化學鑑原・物體遇熱改易記・營陣揭要・測地繪圖・汽機發軔・化學考質・化學求數・寶藏興焉等がある。〔清史稿、五百十〕・〔碑傳集補、四十三〕。

【徐充】158 ジョジュウ　明、江陰の人。字は子擴。號は兼山。十三歲にして諸生に補せらる。詩に巧。〔明人小傳、二〕・〔明詩綜、三十八〕。

【徐戎】159 ジョジュウ　魯の東方に居つたえびすの一種。〔書、費誓〕我惟征㆓徐戎㆒。

【徐淑】160 ジョシュク　❶後漢、廣陵の人。字は伯進。寬裕にして博學。孟氏易・春秋公羊傳・禮記・周易に通ず。喜んで太公六韜を誦し、英雄と交はり、常に壯志あり。官は度遼將軍。〔後漢書、七十八〕。❷後漢の人。秦嘉の妻。嘉は隴西の人。郡の上掾となる。淑、疾に寢ねて家に還り、面別を獲ず。詩を以て贈答し、交情甚だ密。〔琅琊代醉編、十九〕。

【徐述】161 ジョジュツ　明、池州建德の人。字は信古。永樂中、漢陽の守となり。政績あり。〔尙友錄、二〕。

【徐浚】162 ジョシュン　宋、德清の人。字は英父。國子生となり、抗疏して賈似道を誅せんと乞ふたが報ぜられず。國が亡ぶや、林野に遁る。元の至元中、累りに召されたが起たず。門人、安節先生と私諡す。〔尙友錄、二〕。

【徐準】163 ジョジュン　明、山東新城の人。字は子式。萬曆の進士。官は中書舍人。後、雲南布政使。萬曆中の四君子の一。〔王象春徐準墓誌銘〕。

【徐初】164 ジョショ　元、松江華亭の人。字は本道。早く母を喪ひ、後母に事へて至孝。至正中、浙右警となる。〔松江府志〕。

【徐庶】165 ジョショ　蜀漢、潁川の人。字は元直。初の名は福。初、劉備に事ふ。尋いで曹操が其の母を捕へるや、諸葛亮を備に薦めて己の代りとし、備のもとを去つて操に歸屬した。母は庶が劉備に背いて來たのを見て大いに忿り、自縊して死す。後、御史中丞になつたが、終身、操のために謀を設けず。〔三國志、三十五〕。

【徐徐】166 ジョジョ　❶擧動がおちついてゐるさま。しとやかなさま。〔莊子、應帝王〕有虞氏不㆑及㆓泰氏㆒、泰氏其臥徐徐、其覺于于。〔釋文〕司馬云、徐徐、安隱貌。❷寢てゐるさま。〔莊子、應帝王、徐徐、釋文〕簡文云、徐徐于于、寐之狀也。❸そろそろ。靜かに。ゆるやか。〔易、困〕來徐徐、困㆓于金車㆒。〔釋文〕徐徐、馬云、安行貌。〔孟子、盡心上〕孟子曰、是猶㆘或紾㆓其兄之臂㆒、子謂㆑之姑徐徐云爾㆖、亦教㆓之孝悌㆒而已矣。〔素問、三部九候論〕病中手徐徐然者病。〔注〕徐徐、緩也。❹疑ひ懼れるさま。〔古詩、爲㆓焦仲卿妻㆒作〕徐徐更謂㆑之。〔易、困、釋文〕徐徐、疑懼貌。〔注〕徐徐者、疑懼之辭也。

【徐松】167 ジョショウ　清、大興の人。字は星伯。號は治樸學齋。嘉慶の進士。官は編修。事に坐して伊犂に貶謫さる。後、許されて禮部主事と爲り、潼商兵備道に歷官し、地理に精し。著に新疆識略・唐兩京城坊考・唐登科記考・宋三司條例考・後漢書西域傳補注・西域水道記・西游記考がある。〔清史稿、四百九十一〕・〔清史列傳、七十三〕・〔大清畿輔先哲傳、二十五〕・〔續碑傳集、七十八〕。

【徐崧】168 ジョショウ　清、吳江の人。字は松之。號は臞菴居士。詩名あり。其の友の張大純と共に百城煙水を著はす。

【徐鉽】169 ジョショク　清、錢塘の人。字は彥常。號は西澗。乾隆の諸生。詩に巧。山水畫を吳岡に學ぶ。書室を竹光樓といふ。〔國朝耆獻類徵、四百四十〕・〔清畫家詩史、己、上〕。

【徐稷】170 ジョショク　清、常熟の人。字は稼臣。號は稔齋。別號は歷山。詩・畫を能くし、書法に巧。〔國朝書人輯略、三〕。

【徐申】171 ジョシン　❶唐、京兆の人。字は維降。諡は平。進士。官は洪州長史。後、嶺南節度使に至る。〔唐書、一百四十三〕。❷明、崑山の人。字は周翰。嘉靖中、鄕擧より刑部主事に累官す。後、提牢主事の不軌の謀に坐し、外任に貶謫せらる。〔明史、二百七〕。

【徐伸】172 ジョシン　宋、三衢の人。字は幹臣。號は青山翁。政和の初、音律に通ずるによつて太常典樂となる。後、常州の知。著に青山樂府がある。

【徐甡】173 ジョシン　清、常熟の人。字は行來。號は林丘。別號は耦生。山水畫・楷書・懷素書を能くし、詩に巧。卒年、八十有三。〔清畫家詩史、甲、下〕。

【徐昕】174 ジョシン　明、淳安の人。字は仲田（仲由）。傳奇詞曲に巧。著に南曲殺狗曲・巢松集がある。〔明人小傳、一〕・〔明詩綜、十一〕・〔靜志居詩話、四〕。

【徐進】175 ジョシン　おもむろにすすむ。〔張衡、西京賦〕始徐進而羸形、似㆑不㆑任㆓乎羅綺㆒。

【徐震】176 ジョシン　明、吳縣の人。字は德重。少くして詩名あり、西蜀の晏鐸、海昌の蘇平と倡和し、十才子に列す。後、洞庭山中に隱る。

【徐臻】177 ジョシン　宋、溫州の人。文天祥に從つて、王事に勤む。天祥が執へられたと聞き、北行して忠隸を殫し、中道に卒す。〔宋史、四百五十四〕・〔宋季忠義錄、十〕。

【徐訒】178 ジョシン　清、江蘇華亭の人。號は鐵海。詩・書畫に巧。書室を清平山館といふ。著に清平山館がある。

【徐水】179 ジョスイ　❶川の名。㋑今の名は徐河。源は河北省易縣の五回嶺。東南流して白洋淀に注ぐ。支流は依城河。〔讀史方輿紀要、直隷、保定府、清苑〕徐河、府北十五里、出㆓易州西五回嶺㆒、經㆓滿城縣北㆒、名㆓大冊河㆒、出㆓郎山下㆒、東南流至㆓府北㆒、名㆓徐河㆒、又東入㆓安州界㆒、入㆓于易水㆒、水經注、徐水出㆓北平㆒、東逕㆓清苑縣城東㆒、而至㆓高陽縣㆒、是也。㋺陝西省郃陽の北。黃河に注ぐ。今の名は橋頭河。❷縣名。民國、置く。河北省保定道。清苑縣の東北。縣の南を徐水が流れてゐるので名を得た。京漢鐵道に沿ふ。縣西に釜山あり、風景頗佳。

【徐嵩】180 ジョスウ　❶前秦の人。字は元高。諡は忠武。苻堅の時、長安令となる。姚方成に執へられ、斬らる。〔晉書、一百十五〕。❷徐鑠慶(387)を見よ。

【徐趨】181 ジョスウ　しづかにはしる。〔戰國、趙策〕左師觸讋願㆑見㆓太后㆒、太后盛㆑氣而揖㆑之、入而徐趨。

【徐生】182 ジョセイ　❶徐々に長生すること。〔老子、十五〕孰能安以久㆑之徐生。〔河上公注〕徐徐以長生也。❷漢、魯の人。高唐生の門人。頌を爲るに巧。禮に通ず。孝文の時、禮官大夫となる。〔前漢書、八十八〕。

【徐政】183 ジョセイ　明、儀眞の人。建文の時、揚州衞千戶。城を以て成祖に降り、都指揮同知となる。張輔に從つて交阯を征し、歷戰功あり。〔明史、一百五十四〕・〔萬斯同明史、二百二〕・〔明史稿、一百三十六〕・〔明名人傳、二〕。

【徐晟】184 ジョセイ　清の人。樹丕の子。字は禎起。一の字は損之。號は陶園・秦臺樵史。博學にして文を善くす。諸生の地位を棄て、父に從つて隱れ、徒に授けて終る。著に陶園詩文集・家乘識小錄・姑蘇續名賢小紀がある。〔國朝耆獻類徵、四百七十〕。

【徐清】185 ジョセイ　徐々に清くすむこと。〔老子、十五〕孰能濁以靜㆑之徐清。〔河上公注〕徐徐自清也。〔淮南子、原道訓〕濁而徐清。

【徐盛】186 ジョセイ　三國吳、琅邪の人。字は文嚮。吳に客となり、勇を以て聞ゆ。官は別部司馬・中郞將・安東將軍。封は蕪湖侯。〔三國志、五十五〕。

【徐招】187 ジョセウ　後魏、高平の人。字は思賢。延昌中、數〻戰功を立て、高廣侯に封ぜられ、儀曹郞中に遷る。永熙の末、孝武に從つて關中に入り、給事黃門侍郞に至る。〔周書、三十七〕・〔北史、七十〕。

【徐照】188 ジョセウ　宋、永嘉の人。字は道暉、又、靈暉。號は山民。詩に巧。苦茗を嗜み、趙師秀・翁卷・徐璣と共に永嘉の四靈と稱せらる。書室を芳蘭軒といふ。著に芳蘭軒集がある。〔宋史翼、二十八〕・〔本朝分省人物攷〕。

【徐勣】189 ジョセキ ❶唐の人。李勣(6－14459··515)を見よ。❷宋、南陵の人。字は元功。進士。官は顯謨閣學士。〔宋史、三百四十八〕・〔宋史新編、一百十八〕・〔東都事略、一百五〕・〔元祐黨人傳、三〕。

【徐奭】190 ジョセキ ❶宋、甌寧の人。字は武卿。大中祥符中、進士第一。天聖の初、兩浙轉運使となり、後、開封府知。〔尙友錄、二〕。❷宋、杭州の人。大隱坊に居り、又嘗て萬松嶺下に居る。徽宗、沖晦先生の號を賜ふ。

【徐積】191 ジョセキ 宋、山陽の人。字は仲車。謚は節孝處士。孝子。故瑗の弟子。元祐の初、楚州教授となる。著に節孝語錄・節孝集がある。〔宋史、四百五十九〕・〔宋史新編、一百七十九〕・〔東都事略、一百十七〕・〔三朝名臣言行錄、十四〕・〔宋元學案、一〕。

【徐節】192 ジョセツ 明の人。資の子。字は時中。成化の進士。內鄕知縣・御史・雲南參政より副都御史・山西巡撫に遷り、劉瑾に忤つて退職す。瑾が誅せらるるや復職す。〔國朝獻徵錄、六十二〕・〔昭代明良錄、十〕・〔國朝列卿記、一百二十二〕。

【徐宣】193 ジョセン 三國魏、廣陵の人。字は寶堅。謚は貞。曹操の司空掾・左護軍。明帝の時、津陽亭侯に封ぜられ、左僕射に至る。三朝に歷仕し、柱石の臣と稱せらる。〔三國志、二十二〕。

【徐瑄】194 ジョセン ❶宋、定の人。字は純中。嘉定の末、大理卿となる。後、史彌遠に從はず、象州に謫せらる。〔宋史翼、十五〕。❷明の人。字は子敬。經學に明通し、正統中、御史となる。尋いで右僉都御史・延綏巡撫に歷任し、邊績大いにあがる。〔國朝獻徵類、六十三〕・〔國朝列卿記、一百二十八〕・〔蘭臺法鑒錄、八〕。

【徐暹】195 ジョセン 明、歷城の人。字は進甫。弘治の進士。給事中・山西僉事・同副使となり、權貴を選ばず論劾す。巨盜混天王を平定し、士民之を頌す。〔明史、一百八十八〕・〔萬斯同明史、二百五十八〕・〔明史稿、一百七十三〕・〔本朝分省人物攷、九十四〕。

【徐善】196 ジョゼン 清、嘉興の人。字は敬可。學者。著に易論・徐氏四易・春秋地名考がある。〔清史列傳、六十八〕・〔碑傳集、一百二十五〕。

【徐楚】197 ジョソ 明、淳安の人。號は青溪。官は四川布政司參政。著に青溪詩集がある。〔明人小傳、三〕・〔明詩綜、四十二〕。

【徐琮】198 ジョソウ ❶清、蘄州の人。字は侶蒼。諸生。詩書六書の學に巧。❷清、錢塘の人。字は階平。號は枳園。畫に巧。

【徐增】199 ジョソウ 清、長洲の人。字は子能。號は十足道人。著に說唐詩・重編靈隱寺志がある。〔四庫提要、七十七・一百九十四〕。

【徐則】200 ジョソク 隋、郯の人。妻を娶らず。天台山に入り、穀を絕つて養性した。〔隋書、七十七〕・〔北史、八十八〕。

【徐存】201 ジョソン 宋、江山の人。字は誠叟。號は逸平翁。楊時の弟子。隱居して仕へなかつた。經學を教授す。〔宋元學案、二十五〕。

【徐岱】202 ジョタイ 唐、嘉興の人。字は處仁。博學。大歷中、劉晏が上表して校書郎となし、觀察使李栖筠、其の居に署して復禮鄕といふ。貞元の初、太子諸王侍讀となり、後、給事中・史館修撰に至る。〔唐書、一百六十一〕・〔舊唐書、一百八十九下〕。

【徐泰】203 ジョタイ 明、海鹽の人。字は子元。弘治の擧人。官は光澤知縣。著に詩談がある。〔明人小傳、二〕・〔明詩綜、二十八〕・〔明詩紀事、丁、十四〕。

【徐退】204 ジョタイ 清、興化の人。字は進之。初名は宗勉。書畫に巧。〔國朝書人輯略、十〕。

【徐唐】205 ジョタウ 宋、寧化の人。字は守忠。胡瑗の弟子。上庠に講學す。歐陽脩、之を朝に推薦し、仁宗、易を講ぜしむ。〔宋元學案、一〕。

【徐棖】206 ジョタウ 清、海鹽の人。字は虞風。諸生。陳梓と遊び、張履祥の學を聞く。著に四書集說・楊園年譜附錄がある。〔碑傳集、一百二十七〕。

【徐燾】207 ジョタウ 清、長沙の人。字は莘農。諸生。書室を南州別墅といふ。著に南州別墅詩文集がある。

【徐堂】208 ジョタウ 清、呉江の人。字は澹人。道光中の諸生。經に通じ、詩文に巧。書室を藉谿古堂といふ。著に三家詩述・爻辰圖說・書古訓がある。〔續碑傳集、七十二〕・〔飛鴻堂印人傳、二〕。

【徐宅】209 ジョタク 徐國をいふ。字解の❼を見よ。〔詩、魯頌、閟宮〕保㆓有鳧繹㆒、遂荒㆓徐宅㆒。〔集傳〕宅、居也、謂㆓徐國㆒也。

【徐倬】210 ジョタク 清、德清の人。字は方虎。號は蘋村。康熙の進士。官は侍讀。後、家居し、聖祖が南巡するや、全唐詩錄百卷を進呈し、禮部侍郎銜を加へらる。書室を道貴堂といふ。著に道貴堂類稿がある。〔清史列傳、七十〕・〔國朝耆獻類徵、五十八〕・〔國朝先正事略、四十〕・〔國朝詩人徵略、九〕。

【徐澤】211 ジョタク 明、襄陽の人。字は兌若。崇禎の進士。官は遵義縣知。張獻忠が城を陷れるや、之に死す。〔明史、二百九十二〕・〔萬斯同明史、三百七十七〕・〔明史稿、二百七十一〕・〔崇禎忠節錄、五〕・〔勝朝殉節諸臣錄、六〕。

【徐鐸】212 ジョタク ❶宋、莆田の人。字は振文。熙寧の進士。官は龍圖閣待制・吏部尙書。〔宋史、三百二十九〕・〔宋史新編、一百八〕。❷清、鹽城の人。字は令民。乾隆の進士。官は山東布政使。著に易經提要錄・書經提要がある。〔國朝耆獻類徵、一百七十八〕。

【徐達】213 ジョタツ 明、濠の人。字は天德。謚は武寧。初、郭子興の部將。後、太祖に歸し、戰功あり、大將軍となる。常遇春と倶に明代開國の勳臣。中書右丞相に累官し、魏國公に封ぜらる。卒して中山王に追封さる。〔明史、一百二十五〕・〔萬斯同明史、一百六十〕・〔明史稿、一百十六〕・〔國朝獻徵錄、五〕・〔明名臣言行錄、一〕・〔皇朝名臣言行錄、一〕。

【徐端】214 ジョタン 清、德清の人。字は肇之。乾隆中、通判となり、嘉慶中、江南河道總督となる。河事に明習す。著に迴瀾紀要・安瀾紀要がある。〔清史稿、三百六十六〕・〔國朝耆獻類徵、一百九十三〕。

【徐摛】215 ジョチ 梁、郯の人。字は士秀。謚は貞。其の文章は好んで新變をなし、宮體と稱せられる。官は太子左衞率。〔梁書、三十〕。

【徐遲】216 ジョチ ゆるやかなこと。舒遲(9－30300··61)に同じ。

【徐穉】217 ジョチ 後漢、南昌の人。字は孺子。徵辟に應ぜず、南州の高士と稱せらる。太守陳蕃に重んぜらる。〔後漢書、八十三〕・〔高士傳、下〕。

〖徐穉置芻〗218 ジョチチスウ 蒙求の標題。後漢の徐穉が郭林宗の母の喪に生芻一束を廬前に置いて弔つた故事。〔後漢書、徐穉傳〕及㆔林宗有㆓母憂㆒、穉往弔㆑之、置㆓生芻一束於廬前㆒而去、衆怪不㆑知㆓其故㆒、林宗曰、此必南州高士徐孺子也、詩不㆑云乎、生芻一束、其人如㆑玉、吾無㆓德以堪㆒㆑之。

【徐鑄】219 ジョチウ 宋の人。師閔の子。字は元鈞。官は徽猷閣待制、知杭州。〔尙友錄、二〕。

【徐娘】220 ジョヂヤウ ❶梁、元帝の妃の徐氏をいふ。徐妃(261)の❶を見よ。〔南史、元帝徐妃傳〕元帝徐妃、諱昭佩、無㆓容質㆒、不㆑見㆑禮、帝、三二年一入㆑房、帝左右暨季江有㆓姿容㆒、又與淫通、季江每歎曰、柏直狗雖㆑老猶能獵、蕭溧陽馬雖㆑老猶駿、徐娘雖㆑老猶尙多情。❷hsü^2 niang^2 浮氣者の老婆をいふ。

〖徐娘半老〗221 hsü^2 niang^2 pan^4 lao^3 中年の女子。

【徐忠】222 ジョチユウ 明、合肥の人。字は仲達。謚は忠烈。洪武中、父の功を以て千戶を襲ぎ、濟陽衞指揮に遷る。靖難の兵起るや、燕王に附して功あり、都督僉事に累遷し、永康侯に封ぜらる。〔明史、一百四十六〕・〔萬斯同明史、一百九十〕・〔明史稿、一百三十四〕・〔國朝獻徵錄、七〕。

【徐柱】223 ジョチユウ 明、呉の人。字は夢節。一の字は孟卿。葡萄畫を善くす。〔明畫錄、七〕。

【徐徵】224 ジョチョウ 後漢、荔浦の人。字は君求。延熹中、郡に仕へて督郵となる。

【徐陟】225 ジョチョク 宋、浦城の人。字は光明。大中祥符の進士。官は永州判官。

【徐陳】226 ジョチン 良い友達の稱。徐幹と陳琳とは共に才華があり、魏の文帝の善友であつたからいふ。〔陸厥、奉㆓答內只希叔㆒詩〕華屋富㆓徐陳㆒。

【徐定】227 ジョテイ ❶宋、晉江の人。字は德操。邵武令・太平州通判を歷て潮州守に至る。〔尙友錄、二〕。❷宋、豐城の人。親の喪に廬墓三年、家に紅紫牡丹あり、忽ち白に變ず。時人、孝感となす。

【徐珵】228 ジョテイ 徐有貞(329)を見よ。

【徐珽】229 ジョテイ 清、無錫の人。字は子常。號は南臺。詩・古文詞に巧。聖祖が南巡するや、詩賦を獻じて國子生を賜はり、浙江德清縣知となる。著に

南村詩文集がある。〔國朝耆獻類徵、一百四十三〕。

【徐鼎】230 ジョテイ ㊀明、漳浦の人。字は思重。嘉靖の進士。南戸科給事中より、工科都給事中に至る。㊁清、呉縣の人。寄は峙東。號は雪樵。經學に精しく、山水畫に巧。書室を靄雲館といふ。著に毛詩名物圖說・靄雲館詩文集がある。〔國朝畫識、一〕・〔墨香居畫識、六〕・〔國朝書人輯略、五〕。㊂清、海寧の人。字は恭之。號は庚笙。稟貢生。著に庚笙詩稿がある。㊃清、東湖の人。畫に巧。

【徐霆】231 ジョテイ 宋、永嘉の人。字は長孺。紹定中、趙善に從つて李全と戰ふ。端平の初、北に使す。武功大夫となる。〔宋元學案、六十五〕。

【徐頲】232 ジョテイ 清、長洲の人。字は少鶴。號は直卿。嘉慶の進士。内閣學士となる。江聲の弟子。尤も說文に精しく、經進文及び詩文集がある。〔國朝先正事略、三十六〕・〔國朝漢學師承記、二〕。

【徐潮】233 ジョチョウ 清、錢塘の人。字は青來。諡は文敬。康熙の進士。官は河南巡撫・吏部尙書。〔國朝先正事略、十〕。

【徐的】234 ジョテキ 宋、建安の人。字は公準。進士の第に擢んでられ、欽州軍事推官となる。吏才に敏く、兵事に曉通し、荆湖南路安撫使に累官し、宜州の蠻を鎭撫す。〔宋史、三百〕・〔宋史新編、九十三〕。

【徐哲】235 ジョテツ 元、萊陽の人。字は延徽。茂才を以て峽州路長楊縣教諭を授けられたが就かず。著に齊東野語集がある。〔元詩紀事、二十四〕。

【徐嚞】236 ジョテツ 宋、西安の人。字は吉卿。紹興中、金主亮が使を遣して和を請ふや、嚞は館伴使となる。金使入り來り、肯て國書を授けず、嚞、ただちにすすみて書を奪ひて進む。金使氣沮む。高宗、之を嘉す。官は吏部尙書。〔尙友錄、二〕。

【徐杜】237 ジョト 唐の徐有功、杜景佺をいふ。二人、獄官となり、正をとつておもねらず、時人に敬慕された。〔唐書、杜景佺傳〕入爲㆓司刑丞㆒、與㆓徐有功・來俊臣・侯思止㆒專治㆓詔獄㆒、時稱、遇㆓徐杜㆒者生、來侯者死。

【徐度】238 オモムロニワタル ㊀しづかに吹きわたる。〔依田學海、談叢〕春風徐度、穩波展㆑席。㊁ドジョ ㋑陳、安陸の人。字は孝節。諡は忠肅。初、梁の蕭介に從つて諸山洞を征し、後、陳の武帝に歸し、廣州を平定す。爵は廣德縣公。〔陳書、十二〕・〔南史、六十七〕。㋺宋、穀熟の人。字は敦立。南渡の後、吏部侍郎となる。著に卻掃編がある。〔宋史新編、一百二十二〕・〔宋元學案、二十七〕。㊇明、江陰の人。字は克弘。晩年にして進士となる。弘治中、廣東副使となる。〔尙友錄、二〕。

【徐登】239 ジョトウ ㊀後漢、閩中の人。もと女子。後、化して丈夫となり、巫術を善くす。〔後漢書、一百十二下〕。㊁清、南海の人。字は璧華。號は稚山。書畫に巧。

【徐熥】240 ジョトウ 明、閩縣の人。字は惟和。號は幔亭。萬曆の擧人。弟𤊹と俱に才名を擅にす。著に幔亭集がある。〔明史、二百八十六〕・〔明詩綜、五十五〕。

【徐桐】241 ジョトウ 清、漢軍旗人。字は蔭軒。咸豐の進士。檢討を以て穆宗の師傅と爲り、光緒中、大學士に至る。拳匪の起るや之に附し、聯合軍が都城を陷れるに及んで、自經して死す。〔清史稿、四百七十二〕・〔清史列傳、六十三〕。

【徐敦】242 ジョトン 清、宣城の人。字は秩五。官は四川幕職。後、浮屠に隱れ、名を在柯と更め、號は半山。

【徐楠】243 ジョナン 明、宣城の人。字は任之。嘉靖の擧人。萊陽縣知より同知撫州となる。

【徐寧】244 ジョネイ 晉、郯の人。字は安期。清廉の士。官は輿縣令・吏部郎・江州刺史。〔晉書、七十四〕。

【徐波】245 ジョハ 清、呉縣の人。字は元歎。號は頑菴・浪齋・染香菴。明末の諸生。清になつて落木菴を構へ、枯禪を以て終る。又、書室を謐簫堂といふ。著に謐簫堂・染香菴集等がある。〔清史稿、四百八十九〕・〔國朝耆獻類徵、四百七十〕・〔碑傳集、一百二十四〕・〔國朝詩人徵略、五〕。

【徐霈】246 ジョハイ 明、江山の人。號は惠溪。王守仁の弟子。嘉靖の進士。官は廣東左布政。後、隱居して講學し、學者之を宗とす。〔明名人傳、二〕。

【徐玫】247 ジョバイ 清、呉縣の人。字は彩若。號は華塢（華隖）。花鳥人物畫に巧。〔國朝書畫家筆錄、一〕。

【徐方】248 ジョホウ ㊀徐國をいふ。字解の㊅を見よ。〔詩、大雅、常武〕徐方既來。㊁徐州をいふ。徐方牧(249)を見よ。

『徐方牧』249 ジョホウボク 徐州の長官。徐州(146)を見よ。〔范雲、贈㆓張徐州謖㆒詩〕疑是徐方牧。

【徐邦】250 ジョホウ 清、杭州の人。字は彥膺。寫生に巧。花鳥は呂黃に摹し、書法は顏米を宗とす。〔國朝畫識、三〕。

【徐枋】251 ジョホウ 清、長洲の人。汧の子。字は昭法。號は俟齋・秦餘山人・雪牀菴主人。明の崇禎の擧人。父の汧が國難に殉ずるや、遂に隱居して出でず。沈壽民・巢鳴盛と共に海內三遺民と稱せらる。書畫に巧。尤も詩名あり。書室を居易堂・澗上草堂といふ。著に居易堂集・俟齋集・二十一史文彙・通鑑紀事類聚・讀史稗語・讀史雜抄がある。〔明史、二百六十七〕・〔清史稿、五百六〕・〔國朝耆獻類徵、四百七十八〕・〔碑傳集、一百二十六〕・〔國朝先正事略、四十五〕・〔宋學淵源記、二〕・〔清代學者象傳、一〕。

【徐舫】252 ジョホウ 明、桐廬の人。字は方舟。號は滄江散人。意を仕進に絕ち、專ら詩歌を爲る。著に瑤林・滄江の二集がある。〔明史、二百九十八〕・〔萬斯同明史、三百九十六〕・〔明史稿、二百七十九〕・〔國朝獻徵錄、一百十五〕。

【徐防】253 ジョボウ 後漢、銍の人。字は謁卿。永平中、孝廉に擧げられる。官は司徒。安帝の初、災異策を以て免ぜらる。〔後漢書、七十〕。

【徐房】254 ジョボウ 漢、北海の人。陰陽に通曉し、隱居して教授す。逢子慶・李子雲等と親交あり。〔後漢書、一百十三〕。

【徐白】255 ジョハク 明、呉江の人。字は介白・笑菴。國變の後、諸生を棄てて靈巖山に隱る。〔國朝先正事略、四十七〕・〔明人小傳、五〕・〔明詩綜、八十上〕。

【徐柏】256 ジョハク 明、浦城の人。字は守卿。嘉靖の進士。戶部員外郎より湖北右參政となる。〔浦城縣志〕。

【徐邈】257 ジョバク ㊀三國魏、薊の人。字は景山。諡は穆。初、尙書郎となる。文帝の時、州郡に出で、所在に政績を擧ぐ。齊王芳が立つや、司空に拜せんとしたが、固辭す。〔三國志、二十七〕。㊁晉、姑幕の人。官は中書舍人・驍騎將軍。嘗て穀梁傳に注す。〔晉書、九十一〕。

【徐發】258 ジョハツ 清、嘉興の人。字は圃臣。著に天元曆理・清類亭稿がある。〔顏李師承記、六〕。

【徐範】259 ジョハン 宋、侯官の人。字は彝父（彝甫）。孝士。嘉定の進士。官は祕書丞・朝奉大夫。〔宋史、四百二十三〕・〔宋史新編、一百四十八〕・〔南宋書、四十〕・〔慶元黨禁〕・〔宋元學案、九十七〕。

【徐蕃】260 ジョハン 明、泰州の人。字は宣之。弘治の進士。初、給事中となる。劉瑾を論劾し、削籍せられて民と爲つたが、瑾が誅せられるや、江西參議に起用せられた。陳金に從つて、東鄉の寇を討平し、工部侍郎に遷る。〔明史、一百八十八〕・〔萬斯同明史、二百五十八〕・〔明史稿、一百七十三〕・〔本朝分省人物攷、三十一〕。

【徐妃】261 ジョヒ ㊀梁、郯の人。名は昭佩。元帝の妃。元帝が一目眇なるを以て、半面に化粧して俟ち、帝の怒にふれた。帝の近臣、暨季江と淫通す。〔南史、十二〕。㊁唐、長城の人。名は惠。太宗の才人。貞觀の末、四夷を討平す。帝の崩後、哀慕して疾を成し、永徽の初、卒す。年二十四。〔唐書、七十六〕。㊂前蜀、王建の妃。花蕊夫人(**9－30734**··291)を見よ。

【徐悱】262 ジョヒ 梁の人。勉の次子。字は敬業。文に巧。官は太子舍人・晉安內史。〔梁書、二十五〕。

『徐悱妻』263 ジョヒノツマ 梁の人。劉令嫻(**2－2224**··1361)を見よ。

【徐彪】264 ジョヒュウ 明、浦城の人。字は叔傑。至孝を以て聞ゆ。〔明史、二百九十六〕。

【徐泌】265 ジョヒツ 清、衢州の人。字は鶴汀。康熙中、全州知州となる。著に湘山志あり。〔四庫提要、七十六〕。

【徐弼】266 ジョヒツ 明、漳浦の人。字は良佐。成化の擧人。官は海陽知縣。

【徐馮】267 ジョヒョウ 周代の隱者。〔淮南子、道應訓〕王壽負㆑書而行、見㆓徐馮於周㆒、徐馮曰、事者應㆑變而動、變生㆓於時㆒、故知㆑時者無㆓常行㆒、書者言之所㆑出也、言出㆓於知㆒者、知者藏㆑書、於㆑是王壽乃焚㆑書而舞㆑之。〔注〕徐馮、周之隱者也。

【徐份】268 ジョヒン 陳の人。陵の子。官は海鹽令・太子洗馬。父母に事へて至孝。〔陳書、二十六〕。

【徐賓】269 ジョヒン 清、常熟の人。字は用王。書室を芝雲堂といふ。著に歴代黨鑑がある。〔四庫提要、六十三〕。

【徐俯】270 ジョフ 宋の人。禧の子。字は師川。號は東湖。七歳にして詩を能くし、其の舅黄庭堅、之を器とす。紹興の初、參知政事。著に東湖集がある。〔宋史、三百七十二〕・〔宋史新編、一百二十七〕・〔南宋書、二十五〕・〔宋中興學士院題名錄〕・〔宋元學案、二十五〕。

【徐溥】271 ジョフ 明、宜興の人。字は時用。號は謙齋。諡は文靖。景泰の進士。官は編修・華蓋殿大學士。內閣に居ること十二年。著に謙齋文錄がある。〔明史、一百八十一〕・〔萬斯同明史、二百三十七〕・〔明史稿、一百六十四〕・〔國朝獻徵錄、十四〕・〔明名臣言行錄、二十九〕・〔明詩綜、二十二〕。

【徐舞】272 ジョブ 靜かにまふ。〔張華、晉自紵舞歌詩〕清歌徐舞降㆓祇神㆒、四座歡樂胡可㆑陳。

【徐復】273 ジョフク ❶宋、建州の人。京房易に精し。賜號は沖晦處士。仁宗召見し、大理評事を命じたが就かず、沖晦處士の號を賜はる。杭州に家し、林和靖と共に、杭州の二處士と稱せられる。〔宋史、四百五十七〕・〔宋史新編、一百七十七〕・〔東都事略、一百十八〕・〔隆平集、十五〕・〔名臣碑傳琬琰集、下、二十一〕。❷清、江都の人。字は心仲。嘉慶の諸生。焦循に見出され、經史に從事し、算學に精し。著に論語疏證がある。〔清史稿、四百八十七〕・〔清史列傳、六十八〕・〔國朝耆獻類徵、四百二十二〕。

【徐福】274 ジョフク ❶秦、琅邪の方士。史記には徐市に作る。字は君房。始皇帝の命により、童男童女各三千人を率ゐて長生不死の藥を求め、海に入つて遂にかへらず。今紀州熊野に、其の塚と稱するものがある。〔史記、一百十八〕・〔前漢書、二十五〕・〔後漢書、一百十五〕・〔仙傳拾遺〕。❷漢、茂陵の人。宣帝の時、上書して霍氏の榮えんことをいひ、帛十疋を賜はり、郎となる。〔漢書、六十八〕。

【徐市】275 ジョフツ 秦の方士。徐福(274)の❶に同じ。〔史記、秦始皇紀〕於㆑是遣㆓徐市㆒、發㆓男女數千人㆒、入㆑海求㆓遷人㆒。〔注〕正義曰、括地志云、亶洲在㆓東海中㆒、秦始皇使㆘徐福將㆓童男女㆒入㆑海求㆗遷人㆖、止㆓住此洲㆒。〔考證〕何孟春曰、徐市又作㆓徐福㆒、非㆑有㆓兩名㆒、市乃古黻字、漢時未㆑有㆓翻切㆒、但以㆓聲相近字㆒注㆓其下㆒、後人讀㆑市作㆓市廛之市㆒、故疑㆑福爲㆓別名㆒。〔後漢書、方術下、甘始傳、注〕曹植辨道論曰、始若遭㆓秦始皇漢武帝㆒、則復㆓徐市・欒大之徒㆒也。〔郗昂、驪山傷古賦〕徵㆓茅濛㆒爲㆓卻粒之符㆒、遣㆓徐市㆒爲㆓求眞之客㆒。

【徐文】276 ジョブン 金、萊州の人。字は彥武。宋末の戰士。巨刀を揮ふ。故に徐大刀と稱せられる。功を以て都統制となる。後、劉豫に歸し、遂に金に入り、龍虎衞上將軍となる。〔金史、九十七〕。

【徐文長集】277 ジョブンチャウシフ 書名。三十卷。明、徐渭撰。內容は、賦一卷・樂府一卷・五七言古三卷・五七言律二卷・五七言排律二卷・五七言絶句三卷・詞一卷・表一卷・疏一卷・啓一卷・書一卷・論一卷・策一卷・序一卷・跋一卷・贊一卷・銘一卷・記一卷・碑一卷・傳一卷・墓誌銘、墓表共一卷・行狀一卷・祭文一卷・雜著一卷。徐謂の詩は、李白・李賀の閒に出入し、其の文は、蘇軾に學んで詩よりも勝れてゐる。〔四庫提要、集、別集類存目〕。

【徐文清公家傳】278 ジョブンセイコウカテン 書名。一卷。宋、徐僑の傳を、其の門人が撰したもの。〔四庫未收書目提要、一〕。

【徐聞】279 ジョブン 縣名。漢、置く。廣東省海康縣の南。雷州半島の南端。瓊州海峽を隔てて海南島と相對す。〔漢書、地理志下〕合浦郡、縣五、徐聞。〔讀史方輿紀要、廣東、雷州府〕徐聞縣、漢置㆑縣爲㆓合浦郡治㆒、後漢屬㆓合浦郡㆒、三國吳爲㆓珠崖郡㆒、晉仍屬㆓合浦郡㆒、宋因㆑之、齊仍爲㆑治、又析置㆓齊康縣㆒爲㆓齊康郡治㆒、梁陳閒、幷㆓徐聞縣㆒入焉、隋平㆑陳、廢㆑郡改㆑縣、曰㆓隋康㆒、屬㆓合州㆒、大業初、屬㆓合浦郡㆒、唐屬㆓南合州㆒、貞觀二年、復曰㆓徐聞縣㆒、尋屬㆓雷州㆒、宋開寶五年、廢、乾道七年、復置。〔清史稿、地理志〕廣東、雷州府、縣三、徐聞。

【徐平】280 ジョヘイ 三國吳、太末の人。字は伯先。諸葛恪が丹陽太守となつた時、平を丞とした。後、恪に疏んぜられたが、恪の死後、其の子建を助けた。時人、長者と稱す。

【徐標】281 ジョヘウ 明、濟寧の人。字は準明。崇禎中、副都御史となる。闖賊が山西を陷れるや、兵部侍郎を以て師を督し、執へられて死す。〔明史、二百六十六〕・〔萬斯同明史、三百八十二〕・〔明史稿、二百五十三〕・〔小腆紀年、三〕。

【徐苗】282 ジョベウ 晉、高密の人。字は叔胄。累世、名德あり。其の兄弟の孤遺を撫養し、慈愛州里に聞ゆ。著に五經同異評・玄微論がある。〔晉書、九十一〕。

【徐勉】283 ジョベン 梁、郯の人。字は修仁。諡は簡肅。官は吏部尙書・中書令。范雲と倶に梁の賢相と稱せらる。〔梁書、二十五〕・〔南史、六十〕。

【徐步】284 ジョホ ゆるやかに歩む。〔左氏、哀、十二〕徐步而死。〔宋玉、神女賦〕動㆓霧縠㆒以徐步兮。

【徐浦】285 ジョホ 明、浦城の人。字は伯源。嘉靖の進士。弋陽令となり、奸民葉世豪の亂を平定す。官は工科給事中・廣西僉事。著に歸閒吟稿がある。〔明史、二百〕・〔明史稿、一百八十五〕。

【徐郙】286 ジョホ 清、嘉定の人。字は頌閣。同治の進士。官は協辦大學士・禮部尙書。時人、嘉定相國といふ。〔國朝書畫家筆錄、四〕。

【徐鳳】287 ジョホウ 宋、浦城の人。字は子儀。慶元の進士。寧宗に山東諸帥の跋扈に就いて獻策す。官は朝散大夫・祕書少監・顯謨閣待制・贛州知。著に內制及び文集がある。〔宋元學案、七十四〕。

【徐𤊹】288 ジョボツ 明の人。熥の弟。字は惟起・興公。號は天竺山人。草隸・詩文を善くし、萬曆中、閩中の詩壇を主り、布衣を以て終る。書室を汗竹巢・紅雨樓といふ。著に紅雨樓集・榕陰新檢・筆精・閩南唐雅がある。〔明史、二百八十六〕・〔明詩綜、六十五〕。

【徐本】289 ジョホン 清の人。潮の子。字は立人。諡は文穆。康熙の進士。乾隆の初、東閣大學士・禮部尙書に歷官す。奸民王益善等の獄を鞫治した。〔清史稿、三百八〕・〔清史列傳、十六〕・〔國朝耆獻類徵、十九〕・〔國朝先正事略、十〕。

【徐賁】290 ジョホン ジョヒ 明、長洲の人。字は幼文。號は北郭生。高啓・楊基・張羽と共に吳中四傑と稱せられる。洪武中、河南布政となる。詩・畫に巧。後、獄に下されて死す。著に北郭集がある。〔明史、二百八十五〕・〔萬斯同明史、三百八十六〕・〔明史稿、二百六十六〕・〔明詩綜、九〕。

【徐邁】291 ジョマイ おもむろにゆく。〔嵇康、琴賦〕安廻徐邁、寂爾長浮。

【徐無】292 ジョム ❶山名。河北省遵化縣。漢末、田疇が此に隱居した。〔讀史方輿紀要、直隸、順天府、薊州、玉田縣〕徐無山、縣東北二十里、後漢末、田疇入㆓徐無山㆒、營㆓深險平敞地㆒而居㆑之、百姓歸㆑之、至㆓五千餘家㆒、建安十一年、曹操伐㆓烏桓㆒、令㆔疇爲㆓鄉導㆒、上㆓徐無山㆒、是也、今其山綿延深。❷縣名。漢、置く。河北省玉田縣の東。〔漢書、地理志下〕右北平郡、縣十六、徐無。〔讀史方輿紀要、直隸、順天府、薊州、玉田縣〕徐無城、在㆓縣東㆒、漢縣屬㆓右北平郡㆒、後漢因㆑之、晉爲㆓北平郡治㆒、咸康二年、後趙石虎攻㆓段遼令支㆒至㆓徐無㆒、後魏縣屬㆓漁陽郡㆒、後周廢、入㆓無終縣㆒。

【徐無山人】293 ジョムサンジン 清、杜濬(6－14477‥149)の號。

【徐明】294 ジョメイ 明、合肥の人。官は百戶。陳友諒と戰ひ、執へられて死す。合肥縣男に追封せられた。〔明史、一百三十三〕・〔明史稿、一百二十一〕。

【徐問】295 ジョモン ❶しづかにとひただす。〔宋史、王珪傳〕罕獨引至㆑前、委曲徐問。❷明、武進の人。字は用中。諡は莊裕。學者、養齋先生と稱す。弘治の進士。官は南京戶部尙書。著に讀書劄記・山堂萃稿がある。〔明史、二百一〕・〔萬斯同明史、二百七十一〕・〔明史稿、一百八十〕・〔國朝獻徵錄、三十一〕・〔明詩綜、二十八〕・〔明儒學案、五十二〕。

【徐夜】296 ジョヤ 清、山東新城の人。字は東癡。初名は元善、字は長公。嵇叔夜を慕つて夜と改名し、嵇菴と字す。康熙中、鴻博に薦められ、老を以て辭す。著に東癡詩選がある。〔清史稿、四百八十九〕・〔清史列傳、七十〕・〔國朝耆獻類徵、四百二十六〕・〔碑傳集補、三十六〕・〔國朝先正事略、三十七〕。

【徐約】297 ジョヤク 唐、曹州の人。高駢の將となる。時に張雄・馮弘鐸、蘇州に據る。周寶、之を攻めし

め、既にして克つ。錢鏐の兵至るに及んで、海に入つて死す。〔唐書、一百九〕。

【徐瀹】298 清、錢塘の人。本姓は嚴。字は心潛。書畫に巧。〔國朝書人輯略、九〕。

【徐庾】299 清、太倉の人。字は冋懷。諸生。著に曇華詞がある。

【徐庾體】300 北周の徐陵と庾信との文體。其の文は綺艷を以て名有り。〔北史、庾信傳〕父肩吾、爲㆓梁太子中庶子㆒、掌㆓管記㆒、東海徐摛爲㆓右衞率㆒、子陵及信、並爲㆓抄撰學士㆒、父子東宮、出㆓入禁闥㆒、恩私莫㆓與比隆㆒、既文並綺麗、故世號爲㆓徐庾體㆒。〔滄浪詩話、詩體〕徐庾體、徐陵庾信也。

【徐勇】301 清、遼東の人。謚は忠節。明の總兵。順治の間、清に降り、長沙總兵となり、後、辰州守に遷る。孫可望と戰つて死し、太子太保を追贈され、二等男に進爵さる。〔清史稿、二百五十四〕・〔清史列傳、七十八〕・〔碑傳集、一百十七〕。

【徐雄】302 南齊の人。文伯の子。家、醫を業とし、尤も診察に巧。官は員外散騎侍郎。至孝を以て名あり。〔南史、三十二〕。

【徐溶】303 清、呉江の人。字は雲滄（雲蒼）。號は杉亭・白洋散人。王翬に師事して山水畫を修む。詩に巧。〔清畫家詩史、乙、下〕・〔國朝書畫家筆錄、一〕・〔國朝畫識、七〕。

【徐膺】304 宋、莆田の人。字は思文。七歲にして父を喪ひ、母に事へて至孝。〔尙友錄、二〕。

【徐鏞】305 明、湖廣興國の人。字は用和。成化の進士。官は御史。同官と汪直八の罪を彈劾し、其の黨王越・陳鉞諸人に及んだ。尋いで鎭原知縣に左遷せられ、弘治中、淮安府知に擢んでられ、右副都御史・總督漕運に終る。〔萬斯同明史、二百四十四〕・〔國朝獻徵錄、五十九〕・〔昭代明良錄、十〕。

【徐來】306 おもむろにきたる。しづかに來る。〔蘇軾、前赤壁賦〕清風徐來、水波不㆑興。

【徐蘭】307 ❶明、餘姚の人。字は秀夫。號は芳遠。書畫を善くし、書は趙孟頫に倣ふ。尤も善く水墨蒲萄を畫く。〔明畫錄、七〕。❷清、常熟の人。字は芬若。又、芝仙。詩を王士禛に學び、李賀の體に近い。後、安郡王に從つて塞を出で、北通州に流寓して終る。著に出塞詩がある。〔國朝耆獻類徵、四百二十九〕・〔文獻徵存錄、十〕。❸清、衢州の人。字は篤培。山水畫に巧。〔國朝畫識、七〕。

【徐理】308 明、西平の人。洪武の時、戰功あり、右軍副將となる。世祖が滄州を襲はんとするや、浮橋を作つて師を濟す。爵は武康伯。〔明史、一百四十五〕・〔萬斯同明史、一百九十〕・〔明史稿、一百三十四〕。

【徐履】309 ❶宋、瑞安の人。字は子雲。倜儻にして大志あり、紹興中、省試第一、秦檜が女を妻せんとしたが、廷對の際に佯り狂して一字も答へず、遂に甲末に置かれ、婚議も亦罷んだ。時人、之を高しとす。〔尙友錄、二〕。❷宋、孝宗の時の人。畫に巧。〔貴耳錄〕。

【徐良】310 ❶漢、琅邪の人。字は斿卿。戴德に從つて禮を受け、博士となる。大戴禮に徐氏の學あり。郡守州牧となる。〔漢書、八十八〕。❷清、江蘇華亭の人。字は鄰哉。號は又次居士・閒存・惜分齋。乾隆の擧人。官は夔州知府。書に巧。〔國朝耆獻類徵、二百三十一〕・〔國朝書畫家筆錄、二〕・〔國朝書人輯略、四〕。

【徐陵】311 ❶亭の名。江蘇省丹徒縣の西。〔讀史方輿紀要、江南、鎭江府、丹徒縣〕徐陵亭、在㆓府西南㆒、徐記、京口先爲㆓徐陵鎭㆒、其地蓋丹徒縣西鄕京口里也、通釋、徐陵丹徒京城、其實一也、呉黃武元年、呂範敗㆓于洞浦㆒、魏臧霸以㆓輕船㆒襲㆓徐陵全琮㆒、徐盛擊郤㆑之、劉氏曰、徐陵本亭名、華覈封㆓徐陵亭侯㆒是也、呉以㆔其臨㆓江津㆒因置㆓徐陵㆒督㆓守之㆒、蕭齊建元初、以㆓魏人入寇㆒、沿㆑江置㆑戍、分㆓置一軍于徐浦㆒、卽徐陵矣。❷三國呉、太末の人。字は元大。縣吏となつて著績あり。官は零陵太守。❸陳、東海郯の人。摛の子。字は孝穆。幼にして聰穎能文。釋寶誌に天上の石麒麟と稱せられた。官は梁の通直散騎常侍。陳が禪を受けるや、散騎常侍を加へられ、御史中丞に累官す。老莊の學に通じ、深く佛を信じ、又、文辭を善くし、庾信と名を齊しうす。世に徐庾體の稱がある。著に徐孝穆集・玉臺新詠がある。〔陳書、二十六〕。

【徐林】312 宋、呉縣の人。字は稚山。號は硯山居士（研山居士・研城居士）。宣和の進士。官は龍圖閣學士。〔尙友錄、二〕。

【徐霖】313 ❶宋、衢州西安の人。字は景說。淳祐の初、禮部の試に第一たり。入官するや、宰相史嵩の姦を發く。祕書省著作郎より、衡州・汀州に歷知す。〔宋史、四百二十五〕・〔宋史新編、一百五十七〕・〔南宋書、五十八〕・〔宋元學案、八十四〕。❷明、呉縣の人。字は子仁。號は九峯道人・快園。金陵に居る。音律・篆法及び畫に精し。美鬚髯あり、武宗手づから翦つて拂子とす。因つて自ら髯翁（髯伯）と號す。書室を麗藻堂といふ。著に續書史會要・麗藻堂文集・快園詩文集がある。〔明史、二百八十六〕。

【徐驎】314 梁、呉縣の人。武帝に仕へて少府丞大市令となる。鄙穢狼籍、百賈之を畏れ朱异・陸驗と共に三蠹と稱せられる。後、邵陵王綸に殺された。〔南史、七十七〕。

【徐麟】315 ❶明、廣濟の人。字は月齋。洪武の初、河南府同知に拔擢せられた。元の降臣宋王が謀叛するや、之を擒にし、知府に陞り、尋いで蘄州に遷る。〔明史稿、一百三十六〕・〔崇禎忠節錄、十四〕。❷徐本潤(631)を見よ。

【徐璉】316 明、朝邑の人。弘治の進士。戶部郎中より袁州知府に遷る。宸濠の變に、王守仁に從つて義を倡へ、首功を獲、江西右參政に陞る。〔明史、二百〕・〔萬斯同明史、二百七十三〕・〔明史稿、一百八十五〕・〔國朝獻徵錄、八十六〕。

【徐路】317 後魏の人。占候を善くす。官は容城令。宣武の時、事に坐して冀州の獄に繫がる。〔魏書、九十一〕。

【徐盧】318 複姓。〔萬姓統譜〕徐盧、漢景帝時匈奴徐盧庸之後。

【徐倭】319 昔、中國が日本を誤認して秦の始皇の臣徐福の後として呼んだ名。〔和漢三才圖會、地理日本〕墨談以爲、倭國有㆓徐福祠㆒、（徐福秦始皇帝時方士也）謂爲㆓福後㆒、故中國呼㆑倭爲㆓徐倭㆒、皆非也。

【徐綰】320 五代、呉越の人。孫儒の將。後、錢鏐に歸し、右都指揮使となる。亂を杭に作して錢鏐を攻め、敗れて殺さる。〔舊唐書、一百七十九〕。

【徐安貞】321 唐の人。初名は楚璧。開元の時、集賢院學士・中書侍郎となる。時に李林甫に附し、參助する所多し。〔唐書、二百〕・〔舊唐書、一百九十中〕・〔舊唐書、一百九十五下〕・〔琅琊代醉編、三十〕。

【徐以升】322 清、德清の人。字は階五。號は恕齋。雍正の進士。官は廣東按察使。書室を南陔堂といふ。著に南陔堂詩集がある。〔四庫提要、一百八十五〕。

【徐以泰】323 清、德清の人。字は陶尊。國子監生。乾隆中、陽曲知縣となる。書室を綠杉野屋といふ。著に綠杉野屋集がある。〔四庫提要、一百八十五〕。

【徐以貞】324 明、長山の人。字は本良。成化の進士。官は都御史・陝西巡撫。後、劉瑾に忤ひ、鳳翔府に左遷せらる。〔國朝列卿記、一百十八〕・〔蘭臺法鑒錄、十一〕・〔本朝分省人物攷、九十四〕。

【徐肆三】325 徐迪惠(594)を見よ。

【徐渭仁】326 清、上海の人。字は文臺。號は紫珊・隨軒。國子生。漢隸を善くし、畫に巧。書室を萬竹山房・寒木春華館・西漢金鐙之室・秋水亭・春暉堂といふ。收藏甚だ富み、春暉堂叢書法帖及び隋軒金石文字を刊す。〔清畫家詩史、庚、下〕・〔飛鴻堂印人傳、三〕・〔國朝書人輯略、九〕。

【徐有功】327 唐、偃師の人。名は弘敏。字を以て世に知られてゐる。明經に擧げられ、蒲州司法參軍・司刑丞・司僕少卿となる。會昌中、忠正と追謚す。〔唐書、一百十三〕・〔舊唐書、八十五〕。

【徐有壬】328 清、宛平の人。原籍は烏程。字は君青・鈞卿。號は務民義齋。謚は忠愍（莊愍）。道光の進士。官は江蘇巡撫。洪楊の難に死す。算學に精し。著に務民義齋算學がある。〔清史稿、四百一〕・〔清史列傳、四十三〕・〔續碑傳集、五十七〕。

【徐有貞】329 明、呉縣の人。初名は珵。字は

元玉。號は天全（天存）。宣德の進士。正統中、侍講となり、復辟の功を以て華蓋殿大學士に至り、武功伯に封ぜらる。于謙・王文を誣殺す。著に武功集がある。〔明史、一百七十一〕・〔萬斯同明史、二百十六〕・〔明史稿、一百五十三〕・〔國朝獻徵錄、十〕・〔明詩綜、二十〕。

【徐一夔】330（ジョイツキ）　明、天台の人。字は大章。號は元豐。洪武の初、禮書・日曆を纂編す。官は杭州教授。著に始豐稿がある。〔明史、二百八十五〕・〔萬斯同明史、三百八十六〕・〔明史稿、二百六十六〕・〔明詩綜、七〕。

【徐一清】331（ジョイツセイ）　民國、山西省五台縣の人。字は子澄。我國の法政大學卒業。民國革命當時、山西軍の財政を擔任し、山西陸軍糧服局長となる。山西省銀行が成立するや、董事兼總理となり、爾來屢次の戰爭に後方軍糧計劃を擔當す。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【徐一范】332（ジョイツハン）　清、高淳の人。明、崇禎の進士。官は南吏部郎。清になつて大同左衞兵備道に遷る。後、光錄寺少卿を贈らる。〔清史列傳、七十八〕。

【徐允讓】333（ジョインジヤウ）　明、浙江山陰の人。元末、賊起るや、父を奉じて山谷の間に避け、父に代つて賊に殺さる。〔明史、二百九十六〕・〔萬斯同明史、三百九十二〕・〔明史稿、二百七十八〕。

【徐允哲】334（ジョインテツ）　清、上海の人。字は西厓。著に響泉詞がある。

【徐雲路】335（ジョウンロ）　清、崑山の人。字は懶雲（嬾雲）。號は起萬（企萬）。墨梅畫・詩文を善くす。〔清畫家詩史、戊、下〕・〔國朝書畫家筆錄、三〕・〔墨香居畫識、四〕。

【徐永昌】336（ジョエイシヤウ）　民國、山西省崞縣の人。字は次辰。北平陸軍大學卒業。國民革命軍の北伐に參加し、奉天軍を破つて北京に入城。綏遠省政府成立と共に同省政府委員兼主席となり、次いで河北省政府委員兼主席となる。閻、馮等が北平に政府を樹立して反蔣軍を起すや、之に參加して山西軍總指揮となり、後、山西省政府委員兼主席に任ぜられた。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【徐永宣】337（ジョエイセン）　清、武進の人。字は學人。號は茶坪。康熙の進士。官は部曹。書室を雲溪草堂といふ。著に雲溪草堂詩鈔がある。〔國朝名家詩鈔小傳〕・〔國朝詩人徵略初編、十八〕。

【徐永達】338（ジョエイタツ）　明、歸德の人。字は志道。洪武中、太學生より侯官教諭となり、宣德の初、鴻臚寺卿に至る。交趾の黎利の謀叛を平定し、湖廣山西按察使に擢んでらる。〔萬斯同明史、二百九〕・〔國朝獻徵錄、九十七〕・〔國朝列卿記、一百五十六〕。

【徐榮叟】339（ジョエイソウ）　宋の人。應龍の子。字は茂翁。謚は文靖。嘉定の進士。官は右諫議大夫・端明殿學士。著に諫垣存稿・西掖代言・橘坡雜著がある。〔宋史、四百十九〕・〔宋史新編、一百五十三〕・〔南宋書、五十五〕。

【徐穎柔】340（ジョエイジウ）　清、江蘇華亭の人。字は仲嘉。號は則所。歲貢。鴻博に擧げられたが、兄の疾を以て赴かず。梅を畫くに專ら草書訣を用ふ。詩・古文に巧。著に則所刪存詩がある。〔國朝畫識、十〕。

【徐耀文】341（ジョエウブン）　清、沔陽の人。名は德煥。弈棋を善くす。

【徐延休】342（ジョエンキウ）　五代吳、會稽の人。字は德文。唐の乾符の進士。楊行密に依る。官は江都少尹。〔十國春秋、吳〕。

【徐延瓊】343（ジョエンケイ）　前蜀の人。王建の妻の弟。字は敬明。官は武德軍節度使、兼中書令。京城馬步兵を領し、權勢を怙み、衆將皆平かでなかつた。唐軍が入り、王宗弼が偏ねく王衍の幸臣を殺した時、賂を納れて免れた。〔十國春秋、前蜀〕。

【徐偃王】344（ジョエンワウ）　周、穆王の時、徐子王と稱し、偃王と號し、江淮の諸侯從ふ者三十六國。周王、之を聞き、使者を楚に遣して之を伐たしむるや、民を愛して鬬はず、楚に敗らる。字解の❻を見よ。〔淮南子、說山訓〕・〔水經、濟水注〕。

【徐圓明】345（ジョエンメイ）　隋、兗州の人。初、李密に附し、尋いで竇建德に歸す。劉黑闥が兵を起すや、之に應じ、自ら魯王と號す。後、唐の兵と戰ひ、敗れて野人に殺さる。〔唐書、八十六〕・〔舊唐書、五十五〕。

【徐應秋】346（ジョオウシウ）　明、衢州西安の人。字は君義。號は雲林。萬曆の進士。官は福建左布政使。書室を玉芝堂といふ。著に玉芝堂談薈・駢字憑霄がある。〔四庫提要、一百二十三・一百三十八〕。

【徐應鑣】347（ジョオウヘウ）　宋、江山の人。字は巨翁。咸淳の末、太學生に補せられ、宋の滅亡に會す。此の時、諸學生皆燕に歸したが、獨り降らず、井に投じて死す。同舍生、正節先生と私謚す。〔宋史、四百五十一〕・〔宋史新編、一百七十五〕・〔南宋書、六十一〕・〔昭忠錄〕・〔宋季忠義錄、六〕。

【徐應龍】348（ジョオウリヨウ）　宋、浦城の人。字は亢叔。謚は文肅。淳熙の進士。官は刑部尙書兼侍讀・煥章閣學士。〔宋史、三百九十五〕・〔宋史新編、一百四十九〕・〔南宋書、五十五〕。

【徐嘉炎】349（ジョカエン）　清、秀水の人。字は勝力。號は華隱・抱經齋。康熙中、監生より鴻博に擧げられ、檢討より內閣學士に至る。著に抱經齋集がある。〔清史稿、四百八十九〕・〔清史列傳、七十〕・〔國朝耆獻類徵、五十九〕・〔國朝先正事略、三十九〕。

【徐嘉泰】350（ジョカタイ）　明、循州の人。字は道亨。官は於潛縣令。著に天目山志がある。〔四庫提要、七十六〕。

【徐喈鳳】351（ジョカイホウ）　清、宜興の人。字は鳴岐。號は竹逸・荊南墨農。順治の進士。官は永昌府推官。著に荊南墨農全集がある。〔四庫提要、一百八十二〕。

【徐開錫】352（ジョカイシヤク）　清、常山の人。字は定山。康熙の貢生。官は彰德府同知。書室を誠求堂といふ。著に誠求堂彙編がある。〔四庫提要、一百九十四〕。

【徐開晉】353（ジョカイシン）　明、崑山の人。字は孟碩。畫に巧。

【徐江山】354（ジョカウザン）　明、錢塘の人。字は六橋。正德の進士。官は尙寶卿。〔浙江通志〕。

【徐行可】355（ジョカウカ）　明、九江衞の人。字は三山。指揮僉事を世襲す。左良玉の兵が城を陷るるや、望京門城樓に自經す。〔明末忠烈紀實、九〕・〔南疆繹史、二十四〕・〔小腆紀年、十〕。

【徐孝克】356（ジョカウコク）　隋の人。陵の弟。性至孝。梁の太淸中、太學博士となる。侯景の亂に歲饑え、母を養ふに饘粥を給する能はず、妻臧氏を去つて穀帛を得た。陳に入り、國子祭酒となり、隋の開皇中、東宮に侍し禮傳を講ず。〔陳書、二十六〕・〔南史、六十二〕。

【徐孝嗣】357（ジョカウシ）　南齊の人。湛の孫。字は始昌。八歲にして枝江縣公を襲爵す。宋の孝武、之を愛して太尉とした。齊に入り、吳興太守となり、尙書令に至る。潛に廢立を謀り、酖を賜はる。〔南齊書、四十四〕・〔南史、七十六〕。

【徐孝肅】358（ジョカウシユク）　隋、汲郡の人。早く孤。性、儉約。母に事へて至孝。母が卒するや、廬を墓側に作つて居ること四十餘載、遂に以て終る。〔隋書、七十二〕・〔北史、八十四〕。

【徐昂發】359（ジョカウハツ）　清、昆山の人。字は大臨。號は畏壘山人。康熙の進士。官は編修。駢體文に巧。詩を善くす。著に畏壘山人詩集がある。〔清史列傳、七十一〕・〔國朝耆獻類徵、一百二十二〕・〔國朝名家詩鈔小傳〕。

【徐賡陛】360（ジョカウヘイ）　清、烏程の人。字は次舟。號は不自慊齋。官は南海知縣。彊項にして常に上官に抗つたが、惠愛は民に及び、徐青天の稱あり。後、江蘇道員となる。著に不自慊齋がある。

【徐學顏】361（ジョガクガン）　明、浙江永康の人。字は君復。性、至孝。崇禎中、貢生を以て楚府長史となり、江夏縣事を攝し、楚府軍の將たり。城陷つて、之に死す。〔明史、二百九十四〕・〔萬斯同明史、三百八十〕・〔明史稿、二百七十五〕・〔小腆紀年、二〕。

【徐學詩】362（ジョガクシ）　明、上虞の人。字は以言。號は石龍菴。嘉靖の進士。官は刑部郎中。嚴嵩の奸狀を疏陳す。著に石龍菴詩草がある。〔明史、二百十〕・〔萬斯同明史、二百九十八〕・〔明史稿、一百九十四〕。

【徐學聚】363（ジョガクジユウ）　明、蘭谿の人。字は敬輿。萬曆の進士。官は副都御史・福建巡撫。著に曆朝璫鑑・明朝典彙がある。〔萬斯同明史、三百二十八〕・〔明人小傳、三〕・〔明詩綜、五十四〕・〔明詩紀

事、庚、十四〕。

【徐學謨】364（ジョガクボ） 明、嘉定の人。字は叔明。嘉靖の進士。官は禮部尙書。書室を歸有園といふ。著に春秋億・世廟識餘錄・萬曆湖廣總志・春明稿・徐氏海隅集・歸有園稿がある。〔萬斯同明史、三百十二〕・〔皇明詞林人物考、十〕・〔明人小傳、三〕・〔明詩綜、四十四〕。

【徐咸清】365（ジョカンセイ） 清、上虞の人。字は仲山。康熙中、鴻博に擧げらる。小學に精し。著に資治文字がある。〔清史列傳、七十〕・〔國朝耆獻類徵、四百十四〕。

【徐鑑亨】366（ジョカンカウ） 清、上海の人。字は小巖。醫に精し。著に喉科摘要・醫學彙論がある。

【徐其相】367（ジョキシヤウ） 清、湘潭の人。字は倬湖。嘉慶の時、布衣。詩道に精進し、雨湖詩社を起す。著に蘭亭字詩・隨游小草がある。〔國朝耆獻類徵、四百四十〕。

【徐起元】368（ジョキゲン） 清、遼陽の人。原籍は合肥。字は貞復。號は望仁。諡は僖靖。明、萬曆の擧人。張獻忠を破り、李自成を禦いで功あり。清になつて、左都御史・太子太保に至る。〔清史列傳、七十八〕・〔碑傳集、十〕。

【徐輝祖】369（ジョキソ） 明の人。達の長子。諡は忠貞。幼にして魏國公を襲爵し、建文の朝、特に信任せられた。靖難の兵が起るや、能く禦ぎ戰ひ、燕の驍將十餘人を斬る。成祖が卽位するや、武臣皆之に附いたが、輝祖獨り屈せず。〔明史、一百二十五〕・〔萬斯同明史、一百六十〕・〔明史稿、一百十六〕・〔國朝獻徵錄、五〕・〔明名臣言行錄、十五〕。

【徐徽言】370（ジョキゲン） 宋、衢州西安の人。字は彥猷。諡は忠壯。大觀中、武擧絕倫及第を賜ふ。西夏を討つて功あり、秉義郞に陞る。靖康の初、知晉寧軍となる。金人と戰ひ、戰死す。〔宋史、四百四十七〕・〔宋史新編、一百七十三〕・〔南宋書、二十六〕。

【徐騎省】371（ジョキシヤウ） 宋、徐鉉（126）をいふ。

【徐義恭】372（ジョギキヨウ） 後魏、彭城の人。宣武帝の時、禁中に侍直し、小心謹愼を以て幸信を得た。武帝の初、左光祿大夫となる。〔魏書、九十三〕。

【徐九思】373（ジョキウシ） ❶宋、崇安の人。字は公謹。慶曆の進士。元豐中、王安石に其の新法を議して怒らる。又、司馬光に黨すとして坐廢されること十餘年、元祐中、江淮等路發運副使に起用せられた。著に新豐集がある。〔尙友錄、二〕。❷明、貴溪の人。字は子愼。嘉靖中、句容令となり、惠政あり、工部郎中に陞る。趙文華に忤らひ、致仕す。〔明史、二百八十一〕・〔萬斯同明史、三百九十一〕・〔明史稿、二百六十二〕・〔國朝獻徵錄、一百〕・〔明名臣言行錄、四十〕。

【徐休復】374（ジョキウフク） 宋、鄆城の人。字は廣初。太平興國の進士。官は左諫議大夫・戶部使、淳化の初、給事中となり、青・潞二州知を以て終る。〔宋史、二百七十六〕・〔宋史新編、七十九〕。

【徐居正】375（ジョキヨセイ） 朝鮮李朝、大邱の人。字は剛中。號は四佳亭。諡は文忠。官は左贊成。封は達城君。著に歷代年表・東文選・東國通鑑・筆苑雜記・新撰東國輿地勝覽・四佳亭集がある。〔人物考〕。

【徐御章】376（ジョギヨシヤウ） 明、德興の人。字は伯宸。德高く學深く、鄕里、長者と稱す。其の居は一峯に面し、端嚴なること其の人となりに肖る。因つて端峯先生と號す。〔尙友錄、二〕。

【徐旭旦】377（ジョキヨクタン） 清、錢塘の人。字は浴咸。號は西泠（西玲）。副貢生。官は連平知州。書室を世經堂といふ。著に世經堂集がある。

【徐旭齡】378（ジョキヨクレイ） 清、錢塘の人。字は元文。號は敬菴。諡は清獻。順治の進士。康熙中、山東巡撫となり、漕糧收兌の弊を止め、河夫僉派の擾を革め、遭運總督に陞る。〔清史稿、二百七十九〕・〔清史列傳、八〕・〔國朝耆獻類徵、一百五十六〕・〔漢名臣傳、十二〕。

【徐玉映】379（ジョギヨクエイ） 清、錢塘の女子。字は若冰。號は南樓。長洲の孔氏に嫁す。著に南樓集詞がある。

【徐金鏡】380（ジョキンキヤウ） 清、武康の人。字は芸峴。道光の擧人。書室を山滿樓といふ。著に山滿樓詩文稿がある。

【徐會澧】381（ジョクワイホウ） 清、諸城の人。字は東甫。同治の進士。光緒中、禮部侍郎となり、後、兵部尙書に至る。〔清史列傳、六十一〕。

【徐懷玉】382（ジョクワイギヨク） 後梁、亳州の人。屢〻太祖に從つて征伐にむかつた。官は保大軍節度使。後、朱友謙に殺さる。〔五代史、二十一〕・〔舊五代史、二十二〕。

【徐光啓】383（ジョクワウケイ） 明、上海の人。字は子先。號は玄扈。諡は文定。萬曆の進士。崇禎の初、禮部尙書兼東閣大學士。伊太利人、利瑪竇に從つて、天文・算法・火器を學ぶ。天主教を信じ、洗禮を受け、保祿の名を加へられ太保を追贈された。著に農政全書・徐氏卮言・幾何原本がある。〔明史、二百五十一〕・〔萬斯同明史、三百五十六〕・〔明史稿、二百三十五〕。

【徐光實】384（ジョクワウジツ） 宋、晉江の人。字は德充。建炎の進士。海鹽知縣となり、後、英州知より連州に徙る。皆善政あり。〔萬姓統譜〕。

【徐宏祖】385（ジョクワウソ） 明、江陰の人。號は霞客。旅行家。著に徐霞客遊記がある。〔四庫提要、七十一〕。

【徐廣縉】386（ジョクワウシン） 清、鹿邑の人。嘉慶の進士。道光の末、兩廣總督となる。咸豐中、洪楊の軍が起るや、湘に赴いて會勦し、功無くして職を奪はる。〔清史稿、四百〕・〔清史列傳、四十八〕。

【徐鑅慶】387（ジョクワウケイ） 清、金匱の人。本名は嵩。字は閬齋。乾隆の擧人。官は知州。書室を玉山閣といふ。著に玉山閣集がある。〔清史列傳、七十二〕・〔國朝耆獻類徵、二百四十四〕・〔國朝詩人徵略、初編、四十八〕。

【徐煥然】388（ジョクワンネン） 清、海鹽の人。字は晉叔。號は桐村。雍正の進士。官は編修。山水畫に巧。著に雲林筆意がある。〔國朝畫識、十一〕。

【徐觀海】389（ジョクワンカイ） 清、上虞の人。錢塘に僑居す。字は匯川。又、袖東。號は壽石。別號は幼盧（幼菴）。乾隆の擧人。四川知縣より同知に擢んでらる。寫生畫・籀・篆・行・楷に巧。著に看山偶存・鴻爪集・袖東詩話がある。〔清畫家詩史、丁、上〕・〔飛鴻堂印人傳、六〕・〔墨香居畫識、五〕。

【徐觀政】390（ジョクワンセイ） 清、如皐の人。字は憲南。號は湘浦。官は寧紹鹽運副使。花卉畫に巧。著に洋程日記がある。〔清畫家詩史、己、下〕。

【徐君蒨】391（ジョクンセン） 梁、東海の人。字は懷簡。學を好み、弦歌を善くす。官は湘東王參軍。〔南史、七十二〕・〔琅琊代醉編、三十四〕。

【徐啓祚】392（ジョケイソ） 清、東湖の人。明の崇禎中、總鎭となる。清の順治中、定川侯李占春と倶に所部を率ゐて降り、永昌同知を拜す。畫を善くす。〔國朝畫識、一〕。

【徐卿伯】393（ジョケイハク） 明、貴陽の人。字は孟麟。萬曆の進士。官は御史。後、四川參議。

【徐景福】394（ジョケイフク） 清、遂昌の人。字は介亭。同治の進士。官は荊溪知縣。著に丹泉海島錄がある。

【徐敬業】395（ジョケイゲフ） 唐の人。勣の孫。少くして祖の勣に從つて征伐し、勇名あり。爵を襲ぐ。事に坐して柳州司馬に貶せられたが、會〻武后が中宗を廢し、唐の宗室を殺戮するや、敬業は乃ち人の怨に乘じ、唐之奇・杜求仁・駱賓王等と共に武氏を討ち、兵敗れて其の下に殺さる。〔琅琊代醉編、三十〕。

【徐敬成】396（ジョケイセイ） 陳の人。度の子。諡は思。書を好み、識鑒を以て著名。戰功多く、壯武將軍に進められ、安州刺史に終る。〔陳書、十二〕・〔南史、六十七〕。

【徐敬德】397（ジョケイトク） 朝鮮李朝、唐城の人。字は可久。號は花潭・復齋。諡は文康。貧に居て講學す。提學の金安國、之を奉參に拜せしめたが、辭して就かず。著に大虛說原理氣死生鬼神論・徐花潭集がある。〔明人小傳、五〕・〔明詩綜、九十五〕・〔靜志居詩話、二十四〕・〔人物考〕・〔海東名臣錄〕。

【徐經孫】398（ジョケイソン） 宋、豐城の人。字は中立。初名は子柔。號は矩山。諡は文惠。寶慶の進士。官は太子詹事・翰林學士・知制誥。公田の議が起るや、賈似道に忤つて罷められた。著に矩山存稿がある。〔宋史、四百十〕・〔宋史新編、一百五十六〕・〔南宋書、五十七〕。

【徐慶餘】399（ジョケイヨ） 明、浙江新城の人。字は兆穀。崇禎中、擧人を以て珙縣知となる。流賊が蜀を陷れるや、孤城を堅守し、力盡きて城陷り、執へられて屈せず、遂に害さる。〔崇禎忠節錄、二十

八〕。

【徐繼思】400 ジョケイシ　清、杭州の人。明が亡びるや僧となり、西湖の淨慈寺に住す。止嵒と名のり、號は萩菴・豁堂。詩畫に巧。著に同凡集がある。

【徐繼發】401 ジョケイハツ　清、沔陽の人。字は繩武。著に周易明善錄がある。〔四庫提要、九〕。

【徐嶠之】402 ジョケウシ　唐の人。師道の子。字は惟嶽。官は趙・湖・洺州刺史。書に巧。〔唐書、一百六十〕。

【徐堯莘】403 ジョゲウシン　明、潛山の人。字は賓嶽。萬曆の進士。官は荊州知府。後、廣西布政使司。

【徐曉峰】404 ジョゲウホウ　清、揚州の人。諡は剛毅。咸豐中、皖北の賊を平定す。官は福建汀漳龍道。汪海洋と戰ひ、城破れて死す。〔清史稿、四百九十五〕・〔續碑傳集、六十〕・〔中興將帥列傳、十八下〕。

【徐建寅】405 ジョケンイン　清の人。壽の子。字は仲虎。理化・數學に精し。光緒中、佛蘭西大使館參贊となり、直隸道員に至る。漢陽銅藥廠を督辦し、棉質無烟藥製造の際、爆發して之に死す。著に歐游雜錄・兵法新書がある。〔清史稿、五百十〕・〔碑傳集補、四十三〕。

【徐乾學】406 ジョケンガク　清、崑山の人。字は原一。號は健菴・崑山尙書・澹園。康熙の進士。編修より刑部尙書に累官す。朝に立つて侃侃、風節自ら高く、一統志・會典・明史の編纂を總裁し、又、鑑古輯覽・古文淵鑑等の書を纂輯す。書室を傳是樓・冠山堂といふ。著に讀禮通考・文集・外集・虞浦集・詞館集・碧山集がある。藏書極めて多く、傳是樓書目世に行はる。〔清史稿、二百七十七〕・〔清史列傳、十〕・〔國朝耆獻類徵、五十七〕・〔碑傳集、二十〕・〔國朝先正事略、九〕・〔漢名臣傳、三〕・〔清儒學案小識、十三〕・〔清代學者象傳、一〕。

【徐獻忠】407 ジョケンチユウ　明、松江華亭の人。字は伯臣。號は九靈山長。嘉靖の擧人。官は奉化令。何良修・董宜陽・張之象と倶に文章氣節を以て名があり、四賢と稱せられる。貞憲先生と私諡す。著に吳興掌故集・水品・樂府原・金石文・六朝聲偶・長谷集がある。〔明史、二百八十七〕・〔明史稿、二百六十八〕・〔明詩綜、四十八〕。

【徐顯卿】408 ジョケンケイ　明、長洲の人。字は公望。號は檢菴。隆慶の進士。官は吏部侍郎。書室を天遠樓といふ。著に天遠樓集がある。〔四庫提要、一百七十九〕。

【徐元慶】409 ジョゲンケイ　唐、下邽の人。趙師韞を殺して父の仇を報ず。〔唐書、一百九十五〕。

【徐元杰】410 ジョゲンケツ　宋、上饒の人。字は仁伯。號は楳埜（梅野）。紹定の進士。官は南劍州知・將作監・崇政殿說書。直諫の士。著に楳埜集がある。〔宋史、四百二十四〕・〔宋史新編、一百五十七〕・〔南宋書、五十三〕・〔戊辰修史傳〕・〔宋元學案、八十一〕。

【徐元嘏】411 ジョゲンコ　明の人。學謨の孫。字は爾常。諸生。太常寺典簿より刑部郎中となる。

【徐元善】412 ジョゲンゼン　徐夜（296）を見よ。

【徐元太】413 ジョゲンタイ　明、宣城の人。字は汝賢。嘉靖の進士。魏縣知・吏部主事・順天府尹となり、四川巡撫の時、蜀酋を討平し、刑部尙書に陞る。著に喩林がある。〔本朝分省人物攷、三十八〕。

【徐元端】414 ジョゲンタン　清、江都の人。石麒の女。字は延香。幼にして詩を能くし、音律に通ず。父の曲の合はぬのを正したといふ。著に詩餘繡閒集がある。

【徐元文】415 ジョゲンブン　清の人。乾學の弟。字は公肅。號は立齋。順治の進士。官は掌院學士・文華殿大學士・戶部尙書。書室を含經堂といふ。著に含經堂集がある。〔清史稿、二百五十六〕・〔清史列傳、九〕・〔國朝耆獻類徵、八〕・〔碑傳集、十二〕・〔國朝先正事略、九〕。

【徐元夢】416 ジョゲンボウ　清、滿洲正白旗人。姓は舒穆祿氏。字は善長・蝶園。諡は文定。世に蝶園徐先生といふ。康熙の進士。官は禮部侍郎・太子少保。三朝に歷事す。〔清史稿、二百九十五〕・〔清史列傳、十四〕・〔國朝耆獻類徵、十二〕・〔碑傳集、二十二〕・〔國朝先正事略、九〕・〔從政觀法錄、十三〕・〔顏李師承記、三〕。

【徐元履】417 ジョゲンリ　朝鮮李朝、大邱の人。字は德基。號は華谷。戶曹參判より咸鏡監司となる。〔人物考〕。

【徐彥若】418 ジョゲンジヤク　唐の人。商の子。咸通の進士。昭宗の時、同中書門下平章事となり、尋いで太保・齊國公に進む。〔唐書、一百十三〕・〔舊唐書、一百七十九〕。

【徐彥伯】419 ジョゲンハク　唐、瑕丘の人。名は洪。字を以て世に知られ、河東の三絕の一。武后實錄を纂修した。爵は高平縣子。官は太子賓客。〔唐書、一百十四〕・〔舊唐書、九十四〕。

【徐公益】420 ジョコウエキ　明の人。明善の從子。克く家學を紹ぎ、松林先生といはれる。著に松林集・世德錄がある。

【徐公橋】421 ジョコウケウ　鎭の名。江蘇省崑山縣の東南。橋は徐公浦に跨る。又、徐公浦鎭に作る。〔讀史方輿紀要、江南、蘇州府、嘉定縣、顧浦〕徐公浦、在二縣西北一、南通二雞鳴塘一達二顧浦一、北通二郭澤塘一、又北達二劉河一、宋紹興末、趙子潚議レ通二郭澤浦、及徐公浦一、明宏治十一年、郎中傅潮亦濬二徐公等浦一、隆慶五年、御史林應訓浚二吳淞江一、自二崑山界漫水鄕一至二徐公浦一、長四十五里、是也。

【徐弘敏】422 ジョコウビン　唐の人。徐有功（327）を見よ。

【徐洪鈞】423 ジョコウキン　清、宜興の人。字は雙南。號は栗亭。諸生。好んで書を鈔した。著に栗亭詩鈔がある。〔國朝詩人徵略、初編、二十三〕。

【徐貢元】424 ジョコウゲン　明、繁昌の人。號は紫巖。嘉靖の進士。刑部郎より德安の守となる。十三任を歷官して清白無二、戶部侍郎に終る。海瑞等と共に天下の四君子と稱せられる。著に省身日記がある。〔尙友錄、二〕。

【徐鴻寶】425 ジョコウホウ　民國、浙江省吳興縣の人。字は森玉。擧人出身。山西大學堂卒業。奉天測圖局々長・高等工業學校監督・學部圖書館編譯員・北京大學圖書館長・國立京師圖書館部主任・國立北平圖書館採訪部主任等を歷任。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【徐克范】426 ジョコクハン　清、南陵の人。字は堯民。書室を自好堂といふ。著に讀史記十表補がある。〔四庫提要、四十五〕。

【徐國相】427 ジョコクシヤウ　清の人。號は行清。康熙の間、安徽巡撫・湖廣總督となる。溝田法を創設す。〔碑傳集、六十六〕・〔大清畿輔先哲傳、三〕。

【徐國祥】428 ジョコクシヤウ　清、仁和の人。字は瑞五。洞霄宮の道士。號は大滌山人。書畫に巧。

【徐國麟】429 ジョコクリン　清、鄞の人。字は遂生。號は旭窗居士。醫を習ふ。著書二十四種に及び、軒岐學海といふ。〔國朝耆獻類徵、四百八十一〕・〔碑傳集、一百四十七〕。

【徐在柯】430 ジョザイカ　徐敦（242）を見よ。

【徐作肅】431 ジョサクシユク　清の人。作霖の弟。字は恭士。幼にして學を兄に受け、文名あり、詩・書に巧。順治の擧人。侯方域と交友し、書室を偶更堂といふ。著に偶更堂集がある。〔國朝耆獻類徵、四百二十六〕。

【徐作霖】432 ジョサクリン　明、商丘の人。字は霖蒼。崇禎の擧人。流賊と戰つて死す。〔明史、二百九十三〕・〔明史稿、二百七十四〕・〔小腆紀年、一〕。

【徐三庚】433 ジョサンカウ　清、上虞の人。字は辛穀。號は袖海。別號は金罍山民（金罍岷）。篆隸に巧で、刻印と書法とに精通す。〔國朝書畫家筆錄、四〕。

【徐三重】434 ジョサンチヨウ　明、松江華亭の人。字は伯同。號は崇晦老人。學者、鴻洲先生と稱す。萬曆の進士。官は刑部。三年にして病を以て歸り、家居すること四十餘年。嘉言懿行あり、遠近奉じて楷模と爲す。著に庸齋日記・信古餘論・牖景錄・徐氏家則がある。〔萬斯同明史、三百八十五〕。

【徐燦心】435 ジョサンシン　清の人。伯齡の子。字は青螺。花鳥畫に巧。〔國朝耆獻類徵、四百六十六〕・〔國朝書畫家筆錄、一〕。

【徐士衡】436 ジョシカウ　明、宜興の人。字は友泉。壺の製作を學んで其の式を變化し、古尊罍諸器に倣つてその技を窮む。

【徐士俊】437 ジョシシユン　明、仁和の人。原名は翽。字は三有。號は野君。樂府に巧。絡水絲等の劇本があり、世に行はる。〔明詩綜、八〕。

【徐士宗】438 ジョシソウ　明、浙江山陰の人。永樂中、貴谿縣知となり、永樂中、三考に倶に最たり。〔明史、二百八十一〕・〔萬斯同明史、三百八十九〕。

【徐士訥】439 ジョシトツ　清、淳安の人。字は恂若。康熙の進士。嵩縣知縣となり、治績あり、湯斌に海內第一廉吏と稱せられた。後、濟寧州知に擢んでらる。

【徐士芳】440 ジョシハウ　清、平湖の人。字は誦清。號は惺葊。嘉慶の進士。官は工部左侍郎。書室を漱芳閣といふ。著に漱芳閣集がある。

【徐士林】441 ジョシリン　清、文登の人。字は式儒。號は兩峯。康熙の進士。官は江蘇巡撫。〔清史稿、三百四十〕・〔國朝耆獻類徵、一百六十七〕・〔碑傳集、七十〕・〔國朝先正事略、十五〕。

【徐子權】442 ジョシケン　明、新淦の人。謚は忠愍。洪武の進士。官は刑部主事。練子寧の死を聞き、自經して死す。福王の時、光祿卿を追贈せられた。〔明史、一百四十一〕・〔萬斯同明史、一百八十五〕・〔明史稿、一百三十二〕。

【徐子平】443 ジョシヘイ　宋の人。或は五代の人ともいふ。號は珞琭子。星學に精しく、後世星術家の宗。珞琭子三命消息賦に注す。〔已瘧編〕。

【徐子苓】444 ジョシレイ　清、合肥の人。字は西叔・毅甫。號は龍泉老牧・南陽・敦艮吉齋。道光の擧人。詩文・醫卜・相人を善くす。官は和州學正。著に敦艮吉齋詩文存がある。〔續碑傳集、八十一〕。

【徐之凱】445 ジョシガイ　清、浙江西安の人。字は子強。號は若谷。順治の進士。安化縣知となり、王輔臣の亂に遭つて執へられ、尋いで茂州に移知す。著に初學・北思・汶山・流憩集等がある。〔鶴徵錄、五〕・〔己未詞科錄、八〕。

【徐之才】446 ジョシサイ　北齊の人。諡は文明。雄の子。方術・天文に精し。梁に仕へ、後、蕭綜に從つて魏に入り、尙書令に遷る。〔北齊書、三十三〕・〔北史、九十〕。

【徐之瑞】447 ジョシズイ　清、錢塘の人。字は蘭生。明末の擧人。國變の後、北烏山に遁る。汪渢・萬泰・巢鳴盛と倶に四先生といはれる。其の詩は樂府に長ず。

【徐之鏌】448 ジョシバク　明、建陽の人。萬曆の諸生。著に羅經頂門鍼がある。〔四庫提要、一百十一〕。

【徐之銘】449 ジョシメイ　清、開泰の人。道光の進士。咸豐の間、雲南巡撫となる。同治中、迤西回に襲はれ、城陷つて總督潘鐸等が害せられた時、職を奪はる。〔清史列傳、四十九〕。

【徐之麟】450 ジョシリン　清、嘉善の人。字は白峯。號は松溪。山水畫に巧で、書は二王に倣ひ、詩を善くす。〔清畫家詩史、乙、上〕・〔國朝畫識、一一・六〕。

【徐司馬】451 ジョシバ　明、揚州の人。字は從政。小字は馬兒。元末兵亂の際、年齒九歲。明の太祖之を養子と爲す。洪武の初、姓を復し、都指揮使に進み、鎭河南を以て終る。時に賢將と稱せられる。〔明史、一百三十四〕・〔萬斯同明史、一百八十〕・〔明史稿、一百三十〕・〔國朝獻徵錄、一百八〕。

【徐志辛】452 ジョシシン　清、德淸の人。字は任可。一字は函農。號は根味齋。父のお蔭を以て順天府通判となる。著に根味齋詩集がある。〔四庫提要、一百八十四〕。

【徐志鼎】453 ジョシテイ　清、平湖の人。字は調元。號は春田。乾隆の進士。官は南溪知縣。書室を吉雲草堂といふ。著に吉雲草堂集・爭光集がある。

【徐思遠】454 ジョシエン　朝鮮李朝、大邱の人。字は行甫。號は彌樂齋。監役察訪となり、後、清安縣監となる。〔人物考〕。

【徐是傚】455 ジョシカウ　清、婁縣の人。字は景于。號は今吾。諸生。書畫詩古文に巧。書室を古春堂といふ。著に古春堂集がある。〔清畫家詩史、丙、上〕。

【徐師回】456 ジョシクワイ　宋の人。字は望聖。元豐中、南康軍知となる。公事の暇に堂を建て、八杉を植ゑ、吾、節を守ること此の杉の直なるが如くならんと欲すといひ、直節と號した。又、亭を明月泉上に建て、吾、廉を守ること此の泉の清なるが如くならんと欲すといつた。〔尙友錄、二〕。

【徐師仁】457 ジョシジン　宋、莆田の人。字は從聖。幼にして敏悟。大觀中、登第す。官は校書郎。

【徐師曾】458 ジョシソウ　明、吳江の人。字は伯魯。十二歲にして能く詩・古文を作る。長じて陰陽・律曆・醫卜・篆籀の說に博通す。嘉靖中、進士に擧げられ、庶吉士に選ばる。官は吏科給事中。著に禮記集注・周易演義・正蒙章句・世統紀年・文體明辯・大明文鈔・宦學紀聞がある。〔萬斯同明史、三百八十四〕・〔國朝獻徵錄、八十〕。

【徐師道】459 ジョシダウ　唐、會稽の人。字は太眞。裴行儉の幕賓に辟され、九隴尉を授けられたが、官を棄てて歸る。翰墨に精し。〔墨池編〕。

【徐師閔】460 ジョシビン　宋、吳縣の人。字は聖徒。治平の初、司農少卿より袁州の知となり、袁の民に德とせらる。後、正議大夫に至る。〔尙友錄、二〕。

【徐嗣曾】461 ジョシソウ　清、海寧の人。本姓は楊。乾隆の進士。官は福建巡撫。林爽後の亂起るや、臺灣に赴いて之を辦理す。〔清史稿、三百三十八〕・〔國朝耆獻類徵、一百八十六〕・〔從政觀法錄、三十〕。

【徐嗣伯】462 ジョシハク　徐嗣(144)を見よ。

【徐次鐸】463 ジョシタク　宋、金華の人。字は文伯。紹興の進士。官は衢州通判。周禮に倣つて漢官を作る。又、著に唐書傳注補注音訓・中興兵防事類がある。〔宋史翼、二十九〕。

【徐自明】464 ジョジメイ　宋、永嘉の人。字は誠甫。號は慥堂。太常博士となり、後、零陵郡守に終る。著に宋宰輔編年錄がある。〔四庫提要、七十九〕。

【徐似道】465 ジョジダウ　宋、天台の人。字は淵子。吳江の尉となり、范成大に知らる。後、祕書少監。一日、彈劾の疏を聞くや、舟に菖蒲數盆、書兩篋を載せて去る。〔宋中興學士院題名錄〕・〔南宋館閣續錄、七・九〕。

【徐時作】466 ジョジサク　清、建寧の人。字は鄴侯。號は棻堂。雍正の進士。官は邢臺縣知・知滄州。書室を崇本山堂といふ。著に崇本山堂詩文集・閒居偶錄がある。〔國朝耆獻類徵、二百二十九〕・〔碑傳集、一百二〕。

【徐時棟】467 ジョジトウ　清、鄞の人。字は定宇・同叔。道光の擧人。官は內閣中書。其の煙嶼樓に書を藏すること六萬卷。詩・古文に巧。書室を城西草堂といふ。著に逸湯誓考・三泰誓考・詩音通・山中學詩記・柳泉詩文集がある。〔續碑傳集、八十〕。

【徐時動】468 ジョジドウ　宋、豐城の人。胡安國の弟子。紹興の進士。官は州の敎官。著に孟子說・師門答門がある。〔宋元學案、三十七〕。

【徐秋夫】469 ジョシウフ　南朝宋の人。熙の子。官は射陽令。醫者。〔南史、三十二〕。

【徐修矩】470 ジョシウク　唐、吳縣の人。尙友錄には循矩に作る。家に萬卷の書を貯へ、皮日休と親交あり。〔江南通志〕。

【徐日曦】471 ジョジツギ　明の人。徐日炅を見よ。

【徐日炅】472 ジョジツケイ　明、四安の人。後、日曦と改名す。天啓の進士。著に爛柯山志がある。〔四庫提要、七十六〕。

【徐日泰】473 ジョジツタイ　明、金谿の人。崇禎の末、偃師縣知となり、李自成の難に死す。〔明史、二百九十三〕・〔萬斯同明史、三百七十九〕・〔明史稿、二百七十四〕。

【徐尙卿】474 ジョシヤウケイ　明、南平の人。字は師臣。崇禎中、擧人より劍州牧となる。始めて任地に至るや、流賊あり、親ら督して守禦したが、力盡きて城陷り、自經す。〔明史、二百九十二〕・〔萬斯同明史、三百七十八〕・〔明史稿、二百七十二〕。

【徐象梅】475 ジョシヤウバイ　明、杭州の人。字は仲和。諸生。畫は米芾・吳鎭に摹倣す。著に兩浙名賢錄・瑯環史唾がある。〔四庫提要、六十二・一百四十三〕。

【徐常吉】476 ジョジヤウキツ　明、武進の人。字は士彰。萬曆の進士。官は戶科給事中・浙江按察司僉事。著に事詞類奇・六經類聚がある。〔南疆繹史、二十三〕。

【徐錫祉】477 ジョシヤクシ　清、仁和の人。字は小齋。進士。官は臺灣知縣。尤も目錄の學に精しく、嘗て阮元の四庫未收書總目の續を作る。又、著に榕陰讀書志がある。

【徐錫麟】478 ジョシヤクリン　清、浙江山陰の人。號は伯蓀。算術に精しく、光緖中、我が國に游學す。歸國後、道員より警察學堂會辦となる。排滿の心を抱いて革命を謀り、巡撫恩銘を擊つて之を斃したが、事敗れて害さる。〔碑傳集補、五十七〕。

【徐守信】479 ジョシユシン　宋、海陵の人。嘉祐中、天台の道士の余元吉に從ひ、人のために禍福を言ふこと影響の如し。徽宗の時、虛靜沖和先生の號を賜はる。弟子の苗希頤、語錄を爲る。〔宋史翼、三十七〕。

【徐壽輝】480 ジョジユキ　元、羅田の人。一名は眞一。元末、推されて盜主となり、紅巾を號とし、皇帝を僭稱し、國を天完と號し、治平と建元す。後、漢陽に遷都す。陳友諒に、采石に殺さる。僭號、凡そ十年。〔明史、一百二十三〕。

【徐樹穀】481 ジョジユコク　清の人。乾學の子。字は藝初。康熙の進士。官は監察御史。弟の炯と共に李義山文集箋注を撰す。〔四庫提要、一百五十一〕。

【徐樹錚】482 ジョジュサウ　民國、江蘇省蕭縣の人。字は又錚。北洋武備學堂及び、我が國陸軍士官學校歩兵科卒業。夙に段祺瑞の麾下に入つて陸軍次長・參謀總長等となり、やがて蒙古經略に着眼し、西北籌邊使兼西北邊防軍總司令となる。一方、安福俱樂部を率ゐ、北方政界に其の勢力を擅にしたが、遂に安直戰に敗れ、八禍首の筆頭として逮捕令を發せられた。其の後、屢〻安徽派の再起を圖つたが成らず、四十五歳を以て銃殺さる。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【徐樹丕】483 ジョジュヒ　清、長洲の人。字は武子。號は活埋菴道人（埋菴）・牆東居士。明末の諸生。羣籍を博覽し、楷書を善くし、八分に巧。國變後、隱居して出でず。康熙中、卒す。著に中興綱目・識小錄・杜詩注・埋菴集がある。〔國朝耆獻類徵、四百七十三〕。

【徐從治】484 ジョジュウチ　明、海鹽の人。字は肩虞。天啓の初、進士より濟南守・兗東副使に遷る。徐鴻儒を勦して功あり、山東巡撫に擢んでられ、萊州に駐す。孔有德と戰つて死す。祠を立てて忠烈といふ。〔明史、二百四十八〕・〔萬斯同明史、三百六十六〕・〔明史稿、二百四十五〕・〔明詩綜、六十〕。

【徐述夔】485 ジョジュツキ　清、浙江の人。康熙の擧人。其の著、一柱樓詩中に譏刺の語有るを以て高宗に戮屍せられ、其の孫の食田・食書も皆罪せらる。

【徐春甫】486 ジョシュンポ　明、祁門の人。字は汝元。官は太醫院官。著に古今醫統・醫學捷徑がある。〔祁門縣志〕。

【徐循矩】487 ジョジュンク　唐の人。徐修矩（470）を見よ。

【徐準宜】488 ジョジュンギ　清、武進の人。字は仲平。號は急先務齋。乾隆の擧人。官は順天府糧馬通判。博學にして天文・地理・算法に精しく、書は趙孟頫を法とす。著に知人金鑑・急先務齋詩文集・寶晉齋帖がある。〔國朝書畫家筆錄、三〕。

【徐遵明】489 ジョジュンメイ　後魏、華陰の人。字は子判。大儒。性聚斂を好む。永安の末、亂兵のために殺さる。著に春秋義草がある。〔魏書、八十四〕・〔北史、八十一〕。

【徐書受】490 ジョショジュ　清、武進の人。字は尙之。官は南召知縣。書室を教經堂といふ。著に敬經堂集がある。〔清史稿、四百九十〕・〔國朝詩人徵略初編、三十九〕。

【徐處仁】491 ジョショジン　宋、穀熟の人。字は擇之。進士甲科に中る。尙書右丞となつたが、後、童貫に忤つて落職、宣和中、侍讀に起用せられ、觀文殿大學士に遷る。〔宋史、三百七十一〕・〔宋史新編、一百二十二〕。

【徐如珂】492 ジョジョカ　明、吳縣の人。字は季鳴。萬曆の進士。官は左通政。事を以て忠賢の怒に觸れ、罪を恐れて服毒して死す。〔明史、二百四十九〕。

【徐如翰】493 ジョジョカン　明、上虞の人。字は伯鷹。或は檀燕。萬曆の進士。官は大同參政。方從哲が國を誤るを疏劾して削籍されたが、崇禎の初、平涼道に起用され、江北巡撫に至る。著に檀燕集がある。〔浙江通志〕。

【徐汝化】494 ジョジョクワ　明、興國の人。字は應時。萬曆の進士。官は河間令。性、孝友、愛日堂を築いて親を娛ましめた。吳明卿と唱和す。著に青桂集がある。〔興國州志〕。

【徐汝舟】495 ジョジョシウ　清、浙江山陰の人。名は楫。字を以て世に知らる。號は一甕齋。官は四川州判。詩・篆刻に巧。著に一甕齋印譜・六書通砭誤がある。

【徐汝正】496 ジョジョセイ　明、宣城の人。號は二寰。萬曆の擧人。官は西鄉縣知。民のために江に溺れ、祠を立てて祀らる。今傳へて漢江の神とす。

【徐承珪】497 ジョショウケイ　宋、掖の人。官は贊皇令。孝友を以て聞ゆ。詔して、其の鄉を義感、其の里を和順と曰はしむ。〔宋史、四百五十六〕・〔宋史新編、一百七十六〕。

【徐承宗】498 ジョショウソウ　明の人。達の曾孫。英宗の時、魏國公を襲爵す。官は南京の守。〔明史、一百二十五〕・〔明名人傳、二〕。

【徐昇泰】499 ジョショウタイ　明、會稽の人。字は世平。本草綱目の不備を補つて正譌補遺を著はす。

【徐繩甲】500 ジョジョウカフ　清、歸安の人。字は蒸哉。號は鄃城。康熙の擧人。官は知縣。著に鄃城集がある。〔國朝耆獻類徵、二百二十七〕・〔碑傳集、一百二〕。

【徐振芳】501 ジョシンハウ　清、山東樂安の人。字は太拙。詩に巧。著に徐太拙詩稿がある。〔四庫提要、一百八十一〕。

【徐晉卿】502 ジョシンケイ　宋の人。官は將仕郎祕書省校書郎。著に春秋經傳類對賦がある。〔四庫提要、一百三十七〕。

【徐眞木】503 ジョシンボク　清、嘉興の人。一に徐貞木に作る。字は士白。號は白楡。書法篆刻に巧。書室を懷古堂といふ。著に懷古堂集がある。〔國朝書畫家筆錄、二〕・〔國朝書人輯略、二〕。

【徐縉芳】504 ジョシンハウ　明、晉江の人。字は奕開。萬曆の進士。官は御史。敢言の士。天啓中、劾せられて戍に遣らる。〔明史、二百四十八〕・〔明史稿、二百四十二〕。

【徐人傑】505 ジョジンケツ　宋、玉山の人。一に仁傑に作る。字は漢英。紹興の進士。專ら復仇を言つて秦檜の意に忤らひ、遂に仕へず。著に易傳・春秋發微及文集がある。〔尙友錄、二〕。

【徐人龍】506 ジョジンリヨウ　清、錢塘の人。仙佛鬼判畫を善くした。〔清代閨閣詩人徵略、五〕。

【徐仁紀】507 ジョジンキ　唐、常州の人。聖曆中、左拾遺となり、神龍の時、左補闕となる。數〻上書するも納れられず、出でて靈昌令となる。〔舊唐書、一百九十二〕。

【徐仁傑】508 ジョジンケツ　徐人傑（505）を見よ。

【徐崇岳】509 ジョスウガク　清、保山の人。字は石公。康熙の擧人。吳三桂に重んぜらる。

【徐崇嗣】510 ジョスウシ　宋、江寧の人。徐熙の孫。花鳥畫に新意を出し、ただ丹粉を以て點染するのみで沒骨圖と號した。沒骨派の祖。〔宋史翼、三十七〕・〔聖朝名畫評、五〕。

【徐世剛】511 ジョセイガウ　清、秀水の人。字は及鋒。號は鈍菴。諸生。畫に巧で、兼ねて篆隸に精しく、鈍頭陀といはる。

【徐世華】512 ジョセイクワ　明、興山の人。字は士英。父、鄉里の難に死し、母の病に天に祈つて代らんことを願つたが、母癒えて遂に卒し、父の側に附葬せられた。鄉人、其の墓を忠孝塚といふ。〔尙友錄、二〕。

【徐世昌】513 ジョセイシヤウ　㊀宋、石城の人。本の從子。畫に巧。〔圖繪寶鑑〕。㊁清、河北省天津縣の人。字は菊人。號は水竹村人・東海。北洋派の大先輩、幼くして父を喪つて袁世凱の叔父に養はれ、袁の後援によつて清國朝廷最高顧問となる。民國成立後、段祺瑞等北方武斷派の組織した新國會に據つて大總統に選任されたが、民國十一年、第一奉直戰後政界を退き、天津に閑居す。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【徐世淳】514 ジョセイジュン　明の人。必達の子。字は中明。崇禎中、擧人より永嘉教諭となり、隨州知州に再遷す。張獻忠と戰つて死す。〔明史、二百九十二〕・〔萬斯同明史、三百七十九〕・〔明史稿、二百七十四〕・〔明名臣言行錄、九十〕・〔小腆紀年、二〕。

【徐世溥】515 ジョセイフ　清、新建の人。字は巨源。號は楡谿。明の諸生。文名あり、東鄉の艾南英と約して兄弟と爲る。清になつて意を仕進に絶つ。著に楡溪集がある。〔清史列傳、七十〕・〔國朝耆獻類徵、四百六十二〕・〔國朝先正事略、三十七〕。

【徐世譜】516 ジョセイフ　陳、魚復の人。字は興宗。諡は桓。水戰を善くす。梁の元帝の時、水軍を領し、陳に入つて右光祿大夫に至る。〔陳書、十三〕・〔南史、六十七〕。

【徐世沐】517 ジョセイモク　清、江陰の人。字は肅瀚。號は青麓・青牧。諸生。朱子學者。康熙の末、卒す。年八十三。著に惜陰錄がある。〔國朝耆獻類徵、四百七〕・〔碑傳集、一百二十八〕・〔國朝先正事略、三十一〕・〔清儒學案小識、十〕。

【徐世隆】518 ジョセイリユウ　元、西華の人。字は威卿。金の正大の進士。元になつて、中統中、集賢院學士に累官し、律令に通ず。元室の典章制度は多く其の手に出で、著に瀛洲集がある。〔元史、一百六十〕。

【徐正誼】519 ジョセイギ　清の人。善建の子。字は方子。號は果齋。諸生。至孝を以て聞え、乾隆の初、孝廉方正に擧げられたが、就かず。〔國朝耆獻類徵、四百八〕。

【徐成楚】520 ジョセイソ　明、竹谿の人。字は衡望。萬曆の進士。縣令より給事中となり、彈劾に當つては權貴を避けなかつた。瘻を病む。京師、語を爲し

て、行行且らく止まれ、須らく瘤子を避くべしといふ。〔竹谿縣志〕。

【徐星友】521（ジョセイイウ）　清、錢塘の人。弈を善くす。書室を兼山堂といふ。著に兼山堂弈譜がある。

【徐清叟】522（ジョセイソウ）　宋の人。榮叟の弟。字は眞翁。諡は忠簡。嘉定の進士。官は太常博士・參知政事・資政殿大學士。〔宋史、四百二十〕・〔宋史新編、一百五十三〕・〔南宋書、五十五〕・〔南宋館閣續錄、八・九〕。

【徐齊聃】523（ジョセイタン）　唐、長城の人。字は將道。高宗の時、崇文館學士となり、尋いで求めて桃林令と爲り、西臺舍人に累遷した。讜言の士。禁中の事を漏洩し、欽州に流された。〔唐書、一百九十九〕・〔舊唐書、一百九十、上〕。

【徐昭華】524（ジョセウクワ）　清の人。咸淸の女。駱加采の妻。字は伊璧。號は蘭凝。詩・楷隷・畫に巧。〔清畫家詩史、癸、上〕・〔清代閨閣詩人徵略、二〕。

【徐昭慶】525（ジョセウケイ）　明、宣城の人。字は穆如。著に考工記通・檀弓通がある。〔四庫提要、二十三〕。

【徐昭文】526（ジョセウブン）　元、上虞の人。字は秀章。韓性に從つて尙書を讀み、門を杜ざして力學し、後、平江儒學學生となる。著に通鑑綱目考證がある。〔宋史、四百八十七〕。

【徐石麒】527（ジョセキキ）　㊀明、嘉興の人。字は寶摩。天啓の進士。初、任官して魏忠賢に忤ひ、削籍された。崇禎の初、南禮部主事に起用され、刑部尙書に遷る。福王の時、吏部尙書となる。嘉興城陷るや、自縊して死した。〔明史、二百七十五〕。㊁清、江都の人。字は又陵。號は坦菴。白仁甫・關漢卿の室に入る。明末の兵亂に遭ひ、有司の試に應ぜず。其の著、二百餘卷に及ぶ。〔國朝耆獻類徵、四百二十三〕。

【徐釋傳】528（ジョセキデン）　明の人。字は克淸。兄の道傳と共に篤く學に志す。兄が入仕するに及んで遂に侍養して出でず、名節をみがいた。論者、之を良金美玉に比した。〔尙友錄、二〕。

【徐羨之】529（ジョセンシ）　南朝宋、東海の人。字は宗文。晉の義熙末に、吏部尙書・丹陽尹に至る。武帝が卽位するや、散騎常侍を加へらる。永初の末、謝晦等と少帝を殺し、文帝を迎へ立てたが、元嘉中、弑逆の罪を以て、自剄して死す。〔宋書、四十三〕・〔南史、十五〕。

【徐善安】530（ジョゼンアン）　明、浦城の人。字は敦復。洪武中、御史となり、台州に備兵す。方孝孺が難に死んだ時、其の姬妾を匿し、事發かれて杖を受け臂を斷たれたが實を吐かず、遣戍され、董其昌が求忠書院を建て孝孺を祀るや、善安を配饗した。〔浦城縣志〕。

【徐善建】531（ジョゼンケン）　清、嘉善の人。字は孝標。杉泉先生と稱せられた。康熙の貢生。陸隴其の門人で、周易及び宋五子の著述に專心し、其の杉泉書屋は甚だ藏書に富む。〔清史列傳、六十七〕・〔國朝耆獻類徵、四百八〕。

【徐善述】532（ジョゼンジユツ）　明、天台の人。字は好古。諡は文肅。永樂の初、春坊贊善となり、後、事に坐して、獄に死す。著に尙書直指がある。〔明史、一百五十二〕・〔萬斯同明史、二百一〕・〔明史稿、一百三十七〕・〔國朝獻徵錄、十九〕。

【徐祖正】533（ジョソセイ）　民國、江蘇省崑山縣の人。我國に留學した。國立北京大學東方文學系教授・國立北平大學女子師範學院國文系講師。著に蘭生弟日記がある。島崎藤村作新生を譯した。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【徐楚璧】534（ジョソヘキ）　唐の人。徐安貞（321）を見よ。

【徐宗幹】535（ジョソウカン）　清、江蘇通州の人。字は樹人。號は斯未信齋。諡は淸惠。嘉慶の進士。道光中、曲阜縣知・福建臺灣道となる。同治中、福建巡撫に擢んでられ、臺灣・汀州を平定し、閩境を肅清した。著に斯未信齋文稿がある。〔清史稿、四百三十二〕・〔清史列傳、四十九〕。

【徐宗實】536（ジョソウジツ）　明、黃巖の人。名は垢。字を以て世に知らる。洪武中、駙馬都尉胡觀の師傅となり、尋いで蘇州通判となる。建文の初、兵部侍郎。靖難の師が起るや、屈せずして死す。〔明史、一百三十七〕・〔萬斯同明史、一百八十八〕・〔明史稿、一百二十五〕。

【徐宗仁】537（ジョソウジン）　㊀宋、永豐の人。字は求心。淳祐の進士。開慶の初、國子監主簿を以て闕に伏して上書し、董宋臣の奸惡を極言し、太常少卿に遷る。德祐の時、吏部侍郎。匡山の兵敗れて之に死す。〔宋史、四百二十五〕・〔宋史新編、一百七十五〕・〔南宋書、五十七〕・〔宋史翼、三十一〕・〔宋季忠義錄、六〕。㊁清、長安の人。行伍より陝西督標把總となる。雍正の初、從つて羅卜藏丹津を征し、功を以て殺虎口副將に擢んでられたが、峩崙磯に兵を駐するや、賊に襲はれ、拒戰すること三晝夜、創重くして卒す。〔國朝耆獻類徵、三百四十六〕。

【徐宗泌】538（ジョソウヒツ）　清、金山の人。字は鄰侯。號は固齋。花草畫を善くす。〔國朝畫識、五〕。

【徐宗勉】539（ジョソウベン）　徐退（204）を見よ。

【徐宗亮】540（ジョソウリヤウ）　清、桐城の人。號は椒岑・善思齋。蔭生。著に善思齋文鈔がある。〔碑傳集補、五十二〕。

【徐增壽】541（ジョソウジユ）　明の人。達の子。諡は忠愍。其の姊は燕王の妃。潛に燕に通ず。建文之を覺り、殿廡の下に斬る。成祖の時、定國公に追封さる。〔明史、一百二十五〕。

【徐卽登】542（ジョソクトウ）　明、豐城の人。字は獻和。一字は德峻。號は匡岳。萬曆の進士。官は河南按察使。著に周禮說がある。〔四庫提要、二十三〕。

【徐尊生】543（ジョソンセイ）　明、淳安の人。字は大年。洪武の初、元史の纂修に與る。官は翰林應奉文字。文集がある。〔明史、二百八十五〕。

【徐待聘】544（ジョタイヘイ）　明、常熟の人。字は廷珍。萬曆の進士。官は按察副使。著に雁山志勝がある。〔萬斯同明史、三百十四〕。

【徐體劬】545（ジョタイク）　清、陽湖の人。字は敬忠。官は正定縣丞。畫に巧。〔墨香居畫識、五〕。

【徐體乾】546（ジョタイケン）　明、長淮衞の人。字は行健。嘉靖の進士。易に精通す。著に周易不我解がある。

【徐大珩】547（ジョダイカウ）　清の人。泰の子。字は聲昭。邑諸生。筆墨、其の父に肖る。〔國朝畫識、十三〕。

【徐大貴】548（ジョダイキ）　清、漢軍正白旗人。諡は勤果。崇德の閒、錦州・寧遠の攻伐に從つて功あり。順治中、山西・陝西・河南・江南・福建の攻伐に從ひ、副都統に累官し、太子少保を加へられ、二等男に封ぜらる。〔國朝耆獻類徵、二百七十二〕・〔滿洲名臣傳、十二〕。

【徐大業】549（ジョダイゲフ）　徐大椿（554）を見よ。

【徐大相】550（ジョダイシヤウ）　明、安義の人。字は覺斯。萬曆の進士。國子博士の時、盧受を劾して免官さる。〔明史、二百三十四〕。

【徐大受】551（ジョタイジユ）　宋、天台の人。字は季可。淳熙中、特科に擧げらる。朱熹と親交があつた。

【徐大正】552（ジョタイセイ）　宋、甌寧の人。字は德之。蘇軾と親交あり、嘗て室を北山の下に築き、閒軒と名づく。ために秦少游、記を爲り、軾、詩を爲る。時人、よりて北山學士と呼ぶ。〔尙友錄、二〕。

【徐大刀】553（ジョタイタウ）　徐文（276）を見よ。

【徐大椿】554（ジョタイチン）　清、吳江の人。原名は大業。字は靈胎。號は洄溪。博學多才、尤も醫術に精通。著に道德經注釋・陰符經注釋・樂府傳聲・神農本草經百種錄・蘭臺軌範・傷寒類方・醫學源流論・愼疾芻言・難經經釋がある。〔清史稿、五百七〕・〔國朝耆獻類徵、四百八十三〕・〔碑傳集、一百四十七〕・〔國朝詩人徵略、三十三〕。

【徐大任】555（ジョダイニン）　明、宣城の人。字は重夫。隆慶の進士。中外に歷官し、皆廉を以て稱せらる。神宗、嘗て其の淸節を稱して天下第一と爲し、工部侍郎を以て終る。〔本朝分省人物攷、三十八〕・〔明詩紀事、庚九〕。

【徐道廣】555′（ジョダウクワウ）　宋、杭州の人。號は古巖。景定中、待詔となる。畫に巧。〔南宋院畫錄、八〕。

【徐道興】556（ジョダウコウ）　明、睢州の人。崇禎の末、雲南都司經歷となる。孫可望と戰つて死す。〔明史、二百九十五〕。

【徐道度】557（ジョダウタク）　南朝宋の人。秋夫の子。醫に精し、官は蘭陵太守。〔南史、三十二〕。

【徐道符】558（ジョダウフ）　宋、東海の人。號は無欲子。著に六壬心鏡要がある。〔四庫提要、一百十一〕。

【徐道明】559（ジョダウメイ）　宋、常州の人。天慶觀の道士。德祐の初、北兵に殺さる。〔宋史、四百五十五〕・〔宋史新編、一百七十四〕・〔宋季忠義錄、六〕。

【徐道隆】560（ジョダウリユウ）　宋、武義の人。字は伯謙。官は提點刑獄。元兵と戰ひ、水に赴いて死し、越えて三日、宋滅亡した。〔宋史、四百五十一〕・〔昭忠錄〕・〔宋季忠義錄、五〕・〔宋元學案、八十三〕。

【徐達左】561（ジョタツサ）　明、平江の人。字は良夫。號は松雲道人（松雲生）。元末、鄧尉山に隱れ、洪武

の初、建寧縣訓導に起用さる。書室を耕漁軒といふ。著に顏子鼎編・金蘭集がある。〔續吳先賢讚、八〕・〔明詩紀事、甲、二十五〕・〔列朝詩集小傳、甲〕。

【徐湛恩】562（ジョタンオン）　清、漢軍正藍旗人。字は沛瀛。康熙の武進士。侍衞より河東河道副總督となり、治河の功あり、乾隆中、直隸副總河に至る。〔國朝耆獻類徵、一百六十八〕・〔碑傳集、七十六〕。

【徐湛之】563（ジョタンシ）　南朝宋の人。羨之の從孫。字は孝源。謚は忠烈。散騎常侍となり、范曄等の謀反に坐したが、其の母の會稽公主が文帝に尊禮されてゐたので赦され、尋で南兗州刺史と爲り、威惠並び行はれた。後、尙書僕射に陞る。廢立の事を以て、元凶劭に殺さる。〔宋書、七十一〕・〔南史、十五〕。

【徐端本】564（ジョタンポン）　明、史忠の本姓名。

【徐治都】565（ジョチト）　清の人。大貴の子。謚は襄毅。康熙中、湖廣彝陵總兵となる。時に楊來嘉等が屢〻彝陵を侵したので、治都は之を擊敗して、夔州に克ち、夏逢龍を敗つて、鎭平將軍に至る。〔淸史稿、二百六十三〕・〔淸史列傳、九〕・〔國朝耆獻類徵、二百七十二〕。

【徐知誥】566（ジョチカウ）　李昪（6－14459‥730）を見よ。

【徐知諤】567（ジョチガク）　南唐の人。溫の第六子。謚は懷。封は梁王。潤州の鎭となる。〔十國春秋、南唐〕。

【徐知諫】568（ジョチカン）　五代吳の人。溫の第四子。官は鎭南軍節度使。〔十國春秋、吳〕。

【徐知誨】569（ジョチクヮイ）　五代吳の人。溫の第三子。兄の知詢が金陵を守つたとき、知誨は其の陰事を偵察して知誥に告ぐ。〔十國春秋、吳〕。

【徐知訓】570（ジョチクン）　五代吳の人。溫の長子。溫が潤州を鎭した時、知訓を留めて輔政とした。譽める者、昌華相公といふ。後、朱瑾に殺さる。〔十國春秋、吳〕。

【徐知常】571（ジョチジヤウ）　宋の人。建陽の道士。字は子中。沖虛大夫となり、宣和中、蕊珠殿侍宸に除せらる。畫・詩に巧。〔宣和畫譜〕。

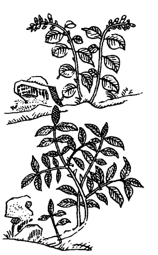
【徐知詢】572（ジョチジュン）　五代吳の人。溫の次子。謚は康。性、暗懦。知誥のために逐はれ、鎭海軍節度使となり、後、洪州の鎭に移さる。〔十國春秋、吳〕。

【徐知證】573（ジョチジョウ）　南唐の人。溫の第五子。吳に仕へて節度使に至り、南唐に入つて魏王に封ぜらる。〔十國春秋、南唐〕。

【徐知新】574（ジョチシン）　唐、信安の人。性至孝。〔唐書、一百九十五〕。

【徐致靖】575（ジョチセイ）　清、宜興の人。字は子靜。光緒の間、進士より翰林院侍讀學士に累官す。日淸戰爭後、康有爲を推薦して並に陳奏し、侍郞に擢んでらる。〔淸史稿、四百七十〕・〔碑傳集補、六〕。

【徐長卿】576（ジョチヤウケイ）　草の名。鈴柴胡（スズサイゴ）の異名。〔本草、徐長卿〕釋名、鬼督郵、別仙蹤、時珍曰、徐長卿、人名也、常以二此藥一治二邪病一、人遂以レ名レ之。



徐長卿（三才圖會）

【徐中行】577（ジョチュウカウ）　㊀宋、臨海の人。字は德臣。胡瑗の學を慕つて精思攻苦し、司馬光に認められた。性至孝。孝・悌・睦・婣・任・卹・中・和の八行を以て薦められたが就かず。人呼んで八行先生といふ。〔宋史、四百五十九〕・〔宋史新編、一百七十八〕・〔宋元學案、一〕。㊁明、長興の人。字は子與。自ら天目山人と稱す。嘉靖の進士。詩に巧。李攀龍・王世貞等と七子と稱せられる。官は江西左布政使。著に靑蘿・天目の二集がある。〔明史、二百八十七〕・〔萬斯同明史、三百八十八〕・〔明史稿、二百六十八〕。

【徐中台】578（ジョチュウタイ）　明、建寧の人。字は伯朗。貢生より、惠州通判を授けられ、後、廬州同知となる。國變の後、官を棄てて里に歸る。〔建寧縣志〕。

【徐仲雅】579（ジョチュウガ）　五代、楚の長沙の人。字は東野。年十八にして馬希範の十八學士の內に列す。廢王希廣の變に戶を閉ぢて出でず、周行逢に強ひられて判官に署せられたが屈せず、邵州に放たる。〔十國春秋、楚〕。

【徐柱臣】580（ジョチュウシン）　清、崑山の人。字は題客。諸生。詩詞・書法に精し。晚年、維揚に寓居。著に艮岑樂府がある。〔國朝書畫家筆錄、三〕。

【徐椿年】581（ジョチンネン）　宋の人。字は壽卿。號は雙溪。紹興の進士。官は宜興縣主簿。張九成の弟子。著に雙溪集・尙書本義・論語解がある。〔宋元學案、四十〕。

【徐廷華】582（ジョテイクヮ）　清、陽湖の人。字は子楞。諸生。詩古文詞に精しく、父の賡揚が御製集成を修めるに與かり、一規八稜硯を賜つた。よりて齋になづけ、著に一規八稜硯齋集がある。

【徐廷槐】583（ジョテイクヮイ）　清、會稽の人。字は立三・笠山。號は墨汀・止止老人。雍正の進士。詩・文を善くし、著に南華簡鈔・墨汀詩草がある。〔鶴徵後錄、六〕。

【徐廷璋】584（ジョテイシヤウ）　明、羅山の人。字は公器。景泰の進士。官は右僉都御史・延綏巡撫。余子俊・馬文升と共に關中三巡撫と稱さる。〔萬斯同明史、二百三十一〕・〔明史稿、一百六十一〕・〔國朝名世類苑、四十一〕。

【徐貞木】585（ジョテイボク）　清、嘉興の人。徐眞木（503）を見よ。

【徐貞明】586（ジョテイメイ）　明の人。九思の子。字は孺東。隆慶の進士。萬曆中、尙寶少卿となる。京畿の水利を諳究し、著に潞水客談がある。〔明史、二百二十三〕・〔萬斯同明史、三百二十九〕・〔明史稿、二百六〕。

【徐庭筠】587（ジョテイキン）　宋の人。中行の末子。性至孝。鄕人、其の父と倶に二徐先生といふ。〔宋史、四百五十九〕・〔宋史新編、一百七十八〕・〔宋元學案、一〕。

【徐庭垣】588（ジョテイエン）　淸、秀水の人。官は新昌縣丞。著に春秋管窺がある。〔淸史列傳、六十八〕・〔國朝耆獻類徵、四百十四〕。

【徐禎卿】589（ジョテイケイ）　明、吳縣の人。字は昌穀。弘治の進士。官は國子博士。唐寅・祝允明・文徵明等と倶に吳中の四才子と稱せらる。登第後、李夢陽・何景明等と交游し、弘治の十才子の一となる。著に迪巧集がある。〔明史、二百八十六〕・〔萬斯同明史、三百八十八〕・〔明史稿、二百六十七〕。

【徐禎稷】590（ジョテイショク）　明の人。三重の子。字は厚源。萬曆の進士。官は四川副使。書室を明善堂といふ。著に恥言、及び明善堂詩稿がある。〔明人小傳、四〕・〔明詩綜、五十九〕・〔明詩紀事、庚、二十〕。

【徐兆熊】591（ジョテウユウ）　淸、泰州の人。字は開州。號は東賓（東濱）・開齋。乾隆の擧人。官は內閣中書。花鳥畫を善くし、尤も松に巧。〔墨香居畫識、九〕。

【徐朝綱】592（ジョテウカウ）　明、晉寧の人。萬曆の擧人。天啓の初、安順知府となる。安邦彥の難に死す。〔明史、二百九十〕・〔萬斯同明史、三百七十七〕・〔明史稿、二百七十二〕。

【徐朝俊】593（ジョテウシュン）　淸、江蘇華亭の人。字は恕堂。諸生。著に高厚蒙求・中星表・儀器圖說がある。嘗て鐘表儀晷の諸器を制作す。

【徐迪惠】594（ジョテキケイ）　淸、上虞の人。原名は肆三。字は聞詩。號は鹿苑。嘉慶の擧人。官は泰和知縣。書室を象洞山房といふ。著に象洞山房詩文集・重輯徐氏一家言がある。

【徐天祐】595（ジョテンイウ）　宋、紹興の人。字は受之。進士。官は大州教授。〔宋史翼、三十五〕・〔宋季忠義錄、十四〕。

【徐天麟】596（ジョテンリン）　宋、臨江の人。字は仲祥。開禧の進士。官は惠・潭二州の通判。書室を西郊草堂といふ。著に兩漢會要・漢兵本末・西漢地理疏・山經がある。〔宋史、四百三十八〕・〔宋史新編、一百六十七〕・〔南宋書、三十七〕。

【徐得之】597（ジョトクシ）　宋の人。夢莘の弟。字は思叔。淳熙の進士。官は通直郞。著に左氏國紀・史記年紀・郴江志・鼓吹詞がある。〔宋史、四百三十八〕・〔宋史新編、一百六十七〕・〔南宋書、三十七〕。

【徐德煥】598（ジョトククヮン）　淸の人。徐耀文（341）を見よ。

【徐德泰】599（ジョトクタイ）　淸、崑山の人。字は拙存。官は易州知州。花卉畫に巧。〔國朝畫識、十二〕。

【徐培深】600（ジョバイシン）　淸、石阡の人。字は松泉。嘉慶の進士。官は御史。後、官を罷めて揚州に居り、梅花書院の主講となり、梅花主人と號す。

【徐梅龜】601（ジョバイキ）　宋、壽昌の人。字は臞叟。進

士。官は霍丘尉。嘉熙の初、元兵大いに至るや、子の尙古と俱に死す。〔宋史翼、三十一〕。

【徐邦憲】602 ジョハウケン 宋、義烏の人。字は文子。謚は文肅。紹熙の進士。三遷して祕書郞と爲り、尋で楚州知に遷る。侂胄に忤つて免職され、其の誅せらるるや、再起して寶謨閣待制に至る。〔宋史、四百四〕・〔宋史新編、一百四十七〕・〔南宋書、四十二〕・〔南宋館閣續錄、八・九〕・〔宋中興東宮官僚題名〕。

【徐葆光】603 ジョハウクワウ 清、長洲の人。字は亮直。號は澄齋・二友齋。康熙の進士。編修を拜命、一品服を賜はる。琉球に使して國王を敕封す。雍正の始、御史を以て名を知らる。著に中山傳信錄・二友齋集・海船集がある。〔淸史列傳、七十一〕・〔國朝耆獻類徵、一百二十四〕・〔國朝詩人徵略、初編、二十二〕。

【徐寶善】604 ジョハウゼン 清、歙の人。號は廉峯・壺園。嘉慶の進士。官は御史。吟詠を好み、諸史に精しく、著に壺園詩鈔・漢魏五代樂府がある。〔國朝耆獻類徵、一百三十八〕・〔續碑傳集、十八〕。

【徐伯徵】605 ジョハクチョウ 明、海寧の人。字は孺臺。萬曆の進士。官は揚州知府。著に留都武學志がある。〔明人小傳、四〕・〔明詩綜、六十一〕。

【徐伯珍】606 ジョハクチン 南齊、太末の人。字は文楚。經史を硏精し、游學者多く之に依る。後、九巖山に移居し、州郡の禮辟に皆就かず。兄弟四人、皆白首相對し、時人之を四皓と稱す。〔南齊書、五十四〕・〔南史、七十六〕。

【徐伯陽】607 ジョハクヤウ 梁、東海の人。字は隱忍。好學の士。官は新安王府諮議參軍。〔陳書、三十四〕・〔南史、七十三〕。

【徐伯齡】608 ジョハクレイ ❶明、嵊縣の人。字は延之。博學にして文を能くし、琴・書に巧。著に蟫精雋がある。〔四庫提要、一百二十二〕。❷清の人。宏澤の子。又、柏齡に作る。字は節之。號は籜冠子。明、崇禎の擧人。官は永嘉教諭。淸になつて逃れて自ら晦ます。畫を善くす。〔國朝書畫家筆錄、一〕。

【徐柏齡】609 ジョハクレイ 淸の人。徐伯齡（608）の❷を見よ。

【徐法績】610 ジョハフセキ 淸、涇陽の人。字は定夫。號は熈菴。嘉慶の進士。官は御史。著に東河要略がある。〔淸史稿、三百八十三〕・〔國朝耆獻類徵、一百一四〕・〔續碑傳集、十六〕。

【徐必達】611 ジョヒッタツ 明、秀水の人。字は德夫。萬曆の進士。天啓の初、右僉都御史となり、白蓮賊を擊つて功あり、兵部侍郞に陞る。著に正蒙釋がある。〔明史、二百九十二〕・〔萬斯同明史、三百五十〕・〔明史稿、二百七十四〕・〔明詩綜、五十七〕。

【徐夫人】612 ジョフジン 淸、顧橫波をいふ。

【徐孚遠】613 ジョフヱン 明、松江華亭の人。字は闇公。崇禎の擧人。同鄕の陳子龍・夏允彝と結社して相砥礪す。國變の後、義兵を起し、破れて臺灣に死す。書室を釣璜堂といふ。〔明史、二百七十七〕・〔明史稿、二百五十八〕・〔明詩綜、六十九〕・〔小腆紀年、十六〕。

【徐普濟】614 ジョフセイ 梁、臨湘の人。孝子。〔梁書、四十七〕・〔南史、七十四〕。

【徐復祚】615 ジョフクソ 明人。字は陽初。樂府に巧。著に三家村老委談・劇本一文錢・紅梨記等がある。

【徐文英】616 ジョブンエイ 明、溧陽の人。洪武中、明經より御史に擢んでられ、尋で河南副使に累官す。從つて交阯を征し、軍中に卒す。〔明史、一百九十五〕。

【徐文駒】617 ジョブンク 淸、鄞の人。字は子文。康熙の進士。書室を師經堂といふ。著に師經堂集・明文遠がある。〔四庫提要、一百八十四・一百九十四〕。

【徐文華】618 ジョブンクワ 明、嘉定の人。字は用光。正德の進士。敢言の士。御史に擢んでられ、貴州巡按となつて苗を平定す。嘉靖の初、大理少卿に陞る。權要に忤らひ、戍に遣られ、邊に卒す。〔明史、一百九十二〕・〔萬斯同明史、二百七十五〕・〔明史稿、一百八十一〕。

【徐文卿】619 ジョブンケイ 宋、玉山の人。字は斯遠。號は樟丘。嘉定の進士。趙昌父・韓仲止と名を齊しうす。著に蕭秋詩集がある。

【徐文盛】620 ジョブンセイ 梁、彭城の人。其の先は魏の〔梁書、四十六〕・〔南史、六十四〕。

【徐文靖】621 ジョブンセイ 淸、當塗の人。字は位山。雍正の擧人。官は檢討。經史を究め、實學を修む。著に管城碩記・周易拾遺・禹貢會箋・山河兩戒考・竹書統箋がある。〔淸史稿、四百九十〕・〔淸史列傳、六十八〕・〔國朝耆獻類徵、一百二十七〕・〔國朝先正事略、三十四〕・〔淸儒學案小識、十三〕・〔鶴徵後錄、五〕。

【徐文伯】622 ジョブンパク 南朝宋の人。道度の子。字は德秀。醫術に精しく、學行あり。官は東莞・太山・蘭陵三郡の太守。〔南史、三十二〕。

【徐文溥】623 ジョブンフ 明、開化の人。字は可大。正德の進士。世宗の時、河南參議・廣東副使に歷任す。〔明史、一百八十八〕・〔萬斯同明史、二百五十九〕・〔明史稿、一百七十三〕。

【徐秉義】624 ジョヘイギ 淸の人。乾學の弟。字は彥和。號は果亭・耘圃。康熙の進士。官は吏部侍郞。著に耘圃培林堂代言集がある。〔淸史稿、二百五十六〕・〔淸史列傳、十〕・〔國朝耆獻類徵、五十七〕・〔國朝先正事略、六〕・〔顏李師承記、三〕・〔淸代學者象傳、一〕。

【徐表仁】625 ジョヘウジン 唐の人。初め僧となつて吳興に寓す。號は宗偃。畫に巧。〔畫史會要〕・〔張祜集〕・〔歷代名畫記〕。

【徐表然】626 ジョヘウネン 明、崇安の人。字は德望。嘉靖中、嘗て漱藝山房を武夷第三曲に結ぶ。著に武夷山志略がある。〔四庫提要、七十六〕。

【徐逢吉】627 ジョホウキツ 淸、錢塘の人。字は紫山。號は青蓑老漁。諸生。詩に巧。書室を黃雪山房といふ。著に柳洲淸響・搖鞭集・微笑集がある。

【徐逢年】628 ジョホウネン 宋の人。龜年の弟。字は耕老。開禧の進士。江陰分教となる。〔尙友錄、二〕。

【徐豐玉】629 ジョホウギョク 淸、桐城の人。字は子逢。號は石民。謚は勇烈。咸豐中、湖北糧儲道となる。洪楊と戰つて敗れ、自刭して死す。〔淸史稿、四百六〕・〔續碑傳集、五十八〕。

【徐夢莘】630 ジョボウシン 宋、臨江の人。字は商老。紹興の進士。官は湘陰令・賓州知。著に三朝北盟會編二百五十卷がある。〔宋史、四百三十八〕・〔宋史新編、一百六十七〕・〔南宋書、三十七〕。

【徐本潤】631 ジョホンジュン 淸、嘉興の人。初名は麟。字は白峯。號は松溪。諸生。董巨に師事して山水畫を修め、書に巧。〔淸畫家詩史、乙、上〕・〔國朝畫識、二・六〕。

【徐本立】632 ジョホンリフ 淸、德淸の人。字は子堅。號は誠菴。道光の擧人。官は南匯知縣。詩詞に巧。著に詞律拾遺がある。

【徐民式】633 ジョミンシキ 明、浦城の人。字は用敬。萬曆の進士。松江推官となり、後、應天巡撫となる。〔浦城縣志〕。

【徐無鬼】634 ジョムキ ❶戰國魏、緡山の人。隱士。〔莊子、徐無鬼〕。❷莊子の篇名。

【徐無黨】635 ジョムタウ 宋、永康の人。歐陽脩の弟子。嘗て脩のために五代史に注す。皇祐の進士。官は郡教授。〔宋元學案、四〕。

【徐命膺】636 ジョメイヨウ 朝鮮李朝、大邱の人。字は君受。號は保晚齋。謚は文靖。大提學となり、後、判中樞となる。〔人物考〕。

【徐明叔】637 ジョメイシュク 宋、晉江の人。字は伯晦、紹定の進士。漳州通判となり、後、潮州の知より、兵部侍郞に累官す。元兵の南下に會ひ、憂憤して卒す。學に原委あり、洪天錫と名を齊しくし、時人、擇齋先生といふ。〔尙友錄、二〕。

【徐明善】638 ジョメイゼン 元、德興の人。字は志友。號は芳谷。官は江浙湖廣提學。弟の嘉善と俱に理學を以て著はれ、時に二徐と稱せられた。著に芳谷集がある。〔四庫提要、一百六十六〕。

【徐鳴時】639 ジョメイジ 明、吳縣の人。字は君和。號は橫溪。崇禎の貢生。官は武寧知縣。著に橫溪錄がある。〔四庫提要、七十六〕。

【徐養元】640 ジョヤウゲン 明、唐山の人。字は長善。崇禎の進士。趙漁と四書集說を共撰す。〔四庫提要、三十七〕。

【徐養原】641 ジョヤウゲン 淸、德淸の人。字は新田。號は飴菴。嘉慶の副貢。三禮・六書・古音・曆算・輿地・氏族の學に通ず。書室を頑石廬といふ。著に周官古書考・儀禮古今文異同疏證・論語魯讀考・頑石廬經說がある。〔續碑傳集、七十二〕。

【徐養相】642 ジョヤウシヤウ 明、鳳陽の人。嘉靖の進士。著に禮記輯覽がある。〔四庫提要、二十四〕。

【徐養正】643 ジョヤウセイ 明、柳州衞の人。字は吉甫。嘉靖の進士。嚴世蕃の奸を彈劾した。官は南工部尙書。〔明史、二百十〕・〔萬斯同明史、二百九十

八〕・〔明史稿、一百九十四〕。

【徐熊飛】644 ジヨユウヒ 清、武康の人。字は渭揚。號は雪廬・雪舫齋・白鶴山人。嘉慶の擧人。母に事へて至孝。晩年、翰林典籍の銜を授けらる。書室を白鶴山房といふ。著に白鶴山房詩文集・六花詞がある。〔清史列傳、七十三〕。

【徐用儀】645 ジヨヨウギ 清、海鹽の人。字は吉甫・筱雲（小雲）。追諡は忠愍。咸豐の擧人。官は孝充軍機章京・兵部尚書。光緒中、義和團の亂が起るや、許景澄・袁昶・立山・聯元等と民團の恃むべからずして外釁の啓くべからざるを極言し、當國者に忌まれ、外人に私通すと誣ひられ、遂に戮せらる。事平らぎ、許・袁と共に三忠と稱せらる。〔清史稿、四百七十二〕・〔清史列傳、六十二〕・〔續碑傳集、十五〕。

【徐用檢】646 ジヨヨウケン 明、蘭谿の人。字は魯源。嘉靖の進士。官は南京太常寺卿。著に三儒類要がある。〔萬斯同明史、三百二十八〕・〔明儒學案、十四〕。

【徐用誠】647 ジヨヨウセイ 明、會稽の人。字は彥純。著に玉機微義がある。〔四庫提要、一百四〕。

【徐用錫】648 ジヨヨウセキ 清、宿遷の人。字は壇長。號は晝堂・晉齋。康熙の進士。官は侍讀。其の學は李光地を宗とす。著に圭美堂集がある。〔四庫提要、一百八十四〕。

【徐用宣】649 ジヨヨウセン 明、衢州の人。醫學に精しく、著に袖珍小兒方がある。〔四庫提要、一百五〕。

【徐來鳳】650 ジヨライホウ 清、婁縣の人。字は小巢。號は含山外史。乾隆の擧人。官は含山教諭。詩に巧。指頭墨を能くす。

【徐立之】651 ジヨリツシ 宋、登州の人。字は植夫。紹聖の進士。官は朝散大夫。靖康の變に南幸に扈蹕し、秦檜が國に當るに及んで遂に歸を乞ひ、鄞に居る。〔尙友錄、二〕。

【徐良彥】652 ジヨリヤウゲン 明、新建の人。字は季良。萬曆の進士。官は僉都御史。尋で宣府巡撫となり、奄黨崔呈秀に論劾されて官を免ぜられ、崇禎の初、赦されて南工部侍郎に至る。〔明人小傳、三〕・〔明詩綜、五十八〕。

【徐良傳】653 ジヨリヤウフ 明、東鄉の人。字は子弼。嘉靖の進士。官は吏科給事中。書室を愛吾廬といふ。著に愛吾廬集がある。〔明詩紀事、戊、二十〕。

【徐林鴻】654 ジヨリンコウ 清、海寧の人。字は大文・寶名。諸生。詩に巧。佳山堂六子の一。書室を兩開草堂といふ。著に兩開草堂集がある。〔清史列傳、七十〕・〔國朝耆獻類徵、四百二十六〕・〔文獻徵存錄、十〕。

【徐鄰唐】655 ジヨリンタウ 清、商丘の人。字は邇黃。學者、我齋先生と稱す。侯朝宗・宋犖等と六子社を爲る。晩年、性理を研究し、范文正公書院主講を以て終る。〔清史列傳、六十六〕・〔國朝耆獻類徵、四百二〕・〔碑傳集、一百三十六〕。

【徐靈府】656 ジヨレイフ 唐、錢塘の人。號は默希子。天目山に隱居して武宗の徵辟を辭す。著に玄鑑・三洞要略・文子注がある。〔四庫未收書目提要、一〕。

【徐鹿卿】657 ジヨロクケイ 宋、豐城の人。字は德夫。號は泉谷。謚は清正。嘉定の進士。官は南安軍學教授・樞密院編修官・寶章閣待制。書室を味書閣といふ。著に泉谷集がある。〔宋史、四百二十四〕・〔宋史新編、一百五十七〕・〔南宋書、五十五〕。

【徐孝穆集】658 ジヨカウボクシフ 書名。十卷。陳、徐陵撰。徐陵の詩文を集めたもの。原本は佚して傳はらず。今本は後人の輯錄になる。其の內容は、卷一は賦・詩、卷二は璽書・冊命・詔、卷三は表・啓、卷四・五・六・七は書、卷八は頌・銘・序・移文・檄文、卷九は碑、卷十は哀冊・墓誌。なほ徐孝穆全集と題する六卷本がある。陵の文は綺麗巧密で新意多く、又、史事と相證すべきものがあり、庾信と名を等しくしてゐるが、詩に於ては遠く信に及ばない。〔四庫提要、集、別集類〕。

〖參考書〗【徐孝穆集箋注】六卷。清、吳兆宜撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【徐策跑城】659 ジヨサクハウジヤウ 支那劇脚本の一。一名、薛剛反朝。唐の薛剛が醉後の失策より奸臣張天佑のために誣ひられて刑せられ、後、其の一族が徐策に助けられ、結局奸賊張を平げるのを演じたもの。

【徐達源妻】660 ジヨタツゲンノツマ 清の人。吳瓊仙(**2**−3365‥530)を見よ。

【徐迪功集】661 ジヨテキコウシフ 書名。六卷。明、徐禎卿撰。談藝錄一卷を附す。其の內容は、樂府四十四首・贈荅詩十六首・遊覽詩二十五首・送別詩四十首・寄憶詩二十一首・詠懷詩十二首・題詠詩二十一首・哀挽詩三首・雜文二十四篇。禎卿の詩は漢魏盛唐の風を帶び、祝允明・唐寅・文徵明と共に、吳中四才子と號せられる。〔四庫提要、集、別集類〕。

【徐天目集】662 ジヨテンモクシフ 天目山堂集(**3**−5833‥1418)を見よ。

【徐德言妻】663 ジヨトクゲンノツマ 陳の人。樂昌公主(**6**−15399‥123)を見よ。

【徐必用妻】664 ジヨヒツヨウノツマ 宋の人。朱希眞(**6**−14424‥702)を見よ。

【徐幔亭集】665 ジヨマンテイシフ 幔亭詩集(**4**−9050‥12)を見よ。

【徐霞客游記】666 ジヨカカクイウキ 書名。十二卷。明、徐宏祖撰。紀行文。〔四庫提要、史、地理類〕。

【徐正字詩賦】667 ジヨセイジシフ 書名。二卷。唐、徐寅の詩を後人が集めたもの。〔四庫提要、集、別集類〕。

【徐氏珞琭子賦注】668 ジヨシラクロクシフチユウ 書名。二卷。珞琭子賦は南北宋の頃に出た依託の書で、其れに宋の徐子平が注したもの。〔四庫提要、子、術數類〕。

【𢓜】 10111

シユン 〔集韻〕七倫切 眞

しさる。しりぞく。逡(**11**−38899)に同じ。〔集韻〕逡、說文、復也、爾雅、退也、一曰、逡巡、行不ㇾ進、亦作ㇾ𢓜。〔漢書、王莽傳上〕𢓜儉隆約。〔注〕師古曰、𢓜、退也。

【𢓱】 10112

セウ 〔集韻〕七肖切 嘯

ゆくさま。〔玉篇〕𢓱、行皃。

【𢓭】 10113

テイ ダイ 〔集韻〕田黎切 齊

屖𢓭はいこふ。或は徲(**4**−10096)に作る。〔集韻〕𢓭、屖𢓭、休息也、或作ㇾ徲。

【徍】 10114

キヤウ ガウ 〔玉篇〕巨往切 養

あふぐ。〔玉篇〕徍、扇徍也。

【𢓡】 10115

タ 〔玉篇〕湯果切 哿

ゆくさま。〔玉篇〕𢓡、行皃。

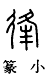
【𢓨】 10116

セン 〔集韻〕舒贍切 豔

袩𢓨は、行きゆらめくさま。〔集韻〕𢓨、袩𢓨、行皃。〔正字通〕𢓨、袩𢓨、行搖曳貌。

【𢓊】 10117

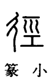
㈠ ホウ フ 〔集韻〕敷容切 冬
㈡ ボウ ブ 〔集韻〕樸蒙切 東


小篆

㈠❶**つかふ**。〔說文〕𢓊、使也、从ㇾ彳夆聲、讀若ㇾ螽。〔徐鍇注〕𢓊、猶ㇾ夆也、𢓊、掣曳使ㇾ之也。❷或は縫(**4**−10233)に作る。〔集韻〕𢓊、或从ㇾ逢。㈡**つかふ**。〔集韻〕𢓊、徬𢓊、使也。

【徑】 10118

㈠ ケイ キヤウ 〔集韻〕古定切 徑 ㄐㄧㄥˋ ching4
㈡ ケイ キヤウ 〔集韻〕堅靈切 青


小篆

㈠❶**こみち**。〔說文〕徑、步道也、从ㇾ彳巠聲。〔徐鍇注〕小道不ㇾ容ㇾ

車、故曰二步道一。〔段注〕謂下人及牛馬可二步行一、而不レ容レ車也。〔玉篇〕徑、小路也。〔論語、雍也〕行不レ由レ徑。〔鄭注〕徑、步道也。❷ちかみち。はやみち。〔禮、曲禮上〕送喪不レ由レ徑。〔釋文〕徑、邪路也。〔楚辭、離騷〕夫唯捷徑以窘レ步。〔注〕徑、邪道也。❸みち。道路。〔廣雅、釋室〕徑、道也。〔楚辭、宋玉、招魂〕皋蘭被レ徑兮。〔注〕徑、路也。〔淮南子、本經訓〕接レ徑歷レ遠。〔注〕徑、行也。❹あぜみち。〔易、說卦〕爲二徑路一。〔鄭注〕田閒之道曰二徑路一。❺獸畜の通路。〔周禮、地官、遂人〕遂上有レ徑。〔注〕徑、容二牛馬一。〔禮、月令〕塞二徯徑一。〔注〕徯徑、禽獸之道也。〔莊子、徐無鬼〕藜藋柱二乎鼪鼬之徑一。〔釋文〕徑、道也。❻あと。〔廣雅、釋詁三〕徑、迹也。❼たやすい。〔荀子、性惡〕少言則徑而省。〔注〕徑、易也。❽すみやか。はやい。ちかい。〔荀子、脩身〕莫レ徑レ由レ禮。〔注〕徑、捷速也。❾すぐ。なほい。〔集韻〕徑、一曰、直也。〔枚乘、上書諫二吳王一文〕徑而寡レ失。〔注〕善曰、徑、直也。❿ただちに。すぐさま。〔後漢書、來歙傳〕從二番須回中一、徑至二略陽一。〔注〕徑、直也。⓫よこしま。〔廣雅、釋詁二〕徑、衺也。〔老子、五十三〕大道甚夷、而民好レ徑。〔注〕徑、邪不二平正一也。⓬行く。〔左氏、僖、二十五〕趙衰以二壺飧一從徑。〔注〕徑、猶レ行也。⓭わたる。こえる。〔張衡、西京賦〕徑二百常一而莖擢。〔注〕綜曰、徑、度也。⓮すぎる。〔淮南子、覽冥訓〕徑二躡都廣一。〔注〕徑、過也。〔漢書、張騫傳〕出二隴西一徑二匈奴一。⓯よる。〔漢書、東方朔傳〕徑二淫辟之路一。〔注〕師古曰、徑、由也。⓰こみちを行く。徎(4-10105)に通ず。〔說文通訓定聲〕徑、段借爲レ徎。〔周禮、秋官、野廬氏〕禁二野之橫行徑踰者一。〔注〕徑踰、射邪趍疾越二隄梁一也。〔禮、祭義〕道而不レ徑。〔注〕徑、步レ邪趨疾也。⓱はしる。おもむく。〔管子、法禁〕則百姓之立二私理一、而徑二於利一者必衆矣。〔注〕徑、謂二邪行以趨疾一也。⓲たて。經(8-27508)に通ず。〔說文通訓定聲〕徑、段借爲レ經。〔張衡、西京賦〕於レ是量二徑輪一。〔注〕綜曰、南北爲レ徑。⓳さしわたし。㋑圓形・球體の直徑。〔周髀算經、上〕此夏正日道之徑也。〔注〕其徑者、圓中之直者也。〔隋書、律曆志〕圓周率三、圓徑率一。㋺よこはば。〔莊子、秋水〕涇流之大。〔釋文〕崔本作レ徑、云、直度曰レ徑。⓴くびすぢ。みね。頸(12-43515)に通ず。〔說文通訓定聲〕徑、段借爲レ頸。〔孟子、盡心下〕山徑之蹊閒。〔注〕山徑、山之領。㉑まつすぐな波。〔爾雅、釋水〕直波爲レ徑。㉒或は逕(11-38883)に作る。〔集韻〕徑、亦从レ辵。㉓涇(6-17526)に通ず。〔莊子、秋水〕涇流之大。〔釋文〕涇、崔本作レ徑。㉔莖(9-31052)に通ず。〔莊子、逍遙遊、大有二逕庭一、釋文〕司馬本作レ莖。㉕陘(11-41650)に通ず。〔廣雅、釋邱、岊嶺隥陘阪也、疏證〕陘之言、徑也、字亦通作レ徑、孟子盡心篇、山徑之蹊閒。㉖一百六韻の一。去聲第二十五。

[二]すぎる。わたる。〔集韻〕徑、行過也。〔史記、高祖紀〕高祖被レ酒、夜徑二澤中一。

名乘 ミチ。

【徑易】1 ケイイ 手輕い。容易。〔荀子、正名〕名有二固善一、徑易而不レ拂、謂二之善名一。〔注〕徑疾平易而不二違拂一。〔孔子家語、三恕〕徑易者則數傷。

【徑爲】2 ケイキ 直接自分でする。〔韓非子、亡徵〕出レ軍命レ將太重、邊地任レ守太尊、專レ制擅レ命、徑爲而無レ所レ請者、可レ亡也。

【徑隱】3 ケイイン みちがかくれる。〔杜甫、秋野詩〕徑隱二千重石一、帆留二一片雲一。

【徑行】4 ケイカウ 少しも飾らずに心のままにおこなふこと。直行。〔禮、檀弓下〕子游曰、禮有二微レ情者一、有二以レ故興レ物者一、有二直レ情而徑行者一、戎狄之道也。

【徑危】5 ケイキ みちが高くてあぶない。〔齊己、再遊二匡山一詩〕徑危雲母滑、崖旱瀑流乾。

【徑衢】6 ケイク 小徑と岐れ路。煩多な喩。〔淮南子、詮言訓〕一也者、萬物之本也、無レ敵之道也、凡人之性、少則猖狂、壯則暴強、老則好レ利、一身之身、既數變矣、又況君數易レ法、國數易レ君、人以二其位一、通二其好憎一、下之徑衢、不レ可レ勝レ理、故君失レ一、則亂甚二於無レ君之時一、故詩曰、不レ愆不レ忘、率二由舊章一、此之謂也。

【徑滑】7 ケイクワツ こみちがなめらかなこと。〔白居易、司徒令公分二守東郡一云云詩〕徑滑苔粘レ屐、潭深水沒レ篙。

【徑詣】8 ケイケイ 直ちに行く。〔晉書、愍帝紀〕右丞相、宜下帥二秦涼梁雍武旅三十萬一、徑詣中長安上。

【徑狹】9 ケイケフ みちがせまい。〔張喬、送二李道士歸二南嶽一詩〕洞虛懸溜滴、徑狹長松園。

【徑濟】10 ケイサイ 徑水と濟水。〔魏志、傅嘏傳〕或欲下汎二舟徑濟一、橫中行江表上。

【徑賽】11 ching^4 sai^4 トラック競技(スポーツ)。

【徑草】12 ケイサウ こみちに生えてゐる草。〔杜甫、移二居公安一敬贈二衞大郞鈞一詩〕水煙通二徑草一、秋露接二園葵一。

【徑窄】13 ケイサク みちがせまい。〔寒山、詩〕徑窄衣難レ進、苔粘履不レ全。

【徑三】14 ケイサン 淸、姚文燮(3-6202‥207)の字。

【徑山】15 ケイサン 山名。浙江省餘杭縣の西北にあり。凌霄峯を最高とす。山麓に能仁興聖萬壽寺があり、中國五山の一で、臨濟禪の專門道場。一に徑寺と稱せらる。〔虛堂和尙語錄、臨安府徑山興聖萬壽禪寺語錄〕師於二咸淳元年八月二十五日辰初一、進レ寺、指二山門一、此山無レ路、及レ門者誰、會得擺レ手同歸。

【徑情】16 ケイジヤウ 心のままにまかせて節制のないこと。直情徑行。〔鶡冠子、著希〕故君子弗二徑情一而行也。〔福惠全書、刑名部、人命上、審鞫〕逞二怒一時一、徑情殺レ之者、未二嘗謀畫一。

【徑出】17 ケイシユツ 直ちに出る。〔論衡、辯祟〕一旦令至、解械徑出、未下必有中解二除其凶一者上也。

【徑畛】18 ケイシン あぜみち。田と田との閒にあるこみち。畛は田中の路。〔詩、周頌、噫嘻、終二三十里一、疏〕其十夫有二通レ水之溝一、廣深各四尺也、此溝上卽有二一徑畛一、以通二大車一。

【徑術】19 ケイスイ あぜみち。徑は步道。術は溝洫、遂字と通ず。〔呂覽、孟春〕皆修二封疆一、審端二徑術一。〔注〕端二正其徑路一、不レ得三邪行敗二稼穡一也。

【徑寸】20 ケイスン 一寸のさしわたし。徑寸珠を見よ。

〖徑寸珠〗21 ケイスンノシユ 直徑一寸の大きな珠。〔史記、齊世家〕尙有下徑寸之珠、照二車前後十二乘一者十枚上。〔魏志、蘇則傳〕前破二酒泉張掖一、西域通レ使、敦煌獻二徑寸大珠一。

〖徑寸心〗22 ケイスンノココロ 心をいふ。〔沈約、餞二謝文學離夜一詩〕以二我徑寸心一、從二君千里外一。

〖徑寸地〗23 ケイスンノチ 心の中。〔子華子、北宮子仕〕人中虛圓不二徑寸一、神明舍レ焉、事物交滑、云云、而徑寸之地、如レ炎如レ冰矣。

【徑省】24 ケイセイ 直截で簡略なこと。〔韓非子、難言〕總レ微說レ約、徑省而不レ飾、則見以爲二劌而不一レ辯。〔韓非子、說難〕徑二省其說一、則以爲二不智一而拙レ之。

【徑小】25 ケイセウ みちの小さいこと。〔梁元帝、賦得二登レ山馬一詩〕登レ山馬徑小、徑小馬纔通。

【徑篠】26 ケイセウ こみちに生えてゐるしのざさ。〔蕭祇、廻文詩〕池蓮隱二弱芰一、徑篠落二藤花一。〔倪瓚、春雨詩〕春雨蕭條獨掩レ扉、庭柯徑篠綠依依。

【徑絕】27 ケイゼツ ❶妄に推測する。〔韓非子、解老〕所謂處二其實一不レ處二其華一者、必緣レ理不二徑絕一也。〔集解〕徑絕、卽妄意度也。❷こみちが途絕えてゐる。〔沈約、遊二沈道士館一詩〕都令二人徑絕一、唯使二雲路通一。

【徑然】28 ケイゼン ただちに。すぐに。〔惠遠、廬山東林雜詩〕有レ客獨冥遊、徑然忘レ所レ適。

【徑待】29 ケイタイ 横道で待つ。〔楚辭、離騷〕騰㆓衆車㆒使㆓徑待㆒。〔注〕故令㆓衆車先過㆒、使㆘從㆓邪徑㆒以相待㆖也。

【徑苔】30 ケイタイ みちばたのこけ。〔貫休、秋末閒居作詩〕徑苔因㆑旱赤、池水入㆑冬清。

【徑到】31 ケイタウ 直ちにいたる。〔魏志、鄧艾傳〕艾卽夜潛㆑軍徑到、維果來渡、而艾先至據㆑城、得㆓以不㆑敗。〔楊基、邀㆓方員外㆒看㆑花詩〕春風攜㆑酒看㆑花去、騎馬徑到山人家。

【徑道】32 ケイダウ ちかみち。こみち。〔六韜、虎韜、略地〕得㆓其徑道㆒。〔史記、廉頗傳〕從㆓徑道㆒亡。

【徑竹】33 ケイチク こみちの竹。〔杜甫、草堂卽事詩〕雪裏江船渡、風前徑竹斜。

【徑廷】34 ケイテイ ㊀甚しくへだたりあること。徑庭に同じ。〔張衡、西京賦〕望䆗窱以徑廷、眇不㆑知㆓其所㆑返。〔注〕濟曰、閨闥互相通而深遠。㊁甚しいこと。度を過ぎてゐること。〔劉峻、辨命論〕如使㆓仁而無㆑報、奚爲脩㆑善立㆑名乎、斯徑廷之辭也。〔注〕善曰、莊子、肩吾問㆓于連叔㆒曰、大有㆓徑廷㆒、不㆑近㆓人情㆒焉、司馬彪曰、徑廷、激過之辭也。

【徑侹】35 ケイテイ まつすぐなさま。〔集韻〕侹、徑侹、直也。

【徑庭】36 ケイテイ ㊀大いに隔りあること。こみちと庭とは、廣さに於て甚だしい隔りがあるからいふ。徑廷(34)・逕庭(11－38883・・5)を見よ。〔莊子、逍遙遊〕大有㆓逕庭㆒、不㆑近㆓人情㆒。㊁斜に庭をはしること。〔呂覽、安死〕孔子徑庭而趨、歷級而上。

【徑挺】37 ケイテイ 徑侹(35)に同じ。〔釋名、釋船〕二百斛以下曰㆑艇、艇、挺也、其形徑挺、一人二人所㆓乘行㆒者也。

【徑涏】38 ケイテイ すぐな波。直波。〔爾雅、釋水〕直波爲㆑徑、注、言㆓徑涏㆒也。

【徑塗】39 ケイト こみち。〔韋應物、往㆓雲門郊居㆒塗經㆓迴流㆒作詩〕原谷徑塗澀、春陽草木敷。

【徑度】40 ケイド わたる。〔楚辭、嚴忌、哀時命〕勢不㆑能㆓淩㆑波以徑度㆒兮。〔潘岳、閑居賦〕浮梁黝以徑度。

【徑入】41 タダチニイル すぐに入る。〔宋史、向敏中傳〕宗諤與㆓其親㆒徑入。〔日本外史、新田氏前記、楠氏〕母徑入、奪㆑刀而泣。

【徑傍】42 ケイバウ みちばた。〔福惠全書、刑名部、人命上、疑獄〕返而棄㆓屍徑傍㆒然乎。

【徑畔】43 ケイハン こみちのほとり。〔耶律楚材、壬午西域河中遊春詩〕花藏㆓徑畔㆒春泉碧、雲散㆓林梢㆒晚照明。

【徑復】44 ケイフク 往いて返ること。〔楚辭、宋玉、招魂〕川谷徑復、流潺湲些。〔注〕徑、過也、復、反也、云云、五臣云、徑、往也。

【徑迷】45 ケイメイ こみちにまよふ。〔謝靈運、登㆓石門最高頂㆒詩〕連巖覺㆓路塞㆒、密竹使㆓徑迷㆒。

【徑約】46 ケイヤク こみちのやうに狹いこと。〔續近思錄〕栗谷先生曰、學固當㆑博、不㆑可㆓徑約㆒。

【徑踰】47 ケイユ 道の無いところに入り走つたり、隄渠を越えたりすること。〔周禮、秋官、野廬氏〕禁㆓野之橫行徑踰者㆒。〔注〕徑踰、射邪趨疾、越㆓隄渠㆒也。

【徑蘿】48 ケイラ みちばたのつた。〔白居易、晚歸㆓香山寺㆒因詠㆓所懷㆒詩〕岸草歇可㆑藉、徑蘿行可㆑攀。

【徑柳】49 ケイリウ こみちに生えてゐるやなぎ。〔李咸用、題㆓王氏山居㆒詩〕徑柳拂㆑雲綠、山櫻帶㆑雪紅。

【徑輪】50 ケイリン 徑は、さしわたし、輪は、四周。〔張衡、西京賦〕量㆓徑輪㆒考㆓廣袤㆒。

【徑歷】51 ケイレキ 過ぎ經る。〔漢書、五行志中之下〕驚怪連日、徑㆓歷三公之府㆒。

【徑路】52 ケイロ ㊀こみち。ちかみち。小路。〔易、說卦〕艮爲㆑山、爲㆓徑路㆒、爲㆓小石㆒。〔釋名、釋典藝〕經、徑也、如㆔徑路無㆑所㆑不㆑通、可㆓常用㆒也。〔阮籍、詠懷詩〕皐蘭被㆓徑路㆒、青驪逝駸駸。〔左思、吳都賦〕徑路絕、風雲通。㊁休屠王を祀つた匈奴のほこらの名。〔漢書、郊祀志下〕雲陽有㆓徑路神祠㆒、祭㆓休屠王㆒也。〔注〕師古曰、休屠、匈奴王號也、徑路神、本匈奴之祠也。㊂匈奴の寶刀の名。〔漢書、匈奴傳下〕單于以㆓徑路刀金留犂㆒撓㆑酒。〔注〕應劭曰、徑路、匈奴寶刀也。㊃經過してきたすぢみち。經路。

【徑往】53 ケイワウ ただちにゆく。まつすぐにゆく。〔楚辭、宋玉、九辯〕願㆓自直而徑往㆒兮、路壅絕而不㆑通。

【不㆑由㆑徑】54 コミチニヨラズ 小路によらない。小路を通らない。又、人生に處して大道を踏み行ふ意。〔禮、曲禮上〕送喪不㆑由㆑徑、送葬不㆑辟㆓塗潦㆒。〔論語、雍也〕有㆓澹臺滅明者㆒、行不㆑由㆑徑。

【徑一圍三】55 ケイイツヰサン 直徑一に對する周圍三の割合。圓周率をいふ。〔隋書、律曆志上〕古之九數、圓周率三、圓徑率一、其術疏舛、云云、宋末、南徐州從事史祖沖之更開密法、以㆓圓徑一億㆒爲㆓一丈㆒、圓周盈數三丈一尺四寸一分五釐九毫二秒七忽、朒數三丈一尺四寸一分五釐九毫二秒六忽、正數在㆓盈朒二限之閒㆒、密率圓徑一百一十三、圓周三百五十五、約率圓徑七、周二十二。

【⿰彳吾】10119

ゴ

㊀吾(2－3379)に同じ。〔正字通〕⿰彳吾、同㆑吾。㊁こみち。胡同。胡洞。⿰彳吾⿰彳同。衙衕。〔升庵外集、六十四、字學類〕今之巷道、名爲㆓胡洞㆒、字書不㆑載、或作㆓衙衕㆒、又作㆓⿰彳吾⿰彳同㆒、皆無㆑據也、南齊書、蕭鸞弑㆓其君昭於西弄㆒、注、弄、巷也、南方曰㆑弄、此曰㆓⿰彳吾⿰彳同㆒、弄之反切爲㆓⿰彳吾⿰彳同㆒也、蓋方言耳。

【⿰彳甹】10120

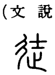
ヘイ

⿰彳⿱冉丂(4－10271)に同じ。〔玉篇〕⿰彳甹、與㆑⿰彳⿱冉丂同。

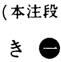
【徒】10121

ト ヅ

〔集韻〕同都切 ㄊㄨˊ t'u^2 虞



（說文小篆）



（段注本小篆）

㊀かち。かちあるき。もと⿺辵土(11－38715)に作る。〔正字通〕徒、本作㆑⿺辵土。〔說文〕⿺辵土、步行也、从㆑辵土聲。〔段注〕⿺辵土、隷變作㆑徒。〔易、賁〕舍㆑車而徒。〔虞注〕徒、步行也。〔論語、先進〕吾不㆔徒行以爲㆓之椁㆒。〔皇疏〕徒、猶㆑步也。〔國語、吳語〕徒遽來㆓告孤㆒。〔注〕徒、步也。㊁步兵。步卒。〔詩、魯頌、閟宮〕公徒三萬。〔禮、祭義〕五十不㆑爲㆓甸徒㆒。〔疏〕徒、謂㆓步卒㆒。〔左氏、隱、八〕彼徒我車。〔注〕徒、步兵也。〔左氏、襄、元〕敗㆓其徒兵於洧上㆒。〔注〕徒兵、步兵。〔疏〕步行謂㆓之徒行㆒、故步兵謂㆓之徒兵㆒也。〔考古質疑〕在㆓攻車㆒則曰㆓甲士㆒、曰㆓步卒㆒、在㆓守車㆒則曰㆓徒。㊂人夫。〔荀子、王霸〕人徒有㆑數。〔注〕人徒、謂㆓胥徒㆒、給㆓徭役㆒者也。〔史記、夏紀〕命㆓諸侯百姓㆒興㆓人徒㆒。㊃めしうど。囚人。〔史記、高帝紀〕送㆓徒驪山㆒。〔論衡、四諱〕被㆑刑、謂㆓之徒㆒。㊄しもべ。こもの。〔廣韻〕徒、隷也。〔淮南子、覽冥訓〕廝徒馬圉。㊅從者。〔左氏、昭、四〕旦而皆召㆓其徒㆒。〔注〕徒、從者。〔國語、晉語八〕后子謂㆓其徒㆒。〔注〕徒、從者也。㊆門人。弟子。〔論語、先進〕非㆓吾徒㆒也。〔皇疏〕徒、門徒也。〔孟子、滕文公上〕其徒數十人。〔注〕其徒、學㆓其業㆒者也。〔呂覽、誣徒〕視㆑徒如㆑己。〔注〕徒、謂㆓弟子㆒也。㊇とも。くみ。なかま。黨與。〔左氏、宣、十二〕原屏咎之徒也。〔注〕徒、黨也。〔孟子、滕文公下〕聖人之徒也。〔注〕徒、黨也。〔管子、版法〕外之有㆑徒、禍乃始牙。〔注〕徒、謂㆓黨與㆒也。㊈人々。衆人。〔集韻〕徒、一曰、衆也。〔逸周書、芮良夫解〕實蕃有㆑徒。〔注〕徒、衆也。〔漢書、刑法志〕卒正三年簡㆑徒。〔注〕師古曰、徒、人衆。〔漢書、食貨志上〕賦㆓共車馬兵甲士徒之役㆒。〔注〕師古曰、徒、衆也。㊉から。何もないさま。〔說文通訓定聲〕徒、無㆑車而行、謂㆓之徒㆒、無㆑車而戰、謂㆓之徒㆒、無㆑舟而渡、亦謂㆓之徒㆒。〔爾雅、釋訓〕暴虎、徒搏也。〔疏〕舍人曰、無㆑兵空手搏㆑之、然則徒、空也。〔管子、參患〕將㆓徒人㆒。〔注〕徒人、謂㆘無㆑兵甲㆒者㆖。⑪からて。すで。〔儀禮、大射儀〕

僕人正徒相二大師一。〔注〕徒、空手也。⓬はだし。かち。〔禮、問喪〕雞斯徒跣。〔注〕徒、猶レ空也。〔史記、蘇秦張儀傳〕徒裼以趨レ敵。〔注〕索隱曰、徒、跣也。⓭はだぬぎ。〔廣雅、釋詁四〕徒、袒也。⓮いたづらに。むなしい。むなしく。むだ。あだ。〔集韻〕徒、一曰、空也。〔左氏、襄、二十四〕齊師徒歸。〔注〕徒、空也。〔論語、陽貨〕夫召レ我者而豈徒哉。〔皇疏〕徒、空也。〔國語、晉語六〕諸臣之委レ室而徒退者。〔注〕徒、空也。⓯ただ。〔呂覽、異用〕非二徒網レ鳥也。〔注〕徒、但也。〔漢書、酷吏、王溫舒傳〕徒請二召猾吏一。〔注〕應劭曰、徒、但也。⓰ひとり。ともなふものがない。〔一切經音義、下〕徒、猶レ獨也。〔孟子、離婁上〕徒善不レ足二以爲レ政。〔荀子、仲尼〕雖レ在二貧窮徒處之埶一、亦取二象於是一矣。〔注〕徒處、徒行、或曰、獨處也。⓱**苦役に服せしめる刑**。〔唐書、刑法志〕用レ刑有レ五、其三曰レ徒。〔事物紀原、律令刑罰部、徒〕周禮、凡民有レ罪役二諸司空一、卽徒之始也、孫奭律音又曰、舊制、犯レ徒者依レ年配、犯レ流者流至二配所一居作、皆不レ決レ杖。⓲**ほとり**。かたはら。涂(6―17518)に通ず。〔說文通訓定聲〕徒、叚借爲レ涂、列子天瑞、食二于道徒一者。⓳**こと**。**のり**。度(4―9313)に通ず。〔說文通訓定聲〕徒、叚借爲レ度。〔管子、七法〕則官徒毀。〔注〕度、事也。⓴古は𠘨(2―3077)に作る。〔康熙字典〕徒、古文𠘨。㉑**姓**。〔萬姓統譜〕徒、見二姓苑一。［邦］❶**いたづら**。㋑惡いたはむれ。わるさ。㋺女のみだらなこと。私奔。❷**あだ**。むだ。

［名乘］　トモ。タダ。カチ。

【徒愛】1（トアイ）　いたづらに愛する。〔管子、版法解〕徒愛而不レ利。

【徒衣】2（タダギヌ）　つねの衣。唐衣(2―3709‥3)の對。〔宇津保物語、貴宮〕唐綾、ただぎぬ一つまぜず。

【徒爲】3（トヰ）　むだごと。無益のしわざ。〔范質、曉二從子杲一詩〕躁進徒爲爾。

『徒爲爾』4（トヰノミ）　無駄ばかり。〔高適、封丘縣詩〕乃知二梅福徒爲爾一、轉憶二陶潛歸去來一。〔吳融、登二鸛雀樓一詩〕祖鞭掉折徒爲爾、贏得雲溪負二釣竿一。

【徒維】5（トヰ）　十干の戊の異名。著雍。〔史記、歷書〕徒維敦牂天漢元年。〔注〕索隱曰、徒維、戊也。

【徒友】6（トイウ）　なかま。〔莊子、山木〕親交益疏、徒友益散。〔疏〕門徒朋友、益甚離散、何與。

【徒役】7（トエキ）　えだち。義務を以て公事に使はれる人夫。〔周禮、天官、宮伯〕作二其徒役之事一。〔孝經、閨門章〕繇二百姓徒役一也。〔韓非子、顯學〕藏二書策一、習二談論一、聚二徒役一、服二文學一而議說。〔史記、孔子世家〕於レ是乃相與發二徒役一、圍二孔子於野一、不レ得レ行。

【徒何】8（トカ）　複姓。〔通志、氏族略、代北複姓〕徒何氏、周書、柱國太尉李弼賜二姓徒何氏一。

【徒歌】9（トカ）　鳴物無しでうたふ。すうたひ。〔爾雅、釋樂〕徒吹謂二之和一、徒歌謂二之謠一。〔晉書、樂志下〕子夜諸曲、始皆徒歌、既而被二之絃管一。〔顏延之、直二東宮一答二鄭尙書一詩〕徒歌屬二南墉一。

【徒河】10（トカ）　縣名。漢、置く。故城は滿洲遼寧省錦縣の西北。〔漢書、地理志下〕遼西郡、縣十四、徒河。〔讀史方輿紀要、直隸、萬全都指揮使司、附見、大寧衞〕徒河城、在二營州東百九十里一、漢縣屬二遼西郡一、後漢屬二遼東屬國一、魏省入二昌黎一。

【徒駭】11（トガイ）　河の名。❶禹貢、九河の一。河北省九河縣。清一統志には、漢志に滹沱河を以て徒駭とするが、徒駭河の本道は滹沱ではないと論じてゐる。〔書、禹貢、疏〕李巡曰、禹疏二九河一以二徒衆一起、故云二徒駭一、孫炎曰、禹疏二九河一、用レ功雖レ廣、衆懼不レ成、故曰二徒駭一。〔爾雅、釋水、徒駭、郝懿行義疏〕徒駭者、釋文及禹貢正義引二李巡一曰、禹疏二九河一、以二徒眾一起、故曰二徒駭一、孫炎云、禹疏二九河一、此河功難、眾懼不レ成、故曰二徒駭一。〔漢書、溝洫志〕成帝時、河隄都尉許商上書曰、徒駭在二成平一、九河所レ在、徒駭最北、鬲津最南、蓋徒駭是河之本道、東出分爲二八枝一也。〔齊乘〕九河故道、蓋昔北流、衡漳注レ之、河既東徙、漳自入レ海、安知三北流之漳、非二古徒駭河一歟。〔尙書地理今釋〕直隸河閒府、滄州之西、交河縣之東北六十里、有二徒駭河一、漢書地理志、所謂滹沱河、民曰二徒駭河一、是也。❷山東省聊城縣より出で、運河の水を分つて東に流出するもの。一名、土河。東北流して博平・高唐・茌平を經、禹城に至つて漯河を納れ、又、東北流して濱縣に至つて夾馬河を納れ、又、東北流して霑化の大洋口より海に入る。清一統志には、今の徒駭河は古の漯水の下流で、後漢より唐までの黃河の舊河流であるといふ。

【徒行】12（トカウ）　かちあるき。徒步。〔左氏、昭、二十〕徒行從レ公。〔論語、先進〕吾不三徒行以爲二之椁一、以下吾從二大夫之後一不上可二徒行一也。〔新書、先醒〕遂徒行而於二山中一居。〔後漢書、列女、董祀妻傳〕及二文姬進一、蓬首徒行、叩頭請レ罪。〔王粲、從軍詩〕徒行兼レ乘還、空出有二餘資一。〔注〕良曰、徒、步。

【徒杠】13（トカウ）　徒步者のわたる橋。小橋。車馬の通ずる輿梁（オホバシ）に對していふ。〔孟子、離婁下〕歲十一月、徒杠成、十二月、輿梁成、民未レ病レ涉也。〔集注〕杠、方橋也、徒杠、可レ通二徒行一者。

『徒杠字彙』14（トカウジヰ）　書名。五卷。金內格三撰。此の書は十一月に出來たので、孟子の歲十一月杜杠成とあるに據つて名づく。熟語に出典と解釋とを附したもの。

【徒甲】15（トカフ）　徒卒甲士をいふ。〔司馬法、嚴位〕位逮二徒甲一。

【徒顏】16（タダガホ）　すがほ。〔濱松中納言物語、四〕つくろふ所なき御ただがほのめづらしう。

【徒氣】17（トキ）　徒卒のゐる上に立つ雲氣。〔史記、天官書〕江淮之閒、氣皆白、徒氣白、土功氣黃。

【徒驥】18（トキ）　徒御(20)に同じ。〔莊子、徐無鬼〕無三徒二驥於錙壇之宮一。〔釋文〕徒驥、猶二徒御一也。

【徒居】19（トキヨ）　何等の業も務めず、空しく暮し居ること。ただゐ。徒食。〔晏子、重而異者〕西郭徒居布衣之士、盆成适也。

【徒御】20（トギヨ）　ともまはり。輦をかく者と御者。〔詩、小雅、車攻〕徒御不レ驚、大庖不レ盈。〔疏〕徒行輓レ輦者、與二車上御レ馬者一。

【徒花】21（アダバナ）　花が咲いてみのらないもの。むだ花。〔夫木抄〕花をだに待つほどもなきあだ花は。

【徒臥】22（アダブシ）　❶徒寢(57)に同じ。〔夫木抄〕ゆきとまる草のかりほのあだぶしは。❷かりそめの契り。

【徒官】23（トクワン）　徒卒。〔新書、階級〕輸二之司空一、編二之徒官一。

【徒軍】24（カチイクサ）　❶徒步の士卒。步兵。❷步兵の合戰。

【徒刑】25（トケイ）　五刑の一。勞役に服させる刑罰。至つて耏刑が行はれた。耏とは、頰毛を剃去して罪奴の如くするもので、漢以後五刑の一として行はれ、北周の時、之を改めて始めて徒刑とした。唐代、之を別けて五とし、又、其の罪の疑はしい者は之を贖ふを得しめた。〔唐書、刑法志〕其用レ刑有レ五、其三曰レ徒、徒者、奴也、蓋奴二辱之一、云云、量二其罪之輕重一、有二年數一而捨、云云、徒刑五、自二一年一至二于三年一。〔唐律、名例〕徒刑五、一年、贖銅二十斤、一年半、贖銅三十斤、二年、贖銅四十斤、二年半、贖銅五十斤、三年、贖銅六十斤。〔疏議〕徒者、奴也、蓋奴二辱之一、周禮云、其奴男子入二於罪隸一、又任レ之以レ事、寘以二圜土一、而收二教之一、上罪三年而捨、中罪二年而捨、下罪一年而捨、此並徒刑也、蓋始二於周一。

『徒刑場』26（トケイバ）　徒刑囚人が定役に服するところ。

【徒契】27（アダシチギリ）　はかないちぎり。〔續千載集、一五〕結びけむあだし契ぞ憂かりける。

【徒經】28（トケイ）　縣名。漢、置く。山西省境。〔漢書、地理志下〕西河郡、縣三十六、徒經。

【徒言】29（トゲン）　むだごと。あだごと。ただごと。〔孔叢子、抗志〕欲三報レ君以二善言一、恐未レ合二君志一、而徒言不レ聽也。

『徒言歌』30（タダゴトウタ）　歌の六義の一。ただごとは正言の義で、雅の直譯。一說に、物になぞらへ又は譬へて言はないで、ただありのままにいつてゐる歌。〔古今集序〕五つにはただごとうた。

【徒口】31 アダグチ 無益の言葉。むだぐち。〔小町踊、夏〕夜もすがらあだ口たたく水鷄かな。

【徒坐】32 トザ 空しく坐する。飲食講問の時でなくて坐すること。〔禮、玉藻〕徒坐不レ盡レ席尺。〔疏〕徒、空也、空坐、謂レ非二飲食及講問時一也。

【徒罪】33 トザイ ❶徒刑の罪。〔宋史、太宗紀〕詔二御史府一、所二斷徒罪以上獄一。❷ヅザイ 古、五刑の一。期限を定めて勞役させるもの、一年・一年半・二年・二年半・三年の五等があつた。〔法曹至要抄、五〕一、五罪事、云云、徒罪者始レ從二一年一、竟二於三年一、以二半年一爲二一等一。

【徒相】34 トサウ 空手でたすける。〔儀禮、大射儀〕僕人正徒二相大師一。〔注〕徒、空手也。

【徒作】35 トサク 工役をいふ。〔後漢書、桓帝紀〕建和元年詔曰、比起二陵塋一、彌歷二時歲一、力役既廣、徒隸尤勤、頃雨澤不レ沾、密雲復散、儻或在レ茲、其令三徒二作陵一者、減二刑各六月一。

【徒山】36 トザン 屹立した山。〔管子、地員〕徒山十九施、百三十三尺。

【徒士】37 トシ かちざむらひ。徒武士。〔龜谷省軒、文〕仕二幕府一爲二徒士一。

【徒死】38 トシ いぬじに。むだじに。

【徒師】39 トシ 歩兵。〔國語、呉語〕先與二勇獲一帥二徒師一。

【徒事】40 トジ つねのこと。ただごと。むだごと。

【徒侍】41 カチザムラヒ 徒武士(123)に同じ。

【徒兒】42 イタヅラコ 惡戲をする小兒。

【徒爾】43 トジ いたづらなこと。むだなこと。爾は助字。徒然。〔韻府引、古詩〕石犬不レ可レ吠、銅駝徒爾爲。〔元稹、獻二滎陽公一詩五十韻〕呼吸寧徒爾、霑濡豈浪然。

【徒囚】44 トシウ とらはれびと。囚徒。〔隋書、刑法志〕又告三少卿趙綽、濫免二徒囚一。

【徒者】45 イタヅラモノ ❶無用の者。〔古今著聞集、五〕今は官もなきいたづらものになれるよしなり。❷惡戲者。〔狂言、子盜人〕いつものいたづら者共と寄合ひて勝負を致したれば。❸淫奔な者。〔義經千本櫻、三〕徒者憎いやつと思召されん申譯。❹鼠(12－48390)の異名。

【徒手】46 トシユ すで。からて。空手。〔蘇軾、司空監燒二葦園一云云詩〕野人來言此最樂、徒手曉出歸滿レ車。

〖徒手空拳〗47 トシユクウケン 手に何物も持たないこと。からて。てぶら。

〖徒手體操〗48 トシユタイサウ 器具機械を用ひず、徒手でする體操。

【徒取】49 トシユ ただとり。功勞もなくて賞を受け、祿を竊む。〔韓非子、飾邪〕人主又以二過予一、人臣又以二徒取一。〔呂覽、務本〕臣不二徒取一。

【徒首】50 トシユ ちらしがみ。散髮。甲冑を身につけてゐないこと。〔李陵、答二蘇武一書〕兵盡矢窮、人無二尺鐵一、猶復徒首奮呼、爭爲二先登一。〔注〕善曰、徒、空也、言三空首奮擊無二復甲冑一。

【徒衆】51 トシユウ 徒卒の人。民。〔穀梁、隱、元〕何以不レ言レ殺、見三段之有二徒衆一也。〔後漢書、樊準傳〕徒衆百數。〔顏氏家訓、誡兵〕或聚二徒衆一。

【徒從】52 トジユウ 徒歩で從ふ供人。〔禮、大傳〕從服有レ六、有二屬從一、有二徒從一。

【徒胥】53 トシヨ こやくにん。〔遼史、耶律儼傳〕繩二徒胥一、禁二豪猾一。

【徒庶】54 トシヨ たみ。庶民。衆庶。〔周禮、地官、大司徒〕治二其徒庶之政令一。〔沈約、齊故安陸昭王碑文〕哀感二徒庶一、慟興二雲陛一。〔注〕翰曰、徒庶、下人也。

【徒處】55 トシヨ 何もしないでゐること。又、獨處すること。〔戰國、秦策〕夫徒處而致レ利、安坐而廣レ地。〔荀子、仲尼〕雖レ在二貧窮徒處之埶一、亦取二象於是一矣。〔注〕徒處、徒行、或曰、獨處也、雖二貧賤一其所レ立レ志、亦取二法於此一也。

【徒食】56 トシヨク 稼がずにくらす。ゐぐひ。遊食。坐食。〔禮、王制〕庶人耆老不二徒食一。〔注〕徒、猶レ空也。〔管子、權修〕有二無レ積而徒食者一。

【徒寢】57 アダネ 獨りで寂しく寢る。〔古今六帖、四〕人のするあだ寢もせずて帚木や。

【徒人】58 トジン ❶こもの。召使。〔左氏、莊、八〕公懼墜二于車一、傷レ足喪レ屨、反誅二屨於徒人費一、弗レ得。〔注〕既獵而反、責二取所レ失之屨於徒役之人名費者一。❷複姓。〔通志、氏族略、以レ官爲レ氏〕徒人氏、左傳、齊有二徒人費一、國語、齊有二徒人回一。❸タダビト なみの人。又、昔、攝關の家に對して、其の他の諸家を指していつた語。❹アダビト 浮氣者。又、他人をいふ。❺カチビト 徒歩する人。

【徒水】59 トスイ 普通の水をいふ。〔呂覽、功名〕徒水則必不可。

【徒世】60 アダシヨ 生存しても益のない世。〔新後撰集、一九〕限りぞと聞くぞ悲しきあだし世の。

【徒裼】61 トセキ ❶はだぬぎで何物をも着けないこと。〔戰國、秦策〕聞レ戰、頓足徒裼。〔韓非子、初見秦〕聞レ戰、頓足徒裼。〔集解〕爾雅釋訓、襢裼、肉袒也、郭注、脫レ衣而見レ體、史記張儀傳、秦人捐レ甲徒裼、以趨レ敵、索隱、裼、袒也、謂二袒而見一レ肉也。❷はだしとはだぬぎ。〔史記、張儀傳〕說二韓王一曰、山東之士、被レ甲蒙レ冑以會戰、秦人捐レ甲徒裼以趨レ敵。〔注〕索隱曰、徒、跣也、裼、袒也、謂二袒而見一レ肉也。

【徒設】62 トセツ 空しく設ける。〔梁武帝、求二讜言一詔〕肺石空陳、懸鐘徒設。

【徒涉】63 トセフ かちで川を渡る。かちわたり。〔爾雅、釋訓〕馮河、徒涉也。〔疏〕李注曰、無レ舟而渡レ水曰二徒涉一。〔詩、小雅、小旻〕不二敢馮一レ河、傳〕徒涉曰二馮河一。〔白居易、新豐折臂翁詩〕大軍徒涉水如レ湯、未レ過十人二三死。〔宋史、河渠志五〕深不レ可二以舟行一、淺不レ可二以徒涉一。

【徒跣】64 トセン すあし。はだし。徒踐。〔禮、喪大記〕凡主人之出也、徒跣扱レ衽拊レ心、降レ自二西階一。〔戰國、魏策〕秦王曰、布衣之怒、亦免冠徒跣、以レ頭搶レ地耳、唐且曰、此庸夫之怒也、非二士之怒一也。〔史記、蕭相國世家〕相國年老、素恭謹、入徒跣謝。〔漢書、匡衡傳〕衡免冠徒跣待レ罪。〔後漢書、文苑下、禰衡傳〕徒跣來救、不レ及。

【徒踐】65 トセン すあし。はだし。徒跣。〔漢書、五行志下之上〕或被髮徒踐。〔注〕師古曰、徒踐、謂二徒跣一也。

【徒善】66 トセン 善心あつて善政のないこと。徒は空。空善。〔孟子、離婁上〕徒善不レ足二以爲一レ政、徒法不レ能二以自行一。〔集注〕徒、猶レ空也、有二其心一無二其政一、是謂二徒善一。

【徒單】67 トセン 複姓。〔金史、國語解〕徒單、漢姓曰レ杜。

〖徒單鎰〗68 トセンイツ 金、上京路の人。本名は按出。女眞字を習ひ、契丹大小字及び漢字に精通す。大定の進士。章宗の時、左諫議大夫・平章政事となり、宣宗の時、左丞相となる。封は廣平郡王。著に弘道集がある。〔金史、九十九〕。

〖徒單繹〗69 トセンエキ 金の人。本名は朮輩。熙宗の第七女瀋國公主の夫。泰安・淄州刺史に歷任して廉名があり、尋いで棣州防禦使に遷り、政迹を以て聞え、臨海軍節度使に遷る。〔金史、一百二十〕。

〖徒單航〗70 トセンカウ 金の人。一名、張僧。至寧の初、安州刺史となる。元兵を拒ぎ、敗れて縊死した。〔金史、一百二十三〕。

〖徒單恭〗71 トセンキヨウ 金の人。本名は斜也。諡は忠。天眷中、吳十反の事を告げて、龍虎衞上將軍を拜し、譚國公に封ぜらる。海陵が簒立の後、用ひられて太師に至る。〔金史、一百二十〕。

〖徒單后〗72 トセンコウ ❶金の人。諱は烏古論都。昭祖の后。〔金史、六十三〕。❷金の人。諡は孝懿。顯宗の后。〔金史、六十四〕。

〖徒單貞〗73 トセンテイ 金、黑闢剌人。本名は特思忒。妻は海陵の同母女弟。皇統中、海陵と共に熙宗を弑す。海陵が簒立の後、駙馬都尉・太子少保となり、爵は王。世宗の時、太原尹になつたが、不法の行が多くて誅せられた。章宗の時、莊簡と追諡さる。〔金史、一百三十二〕。

〖徒單銘〗74 トセンメイ 金の人。字は國本。名を重泰と賜はる。經史に通じ、母に事へて至孝。宣宗の時の尙書右丞。〔金史、一百二十〕。

〖徒單益都〗75 トセンエキト 金の人。延安總管となり、正大中、徐州行省事となる。元兵を禦いで戰死した。〔金史、一百十七〕。

〖徒單合喜〗76 トセンガフキ 金、上京速蘇海水の人。陝西路統軍使となり、屢〻宋兵を敗つて大功を立て、平章政事に至る。封は定國公。〔金史、八十七〕。

〖徒單公弼〗77 トセンコウヒツ 金の人。本名は習烈。諡は恪愿。世宗の女の夫。宣宗の時、右丞相・定國軍節度使となる。〔金史、一百二十〕。

〖徒單克寧〗78 トセンコクネイ 金の人。本名は習顯。諡は忠烈。其の先は金源縣人。後、萊州に徙居。契丹・女眞二國の文字に詳し。大定の初、左翼都統を以て契丹を平定し、尋いで宋將魏勝を破つて楚州を取り、丞相に陞る。章宗の時、太師に

拜せられ、淄王に封ぜらる。〔金史、九十二〕。

〖徒單兀典〗79（トセンコツテン）　金の人。正大の間、兵部尙書・權參知政事となる。天興の初、元兵と鐵嶺に戰つて死す。〔金史、一百十六〕。

〖徒單四喜〗80（トセンシキ）　金の人。哀宗の皇后の弟。正大中、河北の兵が潰滅した時、四喜は兩宮を迎へて陳留に至つたが、兵變の有るのを疑ひ、其の任を果さずして歸京し、翌日、崔立の兵變に歸德に逃れ、獄に下されて市に斬られた。〔金史、一百二十〕。

〖徒單思忠〗81（トセンシチユウ）　金の人。本名は寧慶。字は良弼。經史に精し。唐國公主の夫。大定中、駙馬都尉となる。〔金史、一百二十〕。

〖徒單阿里出虎〗82（トセンアリシユツコ）　金、懿州の人。大統中、僕散忽土と倶に護衞十人の長となる。海陵が簒立を謀るや、忽土と共に之に內應し、簒立の後、右副點檢となる。爵は王。後、凶狠益〻甚だしくて誅せらる。〔金史、一百三十二〕。

【徒然】83（トゼン）　㊀いたづらに。漫然。理由のないこと。〔後漢書、朱浮傳〕求二之於事一、宜レ以二和平一、而災異猶見者、而豈徒然、天道信誠、不レ可レ不レ察。〔後漢書、梁統傳論〕況乃傾二側孼臣一、傳二寵凶嗣一、以至レ破レ家傷レ國、而豈徒然哉。〔後漢書、竇融傳〕毀譽之來、皆不二徒然一、不レ可レ不レ思。〔張九齡、感遇詩〕浩歎楊朱子、徒然泣二岐路一。〔任昉、爲二范始興一作求レ立二太宰碑一表〕瞻二彼景山一、徒然望慕。㊁ただにしかり。それぱかり。〔史記、春申君傳〕(李)園女弟、承レ間說二春申君一曰、今君相レ楚二十餘年、而王無レ子、卽百歲後、將三更立二兄弟一、君又安得二長有一レ寵乎、非二徒然一也、君貴用レ事久、多失二禮於王兄弟一、兄弟誠立、禍且レ及レ身、何以保二相印江東之封一乎。〔江淹、雜體、陸平原機羇宦詩〕願言寄二三鳥一、離思非二徒然一。㊂むなし。うそ。〔任昉、爲二范尙書一讓二吏部封侯一第一表〕百年上壽、既曰二徒然一。㊃つれづれ。無聊。

〖徒然草〗84（ツレヅレグサ）　書名。二卷。吉田兼好の見聞・感想・評論等を、其の歿後、今川了俊が編成したもの。枕草子と共に我が國の文學的隨筆の雙絕と稱せられ、又、教訓の言が多いので、德川初期以來、大いに閱讀され、注釋書も非常に多い。

【徒走】85（トソウ）　徒步(105)の㊁に同じ。〔漢書、朱雲傳〕欲下以二匹夫徒走之人一、而超中九卿之右上、非下所丙以重二國家一而尊乙社稷甲也。

【徒屬】86（トゾク）　なかま。ともがら。〔韓非子、孤憤〕是當塗者之徒屬。〔墨子、非儒下〕其徒屬弟子、皆效二孔某一。〔呂覽、有度〕孔墨之弟子徒屬、充二滿天下一、皆以二仁義之術一、教二導於天下一。〔史記、彭越傳〕徒屬皆大驚。

【徒卒】87（トソツ）　あしがる。步卒。徒兵。〔左氏、哀、十一〕冉有以二武城人三百一爲二己徒卒一。〔列子、湯問〕肆咤則徒卒百萬。

【徒黨】88（トタウ）　事をなすなかま。同類。〔史記、淮南厲王傳〕乃陰聚二徒黨及謀反者一。〔趙岐、孟子題辭〕孟子徒黨盡矣。

【徒丹】89（トタン）　複姓。〔富平縣志〕徒丹恂、以レ懷レ材抱レ德、擧任二武鄕縣丞一。

【徒彈】90（アダビキ）　戲れごとに琴三味線などを彈くこと。

【徒長】91（トチヤウ）　徒卒の部長。〔史記、黥布傳〕布皆與二其徒長豪桀一交通。

【徒重】92（トチヨウ）　荷物などを運搬するもの。〔商子、墾令〕斷興徒重者、必當レ名、則農逸而商勞。

【徒弟】93（トテイ）　師に就いて學術技藝を習ふもの。弟子。門人。小僧。丁稚。〔釋氏要覽、上、師資〕弟子、南山鈔、云云、又云、徒弟、謂二門徒弟子一、略レ之也。〔陳搏、詩〕堪レ嗟繼レ踵無二徒弟一。

〖徒弟學校〗94（トテイガクカウ）　徒弟に教育を施す學校。

【徒裎】95（トテイ）　すあしではだか。〔戰國、韓策〕秦人捐レ甲、徒裎以趨レ敵、左挈二人頭一、右挾二生虜一。

【徒渡】96（カチワタリ）　徒步で河を渡る。〔夫木抄、雜六〕かぢわたりやすの河よど行く駒に。

【徒奴】97（トド）　罪人を沒して諸官の徒屬とした者。〔史記、淮陰侯傳〕詔赦二諸官徒奴一。

【徒孥】98（トド）　しもべ。又、とりこ。〔李淸臣、謝レ賜二恤刑詔一表〕徒孥頌繫、交手傳レ懼。

【徒搏】99（トハク）　から手で獸を殺す。〔爾雅、釋訓〕暴虎、徒搏也。〔疏〕暴虎、空手以搏レ之。〔詩、小雅、小旻〕不二敢暴レ虎、〔傳〕徒搏曰二暴虎一。〔論語、述而、暴虎馮河、集解〕孔安國曰、暴虎、徒搏、馮河、徒涉。〔左思、吳都賦〕袒裼徒搏。〔注〕翰曰、徒搏、以レ手擊レ獸而殺レ之也。

【徒法】100（トハフ）　立派な法令だけが備つてゐて、立派な心の無いこと。〔孟子、離婁上〕徒善不レ足二以爲一レ政、徒法不レ能二以自行一。〔集注〕徒、猶レ空也、云云、有二其政一無二其心一、是謂二徒法一。

【徒負】102（トフ）　徒步で荷物を脊負つてゐる人。〔管子、問〕徒負勿レ入、以來二遠人一。

【徒兵】103（トヘイ）　あしがる。步卒。〔左氏、隱、四〕諸侯之師、敗二鄭徒兵一、取二其禾一而還。〔左氏、僖、二十八〕丁未、獻二楚俘于王一、駟介百乘、徒兵千。

【徒父】104（トホ）　複姓。〔史記、趙世家〕孝成王十年五月、云云、秦攻二西周一拔レ之、徒父祺出。〔注〕索隱曰、趙大夫、名祺。

【徒步】105（トホ）　㊀かち。徒行。〔漢書、于定國傳〕士雖二卑賤徒步一往過、定國皆與鈞レ禮。〔李陵、答二蘇武一書〕師二徒步之師一、出二天漢之外一。〔後漢書、徐穉傳〕穉嘗爲二太尉黃瓊所レ辟、不レ就、及二瓊卒一、歸葬、穉乃負レ糧徒步、到二江夏一赴レ之、設二雞酒一薄祭、哭畢而去。〔後漢書、鄧禹傳論〕鄧公嬴レ糧徒步、觸二紛亂一而赴二光武一、可レ謂レ識レ所二從會一矣。㊁匹夫。布衣。〔戰國、齊策〕今夫士之高者、乃稱二匹夫徒步一、而處二農畝一、下則鄙野、監門閭里、士之賤也亦甚矣。〔墨子、魯問〕匹夫徒步之士、用二吾言一、行必脩。〔呂覽、有度〕夫以レ外勝レ內、匹夫徒步不レ能レ行、又況乎人主。〔漢書、公孫弘傳〕起二徒步一、數年至二宰相封侯一。〔淮南子、氾論訓〕蘇秦、匹夫徒步之人也。〔後漢書、黨錮傳序〕或起二徒步一而仕二執珪一、或解二草衣一以升二卿相一。〔蜀志、彭羕傳〕起二徒步一、一朝處二州人之上一、形色囂然自矜。

【徒名】106（アダナ）　浮氣の評判。又、無實の罪。〔古今和歌六帖、一〕千代のあだ名は立たんとぞ思ふ。

【徒門】107（トモン）　遼、蕭柳(**9**－**32012**‥272)の字。

【徒野】108（アダシノ）　㊀死者を葬る野。墓場。無常なことの喩。〔徒然草〕あだし野の露消ゆる時なく。㊁山城國、嵯峨野で茶毘所のあつた地。〔俚言集覽、あだしの〕宗祇法師の句あり、さがばうのはなに來て鳴けほととぎす、これ嵯峨坊のあだし野の庵。

【徒樣】109（タダザマ）　㊀空しいさま。㊁つねのさま。

【徒養】110（トヤウ）　馬や牛の口取り。〔後漢書、公孫瓚傳〕詐稱二侍卒一、身執二徒養一、御レ車到二洛陽一。

【徒與】111（トヨ）　ともがら。〔荀子、堯問〕是其所二以名聲不一レ白、徒與不レ衆、光輝不レ博也。

【徒庸】112（トヨウ）　人夫の仕事。〔左氏、昭、三十二〕量二事期一、計二徒庸一。〔會箋〕徒庸、徒之庸也。

【徒浪】113（アダナミ）　あだしなみ。心ない波。人心の浮き浮きして定まらない喩。仇浪。〔古今集、四〕淺き瀨にこそあだなみはたて。

【徒勞】114（トラウ）　むだぼねを折る。〔梁武帝、子夜四時歌、春歌〕不レ見二佳人來一、徒勞心斷絕。〔高適、使二青夷軍一入二居庸一詩〕遠行今若レ此、微祿果徒勞。〔李商隱、今月二日不二自量度一輒以二詩一首四十韻一干二瀆尊嚴一、云云、復五言四十韻詩一章獻上詩〕固是符二眞宰一、徒勞讓二化工一。

【徒流】115（トリウ）　徒罪と流罪。〔福惠全書、淸丈部、淸丈餘論〕定例隱漏一畝以上、卽擬二徒流一。

【徒侶】116（トリヨ）　從者。〔劉琨、扶風歌〕攬レ轡命二徒侶一、吟二嘯絕巖中一。

〖爲二徒侶一〗117（トリヨトナス）　刑事被告人が妄りに他人を引き入れて自分の同類とすること。誣告罪に論ぜられる。〔唐律、斷獄、引レ人爲二徒侶一〕諸囚在レ禁、妄引レ人爲二徒侶一者、以二誣告罪一論。

【徒旅】118（トリヨ）　㊀かちの旅。〔謝靈運、七里瀨詩〕徒旅苦二奔峭一。〔顏延之、北使レ洛詩〕改レ服飭二徒旅一、首レ路跼二險艱一。㊁土工の仲間。多くの土工。〔謝惠連、祭二古冢一文〕忝摠二徒旅一、版築是司。

【徒林】119（トリン）　林の名。〔國語、晉語八〕吾先君唐叔射二兕于徒林一。〔注〕徒林、林名。

【徒隸】120（トレイ）　しもべ。奴僕。奴隸。〔戰國、燕策〕若恣睢奮擊、呴藉叱咄、則徒隸之人至矣。〔管子、輕重乙〕今發二徒隸一而作レ之、則逃亡而不レ守。〔鶡冠子、博選〕樂嗟苦咄、則徒隸之人至矣。〔史記、孝景紀〕令下徒隸衣二七緵布一止中馬舂上。〔漢書、司馬遷傳〕見二獄吏一則頭搶レ地、視二徒隸一則心惕息。〔潘岳、西征賦〕十餘公之徒隸。

【徒論】121（トロン）　無益の論。空論に同じ。

【徒觀古】122（トトコ）　國の名。遼代、邊徼外の小國。〔遼史、國語解〕徒觀古、邊徼外小國。

【徒武士】123（カチザムラヒ） ❶昔、徒歩で供奉又は行列の先導を勤めた侍。おかち。〔雪女五枚羽子板、中〕引馬、乘り物、徒士侍。❷小身者。

【徒武者】124（カチムシヤ） 徒歩の兵。歩兵。〔甲陽軍鑑、末書〕鐵砲、旗、指物、長柄、槍持迄革具足を著る、これをかち武者といふ。

【徒目附】125（カチメツケ） 德川時代、目附役の屬官。目付役の指揮によつて、監察・探偵を掌る。

【徒限滿日】126（トゲンマンジツ） 徒刑の期限滿了の日。〔淸律、名例〕依ㇾ律發配、徒限滿日、仍發㆓回原衙所㆒。

【徒不ㇾ上ㇾ墓】127（トハハカニノボラズ） 刑罰に遭つて赦されたものは、身が汚れて居るから、先祖の墓參りをしない。〔太平御覽、刑法部、囚〕風俗通曰、徒不ㇾ上ㇾ墓說、新遭㆓刑罪原解㆒者、不ㇾ可㆓以上ㇾ墓祠祀㆒、令㆓人死亡㆒、謹案、孝經身體髮膚受㆓之父母㆒、曾子病困、啓㆓手足㆒以歸ㇾ全也、今遭ㇾ刑者、髡首剔髮、身被ㇾ加ㇾ笞、新出㆓狴犴㆒、臭穢不潔、凡祭祀者、孝子致ㇾ齋貴㆓馨香㆒、如㆓親存㆒也、時見㆓子被ㇾ刑、心有㆓惻愴㆒、緣ㇾ生事ㇾ死、恐明不㆓歆承㆒、當ㇾ不ㇾ上ㇾ墓耳。

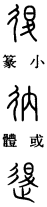
【徒流遷徙】128（トリウセンシ） 徒は徒刑、流は僻遠の荒蕪地等に流す刑。遷徙は、徒より重く流より輕い刑で、罪人を鄕土から一千里以上離れた土地に徙して再び本籍に歸らせないもの。〔明律、名例、徒流遷徙地方〕徒役各照㆓所ㇾ徒年限㆒、並以㆘到㆓配所㆒之日㆖爲㆓始發㆒、云云、流三等、照㆓依地理遠近㆒、定㆓發各所荒蕪及瀕海州縣㆒安置。

【以㆓徒亡㆒論】129（トバウヲモツテロンズ） 囚禁犯人が竊に獄內より逃亡した時は、徒刑犯人が徒役限內に逃亡した罪を以て論ずることをいふ。〔唐律、捕亡律、被囚禁拒捍走〕諸被㆓囚禁㆒、拒㆓捍官司㆒而走者、流㆓二千里㆒、傷ㇾ人者加㆓役流㆒、殺ㇾ人者斬、從者絞、若私竊逃亡、以㆓徒亡㆒論。

【徒四壁立】130（タダシヘキタツノミ） 家が貧しくて、空しく四方の壁を存するのみで、何んの道具もないこと。〔史記、司馬相如傳〕家居徒四壁立。

【徒能讀㆓父書㆒】131（タダヨクチチノシヨヲヨムノミ） 唯〻祖傳來の書を讀むのみで、何等臨機應變の才の無いこと。趙王が趙括を以て廉頗に代らしめた時、藺相如が趙括を批評した語。〔史記、廉頗藺相如傳〕趙王因以㆓趙括㆒爲ㇾ將代㆓廉頗㆒、藺相如曰、王以ㇾ名使ㇾ括、若㆓膠ㇾ柱而鼓ㇾ瑟耳、括徒能讀㆓其父書傳㆒、不ㇾ知ㇾ合ㇾ變也。

【⿰彳⿱日夊】10122 タイ ツイ 〔集韻〕吐內切 隊



小篆 或體 古文

❶**しりぞく。又、行くことがおそい。** 退(**11—38839**)に同じ。〔說文〕⿰彳⿱日夊、卻也、一曰、行遲也、从ㇾ彳从ㇾ日从ㇾ夊。〔集韻〕⿰彳⿱日夊、隸作ㇾ退。❷或は⿰彳內(**4—10051**)に作る。〔說文〕⿰彳⿱日夊、⿰彳內、⿰彳⿱日夊或从ㇾ內。❸古、迺(**11—38742**)・⿺辶⿱日夊(**11—38875**)・⿺辶⿰彳⿱日夊(**11—39014**)に作る。〔集韻〕⿰彳⿱日夊、古作㆓迺・⿺辶⿱日夊・⿺辶⿰彳⿱日夊㆒。

【⿰彳秀】10123 シウ シユ 〔集韻〕息救切 宥

行いてまちあはせる。 ⿰彳秀⿰彳留。通じて宿(**3—7195**)に作る。〔集韻〕⿰彳秀、⿰彳秀⿰彳留、行相待也、通作ㇾ宿。

【⿰彳甬】10124 ツウ 通(**11—38892**)の古字。〔字彙補〕⿰彳甬、古文通字。

【⿰彳卯】10125 ギヨ 御(**4—10157**)の古字。〔集韻〕御、古作ㇾ⿰彳卯。

【徃】10126 ワウ 往(**4—10073**)の本字。〔正字通〕往、本作ㇾ徃。

【⿰彳𠬶】10127 シン 侵(**1—646**)に同じ。〔篇海類編〕⿰彳𠬶、與ㇾ侵同。

【⿰彳豕】10128 イン 義未詳。〔龍龕手鑑〕⿰彳豕、音引。

【⿰彳谷】10129 ゾク 俗(**1—695**)に同じ。〔龍龕手鑑〕⿰彳谷、同ㇾ俗。

【⿰彳矣】10130 ケイ 徯(**4—10204**)に同じ。〔龍龕手鑑〕⿰彳矣、同ㇾ徯。

【⿰彳悠】10131 イウ 義未詳。〔五音篇海〕⿰彳悠、音由。

【⿰彳⿱日匕】10132 コン 很(**4—10093**)の本字。〔正字通〕很、本作ㇾ⿰彳⿱日匕。

【従】10133 ジユウ 從(**4—10152**)の略字。〔宋元以來俗字譜〕從、取經詩話作ㇾ従。

八畫

【⿰彳夌】10134 リヨウ 〔集韻〕閭承切 蒸

姓。 〔集韻〕⿰彳夌、姓也。

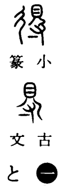
【⿰彳奄】10135 エン 〔玉篇〕於劍切 豔

かくす。 かくれる。〔玉篇〕⿰彳奄、匿也。

【徖】10136 ソウ ス 〔玉篇〕祚紅切 東

やすらか。 〔玉篇〕徖、安也。

【得】10137 トク 〔集韻〕的則切 職 ㄉㄜˊ tê^{2} ㄉㄟˇ tei^{3} ㄉㄞˇ tai^{3}



小篆 古文

❶**うる。** ㋑手に入れる。とる。もと得(**4—10206**)に作る。〔正字通〕得、本作ㇾ得。〔說文〕得、行有ㇾ所ㇾ㝵也、从ㇾ彳㝵聲、㝵、古文省ㇾ彳。〔玉篇〕得、獲也。〔韻會〕得、凡有㆓求而獲㆒、皆曰ㇾ得。〔左氏、定、九〕凡獲㆓器用㆒曰ㇾ得。〔孟子、告子上〕求則得ㇾ之、舍則失ㇾ之。〔呂覽、報更〕臣弗ㇾ得也。〔注〕得、取也。㋺むさぼる。〔論語、季氏〕戒ㇾ之在ㇾ得。〔集解〕孔曰、得、貪得也。〔後漢書、陳蕃傳〕戒ㇾ之在ㇾ得。〔注〕得、貪也。㋩さとる。しる。〔禮、樂記〕禮得㆓其報㆒則樂。〔注〕得、謂㆘曉㆓其義㆒、知㆗其吉凶之歸㆖。〔呂覽、先己〕故心得而聽得。〔注〕得、猶ㇾ知也。〔淮南子、說山訓〕吾聞得ㇾ之矣。〔注〕得、猶ㇾ知也。㋥たりる。滿足。〔禮、王制〕必參相得也。〔注〕得、猶ㇾ足也。〔史記、管晏列傳〕意氣揚揚、甚自得也。㋭あたる。〔荀子、議兵〕百官得ㇾ序。〔注〕得ㇾ序、各當㆓其任㆒。〔漢書、賈誼傳〕立ㇾ綱陳ㇾ紀、輕重同得。㋬かなふ。契合する。〔字彙〕得、合也。〔周禮、考工記、輪人〕牙得、則無ㇾ槷而固。〔注〕得、謂㆓倨句鑿內相應㆒也。〔禮、大學〕慮而后得。〔注〕得、得㆓事之宜㆒也。〔莊子、繕性〕樂全之謂ㇾ得ㇾ志。〔南史、陶潛傳〕開ㇾ卷有ㇾ得、便欣然忘ㇾ食。㋣したしむ。むつむ。〔左氏、哀、二十四〕得㆓太子適郢㆒。〔注〕得、相親說也。㋠なる。とぐ。〔禮、樂記〕陰陽和而萬物得。㋷明かになる。〔呂覽、審爲〕審㆔所㆓以爲㆒而輕重

得矣。〔注〕得、猶レ知也。〔漢書、公孫弘傳〕去二無用之言一、則事情得。㋦とらへる。〔史記、秦紀〕吏遂得、欲レ法レ之。㋸おさへる。〔後漢書、郅惲傳〕夫婦之好、父不レ能レ得二之於子一。〔注〕得、猶二制御一也。㋾あたふ。出來る。〔韓詩外傳〕不レ能二勤苦一、焉得レ行二此一、不レ恬二貧窮一、焉能行レ此。〔春秋繁露、保位權〕制レ之者、制二其所一レ好、是以勸賞而不レ得レ多也、制二其所一レ惡、是以畏レ罰而不レ可レ過也。〔五代史、梁家人傳〕爾作得否。〔李白、擣衣篇〕銜得雲中尺素書。〔劉禹錫、竇員外新居詩〕認得詩人在二此中一。〔高啓、雨雪詩〕春風消不レ得、三月戍袍寒。❷**とく**。㋑たよりよい。便利。〔呂覽、淫辭〕子豈不レ得哉。〔注〕得、猶レ便也。㋺利益。〔漢書、項籍傳〕羽迺曰、吾聞、漢購二我頭千金邑萬戶一、吾爲二公得一。❸**有難く思ふ**。感謝する。悳(**4－10724**)に通ず。〔說文通訓定聲〕得、叚借爲レ悳、感レ恩也。〔孟子、告子上〕所レ識窮乏者得レ我與。〔焦循正義〕得、與レ德通、得レ我、卽德レ我、所レ知之人窮乏、而我施二與之一、則彼必以レ我爲二恩德一而親二悅我一也。❹**らる**。仕向けられる。〔史記、五帝紀〕得レ擧用レ事二十年。❺**であふ**。値(**1－786**)に通ず。〔說文通訓定聲〕得、叚借爲レ値。〔莊子、大宗師〕夫得者時也。〔注〕當二所レ遇之時一、世謂二之得一。❻德(**4－10243**)に通ず。〔說文通訓定聲〕得、叚借爲レ德、登也、易小畜、尙得載、今本作レ德。〔易、剝〕君子得レ輿。〔釋文〕得、京作レ德。〔論語、季氏〕戒レ之在レ得。〔釋文〕得、或作レ德。〔荀子、成相〕尙レ得推レ賢。〔注〕得、當レ爲レ德。❼古は㝵(**10－34804**)・得(**4－10189**)に作り、或は㝵(**4－7436**)に作る。〔集韻〕得、古省、或作二㝵・得一。〔五音集韻〕得、古文得字。❽〔現〕㋑tê^2 (甲)よろしい。よしよし。承諾の辭。(乙)さゝげる。もつ。滿洲方言。㋺tei^3 (甲)云々せねばならない。(乙)要する。かかる。㋩tai^3 とらへる。いけどりにする。逮(**11－38931**)に同じ。

〔名乘〕アリ。ナリ。ヤス。ノリ。トク。

〔解字〕形聲。彳と㝵との合字。㝵は音符。但し、會意を兼ねる。卽ち㝵は見と寸(手)との合字で、取るの意。故に行きて取ることあるを得といふ。〔說文、得、段注〕行而有レ所レ取、是曰レ得也。

【得安】1（トクアン）　心を安んずるを得る。安穩に生活が出來る。〔易林〕禹鑿二龍門一、通二利小源一、東注二滄海一、人民得レ安。

【得庵】2（トクアン）　鎌田玄同の號。鎌田得菴(**11－40693‥9**)を見よ。

【得意】3（トクイ）　❶己の心に適ふ。己の望み通りになる。〔韓非子、飾邪〕趙代先得二意於燕一、後得二意於齊一。〔列子、仲尼〕得レ意者無レ言、進レ知者亦無レ言。〔注〕窮理體極、故言意兼忘。〔司馬法、天子之義〕得レ意則愷歌示レ喜也。〔史記、蘇秦傳〕高二宮室一、大二苑囿一、以明二得意一。〔史記、貨殖傳〕計然之策七、越用二其五一而得レ意。〔李白、將レ進レ酒詩〕人生得意須レ盡レ懽、莫レ使二金樽空對一レ月。❷心情の酣適なさま。〔孟郊、登科後詩〕春風得意馬蹄疾、一日看盡長安花。❸最も其の道に上手なこと。えて。❹商家で買ひつけの御客。

〖得意顏〗4（トクイガホ）　ほこりたかぶる顏つき。

〖得意先〗5（トクイサキ）　ひいきにしてくれる客。常に賣買する取引先。

〖得意場〗6（トクイバ）　得意先に同じ。

【得意天】7（トクイノテン）　滿足した時。〔袁枚、春日雜詩〕千枝紅雨萬重烟、畫出詩人得意天。

〖得意之人〗8（トクイノヒト）　氣に入りの人。〔紅樓夢、五回〕衆孫媳中第一個得意之人。

【得位】9（トクヰ）　位を得る。地位に就く。又、よい地位を占める。〔中庸〕故大德必得二其位一、必得二其祿一、必得二其名一、必得二其壽一。〔漢書、天文志〕凡太白所レ出、所レ直之辰、其國爲レ得レ位、得レ位者戰勝。〔皮日休、正樂府詩〕不肖盡屛レ跡、賢能皆得レ位。

【得一】10（トクイツ）　❶絕對の道を得ること。〔老子、三十九〕昔之得レ一者、天得レ一以淸、地得レ一以寧、神得レ一以靈、谷得レ一以盈、萬物得レ一以生、侯王得レ一以爲二天下正一。〔注〕一、數之始、而物之極也。❷純粹の道を得ること。〔楚辭、遠遊〕奇三傅說之託二辰星一兮、羨二韓衆之得一レ一。〔注〕喩三古先聖獲二道純一也。❸字號。㋑後晉、劉遂淸(**2－2224**‥1095)の字。㋺明、侯震暘(**1－633**‥125)の字。㋩明、劉太淸(**2－2224**‥1150)の字。

〖得一齋〗11（トクイツサイ）　淸、黃楙材(**12－47926**‥1326)の號。

【得榮】12（トクエイ）　縣名。淸末、置く。川滇邊務大臣に屬す。今、西康省德榮縣。〔淸史稿、地理志〕四川、登科府、土司十二、得榮。

【得贏】13（トクエイ）　利益を得る。〔史記、龜策傳〕商賈不レ強、不レ得二其贏一。〔漢書、食貨志下〕鑄錢之情、非二殽雜爲一レ巧、則不レ可レ得レ贏、而殽レ之甚微、爲レ利甚厚。

【得下】14　tê^2 hsia^4　得る。

【得階】15（トクカイ）　道を得る。〔左氏、襄、二十四〕然明曰、貴而知レ懼、懼而思レ降、乃得二其階一。〔注〕階、猶レ道也。

【得解】16（トクカイ）　❶縛をゆるされる。〔魏志、武帝紀〕卓表二太祖一爲二驍騎校尉一、欲二與計一レ事、太祖乃變二易姓名一、閒行東歸、出レ關過二中牟一、爲二亭長所一レ疑、執詣レ縣、邑中或竊識レ之、爲請得レ解。❷理を悟ること。〔王筠、國師草堂寺智者約法師碑〕莫レ不下皆悟レ無レ生、咸知二忘想一、隨レ類得レ解、俱會中眞如上。

【得巧】17（トクカウ）　物事に上手になる。〔開元天寶遺事、蛛絲卜レ巧〕帝與二貴妃一、每レ至二七月七日夜一、在二華淸宮一遊宴、時宮女輩陳二瓜花酒饌一、列二於庭中一、求二恩於牽牛織女星一也、又各捉二蜘蛛於小合中一、至レ曉開視二蛛網稀密一、以爲二得レ巧之候一、密者言二巧多一、稀者言二巧少一、民間亦效レ之。〔祖詠、七夕詩〕不レ知誰得レ巧、明旦試相看。〔元氏掖庭記〕七夕、宮女登レ臺以二五采絲一穿二九尾鍼一、先完者爲レ得レ巧。

【得行】18（トクカウ）　德が行はれること。得は德。〔莊子、山木〕得行而不二名處一。〔集釋〕家世父曰、得、猶レ德也。

【得幸】19（トクカウ）　恩幸を得る。寵愛を受ける。〔莊子、盜跖〕孔子復通曰、丘得二幸於季一、願望二履幕下一。〔漢書、霍光傳〕衞少兒女弟子夫、得二幸于武帝一、立爲二皇后一。

【得閑】20（トクカン）　暇を得る。〔蘇軾、病中遊二祖塔院一詩〕因レ病得レ閑殊不レ惡、安レ心是藥更無レ方。

〖得閑知止堂〗20′（トクカンチシダウ）　宋、譙令雍(**10－35976**‥39)の室名。

【得閒】21（トクカン）　❶乘ずべき閒隙を見つける。〔孟子、告子下〕屋廬子喜曰、連得レ閒矣。〔注〕連、屋廬子名也。〔疏〕連於二今日一得二閒隙一、與二夫子一爲レ語也。〔集注〕故喜下得二其閒隙一而問上レ之。〔管子、幼官〕障塞不レ審、不レ過二八日一、而外賊得レ閒。〔纂詁〕閒、俔也、得レ俔二我情一。❷閑暇を得る。得閑。〔韓愈、東都遇レ春詩〕得レ閒無レ所レ作、貴欲レ辭二視聽一。❸tê^2 hsien^2　心に會得する。會心。

〖得閒居士〗22（トクカンコジ）　淸、鮑廷博(**12－46074**‥106)の號。

【得漢】24（トクカン）　山名。四川省江縣の東。

【得眼】25（トクガン）　〔佛〕精舍の西北にある榛の異名。盲人が佛の說法を聽いて眼が開いたので、枝を地に刺して置いた所が、生長して榛となつたので名づくといふ。〔佛國記〕精舍西北四里有レ榛、名曰二得眼一、本有二五百盲人一、依二精舍一住、此佛爲二說法一、盡還得レ眼、盲人歡喜、刺レ枝著レ地、頭面作レ禮、枝遂生長爲レ榛、故以二得眼一爲レ名。

【得機】26（トクキ）　德幾(**4－10243**‥47)の❶に同じ。德の禨祥をいふ。〔墨子、明鬼下〕且禽艾之道曰、得璣無レ小、滅レ宗無レ大、則此言下鬼神之所レ賞、無レ小必賞レ之、鬼神之所レ罰、無レ大必罰上レ之。〔閒詁〕畢云、此卽、禨祥字、蘇云、禽艾、蓋逸書篇名、呂覽報更篇云、此書之所謂德幾無レ小者也、德璣與二德幾一、古字通用、案、蘇說是也、說苑復恩篇云、此書之所謂德無レ小者也、疑卽本レ此、今書僞古文伊訓亦云、惟德罔レ小、畢說非レ是。

【得虧】27　tê^2 k'uei^1　幸に。

【得救】28 tê^2 chiu^4 助かる。救はれる。

【得擧】29 トクキョ あげ用ひられる。〔左氏、襄、三〕解狐得レ擧、祁午得レ位、伯華得レ官、建二一官一而三物成、能擧レ善也夫。〔楚辭、離騷〕呂望之鼓レ刀兮、遭二周文一而得レ擧。

【得極】30 トクキョク 中を得る。丁度具合のよい狀態になること。極は中。〔史記、周紀〕夫王レ人者、將三導レ利而布二之上下一者也、使二神人百物無一レ不レ得レ極、猶レ曰三怵惕懼二怨之來一也。〔注〕韋昭曰、極、中也。

【得句】31 トクク 詩句が出來る。〔陸游、詩〕得レ句已無二前輩賞一、開レ編時與二古人一游。

【得空】32 tê^2 k'ung^4 閑暇を得る。得閒。

【得耦】33 トクグウ 配遇者を得る。〔周禮、地官、媒氏〕掌二萬民之判一、〔注〕判、半也、得レ耦爲レ合、主下合二其半一成中夫婦上也。

【得果】34 トククワ ㊀果物を得る。〔范成大、春日田園雜興詩〕種レ園得レ果僅償レ勞、不レ奈兒童鳥雀搔。㊁(佛)佛の道を得る。佛果を得る。〔南史、到溉傳〕到溉朝夕從二僧徒一禮誦、及レ卒、顏色如レ恆、手屈二一指一、卽佛道所レ云得果也。

【得君】35 トククン ㊀君に信任される。〔孟子、公孫丑上〕管仲得レ君、如レ彼其專也。〔注〕管仲得レ遇二桓公一、使三之專二國政一如レ彼也。〔焦循正義〕莊子大宗師注云、當二所レ遇之時一、世謂二之得一、故趙氏以レ遇釋レ得。㊁宋、趙起(**10－37171**・・87)の字。

【得計】36 トクケイ よい方法。得策。〔歐陽脩、論二修河一第三狀〕惟治レ堤順レ水爲二得計一。

【得月】37 トクゲツ ㊀月の景色を充分に眺める。〔李白、贈二江夏韋太守良宰一詩〕窺レ日畏レ銜レ山、促レ酒喜レ得レ月。㊁勢力者の緣故があれば早く地位を得る喩。宋の范仲淹が錢塘に鎭たりし時、兵官は皆其の推薦を被つたのに、巡檢の蘇麟だけが錄せられなかつたので、「水に近きの樓臺は先づ月を得」の詩を仲淹に贈つて諷した故事。〔淸夜錄〕范文正公鎭二錢塘一、兵官皆被レ薦、獨巡檢蘇麟不レ見レ錄、乃獻レ詩云、近レ水樓臺先得レ月、向レ陽花木易レ爲レ春、公卽薦レ之。

【得月簃】38 トクゲツイ 淸、榮譽(**6－15273**・・156)の號。

【得月錢】39 トクゲツセン 毎月の手當。〔宣和遺事、前集〕得月錢一千、爲二監人所一レ得、供二其所一レ需。

【得月樓】40 トクゲツロウ 明、李鶚翀(**6－14459**・・966)の室名。

【得月簃堂叢書】41 トクゲツイダウソウショ 叢書の名。淸、榮譽編。得月簃は其の書室の名。其の目は【初刻】國史補三卷(唐、李肇)・涉史隨筆一卷(宋、葛洪)・續夷堅志四卷(金、元好問)・硏北雜志一卷(元、陸友仁)・古玉圖三卷(元、朱德潤)・靈棋經注一卷(明、劉基)・古今藥石二卷(明、宋纁)・海岳志林一卷(明、毛晉)・聊齋拾遺一卷(淸、蔣松齡)・墨海人名錄(淸、童冀駒)。【次刻】吳郡圖經續記三卷(宋、朱長文)・儀禮識誤三卷(宋、長淳)・志雅堂雜鈔二卷(宋、周密)・懸笥瑣探一卷(明、劉昌)・日本攷略一卷(明、薛俊)・牧鑒十卷(明、楊昱)・讀書劄記八卷(明、徐向志)・禮記偶箋三卷(淸、萬斯大)・武功縣志三卷(明、康德涵)・朝邑縣志一卷(明、朝邦靖)。

【得業】42 トクゲフ 課程を終へること。

【得業士】43 トクゲフシ 專門學校、特に醫學專門學校の卒業生にあたへる稱號。其の專門學校名を上に冠して用ひる。

【得業生】44 トクゲフセイ ㊀古、大學寮の試驗に及第した者の稱。〔令義解〕釋云、天平二年三月二十七日、云云、得業生十人。㊁明治三年八月に設けられた兵學寮の最下級の教官。大・中・少・準の四等がある。同年八月、廢せらる。㊂明治二年七月に設けられた大學校の職員。句讀を授け、飜譯・治療等の事を掌り、大・中・少の三等がある。同四年七月、廢せらる。㊃明治四年八月、工部省に置かれた技術官。同年九月、手と改稱。大・中・少の三等がある。

【得軒】45 トクケン 明、趙克寬(**10－37171**・・557)の字。

【得公】46 トクコウ 父を得る。三國魏、龐儉が奴隸を購つたところ、其れが探し求めて居た父親であつた故事。〔太平御覽、人事、奴婢〕風俗通曰、南陽龐儉、少失二其父一、後居二閭里一、鑿レ井得二錢千餘萬一、行求二老蒼頭一、使レ主二牛馬耕種一、直二錢一萬一、有二賓婚大會一、奴在二竈下一、竊言二堂上母我婦也一、婢卽白二其母一、母使二驗問一曰、是我公也、因下レ堂抱二其頸一啼泣、遂爲二夫婦一、儉及子歷二二千石刺史一七八人、時人爲二之語一曰、盧里龐儉公、鑿レ井得レ銅、買レ奴得レ公。

【得才】47 トクサイ 人材を得る。〔晉書、山簡傳〕爲二尙書左僕射一領二吏部一、簡欲レ令三朝臣各擧レ所レ知、以廣二得レ才之路一、上疏曰、臣以爲、自レ古興替、實在二官人一、苟得二其才一、則無二物不一レ理。〔唐書、韋陟傳〕累二除吏部郎中一、張九齡引爲二中書舍人一、與二孫逖梁涉一並司二書命一、時號二得才一。

【得采】48 トクサイ 賭博に勝をしめること。〔通俗編、祝誦、得采〕演繁露、采、本采色之采、指二投子之文一以言也、如二白黑之以レ色別、雉犢之以レ物別一、皆采也、投得二何色一、其中レ程者勝、因遂名レ之曰レ采、今俗語凡事小而幸獲、皆以レ采名レ之、義蓋起レ此。

【得彩】49 tê^2 t'sai^3 當籤する。

【得齋】50 トクサイ 字號。㊀淸、施念曾(**5－13629**・・179)の字。㊁長戸讓の號。長戸得齋(**11－41100**・・949)を見よ。

【得罪】51 トクザイ ㊀罪を得る。〔詩、小雅、雨無正〕云レ不レ可レ使、得二罪于天子一。〔韓詩外傳、十〕邦人奉レ觴再拜曰、無レ使三羣臣百姓得二罪於吾君一、無レ使三吾君得二罪於羣臣百姓一、桓公不レ說。〔劉長卿、負謫後登二于越亭一作詩〕得レ罪風霜苦、全レ生天地仁。㊁人の歡心を得ない。御意にさからふ。〔左氏、僖、二十四〕不穀不德、得二罪于母弟之寵子帶一。㊂tê^2 tsuei^4 失禮しました。御免なさい。〔桃花扇、鬨丁〕得罪、得罪。

【得喪】52 トクサウ うることとうしなふこと。成功と失敗。得失。〔韓詩外傳、四〕天子不レ言二多少一、諸侯不レ言二利害一、大夫不レ言二得喪一。〔莊子、田子方〕而況得喪禍福之所レ介乎。〔列子、說符〕唯歸レ同反レ一、爲レ亡二得喪一。

【得策】53 トクサク 利益になるやり方。都合がよい。上計。

【得山】54 トクザン 明、林宏衍(**6－14551**・・295)の字。

【得士】55 トクシ ㊀士の心を得る。人望あること。〔王安石、讀二孟嘗君傳一〕孟嘗君能得レ士。㊁有用の人を得る。

【得子】56 tê^2 tzŭ^3 子を持つ。子が出來る。

【得之】57 トクシ 字號。㊀宋、郭思(**11－39474**・・101)の字。㊁宋、陳求道(**11－41698**・・744)の字。㊂宋、劉庭式(**2－2224**・・1214)の字。㊃宋、梁彥昌(**6－14325**・・240)の字。㊄宋、王獵(**7－20823**・・1093)の字。㊅元、瞻思(**10－36945**・・11)の字。㊆元、蒲道源(**9－31611**・・193)の字。㊇明、黃魯曾(**12－47926**・・1351)の字。㊈明、曾魯(**5－14299**・・154)の字。㊉明、汪思(**6－17154**・・65)の字。

【得旨】58 トクシ 天子の許しを得る。〔五代史、郭崇韜安重誨傳論〕因二崇政使一以聞、得レ旨則復宣而出レ之。

【得旨允行】59 トクシインカウ 皇上の允准された旨を體して、其の通りに事を辦理すること。〔皇朝政治學問答〕謂奉二上旨一來、皇上允准如レ此辦也。

【得志】60 トクシ 思ひ通りになる。願ひが適ふ。〔易、賁〕白賁无レ咎、上得レ志也。〔左氏、桓、六〕鬭伯比言二於楚子一曰、吾不レ得二志於漢東一也、我則使レ然。〔孟子、滕文公下〕得レ志與レ民由レ之、不レ得レ志獨行二其道一。〔老子、三十一〕不レ可三以得二志於天下一矣。〔賈誼、弔二屈原一文〕闒茸尊顯兮、讒諛得レ志。

【得二】61 トクジ ㊀二を得る。〔漢書、律歷志上〕地之數始二于二一、終二于三十一、其義紀レ之以レ兩、故置レ一得レ二、凡三十置二終地之數一、得二六十一。㊁善惡の幾微を見て速かに動くこと。得二とは、易の豫の六二の義で、固く中道を執り守るが、幾を見ては日を終るを待たずして動く意。〔易、繫辭下〕君子見レ幾而作、不レ俟レ終レ日、易曰、介二于石一、不レ終レ日。〔疏〕此豫之六二辭也。〔任昉、王文憲集序〕體二三才之茂典一、踐二得二之庶幾一。〔注〕善曰、周易曰、有二天道一焉、有二地道一焉、有二人道一焉、兼二三才一兩レ之、又子曰、知レ幾其神乎、顏氏之子、其殆庶幾乎、有二不善一未二嘗不一レ知、知而未二嘗復行一、韓康伯曰、在レ理則昧、造レ形則悟、顏子之分也、失二之於幾一、故有二不善一、得二之於二一、不レ遠而復、故知レ之未二嘗復行一也。

【得時】62 トクジ ㊀時に遇ふ。時期を得る。運命が開ける。〔列子、說符〕得レ時者昌。〔淮南子、原道訓〕禹之趨レ時也、履遺而弗レ取、冠挂而弗レ顧、非レ爭二其先一也、而爭二其得一レ時也。㊁明、汪有訓(**6－17154**・・161)の字。

【得貳】63 トクジ 得二の㊁に同じ。〔晉書、姚萇載記〕

吾欲下移二兵嶺北一、廣收中資實上、須二泰弊燕廻一、然後垂拱取レ之、兵不レ血レ刃、此定二天下一、此卞莊得貳之義也。

【得失】64 トクシツ　うることと失ふこと。成功と失敗。善惡。當否。利益と失敗。〔詩、大序〕國史明二乎得失之迹一、傷二人倫之廢一、哀二刑政之苛一。〔戰國、齊策〕非二得失之策一與。〔韓非子、有度〕審二得失一、有二法度之制一者、云云、審二得失一、有二權衡之稱一者、云云。〔列子、力命〕爾有二得失一、工有二成敗一。〔史記、韓非傳〕觀二往者得失之變一。〔漢書、宣帝紀〕遣二大中大夫彊等十二人一、循二行天下一、存二問鰥寡一、覽二觀風俗一、察二吏治得失一。〔淮南子、要略〕道應者攬二掇遂事之蹤一、追二觀往古之跡一、察二禍福利害之反一、考二驗乎老莊之術一、而以合二得失之勢一者也。〔楚辭、東方朔、七諫、沈江〕惟二往古之得失一兮、覽二私微之所一レ傷。〔後漢書、荀悅傳〕得失一朝、而榮辱千載。〔江淹、雜體、盧侍郎諶感レ交詩〕常慕二先達槩一、觀レ古論二得失一。〔朱熹、中庸章句序〕凡諸說之同異得失、亦得三以曲暢旁通、而各極二其趣一。

【得失半】65 トクシツナカバス　利害が同じ。〔金史、李石傳〕時論得失半レ之。

【得失林】66 トクシツノリン　或は名譽地位を得、或は之を失ふことの甚だ多い喩。〔史記、高祖功臣年表贊〕觀下所三以得二尊寵一及所中以廢辱上、亦當世得失之林也、何必二舊聞一。

【得實】67 トクジツ　㊀訊問して實情を得る。〔史記、五帝紀〕皋陶爲二大理一平、民各伏得二其實一。〔北史、周世宗紀〕詔曰、自三周有二天下一以來、雖レ經二赦有一、事迹可レ知者、有司宜下即推窮得レ實之日、免二其罪一、徵備如上レ法。㊁穀物の實を穫る。〔晉書、傅玄傳〕使三冗散之官、農而收二其租稅一、家得二其實一、而天下之穀、可二以無一レ乏矣。

【得手】68 トクシユ　㊀手にする。〔莊子、天道〕不レ徐不レ疾、得二之於手一、應二之於心一、口不レ能レ言、有レ數存二焉於其間一。㊁錢を多く得たことをいふ。〔草木子〕元末、官吏貪汙、其問二人討レ錢、各有二名目一、覓二得錢一多曰二得手一。㊂tê² shou³　具合がよい。暇になる。㊃テエ　㋑得意のわざ。㋺猿の異名。

【得手勝手】69 エテカツテ　自分の都合ばかり考へること。

【得主】70 tê² chu³　買手。買主。

【得終】71 トクシユウ　終りを得る。死ぬこと。〔列子、天瑞〕處レ常得レ終、當二何憂一哉。

【得衆】72 トクシユウ　唐、康志睦(4―9376‥183)の字。

【得純】73 トク　姓氏。〔和爾雅〕。

【得所】74 トクシヨ　所を得る。㊀思ふやうになる。願ふ所を得る。〔易、繫辭下〕日中爲レ市、云云、交易而退、各得二其所一。㊁相當した場所に就く。〔孟子、萬章上〕子產曰、得二其所一哉、得二其所一哉。

【得緒】75 トクシヨ　三國蜀、龔祿(12―48837‥55)の字。

【得勝】76 トクシヨウ　㊀勝利を得る。〔淮南子、詮言訓〕能成二霸王一者、必得レ勝者也。㊁川の名。㋑江蘇省武進縣內。俗名、新河。舊名、烈塘河。明、洪武の間、今の名に改む。烈塘(7―18987‥36)を見よ。㋺江蘇省興化縣附近。㊂を見よ。㋩安徽省天長縣內。〔讀史方輿紀要、江南、鳳陽府、泗州、天長縣〕得勝河、縣北七里、澗谷諸水匯二流此一、上有二破城一、城下爲二破城渡一、相傳、漢高祖敗二淮南王英布一、引レ兵渡レ此、因名、東北流入二於五湖一。㊂湖の名。江蘇省興化縣の東。舊名、率頭湖。一名、縮頭湖。〔輿地紀勝〕宋建炎中、張榮率二山東義軍一、敗二金將撻懶於率頭湖一、因更名二得勝湖一。〔讀史方輿紀要、江南、揚州府、高郵州、興化縣〕得勝河、縣東十里、本名二縮頭河一、宋建炎中、張榮賈虎率二山東義軍一、繇二梁山泊一、與二金人一轉戰、至二承楚間一、金將撻覽在二泰州一、榮以二舟師一設レ伏、掩二擊於縮頭湖一、大敗二其衆一、因更名二得勝湖一。㊃砦の名。宋、置く。甘肅省靜寧縣の東北。〔宋史、任福傳〕康定二年(趙)元昊、謀レ寇二渭州一、(韓)琦戒二任福等一、併レ兵自二懷遠城一、趨二得勝砦一、至二羊牧隆城一、出二敵之後一、據レ險設レ伏。㊄營の名。湖南省鳳凰縣の北。

【得勝褂】77 トクシヨウクワ　馬褂をいふ。初、旅裝に用ひたが、清の傅恆が金川に勝つて歸つてより、其の便捷なのを喜んで得勝褂と名づけ、平常にも著用したので、遂に一般燕居の服となつた。〔清稗類鈔〕。

【得勝環】78 トクシヨウクワン　環名。黃金で作り、頭巾の中につけるもの。〔蘇軾、謝三陳季常惠二一揞巾一詩〕好帶二黃金雙得勝一。〔注〕世人巾裹以二黃金一爲二大環一、雙繫二其帶一、謂二之得勝環一。

【得勝口】79 トクシヨウコウ　地名。㊀河北省安次縣の南、永定河の南岸。㊁山西省大同縣の北。

【得勝陀】80 トクシヨウダ　地名。滿洲吉林省雙城縣の拉林河の西。金の太祖が師に誓つた處。得勝陀碑を見よ。〔金史、地理志上、會寧、注〕倚二與レ府同時置一、有二長白山青嶺馬紀嶺勃野淀綠野淀一、有二按出虎河一、又書作二阿木滸一、有二混同江淶流河一、有二得勝陀國一言、忽土皚葛蠻太祖誓レ師之地也。

【得勝鋪】81 トクシヨウホ　地名。湖北省竹山縣の西北。大文峪水と小文峪水の會する處。

【得勝陀碑】82 トクシヨウダヒ　碑名。金の太祖が遼を伐つた時、諸路の兵を淶流水(拉林河)に會して誓つて曰く、他日功ならば當に此地を識すべしと。戰ふに及んで大いに遼師を破り、遂に此の地を得勝陀と名づけた。大定中、世宗東巡し、碑を立てて功を紀す。額に大金得勝陀碑といひ、土人其の地を石碑崴子といふ。得勝陀を見よ。〔金史、太祖紀〕九月、太祖進二軍寧江州一、次二寥晦城一、婆盧火徵レ兵、後レ期杖レ之、復遣二督軍一、諸路兵、皆會二于來流水一、得二二千五百人一、致二遼之罪一、申二告于天地一曰、世事二遼國一、恪二修職貢一、定二烏春窩謀罕之亂一、破二蕭海里之衆一、有レ功不レ省、而侵侮是加、罪人阿疎、屢請不レ遣、今將レ問二罪於遼一、天地其鑒二佑之一、遂命二諸將一、傳梃而誓曰、汝等同レ心盡レ力、有レ功者、奴婢部曲爲レ良、庶人官レ之、先有レ官者敍進、輕重視レ功、苟違二誓言一、身死二梃下一、家屬無レ赦。

【得勝頭廻】83 トクシヨウトウクワイ　さて(却說)と話題を轉ずる辭。〔郎瑛、七修類稿〕小說得勝頭廻之後。

【得仍】84 トクジヨウ　清、施念曾(5―13629‥179)の字。

【得色】85 トクシヨク　したり顏。得意の顏附。〔老學庵筆記、五〕帥爲發レ怒面頳、而通判欣然有二得色一。

【得職】86 トクシヨク　㊀官職を得る。〔易林〕申二理我冤一、得レ職蒙レ恩。㊁常に安んずる所を得る。〔史記、齊悼惠王世家〕朱虛侯忿三劉氏不レ得レ職。〔漢書、趙廣漢傳〕廣漢爲二京兆尹一、廉明威制二豪強一、小民得レ職。〔注〕得レ職、各得二其常所一也。〔鹽鐵論、輕重〕衆人未レ得二其職一。

【得心】87 トクシン　㊀心の滿足を得る。又、民心を收攬する。〔孟子、離婁上〕得二其民一有レ道、得二其心一、斯得レ民矣。〔易林、隨之第十七、萃〕得心歡欣、和悅相樂。〔晉書、羊祜傳〕祜率二營兵一、出鎭二南夏一、開二設庠序一、綏二懷遠近一、甚得二江漢之心一。㊁うけあふ。又、よく心にわかる。

【得臣】88 トクシン　宋、周渭(2―3441‥8)の字。

【得岑】89 トクシン　清、胡良顯(9―29400‥630)の號。

【得人】91 tê² jen²　人に愛される。人氣を得る。

【得仁】92 トクジン　㊀唐、史孝章(2―3249‥181)の字。㊁元、朱嗣壽(6―14424‥818)の字。

【得髓】93 トクズイ　佛道の奧義を悟ること。〔傳燈錄、三、達磨章〕已欲三西過二天竺一、云云、最後慧可禮拜後、依レ位而立、師曰、汝得二吾髓一、乃顧二慧可一而告レ之曰、昔如來以二正法眼一付二迦葉大士一、展轉囑累而至二於我一、我今付レ汝、汝發二護持一、幷授二汝袈裟一、以爲二法信一。〔杜牧、讀二韓杜集一詩〕天外鳳凰誰得レ髓、無人解合續二弦膠一。

【得聖】94 トクセイ　㊀北宋、仁宗の時、王則(7―20823‥716)の僭年號。一に德勝に作る。(1047―1048)　㊁唐、蕭遘(9―32012‥120)の字。

【得勢】95 トクセイ　いきほひを得る。〔荀子、非十二子〕聖人之不レ得レ勢者也、仲尼子弓是也、聖人之得レ勢者、舜禹是也。〔文子、上德〕小人得レ勢、君子避レ害。〔韓非子、難勢〕堯舜得レ勢而治、桀紂得レ勢而亂。

【得選】96 トクセン　禁中御廚子所の女官。飲饌及び雜事に從事するもの。釆女の中から選ばれるからいふ。〔江家次第抄、一〕得選、御廚子所女官、於二釆女中一選二其人一、故得レ名。〔職原抄〕得選三人也、髮上兼レ之、云云、或云、得選者、是結二天子之御髮一人乎。

【得全】97 トクゼン　全うする。天分を損はぬ。〔莊子、達生〕彼得二全於酒一、而猶若レ是、而況得二全於天一乎。〔漢書、刑法志〕吏不レ專レ殺、法無二二門一、輕重當レ罪、民命得レ全。〔枚乘、上書諫二吳王一書〕臣聞、得レ全者昌。

【得全堂】98 トクゼンダウ　清、冒襄(2―1538‥36)の室名。

【得全居士】99 トクゼンコジ　宋、趙鼎(10―37171‥29

2)の號。

【得代】100 トクタイ 得替に同じ。〔清國行政法汎論、刑事上責任、對二官吏一之訴追〕名例律又云、凡任滿・得代・改除・致仕等官、與二見任一同。

【得替】101 トクタイ ❶國司・大番等の任期が過ぎて交替すること。〔江家次第、四、定二受領功課一〕凡受領見物得替之時致二其缺失一。❷領主が代つて所領を離れること。〔東鑑、一、治承四年八月九日〕得二替相傳地佐佐木庄一。

【得體】102 トクタイ ❶官を設け職を分けて各〻其の尊卑の體を得ること。〔禮、仲尼燕居〕官得二其體一、政事得二其施一。〔疏〕官得二其體一者、體謂二容體一、謂三設レ官分レ職、各得二其尊卑之體一。〔孫希旦集解〕官得二其體一、若下天官掌二邦治一、地官掌二邦教一之類上。〔宋史、岳飛傳〕帝又賜レ札以二飛小心恭謹、不レ專二進退一爲レ得レ體。❷tê² t'i³ 擧動の宜しきにかなふこと。

【得體歌】103 トクタイカ 樂府、雜歌謠辭の一。唐の天寶の初、民間に唱はれたもの。尋いで開元の末、玄宗が寶符を得たので、陝縣尉崔成甫が得體歌によつて得寶歌を作つた。一說に、玄宗が楊貴妃を得たので作つた得寶子をいふ。〔樂府詩集、雜歌謠辭、歌辭、得體歌〕唐書曰、天寶初、韋堅爲二陝郡太守、水陸轉運使一、於二長安城東滻水傍一穿二廣運潭一、以通二吳會數十郡舟檝一、若二廣陵郡船一、卽推二積廣陵所レ出錦鏡銅器一、餘郡皆然、舟人大笠寬衫芒履、如二吳楚之製一、先レ是、民間戲唱二得體歌一、至二開元末一、田同秀上言見二玄元皇帝一云、有二寶符一、在二陝州桃林縣古關令尹喜宅一、遣二中使一求得レ之、以爲二殊祥一、改レ縣爲二靈寶一、及下堅鑿二新潭一成上、又致二揚州銅器一、陝縣尉崔成甫乃翻二此詞一、爲二得寶歌一、集二兩縣官伎女子一唱レ之、成甫又作二歌詞十章一、自衣二缺胯綠衫錦一、半臂偏袒、膊レ紅抹レ額、於二第一船一作二號頭一唱レ之、和者女子百人、皆鮮服靚妝、齊聲接影、鼓笛胡部以應レ之、樂府雜錄曰、得寶歌、一曰二得寶子一、又曰二得鞛子一、明皇初、得二太眞妃一、喜而謂二後宮一曰、予得二楊氏一、如レ得二至寶一、樂府遂作二此曲一、一說不レ同。〔樂府詩集、雜歌謠辭、歌辭、得體歌〕得體紇那也、紇囊得體郡、潭裏船車鬧、揚州銅器多、三郎當レ殿坐、聽レ唱二得體歌一。

【得當】104 トクタウ ❶よろしきを得る。〔易、噬嗑〕貞厲无レ咎、得レ當也。〔范甯、春秋穀梁傳序〕雖三我之所レ是、理未二全當一、安可下以二得當之難一而自絕中于希通上哉。❷罪をうめあはせする。〔漢書、李陵傳〕宜レ欲二得レ當以報レ漢也。〔注〕師古曰、言レ欲三立レ功以當二其罪一也。〔王先謙補注〕當、謂二適可一也、謂レ欲下得二適可之事會一而動上。

【得道】105 トクダウ ❶道に適つてゐる。〔孟子、公孫丑下〕得レ道者多レ助、失レ道者寡レ助。〔淮南子、原道訓〕得二道之柄一。❷道術を會得する。〔素問、金匱眞言論〕非二其人一勿レ教、非二其眞一勿レ授、是謂二得道一。〔南史、謝靈運傳〕太守孟顗事レ佛精懇、而爲二靈運所レ輕、常謂レ顗曰、得レ道應レ須二慧業一、丈人生レ天、當レ在二靈運前一、成佛必在二靈運後一。〔通俗編、釋道、得道〕抱朴子、上士得レ道成二天官一、中士得レ道、栖二集崑崙一、下士得レ道長二生世間一。❸道路を求め得る。〔韓非子、說林上〕管仲隰朋從二於桓公一而伐二孤竹一、春往冬反、迷惑失レ道、管仲曰、老馬之智可レ用也、乃放二老馬一而隨レ之遂得レ道行。❹佛戒・定・慧の三學を修行して、斷惑證理の智慧を發するのを得道といふ。〔法華經、方便品〕我今所二得道一、亦應レ說二三乘一。

【得道之人】106 トクダウノヒト さとりをひらいた人。〔呂覽、貴生〕多以二富貴一驕二得道之人一。〔正法眼藏、生死〕得道の人のことばなれば、さだめてむなしくまうけじ。

【得脫】107 トクダツ ❶逃れられる。〔史記、田單傳〕燕師長驅平レ齊、而田單走二安平一、令下其宗人盡斷二其車軸末一、而傅中鐵籠上、已而燕軍攻二安平一、城壞、齊人走爭レ塗、以二轊折車敗一、爲二燕所レ虜、唯田單宗人、以二鐵籠一故得レ脫、東保二卽墨一。❷佛さとりを開く。得道。〔法華經、信解品〕得レ脫二三界苦惱之患一。〔遺教經〕雖二復出家一、猶未二得脫一。

【得智】108 トクチ 佛佛智卽ち權・實二智を圓滿具足する大智を得ること。

【得籌】109 トクチウ 金代の制、監稅の官で其の稅課の徵集を倍增することをいふ。一度倍額を徵集するごとに一官を轉じた。〔洪遵、松漠補遺〕虜法、文武官、不レ以二高下一、凡丁二家難一、未レ滿二百日一、皆差二監關稅一、州商稅院鹽鐵場、一年爲レ任、謂二之優饒一、其稅課倍增者、謂二之得籌一、每二一籌一轉二一官一、有二歲中八九遷者一、近有二止法一、不レ得レ過二三官一、富者擇二課額少處一受レ之、或以二家財一貼納、只圖二遷轉一、其不レ欲レ遷者、於二課利多處一徐二歲額一外、公然分レ之。

【得着】110 tê² chao² ❶得る。出來る。❷通達する。

【得中】111 トクチユウ ❶宜しきを得る。〔易、同人〕柔得レ位得レ中、而應二乎乾一。〔曹植、洛神賦〕穠纖得レ中、修短合レ度。〔傅玄、筆賦〕豐約得レ中、不レ文不レ質。❷試驗に合格する。及第する。❸宋、李建中(**6－14459**‥1135)の字。

【得重】112 トクヘ 姓氏。〔日用重寶記〕。

【得通】113 トクツウ 通力を得ること。〔源平盛衰記、三十六、清章射レ鹿〕得通の聖者にあらず、飛行の神仙にもあらじかし。

【得丁】114 トクテイ 得戶の課程。〔政治要略、六十、太政官符〕應下例損戶課丁與二得丁一同率上事。

【得天】115 トクテン ❶天にかなふ。〔易、恆〕日月得レ天而能久照。〔左氏、僖、二十八〕子犯曰、吉、我得レ天、楚伏二其罪一。〔注〕晉侯上向、故得レ天、楚子下向レ地、故伏二其罪一也。❷清、張照(**4－9812**‥473)の字。

【得點】117 トクテン 勝負や試驗等で得た點數。〔局戲譜〕得點多者勝。

【得度】118 トクド ❶法度を得る。程よいこと。〔戰國、魏策〕王者得レ度、而霸者知レ計。〔王褒、四子講德論〕動作有レ應、從容得レ度。❷佛㋑度を得る。生死の海を渡る。度は生死を海に比し、涅槃を彼岸に比し、生死を超えて涅槃に到ることをいふ〔無量壽經、下〕隨二意所願一、皆可二得度一。㋺出家をすること。〔法華經、二〕衆生不レ能二以レ是得度一。〔白居易、唐撫州景雲寺故律大德上弘和尙石塔碑銘序〕娑婆男女、由レ我得度者。㋩僧尼となる者に朝廷から授けた免許狀。此の法は、印度にはなくて中國に始まり、我が朝に行はれた。天平六年、師に就いて淨行三年の後、法華經・最勝王經の闇誦に通じた者を許可したが、延曆十七年、經論の大義十條を試み、五以上に通じた者には之を許すこととなつた。其の免許狀を告牒・度緣・度牒、又は公驗といふ。〔佛法金湯編、七〕唐中宗神龍二年八月、詔二天下一試二童行經義極通無レ滯者一度レ之、試經度僧始レ此。〔編年通論、十七〕唐肅宗至德二年、聽下白衣能誦二經五百紙一者上度爲レ僧。〔元亨釋書、二十二〕天平六年十一月、尙書省奏、比來度者、不レ考二學修一、只資二官擧一、是乖二法意一、又亂二聖政一、自レ今不レ許二擧度一、只取二才器一、以二妙法華最勝王二經一爲レ科、先背誦、屢問二教義一、中者得レ第、不レ中下第、制可。

【得度式】119 トクドシキ 佛僧尼となる時の式。度牒式。

【得得】120 トクトク ❶わざわざ。特地。唐人の俗語。〔貫休、入レ蜀詩〕一瓶一鉢垂垂老、千水千山得得來。〔蘇軾、岐亭詩〕二年三過レ君、此行眞得得。〔全唐詩話〕貫休入レ蜀、以レ詩投二王建一曰、一瓶一鉢垂垂老、千水千山得得來、唐人方言、得得、言二特地一也。❷得意のさま。意氣のあがるさま。〔王建、洛中張籍新居詩〕雲山且喜重重見、親故應二須得得來一。〔蘇軾、出レ城送レ客不レ及步至二溪上一詩〕會作二堂堂去一、何妨二得得來一。

【得得龕】121 トクトクガン 清、黃知彰(**12－47926**‥1238)の室名。

【得得和尙】122 トクトクヲシヤウ 前蜀、貫休(**10－36681**‥13)の號。

【得德】123 トクトク 清、德宗の時、大南(越)の瑞國公の年號、育德の一稱。一に欲德に作る。(1883)

【得忍】124 トクニン 清、曹爾成(**5－14297**‥250)の字。

【得能】125 トクノウ 姓氏。〔和爾雅〕。

【得符】126 トクフ 唐、楊授(**6－15112**‥202)の字。

【得撫】127 ウルップ 千島の郡名。

【得撫草】128 ウルップサウ 草の名。はまれんげ。ごまのはぐさ科の宿根草で、高山に自生し、八月頃、淡紫色の花を開く。

【得佛】129 トクブツ 佛成佛する。〔法苑珠林〕所レ貴行レ善修レ道、以練二其神一而不レ已、以至二無生一而得佛已。

【得物】130 トクブツ ❶物を得る。〔北史、魏陽平王熙傳〕法壽子慶智性貪鄙、爲二太尉主簿一、事無二大小一、得レ物然後判、或十數錢、或二十錢、得便取レ之、

府中號爲㆓十錢主簿㆒。❷（エモノ）㋑狩獵して得た禽獸の類。獲物。㋺武器。

【得物矢】131 サツヤ　狩獵に用ひる矢。〔萬葉集、三〕梓弓手にとりもちて、ますらをの得物矢手ばさみ立向ふ。

【得票】132 トクヘウ　投票で得た數。

【得便】133 tê^2 pien^4　ついでに。ついでがあらば。

【得鳳】134 トクホウ　鳳雛を得る。俊れた子を持つ喩。〔崔嘏、授㆓裴諗中書舍人㆒制〕臧孫有㆑後、且聞㆓得鳳之音㆒、枚乘多才、雅畜㆓雕龍之妙㆒。〔蘇軾、次㆓前韻㆒答㆓馬忠玉㆒詩〕靈運子孫俱得㆑鳳、慈明兄弟孰非㆑龍。

【得本】135 トクホン　根本を得ること。〔淮南子、泰族訓〕失㆑本則亂、得㆑本則治。

【得民】136 トクミン　民から信頼せられる。人民の歸するところとなる。〔易、屯〕以㆑貴下㆑賤、大得㆑民也。〔疏〕屯難之世、民思㆓其主㆒之時、既能以㆑貴下㆑賤、所㆔以大得㆓民心㆒也。〔周禮、天官、大宰〕以㆓九兩㆒繫㆓邦國之民㆒、一曰、牧、以㆑地得㆑民、二曰、長、以㆑貴得㆑民、三曰、師、以㆑賢得㆑民、四曰、儒、以㆑道得㆑民、五曰、宗、以㆑族得㆑民、六曰、主、以㆑利得㆑民、七曰、吏、以㆑治得㆑民、八曰、友、以㆑任得㆑民、九曰、藪、以㆑富得㆑民。

【得名】137 トクメイ　❶名を見出すこと。〔唐書、張嘉貞傳〕遂得㆓其名㆒、即以爲㆓中書侍郎同中書門下平章事㆒。❷名づけられること。〔聞見前錄〕五代魏仁浦樞密園池中鳥上二品、皆以㆑姓得㆑名。〔愛日樓文集〕此瀑以㆓觀背㆒得㆑名。❸名聲を得る。〔中庸〕故大德必得㆓其位㆒、必得㆓其祿㆒、必得㆓其名㆒、必得㆓其壽㆒。

【得雄】138 トクユウ　❶をすを捕へる。〔例異傳〕陳倉人得㆓異物㆒以獻㆑之、道遇㆓二童子㆒云、此名爲㆑媦、在㆓地下㆒食㆓死人腦㆒、媦乃言、彼二童子名㆓陳寶㆒、得㆑雄者王、雌者霸、乃逐、童子化爲㆑雉、秦穆公大獵、果獲㆓其雌㆒、爲立㆑祠祭、有㆓光雷電之聲㆒。❷男子を生むこと。〔王獻之、阮新婦帖〕阮新婦免㆑身、得㆑雄甚善。〔剪燈餘話、賈靈華還魂記〕慶門誕㆑瓦、寒舍得㆑雄。

【得與】139 トクヨ　淸、劉廷鑾（**2－2224**··1210）の字。

【得輿】140 トクヨ　淸、沈欽圻（**6－17189**··477）の字。

【得用】141 トクヨウ　❶用ひられる。地位を得ること。〔史記、儒林傳〕瑕丘江生、爲㆓穀梁春秋㆒、自㆓公孫弘得㆑用、嘗集㆓比其義㆒。❷ tê^2 yung^4　役に立つ。

【得來】142 tei^3 lai^2　來なければならない。

【得利】143 トクリ　利益を得る。又、お蔭を蒙る。〔史記、五帝紀〕昔高陽氏有㆓才子八人㆒、世得㆓其利㆒、謂㆓之八愷㆒。〔易林〕公孫得㆑利、以享㆓仲友㆒。

【得利嬴】144 トクリエイ　城の名。滿洲遼寧省復縣の東、德立山の上。元末、土人の築いたもの。〔讀史方輿紀要、山東、遼東都指揮使司、復州衞〕得利嬴城、衞東八十里、元季土人、築以避㆑兵、明初、洪武四年、置㆓遼東衞㆒治㆑此、尋徙入㆓司城中㆒、曰㆓定遼後衞㆒。

【得理】145 トクリ　裁判に勝つ。〔剪燈新話、太虛司法傳〕數日之內、蔡州有㆓一奇事㆒、是我得理之時也。

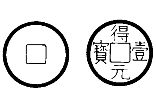
【得力】146 トクリヨク　勢力を得る。〔史記、貨殖傳〕桀黠奴、人之所㆑患也、惟刁閒收取、使㆔之逐㆓漁鹽商賈之利㆒、或連㆓車騎㆒、交㆓守相㆒、然愈益任㆑之、終得㆓其力㆒、起㆓富數千萬㆒。〔後漢書、明德馬后紀〕貴而少㆑子、若養㆓他子㆒者得㆑力、乃當㆑踰㆓於所生㆒。〔通俗編、行事、得力〕北夢瑣言、盧廷讓言、平生投㆓謁公卿㆒、不㆑意得㆓力于猫兒狗子㆒。

【得了】147 tê^2 la　❶よろしい。❷出來た。❸澤山だ。❹よしよし。

【得魯】148 トクロ　淸、邵以貫（**11－39343**··86）の字。

【知㆑得】149 ウルヲシル　まうけることだけ考へる。〔易、乾〕知㆑得而不㆑知㆑喪。

【得壹錢】150 トクイツセン　古錢の名。唐の乾元二年、史思明が國號を大燕といひ、年號を順天と稱し、銅錢を鑄て得壹元寶といつた。〔唐書、食貨志四〕史思明據㆓東都㆒、鑄㆓得壹元寶錢㆒、徑一寸四分。〔泉志〕舊譜曰、得壹錢徑寸三分、重十三銖。



得壹元寶（金石索）

【得瓠軒】151 トクコケン　淸、張九鉞（**4－9812**··912）の室名。

【得樹樓】152 トクジユロウ　室名。❶淸、金淑（**11－40152**··587）の室名。❷淸、査愼行（**6－14643**··103）の室名。❸淸、張玉珍（**4－9812**··934）の室名。

【得騶虞】153 トクスウグ　戲曲の篇名。明、周憲王作。神后が山で騶虞を得て、朝廷に獻ずるの事を演じたもの。

【得錢子】154 トクセンコ　神樂歌の曲名。

【得男藥】155 トクダンヤク　男の子を得る藥。〔晉人雜書、鐘會母張夫人傳〕貴妾孫氏、心害㆓其賢㆒、數讒毀無㆑所㆑不㆑至、及㆓姙娠㆒、愈更嫉妒、乃置㆓藥食中㆒、覺而吐㆑之、孫氏謂㆓成侯㆒曰、妾欲㆓其得㆑男、故飲以㆓得㆑男之藥㆒、反謂㆑毒㆑之、成侯曰、得㆑男藥佳事、闇於㆓食中㆒與㆑人、非㆓人情㆒也、孫氏由㆑是得㆑罪出。

【得寶歌】156 トクハウカ　樂府、雜歌謠辭の一。一名、得寶子。得體歌（103）を見よ。〔唐音癸籤〕先㆑是、民閒多唱㆓得體歌㆒、有㆓潭裏車船鬧、揚州銅器多之句㆒、及㆔陝州得㆓寶符㆒、又歌㆓弘農得寶㆒、後、天寶初、轉運使韋堅穿㆓廣運潭㆒、通㆓吳楚諸郡貨㆒、陝縣尉崔成甫、乃翻㆑之爲㆑歌、其詞用㆓得體㆒、其曲名用㆓得寶㆒、於㆓船頭㆒唱㆑之、玄宗臨觀大悅、下㆑詔褒賞。〔樂府詩集、雜歌謠辭、歌辭、得寶歌〕得㆓寶弘農野㆒、弘農得㆑寶邪、潭裏船車鬧、揚州銅器多、三郎當㆑殿坐、聽㆑昌㆓得寶歌㆒。

【得寶子】157 トクハウシ　樂府、雜歌謠辭の一。唐の玄宗が楊貴妃を得た時、王寶を得たやうだといつたので作られた曲。得寶歌。得體歌（103）を見よ。〔國史補〕玄宗得㆓太眞㆒、謂㆓宮人㆒曰、朕得㆓貴妃㆒、如㆑得㆓玉寶㆒、乃製㆓曲子㆒曰㆓得寶子㆒、自㆑是六宮無㆓復進幸者㆒。

【得文港】158 デボンポート　地名。イギリス軍港の一。イギリス海峽に臨む。普里穆斯軍港ともいふ。Devonport の音譯。「を見よ。

【得壹元寶】159 トクイツゲンパウ　古錢の名。得壹錢（150）

【得過且過】160 トククワシヨクワ　寒號蟲の鳴き聲。人が得意の時には天下に自分に及ぶものが無いといふやうな態度でゐるが、一旦失意となると、意氣沮喪して憐みを乞ふ喩。〔輟耕錄、寒號蟲〕五臺山有㆑鳥、名㆓寒號蟲㆒、四足有㆓肉翅㆒、不㆑能㆑飛、其糞卽五靈脂、當㆓盛暑時㆒、文采絢爛、乃自鳴曰㆓鳳凰不㆑如㆑我、比㆑至㆓深冬嚴寒之際㆒、毛羽脫落、索然如㆓鷇雛㆒、遂自鳴曰㆓得過且過㆒、嗟夫世之人、中無㆑所㆑守者、率不㆑甘㆔湛㆓涪鄉里㆒、必振拔自豪、求㆓尺寸名㆒、詫㆓九族儕類㆒、則便志滿意得、出肆入揚、以爲、天下無㆓復我加㆒矣、及㆔乎稍遇㆓貶抑㆒、遽若㆓喪家之狗㆒、垂㆑首貼㆑耳、搖㆑尾乞㆑憐、惟恐㆔人不㆓我恤㆒、視㆓寒號蟲㆒何異哉、是可㆑哀已。

【得克撒斯】161 テクサス　アメリカ合衆國の中南部の州名。Texas の音譯。

【得靜山人】162 トクセイサンジン　元、許嗣（**10－35298**··104）の號。

【得雋之句】163 トクセンノク　味のある文章の節。〔白居易、與㆓劉蘇州㆒書〕得雋之句、警策之篇、多因㆓彼唱此和中㆒得㆑之。

【得鳥羽月】164 エトリハノツキ　陰曆四月の異名。〔藏玉集〕おく山の下にやまたんえとりはの月。

【於㆑得思㆑喪】165 トクニオイテサウヲオモフ　物を得る際に失つた時のことを考へる。常に心の要を保つてゐること。〔呂覽、愼大〕於㆑安思㆑危、於㆑達思㆑窮、於㆑得思㆑喪。

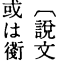
【患㆑得患㆑失】166 ウルヲウレヒウシナフヲウレフ　小人が利祿に心をひかれること。〔論語、陽貨〕鄙夫可㆓與事㆑君也與哉、其未㆑得㆑之也、患㆑得㆑之、既得㆑之、患㆑失㆑之、苟患㆑失㆑之、無㆑所㆑不㆑至矣。

【難㆑得者兄弟】167 エガタキモノハケイテイ　兄弟は人力を以て得られない。故に相親しむべきをいふ。〔北齊書、循吏、蘇瓊傳〕蘇瓊、字珍之、云云、除㆓南清河太守㆒、云云、有㆓百姓乙普明㆒、兄弟爭㆑田、積年不㆑斷、各相援引、乃至㆓百人㆒、瓊召㆓普明兄弟㆒、對㆓衆人㆒諭㆑之曰、天下難㆑得者兄弟、易㆑求者田地、假令得㆑地、失㆓兄弟㆒心如何、因而下㆑淚、衆人莫㆑不㆑灑㆑泣。

【不㆑貴㆓難㆑得之貨㆒】168 エガタキノクワヲタツトバズ　珍らしくて容易に得られないやうな物品を貴ばないこと。〔老子、三〕不㆑貴㆓難㆑得之貨㆒、使㆓民不㆑爲㆑盜。

【𢓭】10138

センゼン　〔集韻〕在演切　銑



小篆

❶**あと**。〔說文〕𢓭、迹也、从㆑彳、戔聲。❷或は衛（**10－34065**）に作る。〔集韻〕𢓭、或从㆑行。

【徬】10139 リ 履(4－7799)に同じ。〔集韻〕履、或作レ徬。

【徫】10140 タウ 趠(10－37192)に同じ。〔集韻〕趠、或从レ彳。

【徘】10141 ハイ バイ 〔集韻〕蒲枚切 灰 ㄆㄞ́ p'ai²

さまよふ。たちもとほる。俳(1－726)に同じ。〔集韻〕俳、徘徊、便旋也、或从レ彳。〔字彙〕徘、徘徊。

参考 元來、俳(1－726)とは別字といふ。〔字彙、辨似、二字相似〕俳、音排、俳優雜戲。徘、音裴、徘徊。

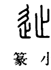
【徘徊】1 ハイクワイ ❶ぶらぶら行く。さまよひあるく。徘徊。〔廣雅、釋訓〕徘徊、便旋也。〔荀子、禮論〕過二故鄉一、則必徘徊焉。〔宋玉、風賦〕徘二徊於桂椒之間一。〔漢書、杜欽傳〕宿夜徘徊、不レ忍二遠去一。〔呂溫、鞏路感懷詩〕我心浩無レ際、河上空徘徊。〔劉廷芝、公子行〕花際徘徊雙蛺蝶、池邊顧步兩鴛鴦。❷心がきまらない。躊躇逡巡。〔劉滄、江行書事詩〕遠渚蒹葭覆二綠苔一、姑蘇南望思徘徊。

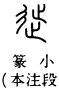
【徘徊菊】2 ハイクワイキク 菊の一種。〔羣芳譜〕徘徊菊、淡白瓣黃、初開時、先吐二瓣三四片一、只開二就一邊一、開至二旬日一、方及二周偏一、花頭乃見二團圓一、按、字書、徘徊爲二不進一、此花之開亦若レ是矣。

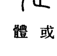
【徘徊輿】3 ハイクワイヨ 輿の名。晉の桓玄は體が肥大で乘馬に堪へなかつたので、此の輿を作つたといはれる。自由に廻轉する輿。〔晉書、桓玄傳〕以二體大不一レ堪二乘馬一、又作二徘徊輿・施轉關一、令二迴動無一レ滯。

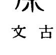
【徘徘徊徊】4 ハイハイクワイクワイ 徘徊する。〔宋書、符瑞志中〕其樂也徘徘徊徊、雍雍喈喈。

【徙】10142 ㊀シ 〔集韻〕想氏切 紙 ㄒㄧˇ hsi³ ㊁シ 〔集韻〕相支切 支


小篆(說文)


小篆(段注本)


或體


古文

㊀❶うつる。うつす。㋑處をかへる。もと辿(11－38757)に作る。〔說文〕徙、迻也、从二辵止一。〔中華大字典〕徙、本作レ辿。〔說文通訓定聲〕辿、今隸體作レ徙、不レ作レ辿。〔廣雅、釋言〕徙、移也。〔玉篇〕徙、遷也。〔周禮、地官、比長〕若徙二于他一。〔注〕徙二於他一、謂三出二居異鄉一也。〔荀子、成相〕百里徙。〔注〕徙、遷也。〔史記、越世家〕范蠡三徙、成二名於天下一。〔史記、郭解傳〕徙二豪家茂陵一。㋺さける。〔廣雅、釋詁三〕徙、避也。㋩かはる。あらたまる。かへる。〔禮、經解〕使三人日徙レ善遠レ罪、而不二自知一也。〔淮南子、原道訓〕徙二裸國一。〔注〕徙、化也。〔沈約、八詠〕既除レ舊而就レ新、故民化而俗徙。㋥こえる。わたる。〔禮、檀弓上〕祥而縞、是月禫、徙レ月樂。㋭すぎる。〔樂府古題〕無レ使二徂齡坐徙一。㋬ながす。しりぞける。貶謫する。〔漢書、陳湯傳〕議免レ湯爲二庶人一徙レ邊。㋣とる。〔國語、吳語〕徙二其大舟一。〔注〕徙、取也。❷さまよふ。徙倚(2)を見よ。❸枝のなびくさま。徙靡(32)を見よ。❹或は征(4－10056)に作り、古は桒(3－5707)・迻(11－39179)・屎(4－7779)に作る。〔集韻〕辿、或从レ彳、亦作レ徙、古作二桒・迻一。〔字彙補〕屎、古文徙字。㊁❶ささへる。あてがふ。抵徙。〔集韻〕徙、一說、抵徙、擬レ手期剋也。❷縣名。徙縣(13)を見よ。〔集韻〕徙、地名、在レ蜀。

解字 段玉裁に依れば、辵と止との會意。行きて止まる、移る意。

【徙迤】1 イシ うつり退く。〔王褒、洞簫賦〕遷延徙迤。〔注〕善曰、遷延徙迤、卻退皃。

【徙倚】2 イシ ❶たちもとほる。さまよふ。低佪。〔楚辭、遠游〕步徙倚而遙思兮。〔注〕徙倚、猶二低佪一也。〔淮南子、俶眞訓〕中徙二倚無形之域一。〔曹植、洛神賦〕徙倚彷徨。〔論衡、變動〕皆在二徙倚漏刻之間一。❷放埒なさま。しまりのないさま。〔淮南子、俶眞訓〕徙二倚于汗漫之宇一。〔注〕徙倚、猶二汗漫一也。

【徙倚軒】3 シイケン 明、金鑾(11－40152・・1093)の室名。

【徙移】4 イシ うつること。〔江淹、水上神女賦〕忽而精飛視亂、意徙心移。

【徙居】5 キョシ 居處を移す。轉居。〔易林、大有之第十四、頤〕多得二馬牛一、利レ踰二徙居一。〔庾信、和三宇文內史入二重陽閣一詩〕顧成始移レ廟、陽陵正徙レ居。

【徙擧】6 キョシ うつしたりあげたりすること。〔荀子、議兵〕徙擧進退、欲二安以重一、欲二疾以速一。

【徙御】7 ギョシ 天子がおうつりになること。〔魏書、尒朱榮傳〕朕徙御北徂、劬二勞鞍甲一。

【徙壞】8 クワイシ うつしこはす。〔漢書、張禹傳〕又徙二壞舊亭一、重非レ所レ宜。

【徙貫】9 クワンシ 籍を改めて他に移すこと。遷居。轉籍。〔唐書、李尙隱傳〕其先出二趙郡一、徙二貫萬年一。

【徙繫】10 ケイシ 身柄をうつして獄につなぐ。〔史記、孝文紀〕徙二繫長安一。〔漢書、張耳傳〕從二其計一、徙二繫武臣等家宮中一。

【徙月】11 ゲツシ つきをこえる。つきごし。〔禮、檀弓上〕徙レ月樂。〔疏〕踰レ月可二以歌一。

【徙業】12 ゲフシ これまでの業を他の業にとりかへる。轉業する。〔韓愈、送二高閑上人一序〕夫外慕徙レ業者、皆不レ造二其堂一、不レ嚌二其胾一者也。

【徙縣】13 ケンシ 縣名。漢、置く。四川省天全縣の東。〔漢書、地理志上〕蜀郡、縣十五、徙。

【徙錮】14 コシ 身柄をうつして獄につなぐ。〔後漢書、謝弼傳〕門生故吏並離二徙錮一。

【徙溝】15 コウシ 運河の名。安徽省靈璧縣の西南、固鎭の東。北は馬路溝に接し、南は澮河に入る。

【徙構】16 コウシ うつし構へる。〔魏書、宣武帝紀〕自二皇基徙構一、光二宅中區一。

【徙散】17 サンシ うつりちる。四散する。〔宋書、文帝紀〕軍民徙散。

【徙日】18 ジツシ 太陽を移す。轉じて、政柄を盜んで橫暴をふるふこと。〔北史、廣平王洛侯傳〕雖レ未二指レ鹿化レ馬、移レ天徙レ日。

【徙舍】19 シヤシ うつる。ひきこす。〔論衡、變虛〕熒惑宜レ有レ動、於レ是候レ之、果徙舍。〔風俗通、十反〕熒惑徙舍。

【徙植】20 ショクシ うつしうゑる。移植。〔沈約、郊居賦〕遷二華扉一而來啓、張二高衡一而徙植。

【徙遷】21 センシ うつる。又、住所等が移轉すること。〔歐陽脩、觀文殿大學士行兵部尙書云云晏公神道碑銘〕其世次晦顯、徙遷不レ常。

【徙善】22 ゼンシ 善に移る。〔禮、經解〕使三人日徙レ善遠レ罪、而不二自知一也。

【徙道】23 ダウシ 移轉の道。他處に移轉する方法。〔荀子、禮論〕具二生器一以適レ墓、象二徙道一也。〔注〕徙、遷改也、徙道、其生時之道、器當レ在レ家、今以適レ墓、以象下人行不レ從二常行之道一、更徙中他道上也。〔集解〕郝懿行曰、徙者、迻也、象二徙道一者、謂二如レ將レ迻レ居然一耳、亦不レ忍レ死二其親一之意。

【徙宅】24 タクシ 轉居する。〔孔子家語、賢君〕寡人聞、忘之甚者、徙レ宅而忘二其妻一、有レ諸。〔拓跋興宗、請二致仕侍一レ親表〕恩深二徙宅一、慈過二折萋一。

【徙宅之賢】25 シタクノケン 孟子の母が教育に力を注いだこと。孟母三遷(3－6960・・254)を見よ。〔白居易、與二嚴礪一詔〕秩貴二冬官一、以表二過庭之訓一、封榮二石窌一、用旌二徙宅之賢一。

【徙治】26 チシ 地方政廳をうつす。〔史記、秦紀〕鎭二撫邊境一、徙二治櫟陽一。

【徙逐】27 チクシ うつしはなつこと。ながす。おふ。〔史記、高祖紀〕項羽皆王二諸將善地一、而徙二逐故主一。

【徙都】28 トシ 都をうつす。遷都。〔史記、周紀〕自二岐下一而徙都レ豐。

【徙任】29 ニンシ 任地を移す。轉任。〔宋書、王僧達傳〕除二宣城太守一、頃之徙二任義興一。

【徙播】30 ハシ うつる。〔徐陵、爲二貞陽侯一與二王大尉僧辨一書〕昔隆周徙播、皆憑二晉鄭之功一。

【徙廢】31 ハイシ うつしはいする。〔後漢書、第五倫傳〕卒使三陰就歸レ國、徙二廢陰興賓客一。

【徙靡】32 ビシ 枝がなびくさま。〔宋玉、高唐賦〕徙靡澹淡、隨レ波闇藹。〔注〕徙靡、言二枝往來靡靡然一。

【徙蹕】33 シヒツ 鹵簿をうつす。轉じて、王者の車をたちよらせること。〔庾信、三月三日華林園馬射賦〕悵二徙蹕之留歡一、眷二廻鑾之餘舞一。

【徙邊】34 シヘン 邊地にながす。〔漢書、陳湯傳〕其免レ湯爲二庶人一徙レ邊。〔後漢書、安帝紀〕詔、自二建初一以來、諸妖言它過坐二徙邊一者、各歸二本郡一。

【徙木】35 シボク 木をうつす。徙木之信を見よ。

〔徙木之信〕36 シボクノシン 欺かないことを明かにする義。秦の商鞅は其の政令を下すに先だち、民が己を信じないのを恐れて、三丈の木を南門に置き、懸賞金をかけて北門に遷させた故事。〔史記、商君傳〕令既具未レ布、恐二民之不一レ信レ己、乃立二三丈之木於國都市南門一、募レ民、有下能徙置二北門一者上、予二十金一。民恠レ之莫二敢徙一。復曰、能徙者予二五十金一。有二一人一徙レ之、輒予二五十金一、以明レ不レ欺。〔蘇軾、秦始皇論〕商鞅立二信於徙木一、立二威於棄灰一。

【徙民】37 シミン 民を他郷に遷す。又、遷つて來た民。〔管子、四時〕修二禁徙民一。〔史記、平準書〕以給二徙民一。

【徙癰】38 シヨウ 癰を外へうつしてなほすこと。〔南史、薛伯宗傳〕薛伯宗善徙二癰疽一。公孫泰患レ背、伯宗爲レ氣封レ之、徙二置齋前柳樹上一、明旦癰消。

【徚】10143 トウ ツ 〔集韻〕都籠切 東

ゆくさま。〔玉篇〕徚、行皃。〔集韻〕徚、徚然、行皃。

【⿰彳立】10144 キフ コフ 〔篇韻〕乞及切 緝

人の衆いさま。⿰彳立集。〔篇韻〕⿰彳立、⿰彳立集、人衆皃。

【⿰彳匋】10145 タウ ドウ 〔集韻〕徒刀切 豪

ゆくさま。徭⿰彳匋。〔集韻〕⿰彳匋、徭⿰彳匋、行皃。

【⿰彳函】10146

一 カン ゴン 〔字彙〕胡男切 覃

二 カン ゴン 〔字彙〕胡感切 感

一二 **水が船に入る。**〔字彙〕⿰彳函、水入レ船也。

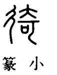
【徑】10147 ケイ 徑(**4－10118**)の本字。〔字彙〕徑、徑本字。

【徛】10148

一 キ 〔集韻〕丘奇切 支

二 キ ギ 〔廣韻〕渠綺切 紙

三 キ 〔集韻〕居義切 寘 ㄐㄧˋ chi^{4}


小篆

一 **脛を擧げてわたる。**〔說文〕徛、擧レ脛有レ渡也、从レ彳奇聲。二 **立つ。**〔廣韻〕徛、立也。三 ❶**とびいし。**石を水中に排べて、渡渉の足がかりとするもの。〔爾雅、釋宮〕石杠謂二之徛一。〔注〕聚二石水中一以爲二步渡彴一也。〔廣雅、釋室〕徛、步橋也。❷**脛を擧げてわたる。**一に同じ。〔集韻〕徛、一曰、擧レ脛有レ所レ渡。❸或は⿰彳寄(**4－10227**)に作る。〔集韻〕徛、或从レ寄。

【徜】10149 シヤウ ジヤウ 〔集韻〕辰羊切 陽 ㄔㄤˊ ch'ang^{2}

❶**さまよふ。**徜徉の❶を見よ。❷**たはむれる。**徜徉の❷を見よ。

【徜徉】1 シヤウヤウ ❶さまよふ。たちもとほる。ゆきつもどりつする。徘徊。〔玉篇〕徜、徜徉、猶二徘徊一。〔韓愈、送三李愿歸二盤谷一序〕膏二吾車一兮、秣二吾馬一、從二子于盤一兮、終二吾生一以徜徉。〔李邕、石賦〕降二神女一以徜徉。〔文同、超然臺賦〕倚二泰山一兮聊徜徉。❷たはむれる。〔廣雅、釋訓〕徜徉、戲蕩也。〔王念孫疏證〕宋玉風賦、倘二佯中庭一、楚辭惜誓、託二回飇乎尙羊一、王逸注、尙羊、遊戲也、淮南子覽冥訓、尙二佯冀州之際一、漢書禮樂志郊祀歌云、周流常羊思所レ幷、後漢書張衡傳思玄賦、悵相佯而延佇、文選作二徜徉一、竝字異而義同。

〔徜徉容與〕2 シヤウヤウヨウヨ ゆつたりとして氣の長いこと。〔蘇洵、審敵〕猶且徜徉容與、若レ不レ足レ慮。

【⿰彳知】10150 チ ヂ 〔玉篇〕直知切 支

ゆく。〔玉篇〕⿰彳知、行也。

【徝】10151

一 チ 〔玉篇〕竹志切 寘

二 チョク チキ 〔集韻〕竹力切 職

一 **ほどこす。**〔玉篇〕徝、施也。二 **のぼる。**陟(**11－41659**)に同じ。〔集韻〕陟、說文、登也、或作レ徝。

【從】10152

一 シヨウ ジユ 〔集韻〕牆容切 冬 ㄘㄨㄥˊ ts'ung$^{1\cdot 2}$ ㄗㄨㄥ tsung^{1}

二 シヨウ ジユ 〔集韻〕才用切 宋 ㄗㄨㄥˋ tsung^{4}

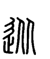
三 ソウ ス 〔集韻〕祖動切 董

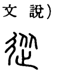
四 シユウ ジユ 〔集韻〕鉏弓切 東

五 サウ ザウ 〔集韻〕鉏江切 江

六 シヨウ シユ 〔集韻〕足勇切 腫

慣 ジユウ


小篆（說文）


小篆（段注本）

一 ❶**したがふ。**㋑きいれる。从(**1－362**)に同じ。〔集韻〕从、說文、相聽也、隸作レ從。〔書、洪範〕言曰レ從。〔禮、樂記〕率レ神而從レ天。㋺すなほ。しとやか。〔禮、孔子閒居〕氣志既從。〔注〕從、順也。〔管子、四稱〕行義不レ從。〔注〕從、順也。㋩すなほにものいふ。〔左氏、昭、十二〕不レ昭不レ從。〔注〕言順曰レ從。㋥さからはない。追從。〔書、益稷〕汝無三面從退有二後言一。〔國語、吳語〕以レ從逸二王志一。〔注〕從、隨也。㋭くだる。なつく。服從する。〔公羊、宣、十二〕告レ從。〔注〕從、服從。㋬をしへをまもる。〔禮、郊特牲〕婦人從レ人者也。〔注〕從、謂レ順二其教令一。㋣よりそふ。ちかづく。〔禮、曲禮上〕必操二几杖一以從レ之。〔公羊、莊、十三〕曹子手レ劍而從レ之。〔注〕從、隨也。〔禮、檀弓下〕如レ有レ從而弗レ及。〔注〕從、隨也。㋠つく。〔廣雅、釋詁三〕從、就也。〔禮、檀弓下〕從而謝焉。〔注〕從、猶レ就也。〔左氏、成、十七〕從而歌レ之。〔注〕從、就也。㋷ならふ。〔禮、雜記下〕弔非レ從二主人一也。〔注〕從、隨也。㋦なす。あつかふ。しごとをする。〔管子、正世〕知二得失之所一レ在、然後從レ事。〔注〕從、爲也。❷**したがつて。**つれて。よつて。ともなつて。〔左氏、隱、六〕長惡不レ悛、從自及也。〔注〕從、隨也。❸**順序。**〔左氏、昭、五〕豎牛禍二叔孫氏一使レ亂二大從一。〔經義述聞、使亂大從〕五年傳、豎牛、云云、釋文・正義並引二服虔注一曰、使レ亂二大和順之道一、云云、言二立レ適大順一也、云云、亂レ從、猶レ言レ犯レ順。❹**おふ。**〔詩、齊風、還〕並驅從二兩肩一兮。〔傳〕從、逐也。〔左氏、成、十六〕晉韓厥

從二鄭伯一。〔注〕從、逐也。〔呂覽、恃君〕筋骨不レ足二以從レ利避レ害。〔注〕從、隨也。❺より。から。自(9－30095)に同じ。段々に經歷する意に用ひる。〔爾雅、釋詁〕從、自也。〔詩、小雅、何人斯〕伊誰云從。〔箋〕譖レ我者、是從レ誰生乎。〔孟子、離婁下〕施施從レ外來。〔漢書、樊噲傳〕從二山下一歸二霸上軍一。❻よる。たよる。〔漢書、外戚傳上〕欲レ貴二其小女一、道無レ從。〔注〕從、因也、由也。❼あつまる。あはせる。〔大戴禮、夏小正〕鹿人從。〔注〕從、羣也。〔戰國、秦策〕從而伐レ齊。〔注〕從、合也。❽たて。南北。或は縱(8－27819)に作る。〔集韻〕從、東西曰レ衡、南北曰レ從、或从レ糸。〔詩、齊風、南山〕衡二從其畝一。〔釋文〕衡、亦作二橫字一、韓詩云、東西耕曰レ橫、從、韓詩作レ由、云、南北耕曰レ由。〔荀子、賦〕以能合從。〔注〕從、豎也。❾あと。蹤(10－37823)に通ず。〔字彙補〕從、與レ蹤同。〔史記、聶政傳〕重自刑以絕レ從。〔漢書、張湯傳〕從迹安起。❿かさなる。かさねる。緟(8－27650)に通ず。〔說文通訓定聲〕從、叚借爲レ緟。〔爾雅、釋詁〕從、重也。⓫うれへる。慫(4－11127)に通ず。〔說文通訓定聲〕從、叚借爲レ慫。〔太玄經、失〕卒而從而。〔注〕從、憂懼卒至之貌也。⓬牛の子。豵(10－36453)に通ず。〔說文通訓定聲〕從、叚借爲レ豵。〔顏氏家訓、書證〕從、牛子。⓭玉の名。琮(7－21071)に通ず。〔說文通訓定聲〕從、叚借爲レ琮。〔左氏、昭、十三〕子玉、觀從。⓮ゆるやか。身のこなし。從容(200)の❶を見よ。⓯姓。〔萬姓統譜〕從、東莞角音、漢將軍從公之後。⓰〖現〗手段。方法。〖二〗❶したがふ。したがへる。㋑めしつれる。めしつれられる。もと𨑨(11－38734)に作る。〔康熙字典〕從、說文、本作レ𨑨。〔說文〕𨑨、隨行也、从二从辵一、从亦聲。〔漢書、項籍傳〕有二美人一、姓虞氏、常幸從。㋺ひきゐる。〔太玄經、玄錯〕從也牽。〔淮南子、氾論訓〕禽獸可二羈而從一也。〔注〕從、猶レ牽也。㋩つきそふ。〔左氏、僖、三十三〕敢犒二從者一。〔論語、公冶長〕從レ我者、其由也歟。〔漢書、樊噲傳〕噲等四人步從。〔南齊書、豫章王嶷傳〕車馬數遊幸、唯嶷陪從。㋥もつて行く。〔禮、王制〕九十者天子欲レ有レ問焉、則就二其室一以レ珍從。❷とも。つきそひ。〔漢書、張騫傳〕其少從。〔注〕師古曰、漢時謂下隨レ使而出二外國一者上爲二少從一、總二言其少年而從レ使也、從、音材用反。〔後漢書、襄楷傳〕車馬塡レ街、徒從無レ所レ止。❸めしつかひ。しもべ。〔廣雅、釋詁一〕從、使也。〔書、冏命〕其侍御僕從。❹送る。〔呂覽、節喪〕諸養レ生之具、無二不レ從者一。〔注〕從、送也。❺行く。〔廣雅、釋詁一〕從、行也。〔大戴禮、夏小正〕嗇人不レ從。〔注〕不レ從者、弗レ行。❻父方の血族。己と血統を同じくして、家系の異る者。今は母方にもいふ。〔集韻〕從、同宗也。〔釋名、釋親屬〕父之世叔父母、曰二從祖父母一、言下從二己親祖一、別而下上也、亦言下隨二從己祖一以爲上名也。❼そへ。位は同じで級の卑いもの。〔文獻通考、職官考〕後魏以二九品一分二正從一、隋唐以來因レ之。❽ほしいまま。縱(8－27819)に通ず。〔說文通訓定聲〕從、叚借爲レ縱。〔禮、曲禮上〕欲不レ可レ從。〔釋文〕從、縱也。❾はなつ。〔論語、八佾〕從レ之純如也。〔集解〕何晏曰、從、讀曰レ縱。〔集注〕從、放也。〖三〗〖四〗高大なるさま。〔集韻〕從、高大皃。〔禮、檀弓上〕爾毋二從從爾一。〔注〕從從、謂二高大一。〖五〗髮を高くむすぶ。鬆(12－45470)に同じ。〔集韻〕鬆、髻高也、或作レ從。〖六〗慫(4－11127)に同じ。〔集韻〕慫、方言、慫涌、勸也、或作レ從。

〖名乘〗ヨリ。ツグ。

〖解字〗會意形聲。从と辵との合字。从は、相したがふ義。辵は、ゆくの義。故に𨑨は相隨ひ行く義。从は又、音符。〔說文通訓定聲〕從、隨行也、从レ辵从レ从、會意、从亦、聲。

〖參考〗从は平聲、從は去聲。从は、人の言にしたがふ意。叚借して從に通ず。從はしたがひ行く意。又、叚借して从に通ず。よつて、聲も亦平去互に通ずる。今は動詞は平聲、名詞は去聲にするのが普通である。〔說文、从、段注〕从、疾容切、九部、以二今音一言レ之、从亦可二去聲一、𨑨、慈用切、九部、按、大徐以二去韻一別二於平韻一、非也、當二疾容切一。〔說文通訓定聲〕从、叚借爲レ從、從、叚借爲レ从。〔正字通〕從、本作レ从、通作レ從、𨑨、同レ從、亦作レ从。

【從惡】1（ジュウアク） 惡いことをする。〔國語、周語下〕諺曰、從レ善如レ登、從レ惡如レ崩。

【從姨】2（ジュウイ） 母方のいとこをば。〔釋親考〕從姨。

【從意】3（ジュウイ） 心のまま。又、人の意志に從ふこと。〔張懷瓘、書斷〕臨レ事適レ宜、從レ意適レ便。

【從違】4（ジュウキ） 服從と違背。〔日本外史、德川氏前記、豐臣氏上〕任二吾從違一。

【從游】5（ジュウイウ） ❶したがひあそぶこと。〔史記、仲尼弟子傳〕子路喜從游。〔蘇軾、范文正公文集序〕彼三傑者、皆得レ從二之游一。❷從學する。〔史記、五宗世家〕河閒獻王、德好二儒學一、山東諸儒、多從レ之游。

【從優】6（ジュウイウ） 優待する。從優議卹を見よ。

〖從優議卹〗7（ジュウイウギジュツ） 官吏の死後、其の生前の功勞を銓衡して特典を與へること。〔淸會典事例、吏部、世爵、八旗世爵承襲〕如二奉旨從優議卹一者、仍按二品級一議二給世職一。

〖從優議敍〗8（ジュウイウギジョ） 論功行賞の場合などに、成るべく優待する意味で議し敍すること。〔淸會典事例、兵部、議敍通例、軍功議敍〕招二撫僞王竊據之府城一者、臨時酌量從優議敍、爲二頭等第一軍功一、招二撫府城一爲二一等軍功一、州城爲二二等一、縣城爲二三等一、衞所城爲二四等一、有名寨崖爲二五等一。

【從一】9（ジュウイツ） 字號。❶唐、竇懷貞(8－25695‥62)の字。❷唐、李嘉祐(6－14459‥920)の字。

〖從一而終〗10（ジュウイツニシテヲフ） 婦人が操を守つてふたたび嫁せずに終るのをいふ。一は貞一。〔易、恒〕婦人貞吉、從一而終也。〔疏〕從一而終者、謂二用レ心貞一一也、從二其貞一一而自終也。

【從逸】11（ショウイツ） ほしいままにする。又、其のこと。縱逸。〔國語、吳語〕婉二約其辭一、以從二逸王志一。

【從陰】12（ショウイン） 合從してひそかに交はること。〔韓非子、說疑〕從陰約結、以相固也。

【從衞】13（ジュウヱイ） ともまはり。〔宋史、張浚傳〕先レ是靖康城破、金人乘レ勢勳二掠左右一、張邦昌爲二之從衞一。

【從要】14（ショウエウ） 戰國の世に、六國が同盟して秦に當つた合從の約束。從約。〔後漢書、馬融傳〕昔毛遂廝養、爲二衆所一レ嗤、終以二一言一、克定二從要一。

【從偃】15（ジュウエン） 唐、韓公武(12－43159‥286)の字。

【從淵】16（ジュウエン） 淵の名。舜が浴した處といふ。〔山海經、大荒南經〕大荒之中有レ淵、四方四隅皆達、北屬二黑水一、南屬二大荒一、北旁名曰二少和之淵一、南旁名曰二從淵一、舜之所レ浴也。

【從翁】17（ジュウヲウ） 叔父をいふ。〔稱謂錄、父之弟、從翁〕王定保摭言、從翁丞相溥、謂二其叔父一也。

【從何】18（ジュウカ） ❶どうして。如何樣にして。〔詩法詳論、語解〕從レ何得レ道懷惆悵。❷何から。どこから。

【從珂】19（ジュウカ） 後唐の廢帝、李從珂(6－14459‥1427)の名。

【從家】20 ts'ung² chia¹ 花嫁に附添ふ侍女。

【從駕】21（ジュウガ） 天子の行幸にしたがふ。〔後漢書、郭惠傳〕建武七年、代二張堪一爲二光祿勳一、從二駕南郊一。

【從行】22（ジュウカウ） 從つて行く。ついてゆく。〔漢書、司馬遷傳〕今天子接二千歲之統一、封二泰山一、而予不レ得二從行一。

【從衡】23 シヨウカウ 合從連衡の策をいふ。縱橫。〔韓非子、五蠹〕故羣臣之言二外事一者、非レ有レ分二於從衡之黨一。〔史記、張儀傳贊〕夫言二從衡一彊レ秦者、大抵皆三晉之人也。〔史記、六國表序〕從衡短長之說起、矯稱蠭出。〔淮南子、泰族訓〕張儀蘇秦、約二從衡之事一、爲二傾覆之謀一、濁二亂天下一、撓二滑諸侯一。

【從革】24 ジユウカク 柔かで思ふままに形を變へる。〔書、洪範〕木曰二曲直一、金曰二從革一。〔傳〕金可二以改更一。〔蔡傳〕從革者、從而又革也。〔王先謙孔傳參正〕從革者、言下金可二從順一、又可中變革上、史記集解引レ馬云、金之性、從レ人而更可二銷鑠一、說文、金、從革不レ違、亦以二從革一爲二從レ人而更一、則從與レ革當二分訓一。

【從學】25 ジユウガク 師について學ぶ。〔玉洲畫趣〕其畫蹟、愚意に應じ申し候はざる故、左まで從學致さず候。

【從扞】26 ジユウカン つき從つて害を防ぎまもること。〔左氏、襄、二十六〕臣不佞、不レ能下負二羈紲一以從中扞牧圉上。

【從諫】27 ジユウカン 諫にしたがふこと。〔書、伊訓〕先王肇修二人紀一、從レ諫弗レ咈。〔漢書、梅福傳〕昔高祖納レ善若レ不レ及、從レ諫若レ轉レ圜。

【從簡】28 ジユウカン 金、高守約（**12－45313**‥1214）の「字」。

【從姬】29 ジユウキ めかけ。そばめ。側室。〔史記、日者傳〕食飮驅馳、從姬歌兒、不レ顧二於親一、犯レ法害レ民、虛二公家一、此夫爲レ盜不レ操二矛弧一者也。

【從騎】30 ジユウキ 騎馬の從者。〔史記、信陵君傳〕公子引レ車入レ市、侯生下見二其客朱亥一、故久立與語、從騎皆竊罵二侯生一、公子色終不レ變。〔魏志、公孫瓚傳〕瓚乃退レ入空二亭中一、約二其從騎一曰、今不レ衝レ之則死盡矣。

【從義】31 ジユウギ 宋、馬鈺（**12－44572**‥128）の初「名」。

【從擬】32 ジユウギ だんだんつみをあてる。〔福惠全書、郵政部、稽查徒犯〕有下因二命案一而從擬者上。

【從舅】33 ジユウキウ 母方のいとこをぢ。〔爾雅、釋親〕母之從父晜弟爲二從舅一。〔世說新語、巧藝〕鍾會是荀濟北從舅。

【從吉】34 ジユウキチ ㊀喪中、吉禮を用ゐる。又、吉禮に易へること。〔書、顧命、太保太史太宗皆麻冕彤裳、疏〕太保太史有レ所レ主者、則純如二祭服一、暫從レ吉也。〔晉書、孟陋傳〕喪レ母毀瘠、殆二于滅性一、不二飮レ酒食レ肉十有餘年、親族迭謂レ之、然後從レ吉。〔齊家寶要〕今多有下爲二嫁娶慶賀諸事一、冒レ禁忘レ哀、釋レ服從レ吉者上、而且公然於二簡帖中一直書二從吉二字一、眞可二痛哭流涕一矣。〔通俗編、儀節、從吉〕唐律、不孝條、居二父母喪一、釋レ服從レ吉徒三年、疏議云、謂下制未レ終而著二吉服一者上。㊁字號。㋑元、鄒伯顏（**11－39562**‥113）の字。㋺明、孫隆（**3－6987**‥297）の字。

【從玉】35 ジユウギヨク 宋、何粲（**1－511**‥81）の字。

【從禽】36 ジユウキン 鳥獸を追逐する。田獵をいふ。〔易、屯〕卽レ鹿无レ虞以從レ禽也、君子舍レ之。〔左思、蜀都賦〕從二禽於外一、巷無二居人一。〔張元正、臨レ淵羨レ魚詩〕不レ應二同逐一レ鹿、詎肯比二從禽一。

〖從禽之娛〗37 ジユウキンノタノシミ 狩獵のたのしみ。〔魏志、高堂隆傳〕以二一日從禽之娛一、而忘二無垠之釁一。

【從化】38 ジユウクワ ㊀新論の篇名。㊁縣名。㋑唐、置く。廣西省橫縣の東北の從化鄕。㋺明、置く。廣東省番禺縣の東北。流溪水の西北岸に位す。〔讀史方輿紀要、廣東、廣州府〕從化縣、本增城縣地、宏治元年、峒獠談觀福恃レ險爲レ亂、討平レ之、三年、析置二今縣治一。〔淸史稿、地理志〕廣東、廣州府、縣十四、從化。

【從科】39 ジユウクワ 罪のよつておこる所。〔福惠全書、蒞任部、考經承〕雖レ有二看語爲一レ據、莫レ識レ從レ科。

【從會】40 ジユウクワイ したがひおもむくところ。〔後漢書、鄧禹傳論〕鄧公嬴レ糧徒步、觸二紛亂一而赴二光武一、可レ謂レ識レ所二從會一矣。

【從魁】41 ジユウクワイ 叢辰の名。十二月將の一。日と月とが三月に西宮に於て相會するをいふ。月將（**5－14330**‥165）の㊀及び十二月將（**2－2695**‥420）を見よ。

【從官】42 ジユウクワン ㊀官名。㋑つきしたがふ官。〔史記、黥布傳〕帳御飮食從官、如二漢王居一。〔楊惲、報二孫會宗一書〕摠二領從官一。㋺後世、文學親近の官をいふ。〔韓愈、月蝕詩、效二玉川子作一〕從官百餘座。㋩侍從の官。〔漢書、元帝紀〕令下從官給事宮司馬中者、得中爲二大父母父母兄弟一通籍上。〔注〕從官、親二近天子一、常侍從者、皆是也。〔容齋續筆、侍從官〕自二觀文殿大學士一至二待制一爲二侍從官一、令文所レ載也、紹興三十一年、元顏亮死二于廣陵一、車駕將レ幸二建康一、從官列銜、上奏乞二同班入對一、時湯岐公以二大觀文一爲二行宮留守一、寄レ聲欲二聯合衆一、以二名位不一レ同爲レ辭、岐公曰、思退亦侍從也、然竟不レ克レ從、紹熙二年、吏部鄭尙書僑上章乞レ薦レ士、詔令在二內近臣一、臺諫在二外侍從一、各擧二六人一、堪レ充二朝士一者、吏部遍牒、但及三內任從官、與二在外待制以上一、而前宰相執政皆不レ預、安有二從官得レ薦レ人而舊弼乃不一レ然、有司之失也。㊁星の名。〔晉書、天文志上〕積卒十二星、在二房心南一、云云、從官二星、在二積卒西北一。

【從緩】43 ts'ung² huan³ ゆつくりと。

【從軍】44 ジユウグン いくさに行く。從戎。〔史記、東越傳〕舊從レ軍無レ功。〔漢書、高帝紀下〕諸侯子及從レ軍歸者。〔溫庭筠、陳琳墓詩〕莫レ怪臨レ風倍惆悵、欲下將二書劍一學中從軍上。

〖從軍行〗45 ジユウグンカウ 樂府、相和歌辭、平調曲の名。一名、苦哉從軍行。軍旅の苦辛を敍したもので、魏の左延年の苦哉邊地人に始まる。後、陸機・顏延之の從軍行に苦哉遠征人の一句を起首に冠した事から、王褒は遠征人、鮑溶は苦哉遠征人、李益は從軍有苦樂行、戎昱は苦哉行を篇名とした。〔樂府詩集、相和歌辭、平調曲、從軍行〕古今樂錄曰、從軍行、王僧虔云、荀錄所レ載、左延年苦哉一篇、今不レ傳、樂府解題曰、從軍行、皆軍旅苦辛之辭、廣題曰、左延年、辭云、苦哉邊地人、一歲三從レ軍、三子到二燉煌一、二子詣二隴西一、五子遠鬪去、五婦皆懷身、陳伏知道、又有二從軍五更轉一。〔王粲、從軍詩、注〕善曰、魏志曰、建安二十年三月、公西征二張魯一、魯及五子降、十二月至レ自二南鄭一、是行也、侍中王粲、作二五言詩一、以美二其事一。

〖從軍記者〗46 ジユウグンキシヤ 新聞社又は雜誌社から派遣されて、軍隊に從つて戰地に赴く記者。

【從兄】47 ジユウケイ ㊀同祖伯叔の子で、己より年長の者。年上のいとこ。〔爾雅、釋親〕兄之子、弟之子、相謂爲二從父晜弟一。〔釋親考〕丘氏曰、今稱二從兄從弟一、俗云二堂兄堂弟一。〔戰國、韓策〕申子請レ仕二其從兄官一、昭侯不レ許也、申子有二怨色一。〔後漢書、馬稜傳〕稜、字伯威、援之族孫也、少孤、依二從兄毅一共二居業一。㊁兄に從ふ。〔孟子、離婁上〕仁之實、事レ親是也、義之實、從レ兄是也。

〖從兄子〗48 ジユウケイシ いとこの子。〔史記、魏其武安侯傳〕孝文后從兄子也。

〖從兄弟〗49 ジユウケイテイ いとこ。〔南史、袁昂傳〕從兄提養訓教、示以二義方一。〔蜀志、許靖傳〕許靖少與二從弟劭一俱知レ名。

〖從兄弟門中〗50 ジユウケイテイモンチユウ 伯叔父をいふ。〔顏氏家訓、風操〕世父叔父、則稱二從兄弟門中一。

【從刑】51 ジユウケイ 法律用語。主刑に對して附隨の刑をいふ。主刑に對して、附隨して公權を褫奪沒收するやうなもの。

【從輕】52 ジユウケイ ㊀輕い方に從ふ。罪を決める場合に、過重にならぬやうにすること。〔孔子家語、三恕〕從レ輕勿レ爲レ先、從レ重勿レ爲レ後。〔虞世南、賦得レ愼レ罰詩〕政寬思レ濟レ猛、疑レ罪必從レ輕。㊁ ts'ung² ch'ing¹ 輕く。緩に。

【從敎】53 サモアラバアレ ままよ。遮莫。〔詩法詳論、語解〕從敎下二鳳凰一。

【從業】54 ジユウゲフ 從事（80）に同じ。

〖從業員〗55 ジユウゲフヰン 或る仕事に就いてゐる者。

【從遣】56 ジユウケン まかす。ゆるす。〔唐無名氏、詩〕從遣乘レ春更北飛。

【從獻】57 ジユウケン そへて獻上するもの。〔周禮、夏官、量人〕凡祭祀饗賓、制二其從獻脯燔之數量一。

【從權】58 ts'ung² ch'üan² 臨機の處置。

【從元】59 ジユウゲン 宋、程卓（**8－25081**‥99）の字。

【從古】60 ジユウコ 宋、陳從吉（**11－41698**‥969）の一名。

【從姑】61 ジユウコ 父の從父姊妹をいふ。〔爾雅、釋親〕父之從父姊妹、爲二從祖姑一。〔晉書、皇甫謐傳〕城陽太守梁柳、謐從姑子也。〔傅咸、贈二何劭王濟一詩〕咸從姑之外孫也。

【從公】62 ジユウコウ ㊀君主にしたがふ。〔詩、秦風、駟鐵〕公之媚子、從レ公于狩。㊁友達にしたがふ。〔李商隱、彭城公薨後贈三杜二十七勝李十七藩二君並與レ愚同出二故尙書安平公門下一詩〕梁山兗水約レ從レ公、兩地差池一旦空。㊂ ts'ung² kung¹

公事をつとめる。義務を履行する。

【從⿰阝虫】63 ジュウコウ 山名。雲南省文山縣の西。〔廣韻〕⿰阝虫、從⿰阝虫、山名、在二雲南一。〔漢書、地理志上、益州郡來唯、注〕從⿰阝虫山出レ銅。

【從厚】64 ジュウコウ 後唐の愍帝、李從厚（**6－14459**··1431）の名。

【從佐】65 ジュウサ したがひたすける。又、したがひたすけるしたやく。〔後漢書、周燮傳〕年三十、爲二尉從佐一。〔注〕從佐、謂二隨從而已、不レ主二案牘一也。

【從坐】66 ジュウザ 罪に連坐する。まきぞへによって罪を加へられる。〔張俊、爲二吳令謝詢一求下爲二諸孫一置中守冢人上表〕擧レ勞則力輸二先代一、論レ德則惠存二江南一、正レ刑則罪非二晉寇一、從レ坐則異世已輕。

〔從坐減〕67 ジュウザゲン 連坐した者の處罰は主犯より一等を減ずるをいふ。〔唐律、名例、一人有議請減〕若二從坐減、自首減、故失減、公坐相承減一、又以二議請減之類一得二累減一。〔疏議〕從坐減者、謂三共犯罪、造意者爲レ首、隨從者減二一等一。

【從嫂】68 ジュウサウ ❶從兄の妻。〔晉書、王彪之傳〕王彪之曰、今上年出二十歲一、垂二婚冠一、反令三從嫂臨レ朝示二人君幼弱一。〔釋親考〕從嫂、蓋從兄之妻。❷長兄の妻。〔稱謂錄、長兄之妻、從嫂〕讀書偶記、國朝蔡文勤公、二從嫂孀居、月給以レ糧。

【從士】69 ジュウシ おとものさむらひ。つきそひの武士。

【從子】70 ジュウシ ❶母の姊妹の子。〔大學衍義補、明二禮樂一、家鄉之禮〕古人姊妹、於二兄弟之子一、且有二稱吟一、顧兄弟於二兄弟之子一、獨無レ稱焉、古謂二同祖兄弟一爲二從兄弟一、謂二母姊妹一爲二從母一、則當下稱二從子一爲上レ是。❷兄弟の子。をひ。姪。〔襄陽耆舊傳〕後漢龐德公、云云、德公從子統。〔朱子語錄〕漢人謂レ姪爲二從子一、卻得二其正一、蓋伯叔皆從父也。〔朱子全書、禮、儀禮〕據レ禮、兄弟之子、當下稱二從子一爲上レ是、自二曾祖一而下、三代稱二從子一。

【從之】71 ジュウシ 字號。❶宋、孫逢吉（**3－6987**··538）の字。❷宋、鄭士懿（**11－39647**··395）の字。❸宋、鄭立中（**11－39647**··570）の字。❹金、王若虛（**7－20823**··1642）の字。❺清、翟善（**9－28727**··29）の字。

【從史】72 ジュウシ 官名。漢、置く。官僚に隨從する者。官吏の從者又は屬僚。從吏。〔史記、袁盎傳〕袁盎自下其爲二吳相一時上、嘗有二從史一、盜二愛盎侍兒一。〔漢書、兒寬傳〕除爲二從史一。〔注〕師古曰、從史者、但只隨二官僚一、不レ主二文書一。

【從死】73 ジュウシ 死者を慕って追死すること。おひばら。〔史記、秦紀〕獻公元年、止二從死一。〔漢書、匡衡傳〕秦穆貴レ信、而士多從死。〔宋史紀事本末、二十八〕後宮諸臣、從死者甚衆。

【從至】74 ジュウシ したがひ至る。〔史記、孝文帝紀〕羣臣從至。

【從姊】75 ジュウシ 年上の女のいとこ。從姊妹を見よ。

〔從姊妹〕76 ジュウシマイ 女のいとこ。〔釋親考〕胤按、從父兄弟又稱二同堂兄弟一、其女子者稱二從父姊妹一、卽會典所レ云姊妹也、後世或略言二從姊妹一。

【從祀】77 ジュウシ ❶附けて祭る。後世の儒者で孔子の廟に配享せられるものをいふ。唐代、左丘明等二十一人を孔子廟に配享したのが從祀の始めで、後、關羽・岳飛に從祀することも行はれた。〔唐書、禮樂志四〕永徽中、復以二周公一爲二先聖一、孔子爲二先師一、顏回・左丘明以降皆從祀。〔元史、祭祀志五〕皇慶二年六月、以二許衡一從祀、又以二先儒周惇頤・程顥・程頤・張載・邵雍・司馬光・朱熹・張栻・呂祖謙一從祀、至順元年、以二漢儒董仲舒一從祀。〔日知錄、禮制、從祀〕周程張朱五子之從祀、定二於理宗淳祐元年一、顏曾思孟四子之配享、定二於度宗咸淳三年一、自レ此之後、國無二異論一。❷天子の祭に從ひ行く。陪祭。〔益部耆舊志〕蜀郡張寬、漢文帝時爲二侍中一、從二祀甘泉一。〔劉孝威、謝二南康王饟牛一啓〕從二祀甘泉一、方無レ假二於丞相一。

【從恣】78 シショウ 思ふままにする。縱恣。〔漢書、徐樂傳〕陛下逐二走獸一、射二飛鳥一、弘二游燕之囿一、淫二從恣之觀一、極二馳騁之樂一。〔漢書、張敞傳〕尊貴所三以自斂制不二從恣一之義也。

【從祠】79 ジュウシ 從祀（77）の❶に同じ。〔漢書、丙吉傳〕從二祠高廟一。

【從事】80 ジジュウ ❶事にたづさはる。事をつとめる。〔詩、小雅、十月之交〕黽勉從レ事、不二敢告レ勞。〔禮、內則〕各從二其事一。〔論語、泰伯〕昔吾友嘗從二事於斯一矣。〔老子、二十三〕故從二事於道一者。❷官名。屬官の名。漢代、刺史の佐吏に、別駕・治中・主簿・功曹等の如き從事史があり、又、部郡國從事史があった。部郡國從事史は郡國毎に各一人で、文書を督促し、非法を擧げることを主る。宋以後、廢さる。〔通典、職官、州郡上、總論州佐〕州之佐吏、漢有二別駕・治中・主簿・功曹・書佐・簿曹・兵曹・部郡國從事史・典郡書佐等官一。〔通典、職官州郡上、總論州佐〕部郡國從事史、每二郡國一各一人、漢制也、主下督二促文書一擧中非法上、典郡書佐每二郡國一各一人、漢制也、各主二一郡文書一、以二郡吏一補、歲滿一更。〔韓愈、送二石處士一序〕求二士於從事之賢者一。

〔從事中郎〕81 ジュウジチュウラウ 屬官の名。東晉南北朝の諸役所に置かれ、隋以後、廢さる。〔盧諶、贈二劉琨一詩序〕故吏從事中郎盧諶、死罪死罪。

【從時】82 ジジュウ ❶耕種の時節におくれない。〔左氏、昭、七〕一曰、擇レ人、二曰、因レ民、三曰、從レ時。❷明、陳良（**11－41698**··593）の字。

【從邇】83 ジジュウ 目の前のことばかり考へて遠い思慮のないこと。〔左氏、襄、二十八〕君子有二遠慮一、小人從レ邇。

【從周】84 ジュウシウ ❶周にしたがふ。〔論語、八佾〕周監二於二代一、郁郁乎文哉、吾從レ周。〔胡天游、詩〕登レ高還小レ魯、觀レ禮復從レ周。❷字號。㋑唐、衞次公（**10－34074**··141）の字。㋺唐、崔弘禮（**4－8178**··257）の字。㋩唐、張鎬（**4－9812**··121）の字。㋥明、洪孝先（**6－17402**··224）の字。㋭明、陳員韶（**11－41698**··659）の字。

【從就】85 ジュウシウ つきしたがふ。〔後漢書、向栩傳〕不レ好二語言一而喜二長嘯一、賓客從就、輒伏而不レ視。

【從式】86 ジュウシキ 宋、姜遵（**3－6205**··52）の字。

【從實】87 ts'ung^2 shih^2 包み隱さない。遠慮しない。

【從車】88 ジュウシャ おともの車。〔周禮、春官、巾車〕從車持レ旌。〔周禮、夏官、馭夫〕掌レ馭二貳車・從車・使車一。〔注〕從車、戎路、田路之副也。〔左氏、昭、元〕從車五乘。〔莊子、列禦寇〕從車百乘。

【從者】89 ジュウシャ 主君の供をする人。とも。ともびと。從人。〔左氏、僖、三十三〕敢犒二從者一、不腆敝邑、爲二從者之淹一、居則具二一日之積一。〔論語、八佾〕從者見レ之。〔孟子、滕文公下〕後車數十乘、從者數百人。

【從斜】90 ジュウシャ たてとよこ。〔顏氏家訓、歸心〕闊狹從斜、常不二盈縮一。

【從賞】91 ジュウシャウ 人の件をして景色などを賞し樂しむ。〔謝朓、和三伏武昌登二孫權故城一詩〕幽客滯二江皐一、從賞乖二纓弁一。〔注〕良曰、相從賞樂。

【從酒】92 ショウシュ 獨りで意をほしいままにして酒を飲むこと。〔晏子、雜、下〕何謂二從酒一、晏子曰、無レ客而飮、謂二之從酒一。

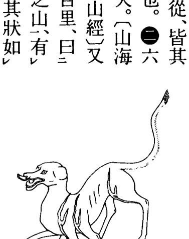
【從衆】93 ジュウシュウ ❶多くの人の意見にしたがふ。〔左氏、成、六〕武子曰、善鈞從レ衆、夫善衆之主也、三卿爲レ主、可レ謂レ衆矣、從レ之不二亦可一乎。〔杜甫、秋日夔府詠懷奉レ寄二鄭監審李賓客之芳一一百韻〕困學違二從衆一、明公各勉レ旃。❷唐、路應（**10－37524**··7）の字。

【從戎】94 ジュウジュウ 從軍する。〔張正見、紫騮馬〕將軍入二大宛一、善馬出從レ戎。

【從叔】95 ジュウシュク 父の從父昆弟（イトコ）で父より若いもの。〔臧榮緒晉書〕王沈少時孤、爲二從叔司空昶之所一レ養。

【從順】96 ジュウジュン おとなしくすなほ。したがひうける。又、順調。將順。柔順。〔漢書、谷永傳〕委曲從順。〔魏志、王基傳〕文王報書、凡處レ事者多曲相從順、鮮三能確然共盡二理實一。〔韓愈、元和聖德詩序〕風雨晦明、無レ不二從順一。

【從從】97 ショウショウ ❶車の鸞の音。〔楚辭、宋玉、九辯〕前二輕輬之鏘鏘一兮、後二輜乘之從從一。〔集注〕鏘鏘・從從、皆其鸞聲也。❷六足の犬。〔山海經、東山經〕又南三百里、曰二栒狀之山一、有レ獸焉、其狀如レ犬六足、其名曰二從從一、其鳴自詨。❸ソウソウ 高いさま。從從爾を見よ。



從從❷（山海經圖）

〔從從爾〕98 ジソウソウ 高大なさま。〔禮、檀弓上〕爾

毋二從從爾一、爾毋二扈扈爾一。〔注〕從從、謂二高大一。〔釋文〕從、音揔、高也、一音崇。

【從食】99 ジュウショク 一所に祭られる。〔後漢書、祭祀志上〕泰山雖三已從二食於柴祭一。

【從心】100 ジュウシン 思ひのままにする。縱心。又、七十歲の異稱。〔論語、爲政〕七十而從二心之所一レ欲、不レ踰レ矩。〔義疏〕從、放也、云云、雖三復放從二心意一、而不三踰二越於法度一也。〔列子、黃帝〕七年之後、從二心之所一レ念、庚無二是非一。

〖從心之年〗101 ジュウシンノトシ 心の欲するままに行つて自然と道にかなふ年齡の義で、七十歲の稱。從心を見よ。

【從臣】102 ジュウシン おつきの家來。〔史記、秦始皇紀〕從臣思レ迹。〔班固、西都賦〕第二從臣之嘉頌一。

【從信】103 ジュウシン 明、林棨(**6**－**14551**・・89)の字。

【從新】104 ジュウシン ㊀新しいものにしたがふ。〔管子、侈靡〕天地不レ可レ留、故動化レ故從レ新。㊁ ts'ung² hsin¹ 初めから。新しく。新規に。

【從諡】105 ジュウシ 唐の高僧。諡は眞際禪師。青州臨淄の郝氏の子。或は曹州郝縣の人ともいふ。南泉普願禪師の門弟。趙州觀音院に住す。道化大いに揚り、世人、趙州門風といふ。乾寧中、示寂す。壽一百二十、世に趙州古佛と稱せられる。〔宋高僧傳、十一〕。

【從親】106 ショウシン 戰國の時、南北に列る韓・魏・趙・楚・燕・齊の六國が連和したこと。從は南北。從約。〔戰國、秦策〕不下接二地於齊一、以絕中從親之要上。〔史記、蘇秦傳贊〕蘇秦起二閭閻一、連二六國一從親、此其智有二過レ人者一。

【從人】107 ショウジン ㊀合縱の論をなす人。〔漢書、敍傳上〕及レ至二從人合レ之、衡人散レ之、亡命漂說、羇旅騁レ辭。㊁ ジュウジン 從者(89)に同じ。

【從仁】108 ジュウジン 字號。㊀明、蘇恩の字。㊁明、汪舜民(**6**－**17154**・・259)の字。

【從生】109 ジュウセイ 民人をいふ。萬物を橫生といひ、天子を一丈夫(**1**－**1**・・1547)といふに對す。〔逸周書、文傳解〕故諸橫生盡以養レ從、從生盡其養二一丈夫一。〔注〕橫生、萬物也、從生、人也、一丈夫、天子也。

【從征】110 ジュウセイ 從軍(44)に同じ。〔後漢書、竇憲傳〕諸郡二千石子弟從征者、悉除二太子舍人一。〔張正見、度二關山一詩〕關山度二曉月一、劍客遠從レ征。

【從政】111 ジュウセイ ㊀政事に與り聞く。政治をとる。〔左氏、定、元〕晉之從レ政者新。〔論語、子路〕於レ從レ政乎何有。〔史記、孔子世家〕諸侯卿相至、常先謁、然後從レ政。㊁官役に服すること。〔禮、雜記〕三年之喪、祥而從レ政。〔注〕從政、從二爲政者之教令一、謂レ給二繇役一。㊂明、徐司馬(**4**－**10110**・・451)の字。

【從省】112 シトムベ 越前國の古地名。

〖從省服〗113 ジュウセイフク 唐代の便服、役人の通常服をいふ。〔朱子全書、禮、雜儀〕隋煬帝時、始令二百官戎服一、唐人謂二之便服一、又謂二之從省服一、乃今之公服也。

【從甥】114 ジュウセイ 姊妹の子。〔稱謂錄、姊妹之子、從甥〕晉書郭奕傳、時鍾會反二於蜀一、荀勖卽會之從甥。

【從聖】115 ジュウセイ 宋、徐師仁(**4**－**10110**・・457)の字。

【從聲】116 ジュウセイ 五音の中、宮・商・角を從聲といふ。〔夢溪筆談、樂律一〕五音宮商角爲二從聲一、徵羽爲二變聲一、從謂二律從レ律、呂從レ呂、變謂二以レ律從レ呂、以レ呂從レ律、故從聲以配二君臣民一、尊卑有レ定、不レ可二相踰一、聲以爲二事物一、則或遇二於君一、聲無レ嫌、加二變徵一、則從變之聲已瀆矣。〔注〕六律爲二君聲一、則商角皆以レ律應、徵羽以レ呂應、六呂爲二君聲一、則商角皆以レ呂應、徵羽以レ律應。

【從迹】117 ショウセキ あしあと。あとかた。蹤跡。〔漢書、張湯傳〕上問二變事從迹安起一。〔注〕師古曰、從、讀曰レ蹤。

【從跡】118 ショウセキ あしあと。あとづける。蹤跡。〔詩、召南、羔羊、委蛇、傳〕委蛇、行可二從跡一也。〔詩、鄘風、君子偕老、委委佗佗、傳〕行可二委曲從跡一也。〔漢書、淮南王安傳〕事下二廷尉一治、從跡連レ王。

【從說】119 ショウセツ 自由に說く。從は縱。〔莊子、徐無鬼〕從二說之一、則以二金板六弢一。〔釋文〕從說、子容反。

【從先】120 ジュウセン ㊀字號。㋑明、沈野(**6**－**17189**・・372)の字。㋺明、翟繩祖(**9**－**28727**・・54′)の字。㊁ ts'ung² hsien¹ 前に。これまで。

【從前】121 ジュウゼン ㊀これ迄の事に從ふ。〔春秋、隱、元、元年春王正月、(左傳)疏〕及二其史官定一レ策、雖レ有二一統一、不レ可二半年從レ前半年從レ後、雖レ非二年初一、亦統二此歲一、故入レ年卽稱レ元也。㊁いままで。これまで。以前。〔福惠全書、編審部、查原冊〕從前所レ作之弊、不レ得レ不三一爲二清剔一矣。

【從善】122 ジュウゼン ㊀善道に從ふ。善いことをする。〔左氏、昭、十三〕從レ善如レ流、下レ善齊肅。〔國語、周語下〕諺曰、從レ善如レ登、從レ惡如レ崩。〔孔子家語、弟子行〕從レ善而教二不道一。㊁字號。㋑宋、趙師羿(**10**－**37171**・・619)の字。㋺元、韓擇(**12**－**43159**・・166)の字。㋩明、殷善(**6**－**16627**・・96)の字。

【從然】123 ショウゼン おちついたさま。〔莊子、至樂〕從然以二天地一爲二春秋一。〔釋文〕從、從容也。

【從狙】124 ショウソ あとを追つて伺ふ。〔管子、七臣七主〕從狙而好二小察一。〔纂詁〕從・蹤通、狙、伺也、蹤跡而伺レ之、以求二察察之明一。

【從祖】125 ジュウソ 宋、李昭述(**6**－**14459**・・1586)の字。

〖從祖姑〗126 ジュウソコ 父の從父姊妹(女いとこ)。堂姑。〔爾雅、釋親〕父之從父姊妹、爲二從祖姑一。

〖從祖姊〗127 ジュウソシ またいとこあね。〔通典、禮、嘉、從舅是族外弟相稱議〕丙之母、丁之從祖姊也、丁之母、丙之族姑也。

〖從祖父〗128 ジュウソフ 父の從父兄弟。いとこをぢ。またをぢ。從大父。堂伯叔。〔爾雅、釋親〕父之從父晜弟、爲二從祖父一。〔郝懿行義疏〕云二父之從父晜弟一者、是卽父之世父・叔父之子也、當レ爲二從父一、而言二從祖父一者、言二從レ祖而別一也、亦猶下父之世父・叔父爲二從祖祖父一之例上也、喪服小功章亦云、從祖父母、通典九十二引二馬融一云、從祖祖父之子、是父之從父昆弟也、云二父之從祖晜弟一者、是卽從祖父之子也。

〖從祖母〗129 ジュウソボ 父のいとこの妻。いとこをば。堂伯母。〔爾雅、釋親〕父之從父晜弟之妻、爲二從祖母一。〔郝懿行義疏〕上云二父之從父晜弟一爲二從祖父一、故其妻爲二從祖母一也。〔稱謂錄、父之世母叔母、從祖母〕檀弓鄭注、敬姜者、康子從祖母。

〖從祖妹〗130 ジュウソマイ またいとこいもうと。〔釋親考〕從祖妹。

〖從祖兄弟〗131 ジュウソケイテイ またいとこ。曾祖を同じくする兄弟。再從兄弟。從堂兄弟。從祖昆弟。〔通典、禮〕馬融曰、謂二曾祖孫一也、於レ己爲二再從兄弟一、同出二曾祖一、故言二從祖兄弟一、俗稱二從堂兄弟一。〔釋親考〕同二曾祖一者、曰二從祖兄弟一、又曰二再從兄弟一。

〖從祖昆弟〗132 ジュウソコンテイ 從祖兄弟に同じ。〔儀禮、喪服〕從祖昆弟。〔注〕父之從父昆弟之子。〔新書、六術〕故爲二從祖昆弟一。〔釋親考〕從祖父之子、相謂爲二從祖昆弟一。

〖從祖姊妹〗133 ジュウソシマイ 曾祖を同じくする姊妹。またいとこ。〔稱謂錄、同曾祖姊妹、從祖姊妹〕案、爾雅有二父之從祖姊妹一、所レ稱從祖姊妹、卽同曾祖姊妹也。

〖從祖叔母〗134 ジュウソシュクボ おほをば。祖父の兄弟の妻。〔國語、魯語下〕文伯之母、季康氏之從祖叔母也。〔注〕祖父昆弟之妻。

〖從祖祖姑〗135 ジュウソソコ またをば。おほをば。

〖從祖祖父〗136 ジュウソソフ おほをぢ。伯祖父・叔祖父をいふ。〔爾雅、釋親〕父之世父・叔父爲二從祖祖父一。〔稱謂錄、父之世父叔父、從祖祖父〕儀禮、喪服、小功章、從祖祖父母・從祖父母報、注、祖父之昆弟之親。

〖從祖祖母〗137 ジュウソソボ おほをば。伯祖母・叔祖母をいふ。〔爾雅、釋親〕父之世母・叔母、爲二從祖祖母一。

〖從祖王父〗138 ジュウソワウフ 父のいとこの父親。〔稱謂錄、父之世父叔父、從祖王父〕案、爾雅、父之從父昆弟之母、爲二從祖王母一、準レ是、則父之從父昆弟之父、亦得レ稱二從祖王父一矣。

〖從祖王母〗139 ジュウソワウボ 父のいとこの母親。〔爾雅、釋親〕父之從父晜弟之母、爲二從祖王母一。

【從僧】140 ジュウソウ 僧綱・三綱等に隨從する僧。ずそう。伴僧。〔玄蕃寮式〕凡僧正、從僧五人。

【從速】141 ts'ung² su⁴ なるべく早く。早速。疾く。

【從俗】142 ジュウゾク ㊀風俗に從ふ。〔禮、曲禮上〕禮從レ宜、使從レ俗。㊁俗流に從ふ。世俗に從ふ。〔論語、子罕、麻冕禮也、集注〕程子曰、君子處レ世、事之無レ害二於義一者、從レ俗可也、害二於義一、則不レ可レ從矣。〔楚辭、離騷〕委二厥美一從レ俗兮、苟得レ列二乎衆芳一。

【從屬】143 ジュウゾク つきしたがふ。又、其のもの。附隨。附屬。〔呂覽、當染〕此二子者、無二爵位一以顯レ

人、無㆓賞祿㆒以利㆑人、擧㆓天下之顯榮者㆒、必稱㆓此二士㆒也、皆死久矣、從屬彌衆、弟子彌豐、充㆓滿天下㆒、主公大人、從而顯㆑之。〔史記、絳侯周勃世家〕壁門士吏謂㆓從屬車騎㆒曰。

【從卒】144 ジュウソツ ❶ある人につき從ふ兵卒。〔椿說弓張月、後、二十二回〕一人殘りとどまりたる從卒に弓を持して。❷將校に專屬して、其の使役に服する兵卒。

【從孫】145 ジュウソン 兄弟の孫。をひまご。〔國語、周語下〕共之從孫四岳佐㆑之。〔注〕從孫、昆弟之孫也。

〖從孫甥〗146 ジュウソンセイ 姊妹の孫をいふ。〔左氏、哀、二十五〕其弟期、太叔疾之從孫甥也。〔注〕姊妹之孫、爲㆓從孫甥㆒、與㆑孫同列。〔疏〕姊妹之子爲㆑甥、姊妹之孫與㆓己之孫㆒、尊卑同列、男子謂㆓兄弟之孫㆒爲㆓從孫㆒、故謂㆓姊妹之孫㆒爲㆓從孫甥㆒。

【從打】147 tsʻung^2 ta^3 云云より。云云から。

【從道】148 ジュウダウ ❶道にしたがふ。道理による。〔易、復〕象曰、中行獨復、以從㆑道也。〔史記、蒙恬傳〕願陛下爲㆓萬民㆒思㆑從㆑道也。〔李翺、從道論〕和者人之喜、默者人之怒、吾寧從㆑道而罹㆑怒乎、寧達㆑道而從㆑衆乎、斯以辨㆓之難易㆒、而較㆓是非㆒也。❷字號。㋑宋、虞復(**9－32723**··139)の字。㋺宋、陳中復(**11－41698**··1134)の字。㋩明、練綱(**8－27689**··8)の字。

【從長】149 ジュウチャウ ❶合從のかしら。〔史記、燕召公世家〕因約㆓六國㆒爲㆓從長㆒。❷ tsʻung^2 chʻang^2 完全に。十分に。

【從中】150 tsʻung^2 chung^1 中で。中に立って。兩者の間に立って。「字。

【從仲】151 ジュウチュウ 宋、李大同(**6－14459**··1663)の字。

【從重】152 ジュウヂュウ 重い方に從ふ。重い方をとる。從輕(52)を見よ。〔白虎通、攷黜〕賞宜㆑從㆑重。〔孔子家語、三恕〕從㆑輕勿㆑爲㆑先、從㆑重勿㆑爲㆑後。

【從女】153 ジュウヂョ 姪女をいふ。〔晉書、束晳傳〕束晳兄璆取㆓石鑒之從女㆒。

【從徵】154 ジュウチョウ 徵召して從軍させる。〔漢書、武五子、燕剌王劉旦傳〕非㆑教㆑士、不㆑得㆓從徵㆒。〔注〕張晏曰、士非㆓素習㆒、不㆑得㆓應召㆒。

【從弟】155 ジュウテイ 同祖伯叔の子で己より年少の者。年下のいとこ。〔史記、李將軍傳〕廣從弟李蔡亦爲㆑郎。〔漢書、谷永傳〕因薦㆓從弟御史大夫音㆒。〔蜀志、許靖傳〕少與㆓從弟劭㆒俱知㆑名。〔釋親考〕丘氏曰、今稱㆓從兄・從弟㆒、俗云㆓堂兄・堂弟㆒。

〖從弟門中〗156 ジュウテイモンチュウ 父の亡弟をいふ。〔顏氏家訓、風操〕祖父若沒、言須㆑及者、則斂㆑容肅坐、稱㆓大門中㆒、世父叔父、則稱㆓從兄門中㆒、兄弟則稱㆓亡者子某門中㆒、各以㆓其尊卑輕重㆒爲㆓容色之節㆒、皆變㆓於常㆒、若與㆑君言、雖㆑變㆓於色㆒、猶㆑云㆓亡祖亡伯亡叔㆒也、吾見㆓名士㆒、亦有㆘呼㆓其亡兄弟㆒爲㆓兄子弟子門中㆒者㆖、亦未㆑爲㆓安帖㆒也、北土都不㆑行㆑此、太山羊偘、梁初入㆑南、吾近至㆑鄴、其兄子肅、訪㆑偘委曲、吾答㆑之云、卿從門中在㆑梁、如㆑此如㆑此、肅曰、是我親第七亡叔、非㆑從也、祖孝徵在㆑坐、先知㆓江南風俗㆒、乃謂㆑之云、賢從弟門中、何故不㆑解。

【從姪】157 ジュウテツ いとこの子。〔杜甫、醉歌行、自注〕從姪杜勤落第歸、作㆓此詩㆒別㆑之。〔釋親考〕從姪、從兄弟之子、曰㆓堂姪㆒。

〖從姪孫〗158 ジュウテツソン いとこまご。從兄弟の孫。〔釋親考〕從兄弟之孫、爲㆓從姪孫㆒、卽堂姪孫。

【從天】159 ジュウテン ❶天道にしたがふ。❷天から。〔禮、樂記〕樂者敦和、率㆑神而從㆑天。〔漢書、周亞夫傳〕諸侯聞㆑之、以爲㆓將軍從㆑天而下㆒也。

【從徒】160 ショウト 合從の論を爲す者。從人。〔韓非子、存韓〕夫趙氏聚㆓士卒㆒、養㆓從徒㆒、欲㆑贅㆓天下之兵㆒。

【從奴】161 ジュウド しもべ。〔史記、魏其武安侯傳〕獨二人及從奴十數騎、馳入㆓吳軍㆒、至㆓吳將麾下㆒。

【從納】163 ジュウナフ ききもちひられる。いれられる。〔南齊書、褚淵傳〕朝廷機事、多與㆓諮謀㆒、每見㆓從納㆒、禮遇甚重。

【從任】164 ジュウニン 明、江南の人。字は子重。少くして太學に入る。異書を嗜み、太乙奇門遁甲六壬に關して皆其の要を得た。

【從馬】165 ジュウバ 從ふ馬。引きつれられて行く馬。〔史記、匈奴傳〕負私從馬凡十四萬匹。

【從傍】166 ジュウバウ 傍から。側から。〔儀禮、鄕射禮、無㆑射㆑獲無㆑獵㆑獲、注〕射獲、謂㆓矢中㆑人也、獵矢從㆑傍。

【從伯】167 ジュウハク ❶伯と一緒にする。子爵・男爵を伯爵の中に含めて扱ふこと。〔白虎通、爵〕殷爵三等、謂㆓公侯伯㆒也、所㆘以合㆓子男㆒從㆖伯者、何。❷父の從父昆弟（イトコ）で、父より年長の人。〔晉書、王羲之傳〕羲之尤善㆓隸書㆒、深爲㆔從伯敦導所㆓器重㆒。〔稱謂錄、父之從父昆弟、從伯〕南史、張緒淸簡寡欲、叔父鏡比㆓之樂廣㆒、從伯敷云、是我輩人。

【從法】168 ジュウハフ ❶法律にしたがふ。〔禮、曲禮下〕從㆓新國之法㆒。〔韓非子、詭使〕上有㆓私惠㆒、下有㆓私欲㆒、聖智成㆑羣、造㆑言作㆑辭、以非㆓法令於下㆒、上不㆓禁塞㆒、又從而尊㆑之、是教㆓下不㆑聽㆑上、不㆑從㆑法也。❷主法を實行する方法を規定した法律。手續法。

【從犯】169 ジュウハン 主犯者を幇助する犯罪。共同正犯に比して主犯者よりも可罰價値が著しく低く、又、主犯者に犯意を決定させる教唆とは異り、單に便宜を與へたに過ぎぬもの。〔淸會典事例、刑部、名例律、共犯罪分㆓首從㆒〕乾隆四十年、江蘇巡撫審題、宿遷縣民劉俊、強㆓搶良家之女㆒、姦占爲㆑妻、將㆓劉俊之父劉殿臣㆒、照爲㆑從㆑律、擬以㆓杖流㆒、奉旨、明㆑刑、所㆓以弼㆑教、豈有㆚坐㆘父兄爲㆓子弟㆒從犯㆖之理㆙、此風化所㆑繫、讞獄者不㆑可㆓掉以輕㆑心。

【從泛】170 ショウハン 思ふままに水上にうかぶ。思ふままに舟をやる。縱泛。〔吳融、槎詩〕家近㆓滄浪㆒從泛去、碧天消息不㆓參差㆒。

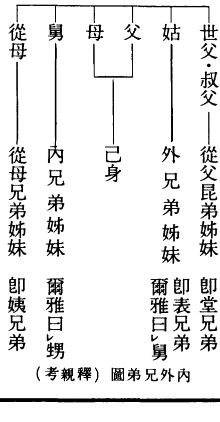
【從陂】171 ショウヒ 川の名。河北省景縣の北。〔水經、濁漳水注〕衡漳又東北、右會㆓桑社溝㆒、溝上承㆓從陂㆒、世稱㆓盧達從薄㆒、亦謂㆓之摩訶河㆒。

【從婢】172 ジュウヒ お供の女。おつきの女。〔北史、馮淑妃傳〕馮淑妃、名小憐大、穆后從婢也。〔宋史、陳規傳〕嘗爲㆑女求㆓從婢㆒、得㆓一婦㆒、甚閑雅。

【從蹕】173 ジュウヒツ 天子の車につき從ふ。扈蹕。〔許善心、詩〕廻㆑鑾入㆓酆鎬㆒、從㆑蹕度㆓枌楡㆒。

【從品】174 ジュウヒン 正品の對。從一品から從九品までをいふ。〔通俗編、仕進、從品〕北魏書、官氏志、前世職次、皆無㆓從品㆒、魏氏始置㆑之、亦一代之別制也、按、謂㆔從一品至㆓從九品㆒。

【從父】175 ジュウフ ❶父の命にしたがふ。〔儀禮、喪服〕傳曰、婦人有㆓三從之義㆒、無㆓專用之道㆒、故未㆑嫁從㆑父、既嫁從㆑夫、夫死從㆑子。❷父の兄弟。をぢ。伯父。叔父。〔爾雅、釋親〕父之從父晜弟爲㆓從祖父㆒、兄之子弟之子、相謂爲㆓從父晜弟㆒。〔儀禮、喪服〕從父昆弟。〔注〕世父・叔父之子也。



內外兄弟圖（釋親考）

❸春秋魯、漆雕徒父の一名。

〖從父兄〗176 ジュウフケイ 從兄(47)に同じ。〔曾鞏、撫州顏魯公祠堂記〕與㆓其從父兄杲卿㆒、皆有㆓大節㆒以死。

〖從父弟〗177 ジュウフテイ 從弟(155)に同じ。

〖從父兄弟〗178 ジュウフケイテイ いとこ。〔爾雅、釋親〕兄之子、弟之子、相謂爲㆓從父晜弟㆒。〔令義解、二十八、儀制〕從父兄弟者、兄弟之子相呼之號。

〖從父昆弟〗179 ジュウフコンテイ いとこ。從父兄弟に同じ。〔稱謂錄、同祖兄弟、從父昆弟〕儀禮、喪服大功章、從父昆弟、注、世父・叔父之子也。〔新書、六術〕故爲㆓從父昆弟㆒。

〖從父姊妹〗180 ジュウフシマイ をんないとこ。從姊妹。〔稱謂錄、同祖姊妹、從父姊妹〕儀禮、喪服小功章、從父姊妹、注、父之昆弟之女。〔釋親考〕胤按、從父兄弟、又稱㆓同堂兄弟㆒、其女子者、稱㆓從父姊妹㆒。

〖從父兄弟之讎不㆑同㆑國〗181 ジュウフケイテイノアダハクニヲオナジウセズ いとこの讎とは同國にすまない。〔周禮、地官、調人〕凡和難、父之讎、辟㆓諸海外㆒、兄弟之讎、辟㆓諸千里之外㆒、從父兄弟之讎、不㆑同㆑國。

【從風】182 ジュウフウ ❶風のままに。風につれて。〔張衡、南都賦〕芙蓉含㆑華、從㆑風發㆑榮。❷草木が風に靡くやうに靡き從ふことをいふ。〔戰國、秦策〕山東之國、從㆑風而服。〔漢書、主父偃傳〕然起㆓窮巷㆒、奮㆓棘矜㆒、偏袒大呼、天下從㆑風。

【從服】183 ジュウフク ❶したがひ服する。又、したがへる。服從。〔荀子、非十二子〕通達之屬、莫㆑不㆓從服㆒。〔張協、七命〕可㆘以從㆓服九國㆒、橫㆗制八戎㆖。❷喪服の名。夫が妻の父母のために、妻が夫の父母等のために喪に服するなど。〔禮、大傳〕服術

有レ六、云云、六曰、從服。〔注〕從服、若下夫爲二妻之父母一、妻爲二夫之黨一服上。

【從物】184 ジュウブツ ❶外界の事物に心を引かれる。外界の事物に左右される。〔後漢書、周磐傳〕磐語二友人一曰、吾親以歿矣、從レ物何爲、遂不レ應。〔秦觀、和二歸去來辭一〕內取二足于一身一、復從レ物兮何求。❷物事に從順なこと。又、人意に曲隨すること。〔列子、湯問〕北海之北、人性婉而從レ物、不レ競不レ爭、柔レ心而弱レ骨、不レ驕不レ忌。〔管子、內業〕聖人與レ時變而不レ化、從レ物而不レ移。❸主物に附屬して、法律行爲の目的となるもの。

【從兵】185 ジュウヘイ つきしたがふ兵士。〔史記、平原君朱建傳〕招二天下之從兵一。

【從甫】186 ジュウホ 宋、胡仲雲（**9**－**29400**‥556）の字。

【從母】187 ジュウボ 母方のをば。母の姉妹。姨母。〔爾雅、釋親〕母之姉妹爲二從母一。〔釋名、釋親屬〕母之姉妹曰レ姨、禮謂二之從母一。〔禮、檀弓上〕從母之夫、舅之妻。〔稱謂錄、母之姉妹、從母〕儀禮、喪服小功章、從母・丈夫・婦人報、注、從母、母之姉妹。〔左氏、襄、二十三、穆姜之姨子也、疏〕據レ父言レ之、謂二之姨一、據レ子言レ之、當レ謂二之從母一。

【從母兄弟】188 ジュウボケイテイ 母の姉妹の子。母方のいとこ。姨表兄弟。〔爾雅、釋親〕從母之男子、爲二從母晜弟一、其女子子、爲二從母姉妹一。〔釋親考〕亂按、姨兄弟、卽從母兄弟也。

【從母昆弟】189 ジュウボコンテイ 母方のいとこ。〔稱謂錄、母之姉妹之子、從母昆弟〕儀禮喪服、緦麻三月章、從母昆弟。

【從母姉妹】190 ジュウボシマイ 母方の女いとこ。〔爾雅、釋親〕從母之男子、爲二從母晜弟一、其女子子、爲二從母姉妹一。

【從豐】191 ts‘ung^{2} fêng^{1} ゆたかにする。優遇する。豐かに。夥しい。澤山の。裕かな。豐富な。

【從僕】192 ジュウボク めしつかひ。

【從本】193 ジュウホン 前蜀、王宗本（**7**－**20823**‥1853）の「名。

【從妹】194 ジュウマイ 年下の女いとこ。〔左氏、莊、八〕連稱有二從妹一、在二公宮一無レ寵。〔稱謂錄、同祖姉妹、從妹〕南史、錢道戢傳、陳武帝微時、以二從妹一妻焉。

【從命】195 ジュウメイ 命令にしたがふ。〔禮、坊記〕從レ命不レ忿、微諫不レ倦、勞而不レ怨、可レ謂レ孝矣。〔荀子、臣道〕從レ命而利レ君、謂二之順一、從レ命而不レ利レ君、謂二之諂一。〔後漢書、隗囂傳〕咸謂、囂素有レ名、好二經書一、遂共推爲二上將軍一、囂辭讓不レ得レ已、曰、諸父衆賢、不レ量二小子一、必能用二囂言一者、乃敢從レ命、衆皆曰、諾。

【從約】196 ショウヤク 合從の約。戰國時代、蘇秦が主張して、秦に對抗するために齊・楚・燕・韓・趙・魏の六國が結んだ同盟。從親。縱約。〔戰國、燕策上〕天下由レ此宗二蘇氏之從約一。〔史記、楚世家〕儀因說二楚王一、以叛二從約一而與レ秦合親。〔史記、張儀傳〕張儀復說二魏王一、哀王於レ是乃倍二從約一、而因レ儀請二成于秦一。

【從約長】197 ショウヤクノチャウ 六國同盟の長。〔史記、蘇秦傳〕爲二從約長一、并二相六國一。

【從臾】198 ジュウユ ❶從諛に同じ。〔書、太甲上、克終二允德一、蔡傳〕凡人之不善、必有下從臾以導二其爲レ非者上。❷ショウヨウ すすめる。慫慂（**4**－**11127**‥2）に同じ。〔剪燈餘話、鳳尾草記〕陽爲二從臾一、陰實沮レ之。

【從諛】199 ジュウユ したがひへつらふ。〔史記、汲黯傳〕寧令三從諛承レ意、陷二主於不義一乎。〔漢書、董仲舒傳〕仲舒以レ弘爲二從諛一。〔晉書、陸機傳〕耳飽二從諛之說一。〔南齊書、謝朓傳〕日夜從諛、仰窺俯畫。

【從容】200 ショウヨウ ❶ゆったりとしたさま。くつろいださま。のんびりしたさま。舒緩のさま。思慮を用ひず自然のままのさま。嫻雅。〔集韻〕從、從容、休燕也。〔正韻〕從容、舒緩貌。〔書、君陳〕從容以和。〔中庸〕誠者、不レ勉而中、不レ思而得、從容中レ道、聖人也。〔史記、儒林、倪寬傳〕寬在二三公位一、以レ和良承レ意、從容得レ久。〔漢書、霍光傳〕天子從容肆體、甚安近焉。〔漢書、敍傳下〕從容風議、博レ我以レ文。〔後漢書、虞延傳〕時延爲二部督郵一、詔呼引見、問二園陵之事一、延進止從容、占拜可レ觀。〔潘岳、西征賦〕或從容傳會、望レ表知レ裏。〔夏侯湛、東方朔畫贊〕栖二遲下位一、聊以從容。❷ひまでゐること。何もせずにのんびりしてゐること。閒暇。休燕。〔詩、小雅、都人士序〕衣服不レ貳、從容有レ常。〔箋〕從容、謂二休燕一也、休燕猶有レ常、則朝夕明矣。〔史記、留侯世家〕良嘗閒從容、步游二下邳圯上一。〔注〕索隱曰、從容、閒暇也。❸勸め誘ふ。慫慂（**4**－**11127**‥2）に同じ。〔史記、吳王濞傳〕鼂錯數從容、言二吳過可レ削。〔史記、衡山王賜傳〕與二奚慈張廣昌一謀、求下能爲二兵法一候二星氣一者上、日夜從二容王一、密二謀反事一。❹擧動。〔廣雅、釋訓〕從容、擧動也。〔禮、緇衣〕衣服不レ貳、從容有レ常。〔疏〕謂三擧動有二其常度一。〔墨子、非樂上〕衣服不レ美、身體從容醜羸不レ足レ觀。〔閒詁〕古謂二擧動一爲二從容一。〔楚辭、九章、懷沙〕孰知二余之從容一。〔注〕從容、擧動也。〔新書、等齊〕衣服不レ貳、從容有レ常。〔王褒、四子講德論〕文學曰、君子動作有レ應、從容得レ度。❺さまよふ。優游する。逍遙。〔宋玉、登徒子好色賦〕從二容鄭衛溱洧之閒一。❻ゆったりとものやはらかに言ふさま。しづかに言ふさま。〔漢書、嚴助傳〕助侍レ燕從容。〔注〕師古曰、從容、閒語也。〔嵇康、琴賦〕從容祕翫。〔注〕向曰、從容、謂三安二息其聲一也。〔任昉、王文憲集序〕持レ論從容、未三嘗言二人所レ短。❽やすらかに調和を得てゐること。〔素問、陰陽類論〕陰陽從容。〔注〕從容、謂二安緩比類一也。

【從容錄】201 ショウヨウロク 書名。六卷。宋、萬松行秀述。行秀が隱退して順天府の報恩寺內の從容庵に居た時、湛然居士從源の懇請によつて、覺和尚の頌古百則に語を加へて提唱したもの。

【從容有レ常】202 ショウヨウツネアリ ❶何もせずにのんびりしてゐる時にも、法度に外れた擧動をしない。從容の❷を見よ。❷擧動が法度にかなつてゐる。從容の❺を見よ。

【從容整暇】203 ショウヨウセイカ 落ちついてゆったりしてゐる。餘裕があつて迫らない。〔近古史談、德篇下、阿閉掃部〕未三嘗見二從容整暇如レ此之士一。

【從容中レ道】204 ショウヨウミチニアタル 心を用ひず自然の中に道に合致する。又、擧動が道にかなふ。〔中庸〕誠者、不レ勉而中、不レ思而得、從容中レ道、聖人也。〔漢書、董仲舒傳〕動作應レ禮、從容中レ道。

【從容無爲】205 ショウヨウムヰ 自然に從つてゆったりとしてゐて、思慮を勞し人爲をなさないこと。〔莊子、在宥〕從容無爲、而萬物炊累焉。

【從容灑落底氣象】206 ショウヨウシャラクノキシャウ 超然として事物に拘束されない氣性。灑落は、灑々落々、さつぱりしてゐるさま。底は的と同じく、「の」の意。〔續近思錄〕日用應酬、七顚八倒、無二一毫安平和豫・從容灑落底氣象一。

【從頌】207 ショウヨウ ゆつたりとしたさま。和緩のさま。從容（200）の❶に同じ。〔史記、魯仲連傳〕世以二鮑焦一爲下無二從頌一而死者上、皆非也。〔注〕索隱曰、從頌、音從容、言、世人見二鮑焦之死一、皆以爲下不レ能二自寬容一而取上レ死、此言非也。

【從欲】208 ショウヨク 欲をほしいままにする。縱欲。〔左氏、昭、二十〕從レ欲厭私。〔韓詩外傳、二〕貌美好者、不三以統レ朝涖レ民、而反以二蠱女一從レ欲。〔列子、楊朱〕彼二凶也、生有二從レ欲之歡一、死被二愚暴之名一。〔漢書、谷永傳〕背二天意一而從レ欲。

【從來】209 ジュウライ ❶もとから。これまで。〔宋書、巴陵哀王休若傳〕尋二休若從來心迹一。〔杜甫、登二兗州城樓一詩〕從來多二古意一、臨眺獨躊躇。〔李益、鹽州過二胡兒飲馬泉一詩〕從來凍合關山路、今日分流漢使前。〔杜甫、奉二觀嚴鄭公廳事岷山沱江圖一詩〕從來謝太傅、丘壑道難レ忘。❷由來。來歷。〔史記、封禪書〕郊社所二從來一尙矣。〔漢書、文帝紀〕立レ嗣必子、所二從來一遠矣。❸通つて來る。問レ所二從來一を見よ。

【問レ所二從來一】210 ヨツテキタルトコロヲトフ 何處から來たかを尋ねる。從は由。〔史記、西南夷傳〕見二蜀布功竹杖一、使レ問レ所二從來一。〔陶潛、桃花源記〕見二漁人一、乃大驚、問レ所二從來一。

【從徠】211 ジュウライ 從來の❷に同じ。〔漢書、食貨志贊〕管氏之輕重、李悝之平糴、弘羊均輸、壽昌常平、亦有二從徠一。〔注〕師古曰、言下所二從來一久上矣。

【從吏】212 ジュウリ 手下の役人。下役人。屬員。〔史記、曹相國世家〕相舍後園近二吏舍一、吏舍日飲歌呼、從吏惡レ之、無二如レ之何一。

【從理】213 ジュウリ 鼻の下、口の傍の筋で、人相家はこれを法令と名づける。從理入レ口を見よ。

【從理入レ口】214 ジュウリクチニイル 法令が口に達してゐる。餓死の相といふ。從理を見よ。〔史記、周勃世家〕條侯亞夫自レ未レ侯爲二河內守一時、許負相レ之、云云、指二其口一曰、有二從理入レ口、此餓死法也。

【從流】215（ジユウリウ）　時の流行にしたがふ。時代の風尚に從ふ。〔楚辭、離騷〕固時俗之從ㇾ流兮、又孰能無㆓變化㆒。

【從立】216（ジユウリツ）　進むことと止ること。又、進んだり止つたり。〔新書、勸學〕從立移徙、與ㇾ我同ㇾ性。

【從律】217（ジユウリツ）　唐、崔琯（4－8178・・61）の字。

【從良】218（ジユウリヤウ）　よい人に從ふ。娼妓が受け出されること。身受けされること。ねびき。〔西廂記、張君瑞鬧㆓道場㆒雜劇〕我親自寫㆓與從㆒ㇾ良。〔桃花扇、守樓〕娼家從良、原是好事。

【從龍】219（ジユウリユウ）（ジユウリヨウ）　❶帝王に從つて國家の創業に與ること。龍は帝王に喩へる。四庫提要、別史類存目に李澤長の從龍譜一卷がある。〔易、乾〕雲從ㇾ龍風從ㇾ虎、聖人作而萬物覩。❷明、安陸の人。字は雲峯。成化中、廡哈州知となり、後、懷慶知府。〔尙友錄、二二〕。❸字號。㋑唐、程湘（8－25081・・64）の字。㋺宋、張攀（4－9812・・619）の字。㋩明、華雲（9－31214・・18）の字。㋥明、陳登雲（11－41698・・1164）の字。

【從禮】220（ジユウレイ）　字號。❶唐、溫遷約（7－17968・・275）の字。❷元、吴庢（2－3365・・175）の字。❸明、隋贇（11－41751・・3）の字。

【從廉】221　ts'ung² lien²　廉價にする。

【從横】222（ジユウワウ）（シヨウクワウ）　❶たてよこ。又、東西（横）と南北（縱）。從は縱。〔楚辭、嚴忌、哀時命〕劍淋離而從横。〔盧綸、秋晚霽後野望憶㆓夏侯審㆒詩〕川原唯寂寞、岐路自從横。❷合從と連衡。從衡（23）に同じ。合從連衡（2－3287・・188）を見よ。〔戰國、秦策〕古者、使者轂擊馳、言語相結、天下爲ㇾ一、約ㇾ從連ㇾ横、兵革不ㇾ藏。〔韓非子、忠孝〕世人多不ㇾ言㆓國法㆒、而言㆓從横㆒、諸侯言ㇾ從者曰、從成必霸、而言ㇾ横者曰、横成必王、山東之言㆓從横㆒、未㆓嘗一日而亡㆒也、然而功名不ㇾ成、霸王不ㇾ立者、虛言非㆔所㆓以成ㇾ治也。〔淮南子、覽冥訓〕晚世之時、七國異ㇾ族、諸侯制ㇾ法、各殊㆓習俗㆒、從横閒ㇾ之。〔蜀志、郤正傳〕從横者欻披㆓其胸㆒。❸攻守和戰の意。天下を經營する意。〔魏徵、述懷詩〕從横計不ㇾ就、慷慨志猶存。❹自由自在なこと。〔蜀志、譙周傳〕奇變從横。❺多いこと。到る處に在ること。〔漢書、五行志下之下〕兵革從横。❻ほしいままにふるまふこと。横行。〔後漢書、皇甫規傳〕大賊從横。

【從横家】223（ジユウワウカ）　古の九流の一。遊說を以て立つた一學派。從横說を見よ。〔漢書、藝文志〕縱横家者流、蓋出㆓于行人之官㆒。孔子曰、誦㆓詩三百㆒、使㆓於四方㆒、不ㇾ能㆓專對㆒、雖ㇾ多亦奚以爲、又曰、使乎使乎、言其當㆓權ㇾ事制㆒ㇾ宜、受ㇾ命而不ㇾ受ㇾ辭、此其所ㇾ長也。

【從横學】224（ジユウワウガク）　從横家の學問。從横說を見よ。〔唐書、柏耆傳〕柏耆者有㆓從横學㆒、父良器爲㆓時威名將㆒、耆志健而望高、急㆓于立㆒ㇾ名。

【從横說】225（ジユウワウセツ）　合從連衡の說。從横の❷を見よ。

【從價稅】226（ジユウカゼイ）　稅制の一。貨物の價格を課稅の標準とするもの。

【從好堂】227（ジユウカウダウ）　宋、葉夢得（9－31387・・271）の室名。

【從考舅】228（ジユウカウキウ）　母の從父昆弟（イトコ）をいふ。〔稱謂錄、母之從父昆弟、從考舅〕唐文粹、尙衡文道元龜序有㆓此稱㆒。

【從儀師】228′（ジユウギシ）　僧官の一。法會の時、威儀師に從つて衆僧の儀容を正す役僧。〔玄蕃寮式〕凡威儀師六人、從儀師八人、有㆓闕者㆒、僧綱簡㆓定幹ㇾ事者㆒。

【從外孫】229（ジユウグワイソン）　姊妹の孫。他姓のまたをい。〔唐書、張儉傳〕儉、高祖從外孫也。

【從所向】230（ジユウシヨカウ）　明、鍾祥の人。字は南溟。萬曆の擧人。玉山令から刑部主事となる。〔續表忠記、五〕・〔崇禎忠節錄、十八〕・〔勝朝殉節諸臣錄、八〕。

【從大父】231（ジユウタイフ）　いとこをぢ。またをぢ。祖父の兄弟。〔釋親考〕五雜組、余從大父觀察公諱廷柱、按、從大父、吾祖父之兄弟、卽從祖父也。

【從堂姪】232（ジユウダウテツ）　またいとこをひ。またいとこの子。〔釋親考〕從堂姪、卽再從姪、見㆓家禮儀節圖㆒。

【從內兄】233（ジユウナイケイ）　父の女いとこの子で、己よりも年上の者。從祖姊の子。〔傳咸、贈㆓何劭王濟㆒詩〕咸之從內兄。〔釋親考〕按、從內兄者、從祖姊之子也。

【從內兄弟】234（ジユウナイケイテイ）　父の女いとこの子。

【從表兄】235（ジユウヘウケイ）　從表兄弟を見よ。〔釋親考〕從表兄、愛日齋鈔、張正素先生、東萊公從表兄也。

【從表兄弟】236（ジユウヘウケイテイ）　またいとこ。祖父の姊妹の孫、祖母の兄弟・姊妹の孫をいふ。

【從表弟】236′（ジユウヘウテイ）　從表兄弟を見よ。〔朱熹、祭㆓劉共父樞密㆒文〕維淳熙五年、歲次戊戌、九月辛酉朔二十日庚辰、從表弟宣教郎主管建寧府武夷山冲佑觀朱熹、敢以㆓清酌庶羞之奠㆒、告㆓于近故建康留守觀文殿學士彭城劉公之靈㆒。

【從表姪】237（ジユウヘウテツ）　母方のいとこの子。〔朱熹、祭㆓汪尙書㆒文〕維淳熙三年、歲次丙申、三月朔二十七日壬申、從表姪宣教郎主管台州崇道觀朱熹、謹以㆓香茶清酌㆒、致㆓祭于近故端明殿學士尙書汪公之靈㆒。

【從野堂】238（ジユウヤダウ）　室名。❶明、繆昌期（8－27855・・62）の室名。❷清、張丹（4－9812・・535）の室名。

【從量稅】239（ジユウリヤウゼイ）　稅制の一。貨物の重量・個數・容積・面積等を標準とした課稅。

【從歷數】240（ジユウレキスウ）　三國、吳の鼓吹曲名。韋昭撰。〔古今樂錄〕從歷數者、言㆘孫權從㆓圖籙之符㆒而建㆗大號㆖也、當㆓漢有所思㆒。

【從軒先生】241（ジユウケンセンセイ）　宋、章節夫（8－25761・・214）の尊稱。

【從吾好齋】242（ジユウゴカウサイ）　清、陳珍（11－41698・・473）の號。「號。

【從吾道人】243（ジユウゴダウジン）　明、董澐（9－31433・・12）の號。

【從野逸人】244（ジユウヤイツジン）　明、彭在份（4－10003・・152）の號。

【從曾祖昆弟】245（ジユウソウソコンテイ）　同高祖の兄弟。みいとこ。族兄弟。〔新書六術〕六親始曰ㇾ父、父有㆓二子㆒、二子爲㆓昆弟㆒、昆弟又有ㇾ子、子從ㇾ祖而昆弟、故爲㆓從祖昆弟㆒、從祖昆弟又有ㇾ子、子從㆓曾祖㆒而昆弟、故爲㆓從曾祖昆弟㆒、從曾祖昆弟又有ㇾ子、子爲㆓族兄弟㆒、備㆓於六㆒、此之謂㆓六親㆒。〔稱謂錄、遠兄弟、從曾祖昆弟〕案、賈子所謂從曾祖昆弟、卽爾雅所謂族兄弟。

【從噶克長官司】246（ジユウカツコクチヤウクワンシ）　土司の名。清、置く。四川省理番縣治の西北。〔清史稿、地理志〕四川、理番直隸廳、土司四、從噶克長官司。

【無ㇾ從無ㇾ道始得ㇾ道】247　限定されたものによることなくして始めて道を體得することができる。〔莊子、知北遊〕無ㇾ思無ㇾ慮、始知ㇾ道、無ㇾ處無ㇾ服、始安ㇾ道、無ㇾ從無ㇾ道、始得ㇾ道。

【徟】10153

シウ　シユ　〔集韻〕之由切　尤

ゆくさま。徟徫。〔集韻〕徟、徟徫、行皃。

【⿰彳松】10154

シヨウ　シユ　〔集韻〕思恭切　冬

❶**おそれすすむ。**〔玉篇〕⿰彳松、小行恐皃。❷**ののしる。又、おこたる。**倯（1－798）に同じ。〔集韻〕倯、方言、傱倯、罵也、郭璞曰、羸小可ㇾ憎之名、一曰、嬾也、或从ㇾ彳。

【徠】10155

㊀ライ　〔集韻〕郎才切　ㄌㄞˊ　灰　lai²

㊁ライ　〔集韻〕洛代切　ㄌㄞˋ　隊　lai⁴

㊀❶**つく。**〔玉篇〕徠、就也。❷**かへる。**〔玉篇〕徠、還也。〔廣韻〕徠、還也。❸**きたる。くる。**來（1－581）に同じ。〔集韻〕來、周所ㇾ受瑞麥、來麰、一來、二縫、象㆓芒束之形㆒、天所ㇾ來也、故爲㆓行來之來㆒、或从ㇾ彳。〔字彙〕徠、古文來字。〔漢書、武帝紀〕氐羌徠服。〔注〕師古曰、徠、古往來之字也。㊁**いたはる。**ねぎらふ。勑（2－2380）に同じ。〔玉篇〕徠、勞也。〔集韻〕勑、說文、勞也、或从ㇾ彳。

【徠下】1（ライカ）　來り下る。〔漢書、禮樂志〕訾黃其

何不二徠下一。

【徠祇】2（ライシ） 來りつつしむ。〔揚雄、甘泉賦〕徠二祇郊禋一、神所レ依兮。〔注〕善曰、言、來二郊禋一而甚敬。

【徠兒】3（ライジ） 兒童に扮した役者。子役。〔焦循、劇說〕末旦・淨・丑之外、又有二孤・徠兒・孛老・邦老・卜兒等目一、徠兒不レ言下以二何色一扮上レ之、惟貨郞旦之李春郞、前稱二徠兒一、後稱二小末一、則前以二小末一扮二徠兒一、蓋徠兒者、扮爲二兒童狀一也、春郞前幼、當三扮爲二兒童一、故稱二徠兒一、後已作レ官、則稱二小末一耳。

【徠臣】4（ライシン） 來つて臣となる。〔漢書、董仲舒傳〕四海之內、聞二盛德一而皆徠臣。

【徠人】5（ライジン） 俳優の役柄。徠兒を見よ。〔西廂記、張君瑞鬧二道場一雜劇〕正末扮二騎馬一、引二徠人一上開。

【徠服】6（ライフク） 來つて服從する。來服。〔漢書、武帝紀〕（元光元年）海外肅昚、北發二渠搜一、氐羌徠服。

【徠民】7（ライミン） 商子の篇名。

【徠遠司】8（ライエンシ） 官名。清、置く。理藩院に屬し、回部蒙古の政令を掌る。〔稱謂錄、理藩院司官、徠遠司〕皇朝通攷、理藩院、掌二蕃部封授・朝覲・貢獻・黜陟・徵發之政一、按、馭撫綏、以固二邦翰一焉、其屬有二六清吏司一、曰典屬、曰王會、曰旗籍、曰柔遠、曰理刑、曰徠遠。〔清國行政法汎論、理藩部、徠遠清吏司〕專掌二回部蒙古之政令・爵祿・貢賦等事一。

【徠獃臭】9 lai² tai¹ ch'ou² 野鄙な男。痴漢。

【⿰彳卑】10156

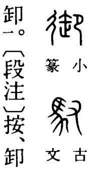
ヒ ❶俾（1―740）に同じ。〔玉篇〕⿰彳卑、與レ俾同。❷卑（2―2738）に同じ。〔集韻〕⿰彳卑、使也、或作レ卑。

【御】10157

㈠ギョ ゴ 〔集韻〕牛據切 ㄩˋ yü⁴ 御

㈡ギョ ゴ 〔集韻〕偶擧切 語

㈢ガ ゲ 〔集韻〕魚駕切 ㄧㄚˋ ya⁴ 禡



㈠❶馬をつかふ。〔說文〕御、使レ馬也、从二彳卸一。〔段注〕按、卸亦聲。〔詩、鄭風、大叔于田〕叔善射忌、又良御忌。〔史記、趙世家〕使二造父御一。❷馬をあつかひ車をやる術。古は六藝の一。〔周禮、地官、大司徒〕禮樂射御書數。〔論語、子罕〕執レ御乎、執レ射乎。〔漢書、荀彘傳〕以レ御見、侍中。〔注〕師古曰、以レ善レ御得レ見、因爲二侍中一、御、謂レ御レ車也。❸ぎよしや。〔詩、小雅、車攻〕徒御不レ驚。〔集傳〕御、車御也。❹ならす。動物を馴養する。〔左氏、昭、二十九〕國有二豢龍氏一、有二御龍氏一。〔服注〕御、亦養也。❺をさめる。〔書、泰誓上〕越我御レ事庶士。〔傳〕御、治也。〔詩、大雅、思齊〕以御二于家邦一。〔傳〕御、治也。〔國語、周語上〕百官御レ事。〔注〕御、治也。❻つかさどる。〔禮、曲禮下〕長曰二能御一矣、幼曰レ未レ能レ御矣。〔注〕御、猶レ主也。❼すべる。〔正韻〕御、統也。〔晉書、隱逸傳〕夏統、字仲御。❽ひきゐる。〔國語、越語下〕皆曲相御。〔注〕御、猶レ將也。❾やる。〔易、文言〕以御レ天也。〔荀注〕御、行也。❿もちひる。〔楚辭、九章、涉江〕腥臊並御。〔注〕御、用也。〔孔子家語、顏回〕此道之美而莫二之御一也。〔注〕御、猶レ待也。⓫つかふ。あやつる。〔呂覽、貴卒〕鮑叔御二公子小白一僵。〔注〕御、猶レ使也。⓬すすめる。㋑まへへだす。自分の方へ近づかせる。〔左氏、昭、二十三〕士伯御二叔孫從者四人一。〔疏〕御、謂二進引一也。㋺あげもちひる。〔荀子、禮論〕時擧而代御。〔注〕御、進用也。㋩慫慂する。〔禮、曲禮上〕御二食於君一。〔注〕勸侑曰レ御。㋥さしあげる。まゐらせる。〔集韻〕御、一曰、進也。〔詩、小雅、六月〕飮御二諸友一。〔傳〕御、進也。〔詩、小雅、吉日〕以御二賓客一、且以酌レ醴。〔箋〕御二賓客一者、給二賓客之御一也。〔疏〕御者、給與充用之辭、故知下御二賓客一者、給中賓客之御上也。〔禮、王制〕千里之內以爲レ御。〔疏〕御、是進御所レ須。⓭すすむ。そばにゆく。又、はべる。したがふ。〔小爾雅、廣言〕御、侍也。〔集韻〕御、一曰、侍也。〔書、五子之歌〕御二其母一以從。〔傳〕御、侍也。〔禮、月令〕三公・九卿・諸侯・大夫、皆御。〔注〕御、侍也。〔周禮、天官、序官、女御、注〕昏義所謂御妻、御、猶二進也、侍也一。〔周禮、天官、九嬪〕帥二其屬一、而以レ時御二敍于王所一。〔注〕御、猶レ進也、勸也。〔禮、月令〕后妃帥二九嬪一御。〔注〕御、謂二從往侍レ祠。〔國語、楚語上〕以訓二御之一。〔注〕御、進也。⓮そばめ。侍妃。〔周禮、天官、內宰〕以二婦職之灋一教二九御一。〔注〕九御、女御也、九九而御二于王一、因以號焉。〔國語、周語上〕王御不レ參二一族一。〔注〕御、婦官也。⓯そば仕への者。近侍。侍女。〔儀禮、既夕禮記〕御者四人。〔注〕御者、今時侍從之人。〔國語、吳語〕奉二槃匜一以隨二諸御一。〔注〕御、近臣宦豎之屬。〔後漢書、明德馬皇后紀〕僮御。〔注〕僮・御、皆使者也。⓰寢席にはべらせる。〔禮、內則〕必與二五日之御一。〔注〕御、謂レ侍二夜勸息一也。〔張衡、思玄賦〕斥二西施一而弗レ御兮。〔注〕良曰、御、幸也。⓱天子・諸侯の行爲や事物をあがめて御といふ。〔獨斷、上〕天子所レ進曰レ御、御者、進也、凡衣服加二於身一、飮食入二於口一、妃妾接二於寢一、皆曰レ御。〔後漢書、安帝紀論〕雖二稱レ尊享御一、而權歸二鄧氏一。〔後漢書、清河王傳〕賜二什物一、皆取二乘輿上御一。〔王延壽、魯靈光殿賦〕實至尊之所レ御。⓲天子・諸侯に關する事物に冠する敬稱。〔左氏、哀、三〕出二御書一、俟二于宮一。〔公羊、桓、十四〕御廩災。〔注〕御廩、藏三公所二親耕一、以奉二粢盛一之倉也。〔後漢書、曹節傳〕盜取二御水一、以作二魚釣一。〔注〕水入二宮苑一爲二御水一。⓳ふせぐ。とめる。おさへる。〔詩、邶風、谷風〕亦以御レ冬。〔傳〕御、禦也。〔疏〕御、卽禦也、故訓爲レ止。〔史記、范雎傳〕弊二御於諸侯一。⓴のぞむ。その場へゆく。〔素問、天元紀大論〕天有二五行一、御二五位一。〔注〕御、臨御也。㉑むかふ。〔書、顧命〕御二王冊命一。〔鄭注〕御、猶レ嚮也。㉒よる。よりかかる。〔曹植、雜詩〕臨レ牖御二櫺軒一。〔注〕善曰、御、猶レ馮也。㉓うかがふ。〔戰國、秦策〕韓・楚必相御也。〔注〕御、猶二相瞰望一也。㉔つらねる。〔後漢書、班固傳下〕御二東序之祕寶一。〔注〕御、猶レ陳也。㉕いたす。〔呂覽、孟春紀〕措レ之參二于保介之御レ閒。〔注〕御、致也。㉖とき。〔管子、五行〕日至睹二甲子木行御一。〔注〕御、時也。㉗つかさ。〔詩、大雅、崧高〕王命二傳御一。〔傳〕御、治レ事之官也。㉘つま。〔呂覽、上農〕農不レ出レ御。〔注〕御、妻也。㉙古は馭（12―44576）・⿰彳币（4―10125）・御（4―10232）に作る。〔集韻〕御、古作二馭・⿰彳币・御一。㉚一百六韻の一。去聲第六。㉛姓。〔通志、氏族略、以レ官爲レ氏〕御氏、周禮有二御人之職一、其後爲レ氏。㈡❶とめる。ふせぐ。衞（10―34077）に同じ。〔集韻〕衞、止也、或作レ御。〔左氏、襄、四〕季孫不レ御。〔注〕御、止也。❷魯の邑名。〔左氏、襄、二十二〕雨過二御叔一。〔注〕御叔、

魯御邑大夫。❷禦(8－24820)に通ず。〔左氏、莊、十一〕公子御說之辭也。〔釋文〕御、本或作ㇾ禦。［三］むかへる。訝(10－35260)・迓(11－38756)に通ず。〔說文通訓定聲〕御、叚借爲ㇾ訝。〔集韻〕訝、說文、相迎也、或作ㇾ御。〔詩、召南、鵲巢〕百兩御ㇾ之。〔釋文〕御、本亦作ㇾ訝、又作ㇾ迓。［邦］**おほん。おん。お。み。ご。**㋑他人の事物に添へていふ敬語の接頭語。御身。御前。御意。㋺自他の別なく、物を尊んでいふ時に添へる接頭語。御米。御櫃。御天氣。

［名乘］ヲヤ。ノリ。ミツ。

［解字］會意。彳と卸との合字。馬を使ふ意。彳は行く意、卸は馬車を止めて車から馬を解く意。馬車を進めたり止めたりするは御者の職である。〔說文、御〕徐鍇曰、卸、解二車馬一也、或彳、或卸、皆御者之職。▽ （金文）會意形聲。辵と卩と午との合字。午は杵形の神體。神前に進み（辵）、膝をつき（卩）、神を迎へる意。午は又聲。

【御愛】1（ギョアイ） 天子が愛すること。〔靑瑣高議〕劉蒙菊譜、有二御愛菊一。

【御衣】2（ギョイ） 天子のおめしもの。衣の敬稱。おめし。みころも。みぞ。おんぞ。〔李嶠、春日遊ㇾ苑喜ㇾ雨應詔詩〕密雨迎二仙步一、低雲拂二御衣一。

【御衣木】3（ミソギ） 神佛を造る木。〔東鑑集解〕。

【御衣野】4（ミソノ） 伊勢國の地名。

【御意】5（ギョイ） ❶他人の心意の敬語。おぼしめし。御心。貴意。〔庭訓往來、正月〕改年吉慶、被ㇾ任二御意一候之條。❷命令。おさしづ。おほせ。指揮。〔太平記、五、大塔宮熊野落〕。

【御醫】6（ギョイ） 內廷に供奉する醫師。侍醫。〔淸會典事例、太醫院、官制、設官〕國初、設二院使一員、左院判一員、右院判一員、御醫十員、吏目三十員、醫士四十名、醫生二十名、切造醫生二十名一。

【御遊】7（ギョイウ） 天子のおあそび。〔國史略、後冷泉天皇〕天喜四年三月、中殿賞花御遊。

【御宇】8（ギョウ） 宇內を御し治める。天下を統治する。轉じて、天下を統治してゐる期間。みよ。御代。〔晉書、武帝紀〕握ㇾ圖御ㇾ宇、敷ㇾ化導ㇾ民。〔文心雕龍、詔策〕皇帝御ㇾ宇。〔大唐新語〕唐太宗始、躬親二政事一、詔曰、有隋御ㇾ宇、政刻政煩。〔唐、明堂肅和章〕象ㇾ天御ㇾ宇、乘ㇾ時布ㇾ政。〔白居易、長恨歌〕漢皇重ㇾ色思二傾國一、御宇多年求不ㇾ得。

【御影】9（ギョエイ） ❶天子・三后・皇太子等の御肖像。❷（ミカゲ）㋑神靈の尊稱。みたま。㋺繪像の尊稱。みえい。〔榮華物語、紫野〕御堂には故院の御影をかき奉りたり。㋩おかげ。恩惠。

【御影供】10（ミエイク） 故人の繪像を掲げて供養すること。又、其の法會。〔東寶記、六〕御影供、二十一日。

【御影堂折】11（ミエイダウヲリ） 扇の折方の一。新善光寺の僧尼が製作した折方。〔雍州府志、四、寺院門上〕新善光寺、在二五條橋西一、所謂御影堂也、云云、中世以來、携ㇾ尼常製ㇾ扇賣二四方一、是謂二御影堂折一。

【御窯】12（ギョエウ） 官設の窯。專ら御用の瓷器を製造するもの。〔格古要論〕古饒器、出二今饒州府浮梁縣一、御土窯者、體薄而潤最好、元朝燒二小足印花者一、內有二樞府字一高。

【御宴】13（ギョエン） 天子が羣臣に賜はる宴。〔黃庚、宮詞〕聞說君王御宴回、宮人留ㇾ鑰內門開。

【御筵】14（ギョエン） 天子の御座。〔韋元旦、興慶池侍ㇾ宴應制詩〕雲峰四起迎二宸幄一、水樹千里入二御筵一。〔宋史、禮志二十二〕詔賜二御筵於呂公著私第一。

【御垣】15（ミカキ） 垣の敬稱。禁中又は神社のめぐりにある垣。〔源氏物語、榊〕同じ御垣のうちながら變れること多く悲し。

【御垣守】16（ミカキモリ） 禁中の御門を守る衞士。〔古今集、短歌〕とのへもる身の御垣守。

【御苑】17（ギョエン） 禁中のその。禁苑。〔沈佺期、奉二和洛陽翫雪一應制詩〕灑ㇾ瑞天庭裏、驚ㇾ春御苑中。〔王維、敕二賜百官櫻桃一詩〕總是寢園春薦後、非ㇾ關二御苑鳥銜殘一。

【御園】18（ギョエン） ❶御苑に同じ。〔李紳、憶二春日曲江宴後許至二芙蓉園一詩〕春風上苑開二桃李一、詔許ㇾ看ㇾ花入二御園一。❷（ミソノ） 其の土地から生ずる物を神供とする神領の鄉園。〔東鑑、六〕文治二年三月十日、下二伊勢國神宮御領御園・御厨地頭等一。

【御圓】19（ギョエン） 天を治め統べる。又、天の道を用ひる。君主の道をいふ。圓は天、又、天の道。〔袁宏、三國名臣序贊〕御ㇾ圓者、不下以二信誠一率上ㇾ衆、執ㇾ方者、必以二權謀一自顯。〔注〕善曰、呂氏春秋曰、天道圓、地道方、聖人之所三以立二上下一、主執ㇾ圓、臣處ㇾ方、方圓不ㇾ易、國乃昌。

【御伽】20（オトギ） ❶とぎの敬稱。❷俗に、妾のこと。

【御伽話】21（オトギバナシ） ❶とぎの折に話される話。❷童話。

【御伽草紙】22（オトギサウシ） 足利時代から德川時代の初に行はれた小說風の讀みもの。

【御伽坊主】23（オトギバウズ） 葬式の前にお伽をし、讀經などする僧。

【御河】24（ギョカ） 河の名。❶天子御用の河道の意。㋑運河の名。隋の煬帝が開鑿したもの。今の衞河。河南省輝縣附近から河北省大名縣を經、山東省館陶縣に至る。〔初學記、地部中、河〕隋煬帝於二衞縣一因二淇水之入ㇾ河、立二淇門一以通ㇾ河、東北行得二禹九河之故道一、隋人謂二之御河一。〔讀史方輿紀要、直隸、大名府、元城縣〕在二府城南一、亦曰二通濟渠一、一名永濟渠、卽隋大業中所ㇾ開淇・衞諸水之下流也、自二河南衞輝府境一、流經二濬縣・內黃・衞縣之境一。㋺溝の名。北京の舊紫禁城から出で、東交民巷を過ぎて城濠に入るもの。一名、玉河。〔讀史方輿紀要、直隸、順天府、宛平縣、沙河〕玉河、在二府西一、源出二玉泉山一、流注二西湖一、經二大內一、出二都城東南一、入二大通河一、亦謂二之御河一。❷山西省大同縣の東北。塞外から南流して入り、又南し、縣の東南に至つて桑乾河に入る。舊名は如渾水。〔讀史方輿紀要、山西、大同府、大同縣〕如渾水、志云、出二開山口一、名御河。

【御家】25（オイヘ） ❶貴人の一家の敬稱。❷人の妻の敬稱。奧方。內室。〔膝栗毛、六、下〕お家はどうぢやいな。

【御家人】26（ゴケニン） ❶けにんの敬稱。室町・鎌倉時代、將軍直屬の臣の敬稱。❷江戶時代、將軍直參の臣で、御目見（オメミエ）以下の小祿の士をいふ。〔平治物語、常磐注進〕譜代の御家人達を御憑み候うて。

【御家分】27（ゴケブン） ❶其の家の一門と同樣に取扱はれる家柄。❷譜代の臣。德川將軍直參の士など。

【御家流】28（オイヘリウ） ❶尊圓法親王が傳へた書體の名。上代樣より一層豐麗で、靑蓮院代々の門主に依つて繼承せられ、就中、尊鎭・尊朝・尊純の各宮は特に有名である。尋いで江戶時代に至り、朝廷にも行はれ、幕府も當流の建部傳內等を採用し公文書は此の書體に限られたが、明治維新後、漸く衰頹するに至つた。又、御家樣・尊圓流・靑蓮院流・粟田流等の諸名がある。❷香道の一流儀。三條西實隆の創始。

【御家樣】28′（オイヘヤウ） 御家流に同じ。御家樣筆を見よ。

【御家人役】29（ゴケニンヤク） 御家人が負擔する臨時の課役。〔東鑑、二十三〕建保六年三月二十三日、敕使重繼參二御所一日次不ㇾ宜之間、日來不ㇾ令ㇾ謁給一、逗留之程、爲二御家人等役一、每日經二營于敕使一。

【御家樣筆】30（オイヘヤウフデ） 御家流の書道で用ひる筆。〔雍州府志、七、土產門下、服器〕本朝筆道、專宗二靑蓮院之家風一、故其筆法稱二御家樣一、其所ㇾ用之筆、謂二御家樣筆一。

【御駕】31（ギョガ） 天子の車駕。〔張憲、立二仗馬一詩〕御駕馳二天上一、軍封受二海西一。

【御階】32（ギョカイ）（ミハシ） 宮殿のかいだん。〔劉言史、贈二成煉師一詩〕曾隨二阿母一漢宮齋、鳳駕龍軿列二御階一。

【御街】33（ギョガイ） 禁苑の通路。宮中の道。〔李洞、贈二入內供奉僧一詩〕一道蟬聲噪二御街一。

【御街行】34（ギョガイカウ） 詞牌の名。〔詞品〕范文正公・韓魏公、一時勳德重望、而范有二御街行詞一、韓有二點絳脣詞一、皆極二情致一。

【御蓋】35（ギョガイ） 天子の天蓋。〔後漢書、祭遵傳〕時遵有ㇾ疾、詔賜二重茵一、覆以二御蓋一。

【御幸】36（ギョカウ） ❶みゆき。天子のおでまし。〔唐律、職制上〕諸御幸舟船、誤不二牢固一者、工匠絞。❷（ゴカウ） 昔、上皇のみゆきをいふ。〔平家物語、灌頂〕法皇夜をこめて大原の奧へぞ御幸なる。❸（ミユキ） 香の名。伽羅の屬。百二十種名香の一。

【御講】37（オコウ） ［佛］佛徒の間で、各宗の開祖の命日に行ふ佛事。

【御合】38（ミアハシ） 合（アハシ）の敬語。

【御看】39（ヲロシ） 姓氏。〔姓林全書〕。

【御感】40（ギョカン）天子の感動。天子が強くお感じになること。叡感。〔保元物語、親治等生捕〕主上御感の餘りに、其夜除目行はれて。

【御几】41 yü^4 chi^3　天子の小几。

【御忌】42（ギョキ）㊀貴人・祖師などの年忌法會の敬稱。㊁（オイミ）陰曆十月の稱。十月は神々が出雲の國に集つて留守になるので、忌み愼むべき意からいふ。

【御氣】43（ギョキ）㊀血氣を制御する。〔東萊博議〕君子以レ心御レ氣、而不レ爲二氣所一レ御。㊁宇宙の元氣の中を御し行く。〔王融、三月三日曲水詩序〕時乘二既位一、御レ氣之駕翔焉。〔注〕濟曰、既位、喩二天子得一レ位也、御レ氣、則御二行於元氣中一也。㊂風に乘る。〔白居易、長恨歌〕排レ空御レ氣奔如レ電。〔柳貫、松雪老人臨二王晉卿煙江疊嶂圖一詩〕我疑此叟猶未レ化、瞬息御レ氣行二九州一。㊃禁中の佳氣。〔杜甫、秋興詩〕花萼夾レ城通二御氣一。

【御氣色】44（ミケシキ）氣色の敬語。氣色は、様子・機嫌・思召し・御意・氣受け。〔宇津保物語、嵯峨宮〕いと御けしきあしくて。

【御器】45（ギョキ）㊀天子の御道具。〔新書、輔佐〕御器不レ以レ度。㊁（ゴキ）㋑食物を盛る器。木製・金屬製、又は土器等がある。後世の蓋付の椀の稱。〔宇津保物語、吹上の上〕同じろくろびきの御器。㋺折敷を乘せた臺盤。〔大鏡、上〕御食物はうるはしく御器などにもまゐりすゑで。

【御妓】46（ギョギ）官妓をいふ。〔稱謂錄、倡、御妓〕晉書桓伊傳、帝善二其調達一、乃敕二御妓一奏レ笛。

【御朽】47（ギョキウ）くちた橋にのる。おそれつつしむさま。〔日本後紀、桓武紀〕懼甚レ履レ氷、懍乎御レ朽。

【御廏】48（ギョキウ）天子のうまや。龍廏。〔常袞、春蒐賦〕選二龍媒於御廏一。

【御匱】49（ギョキウ）柩をおさめ正す。〔周禮、地官、鄕師〕及レ葬、執レ纛以與二匠師一御レ匱而治レ役。〔疏〕與二匠師一御二正其柩一。

【御饗】50（ミアヘ）㊀古、人を饗應すること。馳走。饗應。〔風雅集、神祇〕御饗たむくる春は來にけり。㊁（ヲカヒ）姓氏。〔和爾雅〕。

【御形】51（オギヤウ・ゴギヤウ）㊀ははこぐさの異名。〔年中行事秘抄、正月〕七種菜、云云、御形。㊁くそにんじんの異名。黃花蒿。㊂（オンカタチ）姿の敬稱。㊃（ミカタ）神體（8－24673‥355）の㊁に同じ。〔儀式帳、管祭宮肆院行事〕御形鏡坐。

〔御形蓬〕52（ゴギヤウヨモギ）御形の㊀に同じ。

【御許】53（オモト・オンモト）㊀御座所。おそば。㊁轉じて、あなた。親んでいふ第二人稱の代名詞。㊂御許人の略稱。御許人を見よ。〔源氏物語、空蟬〕民部のお許なめり。

〔御許人〕53′（オモトビト）天子の御側近く仕へる人。侍女。〔宇津保、藏開〕上﨟の御許人など候ふ。

【御極】54（ギョキョク）極を御する。天子の位に在ること。〔文心雕龍、時序〕明帝秉レ哲、雅好二文會一、升レ儲御レ極、孶孶講レ藝。〔唐書、李晟傳〕昔我烈祖、承二乾坤蕩滌一、掃二隋季荒茀一、體レ元御レ極、作二人父母一。〔皇朝政治學問答〕皇上卽レ位、謂二之御極一、御以レ上臨レ下也。〔國朝漢學師承記、敍〕高宗純皇帝、御レ極六十年。

【御供】55（ゴク・ゴクウ）㊀供へ餅の一名。㊁供物の敬稱。神佛への供物。〔東鑑、六、文治二年六月十五日〕每日調二味御供一事。

〔御供所〕56（ゴクウショ）㊀神社・佛閣などに附屬して、御供を調へる所。神廚。〔東鑑、六、文治二年六月十五日〕建二立六間御供所屋一宇一。㊁（ゴクショ）讚岐國の地名。

〔御供船〕57（ゴクブネ）御供物を乘せた船。〔日次紀事、四月〕祭日縛二船一艘一、浮二湖上一、奏二音樂一而獻二供物一、是謂二御供船一。

〔御供田〕58（ゴクデン）神供の用にするために神に奉る田畑。神田。御戶代田。〔百練抄、寛治四年七月二十三日〕賀茂上下社、被レ奉二不輸田六百餘町一、爲二御供田一。

【御耦】59（ギョグウ）天子の鋤（スキ）。〔潘岳、藉田賦〕我皇乃降二靈壇一撫二御耦一。〔注〕善曰、論語曰、長沮・桀溺、耦而耕、鄭玄曰、耜、廣五寸、二耜爲レ耦。

【御棺】60（ミキ）棺の敬稱。みひつぎ。〔日本書紀、景行紀〕羣臣等、因以開二其棺櫬一而視レ之、明衣空留、而屍骨無レ之。

【御盥】61（オタラヒ）婦人の髮の結び方。髮の毛を輪にして簪を横に通し、殘りの髮を簪に巻きつけたもの。

【御軍】62（ミイクサ）軍隊の敬稱。天皇の統率し給ふ軍。皇軍。〔萬葉集、二〕大御手に弓取りもたし、御軍かあともひ給ひ。

【御禊】63（ミソギ）罪穢のある時、又は重大な神事の前等に、河原に出て水で身を淨め祓ふこと。ごけい。

【御慶】64（ギョケイ・ゴケイ）おんよろこび。おめでたいこと。また、新年にいふ。〔明衡往來〕正月御慶、依二此祝一承レ之。

〔御慶帳〕65（ギョケイチヤウ）年賀の廻禮者が姓名を記入する帳簿。

【御見】66（ギョケン）㊀參り見ること。天子の寢閨に侍すること。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕每レ當二御見一、輒辭以レ疾。㊁（ゴケン）御目にかかる。

〔御見之法〕67（ギョケンノハフ）一后・三夫人・九嬪・二十七世婦・八十一御妻が天子の御寢に侍する法。〔周禮、天官、九嬪、以レ時御二敍于王所一、注〕凡羣妃御見之法、月與二后妃一其象也、卑者宜レ先、尊者宜レ後、女御八十一人當二九夕一、世婦二十七人當二三夕一、九嬪九人當二一夕一、三夫人當二一夕一、后當二一夕一、亦十五日而徧云、自レ望後反レ之。〔禮、曲禮下、天子有レ后、疏〕凡后妃以下、更以二次序一而上、御二王於五寢之中一也、故鄭注二周禮九嬪一云、凡御見之法、月與二后妃一其象也。

〔御見文字〕68（ゴケンモジ）御目にかかる。おめもじ。語尾「モジ」を附けるのは女房詞。

【御劍】69（ギョケン）天子の劍。〔後漢書、東平憲王蒼傳〕元和三年、行レ東巡狩、幸二東平宮一、帝追感念レ蒼、遂幸二蒼陵一、賜二御劍于陵前一。〔宋史、李重貴傳〕重貴對二便殿一、太宗善レ之、出二御劍一以賜。

【御言】70（ミコト）言の敬語。仰せ。みことのり。詔。勅。

【御監】71（ゴゲン）官名。㊀左右馬寮の總裁。左右各各一人。後世、近衞大將の兼任となる。馬のつかさ。〔建武年中行事、正月〕白馬の奏を取る、御監署を加ふ。㊁親王家司の長官。〔類聚國史、一百六十五、祥瑞、延曆十六年六月〕三品朝原内親王獻二白雀一、御監及家司等賜レ物有レ差。

【御壺】72（ギョコ）天子が使用する壺。〔孔臧、與二子琳一書〕侍中子國、名達淵博、云云、故雖下與二羣臣一並居近侍上、頗見二崇禮一、不レ供二褻事一、獨得レ掌二御壺一、朝廷之士、莫レ不レ榮レ之。

【御瞽】73（ギョコ）侍御の樂工。古は瞽者を以つて之に充てた。〔禮、玉藻〕御瞽、幾二聲之上下一。〔注〕瞽、樂人也。〔疏〕御者、侍也、以二瞽人一侍レ側、故云二御瞽一。

【御溝】74（ギョコウ）㊀御苑を流れる溝。禁中のほり。〔古今注、都邑〕長安御溝、謂二之楊溝一。〔謝朓、鼓吹曲、入朝曲〕飛甍夾二馳道一、垂楊蔭二御溝一。〔崔顥、詩〕玉戶臨二馳道一、朱門近二御溝一。〔司馬禮、宮怨詩〕年年花落無二人見一、空逐二春泉一出二御溝一。㊁（ミコウ）姓氏。〔日用重寶記〕。

〔御溝水〕75（ミカハミヅ）禁裏の苑中にある川の水。〔源氏物語、梅枝〕右近の陣のみかは水の邊になずらへて。

〔御溝頭〕76（ギョコウノホトリ）禁中を流れるお堀のほとり。御濠端。〔鵜孟一、城門雪詩〕雪滿千金公子裘、相逢停レ騎御溝頭。

〔御溝流葉〕77（ギョコウリウエフ）詩句を書いた葉を御溝に流して宮外の人に意中を傳へた故事。〔陔餘叢考、御溝流葉凡四見〕御溝流葉、事見二於傳記一者凡四、其一、唐人本事詩云、顧況在レ洛、偶與レ友遊二苑中一、流水上得二梧葉一、有レ詩云、一入二深宮裏一、年年不レ見レ春、聊題二一片葉一、寄與有情人、況於二上游一亦題云、愁見鶯啼柳絮飛、上陽宮女斷腸時、君王不レ禁東流水、葉上題レ詩寄二與誰一、後十餘日、有レ客、又得二水上一葉詩一以示レ況、曰、一葉題レ詩出二禁城一、誰人酬和獨含レ情、自嗟不レ及二波中葉一、蕩漾乘レ春取次行、又明皇時、楊虢寵盛、宮娥皆怨、嘗有下書二落葉一隨二御溝水一流出上、云、舊寵悲二秋扇一、新恩寄二早春一、聊題二一片葉一、將レ寄二接流人一、顧況聞而和レ之、既達二上聽一、遣二出内人一不レ少、此皆唐人小說所レ記、蓋卽顧況一事也、其二、雲溪友議、盧渥舍人、偶臨二御溝一見二紅葉上有一レ詩、云、流水何太急、深宮盡日閒、殷勤謝二紅葉一、好去到二人閒一、其三、北夢瑣言、進士李茵遊二苑中一、見二御溝流葉有一レ詩、與二盧渥所一レ得詩同、後僖宗幸レ蜀、茵奔匿、途遇二宮娥雲芳子一、因與同行、具述二宮中事一、曾有三詩書二葉上一、卽此

女也、其四、玉溪編事、侯繼圖㆓於大慈寺㆒、忽風吹㆓木葉㆒、有㆑詩云、此字不㆑書㆑紙、書向㆓秋葉上㆒、願逐㆓秋風㆒起、天下有情人、盡解相思死、云云、龐元英談藪謂、前三則葢本一事、而傳記者各異耳。

【御國】78ミクニ ㊀我が國の敬稱。皇國。㊁江戸時代、大名の領地の稱。

【御國讓】79ミクニユヅリ 天子が御位を太子に讓り給ふこと。讓位。〔源氏物語、澪標〕同じ月の二十日あまり、みくにゆづりのこと俄かなれば。

【御國風】80ミクニブリ ㊀我が國の風習。㊁我が國特有の文學。和歌。〔あづまうた、六〕みくにぶり今も神代のままならむ。

【御衮】81ギョコン 天子の制服。衮龍の御衣。〔南史、齊武帝紀論〕御衮垂㆑旒、深存㆓政典㆒。

【御魂】82ギョコン ㊀天子の御靈。〔梁川星巖、芳野懷古詩〕春入㆓櫻花㆒滿山白、南朝天子御魂香。㊁ミタマ 靈魂の敬稱。〔日本書紀、神代紀、上〕。

【御魂祭】83ミタママツリ 死者の靈魂を祭ること。

【御佐】84ギョサ 馭者の傍に坐乘する者。〔後漢書、衞颯傳、勸令養㆑蠶織㆑履、注〕東漢觀記曰、元和中、刑州刺史上言、臣行㆑部入㆓長沙界㆒、觀者皆徒跣、臣問㆓御佐㆒曰、人無㆑履、亦苦㆑之否。

【御坐】85ギョザ ㊀座席の傍に侍る。侍坐する。〔韓非子、外儲說左上〕叔向御㆓坐平公㆒請㆑事、公腓痛足痺、轉筋而不㆓敢壞坐㆒。㊁天子の座席。御座。又、其の傍。〔後漢書、周擧傳〕上書言㆓當世得失㆒、辭甚切正、尙書郭虔・應賀等見㆑之、共上疏稱㆓擧忠直㆒、欲㆘帝置㆓章御坐㆒、以爲㆗規誡㆖。

【御座】86ギョザ ゴザ ㊀座の敬稱で、君主のいましどころ。〔漢書、戾太子據傳〕壞㆓御座㆒掘㆑地。〔後漢書、隱逸、嚴光傳〕明日太史奏、客星犯㆓御座㆒甚急。㊁オマシ ㋑主上又は尊貴の人の居たまふ所。㋺姓氏。〔姓林全書〕。㊂オザ ㋑僧の說教の敬稱。㋺法事のために人々が寄合ふこと。

【御座所】87ゴザショ オマシドコロ 御座の㊁の㋑に同じ。〔源氏物語、帚木〕實によろしきおまし所にもとて。

【御座船】88ゴザブネ 貴人の乘る船。〔太平記、七〕追手の船一艘、御座船に追ひ附いて。

【御妻】89ギョサイ 古、天子に進御する女官の中の最下級の者で、八十一人ゐた。〔禮、昏義〕古者天子后立㆓六宮㆒三夫人・九嬪・二十七世婦・八十一御妻。

【御祭】90ゴサイ ㊀陰暦六月の土用の半過ぎから七日ほど吹く東北の風。㊁オンマツリ オマツリ 祭事。

【御祭服】91ゴサイフク 天皇が神事に召される御服。清淨な生絹の白い御衣。〔兵範記、仁和三年十一月二十二日〕次著㆓御祭服㆒、闕掖御袍、半臂、小襖、以㆓生絹㆒調㆑之。

【御菜】92ギョサイ 草の名。つるむらさき。落葵（**9**－**31362**・・35）の異名。〔本草、落葵〕釋名、蔠葵・藤葵・天葵・繁露・御菜、時珍曰、釋家呼爲㆓御菜㆒。

【御寨】93ギョサイ 宮殿の垣根。〔遼史、兵衞志上〕隨㆑軍專伐㆓園林㆒、塡㆓道路御寨㆒及諸營壘㆒。

【御齋】94オトキ 僧家の食事をいふ。精進料理。

【御在】95ギョザイ 侍坐する。〔國語、鄭語〕侏儒戚施、寔御㆓在側㆒、近㆓頑童㆒也。

【御倉】96ミクラ ㊀倉の敬稱。㊁正倉院の敬稱。〔榮花物語〕御倉・御堂など開かせて御覽ずるに。㊂藏人所・內藏寮に附屬する倉庫。御藏。㊃御倉小舍人の略。㊄武家の職名。倉庫を管理する者。倉奉行。〔太田康有記〕建治三年十二月十九日、御倉事甲斐三郎左衞門尉可㆓奉行㆒。〔松田長秀記〕自㆓御倉㆒申㆓出之㆒。

【御倉守】97ミクラモリ 內藏寮の倉庫番。〔內藏寮式〕御藏幷門守・火長等。

【御倉小舍人】98ミクラノコドネリ 御藏小舍人（101）に同じ。〔西宮記、臨時一、諸宣旨〕定額、御倉小舍人、頭以下議定。

【御喪】99モミ 喪の敬稱。〔日本書紀、仲哀紀〕皇后及大臣武內宿禰、匿㆓天皇之喪㆒、不㆑令㆑知㆓天下㆒。

【御藏】100ミクラ 御倉（96）に同じ。

【御藏小舍人】101ミクラノコドネリ 藏人所の小舍人。納殿の御物を出納する。御倉小舍人（98）に同じ。〔兵範記〕仁安三年七月二十四日、定㆓下御藏小舍人定額㆒。

【御作】102ギョサク ㊀貴人の作った物の敬稱。㊁他人の作った物の敬稱。㊂オツクリ おけしやう。容色をととのへること。

【御策】103ギョサク 馬を馭するむち。〔晉書、天文志上〕王良之御策也。

【御札】104ギョサツ 文體の名。天子の札の尊稱で、宋代に始まり、明以後、亡ぶ。敕の變體で、概して儷語を用ひる。親書。御箋。〔五代史、唐明宗紀〕御札求㆓直言㆒。〔文體明辯、御札〕按、字書、札、小簡也、天子之札、稱㆓御札㆒、尊㆑之也、古無㆓此體㆒、至㆑宋而後有㆑之、其文出㆓於詞臣之手㆒、而體亦不㆑同、大柢多用㆓儷語㆒、蓋勅之變體也、今採㆓數首㆒列㆓于篇㆒。

【御餐】105ギョサン 天子の食べ物。〔後漢書、東海恭王彊傳〕皇太后數進㆓御餐㆒。

【御繖】106ギョサン 帝王がかざすきぬがさ。〔隋書、麥鐵杖傳〕廣州刺史歐陽頠、俘㆑之以獻、沒爲㆓官戶㆒、配㆓執御繖㆒。

【御纂】107ギョサン 天子が勅命して書籍を編纂させること。敕撰（**5**－**13225**・・46）に同じ。御纂七經を見よ。〔國朝漢學師承記、敍〕凡御㆓纂羣經㆒、皆兼㆓采漢宋先儒之說㆒、參㆓攷異同㆒、務求㆓至當㆒、遠紹㆓千載之薪傳㆒、爲㆓萬世不刊之鉅典㆒焉。

【御纂七經】108ギョサンシチケイ 書名。清、康熙帝勅撰。經書に諸家の注を加へたもの。御纂周易折中（112）・欽定書經傳說彙纂（**6**－**16104**・・105丶）・欽定詩經傳說彙纂（**6**－**16104**・・104）・欽定春秋傳說彙纂（**6**－**16104**・・105）・欽定周官義疏（**6**－**16104**・・80）・欽定儀禮義疏（**6**－**16104**・・75）・欽定禮記義疏（**6**－**16104**・・92）をいふ。始めの四を欽定四經と稱し、後の三を三禮義疏と稱す。各條を見よ。

【御纂孝經集注】109ギョサンカウキヤウシフチユウ 書名。一卷。清、雍正帝勅撰。

【御纂詩義折中】110ギョサンシギセツチユウ 書名。詩義折中（**10**－**35427**・・232）を見よ。

【御纂周易述義】111ギョサンシウエキジユツギ 書名。周易（**2**－**3441**・・29）の〔參考書〕を見よ。

【御纂周易折中】112ギョサンシウエキセツチユウ 書名。周易（**2**－**3441**・・29）の〔參考書〕を見よ。

【御纂朱子全書】113ギョサンシユシゼンシヨ 書名。朱子全書（**6**－**14424**・・323）を見よ。

【御纂春秋直解】114ギョサンシユンジウチヨクカイ 書名。春秋（**5**－**13844**・・333）の〔參考書〕を見よ。

【御纂性理精義】115ギョサンセイリセイギ 書名。性理精義（**4**－**10478**・・87）を見よ。

【御纂律呂正義】116ギョサンリツリヨセイギ 書名。律呂正義（**4**－**10097**・・58）を見よ。

【御讚】117ギョサン 天子が親ら書いたほめことば。〔翰林鑑事〕開元中、拜㆓張說十八人㆒爲㆓學士㆒、於㆓東都上陽宮含象亭㆒、圖㆓寫御讚㆒述㆑之。

【御士】118ギョシ 宿衞の士。〔左氏、僖、二十四〕遂奉㆓大叔㆒、以㆓狄師㆒攻㆑王、王御士將㆑禦㆑之。〔注〕周禮、王之御士十二人。〔疏〕周禮無㆓御士之官㆒。

【御子】119ミコ ㊀皇太子の稱。㊁天皇の御子孫。㊂親王（**10**－**34918**・・258）に同じ。〔源氏物語、桐壺〕清らなる玉のをのこみこさへ生まれ給ひぬ。

【御子宮】120ミコノミヤ 皇太子の稱。東宮。春宮。

【御子左】121ミコヒダリ 姓氏。〔日用重寶記〕。

【御子宿】122ミコヤドリ 大內裏の日華門の東の御輿宿の稱。東宮の御休所にするからいふ。〔江家次第、十七、東宮御元服〕御子宿四面砌外、南面去三丈許、自餘三方去二丈許、廻㆓引斑幔㆒。

【御子代】123ミコシロ 子代の敬稱。古、天皇・皇后・皇子などに御子がおはさぬ時、御名を後世に傳へるため、其の御名または居所の名を負はせて置いた私領の部民。みなしろ。御名代。〔古事記、下〕この天皇、太子なし、かれみこしろとしたまふ。〔日本書紀、孝德紀〕昔在、天皇等所㆑立、子代之民。

【御之】124ギョシ 清、宋宓（**3**－**7078**・・186）の字。

【御史】125ギョシ 官名。其の始めは周禮春官の屬に見え、天子の祕書で、書を記し、法令を授けることを掌り、後世の御史の任とは異る。戰國の時、亦御史があり、事を記すを職とした。秦・漢に至り、圖籍祕書を掌り、兼ねて始めて糾察を任とし、長官を御史大夫と稱して三公に列し、次官を御史中丞といふ。又、其の官署を御史府といひ、或は御史大夫寺・憲臺ともいふ。後漢以來、始めて御史臺・蘭臺寺と稱し、大夫を省いて中丞を臺率とし、始めて彈劾を以て專任とした。以來、歷代之に因る。梁・後魏・北齊には南臺といひ、後周には司憲といひ、隋・唐には皆御史臺といひ、龍朔二年、憲臺と改めたが、咸亨元年、舊に復

す。御史臺の門は北に闢き、陰殺を主とす。故に御史を風霜の任とし、不法を糺彈するを職とした。唐制では御史臺に大夫一人を置き、中丞を貳とし、其の屬に三院があつた。一を臺院といひ、侍御史が隸屬し、二を殿院といひ、殿中侍御史が隸屬し、三を察院といひ、監御史が隸屬した。宋制は略〻唐に同じ。明は都察院を置いて諸御史を統轄し、淸が亡んで始めて廢された。〔周禮、春官、御史〕掌二邦國都鄙及萬民之治令一、以贊二冢宰一。〔史記、秦始皇紀〕令二丞相・御史一。〔通典、職官、御史臺〕御史之名、周官有レ之、蓋掌三贊レ書而授二法令一、非二今任一也、戰國時、亦有二御史一、秦趙澠池之會、各命書二其事一、又淳于髠謂二齊王一曰、御史在レ前、則皆記レ事之職也、至二秦・漢一、爲二糺察之任一、所レ居之署、漢謂二之御史府一、亦謂二之御史太夫寺一、亦謂二之憲臺一、成帝時、御史府吏舍百餘區、井水皆竭、又其府中列二柏樹一、常有二野烏數千一、棲二宿其上一、晨去暮來、號曰二朝夕烏一、烏去不レ來者數月、長老異レ之、後果廢二御史大夫一、爲二大司空一、是其徵也、後漢以來謂二之御史臺一、亦謂二之蘭臺寺一、梁及後魏・北齊、或謂二之南臺一、後魏之制、有二公事一、百官朝會名簿、自二尚書令僕一以下、悉送二南臺一、後周曰二司憲一、屬二秋官府一、隋及大唐、皆曰二御史臺一、龍朔二年、改爲二憲臺一、咸亨元年、復レ舊、門北闢、主二陰殺一也、故御史爲二風霜之任一、彈二糾不法一、百僚震恐、官之雄峻、莫二之比一焉、舊制但聞レ風彈レ事提レ綱而已、其鞫案禁繫、則委二之大理一、貞觀末、御史中丞李乾祐、以下囚自二大理一來往、滋二其姦故一、又案レ事入レ法、多爲中大理所上レ反、乃奏下於二臺中一置二東西二獄一、以自繫劾上、開元中、大夫崔隱甫、復奏罷レ之、其後罕有レ聞二風彈擧之事一、多受二詞訟一推覆、理盡然後彈レ之、將レ有二彈奏一、則先牒二監門一、禁止勿レ許二其入一、武太后時、改二御史臺一爲二肅政臺一、凡置二左右肅政二臺一、別置二大夫中丞各一人、侍御殿中監察各二十人一、左以察二朝廷一、右以澄二郡縣一、時議以下右多二名流一、左多中寒刻上、其遷登二南省一者、右殆倍焉、以二其不レ陵二朝貴一故也、二臺迭相糾正、而左加二敬憚一、龍朔以後、去二肅政之名一、但爲二左右御史臺一、睿宗卽位、詔二二臺一並察二京師一、資位既等、競爲二彈糾一、百僚被レ察、殆不レ堪レ命、太極元年、以二尚書省一悉隸二左臺一、月餘、右臺復請三分二綰尚書西行事一、左臺大夫竇懷貞、乃表請レ依二貞觀故事一、遂廢二右臺一、而本二御史臺官一復レ舊、廢臺之官並隸焉、大夫一人、中丞二人、侍御史四人、殿中侍御史六人、監察御史十人、主簿一人、內供奉裏行者、各如二正員之半一、其臺憲故事、官資輕重、則杜易簡・韓琬注記詳焉。〔大學衍義補、正二百官一、重二臺諫之任一〕周禮御史、掌二邦國都鄙及萬民之治令一、以贊二冢宰一、臣按、御史之名、始見二於此一、然其所レ職者、乃邦國都鄙之治令、以贊二冢宰一者也、漢因二秦制一而設二此官一、則專以司二糾察之任一、名雖レ同、而其制則異也、通典、云云、臣按、御史臺、卽今都察院是也、前代有二中書省一、而御史臺之職、專掌二糾察一、不レ得三與レ之並列一、我朝罷二中書省一、而以二政權一分二屬六部一、而都察院之設、品級與二六部一同、其權視二前代一尤重云。

【御史雨】126 ギョシノアメ　喜雨の意にいふ。唐代、旱魃が續いて百姓が難儀して居た時、顏眞卿が監察御史となつて獄を斷じたところが、忽ち雨が降つたといふ故事。〔唐書、顏眞卿傳〕再遷二監察御史一、使二河隴一、時五原有二冤獄一、久不レ決、天且旱、眞卿辨レ獄而雨、郡人呼二御史雨一。

【御史牀】127 ギョシシャウ　牀の名。三國、吳の長沙の桓王が、虞翻を禮遇し、牀を設けて表旌した、其の牀をいふ。〔梁元帝、玄覽賦〕御史之牀猶在、督護之門不レ修。〔太平寰宇記〕御史牀、在二會稽一、虞翻爲二長沙桓王所一レ禮、設二此牀一以表。

【御史驄】128 ギョシソウ　後漢の侍御史、桓典が常に乘つてゐた葦毛の馬をいふ。桓典は裁斷が嚴正であつたので役人達が畏憚し、道で會つても之を避けた。〔後漢書、桓典傳〕典拜二侍御史一、是時宦官秉レ權、典執レ政無レ所二回避一、常乘二驄馬一、京師畏憚、爲二之語一曰、行行且止、避二驄馬御史一。〔杜甫、陪三章留後侍御宴二南樓一詩〕屢入將軍第、仍騎御史驄。

【御史臺】129 ギョシダイ　❶官署の名。後漢、置く。御史を見よ。❷彈正臺の唐名。〔職原抄〕彈正臺、唐名御史臺、又云二霜臺一、又云二憲臺一。

【御史娘】130 ギョシヂャウ　樂曲の名。唐の貞元中、宮中の御史の娘子田順は、歌を善くするを以て聞え、後、其の名が曲名とされた。〔桂苑叢談〕國樂婦人有二永新婦・御史娘・柳青娘一、皆一時之妙也。〔劉禹錫、與二歌童田順郎一詩〕天下能歌御史娘、花前月底奉二君王一。

【御史府】131 ギョシフ　官署の名。漢、置く。御史を見よ。

【御史大夫】132 ギョシタイフ　官名。❶秦、置き、漢之に因る。丞相の貳となり、糾察の責を司る。成帝の綏和元年、更めて大司空と名づけ、哀帝の建平二年、舊に復し、元壽二年、復た大司空とす。後漢から魏・晉に至るまで、丞相（大司徒）・太尉（大司馬）と共に三公となる。魏は御史大夫を置き、北齊・後周は並びに大夫を置かず、中丞を以て臺主とす。隋は中の字を諱み、秦・漢の制に因つて御史大夫を置き、降して正四品とす。唐の武德中、御史臺大夫と改め、從三品とす。龍朔中、改めて大司憲とし、咸亨中、復た大夫とし、光宅中、分けて左右臺大夫とす。其の後左臺を廢し、左右の二字を去り、從三品とす。其の任は、刑法及び典章に據つて百官の罪惡を糾正することを掌る。五代、唐の會昌六年、御史大夫を升せて正三品とす。宋は御史大夫を兼官として正二品とし、元は從一品とす。御史（125）を見よ。〔史記、萬石君傳〕遷爲二御史大夫一。〔漢書、百官公卿表上〕御史大夫、秦官、位上卿、銀印青綬、掌レ副二丞相一、有二兩丞一、秩千石、一曰二中丞一、在二殿中蘭臺一、掌二圖籍秘書一、外督二部刺史一、內領二侍御史員十五人一、受二公卿奏事一、擧劾按レ章、成帝綏和元年、更名二大司空一、金印紫綬、祿比二丞相一、置二長史一、如二中丞一、官職如レ故、哀帝建平二年、復爲二御史大夫一、元壽二年、復爲二大司空一、御史中丞、更名二御史長史一、侍御史有二繡衣直指一、出討二姦猾一、治二大獄一、武帝所レ制、不二常置一。〔注〕應劭曰、侍御史之率、故稱二大夫一云、臣瓚曰、茂陵書、御史大夫、秩中二千石。〔唐書、百官志〕御史臺大夫一人、正三品、中丞二人、正四品下、大夫掌下以二刑法典章一、糾中正百官之罪惡上。〔通典、職官、御史大夫〕御史大夫、秦官、漢因レ之、位上卿、銀印青綬、掌レ副二丞相一、故事選二郡守相高第一、爲二御史大夫一、任レ職者爲二丞相一、成帝綏和元年、更名二大司空一、金印紫綬、秩比二丞相一、哀帝建平二年、朱博奏請下罷二大司空一、以二御史大夫一爲中百僚師上、帝從レ之、遂復爲二御史大夫一、皆宰相之任、元壽二年、復爲二大司空一、凡爲二御史大夫一、而丞相次也、其心冀二幸丞相物故一、或乃陰私相毀害欲レ代レ之、後漢初、廢二御史大夫一、至二建安十三年一、罷二三公官一、始復置レ之、以二郗慮一居焉、不レ領二中丞一、置二長史一人一、魏黃初二年、又改二御史大夫一爲二司空一、末年、復有二大夫一、而吳有二左右一焉、晉初省レ之、此皆爲二三公一、非二今御史大夫一也。❷彈正尹の唐名。〔職原抄〕彈正臺、尹一人、唐名御史大夫。

【御史臺獄】133 ギョシダイノゴク　御史臺の法廷。宋代、訴訟事件の重大なものは御史臺に命じて裁判させた。〔大學衍義補、愼二刑憲一、制二刑獄之具一〕宋之詔獄、本以糾二大姦慝心一、故其事不二常見一、初羣臣犯レ法、體大者多下二御史臺獄一。

【御史長史】134 ギョシチャウシ　御史中丞に同じ。〔漢書、百官公卿表上〕御史中丞、更名二御史長史一。

【御史中尉】135 ギョシチュウヰ　官名。後魏、置く。御史中丞を見よ。

【御史中丞】136 ギョシチュウジョウ　官名。❶周禮の天官小宰の職に當る。漢代には御史大夫に御史丞・中丞の二丞があり、中丞を臺主・御史中執法ともいひ、殿中の蘭臺にあつて圖籍・祕書を掌り、更に外は刺史を督部し、內は侍御史を領した。哀帝の元壽二年、御史長史と改めたが、後漢の光武帝は復た中丞とした。晉は漢に因つて中丞を臺主とし、司隸と百僚を分督せしめ、齊は之を南司といひ、後魏は御史中尉として百僚を督せしめ、後周は司憲中大夫として司寇の法を掌り國の五禁を辨ぜしめた。隋は中の字を諱み、侍御史を以て中丞の任に代へて大夫といひ、唐は隋に因つて大夫といつたが、龍朔二年、大司憲と改め、咸亨の初になつて又舊に復し、百官の罪を糺正することを掌らしめた。〔周禮、天官、小宰〕小宰之職、掌下建二邦之宮刑一、以治二王宮之政令一、凡宮糾禁上。〔注〕若二今御史中丞一。〔通典、職官六、中丞〕初、漢御史大夫有二兩丞一、一曰二御史丞一、一曰二中丞一、亦謂二中丞一爲二御史中執法一、中

丞、在殿中蘭臺、掌圖籍祕書、外督部刺史、內領侍御史十五員、受公卿奏事、擧劾案章、蓋居殿中、察擧非法也、及御史大夫轉爲大司空、而中丞出外爲御史臺率、卽今之御史大夫任也、周官小宰之職、掌建邦之宮刑、以理王宮之政令、凡宮之糾禁、又其任也、初、御史大夫、更名大司空、置長史、而中丞官職如故、武帝時、以中丞督司隸、司隸督丞相、丞相督司直、司直督刺史、刺史督二千石下至黑綬、哀帝元壽二年、御史中丞更名御史長史、後漢光武、復改爲中丞、兩梁冠、銅印青綬、與尙書令・司隸校尉、朝會皆專席而坐、京師號爲三獨坐、言其尊也、凡中丞以下、並文屬少府、魏初、改中丞爲宮正、擧鮑勛爲之、百僚嚴憚、後復爲中丞、晉亦因漢、以中丞爲臺主、與司隸分督百僚、自皇太子以下、無所不糾、初不得糾尙書、後亦糾之、中丞專糾行馬內、司隸專糾行馬外、雖制如是、然亦更奏衆官、實無其限、宋、中丞一人、每月二十五日、繞行宮垣白壁、銅印墨綬、進賢兩梁冠、佩水蒼玉、介幘絳朝服、孝武帝孝建二年制、中丞與尙書令分道、雖丞郞下朝相値、亦得斷之、餘內外衆官、皆受停駐、齊、中丞職無不察、專道而行、騶輻禁呵、加以聲色、武將相逢、輒致侵犯、若有亦薄至相毆擊、梁國初建、又置御史大夫、天監元年、復曰中丞、中丞一人、掌督司百僚・皇太子、其在宮門行馬內違法者、皆糾彈之、雖在行馬外、而監司不糾、亦得奏之、專道而行、逢尙書丞郞、亦得停駐、其尙書令僕御史中丞、各給威儀十八人、其八人、武冠絳韝、執青儀囊、題云宜官告、以受詞訟、一人緗衣執鞭杖、依行列行、七人唱呼、入殿引喤至階、一人執儀囊不喤、自齊・梁皆謂中丞爲南司、陳因梁制、江左中丞雖亦一時髦彥、然膏粱名士猶不樂、後魏爲御史中尉、督司百僚、其出入千步淸道、與皇太子分路、王公百辟、咸使遜避、其餘百僚、下馬弛車、止路傍、其違緩者、以棒棒之、其後洛陽令得與分道、自東魏徙鄴、無復此制、北齊武成、以其子瑯琊王儼兼爲御史中丞、欲雄寵之、復興舊制、儼出北宮、凡京畿之步騎領軍之官、屬中丞之威儀、司徒之鹵簿、莫不畢備、武成觀之、遣中使馳馬趣仗、不得入、自言奉勅、赤棒應聲碎其鞍、馬騰人顚、觀者傾京邑、後周有司憲中大夫二人、掌司寇之法、辨國之五禁、亦其任也、隋以國諱改中丞爲大夫、大唐因隋、亦曰大夫、龍朔二年、改爲大司憲、咸亨初、復舊、武太后、改置左右肅政臺、御史大夫各一人、太極初、復舊、掌肅清風俗、彈糾內外、總判臺事、自周・隋以來、無儀衞之重令、行出道路、以私騎匹馬從之而已、御史中丞、舊持書侍御史也、初、漢宣帝元鳳中、感路溫舒尙德緩刑之言、季秋後請讞、時帝幸宣室、齊居而決事、令侍御史二人持書、持書御史起於此也、後因別置冠法、冠有印綬、與符讞郞共平廷尉奏事、罪當輕重、後漢亦二人、銅印青綬、選明法律者爲之、凡天下諸讞疑事、掌以法律當其是非、自桓帝之後、無所平理、苟充其位而已、魏置持書執法、掌奏劾、而持書侍御史掌律令、二官倶置、晉置四人、太始四年、又置黃沙獄持書侍御史一人、秩與中丞同、掌詔獄及廷尉不當者皆理之、後幷江南、遂省黃沙持書侍御史、及太康中、又省持書侍御史二員、魏・晉以來、侍書持御史、分掌侍御史所掌、諸曹若尙書二丞、宋代掌擧劾、齊・梁並同、皆統侍御史、自宋・齊以來、此官不重、自郞官轉持書者、謂之南奔、梁天監初、始重其選、車前依尙書二丞、給三騶執盛印青囊、舊事、糾彈官印綬在前故也、後魏掌糾禁內朝會失時、服章違錯、饗宴會見、悉所監之、北齊亦有焉、後周有司憲上士二人、亦其任也、隋又爲持書侍御史、臺中簿領、悉以主之、大唐永徽初、高宗卽位、以國諱故、改持書侍御史爲御史中丞、龍朔二年、改爲司憲大夫、咸亨元年、復爲中丞二人、亦時有內供奉・職副大夫・通判臺事。❷彈正大弼・少弼の唐名。〔職原抄〕彈正臺、大弼一人、唐名御史中丞、少弼一人、唐名同。

【御史錄事】137 ギョシロクジ 彈正疏の唐名。〔職原抄〕彈正臺、疏、唐名御史錄事。

〖御史大夫寺〗138 ギョシタイフジ 官署の名。漢、置く。御史(125)を見よ。

【御旨】139 ギョシ 主君のおぼしめし。〔東鑑、一〕治承四年十一月廿六日、武衞無殊御旨、可進所預置鎧之由、被仰實平、實平持參之。

【御使】140 オツカヒ オンツカヒ ❶使の敬語。❷大名諸家で使者をいふ。❸ミツカ 姓氏。〔姓名錄抄〕

【御師】141 ギョシ 天子御用の醫師。侍醫。〔資治通鑑、齊紀〕(明帝、建武元年)上詐稱海陵恭王有疾、數遣御師瞻視。〔注〕御師、醫師也、以其供御、故謂之御師、至于隋世、尙藥局有侍御醫、又有醫師。

【御紙】142 ギョシ 天子の御料紙。〔徐陵、丹陽上庸路碑〕御紙風飛、天章海溢。

【御厠】143 ミカハヤ 厠の敬稱。

〖御厠人〗144 ミカハヤビト ミカハヤウド 昔、禁中で、御厠の掃除などを掌り、又は下女の役をつとめた女の稱。〔宇津保物語、嵯峨院〕宮のをさめ、みかはやうど。

【御試】145 ギョシ 天子みづから行ふ進士の試驗。〔宋史、藝文志三〕白時中、政和新修御試貢士敕令格式、一百五十九卷。〔金史、選擧志一〕大定十一年、始議行策選之制、至十三年始定、每場策一道、以五百字以上成、免鄕試・府試、止赴會試・御試。〔王禹偁、謫居感事詩〕禮闈冠多士、御試拜丹穉。

【御贄】146 ミニエ 朝廷に獻じ、又は神に供する種々の土產物。又、單に贈物をいふ。〔內膳司式〕諸國貢進御贄。〔允恭紀〕二十四年六月、御贄羹汁、凝以作冰。

【御事】147 ギョジ ❶事を治める者。事を掌る者。卿大夫などを指す。〔書、泰誓上〕越我御事庶士。〔蔡傳〕御事、治事者。〔漢書、翟方進傳〕諸侯王公列侯大夫元士御事。❷オコト そなた。あなた。〔源氏物語、乙女〕御事により內のおとどのゑんじて。❸オンコト 事の敬稱。〔とりかへばや物語〕御事により殿はむげにふかくなり給へりしを。

〖御事始〗148 オコトハジメ 事始(**1**－**241**‥49)の❷の㋺に同じ。❶昔、十二月八日に煤取などして正月の準備をすること。❷昔、東國で、二月八日に農事を始めたことをいふ。

〖御事汁〗149 オコトジル 昔、御事始・御事納に調製した味噌汁。

〖御事羹〗150 オコトニ 御事汁の一名。

〖御事納〗151 オコトヲサメ 事始(**1**－**241**‥49)の❷の㋺及び事納(**1**－**241**‥92)の❷を見よ。

【御璽】152 ギョジ 天子の信印。璽は、古、天子諸侯の信印の稱、秦・漢以後、天子の信印に限つて用ふ。〔史記、秦始皇紀〕長信侯毐作亂而覺、矯王御璽及太后璽。

【御舟】153 ギョシウ 天子の船の敬稱。〔乾淳起居注〕就「登御舟。

【御羞】154 ギョシウ 御宿(172)の❶に同じ。〔漢書、百官公卿表上〕水衡都尉屬官、有上林・均輸・御羞・禁圃。〔注〕如淳曰、御羞、地名也、在藍田、揚雄傳謂之御宿、云云、師古曰、御宿、則今長安城南御宿川也、不在藍田、羞・宿聲相近、故或云御羞、或云御宿耳、羞者、珍羞所出、宿者、止宿之義。

【御室】155 ミムロ ミモロ ❶住所の敬稱。〔伊勢物語〕御室に詣でて拜み奉る。❷神を安置する室。神祠。〔夫木抄、雜一六〕かけて戀ふる神のみむろの。❸オムロ 京都市の郊外にある仁和寺の別稱。

【御執】156 ミトラシ ミタラシ 天子や大將などの持つ弓の敬稱。お持ちになる意。御執之を見よ。〔平家物語、十一、弓流の事〕たとひ千疋萬疋にかへさせ給ふべき御たらしなりとも。

〖御執之〗157 ミトラシノ ミタラシノ 弓の枕詞。御執を見よ。〔萬葉集、一〕御執の梓の弓の中弭の音すなり。

【御車】158 yü⁴ chʻê¹ 天子の車。

【御舍】159 ミアラカ 家の敬稱。〔延喜式、八、祝詞〕皇御孫命乃瑞乃御舍仕奉氏。

【御者】160 ギョシヤ ❶當直の小史。〔禮、文王世子〕雞初鳴而衣服、至於寢門外、問內豎之御者曰、今日之安否何如。〔注〕御、如今小史直日矣。❷ともびと。侍者。〔稱謂錄、僕、御者〕儀禮既夕記、御者四人、注、御者、侍從之人。〔資治通鑑、漢紀〕(哀帝、建平元年)帝與昭儀坐、使御者于客子解篋緘未已。〔注〕御者、侍者也。❸馬をあつかふ人。べつたう。馭者。〔儀禮、既夕禮〕御者執策、立于馬後。〔孟子、滕文公下〕御者且羞與射者比。〔曹植、洛神賦〕迺援御者而

告レ之曰。

【御牀】161（ギョシャウ）　天子の御床。〔魏志、曹眞傳〕臣升二御牀一之本意也。

【御將】161′（ギョシャウ）　將を御する。大將をつかふ。大將をあやつる。〔蘇洵、御將〕御レ相以レ禮、御レ將以レ術。

【御章】162 yü^4 chang^1　天子の印章。

【御莊】163（ミシャウ ミサウ）　莊の敬語。莊は莊園。〔源氏物語、鈴蟲〕國々のみさう・みまきなどより奉るものども。

【御觴】164（ギョシャウ）　❶さかづきをすすめる。〔梁簡文帝、箏賦〕促レ筵命レ妓、御レ觴置酒。❷天子のさかづき。

【御上】165（オカミ）　❶天皇。朝廷。❷政府。官廳。❸貴族の敬稱。

【御首】166（ミグシ）　頭の敬稱。〔源氏物語、夕顏〕御ぐしも痛く、身も熱き心地して。

【御酒】167（ギョシュ）　❶天子から賜はる酒。〔曹植、大魏篇〕御酒停未レ飮、貴戚跪二東廂一。〔李嶠、奉下和聖製送三張說上二集賢學士一賜中宴賦得二催字一詩上〕天廚千品降、御酒百壺催。❷（ゴシュ）酒の敬稱。❸（ミキ）神前に供する酒。

〖御酒敕使〗168（ミキノチョクシ）　節會の時、參會の羣臣に酒を勸める役目の人。〔江家次第、三、踏歌〕二獻、仰二御酒敕使一。

〖御酒龍茶〗169（ギョシュリョウチャ）　天子から賜はる酒と茶。〔桃花扇、選優〕御酒龍茶、三生僥倖。

【御衆】170（ギョシュウ）　人々を治める。〔書、大禹謨〕御レ衆以レ寬。

【御叔】171（ギョシュク）　春秋、魯の御邑の大夫。〔左氏、襄、二十二〕御叔在二其邑一、將レ飮レ酒。〔注〕御叔、魯御邑大夫也。

【御宿】172（ギョシュク）　❶地名。陝西省長安縣の南。又、御羞(154)に作る。其の地が肥沃で、御物を出す。〔漢書、揚雄傳上〕武帝廣開二上林一、南至二宜春・鼎胡・御宿・昆吾一。〔注〕師古曰、御宿在二樊川西一也。❷川の名。陝西省長安縣の南、樊川の西。〔三輔黃圖、四、苑囿〕御宿苑、在二長安城南御宿川中一、漢武帝爲二離宮別館一、禁二禦人一不レ得レ入、往來遊觀、止二宿其中一、故曰二御宿一。❸（オンヤド オヤド）宿所の敬稱。❹（ミシュク トノヰ）姓氏。〔日用重寶記〕・〔姓林全書〕。❺（オンジュク）地名。

【御粥】173（ギョシュク）　天子の供御に充てる粥。〔北史、崔浩傳〕稍遷二著作郎一、道武以二其工レ書、常置二左右一、云云、浩獨恭勤不レ怠、或終日不レ歸、帝知レ之、輒命賜以二御粥一。

【御出】174（オイデ）　❶出て往くこと、又は來ることなどの敬語。❷居るの敬語。❸御旅(413)に同じ。

〖御出奉行〗175（オイデブギャウ）　鎌倉・室町時代、將軍の外出の時の行列に關する事を掌った役人。

【御楯】176（ミタテ）　大君の守りとなる人。御は敬語。〔萬葉集、二十〕醜の美多弖と出で立つ吾は。

【御所】177（ギョショ）　❶天子の御座所。〔黃庭堅、棟芽詩〕想得天香隨二御所一、延春閣道轉二輕雷一。❷（ゴショ ゴソ）㋑宮中をいふ。皇城。㋺主上。〔辨內侍日記〕御所も二位殿抱き奉りて。㋩上皇又は三后の御住所。後には、親王から將軍・大臣などの居所にもいふ。〔保元物語、法皇崩御〕美福門院、鳥羽の成菩提院の御所にて。〔東鑑、四〕景時爲二御所進士一。

〖御所櫻〗178（ゴショザクラ）　櫻の一種。花は大形重瓣で、五蕚が簇って開く。〔川中島合戰、三〕情の花の、やれ御所櫻。

〖御所革〗179（ゴショガハ）　柹色の地に、白く唐草などを摺出した革。もと貴人の用ひたもので、後世、下民にも許された。

〖御所侍〗180（ゴショザムラヒ）　昔、仙洞・攝家などに仕へた侍。〔源平盛衰記、二六〕法住寺殿の御所侍。

〖御所車〗181（ゴショグルマ）　❶古、貴人が使用した屋形のある牛車。〔傾城酒呑童子、二〕貧乏公家に近附あるならば、御所車一輛買うてくれ。❷紋所の名。

〖御所鍛〗182（ゴショギタヒ）　後鳥羽天皇の御自作の太刀。一輪の菊花を銘に打ってゐるので菊作ともいふ。

〖御所的〗183（ゴショマト）　室町時代、新年に將軍家の御所で行はれた弓術。〔後愚昧記〕武家弓始、俗號二御所的一。〔尺素往來〕新春吉兆、云云、御所的者、五番五度弓、可レ爲二往古之例一候。

〖御所下駄〗184（ゴショゲタ）　疊付の駒下駄。昔、雨天の際、禁中で特別にはくことを許されたもの。

〖御所被衣〗185（ゴショカヅキ）　昔、內裏の婦人が用ひた被衣の一種。御所風に製せられたかづき。〔好色五人女、三〕御所かづきの取まはし。

【御書】186（ギョショ）　❶君に進める書。君上の用ひる所の書。〔左氏、哀、三〕顧レ府、南宮敬叔至、命二周人一出二御書一、俟二於宮一。〔注〕御書、進二於君一者也。❷帝王の書いた文字。〔玉海、聖文、御書、慶曆寶奎殿御書〕大相國寺額、太宗御書也。

〖御書始〗187（ゴショハジメ）　古、幼主の御學問始めをいふ。十二月庚寅の日、侍讀・尙複等を定め、孝經等を讀ませる儀式。〔名目抄〕御書始。

〖御書所〗188（ゴショドコロ）　昔、皇室の御藏書を管理した役所。一本御書所(1−1・・2142)の略。〔倭名類聚抄、十〕蘭林房、在二式乾門內東一、今分爲二御書所一、是也。

〖御書處〗189（ギョショショ）　淸代、內務府に屬し、帝室の藏書を掌る役所。〔淸國行政法汎論、內務府〕御書處、管理王大臣、係二特簡一、無二定員一。

〖御書所預〗190（ゴショドコロアヅカリ）　御書所の長官。〔古今集序〕御書所のあづかりの紀貫之。

〖御書石經〗191（ギョショセキケイ）　石經の一。南宋の高宗の紹興二年に御書孝經を出した。南宋石經は同五年に始まり、淳熙四年に成る。其の經數は、易・詩・書・左傳・論語・孟子・禮記(中庸・大學・學記・儒行・經解の五篇)で、高宗の御書に係り、憲聖皇后が續書し、張澄が命を受けて之を太學に石に刻んだ。其の中、論・孟は行書、他は眞書で書かれてゐる。現存のものは、明の萬曆年間、蔡毅中が孝經注を進め、石に刻して國子監の西廂左壁に嵌めたものだけである。又、紹興御書石經・宋高宗御書石經・宋太學御書石經等の稱がある。

【御敍】192（ギョジョ）　❶順序に從って進み侍る。順序に從ってつとめる。女官が天子の寢席に侍するにいふ。〔周禮、天官、九嬪〕各帥二其屬一、而以レ時御二敍于王所一。〔注〕御、猶レ進也、勸也。❷音樂の律の名。夷則二十七律の一。〔隋書、律歷志上〕夷則、升商・淸爽・氣精・陰德・白藏・御敍、云云、右夷則一部二十七律。

【御色】193（オイロ）　❶色の敬稱。❷べにをいふ。德川時代、御殿女中の用語。〔浮世風呂、一上〕おいろを附けて化粧をして。

【御食】194（ギョショク）　❶御膳(240)に同じ。〔後漢書、靈帝紀〕珍羞御食。〔唐書、百官志二〕典膳・掌膳、各四人、掌下調二和御食一、溫涼寒熱、以レ時供進上。❷食事をすすめる。〔禮、曲禮上〕御二食于君一、君賜レ餘、器之漑者不レ寫、其餘皆寫。❸食事にはべる。〔禮、內則〕父沒母存、冢子御レ食。〔注〕御、侍也、謂三長子侍二母食一也。❹宮中で賜はる食事。〔北史、邢邵傳〕太昌初、敕令下恒直二內省一、給中御食上。

〖御食國〗195（ミケツクニ）　主上の御食事の材料を奉る國。〔萬葉集、六〕御食都國、日日の御調と。

〖御食產〗196（ミケナリ）　官田・園池・氷室等をいふ。

【御寢】197（ギョシン）　天子が寢につかれること。〔漢書、王莽傳中〕爲レ之三夜不二御寢一、三日不二御食一。

〖御寢所〗198（ゴシンジョ）　寢所の敬稱。〔東鑑、二〕治承五年四月七日、每夜可レ候二于御寢所之近邊一之由。

【御薪】190（ミカマギ）　❶王朝時代、每年正月十五日に、諸寮・諸司並びに五畿內の國司から禁中に奉った所の其の年に用ひる薪。又、それを奉る儀式。❷江戶時代、正月十五日に、武家で割った薪に線十二を墨で引き、其の門の兩柱に建てたもの。

【御人】200（ギョジン）　❶侍御する人。㋑婦人。〔國語、晉語五〕敢歸二諸下執政一、以慭二御人一。〔注〕慭、願也、御人、婦人、願以レ此報二君御人之笑レ己者一。㋺夫人の侍者。〔左氏、莊、二十八〕御人以告二子元一。〔注〕御人、夫人之侍人也。㋩侍御の官女。〔漢書、王莽傳下〕御人八十一、視二元士一。❷車馬を駕御する人。制御する人。あやつる人の意。❸人を御する。他人をおさへつけて自由にをさめる。〔漢書、張湯傳〕湯舞レ智以御レ人。〔注〕師古曰、舞二弄其智一、制二御他人一也。

【御水】201（ギョスイ）　禁中のほりの水。〔後漢書、曹節傳〕盜二取御水一以作二魚釣一。

【御炊】202（ミカシキ）　❶姓氏。❷（ミカシキ）內膳司の職員。〔類聚雜要、三、五節雜事〕內膳御炊。

【御嵩】203（ミタケ）　美濃國の地名。

【御世】204（ギョセイ）　天下を統治する。御宇。〔子華子、晏子問黨〕夫儉、聖人之寶也、所二以御レ世之具也。〔庾信、陝州弘農群五張寺經藏碑〕法王御レ世、天人論レ道。

【御正】205（ギョセイ）　❶治めただす。〔管子、戒〕御二正六氣之變一。❷官名。後周、置く。天子の御言葉を正

すことを掌る。〔資治通鑑、陳紀〕（文帝、天嘉二年）周使二御正殷不害來聘一。〔注〕周書申徽傳曰、御正任專二絲綸一、蓋中書舍人之職也、北史盧辯傳、武成元年、增二置御正四人一、位上大夫、考二之唐六典一、則曰、後周依二周官春官一、府置二內史中大夫一、掌二王言一、蓋比二中書監令之任一、後又增爲二上大夫一、小史下大夫、比二中書侍郎之任一、小史上士、比二中書舍人之任一、然則爲二御正一者、亦代言之職、在二帝左右一、又親二密於中書一、杜佑通典、御正屬二天官府一。

【御生】206 ミアレ ❶御誕生の意。❷山城國賀茂神社で、陰曆四月中の申の日に行ふ祭事。〔貫之集〕神のみあれにあふひなりけり。❸賀茂神社の稱。〔源氏物語、藤裏葉〕みあれにまうで給ふとて。

【御成】207 オナリ 昔、皇族・攝家・將軍などのお出ましになることの敬語。〔花營三代記〕御所樣管領へ御成。

〖御成敗式目〗208 ゴセイバイシキモク 書名。一冊。鎌倉幕府が制定した法典。執權北條泰時が三善康連と謀つて貞永元年に定めた。一名、貞永式目。五十一箇條から成る。

【御政】209 ギョセイ をさめただす。又、政務をすべ治める。〔孔子家語、執轡〕此御政之術也。

【御製】210 ギョセイ 天子が製作すること。又、天子の作つた文章や詩歌・樂曲。〔五代史、伶官傳〕莊宗既好二俳優一、又知レ音能度レ曲、至レ今汾晉之俗、往往能歌二其聲一、謂二之御製一者、是也。〔宋史、秩放傳〕賜二御製五言詩一寵レ之。〔事物紀原、經籍藝文部、御製〕孔子家語、舜作二南風之詩一、此則御製之始也。

〖御製詩初集〗211 ギョセイシショシフ 書名。初集四十四卷。清の乾隆帝の詩集。二集は九十四卷。三集は一百卷。〔四庫提要、集、別集類〕。

〖御製文初集〗212 ギョセイブンショシフ 書名。三十卷。清の乾隆帝の文集。〔四庫提要、集、別集類〕。

〖御製數理精蘊〗213 ギョセイスウリセイウン 書名。數理精蘊(**5**－**13363**・・123)を見よ。

〖御製日知薈說〗214 ギョセイニッチワイセツ 書名。日知薈說(**5**－**13733**・・562)を見よ。

〖御製評鑒闡要〗215 ギョセイヒャウカンセンエウ 書名。評鑒闡要(**10**－**35383**・・46)を見よ。

〖御製人臣儆心錄〗216 ギョセイジンシンケイシンロク 書名。人臣儆心錄(**1**－**344**・・260)を見よ。

〖御製樂善堂全集定本〗217 ギョセイラクゼンダウゼンシフテイホン 書名。樂善堂全集定本(**6**－**15399**・・185)を見よ。

【御召】218 オメシ ❶召すの敬語。〔雙生隅田川〕お召し重なる白洲の上。❷人の着物の敬稱。御召物の略。〔川中島合戰、三〕この小袖は將軍義輝公のおめし。❸織物の一種。御召縮緬の略。

【御席】219 ギョセキ 天子の坐席。〔李適、春日幸二望春宮一應制詩〕舞蝶飛行飄二御席一、鶯歌度レ曲繞二仙杯一。

【御節】220 ギョセツ ❶季節を掌る。〔陸雲、征西大將軍京陵王公會二射堂一皇太子見レ命作二此詩一〕祝融御レ節、火正緝熙。〔潘岳、狹室賦〕當二祝融之御一レ節、熾二朱明之隆暑一。〔隋煬帝、延二智顗一書〕金風御レ節、玉露調レ時。❷オセチ おせちぶるまひ・おせちくの略。正月及び五節句などに製する食物の菜をいふ。〔御傘〕おせちとばかりするは春なり。

〖御節供〗221 オセチク 御節に同じ。

【御占】222 ギョセン 天子の命によつて行ふト筮等のうらなひ。〔新語、明誡〕言二御占圖歷之變一、下衰風化之失一、以匡二盛衰一、紀レ物定レ世。

【御箋】223 ギョセン 天子のおかきつけ。御札。〔李賀、梁公子詩〕御箋銀沫冷、長簟鳳窠斜。

【御撰】224 ギョセン 天子の命で書籍を選集すること。御選。

〖御撰資政要覽〗225 ギョセンシセイエウラン 書名。資政要覽(**10**－**36750**・・57)を見よ。

【御槧】226 ギョセン 宋代、象牙等で作つたふだで、近臣が密奏に使用したもの。〔癸辛雜識、簡槧古無レ有也〕往者御批至二政府一、從官則皆用二蠲紙一、自二理宗朝一、亦用二黃封簡板一、或以二象牙一爲レ之、而近臣密奏、亦或用レ之、謂二之御槧一、蓋自レ古所レ無也。

【御選】227 ギョセン 御撰(224)に同じ。

〖御選唐詩〗228 ギョセンタウシ 書名。唐詩(**2**－**3709**・・147)の❷を見よ。

〖御選古文淵鑑〗229 ギョセンコブンエンカン 書名。古文淵鑑(**2**－**3233**・・445)を見よ。

〖御選唐宋詩醇〗230 ギョセンタウソウシジュン 書名。唐宋詩醇(**2**－**3709**・・231)を見よ。

〖御選唐宋文醇〗231 ギョセンタウソウブンジュン 書名。唐宋文醇(**2**－**3709**・・233)を見よ。

【御饌】232 ミケ ❶主上の御食物。又、御膳に作る。〔祝詞式、大祓〕皇御孫命、乃長御膳乃遠御膳登聞食。❷神にたてまつる食物。神饌。〔萬葉集、二十〕おほ美氣に仕へまつると。

〖御饌殿〗233 ミケデン 御饌をととのへる殿舍。〔止由氣宮儀式帳〕御饌殿造奉氏、天照坐皇大神乃朝乃大御饌夕大御饌乎、日別供奉。

〖御饌津神〗234 ミケツカミ 稻荷の神。保食神。

【御前】235 ギョゼン ❶天子の座前・面前。又、天子の御坐所。御は、天下を御する人の意。〔韻會〕御、凡天子所レ止曰二御前一、曰二御前書一、曰二御前服一、曰二御服一、皆取三統二御四海之內一。〔後漢書、獻帝紀〕矢及二御前一。❷前に侍る。天子の傍に侍ること。〔史記、蒙恬傳〕出則參乘、入則御レ前。❸ゴゼン ㋑天子や貴人の座前・面前。㋺江戸時代、諸大名旗下等を其の家臣が稱した語。㋩大名・貴族の奥方の敬稱。㊁古、自分の妻、又は他人の夫人に對する對稱代名詞。㋭古、神や男女の貴人の名の下に添へた敬稱。㋬白拍子の名の下に添へていふ敬稱。❹オマヘ・オホンマヘ ㋑對稱の代名詞。〔枕草子、五〕はひぶしにならはせ給へるおまへたちなれば。〔宇津保物語、梅花笠〕うちかづけておほんまへより。㋺敬稱に用ひる第三人稱の代名詞。❺ミマヘ まへの敬稱。〔古今集、神遊〕神のみまへに茂りあひにけり。

〖御前講〗236 ゴゼンカウ 貴人の御前で書物などを講釋すること。

〖御前試〗237 ゴゼンノココロミ 昔、大嘗祭又は新嘗祭に、天皇が舞姬を清涼殿に召して、舞を觀給ふこと。五節御前試の略。〔江家次第、十〕五節御前試事、十一月、中寅。

〖御前會議〗238 ゴゼンクワイギ 明治憲法下で、國家の重大事に當つて、天皇陛下の聖旨により、陛下の御前で、元老・大臣などが行つた會議。

〖御前庭中〗239 ゴゼンテイチュウ 鎌倉時代、將軍が親しく審問することをいふ。又、評定の座で言上すること。〔沙汰未練書〕引付庭中者、於二引付御座一申レ之、御前庭中者、於二評定御座一申レ之。

【御膳】240 ゴゼン ❶天子の食物をいふ。〔漢書、王莽傳上〕衣二重練一、減二御膳一。〔吳志、孫皓傳、注〕陟璆奉レ使如レ魏、使二儐問一曰、來時吳王何如、陟對曰、來時皇帝臨レ軒、百寮陪レ位、御膳無レ恙。〔晉書、武帝紀〕以二百姓饑饉一、減二御膳之半一。❷食膳の敬稱。又、轉じて、食事の敬稱。〔續古事談、一〕諸卿御膳をおろしてこれを食ふ。❸飯（メシ）の敬稱。

〖御膳棚〗241 ゴゼンダナ ❶床の間・書院などの脇に設け、膳具などを載せる棚の一種。❷オゼンダナ 臺所にあつて膳類を載せるたな。

【御祖】242 ミオヤ ❶親の敬稱。父母・祖父母・曾祖父母、及び數代前の先祖をも凡ていふ。〔古事記、中〕於レ是其兄慷二慨弟之婚一以、不レ償二其宇禮豆玖之物一、爾愁二白其母一之時、御祖答曰。❷能登國の地名。

【御屬】243 ギョゾク 官名。錄事の官。〔後漢書、百官志一〕令史及御屬二十三人、本注曰、漢舊注、公令史百石、自二中興一以後、注不レ說二石數一、御屬主レ爲二公御一。

【御體】244 ゴタイ 貴人の身體をいふ。

〖御體御卜〗245 ゴタイノミウラ 中古の宮中公事の一。神祇官で、六月・十二月の十日に、天子の御身に御愼しみあるべき日を占ひ奏した儀式。御體御占。

【御代】246 ミヨ・ゴダイ・ゴヨ 天子の御治世。又、其の御年數。〔萬葉集、二十〕たたしき君の美與とほぞけば。

〖御代始〗247 ミヨハジメ 天皇の御治世の始。

【御臺】248 ミダイ・オダイ ❶食物を載せた臺の敬稱。〔源氏物語、末摘花〕御臺祕色やうの唐土のものなれど。❷飯（メシ）をいふ。女詞。〔源氏物語、夕霧〕誰も誰も御臺參りなどして。❸御臺所の略。〔太平記、九、足利殿御上洛〕御臺君達まで皆引具し進らせて。

〖御臺所〗249 ミダイドコロ ❶臺盤所(**9**－**30161**・・101)の敬稱。❷大臣・大將・將軍家などの奥方の敬稱。略して御臺。〔東鑑、一〕御臺所、自二伊豆山一遷二秋戶鄕一給。

〖御臺盤〗250ミダイバン 天皇の供御を載せる臺。

〖御臺盤所〗251ミダイバンドコロ 臺盤所(9−30161‥101)の敬稱。〔職原抄〕女官、御臺盤所。

【御題】252ギョダイ ㊀天子直筆の題字。宸筆の標題文字。〔李洞、龍州送二人赴レ擧詩〕踏レ月趨二金闕一、拂レ雲看二御題一。〔盛事美談〕御二題其門一。㊁天子が出す詩歌・文章の題。〔張蠙、宴二駙馬宅一詩〕座中古物多二仙意一、壁上新詩有二御題一。

【御刀】253ギョタウ 儀式用の刀の一種。〔玉海、兵制、劍、戟刀、儀刀、注〕古班劍之類、晉宋以來、謂二之御刀一、後魏曰二長刀一、皆施二龍鳳環一、隋謂二之儀刀一、裝以二金銀一、羽儀所レ執。

【御堂】254ミダウ 堂の敬稱。〔榮華物語、音樂〕この御堂を御覽ずれば。

〖御堂關白〗255ミダウクワンパク 藤原道長をいふ。

【御道】256ギョダウ 天子が通行する道路。〔後漢書、虞延傳〕帝廼臨二御道之館一、親錄二囚徒一。〔李白、遊二泰山一詩〕四月上二泰山一、石平御道開。〔宋史、禮志十六〕往二來御道一。

【御達】257ゴタチ 婦人の敬稱。婦人たちの意。後達。〔伊勢物語〕むかしをとこ宮仕しける女の方に、ごたちなりける人を、あひ知れりけり。

【御沓】258オクツ 幇間の異名。又、取卷、及び人の費用で妓樓へ上る者の異名。江戸遊里の語。〔史林殘花〕食客從二大人一者、曰二太鼓一、又曰二御沓一。

【御榻】259ギョタフ 天子が用ひる腰掛。〔北齊書、趙彦深傳〕禮遇稍重、每レ有二引見一、或升二御榻一。

【御持】260ギョヂ 互に牽制しあふ。〔魏志、董昭傳〕便獲二其利一、可下使二兩賊相對御持一、坐待中其弊上。

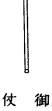
〖御持僧〗261ゴヂソウ 禁中に伺候して清涼殿の二間で聖體の護持の祈禱をする僧。護持僧。〔禁祕抄、上〕御持僧事、於二僧侶一無雙精撰也、古不レ過二三人一、次第加增及二六七人一。

【御帳】262ミチヤウ 帳の敬語。貴人の座にあるとばり、又は帳臺。〔枕草子、五〕御ちやうの前にしつらひすゑ。

〖御帳官〗263ギョチヤウクワン 官名。遼、置く。侍衞の官。〔稱謂錄、領侍衞內大臣、御帳官〕遼史百官志、北面御帳官侍衞司、掌二御帳親衞之事一。

〖御帳臺〗264ミチヤウダイ 高貴の用として、室中席上などに更に設けた座席で、四周に帳が垂れてある。

【御仗】265ギョヂヤウ 天子出御の時の護衛兵。又、其の兵の持つ武器。〔隋書、百官志中〕左右衞府、云云、其御仗屬官有二御仗正副・都督御仗・五職御仗等員一。〔清會典圖、輿衞、御仗〕御仗、攢竹、長六尺九寸、圍四寸三分、髹朱、兩端鈷以レ銅。



御仗
（清會典圖）

【御杖】266ミツヱ ㊀神祇又は天皇の杖となつて扶け奉る者。御杖代。〔垂仁紀〕天皇以二倭姬命一爲二御杖一、貢二奉於天照大神一。㊁地名。奈良縣宇陀郡の東南隅。

【御諚】266′ゴヂヤウ 天子の仰せ。勅令。又、貴人の命令。〔源平盛衰記、四十八、法皇大原入御〕一院の御諚とて、大勢にて寄すると。

【御中】267オナカ ㊀食事をいふ。女房詞。㊁綿をいふ。女房詞。㊂腹をいふ。女房詞。〔福富草子〕腹をおなか、小袖をべべ。㊃室町時代、武家の奧向に仕へた女中の役の名。〔簾中舊記〕御なかよりは奉公使へは。㊄オンチユウ 書翰に用ひる敬語。受信者が一人でない時に、宛名に添へて記す。

【御注】268ギョチユウ 天子が親しく書籍に注を加へること。又、其の注。〔舊唐書、玄宗紀下〕十二月壬辰、幸二華清宮一、甲午頒二御注老子幷義疏於天下一。

〖御注孝經〗269ギョチユウカウキヤウ 書名。㊀一卷。唐、玄宗皇帝撰。㊁一卷。清、順治帝選。孝經(3−6952‥52)を見よ。

〖御注道德經〗270ギョチユウダウトクキヤウ 書名。道德經(11−39010‥349)を見よ。

【御廚】271ミクリ ㊀御贄へを調進する所。御供所。㊁神饌を調進するため、神宮又は神社に附屬した土地。御廚庤。〔百鍊鈔、五〕寬治四年七月十三日、加茂上下社、被レ奉二不輸租田六百餘町一、爲二御供田一、云云、又分二置御廚於諸國一。

〖御廚屋〗272ミクリヤ ㊀御廚に同じ。㊁姓氏。〔姓林全書〕。

〖御廚庤〗273ミクリマウケ 神饌を供するために神宮又は神社に附屬した土地。御廚。〔東鑑、二〕治承五年七月八日、相模國大庭御廚庤一古娘、依レ召參上、奉二行遷宮事一。

〖御廚子所〗274ミヅシドコロ 昔、禁中で御食事を調進した所。內膳司に屬し、別當・預り・所衆等の職を置く。〔拾芥抄、中末〕御廚子所、四位殿上人爲二別當一。

〖御廚子所別當〗275ミヅシドコロノベツタウ 御廚子所の長官。〔職原抄〕御廚子所別當。

【御女】276ギョヂョ ㊀古の女官の名。御妻(89)に同じ。㊁女子を御する。女子と交合する。〔淮南子、時則訓〕東宮御レ女、青色衣、青采、鼓二琴瑟一。㊂星の名。〔晉書、天文志上〕鉤陳北四星、曰二御女宮一、八十一御妻之象也。

【御灯】277ミアカシ 御燈明。

【御定】278ギョテイ 天子の勅によつて選定した書。

〖御定曲譜〗279ギョテイキョクフ 曲譜(5−14280‥231)の㊁を見よ。

〖御定四朝詩〗280ギョテイシテウシ 四朝詩(3−4682‥596)を見よ。

〖御定全金詩〗281ギョテイゼンキンシ 書名。全金詩(1−1424‥209)を見よ。

〖御定全唐詩〗282ギョテイゼンタウシ 書名。全唐詩(1−1424‥137)を見よ。

〖御定醫宗金鑑〗283ギョテイイソウキンカン 書名。醫宗金鑑(11−40006‥76)を見よ。

〖御定韻府拾遺〗284ギョテイヰンプシフヰ 書名。韻府拾遺(12−43307‥66)を見よ。

〖御定淵鑑類函〗285ギョテイエンカンルイカン 書名。淵鑑類函(7−17692‥25)を見よ。

〖御定音韻闡微〗286ギョテイオンヰンセンビ 書名。音韻闡微(12−43265‥8)を見よ。

〖御定孝經衍義〗287ギョテイカウキヤウエンギ 書名。一百卷。清、世祖皇帝敕修。

〖御定康熙字典〗288ギョテイカウキジテン 書名。康熙字典(4−9376‥29)を見よ。

〖御定儀象考成〗289ギョテイギシヤウカウセイ 書名。儀象考成(1−1172‥46)を見よ。

〖御定廣羣芳譜〗290ギョテイクワウグンパウフ 書名。廣羣芳譜(4−9493‥386)を見よ。

〖御定月令輯要〗291ギョテイグワツリヤウシフエウ 書名。月令(5−14330‥369)の〔參考書〕を見よ。

〖御定子史精華〗292ギョテイシシセイクワ 書名。子史精華(3−6930‥376)を見よ。

〖御定星歷考原〗294ギョテイセイレキカウゲン 書名。星歷考原(5−13837‥337)を見よ。

〖御定內則衍義〗295ギョテイダイソクエンギ 書名。內則衍義(1−1418‥356)を見よ。

〖御定通鑑綱目〗296ギョテイツガンカウモク 書名。通鑑綱目(11−38892‥56)を見よ。

〖御定佩文韻府〗297ギョテイハイブンヰンプ 書名。佩文韻府(1−543‥79)を見よ。

〖御定分類字錦〗298ギョテイブンルイジキン 書名。分類字錦(2−1853‥418)を見よ。

〖御定駢字類編〗299ギョテイベンジルイヘン 書名。駢字類編(12−44795‥58)を見よ。

〖御定歷象考成〗300ギョテイレキシヤウカウセイ 書名。歷象考成(6−16340‥55)を見よ。

〖御定歷代詩餘〗301ギョテイレキダイシヨ 書名。歷代詩餘(6−16340‥80)を見よ。

〖御定歷代賦彙〗302ギョテイレキダイフヰ 書名。歷代賦彙(6−16340‥83)を見よ。

〖御定佩文齋書畫譜〗303ギョテイハイブンサイショグワフ 書名。佩文齋書畫譜(1−543‥80)を見よ。

〖御定歷代題畫詩類〗304ギョテイレキダイダイグワシルイ 書名。歷代題畫詩類(6−16340‥97)を見よ。

〖御定佩文齋詠物詩選〗305ギョテイハイブンサイエイブツシセン 書名。佩文齋詠物詩選(1−543‥81)を見よ。

〖御定平定準噶爾方略〗306ギョテイヘイテイジユンガルハウリヤク 書名。平定準噶爾方略(4−9167‥476)を見よ。

【御邸】307ギョテイ 帝王のやしき。宮邸。〔鮑照、河清頌序〕舒レ國賑レ民、傾二御邸之粟一。

【御亭】308ゴテイ ㊀亭宅の尊稱。〔東鑑、二十六〕貞應二年二月二十七日、依レ可レ被三建二立伽藍幷御亭一。㊁御亭主の略。〔狂言、笠下〕なう御ていに尋ねたい事が御座る。

〖御亭主〗309ゴテイシユ ㊀一家の主人。〔狂言記〕なう御亭主、別の閒はおじやらぬか。㊁他人の夫の敬稱。

【御堤】310ギョテイ 禁苑のつつみ。〔岑參、滻水東店送三唐子歸二嵩陽一詩〕野店臨二官路一、重城壓二御堤一。〔皇甫冲、西苑詩〕曉色曈曨照二御堤一。

【御調】311ミツギ ㊀人民から官府に納める租稅。㊁

屬國等から一定の時期に國王に奉る財物。㊂ミツキ ㋑備後國の地名。㋺姓氏。

【御天】312ギョテン ㊀天上を飛ぶ。〔易、乾〕時乘二六龍一以御レ天。㊁宮殿の門の名。〔楊允孚、灤京雜詠詩〕又是宮車入二御天一。

【御殿】313ゴテン ㊀天子の宮殿の尊稱。〔後漢書、靈帝紀〕熹平五年冬十月壬午、御殿後槐樹、自拔倒豎。㊁清涼殿(7‐17695‥822)の㊁の稱。〔建武年中行事〕御殿の母屋の御簾を垂れて。㊂貴人の住宅の敬稱。

【御殿隱】314オントノゴモリ 貴人が寢ること。大殿隱。〔落窪物語、一〕その夜すのこに御とのごもりて。

【御殿場】315ゴテンバ 地名。駿河國駿東郡御厨町にある。富士登山口。

【御田】316ミタ 供御の料の田。〔日本書紀、神代紀上〕天照大神以二天狹田長田一爲二御田一。

【御奴】317ミヤツコ ㊀宮中に仕へる奴婢の總稱。伴御奴トモノミヤツコ。㊁神社に奉仕する人。〔謠曲、春日龍神〕いかに是なる宮つこに申すべきことの候。

【御冬】318ギョトウ 冬をふせぐ。禦冬。〔詩、邶風、谷風〕我有二旨蓄一、亦以御レ冬。

【御統】319ミスマル 古、頸などにかけた玉の飾物。〔日本書紀、神代紀上〕八坂瓊之五百箇御統。

【御燈】320ゴトウ・ミアカシ ㊀神佛又は貴人の前などにともす燈火の敬稱。㊁昔、陰曆の三月三日に、天皇が北斗に奉られる燈。〔公事根源〕。

【御惱】321ゴナウ 天子の御病氣をいふ敬語。御不例。〔榮華物語、月宴〕御惱まことにいみじければ。

【御惱氣】322ゴナウケ ㊀御惱に同じ。㊁小兒の病をいふ俗言。

【御難】323ゴナン ㊀難儀災難などの敬稱。㊁單に難儀をいふ。㊂非難の敬語。

【御難餠】324ゴナンノモチ ［佛］日蓮宗で、九月十二日に其の開祖日蓮上人に供へる餠。上人が龍口の刑場に引かれる途中、老婆が餠を供したことに始まる。

【御馬】325ギョバ 馬を驅使する。又、馬を引く人。馬子。〔長生殿、偵報〕二人御馬、一人芻牧。

【御馬監】326ギョバカン 官署の名。明、置く。宦官十二監の一。御廏の馬匹を掌る。提督太監・掌印太監等の官があり、皆宦官を以て任ずる。〔明史、職官志三〕宦官十二監、司禮監・內官監・御用監・司設監・御馬監。〔稗謂錄、上駟院、御馬監〕博物典彙、在內有二御馬監一、掌二天子十二閑之政一。

【御佩】327ミハカシ 刀の敬稱。貴人の佩刀。みはかせ。〔源氏物語、澪標〕御はかし、さるべきもの。

【御杯】328ギョハイ 天子のさかづき。〔酉陽雜俎、禮異〕魏使二李同軌陸操聘レ梁、云云、梁主坐二皁帳一南面、諸賓及羣官俱坐定、遣二書舍人殷靈一宣旨慰勞、具有二辭答一、其中庭設二鐘懸一及百二戲殿上一、流二杯池中一、行二酒具一進二梁主一者、題曰二御杯一、自餘各題二官姓一之杯、至レ前者卽飮。〔錢惟演、家王故事〕先臣太平興國三年入朝、太宗詔、赴二苑中一宴、因泛二舟於宮池一、太宗手擧二御杯一以賜、先臣跪而飮レ之。

【御方】329オカタ・オホンカタ ㊀人を指していふ敬稱。〔狂言、ぎんじ聟〕何も巧者なお方がござるほどに。㊁古、貴人の妻妾、又は子女の敬稱。後世普通の人の妻をもいふ。㊂貴人の家で、部屋住の子息の敬稱。〔貞丈雜記〕。㊃オンカタ ㋑居所の敬語。〔源氏物語、葵〕立ち出でて御かたに入り給へれば。㋺貴人の敬稱。〔落窪物語、一〕御方とはましていはせ給ふべくもあらず。

【御方御所】330オカタゴショ 古、大臣家の部屋住や將軍家の相續者たるべき人の敬稱。〔鎌倉年中行事〕大御所樣御方御所樣へも役人參り。

【御方住居】331オカタズマヒ 御方御所に同じ。

【御袍】332ギョハウ 天子の衣。御衣。〔唐書、鄭畋傳〕畋屯二東渭橋一、再進二司空一、兼二門下侍郎一、京城四面行營都統、賜二御袍・犀帶一、拜而不レ賀。

【御寶】333ギョハウ ㊀皇帝の用ひる印章。天子八寶、卽ち神寶・受命寶・皇帝行寶・皇帝寶・皇帝信寶・天子行寶・天子之寶・天子信寶の總稱。御璽。〔唐律、賊盜〕諸盜二御寶一者絞。〔宋史、禮志一〕又諸祭祝辭、皆臨レ事撰進、外違二典禮一、乃命レ至增二撰舊辭八十四首一、爲二正辭錄三卷一、既復命二知制誥李宗諤等一、詳定レ之以爲二永式一、祝版當二進署一者、竝命二祕閣吏書一、上親署訖、御寶封二給之一。〔孫沔、論治本疏〕御寶不レ嚴、財貨不レ計、則盜詐公取而無レ慮矣。〔曾棨、淮南舟中詩〕簫鼓官船發、圖書御寶封。㊁オタカラ ㋑正月二日の夜、よい初夢を見るために枕の下にしいてねる、寶船を畫いた紙。㋺金錢の異稱。㋩國民。おほむたからの音便。

【御坊】334ゴバウ ㊀僧侶の敬稱。〔源氏物語、手習〕僧都の御坊に御覽ぜさせ奉らばや。㊁寺院の敬稱。㊂オンバウ ㋑墓を守るもの。㋺火葬場で死體を燒く職のもの。隱坊。

【御房】335ギョバウ 天子のおへや。〔張衡、南都賦〕御房穆以華麗。

【御伯】336ギョハク 官名。後周、置く。天子の出入の時に左右に侍する。〔通典、職官、侍中〕後周初、有二御伯中大夫二人一、掌二出入侍從一、屬二天官府一、保定四年、改二御伯一爲二納言一、斯侍中之職也。〔資治通鑑、陳紀〕(文帝、天嘉四年)遣二御伯大夫揚荐一。〔注〕唐六典曰、後周天官新置二御伯中大夫二人一、天子出入、則侍二於左右一、大祭祀盥洗、則授レ巾、武帝改二御伯一爲二納言一、蓋侍中之職也、宣帝末、又別置二侍中一爲二加官一。

【御麥】337ギョバク 玉蜀黍の異名。〔羣芳譜〕。

【御髮】338ミグシ・オグシ 高貴の人、又は他人の髮の敬稱。

【御髮上】339オグシアゲ 頭髮を結ぶことの敬語。〔源氏物語、桐壺〕御ぐしあげの調度めく物。

【御批】340ギョヒ 天子が事を處理することをいふ。又、天子の目を通された文書に冠する語。〔霏雪錄〕宋故事、禁中處二分事一付レ外、謂二之內批一、又謂二之御筆一、皆內夫人代書、而所謂御寶批者、或上批、或內夫人批、皆用二御寶一、惟親筆則上親書押字、不二必用レ寶也。〔日本政記、堀河天皇〕帝留二心政治一、諸曹所レ奏、夜輒覆視、可レ疑者、御批使二重議一。

【御批通鑑綱目】341ギョヒツガンカウモク 書名。通鑑綱目(11‐38892‥56)を見よ。

【御批通鑑輯覽】342ギョヒツガンシフラン 書名。通鑑輯覽(11‐38892‥59)を見よ。

【御轡】343ギョヒ 馬を御するたづな。〔後漢書、虞詡傳〕法禁者、俗之隄防、刑罰者、人之御轡。〔沈約、齊明帝謚議〕御轡不レ迷、寧藉二聽於襄野一。

【御筆】344ギョヒツ 天子のかいた書、又は畫。〔北史、魏彭城王勰傳〕及レ就、尤類二帝文一、有二人見者一、咸謂二御筆一。

【御筆勾除】345ギョヒツコウヂョ 罪人の名を書いた名札の上に天子が筆でしるしをつけること。其の時に刑を執行する。〔六部成語、刑部、御筆勾除、注解〕罪犯之名單、皇上以二御筆一勾二除其名一、卽時行レ刑。

【御巫】346ミカンナギ・ミカンノコ ㊀神祇官に屬して、宮內に鎭祭する二十三座の神などに奉仕する童女をいふ。〔令集解〕御巫卜兆。㊁ミカンナギ 明治四年九月廿九日、神祇省に置いて祭典に從事させた職。㊂ミカナギ 姓氏。〔姓名錄抄〕。

【御巫田】347ミカンナギノデン 古、御巫に給與した不輸租田。〔主稅寮式、上〕御巫田、云云、爲二不輸租田一。

【御府】348ギョフ 天子のおくら。御物ぐら。〔史記、平準書〕出二御府禁藏一以贍レ之。〔後漢書、明德馬皇后傳〕衣食則蒙二御府餘資一。

【御府祕冊】349ギョフノヒサツ 朝廷御祕藏の書籍。〔近世日本外史、二〕奏請出二御府祕冊一。

【御譜】350ギョフ 御系圖。皇室の系譜。

【御風】351ギョフウ かぜにのる。〔莊子、逍遙遊〕列子御レ風而行。〔蘇軾、前赤壁賦〕如二馮レ虛御レ風、而不レ知二其所レ止。

【御風樓】352ギョフウロウ 橋本張の號。橋本蠡菴(6‐15526‥70)を見よ。

【御服】353ギョフク 天子の衣服・調度。〔漢書、孝成許皇后傳〕椒房儀法、御服輿駕。〔宋書、恩倖傳序〕分二掌御服一。

【御福】354ゴフク ㊀神佛に供へる餠の敬稱。〔狂言、福渡〕いや、御福をたばつて御ざる。㊁土地の産物の敬稱。㊂櫻の咲く頃、吉野山で賣る餠の名。

【御祓】355オハラヒ ㊀災厄を除くために、神社で行ふ祓の神事。又、神號などを書いて神社から出す災厄よけの御札。〔狂言、素襖落〕こなたへはめでたう御祓。㊁ミソギ 伊豫國の地名。

【御祓箱】356オハラヒバコ ㊀御祓を入れたはこ。伊勢神宮から頒布される御祓の大麻を入れてある箱。江戸時代には御師から諸國の旦那へ年毎に配つた。〔今川大雙紙〕伊勢の御はらひ箱披露する時。㊁武具の一。指物の名。㊂伊勢の御祓箱が毎年新しいのが來て古いのが不用となつて捨てられることから、又、拂に通はせて、雇人を解雇

することをいふ。

【御物】357 ギョブツ 天子の用ひる品物。御用。御用品。〔史記、吳王濞傳〕燒二宗廟一鹵二御物一。〔袁宏、三國名臣序贊〕高祖雖レ不三以レ道勝二御物一。

【御物師】358 オモノシ ㊀昔、禁中の縫物師。㊁一般に、裁縫師をいふ。〔世間手代氣質〕御物師は黑繻子の帶持つて出で。

【御物舍】359 オモノヤドリ 昔、すべての主上の供御を安置したところ。御膳所。

【御物奉行】360 オモノブギヤウ 德川時代、將軍參內の時、調度を納れた長櫃につき添ひ行く役人。

【御聞】361 ギョブン 天子が聞くこと。天子が耳にすること。〔繁欽、與二魏文帝一牋〕伏想御聞、必含二餘懽一。

【御兵】362 ギョヘイ 兵を統べ治める。又、其のこと。〔魏志、王基傳〕此御レ兵之要也。

【御幣】363 ゴヘイ 幣ヌサの敬稱。

【御米】364 ギョベイ ㊀天子の食用に供する米。供御の米。〔後漢書、百官志三〕導官令一人、六百石、本注曰、主下舂二御米一、及作中乾糒上。〔水經、江水注〕縣北有二稻田一、出二御米一也。㊁罌子粟の別名。〔本草、罌子粟〕釋名、米囊子・御米・象穀、時珍曰、其實狀如二罌子一、其米如レ粟、乃象二乎穀一而可二以供御一、故有二諸名一。

【御壁】365 オカベ 豆腐の異稱。女房詞。〔東海道名所記〕燒豆腐今一しほに味ぞよき名さへおかべの宿と。

【御邊】366 ゴヘン 人を呼ぶ敬語。そこもと。足下。貴殿。〔平治物語、信西出家由來〕御邊は諸道の才人かな。〔平家物語、鵜川合戰〕今度御邊をば一方の大將にたのむなり。

【御母】367 ミオヤ 御祖(242)に同じ。

【御封】368 ミフ 封戶の敬稱。天子から賜つた領地。封は封戶(**4**－**7426**‥70)の略。〔源氏物語、藤裏葉〕太上天皇になずらふる御位得給ひて、みぶ加はり。

【御僕】369 ギョボク ㊀周官の名。夏官の屬。人民を手なづけることを掌る。〔周禮、夏官、御僕〕御僕掌三羣吏之逆、及庶民之復、與二其弔勞一。㊁童僕(**8**－**25775**‥98)に同じ。〔應璩、與二滿公琰一書〕奔二騁御僕一。

【御法】370 ミノリ 宗教、又は佛教の敬稱。

【御本】371 ギョホン 宮中に祕藏してある書籍。〔文獻通考、經籍考〕得二正御本一。

【御奔】372 ギョホン 奔馬を御すること。〔王融、三月三日曲水詩序〕念二負重於春冰一、懷二御奔於秋駕一。〔注〕善曰、鄧析子曰、明君之御レ民、若二乘レ奔而無レ轡、履レ冰而負レ重也。

【御末】373 オスエ ㊀內裏。又、室町時代の將軍家で、奧向の一室、又は其處につめる女の稱。㊁江戶幕府で奧女中の卑しい務をする女の稱。㊂末の敬稱。

【御民】374 ギョミン 民を治める。〔管子、牧民〕御レ民之轡、在二上之所一レ貴。〔晏子、諫、下〕禮者所二以御一レ民也。

【御名】375 ギョメイ 天子の名。〔乾淳起居注〕建二大樓一、取二蘇軾詩句一、曰二聚遠一、並是今上御名恭書。〔宋史、選擧志二〕時進士卷有下犯二御名一者上。

【御名代】376 ミナシロ ㊀古、天皇・皇后・皇子等の御名を傳へるために、御名又は御所の名を冠らせておく私領の部民。御子代。〔古事記、下〕此天皇之御世、爲二大后石之日賣命之御名代一、定二葛城部一、亦爲二太子伊邪本和氣之御名代一、定二壬生部一、亦爲二水齒別命之御名代一、定二蝮部一、亦爲二大日下王之御名代一、定二大日下部一。㊁ゴミヤウダイ 天皇・皇后・皇太后などの代りになること。又、其の人。

【御明】377 ミアカシ 御燈明の敬稱。神佛の前に供へる燈明。あかし。おとうみやう。〔宇津保物語、藤原君〕みあかし奉り。

【御免】378 ゴメン ㊀官衙の許可を受けること。免許の敬稱。㊁官職をやめること。免官・免職の敬稱。㊂容赦・赦免の敬稱。

【御門】379 ギョモン ㊀淸代、五日毎に天子が太和門(後、乾淸門)に出御して政を聽いたこと。〔皇朝文獻通考、王禮考、朝儀、御門聽政〕臣等謹按、國初定レ制、每日聽レ政、必御二正門一、九卿科道各員、齊集啓奏、率以爲レ常、至二雍正初一、始定二御門之典一、云云、康熙六年七月己酉、聖祖仁皇帝親政、行二慶賀之禮一、是日御二乾淸門一聽レ政、嗣後日以爲レ常。〔淸會典事例、禮部、朝會、御門聽政〕道光二十六年諭、御レ門辦レ事、典禮攸レ關、各部院堂官、理宜三恪恭祇候、用昭二夙夜靖共之義一。㊁ミカド ㋑門の敬稱。特に皇居の門をいふ。禁門。宮門。㋺皇居。皇宮。㋩朝廷。皇室。天皇の御家筋。㋥天皇の尊稱。㋭天皇の治めたまふ國土。

【御門祭】380 ミカドマツリ 古、惡魔を攘ふために六月と十二月に行はれた宮中の祭事。〔延喜式、八、祝詞〕御門祭。

【御門參】381 ミカドマヰリ 參內すること。

【御門守】382 ミカドモリ 宮門守護の士。

【御門神】383 ミカドノカミ 宮門守護の神。豐石窓神・櫛石窓神等八座をいふ。〔延喜式、九、神名帳上〕御門巫祭神八座。

【御門跡】384 ゴモンゼキ ㊀貴族から出た僧の居る寺院の尊稱。宮門跡・攝家門跡・淸華門跡の別がある。㊁眞宗本願寺の敬稱。又、眞宗の各本山の敬稱。

【御門拜】385 ミカドヲガミ 古、正月元日に百官が參內して祝詞を述べたこと。朝賀。朝拜。

【御藥】386 ギョヤク 天子の飲む藥。〔北史、隋秦王俊傳〕帝聞憫レ之、賜以二御藥一。〔唐書、百官志二〕掌下和二御藥一診視上。〔韓翃、謝三敕書賜二臘日口脂等一表〕恭嘗二御藥一、心則和平。

【御藥房】387 ギョヤクバウ 淸代、內務府に屬し、天子の飲む藥を掌るところ。〔淸國行政法汎論、內務府〕御藥房、管理大臣係二特簡一、無二定員一。

【御輿】388 ミコシ 輿の敬稱。今は專ら神輿の稱。〔萬葉集、三〕わづかやま、御輿たたして。

【御輿寄】389 オコシヨセ ミコシヨセ 輿寄の敬稱。㊀御輿を寄せること。〔御供古實〕おこしよせの時左右の事。㊁御輿を寄せるところ。御車寄。〔東鑑〕文永二年八月十六日、彈正少弼業時候二御輿寄一。

【御輿振】390 ミコシフリ ㊀神祭の時などに、神輿を舁ぎまはること。㊁古、叡山の僧徒が、京師に神輿をかつぎこんで強訴したこと。〔平家物語〕御輿振事。

【御輿添】391 ミコシゾヒ 御輿の傍に添つて行くこと。

【御用】392 ギョヨウ ㊀御物(357)に同じ。〔元史、鐵哥傳〕內府食用二圓米一、鐵哥奏曰、計二粳米一石一、僅得二圓米四斗一、請自レ今非二御用一、止給二當米一、帝善レ之。〔方輿勝覽〕御用取レ給焉。㊁ゴヨウ ㋑宮中、又は政府の用事。㋺捕吏などが官命で犯罪者を捕縛すること。㋩いりよう・入用・使用・ようむき等の敬語。

【御用掛】393 ゴヨウガカリ 朝廷又は官府の命を受けて用務を掌る職。

【御用始】393′ ゴヨウハジメ 諸官廳で一月四日に其の年の執務をはじめること。

【御用箱】394 ゴヨウバコ 官府の文書などを納れて置く箱。

【御用船】395 ゴヨウセン 官府の用に供する船舶。

【御用黨】396 ゴヨウタウ 政府の內意を受けて政府の御用を處する政黨。

【御用達】397 ゴヨウタシ ㊀用達の敬稱。㊁古、大・小名などに出入して、金錢・物品の調達を取計つた商人。㊂御用商人に同じ。

【御用納】397′ ゴヨウヲサメ 諸官廳で十二月二十八日に其の年の執務をやめること。

【御用物】398 ゴヨウモノ 宮中や官府の御用にするもの。

【御用聞】399 ゴヨウキキ ㊀古、町人・農民などが、官命を受けて罪人の探偵・捕縛に預つたこと。㊁商人などが得意先の用を聞きまはること。又、其の人。〔艶狩劍本地〕御出入、御用聞、職人まで。

【御用商人】400 ゴヨウシヤウニン 認許を經て宮中又は官廳などに用品を納めることを業とする商人。

【御用新聞】401 ゴヨウシンブン 政府の機關となり、其の政治に利益ある論說、其の他の記事を掲げる新聞。略して御用紙ともいふ。

【御用組合】401′ ゴヨウクミアヒ 使用者の利益を代表する者が參加したり、使用者から經費の援助を受けたりする勞働組合で、自主性が認められないもの。勞働組合法では、之は組合として認めない。

【御用提燈】402 ゴヨウチヤウチン 官用のある者が携へる、官府の記章や記名のある提燈。

【御容】403 ギョヨウ 天子の肖像。〔宋史、仁宗紀一〕天聖元年三月甲戌、奉二安眞宗御容於西京應天院一。〔日知錄、禮制、御容〕唐玄宗於二別殿一安二置太宗・高宗・睿宗御容一、每日侵早、具服朝謁。〔原注〕見二冊府元龜、城門郎獨孤晏處一。

【御媵】404 ギョヨウ 壻の從者と嫁の從者。御は、壻に附

き隨つて嫁を迎へる者。媵は、嫁に附き添つて來る者。〔儀禮、士昏禮〕御衽㆓于奧㆒、媵衽㆓良席㆒、在㆑東、皆有㆑枕、北㆑止。

【御耒】405（ギヨライ） 天子が使用する耒。耒は、すき。〔隋書、禮儀志二〕耕官具㆓朝服㆒從、殿中監進㆓御耒於壇南㆒。

【御覽】406（ギヨラン） ❶天子がみそなはすこと。又、其の書物。〔北史、齊後主紀〕武平三年、敕㆓撰玄洲御覽㆒。〔梅堯臣、詩〕黃帕曾經御覽書。❷太平御覽（3－5834‥434）の略稱。❸（ゴラン）見るの敬語。

【御覽詩】407（ギヨランシ） 書名。一卷。唐、憲宗勅撰。令孤楚編。又、唐御覽詩・唐歌詩・選進集・元和御覽ともいふ。〔四庫提要、集、總集類〕。

【御覽經史講義】408（ギヨランケイシカウギ） 書名。經史講義（8－27508‥115）を見よ。

【御李】409（ギヨリ） ❶賢者を敬ひ慕ふこと。後漢の荀爽が李膺の御者となつたことを喜んだ故事。〔後漢書、李膺傳〕荀爽嘗就謁㆑膺、因爲㆓其御㆒、既還喜曰、今日乃得㆑御㆓李君㆒矣、其見㆑慕如㆑此。❷すももの一種。〔本草、李〕集解、宗奭曰、李樹大者、高丈許、一種御李子、大如㆓櫻桃㆒、紅黃色、先㆓諸李㆒熟、醫家用者亦少。

【御里】410（ミサト） 都（11－39509）に同じ。

【御柳】411（ギヨリウ） ❶樹の名。檉柳科に屬し、葉は檜に似て細くて圓く、五月頃淡紅紫色の花を開く。檉柳（6－15650‥6）に同じ。❷宮中の柳。〔杜甫、鬬雞詩〕簾下宮人出、樓前御柳長。〔韓翃、寒食詩〕春城無㆔處不㆓飛花㆒、寒食東風御柳斜。

【御領】412（ゴリヤウ） 領地の敬稱。〔庭訓往來、四月〕御領豐饒、而甲乙人令㆓富有㆒。

【御旅】413（ギヨリヨ） 宿屋の召使。御は、迓、迎へる意。〔荀子、榮辱〕或祿㆓天下㆒、而不㆓自以爲㆑多、或監門・御旅・抱關・擊柝、而不㆓自以爲㆑寡。〔注〕御、讀爲㆑迓、迓旅、逆旅也。

【御旅所】414（オタビシヨ） 祭禮の時、神輿が暫時とどまる所。

【御龍】415（ギヨリヨウ） ❶龍を飼ふ。〔左氏、昭、二十九〕有㆓御龍氏㆒。〔疏〕養㆑馬曰㆑圉、御、與㆑圉同、言養㆑龍猶㆑養㆑馬。❷龍に乘る。龍を驅使する。〔括地圖〕禹平㆓天下㆒、二龍降㆑之、禹御㆑龍行㆓域內㆒、卽周而還。〔博物志、外國〕夏德之盛、二龍降㆑之、禹使㆓范成光御㆑之、以行㆓域外㆒。❸龍のやうに強いものを制御すること。〔埤雅、釋獸、龍〕孫綽子曰、高祖御㆑龍、光武御㆑虎、龍、韓・彭之類是也、虎、耿・鄧之類是也。❹城の名。河南省臨潁縣の北。又、拳龍城といふ。❺複姓。〔左氏、昭、二十九〕秋、龍見㆓于絳郊㆒、魏獻子問㆓蔡墨㆒曰、吾聞㆑之、蟲莫㆑知㆓於龍㆒、以㆔其不㆓生得㆒也、謂㆓之知㆒、信乎、對曰、人實不㆑知、非㆓龍實知㆒、古者畜㆑龍、故國有㆓豢龍氏㆒、有㆓御龍氏㆒。〔史記、夏紀〕劉累學㆑擾㆑龍、以事㆓孔甲㆒、孔甲賜㆓之姓㆒、曰㆓御龍氏㆒。

【御龍子】416（ギヨリヨウシ） 明、范守己（9－30834‥192）の號。

【御林】417（ギヨリン） 宮中の林。又、天子御用の林。〔金史、世宗紀〕大定二十年、以㆓玉田縣行宮之地偏林㆒爲㆓御林㆒。

【御廩】419（ギヨリン） 天子が祖先の祭祀に供するために、親耕した穀物を藏する米ぐら。〔春秋、桓、十四〕秋八月壬申、御廩災。〔杜注〕御廩、藏㆔公所㆓親耕㆒、以奉㆓粢盛㆒之倉也。〔公羊、桓、十四〕御廩者何、粢盛委之所㆑藏也。

【御靈】420（ミタマ） ❶靈魂の敬稱。❷おかげ。恩惠。〔萬葉集、五〕吾が主の御靈賜ひて。❸（ゴリヤウ）昔、陰陽家で祭つた疫病の神。❹たたりをする人の怨靈。

【御靈移】421（ミタマウツシ） 御靈代を他にうつすこと。又、其の儀式。

【御靈會】422（ゴリヤウヱ） ❶祇園社の祭事。陰曆六月十四日に行ふ。〔公事根源、六月〕祇園御靈會、十四日。❷古、人の怨靈のたたりを和げるために行つた祭。〔三代實錄、七〕貞觀五年五月二十日、於㆓神泉苑㆒修㆓御靈會㆒。

【御靈屋】423（ミタマヤ） 御靈を鎭め祀つておく所。靈位を安置しておく所。

【御靈祭】423′（ミタママツリ） 大晦日の夜、又は元旦の未明に、祖先の靈、又は歲の神を祭ること。

【御靈舍】424（ミタマヤ） 御靈屋に同じ。

【御靈遷】425（ミタマウツシ） 御靈移に同じ。

【御靈代】426（ミタマシロ） 御靈に代へて祭るもの。〔早懸略記〕代々家に祭り奉る御靈代。

【御料】427（ゴレウ） ❶御用。❷食物の敬稱。〔源平盛衰記、二一〕笭箐に御料を入れ。❸給料又は使用料の敬語。❹皇室に屬する財產。❺御料地の略。❻貴人の子、又は貴人の敬稱。❼御料人に同じ。〔武家名目抄〕。

【御料局】428（ゴレウキヨク） 舊宮內省の一局。帝室の財產等を掌る役所。

【御料地】429（ゴレウチ） 皇室所有の土地。

【御料人】430（ゴレウニン） 御寮人。貴人の息子・息女の敬稱。❶人の息女の敬稱。〔甲陽軍鑑〕信玄公御料人、御年七歲に成り給ふを。❷上方方言で、中流人の娘、又は若妻の敬稱。

【御輦】431（ギヨレン） 天子のくるま。〔北史、魏孝文紀〕帝初法服御輦、祀㆓西郊㆒。

【御簾】432（ギヨレン） ❶宮殿にかけられてゐるすだれ。〔顧況、樂府〕雲隨㆓天杖㆒轉、風入㆓御簾㆒輕。〔趙嘏、長信宮詞〕自恨身輕不㆑如㆘燕春來長繞㆓御簾㆒飛㆖。❷（ミス）すだれの敬稱。

【御簾中】433（ゴレンチユウ） ❶大臣・公卿など、貴人の妻の敬稱。❷江戶時代、將軍・三家・三卿の妻の敬稱。

【御簾編】434（ミスアミ） 御簾を編むことを職業としてゐる者。〔吉記〕承安三年七月九日、御簾編等令㆑召、遣㆓成長許㆒畢、今日內令㆓編出㆒料也。

【御路】435（ギヨロ） ❶天子の通路。〔晉中興書〕太和中、鄴下童謠曰、青青御路楊、白馬紫遊韁。❷天子のくるま。路は輅。〔宋之問、扈㆓從登封㆒告㆑成頌應制詩〕御路迴㆓中嶽㆒、天營接㆓下都㆒。〔王建、宮詞〕走馬犢車當㆓御路㆒、漢陽公主進㆓雞毬㆒。

【耕㆓御路㆒】436（ギヨロヲタガヤス） 天子の通路をたがやす。國の滅びること。〔晉書、五行志中〕太和末、童謠曰、犁牛耕㆓御路㆒、白門種㆓小麥㆒、及㆓海西公被㆑廢、百姓耕㆓其門㆒、以種㆓小麥㆒、遂如㆓謠言㆒。

【御爐】437（ギヨロ） 天子の香爐。〔賈至、早朝大明宮呈㆓兩省僚友㆒詩〕劍珮聲隨玉墀步、衣冠身惹御爐香。〔柳宗元、省試觀㆓慶雲圖㆒詩〕抱㆑日依㆓龍袞㆒、非㆑烟近㆓御爐㆒。〔黃滔、喜㆓侯舍人蜀中新命㆒詩〕立被㆓御爐㆒烟氣逼、吟㆓經棧閣㆒雨聲秋。

【御泓】438（ギヨワウ） 天子使用の淵。天子が入浴した所。〔竹添井井、棧雲峽雨日記〕一室在㆓最後㆒者、爲㆓御泓㆒。

【當㆑御】440（ギヨニアタル） 順番に當る。當番。〔左氏、襄、二十六〕行人子朱曰、朱也當㆑御。〔注〕御、進也、言次當㆑行也。

【御懿德】441（ゴイトク） 天子の美德。

【御一新】442（ゴイツシン） 明治の新政を稱す。維新。

【御蔭祭】443（ミカゲマツリ） 京都賀茂御祖神社で四月の中の午の日（今は五月十二日）に行はれる祭禮。〔雍州府志、二〕御蔭社、云云、每年四月午日發㆓遣敕使㆒有㆓祭禮㆒、世人稱曰㆓御蔭祭㆒。

【御營使】444（ギヨエイシ） 官名。宋、建炎の時、置く。行幸の時の官で、宰相が兼任した。〔宋史、職官志二〕御營使、建炎元年、置㆓御營司㆒、以㆓宰相㆒爲㆓之使㆒、仍以㆓執政官㆒兼㆓副使㆒。〔老學庵筆記、一〕建炎初、按㆘景德幸㆓澶州㆒故事㆖、置㆓御營使㆒、以㆓丞相㆒領㆑之、執政則爲㆓副使㆒。

【御恩所】445（ゴオンシヨ） 恩賞によつて賜はつた土地。御恩地。〔東鑑、三十四〕建久五年十月十七日、三河國羽渭庄、爲㆓關東御恩所㆒、令㆓領知㆒。

【御歌所】446（オウタドコロ） 舊宮內省の管理に屬し、御製・御歌、及び御歌會に關する事務を掌つた所。明治二十一年六月に始めて設けられた。

【御學始】447（オマナビハジメ） 主上・皇族、其の他、貴人などが學問を始めること。

【御嶽詣】448（ミタケマウデ） 大和國金峯山に參詣すること。

【御匣殿】449（ミクシゲドノ） 御櫛笥殿（509）に同じ。❶中古、禁中の貞觀殿の中にあつて、內藏寮で調進する以外の御服の裁縫を掌つた所。〔禁祕抄、中〕御匣殿別當。❷御櫛笥殿の❷を見よ。

【御花園】450 yü^4 hua^1 yüan^2 御所の花園。

【御畫可】451（ゴグワクカ） 詔書の案を太政官から上奏する時、天子が之に親筆で可の字を書くこと。御畫ともいふ。〔拾芥抄〕御畫事。〔禁祕抄、上〕詔書覆奏、上卿奏㆑之、天子覽㆑之、書㆓可字㆒返給、年號奧聊上書也、只可字一字也。

【御勸化】452（ゴクワンゲ） 佛❶佛の教をすすめる。法談・法話・說教等をいふ。❷寄附・喜捨をすすめる。堂・塔・佛像等の建立修復のために、僧徒が普く信者の寄進をすすめ募ること。轉じて、一般に、金品の寄付をすすめること。勸進。募緣。

【御教書】453 ミケウショ ミゲウソ　❶綸旨。〔薩戒記〕應永三十三年十月十七日、可レ致二御祈禱一由、可レ遣二御教書一者。❷院宣の稱。❸三位以上の公卿から出す公文書で、家司が上意を奉じて出す形式をとる。❹鎌倉幕府・室町幕府の出す公文書で、執權・管領などが將軍の上意を奉じて出す形式をとる。〔東鑑、六〕文治二年八月五日、御教書。

【御裁可】454 ゴサイカ　天皇が案文を親裁して許可されること。

【御齋會】455 ゴサイヱ　⦅佛⦆昔、禁中で正月八日から十四日まで、最勝王經を講じ、國家の安寧を祈らせた佛事。

【御曹司】456 オンザウシ　❶堂上家の子弟の未だ部屋住の者の敬稱。後、名門・知名人の子弟の敬稱。御曹子。❷女官の用部屋。局。

【御參道】457 ゴサンダウ　御參詣の道中。〔東鑑、十〕文治六年正月二十日、此事於二御參道一、殊可レ憚之由。

【御產所】458 ゴサンジョ　產所の敬稱。鎌倉・室町時代の語。〔東鑑、六〕文治二年二月二十六日、御產所、長門江七景遠濱宅也。

【御修法】459 ミシホフ・ミズホフ・ミシュホフ　昔、禁中で陰曆正月に行はれた佛事の稱。

【御手玉】460 オテダマ　小さい布袋などに赤小豆、又は小石などを入れて縫ひ、之を投げ受けなどして遊ぶ女兒の玩具。

【御手洗】461 ミタラシ　❶口・手などを清めるために、神社の前に備へる水。又、御手洗川の略。❷姓氏。〔日用重寶記〕。

【御手洗川】462 ミタラシガハ　❶山城國に在る川。❷神社のほとりを流れる川。參詣の時、手を洗ふことからいふ。〔古今集、戀一〕戀せじとみたらし川にせしみそぎ。

【御手打】463 オテウチ　主君が自ら臣下を切ること。〔狂言記〕唯今お手討になると申しても。

【御手代】464 ミテシロ　❶天皇に代つて御幣を手に取持つこと。又、みてぐらとするもの。〔日本書紀、神代紀下〕乃使下太玉命以二弱肩一被二太手繈一、而御手代以祭中此神上者、始起二於此一矣。❷姓氏。

【御守殿】465 ゴシュデン　❶德川時代、三位以上の諸侯に嫁した將軍の女の居所の敬稱。❷女の結髮の一種。御守殿に仕へた女中が結つたからいふ。

【御朱印】466 ゴシュイン　足利・德川時代、將軍が朱肉を用ひて公文書に押した印。又、其の印を押した公文書。〔傾城反魂香〕田上郡七百町の御朱印を付けられ。

【御朱印船】467 ゴシュインセン　豐臣時代から德川初代に行はれたもので、公許のしるしとして朱印のある鑑札を所有し、海外貿易を行つた船の稱。

【御朱印地】468 ゴシュインチ　德川時代、幕府から御朱印(朱肉で印を押した證書)をいただいた土地で、其の地の租稅を免ぜられたもの。神社佛閣の所領などに此の特權がある。

【御神樂】469 ミカグラ　神樂の敬稱。上古から傳はり、神事に奏する舞樂。〔皇室祭祀令、第二十一條〕賢所御神樂、十二月中旬。

【御軫念】470 ゴシンネン　天子が心にかけて心配すること。

【御新造】471 ゴシンザウ・ゴシンゾ　やや身分のある人の新婦の敬稱。轉じて、中流社會の人の妻の敬稱。又、一般に他人の妻をいふ。

【御新様】472 ゴシンサマ　御新造様の略。ごしんさんともいふ。

【御親謁】473 ゴシンエツ　陛下御自身で謁見されること。

【御親祭】474 ゴシンサイ　天皇御自身で親しく神を祭り給ふこと。

【御隨身】475 ミズイジン　隨身の敬稱。

【御隨身所】476 ミズイジンドコロ　昔、院の御所に侍つた隨身が寄り集る所。

【御清所】477 オキヨドコロ　❶御廚子所(274)の異稱。❷昔、貴人の臺所。❸物忌みの時に居つた所。

【御聖德】478 ゴセイトク　天子の德。

【御仙帶】479 ギヨセンタイ　宋代、中書・樞密をやめた人が帶びてゐた飾りのある帶。〔春明退朝錄、中〕至二祥符中一、趙文定罷二參知政事一、爲二兵部侍郎一、後數載、除二景靈宮副使一、眞宗命レ廷賜三御仙花帶與二繡韉一、遂服二御仙帶一、自後二府罷者、學士與二散官一、通服二此帶一、遂以爲二故事一。

【御遷坐】480 ゴセンザ　神體の所在を遷すこと。

【御遷坐式】481 ゴセンザシキ　御遷坐の儀式。

【御蟬香】482 ギヨセンカウ　瓜の一種。實の表皮に蟬の形をした皺がある。〔清異錄、果〕洛南、會昌中、瓜圃結二五六實一、長幾尺、而極香類二蛾綠一、其上皺文、酷似二蟬形一、圃中人連レ蔓移二上檻一貢、上命レ之曰二御蟬香挼腰綠一。

【御息所】483 ミヤスドコロ・ミヤスムドコロ　❶禁中の天子の御休息所。❷皇子・皇女を生んだ女御・更衣の敬稱。〔源氏物語、桐壺〕みやすどころははかなきここちにわづらひて。❸東宮又は親王の妃をいふ。〔增鏡、つげの小櫛〕父親王の將軍にておはしまし時の御息所なり。

【御大層】484 ゴタイソウ　仰山なこと。

【御帶花】485 yu^4 tai^4 hua^1　草花の名。すずかけ。こてまりばな。

【御稻米】486 ギヨタウベイ　米の一種。

【御塔門】487 オンドモン　音戶の瀨戶をいふ。平清盛が嚴島への航路を便にするために開いた處。〔梁川孟緯、御塔門詩〕連山中斷一江通、禹鑿隋開豈讓レ功、薄夜潮聲驅二萬馬一、平公塔畔月如レ弓。

【御馳走】488 ゴチソウ　馳走の敬語。❶饗應。ふるまひ。❷立派な食物。おいしい食物。

【御茶所】489 オチヤドコロ　❶神社・佛閣などで參詣人にお茶を薦める所。❷茶店の自稱。❸茶の名產地。

【御着袴】490 ゴチヤクコ　貴人が袴をつけること。特に天皇・東宮などにいふ。〔武家名目抄〕。

【御泥池】491 ミドロノイケ　山城國に在る池。

【御疊瀨】492 ミマセ　土佐國の地名。

【御土田】493 ミトタ　姓氏。〔姓名錄抄〕。

【御納戶】494 オナンド　❶納戶の敬稱。衣類などを入れて置く部屋。❷染色の名。鼠色を帶びた藍色。納戶色。

【御納戶役】495 オナンドヤク　德川時代、幕府又は諸侯の衣服・調度・出納を掌つた職。

【御乳人】496 オチノヒト　乳母をいふ。〔今鏡〕紀の御とて、御乳の人と聞えし。

【御年玉】497 オントシダマ・オトシダマ　年始に贈る進物。

【御判地】498 ゴハンチ　領地の名。將軍の判を捺した安堵狀に依つて賜はつたもの。〔蜷川親俊記〕御判地小賣寄進事。

【御夫座】499 ギヨフザ　北天星座の一。英仙座の東にある。

【御部屋】500 オヘヤ　❶室への敬稱。❷貴人の妾。

【御佛名】501 オブツミヤウ　⦅佛⦆罪障消滅のため、陰曆十二月十九日から三日間、禁中で佛名經をよませた佛事。〔榮華物語、うたがひ〕十二月公私の御佛名、御讀經いとなみ。

【御返事】502 ゴヘンジ　❶返事の敬稱。❷ヲツ・ヘチ　姓氏。

【御鉾內】503 オムナイ　北海道後志國の地名。

【御稜威】504 ミイツ　天皇の御威德。尊嚴な御威光。

【御引直衣】505 オヒキナホシ　昔、主上・上皇の通常御服。下襲の裾を長く引いたところからいふ。

【御烟草盆】506 オタバコボン　❶烟草盆の敬稱。❷七八歲位の少女が、左右に分けた髮を、雙方からあはせ結んだもの。

【御學問所】507 ゴガクモンジヨ　❶天皇・皇太子が、平常、學問をなさるところ。❷天子が萬機を總攬される所。

【御嶽精進】508 ミタケシヤウジン・ミタケサウジ　大和國金峰山へ參詣する者の行ふ精進。

【御櫛笥殿】509 ミクシゲドノ　御匣殿(449)に同じ。❶貞觀殿の異稱。又、貞觀殿中の一殿。內藏寮で調進する以外の御服を裁縫する所。〔西宮記、臨時、四、下、所所事〕御櫛笥殿、在二貞觀殿中一、以二上臈女房一爲二別當一、有二女藏人一。❷御櫛笥殿を掌る上臈女房。御匣殿別當。

【御相伴衆】510 オシヤウバンシユウ　德川時代、將軍が大名の家に行く時に隨行する大名の稱。

【御裳濯川】511 ミモスソガハ　五十鈴川の上流、伊勢神宮のほとりを流れる河。

【御神威崎】512 オカモイザキ・オカムイザキ　北海道後志國の地名。

【御制三院】513 ギヨセイサンヰン　御史臺(129)の別稱。〔陳賈、御史臺廳壁記〕宋朝三院御史、皆得下論二政事一糾中官事上。

【御大御前】514 ミホノミサキ　出雲國の地名。美保崎。地藏崎。

【御勅使川】515 ミダイガハ　甲斐國に發源する川。

【御菩薩池】516 ミソロガイケ　山城國に在る池といふ。

【窺レ御激レ夫】517 ギヨヲウカガヒヲツトヲゲキス　春秋、齊の晏子の御者の妻が、夫の車を御するのを窺ひ、夫を激勵した故事。內助の功をいふ。〔史記、管晏列傳〕御之妻從二門閒一而闚二其夫一、其夫爲二相御一、擁二大蓋一策二駟馬一、意氣揚揚甚自得也、既而歸、其妻

請レ去、云云、其後夫自抑損、晏子恠而問レ之、御以レ實對、晏子薦以爲二大夫一。〔故事成語考、夫婦〕齊御之妻、窺レ御激レ夫、可レ稱二内助之賢一。

【御高祖頭巾】518 オコソヅキン 目だけ出して、他をつつみかくす頭巾。婦人のかぶるもの。

【徛】10158 チ ヂ 〔廣韻〕直里切 ㄓˋ chih^{4} 紙

❶ねがひをもつておもむく。〔廣韻〕徛、又有レ所レ望而往。❷まつ。たくはへる。そなへる。〔廣韻〕徛、待也、儲也、具也。❸偫(1－888)に同じ。〔正字通〕徛、同レ偫。

【𢓴】10159 ヰ 逶(11－38949)に同じ。〔正字通〕𢓴、逶同、逶、李鉉字辨作レ𢓴。

【𢓭】10160 イツ 佾(1－572)の古字。〔集韻〕佾、古作レ𢓭。

【徢】10161 セフ 〔集韻〕悉協切 葉 小股に早く歩くさま。〔集韻〕徢、趨行皃。

【𢓡】10162 ワウ 往(4－10073)の古字。〔玉篇〕𢓡、古文往字。

【𢔉】10163 コウ 後(4－10098)の古字。〔字彙補〕𢔉、古文後字。

【𢔁】10164 ジユン 徇(4－10053)に同じ。〔集韻〕徇、或作レ𢔁。

【𢕊】10165 ケン クワン 〔集韻〕苦遠切 阮 しづかに行く。〔集韻〕𢕊、徐行也。

【𢔩】10166 シウ 修(1－721)に同じ。〔川篇〕𢔩、同レ修。

【𢕈】10167 キヤク 御(1－847)に同じ。〔篇海類編〕𢕈、同レ御。

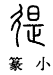
【𢓾】10168 セキ 借(1－781)に同じ。〔篇海類編〕𢓾、同レ借。

【𢔇】10169 ハウ 徬(4－10200)の本字。〔正字通〕徬、本作レ𢔇。

九畫

【徥】10170

[一] シ ジ 〔集韻〕常支切 支
[二] シ ジ 〔集韻〕上紙切 紙
[三] タイ ダイ 〔集韻〕徒駭切 蟹
[四] チ ヂ 〔集韻〕丈尒切 紙
[五] タイ ダイ 〔集韻〕度皆切 佳
[六] テイ ダイ 〔集韻〕土禮切 薺


小篆

[一]❶行くさま。〔説文〕徥、徥徥、行皃也、从レ彳是聲。❷のり。是(5－13859)に通ず。〔説文〕徥、爾雅曰、徥、則也。〔段注〕今本釋言、作二是則也一、蓋古爾雅、假レ徥爲レ是也。[二]行くさま。〔廣韻〕徥、行皃。〔集韻〕徥、行也。[三]❶行く。〔集韻〕徥、博雅、行也。❷たをやか。〔集韻〕徥、一曰、細而有レ容。[四]❶文はり行く。〔集韻〕徥、行衙衙、謂二之徥一。❷行くさま。〔廣韻〕徥、行皃、朝鮮語也。[五]❶行くさま。徃徥。〔集韻〕徥、徃徥、行皃。❷たをやか。媞(3－6522)に通ず。〔説文通訓定聲〕徥、叚借爲レ媞。〔方言、一二〕秦晉之閒、凡細而有レ容、謂二之魏一、或曰レ徥。[六]とどまる。〔集韻〕徥、止也。

【𢔓】10171 クワン グワン 〔集韻〕戸管切 旱 しづかにゆく。徽𢔓。〔集韻〕𢔓、徽𢔓、徐行。

【徸】10172

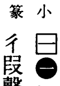
[一] シヨウ シユ 〔集韻〕主勇切 腫
[二] ドウ

小篆

[一]❶つぐ。ふむ。〔説文〕徸、相迹也、从レ彳重聲。〔段注〕後迹與二前迹一相繼也。❷踵(10－37686)に同じ。〔玉篇〕徸、亦作レ踵。[二]動(2－2390)の古字。〔玉篇〕徸、古文動字。

【徦】10173

[一] カ ケ 〔集韻〕擧下切 馬
[二] カ ケ 〔集韻〕居迓切 禡
[三] カク キヤク 〔集韻〕各頟切 陌
[四] カ ケ 〔集韻〕何加切 麻


小篆

[一]❶いたる。〔説文〕徦、至也、从レ彳叚聲。❷或は蝦(10－33299)に作る。〔集韻〕徦、或作レ蝦。[二]いたる。[一]に同じ。〔集韻〕徦、方言、至也。[三]いたる。𢓕(4－10082)に同じ。〔集韻〕𢓕、至也、或作レ徦。[四]とほい。嘏(2－4190)・遐(11－39005)に通ず。〔説文通訓定聲〕徦、叚借爲レ嘏。〔集韻〕遐、爾雅、遐逷、遠也、或从レ彳。〔漢書、禮樂志〕沇二沇四塞一、徦狄合處。〔注〕師古曰、徦狄、遠夷也、云云、徦、卽遐字耳。

【徧】10174

[一] ヘン 〔集韻〕卑見切 ㄅㄧㄢˋ pien^{4} 霰
[二] ヘン ベン 〔集韻〕蒲眠切 ㄆㄧㄢˋ p'ien^{4} 先

小篆

[一]❶あまねし。ゆきわたる。〔説文〕徧、帀也、从レ彳扁聲。〔廣韻〕徧、周也。〔易、益〕莫レ益レ之、偏辭也。〔虞注〕徧、周匝也。〔周禮、天官、外府〕掌二邦布之出入一、〔注〕其流行無レ不レ徧。〔疏〕無レ不レ徧、卽帀之義也。❷あまねく。のこらず。すべて。〔禮、曲禮上〕殺之序、徧祭レ之。〔疏〕徧、匝也。〔淮南子、主術訓〕天下徧爲二儒墨一矣。〔注〕徧、猶レ盡也。❸めぐる。〔晉書、王戎傳〕周二徧天下一。❹或は遍(11－39001)に作る。〔集韻〕徧、或从レ辵。〔詩、邶風、北門〕室人交徧讁レ我。〔釋文〕徧、古遍字。❺或は辯(10－38677)に作る。〔集韻〕徧、亦作レ辯。〔書、舜典〕徧二于羣神一。〔史記、五帝紀〕辯二於羣神一。❻或は辨(10－38657)に作る。〔集韻〕徧、亦作レ辨。〔公羊、僖、三十一〕不レ崇レ朝、而徧二雨乎天下一者、唯泰山也。〔論衡、明雩〕不レ崇レ朝、而辨二雨天下一、泰山也。❼班(7－20976)に通ず。〔書、舜典〕徧二于羣神一。〔後漢書、祭祀志〕班二于羣神一。[二]❶ちんば。蹁(10－37717)に同じ。〔集韻〕蹁、蹁躚、旋行也、或作レ徧。❷かたよる。偏(1－848)に同じ。〔集韻〕偏、説文、頗也、亦

作レ偏。

名乘 ユキ。

【徧遊】1 pien^{4} you^{2} あまねく諸方に遊ぶ。

【徧戒】2 ヘンカイ あまねくいましめる。〔國語、周語上〕稷則徧戒二百姓一。

【徧街】3 pien^{4} chieh^{1} 町中。全町內。

【徧該】4 ヘンガイ あまねくかねる。廣く知つてゐること。〔晉書、范平傳〕平研二覽墳索一、徧二該百氏一。

【徧行】5 ヘンカウ ❶あまねく行く。〔荀子、性惡〕足可三以徧二行天下一。❷かたより行ふ。〔管子、國蓄〕王者徧行而不レ盡也。〔纂詁〕豬飼彥博云、徧、當レ作レ偏。

【徧窺】6 ヘンキ あまねくうかがひみる。〔楊炯、羣官尋二楊隱居一詩序〕旁二求勝境一、徧二窺靈跡一。

【徧諱】6′ ヘンキ あまねくいむ。禮記、曲禮上に在る「二名不二徧諱一」の文は、徧諱の誤であるといふ說による。毛居正の六經正誤卷四禮記、顧炎武の日知錄二十三、二名不二徧諱一などは、皆その說を引いてゐる。〔舊杭本柳文、三十九、讓二監察御史一狀〕準三禮二名不二徧諱二、不レ合二辭遜一也。

【徧擧】7 ヘンキヨ あまねくあげる。〔荀子、正名〕萬物雖レ衆、有レ時而欲三徧二擧之一。〔墨子、經說下〕區宇、不レ可二徧擧一宇也。

【徧觀】8 ヘンクワン あまねくみる。〔墨子、小取〕故言多レ方、殊レ類異レ故、則不レ可二徧觀一也。

【徧見】9 ヘンケン 徧觀(8)に同じ。〔呂覽、知度〕明君者、非三徧二見萬物一也。

【徧告】10 ヘンコク あまねく告げる。〔史記、五帝紀〕徧告以レ言、明試以レ功、車服以レ庸。

【徧祭】11 ヘンサイ あまねく祭る。〔書、舜典〕望二于山川一、徧二于群神一。〔疏〕徧祭二於山川・丘陵・墳衍、古之聖賢之羣神一。〔禮、曲禮上〕主人延レ客祭、祭レ食、祭レ所二先進一、殽之序、徧祭レ之。

【徧在】12 ヘンザイ あまねくゆきわたつて存在する。

【徧搜】13 ヘンサウ あまねくさがしもとめる。〔李紳、過二吳門一詩〕故館曾閑訪、遺基亦徧搜。〔李洞、送二東宮賈正字之レ蜀詩〕若次二江邊邑一、宗詩爲二徧搜。

【徧賜】15 ヘンシ あまねく賜はる。〔左氏、昭、二十〕齊侯將レ飮レ酒、徧賜二大夫一曰、二三子之教也。

【徧辭】16 pien^{4} tzʻŭ^{2} あまねく暇乞する。

【徧周】17 ヘンシウ あまねくゆきわたる。又、すべてに合致する。〔嵇康、述レ志詩〕殊類難二徧周一、鄙議紛流離。

【徧集】18 ヘンシフ すべてあつまる。又、めぐりあつまる。〔帝京歲時紀勝、賞蓮〕酌レ酒賞レ花、徧二集其下一。

【徧循】19 ヘンジユン あまねくしたがふ。ことごとく從ふ。〔漢書、司馬遷傳〕其事不レ可二徧循一。

【徧處】20 pien^{4} chʻu^{4} 到る處。どこもかしこも。

【徧身】21 ヘンシン 身體中。全身。遍身。〔無名氏、蠶婦詩〕徧身綺羅者、不二是養レ蠶人一。

【徧身綾羅】22 ヘンシンリヨウラ 全身に綾羅をまとふ。おかひこぐるみ。〔紅樓夢、六回〕劉姥姥見二平兒一、徧身綾羅、插レ金帶レ銀。

【徧隨】23 ヘンズイ あまねくしたがふ。ことごとく從ふ。〔韓非子、初見秦〕大王垂拱以須レ之、天下徧隨而服矣、霸王之名可レ成。

【徧數】24 pien^{4} shu^{4} 全數。全部。

【徧省】25 ヘンセイ 周代、天子が巡守の五年目に使臣をして邦國諸侯をあまねく省察せしめた禮。徧存(29)を見よ。

【徧照】26 ヘンセウ あまねくてらす。殘る隅なく照らす。〔韓詩外傳、六〕日月之明、徧二昭天下一、而不レ能レ使二盲者卒有一レ見。〔淮南子、齊俗訓〕欲三徧照二海內之民哀樂一。〔後漢書、馬融傳〕流覽徧照、殫レ變極レ態。〔魏志、杜恕傳〕天下至大、萬機至衆、誠非三一明所二能徧照一。

【徧照光明】27 ヘンセウクワウミヤウ 佛彌陀の光明が徧く十方世界を照らして到らざる處のないこと。遍照光明。〔觀無量壽經〕無量壽佛、有二八萬四千相一、一一相、各有二八萬四千隨形好一、一一好、復有二八萬四千光明一、一一光明、遍二照十方世界念佛衆生一、攝取不レ捨。

【徧照金剛】27′ ヘンセウコンガウ 佛又、遍照金剛に作る。❶毘盧遮那佛(大日如來)の密號で、法身佛の光明徧照金剛不壞の體を現はした語。❷本邦の密教では、祖師弘法大師の金剛名とする。〔性靈集、三〕沙門徧照金剛文幷書。〔源平盛衰記、三十二、維高維人位論事〕弘法大師は、云云、今、徧照金剛として日本に住して、金輪聖王の福を增し。

【徧走】28 pien^{4} tsou^{3} 到る所に行く。

【徧存】29 ヘンソン 周代、天子が巡狩しない年に使臣をして邦國諸侯をあまねく存問せしめた禮。王の巡狩の明年に行ふを存、三年目を頫、五年目を省といふ。〔周禮、秋官、大行人〕王之所三以撫二邦國諸侯一者、歲徧存、三歲徧頫、五歲徧省。〔注〕存・頫・省者、王使二臣於諸侯一之禮、所謂閒問也、歲者、巡守之明歲、以爲レ始也。〔孫詒讓正義〕爾雅釋詁云、右・存・省・視、察也、又云、頫、視也、廣雅釋詁云、省、視也、三者訓義略同。

【徧談】30 ヘンダン あまねくかたる。洩れなく語る。〔夏侯湛、從祖叔權幼權序〕弟榮、字幼權、幼聰慧、七歲能屬レ文、誦レ書日千言、經レ目輒識レ之、文帝聞而請焉、賓客百餘人、人一奏刺、悉書二其鄕邑名氏一、世所レ謂爵里刺也、客示レ之、一寓レ目、使二之徧談一、不レ謬二一人一、帝深奇レ之。

【徧地】31 ヘンチ 地一面に。〔劉兼、送三二郎君歸二長安一詩〕紅葉滿レ山歸二故國一、黃茅徧レ地住二他州一。

【徧置】32 ヘンチ あまねくおく。又、皆が置く。〔漢書、賈誼傳〕彼自二丞尉一以上、徧置二私人一如レ此。

【徧通】33 ヘンツウ あまねく通ずる。〔論衡、實知〕雖レ有二一能一、未レ能二徧通一。〔沈約、恩倖傳論〕理難二徧通一。

【徧覜】34 ヘンテウ 周代、天子が巡守の三年目に使臣をして徧く邦國諸侯を省察せしめた禮。徧存(29)を見よ。

【徧覩】35 ヘント あまねくみる。〔司馬相如、子虛賦〕游二於後園一、覽二於有無一、然猶未レ能二徧覩一。

【徧讀】36 ヘンドク あまねくよむ。博く書物を讀む。〔宋史、張脇傳〕徧二讀九經一、盡通二其義一。

【徧報】37 ヘンパウ あまねくむくいかへす。〔史記、蘇秦傳〕徧報下諸所二嘗見一德者上。

【徧布】38 ヘンプ あまねくしく。あまねくゆきわたる。〔許棠、講德陳情上二淮南李僕射一詩〕風威徧布二江山一靜、教化高同二日月一明。〔宋史、占城國傳〕眞風徧布、霈澤周行。

【徧覆】39 ヘンプウ あまねくおほふ。〔漢書、董仲舒傳〕臣聞、天者羣物之祖也、故徧覆包函、而無レ所レ殊。

【徧舞】40 ヘンブ 盡く舞ふ。全部を舞ふ。六代の樂を盡く舞ふ。一說に、諸大夫が皆舞ふ。徧儛を見よ。〔左氏、莊、二十〕王子頹享二五大夫一、樂及二徧舞一。〔注〕皆舞二六代之樂一。

【徧儛】41 ヘンブ 徧舞に同じ。〔國語、周語上〕子穨飮二三大夫酒一、子國爲レ客樂及二徧儛一。〔注〕徧儛、六代之樂也、謂、黃帝曰二雲門一、堯曰二咸池一、舜曰二大招一、禹曰二大夏一、殷曰二大濩一、周曰二大武一、一曰、諸大夫徧儛也。

【徧服】42 ヘンブク あまねく服する。よく服從する。又、皆が服從する。〔左氏、昭、二十八〕慈和徧服曰レ順。

【徧滿】43 ヘンマン あまねくみちる。〔蘇軾、送二楊孟容一詩〕江山不レ違レ人、徧滿千家窗。

【徧諭】44 ヘンユ あまねくさとす。〔國語、晉語八〕上下神祇、無レ不二徧諭一也。

【徧羅】45 ヘンラ 魚の名。硬鰭類かんだひ科に屬す。體は側扁で楕圓狀をなし、鱗は滑かで光彩がある。

【徧覽】46 ヘンラン あまねくみる。全部を見る。〔南史、梁昭明太子統傳〕亦素崇二信三寶一、徧二覽衆經一。〔宋史、司馬光傳〕光常患二歷代史繁、人主不レ能二徧覽一。

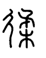
【徧歷】47 ヘンレキ あまねくめぐる。各地をへめぐる。周遊。〔南史、陶弘景傳〕徧二歷名山一、訪二尋仙藥一。〔韓愈、劉生詩〕五管徧歷無二賢侯一、廻望萬里還レ家羞。

【徧路】48 ヘンロ ❶祈願のため、道中、食を乞ひつつ四國八十八箇所の靈場をめぐり行くこと。又、其の人。四國遍路。❷こじき。

【徧插二茱萸一少二一人一】49 アマネクシユユヲサシテイチニンヲカクナラン 故鄕で兄弟が、今日、即ち九月九日の行事として、皆茱萸を頭にさして高處に登り、定めし、自分が一人缺けてゐることを淋しく思つてゐることであらう。徧は、一に遍に作る。〔王維、九月九日憶二山中兄弟一詩〕獨在二異鄕一爲二異客一、每レ逢二佳節一倍思レ親、遙知兄弟登レ高處、徧插二茱萸一少二一人一。〔注〕山中、一作二山東一。

【偏禮二南朝寺一焚レ香古像前】50（アマネクナンテウノテラヲレイシカウヲタクコザウノマヘ）四百八十もあるといふ南朝の寺を遍く禮拜して、古き佛像の前に香を焚く。〔皇甫冉、送三陳法師赴二上元一詩〕延陵初罷レ講、建業去隨レ緣、翻譯推二多學一、壇場最少年、浣レ衣逢二野水一、乞レ食向二人煙一、偏禮二南朝寺一、焚レ香古像前。

【𢓭】10175　㊀ジウ ニユ　〔集韻〕忍九切　有　㊁ヂウ ニユ　〔集韻〕女久切　有


小篆

㊀かへる。〔說文〕𢓭、復也、从レ彳柔聲。〔說文通訓定聲〕謂二往來一也。㊁なれる。ならふ。狃(**7－20289**)に通ず。〔說文、𢓭、段注〕此字引伸爲二狃忕之義一、云云、或與レ狃同、按、狃行而𢓭廢矣。〔廣韻〕𢓭、習也。

【𢔁】10176　セキ シヤク　〔集韻〕七役切　陌

少し歩むさま。〔玉篇〕𢔁、小行皃。

【徣】10177　カイ　〔集韻〕丘皆切　佳

たちもとほる。徘徣。〔集韻〕徣、徘徣、行惡。

【徨】10178　㊀クワウ ワウ　〔集韻〕胡光切　陽　ㄏㄨㄤˊ huang^2　㊁ワウ　〔集韻〕雨方切　陽

㊀❶**ゆく。むかふ。**〔小爾雅、廣言〕徨、往也。❷**さまよふ。**〔集韻〕徨、彷徨、彷徉也。〔揚雄、甘泉賦〕徒徊徊以徨徨兮。❸通じて皇(**8－22701**)に作る。〔正字通〕徨、通作レ皇。㊁**ゆきき。**往來。〔集韻〕徨、彷徨、往來。

【𢔦】10179　ユ　〔集韻〕容朱切　虞

ゆくさま。〔集韻〕𢔦、行皃。

【𢔀】10180　㊀サフ セフ　〔集韻〕測洽切　洽　㊁サフ ゼフ　〔集韻〕實洽切　洽

㊀**ゆくさま。**或は𨓦(**11－39007**)に作る。〔玉篇〕𢔀、行皃。〔集韻〕𢔀、行皃、或从レ辵。㊁**とく行く。**或は𧼮(**10－37232**)・偛(**1－867**)に作る。〔集韻〕𢔀、行疾、或作二𧼮・偛一。

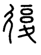
【𢔏】10181　タウ チヤウ　〔集韻〕恥孟切　敬

はしる。𢔏𢔏。〔集韻〕𢔏、𢔏𢔏、走也。

【𢔠】10182　シフ　〔集韻〕七入切　緝

ゆくさま。𢔠𢔠。〔集韻〕𢔠、𢔠𢔠、行皃。

【復】10183　㊀フク ブク　〔集韻〕房六切　屋　ㄈㄨˋ fu^4　㊁フウ ブ　〔集韻〕浮富切　宥


小篆

㊀❶**かへる。**复(**3－5724**)に通ず。〔說文通訓定聲〕復、段借爲レ复。㋑もどる。たちかへる。ゆきてかへる。𢕊(**4－10217**)に同じ。〔正字通〕復、篆作レ𢕊。〔說文〕復、往來也、从レ彳复聲。〔爾雅、釋言〕復、返也。〔小爾雅、廣言〕復、還也。〔易、泰〕无二往不一レ復。〔書、舜典〕卒乃復。〔鄭注〕復、歸也。〔論語、顏淵〕克レ己復レ禮爲レ仁。〔集解〕孔安國曰、復、反也。〔荀子、大略〕復レ自レ道。〔注〕復、返也。㋺めぐる。〔漢書、敍傳下〕惡復誅臻。〔注〕張晏曰、復、周也。〔後漢書、趙咨傳〕反レ素復レ始。〔注〕復、旋也。㋩元の狀態に戻る。〔禮、喪大記〕君弔則復二殯服一。〔注〕復、反也。❷**かへす。**もどす。〔書、舜典、傳〕復、還也。〔詩、小雅、黃鳥〕復二我邦族一。〔箋〕復、反也。❸**つぐなふ。**おぎなふ。〔禮、曾子問〕除レ喪則不レ復二昏禮一乎。〔注〕復、猶レ償也。〔漢書、陳湯傳〕猶不レ足二以復一レ費。〔注〕師古曰、復、償也。〔漢書、翼奉傳〕雖レ有二大令一、猶不レ能レ復。〔注〕師古曰、復、補也。〔漢書、段會宗傳〕足三以復二雁門之踦一。〔注〕師古曰、復、猶レ補也。❹**むくいる。**〔左氏、定、四〕我必復二楚國一。〔注〕復、報也。〔漢書、匈奴傳下〕以復二天子厚恩一。〔注〕師古曰、復、亦報也。❺**くりかへす。**くりかへしいふ。覆(**10－34789**)に通ず。〔詩、小雅、蓼莪〕顧レ我復レ我。〔疏〕復、謂下就二所レ養之處一、廻乙轉反丙覆之甲也。〔論語、先進〕南容三二復白圭一。〔皇疏〕復、反也。〔國語、魯語下〕夕而習復。〔注〕復、覆也。❻**たましひをよびかへす。**人が死んだ直後、高所に登つて布帛をかざし、死者の魂を招く。〔禮、檀弓下〕復、盡レ愛之道也。〔注〕復、謂レ招レ魂。〔禮、雜記上〕大夫士死二於道一、則升二其乘車之左轂一、以二其綏一復。❼**よる。**〔漢書、武帝紀〕五帝不三相二復禮一、三代不レ同レ法。〔注〕師古曰、復、因也。❽**ふむ。**〔論語、學而〕言可レ復也。〔集注〕復、踐レ言也。❾**あかしをたてる。**〔論語、學而〕言可レ復也。〔皇疏〕復、驗也。❿**さかん。**〔呂覽、季冬〕水澤復。〔注〕復、亦盛也。⓫**とまる。**〔淮南子、時則訓〕轉而不レ復。〔注〕復、遏也。⓬**おちつく。おちつき。ゆとり。**〔左氏、昭、二十七〕季氏之復。〔注〕復、猶レ安也。〔後漢書、杜詩傳〕士卒之復。〔注〕復、謂二優緩一也。⓭**をはる。**〔穀梁、文、八〕未レ復而曰レ復。〔注〕復者、事畢也。〔穀梁、宣、八〕復者、事畢也。⓮**おさへる。**〔史記、樂書〕復レ亂以飾歸。〔注〕正義曰、復者、伏也。⓯**のぞく。**去る。〔正韻〕復、除也。〔漢書、五行志〕須二時移災復一也。〔後漢書、鮑昱傳〕將何以消二復災眚一。⓰**免除する。**徭役・賦稅を免除する。〔漢書、高帝紀上〕復勿二租稅二二歲。〔注〕師古曰、復者、除二其賦役一也。〔漢書、刑法志〕中レ試則復二其戶一。〔注〕師古曰、復、謂レ免二其賦稅一也。⓱**まうす。**こたへる。告(**2－3381**)・白(**8－22678**)に通ず。〔說文通訓定聲〕復、段借爲レ告、或爲レ白。〔小爾雅、廣言〕復、白也。〔禮、曲禮上〕願有レ復也。〔注〕復、白也。〔孟子、梁惠王上〕有下復二於王一者上。〔注〕復、白也。〔史記、司馬相如傳〕王辭而不レ能レ復。〔注〕索隱曰、郭璞曰、復、答也。〔管子、小問〕以復二管仲一。〔注〕復、猶レ告也。⓲**奏請。**〔周禮、天官、宰夫〕諸臣之復。〔注〕復、請也。〔周禮、夏官、太僕〕掌二諸侯之復逆一。〔注〕復、謂二奏事一也。⓳**かへりごと。**復命。〔韻會〕復、反命也。⓴**かさなる。かさねる。**𠣺(**2－2559**)に通ず。〔說文通訓定聲〕復、段借爲レ𠣺。〔集韻〕復、重也。〔禮、明堂位〕復廟重檐。〔注〕復廟、重屋也。㉑**地中にしつらへた室。又、土をかさねてこしらへた室。**復穴(41)を見よ。複(**8－25653**)に通ず。〔說文通訓定聲〕復、段借爲レ複。〔詩、大雅、緜〕陶復陶穴。〔釋文〕復、累二土於地上一也。〔疏〕

復者、地上爲レ之、取二土於地一、復築而堅レ之。〔集傳〕復、重窨也。㉒古は復(4-10231)・复(2-2553)に作る。〔玉篇〕復、古文復字。〔康熙字典〕復、古文复。㉓複(10-34417)に通ず。〔呂覽、季冬〕水澤復。〔注〕復、或作レ複。㉔**易の六十四卦の一**。䷗（震下坤上）。機運の循環する象。〔易、復〕雷在二地中一、復。㉕**州名**。〔集韻〕復、亦州名。㉖**姓**。〔正字通〕復、姓、元有二復見心一。［三］❶**また**。ふたたび。〔集韻〕復、又也。〔增韻〕復、再也。〔素問、腹中論〕其時有二復發者一。〔注〕復發、謂二再發一。❷**かさねる**。ふたたびする。〔左氏、定、四〕無レ復レ怒。〔注〕復、重也。〔孟子、盡心下〕殆不レ可レ復。

［名乘］ フ。モチ。マタ。ナホ。アキラ。

【復庵】1 フクアン 復菴を見よ。

【復菴】2 フクアン 字號。❶明、應志和(**4-11330**・・259)の號。❷明、吳中行(**2-3365**・・775)の號。❸明、蕭中行(**9-32012**・・474)の字。❹明、任環(**1-416**・・56)の號。❺明、呂淵(**2-3386**・・11)の號。❻清、鄂爾奇(**11-39520**・・40)の字。❼清、金始桓(**11-40152**・・1269)の號。❽清、張彦眞(**4-9812**・・1018)の號。❾清、陳書(**11-41698**・・352)の號。❿清、王承烈(**7-20823**・・1708)の號。⓫森尚謙の號。森儼塾(**6-14974**・・40)を見よ。

【復葊】3 フクアン 復菴を見よ。

【復位】4 フクヰ もとの位にかへる。〔左氏、昭、二十七〕復命哭レ墓、復レ位而待。〔注〕復二本位一待二光命一。

【復又】5 フクイウ 再び。又。〔集韻〕復、又也。

【復育】6 フクイク 蟬の幼蟲をいふ。にしどつち。〔論衡、無形〕蠐螬化爲二復育一、復育轉而爲レ蟬。〔論衡、論死〕蟬之未レ蛻也、爲二復育一、已蛻也、去二復育之體一、更爲二蟬之形一。〔酉陽雜俎、廣動植、蟲〕蟬未レ脫時、名二復育一、相傳言、蛣蜣所レ化、秀才韋翾、常冬中掘二樹根一、見二復育一、附二於朽處一、云云、剖レ一視レ之、腹中猶レ實二爛木一。

【復蛸】7 フクイク 復育に同じ。〔唐韻〕復蛸、蟬未レ蛻「者。

【復一】8 フクイツ 字號。❶明、孫體元(**3-6987**・・484)の字。❷清、吳起元(**2-3365**・・491)の字。

【復員】9 フクヰン 軍用語。舊制で、戰時、動員令によつて召集した在鄉軍人の服役を解き、軍隊を平時の編制に復すること。

【復員令】10 フクヰンレイ 復員を命ずる勅令。

【復運】11 fu⁴ yün⁴ 再輸出入すること。

【復易】12 フクエキ 遼、耶律孟簡(**9-29008**・・136)の「字。

【復帟】13 フクエキ 二重の幕。重帟。〔周禮、天官、掌次〕重帟・重案。〔注〕重帟、復帟。

【復園】14 フクエン 清、董聞京(**9-31433**・・263)の號。

【復圓】15 フクエン 日蝕・月蝕が全く終り、日・月がもとの圓形に復すること。〔六部成語、禮部、復圓、注解〕日月蝕既過、圓滿如レ初、謂二之復圓一。

【復翁】16 フクヲウ 字號。❶宋、楊明復(**6-15112**・・792)の字。❷元、洪震老(**6-17402**・・252)の字。❸清、黃丕烈(**12-47926**・・1296)の號。

【復恩】17 フクオン ❶恩をかへす。❷說苑の篇名。

【復函】18 fu⁴ han² 返書。返翰。

【復簡】19 fu⁴ chien³ 復函に同じ。

【復起】20 フクキ 再びおこる。再びたつ。再起。〔鄒陽、於レ獄上書自明書〕是使二荊軻衞先生復起一、而燕・秦不レ悟也。

【復琦】21 フクキ 清、李昌泉(**6-14459**・・1387)の字。

【復徽】22 フクキ 手を上下すること。〔淮南子、脩務訓〕參彈復徽、攫援摽拂。〔注〕復徽、上二下手一也。

【復歸】23 フクキ かへる。もどる。もとの地位や場所に戻ること。〔書、太甲序〕三年、復二歸于亳一、思レ庸。〔左氏、成、十八〕復二其位一、曰二復歸一。〔孟子、萬章上〕聽二伊尹之訓レ己也、復二歸于亳一。〔老子、十四〕繩繩兮不レ可レ名、復二歸於無物一。

【復議】24 フクギ 再び評議する。再相談。〔福惠全書、刑名部、問擬〕法司復議、奏請已定。

【復仇】25 フクキウ かたきをうつ。しかへしする。復讐。〔越絕書、敍外傳記〕臣不レ討レ賊、子不二復仇一、非二臣子一也。

【復舊】26 フクキウ もとにかへす。又、もと通りになる。〔宋書、武帝紀〕昔滅レ半者、可二悉復舊一。

【復虛】27 フクキヨ 明、袁善(**10-34152**・・99、)の字。

【復愚】28 フクグ 唐、劉蛻(**2-2224**・・434)の字。

【復華】29 フククワ 清、陸焜(**11-41708**・・111)の字。

【復回】30 フククワイ もとにかへる。とりもどす。復回丁口を見よ。

【復回丁口】31 フククワイテイコウ 兵亂や凶年に遭つて逃散した丁年者で原處にたちもどつた者。〔六部成語、戶部、復回丁口、注解〕遭二亂荒一逃散之丁口、事定復二回原處一者也。

【復光】32 フククワウ 再びかがやく。〔陸機、弔二魏武帝一文〕想二幽神之復光一。

【復荒】33 フククワウ 地方官の監督が宜しきを得ないために再び荒蕪した開墾地。〔清會典事例、吏部、處分例、開墾荒地〕如墾レ地後有二復荒者一、道府州縣官、將二開墾之加級紀錄一削去、督撫・布政使、罰俸一年、道府降二一級住俸一、州縣官降二三級住俸一、皆勒二限一年一、督令二開墾一。

【復活】34 フククワツ ❶いきかへる。蘇生。〔後漢書、獻帝紀〕長沙有レ人、死經レ月復活。〔晉書、顏含傳〕但服レ藥太多、傷二五臟一耳、今當二復活一。❷一旦衰へ亡んだ事が再び興る。復興。再興。

【復活日】35 フククワツビ 耶蘇基督が死後復活したといふ日。陽曆三月二十一日後に來る滿月の日から算へて第一の日曜日。

【復官】36 フククワン もとの官にかへる。復職。〔潘岳、閑居賦序〕俄而復レ官。

【復君】37 フククン 宋、孔元忠(**3-6933**・・291)の字。

【復啓】38 フクケイ 書翰文用語。❶二伸。追啓。❷返書の冒頭に用ひる語。

【復卿】39 フクケイ 唐、郭承嘏(**11-39474**・・333)の字。

【復逆】40 フクゲキ 奏上。復は復命、逆は上書。一說に、復は奏上、逆は、天子が其の奏聞を受理すること。〔周禮、天官、宰夫、敍二羣吏之治一以待二賓客之令諸臣之復萬民之逆一、〔注〕鄭司農云、復、請也、逆、迎二受王命一者、宰夫主二諸臣萬民之復逆一、玄謂、復之言、報也、反也、反二報於王一、謂二於朝廷奏事一、自レ下而上曰レ逆、逆、謂二上書一。〔孫詒讓正義〕兪樾云、大僕、掌二諸侯之復逆一、小臣、掌二三公及孫卿之復逆一、皆以二復逆一連レ文、御僕云、羣吏之逆、庶民之復、此云二諸臣之復、萬民之逆一、蓋互二言之一、非レ謂二諸臣有レ復而無レ逆、萬民有レ逆而無レ復也。〔周禮、夏官、太僕〕掌二諸侯之復逆一。〔注〕鄭司農云、復、謂二奏事一也、逆、謂レ受二下奏一。

【復穴】41 フクケツ 土室。復は、地上に土を重ねて作つた室。穴は、地を掘つて作つた室。複穴(**10-34417**・・22)を見よ。一說に、復も地中に作つた室。𥨐(**8-25653**)を見よ。〔詩、大雅、緜〕陶復陶穴。〔集傳〕復、重窨也、穴、土室也。〔淮南子、氾論訓〕古者民澤處復穴。〔注〕復穴、重窟也。

【復業】42 フクゲフ もとの業にかへる。〔晉書、桓溫傳〕溫進至二霸上一、居人皆安堵復レ業、持二牛酒一迎レ溫、耆老感泣曰、不レ圖今日復見二官軍一。〔六部成語、戶部、復業、注解〕逃亡之民、復二歸舊業一也。

【復見】43 フクケン 宋、丁開(**1-2**・・17)の字。

【復軒】45 フクケン 字號。❶宋、章憲(**8-25761**・・65)の號。❷板倉九の號。板倉復軒(**6-14518**・・87)を見よ。❸林信充の號。林榴岡(**6-14551**・・447)を見よ。

【復縣】46 フクケン 縣名。民國、置く。滿洲遼寧省蓋平縣の南。遼東半島の中部に位し、縣城は復州河の西岸に瀕す。

【復縣場】47 フクケンヂヤウ 官署の名。清初、置く。滿洲遼寧省復縣の小島子に在り、海鹽の事を掌る。

【復權】48 フクケン 法律によつて公權を停止せられた者が權利をとりもどすこと。

【復元】49 フクゲン ❶もとにかへる。〔漢書、律歷志上〕參天九兩地十、是爲二會數一、參天數二十五、兩地數三十、是爲二朔望之會一、以二會數一乘レ之、則周二於朔旦冬至一、是爲二會月九會一、而復元。〔注〕孟康曰、謂二四千六百一十七歲之月數一也、所謂元月。❷明、辛全(**10-38630**・・46)の字。

【復言】50 フクゲン 言つたことを實行する。約束を履行する。〔左氏、僖、九〕能欲レ復レ言、而愛レ身乎、雖レ無レ益也、將焉辟レ之。〔注〕復レ言、言可レ復也。〔會箋〕復、履也。〔左氏、哀、十六〕吾聞、勝也好レ復レ言、而求二死士一、殆有レ私乎。

【復言重諾】51 フクゲンヂユウダク 約束を履行し、然諾を重んずること。〔資治通鑑、秦紀〕（始皇帝、二十五年）臣光曰、云云、復レ言重レ諾、非レ信也。〔注〕復レ

言、謂二言必信而可レ復也、重レ諾、言二然諾一也。

【復原】52（フクゲン） ❶復元(49)に同じ。❷古賀樸の號。古賀精里(2-3233··587)を見よ。

【復古】53（フクコ） ❶古にかへす。古の正しきにかへす。又、古にかへる。〔詩、小雅、車攻序〕車攻、宣王復レ古也。〔公羊、昭、五〕舍二中軍一何、復レ古也。〔荀子、王制〕凡非二舊器一者擧毀、夫是之謂二復古一。❷鹽鐵論の篇名。❸字號。㋑宋、宋迪(3-7078··177)の字。㋺宋、李迪(幽州の人)(6-14459··614)の字。

【復古學】54（フクコガク） 荻生徂徠の古文辭學をいふ。一に徂徠學ともいふ。其の唱へる所は、宋儒の理學を以て孔子の道にそむくものとして排斥し、荀子を尊んで禮樂刑政を道とし、古文辭に通じなければ經義を解することができないとし、文章外形を尙び、又、聖人の道は專ら天下國家を治めるものとした。

【復古堂】55（フクコダウ） 眞勢達富の號。眞勢中洲(8-23235··356)を見よ。

【復古編】56（フクコヘン） 書名。二卷。宋、張有撰。說文解字を根據として文字を辨證す。辨證六卷を附す。〔四庫提要、經、小學類〕。

【復古詩集】57（フクコシシフ） 書名。六卷。元、楊維楨撰。門人章琬編。古樂府を集む。〔四庫提要、集、別集類〕。

【復工】58（フクコウ） ❶土臺を作る工人。〔通典、職官、秩品〕復工・陶工。❷fu^4 kung^1 罷業した工夫が再び從業すること。

【復候】59 fu^4 hou^4 書翰文用語。返事を兼ねて御機嫌を伺ふこと。

【復興】60（フクコウ） 一旦衰微または廢絕した物事を再びおこす。又、再びおこる。再興。復活。〔呂覽、懷寵〕問二其叢社大祠、民之所レ不レ欲レ廢者一、而復二興之一。〔漢書、劉向傳〕遂至二陵夷一、不レ能二復興一。〔後漢書、祭遵傳〕廢而復興、絕而復續者也。

【復興場】61（フクコウヂヤウ） 地名。❶四川省鹽邊縣の西。❷四川省清溪縣の西南。❸貴州省赤水縣の西南。後溪水の濱。

【復國】62（フクコク） 國にかへる。〔左氏、襄、十四〕其言糞土也、亡而不レ變、何以復レ國。

【復坐】63（フクザ） もとの座にかへる。〔孝經、開宗明義章〕復坐、吾語レ汝。〔墨子、公孟〕子墨子曰、反復レ坐。

【復齋】64（フクサイ） 字號。❶宋、黃畲(12-47926··483)の號。❷宋、陸九齡(11-41708··289)の號。❸元、蕭德祥(9-32012··491)の號。❹明、衣守信(10-34091··172、)の字。❺明、許浩(10-35298··33)の字。❻清、康呂賜(4-9376··201)の字。❼清、郭起元(11-39474··263)の號。❽清、莊亨陽(9-31035··155)の字。❾清、曾鏞(5-14299··149)の號。❿清、史調(2-3249··131)の號。⓫清、沈佳(6-17189··54)の號。⓬清、李文耕(6-14459··1902)の號。⓭林輝の號。林復齋(6-14551··420)を見よ。

【復齋易說】65（フクサイエキセツ） 書名。六卷。宋、趙彥肅撰。〔四庫提要、經、易類〕。「の號。

【復齋居士】66（フクサイコジ） 宋、蔡沆(9-31818··24)

【復齋先生】67（フクサイセンセイ） 稱號。❶宋、趙彥肅(10-37171··534)の尊稱。❷宋、董琮(9-31433··117)の尊稱。

【復莊】68（フクサウ） 清、姚燮(3-6202··80)の號。

【復作】69（フクサク） 漢代、輕罪の女子が、官に於て服する一年間の勞役。又、それに服する者。復は刑徒を弛める意、作は勞作。女徒。〔史記、孝武紀〕其赦二天下一、如二乙卯赦令一、行所レ過、毋レ有二復作一。〔漢書、宣帝紀〕憐二曾孫之亡一レ辜、使二女徒復作淮陽趙徵卿・渭城胡組更乳養一、私給二衣食一、視遇甚有レ恩。〔注〕李奇曰、復作者、女徒也、謂二輕罪一、男子守レ邊一歲、女子輭弱不レ任レ守、復令レ作二于官一亦一歲、故謂二之復作徒一也、孟康曰、復、音服、謂レ弛二刑徒一也、有二赦令詔書一、去二其鉗鈦・赭衣一、更犯レ事、不レ從二徒加一、與レ民爲レ例、故當二復爲レ官作一、滿二其本罪年月日一、律名爲二復作一也。〔漢舊儀〕男爲二戍罰作一、女爲二復作一、皆一歲。

【復三】70（フクサン） ❶清、葉裕仁(9-31387··278)の字。❷fu^4 san^1 墳墓ができた後三日目に行ふ祭事。南京の方言。

【復山】71 fu^4 shan^1 復三の❷に同じ。

【復盞】72 fu^4 chan^3 盃を返へす。返杯。

【復之】73（フクシ） 字號。❶宋、蔡沆(9-31818··24)の字。❷宋、上官必克(1-13··215)の字。❸宋、張詠(4-9812··49)の字。❹宋、陳易(永春の人)(11-41698··29)の字。❺宋、陳侁(11-41698··373)の字。❻宋、劉朔(2-2224··299)の字。❼金、段克己(6-16619··83)の字。❽元、沈復(6-17189··341)の字。❾明、鮑象賢(12-46074··98)の字。❿明、范從文(9-30834··193)の字。

【復示】74 fu^4 shih^4 返書。回答。

【復始】75（フクシ） はじめに立ちかへる。〔史記、封禪書〕朔而又朔、終而復レ始。〔漢書、律歷志上〕周旋無レ端、終而復レ始、無二窮已一也。

【復思】76（フクシ・フウシ） ❶古、門每に殿舍の前に建てた屛。木版又は土を築いて作る。臣が君に朝見する時、此處に至つて、應對する事をくりかへして思つたから名づけた。後世は郡國の廳前にも建てた。又、罘罳・浮思・復思・桴思・覆思・罘思等に作る。〔釋名、釋宮室〕罘罳、在二門外一、罘、復也、罳、思也、臣將二入請一レ事、於レ此復重思レ之也。〔疏證補〕蘇輿曰、廣雅釋宮、罦罳謂二之屛一、水經穀水注及御覽引、竝作二復思一、則罘罳有下直作二復思一者上、或作二桴思一、見二明堂位疏一、或作二浮思一、見二考工記匠人注一、或作二覆思一、見二宋玉大言賦一、或作二罘思一、見二漢書文帝紀顏注一、其實一也、古今注云、罘罳、屛之遺象、漢西京罘罳、合レ版爲レ之、亦築レ土爲レ之、每門殿舍前皆有焉、於二今郡國廳前一亦樹レ之。〔水經、河水注〕象魏之上、加二復思一、以易レ觀。❷また思ふ。思ひ出す。〔漢書、王莽傳下〕遣レ使壞二渭陵延陵園門罘罳一曰、毋レ使三民復二思漢一。（今本無二漢字一、御覽皇王部、居處部、皆引作二思漢一也）。

【復次】77（フクジ） ふたたびまた。更に又。〔後漢書、徐登傳〕登乃禁二溪水一、水爲レ不レ流、炳復次禁二枯樹一、樹卽生レ荑。

【復州】78（フクシウ） ❶州名。㋑北周、置く。湖北省沔陽縣の西。〔讀史方輿紀要、湖廣、安陸府〕沔陽州、春秋戰國時楚地、後周兼置二復州一、隋初、郡廢州存、大業初、改レ州曰二沔州一、尋又改曰二沔陽郡一、唐武德五年、又爲二復州一。㋺遼、置く。滿洲遼寧省復縣の治。〔讀史方輿紀要、山東、遼東都指揮使司〕復州衞、秦漢時遼東郡地、唐沒二於渤海一、遼置二復州懷德軍一、金仍曰二復州一、元廢、明洪武十四年、置二今衞一。〔清史稿、地理志〕奉天、奉天府、州二、復州。❷河の名。滿洲遼寧省復縣の南。一名、沙河。縣の東北から出で、西南流して渤海に入る。海に入る處を復州灣といひ、又、復州澳といふ。

【復修】79（フクシウ） ❶くりかへし考察する。一說に、修は循の誤といふ。〔韓非子、揚權〕正與處レ之、使二皆自定一レ之、上以レ名擧レ之、不レ知二其名一、復二修其形一。〔注〕形、事也、循レ事以求レ名、則其名可レ知也。〔集解〕顧廣圻曰、修當レ作レ循、注未レ譌。❷ふたたびをさめる。〔漢書、五行志上〕皆無二復修一、通儒以爲レ違二古制一。

【復讐】80（フクシウ） あだをむくいる。かたきをとる。あだうち。復仇。〔孟子、滕文公下〕爲二匹夫匹婦一復レ讐也。〔後漢書、何顒傳〕顒感二其義一、爲復レ讐。〔書言故事、報復類〕報レ讐曰二復讐一。

【復讎】81（フクシウ） 復讐に同じ。〔公羊、隱、十一〕不二復讎一、非レ子也。〔公羊、莊、四〕何賢二乎襄公一、復レ讎也、何讎爾、遠祖也。

【復讎論】82（フクシウロン） 中國古典中に復讎を論ずるものが三つある。其の一は周禮で、地官調人には、父・兄弟・從父兄弟・君・師長・主友の讎に關して、凡そ人を殺して義なるものは今讎とする勿れ、之を讎とすれば則ち死すといひ、人を殺して宜しきを得ぬ者は其の子が讎を復し得るとする。又、秋官朝士には、凡そ仇讎を報ぜんとするものは、士に書すれば之を殺すも罪無しとある。其の二は禮記で、檀弓に父母・兄弟・交友の讎を復するのを肯定し、父母の讎は倶に天を戴かず、兄弟の讎は兵を反さず、交友の讎は國を同じくせずと論じてゐる。其の三は公羊傳で、隱公元年の條には、君、臣に弑せられて賊を討たざるは臣に非ざるなり、子復讎せざるは子に非ざるなりといひ、莊公四年の條には、九世猶讎を復すべきか、百世と雖も可なりといひ、定公四年の條には、父、誅を受けざるも子讎を復して可なり、父誅を受け子讎を復するは、刃を推すの道なり云云といつて、周禮・禮記が萬一を慮る制度なのに反して、大いに復讎を鼓舞激勵してゐる。唐の韓愈は復讎狀を作つて經と

律とを参用すべしと説き、柳宗元は駁復讎議を作つて誅と旌とは並び行ふべからずとしてゐる。宋には劉敞の復讎議、王安石の復讎解、華鎭の復讎論、胡銓の以忠報怨議、高斯得の復讎論等があり、安石以前のものは個人の復讎を論ずるもので語氣も寬容であるが、南宋のものは皆公羊復仇の説を推衍して、極力之を慫慂してゐる。

【復習】83（フクシフ） くりかへしてならふ。溫習。復謵に同じ。

【復謵】84（フクシフ） くりかへし習ふ。復習。〔莊子、庚桑楚〕夫復謵不レ餽而忘レ人。〔釋文〕復者、溫復之謂也、謵、慴也、夫人慴習者、雖レ復二小事一、皆所レ至、惜今溫復之人、所レ習既得レ之矣、而不三還歸以餽二遺之一、此至愚不レ獲二人之所一レ習者也。

【復社】85（フクシヤ） 明の文社の名。天啓中、張溥等十餘人が始めて社を結び、南北各省の文社を集合して呉郡に會し、東林に繼いで學を講じ、絶學を興復する意味で復社と稱した。勢聲甚だ盛で、忌む者も亦甚だ多く、福王の時、盟主陳貞慧等が阮大鋮に私怨を以て逮捕された。〔明史、張溥傳〕張溥、字天如、太倉人、與二同里張采一共學齊レ名、號二婁東二張一、崇禎元年、以二選貢生一入レ都、采方成二進士一、兩人名徹二都下一、已而采官二臨川一、溥歸集二郡中名士一、相與復二古學一、名二其文社一曰二復社一。〔桃花扇、聽稗〕選二詩雲間一、徵二文白下一、新登二復社之壇一。〔呉偉業、復社紀事〕。

【復孺】86（フクジユ） 明、邵亨貞(11－39343‥98)の字。

【復春】87（フクシユン） 清、楊方熾(6－15112‥739)の號。

【復初】88（フクシヨ） ㊀初の本性にたちかへる。〔論語、學而、學而時習レ之、集注〕人性皆善、而覺有二先後一、後覺者必傚二先覺所一レ爲、乃可三以明レ善復二其初一也。〔莊子、繕性〕繕二性於俗一、學以求レ復二其初一、滑二欲於俗一、思以求レ致二其明一、謂二之蔽蒙之民一。〔莊子、繕性〕民始惑亂、無下以反二其性情一而復中其初上。㊁字號。㋑宋、范疇(9－30834‥90)の字。㋺元、元明善(1－1340‥737)の字。㋩明、夏銘善(3－5720‥363)の字。㋥明、原性(2－2973‥129)の字。㋭明、項德新(12－43343‥80)の字。㋬明、士明善(3－5638‥242)の字。㋣明、邵新(11－39343‥36)の字。㋠明、曾全(5－14299‥103)の字。㋷明、陳性善(11－41698‥1044)の字。㋦明、豐寅初(10－36304‥226)の字。㋸明、王紹原(7－20823‥1797)の字。㋾清、顧棟高(12－43689‥339)の字。

【復初齋】89（フクシヨサイ） 清、翁方綱(9－28635‥91)の號。

【復初氏】90（フクシヨシ） 清、黃丕烈(12－47926‥1296)をいふ。

【復初齋集】91（フクシヨサイシフ） 書名。詩集六十二卷・文集三十五卷。清、翁方綱撰。

【復所】92（フクシヨ） 神林弼の號。神林復所(8－24673‥593)を見よ。

【復書】93（フクシヨ） かへしぶみ。返事。〔孔叢子、雜訓〕子上北面再拜、受レ書伏讀、然後與二使者一宴、遂爲二復書一。

【復稱】94 fu^{4} ch'êng^{1} 返書に曰く。

【復飾】95（フクシヨク） 佛僧侶をやめて俗人になること。還俗。落飾(9－31369‥107)の對。

【復職】96（フクシヨク） もとの職にかへる。〔陳書、陸山才傳〕高宗南二征周迪一、以二山才一爲二軍司一、迪平復レ職。

【復申】97（フクシン） ふたたびいふ。〔申鑒、政體〕前鑒既明、後復申レ之。

【復眞】98（フクシン） 眞にかへる。死をいふ。眞は假の對。復眞堂を見よ。〔莊子、大宗師〕相和而歌曰、嗟來、桑戶乎、嗟來、桑戶乎、而已反二其眞一、而我猶爲レ人。〔韓非子、楊權〕虎化爲レ人、復二反其眞一。

【復眞堂】99（フクシンダウ） 墳墓の異名。〔事物異名錄、禮制、墳墓〕山堂肆考、唐姚崇孫勖、自爲二壽藏於萬安山麓一、兆曰二寂居一、穴壙曰二復眞堂一。

【復眞先生】100（フクシンセンセイ） 宋、劉開(2－2224‥85)の號。

【復新】101 fu^{4} hsin^{1} ふたたび新らしくなる。革新する。

【復正】102（フクセイ） もとの正しさにかへす。又、もとの正しさにかへる。〔穀梁、昭、五〕春王正月、舍二中軍一、貴レ復レ正也。〔注〕魯、次國、舊二軍、襄十一年、立二三軍一、今毀レ之、故曰レ復レ正。

【復生】103（フクセイ） ㊀蘇生する。よみがへる。蘇生。又、再び生ずる。〔國語、晉語二〕死人復生不レ悔、生人不レ愧、貞也。〔史記、律書〕氣始二於冬至一、周而復生。㊁字號。㋑清、譚嗣同(10－35978‥63)の字。㋺清、張曜孫(4－9812‥816)の號。

【復生子】104（フクセイシ） 明、陳師(11－41698‥293)の號。

【復姓】105（フクセイ） 他姓を冒した者が其の本宗の姓氏にかへること。〔北齊書、文宣帝紀〕詔二諸軍民一、或有下父祖改レ姓冒入二元氏一、或假二托攜認一、妄稱二姓元一者上、不レ問二世數一、遠近悉聽三改二復本姓一。〔隋書、周搖傳〕路經二搖所一、主禮甚薄、高祖以二其奉一レ法、每嘉レ之、及レ爲二丞相一、拜二豫州總管一、高祖受レ禪、復二姓周氏一。

【復性】106（フクセイ） 心の欲を拂ひ去つて、其の本然の善性にたちかへること。復初(88)・復性説を見よ。〔李翺、復性書〕誠者、聖人性レ之也、復二其性一者、循レ之而不レ已者也。〔李翺、復性書〕情者、妄也、邪也、邪與レ妄、則無レ所レ因矣、妄情滅息、本性清明、周二流六虛一、所四以謂三之能復二其性一也。

【復性書】107（フクセイシヨ） 文章の名。上中下三篇。唐、李翺撰。復性に就いて論じたもので、後世、宋の學者の復性・復初の説は皆これに淵源する。〔李翺、復性書、上〕人之所三以爲二聖人一者、性也、人之所三以惑二其性一者、情也、嘉怒哀懼愛惡欲七者、皆情之所レ爲也、情既昏、性斯匿矣、非二性之過一也、七者循環而交來、故性不レ能レ充也。

【復性説】108（フクセイセツ） 人の性はもと善であるが、凡人は氣稟に拘はれ、物欲に蔽はれて本然の性を害せられてゐる。故に凡人は學問の力によつてはじめて本性に復することができるといふ説。宋儒の唱へた學説。〔孟子、滕文公上、孟子道二性善一、言必稱二堯舜一、集注〕性者、人所下稟二於天一以生上之理也、渾然至善、未二嘗有一レ惡、人與二堯舜一、初無二少異一、但衆人汨二於私欲一而失レ之、堯舜則無二私欲之蔽一、而能充二其性一爾。〔孟子、告子上、民之秉レ夷也故好二是懿德一、集注〕程子曰、性卽理也、理則堯舜至二於塗人一、一也、才稟二於氣一、氣有二清濁一、稟二其清一者爲レ賢、稟二其濁一者爲レ愚、學而知レ之、則氣無二清濁一、皆可下至二於善一而復中性之本上、湯武身レ之、是也、孔子所レ言下愚不レ移者、則自暴自棄之人也。

【復政】109（フクセイ） 政權を君にかへす。〔書、咸有一德〕伊尹既復二政厥辟一、將二告歸一。〔傳〕還二政太甲一。

【復聖】110（フクセイ） 顏回をいふ。元の文宗が顏子を封じて兗國復聖公とし、明の嘉靖の時、封爵を罷めてただ復聖といふ。〔闕里志〕元文宗至順二年、加二封顏子兗國復聖公一。〔明史、禮志四〕其四配、稱二復聖顏子・宗聖曾子・述聖子思子・亞聖孟子一。

【復席】111（フクセキ） 席にたちかへる。〔儀禮、鄉飮酒禮〕賓揖復レ席。

【復籍】112（フクセキ） 婚姻などで他家に入籍した者が、離婚などの事情で實家にかへり、本の籍に復すること。

【復選】113（フクセン） 再び當選すること。再選。

【復善】114（フクゼン） 宋、韓補(12－43159‥209)の字。

【復胙】115（フクソ） 正祭の翌日に行ふ祭。〔爾雅、釋天〕夏曰二復胙一。〔注〕未レ見二義所一レ出。〔疏〕説者云、胙、祭肉也、以二祭之明日一、復陳二其祭肉一、以賓レ尸也。

【復租】116（フクソ） 納税を免除する。〔北史、魏太宗紀〕幸二赤城一、見二長老一、問二人疾苦一、復レ租一年。

【復宗】117（フクソウ） 明、董澐(9－31433‥12)の字。

【復叟】118（フクソウ） 清、許瑤光(10－35298‥241)の號。

【復卒】119（フクソツ） 漢代、騎馬一匹を有する者には兵三人分の賦錢を免除したこと。一説に、壯丁三人の兵役を免除したこと。〔漢書、食貨志上〕今令下民有二車騎馬一匹一者、復中卒三人上、車騎者天下武備也、故爲レ復レ卒。〔注〕如淳曰、復二三卒之算錢一也、或曰、除二三夫一不レ作二甲卒一也、師古曰、當レ爲レ卒者、免二其三人一、不レ爲レ卒者、復二其錢一耳。

【復陶】120（フクタウ） ㊀衣の名。羽衣をいふ。〔左氏、昭、十二〕雨レ雪、王皮冠・秦復陶・翠被・豹舄、執レ鞭以出。〔注〕秦所レ遺羽衣也。〔疏〕冒レ雪服レ之、知四是毛羽之衣、可三以禦二雨雪一也。㊁古、衣を掌る官。〔左氏、襄、三十〕與二之田一、使レ爲二君復陶一。〔注〕復陶、主二衣服一之官也。

【復堂】121（フクダウ） 字號。㊀清、黃采(12－47926‥396)の號。㊁清、譚獻(10－35978‥15)の號。㊂清、廖寅(4－9464‥1)の號。㊃清、李鱓(6－14459‥531)の字。㊄芳野長毅の號。芳野復堂(9－30736‥192)を見よ。

【復堂詞話】122（フクダウシワ） 書名。一卷。清、譚獻撰。〔心園叢刻、第一集〕。

【復道】123（フクダウ） 上下二重の道。二階建の廊下。階上と階下とに道があるからいふ。復道。〔史記、秦始皇紀〕爲㆓復道㆒、自㆓阿房㆒渡㆑渭、屬㆓之咸陽㆒。〔漢書、高帝紀下〕上居㆓南宮㆒、從㆓復道上㆒見、諸將往往耦語。〔注〕師古曰、上下有㆑道、故謂㆓之復㆒。

【復答】124（フクタフ） かへりごと。返事。

【復旦】125（フクタン） 再び朝となること。又、明日。旦復旦と同じ。

〖復旦堂〗126（フクタンダウ） 清、范兆芝(**9－30834**‥245)の室名。

【復置】127（フクチ） ふたたびおく。〔漢書、朱博傳〕哀帝改㆓丞相㆒爲㆓大司徒㆒、復置㆓大司空・大司馬㆒。〔後漢書、光武紀下〕省㆓關都尉㆒、復置㆓護羌校尉官㆒。

【復除】128（フクヂヨ） 徭役を免除すること。〔韓非子、備內〕徭役多則民苦、民苦則權勢起、權勢起則復除重。〔漢書、高惠高后文功臣表序〕竝受㆓復除㆒、或加以㆓金帛㆒。

【復重】129（フクチヨウ） 重なる。重複する。又、其のこと。重複。又、重ねて。幾度も。〔後漢書、儒林下、鍾興傳〕詔令㆑定㆓春秋章句㆒、去㆓其復重㆒。

【復陳】130 fu^4 chʻen^2 返書する。返事する。

【復追】131（フクツイ） またとりたてる。〔福惠全書、蒞任部、查交代〕本項又難㆓復追㆒。

【復亭】132（フクテイ） 字號。㊀清、鄂木順額(**11－39520**‥65)の字。㊁清、郭肇(**11－39474**‥171)の字。

【復轉】133 fu^4 chuan^3 周る。周りかへる。

【復土】134（フクド） 土をもとの所に返す。特に、棺を墓穴に下して後、其の穴を掘つた土で上をおほふことをいふ。〔周禮、地官、少司徒〕大喪、帥㆓邦役㆒治㆓其政教㆒。〔注〕喪役、正㆑棺引㆑窆復㆑土。〔疏〕復㆑土者、掘㆑坎之時、掘㆑土上向㆑外、下㆑棺之後、反㆓復此土㆒、以爲㆓丘陵㆒、故云㆑復㆑土也。〔史記、秦始皇紀〕營㆓阿房宮㆒、爲㆓室堂㆒未㆑就、會上崩、罷㆓其作者㆒、復㆓土酈山㆒。〔漢書、文帝紀〕郎中令張武、爲㆓復土將軍㆒。〔注〕如淳曰、主㆓穿㆑壙塡㆑瘞事㆒也、師古曰、穿㆑壙出㆑土下㆑棺也、已而塡㆑之、又卽以爲㆑墳、故云㆓復土㆒、復、反還也。〔晉書、石苞傳〕苞豫爲㆓終制㆒曰、定窆之後、復㆑土滿㆑坎、一不㆑得㆓起㆑墳種㆑樹。

〖復土將軍〗134′（フクドシヤウグン） 官名。埋葬の事を掌る。復土を見よ。

【復讀】135（フクドク） さらへよむ。くりかへしよむ。

【復日】136（フクニチ） 陰陽道で忌む日。吉凶共に重日に同じ。重日(**11－40132**‥228)を見よ。〔江家次第、元日侍從幷荷前定〕去㆓御衰日・御本命日・重復日・凶會九坎日㆒、可㆓定申㆒也。〔曆林問答、下、釋㆓復日㆒〕木與㆑木、火與㆑火、土與㆑土、金與㆑金、水與㆑水相重、故名㆓復日㆒也、吉凶皆同㆓重日㆒也。

【復報】137（フクハウ） しかへし。返報。

【復白】138（フクハク） 申し上げる。〔漢書、劉德傳〕大將軍光欲㆓以㆑女妻㆑之、德不㆓敢取㆒、云云、侍御史以爲、光望㆑不㆑受㆑女、承㆑指劾㆑德、誹謗詔㆑獄、免爲㆓庶人㆒、屛㆓居山田㆒、光聞而恨㆑之、復白召㆑德、守㆓青州刺史㆒。

【復魄】139（フクハク） たましひをよびかへす。古、人の死後、高所に登り、布帛をかざして魂を呼び返さうとすること。招魂。伏魄。〔儀禮、士喪禮、復者一人、注〕復者、有司招㆑魂復㆑魄也。〔晉書、韓友傳〕舒縣廷掾王睦病死、已復㆑魄、友爲笠㆑之、令㆘以㆑丹畫㆑版、作㆓日月㆒置㆗牀頭㆖。〔井觀瑣言〕喪禮有㆑復、說者以爲、招㆑魂復㆑魄、荆楚之俗。

【復反】140（フクハン） かへりもどる。〔韓非子、揚權〕法刑狗信、虎化爲㆑人、復㆓反其眞㆒。〔翼毳〕山氏曰、狗、當㆑作㆑苟。〔史記、太史公自序〕光㆓耀天下㆒、復㆓反無名㆒。

【復氷】141（フクヒヨウ） 二氷片を重ねて強く壓すると、其の觸れた處は解けて水がたまるが、壓力を緩めると、其の水が忽ち凍る現象。

【復文】142（フクブン） ㊀假名交り文に書き下した漢文を、再び其の原形に直すこと。〔刊謬正俗附錄、譯文法式〕。㊁fu^4 wen^2 返書。返事。

【復平】143 fu^4 pʻing^2 念のために再び秤にかける。

【復廟】144（フクベウ） 屋根の上にまた屋根のある構造のみたまや。〔禮、明堂位〕復廟重檐。〔注〕復廟、重屋也。

【復辟】145（フクヘキ） 天子が再び位に卽くこと。重祚。再祚。又、臣下の執つてゐた政が天子の親政にかへること。一說、天子に復命する。辟は君主。〔書、咸有一德〕伊尹既復㆓政厥辟㆒、將㆓告歸㆒。〔傳〕還㆓政太甲㆒。〔文獻通考、經籍考〕唐中宗甲申、武后廢㆑之、後二十二年乙巳、復辟。

【復返】146（フクヘン） かへる。かへす。〔爾雅、釋言〕復、返也。

【復甫】147（フクホ） 明、陳道復(**11－41698**‥1118)の字。

【復補】148（フクホ） 補つてもと通りにする。つくろつてもとにかへす。〔莊子、德充符〕夫無趾、兀者也、猶務㆑學以復㆓補前行之惡㆒。

【復朴】149（フクボク） もとの素朴にかへる。又、復初(88)に同じ。〔莊子、應帝王〕於㆑事無㆓與親㆒、雕琢復㆑朴。〔注〕去㆑華取㆑實。〔疏〕眞復㆓朴素之道㆒者也。

【復翻】150（フクホン） 復回(30)に同じ。

【復命】151（フクメイ） ㊀使命を受けてした事の結果を報告する。へんじを申し上げる。又、其のこと。かへりまをし。反命。〔儀禮、聘禮〕復㆓命于殯㆒。〔左氏、宣、四〕君、天也、天可㆑逃乎、遂歸復命、而自拘㆓於司敗㆒。〔論語、鄕黨〕賓退、必復命曰、賓不㆑顧矣。㊁復初(88)に同じ。〔老子、十六〕凡物芸芸、各復㆓歸其根㆒、歸㆑根曰㆑靜、是謂㆑復㆑命、復㆑命曰㆑常。〔莊子、則陽〕復㆑命搖作、而以㆑天爲㆑師。

〖復命書〗152（フクメイシヨ） 復命の文書。

【復面】153（フクメン） 再び會ふ。〔曹植、與㆓吳季重㆒書〕申詠反覆、曠若㆓復面㆒。

【復野】154（フクヤ） 清、倪繼宗(**1－792**‥43)の字。

【復陽】155（フクヤウ） ㊀縣名。㋑漢、置く。山東省武城縣の東北。〔漢書、地理志上〕淸河郡、縣十四、復陽。㋺漢、置く。侯國。河南省桐柏縣の東。〔漢書、地理志上〕南陽郡、縣三十六、復陽。〔原注〕侯國。〔讀史方輿紀要、河南、南陽府、桐柏縣〕復陽城、在㆓縣東㆒、漢縣、屬㆓南陽郡㆒。㊁清、郝浴(**11－39430**‥29)の號。

【復用】156（フクヨウ） 二度もちひる。〔禮、樂記〕藏㆓之府庫㆒、而弗㆓復用㆒。

【復理】157（フクリ） ふたたびをさめる。〔管子、幼官〕十二復理、賜與、十二始節、賦㆑事。〔纂詁〕復理、再治也。

【復陸】158（フクリク） 複姓。〔漢書、景武昭宣元成功臣表〕杜侯復陸支。

【復呂】159（フクリヨ） 山上に水の多いのをいふ。呂梁の未だ鑿たぬ時に似てゐるからいふ。呂梁(**2－3386**‥152)を見よ。〔管子、地員〕山之上、命曰㆓復呂㆒。〔纂詁〕呂、謂㆓呂梁㆒、龍門未㆑闢、呂梁未㆑鑿、河出㆓孟門之上㆒、此言㆓山上多㆑水、復如㆓呂梁未㆑鑿之時㆒、故名㆓復呂㆒。

【復累】160（フクルイ） ㊀貝の名。赤貝。うむき貝。〔說文〕蛤、蜃屬有㆑三、云云、魁蛤、一名㆓復累㆒、老服翼所㆑化。〔駢雅、釋蟲魚〕復累、魁蛤也。㊁縣名。漢、置く。今の甘肅省平涼縣の境。〔漢書、地理志下〕安定郡、縣二十一、復累。

【復禮】161（フクレイ） ㊀天理の節文たる禮にかへる。又、禮に因り從ふ。一說に、復は履、復禮は禮をふみ行ふ。〔論語、顏淵〕克㆑己復㆑禮、爲㆑仁。〔集注〕復、反也、禮者、天理之節文也。〔荻生徂徠、論語徵〕孔安國之意、如㆓反㆑身、湯武反㆑之之反㆒、蓋禮在㆑外、反㆓之於己㆒而踐㆑之、猶之可矣、然言可㆑復也、復訓㆑踐、故不㆑如㆓訓㆑踐之勝㆒也。〔龜井南溟、論語語由〕復、履也。〔漢書、武帝紀〕五帝不㆔相㆓復禮㆒、三代不㆑同㆑法。〔注〕師古曰、復、因也。〔張華、勵志詩〕復㆑禮終朝、天下歸㆑仁。〔謝瞻、於㆓安城㆒答㆓靈運㆒詩〕復禮愧㆓貧樂㆒。㊁字號。㋑宋、家安國(**3－7169**‥331)の字。㋺明、劉理順(**2－2224**‥1347)の字。㊂佛（ホクレイ） 唐の高僧。京兆の皇甫氏の子。興善寺に住し、內典に心を潛め、吟詠に巧。文集がある。〔宋高僧傳、十七〕。

【復路】162（フクロ） かへりみち。

【復槽水】163（フクサウスイ） 十月の黃河の水の異名。〔事物異名錄、坤輿、水〕淸異錄、正月解凍水、二月白蘋水、三月桃花水、四月瓜蔓水、五月麥黃水、六月山礬水、七月荳花水、八月荻苗水、九月霜降水、十月復槽水、十一月走凌水、十二月蹙凌水。

【復出口】164 fu^4 chʻu^1 kʻou^3 再輸出。

〖復出口檯〗165 fu^4 chʻu^1 kʻou^3 tʻai^2 海關の內班に屬する一課。再輸出又は轉輸の事務を扱ふ所。

〖復出口貨物〗166 fu^4 chʻu^1 kʻou^3 huo^4 wu^4 再輸出品。

〖復出口憑單〗167 fu^4 chʻu^1 kʻou^3 pʻing^2 tan^1 再輸出證明書。

【復進口】168 fu^4 chin^4 kʻou^3 再輸入。

〖復進口稅〗169 fu^4 chin^4 kʻou^3 shuei^4 沿岸貿易稅。

〖復進口貨物〗170 fu^4 chin^4 kʻou^3 huo^4 wu^4 再輸入品。

【復代理】171（フクダイリ） 代理人が更に代理人事務を委

任すること。

【復中樓】172 フクチユウロウ　明、陳柏(11－41698‥509)の室名。

【復塗禎】173 フクトテイ　春秋、衞の人。靈公が癰疽・彌子瑕の佞臣を用ひたので、夢を以て公を諷した。公は之を嘉し、二人を廢して司空徇を立てた。〔戰國、衞策〕。

【復陂謠】174 フクハエウ　童謠の名。漢の翟方進が隄防を決壞させたために田に灌漑することが出來なくなり、住民が怨嗟して、隄防をもと通りにせよと謠つた童謠。〔漢書、翟方進傳〕王莽時、童謠曰、壞レ陂誰、翟子威、飯二我豆食一、羹二芋魁一、反乎覆、陂當レ復、誰云者、兩黃鵠。〔范成大、園田歎、四絕詩〕安得三能言二兩黃鵠一、爲レ君重唱復陂謠。

【復落娼】175 フクラクシヤウ　戲曲の名。明、周憲王撰。妓女劉金兒が金錢のために數〻夫を見棄て、遂に舊の樂籍に復歸することを演ず。〔奢摩他室曲叢、第二集〕。

【復而不厭】176 フクシテイトハズ　くりかへしてもいとはない。〔左氏、襄、二十九〕復而不レ厭、哀而不レ愁、樂而不レ荒。

【復宿山房】177 フクシユクサンバウ　明、王家屏(7－20823‥1237)の室名。

【復風之報】178 フクフウノハウ　周の成王の時、暴風雨のために草木が倒れ伏したが、成王の德によつて風が反對となり、伏した禾が盡く起きたといふ故事。〔書、金縢〕秋大熟、未レ穫、天大雷電以風、禾盡偃、大木斯拔、邦人大恐、云云、王出レ郊、天乃雨反レ風、禾則盡起、二公命二邦人一、凡大木所レ偃、盡起而築レ之、歲則大熟。〔漢書、劉向傳〕故高宗有二百年之福一、成王有二復風之報一。

【復駕言兮焉求】179 マタガシテココニナニヲカモトメン　ふたたび車馬を驅り、世に奔走して名利を求めはせぬとの意。言は助辭。〔陶潛、歸去來辭〕世與レ我而相遺、復駕言兮焉求。

【復株絫若鞮單于】180 フクシユルイジヤクテイゼンウ　漢代、匈奴呼韓邪單于の子。名は雕陶莫皐。建始中、嗣いで立ち、河平中、入朝す。〔漢書、九十四下〕。

【𢕄】10184　ソウ　ス　〔集韻〕祖叢切　東

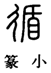
❶かぞへる。〔玉篇〕𢕄、數也、詩、越以レ𢕄邁。❷ゆく。𨗶(11－39009)に同じ。〔集韻〕𢕄、行也、或从レ走。

【𢕐】10185　ウツ　ウチ　〔集韻〕王勿切　物

❶ゆく。〔玉篇〕𢕐、行也。❷あわててゆくさま。或は𧻓(10－37224)に作る。〔集韻〕𢕐、行遽皃、或从レ走。

【𢕟】10186　テイ　徲(4－10219)に同じ。〔字彙〕𢕟、同レ徲。

【循】10187　🈩シユン　ジユン　〔集韻〕松倫切　眞　ㄒㄩㄣˊ hsün²　🈔シユン　ジユン　〔集韻〕徐閏切　震



小篆

🈩❶したがふ。㋑つきしたがふ。〔說文〕循、行也、从レ彳盾聲。〔楚辭、天問〕昏微循レ迹。〔注〕循、遵也。〔淮南子、本經訓〕五星循レ軌。〔注〕循、順也。〔淮南子、原道訓〕故循レ迹者。〔注〕循、隨也。㋺よる。そふ。〔爾雅、釋詁〕循、自也。〔增韻〕循、依也。〔左氏、昭、二十三〕循レ山而南。〔注〕依レ山南行。㋩ならふ。まなぶ。〔淮南子、氾論訓〕聖人作而弟子循。〔注〕循、遵也。㋥ふむ。〔易、未濟、九二曳二其輪一貞吉、注〕靖レ難在レ正。〔釋文〕循、猶レ履也。㋭より從ふ。〔論語、鄕黨〕足蹜蹜如レ有レ循。〔皇疏〕循、猶二緣循一也。㋬なつく。服從する。〔左氏、文、十一、國人弗レ徇、服注〕循、順也。〔荀子、性惡〕上不レ循二於亂世之君一。〔注〕循、順從也。㋣次序がただしい。〔玉篇〕循、次序也。❷すなほ。よい。〔廣韻〕循、善也。❸のべる。〔廣雅、釋言〕循、述也。〔禮、少儀〕毋レ循レ枉。〔疏〕循、猶二追述一也。❹あらはす。〔廣雅、釋詁四〕循、表也。❺大きい。〔呂覽、明理〕流散循饑無レ日矣。〔注〕循、大也。❻ためらふ。あとずさりして進まないさま。〔集韻〕循、蹲循、逡巡也。〔韓愈、酬二裴功曹一詩〕多才自勞苦、無レ用祇因循。❼めぐる。まはる。巡(4－8684)に通ず。〔說文通訓定聲〕循、叚借爲レ巡。〔華嚴經音義、上〕循、巡也。〔禮、月令〕循二行國邑一。〔史記、高祖紀論贊〕三王之道、若二循環一、終而復始。❽なでる。揗(5－12352)に通ず。〔說文通訓定聲〕循、叚借爲レ揗。〔漢書、李陵傳〕數數自循二其刀環一。〔注〕師古曰、循、謂二摩順一也。〔漢書、吳王濞傳〕拊二循其民一。❾徇(4－10053)に同じ。〔一切經音義、一〕循、古文作レ徇。❿順(12－43349)に通ず。〔詩、大雅、江漢、武夫滔滔、箋〕使二循レ流而下一。〔釋文〕循、本亦作レ順。⓫輴(10－38432)に通ず。〔素問、離合眞邪論〕其行二於脈中一循循然。〔注〕循循、一爲二輴輴一。⓬脩(9－29535)に通ず。〔莊子、大宗師〕以レ德爲レ循。〔釋文〕循、本亦作レ脩。⓭恂(4－10520)に通ず。〔論語、子罕〕夫子循循然善誘レ人。〔後漢書、李庸傳、注〕論語曰、孔子恂恂然善誘レ人。⓮州名。循州(28)を見よ。⓯姓。〔梁書、蕭穎達傳〕廬陵人循景智。

🈔したがつてゆく。〔集韻〕循、行也。

名乘　ヨシ。ユキ。ミツ。

【循易】1 ジユンイ　簡易に從ふこと。〔唐書、韋處厚傳〕居レ家亦循レ易。

【循遠】2 ジユンエン　清、方士庶(5－13620‥5260)の字。

【循河】3 ジユンカ　河に沿つてゆく。〔漢書、西域傳序〕波レ河西行、至二莎車一爲二南道一。〔注〕師古曰、波レ河、循レ河也。

【循陔】4 ジユンカイ　親につかへること。〔束晳、補亡詩、南陔〕循二彼南陔一、言採二其蘭一。〔注〕銑曰、循、順也、蘭以香、孝子採レ之以養二父母一。〔趙翼、陔餘叢考自序〕余自二黔西一乞養歸、問視之暇、日夕惟手二一編一、有レ所レ得、輒劄二記別紙一、積久遂得二四十餘卷一、以三其爲二循陔時所一レ輯、故曰二陔餘叢考一。

【循海】5 ジユンカイ　海に沿つて行く。〔左氏、僖、四〕觀二兵於東夷一、循レ海而歸、其可也。

【循階】6 ジユンカイ　順序によつて位官がのぼること。〔南史、伏暅傳〕暅自以二名輩一、素在二遠前一、爲レ吏俱稱二廉白一、遠累見レ擢、暅循レ階而已、意望不レ滿。

【循行】7 ジユンカウ　巡りあるく。〔禮、月令〕命二司空一曰、時雨將レ降、下水上騰、循二行國邑一、周二視原野一、修二利隄防一、道二達溝瀆一、開二通道路一、毋レ有二障塞一。〔呂覽、孟冬〕命二司徒一、循二行積聚一。〔史記、平準書〕循二行郡國一。

【循紀】8 ジユンキ　法則にしたがふ。〔法書要錄〕方正循レ紀、修短令レ度。

【循軌】9 ジユンキ　正しい通路をめぐる。〔淮南子、本經訓〕五星循レ軌。〔後漢書、郎顗傳〕五緯循レ軌、四時和睦。

【循吉】10 ジユンキツ　明、萬安(9－31339‥1)の字。

【循謹】11 ジユンキン　すなほで謹み深い。〔史記、酷吏、周陽由傳〕武帝卽レ位、吏治尙循謹甚。

【循矩】12 ジユンク　唐、徐修矩(4－10110‥470)の一名。

【循化】13 ジユンクワ　❶城の名。宋、置く。甘肅省西寧道に屬す。〔讀史方輿紀要、陝西、臨洮府、講朱城〕循化城在二州西南百三十五里一、本名二一公城一、宋元符二年、收復、尋廢、崇寧二年、改曰二循化城一。❷縣名。民國、置く。清の循化廳の地。青海省同仁縣の東北。黃河の南岸。〔清史稿、地理志〕甘肅、西寧府、廳四、循化廳。

【循環】14 ジユンクワン　めぐつて止まない環。又、めぐつてもとにかへること。めぐりめぐつてきはまりないこと。〔史記、高祖紀贊〕三王之道、若二循環一、終而復始。〔說苑、脩文〕故三王術如二循環一。〔郭璞、遊仙詩〕晦朔如二循環一。〔注〕翰曰、循環、若下循二連環一而無上レ窮也。〔歐陽建、臨終詩〕不レ惜二

一身死、惟レ此如ニ循環一。〔注〕向曰、若下循ニ連環一而無上レ窮。

〖循環器〗15 ジュンクヮンキ　血液の循環を掌る器官。

〖循環數〗16 ジュンクヮンスウ　循環小數中、同一の順序に繰返してあらはれる數字。

〖循環簿〗17 ジュンクヮンボ　清代、逐日の納稅・收稅・紅單稅（收稅證書の手數料）及び其の商賈の姓名を記入する帳簿。循環卯簿。〔清會典事例、戸部、戸口、清釐丁役〕向來各直省大小衙門書吏差役及門斗弓兵、均有ニ定數一、不レ容ニ增添一云云、州縣衙門吏役、不レ准レ過ニ八十名一、教官佐雜衙門門斗弓兵、不レ准レ過ニ二十名一、由ニ該管道府一酌ニ定名數一、造ニ立循環卯簿一、年終報ニ明該管道府一、具ニ報總督衙門一。〔福惠全書、蒞任部、申繳門簿〕督學使置ニ循環門簿一發ニ州邑一。〔六部成語、戸部、循環簿、注解〕輪流掌管、按レ月登記之簿冊也。

〖循環氣流〗18 ジュンクヮンキリウ　赤道地方で上騰した空氣は流れて兩極に向ひ、下降せるものは赤道に向ふこと。

〖循環級數〗19 ジュンクヮンキフスウ　無限級數の一。同一の項が數項を隔てて常に現れる級數。

〖循環小數〗20 ジュンクヮンセウスウ　或る桁から先に、若干の數字が同一の順序にくりかへしあらはれて際限のない小數。

〖循環卯簿〗20′ ジュンクヮンバウボ　循環簿に同じ。

【循環無端】21 ジュンクヮンハシナシ　事が循環して窮るところを知らないこと。〔孫子、兵勢〕奇正相生、如ニ循環之無レ端、孰能窮レ之。〔李衞公問對、上〕如ニ循環之無レ端。

〖循環門簿〗21′ ジュンクヮンモンボ　循環簿に同じ。

〖循環論法〗22 ジュンクヮンロンパフ　一命題の證明のために、其の命題と同意義の命題を論據とし假定とする謬論をいふ。

【循古】23 ジュンコ　古にしたがふ。〔莊子、徐無鬼〕反レ己而不レ窮、循レ古而不レ摩。

【循齋】24 ジュンサイ　字號。❶清、胡介祉(**9－29400**··414)の字。❷清、梅瑴成(**6－14830**··251)の號。

【循資】25 ジュンシ　資格に照して官を授けること。〔歐陽詹、上ニ鄭相公一書〕四門助教十年、方易ニ之官一也、自レ茲循資歷級、然後得ニ太學助教一。〔清波雜誌〕胡宗英該ニ磨勘一引見日、仁宗驚ニ其年少一、擧レ官踰ニ三倍一、閲ニ其家狀一、父宿見レ任ニ翰林學士一、乃嘆曰、寒畯安得レ不ニ沈滯一、遂降レ旨止與ニ循資一。

〖循資格〗26 ジュンシカク　唐代の銓制で、職に在つて一定の年限に達するまでは級を越えて超陞出來ず、又、其の年限に達すれば賢愚を問はず一槩に陞級する資格。〔通典、選擧、歷代制下〕自ニ高宗麟德一以後、承平既久、人康俗阜、求レ進者衆、總章二年、裴行儉始設ニ長名姓歷牓一、引ニ銓注之法一、又定ニ州縣官資高下升降一、以爲ニ故事一、其後莫ニ能革一焉、至ニ玄宗開元中一、行儉子光庭爲ニ侍中一、以三選人既無ニ常限一、或有ニ出身二十餘年而不レ獲レ祿者一、復作ニ循資格一、定爲ニ限域一、凡官罷滿、以ニ若干選一而集、各有ニ差等一、卑官多レ選、高官少レ選、賢愚一貫、必合ニ乎格一者乃得ニ銓授一、自レ下升レ上、限レ年躡級、不レ得ニ踰越一、久淹不レ收者皆荷レ之、謂ニ之聖書一、雖三小有ニ常規一、而掄レ才之方失矣。〔大學衍義補、正ニ百官一、公ニ銓選之法ニ〕開元十八年、裴光庭爲ニ吏部尙書一、始作ニ循資格一、而賢愚一槩、必與レ格合。

【循呾】27 ジュンジ　口を拭ふこと。呾は口、又、口の旁。〔管子、弟子職〕既食乃飽、循レ呾覆レ手。〔纂詁〕尹知章云、呾、口也、覆レ手循レ之、所三以拭ニ其不潔一也、衡謂、呾、口旁也。

【循州】28 ジュンシウ　州名。❶隋、置く。廣東省惠陽縣の東北。〔讀史方輿紀要、廣東〕惠州府、禹貢揚州南境、隋平レ陳郡廢、改置ニ循州一、大業初、曰ニ龍川郡一、唐武德五年、復置ニ循州一。❷五代の南漢、置く。廣東省龍川縣。〔讀史方輿紀要、廣東、惠州府、龍川縣〕廢循州、今縣治、州本治ニ歸善縣一、南漢徙ニ治於此一、宋因レ之、元初、爲ニ循州路一、尋降爲レ州。

【循尙】29 ジュンシャウ　したがひたつとぶ。〔後漢書、安帝紀〕皆循ニ尙浮言一、無ニ卓爾異聞一。

【循牆】30 ジュンシャウ　道路の中央を避け、かきにそつて走る。安行しないさま。〔左氏、昭、七〕循レ牆而走、亦莫ニ余敢侮一。〔注〕言レ不ニ敢安行一也。〔會箋〕避ニ道路中央一而旁走、故曰レ循レ牆。〔史記、孔子世家〕循レ牆而走。

【循常】31 ジュンジャウ　尋常にしたがふ。尋常。〔後漢書、仲長統傳〕中世之選ニ三公一也、務ニ於清愨謹愼一、循レ常習レ故者、是婦女之檢柙、鄕曲之常人耳、惡足三以居ニ斯位一邪。〔竇臮、述書賦〕仲遠循レ常、繇吏通レ俗。〔南唐近事〕偶罷ニ阿衡一來ニ此郡一、固無ニ閒物可レ應レ官、憑レ君爲報ニ羣胥道一、莫レ作ニ循常刺史看一。

【循守】32 ジュンシユ　從ひ守る。〔漢書、貨殖傳〕然常循ニ守事業一、積ニ累贏利一。

【循從】33 ジュンジュウ　服從する。なつく。順從(**12－43349**··68)に同じ。

【循循】34 ジュンジュン　次序あるさま。次から次へと。〔劉峻、辨命論〕循循善誘、服ニ膺儒行一。

〖循循如〗35 ジュンジュンジョ　循循に同じ。〔說苑、辨物〕幽閒則循循如也。

〖循循然〗36 ジュンジュンゼン　循循に同じ。〔論語、子罕〕夫子循循然善誘レ人。〔注〕循循、有ニ次序一貌。

【循順】37 ジュンジュン　したがひ服する。すなほにしたがふ。循從。〔新書、時變〕胡以ニ孝弟循順一爲。

【循初】38 ジュンショ　字號。❶明、郭循(**11－39474**··125)の字。❷清、萬光泰(**9－31339**··570)の字。

【循序】39 ジュンジョ　順序にしたがふ。〔新序、雜事五〕今之人循レ序、欲レ左者左。

【循性】40 ジュンセイ　本性に從ふ。〔孔子家語、弟子行〕其言循レ性、其都以富。

【循聲】41 hsün^2 shêng^1　令名。名聲。

【循照】42 hsün^2 chao^4　云云の通りにしたがふ。

【循簫】43 ジュンセウ　商人をいふ。〔稱謂錄、商賈、循簫〕眞誥、夢一人弊衣長形容、從ニ一小兒一來、如ニ循簫一、注、循簫、賣物人也。

【循俗】44 ジュンゾク　世俗に從ふ。革新の策のないこと。〔文子、上義〕變レ古未レ可レ非、而循レ俗未レ足レ多也。〔淮南子、氾論訓〕循俗未レ足レ多也。〔吳志、陸凱傳、注〕江表傳曰、臣受ニ國恩一、奉ニ朝三世一、復以ニ餘年一、値ニ遇陛下一、不レ能ニ循レ俗與レ諸沈浮一。

【循滯】45 ジュンタイ　手間どつてはかどらぬこと。〔阮籍、大人先生傳〕故循滯而不レ振。

【循撓】46 ジュンタウ　たちゐふるまひのすなほなこと。〔淮南子、齊俗訓〕明主制ニ禮義一而爲レ衣、分ニ節行一而爲レ帶、衣足下以覆レ形、從ニ典墳一、處ニ循撓一、便ニ身體一、適中行步上、不レ務ニ於奇麗之容、隅眥之削一。

【循道】47 ジュンダウ　❶道理に從ふ。〔莊子、天道〕放レ德而行、循レ道而趨。〔史記、孔子世家〕孔子循レ道彌久、溫溫無レ所レ試。❷宋、趙企(**10－37171**··83)の字。

【循卓】48 ジュンタク　德義のすぐれた人。〔福惠全書、典禮部、鄕飮酒禮〕循卓賢侯、誠能于ニ型レ民化レ俗、起レ見而實意擧行。

【循天】49 ジュンテン　天理に從ふ。順天。

【循轉】50 ジュンテン　まはつて止まらぬこと。循環。〔隋書、律歷志中〕循轉無レ窮。

【循度】51 ジュンド　度に從ふ。定つた通りに動くこと。〔漢書、天文志〕五星循レ度、亡レ有ニ逆行一。

【循德】52 ジュントク　宋、梁師閔(**6－14825**··263)の字。

【循篤】53 ジュントク　人情にあついこと。〔依田百川、塙檢校傳〕溫厚循篤。

【循法】54 ジュンパフ　法規に從ふ。〔戰國、趙策〕循レ法無レ私、民之職也。〔史記、禮書〕循レ法守レ正者、見レ侮ニ於世一。

【循蜚】55 ジュンピ　太古の時代の名。十紀の一。十紀(**2－2695**··56)の❸を見よ。〔孔安國、尙書序、古者伏犧氏之王ニ天下一也、疏〕十紀者、九頭一也、五龍二也、攝提三也、合雒四也、連通五也、序命六也、循蜚七也、因提八也、禪通九也、疏訖十也。〔路史、敍十紀〕循蜚七、是謂ニ二十一姓紀一、自ニ鉅黨氏一以下紀也。

【循撫】56 ジュンブ　なでいたはること。〔戰國、齊策〕内收ニ百姓一、循ニ撫其心一、振窮補ニ不足一、布ニ德於民一。〔後漢書、光武紀下〕勉加ニ循撫一、無レ令レ失レ職。

【循分】57 ジュンブン　分に安んずる。〔曾鞏、謝ニ兩府一啓〕錙銖動謹ニ於成規一、毫髮敢萌ニ於私見一、以レ茲循レ分、庶或寡レ尤。

【循便】58 ジュンベン　便宜に從つて事を行ふ。〔戰國、齊策〕公子無忌爲ニ天下一循レ便計。

【循明】59 ジュンメイ　したがひあきらかにする。〔史記、歷書〕朕唯未レ能ニ循明一也。

【循默】60 ジュンモク　常にしたがつて一言も無い。すなほに默つてゐる。事ある時に言論し得ぬこと。〔資治通鑑、晉紀〕（安帝、隆安元年）珣一旦失レ勢、循默而已。〔注〕循默者、循レ常而無ニ一言一也。〔宋史、趙普傳〕宋初在ニ相位一者、多齷齪循默、普剛

毅果斷、未レ有二其比一。

【循吏】61 ジュンリ 規定にしたがつて務める善良忠實な役人。〔史記、循吏傳、注〕索隱曰、謂二本レ法循レ理之吏一也。〔法言、淵騫〕或問二循吏一。〔六部成語、吏部、循吏、注解〕爲レ官清廉良善者曰二循吏一。

【循吏傳】62 ジュンリデン 列傳の一。循吏の列傳。史記に始まり、漢書・後漢書・北齊書・隋書・南史・北史・唐書・宋史・金史・明史も亦之を設く。〔史記、太史公自序〕奉レ法循レ理之吏、不二伐レ功矜レ能、百姓無レ稱、亦無二過行一、作二循吏列傳一。

【循理】63 ジュンリ 道理に從ふ。〔史記、太史公自序〕奉レ法循レ理之吏。〔蜀志、後主劉禪傳評〕後主任二賢相一則爲二循理之君一。

【循陸】64 ジュンリク 陸地に沿つて行く。〔蘇志乾、岱山賦〕鮭艤騶虞、循レ陸游レ沚。

【循良】65 ジュンリヤウ 法にしたがつて善良なこと。又、其の人。〔柳宗元、柳州謝上表〕常以萬邦共理、必藉二於循良一。〔元史、成遵傳〕察二守令賢否一、得二循良者九人一。

【循例】66 ジュンレイ 例にならふ。舊例による。

【循禮】67 ジュンレイ 禮儀にしたがふ。〔戰國、趙策〕然則反レ古未レ可レ非、而循レ禮未レ足レ多也。

【循寄堂】68 ジュンキダウ 清、朱廷燝(6－14424・・927)の室名。

【循成道】69 ジュンセイダウ 縣名。漢、置く。故治は陝西省略陽縣の西北。〔漢書、地理志下〕武都郡、縣九、循成道。

【循規蹈矩】70 hsün^2 kuei^1 t'a^4 chü^4 法律に違はぬ。規律を守る。

【循單環照】71 hsün^2 tan^1 huan^2 chao^4 北京城内に運搬する鹽に對して下附する認可證。

【⿰彳屏】10188 ヘイ ビヤウ 〔集韻〕步定切 敬

かたはら。〔集韻〕⿰彳屏、傍側也。

【⿰彳⿱罒寸】10189 トク 得(4－10137)の古字。〔五音集韻〕⿰彳⿱罒寸、古文得字。

【從】10190 ㊀ショウ シュ 〔集韻〕七恭切 冬 ㊁ショウ シュ 〔集韻〕筍勇切 腫

㊀**ゆるやかに歩む。**或は蹤(11－39088)に作る。〔集韻〕從、步緩也、或作レ蹤。㊁**はやいさま。**從從。或は從(1－1013)に作る。〔集韻〕從、從從、疾兒、或从レ人。

【⿰彳者】10191 シヨ 〔集韻〕專於切 魚

月がめぐる。一説に、助辭。通じて諸(10－35743)に作る。〔集韻〕⿰彳者、月行也、詩、日居月⿰彳者、通作レ諸。

【徫】10192 ヰ 〔集韻〕羽鬼切 尾

ゆくさま。〔集韻〕徫、行兒。

【⿰彳卻】10193 キヤク ガク 〔玉篇〕巨略切 藥

あきる。うむ。〔玉篇〕⿰彳卻、倦也。

【⿰彳屖】10194 テイ 徲(4－10186)に同じ。〔篇海類編〕⿰彳屖、同レ徲。

【⿰彳垂】10195 サフ ⿰彳臿(4－10180)の譌字。〔龍龕手鑑〕⿰彳垂、⿰彳臿字之譌。

【⿰彳亟】10196 ケキ キヤク 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿰彳亟、居逆切。

十畫

【⿰彳留】10197 リウ ル 〔集韻〕力救切 宥

行つて待合はせる。或は留(7－21808)に作る。〔集韻〕⿰彳留、⿰彳秀⿰彳留、行相待也、或作レ留。

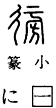
【⿰彳蚤】10198 サウ ソウ 〔集韻〕蘇遭切 豪

ゆるやかにゆくさま。⿰彳蚤⿰彳匋。〔集韻〕⿰彳蚤、⿰彳蚤⿰彳匋、緩行兒。

【⿰彳屑】10199 セツ セチ 〔集韻〕先結切 屑

❶**衣服のひるがへるさま。**〔集韻〕⿰彳屑、徶⿰彳屑、衣服婆娑兒。〔史記、司馬相如傳〕(上林賦)媥姺徶⿰彳屑。〔注〕郭璞曰、衣服婆娑貌。❷**ゆれる。**〔集韻〕⿰彳屑、一曰、⿰彳悉⿰彳屑、搖也。

【徬】10200 ㊀ハウ バウ 〔集韻〕蒲浪切 漾 ㄅㄤˋ pang^4 ㊁ハウ バウ 〔集韻〕蒲光切 陽 ㄆㄤˊ p'ang^2


小篆

㊀**つきそふ。**もと⿰彳㫄(4－10169)に作る。〔正字通〕徬、本作レ⿰彳㫄。〔説文〕⿰彳㫄、附行也、从レ彳旁聲。〔廣韻〕徬、徬附。〔周禮、地官、牛人〕凡會同軍旅行役、共三其兵車之牛與二其牽徬一、以載二公任器一。〔注〕牽徬、在二轅外一輓レ牛也、人御レ之、居二其前一曰レ牽、居二其旁一曰レ徬。㊂❶**かたはら。**傍(1－948)に同じ。〔集韻〕徬、説文、近也、或从レ亻。❷**さまよふ。**彷(4－10052)に通ず。〔莊子、知北游〕彷二徨乎馮閎一、〔釋文〕彷、本亦作レ徬。

【徬徨】1 ハウクワウ ❶さまよふ。彷徨。〔班固、西都賦〕降周流以徬徨。〔劍俠傳〕意態徬徨。❷矢の名。〔抱朴子、雜應〕弓名曲張、氏星主レ之、矢名徬徨、熒惑星主レ之。

【徭】10201 エウ 〔玉篇〕余招切 蕭 ㄧㄠˊ yao^2

❶**えだち。**ぶやく。もと⿰亻䚻(1－1025)に作り、又、傜(1－971)・繇(10－35851)に作る。〔玉篇〕徭、徭役也。〔正字通〕徭、亦作レ傜、又作レ繇。〔禮、王制、不レ征二於鄕一不レ征二於司徒一、注、不レ給二其繇役一、校勘記〕按、依二説文一、當レ作レ⿰亻䚻、从レ人䚻聲、隸變而爲レ傜、或假而爲レ繇、作レ徭者俗字。❷**姓。**〔萬姓統譜〕徭、東越王徭、句踐之後。

【徭役】1 エウエキ 公用のために義務的に使役せられること。えだち。夫役。繇役。〔韓非子、備內〕徭役多則民苦、民苦則權勢起、權勢起則復除重。〔三略、上略〕罕二徭役一、不レ使二其勞一。〔淮南子、精神訓〕或者生乃徭役也、而死乃休息也。〔後漢書、光武紀上〕詔復二濟陽一二年徭役一。

【徭戍】2 エウジユ 徵發されて國境を守る兵卒。戍卒。〔李華、弔二古戰場一文〕齊魏徭戍、荊韓召募。

【徭稅】3 エウゼイ 徭役と租稅。〔後漢書、南蠻傳〕以二郡縣徭稅失レ平懷二怨恨一。〔唐書、食貨志二〕轉徙者脫二徭稅一。

【徭錢】4 エウセン 夫役に要する費用。

【徭童】5 エウドウ 徭蠻の子。〔六部成語、戶部、徭童、注解〕徭蠻之子。

【徭蠻】6 エウバン 廣西省山中の蠻族。猺蠻。〔六部成語、戶部、徭蠻、注解〕廣西山中野人曰二徭蠻一。

【徭費】7 エウヒ 徭錢に同じ。

【徭夫】8 エウフ 徭役に出る男。〔六部成語、工部、徭夫、注解〕民夫應㆓官差㆒者。

【徭賦】9 エウフ 夫役のわりあて。〔淮南子、時則訓〕行㆓慶賞㆒省㆓徭賦㆒。〔後漢書、第五倫傳〕倫後爲㆓鄕嗇夫㆒、平㆓徭賦㆒。

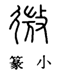
【御】10202

ギョ ゴ 〔集韻〕牛據切 御

鄕の名。〔集韻〕御、鄕名。

【微】10203

ビ ミ 〔集韻〕無非切 微 ㄨㄟˊ wei^{1}


小篆

❶**しのぶ。**かくれて行く。〔說文〕微、隱行也、从㆑彳㪅聲。〔段注〕㪅訓㆑眇、微訓㆓隱行㆒、叚借通用㆑微、而㪅不㆑行。❷**かくれる。のがれる。**〔爾雅、釋詁、竄微也、注〕微、謂㆓逃藏㆒也。❸**かくす。**隱慝。〔說文〕微、春秋傳曰、白公其徒微㆑之。〔左氏、哀、十六〕白公奔㆑山而縊、其徒微㆑之。〔注〕微、匿也。❹**かすか。ほのか。**㪅(**5－13458**)に通ず。〔說文通訓定聲〕微、叚借爲㆑㪅。㋑おくふかい。幽深。〔禮、學記〕微而臧。〔張衡、歸田賦〕諒㆓天道之微昧㆒。㋺くらい。〔詩、小雅、十月之交〕彼月而微、此日而微。〔箋〕微、謂㆑不㆑明也。㋩ちひさい。こまかい。〔廣雅、釋詁二〕微、小也。〔孟子、公孫丑上〕則具㆑體而微。〔注〕微、小也。〔呂覽、蕩兵〕有㆑巨有㆑微。〔注〕微、要眇觀㆓未㆑萌之萌㆒也。㋥すくない。〔禮、祭義〕雖㆑有㆓危邪㆒、而不㆑治者則微矣。〔注〕微、猶㆑少也。〔列子、周穆王〕悲心更微。〔注〕微、少也。㋭形がない。〔老子、十四〕摶㆑之不㆑得、名曰㆑微。〔河上公注〕無㆑形曰㆑微。❺**ひそか。**あきらかでない。それとなく。〔列子、說符〕人可㆓與微言㆒乎。〔注〕微言、猶㆓密謀㆒也。〔漢書、藝文志〕昔仲尼沒而微言絕。〔注〕李奇曰、隱微不㆑顯之言也。❻**はじめ。**〔後漢書、章帝紀〕王者重㆓三正㆒、愼㆓三微㆒也。〔注〕三微者、三正之始、萬物皆微。〔後漢書、魯恭傳〕助㆓微陰㆒。〔注〕五月陰氣始生、故曰㆓微陰㆒。❼**ほそい。**〔楚辭、大招〕豐肉微骨。〔注〕微、細也。❽**たへ。**くはしい。微妙。精妙。〔荀子、解蔽〕未㆑可㆑謂㆑微也。〔注〕微者、精妙之謂也。〔宋玉、登徒子好色賦〕口多㆓微辭㆒。〔注〕善曰、微、妙也。❾**いたむ。**きずつく。〔詩、邶風、柏舟〕胡迭而微。〔箋〕微、謂㆓虧傷㆒也。❿**かける。**〔漢書、劉向傳〕彼月而微。〔注〕師古曰、微、虧微也。⓫**おとろへる。**〔韻會〕微、衰也。〔史記、杞世家〕杞小微。⓬**いやしい。**卑賤。〔華嚴經音義、上〕微、賤也。〔書、舜典序〕虞舜側微。〔疏〕其人貧賤、謂㆓之微㆒。⓭**そぐ。**〔禮、檀弓下〕有㆓微㆑情者㆒。〔疏〕微、殺也。⓮**物價を下げる。**〔周禮、地官、司市〕害者使㆑亡、靡者使㆑微。〔注〕使㆑亡・使㆑微、抑㆓其價㆒而卻㆑之也。⓯**おほひ。**蔽(**9－31888**)に通ず。〔說文通訓定聲〕微、叚借爲㆑蔽。〔國語、晉語四〕設㆑微薄而觀㆑之。〔注〕微、蔽也。⓰**ひそかにうかがふ。**伺探。〔史記、黥布傳〕使㆔人微㆓驗淮南王㆒。〔漢書、游俠、郭解傳〕使㆔人微㆓知賊處㆒。〔注〕師古曰、微、伺㆓問之㆒也。⓱**病名。**かさ。脛脚にはれるものが生ずる病。黴(**12－48196**)・癥(**7－22547**)に通ず。〔說文通訓定聲〕微、叚借爲㆑黴、字亦作㆑癥。〔爾雅、釋訓〕既微且尰。〔釋文〕微、字書作㆑癥。〔疏〕微・尰、皆水溼之疾也。〔詩、小雅、巧言〕既微且尰。〔傳〕骭瘍爲㆑癥。⓲**はなれる。**違(**11－39013**)に通ず。〔說文通訓定聲〕微、叚借爲㆑違。〔廣雅、釋詁三〕微、離也。⓳**あきらか。**闈(**11－41451**)に通ず。〔說文通訓定聲〕微、叚借爲㆑闈。〔廣雅、釋詁四〕微、明也。⓴**あらず。**非(**12－42585**)に通ず。〔說文通訓定聲〕微、叚借爲㆑非。〔詩、邶風、柏舟〕微㆓我無㆑酒。〔呂覽、離俗〕微㆓獨舜湯㆒。〔注〕微、亦非也。㉑**ない。なかりせば。**〔小爾雅、釋詁〕微、無也。〔論語、憲問〕微㆓管仲㆒、吾其被㆑髮左㆑衽矣。〔集解〕馬融曰、微、無也。〔國語、晉語七〕微㆑子、吾幾不㆑爲㆑人。〔注〕微、無也。〔呂覽、自知〕文侯微㆓翟黃㆒。〔注〕微、無也。㉒**すだれ。**薇(**8－26617**)に通ず。〔說文通訓定聲〕微、叚借爲㆑薇。晉語、設㆓微薄㆒而觀㆑之、按、微薄連讀、猶㆓竹簾㆒也、注、蔽也、則謂㆓借爲㆑蔽而以㆑薄爲㆑迫。㉓**を。**末尾。尾(**4－7650**)に通ず。〔說文通訓定聲〕微、叚借爲㆑尾、晉語、歲之二七、其靡㆑有㆑微兮。㉔**小數の名。**卽ち〇、〇〇〇〇〇一をいふ。十纖を微といひ、十微を忽といふ。〔祭微算經、小數〕忽、十微、微、十纖。㉕或は徾(**10－34053**)に作る。〔集韻〕微、或作㆑徾。㉖**地名。**㋑殷の微子の封地。今の山西省潞城縣の東北。〔書、微子之命序〕命㆓微子啓㆒代㆓殷後㆒。〔傳〕微、圻內國名。〔鄭注〕微、采地名。〔潞城縣志〕微、本畿內國、在㆓今城東南㆒、去㆓朝歌㆒不㆑遠、蓋卽微子始封之地、今有㆓微子店㆒。㋺殷周の時の西南夷の國。嘗て周の武王に會して紂を伐つ。今の四川省巴縣。〔書、牧誓〕微盧彭濮。〔傳〕微在㆓巴蜀㆒。㉗**百六韻の一。**上平第五。㉘**姓。**〔通志、氏族略、以㆑名爲㆑氏〕微氏、子姓、宋微仲之後、左傳魯大夫微虎。

名乘 ヨシ。ナシ。イヤ。マレ。

【微痾】1 ビア 輕いやまひ。微症。微恙。微痾。〔應璩、與㆓陰中夏㆒書〕怪而問㆑之、乃知㆓郎君、頃有㆓微痾㆒、告㆓祠社神㆒、將㆓㠯祈㆑福。〔蘇軾、和㆓飲酒㆒二十首、和㆓止酒㆒詩〕微痾坐㆓杯勺㆒、止㆑酒則瘳矣。

【微闇】2 ビアン うすぐらい。〔北史、夏侯夬傳〕室中微闇。

【微怡】3 ビイ 少しよろこぶ。〔顏延之、赭白馬賦〕乾心降而微怡。

【微意】4 ビイ ❶いささかの意。己の志の謙稱。微志。微衷。〔魏武帝、與㆓諸葛亮㆒書〕今奉㆓雞舌香五斤㆒、以表㆓微意㆒。❷おく深い心。微妙の心。〔後漢書、龐參傳〕拜㆑參爲㆓漢陽太守㆒、郡人任棠者、有㆓奇節㆒、隱居教授、參到先候㆑之、棠不㆓與言㆒、但以㆓薤一大本水一盂㆒、置㆓戶屛前㆒、自抱㆓孫兒㆒伏㆓於戶下㆒、主簿白以爲㆑倨、參思㆓其微意㆒、良久曰、棠是欲㆑曉㆓太守㆒也、水者欲㆓吾清㆒也、拔㆓大本薤㆒者、欲㆔吾擊㆓強宗㆒也、抱㆑兒當㆑戶、欲㆓吾開㆑門恤㆑孤也、於㆑是歎息而還、參在㆑職果能、抑㆑強助㆑弱、以㆓惠政㆒得㆑民。

【微胤】5 ビイン 落ぶれた子孫。〔風俗通、十反〕幸有㆓微胤㆒、乞以代㆑之。

【微陰】6 ビイン ❶陰のはじめ。陰曆五月をいふ。〔後漢書、和帝紀〕永元十五年、有司奏、以爲、夏至則微陰起、靡草死、可㆔以決㆓小事㆒。〔後漢書、魯恭傳〕君以㆓夏至之日㆒、施㆓命令㆒、止㆓四方行者㆒、所㆔以助㆓微陰㆒也。〔注〕五月陰氣始生、故曰㆓微陰㆒。❷薄曇り。〔曹植、情詩〕微陰翳㆓陽景㆒。

【微隱】7 ビイン 神秘なこと。讖文をいふ。〔後漢書、李通傳論〕況乃億㆓測微隱㆒、猖㆓狂無妄之福㆒、汙㆓滅親宗㆒、以觖㆓一切之功㆒哉。〔注〕微隱、謂㆓讖文㆒也。

【微員】8 ビヰン 小役人。下役。〔福惠全書、蒞任部、詳文贅說〕一介微員、應否蠲免。

【微雨】9 ビウ こまかな雨。こさめ。ぬかあめ。細雨。〔潘岳、閒居賦〕微雨新晴、六合清朗。〔陶潛、讀㆓山海經㆒詩〕微雨從㆑東來、好風與㆑之俱。〔唐

彥謙、緋桃詩〕坐久好風休レ掩レ袂、夜來微雨已霑レ巾。〔韋應物、幽居詩〕微雨夜來過、不レ知春草生。

【微禹】10 ビウ 若し禹が無かつたならばの意。禹の功德を讃へた語。微管(58)を見よ。〔左氏、昭元〕美哉禹功、明德遠矣、微レ禹、吾其魚乎。〔野客叢書〕語有下不レ當二文理一、而承二襲用之一、不三以爲レ異者上、如下宋氏詔曰、謝玄勳參二微管一、陳蕭沆表曰、功深中微禹上是也、取下微二管仲一吾其被レ髮、微レ禹吾其魚之謂上。

【微雲】11 ビウン すこしの雲。かすかな雲。〔徐陵、關山月詩〕月出二柳城東一、微雲掩復通。

〔微雲菴〕12 ビウンアン 淸、秦緗業(8－24995‥230)の號。

【微運】13 ビウン つたない運命。不仕合。

【微液】14 ビエキ たへなる液汁。〔楚辭、遠遊〕吸二飛泉之微液一兮。

【微婉】15 ビエン 文辭言語の微妙であでやかなこと。婉は婉曲。〔司馬貞、補史記序〕異二左氏之微婉一。〔白居易、哭二劉尙書夢得一詩〕文章微婉我知レ丘。

【微遠】16 ビエン ㊀かすかに遠い。〔新書、匈奴〕雖レ有二微遠一、其志不レ疑。㊁いやしい。自らいふ謙稱。〔謝瞻、張子房詩〕餐レ和忘二微遠一。〔注〕善曰、微遠、亦自謂也。

【微音】17 ビオン かすかな音。〔阮籍、詠懷詩〕濮上有二微音一。

【微溫】18 ビヲン なまぬるい。〔詩、小雅、頍弁〕如二彼雨レ雪、〔箋〕將二大雨レ雪、始必微溫。〔席夔、冬日可レ愛賦〕微溫椒寢之中、稍暖秦樓之上。〔陸游、滿江紅詞〕金鴨微溫香縹緲。

〔微溫湯〕19 ビヲンタウ なまぬるい湯。ぬるま湯。

【微瑕】20 ビカ すこしのきず。〔梁昭明太子、陶淵明集序〕白璧微瑕、惟在二閒情一賦一。〔宋史、葉淸臣傳〕捃以二微瑕一、公行擊搏。

【微歌】21 ビカ かすかな聲でうたふ。又、其の歌。〔嵇康、酒會詩〕微歌發二皓齒一。

【微哦】22 ビガ かすかに歌ふ。小聲で口ずさむ。〔吳師道、詩〕馬上已復成二微哦一。

【微介】23 ビカイ 微賤で耿介。落ちぶれてなほ志を守る。〔後漢書、崔駰傳〕豈無二熊僚之微介一兮。

【微戒】24 ビカイ それとなく戒める。〔五代史、李嗣昭傳〕初喜嗜レ酒、太祖嘗微戒レ之、遂終身不レ飮。

【微開】25 ビカイ 微子啓(98)を見よ。

【微巧】26 ビカウ 微妙なこと。こまかでたくみなこと。〔韓非子、難、四〕事以二微巧一成、以二疎拙一敗。〔史記、萬石張叔傳贊〕塞侯微巧。

【微行】27 ビカウ ㊀しのびあるき。尊貴の者が人に知られぬやうに出あるくこと。〔史記、秦始皇紀〕始皇爲二微行咸陽一。〔漢書、成帝紀〕上始爲二微行出一。〔注〕張晏曰、單騎出入、若二微賤之所レ爲、故曰二微行一。〔後漢書、銚期傳〕誠不レ願二陛下微行數出一。㊁こみち。小徑。〔詩、豳風、七月〕遵二彼微行一。〔傳〕微行、牆下徑也。㊂僅かな行ひ。ちよつとした行ひ。〔資治通鑑、宋紀〕(明帝、泰始七年)致以二呵訓之微行一、遂成二滅親之大禍一。㊀ ビギヤウ 微妙な修行。〔觀經天台疏〕可レ謂二微行妙觀、至道要術者一哉。

【微香】28 ビカウ かすかなにほひ。微芳。〔漢古歌〕朱火颺二煙霧一、博山吐二微香一。〔羅鄴、芳草詩〕微香暗惹二遊人步一。

【微效】29 ビカウ ㊀わづかのききめ。〔仙傳拾遺〕但愈レ疾微效。㊁いささかのてがら。〔劉琨、勸進表〕苟得下上憑二天威一、屬中其微效上、雖レ隕二九泉一、猶以明白。

【微號】30 ビガウ 暗號をいふ。〔六韜、豹韜、敵強〕微號相知。

【微學】31 ビガク 衰へてゐる學問。〔劉歆、移レ書讓二太常博士一文〕絕二滅微學一。〔後漢書、章帝紀〕扶二微學一。

【微姦】32 ビカン かくれて行ふ惡事。〔新書、鑄錢〕因欲レ禁二其大利微姦一。

【微寒】33 ビカン すこしのさむさ。輕寒。薄寒。〔曹植、九華扇賦〕隨二皓腕一以徐轉、發二惠風之微寒一。〔黃淸老、詩〕此二聲雲谷外、落月帶二微寒一。

【微感】34 ビカン すこし心をうごかす。〔史記、張儀傳〕使三人微感二張儀一。〔蘇軾、潁大夫廟詩〕人情難二強回一、天性可二微感一。

【微諫】35 ビカン やさしくいさめる。それとなくいさめる。〔禮、坊記〕微諫不レ倦、勞而不レ怨、可レ謂レ孝矣。〔注〕微諫不レ倦者、子於二父母一、尙二和順一不レ用二鄂鄂一。〔戰國、趙策〕事レ主之行、竭レ意盡レ力、微諫而不レ譁、應對而不レ怨。〔漢書、伍被傳〕被數微諫。

【微氣】36 ビキ かすかな氣。〔漢書、郊祀志下〕助二致微氣一、通二道幽弱一。〔白虎通、五行〕金木微氣。〔後漢書、禮儀志中〕微氣之所レ生也。

【微窺】37 ビキ ひそかにうかがふ。〔福惠全書、錢穀部、拆貯〕奸胥伹冷眼微窺。

【微羈】38 ビキ よわい手綱。〔晉書、阮种傳〕夫以二微羈一馭二悍馬一、又乃操以二煩策一、其不レ制者、固其理也。

【微儀】39 wei i 我が贈物の謙稱。薄儀。粗品。

【微響】40 ビキヤウ かすかなひびき。少しの音。

【微躬】41 ビキユウ いやしい身。賤躬。〔沈約、遊二沈道士館一詩〕遇下可二淹留一處上、便欲レ息二微躬一。〔張九齡、酬下趙二侍御史西軍贈二兩省舊寮一之作上詩〕明時獨匪レ報、嘗欲レ退二微躬一。

【微近】42 ビキン こまかで近い。〔漢書、律歷志上〕疏濶中最爲二微近一。

【微勤】43 ビキン 少しくつとめる。僅かな働き。〔陶潛、穫二早稻一詩〕晨出肆微勤、日入負レ耒還。〔宋書、南郡王義宣傳〕臧質憑二恃末戚一、並有二微勤一、承レ乏推遷、遂超二倫伍一。

【微禽】44 ビキン 小鳥。〔張華、鷦鷯賦〕惟鷦鷯之微禽兮。

【微吟】45 ビギン 小聲で詩歌をうたふ。〔漢書、中山靖王勝傳〕雍門子壹微吟。〔魏文帝、燕歌行〕短歌微吟不レ能レ長。〔林逋、山園小梅詩〕幸有三微吟可二相狎一、不レ須二檀板共二金尊一。

【微煦】46 ビク 日光のかすかなあたたかさ。〔孔子家語、本命解〕及二生三月一而微煦。〔注〕煦、晴轉也。〔席夔、冬日可レ愛賦〕依レ巢之鳥、感二微煦一而和鳴。

【微軀】47 ビク いやしい身。己の身の謙稱。〔曹植、文帝誄〕嗟微軀是效兮、甘二九死一而忘レ生。〔陸機、塘上行〕不レ惜二微軀退一。〔杜甫、江邨詩〕多病所レ須惟藥物、微軀此外更何求。〔王昌齡、答二武陵田太守一詩〕仗レ劍行二千里一、微軀敢一言。

【微火】48 ビクワ わづかの火。〔潘岳、關中詩〕微火不レ戒。

【微渦】49 ビクワ ゑくぼ。靨。〔蘇軾、百步洪詩〕不レ知詩中道二何語一、但見兩頰生二微渦一。

【微過】50 ビクワ わづかのあやまち。小過。〔後漢書、馬援傳〕微過輒記、大功不レ計。

〔微過細故〕51 ビクワサイコ 小さなあやまちと細かな事故。〔魏志、中山恭王袞傳〕其微過細故、當三掩二覆之一。

【微光】52 ビクワウ かすかな光。〔阮籍、詠懷詩〕焉敢希二千術一、三春表二微光一。〔劉孝綽、望レ月有レ所レ思詩〕秋月始纖纖、微光垂二步簷一。

〔微光放電〕53 ビクワウハウデン 電氣が導體の末端に集り、微光を放つて靜に放電すること。

【微黃】54 ビクワウ 薄い黃色。〔傅玄、鬭雞賦〕紅縹廁二於微黃一兮、翠彩蔚而流レ青。〔江洪、詠二歌姬一詩〕薄鬢約微黃、輕紅澹鉛臉。

【微畫】55 ビクワク つまらない謀略。己の計略の謙稱。〔王粲、從軍詩〕微畫無レ所レ陳。

【微獲】56 ビクワク わづかなまうけ。〔福惠全書、雜課部、門攤稅〕分二其微獲一、將安忍乎。

【微官】57 ビクワン 卑しい役目。下級の官吏。己の官級の謙稱。〔岑參、早秋與二諸子一登二虢州西亭一觀眺詩〕微官何足レ道、愛客且相攜。〔歐陽建、臨終詩〕抱レ責守二微官一。〔元好問、自二鄧州幕府一暫歸二秋林一詩〕升斗微官不レ療レ飢、中林春雨蕨芽肥。

【微管】58 ビクワン 管仲が無かつたならばの意。孔子が管仲の功德を讃へた語に本づき、後世、成句として用ひる。微禹。〔論語、憲問〕微二管仲一、吾其被レ髮左レ衽矣。〔任昉、百辟觀二進今上一牋〕歎深二微管一。〔野客叢書〕語有下不レ當二文理一、而承二襲用之一、不三以爲レ異者上、如下宋氏詔曰、謝玄勳參二微管一、陳蕭沆表曰、功深中微禹上是也、取下微二管仲一吾其被レ髮、微レ禹吾其魚之謂上、前レ此、潘安仁詩嘗曰、豈敢陋二微管一、謝玄暉詩、微管寄二明收一、後レ此、如下劉義康傳、臣以二頑昧一、獨獻二微管一、傅亮碑、道亞二黃中一、功參中微管上、似下此用二微管一甚多上。

〔微管現象〕59 ビクワンゲンシヤウ 毛細管現象(6－16772‥79)をいふ。

【微願】60 ビグワン 自己の願をいふ謙辭。〔李騫、釋情賦〕冀二鄙志之獲一レ展、庶二微願之逢一レ時。

【微勳】61 ビクン すこしの功勞。

【微醺】62（ビクン） ほろゑひ。微醉。〔宋史、邵雍傳〕晡時酌レ酒三四甌、微醺卽止、常不レ及レ醉也。

【微計】63（ビケイ） 祕密の計略。密謀。〔戰國、中山策〕且張登之爲レ人也、善以二微計一薦二中山之君一久矣、難二信以爲一レ利。〔注〕微計、謂二密策一也。

【微徑】64（ビケイ） せまい路。小道。〔六韜、虎韜、軍用〕狹路微徑。

【微莖】65（ビケイ） 細い莖。〔潘岳、寡婦賦〕願二葛藟之蔓延一兮、託二微莖于樛木一。

【微敬】66 wei^{1} ching^{4} 輕少の贈物。寸志。粗品。

【微磬】67（ビケイ） 體軀を磬のやうに少し折りまげたさま。磬は樂器の名。磬(**8－24454**)の字解を見よ。〔新書、容經〕因以微磬曰二共立一。

【微馨】68（ビケイ） すこしばかりのかをり。〔杜甫、湘夫人祠詩〕晩泊登二汀樹一、微馨借二渚蘋一。

【微缺】69（ビケツ） 衰へてなくなる。〔史記、周紀〕昭王之時、王道微缺。〔漢書、董仲舒傳〕大道微缺。〔後漢書、范升傳〕愍二學微缺一。

【微月】70（ビゲツ） かすかな光の月。三日月。〔傅玄、雜詩〕微月出二西方一。

【微孽】71（ビゲツ） 微賤な者の子孫。〔後漢書、杜喬傳〕宦者微孽。〔注〕公羊傳曰、臣僕庶孽之事、何休注云、孽、賤子也、猶三樹之有二孽生一也。

【微嫌】72（ビケン） 少しのうらみ。少しの惡感情。又、少し仲が惡い。〔福惠全書、刑名部、人命中、自盡〕若其微嫌小隙、殞二身于彼者之家一。

【微愆】73（ビケン） 小さなあやまち。〔後漢書、鄧皇后紀論〕愛姪微愆、髠剔謝レ罪。

【微譴】74（ビケン） すこしの罪。少しの譴責。〔舊唐書、楊貴妃傳〕五載七月、貴妃以二微譴一送二歸楊銛宅一、比レ至亭午、上思レ之不レ食、分二御饌一以送レ之。

【微權】75（ビケン） 微妙な權道。臨機の作用。〔三略、中略〕此軍之微權也。〔蘇洵、禮論〕雖レ然彼聖人者、必欲三天下之拜二其君父兄一何也、其微權也。

【微顯】76（ビケン） ❶かすかであるが、一面に於てあきらかなこと。〔古今詩話〕唐張籍謝二裴司空馬一詩云、乍離二華廏一移レ蹄澁、初到二貧家一擧レ眼驚、識二其遲鈍一而眼多驚畏耳、故辭微而顯。❷顯らかなものを露骨でなくする。〔易、繫辭下〕夫易彰レ往而察レ來、而微レ顯闡レ幽。〔杜預、春秋左氏傳序〕其微レ顯闡レ幽、裁二成義類一者、皆據二舊例一而發レ義。

【微驗】77（ビケン） あらはにしないでそれとなく言ふ。〔漢書、黥布傳〕請繫レ赫、使三人微二驗淮南王一。〔注〕師古曰、微驗、不三顯言二其事一。

【微元】78（ビゲン） 太陽の異名。〔事物異名錄、乾象、日〕雲笈七籤、九天眞人呼レ日爲二濯耀羅一、三天眞人呼爲二圓光蔚一、太素天中呼爲二眇景皇一、上清眞人呼爲二九曜生一、泰清天中仙人呼爲二太明一、太極天中呼爲二圓明一、玉賢天中呼爲二微元一、東華眞人呼爲二紫曜明一、亦名二圓珠一、亦謂二始暉一。

【微言】79（ビゲン） ❶おくふかい言葉。微妙な言。〔漢書、藝文志〕昔仲尼沒而微言絕。〔注〕李奇曰、隱微不レ顯之言也、師古曰、精微要妙之言耳。〔後漢書、章帝紀〕先師微言、將二遂廢絕一。❷ひそかにはかる。密謀。〔列子、說符〕白公問二孔子一曰、人可二與微言一乎。〔注〕微言、猶二密謀一也。〔呂覽、精諭〕人可二與微言一乎。❸なぞをかける。あてこする。〔史記、武安侯田蚡傳〕武安侯乃微二言太后一風レ上。

【微孤】80（ビコ） 微弱で孤立。〔管子、七臣七主〕此之謂二微孤一。〔纂詁〕此之謂レ使二其君微弱孤立一也。

【微虎】81（ビコ） 春秋、魯の大夫。吳が魯を伐つて泗上に軍を駐めた時、虎は其の舍を夜襲せんとして私屬の徒三百人を選んだ。處が或人が季孫に謂ひ、國士を殺すのを惜んで之を止めさせた。之を聞いた吳王は、一夜に三度其の所を遷したといふ。〔左氏、哀、八〕。

【微罟】82（ビコ） 目のこまかい鳥あみ。〔潘岳、射雉賦〕褰二微罟一以長眺。〔注〕爰曰、罟、網也、古者當下以二細網一掩二翳窓上一、視中外處上。

【微功】83（ビコウ） すこしのいさを。僅かな手柄。自分の功績を謙遜していふ。〔後漢書、班超傳〕妾同產兄、西域都護定遠侯超幸、得下以二微功一特蒙中重賞上。〔曹植、求二自試一表〕今臣志二狗馬之微功一。

【微攻】84（ビコウ） 隱微の中に攻める。暗々の中に攻める。〔管子、七臣七主〕以レ非買レ名、以レ是傷レ上、而衆人不レ知、之謂二微攻一。〔纂詁〕衡謂、微、猶レ暗也。

【微國】85（ビコク） 微弱な國。小國。〔後漢書、竇融傳〕欲下遂立二桓文一、輔中微國上。

【微忽】86（ビコツ） かすかでゆるがせなこと。〔逸周書、官人解〕微忽之言、久而可レ復、幽閒之行、獨而弗レ克、其行亡如レ存、曰二順信一者也。〔集訓校釋〕微忽、細微易忽。　「〔注〕微、細也。

【微骨】87（ビコツ） 細い骨。〔楚辭、大招〕豐肉微骨。

【微恨】89（ビコン） すこしのうらみ。〔魏書、高聰傳〕聰出二入機要一、藉レ貴因レ權、耽二於聲色一、賄納之音、聞二于遐邇一、中尉崔亮知二肇微恨一、遂面二陳聰罪一。〔周必大、己丑二月七日雨中讀二漢元帝紀一效二樂天體一詩〕一時抱二微恨一、千古留二臢馥一。

【微瑣】90（ビサ） こまかくいやしい。才器の小さいこと。〔舊唐書、吐蕃傳上〕臣自顧微瑣、何以仰二答天恩一。

【微才】91（ビサイ） すこしの才智。〔魏志、陳思王植傳〕如微才弗レ試、沒レ世無レ聞。

【微細】92（ビサイ） ❶極めて小さいこと。ささやか。こまか。微小。〔新書、六術〕數度之始、始二於微細一。❷こまかでくだくだしい。〔漢書、刑法志〕詆欺文致、微細之法、悉蠲除。❸身分がいやしい。微賤。〔史記、劉敬叔孫通傳贊〕夫高祖起二微細一定二海內一。〔漢書、息夫躬傳〕下民微細、猶不レ可レ詐。

【微罪】93（ビザイ） わづかのつみ。〔孟子、告子下〕孔子爲二魯司寇一不レ用、從而祭、燔肉不レ至、不レ稅レ冕而行、不レ知者以爲レ爲レ肉也、其知者以爲レ爲レ無レ禮也、乃孔子則欲下以二微罪一行上、不レ欲レ爲二苟去一、君子之所レ爲、衆人固不レ識也。

【微霜】94（ビサウ） わづかの霜。〔阮籍、詠懷詩〕朔風厲二嚴寒一、陰氣下二微霜一。

【微察】95（ビサツ） 審かにしらべる。〔墨子、迎敵祠〕謹微二察之一、斷罪不レ赦。

【微山】96（ビサン） ❶山名。山東省滕縣の南。江蘇省沛縣と界を接す。〔魏書、地形志中〕留有二微山一。〔兗州府志〕微山上有二酅侯廟一、其下爲二微山湖一。❷湖の名。江蘇省沛縣と山東省滕縣との閒。一名、昭陽湖。又、山陽湖といひ、一に三陽湖といふ。俗に刁陽湖といふ。〔讀史方輿紀要、江南、徐州、沛縣、昭陽湖〕呂孟湖在二縣東南四十里一、漕河攷、縣境有二張莊・呂孟・微山・赤山諸湖一、與二昭陽湖一並爲二瀦水濟漕之處一。

【微子】97（ビシ） ❶やしなひ子。寄養子。〔十國春秋、注〕杜荀鶴、牧之微子也、牧有レ妾懷孕、出二嫁長林鄉正杜筠一、而生二荀鶴一。❷篇名。㋑書經、商書の篇名。眞古文。微子が殷の將に亡びんとするを痛み、箕子・比干に謀る問答の語を錄し、誥の體。首に微子の二字があるから名づく。〔書、微子序〕殷既錯二天命一、微子作レ誥二父師少師一。㋺論語の篇名。❸微子啓を見よ。❹南朝宋、謝弘微(**10－35827**・・279)の尊稱。〔宋書、謝弘微傳〕弘微叔父混名知人、少レ所二交納一、惟與二族子靈運・瞻・曜・弘微一、並以二文義一賞會、瞻等才辭辯富、弘微每以二約言一服レ之、混特所二敬貴一、號曰二微子一。❺wei^{1} tzŭ^{3} 微分子(corpuscle)。

〖微子啓〗98（ビシケイ） 殷王紂の同母庶兄。帝乙の首子。微は國の名。子は爵。本名は啓。漢代、景帝の諱を避けて改めて開に作る。紂の卿士。紂王の暴政無道を屢〻諫めたが聽かれず、紂が比干を殺すや、人臣三度諫めて聽かれざれば其の義以て去るべしとして紂の許を去る。周の武王が殷を亡ぼすや、微子は殷の祭器を持して其の軍門に降る。武王は微子を釋し、紂の子の武庚祿父を封じて殷の祀を繼がしめた。武王が死んで成王が立ち、周公が政を行ふや、武庚を誅して微子に殷の祀を奉ぜしめた。微子は宋に封ぜられ、仁賢にしてよく殷の餘民を治めた。孔子は微子を箕子・比干と共に殷の三仁に數へ、聖賢中に入る。〔論語、微子〕・〔史記、三・三十八〕・〔日知錄、四〕。

〖微子之命〗99（ビシシメイ） 書經、周書の篇名。梅賾の僞古文。成王は既に武庚の亂を平げるや、微子を宋に封じて、湯の祀を奉ぜしめた。此の篇は其の誥命の辭を錄したもの。〔書、微子之命序〕成王既黜二殷命一、殺二武庚一、命二微子啓一代二殷後一、作二微子之命一。

〖微子去レ之〗99′（ビシコレヲサル） 殷の紂王の庶兄微子が、紂王の無道を見て紂王のもとを去つたこと。〔論語、微子〕微子去レ之、箕子爲二之奴一、比干諫而死、孔子曰、殷有二三仁一焉。

【微之】100 ビシ 字號。❶唐、元稹(**1－1340**‥340)の字。❷宋、陳維德(**11－41698**‥640)の字。❸宋、李心傳(**6－14459**‥1509)の字。❹宋、劉顯(吉水の人)(**2－2224**‥257)の字。❺宋、梁顒(**6－14825**‥14)の字。❻明、姚顯(**3－6202**‥49)の字。❼明、周玄(**2－3441**‥170)の字。

【微旨】101 ビシ 奧深く微妙な意味。〔後漢書、徐防傳〕孔聖既遠、微旨將㆑絕。〔吳志、趙達傳〕究㆓其微旨㆒。

【微至】102 ビシ 車輪が極めて圓くて、地に著く部分の少いこと。〔周禮、考工記、總目〕凡察車之道、欲㆓其樸屬而微至㆒、不㆓樸屬㆒、無㆔以爲㆓完久㆒也、不㆓微至㆒、無㆔以爲㆓戚速㆒也。〔注〕微至、謂㆓輪至㆑地者少㆒、言㆓其圜甚㆒、著㆑地者微耳、著㆑地者微、則易㆑轉。〔周禮、考工記、輪人〕進而眂㆑之、欲㆓其微至㆒也。〔注〕微至、至㆑地者少也、非㆑有㆑他也、圜使㆓之然㆒也。

【微志】103 ビシ わづかな志。己の志の謙稱。微意。〔李密、陳情表〕願陛下矜㆓愍愚誠㆒、聽㆓臣微志㆒。〔韓愈、復讐狀〕孤稚羸弱抱㆓微志㆒。

【微指】104 ビシ はつきりあらはれない心ばへ。それとなく示された心。天子の御心などにいふ。〔漢書、趙廣漢傳〕廣漢心知㆓微指㆒。

【微疵】105 ビシ わづかなきず。〔福惠全書、蒞任部、待紳士〕微疵偶染、頓令㆓尺澤生㆑波。

【微斯】106 ビシ 是無しの義。假設の人名。〔王褒、四子講德論〕微斯文學問㆓於虚儀夫子㆒曰、蓋聞、國有㆑道貧且賤焉、恥也。

【微詞】107 ビシ かすかなことば。〔唐彥謙、緋桃詩〕敢同㆓俗態㆒期㆓青眼㆒、似㆑有㆔微詞動㆓絳脣㆒。

【微澌】108 ビシ わづかに落ち散ること。〔曹松、信州聞通寺題㆓僧砌下泉㆒詩〕耗痕延㆓黑蘚㆒、淨罅吐㆓微澌㆒。

【微事】109 ビジ ちひさい事。小事。〔淮南子、人閒訓〕是故人皆輕㆓小害㆒易㆓微事㆒、是以多㆑悔。

【微時】110 ビジ まだ顯貴にならぬ時。貧賤の時代。微賤の時。〔漢書、外戚上、孝宣許皇后傳〕上乃詔求㆓微時故劍㆒、大臣知㆑指、白立㆓許倢伃㆒爲㆓皇后㆒。〔漢書、周勃傳〕常以吹㆑簫給㆓喪事㆒。〔洪昉思、釣臺詩〕千秋一箇劉文叔、記得微時有㆓故人㆒。

【微辭】111 ビジ ❶あらはにいはない。かすかにほのめかす。又、其のことば。〔公羊、定、元〕定哀多㆓微辭㆒。〔孔廣森通義〕微辭者、意有㆑所㆑託而辭不㆑顯、惟察㆓其微㆒者、乃能知㆑之、蓋所㆑記事、皆同時君臣、既以諱㆑尊隆㆑恩、亦無㆑道言孫之法也。〔宋玉、登徒子好色賦序〕口多㆓微辭㆒。〔東方朔、非有先生論〕說㆑色微㆑辭。❷わづかなこと ば。ことばじり。〔後漢書、陳元傳〕媟㆓黷微辭㆒、以㆓年數小差㆒、掇爲㆓巨謬㆒。

【微州】112 ビシウ 州名。唐、置く。戎州都督府に屬す。今、雲南省大姚縣の北、廢微州に其の故城存す。〔唐書、地理志七下〕微州、本西利州、武德七年置、貞觀十一年、更㆑名。

【微失】113 ビシツ 失敗が少ない。又、僅かな失敗。〔漢書、五行志中之下〕爲㆓嗣君微失秉㆑事之象㆒也。

【微疾】114 ビシツ すこしのやまひ。一寸した病氣。〔南史、王慈傳〕慈有㆓微疾㆒不㆑能㆑騎、聽㆓乘㆑車在㆑仗。

【微者】115 ビシャ 身分賤しい者。〔春秋、桓、二、九月入㆑杞、杜注〕不㆑稱㆓主帥㆒、微者也。

【微邪】116 ビジャ 小さな惡事。〔管子、權修〕微邪者、大邪之所㆑生也。

【微尙】117 ビシャウ 己の好尙をいふ。微は謙辭。〔謝靈運、還㆓舊園㆒作見㆓顏范二中書㆒詩〕聖靈昔迴眷、微尙不㆑及㆑宣。〔注〕濟曰、微、小也、謂㆘己小爲㆓高尙之志㆒、不㆖及㆓宣用㆒也。〔白居易、聞㆔崔十八宿㆓予新昌弊宅㆒云云詩〕平生有㆓微尙㆒、彼此多㆓幽獨㆒。

【微尙齋】118 ビシャウサイ 淸、馮志沂(**12－44579**‥226)の號。

【微傷】119 ビシャウ かすりきず。輕傷。

【微詳】120 ビシャウ 細かくつまびらか。細悉。〔陸機、弔㆓魏武帝㆒文〕恨㆓末命之微詳㆒。

【微情】121 ビジャウ ❶感情を抑へる。喪に哭踊の數を制限して其の身を毀傷せぬやうにすること。一說に、內に在つて見えない情。〔禮、檀弓下〕禮有㆓微㆑情者㆒、有㆓以㆑故興㆑物者㆒。〔注〕節㆓哭踊㆒。〔疏〕微、殺也、言、若賢者喪㆑親、必致㆑滅㆑性、故制使㆓三日而食、哭踊有㆑數、以殺㆓其內情㆒、使㆓之俯就㆒也、何胤云、哭踊之情、必發㆓於內㆒、謂㆓之微㆒、微者不㆑見也。❷すこしの情。〔曹植、洛神賦〕無㆓微情以效㆑愛兮。❸微妙な趣。〔陸機、文賦〕因㆑宜適㆑變、曲有㆓微情㆒。〔注〕善曰、說文曰、微、妙也。

【微繳】122 ビシャク よわいいぐるみ。繳は、糸のついた矢。〔史記、楚世家〕弱弓微繳。

【微弱】123 ビジャク 微小で勢力がない。よわいこと。〔後漢書、南粤王趙佗傳〕天子微弱、諸侯力政。〔後漢書、竇憲傳〕以㆓北虜微弱㆒、遂欲㆑滅㆑之。〔蜀志、先主劉備傳〕宗室微弱。〔謝靈運、富春渚詩〕淪躓困㆓微弱㆒。〔范甯、穀梁傳序〕平王以㆓微弱㆒東遷。

【微叔】124 ビシュク 宋、趙密(**10－37171**‥348)の字。

【微出】125 ビシュツ すこしく出る。〔史記、天官書〕其已入三日、又復微出。

【微徐】126 ビジョ かすかでしづかなこと。〔靈樞經〕呼吸微徐。

【微臣】127 ビシン 身分の賤しい臣下。君主に對する臣下の自稱。〔後漢書、崔琦傳〕微臣司㆑戚。〔江淹、雜體、劉文學楨感懷詩〕微臣固受㆑賜。

【微忱】128 ビシン わづかのまこと。己のまことの謙辭。寸志。微誠。〔晉書、恭帝紀〕臣推㆓轅閫外㆒、不㆑獲㆑展㆓情埏遂㆒、伏願天慈特垂、聽㆓許使臣㆒、微忱粗申。〔劉基、贈㆓周宗道㆒詩〕螻蟻有㆓微忱㆒、抑塞無㆑由㆑揚。

【微身】129 ビシン いやしい身。己の身の謙稱。微軀。〔潘岳、河陽縣作詩〕微身輕㆓蟬翼㆒。

【微哂】130 ビシン ほほゑむ。薄笑ひ。〔剪燈餘話、賈雲華還魂記〕嫂無㆑言、惟微哂而已。

【微津】131 ビシン 少しのうるほひ。〔左思、魏都賦〕風無㆓纖埃㆒、雨無㆓微津㆒。

【微震】132 ビシン 感じ難い程度の輕い地震。弱震より弱いもの。

【微醉】133 ビスイ すこしく酒にゑふ。ほろゑひ。微醺。〔李商隱、偶題詩〕小亭閒眠微醉消。〔劉子翬、安仁道中詩〕村沽得㆓微醉㆒、猶足㆑張㆓餘豪㆒。

【微生】134 ビセイ 複姓。〔通志、氏族略、以㆑名爲㆑氏〕微生氏、猶㆔今人曰㆓某生㆒也、微生畝、魯武城人、又微生高、或云、卽尾生也。

【微生高】135 ビセイカウ 春秋、魯の武城の人。直を以て知られ、人に醯を請はれた時、其の鄰家に乞うて之に與へた。一說に、尾生に同じといふ。〔論語、公冶長〕・〔戰國、燕策〕・〔陔餘叢考、四〕。

【微生物】136 ビセイブツ 細菌をいふ。

【微生畝】137 ビセイホ 春秋、魯の隱士。嘗て孔子と問答す。又、危生といふ。〔論語、憲問〕。

【微青】138 ビセイ うす青。みづいろ。〔元稹、飲致㆓用神麴酒㆒三十韻詩〕琉璃驚㆓太白㆒、鐘乳訝㆓微青㆒。

【微星】139 ビセイ 星の名。こぼし。ぬかぼし。〔晉書、天文志上〕微星之數、蓋萬有一千五百二十。

【微眚】140 ビセイ 目が少しかすむ。〔國朝漢學師承記、邵晉涵〕君生而穎異、少多㆑疾、左目微眚。

【微誠】141 ビセイ すこしのまこと。己のまことの謙辭。微忱。〔晉書、劉頌傳〕猶願陛下垂㆑省、使㆓臣微誠、得㆑經㆓聖鑒㆒。〔陸機、謝㆓平原內史㆒表〕臣之微誠、不㆑負㆓天地㆒。〔庾亮、讓㆓中書令㆒表〕區區微誠。

【微靜】142 ビセイ 微弱で靜か。〔司馬法、嚴位〕擊㆓其微靜㆒。

【微聲】143 ビセイ 微小な聲。〔周禮、春官、典同〕達聲贏、微聲韽。〔注〕微、謂㆓其形微小㆒也。

【微小】144 ビセウ ❶すこし。わづか。〔禮、經解〕明照㆓四海㆒、而不㆑遺㆓微小㆒。❷ちひさい。こまかい。〔荀子、非相〕葉公子高、微小短瘠、行若㆑將㆑不㆑勝㆓其衣㆒。

【微少】145 ビセウ すこし。わづか。微小の❶に同じ。

【微消】146 ビセウ かすかにきえる。曖㆓微霄㆒を見よ。

【微笑】147 ビセウ すこしわらふ。ほほゑむ。又、其のこと。〔宋玉、登徒子好色賦〕含㆑喜微笑、竊視流眄。〔後漢書、張衡傳〕離㆓朱脣㆒而微笑兮。〔傅毅、舞賦〕遷延微笑。

【微綃】148 ビセウ うすぎぬ。〔潘岳、河陽縣作詩〕凱風揚㆓微綃㆒。

【微霄】149 ビセウ かすかなもや。曖㆓微霄㆒を見よ。

【曖㆓微霄㆒】150 ビセウニオホハル 春の霞におほはれる。〔陶潛、時運詩〕山滌餘靄、宇曖㆓微霄㆒。〔箋注〕一作㆓餘靄微消㆒。

【微積】151 ビセキ 無限小數を研究する微分學と、無限大數を研究する積分學。微分積分。

【微績】152 ビセキ すこしの功績。微功。〔杜陽雜編〕郭子儀嗚咽流涕曰、老臣衰耄、不㆑堪㆓王事㆒、賴㆓陛下之靈㆒、以成㆓微績㆒。

【微雪】153 ビセツ　こまかい雪。又、少し降る雪。あわゆき。〔岑參、送三王昌齡赴二江寧一詩〕北風吹二微雪一、抱レ被肯同宿。〔白居易、初領二郡政一衙退登二東樓一作詩〕山冷微有レ雪、波平未レ生レ濤。

【微節】154 ビセツ　すこしのみさを。自己の操節の謙辭。〔後漢書、循吏、孟嘗傳〕思レ立二微節一、不二敢苟私一。

【微妾】155 ビセフ　いやしい妾。〔漢書、毋將隆傳〕今賢等便僻弄臣、私恩微妾。

【微淺】156 ビセン　小さくつまらないこと。〔史記、儒林傳論贊〕不レ滿二半歲一、竟滅亡、其事至微淺。

【微痊】157 ビセン　病が少しくいえること。〔晉書、文帝紀〕比獲二微痊一、思二單寬惠一。

【微賤】158 ビセン　身分地位のいやしいこと。又、其の人。微小卑賤。〔管子、版法解〕治不レ盡レ理、則疏遠微賤者、無レ所二告訴一。〔漢書、朱博傳〕自二微賤一至二富貴一。〔後漢書、馮衍傳下〕微賤之臣。〔李密、陳情表〕猥以二微賤一、當レ侍二東宮一。

【微戰】159 ビセン　少しふるへる。微顫に同じ。

【微鮮】160 ビセン　微妙であざやか。〔曹植、七啓〕微鮮若レ霜。

【微霰】161 ビセン　少しくふるあられ。〔蘇軾、梅花詩〕行人已愁絶、日暮集二微霰一。

【微顫】162 ビセン　少しふるへる。〔柳永、柳腰輕詞〕倚二輕風一佩環微顫。

【微纖】163 ビセン　かすかでこまかい。わづか。微細纖小。〔呂覽、本味〕鼎中之變、精妙微纖、口弗レ能レ言。〔梁昭明太子、七契〕微纖始放、則竝鱗失レ波。〔韓愈、苦寒詩〕不レ知二己微纖一。

【微喘】164 ビセン　❶かすかないき。殘りすくない餘年の喩。〔李朝隱、讓二揚州長史起復一第三表〕知臣無レ他、直以二衰病一、惜二臣微喘一、使レ延二晷刻一。❷かすかにあへぐ。〔柳貫、與二用章戴生一同度二淡竹嶺一夜宿二山家一詩〕更擬班レ荊息微喘。

【微然】165 ビゼン　wei^1 jan^2　少しばかり。わづか。

【微素】166 ビソ　❶いやしい身分。〔水經、睢水注〕操本微素、嘗候二于玄一、玄感二知己一。❷すこしのまごころ。己のまごころの謙辭。〔姜公輔、對二直言極諫一策〕欲レ申二微素一、進退憂惶。

【微矰】167 ビソウ　細いいぐるみ。〔司馬相如、子虛賦〕微矰出、孅繳施。〔注〕善曰、周禮曰、矰、矢也、鄭玄曰、結二繳於矢一、謂二之矰一。

【微息】168 ビソク　かすかないきづかひ。己の生命をいふ。〔王安石、乞二宮觀一表〕天地至恩、實知レ難レ報、螻蟻微息、尙竊有レ懷。

【微酡】169 ビダ　ほろゑひ。〔宋濂、黃文獻公文集序〕先王酒微酡。

【微道】170 ビダウ　閒道。〔漢書、黥布傳、閒道、注〕師古曰、閒道、微道也。

【微澤】171 ビタク　おかげ。餘澤。〔劉峻、廣絶交論〕邀二潤屋之微澤一。

【微達】172 ビタツ　細かに隅々まで通じ達する。〔荀子、宥坐〕淖約微達似レ察。〔說苑、雜言〕綿弱而微達似レ察。

【微單】173 ビタン　微弱で單獨なこと。〔唐書、劉季述傳〕劉季述者本微單、稍顯二于僖昭閒一、累擢二樞密使一。

【微知】174 ビチ　ひそかに知る。かすかに知る。〔漢書、游俠、郭解傳〕解使三人微知二賊處一、賊窘自歸、具以レ實告レ解。

【微中】175 ビチュウ　微言で人の意にあてる。それとなくあてこすつて諷する。微諷。〔史記、滑稽傳〕談言微中、亦可二以解一レ紛。

【微仲】176 ビチュウ　宋、呂大防(**2**－**3386**‥235)の字。

【微忠】177 ビチュウ　ささやかな忠義。又、己の忠義の謙辭。〔源平盛衰記、時忠卿罪科〕內侍所、云云、奉レ捧二頭上一歸降畢、此雖レ爲レ扶レ命、又非二微忠一哉。

【微衷】178 ビチュウ　わづかなまごころ。微志(103)に同じ。

【微塵】179 ビヂン ミヂン　こまかなちり。極めてこまかい物。極めてこまかい喩。〔顏氏家訓、歸心〕欲三必無二恒沙世界微塵數劫一也。〔楞嚴經〕一切因果、世界微塵、因レ心成レ體。

【微塵子】180 ミヂンコ　甲殼類の微細な蟲。淡水溝中に生じ、金魚などの餌となる。水蚤。

【微塵數】181 ミヂンジュ　［佛］數量の多い喩。物を微塵に粉碎すれば其の數が多くなるからいふ。〔法華經、分別功德品〕大千界微塵數菩薩。

【微塵說】182 ミヂンセツ　光の本性に關するニュートンの舊說で、今は行はれない。

【微塵粉】183 ミヂンコ　糯米を挽いて粉にし、炒つて造る。

【微塵棒】184 ミヂンボウ　微塵粉に砂糖を加へて煑固め、細長くした菓子。

【積二微塵一成レ山】185 ビヂンヲツミテヤマトナス　かすかな塵を積み重ねて山をつくる。僅かの物でも積り重なれば高大となる譬。〔說苑、建本〕土積成レ山、則豫樟生焉、學積成レ聖、則富貴尊顯至焉。〔大智度論、九十四〕積二微塵一成レ山。

【微睇】186 ビテイ　ほそめにみる。ながしめにみる。〔楚辭、九章、懷沙〕離婁微睇兮、瞽以爲レ無レ明。〔司馬相如、上林賦〕微睇緜藐。〔楊師道、初宵看レ婚詩〕微睇轉二橫波一。

【微眺】187 ビテウ　かすかにながめる。ながしめ。〔張衡、南都賦〕微眺流睇。

【微的】188 ビテキ　かすかにあきらか。〔韓詩外傳、二〕三月微的而後能見、七月而生レ齒而後能食。〔注〕宋按、玉篇、的、明見也。

【微玷】189 ビテン　玉のわづかなきず。〔遼史、儀衞志〕傳國寶、秦始皇作、王莽簒レ漢、平皇后投二璽殿階一、螭角微玷。〔武翊、黃瑕瑜不二相掩一詩〕貞姿偏特達、微玷遇二磨礱一。

【微燈】190 ビトウ　かすかな燈火。〔王僧達、祭二顏光祿一文〕微燈動レ光。〔韓愈、秋懷詩〕秋風一披拂、策策鳴不レ已、微燈照二空牀一、夜半偏入レ耳。〔崔塗、秋夕與二王處士一話別詩〕微燈照二寂寥一。

【微動】191 ビドウ　かすかにうごく。〔宋玉、神女賦〕時容與以微動兮、志未レ可二平得一レ原。〔沈約、上巳華光殿詩〕時鷺顧慕聲合離、輕波微動漾二羽巵一。〔宋史、樂志十四〕瓊琚微動、鳳輦翼行。

【微特】192 wei^1 t‘ê^4　單に云云のみならず。

【微匿】193 ビトク　かくれること。

【微獨】194 ビドク　獨り云云のみならず。微特(192)に同じ。〔四庫提要、史、紀事本末類〕未レ有二是體一以前、微二獨紀事本末創一、卽紀傳亦創、編年亦創。

【微難】195 ビナン　微妙で爲しがたい。〔韓非子、外儲說左上〕是以言有二纖察微難一、而非レ務也。

【微入】196 ビニフ　かすかに入る。〔史記、天官書〕出三日、而復有二微入一。

【微熱】197 ビネツ　わづかの熱。

【微波】198 ビハ　すこしの波。さざなみ。〔新序、雜事二〕引二纖繳一揚二微波一。〔曹植、洛神賦〕托二微波一而通レ辭。〔劉長卿、赴二宣州使院一夜宴二寂上人房一云云詩〕白雲乖二始願一、滄海有二微波一。

【微波榭】199 ビハシャ　清、孔繼涵(**3**－**6933**‥284)の室名。

【微芳】200 ビハウ　すこしのにほひ。かすかなかをり。〔阮籍、詠懷詩〕順レ風振二微芳一。〔陸機、塘上行〕微芳不レ足レ宣。〔謝惠連、擣レ衣詩〕微芳起二兩袖一、輕汗染二雙題一。

【微茫】201 ビバウ　はつきりしないさま。ぼんやり。模糊。〔李白、惜二餘春一賦〕試登レ高望遠、極二雲海之微茫一。〔杜甫、奉二觀嚴鄭公廳事岷山沲江圖一詩〕雪雲虛點綴、沙草得二微茫一。〔李羣玉、南莊春晚詩〕草暖沙長望二去舟一、微茫烟浪向二巴丘一。

【微白】202 ビハク　❶ほのかに白い。〔葛長庚、詩〕微白一鉤天外月、淡青數點海邊山。❷夜がほのぼのとあける。夜がしらむ。しののめ。あけがた。〔崔曙、早發二交崖山一還二太室一作詩〕東林氣微白、寒鳥忽高翔。

【微薄】203 ビハク　❶かすかにうすい。手うすい。〔漢書、劉向傳〕其葬二君親骨肉一皆微薄矣。〔後漢書、伏湛傳〕貢稅微薄。〔吳志、周魴傳〕精誠微薄、名位不レ昭。❷すだれ。竹簾。字解の❸を見よ。〔國語、晉語四〕設二微薄一而觀レ之。〔注〕微、蔽也、薄、迫也。

【微法】204 ビハフ　わづかな刑罰。小さい罪。〔後漢書、龐參傳〕坐二微法一、輸作經レ時。

【微班】205 ビハン　ひくい地位。〔杜甫、奉下送郭中丞兼二大僕卿一充中隴右節度使上三十韻詩〕通二籍微班一。

【微疲】206 ビヒ　すこしのつかれ。〔潘岳、笙賦〕主人微疲。

【微鄙】207 ビヒ　片ゐなか。〔吳越春秋、句踐陰謀外傳〕曰、君王自陳、越國微鄙、年穀不レ登、願王請レ糴以入二其意一。

【微微】208 ビビ　❶衰へていやしいさま。いやしくつまらぬさま。〔漢書、韋賢傳〕微微小子、旣耇且陋。❷幽靜なさま。〔張衡、南都賦〕清廟肅以微微。〔注〕善曰、微微、幽靜貌。〔李頎、宿二瑩公禪房一聞レ楚詩〕花宮仙梵遠微微、月隱二高城一鐘漏稀。

【微風】209 ビフウ 弱く吹く風。そよ吹く風。〔荀子、解蔽〕微風過レ之。〔後漢書、邊讓傳〕靡二微風一而行レ舟。〔潘岳、藉田賦〕微風生二于輕幰一。〔杜甫、旅夜書レ懷詩〕細草微風岸、危檣獨夜舟。〔常建、送二宇文六一詩〕花映二垂楊一漢水清、微風林裏一枝輕。

【微諷】210 ビフウ それとなく諷刺する。ほのめかす。〔顧瑛、燕集詩〕諧笑雜二微諷一。

【微服】211 ビフク 服裝を變じて人目に觸れないやうにする。しのびの姿。〔孟子、萬章上〕孔子不レ悅二於魯衞一、遭三宋桓司馬將二要而殺一レ之、微服而過レ宋。〔列子、仲尼〕堯乃微服游二於康衢一。〔史記、孔子世家〕季桓子微服往觀再三。〔後漢書、任城孝王尙傳〕微服出入、游二觀國中一。

【微物】212 ビブツ ㊀わづかな物。微小な物。つまらぬもの。〔韓非子、外儲說左上〕臣削者也、諸微物必以レ削削レ之、而必所レ削大二於削一。〔禰衡、鸚鵡賦〕矧禽鳥之微物。㊁自ら稱する謙辭。〔顏延之、應レ詔讌二曲水一作詩〕仰閱二豐施一、降惟二微物一。〔注〕善曰、微物、自謂也。

【微文】213 ビブン ㊀こまかな法律。又、こまかな罪。〔史記、酷吏、減宣傳〕所下以二微文深詆一殺上者甚衆。〔漢書、汲黯傳〕又以二微文一殺二無知者五百餘人一。㊁文意を微にしてあらはにはない。微辭。〔班固、典引序〕司馬遷著レ書成二一家之言一、揚二名後世一、至下以二身陷レ刑之故一、反微文刺譏、貶中損當世上、非二誼士一也。

【微眇】214 ビベウ ㊀いやしい。輕微。〔史記、文帝紀〕朕獲レ保二宗廟一、以二微眇之身一、託二於兆民君王之上一、天下治亂、在二朕一人一、唯二三執レ政者、猶二吾股肱一也。㊁かすかでちひさい。微妙。區區。微。〔管子、水地〕心之所レ慮、非三特知二於麤粗一也、察二於微眇一、故修二要之精一。〔漢書、張敞傳〕言之微眇、書不レ能レ文也。〔淮南子、說山訓〕此皆微眇可二以觀論一者。〔春秋繁露、竹林〕夫泰山之爲レ大、弗レ察弗レ見、而況微眇者乎。

【微碧】215 ビヘキ すこしの綠色。寸碧。〔寇準、詩〕圭峰露二微碧一。

【微蔑】216 ビベツ 微小のもの。身分輕くいやしい者。〔宋玉、小言賦〕纖二於毳末之微蔑一、陋二於茸毛之方生一。〔後漢書、酷吏、陽球傳〕案、松・覽等皆出二於微蔑一、斗筲小人、依二憑世威一、附二託權豪一。〔魏書、尒朱榮傳〕榮使レ入レ京、雖二復微蔑一、朝貴二見之一、莫レ不二傾靡一。

【微辨】217 ビベン 仔細に正す。〔禮、儒行〕其過失可二微辨一、而不レ可二面數一也。

【微步】218 ビホ ㊀しのびあるき。微行。〔南史、王晏傳〕微步詣レ諶議。㊁靜かに步む。又、そぞろあるき。〔曹植、洛神賦〕陵レ波微步。〔注〕向曰、微步、輕步也。〔曾鞏、思政堂記〕微步之徑。

【微俸】219 ビホウ 少しの俸給。僅かの扶持。〔南齊書、明帝紀〕東西二省、猶沾二微俸一。〔元稹、酬二樂天東南行詩一一百韻詩〕短簷苫稻草、微俸封魚租。〔姚合、寄二李景先一詩〕微俸還同請、唯君獨自閑。

【微謀】220 ビボウ ひそかに謀をめぐらす。微計。〔呂覽、觀表〕智可二以微謀一。

【微昧】221 ビマイ 幽昧で知り難いこと。〔張衡、歸田賦〕諒天道之微昧、追二漁父一以同レ嬉。

【微末】222 ビマツ ㊀身分低く賤しい者。〔漢書、韋玄成傳、於蔑小子終焉其度、注〕言、三二公顯職、我雖二微末一、方自勉厲、終當レ居レ此也。㊁かたよつて中正でないこと。〔說苑、脩文〕小人則不レ然、其音湫厲而微末、以象二殺伐之氣一。〔孔子家語、辯樂解〕亢麗微末、以象二殺伐之氣一。

【微密】223 ビミツ 行事の祕密。機密。〔管子、霸言〕獨斷者、微密之營壘也。〔漢書、文三王、梁懷王劉揖傳〕大臣皆尙二苛刻一、刺二求微密一。

【微命】224 ビメイ 微弱ないのち。〔禰衡、鸚鵡賦〕託二輕鄙之微命一、委二陋賤之薄軀一。〔謝靈運、初發二石首城一詩〕寸心若不レ亮、微命察如レ絲。〔注〕濟曰、性命如二絲之將レ絕也。

【微明】225 ビメイ ㊀明白ではあるが、微妙で知り得ない。〔老子、三十七〕將二欲歙レ之、必固張レ之、將二欲弱レ之、必固強レ之、將二欲廢レ之、必固興レ之、將二欲奪レ之、必固與レ之、是謂二微明一。㊁清、孔昭孔(3－6933‥335)の字。

【微冥】226 ビメイ 微賤で暗愚なこと。〔顏延之、皇太子釋奠會作詩〕徒愧二微冥一、終謝二智效一。〔注〕善曰、微冥、微賤而闇冥也、銑曰、自愧二微賤而暗昧一也。

【微妙】227 ビメウ 高尙深遠なこと。幽深で知り難いさま。理趣の幽玄なのを微といひ、迥かに思議を超絕したのを妙といふ。玄妙。微妙玄通を見よ。〔荀子、議兵〕諸侯有下能微二妙之一以上節、則作而兼二殆之一耳。〔商子、定分〕夫微妙意志之言、上智之所レ難也。〔孫子、用閒〕非二微妙一不レ能レ得二閒之實一。〔史記、老莊申韓傳贊〕微妙難レ識。

【微妙玄通】228 ビメウゲンツウ 智識が微妙幽玄な處に通徹する。眞理を知ることをいふ。〔老子、十五〕古之善爲レ士者、微妙玄通、深不レ可レ識。〔後漢書、劉祐傳〕微妙玄通、冲而不レ盈。

【微濛】229 ビモウ かすかにくらい。〔晉古辭〕驚風急二素柯一、白日漸微濛。

【微恙】230 ビヤウ すこしの病。微痾。〔秦觀、答二張文潛病中見レ寄詩〕君其專二精神一、微恙不レ足レ論。

【微陽】231 ビヤウ かすかに輝く太陽。夕日。〔杜牧、題二齊安城樓一詩〕嗚軋江樓角一聲、微陽瀲瀲落二寒汀一。

【微約】232 ビヤク 奧深くてはつきりしない。〔管子、宙合〕微約而流施。〔纂詁〕其德微妙隱約。

【微與】233 ナカルベキカナ 人の行を止めさせる辭。微は無。〔禮、檀弓下〕曾子聞レ之曰、微與、其嗟也可レ去。〔注〕微、猶レ無也、無與、止二其狂狷一之辭。

【微勞】234 ビラウ いささかのてがら。〔王沈魏書〕列侯諸將、幸攀二龍驥一、得レ竊二微勞一、佩レ紫懷レ黃、蓋以レ百數。

【微瀾】235 ビラン さざなみ。微漣。〔陸機、招隱詩〕芳蘭振二蕙葉一、玉泉湧二微瀾一。〔蘇軾、江月詩〕一更山吐レ月、玉塔臥二微瀾一。〔傅昂霄、江行詩〕白雲明月漾二微瀾一、空外秋聲落二遠灘一。

【微利】236 ビリ 些細な利益。〔劉子翬、諭レ俗詩〕錐刀剝二微利一、舞レ智欺二惸獨一。〔范成大、詩〕不レ爭二微利一卽爭レ名。

【微涼】237 ビリヤウ すこしのすずしさ。〔曹植、贈二白馬王彪一詩〕秋風發二微涼一。〔杜甫、夏夜歎詩〕仲夏苦二夜短一、開レ軒納二微涼一。〔耿緯、夏家西亭卽事詩〕細汗凝レ衣集、微涼待レ扇過。

【微閭】238 ビリヨ 幽州の山鎭の名。醫無閭(11－40006‥72)に同じ。〔楚辭、遠遊〕夕始臨二乎於微閭一。〔注〕爾雅曰、東方之美者、有二醫無閭之珣玕琪一焉。〔集注〕一作二微毋閭一。

【微力】239 ビリヨク すこしの力。又、己の能力の謙辭。〔崔融、西征軍行遇レ風詩〕愚臣何以報、倚レ馬申二微力一。

【微綸】240 ビリン 細い釣絲。〔淮南子、原道訓〕雖下有二鉤箴芒距、微綸芳餌一、加レ之以中詹何娟嬛之數上、云云。

【微縷】241 ビル 細いとすぢ。〔陳子昂、感遇詩〕高堂委二金玉一、微縷懸二千鈞一。

【微瘳】242 ビレウ 病がわづかにいえること。〔杜甫、立秋雨院中有レ作詩〕禮寬心有レ適、節爽病微瘳。

【微劣】243 ビレツ おとろへよわる。〔吳志、孫登傳〕自省微劣、懼卒隕斃。

【微漣】244 ビレン かすかな波。さざなみ。〔杜牧、懷二鍾陵舊遊一詩〕白鷺烟分光的的、微漣風定翠湉湉。

【微祿】245 ビロク わづかばかりの扶持米。薄祿。〔高適、平臺夜遇二李景參一有レ別詩〕家貧羨三爾有二微祿一、欲二往從レ之何所レ之。〔岑參、首春渭西郊行呈二藍田張二主簿一詩〕愁レ窺二白髮一羞二微祿一、悔レ別二青山一憶二舊溪一。

【微論】246 ビロン ㊀こまかに論ずる。〔論衡、對作〕細說微論、解二釋世俗之疑一、辨二照是非之理一。㊁wei lun 勿論。

【微和】247 ビワ すこしあたたかい。少しのあたたかさ。のどかなこと。〔陶潛、擬古詩〕春風扇二微和一。〔元稹、和二樂天早春見レ寄詩〕雨香雲澹覺二微和一、誰送二春聲一入二棹歌一。

【扶レ微】248 ビヲタスク 弱い者を引き立てる。〔劉歆、移レ書讓二太常博士一文〕輔レ弱扶レ微。〔白虎通、五行〕土扶レ微助レ衰、歷二成其道一。

【微么蟲】249 ビエウチュウ 螢の異名。〔郭璞、山海經圖讚、補遺、螢火〕熠熠宵行、蟲之微么、出レ自二腐草一、煙若二散漂一、物之相煦、孰知二其陶一。〔事物異名錄、昆蟲、螢〕微么蟲、郭璞螢贊、蟲之微么、出レ自二腐草一。

【微觀閣】250 ビクワンカク 明、陳錫爵(11－41698‥1067)の室名。

【微血管】251 wei¹ hsieh³ kuan³ 毛細管。

【微而顯】252 ビニシテアラハル 文章は微妙であるが、義の在る所ははつきりあらはれてゐる。〔左氏、昭、三十一〕春秋之稱、微而顯、婉而辨。〔注〕文微而義著。

【微泉閣】253（ビセンカク） 清、董文驥（**9－31433**··257）の室名。

【微分學】254（ビブンガク） 函數に於て、獨立變數の値の變化に對する函數の値の變化の割合を考察し、之に本づいて函數の性質を研究する學。〔周禮政要、通藝〕天元四年中算造微之詣、亦不ㇾ及㆓幾何點線面體之賅、代數微分積分之捷㆒。

【微粒子】255（ビリフシ） 蠶病の一種。體に黑色の斑點を生ず。

【輸㆓微涓㆒】256（ビケンヲイタス） わづかな誠をつくす。わづかな忠義をつくすをいふ。〔李白、安州應城玉女湯作詩〕可㆔以奉㆓巡幸㆒、奈何隔㆓窮偏㆒、獨隨㆓朝宗水㆒、赴ㇾ海輸㆓微涓㆒。

【以ㇾ微知ㇾ明】257（ビヲモツテメイヲシル） 些細の事から大なる事實を發見するをいふ。〔荀子、非相〕以ㇾ近知ㇾ遠、以ㇾ一知ㇾ萬、以ㇾ微知ㇾ明。

【莫ㇾ顯㆓乎微㆒】258（ビヨリアキラカナルハナシ） 目に見えぬ微細なものは却つて明らかにあらはれる。〔中庸〕莫ㇾ見㆓乎隱㆒、莫ㇾ顯㆓乎微㆒、故君子愼㆓其獨㆒也。

【見ㇾ微而知㆓清濁㆒】259（ビヲミテセイダクヲシル） 微細な點を見て其の清濁是非を識別する。〔史記、吳太伯世家贊〕心慕ㇾ義無ㇾ窮、見ㇾ微而知㆓清濁㆒。

【徯】10204 ㈠ケイ ゲイ 〔集韻〕戸禮切 薺 ㈡ケイ ゲイ 〔集韻〕弦雞切 齊 ㄒㄧ hsi¹

小篆

或體

㈠㈡❶**まつ**。まちまうける。〔說文〕徯、待也、从ㇾ彳奚聲。〔爾雅、釋詁〕徯、待也。〔廣韻〕徯、有ㇾ所ㇾ望也。❷**こみち**。よこみち。〔一切經音義、七〕邪道曰ㇾ徯。〔漢書、貨殖傳序〕矰弋不ㇾ施㆓於徯隧㆒。〔注〕師古曰、徯隧、徑道也。❸**あやふい**。徯醢(2)を見よ。❹蹊（**10－37747**）に同じ。〔說文〕徯、蹊、徯或从ㇾ足。

【徯徑】1（ケイケイ） こみち。蹊徑。〔禮、月令〕謹㆓關梁㆒、塞㆓徯徑㆒。〔注〕徯徑、禽獸之道也。

【徯醢】2（ケイケイ） あやふい。危。〔方言、六〕徯醢、危也、東齊椅ㇾ物而危、謂㆓之徯醢㆒。〔廣雅、釋詁〕徯醢、危也。

【徯志】3（ケイシ） 志をまつ。意志にそむかないやうにする。〔書、益稷〕惟動丕應徯ㇾ志。〔傳〕徯、待也。

【徯如】4（ケイジヨ） 明、劉文卿（**2－2224**··1295）の字。

【徯隧】5（ケイスイ） こみち。蹊隧。〔漢書、貨殖傳序〕矰弋不ㇾ施㆓於徯隧㆒。〔注〕師古曰、徯隧、徑道也。

【⿰彳冓】10205 コウ 遘（**11－39031**）に同じ。〔六書統〕⿰彳冓、同ㇾ遘。

【⿰彳㝵】10206 トク 得（**4－10137**）の本字。〔正字通〕得、本作ㇾ⿰彳㝵。

【⿰彳⿰隹圭】10207 キヤウ クワウ 〔集韻〕俱往切 養

遠く行く。⿰亻⿰隹圭（**1－985**）に同じ。〔集韻〕⿰亻⿰隹圭、遠行也、或从ㇾ彳。

【⿰彳鬲】10208 レキ ⿺辶鬲（**10－37350**）に同じ。〔集韻〕⿺辶鬲、或作ㇾ⿰彳鬲。

【⿰彳咸】10209 ケウ 義未詳。〔康熙字典〕⿰彳咸、字彙補、古弔切、音徼、石鼓文、希微⿰彳咸⿰彳咸。

【徰】10210 セイ 征（**4－10077**）の古字。〔集韻〕征、古作ㇾ徰。

【徫】10211 シヤウ 〔字彙補〕音章

あわて行くさま。〔字彙補〕徫、行遽貌。

【⿰彳咠】10212 シフ ⿰彳咠（**4－10182**）に同じ。〔字彙補〕⿰彳咠、同ㇾ⿰彳咠。

【⿰彳從】10213 シヨウ 從（**1－1013**）に同じ。〔篇海類編〕從、同ㇾ從。

十一畫

【⿰彳畢】10214 ヒツ 蹕（**10－37783**）に同じ。〔集韻〕蹕、或从ㇾ彳。

【⿰彳旋】10215 セン ⿰⻊旋（**10－37553**）に同じ。〔集韻〕⿰⻊旋、或作ㇾ⿰彳旋。

【⿰彳率】10216 シユツ シユチ 〔玉篇〕疏聿切 質

ゆく。〔玉篇〕⿰彳率、行也。

【復】10217 フク 復（**4－10183**）の本字。〔正字通〕復、篆作ㇾ復。

【⿰彳票】10218 ヘウ 僄（**1－1047**）に同じ。〔字彙〕⿰彳票、與ㇾ僄同。

【徲】10219 ㈠チ チ 〔集韻〕陳尼切 支 ㈡テイ ダイ 〔集韻〕田黎切 齊

小篆

㈠㈡❶**ひさしい**。〔說文〕徲、久也、从ㇾ彳犀聲、讀若ㇾ遲。❷**ゆききする**。徲徲。〔廣雅、釋訓〕徲徲、往來也。❸**おくれて來る**。〔集韻〕徲、一曰、後至。❹遲（**11－39113**）に通ず。〔正字通〕徲、同ㇾ遲、說文、讀若ㇾ遲、分㆓二義㆒、泥。

【⿰彳區】10220 シユ ス 〔玉篇〕尺主切 麌

ゆく。〔玉篇〕⿰彳區、行也。

【⿰彳章】10221 ㈠シヤウ 〔集韻〕諸良切 陽 ㄔㄤ chang¹ ㈡シヤウ 〔集韻〕之亮切 漾

㈠**まつすぐに行かない。まがつて行く**。⿰彳章徨。〔集韻〕⿰彳章、⿰彳章徨、行不ㇾ正。㈡**あわてて行くさま**。⿰彳章徨。〔集韻〕⿰彳章、⿰彳章徨、行遽皃。

【⿰彳悉】10222 シツ シチ 〔集韻〕息七切 質

❶**ゆらぐ**。⿰彳悉循。〔集韻〕⿰彳悉、⿰彳悉循、搖也。❷僁（**1－1044**）に同じ。〔正字通〕⿰彳悉、同ㇾ僁。

【⿰彳參】10223 ㈠サン 〔集韻〕桑感切 感 ㈡サン 〔集韻〕蘇暫切 勘

㈠**うごく**。傪（**1－1002**）に同じ。〔集韻〕傪、鍡傪、動也、或从ㇾ彳。㈡**ゆくさま**。⿰彳參⿰彳參。〔集韻〕⿰彳參、⿰彳參⿰彳參、行皃。

【⿰彳䙴】10224 セン 〔玉篇〕相然切 先

❶**ゆくさま**。〔玉篇〕⿰彳䙴、行皃。❷蹮（**10－37864**）の譌字。〔正字通〕⿰彳䙴、蹮字之譌。

【⿰彳責】10225 サク ジヤク 〔集韻〕士革切 陌

❶**容貌の尋常な人。**〔廣韻〕〓、容尋常人。❷**はしるさま。**〓(**10－37378**)に同じ。〔集韻〕〓、走皃、或从㆑彳。

【〓】10226 ビ 微(**4－10203**)の俗字。〔正字通〕〓、俗微字。

【徛】10227 キ 徛(**4－10148**)に同じ。〔集韻〕徛、或作㆑徛。

【〓】10228 サイ スイ 〔集韻〕倉回切 灰 **いそぎ行くさま。**〔集韻〕〓、行急皃。

【〓】10229 バウ 人の名。〔康熙字典〕〓、音猛、人名。〔漢書、王子侯者年表〕漢長安大夫劉〓。

【得】10230 チョク チキ 〔集韻〕丁力切 職 **水が少ない。**得滴。〔集韻〕得、得滴、水少。

【〓】10231 フク 復(**4－10183**)の古字。〔玉篇〕復、古復字。

【〓】10232 ギョ 御(**4－10157**)の古字。〔集韻〕御、古作㆑御。

【〓】10233 ホウ 夆(**4－10117**)に同じ。〔類篇〕逢、同㆑夆。

【〓】10234 チ 〔集韻〕陟利切 寘 **ほどこす。**〔集韻〕〓、施也。

【〓】10235 ガウ 傲(**4－11106**)に同じ。〔篇海類編〕〓、同㆑傲。

【〓】10236 シウ 義未詳。〔川篇〕〓、音修。

【〓】10237 ビ 微(**4－10203**)に同じ。〔龍龕手鑑〕〓、同㆑微。

【徳】10237′ トク 德(**4－10243**)の略字。

【徬】10238 ヘン 義未詳。〔龍龕手鑑〕徬、瓶邊切。

十二畫

【徴】10238′ チョウ 徵(**4－10239**)の略字。

【徵】10239 ㊀チョウ 〔集韻〕知陵切 蒸 ㄓㄥ chêng^1 ㊁チ 〔集韻〕展里切 紙 ㄓˇ chih^3

小篆

古文

㊀❶**めす。**人をよびよせる。〔說文〕徵、召也、从㆑王从㆓微省㆒、王微爲㆑徵、行㆓於微㆒而聞達者、卽徵也。〔說文通訓定聲〕徵、召也、从㆓微省㆒从㆑王、會意、云云、按、王微者、自㆑微而之㆑著、云云、當㆘以㆓明信應驗㆒爲㆓本義㆒、徵召・徵求爲㆗轉注㆖、許用㆓爾雅㆒訓㆑召者、以㆓古文从㆑口之故㆒。〔爾雅、釋訓〕徵、召也。〔周禮、春官、典祀〕徵㆓役于司隸㆒而役㆑之。〔注〕徵、召也。❷**もとめる。**〔左氏、宣、九〕王使來徵㆑聘。〔注〕徵、召也。〔呂覽、達鬱〕桓公樂㆑之而徵㆑燭。〔注〕徵、求也。〔史記、貨殖傳〕故物賤之徵㆑貴。〔注〕索隱曰、徵者、求也。❸**とりたてる。**〔周禮、地官、閭師〕以㆑時徵㆓其賦㆒。〔疏〕閭師徵㆓斂百里內之賦貢㆒。❹**とひただす。**詰問する。〔左氏、僖、四〕寡人是徵。〔會箋〕徵者、上命㆓於下㆒之辭也。❺**しるし。**證(**10－35946**)に通ず。〔說文通訓定聲〕徵、按、凡徵召・徵求、必有㆓符信明法㆒、故得㆓轉注㆒、或曰、此誼當㆘以㆑證爲㆓本字㆒、徵爲㆗段借㆖、存㆑參。㋑あかし。〔禮、中庸〕雖㆑善無㆑徵。〔注〕徵、或爲㆑證。〔荀子、性惡〕是性僞之所㆑生、其不㆑同之徵也。〔注〕徵、驗也。〔漢書、賈誼傳〕既有㆑徵矣。〔注〕師古曰、徵、證驗也。㋺ききめ。〔禮、中庸〕久則徵。〔注〕徵、猶㆓效驗㆒也。㋩あらはれ。〔書、洪範〕念用㆓庶徵㆒。〔呂覽、觀表〕先知必審㆓徵表㆒。〔注〕徵、應也。〔太玄經、玄數〕徵、旱。〔注〕徵、應也。㋥きざし。〔左氏、昭、十七〕是其徵也。〔注〕徵、始有㆓形象㆒而微也。〔太玄經、失〕藐德靈徵失。〔注〕徵、祥也。❻**あかしをたてる。**〔中庸〕徵㆓諸庶民㆒。〔論語、八佾〕杞不㆑足㆑徵也。〔集注〕徵、證也、不㆑足㆓取以爲㆑證、以㆓其文獻不㆑足故也。❼**あらはれる。**〔左氏、昭、元〕徵爲㆓五聲㆒。〔注〕徵、驗也。❽**あらはす。**明かにする。〔集韻〕徵、一曰、明也。〔春秋、宣、十八、楚子旅卒、杜注〕以徵㆓求㆑名之僞㆒。〔釋文〕徵、明也。〔左氏、襄、二十八〕以徵㆑過也。〔注〕徵、審也。❾**なる。**出來上り。〔集韻〕徵、成也。〔淮南子、氾論訓〕故聖人見㆑化以觀㆓其徵㆒也。〔注〕徵、成也。❿**なす。**〔儀禮、士昏禮〕納徵。〔注〕使㆔使者納㆑幣以成㆓昏禮㆒。〔禮、禮運〕是故之㆑杞而不㆑足㆑徵也。〔注〕徵、成也。〔論語、八佾〕杞不㆑足㆑徵也。〔皇疏〕徵、成也。⓫**つかさどる。**〔莊子、天道〕周之徵㆑藏吏有㆓老聃者㆒。〔釋文〕一云、徵、典也。⓬**きよめる。**澂(**7－18313**)に通ず。〔說文通訓定聲〕徵、段借爲㆑澂。〔易、損〕君子以徵㆑忿窒㆑欲。〔釋文〕徵、鄭云、猶㆑清也、劉作㆑澂。⓭**とめる。**やめる。〔易、損、釋文〕徵、止也。⓮**こらしめる。**懲(**4－11424**)に通ず。〔說文通訓定聲〕徵、段借爲㆑懲。〔字彙補〕徵、與㆑懲同。〔荀子、正論〕凡刑㆑人之本、禁㆑暴惡㆑惡、且徵㆓其未㆒也。〔注〕徵、讀爲㆑懲。〔史記、建元以來侯者年表論贊〕荆荼是徵。⓯**むなしい。**塍(**3－5323**)に通ず。〔說文通訓定聲〕徵、段借爲㆑塍。〔爾雅、釋詁〕徵、虛也。⓰古は〓(**5－13343**)・〓(**5－13254**)・王(**3－4869**)・〓(**5－13255**)に作る。〔集韻〕徵、古作㆓〓・〓・王㆒。〔篇海〕〓、古文徵字。⓱征(**4－10077**)に通ず。〔正字通〕徵、與㆑征通。⓲**姓。**〔萬姓統譜〕徵、理徵之後。㊁**五音の一。**羽に次ぐ澄淸な音。五行では火に、十二支では午に、四時では夏に當る音聲。〔爾雅、釋樂〕徵、謂㆓之迭㆒。〔義疏〕其聲抑揚遞續、其音如㆓事之緒㆒而爲㆑迭。〔集韻〕徵、宮音所㆑生也。〔禮、月令〕孟夏之月、其音徵。〔注〕徵數五十四、屬㆑火者、以㆓其微淸㆒、事之象也。〔白虎通、禮樂〕徵者、止也、陽氣止。〔風俗通、聲音〕徵者、祉也、物盛大而繁

祉也。

名乘 ヨシ。ヲト。ミル。アキラ。

解字 會意。王と微の省畫との合字。本義を召さるる意とす。王は善行の挺んでる義、微は微賤の義。身微なりと雖も善行を挺んでる者は君より徵召されるものなればいふ。說文通訓定聲によれば、微よりしてあらはるるを本義とし、君より召さるる義を轉義とす。〔說文、徵、段注〕言、行於隱微、而聞達挺箸於外、是乃感召之意也。〔說文通訓定聲〕徵、愚按、王微者、自微而之箸、微者、散也、當以明信應驗爲本義、徵召・徵求爲轉義。

【徵尹】1 チョウイン 明、李繼貞(**6－14459**‥1119)の字。

【徵引】2 チョウイン 召して引進める。又、推薦する。〔魏書、肅宗紀〕門才術藝、應於時求者、自別徵引。〔南史、后妃傳論〕元嘉以降、內職稍繁、所選止於軍署、徵引極乎廝皁。

【徵要】3 チョウエウ しるし。證據。〔魏志、毛玠傳〕說臣此言、必有徵要。

【徵役】4 チョウエキ めし出して使ふ。人夫をよび出す。征役。〔周禮、春官、典祀〕徵役于司隸而役之。〔左氏、襄、三十〕子張怒、退而徵役。〔後漢書、陳忠傳〕徵役無度。〔魏志、華歆傳〕今年徵役、頗失農桑之業。〔吳志、駱統傳〕是時徵役繁數、重以疫癘、民戶損耗。〔韓愈、論淮西事宜狀〕近賊州縣、徵役百端。

【徵遠】5 チョウエン 淸、趙徵(**10－37171**‥279)の字。

【徵應】6 チョウオウ しるし。きざし。〔漢書、敍傳上〕三曰、神武有徵應。〔風俗通、正失〕必有徵應。

【徵歌】7 チョウカ 歌を徵する。歌を唱はせる。〔李白、宮中行樂詞〕選妓隨雕輦、徵歌出洞房。〔剪燈新話、滕穆醉遊聚景園記〕徵歌調玉樹、閱舞按梁州。

【徵解】8 chêng¹ chieh³ 徵收して運漕する。

【徵效】9 チョウカウ しるし。きざし。〔後漢書、張衡傳〕數有徵效。〔應璩、與廣川長岑文瑜書〕修之歷旬、靜無徵效。

【徵求】10 チョウキウ ❶徵する。求める。租稅などをとりたてる。〔史記、吳王濞傳〕侵奪諸侯之地、徵求滋多。〔漢書、萬石君傳〕惟吏多私、徵求無已。❷論文などを募集する。

〔徵求之府〕11 チョウキウノフ 徵求を掌る役所。〔魏志、杜恕傳〕國家徵求之府。

【徵吉】12 チヤウキツ 明、胡應台(**9－29400**‥409)の字。

【徵據】13 チョウキョ よりどころ。證據。〔孫公輔、新修夏邑縣城門樓記〕妖異之說、無復徵據。

【徵擧】14 チョウキョ めし出して任用する。徵用。〔後漢書、劉愷傳〕性篤古貴處士、每有徵擧、必先巖穴。

【徵銀】15 チョウギン 銀を取立てる。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕七分徵銀、三分搭錢。

【徵怪】16 チョウクワイ あやしいきざし。又、あやしいものにとりつかれる。〔漢書、張安世傳〕曾孫數有徵怪。〔注〕師古曰、徵、證也。〔孔子家語、五儀解〕寤夢徵怪、所以儆人臣者也。

【徵會】17 チョウクワイ よびあつめること。〔左氏、僖、二十八〕徵會討貳。〔左氏、宣、十七〕晉侯使郤克徵會于齊。

【徵還】18 チョウクワン めしかへす。よびかへす。〔漢書、王莽傳中〕徵還諸將在邊者。〔後漢書、馬成傳〕徵還京師。

【徵勸】19 チョウクワン 惡をこらし善をすすめる。〔柳宗元、先侍御史府君神道表〕先君之道、得詩之羣、書之政、易之直方大、春秋之徵勸。

【徵君】20 チョウクン 學問德行があつて、詔書によつて召されても仕へない士の尊稱。徵士(30)を見よ。〔後漢書、黃憲傳〕友人勸其仕、憲亦不拒之、暫到京師而還、竟無所就、年四十八終、天下號曰徵君。

【徵詣】21 チョウケイ お召しに應じていたる。〔梁肅、丞相鄴侯李泌文集序〕肅以監察御史、徵詣京師。

【徵繫】22 チョウケイ めし出して牢獄につなぐ。〔漢書、袁盎傳〕徵繫請室。

【徵縣】23 チョウケン 縣名。漢、置く。今、陝西省澄城縣の西南。〔漢書、地理志上〕左馮翊、縣二十四、徵。

【徵驗】24 チョウケン しるし。證據。ききめ。徵證。〔荀子、富國〕觀國之強弱貧富有徵驗。〔漢書、劉歆傳〕今上所考、視其古文舊書、皆有徵驗、外內相應。〔蜀志、先主劉備傳〕祖受命、圖書先著、以爲徵驗。

【徵五】25 チョウゴ 淸、汪繼昌(**6－17154**‥213)の字。

【徵候】26 チョウコウ しるし。きざし。徵兆。徵證。兆候。ききめ。げん。效驗。

【徵債】27 チョウサイ 貸金を取りたてる。〔魏書、釋老志〕徵債之科、一準舊格。

【徵在】28 チョウザイ 春秋、魯の人。孔子の母。姓は顏氏。叔梁紇に嫁し、孔子を生む。〔禮、檀弓下〕・〔史記、四十七〕。

【徵藏】29 チョウザウ 藏の名。一說に、藏をつかさどる。〔莊子、天道〕孔子西藏書於周室、子路謀曰、由聞、周之徵藏史有老聃者、免而歸居、夫子欲藏書、則試往因焉、孔子曰、善。〔釋文〕司馬云、徵藏、藏名也、一云、徵、典也、史、藏府之史。〔成玄英疏〕徵藏史、猶今之祕書官、職典墳籍。

【徵士】30 チョウシ ❶學問德行があつて、詔書によつて召されても仕へない士。徵君。〔後漢書、周磐傳〕徵士燮之宗也。〔魏志、王肅傳〕自魏初、徵士燉煌周生烈、云云、亦歷注經傳、頗傳於世。〔顏延之、陶徵士誄序〕有晉徵士、潯陽陶淵明、南嶽之幽居者也。〔注〕陶潛隱居、有詔禮徵爲著作郎、不就、故謂徵士。〔陔餘叢考、徵君徵士〕有學行之士、經詔書徵召而不仕者曰徵士、尊稱之則曰徵君、後漢書、黃憲傳、天下號憲爲徵君、魏志王肅傳、魏初、徵士燉煌周生烈注經傳、頗行於世、又管寧傳注引傅子曰、胡徵君怡怡無不愛也、年八十、而不倦于書、吾于胡徵君見之矣、胡徵君、謂胡晦也、後魏高允作徵士頌、凡四十二人、皆與允同徵者。❷明治の初年、諸藩から朝廷に召し出された人。

【徵使】31 チョウシ ハタリヅカヒ 古、年貢徵收の使をいふ。

【徵試】32 チョウシ 召し出して試みる。〔後漢書、韋彪傳〕今或從徵試輩爲大夫。

【徵辭】33 チョウジ 申し立てをあきらかにしらべる。〔左氏、隱、十一〕不徵辭、不察有罪。〔注〕言語相恨、當明徵其辭、以審曲直。

【徵收】34 チョウシウ 官が人民から租稅などを取立てる。とりたてる。〔福惠全書、蒞任部、查交代〕徵收起解存留、俱有定數。

〔徵收官吏〕35 チョウシウクワンリ 直接に租稅を徵收する官吏。

【徵日】36 チジツ 五行に配して徵にあたる日。徵は五音の一、十二支の午に當たる。〔後漢書、郎顗傳〕今月十七日戊午徵日也。

【徵集】37 チョウシフ 人又は物を召しあつめる。招集。〔後漢書、韋義傳〕徵集名儒、大定其制。

〔徵集猶豫〕38 チョウシフイウヨ もと、中等學校以上の官公立及び文部大臣認可の私立學校の在學者、並に外國在留の兵役義務者に對し、本人の願出により、前者は二十八歲迄、後者は三十二歲迄、兵役徵集を猶豫すること。

〔徵集延期〕39 チョウシフエンキ もと、徵集時の身體檢查に當つて身體未發達又は病中病後の者、公權の剝奪等附加刑ある刑事被告人、及び徵集のために家族が自活できなくなるといふ事情にある者の徵集を一年間延期すること。

〔徵集免除〕40 チョウシフメンヂョ もと、徵兵檢查の結果不合格となつた者、及び徵集延期を受けた者で、其の次年又は三箇年目に猶其の事情が繼續した場合に、徵集を免除せられること。

【徵祥】41 チョウシヤウ めでたいしるし。吉兆。徵瑞。休徵。〔易、履、視履考祥、疏〕祥、謂徵祥。〔說苑、善說〕天瑞並至、徵祥畢見。〔吳志、華覈傳〕徵祥符瑞、前後屢臻。〔晉書、石勒載記上〕嘉瑞徵祥、日月相繼。

【徵償】42 チョウシヤウ つぐなひを請求すること。

〔徵償處分〕43 チョウシヤウシヨブン 犯罪人に裁判費用、又は贓物の還給賠償等を命ずる處分。〔舊刑法、第二章、第四節〕。

【徵守】44 チョウシユ めし出して守らしめる。〔周禮、春官、典瑞〕珍圭以徵守、以卹兇荒。

【徵取】45 チョウシユ とりあげる。とりたてる。〔南史、陳後主傳〕稅江稅市、徵取百端。

【徵書】46 チョウシヨ ❶しるしの文書。〔後漢書、章帝八王、千乘貞王伉傳〕初迎立靈帝、道路流言、悝恨不得立、欲鈔徵書。❷徵召のかきつけ。めしぶみ。〔後漢書、郎顗傳〕聞徵書到、夜縣印綬於縣廷而遁去。

【徵舒】47 チョウジョ 陳の夏徵舒をいふ。夏徵舒(**3－57**

20‥347)を見よ。〔左氏、宣、十一〕殺二夏徵舒一、轘二諸栗門一。〔史記、陳杞世家〕公戲二二子一曰、徵舒似レ汝。〔枚乘、七發〕先施・徵舒・陽文。

【徵證】48 チョウショウ しるし。よりどころ。徵驗。

【徵色】49 チョウショク かほいろにあらはれる。〔孟子、告子下〕徵二於色一、發二於聲一、而後喩。

【徵燭】50 チョウショク ともしびを呼びもとめること。〔呂覽、達鬱〕桓公樂レ之徵レ燭。〔注〕徵、求也。

【徵信】51 チョウシン まことをただすこと。又、しるし。〔柳宗元、懲咎賦〕再徵二信乎策書一兮、謂炯然而不レ惑。

〔徵信所〕52 chêng¹ hsin⁴ suo³ 工廠・商店・個人などの身上家業財産等を調査するところ。他人の依託によつて營利的に行ふものと、銀行・工商業聯合所等の自衞のために行ふものとがある。

〔徵信錄〕53 chêng¹ hsin⁴ lu⁴ 地方の公益事業の決算報告書。

【徵訊】54 チョウジン 召して問ひ尋ねる。〔國語、晉語八〕吾子之心有レ出焉、可二徵訊一也。

【徵瑞】55 チョウズイ めでたいしるし。嘉瑞。祥瑞。〔晉書、成公綏傳〕若乃徵瑞表レ祥、災變呈レ異。〔嵇含、長生樹賦〕美二我親之仁孝一、固二徵瑞之必招一。

【徵崇】56 チョウスウ 三國呉、河南の人。字は子和。本姓は李。亂に遭ひ、姓を更む。易・春秋・左氏傳を治め、內術を善くす。官は太子率更令。〔三國志、五十三〕。

【徵淸】57 チセイ 五音中の徵の聲。其の音が淸澄であるからいふ。〔漢書、禮樂志〕函宮吐レ角激二徵淸一。

【徵聲】58 チセイ 五音中の徵の聲。〔管子、幼官〕味二鹹味一、聽二徵聲一。〔白虎通、禮樂〕聞二徵聲一、莫下不二喜養好施一者上。

【徵稅】59 チョウゼイ 租稅を取りたてる。〔周禮、地官、序官、閭師、注〕閭者徵二民之稅一。〔淸國行政法汎論、戶部、職權〕後因二人民轉住移居一、徵稅極難。

【徵召】60 チョウセウ めし出すこと。徵招。〔說文、檄、段注〕李賢注光武紀曰、說文以二木簡一爲レ書、長尺二寸、謂二之檄一、以徵召也。〔周禮、天官、宰夫、掌二百官府之徵令一、注〕別二異諸官之八職一、以備二王之徵召一。〔漢書、元帝紀〕今不良之吏、覆二案小罪一、徵二召證案一、興二不急之事一、以妨二百姓一。〔後漢書、文苑下、邊讓傳〕大將軍何進、聞二讓才名一、欲三辟二命之一、恐レ不レ至、詭以二軍事一徵召、既到、署二令吏一。〔風俗通、正失〕東無レ故而見二徵召一。

【徵招】61 チョウセウ ㊀めしまねく。官が召出して任用する。徵召。〔韓愈、贈二崔立之評事一詩〕勸レ君韜二養待二徵招一、不レ用三雕琢愁二肝腎一。㊁チセウ 徵招角招を見よ。㊂詞牌（10―35394‥45′）の名。〔詞律〕按、此調爲二姜白石自製曲一、當下以二姜詞一爲中正格上。〔姜詞自序〕越中山水幽遠、予數上二下西興錢靑閒一、襟抱淸曠、欲レ家焉而未レ得、作二徵招一以寄レ興。

〔徵招角招〕62 チセウカクセウ 古の樂名。徵招と角招。齊の景公が太師に作らしめたもの。招は韶、舜の樂。韶に法つて作り、且つ其の調が各〻五音の徵と角とに合するから名づく。〔孟子、梁惠王下〕爲レ我作二君臣相說之樂一、蓋徵招角招是也。〔注〕徵招角招、其所レ作樂章名也。〔集注〕樂有二五聲一、三曰レ角爲レ民、四曰レ徵爲レ事、招、舜樂也、其詩徵招角招之詩也。〔集說〕衡案、招・韶通、韶、舜樂名、陳、舜後、世傳二其樂一、陳完奔レ齊、故亦善二韶樂一、孔子在レ齊聞レ韶曰、不レ圖爲レ樂之至二於此一、是也、大師效二其聲一作レ樂、而其調合二徵與レ角、故名二徵招角招一耳。

【徵選】63 チョウセン 選び召し出す。〔韋昭、博奕論〕徵選者、不レ由二其道一。

【徵租】64 チョウソ 租稅を取りたてる。〔北齊書、蘇瓊傳〕州計レ戶徵レ租。

【徵側】65 チョウソク 後漢の人。交阯麊泠縣の雒將の女。朱䳒の人詩索の妻となる。甚だ雄勇。交阯の太守蘇定に法を以て縛せられるや、怒つて妹徵貳と共に兵を擧げて反し、郡を陷れて定を逐ひ、自立して王となり、嶺南六十五城を略す。建武十九年、馬援・劉隆等に討平され、妹と共に斬らる。〔後漢書、一百十六〕。

【徵到】66 チョウタウ 召されて到る。〔風俗通、正失〕及二後徵到一、後レ期不レ得レ立。

【徵知】67 チョウチ まねきよせて知る。〔荀子、正名〕心有二徵知一、徵知則緣レ耳而知レ聲可也。〔注〕徵、召也、言、心能召二萬物一而知レ之。

【徵逐】68 チョウチク 呼びあひ逐ひあふ。出入する。友人の親しいこと。〔韓愈、柳子厚墓誌銘〕今夫平居里巷相慕悅、酒食游戲相徵逐。

【徵仲】69 チョウチュウ 明、文徵明（5―13450‥1022）の「字。

【徵兆】70 チョウテウ きざし。まへじらせ。〔素問、天元紀大論〕水火者、陰陽之徵兆也。〔漢書、兒寬傳〕精神所レ鄕、徵兆必報。〔說苑、辨物〕亦有二徵兆之見一乎。

【徵調】71 チョウテウ 令を下して兵を徵し糧食を調へる。〔後漢書、杜詩傳〕舊制發レ兵、皆以二虎符一、其餘徵調、竹使而已。〔福惠全書、郵政部、船夫車驢〕向者軍興之際、兵馬徵調。

【徵納】72 チョウナウ 召し出すこと。〔後漢書、班固傳〕如蒙二徵納一、以輔二高明一。

【徵亡】73 チョウバウ ほろびるしるし。〔中論、法象〕郤犨以二傲享一徵亡、冀缺以二敬妻一受レ服。〔後漢書、靈帝紀贊〕靈帝負乘、委二體宦孽一、徵亡備レ兆、小雅盡缺。

【徵伯】74 チョウハク 明、李兆先（6―14459‥1784）の「字。

【徵發】75 チョウハツ 戰時又は事變などで人夫を募集し、或は又物品をとりたてること。〔史記、平準書〕徵發之士益鮮。〔漢書、谷永傳〕徵發如レ雨。〔北史、魏宣武帝紀〕詔二諸州一、蠲二停徭役一、不レ得三橫有二徵發一。

【徵拔】76 チョウバツ 選び取る。〔後漢書、蓋勳傳〕徵二拔英俊一、以興二漢室一。

【徵比】77 チョウヒ 徵發と檢閱。租稅を徵收して其の多寡を比べること。〔周禮、地官、縣正〕各掌二其縣之政令並徵比一。〔注〕徵、徵召也、比、案比。〔疏〕謂二徵發校比之等一也。

【徵賁】78 チョウヒ 求めかざる。又、賢人をまねく。〔後漢書、逸民傳序〕旌帛蒲車之所二徵賁一、相二望於巖中一矣。〔文選注〕銑曰、徵、求、賁、飾也。

【徵憑】79 チョウヒョウ よりどころ。あかし。しるし。徵據(13)に同じ。

【徵赴】80 チョウフ 召されて行くこと。〔北史、崔瞻傳〕除二太子中庶子一、徵赴二晉陽一。

【徵符】81 チョウフ きざし。しるし。〔後漢書、袁譚傳〕覽二古今之擧措一、覩二興敗之徵符一。

【徵賦】82 チョウフ 年貢を徵收すること。〔莊子、漁父〕徵賦不レ屬。〔韓非子、顯學〕徵二賦錢粟一、以實二倉庫一。〔後漢書、龐參傳〕外傷二羌虜一、內困二徵賦一。〔魏志、高堂隆傳〕役二其士民一、重二其徵賦一、下不レ堪レ命、吁嗟日甚。〔沈約、齊故安陸昭王碑文〕徵賦嚴切、惟利是求。

【徵部】83 ハタリベ 古、郡司の下に在つて貢賦を徵收する役。〔貞觀三年十月十九日、立券文解〕徵部、正八位下。

【徵文】84 チョウブン ㊀證據を文書に取ること。〔晉書、刑法志〕主者惟當二徵レ文據レ法、以レ事爲レ斷。〔宋書、禮志三〕正應推レ例求レ意、不レ可レ動二必徵レ文。㊁人に文章を求めること。〔白居易、與二諸同年一賀二座主一云云詩〕寵二新卿一典レ禮、會二盛客一徵レ文。㊂chêng¹ wen² 懸賞文。

【徵兵】85 チョウヘイ ㊀兵士を召しよせること。兵を招致する。〔史記、趙世家〕以レ彊徵二兵於韓一。〔史記、鯨布傳〕徵二兵九江一。㊁國家が法律により徵兵適齡の者を召し出して兵役につかしめること。

〔徵兵官〕86 チョウヘイクヮン もと、徵兵事務を掌る官吏。

〔徵兵猶豫〕87 チョウヘイイウヨ 徵集猶豫に同じ。

〔徵兵忌避〕88 チョウヘイキヒ もと、故意に身體を傷つけ、或は逃げ隱れなどして兵役を厭ひ免れたこと。

〔徵兵檢查〕89 チョウヘイケンサ もと、徵兵官が每年各地で其の地方の壯丁を召集し、體格・學力其の他を檢查すること。

〔徵兵適齡〕90 チョウヘイテキレイ もと、兵役に就くべき年「齡。卽ち滿二十歲。

【徵聘】91 チョウヘイ ㊀聘問を要求する。〔左氏、宣、九〕王使二來徵レ聘。㊁禮を以てまねく。學行ある士を朝廷が禮を以て召聘すること。徵招。〔後漢書、陳忠傳〕臨政之初、宜下徵二聘賢才一、以宣中助風化上。〔後漢書、袁閎傳〕徵聘擧召皆不レ應。〔梁簡文帝、大法頌〕輕軺徵聘、旌帛搜揚。

【徵幣】92 チョウヘイ 幣物を納れて婚を成すこと。〔後漢書、桓帝懿獻皇后紀〕宜下備二禮章一、時進中徵幣上。

【徵表】93 チョウヘウ きざし。〔呂覽、觀表〕先知必審二徵表一。

【徵辟】94 チョウヘキ 布衣の者を起用する。微賤の者を起用して官職を授けること。徵も辟も召の義。

天子よりするを徵といひ、州府よりするを辟といふ。〔後漢書、霍諝傳〕位極二州郡一、日望二徵辟一。〔晉書、王裒傳〕痛二父非命一、隱居教授、三徵七辟、皆不レ就。

【徵甫】95（チョウホ） 明、鄧欽文（11－39630‥132）の字。

【徵捕】96（チョウホ） 召しとらへる。〔漢書、文帝紀〕無レ得レ擅二徵捕一。

【徵募】97（チョウボ） 現役に服せしめるため招集すること。

【徵命】98（チョウメイ） よび出し。おめし。〔後漢書、周勰傳〕被二其徵命一者、莫二敢不レ應。〔魏志、王烈傳〕前後徵命、終不レ降レ志。

【徵免】99（チョウメン） ㊀課役の徵收と免除。徵免課役帳を見よ。㊁chêng¹ mien³ 免稅する。

【徵免課役帳】100（チョウメンクワエキチヤウ） 課役の徵收または免除に關することを記入した帳簿。〔式部省式、上〕凡四季徵免課役帳、毎季造二三通一。

【徵輸】101（チョウユ） 徵收する。〔福惠全書、涖任部、詳文贅說〕將下暫緩二徵輸之苦一云云、整中理舊業上。

【徵餘】102（チョウヨ） 篠原元博の號。篠原徵餘（8－26328‥27）を見よ。

【徵用】103（チョウヨウ） 召出して任用する。登用する。徵庸。徵擧。〔史記、儒林傳〕孝文時頗徵用。〔漢書、元帝紀贊〕徵二用儒生一、委レ之以レ政。〔後漢書、文苑上、黃香傳〕得下以二弱冠一特蒙中徵用上。〔論衡、氣壽〕舜生三十徵用。〔魏志、華歆傳〕若有二秀異一、可二特徵用一。

【徵庸】104（チョウヨウ） 召出して任用する。徵用に同じ。〔書、舜典〕舜生三十徵庸。〔傳〕言三其始見二試用一。〔祭傳〕徵、召也、舜生三十年、堯方召用。〔孔叢子、論書〕昔舜三十徵庸。

【徵蘭】105（チョウラン） 鄭の文公の妾燕姞が、文公から賜った蘭を以てみごもった子供が文公の子である證とした故事。〔左氏、宣、三〕文公見レ之、與二之蘭一而御レ之、辭曰、妾不才、幸而有レ子、將レ不レ信、敢徵レ蘭乎。

【徵令】106（チョウレイ） ㊀徵召の令。召しぶみ。〔韓非子、難、一〕當世之行事、都丞之下二徵令一者、不レ辟二尊貴一、不レ就二卑賤一。〔新書、解縣〕蠻夷徵令。㊁徵役・徵賦の法令を宣布する。〔周禮、天官、司書〕以逆二羣吏之徵令一。〔孫詒讓正義〕徵令、謂三宣二布法令一、通二晐徵役徵賦二義一。

【徵斂】107（チョウレン） とりたてる。收める。〔周禮、地官、里宰〕以待二有司之政令一、而徵二斂其財賦一。〔左氏、昭、二十〕徵斂無レ度。

〔徵斂無レ期〕108（チョウレンキナシ） 時期も定めずにとり立てる。〔呂覽、懷寵〕徵斂無レ期、來索無レ厭。

【徵賢堂】109（チョウケンダウ） 清、曹言純（5－14297‥224）の室名。

【徵古堂】110（チョウコダウ） 明、陳文濤（11－41698‥1236）の室名。

【徵仕郎】111（チョウシラウ） 官名。唐、徵事郎を置いて文散官とし、歷代之に因る。明、徵仕郎と改め、文職從七品の封階とし、清、之に仍る。〔續通典、職官、明官品〕從七品、徵仕郎。〔輟耕錄、官制資品〕徵仕郎。〔清會典事例、吏部、封贈〕正七品文林郎、吏員出身者宣議郎、從七品徵仕郎、正八品修職郎、從八品修職佐郎。

【徵羽之操】112（チウノサウ） 正しい音樂。徵羽は五音の徵と羽。〔淮南子、說林訓〕徵羽之操、不レ入二鄙人之耳一。

【⿰彳喬】10240 ケウ ゲウ 〔玉篇〕巨夭切 ［篠］

㊀ゆくさま。〔玉篇〕⿰彳喬、行皃。㊁僑（1－1088）の譌字。〔正字通〕⿰彳喬、僑字之譌。

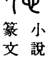
【⿰彳款】10241 クワン 〔集韻〕苦管切 ［旱］

しづかにゆく。⿰彳款徯。〔集韻〕⿰彳款、⿰彳款徯、徐行。

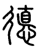
【徶】10242 ヘツ ベチ 〔集韻〕蒲結切 ［屑］

衣服のひるがへるさま。徶循。或は⿰亻敝（1－1082）に作る。〔集韻〕徶、徶循、衣服婆娑皃、或从レ人。〔史記、司馬相如傳〕媥姺徶循。

【德】10243 ［一］トク 〔集韻〕的則切 ［職］ ㄉㄜˊ tê² ［二］チ 〔集韻〕竹吏切 ［寘］



小篆（說文）



小篆（段注本）

［一］㊀心に養ひ身に得たるもの。㋑よい品格。悳（4－10724）に通ず。〔說文通訓定聲〕德、叚借爲レ悳。〔廣雅、釋詁三〕德、得也。〔釋名、釋言語〕德、得也、得二事宜一也。〔易、乾〕君子進レ德修レ業。〔周禮、天官、九嬪〕婦德・婦言・婦容・婦功。〔注〕婦德、貞順也。〔周禮、地官、師氏〕以二三德一教二國子一。〔注〕德行、內外之稱、在レ心爲レ德、施レ之爲レ行。〔禮、樂記〕德者、得也。〔禮、曲禮上〕道德仁義。〔疏〕德者、得レ理之稱。〔左氏、桓、二〕昭レ德塞レ違。〔疏〕在レ心爲レ德、德、是行之未レ發者也、德者、得也、謂下內得二於心一、外得中於物上。〔論語、爲政〕導レ之以レ德。〔皇疏〕德、得也。〔莊子、外物〕知徹爲レ德。〔顏氏家訓、書證〕春秋說、以二十四心一爲レ德。〔晉書音義、下〕悳、與レ德同。㋺ひとがら。品格。人の思想・生活を統一するもの。〔書、盤庚下〕用降二我凶德一。〔傳〕下二去凶惡之德一。〔禮、樂記〕德者、性之端者也。〔莊子、天地〕執レ德之謂レ紀。〔注〕德者、人之綱要。〔韓非子、解老〕德也者、人之所二以建一レ生也。〔淮南子、繆稱訓〕德者、性之所レ扶也。〔韓愈、原道〕德有レ凶有レ吉。㋩性行。氣質。〔左氏、成、十六〕民生厚而德正。〔疏〕德、謂二人之性行一。〔莊子、列禦寇〕凶德有レ五。㋥本性。〔大戴禮、四代〕有二天德一、有二地德一、有二人德一、此謂二三德一。〔白虎通、封禪〕地以レ厚爲レ德。㊁行爲。節操。〔論語、子張〕大德不レ踰レ閑、小德出入可也。〔論衡、書說〕實行爲レ德。㊂賢者。〔周禮、夏官、司士〕以レ德詔レ爵。〔注〕德、謂二賢者一。〔禮、文王世子〕或以レ德進。〔疏〕德、謂下有二道德一者上。㊃はたらき。能力。作用。〔易、繫辭下〕通二神明之德一。〔九家注〕陰陽交通、謂二之德一。〔中庸〕鬼神之爲レ德、其盛矣乎。㊄眞理。〔韓詩外傳、五〕至精而妙二乎天地之間一者、德也。〔莊子、天地〕通二於天地一者、德也。〔管子、心術〕化二育萬物一、謂二之德一。〔新書、道德說〕德者變及物理之所レ出也。㊅はじめ。〔淮南子、天文訓〕故曰、冬至爲レ德。〔注〕德、始生也。㊆四時の旺氣。〔禮、月令〕某日立春、盛德在レ木。㊇をしへ。〔禮、月令〕命レ相布レ德和レ令。〔注〕德、謂二善教一也。〔禮、內則〕降二德于衆兆民一。〔注〕德、猶レ教也。㊈めぐみ。たまもの。恩惠。〔左氏、襄、七〕恤レ民爲レ德。〔論語、憲問〕何以報レ德。〔鄭注〕德、謂二恩施一也。〔韓非子、二柄〕慶賞之謂レ德。〔淮南子、俶眞訓〕食二于地德一。〔注〕地德、五穀。〔戰國、秦策〕西德二於秦一。〔注〕德、恩也。〔呂覽、報恩〕張儀所レ德二于天下一者。〔注〕德、猶レ恩也。㊉恩惠に感じる。ありがたくおもふ。〔左氏、僖、二十四〕王德二狄人一。〔疏〕荷二其恩一者、謂二之德一。〔左氏、成、三〕然卽德レ我乎。⑫鳳凰のくびすぢのかざり。〔山海經、南山經〕五采而文、名曰二鳳皇一、首文曰レ德。⑬さいはひ。幸福。福（8－24768）に通ず。〔說文通訓定聲〕德、叚借爲レ福。〔禮、哀公問〕百姓之德也。

〔注〕德、猶レ福也。⓮たよりがよい。利益。〔國語、周語下〕下非二地德一。〔注〕德、猶レ利也。⓯あたる。直(8－23136)に通ず。〔說文通訓定聲〕德、叚借爲レ直、易繫辭、有レ功而不レ德、按、讀如二直而勿レ有之直一。⓰たつ。植(6－15023)に通ず。〔說文通訓定聲〕德、叚借爲レ植、禮記玉藻、立容德、按、與二山立一同意。⓱のぼる。〔說文〕德、升也、从レ彳悳聲。〔段注〕升、當レ作レ登、辵部曰、遷、登也、此當レ同レ之、云云、唐人詩、千水千山得得來、得卽德也、云云、今俗謂二用レ力徙一レ前曰レ德、古語也。〔易、剝〕君子德レ車。〔禮、曲禮上〕德車結レ旌。〔注〕德車、乘車。⓲得(4－10137)に通ず。〔易、升〕以レ順德。〔釋文〕德、姚本作レ得。⓳易の乾卦の象。〔易、繫辭上〕德言盛。〔虞注〕乾爲二盛德一。⓴諡。〔逸周書、諡法解〕謀慮不レ威曰レ德。〔史記正義、諡法解〕綏二柔士民一曰レ德、諫爭不レ威曰レ德、執レ義揚レ善曰レ德。㉑姓。〔萬姓統譜〕德、見二姓苑一。㉒國の名。ドイツ。〔淸會典事例、各國總理事務衙門、官制〕十一年、出レ使駐二俄・德・奥・和四國一人一。［二］置(9－28298)に通ず。〔集韻〕德、禮、立容德、蓋如レ有二所レ置物於前一也、徐邈讀。［邦］とく。財産。

［名乘］アツ。サト。ナル。ナリ。ノリ。ヨシ。ヤス。トミ。トク。エ。

【德渥】1（トクアク） めぐみのあついこと。〔新書、禮〕德渥澤洽、調和大暢。

【德安】2（トクアン） ❶府名。宋、置く。漢の江夏郡の地。淸には隨州及び安陸・雲夢・應城・應山の五縣を管轄す。今、湖北省安陸縣治。〔讀史方輿紀要、湖廣、德安府〕禹貢荊州之域、春秋時𨛬子國、後屬レ楚、秦屬二南郡一、漢屬二江夏郡一、後漢因レ之、晉亦屬二江夏郡一云云、宋仍曰二安州一、熙寧初、升爲二德安府一、元因レ之、明吳元年、改二德安州一、洪武九年、隸二黃州府一、十三年、復爲二德安府一、領二州一、縣五一、今仍レ舊。〔淸史稿、地理志〕湖北、德安府、領二州一、縣四一、安陸、雲夢、應城、隨州、應山。❷縣名。五代吳、置く。江西省九江縣の西南。〔讀史方輿紀要、江西、九江府〕德安縣、漢爲二歷陵縣一、屬二豫章郡一、後漢因レ之、晉屬二武昌郡一、東晉初、省入二柴桑一、隋爲二湓城縣地一、唐爲二尋陽縣地一、貞元中、置二蒲塘場一、五代楊吳順義七年、升二德安縣一、屬二尋陽郡一。〔淸史稿、地理志〕江西、九江府、縣五、德安。❸隋、智顗(5－14010・・26)の字。

【德安堂】3（トクアンダウ） 宋、堯允恭(3－5272・・75)の室名。

【德意】4（トクイ） 天子が天下に恩德を布く心。〔史記、秦始皇紀〕立レ石刻頌二秦德一、明二德意一。〔李覯、袁州州學記〕有三屈レ力殫レ慮、祇順二德意一。

【德意志】4′（ドイツ） ドイツ。獨逸。〔淸會典、總理各國事務衙門〕凡有レ約之國十有六、曰、德意志。

【德威】5（トクヰ） ❶德の威力。〔書、呂刑〕德威惟畏、德明惟明。❷字號。㋑金、楊仲武(6－15112・・70)の字。㋺明、王鈇(7－20823・・929)の字。

【德偉】6（トクヰ） 字號。❶後漢、金禕(11－40152・・16)の字。❷後晉、田武(7－21723・・268)の字。

【德友】7（トクイウ） 德を以て交る友。〔莊子、德充符〕吾與二孔丘一、非二君臣一也、德友而已矣。

【德由】8（トクイウ） 宋、武允蹈(6－16273・・410′)の字。

【德祐】9（トクイウ） ❶南宋、恭帝、趙㬎(10－37171・・194)の年號。(1275－1276) ❷三國吳、姚信(3－6202・・69)の字。

【德猷】11（トクイウ） 晉、阮种(11－41569・・32)の字。

【德育】12（トクイク） 德義心を養成する教育。

【德允】13（トクイン） 明、張問達(4－9812・・1551)の字。

【德尹】14（トクイン） 淸、查嗣瑮(6－14643・・97)の字。

【德音】15（トクイン トクオン） ❶善いことば。立派なことば。〔詩、大雅、皇矣〕帝度二其心一、貊其德音、其德克明。〔左氏、昭、十二〕式昭二德音一。〔國語、楚語上〕德音以揚レ之。❷天子のおことば。〔漢書、董仲舒傳〕陛下發二德音一、下二明詔一。❸天子の御德。〔漢書、匡衡傳〕臣衡材駑、無下以輔二相善義一、宣中揚德音上。❹よい評判。令聞。德聲。德望。〔詩、豳風、狼跋〕公孫碩膚、德音不レ瑕。〔集傳〕德音、猶二令聞一也。〔荀子、王霸〕厚二德音一以先レ之。❺德と音樂。〔國語、周語下〕道レ之以二中德一、詠レ之以二中音一、德音不レ衍。❻德のあらはれた音。音樂。〔禮、樂記〕天下大定、然後正二六律一、和二五聲一、弦二歌詩頌一、此之謂二德音一、德音之謂レ樂。〔注〕此有德之音、所謂樂也。❼書翰文用語。御消息の意。❽淸、夏鑾(當塗の人)(3－5720・・265)の字。

【德音莫違】15′（トクインタガフナシ） 夫婦のかはした言葉に變化相違がない。〔詩、邶風、谷風〕德音莫レ違、及レ爾同レ死。〔箋〕夫婦之言、無二相違者一。〔會箋〕德音、是熟套語、包二威儀言語性行善惡一、故時屬二一偏一、或屬二一事一、而義各有レ所レ當、此章則以二相愛之心一而言。

【德音無良】16（トクインリヤウナシ） 言語に實のないこと。又、有德の評判があつて、其の實のないこと。〔詩、邶風、日月〕日居月諸、出レ自二東方一、乃如レ之人兮、德音無レ良、胡能有レ定、俾二也可一レ忘。〔箋〕無三善恩意之聲、語二於我一也。〔集傳〕德音、美二其辭一、無レ良、醜二其實一也。

【德隱】17（トクイン） 字號。❶五代、前蜀、貫休(10－36681・・13)の字。❷淸、趙昭(10－37171・・250)の字。

【德宇】18（トクウ） ❶器量。度量。〔國語、晉語四〕今君之德宇、何不二寬裕一也。〔注〕宇、覆也。〔魏書、王粲傳評〕其沖虛德宇、未レ若二徐幹之粹一也。❷德が天下をおほふこと。〔張衡、東京賦〕德寓天覆。〔注〕善曰、寓、與レ宇同。

【德英】19（トクエイ） 宋、項充(12－43343・・26)の字。

【德榮】20（トクエイ） ❶德のさかえ。〔國語、魯語上〕以二德榮一爲二國華一。❷縣名。淸、置く。西康省巴安縣の南。金沙江の東岸。もと巴塘土司の地。

【德叡】21（トクエイ） 晉、王長文(7－20823・・1907)の字。

【德繇】22（トクエウ） 宋、張若谷(4－9812・・1172)の字。

【德曜】23（トクエウ） 後漢、孟光(3－6960・・64)の字。

【德耀】24（トクエウ） 字號。❶後漢、孟光(3－6960・・64)の字。❷明、鄒維璉(11－39562・・68)の字。

【德耀二乎海外一】24′（トクカイグワイニカガヤク） 有德の名聲が外國まで聞える。〔呂覽、審分〕淸靜以公、神通二乎六合一、德耀二乎海外一。

【德延】25（トクエン） 宋、嚴九齡(2－4589・・275′)の字。

【德淵】26（トクエン） 字號。❶三國吳、徐原(4－10110・・124)の字。❷晉、楊泉(6－15112・・256)の字。❸宋、趙與篪(10－37171・・918′)の字。❹宋、李澮(6－14459・・441)の字。

【德豔】27（トクエン） 三國蜀、宗預(3－7106・・271)の字。

【德園】28（トクエン） 淸、潘庭筠(7－18236・・206)の號。

【德遠】29（トクエン） 字號。❶北齊、元文遙(1－1340・・732)の字。❷前蜀、貫休(10－36681・・13)の字。❸宋、印應飛(2－2848・・184)の字。❹宋、黃績(12－47926・・564)の字。❺宋、吳沆(2－3365・・58)の字。❻宋、詹適(10－35458・・25)の字。❼宋、張威(4－9812・・10)の字。❽宋、張浚(4－9812・・399)の字。❾宋、木天駿(6－14415・・545)の字。❿宋、李浩(建昌の人)(6－14459・・120)の字。⓫明、殷士望(6－16627・・160)の字。⓬明、陳邦瞻(11－41698・・1186)の字。

【德遠而後興】29′（トクトホクシテシカルノチオコル） その德が遠方まで及ぶやうになつて始めて興隆する。〔左氏、昭、四〕遠レ惡而後棄、善亦如レ之、德遠而後興。

【德翁】30（トクヲウ） 宋、任伯雨(1－416・・246)の字。

【德應】31（トクオウ） 宋、陳稾(11－41698・・455)の字。

【德溫】32（トクヲン） 字號。❶唐、黃璞(12－47926・・767)の字。❷後周、白文珂(8－22678・・1397)の字。❸宋、汪洙(6－17154・・71)の字。❹明、金瑤(11－40152・・40)の字。❺明、邵玉(11－39343・・18)の字。❻明、薛瑄(9－32123・・91)の字。❼明、汪如玉(6－17154　260)の字。

【德雅】33（トクガ） 後漢、唐頌(2－3709・・191)の字。

【德江】34（トクカウ） ❶縣名。民國、置く。漢の西陽縣の地。貴州省思南縣の西北。烏江の東岸。❷城の名。雲南省楚雄縣の西北。〔元史、地理志四〕及三高昇泰執二大理國柄一、封二其姪子明量於威楚一、築二外城一、號二德江城一、傳至二其裔長壽一、元憲宗三年、征二大理一平レ之。

【德行】35（トクカウ） ❶德ある行。立派な行。〔易、坎〕君子以常二德行一。〔周禮、天官、宮正〕糾二其德行一。〔左氏、襄、三十一〕德行可レ象。〔論語、先進〕德行、顏淵・閔子騫・冉伯牛・仲弓。〔孝經、卿大夫章〕非二先王之德行一、不二敢行一。〔孟子、公孫丑上〕冉牛・閔

子・顏淵、善言二德行一。〔管子、法禁〕德行必有レ所レ是。〔墨子、尙賢上〕厚二乎德行一。〔史記、趙世家〕其德行非レ布二於海內一也。〔說苑、得恩〕高明至賢、德行全誠。〔北史、牛弘傳〕先二德行一而後二文才一。❷德と行。〔周禮、地官、師氏〕二曰、敏德以爲二行本一。〔注〕德行、內外之稱、在レ心爲レ德、施レ之爲レ行。〔疏〕案、禮記云、恥下有二其德一而無中其行上、則德在レ內、行在レ外也。❸世說新語の篇名。❹宋、趙與旹(10-37171‥917)の字。

【德亨】36 トクカウ　字號。❶宋、黃渙(12-47926‥307)の字。

【德昂】37 トクカウ　字號。❶三國蜀、李恢(6-14459‥236)の字。❷宋、章元崇(8-25761‥194)の字。

【德高】38 トクカウ　字號。❶後漢、韓嵩(12-43159‥138)の字。❷宋、張子蓋(4-9812‥1091)の字。

【德剛】39 トクガウ　字號。❶宋、婁南良(3-6383‥52)の字。❷元、張柔(4-9812‥368)の字。❸明、龍鐔(12-48818‥434)の字。

【德號】40 トクガウ　❶天子たる德。〔後漢書、郎顗傳〕宜下開二發德號一、爵レ賢命上レ士。❷天子の號令。〔司馬相如、上林賦〕出二德號一省二刑罰一。〔注〕銑曰、出二德號一、謂レ出二號令一也。

【德格】41 トクカク　❶縣名。民國、置く。西康省白玉縣の北。金沙江の東。❷清、蒙古鑲紅旗人。姓は阿蘇特氏。戰功あり、官は荆州左翼副都統。〔國朝耆獻類徵、三百十〕

【德涵】42 トクカン　明、康海(4-9376‥15)の字。

【德己】43 トクキ　唐、李景溫(6-14459‥1084)の字。

【德起】44 トクキ　宋、蕭振(9-32012‥178)の字。

【德基】45 トクキ　字號。❶陳、韋載(12-43108‥59)の字。❷後晉、李從溫(6-14459‥1426)の字。❸宋、高宗の字。趙構(10-37171‥165)を見よ。❹元、郭鄧(11-39474‥160)の字。❺明、吳履(2-3365‥400)の字。❻明、陳履(11-41698‥585)の字。❼明、林有臺(6-14551‥263)の字。❽清、甘福(7-21643‥181)の字。

【德規】46 トクキ　梁、蕭方矩(9-32012‥495)の字。

【德幾】47 トクキ　❶生動の機。生きんとするきざし。德機(52)の❶に同じ。〔列子、黃帝〕是殆見二吾杜二德幾一也。〔鬳齋口義〕德幾、生意也。❷德の機祥。德のしるし。〔呂覽、報更〕此書之所謂德幾無レ小者也。

【德煇】48 トクキ　德のかがやき。

【德煇動二于內一】49 トクキウチニウゴク　顏色が潤澤で、中和の心を內にもつ。〔禮、樂記〕德煇動二乎內一、而民莫レ不二承聽一。〔注〕德煇、顏色潤澤也。

【德輝】50 トクキ　❶德のかがやき。又、德のあらはれ。〔賈誼、弔二屈原一文〕鳳皇翔二于千仞一兮、覽二德輝一而下レ之。〔顏延之、贈二王太常一詩〕德輝灼二邦懋一。❷字號。㋑唐、柳璟(6-14662‥89)の字。㋺五代吳越、錢元璙(11-40563‥302)の字。㋩宋、胡珵(9-29400‥267)の字。㋥元、鄭光祖(11-39647‥347)の字。㋭明、尹鳳(4-7631‥85)の字。㋬明、甘瑩(7-21643‥7)の字。㋣明、景星(5-13983‥183)の字。㋠明、顧昌(12-43689‥93)の字。㋷明、鄒維璉(11-39562‥68)の字。㋦明、孫良(3-6987‥295)の字。㋸明、張昇(保山の人)(4-9812‥428)の字。㋾明、陳昇(11-41698‥361)の字。㋻明、丁杲(1-2‥143)の字。㋕明、傅鳳翔(1-939‥205)の字。㋵明、余珊(1-515‥30)の字。㋟明、王澄(7-20823‥804)の字。

【德器】51 トクキ　❶立派な人格。〔漢書、杜周傳贊〕德器自過、爵位尊顯、繼レ世立レ朝。〔吳志、賀邵傳〕陛下宜下勉崇二德器一、以光中前烈上。❷明、陳器(11-41698‥132)の字。

【德機】52 トクキ　❶生動の機。生きんとするきざし。德幾(47)の❶に同じ。〔莊子、應帝王〕吾示レ之以二地文一、萌乎不レ震不レ正、是殆見二吾杜二德機一也。❷元、范梈(9-30834‥104)の字。

【德義】53 トクギ　❶人の履み行ふべき義理。道德上の義務。〔左氏、宣、十五〕敬二奉德義一。〔國語、晉語一〕德義不レ行、禮義不レ則。〔管子、形勢解〕德義者行之美者也。〔墨子、尙賢中〕夫無二德義一、將何以哉。〔史記、吳起傳〕德義不レ修。〔漢書、張良傳〕皆爭戴二陛下德義一。❷賞罰その當を得ること。〔國語、周語中〕主二德義一而已。〔注〕賞得二其人一、罰當二其罪一、是爲二德義一。❸明、戰正(5-11667‥89)の字。

【德義心】54 トクギシン　道德上の義務を重んずる心。

【德儀】55 トクギ　後晉、梁文矩(6-14825‥324)の字。

【德誼】56 トクギ　❶德義(53)に同じ。〔孝經、三才章〕陳レ之以二德誼一。❷宋、郭欽止(11-39474‥271)の字。

【德久】57 トクキウ　字號。❶宋、鄒柄(11-39562‥49)の字。❷宋、林至(6-14551‥117)の字。

【德況】58 トクキヤウ　北齊、李搔(6-14459‥362)の字。

【德躬】59 tê^2 kung^1　御身。

【德擧】60 トクキヨ　德行。〔任昉、爲二褚諮議蓁一讓二代レ兄襲レ封表〕是廢二德擧一、豈曰二能賢一。

【德恭】61 トクキヨウ　明、向欽(2-3301‥11)の字。

【德玉】62 トクギヨク　字號。❶金、馬琪(12-44572‥99)の字。❷金、劉璋(2-2224‥10)の字。

【德欽】63 トクキン　設治局の名。民國二十四年改置。雲南省に屬し、もと阿墩子行政區といふ。

【德鈞】64 トクキン　元、錢仲鼎(11-40563‥390)の字。

【德禽】65 トクキン　雞の異稱。雞には五德があるからいふ。〔故事成語考、鳥獸〕雞有二五德一、故稱レ之曰二德禽一。

【德謹】66 トクキン　遼の太宗、耶律德光(9-29008‥126)の字。

【德化】67 トククワ　❶德行によつて感化する。德を以て民を治める。〔韓非子、難、一〕舜其信仁乎、乃躬耕處レ苦而民從レ之、故曰、聖人之德化乎。〔呂覽、勿躬〕處二平靜一任二德化一。〔史記、律書〕猥云二德化不レ當レ用レ兵。〔漢書、翼奉傳〕德化未レ洽。〔後漢書、魯恭傳〕恭專以二德化一爲レ理。❷潛夫論の篇名。❸縣名。㋑五代十國の南唐、置く。江西省九江縣。〔讀史方輿紀要、江西、九江府〕德化縣、漢廬江郡尋陽縣地、云云、唐武德四年、復曰二尋陽一、皆爲二州郡治一、五代時、南唐改曰二德化縣一、宋仍レ舊。〔清史稿、地理志〕江西、九江府、縣五、德化。㋺五代十國の閩、置く。福建省永春縣の北。〔讀史方輿紀要、福建、泉州府〕德化縣、本唐福州永泰縣地、貞元中、析置二歸德場一、五代唐長興二年、王閩升爲二德化縣一、屬二長樂府一。〔清史稿、地理志〕福建、永春直隸州、縣二、德化。㋩清末、置く。西康省に屬す。今の德格縣。

【德華】68 トククワ　字號。❶五代後晉、李承福(6-14459‥1497)の字。❷五代前蜀、韓昭(12-43159‥144)の字。❸五代南唐、張延翰(4-9812‥821)の字。❹宋、韓守英(12-43159‥312)の字。❺明、王瓊(7-20823‥329)の字。

【德會】69 トククワイ　川の名。源は山東省淄川縣の東北。孝婦河に注ぐ。又、鄭黃溝ともいふ。今の名は豐水、又、朱龍河。

【德光】70 トククワウ　❶宋の僧。新喩の彭氏の子。號は佛照。諡は普惠宗覺禪師。〔大明高僧傳、六〕❷字號。㋑後唐、朱友謙(6-14424‥637)の字。㋺後晉、孫彥韜(3-6987‥394)の字。❸遼、太宗(3-5834‥320)の名。

【德宏】71 トククワウ　明、翁溥(9-28635‥58)の字。

【德廣】72 トククワウ　❶德化の廣く行はれること。〔詩、周南、漢廣序〕漢廣、德廣所レ及也。〔韓詩內傳〕王者舞二六代之樂一、舞二四夷之樂一、大二德廣之所一レ及。〔班固、東都賦〕德廣所レ及。❷宋、湯東野(7-17874‥202)の字。

【德款】73 トククワン　梁、蕭駿(9-32012‥174)の字。

【德煥】74 トククワン　清、徐耀文(4-10110‥341)の名。

【德寬】75 トククワン　❶字號　㋑宋、沈嚴(6-17189‥151)の字。㋺宋、詹桌(10-35458‥36)の字。❷清、宋宓(3-7078‥186)の初名。

【德刑】76 トクケイ　德と刑。〔左氏、宣、十二〕德刑政事典禮不レ易、不レ可レ敵也。〔國語、晉語六〕德刑不レ立。

【德圭】77 トクケイ　唐、李瑗(6-14459‥87)の字。

【德珪】78 トクケイ　字號。❶三國魏、蔡瑁(9-31818‥106)の字。❷唐、樂彥瑋(6-15399‥296)の字。

【德啓】79 トクケイ　明、華鑰(9-31214‥445)の字。

【德卿】80 トクケイ　字號。❶後唐、張居翰(4-9812‥926)の字。❷宋、畢再遇(7-21829‥93)の字。❸金、金王賓(11-40152‥1415′)の字。❹金、周昂(2-3441‥56)の字。❺金、王賓(7-20823‥916)の字。❻元、孟祺(3-6960‥46)の字。❼元、李恒(6-14459‥334)の字。❽明、張徽(4-9812‥180)の字。❾明、陳邦修(11-41698‥1184)の字。❿明、汪瑄(6-17154‥91)の字。⓫清、王貞儀(7-20823‥1950)の字。

【德惠】81 トクケイ　❶めぐみ。いつくしみ。〔管子、五輔〕務二功勞一布二德惠一。〔淮南子、兵略訓〕行二仁義一布二德惠一。〔漢書、鼂錯傳〕今陛下人民之衆、威

武之重、德惠之厚、令行禁止之勢、萬二萬於五伯一。㊁縣名。清、置く。滿洲吉林省長春縣の東北。松花江の西。〔清史稿、地理志〕吉林、德惠縣。㊂明、田洫(**7**-**21723**‥62)の字。

【德經】82 トクケイ ㊀道德のみち。〔白虎通、諫諍〕前疑主二紀レ度定二德經一。㊁老子の下篇の稱。上篇を道經といふに對す。

【德慧】83 トクケイ 德にさといこと。さとい德。〔孟子、盡心上〕人之有二德慧術知一者、恆存二乎疢疾一。〔說苑、建本〕惟學問可三以廣二明德慧一也。

【德慶】84 トクケイ ㊀地名。西藏、拉薩の東に在り。西康に入る要路。㊁縣名。民國、置く。廣東省封川縣の東南。西江の北岸。漢の端谿縣、宋の德慶府、元の德慶路、明・清の德慶州の地。〔清史稿、地理志〕廣東、肇慶州、州一、德慶州。

【德繼】85 トクケイ 梁、張惠紹(**4**-**9812**‥966)の字。

【德馨】86 トクケイ 字號。㊀明、簡芳(**8**-**26520**‥153)の字。㊁明、景芳(**5**-**13983**‥267)の字。㊂明、張如蘭(**4**-**9812**‥1199)の字。㊃明、杜蕙(**6**-**14477**‥90)の字。㊄明、馬芳(**12**-**44572**‥491)の字。

【德藝】87 トクゲイ 德と藝(才能)。〔顏氏家訓、名實〕德藝周厚。

【德教】88 トクケウ 道義善行のをしへ。〔孝經、天子章〕德教加二於百姓一。〔孟子、離婁上〕沛然德教溢二乎四海一。〔漢書、董仲舒傳〕廢二德教一而任二刑罰一。〔後漢書、周擧傳〕導レ之以二德教一。〔魏志、何夔傳〕未レ被二德教一。

【德僑】89 tê^2 ch‘iao^2 獨逸人の居留民。

【德業】90 トクゲフ 德行と事業。〔後漢書、宋意傳〕陛下德業隆盛、當レ爲二萬世典法一。

【德乾】91 トクケン ㊀字號。㋑明、夏璣(**3**-**5720**‥54)の字。㋺明、沈應(**6**-**17189**‥50)の字。㊁清、陳芝圖(**11**-**41698**‥912)の原名。

【德堅】92 トクケン 字號。㊀宋、曹稹孫(**5**-**14297**‥263)の字。㊁明、程彌壽(**8**-**25081**‥278)の字。

【德儉】93 トクケン 字號。㊀後晉、李承約(**6**-**14459**‥1498)の字。㊁宋、任廣(**1**-**416**‥53)の字。

【德憲】94 トクケン 德と法。〔逸周書、皇門解〕爾假二予德憲一、資二告予元一。

【德縣】95 トクケン 縣名。民國、置く。山東省平原縣の北。古の有鬲氏の地。漢が鬲縣を置いたところ。津浦線の沿線で、水陸交通の利あり。

【德謙】96 トクケン ㊀元の高僧。定平の楊氏の子。號は福元。博學多識。萬寧・崇恩二寺に住す。〔大明高僧傳、二〕㊁後晉、劉處讓(**2**-**2224**‥1062)の字。

【德顯】97 トクケン 元、唐元嘉(**2**-**3709**‥401、)の字。

【德元】98 トクゲン ㊀天下の德の首となること。〔書、召誥〕其惟王位在二德元一。〔傳〕其惟王居レ位、在二德之首一。㊁清初、聖祖仁皇帝の時、越の嘉宗美皇帝黎維禬の年號。(1674-1675)㊂字號。㋑南朝宋、丘寂之(**1**-**33**‥148)の字。㋺後魏、衞操(**10**-**34074**‥43)の字。㋩宋、呂稽中(**2**-**3386**‥194)の字。㋥元、劉仁本(**2**-**2224**‥1094)の字。㋭清、孫曰秉(**3**-**6987**‥334)の字。

【德玄】99 トクゲン 梁、蕭幾(**9**-**32012**‥63)の字。

【德言】100 トクゲン ㊀立派な言葉。〔書、康誥〕今治レ民、將レ在下祇二遹乃文考一、紹レ聞、衣中德言上。〔新書、傳職〕德言以揚レ之。㊁字號。㋑陳、到仲擧(**2**-**1950**‥44)の字。㋺陳、陳仲擧(**11**-**41698**‥1135)の字。㋩宋、劉剛中(**2**-**2224**‥752)の字。㋥宋、王綸(**7**-**20823**‥1081)の字。

【德言レ盛禮言レ恭】101 トクニセイトイヒレイニキヨウトイフ 德は盛なるをよしとし、禮は恭しきをよしとす。〔易、繫辭上〕德言レ盛、禮言レ恭、謙也者、致レ恭以存二其位一者也。

【德源】102 トクゲン ㊀城の名。雲南省鄧川縣の東。一名、大釐城。〔讀史方輿紀要、雲南、大理府、鄧川州〕德源城、在二州治東一、亦曰二大釐城一、唐時、遼備州治レ此、開元二十六年、皮羅閣取二太和城一、又取二大釐城一、是也、後爲二德源城一、元因置二德源千戶所一、志云、州水患頻、仍遷二徙靡定一、舊無二城郭一、崇禎十三年、遷二治鄧川驛一、始建二土城一、周六里有奇、未レ竟、復爲二山水一決壞。㊁字號。㋑唐、鮑溶(**12**-**46074**‥73)の字。㋺唐、蔣乂(**9**-**31820**‥15)の字。㋩宋、鄭清之(**11**-**39647**‥473)の字。㋥元、劉涓(**2**-**2224**‥247)の字。㊂明、何源(**1**-**511**‥71)の初名。

【德嚴】103 トクゲン 唐、趙元份(**10**-**37171**‥523)の初名。

【德固】104 トクコ 字號。㊀宋、何常(**1**-**511**‥97)の字。㊁宋、趙善堅(**10**-**37171**‥746)の字。㊂金、趙臧(**10**-**37171**‥5)の字。

【德公】105 トクコウ 字號。㊀後漢、李燮(**6**-**14459**‥520)の字。㊁明、涂仲吉(**6**-**17518**‥24)の字。

【德功】106 トクコウ 宋、江默(**6**-**17140**‥415)の字。

【德弘】107 トクコウ 明、邊毅(**11**-**39216**‥33)の字。

【德厚】108 トクコウ ㊀德のあついこと。なさけのあついこと。〔禮、樂記〕廣二其節奏一、省二其文采一、以繩二其德厚一。〔戰國、齊策〕斶對曰、不レ然、斶聞、古大禹之時、諸侯萬國、何則德厚之道得、貴レ士之力也。〔莊子、人閒世〕德厚信矼、未レ達二人氣一。〔荀子、君道〕如レ是則德厚者進、而佞說者止。〔韓非子、外儲說右上〕夫不三處レ勢以禁二誅擅愛之臣一、而必德厚以與二天下一齊行以爭レ名、是皆不レ乘二君之車一、不レ因二馬之利一、舍レ車而下走者也。〔管子、形勢解〕無二德厚以安レ之。〔史記、秦紀〕施二德厚骨肉一、而布二惠於民一。〔司馬相如、上林賦〕無二德厚之恩一。〔漢書、景帝紀〕德厚侔二天地一。㊁字號。㋑隋、董純(**9**-**31433**‥95)の字。㋺宋、上官粹中(**1**-**13**‥212)の字。

【德厚流光】109 トクアツケレバナガレヒカリアリ 德が厚ければ子孫が榮える。〔穀梁、僖、十五〕天子七廟、諸侯五、大夫三、士二、故德厚者流光、德薄者流卑。〔注〕德厚者位尊、道隆者爵重、故天子遠及二七世一、士祭レ祖而已。〔疏〕光、猶レ遠也、卑、猶レ近也。〔鍾文烝補注〕光與レ廣同、二字古通用、荀子作二流澤廣一。〔漢書、韋玄成傳〕天子三昭三穆、與二太祖之廟一而七、諸侯二昭二穆、與二太祖之廟一而五、故德厚者流光、德薄者流卑。

【德興】110 トクコウ ㊀府名。金、置く。故治は河北省涿鹿縣。〔讀史方輿紀要、直隸〕保安州、禹貢冀州地、春秋戰國時、屬レ燕、秦爲二上谷郡地一、兩漢因レ之、云云、金大定初、升二德興府一、元初、因レ之、至二元初一、復改二奉聖州一、屬二宣德府一、尋改曰二保安州一、明初、廢、永樂十三年、復置二保安州一、直二隸京師一。㊁縣名。五代十國の南唐、置く。唐の樂平縣の地。江西省樂平縣の東。〔讀史方輿紀要、江西、饒州府〕德興縣、本樂平縣地、唐置二德興場一、五代晉天福三年、南唐升爲レ縣、屬二饒州縣一。〔清史稿、地理志〕江西、饒州府、縣七、德興。㊂宋時、遼の蕭太后の僭年號。(1122) ㊃後晉、郭延魯(**11**-**39474**‥248)の字。

【德國】111 トクコク 獨逸國。〔清會典事例、總理各國事務衙門、注〕光緒六年、德兼布續二修條約十款、善後章程九款、德國換約展限憑單一件一。

【德國家之基也】112 トクハコクカノモトヰナリ 德は國家がよって立つ基礎である。〔左氏、襄、二十四〕夫令名德之輿也、德國家之基也。

【德坤】113 トクコン 後梁、張歸厚(**4**-**9812**‥904)の字。

【德栽】114 トクサイ 宋、鄧泳(**11**-**39630**‥12)の字。

【德彩】115 トクサイ 宋、牟益(**7**-**19928**‥2)の字。

【德載】116 トクサイ 字號。㊀唐、韋處厚(**12**-**43108**‥199)の字。㊁宋、葛賡(**9**-**31420**‥9)の字。㊂宋、錢厚(**11**-**40563**‥85)の字。㊃明、伊乘(**1**-**432**‥74)の字。

【德濟】117 トクサイ 明、俞廣(**1**-**1437**‥21)の字。

【德莊】119 トクサウ 字號。㊀宋、龔端(**12**-**48837**‥45)の字。㊁宋、趙彥端(**10**-**37171**‥541)の字。

【德操】120 トクサウ ㊀しっかりと變らぬ道德心。堅固な節操。〔荀子、勸學〕生乎由レ是、死乎由レ是、夫是之謂二德操一。〔注〕死生必由二於學一、是乃德之操行。〔王先謙集解〕郝懿行曰、德操、謂二有レ德而能操持一也。㊁字號。㋑三國蜀、司馬徽(**2**-**3257**‥239)の字。㋺宋、徐定(**4**-**10110**‥227)の字。㋩宋、饒節(**12**-**44400**‥33)の字。㋥宋、宋松年(**3**-**7078**‥324)の字。㋭宋、孫楙(**3**-**6987**‥277)の字。㋬明、王人鑑(**7**-**20823**‥1737)の字。

【德藻】121 トクサウ 宋、黃瑀(**12**-**47926**‥38)の字。

【德山】122 トクサン ㊀唐の高僧。劍南の人。周氏。經律に明るく、金剛經に達し、周金剛と稱せられる。武宗の廢教に遭ひ、獨浮山の石室に隱る。〔宋高僧傳、十二〕㊁三國蜀、五梁(**1**-**257**‥1088)の字。

【德山棒】123 トクサンノボウ 德山禪師が人を接得するに用ひた棒。〔景德傳燈錄、十三、汝州首山省念禪師〕師曰、昨夜遭レ霜了、問、臨濟喝、德山棒、未レ審、明二得什麼邊事一、師曰、汝試道、看、僧喝、師曰、瞎、僧再喝、師曰、這瞎漢只麼亂喝作麼、僧禮拜、師便打。

【德士】124 トクシ ㊀道德のそなはった人。〔易林、漸

之第五十三、咸〕慈母念レ子、饗二賜德士一。❷僧の別名。〔宋史、徽宗紀四〕宣和元年詔、佛改號二大覺金僊一、餘爲二僊人大士一、僧爲二德士一。〔釋門正統〕宋宣和元年、詔革二釋氏一爲二金仙一、菩薩爲二大士一、僧爲二德士一。

【德之】125 トクシ　字號。❶五代吳越、錢元弼(11−40563‥301)の字。❷宋、徐大正(4−10110‥552)の字。❸宋、沈復(6−17189‥341)の字。❹宋、趙允寧(10−37171‥413)の字。❺宋、馬懷德(12−44572‥743)の字。❻宋、李純德(6−14459‥1457)の字。

〖德之欽〗126 トクノキン　德が流行して欽仰すべきもの。一說に、德の陳列したもの。欽は廞。〔莊子、庚桑楚〕道者德之欽也、生者德之光也。〔集解〕道無レ可レ見、見二其德之流行一、則共仰爲二有レ道之人一、故曰二道者德之欽一。〔集釋〕兪樾曰、說文广部、廞、陳二輿服於庭一也、小爾雅廣詁、廞、陳也、此欽字卽廞之叚字、蓋所二以生一者爲レ德、而陳二列之一卽爲レ道、故曰二德之廞一也。

〖德之光〗127 トクノヒカリ　德があらはれた光華。〔莊子、庚桑楚〕生者德之光也。〔疏〕天地之大德曰レ生、故生二化萬物一者、盛德之光華也。

〖德之速〗128 トクノスミヤカ　德が人を感じさせることの速かなこと。德之速疾二乎以レ郵傳レ命を見よ。

〖德之速疾二乎以レ郵傳レ命〗129 トクノスミヤカナルコトハイウヲモツテメイヲツタフルヨリモハヤシ　德が人心に感ぜられることは、驛傳で命を傳へるよりもはやい。〔呂覽、上德〕三苗不レ服、禹請レ攻レ之、舜曰、以レ德可也、行レ德三年、而三苗服、孔子聞レ之曰、通二乎德之情一、則孟門太行不レ爲レ險矣、故曰、德之速疾二乎以レ郵傳レ命。〔孟子、公孫丑上〕孔子曰、德之流行、速二於置郵而傳レ命。

〖德之賊〗130 トクノゾク　德をそこなひやぶるもの。〔論語、陽貨〕鄕原德之賊也。〔孟子、盡心下〕孔子以爲二德之賊一何哉。

〖德之末〗131 トクノスヱ　道德のあまり重要でない枝葉末節の部分。〔莊子、天道〕三軍五兵之運、德之末也。

【德使】132 tê^2 shih^4　獨逸公使。

【德施】133 トクシ　❶德をほどこすこと。德化。〔易、乾〕見龍在レ田、德施普也。〔荀子、成相〕德施均。〔史記、田敬仲完世家〕德施人之所レ欲。〔漢書、禮樂志〕德施大世曼壽。❷字號。㋑晉、孫惠(3−6987‥94)の字。㋺梁、蕭統(9−32012‥230)の字。

【德資】134 トクシ　明、高琬(12−45313‥58)の字。

【德嗣】135 トクシ　三國吳、殷禮(6−16627‥138)の字。

【德賜】136 トクシ　恩惠を施すこと。〔管子、四時〕求下有四德二賜布三施於民一者上。

【德兒】137 トクジ　杏仁(6−14461‥38)の別名。あんずの核の中の肉。藥用とする。〔輟耕錄、藥譜〕侯寧極藥譜、改二杏仁一曰二德兒一。

【德時】138 トクジ　宋、陳知和(11−41698‥1122)の字。

【德州】139 トクシウ　州名。❶隋、置く。山東省陵縣治。〔讀史方輿紀要、山東、濟南府〕陵縣、漢置二安德縣一、屬二平原郡一、晉宋因レ之、後魏改屬二樂安郡一、中興初、嘗分置二安德郡一治レ此、隋爲二德州治一、唐宋因レ之、明初、省二安德縣一、尋改二陵縣一治レ此、屬二濟南府一。〔清史稿、地理志〕山東、濟南府、州一、德州。❷南朝梁、置く。安南の北部。〔讀史方輿紀要、廣西、附考、安南、又安府〕驩州城、在二府西南一、相傳、卽古越裳氏國、周成王時、重二三譯一而獻二白雉一者也、秦屬二象郡一、漢屬二九眞郡一、後漢因レ之、三國吳分置二九德郡一、治二九德縣一、晉宋以後因レ之、梁兼置二德州一、大同七年、交趾李賁監二德州一、遂結二數州豪傑一以叛、尋討平レ之、隋平レ陳、廢レ郡存レ州、開皇十八年、改曰二驩州一、大業初、曰二日南郡一、唐武德五年、置二南德州總管府一、八年、改爲二德州一、貞觀初、仍曰二驩州一。❸唐、羈縻州に置く。四川省舊敍州府の境。❹遼、置く。今缺く。山西省舊朔平府の境。❺元、置く。朝鮮咸鏡道咸興府の西南。〔讀史方輿紀要、山東、外國附考、朝鮮〕德州城、在二咸興府西南一、唐置、後因レ之、元仍置二德州一、領二江東・永清・通海・順化四縣、寧遠・柔遠・安戎三鎭一、後沒二於高麗一、仍曰二德州一。❻明、置く。山東省德縣。〔讀史方輿紀要、山東、濟南府〕德州、春秋戰國時齊地、後屬レ趙、秦屬二齊郡一、漢置二平原郡一、後漢因レ之、晉爲二平原國一、劉宋仍曰二平原郡一、後魏至二後周一因レ之、隋郡廢、改置二德州一、煬帝時、復曰二平原郡一、唐武德四年、復置二德州一、天寶初、亦曰二平原郡一、乾元初、復レ故、五代因レ之、宋仍曰二德州一、金元皆仍レ舊、明初、以二州治安德縣一省入、尋廢二舊治一爲二陵縣一、而州治二於陵縣境內一、領二縣二一。

【德秀】140 トクシウ　字號。❶南朝宋、徐文伯(4−10110‥622)の字。❷後魏、司馬楚之(2−3257‥341)の字。❸後周、曹英(5−14297‥10)の字。❹宋、樂洪(6−15399‥98)の字。

【德秋】141 トクシウ　明、過儀(11−39002‥37)の號。

【德修】142 トクシウ　字號。❶南唐、劉崇俊(2−2224‥1100)の字。❷宋、陳天瑞(11−41698‥1156)の字。❸宋、趙立(重慶の人)(10−37171‥370)の字。❹宋、梅成和(6−14830‥266)の字。❺宋、劉光祖(2−2224‥834)の字。❻宋、王時敏(7−20823‥1614)の字。❼明、袁達(10−34152‥104)の字。❽明、賈三近(10−36755‥167)の字。❾明、金純(11−40152‥591)の字。

【德柔】143 トクジウ　梁、王筠(7−20823‥42)の字。

【德車】144 トクシヤ　乘用車。兵車・田車と別けていふ。〔禮、曲禮上〕兵車不レ式、武車綏レ旌、德車結レ旌。〔注〕德車、乘車。

【德昌】145 トクシヤウ　❶北齊の後主の時、安德王の僭年號。(576)❷清、滿洲鑲藍旗人。姓は那拉氏。乾隆年間、石峯堡の回族を征し、嘉慶の初、粵西の苗、川楚の教匪を平らげて功あり。官は烏魯木齊領隊大臣。〔國朝耆獻類徵、三百二〕❸宋、李符(6−14459‥700)の字。

【德商】146 tê^2 shang^1　獨逸商人。

【德祥】147 トクシヤウ　❶さいはひのしるし。〔漢書、王莽傳中〕其德祥言下文宣之世黃龍見二于成紀一、新都高祖考王伯墓門梓柱生二枝葉一之屬上。❷佛明の僧。錢塘の人。字は麟洲。號は止菴。詩に巧。著に桐嶼集がある。〔新續高僧傳、五〕。❸字號。㋑唐、蘇鶚(9−32427‥22)の字。㋺後唐、符存審(8−25935‥100)の字。㋩五代吳、丁袗(1−2‥114)の字。㋥宋、張克戩(4−9812‥1051)の字。

【德章】148 トクシヤウ　字號。❶陳、袁憲(10−34152‥53)の字。❷隋、楊諒(6−15112‥383)の字。❸宋、滕珙(7−18036‥13)の字。❹元、洪巖虎(6−17402‥226)の字。❺明、魏文炳(12−45872‥281)の字。❻明、盛儀(8−23005‥34)の字。

【德翔】149 トクシヤウ　宋、謝文龍(10−35827‥363)の字。

【德彰】150 トクシヤウ　字號。❶五代吳越、趙宏(10−37171‥121)の字。❷宋、鮑琚(12−46074‥13)の字。

【德璋】151 トクシヤウ　清、史積琦(2−3249‥237)の字。

【德賞】152 トクシヤウ　有德を譽め賞する。又、其のこと。〔左氏、襄、二十九〕我死必無下以二冕服一斂上、非二德賞一也。

【德常】153 トクジヤウ　字號。❶宋、黃伯固(12−47926‥1288)の字。❷明、曹文炳(5−14297‥309)の字。

【德讓】154 トクジヤウ　德があつて人にへりくだる。又、德を以て人にへりくだる。〔漢書、循吏傳序〕此廩廩庶二幾德讓君子之遺風一矣。〔法言、先知〕下多二德讓一。〔後漢書、崔駰傳〕德讓不レ脩、則非レ忠也。

【德守】155 トクシユ　❶德義を守ること。又、守る所の德。〔逸周書、官人解〕富貴者觀三其有二禮施一、貧賤者觀三其有二德守一。❷唐、唐持(2−3709‥266)の字。

【德受】156 トクジユ　明、賴世隆(10−36861‥40)の字。

【德壽】157 トクジユ　❶元末、順帝の時、漢陳理の私年號。(1363−1364)❷金、完顏宗敍(3−7079‥112)の本名。

【德儒】158 トクジユ　字號。❶三國魏、崔林(4−8178‥176)の字。❷明、金文徵(11−40152‥1380)の字。

【德樹】159 トクジユ　明、夏鍭(3−5720‥124)の字。

【德孺】160 トクジユ　字號。❶宋、范純粹(9−30834‥201)の字。❷宋、龐恭孫(12−48824‥47)の字。

【德聚】161 トクシユウ　明、鄭敬(11−39647‥104)の字。

【德充】162 トクジユウ　字號。❶宋、徐光實(4−10110‥384)の字。❷明、越英(10−37110‥4)の字。❸明、汪文輝(6−17154‥329)の字。

〖德充符〗163 トクジユウフ　莊子の篇名。德が內に充ちて自から外に著はれ、形によつて損益されず、知によつて隱顯されぬ意を述ぶ。〔莊子、德充符、注〕德充二於內一、應二物於外一、外內玄合、信若二符命一、而遺二其形骸一也。

【德峻】164 トクシユン　明、徐卽登(4−10110‥542)の字。

【德純】165 トクジユン　字號。❶宋、陳驥(11−41698‥138)の字。❷宋、趙善璙(10−37171‥752)の字。❸

明、周瑩(2－3441‥23)の字。㊃明、張金(4－9812‥213)の字。㊄清、袁道(10－34152‥103)の字。

【德淳】166 トクジュン 清、馬駉(12－44572‥169)の字。

【德循】167 トクジュン 字號。㊀後周、李彥頵(6－14459‥1194)の字。㊁宋、錢遹(11－40563‥6)の字。㊂明、杜環(6－14477‥83)の字。

【德順】168 トクジュン 從順な德。又、素直なこと。〔史記、日者傳〕微見二德順一、以除二羣害一。

【德潤】169 トクジュン ㊀德澤(231)の㊀に同じ。〔淮南子、泰族訓〕堯治二天下一、政教平、德潤洽。㊁字號。㋑三國吳、闞澤(11－41484‥6)の字。㋺南朝宋、沈伯玉(6－17189‥624)の字。㋩唐、烏承玼(7－18998‥442)の字。㋥唐、王溥(7－20823‥930)の字。㋭後唐、華溫琪(9－31214‥479)の字。㋬後唐、崔沂(4－8178‥45)の字。㋣宋、黃洽(12－47926‥153)の字。㋠宋、郭延澤(11－39474‥247)の字。㋷宋、方大琮(5－13620‥578)の字。㋦宋、劉濤(彭城の人)(2－2224‥476)の字。㋸元、顏瑜(12－43591‥105)の字。㋾明、艾璞(9－30648‥57)の字。㋻明、金澤(11－40152‥818)の字。㋕明、吳溥(2－3365‥365)の字。㋵明、張瓚(4－9812‥228)の字。㋟明、郎滋(11－39431‥26)の字。㋹明、王珣(7－20823‥580)の字。

〔德潤レ身〕170 トクハミヲウルホス 德が內にあれば必ず外にあらはれる。〔大學〕富潤レ屋、德潤レ身、心廣體胖、君子必誠二其意一。

〔德潤傭書〕171 トクジュンヨウショ 蒙求の標題。三國、吳の闞澤は、家が貧しいので、人のために傭書して學んだ故事。〔吳志、闞澤傳〕闞澤、字德潤、會稽山陰人也、家世農夫、至レ澤好レ學、居貧無レ資、常爲レ人傭書、以供二紙筆一、所レ寫既畢、誦讀亦遍、追レ師論講、究二覽羣籍一、兼通二歷數一。

【德遵】172 トクジュン 明、陳循(11－41698‥349)の字。

【德初】173 トクショ 字號。㊀宋、施元之(5－13629‥141)の字。㊁宋、劉正夫(2－2224‥1113)の字。㊂明、汪肇(6－17154‥111)の字。

【德升】174 トクシヤウ 字號。㊀唐、周墀(2－3441‥370)の字。㊁宋、歐陽昌邦(6－16185‥124)の字。㊂明、顏階(12－43591‥13)の字。

【德承】175 トクショウ 字號。㊀明、朱寵(6－14424‥460)の字。㊁明、文伯仁(5－13450‥1031)の字。

【德昇】176 トクショウ 後周、邊蔚(11－39216‥8)の字。

【德松】177 トクショウ 漢、張竦(4－9812‥431)の字。

【德勝】178 トクショウ ㊀城の名。河北省濮陽縣の治。南北二城あり。南城は縣の東南。今の縣は北城。其の地、もと德勝渡といふ。黃河の渡場。五代の梁と晉とが此で百餘戰した古戰場。〔讀史方輿紀要、直隸、大名府、開州〕德勝城、州東南五里、古澶淵也、春秋襄二十年、晉及二諸侯一會二于澶淵一、二十六年、復會二于澶淵一、三十年、又會焉、杜預曰、澶淵在二頓邱南一、今謂二之繁汙一、近二戚田一、其後爲二德勝渡一、黃河津要也、五代梁、貞明四年、晉王存勖、拔二濮陽軍德勝渡一、尋遣二李存審於德勝一、南北夾レ河、築二兩城一而守レ之、胡氏曰、時河津闊遠、兩城相距蓋三十里、五年、梁賀瓌攻二晉德勝南城一、百道俱進、以二竹笮一連二艨艟巨艘一、橫二斷河流一、使二晉救兵不レ得レ渡、爲二晉將李建及所レ破、既而梁將王瓚據二楊村一、夾レ河築レ壘、造二浮橋一謀レ攻二德勝一、晉將李存進、亦造二浮橋於德勝一、或曰、浮梁須二竹笮鐵牛石囷一、我皆無レ之、何以能成、存進不レ聽、以二葦笮一維二巨艦一、繫二於土山巨木一、踰レ月而成、人服二其智一、晉王尋自二魏州一發二襲二晉德勝北城一、爲二晉所レ敗。㊁堡の名。明、置く。河北省萬全縣の西。〔讀史方輿紀要、直隸、萬全都指揮使司、萬全右衞〕德勝城、卽今衞治、邊防攷、右衞初與二左衞一同レ城、永樂二年、城二德勝口一、移二衞治一焉、本曰二德勝堡一、洪武二十六年所レ置、至レ是改築爲二衞城一、東北面二河西一、南平坦、去レ邊三十里、敵每由レ此入犯。㊂門の名。北京內城門の一。安定門の西。〔讀史方輿紀要、直隸、順天府〕北之東曰二安定門一、之西曰二德勝門一。㊃橋の名。北京十刹海に在り。其れより東は昔の成親王府、清末には醇親王府であつた所。〔燕京歲時記、十刹海〕德勝橋以東、昔成親王府、今醇親王府、前者謂二之後海一、卽所謂十刹海者是也。㊄年號。㋑宋の仁宗の時、王則の僭年號。得聖の一稱。(1047－1048) ㋺明の憲宗の時、劉千斤の僭年號。(1465)

〔德勝二不祥一〕179 トクフシヤウニカツ 德は不吉な氣運に勝つ。〔漢書、藝文志〕德勝二不祥一、義厭二不惠一。

【德頌】180 トクショウ 宋、林駉(6－14551‥91)の字。

【德稱】181 トクショウ ㊀有德の評判。德譽。〔後漢書、鄧皇后紀〕陰后見二后德稱日盛一、不レ知レ所レ爲。㊁宋、曾如驥(5－14299‥201)の字。

【德色】182 トクショク 德のあるのをほこる顏つき。〔新書、時變〕假父耰鉏杖篲耳、慮有二德色一矣。

【德心】183 トクシン めぐみ深い心。天子の仁德の心。〔詩、魯頌、泮水〕濟濟多士、克廣二德心一。〔集傳〕德心、善意也。〔袁宏、三國名臣序贊〕恂恂德心、汪汪軌度。

【德臣】184 トクシン 字號。㊀唐、朱輔(6－14424‥546)の字。㊁唐、田顒(7－21723‥8)の字。㊂宋、樂士宣(6－15399‥301)の字。㊃宋、徐中行(4－10110‥577)の字。

【德伸】185 トクシン 明、顧遂(12－43689‥113)の字。

【德信】186 トクシン ㊀天子の信任をいふ。〔漢書、鼂錯傳〕不レ稱二陛下德信一。㊁字號。㋑三國魏、沐並(6－17201‥36)の字。㋺三國蜀、馬忠(12－44572‥429)の字。

【德宸】187 トクシン 清、宋宓(3－7078‥186)の一名。

【德深】188 トクシン 唐、袁滋(10－34152‥69)の字。

【德進】189 トクシン 宋、趙俊(10－37171‥216)の字。

【德新】190 トクシン 字號。㊀唐、李頻(6－14459‥692)の字。㊁宋、譚綺(10－35978‥9)の字。㊂宋、牟益(7－19928‥2)の字。㊃元、王鼎(7－20823‥827)の字。㊄明、湯銘(7－17874‥130)の字。

【德人】191 トクジン ㊀有德の人。〔莊子、天地〕德人者、居無レ思、行無レ慮、不レ藏二是非美惡一。〔成玄英疏〕妙契道境、得レ無レ所レ得、故曰二德人一。〔賈誼、鵩鳥賦〕德人無レ累兮、知レ命不レ憂。㊁富み榮えた人。ぶんげんしや。㊂ tê² jen² 獨逸人。

【德仁】192 トクジン 字號。㊀南朝宋、臧燾(9－30083‥47)の字。㊁宋、吳瑛(2－3365‥20)の字。㊂宋、羅威(9－28397‥4)の字。

【德水】193 トクスイ ㊀黃河の別名。〔史記、封禪書〕秦更命レ河曰二德水一。㊁功德水(2－2295‥87)をいふ。〔梁簡文帝、奉二阿育王寺錢一啓〕照二景密瓶一、浮二光德水一。〔駱賓王、上司列二太常伯一啓〕嵩山動二萬歲之聲一、德水應二千年之色一。㊂明、黃河水(12－47926‥1005)の初名。㊃清、盧世漼(8－23050‥256)の字。

【德粹】194 トクスイ 宋、滕璘(7－18036‥37)の字。

【德蕤】195 トクスイ 三國吳、華融(9－31214‥447)の名。

【德崇】196 トクスウ 宋、趙元佐(10－37171‥517)の初字。

【德樞】197 トクスウ 三國吳、程秉(8－25081‥132)の字。

【德正】198 トクセイ ㊀字號。㋑後魏、李順(6－14459‥449)の字。㋺五代漢、恒超(4－10527‥97)の號。㊁トクシヤウ 宋の僧。信州の徐氏の子。號は歷陽。初、登第して平州教官となつたが、棄てて僧となる。李公麟に師事して山水畫を極め、廬山の壘石菴に居住す。

【德生】199 トクセイ 清、陳亮疇(11－41698‥1305)の字。

【德成】200 トクセイ 字號。㊀北周、蕭濟(9－32012‥191)の字。㊁明、孫燧(3－6987‥180)の字。㊂清、黃爵滋(12－47926‥1136)の字。

【德性】201 トクセイ 人が天から受けた本性。德義性。〔中庸〕故君子尊二德性一而道二問學一。

〔德性涵養〕202 トクセイカンヤウ 德性をやしなふこと。

【德政】203 トクセイ ㊀めぐみ深いまつりごと。仁德の政。〔詩、周頌譜〕皆人君德政之所レ致也。〔左氏、隱、十一〕既無二德政一、又無二威刑一、是以及レ邪。〔後漢書、桓帝紀〕先皇德政、可レ不レ務乎。〔魏志、高堂隆傳〕民詠二德政一。〔范甯、穀梁傳序〕欲下人君戒二愼厥行一、增中脩德政上。㊁古昔、我が國に行はれた政令の一。政府が人民に貸しつけた金穀などを元利全部免じたこと。もと天災・地變に際し、租庸調を免除して窮民を救ふ語であつたが、鎌倉時代の中葉から其の意義が漸く變じ、足利時代には免除の範圍を擴大して、すべての債權・債務の關係を消滅するものとなり、竟には借りたものは返すに及ばぬこととなり、全くの暴政となつた。室町幕府は自己の負擔を免れるために此の令を出し、義政の如きは一代の間に十三回も德政を發したといふ。此の場合、暴民

が蜂起して債主の宅を襲ひ、證書を責め出して燒棄したり、又、福利平等・貧富平均を唱へて掠奪を恣にした。德川時代には、棄捐といつた。〔日本政記、後花園天皇〕享德三年春、令㆓士民不㆑辨㆓負債㆒、稱㆓平均德政㆒。

【德政碑】204（トクセイヒ）　官吏の德政を頌美した碑。〔水經、濟水注〕昌邑有㆓成人班孟堅碑㆒、建和十年、尙書、云云、從事秦閏等刊㆑石、頌㆓德政㆒碑咸列焉。〔白居易、青石詩〕不㆑願㆑作㆓官家道傍德政碑㆒、不㆑鐫㆓實錄㆒鐫㆓虛辭㆒。〔山堂肆考〕晉扶風王駿有㆓德政㆒、西土爲樹㆑碑、見者無㆑不㆓下拜㆒。〔碑版廣例〕德政遺愛之碑、今功令禁不㆑得㆑立、然其文自㆑漢有㆑之、耿勳碑作㆓於勳在位之時㆒、張遷碑作㆓於遷去㆑官之後㆒、碑尾各紀㆓立㆑石歲月㆒。

【德政一揆】205（トクセイイツキ）　室町時代、幕府に迫つて德政を行はしめようとして一揆を起し、又は德政を實行すると稱して暴民が四方に橫行し、借證文などを破棄し掠奪を恣にしたこと。

【德星】206（トクセイ）　㊀めでたい星。景星。〔史記、天官書〕景星者德星也。〔漢書、郊祀志上〕德星昭衍、厥維休祥。㊁道德ある人。德星聚（208）を見よ。㊂歲星。歲星の在る所に福德があるからいふ。〔史記、武帝紀〕有司言曰、陛下建㆓漢家㆒封禪、天其報㆓德星㆒云。㊃亭の名。河南省許昌縣の西南、西湖のほとり。

【德星社】207（トクセイシヤ）　よく心を合はせて先祖の祭祀をしてゐる子孫の一團をいふ。唐の崔鄲の一族の故事。〔唐書、崔鄲傳〕崔氏四世緦麻同㆑爨、居㆓光德里㆒、構㆓便齋㆒、宣宗聞而嘆曰、鄲一門孝友、可㆑爲㆓士族法㆒、因題曰㆓德星堂㆒、後京兆民卽㆓其里㆒爲㆓德星社㆒云。

【德星聚】208（トクセイアツマル）　賢人の相聚るをいふ。後漢の陳寔が、子姪と共に荀淑の家に行つて論議した時、德星聚るの象あり、太史が必ず賢人聚る有らんと奏した故事。〔續晉陽秋〕後漢陳寔、子姪共造㆓荀淑㆒討論、時德星聚、太史奏曰、五百里內有㆓賢人聚㆒。

【德星堂】209（トクセイダウ）　唐、崔鄲（**4－8178**‥128）の室「名。

【德清】210（トクセイ）　㊀山名。浙江省德清縣の東。もと烏山、又、烏巾山といふ。秦時、烏巾といふ者が居つた所といふ。〔讀史方輿紀要、浙江、湖州府、德清縣〕德清山、縣東四里、本名㆓烏山㆒、秦時、善釀者烏巾所㆑居、天寶中、改㆓今名㆒。㊁縣名。浙江省吳興縣の南。苕溪の西岸。〔讀史方輿紀要、浙江、湖州府〕德清縣、本烏程縣地、晉以後、爲㆓武康縣之東境㆒、唐天授二年、析置㆓武源縣㆒、屬㆓湖州㆒、景雲二年、改曰㆓臨溪㆒、天寶初、又改㆓今名㆒、城邑考、縣初置㆓于下蘭山㆒、天寶間、徙㆓百寮山南㆒、卽今治也。〔清史稿、地理志〕浙江、湖州府、縣七、德清。㊂明の僧。全椒の蔡氏の子。字は澄印。慈聖李太后、道場を五臺山及び牢山に建立し、額を賜うて海印といふ。時人憨山大師と稱す。著に觀老莊影響論がある。〔新續高僧傳、八〕。㊃明、陳濂（**11－41698**‥611）の字。

【德清軍】211（トクセイグン）　行政區劃の名。五代後晉、頓丘鎭を改めて德清軍とす。河北省清豐縣の西北。〔讀史方輿紀要、直隸、大名府、清豐縣〕德清軍城、縣西三十里、本頓邱縣地、石晉天福四年、置㆓德清軍於故澶州城㆒、開運初、契丹入寇、澶州鄴都之間、城戍盡陷、議者謂、澶州鄴都、相去百五十里、宜㆘於㆓中途㆒築㆑城、應㆗接南北㆖、因更築㆓德清軍城㆒、合㆓德清南樂之民㆒以實㆑之、舊史、開運元年、移㆓德清軍於陸家店㆒、南去㆓新澶州㆒七十里、二年、更築㆓軍城㆒是也。

【德精】212（トクセイ）　めでたい星。德星。〔任昉、王文憲集序〕信乃昴宿垂㆑芒、德精降㆑祉。

【德聲】213（トクセイ）　㊀仁德あるほまれ。〔曹植、又贈㆓丁儀王粲㆒詩〕不㆑能㆑歌㆓德聲㆒。〔張華、勵志詩〕勉㆓志含弘㆒、以隆㆓德聲㆒。㊁字號。㋑明、鄧文鏗（**11－39630**‥193）の字。㋺明、汪珊（**6－17154**‥62）の字。

【德劭】214（トクセウ）　字號。㊀宋、黃龜年（**12－47926**‥1030）の字。㊁宋、李璜（**6－14459**‥253）の字。

【德邵】215（トクセウ）　宋、黃龜年（**12－47926**‥1030）の字。

【德昭】216（トクセウ）　字號。㊀後晉、石敬暉（**8－24024**‥922）の字。㊁宋、侯晉升（**1－633**‥123）の字。㊂明、張炫（**4－9812**‥289）の字。

【德韶】217（トクセウ）　〘佛〙宋の高僧。龍泉の陳氏の子。唐の光化中、靜慧禪師に參す。錢俶、尊んで國師とす。著に傳燈錄がある。〔宋高僧傳、十三〕。

【德占】218（トクセン）　宋、徐禧（**4－10110**‥75）の字。

【德先】219（トクセン）　字號。㊀宋、魏天祐（**12－45872**‥267）の字。㊁宋、趙彥逾（**10－37171**‥543）の字。㊂宋、富紹庭（**3－7230**‥185）の字。

【德宣】220（トクセン）　明、陳如綸（**11－41698**‥999）の字。

【德選】221（トクセン）　德によつてえらぶこと。〔後漢書、朱穆傳〕牧守長吏、多非㆓德選㆒。

【德全】222（トクゼン）　宋、韓瓘（**12－43159**‥78）の字。

【德祖】223（トクソ）　後漢、楊修（**6－15112**‥191）の字。

【德祚】224（トクソ）　さいはひ。〔漢書、高帝紀贊〕德祚已盛。〔魏志、王朗傳〕陛下既德祚、兼㆓彼二聖㆒。

【德素】225（トクソ）　唐、王紹（**7－20823**‥671）の字。

【德宗】226（トクソウ）　㊀天子の廟號。㋑唐の第九代の王。李适（**6－14459**‥258）を見よ。㋺西遼の始祖、天祐帝をいふ。耶律大石（**9－29008**‥100）を見よ。㋩清の第十一代、光緒帝をいふ。清德宗（**7－17695**‥898）を見よ。㋥高麗第七代の王。顯宗の長子。諱は欽。字は元良。在位四年。㋭李朝第七代の王。諱は暲。字は原明。㊁晉、安帝（**3－7072**‥358）の名。㊂鎌倉時代、北條家の總領をいふ。其の知行所を德宗領といふ。〔東寺百合文書〕。

【德宗領】227（トクソウリヤウ）　鎌倉時代に、北條家の總領の知行所。〔皇朝史略、時賴圖㆑治〕有㆘公文所與㆓德宗領㆒爭㆑田者㆖。

【德聰】228（トクソウ）　〘佛〙宋の高僧。姑蘇の仰氏の子。戒を梵天寺に受く。〔松江府志〕。

【德泰】229（トクタイ）　後晉、張從訓（**4－9812**‥1186）の字。

【德體】230（トクタイ）　德のかたち。〔新書、道德說〕寫㆓德體㆒、六理盡見㆓於玉㆒也。

【德澤】231（トクタク）　㊀めぐみ。おかげ。恩澤。〔詩、小雅、車舝序〕德澤不㆑加㆓於民㆒。〔韓詩外傳、三〕德澤洋㆓乎海內㆒。〔韓非子、解老〕內有㆔德㆓澤於人民㆒、其治㆓人事㆒也務㆑本。〔管子、形勢解〕故德澤加㆓於天下㆒。〔史記、三皇紀〕聖人德澤廣大。〔漢書、賈誼傳〕天子春秋鼎盛、行義未㆑過、德澤有㆑加焉。〔漢書、鼂錯傳〕德澤滿㆓天下㆒。〔漢無名氏詩〕陽春布㆓德澤㆒。〔淮南子、本經訓〕德澤施㆓于方外㆒。〔春秋繁露、十指〕德澤廣大、衍㆓溢於四海㆒。〔王褒、四子講德論〕德澤洪茂。〔後漢書、寇榮傳〕自㆓生齒㆒以上、咸蒙㆓德澤㆒。㊁字號。㋑晉、孔汪（**3－6933**‥252）の字。㋺明、謝潤（**10－35827**‥118）の字。

【德達】232（トクタツ）　三國魏、孫禮（**3－6987**‥302）の字。

【德治】233（トクチ）　㊀德政を以て民を治める。〔左氏、僖、三十三〕文公曰、敬、德之聚也、能敬必有㆑德、德以治㆑民。㊁（トクヂ）　第九十四代、後二條天皇の年號。（1306－1308）〔菅原在嗣勘文〕尙書大禹謨曰、注曰、俊德治能之士竝在㆑官。

【德治主義】233′（トクチシユギ）　爲政者が、德を以て世を治めようとする主義。爲政者が命令を下さなくとも、人々が自然に其の德に感化せられ、惡を去つて善に移り、世が平和になること、卽ち無爲にして治まることを其の理想とする。此の主義は、孔・孟以來、儒家の主張する所で、爲政者の幸福を中心とする法家の法治主義（**6－17290**‥237）と對蹠的な政治思想である。〔論語、爲政〕子曰、爲㆑政以㆑德、譬如㆘北辰居㆓其所㆒而衆星共㆖㆑之。〔論語、爲政〕子曰、道㆑之以㆑政、齊㆑之以㆑刑、民免而無㆑恥、道㆑之以㆑德、齊㆑之以㆑禮、有㆑恥且格。

【德胄】234（トクチウ）　後漢、時苗（**5－13890**‥379）の字。

【德長】235（トクチヤウ）　字號。㊀唐、崔倰（**4－8178**‥174）の字。㊁五代南平、高保融（**12－45313**‥1332）の字。

【德杖】236（トクヂヤウ）　錫杖の異名。〔正字通〕錫、梵言隙棄羅、此云㆓錫杖㆒、錫杖經名德杖、又名㆓智杖㆒。

【德中】237（トクチユウ）　字號。㊀元、于大本（**1－252**‥130）の字。㊁元、辜中（**10－38636**‥13）の字。㊂元、朴賽因不花（**6－14428**‥58）の字。

【德仲】238（トクチユウ）　字號。㊀宋、汪之林（**6－17154**‥243）の字。㊁元、鄭芳叔（**11－39647**‥528）の字。

【德重】239（トクヂユウ）　字號。㊀梁、王珍國（**7－20823**‥1928）の字。㊁明、徐震（**4－10110**‥176）の字。

【德徵】240（トクチヨウ）　字號。㊀明、袁光閈（**10－34152**‥179、）の字。㊁明、遲鳳翔（**11－39113**‥49）の字。㊂明、王崇慶（**7－20823**‥1747）の字。

【德珍】241（トクチン）　字號。㊀明、張懷（**4－9812**‥229）の字。㊁明、馬道貫（**12－44572**‥879）の字。

【德鎭】242（トクチン）　㊀恩德をもつてしづめる。又、其の

山鎭。〔梁元帝、廬山碑序〕廬山者亦南國之德鎭、雖㆓林石異㆑勢、而雲霞共㆑色。㊁明、胥必彰(9－29406··59)の字。

【德貞】243 トクテイ 晉、韓壽(12－43159··118)の字。

【德兆】244 トクテウ 明、黃禎(12－47926··677)の字。

【德田】245 トクデン 佛阿羅漢及び如來等をいふ。能く諸の勝功德を具し、之を供養すれば勝功德を生ずるからいふ。田は能生の義。〔俱舍光記、十八〕德田、謂餘阿羅漢僧及如來具㆓諸勝功德㆒、及能生㆓他勝功德㆒故。

【德都】246 トクト ㊀設治局の名。滿洲黑龍省克山縣の北。納默爾河の東岸。㊁明、鄢正畿(11－39614··5)の字。

〔德都設治局〕247 トクトセッチキョク 地方行政局の名。民國、置く。本、克山縣北境の地。今、滿洲黑龍江省に屬す。

【德度】248 トクド ㊀立派な恩德。又、德量。〔左氏、襄、四〕用㆓德度㆒。〔會箋〕德度、猶㆑曰㆓德之則㆒。〔魏志、賈詡傳〕恢㆓崇德度㆒。㊁字號。㋑三國吳、趙咨(10－37171··181)の字。㋺晉、孔沈(3－6933··181)の字。㊇梁、劉坦(2－2224··482)の字。

【德寧】249 トクネイ 清、蒙古鑲白旗人。姓は杭阿坦氏。乾隆中、石峯堡の回族及び廓爾喀を征し、苗亂を平らげ、嘉慶中、四川の教匪を平らぐ。官は總兵。〔國朝耆獻類徵、二百九十六〕。

【德念】250 トクネン 德を思ふ心。〔漢書、高惠高后文功臣表序〕至㆓於不㆑及㆑下㆑車德念深㆒矣。

【德沛】251 トクハイ 清の宗室。字は濟齋(潔齋)。號は若瑟。封は簡儀親王。世宗の時、甘肅巡撫・湖廣總督。著に周易補注・實踐錄がある。〔清史稿、二百二十一〕・〔國朝耆獻類徵、八十〕・〔碑傳集二〕。

【德配】252 トクハイ ㊀德がならぶ。〔易林、賁之第二十二、解〕德配㆓唐虞㆒、天命爲㆑子。㊁人の妻の尊稱。〔孫逖、故程將軍妻南陽郡夫人樊氏挽歌〕德配㆓程休甫㆒、名高㆓魯季姜㆒。〔稱謂錄、稱㆓人之妻㆒、德配〕案、今皆以㆓德配㆒稱㆓人妻㆒、或本㆓諸此㆒。

〔德配天地〕253 トクテンチニハイス 德が天地とならぶ程に大なること。〔莊子、田子方〕夫子德配㆓天地㆒、而猶假㆓至言㆒以修㆑心。

【德方】254 トクハウ 字號。㊀後魏、甄楷(7－21557··4)の字。㊁宋、謝方叔(10－35827··349)の字。㊂宋、李直方(6－14459··1763)の字。㊃清、沈忠(6－17189··292)の字。

【德芳】255 トクハウ 字號。㊀唐、鄭元璹(11－39647··367)の字。㊁宋、邵桂子(11－39343··103)の字。㊂明、干桂(4－9165··30)の字。㊃清、沈忠(6－17189··292)の字。

【德保】256 トクハウ 清、滿洲正白旗人。姓は索綽絡氏。字は仲容・潤亭。號は定圃・龐村・匀園居士。諡は文莊。乾隆の進士。官は禮部尙書。書室を樂賢堂といひ、著に樂賢堂詩文鈔がある。〔清史列傳、二十四〕・〔國朝耆獻類徵、八十二〕。

【德望】257 トクバウ ㊀有德の名聲。人望。〔晉書、桓沖傳〕沖以、將相異㆑宜、自以㆓德望不㆑逮㆓謝安㆒、故委㆓之內相㆒、而四方鎭扞、以爲㆓己任㆒。〔宋史、楊時傳〕德望日重。〔宋史、王旦傳〕錢若水言、旦有㆓德望㆒、堪㆑任㆓大事㆒。㊁明、徐表然(4－10110··626)の字。

〔德望家〕258 トクバウカ 有德の名聲ある人。人望を受けてゐる人。

【德白】259 トクハク 清、劉公言(2－2224··910)の字。

【德薄】260 トクウスシ 德が少い。〔禮、祭統〕其德薄者、其志輕。〔晏子、雜、下〕德薄則辭㆑祿。〔史記、劉敬傳〕周之衰也、分而爲㆑兩、天下莫㆑朝、非㆓其德薄㆒也、而形勢弱也。〔列女傳、辯通、齊太倉女傳〕非㆓朕德薄而教之不㆑明歟。〔後漢書、輿服志上〕德薄者退、德盛者縟。

〔德薄而位尊〕261 トクウスクシテクラヰタフトシ 德が少いにも拘らず官位が高い。〔易、繫辭下〕德薄而位尊、知小而謀大、力小而任重、鮮㆑不㆑及矣。

【德法】262 トクハフ 仁德と法度。〔大戴禮、盛德〕故明堂天法也、禮度德法也。〔補注〕禮者德也、度者法也。〔孔子家語、執轡〕夫德法者御㆑民之具、猶㆔御㆑馬之有㆓銜勒㆒也。

【德範】263 トクハン 道德のてほん。〔晉書、張華傳〕見㆑華一面如㆑舊、欽㆓華德範㆒、如㆓師資之禮㆒焉。

【德藩】264 トクハン 清、金維寧(11－40152··1190)の字。

【德丕】265 トクヒ 五代楚、馬希廣(12－44572··724)の字。

【德庇】266 トクヒ めぐみをかけること。又、おかげを蒙むる。〔蔡襄、張厚贈㆓太子少保㆒制〕勳猷之美、屈㆓於當世㆒、德庇之慶、發㆓於來嗣㆒。〔蘇軾、與㆓蹇授之㆒書〕每㆑有㆓書來㆒、甚荷㆓德庇㆒。〔曾鞏、賀㆔蹇周輔授㆓館職㆒啓〕分㆓符海徼㆒、幸依㆓德庇之餘㆒、寓㆓直書林㆒、更託㆓雋遊之末㆒。

【德美】267 トクビ ㊀德の美。人格が立派なこと。〔漢書、車千秋傳〕共上㆑壽、頌㆓德美㆒。〔後漢書、馮衍傳下〕欽㆓眞人之德美㆒兮。㊁字號。㋑後蜀、李仁罕(6－14459··1529)の字。㋺宋、彪居正(4－9993··21)の字。㊇明、柴奇(6－14664··17)の字。

【德備】268 トクビ 明、陳萬卷(11－41698··1209)の字。

【德敏】269 トクビン 明、史敏(2－3249··144)の字。

【德夫】270 トクフ 字號。㊀宋、魏新之(12－45872··234)の字。㊁宋、胡一桂(9－29400··398)の字。㊂宋、吳獵(2－3365··412)の字。㊃宋、謝皓(10－35827··29)の字。㊄宋、徐鹿卿(4－10110··657)の字。㊅宋、趙不棄(10－37171··858)の字。㊆宋、馬天驥(12－44572··894)の字。㊇宋、孟宗政(3－6960··322)の字。㊈明、於惟一(5－13628··49)の字。㊉明、韓福(西安の人)(12－43159··204)の字。⓫明、徐必達(4－10110··611)の字。⓬明、沈良才(6－17189··659)の字。⓭明、孫懋(3－6987··279)の字。⓮明、單安仁(2－3993··297)の字。⓯明、潘潤(7－18236··53)の字。

【德孚】271 トクフ 字號。㊀唐、羅弘信(9－28397··332)の字。㊁元、何槐孫(1－511··242)の字。㊂明、李慶(6－14459··286)の字。

【德符】272 トクフ 字號。㊀隋、袁充(10－34152··80)の字。㊁宋、崔鷗(4－8178··18)の字。㊂元、商琦(2－3803··36)の字。㊃明、劉瑞(2－2224··412)の字。㊄清、張錫璁(4－9812··1267)の字。

【德普】273 トクフ 五代漢、司徒詡(2－3257··190)の字。

【德溥】274 トクフ 宋、林雱(6－14551··205)の字。

【德敷】275 トクフ 明、林春澤(6－14551··357)の字。

【德風】276 トクフウ ㊀德が人を化することを風に喩へていふ。德風加㆑草を見よ。〔宋璟、奉㆔和聖製送㆓張說巡邊㆒詩〕德風邊草偃。㊁西方極樂世界の衆德を具へた風。〔無量壽經〕自然德風起微動。

〔德風亭〕277 トクフウテイ 清、王貞儀(7－20823··1950)の室名。

〔德風加㆑草〕278 トクフウクサニクハハル 君子の德が人を化すること恰も草が風になびくやうであること。〔論語、顏淵〕君子之德風、小人之德草、草尙㆓之風㆒必偃。〔疏〕在㆑上君子爲㆑政之德若㆑風。

【德福】279 トクフク 清、蒙古正藍旗人。姓は巴魯特氏。官は總兵。老官屯の賊を攻め、創を被つて死す。〔清史列傳、二十二〕・〔國朝耆獻類徵、三百五十二〕。

〔德福之基〕280 トクフクノモトヰ 德はさいはひのもと。〔國語、晉語六〕夫德福之基也。

【德文】281 トクブン 字號。㊀晉、恭帝の名。司馬德文(2－3257··351)を見よ。㊁梁、蕭綜(9－32012··207)の字。㊂五代吳、徐延休(4－10110··342)の字。㊃金、劉煥(2－2224··216)の字。㊄明、錢本中(11－40563··433)の字。㊅明、董璘(9－31433··168)の字。

【德平】282 トクヘイ ㊀縣名。五代の唐、置く。山東省惠民縣の西南。馬頰河と沙河の中間に位す。〔讀史方輿紀要、山東、濟南府、德州〕德平縣、漢置㆓平昌縣㆒屬㆓平原郡㆒、後漢曰㆓西平昌縣㆒、晉宋因㆑之、後魏復曰㆓平昌縣㆒、又置㆓東安郡於此㆒、北齊郡廢、隋屬㆓德州㆒、唐因㆑之、太和中、改屬㆓齊州㆒、尋復㆑舊、五代唐改曰㆓德平㆒、宋熙寧六年、省入㆓安德㆒、元符初、復置。〔清史稿、地理志〕山東、濟南府、縣十五、德平。㊁元、袁裒(10－34152··143)の字。

〔德平王〕283 トクヘイワウ 明、朱胤椗(6－14424··669)の封號。

【德柄】284 トクヘイ 德のもと。〔易、繫辭下〕謙、德之柄也。

【德瓶】285 トクヘイ 佛瓶の名。人が天神に祈つて此の瓶を感得すれば、求める所のものが意の如く瓶の中から出てくるといふ。賢瓶。善瓶。如意瓶。吉祥瓶。〔智度論〕持戒之人、無㆓事不㆑得、破戒之人、一切皆失、譬如㆑有㆘常供㆓養天㆒得㆗德瓶㆖。

【德表】286 トクヘウ 隋、裴政(10－34362··66)の字。

【德父】287 トクホ 字號。㊀宋、祝可久(8－24672··13

0)の字。㊁宋、趙景緯(10－37171‥496)の字。㊂宋、趙明誠(10－37171‥911)の字。

【德甫】288 トクホ　字號。㊀宋、王象祖(7－20823‥1640)の字。㊁明、耿再成(9－29026‥56)の字。㊂明、胡文煥(9－29400‥610)の字。㊃明、余日德(1－515‥69)の字。㊄清、劉佳(2－2224‥68)の字㊅清、王昶(7－20823‥791)の字。

【德輔】289 トクホ　明、汪克寬(6－17154‥228)の字。

【德峯】290 トクホウ　字號。㊀後唐、張希崇(4－9812‥892)の字。㊁後周、周密(2－3441‥482)の字。

【德侔】291 トクボウ　宋、沈畸(6－17189‥95)の字。

【德懋】292 トクボウ　字號。㊀金、楊邦基(6－15112‥742)の字。㊁明、章懋(8－25761‥160)の字。「字。

【德謀】293 トクボウ　三國吳、程普(8－25081‥129)の字。

【德牧】294 トクボク　㊀鳳凰の腹の模様と背の模様。〔枚乘、七發〕螭龍德牧、邕邕羣鳴。〔注〕向曰、鳳背上文曰レ牧、腹下文曰レ德。㊁鳳凰の類。〔駢雅、釋鳥〕德牧、鳳屬也。

【德本】295 トクホン　㊀孝をいふ。孝は德の本の意。〔孝經、開宗明義章〕夫孝德之本也、教之所二由生一也。〔注〕人之行、莫レ大二于孝一、故爲二德本一也。〔班固、典引〕體二行德本一正性也。㊁字號。㋑北周、趙文深(10－37171‥874)の字。㋺隋、裴仁基(10－34362‥145)の字。

〖德本堂〗296 トクホンダウ　滋賀縣高島郡青柳村字小川の藤樹書院の稱。その軒に『德本堂』の三字をかかげてあるからいふ。〔佐藤一齋、德本堂〕景慕今顏德本堂。

【德米】297 トクマイ　地主が、小作人から取立てる米。小作米。

【德邁】298 トクマイ　隋、周法尙(2－3441‥824)の字。

【德萬】299 トクマン　明、田一儁(7－21723‥337)の字。

【德明】300 トクメイ　字號。㊀陳、張昭(4－9812‥468)の字。㊁後梁、朱友文(6－14424‥642)の字。㊂後晉、楊光遠(6－15112‥487)の字。㊃南唐、刁彥能(2－1846‥64)の字。㊄宋、歐陽澈(6－16185‥91)の字。㊅宋、張鑑(4－9812‥152)の字。㊆宋、趙元僖(10－37171‥514)の初名。㊇宋、李謙溥(6－14459‥1144)の字。㊈宋、王顯(7－20823‥367)の字。㊉金、郭宣道(11－39474‥363)の字。⑪明、何文輝(1－511‥363)の字。⑫明、蘇志皐(9－32427‥243)の字。

【德茂】301 トクモ　㊀德の盛んなこと。〔司馬相如、難二蜀父老一文〕德茂存二乎六世一。㊁字號。㋑梁、蕭韶(9－32012‥195)の字。㋺明、郭樌(11－39474‥70)の字。

【德目】302 トクモク　德の名目。德の箇條。

【德門】303 トクモン　德ある家。〔南史、謝晦傳論〕謝氏自レ晉以降、雅道相傳、可レ謂二德門者一矣。

【德洋】304 トクヤウ　德がひろく溢れること。德洋恩普を見よ。

〖德洋恩普〗305 トクヒロクオンアマネシ　道德が溢れるほどひろく、恩澤の遍くゆきわたること。〔司馬相如、難二蜀父老一檄〕德洋恩普、物靡レ不レ得二其所一。

【德陽】306 トクヤウ　㊀縣名。㋑後漢、置く。故城は、四川省梓潼縣の北。後、廢して德陽亭とす。〔讀史方輿紀要、四川、龍安府、平武縣〕德陽城、府東二百里、本漢梓潼縣地、後漢改置二德陽縣一屬二廣漢郡一、華陽國志、德陽有二劍道三十里一至險、蓋與二劍門一相近也、建安十九年、先主軍レ涪、張飛自二江州一而上、定二巴西德陽一、鄧艾由二陰平一、邪經二漢德陽亭一至二江油一、出二劍閣西百里一、皆謂レ此、晉移二德陽一而南、因謂レ此爲二漢德陽一。㋺後漢、置く。四川省遂寧縣の東南。〔讀史方輿紀要、四川、潼川州、射洪縣〕德陽廢縣、本後漢析二陰平縣一置、在二今龍安府東一、晉太康中、移二治於此一、仍屬二廣漢郡一、永寧元年、李特攻二廣漢太守辛冉一、潰レ圍奔二德陽一、時廣漢仍治レ雒也。㋩唐、置く。四川省羅江縣の西南。綿陽河と石亭江の中間。〔讀史方輿紀要、四川、成都府、漢州〕德陽縣、漢綿竹縣地、晉因レ之、隋爲二雒縣地一、唐武德三年、析置二德陽縣一屬二益州一、垂拱中、改屬二漢州一、元和初、高崇文破二劉闢於德陽一、進拔二漢州一、光啓三年、王建攻二陳敬瑄一、敗二之於德陽一、卽此、宋仍爲二德陽縣一、元至元八年、升爲二德州一、十三年、復爲レ縣隷二成都路一、十八年、還屬二漢州一。〔淸史稿、地理志〕四川、緜州直隷州、縣五、德陽。㊁宋、林景曦(6－14551‥297)の字。

【德養】307 トクヤウ　めぐみを施して養ふこと。〔鬼谷子、本經陰符〕懷二天心一、施二德養一。〔注〕懷二抱天心一、施レ德養育。

【德瑜】308 トクユ　後漢、伍孚(1－435‥33)の字。

【德裕】309 トクユウ　字號。㊀明、艾洪(9－30648‥25)の字。㊁明、黃宏(12－47926‥292)の字。「字。

【德融】310 トクユウ　南朝宋、後廢帝(4－10098‥736)の字。

【德畬】311 トクヨ　淸、潘仕成(7－18236‥161)の字。

【德餘】312 トクヨ　三國蜀、李邈(6－14459‥667)の字。

【德輿】313 トクヨ　字號。㊀南朝宋、武帝の字。劉裕(2－2224‥624)を見よ。㊁宋、劉載(2－2224‥293)の字。㊂淸、鄭曰敬(11－39647‥308)の字。㊃淸、劉權之(2－2224‥878)の字。

【德譽】314 トクヨ　有德のほまれ。有道のきこえ。〔魏志、王昶傳、注〕昶諸子中、湛最有二德譽一。

【德用】315 トクヨウ　㊀明、謝成(濠の人)(10－35827‥138)の字。㊁使用して利益の多いこと。㊂まうけ。利得。㊃有德で應用の才能があること。〔源平盛衰記、一〕汝は坐道場の德用を備へたり。㊄德から發する作用。德のはたらき。功德。德庸。〔謠曲、海士〕今此の經の德用にて。

【德容】316 トクヨウ　㊀よい評判。德音(15)の㊃に同じ。〔小爾雅、廣訓〕公孫碩膚、德容不レ瑕、道二成王大美、聲稱遠一也。㊁字號。㋑三國魏、張既(4－9812‥167)の字。㋺唐、朱仁軌(6－14424‥869)の字。㋩宋、陳縝(11－41698‥382)の字。㋥明、蕭儀(9－32012‥69)の字。

【德庸】317 トクヨウ　㊀德のはたらき。功德。〔墨子、尙賢中〕廢二帝之德庸一。〔閒詁〕庸、用也。㊁元、淩時中(2－1669‥138)の字。

【德老】318 トクラウ　宋、薛徽言(9－32123‥156)の字。

【德樂】319 トクラク　㊀南齊の女僧。毗陵の孫氏の女。南永安寺に住し、永明中、卒す。〔比丘尼傳〕。㊁トクラ　姓氏。〔姓名錄抄〕。

【德利】320 トクリ　㊀酒を入れるつぼの類。とつくり。得利。德裏。㊁俗に游泳のできぬものをいふ。㊂デリー　地名。印度ガンヂス河の上流に位する都邑。Delhi の音譯。

〖德利學者〗321 トクリガクシヤ　口先ばかり巧者で、眞實の學問のない學者を嘲つていふ。德利の中味の少ないのは音がし、滿ちてゐるのは音がしないといふ意。

【德裏】322 トクリ　德利に同じ。〔宗長日記、九月十三夜〕豆に德裏を添へ。

【德立】323 トクリツ　㊀淸の僧。字は鶴臞、又、君直。號は西池。吳の怡賢寺に住す。畫を善くし、草書に巧で、又、詩を能くす。書室を藕花園といひ、著に藕花園詩がある。〔淸畫家詩史、壬、下〕。㊁唐、張行成(4－9812‥866)の字。

【德良】324 トクリヤウ　字號。㊀隋、元亨(1－1340‥75)の字。㊁明、康驥(4－9376‥33)の字。㊂明、伍驥(安福の人)(1－435‥7)の字。㊃明、馬馴(12－44572‥316)の字。

【德亮】325 トクリヤウ　元、趙采(10－37171‥173)の字。

【德量】326 トクリヤウ　有德の器量。〔後漢書、謝夷吾傳〕德量績謀。〔蜀志、諸葛亮傳〕孤不レ度二德量一、力欲レ信二大義於天下一。

〖德量寬大〗327 トクリヤウクワンダイ　有德で度量のひろく大きなこと。德が廣大で、よく人を容れること。

【德隆】328 トクリユウ　㊀明の莊烈帝(9－31035‥193)の時、越の神宗淵皇帝黎維祺の年號。(1629－1634) ㊁明、曹昌(5－14297‥108)の字。

〖德隆望尊〗329 トクタカクノゾミタツトシ　德行が高く人望の篤いこと。〔宋濂、送二東陽馬生一先達德序〕德隆望尊。

【德陵】330 トクリヨウ　陵名。㊀金の宣宗の陵。河北省房山縣の西北、大房山にあり。〔金史、宣宗紀下〕(正大元年)三月庚申、葬二德陵一。〔房山縣志〕宣宗陵、在二縣西大房山東北一。㊁明の熹宗の陵。河北省昌平縣雙鎖山の檀子谷の西にあり。〔明史、熹宗紀〕天啓七年、八月乙卯、崩二於乾淸宮一、年二十三、遺詔以二皇第五弟信王由檢一嗣二皇帝位一、冬十月庚子、上二尊諡一、廟號二熹宗一、葬二德陵一。〔昌平山水記〕德陵在二潭子峪一、距二永陵一東北一里、自二永陵碑亭前一分レ北爲二德陵神路一、陵西南向、碑亭前有レ橋、三道皆一空、制如二景陵平刻龍鳳殿一、柱飾以二金蓮一、殿無二後門一、榜曰二德陵碑一、曰二大明熹宗哲皇帝之陵一、殿樓門亭俱黃瓦。〔畿輔通志〕德陵在二昌平州雙鎖山一。

【德林】331 トクリン　㊀淸、滿洲の人。字は硯香。多く金石を搜藏す。篆隸に巧。〔淸畫家詩史、辛、下〕。

❷字號。㋑前秦、索泮(8－27306‥68)の字。㋺宋、胡埜(9－29400‥349)の字。㋩宋、程筠(8－25081‥5)の字。㋥清、周元懋(2－3441‥646)の字。

〖德林石〗332 トクリンセキ 石の名。滿洲吉林省安寧縣の西南に在り、土人は德林倭赫といふ。倭赫は滿洲語で、石の意。鄂摩和湖の東から沙蘭站の南を繞つて瑚爾哈河に至る閒、平坦にして砥の如く、數多の孔洞がある。又、泉がある。

【德鄰】333 トクリン 字號。❶唐、陸據(11－41708‥62)の字。❷宋、郭良臣(11－39474‥425)の字。❸明、黃里(12－47926‥905)の字。

【德霖】334 トクリン 宋、劉滂(2－2224‥550)の字。

【德麟】335 トクリン 宋、趙令時(10－37171‥936)の字。

【德令】336 トクレイ 惠みある命令。〔書、盤庚下〕肆上帝將レ復二我高祖之德一、疏〕天必祐レ我、將レ使三復奉二湯德令一。〔論衡、偶會〕使三聖王出二德令一也。

【德禮】337 トクレイ 正しい德に則つた政をして禮にかなふこと。〔左氏、文、七〕義而行レ之、謂二之德禮一。〔注〕德、正德也、禮以制二財用之節一、又以厚二民生之命一。

【德齡】338 トクレイ ❶清、滿洲鑲黃旗人。姓は鈕祜祿氏。康熙の進士。湖北巡撫となり、乾隆中、盛京禮部侍郎に至る。〔國朝耆獻類徵、七十三〕。❷字號。㋑宋、趙令時(10－37171‥936)の字。㋺明、何壽朋(1－511‥297)の字。

【德靈】339 トクレイ 商、理徵(7－21014‥105)の字。

【德璉】340 トクレン 字號。❶三國魏、應瑒(4－11330‥234)の字。❷梁、賀瑒(10－36725‥101)の字。❸陳、孫瑒(3－6987‥210)の字。

【德輦】341 トクレン 後周、王仁裕(7－20823‥1746)の字。

【德魯】342 トクロ 三國魏、杜摯(6－14477‥132)の字。

〖德魯巴〗343 デルパ 種族名。西藏族の一支族。北方高原に住み、半遊牧の部落を形成す。Dru-pa

【德鄜】344 トクロク 宋、潘時(7－18236‥37)の字。

【德和】345 トクワ ❶性行のおだやかなこと。〔晏子、重而異者〕心平德和。❷めぐみ深くおだやかなこと。〔呂覽、孟春〕命レ相布二德和令一。❸字號。㋑後晉、石敬贇(8－24024‥921)の字。㋺宋、沈介(6－17189‥62)の字。❹宋、趙元傑(10－37171‥515)の初名。

【德王】346 トクワウ 明、朱見濋(6－14424‥747)の封號。

【安レ德】347 トクニヤスンズ 泰然として道德を守つて居る。〔左氏、襄、十一〕夫樂以安レ德、義以處レ之、禮以行レ之、信以守レ之、仁以厲レ之、而後可三以殿二邦國一、同二福祿一、來二遠人一、所謂樂也。

【一レ德】348 トクヲイツニス ❶德を全くする。〔禮、王制〕考レ禮正レ刑一レ德、以尊二于天子一。❷一德(1－1‥1724)を見よ。

【校レ德】349 トクヲカンガフ 德をかんがへる。德をくらべる。〔班固、東都賦〕按二六經一而校レ德。

【貴レ德】350 トクヲタフトブ 有德の人を尊敬する。〔禮、祭義〕昔者有虞氏貴レ德而尙レ齒。

【建レ德】351 トクヲタツ 德を天下にたて行ふ。〔班固、兩都賦序〕因レ時而建レ德者、不下以二遠近一易上レ則。

【種レ德】352 トクヲウウ 德惠を施し行ふ。〔書、大禹謨〕皐陶邁種レ德、德乃降、黎民懷レ之。

【樹レ德】353 トクヲタツ 德をうゑ立てる。德を天下に行ふ。樹レ德務レ滋を見よ。

〖樹レ德務レ滋〗354 トクヲタツルニハシゲキヲツトム 民に惠を施すには多いほどよい。〔書、泰誓下〕樹レ德務レ滋、除レ惡務レ本。

〖樹レ德莫レ如レ滋〗355 トクヲタツルニハシゲクスルニシクハナシ 樹レ德務レ滋に同じ。〔左氏、哀、元〕樹レ德莫レ如レ滋、去レ疾莫レ如レ盡。

【陳レ德】356 トクヲノブ 德をのべ行ふ。〔禮、樂記〕夫歌者、直レ己而陳レ德也。

【飽レ德】357 トクニアク 酒食を十分頂戴する。德は惠。多く人に招かれた時の謝辭に用ふ。〔詩、大雅、既醉序〕既醉、太平也、醉レ酒飽レ德、人有二士君子之行一焉。〔箋〕志意充滿、是謂二之飽一レ德。

【布レ德】358 トクヲシク 德をしき施す。立派な行ひをする。〔淮南子、人閒訓〕聖王布レ德施レ惠、非レ求二其報於百姓一也。〔班固、東都賦〕目二中夏一而布レ德。

【亂レ德】359 トクヲミダス 德をみだす。善からぬ行ひをする。〔史記、歷書〕九黎亂レ德。

【立レ德】360 トクヲタツ 德を立てる。道を天下に行ふ。〔左氏、襄、二十四〕豹聞レ之、大上有レ立レ德、其次有レ立レ功、其次有レ立レ言、雖レ久不レ廢、此之謂二不朽一。

【累レ德】361 トクヲワヅラハス 德にきづを附ける。〔書、旅獒〕不レ矜二細行一、終累二大德一。

【德有レ報】362 トクムクイアリ 德行があればその報がある。〔孔叢子、論書〕見二德有レ報之疾一也。

【德英阿】363 トクエイア 清、滿洲鑲藍旗人。姓は赫業氏。諡は剛果。川楚・河南の教匪を討つて功あり。道光の閒、伊犂將軍となる。〔國朝耆獻類徵、三百十七〕。

【德香園】364 トクカウエン 明、田狩龍(7－21723‥381)の室名。

【德求堂】365 トクキウダウ 明、吳炯(2－3365‥142)の室名。

【德隅齋】366 トクグウサイ 宋、李廌(6－14459‥581)の號。

〖德隅齋書品〗367 トクグウサイシヨヒン 書名。一卷。宋、李廌撰。名畫の品題。〔四庫提要、子、藝術類〕。

【德皇后】368 トククワウゴウ 梁、郗后の諡。

【德勳堂】369 トククンダウ 宋、張鎡(4－9812‥361)の室名。

【德興保】370 トクコウハウ 清、滿洲正白旗人。姓は瓜爾佳氏。屢〻戰功あり。官は寧夏副都統。〔國朝耆獻類徵、三百十二〕。

【德黑蘭】371 テヘラン 地名。イラン國の首府。Teheran の音譯。

【德爾班】372 ダルバン 地名。南アフリカ聯邦の東南にある港市。ダーバン。Durban の音譯。

【德若國】373 トクジヤクコク 漢代、西域の國名。〔後漢書、西域、德若傳〕德若國、領戶百餘、口六百七十。

【德成額】374 トクセイガク 清、蒙古正黃旗人。姓は伍彌特氏。乾隆中、甘肅の石峯堡の回族、及び臺灣の林爽文を攻めて功あり。官は廣西提督。〔國朝耆獻類徵、三百五〕。

【德不レ孤】375 トクコナラズ 德のある人には味方がある。〔易、文言〕君子敬以直レ內、義以方レ外、敬義立而德不レ孤。

〖德不レ孤必有レ鄰〗376 トクコナラズカナラズトナリアリ 德ある者は孤立することがない、きつと己と類を同じうする有德の人が出て之を援ける。〔論語、里仁〕德不レ孤、必有レ鄰。〔集注〕鄰、猶レ親也、德不二孤立一、必以レ類應、故有レ德者、必有二其類一從レ之、如二居之有一レ鄰也。

【德辨齋】377 トクベンサイ 清、董蠡舟(9－31433‥271)の號。

【德穆圖】378 トクボクト 清、蒙古正白旗人。姓は博爾濟吉特氏。官は本旗蒙古副都統。〔清史稿、二百三十六〕・〔國朝耆獻類徵、二百六十二〕。

【德萬歲】379 トクマンザイ 子供が嚏(クサメ)をした時にまじなひに稱へる語。〔袖中抄〕今俗、正月元日早旦嚏、則稱曰二千秋萬歲急急如律令一。

【德無レ陋】380 トクロウナシ 有德の者には周圍のわるいのはかかはりがない。〔柳宗元、箕子碑〕推レ道訓レ俗、惟德無レ陋、惟人無レ遠。

【德理鎭】381 トクリチン 滿洲の古地名。其の位置には諸說がある。〔唐書、地理志七下〕至二渤海王城一、城臨二忽汗海一、其西南三十里、有二古肅愼城一、其北經二德理鎭一、至二南黑水靺鞨一千里。

【德律風】382 テレフオン 電話。telephone の音譯。

【德拉瓦】383 デラウエーヤ 地名。アメリカ合衆國の州名。大西洋岸にあり、農を以て主となす。Delaware の音譯。

【德楞額】384 トクリヨウガク 清、滿洲正藍旗人。姓は烏蘭哈特氏。軍功あり。嘉慶中、成都副都統となる。〔國朝耆獻類徵、三百十〕。

【德楞泰】385 トクリヨウタイ 清、蒙古正黃旗人。姓は伍彌特氏。諡は壯果。金川・臺灣・川楚教匪の亂を平らぐ。官は都統、太子太保。爵は一等繼勇侯。〔清史稿、三百五十〕・〔清史列傳、二十九〕・〔國朝耆獻類徵、三百三〕・〔碑傳集、一百十六〕・〔國朝先正事略、二十二〕。

【德勒津】386 トコロツ 紀伊國の地名。昔、紀の川口にあつた海港。〔日本書紀〕天皇巡二狩南國一、至二紀伊國一而居二于德勒津宮一。

【有レ慙レ德】387 トクニハヅルアリ 自分の德が古の聖王に及ばぬことを省みて恥ぢる。〔書、仲虺之誥〕成湯放二桀于南巢一、惟有レ慙レ德、曰、予恐來世以レ台爲二口實一。〔傳〕有レ慙レ德、慙二德不一レ及レ古。

【德爲二人表一】388 トクジンペウタリ 德があつて、人の模範となる。〔隋書、盧昌衡傳〕出爲二徐州總管長史一、甚有二能名一、吏部尙書蘇威考レ之曰、德爲二人表一、行爲二士則一、論者以爲二美談一。

【德輶如レ毛】389 トクノカロキコトケノゴトシ 道德を行ふことは恰

も毛の輕きが如く容易なものである。〔詩、大雅、烝氏〕德輶如レ毛、民鮮二克擧一レ之。〔箋〕輶、輕。〔集傳〕言、人皆言、德甚輕而易レ擧、然人莫二能擧一也。〔中庸〕子曰、聲色之於二以化一レ民、末也、詩曰、德輶如レ毛、毛猶有レ倫、上天之載、無レ聲無レ臭、至矣。

【德逸處士】390 トクイツシヨシ 宋、鄒禮(**11－39562··60**)の賜號。

【德干高原】391 デカンカウゲン 地名。印度半島の南にあり、地形三角に似て、平均高度七百五十米。Deccan の音譯。

【德爾格式】392 トールコト 土司の名。略して德格土司。西康省の德格・鄧柯・白玉・石渠・同普五縣の境。其の先祖は宋代の土司。西康の諸土司中、廣きこと第一。

【德川光圀】393 トクガハミツクニ 水戸家二代の藩主。賴房の三子。字は子龍。號は日新齋・常山人・率然子・梅里・西山隱子。諡は義公。世に水戸黃門・西山公と稱す。大日本史を編修して大義名分を明にし、また楠公の碑を建てる等、維新の氣運を作るに功あり。元祿十三年歿す、年七十三。贈正一位。

【德川時代】394 トクガハジダイ 德川家康が征夷大將軍となつた慶長八年(1603)から十五代慶喜が大政を奉還した慶應三年(1867)までの二百六十五年間、德川幕府が存續した時代をいふ。江戸時代。

【德川齊昭】395 トクガハナリアキ 水戸家九代の藩主。治紀の第三子。號は景山。諡は烈公。藤田東湖を用ひて文武を奬勵し、海防を嚴にし、弘道館を建てて人材を養ひ、勤王に功あり。萬延元年歿す。贈正一位。

【德蕩二乎名一】396 トクハナニタウス 德は名を求めると廢れる。〔莊子、人閒世〕德蕩二乎名一、知出二乎爭一。

【德博而化】397 トクヒロクシテクワス 功德を博く施して民を化する。〔易、乾〕善レ世而不レ伐、德博而化。

【德不レ稱レ位】398 トククラキニカナハズ 德がその位に相應しない。〔漢書、刑法志〕德不レ稱レ位、能不レ稱レ官。

【德摩比利】399 テルモピレー 地名。ギリシヤの峠。古へよりギリシヤの南北交通上の關門。Thermopylae の音譯。

【德無二常師一】400 トクニハジヤウシナシ 德を身に修めるには、特定の一人に限らず、善人ならば誰でも師とするがよい。〔書、咸有一德〕德無二常師一、主レ善爲レ師、善無二常主一、協二于克一一。

【德里佛斯】401 トリーヴストレーフエス 地名。ドイツ、ライン省南部の都邑。特里爾。Treves の音譯。

【德力龍淵】402 トクリキリヨウカン 江戸の人。名は良弼。字は子靜。通稱は十兵衞。號は龍淵・蔽園・混混翁。安永六年二月歿す、年七十一。官は幕府評定所儒官。著に古文孝經古傳・古文孝經外傳・守成編・政要策・蔽園雜鈔がある。〔近代著述目錄後篇〕。

【德勒斯登】403 ドレスデン 地名。ドイツ、サクソニーの首府。Dresden の音譯。

【以レ德爲レ本】404 トクヲモツテモトトナス 德を以て萬事の本とする。〔莊子、天下〕以レ天爲レ宗、以レ德爲レ本。

【以レ德行レ仁】405 トクヲモツテジンヲオコナフ 己の身に得た德を以て民を安んじ世を救ふの仁道を行ふ。〔孟子、公孫丑上〕孟子曰、以レ力假レ仁者霸、霸必有二大國一、以レ德行レ仁者王、王不レ待レ大。

【以レ德報レ怨】406 トクヲモツテウラミニムクユ 怨のある者に却つて恩惠を施す。〔論語、憲問〕或曰、以レ德報レ怨、何如、子曰、何以報レ德、以レ直報レ怨、以レ德報レ德。〔疏〕或人之意、欲二人犯而不一レ校、故問二孔子一曰、以二恩德一報二讎怨一何如、孔子答言、若報レ怨既用二其德一、若受二人恩惠之德一、不レ知二何以報一レ之也。

【以レ德報レ德】407 トクヲモツテトクニムクユ 德あるものに德行を以てむくいる。以レ德報レ怨を見よ。〔禮、表記〕以レ德報レ德、則民有レ所レ勸。

【棄レ德從レ賊】408 トクヲステテゾクニシタガフ 善をすてて惡に從ふ。〔左氏、哀、十六〕子高曰、微二二子者一、楚不レ國矣、棄レ德從レ賊、其可レ保乎。

【恃レ德者昌】409 トクヲタノムモノハサカユ 德に賴る者は榮える。〔史記、商君傳〕恃レ德者昌、恃レ力者亡。

【度レ德而師】410 トクヲハカリテシトス 其の人の人格をしらべてから師とする。〔文中子、立命〕度レ德而師。

【度レ德量レ力】411 トクヲハカリチカラヲハカル 己の德と力とをはかり考へる。〔左氏、隱、十一〕度レ德以處レ之、量レ力而行レ之。〔風俗通、皇霸〕襄公不二度レ德量一レ力。

【聽レ德惟レ聰】412 トクヲキクニハソウヲオモフ 德に適つた言を聽かんとすれば先づ己が聰明でなければならぬ。聰明なれば聽く所の者は常に德で、憸邪に惑はされることがない。〔書、太甲中〕視レ遠惟レ明、聽レ德惟レ聰。〔蔡傳〕思レ聰、則所レ聽者德、而不レ惑二於憸邪一。〔傳〕言、當二以レ明視一レ遠、以レ聰聽一レ德。

【抱レ德煬レ和】413 トクヲイダキワヲアタタム 德をいだき養ひ、和氣をあたため養ふ。〔莊子、徐無鬼〕抱レ德煬レ和、以順二天下一。

【德迴二乎天地一】414 トクメグル テンチニ 德があまねく天地を感化する。〔呂覽、上德〕古之王者、德迴二乎天地一。

【德謨克拉西】415 デモクラシー 民主の意。Democracy の「音譯。

【在レ德不レ在レ疆】416 トクニアリテサカヒニアラズ 治國の要は德政を行ふに在つて、國域の廣狹には關係しない。〔魏志、張範傳〕在レ德不レ在レ疆、夫能用レ德以同二天下之欲一、雖レ由二匹夫之資一、而興二霸王之功一、不レ足レ爲レ難、若苟僭擬、于レ時而動、衆之所レ棄、誰能興レ之。

【在レ德不レ在レ險】417 トクニアリケンニアラズ 治國の要は、山河の要害なことではなくて、德を以て立つにある。〔史記、吳起傳〕魏武侯浮二西河一而下、中流顧謂二吳起一曰、美哉山河之固、此魏國之寶也、起對曰、在レ德不レ在レ險。

【在レ德不レ在レ鼎】418 トクニアツテカナヘニアラズ 王者たる資格は、其の人の德如何にあつて、鼎などは問題ではない。鼎は傳位の神器。〔左氏、宣、三〕楚子問二鼎之大小輕重一焉、對曰、在レ德不レ在レ鼎。〔史記、楚世家〕楚王問二鼎小大輕重一、對曰、在レ德不レ在レ鼎。

【非レ德不レ及レ世】419 トクニアラザレバヨニオヨバズ 道に適つた行ひをしなければ、その福利は後嗣に傳はらぬ。世は後嗣。〔國語、晉語一〕非レ德不レ及レ世、非レ天不レ離レ數。

【德蘭斐尼亞】420 トランシルバニヤ ㊀地名。ルーマニヤの西境、ハンガリヤと接す。㊁山脈の名。トランシルバニヤ、アルプスともいひ、第一次世界大戰前、ルーマニヤとハンガリヤとの國境となる。Transylvania の音譯。

【德則在二博而久一】421 トクハスナハチヒロクシテヒサシキニアリ 德といふものは、博く施し、久しく續けることが肝要である。〔忠經、政理章〕政則在二簡而能一、德則在二博而久一。

【有レ德者必有レ言】422 トクアルモノハカナラズゲンアリ 內に德のある者は必ず世の訓誡となる善言を發する。〔論語、憲問〕子曰、有レ德者必有レ言、有レ言者不二必有一レ德。

【作レ德心逸日休】423 トクヲナセバココロイツシテヒニキウス 德を行へば、心は樂しみ、日々に美名が揚る。〔書、周官〕作レ德心逸日休、作レ僞心勞日拙。〔傳〕爲レ德直レ道而行、於レ心逸豫、而名日美。

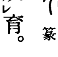
【徸】10244

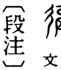
シヨウ シユ 〔集韻〕諸容切 冬

㊀**ゆくさま。**〔玉篇〕徸、行皃。㊁**たちもとほるさま。又、小兒の行くさま。**蹱(**10－37871**)に同じ。〔集韻〕蹱、埤倉、蹤蹱、行不レ進皃、一曰、小兒行、或从レ彳。㊂僮(**4－10172**)に同じ。〔正字通〕徸、同レ僮。

【徹】10245

テツ デチ 〔集韻〕直列切 屑 ㄔㄜˋ chʻê^4


小篆


古文

㊀**とほる。とほす。**〔說文〕徹、通也、从レ彳从レ攴从レ育。〔段注〕蓋合二三字一會意、攴レ之、而養二育之一、而行レ之、則無レ不レ通。〔說文通訓定聲〕徹、按、字疑从レ彳从二㪔省一會意、散者、㪔也、有二疏通之誼一、去聲。〔廣雅、釋詁一〕徹、通也。〔小爾雅、廣言〕徹、通也。〔國語、楚語上〕攝而不レ徹。〔注〕徹、通也。㊁**とどく。とどける。**〔小爾雅、廣詁〕徹、達也。〔左氏、昭、二〕徹二命于執事一。〔國語、魯語上〕焚烟徹二於上一。〔注〕徹、達也。〔國語、越語上〕不三敢徹二聲聞於天王一。〔注〕徹、達也。㊂**つらなる。つらねる。**〔方言、三〕

徹、列也、東齊曰レ徹。〔獨斷、上〕徹侯、羣臣異姓、有レ功封者、稱曰二徹侯一、避二武帝諱一、改曰二通侯一、或曰二列侯一。❹よる。〔爾雅、釋訓〕不レ徹、不レ道也。〔詩、小雅、十月之交〕天命不レ徹。〔傳〕徹、道也。❺みち。あと。轍（10－38524）に同じ。〔說文通訓定聲〕徹、字亦作レ轍。〔爾雅、釋訓、不レ徹不レ道也、注〕徹、亦道也。〔郝懿行義疏〕徹者、通也、達也、通達皆道路之名、故云二徹亦道也一、徹之言轍、有二軌轍可一レ循、詩、天命不レ徹、毛傳、徹、道也、鄭箋、不レ道者、言二王不一レ循二天之政教一。〔集韻〕徹、道也。❻あきらか。〔華嚴經音義、下〕徹、明也。〔國語、周語中〕其何事不レ徹。〔賈注〕徹、明也。❼うごく。〔管子、內業〕拚毋レ有レ徹。〔注〕徹、動也。❽くづれる。くづす。〔廣雅、釋詁一〕徹、壞也。〔詩、小雅、十月之交〕徹二我牆屋一。〔楚辭、天問〕何令レ徹二彼岐社一。〔注〕徹、壞也。❾をさめる。〔詩、大雅、公劉〕徹レ田爲レ糧。〔傳〕徹、治也。❿さる。勶（2－2475）に通ず。〔說文通訓定聲〕徹、叚借爲レ勶。〔儀禮、燕禮〕司宮徹レ之。〔注〕徹、猶レ去也。〔禮、曲禮上〕客徹二重席一。〔注〕徹、去也。⓫のぞく。〔儀禮、大射儀〕乃徹二豐與一レ觶。〔注〕徹、除也。⓬收める。〔儀禮、士冠禮〕徹二筮席一。〔注〕徹、斂也。⓭とる。掇（5－12241）に通ず。〔孟子、公孫丑上〕徹二彼桑土一。〔注〕徹、取也。〔說文通訓定聲〕詩鴟鴞、云云、孟子注、取也、則謂二借爲一レ掇。⓮はぐ。〔詩、豳風、鴟鴞〕徹二彼桑土一。〔傳〕徹、剝也。⓯**周の賦稅法**。方一里の田を九分し、八家に夫々其の一分百畝の田を授け、殘りの百畝を公田とする。公田の內、宅地二十畝を除いた八十畝を八家で耕し、その收穫を官に納れる。一家にとつては十畝、卽ち什一の稅制。井田法。〔說文通訓定聲〕徹、按、野九一而助、謂三九夫而稅二一夫之田一、國中什一、使二自賦一、謂三十一夫而貢二一夫之穀一、通レ之則二十夫而稅レ二、是其實亦什一也。〔廣雅、釋詁二〕徹、稅也。〔詩、大雅、公劉〕徹レ田爲レ糧。〔箋〕什一而稅、謂二之徹一。〔論語、顏淵〕有若對曰、盍レ徹乎。〔鄭注〕周法、什一而稅、謂二之徹一、徹、通也、天下之通法。〔孟子、滕文公上〕周人百畝而徹、其實皆什一也。〔注〕耕二百畝一者、徹二取十畝一以爲レ賦、徹、猶三人徹二取物一也。⓰さく。かき。〔釋名、釋宮室〕柵、又謂二之徹一、徹、緊也、詵詵然緊也。⓱たすける臣。〔說文〕徹、一曰相臣。⓲古は徹（4－10270）・徹（4－10254）に作る。〔說文〕徹、徹、古文徹。〔集韻〕徹、古作レ徹。⓳或は𨇝（10－37844）に作る。〔集韻〕徹、或从レ足。⓴撤（5－12726）に通ず。〔儀禮、有司徹、釋文〕徹、字又作レ撤。㉑姓。〔萬姓統譜〕徹里、徐州人、曾祖太赤從二太祖一定二中原一、爲二馬步軍都元帥一。

名乘　トホル。アキラ。

解字　會意。彳と育と攴との合字。彳はゆくこと、育は養育すること、攴は鞭撻すること。故に徹は鞭撻し、養育して行かしめることとなるを以て、とほるの義に用ひる。一說に、彳と㪿の省略と去との合字。會意形聲。㪿は𢿱、疏通の義とし、去を音符とする。〔說文、徹、从レ彳从レ攴从レ育、段注〕葢合二三字一會意、攴レ之而養二育之一而行レ之、則無レ不レ通也。〔說文通訓定聲〕徹、按、字疑从レ彳从二㪿省一、會意、散者、𢿱也、有二疏通之誼一、去聲。　▽ （甲骨文）會意。鬲と又とを合はせ、鬲（かなへ）を手で取り片づける意を表はす。

【徹歌】1 テツカ　供物を神前からとり去る時にうたふ歌。〔周禮、春官、小師〕大祭祀、登歌擊レ拊、下管擊二應鼓一、徹歌、大饗亦如レ之。〔注〕於二有司徹一而歌レ雍。〔論語、八佾〕三家者以レ雍徹。

【徹行】2 テツカウ　士卒などをつらねた列。行列。〔國語、吳語〕陳二士卒百人一、以爲二徹行百行一。〔注〕徹、通也、以二百人一通爲二一行一、百行爲二萬人一、謂二之方陳一。

【徹樂】3 テツガク　音樂を去る。〔左氏、襄、二十三〕平公不レ徹レ樂、非レ禮也。〔白虎通、禮樂〕四方不レ平、四時不レ順、有二徹樂之法一焉。

【徹鑒】4 テツカン　見とほす。〔潘岳、射雉賦〕柬料戾以徹鑒、表厭躡以密緻。

【徹去】5 テツキヨ　とりのぞく。〔漢書、原涉傳〕願徹二去酒食一。

【徹官】6 テツクワン　其の名が上に達してゐる官。官吏をいふ。徹は達。〔國語、楚語下〕民之徹官百。〔注〕徹、達也、自以レ名達二於上一者、有二百官一也。

【徹曉】7 ch'ê^{4} hsiao^{3}　徹夜。よあかしする。

【徹縣】8 テツケン　懸けた樂器をとりのぞく。縣は樂縣。故に音樂を去ることをいふ。國に天變地異等のある時に行ふ。縣は又懸に作る。〔禮、曲禮下〕君無レ故、玉不レ去レ身、大夫無レ故、不レ徹レ縣、士無レ故、不レ徹二琴瑟一。〔資治通鑑、晉紀〕（恭帝、元熙元年）今入歲已來、陰陽失レ序、風雨乖和、是宜二減レ膳徹一レ懸、〔注〕懸、樂懸也、天子宮懸、諸侯軒懸、大荒・大札、天地有レ烖、國有二大故一、則減レ膳徹レ懸。

【徹悟】9 テツゴ　❶奧底までつらぬきさとること。〔陸游、初歸雜詠詩〕老人鵷行方徹悟、一官何處不二徒勞一。❷清の僧。河北の豐潤の馬氏の子。名は際醒。字は徹悟、又、訥堂。三聖菴で出家し、永明の延壽禪師に就く。著に徹悟語錄・示禪教律・念佛伽佗等がある。

【徹侯】10 テツコウ　❶諸侯。列侯。諸大名。秦爵二十級の最尊級。天子の一族以外で功封ある者の功德が王室に通ずる義を以て徹侯といふ。漢には武帝の名を諱み、改めて通侯といふ。〔漢書、百官公卿表上〕爵級二十、徹侯金印紫綬、避二武帝諱一、曰二通侯一、或曰二列侯一。〔獨斷、上〕徹侯、羣臣異姓、而有二功封一者、稱曰二徹侯一、避二武帝之諱一、改曰二通侯一、或曰二列侯一。❷清、張深（鎭洋の人）（4－9812・・444）の字。

【徹克】11 テツコク　清、滿洲鑲白旗人。姓は瓜爾佳氏。謚は文端。祕書院大學士となり、少師を加へられ、太子太師を兼ぬ。

【徹骨】12 テツコツ　骨にとほる。骨にひびく。〔劉禹錫、西山蘭若試レ茶歌〕悠揚噴レ鼻宿酲散、清峭徹レ骨煩襟開。〔洞天清錄〕鋼性爲レ水、上蒸淘、不レ見二銅色一、惟翠綠徹レ骨、中有二一線紅色一如レ丹。

【徹曙】13 テツシヨ　夜あかしする。徹宵。徹夜。〔魏志、常林傳、注〕不レ勝レ痛、叫呼敖敖徹曙。

【徹宵】14 テツセウ　夜あかしをする。徹夜。〔徐鉉、和二殷舍人蕭員外春雪一詩〕晴去便爲二經歲別一、興來何惜二徹宵看一。

【徹饌】16 テツセン　神佛の靈に供へた食物供物などをとり去る。さげる。撤饌。〔論衡、知實〕徹レ饌退レ膳。

【徹膳】17 テツゼン　食膳を取りさげる。〔詩、大雅、雲漢、膳夫左右、傳〕膳夫徹レ膳、左右布而不レ脩。〔白虎通、諫諍〕宰不レ徹レ膳亦死。

【徹膳宰】18 テツゼンサイ　漢代の官名。徹膳を掌る。〔漢書、賈誼傳〕及二太子既冠成一レ人、則有二紀過之史、徹膳之宰一。〔漢書、王莽傳中〕又置二司恭・司徒・司明・司聽・司史・大夫、及誦詩工・徹膳宰一、以司レ過。

【徹旦】19 テツタン　起きてゐて旦に達する。夜をあかす。徹曙。徹曉。〔東觀漢紀、十六、尹敏傳〕敏與レ彪親善、每二相遇與談一、常日旰忘レ食、晝卽至レ暝、夜則徹レ旦。

【徹晝】20 テツチウ　いちにち。ひねもす。終日。〔張翥、大風詩〕徹晝風何急、避レ行陵樹旁。

【徹底】21 テツテイ　そこまでとほる。よくわかる。意思がよく疏通する。又、心が隈なくひらける。又、蘊奧に達する。〔李白、秋登二巴陵一望二洞庭一詩〕明湖映二天光一、徹底見二秋色一。〔馬戴、邊將詩〕塞迴連二天雪一、河深徹二底氷一。〔朱子全書、學、讀書法〕讀書須下是窮二究道理一徹底上。〔景德傳燈錄、二十五、天台山德韶國師〕若於二這裏一徹底悟去、何法門而不レ明、百千諸佛方便、一時洞了、更有二甚麼疑情一。

【徹底澄清】22 テツテイチヨウセイ　水が淸らかで底まで淸む。至極潔白なこと。〔北齊書、宋世良傳〕有二老

人丁金剛㆒、泣而前謝曰、已年九十、記㆓三十五政㆒、君非㆓唯善治㆒、清亦徹底。

【徹徹】23 テツテツ　元の人。担古思氏。幼にして孤、母に事へて孝。〔元史、百九十七〕。

【徹眴】24 テツテン　眼を廻轉する。見廻す。〔大戴禮、易本命〕人生㆓三月而徹眴、然後能有㆑見。〔注〕眴、精也、轉視貌。

【徹田】25 テツデン　田を治めくさぎる。一說に、十分の一の稅を田地に課すること。〔詩、大雅、公劉〕度㆓其隰原㆒、徹㆑田爲㆑糧。〔傳〕徹、治也。〔箋〕什一而稅、謂㆓之徹㆒。

【徹白】26 テツパク　すきとほるほど白い。〔南史、晉平剌王休祐傳〕米粒皆令㆓徹白㆒。

【徹法】27 テツパフ　周代の租稅法。字解の⓯を見よ。〔孟子、滕文公上〕夏后氏五十而貢、殷人七十而助、周人百畝而徹、其實皆什一也、徹者、徹也、助者、藉也。

【徹兵】28 テツペイ　出動した軍隊を引きあげる。撤兵。〔宋史、張浚傳〕時金人屯㆓河南㆒、有㆓刻㆑日決戰之語㆒、聞㆓張浚來㆒、亟徹㆑兵歸。

【徹命】29 テツメイ　命を達する。〔左氏、昭、二〕徹㆓命於執事㆒、敝邑弘矣。

【徹夜】31 テツヤ　通夜。夕刻から曉天に達する。よどほし。よあかし。徹曉。徹宵。〔薛道衡、和㆓許給事善心戲場㆒轉韻詩〕竟夕魚負㆑燈、徹夜龍銜㆑燭。〔杜仁傑、絕句詩〕高燒㆓銀燭㆒照㆓雲鬟㆒、沸㆑耳笙歌徹㆑夜闌。〔乾淳歲時記〕除夜篝㆑燭和㆑盆、紅映㆓霄漢㆒、爆竹鼓吹之聲、鬧喧徹㆑夜、謂㆓之聒聽㆒。

【徹里】32 チエリ　❶元の人。燕只吉台氏。諡は忠肅。世祖の時、桑哥の奸貪を具陳す。官は中書平章政事。〔元史、一百三十〕。❷元の人。阿速氏。世祖に事へ、海都を征す。天曆中、左衛阿速親軍都指揮使司僉事となる。〔元史、一百三十五〕。

【徹里帖木兒】33 チエリチムール　元の人。阿魯溫氏。至元の初、中書平章政事となる。事に坐し、南安に貶せられて死す。〔元史、一百四十二〕。

【徹上徹下】34 テツジヤウテツゲ　上下に貫通する。〔朱子全書、學〕蓋主㆔於身㆓而無㆓動靜語默之間㆒者心也、仁則心之道、而敬則心之貞也、此徹上徹下之道、聖學之本統。

【徹頭徹尾】35 テツトウテツビ　始めから終りまで。殘らず。一から十まで。いちぶしじゅう。〔程子、中庸解〕誠者物之終始、猶㆔俗言㆓徹頭徹尾㆒。〔朱子語類〕敬字是徹頭徹尾工夫。〔朱子全書、學、持敬〕蓋聖賢之學、徹頭徹尾只是一敬字。

【⿰彳敢】10246

カン　〔字彙〕許鑑切　陷

❶あやふい。〔字彙〕⿰彳敢、危也。❷かくす。〔字彙〕⿰彳敢、匿也。

【⿰彳咅】10247

一 タイ テ　〔集韻〕陟卦切　卦

二 タ　〔集韻〕陟嫁切　禡

一二❶たたずむ。〔廣韻〕⿰彳咅、步立皃。❷⿺辶咅(11－39140)の譌字。〔正字通〕⿰彳咅、⿺辶咅字之譌。

【⿰彳覃】10248

テン デン　〔集韻〕徒念切　豔

ゆくさま。⿰彳韱⿰彳覃。〔集韻〕⿰彳覃、⿰彳韱⿰彳覃、行皃。

【⿰彳尊】10249

ジユン　遵(11－39118)の古字。〔正字通〕⿰彳尊、古文遵字。

【⿰彳袁】10250

エン　遠(11－39047)の古字。〔集韻〕遠、古作㆑⿰彳袁。

【⿰彳敄】10251

音義未詳　〔字彙補〕⿰彳敄、音未詳。〔穆天子傳〕玕琪⿰彳敄尾。

【⿰彳夏】10252

フク　復(4－10183)に同じ。〔字彙補〕復、同㆑復。

十三畫

【⿰彳爲】10253

ダ　蛇(10－32964)に同じ。〔古音叢目〕⿰彳爲、與㆓委蛇之蛇㆒同。

【徹】10254

テツ　徹(4－10245)の古字。〔集韻〕徹、古作㆑徹。

【徻】10255

ワイ エ　〔集韻〕烏外切　泰

家が高く明かなこと。徻徻。〔集韻〕徻、徻徻、屋宇高明也。

【⿰彳達】10256

タツ タチ　〔集韻〕他達切　曷

にげる。又、めぐりあはない。⿰亻達(1－1179)に同じ。〔集韻〕⿰彳達、博雅、逃、一曰、行不㆓相遇㆒、或作㆑⿰亻達。

【⿰彳歲】10257

クヮイ ケ　〔集韻〕呼外切　泰

家があきらかなこと。⿰彳歲⿰彳歲。〔集韻〕⿰彳歲、⿰彳歲⿰彳歲、室宇顯敞也。

【⿰彳亶】10258

一 タン テン　〔集韻〕知山切　删

二 テン　〔集韻〕張連切　先

一❶はしる。〔廣韻〕⿰彳亶、廣蒼云、走也。❷かくれる。〔廣韻〕⿰彳亶、廣蒼云、藏也。二ゆきなやむさま。邅(11－39175)に同じ。〔集韻〕邅、屯邅、難行不㆑進皃、亦从㆑彳。

【⿰彳詹】10259

セン ゼン　〔集韻〕時豔切　豔

すみやかに行くさま。或は⿺辶詹(11－39166)に作る。〔集韻〕⿰彳詹、行速皃、或从㆑辵。

【⿰彳睘】10260

クヮン　還(11－39174)に同じ。〔集韻〕還、或从㆑彳。

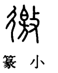
【徼】10261

一 ケウ　〔集韻〕堅堯切　ㄐㄧㄠ chiao¹　蕭

二 ケウ　〔集韻〕吉弔切　ㄐㄧㄠˋ chiao⁴　嘯

三 エウ　〔集韻〕伊消切　ㄧㄠ yao¹　蕭

四 ケウ　〔集韻〕吉了切　ㄐㄧㄠˇ chiao³　篠


小篆

一❶めぐる。〔說文〕徼、循也、从㆑彳敫聲。❷もとめる。儌(4－11316)に通ず。〔說文通訓定聲〕徼、叚借爲㆑儌。〔玉篇〕徼、要也、求也。〔左氏、文、十二〕徼㆓福於周公魯公㆒。〔注〕徼、要也。〔左氏、成、十三〕豈敢徼㆑亂。〔注〕徼、要也。〔呂覽、順民〕與㆑吳徼㆓天下之衷㆒。〔注〕徼、求也。〔漢書、嚴安傳〕民離㆑本而徼㆑末矣。〔注〕師古曰、徼、要求也。❸かすめる。絞(8－27421)に通ず。〔論語、陽貨〕惡㆓徼以爲㆑知者㆒。〔集解〕孔安國曰、徼、抄也、抄㆓人之意㆒以爲㆓己有㆒。〔釋文〕徼、古堯反、鄭本作㆑絞。❹うかがふ。〔論語、陽貨〕惡㆓徼以爲㆑知者㆒。〔集注〕徼、伺察也。❺さへぎる。〔玉篇〕徼、相如封禪書、徼㆓麋鹿之怪獸㆒、徼、遮也。二❶めぐる。又、みまはる。〔集韻〕徼、循也。〔荀子、富國〕其候徼支繚。〔注〕徼、巡也。〔漢書、百官公卿表上〕中尉、秦官、掌㆔徼㆓循京師㆒。

〔注〕師古曰、徼、謂二遮繞一也。〔漢書、趙敬肅王彭祖傳〕行二徼邯鄲中一。〔注〕師古曰、徼、謂二巡察一也。❷みまはり。巡卒。〔史記、平準書〕或千里無二亭徼一。〔注〕集解曰、徼、亦卒、求レ盜之屬。〔後漢書、臧宮傳〕少爲二縣亭長游徼一。❸さかひ。とりで。邊塞。木柵をくみ、水石をめぐらした境界。もと中國の西南方に設けたもの。〔集韻〕徼、一曰、境也。〔史記、司馬相如傳〕南至二牂牁一爲レ徼。〔注〕索隱曰、徼、塞也、以二木柵水一爲二蠻夷界一。〔漢書、司馬相如傳下〕南至二牂牁一爲レ徼、〔注〕張揖曰、徼、謂下以二木石水一爲レ界者上也。〔漢書、佞幸、鄧通傳〕人有レ告三通盜二出徼外鑄錢一。〔注〕師古曰、徼、猶レ塞也、東北謂二之塞一、西南謂二之徼一、塞者以二障塞一爲レ名、徼者取二徼遮之義一也。❹さへぎる。〔史記、司馬相如傳〕徼二麋鹿之怪獸一。〔注〕集解曰、徼、遮也。❺みち。㋑郊外の道。〔史記、五宗世家〕常夜從二走卒一行レ徼。〔注〕索隱曰、徼、是郊外路。㋺こみち。〔廣韻〕徼、小道也。〔班固、西都賦〕徼道綺錯。❻たへ。きはまり。深遠のところ。〔老子、一〕常有欲三以觀二其徼一。〔注〕徼、歸終也。〔釋文〕徼、微妙也。❼竅(8－25680)に通ず。〔說文通訓定聲〕徼、叚借爲レ竅。❽からむ。あやになる。繳(8－27960)に通ず。〔說文通訓定聲〕徼、叚借爲レ繳。〔史記、龜策傳〕龜之徼也。〔注〕索隱曰、徼、謂二徼繞不一レ明也。❾うつ。擊(5－12777)に通ず。〔說文通訓定聲〕徼、叚借爲レ擊、封禪文、徼二麋鹿之怪一、注、遮也、則爲二轉注一。❿或は𧾰(10－37321)に作る。〔集韻〕徼、或从レ走。〖三〗さへぎる。邀(11－39168)に同じ。〔集韻〕邀、遮也、或从レ彳。〖四〗むかへる。〔集韻〕徼、邀也、史記、徼二時權一、徐廣說。

【徼要】1 ケウエウ もとめる。

【徼怨】2 ケウエン うらみをもとめる。〔左氏、宣、十二〕我則不德、徼二怨於楚一。

【徼幸】3 ケウカウ 分外のさひはひをもとめる。徼倖。僥倖。〔中庸〕小人行レ險以徼レ幸。〔章句〕徼、求也、幸、謂二不レ當レ得而得者一。〔左氏、昭、六〕徼幸以成レ之。〔國語、晉語二〕我以徼幸、人孰信レ我。〔史記、淮南王安傳〕苟如二公言一、不レ可二徼幸一邪。〔漢書、匡衡傳〕苟合徼幸。

【徼幸者伐レ性之斧】4 ケウカウハセイヲキルノヲノ 圖らずして得る幸福は、德性を害する斧に比すべきものである。〔韓詩外傳、九〕徼幸者、伐レ性之斧也、嗜欲者、逐レ禍之馬也。

【徼倖】5 ケウカウ 徼幸に同じ。〔新書、五美〕天下無下可二以徼倖一之權上。〔魏志、董昭傳〕自投二死地一、以求二徼倖一。〔任昉、爲二蕭揚州一作薦レ士表〕名實不レ違、徼倖路絕。〔韓愈、送三李愿歸二盤谷一序〕徼二倖於萬一一。

【徼冀】6 ケウキ もとめねがふ。〔宋史、劉安世傳〕武夫徼二冀不貲之寵一。

【徼求】7 ケウキウ もとめる。

【徼外】8 ケウグワイ とりでのそと。邊外。〔漢書、王尊傳〕懷二來徼外一。〔後漢書、明帝紀〕益州徼外夷哀牢王、相率內屬。〔吳志、呂岱傳〕岱既定二交州一、復進討二九眞一、斬獲以レ萬數、又遣二從事南宣二國化一暨二徼外一、扶南・林邑・堂明諸王、各遣レ使奉レ貢、權嘉二其功一、進拜二鎭南將軍一。

【徼谻】9 ケウケキ 倦むものをさへぎりとる。〔史記、司馬相如傳〕徼レ谻受レ詘。〔注〕索隱曰、徼、遮也、谻、倦也、謂下遮二其倦一者上也。

【徼擊】10 エウゲキ むかへうつ。邀擊(11－39168・・14)に同じ。

【徼訐】11 ケウケツ うかがひあばく。一說に、かすめあばく。〔論語、陽貨〕子貢曰、惡二徼以爲レ知者一、惡二訐以爲レ直者一。〔集解〕孔安國曰、徼、抄也。〔集注〕徼、伺察也、訐、謂三攻二發人之陰私一。〔後漢書、陳元傳〕以二刺擧一爲レ明、徼訐爲レ直。〔蔡邕、陳太丘碑文序〕不二徼訐以干一レ時、不二遷貳以臨一レ下。

【徼功】12 ケウコウ 功をもとめる。手柄を立てようとする。〔後漢書、皇甫規傳〕進不レ得二快戰以徼一レ功、退不レ得二溫飽以全一レ命。〔吳志、全琮傳〕不二敢徼レ功以負一レ國也。

【徼塞】13 ケウサイ 蠻夷との境界にあるとりで。南に徼、北に塞といふ。〔品字箋〕南曰二徼外一、北曰二塞外一。〔歐陽脩、吉州學記〕然後海隅徼塞、四方萬里之外、莫レ不二皆有一レ學。

【徼遮】14 ケウシヤ エウシヤ さへぎる。まちうけてさへぎる。〔後漢書、西羌傳〕東號子麻奴立、云云、羣羌懼、遠屯不レ還、行到二酒泉一、多有二散叛一、諸郡各發レ兵徼遮、或覆二其廬落一。

【徼守】15 ケウシユ めぐり歩いて守備する。〔後漢書、董卓傳〕常徼二守塞下一。

【徼終】16 ケウシユウ をはりをもとめる。〔尹文子、大道上〕窮則徼レ終、徼レ終則反レ始。

【徼巡】17 ケウジユン みまはる。徼循に同じ。〔漢書、循吏、黃霸傳〕始霸少爲二陽貨游徼一、〔注〕主三徼二巡盜賊一者也。〔唐書、百官志四上〕左右街使掌三分二察六街徼巡一。

【徼循】18 ケウジユン めぐる。方々を見まはる。巡廻する。徼巡。〔漢書、百官公卿表上〕中尉、秦官、掌三徼二循京師一。〔漢書、武五子、昌邑哀王髆傳〕督盜一人、別主二徼循一、察二往來者一。〔後漢書、百官志二〕衞尉卿、掌二宮門衞士、宮中徼循事一。〔柳宗元、唐故萬年令裴府君墓碣〕徼循以周。

【徼射】19 ケウセキ 人の心をむかへあてる。迎合する。〔孔子家語、屈節解〕王誠能發レ卒佐レ之以徼二其志一、〔注〕徼二射其志一。

【徼道】20 ケウダウ 見まはりの路。徼巡を見よ。〔漢書、董賢傳〕外爲二徼道一、周垣數里。〔張衡、西京賦〕徼道外周、千廬內附。〔注〕濟曰、徼道、循更之道。〔白居易、駙馬都尉鄭何除二右衞將軍一制〕肅二嚴徼道一。

【徼亭】21 ケウテイ とりでと驛亭。〔戰國、韓策〕除レ守二徼亭障塞一、見卒不レ過二二十萬一而已。

【徼福】22 ケウフク 幸をもとめる。〔左氏、僖、四〕君惠徼二福於敝邑之社稷一、辱收二寡君一、寡君之願也。〔左氏、文、十二〕寡君願下徼二福於周公魯公一以事上レ君。〔注〕徼、要也。〔書言故事、評論類〕求レ福曰二徼福一。

【徼墨】23 ケウボク 獸を焼田に追ひこむ。墨は、焼田。〔枚乘、七發〕徼墨廣博、觀二望之一有レ圻。〔注〕善曰、墨、焼田也、言、逐二獸於焼田廣博之所一、而觀二望之一、有二圻堮一也、墨、或爲レ壥。

【徼名】24 ケウメイ 名聲を求める。〔漢書、揚雄傳上〕不下修二廉隅一以徼中名于當世上。

【徼妙】25 ケウメウ 極めて精微な作用、又は道理。〔老子、一〕常無欲以觀二其妙一、常有欲以觀二其徼一。〔獨孤及、對二洞曉元經一策〕至レ如下希二微大體一、徼中妙元鍵上、陛下得二黃帝之遺珠一久矣。〔馬臻、爲レ僧賦二月巖一詩〕我嘗觀二徼妙一、識二此眞面目一。

【徼亂】26 ケウラン 亂をもとめる。亂れるやうにする。〔左氏、成、十三〕君若惠二顧諸侯一、矜二哀寡人一、而賜二之盟一、則寡人之願也、其承二寧諸侯一以退、豈敢徼レ亂。〔注〕徼、要也。〔國語、周語下〕詩云、殷鑒不レ遠、近在二夏后之世一、將焉用二飾レ宮以徼一レ亂也。

【徼利】27 ケウリ 利益を求める。〔後漢書、臧洪傳〕足下徼二利於境外一、臧洪投二命於君親一。

【徼以爲レ知】28 ウカガヒテモツテチトナス 人の意中を伺ひ察して、自ら知があるとすること。一說に、徼はかすめる。徼訐(11)を見よ。〔論語、陽貨〕惡二徼以爲レ知者一。

【據レ徼乘レ邪】29 ケウニヨリジヤニジヨウズ 僥倖を當てにしたり邪道に乘じたりする。〔班固、答賓戲〕據レ徼乘レ邪、以求二一日之富貴一。〔注〕良曰、言、據二徼倖一、乘二邪險一、以求二富貴一也。

【𢕟】10262 音義未詳 〔康熙字典〕𢕟、字彙、見二周宣王石鼓文一、音義未詳。

【𢕸】10263 ヒ 避(11－39163)の古字。〔集韻〕避、古作レ𢕸。

【𢕪】10264 ボク 僕(1－1094)に同じ。〔篇海類編〕𢕪、同レ僕。

【徴】10265 キ 〔川篇〕音虫

行く。〔川篇〕徽、行也。

十四畫

【⿰彳寧】10266 デイ ニヤウ 〔集韻〕乃定切 徑

行くさま。⿰彳寧⿰彳寧。〔集韻〕⿰彳寧、⿰彳寧⿰彳寧、行皃。

【徽】10267 キ 〔集韻〕吁韋切 微 ㄏㄨㄟ huei¹

小篆

❶**むかばき。**〔說文〕徽、衺幅也、从レ糸微省聲。❷**三つよりのなは。**〔說文〕徽、一日、三糾繩也。〔易、坎〕係用二徽纆一。〔劉注〕三股爲レ徽、二股爲レ纆。❸**なは。**〔廣雅、釋器〕徽、索也。〔漢書、揚雄傳下〕免二於徽索一。〔注〕師古曰、徽、繩也。❹**たば。たばねる。**〔廣雅、釋詁三〕徽、束也。〔漢書、揚雄傳下〕徽以二糾墨一。❺**とめる。**〔爾雅、釋詁〕徽、止也。❻**琴の軫にまきつけた絃。又、琴節。**もとは琴の軫にまきつけた絃を徽といつたが、後には琴節を徽といふやうになる。琴節は、琴の面にゑりこんだ金石のしるし。左手でこれを按じ、右手でひく。〔漢書、揚雄傳下〕高張急徽。〔注〕師古曰、徽、琴徽也。〔嵇康、琴賦〕徽以二鍾山之玉一。〔說文通訓定聲、履部十二〕揚雄傳、高張急徽、注、琴徽也、按、琴軫係レ弦之繩、謂二之徽一、琴賦、徽以二鍾山之玉一、言二玉軫一也、又絃長故徽鳴、傳毅雅琴賦、時促レ均而增レ徽、文賦、猶絃么而徽急、皆言二糾弦一也、後人乃以二琴面識點一爲レ徽。〔正字通〕徽、琴節曰レ徽、徽十三、象二十二月一、其一象レ閏、用二螺蚌一爲レ之、近代用二金玉一。❼**かなでる。**〔淮南子、主術訓〕鄒忌一徽、而威王終夕悲二感於憂一。〔注〕徽、鴛彈也。❽**よい。**うつくしい。媺(**3－6478**)に通ず。〔說文通訓定聲〕徽、叚借爲レ媺。〔爾雅、釋詁〕徽、善也。〔集韻〕徽、美也。〔書、舜典〕愼二徽五典一。〔傳〕徽、美也。〔馬注〕徽、善也。〔詩、小雅、角弓〕君子有二徽猷一。〔傳〕徽、美也。❾**ふるふ。**揮(**5－12394**)に通ず。〔說文通訓定聲〕徽、叚借爲レ揮。〔張衡、東京賦〕戎士介而揚徽。〔注〕善曰、徽、與レ揮古字通。❿**しるし。**はたじるし。幑(**4－9041**)に通ず。〔說文通訓定聲〕徽、叚借爲レ幑。〔禮、大傳〕改二正朔一、易二服色一、殊二徽號一。〔注〕徽號、旌旗之屬也。〔左氏、昭、二十一〕揚レ徽者公徒也。〔注〕徽、識也。⓫**にほひぶくろ。**褘(**10－34453**)に通ず。〔張衡、思玄賦〕揚二雜錯之袿徽一。〔注〕善曰、爾雅曰、婦人之徽、謂レ褵。〔爾雅、釋器〕婦人之褘、謂二之褵一。⓬**安徽省の略。**徽墨(43)を見よ。⓭古は數(**5－13333**)に作る。〔集韻〕徽、古作レ數。⓮**姓。**〔萬姓統譜〕徽、見二姓苑一。

名乘 ヨシ。

【徽猷】1 キイウ よいはかりごと。良策。嘉謨。〔詩、小雅、角弓〕君子有二徽猷一、小人與屬。〔傳〕徽、美也。〔箋〕猷、道也、君子有二美道一以得二聲譽一。〔盧諶、贈二劉琨一詩〕宣二其徽猷一。

【徽猷閣】2 キイウカク 宋の宮殿の名。〔宋史、徽宗紀〕大觀二年二月甲午、詔建二徽猷閣一、藏二哲宗御集一。

【徽音】3 キイン キオン ❶よいほまれ。よい評判。令聞。〔詩、大雅、思齊〕大姒嗣二徽音一、則百斯男。〔箋〕徽、美也、嗣二大任之美音一、謂レ續二行其善教令一。〔何晏、景福殿賦〕思二齊徽音一。❷うるはしい音樂。〔王粲、公讌詩〕管絃發二徽音一。〔注〕善曰、徽、美也。〔曾鞏、送二韓廷評一詩〕傾レ耳聽二徽音一。❸よい音信。〔謝靈運、登二臨海嶠一初發二彊中一作云云詩〕長絕二子徽音一。〔注〕良曰、長絕二子美音信一。

【徽蔭】4 キイン 清、朱宏祚(**6－14424**‥727)の字。

【徽淵】5 キエン 南朝宋、江湛(**6－17140**‥295)の字。

【徽遠】6 キエン 梁、傅映(**1－939**‥9)の字。

【徽港】7 キカウ 江の名。新安江をいふ。浙江の北源。〔水道提綱〕浙江水有二南北二源一、北曰二徽港一、卽新安江、出二歙縣・黟縣・積溪・休寧諸山一。

【徽膠】8 キカウ 琴の轉軸にまきつけた絃を貼りつけること。徽は軫にまきつけた絃。字解の❻を見よ。〔說苑、善說〕臣一爲レ之徽膠、援レ琴而長太息、則流レ涕沾レ衿矣。

【徽號】9 キガウ ❶はたじるし。〔禮、大傳〕聖人南面而治二天下一、云云改二正朔一、易二服色一、殊二徽號一。〔注〕徽號、旌旗之名也。〔疏〕殊、別也、徽號、旌旗也、周大赤、殷大白、夏大麾、各有レ別也。〔魏志、高堂隆傳〕殊二徽號一、異二器械一。❷帝王の功德を頌するために奉る美號。後世は主として皇太后・太皇太后に奉る美號。〔晉書、禮志下〕虞舜盡二事レ親之禮一、貴爲二天子一、富有二四海一、而瞽瞍無二立錐之地、一級之爵一、寧常忍二父卑賤一、不下以二徽號一顯上レ之。〔清國行政法汎論、皇室、皇太后〕皇帝既尊二兩宮一、爲二皇太后一、又必有下上二徽號一之事上、徽號者、謂レ加二嘉字於皇太后上一也、慈安・慈禧・端佑等字、是也。

【徽赫】10 キカク 美しくかがやくこと。〔十六國春秋、赫連勃勃〕劉氏從二母姓一、非レ禮也、古之氏族無レ常、王者繫レ天爲レ子、是爲二徽赫一、實與レ天連。

【徽徽】11 キキ うつくしいさま。盛んなさま。煥爛。〔陸機、文賦〕文徽徽以溢レ目、音泠泠而盈レ耳。〔注〕向曰、徽徽溢レ目、文章盛也。

【徽嫿】13 キクワク 奔馳するさま。〔後漢書、馬融傳〕徽嫿霍奕、別鶩分奔。〔注〕並奔馳貌。

【徽縣】14 キケン 縣名。明、置く。甘肅省成縣の東。嘉陵江の上流。〔清史稿、地理志〕甘肅、秦州直隸州、縣五、徽。

【徽顯】15 キケン うるはしくあらはれる。〔左思、魏都賦〕嘉祥徽顯而豫作。〔注〕翰曰、徽、美也。

【徽言】16 キゲン よいことば。善言。〔書、立政〕嗚呼予旦已受レ人之徽言、咸告二孺子王一矣。

【徽五】17 キゴ 字號。❶清、張陳典(**4－9812**‥1370)の字。❷清、羅典(**9－28397**‥191)の字。

【徽索】18 キサク つな。罪人をしばるなは。〔揚雄、解嘲〕范雎魏之亡命也、折レ脅拉レ髂、免二於徽索一。〔注〕翰曰、徽索、刑具也。〔韓愈・孟郊、征蜀聯句〕逆頸盡二徽索一。

【徽纂】19 キサン 北齊、張纂(**4－9812**‥336)の字。

【徽幟】20 キシ しるしをつけたはた。はたじるし。〔墨子、號令〕效二寇徽幟和旌一者斷。〔漢書、王莽傳上〕殊二徽幟一、異二器制一。〔注〕師古曰、徽幟、通謂二旌旗之屬一也。

【徽識】21 キシ はたじるし。官姓名を記し、背に負うてしるしとするはた。〔左氏、昭、二十一〕揚レ徽者公徒也、注、徽、識也。〔疏〕徽識、制如二旌旗一、書下其所レ任之官與二姓名一於上上、被二之於背一、以備二其死一、知二是誰之尸一也。

【徽州】22 キシウ ❶府名。明、置く。❷の㋺を見よ。清は歙・休寧・婺源・祁門・黟・績溪の六縣を管轄す。〔清史稿、地理志〕安徽、徽州府、領二縣六一、歙縣・休寧・婺源・祁門・黟縣・績溪。❷州名。㋑唐、羈縻州に置く。今、缺く。四川省の境。㋺宋、置く。明、府とす。安徽省歙縣。〔讀史方輿紀要、江南〕徽州府、禹貢揚州之域、春秋時、屬レ吳、後屬レ越、戰國時、屬レ楚、秦屬二鄣郡一、漢屬二丹陽郡一、云云、宋宣和三年、改曰二徽州一、元爲二徽州路一、明初、曰二興安府一、元年、復曰二徽州府一、領二縣六一、今仍曰二徽州府一。㋩遼、置く。今缺く。滿洲遼寧省の境。〔讀史方輿紀要、直隸、附考、兀良哈〕廢徽州、臨潢南七百里、遼志云、在二宜州北二百里一。㊁元、置く。甘肅省徽縣。〔讀史方輿紀要、陝西、鞏昌府〕徽州、秦隴西郡地、漢屬二武都郡一、後漢因レ之、晉仍屬二武都郡一、後沒二於氐羌一、後魏置二廣化郡一、隋初、郡廢、以二其地一屬二鳳州一、大業初、屬二河池郡一、唐仍屬二鳳州一、五代因レ之、宋亦屬二鳳州一、元置二南鳳州於此一、尋改曰二徽州一、又以二州治河池縣一省入、明亦曰二徽州一、領二縣一一、今仍レ舊。

【徽柔】23 キジウ 美道を以て民を和らげる。〔書、無逸〕徽柔懿恭。〔傳〕以二美道一和レ民。

【徽車】24 キシヤ 旗じるしのある車。一說に、疾い車。〔漢書、揚雄傳上〕徽車輕武。〔注〕師古曰、徽

車、有㆓徽幟㆒之車也。〔揚雄、羽獵賦〕徽車輕武。〔注〕善曰、晉灼曰、徽、疾貌也。

【徽章】25 キシャウ ㊀はたじるし。旗章。徽號。〔戰國、齊策〕章子爲變㆓其徽章㆒、以雜㆓秦軍㆒。〔注〕徽、幟名也、通白曰㆓章幅㆒、變㆓易之㆒、使㆘與㆓秦旗章㆒同㆖。〔謝莊、宋孝武宣妃誄〕崇㆓徽章㆒而出㆓賓甸㆒。㊁しるし。又、しるしとして附けるもの。目じるし。〔白居易、烏重胤妻張氏封㆓國夫人㆒制〕豈唯有㆑廢㆓徽章㆒。

【徽繩】26 キジョウ 徽索(18)に同じ。〔梁書、王僧孺傳〕既貽㆓疵辱㆒、方致㆓徽繩㆒。

【徽織】27 キショク はたおり。〔管子、事語〕女勤㆓於緝績徽織㆒。

【徽軫】28 キシン 琴の絃を巻きつける轉手。〔盧綸、奘公院聞㆑琴詩〕悞以㆓音聲㆒祈㆓遠公㆒、請將㆓徽軫㆒付㆓秋風㆒。〔蘇軾、歐陽晦夫惠㆓琴枕㆒詩〕輪囷濩落非㆓笛用㆒、剖作㆓袖琴徽軫足。

【徽水】29 キスイ 川の名。㊀安徽省績溪縣の西。又、徽溪といふ。源は翬嶺山、績溪に入る。〔讀史方輿紀要、江南、徽州府、績溪縣〕徽溪、在㆓縣北㆒、自㆓徽嶺㆒南流十餘里、入㆓績溪㆒、又西流四十里、入㆓揚之水㆒。㊁西溪の別名。源は安徽省績溪縣の籠溪山の下、句溪の上源。〔讀史方輿紀要、江南、寧國府、旌德縣〕徽水、縣治東、源出㆓績溪縣徽嶺北㆒、西北流、清潭水出㆓縣南境清潭山㆒、溉㆓田十餘頃㆒、流㆓數里㆒入㆓徽水㆒、至㆓縣南㆒而東出、經㆓縣東北㆒、有㆓霞溪諸水㆒、自㆓績溪縣㆒合流、而北至㆓縣東四里㆒、入㆓於東溪㆒、其東溪出㆓籠從山㆒、西北流經㆓華陽山㆒、又有㆓績溪北出之龍頭溪、及別源之東溪水㆒、倶流合焉、並注㆓於徽水㆒、又北逕㆓縣北十里之柳山㆒、過㆓石壁山西十里㆒、與㆓抱麟溪玉溪㆒合、是爲㆓三溪㆒、又北至㆓龍首山㆒、入㆓逕縣界㆒、爲㆓藤縣上源㆒。㊂涇水の上流をいふ。涇水(**6**－**17526**‥11)を見よ。

【徽績】30 キセキ 優れたいさを。〔宋書、殷景仁傳〕徽績忠謨。

【徽仙】31 キセン 後魏、張烈(**4**－**9812**‥745)の字。

【徽宗】32 キソウ 宋の第八代の王。趙佶(**10**－**37171**‥102)を見よ。

【徽娖】33 キソク 明、長平公主(**11**－**41100**‥960)の名。

【徽仲】34 キチュウ 清、呉愼(**2**－**3365**‥249)の字。

【徽紵】35 キチョ 麻の纖維を以て製したなは。〔毛詩草木鳥獸蟲魚疏〕紵亦麻也、云云、荊揚之間、一歲三收、今官園種㆑之、歲再割、割便生、剝㆑之以㆓銕若竹㆒、刮㆓其表厚皮㆒自脫、但得㆓其裏韌如㆑筋者㆒煑㆑之、用緝、謂㆓之徽紵㆒。

【徽睇】36 キテイ うつくしいながしめ。〔陸機、七徵〕因㆓清明㆒以宣㆑誠、流㆓徽睇㆒而授㆑愛。

【徽調】37 キテウ 戲曲の腔調の名。徽人が音節をかへて歌つたので、其の節を徽調と名づく。今の京調。〔梨園佳話〕皮黃以㆓二黃㆒爲㆓正宗㆒、西皮若或爲㆑輔、蓋二黃爲㆓漢正調㆒、西皮則僅行㆓於黃皮一縣㆒而已、其後融合爲㆑一、亦不㆑可㆓復分㆒、徽人至㆑京者、以㆓多藝㆒名、出㆓鄂人上㆒、且多㆘變㆓換音節㆒之處㆖、故以㆓徽調㆒稱、實則徽固無㆑調、初至能者皆徽人、其後都人學㆑之而善、徽人遂無㆓至者㆒、故近日南方轉謂㆓之京調㆒、猶㆘外人改㆓造土貨㆒、稱爲㆓洋貨㆒者㆖是也。

【徽桐】38 huei^1 t'ung^2 安徽省產の桐油。

【徽幇】39 huei^1 pang^1 安徽省出身の商人が組織する組合。

【徽伯】40 キハク 後魏、李裔(**6**－**14459**‥55)の字。

【徽班】41 huei^1 pan^1 安徽調の演劇。歌劇等をいふ。發音は京音を用ひる。

【徽物】42 キブツ しるしのもの。旗じるし。〔傅亮、策加㆓宋公九錫㆒文〕褒以㆓龍章㆒、崇㆓其徽物㆒、所㆘以協㆓輔皇家㆒、永隆㆗藩屛㆖。

【徽墨】43 キボク 安徽省徽州府から產する名高い墨。徽州には、唐に李超・李廷珪・張谷、明に方于魯等が出て、製墨を以て名を得た。〔洞天墨錄、松墨〕近世稱㆓徽墨㆒、率用㆓桐油烟㆒。〔東華續錄、嘉慶四年〕川廣之藥材、九江之慈器、江浙之紬段、及徽墨・湖筆・牋紙・茶葉・瓜果等。〔徽州府志〕墨出㆓歙・休寧二縣㆒、唐末、李超及子廷珪造㆑墨、至㆓宋時㆒、徽州每年以㆓大龍鳳墨千斤㆒充㆑貢、仁宗嘉祐中、宴㆓近臣㆒以㆓李超墨㆒賜㆑之、曰㆓新安香墨㆒。

【徽纆】44 キボク 大きななは。徽は三つより、纆は二つより、共に罪人を拘繫するに用ひる。〔易、習坎〕上六、係用㆓徽纆㆒、寘㆓于叢棘㆒、三歲不㆑得、凶。〔釋文〕劉云、三股曰㆑徽、二股曰㆑纆、皆索名。〔毛際盛、說文解字述誼〕劉表云、三股曰㆑徽、兩股曰㆑纆、皆索名、字林、糾、兩合繩、纆、三合繩、案、字林疑非、說文、糾繩三合也、卽劉表所㆑云股、徽三㆓其糾㆒、纆兩㆓其糾㆒、九合爲㆑徽、六合爲㆑纆。〔後漢書、西羌傳論〕女婦則徽纆而爲㆑虜。〔張華、答㆓何劭㆒詩〕纓緌爲㆓徽纆㆒。〔南史、吉翂傳〕翂乞㆑代㆓父命㆒、武帝異㆑之、尙以㆓其童幼㆒、疑㆑受㆓教於人㆒、敕㆓廷尉蔡法度㆒、嚴加㆓脅誘㆒、取㆓其款實㆒、法度乃還㆑寺、盛陳㆓徽纆㆒、厲㆑色問。

【徽瑜】45 キユ 晉、羊后(**9**－**28425**‥62)の名。

【徽容】46 キヨウ 美しい容貌。〔鮑照、數詩〕賓友仰㆓徽容㆒。〔注〕濟曰、徽、美也。

【徽陵】47 キリョウ 後唐、明宗の陵。河南省新安縣の東北、護駕莊に在り。〔舊五代史、閔帝紀〕晉高祖卽位、謚曰㆑閔、與㆓秦王及末帝子重吉㆒、竝葬㆓于徽陵㆒。〔五代史、唐明宗紀〕（長興元年）十一月戊戌、皇帝崩。〔注〕淸泰元年、葬㆓河南洛陽縣㆒、號㆓徽陵㆒。〔河南府志〕徽陵、在㆓洛陽東北十里㆒、今護駕莊地。

【徽嶺】48 キレイ 山名。安徽省績溪縣の西北。〔讀史方輿紀要、江南、徽州府、績溪縣〕徽嶺山、縣西北十里、徽亦作㆑翬、舊名㆓大尖山㆒、高四百五十仞、周三十里、西北連㆓凜山佛論嶺新嶺㆒、東連㆓僊入巖㆒、抵㆓叢山關㆒、又南接㆓大鄣山之陽㆒、水流入㆑歙、其陰則水流入㆓旌德㆒、故有㆓嶺南嶺北之分㆒、上有㆓南北通衢㆒、縈紆陡峻、凌㆑曉常行㆓雲氣中㆒、志云、凜山在㆓縣西北四十里㆒、高四百五十仞、周十五里。

【徽烈】49 キレツ うるはしいいさをし。りつぱな事業。〔劉峻、廣絕交論〕庶㆓羊左之徽烈㆒。〔任昉、爲㆓范始興㆒作求㆑立㆓太宰碑㆒表〕沒著㆓徽烈㆒。

【徽典館】50 キテンクワン 德川幕府が甲府に設立した學校。松前藩にも同名の藩立學校があつた。

【徾】10268

［一］サフ 〔集韻〕悉合切 ㄙㄚˋ sa^4 ［合］

［二］シフ 〔集韻〕測入切 ［緝］

小篆

［一］［二］㊀**行くさま。**〔說文〕徾、行皃、从㆑彳歰聲。㊁**衆く行くさま。**〔廣韻〕徾、衆行皃。㊂**たちもとほる。**〔集韻〕徾、行不㆑進也。㊃**はやいさま。又、かしましいさま。**〔嵆康、琴賦〕飛㆓纖指㆒以馳騖兮、紛徾嚞以流漫。〔注〕翰曰、亂急長遠之聲也。㊄駁(**12**－**44605**)に通ず。〔集韻〕徾、一曰、此與㆑駁同。

【徿】10269

テウ デウ 〔集韻〕徒了切 ［篠］

ゆくさま。〔集韻〕徿、行皃。

【⿰彳⿰鬲攵】10270

テツ 徹(**4**－**10245**)の古字。〔說文〕徹、⿰彳⿰鬲攵、古文徹。

【⿰彳甹】10271

ヘイ ビヤウ 〔集韻〕傍丁切 ［靑］

小篆

㊀**つかふ。つかひ。**伻(**1**－**484**)に同じ。〔說文〕⿰彳甹、使也、从㆑彳甹聲。〔說文通訓定聲〕⿰彳甹、字亦作㆑伻、書洛誥、伻來來、鄭注、使㆓二人㆒也。㊁或は竮(**8**－**25777**)に作る。〔集韻〕⿰彳甹、或从㆑立。㊂俗に俜(**4**－**10120**)に作る。〔玉篇〕⿰彳甹、使也、俜、同上、俗。

【⿰彳敳】10272

ビ 相したがふさま。〔楚辭、王逸、九思、怨上〕狐狸兮⿰彳敳⿰彳敳。〔注〕相隨貌。〔補注〕⿰彳敳、釋文、音眉。

【⿰彳䙴】10273

セン 〔龍龕手鑑〕音仙 ［先］

行くさま。〔龍龕手鑑〕⿰彳䙴、行皃。

十五畫

【𢕟】10274 シヨク ゾク 〔玉篇〕松贖切 沃

行いてとどまらない。〔玉篇〕𢕟、行不レ住。

【𢕺】10275 ヘウ 僬(1－1257)に同じ。〔集韻〕僬、或从レ彳。

【𢕪】10276 サン ザン 〔玉篇〕昨丸切 寒

道に迷ふ。𢕪𢓱。〔玉篇〕𢕪、𢕪𢓱、失レ途皃。〔龍龕手鑑〕𢕪、𢕪𢓱、失レ途皃。

【𢖻】10277 イウ ウ 〔集韻〕於求切 尤

㊀**しとやかに行はれる。** 憂(4－11170)に同じ。〔集韻〕憂、說文、和之行也。引二詩布政憂憂一、或从レ彳。㊁優(1－1261)に同じ。〔廣韻〕優、本亦作レ𢖻。

【縱】10278 シヨウ シユ 〔集韻〕筍勇切 腫

つつしむ。うやまふ。 竦(8－25776)の古字。〔集韻〕竦、敬也、古作レ縱。

十六畫

【徿】10279 ㈠リヨウ リユ 〔玉篇〕良用切 宋 ㈡ロウ ル 〔集韻〕魯孔切 董

㈠**まがる。**〔玉篇〕徿、行不レ正。㈡徿侗は、まつすぐにゆく。〔集韻〕徿、徿侗、直行。

【徿僮】1（リヨウ シヨウ） 潦倒のさま。龍鍾潦倒(12－48818・334)を見よ。

【𢖍】10280 ケン 𨘢(10－37349)に同じ。〔字彙補〕𢖍、酉陽雜俎、𢖍𢖍燹燹、或作レ𨘢。

【𢕿】10281 レキ 𨘣(10－37350)に同じ。〔集韻〕𨘣、或从レ彳。

【𢖩】10282 シヨウ 衝(10－34069)に同じ。〔篇海類編〕𢖩、同レ衝。

十七畫

【𢖉】10283 ハウ ヘウ 慣バウ 〔集韻〕巴校切 效

㊀**こえる。**〔集韻〕𢖉、越也、漢制、新到二官府一併レ上者、謂二之𢖉一。㊁課程外に課作すること。𢖉工(1)を見よ。㊂儤(1－1254)に同じ。〔篇海〕𢖉、亦作レ儤。

参考 康熙字典は誤つて𢖉に作る。今、集韻に依つて正す。廣韻は𢖉に作る。

【𢖉工】1（バウコウ） 課程の外に課作すること。〔集韻〕𢖉、今俗謂二程外課作者一爲二𢖉工一。

【𢖉直】2（バウチヨク） 官吏が連日宿直すること。儤直(1－1254・2)に同じ。〔廣韻〕𢖉、𢖉直、史官。

【𢖯】10284 セン 〔集韻〕先念切 豔

𢕕𢖯は、行くさま。〔集韻〕𢖯、𢕕𢖯、行皃。

【𢖲】10285 サン ゼン 慣ザン 〔玉篇〕士咸切 咸

㊀**ひとしくない。**〔玉篇〕𢖲、不レ齊。㊁儳(1－1296)の俗字。〔正字通〕𢖲、俗儳字。

【𢖶】10286 イウ ユ 〔玉篇〕以周切 尤

㊀**ゆく。**〔玉篇〕𢖶、行𢖶也。㊁邎(11－39250)に同じ。〔正字通〕𢖶、同レ邎。

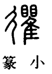
【𢗋】10287 ㈠シヤウ サウ 〔集韻〕思將切 ㄒㄧㄤ hsiang¹ 陽 ㈡ジヤウ ニヤウ 〔集韻〕汝兩切 養

㈠㊀**たちもとほる。**〔玉篇〕𢗋、𢗋徉也、楚辭曰、聊逍遙以𢗋徉。〔集韻〕𢗋、𢗋徉、逍遙也。㊁**行くさま。**〔集韻〕𢗋、一曰、行皃。㈡**とく行く。** 躟(10－37999)に同じ。〔集韻〕躟、躟躟、疾行、或从レ彳。

【𢗆】10288 ノウ 辳(10－38688)に同じ。〔奚韻〕𢗆、同レ農。

十八畫

【𢗉】10289 ㈠グク 〔集韻〕權俱切 虞 ㈡グク 〔集韻〕俱遇切 遇


小篆

㈠**ゆくさま。** 躣(10－38013)に同じ。〔說文〕𢗉、行皃、从レ彳瞿聲。〔段注〕此與二足部躣一音義同、走部又有レ𧾩。㈡**ゆく。**〔集韻〕𢗉、行也。

【𢗅】10290 ヘウ 𢖛(4－10218)の本字。〔正字通〕𢗅、𢖛本字。

【𢗊】10291 タイ ダイ 〔集韻〕度皆切 佳

頭のたれるさま。〔集韻〕𢗊、頭垂皃。

十九畫

【𢗏】10292 ビ 𨇤(10－38019)に同じ。〔集韻〕𨇤、或作レ𢗏。

二十畫

【𢗐】10293 キヤク クワク 〔集韻〕屈縛切 藥

㊀**ゆく。**〔玉篇〕𢗐、往也。㊁**ゆくさま。**〔集韻〕𢗐、行皃、太玄、其志𢗐𢗐。

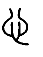
二十二畫

【𢗤】10294 ダウ ナウ 〔集韻〕乃浪切 漾

ゆくさま。〔集韻〕𢗤、行皃。

心部

【心】10295 シン 〔集韻〕思林切 ㄒㄧㄣ hsin¹ 侵


小篆

㊀**心臟。**〔說文〕心、人心、土藏也、在二身之中一、象形、博士說、㠯爲二火藏一。〔廣韻〕心、火臟也。〔禮、少儀〕牛羊之肺、離而不レ提レ心。〔疏〕心、謂二肺中央少許一耳。〔呂覽、季夏〕祭先レ心。〔注〕心、土

也。〔白虎通、五祀〕心者、藏之尊者。㊁こころ。㋑身意を統合して生活を持續する作用の本體。〔荀子、解蔽〕心者、形之君、而神明之主也。〔注〕心出レ令以使二百體一、不レ爲二百體所一レ使也。㋺知識。ちゑ。〔釋名、釋形體〕心、纖也、所レ識纖微、無二物不一レ貫也。〔管子、心術上〕心也者、智之舍也。㋩意志。こころざし。〔易、繫辭上〕二人同レ心。㋥感情。〔春秋繁露、循天之道〕心、氣之君也。おもひ。〔易、旅〕我心不レ快。〔詩、小雅、巧言〕他人有レ心、予忖二度之一。〔淮南子、詮言訓〕聖人勝レ心。〔注〕心者、欲之所レ生也。㋭わけ。意味。義理。〔呂覽、誣徒〕以レ章則有二異心一。〔注〕心、猶レ義也。㋬道の本原。道理。〔易、復〕復其見二天地之心一乎。〔注〕復者反レ本之謂也、天地以レ本爲レ心者也。〔疏〕本、靜也、言、天地寂然不レ動、是以レ本爲レ心者也。〔莊子、天地〕必忘二夫人之心一。〔釋文〕心、或作レ道。〔白虎通、情性〕心、禮。㋣おもむき。やうす。〔李咸用、從レ兄入レ京詩〕柳轉二春心一梅豔香、相看江上恨何長。㊂むね。胸。〔莊子、天運〕西施病レ心。㊃まんなか。中央。〔禮、少儀〕牛羊之肺、離而不レ提レ心。〔注〕不レ提レ心、謂レ不レ絶二中央一也。〔唐太宗、小池賦〕涌二菱花於岸腹一、擘二蓮影於波心一。〔邵雍、清夜吟〕月到二天心一處。㊄しん。ものの中央部。〔南史、江泌傳〕菜不レ食レ心。㊅木のとげ。〔易、説卦〕其於レ木也、爲二堅多一レ心。〔虞注〕堅多レ心者、棗棘之屬、皆有二尖心一之木也。㊆星宿の名。なかご。二十八宿の一。大火。〔左氏、襄、九〕心爲二大火一。〔史記、天官書〕心爲二明堂一。〔新序、雜事〕心、宋分野也。㊇［佛］眞髓。諸經中、一切の要義を積聚したもの。〔止觀、一上〕又稱二矣栗駄一、此方是積集精要者爲レ心也。㊈姓。〔萬姓統譜〕心、見二姓苑一。［邦］こころ。㋑おもひやり。なさけ。㋺かんがへ。おもんぱかり。㋩趣向。工夫。

［解字］象形。心臟をいふ。その形にかたどる。偏とする時は忄(**4－10297**)に作り、立心扁といひ、又、脚となる時は⺗(**4－10298**)に作る。

【心愛】1 シンアイ ㊀心に愛する。〔詩、小雅、隰桑〕心乎愛矣、遐不レ謂矣。〔箋〕我心愛二此君子一。〔李白、金陵江上遇二蓬池隱者一詩〕心愛二名山遊一、身隨二名山遠一。㊁心の中の愛情。〔王融、青青河畔草詩〕夜中心愛促、覺後阻二河曲一。

【心唈】2 シンアフ 口に出さないで、心中ひそかに嗚咽すること。〔詩、大雅、桑柔、如二彼逆一レ風亦孔之僾、疏〕僾、唈、釋言文、孫炎曰、心唈也。〔升庵外集〕常安民制策、重レ足側レ目、腹誹心唈、心唈、出二爾雅注一、謂下口不二敢言一而心竊嗚咽上也。

【心安】3 シンアン 心が安らかなこと。安心。〔白居易、朝歸書寄二元八一詩〕年長身且健、官貧心甚安。

【心菴】4 シンアン 清、李林松(**6－14459**‥2000)の號。

【心衣】5 シンイ はらがけ。〔釋名、釋衣服〕膺、心衣、抱レ腹而施二鉤肩一、鉤肩之間、施二一襠一以奄レ心也。〔王先謙疏證補〕此製、蓋今俗之兜肚。

【心意】6 シンイ こころ。おもひ。意志。精神。〔易、明夷〕入二于左腹一、獲二心意一也。〔商子、定分〕人以二其心意一議レ之。〔莊子、讓王〕逍二遙於天地之間一、而心意自得。〔荀子、性惡〕資朴之於レ美、心意之於レ善。〔呂覽、審時〕心意叡智。〔淮南子、覽冥訓〕心意之論、不レ足三以定二是非一。〔史記、李斯傳〕所下以飾二後宮一、充二下陳一、娯二心意一、説中耳目上者、必出二於秦一、然後可。〔漢書、張敞傳〕所下以抑二心意一、絶中耆欲上者、將下以率二二君一而全中宗祀上也。

【心意氣】7 ココロイキ こころばせ。心のむかふ所。〔曾我五人兄弟、三〕心意氣のいとしらしい。

【心胃】9 シンイ 心臟と胃腑。轉じて、胸中。〔蘇軾、巫山詩〕終朝自灌漱、冷冽清二心胃一。

【心違】10 シンイ 心と違つた行。又、心にもとる。〔徐鉉、送三陳祕監歸二泉州一詩〕世路窮通前事遠、半生談笑此心違。

【心友】11 シンイウ ㊀互に心を知りあつた友。同心の親友。㊁清、張師誠(**4－9812**‥1126)の字。

【心遊】12 シンイウ ㊀心がさだまらない。〔詩、小雅、頍弁、未レ見二君子一、憂心奕奕、疏〕憂則心遊不レ定、故爲レ無レ所レ薄也。㊁心からめでる。又、心の中で樂しむ。〔梁昭明太子、文選序〕歷二觀文囿一、泛二覽辭林一、未下嘗不中心遊目想、移レ晷忘上レ倦。

【心憂】13 シンイウ 心中の憂患。心配。又、心に憂へる。〔書、秦誓〕我心之憂、日月逾邁。〔詩、王風、黍離〕知レ我者、謂二我心憂一。〔文心雕龍、比興〕澣衣以擬二心憂一、席卷以方二志固一。

【心一】14 シンイツ 明、王之寀(**7－20823**‥1552)の字。

【心印】15 シンイン ㊀拆字術をいふ。押字を相する術。押字の鑑定。〔圖畫見聞誌〕相二押字一之術、謂二之心印一、本有二心源一、想二成形跡一、跡與レ心合、是之謂レ印、爰及二萬法一、緣レ慮施爲、隨二心所一レ合、皆得二名印一。㊁彼此相意會する。心心相印(226)を見よ。㊂［佛］禪の本意は文字にも依らず、言語にも依らない。直に心を以て印とするからいふ。心とは佛心、印は印可・印定の義。此印は能く佛法の實義を印可印定する。猶經宗の三法印、一實相印といふやうなもので、此の佛の心印を以て直に衆生の心に印することを以心傳心といふ。密教では、大日經の所説を心印といふ。心は精要、印は決定の義。此の經の所説は三乘の精要で、三乘を決定するからである。〔碧巖錄、第一則評唱〕單二傳心印一、開二示迷途一。〔祖庭事苑、八〕心印者、達磨西來、不レ立二文字一、單傳二心印一、直指二人心一、見性成佛。〔演奧鈔、二〕心印者、心精要義、印決定義、此經所説、爲レ心爲レ印、廣開二一切法門一、是故持二此心印一、名二通達三乘一也。

【心隱】16 シンイン 新論の篇名。

【心耘】17 シンウン 清、胡珽(**9－29400**‥268)の字。

【心要】18 シンエウ ［佛］㊀法門の至極をいふ。又、心性上の精要の義。〔六祖壇經〕指二示心要一。㊁經名。金剛頂略述三十七尊心要の略。

【心易】19 シンエキ ㊀筮法の一種。宋の邵雍が梅花によつて人のために卜したことから始まる。一に梅花數、又は梅花心易といふ。其の法は周易に本づく。例へば、年月日の數の和を計つて之を八で除し、餘數が一なれば乾、二なれば兌、三は離、四は震、五は巽、六は坎、七は艮、殘りがなければ坤卦を得て上卦とし、更に其の年月日の數に時の數を加へて八で除し、上記の方法によつて下卦を得。而して其の年月日時の數の和を六で除して、殘數が一なれば初爻を變じ、二なれば二爻、三は三、四は四、五は五の爻を變じ、若し殘數がなければ上爻變とし、卦象と卦體を參互にして吉凶を判斷する如き方法をいふ。梅花數(**6－14830**‥54)を見よ。㊁字號。㋑明、陳尚象(**11－41698**‥948)の字。㋺明、馬應圖(**12－44572**‥703)の字。㋩清、毛乾乾(**6－16772**‥270)の字。

【心葉】20 ココロバ ㊀こころばへ。こころ。㊁古、大嘗會などに冠の巾子の前に掛けた造花の裝飾。主上のは銀で作つた櫻のかざし。臣下のは鍍金で、山吹・梅など位階の高下によつて其の種類を異にした。〔飾抄、下〕平治或祕記曰、心葉、梅枝三寸許也、巾子立レ之、左右方各一枝也。㊂古、贈物や饗膳などに添へ飾つた梅松などの作り枝。〔中院大納言通茂卿七十賀記〕主人饗、赤木机、云云、心葉松。㊃絲を結び飾つた四角な絹片で、香筥などの中に入れた物の上に覆ふに用ひるもの。

【心淵】21 シンエン 元、余濟(**1－515**‥28)の字。

【心圓】22 シンエン 心がまるい。〔孔叢子、執節〕其爲レ人也長目而豕視者、必體方而心圓。

【心猿】23 シンエン 心が猿のやうに輕躁なこと。心意が散亂して、少しも落着かないことにいふ。意馬心猿(**4－10921**‥120)・心猿意馬を見よ。〔梁簡文帝、蒙預懺悔詩〕三修祛二愛馬一、六念靜二心猿一。〔沈佺期、峽山寺賦〕心猿久去、怖鴿時來。〔雲笈七籤〕心想雜亂、隨二逐諸塵一、猶下如猿猴遊二於林澤一、跳躑奔趣不上レ可二禁止一。

【心猿意馬】24 シンエンイバ 心は猿のやうに躁ぎ、意は馬のやうに馳せる。煩惱妄念等のために心意が散亂して、少しも落着かないことをいふ。意馬心猿(**4－10921**‥120)を見よ。〔參同契注〕

心猿不レ定、意馬四馳、神氣散ニ亂於外一。〔趙州錄遺表〕心猿罷レ跳、意馬休レ馳。〔許渾、題ニ杜居士一詩〕機盡心猿伏、神閒意馬行。〔傳習錄、上〕一日論ニ爲レ學工夫一、先生曰、敎ニ人爲レ學、不レ可レ執ニ一偏一、初學時、心猿意馬、拴縛不レ定、其所ニ思慮一、多是人欲一邊、故且敎ニ之靜坐息ニ思慮一。

【心遠】25シンエン ㊀心が深遠なこと。又、志を遠大にすること。〔嵇康、琴賦〕體淸心遠、邈難レ極兮。〔西山題跋〕嘗記昔有下問ニ心遠之義於胡文定公一者上、公擧ニ上蔡先生語一以告曰、莫レ爲ニ嬰兒之態一而有ニ大人之器一、莫レ爲ニ一身之謀一而有ニ天下之志一、莫レ爲ニ終身之計一而有ニ後世之慮一、此之謂ニ心遠一。㊁宋、俞臯(**1**－**1437**··12)の字。

【心遠堂】26シンエンダウ 室名。㊀明、王永積(**7**－**20823**··1180)の室名。㊁淸、賀貽孫(**10**－**36725**··119)の室名。㊂淸、李霨(**6**－**14459**··19)の室名。

〔心遠地自偏〕27ココロトホクシテチオノズカラヘンナリ 自分の心境がすでに俗界を超脱して居れば、住む地までもが自然と遠く世間を離れた佳境となつてくる。〔陶潛、飮酒詩〕結レ廬在ニ人境一、而無ニ車馬喧一、問レ君何能爾、心遠地自偏。

〔心遠處自無ニ車塵馬迹一〕28ココロトホキトコロオノヅカラシヤヂンバセキナシ 自分の心が高遠な處にあれば、たとひ車塵がはげしくたち、車馬がさわがしい俗界に住むとも、何等それを感ずることがない。〔菜根譚、後、一百十〕心遠處自無ニ車塵馬迹一。

【心音】29シンオン 心臟を聽診する時に聽かれる特別の音調の短い雜音。

【心下】30シンカ こころ。心中。〔紅樓夢、四回〕心下甚爲ニ怪異一、只得停ニ了手一。

〔心下悸〕31シンカキ みづおちの部で動悸がするのをいふ。〔傷寒論〕發レ汗過多、其人叉手自冒レ心、心下悸、欲レ得レ按者、桂枝甘草湯主レ之。

〔心下濡〕32シンカナン みづおちの部が軟弱で抵抗のないのをいふ。〔傷寒論〕下利后更煩、按レ之心下濡者、爲ニ虛煩一也。

〔心下痞〕33シンカヒ 胃に物が停滯してゐるやうで食べたくない氣持をいふ。〔傷寒論〕心下痞、按レ之濡、其脈關上浮者、大黃黃連瀉心湯主レ之。

〔心下痞鞕〕34シンカヒカウ 胃部がつかへて硬いのをいふ。痞は食べたくない氣持をいふ。〔傷寒論〕傷寒、中風、醫反不レ之、其人下利日數十行、穀不レ化、腹中雷鳴、心下痞鞕而滿。

【心暇】35シンカ こころのひま。心に餘裕あること。〔呂覽、任數〕時至而應、心暇者勝。

【心瑕】36シンカ 心のきず。心のいたで。〔王融、淨行頌、檢覆三業篇頌〕競文內疾、誰覥ニ心瑕一。

【心歌】37シンカ 言葉にあらはさず心中で歌ふ。〔吳志、胡綜傳〕自レ江以南、戶受ニ覆燾一、英雄俊傑上達之士、莫下不ニ心歌腹詠、樂レ在ニ歸附一者上也。

【心界】38シンカイ 心の範圍。心の世界。

【心解】39シンカイ 心に會得する。〔禮、學記、雖レ終ニ其業一、其去レ之必速、注〕學不ニ心解一、則忘レ之易。〔魏志、方伎、華佗傳〕心解ニ分劑一、不ニ復稱量一。

【心巧】40 hsin^1 ch'iao^3 怜悧な。器用な。こころに働あること。

【心交】41シンカウ 精神上の交際。

【心行】42シンカウ ㊀心で行ふ。〔管子、形勢解〕明主之使ニ遠者來、而近者親一也、爲レ之在レ心、所謂夜行者心行也、能心行レ德、則天下莫ニ能與レ之爭一矣。㊁佛シンギヤウ 心の作用が流行して息まぬこと。〔法華經、方便品〕佛知ニ彼心行一、故爲說ニ大乘一。

【心降】43シンカウ ㊀心がやすまる。〔詩、召南、艸蟲〕亦既覯止、我心則降。㊁心から人にくだる。〔三略、下略〕體降可ニ以圖レ始、心降可ニ以保レ終。

【心香】44シンカウ 中心の誠。香を焚き佛に供する潔齋の心。〔梁簡文帝、相宮寺碑銘〕聰舒ニ意蕊一、室度ニ心香一。

【心學】45シンガク ㊀心を修める學問。〔韓愈・孟郊、納涼聯句〕誰言擯ニ朋老一、猶自將ニ心學一。㊁良知の學をいふ。心の本體を認めて、身を修める學。陸象山・王陽明等の唱へるところ。陽明學(**11**－**41725**··250)を見よ。〔學蔀通辯、終編、心圖心說〕儒佛不レ同、樞要只此、愚嘗究而論レ之、聖賢之學、心學也、禪學陸學、亦自謂ニ心學一也、殊不レ知下心之名同、而所ニ以言一レ心則異上也、心圖具而同異之辨明矣、是故孔孟皆以ニ義理一言レ心、至ニ禪學一、則以ニ知覺一言レ心、孔子曰、其心三月不レ違レ仁、孟子曰、仁義禮智根ニ於心一、曰、豈無ニ仁義之心一、曰、仁、人心也、皆是以ニ義理一言レ心也。〔圖書編、心總論〕心學傳レ自ニ虞廷一、流派遠矣、韓退之云、孟軻死不レ得ニ其傳一、陸象山自述ニ其學一、得ニ之孟子一、嘗誦ニ其言一曰、宇宙便是吾心、吾心便是宇宙、東海有ニ聖人出一焉、此心同也、此理同也、西海有ニ聖人出一焉、此心同也、此理同也、南海北海有ニ聖人出一焉、此心同也、此理同也、千百世之上、至ニ千百世之下一、有ニ聖人出一焉、此心此理、亦無レ不レ同也。〔顧憲成、心學宗序〕無レ聲無レ臭、吾儒之所謂空也、無レ善無レ惡、釋氏之所謂空也、兩者之分、毫釐千里、混而不レ察、概以ニ釋氏之所謂空一、當ニ吾儒之所謂空一、而心學且大亂ニ於天下一、非ニ細故一也。〔日知錄、藝文、心學〕黃氏日鈔、云、近世喜言ニ心學一、舍ニ全章本旨一、而獨論ニ人心道心一、甚者單摭ニ道心二字一、而直謂ニ卽心是道一、蓋陷ニ於禪學一、而不丙自知乙其去下堯舜禹授ニ受天下一之本旨上遠甲矣、云云、心學者以レ心爲レ學也、以レ心爲レ學、是以レ心爲レ性也、心能具レ性、而不レ能レ使ニ心卽性一也、是故求ニ放心一則是、求レ心則非、求レ心則非、求ニ於心一則是我所レ病乎、心學者爲ニ其求ヲ心也、心果待レ求、心非ニ與レ我同ヲ類、心果可レ學、則以レ禮制レ心、以レ仁存レ心之言、毋ニ乃爲ニ心障一與。㊂備前、石田梅巖が創唱した、平易な實踐道德教。神・儒・佛・道諸教のあらゆる眞理を攝取して、農工商平民のために通俗卑近の例を擧げ、何人にも直解し得るやうに忠孝信義を說いたもの。手島堵菴が之を大成した。陽明の心學と分けるために石門心學といふ。

【心嶽】46シンガク 明、張睿卿(**4**－**9812**··814)の號。

【心坎】47シンカン みづおち。心中。親愛の情。〔水滸傳、二回〕跳澗虎生レ嗔、丈八矛不レ離ニ心坎一刺。

〔心坎兒〕48シンカンジ おもふつぼ。〔紅樓夢、二十九回〕一行聽ニ了這話一、說ニ到自己心坎兒上一來。

【心肝】49シンカン ㊀心臟と肝臟。轉じて、まごころ。眞情。誠意。丹心。赤心。〔歐陽堅、臨終詩〕上負ニ慈母恩一、痛酷摧ニ心肝一。〔李白、長相思〕夢魂不レ到關山難、長相思摧ニ心肝一。〔蘇軾、與ニ李公擇一書〕吾儕雖ニ老且窮一、而道理貫ニ心肝一、忠義塡ニ骨髓一。㊁非常に親愛する。いとしがる。又、其の人。己の肉親。〔晉書、劉曜載記〕曜親征ニ陳安一、安善ニ於撫接一、吉凶夷險、與レ衆同レ之、及ニ其死一、隴上歌レ之曰、隴上壯士有ニ陳安一、軀幹雖レ小腹中寬、愛ニ養將士一同ニ心肝一。〔紅樓夢、四十回〕賈母笑的摟ニ着寶玉一叫ニ心肝一。

〔披ニ心肝一〕50シンカンヲヒラク 心の誠を披いて人に示す。

〔銘ニ心肝一〕50′シンカンニメイズ 心の奧底に刻みつけて忘れない。深く心にしるす。

〔心肝兒肉〕51シンカンジニク いとしい人。最愛のもの。〔紅樓夢、三回〕心肝兒肉叫著大哭起來。

〔心肝五臟皆金繡〕52シンカンゴザウミナキンシウ 詩文の才に富み、作るところの文字が皆佳麗なことをいふ。〔李白、送ニ仲弟令問一序〕常醉目レ吾曰、兄心肝五臟皆錦繡耶、不レ然何開レ口成レ文、揮レ翰霧散也。

【心閑】53シンカン ㊀心中が安靜なこと。心閒。〔孫綽、遊ニ天台山一賦〕于レ是遊覽既周、體靜心閑。〔韓愈、與ニ崔羣一書〕心閑無レ事、然後外患不レ入。㊁心に習熟する。心閑手敏を見よ。

〔心閑手敏〕54シンカンシユビン 心と手とが習熟する。〔嵇康、琴賦〕於レ是器冷絃調、心閑手敏。〔注〕善曰、毛萇詩傳曰、閑、習也。

〔心閑體正〕55ココロカンニタイタダシ 心が靜かで身體の持し方も正しい。〔列子、湯問〕心閑體正、六轡不レ亂。

【心感】56シンカン 心に感ずる。心が動く。感心する。〔左氏、昭、二十一〕心是以感、感實生レ疾。〔漢書、藝文志〕書曰、詩言レ志、歌詠レ言、故哀樂之心感、而歌詠之聲發。〔嵇康、聲無ニ哀樂一論〕誠動ニ於言一、心感ニ於和一。

【心眼】57シンガン ㊀よく物を鑒識する心のはたらき。肉眼の對。〔畫繼、雜說、論遠〕元章心眼高妙、而立論有ニ過レ中處一。㊁佛シンゲン 觀念の心をいふ。〔觀無量壽經〕爾時大王雖レ在ニ幽門一、心眼無レ障遙見ニ世尊一。㊂hsin^1 yen^3 心根。根生。

〔心眼兒裡〕58シンガンジリ 心中をいふ。〔紅樓夢、六回〕心眼兒裡愛還愛不ニ過來一。

【心氣】59シンキ 心をいふ。心持。氣分。〔禮、月令〕仲夏之月、節ニ嗜欲一、定ニ心氣一。〔管子、內業〕心氣之形、明ニ於日月一。〔鬼谷子、本經陰符〕術者心氣之道所ニ由舍一者、神乃爲ニ之使一。〔呂覽、察賢〕全ニ耳目一、平ニ心氣一、而百官治。

【心鬼】60シンキ 心にすむ鬼。心中に疑ひ訝る所が

あつて、種々の恐しい幻影を生ずること。疑心生二暗鬼一（7－22007‥51）を見よ。〔列子、說符、鬳齋口義〕此章猶四諺言三疑心生二暗鬼一。

【心寄】61 シンキ　心を推して人にゆだねる。誠心を人に寄せること。〔資治通鑑、齊紀〕（東昏侯、永元元年）何容三方更請レ人以違二心寄一乎。〔注〕心寄、謂三推レ心以託レ之也。

【心悸】62 シンキ　❶心中に悸れる。事を謹しむにいふ。〔後漢書、梁節王暢傳〕肌慄心悸自悔、無レ所二復及一。〔晉書、長沙王乂傳〕每憂二王室一、心悸肝爛。❷むなさわぎ。又、動悸。

〖心悸亢進〗63 シンキカウシン　心臟病患者等の動悸が劇しくなること。

〖心悸舌揚〗64 シンキゼツヤウ　驚き恐れて口が利けなくなること。〔日本政記、後土御門天皇論〕傍二觀戰鬭一、心悸舌揚、不レ能下出二一語一以禁中止之上。

【心幾】65 シンキ　機に應じて心が動くこと。心のはたらき。心事。心機。〔後漢書、鄭衆傳〕爲レ人謹敏有二心幾一。〔資治通鑑、漢紀〕（和帝、永元四年）謹敏有二心幾一。〔注〕幾、事也、心幾、謂二心事一也。

【心期】66 シンキ　❶心中に期し望むこと。〔白居易、寄二王質夫一詩〕因話二出處心一、心期老二巖壑一。〔張喬、寄二山僧一詩〕大道本來無二所染一、白雲那得レ有二心期一。〔朱熹、次三韻休齋懷古堂一詩〕平昔塵編裏、心期本自幽。❷心をゆるした友。〔任昉、贈下郭桐廬出二溪口一見レ候云云郭生方至上詩〕客心幸自弭、中道遇二心期一。〔南史、向柳傳〕我與二士遜一心期久矣、豈可下一旦以二勢利一處上之。

【心機】67 シンキ　心の動くはずみ。心のはたらき。〔任昉、答二劉居士一詩〕行無二轍跡一、理絕二心機一。〔張籍、寄二梅處士一詩〕擾擾人間是與レ非、官閒自覺省二心機一。

〖心機一轉〗68 シンキイツテン　心ががらりと變る。

【心鞿】69 シンキ　心をつなぐきづな。〔陳與義、同三家弟用二前韻一云云詩〕要レ逃語穽稅二心鞿一。

【心技】70 シンギ　こころのわざ。こころのさいく。〔說苑、建本〕虞君問二盆成子一曰、今工者久而巧、色者老而衰、今人不下及二壯之時一、盆積二心技之術一以備中將レ衰之色上、色者必盡二乎老之前一。

【心儀】71 シンギ　中心から從ひ附く。轉じて、感佩の意に用ふ。〔漢書、外戚上、孝宣許皇后傳〕公卿議三更立二皇后一、皆心二儀霍將軍女一。〔注〕晉灼曰、儀、向也、師古曰、謂三附二向之一。

【心九】72 シンキウ　淸、賈步緯（10－36755‥210）の字。

【心嗅】73 シンキウ　鼻をいふ。鼻は心が外界に嗅ぐ所であるからいふ。心聽（291）を見よ。

【心吉】74 シンキツ　淸、莊怡孫（9－31035‥148）の字。

【心急】75 hsin¹ chi²　氣がせく。

【心境】76 シンキヤウ　心中の狀態。心中苦樂の現象。心狀。〔張說、淸遠江峽山寺詩〕靜默將二何貴一、惟應二心境同一。

【心鏡】77 シンキヤウ　鏡の如く光明な心。心のあきらかなこと。心の鏡。〔曹植、文帝誄〕心鏡萬機、攬二照下情一。〔晉書、王湛等傳論〕混暗識二於心鏡一、開二險路于情田一。〔劉長卿、贈三別韋羣投レ筆赴二安西一詩〕心鏡萬象生。〔圓覺經〕慧目肅淸、照二耀心鏡一、圓二悟如來無上知見一。

【心競】78 シンキヤウ　道德智慧を以て互に競爭する。〔左氏、襄、二十六〕臣不二心競一而力爭、不レ務レ德而爭レ善。〔後漢書、孔融傳〕師曠以爲、不レ如二心競一。

【心驚】79 シンキヤウ　驚く。むなさわぎがする。〔庾信、哀江南賦〕聞二鶴唳一而心驚、聽二胡笳一而淚下。

〖心驚膽戰〗80 hsin¹ ching¹ tan³ chan⁴　非常に驚きわななく。

〖心驚肉跳〗81 hsin¹ ching¹ jou⁴ tʻiao⁴　大いに驚く。俗に禍の前兆をいふ。

【心許】82 シンキヨ　❶心中に許す。〔史記、吳太伯世家〕季札之初使、北過二徐君一、徐君好二季札劍一、口弗二敢言一、季札心知レ之、爲レ使二上國一未レ獻、還至レ徐、徐君已死、於レ是乃解二其寶劍一、繫二之徐君冢樹一而去、從者曰、徐君已死、尙誰予乎、季子曰、不レ然、始吾心已許レ之、豈以レ死倍二吾心一哉。〔謝靈運、廬陵王墓下作詩〕延州協二心許一、楚老惜二蘭芳一。❷よろこびほめる。〔陸游、先少師宣和初有下贈二晁公道一詩上云奴愛レ才如二蕭穎士一婢知レ詩似二鄭康成一晁公大愛賞今逸二全篇一偶讀二晁公文集一泣而足レ之詩〕遠聞二佳士一輒心許、老見二異書一猶眼明。

〖心許無〗83 ココロモトナシ　覺束ない。待ち遠しい。きづかはしい。〔伊勢物語〕いと心もとなくて待ち居れば。

【心虛】84 シンキヨ　❶心が空しい。心意の働かない狀態。〔列子、仲尼〕南郭子貌充心虛。〔謝尙、談賦〕理玄旨邈、辭閒心虛。❷hsin¹ hsü¹　心不安な。

【心胸】85 シンキヨウ　むね。こころ。むねの中。〔後漢書、隗囂傳〕宜下斷二之心胸一、參中之有識上。〔孫綽、遊二天台山一賦〕過二靈溪一而一濯、疏二煩想于心胸一。

〖豁二心胸一〗86 シンキヨウヲヒロクス　心中をひろやかにする。〔杜甫、巴西驛亭觀二江漲一呈二竇使君一詩〕天邊同二客舍一、携レ我豁二心胸一。

【心興】87 シンキヨウ　心中の感興。〔韓翃、送三張儋水路歸二北海一詩〕知君心興遠、每上二海邊樓一。

【心凝】88 シンギヨウ　心がこりかたまること。心凝形釋を見よ。

〖心凝形釋〗89 ココロコリカタチトク　心が道と融合すること。心がこりかたまつて、無念無想の境に入り、形體を忘れる。〔列子、黃帝〕列子師二老商氏一、友二伯高子一、進二二子之道一、乘レ風而歸、云云、眼如レ耳、耳如レ鼻、鼻如レ口、無レ不レ同也、心凝形釋、骨肉都融、不レ覺二形之所レ倚、足之所一レ履、隨レ風東西、猶二木葉幹殼一、竟不レ知二風乘レ我耶、我乘レ風乎一。〔柳宗元、始得二西山一宴游記〕心凝形釋、與二萬化一冥合。

【心曲】90 シンキヨク　心の中の一ぶしじゆう。心のくま。心底。心中。〔詩、秦風、小戎〕在二其板屋一、亂二我心曲一。〔箋〕心曲、心之委曲也。〔韓詩外傳、二〕亂二我心曲一。〔陸機、爲二顧彥先一贈レ婦詩〕隆思亂二心曲一、沈歡滯不レ起。〔白居易、朱陳村詩〕悲火燒二心曲一、愁霜侵二鬢根一。

【心極】91 シンキヨク　中心。〔任昉、王文憲集序〕莫レ不下摠二制淸衷一、遞爲中心極上。〔注〕銑曰、言、諸道術、莫レ不下聚二其制度一、運二於淸思一、遞互爲中用於心中上也、極、中也。

【心玉】92 シンギヨク　淸、沈冰壺（6－17189‥629）の字。

〖心玉道人〗93 シンギヨクダウジン　宋、吳迪（2－3365‥329）の號。

【心禁】94 シンキン　心のいましめ。外面を革めるにとどまらず、心から非をいましめ禁ずること。〔管子、山權數〕桓公曰、請聞二心禁一、管子對曰、晉有下臣不レ忠二於其君一、慮殺二其主一、謂二之公過一、諸公過之家、毋レ使レ得レ事レ君、此晉之過失也、齊之公過、坐立二長差一、惡レ惡乎、來レ刑、善レ善乎、來レ榮、戒也、此之謂二國戒一。

【心矩】95 シンク　明、全良範（1－1424‥229）の字。

【心駒】96 ココロノコマ　煩惱のために心が狂ふのを、駒が狂ふのに喩へていふ。〔蟬丸、逢坂山入道行〕牛の玉ぼこ遲くとも、心の駒は日に千度。

【心瞿】97 シンク　心におそれる。瞿は懼。〔禮、雜記下〕聞レ名心瞿。

【心化】98 シンクワ　❶心から心に傳へをしへる。〔南史、范曄傳〕爾以來轉爲二心化一。❷心から感化する。〔宋書、袁豹傳〕澆薄自淳、心化有レ漸矣。❸心で感化する。〔文中子、周公〕此以レ言化、彼以レ心化。〔注〕行レ道感レ人。

【心火】99 シンクワ　❶感情がはげしく動くこと。火のやうにはげしい心のいきほひ。又、怒る心の勢。瞋恚のほむら。〔杜荀鶴、下第東歸道中作詩〕心火不レ銷雙鬢雪、眼泉難レ濯滿衣塵。〔譚用之、貽二淨居寺新及第一詩〕閑二頌國風一文字古、靜二消心火一夢魂涼。〔白居易、感レ春詩〕憂喜皆心火、榮枯是眼塵。❷星の名。心宿をいふ。〔晉書、孫惠傳〕夫心火傾移、喪亂可レ必。

【心花】100 シンクワ　心。花に喩へていふ。〔梁簡文帝、三請二開講一啓〕心花成レ樹、共轉二六塵一。

【心窩】101 シンクワ シンワ　❶心中。心。〔桃花扇、卻奩〕這雲情接二著雨況一、剛搔二了心窩奇痒一。❷胸と腹の界目の中央に在るくぼみ。みづおち。みぞおち。鳩尾。〔水滸傳、二十五回〕被下西門慶早飛二起右腳一、武大矮短正踢中中心窩裏上、撲レ地望レ後便倒了。

〖心窩子〗102 hsin¹ wo¹ tzŭ　みぞおち。心窩に同じ。

【心畫】103 シングワ　文字の別名。文字には書いた人の心があらはれるからいふ。〔法言、問神〕言、心聲也、書、心畫也、聲畫形、君子小人見矣、聲畫者、君子小人之所二以動一レ情乎。

【心灰】104 シンクワイ　心がおちついてひややかなこと。欲情の火を斷滅して、心が動かずに灰のやうに冷かなこと。意思の冷靜をいふ。灰心。〔梁昭明太子、講席將レ訖賦二三十韻詩一依レ次用詩〕器月

希レ留レ影、心灰庶レ方レ樸。〔白居易、冬至夜詩〕心灰不レ及二爐中火一、鬢雪多二於砌下霜一。

〖心灰意懶〗105 hsin^1 huei^1 i^4 lan^3　元氣がなくなる。

【心會】106　心中に會得すること。〔江休復、詩〕心會境物融、泯然遺二世營一。

【心懷】107　心。心中の懷。意中。〔魏文帝、於二明津一作詩〕遠望使二心懷一、遊子戀二所生一。

【心外】108　❶心のほか。心以外。思の外。心外無レ理、心外無レ事を見よ。❷意外なさま。思ひもかけぬさま。❸ざんねん。無念。遺憾至極。〔曾我扇八景、上〕屍の上の心外。

〖心外無別法〗109　〈佛〉吾人の認識する諸法。即ち、森羅萬象は皆各自の心識から出たもので、心とは別に其の物が存在するのではないといふこと。〔楞嚴經〕心外無二別法一。

〖心外無レ理心外無レ事〗110　心の外に理もなく事もない。所詮、一心は萬有の基であるといふこと。〔傳習錄、上〕虛靈不昧、衆理具而萬事出、心外無レ理、心外無レ事。

【心光】111　〈佛〉佛の慈悲心より照す所の光明。色光の對。〔觀念法門〕但有下專念二阿彌陀佛一衆生上、彼佛心光、常照二是人一、攝取不レ捨、總不レ論レ照二攝餘雜業行者一。

【心曠】112　心がひろい。心が大きい。〔晉書、向秀傳〕嵇意遠而疏、呂心曠而放。〔李翰尉遲長史草堂記〕冥レ機愼レ道、跡繫心曠、人或未レ覩、吾能知レ之。

〖心曠神怡〗113　心がひろくのびのびしてゐること。〔范仲淹、岳陽樓記〕心曠神怡、寵辱皆忘。

〖心曠則萬鍾如二瓦缶一〗114　心が廣大で物慾邪念がなければ、大祿と雖も瓦缶の如く、何等の價値がない。鍾は六斛四斗、大祿の意、瓦缶は土燒のほとぎ、轉じて、價値なきの意。〔菜根譚、後、一百十四〕心曠則萬鍾如二瓦缶一。

【心活】115 hsin^1 huo^2　主張を變更する。

〖心活耳軟〗116 hsin^1 huo^2 êrh^3 juan^3　むやみに人の言葉を信ずる性質。

【心慣】117　心にしみこんだならはし。心の癖。〔源氏物語、夕顏〕すくよかなぬ心ならひ。

【心寛】118 hsin^1 k'uan^1　心がゆつたりとする。樂觀する。

【心願】119　心中のねがひ。心密かの希望。又、神佛に願をたてること。〔月上女經、下〕誰今如レ是滿二心願一。〔宣和遺事、前集下〕須三索去二燒香一、賽二還心願一則箇。

【心君】120　心。心は一身の主であるからいふ。〔陸游、夏日雜詠詩〕省レ事心君靜、忘レ情眼界平。

【心華】121　〈佛〉本心の清淨なのを華にたとへていふ。〔圓覺經〕成二就正覺一、心華發明、照二十方刹一。〔唐華嚴經、六十六〕又如下滿月出二現虛空一、令中可レ化者心花開敷上。

【心形】122　心と身体。〔晉書、王湛傳〕不レ覺懍然、心形俱肅。〔白居易、足疾詩〕應須三學二取陶彭澤一、但委二心形一任二去留一。

【心契】123　心からのちぎり。外貌だけでなく深く心中にちぎり合ふ。深い友交關係。〔謝靈運、登二石門最高頂一詩〕心契九秋幹、目翫二三春荑一。〔宋史、劉清之傳〕初清之既擧二進士一、欲レ應二博學宏詞科一、及レ見二朱熹一、盡取レ所レ習焚レ之、慨然志二於義理之學一、呂伯恭・張栻、皆神交心契。

【心計】124　❶むなざん。暗算。〔史記、平準書〕桑弘羊、洛陽賈人子、以二心計一年十三待中、言二利事一析二秋毫一。〔班固、答賓戲〕和鵲發二精於鍼石一、研桑心二計於無垠一。〔國老談苑〕陳恕長二於心計一、爲二鹽鐵使一。❷心にはかる。みこみを立てる。もくろみ。立案。心算。考案。計畫。〔張巡、守二睢陽一作詩〕無三人報二天子一、心計欲二何施一。〔李山甫、下第獻レ所レ知詩〕自憐心計今如レ此、憑レ仗春醪爲解レ頤。

【心經】125　❶書名。一卷。宋、眞德秀撰。聖賢の心を論ずる格言をあつめ、諸儒の議論で之が注を施したもの。大旨は正心を本とす。末に四言の贊一首を附す。〔四庫提要、子、儒家類〕。❷〈佛〉佛典の名。般若波羅蜜多心經の略稱。心經とは、大般若六百卷の精要を積聚したものであるから名づく。〔宋史、藝文志四〕般若波羅蜜多心經一卷。〔獨異志〕見二一老僧一、口二授心經一卷一。

【心繫】126　むねのつながり。〔司馬相如、子虛賦〕弓不二虛發一、中必決レ眦、洞レ胷達レ掖、絕二乎心繫一。

【心竅】127　心。心胸。心孔。〔耶律楚材、乞レ茶詩〕積年不レ啜建溪茶、心竅黃塵塞二五車一。

【心血】128　精力。精神。〔梁川星巖、聞二賴子成訃音一詩以哭寄詩〕一編政記盡二心血一、灑到二民痍一痕更多。

【心月】129　〈佛〉悟りを開いた心。明月の如く清徹であるからいふ。〔蘇軾、謝二蘇自之惠レ酒詩〕我今不レ飮非レ不レ飮、心月皎皎長孤圓。〔菩提心論〕照二見本心一、湛然清淨、猶如二滿月一、光遍二虛空一。〔五燈會元〕光吞二萬象一從二師道一、心月弧圓意若何。

【心怯】130　心におそれる。氣後れする。〔李中、下蔡春暮旅懷詩〕髮白每慙清鑑啓、心孤長怯子規啼。

【心見】131　心のほどが外にあらはれる。〔枕草子、十二〕心見えなりとも誹られめ。

【心虔】132　心からつつしむ。心がつつましい。〔梁武帝、遊二鍾山大愛敬寺一詩〕始得レ展二身敬一、方乃遂二心虔一。〔周鍼、羿射二九日一賦〕和容體正、審固心虔。

【心遣】133　心をくばる。懸念。〔源氏物語、榊〕官に仕うまつりたまふべき御心づかひ。

【心繭】134　心中のむすぼれ。むすぼれた心。鬱結。〔溫庭筠、病中書レ懷呈二友人一詩〕夢梭抛二促織一、心繭學二蜘蛛一。

【心懸】135　心が動搖しておちつかぬこと。〔陸雲、與二載季甫一書〕當レ暑遠涉、益追二心懸一。

【心言】136　清、王子音(**7**−20823‥1534)の號。

【心源】137　心をいふ。心は萬法の根源であるからいふ。〔菩提心論、二〕知而勿レ隨、妄若息時、心源空寂、無相安樂。

【心壺】138　字號。❶清、錢儀吉(**11**−40563‥274)の號。❷清、王詰(**7**−20823‥227)の號。

【心吾】140　明、呂坤(**2**−3386‥77)の號。

【心悟】141　心にさとる。心の中でさとる。心得。自覺。〔江淹、雜體、謝僕射混遊覽詩〕凄凄節序高、寥寥心悟永。〔蘇軾、八陣磧詩〕至人已心悟、後世徒妄說。

【心口】142　❶心と口。精神と言語。〔晉書、范弘之傳〕仰二首聖朝一、心口憤歎。〔王僧孺、禮レ佛文〕恣二此心口一、衆罪所レ集。❷胸。〔福惠全書、刑名部、問擬〕習擧手一鎗、刺二中東振心口一。

【心孔】143　心。心のまど。心根。心竅。〔杜甫、奉先劉少府新畫山水障歌〕大兒聰明到、能添二老樹巓崖裏一、小兒心孔開、貌二得山僧及童子一。〔杜荀鶴、贈二張員外兒一詩〕喚レ物舌頭猶未レ穩、誦レ詩心孔迥然開。

【心肯】144　心からゆるす。〔李漁、蜃中樓傳奇〕心肯處四偶相俱。

【心紅】145　❶印肉をいふ。心紅銀を見よ。❷純紅の硃砂をいふ。眞紅の丹砂。❸hsin^1 hung^2

〖心紅銀〗146　各官衙に使用する印肉費。日常の費用。日用費。〔六部成語、戶部、心紅銀、注解〕心紅、印肉也、衙門中一年用レ印之費。

〖心紅紙張〗147　純紅の硃砂を塗つた紙。〔六部成語、戶部、裁二減心紅紙張公費一賑二濟窮竈一、注解〕竈戶窮困、不レ能二煎鹽一、則將二鹽務衙門之印色紙張辦公之費一暫時裁減、以二此款一賑二濟之一。

【心候】148　口の異名。〔白虎通、情性〕口者心之候、耳者腎之候。

【心喉】149　むねとのど。轉じて、要害の地の喩。〔晉書、宣帝紀〕夏口東關、賊之心喉。

【心構】150　心に思ひかまへる。覺悟。〔源氏物語、若紫〕殘りの齡ゆたかに經べき心がまへも、もてはなれて。

【心谷】151　清、費蘭墀(**10**−36717‥112)の字。

【心穀】152　清、查爲仁(**6**−14643‥81)の字。

【心骨】153　心とほね。精神と身體。からだ全體。心身。〔劉知幾、思愼賦序〕刻二心骨一而不レ忘、傳二諷誦一而無レ斁。〔李華、木蘭賦〕發二聰明於視聽一、洗二煩濁於心骨一。

〖刻二鏤心骨一〗154　心中に深く記して忘れぬこと。〔書言故事〕趙林武云、貫レ心鏤レ骨、李義山云、刻二鏤心骨一。

【心很】155　心がもとりさからつて從順でな

い。心の凶惡なこと。心狠。〔國語、晉語九〕宵之很在レ面、瑤之很在レ心、心很敗レ國、面很不レ害。〔宋庠補音〕很、很戾不レ從レ人也。

【心恨】156（シンコン） 心中、怨に思ふ。心中の怨恨。〔吳越春秋、吳王壽夢傳〕十三年楚怨レ吳、爲二慶封一故伐レ之、心恨不レ解、伐レ吳至二乾谿一、吳擊レ之、楚師敗走。〔漢書、翟方進傳〕咸詰二責方進一、冀レ得二其處一、方進心恨。

【心根】157（シンコン） こころね。心のそこ。根性。心底。〔袁淑、禦レ虜索レ賊議〕絕二其心根一、勿レ使二能植一。

【心魂】158（シンコン） こころの奧底。たましひ。神魂。〔江淹、雜體、左記室詠史詩〕百年信荏苒、何用苦二心魂一。〔徐照、自二君之出一矣詩〕自二君之出一矣、心魂遠相隨。

【心裁】159（シンサイ） 心に判斷する。判斷力。〔文心雕龍、原道〕心二裁文章一、研二神理一而設レ教。

【心際】160（ココロギハ） 氣もち。心もち。〔宇治拾遺物語、一四〕けしからぬぬしの心ぎはかなと。

【心齋】161（シンサイ） ㊀心が、齋戒して外欲を屏除したやうに專一定靜なこと。虛心の喩。〔莊子、人間世〕回曰、敢問二心齋一、仲尼曰、若一レ志無レ聽レ之以レ耳、而聽レ之以レ心、無レ聽レ之以レ心、而聽レ之以レ氣、聽止二於耳一、心止二於符一、氣也者、虛而待レ物者也、唯道集レ虛、虛者心齋也。㊁字號。㋑明、張欽（順天の人）(**4－9812**‥214)の號。㋺清、沈涵(**6－17189**‥85)の號。㋩清、沈尙忠(**6－17189**‥531)の號。㋥清、任兆麟(**1－416**‥242)の字。㋭清、張潮(**4－9812**‥578)の字。㋬清、陳汝咸(**11－41698**‥1001)の號。㋣小川弘の號。小川心齋(**4－7473**‥801)を見よ。

〖心齋先生〗162（シンサイセンセイ） 宋、董德修(**9－31433**‥247)の尊稱。

【心材】163（シンザイ） 木のあかみ。木の幹の年輪の年を經て赤褐色となつた部分。固結して水液なく、幹を保持する用をする。邊材の對。

【心相】164（シンサウ） 佛心の行相。卽ち見分をいふ。〔圓覺經〕妄認二四大一爲二自身相一、六塵緣影爲二自心相一、譬如三彼病レ目者見二空中華及第二月一。

【心曹】165（シンサウ） 心中の不快なこと。〔侯鯖錄〕愁、憂也、集韻、音曹、今人言二心中不快一爲二心曹一、當レ用二此愁字一。

【心莊】166（シンサウ） 字號。㊀清、吳元澄(**2－3365**‥546)の號。㊁清、王之孚(**7－20823**‥1560)の字。

【心喪】167（シンサウ） 喪服によらず、ただ心だけで喪に服すこと。弟子が師の喪に服す場合をいふ。〔禮、檀弓上〕事レ師無レ犯無レ隱、左右就養無レ方、服勤至レ死、心喪三年。〔注〕心喪、戚容如レ父而無レ服也、凡此以二恩義之閒一爲レ制。〔朱子注〕事レ師者心喪三年、其哀如二父母一而無レ服、情之至而義有二不レ得レ盡者一也。〔史記、孔子世家〕孔子葬二魯城北泗上一、弟子皆服二三年一、三年心喪畢、相訣而去。〔後漢書、李郃傳〕心喪三年、時人異レ之。〔孔子家語、終記解〕弟子皆家二於墓一、行二心喪之禮一。

【心想】168（シンサウ） 心におもふ。〔盧諶、贈二劉琨一詩〕感レ今惟レ昔、口存心想。

【心嘈】169（シンサウ） 胸がやける。嘈雜。

【心操】170（シンサウ） 心のみさを。心ばへ。心のとり守る所。志操。〔源平盛衰記、二十八、仙童琵琶〕心操落居して、柔和を性に備へたり。

【心像】171（シンザウ） ㊀過去に意識に映じた外物の像が、後更に意識內に現出したもの。㊁（ココロヤリ） 羽後國の地名。

【心臟】172（シンザウ） 五臟の一。循環器の中樞器官。倒圓錐狀桃果形。人の拳大。胸腔の下方中央の稍〻左寄にある。左方に傾き、其の下端は左方乳頭の下に當る。中央の隔壁によつて左心・右心に分れ、更に瓣膜によつて上下の二部に分れる。上を心房、下を心室といふ。故に心房はまた左心房・右心房に、心室はまた左心室・右心室に分れる。壁は橫紋不隨意筋から成り、心室壁は厚く、心房壁は薄い。〔素問、靈蘭秘典論、凡十一藏取二決於膽一也、注〕上從二心藏一下至二於膽一、爲二十一一也。〔王逢、三月十二屬予初度時客舍承朱僉樞攜二僚佐一見レ過詩〕心臟空夢神人剖。

〖心臟形葉〗173 hsin^1 tsang^4 hsing^2 yeh^4 葉脚の柄の出る部分に、內方に彎入して凹形をなす卵狀形の葉。

〖心臟痲痹〗174（シンザウマヒ） 心臟が其の機能を全く停止した狀態。生命を失ふ。

【心算】175（シンサン） 心にはかる。心中のかんがへ。むな算用。つもり。心計。〔潘岳、楊荊州誄〕多才豐藝、彊記洽聞、目睇二毫末一、心算二無垠一。

【心酸】176（シンサン） 心に悲哀を感ずること。悲痛。〔李商隱、離思詩〕氣盡前溪舞、心酸子夜歌。〔紅樓夢、十一回〕反添二心酸一、倒不二是來開導勸解的意思一了。

【心山】177（シンザン） 清、金可埰(**11－40152**‥1205)の號。

【心慙】178（シンザン） こころにはぢること。〔書、五子之歌〕鬱陶乎予心、顏厚有二忸怩一。〔傳〕顏厚色愧、忸怩心慙。

【心之】179（シンシ） 清、程尙志(**8－25081**‥225)の字。

〖心之憂危若下蹈二虎尾一涉中于春冰上〗180（ココロノウレヘアヤフムコトトラノヲフミハルノコホリヲワタルガゴトシ） 吾が心の憂ひと懼れは、あたかも噬まれることを畏れつつ虎の尾をふみ、陷ることを畏れつつ春の氷を涉る如くである。〔書、君牙〕心之憂危若下蹈二虎尾一涉中于春冰上。

【心史】181（シンシ） 書名。四卷。宋、鄭思肖撰。鄭所南詩集の一。鄭所南は宋末の人。本國が元に亡ぼされたのを憤慨して作る。此の書、久しく世に顯れず、明の崇禎中、江南吳中承天寺の井中から發見した。鐵函に密封されて居たから、因て鐵函心史、又は井中心史ともいふ。〔鄭所南集〕鄭思肖、字所南、集名二心史一。

【心旨】182（シンシ） 心におもふむね。かんがへ。〔南齊書、王融傳論〕經略心旨、殷勤表奏。

【心死】183（シンシ） ㊀あらゆる雜念を屏除した無我の境をいふ。〔列子、湯問〕唯黃帝與二容成子一、居二空峒之上一、同齋三月、心死形廢、徐以レ神視、塊然見レ之、若二嵩山之阿一、徐以レ氣聽、砰然聞レ之、若二雷霆之聲一。㊁心の死ぬこと。心が頑鈍無恥の極、如何ともしがたいこと。〔莊子、田子方〕仲尼曰、惡可レ不レ察與、夫哀莫レ大二於心死一、而人死亦次レ之。㊂hsin^1 ssŭ^3 絕望する。

【心志】184（シンシ） こころ。こころざし。意志。〔禮、祭義〕心志嗜欲、不レ忘二乎心一。〔穀梁、昭、十九〕就レ師學問無レ方、心志不レ通、身之罪也。〔孟子、告子下〕天將レ降二大任於是人一也、必先苦二其心志一。〔呂覽、達鬱〕心志欲二其和一也。

【心指】185（ココロザシ） ㊀志。志すこと。意向。〔古今集、春上〕心指深くそめてしをりければ。㊁志を表はすための贈物。〔源氏物語、澪標〕御使にも二なきさまの心指をつくす。

【心思】186（シンシ） 心の思考。こころ。おもひ。〔孟子、離婁上〕既竭二心思一焉、繼レ之以二不レ忍レ人之政一、而仁覆二天下一矣。〔後漢書、何休傳〕休爲レ人質朴訥口、而雅有二心思一、精二研六經一。〔古歌、悲歌〕心思不レ能レ言、腸中車輪轉。〔鮑照、代東武吟〕肌力盡二鞍甲一、心思歷二涼溫一。

【心師】187（シンシ） わが心の師たるもの。わが心を善道に導く師。〔南史、張融傳〕融爲二門律一自序云、吾文章之體、多爲二世人所一レ驚、汝可二師レ耳以レ心、不レ可レ使三耳爲二心師一也。〔宗鏡錄〕寧作二心師一、不レ師二於心一。

【心視】188（シンシ） 目をいふ。目は心が外界に視る所であるからいふ。心聽(291)を見よ。

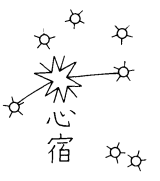
【心耳】189（シンジ） ㊀心と耳。〔左氏、昭、元〕於レ是有二煩手淫聲一、慆二堙心耳一、乃忘二平和一。〔鮑照、贈二傅都曹別一詩〕追憶棲宿時、聲容滿二心耳一。〔李白、題二元丹丘山居一詩〕松風清二襟袖一、石潭洗二心耳一。㊁心臟內腔の上半。左右の二から成り、中間は隔壁で交通しない。左右の各心耳は、それぞれ瓣によつて同側の心室と相通じてゐる。右心耳は上下の兩大靜脈の注入する所で、左心耳は左右四本の肺靜脈の注入する所である。

〖清二心耳一〗190（シンジヲキヨム） 精神と耳とを清らかにする。〔李白、白毫子歌〕憑レ崖一聽清二心耳一。

【心事】191（シンジ） ㊀心に思ふことがら。心中のおもはく。意中。〔謝靈運、擬二魏太子鄴中集徐幹詩一序〕少無二宦情一、有二箕潁之心事一、故仕レ世多二素辭一。〔謝朓、新亭渚別二范零陵一詩〕心事俱已矣、江上徒離レ憂。〔杜甫、秋興詩〕匡衡抗レ疏功名薄、劉向傳レ經心事違。㊁心に思ふことと遭遇したこと。㊂hsin^1 shih^4 人に言へない悲しみや歎き。

【心宿】192（シンシウ） 星の名。二十八宿の一。蒼龍七宿の第五宿。大火。なかご。蠍座の中央附近に相當する。字解の㊅を見よ。〔詩、唐風、綢繆、三星在レ天、大全〕安成劉氏曰、心宿之象、三星鼎立、故因謂二之三星一、凡三星者非二止心之一宿一、而知三此詩

爲二心宿一者、蓋春秋之初、辰月末日、在二畢昏時一日淪二地之酉位一、而心宿始見二於地之東方一、此詩男女既過二仲春之月一而得レ成レ婚、故適見二心宿一也。〔左氏、襄、九〕心爲二大火一。〔丹元子、步天歌〕心三星、中央色最深、下有二積卒一、共十二。〔星經〕心三星、中天王、前爲二太子一、後爲二庶子一、火星也、一名大火、二名大辰、三名鶉火。



心宿（新法暦書）

【心室】193（シンシツ） 心臟内腔の下半部。左右兩つの心室からなり、互に中隔で隔てられ、瓣で心耳と相通じてゐる。右心室からは大動脈が出てゐる。

【心疾】194（シンシツ） 胸のやまひ。心配ごと等で胸を痛めて起す病氣。氣やみ。〔左氏、襄、三〕子重病レ之、遂遇二心疾一而卒。〔韓非子、十過〕司馬子反辭以二心疾一、共王駕而自往、入二其幄中一、聞二酒臭一而還。

【心質】195（シンシツ） こころばへ。性質。〔人物志、九徵〕故心質亮直、其儀勁固。

【心實】196（シンジツ） 心のうち。まごころ。〔蜀志、蔣琬傳〕思惟、背レ親捨レ德、以殄二百姓一、衆人既不レ隱二於心實一、又使二遠近不レ解二其義一。

【心匠】197（シンシャウ） こころに思ひめぐらす。心中にたくらむ。工夫する。かんがへ。工夫。〔權德輿、奉三和于司空二十五丈新卜二城南郊居一云云詩〕宰物歸二心匠一、虛中卽二化源一。〔白居易、畫鵰讚〕想入二心匠一、寫從二筆精一。

【心將】198（シンシャウ） 心を率ゐるもの。〔黃庭堅、養浩堂銘〕心者氣之君、氣者心之將。

【心象】199（シンシャウ） 心中におこる妄想。心像。〔溫庭筠、李先生別墅望二僧舍寶刹一因作二雙韻聲一詩〕棲息消二心象一、簷楹溢二豔陽一。

【心傷】200（シンシャウ） こころがいたむ。〔詩、小雅、杕杜〕日月陽止、女心傷止。〔六韜、虎韜、動靜〕士卒心傷。〔劉基、感懷詩〕登レ高見二萬里一、懷レ古使二心傷一。

【心障】201（ココロザハリ） こころがかり。又、氣ざはり。

【心賞】202（シンシャウ） 心中に深く賞し樂しむこと。〔謝朓、京路夜發詩〕文奏方盈レ前、懷レ人去二心賞一。〔白居易、首夏同二諸校正一遊二開元觀一因宿翫レ月詩〕沈二沈道觀中一、心賞期在レ茲。

【心上】203（シンジャウ） ❶心臟の上。〔風俗通、祀典〕殺二雄雞一以傳二其心上一。❷心のうち。こころ。

〖心上人〗204 hsin^1 shang jen^2 情人。意中の人。戀人。

【心狀】205（シンジャウ） こころのありさま。心の狀態。

【心情】206（シンジャウ） こころもち。こころばせ。物に感じて起る情。〔李中、贈二重安寂道者一詩〕寒松肌骨鶴心情、混俗陶陶隱二姓名一。〔白居易、感レ春詩〕心情多少在、六十二三人。

【心珠】207（シンジュ） 心靈。中心の明朗を寶珠に喩へていふ。〔梁簡文帝、釋迦文佛像銘〕心珠可レ瑩、智流方溥。〔韶山和尙、心珠歌〕此心珠如二水月一。

【心呪】208（シンジュ） ［佛］❶諸佛の神呪をいふ。心は精要の義。大呪・小呪・一字呪の三種あり。❷如來心中の最も立派な法をいふ。〔楞嚴經〕坐二寶蓮華一、所レ說心呪。

【心受】209（シンジュ） 心に受けさとる。心中に領會する。得心。納得。〔參同契注〕口傳心受、難三以盡二形之于毫楮一也。

【心樹】210（シンジュ） ［佛］人の意念をいふ。意念は樹木の如く生ずるからいふ。〔法苑珠林〕心樹既榮、便茂二不レ凋之葉一。

【心宗】211（シンシュウ） ［佛］佛心宗の略。禪宗をいふ。〔禪源諸詮、下〕所傳心宗、實貫二三尊一。

【心叔】212（シンシュク） 明、陳士元（**11**—**41698**‥888）の「字。

【心術】213（シンジュツ） ❶こころだて。こころばへ。こころもち。きだて。〔管子、七法〕實也、誠也、厚也、施也、度也、恕也、謂二之心術一。〔莊子、天道〕心術之動。〔荀子、非相〕相レ形不レ如レ論レ心、論レ心不レ如レ擇レ術、形不レ勝レ心、心不レ勝レ術、術正而心順レ之、則形相雖レ惡而心術善、無レ害レ爲二君子一也、形相雖レ善而心術惡、無レ害レ爲二小人一也。〔鬼谷子、本經陰符〕信二心術一。〔史記、樂書〕然後心術形焉。〔淮南子、原道訓〕徹二於心術之論一。〔說苑、脩文〕不レ接二心術一。❷管子の篇名。

【心舜】214（シンシュン） 清、唐際盛（**2**—**3709**‥414）の原「名。

【心所】215（シンジョ） 心所有法の略。心所有法を見よ。

〖心所有レ法〗216（シンジョニホフアリ） ［佛］諸法が心より起り、心と相應ずること。相應行法ともいひ、略して心所法・心所ともいふ。

【心書】217（シンショ） 書名。一卷。もと新書といふ。用兵の法を記す。蜀、諸葛亮の作と傳へるが、後人の僞作である。〔四庫提要、子、兵家類存目〕。

【心緖】218（シンショ） こころの動くいとぐち。おもひのはし。意向。情緖。〔杜甫、寄二杜位一詩〕玉壘題レ詩心緖亂、何時更得二曲江遊一。〔白居易、百花亭晚望夜歸詩〕鬢毛遇レ病雙如レ雪、心緖逢レ秋一似レ灰。〔大槻磐溪、太田道灌借レ蓑圖詩〕少女不レ言花不レ言、英雄心緖亂如レ絲。

【心如】219（シンジョ） 清、汪維恕（**6**—**17154**‥159）の字。

【心秤】220（シンショウ） 心が秤のやうに極めて公平なこと。心稱。〔太平御覽、人事、公平〕諸葛亮書曰、吾心如レ秤、不レ能三爲レ人作二輕重一。〔李潛、和二主司王起一詩〕文學宗師心秤平、無私二用佐二貞明一。

【心稱】221（シンショウ） 心秤（220）に同じ。

【心慵】222（シンショウ） 精神が委靡する。〔白居易、白雲期詩〕年長識二命分一、心慵少二營爲一。

【心證】223（シンショウ） ❶心と佛と相印證すること。〔皎然、送二清涼上人一詩〕花空覺性了、月靜知二心證一。❷裁判官が訴訟事件の審理によつて、其の心に得た確信。

【心心】224（シンシン） 心と心。〔江總、長相思〕心心不二相照一、望望何由知。〔李商隱、壬申七夕詩〕已駕二七香車一、心心待二曉霞一。

〖心心數〗225（シンシンジュ） ［佛］心と心所とをいふ。〔維摩經、五〕徧知二衆生心心數法一。

〖心心相印〗226（シンシンサウイン） 言說によらないで、直ちに意會すること。〔四庫提要、子、儒家類存目〕心印正說、三十四卷、國朝吳台碩撰、云云、其曰二心印一、當取二心心相印之義一、然二字乃佛語、非二儒語一也。

【心身】227（シンシン） 心とからだ。精神と肉體。身神。〔讀書錄、心身〕讀レ書不下體貼向二自家身心上一做中工夫上、雖三讀二盡古今天下之書一、猶レ無レ益也。

【心神】228（シンシン） こころ。精神。〔蜀志、關羽傳〕初曹公壯二羽爲一レ人、而察三其心神無二久留之意一。〔魏書、釋老志〕蠲二去邪累一、澡二雪心神一。

〖心神喪失〗229（シンシンサウシツ） 氣がぬけてぼつとする。精神障礙のため、意思能力を缺くこと。

【心腎】230（シンジン） 心臟と腎臟。轉じて、物事の肝要な點。〔顏氏家訓、文章〕文以二理致一爲二心腎一、氣調爲二筋骨一、事義爲二皮膚一、華麗爲二冠冕一。

【心盡】231（ココロヅクシ） ❶氣を揉む。心をつくしていろいろと計る。誠意をつくす。〔古今集、秋上〕心づくしの秋は來にけり。❷箏唄。小車の曲の名。

【心水】232（シンスイ） ❶水腫の一種。〔金匱要略〕心水者、其身重而少氣不レ得レ臥、煩而躁、其人陰腫。❷［佛］心が萬象をうつしいだすのを水に譬へていふ。〔大日經、三〕心水湛二盈滿一、潔白如二雪乳一。❸字號。㋑清、游紹安（**7**—**17792**‥353）の號。㋺清、李清（**6**—**14459**‥499）の字。

【心醉】233（シンスイ） 感心、又は欽慕によつて心が奪はれること。又、物にふけり、見とれてうつとりとすること。醉は酒に醉ふやうに、うつとりとするからいふ。〔列子、黃帝〕列子見レ之而心醉。〔莊子、應帝王〕鄭有二神巫一、曰二季咸一、知二人之死生存亡禍福壽夭一、期以二歲月旬日一若レ神、鄭人見レ之皆棄而走、列子見レ之而心醉、歸以告二壺子一曰、始吾以二夫子之道一爲レ至矣、則又有二至焉者一矣。〔釋文〕心醉、向云、迷二惑於其道一也。〔顏延之、五君詠、阮始平詩〕郭奕已心醉、山公非二虛觀一。〔顏氏家訓、慕賢〕未四嘗不三心醉魂迷、向二慕之一也。〔杜甫、戲寄二崔評事表姪・蘇五表弟・韋大少府諸姪一詩〕泥多仍徑曲、心醉沮二賢羣一。

【心髓】234（シンズイ） ❶心の眞中。心の奧底。〔唐書、朱滔傳〕幽人死二于南一、骸撐不レ揜、痛藏二心髓一。〔白居易、和四微之聽三妻彈二別鶴操一因爲解二釋其義一依レ韻加二四句一詩〕寫レ之在二琴曲一、聽者酸二心髓一。❷中央にあるずい。轉じて、中心、又は要點。神髓。眞髓。〔顏子家訓、文章〕徹二於心髓一。

【心數】235（シンスウ） 心だて。〔西廂記、張君瑞慶二團圞一雜劇〕不レ能レ勾二嬌妹一、早共レ晚使二心數一、說來的無徒。

【心正】236（シンセイ） 心が正しい。〔大學〕意誠而后心正、心正而后身修。

〖心正事正〗237（ココロタダシケレバコトタダシ） 心が正しければ、す

る事も正しい。〔讀書續錄、二〕心如二水之源一、源清則流清、心正則事正、筆正乃可レ法矣。

〖心正則筆正〗238 ココロタダシケレバスナハチフデタダシ　心の正しいものは、筆法も自ら正しい。〔唐書、柳公權傳〕帝問二公權用筆法一、對曰、心正則筆正。

〖心正則眸子瞭〗239 ココロタダシケレバスナハチボウシアキラカナリ　心が正しければ、ひとみが清く明かである。〔孟子、離婁上〕胸中正、則眸子瞭焉、胸中不レ正、則眸子眊焉。〔神相全編、十觀〕其心正則眸子瞭焉、心不レ正則眸子眊焉。

【心成】240 シンセイ　言語によらないで心中に成るもの。〔莊子、德充符〕固有二不言之教一、無レ形而心成者邪。

【心制】241 シンセイ　心で下を制する。〔尉繚子、攻權〕將不二心制一、卒不二節動一。

【心性】242 シンセイ　❶こころの本質。心のさが。本心。〔杜甫、愁詩〕盤渦鷺浴底心性、獨樹花發自分明。〔戴表元、舒子俊詩〕來往通家不レ厭レ頻、青山心性白雲身。❷心と性。性は心の本體。〔孟子、盡心上〕盡二其心一者、知二其性一也、知二其性一則知レ天矣、存二其心一養二其性一、所二以事一レ天也。〔集注〕心者、人之神明、所下以具二衆理一而應中萬事上者也、性則心之所レ具之理、而天又理之所二從以出一者也、程子曰、自レ理而言、謂二之天一、自二稟受一而言、謂二之性一、自レ存二諸人一而言、謂二之心一。〔朱熹、答二張敬夫問一レ目〕心性皆天之所二以與一レ我者。❸佛シンシヤウ ㋑不變の心體。〔圓覺經〕以二淨覺心一、知二覺心性一。㋺生滅無常を心といひ、恆常不變を性といふ。〔止觀大意〕不變隨緣故爲レ心、隨緣故爲レ性。㋩心と性とは同一なること。〔黃檗禪師、傳心法要〕心性不レ異、卽性卽心。

【心青】243 シンセイ　清、孫原湘(**3**－**6987**‥395)の號。

【心星】244 シンセイ　星の名。二十八宿の一。大火。心宿(192)を見よ。〔詩、唐風、綢繆〕三星在レ天、〔箋〕三星謂二心星一也。

【心旌】245 シンセイ　心の定まらないさまを旌旗の搖曳するに喩へていふ。〔王安石、次二韻酬二宋中散一詩〕投レ老心旌一片降。

〖心旌搖搖〗246 シンセイエウエウ　心が懸旌のやうに動搖して定まらないこと。心搖搖如二懸旌一(536)を見よ。〔書言故事、瞻仰類〕心旌搖搖。

【心聲】247 シンセイ　❶言語をいふ。言語は心を聲にあらはしたもの。〔法言、問神〕言、心聲也、書、心畫也。❷明、詹嘉言(**10**－**35458**‥39)の字。

【心焦】248 シンセウ　思ひ苦しんでむねをこがす。こころがいらだつ。〔阮籍、詠懷詩〕終身履二薄冰一、誰知二我心焦一。

【心照】249 シンセウ　❶口に出して語り合はないで意氣が投合すること。〔潘岳、夏侯常侍誄〕心照神交、惟我與レ子。〔任昉、答二陸倕感二知己一賦〕心照情交、流言靡レ惑。❷hsin¹ chao⁴ 書翰文用語。御諒察・御賢察の意。

【心迹】250 シンセキ　❶心と行ひ。〔杜甫、屛跡詩〕杖藜從二白首一、心迹喜二雙清一。❷心もち。存心。心跡。〔宋書、傅亮傳〕考二舊聞於前史一、訪二心迹於汙隆一。

【心跡】251 シンセキ　心もち。意中。心迹。〔謝靈運、齋中讀レ書詩〕矧乃歸二山川一、心跡雙寂漠。〔日本政記、九條廢帝論〕關東將士、皆知二其心跡一。

【心切】252 シンセツ　❶心にしきりに思ふ。〔李白、雪レ讒詩〕辭殫意窮、心切理直。❷シンキリ 蠟燭の心のもえさしをきる具。燭剪。

【心折】253 シンセツ　❶心がくじける。〔江淹、別賦〕使二人意奪神駭、心折骨驚一。❷hsin¹ chê² 人の才學に感服する。

【心舌】254 シンゼツ　❶心臟と舌。〔儀禮、特牲饋食禮記〕肵俎、心舌皆去二本末一、午二割之一、實二于牲鼎一、載二心立舌縮俎一。❷心と舌。〔晉書、刑法志〕刑名所下以經二略罪法之輕重一、正中加減之等差上、告訐爲二之心舌一、捕繫爲二之手足一、斷獄爲二之定罪一。

【心泉】255 シンセン　❶心のおもひ。〔歐陽詹、張博士講二禮記一記〕所レ味鏡二徹于靈臺一、所レ凝冰二釋于心泉一。❷字號。㋑明、何源(**1**－**511**‥71)の號。㋺清、奕謨(**3**－**5922**‥25)の號。㋩清、胡賡善(**9**－**29400**‥422)の號。

〖心泉學詩稿〗256 シンセンガクシカウ　書名。六卷。薄壽晟撰。時代不明。或は薄壽庚の弟とす。詩は雅音あり。〔四庫提要、集、別集類〕。

【心專】257 シンセン　心が專らなこと。外のことを考へないさま。〔魏志、劉劭傳〕賊衆新至、心專氣銳。

【心戰】258 シンセン　❶心が恐れをののく。〔史記、禮書〕二者心戰未レ能二自決一。❷智謀をたたかはせる。智慧の戰爭。〔蜀志、馬良傳、談論自レ晝達レ夜、注〕夫用レ兵之道、攻レ心爲レ上、攻レ城爲レ下、心戰爲レ上、兵戰爲レ下、願公服二其心一而已。

【心禪】259 シンゼン　清、吳逵(**2**－**3365**‥88)の號。

【心素】260 シンソ　❶心のまこと。まごころ。〔李白、寄遠詩〕空畱二錦字一表二心素一。〔孟郊、古意詩〕芙蓉無二染汙一、將三以表二心素一。❷心理的要素。

【心組】261 ココログミ　かねて思ひ居ること。心がまへ。きぐみ。

【心走】262 ココロバシリ　心のさわぎ。むなさわぎ。〔源氏物語、浮舟〕あやしく心走のするかな。

【心惻】263 シンソク　心のいたみ。〔易、井〕九三、井渫不レ食、爲二我心惻一。

【心多】264 シンタ　餘計な心配。〔琵琶記、兩賢相遘〕儞不二肯聽一、不二是我心多一。

【心打】265 シンウチ　講談・落語などで、最後の席に演ずる其の座の主なもの。眞打。

【心兌】266 シンダ　清、陶自悅(**11**－**41705**‥194)の字。

【心太】267 ココロアト　ところてん。てん草を煮て作った食物。醬油・酢などをかけて食べる。〔倭名類聚抄、菜蔬部、藻類、大凝菜〕楊氏漢語抄云、大凝菜、古古呂布度、本朝式云、凝海藻、古流毛波、俗用二太讀一、與二大凝菜一同。〔箋注〕心太見二大膳職市司等式一。

〖心太平菴〗268 シンタイヘイアン　宋、陸游(**11**－**41708**‥2)の號。

〖心太平菴隨筆稿〗269 シンタイヘイアンズイヒツカウ　書名。一卷。海保漁村撰。子思の中庸は老子と抗爭せんための書といふ事、論語の事、弟子門人の別、大學の作者、朱子語類・楊升菴の事、正五九月を忌む事、善心善行燈花の事、韻の字、反切の始、中風、愼言、東涯の訓幼字義、范文成公の事、七十二候等を述ぶ。〔隨筆文學選集、九〕。

【心待】270 ココロマチ　かねがね心に待ち居ること。內心豫期して待ちうけるさま。〔浮世風呂、三〕心待ちにして居なといひなすった。

【心泰】271 ココロユタカ　心が安らかなこと。〔白居易、重題詩〕心泰身寧是歸處、故鄉何獨在二長安一。

【心體】272 シンタイ　❶心の本體。〔後漢書、延篤傳〕孝以二心體本根一爲レ先。❷心と體。精神と肉體。〔白居易、酬二李少府曹長官舍見一レ贈詩〕低レ腰復斂レ手、心體不二遑安一。❸たすけとなる重要なもの。大事を委任するに足るもの。重臣。〔書、君牙〕今命レ爾予翼作二股肱心膂一、〔傳〕今命レ汝爲二我輔翼股肱心體之臣一。

【心到】273 シンタウ　學び得た所のものを心に會得し、常住坐臥、心の指導者とすること。〔朱子語類、十〕余嘗謂、讀書有二三到一、心到・眼到・口到、心不レ在レ此、則眼看不二子細一、心眼既不二專一一、卻只漫浪誦讀、決不レ能レ記、記亦不レ能レ久也、三到之中、心到最急。

【心掟】274 ココロオキテ　心のさだめ。心の處置。心のもちかた。〔大鏡、時平〕御心掟もことのほかにかしこく。

【心蕩】275 シンタウ　心が動いて定まらぬ。〔左氏、莊、四〕入告二夫人鄧曼一曰、余心蕩、鄧曼歎曰、王祿盡矣、盈而蕩、天之道也。〔注〕蕩、動散也。

【心堂】276 シンダウ　こころざし。こころのうち。〔梁簡文帝、爲レ人造二丈八夾紵金薄像一疏〕彼妙緣何以去レ此、心堂移茲身窟。〔盧仝、冬行詩〕夜半睡獨覺、爽氣盈二心堂一。

【心道】277 シンダウ　❶心の道。精神の職務。〔管子、君臣下〕心道進退、而刑道滔赶。❷佛宋の高僧。眉州の徐氏の子。宣和の初、常德府文殊寺に居る。建炎中、賊に殺さる。〔大明高僧傳、五〕。❸元、饒宗魯(**12**－**44400**‥73)の字。

〖心道之工宰〗278 ココロハミチノコウサイ　人が道を行ふのも行はぬのも、一に心の上にあるから、心を工人と宰相に比していふ。一說に、工宰は主宰の誤ともいふ。〔荀子、正名〕心也者、道之工宰也、道也者、治之經理也。

【心膽】279 シンタン　こころときも。きもだま。こころ。〔後漢書、光武紀上〕今不下同二心膽一共擧中功名上、反欲レ守二妻子財物一邪。〔魏志、鍾會傳〕凡敗軍之將、不レ可二以語一レ勇、亡國之大夫、不レ可二與圖一レ存、心膽以破故也。

〖心膽寒〗280 シンタンサムシ　恐怖の極、心膽が寒え戰くこと。心骨寒。〔名臣言行錄、前集、范仲淹〕公與二韓琦一協レ謀、必欲三收二復靈夏橫山之地一、邊上謠

曰、軍中有二一韓一、西賊聞レ之心骨寒、軍中有二一范一、西賊聞レ之驚破レ膽。

【心談】281シンダン　口をいふ。口は心が外界に語る所であるからいふ。〔白虎通、情性〕目爲二心視一、口爲二心談一。

【心地】282シンチ　❶むねのうち。心底。〔宋史、何基傳〕而師二事焉一、幹告以下必有二眞實心地一、刻苦工夫而後可上、基悚惕受レ命。〔朱子全書、學〕自レ古聖賢皆以二心地一爲レ本。❷佛心をいふ。㋑心は萬法の本で、すべての善惡諸行を生み出すこと恰も大地が果穀を生み出すやうであるからいふ。〔心地觀經、八〕三界之中、以レ心爲レ主、能觀レ心者、究竟解脫、不二能觀一者、究竟沈淪、衆生之心、猶如二大地一、五穀五果、從二大地一生、如レ是心法生二世出四世善惡五趣有學無學獨覺菩薩及二於如來一、以二此因緣一、三界唯心、心名爲レ地。㋺修行者は、心に依つて進行するからいふ。〔止觀、五十四〕心地難レ安。〔大日經疏、三〕如三世人擧レ足皆依二於地一、菩薩亦如レ是依レ心進行、故名二此心一爲レ地。㋩身口意の三業の中、心業が最勝であるからいふ。〔天台戒疏、上〕三業之中、意業爲レ主、身口居レ次、據レ勝爲レ論、故爲二心地一也。

〖心地沈迷縱談レ禪演レ偈總是播二弄精魂一〗283シンチチンメイセバタトヒゼンヲダンジゲヲエンズルモスベテコレセイコンヲハロウセン　若し心眼が開けず、物欲に沈み迷つてゐたならば、たとひ口には高遠な禪理を談じ、佛德をたたへる偈頌などを唱へても、それは徒らに自分の精神氣魄を玩弄してゐるにすぎない。〔菜根譚、後、八十三〕心地沈迷、縱談レ禪演レ偈、總是播二弄精魂一。

【心知】284シンチ　❶心にさとる。又、心に知る。〔禮、樂記〕夫民有二血氣心知之性一。〔白居易、長恨歌〕臨レ別殷勤重寄レ詞、詞中有レ誓兩心知。❷心友。〔嚴維、丹陽送二韋參軍一詩〕丹陽郭裏送二行舟一、一別心知兩地秋。

〖心知二其意一〗285ココロニソノイヲシル　心の中にその意のある所を知る。〔史記、五帝紀贊〕其軼乃時時見二於他說一、非三好レ學深レ思心知二其意一、固難下爲二淺見寡聞一道上也。

【心智】286シンチ　ちゑ。神智。〔南史、顏延之傳〕雖二心智薄劣一、而高自比擬。

【心置】287ココロオキ　憚る。氣づかひ。こころづかひ。心配。遠慮。〔源氏物語、帚木〕好きたはめらむ女には、心置かせたまへ。

【心馳】288シンチ　❶身は此に在りながら、心は他に馳せ去ること。〔曹植、求二自試一表〕撫レ劒東顧、而心已馳二於吳會一矣。❷ココロバセ　思ひ込んだこと。心が趣き向ふこと。

【心蓄】289シンチク　心の中にしまつておいて口に出さぬこと。〔柳宗元、賀二進士王參元失火一書〕心蓄レ之、銜忍而不レ出二諸口一。

【心腸】290シンチヤウ　はらわた。心のうち。心地。〔宋玉、神女賦序〕性和適、宜レ侍レ旁、順序卑、調二心腸一。〔鮑照、代東門行〕野風吹二草木一、遊子心腸斷。〔蘇軾、次下韻曹輔寄二壑源一試中焙新芽上詩〕要レ知二冰雪心腸好一、不二是膏油首面新一。

【心聽】291シンチヤウ　❶耳をいふ。耳は心が外界に聽く所であるからいふ。〔白虎通、情性〕目爲二心視一、口爲二心談一、耳爲二心聽一、鼻爲二心嗅一、是其支體主也。❷心で聽く。〔文子、道德〕上學以レ神聽、中學以レ心聽、下學以レ耳聽、以レ耳聽者、學在二皮膚一、以レ心聽者、學在二肌肉一、以レ神聽者、學在二骨髓一。

【心中】292シンチユウ　❶こころのうち。心のそこ。心裏。意中。胸中。〔歐陽建、臨終詩〕下顧二所レ憐女一、惻惻心中酸。❷シンヂユウ　男女が合意の上、相共に自殺すること。相對死。情死。

【心中人】293シンチユウノヒト　心におもひ慕つてゐる人。意中の人。こひびと。〔徐幹、室思詩〕安得二鴻鸞羽一、觀二此心中人一。

〖心中有レ心〗294シンチユウココロアリ　心の中に又、心がある。心で心を制すること。自覺のあること。〔管子、心術下〕治也者心也、安也者心也、治心在二於中一、云云、心之中又有レ心。

〖心中結痛〗295シンチユウケツツウ　胸中が窒つたやうに痛むこと。〔傷寒論、辨太陽病脈證幷治〕傷寒、五六日、大下之後、身熱不レ去、心中結痛者、未レ欲レ解也。

〖心中忐忑〗296 hsin^1 chung^1 t'an^3 t'ê^4　心がどきどきする。

【心忡】297シンチユウ　清、徐復(**4－10110**‥273)の字。

【心柱】298シンバシラ　殿堂などの建築で、其の中央に建てる柱。しんの柱。

【心怵】299シンヂユツ　心にいたみかなしむ。〔禮、祭統〕心怵而奉レ之以レ禮、是故惟賢者能盡二祭之義一。

【心直】300シンチヨク　心が正直なこと。〔袁宏、三國名臣序贊〕邈哉崔生、體正心直。

〖心直口快〗301シンチヨクコウクワイ　心が正直で思ふことを直ちに口に出す。いつぽんぎ。〔紅樓夢、三十四回〕薛蟠本是個心直口快的人。

〖心直嘴快〗302シンチヨクシクワイ　思ふことを口に任せていふ。遠慮がなさすぎる。〔紅樓夢、三十二回〕儞如今大了、越發心直嘴快了。

【心陣】303シンヂン　こころのそなへ。〔溫庭筠、謝公墅歌〕文楸方罫花參差、心陣未レ成星滿レ地。

【心塵】304シンヂン　心のちり。心のけがれ。情塵。〔梁昭明太子、講席將レ訖賦二三十韻詩一依レ次用詩〕因レ茲闡二慧雲一、欲レ使二心塵伏一。

【心通】305シンツウ　心が通ふ。言語外に含まれた意義を心中にさとること。〔後漢書、邊讓傳〕見レ本知レ義、心通性達。

〖心通二乎道一然後能辨二是非一〗306ココロミチニツウジシカルノチニヨクゼヒヲベンズ　心が道に通じて、始めて物事の是非をわきまへることが出來る。道に通じるとは、格物窮理の功が積つて眞知が開發し、萬事萬物の上に在る至當の理に通曉すること。〔近思錄、致知〕心通二乎道一、然後能辨二是非一。

【心痛】307シンツウ　❶心をいためる。心中にうれへる。心配する。氣苦勞。〔白虎通、三綱六紀〕一人有レ惡、其心痛レ之。❷むねのいたみ。むねの病。〔淮南子、人閒訓〕(子反)辭以二心痛一。〔晉書、顧愷之傳〕女遂患二心痛一。

【心底】308シンテイ　こころのそこ。こころのうち。しんそこ。心裏。〔江淹、雜詞、愛遠山〕欹二美人於心底一。〔東鑑、一〕治承四年七月五日、吾有レ挾二心底一。

【心亭】309シンテイ　清、孟喬芳(**3－6960**‥303)の字。

【心跳】310 hsin^1 t'iao^4　心臟が鼓動する。

〖心跳氣急〗311 hsin^1 t'iao^4 ch'i^4 chi^2　亢奮する。

【心調】312シンテウ　心の調子。心のぐあひ。

【心適】313シンテキ　心にかなふ。心に自得する。こころが自ら樂しむ。〔呂覽、適音〕夫樂之有レ適、心亦有レ適、人之情欲レ壽而惡レ夭、欲レ安而惡レ危、欲レ榮而惡レ辱、欲レ逸而惡レ勞、四欲得、四惡除、則心適矣。〔白居易、隱レ几詩〕身適忘二四支一、心適忘二是非一。

【心徹】314シンテツ　心が物に通ずる。〔莊子、外物〕心徹爲レ知。

【心鐵】315シンテツ　心の強固なこと。〔李商隱、贈二司勳杜員外一詩〕心鐵已從二干鏌利一、鬢絲休歎二雪霜垂一。

【心天】316シンテン　藥草の名。ひめはぎ。遠志の異名。〔清異錄、藥〕藥譜、遠志爲二心天一。

【心添】317ココロゾヘ　心づけ。忠告。

【心纏】318シンテン　清、謝浦泰(**10－35827**‥364)の字。

【心田】319シンデン　❶こころ。心は善惡の種子を藏して之を滋長させること恰も田地のやうであるからいふ。心底。心地。〔梁簡文帝、上二大法頌一表〕澤雨無レ偏、心田受レ潤。〔白居易、狂吟七言十四韻詩〕性海澄渟平少レ浪、心田洒掃淨無レ塵。❷清、李文耕(**6－14459**‥1902)の字。

【心傳】320シンデン　❶道統の授受。〔書、大禹謨〕人心惟危、道心惟微、惟精惟一、允執二厥中一。〔中庸章句〕此篇、乃孔門傳授心法、子思恐二其久而差一也、故筆二之於書一、以授二孟子一。❷師弟が學說を以て相傳授すること。〔養心錄、四子心傳〕問、上蔡云、心本一、支離而去者乃意耳、所以慈湖以レ無レ意爲レ宗曰、念未レ起之前、心本一、念既起之後、便有二善念一有二惡念一、所下以說二支離一而去上者乃意耳、非四緊謂三念既起之後、全是惡念、全無二善念一也。〔四庫提要、子、雜家類存目〕心傳錄、三卷、宋于恕編、恕序稱、與二其弟憲一徒步二千餘里、抵二嶺下一得三侍講論難疑答問一、莫レ不二備錄一、名レ之曰二心傳一。❸字號。㋑明、史維堡(**2－3249**‥172)の字。㋺清、謝浦泰(**10－35827**‥364)の字。

【心土】321シンド　地質學用語。田畑の下層にある異質の土壤。

【心度】322シンド　韓非子の篇名。

【心疼】323 hsin^1 t'êng^2　❶可愛がる。❷惜む。

【心燈】324シントウ　佛心靈。心靈は一切を燭照するので燈に譬ふ。靜中不昧の義。〔法苑珠林〕不レ生二意樹一、未レ啓二心燈一。〔梁簡文帝、與二廣信侯一書〕

豈止心燈夜炳、亦乃意蕊晨飛。

【心頭】325 シントウ　こころのうへ。むなさき。心上。念頭。〔李山甫、山中寄㆓梁判官㆒詩〕更無㆓塵事心頭起㆒、還有㆓詩情象外來㆒。〔杜荀鶴、旅舍遇㆑雨詩〕半夜燈前十年事、一時和㆑雨到㆓心頭㆒。

【心頭火】326 シントウクワ　煩惱。〔琵琶記、寺中遺像〕好人成㆑佛成㆓菩薩㆒、惡人做㆑鬼做㆓羅刹㆒、第一滅卻心頭火。

【心頭肉】327 シントウニク　心臟の上の肉。〔聶夷中、田家詩〕二月賣㆓新絲㆒、五月糶㆓新穀㆒、醫得眼前瘡、剜卻心頭肉、我願君王心、化爲㆓光明燭㆒、不㆑照㆓綺羅筵㆒、偏照㆓逃亡屋㆒。

【心頭火起】328 hsin^1 t'ou^2 huo^3 ch'i^3　立腹する。

〖滅㆓卻心頭㆒火亦涼〗329 シントウヲメツキヤクスレバヒモマタスズシ　心中の雜念を滅却すれば、火中にあつても涼味を感ずる。又、滅㆓却心頭㆒火自涼に作る。〔杜荀鶴、夏日題㆓悟空上人院㆒詩〕三伏閉㆑門披㆓一衲㆒、兼無㆔松竹蔭㆓房廊㆒、安禪不㆔必須㆓山水㆒、滅㆓得心中㆒火亦涼。〔碧巖錄、四十三則〕安禪不㆔必須㆓山水㆒、滅㆓却心頭㆒火自涼。

【心鬭】330 シントウ　こころであらそふ。こころのあらそひ。〔莊子、齊物論〕與接爲㆑構、日以㆑心鬭。

【心動】331 シンドウ　❶胸さわぎする。〔戰國、趙策〕襄子如㆑廁、心動、執㆓問塗者㆒、則豫讓也。〔史記、高祖紀〕趙相貫高等、謀㆑弑㆓高祖㆒、高祖心動、因不㆑留。❷心が動き亂れる。〔千字文〕心動神疲。

【心得】332 シントク　❶心に合點する。心に會得する。〔呂覽、先己〕商周之國、謀失㆓於胷㆒、令困㆓於彼㆒、故心得而聽得、聽得而事得、事得而後功名得。❷hsin^1 tê^2 學問經歷が深い。❸ココロエ ㋑章程規則。㋺臨時に事務をとる人。

【心得違】333 ココロエチガヒ　考へちがひ。思ひちがひ。

【心凸】334 シントツ　中ほどが高くなる。又、其のもの。〔硯史〕嘉祐末、硯樣已如㆓大脂㆒、龐心甚凸、心凸故點㆑筆不㆑圓、蓋古硯皆心凸、後稍正乎。

【心內】335 シンナイ　心のうち。〔史記、酷吏傳〕已心內雖㆑不㆑合、然陽浮㆓慕之㆒。

【心軟】336 hsin^1 juan^3　氣が弱い。

【心肉】337 シンニク　身代。〔福惠全書、雜課部、雜徵〕無㆑損㆓于心肉㆒。

【心入】338 ココロイレ　❶氣をつける。心を用ひる。心掛。注意。用心。〔源平盛衰記、四十六、義經始終有樣〕いと心入れなかりける氣色を見て。❷心ぞへ。はからひ。〔大藏流狂言、餠酒〕お奏者の御心入れを以て納めさせられて。

【心熱】339 シンネツ　心をこめること。〔琵琶記、官媒議㆑婚〕心熱、自㆑小攻㆑書、從來知㆑禮。

【心熱病】340 シンネツビヤウ　心臟の熱病。〔素問、刺熱篇〕心熱病者、先不㆑樂、數日乃熱、熱爭則卒心痛。〔注〕夫所㆔以任㆓治於物㆒者、謂㆑心、病氣入㆓於經絡㆒、則神不㆓安治㆒、故先不㆑樂、數日乃熱也。

【心念】341 シンネン　❶心に念ずる。思ふ。〔列子、黃帝〕九年之後、橫㆓心之所㆑念、橫㆓口之所㆑言。〔注〕心既无㆑念、口既无㆑違、故能恣㆓其所㆑念。〔魏武帝、短歌行〕契濶談讌、心念㆓舊恩㆒。❷心中。念頭。〔水經、河水注〕佛遺㆓足跡于此㆒、其跡長短在㆓人心念㆒。❸［佛］心識の想念。〔法華經、普門品〕心念不㆓空過㆒也。

【心念口言】342 シンネンクゴン　［佛］心に念じ、その事を口に出して言ふ。一心になること。〔雜阿含經〕阿育心念口言。〔行事鈔、下一之三〕受㆓僧施㆒者、應㆓心念口言㆒、是我分得也。

【心農】343 シンノウ　清、汪轂(**6－17154**‥59)の號。

【心波】344 シンパ　［佛］心。心が物に感じて波のやうに起伏するからいふ。〔釋覺範、覺庵詩〕宴坐不言中、心波如㆓古井㆒。〔惠洪、詩〕心波不㆑興類㆓古井㆒。

【心馬】345 シンバ　［佛］狂ふ心。心が狂馬のやうに動亂するからいふ。〔性靈集、四〕此思此願、常策㆓心馬㆒。〔法苑珠林〕言行忠信、戰戰兢兢、豈可㆘放㆓縱心馬㆒、不㆑加㆓轡勒㆒、馳㆓騁情猴㆒、都無㆗制鎖㆖。

【心肺】346 シンパイ　心臟と肺臟。轉じて、こころ。心肝。〔列子、湯問〕內則肝膽心肺。〔鄭據、七老會詩〕更無㆔外事來㆓心肺㆒、空有㆔清虛入㆓思神㆒。

【心肺主】347 シンパイノシュ　腸をいふ。〔白虎通、情性〕腸爲㆓心肺主㆒、心爲㆓皮體主㆒。

【心拜】348 シンパイ　心から拜むこと。〔陸龜蒙、上元日道室焚修詩〕唯有㆓世塵中小兆㆒、夜來心㆓拜七星壇㆒。

【心配】349 シンパイ　種々に心をくばる。案じわづらふ。心がかり。きがかり。

【心痗】350 シンバイ　心中に憂へわづらふ。心の病。〔詩、衞風、伯兮〕願言思㆑伯、使㆓我心痗㆒。〔傳〕痗、病也。〔潘岳、寡婦賦〕彼詩人之攸㆑歎兮、徒願言而心痗。

【心抱】351 シンパウ　❶心の中。心胸。心裏。〔江淹、雜詞、鏡論語〕書㆓吳伯于衣袖㆒、縷㆓顏子于心抱㆒。❷新婦をいふ。〔觚賸〕粵人謂㆓新婦㆒曰㆓心抱㆒。〔稱謂錄、方言稱㆓子之妻㆒、心抱〕小知錄、廣州謂㆓新婦㆒曰㆓心抱㆒。

【心房】352 シンバウ　生理學用語。心臟の心耳・心室を總稱し、又、心耳のみをさす。

【心貌】353 シンバウ　こころ。こころのすがた。神貌。〔朱書、喜㆓陳懿老示㆓新製詩㆒〕使㆓我心貌全㆒、且非㆓黃金力㆒。

【心白】354 シンパク　明、張日新(**4－9812**‥1152)の字。

【心白日齋】355 シンハクジツサイ　清、尹耕雲(**4－7631**‥100)の號。

【心白道人】356 シンパクダウジン　元、錢惟善(**11－40563**‥247)の號。

【心伯】357 シンパク　清、夏炘(**3－5720**‥64)の字。

【心魄】358 シンパク　心。精神。〔李白、赤壁歌送別詩〕一一書來報㆓故人㆒、我欲㆔因㆑之壯㆓心魄㆒。

【心法】359 シンハフ　❶心を修めるみち。〔白居易、送㆓兄弟回㆓雪夜㆒詩〕平生洗㆓心法㆒、正爲㆓今宵設㆒。❷宋儒の語で、心の體を存養し、心の用を省察する道をいふ。〔中庸章句〕此篇乃孔門傳授心法、子思恐㆓其久而差㆒也、故筆㆓之於書㆒、以授㆓孟子㆒。❸［佛］シンポフ ㋑一切法を色と心との二法に分け、質礙あるを色法とし、無質礙で且つ緣慮の働きあるもの、或は諸法を緣起する根本の者を心法といふ。〔法華經科注〕法者有㆑三、所謂衆生法・佛法・心法。㋺心を以て相印證するもの。〔阿毘曇毘婆沙論、二二〕若非㆓心法㆒、喩不㆓相似㆒。

【心版】360 hsin^1 pan^3　心中。

【心煩】361 シンパン　❶心が煩はされる。❷心配。嫌惡の情。〔新語、至德〕事衆者則心煩。〔西廂記、張君瑞害㆓相思㆒雜劇〕顚來倒去不㆑害㆓心煩㆒。

【心煩意冗】362 シンパンイジヨウ　胸中の煩悶。〔還魂記、鬧殤〕暫時閒月直年空、好將㆓息伱這心煩意冗㆒。

【心煩意亂】363 シンパンイラン　意志が動いて定まらない。〔楚辭、卜居〕心煩意亂、不㆑知㆑所㆑從。

【心煩伎癢】364 シンパンギヤウ　長ずる所を逞しうせんと望むこと。〔潘岳、射雉賦〕屏㆓發布㆒而累息、徒心煩而伎癢。〔故事成語考、人事〕欲㆑逞㆓所長㆒、謂㆓之心煩伎癢㆒。

【心皮】365 シンピ　植物の葉が變形して雌蕊をなすもの。

【心非】366 シンピ　心中に非とする。〔史記、秦紀〕入則心非、出則巷議。

〖心非㆓木石㆒豈無㆑感〗367 ココロボクセキニアラズアニカンズルコトナカランヤ　人間の心は無情の木石でないから、感慨なきを得ない。〔鮑照、擬行路難〕心非㆓木石㆒豈無㆑感、吞㆑聲躑躅不㆓敢言㆒。

【心脾】368 シンピ　心臟と脾臟。又、こころ。〔魏甄后、塘上行〕想㆓見君顏色㆒、感結傷㆓心脾㆒。

【心微】369 シンビ　清、陳謀道(**11－41698**‥1262)の字。

【心氷】370 シンピヨウ　［佛］心中に疑があつて解けない喩。〔因明大疏、上本〕嗟㆓去㆑聖之彌遠㆒、慨㆓心氷之未㆑釋。

【心府】371 シンプ　心のある所。又單に、心。〔隋書、高祖紀下〕何嘗又不㆔罄㆓竭心府㆒。

【心附】372 シンプ　心から其の人につき從ふ。心服。〔史記、朝鮮傳〕朝鮮不㆔肯心㆓附樓船㆒。

【心腑】373 シンプ　胸と臟腑。又、こころ。衷心。

【心風】374 シンプウ　輕症の狂癲。神經病で、手足が痳痺する。〔正字通〕風、今俗狂疾、及四支偏枯、皆曰㆑風、別作㆑瘋。

【心伏】375 シンプク　心からしたがふ。〔庾信、謝㆔趙王賚㆓絲布㆒啓〕妾遇㆓新縑㆒、自然心伏、妻聞㆓裂帛㆒、方當㆑含㆑笑。

【心服】376 シンプク　❶心から從ふ。喜び服從する。〔孟子、公孫丑上〕以㆑力服㆑人者、非㆓心服㆒也、力不㆑贍也。〔說苑、臣術〕子路心服而退也。〔蜀志、諸葛亮傳〕荊州之民附㆑操者、偪㆓兵勢㆒耳、非㆓心服㆒也。〔謝惠連、雪賦〕鄒陽聞㆑之、懣然心服。❷心から感心する。〔梁簡文帝、昭明太子集序〕師曠心服。

〖心服口服〗377 hsin^1 fu^2 k'ou^3 fu^2　何等異議なく應諾する。

【心腹】378 シンプク　❶むねとはら。〔書、盤庚下〕今予其敷㆓心腹腎腸㆒。〔戰國、秦策〕秦韓之地形、相錯

如レ繡、秦之有レ韓、若三木之有レ蠹、人之病二心腹一。〔新書、春秋〕其久病心腹之積皆愈。❷まごころ。腹心。輸二寫心腹一(385)を見よ。〔管子、七臣七主〕暴主迷君、非レ無二心腹一也、其所二取舍一、非二其術一也。〔史記、鄒陽傳〕披二心腹一見二情素一。❸心を知り合つて親しむこと。心腹之友(380)を見よ。〔後漢書、光武紀上〕降者更相語曰、蕭王推二赤心一置二人腹中一、安得レ不二投死一乎。❹重要な所。心腹は人體の要害であるから、地形の要害に喩へる。要地。心腹之害を見よ。〔後漢書、隗囂傳〕會公孫述遣レ兵寇二南郡一、乃詔レ囂、當下從二天水一伐上レ蜀、因レ此欲三以潰二其心腹一。〔蜀志、法正傳〕已入二心腹一。

〖心腹話〗379 hsin¹ fu⁴ hua⁴ 眞心からの話。誠心誠意の話。

〖心腹之友〗380（シンプクノトモ） 心隔てのない友。互に心の中を示し合ふ友。極めて親しい友。

〖心腹之害〗381（シンプクノガイ） 重要な害。心腹は人の重要な部分だからいふ。〔後漢書、虞詡傳〕今羌胡所下以不二敢入一、據二三輔一爲中心腹之害上者、以二涼州在レ後故也。

〖心腹之患〗382（シンプクノウレヒ） 心腹之害に同じ。〔後漢書、陳蕃傳〕寇賊在レ外、四支之疾、內政不レ理、心腹之患。

〖心腹之疾〗383（シンプクノヤマヒ） 心腹に在る疾患。容易に治し難い病氣。除きにくい敵の喩。〔左氏、哀、十一〕越在レ我、心腹之疾也、壤地同而有レ欲二於我一。〔呂覽、知化〕譬若二心腹之疾一也。〔戰國、趙策〕韓之在レ我、心腹之疾、吾將レ伐レ之、何如。

〖心腹之病〗384（シンプクノヤマヒ） 心腹之疾に同じ。〔史記、范雎傳〕秦之有レ韓也、譬如三木之有レ蠹也、人之有二心腹之病一也。

〖輸二寫心腹一〗385（シンプクヲシユシヤス） 心中をうちあけてしめす。誠心を致しそそぐ。輸は致、寫は瀉ぐ。〔詩、小雅、蓼蕭〕我心寫兮。〔傳〕輸二寫其心一也。〔漢書、趙廣漢傳〕吏見者皆輸二寫心腹一、無レ所二隱匿一。

【心覆】386（シンプク） 心臟が倒しまになる。〔左氏、僖、二十四〕謂二僕人一曰、沐則心覆、心覆則圖反。

【心勿】387（シンフツ） 淸、張四箴(**4**－**9812**‥1109)の字。

【心佛】388（シンブツ） ［佛］華嚴十種佛の一をいふ。心によつて成じた佛をいひ、又、心中所現の佛をいひ、又、其の心卽ち佛なれば、心を心佛といふ。〔華嚴經、五十二〕應レ知念念常有レ佛成二正覺一、何以故、諸佛如來不レ離二此心一成二正覺一故。〔楞嚴經、七〕如來無聞、頂相無爲、心佛從レ頂發揮、坐二寶蓮華一所レ說心呪。〔三昧耶戒序〕喩二法界於帝網一、觀二心佛於金水一。

〖心佛衆生一體〗389（シンブツシユジヤウイツタイ） ［佛］心・佛と衆生とは畢竟一で差別がない。華嚴經に出で、普く各宗の敎義の基礎をなす。〔華嚴經、十〕心如二工畫師一、畫二種種五陰一、一切世界中、無二法而不一レ造、如レ心佛亦爾、如レ佛衆生然、心佛及衆生、是三無二差別一。

【心兵】390（シンペイ） 異性に働きかける氣持。色情の喩。心が感ずること恰も外敵に應ずるやうであるからいふ。〔韓愈、秋懷詩〕詰屈避二語穽一、冥茫觸二心兵一。〔黃庭堅、戲詠二煖足缾一詩〕小姬煖レ足臥、或能起二心兵一。

【心病】391（シンペイ） ❶心がうれへる。〔詩、衞風、伯兮、願言思レ伯使二我心痗一、疏〕每思二此伯一、使二我心病一。❷心中の憂悶が病となること。〔易、說卦〕爲二加憂一、爲二心病一。❸人に語ることの出來ない愁恨をいふ。〔傳燈錄〕莫レ敎二心病最難一レ醫。❹心の癖。嗜欲の習慣をいふ。淸の甘京に心病說がある。❺心臟病。〔素問、標本病傳論〕心病、先心痛一日而欬、三日脅支痛、五日閉塞不レ通、身痛體重、三日不レ已死、冬夜半夏日中。

【心辯】392（シンベン） 心で良く知りわける。〔後漢書、劉儒傳〕郭林宗常謂、儒口訥心辯、有二珪璋之質一。

【心棒】393（シンボウ） 車の軸となる木。轉じて、活動の主體。心木。

【心木】394（シンボク） ❶物の中心となつた木。しんぼう。❷車の軸。しんぎ。

【心本】395（シンポン） 本心をいふ。〔漢書、游俠、郭解傳〕其陰賊著二於心本一、發二於睚眦一。〔注〕心本、猶レ言二本心一也。

【心魔】396（シンマ） ［佛］物慾の念、愛著の情等、人を邪道に陷れる心の魔。〔楞嚴經〕無レ令三心魔自起二深孽一。

【心盲】397（シンマウ） 感覺病の一種。視覺はあたりまへであるが、物體を見分けることのできないやまひ。

【心滿】398（シンマン） 心が滿足する。〔晉書、袁甫傳〕石珩問レ甫曰、壽陽已西、何以恆旱、甫曰、新平彊吳、美寶皆入、志盈心滿、用長歡娛、故致レ旱。

〖心滿意足〗399 hsin¹ man³ i⁴ tsu² 滿足する。

【心脈】400（シンミヤク） 心臟の脈。血脈。〔史記、倉公傳〕臣意切二其脈一時、風氣也、心脈濁。

【心目】401（シンモク） 心の目。〔魏文帝、與二吳質一書〕追二思昔遊一、猶在二心目一。〔劉琨、答二盧諶一詩〕哀二我皇晉一、痛在二心目一。〔宋之問、綠竹引〕含レ情傲睨慰二心目一、何可三一日無二此君一。

〖心目昏眩〗402（シンモクコンゲン） 心も目もくらむ。

【心門】403（シンモン） ❶鼻をいふ。〔養生經〕鼻者心之門。❷口をいふ。〔劉禹錫、口兵戒〕爾心之門、無レ爲二我兵一、當レ爲二我藩一。

【心癢】404（シンヤウ） 欲して得ないこと。心がむずむずする。〔王建、贈二索暹將軍一詩〕聞レ休二鬭戰一、心還癢、見レ說二煙塵一眼卽開。

【心藥】405（シンヤク） ❶心が藥となる。〔白居易、病中五絕句詩〕身作二醫王一心是藥、不レ勞三和扁到二門前一。❷［佛］佛の敎法。又、心中の愁をのぞくものをいふ。卽ち、共に心の病を治する故に藥といふ。〔祕藏寶鑰〕九種心藥、拂二外塵一而遮レ迷。

【心畬】406（シンヨ） 淸、李福培(**6**－**14459**‥1893)の字。

【心與】407（シンヨ） 心にゆるす。心の中でゆるす。〔枚乘、七發〕雜レ裾垂レ髾、目窕心與。〔注〕良曰、心與、心相許也。

【心餘】408（シンヨ） 淸、蔣士銓(**9**－**31820**‥157)の字。

【心羅】409（シンラ） 淸、周天度(**2**－**3441**‥803)の字。

【心勞】410（シンラウ） おもひわづらふ。心配する。きぼねをる。心配。心痛。〔書、周官〕作レ德心逸日休、作レ僞心勞日拙。

〖心勞日拙〗411（ココロラウシテヒニセツナリ） 心が常に勞苦して、することが日々に拙くなる。〔書、周官〕作レ德心逸日休、作レ僞心勞日拙。〔傳〕爲レ僞、飾巧百端、於レ心勞苦、而事日拙不レ可レ爲。

【心亂】412（シンラン） 心がみだれる。〔蔡邕、隸勢〕近而察レ之、心亂目眩。

【心懶】413（シンラン） 心がものうい。心がおこたる。〔趙師秀、贈二北山僧一詩〕誰知見レ事心先懶、未レ說レ尋レ幽足已輕。

【心理】414（シンリ） ❶心のはたらき。こころもち。〔後漢書、左雄傳〕凡人之心理不二相遠一、其所レ不レ安古今一也。❷心と理。〔傳習錄、中〕此區區心理合一之體、知行竝進之功。❸心理學の略。

〖心理學〗415（シンリガク） 心の現象について其の理法を研究する科學。Psychology

〖心理描寫〗416（シンリベウシヤ） 小說技法の一。外面から描寫するのではなく、その心理・性格等を內面から分析解剖して描寫すること。

〖心理留保〗417（シンリリウホ） 意思と表示との不一致を表意者自身が知つてこれを告げぬ意思表示。意中留保。

【心裡】418（シンリ） 心の中。心裏。〔紅樓夢、二回〕我方能認二得字一、心裡也明白。

【心裏】419（シンリ） 心のうち。心中。心裡。〔吳融、長安逢二故人一詩〕眼前閑事靜、心裏故人來。

〖要レ知二心裏事一但聽二口中言一〗420（シンリノコトヲシラントモトムレバタダコウチユウノゲンヲキケ） 腹の中の心持を知らうとすれば、ただ口先の言を聽く方法があるばかりである。事には順序方法があるから無謀を愼めとの意。〔通俗編、性情、要レ知二心裏事一〕古樂府、尺素如二殘雪一、結成二雙鯉魚一、要レ知二心裏事一、看二取腹中書一、按、今諺云、要レ知二心裏事一、但聽二口中言一、似二卽因レ此改竄一。

【心領】421（シンリヤウ） ❶心にさとる。〔杜甫、渼陂西南臺詩〕懷レ新目以擊、接レ要心已領。❷hsin¹ ling³ 心に感謝する。贈物や招待を辭退して、其の好意を謝する語。

〖心領意會〗422 hsin¹ ling³ i⁴ huei⁴ よく理解する。

〖心領神會〗423 hsin¹ ling³ shen² huei⁴ 非常に怜悧なこと。

【心略】424（シンリヤク） 心のはたらき。氣轉。〔枚乘、七發〕雖レ有二心略辭給一、固未レ能レ縷三形其所二由然一也。〔注〕翰曰、心略、心計也。

【心呂】425（シンリヨ） 股肱の臣。心膂に同じ。〔急就篇、一、偏呂張、注〕太岳爲二禹心呂之臣一、故封二呂侯一、以譬三身有二脊呂骨一也。

【心膂】426（シンリヨ） ❶むねと脊ぼね。〔陸機、五等諸侯

論）四體辭レ難、而心膂獲レ乂。㊁心と背は人の體にあつて最も重要なもの、故に最も親しく且つ頼りとなるものの喩。輔佐の臣。てあし。股肱。肱膂。〔書、君牙〕今命二爾予翼一、作二股肱心膂一。〔傳〕今命レ汝爲二我輔翼股肱心體之臣一。〔後漢書、盧芳傳〕羽翼外附、心膂內離。〔論衡、說日〕若二人之腹臟、萬物之心膂一也。〔魏志、袁術傳〕子實爲二吾心膂一。〔吳志、周瑜傳〕入作二心膂一、出爲二爪牙一。㊂全身ありたけの力。〔張華、勞二還師一歌〕將士齊二心膂一、感レ義忘二其私一。

【心慮】427（シンリョ）　おもんぱかり。かんがへ。思慮。念慮。〔列子、仲尼〕亡三變二亂於心慮一。〔杜弼、檄レ梁文〕鑿二其耳目一、易二其心慮一。

【心力】428（シンリョク）　心と力。又、精神のちから。〔書、大禹謨〕爾尚一二乃心力一、其克有レ勳。〔左氏、昭、十九〕盡二心力一以事レ君。〔孟子、梁惠王上〕盡二心力一而爲レ之、後必有レ災。〔國語、周語下〕民以二心力一從レ之不レ倦。〔後漢書、郭玉傳〕必盡二其心力一、而醫二療貴人一。〔白居易、寄二元九一詩〕非三徒改二年貌一、漸覺無二心力一。

【心累】429（シンルイ）　心のわづらひ。〔陸機、歎逝賦〕解二心累於末迹一、聊優游以娛レ老。

【心類】430（シンルイ）　心がよい。〔國語、楚語上〕心類德音。〔注〕類、善也。

【心厲】431（シンレイ）　心がたかぶりいかること。忿怒。〔莊子、人閒世〕獸死不レ擇レ音、氣息茀然、於レ是竝生二心厲一。

【心禮】432（シンレイ）　心と禮。〔袁宏、三國名臣序贊〕臨レ危致レ命、盡二其心禮一。〔注〕銑曰、以存二臣心一盡レ禮、正二救於君一也。

【心靈】433（シンレイ）　㊀たましひ。心の主體。靈魂。精神。〔隋書、經籍志一〕詩者所下以導二達心靈一、歌中詠情志上者也。〔楞嚴經〕汝之心靈、一切明了。㊁hsin^1 ling^2 伶悧な。聰明な。

〖心靈性巧〗434 hsin^1 ling^2 hsing^4 ch'iao^3 聰慧な。

【心劣】435（ココロオトリ）　思つたよりも劣つてゐること。

【心路】436（シンロ）　㊀心のよるところ。〔沈約、瑞石像銘序〕靈隱微遠、無二跡可レ追、心路照通、有レ感二斯順一。〔江淹、爲二蕭驃騎一讓二油幢一表〕浮祿素位、方疚二心路一。㊁hsin^1 lu^4 機智。機轉。

【心聾】437（シンロウ）　㊀無學で道理に通じない。〔韻府引列子〕心不レ涉レ學、猶二心之聾一。㊁hsin^1 lung^2 感覺病の一種。聲音を明かにきき分けることのできない病。

【心王】438（シンワウ）　佛心の主作用。又、心。〔涅槃經、一〕頭爲二殿堂一、心王居レ中。〔俱舍論、四念處〕心者心王、異二乎木石一。〔成實論、十六〕處處經中說レ心爲レ王。

【怡レ心】439（ココロヲヨロコバス）　心を悅ばせる。〔上官昭容、遊二長寧公主流杯池一詩〕巖壑恣登臨、瑩レ目復怡レ心。

【虛レ心】440（ココロヲムナシクス）　無心になる。虛心。〔莊子、漁父〕無レ所レ得レ聞二至教一、敢不レ虛レ心。

【傾レ心】441（ココロヲカタムク）　專ら心をよせる。〔後漢書、袁紹傳〕傾レ心折レ節、莫レ不三爭赴二其庭一。

【繫レ心】442（ココロヲカク）　心に留める。〔史記、屈原傳〕屈平既嫉レ之、雖二放流一、睠二顧楚國一、繫二心懷王一、不レ忘レ欲レ反、冀二幸君之一悟、俗之一改一也。

【原レ心】443（ココロヲタヅヌ）　心底を尋ねる。本心を尋ねただす。原レ心定レ罪を見よ。

〖原レ心定レ罪〗444（ココロヲタヅネテツミヲサダム）　犯罪者の心理を追究して罪を定める。〔漢書、王嘉傳〕永信少府猛等十人以爲、聖王斷レ獄、必先原レ心定レ罪。

【娛レ心】445（ココロヲタノシマシム）　心をたのしませる。〔史記、樂書贊〕娛レ心自樂。

【尅レ心】446（ココロニキザム）　心にきざみ附けて忘れない。尅は刻。〔吳志、賀齊傳、注〕謹以尅レ心、非三但書二諸紳一也。

【祭レ心】447（シンヲマツル）　心臟を祭る。〔禮、明堂位〕夏后氏祭レ心、殷祭レ肝。

【摧レ心】448（ココロヲクダク）　いろいろと思案する。心をやつす。〔潘岳、寡婦賦〕少伶俜而偏孤兮、痛怮怛以摧レ心。

【師レ心】449（ココロヲシトス）　古の道に鑑みないで、己が心を是としてたてる。〔莊子、人閒世〕夫胡可二以及レ化、猶師レ心者也。〔關尹子、五鑑〕善レ弓者師レ弓不レ師レ羿、善レ舟者師レ舟不レ師レ奡、善レ心者師レ心不レ師レ聖。〔資治通鑑、晉紀〕漢文師レ心不レ學、變レ古壞レ禮。〔陸象山、語錄〕學者大病在二於師レ心自用一、師レ心自用、則不レ能レ克レ己、不レ能レ聽レ言。

【殊レ心】450（ココロヲコトニス）　心を同じくしない。〔史記、樂書〕紂樂二好之一、與二萬國一殊レ心。

【舒レ心】451（ココロヲノブ）　心をゆるめる。〔丘巨源、詠レ扇詩〕卷レ情隨二象簟一、舒レ心謝二錦茵一。

【屬レ心】452（ココロヲショクス）　おもひを寄せる。望を屬する。屬望。屬意。〔後漢書、杜喬傳〕天人屬レ心。

【洗レ心】453（ココロヲアラフ）　心の汚れを洗ひ清める。〔易、繫辭上〕聖人以レ此洗レ心、退二藏於密一。

【剃レ心】454（ココロヲソル）　頭を剃りまるめる如く、心の角をとる。心を圓滿にする。〔六道講式〕適剃レ頂不レ剃レ心、染レ衣不レ染レ心、可レ恥。

【動レ心】455（ココロヲウゴカス）　㊀責任の重大なのに恐懼疑惑して平常の心を動かす。〔孟子、公孫丑上〕公孫丑問曰、夫子加二齊之卿相一、得レ行レ道焉、雖二由レ此霸王一不レ異矣、如レ此則動レ心否乎、孟子曰、否、我四十不レ動レ心。㊁心を竦動して、性を堅忍ならしめる。動レ心忍レ性を見よ。㊂人の困苦を憐れむ心を起す。〔韓愈、上二宰相一書、後十九日復上書〕亦君子之所レ宜レ動レ心者也。㊃驚く。動レ心駭レ目を見よ。

〖動レ心駭レ目〗456（ココロヲウゴカシメヲオドロカス）　驚く。吃驚する。〔郭璞、山海經圖贊下、中山經、嘉榮〕霆維天精、動レ心駭レ目。〔入蜀記、八月十五日條〕月影入レ水、蕩搖不レ定、正如二金虬一、動レ心駭レ目之觀也。

〖動レ心忍レ性〗457（ココロヲウゴカシセイヲシノバシム）　心を竦動して性を堅忍ならしめる。〔孟子、告子下〕天將レ降二大任於是人一也、必先苦二其心志一、勞二其筋骨一、餓二其體膚一、空二乏其身一、行拂二亂其所レ爲、所三以動レ心忍レ性、曾二益其所レ不レ能。〔集注〕動レ心忍レ性、謂下竦二動其心一、堅中忍其性上也。

【得レ心】458（ココロヲウ）　心の滿足を得る。又、人心を得る。〔孟子、離婁上〕得二其心一、斯得レ民矣。〔易林、隨之第十七、萃〕得レ心歡欣、和悅相樂。〔晉書、羊祜傳〕祜率二營兵一出鎭二南夏一、開二設庠序一、綏二懷遠近一、甚得二江漢之心一。

【拊レ心】459（ムネヲウツ）　悲しんで心胸を輕く擊つ。〔儀禮、士喪禮〕婦人拊レ心不レ哭。〔禮、喪大記〕徒跣扱レ衽拊レ心。〔曹植、求二自試一表〕未三嘗不二拊レ心而歎息一也。

【負レ心】460（ココロニソムク）　本心に違ふ。〔晉書、劉弘傳〕匹夫之交、尙不レ負レ心、何況大丈夫乎。〔魏書、獻文六王、咸陽王禧傳〕禧聞而歎曰、我不レ負二心天家一、豈應レ如レ此。

【剖レ心】461（ムネヲサク）　胸を割つて見せる。赤誠を披瀝する。〔史記、鄒陽傳〕剖レ心析レ肝相信。

【留レ心】462（ココロヲトドム）　心にかける。心を寄せて忘れない。〔史記、蒙恬傳〕唯大夫留レ心。〔文子、微明〕聖人常從二事于無形之外一、而不レ留二心于已成之內一。

【心耕子】463（シンカウシ）　鵜飼信之の號。鵜飼石庵（12—「46952··9）を見よ。

【心字香】464（シンジカウ）　香料の名。半開の花と香とを以て釀して作るといふ。番禺の人が作る。〔駿鸞錄〕番禺人作二心字香一、用二素馨末利半開者一、著二淨器一、薄二劈沈香一、層層相閒封、日一易、不レ待二花蔫一、花過香成。〔堅瓠集〕蔣捷一剪梅詞云、銀字箏調、心字香燒、按、心字香、外國以レ花釀レ香、作二心字一焚レ之。

【心如レ結】465（ココロムスブガゴトシ）　心が堅固なこと。專心一意。〔詩、曹風、鳲鳩〕淑人君子、其儀一兮、其儀一兮、心如レ結兮。〔傳〕言二執レ義一、則用レ心固一也。

【心如レ水】466（ココロミヅノゴトシ）　心がさつぱりとして利欲の念がないこと。〔漢書、鄭崇傳〕崇對曰、臣門如レ市、臣心如レ水。

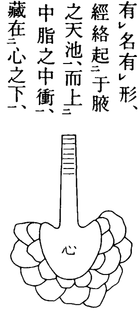
【心卽理】467（シンソクリ）　宋、陸象山が說いた教義で、王陽明に至つて其の三綱領の一となる。陸象山は、從來の學者が人心・道心を區別してゐるのに反對し、これは唯一一體のものがその觀察される方面の異るに由つて別々に現れてゐるに過ぎないものであるといひ、天理と人欲とを分けるのも亦天人一體の眞理を破るものであつて誤りであるとして、人心・道心、天理・人欲の別なく、唯〻動と靜とを兼ねる所の一心があるだけで、心と道理とは別物でなく、從つて心と理とは同一物であるとした。〔陸象山全集、三十六〕宇宙便是吾心、吾心卽是宇宙。〔傳習錄、上〕心卽理也、天下又有二心外之事、心外之理一。

【心儻儻】468（ココロタウタウ）　心がひろやかなこと。心中の

豁達なこと。〔關尹子、一宇〕道茫茫而無レ知乎、心儻儻而無レ羈乎。

【心張棒】469 戸口などのしまりに用ひて戸をおさへとめる木。

【心包絡】470 心臟をおほふ二枚のうすい膜。心囊。〔三才圖會、身體、心包絡圖說〕此經本有レ名有レ形、其經絡起二于腋下之天池一、而上二于中脂之中衝一、其藏在二心之下一、有二黃脂裹一心者一、是也、云云、心包絡在二心下橫膜之上、豎膜之下一、與二橫膜一相粘、而黃脂裹者心也、其脂膜之外有下細筋膜如レ絲、與二心肺一相連者上心包也。



心包絡圖
（三才圖會）

【心怦怦】471 心中のあわただしいさま。又、心の忠直なさま。〔楚辭、宋玉、九辯〕心怦怦兮諒直。〔注〕志行中正無レ所レ告也。〔集注〕怦怦、心急貌。〔補注〕心急、一曰、忠直貌。

【心不在】472 hsin^1 pu^4 tsai^4　茫然自失する。氣拔する。

〖心不レ在レ焉視而不レ見〗473 放心の狀態に於ては、五官も其の機能を失ふことをいふ。〔大學〕心不レ在レ焉、視而不レ見、聽而不レ聞、食而不レ知二其味一。

【心欲レ小】474 思慮はこまかく行きわたるがよい。膽欲レ大心欲レ小（**9－29933**・・62）を見よ。〔舊唐書、孫思邈傳〕膽欲レ大、而心欲レ小。

〖心欲レ小志欲レ大〗475 心は謹愼綿密で懈怠疎漏のないやうに、志は遠大雄偉で些細淺近にならぬがよい。〔淮南子、主術訓〕凡人之論、心欲レ小而志欲レ大、智欲レ員而行欲レ方、能欲レ多而事欲レ鮮。

【心蘭室】476 清、方維甸（**5－13620**・・477）の室名。

【諦二於心一】477 心中に明かになる。〔新論、專學〕心不レ在レ學而強諷誦、雖レ入二於耳一而不レ諦二於心一。

【心悅誠服】478 心底から悅服する。〔孟子、公孫丑上〕以レ德服レ人者、中心悅而誠服也。

【心億則樂】479 心が安らかであれば、樂しむことが出來る。〔左氏、昭、二十一〕心億則樂、窕則不レ咸。

【心顏罔レ厝】480 慚愧に堪へないさま。〔任昉、爲二范尙書一讓二吏部封侯一表〕奉レ命震驚、心顏無レ措。

【心嚮往齋】481 清、孔繼鏶（**3－6933**・・286）の號。

【心去難レ留】482 心が他方に向ふと之を身にとどめておくことは難しい。〔王僧孺、爲二姬人一自傷詩〕弦斷猶可レ續、心去最難レ留。

【心廣體胖】483 心がひろびろとして身體がのびのびしてゐる。心に一點の愧怍する所がなく廣大寬平であれば、體も亦安泰淸舒である。〔大學〕富潤レ屋、德潤レ身、心廣體胖、故君子必誠二其意一。

【心堅石穿】484 心が堅固であれば石にも穴をうがつことが出來る。〔野客叢書〕世言、心堅石也穿、梅眞語、昔有二傳先生者一、好レ道、入二焦山一、太極老君與二之木鑽一、使レ穿二一盤一、積二四十餘年一石穿、遂得レ道仙去。

【心齋草堂】485 清、錢枚（**11－40563**・・168）の室名。

【心在二鴻鵠一】486 修業しながら心を外に向け、專一でないこと。〔孟子、告子上〕弈秋通國之善レ弈者也、使三弈秋誨二二人弈一、其一人專レ心致レ志、惟弈秋之爲レ聽、一人雖レ聽レ之、一心以爲、有二鴻鵠一將レ至、思下援二弓繳一而射上レ之、雖二與レ之俱學一、弗レ若レ之矣、爲二是其智弗一レ若與、曰非レ然也。

【心慈面輭】487 hsin^1 tzʻŭ^2 mien^4 juan^3　慈悲深くて顏が柔和なこと。

【心奓體忲】488 心も體もおごりたかぶつてゐる。〔張衡、西京賦〕有二憑虛公子者一、心奓體忲。〔注〕綜曰、奓忲、言下公子生二於貴戚一、心志奓溢、體安中驕泰上也。

【心若二死灰一】489 無欲で名利に冷かな喩。〔莊子、齊物語〕形固可レ使レ如二槁木一、而心固可レ使レ如二死灰一乎。〔莊子、庚桑楚〕心若二死灰一。

【心手相應】490 心と手とが互に能く相應ずること。〔南史、新浦侯子雲傳〕其書迹雅爲二武帝所一レ重、帝嘗論レ書曰、筆力勁駿、心手相應。

【心如二搖旌一】491 心が動搖して定まらないこと。心搖搖如二懸旌一（536）を見よ。

【心如二淵泉一】492 心の深く靜かなこと。〔列子、黃帝〕心如二淵泉一、形如二處女一。

【心如二鐵石一】493 心が鐵石のやうに堅固である。志が固くて外物に動かされない。極めてかたい精神。〔魏志、武帝紀、注〕忠能勤レ事、心如二鐵石一。

【心如二涌泉一】494 智謀がわき出るほど多いこと。〔莊子、盜跖〕心如二涌泉一、意如二飄風一。

【心織筆耕】495 唐の王勃が、到る所で人に請託されて文を作り、金帛が盈積したので、時人が之を稱した語。〔翰林盛事〕王勃所レ至請託爲レ文、金帛豐積、人謂二心織筆耕一。

【心誠求レ之】496 吾が心を盡して、誠に求める。〔大學〕康誥曰、如レ保二赤子一、心誠求レ之、雖レ不レ中不レ遠矣。

【心拙口夯】497 無調法もの。〔紅樓夢、三十回〕誰都像レ我心拙口夯的、由二著人說一呢。

【心潛書屋】498 清、陳亮疇（**11－41698**・・1305）の室名。

【心粗性急】499 hsin^1 tsʻu^1 hsing^4 chi^2　氣あらく性急な。

【心存目替】500 心には思へども目には見ない。〔傳咸、贈二何劭王濟一詩序〕歷試無レ效、且有二家艱一、心存目替。

【心投意合】501 hsin^1 tʻou^2 i^4 hê^2　意氣投合する。

【心浮氣躁】502 hsin^1 fu^2 chʻi^4 tsao^4　輕躁な。落付かない。

【心平氣和】503 心中不平無く、氣がなごやかなこと。〔宋史、呂祖謙傳〕心平氣和、不レ立二崖異一、一時英偉卓犖之士、皆歸レ心焉。

【心慕手追】504 ならふこと。心でしたひ手でまねる。〔晉書、王羲之傳論〕心慕手追、此人而已。

【心無二二用一】505 心は一時に兩所には働かない。一事に專心するにいふ。〔新論、專學〕使三左手畫レ方、右手畫レ圓、令二一時俱成一、雖下執二規矩之心一、迴中剟劂之手上、而不レ能者、由三心不二兩用一、則手不二並運一也。

【心蓮華室】506 清、周鏞（**2－3441**・・496）の室名。

【心和書屋】507 清、魏銀河（**12－45872**・・184）の室名。

【以レ心傳レ心】508 言語を用ひず、心から心に傳へる。以心傳心。思想を以て思想を傳へるといふが如し。禪門では文字を定せず、經論に依らず、師の悟らした所を以て直ちに弟子の心に悟らしめるので、禪の奧儀は言句や文字で傳へ難きをいふ。〔傳燈錄、十三〕佛滅後付二於法迦葉一、以レ心傳レ心。〔六祖壇經〕昔達磨大師、初來二此土一、人未レ信レ之、故傳二此衣一、以爲二信體一、代代相承、法則以レ心傳レ心、皆令二自悟自解一。

【壹レ心不レ豫】509 ひたすら忠信の心を以て君に事へ、如何なる事があつても、疑ひためらふことがない。〔楚辭、九章、惜誦〕壹レ心而不レ豫兮、羌不レ可レ保也。

【開レ心見レ誠】510 心をひらいてまごころを示す。心の奧底をうちあける。〔後漢書、馬援傳〕開レ心見レ誠、無レ所二隱伏一。

【開レ心寫レ意】511 心をひらいて意中を傾け注ぐ。〔李白、扶風豪士歌〕原嘗春陵六國時、開レ心寫レ意君所レ知。

【抗レ心希レ古】512 志を高尙にして、古人を以て自ら任ずること。〔嵇康、幽憤詩〕抗レ心希レ古、任二其所一レ尙。

【降レ心相從】513 己の意見を抑へて人に從ふ。〔左氏、隱、十一〕如二舊昏媾一、其能降以相從也。

【困レ心衡レ慮】514 心に苦しみ胸にふさがる。〔孟子、告子下〕困二於心一、衡二於慮一、而後作。〔注〕困二瘁於心一、衡、橫也、橫二塞其慮於胷臆之中一。

【洒レ心自新】515 心を洗つて氣を入れかへる。〔漢書、馬宮傳〕臣不忠當レ伏二斧鉞之誅一、幸蒙二洒レ心自新一、又令レ得レ保二首領一。

【沁二入心脾一】516 感觸が深く浸み通つて忘れることが出來ない。〔蕙風詞話〕此等詞

一再吟誦、輒沁二入心脾一、畢生不レ能レ忘。

【推レ心置レ腹】517（ココロヲオシテハラニオク） 己の誠心を人の腹中に入れ、一點も疑はないこと。〔後漢書、光武紀上〕降者更相語曰、蕭王推二赤心一置二人腹中一、安得レ不レ投レ死乎。〔宋史、太祖紀三〕朕推二赤心一置二人腹中一、寧肯爾邪。〔資治通鑑、晉紀、〔安帝、義熙十一年〕推寄相與、注〕推寄、謂三推レ心置二人腹中一也。

【專レ心一レ意】518（ココロヲモツパラニシテイヲイツニス） 心を一つのことに向ける。專心一意。〔新語、懷慮〕專レ心一レ意、身無二境外之交一。〔漢書、翟方進傳〕其專レ心一レ意、毋レ怠、近二醫藥一以自持。〔論衡、感虛〕凡人能以二精誠一感二動天一、專レ心一レ意、委レ務積レ神、精通二于天一、天爲變動、然尚未レ可レ謂レ然。

【專レ心向レ公】519（ココロヲモツパラニシテオホヤケニムカフ） 心を一にして公につくす。〔魏志、杜恕傳〕不レ結二交援一、專レ心向レ公。

【悼レ心失レ圖】520（ココロヲイタミトヲウシナフ） 悲しみによつて計畫を失ふこと。〔左氏、昭、七〕孤與二其二三臣一、悼レ心失レ圖。

【痛レ心疾レ首】521（ココロヲイタマシメカウベヲヤマス） 心をいため、頭をやます。非常に心配する。〔左氏、成、十三〕斯是用痛レ心疾レ首、暱二就寡人一。〔後漢書、章帝紀〕震慄忉忉、痛レ心疾レ首。

【痛レ心入レ骨】522（ココロヲイタマシホネニイル） 非常に心配する。〔後漢書、袁譚傳〕智達之士、莫レ不二痛レ心入一レ骨、傷二時人不一レ能二相忍一也。〔蜀志、孫乾傳〕劉表與二袁尚書一、說二其兄弟分爭之變一、曰、每與二劉左將軍孫公祐一共論二此事一、未四嘗不三痛レ心入一レ骨、相二爲悲傷一也。

【痛レ心拔レ腦】523（ココロヲイタマシナウヲヌク） 非常に心配する。〔顏氏家訓、文章〕陸機與二長沙顧母一書、述二從祖弟士璜死一、乃言、痛レ心拔レ腦、有レ如二孔懷一。

【定レ心廣レ志】524（ココロヲサダメココロザシヲヒロム） 忠信の心に安んじ、我が志向を大いに定める。〔楚辭、九章、懷沙〕民生稟レ命、各有レ所レ錯兮、定レ心廣レ志、余何畏懼兮。

【同レ心同レ德】525（ココロヲオナジクシトクヲオナジクス） 心を同じくし、德を同じくする。〔書、泰誓中〕受有二億兆夷人一、離レ心離レ德、予有二亂臣十人一、同心同德。

【不レ慊二於心一】526（ココロニココロヨカラズ） 己の心にあきたらない。心に滿足しない。慊は快。〔孟子、公孫丑上〕行有レ不レ慊二於心一、則餒矣。

【無レ愧二於心一】527（ココロニハヅルナシ） 行ふことが正しく、良心に愧ぢることがない。〔皇極經世書〕無レ愧二於口一、不レ若レ無レ愧二於身一、無レ愧二於身一、不レ若レ無レ愧二於心一。

【銘レ心鏤レ骨】528（ココロニメイジホネニキザム） 恩惠を心骨にきざんで忘れないこと。〔柳宗元、謝レ除二柳州刺史一表〕漸輕二不宥之辜一、特奉二分憂之寄一、銘レ心鏤レ骨、無レ報二上天一。〔書言故事〕趙林武云、貫レ心鏤レ骨、李義山云、刻二鏤心骨一。

【心者形之君】529（ココロハカタチノキミ） 心は五體を支配する君主。〔荀子、解蔽〕心者形之君也、而神明之主也。

【心逐二南雲一逝】530（ココロナンウンヲオヒテユク） 心は雲に從つて南に馳せ去る。〔江總、於二長安一歸二還揚州一九月九日行二薇山亭一賦韻詩〕心逐二南雲一逝、形隨二北鴈一來、故鄉籬下菊、今日幾花開。

【心掉不二自禁一】531（ココロフルヒテミヅカラキンゼズ） 心がふるひをののいてこらへきれぬ。〔蘇洵、送二石昌言使一レ北引〕及レ明視二道上馬迹一、尚心掉不二自禁一。

【心不レ可レ不レ虛】532（ココロハキヨナラザルベカラズ） 心は平素空虛でなければならない。〔菜根譚、前、七十五〕心不レ可レ不レ虛、虛則義理來居。

【心不レ同如レ面】533（ココロノオナジカラザルハメンノゴトシ） 人の心はそれぞれ異なること、なほ各人の面貌の異なるが如し。〔童子教〕心不レ同如レ面、縱如二水隨一レ器。

【推レ心置二人腹一】534（ココロヲオシテヒトノハラニオク） 推レ心置レ腹（517）を見よ。

【心要レ在二腔子裏一】535（ココロハカウシリニアルヲエウス） 本心は常にむねの中にあらしめなければならぬ。人の心は至つて靈妙で味からず、一身の主宰で萬事の大綱であるから、常に敬を以て心を失はぬやうにして、決して物欲にかられて外に馳せるやうなことをしてはならぬ。敬を持する工夫を少しでも怠つて隙があると、心は必ず外に馳せ去つてしまふ。〔朱子語類〕問、必要レ在二腔子裏一、若二慮レ事應レ物時一如何、朱子曰、身在レ此、則心合レ在レ此。〔近思錄、存養〕心要レ在二腔子裏一、只外面有二此隙罅一便走了。

【心搖搖如二懸旌一】536（ココロエウエウトシテケンセイノゴトシ） 心が懸けた旗のやうに動いて定まらない。〔戰國、楚策〕楚王曰、寡人臥不レ安レ席、食不レ甘レ味、心搖搖如二懸旌一、而無レ所二終薄一。〔史記、蘇秦傳〕心搖搖然如二懸旌一、而無レ所二終薄一。

【心者後裔之根】537（ココロハコウエイノネナリ） 心は後世子孫のための根となるもので、子孫の榮枯盛衰は、かかつて一に我々の心にあるのである。〔菜根譚、前、一百五十九〕心者後裔之根。

【心者身之本也】538（ココロハミノモトナリ） 心は身體の根本である。〔淮南子、泰族訓〕心者身之本也、身者國之本也。

【心者神之主也】539（ココロハカミノシユナリ） 心は精神の主である。〔鬼谷子、捭闔〕口者心之門戶也、心者神之主也。

【心統二性情一者也】540（ココロハセイジヤウヲスブルモノナリ） 性は心の本體、情は心の作用、從つて心は性と情とをすべくくるものである。〔近思錄、道體〕心統二性情一者也。

【心不レ同兮媒勞】541（ココロオナジカラザレババイラウス） 婚姻を爲す場合、男女の心が各〻異なつてゐる時は、いくら媒介人が骨を折つてもそれは成立しない。〔楚辭、九歌、湘君〕心不レ同兮媒勞。

【困二於心一衡二於慮一】542（ココロニクルシミリヨニヨコタハル） 心に苦しみ悶え、思案に餘る。困レ心衡レ慮(514)を見よ。〔孟子、告子下〕困二於心一衡二於慮一而後作。

【心猶豫而狐疑兮】543（ココロイウヨシテコギス） 心中ぐづぐづと疑ひ深く、決心がつかぬこと。〔楚辭、離騷〕心猶豫而狐疑兮、欲二自適一而不レ可。

【心出家盦粥飯僧】544（シンシユツケアンシユクハンソウ） 清、金農(11—40152・・912)の號。

【從二心所一レ欲不レ踰レ矩】545（ココロノホツスルトコロニシタガヘドモノリヲコエズ） 思ふままに言行しても正道からはづれることがない。人格が完成して、一切の言行を意のままにしても道に違ふことがない。〔論語、爲政〕七十而從二心所一レ欲不レ踰レ矩。

【心則不レ競何憚二于病一】546（ココロスナハチキソハズンバナンゾヘイニハバカラン） 心が弱くて人に競ふことの出來ぬ者ならば、屈從するより外はない。〔左氏、僖、七〕孔叔言二於鄭伯一曰、諺有レ之、曰、心則不レ競、何憚二于病一。

【心有二係戀一樂境成二苦海一】547（ココロニケイレンアレバラクキヤウモクカイトナル） 心に執著戀々の情があれば、たとひ安樂な境地に居つても、苦海に住んでゐるやうに苦しい。〔菜根譚、後、三十七〕心有二係戀一、樂境成二苦海一矣。

【心無二染著一欲界是仙都】548（ココロニセンチヤクナケレバヨクカイハコレセント） 心に執著がなければ、たとひこの人間の俗世界に住みながらも、仙境に住む如く清く樂しく過すことが出來る。〔菜根譚、後、三十七〕心無二染著一、欲界是仙都。

【心似平原走馬易放難收】549 hsin^1 ssŭ^4 p'ing^2 yüan^2 tsou^3 ma^3 i^4 fang^4 nan^2 shou^1 人の心は、平原に馬を走らすやうに放慢に流れ易く、羈束することは難い。

【心無二物欲一即是秋空霽海】550（ココロニブツヨクナケレバスナハチコレシウクウセイカイ） 心に物欲があるからこそ、心が暗い雲霧に覆はれるのであるが、物欲のない者は、その心が秋の空の如く明澄であり、はれ渡つた海原の如く清朗である。〔菜根譚、後、九〕心無二物欲一、即是秋空霽海。

【心不レ可レ不レ實實則物欲不レ入】551（ココロハジツナラザルベカラズジツナレバスナハチブツヨクイラズ） 心は常に正義眞理で充滿してゐなければならない。正義眞理が充實してゐると、物慾や邪念の入る空隙がない。〔菜根譚、前、七十五〕心不レ可レ不レ實、實則物欲不レ入。

【屈レ心而抑レ志兮忍レ尤而攘レ詬】552（ココロヲクツシテココロザシヲオサヘトガメヲシノンデハヅカシメヲハラフ） 世俗と合はない自分であるから、心を屈し志を抑へつけて、人からとがめを被つても一切隱忍し、これと是非を爭ふことなく、恥辱を受けないやうに身を守つて行く。〔楚辭、離騷〕屈レ心而抑レ志兮、忍レ尤而攘レ詬。〔注〕詬、恥也。

【心似二既灰之木一何妨二刀割香塗一】553（ココロキクワイノキニニタリナンゾタウカツカウトヲサマタゲン） 心は既に生氣を失つた枯木のやうなものであつて、刀で割られようが、香氣ある顏料を塗られようが、一向頓著しない。〔菜根譚、後、四十九〕心似二既灰之木一、何妨二刀割香塗一。

【心空則境空去レ境存レ心者如二聚レ羶卻一レ

蚋】554（ココロムナシケレバスナハチキヤウムナシ　キヤウヲサツテココロヲソンスルモノハ　センヲアツメテゼイヲシリゾクルガゴトシ）自分の心が無慾恬淡であるならば、自分の相手も自然に空虛である。然し、自分の心中に妄想邪念が存する時は、恰もなまぐさを集めて置いて、それに群る蠅を逐ふやうなもので、何等效果がない。〔菜根譚、後、九十五〕心空則境空、去㆑境存㆑心者、如㆓聚㆑羶卻㆑蚋。

【心】10296　テン　〔五音篇海〕丁兼切　鹽

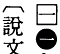
姓。〔五音篇海〕心、姓也。

【忄】10297　シン　心(**4－10295**)に同じ。專ら字の偏に用ひる。りつしんべん。〔類篇〕心、偏旁或書作㆑忄。

【⺗】10298　シン　心(**4－10295**)に同じ。字の脚に用ひる。〔類篇〕心、亦作㆑⺗、如㆓今文恭字下㆒是也。

一畫

【必】10299　㈠ヒツ　ヒチ　〔集韻〕壁吉切　質　ㄅㄧˋ pi⁴　㈡ヘツ　ヘチ　〔集韻〕必結切　屑


小篆

㈠❶**さだめる**。きめる。わける。〔說文〕必、分極也、从㆓八弋㆒、八亦聲。〔段注〕極、猶㆑準也、云云、凡高處謂㆓之極㆒、立㆑表爲㆓分判之準㆒、故曰㆓分極㆒。❷**かならず**。たしかに。きつと。〔字彙〕必、定辭。〔正字通〕必、審也。〔詩、齊風、南山〕取㆑妻如㆑之何、必告㆓父母㆒。〔論語、顏淵〕必也使㆑無㆑訟乎。〔漢書、宣帝紀贊〕孝宣之世、信賞必罰。❸**しとほす**。なしとげる。やりとげる。〔字彙〕必、專也。〔論語、子罕〕毋㆑意毋㆑必。〔墨子、經、上〕必、不㆑已也。〔新書、道術〕克行遂㆑節曰㆑必。〔太玄經、度〕石赤不㆑奪、節士之必。〔注〕石不㆑可㆑奪㆑堅、丹不㆑可㆑奪㆑赤、猶㆓節士之必專㆒也。❹**あてにする**。〔漢書、韓信傳〕且漢王不㆑可㆑必。〔注〕師古曰、必、謂㆑信㆑之。❺**いやしくも**。かるがるしく。〔法言、君子〕必進易㆑儷也、必退易㆑儷也。〔注〕必、苟也、苟進則貪㆓祿利㆒也、苟退則慕㆓僞名㆒也。❻**ただす**。〔廣雅、釋詁四〕必、敕也。〔六書正譌〕必、弓檠也、弓弛則檠而正㆑之。❼**姓**。〔萬姓統譜〕必、見㆓姓苑㆒、必贊、嘉熙進士。

㈡**組でしばる**。或は縪(**8－27808**)に作る。〔集韻〕必、以㆑組約㆑圭也、或作㆑縪。〔古今字考〕必、組也。

解字　會意。形聲。弋と八との合字。弋は元來しるしのくひを言ひ、八は分界を意味す。故に必は弋(境界の標識)を立てた分界を意味する。分つて標識を立てれば違ふことなき故、又轉じて、かならずの義に用ふ。八は又、音符。〔說文、必、段注〕凡高處謂㆓之極㆒、立㆑表爲㆓分判之準㆒、故云㆓分極㆒、引㆓伸之㆒、爲㆓詞之必然㆒。

【必育】1　ヒツイク　上古の人。燧人氏四佐の一人。〔聖賢羣輔錄、燧人四佐〕必育受㆓稅役㆒。

【必要】2　ヒツエウ　❶是非とも入用なこと。缺いてはならぬもの。❷pi⁴ yao⁴　必ず云云せねばならぬ。

〖必要品〗3　ヒツエウヒン　なければ事をかく品。必要の品。

【必改】4　ヒツカイ　かならずあらためる。〔千字文〕知㆑過必改。

【必亨】5　ヒツカウ　明、陳富春(**11－41698**‥1223)の「字。

【必簡】6　ヒツカン　唐、杜審言(**6－14477**‥349)の字。

【必己】7　ヒツキ　呂氏春秋、孝行覽の篇名。

【必竟】8　pi⁴ ching⁴　必ず云云すべき。

【必強】9　ヒツキヤウ　宋、黃千能(**12－47926**‥1201)の「字。

【必華】10　ヒツクワ　明、鍾順(**11－40672**‥68)の字。

【必攜】11　ヒツケイ　かならず持つべきもの。是非とも無くてはならないこと。

【必克】12　ヒツコク　❶必ず克つ。〔書、泰誓中〕朕夢協㆓朕卜㆒、襲㆓于休祥㆒、戎㆑商必克。〔左氏、昭、元〕魏舒曰、彼徒我車、所㆑遇又阨、以㆑什共㆑車必克、困㆓諸阨㆒又克、請皆卒、自㆑我始。〔六韜、龍韜、軍勢〕事莫㆑大㆓於必克㆒。❷明、蕭乾元(**9－32012**‥348)の字。

【必才】13　ヒツサイ　元の高僧。臨海の屈氏の子。字は大用。至正中、杭川演福寺に居る。順帝、號を佛鑑圓照と賜ふ。著に妙玄文句・止觀增治助文・法華涅槃講義・章安荊溪法智禮文詩偈がある。〔大明高僧傳、一〕。

【必爭】14　ヒツサウ　必ず爭ふ。〔李格非、書㆓洛陽名園記後㆒〕蓋四方必爭之地也。〔讀史方輿紀要、直隸、眞定府〕晉州、州西倚㆓眞定東灦河閒㆒、川途四通、利㆓於馳驟㆒、從來爭㆓燕趙㆒、必爭㆓眞定河閒㆒、其必經之道矣。

【必殺】15　ヒツサツ　必ず殺す。殺さずにはおかない。〔日本政記、後村上天皇論〕惧㆔尊氏意在㆓必殺㆒也。

【必之】16　ヒツシ　明、孫祖壽(**3－6987**‥471)の字。

【必死】17　ヒツシ　必ず死ぬ。又、死ぬ覺悟で事にあたる。有らん限りの力を盡す。〔管子、牧民〕明㆓必死之路㆒。〔尉繚子、制談〕何則必死與㆓必生㆒、固不㆑侔也。〔戰國、齊策〕使㆘曹子之足不㆑離㆑陳、計不㆑顧㆓後出㆒、必死而不㆖生、則不㆑免㆑爲㆓敗軍禽將㆒。〔韓非子、八姦〕聚㆓帶劍之客㆒、養㆓必死之士㆒。〔史記、項羽紀〕持㆓三日糧㆒、以示㆔士卒必㆑死無㆓一還心㆒。〔淮南子、人閒訓〕戰武士必㆓其死㆒。〔漢書、朱博傳〕且喜且懼、對曰必㆑死。〔說苑、指武〕故必死、必死不㆑如㆓樂死㆒。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕越姬心誓㆓必死之分㆒。

【必至】18　ヒツシ　きつと其のやうにする。自然さうなる。必ず其の事が到來する。必然。〔戰國、齊策〕譚拾子曰、事有㆓必至㆒、理有㆓固然㆒、君知㆑之乎。〔史記、孟嘗君傳〕物有㆓必死㆒、事有㆓固然㆒。〔漢書、蒯通傳〕孟賁之狐疑、不㆑如㆓童子之必至㆒。

【必彰】19　ヒツシヤウ　明、宗顯(**3－7106**‥88)の字。

【必賞】20　ヒツシヤウ　必ず賞する。〔管子、禁藏〕必賞而不㆑遷者、非㆔喜㆑予而樂㆓其殺㆒也。

【必常】21　ヒツジヤウ　明、蕭守中(**9－32012**‥407)の字。

【必須】22　ヒツス　❶必ず云云せねばならぬ。❷なくてはならぬ。必要。

【必需】23　ヒツジユ　必ずもとめる。是非入用なこと。

〖必需品〗24　ヒツジユヒン　是非とも必要な品。

【必從】25　ヒツジユウ　必ず從ふ。〔漢書、鼂錯傳〕知㆕所㆔以安㆓利萬民㆒、則海內必從矣。

【必出】26　ヒツシユツ　六韜、虎韜の篇名。

【必準】27　pi⁴ chuen³　必ず。屹度。

【必勝】28　ヒツシヨウ　きつと打ちかつ。必ず勝利を得る。〔孟子、公孫丑下〕君子有㆑不㆑戰、戰必勝矣。〔管子、重令〕戰可㆓以必勝㆒。〔尉繚子、兵教〕人君有㆓必勝之道㆒。〔商子、畫策〕有㆓必勝之理㆒也。〔漢書、鼂錯傳〕故兵法曰、有㆓必勝之將㆒、無㆓必勝之民㆒。

【必信】29　ヒツシン　❶きつぱりとしてあやふやでないこと。〔唐書、郭子儀傳〕賞罰必信。❷明、徐珪(**4－10110**‥109)の字。

【必進】30　ヒツシン　明、雷禮(**12－42245**‥167)の字。

【必衰】31　ヒツスイ　かならず衰へる。〔仁王經〕盛者必衰、實者必虛。

【必生】32　ヒツセイ　必ず生きる。必ず生きんと覺悟する。〔尉繚子、制談〕必死與㆓必生㆒、固不㆑侔也。〔孫子、九變〕必生可㆑虜也。

【必先】33　ヒツセン　❶必ず先んずる。❷字號。㋑宋、黃開(**12－47926**‥111)の字。㋺宋、沈與求(**6－17189**‥654)の字。

【必然】34　ヒツゼン　必ずかくなる。きつとさうなる。〔國語、鄭語〕其救㆑之亦必然矣。〔莊子、天地〕未㆑知此其必然邪。〔墨子、經說下〕且然必然。〔戰國、秦策〕死者人之所㆓必不㆑免、處㆓必然之勢㆒、可㆓以少有㆑補㆓於秦㆒、此臣之所㆓大願㆒也。〔管子、七臣七主〕見㆓必然之政㆒。〔史記、太史公自序〕未㆓必然㆒也。〔鄒陽、於㆑獄上書自明書〕皆信㆓必然之畫㆒。

〖必然性〗35　ヒツゼンセイ　哲學上の術語で、必ずさうあるべき性質。蓋然性(**9－31652**‥49)の對。

『必然的』36 ヒツゼンテキ　かならずさうあるべき狀態。必然性をもつこと。

『必然論』37 ヒツゼンロン　意思は内外から起る動機のために制御され、強い動機が弱い動機に勝つて意志をあらはすもので、選擇の自由を有するものでないといふ說。決定論。自由意志論の對。自由意志（**9－30095**‥23）の❷を見よ。

『必然之策』38 ヒツゼンノサク　必ずかくなるはかりごと。〔班固、答賓戲〕能建二必然之策一、展二無窮之動一也。

『必然之理』39 ヒツゼンノリ　必ずかくなるといふ道理。〔商子、畫策〕聖人知二必然之理一。〔後漢書、朱雋傳〕小損當二大益一、初貧後富、必然之理也。

【必大】40 ヒツダイ　❶必ず盛大になる。〔左氏、閔、元〕卜偃曰、畢萬之後必大。❷宋、葉誕（**9－31387**‥104）の字。

【必當】41 ヒツタウ　必ず當る。必ず理に當る。〔禮、月令〕乃命二有司一、申二嚴百刑一、斬殺必當、毋レ或二枉橈一。〔范甯、穀梁傳序〕凡傳以二通經一爲レ主、經以二必當一爲レ理。

【必諾】42 ヒツダク　義・不義を問はず、何でもうけあふこと。〔管子、形勢〕必得之事、不レ足レ賴也、必諾之言、不レ足レ信也。

【必達】43 ヒツタツ　字號。❶宋、許光亨（**10－35298**‥264）の字。❷明、上官儀（**1－13**‥189）の字。

【必誅】44 ヒツチユウ　必ず誅する。〔管子、禁藏〕必誅而不レ赦。

【必定】45 ヒツテイ　❶必ず定まる。〔說苑、談叢〕知四所二以安二利萬民一、則海内必定矣。❷ヒツヂヤウ ㋑［佛］梵語阿鞞跋致 Avaivartika の譯。大道を退轉せず、必定して涅槃に入る位。不退轉。〔大智度論、九十三〕阿鞞跋致卽是必定。〔十住毘婆沙論、易行品〕人能念二是佛無量力功德一、卽時入二必定一。㋺たしかに。かならず。きつと。「作を見よ。

【必傳】46 ヒツデン　かならず後世につたはる。必傳之

『必傳之作』47 ヒツデンノサク　必ず後世に傳はる著作。〔漢書、揚雄傳贊〕大司空王邑、納言嚴尤、聞二雄死一、謂二桓譚一曰、子常稱二揚雄書一、豈能傳二於後世一乎、譚曰、必傳、顧君與レ譚不レ及レ見也。

【必東】48 ヒツトウ　明、朱淛（**6－14424**‥412）の字。

【必得】49 pi^4 tei^3　きつと云云しなければならない。

【必讀】50 ヒツドク　必ずよむ。必ずよまねばならない。〔輶軒語、讀史〕唐劉知幾史通、最爲二史學樞要一、必當二先讀一。

【必敗】51 ヒツパイ　必ず敗る。又、必ず敗れる。〔左氏、定、四〕若知レ不レ免、而致レ死、必敗レ我。

【必方】52 ヒツパウ　火神の名。又、木神の名。畢方（**7－21829**‥63）の❶に同じ。〔尸子、下〕木之精氣爲二必方一。〔法苑珠林、審察〕白澤圖曰、火之精、名曰二必方一、狀如レ鳥、一足、以二其名一呼レ之則去、亦作二畢方一。

【必罰】53 ヒツバツ　罪のあるものは必ず罰する。〔韓非子、内儲說上〕七術、一曰、衆端參觀、二曰、必罰明レ威、三曰、信賞盡レ能、四曰、一聽責レ下、五曰、疑詔詭使、六曰、挾レ知而問、七曰、倒レ言反レ事。〔漢書、宣帝紀贊〕孝宣之治、信賞必罰。「名。

【必辟】54 ヒツボウ　宋、趙文孫（**10－37171**‥875）の初名。

【必無】55 ヒツム　必ず無い。絕對にない。〔左氏、襄、十八〕楚必無レ功。

【必明】56 ヒツメイ　宋、劉愚（**2－2224**‥199）の字。

【必滅】57 ヒツメツ　［佛］必ずほろびる。生じた者は、必ず滅する。〔大涅槃經〕生者必滅、會者定離。

【必也】58 カナラズヤ　❶強ひていへば。〔論語、八佾〕子曰、君子無レ所レ爭、必也射乎。❷必ず。きつと。〔讀書作文譜、文中用字法〕必也、決斷之辭也。

【必用】59 ヒツヨウ　❶無くてはならぬこと。ぜひ入用。必需。必要。❷明、呂不用（**2－3386**‥257）の初名。

【必蘭】60 ヒツラン　複姓。〔金史、必蘭阿魯帶傳〕必蘭阿魯帶、貞祐初、累二官寧化州刺史一。

『必蘭阿魯帶』61 ヒツランアロタイ　金の人。貞祐中、昭義軍節度使となる。時に潼關、蒙古に陷れらる。阿魯帶、元帥府を潞州に置かんことを奏す。興定中、帥左監軍を以て山東路統軍使を兼ね、權參知政事に從り、尙書省を益都に行ひ、復、潞州を立て、最も功あり。既にして潞州を去るや、これより守る能はず。〔金史、一百二二〕。

【必栗】62 ヒツリツ　羌胡の樂器の名。篳篥。〔一切經音義、十九〕纂文曰、必栗者、羌樂器名也、蓋必栗猶レ言二別裂一、其聲激楚、聽レ之如レ欲二破裂一也。

『必栗香』63 ヒツリツカウ　植物の名。高山に生じ、葉は老椿に似て毒あり。〔本草、必栗香〕集解、藏器曰、必栗香生二高山中一、葉如二老椿一、搗置二上流一、魚悉暴レ腮而死、木爲二書軸一、白魚不レ損レ書也。

【必諒】64 ヒツリヤウ　必ず明かにする。〔陸機、五等諸侯論〕愿法期二於必諒一。〔注〕良曰、諒、明也。

【必力】65 ヒツリヨク　山名。〔字彙補〕必力、山名、河小所レ出。

【不レ必】66 ヒツナラズ　たしかでない。厲行しない。斷行しない。〔韓非子、内儲說上〕刑罰不レ必、則禁令不レ行。

【必修科】67 ヒツシウクワ　必ず修めねばならぬ科目。隨意科（**11－41871**‥4）の對。

【必闍赤】68 ビチクチ　蒙古語。bicikci の別音。書記「をいふ。

【必首レ丘】69 カナラズヲカニカシラス　狐は生れた所を忘れず、必ずその丘に首を向けて死ぬこと。其の本を忘れぬ喩。〔禮、檀弓上〕古之人有レ言、曰、狐死、正丘首、仁也。〔楚辭、九章、哀郢〕狐死必首レ丘。

【必赤里】70 ヒツセキリ　地名。甘肅省貴德縣。〔潘昂、霄河源錄〕崑崙山、向二東北一行半月、至二貴德州一、地名二必赤里一、始有二州治官府一。

【不レ可レ必】71 ヒツスベカラズ　きつと出來るとは請合へぬ。〔近古史談、織篇、了伯聽二平語一〕約二先登於不レ可レ必之前一。

【必里遲離】72 ビリチリ　九月九日をいふ。金の國語。〔遼史、禮志六、嘉儀〕九月重九日、天子率二羣臣部族一射レ虎、射畢、擇二高地一卓レ帳、賜二蕃漢臣僚一飲二菊花酒一、國語謂二是日一爲二必里遲離一、九月九日也。

【必律不剌】73 ヒツリツフラ　うるさい聲。〔通俗編、聲音、必律不剌〕煩言聲也、見二元曲選、孫仲章勘頭巾劇一、又李行道灰闌記、作二必力八剌一。

【必世而後仁】74 カナラズセイニシテノチジン　一世を經て後にはじめて敎化が浹く行はれること。〔論語、子路〕子曰、如有二王者一、必世而後仁。〔集注〕三十年爲二一世一、仁、謂二敎化浹一也。

【忆】10300　エイ　㤕（**4－10555**）に同じ。〔集韻〕㤕、或作レ忆。

二畫

【忇】10301　ロク　〔玉篇〕盧得切　［職］

❶**功勞が大きい**。〔小學彙函本玉篇〕忇、功大也。❷**おもふ**。〔玉篇〕忇、思也。

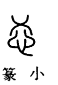
【忈】10302　ジン ニン　〔五音集韻〕如鄰切　［眞］

❶**したしむ**。いつくしむ。〔五音集韻〕忈、親也、仁愛也。❷仁（**1－349**）の古字。〔字彙〕忈、古仁字。

【㣻】10303

［一］ガイ ゲ　〔集韻〕魚刈切　［隊］

［二］ガイ　〔集韻〕牛蓋切　［泰］



小篆

［一］［二］❶**こらす**。〔說文〕㣻、懲也、从レ心乂聲。〔晉書、地理志〕始皇初幷二天下一、懲二㣻戰國一、削二罷列侯一。❷**こりる**。〔廣韻〕㣻、困レ患爲レ戒。❸通じて乂（**1－111**）・艾（**9－30648**）に作る。〔說文、㣻、段注〕古多用二乂・艾一爲レ之、而㣻廢矣。

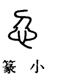
【忍】10304

［一］ギ ゲ　〔集韻〕魚既切　［未］

［二］ガイ ゲ　〔集韻〕魚刈切　［隊］

［三］ギ　〔集韻〕魚記切　［寘］

［四］タウ



小篆

［一］［二］**いかる**。〔說文〕忍、怒也、从二心刀一、讀若レ顡。［三］❶**いかる**。〔集韻〕忍、怒也。❷**そこなふ**。〔集韻〕忍、一曰、从二刀心一、害意。［四］忉（**4－10305**）に同じ。〔集韻〕忉、亦書作レ忍。

解字 會意。心と刀との合字。本義を怒るとする。心中怒を含むは、懷中に刃をいだくが如し、故に二字を合す。〔說文、忍、段注〕謂㆓心中含㆑怒如㆑懷㆑刃也。

參考 忍(**4－10312**)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕忍、音詣、怒也。忍、人上聲。

【忉】10305 タウ トウ 〔集韻〕都勞切 ㄉㄠ tao¹ 豪

うれへる。又、そのさま。或は忍(**4－10304**)に作る。〔晉書音義、中〕忉、憂也。〔廣韻〕忉、憂心皃。〔集韻〕忉、忉忉、憂勞也、亦書作㆑忍。

參考 忉(**4－10313**)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕忉、音刀、憂心貌。忉、同㆑忍。

【忉忉】1 タウタウ 憂へるさま。心配するさま。〔爾雅、釋訓〕忉忉、憂也。〔詩、陳風、防有鵲巢〕心焉忉忉。〔釋文〕忉忉、憂也。〔詩、齊風、甫田〕無㆑思㆓遠人㆒、勞心忉忉。〔傳〕忉忉、憂勞也。〔法言、脩身〕思㆓遠人㆒者心忉忉。〔後漢書、章帝紀〕震慄忉忉。〔白居易、司徒令公云云寄獻以抒㆓下情㆒詩〕動㆑人名赫赫、憂㆑國意忉忉。

【忉忉怛怛】2 タウタウダツダツ うれひかなしむさま。〔易林〕忉忉怛怛、如㆑將㆑不㆑活。

【忉怛】3 タウダツ うれひかなしむ。〔李陵、答㆓蘇武㆒書〕祇令㆓人悲㆒、增㆓忉怛㆒耳。〔注〕善曰、爾雅曰、忉、憂也、方言曰、怛、痛也、銑曰、忉怛、內悲也。〔王粲、登樓賦〕心悽愴以感發兮、意忉怛而憯惻。〔注〕翰曰、忉怛、猶㆓悽愴㆒也。〔晉書、謝尙傳〕懷㆓忉怛之至戚㆒。

【忉利】4 タウリ **佛**忉利天に同じ。〔剪燈餘話、何思明遊㆓酆都㆒錄〕六道四生早出離也、逍遙無方證㆓忉利㆒也。

【忉利天】5 タウリテン **佛**三十三天と譯す。六欲天の第二。須彌山の頂、閻浮提の上八萬由旬の處に在り、帝釋ここに居る。四方に峯あり、廣さ五百由旬、之を喜見城といふ。怛唎耶怛唎奢天、又は多羅夜登陵舍天に作る。〔玄應音義、二〕忉利、此應㆑訛也、正言㆓多羅夜登陵舍天㆒、此譯云㆓三十三天㆒。〔法華經、勸發品〕若但書寫、是人命終、當㆑生㆓忉利天上㆒。

【忉利天女】6 タウリテンニョ **佛**忉利天の喜見城の四方に連なる寶樓一萬七千房の各房に七人づつ住んでゐる天女。皆、帝釋の正妃だといふ。

【忉利天四園】7 タウリテンノシヲン **佛**忉利天主帝釋天の居城の四圍にある四園。東方は麁惡苑、南方は雜林苑、西方は喜林苑(如意苑)、北方は衆車苑。

【⿰忄匕】10306 ヒ ビ 〔玉篇〕符彼切 紙

おとる。〔玉篇〕⿰忄匕、劣也。

【⿰忄㔾】10307 エン 怨(**4－10479**)に同じ。〔集韻〕怨、或作㆑⿰忄㔾。

參考 ⿰忄㔾(**4－10309**)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕忋、音改、恃也、仰也。⿰忄㔾、同㆑怨。

三畫

【忊】10308 ㊀テイ チヤウ 〔集韻〕徒徑切 徑 ㊁テイ チヤウ 〔集韻〕他定切 徑

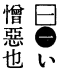
㊀**うらむ**。〔集韻〕忊、忊憕、恨也。㊁**志を得ないさま**。〔集韻〕忊、忊憕、不㆑得㆑志皃。

【忋】10309 カイ ガイ 〔集韻〕下改切 賄

❶**たのむ**。〔廣雅、釋詁三〕忋、恃也。❷**あふぐ**。〔字彙〕忋、仰也。

參考 忋(**4－10307**)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕忋、音改、恃也、仰也。⿰忄㔾、同㆑怨。

【忌】10310 ㊀ギキ 〔集韻〕渠記切 ㄐㄧˋ chi⁴ 寘 ㊁ギキ 〔集韻〕巨己切 紙


小篆

㊀❶**いむ**。㋑にくむ。〔說文〕忌、憎惡也、从㆑心己聲。〔國語、晉語三〕而忌㆓處者㆒。〔注〕忌、惡也。㋺ねたむ。〔荀子、致士〕隱忌雍蔽之人。〔注〕忌、謂㆑妬㆑賢。㋩おそれる。〔廣雅、釋詁四〕忌、恐也。〔禮、中庸〕無㆑所㆓忌憚㆒也。〔釋文〕忌、畏也。〔左氏、昭、元〕幼而不㆑忌。〔注〕忌、畏也。〔楚辭、東方朔、七諫、謬諫〕恐㆓犯㆑忌而干㆑諱。〔注〕忌、所㆑畏爲㆑忌。㋥はばかる。きらふ。〔左氏、昭、十四〕殺㆑人不㆑忌爲㆑賊。〔孔子家語、正論解〕殺㆑人不㆑忌爲㆑賊。〔注〕忌、憚也。〔國語、晉語一〕好㆑專利而不㆑忌。〔注〕忌、難也。㋭さける。禁ずる。〔周禮、地官、誦訓〕掌㆘道㆓方慝㆒以詔㆗辟忌㆖。〔老子、五十七〕天下多㆓忌諱㆒。〔河上公注〕忌諱者、防禁也。❷**いみ**。㋑陰陽家がさけていましめる方位日時。〔荀悅、三游論〕除㆓小忌㆒去㆓淫祠㆒。㋺親が死んだ日に相當する年毎の日。命日。〔周禮、春官、小史〕則詔㆓王之忌諱㆒。〔注〕先王死日爲㆑忌、名爲㆑諱。〔禮、祭義〕忌日之謂也。〔注〕親亡之日。㋩死後七日をいふ。〔辭海〕忌、人之初生、以㆓七日㆒爲㆑臘、死以㆓七日㆒爲㆑忌、見㆓田藝蘅玉笑零音㆒。❸**いましめる**。〔左氏、昭、元〕非㆑羈何忌。〔注〕忌、敬也。〔禮、表記〕敬忌而罔㆑有㆓擇言在㆒㆑躬。〔注〕忌之言、戒也。❹**いましめ**。〔易、夬〕居㆑德則忌。〔注〕忌、禁也。〔淮南子、天文訓〕虹蜺・彗星者、天之忌也。❺**うらむ**。〔詩、大雅、瞻卬〕維予胥忌。〔傳〕忌、怨也。〔國語、晉語三〕小人忌而不㆑思。〔注〕忌、怨也。❻**おもひ**。意(**4－10921**)に通ず。〔說文通訓定聲〕忌、叚借爲㆑意、書秦誓、未㆑就㆓予忌㆒。❼**語勢を調へる助辭**。其(**2－1472**)・記(**10－35244**)・己(**4－8742**)・⿺辶丌(**11－38719**)に同じ。〔經傳釋詞、五〕其、語助也、或作㆑記、或作㆑忌、或作㆑己、或作㆑⿺辶丌、義並同也、詩揚之水曰、彼其之子、箋曰、其、或作㆑記、或作㆑己、讀聲相似、云云、文十四年左傳、云云、公曰夫己氏、杜解補正曰、夫己氏猶㆑言㆓彼己之子㆒。〔詩、鄭風、大叔于田〕叔善射忌。〔傳〕忌、辭也。〔箋〕忌、讀如㆓彼己之子之己㆒。❽古は⿱丌土(**3－4943**)に作る。〔集韻〕忌、古作㆑⿱丌土。❾諅(**10－35623**)に通ず。〔書、多方〕爾尙不㆑忌㆓于凶德㆒。〔說文〕諅、周書曰、上不㆑諅㆓于凶德㆒。❿綦(**8－27555**)に通ず。〔左氏、文、二〕夏父弗忌。〔禮、禮器〕弗綦。⓫**姓**。〔萬姓統譜〕忌、風俗通、周公忌父之後、以㆓王父字㆒爲㆑氏。⓬**現**たつ。嗜好を斷つ。㊁**いましめる**。〔集韻〕忌、戒也。**邦**いみ。かたたがへ。方違。

【忌畏】1 キヰ いみおそれる。〔後漢書、桓帝紀〕冀心懷㆓忌畏㆒。

【忌盈】2 キエイ 十分なことを避ける。〔顏氏家訓、勉學〕忌㆑盈惡㆑滿、賙㆑窮卹㆑匱。

【忌烟】3 chi⁴ yen¹ 鴉片を吸ふことをやめる。

【忌厭】4 キエン 忌みさける。忌みきらふ。〔福惠全書、筮仕部、薦託〕適足㆑取㆓其忌厭㆒。

【忌垣】5 イミガキ 神社の周圍にめぐらした垣。たまがき。みづがき。齋垣。

【忌惡】6 キヲ いみにくむ。〔後漢書、順烈梁皇后紀〕秉㆑政忌㆓惡佗族㆒。

【忌瓮】7 イハヒベ イムベ 古、神酒を盛つた陶器の壺。いんべ。齋瓮。〔日本書紀、崇神紀〕十年九月、爰以㆓忌瓮㆒鎭㆓坐於和珥武鐰坂上㆒。

【忌害】8 キガイ 忌み害する。〔漢書、公孫弘傳〕其性

意忌、注〕師古曰、意忌、多レ所二忌害一也。〔後漢書、順烈梁皇后紀〕專レ權暴濫、忌二害忠良一。

【忌諱】9 キキ ❶先王の命日といみな。〔周禮、春官、小史〕若有レ事、則詔二王之忌諱一。〔注〕先王死日爲レ忌、名爲レ諱。❷國の禁令・禁防。〔老子、五十七〕天下多二忌諱一、而民彌貧。〔口義〕忌諱、防禁也。❸死者を壽ぐ。冥福を祈る。〔管子、輕重己〕天下之所二以主レ始而忌諱一也。〔注〕忌諱者、蓋祈二壽於王母一也。❹人が避忌して言ふを諱むもの。人の陰私・不祥の事の類。〔荀子、正名〕忌諱不レ稱、妖辭不レ出。〔漢書、賈捐之傳〕無二忌諱之患一。〔淮南子、要略〕知二逆順之變一、避二忌諱之殃一。〔司馬相如、上林賦〕鄙人固陋、不レ知二忌諱一。〔論衡、四諱〕忌諱非レ一。

〔觸二忌諱一〕10 キキニフル 人の氣にさはる。いみきらはれる。〔魏志、衞覬傳〕非下破レ家爲レ國、殺レ身成レ君者上、誰能犯二顏色一、觸二忌諱一、建二一言一、開二一說一哉。

【忌欺】11 キギ 鳥の名。鵂鶹の異名。みみづく。〔一切經音義、二十〕鵂鶹、南陽名二鉤鵅一、一名二忌欺一、晝伏夜行、鳴爲レ怪也。〔雜志〕鵂鶹、一名忌欺、白日不レ見レ人、夜能拾二蚤蝨一。

【忌月】12 キゲツ ❶事をするにいみさけねばならない月。陰曆九月の稱。〔晉書、禮志下〕穆帝納レ后、欲レ用二九月一、九月是忌月。❷親の歿した月。祥月。命月。〔南史、張融傳〕融有二孝義一、忌月三旬、不レ聽レ樂。

【忌嫌】13 キケン いみきらふ。いみうたがふ。

【忌鎌】14 イミガマ 齋み淨めた鎌。神事に用ひる鎌。〔儀式帳〕以二忌鎌一草木刈初。

【忌忤】15 キゴ いみさからふ。〔舊唐書、柳澤傳〕雖二木樸忌忤一、願恕レ之以レ直、開二諫諍之路一也。

【忌口】16 chi^4 k'ou^3 どくだちする。或る食物を避けること。

【忌克】17 キコク 人の才能を忌んでそれに克たうとすること。猜忌の念があつて人に克つを好むこと。〔左氏、僖、九〕今其言多二忌克一、難哉。〔疏〕今其此夷吾之言、多有レ所レ忌、多欲レ陵レ人。〔會箋〕忌克、言レ疾レ人欲レ勝レ之也。〔魏志、武帝紀〕志大而智小、色厲而膽薄、忌克而少レ威。

【忌刻】18 キコク 人の能あるをきらひ、且つ殘忍なこと。忌剋。〔晉書、王濟傳〕外雖二弘雅一、而內多二忌刻一。〔北史、王世積傳〕世積見二帝性忌刻、功臣多獲レ罪、由レ是縱レ酒、不下與二執政一言中時事上。〔宋史、趙普傳〕雖レ多二忌刻一、而能以二天下事一爲二己任一。〔庾信、哀江南賦〕既言多二於忌刻一。

【忌剋】19 キコク 人の能あるをきらひ、且つ殘忍なこと。忌刻に同じ。〔北史、房彥謙傳〕性多二忌剋一、不レ納二諫諍一。

【忌恨】20 キコン きらひうらむ。〔後漢書、董卓傳〕魏絳戮二楊干一、今若縱レ之、自虧二威重一、後悔何及、溫不レ能レ從、而卓猶懷二忌恨一。〔蜀志、先主劉備傳〕劉巴者、宿昔之所二忌恨一也。

【忌妻】21 キサイ 嫉妬深い妻。又、氣兼ねせねばならぬ妻。〔梁書、劉峻傳〕馮敬通有二忌妻一、至三於身操二井臼一。

【忌祭】22 キサイ 死んだ人の年忌の祭。〔蓮社高賢傳〕闕公則入二廬山白蓮社一既逝、有二同社人一、至二洛陽白馬寺一、夜中爲二公則修二忌祭一、忽一時林木殿宇、皆作二金色一。

【忌歲】23 キサイ 物事をするにいみさけなければならない年。〔晉書、禮志下〕穆帝納レ后、欲レ用二九月一、九月是忌月、王洽曰、若有二忌月一、當レ有二忌歲一。

【忌恣】24 キシ 人を忌んで氣儘に振舞ふこと。〔後漢書、單超傳〕皇后乘レ勢忌恣、多レ所二鴆毒一、上下鉗レ口、莫レ有二言者一。

【忌時】25 キジ いむべき時。〔論衡、辯祟〕忌時相害、故發レ病生レ禍。

【忌疾】26 キシツ いみきらひにくむ。〔後漢書、李固傳〕固所二匡正一、每輒從二用其言一、云云、而梁冀猜專、每相忌疾。

【忌日】27 キジツ ❶親の命日。いみ日。きにち。又、廣く死者の命日。忌辰。〔禮、檀弓上〕君子有二終身之憂一、而無二一朝之患一、故忌日不レ樂。〔注〕謂二死日一言二忌日一。〔禮、祭義〕君子有二終身之憂一、忌日之謂也。〔注〕忌日、親亡之日。〔漢書、王莽傳中〕昏以二戊寅之旬一爲二忌日一。〔後漢書、申屠蟠傳〕服除、不レ進二酒肉一、十餘年、每二忌日一、輒三日不レ食。〔魏志、齊王芳紀〕天下臣子、永惟二忌日之哀一。❷いみ避くべき不吉の日。〔齊民要術、種穀〕凡九穀有二忌日一、種レ之不レ避二其忌一、則多二傷敗一。

〔忌日請假〕28 キジツセイカ 忌日に、其の死者の卑屬親が官吏なれば、祭祀のために休暇を請求すること。六朝に始まる。〔晉書、陸曄傳〕曄以レ勳進レ爵爲レ公、咸和中、求下歸二鄉里一拜中墳墓上、有司奏、舊制假六十日、侍中顏含黃門侍郎馮懷駁曰、曄內蘊二至德一、淸二一其心一、受二託付之重一、居二台司之位一、既蒙レ詔許レ歸二省墳塋一、大臣之義、本在レ忘レ己、豈容レ有レ期而反、無レ期必違、愚謂、宜レ還自還、不レ須レ制レ日、帝從レ之。

【忌酒】29 chi^4 chiu^3 禁酒する。

【忌食】30 chi^4 shih^2 毒だちする。或る食物を避けること。忌口。

【忌心】31 キシン 忌む心。〔儲嗣宗、送二道士一詩〕黃鶴有二歸語一、白雲無二忌心一。

【忌辰】32 キシン 死者の命日。忌日。〔白居易、繡二阿彌陀佛一贊序〕八月十一日、忌辰所レ造也。〔剪燈餘話、賈雲華還魂記〕平章忌辰在レ邇、合レ照二常規一。

【忌愼】33 キシン いみつつしむ。〔蔡邕、連珠〕猶下忌二愼動作一、封二鎭書符一、以防中其禍上。

【忌祟】34 キスイ いみたたり。〔國史略、文德天皇〕明法博士山田春城卒、性寬言直、不レ好二小藝一、不レ避二忌祟一。

【忌寸】35 イミキ 姓の名。八姓の第四に位す。〔國史略、天武天皇〕詔定二諸氏之族姓一、作二八色之姓一、云云、四曰、忌寸。

【忌生】36 chi^4 shêng^1 なまの食物を避けること。

【忌制】37 キセイ いみおさへてゐるもの。禁制。〔張纘、妬婦賦〕忽有下逆二其妬鱗一、犯中其忌制上、赴レ湯蹈レ火、瞋レ目攘レ袂。

【忌前】38 キゼン 才望が己に過ぎるものをねたみいむこと。長者をねたむ。目上の者を忌みきらふ。〔子華子、晏子問黨〕植二黨與一而護二其所一レ同、忌レ前而排レ孤。〔舊唐書、賈曾傳〕有二統御之才一、然頗有二忌前之癖一。

【忌憎】39 キゾウ きらひにくむ。〔王令、贈二愼東美伯筠一詩〕世儒口軟聲如レ蠅、好二于壯士一爲二忌憎一。

【忌俗】40 キゾク 俗氣を忌む。俗臭をきらふ。〔郤掃編、中〕作詩工拙所レ未レ論、大要忌俗而已。

【忌憚】41 キタン 忌みはばかる。〔釋名、釋言語〕難、憚也、人所二忌憚一也。〔中庸〕小人之反二中庸一也、小人而無二忌憚一也。〔漢書、諸侯王表序〕亡レ所二忌憚一。

【忌町】42 イトウ 姓氏。〔姓名錄抄〕。

【忌中】43 キチュウ ❶いみにこもつて居る期間。忌の中。〔聖德太子繪傳記、二〕永々の御忌中、まだ一日二日といひながら。❷人の死後四十九日の間。〔柳樽、十六〕忌中の休みを御用は嬉しがり。

【忌忍】45 キニン いみしのぶ。〔後漢書、桓思竇皇后紀〕太后素忌忍、積二怒田聖等一。

【忌媢】46 キバウ いみねたむ。〔宋史、馬伸傳〕忌媢者飛語。

【忌避】47 キヒ ❶いみ避ける。諱避。〔論衡、四諱〕人不二忌避一。〔魏書、高車傳〕其俗蹲踞褻黷、無レ所二忌避一。❷法律用語。訴訟關係人が、判事又は書記などの言動に不公平の事ありと認めた時、其の係り官の裁判を受けることを拒絕すること。

【忌婦】48 キフ 嫉妬深い婦人。

【忌部】49 インベ イムベ ❶上古の氏族の名。祭器を造り、祭事を掌る。齋部。❷姓氏。〔拾芥抄〕。

【忌服】50 キフク 忌と服。喪に居る期間。忌は家に居つて愼しむ期間、服は出て仕事に從事しても、尚、いみ愼む間をいふ。血緣の親疎によつて長短がある。〔淸國行政法汎論、吏部、稽勳淸吏司〕專掌二文官改名・轉籍・休職・忌服等事一。

【忌明】51 イミアケ 喪が終つたこと。除服。又、中陰の終つたこと。

【忌門】52 chi^4 men^2 北京で、正月元日から五日間、婦人の來るのを許さないこと。

【忌御免】53 イミゴメン 官吏などが、喪に服することを免ぜられて出仕すること。除服出仕。〔寶曆集成絲綸錄、十六〕。

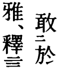
【忌破五】54 キハゴ 元日から五日までの間、炊事をしないこと。破五(**8－24124・・58**)を見よ。〔張燾、津門雜記〕元日至二初五日一、不下以二生米一爲上レ炊、謂二之忌破五一。

【⿰忄乇】10311 タク ⿰忄宅(**4－10538**)に同じ。〔集韻〕⿰忄宅、或作レ⿰忄乇。

【忍】 10312

㊀ジン ニン 〔集韻〕爾軫切 日ㄣˇ jen³ 軫

㊁ジン ニン 〔集韻〕而振切 震


小篆

㊀❶**しのぶ**。㋑こらへる。たへる。〔說文〕忍、能也、从レ心刃聲。〔段注〕敢ニ於止一亦曰レ能、今俗所謂能耐也。〔廣雅、釋言〕忍、耐也。〔管子、地員〕以慈忍。〔注〕忍、耐也。〔呂覽、審時〕得レ時者忍レ饑。〔注〕忍、猶レ能也。〔張衡、東京賦〕百姓弗レ能レ忍。〔注〕綜曰、忍、堪也。㋺がまんする。ゆるす。〔論語、八佾〕是可レ忍也、孰不レ可レ忍也。〔皇疏〕忍、猶ニ容耐一也。㋩つとめる。〔國語、楚語下〕彊忍犯レ義。㊁ためる。おさへる。〔荀子、儒效〕志忍レ私、然後公、行忍ニ情性一、然後能修。〔注〕忍、謂レ矯ニ其性一也。❷**むごい**。おもひやりがない。非義をあへてする。〔國語、晉語一〕其上貪以忍。〔注〕忍、忍爲ニ不義一也。〔新書、道術〕惻ニ憐人一、謂ニ之慈一、反レ慈爲レ忍。❸**姓**。〔字彙〕忍、姓也。㊁❶**しなやかでつよい**。肕(**9**－**29262**)に同じ。〔集韻〕肕、堅柔也、亦作レ忍。〔詩、鄭風、將仲子〕無レ折ニ我樹檀一、〔傳〕檀、彊忍之木。〔詩、大雅、抑、荏染柔木、箋〕柔忍之木。❷刃(**2**－**1848**)に通ず。〔詩、大雅、抑、箋、釋文〕忍、音刃、本亦作レ刃。❸韌(**12**－**43109**)に通ず。〔說文通訓定聲〕忍、字亦作レ韌。邦❶**しのぶ**。㋑祕密にする。かくす。㋺人目を避ける。かくれる。㋩かくれてかよふ。ひそかに通じる。㊁草の名。しのぶぐさともいふ。㋭しのぶずりの略。㋬襲の色目。表は薄い萌黃、裏は青。❷**しのび**。㋑隱身術。又、その術者。㋺まはし者。間諜。隱密。㋩微服。微行。

名乘 タフ。オシ(姓)。

參考 ❶忍(**4**－**10304**)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕忍、音詣、怒也。忍、人上聲。❷邦思ひ慕ふ意味の「しのぶ」には偲を用ひる。

【忍愛】1（ニンアイ） 愛情をこらへしのぶ。〔江淹、別賦〕割レ慈忍レ愛、離レ邦去レ里。

【忍菴】2（ニンアン） 清、黃與堅(**12**－**47926**‥1335)の號。

【忍蘐】3（ニンイン） 草の名。蘐荵。〔管子、地員〕其種忍蘐、忍葉如ニ藿葉一。〔纂詁〕爾雅、蔲、蘐荵、此蓋同物。

【忍音】4（シノビネ） ❶ひそひそごゑ。❷忍び泣くかすかな聲。❸四月頃の時鳥の初音。〔源氏物語、蜻蛉〕しのびねや君もなくらむ。

【忍苛】5（ニンカ） むごい。殘忍苛酷。〔後漢書、酷吏傳論〕倚ニ疾邪之公直一、濟ニ忍苛之虐情一。

【忍海】6（オシノウミ） ❶姓氏。❷大和國の地名。

【忍海部】7（オシノウミベ・オモノウミベ・オシヌミベ） 姓氏。〔拾芥抄〕・〔新撰姓氏錄考證〕。

【忍岡】8（シノブガヲカ） 東京上野公園不忍池邊の丘陵の汎稱。〔先哲叢談、林羅山〕寬永寺地、舊名ニ忍岡一、自ニ山王祠一至ニ清水觀一數千畝、係ニ羅山賜莊一、春齋櫻峰記曰、櫻峰者、何也、忍岡別號也、滿岡之櫻、先考之所レ栽也。

【忍岡文庫】9（シノブガヲカブンコ） 林羅山が江戶忍岡に建設した文庫。寬永九年創設。幕府から二の丸にあつた銅造の官庫を下賜され、これを宅地內に移して書庫としたが、明曆三年正月十九日の大火に全部灰燼に歸した。

【忍渴】10（ニンカツ） 渴をこらへる。〔後漢書、鍾離意傳〕孔子忍ニ渴于盜泉之水一。

【忍饑】11（ニンキ） うゑをこらへる。〔杜甫、八哀詩、故祕書少監武功蘇公源明〕忍レ饑浮雲巘。

【忍泣】12（シノビナキ） 人に知られぬやうになく。聲を立てずに泣く。

【忍苦】13（ニンク） 苦しみを忍ぶ。苦痛を堪へること。

【忍駒】14（シノビゴマ） 三味線の駒にはさみ、音が高くならないやうにするもの。〔長町女腹切〕思ひの色を忍駒。

【忍火】15（シノビビ） 音のせぬやうにひそかに打つ切り火。〔男色大鑑、四〕小者に忍火を打たせ。

【忍窩】16（ニンクワ） 洪良浩の室名。窩は、齋・軒・庵と同じ意味に使用する。〔洪良浩、忍窩記〕小子嘗奉ニ先大父遺敎一、名ニ其居一曰ニ忍窩一。

【忍迴】17（シノビマハリ） ひそかに巡廻して事情を視察すること。又、その人。「證話」。

【忍言】18（シノビゴト） ひそひそばなし。さざめごと。內證話。

【忍垢】19（ニンコウ） 恥をしのぶ。忍詬。忍詢。〔莊子、讓王〕強力忍レ垢。〔曹植、上ニ責レ躬應詔詩一表〕忍レ垢苟全、則犯ニ詩人胡顏之譏一。

【忍詢】20（ニンコウ） 恥をしのぶ。忍詬。忍垢。〔左氏、昭、二十〕余不レ忍ニ其詢一。〔注〕詢、恥也。〔呂覽、離俗〕彊力忍レ詢。〔淮南子、氾論訓〕忍レ詢而輕レ辱。〔史記、趙世家〕君所ニ以置ニ毋卹一、爲ニ能忍レ詢。

【忍詬】21（ニンコウ） 恥を忍ぶ。罵詈を忍ぶ。忍詢。忍垢。〔荀子、解蔽〕厚顏而忍レ詬。〔注〕詬、詈也。〔楚辭、離騷〕忍レ尤而攘レ詬。〔注〕詬、恥也。

【忍酷】22（ニンコク） 苦痛をしのぶ。〔南史、梁紀論〕攀號之節、忍ニ酷於踰年一、定省之制、申ニ情于木偶一。

【忍妻】23（シノビヅマ） かくしをんな。かこひもの。

【忍齋】24（ニンサイ） 字號。❶元、申屠致遠(**7**－**21726**‥126)の號。❷清、繼昌(**8**－**27997**‥50)の號。❸清、成縠(**5**－**11544**‥42)の字。❹清、張一鵠(**4**－**9812**‥782)の號。

【忍草】25（ニンサウ） ❶藥草の名。ヒマラヤ山及び雲南に最も多く生ず。〔宋之問、遊ニ法華寺一詩〕晨行蹋ニ忍草一、夜誦得ニ靈花一。❷（シノブグサ） 草の名。羊齒植物の一。㋑夏の觀賞用として根莖をからみ合はせてしのぶ玉を作り、軒下などに吊す。しのぶ。㋺樹幹・岩面などに生ずる。のきしのぶ。

【忍死】26（ニンシ） 死に耐へる。死ぬ程の苦しみをこらへること。〔魏志、明帝紀、注〕魏氏春秋曰、日ニ太子一曰、死乃復可レ忍、朕忍レ死侍レ君。

【忍鷙】27（ニンシ） 殘忍であらあらしいこと。鷙はあらあらしい。〔晁補之、舊唐書雜論〕則天雄猜忍鷙、其在ニ上元間一、僭横始萌。

【忍事】28（ニンジ） ❶事をしのぶ。事に耐へる。忍耐。〔避暑錄話〕灰心緣忍レ事、霜鬢爲論レ兵。❷（シノビゴト） ないしよごと。密事。

【忍事敵ニ災星一】29（ニンジサイセイニテキス） 忍耐はどんな災難をもはらひのぞく。〔通俗編、行事、忍事敵ニ災星一〕司空圖詩。

【忍袖】30（シノブノソデ） 堪へかねて淚にぬれる袖。〔源平盛衰記、三二〕忍ぶの袖をぞ絞られける。

【忍羞】31（ニンシウ） はぢをしのぶ。〔淮南子 道應訓〕能爲ニ社稷一忍レ羞。

【忍醜】32（ニンシウ） はぢをしのぶ。〔逸周書、祭公解〕厚顏忍レ醜、時維大不レ弔哉。

【忍者】33（シノビノモノ） 敵陣、又は人家などに忍び入つて、事情をさぐるもの。間者。探偵。

【忍城】34（オシノシロ） 武藏國忍町に在つた城。

【忍受】35（ニンジュ） 忍びこらへて恥辱などを受ける。

【忍從】36（ニンジュウ） 耐へ忍んで他に從ふこと。

【忍術】37（ニンジュツ） しのびのわざ。人に知られぬやうに身をかくす法。隱身術。

【忍俊】38（ニンシュン） 我知らず笑をもらす。自然と笑顏になる。〔修簫譜傳奇〕我忍俊想ニ從前一、有ニ這般恩愛、那般愁怨一。

【忍所】39（シノビドコロ） ❶かくれひそむ場所。かくれが。❷なつかしく思ふこころ。〔源氏物語、槇柱〕いかでか忍びどころなくはあらん。

【忍緒】40（シノビノヲ） 兜につけてあごに結ぶ紐。〔岡本記〕しのびのをを高紐に結ひ。

【忍辱】41（ニンジョク） ❶はづかしめをしのぶ。〔逸周書、酆保解〕百姓忍レ辱。〔李陵、答ニ蘇武一書〕攘レ臂忍レ辱。〔後漢書、申屠蟠傳〕足下以感ニ無恥之孫激中忍辱之子上。❷佛（ニンニク） 梵語、羼提ksantiの譯。諸の侮辱惱害を忍受して、恚つたり恨んだりせぬこと。六波羅蜜の一。〔法界次第、下之上〕羼提、秦言ニ忍辱一、內心能安ニ忍外所辱境一、故名ニ忍辱一。

【忍辱衣】42（ニンニクエ） 佛袈裟の總名。忍辱の心は一切の外障を防ぐから衣に譬へる。〔法華經、法師品〕如來衣者、柔和忍辱心、是也。〔十訓抄、八〕忍辱衣中石法緣。

【忍辱鎧】43（ニンニクガイ） 佛袈裟をいふ。忍辱の心は能く一切の外難を防ぐ喩。〔釋氏要覽、上、法衣〕如幻三昧經、云ニ無垢衣一、又名ニ忍辱鎧一。〔梁簡文帝、謝三賚納ニ袈裟一啓〕忍辱之鎧、安ニ施九種一功德之

衣、慚二愧八法一。

【忍辱草】44（ニンニクサウ） 佛雪山（セツセン）に生ずるといふ草の名。〔涅槃經、二十七〕雪山有レ草、名爲二忍辱一、牛若食者、則出二醍醐一。

【忍辱仙】45（ニンニクセン） 佛釋迦如來が因位に居り、忍辱仙人となつて忍辱の行を修し、歌利王に其の身を割截されたといふ。〔金剛經〕念下過去於二五百世一作中忍辱仙人上。〔證道歌〕我師得レ見二然燈佛一、多劫曾爲二忍辱仙一。

【忍辱太子】46（ニンニクタイシ） 佛毘婆尸佛の時、波羅奈國の太子の名。孝心が深かつたといふ。〔大方便佛報恩經〕昔毘婆尸佛時、波羅捺國王有二太子一、名二忍辱一、太子之父母病重、醫云、應下以二不レ瞋人肉一爲上レ藥、太子自念、我生來不レ瞋、因名二忍辱一、可レ充二此藥一、遂自割レ肉充レ藥、父母病卽癒。

【忍辱道人】47（ニンジヨクダウジン） 明、朱金芝(**6－14424**‥716)の號。

【忍辱負重】48（ニンジヨクフヂユウ） 事に任ずる者が、世のそしりを忍んで重任を負ひ續け、精勵すること。〔李陵、答二蘇武一書〕故每攘レ臂忍レ辱、輒復苟活。〔孔子家語、致思〕負レ重涉レ遠、不レ擇レ地而休。

【忍辱至二三公一】49（ニンジヨクサンコウニイタル） よくはづかしめをしのべば三公に至る。〔通俗編、仕進、忍辱至二三公一〕晉書列女傳、杜有道妻嚴氏戒レ預書、引レ諺、云云。

【忍心】50（ニンシン） ❶むごい心。殘忍な心。〔詩、大雅、桑柔〕維彼忍心、是顧是復。〔集傳〕忍、殘忍也。❷我慢する。〔白居易、詶二皇甫十早春對レ雪見レ贈詩〕忍レ心三兩日、莫レ作二破齋人一。

【忍人】51（ニンジン） ❶殘忍な人。むごいおこなひをする人。〔左氏、文、元〕蠭目而豺聲、忍人也。〔會箋〕忍、謂二殘虐不仁一也。〔史記、楚世家〕商臣蠭目而豺聲、忍人也。〔蘇軾、刑賞忠孝之至論〕過二乎義一、則流而入二於忍人一。❷（シノビビト）㋑人目を忍んで通ふ人。㋺世を隱れ忍ぶ人。㋩しのびのもの。

【忍水】52（ニンスイ） 佛忍辱の功德の深廣なことを海水に譬へて言つた語。〔大集經、四十七〕忍辱如二大地一、忍水常盈滿。

【忍性】53（ニンセイ） ❶嗜欲の性を堅くこらへる。〔孟子、告子下〕所三以動レ心忍レ性、曾二益其所レ不能。❷性を矯める。〔莊子、列禦寇〕忍レ性以視レ民、而不レ知レ不レ信。〔莊子因〕忍レ性、猶レ云レ矯レ性。❸jen^3 hsing^4 忍耐の心。

【忍聲】54（シノビゴヱ） 他に聞えないやうにひそかにいふ聲。しのびね。こごゑ。〔源平盛衰記、十八、文覺淸水狀天神金〕念珠押揉み、忍聲にて。

【忍笑】55（ニンセウ） 笑を忍ぶ。をかしさをこらへる。〔韓偓、忍レ笑詩〕水精鸚鵡釵頭顫、擧レ袂佯羞忍レ笑時。

【忍摺】56（シノブズリ） 忍捩摺(88)の略。

【忍善】57（ニンゼン） 佛忍耐して善業を修すること。〔法華經、化城喩品〕忍善者增益。

【忍耐】58（ニンタイ） たへしのぶ。こらへる。がまんする。又、そのこと。耐忍。辛抱。堪忍。〔說文、忍、段注〕敢二於不レ殺レ人、亦謂二之忍一、俗所謂忍耐也。

【忍地】59（ニンチ） 佛無生法忍を悟つた地位。〔大集經、九〕是人不レ久得二忍地一。

【忍恥】60（ニンチ） 恥をたへしのぶ。〔左氏、哀、二十七〕對曰、以二能忍レ恥、庶無レ害二趙宗一乎。〔杜牧、題二烏江亭一詩〕勝敗兵家事不レ期、包レ羞忍レ恥是男兒。

【忍竹】61（シノビダケ） 莖が細く、葉が大きい竹。垣の材となる。女竹（メダケ）。〔雍州府志、六〕竹、云云、一種、其莖細長、而其葉片大也、是稱二女竹一、又謂二忍竹一。

【忍痛】62（ニンツウ） いたみをこらへる。〔南齊書、樂頤傳〕與レ母隔レ壁、忍レ痛不レ言。

【忍亭】63（ニンテイ） 小宮山昌嶠の號。小宮山桂軒(**4－7473**‥1599)を見よ。

【忍土】64（ニンド） 佛娑婆世界。又、勘忍世界ともいふ。忍は娑婆の譯。〔梁元帝、光宅寺大僧正法師碑〕轉二金輪於忍土一、策二紺馬於閻浮一。〔沈約、光宅寺刹下銘序〕銷二巨石於賢劫一、極二未來於忍土一。

【忍冬】65（ニンドウ） ❶藥草の名。すひかづら。他の樹に附いて蔓延する。莖は紫色を帶び、葉は尖楕圓形、春夏の交、甘く芳しい小花を開く。〔本草、忍冬〕集解、時珍曰、忍冬在處有レ之、附レ樹延蔓、莖微紫色、對節生レ葉、葉似二薜荔一而靑、有二濇毛一、三四月開レ花、長寸許、一蒂兩花、二瓣、一大一小、如二半邊狀長一、蘂花初開者、蘂瓣俱色白、經二二三日一則色變レ黃、新舊相參、黃白相映、故呼二金銀花一、氣甚芬芳。❷麥門冬の異名。忍凌(76)を見よ。

【忍毒】66（ニンドク） むごい害惡。〔陳烱、討二侯景一文〕大行皇帝、溫嚴恭默、不レ守二鴻名於景一、何有三復加二忍毒一。

【忍忍】67（ニンニン） 忍ぶことのできないさま。〔後漢書、崔琦傳〕將軍令二吾要レ子、今見二君賢者一、情懷二忍忍一、可二亟自逃一。〔注〕忍忍、猶レ不レ忍也。

【忍悖】68（ニンハイ） さからひもとる。心がむごくて理にもとる。悖忍。〔謝莊、泰始元年改元大赦詔〕子業凶嚚自レ天、忍悖成レ性。

【忍暴】69（ニンバウ） 殘忍橫暴。〔後漢書、荀爽傳〕爽見二董卓一、忍暴滋甚、必危二社稷一。

【忍坂】70（オサカ） ❶姓氏。❷大和國の地名。

【忍夫】71（シノビヅマ） かくしをとこ。忍男。〔玉葉集、雜〕しのびづまかへる名殘の移香を。

【忍壁】72（オシカベ） 姓氏。

【忍返】73（シノビガヘシ） 人が忍び入るのを防ぐもの。塀などの上に尖つた竹や釘などを取附けた棚。遮欄。〔犬子集〕軒に刺す菖蒲や忍び返しかな。

【忍勉】74（ニンベン） こらへてつとめる。〔鮑照、松栢篇〕志士惜二牛刀一、忍勉自療治。

【忍步】75（シノビアルキ） 人目を避けてかくれ行くこと。〔源氏物語、夕顏〕六條わたりの御しのびありきのころ。

【忍凌】76（ニンリヨウ） 麥門冬の異名。やますげ。〔本草、麥門冬〕釋名、忍冬・忍凌・不死草・階前草、時珍曰、凌レ冬不レ凋、故謂二之麥門冬一、及有二諸韮・忍冬諸名一。

【忍淚】77（ニンルイ） 淚が出さうになるのをこらへる。泣くことをこらへる。〔杜甫、奉レ送下郭中丞兼二大僕卿一充中隴右節度使上三十韻詩〕漸衰那二此別一、忍レ淚獨含レ情。〔李咸用、送二從兄坤載一詩〕忍レ淚不二敢下一、恐兄情更傷。

【忍路】78（オシヨロ） 北海道後志國の郡名、地名。

【忍元結】80（シノビモトユヒ） 外部から見えぬやうに結ぶ元結。

【忍古齋】81（ニンコサイ） 淸、許庭堅(**10－35298**‥364)の號。

【忍字記】82（ニンジキ） 戲曲の名。元、鄭廷玉撰。第十三尊羅漢が、佛が經を講ずるのをきくうちに凡心が動いて、下界に墮落し、劉氏に託生して劉均佐となつた。そこで佛が正道を失ふのを恐れて彌勒尊佛に囑し、化して布袋和尙となしたといふ筋。其のとき忍の一字を以て示したことから忍字記といふ。

【忍頭陀】83（ニンヅダ） 明、陶汝鼐(**11－41705**‥199)の號。

【忍不住】84 jen^3 pu chu^4 耐へきれない。

【忍不得】85 jen^3 pu tê^2 我慢ができない。

【忍法位】86（ニンボフヰ） 佛七賢位の第六位。忍法は認法、眞實の智慧で、迷悟・因果の法を認知決定すること。卽ち聲聞人の進趣する位を忍法といふ。〔十訓抄、八〕七賢位の中には忍法位もたて。

【忍目附】87（シノビメツケ） 武家の職名。竊に事情を巡察する役。かくしめつけ。

【忍捩摺】88（シノブモヂズリ） 岩代國信夫郡から產する織物。忍草の莖葉を互に打ちちがへて、みだれずりに摺つたもの。忍摺。〔古今集、戀四〕陸奧のしのぶもぢずり誰故に。

【忍尤含垢】89（ニンイウガンコウ） 能く屈辱をしのぶこと。〔楚辭、離騷〕忍レ尤而攘レ垢。〔左氏、宣、十五〕國君含レ垢。

【忍氣吞聲】90（ニンキドンセイ） 怒をこらへて聲にもらさない。しのびこらへる。〔紅樓夢、二十回〕連忙忍レ氣吞レ聲、安二慰他一仍レ舊、睡下出レ汗。

【忍古頭陀】91（ニンコヅダ） 淸、楊山松(**6－15112**‥550)の號。

【忍不下去】92 jen^3 pu hsia^4 ch'ü^4 此の上我慢はできない。

【書二忍字一百】93（ニンノジヲシヨスルコトヒヤク） 唐の張公藝が、一家の和合は忍耐に在りとして、忍の字百餘を書いて高宗に對へた故事。〔舊唐書、張公藝傳〕鄆州壽張人張公藝、九代同居、北齊時、東安王高永樂、詣レ宅慰撫旌表焉、隋開皇中、大使邵陽公梁子恭亦親慰撫、重表二其門一、貞觀中、特敕レ吏加二旌表一、麟德中、高宗有レ事二泰山一、路過二鄆州一、親幸二其宅一、問二其義由一、其人請二紙筆一、但書二百餘忍字一、高宗爲レ之流涕、賜以二縑帛一。

【忍字家中寶】94（ニンノジハカチユウノタカラ） 忍の一字は家中の寶であるといふ諺。書二忍字一百を見よ。

【忍飢與賒死同】95 jen^3 chi^1 yü^3 shê^1 ssŭ^3 t'ung^2 飢を忍ぶは死期をゆるめると同じ苦

しみである。

【忍之一字衆妙之門】96 ニンノイチジハシユウメウノモン 忍の一字は萬事を成功させる根本である。萬事の成功は忍ぶことから生ずる。〔呂本中、官箴〕忍之一字、衆妙之門、當㆑官處㆑事、尤是先務、若能清愼勤之外、更行㆓一忍㆒、何事不㆑辨。

【忍】10312′ ジン 忍(4－10312)に同じ。

【⿰忄刃】10313 ジン 忍(4－10312)に同じ。〔集韻〕忍、或作㆑⿰忄刃。

参考 忉(4－10305)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕忉、音刀、憂心貌。⿰忄刃、同㆑忍。

【忎】10314 ジン 仁(1－349)の古字。〔說文〕仁、忎、古文仁从㆓千心㆒。

【忏】10315 ㈠セン 〔集韻〕七典切 銑 ㈡セン 〔集韻〕倉先切 先

㈠いかる。〔集韻〕忏、怒也。㈡うつくしい。〔集韻〕忏、方言、自㆑關而西、秦晉之閒、呼㆑好爲㆑忏。

【忐】10316 ㈠タン 〔五音集韻〕吐敢切 ㄊㄢˇ $t'an^3$ 感 ㈡カウ キヤウ 〔字彙補〕口梗切 梗

㈠㈡❶心がむなしい。忐忑(1)を見よ。❷恐れる。〔正字通〕忐、懼也。

【忐忑】1 タントク ❶心がむなしい。又、心の懇到なこと。〔五音集韻〕忐、忐忑、心虛也。〔道藏、三元經〕心心忐忑。❷畏れる。びくびくする。〔長生殿、偵報〕口兒嗟、意中忐忑。

【忐忐忑忑】2 $t'an^3$ $t'an^3$ $t'\hat{e}^4$ $t'\hat{e}^4$ びくびくする。氣味惡くおどおどする形容。

【忑】10317 ㈠トク 〔五音集韻〕他德切 ㄊㄜˋ $t'\hat{e}^4$ 職 ㈡タウ トウ 〔字彙補〕端討切 皓

㈠㈡❶心がむなしい。忐忑。〔五音集韻〕忐、忐忑、心虛也。❷恐れる。〔正字通〕忑、懼也。

【⿰忄下】10318 カ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿰忄下、音下。

【忒】10319 トク 〔集韻〕惕得切 ㄊㄜˋ $t'\hat{e}^4$ 職

小篆

❶かはる。あらたまる。〔說文〕忒、更也、从㆑心弋聲。〔爾雅、釋言〕爽、忒也。〔孫注〕忒、變雜不㆑一。〔詩、大雅、瞻卬〕鞫㆑人忮忒。〔傳〕忒、變也。〔詩、魯頌、閟宮〕享祀不㆑忒。〔箋〕忒、變也。❷たがふ。〔廣雅、釋詁四〕忒、差也。〔易、觀〕觀㆓天之神道㆒、而四時不㆑忒。〔虞注〕忒、差也。〔易、豫〕日月不㆑過、而四時不㆑忒。〔虞注〕忒、差迭也。〔詩、大雅、抑〕昊天不㆑忒。〔釋文〕忒、差也。〔呂覽、先己〕其儀不㆑忒。〔注〕忒、差也。〔孔子家語、六本〕其命不㆑忒。〔注〕忒、差也。❸うたがふ。〔詩、曹風、鳲鳩〕其儀不㆑忒。〔傳〕忒、疑也。〔疏〕執㆑義如㆑一、無㆓疑貳之心㆒。❹わるい。〔書、洪範〕民用僭忒。〔傳〕忒、惡也。❺はなはだ。非常に。〔朱子全書、學〕精義、諸老先生說、非㆑不㆑好、只是說得忒寬。〔新方言、釋詞〕今人謂㆑過曰㆑忒、如㆘過長曰㆓忒長㆒、過短曰㆗忒短㆖。❻慝(4－11100)に通ず。〔書、洪範〕民用僭忒。〔漢書、王嘉傳〕民用僭慝。❼貣(10－36666)に通ず。〔正字通〕忒、與㆑貣通。〔書、洪範〕衍忒。〔史記、宋微子世家〕衍貣。❽貸(10－36709)に通ず。〔正字通〕忒、與㆑貸通。〔易、豫〕四時不㆑忒。〔釋文〕忒、京本作㆑貸。

【忒瞧】1 トクサイ 甚だ。瞧は煞・殺に同じ。忒煞。忒殺。

【忒殺】2 トクサツ トクサイ 甚だ。餘りに。忒煞。〔通俗編、語辭、忒瞧〕朱子答㆓張敬夫㆒書、孟子好㆑辯一章、只爲見㆓得天理忒瞧分明㆒、便自然如㆑此住不㆑得、按、忒煞爲㆓太甚之辭㆒、元人樂府、忒殺風流・忒殺思、皆假㆓借殺字㆒、白居易半開花詩、西日憑輕照㆓東風㆒、莫殺吹殺亦謂㆑甚、自注云、去聲、羅鄴詩、江似㆓秋嵐㆒不㆓煞流㆒、則又用㆑煞。

【忒煞】3 トクサツ トクサイ 甚だ。忒殺に同じ。〔朱子全書、孟子〕答㆓公都子好㆑辯一章、三復之餘、廢㆑書太息、只爲見㆓得天理忒煞分明㆒、便自然如㆑此住不㆑得。〔元曲、秋胡戲妻〕非㆑關㆓是我女兒忒煞會粧㆒麼。

【忒兒】4 トクジ 舌打ちの聲。ちえつ。〔紅樓夢、二十八回〕他就忒兒一聲飛了、口裡說者。

【忒耳迷】5 トクジメイ 元代の西北の地名。漢代の且末(1－29··26)。

【忒嘽嗻】6 トクシヤシヤ 披き張る。〔通俗編、狀貌、觰沙〕按、觰沙、披張貌、元人謂㆓事太張大㆒曰㆓忒嘽嗻㆒、高文秀曲中用㆑之、蓋卽觰沙之轉。

【忒里蹇】7 トリチエン 遼の國語で、皇后の稱。〔遼史、國語解〕忒里蹇、遼皇后之稱。〔焚椒錄〕上出㆓十香詞㆒、后曰、此宋國忒里蹇所㆑作。

【忒楞楞】8 トクロウロウ ❶窓紙が風に響く音。〔西廂記、張君瑞鬧㆓道場㆒雜劇〕淅零零的風兒透㆓疎櫺㆒、忒楞楞的紙條兒鳴。❷鳥の飛ぶ音。〔通俗編、聲音、忒楞楞〕鳥飛聲、見㆓鄭德輝倩女離魂曲㆒。

【忓】10320 ㈠カン 〔集韻〕居寒切 寒 ㈡ガン 〔集韻〕俄干切 寒 ㈢カン ガン 〔集韻〕侯旰切 翰

小篆

㈠❶きはめる。又、をかす。〔說文〕忓、極也、从㆑心干聲。〔段注〕極者、屋之高處、干者、犯也、忓者、以㆑下犯㆑上之意。〔正字通〕忓、干・忓通、說文、忓、極也、分爲㆑二非。❷みだす。〔字彙〕忓、擾也。〔唐書、壽安公主傳〕無㆑忓㆓時事㆒。〔白居易、傷㆑宅詩〕洞房溫且清、寒暑不㆑能㆑忓。㈡㈢❶よい。〔廣雅、釋詁一〕忓、善也。❷うつくしい。〔廣雅、釋詁一〕忓、好也。

【⿰忄于】10321 ク 〔集韻〕匈于切 虞

小篆

❶うれへる。もと⿰忄亏(4－10322)に作る。〔中華大字典〕⿰忄于、本作㆑⿰忄亏。〔說文〕⿰忄亏、恴也、从㆑心亏聲、讀若㆑吁。〔正字通〕⿰忄于、憂也。❷或は⿰忄夸(4－10563)に作り、通じて盱(8－23124)に作る。〔集韻〕⿰忄于、或从㆑夸、通作㆑盱。

【⿰忄亏】10322 ク ⿰忄于(4－10321)に同じ。〔正字通〕⿰忄于、說文作㆑⿰忄亏。

【忔】10323 ㈠キツ コチ 〔集韻〕許訖切 ㄍㄜˋ ko^4 物 ㈡ギツ ゴチ 〔集韻〕魚乙切 物 ㈢キ 〔集韻〕馨夷切 支

㈠よろこぶ。〔集韻〕忔、博雅、喜也。㈡きらふ。〔集韻〕忔、心不㆑欲也、史記、數忔㆓飲食㆒。㈢よろこぶさま。〔集韻〕忔、廣雅、喜皃。

【忔】10324

［一］ギツ ゴチ 〔集韻〕魚乙切 物

［二］キツ コチ 〔集韻〕許訖切 物

［一］おろかなさま。疙（7－22032）に同じ。〔集韻〕疙、癡皃、或作ㇾ忔。［二］おろかなさま。［一］に同じ。〔集韻〕忔、癡皃。

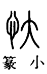
【忕】10325

［一］タイ ダイ 〔集韻〕徒蓋切 ㄊㄞˋ tʻai^4 泰

［二］セツ ゼチ 〔集韻〕食列切 ㄕˋ shih^4 屑

［三］セイ ゼイ 〔集韻〕時制切 霽

［四］エイ 〔集韻〕以制切 霽

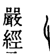

小篆（段注本）

［一］❶習ふ。〔說文〕忕、習也、从ㇾ心大聲。〔段注〕此篆、各本作ㇾ⿰忄曳、解云、曳聲、今正、詩四月正義・蕩釋文、皆引㆓說文、忕、習也㆒、是唐初本有㆓忕篆㆒。〔爾雅、釋詁〕貫、習也、〔注〕貫、貫忕也。〔疏〕郭云㆓串厭、串貫、貫伏也、今俗語皆然㆒者、當㆓東晉時㆒、有㆓此厭串貫伏之語㆒、故以爲ㇾ證也。〔禮、表記〕蕩而不ㇾ靜、〔注〕以㆔本忕㆓於鬼神虛無之事㆒。〔疏〕忕、串也、習也。❷こまかに見る。あきらかに見る。〔管子、小匡〕曹孫宿其爲ㇾ人、小廉而苛忕。〔注〕忕、察也。❸おごる。〔集韻〕忕、奢也。〔後漢書、西南夷傳〕人俗豪忕。〔注〕忕、奢侈也。〔晉書、何曾傳〕劉毅劾㆓曾侈忕無ㇾ度。❹忲（4－10385）・⿰忄泰（4－10994）に同じ。〔集韻〕忕、或作ㇾ⿰忄泰、通作ㇾ忲。［二］［三］［四］❶習ふ。［一］の❶に同じ。〔集韻〕忕、習也。❷なれる。〔集韻〕忕、狃忕、過度。

參考 ❶篆文は、段玉裁が說文に⿰忄曳、習也、从ㇾ心曳聲とあるを改めたもの。字解［一］の❶を見よ。❷［二］［三］［四］は集韻、⿰忄犬に作り、康熙字典も亦⿰忄犬に載せてゐるが、今、宋本の集韻、又、類篇に據つて改め、ここに置く。〔集韻考正〕⿰忄犬、案、⿰忄犬當㆘从㆓類篇㆒作㆖忕。

【忖】10326

ソン 〔集韻〕取本切 ㄘㄨㄣˇ tsʻuen^3 阮


小篆

❶はかる。おしはかる。〔說文新附〕忖、度也、从ㇾ心寸聲。〔華嚴經音義、上〕忖、珠叢曰、忖、測度也。❷おもふ。〔廣韻〕忖、思也。❸きる。わる。刌（2－1870）に通ず。〔字彙補〕忖、與ㇾ刌同。〔禮、玉藻〕瓜祭㆓上環㆒、〔注〕上環、頭忖也。〔疏〕忖、切也。〔漢書、律歷志上〕以㆓成之數㆒忖㆓該之積㆒。〔注〕孟康曰、忖、除也。❹或は寸（4－7411）に作る。〔集韻〕忖、或省。〔詩、小雅、巧言〕予忖㆓度之㆒。〔釋文〕忖、本又作ㇾ寸。❺姓。〔萬姓統譜〕忖、見㆓姓苑㆒。

【忖乙】1 ソンイツ 春秋、齊の人。管仲に誅せられた。孔子は之を少正卯に比す。荀子には付里乙に作り、說苑には史附里に作る。〔通志、氏族略、上聲〕忖氏、齊有㆓忖乙㆒、管仲誅ㇾ之。

【忖想】2 tsʻuen^2 hsiang^3 おしはかる。想像する。忖量。

【忖思】3 tsʻuen^3 ssŭ^1 想像する。推察する。

【忖度】4 ソンタク おもひはかる。おしはかる。人の意中を推量する。〔詩、小雅、巧言〕他人有ㇾ心、予忖㆓度之㆒。〔新語、道基〕忖㆓度天地㆒、危而不ㇾ傾。〔後漢書、順烈梁皇后紀〕私自忖度。〔吳志、諸葛瑾傳〕忖㆓度之㆒。〔韓愈、柳州羅池廟碑〕莫ㇾ不㆓忖度而後從ㇾ事。

【忖量】5 tsʻuen^3 liang^2 推量する。推察する。

【忖留神】6 ソンリウシン 神の名。〔水經、渭水注〕石柱橋、舊有㆓忖留神像㆒、此神嘗與㆓魯班㆒語、班令㆓其人出㆒、忖留曰、我貌很醜、卿善圖㆓物容㆒、我不ㇾ能ㇾ出、班於ㇾ是拱ㇾ手與言曰、出ㇾ頭見ㇾ我、忖留乃出ㇾ首、班於ㇾ是以ㇾ脚畫ㇾ地、忖留覺ㇾ之、便還沒ㇾ水、故置㆓其像於水㆒。

【⿰忄女】10327

ジョ ニョ 〔集韻〕如倨切 御

はかる。〔集韻〕⿰忄女、度也。

【⿱夂心】10328

［一］ジョ

［二］ド

［一］恕（4－10560）の古字。〔說文〕恕、⿱夂心、古文、省。［二］怒（4－10439）の古字。〔集韻〕怒、說文、恚也、古作ㇾ⿱夂心。

【⿱工心】10329

キョウ

恐（4－10552）の古字。〔說文〕恐、⿱工心、古文。

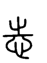
【⿰忄工】10330

コウ ク 〔集韻〕沽紅切 東

心いそぐ。〔玉篇〕⿰忄工、心急也。〔集韻〕⿰忄工、急意。

【志】10331

シ 〔集韻〕職吏切 ㄓˋ chih^4 寘


小篆

❶こころざし。㋑こころばせ。意向。志向。〔說文〕志、意也、从㆓心㞢㆒、㞢亦聲。〔廣雅、釋詁三〕志、意也。〔禮、檀弓上〕子蓋ㇾ言㆓子之志於公㆒乎。〔注〕志、意也。〔禮、孔子閒居〕志之所ㇾ至。〔注〕志、謂㆓思意㆒也。〔論語、學而〕父在觀㆓其志㆒。〔皇疏〕志、謂㆓在ㇾ心未ㇾ行也。㋺のぞみ。ねがひ。〔左氏、哀、十七〕過㆓於其志㆒。〔注〕志、望也。〔論語、先進〕亦各言㆓其志㆒也。㋩心。本心。〔左氏、隱、元〕謂㆓之鄭志㆒。〔左氏、襄、二〕謂㆓之宋志㆒。〔列子、湯問〕汝志彊而氣弱。〔注〕志、心知也。〔素問、血氣形志論〕形樂志苦。〔注〕志、謂㆓心志㆒。㋥意志。〔鬼谷子、陰符〕志者、欲之使也。㋭感情。〔禮、曲禮上〕志不ㇾ可ㇾ滿。〔疏〕六情徧具、在ㇾ心未ㇾ見爲ㇾ志。〔左氏、昭、二十五〕以制㆓六志㆒。〔疏〕情動爲ㇾ志。❷こころざす。むかふ。めざす。〔論語、爲政〕吾十有五、而志㆓於學㆒。〔皇疏〕志者、在ㇾ心之謂也。〔論語、述而〕志㆓於道㆒。〔集解〕何晏曰、志、慕也。〔皇疏〕志者、在ㇾ心向慕之謂也。❸私意。私心。〔禮、少儀〕義與、志與。〔注〕義、正事也、志、私意也。❹義を守る。〔孟子、滕文公下〕志士不ㇾ忘ㇾ在㆓溝壑㆒。〔注〕志士、守ㇾ義者也。❺德。〔呂覽、遇合〕太上以ㇾ志。〔注〕志、德也。❻ねらふ。又、ねらひ。準的。〔書、盤庚上〕若㆓射之有ㇾ志。〔傳〕當ㇾ如㆓射之有ㇾ所㆓準志㆒。❼知る。〔禮、緇衣〕爲ㇾ下可㆓述而志㆒也。〔注〕志、猶ㇾ知也。❽はかる。〔儀禮、大射儀〕不㆓以ㇾ樂志㆒。〔注〕志、意所㆓擬度㆒也。❾しるす。識（10－35974）の古字。〔說文通訓定聲〕志、此字、大徐補㆓入說文㆒、爲㆓十九文之一㆒、云、按、卽識字之古文。〔廣雅、釋詁二〕志、識也。㋑おぼえる。記憶する。〔禮、哀公問〕子志㆓之心㆒。〔注〕志、讀爲ㇾ識。〔列子、湯問〕夷堅聞而志ㇾ之。〔釋文〕志、記ㇾ之也。㋺かきとめる。記錄する。〔周禮、春官、保章氏〕掌㆓天星㆒、以志㆓星辰日月之變動㆒。〔注〕志、古文識、記也。❿しるし。㋑めじるし。〔禮、檀弓上〕公西赤爲ㇾ志焉。〔注〕志、謂㆓章識㆒。㋺はた。のぼり。〔史記、張丞相傳〕爲㆓職志㆒。〔注〕索隱曰、志、旗幟也。⓫記錄。古書。〔周禮、春官、小史〕掌㆓邦國之志㆒。〔注〕志、謂ㇾ記也、春秋傳所謂周志、國語所謂鄭書之屬、是也。〔左氏、襄、二十五〕志有ㇾ之。〔注〕志、古書也。〔呂

覽、貴當〕志曰、驕惑之事。〔注〕志、古記也。〔孔子家語、正論解〕志有レ之。〔注〕志、古之書也。⓬**文體の名**。**物事の記錄**。誌(**10**-**35501**)に通ず。〔文體明辯、志〕字書云、志者、記也、字亦作レ誌、其名起二於漢書十志一、而後人因レ之、大抵記レ事之作也。⓭**箭の一種**。嵡(**9**-**28640**)に通ず。〔說文通訓定聲〕志、叚借爲レ嵡。〔爾雅、釋器〕骨鏃不レ翦レ羽、謂二之志一。〔儀禮、既夕禮記〕志矢一乘。〔注〕志、猶レ擬也、習レ射之矢。〔疏〕凡射、志意有レ所二準擬一、故云二志猶レ擬也一。⓮娭(**3**-**6341**)に通ず。〔說文通訓定聲〕志、叚借爲レ娭。⓯古は㞢(**4**-**10373**)に作る。⓰䓋(**9**-**31054**)に通ず。〔爾雅、釋草〕遠志。〔釋文〕志、字又作レ䓋。⓱娡(**3**-**6325**)に通ず。〔大戴禮、帝繫〕女志。〔廣韻〕女娡。⓲誌(**10**-**35501**)に通ず。〔字彙〕志、與レ誌同。⓳幟(**4**-**9080**)に通ず。〔史記、叔孫通傳〕張二旗志一。〔注〕集解曰、志、一作レ幟。⓴**姓**。〔萬姓統譜〕志、見二姓苑一、元志能、知二歸德府一。㉑**現** シリング。英國の貨幣 shilling の音譯字として用ひる。**邦** **さくわん**。衞府衞門の四等官。

解字 會意形聲。之と心との合字。之はゆく意、心の之き向ふところをいふ。之は又音符。說文通訓定聲は識の古文としてゐる。

參考 志の字形は、或は志に作るものがあるが、今、士・心に從つて志とする。

【志安】1 シアン 字號。❶南朝宋、劉凝之(**2**-**2224**··817)の字。❷明、方定(**5**-**13620**··363)の字。

【志伊】2 シイ ❶字號。㋑明、尹良佐(**4**-**7631**··145)の字。㋺清、孫樾(**3**-**6987**··82)の字。❷清、吳任臣(**2**-**3365**··688)の名。

【志意】3 シイ こころざし。こころばえ。意思。〔禮、樂記〕聽二其雅頌之聲一、志意得レ廣焉。〔禮、祭義〕齊之日、思二其居處一、思二其笑語一、思二其志意一。〔莊子、盜跖〕不レ能下設二其志意一、養中其壽命上。〔荀子、脩身〕志意脩則驕二富貴一。〔荀子、脩身〕凡用二血氣・志意・知慮一、由レ禮則治通。〔鬼谷子、捭闔〕志意・喜欲・思慮・智謀。〔晏子、問、上〕志意不レ通。〔戰國、燕策〕胡與二越人一、言語不二相知一、志意不二相通一、同レ舟而陵レ波、至二其相救助一如レ一也。〔曹植、公讌詩〕飄颻放二志意一、千秋長若レ斯。

【志友】4 シイウ 元、徐明善(**4**-**10110**··638)の字。

【志銳】5 シエイ 清、滿洲鑲紅旗人。字は伯愚。謚は文貞。光緒の進士。文學を嗜み、盛昱等と友交があつた。官は伊犂將軍。清末、民軍が起つた時、節に殉ず。〔清史稿、四百七十六〕・〔碑傳集補、三十四〕。

【志衍】6 シエン 明、吳繼善(**2**-**3365**··534)の字。

【志遠】7 シヱン 字號。❶後魏、游明根(**7**-**17792**··355)の字。❷明、歐陽誠(**6**-**16185**··79)の字。

【志可】8 カシ 清、沈士則(**6**-**17189**··514)の字。

【志賀】9 ガシ 近江國大津の地名。

【志賀穴太】10 シガノアナホ 姓氏。〔拾芥抄〕。

【志賀理齋】11 シガリサイ 名は忍。字は子堪。通稱は鍋太郞・理助。號は理齋・天鷄山人・叡北山樵・我樂多老人。天保十一年一月十二日歿す、年七十九。幕府の世臣で大阪町奉行。專ら心を經史に潛め、兼ねて國典に精通す。又、狂歌に巧。著に埋木物語・燕雀談・老の繰言・堪忍の守・君が惠・御苑之記・勸學文和解・官暇錄・滑稽叢語・衣更着紀行・坐間狂歌集・坐間狂文集・坐間滑稽古・三省錄・續三省錄・忍艸・祝融錄・信綱錄・聖堂試文ととまじり・續武篇類聚・袖の時雨・朝鮮日新錄・筆塵・筆のたはふれ・耳の枝折・藥法伊呂波韻・彌生の夢・夢の跡・宵なから記・理齋筆・理齋狂歌狂文集(歌二、文五)・理齋隨筆・理齋日新錄・我菴話がある。〔近代著述目錄後篇〕・〔慶長以來諸家著述目錄〕。

【志賀月明夜陽爲二鳳輦巡一】12 シガゲツメイノヨ、イツハリテホウレンノジユンヲナス 後醍醐帝が北條高時を誅伐しようとなさつたとき、大納言藤原師賢が首として其の謀に與つた。既にして事が洩れ、高時は兵を遣して將に帝を遷し奉らうとしたので、師賢は帝と詐稱して志賀から比叡山に登つて賊軍を牽制し、帝は難を免れて笠置に行幸し給うた。〔藤田東湖、和二文天祥正氣歌一〕志賀月明夜、陽爲二鳳輦巡一、芳野戰酣日、又代二帝子屯一。

【志介】13 シカイ 志意と節操。志節。〔楚辭、九章、悲回風〕夫何彭咸之造レ思兮、暨二志介一而不レ忘。〔注〕介、節也、云云、欲三與齊二志節一、而不レ能レ忘也。〔後漢書、皇甫嵩傳〕少有二文武志介一。

【志槩】14 シガイ 志操(50)に同じ。槩は操。〔北史、常爽傳〕爽少而聰敏、嚴正有二志槩一。

【志向】15 シカウ こころざし。心の赴きむかふ所。目的。又、志し向ふ。

【志好】16 シカウ こころざしこのむこと。嗜好。〔詩、大雅、既醉、朋友攸レ攝、箋〕朋友、謂下羣臣同二志好一者上也。〔茅亭客話〕陳季長喜藏レ書、復混以二名畫・古琴、瑰異雅逸之玩一、雖二齒已暮一、而志好益堅。

【志行】17 シカウ ❶こころざしとおこなひ。志向と品行。〔國語、吳語〕志行不レ足二以聽一レ命者。〔韓詩外傳、三〕高明至賢、志行全成。〔管子、八觀〕不レ論二志行一。〔墨子、經說上〕志行、名也。〔後漢書、樊準傳〕少勵二志行一、脩二儒術一。〔南史、袁泌傳〕志行修謹。❷志と行とがすぐれてゐること。〔漢書、傳喜傳〕少好二學問一、有二志行一。❸志が行はれる。〔易、升〕南征吉、志行也。〔疏〕其志得レ行也。❹字號。㋑元、楊剛中(**6**-**15112**··455)の字。㋺明、陳幼學(**11**-**41698**··672)の字。

【志浩】18 シカウ 明、謝廣(**10**-**35827**··56)の字。

【志高】19 シカウ ❶字號。㋑明、丘陵(**1**-**33**··116)の字。㋺明、孫陞(**3**-**6987**··173)の字。❷明、胡子昭(**9**-**29400**··479)の初名。

【志康】20 シカウ 宋、孫緦(**3**-**6987**··101)の字。

【志衡】21 シカウ 明、錢鈞(**11**-**40563**··55)の字。

【志格】22 シカク こころざしが上品なこと。意向が高雅なこと。〔晉書、前燕、李產載記〕李產、字子喬、范陽人也、少剛厲、有二志格一。

【志學】23 シガク ❶學問に志す。志學之年を見よ。〔禮、學記〕君子察二於此三者一、可三以有レ志二於學一矣。〔馬戴、下第別二部扶一詩〕平生空志レ學、晚歲拙レ謀レ身。❷志すことと學ぶこと。〔周子通書、志學〕志二伊尹之所一レ志、學二顏子之所一レ學。❸十五歲をいふ。志學之年を見よ。❹字號。㋑明、禰明德(**8**-**24812**··1)の字。㋺明、余志(**1**-**515**··31)の字。㋩清、施是式(**5**-**13629**··152)の字。

【志學錄】24 シガクロク 書名。八卷、續錄三卷。清、方宗誠撰。宗誠が玉峰に從學し、師命に本づいて自得した所を劄記し、光緒三年に其の繁を刪り誤を正し、略〻倫次して一編としたもので、次の八篇に分つ。論立志爲學・論存心謹言愼行處境・論居敬致知讀書窮理・論存養省察克治・論反身體察・論正倫理篤恩誼・論治體治法・論從祀賢儒學術事迹。續錄は光緒十一年の編次で、壬午筆記・癸未筆記・甲申筆記・補遺に分つ。立論純正で、能く朱子の眞髓を得てゐる。就中、續錄は晚年の定論を窺ふに足る。〔柏堂遺書、二十六冊―二十八冊〕。

【志學之年】25 シガクノトシ 十五歲をいふ。孔子が十五歲で學に志したことによる。〔論語、爲政〕吾十有五而志二於學一、三十而立、四十而不レ惑、五十而知二天命一、六十而耳順、七十而從二心所一レ欲、不レ踰レ矩。

【志氣】27 シキ ❶こころざし。事を成さうとする意氣ごみ。心の勢。氣は、氣力の氣。〔禮、孔子閒居〕志氣塞二乎天地一。〔新語、術事〕志氣調者、卽道沖。〔後漢書、賈復傳〕賈君之容貌・志氣如レ此。〔魏志、董昭傳〕志氣百倍。〔孔子家語、問玉〕志氣如レ神。〔嵇康、與二山巨源一絕交書〕志氣所レ託。❷志と氣。〔二程子全書、志氣〕或問、人或倦怠、豈志不レ立乎、曰、若二是氣一、體勞後須レ倦、若二是志一、怎生レ倦得、人只爲二氣勝レ志、故多爲二氣所一レ使、如二人少而勇、老而怯、少而廉、老而貪一、此爲二氣所一レ使者也、若二是志勝一レ氣時、志既一定、更不レ可レ易、如二曾子易簀之際一、其氣之微可レ知、只爲二他志已定一、故雖二死生許大事一、亦動レ他不レ得、蓋有二一絲髮氣在一、則志猶在也。❸志の氣。心を活動させる氣。〔朱子全書、性理〕氣一也、主二於心一者、則爲二志氣一、主二於形體一者、卽爲二血氣一。

【志氣之帥】28 ココロザシハキノスイ 志は心の發動であつて、一身の主宰として氣を帥ゐてゆくものであ

る。〔孟子、公孫丑上〕志、氣之帥也、氣、體之充也。〔集注〕志、固心之所㆑之、而爲㆓氣之將帥㆒、然氣亦人之所㆘以充㆓滿於身㆒而爲㆗志之卒徒㆖者也。

【志義】29 シギ ㊀正義にこころざす。又、志が正しいこと。〔禮、樂記〕君子聽㆓琴瑟之聲㆒、則思㆓志㆑義之臣㆒。〔後漢書、召馴傳〕以㆓志義㆒聞㆓鄉里㆒。㊁心に考へてゐること。義は意義・意味。〔荀子、正名〕君子之言、云云、彼正㆓其名㆒、當㆓其辭㆒、以務㆑白㆓其志義㆒者也、彼名辭也者、志義之使也、足㆓以相通㆒則舍㆑之矣。

【志紀】30 シキ 姓氏。〔姓名錄抄〕。

【志局】31 シキヨク 意志と器量。〔魏志、荀彧傳、注〕功名者、志局之所㆑獎也、然則志局自一物耳、固非㆔識之所㆓獨濟㆒也。

【志鈞】32 シキン 清、滿洲の人。謚は貞愍。光緒中、乾清門侍衞に充てられ、散秩大臣を委ねられた。拳匪の亂が起り、各國の聯合軍が至ると聞き、諸奴を遺し、幼子を護つて鄉村中に匿まひ、妻妾長子と、皆、中堂に縊れて死す。〔清史稿、四百七十四〕。

【志怪】33 シクワイ 怪しいことをしるす。〔莊子、逍遙遊〕齊諧者、志㆑怪者也。〔晉書、祖台之傳〕撰㆓志怪書㆒、行㆓於世㆒。

【志完】34 シクワン 宋、鄒浩（**11－39562**‥10）の字。

【志寛】35 シクワン 唐の高僧。河東の姚氏の子。諸經を博覽し、涅槃地論を以て心要とす。〔續高僧傳、十五〕。

【志寰】36 シクワン 明、陳所學（**11－41698**‥995）の號。

【志願】37 シグワン こころざしねがふところ。こころざし。ねがひ。のぞみ。希望。〔嵇康、與㆓山巨源㆒絕㆑交書〕濁酒一盃、彈琴一曲、志願畢矣。〔王羲之、與㆓謝萬㆒書〕老夫志願、盡㆓於此㆒也。〔金史、王若虛傳〕東遊㆓泰山㆒、至㆓黃峴峰㆒、憩㆓萃美亭㆒、顧謂㆓同遊㆒曰、誠得㆑終㆓老此山㆒、志願畢矣。

【志願者】38 シグワンシヤ 志願する人。のぞみて。

【志願兵】39 シグワンヘイ 兵役に服することを志願してなつた兵士。

【志計】40 シケイ かんがへ。はかりごと。又、志と計畫。〔後漢書、公孫述傳論〕以㆓文俗㆒自憙、遂能集㆓其志計㆒。〔魏志、武帝紀、注〕志計已定、人有㆑勸㆑術、遂卽㆓帝位㆒、露㆓布天下㆒。

【志驕】41 シケウ 志がおごる。考へ方がおごつてゐる。〔淮南子、人閒訓〕氣充志驕。〔論衡、問孔〕孔子恐㆓子貢志驕意溢㆒、故抑㆑之也。

【志業】42 シゲフ ㊀志と業。〔沈約、臨川王子晉南康侯子恪遷授詔〕志業清敏、器尚夷通。〔宋史、選擧志一〕淳化三年、廷試、帝諭㆓多士㆒曰、爾等各負㆓志業㆒、效㆑官之外、更勵㆓精文采㆒、無㆑墜㆓前功㆒也。㊁貢賦の義務を心にしかととどめる。〔左氏、昭、十三〕國家之敗、有㆑事而無㆑業、事則不㆑經、有㆑業而無㆑禮、經則不㆑序、云云、明王之制、使㆔諸侯歲聘以志㆑業、閒朝以講㆑禮、再朝而會以示㆑威、再會以盟、以顯㆓昭明㆒。〔注〕業、貢賦之業、志、識也、歲聘以脩㆓其職業㆒。〔會箋〕業者、所㆑職之貢獻也。

【志健】43 シケン 明、孫堪（**3－6987**‥48）の字。

【志言】44 シゲン 宋の高僧。壽春の許氏の子。東京の景德寺で剃髮し、奇行が多く、飲啗を擇ばず、時人は呼んで狂とした。〔新續高僧傳、三十六〕。

【志古】45 シコ 古の道に志す。〔孔子家語、五儀解〕生㆓今之世㆒、志㆓古之道㆒。

【志古居士】46 シココジ 唐、富嘉謨（**3－7230**‥177）の號。

【志鼓】47 シコ こころざしはげむ。

【志功】48 シコウ 志と功。動機と結果。〔墨子、大取〕志功爲㆑辯。

【志齋】49 シサイ 字號。㊀宋、鄭穎（**11－39647**‥20）の號。㊁明、高士（**12－45313**‥386）の字。㊂清、唐崇勳（**2－3709**‥457）の字。

【志操】50 シサウ 志と節操。心身のもち方。又、それが堅固で秀れてゐること。秀れた心と操。志節。〔漢書、李尋傳〕陛下志操、衰㆓於始初㆒多矣。〔新書、道術〕志操精果、謂㆓之誠㆒。〔後漢書、趙孝王良傳〕志操不㆑同。〔後漢書、左雄傳〕奏、徵㆓海內名儒㆒爲㆓博士㆒、使㆘公卿子弟爲㆓諸生㆒、有㆓志操㆒者加㆗其俸祿㆖。〔南史、陸琰傳〕幼孤、好㆑學有㆓志操㆒。

【志山】51 シザン 明、袁袠（**10－34152**‥32′）の號。

【志士】52 シシ 高遠雄大な志のある人。道に志を有する人。世を救ふ志のある人。國に盡くす志のある人。義を守る人。節操のある人。又、一說に、智慧のある人。志士仁人・志士不㆑忘㆑在㆓溝壑㆒を見よ。〔史記、豫讓傳〕趙國志士聞㆑之、皆爲涕泣。〔後漢書、班超梁瑾傳論〕班超・梁瑾、奮㆓西域之略㆒、卒能成㆑功立㆑名、享㆓受爵位㆒、薦㆓功祖廟㆒、勒㆓勳于後㆒、亦一時之志士也。〔魏志、董昭傳〕志士不㆑探㆑亂以徼㆑幸。〔陸機、豪士賦序〕志士思㆑垂㆓名於身後㆒也。〔傅玄、雜詩〕志士惜㆓日短㆒、愁人知㆓夜長㆒。〔杜甫、別㆓崔潩㆒因寄㆓薛據・孟雲卿㆒詩〕志士惜㆓妄動㆒、知深難㆓固辭㆒。

【志士仁人】53 シシジンジン 志士と仁人。志士は、道に志を有する人。仁人は、成德の人。〔論語、衞靈公〕子曰、志士・仁人、無㆓求㆑生以害㆑仁、有㆓殺㆑身以成㆑仁。〔集注〕志士、有㆑志之士、仁人、則成德之人也。〔劉寶楠正義〕志士者、孟子滕文公篇、志士不㆑忘㆑在㆓溝壑㆒、趙岐注、志士、守㆑義者也、俞氏樾平議謂、志士卽知士、與㆓仁人㆒爲㆓知仁並擧㆒、其說亦通。〔韓詩外傳、二〕志士・仁人、不㆑忘㆑在㆓溝壑㆒。

【志士如㆓鷹在㆑籠】54 シシハタカノカゴニアルガゴトシ 志ある士は鷹の籠に在るが如く、みづから飛び出ようとする。〔故事成語考、鳥獸〕志士如㆓鷹在㆑籠、自是凌㆑霄有㆑志。

【志士不㆑忘㆑在㆓溝壑㆒】55 シシハコウガクニアルヲワスレズ 志士は、何時でも死を決してゐて、身を溝壑に棄てることを忘れない。〔孟子、滕文公下〕志士不㆑忘㆑在㆓溝壑㆒、勇士不㆑忘㆑喪㆓其元㆒。〔注〕志士、守㆑義者也、君子固窮、故常念㆘死無㆓棺椁㆒、沒㆓溝壑㆒而不㆖㆑恨也。

【志矢】56 シシ 練習用の矢。〔儀禮、既夕禮〕志矢一乘、軒輖中、亦短衞。〔注〕志、猶㆑擬也、習㆑射之矢。

【志慈】57 シジ 清、余鄂（**1－515**‥9）の號。

【志識】58 シシキ 道理に通ずる。有識。〔國朝漢學師承記、一〕夫在㆓當時㆒、豈無㆓明達之人、志識之士㆒哉。

【志尚】59 シシヤウ こころざし。又、志が高尚である。又、其のこと。〔阮籍、詠懷詩〕昔年十四五、志尚好㆓詩書㆒。〔顏氏家訓、勉學〕軍府服㆓其志尚㆒。〔隋書、經籍志四〕屬㆑文之士衆矣、然其志尚不㆑同。

【志彰】60 シシヤウ 明、夙道暹（**3－5755**‥59）の字。

【志上】61 シジヤウ 清、吳允嘉（**2－3365**‥432）の字。

【志弱】62 シジヤク 志が弱い。志意が安靜柔毳である。〔淮南子、原道訓〕得㆑道者志弱而事強、心虛而應當、所謂志弱者、柔毳安靜、藏㆓於不㆑敢、行㆓於不㆑能、恬然無㆑慮、動不㆑失㆑時、與㆓萬物㆒回周旋轉、不㆑爲㆓先唱㆒、感而應㆑之。〔注〕弱、柔也。〔盧亘、送㆓鄧善之㆒詩〕命窮時亦迫、志弱體自孱。

【志取】63 シシユ 藥草の名。沙參の異名。つりがねにんじん。〔本草、沙參〕釋名、別錄、又名㆓文希㆒、一名識美、一名志取。

【志趣】64 シシユ こころのおもむき。心の動き。こころばせ。心もち。意向。志向。〔晉書、阮修傳〕梁國張偉、志趣不㆑常、自隱㆓於屠釣㆒。

【志初】65 シシヨ 明、程汝繼（**8－25081**‥233）の字。

【志書】66 シシヨ 地方の疆域・沿革・古蹟・險要・人物・物產・風俗等を記した書。地理書・縣志・府志・通志・一統志など。〔馬建忠、文通序〕上稽㆓經史㆒、旁及㆓諸子百家㆒、下至㆓志書・小說㆒。

【志舒】67 シジヨ 元、田希呂（**7－21723**‥349）の字。

【志乘】68 シジヨウ 事を記載した書。記錄。歷史。〔杜預、春秋左氏傳序〕周禮有㆓史官㆒、掌㆓邦國四方之事㆒、達㆓四方之志㆒、諸侯亦各有㆓國史㆒、大事書㆓之於策㆒、小事簡牘而已、孟子曰、楚謂㆓之檮杌㆒、晉謂㆓之乘㆒、而魯謂㆓之春秋㆒、其實一也。

【志心】69 シシン こころ。こころざし。〔素問、陰陽類論〕上空㆓志心㆒。

【志仁】70 シジン 字號。㊀宋、楊復（**6－15112**‥340）の字。㊁明、張後覺（**4－9812**‥1040）の字。㊂明、楊茂元（**6－15112**‥795）の字。㊃清、吳謙牧（**2－3365**‥538）の號。

【志趨】71 シスウ しづかに步行する。〔儀禮、聘禮〕下㆑階發㆑氣怡焉再㆔擧足又趨、疏〕是釋㆓志趨㆒爲㆓徐趨㆒、此擧足爲㆓疾趨㆒也。

【志成】72 シセイ 明、羅尹凱（**9－28397**‥294）の字。

【志性】73 シセイ こころ。こころばへ。こころざし。又、秀れた志。〔魏書、李洪之傳〕洪之志性慷慨、多㆑所㆓堪忍㆒。

【志靜】74 シセイ 明、史安（**2－3249**‥1）の字。

【志霄】75 シセウ 清、唐材（**2－3709**‥128）の字。

【志節】76 シセツ こころざしとみさを。又、秀れた志と操。志操（50）に同じ。〔漢書、魏豹田儋韓王信傳贊〕橫之志節、賓客慕㆑義。〔後漢書、祭肜傳〕

彤字次孫、早孤、以二至孝一見レ稱、遇二天下亂一、野無二煙火一、而獨在二家側一、每二賊過一、見三其尙幼而有二志節一、皆奇而哀レ之。〔後漢書、杜林傳〕隗囂素聞二林志節一、深相敬待。〔吳志、張溫傳〕志節汚卑者。〔晉書、劉琨傳〕不幸遭レ難、志節不レ遂。〔顏延之、陽給事誄序〕瓚少稟二志節一。

【志千】77シセン　清、王士鵠（7―20823‥1511）の字。

【志道】78シダウ　❶道に志す。〔論語、里仁〕士志二於道一、而恥二惡衣惡食一者、未レ足二與議一也。❷字號。㋑宋、史正志（2―3249‥233）の字。㋺宋、卓立（2―2741‥74）の字。㋩元、馬臻（12―44572‥334）の字。㋥明、嚴本（2―4589‥232）の字。㋭明、徐永達（4―10110‥338）の字。㋣明、傅安（1―939‥2）の字。㋬明、張以寧（4―9812‥769）の字。

【志託】79シタク　志してゐるところ。〔沈約、與二約法師一書悼二周捨一〕周中書、風趣高奇、志託夷遠、眞情素韻。

【志膽】80シタン　志と度胸。〔後漢書、廉范傳〕帝曰、怪卿志膽敢爾。

【志談】81シダン　❶尾張國の地名。❷姓氏。

【志築】82シツキ　❶淡路國の地名。❷志築鮒（シツキカマス）の腸でつくつた鹽辛。初、淡路國志築から產したからこの名がある。〔和漢三才圖會、江海有鱗魚〕志築鮒、形小不レ過二三四寸一、色淡黑者脂少、其腸作レ醢、名二志築一、自二淡路志築一始出、得レ名、今尾州・勢州之產亦佳。

【志張】83シチヤウ　明、藍渠（9―32258‥17）の字。

【志忠】84シチユウ　❶こころざしが精忠である。〔國史略、桓武天皇〕清爲レ人、識明志忠。❷字號。㋑明、溫景葵（7―17968‥261）の字。㋺明、張純（江陵の人）（4―9812‥407）の字。

【志通】85シツウ　字號。❶陳、魯悉達（12―46013‥167）の字。❷後唐、張敬達（4―9812‥978）の字。

【志貞】86シテイ　明、趙恒（10―37171‥163）の字。

【志鳥】87シテウ　小鳥の名。精衞の異名。海邊に住む。〔述異記〕炎帝女死、化爲二精衞一、偶二海燕一而生レ子、一名鳥誓、一名寃禽、又名志鳥、俗呼二帝女雀一。

【志度】88シド　こころ。はらまへ。度量。〔後趙錄〕狀貌奇異、志度非レ常。

【志同】89シドウ　字號。❶明、賀泰（10―36725‥75）の字。❷明、孫交（3―6987‥29）の字。

【志德】90シトク　❶元の高僧。東昌の鏐氏の子。號は雲巖。慈恩宗を學ぶ。至元中、主講となり、金陵の天禧寺に居る。賜號は佛光大師。〔大明高僧傳、一二〕。❷明、柯鳳翔（6―14658‥53）の字。

【志南】91シナン　字號。❶明、翟鵬（9―28727‥41）の字。❷清、梁鴻翥（6―14825‥246）の字。

【志念】92シネン　❶こころざしおもふ。心につよく思ふ。又、おもひ。〔史記、晏子傳〕今妾觀二其出一、志念深矣、常有二以自下一者。〔王昭君、怨詩〕志念抑沈、不レ得二頡頏一。❷隋の高僧。信都の陳氏の子。經論の玄奧を究む。大業中、卒す。著に迦延雜心論疏・廣鈔がある。〔續高僧傳、十一〕。

【志能】93シノウ　❶こころざしと才能。又、大なる志と才能のあること。〔後漢書、朱祐等傳論〕中興二十八將、前世以爲三上應二二十八宿一、未二之詳一也、然咸能感二會風雲一、奮二其智勇一、稱爲二佐命一、亦各志能之士也。❷元、觀音奴（10―34993‥23）の字。

【志枚】94シバイ　清、錢林（11―40563‥228）の字。

【志望】95シバウ　こころざしのぞむ。又、こころざし。のぞみ。ねがひ。〔吳志、胡綜傳〕當二此之時一、志望高大。〔諸葛亮、絕二盟好一議〕志望既滿。

〖志望者〗96シバウシヤ　志望する人。希望者。

【志磐】97シハン　宋の高僧。咸淳中、四明東湖に住す。著に佛祖統紀がある。〔佛祖統紀序〕。

【志比】98シヒ　姓氏。〔姓名錄抄〕。

【志斐】99シビ　姓氏。〔姓名錄〕。

【志文】100シブン　明、芮麟（9―30731‥18）の字。

【志父】101シホ　春秋、晉の趙鞅の後名。〔左氏、哀、二〕志父無レ罪。〔注〕志父、趙簡子之一名也。

【志浦】102シガノウラ　能登國の地名。

【志輔】103シホ　明、兪大猷（1―1437‥117）の字。

【志慕】104シボ　元、尤山（4―7543‥24）の字。

【志默】105シモク　明、王淵（7―20823‥83）の字。

【志涌】106シヨウ　宋、了然（1―226‥34）の號。

【志量】107シリヤウ　❶志と度量。❷chih⁴ liang²　希望。目的。

【志略】108シリヤク　こころざし。はかりごと。〔後漢書、班超傳〕超爲レ官傭書、投レ筆歎曰、大丈夫無二它志略一、猶當下效二傅介子・張騫一立二功異域一、以取中封侯上、安能久事二筆研閒一乎。〔白居易、祭二微之一文〕行業・志略・政術・文華四科。

【志慮】109シリヨ　こころざし。かんがへ。思慮。〔周禮、考工記、弓人〕凡爲レ弓、各因二其君之躬、志慮血氣一。〔鬼谷子、本經陰符〕志慮忠意。〔諸葛亮、前出師表〕此皆良實、志慮忠純。　「字。

【志龍】110シリヨウ　五代吳、楊濛（6―15112‥364）の字。

【志力】111シリヨク　心のはたらき。〔宋書、徐羨之傳〕直以二志力局度一、一旦居二廊廟一、朝野推服。

【志林】112シリン　書名。❶晉、虞喜撰。〔晉書、虞喜傳〕乃著二安天論一、以難二渾蓋一、又釋二毛詩一、略注二孝經一、爲二志林三十篇一。❷五卷。宋、蘇軾撰。一名、東坡手澤。正しくは東坡志林といふ。墨蹟をあつめたもの。〔四庫提要、子、雜家類〕。

【槩レ志】113ココロザシニハカル　心にかける。〔淮南子、精神訓〕勢位爵祿、何足二以槩一レ志也。

【嗛レ志】114ココロザシニアキタル　滿足する。〔史記、文帝紀〕天下人民、未レ有レ嗛レ志。

【承レ志】115ココロザシヲウク　他人の志をうけつぐ。又、他人の心を迎へて逆はない。〔書、武成〕小子其承二厥志一。〔禮、祭義〕先レ意承レ志。

【遜レ志】116ココロザシヲユヅル　心を抑へる。心を謙虛にする。遜は謙抑する。〔書、說命下〕惟學遜レ志、務時敏、厥修乃來。

【得レ志】117ココロザシヲウ　願望を達成する。志望を遂げる。思ひ通りになる。〔易、賁〕白賁无レ咎、上得レ志也。〔左氏、桓、六〕鬬伯比言二于楚子一曰、吾不レ得二志於漢東一也、我則使レ然。〔杜甫、詠懷詩〕未レ達二善一身一、得レ志行レ所レ爲。

〖得レ志者非二軒冕之謂一〗118ココロザシヲウルトハケンベンノイヒニアラズ　志望を遂げるとは、官爵を得ることをいふのではない。軒は高官の乘る車、冕は高官の被る冠。〔莊子、繕性〕古之所謂得レ志者、非二軒冕之謂一也。

【抱レ志】119ココロザシヲイダク　高い志をもつ。〔晉書、慕容暐載記〕鬱槩待レ時之雄、抱レ志未レ申之傑。

【養レ志】120ココロザシヲヤシナフ　❶父母に事へてその志に違はず、其の心を悅ばしめるやうにする。〔孟子、離婁上〕若二曾子一、則可レ謂レ養レ志也。〔書言故事、孝養類〕順二父母之欲一曰レ養レ志。❷精神修養をする。〔後漢書、梁竦傳〕閑居可二以養一レ志、詩書足二以自娛一。

【志我閉】121シカヘ ヘタツヘ　姓氏。〔姓氏錄〕。　「號。

【志雅齋】122シガサイ　清、蔣元益（9―31820‥142）の

【志雅堂】123シガダウ　宋、周密（2―3441‥482）の室名。

【志壑堂】124シガクドウ　清、唐夢賚（2―3709‥521）の室名。

【志岐傳】125シキテ　雅樂の一。高麗壹越調。古、天皇の元服の時に奏した。　「名。

【志矩齋】126シクサイ　清、彭瓏（4―10003‥128）の室

【志慶眞】127シジマ　琉球の地名。

【志氏姓】128シシセイ　潛夫論の篇名。

【志深里】129シジミノサト　播磨國の地名。

【志不レ偕】130ココロザシトモナハズ　自分の志意は衰へて、志意の盛な君と同じやうなわけにはゆかないといふ意。〔顏延之、和二謝監靈運一詩〕物謝時既晏、年往志不レ偕。〔注〕善曰、言三年既日往、志意已衰、不二與レ子俱一也、云云、毛萇詩傳曰、偕、俱也、俱亦齊同之意也。

【志籠谷】131シロヤ　三河國の地名。

【與レ志違】132ココロザシトタガフ　思ひ通りにならない。事與レ心違（1―241‥159）を見よ。

【志在二千里一】133ココロザシセンリニアリ　志してゐる所が千里の彼方にある。千里の彼方に行かうと志してゐる。志の遠大なること。〔魏武帝、碣石篇〕老驥伏レ櫪、志在二千里一、烈士暮年、壯心不レ已。〔書言故事、走獸類〕意遠、曰三志在二千里一。

【志村五城】134シムラゴジヤウ　仙臺の人。名は實因・士轍。字は士環。通稱は勘右衞門。號は五城・東華。天保三年五月十八日歿す、年八十七。官は仙臺藩儒。經學は程朱を奉じ、學一世に高く、藩の宿儒と稱せられた。著に五城遺稿がある。〔仙臺史傳〕。

【志美行厲】135ココロザシビニオコナヒレイ　志がうつくしく、行がおごそかである。〔後漢書、張堪傳〕年十六、受二業長安一、志美行厲、諸儒號曰二聖童一。

【志不レ可レ滿】136ココロザシハミタスベカラズ　志望は十分に滿足させてはならない。何も彼も思ふ通りになるといふことはよくないといふ意。志は、一說に、六

情、卽ち感情。〔禮、曲禮上〕志不レ可レ滿、樂不レ可レ極。〔疏〕六情偏具、在レ心未レ見爲レ志。〔顏氏家訓、止足〕欲不レ可レ縱、志不レ可レ滿。

【志不レ舍レ命】137 志す所が天理に違はない。〔易、姤〕有レ隕自レ天、志不レ舍レ命也。

【志毛藕塘】138 江戸の人。名は正應。字は子健。通稱は秀二郎。號は藕塘。著に戲言瑣錄・興到詩・藕塘詩鈔・清浙西六家詩・百東坡がある。〔近代著述目錄後篇〕

【降レ志辱レ身】139 本志をまげ抑へて境遇に順應し、辱めを蒙る。〔論語、微子〕子曰、不レ降二其志一、不レ辱二其身一、伯夷・叔齊與、謂二柳下惠・少連一、降レ志辱レ身矣。

【齎レ志沒レ地】140 志したことを實現せず、其の志を懷いたまま死んで地下に入る。〔江淹、恨賦〕齎レ志沒レ地、長懷無レ已。

【用レ志不レ分】141 志を一つの事に專にして、あれこれと氣を配らない。〔莊子、達生〕孔子顧謂二弟子一曰、用レ志不レ分、乃凝二於神一、其痀僂丈人之謂乎。

【志玄安樂經】142 書名。一卷。唐代、景教の漢譯經典。敦煌石室遺寶の一。

【志大而智小】143 志ばかり大きくて智慧が少ない。〔魏志、武帝紀〕志大而智小、色厲而膽薄。

【志不レ在二溫飽一】144 暖衣飽食を得たいとは願はない。生活の豐かなことは求めない。〔東軒筆錄〕曾曰、自二青川發解一及二南省廷試一、皆首冠、劉子儀爲二翰林學士一、戲レ之曰、狀元試二三場一、一生喫著不レ盡、公正レ色曰、曾平生之志、不レ在二溫飽一。

【願二志之有一レ像】145 自分の志行が後世に傳はつて、其の手本となるやうにと願ふ。像は、法、史記には象に作る。〔楚辭、九章、懷沙〕離レ愍而不レ遷兮、願二志之有一レ像。〔注〕像、法也、言、己自勉修レ善、身雖レ遭レ病、心終不レ徙、願下志行流二於後世一、爲中人法上也、史記、像、作レ象。

【抑レ志而弭レ節】146 遠大な志を暫くおさへておもむろに行く。〔楚辭、離騷〕抑レ志而弭レ節兮、神高馳之邈邈。〔注〕言下己雖レ乘二雲龍一、猶自抑案、弭レ節徐行上。

【有レ志者事竟成】147 事をなさんとする堅い志のある者は、如何ほど困難に遇つても爲し遂げる。〔後漢書、耿弇傳〕帝謂レ弇曰、昔韓信破二歷下一以開レ基、今將軍攻二祝阿一以發レ迹、此皆齊之西界、功足二相方一、將軍前在二南陽一、建二此大策一、常以爲、落落難レ合、有レ志者事竟成也。

【有レ志不レ在二年高一】148 立派な志をもつてゐれば、其の人が如何に若くとも立派な人である。人間の尊敬すべき理由は、志の立派さに在つて、年齡が多いことに在るのではない。〔通俗編、品目〕有レ志不レ在二年高一。佛祖統紀、智元爲二沙彌一、年十四講レ經、李商隱贈レ詩云、沙彌說レ法沙門聽、不レ在二年高一在二性靈一。

【志合則胡越爲二昆弟一】149 志が相合へば、初めは互に知らなかつた人も兄弟のやうに親しくなる。胡は北方の夷、越は南方の夷。〔漢書、鄒陽傳〕意合則胡越爲二兄弟一、由余・子臧、是矣、不レ合則骨肉爲二讎敵一、朱・象・管・蔡、是矣。

【志大者遺レ小用レ權者離レ俗】150 大志をいだく者は小事を問題にせず、權力を用ひる者は世俗を超越する。〔鹽鐵論、復古〕志大者遺レ小、用レ權者離レ俗。

【志也者心之主氣之帥萬事之樞機也】151 志は心の支配者であり、氣力の統率者であり、萬事を成就させる中心である。〔朱右、論レ志〕志也者、心之主、氣之帥、萬事之樞機也、非レ志心不二自立一、氣不二自行一、事不二自成一、是志者、又主二乎心一而造二就萬事一之柄也。

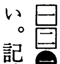
【㣽】10332 キユウ ク 〔集韻〕丘弓切 東

うれへる。 悹(4－10991)に同じ。〔集韻〕悹、廣雅、憂也、或作レ㣽。

【忘】10333

一 バウ マウ 〔集韻〕武方切 ㄨㄤˊ wang^{2} 陽

二 バウ マウ 〔集韻〕無放切 ㄨㄤˋ wang^{4} 漾


小篆

一二 ❶**わすれる。** ㋑おぼえがない。記憶がなくなる。〔說文〕忘、不レ識也、从レ心亡聲。〔易、兌〕民忘二其勞一。㋺意識しない。自覺しない。我を忘れる。〔莊子、達生〕氣下不レ上、則使二人善忘一。〔左氏、隱、七〕及二鄭伯一盟、歃如レ忘。〔莊子、大宗師〕回坐忘。㋩ゆるがせにする。〔增韻〕忘、忽也。〔史記、孔子世家〕使レ無レ忘二職業一。㋥すてる。遺失する。❻を見よ。〔集韻〕忘、棄忘也。〔增韻〕忘、遺也。〔詩、大雅、假樂〕不レ愆不レ忘、率二由舊章一。〔箋〕不二過誤一、不二遺失一。〔疏〕不二過誤一、不二遺忘一。〔後漢書、宋弘傳〕貧賤之交、不レ可レ忘。〔陸機、歎逝賦〕樂隤レ心其如レ忘。〔注〕善曰、忘、失也。❷**健忘症。** 記憶を喪失する病。〔列子、周穆王〕中年病レ忘。〔注〕忘、不レ記レ事也。❸**つきる。**〔儀禮、士冠禮〕壽考不レ忘。〔注〕長有二令名一、不二忽然而遽盡一也。❹**轉語の助辭。** はた・そもそも等の意。無(7－19113)・亡(1－287)に通ず。〔經傳釋詞、二〕無、轉語詞也、字或作レ亡作レ忘、云云、趙策曰、不レ識二三國之憎レ秦而愛レ懷耶、忘其憎レ懷而愛レ秦耶。❺妄(3－6063)に通ず。〔莊子、盜跖〕推レ正不レ忘耶。〔釋文〕忘、或作レ妄。❻亡(1－287)に通ず。〔詩、大雅、假樂〕不レ愆不レ忘。〔說苑、建本〕不レ愆不レ亡。

【忘菴】1 清、王武(7－20823‥932)の號。

【忘憂】2 ❶うれひを忘れる。排悶。遣悶。〔論語、述而〕女奚不レ曰下其爲レ人也、發レ憤忘レ食、樂以忘レ憂、不レ知二老之將一レ至云爾上。❷萱草(9－31345‥4)の異名。〔本草、萱草〕釋名、忘憂。〔注〕時珍曰、萱草作レ諼、諼、忘也、詩云、焉得二諼草一、言樹二之背一、謂下憂思不レ能二自遣一、故欲中樹二此草一玩味以忘上レ憂也、吳人謂二之療愁一、董子云、欲レ忘二人之憂一、則贈二之丹棘一、一名二忘憂一故也、云云、李九華延壽書云、嫩苗爲レ蔬、食レ之動レ風、令二人昏然如一レ醉、因名二忘憂一、亦一說也。

【忘憂花】3 わすれぐさ。萱草(9－31345‥4)をいふ。〔事物異名錄、花卉、萱花〕山堂肆考、孟昶時、梁守珍獻二忘憂花一、鏤二金於花上一、曰二獨立仙一、按、謂レ萱也。

【忘憂草】4 草の名。萱草(9－31345‥4)の別名。わすれぐさ。憂を忘れさせる草といふ意。〔述異記、下〕萱草一名紫萱、又呼爲二忘憂草一、吳中書生呼爲二療愁花一。

【忘憂物】5 ❶酒の異名。酒を飲めば、うれひを忘れるからいふ。〔陶潛、飲酒詩〕秋菊有二佳色一、裛レ露掇二其英一、汎二此忘憂物一、遠二我遺レ世情一。〔張詠、旅中感懷詩〕莫レ言酒作二忘憂物一、更有二新詩一兩篇一。❷萱草(9－31345‥4)をいふ。〔梁武帝、古意詩〕云是忘憂物、生在二北堂陲一。

【忘郢】6 郢を忘れる。復讎の志がないこと。伍子胥が楚の太子建に從つて外國に亡命し、常に太子の仇を伐つて之を楚の都、郢に歸す志を懷いてゐた故事に本づく。〔史記、伍子胥傳贊〕方三子胥窘二於江上一、道乞レ食、志豈嘗須臾忘レ郢耶。

【忘遠】7 ❶途の遠いことを意識しない。〔沈約、齊故安陸昭王碑文〕攀レ車臥レ轍之戀、爭レ途忘レ遠。❷遠い先祖を忘れる。〔弘道館記述義、下〕不レ泄レ邇、不レ忘レ遠。

【忘恩】8 恩を忘れる。忘情。〔儀禮、士昏禮、姆纚笄宵衣在二其右一、疏〕家語有二三不去一、曾經二三年喪一不二去休一、云レ不レ忘レ恩也。

【忘家】9 わが家を顧みない。〔漢書、賈誼傳〕爲二人臣一者、主耳忘レ身、國耳忘レ家、公耳忘レ私。〔後漢書、來歙傳〕憂レ國忘レ家、忠孝彰著。

【忘我】10 我を忘れる。私の一身上のことを忘れる。〔後漢書、彭寵傳〕陛下忘レ我耶。〔晉書、王坦之傳〕成レ名在二乎無一レ私、故在レ當而忘レ我、

此天地所㆓以成㆒㆑功、聖人所㆓以濟㆒㆑化。

【忘艱】11（バウカン） 困しみをわすれる。艱難を意識しない。〔宋書、范泰傳〕負㆑糧忘㆑艱、安㆑親光㆑國。〔蘇軾、伯父送㆓先人下第歸㆒㆑蜀云云詩〕乞㆑播何足㆑羨、負㆑米可㆑忘㆑艱。

【忘記】12（バウキ） 記憶を失ふ。忘れる。失念。忘掉。〔陳與義、曉發㆓杉木㆒詩〕有㆑詩還忘㆑記、無㆑酒卻思傾。

【忘機】14（バウキ） ㊀欲念を忘れる。世俗の事をわすれる。機は、心のきざし・はづみ。〔儲光義、詩〕達士志寥廓、所在能忘㆑機。〔李白、下㆓終南山㆒過㆓斛斯山人宿㆒置酒詩〕我醉君復樂、陶然共忘㆑機。〔司空圖、山中詩〕理到忘㆑機近㆓佛心㆒。㊁宋、周純（華陽の人）（**2**—**3441**‥271）の字。

【忘歸】15（バウキ） ㊀歸ることを忘れる。〔沈約、早發㆓定山㆒詩〕忘㆑歸屬㆓蘭社㆒、懷㆑祿寄㆓芳荃㆒。㊁矢の名。忘歸之矢を見よ。〔嵇康、贈㆓秀才入㆒㆑軍詩〕左攬㆓繁弱㆒、右接㆓忘歸㆒。〔注〕翰曰、忘歸、矢名。

【忘歸草】16（バウキサウ） 草の名。忘憂草(4)の異名。わすれぐさ。〔陸機、贈㆓從兄車騎㆒詩〕安得㆓忘歸草㆒、言樹㆓背與㆒㆑襟。〔注〕向曰、忘歸草、謂㆓忘憂草㆒。

【忘歸亭】17（バウキテイ） 宋の劉氏が金州に守となつて建てた亭の名。〔陳師道、忘歸亭記〕劉君刺㆓守金州㆒、平政歲豐、士民康樂、乃作㆓亭於北山之上㆒、以望㆓牛山㆒而臨㆓漢水㆒、名㆑之曰㆓忘歸之亭㆒。

【忘歸之矢】18（バウキノヤ） 矢の名。忘歸の㊁を見よ。〔公孫龍子、跡府〕楚王張㆓繁弱之弓㆒、載㆓忘歸之矢㆒。〔孔叢子、公孫龍〕楚王張㆓繁弱之弓㆒、載㆓忘歸之矢㆒、以射㆓蛟兕於雲夢之囿㆒。〔曹植、七啓〕捷㆓忘歸之矢㆒、秉㆓繁弱之弓㆒。

【忘却】19（バウキヤク） わすれてしまふ。わすれる。忘失。却は、卻の俗字。〔白居易、贈㆓蘇鍊師㆒詩〕攜㆓將道士㆒通宵語、忘㆓却花光㆒盡日眠。〔夢游錄〕舞袖弓彎渾忘却、羅幃空度九秋霜。〔陸游、山亭觀㆑梅詩〕與㆑梅歲歲有㆓幽期㆒、忘卻如今兩鬢絲。〔方澤、武昌阻㆑風詩〕與㆑君盡日臨㆑水、貪㆓看飛華㆒忘㆓却愁㆒。

【忘劬】20（バウク） 身のつかれをわすれる。勞苦を忘れる。〔張衡、歸田賦〕極㆓盤遊之至樂㆒、雖㆓日夕而忘㆒㆑劬、感㆓老氏之遺誡㆒、將㆑迴㆓駕乎蓬廬㆒。〔程俱、送㆔趙子書奉㆑議歸㆓睢陽㆒詩〕老來息㆑交思㆓簡事㆒、爲㆑子忘㆑劬廢㆓晨夕㆒。

【忘懷】21（バウクワイ） 思を無くする。思を捨てる。心中に何もないこと。又、物事を氣にとめないこと。心が事物に係戀しないこと。〔駱賓王、李長史宅宴序〕忘㆑懷在㆓眞俗之中㆒、得㆑性出㆓形骸之外㆒。〔陶潛、五柳先生傳〕常著㆓文章㆒自娛、頗示㆓己志㆒、忘㆓懷得失㆒、以㆑此自終。

【忘形】22（バウケイ） ㊀肉體を忘れる。物我の境を超脫し、無爲自然の道を悟ること。〔莊子、讓王〕養㆑志者忘㆑形、養㆑形者忘㆑利、致㆑道者忘㆑心矣。〔蔡邕、琴賦〕于㆑是歌人恍惚以失㆑曲、舞者亂節而忘㆑形。〔王十朋、與㆓鄭時敏㆒登㆑樓把㆑酒書㆓二絕㆒詩〕登㆑樓能賦非㆓王粲㆒、沽㆑酒忘㆑形有㆓鄭虔㆒。㊁容貌・地位などを問題にしないこと。忘形交・忘形之友を見よ。〔杜甫、醉時歌〕忘形到㆓爾汝㆒、痛飲眞吾師。

【忘形交】23（バウケイノマジハリ） 互の容貌・地位などを問題にしないで、心を以てする交際。形跡を脫した親密な交際。〔唐書、孟郊傳〕（郊）少隱㆓嵩山㆒、性介、少㆓諧合㆒、愈一見爲㆓忘形交㆒。

【忘形見】24（ワスレガタミ） ㊀忘れぬために遺して置く記念の品。〔源平盛衰記、三六、福原忌日〕この琴、忘形見に留めて。㊁忘れ難い記念の品。㊂父の死後、母の胎內にのこる兒。遺腹子。㊃親の死後に遺された子。遺兒。

【忘形之友】25（バウケイノトモ） 忘形の交をする友人。外形的なものは問題にせず、互に心を以て交はる友。親友。〔醒睡笑〕晉賈謐於㆓金谷園㆒聚㆓二十四友㆒、各作㆓忘形友㆒、結㆓莫逆盟㆒遊。

【忘倦】26（バウケン） 倦むことを忘れる。いつまでもあきない。〔晉書、裴楷傳〕楷善宣吐、左右屬㆑目、聽者忘㆑倦。〔韓愈、奉㆓和杜相公太清宮㆒云云詩〕紫極觀忘㆑倦、青詞奏不㆑譁。

【忘言】27（バウゲン） ㊀言葉を忘れる。言葉を失ふ。表現すべき適當な言葉を發見できない意。〔陶潛、飲酒詩〕此中有㆓眞意㆒、欲㆑辯已忘㆑言。㊁甚だしく氣が合つてゐてお互の意志を通ずるに言語を用ひるを要しないこと。〔晉書、山濤傳〕山濤少有㆓器量㆒、介然不㆑羣、云云、與㆓嵇康・呂安㆒善、後遇㆓阮籍㆒、爲㆓竹林之遊㆒、著㆓忘言之契㆒。

【忘言交】28（バウゲンノマジハリ） 忘言の交際。忘言の㊁を見よ。〔甘澤謠〕圓觀者、雒陽惠林寺僧也、李諫議源、止㆓於惠林寺㆒、與㆓圓觀㆒爲㆓忘言交㆒。

【忘言居士】29（バウゲンコジ） 金、耶律履（**9**—**29008**‥3）の號。

【忘己】30（バウコ） 己を忘れる。自己の利害を忘れること。又、差別相の世界を離れること。〔莊子、天地〕有㆑治在㆑人、忘㆓乎物㆒、忘㆓乎天㆒、其名爲㆑忘㆑己、忘㆑己之人、是之謂㆑入㆓乎天㆒。

【忘吾】31（バウゴ） われをわすれる。己を忘れること。無念無想の域に達すること。〔蘇軾、客位假寐詩〕豈惟主忘㆑客、今我亦忘㆑吾。

【忘口】32（バウコウ） 口味の欲を棄てる。〔史記、韓非傳〕彌子食㆑桃而甘、不㆑盡而奉㆑君、君曰、愛㆑我哉、忘㆓其口㆒而念㆑我。

【忘妻】33（バウサイ） 己の妻を忘れる。妻を見失ふ。〔孔子家語、賢君〕哀公問㆓於孔子㆒曰、寡人聞㆔忘之甚者、徙而忘㆓其妻㆒、有㆑諸、孔子對曰、此猶㆓未㆑甚者㆒也、甚者、乃忘㆓其身㆒。

【忘草】34（ワスレグサ） ㊀烟草の異名。喫んで鬱を忘れるからいふ。㊁萱草（**9**—**31345**‥4）の異名。〔萬葉集、三〕萱草我が紐につくかぐ山の。㊂憂を忘れるためのたね。

【忘霜】35（ワスレジモ） 八十八夜頃の霜。わかれじも。〔井華集、春〕春過ぎて吉野出る日や忘れ霜。

【忘餐】36（バウサン） 食を忘れる。一事に心を傾注して食を忘れること。忘食。〔曹植、洛神賦〕華容婀娜、令㆓我忘㆒㆑餐。〔注〕良曰、思㆓此之美㆒、遂忘㆓其餐㆒。〔晉書、孫盛傳〕至㆑暮忘㆑餐。

【忘死】37 wang^4 ssŭ^3 全く忘却する。

【忘私】38（バウシ） 私事を氣にとめない。〔漢書、賈誼傳〕爲㆓人臣㆒者、主耳忘㆑身、國耳忘㆑家、公耳忘㆑私。

【忘愁】39（バウシウ） うれひを忘れる。〔曹植、節遊賦〕且容與以盡㆑觀、聊永㆑日而忘㆑愁。

【忘愁海】40（バウシウカイ） 愁を忘れる海。〔紅樓夢、五回〕吾居㆓離恨天之上、忘愁海之中㆒。

【忘七】41（バウシチ） 佛家の語。指月錄に、七によつて一を見、一を見て七を忘るとあるによる。〔指月錄〕龐居士見㆓丹霞士㆒、以㆑拄㆑杖劃㆑地作㆓七字㆒、霞於㆑下劃㆓個一字㆒、士曰、因㆑七見㆑一、見㆑一忘㆑七、霞便起去。

【忘失】42（バウシツ） ㊀人の過失をわすれる。〔後漢書、李膺傳〕立㆑政之要、記㆑功忘㆑失。㊁わすれる。

【忘情】43（バウジヤウ） 喜怒哀樂の情をわすれる。〔晉書、王衍傳〕王衍嘗喪㆓幼子㆒、山簡弔㆑之、衍悲不㆓自勝㆒、簡曰、孩抱中物、何至㆓於此㆒、衍曰、聖人忘㆑情、最下不㆑及㆓於情㆒、然則情之所㆑鍾、正在㆓我輩㆒。

【忘守】44（バウシユ） 守備をゆるがせにする。〔左氏、昭、十八〕吾聞㆑之、小國忘㆑守則危。

【忘勝】45（ワスレガチ） ややもすれば忘れること。よく忘れること。

【忘食】46（バウシヨク） 食を忘れる。忘餐。〔論語、述而〕女奚不㆑曰㆘其爲㆑人也、發㆑憤忘㆑食、樂以忘㆑憂、不㆑知㆓老之將㆒㆑至云爾㆖。〔漢書、張湯傳〕湯每㆓朝奏㆒㆑事、語㆓國家用㆒、日旰、天子忘㆑食。

【忘職】47（バウシヨク） ㊀自己の職務を忘れる。㊁納貢を忘れる。〔左氏、襄、二十二〕豈敢忘㆑職。

【忘身】48（バウシン） わが身を忘れる。〔莊子、人間世〕忘㆓其身㆒。〔莊子、山木〕方得㆓美蔭㆒、而忘㆓其身㆒。〔漢書、賈誼傳〕爲㆓人臣㆒者、主耳忘㆑身、國耳忘㆑家、公耳忘㆑私。〔孔子家語、弟子行〕不㆔敢忘㆓其身㆒。〔忠經、冢臣〕豈惟奉㆑君忘㆑身。

【忘水】49（バウスイ） ㊀水中にあることを忘れる。水と一體になる。〔列子、黃帝〕能游者可㆑教也、輕㆑水也、善游者之數能也、忘㆑水也。㊁（ワスレミヅ） 野中などに絕え絕えに流れて、人に知られない水。

【忘先】50（バウセン） 祖先を忘れる。〔漢書、禮樂志序〕背㆑死忘㆑先者衆。〔論衡、薄葬〕喪祭禮廢、則臣子恩泊、臣子恩泊、則背㆑死忘㆑先。

【忘筌】51（バウセン） 筌を忘れる。筌は魚を捕へる具。魚を捕へてしまへば筌を忘れる、目的を達成してしまへば其の方便となつたものを忘れる意。〔莊子、外物〕筌者所㆓以在㆒㆑魚、得㆑魚而忘㆑筌、蹄者所㆓以在㆒㆑兔、得㆑兔而忘㆑蹄。〔嵇康、贈㆓秀才入㆒㆑軍詩〕嘉㆓彼釣叟㆒、得㆑魚忘㆑筌。〔杜甫、秋日夔府詠懷云云一百韻詩〕愜當久忘㆑筌。

【忘善】52（バウゼン） 善をわすれる。人の爲した善行を忘れる。〔魏志、公孫瓚傳〕瓚遂驕矜、記㆑過忘㆑善、多㆑所㆓賊害㆒。

【忘足】53バウソク 足について何も考へない。履がよく足に適ふこと。〔莊子、達生〕忘レ足履之適也、忘レ要帶之適也。

【忘掉】54 wang^4 tiao^4 忘却する。失念する。

【忘年】55バウネン 年をわすれる。❶年の老いたのをわすれる。〔莊子、齊物論〕忘レ年忘レ義、振二於無竟一。〔元結、樊上漫作詩〕西邊雙石峯、引望堪レ忘レ年。❷年齡のちがひを心におかぬこと。忘年友・忘年交を見よ。❸其の年の苦勞を忘れること。としわすれ。忘年會を見よ。

【忘年友】56バウネンノトモ 相手の才學を敬重して交はる友。年長者から年少者に對していふ。〔陳書、江總傳〕總、時年少有レ名、纘等雅相推重、爲二忘年友會一。

【忘年交】57バウネンノマジハリ 年齡の長幼を心におかず、相手の才學を敬重しての交際。後漢書の禰衡の孔融・楊修に於ける、南史の范雲の何遜、裴子野の張纘、張率の韋粲に於ける、北史の李神雋の邢邵、裴讞之の辛術・繪に於ける、唐の陸贄の張鎰に於ける、宋の錢惟演の梅堯臣に於ける、皆忘年交をなした。〔後漢書、禰衡傳〕(孔)融亦深愛二其才一、衡始弱冠、而融年四十、遂與爲二交友一。〔南史、何遜傳〕南鄉范雲見二其對策一、大相稱賞、因結二忘年交一。〔初學記、人事、交友〕忘年得意。〔注〕張隱文士傳曰、禰衡有二逸才一、少與二孔融一交、時衡未レ滿二二十一、而融已五十、敬二衡才秀一、忘年殷勤。

【忘年會】58バウネンクワイ としわすれの宴會。其の年の苦勞を忘れようと年末に催す親睦會。

【忘念】59バウネン わすれる。失念。〔梁書、王筠傳〕嘆服吟研、周流忘念。

【忘貝】60ワスレガヒ 貝の名。海產の二枚貝。殼は直徑六七センチメートルで丸く、淡紫色。一名、ささら貝。

【忘八】61バウハチ 人を罵る語。孝・弟・忠・信・禮・義・廉・恥の八をわすれる意。一說に、王八といふ惡人の名の轉訛といふ。又、遊蕩者の稱。又、龜の異稱。龜は牝が蛇と交はることを許すからいふ。王八(**7**－**20823**‥890)の❶を見よ。〔五雜組、人部、四〕左傳、既定二爾婁豬一、盍レ歸二吾艾豭一、艾豭者、牽二牡豕一以行レ淫者也、方言云、燕・朝鮮之閒、謂二之豭一、關東謂二之彘一、詩一發五豝、是也、故以下男子之淫二於它室一者上名レ之、秦始皇會稽碑、作二寄豭一、今人以二妻之外淫者一目二其夫一爲二烏龜一、蓋龜不レ能レ交、而縱二牝者與レ蛇交一也、一云、汚闔之訛耳、又謂二之忘八一、以二其孝・弟・忠・信・禮・義・廉・恥八者倶忘一也。〔陔餘叢考、雜種・畜生・王八〕俗罵レ人曰二雜種一、曰二畜生一、曰二王八一、云云、五代史、王建少時無賴、以三屠レ牛盜レ驢販二私鹽一爲レ事、里人謂二之賊王八一、此又王八之稱之所レ始也、金史亦有二王八一、與二王毅一共守二東明一、兵敗被レ執、王八前跪將レ降、毅以レ足蹈レ之、此則不レ可下與二王建一並稱爲上賊、明人小說又謂二之忘八一、謂レ忘二禮・義・廉・恥・孝・弟・忠・信八字一也。〔幼學須知〕言、人入二于花柳之中一、其心已忘二孝・弟・忠・信・禮・義・廉・恥八字一、故名二忘八一。

【忘反】62バウハン 歸ることを忘れる。〔孟子、梁惠王下〕從レ流下而忘レ反、謂二之流一、從レ流上而忘レ反、謂二之連一。

【忘疲】63バウヒ つかれをわすれる。忘罷。〔張衡、西京賦〕徒御悅、士忘レ罷。〔梁簡文帝、應令詩〕辭河瀉潤、高論忘レ疲。

【忘貧】64バウヒン 貧乏をわすれる。〔文子、符言〕老子曰、古之存レ己者、樂レ德而忘レ賤、故名不レ動レ志、樂レ道而忘レ貧、故利不レ動レ心。

【忘病】65バウヘイ やまひの苦をわすれる。〔錢起、酬二劉起居臥レ病詩一〕味レ道能忘レ病、過レ庭更學レ詩。

【忘本】66バウホン もとを忘れる。〔禮、樂記〕惕易以犯レ節、流湎以忘レ本。〔晉書、杜預傳〕意不レ忘レ本也。

【忘味】67バウミ 味を忘れる。味を感じない。〔班固、幽通賦〕虞韶美而儀レ鳳兮、孔忘二味於千載一。

【忘名】68バウメイ 名譽を忘れる。名譽を求める念のないこと。〔顏氏家訓、名實〕上士忘レ名、中士立レ名、下士竊レ名。

【忘勞】69バウラウ 勞苦を忘れる。骨を折つても苦しいと思はぬこと。〔易、兌〕說以先レ民、民忘二其勞一。〔禮記、祭義〕思二慈愛一忘レ勞、可レ謂レ用レ力矣。〔注〕思二慈愛一忘レ勞、思二父母之慈愛一、已而自忘二己之勞苦一。〔晉書、祖逖傳〕嘗置酒大會二耆老一、中座乃歌曰、幸哉、遺黎免二俘虜一、三辰既朗遇二慈父一、玄酒忘レ勞甘二瓠脯一、何以詠レ恩歌且舞、其得二人心一如レ此。

【忘了】70バウレウ 忘れてしまふ。すつかり忘れる。〔楊萬里、詩〕書空作二愁字一、已忘二偏旁一了。

【忘不下】71 wang^4 pu hsia^4 忘れられない。

【忘不了】72 wang^4 pu liao^3 忘れられない。

【忘心兒大】73 wang^4 hsin^1 êrh ta^4 忘れつぽい。

【忘性惱子】74 wang^4 hsing^4 nao^3 tzŭ よく忘れること。健忘。

【忘在九霄雲外】75 wang^4 tsai^4 chiu^3 hsiao^1 yün^2 wai^4 全く忘却する。綺麗に忘れる。

【忘在脖子後頭】76 wang^4 tsai^4 po^2 tsŭ hou^4 t'ou 全く忘却する。忘在九霄雲外に同じ。

【忙】

10334 バウ マウ 〔集韻〕謨郎切 陽 ㄇㄤ mang^2

❶**心せく。いそぐ。**〔集韻〕忙、心迫也。❷**おそれる。**恾(**4**－**10620**)に同じ。〔廣韻〕恾、怖也、忙、上同。❸**いそがしい。**せはしい。〔篇海〕忙、不レ暇也。〔杜牧、寄二阿宜姪一詩〕讀レ書日日忙。❹**あわただしい。**〔杜甫、新婚別詩〕暮婚晨告レ別、無二乃太忽忙一。❺**ごたつく。**紛雜。〔增韻〕忙、宂也。❻**姓。**〔萬姓統譜〕忙義、豐潤人、永樂中常德衞千戶。❼現地租を分割して徵集することを分忙といひ、上忙・下忙の語があり、又、上等の田地を上忙、下等の田地を下忙といふ。

【忙憂】1バウイウ 心配。うれへ。おそれ。

【忙哥】2バウカ 金、受申(**2**－**3159**‥83)の一名。

【忙合】3 mang^2 hê 手傳ふ。手助けする。

【忙銀】4 mang^2 yin^2 賦稅を二期に分納させるに、其の徵收する銀を忙銀といふ。上下忙(**1**－**13**‥43)を見よ。

【忙劇】5バウゲキ 非常にいそがしいこと。〔菊池三溪、赤穗義士〕是以頗爲二忙劇一。

【忙月】6バウゲツ 一年中の最も農事に多忙な月。閒月の對。〔唐書、食貨志五〕番上不レ至者、閒月督錢百七十、忙月二百。〔嘉興府志〕正月釀二土窖一糞二條桑一、二月治二塍埂一、三月選レ種、立夏蒔レ秧、四月刈二旈麥一、遂墾田或牛犁、已而插青、用二桔槹一灌レ田、旱入潦出、先レ是蠶婦浴レ種、及桑齊養蠶、謂二之蠶月一、三眠作レ繭、繅レ絲次爲レ綿、四月望至二七月望日一、謂二之忙月一、富家倩傭耕作、或長工或短工、佃家通レ力、耦犁曰二伴工一、端陽前後、插青畢、醵レ金賽二田畯一、濁醪瓦缶、酣呼相勞苦、謂二之青苗會一、是後耘耔糞漑、各以レ時、毋二敢離件一、處暑苗行根綻穗苦レ旱、白露花苦レ風、秋分稻秀苦レ雨、九月刈レ禾、無三敢過二霜降一、亦有二早稻先一月熟一、是月藝二麥豆一、裁レ桑築レ塲、子婦竭作、亦謂二之忙月一、十月治二穀米輸租一、富農高レ廩蓋レ藏、稍貯二額賦一供レ官、佃農輸二租大家一、貯二其餘一以備二春作一、嬉嬉如也。

【忙工】7バウコウ いそがしい仕事。又、田植や種蒔きなどで忙しい時に傭はれる人夫。忙功。〔三餘贅筆〕吳中田家、凡久傭二於人一者、謂二之長工一、暫傭者、謂二之短工一、插蒔時、謂二之忙工一、大約中功以二十分一爲レ率、長功加二一分一、短功減二一分一、至二忙功一、價幾倍レ之。

【忙功】8バウコウ 忙工に同じ。〔唐六典〕凡役有二輕重一、功有二長短一、蓋夏至日長、冬至日短、若一等定レ功、則枉二棄時刻一、大約中功以二十分一爲レ率、長功加二一分一、短功減二一分一、至二忙功一、價幾倍レ之。

【忙些】9バウサ いそがしい。些は助字。〔水滸傳、二十六回〕小人忙些、不レ勞二都頭生受一。

【忙殺】10バウサツ バウサイ 非常にいそがしい。殺はつよめの助字。忙煞。〔馬樸臣、七夕詩〕忙殺鄰家小兒女、喁喁乞レ巧不レ成レ眠。

【忙事】11バウジ いそがはしい仕事。〔范成大、繅絲行〕姑婦相呼有二忙事一、舍後煑レ繭門前香。

【忙上】12 mang^2 shang 急いで。直ぐに。

【忙然】13バウゼン 氣ぬけしてぼんやりするさま。あつけにとられるさま。芒然。呆然。〔列子、楊朱〕子產忙然、無二以應一レ之。

【忙忙】14バウバウ いそがはしいさま。〔論衡、書解〕

汲汲忙忙、或㆑暇著作。〔葛洪、流珠歌〕忙忙急急、忘㆑寢失㆑哺。

【忙忙叨叨】15 mang² mang tao¹ tao¹ そそつかしい。あわただしい。非常に忙しい。

【忙忙碌碌】16（バウバウロクロク） いそがしく駈廻る。奔走する。〔高駢、遣興詩〕浮世忙忙蟻子羣。〔賈島、古意詩〕碌碌復碌碌、百年雙轉轂。

【忙迫】17（バウハク） いそがはしい。〔姓譜〕五代時、蕭結爲㆓祈陽令㆒、方㆓暮春時㆒、有㆘州符下取㆓競渡船㆒急㆖、結怒批㆓其符㆒曰、秧開五葉、蠶食三眠、人皆忙迫、划甚閑、船守慚而止。

【忙煩】18（バウハン） 心配。うれへ。おそれ。

【忙逼】19（バウヒヨク） いそがしくせまる。又、心せく。いそぐ。〔馬存、浩浩歌〕皇天爲忙逼、星宿相擊摩。

【忙問】20 mang² wen⁴ 心せはしくきく。〔紅樓夢、四回〕雨村忙問何爲護官符、我竟不知。

【忙亂】21 mang² luan⁴ 混雜する。

【忙碌】22 mang² lu⁴ いそがしい。多忙な。忙忙碌碌(17)に同じ。

【忙兀台】23（マンウタイ） 元の人。蒙古達達兒氏。宋を伐つて功があり、官は銀青光祿大夫。江西を鎭し、威德並び行はれた。〔元史、一百三十一〕。

【忙當兒】24 mang² tang⁴ êrh 混雜。とりこみ。

【忙哥撒兒】25（マンコサール） 元の人。棚阿の孫。阿剌・欽察の諸部を征す。憲宗の委任が厚かつた。〔元史、一百二十四〕。

【忙中有㆑閑】26（バウチユウカンアリ） 忙しい中にも閑がある。

【忙中有錯】27 mang² chung¹ yu³ ts'uo⁴ 急いでは事を仕損ずる。

【忙不過來】28 mang² pu kuo⁴ lai² 非常に忙しい。

【忙裡偸㆑閑】29（バウリカンヲヌスム） いそがしい間にも、ひまを求めてあそぶ。〔江湖長翁集〕同㆓陳宰・黃簿㆒遊㆓靈山㆒、宰云、吾輩可㆑謂㆓忙裡偸㆑閑、苦中作㆑樂、遂以㆓八字㆒爲㆑韻、作㆓詩八首㆒。

【⿰忄小】10335 セウ 悄(**4－10627**)に同じ。〔字彙〕⿰忄小、與㆑悄同。

【⿰忄叉】10336 サ シヤ 〔玉篇〕初訝切 禡

修めない。みだれる。〔玉篇〕⿰忄叉、不㆑修也。

【⿰忄弋】10337 ヨク イキ 〔集韻〕逸織切 職

心うごく。〔集韻〕⿰忄弋、心動也。

【忚】10338 🈩ケイ 〔集韻〕馨奚切 齊

🈔ケイ 〔集韻〕顯計切 霽

🈪ラ 〔集韻〕力者切 馬

🈩🈔**あざむく。**〔廣雅、釋詁二〕忚、欺也。🈪**きらふ。**忚忚。〔集韻〕忚、忚忚、心不㆑欲。

【⿰忄勺】10339 🈩テウ 〔集韻〕丁了切 ㄉㄧㄠˇ tiao³ 篠

🈔シヤク 〔集韻〕職略切 ㄓㄨㄛˊ chuo² 藥

🈪テキ チヤク 〔集韻〕丁歷切 錫

🈩❶**いつくしむ。あはれむ。**〔廣韻〕⿰忄勺、垂㆑心。❷**うれへる。**〔集韻〕⿰忄勺、憂也。🈔🈪❶**いたむ。**〔方言、一〕⿰忄勺、痛也。❷**おどろく。**〔廣雅、釋詁一〕⿰忄勺、驚也。❸**いかる。**〔集韻〕⿰忄勺、怒也。

【⿱心夂】10340 アイ 㤅(**4－10636**)の古字。〔集韻〕㤅、古省。

【⿰忄夕】10341 シヤク 〔龍龕手鑑〕之若切 藥

甚だしくやむ。〔龍龕手鑑〕⿰忄夕、痛病也。

【⿰心丁】10342 セウ 〔字彙補〕支超切 蕭

相そむく。〔字彙補〕⿰心丁、相背也。

【⿱弓心】10343 キ 義未詳。〔龍龕手鑑〕⿱弓心、音忌。

【忛】10344 ハン 帆(**4－8787**)の譌字。〔字彙補〕忛、帆字之誤、見㆓唐書釋音㆒。

【⿱小心】10345 シ 義未詳。〔五音篇海〕⿱小心、音志。

【⿱口心】10346 シン 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿱口心、音心。

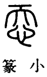
【⿱亼心】10347 ネン 念(**4－10390**)に同じ。〔耳目資〕⿱亼心、與㆑念同。

【応】10347′ オウ 應(**4－11330**)の略字。

四畫

【忝】10348 🈩テン 〔集韻〕他點切 ㄊㄧㄢˇ t'ien³ 琰

🈔テン 〔集韻〕他念切 豔



小篆

🈩❶**はづかしめる。**古は⿱天心(**4－10349**)に作る。〔集韻〕忝、古作㆑⿱天心。〔說文〕⿱天心、辱也、从㆑心天聲。〔爾雅、釋言〕忝、辱也。〔書、堯典〕否德忝㆓帝位㆒。〔傳〕忝、辱也。〔書、太甲上〕忝㆓厥祖㆒。〔傳〕忝、辱也。〔詩、小雅、小宛〕毋㆑忝㆓爾所生㆒。〔傳〕忝、辱也。❷**はぢ。**はづかしめ。〔太玄經、銳〕忝亞至。〔注〕忝、辱也。〔班固、幽通賦〕忝莫㆑痛兮。〔注〕善曰、曹大家曰、忝、辱也。🈔❶**はづかしめる。**🈩の❶に同じ。〔集韻〕忝、辱也。❷**かたじけなくする。**〔和漢三才圖會、藝財、倭字〕忝、凡爲㆓謝禮之詞㆒、⿱天心同、音餂、或用㆓辱字㆒、華人謂㆓之感謝㆒、又曰㆓多謝㆒、蓋忝辱共恥也、惡也、汚也、从㆔寸在㆓辰下㆒、失㆓農時㆒於㆓封畺上㆒戮㆑之也、辰者、農之時也、寸者、法度也、凡恩惠難㆑謝、而自恥自戮之義、謙退也、漢文法亦用。

【忝汚】1（テンヲ） はづかしめけがす。〔魏志、董卓傳、是爲㆓獻帝㆒、注〕損㆓辱神器㆒、忝㆓汚宗廟㆒。

【忝顏】2（テンガン） あつかましい。あつかましく。厚顏。〔桃花扇、拜壇〕弟愚不才、忝顏偸㆑生。

【忝眷】3 t'ien³ chüan⁴ 結婚を主る人の自稱。眷屬たるをかたじけなくする意。

【忝私】4（テンシ） 私の親しみをかたじけなくする。〔潘尼、贈㆔陸機出爲㆓吳王郎中令㆒詩〕昔子忝私、貽㆓我蕙蘭㆒。

【忝辱】5（テンジヨク） かたじけなくする。〔後漢書、公孫瓚傳〕忝㆓辱爵命㆒。

【忝竊】6（テンセツ） かたじけなくする。自謙の辭。〔晉書、羊祜傳〕加㆓車騎將軍㆒、開府如㆓三司之儀㆒、祜上表固謝曰、臣忝竊雖㆑久、未㆑若㆘今日兼㆓文武之極寵㆒、等㆗宰相之高位㆖也。〔杜甫、長沙送㆓李十一銜㆒詩〕李杜齊㆑名眞忝竊、朔雲寒菊倍離㆑憂。〔歐陽脩、讀書詩〕中間嘗忝竊、內外職㆓文翰㆒。

【忝累】7（テンルイ） 恩義を受けてこれに報い得ない煩ひ。其の職責を完うし得ないこと。溺職。〔傅咸、御史中丞箴序〕余承㆓先君之蹤㆒、竊㆓位憲臺㆒、懼㆑有㆓忝累㆒。

【忝官引】8（テンクワンイン） 詩篇の名。唐、元結作。忝官は官位を忝うすることで、官位に居る人の謙稱。

〔元結、忝官引〕天下昔無㆑事、僻居養㆓愚鈍㆒、山野性所㆑安、熙然自全順、忽逢㆓暴兵起㆒、閭巷見㆓軍陣㆒、將㆑家瀛海濱、自棄同㆓芻糞㆒、往在㆓乾元初㆒、聖人啓㆓休運㆒、公車詣㆓魏闕㆒、天子垂㆓清問㆒、敢誦㆓王者箴㆒、亦獻㆓當時論㆒、朝廷愛㆓方直㆒、明主嘉㆓忠信㆒、屢授㆓不次官㆒、曾與㆓專征印㆒、兵家未㆓曾學㆒、榮利非㆑所㆑徇、偶得㆓兇醜降㆒、功勞媿㆓方寸㆒、爾來將㆓四歲㆒、慙恥言可㆑盡、請取㆓寃者辭㆒、爲㆓吾忝官引㆒、寃辭何者苦、萬邑餘㆓灰燼㆒、寃辭何者悲、生人盡㆓鋒刃㆒、寃辭何者甚、力役遇㆓勞困㆒、寃辭何者深、孤弱亦哀恨、無㆓謀㆑救㆑寃者㆒、祿位安可㆑近、而可㆑愛㆓軒裳㆒、其心又干㆑進、此言非㆑所㆑戒、此言敢貽㆑訓、實欲㆘辭㆓無能㆒、歸耕守㆗吾分㆖。

【忝】10349 テン 忝(**4－10348**)の古字。〔集韻〕忝、古作㆑忝。

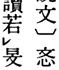
【忞】10350

［一］ビン ミン 〔集韻〕眉貧切 眞

［二］ビン ミン 〔集韻〕美隕切 ㄇㄧㄣˇ min² 軫

［三］ブン モン 〔集韻〕文運切 問

［四］ブン モン 〔集韻〕武粉切 吻


小篆

［一］❶**つとめる**。〔說文〕忞、自勉彊也、从㆑心文聲、讀若㆑旻。〔廣韻〕忞、自勉彊也。❷**くらい**。忞忞。〔法言、問神〕傳㆓千里之忞忞㆒者、莫㆑如㆑書。〔注〕忞忞、心所㆑不㆑了。❸或は暋(**5－14041**)に作る。〔集韻〕忞、亦作㆑暋。［二］**つとめる**。敃(**5－13159**)に同じ。〔集韻〕敃、說文、彊也、或作㆑忞。［三］**つとめる**。〔集韻〕忞、彊也。［四］**みだれる**。忞忞。或は忟(**4－10351**)に作る。〔集韻〕忞、博雅、忞忞、亂也、或書作㆑忟。

【忞忞】1 ビンビン ❶くらいさま。さとらないさま。〔法言、問神〕傳㆓千里之忞忞㆒者、莫㆑如㆑書。〔注〕忞忞、心所㆑不㆑了。❷ブンブン みだれるさま。〔廣雅、釋訓〕忞忞、亂也。

【忟】10351 ブン 忞(**4－10350**)に同じ。〔集韻〕忞、或書作㆑忟。

［名乘］フム。

【⺖内】10352 ドツ ノチ 〔集韻〕奴骨切 月。

瘟⺖内は、うれへもだえる。〔集韻〕⺖内、瘟⺖内、憂悶。

【忠】10353 チュウ チュ 〔集韻〕陟隆切 ㄓㄨㄥ chung¹ 東

小篆

❶**まごころ**。**まこと**。〔左氏、桓、六〕所謂道、忠㆓於民㆒而信㆓於神㆒也、上思㆑利㆑民、忠也。〔論語、學而〕爲㆑人謀而不㆑忠乎。〔皇疏〕忠、中心也。〔荀子、禮論〕其忠至矣。〔注〕忠、誠也。〔新書、道術〕愛利出㆑中、謂㆓之忠㆒。❷**まことをつくす**。〔論語、里仁〕忠恕而已矣。〔皇疏〕忠、謂㆑盡㆓中心㆒也。〔集注〕盡㆑己之謂㆑忠、推㆑己之謂㆑恕。❸**臣が君に仕へる道**。君に事へて、まごころをつくすこと。〔書、伊訓〕爲㆑下克忠。〔傳〕事㆑上竭㆑誠也。〔左氏、僖、九〕公家之利、知無㆑不㆑爲、忠也。〔左氏、昭、元〕臨㆑患不㆑忘㆑國、忠也。〔論語、八佾〕君使㆑臣以㆑禮、臣事㆑君以㆑忠。〔戰國、趙策〕竭㆑意不㆑諱、忠也。〔管子、形執解〕忠者、臣之高行也。〔荀子、臣道〕逆㆑命而利㆑君、謂㆓之忠㆒。〔後漢書、郅惲傳〕彊㆓其君之所㆑不㆑能爲㆑忠。〔論衡、答佞〕稱㆓良吏㆒曰㆑忠。❹**つつしむ**。氣をつける。〔說文〕忠、敬也、盡㆑心曰㆑忠、从㆑心中聲。〔段注〕敬者、肅也。〔荀子、君子〕忠者惇㆓愼此㆒者也。❺**ただしい**。**なほい**。〔孝經、事君章〕進思㆑盡㆑忠。〔注〕忠、直也。〔呂覽、孝行〕事㆑君不㆑忠。〔注〕忠、正也。〔大戴禮、衞將軍文子〕忠、德之正也。❻**かなふ**。**あふ**。**かなへる**。〔左氏、昭、十二〕外內倡和爲㆑忠。〔管子、禁藏〕忠、人之和。〔注〕忠、猶㆑稱也。❼**おもひやり**。〔國語、周語上〕考㆑中度㆑衷爲㆑忠。〔注〕忠、恕也。❽**いつくしむ**。〔呂覽、至忠〕將㆔以忠㆓於君王之身㆒。〔注〕忠、猶㆑愛也。❾**てあつい**。〔楚辭、九歌、湘君〕交不㆑忠兮怨長。〔注〕忠、厚也。❿中(**1－73**)に通ず。〔書、仲虺之誥〕中㆓于民㆒。〔釋文〕中、本或作㆑忠。⓫**州名**。〔集韻〕忠、亦州名。⓬**諡**。〔逸周書、諡法解〕危㆑身奉㆑上曰㆑忠。⓭**姓**。〔萬姓統譜〕忠、見㆓姓苑㆒、忠譚、漢人。［邦］**じよう**。古の官制、彈正臺の第三等官。

［名乘］ツラ。ナリ。

【忠愛】1 チュウアイ ❶眞心をつくし愛する。又、其のこと。〔禮、王制〕悉㆓其聰明㆒、致㆓其忠愛㆒、以盡㆑之。〔韓非子、十過〕其心忠㆓愛之㆒、而適足㆓以殺㆒㆑之。〔管子、五輔〕待以㆓忠愛㆒。〔漢書、燕剌王旦傳〕無㆓忠愛之義㆒。❷忠君愛國の略。〔六部成語補遺、吏部、忠愛性成、注解〕言㆕臣子忠㆑君愛㆑國之心、本㆔於其性質所㆓生成㆒也。

【忠安】2 チュウアン 諡號。❶宋、張惟吉(**4－9812**‥773)の諡。❷明、胡濙(**9－29400**‥19)の諡。

【忠懿】3 チュウイ 諡號。❶唐、李吉甫(**6－14459**‥1017)の諡。❷唐、李憕(**6－14459**‥592)の諡。❸後唐、安元信(**3－7072**‥538)の諡。❹五代閩、王審知(**7－20823**‥1733)の諡。❺五代吳越、錢俶(**11－40563**‥120)の諡。❻元、月乃合(**5－14330**‥407)の諡。❼元、陳益稷(**11－41698**‥675)の諡。

【忠友】4 チュウイウ まごころのある友。親切な友。〔說苑、復恩〕國君蔽㆑士、無㆑所㆑取㆓忠臣㆒、大夫蔽㆑游、無㆑所㆑取㆓忠友㆒。

【忠祐】5 チュウイウ 宋、程昌寓(**8－25081**‥226)の廟名。

【忠允】6 チュウイン まめやかでまことのあること。忠實。忠誠。忠亮。〔晉書、荀顗傳〕溫恭忠允、至行純備。

【忠隱】7 チュウイン 宋、葛懷敏(**9－31420**‥118)の諡。

【忠烏】8 チュウウ 烏をいふ。〔楊維楨、丈人烏〕丈人愛㆓爾烏㆒、獻㆑忠不㆑獻㆑諛、命㆑爾曰㆓忠烏㆒。

【忠益】9 チュウエキ 眞心を盡し世の益になること。〔諸葛亮、與㆓羣下㆒教〕夫參署者、集㆓衆思㆒廣㆓忠益㆒也。〔蜀志、郤正傳〕粲乎亹亹、尚㆓此忠益㆒。〔宋書、謝方明傳〕方明事思㆓忠益㆒、知無㆑不㆑爲。

【忠嘉】11 チュウカ ❶宋、汝爲(**6－17138**‥3)の號。❷元、耶律希亮(**9－29008**‥61)の諡。

【忠介】12 チュウカイ 諡號。❶宋、唐震(**2－3709**‥195)の諡。❷宋、劉汲(**2－2224**‥172)の諡。❸明、海瑞(**6－17503**‥304)の諡。❹明、施邦曜(**5－13629**‥180)の諡。❺明、周順昌(**2－3441**‥715)の追諡。❻明、鄒元標(**11－39562**‥88)の諡。❼明、錢肅樂(**11－40563**‥348)の諡。❽明、程本立(**8－25081**‥289)の追諡。❾明、孟陽(**3－6960**‥265)の諡。❿明、楊爵(**6－15112**‥199)の諡。⓫明、劉宗周(**2－2224**‥1143)の諡。⓬明、凌義渠(**2－1669**‥132)の諡。⓭清、金順(**11－40152**‥592)の諡。

【忠介燼餘集】13 チュウカイジンヨシフ 書名。三卷。明、周順昌撰。其の孫の靖の編。〔四庫提要、集、別集類〕。

【忠慨】14 チュウガイ 君に盡す赤誠からのなげきいきどほり。〔晉書、孫綽傳〕今發㆑憤忘㆑食、忠慨亮到、凡在㆓有心㆒、孰不㆑致㆑感。

【忠概】15 チュウガイ 誠實なみさを。〔南史、劉善明傳〕善明遺㆑書敍㆓舊因㆒、相勗以㆓忠概㆒。

【忠孝】16 チュウカウ ❶忠義と孝行。忠は、善く君に事へること。孝は、善く親に事へること。〔書、蔡仲之命〕爾尙克蓋㆓前人之愆㆒、惟忠惟孝。〔孝經、開宗明義章、孔傳〕忠孝道著、乃能揚㆑名榮㆑親、故曰㆑終㆓於立㆒㆑身。〔呂覽、勸學〕先王之教、莫㆑榮㆓於孝㆒、莫㆑顯㆓於忠㆒、忠孝、人君・人親之所㆓甚欲㆒也、顯榮、人子・人臣之所㆓甚願㆒也。〔漢書、鼂錯傳〕知㆔所㆓以忠孝事㆒㆑上、則臣子之行備

矣。〔後漢書、安帝紀〕長安侯祜、質性忠孝、小心翼翼。〔北史、于仲文傳〕九歲、嘗於二雲陽宮一見二周文帝一、問曰、聞兒好二讀書一、書有二何事一、對曰、資レ父事レ君、忠孝而已。〔杜甫、暮春江陵送二馬大卿一云云詩〕自レ古求二忠孝一、名家信有レ之。㊁韓非子の篇名。㊂橋の名。江西省都昌縣の北。〔都昌縣志〕忠孝橋、在二縣西南三十里一。

【忠孝軍】17 チュウカウグン　軍隊の名。金、置く。河朔歸正の人を徵召して組織したもの。〔金史、兵志〕取二河朔諸歸正人一、不レ問二鞍馬有無、譯語能否一、悉送二密院一、增二月給一三二倍他軍一、授以二官馬一、得二千餘人一、歲時犒燕、名曰二忠孝軍一。

【忠孝帶】18 チュウカウタイ　淸代、役人が外出・遠行の際に着用した帶。淸會典には素巾・手巾ともいひ、俗に風帶ともいふ。常服の帶にくらべると少し廣くて短い。無禮者を縛すなど、不虞の用に供した。〔淸稗類鈔〕忠孝帶、一曰二風帶一、又曰二佩帉一、視二常用之帶一、微闊而短、素巾亦曰二手巾一、行裝必佩レ之、蒙古松文淸公筠謂、國初以レ荷包二儲二食物一、以二佩帉一代二馬絡帶一者、而滿洲震載亭大令鈞辨二其說一謂、聞二之前輩一、以爲二馬上縛レ賊之用一、凡隨扈、倉猝有下突二儀衞一者上、無二繩索一、則以二此縛一レ之、蓋備二不虞之用一耳、或曰、如以レ獲レ罪賜レ盡、倉猝無レ帛、則以二此帶一代レ之、故曰二忠孝一。

【忠孝堂】19 チュウカウダウ　淸、吳六奇（**2**－**3365**・・892）の室名。

【忠孝圖】20 チュウカウヅ　書名。二十卷。唐、李襲譽撰。〔唐會要、修撰〕李襲譽撰二忠孝圖二十卷一奏レ之。

【忠孝侯印】21 チュウカウコウイン　印の名。梁の張顥が化石中から得たもの。〔搜神記、九〕張顥爲二梁州牧一、天新雨後、有レ鳥如二山鵲一、飛翔入レ市、忽然墜レ地、人爭取レ之、化爲二圓石一、顥椎二破之一、得二一金印一、文曰二忠孝侯印一。

【忠孝一致】22 チュウカウイッチ　忠なれば卽ち孝、孝なれば卽ち忠となる意。天皇は日本國民の一大家族の家長であるとの立場から、忠は孝であり孝は忠とすること。〔吉田松蔭、士規七則〕君臣一體、忠孝一致、惟吾國爲レ然。〔岩崎行親、國體篇〕忠孝一致君國一、我國憲法存二古文一。

【忠孝一本】23 チュウカウイッポン　忠と孝とはすべて人間の眞心から出たもので、其の根本は同一である。〔弘道館記述義、下〕於レ父曰レ孝、於レ君曰レ忠、至四於所三以盡二吾誠一、則一也、云云、其於二忠孝一本之旨一、可レ謂レ得矣。

【忠孝義烈】24 チュウカウギレツ　忠であり、孝であり、操が最も堅い。〔潘岳、馬汧督誄序〕然則忠孝義烈之流、慷慨非レ命而死者、綴レ辭之士、未二之或一レ遺也。

【忠孝之目】25 チュウカウノモク　忠義・孝行といふ德目。〔古賀侗菴、文抄〕忠孝之目、人孰不レ知。

【忠孝不レ並】26 チュウカウナラバズ　君に事へる忠と、親に盡す孝とは兩立しない。〔唐書、韋陟傳〕永泰元年、贈尙書左僕射太常博士程皓、議レ謚二忠孝一、顏眞卿以爲、許レ國養レ親不二兩立一、不レ當下合二二行一爲上レ謚、主客員外郎歸崇敬、亦駮二正之一、右僕射郭英乂無二學術一、卒用二太常議一云。〔封氏聞見記、定謚〕代宗朝、吏部尙書韋陟薨、太常博士程皓、謚曰二忠孝一、刑部尙書顏眞卿駮レ之、出處事殊、忠孝不レ並、已爲二孝子一、不レ得レ爲二忠臣一、爲二忠臣一、不レ得レ爲二孝子一、故求二忠于孝一、豈先レ親而後レ君、移二孝于忠一、則出レ身而事レ主、所二以叱馭而進、不レ憚二危險一、故王尊爲二忠臣一、思二全而歸一、恐有二毀傷一、故王陽爲二孝子一。

【忠孝兩全】27 チュウカウリャウゼン　忠と孝との兩道を共に全うすること。〔李商隱、爲二濮陽公陳許一上表〕貴二忠孝之兩全一、則忠可レ移レ孝、正二文武之二道一、則武可レ輔レ文。〔郤掃編〕韓忠憲公、平日嘗語二子弟一曰、進取在二於止足一、寵祿不レ可二過盈一、年若至二六十一、可二以退レ身、謝レ事歸守二父母墳墓一、則是忠孝兩全矣。〔弘道館記述義、下〕有下忠孝不二兩全一之說上。

【忠孝兩立】28 チュウカウリャウリツ　忠孝兩全に同じ。〔王構、丞相董士選贈二三代一制〕君臣相資、莫レ喩二同心之美一、忠孝兩立、斯爲二佐命之殊一。

【忠孝萃二於一門一】29 チュウカウイチモンニアツマル　一門の中に忠臣と孝子とがゐること。又、一門の中に忠臣孝子の多いこと。〔晉書、卞壺傳〕改贈二壺侍中驃騎將軍開府儀同三司一、謚曰二忠貞一、祠以二太牢一、贈二世子眕散騎侍郎、眕弟盱奉車都尉一、眕母裴氏撫二二子尸一哭曰、父爲二忠臣一、汝爲二孝子一、夫何恨乎、徵士翟湯聞レ之歎曰、父死二於君一、子死レ父、忠孝之道、萃二於一門一。

【忠效】30 チュウカウ　眞心を盡す。〔晉書、楚隱王瑋傳〕懸レ賞開レ封、以待二忠效一。

【忠耿】31 チュウカウ　ただしくつつしむ。〔福惠全書、錢穀部、解給〕志性忠耿之人。

【忠鯁】32 チュウカウ　眞心があって剛直なこと。〔北史、庾質傳〕大業初、授二太史令一、操履貞慤、立言忠鯁。〔唐書、袁朗傳〕詔二利貞一曰、卿奕葉忠鯁、能抗疏規二朕之失一。〔獨孤及、直諫表〕此忠鯁之士所二以竊歎一、而臣亦恥レ之。

【忠剛】33 チュウガウ　明、張達（**4**－**9812**・・534）の謚。

【忠恪】34 チュウカク　㊀まめやかでつつしみぶかい。又、其のこと。〔後漢書、鄧皇后紀〕朕以レ無レ德託二母天下一、而薄祐不天、早離二大憂一、云云、詔曰、公卿百官、其勉盡二忠恪一、以輔二朝廷一。㊁謚號。㋑宋、章誼（**8**－**25761**・・31）の謚。㋺宋、曹琮（**5**－**14297**・・138）の謚。㋩明、吳時來（**2**－**3365**・・631）の謚。㋥明、楊允繩（**6**－**15112**・・423）の謚。㋭明、林公黼（**6**－**14551**・・319）の謚。

【忠慤】35 チュウカク　㊀まじめ。忠實。〔舊唐書、屈突通傳〕通性剛毅、志尙忠慤、檢レ身淸正。〔吳筠、周豐詠〕莅レ人在二忠慤一、疑レ叛由二會盟一。㊁謚號。㋑淸、佟國瑤（**1**－**522**・・7）の謚。㋺民國、王國維（**7**－**20823**・・1478）の謚。

【忠確】36 チュウカク　宋、張克戩（**4**－**9812**・・1051）の號。

【忠奸】37 チュウカン　忠姦（39）に同じ。

【忠肝】38 チュウカン　忠義の心。忠魂。忠膽。〔宋史、王應麟傳〕淳祐元年、帝御二延英殿一策レ士、欲下易二第七卷一寘上首、應麟讀レ之、乃頓首曰、是卷古誼若二龜鑑一、忠肝若二鐵石一、臣敢爲二得レ士賀一、及レ唱レ名、乃文天祥也。

【忠姦】39 チュウカン　忠義と姦惡。又、其の者。

【忠敢】40 チュウカン　忠勇（228）に同じ。〔宋書、索虜傳〕陳憲盡レ力、捍二御全城一、摧レ寇、忠敢之效、宜レ加二顯擢一。

【忠諫】41 チュウカン　眞心でいさめる。忠義の心でいさめる。〔韓非子、外儲說左下〕公室卑則忌二直言一、私行勝則少二公功一、說在二文子之直言、武子之用レ杖、子產忠諫、子國譙怒一。〔六韜、文韜、上賢〕臣不二忠諫一、非二吾臣一也。〔漢書、賈誼傳〕忠諫者謂二之誹謗一。〔說苑、正諫〕諫有レ五、一曰正諫、二曰降諫、三曰忠諫、四曰戇諫、五曰諷諫。〔諸葛亮、出師表〕不レ宜三妄自菲薄、引レ喩失レ義、以塞二忠諫之路一也。

【忠諫不レ聽】42 チュウカンキカレズ　眞心でいさめても聽き容れられない。〔莊子、至樂〕忠諫不レ聽、蹲循勿レ爭、故夫子胥爭レ之、以殘二其形一。

【忠翰】43 チュウカン　元、嚴忠濟（**2**－**4589**・・303）の一名。

【忠簡】44 チュウカン　謚號。㊀晉、王恭（**7**－**20823**・・246）の謚。㊁南朝宋、江湛（**6**－**17140**・・295）の追謚。㊂南齊、蕭崇之（**9**－**32012**・・416）の謚。㊃五代吳越、錢鏵（**11**－**40563**・・62）の謚。㊄宋、許景衡（**10**－**35298**・・272）の謚。㊅宋、黃伯固（**12**－**47926**・・1288）の謚。㊆宋、胡銓（**9**－**29400**・・222）の謚。㊇宋、史嵩之（**2**－**3249**・・231）の謚。㊈宋、薛弼（**9**－**32123**・・117）の謚。㊉宋、宗澤（**3**－**7106**・・202）の謚。⑪宋、趙鼎（**10**－**37171**・・292）の謚。⑫宋、傅伯成（**1**－**939**・・202）の謚。⑬宋、李昴英（**6**－**14459**・・1859）の謚。⑭宋、劉瑗（**2**－**2224**・・65）の謚。⑮宋、劉欽（**2**－**2224**・・186）の謚。⑯宋、王介（**7**－**20823**・・116）の謚。⑰宋、王疇（**7**－**20823**・・787）の謚。⑱金、完顏永功（**3**－**7079**・・56）の謚。⑲金、程輝（**8**－**25081**・・32）の謚。⑳元、吳元珪（**2**－**3365**・・541）の謚。㉑元、兀都帶（**1**－**1337**・・36）の謚。㉒元、忽辛（**4**－**10405**・・19）の謚。㉓明、魏良弼（**12**－**45872**・・302）の追謚。㉔明、張翀（柳州の人）（**4**－**9812**・・558）の謚。㉕明、馬鳴起（**12**－**44572**・・948）の謚。㉖明、王佐（**7**－**20823**・・414）の謚。

【忠鬼】45 チュウキ　忠義の鬼。忠義を盡し、其のために死んだ人。鬼は死者の靈魂。〔北史、李遠傳〕遠子植、文帝時已爲二相府司錄一、參二掌朝政一、及二晉公護執一レ權、密欲レ誅レ護頗泄、護乃出レ植爲二梁州刺史一、尋而廢帝召二遠及植一還レ朝、遠恐レ有レ變、沈吟良久、乃曰、大丈夫寧爲二忠鬼一、安能作二叛臣一乎、遂就レ徵至二京師一。

【忠規】46 チュウキ　まめやかなはかりごと。忠謀。〔陸機、辨亡論上〕忠規武節、未レ有二如レ此其著者一也。〔傅亮、爲二宋公一求三加二贈劉前軍一表〕忠規

密謨。

【忠貴】47 チュウキ 潛夫論の篇名。

【忠僖】48 チュウキ 諡號。㊀宋、夏守贇(3－5720‥324)の諡。㊁明、劉安(2－2224‥2)の諡。㊂清、馬喇希(12－44572‥955)の諡。

【忠毅】49 チュウキ ㊀忠義で心のつよいこと。心がまことでつよいこと。〔宋書、謝靈運傳〕匪㆓條侯之忠毅㆒、將七國之陵㆑正。〔唐書、李嗣業傳〕忠毅憂㆑國。㊁諡號。㋑唐、陳元光(11－41698‥824)の諡。㋺後梁、王檀(7－20823‥776)の諡。㋩宋、姚興(3－6202‥54)の諡。㋥宋、向子韶(2－3301‥103)の諡。㋭宋、周美(2－3441‥432)の諡。㋬宋、彭汝方(4－10003‥168)の諡。㋣宋、畢再遇(7－21829‥93)の諡。㋠宋、李道(6－14459‥564)の諡。㋷金、烏古論仲溫(7－18998‥423)の諡。㋦金、祁宰(8－24634‥13)の諡。㋸金、完顏習不失(3－7079‥155) の諡。㋾金、完顏撒改(3－7079‥80)の諡。㋻元、解汝楫(10－35067‥292)の諡。㋕元、邢飛翰(11－39301‥66)の諡。㋵元、張弘略(4－9812‥1037)の諡。㋟元、陳君用(11－41698‥778)の諡。㋹元、劉天孚(2－2224‥1225)の諡。㋞明、衞景瑗(10－34074‥131)の諡。㋡明、左光斗(4－8720‥451)の諡。㋧明、山雲(4－7869‥52)の諡。㋤明、周宗建(2－3441‥760)の諡。㋶明、周朝瑞(2－3441‥795)の諡。㋰明、朱之馮(6－14424‥812)の諡。㋒明、曾鳳韶(5－14299‥240)の諡。㋼明、成德(5－11544‥243)の諡。㋨明、張德勝(4－9812‥1420)の諡。㋔明、張武(4－9812‥649)の諡。㋗明、陳懷(11－41698‥177)の諡。㋳明、趙南星(10－37171‥827)の諡。㋮明、鄧顥(11－39630‥37)の諡。㋘明、方政(5－13620‥303)の諡。㋫明、扶克儉(5－11840‥154)の諡。㋙明、李應昇(6－14459‥901)の諡。㋓明、李標(6－14459‥50)の諡。㋢明、劉校(2－2224‥102)の追諡。㋐明、劉熙祚(2－2224‥785)の諡。㋚明、王驥(7－20823‥212)の諡。㋖明、王良(7－20823‥1064)の諡。㋴清、高巍(12－45313‥167)の諡。㋱清、郭相忠(11－39474‥319)の諡。㋯清、張運蘭(4－9812‥803)の諡。㋛清、陳啓泰(11－41698‥781)の諡。㋽清、陳丹赤(11－41698‥1121)の諡。㋪清、潘鐸(7－18236‥69)の諡。㋲清、傅弘烈(1－939‥162)の諡。㋝清、邁圖(11－39169‥25)の諡。㋜清、孟喬芳(3－6960‥303)の諡。(ン)清、勞薩(2－2410‥53)の諡。(甲)清、李長庚(6－14459‥1713)の諡。(乙)清、王之鼎(7－20823‥1558)の諡。(丙)明、鄭亨(11－39647‥73)の諡。

【忠毅先生】50 チュウキセンセイ 明、劉翀(平陸の人)(2－2224‥500)の私諡。

【忠義】51 チュウギ ㊀君國にまごころを盡すことと正道をふみ行ふこと。轉じて、君主や國家にまごころを盡すこと。又、其の人。〔後漢書、臧洪傳〕先誅㆓忠義㆒、豈合㆓天意㆒。〔魏志、齊王芳紀〕所㆔以表㆓揚忠義㆒。〔崔顥、孟門行〕滿堂盡是忠義士、何意得㆑有㆓讒諛人㆒。〔李衞公問對、下〕勣忠義臣、可㆓保任㆒也。㊁諡號。㋑晉、洗勁(6－17379‥18)の諡。㋺清、圖爾格(3－4832‥108)の諡。

【忠義軍】52 チュウギグン 行政區劃の名。今の湖北省の北部、陝西省の東部、及び河南省汝陽道の西南部の地。唐の天寶中、南陽節度を置き、至德の初、山南東道と改め、文德の初、忠義軍の號を賜ふ。天祐の初、朱全忠に幷せられた。〔讀史方輿紀要、州域形勢、唐下〕山南東、治㆓襄州㆒、初、天寶十五載、置㆓南陽節度㆒、治㆓鄧州㆒、至德二載、移㆓治襄州㆒、曰㆓山南東道㆒、領㆓襄・鄧・隨・唐・安・均・房・金・商九州㆒、寶應初、割㆓金・商・均・房四州㆒、止領㆓五州㆒、後又兼領㆓郢州㆒、大歷中、又改領㆓襄・鄧・均・房・復・郢六州㆒、建中二年、梁崇義以㆓六州㆒拒㆑命、淮西帥李希烈平㆑之、貞元初、析㆓鄧州㆒隸㆓東都畿內㆒、旋復㆑故、三年、仍領㆓襄・郢・復・鄧・安・隨・唐七州㆒、元和十年、分置㆓隨・鄧・唐節度㆒、治㆓鄧州㆒、與㆓襄・復・郢・均・房㆒爲㆓兩節度㆒、時方討㆓淮西㆒也、淮蔡平復㆑故、中和四年、爲㆓秦宗權將趙德諲所㆒㆑據、文德初、來歸、賜㆓號忠義軍㆒、傳㆓二世㆒至㆓匡凝㆒、天祐二年、爲㆓朱全忠所㆒㆑幷、明年、復曰㆓山南東道㆒。

【忠義祠】53 チュウギシ 清代、河北省の府・州・縣などで、文廟の左右に忠義孝弟祠をたて、忠義祠には難に殉じたものを祠つた。〔淸會典事例、禮部、羣祀〕直省府州縣、立㆓忠義孝弟祠㆒。

【忠義集】54 チュウギシフ 書名。七卷。元、趙景良編。南豐の劉壎の十忠詩一卷と、其の子麟瑞の忠逸詠四卷とを合はせて一編とし、又、宋末遺老の諸詩二卷を附錄したもの。〔四庫提要、集、總集類〕。

【忠義傳】55 チュウギデン 忠義な人々の傳記を集めたもの。晉書・唐書・舊唐書・宋史・金史・元史・明史等にある。

【忠義爲㆑首】56 チュウギヲシュトナス 忠義な者を第一位におく。〔魏志、徐宣傳〕臣聞帝王用㆑人、度㆑世授㆑才、爭奪之時、以㆓策略㆒爲㆑先、分定之後、以㆓忠義㆒爲㆑首。

【忠義璇圖】57 チュウギセンヅ 戲曲の篇名。清、張照作。內廷七種の一。梁山泊の諸盜及び宋・金の兵を交へたこと、徽宗・欽宗の北狩等の事を演じたもの。

【忠義孝弟祠】58 チュウギカウテイシ 忠義祠(53)を見よ。

【忠義塡㆓骨髓㆒】59 チュウギコツズイヲウヅム 忠義の心が骨髓にまでしみこんで一杯になつてゐる。〔蘇軾、與㆓李公擇㆒書〕吾儕雖㆓老且窮㆒、而道理貫㆓心肝㆒、忠義塡㆓骨髓㆒、直須㆔談㆓笑於死生之際㆒。

【忠客】60 チュウキャク 草の名。ひまはりをいふ。〔西溪叢語〕葵爲㆓忠客㆒。「諡。

【忠恭】61 チュウキョウ 五代南唐、戴安(5－11685‥1)の

【忠勤】62 チュウキン ㊀まめやかにつとめる。忠を盡して職務に勤勞する。〔孔叢子、論書〕於㆓大禹・皐陶謨・益稷㆒見㆓禹稷皐陶之忠勤功勳㆒焉。〔後漢書、公孫瓚傳〕忠㆓勤王室㆒、其功莫㆑大。〔諸葛亮、與㆓張裔蔣琬㆒書〕姜伯約忠㆓勤時事㆒、思慮精密。〔晉書、黃泓傳〕性忠勤、非㆑禮不㆑動。㊁諡號。㋑清、阿濟拜(11－41599‥378)の諡。㋺清、熙麟(7－19192‥61)の諡。㋩清、宋慶(3－7078‥74)の諡。㋥清、張存仁(4－9812‥1307)の諡。㋭清、馬璟(12－44572‥53)の諡。㋬清、楊鼎勳(6－15112‥712)の諡。

【忠勤功勳】63 チュウキンコウクン まめやかなつとめぶりとてがら。〔孔叢子、論書〕見㆓禹・稷・皋陶之忠勤功勳㆒焉。

【忠勤先生】64 チュウキンセンセイ 宋、龍崇(12－48818‥348)の尊稱。

【忠謹】65 チュウキン 忠實でつつしみ深い。又、忠節であり、恭敬である。〔漢書、昭帝紀〕右將軍張安世、宿衞忠謹、封㆓富平侯㆒。〔漢書、趙充國傳〕事㆓孝武帝㆒數十年、見㆑謂㆓忠謹㆒。〔五代史、牛存節傳〕爲㆑人木彊忠謹。

【忠和】66 チュウクヮ チュウワ 忠と和。又、まごころを盡しやはらぐ。〔周禮、地官、大司徒〕六德、知・仁・聖・義・忠・和。〔後漢書、章帝紀〕君㆑人者、視㆑民如㆓父母㆒、有㆓憯怛之憂㆒、有㆓忠和之教㆒、匍匐之救㆒。

【忠果】67 チュウクヮ ㊀忠義で果敢なこと。〔後漢書、夏恭傳〕嘉㆓其忠果㆒、召拜㆓郎中㆒。〔孔融、薦㆓禰衡㆒表〕忠果正直、志懷㆓霜雪㆒、見㆑善若㆑驚、疾㆑惡若㆑讎。㊁橄欖の異名。青果。諫果。〔本草、橄欖〕釋名、青果・忠果・諫果。㊂諡號。㋑宋、趙訓之(10－37171‥494)の諡。㋺宋、趙士跋(10－37171‥586)の諡。㋩清、甘文焜(7－21643‥252)の諡。

【忠誨】68 チュウクヮイ まごころを盡してをしへさとす。〔劉宰、送㆓王去非之㆑官詩〕先入勿㆓偏聽㆒、未㆑信勿㆓忠誨㆒。

【忠懷】69 チュウクヮイ 明、楊源(6－15112‥142)の諡。

【忠款】70 チュウクヮン まごころ。忠誠。又、まごころがあること。〔列女傳、賢明、齊桓衞姬傳〕頌曰、齊桓衞姬、忠款誠信、公好㆓淫樂㆒、姬爲修㆑身。〔蜀志、郤正傳〕固未㆑能㆘輸㆓竭忠款㆒、盡㆗瀝胷肝㆖。〔北史、齊神武帝紀〕仍以㆑信誓、自明㆓忠款㆒。

【忠君】71 チュウクン 君に忠を盡す。又、其のこと。〔戰國、秦策〕孝己愛㆓其親㆒、天下欲㆓以爲㆒㆑子、子胥忠㆓乎其君㆒、天下欲㆓以爲㆒㆑臣。

【忠君愛國】72 チュウクンアイコク 君に忠にして、國を愛すること。〔陳傅良、跋㆘蘇黃門論㆓章子厚㆒疏㆖文〕予每讀㆘章氏論㆓役法㆒劄子㆖言、溫公有㆓忠君愛國之心㆒、而不㆑知㆓變通之術㆒。

【忠勳】73 チュウクン 君につくした功勞。〔後漢書、桓帝紀〕宜㆘班㆓慶賞㆒以酬㆗忠勳㆖。〔徐陵、進㆓武帝㆒爲㆓長城公㆒詔〕思㆜所㆛以敬答㆓忠勳㆒、用申㆚朝典㆙。

【忠勁】74 チュウケイ 眞心があつて氣強い。〔晉書、溫嶠等傳贊〕道徽忠勁、高芬遠映。

【忠計】75 チュウケイ 忠實に計略をめぐらす。又、眞心を籠めたはかりごと。〔戰國、魏策〕田文曰、臣效㆓便計於王㆒、王不㆑用㆓臣之忠計㆒、文請行矣、恐㆔天下之將㆑有㆓大變㆒也。〔韓非子、存韓〕聞㆓於諸

侯一也、趙氏破レ膽、荊人狐疑、必有二忠計一。〔史記、蒙恬傳〕趙高因爲二胡亥一忠計、欲三以滅二蒙氏一。

【忠惠】76 チュウケイ ❶まごころを盡し下にめぐむ。忠愛。〔國語、吳語〕王曰、越國之中、吾寬レ民以子レ之、忠惠以善レ之、吾修レ令寬レ刑、施二民所レ欲、去二民所レ惡。〔逸周書、官人解〕君臣之閒、觀二其忠惠一。〔墨子、天志下〕仁義也、忠惠也。❷諡號。㋑梁、柳慶遠(6-14662‥247)の諡。㋺唐、王翃(7-20823‥1040)の諡。㋩後周、劉詞(2-2224‥321)の諡。㋥宋、吳元扆(2-3365‥539)の諡。㋭宋、鄭僑(11-39647‥108)の諡。㋬宋、翟汝文(9-28727‥54)の私諡。㋣宋、滕膺(7-18036‥35)の諡。㋠宋、方大琮(5-13620‥578)の諡。㋷宋、余天錫(1-515‥113)の諡。㋦宋、宇文紹節(3-7067‥84)の諡。㋸宋、吳琚(2-3365‥110)の諡。㋾宋、蔡襄(9-31818‥59)の諡。㋻元、賽典赤贍思丁(10-36886‥61)の諡。㋕宋、王萬(濠州の人)(7-20823‥996)の諡。㋵元、孫威(3-6987‥3)の諡。㋟元、劉黑馬(2-2224‥930)の諡。㋹元、立智理威(8-25721‥280)の諡。㋞元、王守道(7-20823‥1650)の諡。㋡元、汪良臣(6-17154‥352)の諡。㋧明、顏伯瑋(12-43591‥183)の諡。㋤明、周起元(2-3441‥591)の改諡。㋶明、鍾化民(11-40672‥143)の諡。

〖忠惠集〗77 チュウケイシフ 書名。十卷。附錄一卷。宋、翟汝文撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

〖忠惠王〗78 チュウケイワウ 高麗、第二十八代の王。王禎(7-20823‥828)を見よ。「諡。

【忠景】79 チュウケイ 元、脫因納(9-29539‥145)の追諡。

【忠敬】80 チュウケイ ❶忠誠と恭敬。又、忠誠で恭敬なこと。〔詩、魯頌、有駜序、疏〕臣能夙夜在レ公、盡二其忠敬一。〔禮、祭統〕致三其誠信與二其忠敬一、奉レ之以レ物。〔陸機、豪士賦序〕文子懷二忠敬一而齒レ劍、固其所也。❷諡號。㋑梁、呂僧珍(2-3386‥228)の諡。㋺陳、蔡景歷(9-31818‥161)の諡。㋩後梁、馮行襲(12-44579‥184)の諡。㋥後唐、李茂貞(6-14459‥1967)の諡。㋭金、高守約(12-45313‥1214)の諡。

【忠經】81 チュウケイ 書名。舊本、漢、馬融撰、鄭玄注と題す。孝經に摹倣して十八章に分け、臣たる者の君に事へ忠を盡すべきを述ぶ。隋書經籍志・唐書藝文志には此の書を載せず、宋の崇文總目に始めて載す。蓋し、宋代の僞作であらう。〔四庫提要、子、儒家類存目一〕・〔百子全書、第五冊〕・〔漢魏叢書、第十五冊〕・〔津逮祕書、第二十八冊〕・〔說郛、第七十冊〕・〔學津討原、第十二冊〕。

【忠潔】82 チュウケツ 諡號。❶宋、司馬朴(2-3257‥313)の諡。❷元、張桓(4-9812‥240)の諡。❸明、詹軾(10-35458‥23)の追諡。

【忠見】83 タダミ 姓氏。〔姓名錄抄〕。

【忠建】84 チュウケン 川の名。源は湖北省咸豐縣の西、朝陽山の南。夷水に注ぐ。

【忠儉】85 チュウケン 眞心があってつづまやかなこと。〔左氏、襄、三十〕大人之忠儉者、從與レ之。

【忠賢】86 チュウケン 眞心があって賢い。忠義で賢明なこと。又、其の人。〔韓詩外傳、二〕莊王曰、今日聽二忠賢之言一、不レ知二饑倦一也。〔漢書、元帝紀〕明王在レ上、忠賢布レ職、則羣生和樂、方外蒙レ澤。〔陸機、漢高祖功臣頌〕世載二忠賢一。

〖忠賢祠〗87 chung^{1} hsien^{2} tzʻŭ^{2} 忠良な官吏を祀つた祠堂。

【忠憲】88 チュウケン 諡號。❶南朝宋、袁淑(10-34152‥81)の諡。❷南齊、沈文季(6-17189‥633)の諡。❸唐、裴光庭(10-34362‥114)の諡。❹宋、种師道(8-24942‥12)の諡。❺宋、趙希言(10-37171‥456)の諡。❻元、許國禎(10-35298‥286)の諡。❼元、完澤(3-7079‥238)の諡。❽元、洪福源(6-17402‥268)の諡。❾元、劉宣(2-2224‥447)の諡。❿明、高攀龍(12-45313‥1306)の諡。⓫明、馬理(12-44572‥614)の諡。

〖忠憲王〗89 チュウケンワウ 元、闊里吉思(11-41429‥49)の追封號。

【忠縣】90 チュウケン 縣名。民國、置く。漢の臨江縣の地。四川省萬縣の西南。縣城は長江の西北岸に瀕す。唐の白居易が嘗て此に謫居した。

【忠謇】91 チュウケン 忠誠で正しい。忠蹇。忠直。〔後漢書、蔡邕傳〕宜下擢二文右職一、以勸二忠謇一、宣二聲海內一、博開中政路上。〔吳志、張昭傳、注〕昭忠謇亮直、有二大臣節一。〔晉書、陳元達載記〕忠謇在レ位、屢進二讜言一。〔唐書、魏徵傳〕當今忠謇貴重、無レ踰レ徵。

【忠蹇】92 チュウケン 忠謇に同じ。忠直。〔風俗通、正失〕原行安爲二司徒一、忠蹇匪躬、盡レ誠事レ國。〔吳志、王蕃傳〕丞相陸凱上疏曰、常侍王蕃、黃中通理、知レ天知レ物、處レ朝忠蹇、斯社稷之重鎭、大吳之龍逢也。

【忠獻】93 チュウケン 諡號。❶唐、辛雲京(10-38630‥89)の諡。❷五代吳越、錢弘億(11-40563‥309)の諡。❸五代吳越、錢佐(11-40563‥92)の諡。❹宋、韓億(12-43159‥24)の諡。❺宋、韓琦(12-43159‥51)の諡。❻宋、史彌遠(2-3249‥264)の諡。❼宋、秦檜(8-24995‥59)の諡。❽宋、張浚(4-9812‥399)の諡。❾宋、趙普(10-37171‥322)の諡。❿宋、范雍(9-30834‥123)の諡。⓫金、完顏永成(3-7079‥57)の諡。⓬元、亦憐眞班(1-293‥49)の諡。⓭元、哈剌哈孫(2-3594‥79)の諡。⓮元、康里脫脫(4-9376‥207)の諡。⓯元、鐵哥(11-40945‥25)の諡。⓰元、田忠良(7-21723‥402)の諡。⓱元、董文炳(9-31433‥260)の諡。⓲元、拜住(5-11969‥104)の諡。⓳元、裴光庭(10-34362‥114)の諡。

【忠顯】94 チュウケン 諡號。❶宋、劉韐(2-2224‥125)の諡。❷元、許則祖(10-35298‥346)の諡。

【忠言】95 チュウゲン ❶忠直の言。眞心を盡して諫めることば。又、其のこと。〔荀子、致士〕忠言・忠說。〔韓非子、外儲說左上〕忠言拂二於耳一、而明主聽レ之、知三其可二以致レ功也。〔漢書、梅福傳〕吐二忠言嘉謀一。〔法言、孝至〕忠言嘉謨。〔後漢書、桓郁傳〕數進二忠言一、多見二納錄一。〔後漢書、曹節傳〕公卿皆尸祿、無下有二忠言一者上。〔諸葛亮、出師表〕至下於斟二酌損益一、進盡中忠言上、則攸之・禕・允之任也。❷明、劉訓(2-2224‥221)の字。

〖忠言逆レ耳〗96 チュウゲンミミニサカラフ 忠直の言は心よく聽きにくい。忠直の言はとかく氣に障るものである。〔史記、淮南王安傳〕忠言逆二於耳一利二於行一。〔漢書、張良傳〕忠言逆レ耳而利二於行一、毒藥苦レ口利二於病一。〔說苑、正諫〕忠言逆二於耳一利二於行一。〔後漢書、袁譚傳〕忠言逆レ耳而便二於行一。〔孔子家語、六本〕良藥苦レ口利二于病一、忠言逆レ耳利二于行一。

〖忠言未レ卒二於口一而身爲二戮沒一矣〗97 チュウゲンイマダクチニヲヘザルニミリクボツセラル 忠言を未だいひ了へないうちに斬罪に處せられる。〔新書、過秦下〕所三以不二敢盡レ忠拂レ過者、秦俗多二忌諱之禁一、忠言未レ卒二於口一、而身爲二戮沒一矣。

【忠功】98 チュウコウ 君のために盡して立てた功績。忠勳。〔唐書、李聽晟傳〕家聲在レ人、若示二衰薄一、恐不レ見二忠功之效一、吾欲二夸而勸レ之也。

【忠厚】99 チュウコウ ❶まめやかで手あつい。物事に忠實で丁寧親切なこと。〔詩、大雅、行葦序〕行葦、忠厚也、周家忠厚、仁及二草木一。〔荀子、禮論〕事レ生不二忠厚一、不二敬文一、謂二之野一、送レ死不二忠厚一、不二敬文一、謂二之瘠一。〔史記、韓安國傳〕安國爲レ人多二大略一、智足二以當世取舍一、而出二於忠厚一焉。〔注〕索隱曰、案、出者、去也、言三安國爲レ人無二忠厚之行一。〔後漢書、劉虞公孫瓚傳論〕守レ道慕レ名、以二忠厚一自牧。〔魏志、陳思王植傳〕夫忠厚、仁極二草木一、則行葦之詩作。〔北史、韓褒傳論〕以二忠厚一知レ名。❷金、耶律恕(9-29008‥27)の字。

【忠告】100 チュウコク 眞心を以て人に意見する。又、其の意見。〔越絕書、越絕德序外傳記〕服以二忠告一。

〖忠告善導〗101 チュウコクシテゼンダウス 忠告してよく導く。〔論語、顏淵〕忠告而善道レ之、不可則止。〔集注〕友所二以輔レ仁、故盡二其心一以告レ之、善二其說一以道レ之。〔吳志、嚴畯傳〕其於二人物一、忠告善道、志存二補益一。

【忠悃】102 チュウコン まめやかで誠があること。忠誠。〔桃花扇、設朝〕汲汲以報レ讐復レ國爲レ請、俱見二忠悃一。

【忠魂】103 チュウコン 忠義なたましひ。忠義な心。〔徐渭、孫忠烈公輓章〕百年正氣天爲永、一覺忠魂夢亦甘。〔竹添井井、雙殉行〕忠魂貞靈長不レ散、千秋萬古侍二桃山一。

〖忠魂碑〗104 チュウコンヒ 死者の忠義の德を稱へ、其の魂を弔ふために建てた碑。

〖忠魂義膽〗105 チュウコンギタン 忠義な心。忠義なたましひ。又、忠義な心と正義に勇む心。〔瀧澤馬琴、八犬士傳序〕雖二其賢不レ如二虞舜八元一、忠魂義膽、宜下與二楠家八臣一同レ年談上也。

〖忠魂義魄〗106 チュウコンギハク 忠魂義膽に同じ。

【忠懇】107 チュウコン まことでねんごろ。又、其の心。〔吳志、陸凱傳〕忠懇內發。

【忠詐】108 チュウサ まことといつはり。〔韓非子、難四〕臣之忠詐、在㆓君之所㆒㆑行也。

【忠壯】109 チュウサウ ❶忠義で勇壯なこと。〔吳志、潘濬陸凱傳評〕陸凱忠壯質直。〔陳琳、檄㆓吳將校部曲㆒文〕忠壯果烈。❷諡號。㋑梁、魏益德(**12−45872**··165)の諡。㋺梁、蕭方等(**9−32012**··498)の諡。㋩梁、裴之横(**10−34362**··134)の諡。㋥北周、楊敷(**6−15112**··337)の諡。㋭陳、程靈洗(**8−25081**··303)の諡。㋬唐、劉感(**2−2224**··131)の諡。㋣唐、王同皎(**7−20823**··1982)の諡。㋠宋、魏勝(**12−45872**··87)の諡。㋷宋、徐徽言(**4−10110**··370)の諡。㋦宋、李好義(**6−14459**··931)の諡。㋸宋、李邈(**6−14459**··667)の諡。㋾宋、王稟(**7−20823**··917)の諡。㋻元、野峻台(**11−40133**··369)の諡。㋕明、賈冕(**10−36755**··127)の諡。㋵明、郭亮(**11−39474**··218)の諡。㋟明、吳允誠(**2−3365**··434)の諡。㋹明、吳瑾(**2−3365**··119)の諡。㋞明、黑春(**12−48038**··132)の諡。㋡明、曹良臣(**5−14297**··326)の諡。㋧明、薛貴(**9−32123**··29)の諡。㋤明、宗禮(**3−7106**··283)の諡。㋶明、張英(**4−9812**··48)の追諡。㋰明、傅宗龍(**1−939**··189)の諡。㋒明、李遠(**6−14459**··88)の諡。㋼明、王眞(**7−20823**··628)の諡。㋨清、喀爾塔喇(**2−3896**··26)の諡。㋔清、和春(**2−3490**··203)の諡。㋗清、和琳(**2−3490**··413)の諡。㋳清、黃淳熙(**12−47926**··1154)の諡。㋮清、黃潤昌(**12−47926**··1156)の諡。㋘清、朱天貴(**6−14424**··940)の諡。㋫清、瑞昌(**7−21131**··75)の諡。㋙清、全順(**1−1424**··95)の諡。㋓清、唐殿魁(**2−3709**··493)の諡。㋢清、儲玫躬(**1−1284**··90)の諡。㋐清、鄧世昌(**11−39630**··168)の諡。㋚清、彭毓橋(**4−10003**··132)の諡。㋖清、鮑超(**12−46074**··64)の諡。㋴清、平瑞(**4−9167**··355)の諡。㋱清、李佑厚(**6−14459**··852)の諡。㋯清、李臣典(**6−14459**··1510)の諡。㋛清、劉松山(**2−2224**··1074)の諡。㋽清、劉神山(**2−2224**··1080)の諡。

【忠讒】110 チュウザン 眞心のある者と詐つて人を陷れる者。〔漢書、劉向傳〕邪正雜糅、忠讒竝進。

【忠士】111 チュウシ まことのある人。又、忠義の士。〔說苑、談叢〕十室之邑、必有㆓忠士㆒。〔孔子家語、賢君〕忠士折㆑口逃㆑罪。

【忠死】112 チュウシ 眞心を盡して事を行ひ、そのために死ぬこと。又、忠義のために死ぬこと。

【忠志】113 チュウシ ❶忠義のこころざし。〔諸葛亮、出師表〕侍衞之臣、不㆑懈㆓於內㆒、忠志之士、忘㆓身於外㆒者、蓋追㆓先帝之殊遇㆒、欲㆑報㆓之於陛下㆒也。〔晉書、吉挹傳〕桓沖上言曰、挹之忠志、猶在㆑可㆑錄。❷西陽雜俎の篇名。❸唐、李寶臣(**6−14459**··1857)の名。

【忠嗣】114 チュウシ 金、耿端義(**9−29026**··69)の字。

【忠事】115 チュウジ 眞心をこめてする仕事。〔荀子、致士〕忠言・忠說・忠事・忠謀・忠譽・忠愬、莫㆑不㆓明通方起、以尙㆑盡矣。

【忠州】116 チュウシウ 州名。❶唐、置く。尋いで南賓郡と改め、復た忠州といふ。五代及び宋、之に因り、宋、後に升せて咸淳府とし、元、復た忠州といふ。淸は直隸州とし、酆都・墊江・梁山の三縣を管轄す。四川省忠縣。〔讀史方輿紀要、四川、重慶府〕忠州、古巴國地、秦屬㆓巴郡㆒、兩漢因㆑之、後漢末屬㆓永寧郡㆒、晉仍屬㆓巴郡㆒、宋・齊因㆑之、梁置㆓臨江郡㆒、西魏廢帝二年、兼置㆓臨州㆒、隋開皇初、郡廢、大業初、州廢、屬㆓巴東郡㆒、義寧初、復置㆓寧州㆒、唐初因㆑之、貞觀八年、改曰㆓忠州㆒、天寶初、曰㆓南賓郡㆒、乾元初、復曰㆓忠州㆒、五代因㆑之、宋仍曰㆓忠州㆒、咸淳初、升爲㆓咸淳府㆒、元復曰㆓忠州㆒、明因㆑之、以㆓州治臨江縣㆒省入、領㆓縣二㆒、今仍㆑舊。〔淸史稿、地理志〕四川、忠州直隸州、領縣三、酆都・墊江・梁山。❷唐、置く。故治は廣東省定安縣の西南の黎母山峒中。〔讀史方輿紀要、廣東、瓊州府、定安縣〕廢忠州、在㆓縣西南㆒、古獠境、唐咸通五年、遣㆑兵擒㆓黎峒蔣璘等㆒、遂定㆓其地㆒、置㆓忠州㆒、兵還卽廢、元至元三十年、元帥朱斌統㆑兵深入、黎巢盡空、明年、於㆓忠州故地㆒置㆓定安縣㆒。❸宋、置く。廣西省綏淥縣。〔讀史方輿紀要、廣西、南寧府〕忠州、唐羈縻地、宋置㆓忠州㆒、屬㆓邕州㆒、遷㆓陸寨㆒、元屬㆓思明路㆒、明初、屬㆓思明府㆒、陸慶三年、改㆓今屬㆒。〔淸史稿、地理志〕廣西、南寧府、土州三、土忠州。❹朝鮮忠淸北道の都邑。漢江の南岸に瀕す。

【忠質】117 チュウシツ 眞心があつて飾りがない。〔弘道館記述義、上〕夏殷非㆑無㆑文、周豈廢㆓忠質㆒、而夏曰㆑忠、殷曰㆑質、周曰㆑文、皆言㆓其所㆒㆑向耳。〔標注〕忠、只是朴實、質、則漸有㆓形質制度㆒、而未㆑有㆓文采㆒。

【忠實】118 チュウジツ まことを以てよくつとめること。又、まこと。誠實。忠誠。〔六韜、龍韜、選將〕有㆓恍惚而反忠實者㆒。〔墨子、兼愛中〕今天下之君子、忠實欲㆓天下之富㆒、而惡㆓其貧㆒。〔史記、李廣傳贊〕彼其忠實心、誠信㆓於士大夫㆒也。

〖忠實人〗119 マメビト まめやかな人。又、まじめな人。

【忠邪】120 チュウジャ 忠心と邪心。又、忠心の者と邪心の者。〔殷仲文、罪釁解㆓尙書㆒表〕宜㆔其極㆑法以判㆓忠邪㆒。〔舊唐書、李嶠傳〕忠邪既辨、具物惟新。

【忠情】121 チュウジャウ まごころ。〔蜀志、楊戲傳〕贊㆓法孝直㆒云云、致㆓命明主㆒、忠情發㆑臆。

【忠襄】122 チュウジャウ 諡號。❶宋、鄒孟卿(**11−39562**··122)の諡。❷宋、李顯忠(**6−14459**··1151)の諡。❸宋、李植(**6−14459**··465)の諡。❹宋、楊邦乂(**6−15112**··741)の諡。❺元、純只海(**8−27277**··142)の諡。❻元、速哥(**11−38897**··1)の諡。❼明、陳珪(**11−41698**··204)の諡。❽明、儀銘(**1−1172**··107)の諡。❾明、金忠(**11−40152**··848)の諡。❿明、郭資(**11−39474**··102)の諡。⓫明、伍文定(**1−435**··57)の諡。⓬明、吳山(**2−3365**··192)の諡。⓭明、蔡懋德(**9−31818**··240)の諡。⓮明、孫嘉績(**3−6987**··347)の諡。⓯明、陳九疇(**11−41698**··743)の追諡。⓰明、鐵鉉(**11−40945**··126)の諡。⓱明、方瑛(**5−13620**··17)の諡。⓲明、濮英(**7−18526**··2)の追諡。⓳清、黃芳世(**12−47926**··1283)の諡。⓴清、辰泰(**10−38682**··34)の諡。㉑清、曾國荃(**5−14299**··190)の諡。㉒清、遜塔(**11−39038**··35)の諡。㉓清、卓羅(**2−2741**··70)の諡。㉔清、陳泰(**11−41698**··442)の諡。㉕清、毛吉(**6−16772**··38′)の諡。㉖清、李率泰(**6−14459**··1642)の諡。

【忠肅】123 チュウシュク ❶眞心があつてつつしみ深い。又、其の心。〔吳志、孫權傳〕忠肅內發、款誠外昭。〔鍾會、檄㆑蜀文〕宰輔忠肅明允、劬㆓勞王室㆒。〔北史、竇毅傳論〕忠肅奉㆑上、溫恭接㆑下。❷諡號。㋑晉、何無忌(**1−511**··373)の諡。㋺晉、謝琰(**10−35827**··19)の諡。㋩陳、徐度(**4−10110**··238)の諡。㋥唐、韓滉(**12−43159**··75)の諡。㋭唐、楊復光(**6−15112**··768)の諡。㋬唐、王處存(**7−20823**··1686)の諡。㋣後梁、張全義(**4−9812**··1277)の諡。㋠南唐、馮延己(**12−44579**··169)の諡。㋷宋、虞允文(**9−32723**··158)の諡。㋦宋、吳昌裔(**2−3365**··643)の諡。㋸宋、錢端禮(**11−40563**··386)の諡。㋾宋、陳韡(**11−41698**··13)の諡。㋻宋、陳過庭(**11−41698**··762)の諡。㋕宋、陳璀(**11−41698**··194)の諡。㋵宋、陳文龍(**11−41698**··1241)の諡。㋟宋、鄭興裔(**11−39647**··380)の諡。㋹宋、趙方(**10−37171**··305)の諡。㋞宋、馬亮(**12−44572**··622)の諡。㋡宋、彭龜年(**4−10003**··138)の諡。㋧宋、傅察(**1−939**··55)の諡。㋤宋、余端禮(**1−515**··109)の諡。㋶宋、劉珙(**2−2224**··181)の諡。㋰宋、劉摯(**2−2224**··322)の諡。㋒宋、劉韐(**2−2224**··580)の諡。㋼宋、王顯(**7−20823**··367)の諡。㋨宋、王承衍(**7−20823**··1697)の諡。㋔遼、蕭孝先(**9−32012**··318)の諡。㋗金、康公弼(**4−9376**··178)の諡。㋳元、月魯不花(**5−14330**··428)の諡。㋮元、崔彧(**4−8178**··5)の諡。㋘元、崔斌(**4−8178**··150)の諡。㋫元、焦德裕(**7−19119**··137)の諡。㋙元、蕭讓(**9−32012**··168)の諡。㋓元、褚不華(**10−34457**··54)の諡。㋢元、徹里(**4−10245**··32)の諡。㋐元、鄭鼎(**11−39647**··226)の諡。㋚元、福壽(**8−24768**··59)の諡。㋖元、楊惟中(**6−15112**··412)の諡。㋴元、李謙亨(**6−14459**··1143)の諡。㋱元、劉思敬(**2−2224**··998)の諡。㋯元、呂思誠(**2−3386**··207)の諡。㋛明、于謙(**1−252**··42)の諡。㋽明、鄺埜(**11−39711**··3)の諡。㋪明、盧象昇(**8−23050**··232)の諡。㋲明、王翺(**7−20823**··147)の諡。㋝清、劉芳名(**2−2224**··1259)の諡。

〖忠肅集〗124 チュウシュクシフ 書名。❶二十卷。宋、劉摯撰。〔四庫提要、集、別集類〕。❷三卷。宋、傅察撰。其の孫、伯壽編。〔四庫提要、集、別集類〕。❸三卷。明、盧象昇撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

〖忠肅王〗125 チュウシュクワウ 高麗第二十七代の王。王燾(**7−20823**··748)を見よ。

【忠純】126 チュウジュン　まことがあってまじりけがない。忠誠純樸。〔諸葛亮、出師表〕皆良實、志慮忠純。〔宋史、世家四、呉越錢氏〕詔答曰、卿世濟㆓忠純㆒。

【忠淳】127 チュウジュン　まことですなほ。又、其の心。〔韻府引五朝會要〕仁宗宣㆓諭群臣㆒曰、諫官必用㆓忠淳㆒直通㆓世務㆒、以革㆓浮薄之弊㆒。

【忠順】128 チュウジュン　❶忠實で從順。〔禮、冠義〕孝弟忠順之行立、而后可㆓以爲㆒㆑人。〔孝經、士章〕忠順不㆑失、以事㆓其上㆒。〔荀子、君道〕忠順而不㆑懈。❷諡號。㋑宋、陳洪進(**11－41698**・・863)の諡。㋺元、劉伯林(**2－2224**・・1270)の諡。

【忠恕】129 チュウジョ　己のまことを盡し、思ひやりのあること。己を盡すは忠、己を推すは恕。〔中庸〕忠恕違㆑道不㆑遠。〔論語、里仁〕夫子之道、忠恕而已矣。〔疏〕忠、謂㆑盡㆓中心㆒、恕、謂㆓忖㆑己度㆒㆑物也。〔後漢書、章帝紀論〕體㆑之以㆓忠恕㆒。〔朱子文集、忠恕説〕子曰、參乎、吾道一以貫㆑之、曾子曰、唯、子出、門人問曰、何謂也、曾子曰、夫子之道、忠恕而已矣、曾子之學、主㆓於誠㆒㆑身、其於㆓聖人之日用㆒、觀省而服㆓習之㆒、蓋已熟矣、惟未㆑能㆔卽㆑此以見㆓夫道之全體㆒、則不㆑免㆑疑㆓其有㆒㆑二也、然用㆑力之久、亦將㆓自得㆒矣、故夫子以㆓一貫之理㆒告㆑之、蓋當㆓其可㆒也、曾子於㆑是默㆓契其旨㆒、然後知㆘向之所㆓從事㆒者、莫㆑非㆓道之全體㆒、雖㆓變化萬殊㆒、而所㆓以貫㆒㆑之者、未㆗嘗不㆖㆑一也、此其自得之深、宜㆑不㆑可㆓以容㆒㆑聲矣、然門人有㆑問、而以㆓忠恕㆒告㆑之者、蓋以㆓夫子之道、不㆒㆑離㆓乎日用之間㆒、自㆑盡㆑己而言、則謂㆓之忠㆒、自㆓其及㆒㆑物而言、則謂㆓之恕㆒、本末上下、皆所㆔以爲㆓一貫㆒、惟下學而上達焉、則知㆔其未㆓嘗有㆒㆑二也、夫子所㆔以告㆓曾子㆒、曾子所㆔以告㆓門人㆒、豈有㆓異旨㆒哉。〔日知錄、經義、忠恕〕延平先生答問曰、夫子之道、不㆑離㆓乎日用之間㆒、自㆓其盡㆒㆑己而言、則謂㆓之忠㆒、自㆓其及㆒㆑物而言、則謂㆓之恕㆒、莫㆑非㆓大道之全體㆒、雖㆕變㆔化萬殊於事爲之末㆒、而所㆓以貫㆒㆑之者、未㆓嘗不㆒㆑一也、曾子答㆓門人之問㆒、正是發㆓其心㆒爾、豈有㆑二邪、若以爲㆘夫子一以貫㆑之之旨甚精微、非㆓門人所㆒㆑可㆑告、姑以㆓忠恕㆒答㆖㆑之、恐聖賢之心、不㆓若㆑是之支㆒也、如㆔孟子言㆓堯舜之道孝弟而已矣㆒、人皆足㆓以知㆒㆑之、但合㆓內外之道㆒、使㆓之體用一原、顯微無間㆒、則非㆓聖賢㆒不㆑能㆑爾、朱子又嘗作㆓忠恕説㆒、其大指與㆑此略同、按、此説甚明、而集注乃謂、借㆓學者盡㆑己推㆑己之目㆒、以著㆓明之㆒、是疑㆔忠恕爲㆓下學之事㆒、不㆑足㆔以言㆓聖人之道㆒也、然則是二㆑之、非㆑一㆑之也、慈谿黃氏曰、天下之理、無㆑所㆑不㆑在、而人之未㆑能㆓以貫通㆒者、己私間㆑之也、盡㆑己、之謂㆑忠、推㆑己及㆑人、之謂㆑恕、忠恕既盡、己私乃克、此理所㆑在、斯能貫通、故忠恕者、所㆓以能一以貫㆒㆑之者也、元戴侗作㆓六書故㆒、其訓㆑忠曰、盡㆑己致㆑至、之謂㆑忠、語曰、爲㆑人謀而不㆑忠乎、又曰、言思㆑忠、記曰、喪禮忠之至也、又曰、祀㆑之忠也、如㆑見㆓親之所㆒㆑愛、如㆑欲㆑色然、又曰、瑕不㆑揜㆑瑜、瑜不㆑揜㆑瑕、忠也、傳曰、上思㆑利㆑民、忠也、又曰、小大之獄、雖㆑不㆑能㆑察、必以㆑情、忠之屬也、孟子曰、自反而仁矣、自反而有㆑禮矣、其橫逆由㆑是也、君子必自反也、我必不㆑忠、觀㆓于此數者㆒、可㆔以知㆓忠之義㆒矣、反㆑身而誠、然後、能忠、能忠矣、然後由㆑己推而達㆓之國家天下㆒、其道一也、其訓㆑恕曰、推㆑己及㆑物、之謂㆑恕、己欲㆑立而立㆑人、己欲㆑達而達㆑人、施㆓諸己㆒而不㆑願、亦勿㆑施㆓於人㆒、恕之道也、充㆓是心㆒、以往達㆓乎四海㆒矣、故曰、夫子之道、忠恕而已矣、忠也者、天下之大本也、忠也者、天下之達道也、子貢問曰、有㆘一言而可㆓以終身行㆒㆑之者㆖乎、子曰、其恕乎、夫聖人者、何以異㆓于人㆒哉、知㆓終身可㆒㆑行、則知㆓一以貫㆑之之義㆒矣、中庸記㆓夫子言㆒、君子之道四、無㆑非㆓忠恕之事㆒、而乾九二之龍德、亦惟曰㆓庸言之信、庸行之謹㆒、然則、忠恕、君子之道也、何以言㆓違㆑道不㆒㆑遠、曰、此猶㆔之云㆓巧言令色鮮矣仁㆒也、豈可㆔以㆑此而疑㆓忠恕之有㆒㆑二乎、或曰、孟子言、強恕而行、求㆑仁莫㆑近焉、何也、曰、此爲㆘未㆑至㆓乎道㆒者㆖言㆑之也、孟子曰、由㆓仁義㆒行、非㆑行㆓仁義㆒也、仁義豈有㆑二乎。

【忠勝】130 チュウショウ　忠義の心のすぐれたもの。〔莊子、説劍〕諸侯之劍、以㆓知勇士㆒爲㆑鋒、以㆓清廉士㆒爲㆑鍔、以㆓賢良士㆒爲㆑脊、以㆓忠勝士㆒爲㆑鐔、以㆓豪傑士㆒爲㆑夾、此劍一用、如㆓雷霆之震㆒也。

【忠心】131 チュウシン　心の中。まごころ。衷心。〔説苑、脩文〕故忠心好㆑善而日新㆑之。

【忠臣】132 チュウシン　眞心をつくすけらい。忠誠の臣。〔老子、十八〕六親不㆑和、有㆓孝慈㆒、國家昏亂、有㆓忠臣㆒。〔莊子、漁父〕廷無㆓忠臣㆒、國家昏亂。〔荀子、儒效〕忠臣誠能、然後敢受㆑職。〔呂覽、務本〕言㆓忠臣之行㆒也。〔六韜、武韜、文伐〕廷無㆓忠臣㆒。〔墨子、兼愛下〕惠君忠臣。〔文子、微明〕國之將㆑亡也、必先惡㆓忠臣之語㆒。〔史記、主父偃傳〕忠臣不㆔敢避㆓重誅㆒以直諫。〔漢書、嚴助傳〕邊境有㆑警、愛㆓身之死㆒、而不㆑畢㆓其愚㆒、非㆓忠臣㆒也。〔後漢書、王常傳〕輔㆓翼漢室㆒、心如㆓金石㆒、眞忠臣也。

〔忠臣藏〕133 チュウシングラ　歌舞伎の脚本の名。假名手本忠臣藏の略。竹田出雲作。赤穗四十七士復讐の事蹟を十二段に戲曲化したもの。

〔忠臣錄〕134 チュウシンロク　書名。宋、曾鞏撰。古の忠臣の傳記を集めた書。以て自ら弟子に教授した。〔故事成語考、注〕曾南豐集、古忠臣爲㆓一錄㆒、孝子爲㆓一錄㆒、教㆓授弟子㆒曰、忠孝、綱常最大者、汝曹其識㆑之。

〔忠臣愛㆑名〕135 チュウシンナヲヲシム　忠臣は常に吾が名を惜み大切にする。愛は惜。愛㆑名は、名譽を大切にし、恥づべき行爲をして之を汚すことを恐れること。〔戰國、秦策〕臣聞、明主愛㆓其國㆒、忠臣愛㆓其名㆒。

〔忠臣孝子〕136 チュウシンカウシ　忠義な臣と孝行な子。〔法言、君子〕忠臣孝子、偟乎不㆑偟。

〔忠臣義士〕137 チュウシンギシ　忠節を盡す臣と義を守る人。〔靖獻遺言、衣帶中贊序〕天下之忠臣義士、將㆑有㆓聞㆑風而起者㆒。〔淸會典事例、禮部、羣祀〕直省府州縣、立㆓忠義孝弟祠㆒、祠內設㆓本鄕忠臣・義士・孝子・悌弟各牌位㆒。

〔忠臣烈士〕138 チュウシンレッシ　忠義の臣と節義の高い人。〔隋書、李文博傳〕至㆓治亂得失、忠臣烈士㆒、未㆔嘗不㆓反覆吟翫㆒。

〔忠臣畢㆓其忠㆒〕139 チュウシンソノチュウヲツクス　忠臣は忠義をささげ盡す。〔呂覽、自知〕忠臣畢㆓其忠㆒、而不㆔敢遠㆓其死㆒。

〔忠臣不㆑事㆓二君㆒〕140 チュウシンハニクンニツカヘズ　忠臣は二人の君主に事へない。〔史記、田單傳〕王蠋曰、忠臣不㆑事㆓二君㆒、貞女不㆑更㆓二夫㆒、云云、與㆓其生而無㆒㆑義、固不㆑如㆑烹。

〔忠臣不㆑諂㆓其君㆒〕141 チュウシンハソノキミニヘツラハズ　忠義の臣下は其の君にへつらはない。〔莊子、天地〕孝子不㆑諛㆓其親㆒、忠臣不㆑諂㆓其君㆒、臣子之盛也。

〔忠臣不㆓先㆑身後㆒㆑君〕142 チュウシンハミヲサキニシテキミヲノチニセズ　忠臣は其の身のことを第一として君のことを第二とするやうなことはしない。〔鶡冠子、世兵〕忠臣不㆘先㆓其身㆒、而後㆗其君㆖。〔史記、魯仲連傳〕智者不㆓倍㆑時而弃㆒㆑利、勇士不㆓却㆑死而滅㆒㆑名、忠臣不㆓先㆑身後㆒㆑君。

〔忠臣去㆑國不㆑潔㆓其名㆒〕143 チュウシンハクニヲサッテソノナヲキヨクセズ　忠臣は故あつて其の國を去るにしても、己の正しさを表はすやうなことはしない。若しさうすれば君主を傷つけることになるからである。〔史記、樂毅傳〕臣聞、古之君子交絕、不㆑出㆓惡聲㆒、忠臣去㆑國、不㆑潔㆓其名㆒。〔注〕索隱曰、禮曰、大夫去㆓其國㆒、不㆓説㆑人以㆒㆑無㆑罪、是也。

〔忠臣雖㆑在㆓畎畝㆒不㆑忘㆑君〕144 チュウシンハケンポニアリトイヘドモキミヲワスレズ　忠臣は退いて民間に居ても、朝廷に在ると同樣に、曾て其の君を忘れない。忠臣は地位に由つて心を變ずることをしない。畎は田間のみぞ、畝は田のうね、轉じて、ゐなかをいふ。〔漢書、劉向傳〕忠臣雖㆑在㆓畎畝㆒、猶不㆑忘㆑君、惓惓之義也。

〔求㆓忠臣㆒必于㆓孝子之門㆒〕145 チュウシンヲモトムルニハカナラズカウシノモンニオイテス　忠孝は皆至性に發するものであるから、忠臣を得ようと思へば、必ず孝子の門に於て求めるべきである。親に孝行な者は、又君に忠義を盡す人であるから。〔後漢書、韋彪傳〕彪上議曰、伏惟、明詔憂㆓勞百姓㆒、垂㆓恩選擧㆒、務㆑得㆓其人㆒、夫國以㆑簡㆑賢爲㆑務、賢以㆓孝行㆒爲㆑首、孔子曰、事㆑親孝、故忠可㆑移㆓於君㆒、是以求㆓忠臣㆒必於㆓孝子之門㆒。〔注〕孝經緯之文也。

〔忠臣與㆓孝子㆒不㆘爲㆓昭昭㆒伸㆖㆑節不㆘爲㆓冥冥㆒惰㆖㆑行〕146 チュウシントカウシトハセウセウノタメニセツヲノバサズメイメイノタメニオコナヒヲオコタラズ　忠臣孝子は人が見てゐるか否かによつて其の行を變へることはない。昭昭は人の見て居る公の場所、冥冥は誰も見ない私の場所。〔列女傳、仁智傳〕夫人曰、妾聞、禮下㆓公門㆒式㆓路馬㆒、所㆓以

廣ㇾ敬也、夫忠臣與二孝子一、不下爲二昭昭一變上ㇾ節、不下爲二冥冥一惰上ㇾ行。

【忠忱】147（チユウシン）　まこと。まごころ。〔路史、繇余氏記〕堯帝而來、汔二于開寶一、數千百載、而精爽猶在、足ㇾ信二定分之不ㇾ可ㇾ逾、而直諒忠忱之不ㇾ泯也。

【忠信】148（チユウシン）　忠と信。又、まことを盡しいつはらないこと。己の心を盡すは忠、言の違はないのは信。〔易、文言〕忠信所二以進ㇾ德也。〔禮、儒行〕忠信以爲二甲冑一、禮義以爲二干櫓一。〔大學〕君子有二大道一、必忠信以得ㇾ之。〔中庸〕忠信重祿、所二以勸ㇾ士也。〔左氏、昭、六〕猶求二聖哲之上、明察之官、忠信之長、慈惠之師一。〔論語、述而〕文・行・忠・信。〔孟子、告子上〕仁義忠信、樂ㇾ善不ㇾ倦、此天爵也。〔國語、周語上〕禮所三以觀二忠信仁義一也。〔莊子、刻意〕語二仁義忠信一。〔列子、說符〕忠信錯二吾軀於波流一。〔荀子、脩身〕體恭敬、而心忠信。〔呂覽、適威〕忠信以導ㇾ之。〔管子、立政〕凡孝悌忠信賢良儁材。〔史記、主父偃傳〕篤厚忠信者退。

【忠信篤敬】149（チユウシントクケイ）　まことがあることとつつしみ深く手厚いこと。〔論語、衛靈公〕子張問ㇾ行、子曰、言忠信、行篤敬、雖二蠻貊之邦一行矣。

【忠信樂易】150（チユウシンラクイ）　誠實で心が樂しくおだやかなこと。〔王守仁、教條示二龍場諸生一、勸學〕忠信樂易、表裏一致。

【忠信禮之本也】151（チユウシンハレイノモトナリ）　忠信は禮の根本である。〔禮、禮器〕忠信、禮之本也、義理、禮之文也。

【忠愼】152（チユウシン）　まことがあつてつつしみぶかい。又、まこととつつしみ。〔續列女傳、霍夫人顯傳〕光以二忠愼一受二孝武皇帝遺詔一。

【忠藎】153（チユウジン）　忠愛の心が篤く、忠を盡して倦まぬこと。藎は進。忠藎之效を見よ。

【忠藎之效】154（チユウジンノカウ）　どこまでも忠義を盡す者の功績。〔蜀志、董和傳、注〕偉度者、姓胡、名濟、義陽人、爲二亮主簿一、有二忠藎之效一、故見二褒述一。

【忠遂】155（チユウスイ）　清、胡良顯（9－29400・・630）の字。

【忠正】156（チユウセイ）　❶忠實で正しい。又、眞心があつて正しい。又、其の心。〔詩、鄭風、羔裘序、箋〕鄭自二莊公一而賢者陵遲、朝無二忠正之臣一、故刺ㇾ之。〔六韜、文韜、盈虛〕忠正奉ㇾ法。〔漢書、劉向傳〕忠正無二私欲一。〔孔叢子、對魏王〕忠正之地。〔新書、先醒〕退二辟邪一而進二忠正一。〔楚辭、東方朔、七諫、怨世〕小人之居ㇾ勢兮、視二忠正一之何若。〔後漢書、輿服志下〕示以二忠正一、顯二近職一也。〔魏志、荀彧傳〕天下忠正效實之士、咸願ㇾ爲ㇾ用。〔陳琳、爲二袁紹一檄二豫州一文〕除二滅忠正一、專爲二梟雄一。❷諡號。㋑唐、徐有功（4－10110・・327）の追諡。㋺後周、鄭仁誨（11－39647・・459）の諡。㋩金、僕散端（1－1094・・16）の諡。㋥明、史可法（2－3249・・179）の諡。

【忠正氣】157（チユウセイノキ）　まことで正しい氣。〔息軒遺稿、錦山神祠改建記〕天地之間、至大至剛、物莫二能屈ㇾ之、經二千歲一而愈盛者、其唯忠正氣乎。

【忠正軍】158（チユウセイグン）　軍隊の名。南唐の世宗が、劉仁贍の忠節を旌して其の軍に名づけたもの。〔五代史、劉仁贍傳〕壽州故治壽春、世宗以二其難ㇾ剋、遂徙城二下蔡一、而復二其軍一曰二忠正軍一、曰、吾以旌二仁贍之節一也。

【忠正德文集】159（チユウセイトクブンシフ）　書名。十卷。宋、趙鼎撰。高宗が曾て趙鼎に忠正德文の四字を賜うたので集に名づく。〔四庫提要、集、別集類〕。

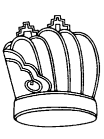
【忠成】160（チユウセイ）　諡號。❶後漢、馬援（12－44572・・36）の諡。❷晉、庾冰（4－9398・・40）の諡。❸前涼、張駿（4－9812・・403）の諡。❹後秦、尹緯（4－7631・・1）の諡。❺南朝宋、劉秀之（2－2224・・1022）の諡。❻遼、耶律良（9－29008・・34）の諡。

【忠清】161（チユウセイ）　❶まことがあつて清い。〔後漢書、朱穆傳〕忠清虔二恭機密一。〔晉書、胡威傳〕父質、以二忠清一著稱。❷朝鮮の道名。京畿道の南、全羅道の北。南北に分け、北道の首邑は忠州、南道の首邑は公州。〔讀史方輿紀要、山東、附考、朝鮮〕忠清道、治忠州、在二王京西南一、面二本馬韓舊壤一、志云、王京居二八道之中一、東隘爲二鳥嶺忠州一、西隘爲二南原全州一、又云、王京爲二朝鮮都會一、咸鏡・忠清爲二犄角一、並稱二天險一。

【忠清廟】162（チユウセイベウ）　春秋、楚の伍子胥の廟をいふ。一名、伍公廟。浙江省杭城縣内の吳山にある。〔浙江通志、忠清廟〕俗名二伍公廟一、在二府城内吳山之椒一、吳人憐二伍員之忠一、爲立ㇾ祀。

【忠聖】163（チユウセイ）　誠があり德が高い。又、其の德。〔史記、樂毅傳〕二子不ㇾ失二忠聖之名一。〔晉書、慕容盛載記〕古來君子、皆謂二周公忠聖一。

【忠靖】164（チユウセイ）　諡號。❶宋、朱諤（6－14424・・86′）の諡。❷宋、朱勝非（6－14424・・862）の諡。❸宋、趙葵（10－37171・・95）の諡。❹宋、趙士晤（10－37171・・579）の諡。❺宋、万俟卨（1－10・・2）の諡。❻元、移剌元臣（8－25045・・112）の諡。❼明、夏原吉（3－5720・・308）の諡。❽明、朱榮（6－14424・・43）の諡。❾清、長順（黑龍江の人）（11－41100・・442）の諡。❿清、馬光輝（12－44572・・745）の諡。



忠靖冠（三才圖會）

【忠靖冠】165（チユウセイクワン）　冠の名。明の世宗が古の玄端に仿つて制した冠。其の頂は方形で、中が少し高くなり、位階によつて梁の數や文飾に差がある。〔三才圖會、衣服、忠靖冠〕有ㇾ梁、隨二品官之大小一爲二多寡一、兩旁曁ㇾ後、以二金線一屈曲爲ㇾ文、此卿大夫之章、非二士人之服一也、嘉靖初、更定二服色一、遂有二限制一。

【忠精】166（チユウセイ）　まごころ。又、忠義な心。〔漢書、劉向傳〕天子心知下向忠精、故爲二鳳兄弟一起中此論上也。〔文天祥、過二平原一作〕公死于ㇾ今六百年、忠精赫赫雷行ㇾ天。

【忠誠】167（チユウセイ）　❶まごころ。又、忠義のまこと。〔漢書、王嘉傳〕在ㇾ位不ㇾ盡二忠誠一。〔後漢書、來歙傳〕足下推二忠誠一、遺二伯春委ㇾ質。〔徐陵、勸二進梁元帝一表〕忠誠貫二於日月一、孝義感二于冰霜一。❷清、劉坤一（2－2224・・931）の諡。　「諡。

【忠濟】168（チユウセイ）　金、完顏治訶（3－7079・・136）の諡。

【忠昭】169（チユウセウ）　南朝宋、劉勔（2－2224・・599）の諡。

【忠赤】170（チユウセキ）　❶まごころ。〔白居易、論二承璀職名一狀〕陛下憐二其忠赤一、富ㇾ之、可也。❷字號。㋑明、溫素知（7－17968・・276）の字。㋺明、上官藎（1－13・・200）の字。

【忠切】171（チユウセツ）　まことがあつて適切なこと。〔漢書、李尋傳〕如二近世貢禹一、以二言事忠切一蒙二尊榮一。〔後漢書、劉儒傳〕極二言得失一、辭甚忠切。

【忠說】172（チユウセツ）　眞心を以てする言說。〔荀子、致士〕忠言・忠說・忠事・忠謀。

【忠節】173（チユウセツ）　❶忠義のみさを。君に盡す節義。〔漢書、師丹傳〕執二忠節一。〔漢書、元后傳〕數諫正有二忠節一。〔潘岳、揚荊州誄序〕忠節克明、茂績惟嘉。❷諡號。㋑唐、顏杲卿（12－43591・・137）の追諡。㋺宋、高世則（12－45313・・1239）の諡。㋩宋、曾三聘（5－14299・・195）の諡。㋥宋、陳繼周（11－41698・・799）の諡。㋭宋、李成大（6－14459・・1559″）の諡。㋬宋、李芾（6－14459・・709）の諡。㋣明、何遵（1－511・・106）の諡。㋠明、何忠（1－511・・158）の諡。㋷明、高邦佐（12－45313・・1300）の諡。㋦明、魏大中（12－45872・・247）の追諡。㋸明、許達（10－35298・・42）の追諡。㋾明、許直（10－35298・・175）の諡。㋻明、金鉉（11－40152・・366）の諡。㋕明、吳雲（2－3365・・15）の諡。㋵明、吳麟徵（2－3365・・899）の諡。㋟明、吳甘來（2－3365・・482）の諡。㋹明、陳性善（11－41698・・1044）の諡。㋞明、楊最（6－15112・・160）の追諡。㋡明、呂維祺（2－3386・・159）の諡。㋧明、鹿善繼（12－47586・・164）の諡。㋤清、袁昶（10－34152・・112）の諡。㋶清、關天培（11－41470・・249）の諡。㋰清、徐勇（4－10110・・301）の諡。㋒清、葉映榴（9－31387・・161）の諡。㋼清、鄭國鴻（11－39647・・387）の諡。㋨清、趙景賢（10－37171・・497）の諡。㋔清、羅遵殿（9－28397・・354）の諡。㋗清、羅澤南（9－28397・・384）の諡。

【忠舌】174（チユウゼツ）　忠言。忠告。〔後漢書、劉陶傳〕正諫者誅、諛進者賞、嘉言結二於忠舌一、國命出二於讒口一。

【忠宣】175（チユウセン）　諡號。❶宋、史彌堅（2－3249・・266）の諡。❷宋、范純仁（9－30834・・200）の諡。❸宋、留正（7－21808・・102）の諡。❹元、奧魯赤（3－5985・・79）の諡。❺元、賀勝（10－36725・・55）の諡。❻元、石天麟（8－24024・・1004）の諡。❼元、張文謙（4－9812・・1483）の諡。❽元、鄭制宜（11－39647・・471）の諡。❾元、別兒怯不花（2－1924・・246）の諡。❿元、楊賽因不花（6－15112・・829）の諡。⓫元、余闕（1－515・・21）の追諡。⓬元、劉正（2－2224・・418）の諡。⓭明、瞿式耜（8－237

47‥39)の諡。⓮明、黄福(12−47926‥812)の諡。⓯明、劉大夏(2−2224‥1157)の諡。⓰清、圖魯什(3−4832‥116)の諡。

〖忠宣文集〗176 チュウセンブンシフ　書名。二十卷。宋、范純仁撰。外に奏議二卷・遺文一卷・附錄一卷・補遺一卷。文集は詩五卷・文十二卷、及び國史列傳・行狀三卷よりなる。奏議は、治平元年に殿中侍御史となつた時から、元祐八年に再び宰相となる閒のものを載せ、遺文は純仁の文七首及び純禮の文二首、純粹の文十九首を載せ、附錄は諸賢の論頌を載せ、補遺は純仁の尺牘一首を載せ、制詞題跋を附す。皆裔孫能濬の編纂にかかる。〔四庫提要、集、別集類〕。

【忠泉】177 チュウセン　泉の名。後漢の耿恭が匈奴に攻められて水道を絶たれた時、吏士のために井戸を掘つたが水が出ず、耿恭が眞心をこめて祈つたら水がほとばしり出た。後、之を忠泉といふ。〔庾信、周上柱國齊王憲神道碑〕忠泉出㆑井、孝笋生㆑庭。〔注〕後漢書耿恭傳、匈奴攻㆓恭於城下㆒、擁㆓絶澗水㆒、恭於㆓城中㆒穿㆑井十五丈、不㆑得㆑水、吏士渴乏、恭整㆓衣服㆒向㆑井再拜、爲㆓吏士㆒禱、有㆑頃、水泉奔出、衆皆稱㆓萬歲㆒。

【忠戰】178 チュウセン　忠義のために戰ふこと。又、其のたたかひ。〔太平記、二十一、先帝崩御〕造次にも忠戰を不㆑計といふことなし。

【忠善】179 チュウゼン　まことを盡して行ふ善。又、誠實で善良。〔左氏、襄、三十一〕子產曰、吾聞㆓忠善以損㆑怨、不㆑聞㆓作㆑威以防㆑怨。〔諸葛亮、出師表〕作㆑姦犯㆑科、及爲㆓忠善㆒者。

【忠素】180 チュウソ　まこと。眞心。忠誠。〔越絶書、越絶請糴內傳〕夫越王之謀、非㆑有㆓忠素請㆑糴也。

【忠愬】181 チュウソ　眞心からのうつたへ。〔荀子、致士〕忠事・忠謀・忠譽・忠愬。

【忠叟】182 チュウソウ　宋、歐陽逢泰(6−16185‥136)の「字。

【忠遜】183 チュウソン　五代吳越、錢倧(11−40563‥136)の諡。

【忠讜】184 チュウタウ　忠義で正しい。又、其のこと。其の人。〔吳志、吳主孫權傳〕忠讜之言、不㆑能㆓極陳㆒。〔任昉、天監三年策㆓秀才㆒文〕使㆓直臣杜㆑口、忠讜路絶㆒。〔注〕銑曰、讜、正也。

【忠端】185 チュウタン　諡號。❶明、黄尊素(12−47926‥1218)の追諡。❷明、黄道周(12−47926‥1233)の諡。❸明、胡桂芳(9−29400‥451)の諡。❹明、王家彦(7−20823‥1233)の諡。

【忠膽】186 チュウタン　忠義のきもだま。君につくす眞心。忠肝。

【忠直】187 チュウチョク　❶まことがあつて正しい。忠義で正直。又、其のこと。〔書、伊訓〕敢有㆘侮㆓聖言㆒、逆㆓忠直㆒、遠㆓耆德㆒、比㆗頑童㆖。〔漢書、劉向傳〕宗室忠直、明經有㆑行。〔後漢書、五行志一〕忠直之臣。〔北史、伊婁謙傳〕謙性忠直、善㆓辭令㆒。❷諡號。㋑清、伊爾登(1−432‥154)の諡。㋺清、景固勒岱(5−13983‥359)の諡。㋩清、都爾瑪(11−39509‥224)の諡。㋥清、博爾晉(2−2761‥214)の諡。

【忠定】188 チュウテイ　❶宋、孫傅(3−6987‥258)の字。❷諡號。㋑宋、安丙(3−7072‥442)の諡。㋺宋、康諝(4−9376‥88)の諡。㋩宋、丘崈(1−33‥59)の諡。㋥宋、曹誘(5−14297‥5)の諡。㋭宋、史浩(2−3249‥18)の諡。㋬宋、葉適(9−31387‥115)の諡。㋣宋、錢卽(11−40563‥138)の諡。㋠宋、張詠(4−9812‥49)の諡。㋷宋、張燾(4−9812‥527)の諡。㋦宋、鄭清之(11−39647‥473)の諡。㋸宋、趙汝愚(10−37171‥681)の追諡。㋾宋、李綱(6−14459‥128)の諡。㋻宋、劉安世(2−2224‥665)の諡。㋕宋、汪伯彦(6−17154‥324)の諡。㋵元、郝和尚拔都(11−39430‥63)の諡。㋟元、速不台(11−38897‥59)の諡。㋹元、陳祜(11−41698‥237)の諡。㋞元、董搏霄(9−31433‥251)の諡。㋡元、樊楫(6−15414‥35)の諡。㋧元、孛魯(3−6949‥14)の諡。㋤明、蹇義(10−37741‥6)の諡。㋶明、陸震(11−41708‥157)の諡。

【忠貞】189 チュウテイ　❶まことがあつてただしい。又、忠義と貞節。忠實貞正。〔書、君牙〕乃祖乃父、世篤㆓忠貞㆒、服㆓勞王家㆒。〔漢書、史丹傳贊〕終獲㆓忠貞之報㆒。〔後漢書、王允傳〕昭㆓忠貞之心㆒。〔王逸、楚辭離騷經章句序〕離騷之文、依㆑詩取㆑興、引㆑類譬㆑諭、故善鳥香草、以配㆓忠貞㆒、惡禽臭物、以比㆓讒佞㆒。〔魏志、荀彧傳〕秉㆓忠貞之誠㆒。❷諡號。㋑晉、卞壼(2−2778‥12)の諡。㋺梁、韋粲(12−43108‥66)の追諡。㋩梁、張嵊(4−9812‥432)の諡。㋥後魏、車路頭(10−38172‥294)の諡。㋭唐、韋見素(12−43108‥178)の諡。㋬元、賀仁傑(10−36725‥139)の諡。㋣元、董文忠(9−31433‥258)の諡。㋠明、徐輝祖(4−10110‥369)の諡。㋷明、卓敬(2−2741‥23)の諡。㋦明、陳瓚(11−41698‥520)の諡。㋸明、萬燝(9−31339‥107)の諡。㋾明、孟兆祥(3−6960‥327)の諡。㋻明、余祚徵(1−515‥104)の諡。㋕清、范承謨(9−30834‥208)の諡。㋵清、立山(8−25721‥95)の諡。

〖忠貞集〗190 チュウテイシフ　書名。十卷。清、范承謨撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

〖忠貞錄〗191 チュウテイロク　書名。三卷。附錄一卷。明、李維樾・林增志編。建帝の舊臣卓敬のために作る。卷一は遺詩遺文、卷二・卷三は後人の題詠、附錄は敬の門人黄養正、及び鄉人陳茂烈の遺事を記す。〔四庫提要、史、傳記類〕。

〖忠貞以㆑功爲㆑主〗192 チュウテイハコウヲモツテシュトナス　忠貞の道を行ふ者は、仕事を立派に爲し遂げることを第一とする。〔莊子、漁父〕忠貞以㆑功爲㆑主、飮㆑酒以㆑樂爲㆑主。

【忠德】193 チュウトク　忠の德。又、忠の德を有する人。〔後漢書、袁紹傳〕賊㆓害忠德㆒、扇㆓動姦黨㆒。

【忠篤】194 チュウトク　まことがあつてあつい。〔孔叢子、雜訓〕忠篤之道然也。

【忠任】195 チュウニン　まめにつとめる。任務に忠實である。〔漢書、楊惲傳〕以㆓忠任㆒爲㆑郎。

【忠佞】196 チュウネイ　忠と佞。又、忠心のある人と佞心のある人。〔北史、高閭傳〕孝文又引㆓見王公以下於皇信堂㆒、令㆑辨㆓忠佞㆒。

【忠能】197 チュウノウ　眞心と才能。〔中經、守宰〕君子盡㆓其忠能㆒、以行㆓其政令㆒。

〖忠能勤㆑事〗198 チュウノウコトニツトム　眞心と才能をつくして事に勤める。〔魏志、武帝紀、注〕忠能勤㆑事、心如㆓鐵石㆒、國之良吏也。

【忠方】199 チュウハウ　まことがあつて正しい。忠正。〔魏志、邴原傳〕秉㆑德純懿、志行忠方。

【忠伯】200 チュウハク　明、王家屛(7−20823‥1237)の「字。

【忠否】201 チュウヒ　忠と不忠。〔太平記、十二〕公家一㆓統政道㆒、糺㆓忠否㆒分㆓淺深㆒。

【忠婢】202 チュウヒ　忠實な下女。

【忠敏】203 チュウビン　諡號。❶宋、沈與求(6−17189‥654)の諡。❷宋、辛棄疾(10−38630‥93)の追諡。❸宋、任伯雨(1−416‥246)の諡。❹宋、孫嶸叟(3−6987‥377)の諡。❺宋、李舜擧(6−14459‥1454)の諡。❻宋、王允初(7−20823‥1167)の諡。❼金、完顏歡都(3−7079‥75)の諡。❽元、崔敬(4−8178‥66)の諡。❾元、王伯勝(7−20823‥2033)の諡。❿明、祁彪佳(8−24634‥44)の諡。⓫明、楊善(6−15112‥263)の諡。⓬清、耿繼茂(9−29026‥55)の諡。⓭清、瑪爾賽(7−21156‥16)の諡。⓮清、李日芃(6−14459‥887)の諡。

【忠愍】204 チュウビン　諡號。❶陳、周文育(2−3441‥840)の諡。❷唐、田弘正(7−21723‥369)の諡。❸唐、武元衡(6−16273‥427)の諡。❹宋、寇準(3−7209‥24)の諡。❺宋、徐禧(4−10110‥75)の諡。❻宋、聶昌(9−29179‥12)の諡。❼宋、曾如驥(5−14299‥201)の諡。❽宋、譚必(10−35978‥31)の追諡。❾宋、鄭剛中(11−39647‥325)の追諡。❿宋、楊巨源(6−15112‥471)の諡。⓫宋、李若水(6−14459‥1408)の諡。⓬金、馬慶祥(12−44572‥756)の諡。⓭元、合剌普華(2−3287‥364)の諡。⓮元、靳克忠(12−42728‥28)の諡。⓯元、蕭拜住(9−32012‥493)の追諡。⓰元、石抹宜孫(8−24024‥741)の諡。⓱元、趙炳(10−37171‥333)の諡。⓲元、董士元(9−31433‥203)の諡。⓳元、王積翁(7−20823‥1806)の追諡。⓴明、殷尚質(6−16627‥162)の諡。㉑明、袁化中(10−34152‥179)の諡。㉒明、何廷魁(1−511‥343)の諡。㉓明、高翔(12−45313‥439)の諡。㉔明、康鐸(4−9376‥112)の諡。㉕明、周起元(2−3441‥591)の諡。㉖明、周天佐(2−3441‥798)の諡。㉗明、徐增壽(4−10110‥541)の諡。㉘明、申佳胤(7−21726‥165)の諡。㉙明、沈鍊(6−17189‥407)の諡。㉚明、葉伯巨(9−31387‥253)の追諡。㉛明、孫興祖(3−6987‥399)の諡。㉜明、張世忠(4−9812‥1239)の諡。㉝明、張文錦(4−9812‥1480)の諡。㉞明、陳選(11−41698‥417)の追諡。㉟明、陳邦彦(11−41698‥118

3)の諡。㊱明、楊繼盛(6-15112‥511)の追諡。㊲明、余廷瓚(1-515‥112)の追諡。㊳明、劉球(2-2224‥170)の諡。㊴明、黎遂球(12-47994‥109)の諡。㊵明、王承恩(7-20823‥1698)の諡。㊶明、王熹(崑山の人)(7-20823‥748)の諡。㊷明、王治道(7-20823‥1901)の諡。㊸明、汪一中(6-17154‥165)の諡。㊹清、吳萬福(2-3365‥837)の諡。㊺清、徐有壬(4-10110‥328)の諡。㊻清、徐用儀(4-10110‥645)の諡。㊼清、端方(8-25806‥154)の諡。㊽清、陳化成(11-41698‥759)の諡。㊾清、陳福(11-41698‥532)の諡。㊿清、莫洛(9-31078‥86)の諡。(51)清、馮汝騤(12-44579‥241)の諡。

【忠愍集】205（チュウビンシフ） 書名。三卷。宋、李若水撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【忠夫】206（チュウフ） 明、陳良謨(安吉の人)(11-41698‥1304)の字。

【忠孚】207（チュウフ） まこと。まごころ。孚信。〔李木魯、狆姚公神道碑〕操行清介、忠孚信格。

【忠附】208（チュウフ） 心から從ひつく。〔新書、藩彊〕欲㆓諸王皆忠附㆒、則莫㆑若㆑令㆑如㆓長沙㆒。

【忠普】209（チュウフ） 清、田興恕(7-21723‥370)の字。

【忠武】210（チュウブ） ❶忠義と武勇。〔魏武帝、表論㆑請㆑封㆓田疇功㆒〕文雅優備、忠武又著。❷諡號。㋑三國蜀、諸葛亮(10-35743‥45)の諡。㋺晉、溫嶠(7-17968‥58)の諡。㋩前秦、徐嵩(4-10110‥180)の諡。㋥南齊、柳世隆(6-14662‥270)の諡。㋭梁、蕭憺(9-32012‥214)の諡。㋬後魏、元深(1-1340‥338)の諡。㋣後魏、裴叔業(10-34362‥140)の諡。㋠後魏、劉貴(2-2224‥152)の諡。㋷北齊、高昂(12-45313‥105)の諡。㋦北齊、段韶(6-16619‥34)の諡。㋸北齊、破六韓常(8-24124‥200)の諡。㋾北齊、王琳(7-20823‥1080)の諡。㋻北周、唐永(2-3709‥12)の諡。㋕北周、王勱(7-20823‥879)の諡。㋵唐、韋皋(12-43108‥19)の諡。㋟唐、尉遲敬德(4-7440‥32)の諡。㋹唐、郭子儀(11-39474‥305)の諡。㋞唐、渾瑊(7-17800‥14)の諡。㋡唐、李晟(6-14459‥498)の諡。㋧後唐、霍彥威(12-42321‥53)の諡。㋤後蜀、趙廷隱(10-37171‥793)の諡。㋶五代呉、徐溫(4-10110‥29)の諡。㋰五代呉越、鮑君福(12-46074‥87)の諡。㋒宋、耿世安(9-29026‥63)の諡。㋼宋、岳飛(4-8001‥42)の諡。㋨宋、韓世忠(12-43159‥326)の諡。㋔宋、陳瓚(11-41698‥278)の諡。㋗宋、李繼隆(6-14459‥1121)の諡。㋳元、燕鐵木兒(7-19429‥287)の諡。㋮元、史天澤(2-3249‥255)の諡。㋘元、塔本(3-5332‥27)の諡。㋫元、張柔(4-9812‥368)の諡。㋙元、粘合重山(8-26901‥12)の諡。㋓元、伯顏(1-466‥79)の諡。㋢元、木華黎(6-14415‥514)の諡。㋐元、孛禿(3-6949‥9)の諡。㋚明、郭登(11-39474‥177)の諡。㋖明、周遇吉(2-3441‥614)の諡。㋴明、常遇春(4-8955‥391)の諡。㋱明、薛祿(9-32123‥134)の諡。㋯明、張玉(4-9812‥207)の諡。㋛明、劉榮(2-2224‥36)の諡。㋽清、向榮(2-3301‥3)の諡。㋪清、多隆阿(3-5756‥311)の諡。㋲清、塔齊布(3-5332‥39)の諡。㋝清、張國樑(高要の人)(4-9812‥1059)の諡。㋜清、楊遇春(6-15112‥485)の諡。(ン)清、李續賓(6-14459‥1641)の諡。

【忠武軍】211（チュウブグン） 行政區劃の名。唐の貞元の初、陳許節度を置き、尋いで忠武の號を賜ふ。今の河南省舊開封道の南部、舊汝陽道の北部の地。〔讀史方輿紀要、州域形勢、唐〕忠武、治陳州、先㆑是、乾元二年、置㆓陳・鄭・潁・亳四州節度㆒、旋又改領㆓陳・潁・亳・申㆒、寶應初、又曰㆓陳鄭澤潞㆒、貞元二年、改置㆓陳許節度㆒、二十年、賜㆑號曰㆓忠武㆒、元和十三年、平㆑蔡移㆓治許㆒、兼領㆓陳・溵・蔡三州㆒、中和四年、叛將鹿晏宏、竊據㆓其地㆒、光啓二年、爲㆓秦宗權所㆑幷、龍紀初、忠武軍還治㆓陳州㆒、兼領㆓許州㆒、尋併㆓於朱全忠㆒。

【忠武侯】212（チュウブコウ） 諸葛亮(10-35743‥45)の諡號。〔蜀志、諸葛亮傳〕贈㆓君丞相武鄕侯印綬㆒、諡㆑君爲㆓忠武侯㆒。

【忠憤】213（チュウフン） 忠義心から、或はまじめな心から、其のことの非なるをいきどほる。〔北史、刁沖傳〕沖乃抗表極㆓言其事㆒、辭旨懇直、文義忠憤。〔五代史、牛存節傳〕存節忠憤、彌激治㆑軍。〔續通鑑綱目、十四〕忠憤激烈、議論持㆑正、不㆑挫㆓於人㆒。

【忠奮】214（チュウフン） 忠義心が奮ひ起る。又、忠義の心から奮ひ立つ。〔魏文帝、策㆓命權㆒九錫文〕忠勇並奮、清㆓除姦慝㆒。

【忠文】215（チュウブン） 諡號。❶宋、黃裳(普城の人)(12-47926‥450)の諡。❷宋、洪咨夔(6-17402‥240)の諡。❸宋、周端朝(2-3441‥776)の諡。❹宋、徐誼(4-10110‥79)の諡。❺宋、蔣重珍(9-31820‥195)の諡。❻宋、宋喬年(3-7078‥266)の諡。❼宋、張叔夜(4-9812‥1191)の諡。❽宋、范鎭(9-30834‥97)の諡。❾宋、李彥穎(6-14459‥1193)の諡。❿宋、王十朋(7-20823‥1623)の諡。⓫元、李黼(6-14459‥734)の諡。⓬明、李時勉(6-14459‥1358)の諡。⓭明、李邦華(6-14459‥1845)の諡。⓮明、王褘(7-20823‥16)の諡。

【忠文先生】216（チュウブンセンセイ） 明、包希魯(2-2506‥143)の尊稱。

【忠平】217（チュウヘイ） 實直で公平。〔後漢書、陰興傳〕世稱㆓其忠平㆒。

【忠辯】218（チュウベン） 金、納合椿年(8-27264‥16)の諡。

【忠父】219（チュウホ） 明、仵瑜(1-409‥7)の字。

【忠甫】220（チュウホ） ❶忠義な人。甫は男子の美稱。〔柳宗元、弔㆓萇弘㆒文〕嗚呼哀哉、敬弔㆓忠甫㆒。❷字號。㋑宋、于恕(1-252‥64)の字。㋺宋、張淳(4-9812‥408)の字。㋩明、易之貞(5-13814‥201)の字。㋥明、劉思誨(2-2224‥999)の字。㋭明、凌相(2-1669‥63)の字。

【忠謨】221（チュウボ） 誠を盡したはかりごと。〔晉書、王導傳論〕實賴㆓元宰㆒、固懷㆓匪石之心㆒、潛運㆓忠謨㆒、竟翦㆓呑沙之寇㆒。

【忠謀】222（チュウボウ） 誠を盡したはかりごと。忠規。〔荀子、致士〕忠事・忠謀。〔潘岳、夏侯常侍誄〕讜言・忠謀、世祖是嘉。

【忠朴】223（チュウボク） 心が誠で作爲がないこと。〔史記、貨殖傳〕夏人政尚㆓忠朴㆒、猶有㆓先王之遺風㆒。〔蔡襄、御筆賜㆑字詩〕獨是丹誠抱㆓忠朴㆒、常欲㆓贊奏㆒上古珍。

【忠僕】224（チュウボク） 忠實に仕へる下男。〔費尙伊、蕭氏忠義僕記〕客有㆘語㆓余蕭氏僕㆒者㆖。

【忠穆】225（チュウボク） 諡號。❶晉、嵇紹(4-8272‥9)の諡。❷唐、嚴震(2-4589‥155)の諡。❸唐、王景崇(7-20823‥1378)の諡。❹宋、周瑩(2-3441‥23)の諡。❺宋、張愨(4-9812‥126)の諡。❻宋、呂頤浩(2-3386‥158)の諡。❼宋、王鬷(7-20823‥714)の諡。❽元、乃蠻台(1-113‥31)の諡。❾元、董文用(9-31433‥262)の諡。

【忠穆王】225′（チュウボクワウ） 高麗、第二十九代の王。王昕(7-20823‥258)を見よ。

【忠穆集】226（チュウボクシフ） 書名。八卷。宋、呂頤浩撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【忠養】227（チュウヤウ） 眞心を盡して親を養ふこと。〔禮、內則〕安㆓其寢處㆒、以㆓其飮食㆒忠㆓養之㆒。

【忠勇】228（チュウユウ） ❶忠義と勇氣。又、忠實で膽力がある。〔後漢書、李固傳〕自㆑非㆓博陸忠勇、延年奮發㆒、大漢之祀、幾將㆑傾矣。〔蜀志、王平傳〕忠勇寬厚、數有㆓戰功㆒。〔晉書、安帝紀〕英略奮發、忠勇絕㆑世。❷諡號。㋑唐、李嗣業(6-14459‥1337)の諡。㋺宋、吳楚材(2-3365‥729)の諡。㋩宋、蘇緘(9-32427‥31)の諡。㋥元、隋世昌(11-41751‥20)の諡。㋭明、孟善(3-6960‥180)の諡。㋬明、林椿(6-14551‥187)の諡。㋣清、額棱特(12-43586‥57)の諡。㋠清、黃芳度(12-47926‥1285)の諡。㋷清、祥厚(8-24689‥22)の諡。㋦清、申涵盼(7-21726‥168)の諡。㋸清、石廷柱(8-24024‥998)の諡。㋾清、佟國綱(1-522‥8)の諡。㋻清、白爾赫圖(8-22678‥1442)の諡。㋕清、伯勒赫圖(1-466‥496)の諡。㋵清、費雅達(10-36717‥82)の諡。㋟清、穆克譚(8-25251‥81)の諡。㋹清、王進寶(7-20823‥1726)の諡。

【忠勇義烈】229（チュウユウギレツ） 忠義果敢で、正義の念のはげしいこと。〔廣瀨武夫、正氣歌〕一世義烈赤穗里、三代忠勇楠子門。

【忠裕】230（チュウユウ） 明、黃鞏(12-47926‥208)の追諡。

【忠譽】231（チュウヨ） まごころからの稱讚。〔荀子、致士〕忠譽・忠愬。

【忠勞】232（チュウラウ） 誠を盡し骨折ること。〔晉書、簡文帝紀〕或白首戎陣、忠勞未㆑敘。〔曾鞏、賀㆓韓相公㆒啓〕君牙之纘㆓舊服㆒、世濟㆓忠勞㆒。

【忠利】233 チユウリ 誠心をつくし利益をはかる。〔禮、表記〕子レ民如二父母一、有二憯怛之愛一、有二忠利之教一。〔疏〕有二忠利之教一者、言レ有二忠恕利益之教一也。

【忠良】234 チユウリヤウ ❶忠義で善良。又、其の人。〔書、泰誓上〕焚二炙忠良一、刳二剔孕婦一。〔左氏、成、十六〕信二讒慝一而棄二忠良一。〔列子、湯問〕忠良滿レ朝。〔漢書、董賢傳〕嫉二妬忠良一。❷宋、賈祥(10−36755・・71)の謚。

〖懷二忠良一〗235 チユウリヤウヲオモフ 忠良の道をつくさんとの念を心に懷く。〔書、冏命〕昔在文武、聰明齊聖、小大之臣、咸懷二忠良一。

【忠亮】236 チユウリヤウ ❶まこと。忠信。〔晉書、何曾傳〕立レ德高峻、執レ心忠亮。〔元史、鐵木兒塔識傳〕天性忠亮、學術正大。❷謚號。㋑宋、呂祖謙(2−3386・・226)の謚。㋺元、阿台(11−41599・・164)の謚。㋩元、趙璧(10−37171・・334)の謚。

【忠力】237 チユウリヨク 眞心からのはたらき。又、忠義の念力。〔史記、秦始皇紀〕次不レ能三爲レ朕盡二忠力一。〔秦觀、贈二蘇子瞻一詩〕直心羞レ媚竈、忠力欲レ回レ天。

【忠烈】238 チユウレツ ❶忠義の心がはげしいこと。〔晉書、忠義、麴允傳〕嘉二其忠烈一、贈二車騎將軍一。〔唐書、杜黃裳傳贊〕黃裳忠烈、嶢然則不レ可レ掩也。❷謚號。㋑晉、周玘(2−3441・・80)の謚。㋺南朝宋、徐湛之(4−10110・・563)の謚。㋩南朝宋、柳元景(6−14662・・251)の謚。㋥梁、成景儁(5−11544・・333)の謚。㋭梁、蕭恢(9−32012・・85)の謚。㋬梁、王茂(7−20823・・1007)の謚。㋣後魏、李苗(6−14459・・725)の謚。㋠唐、段秀實(6−16619・・89)の謚。㋷唐、張允伸(4−9812・・787)の謚。㋦唐、李楷洛(6−14459・・929)の謚。㋸唐、王晙(7−20823・・572)の謚。㋾唐、王武俊(7−20823・・2060)の謚。㋻南唐、陳誨(11−41698・・176)の謚。㋕五代呉越、呉程(2−3365・・321)の謚。㋵宋、牛富(7−19922・・255)の謚。㋟宋、趙立(徐州の人)(10−37171・・370)の謚。㋹宋、文彦博(5−13450・・986)の謚。㋞宋、文天祥(5−13450・・1027)の謚。㋡金、完顏宗幹(3−7079・・103)の謚。㋧金、完顏宗弼(3−7079・・116)の謚。㋤金、徒單克寧(4−10121・・78)の謚。㋶元、阿沙不花(11−41599・・486)の謚。㋰元、姜碩(3−6205・・60)の謚。㋒元、郭嘉(11−39474・・22)の謚。㋼元、孫撝(3−6987・・60)の謚。㋨元、道童(11−39010・・346)の謚。㋔元、董俊(9−31433・・91)の謚。㋗元、董成夫(9−31433・・225)の謚。㋳元、汪德臣(6−17154・・321)の謚。㋮明、姬文允(3−6230・・123)の謚。㋘明、黃道周(12−47926・・1233)の謚。㋫明、霍恩(12−42321・・9)の謚。㋙明、胡閏(9−29400・・185)の謚。㋓明、蔡道憲(9−31818・・215)の謚。㋢明、蔣欽(9−31820・・29)の追謚。㋐明、徐忠(4−10110・・222)の謚。㋚明、孫燧(3−6987・・180)の謚。㋖明、張銓(沁水の人)(4−9812・・495)の謚。㋴明、張輔(4−9812・・672)の謚。㋱明、陳迪(11−41698・・483)の追謚。㋯明、陳輔堯(11−41698・・1248)の謚。㋛明、楊漣(6−15112・・395)の謚。㋽明、俞通海(1−1437・・121)の謚。㋪明、李如松(6−14459・・1477)の謚。㋲明、陸夢龍(11−41708・・426)の謚。㋝明、盧象昇(8−23050・・232)の追謚。㋜明、王章(7−20823・・530)の謚。(ン)清、高天爵(12−45313・・1285)の謚。(い)清、程學啓(8−25081・・168)の謚。(ろ)清、鄭魁士(11−39647・・344)の謚。(は)清、佟養正(1−522・・23)の謚。(に)清、李坤(6−14459・・342)の謚。

〖忠烈廟〗239 チユウレツベウ 宋、岳飛の廟をいふ。浙江省錢塘道杭縣の棲霞嶺の墓側。〔浙江通志、忠烈廟〕廟祀二宋少保鄂王岳武穆一、在二杭州府棲霞嶺墓側一、初、宋孝宗卽二故智果院一爲レ廟祀レ王、賜レ額褒レ忠、天順元年、同知馬偉重建、奏賜二今額一、歲春秋祭、王所レ作滿江紅詞、送二張紫巖北伐一詩、刻二石廡下一、廟西有二流芳亭一、刻二王遺像於石一、寘二其中一。

〖忠烈王〗240 チユウレツワウ 高麗、第二十五代の王。王昛(7−20823・・239)を見よ。

【忠廉】241 チユウレン ❶まことがあつて心が淸らかなこと。又、眞心をこめ淸らかな氣持を以てする。〔晏子、雜、上〕寡君獻レ地、忠廉也、曷爲不二盡受一。❷呂氏春秋、仲冬紀の篇名。

【忠論】242 チユウロン 眞心をこめて論ずる。又、其の議論。〔韓非子、八經〕人臣忠論以聞レ姦、博論以內レ一。

【忠王】243 チユウワウ 清、李秀成(6−14459・・1362)の封號。

【顯レ忠】244 チユウヲアラハス 忠直の者をあらはしもちひる。〔書、仲虺之誥〕佑レ賢輔レ德、顯レ忠遂レ良、兼レ弱攻レ昧、取レ亂侮レ亡、推レ亡固レ存、邦乃其昌。

【盡レ忠】245 チユウヲツクス 眞心をつくす。又、忠義をつくす。〔東方朔、非有先生論〕極レ慮盡レ忠。〔日本政記、後村上天皇〕方今中興、朝爵復レ故、志士盡レ忠之秋也。

【養レ忠】245′ チユウヲヤシナフ 忠義の臣を養ふ。〔漢書、劉輔傳〕其於二治レ親養レ忠之義一、誠不レ宜三幽二囚于掖庭獄一。

【忠佑廟】246 チユウイウベウ 隋の司徒、陳仁杲の廟をいふ。江蘇省武進縣。〔河南通志、忠佑廟〕廟在二常州府城一、祀二隋司徒陳仁杲一、原籍晉陵人、大業間、仕至二司徒一、爲二沈法興謀レ逆毒死、屢現二靈異一、南唐保大十三年、封二烈帝一、夫人軫氏、武烈后、明洪武初、詔去二封號一、題二木主一曰二司徒陳公之神一、無錫宜興有レ廟。

【忠雅堂】247 チユウガダウ 清、蔣士銓(9−31820・・157)の室名。

〖忠雅堂集〗248 チユウガダウシフ 書名。四十三卷。清、蔣士銓撰。文集十二卷・詩集二十七卷・補遺二卷・詞集二卷。

【忠宣王】250 チユウセンワウ 高麗、第二十六代の王。王璋(7−20823・・534)を見よ。

【忠定王】251 チユウテイワウ 高麗、第三十代の王。王眡(7−20823・・821)を見よ。

【忠不レ違レ君】252 チユウキミニタガハズ 忠をつくして君にそむかない。〔魏志、臧洪傳〕義不レ背レ親、忠不レ違レ君。

【忠不レ可レ兼】253 チユウハカヌベカラズ 忠道は一時に二つの對象に對して行ふことはできない。〔呂覽、權勳〕利不レ可レ兩、忠不レ可レ兼。

【忠不レ避レ危】254 チユウハアヤフキヲサケズ 忠のためには危難を避けない。〔晏子、重而異者〕忠不レ避レ危、愛無二惡言一。

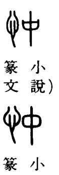
【忠不二必用一】255 チユウカナラズシモモチヒラレズ 亂世には、忠義の士も用ひられないことがある。〔楚辭、九章、涉江〕忠不二必用一兮、賢不二必以一。

【忠文之實】256 チユウハブンノジツナリ 誠を盡す心が、禮の實質である。〔國語、周語下〕敬、文之恭也、忠、文之實也。

【求レ忠出レ孝】257 チユウヲモトメテカウニイツ 君に忠ならんとして、孝心を本として行ふ。孝心を移して忠を行ふ。〔梁元帝、上二忠臣傳一表〕資レ父事レ君、寔曰二嚴敬一、求レ忠出レ孝、義兼二臣子一。〔後漢書、韋彪傳〕求二忠臣一、必於二孝子之門一。

【忠也者一二其心一之謂也】258 チユウトハソノココロヲイツニスルノイヒナリ 忠とは事に專心一意することをいふ。〔忠經、天地神明〕忠也者、一二其心一之謂也、爲二國之本一、在レ忠、忠能固二君臣一、安二社稷一、感二天地一、動二神明一。

【忡】
10354


小篆（說文）
小篆（段注本）

㊀チユウ チユ 〔集韻〕敕中切 ㄔㄨㄥ ch'ung¹ 東

㊁シユウ シユ 〔正韻〕昌中切 東

㊀㊁❶うれへるさま。〔說文〕忡、憂也、从レ心中聲、詩曰、憂心忡忡。〔段注〕也、當レ作レ皃。〔詩、邶風、擊鼓〕憂心有レ忡。〔傳〕憂心忡忡然。〔疏〕傳重二言忡忡一者、以三忡爲二憂之意一、宜三重二言之一。❷或は𢥞(4−11496)に作る。〔集韻〕忡、楚辭作レ𢥞。〔楚辭、九歌、雲中君〕極二勞心一兮𢥞𢥞、〔集注〕𢥞、一作レ忡。❸忪(4−10367)に通ず。〔正字通〕忡、別作レ忪。

【忡怛】1 チユウダツ 憂へいたむ。〔沈約、內典序〕耿介長蔬、忡怛在レ念。

【忡悵】2 チユウチヤウ 憂へいたむ。〔吳志、華覈傳〕臣不レ勝二忡悵之情一。

【忡忡】3 チユウチユウ 憂へ悲しむさま。憂のこみ上げてくるさま。〔爾雅、釋訓〕忡忡、憂也。〔詩、召南、艸蟲〕未レ見二君子一、憂心忡忡。〔傳〕忡忡、猶二衝衝一也。〔白居易、賀レ雨詩〕夙夜心忡忡。

【忢】 10355　ゴ

悟(**4**—**10680**)の古字。〔正字通〕忢、古文悟。

【⿱及心】 10356　キフ

急(**4**—**10475**)に同じ。〔字彙〕⿱及心、與㆑急同。

【忣】 10357　キフ

⿱及心(**4**—**10356**)に同じ。〔正字通〕忣、同㆑⿱及心。

【忣忣】1 キフキフ　いそぐさま。急急。〔新書、匈奴〕一國聞者見者、希盱而欲、人人忣忣、唯恐㆓其後來至㆒也。

【忤】 10358　ゴ　〔集韻〕五故切　ㄨˇ wu³　遇

❶**さからふ。もとる。**啎(**2**—**3813**)に同じ。〔集韻〕啎、說文、逆也、或作㆑忤。〔字彙〕忤、逆也、違戾也。〔漢書、蕭望之傳〕大與㆓高恭顯㆒忤。〔注〕師古曰、忤、謂㆓相違逆㆒也。❷**みだれる。**〔春秋元命苞〕陰陽散忤。❸悟(**4**—**10680**)に通ず。〔史記、韓非傳〕大忠無㆑所㆓拂悟㆒、〔注〕正義曰、拂悟、當㆑爲㆓咈忤㆒、古字假借耳、忤、逆也。

【忤意】1 ゴイ　考に逆らふ。忤旨。相手が自分の心に逆らふ。又、自分が相手の心に逆らふ。〔後漢書、竇憲傳〕竝以㆑忤㆑意、相繼自殺。〔唐書、李義府傳〕凡忤㆑意者、皆中㆓傷之㆒。

【忤怨】2 ゴエン　逆らひうらむ。忤恨。〔避暑錄話〕韓魏公至時、軍政久弛、士卒驕惰、欲㆓稍裁制㆒、恐㆓其忤怨㆒。

【忤合】3 ゴガフ　鬼谷子の篇名。

【忤逆】4 ゴギヤク　❶たがふ。そむく。さからふ。忤逆。〔新語、辯惑〕無㆓忤逆之言㆒。〔後漢書、伏隆傳〕三王作㆑亂、盜賊從横、忤㆓逆天心㆒、卒爲㆓赤眉所㆑害。〔魏志、高堂隆傳〕忤逆之災。〔陳書、傅縡傳〕與奪之辭、依㆑經議論、何得㆘見㆓佛說㆒而信順、在㆓我語㆒而忤逆㆖。❷不孝。

【忤忤】5 ゴゴ　喜ばないさま。〔釋名、釋長幼〕女、如也、青・徐州曰㆑婟、婟、忤也、始生時人意不㆑喜、忤忤然也。

【忤恨】6 ゴコン　逆らひうらむ。忤怨。〔漢書、劉向傳〕忤恨者誅傷。〔魏書、劉潔傳〕諸阿附者登進、忤恨者黜免。

【忤視】7 ゴシ　まともに見る。相手の威に屈しないで正視すること。〔戰國、燕策〕燕國有㆓勇士秦武陽㆒、年十三殺㆑人、人不㆓敢與忤視㆒。〔史記、刺客、荊軻傳〕燕國有㆓勇士秦舞陽㆒、年十三殺㆑人、人不㆓敢忤視㆒。〔注〕索隱曰、忤者、逆也、云云、不㆓敢忤視㆒、言㆓人畏㆑之甚㆒也。〔漢書、金日磾傳〕日磾自在㆓左右㆒、目不㆓忤視㆒者數十年。〔注〕師古曰、忤、逆也。

【忤耳】8 ゴジ　耳に逆らふ。氣持よく聞けないこと。〔韓非子、難言〕至言忤㆓於耳㆒、而倒㆓於心㆒、非㆓賢聖㆒莫㆓能聽㆒。

【忤情】9 ゴジヤウ　心に逆らふ。〔荀悅、鄭崇論〕犯㆑言致㆑罪、下之所㆑難㆑言也、拂㆑旨忤㆑情、上之所㆑難㆑聞也。

【忤色】10 ゴシヨク　さからふ顔つき。又、顔色をおかして言動をすること。〔晉書、阮瞻傳〕終日達夜、無㆓忤色㆒。

【忤觸】11 wu³ ch'u⁴　さからひたがふ。反抗する。

【忤物】12 ゴブツ　物に逆らふ。人に反對すること。人と合はないこと。〔唐書、崔信明傳〕揚州錄事參軍鄭世翼者、亦驁倨、數恌輕忤㆑物。〔宋史、李濤傳〕性滑稽、善㆓諧謔㆒、亦未㆓嘗忤㆑物。

【忤慢】13 ゴマン　おろそかにする。〔紅樓夢、二十回〕因㆓孔子是亙㆑古第一人㆒、說下的、不㆑可㆓忤慢㆒。

【忤累】14 ゴルイ　つまづきわづらふ。〔白居易、適意詩〕況予方且介、擧動多㆓忤累㆒。

【忤往】15 ゴワウ　もとりゆく。もとつて行動する。たがふ。〔任昉、王文憲集序〕理積則神無㆓忤往㆒。

【⿱介心】 10359

㊀カイ　〔集韻〕許介切　卦

㊁カツ ケチ　〔集韻〕訖黠切　黠

㊀❶**ゆるがせ。**〔說文〕⿱介心、忽也、从㆑心介聲、孟子曰、孝子之心、不㆓若㆑是⿱介心㆒。❷**不和のさま。**〔集韻〕⿱介心、一曰、不和皃。❸**うれへのないさま。**〔字彙〕⿱介心、一曰、無㆑憂貌。❹或は忦(**4**—**10360**)に作る。〔集韻〕⿱介心、或書作㆑忦。㊁**うれへる。**〔集韻〕⿱介心、憂也。

【忦】 10360

㊀ガイ　〔集韻〕牛戒切　ㄐㄧㄝˋ chieh⁴　卦

㊁カイ　〔集韻〕居拜切　卦

㊂カイ　〔集韻〕居太切　泰

㊃クワイ ケ　〔集韻〕苦怪切　卦

㊄カツ ケチ　〔集韻〕訖黠切　黠

㊅ガツ ゲチ　〔集韻〕牛轄切　黠

㊀❶**うれへる。**〔說文〕忦、㥑也、从㆑心介聲。❷**つつしむ。**〔集韻〕忦、一曰、懂也。㊁**うれへおそれる。**〔集韻〕忦、憂懼也。㊂**おそれる。**〔集韻〕忦、懼也。㊃**うらむ。**〔集韻〕忦、恨也。㊄㊅❶**うれへる。**㊀の❶に同じ。〔集韻〕忦、博雅、憂也。❷**おそれる。**㊂に同じ。〔集韻〕忦、懼也。❸**うらむ。**㊃に同じ。〔集韻〕忦、一曰、恨也。❹**せはしい。**〔集韻〕忦、急也。❺通じて恝(**4**—**10571**)に作る。〔集韻〕忦、通作㆑恝。

【忥】 10361

㊀キ ケ　〔集韻〕許既切　ㄒㄧˋ hsi⁴　未

㊁キ　〔集韻〕虛器切　寘

㊀❶**おろかなさま。**〔說文〕忥、癡皃、从㆑心气聲。❷**しづか。**〔集韻〕忥、一曰、靜也。❸**いこふ。やすむ。**〔集韻〕忥、一曰、息也。❹**よろこぶ。**忥忥。〔集韻〕忥、一曰、忥忥、喜也。㊁**よろこぶ。**忥忥。㊀の❹に同じ。〔廣雅、釋訓〕忥忥、喜也。

【忧】 10362

㊀イウ ウ　〔集韻〕尤救切　宥

㊁イウ ウ　〔集韻〕于求切　尤

㊀㊁**心うごく。むなさわぎする。**〔說文〕忧、心動也、从㆑心尤聲、讀若㆑祐。〔玉篇〕忧、心動也。

【⿰忄方】 10363　ハウ　〔集韻〕敷方切　陽

❶**いむ。**〔玉篇〕⿰忄方、忌也。❷**そこなふ。**妨(**3**—**6111**)に同じ。〔集韻〕妨、說文、害也、或作㆑⿰忄方。

【⿰忄勻】 10364

㊀シュン ジュン　〔集韻〕殊倫切　眞

㊁ケイ ギヤウ　〔集韻〕葵營切　庚

㊀**うれへる。**憌(**4**—**11199**)に同じ。〔集韻〕憌、說文、憂也、或作㆑⿰忄勻。㊁**うれへる。**惸(**4**—**10865**)に同じ。〔集韻〕惸、惸惸、憂也、或作㆑⿰忄勻。

【忨】 10365

㊀グワン　〔集韻〕五換切　ㄨㄢˋ wan⁴　翰

㊁グワン　〔集韻〕吾官切　寒

㊀㊁❶**むさぼる。**〔說文〕忨、貪也、从㆑心元聲、春秋傳曰、忨㆑歲

而潵㆑日。❷をしむ。〔玉篇〕忨、愛也。❸ぬすむ。〔國語、晉語八〕忨㆑日而潵㆑歲。〔注〕忨、偸也。❹翫(9—28766)に通ず。〔左氏、昭、元〕翫㆑歲而愒㆑日。〔釋文〕翫、字又作㆑忨。

【忨愒】1 グヮンカイ 年月をむさぼる。徒らに月日をすごす。徒らに生を貪る。苟生。偸生。〔左氏、昭、元〕趙孟將㆑死矣、主㆑民翫㆑歲而愒㆑日、其與幾何。〔注〕翫・愒、皆貪也。〔釋文〕翫、五喚反、字又作㆑忨。

【忨潵】2 グヮンカツ 忨愒に同じ。〔國語、晉語八〕今忨㆑日而潵㆑歲、怠偸甚矣。〔注〕忨、偸也、潵、遲也。

【忨懆】3 グヮンサウ むさぼる。〔騈雅、釋訓下〕忨懆、貪也。

【忨日】4 グヮンジツ 日をむさぼる。徒らに日をすごす。怠けて日を送ること。忨潵を見よ。

【忩】10366 ソウ 悤(4—10693)の俗字。〔正字通〕忩、俗悤字。

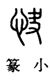
【忪】10367 ショウ シュ 〔集韻〕諸容切 ㄓㄨㄥ chung¹ 冬

❶おどろく。〔玉篇〕忪、驚也。❷あわてる。〔玉篇〕忪、惶遽也。❸むなさわぎする。〔集韻〕忪、心動也。

【忪懞】1 ショウモウ あわてるさま。〔晉書、涼武昭王傳〕哀㆓餘類之忪懞㆒、邈靡㆑依而靡㆑仰。

【㤓】10368 ハ 怕(4—10448)に同じ。〔集韻〕怕、或从㆑巴。

【快】10369 ㊀クヮイ ケ 〔集韻〕苦夬切 ㄎㄨㄞˋ k'uai⁴ 卦 ㊁クヮイ ケ 〔集韻〕苦會切 泰


小篆

㊀❶よろこぶ。もと悏に作る。〔正字通〕快、本作㆑悏。〔說文〕悏、喜也、从㆑心夬聲。〔北史、崔延傳〕公私慶快。❷たのしむ。〔戰國、秦策〕文信侯去而不㆑快。〔注〕快、樂也。〔柳宗元、覺㆑衰詩〕高歌足㆓自快㆒。❸こころよい。こころよしとする。〔廣韻〕快、稱㆑心也。〔後漢書、華佗傳〕體有㆓不快㆒。〔宋玉、風賦〕快哉此風。〔晉書、楊濟傳〕六軍大呼稱㆑快。〔柳永、夏雲峰詞〕楚臺風快湘潭冷。❹よい。〔玉篇〕快、可也。❺はやい。すばやい。〔增韻〕快、急疾也。〔正字通〕快、俗謂㆓急捷㆒曰㆑快。〔晉書、王湛傳〕此馬雖㆑快、然力薄不㆑堪㆓苦行㆒。〔杜甫、王維吳道子畫詩〕當㆓其下㆑手風雨快、筆所㆑未㆑到氣已吞。❻ほしいまま。〔戰國、趙策〕恭㆓于教㆒而不㆑快。〔注〕快、謂㆓縱逸㆒也。❼するどい。〔杜甫、題㆓王宰畫㆒詩〕焉得㆓并州快翦刀㆒。〔張耒、出㆓長夏門㆒詩〕誰張㆓蒼玉屛㆒、中斷神斧快。❽もつぱら。全く。決して。禁止の助辭。〔說文通訓定聲〕快、發聲之詞、字林、快、一也。❾姓。〔字彙〕快、姓。❿現㋑役卒。㋺程なく。早く。㊁たくましくする。〔集韻〕快、逞也、史記、應侯、固不㆑快、劉伯莊讀。

名乘 ヤス。ヨシ。

【快菴】1 クヮイアン 字號。❶清、郭棻(11—39474··199)の號。❷大森欽の號。大森快庵(3—5831··2582)を見よ。

【快意】2 クヮイイ 心に樂しく感ずる。心を樂しませる。心地よい。快心。〔史記、樂書贊〕非㆓以娛㆑心自樂、快㆑意恣㆑欲。〔史記、欒布傳〕富貴不㆑能㆑快㆑意、非㆑賢也。〔漢書、鮑宣傳〕治㆓天下㆒者、當㆘用㆓天下之心㆒爲㆖心、不㆑得㆓自專快㆑意而已也。〔曹植、與㆓吳質㆒書〕過㆓屠門㆒而大嚼、雖㆑不㆑得㆑肉、貴且快㆑意。

〖快意當前〗3 クヮイイタウゼン 現在の事を樂しむ。又、現在の滿足をはかる。〔戰國、秦策〕今棄㆓擊㆑甕叩㆑缻而就㆓鄭衞㆒、退㆑彈㆑箏而取㆓韶虞㆒、若㆑是者何也、快㆓意當前㆒、適㆑觀而已矣。

【快飮】4 クヮイイン 心よく酒を飲むこと。〔論衡、別通〕飽食快飮、慮深求㆑臥、腹爲㆓飯坑㆒、腸爲㆓酒囊㆒。

【快雨】5 クヮイウ はげしく降る雨。急雨。〔魏志、管輅傳〕過㆓清河倪太守㆒、時天旱、倪問㆓輅雨期㆒、輅曰、今夕當㆑雨、是日暘燥、晝無㆓形似㆒、府丞及令、在㆑坐咸謂㆑不㆑然、到㆓鼓一中㆒、星月皆沒、風雲並起、竟成㆓快雨㆒。

〖快雨山房〗6 クヮイウサンバウ 清、李巒(6—14459··787)の室名。

【快焰】7 クヮイエン 心地よいほのほ。〔蘇軾、夜燒㆓松明火㆒詩〕快焰初煌煌、碧煙稍團團。

【快園】8 クヮイエン 明、徐霖(4—10110··313)の號。

【快行】9 クヮイカウ 速くはしる。快走。疾走。〔唐書、朱敬則傳〕快行無㆓好步㆒。〔陔餘叢考、成語〕快行無㆓好步㆒、朱敬則傳、急趨者無㆓善跡㆒。

〖快行家〗10 クヮイカウカ 急使。早飛脚。〔宣和遺事、前集下〕有㆓那快行家㆒、手中把㆓著金字牌㆒、喝道宣㆓萬姓㆒。

【快感】11 クヮイカン 心地よいかんじ。愉快な感情。

【快漢】12 クヮイカン いや味がなくさつぱりした男。快男子に同じ。

【快眼】13 クヮイガン するどいまなこ。〔吳萊、黑海青歌〕越山山有㆓黑海青㆒、長拳快眼健㆓羽翮㆒。

【快氣】14 クヮイキ 病氣が癒えること。

【快技】15 クヮイギ すばらしい技倆。

【快牛】16 クヮイギウ 勢のよい牛。快犢破㆑車(133)を見よ。〔世說新語、汰侈〕彭城王有㆓快牛㆒、至愛㆓惜之㆒。〔南史、陳顯達傳〕諸子與㆓王敬則諸兒㆒、並精㆓車牛㆒、麗㆓服飾㆒、當世快牛、稱㆓陳世子・青王三郞・烏呂文・顯折角・江瞿曇・白鼻㆒、而皆集㆓陳舍㆒。

【快去】18 k'uai⁴ ch'ü⁴ はやく行く。

【快炬】19 クヮイキョ よくもえる火。〔党懷英、詩〕蓬蒿掇㆓快炬㆒、倏作㆓飛灰㆒輕。

【快擧】20 クヮイキョ 愉快になつて行動する。又、氣持のよいしわざ。勇ましい行動。〔楊萬里、寒食對㆑酒詩〕醒時本強飮、醉後忽快擧。

【快緊】21 クヮイキン するどくきびしい。〔葉適、送㆓鄭景元㆒詩〕丈夫軒豁意、快緊出㆓鷹鸇㆒。

【快果】22 クヮイクヮ 梨の異名。〔本草、梨〕釋名、快果・果宗・玉乳・蜜父、弘景曰、梨種殊多、並皆冷利、多食損㆑人、故俗人謂㆓之快果㆒、不㆑入㆓藥用㆒。〔朱熹、次㆓秀野雜詩韻㆒食㆑梨詩〕啖餘更檢桐君錄、快果知㆑非㆓浪得㆑名。

【快靴】23 k'uai⁴ hsüeh¹ 乘馬用の靴。

【快快】24 クヮイクヮイ 心地よいさま。〔荀子、榮辱〕快快而亡者、怒也。〔淮南子、繆稱訓〕小人日快快以至㆑辱。

〖快快的〗25 k'uai⁴ k'uai⁴ tê 早く。大急ぎで。

【快活】26 クヮイクヮツ ❶たのしみ。又、たのしい。愉快。〔北齊書、和士開傳〕一日快活敵㆓千年㆒。〔白居易、再授㆓賓客分司㆒詩〕吾若默無㆑語、安知㆓吾快活㆒。〔白居易、想㆑歸㆓田園㆒詩〕快活不㆑知如㆑我者、人間能有㆓幾多人㆒。〔五代史、劉昫傳〕三司諸吏提㆑印聚㆓立月華門外㆒、聞㆔宣麻罷㆓昫相㆒、皆歡呼相賀曰、自㆑此我曹快活矣。❷鳥の名。「麥飯熟すれば卽ち快活」と鳴くといふ。〔蘇軾、五禽言詩〕豐年無㆑象何處尋、聽取林間快活吟。〔自注〕此鳥聲、云㆓麥飯熟卽快活㆒。❸はきはきして元氣のあること。さつぱりしてゐて物事にこだはらず、元氣のよいこと。

〖快活三〗27 クヮイクヮツサン 戲曲の名。清、張大復撰。蔣霆が婦を得て揚州の守となり、やがて婦と仙去するといふ筋で、快活な事が三つあるから名とした。

〖快活人〗28 クヮイクヮツジン 樂しんでゐる人。樂しい心で暮してゐる人。〔白居易、快活詩〕飽食安眠消㆓日月㆒、閑淡冷笑接㆓交親㆒、誰知將相王侯外、別有㆓優游快活人㆒。

〖快活湯〗29 クヮイクヮツタウ 酒の一種。藥用となる。〔清異錄、酒漿〕快活湯、當塗一種酒麴、皆發㆓散藥㆒、既不㆓久醉㆒、又無㆓腸滯之患㆒、人號曰㆓快活湯㆒、士大夫呼㆓君子觴㆒。

〖快活年〗30 クヮイクヮツノトシ 豐年をいふ。〔朱熹、石廩峰次㆓敬夫韻㆒詩〕家家有㆑廩高如㆑許、大好人間快活年。

【快活林】31 クワイクワツリン 地名。河南省開封縣城の外。宋代、都人が集り遊んだ處。〔東京夢華錄〕牧燈畢、都人爭レ先、出レ城探レ春、州南則玉津園・方池亭榭・玉仙觀・轉龍灣、州東宋門外、快活林・獨樂岡・硯臺・蜘蛛樓・麥家園・虹橋・王家園。

〔快活三郎〕32 クワイクワツサンラウ 唐、玄宗の異稱。〔鶴林玉露、郎當曲〕魏鶴山天寶遺事詩云、紅錦繃盛二河北賊一、紫金盞酌二壽王妃一、弄成二晚歲郎當曲一、正是三郎快活時、俗所謂快活三郎者、卽明皇也、小說載、明皇自レ蜀還レ京、以二駝馬一載二珍玩一自隨、明皇聞二駝馬所レ帶鈴聲一、謂二黃幡綽一曰、鈴聲頗似二人言語一、幡綽對曰、似レ言二三郎郎當、三郎郎當一也、明皇媿且笑。

【快闊】33 クワイクワツ ㊀心地よく開けたさま。㊁氣象のはれやかなさま。氣象がさつぱりとして度量が廣いさま。

【快愜】34 クワイケフ ここちよい。又、心地よさ。〔蘇軾、次二韻子由浴罷一詩〕垢淨各殊レ性、怪愜聊自沃。

【快健】35 クワイケン ㊀するどくつよい。〔梅堯臣、同二蔡君謨・江鄰幾一觀二宋中道書畫一詩〕一埽一幅太快健、檀溪躍過瘦的盧。㊁たつしや。〔福惠全書、蒞任部、查交代〕膘壯齒小馳驟快健者。

【快劍】36 クワイケン 鋭利なつるぎ。〔杜甫、李潮八分小篆歌〕況潮小篆逼二秦相一、快劍長戟森相向。〔韓愈、石鼓歌〕年深豈兔レ有二缺畫一、快劍斫斷生二蛟鼉一。

【快顯】37 クワイケン ほしいままにあらはす。十分にあらはす。〔宋祁、新建二文翁祠堂一詩〕布レ尋以度レ堂、累レ常以度レ廷、疎レ窗以快顯、壯レ闔以嚴閉。

【快語】38 クワイゴ こころよいことば。〔張實居、贈二宜雨一詩〕湘江無二快語一、監河有二哀辭一。

【快口】39 クワイコウ ㊀口に心地よい。おいしい。〔李尤、鼎銘〕五鼎大和、滋味集具、雖レ快二其口一、損レ之爲レ務。㊁k‘uai^4 k‘ou^3 早口。

【快鶻】40 クワイコツ すばやいはやぶさ。〔杜甫、戲作二花卿一歌〕用如二快鶻一風火生、見二賊唯多一身始輕。〔汪元量、石頭城詩〕健魚奮レ鬣隨レ蚊舞、快鶻翻レ身獵レ雁回。

【快差】41 k‘uai^4 ch‘ai^1 急使。

【快哉】42 クワイサイ ㊀心よいかな。樂しいかな。愉快の意をあらはす歡聲。〔宋玉、風賦〕有レ風颯然而至、王乃披レ襟而當レ之曰、快哉此風。〔蘇軾、舶趠風詩〕欲レ作蘭臺快哉賦、却嫌分別問二雌雄一。〔薛季宣、晚渡二東坡一詩〕浮生萬事盡塵埃、瑞慶堂今榜二快哉一。㊁亭の名。㋑江蘇省銅山縣の東南。俗稱、拐角樓。唐の薛能の陽春亭の故址。宋の李邦直が改築した。景色絕佳。㋺湖北省黃岡縣の南。宋時、張夢得が此に謫居して其の廬の西南に亭をつくり、蘇軾が之に快哉と名づけた。〔蘇轍、黃州快哉亭記〕清河張君夢得謫二居齊安一、卽二其廬之西南一爲レ亭、以覽二觀江山之勝一、而余兄子瞻名レ之曰二快哉一。

【快灑】43 クワイサイ 心地よくさつぱりしてゐること。

【快壯】44 クワイサウ 捕手役。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕密諭二快壯一巡邏。

【快倰】45 クワイサウ 迅速なこと。〔玉篇〕倰、快性也。

【快槍】46 k‘uai^4 ch‘iang^1 連發銃。

【快作】47 クワイサク 痛快な作品。すばらしい作品。

【快士】48 クワイシ 氣象がさつぱりして快活な男。快男兒。〔蜀志、黃權傳〕黃權、字公衡、云云、宣王與二諸葛亮一書曰、黃公衡快士也。

【快子】49 クワイシ 箸をいふ。筷子。快兒(55)を見よ。〔陔餘叢考、呼レ箸爲レ快〕俗呼レ箸爲二快子一、陸容菽園雜記謂、起二於吳中一、凡舟行諱レ住、諱レ翻、故呼レ箸爲二快子一、幡布爲二抹布一也、今北方人呼二幡布一爲二轉布一、則又因二翻字一而轉耳。〔紅樓夢、四十回〕單挐二了一雙老年四楞象牙鑲金的快子一、與二劉姥姥一。

【快志】50 クワイシ 心にかなふやうにする。心に思ふままにする。〔六韜、犬韜、練士〕有下貧窮忿怒、欲レ快二其志一者上。〔史記、莊周傳〕終身不レ仕、以快二吾志一焉。

【快駛】51 k‘uai^4 shih^3 速くはしる。輕駛。快走。

【快字】52 クワイジ ここちよい文字。壯快な文字。〔皇甫湜、韓文公墓銘〕及二其酣放豪曲一、快字淩レ紙怪發。

【快耳】53 クワイジ 耳に心地よくひびく。心地よくきく。〔漢書、息夫躬傳〕辯口快レ耳、其實未レ可レ從。〔注〕師古曰、苟快二聽者之耳一。

【快事】54 クワイジ 愉快な事。心地よい事。

【快兒】55 クワイジ 箸の俗稱。快子。筷兒。〔陸容、菽園雜記〕民間俗諱、各處有レ之、而吳中爲レ甚、如下舟行諱レ住、諱レ翻、以レ箸爲二快兒一、幡布爲中抹布上、箸・住音近、故反言爲レ快也、俗亦加レ竹作レ筷。

【快車】56 k‘uai^4 ch‘ê^1 急行列車。

【快射】57 クワイシヤ すみやかに射る。弓を射ることが巧なこと。〔宋書、黃回傳〕太宗初卽位、使三回募二江西楚人一、得二快射手八百一、假二回寧朔將軍一。

【快翔】58 クワイシヤウ はやくかける。すばやく飛びめぐる。

【快手】59 クワイシユ ㊀すぐれた士卒。精手。轉じて、兵卒の意となる。〔通雅、稱謂〕事力、猶二黃回之快手一也、云云、戴明寶使三黃回募二江楚快手八百一、隸二劉勔一。〔宋書、建平宣簡王傳〕景素左右勇士數十人、並荊楚快手。〔南史、黃回傳〕黃回募二江西楚人一、得二快手八百一、隸二劉勔一西討。〔日知錄、雜論、快手〕快手之名、起レ自二宋書王鎭惡傳一、東從舊將猶有二六隊千餘人一、西將及能細直吏快手、復有二二千餘人一、建平王景素傳、左右勇士數十人、並荊楚快手、黃回傳、募二江西楚人一、得二快射手八百一。㊁役所の下つぱ人や小使の類。〔還魂記、勸農〕俺天生的快手賊無レ過。〔福惠全書、蒞任部、出堂規〕該班快手各于二儀門外一伺候。〔六部成語、刑部、快手、注解〕動レ手擒レ賊之官役也。

〔快手快腳〕60 k‘uai^4 shou^3 k‘uai^4 chiao^3 てばやく。すばやく。敏活に。

【快勝】61 クワイシヨウ すばらしい勝ちぶり。痛快な勝「利。

【快心】62 クワイシン 心地よい。よい氣もち。又、腹いせ。〔孟子、梁惠王上〕抑王興二甲兵一、危二士臣一、構二怨於諸侯一、然後快二於心一與。〔戰國、秦策〕大王若不レ察二臣愚計一、必欲下快二心於趙一、以致中臣罪上、此亦所謂勝二一臣一而爲二天下一屈者也。〔史記、主父偃傳〕靡二敝中國一、快二心匈奴一。

〔快心事〕63 クワイシンジ 氣持よい事。痛快な事。

【快信】64 k‘uai^4 hsin^4 速達郵便。

【快箴】65 クワイシン 快に乘じて事を決するのを諫めた箴。〔玉海、藝文、箴、治平皇極箴〕淳熙元年、李燾上二快箴一、引三太祖退レ朝、悔二乘レ快決一レ事以諫、上曰、朕當レ揭二之坐隅一。

【快人】66 クワイジン 愉快な人。豪爽の士。〔魏志、明帝紀、注〕顧謂二中書令孫資一曰、卿鄕里乃有二爾曹快人一。〔傳燈錄〕快馬一鞭、快人一言。

【快性】67 クワイセイ ㊀心をさわやかにする。〔何遜、答二高博士一詩〕爲レ宴得二快性一、安閑聊二鼓腹一。㊁せつかち。急性。〔正字通〕快、急性曰二快性一。

【快壻】68 クワイセイ 氣に入りのむこ。良いとのご。〔魏書、劉昞傳〕欲レ覓二一快女壻一。〔北史、劉延明傳〕吾有二一女一、欲レ覓二一快女壻一。

【快晴】69 クワイセイ 氣もちよくはればれした天氣。曇なくさつぱりした天氣。〔陳與義、夏夜詩〕兩鶴翩二明月一、孤松立二快晴一。〔朱熹、秀野劉丈寄二示南昌諸詩一和二此兩篇一詩〕滕王閣下水初生、聞道登臨復快晴。

〔快晴小築〕70 クワイセイセウチク 清、劉錫嘏(**2**－**2224**··1132)の室名。

【快雪】71 クワイセツ 堂の名。清、涿州の馮銓が叢帖一種を刻し、堂を築いて石を儲へ、其の堂を快雪堂といひ、其の帖を快雪堂帖といつた。其の第一帖は晉の王羲之の書の快雪時晴帖を摹したもの。〔集古求眞〕快雪堂帖、凡五卷、其中諸帖、大半由二眞跡一模出、故是帖久爲二世人所一レ重、後馮子孫不レ能レ守、析離爲レ二、一同歸二質庫一、州牧黃可潤贖レ之以歸、總督楊樸園購以進奉、遂入二內府一、作二快雪堂一以貯レ之、原有二木刻三版一、乃悉易以レ石、馮爲二涿州人一、故初出二墨本一名曰二涿搨一、至爲二珍貴一、黃爲二福建人一、故次拓者名曰二建搨一、再次曰二內搨一、首有二乾隆御筆快雪堂記一。〔倪瓚、玩月快雪齋詩〕爾營二茆齋一名二快雪一、邀レ我吹レ笙弄二明月一。

〔快雪堂〕72 クワイセツダウ 室名。㊀明、馮夢禎(**12**－**44579**··287)の室名。㊁清、馮文昌(**12**－**44579**··282)の室名。

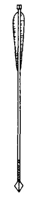
〔快雪時晴帖〕73 クワイセツジセイテフ 書帖の名。晉、王羲之の草書帖で、乾隆御物の一。此の書帖が他の彙帖に摹入されたものには、三希堂法帖・墨池堂法帖・筠清館法帖等がある。〔王羲之、問慰諸帖〕快雪時晴、佳想安善、未レ果レ爲レ結、力不レ次。〔宣和書譜〕王右軍行書、內府所レ藏四十一、內有二快雪時晴帖一。〔書畫舫〕王百谷徵君藏二逸少快雪時晴帖一、白麻紙眞蹟、唐宋祕府官本、曾

入二寶晉齋中一、米元章有レ跋、又入二元御府一、趙子昂以下奉レ勅跋者三人。

【快捷】74 クワイセフ　はやい。すばやい。敏捷。

【快箭】75 クワイセン　極めてはやい矢。〔陸龜蒙、早秋吳體寄二襲美一詩〕安得三彎弓似二明月一、快箭拂下西飛鵬。

【快翦】76 クワイセン　㊀よくきれるはさみ。快翦刀を見よ。㊁清代に用ゐられた箭の一種。〔清會典圖、武備、快箭圖說〕快箭、楊木笴、鐵鏃長一寸一分、闊四分、前如二鈚箭一而小、後如二梅鍼一、雉羽、皆笴首飾黑桃皮、括旁裹二綠繭一。



快箭（清會典圖）㊁

〖快翦刀〗77 クワイセンタウ　氣持よく切れるはさみ。〔杜甫、戲題二王宰畫山水圖一詩〕尤工二遠勢一古莫レ比、咫尺應須レ論二萬里一、焉得二幷州快翦刀一、翦二取吳松半江水一。

【快戰】78 クワイセン　思ふ存分にたたかふ。又、其のたたかひ。〔史記、項羽紀〕願爲二諸軍一快戰。

【快然】79 クワイゼン　心地よいさま。〔淮南子、泰族訓〕以二目之無レ見、耳之無一レ聞、穿二隙穴一見二雨零一、則快然而嘆レ之。〔後漢書、光武十王、東平憲王蒼傳〕得二深策一、快然意解。〔晉書、王羲之傳〕快然自足、不レ知二老之將一レ至。

【快走】80 クワイソウ　はやくはしる。疾走。〔正字通〕快、疾走曰二快走一。

〖快走船〗81 クワイソウセン　はやく走ることを目的として作つた小船。帆又は蒸氣機關を備へ、競爭或は遊航などに使用される。ヨット。

【快速】82 クワイソク　きはめて速いこと。

〖快速力〗83 クワイソクリヨク　快速に同じ。

【快刀】84 クワイタウ　きれ味のよい刀。快翦刀。〔陸游、詩〕遊レ山不レ待レ飛二雙舄一、剪レ水無レ因レ得二快刀一。〔居家必用〕取二新葉一用二快刀一切極細。

〖快刀斷二亂麻一〗85 クワイタウランマヲタツ　きれ味のよい刀で亂れた麻を斷ちきる。よく物事を處理すること。

【快當】86 クワイタウ　k'uai⁴ tang　速かに。敏速に。

【快堂】87 クワイダウ　林信充の號。林榴岡(**6－14551‥447**)を見よ。

【快諾】88 クワイダク　心よく受けあふ。氣もちよく引きうける。

【快答】89 クワイタフ　心よいこたへ。心よく答へる。

【快噉】90 クワイタン　よく食ふ。〔蔡襄、和二答孫推官久病新起見一レ過詩〕大嚼快噉飲幾斗。

【快彈】91 クワイダン　面白く絃をひく。〔白居易、琵琶行序〕送二客湓浦口一、聞下船中夜彈二琵琶一者上、聽二其音一、錚錚然有二京都聲一、問二其人一、本長安倡女、年長色衰、委レ身爲二賈人婦一、遂命レ酒使三快彈二數曲一。

【快談】92 クワイダン　面白くはなす。又、面白い話。

【快譚】93 クワイダン　愉快な話。面白い話。

【快暢】94 k'uai⁴ ch'ang³　喜ばしい。幸福な。

【快艇】95 k'uai⁴ t'ing³　よく走る小舟。モーターボート・ヨットの類。輕艇。

【快適】96 クワイテキ　心地よく滿足なさま。よく心にかなふこと。〔楊愼、游二點蒼山一記〕沿レ溪而西、過二獨木橋一、升二寶華寺一、其地多二花卉一、預煑二酒於叢薄中一、引レ滿盡レ醉、夜臥二草庵一、殊覺二快適一。〔蘇舜欽、金山寺詩〕氣象特清壯、所レ覽輒快適。

【快電】97 k'uai⁴ tien⁴　急電。至急電報。

【快覩】98 クワイト　心地よくみる。見て氣持がよい。〔周霆震、延平龍劍歌〕我當下遠求二華陰土一、助二爾光芒一增中快覩上。

【快頭】99 クワイトウ　捕手の頭。〔福惠全書、刑名部、賊盜上、緝捕〕快頭王明相指レ鴻。

【快獨】100 クワイドク　明、李堯民(**6－14459‥1127**)の號。

【快讀】101 クワイドク　心地よくよむこと。〔陳造、次二韻蘇監倉一詩〕快二讀清篇一病如レ掃、北軒風竹對二森疏一。

【快馬】102 クワイバ　はやく走る馬。〔南史、曹景宗傳〕我昔在二鄉里一、騎二快馬一如レ龍。〔杜甫、投二簡成華兩縣諸子一詩〕赤縣官曹擁二才傑一、軟裘快馬當二冰雪一。

【快方】103 クワイハウ　病がなほりかかること。

【快砲】104 k'uai⁴ p'ao⁴　速射砲。

【快報】105 クワイハウ　㊀心地よいしらせ。㊁急ぎのしらせ。急報。

【快板】106 k'uai⁴ pan³　音樂の、間のはやい拍子。

【快班】107 k'uai⁴ pan¹　㊀探偵、又は、刑事巡査の事務を執る小役人。㊁江南の水鄉に多い民船の一種。

【快美】108 クワイビ　心地よく美しい。

【快斧】109 クワイフ　よくきれるをの。〔王令、謝二李常伯一詩〕驟承夫子言、快斧加二芟薙一。〔高啓、贈二醉樵一詩〕借二汝快斧一斫二大桂一、要レ令三四海增二清光一。

【快辯】110 クワイベン　さわやかでよどみのない辯說。

【快奔】111 クワイホン　早くはしる。勢よくはしる。

【快慢】112 k'uai⁴ man⁴　遲速。快は速。

【快味】113 クワイミ　㊀よいあぢはひ。㊁心地よい趣。

【快眠】114 クワイミン　よくねむる。〔吳萊、黑海青歌〕越山山有二黑海青一、長拳快眠健羽翮。

【快愈】115 クワイユ　病氣がさつぱりとなほる。愈は癒。快癒。

【快用】116 クワイヨウ　十分に用ひる。〔說苑、脩文〕未レ有下不二快用一者上也。

【快騾】117 クワイラ　はやく走る騾馬。〔通俗編、獸畜、快騾〕北史、斛律羨傳、羨使下騎二快騾一迎至上レ鄴。

【快來】118 k'uai⁴ lai²　㊀はやく來い。㊁程なく來る。早く來る。

【快樂】119 クワイラク　心地よくたのしむ。又、心地のよいこと。面白いこと。たのしみ。〔易林、乾之第一、履〕富饒豐衍、快樂無レ已。〔通俗編、居處、快樂仙宮〕三朝北盟會編、王繼先占二豐樂橋官地一、屋宇宏麗、都人謂二之快樂仙宮一。

〖快樂說〗120 クワイラクセツ　人生最高の目的は快樂であるといふ倫理學說。西洋では希臘のエピクロス、中國では楊朱などが唱へた。快樂主義。

【快吏】121 クワイリ　北齊の陳元康が、夜闇に能く字を書いたのを稱した語。〔北史、陳元康傳〕季式以二元康一對曰、是能夜闇書、快吏也。

【快利】122 クワイリ　するどい。すばやい。〔朱子、答二蔡季通一書〕自覺二語意蹇拙一、終不二快利一也。〔竇泉、述書賦〕荒蕪快利彥祖爲レ容、似下較二狡兔于大野一、任中平陂之所上レ從。

【快往】123 クワイワウ　速くゆく。

【不レ快】124 クワイナラズ　㊀心よくない。〔戰國、秦策〕蔡澤入則揖二應侯一、應侯不レ快。㊁フクワイ　病氣。〔後漢書、華陀傳〕體有二不快一。

【快蟹船】125 クワイカイセン　清、咸豐・同治時代の軍艦の名。廣東船の式に倣ひ、砲七門を載す。〔清會典事例、兵部、處分例〕遇有二出洋快蟹等船一、務當二實力巡查一、儻敢裝二載紋銀一、妄冀二偸漏出洋一、立卽設レ法截拏。

【快扛鳥】126 クワイカウテウ　鶻鵃の異名。〔本草、鶻鵃〕集解、時珍曰、江東呼爲二車載板一、楚人呼爲二快扛鳥一、蜀人呼爲二春哥兒一。

【快上馬】127 クワイジヤウバ　宋、理宗の朝に、宮妃が好んで足を束ねて細く眞直にしたが、其の細く眞直なものを快上馬といふ。

【快男子】128 クワイダンシ　心持のさつぱりした男子。快男兒。快漢。

【快條子】129 k'uai⁴ t'iao² tzŭ　連發銃をいふ。滿洲の方言。

【快雷車】130 クワイライシヤ　雷をいふ。〔桃花扇〕入道抱二頭顱一、由二你千山跑一、快雷車偏會找。

【快輪船】131 クワイリンセン　速力の速い汽船。〔政典類纂〕水路則有二快輪船一。

【快遞信件】132 k'uai⁴ ti⁴ hsin⁴ chien⁴　速達郵便。

【快犢破レ車】133 クワイトククルマヲヤブル　勢の盛な小牛は、往往にして其の牽く車を破壞する。將來成すあらんとする年少の者は自ら忍び戒めなければならぬ喩。〔晉書、石季龍載記上〕性殘忍、好二馳獵一、游蕩無レ度、尤善レ彈、數彈レ人、軍中以爲二毒患一、勒白レ王、將レ殺レ之、王曰、快牛爲二犢子一時、多能破レ車、汝當二小忍一レ之。

【取二快一時一】134 クワイヲイチジニトル　一時の快樂を貪る。〔吳師道、舟行得風詩〕我行小遲亦何害、人生取レ快寧多時。

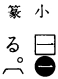
【怖】10370

㈠ハイ　〔集韻〕博蓋切　泰

㈡ハイ　〔集韻〕匹代切　隊

㈢ハツ ホチ　〔集韻〕弗伐切　月

㈣ハツ ハチ　〔集韻〕北末切　曷



小篆

㈠㊀**うらみいかる**。もと怵に作る。〔正字通〕怖、本作レ怵。〔說文〕怖、恨怒也、从レ心朩聲、詩曰、視レ我怖怖。㊁或は怢(**4－10432**)に作る。〔集韻〕怖、或

从㆑犮。［二］［三］**いかる。うらみいかる。**〔集韻〕怖、怒也。〔集韻〕怖、恨怒也。［四］**よろこばない。**〔集韻〕怖、意不㆑悦也。

【忬】10371　［一］ヨ　〔集韻〕羊茹切　［御］　［二］シヨ　〔集韻〕商居切　［魚］

［一］**あらかじめ。又、やすんずる。**預（**12－43373**）に同じ。〔集韻〕預、先也、安也、或从㆑心。［二］**ゆるい。又、とく。**紓（**8－27276**）に同じ。〔集韻〕紓、說文、緩也、一曰、解也、或作㆑忬。

【忭】10372　ヘン　ベン　〔集韻〕皮變切　［霰］　ㄅㄧㄢˋ　pien⁴

よろこびたのしむさま。昪（**5－13849**）に同じ。〔集韻〕昪、說文、喜樂也、或作㆑忭。〔曹植、大魏篇〕百官雷忭讚若㆑驚。

【忭懽】1 ベンクワン　喜びたのしむ。〔白居居、答㆓夢得秋庭獨坐見㆑贈詩㆒〕容衰見㆑鏡同惆悵、身健逢㆑杯且忭懽。

【忭躍】2 ベンヤク　よろこびおどる。〔江淹、爲㆓蕭驃騎㆒讓㆓太尉增封㆒第二表〕雖㆑蹈㆓疵戾㆒、猶深忭躍。〔符載、謝㆑賜㆓藥方㆒表〕仰㆑天忭躍、踴㆑地競惶。〔白居易、爲㆓宰相㆒賀㆑殺㆑賊表〕喜慶忭躍。

【⿱㞢心】10373　シ　志（**4－10331**）の古字。〔集韻〕志、古作㆑⿱㞢心。

【㤅】10374　［一］アイ　［二］キ　［一］愛（**4－10947**）の古字。〔正字通〕㤅、古文愛。［二］㊀忌（**4－10310**）に同じ。〔集韻〕忌、語已詞、或作㆑㤅。㊁旣（**4－11121**）に同じ。〔集韻〕旣、忌也、亦省。

【㤅伯】1 アイハク　清、李慈銘（**6－14459**・1361）の字。

【㤅經尻】2 アイケイキヨ　清、黃以恭（**12－47926**・979）の室名。

【忮】10375　［一］シ　〔集韻〕支義切　［寘］　ㄓˋ　chih⁴　［二］キ　〔集韻〕居企切　［寘］　［三］シ　〔集韻〕章移切　［支］　［四］キ　〔集韻〕遺尒切　［紙］　［五］キギ　〔集韻〕翹移切　［支］

小篆

［一］㊀**もとる。さからふ。**〔說文〕忮、很也、从㆑心支聲。〔段注〕很者、不㆓聽從㆒也。〔詩、邶風、雄雉〕不㆑忮不㆑求。〔釋文〕忮、字書云、很也。〔莊子、天下〕不㆑忮㆓於衆㆒。〔注〕忮、逆也。㊁**そこなふ。**〔詩、邶風、雄雉〕不㆑忮不㆑求。〔傳〕忮、害也。〔莊子、齊物論〕大勇不㆑忮。〔釋文〕忮、害也。㊂**やぶる。**〔漢書、匡衡傳〕或忮害、好陷㆓人於罪㆒。〔音義〕忮、弊也。㊃**うらむ。**〔一切經音義、九〕忮、說文、恨也。〔漢書、地理志下〕民族懻忮。〔注〕師古曰、忮、恨也。㊄**わるい。**〔呂覽、愼行〕行忮之故也。〔注〕忮、惡也。㊅**かたい。**〔漢書、匡衡傳、注〕師古曰、忮、害也、謂㆓酷害之心堅㆒也。〔漢書、酷吏、寧成傳附周陽由傳〕汲黯爲㆑忮。〔注〕師古曰、忮、意堅也。㊆**たけだけしい。**〔莊子、齊物論〕大勇不㆑忮。〔釋文〕忮、李云、健也。㊇或は伎（**1－436**）に作る。〔集韻〕忮、或从㆑人。［二］**もとる。**［一］の㊀に同じ。〔集韻〕忮、很戾。［三］**そこなふ。**［一］の㊁に同じ。〔集韻〕忮、害也。［四］㊀**そこなふ。**［一］の㊁に同じ。〔集韻〕忮、害也。㊁［一］の㊆に同じ。〔集韻〕忮、健也。［五］**つよい。**〔集韻〕忮、彊也。

【忮害】1 シガイ　甚しく苛酷で人を害ふ。〔詩、大雅、瞻卬、鞫㆑人忮忒、集傳〕其心忮害、而變詐無㆑常。〔漢書、匡衡傳〕或忮害、好陷㆓人於罪㆒。

【忮求】2 シキウ　人をねたみそこなひ、貪り求める。〔詩、邶風、雄雉〕不㆑忮不㆑求、何用不㆑臧。〔傳〕忮、害也。〔箋〕不㆓疾害㆒、不㆑求㆓備於一人㆒。〔論語、子罕〕子曰、衣㆓敝縕袍㆒、與㆘衣㆓狐貉㆒者㆖立、而不㆑恥者、其由也與、不㆑忮不㆑求、何用不㆑臧。〔集注〕忮、害也、求、貪也。

【忮佷】3 シコン　強情で物に戻ること。佷は很。忮很。〔漢書、外戚下、孝成許后傳〕官吏忮佷、心欲㆓自勝㆒。〔注〕師古曰、忮、堅也。

【忮很】4 シコン　うらみもとる。忮佷。〔唐書、竇羣傳〕武元衡輔㆑政、薦㆑羣代爲㆓中丞㆒。羣引㆓呂溫羊士諤㆒爲㆓御史㆒。李吉甫以㆓二人躁險、持不㆑下、羣忮很、反怨㆓吉甫㆒。

【忮心】5 シシン　忌みにくむ心。〔莊子、達生〕雖㆘有㆓忮心㆒者㆖、不㆑怨㆓飄瓦㆒。〔淮南子、詮言訓〕方舟濟㆓乎江㆒、有㆓虛船㆒從㆓一方㆒來、觸而覆㆑之、雖㆑有㆓忮心㆒、必無㆓怨色㆒。

【忮忒】6 シトク　さからひもとりて據り守るところがない。〔詩、大雅、瞻卬〕鞫㆑人忮忒、譖始竟背。〔傳〕忮、害、忒、變也。〔箋〕鞫、窮也、譖、不信也、婦人之長舌者多㆓謀慮㆒、好窮㆓屈人之語㆒、忮害轉化、其言無㆑常、始㆓於不信㆒、終㆓於背違㆒。

【忮辯】7 シベン　さからふ辯舌。〔陶潛、讀㆑史述、韓非〕巧行居㆑災、忮辯召㆑患、哀矣韓生、竟死㆓說難㆒。

【不㆑忮不㆑求】8 ソコナハズモトメズ　人に疾害を與へず、又一人に備はることも求めない。一說に、忮害もせず、貪求もしない。〔詩、邶風、雄雉〕不㆑忮不㆑求、何用不㆑臧。〔傳〕忮、害、臧、善也。〔箋〕我君子之行、不㆓疾害㆒、不㆑求㆓備於一人㆒、其行何用爲㆓不善㆒。〔集傳〕忮、害、求、貪、言、凡爾君子、豈不㆑知㆓德行㆒乎、若能不㆓忮害㆒、又不㆓貪求㆒、則何所㆑爲而不㆑善哉、憂㆓其遠行之犯㆑患、冀㆓其善處而得㆑全也。

【⿰忄反】10376　ハン　ホン　〔集韻〕方願切　［願］

㊀**惡い心。**〔玉篇〕⿰忄反、惡心也。㊁**急な性質。**〔玉篇〕⿰忄反、急性也。㊂**せはしい。**〔集韻〕⿰忄反、急也。㊃**くいる。**〔集韻〕⿰忄反、悔也。㊄**せまい。**〔集韻〕⿰忄反、褊狹也。

【忯】10377　［一］キギ　〔集韻〕翹移切　［支］　［二］シジ　〔集韻〕常支切　［支］　［三］イ　〔集韻〕盈之切　［支］　［四］シジ　〔集韻〕上紙切　［紙］　［五］テイダイ　〔集韻〕待禮切　［薺］　［六］コン　〔集韻〕呼昆切　［元］

小篆

［一］［二］㊀**つつしむ。**〔玉篇〕忯、敬也。㊁**いつくしむ。**〔說文〕忯、㤅也、从㆑心氏聲。〔玉篇〕忯、愛也。㊂**事をうれへない。**忯⿰忄斯。〔集韻〕忯、一曰、忯⿰忄斯、不㆑憂㆑事。［三］**やはらぎかなふ。**〔集韻〕忯、忯忯、和適也。［四］**たのむ。**恀（**4－10514**）に同じ。〔爾雅、釋言〕忯、恃也。〔集韻〕恀、恃㆑事曰㆑恀、或从㆑氏。［五］**いつくしむ。**〔爾雅、釋訓〕忯忯、愛也。〔集韻〕忯、忯忯、愛也、郭璞說。［六］**みだれる。**惛（**4－10428**）に同じ。〔集韻〕惛、說文、怓也、或作㆑忯。

【⿰忄殳】10378　エキ　ヤク　〔玉篇〕營隻切　［陌］

きづかふ。注意する。〔玉篇〕⿰忄殳、用㆑心也。

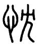
【⿱亓心】10379　キ　惎（**4－10776**）の古字。〔集韻〕惎、古作㆑⿱亓心。

【⿰忄夭】10380　アウ　オウ　〔集韻〕烏浩切　［皓］

❶あわておそれるさま。〔廣韻〕忕、忕怔之皃。❷うらむ。懊（4－11332）に同じ。〔集韻〕懊、恨也、或从レ天。

【忰】10381 スイ 悴（4－10726）の俗字。〔字彙〕忰、俗悴字。

【忱】10382 シン ジン 〔集韻〕時任切 ㄔㄣˊ ch'en² 侵


小篆

❶まこと。〔説文〕忱、誠也、从レ心冘聲、詩曰、天命匪レ忱。〔書、湯誥〕尚克時忱。〔傳〕忱、誠也。❷まこととする。〔詩、大雅、大明〕天難レ忱斯。〔傳〕忱、信也。❸或は愖（4－10940）に作る。〔集韻〕忱、或从レ甚。❹訦（10－35276）・諶（10－35739）に通ず。〔説文〕忱、詩曰、天命匪レ忱。〔韓詩外傳、三〕天命匪レ訦。〔詩、大雅、蕩〕其命匪レ諶。

【忱威】1 シンヰ 樂府、梁鼓吹曲の一。梁、沈約作。〔隋書、音樂志上〕第五漢曲擁離、改爲二忱威一、言下破二加湖一元勳上也。〔樂府詩集、鼓吹曲辭、梁鼓吹曲〕隋書、樂志曰、梁高祖制二鼓吹新歌十二曲一、一曰、木紀謝、二曰、賢首山、三曰、桐柏山、四曰、道亾、五曰、忱威、六曰、漢東流、七曰、鶴樓峻、八曰、昏主恣淫慝、九曰、石首局、十曰、期運集、十一曰、於穆、十二曰、惟大梁。〔沈約、鼓吹曲、忱威〕忱威授レ律命二蒼光一、言薄加レ湖灌二秋水一、廻瀾瀄泊汎二增雉一、爭レ河投レ岸掬盈レ指、犯レ刃嬰レ戈洞二流矢一、資二此威烈一齊二文軌一。

【忱辭】2 シンジ 誠の辭。〔書、大誥〕天棐二忱辭一、其考二我民一。〔傳〕誠辭爲二天所一レ輔。

【忱恂】3 シンジュン まことにする。又、誠信。〔書、立政〕迪二知忱恂于九德之行一。〔蔡傳〕忱恂者、誠信而非二輕信一也。

【忱父】4 シンホ 宋、許棐（10－35298・・197）の字。

【忱甫】5 シンホ 字號。❶唐、賴棐（10－36861・・21）の字。❷清、董恂（9－31433・・93）の字。

【忱裕】6 シンユウ まことでゆるやかにする。又、誠信寬裕。〔書、多方〕爾曷不三忱二裕之于爾多方一。〔傳〕汝何不下以二誠信一行中寬裕之道於汝衆方上。

【𢗋】10383 シン 忱（4－10382）の俗字。〔正字通〕𢗋、俗忱字。

【忶】10384 シン 忱（4－10382）の俗字。〔字彙〕忶、俗忱字。

【忲】10385 タイ 忕（4－10325）に同じ。〔正字通〕忲、與レ忕通。

【㤀】10386 ハウ バウ 〔集韻〕部項切 講

もとる。悻に同じ。〔集韻〕悻、悻懞、很戾、或从レ丰。

【㤂】10387 シン 〔玉篇〕七鴆切 沁

いたむ。〔玉篇〕㤂、惻也。

【忳】10388 ㊀トン ドン 〔集韻〕徒渾切 ㄊㄨㄣˊ t'uen² 元 ㊁シュン 〔集韻〕朱倫切 眞 ㊂トン ドン 〔集韻〕杜本切 阮 ㊃トン ドン 〔集韻〕徒困切 願

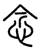
㊀❶うれへる。おもひにしづむ。〔集韻〕忳、憂也。〔楚辭、離騷〕忳鬱邑余侘傺兮。〔注〕忳、自念貌。〔集注〕忳、憂貌。❷もだへる。〔玉篇〕忳、悶也。❸みだれる。〔玉篇〕忳、亂也。㊁❶つげさとす。又、ねんごろなさま。諄（10－35622）に同じ。〔集韻〕諄、説文、告曉之孰也、一曰、懇誠皃、或作レ忳。❷うまない。忳忳。〔字彙〕忳、忳忳、誨レ人不レ倦也。❸うれへる。惣（4－11199）に同じ。〔集韻〕惣、説文、憂也、或作レ忳。❹人名。〔字彙〕忳、人名、後漢王忳。㊂おろか。㊃の❶に同じ。〔集韻〕忳、愚也。㊃❶おろかなさま。或は沌（6－17193）に作る。〔集韻〕忳、愚皃、老子忳忳兮、梁簡文讀、或作レ沌。❷忳愻は、たのしまない。〔集韻〕忳、忳愻、意不レ樂。

【忳忳】1 トントン ❶おろかなさま。沌沌。〔老子、二十〕我愚人之心也哉、忳忳兮。〔河上公注〕无レ所二分別一。〔新書、先醒〕忳忳然猶レ醉也。❷憂へるさま。〔楚辭、九章、惜誦〕申二侘傺之煩惑一兮、中二悶瞀之忳忳一。〔注〕忳忳、憂貌也、言己憂心煩悶、忳忳然無レ所レ舒也。❸シュンジュン 專一のさま。諄諄。〔楚辭、九辯〕紛純純之願レ忠兮、妒被レ離而鄣レ之。〔注〕思下碎二首腦一而伏上レ節也、一作二紛忳忳而願一レ忠。〔集注〕忳忳、專壹貌。❹人をしへて倦まないさま。諄諄。字解の㊁の❷を見よ。

【忴】10389 ㊀ケン ゲン 〔集韻〕其淹切 鹽 ㊁キン ゴン 〔集韻〕渠金切 侵

㊀忴惎は、心せく。〔集韻〕忴、忴惎、心急也。㊁忴惎は、よくさとるさま。〔集韻〕忴、忴惎、健了皃。

【念】10390 デン ネン 〔集韻〕奴店切 ㄋㄧㄢˋ nien⁴ 豔


小篆

❶おもふ。㋑こころにかける。〔説文〕念、常思也、从レ心今聲。〔説文通訓定聲〕謂二長久思一レ之。〔方言、一〕念、常思也。〔詩、大雅、文王〕無レ念二爾祖一。㋺おぼえる。〔釋名、釋言語〕念、黏也、意相親愛、心黏著不レ能レ忘也。〔論語、公冶長〕不レ念二舊惡一。〔皇疏〕念、猶二識錄一也。㋩おもひめぐらす。〔史記、陳涉世家〕念レ鬼。〔注〕索隱曰、念者、思也。❷おもひ。こころ。〔鮑照、庚中郎別詩〕溫念終不レ渝、藻志遠存追。❸つつしむ。〔儀禮、聘禮記〕將レ受二念趨一。〔注〕念趨、謂レ審二行步一也。❹となへる。くちずさむ。〔杜牧、上二劉司徒一書〕口念心禱而求者。❺二十の俗稱。廿の音から轉訛したもの。〔中華大字典〕念、二十也、廿、俗音讀同レ念、遂相沿以レ念爲レ廿、宋時已然。〔顧炎武、金石文字記〕有レ曰二元祐辛未陽月念五日題一、以レ廿爲レ念、始見二於此一。❻古は念（4－10347）に作る。〔集韻〕念、古作レ念。❼姓。〔通志、氏族略、去聲〕念氏、望出二河南一、西魏太傅安定公念賢、代人也、生レ華、合州刺史。❽佛極めて短かい時間。〔仁王經、上〕一念中有二九十剎那一。❾現よむ。唸（2－3773）とも書く。邦ねん。㋑一心。㋺注意し確めること。

【念秧】1 ネンアウ たぶらかす。かたる。北中國の土語。南中國の局騙に當る。〔聊齋志異〕隨レ機設レ阱、情狀不レ一、俗以二其言辭浸潤一、名曰二念秧一、今北途多有レ之。

【念菴】2 ネンアン 字號。❶明、盛茂燁（8－23005・・237）の號。❷明、羅洪先（8－28397・・333）の號。

『念菴集』3 ネンアンシフ 書名。二十二卷。明、羅洪先撰。其の目は、書・雜著・序・記・傳・行狀・墓誌銘・墓表・祭文・雜文・詩。〔四庫提要、集、別集類〕。

【念一】4 ネンイチ 篤く道を信ずる。一は道。〔水經、涑水注〕緇服思レ玄之士、鹿裘念レ一之夫、代往游焉。〔蘇轍、抱一頌〕眞人告レ我、晝夜念レ一、云云、與レ

一爲レ一、入レ火不レ然、入レ水不レ溺、是謂二念一一。

【念因】5ネンイン 清、許慧(10－35298··67)の字。

【念園】6ネンエン 字號。❶清、易棠(5－13814··123)の字。❷清、畢宏述(7－21829··89)の號。❸清、兪永弼(1－1437··81)の號。

【念咎】7ネンキウ あやまちなからんことを思ふ。〔後漢書、郎顗傳〕思レ過念レ咎、務消二祇悔一。〔朱熹、書二先吏部韋齋記銘幷劉范二公帖後一文〕庶幾得三以少伸二省愆念咎之萬一一。

【念舊】8ネンキウ 舊交をおもふ。故舊を忘れない。〔却掃編〕先公守二南都一、使傳絡繹不レ絶、一歲中、撫問者至二十數一、嘗有二謝表一曰、天闕夢回、必有二感恩之淚一、日邊人至、常聞二念舊之言一。

【念及】9ネンキフ 心配する。〔紅樓夢、三回〕都中家岳母、念二及小女無レ人、依二傍教育一。

【念經】10ネンキヤウ ❶［佛］經の意を思ふこと。〔傳燈錄、五法達〕六祖曰、汝今後、方可レ名二念經僧一、師從レ此領二玄旨一、亦不レ輟二誦經一。❷お經を讀む。

【念曲】11ネンキョク 抑揚のない歌。調子はづれ。〔通俗編、藝術、念曲叫曲〕夢溪筆談、不レ善レ歌者、聲無二抑揚一、謂二之念曲一、聲無二含韞一、謂二之叫曲一。

【念劬】12ネンク 字號。❶明、劉格(2－2224··117)の字。❷清、孫昌齡(3－6987··431)の字。❸清、陸祖錫(11－41708··376)の字。

【念華】13ネンクワ 北周の人。賢の子。性、和厚。官は合州刺史。〔周書、十四〕。

【念會】14ネンクワイ 暗誦する。會念。〔桃花扇、選優〕三日念會、好去入レ班。

【念願】15ネングワン ねがひ。のぞみ。一心のおもひ。

【念敬】16ネンケイ 心にかけて敬ふ。〔書、盤庚下〕予其懋レ簡相レ爾、念二敬我衆一。

【念喬】17ネンケウ 清、鄒奕孝(11－39562··71)の字。

【念愆】18ネンケン 己のあやまちを思つて改める。〔後漢書、光武紀下〕詔曰、今方念レ愆、庶消二厥咎一。

【念賢】19ネンケン 北周、金城枹罕の人。字は蓋盧。軍功あり。爵は安定郡公。大統中、都督秦州刺史となる。〔周書、十四〕・〔北史、四十九〕。

【念公】20ネンコウ 清、顧鉞(12－43689··24)の字。

【念恆】21ネンコウ 明、石柱國(8－24024··990)の號。

【念言】22ネンゴン ［佛］心に念じ口にいふこと。又、心に念ずる中に作す言辭。〔法華經、信解品〕覆自念言、我若久住、或見二逼迫一。

【念齋】23ネンサイ 字號。❶明、程楷(8－25081··16)の號。❷清、任端書(1－416··235)の字。❸原善の號。原念齋(2－2973··256)を見よ。

【念巢】24ネンサウ 清、董洵(9－31433··94)の號。

【念想】25 nien^4 hsiang^3 思ひ考へる。

〖念想兒〗26 nien^4 hsiang^3 êrh 記念品。

【念酸】27ネンサン 嫉妬する。〔馬令南唐書、舒雅傳〕韓熙載不レ拘二禮法一、嘗與レ雅易レ服燕戲、猱二雜侍婢一、入末念酸、以爲二笑樂一。

【念死】28ネンシ ［佛］八念の一。人の身には常に死あるを忘れないこと。〔智度論、二十二〕念死者有二二種死一、一者自死、二者他因緣死、是二種死、行者常念、是身若他不レ殺、必當二自死一、是身一切時中皆有レ死、不レ待レ老。

【念始】29ネンシ 清、田肇麗(7－21723··405)の字。

【念思】30ネンシ 深くおもふ。〔漢書、賈山傳〕今陛下念二思祖考一、術二追厥功一、

【念慈】31ネンジ 清、姚世錸(3－6202··174)の字。

【念修】32ネンシウ 字號。❶明、丘祖德(1－33··153)の號。❸清、何懋永(1－511··370)の字。

【念食】33ネンジキ ［佛］九食の一。所得の善法を憶念して常に忘れないこと。食とは、善根を增長し、慧命を資益するを得ること。食が身を資益するに比していふ。

【念室】34ネンシツ 獄をいふ。〔初學記、政理部、獄〕博物志云、夏曰二念室一、殷曰二動止一、周曰二稽留一、三代之異名也。

【念日】35ネンジツ 二十日をいふ。字解の❺を見よ。

【念者】36ネンジヤ ❶物事を丁寧にする人。❷ネンジヤ ㋑男色關係の人。〔男色大鑑、四〕いまだ美童のただ中なるに、その身は早念者にかはり。㋺女色をいふ。諸國の方言。

【念射】37ネンシヤ 人の意思は光線のやうに人體から發散して寫眞の種板に感じるといふ作用。

【念常】38ネンジヤウ 元の高僧。華亭の黃氏の子。號は梅屋。延祐中、嘉興の祥符寺の住持となる。著に佛祖歷代通載がある。〔佛祖歷代通載序〕。

【念呪】39ネンジユ 呪文を念ずる。〔酉陽雜俎、貝編〕梵僧不空毎レ祈レ雨無二他軌一、則但設二數繡座一、手簸二旋數寸木神一、念呪擲レ之、自立二于座上一、伺二木神一吻角牙出、目瞚則雨至。

【念珠】40ネンジユ じゆず。數珠。讀經念誦に用ひる佛具。百八顆より成る。或は五十四顆、二十七顆、十四顆のものも有る。〔舊唐書、李輔國傳〕視レ事之隙、手持二念珠一。〔行廚集〕念珠或幾事或幾掛。〔嘉話錄〕玉念珠。

〖念珠經〗41ネンジユキヤウ ［佛］書名。一卷。金剛頂瑜伽念珠經の略名。釋不空譯。金剛手菩薩に敕して念珠の功德利益を說かしめたもの。〔閏帙、十五〕。

〖念珠曹〗42ネンジユサウ 京兆戶曹の異名。京兆戶曹の月俸は一百八索で、數珠の數と同じであるからいふ。〔南部新書〕京兆戶曹月俸一百八索、人號爲二念珠曹一。〔稱謂錄、戶部、念珠曹〕通典、戶部、諺云二念珠曹一、以二戶部官日俸一百八一也。

〖念珠藻〗43 nien^4 chu^1 tsao^3 草の名。下等な藻類の一種。水面濕地に生ず。色は深綠、形は念珠に似てゐる。

【念誦】44ネンジユ ［佛］❶佛名又は經咒を心に念じ、口に誦へること。ねんじとなへる。梵語、瞿醯の譯。〔普賢觀行記〕在レ心曰レ念、發レ言曰レ誦、言由二於心一、故曰二念誦一。〔演密鈔〕梵語瞿醯、比云二念誦一。❷禪林では、十佛名を稱へること。

【念熟】45 nien^4 shou^2 熟讀。

【念蓴】46ネンジユン 清、鄒宏志(11－39562··81)の字。

【念書】47ネンシヨ ❶書物を讀む。〔雙槐雜書〕韓忠定遇二冬寒一、命二小孫一溫レ足、教二其念書一。〔程子遺書〕憂二子弟之輕俊一者、只教以二經學念書一、不レ得レ令レ作二文字一。❷nien^4 shu^1 勉強する。

〖念書人〗48 nien^4 shu^1 jen^2 儒者、又は學者。讀書人。

〖念書的〗49 nien^4 shu^1 tê 學者。

【念人】50ネンジン ❶勝負事で競技者に贔屓をする人。競技の應援又は肝入りをする人。〔北山抄、五日射場始〕書二別前後射手念人一。❷念者(36)の❷に同じ。〔男色大鑑、一〕今十五歲まで念人のなきことは。

【念生】51ネンセイ 清、羅汝懷(9－28397··358)の字。

【念晴】52ネンバレ・ネンバラシ 執念又は念願の晴れること。〔室町千疊敷、四〕念晴しに京都を尋ねまいかの。

【念祖】53ネンソ ❶祖先の名を汚すまいとおもふこと。〔詩、大雅、文王〕無レ念二爾祖一、聿二修厥德一。❷祖先の功を念ふ。〔書、太甲上〕丕承二基緒一、〔傳〕宜二念レ祖修一レ德。❸字號。㋑清、歐陽輅(6－16185··108)の字。㋺清、高佑釲(12－45313··1044)の字。㊇清、翟繼昌(9－28727··52)の字。

【念曾】54ネンソウ 清、吳鈞(秀水の人)(2－3365··118)の字。

【念大】55ネンダイ よみあげる。〔福惠全書、筮仕部、投供驗到〕念二大鄉貫一、宜二聲音清楚一。

【念臺】56ネンダイ 明、劉宗周(2－2224··1143)の號。

〖念臺先生〗57ネンダイセンセイ 明、劉宗周(2－2224··1143)の尊稱。

【念著】58ネンチヤク ［佛］念じて執着する。〔占察經、下〕但以三衆生無明痴闇熏習因緣、現二妄境界一、令レ生二念著一。

【念庭】59ネンテイ 清、魏茘彤(12－45872··305′)の字。

【念奴】60ネンド 唐、天寶中の名娼の名。〔元稹、連昌宮詞〕力士傳呼覓二念奴一、念奴潛伴二諸郎宿一。〔自注〕念奴、天寶中名倡、善レ歌、毎歲樓下酺宴累日之後、萬衆喧溢、嚴安之・韋黃裳輩、闢易不レ能レ禁、衆樂爲レ之罷レ奏、明皇遣二高力士一、大呼二樓上一曰、欲レ遣下念奴唱歌、邠二十五郎吹二小管一逐看中人能聽否上、皆悄然奉レ詔。

〖念奴嬌〗61ネンドケウ ❶詞牌の名。念奴はもと唐の倡女の名。後、宋の蘇軾が此の調を用ひて赤壁を詠じ、詞中に大江東去、及び一樽還酹二江月一の句があるを以て、一に大江東去・酹江月ともいひ、又、赤壁謠ともいふ。その他、詞律によれば、百字令・百字謠・大江西上曲・壺中天・無俗念・淮甸春・湘月などとも稱されるといふ。平韻と仄韻との二體がある。〔詞律、卷一六、念奴嬌〕念奴嬌、一百字、又名二百字令・百字謠・酹江月・大江東去・大江西上曲・壺中天・無俗念・淮甸春・湘月一。〔蘇軾、念奴嬌、赤壁懷古〕大江東去、浪淘盡、千古風流人物、胡壘西邊、人道是、三國周郎

赤壁、亂石穿レ空、驚濤拍レ岸、捲起千推雪、江山如レ畫、一時多少豪傑、遙想公瑾當年、小喬初嫁了、雄姿英發、羽扇綸巾談笑間、强虜灰飛煙滅、故國神遊、多情應レ笑レ我、早生二華髮一、人間如レ夢、一尊還酹二江月一。〔剪燈餘話、秋夕訪二琵琶亭一記〕自歌二其詞一曰、郎憶レ之乎、卽昨日所レ謳之念奴嬌也。❷曲牌の名。南曲は高大石調引に入れ、北曲は高大石角隻曲に入れる。

【念東】62（ネントウ） 清、高珩（12－45313‥106）の一字。

【念頭】63（ネントウ） こころおもひ。かんがへ。心中。〔傳習錄、中〕來書云、佛氏又有下常提二念頭一之說上。

【念難】64（ネンナン） 清、張習孔（4－9812‥1154）の字。

【念入】65（ネンイリ） 深く思ひいること。深く注意すること。入念。

【念念】66（ネンネン） ❶一念每に。❷心にかける。注意する。氣にとめる。〔傳習錄、上〕先生曰、只念念要レ存二天理一。❸[佛]刹那刹那に同じ。刹那（2－1967‥5）を見よ。時の極少をいふ。凡そ物の變化で最も短い時間に行はれるのは、心念に及ぶものはないから、梵語の刹那を念と譯す。〔勝鬘寶窟中末〕外國刹那、此云レ念也。

〔念念生滅〕67（ネンネンシヤウメツ） [佛]世界のあらゆるものは時々刻々に生じたり滅びたりして、暫くも止まないこと。生滅流轉。生滅遷流。〔顏氏家訓、歸心〕若有二天眼一、鑒二其念念隨滅、生生不一レ斷。

【念望】68（ネンバウ） ねがひ。のぞみ。〔庾信、謝三趙王賚二犀帶等一啓〕南宮敬之載寶、殊非二念望一。

【念白】69（ネンパク） 戲劇中の用語。劇中の科白をいふ。

【念法】70（ネンハフ） ❶法をおもふ。〔書、多士〕予亦念下天卽二于殷大戾一、肆上不レ正、傳〕我亦念下天就二於殷一大罪而加レ誅者故上、以二紂不レ能二正レ身念一レ法。❷nien^4 fa^3 讀み方。

【念佛】71（ネンブツ） [佛]稱名念佛・觀想念佛・實相念佛の三種あり。稱名念佛とは、口に佛名を稱へること。觀想念佛とは、靜坐して佛の相好功德を觀念すること。實相念佛とは、佛の法身非有非空中道實相の理を觀ずること。之を往生要集には、定・散・有相・無相に配對して四種とする。卽ち定業念佛は上の觀相念佛、散業念佛は上の稱名念佛、有相念佛は定業念佛と散業念佛との二つで、無相念佛は上の實相念佛をいふ。〔寶積經〕高聲念佛、魔軍退散。

〔念佛講〕72（ネンブツカウ） [佛]念佛を行ずるための多人數の集會。

〔念佛者〕73（ネンブツシヤ） [佛]彌陀の名號を稱へて淨土の往生を願ふ人。〔觀無量壽經〕若念佛者、當レ知此人是人中分陀利華。

〔念佛宗〕74（ネンブツシユウ） [佛]僧良忍が開始した佛教の一派。彌陀の名號を稱へて往生を願ふ宗門。我が國に於ては淨土宗・淨土眞宗となる。〔五會法事讚〕持戒坐禪名二正法一、念佛成佛是眞宗。

〔念佛堂〕75（ネンブツダウ） [佛]寺院で念佛を修する御堂。

〔念佛鳥〕76（ネンブツテウ） 鳥の名。我が國の高野・白山・筑波・日光等に棲む佛法僧鳥は此の類であらう。〔王士禎、詩〕雨中念佛鳥、交語淸二人耳一。〔注〕王得臣麈史、安陸有二念佛鳥一、小二於鸜鴿一、色靑黑、言二一切諸佛一。〔方輿勝覽〕瓦屋山在二榮經縣一、上有二念佛鳥一。

〔念佛門〕77（ネンブツモン） [佛]彌陀如來を專念して淨土に往生する法門。〔往生要集、上本〕依二念佛一門一、聊集二經說要文一。

〔念佛踊〕78（ネンブツヲドリ） 六字念佛を唱へつつ衆人が集つて踊る儀式。

〔念佛爲先〕79（ネンブツヰセン） [佛]念佛は一切の餘行に勝つて淨土往生の業因となること。〔選擇集〕往生之業、念佛爲レ先。

〔念佛三昧〕80（ネンブツザンマイ） [佛]專心に念佛すること。因行・果成の二種がある。因行の念佛三昧とは、一心に佛の相好を觀じ、或は一心に法身の實相を觀じ、或は一心に佛名を稱へる所の行法をいひ、果成の念佛三昧とは、かの三種の因行の成ずる所、心禪定に入つて或は佛身を現出し、或は法身の實相にかなふことをいふ。〔觀無量壽經〕於二現身中一、得二念佛三昧一。

〔念佛衆生〕81（ネンブツシユジヤウ） 一心に念佛を唱へて淨土の往生を願ふ衆生。〔觀無量壽經〕一一光明、遍照二十方世界念佛衆生一、攝取不レ捨。

〔念佛往生〕82（ネンブツワウジヤウ） [佛]彌陀の大悲願力の回向によつて信心を發して念佛三昧に入り、一生惡業を重ねた凡夫の身も、極樂に往生すること。

【念聞】83（ネンブン） 心に思ひ身を入れて聞くこと。〔書、太甲上〕王惟庸、罔二念聞一。

【念平】84（ネンペイ） 清、湯來賀（7－17874‥212）の字。

【念豐】85（ネンポウ） 清、王芑孫（7－20823‥1284）の字。

【念力】86（ネンリキ） 一心に思ひ込む力。一念凝つた力。〔別譯雜阿含經、十五〕能具二念力一者、由二能專定一故。〔阿含經〕因二人五力一、佛果十方、因二人五力一者、一信力、二精進力、三念力、四定力、五惠力。

〔念力徹レ岩〕87（ネンリキイハヲトホス） 事を爲すに、至誠を以て專心につとめれば、何事も成らぬことのない喩。

【念慮】88（ネンリヨ） おもひ。かんがへ。おもんぱかり。〔漢書、公孫弘傳〕君其存二精神一止二念慮一。〔淮南子、說山訓〕念慮者不レ得レ臥。〔說苑、談叢〕問訊者知之本、念慮者知之道也。

【念魯】89（ネンロ） 清、邵廷采（11－39343‥138）の字。

【念祿】90（ネンロク） 俸祿を得ようとおもふこと。〔陸游、初秋夢二故山一覺而有レ作詩〕陋哉鷓鴣語、揣二我貧一念祿。

【念宛齋】91（ネンエンサイ） 清、左輔（4－8720‥398）の號。

【念金鎖】92（ネンキンサ） 宋の人。太宗の時、深州刺史となる。〔宋史、三百四〕。

【念四史】93 nien^4 ssŭ^4 shih^3 二十四史（1－247‥478）に同じ。念は廿。

【念初堂】94（ネンシヨダウ） 明、陳嘉謨（11－41698‥688）の室名。

【念西堂】95（ネンセイダウ） 清、王令（7－20823‥1087）の室名。

【念道人】96（ネンダウジン） 明、方震孺（5－13620‥559）の「號。

【念八番】97（ネンハチバン） 戲曲の名。清、萬樹作。樂府四種の一。虞柯の父の雲卿が冤罪を霽らして諸番を平げ、二十八（念八）國をして入貢せしめ、柯が祝翰林の女の鳳車を娶るやうになつた筋を演じたもの。

【念夜佛】98 nien^4 yeh^4 fo^2 死者納棺の夕に、多くの尼が徹夜して讀經すること。浙江省海寧地方の風習。

【念家山破】99（ネンカサンパ） 詞曲の名。舊曲の念家山詞を南唐の後主が改曲したもの。其の聲焦殺、其の名不祥、乃ち敗徵となるといふ。〔馬令南唐書、後主書〕王妙二音律一、舊曲有二念家山一、王親演爲二念家山破一、其聲焦殺、而其名不祥、乃敗徵也。

【念西居士】100（ネンセイコジ） 明、王肯堂（7－20823‥1461）の號。

【忶】10391

[一]コン ゴン 〔集韻〕胡昆切 [元]

[二]ウン 〔集韻〕王問切 [問]

[一]**もだえる**。或は惌（4－11361）に作る。〔集韻〕忶、心悶也、或从レ冤。[二]**まよふ**。〔集韻〕忶、心迷也。

【忷】10392

キヨウ 兇（1－1348）・恟（4－10573）に同じ。〔集韻〕兇、或作二忷・恟一。

【忬】10393

ヨ 悆（4－11364）の古字。〔玉篇〕忬、古文悆。

【㤉】10394

[一]カ ケ 〔集韻〕丘加切 [麻] ㄑㄧㄚ chʻia^1

[二]ガ ゲ 〔集韻〕牛加切 [麻]

[三]ガウ ゲウ 〔集韻〕牛交切 [肴]

[四]ガ ゲ 〔集韻〕魚駕切 [禡]

[一]恐㤉はうつぶしたすがた。或は恪㤉（4－10943）に作る。〔集韻〕㤉、恐㤉、伏態、或从レ客。[二][三][一]に同じ。〔集韻〕㤉、恐㤉、伏態。[四]恪㤉は、心が合わない。〔集韻〕㤉、恪㤉、心不レ合。

【忢】10395

カ 㤉（4－10394）に同じ。〔字彙補〕忢、同レ㤉。

【㤁】10396 ベン

愐（**4－10925**）に同じ。〔集韻〕愐、或作レ㤁。

【忸】10397

〘一〙チク ニク 〔集韻〕女六切 ㄋㄩˋ nü⁴ 屋
〘二〙チウ ニユ 〔集韻〕女九切 ㄋㄧㄡˇ niu³ 有

〘一〙**はぢる**。恧（**4－10587**）に同じ。〔集韻〕恧、說文、慙也、或作レ忸。〔書、五子之歌〕顏厚有二忸怩一。〔傳〕忸怩、心慙。〘二〙❶**はぢる**。〔集韻〕忸、愧也。❷**なれる**。**ならす**。狃（**7－20289**）に通ず。〔荀子、議兵〕忸レ之以二慶賞一。〔注〕忸、與レ狃同。〔後漢書、戴就傳〕忸行無レ義。〔注〕忸、忕也、猶レ言二慣習一。

【忸行】1（チウカウ）慣習。常行。〔後漢書、戴就傳〕薛安庸騃、忸行無レ義。〔注〕忸、忕也、猶レ言二慣習一。

【忸恨】2（チクコン）はぢうらむ。〔韋莊、和二鄭拾遺秋日感レ事一百韻一詩〕忸恨山思レ板、懷レ歸海欲レ航。

【忸忕】3（チウセツ）なれる。ならす。慣習。〔後漢書、馮異傳〕異曰、虜兵臨レ境、忸二忕小利一、遂欲二深入一。〔注〕忸忕、猶二慣習一也、謂下慣二習前事一而復爲上レ之。〔王先謙集解〕周壽昌曰、忸、猶レ狃也、狃忕之忕、亦應二從レ犬不一レ從レ大、左傳、莫敖狃二於蒲騷之役一、杜注、狃、忕也、足レ徵二忸・狃亦古字通一。

【忸怩】4（ヂクヂ）はぢるさま。はづかしいさま。〔方言、十〕忸怩、慚歰也、楚郢江湘之閒、謂二之忸怩一、或謂二之䛬咨一。〔玉篇〕忸、忸怩、慙也。〔集韻〕怩、忸怩、心慙也。〔書、五子之歌〕顏厚有二忸怩一。〔傳〕忸怩、心慙。〔疏〕忸怩、羞不レ能レ言、心慙之狀。〔孟子、萬章上〕象曰、鬱陶思レ君爾、忸怩。〔國語、晉語八〕叔向曰、君其必速殺レ之、勿レ令二遠聞一、君忸怩、乃趣赦レ之。〔注〕忸怩、慙貌。〔後漢書、蔡邕傳〕公子仰レ首降レ階、忸怩而避。〔注〕忸怩、心慙也。

【㤘】10398 コウ

怐（**4－10435**）の俗字。〔正字通〕㤘、怐俗字。

【忹】10399 ワウ 〔五音集韻〕紆往切 養

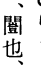
❶**よこしま**。〔五音集韻〕忹、邪曲也。❷**姓**。〔萬姓統譜〕忹、見二姓苑一。

【忺】10400 ケン コン 〔韻會〕虛嚴切 鹽

のぞむ。このむ。ねがふ。〔正韻〕忺、意所レ欲也。〔林逋、雜興詩〕散レ帙揮レ毫總不レ忺。

【忻】10401

〘一〙キン コン 〔集韻〕許斤切 ㄒㄧㄣ hsin¹ 文
〘二〙キン コン 〔集韻〕居惞切 問


小篆

〘一〙❶**ひらく**。心がひらける。〔說文〕忻、闓也、从レ心斤聲、司馬灋曰、善者忻二民之善一、閉二民之惡一。〔段注〕忻謂二心之開發一、與下欠部欣謂二笑喜一也上異レ義。❷**よろこぶ**。たのしむ。欣（**6－16008**）に通ず。〔說文通訓定聲〕忻、叚借爲レ欣。〔淮南子、覽冥訓〕忻忻然常自以爲レ治。〔注〕忻忻、猶二自喜得訓之貌一也。❸**みきはめる**。斤（**5－13534**）に通ず。〔說文通訓定聲〕忻、叚借爲二斤斤之斤一。〔一切經音義、三〕欣豫、埤蒼、忻、察也。❹**州名**。〔集韻〕忻、州名。❺**姓**。〔萬姓統譜〕忻、明湖州府德清縣有二忻氏一。〘二〙〘一〙の❸に同じ。〔集韻〕忻、爾雅、斤斤、察也、或从レ心。

參考 熟語は欣（**6－16008**）を併せ見よ。

【忻忻】1（キンキン）よろこぶさま。よろこばしいさま。欣欣。忻然。〔漢書、高惠高后文功臣表序〕四方忻忻、靡レ不レ歸レ心。〔淮南子、原道訓〕爲レ懽不二忻忻一。〔列女傳、賢明傳〕不三忻二忻于富貴一。〔晉書、陳元達載記〕樂レ道行詠、忻忻如也。〔白居易、香山寺新修二經藏堂一記〕忻忻乎滿レ願哉。

【忻翹】2（キンゲウ）仰ぎ望む。したひのぞむ。〔李淑、賀二呂相公一啓〕企戀忻翹、叢集丹悃。

【忻縣】3（キンケン）縣名。民國、忻州を改め置く。漢の曲陽縣、隋の忻州、清の直隸州の地。今、山西省陽曲縣の東北。牧馬河の北岸。

【忻口】4（キンコウ）鎭名。山西省忻縣の北。〔魏土地記〕漢高祖出二平城之圍一、還レ軍至レ此、六軍忻然、因名、山之西舊有二忻口城一、相傳、卽漢高所レ築。

【忻州】5（キンシウ）州名。隋、置く。清は直隸州とし、定襄・靜樂の二縣を管轄す。今、山西省忻縣の治。〔讀史方輿紀要、山西、太原府〕忻州、春秋屬レ晉、戰國屬レ趙、秦爲二太原郡地一、漢因レ之、後漢末、爲二新興郡地一、晉因レ之、北魏兼置二肆州一、永安中、又改レ郡爲二來安郡一、後周徙二州於鴈門郡一、隋開皇初、復改置二新興郡一、旋廢、十八年、置二忻州一、大業三年、州廢、屬二樓煩郡一、義寧初、復置二新興郡一、唐武德初、又改爲二忻州一、天寶初、曰二新興郡一、乾元初、復レ故、宋仍爲二忻州一、金因レ之、元初、改爲二九原府一、旋復レ故、明初、仍曰二忻州一、以二州治秀容縣一省入、領二縣一一。〔清史稿、地理志〕山西、忻州直隸州、領二縣二一、定襄・靜樂。

【忻城】6（キンジヤウ）土縣の名。明、置く。廣西省宜山縣の南。黔江の北。〔清史稿、地理志〕廣西、慶遠府、土縣一、忻城土縣。

【忻悚】7（キンショウ）喜びと憂ひ。〔韓愈、與二孟尙書一書〕行官自レ南廻、過二吉州一、得二吾兄二十四日手書數番一、忻悚兼至。

【忻然】8（キンゼン）よろこぶさま。よろこばしいさま。欣然。〔孔叢子、記問〕夫子忻然笑曰、然乎、吾無レ憂矣。

【忻怖】9（キンプ）或はよろこび或はおそれる。〔洛陽伽藍記四、法雲寺〕呪二枯樹一、能生二枝葉一、呪レ人、變爲二驢馬一、見レ之莫レ不二忻怖一。

【忻抃】10（キンベン）手をたたいてよろこぶ。〔剪燈餘話續集、賈雲華還魂記〕夫人忻抃難レ言。

【忻慕】11（キンボ）よろこびしたふ。〔史記、管晏傳贊〕余雖二爲レ之執一レ鞭、所二忻慕一焉。

【忻賴】12（キンライ）よろこびたのむ。喜んでたのもしく思ふ。欣賴。〔魏書、任城王澄傳〕澄多レ所二省減一、民以忻賴。

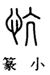
【忻樂】13（キンラク）よろこびたのしむ。忻懽。欣樂。〔左氏、僖、十二〕愷悌君子。〔疏〕愷、樂、悌、易、皆釋詁文、樂易、言二弘簡忻樂而和易一也。

【㤵】10402 キ ギ 〔捜眞玉鏡〕渠記切 寘

❶**おもふ**。〔捜眞玉鏡〕㤵、思也。❷**にくむ**。〔捜眞玉鏡〕㤵、惡也。

【忼】10403

〘一〙カウ 〔集韻〕口朗切 ㄎㄤˇ k'ang³ 養
〘二〙カウ 〔集韻〕口浪切 漾
〘三〙カウ 〔集韻〕虛郎切 ㄎㄤ k'ang¹ 陽
〘四〙ハウ ヒヤウ 〔集韻〕披庚切 庚


小篆

〘一〙❶**なげく**。或は慷（**4－11146**）に作る。〔說文〕忼、忼慨也、忼慨、壯士不レ得二志於レ心一也、从レ心亢聲。〔王注〕曹孟德短歌行、慨當二以慷一、慷者、忼之俗字、知二忼慨二字、可レ單可レ雙也。〔集韻〕忼、或从レ康。❷**あなどる**。〔集韻〕忼、慢也。〘二〙❶**なげく**。〘一〙の❶に同じ。〔集韻〕忼、慨也。❷**たかい**。亢（**1－288**）に通ず。〔說文通訓定聲〕忼、叚借爲レ亢。〔說文〕忼、一曰、易、忼龍有レ悔。〘三〙❶〘一〙の❶に同じ。〔集韻〕慷、慨歎也、或作レ忼。❷**もとる**。咉忼。〔集韻〕忼、咉忼、很戾。〘四〙❶〘一〙の❶に同じ。〔集韻〕忼、忼慨也。❷**もだえる**。〔集韻〕忼、一曰、志懣也。

【忼愾】1（カウガイ）なげきいきどほる。〔晉書、陸機傳〕登レ壇忼愾。〔魏志、蔣濟傳〕卿秉資二文武一、志節忼愾、常有下超二越江湖一、呑二吳會一之志上。

【忼慨】2（カウガイ）慷慨。❶心激してなげき傷む。かなしみいきどほる。〔說文〕忼、忼慨、壯士不レ得二志於レ心一也。〔楚辭、九章、哀郢〕憎二慍惀之修美一

兮、好㆓夫人之忼慨㆒。〔集注〕忼慨、激昂之意。〔史記、項羽紀〕項王乃悲歌忼慨。〔史記、刺客、荊軻傳〕壯士一去兮不㆓復還㆒、復爲㆓羽聲㆒忼慨。〔漢書、高帝紀下〕乃起舞、忼慨傷懷、泣數行下、謂㆓沛父兄㆒曰、游子悲㆓故鄉㆒、吾雖㆑都㆓關中㆒、萬歲之後、吾魂魄猶樂㆓思沛㆒。〔曹植、贈㆓徐幹㆒詩〕忼慨有㆓悲心㆒、興㆑文自成㆑篇。〔賴杏坪、虞美人草行〕四面楚歌驚㆓楚王㆒、楚姬忼慨頭自斷。❷意氣盛で、感激し易い性質。心が際立つてすぐれたさま。〔漢書、鄒陽傳〕陽爲㆑人有㆓智略㆒、忼慨不㆓苟合㆒。

【恔】10404

㊀カウ ゲウ 〔集韻〕何交切 看
㊁カウ ゲウ 〔集韻〕後教切 效

㊀❶こころよい。〔玉篇〕恔、快也。❷さとい。〔集韻〕恔、說文、憭也。㊁こころよい。恔(4―10558)に同じ。〔集韻〕恔、方言、快也、或从㆑爻。

【忽】10405

小篆

コツ コチ 〔集韻〕呼骨切 月 ㄏㄨ hū

❶ゆるがせにする。㋑忘れる。氣にかけない。〔說文〕忽、忘也、从㆑心勿聲。〔廣雅、釋詁二〕忽、忘也。〔漢書、王嘉傳〕忽㆓於小過㆒。〔注〕師古曰、忽、忘也。〔漢書、東平思王宇傳〕忽㆓於道德㆒。〔注〕師古曰、忽、遺忘也。㋺あなどる。輕んずる。〔廣雅、釋詁三〕忽、輕也。〔後漢書、崔駰傳〕公愛㆓班固㆒而忽㆓崔駰㆒。〔注〕忽、慢忽也。㋩おこたる。〔漢書、外戚下、許皇后傳〕豈可㆓以忽㆒哉。〔注〕師古曰、忽、怠忘也。❷たやすい。〔荀子、彊國〕劙㆓盤盂㆒、刎㆓牛馬㆒、忽然耳。〔注〕忽然、言㆑易也。❸たちまち。すみやか。突然。颮(12―43859)に通ず。〔說文通訓定聲〕忽、叚借爲㆑颮。〔廣雅、釋詁一〕忽、疾也。〔廣韻〕忽、倏忽。〔左氏、莊、十一〕其亡也忽焉。〔注〕忽、速貌。〔列子、湯問〕涼風忽至。〔楚辭、離騷〕忽反顧以遊㆑目兮。〔注〕忽、疾貌。〔白居易、長恨歌〕忽聞海上有㆓仙山㆒。❹つくす。つきる。ほろびる。殄(6―16384)に通ず。〔說文通訓定聲〕忽、叚借爲㆑殄。〔爾雅、釋詁〕忽、盡也。〔詩、大雅、皇矣〕是絕是忽。〔傳〕忽、滅也。〔漢書、陳湯傳〕單于忽㆓大計㆒。〔注〕師古曰、忽、亡也。❺にる。ほのか。佛(1―517)・髴(12―45414)に通ず。〔說文通訓定聲〕忽、叚借爲㆑佛爲㆑髴、尙書大傳、禦㆓視於忽似㆒。❻形のないさま。根柢のないさま。〔荀子、正名〕故愚者之言芴然而祖、注〕芴與㆑忽同、忽然、無㆓根本㆒貌。〔淮南子、原道訓〕忽兮怳兮。〔注〕忽・怳、無㆑形貌也。❼無心のさま。〔莊子、天地〕忽然出、勃然動。〔注〕忽・勃、皆無㆑心而應之貌。❽迷ふさま。くらいさま。忽忽(13)・忽似(15)を見よ。❾小さい數の名。十微を忽、十忽を絲といふ。〔廣韻〕忽、一蠶爲㆓一忽㆒、十忽爲㆓一絲㆒。〔史記、太史公自序〕閒不㆑容㆓翲忽㆒。〔注〕正義曰、忽、一蠶口出絲也。〔漢書、律歷志上〕無㆑有㆓忽微㆒。〔注〕師古曰、忽微、若㆑有若㆑無、細㆓於髮㆒者也。〔漢書、敍傳下〕造㆓計秒忽㆒。〔注〕師古曰、忽、蜘蛛網細者也。❿北海の帝の名。〔莊子、應帝王〕北海之帝爲㆑忽。⓫曶(5―13813)に通ず。〔漢書、揚雄傳贊〕時人曶㆑之、注〕師古曰、曶、與㆑忽同。⓬惚(4―10811)に通ず。〔禮、祭義〕夫何怳惚之有乎、釋文〕惚、本亦作㆑忽。⓭芴(9―30737)に通ず。〔荀子、正名〕故愚者之言芴然而粗、注〕芴、與㆑忽同。⓮姓。〔萬姓統譜〕忽、仲忽之後。

【忽易】1 コツイ ゆるがせ。ゆるがせにする。〔蘇軾、謝㆑除㆓兩職守禮部尙書㆒表〕言無㆓新奇㆒、人所㆓忽易㆒。〔宇文公諒、何山賦〕嚴恭嚴恪、罔㆓敢忽易㆒。

【忽遺】2 コツヰ わすれのこす。〔魏文帝、與㆓鍾大理㆒書〕乃不㆓忽遺㆒、厚見㆓周稱㆒。

【忽焉】3 コツエン たちまちに。ふと。すみやかなさま。又、恍惚としてゐるさま。〔左氏、莊、十一〕桀紂罪㆑人、其亡也忽焉。〔注〕忽、速貌也。〔論語、子罕〕顏淵喟然歎曰、仰㆑之彌高、鑽㆑之彌堅、瞻㆑之在㆑前、忽焉在㆑後。〔集注〕在㆑前在㆑後、恍惚不㆑可㆑爲㆑象。〔列子、仲尼〕瞻㆑之在㆑前、忽焉在㆑後。〔史記、伯夷傳〕神農虞夏、忽焉沒兮。〔陳王植、洛神賦〕于㆑是精移神駭、忽焉思散。〔孔融、論㆓盛孝章㆒書〕五十之年、忽焉已至。

【忽傲】4 コツガウ あなどつておろそかにする。〔北史、王昕傳〕忽諸府主自忽傲、僚佐敢任㆓其咎㆒。

【忽汗】5 コツカン 州名。滿洲吉林省敦化縣の境。渤海の始祖の大祚榮の居所。唐の中宗、祚榮を封じて忽汗州都督とす。其の後、渤海の王は其の號を世襲した。〔唐書、渤海傳〕睿宗先天中、遣㆑使拜㆓祚榮㆒爲㆓左驍衛大將軍渤海郡王㆒、以㆑所㆑統爲㆓忽汗州㆒、領㆓忽汗州都督㆒。

【忽汗海】6 コツカンカイ 湖の名。滿洲吉林省敦化縣の東。今、鏡泊湖、又は畢爾騰湖といふ。

【忽遽】7 コツキヨ にはか。にはかに。〔南史、齊廢帝海陵王紀〕時又多㆘以㆓生紗㆒爲㆑帽、半㆓其裙㆒而折㆖之、號曰㆓倚勸㆒、先㆑是人間語、好云㆓擾攘㆒、建武至㆑是、朝士勸進、實爲㆓忽遽㆒、倚勸擾攘之言、于㆑是驗矣。

【忽區】8 コツク 恍惚の世界。〔淮南子、原道訓〕動㆓溶無形之域㆒、而翺㆓翔忽區之上㆒。〔注〕忽怳之區上也。〔淮南子、精神訓〕同㆓精於太淸之本㆒、而游㆓於忽區之旁㆒。〔注〕忽區、忽怳無形之區旁也。

【忽怳】9 コツクワウ 無形の象。とりとめのないさま。恍惚。〔淮南子、原道訓〕忽兮怳兮。〔注〕忽・怳、無㆑形之象。〔淮南子、覽冥訓〕手徵㆓忽怳㆒、不㆑能㆑覽㆓其光㆒。〔注〕天道廣大、手雖㆔能徵㆓其忽怳无形者㆒、不㆑能㆔覽㆓得日月之光㆒也。〔淮南子、人閒訓〕使㆓忽怳㆒而後能得㆑之。〔注〕忽怳、善忘之人。〔潘岳、西征賦〕寥廓忽怳、化㆓一氣㆒而甄㆓三才㆒。〔注〕善曰、寥廓忽怳、未分之貌也。

【忽恍】10 コツクワウ 忽怳に同じ。〔法言、自序〕神心忽恍、經㆓緯萬方㆒。

【忽荒】11 コツクワウ 空漠なさま。廣くてとりとめのないさま。〔漢書、敍傳〕奮㆓靈德㆒、合㆓風雲㆒、超㆓忽荒㆒、而躆㆓顥蒼㆒也。〔賈誼、鵩鳥賦〕寥廓忽荒兮、與㆑道翺翔。〔注〕善曰、寥廓忽荒、元氣未㆑分之貌、良曰、寥廓忽荒、言㆓空無㆑著也。〔淮南子、人閒訓〕翺㆓翔乎忽荒之上㆒。

【忽慌】12 コツクワウ 明かでないさま。〔劉峻、辨命論〕其道密微、寂寥忽慌。〔注〕銑曰、忽慌、不㆑明貌。

【忽忽】13 コツコツ ❶たちまち。すみやかなさま。匇匇。倏忽。〔楚辭、離騷〕欲㆔少留㆓此靈瑣㆒兮、日忽忽其將㆑暮。〔注〕言日又忽去、年歲且㆑盡。〔楚辭、惜誓〕惜余年老而日衰兮、歲忽忽而不㆑反。〔注〕言、歲月卒過、忽然不㆑還、而功不㆑成德不㆑立也。〔楚辭、東方朔、七諫、自悲〕隱㆓三年㆒而無㆑決兮、歲忽忽其若㆑頹。〔注〕言、已放在㆓山野㆒、滿㆓三年㆒矣、歲月迫促、去若㆓頹下㆒、年且㆑老也。❷めぐるさま。〔楚辭、九辯〕歲忽忽而遒盡兮、恐㆓余壽之弗㆑將。〔注〕年歲逝往、若㆓流水㆒也、五臣云、忽忽、運行貌。❸なすべきことをうちすておくさま。事を省みないさま。〔管子、內業〕忽忽乎如㆑將㆑不㆑得。〔纂詁〕忽忽、不㆑省㆑事也。〔漢書、韓安國傳〕酒益東徙、意忽忽不㆑樂。〔後漢書、桓譚傳〕意忽忽不㆑樂、道、病卒。〔顏氏家訓、勉學〕飽食醉酒、忽忽無事。❹ゆるがせな。かりそめな。〔說苑、談叢〕忽忽之謀、不㆑可㆑爲也。❺迷ふさま。惑ふさま。〔宋玉、高唐賦〕悠悠忽忽。〔注〕忽忽、迷貌。❻心を喪ふさま。〔素問、玉機眞藏論〕忽忽眩冒而巓疾。〔注〕忽忽、不㆑爽也。❼失意のさま。〔漢書、蘇武傳〕陵始降時、忽忽如㆑狂、自痛㆑負㆑漢。〔司馬遷、報㆓任少卿㆒書〕居則忽忽若㆑有㆑所㆑亡。〔注〕銑曰、忽忽、愁亂貌。❽明かでないさま。〔管子、內業〕折折乎如㆑在㆓於側㆒、忽忽乎如㆑將㆑不㆑得。〔注〕折折、明皃、言、心明察若㆑在㆓其側㆒、及㆓其求㆑之、則忽忽然而不㆑得。❾涙の出るさま。淴淴。〔史記、扁鵲傳〕流涕長潸、忽忽承㆑睫。❿忘れるさま。〔漢書、王褒

傳〕苦二忽忽善忘一不レ樂。⓫定まらないさま。怳惚のさま。〔淮南子、兵略訓〕與飄飄往、與忽忽來、莫レ知二其所一レ之。

【忽而】14 コツジ　たちまち。忽然(22)に同じ。〔史記、日者傳〕宋忠賈誼、忽而自失、芒乎無レ色。〔漢書、五行志中之上〕還過二枳道一、見三物如二倉狗一、橶二高后掖一、忽而不レ見。

【忽似】15 コツジ　明かでないさま。〔尙書大傳、洪範五行傳〕禦二視於忽似一。〔注〕忽似、謂レ若下亂二於是非一、象龔滔レ天、及不レ辨二鹿馬一之類上也。

【忽爾】16 コツジ　たちまち。忽然(22)に同じ。

【忽諸】17 コツショ　❶にはかにほろび盡きるさま。急に消滅するさま。諸は助辭。〔左氏、文、五〕皐陶庭堅、不レ祀忽諸。〔會箋〕不レ祀忽諸、諸語辭、猶レ曰二忽焉不一レ祀也。〔潘岳、西征賦〕仲雍之祀忽諸。〔資治通鑑、秦紀〕(始皇帝、二十五年)臣光曰、使二召公之廟、不一レ祀忽諸。〔注〕忽諸、言二忽然而亡一也。❷なほざり。又、ゆるがせにする。❶の誤用。〔千百年眼、九〕尙二論古人一者、其可二忽諸一。

【忽如】18 コツジョ　忽然(22)に同じ。

【忽辛】19 フシン　元、回回の人。賽典赤贍思丁の子。諡は忠簡。河南等に宣慰司同知となり、群盜を招撫す。後、緬國に使者を遣し、偕に來り聘せしむ。至大の初、榮祿大夫を以て致仕す。〔元史、一百二十五〕。「と。拜材頭。

【忽親】20 コツシン　父母の喪に乘じて婦を納れること。

【忽氈】21 コツセン　地名。シルガ河畔に在つて露領土耳其斯坦に屬す。

【忽然】22 コツゼン　❶たちまち。たちまちに。〔莊子、知北遊〕人生二天地之閒一、若二白駒之過一レ郤、忽然而已。〔管子、侈靡〕忽然易レ卿而移。〔賈誼、鵩鳥賦〕忽然爲レ人兮。〔後漢書、方術下、劉根傳〕根嘿而不レ應、忽然俱去、不レ知レ所レ在。〔賈島、酧二慈恩文郁上人一詩〕聞說又尋二南岳一去、無レ端詩思忽然生。❷無心で應ずるさま。怳惚。〔莊子、天地〕蕩蕩乎、忽然出、勃然動。〔淮南子、原道訓〕心忽然若レ有レ所レ喪。〔李陵、答二蘇武一書〕每二一念至一、忽然忘レ生。〔魏文帝、又與二吳質一書〕當二此之時一、忽然不二自知一レ樂也。❸おろそかにして戒めないさま。〔墨子、天志上〕忽然不レ知二以相儆戒一。❹根本のないさま。〔荀子、正名、故愚者之言芴然而粗、注〕芴、與レ忽同、忽然、無二根本一貌。❺たやすいさま。〔荀子、彊國〕剡二牛馬一忽然耳。〔注〕忽然、謂レ易也。

【忽怠】23 コツタイ　ゆるがせにしおこたる。〔孔子家語、觀周〕忽怠所二以危亡一。

【忽達】24 コツタツ　草のぎが射出すること。〔方言、十三〕忽達、芒也。〔注〕謂二草杪芒䠋出一。「名。

【忽撻】25 コツタツ　金、裴滿達(10－34362‥91)の本

【忽納】26 コツダフ　寨名。雲南省晉寧縣の西。〔讀史方輿紀要、雲南、雲南府、晉寧州〕忽納寨、在二州西一、明初、瓦爾密聞曲靖破走、入二晉寧州忽納寨一、赴二滇池一死、卽此寨也。

【忽炭】27 コツタン　地名。新疆省和闐縣。又、于闐・瞿旦那・屈丹・豁旦・兀丹・五端等に作る。

【忽地】28 コツチ　たちまち。にはかに。不意に。忽然。忽焉。地は助辭。〔王建、宮詞〕忽地下レ階裙帶解、非二時應一レ得レ見二君王一。

〖忽地笑〗29 コツチセウ　金燈草の異名。〔事物異名錄、百草、金燈草〕大倉志、金燈俗呼二忽地笑一、穿レ山甚廣、重九登レ高、燦若二丹霞一、亦奇草也。

【忽的】30 コツテキ　はつといふ掛聲。〔紅樓夢、十三回〕唬的衆婆娘、忽的一聲往レ後藏レ之不レ迭。

【忽都】31 トフ　元の人。蒙古兀羅帶氏。數ゝ宋を破る。至元の初、蒙古漢軍總管となる。〔元史、一百三十五〕。

【忽覩】32 トフ　金の人。皇統中、橫海崇義軍節度使となる。后戚を以て不法多く、贓によつて免職さる。天德中、安國軍節度使となる。〔金史、一百二十〕。「名。

【忽土】33 コツド　金、僕散師恭(1－1094‥19)の本

【忽忘】34 コツバウ　なほざりにし忘れる。〔漢書、張禹傳〕忽忘雅素。〔蘇洵、蘇氏族譜引〕使二其無レ至二於忽忘一焉可也。

【忽微】35 コツビ　極めて微細なこと。極めてこまかい。又、其のものごと。字解の❾を見よ。〔漢書、律歷志上〕及二黃鐘爲レ宮、則太族・姑洗・林鐘・南呂、皆以二正聲一應、無レ有二忽微一。〔注〕孟康曰、忽微、若レ有若レ無、細二於髮一者也。

【忽布】36 ホツプ　草の名。Hop のあて字。桑科の多年生草。其の未熟の果實を麥酒の味料に用ひる。又、健胃劑となる。からはなさう。蛇麻草。

【忽漫】37 コツマン　そそつかしい。たちまち。〔杜甫、送二路六侍御入朝一詩〕更爲二後會一知二何地一、忽漫相逢是別筵。

【忽雷】38 コツライ　❶琵琶の名。唐、文宗の時、內臣の鄭中丞が持つてゐた大忽雷・小忽雷の二器をいふ。〔羯鼓錄〕文宗朝、內臣鄭中丞有二二琵琶一、號二大小忽雷一、舊吏梁厚本在二昭應別墅一、垂レ釣、忽有二一物過一、以レ錦纏レ之、令二家僮接得一、卽祕器也、後過二花下一、酒酣卽彈二數曲一、値二黃門過一、云、此鄭中丞琵琶聲也。❷わにの別名。〔洽聞記〕鰐魚、別名忽雷、熊能制レ之、握二其觜一、至レ岸裂擘食レ之、一名骨雷、秋化爲レ虎、三爪、出二南海思雷二州一。

〖忽雷駮〗39 コツライハク　秦叔寶の乘馬の名。〔西陽雜俎、語資〕秦叔寶所レ乘馬、號二忽雷駮一、常飮以レ酒、每於二月明中一試、能豎越二三領黑氈一、及二胡公卒一、嘶鳴不レ食而死。「2〕の號。

〖忽雷道人〗40 コツライダウジン　清、兪萬春(1－1437‥13

【忽略】41 コツリヤク　おろそかで詳かでない。なほざりにする。〔書、周官、怠忽荒政、傳〕怠惰忽略、必亂二其政一。〔詩、大雅、抑、聽レ我藐藐、箋〕王聽二聆之一藐藐然忽略、不下用二我所一レ言爲中政令上。〔吳志、周泰傳〕意尚忽略不レ治。

【忽魯】42 コツロ　金代の官稱。總帥をいふ。國論(3－4798‥564)の❷を見よ。〔金史、百官志一〕其官長皆稱曰二勃極烈一云云、其次曰二國論、忽魯、勃極烈一、國論、言レ貴、忽魯、猶二總帥一也。

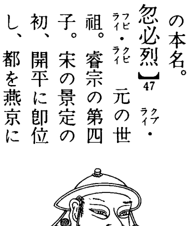
【忽魯火孫】43 コツロクワソン　元、許扆(10－35298‥3)

【忽魯謨斯】44 ホルムス　西域の地名。「の一名。

【忽滑谷】45 ヌカリヤ・ヌメリヤ　姓氏。

【忽斜虎】46 コツシヤコ　金、完顏仲德(3－7079‥121)の本名。

【忽必烈】47 クブライ・フビライ・クビライ　元の世祖。睿宗の第四子。宋の景定の初、開平に卽位し、都を燕京に定め、國號を元と改む。至元十六年、宋を滅し、中國を一統す。諸國を征し、領土は歐亞兩洲に跨る。我が國にも進軍して敗退した。在位三十五年、廟號は世祖。年號は中統・至元。〔元史、四－十七〕。



元世祖（三才圖會）

【忽拉巴】48 hu' la' pa　不意に。突然に。

【忽剌出】49 フラチユ　元の人。蒙古氏。宋人と戰つて功あり、江南を平定して昭毅大將軍を加へられ、江浙行省平章政事となる。〔元史、一百三十三〕。

【忽剌剌】50 フラフラ　音の形容。〔西廂記、崔鶯鶯夜聽琴雜劇、楔子〕手扳得二忽剌剌天關撼一。

【忽林失】51 フリンシ　元の人。八魯剌䚟氏。乃顏を征す。官は榮祿大夫。〔元史、一百三十五〕。

【忽鹿麻】52 コツロクマ　巴旦杏の異名。〔本草、巴旦杏釋名〕八擔杏、忽鹿麻。

【忽如過隙】53 コツトシテゲキヲスグルガゴトシ　去ることのすみやかな喩。〔韓詩外傳、一〕二親之壽、忽如レ過レ隙。

【忽野簷默】54 コツヤエンモク　皀莢の異名。阿勃勒。〔西陽雜俎、廣動植、木篇〕波斯皀莢、出二波斯國一、呼爲二忽野簷默一、拂林呼爲二阿梨去伐一。

【忽如鳥過目】55 コツトシテトリノメヲスグルガゴトシ　鳥が目の前を飛び過ぎるやうに早いこと。人生の須臾な喩。〔張協、雜詩〕人生瀛海內、忽如二鳥過一レ目。

【忽奔走以先後】56 コツトシテホンソウシテモツテセンコウス　あわただしく百方に奔走し、或は先に立つて導き、或は後よりおして輔佐すること。〔楚辭、離騷〕忽奔走以先後兮、及二前王之踵武一。

【忽揮二龍口劍一虜使頭足分】57 タチマチリユウコウケンヲフルヒテリヨシトウソクワカツ　忽ち龍口で一刀の下に外國の使者を斬り捨てた。龍口は、鎌倉の西の地名で、刑場のあつた處。文永五年、蒙古の使者が來た時、北條時宗が其の書辭の無禮なるを怒つて、使者杜世忠等を龍口に於て斬り捨てたこと。〔藤田東湖、和二文天祥正氣歌一〕忽揮二龍口劍一、虜使頭足分。

【忽起二西海颶一怒濤殲二妖氛一】58 タチマチサイカイノグヲオコシドタウヨウフンヲツクス　忽ち筑紫の海に颶風が起り、怒濤は惡氣を滅し盡した。妖氛は、元の兵をさす。〔藤田東湖、和二文天祥正氣歌一〕忽起二西海颶一、怒濤殲二妖氛一。

【㤃】10406　コツ　忽(**4－10405**)に同じ。〔說文長箋〕㤃、同レ忽。

【忾】10407　㊀キツ　㊀忔（**4－10323**）に同じ。㊁キ　〔字彙〕忾、與レ忔同。㊁愾(**4－11029**)に同じ。〔正字通〕忾、同レ愾。

【忿】10408　㊀フン　〔集韻〕撫吻切　吻
㊁フン　〔集韻〕芳問切　問　ㄈㄣˋ fen⁴

小篆

㊀㊁❶**いかる**。〔說文〕忿、悁也、从レ心分聲。〔段注〕忿以二悁急一爲レ義。〔禮、大學〕身有レ所二忿懥一。〔釋文〕忿懥、怒貌也。〔逸周書、大匡解〕昭位非レ忿。〔注〕忿、怒也。〔張衡、東京賦〕我世祖忿レ之。〔注〕綜曰、忿、恚。❷**うらむ**。〔戰國、秦策〕伯主約而不レ忿。〔注〕忿、怨也。〔楚辭、九章、懷沙〕懲レ違改レ忿兮。〔注〕忿、恨也。❸**みちる**。〔莊子、達生〕忿滀之氣。〔釋文〕李云、忿、滿也。❹或は賁(**10－36737**)に作る。〔集韻〕忿、或作レ賁。❺通じて分(**2－1853**)に作る。〔正字通〕忿、通作レ分。

【忿恚】1（フンイ）　いかる。〔戰國、齊策〕故去二忿恚之心一、而成二終身之名一、除二感忿之恥一、而立二累世之功一。〔後漢書、度尙傳〕財賞不レ贍、忿恚復作レ亂。〔蜀志、劉巴傳、注〕零陵先賢傳曰、張飛嘗就レ巴宿、巴不二與語一、飛遂忿恚。〔隋書、孝義、徐孝肅傳〕家人未レ見三其有二忿恚之色一。

【忿葦】2（フンキ）　盛に茂つてゐるさま。〔駢雅、釋詁上〕忿葦、茂盛也。〔揚雄、蜀都賦〕俊茂豐美、洪溶忿葦。〔注〕蓊盛二言竹之富一。

【忿怨】3（フンエン）　いかりうらむ。忿恨。忿懟。〔漢紀、孝文帝紀〕賈誼過二湘水一、弔二屈原一、惻愴慟懷、豈徒忿怨而已哉、與二夫苟患レ失レ之者一、異レ類殊レ意矣。〔新序、善謀下〕平城之厄、七日不レ食、天下歎レ之、及レ解レ圍反レ位、無二忿怨之色一、雖レ得二天下一、而不レ報二平城之怨一者、非レ以二力不一レ能也。

【忿悁】4（フンエン）　いかる。いきどほる。〔戰國、趙策〕秦雖二辟遠一、然而心忿悁含レ怒之日久矣。〔鶡冠子、世兵〕曹子去二忿悁之心一、立二終身之功一。〔新序、雜事一〕解二忿悁之難一、交二兩國之歡一。

【棄二忿悁之節一】5（フンエンノセツヲスツ）　忿りを止める。〔史記、魯仲連傳〕棄二忿悁之節一、定二累世之功一。

【忿憾】6（フンカン）　いかりうらむ。〔文中子、魏相〕忿憾者、仁之膸也。

【忿患】7（フンクワン）　いかりうれへる。〔後漢書、楊秉傳〕上下忿患、四方愁毒。

【忿隙】8（フンゲキ）　いかつてなかたがひする。〔唐書、李逢吉傳〕厚相結納、忿隙得レ解。

【忿激】9（フンゲキ）　はなはだしくいかる。

【忿鬩】10（フンゲキ）　仲惡く互に恨みあふ。〔魏書、李冲傳〕冲兄弟六人、四母所レ出、頗相忿鬩。

【忿狷】（フンケン）　世說新語の篇名。

【忿言】11（フンゲン）　いかつていふことば。忿をふくむことば。〔禮、祭義〕忿言不レ反二於身一。

【忿恨】12（フンコン）　いかりうらむ。〔漢書、趙充國傳〕忿恨相告。〔論衡、死僞〕夫杜伯莊子義無道忿恨。〔阮瑀、爲二曹公一作レ書與二孫權一文〕兼懷二忿恨一。

【忿爭】13（フンサウ）　いかりあらそふ。爭忿。忿諍。〔韓非子、解老〕重レ生者、雖レ入レ軍無二忿爭之心一、無二忿爭之心一、則無レ所レ用二救レ害之備一。〔史記、李斯傳〕諫說忿爭之辯。〔淮南子、覽冥訓〕無二忿爭之心一。〔蜀志、許慈傳〕謗讟忿爭、形二於聲色一。〔六部成語、刑部、忿爭、注解〕因二忿怒一相爭也。

【忿諍】14（フンサウ）　いかりあらそふ。忿爭に同じ。〔魏書、劉暉傳〕復致二忿諍一。

【忿躁】15（フンサウ）　いかつて心がおちつかない。〔五代史、敬翔傳〕忿躁殺二唐大臣一幾盡。〔宋史、曹修古傳〕殊忿躁亡二大臣體一。

【忿忮】16（フンシ）　いかつて害ふ。〔劉克莊、跋下章援致平與二坡公一書上文〕君子無二纖毫之過一、而小人忿忮、必致二之死一。

【忿鷙】17（フンシ）　いかつてあらあらしい。鷙は狠。〔漢書、匈奴傳下〕外國天性忿鷙、形容魁健、負レ力怙レ氣、難二化以善一、易二肆以惡一。〔後漢書、杜詩傳〕無二忿鷙之師一。

【忿疾】18（フンシツ）　いかりにくむ。〔書、君陳〕爾無三忿二疾于頑一。〔後漢書、單超傳〕常私忿疾。〔南史、朱异傳〕遠近莫レ不二忿疾一。

【忿嫉】19（フンシツ）　いかりねたむ。いかりにくむ。忿疾。〔南史、邵陵攜王子確傳〕賊徒忿嫉、咸勸除レ之。

【忿心】20（フンシン）　いかる心。〔新書、耳痺〕忿心發怒。〔資治通鑑、晉紀〕更恣二行屠戮一以快二忿心一。

【忿埶】21（フンセイ）　いかつたいきほひ。〔周禮、考工記、弓人〕骨直以立、忿埶以奔、若レ是者爲二之安弓一。

【忿然】22（フンゼン）　いかつて平かでないさま。〔戰國、秦策〕寡人忿然含レ怒日久、吾欲レ使二武安子起往喩一レ意焉。〔莊子、天地〕爲レ圃者、忿然作レ色而笑。〔晏子、諫、上〕公忿然作レ色不レ說。〔史記、仲尼弟子傳〕田常忿然作レ色。〔說苑、尊賢〕於レ是齊王忿然。

【忿速】23（フンソク）　短慮ですぐいかること。〔孫子、九變〕忿速可レ侮也。

【忿恥】24（フンチ）　はぢいかる。〔國史略、圓融天皇〕兼通大忿恥。

【忿疐】25（フンチ）　忿懥に同じ。〔大戴禮、武王踐阼〕杖之銘曰、惡乎危、於二忿疐一、惡乎失レ道、於二嗜慾一。

【忿懥】26（フンチ）　怒つて癇癪を起す。懥は忿に同じ。〔大學〕身有レ所二忿懥一、則不レ得二其正一。

【忿滀】27（フンチク）　怒つて顏色のむつとしたさま。〔莊子、達生〕忿滀之氣、散而不レ反。

【忿懟】28（フンツイ）　いかりうらむ。懟は怨。〔宋書、廬江王褘傳〕上又令四有司奏三褘忿懟有二怨言一、議免レ官削二爵土一。

【忿痛】29（フンツウ）　いかりいたむ。〔吳志、諸葛恪傳〕存亡忿痛、大小呼嗟。

【忿怒】30（フンド　フンヌ）　大いにいかる。はらだち。立腹。忿恚。〔韓詩外傳、三〕患生二於忿怒一、禍起二於纖微一。〔荀子、大略〕忿二怒其臣妾一、猶レ用二刑罰於萬民一也。〔韓非子、大體〕上無二忿怒之毒一、下無二伏怨之患一。〔六韜、犬韜、練士〕貧窮忿怒。〔管子、內業〕忿怒之失レ度、乃爲二之圖一。〔晏子、問、下〕忿怒無二羨刑一。〔史記、陳丞相世家〕樊噲有二親且貴一、帝以二忿怒一故欲レ斬レ之。〔漢書、鼂錯傳〕其行レ罰也、非下以二忿怒妄謀一、而從中暴心上也。〔春秋繁露、王道〕無二怨望忿怒之患一。〔後漢書、列女、曹世叔妻傳〕忿怒不レ止、楚撻從レ之。〔蜀志、馬忠傳〕忿怒不レ形二於色一。

【忿鬭】31（フントウ）　いかりたたかふ。〔顏氏家訓、文章〕傳玄忿鬭免レ官。

【忿毒】32（フンドク）　いかりたけつて害毒を與へるもの。〔蜀志、先主劉備傳〕曹丕篡弒、湮二滅漢室一、竊二據神器一、刼二迫忠良一、酷烈無道、人鬼忿毒。

【忿罵】33（フンバ）　いきどほりののしる。忿詈。〔南史、庾仲文傳〕忿罵形二於辭色一。

【忿發】34（フンパツ）　いきどほりが發する。いきどほる。憤發。〔史記、汲黯傳〕黯時與レ湯論議、湯辯常在二文深小苛一、黯伉厲、守レ高不レ能レ屈、忿發罵曰、天下謂、刀筆吏不レ可三以爲二公卿一、果然、必湯也令二天下重足而立、側目而視一矣。

【忿忿】35（フンプン）　いかるさま。〔漢書、武五子傳〕獨寃結而亡レ告、不レ忍二忿忿之心一。〔阮瑀、爲二曹公一作レ書與二孫權一書〕使二仁君翻然自絕一以レ是忿忿、懷レ慙反側。

【忿憤】36（フンプン）　いかる。憤忿。忿忿。〔風俗通、十反〕咸用忿憤。〔王勃、三國論〕甘二忿憤一而忘レ食。

【忿兵】37（フンペイ）　心に激していきどほりさわぐ軍隊。〔漢書、魏相傳〕爭二恨小故一、不レ忍二憤怒一者、謂二之忿兵一。〔資治通鑑、梁紀〕（武帝、大同三年）愎諫而來、所謂忿兵。〔注〕漢魏相曰、爭二恨細故一、不レ忍二憤怒一者、謂二之忿兵一、兵忿者敗。

【忿懣】38（フンマン　フンモン）　いかりもだえる。不平のはらだち。懣は悶。憤懣。〔謝朓、酬德賦〕思二拔レ文而信レ道、忿懣散二懣於胷臆一。

【忿類】39（フンライ）　忿戾に同じ。〔左氏、昭、二十八〕貪惏無レ厭、忿類無レ期、謂二之封豕一。〔注〕類、戾也。

【忿詈】40（フンリ）　いきどほりののしる。〔宋書、庾炳之傳〕賓客干訴非レ理者、忿詈形二於辭色一。

【忿戾】41（フンレイ）　いかりもとる。憤りさからふ。〔論語、陽貨〕古之矜也廉、今之矜也忿戾。〔集解〕孔安國曰、惡レ理多怒。〔劉寶楠正義〕注以レ惡レ理訓レ戾、多怒訓レ忿、乖戾則多違レ理、故注云レ惡レ理。〔韓非子、外儲說左下〕夔者忿戾惡心、人多不二說喜一也。〔後漢書、南匈奴傳〕郅支忿戾。

【忿思レ難】42（イカリニハナンアランコトヲオモフ）　腹の立つときには、それによつて生ずる難儀を思ふ。怒りたい時のい

ましめの語。〔論語、季氏〕言思レ忠、事思レ敬、疑思レ問、忿思レ難、見レ得思レ義。〔集注〕思レ難、則忿必懲。

【忿厲粗暴】43 フンレイソバウ　はげしく怒り、行のあらあらしいこと。〔愼思錄、一〕和平則忿厲粗暴之氣自然消除。

【懲レ忿窒レ欲】44 イカリヲコラシヨクヲフサグ　忿怒と欲心とを戒めふさぐ。〔易、損〕君子以懲レ忿窒レ欲。

【⿰忄分】 10409 フン 〔康熙字典〕音紛

みだれたさま。〔字彙補〕⿰忄分、音紛、列子、黄帝、⿰忄分然而封戎。

【⿰忄分然】1 フンゼン　數多くてまぎれるさま。紛然。〔列子、黄帝〕塊然獨以二其形一立、⿰忄分然而封戎。〔新書、匈奴〕又且孰敢⿰忄分然不レ承二帝意一。

【⿰忄壬】 10410 ジン 恁(4－10518)に同じ。〔正字通〕⿰忄壬、同レ恁。

【忕】 10411 セツ 忕(4－10325)の譌字。〔集韻考正〕忕、案、忕譌レ忕、後以制切同、據二宋本一正。

【怀】 10412 🈩フウ フ 〔字彙補〕敷救切 宥　🈔クワイ

🈩いかる。〔字彙補〕怀、怒也。🈔懷(4－11456)の俗字。〔辭海〕怀、懷俗字。

【⿱必亡】 10413 シヤウ 〔字彙補〕音唱

香草。〔字彙補〕⿱必亡、香草也。

【⿱⺻心】 10414 シ 志(4－10331)に同じ。〔川篇〕⿱⺻心、同レ志。

【⿻心丨】 10415 ハン 義未詳。〔篇海〕⿻心丨、音反。

【⿶心凶】 10416 キヨウ 忷(4－10392)に同じ。〔字彙補〕⿶心凶、同レ忷。

【⿱日心】 10417 シヤ 義未詳。〔五音篇海〕⿱日心、音射。

【⿱月心】 10418 ゲン 義未詳。〔五音篇海〕⿱月心、音元。

【⿰忄夫】 10419 フ 〔川篇〕音夫 虞

よろこぶ。〔川篇〕⿰忄夫、怡也。

【⿰忄兮】 10420 ケイ 義未詳。〔海篇〕⿰忄兮、音兮。

【⿱不心】 10421 フ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿱不心、音甫。

五畫

【⿰忄甘】 10422 カン 〔集韻〕姑三切 覃

したがふ。通じて甘(7－21643)に作る。〔集韻〕⿰忄甘、心伏也、通作レ甘。

【⿰忄末】 10423 バツ マチ 〔集韻〕莫撥切 曷

わすれる。〔集韻〕⿰忄末、忘也。

【怇】 10424 🈩キヨ ゴ 〔集韻〕臼許切 語　🈔キヤウ

🈩❶あなどる。〔集韻〕怇、慢也。❷おごりたかぶるさま。鉅(11－40286)に通ず。〔莊子、列禦寇〕一命而呂鉅。〔注〕鉅、與レ怇同、驕矜之貌。🈔おそれる。恇(4－10529)に同じ。〔字彙〕怇、恐也。〔正字通〕怇、本作レ恇。

【怈】 10425 エイ ⿰忄曳(4－10555)に同じ。〔集韻〕⿰忄曳、或作レ怈。

【怉】 10426 🈩ハウ ヘウ 〔集韻〕博巧切 巧　🈔ハウ ボウ 〔集韻〕薄皓切 皓

🈩もとる。〔集韻〕怉、悖也。🈔なつく。なつける。〔集韻〕怉、懷也。

【怊】 10427 🈩テウ 〔集韻〕癡宵切 蕭 ㄔㄠ ch'ao¹　🈔セウ 〔集韻〕蚩招切 蕭

小篆

🈩❶かなしむ。〔說文新附〕怊、悲也、从レ心召聲。❷いたむ。〔集韻〕怊、字林、悵也。〔莊子、天地〕怊乎若三嬰兒之失二其母一。〔釋文〕怊乎、字林云、悵也。❸はるかなるさま。怊怊(3)の❷を見よ。🈔❶おごる。〔集韻〕怊、奢也。❷失意のさま。怊悵(2)の❸を見よ。

【怊乎】1 テウコ　かなしむさま。いたむさま。〔莊子、天地〕怊乎若三嬰兒之失二其母一。〔釋文〕怊乎、字林云、悵也。

【怊悵】2 テウチヤウ　❶うらむさま。〔楚辭、宋玉、九辯〕然怊悵而無レ冀。〔注〕怊悵、恨貌也。❷相望むさま。〔謝莊、宋孝武宣貴妃誄〕怊二悵秋暉一。〔注〕翰曰、怊悵、相望貌。❸セウチヤウ 失意のさま。〔集韻〕怊、一曰、怊悵、失意。〔柳宗元、夢歸賦〕進怊悵而不レ得。

【怊怊】3 テウテウ セウセウ　❶いたみうらむさま。又、うれへるさま。〔荀子、富國〕墨子之言、昭昭然爲二天下一憂レ不レ足。〔補注〕白鹿曰、當レ作二怊怊然一、憂貌。❷四方の遠いさま。〔楚辭、王逸、九思、守志〕余顧瞻兮怊怊。〔注〕怊怊、四遠貌。

【怋】 10428 🈩コン 〔集韻〕呼昆切 元　🈔ビン ミン 〔集韻〕彌鄰切 眞　🈪ボン モン 〔集韻〕謨奔切 元

小篆

🈩❶みだれる。〔說文〕怋、怓也、从レ心民聲。❷或は怟(4－10377)・惛(4－10875)に作る。〔集韻〕怋、或作二怟・惛一。❸惽(4－10812)に同じ。〔正字通〕怋、同レ惽、省亦作レ惛。🈔みだれる。〔集韻〕怋、亂也。🈪❶くらい。怋怋。〔集韻〕怋、怋怋、不レ明也。❷みだれる。〔集韻〕怋、亂也。❸もだえる。〔集韻〕怋、悶也。❹或は惛(4－10875)に作る。〔集韻〕怋、或从レ昏。

【怌】 10429 ヒ 〔集韻〕攀悲切 支

❶おそれる。〔集韻〕怌、恐懼也、楊子、柔則怌。❷あなどる。〔字彙〕怌、慢也。

【怍】10430

㊀サク ザク　〔集韻〕疾各切　ㄗㄨㄛˋ tsuo⁴　藥
㊁サ ジヤ　〔集韻〕助駕切　禡

小篆

㊀❶**はぢる**。〔說文〕怍、慙也、从レ心作聲。〔論語、憲問〕其言之不レ怍。〔皇疏〕怍、慙也。〔後漢書、禰衡傳〕顔色不レ怍。〔注〕怍、羞也。❷**顔色がかはる**。〔禮、曲禮上〕容毋レ怍。〔注〕怍、顔色變也。〔管子、弟子職〕顔色不レ怍。〔注〕怍、謂レ變二其容貌一。❸**怒つたさま**。〔禮、祭義〕是故孝子臨レ尸而不レ怍。〔注〕色不レ和曰レ怍。❹或は㤁(**4**－**10639**)に作る。〔集韻〕怍、或作レ㤁。㊁**姦が多い**。㤉作。〔集韻〕怍、㤉作、多レ姦也。

【怍意】1 サクイ　はぢるこころ。〔孔叢子、答問〕韓非公稱レ之、曾無二作意一。
【怍慍】2 サクウン　はぢいかる。
【怍色】3 サクショク　はぢる樣子。〔莊子、盜跖〕今謂二臧聚一曰三汝行如二桀紂一、則有二怍色一、有二不レ服之心一者、小人所レ賤也。
【怍人】4 サクジン　淸、唐建中(**2**－**3709**・・397)の字。
【怍庭】5 サクテイ　淸、孫光祀(**3**－**6987**・・374)の字。
【怍靦】6 サクテン　はぢる。はぢて顔色がかはる。

【怎】10431

㊀ソウ ス　〔五音集韻〕子吽切　ㄗㄣˇ tsen³　有
㊁シン　〔字彙〕子沈切　寢
唐 ソ・ソモ

㊀㊁**いかで**。**いかでか**。**なんぞ**。**どうして**。如何の俗語。〔五音集韻〕怎、語辭也。〔正字通〕怎、俗字、今人用爲二語助辭一、猶レ言二如何一也、程朱語錄中、屢用レ之、云云、凡怎的・怎麼、方音皆然、怎、沈韻不レ收、僅載二集韻一、無二切脚一、今俗讀爭上聲、正韻牋、八軫、逸字補、怎、尊上聲、舊註津上聲、非、怎、本音河南讀レ怎如レ樝。〔康熙字典〕怎、今時揚州人、讀二爭上聲一、吳人讀二尊上聲一、金陵人、讀二津上聲一、河南人、讀如レ樝、各從二鄕音一而分也。

【怎講】1 tsen² chiang³　何と言はうか。どういふ工合に話さうか。
【怎干】2 tsen³ kan¹　なぜ。どうして。江蘇地方の方言。
【怎敢】3 tsen² kan³　どうして。
【怎生】4 イカンカ ソモサン　いかん。いかに。なんぞ。なんすれぞ。怎樣。〔朱子全書、孟子〕問、外丙二年、仲壬四年、先生兩二存趙氏程氏之說一、則康節之說亦未レ可レ據耶、曰、怎生便信二得他一。〔朱子語錄〕不レ知後面一段是怎生地、不レ知怎生盤庚抵レ死要レ遷二那都一。
【怎地】5 tsen³ ti　どうして。如何樣にして。〔水滸傳、四十六回〕卻怎地來這山裏。
【怎的】6 tsen³ tê　どんな。何故。如何なる。怎麼。〔元曲、曲江池〕你嗓磕他怎的。
【怎得】7 tsen³ tê²　怎的に同じ。
【怎奈】8 tsen³ nai⁴　如何せん。是非もない。
【怎麼】9 tsen³ mê　どんな。如何に。何故。
【怎麼敢】10 tsen³ mê kan³　❶何故云云を敢てするか。❷どうして。怎敢。
【怎麼會】11 tsen³ mê huei⁴　どうして云云あらうぞ。そんな筈はないのに。
【怎麼個】12 tsen³ mê kê　如何なる。如何に。
【怎麼做】13 tsen³ mê tsuo⁴　どの樣に作るか。
【怎麼說】14 tsen³ mê shuo¹　❶如何樣に言ふか。❷何故云云と言ふか。
【怎麼着】15 tsen³ mê chê　如何に。
【怎麼賣】16 tsen³ mê mai⁴　❶いくらか。❷どのやうな計り方で賣るか。
【怎麼也】17 tsen³ mê yeh³　どうしても。
【怎麼樣】18 tsen³ mê yang⁴　如何ですか。どういふ風か。
【怎麼啦】19 tsen³ mê la　如何したか。
【怎麼了】20 tsen³ mê la　どうしたのだ。何事ですか。
『怎麼這麼』21 tsen³ mê chê⁴ mê　どうしてこ「んなに。
【怎樣】22 tsen³ yang⁴　どのやう。怎麼樣に同じ。
【怎當得】23 tsên³ tang¹ tê　如何せん。
【怎一回子事】24 tsen³ i⁴ huei² tzŭ shih⁴　どうした事か。

【怽】10432

ハイ

怖(**4**－**10370**)の俗字。〔正字通〕怽、俗怖字。

【恐】10433

㊀カウ ケウ　〔集韻〕丘交切　肴
㊁カウ ケウ　〔集韻〕口教切　效

㊀**うつぶしたさま**。恐㤉。〔集韻〕恐、恐㤉、伏態。㊁**いつはり**。巧(**4**－**8721**)に同じ。〔集韻〕巧、僞也、或从レ心。

【怏】10434

㊀ヤウ アウ　〔集韻〕於亮切　一ㄤˋ yang⁴　漾
㊁ヤウ アウ　〔集韻〕倚兩切　養
㊂ヤウ アウ　〔集韻〕於良切　陽

小篆

㊀㊁❶**うらむ**。したがはない。〔說文〕怏、不服懟也。从レ心央聲。〔段注〕當レ作二不服也懟也一、奪二一也字一。〔一切經音義、十八〕怏、懟也、亦怏怏然不レ服也。❷**たのしまぬ**。あきたらぬ。〔廣韻〕怏、悵也。〔增韻〕怏、情不二滿足一也。❸**つとめる**。しひてする。〔廣雅、釋詁一〕怏、強也。❹通じて鞅(**12**－**42784**)に作る。〔正字通〕怏、別作レ鞅、周亞夫傳、鞅鞅非二少主臣一。㊂**ほこる**。たかぶる。〔集韻〕怏、怏然、自大之意也。

【怏怏】1 アウアウ　うらむさま。又、不滿で樂しまぬさま。不快に感ずるさま。又、不服のさま。鞅鞅。〔一切經音義、十八〕怏、懟也、亦怏怏然不レ服也。〔史記、絳侯世家〕此怏怏者非二少主臣一也。〔漢書、蕭望之傳〕塞二其怏怏心一。〔後漢書、彭寵傳〕怏怏不レ得レ志。〔蜀志、廖立傳〕常懷怏怏。
【怏意】2 アウイ　こころよからぬこと。
【怏悒】3 アウイフ　心たのしまず憂へる。不滿でうらみに思ふ。〔杜甫、早發二射洪縣南一途中作詩〕汀洲稍疎散、風景開二怏悒一。
【怏鬱】4 アウウツ　不滿を懷いて氣がのびぬ。面白からず思つてふさぐ。鬱怏(**12**－**45671**・・1)に同じ。
【怏然】5 アウゼン　こころよくないさま。〔戰國、趙策〕辛垣衍怏然不レ說曰、嘻、亦太甚矣、先生之言也、先生又惡能使三秦王烹二醢梁王一。

【怐】10435

㊀コウ ク　〔集韻〕丘候切　宥
㊁ク　〔集韻〕俱遇切　遇

㊀❶**おろか**。瞉(**8**－**23565**)に同じ。或は佝(**1**－**520**)に作る。〔集韻〕瞉、瞉霿、鄙吝心不レ明也、或作レ怐。〔集韻〕怐、怐愗、愚也、或从レ人。❷通じて溝(**7**－**17944**)に作る。〔荀子、非十二子〕世俗之溝猶二瞀儒一、〔注〕溝、與レ怐同、怐、愚也。㊁**おそれる**。〔集韻〕怐、恐也。

【怐愗】1 コウボウ　愚かなさま。〔集韻〕怐、怐愗、愚也。〔楚辭、九辯〕直怐愗而自苦。〔注〕怐愗、守レ死忠信以自畢也。〔韓愈、南山詩〕堛塞生二怐愗一。

【思】10436

セン

❶思(**4**－**10543**)に同じ。〔集韻〕思、或作レ思。❷憸(**4**－**11299**)に同じ。〔正字通〕思、同レ憸。

【㤎】10437

カ　〔集韻〕居何切　歌

❶のり。〔玉篇〕⿱加心、楷也、法也。❷しる。〔玉篇〕⿱加心、知也。

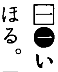
【怑】10438 ハン バン 〔集韻〕薄半切 翰

怑悗は、したがはない。〔集韻〕怑、怑悗、不レ順。

【怒】10439

🈩ドヌ 〔集韻〕奴故切 遇 ㄋㄨˋ nu^4

🈔ドヌ 〔集韻〕暖五切 麌

小篆 

🈩❶いかる。いかり。㋑いきどほる。〔說文〕怒、恚也、从レ心奴聲。〔增韻〕怒、憤也。〔詩、邶風、柏舟〕逢二彼之怒一。〔論語、雍也〕不レ遷レ怒、不レ貳レ過。〔國語、周語上〕怨而不レ怒。〔注〕怒、作レ氣也。〔呂覽、至忠〕非レ怒レ王則疾不レ可レ治。㋺氣がたかぶる。〔鬼谷子、權篇〕怒者妄動而不レ治也。〔後漢書、第五倫傳〕鮮車怒馬。〔注〕怒馬、謂二馬之肥壯、其氣憤怒一也。㋩はげむ。ふるふ。〔廣雅、釋詁一〕怒、勉也。〔莊子、逍遙遊〕怒而飛。㋥あらぶる。いきほひさかん。〔史記、藺相如傳〕怒髮衝レ冠。〔漢書、溝洫志〕而令二水益湍怒一。❷うごく。〔鬼谷子、摩〕怒者動也。❸しかる。せめる。〔廣雅、釋詁一〕怒、責也。〔禮、內則〕不レ可レ教而后怒レ之。〔注〕怒、譴責也。❹あらそふ。うつたへる。〔周禮、地官、調人〕凡有二鬭怒一者成レ之。❺いきほひ。威勢。〔禮、曲禮上〕急繕二其怒一。〔注〕堅二勁軍之威怒一也。❻はげしい聲。〔素問、五運行大論〕其志爲レ怒。〔注〕怒、直聲也。❼すこやか。〔廣雅、釋詁二〕怒、健也。❽おほい。〔廣雅、釋詁三〕怒、多也。❾あたりちらす。己の恚怒を人に及ぼす。〔公羊、莊、四〕此非レ怒與。〔注〕怒、遷レ怒、齊人語也。❿とげ。のぎ。奴(3—6039)に通ず。〔說文通訓定聲〕怒、段借爲レ奴。〔漢書、天文志〕其怒青黑色。〔注〕宋均曰、怒、謂二芒角刺出一。⓫古は⿱夂心(4—10328)・⿰亻⿱夂心(4—10440)に作る。〔集韻〕怒、古作二⿱夂心・⿰亻⿱夂心一。🈔いかり。🈩の❶に同じ。〔集韻〕怒、恚也。

【怒鼃】1 ドア いかつて腹をふくらしてゐる蛙。式二怒鼃一を見よ。

〖式二怒鼃一〗2 ドアニシヨクス 越王句踐が吳を伐たうとした時、蛙が敵に遭つて怒氣を發するのを見、之に敬禮して士氣を振起しようとした故事。式は、車上のよこぎに憑つて敬禮すること。怒氣を見よ。〔韓非子、內儲說上〕句踐知レ之、故式二怒鼃一。〔注〕句踐知三勸賞可二以昭一レ人、故式二怒鼃一以求レ勇。〔韓非子、內儲說上〕一曰、越王句踐見二怒鼃一而式レ之、御者曰、何爲式、王曰、鼃有レ氣如レ此、可レ無レ爲レ式乎、士人聞レ之曰、鼃有レ氣、王猶爲レ式、況於二人有レ勇者一乎、是歲、人有下自頸死、以二其頭一獻上者。

【怒夷】3 ドイ 種族の名。俗に怒子といひ、又、狢㺄野番といふ。苗族の一種。西康省察隅縣の境、及び雲南省維西縣の西にあたる怒江の兩岸と江心坡等の地に居住す。

【怒恚】4 ドイ いかること。〔淮南子、主術訓〕適二其飢飽一、違二其怒恚一。〔漢書、霍皇后傳〕怒恚不レ食。

【怒意】5 ドイ いかるこころ。〔曾鞏、泝レ河詩〕不レ知洶洶竟何爲、怒意彼此何時平。

【怒怨】6 ドエン いかりうらむ。〔古樂府、陌上桑〕來歸相怒怨、但坐觀二羅敷一。

【怒江】7 ドカウ 川の名。源は西藏拉薩の北の布喀池。上流を喀喇烏蘇といふ。西康の怒夷の界を經て怒江となり、雲南の境に入つて潞江といふ。緬甸からベンガル灣に注ぐ。西歐人は薩爾溫河といふ。〔讀史方輿紀要、雲南、大川〕潞江、本名怒江、以二波濤洶湧一而名也、滇記、諸葛武侯七擒二孟獲一、駐二兵怒江之滸一、卽此。

【怒哮】8 ドカウ いかりほえる。たけり叫ぶ聲。〔張耒、書二韓退之傳後一文〕怒哮吼聲震二百里一。

【怒呺】9 ドガウ 怒號に同じ。〔莊子、齊物論〕是唯無レ作、作則萬竅怒呺。〔疏〕萬殊之穴、皆鼓怒呺叫也。

【怒號】10 ドガウ いかりさけぶ。又、風波などが荒れて烈しい音のすること。怒叫。〔杜甫、茅屋爲二秋風所一レ破歌〕八月秋高風怒號、卷二我屋上三重茅一。〔范仲淹、岳陽樓記〕陰風怒號、濁浪排レ空。

【怒赫】11 ドカク いかること。しかること。

【怒氣】12 ドキ いかつた樣子。いきどほる。〔吳越春秋、句踐伐吳外傳〕句踐道見二鼃張レ腹而怒一、將レ有二戰爭之氣一、卽爲レ之軾、其士卒有レ問二於王一、曰、君何爲敬二鼃蟲一而爲レ之軾、句踐曰、吾思二士卒之怒一久矣、而未レ有下稱二吾意一者上、今鼃蟲無知之物、見レ敵有二怒氣一、故爲レ之軾、於レ是軍士聞レ之、莫レ不レ懷二心樂一レ死。

〖怒氣相加〗13 ドキアヒクハフ 怒氣が互に增し加はる。〔小學、嘉言〕橫渠先生曰、今之朋友、擇二其善柔一以相與、云云、一言不レ合、怒氣相加。

【怒起】14 ドキ 盛におこる。〔呂覽、情欲〕百病怒「起。

【怒牛】15 ドギウ 怒特(56)に同じ。

【怒猊】16 ドゲイ いかりくるつた獅子。怒猊抉レ石渴驥奔レ泉を見よ。

〖怒猊抉レ石渴驥奔レ泉〗17 ドゲイイシヲエグリカツキイヅミニハシル いかりくるつた獅子が石をゑぐり、のどのかわいた千里の馬が、泉流に走り行く。書法の骨力雄健で、筆勢奔馳する喩。〔唐書、徐浩傳〕始浩父嶠之善レ書、以レ法授レ浩、益工、嘗書二四十二幅屛一、八體皆備、草隸尤工、世狀二其法一曰、怒猊抉レ石、渴驥奔レ泉。

【怒叫】18 ドケウ いかりさけぶ。〔歐陽脩、詩〕大兒怒「叫小兒啼。

【怒激】19 ドゲキ はげしくいかる。怒り激する。〔盧仝、月蝕詩〕太白眞將軍、怒激鋒芒生。

【怒擊】20 ドゲキ 奮ひいかつてうつ。〔孔子家語、六本〕怒而擊レ之則武、憂而擊レ之則悲。〔元好問、遊二黃華山一詩〕雷公怒擊散二飛雹一、日腳倒射垂二長虹一。

【怒頰】21 ドケフ いかつたかほ。〔韓愈、祭二河南張員外一文〕怒頰豕狗。

【怒嫌】22 ドケン いかりきらふ。

【怒譴】23 ドケン いかりせめる。〔唐書、杜黃裳傳〕醫者誤進レ藥、疾遂甚、終不二怒譴一。

【怒言】24 ドゲン いかつたことば。又、怒つて言ふ。〔後漢書、蓋勳傳〕勳曰、不レ聞二怒言一、可二以爲一レ戲。

【怒語】25 ドゴ いかつて言ふ。〔蔡邕、短人賦〕嚏噴怒語、與レ人相拒。

【怒吼】26 ドコウ 猛獸などが怒りさけぶこと。〔周霆震、大風詩〕恍疑會二羣龍一、奮發交二怒吼一。

【怒詢】27 ドコウ いかりののしる。〔顏氏家訓、教子〕遂大怒詢曰、至尊已有、我何意無。

【怒詬】28 ドコウ 怒詢に同じ。

【怒恨】29 ドコン いかりうらむ。〔後漢書、孔僖傳〕郁怒二恨之一。

〖怒恨恨的〗30 nu^4 hen^4 hen^4 tê 怒氣忿々たること。

【怒譟】31 ドサウ いかりさわぐ。〔宋史、趙挺之傳〕哲宗卽位、賜二士卒緡錢一、郡守貪耄不二時給一、卒怒譟、持二白挺一突二入府一、挺之立發二庫錢一、而治二其爲レ首者一。

【怒嘖】32 ドサク いかりしかる。

【怒山】33 ドサン 山脈の名。他念他翁山脈が西康省の東南から出て雲南省の西北に入るのを怒山山脈といふ。怒夷の境に在るから名づける。省境に入つてから南に趨り、瀾滄江・怒江の間に蜿蜒し、本省の西部を貫き、更に緬甸及び暹羅の境に入り、馬來半島に止まる。

【怒視】35 ドシ いかりを含んでにらみ見る。

【怒蹴】36 ドシウ いかつてける。〔王渾、滹沲秋漲行〕馮夷不レ受二上所一レ制、黑浪怒蹴黿鼉遊。

【怒叱】37 ドシツ いかりしかる。〔漢書、西南夷傳〕立怒叱二戲下一令レ格レ之。

【怒色】38 ドシヨク いかつた顏色。

【怒心】39 ドシン いかつたこころ。〔禮、樂記〕其怒心感者、其聲粗以厲。〔列子、黃帝〕達二其怒心一。

【怒嗔】40 ドシン いかる。〔杜甫、前出塞〕生死向レ前去、不レ勞二吏怒嗔一。

【怒人】41 ドジン 蠻族の名。廣西省の故廣源州、麗江

の沿岸に住す。〔雲南通志、怒人〕男子髮用レ繩束、高七八寸、婦人結二布於髮一、其俗大抵剛狠好レ殺、餘與二麼些一同、惟麗江有レ之。

【怒水】42 ドスイ　たけり激するみづ。〔韓愈、送二靈師一詩〕怒水忽中裂、千尋墜二幽泉一。

【怒生】43 ドセイ　勢鋭く萌生する。草木がいきほひよく生ずる。〔莊子、外物〕春雨日時、草木怒生、銚鎒于レ是乎始修。

【怒性】44 ドセイ　いかりやすい性質。腹立ちやすい「性質。

【怒聲】45 ドセイ　いかつて發するこゑ。〔爾雅、釋言、憤、怒也、疏〕舍人曰、憤、怒聲也。

【怒霽】46 ドセイ　怒りがはれる。〔范成大、望海亭賦〕氣平怒霽、水面如レ席、吳帆越檣、飛二上空碧一。

【怒咷】47 ドタウ　いかりさけぶ。

【怒鬧】48 ドタウ　いかりくるつてさわぐ。〔韻府引、歐陽脩、詩〕登レ高望二河流一、洶洶若二怒鬧一。

【怒濤】49 ドタウ　さかまく荒なみ。怒浪。〔孟貫、詩〕江上秋風捲二怒濤一。

【怒長】50 ドチヤウ　いきほひよく生長すること。〔喬木、慈竹賦〕牙筍怒長。

【怒張】51 ドチヤウ　はちきれるやうにふくれる。筆力の雄健な喩。〔米芾、論書〕世人但以二怒張一爲二筋骨一、不レ知下不二怒張一、自有中筋骨上。

【怒漲】52 ドチヤウ　水などがたけりみなぎること。〔葉適、贈二李秀才順之一詩〕怒漲爭二茅竹一、安流節二斗門一。

【怒霆】54 ドテイ　怒雷(75)に同じ。

【怒潮】55 ドテウ　いきほひの荒いうしほ。〔宋史、河渠志七〕孝宗乾道九年、錢塘廟子灣一帶石岸、復毀二於怒潮一。

【怒特】56 ドトク　怒れる牛。〔劉孝威、辟厭青牛畫贊〕泰山怒特、吳渚神牛。

【怒特祠】57 ドトクシ　祠の名。秦の文公が南山の大梓を伐つた時に樹中から出た青牛を祀る。〔史記、秦紀〕文公二十七年、伐二南山大梓一、豐大特。〔注〕集解曰、徐廣曰、今武都故道有二怒特祠一、圖二大牛上生レ樹、本有レ牛從二木中一出、後見二於豐水之中一、正義曰、武都郡立二怒特祠一、是大梓牛神也。

【怒惱】58 nu^4 nao　立腹する。怒る。

【怒馬】59 ドバ　肥え太つて勢のよい馬。〔後漢書、第五倫傳〕鮮車怒馬、以二財貨一自達。〔注〕怒馬、謂二馬之肥壯、其氣憤怒一也。

【怒罵】60 ドバ　いかりののしる。〔史記、太倉公傳〕意怒罵曰。〔漢書、韓信傳〕漢王大怒罵曰。〔黃庭堅、蘇子瞻像贊〕嬉笑怒罵、皆成二文章一。

【怒髮】61 ドハツ　いかつてさかだつかみ。怒髮衝レ冠・怒髮上衝を見よ。

【怒髮逆豎】62 ドハツ サカシマニタツ　おこつて髮をさか立てる。髮をさか立てて怒る。怒勢の鋭いさま。〔日下勺水、細井廣澤〕輒慷慨激昂、怒髮逆豎、旁若レ無レ人。

【怒髮逆衝】63 ドハツ サカシマニツク　怒髮逆豎に同じ。〔鹽谷宕陰、孔明楠公出處不レ同〕怒髮逆衝、直擲二書於前庭一。

【怒髮指レ冠】64 ドハツ カンムリヲサス　怒髮衝レ冠に同じ。〔十八史略、春秋趙〕怒髮指レ冠、却二立柱下一。

【怒髮上衝】65 ドハツ ジヤウシヨウ　怒髮逆衝に同じ。〔宋濂、鄧弼傳〕弼鬼不レ靈則已、若有レ靈、吾知二其怒髮上衝一也。

【怒髮衝レ冠】66 ドハツ カンムリヲツク　いかつて逆立つた髮の毛が冠をつきあげる。激怒したさま。〔史記、趙世家〕相如視二秦王無レ意レ償二趙城一、乃前曰、璧有レ瑕、請指二示王一、王授レ璧、相如因持レ璧卻立、倚レ柱、怒髮上衝レ冠。〔盧諶、覽古詩〕皆血下霑レ襟、怒髮上衝レ冠。

【怒臂】67 ドヒ　ひぢをいからす。ひぢをつき張ること。〔莊子、天地〕猶三螳蜋之怒レ臂以當二車轍一、則必不レ勝レ任矣。

【怒風】68 ドフウ　はげしく吹く風。

【怒吻】69 ドフン　怒つたくちさき。齒をむきだす。〔張耒、挂二虎圖于寢壁一云云詩〕目光烱雙射、怒吻呀欲レ受。

【怒憤】70 ドフン　いかりいきどほる。憤怒。

【怒沫】72 ドマツ　はげしく飛びちるしぶき。〔文徵明、臥佛寺觀二石澗一詩〕怒沫灑レ空經雨急、洑流何處出レ烟長。

【怒目】73 ドモク　目をいからす。怒つた時のめつき。〔劉伶、酒德頌〕奮袂攘衿、怒目切齒。〔顧況、從軍行〕怒目時一呼、萬騎皆辟易。

【怒容】74 ドヨウ　怒つたやうす。〔依田學海、西國喩言〕而有二怒容一。

【怒雷】75 ドライ　はげしくなるかみなり。〔黃庭堅、詩〕快似三揮レ刀吹二怒雷一。

【怒浪】76 ドラウ　さかまくなみ。〔孔穎達、尙書正義序〕斯乃鼓二怒浪於平流一、震二驚飇於靜樹一。〔圖書見聞錄〕善爲二驚濤怒浪一。

【怒瀧】77 ドラウ　すさまじく落ちるたき。大瀑布。〔虞集、送二韓伯一詩〕湖陰暑退多二魚鳥一、應レ勝三愁吟對二怒瀧一。

【怒詈】78 ドリ　いかりののしる。〔吳志、凌統傳〕勤怒二詈統及其父操一。

【怒流】79 ドリウ　さかまきくるふながれ。

【拗レ怒】80 イカリヲクジク　腹の立つのを抑へる。〔班固、西都賦〕蹂二躪其十二三一、乃拗レ怒而少息。

【飾レ怒】81 イカリヲカザル　禮制によつていかりを節する。〔禮、樂記〕軍旅鈇鉞者、先王之所二以飾レ怒也。〔疏〕鈇鉞飾レ怒、非レ怒不レ可三橫施二鈇鉞一、是怒得二其儕類一焉。〔集解〕天子之於二天下一、喜怒節レ之以二禮樂一云云、方氏愨曰、軍旅鈇鉞、軍禮也。

【遷レ怒】82 イカリヲウツス　或る怒りの情を以て他に向ふこと。不レ遷レ怒を見よ。

【不レ遷レ怒】83 イカリヲウツサズ　或る者に對するいかりを、他のものにうつさないこと。〔論語、雍也〕哀公問、弟子孰爲レ好レ學、孔子對曰、有二顏回者一好レ學、不レ遷レ怒、不レ貳レ過。〔集注〕遷、移也、貳、復也、怒二於甲一者、不レ移二於乙一、過二於前一者、不レ復二於後一、顏子克レ己之功、至二於如レ此、可レ謂二眞好レ學矣。

【復レ怒】84 イカリヲフタタビス　ふたたびいかること。〔左氏、定、四〕無レ驕レ能、無レ復レ怒。

【怒移レ蟹】85 イカリヲカニニウツス　或る者に對する怒の情を、他の似たものに移すこと。晉の趙王倫が解系を惡むのあまり、同音の蟹を見てすら、之を惡んだ故事。解系は晉の大將。〔晉書、解系傳〕(趙王)倫秀、以二宿憾一收二系兄弟一、梁王肜救二系等一、倫怒曰、我於二水中一見レ蟹且惡レ之、況此人兄弟輕レ我邪、此而可レ忍、孰不レ可レ忍、肜苦二爭之一不レ得、遂害レ之、幷戮二其妻子一。〔蘇軾、故周茂叔先生濂溪詩〕怒移二水中蟹一、愛及二屋上烏一。

【怒而飛】86 フルツテトブ　鳥が翼を奮ひはげまして飛ぶこと。〔莊子、逍遙遊〕鵬之背不レ知二其幾千里一也、怒而飛、其翼若二垂天之雲一。〔宣穎注〕怒、猶レ奮也。

【怒毛獸】87 ドマウジウ　獸名。いかる時は毛が長くなるといふ。〔述異記、上〕封徹山中有二怒毛獸一、若不レ嗔、毛短三寸、若嗔、毛長三尺。

【不レ藏レ怒】88 イカリヲカクサズ　いかりをいつまでも胸中に包みかくしてゐない。いかるべきことがあれば直ちに發すること。〔孟子、萬章上〕仁人之於レ弟也、不レ藏レ怒焉、不レ宿レ怨焉、親二愛之一而已矣。

【怒獅之吼】89 nu^4 shih^1 chih^1 hou^3　悍婦の惡聲を形容していふ。

【怒者逆德】90 ドナルモノハギヤクトク　人はいかれば相爭ふに至ることから、怒りを逆德といふ。逆德は、道に從はない行。〔漢書、主父偃傳〕怒者逆德也、兵者凶器也。

【怒物作太刀】91 イカモノヅクリノタチ　毛皮の尻鞘などをかけて、いかめしく作つた太刀。嚴物作。嗔物作。

【怒者常情笑者不レ可レ測】92 ドシヤジヤウジヤウセウシヤハカルベカラズ　怒る者は人の常情によるものであるが、怒るべきに笑ふ者は其の人の心中をはかることが出來ない。〔通俗編、性情、怒者常情笑者不可測〕唐書魚朝恩傳、釋菜執レ易升レ坐言、鼎有二覆餗一、象三以侵二宰相一、王縉怒、元載怡然、朝恩云云。

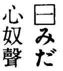
【⿱伮心】10440

ド　怒(**4―10439**)の古字。〔集韻〕怒、古作レ⿱伮心。

【怓】10441

㊀ ダウ ネウ　〔集韻〕尼交切　肴　ㄋㄠˊ nao^2

㊁ ダウ ニユ　〔集韻〕尼猷切　尤



小篆

㊀ **みだれる**。〔說文〕怓、亂也、从レ心奴聲、詩曰、㠯謹二惽怓一。㊁ **うれへる**。〔集韻〕怓、愁也。

【怓怓】1 ダウダウ　亂れるさま。〔詩、大雅、民勞〕以謹二惽怓一、〔疏〕惽怓者、其人好二鄙爭一、惽惽、怓怓然。

【㤓】 10442　㊀ボ モ　〔玉篇〕莫胡切　虞　㊁ブ ム　〔集韻〕罔甫切　麌

㊀**うける**。〔玉篇〕㤓、受也。㊁**あなどる**。侮(**1－630**)の古字。〔集韻〕侮、說文、傷也、一曰、慢也、古作レ㤓。

【𢗷】 10443　ボウ　謀(**10－35756**)に同じ。〔集韻〕謀、或作レ𢗷。

【㤹】 10444　シウ ジユ　〔集韻〕徐由切　尤

おもんぱかる。慒(**4－11082**)に同じ。〔集韻〕慒、爾雅、慮也、或作レ㤹。

【怔】 10445　セイ シヤウ　〔集韻〕諸盈切　ㄓㄥ chêng¹　ㄌㄥ lêng⁴　庚

❶**おそれあわてる**。征(**1－491**)に同じ。〔集韻〕征、方言、征伀、遑遽、或从レ心。❷**物のさま**。怔怔(3)を見よ。❸現㋑神經衰弱症。怔忡(4)の❶を見よ。㋺ぼんやりする。

【怔營】1 セイエイ　あわてて安んじないさま。おそれて安んじないさま。正營。征營。〔後漢書、郎顗傳〕怔營惶怖、靡レ知レ厝レ身。〔魏志、管寧傳〕光寵並臻、優命屢至、怔營竦息、悼レ心失レ圖。〔晉書、王濬傳〕惶怖怔營。

【怔忪】2 セイショウ　惶懼のさま。おそれるさま。〔玉篇〕怔、怔忪、懼皃。〔潛夫論、救邊〕軍書交馳、羽檄狎至、乃復怔忪如レ前。〔孔叢子、敍書〕怖駭內懷、迷冒怔忪耳。

【怔怔】3 セイセイ　❶じつと見るさま。〔紅樓夢、三十二回〕只是半個字、也不レ能レ吐、卻怔怔的望二著他一。❷さめざめと。〔紅樓夢、三十二回〕想二到此間一、也不レ覺怔怔的滴二下淚一來。

【怔忡】4 セイチュウ　❶病名。神經衰弱の類。〔國朝漢學師承記、汪中〕容甫以二勞心一、故病二怔忡一。〔燕子箋、入闈〕午後渾身熱、患二怔忡一。❷落ちつかないさま。〔還魂記、聞喜〕聲息兒恁怔忡、把二門兒一偸瞥。

【𢗓】 10446　㊀シウ ジユ　〔集韻〕而由切　尤　㊁ボウ

㊀**やすらか**。〔集韻〕𢗓、心安也。㊁懋(**4－11333**)に同じ。〔說文〕懋、𢗓、或省。

【㤉】 10447　ボウ　𢗓(**4－10446**)に同じ。〔正字通〕𢗓、㤉、通。

【怕】 10448　㊀ハ ヘ　〔集韻〕普駕切　ㄆㄚ pʻa⁴　禡　㊁ハク ヒヤク　〔集韻〕匹陌切　陌　㊂ハク バク　〔集韻〕白各切　藥

小篆

㊀❶**おそれる**。〔集韻〕怕、懼也。〔韓愈、縣齋有レ懷詩〕氣象杳難レ測、聲音吁可レ怕。❷**おそらくは**。うたがふ。〔紅樓夢、二十六回〕恐怕院內的丫頭、沒レ聽二眞是他的聲音一。❸**はぢる**。怕羞(11)を見よ。❹或は𢥮(**4－11519**)・㤀(**4－10368**)に作る。〔集韻〕怕、或从レ霸、从レ巴。❺**姓**。〔希姓錄〕怕、南中夷姓、正驥征二麓川一、賜二降夷三姓一、曰、怕・刀・剁。〔尙友錄〕怕、怕善布衣以レ策干二韓愈一、轉薦二裴度計一、擒二吳元濟一。㊁❶**しづか**。やすらか。手をつかねる。〔說文〕怕、無レ僞也、从レ心白聲。〔段注〕僞、各本作レ爲、今按、許以レ爲訓二母猴一、僞訓レ作也。〔老子、二十〕我獨怕兮其未レ兆。〔注〕我獨怕然安靜、未レ有二情欲之形兆一也。〔司馬相如、子虛賦〕怕乎無レ爲。❷古は息に書し、通じて泊(**6－17275**)に作る。〔集韻〕怕、古書作レ息、通作レ泊。㊂**しづか**。憺怕。㊁に同じ。〔集韻〕怕、憺怕、靜也。

【怕畏】1 ハヰ　おそれる。怕懼に同じ。

【怕驚】2 ハキヤウ　おそれおどろく。

【怕懼】3 ハク　おそれる。〔薛能、野園詩〕嬌養翠娥無二怕懼一、插二人頭上一任二風吹一。

【怕怯】4 ハケフ　おそれる。怕懼に同じ。

【怕乎】5 ハクコ　無爲のさま。〔司馬相如、子虛賦〕怕乎無レ爲。〔注〕善曰、說文、怕、無爲也。

【怕臊】6 pʻa⁴ sao⁴　はづかしがり。內氣な。

【怕殺】7 pʻa⁴ sha¹　恐怖を感ずる。非常におそろしいこと。殺は助字。

〖怕殺人〗8 pʻa⁴ sha¹ jen²　怕殺に同じ。

【怕煞】9 pʻa⁴ sha¹　おそれ憚って敢て云云しない。浙江餘杭地方の方言。

【怕羞】11 pʻa⁴ hsiu¹　はづかしがる。はにかみ。

【怕的】12 pʻa⁴ tê　おほかた。おそらくは。

【怕熱】13 pʻa⁴ jê⁴　暑さをおそれる。あつがり。愛熱。

【怕婆】14 pʻa⁴ pʻo²　妻をこはがる。嬶天下。

〖怕婆兒〗15 pʻa⁴ pʻo² êrh　妻を恐れる。嬶天下。

【怕婦】16 ハフ　嫉妬深い妻をおそれる。唐の御史大夫裴談の妻が嫉妬深く、談が之をおそれ憚った故事。〔本事詩〕中宗朝、御史大夫裴談妻悍妬、談畏レ之、時韋庶人頗襲二武后之風一、中宗漸畏レ之、內宴、伶人唱二迴波辭一云、迴波爾時栲栳、怕婦也是大好、外邊祇有二裴談一、內裏無レ如二李老一。

【怕痒】17 ハヤウ　こそばゆい。くすぐったい。怕痒花を見よ。

〖怕痒花〗18 ハヤウクワ　樹の名。木の膚を爪で搔くと梢が動搖するから名づく。さるすべり。百日紅。〔羣芳譜〕紫薇、一名百日紅、四五月始花、開謝接續、可レ至二八九月一、故名、一名怕痒花、人以レ手爪二其膚一、徹頂動搖、故名。

【怕冷】19 pʻa⁴ lêng³　寒さをおそれる。寒がり。「愛冷。

【怕得很】20 pʻa⁴ tê hen³　甚だおそろしい。こはくて耐らない。

【怕馬蘭】21 ハマラン　南洋羣島の地名。瓜哇中部の北岸。吧嗎壟。

【怕癢花】22 ハヤウクワ　百日紅の花の異名。怕痒花を見よ。〔格物總論〕紫薇花、俗名怕癢花、樹身光滑、俗因號爲二侯刺脫一。

【怕老婆】23 pʻa⁴ lao³ pʻo　妻をおそれる。嬶天下のこと。

【怕前怕後】24 pʻa⁴ chʻien² pʻa⁴ hou⁴　一から十までびくびくすること。

【㤏】 10449　トウ ツ　〔集韻〕他冬切　冬

❶**うれへる**。〔玉篇〕㤏、憂也。❷**おそれる**。**おそれあわてる**。〔廣雅、釋訓〕恎㤏、惶遽也。❸**姓**。〔集韻〕㤏、姓也。

【怖】 10450　ホ フ　〔集韻〕普故切　ㄅㄨ pu⁴　遇

❶**おそれる**。悑(**4－10653**)に同じ。〔說文〕悑、惶也、怖、悑或从二布聲一。〔集韻〕悑、說文、惶也、或从レ布。〔莊子、逍遙遊〕吾驚二怖其言一。〔宋玉、神女賦〕神心怖覆。〔注〕善曰、怖覆、謂二恐怖而反覆一也。〔魏志、袁紹傳〕董卓懷レ怖。❷**をののく**。〔沈遘、天台山詩〕欲レ躋毛骨怖。❸**おどす**。〔後漢書、第五倫傳〕依二託鬼神一、詐二怖愚民一。

【怖畏】1 フヰ　おそれる。おぢおそれる。〔後漢書、度尙傳〕怖二畏罪戾一。〔吳志、是儀傳〕同坐人皆怖畏。〔庾信、象戲賦〕顧望回惑、心情怖畏。

【怖駭】2 フガイ　おそれおどろく。〔司馬相如、喩二巴蜀一檄〕單于怖駭。〔蜀志、後主劉禪傳〕怖二駭王師一。

【怖鴿】3 フカフ　おどろいて飛ぶはと。〔梁簡文帝、

謝二賜錢一啓〕怖鴿獲ㇾ安、窮魚永樂。

【怖悸】4フキ　おそれてむなさわぎがする。〔後漢書、蔡邕傳〕征營怖悸、肝膽塗ㇾ地。〔魏略〕慙愧怖悸。〔韓愈、南海神廟碑〕觀顧怖悸。

【怖遽】5フキョ　おそれあわてる。〔魏志、夏侯尚傳、注〕豐怖遽氣索、足委ㇾ地不ㇾ能ㇾ起。

【怖恐】6フキョウ　おぢおそれる。恐怖（4－10552・・34）に同じ。

【怖懼】7フク　おそれる。おぢおそれる。怖畏。怖慴。恐怖。〔後漢書、馮異傳〕見二所ㇾ示ㇾ臣章一、戰慄怖懼。〔李密、陳情表〕臣不ㇾ勝二犬馬怖懼之情一。

【怖禍】8フクワ　わざはひをおそれる。〔後漢書、黃瓊傳〕萬夫怖ㇾ禍而木舌。

【怖罪】9フザイ　罪をおそれる。〔吳志、孫堅傳〕卓不ㇾ怖ㇾ罪、而鴟張大語。

【怖慴】10フセフ　おそれる。〔魏志、田豫傳〕遂使二左右斬ㇾ進、顯二其罪惡一以令ㇾ衆、衆皆怖慴不二敢動一。〔徐陵、爲二陳武皇一作ㇾ相時與二嶺南酋豪一書〕遠邇敬欣、華夷怖慴。

【怖懾】11フセフ　おびえおそれる。〔後漢書、郭玉傳〕臣懷二怖懾一以承ㇾ之。

【怖頭】12フトウ　室羅城の演若達多が、或る朝、鏡に面を映して、己の眉目の見るべきを喜び、還つて己を見るに、己の頭中の眉目を見るを得ず。因つて大いに怒り、魑魅の所作として狂走した故事。〔蘇軾、次二韻張甥棠美述志一詩〕我今已習鷲子定、猶復晨朝怖ㇾ頭走。〔注〕楞嚴經、演若達多忽于二晨朝一、以ㇾ鏡照ㇾ面、愛二鏡中頭、眉目可ㇾ見、忽瞋二責己頭不ㇾ見二面目一、以爲二魑魅一、無狀狂走。

【怖伏】13フフク　おそれてひれふす。

【怖覆】14フフク　おどろいてひつくり返る。轉倒する程びつくりする。〔宋玉、神女賦〕意離未ㇾ絕、神心怖覆。〔注〕善曰、怖覆、謂二恐怖而反覆一也。

【怖栗】15フリツ　怖慄に同じ。〔漢書、尹翁歸傳〕一郡怖栗、莫二敢犯ㇾ禁。

【怖慄】16フリツ　おそれふるへる。〔後漢書、隗囂傳〕今孺卿當二成敗之際一、遇二嚴兵之鋒一、可ㇾ爲二怖慄一。〔後漢書、馬援傳〕怨隙竝興、宗親怖慄。

【怗】10451

㈠テフ　〔集韻〕託協切　ㄊㄧㄝ t'ieh¹　葉
㈡テン　〔集韻〕多忝切　琰
㈢セン　〔集韻〕處占切　鹽
㈣テン　〔集韻〕癡廉切　鹽

㈠㈡❶しづか。おだやか。〔廣雅、釋詁四〕怗、靜也。❷したがふ。したがへる。〔玉篇〕怗、服也。〔公羊、僖、四〕卒怗ㇾ荊、以ㇾ此爲二王者之事一也。〔注〕怗、服也。❸或は惵（4－10861）に作る。〔集韻〕怗、或从ㇾ葉。❹拈（5－11945）・貼（10－36718）に通ず。〔公羊、僖、四、釋文〕怗、一本作ㇾ拈、一作ㇾ貼。㈢❶やぶれる。惉（4－10762）に同じ。〔集韻〕惉、音敝不ㇾ和、或作ㇾ怗。〔禮、樂記〕五者不ㇾ亂、則無二怗懘之音一。❷とどこほる。〔集韻〕怗、滯也。㈣❶やぶれる。音がみだれて調和しない。⿱占心（4－10452）に同じ。〔集韻〕⿱占心、惉懘、樂音不ㇾ和、或書作ㇾ怗。❷やすらか。〔集韻〕怗、說文、安也。

【怗滯】1センセイ　怗懘に同じ。〔正字通〕怗、怗滯也。

【怗懘】2センセイ　音樂の音が亂れて調和しないさま。惉滯。〔禮、樂記〕五者不ㇾ亂、則無二怗懘之音一矣。〔注〕怗懘、敝敗不ㇾ和貌。〔疏〕怗、敝也、懘、敗也、敝敗、謂二不和之貌一也。

【怗怗】3テフテフ　しづかなさま。〔元稹、高荷詩〕不ㇾ學二著水荃一、一生長怗怗。

【怗服】4テフフク　從ひ服する。〔王安石、曹公行狀〕還二故地一而至者千人、後遂怗服、皆爲ㇾ用。

【⿱占心】10452

㈠テン　㈠怗（4－10451）に同じ。〔集韻〕⿱占心、或書作ㇾ怗。
㈡セン　㈡惉（4－10762）に同じ。〔集韻〕惉、亦書作ㇾ⿱占心。

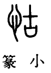
【怘】10453

コ　〔集韻〕古慕切　遇
ク

❶かため。又、かたく。又、かたい。固（3－4745）の古字。〔集韻〕固、說文、四塞也、一曰、再辞、一曰、堅也、古作ㇾ怘。❷まもる。〔玉篇〕怘、護也。❸もる。もれる。〔玉篇〕怘、漏也。❹つね。〔玉篇〕怘、常也。❺やすし。〔玉篇〕怘、安也。

【怙】10454

コ　〔集韻〕後五切　ㄏㄨˋ hu⁴　麌
ゴ


小篆

❶たのむ。たよる。つけこむ。〔說文〕怙、恃也、从ㇾ心古聲。〔爾雅、釋言〕怙、恃也。〔詩、小雅、蓼莪〕無ㇾ父何怙。〔釋文〕韓詩云、怙、賴也。〔左氏、宣、十五〕怙二其雋才一。〔宋史、樂志〕民所二依怙一。❷父の異稱。父をたのむを怙といふに本づく。母に恃と稱へるのに對する。又、父母の稱。〔正字通〕怙、按、怙・恃二字、分二言之一、父曰ㇾ怙、母曰ㇾ恃、云云、合二言之一、父母通謂二之怙一。〔詩、小雅、蓼莪〕無ㇾ父何怙、無ㇾ母何恃。❸或は⿰忄固（4－10742）に作る。〔集韻〕怙、或作ㇾ⿰忄固。〔太玄經、爭、赫河之臞、何可ㇾ⿰忄固也、注〕⿰忄固、與ㇾ怙同。

【怙依】1コイ　たよりにする。

【怙氣】2コキ　氣にたよる。勇氣をたのむ。〔漢書、匈奴傳下〕負ㇾ力怙ㇾ氣。

【怙險】3コケン　要害をたのみにする。〔晉書、慕容暐載記贊〕乘ㇾ危蝟起、怙ㇾ險鴟張。

【怙權】4コケン　權威をたのみにする。

【怙恃】5コジ　❶たのみにする。〔左氏、襄、十八〕怙二恃其險一。〔呂覽、審分〕不ㇾ知ㇾ乘ㇾ物而自怙恃。〔蜀志、廖立傳〕怙二恃勇名一、作ㇾ軍無ㇾ法。❷父母をいふ。字解❷を見よ。〔詩、小雅、蓼莪〕無ㇾ父何怙、無ㇾ母何恃。〔釋文〕韓詩云、怙、賴也、恃、負也。〔箋〕孝子之心、怙二恃父母一、依依然、以爲ㇾ不ㇾ可二斯須無一也、出ㇾ門則思ㇾ之而憂、旋入ㇾ門又不ㇾ見、如二入無ㇾ所ㇾ至。〔蘇轍、爲二兄軾下ㇾ獄上書〕臣早失二怙恃一、惟兄軾一人、相須爲ㇾ命。〔書言故事、父母類〕人喪二父母一、曰ㇾ失二怙恃一。

【怙終】6コシユウ　たのむ所あつて、再び罪を犯すをいふ。〔書、舜典〕眚災肆赦、怙終賊刑。〔傳〕怙姦自終、當三刑二殺之一。〔王先謙孔傳參正〕言、有ㇾ所ㇾ恃而終不二改過一者、如下賊二殺人一之刑不上赦ㇾ之也。〔蔡傳〕怙、謂ㇾ有ㇾ恃、終謂二再犯一。

【怙親】7コシン　親をたのみにする。〔漢書、文三王傳贊〕怙ㇾ親亡ㇾ厭、先禍告ㇾ罰、卒用憂死。

【怙勢】8コセイ　勢力をたのみにする。〔唐書、薛元賞傳〕禁屯怙ㇾ勢擾二府縣一。〔柳宗元、封建論〕姦利浚ㇾ財、怙ㇾ勢作ㇾ威。〔宋史、外戚傳序〕怙ㇾ勢犯ㇾ法、繩以二重刑一。

【怙寵】9コチョウ　人の寵愛をたのみにする。〔後漢書、朱穆傳〕恃ㇾ勢怙ㇾ寵之輩、漁二食百姓一。

【怙冒】10コバウ　たよりいただく。〔書、康誥〕我西土、惟時怙冒。〔傳〕惟是怙二恃文王之道一。〔蔡傳〕怙ㇾ之如ㇾ父、冒ㇾ之如ㇾ天。

【怙富】11コフ　とみにたよる。〔左氏、昭、元〕怙ㇾ富而卑二其上一。

【怙亂】12コラン　亂につけこむ。〔左氏、僖、十五〕史佚有ㇾ言、曰、無ㇾ始ㇾ禍、無ㇾ怙ㇾ亂。〔注〕恃二人亂一爲二己利一也。〔左氏、哀、十七〕怙ㇾ亂滅ㇾ國者無ㇾ後。〔孔叢子、獨治〕陳勝既立爲ㇾ王、其妻之父兄往焉、勝以二衆兵一待ㇾ之、長揖不ㇾ拜、無ㇾ加二其禮一、其妻之父怒曰、怙ㇾ亂僭ㇾ號而傲ㇾ長者、不ㇾ能ㇾ久矣、不ㇾ辭而去。

【怙照罪氣宮】13コセウザイキキユウ　六天の第四。六天（2－1453・・469）の❷を見よ。〔酉陽雜俎、玉格〕六天、四曰、怙照罪氣宮。

【⿰忄旧】10455

コウ

恒（4－10527）に同じ。〔字彙〕⿰忄旧、與ㇾ恒同。

【⿰忄右】10456

イウ

忧（4－10362）の俗字。〔篇海〕忧、亦作ㇾ⿰忄右。〔正字通〕⿰忄右、俗忧字。

【怚】10457

㈠シヨ〔集韻〕將豫切 御
㈡シヨ ジヨ〔集韻〕在呂切 語
㈢ソ〔集韻〕聽徂切 虞
㈣シヨ〔集韻〕千余切 魚

小篆

㈠❶おごる。たかぶる。〔說文〕怚、驕也、从㆑心且聲。〔晉書、嵇康傳〕恃㆑愛肆怚。❷或は㤿(4－10694)に作る。〔集韻〕怚、或作㆑㤿。㈡おごる。㈠の❶に同じ。〔集韻〕怚、驕也。㈢❶あらい。粗暴。〔集韻〕怚、心不㆑精也。〔史記、王翦傳〕秦王怚而不㆑信㆑人。❷はげしい。〔方言、十二〕怚、劇也。〔集韻〕怚、劇也。㈣ねたむ。〔集韻〕怚、妬也。

【怛】10458

㈠タン〔集韻〕得案切 翰
㈡タン〔集韻〕黨旱切 旱
㈢タツ タチ〔集韻〕當割切 ㄉㄚˊ ta² 曷
慣ダツ

小篆

或體

㈠❶いたむ。かなしむ。〔說文〕怛、憯也、从㆑心旦聲、⿱旦心、怛或从㆔心在㆓旦下㆒、詩曰、信誓⿱旦心⿱旦心。〔方言、一〕怛、痛也。〔詩、檜風、匪風〕中心怛兮。〔傳〕怛、傷也。❷うれへる。〔廣雅、釋詁一〕怛、憂也。❸ほこる。おごる。誕(10－35516)に通ず。〔說文通訓定聲〕怛、段借爲㆑誕。〔淮南子、繆稱訓〕矜怛生㆓於不足㆒。〔注〕怛、驕也。〔新書、道術〕克㆑行遂㆑節、謂㆓之必㆒、反㆑必爲㆑怛。❹或は⿱旦心(4－10459)に作る。〔集韻〕怛、或書作㆑⿱旦心。❺通じて旦(5－13734)に作る。〔集韻〕怛、通作㆑旦。㈡つかれる。憚(4－11222)に同じ。〔集韻〕憚、勞也、或作㆑怛。㈢❶いたむ。㈠の❶に同じ。〔集韻〕怛、說文、憯也。❷にくむ。うらむ。〔方言、十三〕怛、惡也。〔漢書、文帝紀〕惻怛不㆑安。〔注〕師古曰、怛、恨也、怛、音丁曷反。❸おどろく。おどろかす。〔廣雅、釋詁一〕怛、驚也。〔禮、儒行〕大讓如㆑慢、小讓如㆑僞。〔注〕不㆓愊怛㆒也。〔釋文〕怛、丹達反、驚怛也。〔莊子、大宗師〕叱避、无㆑怛㆑化。〔釋文〕怛、丁達反、云云、案、怛、驚也。❹或は⿱制心(4－10736)・憚(4－11222)に作る。〔集韻〕怛、或作㆓⿱制心・憚㆒。❺通じて旦(5－13734)・靼(12－42764)に作る。〔莊子、大宗師〕无㆑怛㆑化。〔釋文〕怛、崔本作㆑靼。〔莊子、大宗師〕有㆓旦宅㆒而無㆓情死㆒。〔釋文〕旦宅、李本作㆓怛⿰忄宅㆒、上丹末反、下陟嫁反、云㆓驚惋之貌㆒。〔列子、黃帝〕怛然內熱。〔釋文〕怛然、驚也。

【怛化】1 ダツクワ 人の死んで行くのをおどろかす。〔莊子、太宗師〕子來有㆑病、喘喘然將㆑死、其妻子環而泣㆑之、子犁往問㆑之曰、叱避、無㆑怛㆑化。〔注〕夫死生猶㆓寤寐㆒耳、於㆑理當㆑寐、不㆑願㆓人驚㆒㆑之、將㆓化而死㆒、亦宜㆑無㆑爲㆑怛㆑之也。〔釋文〕怛、驚也、崔本作㆑靼。

【怛傷】2 ダツシヤウ かなしみいたむ。〔楚辭、九章、抽思〕心怛㆓傷之㆒憺憺。

【怛然】3 ダツゼン おどろくさま。おそれるさま。いたむさま。〔列子、黃帝〕怛然內熱、惕然震悸矣。〔釋文〕怛然、驚也。〔漢書、杜鄴傳〕大風暴過、成王怛然。〔後漢書、譙玄傳〕怛然痛㆑心傷剝。〔蘇洵、送㆓石昌言使㆒㆑北引〕從者怛然失㆑色。

【怛咤】4 ダツタ かなしむさま。〔後漢書、列女、董祀妻傳〕㷀㷀對㆓孤景㆒、怛咤靡㆓肝肺㆒。

【怛⿰忄宅】5 ダツタ おどろきいたむさま。〔莊子、大宗師、旦宅、釋文〕李本作㆓怛⿰忄宅㆒、上丹末反、下陟嫁反、云、驚惋之貌。

【怛悼】6 ダツタウ かなしみいたむ。〔司馬遷、報㆓任少卿㆒書〕見㆓主上慘愴怛悼㆒、誠欲㆑效㆓其款款之愚㆒。

【怛怛】7 ダツダツ うれへくるしむさま。〔詩、齊風、甫田〕無㆑思㆓遠人㆒、勞心怛怛。〔傳〕怛怛、猶㆓忉忉㆒也。〔陳奐傳疏〕怛怛、亦憂勞之意、故云㆑猶㆓忉忉㆒也。

【怛惕】8 ダツテキ 傷み恐れる。かなしみうれへる。〔史記、文帝紀〕爲㆑之怛惕不㆑安。〔馬融、長笛賦〕處㆓志於怛惕㆒。

【⿱旦心】10459

ダツ

怛(4－10458)に同じ。〔說文〕怛、⿱旦心、怛或从㆔心在㆓旦下㆒。

【㣿】10460

ヱン

怨(4－10479)の古字。〔玉篇〕㣿、古文怨。

【怜】10461

㈠レイ リヤウ〔集韻〕郎丁切 ㄌㄧㄥˊ ling² 青
㈡レイ リヤウ〔集韻〕朗鼎切 迥
㈢レン〔集韻〕靈年切 ㄌㄧㄢˊ lien² 先

㈠かしこい。さとい。或は⿰忄靈(4－11524)に作る。〔集韻〕怜、心了也、或从㆑靈。㈡さとい。㈠に同じ。〔集韻〕怜、憭也。㈢あはれむ。いつくしむ。憐(4－11206)に同じ。〔廣韻〕憐、愛也、又哀矜也、怜、俗。〔集韻〕憐、說文、哀也、或作㆑怜。〔韋應物、休㆓暇東齋㆒詩〕捫㆑竹怜㆓粉汙㆒。

【怜賢】1 レイケン かしこいこと。

【怜殺】2 レンサツ レンサイ あはれむ。殺は助字。〔范梈、題㆓松雪圖㆒詩〕傍人不㆑識歲寒松、怜殺深山大雪封。

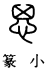
【怜質】3 レイシツ かしこい生れつき。

【怜悧】4 レイリ かしこい。りこう。こざかしい。伶俐(1－478・17)に同じ。〔朱淑眞、詩〕始知怜悧不㆑如㆑癡。

【思】10462

㈠シ〔集韻〕新茲切 ㄙ ssŭ¹ 支
㈡シ〔集韻〕相吏切 ㄙˋ ssŭ⁴ 寘
㈢サイ〔集韻〕桑才切 ㄙㄞ sai¹ 灰

小篆（說文）


小篆（段注本）

㈠❶おもふ。㋑おもひめぐらす。はかる。かんがへる。もと恖に作る。〔中華大字典〕思、本作㆑恖。〔說文〕恖、容也、从㆑心从㆑囟。〔段注〕凡深通皆曰㆑容、謂㆓之容㆒者、以㆓其能深通㆒也。〔說文通訓定聲〕思者、心神通㆓于𡿺㆒、故从㆑囟。〔釋名、釋言語〕思、司也、凡有㆑所㆓司捕㆒、必靜思、忖亦然也。〔六書總要〕思、念也、慮也、繹㆑理爲㆑思。〔書、洪範〕思曰㆑睿。〔禮、曲禮上〕嚴若㆑思。〔疏〕思、計慮也。〔荀子、解蔽〕仁者之思也恭。〔注〕思、慮也。〔毛詩指說〕梁簡文說曰、發㆑慮在㆑心、謂㆓之思㆒。㋺ねがふ。のぞむ。〔詩、大雅、文王〕思㆓皇多士㆒、云云。〔箋〕思、願也。㋩したふ。こがれる。〔詩、周南、關雎〕寤寐思服。〔列子、天瑞〕思士不㆑妻而感、思女不㆑夫而孕。㋥あはれむ。いつくしむ。〔方言、十〕凡言㆓相憐哀㆒、云云、江濱謂㆓之思㆒。〔詩、鄭風、褰裳〕子惠㆓思我㆒。㋭悲しむ。憂へる。〔張華、勵志詩〕吉士思㆑秋。〔注〕善曰、思、悲也。❷于思は、ひげの多いさま。〔集韻〕思、一曰、于思、多鬢皃。〔左氏、宣、二〕于思于思。〔釋文〕于思、如㆑字、又西才反、多鬢貌。❸助辭。㋑發語の助辭。發聲を助ける語。〔經傳釋詞、八〕思、發語詞也、車鞏曰、思孌季女逝兮、思、詞也、思孌季女、思齊大任、思媚周姜、句法相同、云云、文王曰、思皇多士、毛傳、思、辭也、思齊曰、思齊大任、又曰、思媚

周姜、公劉曰、思輯用光、思文曰、思文后稷、載見曰、思皇多祜、良耜曰、思媚其婦、泮水曰、思樂泮水、思字皆發語詞。〔詩、大雅、文王〕思皇多士。〔傳〕思、辭也。〔詩、魯頌、泮水〕思樂泮水。㋺句中の助辭。語勢を調へる語。〔經傳釋詞、八〕思、句中語助也、關雎曰、寤寐思服、桑扈曰、旨酒思柔、絲衣篇同、柔、和也、思柔與㆓其觩㆒對文、是思、語助也、云云、文王有聲曰、自㆑西自㆑東、自㆑南自㆑北、無㆓思不㆑服、無㆓思不㆑服、無㆑不㆑服也、思、語助耳、閔予小子曰、於乎皇王、繼㆑序思不㆑忘、繼㆑序思不㆑忘、繼㆑序不㆑忘也、云云、思皆句中語助。〔詩、大雅、文王有聲〕無㆓思不㆑服。㋩句末の助辭。語勢を調へる語。〔經傳釋詞、八〕思、語已詞也。〔詩、周南、漢廣〕不㆑可㆑求思。〔傳〕思、辭也。〔左氏、宣、十二〕鋪時繹思。〔疏〕思、是語之辭、不㆑爲㆑義也。❹**司察する。**司(**2**―**3257**)に通ず。〔說文通訓定聲〕思、叚借爲㆑司。〔周禮、地官、司市〕上㆓旌于思次㆒。〔注〕思次、若㆓今市亭㆒也、思、當㆑爲㆓司字㆒、聲之誤也。❺**えら。あぎと。**䚡(**10**―**35116**)に通ず。〔說文通訓定聲〕思、叚借爲㆑䚡、按、卽魚鰓之䚡。〔廣雅、釋言〕思、䚡也。❻古は恖(**4**―**10562**)・[illegible](**1**―**156**)・[illegible](**1**―**206**)・[illegible]・[illegible](**4**―**9613**)に作る。〔集韻〕思、古作㆓恖・[illegible]・[illegible]㆒。〔康熙字典〕思、古文[illegible]・[illegible]。❼斯(**5**―**13563**)に通ず。〔詩、小雅、我行其野〕言歸思復。〔唐石經〕言歸斯復。❽**國の名。**思士(117)を見よ。〖三〗❶**おもひ。おもんぱかり。**こころ。意志。〔集韻〕思、慮也。〔禮、玉藻〕書㆓思・對・命㆒。〔注〕思、所㆓思念㆒。〔揚雄、甘泉賦〕儲㆑精垂㆑思。❷**道德が純一で皆備はる。**〔書、堯典〕欽明文思安安。〔馬注〕道德純備、謂㆓之思㆒。❸**諡。**〔逸周書、諡法解〕道德純一曰㆑思、大省㆓兆民㆒曰㆑思、追㆓悔前過㆒曰㆑思、外內思索曰㆑思。〔後漢書、安思閻皇后紀、注〕諡法曰、謀慮不㆑愆曰㆑思。❹**姓。**〔萬姓統譜〕思、以㆑諡爲㆑氏。〖三〗❶**ひげの多いさま。**䰄(**12**―**45501**)に同じ。〔集韻〕䰄、髿䰄、多須皃、或作㆑思。〔左氏、宣、二〕于思于思。〔釋文〕于思、又、西才反、多鬚貌。❷**白頭のさま。**〔左氏、宣、二〕于思于思。〔釋文〕賈逵云、白頭貌。邦**おもひ。**㋑怨み。執念。一念。㋺喪にこもること。又、その間。喪中。

解字 會意。囟と心との合字。囟は小兒の腦の象形。頭腦と心とでおもふ意。

【思奧】1 シアウ 晉、虞潭(**9**―**32723**‥116)の字。

【思安】2 シアン 縣名。❶南朝宋、置く。今缺く。廣西省舊梧州府の境。❷後魏、置く。甘肅省徽縣の東南。〔讀史方輿紀要、陝西、鞏昌府、徽州〕思安廢縣、在㆓州東南㆒、後魏置、屬㆓廣化郡㆒、隋大業初、省入㆓河池㆒。❸北周、置く。湖北省南漳縣治。〔讀史方輿紀要、湖廣、襄陽府〕南漳縣、漢南郡臨沮縣地、後周置㆓沮州㆒、州尋廢、改㆑縣曰㆓思安㆒、隋初、郡廢縣屬㆓襄州㆒、十八年、改㆑縣曰㆓南漳縣㆒。

【思按】3 シアン 思案に同じ。

【思晏】4 シアン 縣名。唐、置く。四川省興文縣の境。思峨(33)の❷を見よ。

【思案】5 シアン ❶おもひめぐらす。かんがへ。工夫。分別。思索。❷心配。ものおもひ。

【思案顏】6 シアンガホ おもひこんで居るかほつき。〔心中天網島、上〕語ればうなづく思案顏。

【思案屈託】7 シアンクツタク 頻に考へこみ、其の事に心配して居ること。

【思案投首】8 シアンナゲクビ 考へこんで首を傾けて居ること。

【思庵】9 シアン 思菴を見よ。

【思菴】10 シアン 字號。❶明、韓陽(**12**―**43159**‥218)の號。❷明、吳訥(**2**―**3365**‥338)の號。❸明、薛敬之(**9**―**32123**‥165)の號。❹清、嚴虞惇(**2**―**4589**‥277)の號。❺清、葉矯然(**9**―**31387**‥184)の字。❻清、劉謙(**2**―**2224**‥255)の號。

【思黯】11 シアン 唐、牛僧孺(**7**―**19922**‥338)の字。

【思意】12 シイ こころ。かんがへ。〔鬼谷子、本經陰符〕無爲以包㆓志慮思意㆒、而行㆓威勢㆒者也。

【思惟】13 シヰ ❶おもんみる。かんがへる。又、其のこと。思念。〔漢書、董仲舒傳〕思㆓惟往古㆒。❷佛シユイ 所對の境を思量して分別すること。又、定心の無思想に對して、定前の一心の思想をいふ。〔無量壽經、上〕具㆓足五劫㆒、思惟攝㆓取莊嚴佛國清淨之行㆒。〔觀無量壽經〕教㆓我思惟㆒、教㆓我正受㆒。

【思惟樹】14 シユイジユ 菩提樹の異名。〔酉陽雜俎、廣動植、木篇〕菩提樹、出㆓摩伽陀國㆒、在㆓摩訶菩提寺㆒、蓋釋迦如來成道時樹、一名思惟樹。

【思允】15 シイン 明、陳洵仁(**11**―**41698**‥990)の字。

【思禹】16 シウ 明、盛洪(**8**―**23005**‥74)の字。

【思雲】17 シウン 清、吳爲龍(**2**―**3365**‥425)の字。

【思永】18 シエイ 字號。❶宋、李修己(**6**―**14459**‥1367)の字。❷明、周朝瑞(**2**―**3441**‥795)の字。❸明、談修(**10**―**35633**‥33)の字。

【思詠】19 シエイ 追慕して詩を詠ずること。〔歐陽脩、吉州學記〕周㆓覽學舍㆒、思㆓詠李侯之遺愛㆒。

【思杳】20 シエウ 思ひが深くはるかなこと。〔王損之、曙觀㆓秋河㆒賦〕瞻望空勞邈、九霄而思杳。

【思益】21 シエキ 蛇牀子の異名。はまぜり。〔爾雅、釋草、盱虺牀、疏〕釋曰、盱一名虺牀、郭云、蛇牀也、一名馬牀、廣雅云、案本草、蛇牀、一名蛇米、一名虺牀、一名思益、一名繩毒、一名棗棘、一名牆蘼。

【思益堂】22 シエキダウ 室名。❶清、周玉麒(**2**―**2441**‥611)の室名。❷清、周壽昌(**2**―**3441**‥705)の室名。

【思斁】23 シエキ 思ひ慕はれることといとはれること。〔法言、先知〕或問、爲㆑政有㆑幾、曰、思斁、或問㆓思斁㆒、曰、昔在周公、征㆓于東方㆒、四國是王、召伯述職、蔽芾甘棠、其思矣夫、齊桓欲㆑徑㆑陳、陳不㆑果㆑內、執㆓轅濤塗㆒、其斁矣夫、嗚呼、從㆑政者審㆓其思斁㆒而已矣、或問、何思何斁、曰、老㆓人老㆒、孤㆓人孤㆒、病者養、死者葬、男子畝、婦人桑、之謂㆑思、若汙㆓人老㆒、屈㆓人孤㆒、病者獨、死者逋、田畝荒、杼軸空、之謂㆑斁。

【思繹】24 シエキ 考へたづねる。〔世範、中、處㆑己〕反復思繹。

【思園】25 シヱン 清、陳涵(**11**―**41698**‥107)の號。

【思遠】26 シヱン ❶遠い祖先をおもふ。〔漢書、禮樂志序〕有㆓哀㆑死思㆑遠之情㆒、爲制㆓喪祭之禮㆒。❷字號。㋑三國蜀、諸葛瞻の字。㋺晉、應詹の字。㋩南朝宋、孔覬の字。㊁宋、汪雄圖の字。㋭明、謝廷寀の字。

【思翁】27 シヲウ 清、吳叔元(**2**―**3365**‥654)の號。

【思憶】28 シオク おもふ。考へる。〔韓偓、玉合詩〕中有㆔蘭膏漬㆓紅豆㆒、每回拈著長思憶。

【思恩】29 シオン ❶府名。唐、羈縻州に置く。宋、州とし、明亦府を置く。清には那馬廳・賓州及び武緣・遷江・上林の三縣、白山・興隆・定羅・舊城・都陽・古零・安定の七土司を管轄す。廣西省武鳴縣の西北。〔讀史方輿紀要、廣西〕思恩軍民府、古百越地、唐置㆓羈縻思恩州㆒、屬㆓邕州都督府㆒、宋仍爲㆓思恩州㆒、隸㆓邕州遷隆鎭㆒、元屬㆓田州路㆒、明初屬㆓田州府㆒、永樂三年、改隸㆓廣西布政司㆒、正統五年、改爲㆓思恩府㆒、尋升爲㆓軍民府㆒。〔清史稿、地理志〕廣西、思恩府、領㆓廳一、州一、縣三、土司七㆒、無㆓附郭縣㆒、武緣、賓州、遷江、上林、那馬廳、白山土司、興隆土司、定羅土司、舊城土司、都陽土司、古零土司、安定土司。❷縣名。㋑唐、置く。廣西省宜山縣の西北。環江の東岸。〔讀史方輿紀要、廣西、慶遠府、河池州〕思恩縣、本生蠻地、唐貞觀十二年、開㆓置思恩縣㆒、屬㆓環州㆒。〔清史稿、地理志〕廣西、慶遠府、縣三、思恩。㋺唐、置く。今缺く。廣西省舊南寧府の境。❸明、端廷赦(**8**―**25806**‥215)の字。

【思可】30 シカ 宋、葉齊(**9**―**31387**‥89)の字。

【思家】31 オモヒノイヘ ❶三界の火宅。煩惱に滿ちたこの世。❷ssŭ^1 chia^1 家を思ふ。家族をしたふ。

【思家的病】32 ssŭ^1 chia^1 tê ping^4 家を戀しがる病氣。思鄉病。懷鄉病。ホームシック。

【思峨】33 シガ ❶洞の名。四川省瀘縣の西南。❷を見よ。〔明一統志〕舊傳、爲㆓故思峨州地㆒、因名。❷州名。唐、羈縻州に置く。四川省瀘縣の西南。〔讀史方輿紀要、四川、瀘州〕思峨廢州、唐天授二

年所レ置羈縻州也、領多レ溪、洛・溪二一縣屬ニ瀘州都督府一、宋因レ之、熙寧八年內附、政和中、屬ニ長寧郡一云云、今州有ニ思峨洞一、或云、州蓋因レ洞而名。❸縣名。唐、置く。四川省興文縣の東。〔讀史方輿紀要、四川、敘州府、興文縣〕思晏廢縣、在ニ縣境一、唐志、晏州領ニ思峨・柯陰・新賓・思晏等縣七一。

【思行】34シカウ　字號。❶晉、虞騤(**9**－**32723**‥130)の字。❷陳、周弘正(**2**－**3441**‥653)の字。

【思考】35シカウ　❶おもひかんがへる。又、かんがへ。❷知覺によつて得た材料について反覆し、又、分離・結合等をする意識の作用。

〖思考力〗36シカウリヨク　思考する力。

【思孝】37シカウ　字號。❶明、陳登(**11**－**41698**‥494)の字。❷明、鄭華(**11**－**39647**‥89)の字。❸明、余胤緒(**1**－**515**‥68)の字。

【思耕】38シカウ　清、李敬謨(**6**－**14459**‥1097)の字。

【思學】39シガク　❶宋、董嗣杲(**9**－**31433**‥215)の改名。❷字號。㋑明、何自學(**1**－**511**‥287)の字。㋺明、蕭彥(**9**－**32012**‥110)の字。

【思感】40シカン　おもひおこす。〔唐書、馬周傳〕萬一有ニ太上皇思感一、欲三卽見ニ陛下一、何以逮レ之。

【思艱】41シカン　艱難を忘れぬ。〔書、大誥〕肆予沖人、永思レ艱。

【思韓】42シカン　清、江琦(**6**－**17140**‥77)の字。

【思顏】43シガン　後魏、杜顒(**6**－**14477**‥68)の字。

【思巖】44シガン　清、張宗橚(**4**－**9812**‥1292)の號。

【思危】45シキ　あやふきを忘れぬ。〔左氏、襄、十一〕書曰、居レ安思レ危。

【思歸】46シキ　家鄕にかへらんことをおもふ。思歸引を見よ。

〖思歸引〗47シキイン　琴曲の名。又、離拘操といふ。衞の賢女、邵王に聘せられ、未だ至らぬうちに王が薨じた。太子、女の賢を聞き、之を娶らうとしたが聽かれず、遂に深宮に捕ふ。女、歸らんことを思うて得ず、琴を援つてこの曲を作り、縊死した。晉の石崇、梁の劉孝威、唐の張祜に歌辭がある。〔樂府詩集、琴曲歌辭、思歸引〕一曰ニ離拘操一、琴操曰、衞有ニ賢女一、邵王聞ニ其賢一、而請レ聘レ之、未レ至王薨、云云、太子遂留レ之、果不レ聽、拘ニ於深宮一、思レ歸不レ得、遂援レ琴而歌、曲終、縊而死、晉、石崇思歸引序曰、崇少有ニ大志一、晩節更樂ニ放逸一、因覽ニ樂篇一、有ニ思歸引古曲一、有レ絃無レ歌、乃作ニ樂辭一。〔古樂府、思歸引〕涓涓泉水、流反ニ於淇一兮、有レ懷ニ於衞一、靡ニ日不レ思、執レ節不レ移兮、行不ニ詭隨一、坎坷何辜、分離ニ厥菑一。

〖思歸鳥〗48シキテウ　ほととぎすの異名。〔留靑日札〕子規爲ニ催春歸去之鳥一、蓋因三其聲曰ニ歸去了一、故又名ニ思歸鳥一。

【思沂】49シギ　清、周齊曾(**2**－**3441**‥746)の字。

【思宜】50シギ　明、邵誼(**11**－**39343**‥17)の字。

【思義】51シギ　❶正義の道をしたひおもふ。〔左氏、昭、十〕思レ義爲レ愈。〔論語、子張〕見レ得思レ義。〔國語、楚語下〕藍尹亹曰、君子臨レ政思レ義、飮食思レ禮。❷北周、岑善方(**4**－**7937**‥44)の字。

【思議】52シギ　おもひはかる。相談する。不可思議を見よ。〔大藏法數〕皆不レ可ニ心思口議一也。

〖不レ可ニ思議一〗53シギスベカラズ　理の深妙、事の希奇、心を以て思ふべからず、言を以て議すべからざること。不可思議。〔法苑珠林〕佛變化無量、三昧力不レ可ニ思議一。

【思九】54シキウ　清、孫鉉(**3**－**6987**‥85)の字。

【思休】55シキウ　北周、柳靖(**6**－**14662**‥155)の字。

【思舊】56シキウ　舊交をおもふ。〔晉書、向秀傳〕嵆康被レ誅、秀乃作ニ思舊賦一。〔李咸用、送三趙舒處士歸ニ廬山一詩〕思レ舊江雲斷、談レ玄嶽月移。

〖思舊賦〗57シキウフ　晉、向秀作。嵆康の舊廬、卽ち山陽の竹林を經、昔の遊宴を追思して作る。文選、卷十六に見ゆ。

【思吉】58シキツ　明、詹爾選(**10**－**35458**‥52)の字。

【思鄕】59シキヤウ　ふるさとをしたひおもふ。〔柳宗元、唐故特進贈開府儀同三司揚州大都督南府君睢陽廟碑〕洛陽城下思レ鄕之夢。

【思恭】60シキヤウ　❶後魏、趙溫(**10**－**37171**‥41)の字。❷金、完顏思敬(**3**－**7079**‥81)の初名。

【思勤】61シキン　川の名。廣西省昭平縣の東北。上流を富江といふ。古の靈溪水。源は富川縣北の符靈岡。灘江に合す。〔讀史方輿紀要、廣西、平樂府、昭平縣〕思勤江、縣東北百里、志云、源出ニ富川縣界丹霞洞一、流經ニ白蕈澗一至ニ思勤廢縣一、與ニ韋峒濁水江一合、又西南入ニ於府江一。

【思懼】62シク　おもひおそれる。〔孔子家語、五儀解〕君以ニ此思懼一、則懼可レ知矣。

【思化】63シクワ　後唐、崔協(**4**－**8178**‥69)の字。

【思和】64シクワ　後魏、郭景尙(**11**－**39474**‥277)の字。

【思過】65シクワ　自分の過失を反省する。〔漢書、韓延壽傳〕是日移レ病不レ聽レ事、因入ニ臥傳舍一、閉レ閤思レ過、一縣莫レ知レ所レ爲。

【思晦】66シクワイ　梁、王暕(**7**－**20823**　‥168)の字。

【思懷】67シクワイ　心におもふ。又、其のこと。

【思光】68シクワウ　南齊、張融(**4**－**9812**‥703)の字。

【思皇】69シクワウ　明、李獻明(**6**－**14459**‥1149)の字。

【思曠】70シクワウ　晉、阮裕(**11**－**41569**‥44)の字。

【思患】71シクワン　患害を思慮する。〔易、既濟〕象曰、水在ニ火上一既濟、君子以思レ患而豫防レ之。〔大戴禮、曾子立事〕君子見レ利思レ辱、見レ惡思レ詬、嗜欲思レ耻、忿怒思レ患、君子終身守レ此戰戰也。

【思願】72シグワン　おもひねがふ。又、其のこと。〔嵆康、琴賦〕固以自然神麗、而足ニ思願愛樂一矣。

【思訓】73シクン　明、虞宗濟(**9**－**32723**‥176)の字。

【思羣】74シグン　後魏、趙逸(**10**－**37171**‥14)の字。

【思敬】75シケイ　字號。❶北周、于謹(**1**－**252**‥31)の字。❷隋、柳莊(**6**－**14662**‥109)の字。❸明、官寅(**3**－**7107**‥13)の字。❹明、丁禮(**1**－**2**‥211)の字。❺明、繆恭(**8**－**27855**‥14)の字。❻明、楊善(**6**－**15112**‥263)の字。❼明、汪敬(**6**－**17154**‥52)の字。

【思結】77シケツ　❶種族の名。敕勒諸部の一。延陀故建牙の地に在り。〔唐書、回鶻傳上〕與ニ僕骨・渾拔・野古・同羅・思結・契苾六種一相等。❷複姓。回紇九姓の一。〔唐書、王君㚟傳〕盧山都督思結歸國、流ニ瓊州一。

【思兼】78シケン　字號。❶明、韓范(**12**－**43159**‥190)の字。❷明、宗周(閩縣の人)(**3**－**7106**‥124)の字。

【思乾】79シケン　井の名。廣東省茂明縣の東。〔太平寰宇記〕潘眞人煉丹之水、味甚香美、煎レ茶試レ之、與ニ諸水一異、高力士嘗奏取ニ其水一歸朝。

【思遣】80オモヒヤリ　他人の身の上をおもひやること。同情。〔源氏物語、末摘花〕おもひやりすくなう。

【思賢】81シケン　❶賢人を慕ひおもふ。〔蜀志、諸葛亮傳〕總ニ攬英雄一、思レ賢如レ渴。❷潛夫論の篇名。❸字號。㋑後魏、于忠(**1**－**252**‥74)の字。㋺後魏、徐招(**4**－**10110**‥187)の字。㋩宋、黃齊(建陽の人)(**12**－**47926**‥549)の字。㋥明、蔡哲(**9**－**31818**‥100)の字。

〖思賢苑〗82シケンエン　苑の名。漢の文帝が太子の爲に此の苑を立て賓客を招待す。〔西京雜記、三〕漢文帝爲ニ太子一立ニ思賢苑一、以招ニ賓客一。

〖思賢閣〗83シケンカク　清、丁履恆(**1**－**2**‥308)の室名。

〖思賢亭〗84シケンテイ　亭の名。江西省九江縣にあり。〔水經、贛水、注〕贛水又歷ニ白社西一、有ニ徐孺子墓一、云云、永安中、大守梁郡夏侯嵩、于ニ碑傍一立ニ思賢亭一、松大合抱、亭世脩治、至レ今謂ニ之聘君亭一。

【思縣】85シケン　縣名。民國、置く。本、貴州省岑鞏縣の地。

【思謙】86シケン　唐、蕭俛(**9**－**32012**‥247)の字。

【思獻】87シケン　字號。❶明、陳琛(**11**－**41698**‥476)の字。❷明、王瓚(**7**－**20823**‥436)の字。

【思顯】88シケン　清、王奐曾(**7**－**20823**‥1358)の字。

【思元】89シゲン　字號。❶晉、司馬繇(**2**－**3257**‥219)の字。❷晉、鄭默(**11**－**39647**‥268)の字。❸清、裕瑞(**10**－**34305**‥19)の字。「號。

〖思元齋〗90シゲンサイ　清、裕瑞(**10**－**34305**‥19)の

〖思元亭〗91シゲンテイ　明、莫是龍(**9**－**31078**‥110)の室名。

【思玄】92シゲン　字號。❶晉、江彪(**6**－**17140**‥390)の字。❷南朝宋、丘淵之(**1**－**33**‥129)の字。

〖思玄賦〗93シゲンノフ　文章の名。後漢、張衡作。文選卷十五、楚辭後語卷三に收む。〔後漢書、張衡傳〕衡常思ニ圖身之事一、以爲吉凶倚伏、幽微難レ明、乃作ニ思玄賦一、以宣ニ寄情志一。〔張衡、思玄賦、注〕順和二帝之時、國政稍微、專恣ニ內豎一、平子欲レ言ニ政事一、又爲三奄豎所ニ讒蔽一、云云、思ニ其玄遠之道一而賦レ之、以申ニ其志一耳。

〖思玄主人〗94シゲンシユジン　清、裕瑞(**10**－**34305**‥19)

の號。

【思古】95（コシ） いにしへをおもふ。〔班固、西都賦〕據二懷舊之蓄念一、發二思古之幽情一。〔班固、詠史詩〕上書詣二闕下一、思レ古歌二雞鳴一。

〖思古齋〗96（シコサイ） 清、顏元の書齋の名。顏元（12－43591‥41）を見よ。

〖思古人〗97（シコジン） 清、顏元（12－43591‥41）の號。

〖思古堂〗98（シコダウ） 清、毛先舒（6－16772‥303）の室名。

【思顧】99（シコ） おもひかへりみる。〔漢書、宣帝紀〕思二顧舊恩一、哀二曾孫一、奉養甚謹。

【思吾】100（シゴ） 明、檀武臣（6－15632‥72）の號。

【思弘】101（シコウ） 晉、司馬澹（2－3257‥291）の字。

【思恆】102（シコウ） 明、賀祖嗣（10－36725‥141）の字。

【思濟】103（シサイ） 明、唐汝楫（2－3709‥446）の字。

【思齋】104（シサイ） 字號。㊀宋、胡常（9－29400‥174）の號。㊁明、陳濟（11－41698‥394）の字。㊂明、鄭洛書（11－39647‥568）の號。㊃清、張廷琢（4－9812‥1381）の字。㊄清、王宏祚（7－20823‥1352）の號。

【思想】105（シサウ） ㊀かんがへ。意見。〔傳燈錄〕能斷二百思想一。㊁おもひやる。おもひめぐらす。〔曹植、盤石篇〕仰レ天長太息、思想懷二故邦一。〔王朗、與二許文休一書〕聞二消息于風聲一、託二舊情于思想一。〔應璩、與二侍郎曹長思一書〕足下去後、甚相思想。㊂物事を考へ、判斷し、推理する心の作用。又、其の結果得た意識の內容。

〖思想家〗106（シサウカ） 人生、社會などに對し、思想の豐富な人。思想に耽る人。主として社會思想、或は哲學思想に造詣の深い人。

〖思想界〗107（シサウカイ） ㊀思想上の範圍。㊁時代思潮を標榜する社會。㊂思想家の社會。

〖思想化〗108（シサウクワ） 雜駁な知識を分類し系統を立てること。醇化。

〖思想戰〗109（シサウセン） 近代戰爭體型中、海陸空の第一・二・三戰線に次いで、第四戰線ともいはれ、或る種の思想を相手國の國民の間に浸潤せしめて後方攪亂に資し、戰爭を有利に導くこと。近代戰爭の特徵の一である。

〖思想善導〗110（シサウゼンダウ） 國民の思想を善い方に導くこと。大正中期頃、急進思想排除の爲に提唱された標語。

【思臧】111（シザウ） 清、方坰（5－13620‥136）の字。

【思索】112（シサク） かんがへもとめる。おもひめぐらす。かんがへ。思案。工夫。〔周禮、考工記、㮚氏〕其銘曰、時文思索、允臻二其極一。〔注〕言是文德之君、思下求可二以爲レ民立上レ法者上、而作二此量一。〔荀子、大略〕禮之中焉、能思索、謂二之能慮一。〔荀子、勸學〕思索通レ之。〔管子、白心〕思索精者、明益衰。〔管子、內業〕思索生レ知、慢易生レ憂。〔史記、禮書〕禮之中能思索、謂二之能慮一。〔漢書、王莽傳中〕思索廣求。〔論衡、異虛〕思二索先王政一。

【思殺】113（シサツ・シサイ） 思ふこと。殺は助字。〔樓穎、西施石詩〕西施昔日浣紗津、石上青苔思二殺人一。

【思察】114（シサツ） 考へ明かにすること。考へてしらべる。〔北史、李惠傳〕惠長二於思察一。

【思贊】115（シサン） 明、陳皋謨（11－41698‥699）の字。

【思纂】116（シサン） 梁、周興嗣（2－3441‥662）の字。

【思士】117（シシ） ㊀賢士を得んことを思ふ。思士操を見よ。㊁思幽の國の男。妻無くして感ずるといふ。〔列子、天瑞〕思士不レ妻而感、思女不レ夫而孕。〔注〕大荒經曰、有二思幽之國一、思士不レ妻、思女不レ夫、精氣潛感、不レ假二交接一而生レ子也、此亦白鶂之類也。㊂感慨の深い人。〔蘇轍、黃州快哉亭記〕此皆騷人思士之所二以悲傷憔悴而不一レ能レ勝者。

【思士操】118（シシサウ） 琴曲の名。文王が太公望を得て悅び、賢士を思ふ意を述べたもの。〔琴操〕文王得二太公於渭陽一、大悅、遂以爲レ師、號二太公望一、乃授レ琴而鼓レ之、自敍二思士之意一、故有二思士操一。

【思子】119（シシ） ㊀子をおもふ。〔詩、邶風、二子乘舟〕願言思レ子、中心養養。㊁宮殿の名。漢の武帝が太子の罪なくして死んだのを憐んで造る。河南省閿鄉縣の舊城の東北。〔漢書、戾太子據傳〕上憐二太子無レ辜、乃作二思子宮一、爲二歸來望思之臺於湖一。㊂（オモヒゴ） かはゆくおもふ子。愛子。

〖思子蔓〗120（シシマン） 懸腸草の異名。〔述異記〕懸腸草、一名思子蔓、南中呼爲二離別草一。

【思次】121（シジ） 市官が市政を執る役所。市亭。〔周禮、地官、司市〕市之羣吏、平レ肆展レ成奠レ賈、上二旌于思次一以令レ市、市師涖焉、而聽二大治大訟一。〔注〕思次、若二今市亭一也、鄭司農云、思、辭也、次、市中候樓也、玄謂、思當レ爲レ司。〔孫詒讓正義〕此爲下司市總二治市政一之次上。

【思州】122（シシウ） ㊀府名。明、置く。清には玉屛・青溪の二縣を管轄す。民國、縣に改む。〔清史稿、地理志〕貴州、思州府、領二縣二一、玉屛・青溪。㊁州名。㋑唐、置く。貴州省婺川縣の地。元、思州軍民安撫司を置き、至元中、治を淸江に移す。今の貴州省思縣。〔讀史方輿紀要、貴州〕思南府、禹貢梁州荒裔、歷代爲二蠻夷地一、唐武德四年、置二務州一、貞觀四年、改爲二思州一、天寶初、曰二寧夷郡一、乾元初、復レ故、宋爲二羈縻蠻地一、政和八年、開二置思州一、宣和中、廢、紹興初、復爲二思州一、元置二思州軍民安撫司一、明朝洪武五年、改二思南宣慰使司一、隸二湖廣行省一、永樂十一年、改爲二思南府一、隸二貴州布政司一。㋺宋、羈縻州に置く。今闕く。四川省の境。㊂土司の名。唐、羈縻思明州に置く。清、土州とす。廣西省思樂縣の西。〔清史稿、地理志〕廣西、太平府、土州十六、土思州。

【思周】123（シシウ） 字號。㊀後魏、源奐（7－17926‥12）の字。㊁明、葉溥（9－31387‥123）の字。

【思秋】124（シシウ） 秋のあはれを感ずること。〔張華、勵志詩〕吉士思レ秋、寔感二物化一。〔注〕善曰、思、悲也。

【思質】125（シシツ） 清、潘奕藻（7－18236‥124）の字。

【思者】126（オモヒモノ） ㊀情人。戀人。〔用明天皇職人鑑、三〕㊁愛妾。

【思城】127（シジヤウ） 土司名。唐、羈縻思誠州に置く。明の土官趙斗清が知州の世襲を授けられた。思城州といふ。廣西太平府に屬す。〔讀史方輿紀要、廣西、太平府〕思城州、本西原農洞池、唐置二思城州一、隸二邕州都督府一、宋分二置上思城・下思城二州一、隸二太平寨一。

【思情】128（シジヤウ） おもひ。感情。〔張協、雜詩〕感レ物多二思情一、在レ險易二常心一。

【思淨】129（シジヤウ） 佛 宋の僧。錢塘の喩氏の子。阿彌陀佛を畫くに巧。西湖多寶山の石に鐫つて佛像を爲る。紹興の閒、示寂す。〔新續高僧傳、四十二〕。

【思若】130（シジヤク） 字號。㊀後魏、元欽（1－1340‥145）の字。㊁清、李世則（6－14459‥1542）の字。

【思受】131（シジユ） 明、南居益（2－2750‥816）の字。

【思叔】132（シシユク） 字號。㊀宋、徐得之（4－10110‥597）の字。㊁宋、張繹（4－9812‥63）の字。

【思出】133（オモヒデ） ㊀前の事を思ひ出して心を慰めること。回想。〔古今和歌集、一、春上〕梅の花戀しき時の思ひ出にせむ。㊁心のゆくこと。思ひがとどくこと。〔後拾遺和歌集、十三、戀三〕あらざらむ此世のほかの思出に。

【思述】134（シジユツ） おもひのべること。〔後漢書、楊厚傳〕厚少學二統業一、精力思述。

【思峻】135（シシユン） 清、王芝成（7－20823‥1575）の字。

【思悛】136（シシユン） 晉、江惇（6－17140‥341）の字。

【思純】137（シジユン） ㊀純粹の心を忘れぬこと。〔左氏、昭、二十八〕在レ約思レ純、有二守心一矣。〔注〕無二濫心一。㊁宋、羅處約（9－28397‥356）の字。

【思順】138（シジユン） ㊀順を思ふ。〔晉書、荀勖傳〕帝謂レ勖曰、君前作レ書使レ吳思レ順、勝二十萬之衆一也。〔應楨、詩〕言思二其順一、貌思二其恭一。㊁新論の篇名。㊂後魏、李沖（6－14459‥587）の字。

【思蓴】138′（シジユン） 故鄉を思ふこと。思鱸（264）を見よ。

【思初】139（シシヨ） 事のはじめをかへりみおもふ。〔史記、樂書〕佚能思レ初。

【思緒】140（シシヨ） 心緒の多端なこと。思ひ亂れること。〔晉書、潘岳傳論〕安仁思緒雲騫、詞鋒景煥。〔陸龜蒙、江南秋懷寄二華陽山人一詩〕江湖思緒縈、謳啞搖二舴艋一。

【思色】141（オモヒノイロ） くれなゐの色。〔古今集、俳諧〕耳無の山のくちなし得てしがなおもひの色の下ぞめにせむ。

【思心】142（シシン） おもひしたふ心。〔蘇武、詩四首、其三〕胡馬失二其羣一、思心常依依。

【思忱】143 ssŭ¹ ch'en² 衷心から思念する。

【思眞】144（シシン） ㊀明、雲南の人。世〻孟密安撫司となる。土人の幻術を用ひて民を惑はすものを征伐す。〔明史、三百十五〕。㊁明、段元一（6－16619‥79）の字。

【思進】145 字號。❶明、陳大科（11－41698‥1093）の字。❷明、馬炳然（12－44572‥940）の字。

【思愼】146 唐、竇兢（8－25695‥17）の字。

【思親】147 親をしたひおもふ。〔淮南子、詮言訓〕故祭祀思㆑親、不㆑求㆑福。

『思親操』148 琴曲の名。舜が歷山に遊び、烏の飛ぶのを見て、親を思つて作る。〔琴操〕舜耕㆓歷山㆒、思㆓慕父母㆒、見㆓鳩與㆑母俱飛鳴相哺食㆒、益以感思、乃作㆓此歌㆒。〔琴論〕舜作㆓思親操㆒、孝之至也。〔樂府詩集、琴曲歌辭、思親操〕古今樂錄曰、舜遊㆓歷山㆒、見㆓烏飛㆒、思㆑親而作㆓此歌㆒。〔虞舜、思親操〕陟㆓彼歷山㆒兮崔嵬、有㆑烏翔兮高飛、瞻㆓彼鳩㆒兮徘徊、河水洋洋兮青冷、深谷鳥鳴兮鸎鸎、設㆑罝張㆑罝兮思㆓我父母力耕㆒、日與㆑月兮往如㆑馳、父母遠兮吾當㆓安歸㆒。

『思親亭』149 明、謝昌（10－35827‥102）の室名。

【思人】150 ❶人をおもひ慕ふ。〔左氏、定、九〕思㆓其人㆒、猶愛㆓其樹㆒、況用㆓其道㆒而不㆑恤㆓其人㆒乎。〔潘岳、馬汧督誄〕思㆑人愛㆑樹、甘棠勿㆑翦。❷思をかけて居る人。戀人。〔愚管抄、五〕。

【思仁】151 ❶仁を思ふ。〔大戴禮、衞將軍文子〕獨居思㆑仁、公言思㆑義、其聞㆓之詩㆒也、一日三復㆓白圭之玷㆒、是南宮縚之行也。❷字號。㋑明、許成名（10－35298‥333）の字。㋺明、范景文（9－30834‥168）の號。㋩明、盧洪春（8－23050‥218）の字。

【思尋】152 考へたづねる。〔吳志、駱統傳〕心若㆓焚燎㆒、思㆓尋所㆑由。〔雲笈七籤〕閉㆑目思尋。

【思正】153 ❶正しい道を思ふ。〔大戴禮、曾子立事〕君子爲㆑小由㆑爲㆑大也、〔注〕常思㆑正也。❷字號。㋑宋、袁默（10－34152‥145）の字。㋺宋、張觀（4－9812‥244）の字。㋩明、吳中（武城の人）（2－3365‥300）の字。

【思政】154 善い政を布かんことをおもふ。〔北史、柳儉傳〕時帝勵㆑精思㆑政。

【思誠】155 ❶誠を思ふ。誠を致さんことを思ふ。〔孟子、離婁上〕是故誠者天之道也、思㆑誠者人之道也。❷字號。㋑宋、郭行（11－39474‥29）の字。㋺宋、陳景思（11－41698‥787）の字。㋩元、唐懷德（2－3709‥383）の字。㋥明、夏忠（3－5720‥203）の字。㋭明、項傣（12－43343‥33）の字。㋬明、吳悌（2－3365‥316）の字。㋣清、姚宏任（3－6202‥149）の字。

『思誠齋』156 明、倪以孚（1－792‥32）の號。

『思誠子』157 宋、張潤之（4－9812‥1196）の號。

【思齊】158 ❶賢者の爲す所を見て、己もそれに齊しからんことをおもふこと。〔論理、里仁〕子曰、見㆑賢思㆑齊焉、見㆓不賢㆒而內自省也。❷常に莊敬の德をおもふ。一說に、思は助語。〔詩、大雅、思齊〕思齊大任、文王之母。〔箋〕常思㆓莊敬㆒者大任也、乃爲㆓文王之母㆒。〔集傳〕思、語辭、齊、莊、此莊敬之大任、乃文王之母。❸詩經、大雅、文王之什の篇名。文王の德が由つて成る所あるを歌つたもの。〔詩、大雅、思齊序〕思齊、文王所㆓以聖㆒也。❹字號。㋑宋、陳從信（11－41698‥971）の字。㋺宋、陳非熊（11－41698‥1213）の字。㋩宋、王惟賢（7－20823‥1131）の字。㋥明、蔡汝賢（9－31818‥193）の字。

【思整】159 梁、沈崇傃（6－17189‥563）の字。

【思靜】160 清、鄒顯吉（11－39562‥85）の號。

【思召】161 人のかんがへをいふ敬稱。御意向。

【思寂】162 梁、王鶱（7－20823‥362）の字。

【思節】163 明、萬士和（9－31339‥584）の字。

【思妾】164 ものおもひに沈む女。〔梁元帝、閨怨詩〕蕩子從㆓游宦㆒、思妾守㆓房櫳㆒。

【思川】165 人の情を河にたとへていふ。〔後撰集〕思川絕えず流るる水の沫の。

【思仙】166 杜仲の異名。〔本草、杜仲〕釋名、思仲、思仙、木綿、檰、時珍曰、昔有㆓杜仲㆒、服㆑此得㆑道、因以名㆑之、思仲思仙皆由㆓此義㆒。

【思先】167 晉、袁曄（10－34152‥12）の字。

【思泉】168 字號。❶明、胡友信（9－29400‥395）の號。❷明、鄭心材（11－39647‥453）の號。

【思潛】169 ❶心におもふ。〔蘇舜欽、悲㆓二子㆒聯句〕思潛淚輒抽、慘舊面成㆑皺。❷三國蜀、尹默（4－7631‥86）の字。

【思善】170 ❶善を思ふ。〔管子、法法〕言必中㆑務、不㆓苟爲㆑辯、行必思㆑善、不㆓苟爲㆑難。〔南史、郭祖深傳〕法嚴則人思㆑善、德多則物生㆑惡。❷字號。㋑元、王繹（7－20823‥69）の字。㋺明、史繼志（2－3249‥203）の字。㋩明、方揚（5－13620‥437）の字。㋥明、李可登（6－14459‥911）の字。

【思祖】171 字號。❶晉、何遵（1－511‥106）の字。❷後魏、李修（6－14459‥403）の字。❸北齊、暴顯（5－14137‥50）の字。❹明、范敬先（9－30834‥169）の字。

【思聰】172 宋の僧。錢塘の人。字は聞復。琴及び書を學ぶ。作詩奇語多く、老僧碩儒皆敬愛す。〔新續高僧傳、四十二〕。

【思存】173 心を屬しよせる。心をのこす。〔詩、鄭風、出其東門〕雖㆓則如㆑雲、匪㆓我思存㆒。〔傳〕思不㆑存㆓乎相救急㆒。〔疏〕言、雖㆓衆多如㆑雲、非㆓我思慮所㆓能存救㆒。〔沈約、和㆓謝宣城㆒詩〕神交疲㆓夢寐㆒、路遠隔㆓思存㆒。〔注〕向曰、思慮所㆑存也。

【思忖】174 考へる。思考する。〔紅樓夢、三十三回〕心下疑惑、暗暗思忖道。

【思退】175 唐、孫成（3－6987‥182）の字。

『思退軒』176 清、張惟赤（4－9812‥775）の室名。

【思堂】177 字號。❶宋、章楶（8－25761‥113）の號。❷清、吳叔元（2－3365‥654）の字。

【思道】178 ❶正しい道をしたひおもふ。〔國語、楚語上〕於㆑是乎三年默以思㆑道。❷字號。㋑北周、泉企（6－17274‥11）の字。㋺唐、蕭倣（9－32012‥234）の字。㋩唐、劉洎（2－2224‥143）の字。㋥宋、陳洙（11－41698‥335）の字。㋭明、方豪（5－13620‥53）の字。

【思度】179 ❶思慮分別をいふ。〔吳志、魯肅傳、注〕思度宏遠。❷字號。㋑晉、阮放（11－41569‥37）の字。㋺南齊、袁廓之（10－34152‥182）の字。

【思致】180 文章を作る竟境。思理。思路。〔晉書、阮裕傳〕人云、裕骨氣不㆑及㆓逸少㆒、簡秀不㆑如㆓眞長㆒、韶潤不㆑如㆓仲祖㆒、思致不㆑如㆓殷浩㆒、而兼㆓有諸人之美㆒。〔南史、殷景仁傳〕景仁不㆑爲㆑文而敏㆓有思致㆒。〔任昉、爲㆓蕭揚州㆒薦㆑士表〕王僧孺年三十五、理尚棲約、思致恬敏。

【思遲】181 おもひのぞむ。おもひねがふ。〔後漢書、章帝紀〕朕思㆓遲直士㆒、側㆓席異聞㆒。〔注〕遲、猶㆓希望㆒也。

【思仲】182 ❶思仙（166）に同じ。❷宋、陳希伋（11－41698‥714）の字。

【思忠】183 明、雲南の人。世〻孟密安撫司となる。初名は混。兄思奔と嗣を爭ひ、緬人の壻となつて名を忠と改む。歸つて兄の印を奪ひ、其の地を以て緬に附す。萬曆中、明に歸し、宣撫を授けらる。〔明史、三百十五〕。

【思重】184 明、徐鼎（4－10110‥230）の字。

【思女】185 思幽の國の女。夫無くして孕むといふ。思士（117）を見よ。

【思徵】186 明、盛應期（8－23005‥208）の字。

【思直】187 後魏、元幹（1－1340‥94）の字。

【思亭】188 字號。❶清、吳修（2－3365‥207）の字。❷丹羽悳の號。

【思貞】189 ❶字號。㋑梁、劉之遴（2－2224‥988）の字。㋺明、陳師（11－41698‥293）の字。❷清、孔四貞（3－6933‥312）の一名。

【思鳥】190 ものがなしさうに鳴く鳥。〔陸機、赴㆑洛詩〕亹亹孤獸騁、嚶嚶思鳥吟。

【思潮】191 其の當時の思想界の傾向。一時代に於ける一般人の思想。思想の趨勢。

【思惕】192 陳、蕭乾（9－32012‥104）の字。

【思土】193 土地になづむこと。〔後漢書、西域、安息國傳〕海中善使㆓人思㆑土戀慕㆒。

【思德】194 明、王哲（7－20823‥839）の字。

【思敦】195 明、南居仁（2－2750‥818）の字。

【思南】196 ❶府名。明、置く。清には安化・婺川・印江の三縣を管轄す。民國、縣に改む。〔清史稿、地理志〕貴州、思南府、領㆓縣三㆒、安化、婺川、印江。❷縣名。民國、置く。貴州省德江縣の東南。烏江の西北岸。唐の思州、明の思南府の地。❸陳、顧越（12－43689‥23）の字。

【思入】197 ❶心をこめる。〔西鶴置土產、三〕是非此思入一生のうちにあだにはなさじ。❷演劇で、臺詞をいはずに、無言で意味ありげにするしぐさ。〔男伊達初買曾我、一〕十郎思ひ入れして。

【思念】198 おもふ。かんがへる。又、おもひ。思惟。かんがへ。〔國語、楚語下〕思㆓念前世之崇

替一。〔戰國、燕策〕今臣聞、王居處不レ安、食飲不レ甘、思二念報一レ齊、身自削二甲札一、妻自組二甲絣一、曰、有二大數一矣、有レ之乎。〔漢書、東平思王傳〕王太后強餐、止二思念一、愼レ疾自愛。〔後漢書、安帝紀〕思二念厥咎一。

【思方】199シハウ　陳、周弘直（2－3441‥655）の字。

【思邦】200シハウ　國をおもふ。〔鮑照、還レ都口號詩〕君王遲二京國一、遊子思二鄉邦一。

〖思邦歌〗201クニシヌビウタ　日本武尊が能褒野で國を思ひ給うた歌。又、景行天皇が日向國子湯縣に行幸して、丹裳小野で野中の大石に登り、京都の方を思ひ給うた歌。〔古事記〕・〔日本書紀〕。

【思茅】202シバウ　縣名。民國、置く。雲南省寧洱縣の南。緬甸から雲南に入る要道。清の光緒二十一年、開放して商埠とす。英國領事を置く。〔清史稿、地理志〕雲南、普洱府、廳二、思茅廳。

【思望】203シバウ　おもひのぞむ。したふ。〔詩、鄭風、東門之墠〕豈不二爾思一、子不二我卽一。〔箋〕我豈不三思二望女一乎、女不二就迎レ我而俱去一耳。〔詩、大雅、烝民〕仲山甫徂レ齊式遄二其歸一、〔疏〕言三周人思二望仲山甫一也。

【思白】204シハク　字號。㊀明、樂純（6－15399‥138）の字。㊁明、董其昌（9－31433‥187）の號。

【思伯】205シハク　字號。㊀後魏、甄琛（7－21557‥32）の字。㊁明、梁孜（6－14825‥100）の字。

【思邈】206シバク　宋、黃彥遠（12－47926‥1080）の字。

【思反】207シハン　履行することをおもふ。反は復、ふみ行ふ。〔詩、衞風、氓〕不レ思二其反一、反是不レ思、亦已焉哉。〔箋〕反、復也、今老而使二我怨一、曾不レ念レ復二其前言一。

【思範】208シハン　字號。㊀晉、賈模（10－36755‥129）の字。㊁梁、王瞻（7－20823‥704）の字。㊂後魏、崔模（4－8178‥163）の字。

【思媚】209シビ　常に思ひ愛すること。媚は愛。一說に、思は助語。〔詩、大雅、思齊〕思二媚周姜一、京室之婦。〔箋〕又常思下愛大姜之配二大王一之禮上、故能爲二京室之婦一。〔集傳〕思、語辭。〔詩、周頌、載芟〕思二媚其婦一、有レ依二其士一。〔陸機、答二賈長淵一詩〕思二媚皇儲一、高二步承華一。

【思寐】210オモヒネ　深く或る事を思ひながらねること。〔古今集、戀二〕君をのみ思ひねにねし夢なれば。

【思弼】211シヒツ　後魏、陸叡（11－41708‥18）の字。

【思婦】212シフ　㊀うれひをふくむ婦人。〔陸機、爲二顧彥先一贈レ婦詩〕東南有二思婦一、長歎充二幽闥一。〔注〕善曰、曹子建七哀詩曰、上有二愁思婦一、悲歎有二餘哀一。〔沈約、應二王中丞思遠詠一レ月詩〕高樓切二思婦一、西園游二上才一。㊁鳥の名。〔宋玉、高唐賦〕姊歸・思婦。〔注〕善曰、郭璞曰、思婦亦鳥名也。〔異物記〕思婦橫公。〔注〕思婦、鳥名、橫公、魚名。

〖思婦病母〗213シフビヤウボ　妻に遭ひたいために、母の病氣に託して休假を求めること。〔魏志、梁習傳注〕魏略苛吏傳曰、云云、爲二大司農一、年老目瞑、瞋怒無レ度、云云、時有二吏父病篤一、近在二外舍一、自白求レ假、思疑二其不一レ實、發レ怒曰、世有二思婦病母者一、豈此謂乎、遂不レ與レ假。

【思服】214シフク　常に思つて忘れない。したひこがれる。〔詩、周南、關雎〕求レ之不レ得、寤寐思服。〔傳〕服、思レ之也。〔後漢書、章帝紀贊〕思二服帝道一。

【思復】215シフク　元、錢惟善（11－40563‥247）の字。

〖思復堂〗216シフクダウ　清、邵廷采（11－39343‥138）の室名。

【思紛】217シフン　思ひみだれる。〔陸機、文賦〕遵二四時一以歎レ逝、瞻二萬物一而思紛。

【思文】218シブン　㊀詩經、周頌、清廟之什の篇名。后稷の德が能く天に配するを頌す。〔詩、周頌、思文序〕思文、后稷配レ天也。〔集傳〕思、語詞、文言レ有二文德一也。㊁明の唐王、朱聿鍵（6－14424‥666）の帝號。〔明季、三朝野史〕思文紀略。㊂字號。㋑梁、王彬（7－20823‥915）の字。㋺唐、崔彥昭（4－8178‥250）の字。㋩宋、徐膺（4－10110‥304）の字。

【思平】219シヘイ　縣名。晉、置く。廣東省恩平縣の北。

【思勉】220シベン　明、滕德懋（7－18036‥57）の字。

【思辨】221シベン　考へわける。おもひわきまへる。〔中庸〕博學レ之、審問レ之、愼思レ之、明辨レ之、篤行レ之。

〖思辨錄〗222シベンロク　書名。㊀三十五卷。清、陸世儀撰。十五門に分つ。劉蓉に思辨錄疑義一卷がある。〔正誼堂全書〕。㊁朝鮮、朴世堂撰。詩・書・四書の注解。朱注を駁すること多く、當時、朱子學萬能の故を以て刊行を禁ぜらる。今、朴箕陽氏所藏、東大圖書館に寫本がある。

〖思辨錄輯要〗223シベンロクシフエウ　書名。三十五卷。清、陸世儀撰。原本は卷帙繁重なので、張伯行が其の文を刪削し、十四門に分けて編次す。〔四庫提要、子、儒家類〕。

【思慕】224シボ　おもひしたふ。戀ふ。〔禮、問喪〕思慕之心、孝子之志也。〔荀子、禮論〕是致二隆思慕一之義也。〔史記、仲尼弟子傳〕弟子思慕。〔後漢書、莎車國傳〕思二慕漢家一。〔白虎通、誅伐〕哀二孝子之思慕一、不レ忍レ加二刑罰一。〔南史、滕曇恭傳〕每レ至二忌日一思慕。

【思謀】225シボウ　思ひはかる。〔晉書、太原王瓌傳〕鎭二守許都一、思謀可レ紀。

【思穆】226シボク　後魏、元雍（1－1340‥581）の字。

【思本】227シホン　明、李文忠（6－14459‥1916）の字。

【思摩】228シマ　竹の名。〔南方草木狀〕思摩竹、如レ竹而大、筍生二其節一、交廣所在皆有レ之。

【思孟】229シマウ　宋、田闢（7－21723‥279）の字。

【思曼】230シマン　南齊、張緒（4－9812‥420）の字。

【思務】231シム　新語の篇名。

【思夢】232シム　六夢の一。常に思念する所を夢にみること。〔周禮、春官、占夢〕三曰、思夢。〔注〕覺時所三思二念之一而夢。〔孫詒讓正義〕思念則情感蘊結、因而成レ夢、潛夫論、夢列篇云、晝有レ所レ思、夜夢二其事一、乍吉乍凶、善惡不レ信者謂二之想一、思念與レ想義同。〔列子、周穆王〕三曰、思夢。

【思明】233シメイ　㊀州名。㋑唐、羈縻州に置く。清、土州とす。廣西省思樂縣。〔讀史方輿紀要、廣西〕思明府、古百越地、唐置二羈縻思恩州一、隸二邕州都督府一、宋隸二永平寨一、明初、改爲二思明府一。㋺宋、置く。廣西省寧明縣。〔讀史方輿紀要、廣西、太平府〕思明州、本羈縻蠻地、宋置二思明州一、屬二太平寨一、元屬二思明路一、明初、屬二思明府一。㊁縣名。宋以前は同安縣に屬し、嘉禾嶼といふ。明の時、臺灣の鄭氏、思明縣を立つ。民國、復置く。今、福建省廈門市。南洋貿易の要衝地。廈門（4－9435‥2）の㊀を見よ。㊂字號。㋑南朝宋、沈懷文（6－17189‥478）の字。㋺陳、淳于量（7－17690‥15）の字。㋩明、傅啓（1－939‥46）の字。

【思濛】234シモウ　江名。源は四川省丹稜縣の東南。眉山南境を經て青神に至つて岷江に入る。古の思濛水。又、夷郎川といふ。〔讀史方輿紀要、四川、眉州〕思濛江、州南五十里、其上流卽青衣江也、自二丹稜縣東南一流入二州界一、過二思濛鄉一至二青神縣境一、下流入二蜀江一。

【思默】235シモク　明、萬廷言（9－31339‥615）の號。

【思問】236シモン　㊀おもひとふ。㊁明、何光裕（1－511‥244）の字。

〖思問錄〗237シモンロク　書名。㊀二卷。清、王夫之撰。漢儒の學を門戶とし、宋の五子を堂奧とし、其の跡を逐つて自說を主張す。〔船山遺書、七十三〕。㊁一卷。清、顧道禊撰。

【思約】238シヤク　字號。㊀南齊、張沖（4－9812‥556）の字。㊁梁、孫廉（3－6987‥303）の字。

【思與】239シヨ　宋、袁點（10－34152‥120）の字。

【思豫】240シヨ　明、陸楫（11－41708‥140）の字。

【思容】241シヨウ　元、于欽（1－252‥29）の字。

【思欲】242シヨク　思ひ欲する。〔魏武帝、苦寒行〕我心何怫鬱、思二欲一東歸一。

【思儡】243シライ　樹木の名。水中に百年漬けても腐らぬといふ。〔桂海虞衡志、草木志〕思儡木、生二兩江州洞一、堅實、漬二鹽水中一、百年不レ腐。

【思牢】244シラウ　竹の名。思牢國に產す。⿱竹思簩。〔異物志〕南方思牢國產レ竹、可レ礪二指甲一、卽今⿱竹思簩竹也。〔李商隱、射魚曲〕思牢弩箭磨二清石一、繡額蠻渠三虎力。

【思勞】245シラウ　勞苦を思ひやる。〔孔子家語、五儀解〕君以レ此思レ勞、則勞亦可レ知矣。

〖思勞香〗246シラウカウ　香の名。日南に產す。〔桂海虞衡志〕思勞香、出二日南一、如二乳香一、交趾人用以合二和諸香一。

【思樂】247シラク　縣名。民國、置く。廣西省崇善縣の南。左江の支流明江の南岸。

〖思樂軒〗248シラクケン　清、顧人龍（12－43689‥297）の室名。

【思理】249シリ　思致（180）に同じ。〔資治通鑑、宋紀〕文帝元嘉二十八年、好レ學有二思理一。〔注〕思理、猶レ言二思致一也。

【思立】250 シリツ 明、梁士楚(**6－14825**・・254)の字。

【思量】251 シリヤウ ㊀意志と局量。〔蜀志、黃權傳評〕黃權弘雅思量、李恢公亮志業。㊁おもひはかる。かんがへめぐらす。種々に考案する。思料。〔顏氏家訓、歸心〕何況神通感應、不㆑可㆓思量㆒。〔元稹、和㆔樂天夢㆓亡友劉太白同遊㆒二首㆒詩〕閑坐思量小來事、祇應元是夢中遊。㊂思慮の量度。〔法華經、方便品〕是法非㆔思量分別之所㆓能解㆒。

【思慮】252 シリヨ おもんぱかる。かんがへる。又、かんがへ。分別。〔國語、周語下〕聽㆑言昭㆑德、則能思慮純固、以㆑言㆓德於民㆒。〔莊子、在宥〕思慮不㆓自得㆒。〔荀子、性惡〕聖人積㆓思慮㆒習㆓僞故㆒。〔管子、形勢解〕故以㆓聖人之智㆒思慮者、無㆑不㆑知也。〔墨子、尙賢中〕謹㆓其言㆒、愼㆓其行㆒、精㆓其思慮㆒。〔史記、太史公自序〕達㆓太王王季之思慮㆒。

【思陵】253 シリヨウ ㊀陵名。㋑金の熙宗の陵。河北省房山縣の峨眉谷。〔金史、熙宗紀〕(皇統九年)十二月、帝崩、葬㆓於皇后裴滿氏墓中㆒、貞元三年、改葬㆓於大房山蓼香甸㆒、大定初、追㆓謚武靈皇帝㆒、陵曰㆓思陵㆒、二十八年、以㆓思陵狹小㆒、改葬㆓於峨眉谷㆒、仍號㆓思陵㆒。〔思陵錄〕爰命㆓有司㆒、卜㆑地涓㆑日、奉㆓遷梓宮㆒、已於㆓十月初八日㆒、備㆑禮葬㆓於思陵㆒、庶幾有㆔以慰㆓在天之靈㆒也。㋺明の懷宗、愍帝の陵。河北省昌平縣の錦屛山。〔明史、莊烈帝紀二〕(崇禎)十七年、夏四月、我大淸兵破㆓賊於山海關㆒、五月、入㆓京師㆒、以㆓帝禮㆒改葬、令㆔臣民爲服喪㆓三日㆒、謚曰㆓莊烈愍皇帝㆒、陵曰㆓思陵㆒。〔畿輔通志〕思陵、在㆓昌平州錦屛山㆒。㊁山名。廣西省桂平縣の西。又、思靈に作る。西山。〔讀史方輿紀要、廣西、潯州府、桂平縣〕思陵山、城西五里、一名西山、亦曰㆓西陵㆒、秀峙穹窿、映㆓帶府治上㆒。㊂土司の名。唐、羈縻州に置く。明初、土官韋元壽の世襲。廣西省思樂縣の地。〔讀史方輿紀要、廣西〕思陵州、漢交趾郡地、後爲㆓溪洞雜夷所㆒㆑據、唐置㆓羈縻思陵州㆒、屬㆓南安都護府㆒、宋屬㆓永平砦㆒、元屬㆓思明路㆒、明朝洪武初、省入㆓思明府㆒、二十一年、復置㆑州。〔淸史稿、地理志〕廣西、太平府、土州十六、思陵土州。

【思力】254 シリヨク ㊀思慮の及ぶ限度。〔梁昭明太子、與㆓何胤㆒書〕才性有㆑限、思力匪㆑長。㊁複姓。〔隋書、突厥傳〕素軍㆓河北㆒、値㆓突厥阿勿思力俟斤等㆒、南度掠㆓啓民男女六千口㆒。

【思林】255 シリン 縣名。民國、置く。本、上林土縣。廣西省に屬す。後、平治と改む。

【思禮】256 シレイ ㊀禮を思ふ。〔國語、楚語下〕君子臨㆑政思㆑義、飮食思㆑禮。〔說苑、修文〕君子思㆑禮以修㆑身、則怠惰慢易之節不㆑至。〔馮衍、遺㆓田邑㆒書〕大丈夫動則思㆑禮、行則思㆑義。㊁後魏、源懷(**7－17926**・・11)の名。㊂陳、岑之敬(**4－7937**・・42)の字。

【思齡】257 シレイ 淸、王綱(**7－20823**・・144)の號。

【思料】258 シレウ おもんぱかる。かんがへはかる。思量。

【思廉】259 シレン 元、張憲(**4－9812**・・278)の字。

【思戀】260 シレン こひおもふ。おもひしたふ。〔蘇武、詩〕思心常依依。〔注〕善曰、依依、思戀之貌也。〔水經、涑水注〕禹娶㆓塗山氏女㆒、思㆓戀本國㆒、築㆑臺以望㆑之。

【思路】261 シロ 思致(180)に同じ。

【思魯】262 シロ 元、王沂(**7－20823**・・213)の字。

【思露】263 オモヒノツユ 涙をいふ。〔風雅和歌集、序〕おもひのつゆ光をみがきて。

【思鱸】264 シロ 吳の鱸を思ふ。鱸ははぜに似た淡水魚。名譽や爵位を求めずに悠悠自適せんことを思ふ喩。〔晉書、張翰傳〕齊王冏辟爲㆓大司馬東曹掾㆒、翰因㆑見㆓秋風起㆒、乃思㆓吳中菰菜蓴羹鱸魚膾㆒曰、人生貴㆓適志㆒、何能羈㆓宦數千里㆒以要㆓名爵㆒乎、遂命㆑駕而歸、俄而冏敗、人皆謂㆓之見㆑幾。

〖思鱸亭〗265 シロテイ 宋、范成大(**9－30834**・・220)の室名。

【思祿】266 シロク 明の人。任發の少子。任發、誅せられて後、其の部衆に擁せられ、王驥等の許を得て孟養の地の土目となる。〔明史、三百十四〕。

【思論】267 シロン かんがへ論ずること。〔魏志、蔣濟傳〕每得㆔所㆑陳實入㆓吾意㆒、自今討賊計畫善思㆓論之㆒。

【思王】268 シワウ 諡號。㊀周、三十代の王。貞定王の子。名は叔。兄、哀王を殺して自立し、五箇月で少帝弟嵬に殺さる。〔史記、四〕。㊁前漢、常山憲王の子。三萬戶の泗水王に封ぜらる。〔漢書、五十三〕。㊂前漢、宣帝の子。東平王。劉宇(**2－2224**・・29)を見よ。㊃後漢、光武帝の子。廣陵王。劉荆(**2－2224**・・228)を見よ。㊄三國魏、陳思王曹植をいふ。曹植(**5－14297**・・118)を見よ。〔元稹、代㆓曲江老人㆒百韻詩〕班女恩移㆑趙、思王賦感㆑甄。

【思旺】269 シワウ 鎭の名。廣西省平南縣の西北、思旺江の東岸。

【思惑】270 シワク ㊀[佛]新に修惑といひ、舊に思惑、愛惑、假惑といふ。三乘の聖人修道に於て斷ずる貪瞋痴等の迷事の惑である。小乘には三界合して十惑あり、大乘には十六惑あり。㊁オモハク ㋑考へ。思ふところ。㋺その人に對する世間の評判。氣うけ。㊇相場を豫想すること。投機。思惑買を見よ。

〖思惑買〗271 オモハクガヒ 取引所用語。相場の變動による投機的利益を目論み、他日の値上りを豫期して買ふこと。

【構㆑思】272 オモヒヲカマフ かんがへをこらす。思想を練る。構想。〔晉書、左思傳〕遂構㆑思十年、門庭藩溷、皆著㆓筆紙㆒、遇㆑得㆓一句㆒、卽便疏㆑之。

【無㆑思】273 オモヒナシ 何のおもひもないこと。〔劉伶、酒德頌〕無㆑思無㆑慮。

〖無㆑思無㆑慮始知㆑道〗274 シナクリヨナクハジメテミチヲシル おもんぱかり考へることなくして始めて道を知ることが出來る。自然にして道に合ふことをいふ。〔莊子、知北遊〕黃帝曰、無㆑思無㆑慮始知㆑道、無㆑處無㆑服始安㆑道、無㆑從無㆑道始得㆑道。

【思貽齋】275 シイサイ 細井知愼の號。細井廣澤(**8－27344**・・334)を見よ。

【思貽堂】276 シイダウ 淸、羅鑒龜(**9－28397**・・311)の室名。

【思維樹】277 シヰジユ 椶櫚の一種。印度で寫經に用ひる。貝多。〔廣州記〕有㆑人坐㆓貝多樹下㆒思維、因以名焉。

【思越人】278 シエツジン 詞牌の名。〔詞譜〕調見㆓花間集㆒、按、孫光憲詞、館娃宮外春深、張泌詞、越波堤下長橋、俱咏㆓西子事㆒、故名㆓思越人㆒、與㆘鷓鴣天詞別名㆓思越人㆒者㆖不㆑同。

【思烟臺】279 シエンダイ 晉人が介子推のために其の焚所に建てた臺名。〔拾遺記、三、魯僖公〕晉文公焚㆑林以求㆓介之推㆒、有㆓白鴉遶㆑烟而噪㆒、或集㆓之推之側㆒、火不㆑能㆑焚、晉人嘉㆑之、起㆓一高臺㆒曰㆓思烟臺㆒。

【思綺堂】280 シキダウ 淸、章藻功(**8－25761**・・199)の室名。

【思機發】281 シキハツ 明の人。任發の子。任發敗れるや、明兵の歸るを窺つて恢復を圖る。王驥・蔣貴等に破られ、孟養に據る。任發誅せられるに及び、疑懼して招諭を受けず、王驥に敗れ、緬人に擒にされて誅せらる。〔明史、三百十四〕。

【思過㆑半】282 オモヒナカバニスグ おもひ考へてさとる所の頗る多いこと。大半以上を知る。〔易、繫辭下〕知者觀㆓其彖辭㆒、則思過㆑半矣。〔疏〕思慮有㆑益、已過㆑半矣。〔文中子、事君〕子謂㆓荀悅㆒、史乎史乎、謂㆓陸機㆒、文乎文乎、皆思過㆑半矣。

【思蓴館】283 シジユンクワン 淸、丁壽昌(**1－2**・・273)の室名。

【思深哉】284 オモヒフカキカナ 思考する所の奧深きを歎ずる語。〔左氏、襄、二十九〕吳公子札來聘、云云、請㆑觀㆓周樂㆒、云云、爲㆑之歌㆑唐、曰、思深哉、其有㆓陶唐氏之遺民㆒乎。

【思任發】285 シジンパツ 明の人。官は雲南麓川平緬宣慰使。宣德・正統の間、屢〻鄰境を侵して勢盛大となる。詔して蔣貴・王驥を以て之を討たしむ。任發敗れ、緬人に捕へられ、誅に伏す。〔明史、三百十四〕。

【思陀鄕】286 シダキヤウ 土司名。明、長官司を置く。淸、土舍に改む。雲南省石屛縣の西南。倮玀・樸喇・窩泥・玀夷の四種を管轄す。〔讀史方輿紀要、雲南、臨安府〕思陀甸長官司、在㆓府西南二百五十里㆒、舊爲㆓官桂思陀部管落恐溪處二部㆒、後分爲㆓三部㆒、元置㆓和泥路㆒、隸㆓雲南行省㆒、後屬㆓元江路㆒、明初改爲㆓思陀甸長官司㆒、隸㆓今府㆒、土司遮氏、後爲㆓李氏㆒。

【思對命】287 シタイメイ 思は意におもふこと、對は君に對へる辭、命は君の命令。〔禮、玉藻〕史進㆓象笏㆒、書㆓思對命㆒。〔注〕思、所㆔思念將㆓以告㆑君者也、對、所㆓以對㆑君者也、命、所㆑受㆓君命㆒者也。

【思悲翁】288 シヒヲウ ㊀漢の鐃歌十八曲の一。〔樂府詩

集、鼓吹曲辭、漢鐃歌〕古今樂錄曰、漢鼓吹鐃歌十八曲、字多二訛誤一、云云、二曰思悲翁。〔古樂府、漢鐃歌、思悲翁〕思悲翁、唐思、奪二我美人一侵以遇、悲翁也、但我思、蓬首狗、逐二狡兔一食二交君一、梟子五、梟母六、拉沓高飛暮安宿。❷清、趙之謙（10—37171‥609）の號。

【思美人】289 シビジン　楚辭、九章の篇名。〔楚辭、九章思美人、注〕此章言、己思二念其君一、不レ能二自達一、然反觀二初志一、不レ可二變易一、益自修飭、死而後已也。

【思補軒】290 シホケン　明、尹臺（4—7631‥65）の室名。

【思補堂】291 シホダウ　室名。❶清、潘世恩（7—18236‥183）の室名。❷清、劉星煒（2—2224‥1121）の室名。

【思無レ疆】292 オモヒキハマリナシ　思が深廣で盡きないこと。〔詩、魯頌、駉〕思無レ疆、思二馬斯臧一。

【思無レ邪】293 オモヒヨコシマナシ　心意正しく、邪惡の念がないこと。心情をありの儘に發露して、少しの飾りけもないこと。〔詩、魯頌、駉〕思無レ邪、思二馬斯徂一。〔論語、爲政〕子曰、詩三百、一言以蔽レ之、曰、思無レ邪。

【思無邪齋】294 シムジヤサイ　清、蔣浩（9—31820‥16）の號。

【思無邪堂】295 シムジヤダウ　清、顧蒓（12—43689‥104）の室名。

【思蓂子】296 シメイシ　草の名。青葙の類。〔本草、青葙〕附錄、思蓂子、斅曰、思蓂子・鼠細子二件、眞似二青葙子一、只是味不レ同、思蓂子味甜、煎レ之有レ涎。

【思餘堂】297 シヨダウ　清、彭元瑞（4—10003‥145）の室名。

【思倫發】298 シリンパツ　明、雲南の人。緬甸の土蠻を平らげ、洪武中、明に歸降し、麓川平緬宣慰使を授けらる。叛服常無く、太祖に征討され、復、罪を謝して入貢す。尋いで叛いて雲南に走り、西平侯沐春に京師に送らる。後、叛酋刀幹孟を擒にして京師に還る。〔明史、三百十四〕。

【思而不レ貳】299 オモヒテジナラズ　文王武王の德をおもつて貳心のないこと。一說に、哀思して貳心のないこと。〔左氏、襄、二十九〕美哉、思而不レ貳、怨而不レ言。〔注〕思二文武之德一、无二貳叛之心一也。〔會箋〕思只是哀思、非レ思二文武一。

【思而勿レ憂】300 オモウテウレフルコトナカレ　ただ心配して居ないで工夫せよ。〔孔子家語、子路初見〕患之將レ至、思而勿レ憂。

【思若二流波一】301 オモヒリウハノゴトシ　流波の絶えぬやうに思ひ偲ぶ。恩寵の絶えぬこと。〔漢武帝、李夫人賦〕思若二流波一、怛兮在レ心。

【思如二湧泉一】302 オモヒヨウセンノゴトシ　思想が湧き出る泉のやうにつきないこと。〔舊唐書、蘇頲傳〕機事塡委、文誥皆出二頲手一、中書令李嶠歎曰、舍人思如二湧泉一、嶠所レ不レ及也。

【思宋鹿臺】303 シソウロクダイ　金、王載道（7—20823‥1491）の室名。

【思適居士】304 シテキコジ　清、顧廣圻（12—43689‥247）の號。

【思不辱齋】305 シフヂヨクサイ　清、萬承風（9—31339‥600）の號。

【思補齋集】306 シホサイシフ　書名。六卷。清、潘世恩撰。詩集。

【遷レ思廻レ慮】307 オモヒヲウツシオモンパカリヲメグラス　いろいろと考へてみる。考へなほすこと。〔司馬相如、封禪文〕乃遷レ思廻レ慮、揔二公卿之議一、詢二封禪之事一。〔王曾、諫レ作二玉淸昭應宮一疏〕伏望、遷レ思廻レ慮、懲レ往念レ來、詔二將作之官一、息二勤苦之衆一。

【亡二思不一レ服】308 オモヒテフクセザルナシ　德を慕ひおもつて歸服しない者はない。〔詩、大雅、文王有聲〕鎬京辟廱、自レ西自レ東、自レ南自レ北、無二思不一レ服、皇王烝哉。〔傳〕皆感二化其德心一、無下不二歸服一者上。〔漢書、平帝紀贊〕方外百蠻、亡二思不一レ服。

【思レ善則生レ治】309 ゼンヲオモヘバスナハチチヲシヤウズ　善道をおもひつつしめば、天下平治となる。〔蜀志、譙周傳〕多レ慢則生レ亂、思レ善則生レ治。

【思不レ出二其位一】310 オモフコトソノクラヰヲイデズ　事を思慮するに、自分の地位に應じた所に止まつて、他の分限を侵さないこと。〔易、艮〕兼山艮、君子思不レ出二其位一。〔論語、憲問〕曾子曰、君子思不レ出二其位一。

【思而不レ學則殆】311 オモウテマナバザレバスナハチアヤフシ　ただ自分の能力にまかせて思ひ考へるだけで、ひろく學ぶことをしなかつたならば、安穩なるを得ない。〔論語、爲政〕學而不レ思則罔、思而不レ學則殆。

【思無レ益不レ如レ學】312 オモヘドモエキナシマナブニシカズ　徒に考へおもふ間に、まなんだ方がよい。〔論語、衛靈公〕吾嘗終日不レ食、終夜不レ寢、以思、無レ益、不レ如レ學也。

【怞】10463

[一] チウ ヂユ　〔集韻〕直祐切　宥
[二] イウ ユ　〔集韻〕余救切　宥
[三] チウ ヂユ　〔集韻〕陳留切　尤
[四] イウ ユ　〔集韻〕夷周切　尤

小篆

[一]うらむ。〔說文〕怞、朖也、从レ心由聲、詩曰、憂心且怞。〔段注〕疑是恨也之誤。[二]うれへる。〔集韻〕怞、憂也。[三]❶あきらか。ほがらか。〔集韻〕怞、朗也。❷うれへる。[二]に同じ。〔集韻〕怞、憂也。❸或は懤（4—11386）に作る。〔集韻〕怞、或从レ壽。[四]うれへるさま。〔集韻〕怞、憂兒。〔楚辭、王褒、九懷、危俊〕永余思兮怞怞。〔注〕愁心長慮、憂無レ極也。〔補注〕怞、憂貌、音由。

【⿰忄甲】10464

カフ ゲフ　〔集韻〕轄甲切　洽　ㄒㄧㄚˊ heia²

❶たのしむ。〔玉篇〕⿰忄甲、樂也。❷よろこぶ。〔廣韻〕⿰忄甲、喜。〔集韻〕⿰忄甲、悅也。

【⿰忄申】10465

シン　〔集韻〕升人切　眞

うれへる。〔集韻〕⿰忄申、憂也。

【⿰忄夲】10466

カウ コウ　〔集韻〕居勞切　豪

❶しる。〔集韻〕⿰忄夲、知也。❷かぎる。〔集韻〕⿰忄夲、局也。❸或は⿰忄皐（4—11271）に作る。〔集韻〕⿰忄夲、或从レ皐。

【⿰忄本】10467

ホン ボン　〔集韻〕部本切　阮　ㄅㄣˋ pen⁴

おろか。〔集韻〕⿰忄本、性不惠。

【怟】10468

テイ タイ　〔集韻〕丁計切　霽

もだえる。〔集韻〕怟、悶也。

【怠】10469

[一] タイ ダイ　〔集韻〕蕩亥切　ㄉㄞˋ tai⁴　賄
[二] タイ　〔韻會〕他代切　隊
[三] タイ　〔集韻〕湯來切　灰
[四] イ　〔集韻〕盈之切　支

小篆

[一][二]❶あなどる。〔說文〕怠、慢也、从レ心台聲。〔國語、鄭語〕其民怠二沓其君一、而未レ及二周德一。〔注〕怠、慢也。❷おこたる。㋑なまける。つとめない。〔廣雅、釋詁二〕怠、嬾也。〔禮、檀弓上〕吉事雖レ止不レ怠。〔注〕怠、惰也。〔左氏、襄、二十八〕無レ怠二于德一。〔注〕怠、解也。〔呂覽、達鬱〕壯而怠、則失レ時。〔注〕怠、懈也。㋺うむ。あきる。〔漢書、司馬相如傳上〕怠而後游二于清池一。〔注〕郭璞曰、怠、倦也。㋩ふしだら。ゆるむ。〔禮、曲禮上〕毋二怠荒一。〔注〕怠荒、放二散身體一也。㋥ぬかる。手おち。ゆだんする。〔國語、周語下〕可レ先而不レ備、謂二之怠一。〔注〕怠、緩也。〔新書、道術〕僶勉就レ善、謂二之愼一、反レ愼爲レ怠。㋭やめ

る。怠疑(9)を見よ。❸**おとろへる**。くづれる。あやふい。殆(**6−16430**)に通ず。〔說文通訓定聲〕怠、叚借爲レ殆。〔方言、六〕怠、壞也。〔左氏、昭、五〕滋二敝邑休怠一。〔論語、爲政〕思而不レ學則殆、〔釋文〕殆、依レ義當レ作レ怠。⟦三⟧**おこたる**。〔集韻〕怠、懈也。⟦四⟧❶**おこたる**。〔集韻〕怠、懈也。❷**よろこぶ**。怡(**4−10470**)に通ず。〔易、雜卦〕而豫怠也。〔釋文〕怠、虞作レ怡。❸**鳥の名**。意怠。〔字彙〕怠、鳥名。〔莊子、山木〕東海有レ鳥焉、其名曰二意怠一。⟦邦⟧❶**おこたり**。㋑おこたりから起る過失。つみ。㋺罪過をわびる。謝罪。㋩病が少しく癒えること。❷**おこたる**。病氣が少しく癒える。❸**おこたれ**。おこたりの訛。謝罪の意。

⟦名乘⟧ ヤス。

【怠安】1 タイアン おこたつて遊びたのしむ。怠惰安逸。〔歐陽脩、資政殿學士戶部侍郎文正范公神道碑銘〕乘二吏怠安一。

【怠厭】2 タイエン いとひてなほざりにする。〔史記、封禪書〕天子益怠二厭方士之怪迂語一矣。

【怠解】3 タイカイ 怠懈に同じ。〔漢書、王莽傳下〕刺二擧怠解一。〔注〕師古曰、解、讀曰レ懈。

【怠懈】4 タイカイ おこたる。ゆるむ。怠解。〔漢書、高帝紀〕不レ如下因二其怠懈一擊上之。〔新書、容經〕體怠懈。〔後漢書、崔寔傳〕上下怠懈。

【怠敖】5 タイガウ おこたりあそぶ。〔孟子、公孫丑上〕今國家閒暇、及二是時一般樂怠敖、是自求レ禍也。〔注〕怠惰敖游、不レ修二政刑一。

【怠傲】6 タイガウ おこたりたのしむ。おこたりおごる。〔韓非子、備內〕人主怠傲處二其上一。〔荀子、榮辱〕孝悌愿愨、軥錄疾力、以敦比二其事業一、而不二敢怠傲一。〔管子、君臣上〕戲豫怠傲者、不レ得レ敗也。〔墨子、非儒下〕背レ本棄レ事、而安二怠傲一。〔史記、魏其武安侯傳〕諸客稍稍自引而怠傲。

【怠驁】7 タイガウ 怠敖に同じ。〔漢書、田蚡傳〕嬰失二竇太后一、益疏不レ用無レ執、諸公稍自引而怠驁。

【怠棄】8 タイキ おこたつてなげやりにする。〔書、甘誓〕怠二棄三正一。〔傳〕怠二惰棄三廢天地人之正道一、言レ亂レ常。〔國語、周語下〕其所二怠棄一者多矣。

【怠疑】9 タイギ 狐疑を止めること。怠は退。〔莊子、山木〕儻乎其怠疑。〔注〕無レ所レ趣也。〔疏〕儻、無レ慮也、怠、退也、言、狐疑思慮之事並已去矣。

【怠戲】10 タイギ おこたりたはむれる。〔新語、資質〕莫レ不レ知下學問之有レ益二於己一、怠戲之無上益二於事一也。

【怠休】11 タイキウ おこたりやすむ。

【怠遇】12 タイグウ 待遇の道をおこたること。

【怠皇】13 タイクワウ おこたつていとまあること。怠遑。〔左氏、襄、二十六〕不二敢怠皇一。〔注〕不二敢怠解自寬暇一。〔張衡、東京賦〕匪二怠皇以寧靜一。

【怠荒】14 タイクワウ 身體がゆるんでしまりのないこと。ふしだら。又、おこたりすさむ。荒怠。怠廢。〔禮、曲禮上〕毋二側聽一、毋二噭應一、毋二淫視一、毋二怠荒一。〔注〕怠荒、放二散身體一也。〔史記、秦始皇紀〕莫二敢怠荒一。

【怠遑】15 タイクワウ 怠皇に同じ。〔詩、商頌、殷武〕不二敢怠遑一。〔集傳〕遑、暇。〔後漢書、楊賜傳〕無二敢怠遑一。

【怠緩】16 タイクワン おこたりゆるむ。怠慢。〔蜀志、李恢傳〕圍守怠緩。

【怠玩】17 タイグワン ❶なまけおこたる。〔六部成語、吏部、怠玩、注解〕性情怠惰、玩二視公務一。〔福惠全書、涖任部、清號件〕使下彼有レ所二儆懼一、而不中敢怠玩上。❷不注意な。怠慢な。

【怠隙】18 タイゲキ おこたつてすきのあること。〔蜀志、霍峻傳〕伺二其怠隙一、選二精銳一出擊、大破レ之。

【怠業】19 タイゲフ ❶仕事をおこたる。〔國語、周語上〕不二敢怠一レ業。❷勞働者が雇主の不利益を圖りながら生產に從事すること。出來るだけ仕事を怠り、故意に機械を損ひ、生產品を粗惡にするなどの類。サボタージユ。

【怠倦】20 タイケン おこたる。なまける。倦怠。〔戰國、魏策〕見二敵之可一レ擊、鼓レ之不二敢怠倦一者臣也。〔管子、版法〕頓二卒怠倦一以辱レ之。〔墨子、非命下〕終朝均分、不二敢怠倦一。〔列女傳、貞順、衞宗二順傳〕妾聞、忠臣下レ君、無二怠倦時一。

【怠勌】21 タイケン 怠倦に同じ。

【怠工】22 tai⁴ kung¹ ストライキ。サボタージユ。罷業。怠業。

【怠忽】23 タイコツ おこたつてなほざりにする。〔書、周官〕怠忽荒レ政。〔傳〕怠惰忽略、必亂二其政一。

【怠散】24 タイサン なまけおこたる。〔後漢書、儒林傳序〕自三安帝覽レ政、薄二於藝文一、博士倚レ席不レ講、朋徒相視怠散。

【怠弛】25 タイシ おこたりゆるむ。〔久阪通武、崋山至孝〕以下其與二朋友一柬書相通上、藩侯被二怠弛之罪一、於レ是竟自殺。

【怠思】26 タイシ おこたるこころ。

【怠恣】27 タイシ 怠りほしいままなさま。

【怠奢】28 タイシヤ 怠惰と奢侈。又、怠りおごる。

【怠狀】29 タイジヤウ あやまり證文。わび狀。〔日本紀略、五〕源連・橘繁延・僧蓮茂等、進二怠狀一了。

【怠色】30 タイシヨク おこたるやうす。〔新五代史、一行・石昂傳〕食二其門下一者、或累歲、昂未三嘗有二怠色一。

【怠息】31 タイソク おこたりやすむ。休息。〔漢書、于定國傳〕君相二朕躬一、不二敢怠息一。〔注〕師古曰、息、謂二自休息一。〔韓愈、烏氏廟碑銘〕士有二怠息一、來覲來齋。

【怠惰】32 タイダ おこたる。おこたりなまける。惰怠。懶惰。〔國語、魯語下〕爾又在二下位一、朝夕處レ事、猶恐レ忘二先人之業一、況有二怠惰一、其何以避レ辟。〔史記、禮書〕怠惰之爲レ安。〔後漢書、順帝紀〕郡縣用レ心怠惰。

〖怠惰漢〗33 タイダカン なまけ者。

〖怠惰好レ嬉〗34 タイダキヲコノム なまけてゐて己の氣にむくことばかりをこのむ。〔李退溪、啓蒙篇〕怠惰好レ嬉、柔佞好レ嬉。

【怠墮】35 タイダ 怠惰に同じ。〔逸周書、大匡解〕怠墮之過。〔史記、司馬相如傳〕不二敢怠墮一。〔漢書、疏廣傳〕但教二子孫怠墮一耳。

【怠怠】36 タイタイ なほざり。おこたりがち。〔竹取物語〕かくたいだいしくやはならはすべきと仰せらる。

【怠沓】37 タフタイ あなどりけがす。〔國語、鄭語〕其民怠二沓其君一。〔注〕怠、慢也、言三民慢二黷其君一。

【怠忠】38 タイチユウ 忠義の道をなほざりにする。

【怠納】39 タイナフ 官にをさむべき租稅等をおこたり延ばして期日を過すこと。

【怠廢】40 タイハイ おこたつてなげやりにする。〔曾鞏、移二滄洲一過レ闕上レ殿劄子〕防二其怠廢難レ久之情一。

【怠放】41 タイハウ おこたつてほしいままにする。又、其のこと。〔後漢書、和殤帝紀〕有司不レ擧、怠放日甚。

【怠文】42 オコタリブミ あやまり證文。怠狀。

【怠嫚】43 タイマン 怠慢に同じ。〔漢書、郊祀志上〕後稍怠嫚也。〔列女傳、母儀、有虞二妃傳〕驕盈怠嫚。

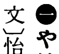
【怠慢】44 タイマン おこたりあなどる。なすべき事をおこたる。なほざりにする。怠忽。怠嫚。〔周禮、春官、小胥、注〕撻二其怠慢者一。〔左氏、僖、三十二〕牲成而卜レ郊、上怠慢也。〔荀子、勸學〕怠慢忘レ身、禍災乃作。〔墨子、尙同中〕居處不二敢怠慢一。〔史記、申屠丞相嘉傳〕有二怠慢之禮一。〔顏子家訓、教子〕狎則怠慢生焉。

【怠亂】45 タイラン おこたりみだれる。

【怠禮】46 タイレイ 禮義をおこたる。〔左氏、襄、二十一〕怠レ禮失レ政。

【怡】

10470 イ 〔集韻〕盈之切 i² ⟦支⟧



小篆

❶**やはらぐ**。**やはらげる**。〔說文〕怡、龢也、从レ心台聲。❷**たのしむ**。**たのしませる**。〔爾雅、釋詁〕怡、樂也。❸**よろこぶ**。**よろこばせる**。〔廣雅、釋詁一〕怡、喜也。〔禮、內則〕下レ氣怡レ色。〔注〕怡、悅也。〔國語、周語下〕有レ賞未二嘗不一レ怡。〔注〕怡、說也。〔史記、太史公自序〕諸呂不レ台、注〕集解曰、一曰、怡、懌也。❹**とほる**。**通ず**。〔嵇康、琴賦〕怡養悅悆。〔注〕向曰、怡、通。❺台(**2−3246**)に通ず。〔正字通〕

怡、古借㆑台。❻怠(4－16469)に通ず。〔易、雜卦、而豫怠也、釋文〕怠、虞作㆑怡。❼姓。〔史記、補三皇紀〕炎帝神農氏姜姓、其後有㆓州・甫・甘・許・戲・露・齊・紀・怡・向・申・呂㆒、皆姜姓之後、並爲㆓諸侯㆒、或分㆓四岳㆒。〔周書、怡峯傳〕怡峯、字景阜、遼西人也、本姓默台、因㆑避㆑難改焉。

【怡菴】1 イアン 明、陳繼(11－41698‥212)の號。

【怡怡】2 イイ やはらぎよろこぶ。怡怡如を見よ。

〖怡怡如〗3 イイジヨ やはらぎよろこぶさま。〔論語、鄕黨〕出㆑降㆓一等㆒、逞㆓顏色㆒、怡怡如也。〔集注〕怡怡、和悅也。〔論語、子路〕朋友切切偲偲、兄弟怡怡如也。〔集解〕馬融曰、怡怡、和順之貌也。

【怡易】4 イイ よろこびやすらかなさま。〔詩、小雅、蓼蕭、孔燕豈弟、疏〕故皆甚安、而情又喜樂、以怡易也。

【怡逸】5 イイツ よろこび樂しむ。〔李百藥、笙賦〕縱㆓勝氣之逍遙㆒、眷㆓春光㆒而怡逸。

【怡雲】6 イウン 清、宮爾勸(3－7156‥255)の號。

〖怡雲閣〗7 イウンカク 閣名。〔玉澗雜書〕陶通明謂、嶺上白雲、只可㆓自怡㆒、吾山朱氏子作㆓小閣於石橋之下㆒、與㆓西山㆒相面、景物極幽遠、一日往過㆑之、朱求㆓閣名㆒、因談㆓通明本末㆒、遂以㆓怡雲㆒名㆑之。

〖怡雲堂〗8 イウンダウ 明、蔡國珍(9－31818‥178)の室名。

〖怡雲樓〗9 イウンロウ 清、彭昱堯(4－10003‥131)の「室名。

〖怡雲草堂〗10 イウンサウダウ 清、張宗說(4－9812‥1284)の室名。

〖怡雲山人〗11 イウンサンジン 清、施文銓(5－13629‥182)の號。

〖怡雲山房〗12 イウンサンバウ 清、梁紹獻(6－14825‥288)の室名。

【怡懌】13 イエキ よろこぶ。よろこび。〔王褒、四子講德論〕怡懌而悅服。〔傅毅、舞賦〕嚴顏和而怡懌兮、幽情形而外揚。〔嵇康、琴賦〕穆溫柔以怡懌。

【怡悅】14 イエツ 心によろこんで滿足する。〔傅毅、舞賦〕觀者稱㆑麗、莫㆑不㆓怡悅㆒。〔魏志、文德郭皇后紀〕怡㆓悅妲己㆒。〔陶弘景、詔問㆓山中何所㆑有賦㆑詩以答詩〕山中何所㆑有、嶺上多㆓白雲㆒、只可㆓自怡悅㆒、不㆑堪㆓持寄㆑君。

【怡說】15 イエツ 怡悅に同じ。〔史記、周紀〕乃爲㆓淫聲㆒、用變㆓亂正聲㆒、以怡㆓說婦人㆒。

【怡衍】16 イエン よろこびたのしむ。〔宋孝武帝、遊㆓覆舟山㆒詩〕束髮好怡衍、弱冠頗流薄。

【怡園】17 イエン 字號。㊀清、高景藩(12－45313‥1147)の字。㊁清、陳汾(11－41698‥534)の號。㊂清、彭之壽(4－10003‥155)の號。㊃清、傅澤洪(1－939‥194)の號。

【怡顏】18 イガン よろこばしい顏色。又、顏色をよろこばす。怡色。〔陶潛、歸去來辭〕眄㆓庭柯㆒以怡㆑顏。

【怡寄】19 イキ よろこび近よる。〔任昉、齊竟陵文宣王行狀〕貴而好㆑禮、怡㆓寄典墳㆒。

【怡嬉】20 イキ よろこばしいこと。うれしいこと。嬉怡(3－6736‥1)に同じ。

【怡襟】21 イキン やはらいだこころ。〔卞裕、送㆓桓竟陵㆒詩〕餞行臨㆓高阜㆒、怡襟睦㆓景氣㆒。

【怡形】22 イケイ 身體をよろこばす。〔梁書、世祖二子、忠壯世子方等傳〕一簞之食、足㆓以怡㆑形。

【怡古】23 イコ 清、謝適(10－35827‥181)の字。

【怡谷】24 イコク 字號。㊀清、黃玢(12－47926‥798)の號。㊁清、杜庭珠(6－14477‥373)の字。

【怡偲】25 イサイ 朋友兄弟に對する情。怡怡(2)を見「よ。

〖怡偲堂〗25′ イサイダウ 宋、黃庭堅(12－47926‥1260)の室名。〔黃庭堅、書說〕余寓㆓居開元寺之怡偲堂㆒、坐見㆓江山㆒、每於㆓此中㆒作㆑草、似㆑得㆓江山之助㆒。

【怡齋】27 イサイ 字號。㊀宋、馮大有(12－44579‥265)の號。㊁元、顧諒(12－43689‥200)の號。㊂清、趙善慶(10－37171‥745)の字。㊃清、王訓(7－20823‥314)の號。

【怡山】28 イザン 清、陳維安(11－41698‥636)の字。

【怡情】29 イジヤウ 心情をよろこばす。〔中論、治學〕學也者、所㆓以疏㆑神達㆑思、怡㆑情理㆑性、聖人之上務也。

〖怡情悅性〗30 i^2 ch'ing^2 yüeh^4 hsing^4 人の性情をよろこばす。

〖怡情適性〗31 i^2 ch'ing^2 shih^4 hsing^4 心のゆく儘に悠々自適して暮すこと。

【怡叔】32 イシユク 宋、兪勳(1－1437‥22)の字。

【怡如】33 イジヨ よろこぶさま。たのしむさま。〔前言往行錄、清貧宰相〕處㆑之怡如。

【怡色】34 イシヨク よろこばしい顏色。又、顏色をやはらげよろこばしくする。顏附をにこやかにする。〔禮、內則〕父母有㆑過、下㆑氣怡㆑色、柔㆑聲以諫。〔孫希旦集解〕下怡柔、皆和順之意。

【怡心】35 イシン 心をよろこばす。〔上官昭容、遊㆓長寧公主流杯池㆒詩〕巖壑恣㆓登臨㆒、瑩㆑目復怡㆑心。

【怡神】36 イシン ㊀心をよろこばす。怡心。〔隋書、徐則傳〕悅㆓性沖玄㆒、怡㆓神虛白㆒。㊁古の名琴の名。〔駢雅、釋器〕怡神、古名琴也。〔文獻通考、樂考十、絲之屬〕樂書琴瑟下論曰、玉牀・響泉・韻磬・清英・怡神之類、名號之別也。

【怡醉】37 イスイ よろこびゑふ。〔蔡襄、慈竹賦〕羃㆓春烟㆒而怡醉。

【怡聲】38 イセイ よろこばしげなこゑ。又、ことばをやはらげること。〔禮、內則〕及㆑所、下㆑氣怡㆑聲。〔顏氏家訓、勉學〕怡㆑聲下㆑氣、不㆑憚㆓劬勞㆒。

【怡然】39 イゼン ㊀よろこび樂しむさま。怡怡。〔列子、黃帝〕怡然自得。〔史記、孔子世家〕有㆑所㆓怡然高望而遠志㆒焉。〔魏志、董昭傳〕議者怡然不㆓以爲㆑憂。〔陶潛、桃花源記〕黃髮垂髫、竝怡然自樂。㊁物の道理がすらすらと順ひ解けるさま。怡然理順を見よ。

〖怡然子〗40 イゼンシ 金、郝大通(11－39430‥52)の「號。

〖怡然理順〗41 イゼントシテリシタガフ 心の中が何ともいへず樂しく、すべての道理に逆ひもとることなく、自然と理解出來る。〔杜預、春秋左氏傳序〕若㆓江海之浸、膏澤之潤㆒、渙然冰釋、怡然理順、然後爲㆑得也。〔小學、嘉言〕渙然冰釋、怡然理順、久自㆓得之㆒。

【怡蕩】42 イタウ 樂しんでほしいままなこと。〔傅毅、舞賦序〕餘日怡蕩、非㆓以風㆑民也。〔注〕善曰、怡蕩、怡悅放蕩也。

【怡亭】43 イテイ 清、張紳(4－9812‥445)の字。

【怡庭】44 イテイ 清、陳錫嘏(11－41698‥1066)の「字。

【怡寧】45 イネイ やはらぎやすらか。〔蔡邕、讓㆓高陽鄕侯㆒章〕慚㆓惶累息㆒、無㆓心怡寧㆒。

【怡眄】46 イベン イメン よろこびかへりみる。〔孟郊、右方諸靑童君詩〕怡㆓眄無極㆒已、終夜復待㆑旦。

【怡峯】47 イホウ 北周、遼西の人。本姓は默台。後、怡と改む。謚は襄。驍勇の士。官は散騎常侍儀同三司。爵は樂陵郡公。〔周書、十七〕・〔北史、六十五〕。

【怡穆】48 イボク よろこびやはらぐ。〔北史、盧潛傳〕尊卑怡穆、豐儉同㆑之。

【怡面】49 イメン よろこばしい顏色。怡顏。〔楚辭、大招〕曼澤怡面。〔注〕怡、懌貌也、怡一作㆑台、注云、台、澤貌也。

【怡目】50 イモク 目をよろこばす。〔謝靈運、撰征賦〕眷㆓北路㆒以興㆑思、看㆓東山㆒而怡㆑目。

【怡養】51 イヤウ よろこびたのしむ。〔嵇康、琴賦〕若和平者聽㆑之、則怡養悅悆。〔注〕善曰、廣雅曰、養、樂也。

【怡愉】52 イユ よろこぶさま。〔唐書、柳宗元傳〕今天子興㆓教化㆒、定㆓邪正㆒、海內皆欣欣怡愉。〔宋史、孝宗紀贊〕父子怡愉、同享㆓高壽㆒。

【怡裕】53 イユウ やはらいでのびやかなこと。〔庾信、謝㆔趙王示㆓新詩㆒啓〕首夏清和、聖躬怡裕。

【怡豫】54 イヨ よろこびたのしむ。〔吳志、諸葛恪傳〕有㆓上官之變㆒、以㆑身值㆑此、何敢怡豫邪。

【怡朗】55 イラン 地名。フイリツピン群島中、パネイ島にある港。一名、イロイロ。伊羅伊羅(1－432‥116)を見よ。

【怡樂】56 イラク よろこびたのしむ。〔爾雅、釋詁〕怡、樂也。

【怡良】57 イリヤウ 清、滿洲正紅旗人。姓は瓜爾佳氏。道光の間、廣東巡撫、咸豐の間、兩江總督。洪秀全と戰つて累りに捷つ。〔清史稿、三百七十七〕・〔清史列傳、四十八〕。

【怡廬】58 イロ 字號。㊀明、古心(2－3233‥279)の號。㊁清、馬咸(12－44572‥84)の號。

【怡和】59 イワ よろこびやはらぐ。〔任昉、爲㆓庾杲之㆒與㆓劉居士㆒書〕神虛氣懋、無㆑待㆓怡和㆒。

【怡光堂】60 イクワウダウ 明、黃焯(12－47926‥460)の室名。

【怡志堂】61 イシダウ 清、朱琦(6－14424‥103)の室「名。

【怡親王】62 イシンワウ 封號。㊀清、允祥(1－1338‥5

0)の封號。㊁清、弘曉(4－9709・・35)の封號。

【怡曝園】63 イバクエン　清、蔣鳴玉(9－31820・・219)の室名。「號。

【怡性老人】64 イセイラウジン　清、阮元(11－41569・・13)の室名。

【怡道山莊】65 イダウサンサウ　清、姚燮(3－6202・・80)の室名。

【怢】10471

㈠トツ トチ　〔集韻〕他骨切　月

㈡テツ テチ　〔集韻〕他結切　屑

㈢タイ ツイ　〔集韻〕吐內切　隊

㈠**わすれる**。〔集韻〕怢、忽忘也。〔王褒、四子講德論〕凡人視レ之怢焉。〔注〕善曰、廣蒼曰、怢、忽忘也。〔後漢書、崔寔傳〕怢不二自覩一。〔注〕怢、忽忘也。㈡**なほざり**。なほざりにする。佚(1－516)に同じ。〔集韻〕佚、佚蕩、簡易也、或从レ心。㈢**わすれる**。悷(4－10748)に同じ。〔集韻〕悷、博雅、鬆也、忘也、一曰、肆也、或作レ怢。

【怣】10472

イウ　尤(4－7543)の古字。〔集韻〕尤、古作レ怣。

【怑】10473

フ ブ　〔集韻〕符遇切　遇

㊀**したがふ**。悅服する。〔集韻〕怑、心附也。㊁怤(4－10474)に同じ。〔正字通〕怑、同レ怤。

【怤】10474

㈠フ　〔集韻〕芳無切　虞

㈡フ　〔集韻〕匪父切　麌

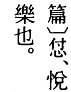
㈢フ　〔集韻〕方遇切　遇

小篆

㈠㈡㈢㊀**おもふ**。〔說文〕怤、思也、从レ心付聲。㊁**よろこぶ**。〔玉篇〕怤、悅也。㊂**たのしむ**。〔玉篇〕怤、僖也、樂也。

【急】10475

キフ コフ　〔集韻〕訖立切　ㄐㄧˊ chi²　緝


小篆

㊀**せまい**。**へんくつ**。もと㤂(4－10356)に作る。〔集韻〕㤂、隸作レ急。〔說文〕㤂、褊也、从レ心及聲。〔段注〕褊者衣小也、故凡窄陿謂二之褊一。〔後漢書、范丹傳〕以二狷急一不レ能レ從レ俗。㊁**きびしい**。〔韓非子、觀行〕西門豹之性急、故佩レ韋以緩レ己。㊂**はげしい**。あらい。〔爾雅、釋鳥、鶌鳩、注〕爲レ鳥憨急、羣飛出二北方沙漠地一。㊃**ひきしまる**。はりきる。〔字彙〕急、緊也。〔素問、通評虛實論〕急則死。〔注〕急、謂レ如二弦張之急一也。㊄**ちぢむ**。〔齊民要術、種桃柰〕桃性皮急。〔杜甫、縛雞行〕小奴縛レ雞向レ市賣、雞被二縛急一相喧爭。㊅**かたい**。〔呂覽、任地〕急者欲レ緩。〔注〕急者、謂二強剛土一也。㊆**きびしく**。かたく。〔禮、曲禮上〕急繕二其怒一。〔注〕急、猶レ堅也。㊇**はやい**。〔廣韻〕急、疾也。〔史記、秦始皇紀〕項羽急擊二秦軍一。〔後漢書、岑彭傳〕天風狂急。〔謝靈運、撰征賦〕沂泗遠兮淸川急。㊈**せまる**。ちかづく。〔增韻〕急、迫也。〔孟子、滕文公下〕未三嘗聞二仕如レ此其急一。〔史記、李廣傳〕其射、見二敵急一、非レ在二數十步之內一、度レ不レ中、不レ發、發卽應レ弦而倒。㊉**さしせまる**。**くるしむ**。困難。〔字彙〕急、窘也。〔禮、王制〕國無二六年之畜一曰レ急。〔管子、問〕擧知二人急一、則衆不レ亂。〔注〕急、謂二困難一也。〔史記、周紀〕襄王告二急于晉一。(十一)**いそぐ**。せく。〔釋名、釋言語〕急、及也、操二切之一使二相逮及一也。〔書、洪範〕曰、急。〔鄭注〕急、促自用也。(十二)**いそがしい**。あはただしい。〔史記、趙世家〕耕事方急。(十三)**大事**。緊急事。〔晉書、食貨志〕鹽者食之急也。〔顏延之、應レ詔觀二北湖田收一詩〕通レ急戒二無年一。〔注〕善曰、急、要也。(十四)**すみやか**。亟(1－279)に通ず。〔說文通訓定聲〕急、叚借爲レ亟、急・亟、雙聲。〔呂覽、情欲〕邪利之急。〔注〕急、猶レ先。(十五)**つきる**。竟(8－25757)に通ず。〔說文通訓定聲〕急、叚借爲レ竟。〔廣雅、釋詁一〕急、盡也。(十六)愿(4－11030)の誤字。〔說文通訓定聲〕急、爲二愿之誤字一。〔荀子、王制〕抃レ急禁レ悍。〔注〕抃急、當レ爲二析愿一。(十七)**いましめる**。〔詩、小雅、六月〕我是用急。〔鹽鐵論、繇役〕我是用戒。(十八)**休暇**。晉代、休暇の稱呼。〔字彙補〕急、休暇名、晉令、急暇者一月五急、一年中六十日爲レ限。〔南史、謝靈運傳〕又不レ請レ急。(十九)**姓**。〔萬姓統譜〕急、見二姓苑一。

【急雨】1 キフウ　にはかあめ。ゆふだち。驟雨。〔岑參、早秋與二諸子一登二虢州西亭一觀眺詩〕殘虹挂二陝北一、急雨過二關西一。〔曹松、訪二山友一詩〕急雨洗二荒壁一、驚風開二靜門一。〔杜甫、絕句詩〕急雨捎二溪足一、斜暉轉二樹腰一。

【急要】2 キフエウ　さしせまつて必要なこと。〔魏志、王肅傳〕取三常食廩之士、非二急要者之用一。

【急於】3 chi² yü²　いそぐ。あせる。

【急暇】4 キフカ　晉代、休暇をいふ。字解(十八)を見よ。

【急行】5 キフカウ　㊀いそいで步行する。疾行。〔史記、荊燕世家〕急行毋レ留。〔吳志、吳範傳〕因詣レ船賀、催レ兵急行、至卽破レ祖。㊁船車等が速力を早めて疾走すること。㊂急行列車の略。

【急行軍】6 キフカウグン　行軍の一。舊軍隊で殆んど休まないで、每日八里以上を行軍すること。

【急行列車】7 キフカウレッシャ　途中の小さい驛に停らず、給水驛・接續驛・大驛にのみ停車する鐵道列車。

【急行無二善步一】8 キフカウニゼンポナシ　いそいで步行すれば、步調が惡くなる。いそいでした事は不出來な喩。〔通俗編、行事、急行無二善步一〕論衡、急行無二善步一、促柱少二和聲一。〔西京雜記、三〕枚皐文章敏疾、長卿制作淹遲、皆盡二一時之譽一、而長卿首尾溫麗、枚皐時有二累句一、故知三疾行無二善迹一矣。〔舊唐書、朱敬則傳〕急趨無二善迹一、促柱少二和聲一。

【急客】9 キフカク　にはかに來る客。〔後漢書、周磐傳〕磐同郡蔡順、字君仲、亦以二至孝一稱、順少孤養レ母、嘗出求レ薪、有レ客、卒至、母望レ順不レ還、乃噬二其指一、順卽心動、棄レ薪馳歸、跪問二其故一、母曰、有二急客來一、吾噬レ指以悟レ汝耳。

【急氣】10 chi² ch'i⁴　氣をいらつかせる。怒る。

【急機】11 chi² chi¹　頓智。咄嗟の場合に出る智惠。機智。

【急徽】12 キフキ　徽を緊めること。しつかりする、緊張するにいふ。徽は、琴の面にえりこんだ金石のしるしで、左手で之を按じて音調を調へるもの。琴師。〔漢書、揚雄傳下〕今夫弦者高張急レ徽、追レ趨逐レ耆、則坐者不レ期而附矣。

【急騎】13 キフキ　はやうま。はやうち。

【急急】14 キフキフ　至急。火急。性急。〔國朝漢學師承記、洪榜〕如レ此知二必急急然正レ之也。

【急急如律令】15 キフキフニヨリツリヤウ　はやく律令の如くせよといふこと。もと、漢代の公文書の用語であるが、後に巫者の咒語となり、速に退散せよの義に用ひられる。〔白居易、祭レ龍文〕若三日之內、一雨滂沱、是龍之靈、亦人之幸、禮無レ不レ報、神其聽レ之、急急如律令。〔演繁露〕風俗通論二漢法九章一、因言曰、夫吏者治也、當下先自正然後正上レ人、故文書下如二律令一、言レ當二承レ憲履レ繩、動不上レ失二律令一也、今符咒家、凡行移悉倣二官府制度一、則其云二如律令一者、亦倣二官府文書一爲レ之。〔演密鈔、二〕且如二此方言一、亦有二顯言一、有二咒語一、如二急急如律令等一、咒レ火不レ燒、咒レ瘧令レ停、蓋作二咒用一、不レ同二顯言一。〔資暇錄〕符咒後言二急急如律令一者、令音零、律令、雷鬼之最捷者、謂レ

當レ如二律令鬼之捷一也。〔程氏考古編〕符呪後云二如律令一者、是效二官府文書一爲レ之、不三必鑿以爲二雷鬼一也。

【急響】16（キフキヤウ） 音樂の調子の急な所。〔馬臻、湖中春遊曲〕箜篌急響如二相惱一、岸頭折盡忘憂草。

【急脚】17（キフキヤク） いそぎあし。足を早めて急ぎ行く。急脚遞を見よ。

〔急脚鬼〕18 chi^{2} chiao^{2} kuei^{3} 神づかひ。せつかち。〔紅樓夢、十一回〕倆們奶奶、就是這麼急脚鬼是的。

〔急脚遞〕19（キフキヤクテイ） 宋代、驛傳の一。日に四百支里を行く。戰爭の急用にのみ用ひた。急遞。〔夢溪筆談、官政一〕驛傳舊有二三等一、曰二步遞・馬遞・急脚遞一、急脚遞最遽、日行二四百里一、唯軍興則用レ之、熙寧中、又有二金字牌急脚遞一、如二古之羽檄一也、以二木牌朱漆黃金字一、日行五百餘里、自二御前一發下、三省樞密院莫レ得レ與也。

【急遽】20（キフキヨ） いそぎあわてる。〔歐陽脩、回二潁州通判楊虞部一書〕急遽之至、先以二惠音一。

【急火】21 chi^{2} huo^{3} ❶のぼせること。❷まぢかい火事。近火。

【急壞】22（キフクワイ） ❶いそいでこはす。〔史記、叔孫通傳〕孝景帝大懼曰、急壞レ之。❷chi^{2} huai^{4} 人のにはかに死去すること。

【急慌】23 chi^{2} huang^{1} 氣があせる。あわてる。

【急患】24（キフクワン） にはかのうれへ。さし迫つた患。〔韓非子、喩老〕天下有レ道、無二急患一則曰レ靜。

【急管】25（キフクワン） 音調の急なふえの聲。〔王維、魚山神女祠歌、迎送神曲〕悲二急管一思二繁絃一。

【急緩】26（キフクワン） ❶急と緩。せまつたのとゆるやかなの。ひきしめるのとゆるめるの。はやいのとおそいの。〔列子、湯問〕急二緩乎脣吻之和一。〔管子、七臣七主〕政有二急緩一。〔李充、轡銘〕轡銜在レ手、急緩必時。❷危急なこと。差し迫ること。緩急。〔魏志、杜畿傳〕諸將掾吏、可二分遣休息一、急緩召レ之、不レ難。

【急景】27（キフケイ） 光陰の速かなこと。〔鮑照、舞鶴賦〕急景凋年。〔曹鄴、金井怨〕西風吹二急景一、美人照二金井一。〔樓鑰、次二韻翁處度同遊二北山一詩〕我攜二舊記一訪二陳迹一、正恐急景不レ得レ延。

【急劇】28（キフゲキ） にはかではげしい。急激。

【急激】29（キフゲキ） 急劇に同じ。

【急擊】30（キフゲキ） いそぎうつ。不意に攻める。急襲。〔戰國、趙策〕後三月、王翦急擊大破レ趙、殺二趙軍一、虜二趙王遷及其將顏最一、遂滅レ趙。〔史記、秦始皇紀〕項羽急二擊秦軍一。

【急言】31（キフゲン） 急迫して說く。いそいでいふことば。〔蘇洵、上二歐陽內翰一書〕氣盡語極、急言竭論。

【急絃】32（キフゲン） きびしく張つた絃。音樂の急な調子。〔陸機、猛虎行〕急絃無二懦響一、亮節難レ爲レ音。〔謝靈運、擬二魏太子鄴中集一魏太子詩〕急絃動二飛聽一。〔注〕翰曰、急絃、謂二急調一也。

【急鼓】33（キフコ） つづけざまに打ち鳴らす太鼓。調子のきびしくはやい鼓。〔楊萬里、過二戈陽一觀二競渡一詩〕急鼓繁鉦動レ地呼、碧琉璃上兩龍趨。

【急攻】34（キフコウ） にはかにせめる。〔日本政記、後醍醐天皇〕延元三年秋七月、師直放レ火燒二官軍資糧一、因急攻拔レ之。

【急項】35 chi^{2} hsiang^{4} いそぎの支出。

【急購】36 chi^{2} kou^{4} ❶いそぎの注文。❷いそいで買ふ。

【急刻】37（キフコク） きびしい。嚴刻。峻刻。苛刻。〔漢書、食貨志下〕用二慘急苛刻一爲二九卿一。〔後漢書、襄楷傳〕刑罰急刻之所レ感也。〔舊唐書、刑法志〕斷レ獄能者名在二急刻一。

【急困】38（キフコン） さしせまつてくるしいこと。急迫困苦。〔漢書、張良傳〕始上數在二急困之中一。

【急財】39 chi^{2} ts‘ai^{2} にはかに積んだ財產。成金。

【急裝】40（キフサウ） ❶いそいでよそほふ。にはかに支度する。〔漢書、張充國傳〕將軍急裝、因二天時一誅二不義一。❷しつかりと武裝する。〔南史、沈慶之傳〕湛被レ收之夕、上開レ門召二慶之一、慶之戎服履韎縛レ袴入、上見而驚曰、卿何意乃爾急裝、慶之曰、夜半喚二隊主一、不レ容二緩服一。

【急躁】41 chi^{2} tsao^{4} あせる。あわてる。

【急數】42（キフサク） せはしくたびたび。頻數。〔誠齋雜記〕甚急數。

【急殺】43 chi^{2} sha^{1} 無茶苦茶にせかし立てる。

【急霰】44（キフサン） にはかにふるあられ。〔蘇軾、臘雪詩〕急霰初鳴レ瓦、飛花旋舞レ臺。〔戴良、和二雙溪八詠一詩〕朽壞方有レ托、急霰非レ所レ任。

【急死】45（キフシ） ❶健康な者が急病で死ぬこと。❷chi^{2} ssŭ^{3} 氣をあせつて死ぬ。

〔急死所〕46（キフシドコロ） 急所(61)に同じ。

【急使】47（キフシ） いそいで使者を遣はす。又、いそぎの使。〔史記、留侯世家〕良進曰、九江王黥布楚梟將、與二項王一有レ郄、彭越與二齊王田榮一反二梁地一、此兩人可二急使一。

【急駛】48（キフシ） いそぎはしる。

【急事】49（キフジ） 差し迫つた事柄。〔史記、天官書〕七星、頸、爲二員宮一、主二急事一。

【急時】50（キフジ） いそぎのとき。〔史記、荊軻傳〕方二急時一不レ及レ召二下兵一、以レ故荊軻乃逐二秦王一。

【急就】51（キフシウ） 急に成就する。速成。〔史記、李斯傳〕夫以二秦之彊、大王之賢一、由二竈上騷除一、足下以滅二諸侯一成二帝業一、爲中天下一統上、此萬世之一時也、今怠而不二急就一、諸侯復彊、相聚約レ從、雖レ有二黃帝之賢一、不レ能レ幷也。

〔急就章〕52（キフシウシヤウ） ❶書名。急就篇に同じ。❷速成する。

〔急就篇〕53（キフシウヘン） 書名。四卷。漢、史游撰。隋志には急就章といひ、後、單に急就ともいふ。萬物の名及び人の姓字を列敍し、之を解釋したもの。其の字は略〻類に從つて並列し、別に門目を立てない。急就は速成の義、童蒙の簡牘を學ぶ者のために作る。唐、顏師古の注、宋、王應麟の補注、清、孫星衍の考異がある。〔四庫提要、經、小學類〕・〔玉海〕・〔吉石庵叢書、第三集〕・〔靈鶼閣叢書、二〕・〔功順堂叢書、十〕・〔學津討源、四〕・〔古逸叢書、三十八〕・〔王忠慤全書、十四〕。

【急疾】54（キフシツ） ❶はやいこと。せいていらだつ。〔史記、張釋之傳〕秦以レ任二刀筆之吏一、吏爭以二急疾苛察一相高。〔風俗通、過譽〕其俗急疾、有二氣法然一。❷にはかに起る病。急病。

【急症】55 chi^{2} chêng 急性の病。急病。

〔急症死〕56 chi^{2} chêng ssŭ^{3} 急病でにはかに死ぬ。頓死。

【急觴】57（キフシヤウ） 續け飲みすること。連飲。〔謝靈運、擬二魏太子鄴中集一、陳琳詩〕哀哇動二梁埃一、急觴盪二幽默一。〔杜甫、蘇端薛復筵簡二薛華一醉歌詩〕垂レ老惡レ聞二戰鼓悲一、急觴爲緩二憂心擣一。

【急手】58（キフシユ） 手をはやめる。手をいそがしくつかふ。〔陳師道、詩〕急手疾口如レ翻レ盆。

【急需】59 chi^{2} hsü^{1} いそぎの入用。急場の需「要。

【急浚】60（キフシユン） 流が急で深いこと。〔北史、成淹傳〕黃河急浚、人皆難レ涉。

【急所】61（キフシヨ） 身體中で、其所を害すれば生命にかかはる所。轉じて、すべて物の要點。〔平治物語、二〕義朝被レ寄二六波羅一、急所を射られつるぞ。

【急杵】62（キフシヨ） しげくつくきぬたの音。〔陸游、露坐詩〕秋近不レ堪レ聞二急杵一、夜涼已復怯二輕絺一。〔吳師道、促織吟〕背壁孤燈照二清淚一、誰家急杵擣二寒衣一。

【急書】63（キフシヨ） いそぎのてがみ。

【急處】64（キフシヨ） 急迫した場所。〔史記、平準書〕他郡國各輸二急處一。〔注〕索隱曰、謂三他郡能入レ粟輸二所在急要之處一也。

【急舒】65（キフジヨ） 急と舒。せまつたのとゆるやかなの。急緩。〔論衡、寒溫〕寒溫應二急舒一。〔張衡、東京賦〕齊二急舒於寒燠一。

【急鐘】66 chi^{2} chung^{1} 非常を告げるかねの音。はやがね。

【急織】67（キフシヨク） いそいでおる。〔埤雅〕促織、一名投機、謂三其聲如二急織一。

【急信】68（キフシン） いそぎのたより。

【急振】69（キフシン） 急賑(72)に同じ。

【急進】70（キフシン） ❶いそぎすすむ。にはかにすすむ。急に軍を進める。驀進。〔後漢書、段熲傳〕熲急進、與二晏等一共追二之於令鮮水上一。〔李衛公問對、上〕恃レ勇急進。❷官位などが急に進みのぼる。〔後漢書、班彪傳論〕言不レ失レ正、仕不二急進一。

〔急進黨〕71（キフシンタウ） 政治上其の他の事柄について、從來の狀態に滿足せずして新方面に急進せんとする主義のなかま。保守黨の對。

【急賑】72（キフシン） 至急に救濟する。至急を要する賑給。〔淸會典事例、戶部、蠲恤、賑飢〕李鴻章即督二飭印委各員一、迅速分投查勘、設レ法拯救、散放急

【急人】73（キフジン）　人の危急に赴き救ふこと。〔漢書、地理志〕其俗愚悍少レ慮、輕薄無レ威、亦有レ取レ長、敢ニ於急一レ人。〔注〕如淳曰、赴ニ人之急一、果ニ於赴一レ難也。

【急須】74（キフス）　❶酒の燗をする薄い鍋。須は用。急場の時に用ひるものといふ義。〔三餘贅筆、急須僕僧〕吳人呼ニ暖レ酒器一爲ニ急須一、急須者、以ニ其應レ急而用一也。❷茶を煎じ出す小さい土瓶。きびしよ。❸緊急の必要。また、そのやうな物。

【急水】75（キフスイ）　流れのはやい水。急流。〔杜甫、初冬詩〕漁舟上ニ急水一、獵火著ニ高林一。

【急水門】76（キフスイモン）　地名。❶廣東省海南島文昌縣の北。海中に石が亂立し、常に商船の害を爲す。俗に鬼門關といふ。❷廣東省寶安縣の南、香港の西。虎門以南の要地。

『急水好捕魚』77 chi² shuei³ hao² pu³ yü²　急流は魚が捕り易い。困難には相應の效果が伴なふといふ諺。

【急趣】78（キフスウ）　いそぎせまる。〔舊唐書、朱敬則傳〕急趣無ニ善迹一、促柱少ニ和聲一。

【急性】79（キフセイ）　❶氣ばやの性質。せつかち。短氣。〔正字通〕快、急性曰ニ快性一。❷急性子に同じ。❸急に起る性質の病症。

『急性子』80（キフセイシ）　鳳仙花の異名。〔本草、鳳仙〕釋名、急性子、旱珍珠、金鳳花、小桃紅、夾竹桃、海蒳、染指甲草、菊婢、時珍曰、女人采ニ其花及葉一、包染ニ指甲一、其實狀如ニ小桃一、老則迸裂、故有ニ指甲・急性・小桃諸名一。

【急政】81（キフセイ）　さしせまつたまつりごと。〔管子、五行〕天子敬行ニ急政一。

【急逝】82（キフセイ）　急死(45)に同じ。

【急召】83（キフセウ）　いそいで召す。にはかに召す。〔漢書、成帝紀〕上嘗急召ニ太子一。

【急燒】84（キフセウ）　❶はげしくやく。〔李商隱、腸詩〕熱應レ翻ニ急燒一、冷欲レ徹ニ空波一。❷chi² shao¹　酒を燗する容器。さけわかし。急須。

【急切】85（キフセツ）　いそぎせまる。急に。俄に。急迫。〔後漢書、崔寔傳〕聖人執レ權、遭レ時定レ制、步驟之差、各有ニ云設一、不彊人以不レ能下背ニ急切一而慕上所レ聞也。〔注〕背ニ當時之急切一、而慕ニ所レ聞之事一、則非ニ濟時之要一。

『急切里』86 chi² ch'ie⁴ li　にはかに。せつぱつまつて。〔長生殿、驛備〕急切里沒有人。

【急設】87（キフセツ）　急に設けること。にはかごしらへ。

【急雪】88（キフセツ）　にはかにふるゆき。〔陸游、送三七兄赴ニ楊州帥幕一詩〕急雪打レ窗心共碎。

【急節】89（キフセツ）　音曲で急に奏する調子。〔傅毅、舞賦〕及レ至三回レ身還入迫ニ於急節一。

【急宣】90（キフセン）　至急にみことのりを宣布する。又、いそぎのみことのり。〔水經、江水注〕或王命急宣。〔權德輿、岐國杜公墓誌〕急宣密啓、多所ニ交感一。

【急箭】91（キフセン）　❶はやい矢。〔唐太宗、帝京篇〕驚雁落ニ虛弦一、啼猿悲ニ急箭一。❷矢の飛ぶよりも早いこと。〔孔稚珪、褚先生百玉碑序〕奔湍急レ箭。

【急戰】92（キフセン）　急に戰ふ。〔後漢書、袁紹傳〕南幸ニ於急戰一、北利在レ緩レ師。

【急選】93（キフセン）　すみやかに選用すること。又、その文官任命形式の一。〔六部成語、吏部、急選、注解〕在ニ本班中一比ニ別人一、快快的選用。〔清國行政法汎論、文官任命形式、吏部詮選〕月選行ニ於其雙月一者曰ニ大選一、行ニ於單月一者曰ニ急選一、急選則選ニ於補班一、大選則選ニ於除班陞班一。

【急足】94（キフソク）　飛脚の類。〔歐陽脩、與ニ焦殿丞一簡〕急足辱レ書、深所ニ浣慰一。

【急促】95（キフソク）　にはかにせまつたこと。急趣(97)に同じ。

【急速】96（キフソク）　あわただしくはやい。きばやい。又、にはかにせまつたこと。大急ぎ。〔晉書、羊祜傳〕其俗急速、不レ能ニ持久一、弓弩戟楯不レ如ニ中國一。〔顏氏家訓、治家〕雖レ有ニ急速一、必待ニ卷束整齊一、然後得レ起。

【急趣】97（キフソク）　にはかにうながす。急促。〔史記、留侯世家〕急趣ニ丞相御史一、定レ功行レ封。

【急卒】98（キフソツ）　にはかなこと。又、にはかに。〔顏氏家訓、風操〕世人或端ニ坐奧室一、不レ妨ニ言笑一、盛營ニ甘美一、厚供ニ齋食一、迫有ニ急卒一、密戚至交、盡無ニ相見之理一、蓋不レ知ニ禮意一乎。

【急猝】99（キフソツ）　急卒に同じ。

【急帶】100（キフタイ）　束帶を引きしめる。〔南齊書、張融傳〕王敬則見ニ融革帶垂寬一、殆將レ至レ骼、謂レ之曰、革帶太急、融曰、既非ニ步吏一、急帶何爲。

【急態】101（キフタイ）　狼狽の態度。〔長生殿、絮閣〕丑作ニ急態一。

【急盜】102（キフタウ）　盜人を嚴しく警めること。〔宋史、曾鞏傳〕其治以ニ疾レ姦急一レ盜爲レ本。

【急湍】103（キフタン）　はやせ。水のはげしく流れる瀨。〔吳均、與ニ朱元思一書〕急湍甚レ箭、猛浪若レ奔。〔杜甫、小寒食舟中作詩〕娟娟戲蝶過ニ閑幔一、片片輕鷗下ニ急湍一。

【急談】104（キフダン）　いそぎのはなし。至急を要する談合。

【急灘】105（キフダン）　はやせ。急湍。〔竹坡詩話〕議者以レ埧爲ニ急灘頭上水船一。〔崔道融、溪夜詩〕漁人抛得釣筒盡、却放ニ輕舟一下ニ急灘一。

【急智】106 chi² chih⁴　咄嗟の場合に出る智惠。頓智。機智。

【急竹】107（キフチク）　調子の急な竹の樂器。急竹繁絲を見よ。

『急竹繁絲』108（キフチクハンシ）　音樂の聲のやかましいこと。繁縟な音樂。竹は管樂器、絲は弦樂器。〔翁卷、白紵詩〕急竹繁絲互催逼、吳娘嬌濃玉無レ力。

【急場】109（キフバ）　事の急な場合。にはかな時。

【急誅】110（キフチユウ）　誅伐をきびしくする。〔孔子家語、辨政〕緩レ令急レ誅、是謂ニ之暴一。

【急徵】111（キフチヨウ）　いそいで召す。〔舊唐書、崔彥昭傳〕獨推ニ元老一、曾請ニ急徵一。

【急追】112（キフツイ）　急に追ひかけること。急いで追ふこと。

【急遞】113（キフテイ）　宋代、驛遞の一。急脚遞(19)に同じ。〔事物紀原、州郡方域部、急遞〕筆談曰、驛傳舊有ニ步馬急遞三等一、急遞最遽、日行四百里、唯軍興用レ之。

『急遞舖』114（キフテイホ）　元代、四方に文書を送達する機關。驛站。〔元史、世祖紀一〕中統元年夏四月、置ニ急遞舖一。〔元史、兵志四〕古者置郵而傳レ命、示レ速也、元制、設ニ急遞舖一、以達ニ四方文書之往來一。

【急挑】115（キフテウ）　❶急にはねる。〔成公綏、隸書體文〕或輕拂徐振、緩案急挑。❷にはかにいどむ。

【急笛】116（キフテキ）　調子のせまつた笛。〔熊朋來、瑟賦〕都曇臘答急笛悲簫、以奮ニ其啁哳一。

【急轉】117（キフテン）　急に轉廻する。俄に變る。急變。

『急轉直下』118（キフテンチヨクカ）　俄かに變化し、非常な勢で落ちて來ること。形勢が急にかはつて事件などが決着すること。

【急囀】119（キフテン）　せはしくさへづる。〔蘇頲、贈ニ彭州權別駕一詩〕黃鶯急囀春風盡、斑馬長嘶落景催。

【急傳】120（キフデン）　宿つぎのはや馬に乘つて急ぎ行く使者。急飛脚。〔韓非子、外儲說右上〕周公旦從レ魯聞レ之、發ニ急傳一而問レ之曰、夫二子賢者也、今日饗レ國而殺レ賢者、何也。

【急電】121（キフデン）　❶すさまじいいなづま。〔韓偓、妒媒詩〕難レ留旋逐驚飈去、暫見如下隨ニ急電一來上。〔齊己、夏雨詩〕乍紅縈ニ急電一、微白露ニ殘陽一。❷至急の電報。

【急度】122（キツト）　❶必ず。是非とも。❷ちよつと。すぐに。❸おごそかに。きびしく。❹ぢつと。動かずにゐるさま。❺ずつと。

【急渡】123（キフト）　急いでわたる。〔史記、項羽紀〕願大王急渡。

【急圖】124 chi² t'u²　急務。

【急等】125 chi² têng³　急いで。さしあたり。至急。

【急鬭】126（キフトウ）　はげしくたたかふ。〔握奇經〕革音五、一持レ兵、二結レ陣、三行レ列、四超走、五急鬭。

【急難】127（キフナン）　さしせまつたなんぎ。一說に、相手の艱難をなほざりにせず、急いで救ふ。〔詩、小雅、常棣〕兄弟急難。〔傳〕言三兄弟之相ニ救於急難一。

【急熱】128（キフネツ）　❶よしみのあついこと。和好の至れること。〔唐書、李寶臣傳〕與ニ薛嵩・田承嗣・李正己・梁崇義一相姻嫁、急熱爲ニ表裏一。〔杜牧、感懷詩〕急熱同ニ手足一、唱和如ニ宮徵一。❷急に發する熱。

【急派】129（キフハ）　急いで派遣する。

【急怦】130 chi² p'êng¹　性急な。心の落ち付かない。又、熱中する。熱望する。

【急報】131（キフハウ）　いそぎの知らせ。俄のしらせ。火急の報知。〔戴表元、辛巳歲六月三日書レ事詩〕急報傳來又不レ眞、迎門翁稚笑聲頻。

【急忙】132 chi² mang²　いそがしい。大急ぎで。

【急暴】133（キフバウ）　短氣。〔晉書、桓玄傳〕性又急暴、呼召嚴速。

【急拍】134 樂曲の急調な部分。急拍子。〔李郢、醉送詩〕江梅冷豔酒清光、急拍繁絃醉二畫堂一。

【急迫】135 さしせまる。せつぱ詰まる。

【急縛】136 きびしくしばる。又、強くしめつける。〔杜甫、遺興詩〕猛虎憑二其威一、往往遭二急縛一。

【急乏】137 さしせまってとぼしいこと。俄に欠乏する。〔後漢書、寇恂傳〕時軍食急乏、恂以二輦車驪駕一轉輸、前後不レ絶。

【急便】139 急信(68)に同じ。

【急洑】140 はやせ。水の渦巻くところ。

【急物】141 急に製作し、又、施行するもの。

【急忿】142 氣をもむ。〔紅樓夢、一回〕再兼上年驚嚇、急忿怨痛。

【急聞】143 いそぎ聞く。すみやかに聞く。〔漢書、賈山傳〕切直之言、明主所レ欲二急聞一、忠臣之所二以蒙レ死而竭レ知也。

【急病】144 ❶さしせまつたくるしみ。窮迫。〔風俗通、過譽〕所下以卹二民急病一、懲中俗逋慝上也。❷俄かに起るやまひ。急症。

【急聘】145 至急に招聘すること。

【急飄】146 疾い風。はやて。〔狄遵度、雨詩〕時覺急飄愁未レ已。

【急颷】147 chi² piao¹ にはかに吹く風。

【急返】148 いそいでかへる。〔史記、晉世家〕繆公大歡與二重耳一飲、趙衰歌二黍苗詩一、繆公曰、知三子欲二急返レ國矣。

【急遍】149 樂曲中の急調な個處。〔張祜、悖拏兒舞詩〕春風南內百花時、道唱梁州急遍吹。

【急變】150 急にかはる。又、にはかの出來事。〔漢書、平帝紀〕寖令以二急變一聞。〔注〕師古曰、非常之事、故云二急變一。

【急募】151 至急に募集すること。

【急沫】152 はげしいしぶき。〔鮑照、望水詩〕流駛巨石轉、湍廻急沫上。

【急務】153 もつとも早く爲さねばならないつとめ。さしあたつて爲すべきしごと。〔漢書、谷永傳〕此五者、王事之綱紀、南面之急務。〔後漢書、盧植傳〕帝以レ非二急務一、轉爲二侍中一、遷二尚書一。〔揚雄、長楊賦〕本非二人主之急務一。〔顏氏家訓、雜藝〕亦濟身之急務也。

【急用】154 ❶いそぎの用事。❷chi² yung⁴ 俄かに用ひる。いそいで使用する。

【急來】155 chi² lai² 事態の急を告げること。又腹を立てること。

【急瀨】156 はやせ。急湍。急灘。〔許渾、泛二五雲溪一詩〕急瀨鳴二車軸一、微波漾二釣筒一。〔黃溍、西峴峰詩〕層雲抱二幽峯一、急瀨洩二嵌竇一。

【急擂】157 いそぎうつ。〔福惠全書、保甲部、訓練伍壯〕鼓聲急擂、大旗前亞。

【急瀧】158 急瀨(156)に同じ。〔馬祖常、詩〕解レ航下二急瀧一、百夫不レ能レ留。

【急瀾】159 あれくるふなみ。怒濤。〔謝靈運、九日從二宋公戲馬臺集一送二孔令一詩〕河流有二急瀾一、浮驂無二緩轍一。

【急流】160 はやいながれ。はやせ。激湍。〔漢書、溝洫志〕於レ是禹以爲、河所二從來一者、高水湍悍、難三以行二平地一、〔注〕師古曰、急流曰レ湍。〔曹植、雜詩〕江介多二悲風一、淮泗馳二急流一。

【急流勇退】161 急流を勇敢に徒涉する。官位などを斷然辭し去る喩。〔名臣言行錄〕一僧謂二錢若水一曰、公急流中勇退人也。〔蘇軾、贈二善レ相程傑一詩〕火色上騰雖レ有レ數、急流勇退豈無レ人。〔戴復古、曾雲巢同二相勉李玉澗一不レ赴レ召詩〕日暮倒行非二我事一、急流勇退有二何難一。

【急溜】162 はげしくおちる雨滴。〔袁桷、灤河詩〕急溜槽床注。

【急淚】163 せはしく流れる淚。〔宋書、劉德願傳〕志亦嗚咽、他日有レ問レ志、卿那得三此副二急淚一。

【急艫】164 いそがしく漕ぐろ。はやろ。〔范成大、閶門初泛詩〕急艫潮痕出、疎鐘暝色生。

【急漏】165 雨の漏るのに急困する。〔管子、四時〕除二急漏田廬一。〔纂詁〕農事方殷、爲二貧民一除下治二窘於雨漏一之田廬上。

【急解索】166 植物の名。半邊蓮の異名。あぜむしろ。〔本草、半邊蓮〕集解、時珍曰、半邊蓮小草也、生二陰濕塍塹邊一、就レ地細梗引レ蔓、節節而生二細葉一、秋開二小花一、淡紅紫色、止有二半邊一、如二蓮花狀一、故名、又呼二急解索一。

【急救方】167 急病に對する應急處置。

【急驚風】168 急性の小兒驚風病。目に珍しいものを見、耳に異聲を聞いて驚くことによつて急發する。〔松風村雨東帶鑑、一〕。

【急口令】169 遊戲の一種。いくつかの雙聲疊韻の語をあつめて置いて、急に人にとかせて、誤れば罰する。吃口令(2－3280··29)を見よ。

【急勾配】170 急な傾斜。

【急告寧】171 休假の名。急は及、急使が前後相及ぶこと。告は豫告・賜告の略、寧は安。父母の安否を問ふために休假を賜はること。〔唐類函〕按、急告寧、皆休假也、釋名曰、急、及也、言二操切之使相逮及一也、李斐漢書曰、告、請也、言レ請二休謁一也、寧、安也、告曰レ寧也。

【急三臺】172 曲調の名。三臺(1－12··1212)の❸を見よ。〔樂府詩集、雜曲歌辭、三臺〕按二樂苑一、唐天寶中、羽調曲有二三臺一、又有二急三臺一。

【急攘攘】173 急ぎあわてるさま。〔西廂記、崔鶯鶯夜聽レ琴雜劇〕急攘攘因レ何、扢搭地肥二雙眉鎖一納合。

【急色鬼】174 chi² sê⁴ kuei³ 色情狂。

【急煎煎】175 心のいらだつこと。〔西廂記、草橋店夢二鶯鶯一雜劇〕痛煞煞傷レ別、急煎煎好夢兒應レ難レ捨。

【急蘭丹】176 馬來半島の地名。又、吉蘭丹に作る。古の呵羅單國。明、永樂中入貢す。英國の保護地。〔明史、外國七、急蘭丹傳〕急蘭丹、永樂九年、王麻哈剌查苦馬兒、遣二使朝貢一、十年、命二鄭和一齎レ敕、獎二其王賚一以二錦綺紗羅綵帛一。

【急于脫貨】177 chi² yü² t'uo¹ huo⁴ 商人が手持商品の手放しをいそぐこと。

【急先務齋】178 清、徐準宜(4－10110··488)の號。

【急不如快】179 chi² pu⁴ ju² k'uai⁴ 大急ぎで。急ぎに急いで。

【急脈緩受】180 文章法の名。急脈は語勢の切迫するをいひ、緩受は緩やかに承接するをいふ。

【急與レ之期而觀二其信一】181 危急の際にした約束によつて信義の有無を見る。危急の際の約束は守り難いから、之を守るの如何によつて其の信義を觀る。〔莊子、列禦寇〕卒然問レ焉而觀二其知一、急與レ之期而觀二其信一。

【怦】10476

ハウ ヒヤウ 〔集韻〕披耕切 庚 ㄆㄥ p'êng¹

❶**こころせく**。〔廣韻〕怦、心急。〔廣雅、釋詁一〕怦、急也。〔楚辭、宋玉、九辯〕心怦怦兮諒直。〔集注〕怦怦、心急貌。❷**ただしい**。**忠謹のさま**。怦怦。〔集韻〕怦、一曰、忠謹皃。〔楚辭、宋玉、九辯〕心怦怦兮諒直。〔補注〕怦、一曰、忠謹貌。❸或は姘(3－6188)に作る。〔集韻〕怦、或作レ姘。

【㤕】10477

㊀チユツ チユチ 〔集韻〕竹律切 質

㊁ホツ ホチ 〔集韻〕普沒切 月

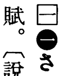
㊂トツ トチ 〔集韻〕當沒切 月

㊀**心憂へるさま**。〔玉篇〕㤕、憂心也。〔集韻〕㤕、憂心皃。㊁**心の起るさま**。〔集韻〕㤕、心㤕然起也。㊂**おそれる**。〔集韻〕㤕、怖也。

【性】10478

㊀セイ シヤウ 〔集韻〕息正切 ㄒㄧㄥˋ hsing⁴ 敬

㊁セイ シヤウ 〔集韻〕新佞切 徑


小篆

㊀❶**さが**。うまれつき。人の天賦。〔說文〕性、人之昜气性、善者也、从レ心生聲。〔中庸〕天命之謂レ性。〔論語、陽貨〕性相近也。〔章句〕性、卽理也。〔皇疏〕性者、生也。〔荀子、性惡〕不レ可レ學不レ

可事而在人者、謂之性。〔論衡、初稟〕性、生而然者也。㊁もちまへ。物の本質。〔廣雅、釋詁三〕性、質也。〔左氏、昭、二十五〕因地之性。〔疏〕性、謂本性。〔孟子、告子上〕是豈水之性哉。㊂生命。〔左氏、昭、八〕莫保其性。〔注〕性、命也、民不敢自保其性命。㊃いきる。生活。〔左氏、昭、十九〕民樂其性。〔疏〕性、生也。㊄姿體。形貌。〔呂覽、達鬱〕牛之性不若羊。〔注〕性、猶體。〔淮南子、脩務訓〕不待脂粉芳澤而性可說者。〔注〕性、猶姿也。㊅五行。〔漢書、翼奉傳〕觀性以歷。〔注〕張晏曰、性、謂五行也。㊆姓。〔萬姓統譜〕性、見姓苑。㊇［佛］しやう。萬有の原因。〔大乘義章、一〕所言性者釋有四義、一者、種子因本之義、二、體義名性、三、不改名性、四、性別爲性。🈔心がうごく。〔集韻〕性、心悸也。［邦］㊀しやう。陰陽家で、木火土金水の五行を生れた年月日等に配當し、相生・相尅の理によつて吉凶を說く。あひしやう。㊁せい。㋑男女の種別。sex の譯語。㋺性慾。

［名乘］ナリ。

【性惡】1（セイアク）㊀人の本性は惡なりとする說。性說(47)を見よ。㊁荀子の篇名。

【性安】2（セイアン）明、熊懷(7－19294··27)の字。

【性戒】3（シヤウカイ）［佛］二戒の一。佛制によらない戒。

【性海】4（シヤウカイ）［佛］眞如の理性が海の如く深廣なこと。〔大唐西域記序〕廓群疑於性海、啓妙覺於迷津。

【性向】5（セイカウ）性癖(74)に同じ。

【性行】6（セイカウ）うまれつきとおこなひ。又、うまれつき。〔古詩、爲焦仲卿妻作〕我有親父兄、性行暴如雷。〔漢書、五行志下之上〕知其性行。〔後漢書、張衡傳〕旌性行以制佩兮。〔諸葛亮、前出師表〕將軍向寵、性行淑均、曉暢軍事。

【性剛】7（セイガウ）性質の剛毅なこと。〔後漢書、傅燮傳〕知燮性剛有高義、恐不能屈志以免。〔南史、庾登之傳〕登之性剛、每陳己志。

【性格】8（セイカク）其の人特有の性質。もちまへ。氣ぐらゐ。たち。性質品格。品性。〔李中、獻張拾遺詩〕官資淸貴近丹墀、性格孤高世所稀。

【性學】9（セイガク）宋儒の性命理氣の學。理學。性命理氣(79)を見よ。〔羣書備考、性學〕自程子有論性論氣之說、張子有合虛與氣之說、而性學大明於天下矣。〔剪燈餘話、何思明遊酆都錄〕以性學自任、酷不喜老佛。

【性合】10（シヤウアヒ）陰陽家の說で、人の性を木・火・土・金・水の五行に配當し、其の人の性質運命等を考へ定めること。

【性起】11 hsing⁴ ch'i³ 立腹する。

【性僞】12（セイギ）天賦と人爲。本心と禮儀。性說(47)を見よ。〔荀子、禮論〕性者本始材朴也、僞者文理隆盛也。

【性急】13（セイキフ）氣のせはしいこと。腹立ち易いこと。氣みぢか。せつかち。短氣。〔韓非子、觀行〕西門豹之性急、故佩韋以緩己、董安于之心緩、故佩弦以自急。〔北史、陳元康傳〕神武曰、我性急。〔紅樓夢、三十二回〕倆又認眞了、還是這麼性急。

【性境】14（シヤウキヤウ）［佛］三境の一。三境(1－12··295)を見よ。

【性具】15（シヤウグ）［佛］本覺の性をいふ。本覺の性は一切の善惡諸法を具有するからいふ。體具・理具ともいふ。

【性空】16（シヤウクウ）㊀［佛］十八空の一。諸法皆衆緣より生じ、其の性空寂、故に性空といふ。空(8－25415)を見よ。㊁宋、妙普(3－6090··185)の號。

〖性空大師〗17（シヤウクウダイシ）唐、寰中(3－7344··14)の謚。

【性和】18（セイクワ）明、馬愉(12－44572··582)の字。

【性緩】19（セイクワン）性質の緩慢なこと。性急(13)を見よ。

【性桂】20（セイケイ）淸、滿洲正藍旗人。姓は王氏。謚は恭簡。康熙中、大理寺卿、雍正中、吏部尙書となる。〔國朝耆獻類徵、六十八〕。

【性月】21（セイゲツ）本性が澄んで淸らかなのを月の澄んだのに喩へていふ。〔鮑溶、懷幽期詩〕宵機冥智難思量、無盡性月如空王。

【性業】22（セイゲフ）性質と學業。〔蜀志、諸葛喬傳〕喬才論者以爲、不及兄、而性業過之。

【性根】23（セイコン）㊀うまれつき。本來の性質。〔李紳、壽州法華院石經堂記〕隨其性根、用假方便。㊁（シヤウネ）奧底にある善性。たましひ。こころね。

【性齋】24（セイサイ）宋、楊應龍(6－15112··443)の號。

【性相】25（シヤウサウ）［佛］萬物の本體と現象。性は法の自體で、內在して不易なもの。相は法の相貌で、外現して變化するもの。〔王巾、頭陀寺碑文〕名言不得其性相。〔注〕善曰、竺道生曰、法性者法之本分也、法相者事之皃也。〔法華經、方便品〕如是相、如是性。〔涅槃經、二〕汝當觀諸行性相。〔智度論〕性相小有差別、性言其體、相言可識。

【性子】26 hsing⁴ tzŭ うまれつき。性質。たち。性兒。

〖性子一齣一齣〗27 hsing⁴ tzŭ i¹ ch'u¹ i¹ ch'u¹ 性質が動搖し易い。氣が變り易い。

【性之】28（セイシ）字號。㊀宋、謝夢生(10－35827··368)の字。㊁宋、王銍(7－20823··788)の字。㊂元、歐陽道(6－16185··82)の字。㊃明、何廷仁(1－511··344)の字。㊄明、王天與(7－20823··1974)の字。

【性兒】29 hsing⁴ êrh 性質。性癖。たち。性子。

【性識】30（セイシキ）意識をいふ。〔沈約、神不滅論〕自斯已上、性識漸弘。

【性質】31（セイシツ）㊀うまれつき。本來の氣質。〔唐書、柳公綽傳〕公綽幼孝友、性質嚴重、起居皆有禮法。㊁物事の本來固有する所のもの。事物は之によつて其の存在を規定せられ、他と種類を區別せられる。

【性實】32（セイジツ）性質の實直なこと。〔魏志、劉劭傳〕性實之士、服其平和良正。

【性尙】33（セイシヤウ）このみ。好尙。〔後漢書、獨行傳序〕如此性尙分流、爲否異適矣。〔注〕人之好尙不同、或爲或否、各有所適。

【性常】34（セイジヤウ）明、王綱(7－20823··144)の字。

【性情】35（セイジヤウ）性と情。又、こころのおもむき。こころ。きだて。〔易、乾〕利貞者性情也。〔禮、樂記〕人生而靜天之性也、感於物而動性之欲也。〔孫希旦集解〕朱子云、此言性情之妙、人之所生而有者也、性之欲、卽所謂情也。〔莊子、繕性〕無以及其性情而復其初。〔荀子、儒效〕縱性情而不足問學、則爲小人矣。〔四書逸箋〕孔疏引賀瑒云、性之與情、猶波之與水、靜時是水、動則是波、靜時是性、動則是情。〔韓愈、原性〕性也者、與生俱生也、情也者、接於物而生也、性之品有三、而其所以爲性者五、情之品有三、其所以爲情者七。〔朱子全書、性理、心性情〕四端情也、性則理也、發者情也、其本則性也、如見影知形之意。

〖性情齋〗36（セイジヤウサイ）淸、陸慶頤(11－41708··312)の號。

〖性情集〗37（セイジヤウシフ）書名。六卷。元、周巽撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【性儒】38（セイジユ）明、萬振孫(9－31339··602)の字。

【性宗】39（シヤウシユウ）［佛］法性宗の略稱。法性宗(6－17290··158)を見よ。

【性術】40（セイジユツ）こころだて。心術。〔禮、樂記〕聲音動靜、性術之變盡於此矣。〔論衡、本性〕或仁或義、性術乖也。

【性初】41（セイシヨ）明、秦初(8－24995··96)の字。

【性心】42（シヤウシン）［佛］性に卽する圓明の眞心。〔楞嚴經、一〕性心失眞、認物爲己、輪迴是中、自取流轉。

【性眞】43（シヤウシン）［佛］本性をいふ。〔楞嚴經、三〕性眞圓融、皆如來藏、本無生滅。

【性仁】44（セイジン）明、彭綱(4－10003··15)の字。

【性成】45（セイセイ）本性のままに成す。〔列子、仲尼〕性成之者得之。〔列子、湯問〕默而得之、性而成之。

【性制】46（シヤウセイ）［佛］淸の僧。著に龍唐山志がある。〔四庫提要、七十六〕。

【性說】47（セイセツ）人の本性に關する說。孔子の說は、論語陽貨篇に、性相近也、習相遠也とあるのみで、其の詳細は窺はれぬが、中庸には、天命之謂性と始めて定義を下してゐる。周人世碩は、人性に善不善があるとの論を爲し、次いで、孟子の性善說、荀子の性惡說が出て相對立した。後、之を調和折衷するもの多く、性無善惡說・性

善惡混合說・性有善惡說・性情相應說・性善情惡說等が現はれ、更に性を種類によつて分つものに性三品說、內容によつて分つものに本然氣質說・性氣一元說等がある。❶性善說。人の本性は善なりとする說。孟子が始めて唱へたもの。人の性は何人も善で、誰でも堯舜たり得ると說き、四端說を以て之を實證してゐる。而して所謂惡なるものは、善性が物欲によつて蔽はれるから生ずるとした。四端（3－4682・563）を見よ。〔孟子、滕文公上〕孟子道㆓性善㆒、言必稱㆓堯舜㆒。〔集注〕性者、人所㆘稟㆓於天㆒以生㆖之理也、渾然至善、未㆓嘗有㆑惡、人與㆓堯舜㆒、初無㆓少異㆒、但衆人汨㆓於私欲㆒而失㆑之、堯舜則無㆓私欲之蔽㆒、而能充㆓其性㆒爾、故孟子與㆓世子㆒言、每道㆓性善㆒、而必稱㆓堯舜㆒以實㆑之。〔章潢圖書編、性善說〕古今論㆑性者、紛然不㆑齊、孟子一言以蔽㆑之曰㆓性善㆒、是性善一言、果足㆘以盡㆓性之蘊㆒乎、諸家之說、果皆邪說淫詞、不㆑足㆓與言㆒㆑性乎、蓋性一也、有㆘指㆓其源㆒而言㆑之者㆖、有㆘指㆓其流㆒而言㆑之者㆖、有㆘指㆓其末流之遠㆒而言㆑之者㆖、又有㆘不㆑得已合㆓源流㆒而並㆓言之㆒者㆖、謂、非㆑言㆑性、則不㆑可㆑謂㆔其知㆓性之本源㆒、而其言有㆓功於世㆒、終不㆑若㆘孟氏道㆓性善㆒之簡而盡㆖也。❷性惡說。人の本性は惡なりとする說。荀子の唱へたもの。荀子は性と僞とを分け、人の性は惡なり、其の善なるは僞なりと斷ずる。卽ち、人は生れながらにして利を好むもので、從つて、性に從へば爭奪生じ辭讓亡び、所謂惡となる。能く此の性を化して僞を起し、僞によつて禮儀を生ずれば善となり、賢聖となるとする。所謂僞とは人爲の意である。〔荀子、性惡〕人之性惡、其善者僞也、今人之性、生而有㆑好㆑利焉、順㆑是、故爭奪生、而辭讓亡焉、云云、故聖人化㆑性而起㆑僞、僞起而生㆓禮儀㆒、禮儀生而制㆓法度㆒、然則禮儀法度者、是聖人之所㆑生也。❸性有善惡說。人の本性には善もあり惡もあり、其の善を養へば益〻善となり、其の惡を養へば益〻惡となるとする說。周の世碩・宓子賤・漆雕開等が之を唱へ、後漢の王充も之に屬する。〔論衡、率性〕論㆓人之性㆒、定有㆑善有㆑惡、其善者固自善矣、其惡者、故可㆔教告率勉使㆓之爲㆑善。〔論衡、本性〕周人世碩以爲、人性有㆑善有㆑惡、擧㆓人之善性㆒、養而致㆑之則善長、性惡、養而致㆑之則惡長、如㆑此則性各有㆓陰陽善惡㆒、在㆑所㆑養焉、故世子作㆓養書一篇㆒、宓子賤・漆雕開・公孫尼子之徒、亦論㆓情性㆒、與㆓世子㆒相出入、皆言、性有㆑善有㆑惡。❹性無善惡說。人の本性は宛も白紙の如くで、善も無く惡も無く、修養如何で何れにも向はしめることが出來るとする說。公孫尼子・告子等が之を唱へた。〔孟子、告子上〕告子曰、性猶㆓杞柳㆒也、義猶㆓桮棬㆒也、以㆓人性㆒爲㆓仁義㆒、猶㆘以㆓杞柳㆒爲㆗桮棬㆖、孟子曰、子能順㆓杞柳之性㆒、而以爲㆓桮棬㆒乎、將戕㆓賊杞柳㆒、而後以爲㆓桮棬㆒也、如將戕㆓賊杞柳㆒、而以爲㆓桮棬㆒、則亦將戕㆓賊人㆒、而以爲㆓仁義㆒與、率㆓天下之人㆒、而禍㆓仁義㆒者、必子之言夫、告子曰、性猶㆓湍水㆒也、決㆓諸東方㆒則東流、決㆓諸西方㆒則西流、人性之無㆑分㆓於善不善㆒也、猶㆓水之無㆑分㆓於東西㆒也、孟子曰、水信無㆑分㆓於東西㆒、無㆑分㆓於上下㆒乎、人性之善也、猶㆓水之就㆒㆑下也、人無㆑有㆓不善㆒、水無㆑有㆑不㆑下、今夫水搏而躍㆑之、可㆑使㆑過㆑顙、激而行㆑之、可㆑使㆑在㆑山、是豈水之性哉、其勢則然也、人之可㆑使㆑爲㆓不善㆒、其性亦猶㆑是也、告子曰、生之謂㆑性、孟子曰、生之謂㆑性也、猶㆓白之謂㆒㆑白與、曰、然、白羽之白也、猶㆓白雪之白㆒、白雪之白、猶㆓白玉之白㆒與、曰、然、然則犬之性、猶㆓牛之性㆒、牛之性、猶㆓人之性㆒與。❺性善惡混合說。人の本性は善惡の二因子が混合して成立するものとなす說。漢の揚雄等の唱へたもの。性は善でも無く惡でも無く、兩因子が混合するもので、氣が之を驅使し、其の驅使如何で善となり惡となると說く。〔法言、修身〕人之性也、善惡混、修㆓其善㆒則爲㆓善人㆒、修㆓其惡㆒則爲㆓惡人㆒、氣也者所㆔以適㆓善惡㆒之馬也與。❻性情相應說。人の性は本來善惡の別無く、外界の刺戟によつて初めて善ともなり、惡ともなるとする說。漢の劉向・後漢の荀悅等が之を唱ふ。〔申鑒、雜言下〕孟子稱㆓性善㆒、荀卿稱㆓性惡㆒、公孫子曰㆔性無㆓善惡㆒、揚雄曰㆓人之性善惡渾㆒、劉向曰㆘性情相應、性不㆓獨善㆒、情不㆗獨惡㆖、曰、問㆓其理㆒、曰、性善則無㆓四凶㆒、性惡則無㆓三仁㆒、人無㆓善惡㆒、文王之教一也、則無㆓周公管蔡㆒、性善情惡、是桀紂無㆑性、而堯舜無㆑情也、性善惡皆渾、是上智懷㆑惠而下愚挾㆑善也、理也、未㆑究矣、惟向言爲㆑然。❼性善情惡說。人の性は本來善であるが、情が之を蔽ふによつて惡を生ずるとする說。唐の李翺、之を唱ふ。〔李翺、復性書〕人之所㆔以爲㆓聖人㆒者性也、人之所㆔以惑㆓其性㆒者情也、喜怒哀懼愛惡欲、七者皆情之所㆑爲也、情既昏、性斯匿矣、非㆓性之過㆒也。❽性三品說。人の本性に上中下の三種ありとする說。孔子は人に上知・中人・下愚の別があることを說き、子思は生知安行・學知利行・困知勉行を分けた。荀悅・文中子・韓愈等に至つて更に之を組織的に說明し、荀悅は、上下は移らず、中は人事に存するもののみといひ、文中子は、學問によつて何人も聖人たることを得と說き、韓愈は上は善、中は上下すべく、下は惡とし、性の屬性として仁・義・禮・智・信の五を擧げ、上の性は信を基礎として他の四を備へ、中の性は此の五つの完全でないもの、下の性は此の五つを全然有せぬものと說いた。後漢の王充は孟子の性善論を以て上の人を指すものとし、揚雄の性善惡混合論を以て中の人を指すものとし、荀子の性惡論を以て下の人を指すものと解してゐる。〔申鑑、雜言〕或問㆓天命人事㆒、曰、有㆓三品㆒焉、上下不㆑移、其中則人事存焉爾。〔論衡、本性〕余固以、孟軻言㆓人性善㆒者、中人以上者也、孫卿言㆓人性惡㆒者、中人以下者也、揚雄言㆓人性善惡混㆒者、中人也。〔韓愈、原性〕性之品有㆓上中下三㆒、上焉者善焉而已矣、中焉者可㆓導而上下㆒也、下焉者惡焉而已、其所㆓以爲㆑性者五、曰仁、曰禮、曰信、曰義、曰智。❾本然氣質說。宋の張載は人の性を本然と氣質とに分け、人は萬物と同じく太虛卽ち氣の凝集によつて生ずるもので、太虛の至正至純至粹の氣を享けたものを本然の性とし、太虛の浮沈する際に生ずる偏正・清濁・純雜の別ある氣を享けたものを氣質の性とする。而して本然の性を得たものは聖人であり、氣質の性は修養によつて、善に歸せしめるを得ると說く。程頤は之を承けて理氣二元論を唱へ、理は所謂天で、性は此の理から生じ、萬人皆同じく純一無雜であるとし、才は氣から生じ、氣の清濁によつて賢愚の別を生ずると說く。朱子は更に之を祖述し、本然の性は理から生じ、氣質の性は氣から生ずるものとし、理は宇宙の本體であるから、此から出た本然の性は純一無雜、寂然不動で絕對善であると說き、氣から生ずる氣質の性は、氣の清濁・昏明・厚薄によつて善惡賢愚の別を生ずると說く。而して本然・氣質の兩性はあらゆる者に備つて居り、唯氣質の性によつて、本然の性を掩ふことが無ければ聖賢となり、然らざるものが凡愚となるとする。〔性理大全、氣質之性〕南軒張氏曰、或問、自㆘孟子言㆓性善㆒、而荀卿言㆓性惡㆒、揚雄言㆓善惡混㆒、韓文公言㆗三品㆖、及㆘至㆓橫渠張子㆒分爲㆗天地之性氣質之性㆖、然後諸子之說始定、性善者天地之性也、餘則所謂氣質者也、云云、程子曰、問、人性本明、其有㆑蔽何也、曰、性無㆓不善㆒、其偏蔽者、因㆓氣稟清濁之不㆑齊也、云云、朱子曰、有㆓天地之性㆒、有㆓氣質之性㆒、天地之性、則太極本然之妙、萬殊之一本也、氣質之性、則二氣交運而生、一本而萬殊也。❿性氣一元說。宋の程顥は天地の大德を生といひ、生之を性といふ。生は卽ち氣、氣は卽ち性と說く。卽ち性は生で生れたままのものであり、乾元の一氣から生じたものである。性と氣とは一で不離のものであり、乾元から出たものであるから萬人皆同一であると主張する。而して性には本來善も無く惡も無く、其の善惡の別は後天的の云爲が正理に合すると否とによつて決するとする。〔性理大全、氣質之性〕程子曰、生之謂㆑性、性卽氣、氣卽性、生之謂也、人生氣稟、理有㆓善惡㆒、然不㆘是性中元有㆓此兩物㆒相對而生㆖也。⓫性情一元說。性と情とは別個のものでなく、一元的のものであるとする說。王安石は、性は情の本であり、情は性の用である。故に性情は一であると說き、朱子は、心の體を性といひ、心の用を情といふと說き、性と情とは心の體用に過ぎぬとする。〔王安石、性情論〕性情一也、世有㆓論者㆒、曰、性善情惡、是徒識㆓性情之名㆒、而不㆑知㆓性情之實㆒也、喜怒哀樂好惡欲、未㆑發㆓於外㆒、而存㆓於

心性一也、喜怒哀樂好惡欲、發二於外一而見二於行情一也、性者情之本、情者性之用、故吾曰、性情一也。

【性善】48 ㊀人性の本來は善であるといふ說。性說(47)を見よ。㊁明、烏本良(7－18998‥462)の字。「名。

〖性善堂〗49 宋、度正(4－9313‥54)の室名。

〖性善堂稿〗50 書名。十五卷。宋、度正撰。經世を志とし、文章は實用に適し、詩格は朱子に類する。〔四庫提要、集、別集類〕。

〖性善圖說〗51 書名。一卷。淸、陸隴其撰。人の性の善なることを圖說したもの。

【性聰】52 淸の僧。順昌の連氏の子。字は憨璞。號は明覺禪師。戒律甚だ高し。世祖、紫衣を賜ふ。明覺聰禪師語錄あり。

【性存】53 字號。㊀明、蔣誠(9－31820‥69)の字。㊁明、芮善(9－30731‥12)の字。

【性體】54 心の本體。〔北史、杜弼傳〕若論二性體一、非レ狹非レ寬。

【性達】55 天稟の達成せること。〔楊脩、答二臨淄侯一牋〕體通性達。

【性智】56 ちゑ。〔論衡、實知〕性智開敏、明二達六藝一。「字。

【性中】57 淸、王敦仁(7－20823‥1998)の字。

【性澄】58 元の僧。會稽の孫氏の子。字は湛堂。號は越溪。大藏を校正し、號を佛海大師と賜はる。著に金剛經集注・心經消災經注・彌陀經句解がある。〔大明高僧傳、一〕。

【性天】59 天から受けた本然の性。天性。性天中有二化育一觸處見二魚躍鳶飛一を見よ。〔禮、中庸〕天命之謂レ性。

〖性天中有二化育一觸處見二魚躍鳶飛一〗60 本性が公明正大で、天が萬物を化育するやうであれば、自分の觸れるところ、總て鳶飛んで天に戾り、魚淵に躍るといつた快活な氣分を保ち得る。〔菜根譚、後、六十六〕性天中有二化育一、觸處見二魚躍鳶飛一。

〖性天澄徹卽饑喰渴飮無レ非三康二濟身心一〗61 自分の本心本性が澄徹し達觀してをれば、饑ゑては食ひ、渴しては飮むといふだけの淡い生活でも、身の健康を保ち、心を樂ませるに十分である。〔菜根譚、後、八十三〕性天澄徹卽饑喰渴飮、無レ非三康二濟身心一。

【性傳】62 字號。㊀元、戚象祖(5－11594‥54)の字。㊁明、吳源(2－3365‥167)の字。

【性度】63 うまれつきのたちと心の持ちかた。性質度量。〔後漢書、劉寬傳〕神色不レ異、乃徐言曰、羹爛二汝手一、其性度如レ此。〔吳志、周瑜傳〕性度恢廓。

【性通】64 明の僧。應天の人。字は蘊輝。正勉と俱に古今禪藻集を編す。〔蘇州府志〕。

【性德】65 ㊀淸の人。納蘭性德(8－27264‥117)を見よ。㊁［佛］修德に對す。一切の萬物が各〻本性の上に善惡迷悟の性能を有するをいふ。修德(1－721‥239)を見よ。

【性能】66 ㊀持ち前と能力。物の性質・能力。㊁うまれつきの能力。本能。㊂機械等のなし得る仕事の量をいふ。

〖性能檢査〗67 ㊀人の性質・能力等を檢査すること。雇主が使用人採用の場合、或は特殊學校に於て入學志望者を選拔する場合などに行ふ。㊁性能試驗。機械等の性能を檢するための試驗。

【性農】68 淸、楊彝珍(6－15112‥410)の字。

【性發】69 hsing^4 fa^1 腹が立つ。癖が出る。

【性法】70 人類の理性に本づいて自然に定つた法則。自然法。

【性病】71 男女の生殖器病。

【性夫】72 字號。㊀宋、方愨(5－13620‥57)の字。㊁明、吳大本(2－3365‥755)の字。

【性分】73 うまれつき。性質。〔後漢書、逸民傳序〕亦云、性分所レ至而已。

【性癖】74 うまれつきのくせ。もちまへのくせ。〔蒙齋筆談、上〕朴性癖常騎レ驢。

【性別】75 男女兩性の別。

【性甫】76 字號。㊀明、查秉彝(6－14643‥108)の字。㊁明、朱存理(6－14424‥899)の字。㊂明、孫存(3－6987‥207)の字。㊃明、李天植(6－14459‥1798)の字。㊄淸、孫秉元(3－6987‥537)の字。㊅淸、楊寶彝(6－15112‥746)の字。

【性慢】77 hsing^4 man^4 呑氣な。氣の長い。性緩。

【性命】78 ㊀萬物の有するそれぞれの性質。天から命ぜられた持ちまへ。〔易、乾〕乾道變化、各正二性命一。〔疏〕性者、天生之質、若二剛柔遲速之別一、命者、人所二稟受一、若二貴賤夭壽之屬一。〔易、說卦〕昔者聖人之作レ易也、將三以順二性命之理一。〔莊子、駢拇〕不レ失二其性命之情一。〔列子、天瑞〕性命非二汝有一。〔荀子、哀公〕若二性命肌膚之不一レ可レ易也。〔呂覽、重己〕不レ達二乎性命之情一也。〔朱子全書、性命〕問二天與レ命性與レ理四者之別一、天則就二其自然者一言レ之、命則就下其流行而賦二於物一者上言レ之、性則就下其全體而萬物所二得以爲一レ生者上言レ之、理則就下其事事物物、各有二其則一者上言レ之、到レ得二合而言一レ之、則天卽理也、命卽性也、性卽理、是如レ此否、曰、然、但如今人說レ天、非二蒼蒼之謂一、據二某看來一、亦舍不レ得二這箇蒼蒼底一。〔性理大全、性理、性命〕程子曰、在レ天曰レ命、在レ人曰レ性、循レ性曰レ道、性也、命也、道也、各有レ所レ當。㊁いのち。壽命。生命。〔史記、蔡澤傳〕性命壽長、終二其天年一。〔漢書、董仲舒傳〕性命之情、或夭或壽、或仁或鄙。〔諸葛亮、出師表〕全二性命於亂世一。〔嵆康、養生論〕至三導レ養得レ理、以盡二性命一、上獲二千餘歲一、下可レ數二百年一。㊂物事の要所。㊃hsing^4 ming^4 生物。

〖性命理氣〗79 宋儒の唱へた學說。天の付與するものを命といひ、之を稟けて我に在るものを性といふ。理は一切平等にして、氣は各各異なる。性は理を稟受する所なるが故に、聖凡異ならず、才は氣を稟受する所なるが故に、賢愚同じからずとする說。性理學。理學。道學。性學(9)を見よ。〔性理大全、性命〕程子曰、天所レ賦爲レ命、物所レ受爲レ性、天之付與、之謂レ命、稟レ之在レ我、之謂レ性、見二於事物一、之謂レ理、理也性也命也、三者未二嘗有一レ異、窮レ理則盡レ性、盡レ性則知二天命一矣、天命猶二天道一也、以二其用一而言レ之、則謂二之命一、命者造化之謂也、朱子曰、天所レ賦爲レ命、物所レ受爲レ性、賦者命也、所レ賦者氣也、受者性也、所レ受者理也。

【性欲】80 ［佛］性とは習性をいひ、欲とは樂欲をいふ。〔無量義經〕知二諸衆生性欲不一レ同、性欲不同、種種說法。

【性慾】81 男女間の肉慾。

〖性慾主義〗82 道德の拘束を脫して、感情のままに性慾を滿足せしめるのを人生の自然なりとする主義。禁慾主義の對。

【性來】83 もちまへ。しやうぶん。生來(7－21670‥388)に同じ。

【性理】84 ㊀うまれつき。もちまへ。本性。しやうね。〔詩、大雅、常武、赫赫明明、疏〕孫炎曰、明明、性理之察也。〔世說新語、文學〕性理遂錯。㊁宋儒の性命理氣の學。性命理氣(79)を見よ。〔西廂記、張君瑞慶二團圝一雜劇〕他憑下著講二性理一齊論魯論、作二詞賦一韓文柳文上。

〖性理學〗85 宋儒の性命理氣の學をいふ。理學。道學。性命理氣(79)を見よ。

〖性理五書〗86 太極圖說(3－5834‥99)・通書(11－38892‥224)・西銘(10－34763‥549)・正蒙(6－16255‥434)・朱子感興詩注(6－14424‥333)を併稱して性理五書といふ。各條を見よ。

〖性理精義〗87 書名。十二卷。淸、康熙帝敕撰。性理大全の蕪雜なのを憂へ、李光地等をして、其の繁を削り要を擧げさせたもの。其の目は、太極圖說・通書・西銘・正蒙・皇極經世・易學啓蒙・家禮・律呂新書(以上全書抄)、學類・性命類・理氣類・治道類。〔四庫提要、子、儒家類〕。

〖性理大全〗88 書名。七十卷。明、永樂十三年、胡廣等奉敕撰。宋の道學者凡そ一百二十家の說を採集し、其の中、原書を採錄して部帙を爲す者九種、群說を採拾し、門を分けて編纂する者十三類。九種の目は、周子太極圖說一卷・通書二卷・張子西銘一卷・正蒙二卷・邵子皇極經世書七卷・朱子易學啓蒙四卷・家禮四卷・蔡元定律呂新書二卷・蔡沉洪範皇極內篇二卷。十三類の目は、理氣・鬼神・性理・道統・聖賢・諸儒・學・諸子・歷代・君道・治道・詩・文である。四書大全・五經大全と共に永樂の三大全と呼ぶ。後、淸の康熙帝は、十三類に稍〻統紀なしとして其の要を提げ、性理精義を撰す。〔四庫提要、子、儒家類〕。

【性理群書句解】89 セイリグンショクカイ 書名。二十三卷。宋、熊節撰。熊剛大注。此の書は宋の諸儒の遺文を類に分けて編次したもので、首に周敦頤・二程・張載・邵雍・司馬光・朱熹七子の遺像幷びに傳道支派を列し、贊訓・戒・箴・規・銘・詩・賦・序・記・說・錄・辨・論・圖・正蒙・皇極經世・通書・文と次を逐つて採錄し、閒〻楊時・羅仲素・范浚・呂大臨・蔡元定・黃幹・張栻・胡宏・眞德秀・范質・蘇軾の文を載せ、終に七子の行狀を載せてゐる。明の永樂中、性理大全を修めた時、諸儒の語は近思錄によつて錄し、諸儒の文は此の書に因つて錄し、併せて其の性理の名を取つた。〔四庫提要、子、儒家類〕。

【性類】90 セイルイ いきもの。生類。〔風俗通、聲音〕樂者、聖人所下以動二天地一、感二鬼神一、按二萬民一、成中性類上者也。〔班固、典引〕性類循理。〔注〕銑曰、性、生也。

【性靈】91 セイレイ シヤウリヤウ ❶こころ。たましひ。精神。〔文心雕龍〕性靈所レ鍾、是謂二三才一。〔南史、文學傳序〕自レ漢以來、辭人代有、大則憲章典誥、小則申二舒性靈一。〔顏氏家訓、文章〕至三於陶二治性靈一。❷こんき。精氣。〔陶弘景、答二趙英才一書〕任二性靈一而直往。❸たへなる道理。妙理。〔劉峻、辨命論〕或立レ教以進二庸怠一、或言レ命以窮二性靈一。

【性靈集】92 シヤウリヤウシフ 書名。十卷。空海撰。弟子眞濟輯。詳しくは遍照發揮性靈集といふ。其の目は、一は詩、二は碑、三・四は表・啓、五は啓・書、六・七・八は願文・表白等、九・十は雜文。この中、八・九・十の三卷は高野山中絕の時散佚し、承曆三年、仁和寺の南岳坊濟暹僧都が摭補したもの。〔參考書〕**【性靈集鈔】**十卷高野山西室院實翁撰。**【性靈集便蒙】**十卷智山運敞撰。**【性靈集鈔】**十七卷智山運敞撰。**【性靈集便蒙鈔】**十六卷泰音撰。

【性靈派】93 セイレイハ 詩派の名。宋の楊萬里に發し、明の袁宏道兄弟によつて發揮され、清の袁枚に至つて盛に主張された。清の王士禎の神韻派に對して清新輕俊を尙び、達意を主とし、格律又は修辭を重んじない。其の名は、蓋し性情の靈妙な活用を貴ぶ意に取る。

【節レ性】94 セイヲセツス 性情を節制する。〔書、召誥〕節レ性惟日其邁。

【得レ性】95 セイヲウ 生れつきに適ふ。〔詩、小雅、魚藻〕魚在在レ藻、〔傳〕魚以レ依二蒲藻一、爲レ得二其性一。〔梁昭明太子、七契〕輕蕩游觀、非二予所レ耽、得レ性行樂、從好二山南一。

【性不長】96 hsing^4 pu^4 ch'ang^2 飽つぽい。

【伐レ性斧】97 セイヲキルノヲノ 性命を斷つ斧。人の心を蕩して、其の性命を失はしめる斧。女色又は僥倖をいふ。〔韓詩外傳、九〕徼幸者、伐レ性之斧也、嗜慾者、逐レ禍之馬也。〔呂覽、本生〕靡曼皓齒、鄭衞之音、務以自樂、命レ之曰二伐レ性之斧一、三患者、富貴之所レ致也。〔枚乘、七發〕且夫出輿入輦、命曰二蹷痿之機一、洞房清宮、命曰二寒熱之媒一、皓齒蛾眉、命曰二伐レ性之斧一、甘脆肥醲、命曰二腐腸之藥一。

【性猶二杞柳一】98 セイハナホキリウノゴトシ 人の性は柔軟な杞柳のやうなもので、善とも不善とも差別が無く、之を矯揉することの如何によつて善惡を生ずるものである。告子の性說。〔孟子、告子上〕告子曰、性猶二杞柳一也、義猶二桮棬一也、以二人性一爲二仁義一、猶下以二杞柳一爲中桮棬上。

【性猶二湍水一】99 セイハナホタンスイノゴトシ 人の性は、奔湍の水が東方へも西方へも流れるやうに一定の體はなくて、善ともなり惡ともなるものである。告子の性說。〔孟子、告子上〕告子曰、性猶二湍水一也、決二諸東方一則東流、決二諸西方一則西流、人性之無レ分二於善不善一也、猶二水之無レ分二於東西一也。

【性禾善米】100 セイクワゼンベイ 性を禾、善を米に喩へ、禾は米を生ずるが米ではない、卽ち、性は善と爲すことは出來るが、善其のものではない。性は自然のもので、善でもなく惡でもないといふ說。漢、董仲舒の性說。〔春秋繁露、實性〕善如レ米、性如レ禾、禾雖レ出レ米、而禾未レ可レ謂レ米也、性雖レ出レ善、而性未レ可レ謂レ善也。

【性靜情逸】101 セイシヅカニシテジヤウイツス 性理は靜安なものであるが、情欲は奔逸する。〔千字文〕性靜情逸、心動神疲。

【伐レ性傷レ恩】102 セイヲソコナヒオンヲソコナフ 人の本性をそこなひ、恩愛の情を傷つける。〔黃宗羲、萬里尋レ兄記〕富貴利害、伐レ性傷レ恩。

【養レ性之福】103 セイヲヤシナフノフク 黃老の說。うまれつきの性を大事にやしなつて俗習をまじへない幸福。〔後漢書、光武紀〕陛下有二禹湯之明一、而失二黃老養レ性之福一。

【率レ性之謂レ道】104 セイニシタガフヲコレミチトイフ 人の天性に率つて行ふのを道といふ。〔中庸〕天命之謂レ性、率レ性之謂レ道、脩レ道之謂レ教。

【性者生之質也】105 セイハセイノシツナリ 性とは人の生れながらに有する所のものである。〔漢書、董仲舒傳〕性者生之質也、情者人之欲也。

【性者萬物之本】106 セイハバンブツノモト 性は萬物の根源をなすものである。〔呂覽、貴當〕性者萬物之本也、不レ可レ長不レ可レ短。

【性相近也習相遠也】107 セイアヒチカシナラヒアヒトホシ 人の性は、何人も相近くて殆んど同じであるが、但〻習慣の善惡によつて賢愚が遠く相異るに至る。故に君子は習ふ所を愼しまねばならぬ。〔論語、陽貨〕子曰、性相近也、習相遠也。〔集注〕此所謂性、兼二氣質一而言者也、氣質之性、固有二美惡之不レ同矣、然以二其初一而言、則皆不二甚相遠一也、但習二於善一則善、習二於惡一則惡、於レ是始相遠耳。

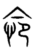
【怨】
10479

㊀ヱン ヲン 〔集韻〕紆願切 願 ㄩㄢˋ yüan^4

㊁ヱン ヲン 〔集韻〕於袁切 元

㊂ウン 〔字彙補〕委粉切 吻

小篆



古文

㊀❶**うらむ**。うらみいかる。〔說文〕怨、恚也、从レ心夗聲。〔廣雅、釋詁四〕怨、恨也。〔詩、邶風、擊鼓序〕怨二州吁一也。〔疏〕怨者、情所二恚恨一。〔論語、述而〕曰、怨乎。〔皇疏〕怨、恨也。〔國語、周語上〕怨而不レ怒。〔注〕怨、怨望也。❷**かなしむ**。なげく。〔呂覽、侈樂〕其民必怨。〔注〕怨、悲也。❸**にくむ**。〔淮南子、說山訓〕不レ怨二人棄一レ之。〔注〕怨、亦憎。❹**とがめる**。そしる。〔詩譜序〕刺怨相尋。〔疏〕怨、亦刺之類。〔孔子家語、五儀解〕心不レ怨。〔注〕怨、咎。❺**もとる**。〔新書、道術〕施行得レ理、謂二之德一、反レ德爲レ怨。❻**わかれる**。〔陳琳、爲二袁紹一檄二豫州一文〕怨曠思レ歸。〔注〕濟曰、怨、別。❼古は𡖿(**4－10505**)・宛・惌(**4－10836**)・怉(**4－10307**)・𠨿・命(**4－10460**)に作る。〔集韻〕怨、古作二𡖿・宛・惌・怉一。〔康熙字典〕怨、古文𠨿・命。㊁❶**あだ**。かたき。〔集韻〕怨、讎也。〔禮、儒行〕外擧不レ避レ怨。〔漢書、黥布傳〕恐三仇怨妄二誣之一。❷**うらむ**。㊀の❶に同じ。〔集韻〕怨、恚也。❸或は惌(**4－10772**)に作る。〔集韻〕怨、或作レ惌。㊂**つむ**。蘊(**9－32434**)に通ず。〔說文通訓定聲〕怨、叚借爲レ蘊。〔荀子、哀公〕富有二天下一而無二怨財一。〔注〕怨、讀爲レ蘊、言下雖二富有天下一、而無中蘊蓄私財上也。

【怨愛】1 エンアイ 怨と愛。うらむことと愛すること。〔魏武帝、與二少府孔融一書〕喜怒怨愛、禍福所レ因、可レ不レ愼與。

【怨恚】2 エンイ うらみいかる。〔漢書、王莽傳上〕太后聞レ之大怒、不レ肯レ會、重怨二恚莽一。

【怨尤】3 エンイウ うらみとがめる。〔中庸〕上不レ怨レ天、下不レ尤レ人。〔論語、憲問〕子曰、不レ怨レ天、不レ尤レ人、下學而上達、知レ我者其天乎。〔呂覽、誣徒〕此師徒相與造二怨尤一也。〔何遜、還渡二五洲一詩〕方圓既齟齬、貧賤豈怨尤。

【怨咽】4 エンエツ うらんでむせび泣く。〔梁武帝、七夕詩〕怨咽雙念斷、悽悼兩情懸。

【怨惡】5 エンヲ うらみにくむ。〔周禮、夏官、合方氏〕除二其怨惡一。〔孝經、卿大夫章〕行滿二天下一無二怨惡一。〔戰國、燕策〕怨惡未レ見、而明棄レ之、未レ爲レ盡レ厚也。〔墨子、尙同上〕怨惡離散。

【怨恩】6 エンオン うらみとめぐみ。〔劉基、長歌行〕枯榮生殺相二爲根一、我於二萬物一何怨恩。

【怨家】7（エンカ） ㊀うらみのある家。仇家。〔漢書、陳餘傳〕貫高怨家知二其謀一告レ之。〔後漢書、董卓傳〕才爲二怨家所一レ害。〔無量壽經〕怨家債主焚漂劫奪。㊁佛（ヲンケ） 我に怨を結ぶ人。〔遺教經〕諸煩惱賊、常伺殺レ人、甚二於怨家一。

【怨憾】8 yüan^4 han^4 きらふ。にくむ。

【怨忌】9（エンキ） うらみ忌む。〔書、多方〕爾尚不レ忌二于凶德一。〔疏〕汝能庶幾不三自相怨忌入二於凶德一。〔後漢書、梁皇后紀〕潛懷二怨忌一。〔晉書、范弘之傳〕本無二怨忌一。

【怨氣】10（エンキ） うらむ樣子。うらむこころ。憎惡。怨恨。〔管子、小稱〕盛二怨氣於面一。〔史記、淮南王安傳〕當方諸侯無二異心一、百姓無二怨氣一。〔漢書、劉向傳〕皆怨氣之所レ致也。

【怨氣沖天】11 yüan^4 ch'i^4 ch'ung^1 t'ien^1 うらみが天に沖す。怨恨の甚だしいこと。

【怨氣滿レ腹】12（エンキハラニミツ） うらみが腹一杯。怨恨の甚だしいこと。〔後漢書、祭祀志上〕建武三十年二月、羣臣上言、卽位三十年、宜三封二禪泰山一、詔書曰、卽位三十年、百姓怨氣滿レ腹、吾誰欺、欺レ天乎。

【怨仇】13（エンキウ） あだ。うらみ。怨讎。〔新序、善謀〕所レ誅皆平生怨仇。

【怨咎】14（エンキウ） うらみとがめ。いかりとがめ。又、うらみとがめる。〔左氏、昭、八〕小人之言、僭而無レ徵、故怨咎及レ之。〔戰國、秦策〕蒙二怨咎一、欺二舊交一。〔管子、版法解〕凡禍亂之所レ生、生二於怨咎一。〔漢書、敍傳下〕怨咎若レ茲、如何不レ恪。

【怨響】15（エンキヤウ） そしりの評判。うらみのうはさ。〔海錄碎事、臣職、吏部〕袁聿脩爲二吏部尚書一、素品孤官、頗有二怨響一。

【怨禽】16（エンキン） 鳥の名。精衞(**8－26997‥10**)の異名。〔述異記、上〕昔炎帝女溺二死東海中一、化爲二精衞一、其名自呼、每銜二西山木石一塡二東海一、偶二海燕一而生レ子、生レ雌狀如二精衞一、生レ雄如二海燕一、云云、一名鳥誓、一名寃禽、又名志鳥、俗呼爲二帝女雀一。

【怨偶】17（エングウ） 怨耦に同じ〔後漢書、朱浮等傳贊〕鄭竇怨偶、代相爲レ仇。〔注〕左傳曰、怨偶曰レ仇。

【怨耦】18（エングウ） あだかたきの仲のつれあひ。和睦しない夫婦。又、かたき同志。〔左氏、桓、二〕嘉耦曰レ妃、怨耦曰レ仇、古之命也。

【怨屈】19（エンクツ） うらみ死ぬ。〔長生殿、神訴〕磣磕磕黃土坡前怨屈。

【怨怪】20（エンクワイ） うらみとまどひ。〔說苑、談叢〕多二怨怪一者疾病生。

【怨悔】21（エンクワイ） うらみくやむ。悔恨。〔後漢書、卓茂傳〕率二斯道一也、怨悔曷其至乎。〔白居易、太行路〕古稱色衰相棄背、當時美人猶怨悔。

【怨曠】22（エンクワウ） ㊀つれあひと別れて悲しみうらむ。〔詩、邶風、雄雉序〕軍旅數起、大夫久役、男女怨曠。〔鄭注〕男多曠、女多怨也、男曠而苦二其事一、女怨而望二其君子一。〔後漢書、劉瑜傳〕怨曠作レ歌、仲尼所レ錄。〔魏志、武帝紀〕家室怨曠、百姓流離。㊁別れて久しいこと。〔陳琳、爲二袁紹一檄二豫州一文〕咸怨曠思レ歸、流涕北顧。〔注〕濟曰、怨、別、曠、久也、言、皆怨二別鄕之久一、而北顧思レ歸也。㊂怨女と曠夫。怨女曠夫(67)を見よ。

【怨郤】23（エンゲキ） 怨隙に同じ。

【怨隙】24（エンゲキ） うらんで仲が惡い。〔後漢書、臧洪傳〕明府之於二袁氏一、本無二怨隙一。〔蔡襄、福州五戒文〕憎惡一開、卽成二怨隙一。

【怨結】25（エンケツ） うらみがむすぼれてとけぬこと。〔史記、淮南王安傳〕王氣怨結而不レ揚。〔後漢書、明帝紀〕百姓怨結。

【怨業】26（エンゲフ） 不滿な仕事。怨を買ふ樣なわざ。〔晏子、問、上〕治無二怨業一、居無二廢民一。

【怨嫌】27（エンケン） うらみにくむ。〔後漢書、馮衍傳〕欲下免二讒口一、濟中怨嫌上、豈不レ難哉。

【怨言】28（エンゲン） うらみことば。又、うらみをいふ。うらんでいふ。〔左氏、僖、二十四〕尤而效レ之、罪又甚焉、且出二怨言一、不レ食二其食一。〔論語、憲問〕問二管仲一、曰、人也、奪二伯氏駢邑三百一、飯二疏食一、沒レ齒無二怨言一。〔國語、晉語四〕鉤近二於袪一、而無二怨言一。〔韓非子、顯學〕立レ節參明、執レ操不レ侵、怨言過二於耳一、必隨レ之以レ劍、世主必從而禮レ之、以爲二自好之士一。〔史記、晉世家〕且出二怨言一。〔漢書、五行志上〕嗣子立、有二怨言一、太后廢レ之。

【怨語】29（エンゴ） 怨言に同じ。

【怨酷】30（エンコク） 甚だしくうらみにくむこと。むごいこと。〔後漢書、趙壹傳〕更加二其怨酷一。

【怨骨】31（エンコツ） うらみを殘して死んだ者。うらみのはれぬ死者。〔晉書、劉曜載記〕下無二怨骨一、上無二怨人一。

【怨恨】32（エンコン） うらむ。うらみ。〔國語、周語下〕財亡民罷、莫レ不二怨恨一。〔墨子、兼愛中〕禍簒怨恨。〔漢書、劉歆傳〕諸儒皆怨恨。〔後漢書、孫程傳〕怨恨恚懟。〔論衡、累害〕踈遠怨恨、毀二傷其行一。

【怨魂】33（エンコン） 怨む心。又、怨を殘して死んだ者の魂。〔李商隱、獨居有レ懷詩〕怨魂迷恐レ斷、嬌喘細疑レ沉。

【怨嗟】34（エンサ） うらみなげく。怨咨。〔何遜、南還道中送二贈劉諮議一別詩〕握レ手分二岐路一、臨レ川何怨嗟。

【怨猜】35（エンサイ） うらみそねむ。〔韻府引、高啓、詩〕翠羽驚啼莫二怨猜一。

【怨財】36（ウンザイ） 私に蓄へた財物。蘊財。〔荀子、哀公〕富有二天下一、而無二怨財一。〔注〕怨、讀爲レ蘊、言、雖三富有二天下一、而無二蘊蓄私財一也。

【怨罪】37（エンザイ） うらみと罪。〔晏子、不合經術者〕怨罪重二積于百姓一。

【怨譟】38（エンサウ） うらみさわぐ。〔韓非子、外儲說左上〕夫挾二相爲一則責望、自爲則事行、故父子或怨譟、取二庸作一者、進二美羹一。

【怨嘖】39（エンサク） うらみそしる。〔唐書、李訓傳〕宦豎知三訓事連二天子一、相與怨嘖。

【怨訕】40（エンサン） うらみそしる。〔遼史、聖宗紀〕開泰元年、祕書省正字李萬、上書辭涉二怨訕一、皆杖而徙レ之。

【怨刺】41（エンシ） うらみそしる。〔漢書、禮樂志〕周道始缺、怨刺之詩起。

【怨咨】42（エンシ） うらみなげく。〔書、君牙〕夏暑雨、小民惟曰怨咨。〔傳〕怨歎咨嗟。

【怨思】43（エンシ） うらみおもふ。うらむ。うらむ心。〔鹽鐵論、相刺〕使三百姓輯睦、無二怨思之色一。〔白虎通、三軍〕古者師出不レ踰レ時者爲二怨思一也。〔班固、兩都賦序〕西土耆老、咸懷二怨思一。

【怨訾】44（エンシ） うらみそしる。〔逸周書、太子晉解〕四荒至レ莫レ有二怨訾一、乃登爲レ帝。〔注〕訾、嘆恨也。

【怨讎】45（エンシウ） うらんであだとする。又、うらみのあるかたき。〔左氏、僖、二十八〕我有二三怨一、怨讎已多、將何以戰。〔國語、晉語二〕卒二於怨讎一。〔韓非子、解老〕有道之君、外無三怨二讎於鄰敵一、而內有三德二澤於人民一。〔墨子、尙同中〕父子兄弟作二怨讎一。〔漢書、鮑宣傳〕怨讎相殘、五死也。〔後漢書、馬援傳〕夫怨讎可レ刺不レ可レ毀。

【怨疾】46（エンシツ） うらみにくむ。〔左氏、昭、二十〕上下怨疾。〔荀子、仲尼〕無二怨疾之心一。〔晏子、重而異者〕上下怨疾。

【怨情】47（エンジヤウ） うらむ心。うらみの情。〔張九齡、聽レ箏詩〕纖指傳二新意一、繁絃起二怨情一。

【怨詛】48（エンシヨ） うらみのろふ。〔管子、四稱〕衆所二怨詛一。〔後漢書、光武十王傳贊〕延既怨詛、荆亦觖望。

【怨嫭】49（エンシヨ） うらみねたむ。〔嵆康、琴賦〕或怨嫭而躊躇。

【怨色】50（エンシヨク） うらめしげな顏色。うらむ樣子。〔左氏、襄、二十一〕伊尹放二大甲一而相レ之、卒無二怨色一。〔戰國、韓策〕申子請レ仕二其從兄官一、昭侯不レ許也、申子有二怨色一。〔淮南子、詮言訓〕必無二怨色一。

【怨心】51（エンシン） うらむこころ。〔左氏、昭、十三〕盜賊伏隱、私欲不レ違、民無二怨心一。〔戰國、秦策〕臣恐下其皆有二怨心一、使中邊境早閉晚開上、王以爲レ然、奇二其計一。

【怨嗔】52（エンシン） うらみいかる。怨瞋。〔郝經、陽春怨〕恨二郞不一レ歸多二怨嗔一。

【怨人】53（エンジン） うらみを持つ人。怨骨(31)を見よ。

【怨聲】54（エンセイ） うらむ聲。うらみのことば。〔袁宏、三國名臣序贊〕治レ國以レ禮、民無二怨聲一。

【怨誚】55（エンセウ） うらみせめる。〔顏氏家訓、省事〕怨誚滋生。

【怨積】56（エンセキ） うらみの積ること。〔鹽鐵論、非鞅〕利畜而怨積、地廣而禍構。〔張明弼、別淚賦〕天一碧而愁長、野四青而怨積。

【怨積二於百姓一】57（ウラミヒヤクセイニツム） 惡政のために數々のうらみが百姓につもる。百姓からうらまれる樣なことが數多くつもる。〔晏子、雜、下〕怨積二乎百姓一、嬰之罪多矣。

【怨訴】58（エンソ） うらみ訴へる。〔徐陵、答ニ諸求レ官人一書〕非レ欲レ令三君作ニ此怨訴一。

【怨憎】59（エンゾウ） うらみにくむ。〔嵇康、幽憤詩〕性不レ傷レ物、頻致ニ怨憎一。

【怨憎會苦】60（ヲンゾウヱク） 佛八苦の一。必ず怨み憎む人に會合せねばならぬ苦。〔涅槃經、十二〕怨憎會苦、所レ不レ愛者而共聚集。

【怨賊】61（エンゾク） ㊀あだとなる賊。〔荀子、正論〕桀紂者民之怨賊也。㊁佛（ヲンゾク）人命を害し人の財を奪ふもの。〔維摩經、方便品〕是身如ニ毒蛇一、如ニ怨賊一。

【怨憝】62（エンタイ） うらみにくむ。〔曾鞏、秋聲詩〕蜩螿豈知レ微、切切如ニ怨憝一。

【怨歎】63（エンタン） うらみなげく。怨咨(42)を見よ。〔後漢書、王景傳〕百姓怨歎。〔魏志、和洽傳〕妄爲ニ死友怨歎一、殆不レ可レ忍也。〔晉書、郭璞傳〕刑獄充濫、怨歎之氣所レ致。

【怨治】64（エンチ） うらまれるまつりごと。うらみを受ける様な政治。〔晏子、諫、上〕外無ニ怨治一。

【怨悵】65 yüan⁴ ch'ang⁴ うらむ。

【怨女】66（エンヂョ） 嫁時を失つて夫のないのをうらみなげく女。空閨を守る女。縁遠い女。寡婦。怨婦。怨女曠夫を見よ。

【怨女曠夫】67（エンヂョクヮウフ） 怨女と曠夫。曠夫は、年頃になつても妻を得ない男。〔孟子、梁惠王下〕內無ニ怨女一、外無ニ曠夫一。〔漢書、貢禹傳〕內多ニ怨女一、外多ニ曠夫一。〔後漢書、周擧傳〕內積ニ怨女一、外有ニ曠夫一。〔西廂記、草橋店夢ニ鶯鶯一雜劇〕使ニ怨女曠夫、各相早晩窺覦一。

【怨女三千放出レ宮】68（エンヂョサンゼンハナチテキュウヨリイダス） 唐の太宗が、宮女數千人を放つて家に歸らしめたこと。〔白居易、七德舞〕怨女三千放出レ宮、死囚四百來歸レ獄。〔自注〕太宗嘗謂ニ侍臣一曰、婦人幽ニ閉深宮一、情實可レ愍、今將ニ出レ之任レ求ニ伉儷一、於レ是令下左丞戴胄、給事中杜正倫、於ニ掖庭宮西門一揀ニ出數千人一、盡放歸上。

【怨懟】69（エンツイ） うらむ。うらみ。〔漢書、王商傳〕商私怨懟。〔淮南子、原道訓〕聖人處レ之、不レ爲ニ愁悴怨懟一。〔後漢書、楊震傳〕自ニ趙騰死一後、深用怨懟。〔馬融、長笛賦〕惆悵怨懟。

【怨痛】70（エンツウ） うらみいたむ。〔國語、周語上〕民神怨痛、無レ所ニ依懷一。〔後漢書、薊子訓傳〕驚號怨痛。〔論衡、感虛〕衍興ニ怨痛一、使ニ天下レ霜。

【怨鳥】71（エンテウ） 子規（**3－6930··155**）の異名。〔埤雅、釋鳥、杜鵑〕杜鵑、一名子規、苦啼啼血不レ止、一名怨鳥、夜啼達レ旦、血漬ニ草木一。

【怨調】72（エンテウ） うらみを含む音調。〔白居易、楊柳枝二十韻詩〕樂童翻ニ怨調一、才子與ニ妍詞一。

【怨笛】73（エンテキ） うらみをふくんだふえの音。〔楊萬里、出ニ永豐縣一西石橋上聞ニ子規一詩〕怨笛哀箏總不レ如、一聲聲徹九天虛。

【怨敵】74（ヲンテキ） あたかたき。〔李商隱、行次ニ西郊一作一百韻詩〕樂レ禍忘ニ怨敵一、樹レ黨多ニ狂狷一。〔金光明經、一二〕鄰國怨敵、興ニ如レ是念一。

【怨天】75（エンテン） 天をうらむ。〔論語、憲問〕不レ怨レ天、不レ尤レ人。〔集解〕馬融曰、孔子不レ用ニ於世一、而不レ怨レ天、人不レ知レ己、亦不レ尤レ人也。

【怨怒】76（エンド） うらみいかる。又、其の情。〔管子、形埶〕風雨無レ鄉、而怨怒不レ及也。〔呉子、料敵〕百姓怨怒。〔漢書、外戚上、孝景王皇后傳〕栗姬日怨怒。〔後漢書、馮衍傳上〕咸懷ニ怨怒一。

【怨恫】77（エンドウ） うらみいたむ。恫怨。〔詩、大雅、思齊〕神罔ニ時怨一、神罔ニ時恫一。〔傳〕恫、痛也。

【怨德】78（エントク） あだと恩德。人を怨むことと人に恩惠を感ずること。又、人から怨まれることと恩を感ぜられること。〔淮南子、說山訓〕怨德相去亦遠矣。

【怨慝】79（エントク） うらんで惡事をする。うらんでよこしまなこと。又、とがめわざはひ。〔風俗通、過譽〕怨慝並作。〔孫樵、露臺遺基賦〕民無ニ怨慝一。

【怨黷】80（エントク） 怨讟に同じ。〔呉志、諸葛恪傳〕由レ此衆庶失望而怨黷興矣。〔福惠全書、郵政部、喂養部〕以ニ小民怨黷一飽ニ左右之貪囊一。

【怨讟】81（エントク） うらみそしる。怨恨毀謗。怨謗。〔左氏、宣、十二〕昔歲入レ陳、今茲入レ鄭、民不ニ罷勞一、君無ニ怨讟一。〔會箋〕讟、痛怨之言也。〔漢書、五行志上〕怨讟動ニ於民一。〔後漢書、王梁傳〕百姓怨讟。〔注〕讟、謗。〔蜀志、姜維傳〕衆庶由レ是怨讟。〔蘇軾、諫レ買ニ浙燈一狀〕怨讟易レ生。

【怨毒】82（エンドク） ㊀うらみにくむ。うらみ。〔戰國、趙策〕今足下功力、非三數痛加ニ於秦國一、而怨毒積惡、非三曾深陵ニ於韓一也。〔史記、伍子胥傳贊〕怨毒之於レ人、甚矣哉。〔漢書、淳于長傳〕紅陽侯立獨不レ得下爲ニ大司馬一輔上政、立自疑ニ爲レ長毀譖一、常怨ニ毒長一。〔後漢書、馬援傳〕怨毒之情、遂歸ニ於臣一。〔阮籍、詠懷詩〕感慨懷ニ辛酸一、怨毒常苦多。㊁yüan⁴ tu² 害毒。惡毒しい。

【怨念】83（ヲンネン） うらみの思。遺恨。

【怨罵】84（エンバ） 怨みののしる。怨詈(105)に同じ。

【怨望】85（エンバウ） うらんで不平を抱く。うらむ。又、うらみ。〔史記、淮陰侯傳〕信由レ此日怨望、居常快快。〔漢書、食貨志下〕怨ニ望大將軍霍光一。〔說苑、正諫〕其怨望猜賊、爲レ禍也深。〔後漢書、天文志〕陵鄉侯梁松、坐下怨望懸ニ飛書一誹中謗朝廷上、下レ獄死。〔蜀志、彭羕傳〕所三以有ニ怨望意一者。

【怨萌】86（エンバウ） 怨望のきざし。〔說苑、至公〕恤ニ顧怨萌一。

【怨謗】87（エンバウ） うらみそしる。怨誹。〔墨子、尙賢中〕所ニ怨謗一在レ下。〔漢書、五行志中之上〕怨謗之氣發ニ于歌謠一。〔魏志、崔琰傳〕有下白ニ琰此書傲レ世怨謗一者上。

【怨伐】88（エンバツ） うらみうつ。〔史記、越世家〕與ニ呉王闔廬一戰、而相怨伐。

【怨叛】89（エンハン） うらみそむく。怨畔に同じ。〔日本政記、後花園天皇論〕至下殺ニ其女一而不レ恤、復致中其怨叛上。

【怨畔】90（エンパン） うらみそむく。〔漢書、五行志中之下〕萬民有ニ怨畔之心一。〔呉志、孫亮傳〕軍士怨畔。

【怨非】91（エンピ） 怨誹(94)に同じ。〔荀子、解蔽〕百姓怨非而不レ用。〔漢書、王莽傳下〕百姓怨非。

【怨悲】92（エンピ） うらみかなしむ。〔潛夫論、夢別〕大寒之夢、使ニ人怨悲一。

【怨碑】93（エンピ） うらみをのべた碑文。始皇の時、人柱にされた工人が作つたもので、怨酷の言が多い。〔拾遺記〕昔始皇爲レ塚、斂ニ天下瓌寶一、生ニ殉工人一、云云、至ニ被レ開時一、皆不レ死、工人於ニ塚內一琢レ石爲ニ龍鳳仙人之像一、及作ニ碑文辭讚一、云云、後人更寫ニ此碑文一、而辭多ニ怨酷之言一、乃謂爲ニ怨碑一。

【怨誹】94（エンピ） うらみそしる。〔莊子、刻意〕高論怨誹、爲レ亢而已矣。〔釋文〕李云、非ニ世無レ道、怨ニ己不遇一也。〔荀子、不苟〕不能則妬嫉怨誹、以傾ニ覆人一。〔史記、屈原傳〕國風好レ色而不レ淫、小雅怨誹而不レ亂、若ニ離騷一者、可レ謂レ兼レ之矣。〔白虎通、五經〕歌謠怨誹也。〔後漢書、馬廖傳〕投書怨誹。

【怨媚】95（エンビ） 恨みを含んでこびること。〔元稹、山枇杷〕穠姿秀色人皆愛、怨媚羞容我偏別。

【怨貧】96 yüan⁴ p'in² 貧窮をうらむ。

【怨府】97（エンプ） うらみの集中するところ。怨嗟の焦點。〔左氏、昭、十二〕吾不レ爲ニ怨府一。〔說苑、談叢〕多藏不レ用、是謂ニ怨府一。〔史記、趙世家〕毋レ爲ニ怨府一、毋レ爲ニ禍梯一。〔魏志、高堂隆傳〕此生レ怨之府也。

【怨婦】98（エンプ） 怨女(66)に同じ。〔呉少微、怨歌行〕城南有ニ怨婦一、含レ情傍ニ芳叢一。

【怨憤】99（エンプン） うらみいきどほる。又、其の情。怨忿。〔漢書、地理志下〕子弟怨憤。〔後漢書、趙壹傳〕作下刺ニ世疾邪一賦上、以舒ニ其怨憤一。〔呉志、張溫傳〕怨憤之聲積、浸潤之譖行矣。

【怨慕】100（エンボ） うらみしたふ。親や君などの無情をうらみながら、尙之を思慕すること。一說に、父母に惡まれるやうな厄に遭ふのをうらんで親を思慕すること。又一說に、慕ふが故に怨むこと。〔孟子、萬章上〕萬章問曰、舜往ニ于田一、號ニ泣于旻天一、何爲其號泣也、孟子曰、怨慕也。〔注〕言、舜自怨レ遭ニ父母見レ惡之厄一、而思慕也。〔集疏〕怨是怨レ親、慕レ之故怨レ之、故曰ニ怨慕一。〔陸機、贈ニ從兄車騎一詩〕感ニ彼歸塗艱一、使ニ我怨慕深一。

【怨本】101（エンポン） うらみのもと。怨の原因。〔後漢書、鍾皓傳〕昔國武子好昭ニ人過一、以致ニ怨本一。

【怨民】102（エンミン） うらみをいだく民。〔三略、下略〕勞政多ニ怨民一。〔管子、輕重乙〕邊竟諸侯、受ニ君之怨民一。「ふ。

【怨命】103 yüan⁴ ming⁴ 不運をうらむ。運命を呪

【怨欲】104（エンヨク） うらみとよく。〔論語、憲問〕克伐怨欲不レ行焉、可ニ以爲レ仁矣。

【怨詈】105（エンリ） うらみののしる。〔書、無逸〕小人怨レ汝詈レ汝、則皇自敬レ德。〔後漢書、楊震傳〕殷周哲王、小人怨詈、則還自敬レ德。

【怨離】106（エンリ）　うらんではなれる。〔漢書、谷永傳〕發二於下怨離而上不レ知。

【怨靈】107（ヲンリヤウ）　佛怨みを以て祟りをなす死靈、又は生靈。〔東鑑、六〕爲二仙洞御願一、爲レ被レ有二平家怨靈一、於二高野山一、被三建二立大塔一。

【怨戾】108（エンレイ）　うらみもとる。うらんで道理にそむく。〔宋史、湯漢傳〕四海之內、歡欣交通、而無二怨戾之氣一、以好二其和一。

【怨枉】109（エンワウ）　うらみ虐たぐ。〔荀悅、敘論〕猛暴橫作、怨枉繁多。

【構レ怨】110（ウラミヲカマフ）　うらみを結ぶ。なかたがひする。〔詩、王風、兔爰序〕兔爰、閔レ周也、桓王失レ信、諸侯背叛、構レ怨連レ禍。〔孟子、梁惠王上〕構二怨於諸侯一。

【市レ怨】111（ウラミヲカフ）　うらみをまねく。人にうらまれる行爲をする。〔戰國、韓策〕此所謂市レ怨而買レ禍者也。

【怨歌行】112（エンカカウ）　樂府、楚調曲の名。又、怨詩行といふ。漢の班婕妤、魏の曹植、晉の傅玄、梁の簡文帝・江淹・沈約、北周の庾信、唐の虞世南・李白・吳少微等に歌辭がある。怨詩行を見よ。〔班婕妤、怨歌行〕新裂二齊紈素一、鮮絜如二霜雪一、裁二成合歡扇一、團團似二明月一、出二入君懷袖一、動搖微風發、常恐秋節至、涼飇奪二炎熱一、棄二捐篋笥中一、恩情中道絕。〔曹植、怨歌行〕爲レ君旣不レ易、爲レ臣良獨難。〔傅玄、怨歌行朝時篇〕昭昭朝時日、皎皎最明月。〔梁簡文帝、怨歌行〕十五頗有レ餘、日照二杏梁一初。

【怨詩行】113（エンシカウ）　樂府、楚調曲の名。楚の卞和が玉を獻じ、刖刑に遭つた時作る。又、漢の班婕妤が寵を失つた時作る。卽ち紈扇歌といひ、又、怨歌行といふ。古辭、及び魏の曹植、東晉の梅陶、宋の湯惠林に歌辭がある。怨歌行を見よ。〔樂府詩集、相和歌辭、楚調曲、怨詩行〕古今樂錄曰、怨詩行歌、東阿王明月照二高樓一一篇、王僧虔技錄曰、荀錄所レ載古爲レ君一篇、今不レ傳、琴操曰、卞和得二玉璞一以獻二楚懷王一、王使二樂正子治一レ之、曰、非レ玉、刖二其右足一、平王立復獻レ之、又以爲レ欺、刖二其左足一、平王死、子立、復獻レ之、乃抱レ玉而哭、繼レ之以レ血、荊山爲レ之崩、王使レ剖レ之、果有レ寶、乃封レ和爲二陵陽侯一、辭不レ受、而作二怨歌一焉、班婕妤怨詩行序曰、漢成帝班婕妤失レ寵、求三供二養太后於長信宮一、乃作二怨詩一以自傷、託二辭於紈扇一云、樂府解題曰、古詞云、爲レ君旣不レ易、爲レ臣良獨難、言、周公推レ心輔レ政、二叔流言致レ有二雷雨拔木之變一、梁簡文十五頗有レ餘、自言二姝豔以レ讒見レ毀、又曰、持二此傾城貌一、翻爲二不肖軀一、與二古文一意同而體異、若二傅休弈怨歌行云、昭昭朝時日、皎皎最明月一、蓋傷下十五入二君門一、一別終華髮、不上レ及二偕老一、猶望二死而同レ穴也。〔古辭、怨詩行〕天德悠且長、人命何促レ百。

【怨得レ伸】114（ウラミノブルコトヲエン）　うらみがはれるであらう。〔青山佩弦齋、大高源吾訣レ母書〕吉良氏獲レ罪、則先君之怨得レ伸。

【怨不得】115 yüan⁴ pu tê²　道理で。其の筈で。

【怨王孫】116（エンワウソン）　詞牌の名。萬樹の詞律注には河傳と同調とす。憶王孫(**4－11295**··18)・河傳(**6－17245**··178)の❶等を見よ。

【不レ宿レ怨】117（ウラミヲシユクセズ）　怨みをいつまでも心に蓄へて置かぬこと。〔孟子、萬章上〕不レ藏レ怒焉、不レ宿レ怨焉。〔集注〕宿レ怨、謂三留二蓄其怨一。

【怨而不レ言】118（ウラミテイハズ）　心にうらんでも口に出して言はない。〔左氏、襄、二十九〕思而不レ貳、怨而不レ言。〔史記、吳太伯世家〕思而不レ貳、怨而不レ言。

【怨入二骨髓一】119（ウラミコツズイニイル）　うらみが骨のしんまでしみわたる。うらみの甚だしい形容。〔史記、秦紀〕繆公之怨二此三人一、入二於骨髓一。〔漢書、吳王濞傳〕或不二沐洗一十餘年、怨入二骨髓一。

【怨親平等】120（ヲンシンビヤウドウ）　佛佛徒は怨敵と親友とを同等に相視る。怨親同等。〔大集經〕於二怨親中一平等無レ二。〔智度論〕慈心轉廣、怨親同等。

【以レ怨報レ怨】121（ウラミヲモツテウラミニムクユ）　うらみある者に對して怨を以て返報する。〔禮、表記〕子曰、以レ德報レ德、則民有レ所レ勸、以レ怨報レ怨、則民有レ所レ懲。

【報レ怨以レ德】122（ウラミニムクユルニトクヲモツテス）　うらみのあるものに對して、恩義を以て酬いる。〔論語、憲問〕或曰、以レ德報レ怨、何如、子曰、何以報レ德、以レ直報レ怨、以レ德報レ德。〔老子、六十三〕大小多少、報レ怨以レ德。

【無レ怨無レ德】123（ウラミナクトクナシ）　うらみをうけたこともなく、めぐみをうけたこともない。〔左氏、成、三〕無レ怨無レ德、不レ知レ所レ報。

【怨不レ在レ大不レ在レ小】124（ウラミハダイニアラズセウニアラズ）　民のうらみの起るは、事の大小によらず、唯人君の道理に順ふと順はざると、政に勉むると勉めざるとにあるのみ。〔書、康誥〕我聞、曰、怨不レ在レ大、亦不レ在レ小、惠不レ惠、懋不レ懋。〔傳〕不レ在レ大、起二於小一、不レ在レ小、小至二於大一、言、怨不レ可レ爲、故當レ使二不レ順者順、不レ勉者勉一。

【怨之所レ聚亂之本也】125（ウラミノアツマルトコロランノモトナリ）　多くの人の怨みの集る所は騷動の起る本である。〔左氏、成、十六〕怨之所レ聚、亂之本也。

【如レ怨如レ慕如レ泣如レ訴】126（ウラムガゴトクシタフガゴトクナクガゴトクウツタフルガゴトシ）　聲の餘韻が嫋嫋として細くたえない形容。〔蘇軾、前赤壁賦〕客有下吹二洞簫一者上、倚レ歌而和レ之、其聲嗚嗚然、如レ怨如レ慕、如レ泣如レ訴、餘音嫋嫋、不レ絕如レ縷。〔方孝孺、蚊對〕俄而耳傍聞レ有二飛鳴聲一、如レ歌如レ訴如レ怨如レ慕。

【㤄】10480

🈩トク　〔集韻〕惕得切　[職]

🈔タイ　〔集韻〕他代切　[隊]

小篆

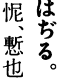
🈩🈔❶**たがふ**。もとる。〔說文〕㤄、失レ常也、从レ心代聲。❷忒(**4－10319**)に同じ。〔說文通訓定聲〕㤄、按、卽忒之或體。

【怩】10481

🈩ヂ ニ　〔集韻〕女夷切　ㄋㄧˊ ni²　[支]

🈔デイ ナイ　〔字彙〕年題切　[齊]

🈪ヂツ ニチ　〔字彙〕尼質切　[質]


小篆

🈩❶**はぢる**。忸怩。〔說文新附〕怩、忸怩、慙也、从レ心尼聲。❷古は㞾(**4－10482**)に作る。〔集韻〕怩、古書作レ㞾。🈔🈪**はぢる**。🈩に同じ。〔字彙〕怩、忸怩、心慙也。

【㞾】10482

ヂ

怩(**4－10481**)の古字。〔集韻〕怩、古作レ㞾。

【怪】10483

クヮイ ケ　〔集韻〕古壞切　ㄍㄨㄞˋ kuai⁴　[卦]

小篆

❶**あやしむ**。いぶかる。まどふ。〔說文〕怪、異也、从レ心圣聲。〔漢書、宣帝紀〕以レ是自怪。〔淮南子、說林訓〕知者不レ怪。〔注〕怪、惑也。〔後漢書、光武帝紀〕甚可レ怪也。❷**あやしい**。㋑行が常でない。〔中庸〕素レ隱行レ怪。〔論衡、自紀〕詭二於衆一而突出曰レ怪。㋺心が常でない。〔周禮、天官、閽人〕奇服怪民不レ入レ宮。〔注〕怪民、狂易。㋩形が常でない。〔書、禹貢〕鉛松怪石。〔傳〕怪、異也。〔山海經、南山經〕猨翼之山、多二怪獸一、多二怪魚一。〔注〕凡言二怪者、皆謂二貌狀倔奇不一レ常也。㋥ふしぎ。あきらかでない。〔論語、述而〕子不レ語二怪力亂神一。〔集解〕孔安國曰、怪、怪異也。〔論衡、怪神〕怪者疑也。㋭不屆に思ふ。❸**つねならぬこと**。かはつたこと。常に反したこと。〔莊子、逍遙遊〕齊諧者志レ怪者也。〔釋文〕怪、異也。❹**ばけもの**。常とかはつた物。〔博物志、雜說上〕水石之怪、爲二龍罔象一、木之怪、爲二夔罔兩一、土之怪、爲二羵羊一、火之怪、爲二宋無忌一。❺**よたか**。鳥の名。〔爾雅、釋鳥〕怪、鴟。❻或は傀(**1－928**)に作る。〔集韻〕怪、或作レ傀。❼或は恠に書し、俗に恠(**4－10574**)に作る。〔集韻〕怪、亦書

作レ㤦、俗作レ恠、非レ是。❽姓。〔正字通〕姓、春秋元命苞、黃帝臣怪義。❾現はなはだ。非常に。

【怪異】1 クヮイイ　普通でない。かはりごと。不思議。奇異。怪奇。〔漢書、董仲舒傳〕又出二怪異一、以警二懼之一。〔枚乘、七發〕此天下怪異詭觀也。

【怪偉】2 クヮイヰ　すぐれて雄大なこと。〔王庭珪、觀二徐明叔畫湘西磨崖圖一詩〕況公文章善二敍事一、大字怪偉宜二鑱鐫一。

【怪羽】3 クヮイウ　ふしぎな鳥。怪鳥。〔唐書、倪若水傳〕以二此時一捕二奇禽怪羽一。

【怪迂】4 クヮイウ　あやしくてただしくない。〔史記、武帝紀〕海上燕齊怪迂之方士。〔漢書、揚雄傳下〕大氏詆二訾聖人一、卽爲二怪迂析辯詭辭一、以撓二世事一。〔風俗通、正失〕招二募方伎怪迂之人一。

【怪雨】5 クヮイウ　怪しい雨。黃・紅などに染まって降る雨。〔韓愈、南海神廟碑〕盲風怪雨。

【怪雲】6 クヮイウン　あやしい雲。〔漢書、天文志〕迅雷風祆、怪雲變氣、此皆陰陽之精。

【怪妖】7 クヮイエウ　妖怪（3−6086‥24）に同じ。

【怪我】8 ケガ　❶あやまち。過失。❷過失から生じたきず。負傷。

【怪訝】9 クヮイガ ケゲン　あやしみいぶかる。不審に思って疑ふ。怪疑（25）に同じ。

【怪巧】10 クヮイカウ　すぐれてたくみなこと。〔王安石、祭二歐陽文忠公一文〕豪健俊偉、怪巧瑰琦。

〔怪巧瑰琦〕11 クヮイカウクヮイキ　ふしぎなほど巧で珍しいこと。〔王安石、祭二歐陽文忠公一文〕豪健俊偉、怪巧瑰琦。

【怪好】12 kuai⁴ hao³　甚だ良い。非常に善い。

【怪行】13 クヮイカウ　あやしいおこなひ。〔莊子、徐無鬼〕凡有二怪徵一者、必有二怪行一。

【怪愕】14 クヮイガク　あやしみおどろく。〔朝野僉載〕〔郭務〕靜怪愕良久。

【怪岩】15 クヮイガン　形の奇妙な岩石。

【怪巖】16 クヮイガン　怪岩に同じ。

〔怪巖峨峨〕17 クヮイガンガガ　奇妙な形の巖石が、高くつきいでたさま。

【怪卉】18 クヮイキ　珍しい草花。〔高啓、獨游二山中一憶二周記室砥詩〕怪卉發レ澗留レ春酣。

【怪奇】19 クヮイキ　❶あやしくめづらしい。奇怪。怪異。〔論衡、道虛〕作二道術之書一、發二怪奇之文一。❷論衡の篇名。

【怪氣】20 クヮイキ　あやしい雲氣。〔王勃、採蓮賦〕寢二怪氣于沅湘一、照二榮光於河洛一。

【怪鬼】21 クヮイキ　怪物。ばけもの。〔唐書、方技、薛頤傳〕傳二陰陽占繇符架之術一、能厭二刻怪鬼一。

【怪崎】22 クヮイキ　甚だしく形の奇妙なこと。

【怪詭】23 クヮイキ　あやしくめづらしい。いぶかしい。〔段成己、詩〕雲日互蔽虧、百態呈二怪詭一。

【怪義】24 クヮイギ　上古炎帝の臣。嘗て地形を圖し、神農のために水脈を通ず。〔太平御覽、地部、地上〕春秋元命苞曰、神農世、怪義生二白阜一、圖二地形脈道一。

【怪疑】25 クヮイギ　あやしくうたがはしい。怪訝。〔枚乘、七發〕神物怪疑。

【怪魚】26 クヮイギョ　不思議な形をしたうを。〔山海經、南山經〕又東三百八十里曰二猨翼之山一、其中多二怪獸一、水多二怪魚一。〔注〕凡言レ怪者、皆謂二貌狀倔奇不一レ常也。

【怪禽】27 クヮイキン　あやしいとり。不思議な鳥。〔賈島、暮過二山村一詩〕怪禽啼二曠野一、落日恐二行人一。

【怪苦】28 kuai⁴ k'u³　甚だにがい。

【怪火】29 クヮイクヮ　❶あやしい火。❷火元のわからぬ火災。　「よ。

【怪怪】30 クヮイクヮイ　極めてあやしい。怪怪奇奇を見

〔怪怪奇奇〕31 クヮイクヮイキキ　非常に珍しいこと。極めてふしぎなこと。〔韓愈、送レ窮文〕不レ專二一能一、怪怪奇奇。

〔怪怪道人〕32 クヮイクヮイダウジン　元、馮子振（12−44579「‥224）の號。

【怪魁】33 クヮイクヮイ　❶あやしいもののかしら。〔陸龜蒙、怪松贊〕目爲二怪魁一、是以贊レ之。❷唐、陸龜蒙（11−41708‥283）の號。〔太平淸話〕盧仝自號二癖王一、陸龜蒙自號二怪魁一。

【怪傑】34 クヮイケツ　あやしくすぐれた人物。一種異樣な人傑。えらもの。

【怪譎】35 クヮイケツ　あやしくて正しくない。〔郭璞、山海經圖贊、海外南經、厭火國〕有レ人獸體、厥狀怪譎。〔謝靈運、嶺表賦〕羅石棊布、怪譎橫越。〔李華、三賢論〕極レ和無レ味、至レ文無レ彩、聽者不レ達、反以爲二怪譎之音一。

【怪言】36 クヮイゲン　あやしいことば。〔說苑、談叢〕怪言虛說勿レ稱。〔曹植、辯道論〕辭繁寡レ實、頗有二怪言一。

【怪嚴】37 クヮイゲン　嚴しくて怪しげな號令。〔管子、法法〕國毋二怪嚴一。〔纂詁〕國無下嚴急可二怪異一之號令上。

【怪哉】38 クヮイサイ　驚きあやしむ詞。又、蟲の名。〔東方朔外傳〕漢武帝幸二甘泉一、馳二長陵道中一、有レ蟲伏レ地、赤色如二生肝狀一、朔曰、始皇拘二繫無辜一、悲苦之狀、仰レ天歎曰、怪哉、感二動皇天一、此憤氣之所レ生也、故名曰二怪哉一。

【怪草】39 クヮイサウ　あやしいくさ。不思議なくさ。〔後漢書、何敞傳〕怪草生二於庭際一。〔搜神記、十四〕舌埵山、帝之女死、化爲二怪草一、其葉鬱茂、其華黃色、其實如二兔絲一、故服二怪草一者、恆媚二於人一焉。

【怪錯】40 クヮイサク　あやしくいりまじる。〔郭璞、江賦〕爾其水物怪錯、則有二潛鵠魚牛、虎蚊鉤虵一。〔注〕善曰、怪錯、奇怪雜錯也。

【怪煞】41 クヮイサツ クヮイサイ　甚だあやしい。煞は殺、助字。〔還魂記、尋夢〕無レ眠一夜燈明滅、怪煞梅香喚不レ醒。　「ざま。

【怪死】42 クヮイシ　尋常でない死に方。疑はしいしに

【怪鴟】43 クヮイシ　鳥の名。鵂鶹の異名。〔爾雅、釋鳥〕茅鴟、怪鴟。〔埤雅〕怪鴟、一名雙狐、晝無レ所レ見、夜卽飛噉二蚊蟲一。

【怪事】44 クヮイジ　あやしい事柄。〔晉書、殷浩傳〕作二咄咄怪事四字一而已。

【怪辭】45 クヮイジ　不思議なことば。〔韓愈、寄二盧仝一詩〕往年弄レ筆嘲二同異一、怪辭驚レ衆謗不レ已。

【怪獸】46 クヮイジウ　不思議な形をしたけもの。奇獸。〔山海經、南山經〕又東三百八十里曰二猨翼之山一、其中多二怪獸一、水多二怪魚一。〔注〕凡言レ怪者、皆謂二貌狀倔奇不一レ常也。〔司馬相如、上林賦〕放二怪獸一。〔晉書、王濬傳〕又畫二鷁首怪獸于舡首一。

【怪術】47 クヮイジュツ　❶不思議な術。魔法。〔酉陽雜俎、怪術〕大曆中、荊州有二術士一、從レ南來止二於陟屺寺一。❷酉陽雜俎の篇名。

【怪松】48 クヮイショウ　奇妙な形をした松。〔研莊雜記〕鮮于伯機嘗於二廢圃中一、得二怪松一株一。

【怪神】49 クヮイシン　❶あやしい神。〔風俗通、怪神〕傳曰、神者申也、怪者疑也、孔子稱二土之怪一爲二墳羊一、論語、子不レ語二怪力亂神一、故采二其晃著者一、曰二怪神一也。❷風俗通の篇名。❸ケシン　妖怪變化をいふ。

【怪人】50 クヮイジン　あやしい人。心が常人に異るもの。〔避暑錄話、下〕范文正公初數以二言事一動二朝廷一、當レ權者不レ喜、每目爲二怪人一、文正知レ之、及三後復用爲二西帥一、上疏請レ城二京師一曰、吾又將レ怪矣。

【怪祟】51 クヮイスイ　あやしいもののたたり。〔易林〕福祿不レ遂、家多二怪祟一。

【怪性】52 kuai⁴ hsing⁴　奇妙な性質。變な性質。

【怪星】53 クヮイセイ　あやしい星。不思議な星。〔韓詩外傳、二〕怪星之黨見。〔荀子、天論〕怪星之黨見。

【怪腥】54 kuai⁴ hsing¹　甚だ腥臭い。

【怪笑】55 クヮイセウ　あやしんでわらふ。〔唐書、陳子昂傳贊〕子昂說二武后興二明堂太學一、其言甚高、殊可二怪笑一。

【怪石】56 クヮイセキ　❶常と變つた形をした石。〔書、禹貢〕鉛松怪石。〔蔡傳〕怪石、怪異之石也。〔柳宗元、始得二西山一宴游記〕幽泉怪石、無二遠不一レ到。〔方干、題二故人廢宅一詩〕閑花舊識猶含レ笑、怪石無情更不レ言。❷玉に似た石。〔書、禹貢〕鉛松怪石。〔傳〕怪異、好石似レ玉者。〔山海經、中山經〕多二怪石一。〔注〕怪石、似レ玉也。〔漢書、地理志上、鉛松怪石、注〕怪石、石之次レ玉美好者。

〔怪石供〕57 クヮイセキキョウ　文章の名。宋、蘇軾撰。前後二篇あり。怪石を得て、禪僧に供することを述ぶ。〔蘇軾、前怪石供〕禹貢、靑州有二鉛松怪石一、解者曰、怪石、石似レ玉者、云云、齊安小兒浴二於江一、時有レ得レ之者一、云云、旣久、得二二百九十有八枚一、云云、又得二古銅盆一枚一、以盛レ石、云云、廬山歸宗佛印禪師適有二使至一、遂以爲レ供。〔蘇軾、後怪石供〕蘇子旣以二怪石一供二佛印一、佛印以二其言一刻二諸石一。

【怪說】58 クヮイセツ　奇怪な說。變つた言說。〔荀子、非十二子〕不レ法二先王一、不レ是二禮義一、而好治二怪說一、玩二琦辭一、甚察而不レ惠。〔荀子、解蔽〕案直將治二怪說一、玩二奇辭一、以相撓滑也。

【怪僧】59 クヮイソウ みなれぬ僧。あやしい僧。

【怪蛇】60 クヮイダ あやしいへび。〔山海經、中山經〕江水、其中多二怪蛇一。〔庾信、孫叔敖逢レ蛇贊〕母氏顧訪、知レ埋二怪蛇一。

【怪道】61 kuai^4 tao^4 なるほど。道理で。怪不得。

【怪誕】62 クヮイタン あやしくとりとめの無い話。〔韓愈、遊二青龍寺一贈二崔太補闕一詩〕忽驚顏色變二韶稚一、卻信靈仙非二怪誕一。

〔怪誕不經〕63 クヮイタンフケイ とりとめのない大言を吐いて正しい道にそむく。

【怪歎】64 クヮイタン あやしみなげく。〔宋書、臧質傳〕迷昧過甚、良可二怪歎一。

【怪談】65 クヮイダン ㊀ばけものに關するはなし。ばけものばなし。妖怪談。㊁あやしいはなし。

【怪竹】66 クヮイチク めづらしい竹。〔唐書、蘇良嗣傳〕帝遣二宦者一、采二怪竹江南一、將レ蒔二上苑一。

【怪蟲】67 クヮイチュウ あやしいむし。〔山海經、中山經〕又東二一百三十里曰二槃余之山一、其上多レ銅、其下多レ銀、其木多二柳芑一、其蟲多二怪蛇怪蟲一。

【怪徵】68 クヮイチョウ あやしいきざし。〔莊子、徐無鬼〕凡有二怪徵一者、必有二怪行一。

【怪鳥】69 クヮイテウ ㊀あやしいとり。めづらしいとり。怪禽。〔神仙傳、九〕有下怪鳥止二屋上一者上。㊁ひねくれもの。孤癖の人。〔晉書、孫盛傳〕進無二威鳳來儀之威一、退無二鷹鸇搏擊之用一、徘二徊湘川一、將爲二怪鳥一。〔通俗編、禽魚、怪鳥〕按、俗譏二孤癖人一曰二怪鳥一、本レ此。

【怪牒】70 クヮイテフ 怪諜に同じ。〔後漢書、方術傳序〕神經怪牒。

【怪諜】71 クヮイテフ 不思議の事を記した書物。〔舊唐書、經籍志序〕自二古之粹籍靈符、絕域之神經怪諜一、盡載二於此二書一矣。

【怪童】72 クヮイドウ あやしい童兒。尋常でない童子。

【怪特】73 クヮイトク あやしくして他とことなる。めづらしい。〔柳宗元、始得二西山一宴游記〕未三始知二西山之怪特一。

【怪難】74 kuai^4 nan^2 甚だ困難。非常にむづかしい。

【怪誣】75 クヮイフ でたらめな言葉。〔柳宗元、弔二屈原一文〕謂二謨言之怪誣一兮。

【怪風】76 クヮイフウ ふしぎな風。怪しい風。〔太田元貞、過二桶峽一詩〕怪風吹レ雨晝如レ晦、驚破奇兵降レ自レ天。

【怪物】77 クヮイブツ ㊀あやしいもの。ばけもの。へんげ。〔史記、大宛傳〕出二奇戲諸怪物一。〔揚雄、羽獵賦〕漢女水潛、怪物暗冥、不レ可二殫形一。㊁ふしぎなもの。慶雲の類。〔禮、祭法〕山林川石丘陵、能出レ雲爲二風雨一見二怪物一、皆曰レ神。〔疏〕怪物、慶雲之屬也。㊂行動性情の測りにくい、力量のすぐれた人物。

【怪聞】78 クヮイブン あやしいうはさ。

【怪僻】79 クヮイヘキ あやしい。尋常でない。〔福惠全書、教養部、講學〕非レ履二之于怪僻而難一レ行。

【怪變】80 クヮイヘン あやしいもの。變化。〔荀子、儒效〕倚物怪變、所レ未二嘗聞一也。〔後漢書、彭寵傳〕多見二怪變一。

【怪木】81 クヮイボク ふしぎな木。奇木。〔山海經、南山經〕多二怪木一。〔柳宗元、石渠記〕卒入二于渴一、其側皆詭石怪木。

【怪民】82 クヮイミン 心の狂つた民。狂氣じみた人。〔周禮、天官、閽人〕奇服怪民不レ入レ宮。〔注〕怪民、狂易。〔柳宗元、與二蕭翰林俛一書〕謗語轉移、囂囂嗷嗷、漸成二怪民一。

【怪癢】83 クヮイヤウ 非常にくすぐつたい。〔紅樓夢、三十九回〕奶奶別二只管摸的一、我怪癢的。

【怪來】84 クヮイライ あやしむ。來は助辭。〔韋應物、休暇日訪二王侍御一不レ遇詩〕怪來詩思淸二人骨一、門對二寒流一雪滿レ山。

【怪力】85 クヮイリョク クヮイリキ ㊀すぐれた力。〔薛季宣、二女篇〕怪力視二茫茫一、久要交善敬。㊁怪異と勇力。怪力亂神を見よ。

〔怪力亂神〕86 クヮイリョクランシン 怪異と勇力と悖亂と鬼神。〔論語、述而〕子不レ語二怪力亂神一。〔集注〕怪異勇力、悖亂之事、非二理之正一、固聖人所レ不レ語、鬼神造化之迹、雖レ非二不正一、然非二窮理之至一、有二未レ易レ明者一、故亦不二輕以語一レ人也。

【怪麗】87 クヮイレイ あやしくうるはしい。並々ならずうるはしい。〔後漢書、南蠻、西南夷傳論〕莫レ不下呈二表怪麗一、雕中被宮幄上焉。

【怪論】88 クヮイロン あやしいあげつらひ。奇怪な議論。〔蘇轍、祭二歐陽少師一文〕公爲二宗伯一、思レ復二正始一、狂詞怪論、見者投棄。

【怪惑】89 クヮイワク あやしみまどふ。〔後漢書、蘇竟傳〕如何怪惑依而恃レ之。

【怪游臺】90 クヮイイウダイ 越王句踐がつくつた臺の名。〔越絕書、越絕外傳記地傳〕龜山者、句踐起二怪游臺一也、云云、以炤レ龜、又仰望二天氣一、觀二天怪一也、云云、今東武里一曰二怪山一、怪山者、往古一夜自來、民怪レ之、故謂二怪山一。

【怪澁的】92 kuai^4 sê^4 tê 甚だ澁い。

【怪燙的】93 kuai^4 t'ang^4 tê 甚だ熱い。

【怪不得】94 kuai^4 pu tê^2 怪しむに足らぬ。道理で。なるほど。

【怪文書】95 クヮイブンショ 怪しい文書。

【怪悶的】96 クヮイモンテキ つまらない。〔紅樓夢、十九回〕寶玉笑道、我怪悶的、來瞧三瞧儞作二什麼一呢。

【怪妄迂僻】97 クヮイマウウヘキ あやしくて正しくないこと。怪妄は、あやしくとりとめがない、迂僻は、まはりどほくかたよつてゐること。〔村上函峯、答三某生問二讀書作文一書〕非二膚淺陋劣一、則怪妄迂僻。

【怪模怪樣】98 kuai^4 mu kuai^4 yang^4 奇怪な樣子。

【怪悶得慌】99 kuai^4 men^4 tê huang^1 甚だ不愉快な。

【莫レ怪頻過二有レ酒家一】100 アヤシムナカレシキリニサケアルノイヘニヨギルヲ しきりに酒家に行くを怪しむ勿れ。時に及んで歡を盡すべきをいふ。〔雍陶、過二南隣花園一詩〕莫レ怪頻過二有レ酒家一、多情長是惜二年華一、春風堪レ賞還堪レ恨、纔見二開花一又落花。

【見レ怪不レ怪其怪自壞】101 クヮイヲミテクヮイトセザレバソノクヮイオノヅカラヤブル 怪物を見ても心に掛けなければ、怪物は自然に消滅してしまふこと。〔夷堅三志、姜七家猪〕姜怫然曰、畜生之言何足レ爲レ信、我已數月來知レ之矣、見レ怪不レ怪、其怪自壞。〔通俗編、神鬼、見レ怪不レ怪其怪自敗〕藝文類聚、引二見異錄一、魏元忠未レ達時、家貧獨一婢方爨、有二老猿一爲看レ火、婢驚白レ公、公曰、猿閔二我闕一レ僕、爲執レ爨耳、又嘗呼二蒼頭一、未レ應、犬代呼レ之、公曰、孝順狗也、又獨坐、有二羣鼠一、拱二于前一、公曰、汝輩飢求二食于我一耶、乃飼レ之、又一夕夜半、有二婦女數人一、立二于牀前一、公曰、汝能徙二我于堂下一乎、婦人竟舁二堂下一、曰、可三復徙二堂中一乎、羣婦舁二舊所一、曰、能徙二我于街市一乎、羣婦再拜而去、曰、此寛厚長者、可下同二常人一玩上之哉。

【怭】

10484

㈠ クヮウ ワウ 〔集韻〕胡盲切 庚

㈡ ワウ 〔集韻〕于萌切 庚

㈠㈡憕怭は、志を失へるさま。〔集韻〕怭、憕怭、失レ志皃。

【悲】

10485

㈠ ヒツ

㈡ フツ

㈢ ヒ

㈠弼(**4**−**9826**)の古字。〔韻會〕悲、古文弼字。㈡髴(**12**−**45414**)に同じ。〔漢書、禮樂志〕相放悲。〔注〕師古曰、放悲、猶二髣髴一也。㈢怫(**4**−**10486**)に同じ。〔玉篇〕悲、同レ怫。

【怫】

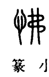
10486

㈠ ヒ 〔集韻〕芳未切 ㄈㄟˋ fei^4 未

㈡ フツ ブチ 〔集韻〕符勿切 ㄈㄨˋ fu^4 物

㈢ ハイ バイ 〔集韻〕蒲昧切 隊

慣 フツ



小篆

㈠㊀**いかるさま。**〔集韻〕怫、忿皃、莊子、怫然作レ色。㊁**おちつかないさま。**怫憒(3)を見よ。㈡㊀**むすぼれる。**こもる。〔說文〕怫、鬱也、从レ心弗聲。〔漢書、鄒陽傳〕則太后怫鬱泣血、無レ所レ發レ怒。〔注〕師古曰、怫鬱、蘊積也。〔陸機、文賦〕於レ是沈辭怫悅。〔注〕善曰、怫悅、難レ出之皃。㊁**いかる。**艴(**9**−**30606**)に通ず。〔說文通訓定聲〕怫、叚借爲レ艴。〔莊子、天

地〕佛然作レ色。〔疏〕佛、嗔貌也。〔釋文〕佛、符弗反、郭、敷謂反。〔素問、刺腰痛論〕佛然腫。〔注〕佛、怒也。❷もとる。拂(5－11936)に通ず。〔說文通訓定聲〕佛、叚借爲レ拂。〔史記、太史公自序〕五家之文佛異。〔注〕索隱曰、佛、悖也。〔孔子家語、三恕〕陳レ道而弗レ佛。〔注〕佛、詭也。❹或は弗(4－9708)に作る。〔集韻〕佛、或作レ弗。㈢みだす。誖(10－35517)に同じ。〔集韻〕誖、亂也、亦作レ佛。

【佛恚】1 フツイ いかる。〔唐書、則天武皇后傳〕太后方佛恚。

【佛異】2 フツイ もとりたがふ。〔史記、太史公自序〕五家之文佛異。

【佛悁】3 フツヰ ❶おちつかない。〔集韻〕佛、佛悁、心不レ安。〔嵇康、琴賦〕佛悁煩寃。〔注〕善曰、佛悁煩寃、聲蘊積而不レ安貌。❷勇躍するさま。〔班固、竇將軍北征頌〕士佛悁以爭レ先。

【佛鬱】4 フツウツ 心のふさがるさま。氣がむすぼれる。〔楚辭、東方朔、七諫、沈江〕心佛鬱而內傷。〔漢書、鄒陽傳〕太后佛鬱泣血、無レ所レ發レ怒。〔注〕師古曰、佛鬱、蘊積也。〔後漢書、馮衍傳下〕心佛鬱而紆結兮。〔魏武帝、苦寒行〕我心何佛鬱。

【佛悅】5 フツエツ 出にくいさま。〔陸機、文賦〕沈辭佛悅、若三游魚銜レ鉤、而出二重淵之深一。〔注〕善曰、佛悅、難レ出之貌。銑曰、佛、謂二思未一レ出也、悅、謂二思微來一也。

【佛然】6 フツゼン ❶心中に怒るさま。むつとするさま。艴然。佛然作レ色を見よ。〔晏子、重而異者〕公佛然怒。〔新書、容經〕佛然慍然精以厲。〔胡銓、上二高宗一封事〕夫三尺之童子、至無知也、指二犬豕一而使二之拜一、則佛然怒。❷むつくりとふくれるさま。〔素問、刺胥痛論〕佛然腫。〔注〕佛、怒也。

【佛然作レ色】7 フツゼントシテイロヲナス むつとして顏色をかへること。〔戰國、楚策〕王佛然作レ色曰、何謂也。〔莊子、天地〕謂二己諛人一、則佛然作レ色。〔疏〕佛、嗔貌也。

【佛佛】8 フツフツ ふさぎこもるさま。〔參同契〕佛佛被レ容レ中。

【佛戾】9 フツレイ もとる。〔唐書、韋皐傳〕禮讓行二于殊俗一、則佛戾者化。

【怑】10487 ゼン ネン 〔集韻〕乳兗切 銑

よわいさま。愞(4－10951)に同じ。〔集韻〕愞、選愞、劣弱也、或作レ怑。

【怬】10488 キ 〔集韻〕許異切 寘

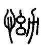
❶よろこぶ。〔集韻〕怬、忻也。❷いこふ。やすむ。又、いぶく。呼吸する。呬(2－3447)に同じ。〔字彙〕怬、與レ呬同、息也。〔張衡、思玄賦〕怬二河林之蓁蓁一兮。〔注〕向曰、怬、息也。

【怭】10489 ヒツ ビチ 〔集韻〕薄必切 質

あなどる。ないがしろにする。〔集韻〕怭、慢也。〔詩、小雅、賓之初筵〕曰二既醉止一、威儀怭怭。〔傳〕怭怭、媟嫚也。〔集傳〕此言、凡飮レ酒者、常始二乎治一、而卒二乎亂一也。

【怮】10490

㈠ イウ ユ 〔集韻〕於虯切 ㄧㄡ yu¹ 尤
㈡ エウ 〔集韻〕伊堯切 蕭
㈢ イウ ユ 〔集韻〕於糾切 有
㈣ アウ エウ 〔集韻〕於教切 效
㈤ イク オク 〔集韻〕乙六切 屋



小篆

㈠㈡㈢❶うれへるさま。〔說文〕怮、惪皃、从レ心幼聲。〔廣雅、釋訓〕怮怮、憂也。〔集韻〕怮、怮怮、憂也。〔新書、容經〕喪紀之容、怮然懾然若レ不レ還。❷いきどほる。〔集韻〕怮、一曰、含レ怒不レ言。㈣心がもとる。〔集韻〕怮、心戾。㈤がまんする。〔集韻〕怮、抑レ志也。

【怯】10491 ケフ コフ 〔集韻〕乞業切 葉 ㄑㄧㄝˋ ch'ieh^4 ㄑㄩㄝˋ ch'üeh^4

❶おそれる。おびえる。もと㹤(7－20322)に作る。〔康熙字典〕怯、本作レ㹤。〔說文〕㹤、多レ畏也、从レ犬去聲、怯、杜林說、㹤从レ心。〔釋名、釋言語〕怯、脅也、見レ敵恐脅也。〔呂覽、務本〕將衆則罷怯。〔注〕怯、無レ勇也。〔新書、道術〕持レ節不レ恐、謂二之勇一、反レ勇爲レ怯。❷よわい。〔集韻〕怯、弱也。❸さける。回避する。〔廣雅、釋詁二〕怯、去也。〔史記、魯仲連傳〕勇士不二怯レ死而滅一レ名。〔注〕索隱曰、怯レ死、猶レ避レ死也。㈣現世間しらず。

【怯疑】1 ケフギ おそれてまどふ。〔列子、力命〕勇敢怯疑。〔釋文〕怯疑、愼怯遲疑也。

【怯恇】2 ケフキヤウ おぢおそれる。怯怕(23)に同じ。

【怯恐】3 ケフキヨウ おそれる。

【怯懼】4 ケフク おぢおそれる。

【怯官】5 ch'ieh^4 kuan^1 臆病な官吏。

【怯言】6 ケフゲン おぢおそれたことば。〔夏侯湛、抵疑〕居レ位者以二弱斷一爲レ重、以二怯言一爲レ信。

【怯魂】7 ケフコン 臆病なたましひ。〔員半千、隴頭水〕蹀レ血多二壯膽一、裹レ革無二怯魂一。

【怯羞】8 ch'ieh^4 hsiu^1 羞づかしがる。はにかむ。

【怯症】9 ch'ieh^4 chêng^4 日增しに弱る病氣。癆症。肺病。

【怯弱】10 ケフジヤク 臆病でよわいこと。いくぢのないこと。〔韓非子、守道〕設レ柙非三所二以備一レ鼠也、所三以使二怯弱能服一レ虎也。〔漢書、西域下、烏孫國傳〕星靡怯弱可レ免。〔後漢書、西域、東離傳〕男女皆長八尺而怯弱。〔魏志、夏侯淵傳〕爲レ將當レ有二怯弱時一、不レ可二但恃一レ勇也。

【怯沮】11 ケフシヨ おそれ止まる。〔後漢書、荀彧傳〕臣衆怯沮以喪レ氣。〔注〕沮、止也。

【怯心】12 ch'ieh^4 hsin^1 怯懦な心。臆病な心。

【怯薛】13 ケフセツ 蒙古語で、宿衛の當番をいふ。〔剪燈餘話、至正妓人行〕後先雉扇怯薛執、左右麟符火赤佩。

【怯懾】14 ケフセフ おぢおそれる。〔韓非子、亡徵〕怯懾而弱守、蚤見而心柔懦、知レ有レ可レ斷、而弗二敢行一者、可レ亡也。〔陸龜蒙、紀三夢遊二甘露寺一詩〕怯懾不二敢前一、荷襟汗二霑霂一。

【怯惰】15 ケフダ おそれおこたる。〔宋史、李綱傳上〕軍政久廢、士氣怯惰。

【怯愞】16 ケフダ 怯懦に同じ。〔北史、道武七王、京兆王黎子善傳〕(善)嘗言二於上一曰、楊素粗疎、蘇威怯愞。

【怯懦】17 ケフダ おぢおそれる。臆病でいくぢのないこと。〔韓非子、說難〕略レ事陳レ意則曰、怯懦而不レ盡。〔史記、廉頗藺相如傳贊〕士或怯懦、而不二敢發一。〔司馬遷、報二任少卿一書〕僕雖二怯懦一、欲二苟活一、亦頗識二去就之分一矣。〔文同、新霜詩〕精光竹勁健、沮喪柳怯懦。

【怯胆】18 ch'ieh^4 tan^3 臆病な。

【怯探】19 ケフタン おびえながらさぐる。〔吳融、和二韓致光侍郎一無題三首十四韻詩〕怯探同二海底一、稀遇極二天津一。

【怯膽】20 ケフタン おくびやうもの。〔福惠全書、保甲部、訓諫伍壯〕鄉人之怯膽而當二盜之死命一。

【怯恥】21 ch'ieh^4 ch'ih^3 恥づかしがる。はにかむ。

【怯場】22 ch'ieh^4 ch'ang^3 氣おくれする。

【怯怕】23 ケフハ おぢおそれる。〔舒元輿、養猫述〕晝伏夕動、常怯二怕人一者也。

【怯夫】24 ケフフ おくびやうもの。卑怯者。懦夫。〔戰國、韓策〕夫秦卒之與二山東之卒一也、猶三猛賁之與二怯夫一也。〔漢書、梅福傳〕勇士極二其節一、怯夫勉二其死一。

【怯怖】25 ケフフ おぢおそれる。怯恇。

【怯風】26 ch'ieh^4 fêng^1 臆病風に誘はれる。

【怯民】27 ケフミン 臆病な人民。〔商子、去彊〕怯民使二以レ刑必勇一。

【怯勇】28 ケフユウ 怯懦と剛勇。〔呂覽、決勝〕怯勇虛實、其由甚微。

【怯勇隳完】29 ケフハユウキハクワン おくびやう者は變じて勇者となり、やぶれた城は修復して完全になる。〔歐陽脩、范文正公神道碑銘〕帝命レ公往、問二彼驕頑一、有レ不二聽順一、鋤二其穴根一、公居三年、怯勇隳完。

【怯劣】30 ケフレツ よわくておとる。〔晉書、劉波傳〕貪汙者謂二之清勤一、愼レ法者謂二之怯劣一。

【怯烈】31 ケフレツ 元、西域の人。世々太原に居る。至元の頃、諸洞蠻夷の酋長が款附したのに與つて力があつた。官は雲南諸路行中書省左丞。〔元史、一百三十三〕。

【怯龕兒】32 chʻieh^4 kʻan^1 êrh 田舍者。

【怯怯里】33 ケフケフリ 元の人。斡耳那氏。官は千戸。元帥懷都に從つて襄陽を攻めて卒す。〔元史、一百二十三〕。

【怯侉子】34 chʻieh^4 kʻua^3 tzŭ 田舍者。怯龕兒「(32)に同じ。

【怯似レ狐】35 ケフキツネニニタリ おそれること恰も狐のやうである。〔韋莊、雨霽晚眺詩〕臥レ草跧如レ兎、聽レ冰怯似レ狐。

【怯綿里】36 ケフメンリ 翦茸の異名。元の語。〔事物異名錄、布帛、茸〕庶物異名疏、元史怯綿里、翦茸也。

【怯夜幡】37 ケフヤハン 白壇寺の幡刹(**4**－**9086**··10)をいふ。〔金臺記〕白壇寺幡刹、日中有レ影、月中無レ影、因號曰二怯夜幡一。

【怯憐戸】38 ケフレンコ ❶惰民をいふ。❷元人が乞丐をいふ。

【怯怯羞羞】39 ケフケフシウシウ おそれはづかしがる。〔紅樓夢、九回〕未レ語面先紅、怯怯羞羞、有二女兒之風一。

【怯頭怯腦】40 chʻieh^4 tʻou^2 chʻieh^4 nao^3 氣弱い。臆病な。

【怰】10492 ケン ゲン 〔玉篇〕戸絹切 霰

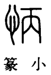
うる。〔玉篇〕怰、賣也。

【忬】10493 チヨ 〔集韻〕展呂切 語

知る。さとい。あきらか。或は詝(**10**－**35392**)に作る。〔廣雅、釋詁三〕忬、智也。〔集韻〕忬、博雅、智也、或从レ言。

【怱】10494 ソウ 悤(**4**－**10693**)の俗字。〔正字通〕怱、俗悤字。

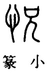
【怲】10495 🈩ヘイ ヒヤウ 〔集韻〕補永切 ㄅㄧㄥˇ ping^3 梗 🈔ヘイ ヒヤウ 〔集韻〕陂病切 敬



小篆

🈩🈔**うれへる。**〔說文〕怲、𢝊也、从レ心丙聲、詩曰、憂心怲怲。〔詩、小雅、頍弁〕未レ見二君子一、憂心怲怲。〔傳〕怲怲、憂盛滿也。

【怳】10496 🈩キヤウ クワウ 〔集韻〕詡往切 ㄏㄨㄤˇ huang^3 養 🈔クワウ クワウ 〔集韻〕虎晃切 養 🈪ケイ キヤウ 〔集韻〕吁請切 梗



小篆

🈩❶**くるふさま。**〔說文〕怳、狂之皃、从レ心兄聲。❷**氣ぬけしたさま。**自失のさま。〔楚辭、九歌、少司命〕臨レ風怳兮浩歌。〔注〕怳、失意貌。❸**おどろき見る。**〔江淹、雜體詩〕怳然若レ有レ失。〔注〕怳、驚視皃。🈔❶**くらい。**慌(**4**－**11057**)に同じ。〔集韻〕慌、昏也、或作レ怳。❷**うつとりする。**〔宋玉、神女賦序〕精神怳惚。〔注〕善曰、怳惚、不二自覺知一之意。❸**ほのか。**さだかでない。恍(**4**－**10546**)に通ず。〔老子、二十一〕道之爲レ物、惟恍惟惚。〔考〕恍、一作レ怳。〔論語、子罕、忽焉在レ後、集解〕何晏曰、言二惚怳不一レ可レ爲二形象一。〔釋文〕惚怳、本今作二恍惚一。❹**須臾のさま。**怳惚(6)を見よ。🈪**くるふ。**〔廣雅、釋詁四〕怳、狂也。

【怳怳】1 キヤウキヤウ 氣拔けしたさま。失意のさま。〔司馬相如、長門賦〕神怳怳而外淫。〔注〕善曰、王逸楚辭注曰、怳、失意也。

【怳欻】2 クワウクツ さだかでないさま。〔韓愈、山南鄭相公云云詩〕茫漫華黑閒、指畫變怳欻。

【怳兮】3 クワウケイ ❶物事が判然としないさま。無形のさま。〔老子、二十一〕忽兮怳兮、其中有レ像、怳兮忽兮、其中有レ物。〔淮南子、原道訓〕怳兮忽兮。〔注〕忽怳、無形貌也。❷キヤウケイ 失意のさま。〔楚辭、九歌、少司命〕臨レ風怳兮浩歌。〔注〕怳、失意貌。

【怳悟】4 クワウゴ うつとりとした中にも心がはつきりしてゐるさま。〔唐書、蕭遘傳〕若レ有二人謂一曰、公無レ恐、予爲レ公呵禦、遘怳悟、俄謁二白帝祠一、見二帝貌一、類二向所一レ睹、異レ之。

【怳忽】5 クワウコツ とりとめのないさま。無形のさま。〔老子、二十一〕道之爲レ物、惟怳惟忽。〔河上公注〕道之於二萬物一、獨怳忽往二來於其无一レ所レ定也。〔淮南子、原道訓〕鶩二怳忽一。〔注〕怳忽、無之象也。

【怳惚】6 クワウコツ ❶うつとりとするさま。〔宋玉、神女賦序〕晡夕之後、精神怳惚、若レ有レ所レ喜。〔注〕善曰、怳惚、不二自覺知一之意。❷極めて短い時間をいふ。須臾の閒。〔鮑照、升天行〕翩翻類二迴掌一、怳惚似二朝榮一。〔注〕濟曰、翩翻怳惚、謂二須臾閒一也。

【怳愴】7 キヤウサウ 失意してよろこばないさま。愴怳。〔汪克寬、吳山賦〕靈奇怳愴而升沈。

【怳然】8 キヤウゼン ❶驚き視るさま。〔江淹、雜體、潘黃門述哀詩〕撫レ衿悼二寂寞一、怳然若レ有レ失。〔注〕良曰、怳、驚視貌。❷自失するさま。〔蘇軾、策略一〕怳然而不レ樂。❸クワウゼン うつとりするさま。さだかでないさま。恍然。〔後漢書、范式傳〕式怳然覺寤、悲歎泣下。

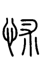
【怳惑】9 キヤウワク くるひまどふこと。〔論衡、藝增〕令三怳惑之人、觀覽采擇、得二以開一レ心通レ意。

【怴】10497 ケツ クワチ 〔集韻〕許月切 月

❶**おろかなさま。**〔集韻〕怴、字林、戇皃。

❷**いかるさま。**〔集韻〕怴、一曰、怒皃。

【怵】10498 🈩チユツ チユチ 〔集韻〕敕律切 ㄔㄨˋ chʻu^4 質 🈔シユツ シユチ 〔集韻〕雪律切 質 🈪キツ キチ 〔集韻〕休必切 質 慣チユツ



小篆

🈩❶**おそれる。**〔說文〕怵、恐也、从レ心朮聲。〔廣雅、釋詁二〕怵、懼也。❷**いたむ。かなしむ。**〔字彙〕怵、悽愴也。〔禮、祭義〕心怵而奉レ之以レ禮。〔注〕怵、感二念心一之貌也。❸**はしる。**趫(**10**－**37299**)に通ず。〔說文通訓定聲〕怵、叚借爲レ趫。〔漢書、司馬相如傳〕怵臭以梁倚。〔注〕張揖曰、怵臭、奔走也。🈔**いざなふ。いざなはれる。**訹(**10**－**35335**)に同じ。〔集韻〕訹、說文、誘也、或作レ怵。〔管子、心術〕是以君子不レ怵二乎好一。〔賈誼、鵩鳥賦〕怵迫之徒、或趨二西東一。〔注〕善曰、孟康曰、怵、爲レ利所レ誘怵然。〔淮南子、原道訓〕怵然若レ有レ所二誘慕一。🈪**くるふ。**或は怴(**4**－**10523**)・𤵸(**7**－**22095**)に作る。〔集韻〕怵、博雅、狂也、或作二怴・𤵸一。

【怵心】1 ヂュツシン　心をいためる。〔莊子、應帝王〕勞レ形怵レ心。

【怵然】2 ヂュツゼン　❶おそれるさま。〔莊子、養生主〕怵然爲レ戒。〔說苑、奉使〕文侯怵然、爲レ之變レ容。❷いざなはれて心を引かれるさま。慕ふさま。〔淮南子、原道訓〕怵然若レ有レ所二誘慕一。〔集解〕兪樾云、怵、當二讀爲一レ訹、說文言部、訹、誘也。

【怵殆】3 ヂュツタイ　心おそれて安からぬこと。〔吳萊、病起讀二列子沖虛至德眞經一雜題詩〕中心既怵殆、外物盡坑谿。

【怵臭】5 ヂュツチャク　奔走する。〔漢書、司馬相如傳下〕蜩蟉偃蹇、怵臭以梁倚。〔注〕張揖曰、怵臭、奔走也。

【怵怵】6 ヂュツヂュツ　おどろくさま。おそれるさま。〔枚乘、七發〕惕惕怵怵、臥不レ得レ瞑。〔注〕良曰、怵惕、驚貌。

【怵惄】7 ヂュツテキ　怵惕に同じ。惄は惕の古字。〔漢書、王商傳〕卒無二怵惄憂一。〔注〕師古曰、惄、古惕字。

【怵惕】8 ヂュツテキ　おそれる。心がやすらかでないこと。おどろく。心が動搖すること。〔書、冏命〕怵惕惟厲。〔禮、祭義〕心有二怵惕之心一。〔孟子、公孫丑上〕今人乍見二孺子將一レ入二於井一、皆有二怵惕惻隱之心一。〔集注〕怵惕、驚動貌。〔管子、小匡〕而無二怵惕一焉。〔漢書、淮南厲王長傳〕日夜怵惕。

【怵惕之恐】9 ヂュツテキシテコレオソル　びくびくして恐れる。〔莊子、盜跖〕怵惕之恐、欣懽之喜。

【怵迫】10 ヂュツハク　❶利に誘はれ、貧に迫られる。〔賈誼、鵩鳥賦〕怵迫之徒兮、或趨二西東一。〔注〕善曰、孟康曰、怵、爲三利所二誘怵一也、迫、迫二貧賤一也。〔後漢書、李固傳〕全レ名養レ壽、無レ有二怵迫之憂一。〔注〕爲二利所一レ誘、怵二迫於憂勤一也。❷おびやかす。くるしめる。〔韓詩外傳、五〕民非レ無下仁義根二於心一者上也、王政怵迫、使レ不レ得レ見。

【怷】10499　チュツ ヂュチ　〔正字通〕直律切　質

土のこまかなこと。〔管子、地員〕中土曰二五怷一、五怷之狀、廩焉如レ壈、潤濕以處。〔注〕怷、密也。

【怶】10500　㊀ヒ　〔五音集韻〕敷羈切　支　㊁ヒ　〔集韻〕彼義切　寘

㊀❶**いかる。**〔五音篇海〕怶、怒也。❷**うれへる。**〔五音集韻〕怶、憂也。㊁**心がかたよる。**通じて詖(**10－35384**)に作る。〔集韻〕怶、心怶、憸也、通作レ詖。

【⿰忄乃】10501　ワイ ヱ　〔康熙字典〕烏快切　卦

わるい。〔康熙字典〕⿰忄乃、集韻、烏快切、音⿰黑侖、惡也。

【恮】10502　トウ　餗(**12－44233**)の古字。〔字彙補〕恮、古文餗字。

【⿱臣心】10503　シン　臣(**9－30068**)の古字。〔字彙補〕⿱臣心、古文臣。

【⿱人⿰心㔾】10504　ヱン　怨(**4－10479**)に同じ。〔說文〕怨、⿱人⿰心㔾、古文。

【⿸尸⿰心卩】10505　ヱン　怨(**4－10479**)の古字。〔集韻〕怨、古作レ⿸尸⿰心卩。

【怸】10506　シツ　悉(**4－10635**)の古字。〔字彙補〕怸、古文悉字。

【⿱北心】10507　キョウ　恐(**4－10552**)に同じ。〔龍龕手鑑〕⿱北心、同レ恐、出二藏經一。

【⿰忄只】10508　音義未詳　〔五音篇海〕⿰忄只、與レ恨同。

【⿰忄可】10509　ゲウ　義未詳。〔五音篇海〕⿰忄可、音翹。

【⿱氐心】10510　テイ　義未詳。〔龍龕手鑑〕⿱氐心、音低。

【⿰忄孚】10511　音未詳　さからふ。〔字彙補〕⿰忄孚、音未詳、逆也。

【怹】10512　タン　〔辭海〕特安切　ㄊㄢ t'an¹　寒

他(**1－370**)に同じ。敬語に用ひる。〔辭海〕怹、今北語用作二他之敬稱一。

【怺】10513　國字　こらへる。❶しのぶ。たへる。心を永くして堪忍する義。❷ゆるす。

六畫

【恀】10514　シ　〔集韻〕掌氏切　ㄓˇ chih³　紙

❶**たのむ。**たよる。轉じて、母をいふ。〔爾雅、釋言〕恀、恃也。〔注〕今江東呼レ母爲レ恀。〔郝懿行義疏〕廣韻引二爾雅一、恃レ事曰レ恀、此蓋爾雅舊注、荀子非十二子篇云、儉然恀然、楊倞注、恀然、恃二尊長一之貌、然則恀之爲レ言、侈也、有レ所二憑恃一、而侈然自多也。❷或は忯(**4－10377**)に作る。〔集韻〕恀、或从レ氏。

【恀然】1 シゼン　尊長をたのむさま。〔荀子、非十二子〕儉然恀然輔然。〔注〕恀然、恃二尊長一之貌。

【⿰忄行】10515　カウ ガウ　〔集韻〕寒剛切　陽

よろこぶ。〔集韻〕⿰忄行、悅也。

【⿱卯心】10516　ロン　⿱卵心(**4－10619**)の俗字。〔正字通〕⿱卯心、⿱卵心、从レ卵、省作レ⿱卯心、非。

【⿱夗心】10517　ロン　⿱卵心(**4－10619**)の俗字。〔正字通〕⿱夗心、俗⿱卵心字。

【恁】10518

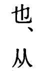
㊀ジン ニン　〔集韻〕忍甚切　寑

㊁ジン ニン　〔集韻〕如鴆切　ㄖㄣˋ jen⁴　沁

㊂ジン ニン　〔集韻〕如林切　侵

㊃チン ニン　〔集韻〕尼心切　ㄋㄧㄣˊ nin²　侵

慣イン



小篆

㊀㊁❶**おもふ。**〔說文〕恁、下齎也、从レ心任聲。〔段注〕未レ聞、按、後漢書班固典引曰、亦宜二勤恁旅一レ力、李賢注引二說文恁念也一、當二用以訂正一。〔玉篇〕恁、念也。〔廣雅、釋詁二〕恁、思也。❷**このやうに。このやうな。**〔正字通〕恁、俗言レ如レ此也、程伊川曰、漢臣當二恁地一、豈有下實心爲二社稷一者上。〔黃機、水龍吟詞〕恨荼蘼吹盡、櫻桃過了、便只恁成二孤負一。❸**よわい。**荏(**9－30950**)・栠(**6－14711**)に通ず。〔說文、恁、段注〕與二詩荏染一同音通用。〔說文通訓定聲〕恁、叚借爲レ栠。〔廣雅、釋詁一〕恁、弱也。❹**煮る。**飪(**12－44049**)に通ず。〔說文通訓定聲〕恁、叚借爲レ飪。〔說文〕飪、恁、亦古文飪。❺**もすそ。**衽(**10－3**

4146)に通ず。〔說文通訓定聲〕恁、叚借爲㆑衽、說文、下齎也、齎又齌之誤字。❻或は⿰忄壬(4－10519)に作る。〔集韻〕恁、或書作㆑⿰忄壬。㈢おもふ。〔集韻〕恁、博雅、思也。㈣❶おもふ。〔集韻〕恁、思也。❷よわい。〔集韻〕恁、弱也。❸まこと。忱(4－10382)・諶(10－35739)に通ず。〔集韻〕恁、信也。〔正字通〕恁、與㆓忱・諶㆒通。❹您(4－10712)に同じ。

【恁事】1 jen⁴ shih⁴ 何事。

【恁兒】2 jen⁴ êrh 此の如し。

【恁人】3 jen⁴ jen² どのやうな人。

【恁生】4（インセイ） このやうな。生は語助。恁樣(9)に同じ。〔正字通〕恁、俗言㆑如㆑此也、又云、恁生、俗字猶㆑言㆑如㆑何也、又云、六一居士詩話、李白戲㆓杜甫㆒詩、借問別來太瘦生、總爲㆓從前作㆑詩苦㆒、太瘦生、唐人語也、至㆑今猶以㆑生爲㆓語助㆒、如㆓作麼生之類㆒是也。

【恁地】5（インチ） このやうな。又、このように。〔朱子全書、學〕義理儘無㆑窮、前人恁地說、亦未㆓必盡㆒。〔朱子語錄〕緜也是有㆓才智㆒、只是狠拗所㆓以弄得恁地㆒。〔通俗編、語辭、恁地〕按、恁地之恁、乃如㆑此之義。

【恁的】6（インテキ） このやうな。恁地に同じ。〔元曲、玉鏡台〕小官暗想來只得㆑如㆑此、若恁的呵、不㆑濟㆑事。

【恁般】7 jen⁴ pan¹ このやうに。斯の如き。こんな。

【恁麼】8（インモ） ❶いかん。如何に。どうして。〔景德傳燈錄、九、潭州潙山靈祐禪師〕次提起問㆑師云、正恁麼時、和尙作麼生。〔碧巖錄、四十三則〕從上來還有㆓恁麼家風㆒也無。〔祖庭事苑、一〕恁麼、上當㆑作㆑與、麼、正從㆑幺作㆑麼、與麼、指辭也。〔通俗編、語辭、恁麼〕按、今云恁麼之恁、乃疑㆑之之義。❷此の如き。このやうな。〔無門關、第十六、鐘聲七條〕雲門曰、世界恁麼廣闊、因㆑甚向㆓鐘聲裏㆒披㆓七條㆒。

【恁樣】9 jen⁴ yang⁴ このやうな。

【⿰忄壬】10519

ジン 恁(4－10518)に同じ。〔集韻〕恁、或書作㆑⿰忄壬。

【恂】10520

㈠シユン 〔集韻〕須倫切 ［眞］

㈡シユン 〔集韻〕筍尹切 ［軫］ ㄒㄩㄣˊ hsün²

㈢シユン 〔集韻〕須閏切 ［震］

慣ジユン

小篆

㈠❶まこと。〔說文〕恂、信心也、从㆑心旬聲。〔方言、一〕恂、信也、宋衞汝潁之閒曰㆑恂。〔小爾雅、廣言〕恂、忱也。❷まことに。〔大戴禮、衞將軍文子〕恂、爲㆓下國㆒恂蒙。〔注〕恂、信也、言㆔下國信蒙㆓其富㆒。❸まこととする。信ずる。〔列子、周穆王〕且恂㆓師士之言㆒可也。〔釋文〕恂、信也。❹ひとしい。〔集韻〕恂、均也。❺もののさま。恂恂(9)を見よ。❻通ずる。〔莊子、知北遊〕恂達。〔疏〕恂、通也。❼おそれる。をののく。愯(4－11027)に通ず。〔說文通訓定聲〕恂、叚借爲㆑愯。〔集韻〕恂、慄也。〔莊子、齊物論〕惴慄恂懼。〔釋文〕恂、恐貌、崔云、戰也。❽或は悛(4－10674)に作る。〔集韻〕恂、或作㆑悛。〔漢書、李廣傳〕恂恂如㆓鄙人㆒。〔史記、李將軍傳〕悛悛如㆓鄙人㆒。❾通じて詢(10－35411)・洵(6－17416)に作る。〔集韻〕恂、通作㆓詢・洵㆒。〔詩、鄭風、溱洧、洵訏且樂、釋文〕洵、韓詩作㆑恂。〔承培元、廣說文答問疏證〕凡洵美且都、洵訏且樂、與㆑信通用者、皆當㆓以㆑恂爲㆒㆑正。㈡をののく。ひきしまる。〔集韻〕恂、嚴慄也。㈢❶にはか。あわてる。〔集韻〕恂、恂然、遽也。〔莊子、徐無鬼〕恂然棄而走。〔釋文〕恂、司馬云、遽也。❷ひきしまる。峻(4－8116)に通ず。〔集韻〕恂、容皃嚴栗也。〔禮、大學〕瑟兮僩兮者、恂慄也。〔注〕恂、讀如㆓嚴峻之峻㆒、言㆓其容嚴栗㆒也。❸またたく。旬(7－23112)・眴(8－23307)に通ず。〔說文通訓定聲〕恂、叚借爲㆑旬。〔莊子、田子方〕女怵然有㆓恂目之志㆒。〔釋文〕恂、李本作㆑眴。〔列子、黃帝〕怵然有㆓恂目之志㆒。〔釋文〕吳人呼㆓瞬目㆒爲㆓恂目㆒。

【恂九】1（ジユンキウ） 清、郝懿行(11－39430‥34)の字。

【恂盱】2（ジユンク） 樂しむさま。洵訏(6－17416‥3)を見よ。〔詩、鄭風、溱洧、且往觀㆓平洧之外㆒洵訏且樂、釋文〕洵、息旬反、韓詩作㆑恂、訏、況于反、韓詩作㆑盱云、恂盱、樂貌也。

【恂懼】3（ジユンク） おそれる。をののきおそれる。〔莊子、齊物論〕木處則惴慄恂懼。〔釋文〕恂、恐貌、崔云、戰也。

【恂哉】4（ジユンサイ） 清、張家駒(4－9812‥846)の號。

【恂齋】5（ジユンサイ） 宋、韓翼甫(12－43159‥393)の字。

【恂士】6（ジユンシ） 清、吳龍見(2－3365‥898)の字。

【恂若】7（ジユンジヤク） 清、徐士訥(4－10110‥439)の字。

【恂叔】8（ジユンシユク） 清、査禮(6－14643‥79)の字。

【恂恂】9（ジユンジユン） ❶つつしみ深いさま。〔廣雅、釋訓〕恂恂、敬也。❷まことのあるさま。まじめなさま。恂恂如を見よ。〔漢書、李廣傳贊〕李將軍、恂恂如㆓鄙人㆒、口不㆑能㆑出㆑辭。〔注〕師古曰、恂恂、誠謹貌也。〔漢書、馮參傳〕進退恂恂、甚可㆑觀也。〔注〕師古曰、恂恂、謹信之貌。〔後漢書、召馴傳〕召馴、字伯春、云云、以㆓志義㆒聞、鄉里號㆑之曰、德行恂恂、召伯春。〔後漢書、竇融傳〕誠欲㆑令㆓恭肅畏㆑事、恂恂循㆑道、不㆑願㆔其有㆓才能㆒。❸溫恭なさま。恂恂如を見よ。❹恭順なさま。つつしみ深く從順なさま。〔列女傳、賢明、齊相御妻傳〕其志氣恂恂自下。〔後漢書、竇融傳論〕恂恂似㆑不㆑能㆑已者。〔注〕常恂恂恭順、似㆑若㆓不㆑得㆑已然者㆒也。❺おぢおそれるさま。〔柳宗元、捕蛇者說〕吾恂恂而起、視㆓其缶㆒、而吾蛇尙存、則弛然而臥。❻善くいざなふさま。循循(4－10187‥34)に同じ。〔集韻〕恂、恂恂、善誘也。〔後漢書、李膺傳〕久廢㆓過庭㆒、不㆑聞㆓善誘㆒、〔注〕論語曰、孔子恂恂然善誘㆑人。〔後漢書、郭太傳論〕恂恂善導、使㆔士慕㆓成名㆒。〔宋書、禮志、一〕孔子恂恂、道化㆓洙泗㆒。

【恂恂如】10（ジユンジユンジヨ） 溫和で恭しいさま。又、まじめなさま。〔論語、鄉黨〕孔子於㆓鄉黨㆒恂恂如也、似㆓不㆑能㆑言者㆒。〔集解〕王肅曰、恂恂、溫恭貌。〔集注〕恂恂、信實之貌。

【恂如】11（ジユンジヨ） 字號。❶明、姜兆熊(3－6205‥114)の字。❷明、司馬恂(2－3257‥268)の字。❸明、周忱(2－3441‥285)の字。

【恂然】12（ジユンゼン） おそれるさま。又、あわてたさま。にはかに。〔莊子、徐無鬼〕衆狙見㆑之、恂然棄而走。〔釋文〕恂然、司馬云、遽也。〔疏〕恂、怖懼也。

【恂達】13（ジユンタツ） よく見透しがつくこと。思慮明敏なこと。〔莊子、知北遊〕邀㆓於此㆒者、四肢彊、思慮恂達、耳目聰明。〔疏〕恂、通也。

【恂直】14（ジユンチヨク） 忠直(4－10353‥187)に同じ。〔韓詩外傳、二〕詩曰、羔裘如㆑濡、恂直且侯。

【恂蒙】15（ジユンマウ） 大いにあつい。駿厖(12－44775‥33)に同じ。〔大戴禮、衞將軍文子〕詩云、受㆓小共大共㆒、爲㆓下國㆒恂蒙。〔注〕恂、信也、言㆔下國信蒙㆓其富㆒。

【恂目】16（ジユンモク） 目くらみ。心におそれること。〔列子、黃帝〕今汝怵然有㆓恂目之志㆒。〔釋文〕吳人呼㆓瞬目㆒爲㆓恂目㆒。〔莊子、田子方〕今女怵然有㆓恂目之志㆒。〔釋文〕恂、爾雅云、恂、慄也、恂、謂㆑眩也。

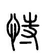
【恂慄】17（ジユンリツ） きりりとひきしまつて威嚴があること。一說に、をののきおそれること。〔禮、大學〕瑟兮僩兮者、恂慄也。〔注〕恂、字或作㆑峻、讀如㆓嚴峻之峻㆒、言㆓其容貌嚴栗㆒也。〔章句〕恂慄、戰懼也。

【恃】10521

㈠シ ジ 〔集韻〕士止切 ［紙］

㈡シ ジ 〔集韻〕時吏切 ［寘］ ㄕˋ shih⁴

㈢チ ヂ 〔集韻〕丈里切 ［紙］


小篆

🈩🈔㊀**たのむ**。〔說文〕恃、賴也。从㆑心寺聲。〔公羊、桓、三〕恃㆑有㆑年也。〔注〕恃、賴也。〔楚辭、離騷〕余以㆑蘭爲㆑可㆑恃兮。〔注〕恃、怙也。㊁**よる**。〔廣韻〕恃、依也。〔集韻〕恃、仗也。㊂**まつ**。〔老子、三十四〕萬物恃㆑之而生。〔河上公注〕恃、待也。㊃**母の異稱**。怙を父とするに對す。〔詩、小雅、蓼莪〕無㆑父何怙、無㆑母何恃。㊄或は⿰忄市に作る。〔集韻〕恃、或从㆑市。㊅持(**5－12019**)に通ず。〔莊子、徐無鬼〕恃㆑源而往者也。〔釋文〕恃、本亦作㆑持。㊆侍(**1－589**)に通ず。〔老子、二〕爲而不㆑恃。〔釋文〕恃、河上本作㆑侍。🈪**心が明らかでない**。〔集韻〕恃、心不㆑明。

【恃愛】1 ジアイ　愛情にたよる。〔梁武帝、子夜歌〕恃㆑愛如㆑欲㆑進、含㆑羞未㆓肯前㆒。

【恃援】2 ジエン　たすけをたのみにする。たすけを借りる。〔吳志、陸抗傳〕非㆑可㆘恃㆓援他部㆒、以救㆗倒縣㆖也。

【恃氣】3 ジキ　自らその意氣をたのむ。勇氣をたのむ。〔莊子、達生〕方虛憍而恃㆑氣。〔疏〕自恃㆓意氣㆒。

【恃救】4 ジキウ　すくひをたのみにする。すくつて吳れるのにたよる。〔左氏、僖、十五〕楚敗㆓徐于婁林㆒、徐恃㆑救也。〔魏志、公孫瓚傳、注〕使㆔後將恃㆑救不㆓力戰㆒。

【恃險】5 ジケン　要害をたのみにする。〔國語、鄭語〕虢叔恃㆑勢、鄶仲恃㆑險、是皆有㆓驕侈怠慢之心㆒。〔舊唐書、武宗紀〕孫逑頗聞㆓于恃㆑險。

【恃固】6 ジコ　要害堅固をたのみにする。〔管子、七法〕能服㆓恃㆑固之國㆒。〔纂詁〕恃㆑固、猶㆑負㆑險也。

【恃怙】7 ジコ　ふたおや。兩親。怙恃(**4－10454**··5)の㊁を見よ。

【恃才】8 ジサイ　才能をたのむ。〔摭言〕蕭穎士恃㆑才傲㆑物。

【恃衆】9 ジシユウ　多勢をたのみにする。〔吳子、圖國〕有扈氏之君、恃㆑衆好㆑勇、以喪㆓其社稷㆒。

【恃勢】10 ジセイ　いきほひをたのむ。勢力を恃む。〔國語、鄭語〕虢叔恃㆑勢、鄶仲恃㆑險。〔魏志、吳質傳、注〕何敢恃㆑勢驕邪。〔五代史、楚世家、周行逢傳〕多恃㆑勢以侵㆑民。

【恃息】11 ジソク　呼吸をたのみとする。呼吸によつて生命を保つ意。〔莊子、外物〕物之有㆑知者恃㆑息、其不㆑殷非㆓天之罪㆒。〔蘇軾、送㆓蹇道士歸㆓廬山㆒詩〕物之有㆑知蓋恃㆑息、孰居㆓無事㆒使㆓出入㆒。

【恃德】12 ジトク　字號。㊀北齊、慕容儼(**4－11088**··61)の字。㊁北周、庫狄昌(**4－9330**··43)の字。㊂隋、梁睿(**6－14825**··17)の字。

【恃蠻】13 shih^4 man^2　腕力・暴力を恃む。

【恃憑】14 ジヒヨウ　たのみたよる。〔王仁裕、劍門詩〕李杜常挨託、孫劉亦恃憑。

【恃勇】15 ジユウ　勇氣にたよる。〔魏志、夏侯淵傳〕不㆑可㆓但恃㆑勇也。〔唐書、程千里傳〕千里恃㆑勇開㆓縣門㆒。

【恃賴】16 ジライ　たのみよる。心だのみとする。〔後漢書、袁安傳〕自㆓天子㆒及㆓大臣㆒、皆恃㆓賴之㆒。〔論衡、感類〕人須㆔仰恃㆓賴之㆒者則爲㆑美矣。〔隋書、河間王慶傳〕敝卒之多、纔盈㆓數百㆒、有㆔何恃賴欲㆓相抗拒㆒。

【恃君覽】17 ジクンラン　呂氏春秋の篇名。恃君・長利・知分・召類・達鬱・行論・驕恣・觀表の八篇ある。

【恄】10522

キツ キチ　〔集韻〕闐吉切　質

おそれる。〔集韻〕恄、怖也。

【怴】10523

🈩 キツ キチ　〔集韻〕休必切　ㄒㄩˋ hsü^4　質

🈔 ケツ ケチ　〔集韻〕翾劣切　屑

🈩**くるふ**。怵(**4－10498**)に同じ。〔集韻〕怵、博雅、狂也、或作㆑怴。〔公羊、桓、五〕曷爲以㆓二日㆒卒㆑之、怴也。〔注〕怴者、狂也、齊人語。〔雷浚、說文外編〕說文無㆓怴字㆒、疒部、⿸疒朮、狂走也、錢大昕曰、卽怴也之怴、浚案、亦可㆑作㆑趫、走部、趫、狂走也。🈔㊀**いかる**。〔廣雅、釋詁二〕怴、怒也。㊁**おろかなさま**。〔集韻〕怴、一曰、愚皃。

【⿰忄聿】10524

トツ

⿰忄隶(**4－10748**)に同じ。〔字彙〕⿰忄聿、同㆑⿰忄隶。

【⿰忄虫】10525

チユウ

⿰忄蟲(**4－11496**)に同じ。〔正字通〕⿰忄虫、同㆑⿰忄蟲省。

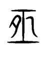
【恅】10526

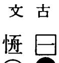
ラウ ロウ　〔集韻〕魯皓切　皓

㊀愺恅は、心がみだれる。〔集韻〕恅、愺恅、心亂。㊁愺恅は、しづか。〔王褒、洞簫賦〕愺恅瀾漫、亡㆑耦失㆑疇。〔注〕善曰、埤蒼曰、⿰口草嘐、寂靜也、與㆓愺恅㆒音義同。

【恅愺】1 ラウサウ　心が亂れて落ちつかぬこと。〔能改齋漫錄〕文士以㆓作㆑事迫促者㆒、謂㆓之恅愺㆒。

【恒】10527


小篆


古文

🈩 コウ ゴウ　〔集韻〕胡登切　ㄏㄥˊ hêng^2　蒸

🈔 コウ　〔集韻〕居曾切　蒸

🈪 コウ　〔集韻〕居鄧切　徑

🈩㊀**つね**。かはらぬ。もと⿰忄⿱一⿱舟一(**4－10830**)・恆(**4－10528**)に作る。〔集韻考正〕恒、說文、恒作㆑⿰忄⿱一⿱舟一、隸當㆑作㆑恆。〔說文〕⿰忄⿱一⿱舟一、常也、从㆘心舟在㆓二之間㆒上下㆖、心㠯㆑舟施、⿰忄⿱一⿱舟一也。〔周禮、地官、賈師〕使㆑有㆓恒賈㆒。〔注〕恒、常也。〔左氏、莊、七〕恒星不㆑見。〔注〕恒、常也。〔孟子、梁惠王上〕無㆓恒產㆒。〔注〕恒、常也。㊁**つねに**。**つねにする**。〔易、豫〕恒不㆑死。〔虞注〕恒、常也。〔易、恒〕不㆑恒㆓其德㆒。㊂**ひさしい**。古い。〔廣雅、釋詁三〕恒、久也。㊃**故法**。故事。〔周禮、春官、司巫〕帥㆑巫而造㆓巫恒㆒。〔注〕恒、久也、巫久者、先巫之故事、造㆑之、當㆕按㆔視所㆓施爲㆒。〔禮、月令〕文繡有㆑恒。〔疏〕恒、則故也。㊄**やすらか**。〔周禮、夏官、司弓矢〕恒矢痺矢。〔注〕恒矢、安居之矢也。㊅**すなほ**。恒民(120)を見よ。㊆**易の六十四卦の一**。䷟（巽下震上）。常久にしてかはらない象。〔易、恒〕雷風、恒。〔本義〕恒、常久也。㊇古は亙(**1－269**)に作る。〔康熙字典〕恒、古文亙。㊈姮(**3－6232**)に通ず。恒娥(17)を見よ。㊉**五嶽の一**。北嶽。常山。〔爾雅、釋山〕河北、恒。〔李注〕恒、北岳、恒山也。〔郭氏音義〕恒山、一名㆓常山㆒、避㆓漢文帝諱㆒。⑪**川の名**。**恒水**。〔書、禹貢〕恒衞既從。⑫**姓**。〔萬姓統譜〕恒、楚大夫恒思公之後、見㆓風俗通㆒、望出㆓東海㆒。🈔**ゆみはり月**。通じて緪(**8－27670**)に作る。🈪の㊀に同じ。〔集韻〕恒、弦也、詩如㆓月之恒㆒、沈重讀、通作㆑緪。🈪㊀**ゆみはり月**。緪(**8－27670**)に通ず。〔集韻〕恒、月弦也。〔詩、小雅、天保〕如㆓月之恒㆒。〔傳〕恒、弦。〔箋〕月上弦而就㆑盈。〔釋文〕恒、本亦作㆑緪。㊁**あまねし**。わたる。をはる。亘(**1－262**)に通ず。〔說文通訓定聲〕恒、叚借爲㆑亘。〔詩、大雅、生民〕恒㆓之秬秠㆒。〔傳〕恒、徧。〔釋文〕恒、本又作㆑亘。〔周禮、考工記、弓人〕恒㆑角而短。〔漢書、敍傳上〕恒以㆓年歲㆒。〔注〕如淳曰、恒、音亘竟之亘。

名乘　チカ。ツネ。ノブ。

【恒菴】1 コウアン　明、王浩(**7－20823**··139)の號。

【恒醫】2 コウイ　普通の醫者。〔論衡、恢國〕是故微病、恒醫皆巧、篤劇、扁鵲乃良。

【恒奥】3 コウイク ひきつづく暑さ。恒燠に同じ。〔漢書、五行志中之下〕厥咎舒、厥罰恒奥。

【恒燠】4 コウイク ひきつづく暑さ。〔書、洪範〕曰豫、恒燠若。〔注〕君行逸豫、則常燠順レ之。

【恒宇】5 コウウ 林恕の號。林鵞峰(6―14551‥277)を見よ。

【恒雨】6 コウウ ひきつづく雨。〔書、洪範〕曰狂、恒雨若。〔傳〕君行狂妄、則常雨順レ之。

【恒衞】7 コウエイ 川の名。恒水と衞水。恒水(78)を見よ。〔書、禹貢〕恒衞既從。〔蔡傳〕恒・衞、二水名。

【恒耀】8 コウエウ つねにかがやく。又、つねのかがやき。〔梁書、昭明太子傳〕星霾恒耀、山頽朽壤。

【恒賈】9 コウカ 常の價。普通の値段。〔周禮、地官、賈師〕凡天患禁二貴價一者、使レ有二恒賈一。〔注〕恒、常也。

【恒伽】10 ゴウガ 佛恒河(13)に同じ。恒伽達を見よ。

【恒伽達】11 ゴウガダツ 佛Gangādatta 比丘の名。河授と譯す。父母が恒伽の河神に祈つて得た子であるから名づくといふ。王舍城の大富長者の子。父母に請うて出家し、道果を得た。〔賢愚經、恒伽達緣品〕。

【恒伽提婆】12 ゴウガダイバ 佛Gangādevi 女人の名。河天と譯す。父母が恒伽の河神に禱つて得た子であるから名づくといふ。般若の會坐に佛の授記を受く。〔智度論、七十五〕問曰、何以名爲二恒伽提婆一、答曰、一切皆有二名字一爲レ識故、何足レ求レ義、有レ人言、是女人父母供二養恒伽神一得二此女一、故言二恒伽提婆一、恒伽、是河名、提婆、名レ天。

【恒河】13 ゴウガ 佛印度の大河の名。一に岡底斯河と譯す。水源は西藏の雪山（ヒマラヤ）。東南流して孟加拉（ベンガル）灣に注ぐ。がんが。がんじす。Gangesの音譯。

【恒河沙】14 ゴウガシャ 恒河にある砂の數。數の極めて多い喩。〔王維、六祖能禪師碑銘〕七寶布施、等二恒河沙一、億劫修行、盡二大地墨一。〔智度論、七〕問曰、如二閻浮提中、種種大河亦有下過二恒河一者上、何故常言二恒河沙等一、答曰、恒河沙多、餘河不レ爾、復次是恒河是佛生處、遊行處、弟子現見、故以爲レ喩。

【恒河沙館】15 コウガシャクワン 清、華世芳(9―31214‥4「94)の室名。

【恒河沙數】16 ゴウガシャスウ 數の極めて多い喩。恒河沙に同じ。〔金剛經〕諸恒河所レ有沙數、寧爲レ多不。

【恒娥】17 コウガ 羿の妻。月の精。姮娥(3―6232‥1)を見よ。〔淮南子、覽冥訓〕羿請二不死之藥於西王母一、姮娥竊以奔レ月。〔注〕姮娥、羿妻、羿請二不死之藥於西王母一、未レ及レ服レ之、姮娥盜食レ之、得レ仙奔入二月中一、爲二月精一。〔集解〕莊逵吉按、姮娥、諸本皆作レ恒、唯意林作レ姮、文選注引レ此作レ常、淮南王當レ諱レ恒、不レ應レ作レ恒、疑意林是也。

【恒慨】18 コウガイ ひろくて大きなこと。〔方言、二〕荊楊之閒、凡言二廣大者一、謂二之恒慨一。

【恒誥】19 コウカウ 定つて動かない命令、又は訓諭。〔文心雕龍、詔策〕優文封策、則氣含二風雨之潤一、敕戒恒誥、則筆吐二星漢之華一。

【恒衡】20 コウカウ 恒山と衡山。五嶽の内の二つの山。〔郭璞、爾雅圖贊、釋山、太室山〕嵩惟嶽宗、華岱恒衡、氣通二元漢一、神洞二幽明一。

【恒格】21 コウカク つねのきまり。一定の法式。〔陳書、高祖紀下〕詔曰、虞官夏禮、豈曰二同科一、殷朴周文、固無二恒格一。

【恒嶽】22 コウガク 恒山(57)の❶をいふ。〔劉因、恒山樓詩〕萬嶺尊二恒嶽一、遺臺枕二後潭一。

【恒寒】23 コウカン ❶ひきつづく寒さ。〔書、洪範〕曰急、恒寒若。〔傳〕君行急、則常寒順レ之。❷長い間寒さが續く。〔宋史、五行志一下〕元祐二年冬、京師大雪連月、至レ春不レ止、久陰恒寒、罷二上元節游幸一、降二德音諸道一。

【恒幹】24 コウカン 肉體をいふ。常體(4―8955‥238)に同じ。〔楚辭、宋玉、招魂〕去二君之恒幹一、何爲兮四方些。〔注〕言、魂靈當レ扶レ人養レ命、何爲去二君之常體一、而遠之二四方一乎。

【恒簡】25 コウカン ❶つねに簡略なこと。〔易、繫辭下〕德行恒簡以知レ阻。❷明、林文(6―14551‥218)の字。

【恒岩】26 コウガン 清、董榕(9―31433‥161)の字。

【恒軌】28 コウキ 不變の法度。〔任昉、王文憲集序〕禮紊二舊宗一、樂傾二恒軌一。

【恒魏】29 コウギ 恒州と魏州。〔唐書、陸贄傳〕今幽・燕・恒・魏之勢、緩而禍輕、汝・洛・滎・汴之勢、急而禍重。

【恒久】30 コウキウ ゴウキウ とこしへ。永遠。永久。〔易、恒〕天地之道、恒久而不レ已也。

【恒吉】31 コウキツ ❶字號。㋑明、丘天祐(1―33‥161)の字。㋺明、商喜(2―3803‥35)の字。❷明、沈恒(6―17189‥157)の一名。

【恒居】32 コウキヨ 落ちついて居る。〔左思、雜詩〕壯齒不二恒居一、歲暮常慨慷。

【恒科】33 コウクワ かはらぬ掟。常に定つてゐる法令。〔宋書、文帝紀論〕罰有二恒科一、爵無二濫品一。〔舊唐書、崔融傳〕依レ本者恒科。

【恒晦】34 コウクワイ 清、朱一是(6―14424‥663)の號。

【恒訓】35 コウクン 永く變らない教。常のをしへ。常訓。〔晉書、夏侯湛傳〕政有二常道一、法有二恒訓一。〔謝莊、改定二刑獄一表〕亦列聖之恒訓。

【恒勁】36 hêng² ching⁴ 永續きする力。堅忍。

【恒景】37 コウケイ 唐の高僧。當陽の文氏の子。荊州の覆舟山玉泉寺に居る。武后の時、入內して供養す。著に順了義論・攝正法論・佛性論がある。〔宋高僧傳、五〕。

【恒敬】38 コウケイ 清、滿洲正藍旗人。原名は恒敏。姓は伊爾根覺羅氏。乾隆中、廣安州に署せられ、擒匪の功を以て正黃旗漢軍副都統に累遷し、喀什噶爾の回匪の亂に糧餉を轉輸す。西寧辦事大臣となる。〔清史稿、三百七十四〕・〔清史列傳、三十五〕・〔國朝耆獻類徵、三百十八〕。

【恒教】39 コウケウ 一般的なつねの教へ。〔李華、質文論〕學者局二於恒教一、因循而不三敢失二於毫釐一。

【恒碣】40 コウケツ 恒山と碣石山。〔黎逢、象魏賦〕高齊二嵩華一、勢比二恒碣一。

【恒月】41 コウゲツ 弦月。弓張月。〔詩、小雅、天保〕如二月之恒一、如二日之升一。〔傳〕恒、弦。

【恒軒】42 コウケン 字號。❶明、韓經(12―43159‥83)の號。❷清、歸莊(6―16349‥107)の號。❸清、蔣溥(9―31820‥91)の號。

【恒憲】43 コウケン 定まつた法。永くかはらぬ法。〔晉書、慕容暐載記〕去レ華敦朴、哲后恒憲。〔宋書、孝武帝紀〕黜レ幽升レ明、闡二宇恒憲一。

【恒謙】44 コウケン 明、涂謙(6―17518‥7)の字。

【恒言】45 コウゲン 人がつねに口にすることば。人がいつもいふことば。〔孟子、離婁上〕人有二恒言一、皆曰二天下國家一。

【恒言錄】46 コウゲンロク 書名。六卷。清、錢大昕撰。方言里語について、その轉變訛謬のよるところを推究したもの。

【恒言不レ稱レ老】47 コウゲンシヨウセズラウト 平常の言葉には、自ら老と稱しない。〔禮、曲禮上〕所レ遊必有レ常、所レ習必有レ業、恒言不レ稱レ老。〔疏〕恒言不レ稱レ老者、老是尊稱、若其稱レ老、乃是己自尊大、非二是孝子卑退之情一。

【恒佐】48 コウサ 明、朱多㸅(6―14424‥905)の字。

【恒齋】49 コウサイ 字號。❶清、吳經(2―3365‥146)の號。❷清、曹曰英(5―14297‥204)の號。❸清、周龍藻(2―3441‥881)の號。❹清、葉鳳毛(9―31387‥265)の號。❺清、李文炤(6―14459‥1914)の號。❻片山成器の號。片山恒齋(7―19813‥128)を見よ。

【恒齋學人】50 コウサイガクジン 清、嚴虞惇(2―4589‥277)の號。

【恒在】51 コウザイ つねにある。いつも存在する。

【恒相】52 hêng² hsiang¹ 永く交際をつづける。

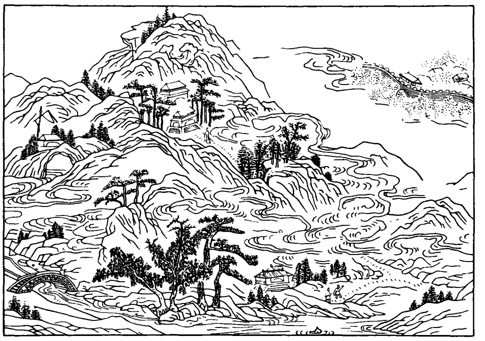
【恒操】53 コウサウ 不變のみさを。一定の操。〔漢書、馮參傳〕參性好二禮儀一、終不レ改二其恒操一。

【恒產】54 コウサン 一定の生業。無二恒產一者無二恒心一を見よ。

【恒產瑣言】55 ゴウサンサゲン 書名。一卷。清、張英撰。足るを知り止まるを知るべきを子孫に告誡した書。〔藝海珠塵、三十九冊〕・〔昭代叢書、戊集〕。

【無二恒產一無二恒心一】56 コウサンナケレバコウシンナシ 一定の生業を有してゐないと、一定不變の道德心も無くなる。人間はとかく貧（ヒン）すれば貪（ドン）する。〔孟子、梁惠王上〕無二恒產一而有二恒心一者、惟士爲レ能、若レ民、則無二恒產一因無二恒心一。〔集注〕恒、常也、產、生業也、恒產、可二常生一之業也、恒心、人所二常有一之善心也、士嘗學問、知二義理一、故雖レ無二常產一而有二常心一、民則不レ能レ然矣。

【恒山】57 コウザン ❶山名。㋑陰山山系の支脈。山西省境の句注山の東から起り、東行して舊大同府の東を經、河北省に入り、舊保定府の西境に連なり、恒山山脈といふ。主峯は、河北省曲陽縣の



恒岳（名山圖）

西北。五嶽の北嶽。又、大茂山といふ。漢の文帝の諱を避けて常山といふ。〔爾雅、釋山〕恒山爲二北嶽一。〔書、舜典〕歲十有一月朔、巡狩至二於北岳一。〔傳〕北岳、恒山。〔書、禹貢〕太行恒山。〔周禮、夏官、職方氏〕正北曰二幷州一、其山鎭曰二恒山一。〔夏允彝、禹貢合注〕恒山、北嶽、陰終陽始、其道常久、故名、恒、常也、言、萬物伏二藏於北一、有二常度一也。〔漢書、地理志上〕常山郡、上曲陽。〔注〕恒山北谷在二西北一、有レ祠、幷州山、禹貢恒水所レ出、東入レ滱、莽曰二常山亭一。㋺山西省渾源縣の東南。釋家は靑峯埡といひ、水經注は玄嶽といふ。別名は陰嶽・紫嶽。〔讀史方輿紀要、山西、名山〕恒山、在二大同府渾源州南二十里一、卽北岳也。❷郡名。漢、置く。後、文帝の諱を避けて常山といふ。河北省正定縣の南。〔讀史方輿紀要、直隸、眞定府〕漢初、置二恒山郡一、後改二常山郡一、云云、煬帝復曰二恒山郡一、唐仍爲二恒州一、天寶初、亦曰二恒山郡一。

【恒士】58 コウシ 凡庸の人。常人。〔戰國、秦策〕乃西說二秦王一曰、甘茂賢人、非二恒士一也。

【恒矢】59 コウシ 周禮の八矢の一。つねに箙に入れておく矢。禮射及び習射に用ひるもの。〔周禮、夏官、司弓矢〕恒矢痺矢、用二諸散射一。〔注〕恒矢、安居之矢也、痺矢象レ焉、二者皆可二以散射一也、謂二禮射及習射一也。

【恒姿】60 コウシ 常にかはらぬすがた。〔文心雕龍、物色〕然物有二恒姿一、而思無二定檢一。

【恒事】61 コウジ つねのこと。いつも行ふこと。〔國史略、欽明天皇〕我國家素以レ祭二天地社稷百八十神一爲二恒事一。

【恒時】62 コウジ 平生。ふだん。〔韓愈、送二李翺一詩〕揖レ我出レ門去、顏色異二恒時一。

【恒州】63 コウシウ 州名。❶後魏、置く。山西省大同縣の東。〔讀史方輿紀要、山西、大同府、大同縣〕後魏道武自二雲中一徙都レ此、初爲二代尹治一、遷レ洛後爲二恒州治一、高齊廢二恒州一置二恒安鎭一、尋復爲二恒州一。❷北周、置く。河北省正定縣。唐、鎭州と改む。〔讀史方輿紀要、直隸、眞定府〕後周於レ郡置二恒州一、云云、煬帝復曰二恒山郡一、唐仍爲二恒州一、云云、元和十五年、改爲二鎭州一。

【恒式】64 コウシキ 定まつたかた。常に從ふべき形式。〔舊唐書、輿服志〕仍編入令三以爲二恒式一。

【恒沙】65 ゴウシャ 佛恒河沙(14)の略。恒河の砂の數。物の多い喩。〔淨名經三觀玄義、上〕見思恒沙無明之惑。〔沈約、千佛讚〕或遊二堅固一、或蔭二龍華一、能達二斯道一者、可レ類二恒沙一。

【恒沙定】66 ゴウシャヂャウ 佛恒河の砂の數ほど多い禪定。地藏菩薩が毎朝衆機を觀ずるために入る禪定をいふ。〔玄奘記十輪經、一〕此善男子、於二一一日一、毎二晨朝時一、爲レ欲レ成二熟諸有情一故、入二殑伽河沙等諸定一。〔往生要集、上末〕地藏菩薩、毎日晨朝、入二恒沙定一、周二遍法界一、拔二苦衆生一。

【恒娑】67 ゴウシャ 佛 hamsa の音譯。鵝・雁と譯す。鵝や雁の毛で作つた衣。亘娑。〔大威德陀羅尼經、六〕恒娑、隋言レ鵝。〔探玄記、二十〕恒娑者、此云二鵝毛一、以レ此爲レ衣、水澆不レ着。

【恒象】68 コウシヤウ 一定の象。又、常に象を以て示す。象は、すがた・かたち、日月雲氣など、及び其等の有様をいふ。〔左氏、昭、十七〕天事恒象。〔注〕天道恒以二象類一告二示人一。〔魏志、文帝紀〕天事恒象。

【恒常】69 コウジヤウ つね。不變。又、つねに變らず守り遵ふところ。〔國語、越語下〕吾年既少、未レ有二恒常一、出則禽荒、入則酒荒。〔淮南子、泰族訓〕非下治之大本、事之恒常、可二博聞而世傳一者上也。〔史記、秦始皇紀〕以立二恒常一。〔蜀志、楊戲傳〕亢然恒常。

【恒情】70 コウジヤウ 普通の人情。〔福惠全書、刑名部、問擬〕互相爭嚷、亦世俗恒情耳。

【恒叔】71 コウシユク 字號。❶明、王士性(**7-20823**‥1518)の字。❷清、劉自潔(**2-2224**‥1018)の字。

【恒春】72 コウシユン 香木の名。沈香の如きもの。〔拾遺記、十、方丈山〕燕昭王二年、云云、與二西王母一常遊二居此臺上一、云云、左右種二恒春之樹一、葉如二蓮花一、芬芳如二桂花一、隨二四時之色一、昭王之末、仙人貢レ焉。

【恒春風】73 hêng^{2} chʻuen^{1} fêng^{1} 氣候風。半年風の稱。暑候半年間は西南から、寒候半年間は其の反對から吹く。

【恒準】74 コウジユン 一定してかはらないきまり。常にのつとるべきのり。常法。常規。常準。〔南史、齊武帝紀〕守宰祿奉、蓋有二恒準一。〔陳佑、平權衡賦〕國之恒準、教二以順行一。

【恒食】75 コウシヨク つねの食事。常食。〔禮、內則〕父母在、朝夕恒食、子婦佐餕。

【恒心】76 コウシン ❶如何なる事件や境遇に遭遇しても決して變らぬ道德心。一定不變の道德心。恒產(54)を見よ。〔孟子、梁惠王上〕無二恒產一而有二恒心一者、惟士爲レ能、若レ民、則無二恒產一、因無二恒心一。〔注〕恒心、人所二常有一善心也。❷hêng^{2} hsin^{1} 忍耐心。物事を永讀してなす心。根氣。

【恒人】77 コウジン 常人。凡人。〔史記、田敬仲完世家〕以爲レ非二恒人一。〔後漢書、劉焉傳論〕固亦恒人必至之期也。〔越絕書、越絕荆平王內傳〕吾知三子非二恒人一也。

【恒水】78 コウスイ 川の名。河北省曲陽縣の西。源は恒山。滱に注ぐ。〔書、禹貢〕恒衞既從。〔漢書、地理志上、常山郡、上曲陽、注〕恒山北谷在二西北一、云云、禹貢恒水所レ出、東入レ滱。

【恒瑞】79 コウズイ 清の宗室。乾隆中、三等侍衞より福州將軍に進む。臺灣の林爽文の亂に兵を督して進擊したが久しく功なく、職をあらためて伊犂にやられ、尋いで西安將軍を授けらる。嘉慶中、川楚の教匪を勦伐して功あり。〔清史稿、三百五十二〕・〔清史列傳、三十〕・〔國朝耆獻類徵、二百八十八〕。

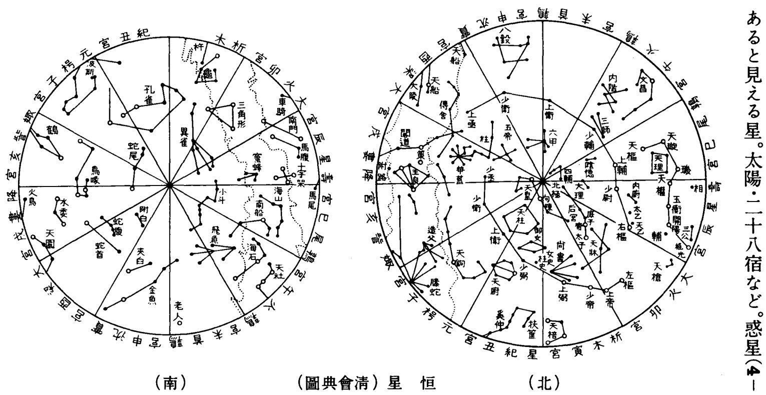
【恒數】80 コウスウ きまつた數。定數。常數。〔梁武帝、贈二蔡道恭一詔〕追レ榮加レ等、抑有二恒數一。

【恒生】81 コウセイ 隋、楊瓚(**6-15112**‥165)の字。

【恒制】82 コウセイ 永久不變の制度。〔國語、越語下〕時將レ有レ反、事將レ有レ間、必有三以知二天地之恒制一。〔注〕恒、常也、制、度也。

【恒性】83 コウセイ 不變の性質。又、通有の性質。〔書、湯誥〕惟皇上帝、降二衷于下民一、若有二恒性一、克綏二厥猷一。〔劉峻、廣絕交論〕憂合歡離、品物恒性。

【恒星】84 コウセイ 地球から見て天球の一定の位置にあると見える星。太陽・二十八宿など。惑星(**4**-



（北）

（南）

恒星（清會典圖）

10789‥16)の對。〔春秋、莊、七〕夏四月辛卯、夜、恒星不レ見。〔注〕恒、常也、謂二常見之星一也。〔後漢書、仲長統傳〕恒星、豔珠・朝霞・潤玉。

【恒星月】85コウセイゲツ 月が一つの恒星に對して地球を一周する時間。卽ち、二十七日七時四十三分十一秒餘。

【恒星時】86コウセイジ 一恒星日を單位として測つた時間。

【恒星日】87コウセイジツ 一恒星が南中してから再び南中するまでの時間。

【恒星圖】88コウセイヅ 恒星の分布圖。恒星の位置・等級等を圖示したもの。

【恒星天】89コウセイテン 恒星の懸つて居る天。プトレマイオスの宇宙系に於ける最外側の天。經星天ともいふ。〔國朝漢學師承記、惠周惕〕有二恒星天一、有二五星天一、有二日天一、有二月天一。

【恒星年】90コウセイネン 太陽が一つの恒星に對して、或場所を出發してから再び同じ場所に歸來する時間。卽ち、地球が太陽の周圍を一廻轉する時間。

【恒星表】91コウセイヘウ 恒星の視位置・運動・等級・スペクトル型・距離・變光周期等を表示したもの。星表。星位表。

【恒惺】92コウセイ 清、顧鼇(**12－43689**‥36)の晩號。

【恒節】93コウセツ 變らぬきまり。〔魏書、樓伏連傳〕雪霜風雨、天地之常、夏霖冬霰、四時恒節。

【恒足】94コウソク 常に足りる。いつも滿ち足る。〔大學〕生レ財有二大道一、生レ之者衆、食レ之者寡、爲レ之者疾、用レ之者舒、則財恒足矣。

【恒俗】95コウゾク 正しい風俗。〔楚辭、嚴忌、哀時命〕舉世以爲二恒俗一兮。

【恒直】96コウチョク 後漢、郭亮(**11－39474**‥218)の字。

【恒超】97コウテウ 五代、漢の僧。范陽の馮氏の子。龍德中、棣州の開元寺に住し、乾祐中、示寂す。賜號は德正。〔宋高僧傳、七〕。

【恒典】98コウテン つねののり。〔晉書、八王傳論〕有晉鬱興、載崇二藩翰一、分レ茅錫レ瑞、道光二恒典一。〔謝莊、搜レ才表〕敢露二芻言一、懼レ氛二恒典一。

【恒度】99コウド 唐、神皓(**8－24673**‥59)の字。

【恒豆】100コウトウ 朝庭の儀式に通常用ひるたかつき。〔禮、郊特牲〕恒豆之菹、水草之和氣也。〔疏〕謂二朝事恒常所レ薦之豆、所レ盛之菹、是水草和羹之氣一。

【恒德】101コウトク ❶一定して永久に變らない德。又、德を變へない。〔易、恒〕不レ恒二其德一、或承二之羞一、貞吉。❷明、石允常(**8－24024**‥882)の字。

【恒德老人】102コウトクラウジン 明、虞摶(**9－32723**‥115)の號。

【恒忍】103 hêng^{2} jen^{3} 辛抱。忍耐。堅忍。

【恒忍雪鎧道人】104コウニンセツガイダウジン 清、潘廷章(**7－18236**‥205)の號。

【恒念】105 hêng^{2} nien^{4} 常に思ひつづける。

【恒農】106コウノウ ❶郡名。㋑後漢、置く。河南省靈寶縣の南。〔讀史方輿紀要、河南、陝州、靈寶縣〕恒農城、東漢仍曰二宏農郡一、後避二獻帝諱一、改曰二恒農一。㋺後魏、置く。河南省陝縣治。〔讀史方輿紀要、河南、河南府、陝州〕後魏置二陝州及恒農郡一。㋩後魏、置く。河南省汲縣。㋥後漢、置く。今、缺く。河南省舊南陽府の境。❷縣名。㋑後漢、置く。河南省靈寶縣の南。〔讀史方輿紀要等、河南、陝州、靈寶縣〕恒農城又廢宏農縣、卽虢州治也、秦曰二桃林縣一、漢曰二宏農一、後或曰二恒農一。㋺後魏、置く。河南省汲縣。㋩後魏、置く。今、缺く。河南省舊南陽の境。㋥後魏、置く。今、缺く。安徽省舊潁州府の境。

【恒悲】107コウヒ とはのかなしみ。〔謝瞻、於二安城一答二靈運一詩〕絲路有二恒悲一、矧迺在二吾愛一。

【恒品】108コウヒン つねのしな。普通のもの。〔白居易、臘日謝二恩賜口蠟一狀〕倍二萬恒品一。

【恒敏】109コウビン 恒敬(38)を見よ。

【恒頫】110コウフ 明、姜昂(**3－6205**‥10)の字。

【恒舞】111コウブ ❶常に舞ふ。〔書、伊訓〕敢有下恒二舞於宮一、酣中歌于室上、時謂二巫風一。〔傳〕常舞則荒淫。❷舞の名。晉の石崇が始めたもの。〔拾遺記、九、晉時事〕石崇常擇二美容姿相類者十人一、裁二飾衣服一大小一等、使三忽視不二相分別一、使二翔風調レ玉、以付二工人一、爲二倒龍之珮一、縈レ金爲二鳳冠之釵一、云云、結レ袖繞レ楹而舞、晝夜相接、謂二之恒舞一。

【恒風】112コウフウ ❶ひきつづく風。〔書、洪範〕曰蒙、恒風若。❷常に一定の方向に吹く風。地球の自轉のために、北半球では東北風、南半球では東南風が吹くの類。貿易風。

【恒福】113コウフク 清、蒙古鑲黃旗人。姓は額勒德特氏。諡は恭勤。咸豐の初、太常寺卿に任ぜられ、事に因つて職をあらためらる。翼長を以て琦善の軍に隨ひ、河南巡撫に拔擢され、豫境を肅清し、直隸總督に至る。〔清史列傳、四十八〕。

【恒物】114コウブツ つねに存在するもの。萬物(**9－31339**‥448)に同じ。〔莊子、大宗師〕是恒物之大情也。〔注〕此乃常存之大情、非二一曲之小意一。〔疏〕恒、常也。

【恒分】115コウブン さだまつたぶんざい。〔晉書、邵續傳〕釁鼓之刑、囚之恒分。

【恒文】116コウブン 天に懸るあや。日・月・星の類をいふ。〔班固、典引〕懸象闇而恒文乖、彝倫斁而舊章缺。〔注〕向曰、懸象・恒文、日月星也。

【恒弊】117コウヘイ つねの弊害。ありがちな缺陷。〔江淹、雜體詩序〕貴レ遠賤レ近、人之常情、重レ耳輕レ目、俗之恒弊。

【恒慕】118コウボ つねに慕ふ。〔任昉、王文憲集序〕特深恒慕、表求レ解レ職。

【恒毛】119コウマウ 尋常の獸類。よのつねのけだもの。〔論衡、講瑞〕鳳凰麒麟、以二仁聖之性一、隱二于恒毛庸羽一。

【恒民】120コウミン 世の常の人。〔莊子、盜跖〕盜跖大怒曰、丘來前、夫可二規以利一、而可二諫以言一者、此愚陋恒民之謂耳。〔釋文〕恒民、一本作二順民一、後亦爾。

【恒暘】121コウヤウ ひきつづくひでり。〔書、洪範〕曰僭、恒暘若。〔後漢書、五行志一〕厥罰恒暘。

【恒陽】122コウヤウ ひきつづくひでり。恒暘に同じ。〔漢書、五行志中之上〕庶徵之恒陽、劉向以爲二春秋大旱一也。

【恒裕】123コウユウ 清、滿洲の人。字は益亭。又、惇夫。嘉慶の進士。官は中允。性、孤介。詩及び書を善くし、兼ねて醫卜に通ず。書室を墨卿堂といふ。著に墨卿堂集がある。〔國朝耆獻類徵、一百二十九〕。

【恒庸】124コウヨウ 通常。凡庸。〔論衡、講瑞〕有若恒庸、反類二聖人一。

【恒澇】125コウラウ 常に水が溜つてゐること。〔晉書、袁甫傳〕陰積成レ雨、雨久成レ水、故其域恒澇也。

【恒例】126コウレイ 變へずにしたがふべき先例。又、しきたり。定例。常例。〔日本政記、清和天皇〕貞觀二年、春二月、天皇始受レ經、先讀二孝經一、後以爲二恒例一。

【恒溫帶】127コウヲンタイ 何時でも一定不變の溫度を有する地下の地層。

【恒見圈】128コウケンケン 地球上の或る地點に於て天の極と北點または南點との距離を半徑とする小圓の內部。此の範圍は地平線下に沒することがない。恒視圈。

【恒信風】129コウシンフウ 兩極から赤道に向つて吹く風。卽ち貿易風。地球の自轉に因つて北半球では東北風となり、南半球では東南風となる。

【恒雪線】130コウセツセン 四時共に雪の消える時のない高さの點を連接した假設線。雪線。

【恆】10528 コウ 恒(**4－10527**)の本字。〔正字通〕恒、俗恆字。

【恇】10529 [一]キヤウ クワウ 〔集韻〕曲王切 ㄎㄨㄤ k'uang^{1} 陽 [二]キヤウ クワウ 〔集韻〕丘往切 養

小篆

[一][二]❶**おそれる**。もと恇(**4－10962**)に作る。〔康熙字典〕恇、本作レ恇。〔說文〕恇、怯也、从二心匡一、匡亦聲。❷通じて匡(**2－2606**)に作る。〔正字通〕恇、古借レ匡。

解字 會意形聲。心と匡とを合はせ、匡は又聲。匡は惶に通じ、恐れる意。

【恇駭】1キヤウガイ おそれおどろく。驚駭。怖駭。〔晉書、宗室、忠王尙之弟休之傳〕闔境士庶、莫レ不二恇駭一。

【恇悸】3キヤウキ おそれおびえる。〔日本外史、德川氏前記、豐臣氏上〕至二富士川一、聞二鵝鴨起一、遂恇悸而潰。

【恇恇】4キヤウキヤウ おそれるさま。〔梁鴻、適レ吳詩〕口囂囂兮余訕、嗟恇恇兮誰留。

【恇懼】5キヤウク おそれる。〔後漢書、張步傳〕時國無二嗣主一、內外恇懼。〔魏書、裴粲傳〕合家恇懼、不レ測レ所レ以。

【恇怯】6 キヤウケフ おぢおそれる。畏縮する。〔魏志、袁紹傳〕馥素恇怯、因然㆓其計㆒。〔宋書、謝晦傳〕登之恇怯、使㆘小將陳祐作㆓大囊㆒、貯㆓茅數千斛㆒、縣㆗于颿檣㆖。〔柳宗元、寄㆓許京兆孟容㆒書〕今以㆓恇怯湫涊下才末伎㆒、又嬰㆓恐懼痼病㆒。

【恇勷】8 キヤウジヤウ 憂懼のさま。俇攘(1−670‥2)を「見よ。

【恇擾】9 キヤウゼウ おそれみだれる。〔北史、魏景穆帝紀〕太子曰、此由㆓賊恇擾㆒、何有㆓營上㆒而有㆓此塵㆒。〔蕭子良、密啓㆓武帝㆒〕廣州積歲無ㇾ年、越州兵糧素乏、加以㆓發借㆒、必致㆓恇擾㆒。〔桯史〕騶馭皆恇擾、不ㇾ知ㇾ所ㇾ爲。

【恇然】10 キヤウゼン おそれるさま。〔素問、通評虛實論〕尺虛者、行步恇然。

【恇慟】11 キヤウドウ おそれかなしむ。〔王儉、褚淵碑文〕聖朝震㆓悼於上㆒、群后恇㆓慟於下㆒。〔注〕善曰、鄭玄禮記注曰、恇、恐也。

【恇怖】12 キヤウフ おそれる。〔國史略、正親町天皇〕城中恇怖、無㆓一人出者㆒。

【恈】10530 ボウ ム 〔集韻〕迷浮切 尤

むさぼりをしむ。〔玉篇〕恈、貪愛也。〔集韻〕恈、愛也。〔荀子、榮辱〕恈恈然惟利之見。〔注〕恈恈、愛欲之貌、方言云、牟、愛也、宋魯之閒、曰ㇾ牟。

【⿰忄夅】10531 カウ 〔集韻〕古巷切 絳

うらむ。〔集韻〕⿰忄夅、恨也。

【恉】10532 🈩シ 〔集韻〕軫視切 ㄓˇ chih^{3} 紙

🈔シ 〔集韻〕脂利切 寘

小篆

🈩🈔❶**こころ。**むね。こころばせ。〔說文〕恉、意也、从ㇾ心旨聲。〔說文通訓定聲〕恉、廣雅釋詁三、恉、志也、經傳皆以ㇾ旨以ㇾ指爲ㇾ之。❷旨(5−13738)・指(5−12034)に通ず。〔說文、恉、段注〕今字作ㇾ旨、或作ㇾ指、皆非㆓本字㆒也。

【忼】10533 シユウ シユ 〔集龍〕昌嵩切 東

心うごく。むなさわぎ。〔集韻〕忼、埤蒼、心動也。〔元結、招太靈〕久懰兮忼忼。

【悁】10534 エン 悁(4−10623)の俗字。〔字彙〕悁、俗悁字。

【恊】10535 ケフ ❶協(2−2742)に同じ。〔說文〕恊、同心之龢也、从㆓劦心㆒。〔正字通〕恊、同ㇾ協。❷愶(4−11013)に同じ。〔集韻〕愶、博雅、怯也、或省。

參考 協は衆人の和する意。協は衆心の和する意。今同用する。熟語は協(2−2742)を見よ。

【⿰忄系】10536 サツ セチ 〔五音集韻〕初轄切 黠

人をせめる。雍⿰忄系。〔五音集韻〕⿰忄系、雍⿰忄系、讁ㇾ人也。

【恋】10537 レン 戀(4−11504)の俗字。〔字彙〕恋、俗戀字。

【⿰忄宅】10538 🈩タク ダク 〔集韻〕達各切 ㄔㄚˋ ch'a^{4} 藥

🈔タク チヤク 〔集韻〕直格切 陌

🈪タ 〔集韻〕抽加切 麻

🈩❶**こらす。**〔廣韻〕⿰忄宅、懲也。❷**まめやか。ただしい。**〔玉篇〕⿰忄宅、忠也、正也。❸**はかる。**〔集韻〕⿰忄宅、忖也。❹**くはだてる。**〔集韻〕⿰忄宅、一曰、企也。❺或は⿰忄乇(4−10311)・⿰忄度(4−10873)に作る。〔集韻〕⿰忄宅、或作㆓⿰忄乇・⿰忄度㆒。🈔❶**こらす。**〔集韻〕⿰忄宅、懲也。❷**まめやか。ただしい。**〔五音集韻〕⿰忄宅、忠也、正也。🈪❶⿰忄宅憏は、きまらない。〔集韻〕⿰忄宅、⿰忄宅憏、未ㇾ定也。❷⿰忄宅憏は、呆然とするさま。〔辭海〕⿰忄宅、⿰忄宅憏、失ㇾ志貌。〔蔡襄、士伸知己賦〕或⿰忄宅㆓憏於草芽㆒。

【⿰忄米】10539 🈩ベイ マイ 〔集韻〕緜批切 齊

🈔ビ ミ 〔集韻〕母婢切 紙

🈩**まどふ。まよふ。**或は⿰忄迷(4−11040)に作る。〔集韻〕⿰忄米、心惑也、或从ㇾ迷。🈔**なでる。又、安んずる。いつくしむ。**敉(5−13191)に同じ。〔集韻〕敉、說文、撫也、一曰、愛也、安也、从ㇾ心。

【⿱米心】10540 シツ 悉(4−10635)に同じ。〔正字通〕⿱米心、同ㇾ悉。

【恌】10541 🈩テウ 〔集韻〕他彫切 ㄊㄧㄠ t'iao^{1} 蕭

🈔エウ 〔集韻〕餘昭切 蕭

🈩**うすい。まことがたりない。**佻(1−569)に同じ。〔集韻〕佻、說文、偸也、或作ㇾ恌。〔詩、小雅、鹿鳴〕視ㇾ民不ㇾ恌。〔傳〕恌、偸也。🈔❶**こころ。**〔方言、十三〕恌、理也。〔注〕謂㆓情理㆒也。❷**うれへる。おそれる。よこしま。まどふ。**愮(4−10990)に同じ。〔廣韻〕愮、憂也、悸也、邪也、惑也、恌、上同。

【⿱曲心】10542 キヨウ 恐(4−10552)に同じ。〔集韻〕恐、或作ㇾ⿱曲心。

【⿱冊心】10543 🈩セン 〔集韻〕思廉切 鹽

🈔セン 〔集韻〕七漸切 琰

🈪サン セン 〔集韻〕師姦切 删

小篆

🈩🈔❶**くちがしこい。**〔說文〕⿱冊心、疾利口也、从ㇾ心、从ㇾ冊、詩曰、相㆓時⿱冊心民㆒。〔段注〕謂㆓疾惡利口之人㆒也。❷或は思(4−10436)に作る。〔集韻〕⿱冊心、或作ㇾ思。❸憸(4−11299)に通ず。〔書、盤庚上〕相㆓時憸民㆒。〔說文〕⿱冊心、詩曰、相㆓時⿱冊心民㆒。〔段注〕詩無㆓此語㆒、尙書般庚上曰云云。🈪**くちがしこい。**🈩の❶に同じ。〔集韻〕⿱冊心、嫉利口也。

【⿱列心】10544 レツ ⿰忄列(4−10545)の本字。〔集韻〕⿱列心、或書作ㇾ⿰忄列。

【⿰忄列】10545 🈩レツ レチ 〔集韻〕力櫱切 屑

🈔レイ 〔集韻〕力制切 霽

🈩**うれへる。**もと⿱列心(4−10544)に作る。〔集韻〕⿱列心、博雅、⿱列心⿱列心、憂也、或書作ㇾ⿰忄列。🈔**おどろく。**或は⿰忄厲(4−11419)に作る。〔集韻〕⿰忄列、驚也、或从ㇾ厲。

【恍】10546 🈩クワウ 〔集韻〕虎晃切 ㄏㄨㄤˇ huang^{3} 養

🈔クワウ 〔集韻〕姑黃切 陽

㈠❶形のないさま。微妙で知りがたいさま。〔老子、二十一〕道之爲レ物、惟恍惟惚、惚兮恍兮、其中有レ物。〔注〕恍・惚、無レ形不レ繫之歎。〔老子、十四〕是謂二無狀之狀、無象之象一、是謂二惚恍一。〔注〕惚恍者、不レ可二微而定一也。❷ほのか。かすか。おぼろげなさま。〔朱熹、中庸章句序〕一旦恍然、似レ有下以得二其要領一者上。❸うつとりする。我をわすれる。自失する。恍惚(5)を見よ。❹くらい。慌(4−11057)に同じ。〔集韻〕慌、昏也、或作レ恍。㈡たけだけしいさま。僙(1−1098)に同じ。〔集韻〕僙、武也、或作レ恍。

【恍遊】1 クヮウイウ うつとりとしてあそぶこと。〔長三洲、元日望二富嶽雪色一詩〕恍遊太古初。

【恍狂】2 huang^{3} k'uang^{2} 狂氣な。

【恍恍】3 クヮウクヮウ ぼんやりしたさま。物事に心を奪はれたさま。〔六韜、龍韜、選將〕有二湛湛而無レ誠、有三恍恍惚惚、而反二忠實一。

【恍忽】4 クヮウコツ 恍惚に同じ。〔司馬相如、上林賦〕縝紛軋芴、芒芒恍忽、視レ之無レ端、察レ之無レ崖。〔注〕向曰、恍忽、目亂貌。

【恍惚】5 クヮウコツ 荒忽。慌惚。恍忽。怳忽。❶微妙で量り知ることのできないさま。字解の㈠の❶を見よ。〔老子、二十一〕道之爲レ物、惟恍惟惚。〔河上公注〕道之於二萬物一、獨怳忽往二來於其无レ所レ定也。〔白虎通、情性〕神者、恍惚太陰之氣也。〔論衡、知實〕神者、眇茫恍惚、無形之實。〔風俗通、過譽〕恍惚誤亂、稜陰扶二輔其政一。❷物事に心を取られて、うつとりするさま。ぼんやりして自失するさま。〔後漢書、董祀妻傳〕恍惚生二狂癡一、號泣手撫摩。

【恍若】6 クヮウジャク うつとりするさま。〔讀書作文譜、文中用字法〕恍若、彷彿形容之辭。

【恍然】7 クヮウゼン うつとりするさま。恍然如二隔世一を見よ。

〖恍然大悟〗 クヮウゼンタイゴ にわかに悟ること。〔紅樓夢、九十五回〕大家此時恍然大悟。

〖恍然如二隔世一〗8 クヮウゼントシテカクセイノゴトシ うつとりとして別世界に居るやうな心持ちがする。〔呉船錄、下〕(九月)丙寅、發二常州一、平江親戚故舊來相迓者、陸二續於道一、恍然如二隔世一焉。

【恍惘】9 クヮウバウ ぼんやりとするさま。〔柳宗元、夢歸賦〕魂恍惘若二有亡一。

【恍親雅教】11 huang^{3} ch'in^{1} ya^{3} chiao^{4} 恰も雅教に接したやうである。親しく拜顏を得た心地がする。

【㤢】10547 ヰク 〔集韻〕乙六切 屋

心うごく。むなさわぎ。〔集韻〕㤢、心動。

【恴】10548 トク 義未詳。〔搜眞玉鏡〕恴、音德。

【恎】10549 ㈠テツ デチ 〔集韻〕徒結切 屑 ㈡シツ シチ 〔集韻〕職日切 質 ㈢シ 〔集韻〕充至切 寘

㈠❶惡い性質。〔玉篇〕恎、惡性也。❷もとる。〔廣雅、釋詁三〕恎、很也。〔集韻〕恎、一曰、佷也。❸おそれる。〔廣雅、釋詁二〕恎、懼也。〔集韻〕恎、恎㤏、懼也。㈡もとる。㈠の❷に同じ。〔集韻〕恎、很也。㈢❶㤿恎は、惡い性質。〔集韻〕恎、㤿恎、惡性也。❷恎㤏は、あわてる。あわただしい。〔集韻〕恎、恎㤏、惶遽也。

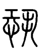
【恏】10550 カウ コウ 〔篇海〕許晧切 晧

むさぼる。〔篇海〕恏、欲也。

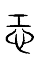
【恲】10551 ハウ ヒヤウ 〔字彙〕普耕切 庚

みちる。つまる。〔靈樞經、厥病〕恲腹濃痛。〔注〕恲、滿也。

【恐】10552 ㈠キヨウ ク 〔集韻〕丘勇切 ㄎㄨㄥˇ k'ung^{3} 腫 ㈡キヨウ ク 〔集韻〕欺用切 宋



小篆



古文

㈠❶おそれる。おそれ。㋑おぢる。もと恐(4−10645)に作る。〔正字通〕恐、恐本字。〔說文〕恐、懼也、从レ心巩聲。〔爾雅、釋詁〕恐、懼也。〔素問、藏氣法時論〕善恐者、如二人將レ捕レ之。〔注〕恐、謂二恐懼魂不レ安也。〔莊子、齊物論〕小恐惴惴。〔張說、岳州行郡竹籬詩〕預絶二豺狼憂一、知レ免二牛羊恐一。㋺つつしむ。かしこまる。〔禮、祭義〕行必恐。㋩うれへる。氣づかふ。〔左氏、僖、二十六〕室而懸磬、野無二青草一、何恃而不レ恐。❷おどす。〔漢書、淮陽憲王欽傳〕令二弟光恐レ王。〔注〕師古曰、恐、謂二怖動一也。〔漢書、谷永傳〕掠立迫恐。❸古は𢖶(4−10329)に作り、或は恚(4−10542)に作る。〔集韻〕恐、古从レ工、或作レ恚。㈡おそらくは。うたがふらくは。多分云云であらうと思ふ。〔集韻〕恐、疑也。〔正韻〕恐、疑也、慮也、億度也。〔左氏、成、十六〕余恐死。〔史記、廉頗藺相如傳〕秦城恐不レ可レ得。

【恐畏】1 キヨウヰ おそれる。〔戰國、秦策〕戰勝二威王一、魏兵罷敝、恐二畏秦一、果獻二西河之外一。〔虞世南、詠レ螢詩〕恐畏無二人識一、獨自暗中明。

【恐悅】2 キヨウエツ かしこまりよろこぶ。他人に喜をいふ敬語。又、自分の喜をいふ謙辭。〔庭訓往來、七月〕被三引二導奉行所一者、恐悅候。〔喫茶往來〕如レ此蒙レ仰之條、恐悅無レ極。

【恐駭】3 キヨウガイ おそれおどろく。恐慄。駭懼。〔六韜、虎韜、略地〕上下恐駭。〔漢書、五行志中之下〕武丁恐駭、謀二於忠賢一。〔新序、義勇〕聞二戰鬭之聲一、恐駭而死。〔論衡、順鼓〕或曰高宗恐駭。

【恐嚇】4 キヨウカク おどかししかる。脅嚇。恐喝に同じ。〔傅占衡、蛟賦〕銓衡則豐二屋於遷除一、臺省則穴二金於恐嚇一。〔六部成語、刑部、恐嚇、注解〕驚レ之也。

【恐喝】5 キヨウカツ おどかし叱りつける。威力を以て脅す。脅喝。恐愒。恐喝取レ財を見よ。〔戰國、趙策〕恐二喝諸侯一以求レ割レ地。

〖恐喝罪〗6 キヨウカツザイ 人に害惡を加ふべきことを告知し、恐怖心を生ぜしめて財物を取り、又、不利益を被らしめた罪。〔刑法、第二百四十九・二百五十條〕。

〖恐喝取レ財〗7 キヨウカツシテザイヲトル 他人をおどかして、財產又は證書類を奪ふこと。〔唐律、賊盜〕諸恐喝取二人財物一者、準レ盜論加二一等一、雖レ不レ足二畏忌一、財主懼而自與、亦同。〔疏議〕恐喝者、謂下知二人有レ犯、欲二相告訴一、恐喝以取二財物一者上。

【恐愒】8 キヨウカツ おびやかしおどかす。恐喝。脅喝。〔史記、蘇秦傳〕衡人日夜務以二秦權一恐二愒諸侯一、以求レ割レ地。〔注〕索隱曰、謂二相恐脅一也。〔崔伯易、感山賦〕矯レ尾厲レ角、恐愒翻構。

【恐猲】9 キヨウカフ 威力を以ておどかす。〔戰國、趙策〕是故橫人日夜務以二秦權一恐二猲諸侯一、以求レ割レ地、願大王之熟二計之一也。〔漢書、王子侯表〕元鼎三年、坐下縛二家吏一恐猲受上レ賕、棄市。〔注〕師古曰、猲、謂下以二威力一脅上レ人也。〔漢書、王莽傳中〕各爲二權勢一、恐二猲良民一。〔注〕師古曰、猲、以二威力一脅レ之也。

【恐氣】10 オゾケ オヂケ おそれる心。おそれ。怖氣。

〖恐氣立〗11 オゾケタツ オヂケタツ おぢけが生ずる。怖氣立。

【恐悸】12 キヨウキ おそれをののく。〔錢珝、爲二王相公一讓レ加二司空一表〕揣レ分非レ次、恐悸難レ安。

【恐恐】13 キョウキョウ　おそれるさま。恐恐然を見よ。

【恐恐然】14 キョウキョウゼン　おそれるさま。〔韓愈、原毁〕恐恐然惟懼㆓其人之不㆑得㆓爲㆑善之利㆒。

【恐恐謹言】15 キョウキョウキンゲン　おそるおそる謹んで申す。書狀などの末尾に記して敬意を表はす語。〔庭訓往來、正月〕委不㆑能㆓腐毫㆒、恐恐謹言。

【恐懼】16 キョウク　❶おそれる。おそれつつしむ。又、手紙の末尾に用ひる敬語。恐怖(34)に同じ。〔易、震〕君子以恐懼脩省。〔大學〕有㆑所㆓恐懼㆒、則不㆑得㆓其正㆒。〔中庸〕恐㆓懼乎其所㆒㆑不㆑聞。〔左氏、成、十三〕文公恐懼、綏㆓靜諸侯㆒。〔墨子、備城門〕敵人恐懼。〔荀子、修身〕偶視而先俯、非㆓恐懼㆒也。〔戰國、趙策〕敝邑恐懼懾伏、繕㆑甲厲㆑兵、飾㆓車騎㆒、習㆓馳射㆒、力㆑田積㆑粟。〔呂覽、愼大〕恐懼太息流涕。〔史記、樂書〕戰戰恐懼、善守善終哉。❷朝廷から御勘氣を蒙つて召し籠められ、又は城外に出だされて出仕を停められること。〔禁祕抄、下〕師賴爲㆑頭之時、與㆓藏人定仲㆒伺㆓見五節帳臺㆒、有㆓沙汰㆒、師賴恐懼、三十日許籠居、爲㆑頭人勘事、不㆑聞事也。

【恐惶】17 キョウクワウ　❶おそれる。恐懼。〔吳越春秋、句踐伐㆑吳外傳〕諸侯怖懼皆恐惶。〔千字文〕悚懼恐惶。❷書狀の文末に記す敬語。かしこみつつしむ意。恐惶謹言を見よ。

【恐惶謹言】18 キョウクワウキンゲン　目上の人へ贈る書狀などの結尾に書して最も敬意を表はす語。〔海人藻芥〕弘安以來、自㆓僧中㆒遣㆓俗中㆒書札禮之事、僧正奉㆓大臣㆒、某恐惶謹言、表書、或子息、或家司。〔庭訓往來、五月〕併期㆓參拜㆒、不具、恐惶謹言。

【恐慌】19 キョウクワウ　❶おそれあわてる。❷經濟界の亂調で、人心を恐慌させる現象。景氣上昇の反動として下降に移る轉換期等に多く起り、物價は急劇に下落して、企業者中破產に瀕するもの續出し、信用俄かに縮小して生產・取引の一部は停止され、勞働者は失業する等の經過を取る。

【恐脅】20 キョウケフ　おどしおびやかす。〔梁武帝、敕責㆓賀琛㆒〕更相恐脅、以求㆓財帛㆒。〔陳書、高祖武帝紀下〕所在軍人、若有㆓恐脅侵掠者㆒、皆以㆑劫論。

【恐察】21 キョウサツ　かしこみおしはかること。他人のことを推量するにいふ敬語。

【恐縮】22 キョウシュク　深くおそれ入る。おそれちぢむ。

【恐悚】23 キョウショウ　大いにおそれる。深くおそれる。恐竦。

【恐竦】24 キョウショウ　おそれすくむ。又、おそれ。恐悚。〔溫庭筠、開成五年秋書懷一百韻〕兕觥增㆓恐竦㆒、杯水失㆓錙銖㆒。

【恐色】25 キョウショク　おそれる氣色。〔國語、晉語九〕襄子將㆓食尋飯㆒、有㆓恐色㆒。

【恐愼】26 キョウシン　おそれつつしむ。〔晏子、雜、上〕燕之游士泯子午者、睹㆓晏子㆒、恐愼而不㆑能㆑言。

【恐沈】28 キョウチン　恐れまどはしめて罪に陷らせる。〔書、盤庚上〕汝曷弗㆑告㆑朕、而胥動以㆓浮言㆒、恐㆓沈于衆㆒。〔蔡傳〕恐、謂㆘恐㆓動之㆒以㆗禍患㆖。沈、謂㆔沈㆓陷之於罪惡㆒。

【恐怒】29 キョウド　おそれいかる。〔漢書、趙充國傳〕於㆑是諸降羌、及歸義羌侯楊玉等恐怒、亡㆑所㆓信鄉㆒。〔注〕劉奉世曰、恐怒、且恐且怒也。

【恐動】30 キョウドウ　おそれて動搖する。〔十八史略、東漢安帝〕羌不㆑知㆓其數㆒相恐動。

【恐入】31 オソレイル　❶非常に恐れる。❷過ちをさとつて丁寧にわびる。謝罪する。❸かたじけなく思ふ。いたみいる。

【恐怕】32 k'ung³ p'a⁴　❶おそれる。❷恐らくは。たぶん。

【恐逼】33 キョウヒョク　おどしせまる。〔宋史、楊廷璋傳〕有㆔姊寡居㆓京師㆒、周祖微時、欲㆑聘㆑之、姊不㆑從㆑令、媒氏傳㆑言恐逼。

【恐怖】34 キョウフ　おぢおそれる。ふるひおそれる。恐懼。恐惶。〔六韜、虎韜、略地〕城人恐怖。〔後漢書、董卓傳〕恐怖涕泣。〔魏志、牽招傳〕虜卽恐怖、種類離散。

【恐怖症】35 キョウフシャウ　些細な事に對しても、恐怖する理由が無いのに、恐怖・不安を感ずる精神狀態。

【恐諛】36 キョウユ　おそれへつらふ。〔漢書、鼂錯傳〕矜奮自賢、羣臣恐諛。〔注〕張晏曰、恐㆓機發陷㆑禍、而爲㆓諂諛㆒以求㆓自全㆒也、師古曰、此說非也、直爲㆓恐懼㆒而爲㆓諂諛㆒也。

【恐慄】37 キョウリツ　おそれをののく。〔張衡、同聲歌〕情好新㆓交接㆒、恐慄若㆑探㆑湯。〔柳宗元、答問〕活給羞媿、恐慄之不㆑暇。

【恐龍】38 キョウリュウ　動物の名。中生代に生棲した爬蟲類の一。化石動物。其の同種類の中には體長が三十五米にも及ぶものがあつた。dinosars の譯語。

【恐惑】39 キョウワク　おそれまどふ。〔史記、晉世家〕秦寇至、民恐惑。

【恐水病】40 キョウスイビャウ　狂犬病にかかつた犬にかまれておこる病氣。破傷風の類。狂犬病。水の音を聞いても恐怖するからいふ。

【恐口無憑】41 k'ung² k'ou³ wu² p'ing²　口頭では證據とならない。

【㤟】10553　キョウ　恐（4－10552）の俗字。〔宋元以來俗字譜〕恐、嬌紅記・嶺南逸事作㆑㤟。

【㤦】10554　ユ　𢝌（4－10853）の俗字。〔字彙〕𢝌、俗㤦字。

【㥏】10555　㊀エイ　〔集韻〕以制切　霽　㊁テイ　〔集韻〕丑例切　霽

小篆（說文）

㊀❶ならふ。段玉裁は忕（4－10325）に改める。〔說文〕㥏、習也、从㆑心曳聲。〔說文、忕習也从㆑心大聲、段注〕此篆各本作㆑㥏、解云、曳聲、今正、詩四月正義、蕩釋文、皆引㆓說文忕習也㆒、是唐初本有㆓忕篆㆒、而玄應書卷十三云、忕又作㆑㥏、引㆓字林㥏習也㆒、倉頡篇、㥏、明也、然則說文作㆑忕、字林變作㆑㥏、實一字、淺人用㆓字林㆒改㆓說文㆒耳。❷あきらか。〔集韻〕㥏、一曰、明也。❸或は忆（4－10300）・怈（4－10425）に作る。〔集韻〕㥏、或作㆓忆・怈㆒。㊂ならふ。〔集韻〕㥏、習也。

【恑】10556　㊀キ　〔集韻〕古委切　ㄍㄨㄟˇ kuei³　紙　㊁ギ　〔集韻〕虞爲切　支

小篆

㊀❶かはる。〔說文〕恑、變也、从㆑心危聲。❷あやしむ。〔玉篇〕恑、異也。❸くいる。〔集韻〕恑、一曰、悔也。❹うつくしい。姽（3－6254）に通ず。〔說文通訓定聲〕恑、叚借爲㆑姽。〔廣雅、釋言〕恑、美也。❺そむく。乖（1－149）に通ず。〔說文通訓定聲〕恑、叚借爲㆑乖。〔廣雅、釋言〕恑、反也。❻詭（10－35434）に通ず。〔說文通訓定聲〕恑、史書皆以㆑詭爲㆑之、莊子齊物論、恢恑譎怪、李注、戾也、幽通賦、變化故而相詭兮、亦以㆑詭爲㆑之。❼佹（1－566）に通ず。〔說文通訓定聲〕恑、字亦作㆑佹。㊁ひとりだちのさま。〔集韻〕恑、獨立皃。

【恓】10557　セイ　サイ　〔篇海〕先齊切　ㄒㄧ hsi¹　齊

なやむ。うれへる。悽（4－10744）・淒（7－17635）に通ず。〔篇海〕恓、恓惶、煩惱之皃。〔正字通〕恓、與㆑悽同、六書故、憂心淒然也、通作㆑淒。

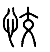
【恓惶】1 セイクワウ　わづらひなやむさま。悽惶。栖遑。〔韋應物、簡㆓盧陟㆒詩〕恓惶戎旅下。〔白居易、得㆓微之到㆑官後書㆒云云詩〕通州海內恓惶地、司馬人間冗長官。

【恓恓】2 セイセイ　心の煩ひ惱むさま。悽悽。〔論衡、指瑞〕聖人恓恓憂㆑世。〔抱朴子、塞難〕恓恓惶惶、務在㆑匡㆑時。〔白居易、秦中吟十首、傷友詩〕出㆑門苦恓恓。〔張彥勝、露賦〕恓恓兮怳若㆓有亡㆒。

【恓屑】3 セイセツ　うれへておちつかぬ。〔白居易、送㆔人貶㆓信州判官㆒詩〕不㆔唯遷客須㆓恓屑㆒。

【恔】10558

［一］ケウ 〔集韻〕古了切 ［篠］
［二］カウ ゲウ 〔說文段注〕下交切 ［肴］
［三］カウ ケウ 〔集韻〕吉巧切 ［巧］
［四］カウ ゲウ 〔集韻〕下巧切 ［巧］
［五］カウ ゲウ 〔集韻〕後教切 ［效］
ㄒㄧㄠˋ hsiao⁴


小篆

［一］㊀さとい。〔說文〕恔、憭也、从ㇾ心交聲。㊁わるがしこい。〔玉篇〕恔、黠也。［二］［三］［四］さとい。［一］の㊀に同じ。〔集韻〕恔、慧也。［五］㊀こころよい。〔方言、三〕恔、快也、東齊海岱之閒曰ㇾ恔。〔孟子、公孫丑下〕於㆓人心㆒獨無ㇾ恔乎。〔集注〕恔、快也。㊁或は⿰忄爻(4－10404)に作る。〔集韻〕恔、或从ㇾ爻。

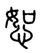
【⿰忄如】10559

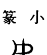
ダウ

怓(4－10441)の譌字。〔正字通〕⿰忄如、怓字之譌。

【恕】10560

シヨ 〔集韻〕商署切 ［御］ ㄕㄨˋ shu⁴
［慣］ジヨ


小篆


古文

㊀おもひやり。仁愛。〔說文〕恕、仁也、从ㇾ心如聲。⿱女心、古文省。〔段注〕爲ㇾ仁不ㇾ外㆓於恕㆒、析㆓言之㆒則有ㇾ別、渾㆓言之㆒則不ㇾ別。〔論語、里仁〕忠恕而已矣。〔皇疏〕恕、謂㆓忖ㇾ我以度㆓于人㆒也。〔集注〕盡ㇾ己之謂ㇾ忠、推ㇾ己之謂ㇾ恕、云云、或曰、中心爲ㇾ忠、如心爲ㇾ恕、於ㇾ義亦通。㊁おもひやる。いつくしむ。あはれむ。〔左氏、隱、十一〕恕而行ㇾ之、德之則也。㊂ゆるす。〔正字通〕恕、寬也。〔史記、趙世家〕竊自恕。〔王珪、仁宗皇帝上㆓徽號㆒册文〕宥㆓恕刑獄㆒、懷㆓保鰥寡㆒。㊃さとる。〔墨子、經上〕恕明也。〔墨子、經說上〕恕也者、以㆓其知㆒論ㇾ物、而其知ㇾ之也、著若ㇾ明。㊄古は⿱女心(4－10328)に作る。〔集韻〕恕、古作ㇾ⿱女心。㊅姓。〔萬姓統譜〕恕、見㆓姓苑㆒。

【恕菴】1 ジヨアン 清、任瑗(1－416‥19)の字。

【恕有】2 ジヨイウ 他人の缺點を思ひやつてゆるす。〔韓愈、南山詩〕勃然思坼裂、擁掩難㆓恕有㆒。

【恕園】3 ジヨエン 清、謝⿰犭幷(10－35827‥131)の號。

【恕皆】4 ジヨカイ 清、黃倬(12－47926‥623)の字。

【恕軒】6 ジヨケン 信夫粲の號。信夫恕軒(1－707‥215)を見よ。

【恕谷】7 ジヨコク 清、李塨(6－14459‥211)の號。

『恕谷文集』8 ジヨコクブンシフ 書名。十三卷。清、李塨撰。〔畿輔叢書、第二百十二―二百十五册〕。

【恕齋】9 ジヨサイ 字號。㊀宋、謝堂(10－35827‥160)の號。㊁宋、汪綱(6－17154‥23)の號。㊂清、弘昕(4－9709‥39)の字。㊃清、謝爲憲(10－35827‥240)の號。㊄清、徐以升(4－10110‥322)の號。㊅清、儲晉觀(1－1284‥85)の號。㊆清、劉宗泗(2－2224‥1142)の號。㊇河野子龍の號。河野恕齋(6－17245‥311)を見よ。

【恕罪】10 ジヨザイ ㊀罪を許す。㊁挨拶用語。御容赦下されたしの意。〔水滸傳、三回〕唱ㇾ喏道、提轄恕罪。

【恕思】11 ジヨシ 思ひやりの心。思ひやり。又、思ひやる。思ひやりの心を動かせる。〔左氏、襄、二十四〕恕思以明ㇾ德。〔會箋〕故以㆓恕思㆒爲㆓明ㇾ德之根柢㆒。〔魏志、袁渙傳〕崇㆓教訓㆒、恕思而後行。

【恕州】12 ジヨシウ 州名。唐、置く。羈縻州。今の四川省茂縣の地。

【恕水】13 ジヨスイ 瀧川隨有の號。瀧川恕水(7－18671‥9)を見よ。

【恕先】14 ジヨセン 宋、郭忠恕(11－39474‥382)の字。

【恕速】15 shu⁴ su⁴ 招待狀の文句。招待の當日、時刻に至ればお迎への使を出し、御出駕を促すべきであるが省略する、おゆるし下さいといふ意。

【恕堂】16 ジヨダウ 清、徐朝俊(4－10110‥593)の字。

【恕中】17 ジヨチユウ 明、無慍(7－19113‥84)の字。

【恕直】18 ジヨチヨク おもひやりがあつて正しい。〔北史、楊紹傳〕爲㆓鄜城郡守㆒、紹性恕直、兼有㆓威惠㆒、百姓安ㇾ之。

【恕暴】19 ジヨバウ 心の寬いことと烈しいこと。ゆるす心と用捨しない心。〔韓非子、顯學〕今寬廉恕暴、俱在㆓二子㆒、人主兼而禮ㇾ之。

【恕夫】20 ジヨフ 元、劉以忠(2－2224‥668)の字。

【恕免】21 ジヨメン ゆるす。ゆるしてとがめない。〔水滸傳、七十五回〕萬望大尉暫息㆓雷霆之怒㆒、只要㆘與㆓國家㆒成㆗全好事㆖、恕免則箇。

【恕容】22 shu⁴ jung² ゆるす。恕する。

【恕老堂】23 ジヨラウダウ 清、周亮工(2－3441‥880)の室名。

【恕而行ㇾ之】24 ジヨシテコレヲオコナフ 思ひやりの深い心を以て事を行ふ。〔左氏、隱、十一〕恕而行ㇾ之、德之則也、禮之經也。

【恕不遠送】25 shu⁴ pu⁴ yüan³ sung⁴ 御見送り致しませんからおゆるし下さい。

【恕不另裁】26 shu⁴ pu⁴ ling⁴ ts'ai² 別に書面を差上げませんから御容赦下さい。

【⿱艸心】10561

サ 〔集韻〕蘇禾切 ［歌］

㊀⿱艸心題は、縣の名。〔集韻〕⿱艸心、⿱艸心題、縣名、在㆓清河郡㆒。㊁莎(9－31040)の古字。⿱艸心題を見よ。

【⿱艸心題】1 サダイ 縣名。漢、置き、清河郡に屬す。河北省棗強縣の南。〔漢書、地理志上〕清河郡、縣十四、⿱艸心題。〔注〕師古曰、⿱艸心、古莎字。

【恖】10562

シ

思(4－10462)の古字。〔集韻〕思、古作ㇾ恖。

【恗】10563

［一］コ ク 〔集韻〕荒胡切 ［虞］
［二］ク 〔集韻〕匈于切 ［虞］
［三］クワ ケ 〔集韻〕枯瓜切 ［麻］
［四］クワ ケ 〔集韻〕苦瓦切 ［馬］
ㄎㄨㄚˇ k'ua³

［一］㊀おそれる。〔廣雅、釋詁四〕恗、怯也。㊁うれへる。〔集韻〕恗、一曰、憂也。［二］うれへる。⿰忄于(4－10321)に同じ。〔集韻〕⿰忄于、說文、憂也、或从ㇾ夸。［三］ほこる。〔集韻〕恗、心自大也。［四］もとる。〔集韻〕恗、心悷也。

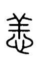
【恘】10564

キウ ク 〔集韻〕祛尤切 ［尤］

㊀もとる。〔廣韻〕恘、戾也。㊁或は惆(4－10757)に作る。〔集韻〕恘、或作ㇾ惆。

【恙】10565

ヤウ 〔集韻〕弋亮切 ［漾］ ㄧㄤˋ yang⁴


小篆

㊀うれへ。うれへる。〔說文〕恙、憂也、从ㇾ心羊聲。〔爾雅、釋詁〕恙、憂也。〔注〕今人云ㇾ無ㇾ恙、謂ㇾ無ㇾ憂也。〔史記、平津公主父傳〕何恙不ㇾ已。〔注〕索隱曰、恙、憂也。㊁やまひ。〔太平御覽、人事部、心〕風俗通曰、俗說ㇾ無ㇾ恙、無ㇾ病也、凡人相㆓問無ㇾ病也。〔漢書、賈誼傳〕皆亡ㇾ恙。〔注〕師古曰、無ㇾ恙、謂ㇾ無㆓憂病㆒也。㊂つつが。蟲の名。蛘(10－32996)に通ず。〔說文通訓定聲〕恙、叚借爲ㇾ蛘。〔匡謬正俗、八〕恙、噬ㇾ人蟲也、善食㆓人心㆒、古者草居、多被㆓此害㆒、故相問勞曰ㇾ無ㇾ恙。㊃惡獸の名。⿰犭恙(7－20602)に通ず。〔輟耕錄、無恙〕神異經曰、北方大荒中有ㇾ獸、咋ㇾ人則

疾、名曰㆑⿰犭恙、⿰犭恙、恙也、嘗入㆓人室屋㆒、黃帝殺㆑之、人無㆓憂疾㆒、謂㆓之無㆒㆑恙。㊄事のないのを無恙といふ。無㆑恙(3)を見よ。㊅つく。〔太玄經、玄告〕歲寧恙而年病。〔注〕恙、猶㆑著也。

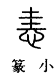
【恙蟲】1（ツツガムシ） 節足動物。蜘蛛類のケダニの幼蟲。體は微小で赤色乃至は赤褐色。多く野鼠の耳などに寄生。體內に恙蟲病の病原體を有し、之を媒介する。信濃川・雄物川附近の原野に多い。〔林逸節用集〕恙蟲。

【恙病】2 yang^4 ping^4 病氣。不例。

【無㆑恙】3（ツツガナシ） 恙が無い。平安無事の意。字解の㊀乃至㊃を見よ。〔爾雅、釋詁、恙、憂也、注〕今人云㆑無㆑恙、謂㆑無㆑憂也。〔楚辭、宋玉、九辯〕賴㆓皇天之厚德㆒兮、還及㆓君之無㆒㆑恙。〔晉書、顧愷之傳〕布帆無㆑恙。

【恚】10566

㈠イ　〔集韻〕於避切　寘
㈡ケイ　ヱ　〔字彙〕胡桂切　霽　ㄏㄨㄟˋ　huei^4


小篆

㈠㈡ ㊀**いかる。**〔說文〕恚、怒也。从㆑心圭聲。〔廣雅、釋詁二〕恚、怒也。〔史記、絳侯世家〕以㆓冒絮㆒提㆓文帝㆒、〔注〕索隱曰、恚者、嗔也。㊁或は⿰忄圭・⿰女恚(3-6570)に作る。〔正字通〕恚、或作㆑⿰忄圭、亦作㆑⿰女恚。

【恚怨】1（イエン） 怒りうらむ。〔後漢書、光武郭皇后紀〕郭后以㆓衰離見㆑貶、恚怨成㆑尤。

【恚礙】2（イガイ） 怒りといふさまたげ。怒りをいふ。礙は、さまたげ、修道のさまたげになるものの意。罣礙。〔淨住子、淨行法門、大忍惡對門〕忍㆓惡罵㆒、無㆓恥辱㆒、忍㆓撾打㆒、無㆓恚礙㆒。

【恚汗】3（イカン） 怒つてあせをかく。又、其の汗。〔唐書、張建封傳〕少游聞㆑之、恚汗不㆓自處㆒。

【恚憾】4（イカン） 怒りうらむ。恚望(13)に同じ。憾恚。〔徐陵、與㆓顧記室㆒書〕反爲㆓憾恚㆒、妄相陷辱。

【恚結】5（イケツ） ［佛］怒りといふ絆（キヅナ）。怒りをいふ。三結・五結・九結中の一。結は煩惱の意で、縛・結縛ともいひ、凡夫を苦界に縛り滯らせる妄惑。〔大乘阿毘達磨雜集論、四〕結有㆓九種㆒、謂㆓愛結・恚結・慢結・無明結・見結・取結・疑結・嫉結・慳結㆒。

【恚詬】6（イコウ） 怒りそしる。〔王孫孺、與㆓何炯㆒書〕愍㆓茲恚詬㆒、憐㆓其觳觫㆒。

【恚恨】7（イコン） いかりうらむ。〔漢書、韋賢傳〕及㆓賢病篤㆒、弘竟坐㆓宗廟事㆒、繫㆑獄罪未㆑決、宗家問㆓賢當㆑爲㆑後者㆒、賢恚恨不㆓肯言㆒。

【恚爭】8（イサウ） いかりあらそふ。〔國史略、武烈天皇〕其子鮪通㆓物部麤鹿火之女㆒、帝爲㆓太子㆒時、不㆑知㆓其事㆒、亦與㆑之期㆑會、鮪來恚爭。

【恚責】9（イセキ） いかつてせめる。〔後漢書、朱儁傳〕母既失㆓產業㆒、深恚㆓責之㆒。

【恚撻】10（イタツ） いかつてむちうつ。〔北史、陳元康傳〕自㆑是爲㆓之懲㆒、忿時或恚撻。

【恚懟】11（イツイ） いかりうらむ。〔後漢書、孫程傳〕程既到㆑國、怨恨恚懟。〔注〕懟、怨也。

【恚怒】12（イド） いかる。恚忿。〔墨子、非儒下〕孔丘乃恚㆔怒於景公與㆓晏子㆒。〔漢書、朱買臣傳〕妻恚怒曰、如㆓公等㆒終饑㆓死溝中㆒耳。〔後漢書、費長房傳〕獨自恚怒。〔晉書、孫登傳〕性無㆓恚怒㆒、人或投㆓諸水中㆒、欲㆑觀㆓其怒㆒、登既出、便大笑。

【恚望】13（イバウ） 怒りうらむ。ゐこん。望は怨。恚憾。〔後漢書、楊震傳〕大臣不㆑服㆑罪、懷㆓恚望㆒。〔魏志、鮑勛傳〕恚望滋甚。

【恚忿】14（イフン） いかる。〔魏書、崔光傳〕終日怡怡、未㆓曾恚忿㆒。

【恚憤】15（イフン） いかりいきどほる。恚忿。〔後漢書、隗囂傳〕九年春、囂病且餓、出㆑城餐㆓糗糒㆒、恚憤而死。〔應瑒、奕勢文〕瞋㆑目恚憤、覆㆑局崩潰。

【恚目】16（イモク） 穀物の實がはぜること。〔管子、地員〕其種櫑葛、秫莖、黃秀、恚目。〔注〕恚目、謂㆓穀實怒開㆒也。

【恚亂】17（イラン） 心がいらいらする。怒つて心が狂ふ。

【⿰忄朿】10567

サク

憡(4-11233)に同じ。〔集韻〕憡、或作㆑⿰忄朿。

【恛】10568

クワイ　グワイ　〔集韻〕胡隈切　灰

昏亂のさま。〔集韻〕恛、昏亂皃。〔太玄經、疑〕初一疑恛恛、失㆓貞矢㆒。〔注〕貞、正也、矢、直也、一、小人也、執㆑志不㆑固、恛恛然從㆑人、故失㆓正直之道㆒也。〔柳宗元、夢㆑歸賦〕騫崩忽上下以恛惶兮。

【恖】10569

シツ

悉(4-10635)に同じ。〔集韻〕悉、或作㆑恖。

【恜】10570

チヨク　チキ　〔集韻〕蓄力切　職

㊀**したがふ。つつしむ。**〔玉篇〕恜、從也、愼也。㊁**おそれる。**侙(1-603)に同じ。〔集韻〕侙、說文、惕也、或从㆑心。〔顏氏家訓、雜藝〕卜得㆓惡卦㆒、反令㆓恜恜㆒。

【恝】10571

㈠カイ　〔集韻〕居拜切　卦
㈡カツ　ケチ　〔集韻〕訖黠切　黠　ㄐㄧㄚˊ　chia^2
㈢ガツ　ゲチ　〔集韻〕牛轄切　黠
㈣ケイ　〔集韻〕詰計切　霽

㈠㊀**心配がない。**〔集韻〕恝、無㆑愁皃。〔孟子、萬章上〕夫公明高、以㆓孝子之心㆒爲㆑不㆓若㆑是恝㆒。〔注〕恝、無㆑愁之貌。㊁⿱介心(4-10359)に同じ。〔說文、⿱介心、段注〕按、⿱介心・恝、古今字。㈡**心配がない。**㈠の㊀に同じ。〔集韻〕恝、無㆑愁皃。㈢**心にゆとりがない。又、うれへる。**忦(4-10360)に同じ。〔集韻〕忦、急也、憂也、古作㆑恝。㈣㊀**氣にかかる事のあること。**〔集韻〕恝、心有㆑事也。㊁恝恝は、山の名。〔山海經、大荒南經〕大荒之中、有㆓恝恝之山㆒。㊂靈恝は、人の名。〔山海經、大荒西經〕炎帝之孫、名曰㆓靈恝㆒、靈恝生㆓互人㆒。

【恝然】1（カイゼン） なにげなく。〔福惠全書、庶政部、城門報單〕或好友經過、未㆑忍㆓恝然而去㆒。

【恝置】2（カイチ） すておく。〔福惠全書、蒞任部、查交代〕有㆘不㆑能㆓恝置㆒者㆖矣。

【恞】10572

イ　〔集韻〕延知切　支

㊀**よろこぶ。**〔爾雅、釋言〕恞、悅也。㊁通じて夷(3-5852)に作る。〔爾雅、釋言、釋文〕恞、本又作㆑夷。㊂怡(4-10470)に同じ。〔正字通〕恞、同㆑怡。

【恟】10573

㈠キヨウ　ク　〔集韻〕許容切　冬　ㄒㄩㄥ　hsiung^1
㈡キヨウ　ク　〔辭海〕許勇切　腫

㈠㈡**おそれる。**兇(1-1348)に同じ。〔廣韻〕恟、懼也。〔集韻〕兇、說文、擾恐也、或作㆑恟。〔韓愈・張籍・孟郊・張徹、會合聯句〕謫夢意猶㆑恟。

【恟駭】1（キヨウガイ） びくびくする。〔柳宗元、招海賈文〕恟駭愁苦、而以忘㆓其歸㆒。

【恟恟】2（キヨウキヨウ） おそれてさわぐさま。〔易林、姤之第四十四、夬〕心乖不㆑同、爭訟恟恟。〔資治通鑑、唐紀〕（德宗、建中四年）泚與㆓秀實㆒相搏恟恟。〔注〕恟恟、喧擾之狀。〔范仲淹、答㆓趙元昊㆒書〕天下恟恟。

【恟懼】3（キヨウク） をののきおそれる。〔後漢紀、光武紀五〕弇乃收㆓所㆑斬級㆒以歸、示㆓巨里城中㆒、城中恟懼。〔舊五代史、僭僞王衍傳〕蜀人恟懼。

【恟然】4（キヨウゼン） 恐れてさわぎたつさま。恟恟に同じ。

【恠】10574 クヮイ 怪(**4－10483**)の俗字。〔正字通〕恠、俗怪字。

【㤴】10575 カン ケン 〔五音集韻〕苦陷切 陷 **おもふ。**〔五音篇海〕㤴、憶也。

【恡】10576 リン 吝(**2－3327**)・悋(**4－10640**)に同じ。〔正字通〕恡、本作レ吝、俗作二悋・恡一。

【恢】10577 一クヮイ 〔集韻〕枯回切 灰 ㄏㄨㄟ huei¹ 二キ 〔集韻〕苦虺切 尾

小篆

一二 ❶**おほきい。**心がひろくおほきい。〔說文〕恢、大也、从レ心灰聲。〔集韻〕恢、謂二志大一也。〔公羊、文、十五〕恢郭也。〔注〕恢、大也。〔莊子、齊物論〕恢詭譎怪。〔釋文〕恢、大也。❷**そなへる。**〔呂覽、君守〕有レ事則有レ不レ恢矣。〔注〕恢、亦備也。❸**大きくする。ひろめる。**〔增韻〕恢、大レ之也。〔孔安國、尙書序〕恢二弘至道一。〔釋文〕恢、大也。〔漢書、敍傳下〕恢二我疆宇一、外博二四荒一。〔注〕師古曰、恢、廣也。❹或は烣(**7－19128**)に作る。〔集韻〕恢、或作レ烣。❺諧(**10－35718**)に通ず。恢諧(4)を見よ。❻回(**3－4690**)に通ず。恢復(36)を見よ。

【恢夷】1 クヮイイ 大いに平かにする。〔隋書、煬帝紀上〕恢二夷宇宙一、混二壹車書一。

【恢偉】2 クヮイヰ 大きくてすぐれてゐる。魁偉。〔北史、魏宗室傳論〕秦王體度恢偉、陳留膽氣絕倫。

【恢遠】3 クヮイエン 大きくひろい。〔北史、刁雍傳論〕刁雍才識恢遠、著レ聲立レ事。

【恢諧】4 クヮイカイ おどけばなし。詼諧。〔前漢紀、孝武皇帝紀二〕朔又上書自訟、文旨放蕩、頗復以二恢諧一。〔論衡、本性〕恢諧劇談、甘如二飴蜜一。

【恢奇】5 クヮイキ ❶大きくてすぐれてゐる。恢偉。〔史記、公孫弘傳〕弘爲レ人恢奇多聞。❷非常にめづらしい。〔論衡、恢國〕恢奇彌出。〔柳宗元、答四韋珩示三韓愈相推以二文墨事一書〕如二太玄・法言及四愁賦一、退之獨未レ作耳、決作レ之加二恢奇一、至二他文一過二揚雄一遠甚。

【恢恑】6 クヮイキ 甚だしくことなる。奇異。〔莊子、齊物論〕恢恑譎怪、道通爲レ一。〔釋文〕恢、大也、恑、戾也。

【恢詭】7 クヮイキ はなはだあやしい。〔陸游、草書歌〕有レ時寓レ意筆硯間、鉄宕奔騰作二恢詭一。

【恢毅】8 クヮイキ 大きくてつよい。〔北齊書、慕容紹宗傳〕紹宗容貌恢毅、少二言語一、深沈有二膽略一。

【恢恠】9 クヮイクヮイ 大きくてなみと異なる。〔柳宗元、夢歸賦〕蒙莊之恢恠兮、寓二大鵬之遠去一。

【恢恢】10 クヮイクヮイ ❶大きいさま。大きくて衆を包み容れるさま。〔老子、七十三〕天網恢恢、疏而不レ失。〔河上公注〕天所二網羅一恢恢甚大。〔荀子、解蔽〕恢恢廣廣、孰知二其極一。〔淮南子、道應訓〕墨墨恢恢。〔史記、滑稽傳〕天道恢恢、豈不レ大哉。〔應貞、晉武帝華林園集詩〕恢恢皇度。❷ゆったりしてゐるさま。〔莊子、養生主〕恢恢乎、其於レ遊レ刃、必有二餘地一矣。

【恢恢然】11 クヮイクヮイゼン 寬くゆったりしたさま。大きなさま。〔荀子、非十二子〕恢恢然廣廣然。〔注〕恢恢・廣廣、皆容レ衆之貌。〔柳宗元、答二韋中立一論二師道一書〕皆恢恢然、有二古人形貌一。

【恢恢有レ餘】12 クヮイクヮイアマリアリ ゆったりとし餘裕のあること。〔莊子、養生主〕恢恢乎、其於レ遊レ刃、必有二餘地一矣。

【恢宏】13 クヮイクヮウ ひろい。ひろめる。恢弘(17)に同じ。〔蘇軾、次三韻程正輔游二碧落洞一詩〕胸中幾雲夢、餘地多二恢宏一。

【恢郭】14 クヮイクヮク 城外の大郭。〔公羊、文、十五〕郛者何、恢郭也。〔注〕恢、大也、郭、城外大郭。

【恢廓】15 クヮイクヮク ❶心がひろく大きい。度量がある。〔後漢書、馬援傳〕今見二陛下恢廓大度一、同二符高祖一、乃知二帝王自有レ眞也。〔新語、道基〕恢廓密微。〔吳志、周瑜傳〕性度恢廓。〔鄒陽、於レ獄上書自明一首〕天下恢廓之士。❷ひろげて大きくする。擴張。〔漢書、五丘壽王傳〕至二於陛下一、恢二廓祖業一、功德愈盛。

【恢弘】17 クヮイコウ ❶廣く大きい。〔晉書、卞壼傳〕壼曰、諸君以道德恢弘、風流相尙。❷ひろめる。ひろげて大きくする。〔孔安國、尙書序〕所下以恢二弘至道一、示二人主一以中軌範上也。〔後漢書、明帝紀〕恢二弘大道一、被二之八極一。〔後漢書、馮異傳〕恢二弘聖緒一、橫二被四表一。〔諸葛亮、出師表〕誠宜下開二張聖聽一、以光二先帝遺德一、恢中弘志士之氣上。

【恢國】18 クヮイコク 論衡の篇名。

【恢才】19 クヮイサイ 明、鄒賢(**11－39562**・・18)の字。

【恢崇】20 クヮイスウ 大きく高くする。〔揚雄、劇秦美新〕恢二崇祇庸爍德懿和之風一。〔注〕翰曰、恢、大。

【恢闡】21 クヮイセン 大きく廣げる。擴張する。〔夏侯湛、昆弟誥〕以允釐二顯志一、用恢二闡我令業一。

【恢然】22 クヮイゼン 大きいさま。ひろいさま。〔荀子、非十二子〕恢然如三天地之苞二萬物一。〔周書、李遠傳〕幼有二器局一、志度恢然。

【恢台】23 クヮイタイ 廣く大きいさま。〔楚辭、宋玉、九辯〕收二恢台之孟夏一兮。〔集注〕恢台、廣大貌。〔洪興祖補注〕黃魯直云、恢、大也、台、卽胎也、言二夏氣大而育レ物。〔劉禹錫、楚望賦〕恢台之氣、發二于春季一。

【恢炱】24 クヮイタイ 廣大なさま。恢台に同じ。〔傅毅、舞賦〕舒二恢炱之廣度一兮、闊二細體之苛縟一。〔注〕善曰、恢炱、廣大之貌、云云、炱與レ台、古字通。〔薛士隆、懷騷賦〕江水滔滔兮、恢炱中陽。

【恢胎】25 クヮイタイ 恢台(23)に同じ。〔後漢書、馬融傳〕徒觀二坰場區宇、恢胎曠蕩一。〔注〕並廣大貌。

【恢大】26 クヮイダイ ひろくて大きい。〔荀子、非十二子、畜宇、注〕宇、大也、放蕩恢大也。〔唐書、諸夷蕃將、論惟貞傳〕惟貞、名瑀、以レ字行、志尙恢大。

【恢卓】27 クヮイタク 大いにすぐれる。〔韻府引、桓子〕其政恢卓、可三以爲二卿相一。

【恢拓】28 クヮイタク ひろめひらく。大いにひろげる。〔後漢書、竇憲傳〕下以安二固後嗣一、恢二拓境宇一、振二大漢之天聲一。

【恢達】29 クヮイタツ 度量がひろく大きい。闊達。〔魏志、鍾會傳〕恢二拓洪業一。〔北史、崔鑒傳〕性恢達、常以二將略一自許、以二軍功一賜レ爵。〔晉陽秋〕山濤雅素恢達、度量弘遠。

【恢誕】30 クヮイタン 大きなでたらめ。言葉が夸大で實のないこと。又、大きいこと。〔王坦之、廢莊論〕其言詭譎、其義恢誕、莊子之利二天下一也少、害二天下一也多。〔袁宏、三國名臣序贊〕景山恢誕、韻與レ道合。〔注〕良曰、恢誕、大也。

【恢張】31 クヮイチャウ 大きくする。さかんにする。ひろめる。〔皇甫謐、三都賦序〕竝務恢二張其文一。〔宋史、劉恕傳〕宜下恢二張堯舜道一、以佐中明主上、不レ應二以レ利爲レ先。〔白居易、賦賦〕始草二創於荀宋一、漸恢二張於賈馬一。

【恢方】32 クヮイハウ 大地をいふ。大方。〔馬融、廣成頌〕爾乃藐觀高蹈、改レ乘回レ轅、泝二恢方一撫二馮夷一。

【恢伯】33 クヮイハク 清、汪康年(**6－17154**・・189)の晚號。

【恢博】34 クヮイハク 心が廣く大きい。〔唐書、朱敬則傳〕恢博好レ學、重二節儀然諾一、善與レ人交。

【恢博君子】35 クヮイハククンシ 唐、李季烈(**6－14459**・・92)の尊稱。

【恢復】36 クヮイフク とりかへす。原狀に復す。回復。〔班固、東都賦〕茂二育羣生一、恢二復疆宇一。〔王惲、雙廟懷古詩〕蔽遮不レ使レ前、恢復可二立見一。〔五代史、南唐李昇世家〕苟不レ能下恢二復內地一、申中畫邊疆上、便議二班旋一、眞同二戲劇一。〔宋史、呂頤浩傳〕頤浩請下亟復二明辟一、以圖中恢復上、遂以レ兵發二江寧一、舉レ鞭誓レ衆、士皆感厲。〔六部成語、兵部、恢復、注解〕被二敵侵占一之地、謀レ欲二奪回一。

【恢文】37 クヮイブン 文事を盛大にする。〔宋史、樂志九〕齊レ家睦レ族、偃レ武恢レ文。

【恗】10578 カイ ガイ 〔集韻〕戶代切 隊

小篆

❶**くるしむ。**〔說文〕恗、苦也、从レ心亥聲。❷**うれへる。**〔集韻〕恗、一曰、愁畏。〔一切經音義、十二〕患愁曰レ

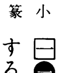
㤥。

【㤥然】1 ガイゼン 苦しめさまたげるさま。〔韓非子、存韓〕秦之有㆑韓、若㆔人之有㆓腹心之病㆒也、虛處則㤥然、若居㆓濕地㆒、著而不㆑去、以極走則發矣。〔注〕㤥、妨㆓心腹虛㆒也。〔集解〕㤥、玉篇、恨苦也。

【⿱汚心】10579 ヲ ウ 〔字彙〕烏故切 遇

㊀むさぼる。〔字彙〕⿱汚心、貪也。㊁⿱汚女(3-6219)の俗字。〔康熙字典〕⿱汚心、俗⿱汚女字。

【恣】10580 〘一〙シ 〔集韻〕資四切 寘 ㄗˋ tzŭ^4 〘二〙シ 〔集韻〕千咨切 支 ㄘ tz'ŭ^1


小篆

〘一〙㊀ほしいまま。ほしいままにする。〔說文〕恣、縱也、从㆑心次聲。〔詩、檜風、隰有長楚序〕疾㆑恣也。〔箋〕恣、謂㆓狡狭淫戲、不㆒㆑以㆑禮也。〔呂覽、禁塞〕無道者之恣行。〔注〕恣、放。〔史記、呂后紀〕趙王不㆑得㆓自恣㆒。㊁まかせる。きままにさせる。〔戰國、趙策〕恣㆓君之所㆒㆑使㆑之。㊂おく。〔廣雅、釋詁四〕恣、置也。㊃はぢる。〔廣雅、釋詁一〕恣、慙也。㊄かはる。次(6-15992)に通ず。〔說文通訓定聲〕恣、段借爲㆑次。〔方言、三〕恣、代也。㊅資(10-36750)に通ず。〔集韻〕恣、秦刻石文作㆑資。〘二〙ほしいままにするさま。恣睢(6)を見よ。

【恣意】1 イシ 心をほしいままにする。勝手。きまま。〔列子、周穆王〕遊㆓燕宮觀㆒、恣㆓意所㆒㆑欲。〔漢書、杜欽傳〕恣意妄行。〔張衡、西京賦〕恣㆓意所㆒㆑幸。

【恣意的】2 シイテキ 勝手に。ほしいままに。〔紅樓夢、十六回〕便恣意的作爲起來。

【恣意揮霍】3 シイキクワク 自由勝手に浪費する。

【恣逸】4 シイツ ほしいまま。勝手氣儘。〔北史、古弼傳〕不㆑備㆓不虞㆒、使㆓戎寇恣逸㆒。

【恣行】5 シカウ わがままな行爲。ほしいままに行ふ。肆行。〔史記、秦始皇紀〕率㆑衆自彊、暴虐恣行。〔風俗通、窮通〕諸侯恣行、處士橫議。

【恣睢】6 シキ ㊀ほしいままに振舞つて威張る。〔正字通〕恣、恣睢、暴橫也。〔荀子、非十二子〕縱㆓情性㆒、安㆓恣睢㆒。〔注〕恣睢、矜放之貌、言㆑任㆓情性所㆒㆑爲。〔楚辭、遠遊〕意恣睢以担撟。〔史記、李斯傳〕有㆓天下㆒而不㆓恣睢㆒。〔注〕索隱曰、恣睢、猶㆓放縱㆒也。㊁ほしいままにして、他をにらみ視る。〔戰國、燕策〕若恣睢奮擊、呴藉叱咄、則徒隸之人至矣。〔史記、伯夷傳〕暴戾恣睢。〔注〕正義曰、睢、仰白目、怒貌也、言㆓盜蹠凶暴惡戾、恣性怒白目㆒也。㊂ほしいままにして怒る。〔漢書、五行志上〕恣睢者衆。〔注〕師古曰、自恣㆑意怒貌也。〔後漢書、西羌傳論〕建號稱制、恣㆓睢於北地㆒。〔注〕恣睢、肆怒之貌。㊃そしる。ののしる。〔史記、禮書〕暴慢恣睢。〔注〕索隱曰、恣睢、猶㆓毀訾㆒也。㊄自ら用ひて他に聽かぬさま。〔後漢書、崔駰傳〕羿浞狂以恣睢。〔注〕恣睢、自用之貌。〔後漢書、董卓傳〕矜㆑功恣睢。〔注〕恣睢、自任用之貌也。㊅自得のさま。〔集韻〕恣、恣睢、自得皃。〔莊子、大宗師〕遙蕩恣睢。〔注〕恣睢、自得貌。

【恣睢自用】7 シキジヨウ 思ふとほりに勝手に行ふ。〔呂覽、懷寵〕子之在㆑上、無道据傲、荒怠貪戾、虐㆑衆、恣睢自用也。

【恣作】8 シサク 人にかはつて事をすること。〔方言、三〕庸恣比侹更佚代也、注〕今俗亦名㆓更代作㆒爲㆓恣作㆒也。

【恣志】9 シシ 志をほしいままにする。又、その心。〔國語、晉語四〕君若恣㆑志、以用㆓重耳㆒、四方諸侯、其誰不㆔惕惕以從㆓君命㆒。

【恣肆】10 シシ ほしいまま。わがまま。恣縱。放縱。放肆。〔唐書、張巡傳〕樹㆑威恣肆。

【恣情】11 シジヤウ 情をほしいままにする。〔魏志、袁術傳〕秦末世、肆㆑暴恣㆑情、虐流㆓天下㆒、毒被㆓生民㆒。

【恣縱】12 シシヨウ ほしいまま。わがまま。勝手。恣肆。放縱。〔莊子、天下〕時恣縱而不㆑儻。〔後漢書、王劉張李彭盧傳論〕若㆓數子㆒者、豈有㆑國之遠圖哉、因㆑時擾攘、苟恣縱而已耳。〔元稹、遊㆓三寺㆒詩〕謝公恣縱顚狂掾、觸處閑行許㆓自由㆒。

【恣心】13 シシン ほしいままな心。〔後漢書、仲長統傳〕六合之內、恣㆓心所㆑欲、人事可㆑遺、何爲㆓局促㆒。

【恣擾】14 シゼウ かつてにさわぐ。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕其弊由㆓于圖差之橫科恣擾㆒。

【恣擅】15 シセン ほしいままなこと。〔華陽國志〕大將軍維惡㆓皓之恣擅㆒、啓㆓後主㆒欲㆑殺㆑之。

【恣啖】16 シタン ほしいままに食べる。〔國朝漢學師承記、武億〕君閉㆑戶恣啖、食盡酒傾至㆑晚。

【恣聽】17 シチヤウ ほしいままにさせる。かつてにゆるす。〔後漢書、光武紀上〕癸未詔曰、民有㆓嫁㆑妻賣㆒㆑子、欲㆑歸㆓父母㆒者、恣㆓聽之㆒、敢拘執論如㆑律。

【恣放】18 シハウ ほしいまま。侈放。肆放。〔詩、大雅、桑柔、瘼㆓此下民㆒、箋〕喩㆘民當㆑被㆓王之恩惠㆒、羣臣恣放、損㆗王之德㆖。

【恣暴】19 シバウ ほしいままにあばれる。〔宋史、王濟傳〕頗戍卒恣暴不法、夜或焚㆓民舍㆒爲㆑盜。

【恣目】20 tzŭ^4 mu^4 目を放つ。

【恣欲】21 シヨク 欲をほしいままにする。貪欲な行爲をする。縱欲。〔後漢書、王常傳〕負㆑強恃㆑勇、觸㆑情恣㆑欲。

【恣樂】22 シラク 氣儘に喜びたのしむ。

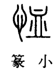
【恣橫】23 シワウ ほしいまま。〔五代史、楊光遠傳〕始爲㆓恣橫㆒、高祖每優㆓容之㆒。〔宋史、吳元載傳〕州民李益者、爲㆓長道縣酒務官㆒、云云、恣橫持㆓郡吏短長㆒、長史而下皆畏㆑之。

【忺】10581 シ 恣(4-10580)に同じ。〔說文長箋〕忺、與㆑恣同。

【㤦】10582 リ 〔集韻〕良志切 寘

うれへる。〔集韻〕㤦、憂也。

【恤】10583 シユツ シユチ 慣ジユツ 〔集韻〕雪律切 質 ㄒㄩˋ hsü^4


小篆

㊀うれへる。うれへ。〔說文〕恤、憂也、收也、从㆑心血聲。〔爾雅、釋詁〕恤、憂也。〔易、晉〕失得勿㆑恤。〔虞注〕恤、憂也。〔詩、小雅、祈父〕胡轉㆓予于恤㆒。〔傳〕恤、憂也。㊁すくふ。〔說文〕恤、收也。〔段注〕當㆘依㆓玉篇㆒作㆖救也。㊂あはれむ。〔增韻〕恤、愍也。〔禮、大學〕上恤㆑孤而民不㆑倍。〔注〕恤、憂也。〔國語、周語上〕勤㆓恤民隱㆒、而除㆓其害㆒。〔注〕恤、憂也。㊃めぐむ。にぎはせる。〔爾雅、釋詁、孫注〕恤、救㆓之憂㆒也。〔周禮、地官、大司徒〕孝友睦婣任恤。〔注〕恤、振㆓憂貧者㆒。〔禮、月令〕恤㆓孤寡㆒。〔疏〕恤、供給也。㊄かへりみる。きづかふ。〔戰國、秦策〕不㆑恤㆓楚交㆒。〔注〕恤、顧也。㊅やすんずる。〔漢書、韋玄成傳〕恤㆓我九列㆒。〔注〕師古曰、恤、安也。㊆あなどる。〔廣雅、釋詁三〕恤、駭也。㊇葬儀。喪。〔南史、顧憲之傳〕會稽打㆑鼓送㆑恤。㊈卹(2-2862)に通ず。〔詩、唐風、羔裘序〕不㆑卹㆓其民㆒也、〔釋文〕卹、本亦作㆑恤。㊉謐(10-35803)に通ず。〔書、舜典〕惟刑之恤哉。〔史記、五帝紀、惟刑之靜哉、注〕集解曰、今文、惟刑之謐哉、索隱曰、恤・謐、聲相近、遂作㆑謐也。⑪姓。〔萬姓統譜〕恤、恤由之後。〔奇姓通〕恤由、魯大夫。⑫現國事に斃れた人に與へる金。

參考 熟語は卹(2-2862)をも併せ見よ。

【恤緯】1 ジユツキ 婦人が布を織ることを憂ひとする。國の亂れるのを憂ひとするに對す。不恤緯(1-19・・527)を見よ。〔左氏、昭、二十四〕嫠不㆑恤㆓其緯㆒、而憂㆓宗周之隕㆒、爲㆑將㆑及焉。〔注〕嫠、

寡婦也、織者常苦ニ緯少一、寡婦所レ宜レ憂。〔馬祖常、都門一百韻用ニ韓文公會合聯句詩韻一詩〕不レ念嫠恤レ緯、已謂童舞レ勺。

【恤憂】2 ジュツイウ うれへる。あはれむ。〔詩、大雅、桑柔〕告ニ爾憂恤一。〔箋〕恤、亦憂也。

【恤隱】3 ジュツイン いたみあはれむ。卹隱(2－2862‥2)に同じ。〔干寶、晉紀總論〕節ニ理人情一、恤ニ隱民事一。〔注〕翰曰、恤、憂、隱、微也。

【恤幼】4 ジュツエウ 幼者をあはれむ。〔孔子家語、弟子行〕恭レ老恤レ幼、不レ忘ニ賓旅一。

【恤遠】5 ジュツエン 遠い地方のものをあはれむ。〔左氏、昭、元〕老夫罪戾是懼、焉能恤レ遠。

【恤匱】6 ジュツキ 貧者をめぐみあはれむ。卹匱。〔國語、周語中〕侈則不ニ恤匱一、匱而不レ恤、憂必及レ之。

【恤金】7 hsü^4 chin^1 遺族扶助料。

【恤寡】8 ジュツクワ ❶すくなきをあはれむ。〔詩、小雅、蓼莪、維罍之恥、箋〕言レ爲ニ罍恥一者、刺ニ王不レ使ニ富分レ貧衆恤一レ寡。❷寡婦にめぐむ。〔北史、魏宣武帝紀〕掩レ胔埋レ骼、振レ窮恤レ寡。

【恤款】9 hsü^4 k'uan^3 救恤金。救恤の費用。扶助料。

【恤刑】10 ジュツケイ ❶刑をつつしむ。㋑刑の施行を愼重にすること。〔書、舜典〕欽哉欽哉、惟刑之恤哉。〔隋書、刑法志〕都君恤レ刑、尙ニ奉唐堯之德一。㋺刑を嚴正に行ふこと。情實にかられたり權威を恐れたりして寬大にしないこと。〔晉書、劉波傳〕法苛政亂者、恤レ刑不レ赦。❷裁判や刑の施行に當つて、被告や罪人に、あはれみ・いたはりを加へてすること。明の太祖が御史を地方に分遣して恤刑を行ふべき旨を諭させたのに始まる。〔明史、刑法志二〕恤刑・會審之例、定ニ於成化時一、初太祖患ニ刑獄壅蔽一、分ニ遣御史林愿・石恒等一、治ニ各道一、因而敕ニ諭之一。〔六部成語、刑部、恤刑、注解〕用レ刑之際、有下應レ加ニ體恤一者上、如三老病婦女之犯ニ大寒大暑之時一、是也。

【恤孤】11 ジュツコ みなしごをあはれみ救ふ。〔大學〕上恤レ孤而民不レ倍。〔管子、入國〕三曰、恤レ孤。〔孔子家語、弟子行〕恤レ孤則惠。〔唐書、韓愈傳贊〕排レ難恤レ孤。

【恤辜】12 ジュツコ 罪をあはれむ。裁判するに當つて、被告人にあはれみの情を以て對すること。〔沈佺期、移ニ禁司刑一詩〕司寇宜レ哀レ獄、台庭幸恤レ辜。

【恤顧】13 ジュツコ うれへかへりみる。あはれみめぐむ。〔說苑、至公〕恤ニ顧怨萌一、方正公平。

【恤功】14 ジュツコウ 人民の生業について心配する。功は仕事。〔書、呂刑〕乃命ニ三后一、恤ニ功于民一。〔蔡傳〕恤功、致ニ憂民之功一也。〔鄭玄、詩譜序〕勤レ民恤レ功、昭事ニ上帝一、則受ニ頌聲一。〔張悛、爲ニ吳令謝詢一求下爲ニ諸孫一置中守冢人上表〕鴟鴞恤レ功。

【恤災】15 ジュツサイ 災禍に遭つたものをあはれんで、金錢其の他の物品をめぐみおくること。〔宋史、太祖紀〕建隆元年、宿州火、遣レ使恤レ災。

【恤削】16 ジュツサク 衣服の裁制（タチカタ）がよろしきに適ふこと。卹削。戌削。〔漢書、司馬相如傳上〕曳ニ獨繭之褕袣一、眇閻易以恤削。〔注〕郭璞曰、獨繭、一繭絲也、閻易、衣長貌也。恤削、言レ如ニ刻畫作一レ之也。

【恤祀】17 ジュツシ 神を敬すること。〔書、多士〕自ニ成湯一至ニ于帝乙一、罔レ不ニ明レ德恤一レ祀。〔蔡傳〕恤レ祀者、所三以敬ニ乎神一也。

【恤賞】18 ジュツシヤウ 死亡した官吏に葬祭の費を賜ふこと。卹賞(2－2862‥9)に同じ。

【恤恤】19 ジュツジュツ うれへるさま。恤恤乎を見よ。

〖恤恤乎〗20 ジュツジュツコ うれへるさま。〔左氏、昭、十二〕恤恤乎、湫乎、攸乎。〔注〕恤恤、憂患。〔韓愈、上ニ宰相一書〕恤恤乎飢不レ得レ食、寒不レ得レ衣。

【恤愼】21 ジュツシン うれへつつしむ。〔潘勖、冊ニ魏公九錫一文〕旁施ニ勤敎一、恤ニ愼刑獄一。

【恤政】22 hsü^4 chêng^4 慈悲深い政治。同情ある政治。

【恤宅】23 ジュツタク 喪中に居るすまひ。〔書、顧命〕俾下爰齊呂伋、以ニ二干戈、虎賁百人一、逆中子釗于南門之外上、延入ニ翼室一、恤宅宗。〔蔡傳〕延入ニ翼室一、爲ニ憂居之宗一。

【恤典】24 ジュツテン 官吏が死亡によつて與へられる種々の特典。卹典(2－2862‥12)に同じ。

【恤敗】25 ジュツハイ 敗者をあはれむ。〔魏書、肅宗紀〕夫存レ亡恤レ敗、自レ古通典。

【恤悲】26 ジュツヒ あはれみかなしむ。不愍に思ふ。〔太平記、十二兵部卿親王流刑〕只以レ一令レ祭レ萬、加レ詞被ニ恤悲一者、臣愚生前之望。

【恤貧】27 ジュツヒン まづしいものをあはれみめぐむ。〔周禮、地官、大司徒〕以ニ保息六一、養ニ萬民一、云云、四曰、恤貧。〔注〕恤貧、貧無ニ財業一、稟ニ貸之一。〔疏〕旅師云、凡用レ粟春頒而秋斂レ之、注云、困時施レ之、饒時收レ之、是其恤レ貧之法、故云下無ニ財業一稟中貸之上。

【恤兵】28 ジュツペイ 出征の將兵をねぎらふこと。

〖恤兵金〗29 ジュツペイキン 恤兵のための寄附金。

〖恤兵部〗30 ジュツペイブ 恤兵の事務を取扱ふ場所。

【恤病】31 ジュツペイ 病人をあはれむ。〔左氏、宣、十二〕恤レ病討レ貳。〔魏志、蔣濟傳〕句踐養レ胎以待レ用、昭王恤レ病以雪レ仇。

【恤米】32 ジュツベイ すくひごめ。施米。〔淸會典事例、戶部、蠲恤、恤ニ孤貧一〕孤獨殘疾不レ能ニ自存活一者、於ニ所レ收恤米費錢內一動給。

【恤民】33 ジュツミン たみをあはれみめぐむ。卹民。〔左氏、襄、二十六〕勸レ賞而畏レ刑、恤レ民不レ倦。〔國語、魯語上〕在レ位者恤ニ民之患一、是以國家無レ違。〔後漢書、百官志五〕平レ賊恤レ民。

【恤養】34 ジュツヤウ あはれみやしなふ。卹養。〔潘岳、楊仲武誄序〕操行甚高、恤ニ養幼孤一。

【恤老】35 hsü^4 lao^3 寄るべない老人をあはれみ救ふ。

【恤勞】36 ジュツラウ あはれみいたはる。〔晏子、雜、下〕恤ニ勞齊國一。

【恤嫠】37 ジュツリ 寡婦をあはれみすくふ。恤嫠會を見よ。

〖恤嫠局〗38 ジュツリキョク 賴る所のない寡婦を救濟する所。

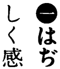
〖恤嫠會〗39 ジュツリクワイ 淸代、天津地方に於て、貧苦の寡婦を救養するのを目的とし、毎月一定の口糧を支給した會。〔津門雜記〕。

【恤禮】40 ジュツレイ 古の凶禮の一。鄰國に兵亂がある際に、之に憂恤の意を表する禮など。〔周禮、春官、大宗伯〕以ニ恤禮一哀ニ寇亂一。〔注〕恤、憂也、鄰國相憂、兵作ニ於外一爲レ寇、作ニ於內一爲レ亂。

【恶】10584 ケン 〔集韻〕火玄切 先

きみじか。性急。〔集韻〕恶、急也。

【恥】10585 チ 〔集韻〕丑里切 紙 ㄔˇ ch'ih^3



小篆

❶**はぢる**。はづかしく思ふ。やましく感ずる。〔說文〕恥、辱也、从レ心耳聲。〔書、說命下〕其心愧恥、若レ撻ニ于市一。❷**はづかしめる**。〔左氏、昭、五〕恥ニ匹夫一、不レ可ニ以無一レ備、況國乎。❸**はぢ**。**はづかしめ**。〔呂覽、順民〕越王苦ニ會稽之恥一。〔注〕恥、辱也。❹**はぢ**。**はぢる心**。道にそむくことをはづかしく思ふ心。〔穀梁、襄、二十九〕君不レ使レ無レ恥。〔論語、子路〕行レ己有レ恥。〔集解〕孔安國曰、有レ恥者、有レ所レ不レ爲。〔孟子、盡心上〕人不レ可ニ以無一レ恥。〔孟子、盡心上〕恥之於レ人大矣。❺或は誀(10－35467)に作る。〔集韻〕恥、或作レ誀。❻俗に耻(9－29019)に作る。〔六書總要〕恥、俗譌作レ耻。

【恥菴】1 チアン 明、陳煒(11－41698‥9)の號。

【恥恚】2 チイ はぢいかる。〔晉書、周玘傳〕內懷ニ怨望一、復爲ニ刁協輕一レ之、恥恚愈甚。

【恥慨】3 チガイ 心にはぢてなげく。〔南史、王蘊傳〕蘊不レ爲ニ羣從所一レ禮、常懷ニ恥慨一。

【恥格】4 チカク 惡事を恥ぢて善に至ること。〔論語、爲政〕道レ之以レ德、齊レ之以レ禮、有レ恥且格。〔張九齡、故襄州刺史靳公遺愛銘幷序〕人斯恥格、庭少ニ諍訟一。〔唐書、劉蕡傳〕御レ下以ニ法則一、恥格不レ形。

【恥愧】5 チキ はぢる。〔書、說命下〕其心愧恥、若レ撻ニ于市一。

【恥虛】6 チキョ 淸、鄭洛英(11－39647‥567)の號。

【恥懼】7 チク 心にはぢておそれる。はぢおそれつつしむ。〔柳宗元、與ニ顧十郎一書〕其或少知ニ恥懼一、恐ニ世人之非一レ己也。

【恥過】8 チクワ あやまちを恥ぢる。〔書、説命中〕無二恥レ過作一レ非。〔唐書、陸贄傳〕好レ勝而恥レ過。

【恥軒】9 チケン 貝原好古の號。貝原恥軒(**10－36656**‥59)を見よ。

【恥古】10 チコ 清、王命岳(**7－20823**‥2121)の字。

【恥骨】11 チコツ 骨盤の前下部を構成する一體二枝のほね。

【恥齋】12 チサイ 字號。㊀清、馮行(**12－44579**‥30)の號。㊁安東守約の號。安東省菴(**3－7072**‥379)を見よ。㊂村田常武の號。村田箕山(**6－14464**‥117)を見よ。

【恥作】13 チサク はぢる。〔荀子、儒效〕以相薦撙、以相恥作。〔注〕作、慙也。

【恥辱】14 チジョク はぢ。はづかしめ。〔論語、學而〕恭近二於禮一、遠二恥辱一也。〔荀子、法行〕君子苟能無二以レ利害一レ義、則恥辱亦無二由至一矣。〔漢書、陳湯傳〕以致二恥辱一。〔後漢書、秦彭傳〕不レ加二恥辱一。

【恥心】15 チシン はぢを知るこころ。〔列子、説符〕民有二恥心一、則何盜之爲。

【恥笑】16 ch‘ih^3 hsiao^4 嘲笑する。

【恥歎】17 チタン はぢ入りなげく。〔後漢書、寇恂傳〕恂乃戮二之於市一、復以爲二恥歎一。

【恥亭】18 チテイ 清、周宗濂(**2－3441**‥761)の號。

【恥憤】19 チフン 恥ぢいきどほる。〔唐書、楊行密傳〕朱全忠脅レ帝東遷、行密恥憤被レ病。

【刷レ恥】20 ハヂヲハラフ 恥辱を拭ひ除く。〔漢書、武帝紀〕朕閔二衆庶陷一レ害、欲二刷レ恥改一レ行。〔漢書、貨殖、范蠡傳〕刷二會稽之恥一。

【雪レ恥】21 ハヂヲススグ 恥をぬぐふ。〔史記、越世家〕昔者君臣辱二於會稽一、所二以不一レ死、爲二此事一也、今既以雪レ恥、臣請從二會稽之誅一。

【恥躬堂】22 チキュウダウ 室名。㊀清、彭士望(**4－10003**‥154)の室名。㊁清、王命岳(**7－20823**‥2121)の室名。

【恥春翁】23 チシュンヲウ 清、金農(**11－40152**‥912)の號。

【恥存齋】24 チソンサイ 清、蔡方炳(**9－31818**‥229)の號。

【恥堂存稿】25 チダウソンカウ 書名。八卷。宋、高斯得撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【恥不逮齋】26 チフタイサイ 清、熊其英(**7－19294**‥140)の號。

【有レ恥且格】27 ハヂアリテカツイタル ハヂアリテカツタダシ 恥を知つて善に至る。一説に、不善を恥ぢて正しくなる。〔論語、爲政〕子曰、道レ之以レ政、齊レ之以レ刑、民免而無レ恥、道レ之以レ德、齊レ之以レ禮、有レ恥且格。〔集注〕格、至也、一説、格、正也。

【無レ恥者富】28 ハヂナキモノハトム 顧みて恥かしくない人は富める人である。〔莊子、盜跖〕滿苟得曰、無レ恥者富、多レ信者顯。

【恂】10586

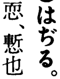
シャウ 〔集韻〕式亮切 [漾]

おもふ。〔集韻〕恂、念也。

【恧】10587

[一] ヂク ニク 〔集韻〕女六切 ㄋㄩˋ nü^4 [屋]

[二] ヂョク ニョク 〔集韻〕昵力切 [職]


小篆

[一]㊀**はぢる**。氣はづかしい。〔説文〕恧、慙也、从レ心而聲。〔小爾雅、廣義〕心愧曰レ恧。〔方言、六〕恧、慙也、山之東西、自愧曰レ恧。㊁或は忸(**4－10397**)・𦖞(**9－29145**)・䎡・聏(**9－29059**)に作る。〔集韻〕恧、或作二忸・𦖞・䎡・聏一。[二]**はぢる**。㥾(**4－11101**)に同じ。〔集韻〕㥾、愧也、方言、梁中曰レ㥾、或作レ恧。

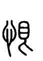
【恧焉】1 ヂクエン はぢる。〔漢書、鄭崇傳〕惟念德報未レ殊、朕甚恧焉。〔注〕師古曰、恧、愧也。

【恧縮】2 ヂクシュク はぢてちぢかまる。〔唐書、李石傳〕士良等恧縮不レ得レ對。

【恧然】3 ヂクゼン 恥づかしげな。しよげたさま。〔先哲叢談、貝原篤信〕少年始知レ爲二益軒一、恧然不二自容一、遂不レ陳二其名一、鼠竄去。

【恨】10588

コン ゴン 〔集韻〕胡艮切 ㄏㄣˋ hen^4 [願]


小篆

㊀**うらむ**。もと㥏(**4－10698**)に作る。〔正字通〕恨、怨極也、本作レ㥏。〔説文〕㥏、怨也、从レ心皀聲。㋑いかりにくむ。〔史記、信陵君傳〕知二公子恨一レ之復返一也。㋺うらみかなしむ。〔杜甫、春望詩〕恨レ別鳥驚レ心。㋩殘念に思ふ。〔杜甫、飲中八仙歌〕恨レ不三移レ封向二酒泉一。㊁**うらみ**。〔漢書、王嘉傳〕抱レ恨而入レ地。㊂**くいる**。〔漢書、李廣傳〕廣曰、羌降者八百餘人、吾詐而盡殺レ之、至レ今大恨。〔注〕師古曰、恨、悔也。㊃**くい**。〔荀子、成相〕不レ知レ戒、後必有レ恨。〔注〕恨、悔也。㊄**もとる**。很(**4－10093**)に通ず。〔爾雅、釋言〕鬩、恨也。〔釋文〕恨、孫炎作レ很。㊅[現]嫌ふ。

【恨恚】1 コンイ うらみいかる。〔論衡、書虛〕夫言下吳王殺二子胥一投中之江上、實也、言二其恨恚驅一レ水爲レ濤者、虛也。

【恨怨】2 コンエン うらみ。うらむ。〔郭鈺、狂客行詩〕萬一樓頭是夫壻、百年恨怨將二誰陳一。

【恨惡】3 hen^4 wu^4 憎惡する。

【恨海】4 hen^4 hai^3 海のやうに深い恨。

【恨鬼】5 コンキ うらみをふくむ幽魂。〔晉書、皇甫謐傳〕寃悲沒レ世、長爲二恨鬼一。

【恨悔】6 コンクワイ うらみくやむ。〔易林、蠱之第十八、姤〕心多二恨悔一、出レ門見レ怪。

【恨血】7 コンケツ うらみを抱いて死んだ人の血。〔李賀、秋來詩〕秋墳鬼唱鮑家詩、恨血千年土中碧。

【恨箇】8 コンコ 恨むらくは。これが殘念である。〔朱慶餘、采蓮詩〕隔レ煙花草遠濛濛、恨箇來時路不レ同、正是停レ橈相遇處、鴛鴦飛去急流中。

【恨恨】9 コンコン うらみを懷いてやまないさま。うらみのつきぬさま。〔古詩、爲二焦仲卿妻一作〕生人作二死別一、恨恨那可レ論。〔陸機、謝二平原内史一表〕臨レ難慷慨、而不レ能レ不二恨恨一。〔通俗編、性情、恨恨〕晉書、周浚傳、鄙州上下、所二以恨恨一也。

【恨殺】10 コンサツ コンサイ ふかく恨む。殺は助字。〔賴杏坪、遊二芳野一詩〕恨殺殘紅飛向レ北、延元陵上落花風。

【恨死】11 コンシ ㊀悔いて死ぬこと。恨は悔。〔柳宗元、段太尉逸事狀〕我終不レ可三以見二段公一、一夕自恨死。㊁恨をいだいて死ぬ。

【恨視】12 hen^4 shih^4 うらみを含んでみつめる。

【恨詞】13 コンシ うらみのことば。〔韻府引、朱熹、詩〕騷人留二恨詞一。

【恨事】14 コンジ うらめしい事柄。殘念に思ふ事柄。〔劉禹錫、三閣詞〕不レ應レ有二恨事一、嬌甚卻成レ愁。

【恨唱】15 コンシャウ うらみの心でうたふこと。〔李賀、秋涼詩寄二正字十二兄一〕題書古雲覆、恨唱華容歇。

【恨色】16 コンショク うらむ氣色。〔魏書、孝感、乞伏保傳〕伏保奉レ事孝謹、初無二恨色一。

【恨心】17 コンシン うらみのこころ。〔漢書、五行志下之上〕既退歸レ國、猶有二恨心一。

【恨人】18 コンジン 物事に心を多く傷ましめる人。物事のあはれさに感じやすい人。多情多恨の人。うらみの多い人。〔江淹、恨賦〕僕本恨人、心驚不レ已。〔注〕濟曰、恨人、恨二志不一レ就也。

【恨然】19 コンゼン うらむさま。〔戰國、趙策〕襄子恨然曰、何哉、吾聞、輔レ主者名顯、功大者身尊、任レ國者權重、信忠在レ己、而衆服焉。

【恨咤】20 コンタ うらみかなしむ。意の如くならぬのを殘念に思ひ惜むこと。〔唐書、嚴梃之傳〕梃之春秋高有レ疾、幸二閑官得一レ自養、帝恨二咤久一レ之、乃以爲二員外詹事一、詔歸二東都一。

【恨端】21 コンタン うらみのいとぐち。〔鮑照、代東門行〕長歌欲二自慰一、彌起二長恨端一。

【恨怒】22 コンド うらみいかる。〔左氏、文、四〕諸侯敵二王所一レ愾、注〕愾、恨怒也。

【恨毒】23 コンドク 大なるうらみ。〔後漢書、張奐傳論〕雖二恨毒在一レ心、辭レ爵謝レ咎、詩云、啜其泣矣、何嗟及矣。

【恨望】24 コンバウ うらむ。怨望(**4－10479**‥85)に同じ。〔資治通鑑、晉紀〕(穆帝、永和五年)閔益恨望。〔注〕恨望、猶二怨望一也。

【恨賦】25 コンフ 賦の名。梁の江淹作。恨を呑んで死ぬものの情をのぶ。文選十六卷に載す。〔江淹、

恨賦、注〕翰曰、嘗謂、古人遭㆓時否塞㆒、有㆓志不㆒㆑申、而作㆓是賦㆒也。〔李白、擬恨賦、注〕江淹嘗嘆㆘古人遭㆓時否塞㆒、志不㆑伸、而作㆓恨賦㆒、太白此作、終篇擬㆑之云。

【恨憤】26（コンプン） うらみいきどほる。〔後漢書、南匈奴傳論〕坐樹㆓大鯁㆒、永言㆓前載㆒、何恨憤之深乎。〔唐書、段秀實傳〕朱泚反、以㆔秀實失㆑兵、必恨憤、且素有㆓人望㆒、使㆓騎往迎㆒。

【恨命】27（コンメイ） ㊀一所懸命に。力を盡して。〔水滸傳、二十一回〕宋江恨命只一拽、倒拽㆓出那把壓衣刀子㆒在㆓席上㆒。㊁hen⁴ ming⁴ 不仕合はせを怨む。

【恨悷】28（コンレイ） うらみかなしむ。〔吳越春秋、句踐入臣外傳〕雖㆓則恨悷之心㆒、莫㆑不㆓感動㆒。

【恨惑】29（コンワク） うらみまどふ。〔易林、賁之第二十二、兌〕伯氏歸㆑國、多㆑所㆓恨惑㆒。

【恨惋】30（コンワン） うらみかなしむ。〔唐書、陳京傳〕帝恨惋曰、京與㆑贊眞賊臣。

【飲㆑恨】31（ウラミヲノム） 心にふかくうらむ。〔霍小玉傳〕韶顏稚齒、飲㆑恨而終。〔沈佺期、鳳簫曲詩〕飛燕侍㆑寢昭陽殿、班姬飲㆑恨長信宮。

【封㆑恨】32（ウラミヲフウズ） うらみを閉ぢこめる。〔海錄碎事、人事、愁樂〕除㆓卻洛陽才子㆒後、更誰封㆑恨弔㆓懷沙㆒、褚載詩。

【恨不得】33 hen⁴ pu tê 道理で。「をうらむ。

【恨不能】34 hen⁴ pu⁴ nêng² 云云し得ないこと

【恨紫愁紅】35（コンシシウコウ） なやめるむらさき、憂へるくれない。花の姿のあはれなさまの喩。〔陸珍、虞美人花歌〕恨紫愁紅滿㆓南園㆒。

【恨來遲破】36（コンライチハ） 曲調の名。南唐の後主、周后の作。〔十國春秋、昭惠后周氏傳〕后通㆓書史㆒、善㆓歌舞㆒、嘗雪夜酣燕、擧㆑杯請㆓後主起㆒、後主起舞、後主曰、汝能創㆓爲新聲㆒則可矣、后卽命㆑牋綴㆑譜、喉無㆑滯㆑音、筆無㆑停㆑思、俄頃譜成、所謂邀醉舞破也、又有㆓恨來遲破㆒、亦后所㆑製、故唐盛時、霓裳羽衣、最爲㆓大曲㆒、亂離之後、絶不㆓復傳㆒、后得㆓殘譜㆒、以㆓琵琶㆒奏㆑之、於㆑是、唐開元天寶遺音、復傳㆓於世㆒。

【恨鐵不成鋼】37 hen⁴ t'ieh³ pu⁴ ch'êng² kang¹ 鐵の鋼とならざるを恨む。既によい上に、益〻好からんことを望む喩。

【恨不㆔相㆓逢未㆑嫁時㆒】38（ウラムラクハイマダカセザルトキニアヒアハザリシヲ） 自分は既に主がある身で、相逢ふことの晩かつたのを歎く意。〔張籍、節婦吟寄㆓東平李司空師道㆒〕君知妾有㆑夫、贈㆑妾雙明珠、感㆓君纏綿意㆒、繫在㆓紅羅襦㆒、妾家高樓連㆑苑起、良人執㆑戟明光裏、云云、還㆓君明珠㆒雙淚垂、恨不㆔相㆓逢未㆑嫁時㆒。

【⿰忄𥃩】10589

コン

恨(4－10588)の本字。〔字彙〕⿰忄𥃩、同㆑恨。

【恳】10590

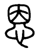
コン

懇(4－11326)の俗字。〔辭海〕恳、懇俗字。

【恩】10591

オン

〔集韻〕烏痕切 ㄣ ên¹ 元



小篆

㊀めぐみ。〔說文〕恩、惠也、从㆓心因㆒、因亦聲。㊁いつくしみ。いつくしむ。〔詩、豳風、鴟鴞〕恩斯勤斯。〔傳〕恩、愛。㊂なさけ。おもひやり。〔禮、喪服四制〕恩者仁也。〔孟子、梁惠王上〕今恩足㆔以及㆓禽獸㆒。㊃いたむ。〔廣雅、釋詁四〕恩、隱也。㊄おんとする。感謝する。〔正字通〕恩、感㆓人惠㆑己曰㆑恩㆑之。㊅姓。〔萬姓統譜〕恩、陳大夫成恩之後、見㆓風俗通㆒。

解字 會意形聲。心と因とを合はせ、因は又聲。因はよりまつはる意。

【恩哀】1（オンアイ） めぐみいとほしむ。〔吳質、答㆓魏太子㆒牋〕恩哀之隆、形㆓於文墨㆒。

【恩愛】2（オンアイ オンナイ） いつくしみ。なさけ。又、めぐみいつくしむ。〔鬼谷子、中經〕聲氣不㆑同則恩愛不㆑接。〔韓非子、六反〕明主知㆑之、故不㆑養㆓恩愛之心㆒、而增㆓威嚴之勢㆒。〔漢書、禮樂志〕恩愛寖薄。〔後漢書、桓帝懿獻梁皇后紀〕及㆓皇太后崩㆒、恩愛稍衰。

【恩愛河】3（オンナイガ） 佛恩愛の深いのを河に喩へていふ。〔智度論、一〕已度㆓凡人恩愛河㆒。

【恩愛獄】4（オンナイゴク） 佛この世の人々が常に恩愛に縛られて、自由を得ないのを喩へていふ。〔長阿含經、一〕離㆓於恩愛獄㆒、無㆑有㆓衆結縛㆒。

【恩愛奴】5（オンナイド） 佛父母妻子の恩愛の情に溺れること。〔普賢觀經〕色攘㆓汝眞㆒、爲㆓恩愛奴㆒、色使㆔汝經㆓歷三界㆒。 「婦。

【恩愛夫妻】6 en¹ ai⁴ fu¹ ch'i¹ 仲のよい夫

【恩渥】7（オンアク） 厚いめぐみ。渥恩に同じ。〔後漢書、蔡邕傳〕臣被㆓蒙恩渥㆒、數見㆓訪逮㆒。〔江淹、雜體、袁太尉淑從駕詩〕恩渥浹㆓下筵㆒。〔張說、別㆓灉湖㆒詩〕南郡延㆓恩渥㆒、東山戀㆓宿心㆒。

【恩安】8（オンアン） 縣名。清、置く。雲南省昭通府治。民國、昭通縣と改む。〔清史稿、地理志〕雲南、昭通府、縣二、恩安。

【恩意】9（オンイ） めぐみのこころ。〔儀禮、聘禮、燕與㆑羞俶獻無㆓常數㆒、注〕聘義所謂、時賜無㆓常數㆒由㆓恩意㆒也。〔後漢書、卓茂傳〕將平居自以㆓恩意㆒遺㆑之乎。〔唐書、李靖傳〕宣㆓布天子恩意㆒、遠近惟服。

【恩威】10（オンヰ） なさけぶかくやさしいことと、嚴しくおごそかなこと。恩惠・恩愛と威光・威嚴・威力。又、恩賞と刑罰。恩威並行を見よ。

【恩威並行】11（オンヰナラビオコナハル） 恩と威との兩方が共に行はれる。或る人の恩と威との兩方が人々の心に有効に作用すること。又、或る人によつて恩威の兩方が十分に用ひられること。〔容齋續筆、下第再試〕太宗雍熙二年、已放㆓進士百七十九人㆒、或云、下第中甚有㆓可㆑取者㆒、乃令㆑復㆑試、又得㆓洪湛等七十六人㆒、而以㆓湛文采遒麗㆒、特升㆓正榜第三㆒、端拱元年、禮部所㆑放程宿等二十八人、進士葉齊打㆑鼓論㆑牓、遂再試、復放㆓三十一人㆒、而諸科因㆑此得㆑官者、至㆓於七百一㆒、時待㆑士可㆑謂㆑至矣、然太平興國末、孟州進士張雨光、以㆔試不㆓合格㆒、縱㆑酒大罵㆓於街衢中㆒、言涉㆓指斥㆒、上怒斬㆑之、同保九輩、永不㆑得㆑赴㆑擧、恩威並行、至㆓於如㆑此。〔獻徵錄〕恩威並行、對師悅從。

【恩威並用】12（オンヰナラビモチフ） 恩威の兩方を用ひる。〔齊東野語〕今爲㆓朝廷計㆒、宜㆘先赦㆓其矯詔之罪㆒、然後賞㆗其斬曦之功㆖、則恩威並用、折㆓衝萬里之外㆒矣。

【恩慰】13（オンヰ） めぐみいたはる。なさけをかけてなぐさめる。慰勞。〔後漢書、耿弇傳〕因數召見加㆓恩慰㆒。

【恩有】14（オンイウ） いつくしんで寬大にあつかふ。〔宋書、鄭鮮之傳〕恩有十世、非㆑不㆑隆也。

【恩誘】15（オンイウ） 恩を施していざなふ。〔後漢書、桓譚傳〕既無㆓重賞以相恩誘㆒、或至㆔虜掠㆓奪其財物㆒。

【恩引】16（オンイン） 他から招かれたことをいふ敬語。おまねき。御招待。〔庾信、謝㆔趙王賚㆓絲布㆒啓〕昨蒙㆓恩引㆒、曲賜㆓絲布㆒。

【恩廕】17（オンイン） 清代、父祖が現に顯官に在るため、特別の思召によつて其の子孫が官を得ること。廕生。〔清會典事例、吏部〕恩廕、順治初年定、凡承㆑廕、先廕㆓嫡長子孫㆒、嫡長子孫出仕、或有㆑故、方廕㆓嫡次子孫㆒、無㆓嫡次子孫㆒、方廕㆓庶長子孫㆒、庶長皆無、方廕㆘弟暨兄弟之子應合㆓承繼㆒者㆖、其子孫在㆓詔後㆒生者、不㆑准㆑廕。〔清國行政法汎論、文官、廕生〕廕官有㆓二種㆒、國家有㆓大慶典㆒、施㆑恩授㆓官於文武官員之子㆒、稱曰㆓恩廕官㆒。

【恩廕監生】18（オンインカンセイ） 清代、國家に大慶典が行はれる時、在京四品以上、在外三品以上の文官及び京外二品以上の武官の子で、恩詔を以て國子監に入れて肄業せしめ得るもの。〔清會典、國子監〕遇㆓恩詔㆒予㆑廕、在京四品以上在外三品以上文職官、在京在外二品以上武職官、皆廕㆓一子㆒入㆑監、又大小各官、因㆑公差委、在㆓大洋大江黃河洞庭洪澤等湖㆒遭㆑風飄沒身故者、七品以上官在㆓內洋內河㆒飄沒者、軍營辦㆑事因㆑病身故者、均廕㆓一子㆒入㆑監。

【恩蔭】19（オンイン） なさけ。おかげ。〔徐陵、爲㆓貞陽公㆒與㆓太尉王僧辯㆒書〕如㆑雲如㆑雨、天下蒙㆓其恩蔭㆒。

【恩隱】20（オンイン） めぐみ。〔顏延之、赭白馬賦序〕襲㆑養兼㆑年、恩隱周渥。

【恩榮】21（オンエイ） めぐみのさかえ。君恩に浴する身の榮譽。恩澤榮華。〔李白、鼓吹入朝曲〕濟濟雙闕下、歡娛樂㆓恩榮㆒。〔杜甫、端午日賜衣詩〕宮衣亦有㆑名、端午被㆓恩榮㆒。

【恩榮宴】22（オンエイエン） 清代、殿試傳臚の後三日讀卷執事の各官、及び諸進士を禮部に招いて行ふ宴。又、瓊林宴ともいふ。〔清會典事例、禮部、貢擧〕殿試傳臚後三日、賜㆓恩榮燕於禮部㆒、欽命内大臣一人主席、讀卷執事各官、並進士、皆簪㆑花、教坊司承應。〔六部成語、禮部、恩榮宴、注解〕新中進士宴㆓於禮部㆒曰㆓恩榮宴㆒、新中擧人宴㆓於府署㆒曰㆓鹿鳴宴㆒。

【恩筵】23（オンエン） 君からたまはるめぐみのさかもり。朝廷から召された筵席。〔庾肩吾、奉㆘和泛㆓舟漢水㆒往㆗萬山㆖應教詩〕陪㆑歌承㆓睿賞㆒、接㆑醴侍㆓恩筵㆒。

【恩怨】24（オンエン） なさけとうらみ。〔黃庭堅、聽㆓宋宗儒摘阮歌㆒〕深閨洞房語㆓恩怨㆒、紫燕黃鸝韻㆓桃李㆒。〔金史、元好問傳〕歌謠、慷慨挾㆓幽幷之氣㆒、其長短句、揄㆓揚新聲㆒以寫㆓恩怨㆒者、又數百篇。

【恩河】25（オンカ） 佛慈悲の深いのを河に喩へていふ。〔性靈集、八〕恩河深而無㆑底、德山峻而衝㆑天。

【恩假】26（オンカ） ㊀君主からたまはる休暇。恩暇。〔宋書、謝靈運傳〕蒙㆑賜㆓恩假㆒、暫違㆓禁省㆒。㊁君恩による幸福。假は、嘏に通じ、さいはひの意。〔南史、王藻傳〕清官顯位、或由㆓才升㆒、一叨㆓婚戚㆒、咸成㆓恩假㆒。

【恩海】27（オンカイ） 佛恩愛の深いのを海に喩へていふ。〔性靈集、七〕以益㆓自他㆒、以酬㆓恩海㆒。

【恩好】28（オンカウ） いつくしみ。よしみ。厚情。〔周禮、秋官、大行人、時聘以結諸侯之好、注〕禮而遺㆑之、所㆔以結㆓恩好㆒也。〔蜀志、楊戲傳〕振卹恩好如㆑初。

【恩江】29（オンカウ） 川の名。江西省永豐縣の南。別名、瀕水・永豐水・鼇溪水。源は樂安縣、及び寧都・興國の二縣の界。贛江に注ぐ。〔讀史方輿紀要、吉安府、永豐縣〕恩江、縣治南、亦曰㆓永豐水㆒、源出㆓樂安縣及寧都興國三縣界㆒、云云、下流入㆓於贛江㆒。

【恩幸】30（オンカウ） 特別の恩惠。いつくしみ。寵愛。恩倖を見よ。〔靖獻遺言、四〕恩幸無㆑比、何負㆓於汝㆒而反。

【恩降】31（オンカウ） 中古、慶賀・祥瑞・疾疫・災異などがあつた際に、恩惠を以て刑罰を一等減刑したこと。

【恩倖】32（オンカウ） 天子の特別の寵愛。又、天子から特別に寵愛せられる者。一に恩幸に作る。恩寵。恩顧。〔沈約、恩倖傳論〕嗚呼漢書有㆓恩澤侯表㆒、又有㆓佞倖傳㆒、今采㆓其名㆒、列以爲㆓恩倖篇㆒云。〔南史、宋書恩倖傳序〕爰及㆓梁陳㆒、斯風未㆑改、其四代之被㆓恩倖㆒者、今立以爲㆑篇、以繼㆓前史之作㆒云爾。〔唐書、蕭至忠傳〕夫官爵、公器也、恩倖、私惠也。

【恩倖傳】33（オンカウデン） 恩倖を蒙つた人の列傳。宋書・魏書・北齊書・南史・北史にある。

【恩膏】34 en¹ kao¹ 厚恩を與へる。

【恩狎】35（オンカフ） なれしたしむこと。〔劉峻、廣絶交論〕締㆓恩狎㆒、結㆓綢繆㆒。

【恩合】36（オンガフ） めぐみが加はる。〔顏延之、拜㆓陵廟㆒作詩〕恩合非㆓漸漬㆒、榮會在㆓逢迎㆒。

【恩顏】37（オンガン） なさけ深い顏。いつくしみ深い顏。〔魏書、宋世景傳〕皆假㆓之恩顏㆒。

【恩紀】38（オンキ） 恩愛。恩情。いつくしみ。恩愛の道。恩愛といふ人倫の綱紀の意。〔蜀志、後主太子璿傳評〕易稱、有㆓夫婦㆒然後有㆓父子㆒、夫人倫之始、恩紀之隆、莫㆑尙㆓於此㆒矣。〔曹植、求㆑通㆓親親㆒表〕恩紀之違、甚㆓於路人㆒。〔南史、蒯恩傳〕撫㆓士卒㆒、甚有㆓恩紀㆒。

【恩寄】39（オンキ） 恩命によつて與へられた職務。〔白居易、蘇州刺史謝上表〕今奉㆓恩寄㆒、又分㆓郡符㆒。

【恩輝】40（オンキ） めぐみのひかり。〔鄭審、奉㆑使巡㆔檢兩京路種㆓果樹㆒事畢入㆑秦因詠歌〕何當㆘扈㆓仙蹕㆒、攀折奉㆗恩輝㆖。

【恩義】41（オンギ） 恩愛と義理。人情と道理。又、いつくしみ。めぐみ。なさけ。よしみ。恩誼。〔詩、小雅、常棣、常棣之華鄂不韡韡、箋〕恩義之顯、亦韡韡然。〔淮南子、人閒訓〕有㆑功者離㆓恩義㆒。〔後漢書、臧洪傳〕責以㆓恩義㆒。〔晉書、郄鑒傳〕有㆘感㆓其恩義㆒者㆖。

【恩誼】42（オンギ） いつくしみ。めぐみ。よしみ。恩義。

【恩休】43（オンキウ） めぐみとさいはひ。〔上官儀、奉㆔和過㆓舊宅㆒應制詩〕遺㆑簪謬㆓昭獎㆒、珥㆑筆荷㆓恩休㆒。

【恩舊】44（オンキウ） ふるいよしみ。古い交際。〔後漢書、孔融傳〕高明祖父、嘗與㆑僕有㆓恩舊㆒乎。〔後漢書、朱祐等傳論〕直㆑繩則虧㆓喪恩舊㆒、橈㆑情則違㆓廢禁典㆒。〔鮑照、代白頭吟〕人情賤㆓恩舊㆒、世議逐㆓衰興㆒。

【恩給】45（オンキフ） ㊀恩賞として、祿などを給はること。〔清會典事例、兵部、卹賞〕曾經㆓出兵打仗㆒受㆑傷者、皆加㆓恩給㆒予㆓全俸㆒。〔東鑑、七〕文治三年八月八日、自㆓鎌倉殿㆒非㆓恩給之所㆒、何以令㆑致㆓押領㆒乎。㊁國庫または國の指定する團體が、公務員の一定の條件の下に退官又は死亡後、本人、又は遺族の生計を保護するために一時金または年金を支給すること。

【恩魚】46（オンギヨ） めぐみが魚におよぶ。又、めぐみを受けた魚。漢の武帝が昆明池の釣魚を夢みて之を放ち、後、明珠を得た故事。〔辛氏三秦記〕昆明池、人釣㆑魚、絶㆑綸而去、夢於㆓武帝㆒求㆑去㆓其鉤㆒、明日、帝遊㆓於池㆒見㆓大魚銜㆑索、帝曰、昨所㆑夢也、取而去㆑之、帝後得㆓明珠㆒。〔沈佺期、奉㆔和晦日駕幸㆓昆明池㆒應制詩〕恩魚望㆑幸來。〔蘇頲、龍池樂章〕恩魚不㆑入㆓昆明釣㆒。

【恩金】47（オンキン） 人のめぐみによつて借りた金。恩借の金錢。

【恩勤】48（オンキン） いつくしみいたはる。〔詩、豳風、鴟鴞〕恩㆑斯勤㆑斯、鬻子之閔㆑斯。〔集傳〕以㆓我情愛之心、篤厚之意㆒、鬻㆓養此子㆒、誠可㆓憐憫㆒。

【恩煦】49（オンク） めぐみが濃やかで溫かい。あたたかいめぐみ。〔薛曜、舞馬篇〕閶闔開玉臺、側㆓承恩煦㆒兮生㆓光色㆒。〔歐陽詹、太原旅懷呈㆓薛十八侍御齊十二奉禮㆒詩〕伊予亦投㆑刺、恩煦胡凋疏。

【恩遇】50（オングウ） 特別の恩を以て待遇する。天子のめぐみ。優待。優遇。厚遇。〔後漢書、賈復傳〕是時列侯唯高密・固始・膠東三侯、與㆓公卿㆒參㆓議國家大事㆒、恩遇甚厚。〔劉峻、廣絶交論〕銜㆓恩遇㆒進㆓款誠㆒。〔周書、賀拔勝傳〕若死而有㆑知、猶望魂飛㆓賊庭㆒、以報㆓恩遇㆒耳。〔舊唐書、竇建德傳〕唯建德每㆑獲㆓士人㆒、必加㆓恩遇㆒。〔張說、幽州夜飲詩〕不㆑作㆓邊城將㆒、誰知㆓恩遇深㆒。

【恩化】51（オンクワ） 溫い心を以てする教化。いつくしみ深い政治。〔後漢書、宋均傳〕吏民思㆓均恩化㆒。

【恩科】52（オンクワ） 國家に慶典のある場合、考試の年期をまたずに特に擧行する官吏登用試驗。恩試。宋に始まる。〔宋史、選擧志三〕自㆔元祐剏㆓經明行修科㆒、主㆓德行㆒而略㆓辭藝㆒、閒取㆓禮部試黜之士㆒、附㆓寘恩科㆒。〔鼠璞〕恩科、至和閒、富公當㆑國、立㆓一擧三十年推恩法㆒。〔日知錄、科擧、恩科〕宋時有㆓所謂特奏㆑名者㆒、開寶三年三月庚戌詔、禮部閱㆓進士㆒及㆓十五擧㆒、嘗終場者得㆓司馬浦等一百六人㆒、賜㆓本科出身㆒、特奏㆑名恩例自㆑此始、謂㆓之恩科㆒。

【恩科廣額】53（オンクワクワウガク） 恩科に際して採用定員を增すこと。〔清會典事例、禮部、貢擧、捐輸加㆓廣定額㆒〕光緒五年議準、直隸宣化府、仍復㆓且字號原額㆒、嗣後如遇㆓恩科廣額㆒、仍照㆓嘉慶元年恩詔廣額之例㆒、且字號加㆓中一名㆒。

【恩懷】54（オンクワイ） めぐみのこころ。〔歐陽詹、益昌行〕問身一何安、太守恩懷多。

【恩光】55（オンクワウ） ㊀めぐみ深い光。萬物を育てる春の光。〔錢起、和㆓王員外晴雪早朝㆒詩〕紫微晴雪帶㆓恩光㆒。〔黃庭堅、古詩二首、上㆓蘇子瞻㆒詩〕桃李終不㆑言、朝露借㆓恩光㆒。㊁めぐみの光。天子の德澤。君恩。〔裴憲伯、漢鐃歌、朱鷺〕所㆑歎恩光歇、不㆑能㆓久聯翩㆒。〔江淹、雜體、鮑參軍照戎行詩〕豪士枉㆓尺璧㆒、宵人重㆓恩光㆒。〔柳宗元、爲㆓武中丞㆒謝㆑賜㆓櫻桃㆒表〕盈㆑眥而外被㆓恩光㆒、適㆑口而中含㆓渥澤㆒。

【恩訓】56（オンクン） いつくしみ深い教訓。〔後漢書、鄧隲傳〕及㆓順帝卽位㆒、追㆓感太后恩訓㆒。

【恩惠】57（オンケイ） いつくしみ。めぐみ。恩德。恩澤。〔儀禮、聘禮、受㆓享束帛加璧㆒、注〕既聘、又獻、所㆔以厚㆓恩惠㆒也。〔左氏、成、十八、施舍已㆑責、注〕施㆓恩惠㆒、舍㆓勞役㆒、止㆓逋責㆒。〔南史、王志傳〕清謹有㆓恩惠㆒。

【恩惠期日】58（オンケイキジツ） 債務履行などにつき、定期外に恩惠として與へる猶豫期閒。恩惠日。

【恩敬】59（オンケイ） めぐみ敬ふ。〔漢書、惠帝紀贊〕優㆓寵齊悼・趙隱㆒、恩敬篤矣。

【恩眷】60（オンケン） あつく目をかける。めぐみ。眷は顧。〔北史、李彪傳〕司㆓文東觀㆒、綢㆓繆恩眷㆒。

【恩縣】61（オンケン） 縣名。明、置く。本、漢の東陽縣の地。今、山東省德縣の南。縣城は馬頰河の西岸に

瀕す。〔讀史方輿紀要、山東、東昌府、高唐州、恩縣〕漢爲二清河郡之東陽縣地一、云云、明初、降レ州爲レ縣。〔清史稿、地理志〕山東、東昌府、縣九、恩。

【恩言】62オンゲン　なさけある言葉。〔明月記〕文暦二年十月二日、只不二思放一由之恩言許歟。

【恩顧】63オンコ　目をかける。なさけ。ひいき。〔舊唐書、貴妃楊氏傳〕貴妃久承二恩顧一、何惜二宮中一席之地一。〔韓愈、奉三和武相公鎭レ蜀時詠二使宅韋太尉所レ養孔雀一詩〕坐蒙二恩顧重一、畢レ命守二堦墀一。

【恩公】64　en^{1} kung^{1}　貴下。恩人に對して用ひる敬稱。

〖恩公兩便〗65　en^{1} kung^{1} liang^{3} pien^{4}　恩惠と公正と、二つながら都合よい。

【恩厚】66オンコウ　めぐみがあつい。〔書、皐陶謨、勑二我五典一五惇哉、疏〕五典施二於近親一、欲二其恩厚一。〔漢書、路溫舒傳〕方今天下賴二陛下恩厚一、亡二金革之危、飢寒之患一。〔漢書、賈誼傳〕夫仁義恩厚、人主之芒刃也。〔後漢書、劉虞傳〕以二恩厚一得レ衆。

【恩貢】67オンコウ　清代、貢生の一。慶典に際し、特に恩詔を下して其の年の正貢を恩貢とし、次貢を歲貢とするのをいふ。〔稱謂錄、貢生、恩貢〕明會典、宏治九年丙辰、始有二恩貢之稱一。〔清會典、禮部〕凡生員食餼久者、各以二其歲之額一而貢二於太學一、曰二歲貢一、有二恩詔一、則加レ貢曰二恩貢一。〔注〕恭遇二覃恩一、以二本年正貢一作二恩貢一、次貢作二歲貢一、業經レ達レ部者移咨改注、仍由二學政一換給二貢單一、其不レ値二正貢之府州縣衞學一、以二次貢一作二恩貢一、再次貢作二歲貢一、於二應貢之年一擧行、恭遇二臨雍一、至聖四配十二哲後裔來陪祀者、准下入二國子監一讀上書、係二廩增附及監生送入一者、准レ作二恩貢一、駕幸二闕里一御二詩禮堂一講レ書、各氏子孫爲二諸生一者、令三學政考二驗文行兼優者數人一、送レ部轉二送國子監一、准レ作二恩貢一。

〖恩貢生〗68オンコウセイ　恩貢に同じ。〔清會典、國子監〕凡貢生之別六、曰、恩貢生、遇二恩詔出貢一、以二廩生資深者一、府州縣衞學各擧二一人一、又臨雍之年、聖賢後裔入レ監聽講、係二廩生增生附生監生一者、恩二賜貢生一。〔清國行政法汎論、文官仕途種類、貢生〕恩貢生、每遇レ有二國家大慶盛典施恩等事一、選二拔生員若干于八旗及直省諸州縣一、入二國子監一、謂二之恩貢生一。

【恩札】70オンサツ　いつくしみ深い文章。〔張說、鄎國長公主神道碑〕降二恩札于雲露一、寫二哀詞于金石一。

【恩旨】71オンシ　いつくしみ深いおぼしめし。天子のおぼしめし。聖旨。〔沈既濟、枕中記〕數年、帝知レ寃、復追爲二中書令一、封二燕國公一、恩旨殊異。〔清會典事例、戶部、俸餉〕欽奉二恩旨一。

【恩私】72オンシ　恩愛を以て結ばれている私的なつながり。又、其のつながりを有する者。〔後漢書、桓帝紀〕舊故恩私、多受二封爵一。〔曹植、聖皇篇〕迫有二官典憲一、不レ得レ顧二恩私一。

【恩施】73オンシ　❶めぐみほどこす。又、其のこと。〔漢書、韓延壽傳〕恩施甚厚。〔魏志、蔣濟傳〕恩施足レ死、惠愛可レ懷。❷縣名。清、置く。湖北省建始縣の西南。古、西南夷の廩君の族の居たところ。〔清史稿、地理志〕湖北、施南府、縣六、恩施。

【恩師】74オンシ　教を受けた先生。恩ある師。

【恩賜】76オンシ　めぐみたまはる。君主などより賜はること。又、その物。〔孔子家語、曲禮公西赤問〕其恩賜之施、不レ有レ竿也。〔唐書、李晟傳〕晟與二馬燧一皆在レ朝、每二宴樂一、恩賜使者、相二銜于道一。

【恩州】77オンシウ　州名。❶唐、置く。廣東省恩平縣の北。後、恩平縣と改めた。〔讀史方輿紀要、肇慶府、恩平縣〕唐貞觀二十三年、改屬二恩州一、至德二載、改曰二恩平縣一。❷遼、置く。今缺く。熱河省淩源縣の西北。〔讀史方輿紀要、直隸、萬全都指揮使司、附見大寧衞、松州城〕恩州城、在二衞西南一、志云、漢新安平縣地也。

【恩讎】78オンシウ　なさけとあだ。恩仇。恩怨。〔關尹子、七釜〕天下之理、是或化爲レ非、非或化爲レ是、恩或化爲レ讎、讎或化爲レ恩、是以聖人居常慮レ變。〔白居易、禽蟲十二章詩〕何異浮生臨レ老日、一彈指頃報二恩讎一。〔歐陽脩、相州晝錦堂記〕其言以下快二恩讎一矜中名譽上爲レ可レ薄。

〖恩讎分明〗79オンシウブンメイ　恩を受けたものには、恩を以て報い、讎を受けたものには、讎を以て之に報いること。〔呂氏童蒙訓〕恩讎分明、此四字非二有道者之言一也。

【恩赦】80オンシヤ　❶天子の特赦をいふ。〔韓愈、赴二江陵一途中云云詩〕前日遇二恩赦一、私心喜還憂。〔白居易、奏二閿鄕禁囚一狀〕前後兩遇二恩赦一。❷訴訟法上の正規の手續によらず行政權によつて、刑法によつて成立してゐる刑罰の全部、または一部を赦し、又は減ずる行爲。大赦・特赦・減刑、刑の執行の免除、復權の五種がある。

【恩獎】81オンシヤウ　❶恩を加へてすすめはげます。〔江淹、爲二蕭驃騎一讓二太尉增封一第二表〕不レ能三曲流二慈炤一、遂乃徒洽二恩獎一。❷恩情を以て助ける。〔五代史、馮玉傳〕願得レ持二晉玉璽一、獻二契丹一、以冀二恩獎一。

【恩賞】82オンシヤウ　ほめて位階・金品等を賜はる。君主が臣下の行爲を賞して賜はること。又、その金品など。〔後漢書、安成孝侯傳〕恩賞特異。〔後漢書、彭寵傳〕寵又自以下與二耿況一倶有二重功一、而恩賞竝薄上、數遣レ使要二誘況一。

〖恩賞銀〗83オンシヤウギン　清代、宗室覺羅氏の喪祭婚姻等に給した費用をいふ。〔清國行政法汎論、皇室、宗室覺羅給銀〕恩賞銀、謂レ給二宗室覺羅之喪婚等費一。

〖恩賞地〗84オンシヤウチ　官からめぐみ賜はる土地。清初、八旗に對し、京師附近の牧場地を分給して八旗馬廠地としたが、後にこれらの土地を一般人民に給與して開墾せしめ、恩賞地と改名した。〔清會典、戶部〕凡地之墾者曰レ田、田亦曰レ地、凡田地之別、云云、有二恩賞地一。〔注〕國初、於二近京州縣一分二給八旗馬廠之地一、後因二坐落較遠一、棄置不レ用、歷次清文給レ民墾種、改名二恩賞地一。〔清會典事例、戶部、田賦〕口外熱河地方、設二立驛站一、營汎官兵皆有二恩賞額地一、後因二滋生日久一、遂於二額地之外一、各自開墾。

【恩餉】85オンシヤウ　清代、兵士が戰爭終了後歸鄕する時、生計を謀らせるために給せられる若干月の俸給をいふ。

【恩情】86オンジヤウ　いつくしみ深いなさけ。恩愛の情。〔蘇武、詩〕惟念當二離別一、恩情日以新。〔班婕妤、怨歌行〕棄捐篋笥中、恩情中道絕。〔阮瑀、爲二曹公一作レ書與二孫權一文〕恩情已深。〔吳少微、長門怨詩〕如何嬌レ所レ悞、長夜泣二恩情一。

【恩借】87オンシヤク　❶めぐみ。恩惠。〔後漢書、鄧皇后紀〕常克己以下レ之、雖二宮人隸役一、皆加二恩借一。❷なさけによつてかりる。人から物を借りることをいふ敬稱。〔庭訓往來、五月〕几帳・翠簾、被二恩借一者、以二人夫一可三送二賜之一。

【恩爵】88オンシヤク　特別に與へる爵位。〔唐書、李逢吉傳〕因以二恩爵一動二詭薄者一。

【恩主】89オンシユ　❶恩を受けた主人。❷en^{1} chu^{3}　恩人。惠主。

【恩宿】90オンシユク　地名。甘肅省永昌縣の南。〔十六國春秋〕苻堅建元十二年、苟萇伐レ涼、遣二別將馬暉・杜周一、帥レ騎西出二恩宿一、邀二張天錫走路一、期レ會二姑臧一。

【恩恤】91オンジユツ　めぐむ。めぐみ。恩卹。〔周書、晉蕩公護傳〕賴二皇齊恩卹一、差安二衰暮一。

〖恩恤之典〗92オンジユツノテン　めぐみのうるほひ。恩惠を施して救恤する處置。〔近古史談、豐篇、花房職之〕方今飢餓之民、未レ蒙二恩恤之典一。

【恩准】93オンジユン　特旨による許可。〔清會典事例、禮部、祭統、陪祀〕嗣後凡遇二天壇大祀一、儀親王成親王、雖三年未二六十一、著二加恩准一、乘レ轎至二二層門外一。

【恩潤】94オンジユン　めぐみうるほす。十分にめぐむ。〔北史、羊祉傳〕好慕二刑名一、頗爲二深文一、云云、及三出將二臨州一、並無二恩潤一、兵人患二其嚴虐一。

【恩信】95オンシン　あはれみの心深くまことあること。恩德と信義。〔漢書、韓延壽傳〕延壽恩信周二二十四縣一、庭無二辭訟一。〔後漢書、竇固傳〕羌胡服二其恩信一。〔魏志、公孫瓚傳〕恩信流著、戎狄附レ之。〔陳琳、爲二袁紹一檄二豫州一文〕廣宣二恩信一、班二揚符賞一。

【恩人】96オンジン　世話になつたひと。恩惠をうけた人。

【恩生】97オンセイ　特別の恩遇による官學生をいふ。〔稱謂錄、官學生、恩生〕明史選擧志、明初、因二前代任子之制一、文官一品至二七品一、皆得下廕二一子一、以世中其祿上、後乃漸爲二限制一、在京三品以上、方得レ請レ蔭、謂二之官生一、出レ自二特恩一者、不レ限二官品一、謂二之恩生一。

【恩性】98 オンセイ めぐみぶかい性質。〔後漢書、明德馬皇后紀〕孝性淳篤、恩性天至。

【恩政】99 オンセイ めぐみ深い政治。德政。〔江淹、柳僕射爲南兗州詔〕必能宣弘恩政、威懷萬里。

【恩星】100 オンセイ たすけぼし。恩人の喩。〔燕子箋、僞緝〕非是湊著恩星。

【恩勢】101 オンセイ 天子の寵によつて得た勢力。〔後漢書、蔡茂傳〕頃者、貴戚椒房之家、數因恩勢干犯吏禁。

【恩詔】102 オンセウ ありがたいみことのり。情ある天子の仰せ言。優詔。〔羊祜、讓開府表〕伏聞恩詔、拔臣使同臺司。〔岑參、送李賓客荊南迎親詩〕迎親辭望苑、恩詔下慈闈。

【恩照】103 オンセウ 恩惠が行き亘ること。〔南齊書、豫章文獻王嶷傳〕鍾其隆遇、別奉啓事、仰祈恩照。

【恩戚】104 オンセキ 皇室の親戚をいふ。〔南史、蕭惠開傳〕外祖光祿大夫沛郡劉成戒之曰、汝恩戚家子、無多異以取天下之疾。

【恩錫】105 オンセキ いつくしみの心を以て賜はること。又、其の賜物。天子からの賜物。〔隋書、竇榮定傳〕上數幸其第、恩錫甚厚。〔梁簡文帝、謝勑賚益州天門冬啓〕一蒙恩錫、竊幸往代。

【恩接】106 オンセツ なさけあるまじはり。〔後漢書、翟酺傳〕酺受恩接、悽愴君之禍耳。

【恩餞】108 オンセン なさけ深いはなむけ。天子からのはなむけ。〔張說、將赴朔方軍應制詩〕供帳榮恩餞、山川喜詔巡。

【恩贍】109 オンセン めぐみにぎわす。全品を與へること。〔北史、周太祖紀〕然歡入洛之始、本有姦謀、令親人蔡儁作牧河濟、厚相恩贍、爲東道主人。

【恩全】110 オンゼン 恩惠。〔福惠全書、蒞任部、稟帖贅說〕某某之二官、可邀恩全。

【恩貸】111 オンタイ めぐみ。ほどこし。恩澤。〔漢書、王訢傳〕以明恩貸。〔後漢書、盧芳傳〕不敢遺余力負恩貸。〔呉志、華覈傳〕恩貸累重。

【恩臺】112 en^{1} tʻai^{2} 贖罪所。恩座。慈悲座。

【恩澤】113 オンタク ❶なさけ。めぐみ。恩惠(57)に同じ。〔逸周書、時訓解〕國無恩澤。〔史記、律書〕恩澤加海內。〔漢書、董仲舒傳〕師師不賢、則主德不宣、恩澤不流。〔後漢書、呂強傳〕特蒙恩澤。〔曹植、上責躬應詔詩表〕是以愚臣徘徊於恩澤、而不敢自棄者也。❷子孫の官位について特別なはからひを天子に願ふこと。〔書言故事、任子類〕蔭子孫官曰恩澤、宋晏殊未嘗爲子弟請求恩澤、雖上屢問、但表聞起居而已。

〖恩澤侯〗114 オンタクコウ 漢代、功勞に依らず、君主の特別の恩によつて爵を受けた諸侯。〔漢書、外戚恩澤侯表序〕自古受命及中興之君、必興滅繼絶、修廢擧逸、然後天下歸仁、四方之政行焉。〔韻府引、劉禹錫、詩〕自負霸王略、安知恩澤侯。

〖恩澤奉行〗115 オンタクブギヤウ 鎌倉幕府の職名。勳功の大小を考へ、領地などを賜ふことを掌つた武家の役。〔東鑑、三十〕嘉禎元年九月十日、屬恩澤奉行後藤大夫判官基綱、頻執申之。

【恩達】116 オンタツ 縣名。民國、廳を置き、尋いで縣に改む。西康省昌都縣の西南。

【恩覃】117 オンタン 恩惠がひろくゆきわたる。覃は及。〔謝莊、宋明堂歌、歌赤帝〕庶物盛長、咸殷阜、恩覃四冥、被九有。

【恩地】118 オンチ ❶めぐみ。地は無意味の助辭。〔揮麈後錄〕言之則有負恩地。❷考試の主考官をいふ。〔稱謂錄、主考、恩地〕唐人以主司爲恩地、姚鵠有獻恩地僕射詩。❸鎌倉時代に、將軍又は大名が、其の臣下に、祖先以來の功を賞して與へた土地。〔東鑑、三十四〕仁治二年五月二十三日、以御恩地不可賣買之由治定訖。

【恩除】119 オンヂヨ 特別の思召によつて官職を授けること。〔李洞、送盧少府之任鞏洛詩〕從知東甸尉、銓注似恩除。

【恩重】120 en^{1} chung^{4} 厚恩。

【恩寵】121 オンチヨウ めぐみいつくしみ。恩遇と寵愛。〔後漢書、光武郭皇后紀〕顯宗即位、郭況與帝舅、陰識陰就、竝爲特進、數授賞賜、恩寵倶渥。〔後漢書、召馴傳〕帝嘉其義學、恩寵甚崇。〔呉志、韋曜傳〕孤辱恩寵、自陷極罪。

【恩典】122 オンテン めぐみ。めぐみの沙汰。なさけある處置。特典。〔韓琦、謝除使相判相州表〕被恩典之特優、顧人言而甚愧。

【恩霑】123 オンテン 恩が行きわたる。〔魏書、道武帝紀〕澤及昆蟲、恩霑行葦。

【恩田】124 オンデン 佛父母師長をいふ。父母と師長とは共に我が恩を蒙つてゐる者であり、前者は我の肉體を生み、後者は我を法身に導いた者であるからいふ。田は、耕作地で、穀類などを生み出す所。〔倶舍論、十八〕害父母、是棄恩田、如何有恩、身生本故。〔大藏法數〕和尚阿闍梨生我法身者、父母生我肉身者、此四名恩田。

〖恩田鶴城〗125 オンダカクジヤウ 下總の人。名は廷頌。字は大雅。通稱は啓吾。號は鶴城。原雙桂に師事し、伊藤仁齋の學を奉ず。官は下總古河藩儒。文化元年歿す。年六十六。著に鶴城閑話・鶴城遺稿・鶴城詩稿がある。〔慶長以來諸家著述目錄〕。

〖恩田蕙樓〗126 オンダケイロウ 尾張の人。名は維周・宜充。字は仲任。通稱は新治。號は蕙樓。松平君山に師事す。官は名古屋藩儒。詩に巧。文化十年八月歿す。年七十一。著に朝日將軍傳・淮南子考・永亨野乘・尾張略志・漢書考・漢書質疑・木曾紀行・奇字注・歸家漫筆・橘園集・宜搜編・紀年・愚者一得・書壺篇・回轅紀行・蕙樓腐談・蕙樓日抄・蕙樓隨筆・蕙樓集・古史略・江北志・五雜俎備考・國語考・左傳考證・左傳刪正・竈北瑣語・重修聚文韵略（一名、四重韻）・史記考・史記辨誤・史記補正・巵園集・掌奇隨筆・掌錄・荀子考・春椿記・新蒙求（一名、日本蒙求）・信峽紀行・世說音釋・世說訂疑・小璣・折柳篇・多藝志・談叢・中朝隸事・鳥峯志・帳中物・丁當餘言・土著論・塗羹、唐詩選訂訛・白山詩集・白山文集・萩の下露・寐語・米倉閑語・米倉餘語・扑瓦有墜志・夢中夢・蒙求攷證・蒙求續貂・毛詩管窺・十寸穗薄・山口志がある。〔近代著述目錄後篇〕・〔慶長以來諸家著述目錄〕。

【恩度】127 オンド 佛出家をいふ。〔禪林象器箋、五〕忠曰、蓋特恩賜度者爲恩度、張無盡東林善法堂記云、以弼恩度而爲上首。

【恩德】128 オントク めぐみ。なさけ。恩惠。〔戰國、齊策〕君以魯衆合戰勝後、此其爲德也亦大矣、其見恩德也亦甚大矣。〔漢書、高帝紀上〕施恩德賜民爵。〔後漢書、虞延傳〕並感恩德。〔論衡、非韓〕治一身、省恩德之行。

【恩波】129 オンパ めぐみ。波は、偏く波及する意を以て添へた字。仁惠。恩澤。德澤。〔岑參、送許拾遺詩〕束帛仍賜衣、恩波漲滄流。〔柳宗元、賀皇子牋〕恩波下濟、見少海之增瀾。〔丘遲、侍宴樂遊苑送張徐州應詔詩〕肅穆恩波被。〔杜甫、江陵望幸詩〕早發雲臺仗、恩波起涸鱗。〔開元天寶遺事、盆池魚〕林甫曰、賴陛下恩波所養。

【恩霈】130 オンハイ 君のめぐみ。大雨の降るごとく、めぐみの廣く及ぶこと。〔弱良器、詩〕化流霑率土、恩霈及殊方。

【恩榜】131 オンバウ 金代、進士の試驗に、文の高下を以て其の席次を定めたものをいふ。〔金史、選擧志二〕章宗大定二十九年敕、今後凡五次御簾進士、可一試而不黜落、止以文之高下定其次、謂之恩榜。

【恩比】132 オンヒ めぐみしたしむ。〔柳宗元、披沙揀金賦〕周德恩比、而岐昌即咏。

【恩普】133 オンフ 恩があまねくゆきわたる。〔司馬相如、難蜀父老文〕德洋恩普、物靡不得其所。

【恩府】134 オンプ 教を受けたものが師をいふ辭。〔稱謂錄、受知師、恩府〕金華子、以恩地爲恩府、始於唐馬戴、戴著書不得盡忠於恩府、而動天下之浮議。

【恩撫】135 オンブ めぐみ安んずる。大切にしいたはる。愛撫。〔晉書、劉曜載記〕妾少養于叔、恩撫甚隆、無以報德。

〖恩撫金〗136 en^{1} fu^{3} chin^{1} 戰死した軍人遺族に對する扶助料。

【恩風】137 オンプウ めぐみのかぜ。上よりのあまねきめぐみ。〔隋書、音樂志下〕飲和飽德、恩風長扇。

【恩福】138 オンプク めぐみとさいはひ。〔易林、乾之第一、恒〕百家送從、以成恩福。

〖恩福堂〗139 オンプクダウ 清、英和(**9**－**30808**‥200)の室名。

【恩物】140 オンブツ 獨語 Gabe の譯。神の幼兒に恩賜した物の意。幼稚園で、子供に遊戲かたがた教へる簡單な手工用の品物。又、その手工の成績

品。

【恩平】141（オンヘイ） 縣名。唐、置く。今、廣東省開平縣の西。西北南の三面は大帽山脈が圍繞してゐる。〔讀史方輿紀要、廣東、肇慶府、恩平縣〕至德二載、改曰二恩平縣一、大順二年、移二恩州治一焉、五代因レ之。〔清史稿、地理志〕廣東、陽江直隸州、縣二、恩平。

【恩返】142（オンガヘシ） 受けた恩をかへすこと。報恩。

【恩眄】143（オンベン） てあつく目をかけること。ひきたて。〔魏書、昭成子孫、常山王遵傳〕侍中盧昶、亦蒙二恩眄一。〔北史、虞綽傳〕常直二禁中一、以二文翰一侍レ詔、恩眄隆洽。〔謝莊、與二江夏王義恭一牋〕恩眄弘深、粗照二誠懇一。

【恩俸】144（オンボウ） ❶清代、京官の文官に給した俸祿。京官の文官は收入が薄いから、特に本俸以外に恩俸を給した。〔清會典事例、戶部、俸餉〕將二在京大小文官俸銀一、加二一倍賞給一、令二其用度從容、益得レ專二心於官守一、所レ給恩俸、著自二乾隆二年一爲レ始。〔清國行政法汎論、俸給、恩俸〕京官文職、不レ關二大小一、正俸銀外、又受二恩俸一、額同二正俸一、故在京文官、均受二雙俸一爲二原則一。❷清代、死亡した官吏の遺族に、一年間支給した、本俸の半額の俸祿。〔清會典事例、戶部、俸餉〕八旗官兵物故、其妻守レ節者、均照レ例給二食半分俸祿錢糧一一年。

【恩命】145（オンメイ） ありがたいおほせ。ありがたい御意。〔宋史、陳洪進傳〕煜復上言、請レ寢二洪進恩命一。〔程鉅夫、送二戴道士一詩〕君承二恩命一往二天台一、萬壑千峰繞二絳臺一。

【恩銘】146（オンメイ） ❶清、滿洲正紅旗人。姓は棟鄂氏。嘉慶の進士。熱河都統となる。漕運總督に任ぜられた時、積弊を剔除して治績をあげた。〔清史稿、四百九十三〕・〔國朝耆獻類徵、一百十三〕。❷清、滿洲の人。字は新甫。官は安徽巡撫。徐錫麟が革命を謀つた時、刺し殺された。

【恩免】147（オンメン） ❶特別の恩召を以て罪を許すこと。恩赦。〔陸游、詩〕九月都門凜欲レ霜、羸軀恩免立二鴛行一。❷特別の恩召を以て稅を免除すること。〔元史、食貨志四、賑恤〕蠲免、有二以レ恩免者一、有二以レ災免者一。

【恩門】148（オンモン） 恩のある家。弟子が先生などをさしていふ。〔宋史、選擧志〕及第者、不レ得下呼二知擧一爲二恩門・師門一、及稱中門生上。

【恩問】149（オンモン） 他人の訪問を受けたのを敬つていふ語。おたづね。〔庭訓往來、二月〕欲二自レ是令レ申之處、遮而預二恩問一。

【恩陽】150（オンヤウ） 縣名。❶隋、置く。四川省巴中縣の西北。〔讀史方輿紀要、四川、保寧府、巴州〕恩陽廢縣、州西三十五里、梁置二義陽縣一、隋開皇末、改曰二恩陽一、屬二巴州一、唐因レ之。❷民國、置く。清の恩陽州判の地。廣西省に屬す。後、敬德と改む。〔清史稿、地理志〕廣西、百色直隸廳、州判一、恩陽州判。

【恩養】151（オンヤウ） いつくしみやしなふ。大切に世話する。〔後漢書、楊厚傳〕懼然改レ意、恩養加レ篤。〔魏志、管寧傳〕恩養之福、沈二委篤痾一。

【恩賚】152（オンライ） ❶天子がいつくしみの心から與へる賜物。臣下の功勞をねぎらふために與へる賜物。〔宋史、大食國傳〕俟二其還一、優加二恩賚一。❷（ミタマノフユ） 恩賴に同じ。

【恩賴】153（ミタマノフユ） 神祇及び天皇の御稜威（ミイツ）、御加護をいふ敬語。〔日本書紀、神代紀上〕是以百姓至レ今、咸蒙二恩賴一。

【恩樂】154（オンラク） 縣名。清、置く。雲南省鎭沅縣の東北。

【恩率】155（オンリツ） 恩賞の階級。〔北史、百濟傳〕恩率三品。

【恩隆】156（オンリユウ） 縣名。清、置く。民國の初、廣西省に屬し、後、田東と改む。右江の沿岸、果德縣の西北。〔清史稿、地理志〕廣西、百色直隸廳、縣一、恩隆。

【恩綸】157（オンリン） ありがたいみことのり。綸は綸言。恩詔(102)に同じ。〔蘇軾、被レ命南遷途中寄二定武同僚一詩〕適見二恩綸一臨二定武一。

【恩例】158（オンレイ） 吉事などのあつた場合に、朝廷から例として賜はるもの。〔王惲、賀正口號詩〕歲歲大酺恩例薄、自慙虛薄仰二皇扃一。

【恩例俸賜】159（オンレイホウシ） 俸賜は常の俸祿。俸祿と特別の御下賜品或は贈り物。〔小學、嘉言〕恩例俸賜、常均二於族人一、幷置二義田宅一云。

【恩禮】160（オンレイ） 臣下に恩を施して禮遇すること。臣下を優待すること。賞賜・讌見・存問の類をいふ。〔後漢書、隗囂傳〕自レ是恩禮愈篤。〔後漢書、魯恭傳〕遷二侍中一、數召讌見、問以二得失一、賞賜恩禮寵異焉。〔南史、江智深傳〕孝武深相知待、恩禮冠レ朝。

【恩憐】161（オンレン） いつくしみあはれむ。〔心地觀經、三〕毋亦恩憐不二棄遺一。

【孤レ恩】162（オンニソムク） 恩惠にそむく。受けた恩惠に添はない行爲をすること。〔李陵、答二蘇武一書〕雖レ孤レ恩、漢亦負レ德。

【市レ恩】163（オンヲウル） 爲にする所があつて人に惠を施すこと。〔唐書、裴耀卿傳〕我知二其不一レ市レ恩。

【施レ恩】164（オンヲホドコス） 恩惠をほどこす。〔曹植、求レ通二親親一表〕推レ惠施レ恩。

【施レ恩務施二於不レ報之人一】165（オンヲホドコスニハツトメテムクイザルノヒトニホドコセ） 人に恩惠を施す時には、施された者が、何の報恩もしないやうな人に施せ。報恩されるのを豫期するやうなきたない心をもつなといふ誡。〔菜根譚、前、百五十六〕施レ恩、務施二於不レ報之人一。

【推レ恩】166（オンヲオス） いつくしみの心を廣くおし及ぼす。〔漢書、主父偃傳〕願陛下令下諸侯得中推レ恩分二子弟一以レ地侯上レ之。

【叨レ恩】167（オンヲミダリニス） 並々ならずめぐみを受ける。〔日本外史、源氏前記、平氏〕宗族駢二植朝廷一、田園半二於天下一、叨レ恩極矣。

【恩揜レ義】168（オンハギヲオホフ） 恩愛の情を以て道義を蔽ひかくす。家族相互間では、義理を以て相手を責めることを主とせず、恩愛を主とすべきであることを說いた語。〔禮、喪服四制〕門內之治、恩揜レ義、門外之治、義斷レ恩。

【恩耕井】169（オンカウセイ） 鹽井の名。雲南省景谷縣。清の雍正二年、開き、後、禁止した。

【恩格圖】170（オンカクト） 清、科爾沁蒙古の人。正紅旗に隸す。太宗に從つて遼化を攻め、朝鮮を征し、錦州松山を圍み、屢〻功をたてた。順治中、從つて關に入り、李自成を破り、江南・浙江・福建を下し、功によつて一等男を授けられた。金聲桓を江西に征し、軍に卒した。〔清史稿、二百三十五〕・〔清史列傳、四〕・〔國朝耆獻類徵、二百六十四〕。

【恩監生】171（オンカンセイ） 清代、監生の一。特別の恩召を以て太學に入れられる學生。天子が辟雍に臨まれる時に聽講する聖賢の後裔で武生・奉祀生のになつてゐる者の中の俊秀な者、及び八旗官學生・算學生・漢算學生・算學肆業生を三年に一回試驗して之に當てる。〔清會典、國子監〕臨雍聽講聖賢後裔、係二武生・奉祀生一俊秀者、恩二賜監生一、又八旗官學生・算學生・漢算學生・算學肆業生、每レ屆二三年一、欽派大臣考二取恩監生一一次。

【恩暉堂】172（オンキダウ） 清、王藻（**7－20823**‥428）の室名。

【恩擧人】173（オンキヨジン） 清代、特別施行の試驗に及第した擧人の稱。恩科(52)を見よ。

【恩慶堂】174（オンケイダウ） 清、英和（**9－30808**‥200）の室名。

【恩豐倉】175（オンホウサウ） 清代、內務府に屬した米穀を貯藏する倉。〔清會典、戶部〕凡京倉十有一、通倉二。〔注〕祿米倉・南新倉・舊太倉・海運倉・北新倉・富新倉・興平倉、在二京城內一、太平倉・儲濟倉在二京城朝陽門外一、本裕倉在二京城外清河地方一、豐益倉在二京城外安河地方一、中倉・西倉在二通州一、內倉則隸二戶部一、恩豐倉則隸二內務府一。

【恩餘堂】176（オンヨダウ） 清、彭元瑞（**4－10003**‥145）の室名。

【恩以レ狎生】177（オンハナルルヲモツテシヤウズ） 愛情は何の隔ても無く狎れ親しむことから生ずる。〔沈約、恩倖傳論〕既而恩以レ狎生、信由レ恩固。

【恩格德爾】178（オンコトール） 清の人。姓は博爾濟吉特氏。諡は端順。もと蒙古巴岳特部台吉。太祖の時、衆を率ゐて歸附し、三等子を授けられ、滿洲正黃旗に隸す。雍正中、三等公を追封された。〔清史稿、二百三十五〕・〔國朝耆獻類徵、二百六十三〕。

【恩將仇報】179 en^{1} chiang^{1} ch'ou^{2} pao^{4} 恩を仇でかへす。

【恩甚怨生】180（オンハナハダシケレバウラミシヤウズ） 人にめぐみをかけることが尋常でないと、却つて怨まれる結果になる。〔亢倉子、用道〕恩甚怨生、愛多則憎至。

【恩梅開江】181（オンバイカイカウ） 河の名。一名、猍江。又、龍碧卡江。源は西藏。南流して雲南省騰衝縣の西北より緬甸の境に入り、邁立開江に合する。

【恩與㆓其敗㆒】182（オンソノハイニアタフ） 恩惠を戰敗者にあたへる。〔張俊、爲㆓吳令謝詢㆒求㆘爲㆓諸孫㆒置㆗守冢人㆖表〕功奪㆓其成㆒、恩與㆓其敗㆒。

【遇㆑恩原減】183（オンニアヒテゲンゲンス） 恩典に依つて罪をゆるされ、または輕減されること。〔唐律、名例〕若罪人自首、及遇㆑恩原減者、亦準㆓罪人原減法㆒。

【結㆓恩百姓㆒】184（オンヲヒャクセイニムスブ） 人民に仁德を施して其の心をひきよせる。〔孔叢子、公儀〕結㆓恩百姓㆒、修㆓禮鄰國㆒、其興也勃矣。

【積㆑恩爲㆑愛】185（オンヲツムヲアイトナス） 恩惠をつみたくはへるのを愛といふ。〔說苑、修文〕積㆑恩爲㆑愛、積㆑愛爲㆑仁、積㆑仁爲㆑靈、靈臺之所㆓以爲㆑靈、積㆑仁也。

【拜㆓恩私室㆒】186（オンヲシシツニハイス） 新たに任免せられた官吏が、權要の人の所に御禮を言ひに行くこと。〔北史、王晞傳〕王復錄㆓尚書事㆒、新除㆑官者、必詣㆑王謝㆑職、去必辭、晞言㆓於王㆒曰、受㆓爵天朝㆒、拜㆓恩私第㆒、自㆑古以爲㆑干㆑紀、朝廷文武出入辭謝、宜㆓一約絕㆒。

【恩過不㆓相補㆒】187（オンクヮアヒオギナハズ） ほどこす所のめぐみと、犯す所の過ちと相償はない。過ちによつて生ずる害が恩によつて與へる益よりも大きいといふ意。〔列子、說符〕邯鄲之民、以㆓正月之旦㆒獻㆓鳩簡子㆒、云云、捕而放㆑之、恩過不㆓相補㆒矣。

【恩拔副歲優】188（オンバツフクサイイウ） 清代の五種の貢生、卽ち恩貢生・拔貢生・副貢生・歲貢生・優貢生の連稱。此等は皆、何等かの方法によつて官から選拔せられる者で、自ら銀・米などを納めて貢生の資格を得る例貢生とは異る。貢生(10-36665‥37)及び夫々の項を見よ。〔清會典、國子監〕凡貢生之別六、曰恩貢生、曰拔貢生、曰副貢生、曰歲貢生、曰優貢生、曰例貢生。

【恩由㆓契闊㆒生】189（オンハケツクヮツニヨリテシャウズ） 厄難に遭つて恩愛が深くなる。〔盧諶、答㆓魏子悌㆒詩〕恩由㆓契闊㆒生、義隨㆓周旋㆒積。〔注〕銑曰、契闊、厄難也。

【棄㆑恩入㆓無爲㆒】191（オンヲステテムヰニイル） 佛 一般に、出家する時の剃頭式に唱へる頌文。キオンニフムヰと讀む。恩愛の情を捨てて法界に入る意。〔清信士度人經〕流㆓轉三界中㆒、恩愛不㆑能㆑斷、棄㆑恩入㆓無爲㆒、眞實報㆑恩者。

【懷㆑恩未㆑忍㆑去】192（オンヲオモヒテイマダサルニシノビズ） 主人の厚遇に感じて去るに忍びない。〔吳均、主人池前鶴詩〕懷㆑恩未㆑忍㆑去、非㆑無㆓江海心㆒。

【恩宜㆓自㆑淡而濃㆒】193（オンハヨロシクタンヨリシテノウナルベシ） 恩を施すには、最初手薄に始めて、次第に手厚くするがよい。〔菜根譚、前、百七十〕恩宜㆓自㆑淡而濃㆒。

【恪】
10592

カク　〔集韻〕克各切 藥。ㄎㄜˋ k‘ê^4　ㄑㄩㄝˋ ch‘üeh^4

小篆

❶うやまふ。つつしむ。もと愙(4-10944)に作る。〔康熙字典〕恪、本作㆑愙。〔說文〕愙、敬也、从㆑心客聲、春秋傳曰、㠯㆑陳備㆓三愙㆒。〔段注〕今字作㆑恪。〔爾雅、釋詁〕恪、敬也。〔一切經音義、三〕恪、恭也。〔詩、商頌、那〕執㆑事有㆑恪。〔傳〕恪、敬也。〔左氏、襄、二十五〕以備㆓三恪㆒。〔注〕其禮轉降、示㆑敬而已。〔孔叢子、答問〕恪、敬也、禮㆑之如㆓賓客㆒也。❷又、急(4-10593)に作る。〔集韻〕愙、或作㆑恪、亦書作㆑急。❸格(6-14749)に通ず。恪言(13)を見よ。❹姓。〔通志、氏族略、入聲〕恪氏、晉有㆓郎中令恪啟㆒、望出㆓陳留㆒。

名乘 ツム。

【恪簡】1（カクカン） 清、劉峨(2-2224‥80)の諡。

【恪僖】2（カクキ） 諡號。❶清、遏必隆(11-39004‥25)の諡。❷清、哈什屯(2-3594‥57)の諡。❸清、舒常(9-30300‥37)の諡。❹清、蘇勒達(9-32427‥313)の諡。❺清、畢力克圖(7-21829‥126)の諡。

【恪毅】3（カクキ） 清、張起雲(4-9812‥897)の諡。

【恪居】4（カクキョ） つつしみ居る。〔陸機、演連珠〕是以百官恪居。〔白居易、得甲爲㆓獄吏㆒囚走㆓限內㆒他人獲㆑之甲請㆑免㆑罪判〕不㆑念㆓恪居㆒、徼㆓于茇里㆒。

【恪共】5（カクキョウ） つつしむ。忠實。恪供に同じ。〔福惠全書、蒞任部、査交代〕使㆘三年之中、恪㆓共乃職㆒、可㆗幸無㆖過、何不㆓漸積以取㆑償也。

【恪供】6（カクキョウ） 職務に忠實なこと。〔福惠全書、蒞任部、交㆓接寅僚㆒〕凡印官擧動、無㆑不㆓周知㆒、欲㆔其恪㆓供乃職㆒。

【恪恭】7（カクキョウ） ❶敬ひつつしむ。〔國語、周語上〕恪㆓恭于農㆒。〔白居易、與㆓盧恒卿㆒詔〕恪恭而奉㆑上、勤儉以牧㆑人。❷清、巴璉岱(4-8745‥115)の諡。

【恪勤】8（カクキン） ❶つつしみつとめる。〔逸周書、大開武解〕維文考、恪勤戰戰、何敬、何好、何惡。〔國語、周語上〕朝夕恪勤、守以㆓惇篤㆒、奉以㆓忠信㆒。〔孔子家語、正論解〕朝夕恪勤、猶恐㆑忘㆓先人之業㆒。❷諡號。㋑清、高其佩(12-45313‥1083)の諡。㋺清、懷塔布(4-11456‥229)の諡。㋩清、蘇昌(9-32427‥83)の諡。㋥清、陳鵬年(11-41698‥1256)の諡。㋭清、那蘇圖(11-39305‥60)の諡。㋬清、琅玕(7-21013‥3)の諡。❸（カクゴ・カクゴン） ㋑平安朝時代、親王大臣に仕へた士。瀧口、院の北面の武士などの稱。〔職原抄〕凡稱㆑侍者、親王大臣以下恪勤之名也。㋺武家時代、宿直を勤仕する番衆の類で、庶士の中、最も下等なもの。〔東鑑、九〕文治五年十一月十八日、召㆓篠山丹三㆒、可㆑候㆓恪勤㆒之由、被㆓仰含㆒。

〖恪勤匪㆑懈〗9（カクキンオコタラズ） つつしみつとめて怠らない。四善の一。唐代はこれによつて流內官の功を敍した。〔唐書、百官志一〕流內之官、敍以㆓四善㆒、一曰、德義有㆑聞、二曰、清愼明著、三曰、公平可㆑稱、四曰、恪勤匪㆑懈。

【恪謹】10（カクキン） つつしむ。つつしみ。〔書、盤庚上〕先王有㆑服、恪㆓謹天命㆒。〔金史、樂志下〕百辟卿士、恪謹迎承。

【恪卿】11（カクケイ） 清、蔣志章(9-31820‥167)の字。

【恪虔】12（カクケン） つつしむ。虔は敬。恪肅。敬虔。〔宋書、謝晦傳〕管㆓司喉舌㆒、恪㆓虔夙夜㆒。

【恪言】13（カクゲン） ただしい言葉。法則とすべき言葉。格言(6-14749‥15)に同じ。〔逸周書、小開武解〕非㆓時罔㆑有㆓格言㆒、日正㆓余不㆑足。〔集訓校釋〕惠棟曰、恪、古文格字。

【恪愿】14（カクゲン） 金、徒單公弼(4-10121‥77)の諡。

【恪固】15（カクコ） つつしんで堅く守る。〔子華子、晏子〕於㆓其所㆑愛焉者㆒、則必有㆓恪固之心㆒。

【恪守】16（カクシュ） つつしみまもる。〔福惠全書、刑名部、賊盜下、土番〕宜㆘恪㆓守吾言㆒以無㆖負。

【恪肅】17（カクシュク） 大いにつつしむ。〔蜀志、後主張皇后傳〕勉㆓修中饋㆒、恪㆓肅禋祀㆒。

【恪循】18（カクジュン） つつしみしたがふ。

【恪順】19（カクジュン） 清、孫可望(3-6987‥341)の諡。

【恪遵】20（カクジュン） つつしみしたがふ。〔福惠全書、蒞任部、詳文贅說〕煌煌天語、其何以恪遵乎。〔清國行政法汎論、成文法〕嘉慶會典御製序云、著㆓奕禩之法程㆒、爲㆓億齡之典則㆒、後嗣恪遵勿㆑替。

【恪愼】21（カクシン） ❶うやまひつつしむ。〔書、微子之命〕恪愼克孝、肅㆓恭神人㆒。〔唐書、崔元綜傳〕性恪愼坐㆓政事堂㆒、東帶終日不㆓休偃㆒。❷諡號。㋑清、何汝霖(1-511‥302)の諡。㋺清、耆齡(9-28849‥46)の諡。㋩清、鄭敦謹(11-39647‥524)の諡。㋥清、李國梁(6-14459‥1253)の諡。

【恪生】22（カクセイ） 清、趙魏(10-37171‥100)の字。

【恪靖】23（カクセイ） 諡號。❶清、鄂輝(11-39520‥5)の諡。❷清、胡寶瑔(9-29400‥599)の諡。❸清、努三(2-2314‥1)の諡。

〖恪靖侯〗24（カクセイコウ） 清、左宗棠(4-8720‥469)の封號。

【恪整】25（カクセイ） つつしみただす。〔金史、僕散端傳〕恪㆓整乃心㆒、式副㆓朕意㆒。

【恪尊】26（カクソン） 可汗の妻の尊稱。〔周書、異域下、吐谷渾傳〕夸呂立始自號爲㆓可汗㆒、云云、號㆓其妻㆒爲㆓恪尊㆒。

【恪庭】27（カクテイ） 清、沈宗敬(6-17189‥585)の字。

【恪敏】28（カクビン） ❶つつしみぶかくて、さとくすばやい。謹愼で敏捷。〔唐書、源乾曜傳〕其始仕已四十餘、歷官皆以㆓清愼恪敏㆒得㆑名。❷諡號。㋑清、卞三元(2-2778‥33)の諡。㋺清、方觀承(5-13620‥504)の諡。㋩清、許占魁(10-35298‥337)の諡。

【恪愍】29（カクビン） 諡號。❶明、馮傑(12-44579‥61)の追諡。❷明、楊守謙(6-15112‥604)の諡。

【恪奉】30（カクホウ） つつしんで奉戴する。〔福惠全書、

教養部、總論〕有司恪二奉明倫一、遵二行講讀一。

【恪勵】31 カクレイ つつしみはげむ。〔劉崇、授二前峽州刺史李授光祿少卿一制〕進士已來、恪勵無レ替。

【悆】10593

カク

恪(4－10592)に同じ。〔正字通〕恪、或作レ愙、省作レ悆。

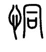
【恫】10594

一 トウ ツ 〔集韻〕他東切 ㄊㄨㄥ t'ung¹ 東

二 トウ ツ 〔集韻〕吐孔切 董

三 トウ ヅ 〔集韻〕徒弄切 ㄉㄨㄥˋ tung⁴ 送

慣 ドウ


小篆

一❶**いたむ**。〔說文〕恫、痛也、从レ心同聲。〔爾雅、釋言〕恫、痛也。〔詩、大雅、思齊〕神罔二時恫一。〔傳〕恫、痛也。〔史記、燕召公世家〕百姓恫恐。〔注〕索隱曰、恫、音通、痛也。❷**うめく**。〔說文〕恫、一曰、呻吟也。❸**おそれる**。〔史記、蘇秦傳〕恫疑虛喝。〔注〕索隱曰、恫、恐懼之心也。❹**無知のさま**。〔晉書音義、中〕恫、無知貌。❺或は痌(**7－22145**)・恿(**4－10621**)に作る。〔集韻〕恫、或作二痌・恿一。❻侗(**1－601**)に通ず。〔詩、大雅、思齊〕神罔二時恫一。〔說文〕侗、大貌、詩曰、神罔二時侗一。❼慟(**4－11103**)に通ず。〔說文通訓定聲〕恫、字亦作レ慟。二**いたむ**。一の❶に同じ。〔集韻〕恫、痛也。三**志を得ないさま**。愡恫。〔集韻〕恫、愡恫、不レ得レ志。

【恫怨】1 ドウエン いたみうらむ。〔戰國、燕策〕子之三年、燕國大亂、百姓恫怨。

【恫嚇】2 ドウカク おどかす。恫喝。

【恫喝】3 ドウカツ おどかす。おびやかす。もと、心中びくびくしながら人をおどかす意。恫疑虛喝(6)の略。

【恫猲】4 ドウカツ 恫喝に同じ。恫疑虛喝(6)を見よ。

【恫疑】5 ドウギ おそれてびくびくする。疑は、どうしようかと迷つて心が定まらない意。恫疑虛喝を見よ。

【恫疑虛喝】6 ドウギキョカツ 心中びくびくしながら相手をおどす。一說に、虛喝も、おそれる意で、はあはあ息して懼れること。喝は、或は猲に作る。〔戰國、齊策〕秦雖レ欲二深入一、則狼顧、恐三韓魏之議二其後一也、是故恫疑虛猲、高躍而不二敢進一。〔史記、蘇秦傳〕是故恫疑虛喝、驕矜而不二敢進一。〔注〕索隱曰、恫、音通、恫、恐懼之心也、喝、本亦作レ猲、並呼合反、高誘曰、虛猲、喘息懼貌也、劉氏云、秦自疑懼、不レ敢進レ兵、虛作二恐喝之詞一、以脅二韓魏一也。

【恫恐】7 ドウキョウ おそれる。〔史記、燕世家〕國事皆決二於子之一、三年、國大亂、百姓恫恐。〔注〕索隱曰、恫、痛也、恐、懼也。

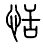
【恫悔】8 ドウクワイ いたみくいること。〔蘇軾、謝三量二移汝州一表〕開二其恫悔一、許以二甄收一。

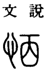
【恫矜】9 ドウクワン いたみやむ。いたみうれへる。矜は病。恫瘝に同じ。〔後漢書、和帝紀〕朕寤寐恫矜、思弭二憂釁一。〔注〕尚書曰、恫二矜乃身一、孔安國注曰、恫、痛也、矜、病也。

【恫瘝】10 ドウクワン いたみやむ。いたみうれへる。瘝は病。恫矜。〔書、康誥〕嗚呼小子封、恫二瘝乃身一、敬哉。〔蔡傳〕恫、痛、瘝、病也、視二民之不一レ安、如三疾痛之在二乃身一。

【恫擾】11 ドウゼウ うごきみだれる。〔呂覽、審分〕百官恫擾、〔注〕恫、動、擾、亂。

【恬】10595


小篆（說文）


小篆（段注本）

テン デン 〔集韻〕徒兼切 ㄊㄧㄢˊ t'ien² 鹽

❶**やすらか**。**おちつく**。**安んずる**。〔說文繫傳〕恬、安也、從レ心甜省聲。〔書、梓材〕引養引恬。〔荀子、性惡〕恬レ禍而廣レ解。〔注〕恬、安也。〔荀子、富國〕輕二非譽一而恬二失民一。〔注〕恬、安也。❷**しづか**。あつさり。〔方言、十三〕恬、靜也。〔素問、上古天眞論〕以二恬愉一爲レ務。〔注〕恬、靜也。〔莊子、繕性〕以レ恬養レ知。❸段注本說文は恓(**4－10618**)に作る。〔說文〕恓、安也、从レ心西聲。〔段注〕各本、篆作レ恬、解作二甛省聲一、今正、谷部西下曰、舌皃、从二谷省一象形、他念切、按、許書木部栖及此恓字、本从二西聲一、轉寫从レ舌、乃改爲二甛省聲一矣。

【恬安】1 テンアン しづか。おだやか。やすらかでおだやか。安穩。〔漢書、嚴安傳〕貧富不二相燿一、以和二其心一、心既和平、其性恬安不レ營、則盜賊銷。

【恬菴】2 テンアン 字號。❶明、錢瓚(**11－40563**··109)の號。❷清、吳敬羲(**2－3365**··524)の號。

【恬逸】3 テンイツ ❶安らかで氣まま。心靜かで自由なこと。〔國語、吳語〕今大夫老、而又不三自安二恬逸一。❷宋、莊良資の號。莊恬逸(**9－31035**··185)を見よ。

【恬簡】4 テンカン しづかでつづまやか。〔陳書、蕭乾傳〕容止雅正、性恬簡、善二隸書一、得二叔父子雲之法一。

【恬熙】5 テンキ 世がやすらかで無事に治まること。太平無事。〔王逢、覽下周左丞伯溫壬辰歲拜二御史一扈從云云上今敬題二五十韻一詩〕恬熙屬二累朝一。

【恬嬉】6 テンキ やすんじよろこぶ。文恬武嬉(**5－13450**··718)を見よ。

【恬虛】7 テンキョ 平靜で心に求める所がないこと。靜かで無欲。虛心平氣。〔後漢書、劉趙淳于江劉周趙傳序〕包性恬虛、稱レ疾不レ起。〔嵇康、琴賦〕恬虛樂レ古、棄レ事遺レ身。

【恬虛菴】8 テンキョアン 宋、張鎡(**4－9812**··361)の室名。

【恬臥】9 テングワ やすらかに寢る。無爲にしてをること。〔鄧析子、無厚〕爲レ君、當レ若二冬日之陽、夏日之陰一、萬物自歸、莫二之使一也、恬臥而功自成、優游而政自治。〔淮南子、主術訓〕昔孫叔敖恬臥、而郢人無レ所レ害二其鋒一。〔鹽鐵論、地廣〕故邊民百戰、而中國恬臥者、以二邊郡一爲二蔽扞一也。

【恬曠】10 テンクワウ ひまなこと。のんびりしていること。閑暇。〔張華、答二何劭一詩〕恬曠苦レ不レ足、煩促每有レ餘。〔注〕銑曰、恬曠、閑暇也。〔晉書、嵇含傳〕戶詠二恬曠之辭一、家畫二老莊之象一。

【恬豁】11 テンクワツ 心がやすらかでひろい。〔晉書、涼武昭王李暠傳〕乃著二大酒容賦一、以表二恬豁之懷一。

【恬娛】13 テンゴ 心やすらかにたのしむこと。〔蜀志、郤正傳〕以二恬娛一免二咎悔於斯世一。

【恬忽】14 テンコツ 心がさつぱりしてゐて物事を氣にかけぬこと。〔論衡、自紀〕浩然恬忽、無レ所レ怨。

【恬齋】15 テンサイ 清、錢寶甫(**11－40563**··419)の號。

【恬讓】16 テンジヤウ あつさりとゆづる。和睦。仲直り。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕恬讓之懷、油然動矣。

【恬酒】17 テンシユ 唐代の酒の名。〔禮、禮運、醴醆在レ戶、疏〕醴猶レ體也、成而汁滓相將、如二今恬酒一矣。

【恬如】18 テンジヨ 心やすらかなさま。平氣でゐるさま。恬然(23)に同じ。〔風俗通、怪神〕左右皆怖伏レ地、而叔高恬如也。

【恬生】19 テンセイ 清、陳瑑(**11－41698**··488)の字。

【恬性】20 テンセイ ❶しづかな性質。〔晉書、曹毗傳〕役二恬性一以充二勞府一。❷性を安かにする。〔阮籍、大人先生傳〕大者恬二其性一、細者靜二其形一。

【恬靖】21 テンセイ しづかで安らか。無欲でさつぱりしてゐること。〔宋史、葛宮傳〕天性恬靖、年五十、忽上レ章致仕。

【恬靜】22 テンセイ やすらかでしづか。恬靖に同じ。恬漠。〔後漢書、法眞傳〕性恬靜寡欲。〔魏志、張範傳〕恬靜樂レ道。〔晉書、辛謐傳〕性恬靜、不二妄交遊一。

【恬然】23 テンゼン 安らかで靜かなさま。轉じて、何とも思はぬさま。動かぬさま。心に感じないさま。〔荀子、彊國〕恬然如二無レ治者一。〔注〕恬然、安閑貌。〔淮南子、原道訓〕恬然無レ思。〔漢書、宣元六王、淮陽憲王欽傳〕大王奈何恬然。〔注〕師古曰、恬然、安靜貌也。〔後漢書、馮衍傳下〕正レ身直レ行、恬然肆レ志。〔袁宏、三國名臣序贊〕神氣恬然、行不二脩飾一。

【恬然子】24 テンゼンシ 元、郝昇(**11－39430**··19)の號。

【恬然不レ恥】25 テンゼントシテハヂズ 平氣で恥を恥とも思

はぬ。〔雲仙雜記、毛詩卷染レ油代レ燭〕倪芳飲後、必有二狂怪一、恬然不レ恥。

【恬叟】26 テンソウ 清、王樹穀(7－20823··1654)の字。

【恬郇】27 テンソン 清、汪繼燝(6－17154··212)の號。

【恬惰】28 テンダ のんびりとしてなまける。〔宋史、高宗紀〕恬惰猥懦、坐失二事機一。

【恬怠】29 テンタイ のんびりとしてなまける。〔枚乘、七發〕揄二棄恬怠一、輸二寫淟濁一。〔注〕銑曰、恬、安也、怡、慢也。

【恬泰】30 テンタイ しづかで安らか。〔白居易、問二秋光一詩〕身心轉恬泰、煙景彌淡泊。

【恬退】31 テンタイ 靜かでへりくだる。榮利に心をかけず、人と爭はないこと。退は謙退。〔舊唐書、沈傳師傳〕性恬退無レ競。〔宋史、黃中傳〕黃中恬退有レ守。〔宋史、韋淵傳〕寧宗嘉二其恬退一。

【恬蕩】32 テンタウ 安らかでほしいままなさま。安らかで自由なさま。〔張華、勵志詩〕安二心恬蕩一、棲二志浮雲一。

【恬惔】33 テンタン 恬淡に同じ。〔莊子、刻意〕恬惔寂寞。〔蜀志、彭羕傳〕偃二息於仁義之途一、恬二惔於浩然之域一。

【恬淡】34 テンタン あつさりとして、思ふことも爲すこともないさま。心しづかで無欲なさま。虛心平氣。無我の狀態。淡泊無爲。恬澹。〔老子、三十一〕恬淡爲レ上、勝而不レ美。〔莊子、胠篋〕釋二夫恬淡無爲一。〔韓非子、解老〕人無二愚智一、莫レ不レ有二趨舍一、恬淡平安、莫レ不レ知三禍福之所二由來一。〔淮南子、泰族訓〕靜漠恬淡。〔史記、秦始皇紀〕今上治二天下一、未レ能二恬淡一。〔漢書、王褒傳〕恬淡無爲之場。〔張華、贈二摯仲治一詩〕恬淡養二玄虛一、沈精研二聖猷一。

【恬憺】35 テンタン やすらか。憺は安靜。恬淡。〔春秋說題辭〕恬憺爲レ心、思慮爲レ志。

【恬澹】36 テンタン さつぱりとして靜かなさま。恬淡に同じ。〔淮南子、原道訓〕恬然無レ思、澹然無レ慮、以レ天爲レ蓋、以レ地爲レ輿。〔後漢書、蔡邕傳〕心恬二澹於守一レ高、意無レ意二於持一レ盈。〔唐書、韓思復傳〕遷二御史大夫一、性恬澹、不レ喜レ爲二繩察一。

【恬澈】37 テンテツ しづか。〔拾遺記、一、唐堯〕丹輝炳映、百川恬澈。

【恬波】38 テンパ 波をしづめる。波をたてない。〔拾遺記、一、軒轅黃帝〕滄海爲レ之恬レ波。〔宋書、孝武帝紀〕今息二警夷嶂一、恬二波河渚一。

【恬泊】39 テンパク 欲が少くて安らかなさま。淡泊(7－17660··93)に同じ。〔後漢書、法眞傳〕幽居恬泊、樂以忘レ憂。〔魏志、管寧傳〕清高恬泊。〔晉書、杜夷傳〕少而恬泊、操尙貞素。

【恬漠】40 テンバク 心やすらかで靜かなこと。心やすらかで欲が少い。恬泊に同じ。〔墨子、非儒下〕心恬漠、待レ問而後對。〔淮南子、俶眞訓〕通洞條達、恬漠無事。〔漢書、賈誼傳〕眞人恬漠、獨與レ道息。〔注〕師古曰、恬、安也、漠、靜也。

【恬謐】41 テンヒツ しづかで安らか。靜謐。〔歐陽詹、唐天文述〕求二諸吹蕩一則常風、求二諸恬謐一則常寧。

【恬敏】42 テンビン 靜かで且つゆき屆くこと。〔任昉、爲二蕭揚州一薦レ士表〕理尙二棲約一、思致二恬敏一。〔注〕濟曰、恬、靜、敏、達也、言、棲二意儉約一、思致二靜達一。

【恬平】43 テンペイ しづかで平か。〔近古史談、豐篇、豐公天〕當三公之圍二小田原城一、天氣清明、海波恬平、絕無二陽侯之患一者、五旬有餘日矣。

【恬養】44 テンヤウ 平靜無欲を以て心を養ふ。〔莊子、繕性〕古之治レ道者、以レ恬養レ知。〔疏〕恬、靜也、古者聖人以レ道治レ身治レ國者、必以二恬靜之法一養二眞實之知一。〔圖畫見聞誌〕廉退恬養。

【恬愉】45 テンユ やすんじよろこぶ。安適。〔莊子、在宥〕昔堯之治二天下一也、使三天下欣欣焉、人樂二其性一、是不レ恬也、桀之治二天下一也、使三天下瘁瘁焉、人苦二其性一、是不レ愉也。〔莊子、盜跖〕恬愉之安、不レ監二於體一。〔荀子、王霸〕若レ是則恬愉無二患難一矣。〔管子、心術上〕恬愉無レ爲、去二智與レ故。〔淮南子、原道訓〕恬愉無レ矜、而得二於和一。〔注〕恬愉、無レ所二好憎一也。〔嵇康、答レ難二養生論一文〕恬愉無レ遌、而神氣條達。

【恬裕】46 テンユウ 心がしづかでゆつたりしてゐること。〔北史、楊愔傳〕此兒恬裕、有二我家風一。

『恬裕堂』47 テンユウダウ 清、瞿紹基(8－23747··41)の室名。

【恬瀾】48 テンラン 靜かな波。世路の平靜なのに喩へる。〔王安石、詩〕利行有二阸轍一、勢涉無二恬瀾一。

【恬鱗】49 テンリン 心安らかにおちついてゐる魚。〔殷仲文、解二尙書一表〕洪波振レ壑、川無二恬鱗一。〔注〕銑曰、恬、安也。

【恬和】50 テンワ しづか。おだやか。〔世說新語、品藻〕王仲祖何如、曰、溫潤恬和。

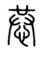
【恬志堂】51 テンシダウ 明、李日華(6－14459··1371)の室名。

【恬風渡】52 テンフウト 地名。江蘇省東海縣の北。舊名、黑風口。

【恬節先生】53 テンセツセンセイ 明、方希哲(5－13620··499)の私諡。

【恭】10596

キヨウ ク 〔集韻〕居容切 ㄍㄨㄥ kung¹ 冬



小篆

❶つつしむ。もと恭(4－10597)に作る。〔中華大字典〕恭、本作レ恭。〔說文〕恭、肅也、从レ心共聲。〔爾雅、釋詁〕恭、敬也。〔爾雅、釋言〕恭、肅也。〔荀子、解蔽〕仁者之思也、恭。〔注〕恭、謂二乾乾夕惕一也。〔漢書、五行志中之上〕內曰レ恭、外曰レ敬。〔王褒、聖主得二賢臣一頌〕恭惟二春秋一。〔注〕善曰、服虔曰、恭、敬也。❷うやうやしい。うやうやしくする。容儀を正す。〔釋名、釋言語〕恭、拱也、自拱持也。〔書、洪範〕貌曰レ恭。〔禮、曲禮上〕君子恭敬撙レ節。〔疏〕何胤云、在レ貌爲レ恭、在レ心爲レ敬、何之所レ說、從レ多擧也、夫貌多心少爲レ恭、心多貌少爲レ敬。〔禮、少儀〕賓客主レ恭。〔注〕恭、在レ貌也。〔禮、樂記〕恭儉而好レ禮。〔疏〕恭、謂二以レ禮自持一。〔新書、道術〕接遇愼レ容、謂二之恭一。❸つかへる。職分をつくす。〔釋名、釋言語〕恭、亦言三供二給人事一也。〔玉篇〕恭、事也。〔書、堯典〕允恭克謹。〔鄭注〕不レ解二于位一曰レ恭。〔國語、周語中〕夙夜恭也。〔注〕夙夜敬レ事曰レ恭。〔孟子、離婁上〕責二難於君一、謂二之恭一。❹へりくだる。〔論語、學而〕恭近二於禮一。〔皇疏〕恭、是遜從。〔國語、魯語下〕陷而入二於恭一。〔注〕謙爲レ恭。❺のつとる。〔玉篇〕恭、法也。❻ささげる。うける。奉持する。共(2－1458)に通ず。〔書、甘誓〕今予惟恭二行天之罰一。〔傳〕恭、奉也。〔史記、夏紀〕今予惟共二行天之罰一。❼そなへる。たす。供(1－605)に通ず。〔老子、四十一、夫唯道善貸且成、王注〕貸レ之、非下唯恭二其乏一而已上。〔釋文〕恭、一作レ供。❽諡。〔逸周書、諡法解〕執レ事堅固曰レ恭、敬レ事供レ上曰レ恭、芘親之闕曰レ恭、尊レ賢敬讓曰レ恭、尊レ賢讓レ善曰レ恭、尊レ賢貴レ義曰レ恭、執レ禮御レ賓曰レ恭、愛レ民長レ弟曰レ恭、既過能改曰レ恭、淵源流通曰レ恭。〔後漢書、和帝紀〕改二葬恭懷梁皇后于西陵一、〔注〕諡法曰、正德美容曰レ恭。❾通じて龔(12－48837)に作る。〔集韻〕恭、通作レ龔。〔書、堯典〕象恭滔レ天。〔漢書、王遜傳〕象龔滔レ天。❿姓。〔尙友錄〕恭、晉太子申生諡恭君、其後以爲レ氏、又敬姓、避二梁諱一、亦有二改レ姓爲レ恭者一。⓫現 大小便をいふ。

名乘 ウヤ。ユキ。ミツ。

【恭哀】1 キヨウアイ 漢、許后(10－35298··85)の諡。

【恭安】2 キヨウアン 諡號。❶宋、張存(4－9812··515)の諡。❷宋、趙世清(10－37171··724)の諡。

【恭懿】3 キヨウイ ❶後魏、王肅(7－20823··563)の字。❷諡號。㋑五代吳越、吳漢月(2－3365··484)の諡。㋺五代閩、王延政(7－20823··1201)の諡。㋩宋、王繼英(7－20823··1391)の諡。㋥明、張瀚(4－9812··151)の諡。㋭明、李棠(6－14459··555)の諡。㋬清、富善(3－7230··126)の諡。

『恭懿王』4 キヨウイワウ 宋、趙元偓(10－37171··509)

の諡。

〘恭懿太子〙5（キヨウヰタイシ） 唐、李侶(6－14459‥507)の諡。

【恭畏】6（キヨウキ） つつしみおそれる。〔唐書、徐康王元禮傳〕性恭畏、善二騎射一。

【恭惟】7（キヨウヰ） ㊀うやうやしく思ふ。つつしんで思ふ。〔千字文〕恭惟鞠養。〔王褒、聖主得二賢臣一頌〕恭惟二春秋一、法二五始之要一、在二乎審レ己正一レ統而已。〔注〕向曰、惟、思也、言三敬思二春秋一也。〔國史補〕渭南縣尉張造、批二度支牒一曰、恭惟、此樹其來久遠。㊁kung¹ wei 書簡文で、恭惟の字の下には相手を尊敬頌揚する語を用ひることから、轉じて、人に諛ふを恭惟といふ。

【恭揖】7′（キヨウイフ） うやうやしく揖禮を行ふ。丁寧に會釋する。禮遇する。〔班固、典引〕欽若二上下一、恭揖二群后一。

【恭榮】8（キヨウエイ） 宋、韓公裔(12－43159‥284)の諡。

【恭悅】9（キヨウエツ） つつしんでよろこぶこと。相手に敬意を拂つて言ふ語。

【恭遠】10（キヨウエン） 三國吳、周昭(2－3441‥318)の字。

【恭迓】11 kung¹ ya⁴ うやうやしく迎へる。

【恭賀】12（キヨウガ） うやうやしくいはふ。謹賀。〔清會典事例、禮部、授二受大典一歸政事宜〕丙辰元旦、內外臣工慶賀表文、照レ常進呈、其恭賀太上皇帝傳位表文、嗣皇帝登極表文、內閣另行恭進呈。

【恭介】13（キヨウカイ） 諡號。㊀明、朱鴻謨(6－14424‥781)の諡。㊁明、孫丕揚(3－6987‥526)の諡。㊂明、陶琰(11－41705‥21)の諡。㊃明、陳有年(11－41698‥648)の諡。㊄明、鄭世威(11－39647‥465)の諡。㊅明、畢鏘(7－21829‥31)の諡。㊆明、李遷(6－14459‥527)の諡。㊇明、劉崧(2－2224‥416)の諡。㊈明、王汝訓(7－20823‥1691)の諡。

【恭行】14（キヨウカウ） つつしんで行ふ。共行。龔行。〔書、甘誓〕恭行二天之罰一。〔漢書、敍傳下〕龔行二天罰一、赫赫明明。〔班固、東都賦〕恭行二天罰一、應レ天順レ人、此湯武所三以昭二王業一也。

【恭孝】15（キヨウカウ） ㊀つつしみぶかくよく父母につかへる。〔魏志、三少帝、齊王芳紀〕恭孝日虧、悖慠滋甚。㊁後蜀、孟昶(3－6960‥198)の諡。

【恭恪】16（キヨウカク） ㊀うやうやしくつつしむ。共恪。〔國語、楚語上〕必恭二恪於朝一。㊁諡號。㋑清、祁墳(8－24634‥12)の諡。㋺清、瑚寶(7－21126‥5)の諡。㋩清、錢以塏(11－40563‥243)の諡。㋥清、富明安(3－7230‥192)の諡。

【恭愨】17（キヨウカク） ㊀愼み深く誠があること。〔儀禮、士相見禮、容彌蹙、注〕蹙、猶レ促也、促、恭愨貌也。㊁諡號。㋑清、孔毓圻(3－6933‥257)の諡。㋺清、曹毓英(5－14297‥194)の諡。㋩清、譚行義(10－35978‥45)の諡。㋥清、圖思德(3－4832‥107)の諡。

【恭簡】18（キヨウカン） 諡號。㊀宋、邢煥(11－39301‥18)の諡。㊁宋、王剛中(7－20823‥1263)の諡。㊂明、歐陽鐸(6－16185‥83)の諡。㊃明、耿定向(9－29026‥71)の諡。㊄明、魏校(12－45872‥15)の諡。㊅明、許孚遠(10－35298‥384)の諡。㊆明、朱英(6－14424‥42)の諡。㊇明、戴珊(5－11685‥65)の諡。㊈明、李鉞(6－14459‥73)の諡。㊉明、王舜鼎(7－20823‥1678)の諡。(十一)明、王樵(7－20823‥676)の諡。(十二)清、常青(滿洲正藍旗人)(4－8955‥207)の諡。(十三)清、性桂(4－10478‥20)の諡。

【恭己】19（キヨウキ） ㊀己をつつしむ。〔論語、衞靈公〕無爲而治者、其舜也與、夫何爲哉、恭レ己正南面而已矣。〔疏〕但恭二敬己身一、正南面嚮レ明而已。〔集注〕恭レ己者、聖人敬德之容、既無レ所レ爲、則人之所レ見、如レ此而已。〔後漢書、和帝紀〕恭レ己受レ成、夫何憂哉。㊁天子が只君位に在るのみで、實權の強臣に移ること。〔資治通鑑、漢紀〕(獻帝、建安十年)時政在二曹氏一、天子恭レ己。〔注〕言、恭レ己南面而已、政事無レ所レ預也、孔子曰、無爲而治者、其舜也歟、夫何爲哉、恭レ己正南面而已、後世遂以下政在二強臣一、己無上レ所レ預爲レ恭レ己。

【恭喜】20 kung¹ hsi³ ㊀おめでたう。㊁人の職業又は勤務に對する敬稱。

【恭僖】21（キヨウキ） 諡號。㊀宋、任澤(1－416‥137)の諡。㊁宋、杜審瓊(6－14477‥347)の諡。㊂宋、李用和(6－14459‥1972)の諡。

〘恭僖后〙22（キヨウキコウ） 唐、穆宗の后、王后(7－20823‥390)の諡。

【恭毅】23（キヨウキ） 諡號。㊀宋、郭浩(11－39474‥31)の諡。㊁宋、楊震(6－15112‥230)の諡。㊂宋、楊崇勳(6－15112‥635)の諡。㊃明、溫純(7－17968‥124)の諡。㊄明、章綸(8－25761‥173)の諡。㊅明、王槩(7－20823‥126)の諡。㊆清、趙申喬(10－37171‥703)の諡。㊇清、李湖(6－14459‥329)の諡。㊈清、李侍堯(6－14459‥1350)の諡。

【恭窺】24（キヨウキ） つつしんで見る。〔謝靈運、山居賦〕敬承二聖誥一、恭窺二前經一。

【恭饋】25（キヨウキ） うやうやしく食を進める。〔朱熹、宜人丁氏墓誌銘〕男敏レ學、女恭饋。

【恭義】26（キヨウギ） 五代吳越、錢弘僎(11－40563‥317)の諡。

【恭給】27（キヨウキフ） 忠實に事をする。〔國語、晉國七〕惇二帥舊職一而恭給也。

【恭姜】28（キヨウキヤウ） 衞の太子恭伯の妻。一に共姜に作る。太子に早く死別したが、義を守つて再嫁しなかつた。〔潘岳、寡婦賦〕蹈二恭姜兮明誓一、詠二柏舟兮清歌一。〔注〕良曰、詩序曰、柏舟、恭姜自誓也、衞世子恭伯早死、其妻守レ義、父母欲二奪而嫁一レ之、誓而不レ許。

【恭恭】29（キヨウキヨウ） うやうやしいさま。〔文中子、事君〕其接二長者一、恭恭然如レ不レ足。

【恭勤】30（キヨウキン） ㊀つつしみつとめる。〔吳志、孫權傳〕恭勤爲レ德。〔李嶠、授二馮嘉賓左臺監察御史一制〕砥二礪名節一、恭二勤職務一。㊁諡號。㋑清、裘行簡(10－34312‥28)の諡。㋺清、恒福(4－10527‥113)の諡。㋩清、齊承彥(12－48560‥301)の諡。㋥清、錢應溥(11－40563‥258)の諡。㋭清、瑪爾漢(7－21156‥14)の諡。㋬清、李世傑(6－14459‥1541)の諡。㋣清、栗毓美(6－14695‥72)の諡。

【恭謹】31（キヨウキン） うやうやしくつつしみ深い。〔史記、蕭相國世家〕相國年老、素恭謹、入徒跣謝。〔漢書、韓信傳〕項王見レ人恭謹、言語姁姁。

【恭懷】32（キヨウクワイ） 後漢の章帝の后、竇后(8－25695‥25)の諡。

【恭館】33（キヨウクワン） 宗廟をいふ。〔班固、典引〕啓二恭館之金縢一、御二東序之祕寶一。〔注〕蔡邕曰、恭館、宗廟、金縢之所レ在、向曰、恭館、置二金縢一之所也。

【恭惠】34（キヨウケイ） 諡號。㊀後魏、安同(3－7072‥384)の諡。㊁唐、董晉(9－31433‥102)の諡。㊂唐、竇易直(8－25695‥58)の諡。㊃後周、李從敏(6－14459‥1437)の諡。㊄宋、沈倫(6－17189‥397)の諡。㊅宋、任布(1－416‥170)の諡。㊆宋、張美(4－9812‥627)の諡。㊇宋、趙元偁(10－37171‥519)の諡。㊈宋、杜審進(6－14477‥350)の諡。㊉明、章拯(8－25761‥102)の諡。(十一)明、陶承學(11－41705‥201)の諡。(十二)明、范鏞(9－30834‥125)の諡。(十三)明、楊信民(6－15112‥627)の諡。(十四)明、汪宗伊(6－17154‥277)の諡。(十五)清、何煟(1－511‥8)の諡。

〘恭惠王〙35（キヨウケイワウ） 宋、趙元偁(10－37171‥519)の諡。

【恭敬】36（キヨウケイ） ㊀うやうやしくしつつしむ。恭は容貌の愼しみ。敬は心の愼しみ。〔詩、小雅、小弁〕維桑與レ梓、必恭敬止。〔禮、曲禮上〕君子恭敬撙レ節、退讓以明レ禮。〔疏〕何胤云、在レ貌爲レ恭、在レ心爲レ敬、又通而言レ之、恭敬是一、左傳云、恭敬二父命一、孝經云、恭敬安レ親、此並恭敬連言、明是一也。〔左氏、宣、二〕不レ忘二恭敬一、民之主也。〔孝經、諫爭章〕若二夫慈愛恭敬、安レ親揚レ名、則聞レ命矣。〔孟子、告子上〕恭敬之心、禮也。〔國語、楚語下〕齊肅恭敬。〔荀子、脩身〕體恭敬而心忠信。〔管子、弟子職〕出入恭敬。〔孔子家語、賢君〕恭敬忠信。㊁うやうやしくうやまふ。つつしんでうやまふ。敬意を表はす。恭敬不レ如レ從レ命を見よ。〔史記、司馬相如傳〕臨邛令、繆爲二恭敬一、日往朝二相如一。

〘恭敬不レ如レ從レ命〙37（キヨウケイハメイニシタガフニシカズ） 先方のいふとほりに從ふことが、敬意を表はす最良の方法である。〔西廂記、崔鶯鶯夜聽レ琴雜劇〕先生休レ作レ謙、夫人專意等、常言道、恭敬不レ如レ從レ命。〔通俗編、儀節、恭敬不レ如レ從レ命〕贊寧笋譜、昔有二新婦一、不レ得二舅姑意一、其婦善承不レ違、一日歲暮、姑索二笋羹一、婦答二卽煮一供上、妯娌問レ之曰、今臘中、何處求レ笋、婦曰、且膺爲レ貴、以レ順攘二逆

責二耳、其實何處求レ之、姑聞而悔、後倍憐二新婦一、故諺曰、恭敬不レ如レ從レ命、受レ訓莫レ如二從順一。

【恭潔】38 キョウケツ　うやうやしくてきよらかなこと。〔江淹、雜體、袁太尉淑從駕詩〕恭潔由二明祀一、肅駕在二祈年一。

【恭虔】39 キョウケン　恭しくてつつしみ深い。虔は敬。〔舊唐書、文宗紀〕常尅レ已以二恭虔一、毎推二誠於衆庶一。〔蔡襄、羣玉殿賜宴詩〕家聲終卓越、上意益恭虔。

【恭儉】40 キョウケン　うやうやしくつづまやか。他に對してはうやうやしく、己を守るのにつづまやかなこと。〔書、周官〕恭儉惟德、無レ載二爾僞一。〔禮、樂記〕恭儉而好レ禮者、宜レ歌二小雅一。〔論語、學而〕夫子溫良恭儉讓以得レ之。〔孟子、滕文公上〕賢君必恭儉禮レ下。〔國語、楚語上〕明二恭儉一以道二之孝一。〔墨子、非命中〕惡二恭儉一而好二簡易一。〔莊子、天地〕必服二恭儉一。

【恭憲】41 キョウケン　諡號。㊀宋、趙元佐(10－37171・・517)の諡。㊁宋、趙世雄(10－37171・・726)の諡。㊂宋、趙宗愈(10－37171・・766)の諡。㊃明、孫忠(3－6987・・219)の諡。㊄清、孫昌齡(3－6987・・431)の諡。

【恭謙】42 キョウケン　うやうやしくへりくだる。己を卑くして人に讓る。恭遜。恭讓。〔後漢書、光武紀下〕陛下恭謙克讓、抑而未レ議。〔後漢書、光武郭皇后紀〕恭謙下レ士、頗得二聲譽一。

【恭獻】43 キョウケン　諡號。㊀宋、范純禮(9－30834・・203)の諡。㊁明、權妃(6－15926・・107)の諡。㊂明朝から贈られた足利義滿の諡。〔明史、日本傳〕十二月、其國世子源義持、遣レ使來告二父喪一、命二中官周全一、往祭賜二諡恭獻一、且致レ賻、又遣レ官齎レ敕、封二義持一爲二日本國王一。〔賴襄、下二筑後河一過二菊池正觀公戰處一感而有レ作詩〕嘗卻二明使一壯二本朝一、豈與二恭獻一同レ日語。

【恭顯】44 キョウケン　漢の宦官、弘恭と石顯とをいふ。〔漢書、劉向傳〕外戚許史在レ位放縱、而中書宦官弘恭石顯弄レ權、望之・堪・更生議、欲三白罷二退之一、未レ白而語泄、遂爲三許史及恭顯所二譖愬一、堪・更生下レ獄。〔潘岳、西征賦〕當二音鳳恭顯之任レ勢也。

【恭愿】45 キョウゲン　つつしみぶかくて誠實。〔論衡、自紀〕恭愿仁順。〔晉書、武十三王、吳敬王晏傳〕晏爲レ人恭愿、才不レ及二中人一。

【恭厚】46 キョウコウ　つつしみ深く手あつい。〔韓非子、難言〕敦祗恭厚、鯁固愼完、則見三以爲二拙而不レ倫。

【恭候】47 キョウコウ　つつしんで待つ。〔清會典事例、宗人府、教養〕赴レ府引見、恭候二欽定一。

【恭莊】48 キョウサウ　㊀つつしみぶかく而もおごそか。〔說苑、修文〕溫儼恭莊之動、不レ存二乎體一。㊁諡號。㋑後魏、于勁(1－252・・38)の諡。㋺宋、高化(12－45313・・208)の諡。㋩宋、張子蓋(4－9812・・1091)の諡。

【恭士】49 キョウシ　㊀つつしみ深い士。〔說苑、敬愼〕魯有二恭士一、名曰二機氾一、行年七十、其恭益甚。㊁清、徐作肅(4－10110・・431)の字。

【恭子】50 キョウシ　晉、何謙(1－511・・68)の字。

【恭之】51 キョウシ　㊀後魏、高道穆(12－45313・・1267)の本名。㊁清、徐鼎(海寧の人)(4－10110・・230)の字。

【恭梓】52 キョウシ　後魏、崔孝芬(4－8178・・212)の字。

【恭嗣】53 キョウシ　三國魏、劉廙(2－2224・・637)の字。

【恭肆】54 キョウシ　恭順と驕肆。又、或は恭しくし、或はほしいままにすること。〔方孝孺、戇窩記〕狐鼠之盜、瞯二其進退一以爲二恭肆一。

【恭州】55 キョウシウ　州名。唐、置く。今の四川省平武縣疊溪營の西南の地。〔讀史方輿紀要、四川、敍州府、宜賓縣、廢協州〕唐天寶末、云云、又廢二恭州一。

【恭者】57 キョウシャ　つつしみ深い人。〔孟子、離婁上〕恭者不レ侮レ人、儉者不レ奪レ人。

【恭謝】58 キョウシャ　うやうやしく感謝する。〔宣和遺事、後集〕大臣匿二邊報一、不二以奏聞一、道是恐妨二恭謝一、及二恭謝禮畢一、方以二檄書一進二呈徽宗一。

【恭城】59 キョウジャウ　縣名。隋末、置く。今、廣西省平樂縣の東北。桂江の支流黃泥江と敖水との會流點に位す。〔讀史方輿紀要、廣西、平樂府、恭城縣〕隋末、蕭銑始析二置恭城縣一、唐因レ之。〔清史稿、地理志〕廣西、平樂府、縣七、恭城。

【恭襄】60 キョウジャウ　諡號。㊀明、江東(6－17140・・326)の諡。㊁明、許論(10－35298・・225)の諡。㊂明、石茂華(8－24024・・1039)の諡。㊃明、陳瑄(11－41698・・412)の諡。㊄明、趙炳然(10－37171・・888)の諡。㊅明、涂宗濬(6－17518・・23)の諡。㊆明、馬昂(12－44572・・61)の諡。㊇明、劉丙(2－2224・・586)の諡。㊈明、王瓊(7－20823・・329)の諡。

【恭讓】61 キョウジャウ　職務に精勵することと賢者尊んで之にへりくだること。又、つつしみ深い態度を以てへりくだること。〔書、堯典〕允恭克讓。〔疏〕不レ懈二于位一曰レ恭、推レ賢尙レ善曰レ讓、恭讓、是施行之名。〔史記、三王世家〕陛下恭讓不レ恤、羣臣私望。

〖恭讓王〗62 キョウジャウワウ　高麗第三十四代の王。王瑤(7－20823・・64)を見よ。

〖恭讓胡后〗63 キョウジャウココウ　明、宣宗の后、胡后(9－29400・・137)の諡。

【恭壽】64 キョウジュ　字號。㊀清、黃愼(12－47926・・520)の字。㊁清、汪恭(6－17154・・42)の字。

〖恭壽堂〗65 キョウジュダウ　清、高塞(12－45313・・345)の室名。

〖恭壽老人〗66 キョウジュラウジン　清、王澍(7－20823・・554)の號。

【恭從】67 キョウジュウ　つつしみしたがふ。〔逸周書、官人解〕以觀二其恭從之色一。

【恭叔】68 キョウシュク　㊀複姓。〔潛夫論、志氏姓〕恭叔氏、云云、皆趙嬴姓也。㊁字號。㋑南朝宋、檀祗(6－15632・・26)の字。㋺唐、呂恭(2－3386・・44)の字。㋩宋、周行己(2－3441・・571)の字。㋥宋、潘友恭(7－18236・・112)の字。㋭元、莊肅(9－31035・・80)の字。㋬清、劉宗泗(2－2224・・1142)の字。

【恭肅】69 キョウシュク　㊀つつしむ。〔後漢書、鄧后傳〕恭肅小心、動有二法度一。㊁諡號。㋑唐、張嘉貞(4－9812・・849)の諡。㋺宋、溫仲舒(7－17968・・282)の諡。㋩宋、趙元儼(10－37171・・516)の諡。㋥明、嚴清(2－4589・・164)の諡。㋭明、胡松(滁州の人)(9－29400・・189)の諡。㋬明、周用(2－3441・・492)の諡。㋣明、曾鈞(5－14299・・34)の諡。㋠明、張潤(4－9812・・414)の諡。㋷明、趙輔(10－37171・・338)の諡。㋦明、范衷(9－30834・・95)の諡。㋸明、熊浹(7－19294・・77)の諡。㋾明、林鶚(6－14551・・48)の諡。㋻明、王遴(7－20823・・1082)の諡。

【恭順】70 キョウジュン　㊀つつしんでしたがふ。恭敬從順。〔禮、樂記〕莊敬恭順。〔蔡邕、陳太丘碑文〕恭順貞厲、含レ章方直。㊁明、盧淵(8－23050・・11)の諡。

【恭承】71 キョウショウ　うやうやしくうける。謹んでうけたまはる。共承。〔漢書、元帝紀〕今朕恭承二天地一、託二于公侯之上一。〔賈誼、弔二屈原一文〕恭承二嘉惠一兮、俟二罪長沙一。〔後漢書、光烈陰皇后紀〕恭承二明紀一。〔李白、東武吟〕恭承二鳳凰詔一、歘起雲蘿中。

【恭職】72 キョウショク　職務をつつしむ。職務に精勵する。〔吳志、黃蓋傳〕初皆怖威、夙夜恭レ職。

【恭進】73 キョウシン　謹んで奉る。〔呂維祺、恭二進孝經一疏〕奏爲三恭二進孝經本義大全一。

【恭愼】74 キョウシン　㊀つつしみ深いこと。〔魏志、趙王幹傳〕訓以二恭愼之至言一、輔以二天下之端士一。〔唐書、李元愷傳〕性恭愼、未二嘗敢語レ人。㊁諡號。㋑清、許庚身(10－35298・・250)の諡。㋺清、和舜武(2－3490・・437)の諡。

【恭人】75 キョウジン　㊀つつしみぶかい人。〔詩、小雅、小宛〕溫溫恭人、如レ集二于木一。〔詩、大雅、抑〕溫溫恭人、惟德之基。〔盧諶、贈二劉琨一詩〕溫溫恭人、愼レ終如レ初。㊁婦人の封號。宋の政和中、詔して婦人を「何々君」と稱するのを廢し、中散大夫以上の夫人を恭人と稱した。元は六品官の夫人を恭人に封じ、明・清は四品官の夫人を恭人に封じた。〔潛確類書〕宋政和年、詔二命婦一列二郡縣一以稱レ君、蓋非二婦道且等級無レ別、於レ是定レ制、執政以上封二夫人一、尙書以上封二淑人一、侍郎以上封二碩人一、大中大夫以上封二令人一、中散大夫以上封二恭人一、朝奉大夫以上封二宜人一、朝奉郎以上封二安人一、通直郎以上封二孺人一。〔續通典、職官、內官〕元一品封二國夫人一、二品封二郡公夫人一、三品封二郡侯夫人一、四品封二郡君一、五品封二縣君一、六品封二恭人一、七品封二宜人一。〔明會典、吏部〕洪武二十六年定レ制、一品封二贈夫人一、二品封二贈夫人一、三品封二贈淑人一、四品封二贈恭人一、五品封二贈宜人一、六品封二贈安人一、七品封二贈孺人一。〔清會典、吏部〕凡命

婦之號有レ九、一曰一品夫人、二曰夫人、三曰淑人、四曰恭人、五曰宜人、六曰安人、七曰孺人、八曰八品孺人、九曰九品孺人。㊂おくさま。夫人の尊稱。〔水滸傳、三十二回〕那婦人道、告二大王一、侍兒不二是花知寨的渾家一、宋江道、儞恰纔說、是清風寨知寨的恭人。㊃從順な人。恭多士(136)を見よ。

【恭正】76 キョウセイ　つつしみ深く正しい。〔史記、仲尼弟子傳、仲由〕恭正以靜、可二以報一レ上。

【恭靖】77 キョウセイ　諡號。㊀後唐、崔協(4―8178‥69)の諡。㊁明、姚廣孝(3―6202‥152)の諡。㊂明、何眞(1―511‥115)の諡。㊃明、賈銓(10―36755‥89)の諡。㊄明、蔡國珍(9―31818‥178)の諡。㊅明、蔣瑤(9―31820‥10)の諡。㊆明、蔣用文(9―31820‥220)の諡。㊇明、朱希周(6―14424‥701)の諡。㊈明、陳其學(11―41698‥723)の諡。㊉明、李敏(6―14459‥695)の諡。⑪明、林泮(6―14451‥209)の追諡。⑫明、王璟(7―20823‥327)の諡。⑬清、佛尼埒(1―517‥223)の諡。

〖恭靖王〗78 キョウセイワウ　宋、趙元份(10―37171‥523)の諡。

〖恭靖先生〗79 キョウセイセンセイ　元、尤文(4―7543‥37)の私諡。

【恭節】80 キョウセツ　㊀うやうやしい態度。丁寧な態度。〔呂覽、審應〕公子沓相レ周、申向說レ之而戰、云云、戰者、不レ習也、使二人戰一者、嚴駔也、意者、恭節而人猶戰、任不レ在二貴者一矣、故人雖三時有二自失者一、猶無三以易二恭節一、自失不レ足二以難一。㊁諡號。㋑宋、馮世寧(12―44579‥249)の諡。㋺明、周怡(2―3441‥4)の諡。㋩明、段高選(6―16619‥70)の諡。㋥明、陳純德(11―41698‥991)の追諡。㋭明、王廷(7―20823‥817)の諡。

【恭摺】81 キョウセフ　謹しんでしたためる。

【恭占】82 キョウセン　清、夏策謙(3―5720‥311)の字。

【恭先】83 キョウセン　恭敬のさきがけ。恭敬の先達・模範。一說に、人から恭敬せられ先達とせられる者。〔書、洛誥〕作二周恭先一。〔傳〕爲下周家見二恭敬一之王、後世所中推先上也。〔蔡傳〕人君恭以接レ下、以レ恭而倡二後主一也。

【恭祖】84 キョウソ　㊀字號。㋑後漢、陶謙(11―41705‥61)の字。㋺後漢、巴肅(4―8745‥52)の字。㋩南朝宋、朱修之(6―14424‥827)の字。㊁北周、盧誕(8―23050‥126)の一名。

【恭素】85 キョウソ　清、金始桓(11―40152‥1269)の私諡。

【恭宗】86 キョウソウ　後漢、安帝(3―7072‥358)の廟號。

【恭遜】87 キョウソン　つつしみへりくだる。つつしみ深く謙遜なこと。〔逸周書、寶典解〕恭遜是謂二容德一。〔管子、小稱〕修二恭遜敬愛一。〔唐書、韓弘傳〕性恭遜、不下以二富貴一自處上。

【恭帶】88 キョウタイ　周の武王の帶の銘に戒愼必恭とあることから、轉じて、恭敬な人の帶、又、恭敬な態度を持する人・臣下。〔大戴禮、武王踐阼〕帶之銘曰、火滅修レ容、愼戒必恭、恭則壽。〔謝莊、侍二東耕一詩〕肅鑣奉二晨發一、恭帶廁二朝聞一。

【恭道】89 キョウダウ　宋、晁謙之(5―13889‥14)の字。

【恭端】90 キョウタン　明、曾同亨(5―14299‥228)の諡。

【恭仲】91 キョウチユウ　晉、陸喜(11―41708‥54)の字。

【恭呈】92 キョウテイ　恭しく呈する。〔清會典事例、禮部、垂簾聽政、聽政事宜〕將二歷代帝王政治、及先史垂簾事蹟一、著二南書房上書房翰林等一、擇下其可レ爲二法戒一者上、據レ史直書、簡明注釋、彙爲二一冊一、恭呈二慈覽一。

【恭定】93 キョウテイ　諡號。㊀後魏、楊遁(6―15112‥304)の追諡。㊁明、年富(4―9168‥236)の諡。㊂明、潘恩(7―18236‥9)の諡。㊃明、馮從吾(12―44579‥237)の諡。㊄清、閻循琦(11―41379‥81)の諡。㊅清、郝惟訥(11―39430‥36)の諡。㊆清、吳紹詩(2―3365‥713)の諡。

【恭帝】94 キョウテイ　廟號。㊀東晉、最後の帝。司馬德文(2―3257‥351)を見よ。㊁西魏、第四代の帝。拓跋廓(5―11958‥33)を見よ。㊂隋、第三代の帝。楊侑(6―15112‥10)を見よ。㊃隋の越王。楊侗(6―15112‥302)を見よ。㊄五代周の第三代の帝。郭宗訓(11―39474‥368)を見よ。㊅南宋、第七代の帝。趙㬎(10―37171‥194)を見よ。㊆安南黎朝第十代の王。名は椿。昭宗の弟。莫登庸に弑せられ、黎氏が亡んだ。〔欽定越史通鑑綱目、二十七〕。

【恭奴】95 キョウド　匈奴をいふ。王莽が天鳳二年に匈奴を改めて恭奴といひ、單于を善于といふ。〔漢書、匈奴傳下〕天鳳二年、云云、因諭說改二其號一、號二匈奴一曰二恭奴一、單于曰二善于一、賜二印綬一。

【恭凳】96 kung^{1} têng^{4}　便器をいふ。

【恭德】97 キョウトク　うやうやしく愼しみ深い德。共德。〔國語、晉語九〕有二恭德一以升在レ位。

【恭房】98 kung^{1} fang^{2}　便所。厠。

【恭伯】99 キョウハク　明、盛萬年(8―23005‥229)の字。

【恭卑】100 キョウヒ　恭しい態度でへりくだる。恭讓。〔梁昭明太子、相逢狹路閒詩〕容止同二規矩一、賓從盡二恭卑一。

【恭筆】101 kung^{1} pi^{3}　細密に畫いた彩色畫。工筆(4―8714‥105)に同じ。

【恭敏】102 キョウビン　㊀つつしみ深くさとい。〔易林、坎之第二十九、屯〕重耳恭敏、遇レ讒出處、北奔二戎狄一。〔元史、姚樞傳〕恭敏而儉勤。㊁諡號。㋑宋、何鑄(1―511‥156)の諡。㋺宋、薛向(9―32123‥31)の諡。㋩宋、宋昇(3―7078‥137)の諡。㋥宋、李端愨(6―14459‥1698)の諡。㋭明、薛三才(9―32123‥182)の諡。㋬明、馬森(12―44572‥332)の諡。㋣明、白圭(8―22678‥333)の諡。㋠明、廖莊(4―9464‥19)の諡。㋷明、李汝華(6―14459‥1485)の諡。

【恭愍】103 キョウビン　諡號。㊀宋、唐重(2―3709‥271)の諡。㊁宋、程迪(8―25081‥108)の諡。㊂明、鍾同(11―40672‥93)の諡。㊃明、陳良謨(鄞の人)(11―41698‥1304)の諡。

〖恭愍王〗104 キョウビンワウ　高麗第三十一代の王。王顓(7―20823‥705)を見よ。

【恭武】105 キョウブ　三國吳、孟宗(3―6960‥182)の字。

【恭復】106 キョウフク　明、顧道(12―43689‥138)の字。

【恭文】107 キョウブン　㊀後漢の孝安帝の陵(恭陵)と、靈帝の陵(文陵)とをいふ。〔張載、七哀詩〕恭文遙相望、原陵鬱膴膴。〔注〕善曰、范曄後漢書曰、葬二孝安帝于恭陵一、又曰、葬二靈帝于文陵一。㊁北齊、鄭述祖(11―39647‥441)の字。

【恭聞】108 キョウブン　つつしんできく。〔逸周書、小開解〕汝恭聞不レ命、賈粥不レ讐、謀二念之一哉。

【恭甫】109 キョウホ　字號。㊀宋、許應龍(10―35298‥246)の字。㊁宋、羅天酉(9―28397‥387)の字。㊂明、史際(2―3249‥71)の字。㊃清、陳壽祺(11―41698‥964)の字。㊄清、劉壽曾(2―2224‥1046)の字。

【恭奉】110 キョウホウ　謹しんで奉ずる。〔清會典事例、禮部、大祀、列聖升配〕順治五年冬至、恭奉二太祖武皇帝一、配二饗圜丘一。

【恭懋】111 キョウボウ　清、黃愼(12―47926‥520)の字。

【恭睦】112 キョウボク　うやまひしたしむ。〔釋名、釋書契〕牘、睦也、手執レ之以進見、所三以爲二恭睦一也。

【恭穆】113 キョウボク　諡號。㊀後魏、朱瑞(6―14424‥406)の諡。㊁北齊、高季式(12―45313‥1085)の諡。㊂明、余懋學(1―515‥127)の追諡。

【恭本】114 kung^{1} pen^{3}　正しい。正道。公本。

【恭密】115 キョウミツ　つつしみ深く注意深いこと。〔北史、張祐傳〕祐性恭密、出二入機禁一二十餘年、未二嘗有一レ過。

【恭命】116 キョウメイ　敬しんで命に從ふ。〔書、甘誓〕左不レ攻二于左一、汝不レ恭レ命、右不レ攻二于右一、汝不レ恭レ命、御非二其馬之正一、汝不レ恭レ命。

【恭明】117 キョウメイ　漢、支謙(5―13061‥42)の字。

【恭默】118 キョウモク　つつしみ深くしづか。つつしんで默つてゐる。〔書、說命上〕恭默思レ道。〔蔡傳〕恭敬淵默、以思二治道一。〔嵇康、幽憤詩〕奉レ時恭默。〔白居易、策林、六十七、議二釋敎一〕先王有二恭默無爲之道在一。

【恭約】119 キョウヤク　つつしみ深くて行にしまりがあること。〔後漢書、馮勤傳〕勤愈恭約盡レ忠、號稱二任職一。

【恭裕】120 キョウユウ　諡號。㊀宋、趙德文(10―37171‥822)の諡。㊁明、朱恬焯(6―14424‥944)の諡。

【恭容】121 キョウヨウ　つつしみぶかいすがた。うやうやしい態度。恭姿。

【恭老】122 キョウラウ　老人をうやまふ。〔孔子家語、弟子行〕恭レ老卹レ幼。

【恭覽】123 キョウラン　恭しい態度で見る。つつしんで見る。〔蘇軾、上二張太保一書〕恭覽涕泗、不レ知レ所レ云。

【恭履】124 キョウリ　唐、楊淩(6―15112‥385)の字。

【恭陵】125 キョウリヨウ　陵の名。㊀後漢、安帝の陵。河南省

洛陽縣の東北。〔後漢書、安帝紀〕夏四月己酉、葬二考安皇帝于恭陵一。〔注〕在二今洛陽東北二十七里、伏侯古今注曰、陵山周二百六十丈、高十五丈。〔河南通志〕恭帝陵、在二河南府城東南五十里一。❷北周の靜帝の陵。今、其の地は詳かでない。〔周書、靜帝紀〕謚曰二靜皇帝一、葬二恭陵一。❸金、太宗の陵。河北省房山縣の西北の大房山。〔金史、太宗紀〕天會十三年三月乙酉、葬二和陵一、皇統四年、改號二恭陵一、貞元三年十一月戊申、改葬二于大房山一、仍號二恭陵一。

【恭禮】126（キヨウレイ）　禮儀を尊ぶ。又、式典を重んずる。〔謝起宗、齊太廟樂歌〕恭レ禮尊レ國。

【恭烈】127（キヨウレツ）　五代吳、周本（**2－3441**‥478）の謚。

【恭錄】128（キヨウロク）　つつしんで記錄する。〔清會典事例、禮部、大祀、列聖升配〕嗣後郊壇配位、歷二億萬年一、總以二三祖五宗一爲レ定、並恭錄二皇祖硃諭首條及此次諭旨一。

【恭和】129（キヨウワ）　明、周壽（**2－3441**‥260）の謚。

【恭王】130（キヨウワウ）　謚號。❶漢、景帝の子。魯王。劉餘（**2－2224**‥628）を見よ。❷後漢、光武帝の子。東海王。劉彊（**2－2224**‥178）を見よ。❸後漢、光武帝の族兄春陵康侯敞の子。城陽王。劉祉（**2－2224**‥320）を見よ。

【恭親王】131（キヨウシンワウ）　清、奕訢（**3－5922**‥11）の封號。

【恭仁宮】132（クニノミヤ）　聖武天皇の宮號。宮址は山城國木津町に在る。

【恭世子】133（キヨウセイシ）　晉の獻公の太子の申生をいふ。恭は一に共に作る。〔禮、檀弓上〕申生受レ賜而死、再拜稽首乃卒、是以爲二恭世子一也。〔釋文〕共、音恭、本亦作レ恭。〔國語、晉語三〕惠公卽位、出二恭世子一而改葬レ之、臭達二於外一。〔注〕恭世子、申生也、獻公時、申生葬、不レ如レ禮、故改葬レ之。

【恭聖侯】134（キヨウセイコウ）　北齊の時、孔子の子孫の孔長を封じて恭聖侯といふ。〔北史、齊文宣皇帝紀〕改二封崇聖侯孔長一爲二恭聖侯一、邑一百戶、以奉二孔子祀一。

【恭則壽】135（キヨウナレバスナハチイノチナガシ）　恭敬の心を保持して居れば、自然に壽命が長くなる。〔大戴禮、武王踐阼〕帶之銘曰、火滅修レ容、戒愼必恭、恭則壽。

【恭多士】136（キヨウタシ）　從順な人々。君主に對して恭順な態度を以て事へる人々。恭人衆士。〔書、多方〕惟夏之恭多士、大不レ克三明保二享于民一。〔傳〕桀之所謂恭人衆士。

【恭歎弓】137（キヨウテンキユウ）　釣をいふ。魏人の語。〔康熙字典〕歎、字彙補、魏人呼レ釣曰二恭歎弓一。

【恭伯姬】138（キヨウハクキ）　春秋、魯の宣公の女、成公の妹、宋の恭公の妻。恭公の卒後は寡居してゐた。景公の時、火事が起きたので、左右のものが皆避けることを勸めたが、伯姬は、婦人は保傅と倶にせざれば、夜、堂を下らずといつて婦人の義を守り、遂に燒け死んだといふ。〔左氏、襄、三十〕・〔列女傳、貞順傳〕。

【恭僕房】139（キヨウボクバウ）　便所と雇人の部屋。

【恭聖仁烈】140（キヨウセイジンレツ）　宋、楊后（**6－15112**‥151）の謚。

【恭請聖安】141（キヨウセイセイアン）　皇帝の御機嫌を伺ふ。

【恭忠親王】142（キヨウチユウシンワウ）　清、奕訢（**3－5922**‥11）の封號。

【恭門居士】143（キヨウモンコジ）　宋、米芾（**8－26832**‥84）の號。

【恭思褚皇后】144（キヨウシチヨクワウゴウ）　晉、褚后（**10－34457**‥17）の謚。

【恭則遠二於患一】145（キヨウナレバスナハチクワンニトホザカル）　つつしみ深くしてゐれば、災難を免れる。〔孔子家語、賢君〕恭則遠二於患一、敬則人愛レ之。

【恭近二於禮一遠二恥辱一】146（キヨウレイニチカケレバチジヨクニトホザカル）　人に接するには恭敬の態度を以てすべきであるが、度が過ぎると卑屈になり、人に輕蔑せられる、禮に適合するやうな恭敬を以てすれば、恥辱を受けることがないといふ意。〔論語、學而〕有子曰、信近二於義一、言可レ復也、恭近二於禮一、遠二恥辱一也。〔集注〕恭、致レ敬也、致レ恭而中二其節一、則能遠二恥辱一矣。

【⿱共心】
10597

キヨウ

恭（**4－10596**）の本字。〔康熙字典〕⿱共心、說文、恭本字。

【㤨】
10598

㊀キヨウ ク　〔集韻〕古勇切　腫

㊁キヨウ ク　〔集韻〕居容切　冬

㊂コウ グ　〔集韻〕胡公切　東

小篆

㊀㊁㊂**をののく。おそれる。**〔說文〕㤨、戰栗也、从レ心共聲。〔集韻〕㤨、博雅、懼也。

【㤧】
10599

コウ グ　〔集韻〕胡溝切　尤

やはらぐさま。〔集韻〕㤧、和解皃。

【恮】
10600

㊀セン　〔集韻〕逡緣切　先

㊁セン　〔集韻〕子眷切　霰

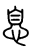
㊂シユン　〔集韻〕蹤倫切　眞

小篆

㊀㊁㊂**つつしむ。**〔說文〕恮、謹也、从レ心全聲。

【息】
10601

シヨク ソク　〔集韻〕悉卽切　職　T一　hsi²


小篆

❶**いき。いきする。**呼吸する。あへぐ。〔說文〕息、喘也、从二心自一。〔段注〕人之氣急曰レ喘、舒曰レ息。〔增韻〕息、一呼一吸爲二一息一。〔詩、大雅、桑柔〕如二彼逆一レ風、〔箋〕使下人唈然如中鄉二疾風一不上レ能レ息也。〔疏〕息、謂二喘息一。〔論語、鄕黨〕屛レ氣、似二不レ息者一。〔皇疏〕息、亦氣也。〔漢書、揚雄傳〕尙不二敢惕息一。〔注〕師古曰、息、出入氣也。〔漢書、蘇武傳〕半日復息。〔注〕師古曰、息、謂レ出レ氣也。〔漢書、司馬遷傳〕視二徒隸一、則心惕息。〔注〕師古曰、息、喘息也。❷**一呼吸。**〔史記、陳餘傳〕不レ容レ息。〔注〕索隱曰、不レ容二一喘息頃一也。❸**うむ。又、うまれる。**孳（**3－7011**）に通ず。〔說文通訓定聲〕息、叚借爲レ孳。〔廣雅、釋詁一〕息、生也。〔集韻〕息、一曰、生也。〔易、革〕水火相息。〔注〕息者、生變之謂也。〔史記、高帝紀〕臣有二息女一。〔注〕正義曰、息、生也。〔史記、孔子世家〕自二大賢之息一。〔注〕索隱曰、息者、生也。❹**そだつ。そだてる。**〔易、革〕水火相息。〔虞注〕息、長也。〔孟子、告子上〕其日夜之所レ息。〔注〕息、長也。〔荀子、大略〕有國之君、不レ息二牛羊一。〔注〕息、繁育也。❺**のびる。**ひろがる。〔釋名、釋言語〕息、塞也、言二物滋息塞滿一也。〔漢書、五行志下之下〕不レ能則炎息而禍生。〔注〕師古曰、息、謂二蕃滋一也。❻**肥えてゐる。**よい。〔大戴禮、易本君〕息土之人、美。〔注〕息土、謂二衍沃之田一。❼**こども。**兒子。子息。〔正字通〕息、子息、子、吾所レ生者、故曰レ息。〔戰國、趙策〕老臣賤息舒祺。〔尸子、下〕棄二黎老之言一、而用二姑息之謀一。❽**利子。**〔史記、孟嘗君傳〕貸レ錢者、多不レ能レ與二其息一。〔注〕索隱曰、息、猶レ利也。❾**いこふ。**やすむ。寋（**4－11037**）に通ず。〔說文通訓定聲〕息、叚借爲レ寋。〔廣雅、釋詁一〕息、安也。〔廣雅、釋言〕息、休也。〔集韻〕息、一曰、止也。〔詩、召南、殷彼靁〕莫二敢遑レ息。〔傳〕息、止也。〔詩、小雅、小明〕無二恒安息一。〔傳〕息、猶レ處也。❿**やすめる。**しづめる。〔左氏、昭、八〕臣必致レ死、禮以息二楚國一。〔注〕息、寧靜也。⓫**ねぎらふ。**〔儀禮、鄕飲酒禮〕乃息二司正一。〔注〕息、勞也。⓬**とまり。**やどり。たてば。〔周禮、秋官、野廬氏〕野之道路宿息井樹。〔注〕宿息、廬之屬、賓客所レ宿及晝息者也。

⓭**やむ**。やめる。とまる。とめる。熄(**7－19287**)に通ず。〔說文通訓定聲〕息、叚借爲㆑熄。〔禮、樂記〕著不㆑息者天也。〔注〕息、猶㆓休止㆒也。〔管子、七法〕猶㆓左書而右息㆑之。〔注〕息、止也。〔戰國、秦策〕戰攻不㆑息。〔注〕息、休也。〔戰國、秦策〕甘茂欲㆑息㆑兵。〔注〕息、休也。⓮**きえる**。つきる。〔禮、樂記〕使㆓其文足㆑論而不㆑息。〔注〕息、猶㆑銷也。〔淮南子、覽冥訓〕水浩洋而不㆑息。〔注〕息、消。⓯**ほろびる**。ほろぼす。〔易、革〕水火相息。〔馬注〕息、滅也。〔禮、中庸〕其政息。〔注〕息、猶㆑滅也。〔呂覽、審分〕姦僞邪辟之塗、可㆓以息㆒。〔注〕息、滅也。⓰**すてる**。〔史記、周紀〕一發不㆑中者、百發盡息。〔注〕索隱曰、息、猶㆑弃。⓱**かへる**。〔方言、十三〕息、歸也。〔廣雅、釋言〕息、返也。⓲**腫物**。**あまじし**。瘜(**7－22391**)に通ず。息肉(83)を見よ。〔素問、病能論〕夫癰氣之息者、宜㆓以㆑鍼開除去㆑之。〔注〕息、頂也、死肉也。〔靈樞經、邪氣臟腑病形〕若㆓鼻息肉不㆑通。⓳**語調を整へる助辭**。思(**4－10462**)に通ず。〔說文通訓定聲〕息、叚借爲㆑思。〔詩、周南、漢廣〕南有㆓喬木㆒、不㆑可㆑休息、漢有㆓游女㆒、不㆑可㆑求思。〔釋文〕休息、本或作㆓休思㆒。⓴古は諰(**10－35820**)に作る。〔集韻〕息、古作㆑諰。㉑**周の國名**。姬姓。侯爵。後、楚に滅ぼさる。故城は河南省息縣の西南。一說に、息縣の北。鄎(**11－39555**)に通ず。〔左氏、隱、十一〕息侯伐㆑鄭。〔注〕息國、汝南新息縣。〔釋文〕息、一本作㆑鄎。〔左氏、襄、十四〕楚子如㆑息、以㆑食入享、遂滅㆑息。㉒**姓**。〔萬姓統譜〕息、姓苑云、襄陽人、又鄎侯之後、子孫以㆑國爲㆑氏、望出㆓襄陽㆒。

名乘　オキ。キ。オキ(姓)。

解字　會意。心と自との合字。自は鼻。心臟から鼻にぬけるいきの意。

【息菴】1（ソクアン）　宋、葉武子(**9－31387**‥256)の號。

〔息菴老人〕2（ソクアンラウジン）　宋、郭知運(**11－39474**‥376)の號。

【息游】3（ソクイウ）　清、陸愚卿(**11－41708**‥296)の號。

〔息游草堂〕4（ソクイウサウダウ）　清、李良年(**6－14459**‥1993)の室名。

【息悒】5（ソクイフ）　ためいき。〔司馬相如、長門賦〕舒㆓息悒㆒而增㆑欷兮、蹝履起而彷徨。〔注〕善曰、息、歎息也、悒、於悒也。

【息耘】6（ソクウン）　清、李敬謨(**6－14459**‥1097)の號。

【息景】7（ソクエイ）　息影に同じ。〔薛季宣、春愁詩〕日中之景君莫㆑避、處㆑陰息㆑景景不㆑留。〔國朝漢學師承記、黃宗羲〕宗羲雖㆓杜㆑門息㆑景、然位在㆓列卿㆒。

【息影】8（ソクエイ）　影を休ませる。留つて休息する。閒居する。息景をも倂看。〔梁簡文帝、馬槊賦序〕受㆓連錢㆒而息㆑影、不㆑畏㆓衣香㆒。〔蔣防、惜㆓分陰㆒賦〕事且異㆓於秉㆑燭。理寧同㆓於息㆑影。

〔息影菴〕9（ソクエイアン）　清、蔣坦(**9－31820**‥79)の號。

【息宴】10（ソクエン）　いこひやすむ。休息。息偃。息燕。〔班固、西都賦〕乘㆑茵步㆑輦、惟所㆓息宴㆒。〔唐玄宗、鶺鴒頌〕桂宮蘭殿、唯所㆓息宴㆒。

【息偃】11（ソクエン）　休み臥す。いこひやすむ。〔詩、小雅、北山〕或息偃在㆑牀、或不㆑已㆓于行㆒。〔後漢書、陳蕃傳〕諸君奈何委㆓荼蓼之苦㆒、息偃在㆑牀。〔韓愈、贈㆓別元十八協律㆒詩〕惜乎吾無㆑居、不㆑得㆓留息偃㆒。

【息燕】13（ソクエン）　❶やすみくつろぐ。休息。燕息。〔周禮、考工記、梓人〕張㆓獸侯㆒、則王以息燕。❷巢にいこふつばめ。〔蘇頲、山驛閑臥卽事詩〕息燕歸㆑簷靜、飛花落㆑院閒。

【息園】14（ソクエン）　字號。❶明、顧璘(**12－43689**‥203)の號。❷清、齊召南(**12－48560**‥304)の號。

【息翁】15（ソクヲウ）　清、方世擧(**5－13620**‥561)の字。

【息柯】16（ソクカ）　清、楊翰(**6－15112**‥65)の號。

〔息柯居士〕17（ソクカコジ）　清、楊翰(**6－15112**‥65)の號。

【息駕】18（ソクガ）　車をとどめる。〔列子、說符〕息㆓駕乎河梁㆒而觀㆑焉。

【息交】19（ソクカウ）　世人と交際をやめる。〔陶潛、歸去來辭〕歸去來兮、請息㆑交以絕㆑游。

【息秏】20（ソクカウ）　息耗に同じ。

【息耗】21（ソクカウ）　❶ふえることとへること。息秏。消長。〔韓非子、解老〕治㆑鄉治㆑邦莅㆓天下㆒者、各以㆓此科㆒、適㆓觀息耗㆒、則萬不㆑失㆑一。〔史記、天官書〕故候㆓息耗㆒者、入㆓國邑㆒、視㆓封疆田疇之正治、城郭室屋門戶之潤澤㆒。〔漢書、天文志〕故候㆓息耗㆒者、入㆓國邑㆒視㆓封畺田疇之整治、城郭室屋門戶之潤澤㆒。〔王先謙補注〕息耗卽盈虛消息之謂、息、生長也、耗、虛損也、董仲舒傳、察㆓天下之息耗㆒、後漢書竇后紀、家既廢壞、數呼㆓相工㆒問㆓息耗㆒、是其義也。〔漢書、董仲舒傳〕論㆓政事之得失㆒、察㆓天下之息耗㆒。〔注〕師古曰、息、生也、耗、虛也。❷よいこととわるいこと。吉凶。善惡。良否。〔大戴禮、易本命〕息土之人美、耗土之人醜。〔注〕息土、謂㆓衍沃之田㆒、耗土、謂㆓疏薄之地㆒。〔後漢書、竇皇后紀〕數呼㆓相工㆒問㆓息耗㆒。〔注〕息耗、猶㆑言㆓善惡㆒也。❸おとづれ。消息の義。〔唐書、五行志〕翰林院有㆑鈴、夜中文書入、則引㆑之以代㆓傳呼㆒、長慶中、河北用㆑兵、夜輒自鳴、與㆓軍中㆒息耗相應。

【息機】22（ソクキ）　機心を絕つ。名利の心を拋ち去る。〔揭傒斯、楚山秋晚詩〕豈無㆓賦客能招㆑隱、亦有㆓息翁醉息㆑機。

〔息機園〕23（ソクキエン）　清、廖元度(**4－9464**‥47)の室名。

【息嬀】24（ソクギ）　息侯の夫人。嬀は夫人の姓。息夫人(112)を見よ。〔左氏、莊、十〕息嬀將㆑歸過㆑蔡、蔡侯曰、吾姨、止而見㆑之、弗㆑賓、息侯聞㆑之怒。〔韋莊、庭前桃詩〕無㆑言如㆑伴㆓息嬀愁㆒。

【息休】25（ソクキウ）　やすむ。〔宋史、樂志十二〕天地閉藏、農且息休。

【息饗】26（ソクキヤウ）　ねぎらひ馳走する。〔顏延之、應㆑詔觀㆓北湖田收㆒詩〕息饗報㆓嘉歲㆒、通急戒㆓無年㆒。〔注〕善曰、禮記曰、蜡者、索也、歲十二月、合㆓聚萬物㆒而索㆓饗之㆒、黃衣黃冠、息㆓田夫㆒也。

【息琴】27（シキム）　地名。印度から西藏に通ずる要道にあたり、ネパールとブータンとの中間に介在し、もと酋長國。西曆一八九〇年から英國の保護に屬した。哲孟雄ともいひ、西金・錫金ともかく。Sikkim の音譯。

【息銀】28（ソクギン）　❶利息の金。利息。〔齊家寶要〕倂㆓每年息銀㆒計㆑之。❷息錢(67)の❷に同じ。〔清會典事例、戶部、錢法〕按、月一分生㆑息、每年所㆑得息銀一萬八千兩、遇㆑閏加增、除㆓抵給料銀㆒外、餘銀交㆑部。

【息禍】29（ソククワ）　わざはひを止める。息災。〔漢書、蒯通傳〕非㆓天下賢聖㆒、其勢固不㆑能㆑息㆓天下之禍㆒。

【息關】30（ソククワン）　清、蔡方炳(**9－31818**‥229)の號。

〔息關學者〕31（ソククワンガクシヤ）　清、蔡方炳(**9－31818**‥229)の號。

【息化】32（ソクゲ）　教化することをやめる。〔輔行〕圓音教風、息㆑化歸㆑寂。

【息警】33（ソクケイ）　警戒することをやめる。警備を解く。平穩無事になること。〔北史、蠕蠕傳〕孝莊詔曰、陰山息㆑警、弱水無㆑塵。

【息卷】34（イキマク）　怒つて氣息をはげしくすること。勢を張ること。

【息肩】35（ソクケン）　❶荷をおろしてかたをやすめる。つかれをやすめる。責任をおろす。〔左氏、襄、二〕子駟請㆑息㆓肩于齊㆒。〔注〕欲㆑避㆓楚役㆒、以㆓負擔㆒喩。〔後漢書、光武紀下〕天下疲耗、思㆓樂息㆑肩。〔袁宏、三國名臣序贊〕撫㆓翼桑梓㆒、息㆓肩江表㆒。〔注〕良曰、息㆑肩、謂㆑安㆑志也。❷肩で息をする。〔素問、陰陽別論〕爲㆓息賁㆒者、死不㆑治。〔注〕爲㆓喘急息肩㆒者、死不㆑治。

【息軒】36（ソクケン）　字號。❶金、楊邦基(**6－15112**‥742)の號。❷清、宋照(**3－7078**‥150)の號。❸安井衡の號。安井息軒(**3－7072**‥595)を見よ。

【息遣】37（イキヅカヒ）　呼吸の狀態。いきざし。

【息縣】38（ソクケン）　縣名。❶後漢、置く。今缺く。河南省息縣の地。〔讀史方輿紀要、河南、汝寧府、光州、息城〕縣北三十里、古息國也、左傳隱十一年、息侯伐㆑鄭、鄭伯敗㆑之、莊十四年、滅㆓於楚㆒、漢初、於㆑此置㆓息縣㆒。❷明、置く。今、河南省潢川縣の西北。淮河の北岸。〔讀史方輿紀要、河南、汝寧府、光州、息縣〕明初、改㆑州爲㆑縣、屬㆓潁州㆒。〔清史稿、地理志〕河南、光州直隸州、縣四、息。

【息言】39（ソクゲン）　無言(**7－19113**‥276)に同じ。〔王巾、頭陀寺碑文〕是以掩㆓室摩竭㆒、用啓㆓息言之

津。〔注〕良曰、訾斂二心於摩竭之國一、用開二不言之道一也。

【息姑】40（ソクコ）　春秋、魯の隱公（12－46013··145）「の名。

【息穀】41（ソクコク）　官の穀物を人民に貸し、秋の收穫時に利息を加へて還すこと。〔六部成語、戸部、息穀、注解〕息、利息也、官穀貸二之於民一、秋收時、加レ息還レ庫。

【息災】42（ソクサイ）　❶［佛］身の災危を止めること。眞言の修法に息災・增益・降伏・敬愛の四種がある。〔深密經、一〕息二一切衆生一切災橫一。〔大日經疏、三〕於二息災法中一、即能以二此方便一增益降伏。❷身に恙ないこと。無事。〔保元物語、爲朝流罪〕但し息災にては後惡しかりなんとて、肘を拔きて伊豆の大島へ流されけり。

〖息災壇〗43（ソクサイダン）　［佛］息災の法を修する護摩壇。

〖息災法〗44（ソクサイホフ）　［佛］息災の御修法で、眞言四種壇法の第一。天變・地異・兵火・饑饉・疾病・橫死等の災害を消滅する法。〔補陀落海軌〕息災法用二佛部尊等一、是故有二五智佛一。

〖息災延命〗45（ソクサイエンメイ）　［佛］災を息め命を延す。又、息災法と延命法。眞言四種の修法中、增益法の中から別開して延命の修法を立つ。〔本朝文粹、十三、大江匡衡、於二尾張國熱田神社一供二養大般若一願文〕誓二護左府殿下一、息災延命、千秋萬歲。

【息債】46（ソクサイ）　利息を拂つて借りる金。〔舊唐書、武宗紀〕中書奏、州府得レ官者、許二連狀相保一、戸部各備二兩月加給料錢一、初官到レ任、不レ帶二息債一、衣食稍足、可レ責二清廉一。

【息齋】47（ソクサイ）　字號。❶宋、余芑舒（1－515··74）の號。❷明、吳桂森（2－3365··516）の號。❸清、許從龍（10－35298··314）の號。❹清、裴希度（10－34362··111）の號。

〖息齋先生〗48（ソクサイセンセイ）　稱號。❶宋、高閌（12－45313··112）の尊稱。❷清、任源祥（1－416··215）の尊稱。「の號。

〖息齋道人〗49（ソクサイダウジン）　元、李衎（6－14459··152）

【息子】50（ムスコ）　子息（3－6930··581）に同じ。

【息止】51（ソクシ）　やむ。終息する。絕えてしまふ。停止。休止。〔北史、江悅之傳〕悅之拜二咸陽太守一、郡中震肅、奸劫息止、政爲二雍州諸郡之最一。

【息師】52（ソクシ）　軍旅のことを止める。〔左氏、昭、五〕敝邑雖レ羸、若早脩完、其可二以息レ師。

【息日】53（ソクジツ）　江南の人の休日。九月九日をいふ。一說に、九月七日。此の日、丁新婦が姑の酷しさに堪へかねて縊死したので、江南の人が憐れんで此の日に仕事を休むといふ。〔搜神記、五〕淮南全椒縣有二丁新婦者一、年十六適二全椒謝家一、其姑嚴酷、使役有レ程、不レ如レ限者、仍便笞捶、不レ可レ堪、九月九日乃自經死、云云、江南人皆呼爲二丁姑一、九月九日不レ用レ作事、咸以爲二息日一也。

【息壤】54（ソクジヤウ）　小高く續いてゐる丘の名。無限に隆起生長する土といふ意味らしく、此の名を以て呼ばれるものは皆、神秘性を有すと考へられてゐた。息土（81）を見よ。❶帝堯時代のもの。〔山海經、海內經〕洪水滔レ天、鯀竊二帝之息壤一、以湮二洪水一。〔注〕息壤者、言四土自長息無限、故可三以塞二洪水一也、云云、漢元帝時、臨淮徐縣地、踊長五六里、高二丈、即息壤之類也。❷戰國、秦のもの。息壤在レ彼を見よ。❸湖北省江陵縣の南。〔輿地紀勝〕江陵府南門有二息壤一、元和中、裴宇牧二荊州一、掘レ之、得二石城一、與二江陵城一同、中徑六尺八寸、徙棄レ之、是年霖雨不レ止、遂埋レ之。〔鈕琇、觚賸〕息壤埋二荊州禹王宮下土中一、形方正、上銳下廣、非レ土非レ木、非レ石非レ金、其文若レ篆、清康熙元年、荊門旱、有レ人、掘得レ之、乃大雷雨、施困二於潦一、因建二禹王殿於其上一。❹湖南省零陵縣治の西南。〔柳宗元、永州龍興寺息壤記〕永州龍興寺東北陬有レ堂、堂之地隆然負二甎甓一而起者、廣四步、高一尺五寸、始之爲レ堂也、夷レ之而又高、凡持レ鍤者盡死、永州居二楚越閒一、其人鬼且禨、由レ是寺之人皆神レ之、人莫二敢夷一、史記天官書及漢志、有二地長之占一而亡二其說一、甘茂盟二息壤一、蓋其地有二是類一也、昔之異書有レ記、洪水滔レ天、鯀竊二帝之息壤一、以堙二洪水一、帝乃令三祝融殺二鯀于羽郊一、其言不經、見二今是土一也、夷レ之者不幸而死、豈帝之所レ愛耶、南方多二疫勞一者先死、則彼持レ鍤者、其死二於勞且疫一也、土烏能神、余恐下學者之至二於斯一、徵二是言一、而唯異書之信上、故記二于堂上一。❺四川省仁壽縣の西北。〔方輿勝覽〕在二籍縣南一、有レ地畝餘、踏レ之軟動。

〖息壤在レ彼〗55（ソクジヤウカシコニアリ）　秦の武王が甘茂と息壤で盟ひ、後その盟を破らうとしたとき、甘茂は、息壤在レ彼と言つて息壤を指し、初の約束に違はぬやうにと請うた。轉じて、約束を守るべしといふ意に用ひる。〔戰國、秦策〕甘茂對曰、息壤在レ彼、云云、使二甘茂攻一レ之、遂拔二宜陽一。〔史記、甘茂傳〕王迎二甘茂於息壤一、甘茂至、王問二其故一、對曰、宜陽大縣也、云云、王曰、寡人不レ聽也、請與レ子盟、卒使三丞相甘茂將レ兵伐二宜陽一、五月而不レ拔、樗里子・公孫奭果爭レ之、武王召二甘茂一、欲レ罷レ兵、甘茂曰、息壤在レ彼、王曰、有レ之、因大悉起レ兵、使二甘茂擊一レ之、斬レ首六萬、遂拔二宜陽一。

【息緒】57（イキノヲ）　❶いのち。❷息（イキ）。

【息訟】58（ソクシヨウ）　訴訟をやめる。〔任昉、王文憲集序〕使二解レ劍拜レ仇、歸レ田息一レ訟。

【息心】59（ソクシン）　心をやすんずる。〔沈約、鐘山詩應二西陽王教一〕多值二息レ心侶一、結二架山之足一。〔注〕善曰、大灌頂經曰、息レ心達二本源一、號爲二沙門一。

【息津】60（オキツ）　姓氏。〔和爾雅〕。

【息愼】61（ソクシン）　❶南方の大阜の名。八陵の一。〔爾雅、釋地〕南陵、息愼。❷東北の夷。肅愼をいふ。肅愼（9－29225··52）の❷を見よ。〔史記、五帝紀〕山戎・發・息愼。〔注〕集解曰、鄭玄曰、息愼、或謂二之肅愼一、東北夷。〔史記、周紀〕成王既伐二東夷一、息愼來賀。〔竹書紀年〕帝舜二十五年、息愼氏來朝、貢二弓矢一。

【息吹】62（イブキ）　息づき。息づかひ。いき。呼吸。

【息栖】63（イキス）　常陸國の地名。

【息迹】64（ソクセキ）　足跡をつけることをやめる。步くことをやめる。心を靜かに保つこと。〔莊子、漁父〕人有二畏レ影惡レ迹而去レ之走者一、擧レ足愈數而迹愈多、走愈疾而影不レ離レ身、不レ知二處レ陰以休レ影、處レ靜以息レ迹、愚亦甚矣。

【息切】65（イキギレ）　いきの續かないこと。呼吸が激しくて苦しいこと。

【息摺】66　hsi^2 chê^3　株券の利息を記入する帳簿。

【息錢】67（ソクセン）　❶利息のかね。利子。息銀。〔史記、孟嘗君傳〕召下取二孟嘗君錢一者上、皆會得二息錢十萬一。〔後漢書、陳重傳〕負二息錢一數十萬、責主日至。❷錢局で、錢の價格を以て錢製造の原料及び雜費を償つて餘があるとき、其の剩餘をいふ。息銀。〔清會典事例、戸部、錢法〕每年給二湯丹廠水洩銀六千兩、碌碌廠水洩銀四千兩、大水・茂麓二廠、各水洩銀一千五百兩一、在二鑄錢餘息、並銅斤餘息項下一動支。

【息喘】68（ソクゼン）　いきがはやくなる。あへぐ。せく。〔戴良、登二堯峯一詩〕息喘倚二茂松一、濟勝犯二零露一。

【息促】69（イキセマル）　いきづかひがせはしくなる。〔鹽谷青山、記二沖島廻遊事一〕手痺足軟、氣竭息促。

【息息】70（ソクソク）　息の出入の相つづくこと。やすらかに呼吸すること。〔蘇軾、沐浴啓聖僧舍與二趙德麟一邂逅詩〕酒清不レ醉休休暖、睡穩如レ禪息息勻。

【息退】71（ソクタイ）　やすみしりぞく。〔論衡、程材〕不レ見レ任則執欲二息退一。

【息男】72（ソクダン・ソクナン）　わがむすこ。己の生んだ子。せがれ。〔曹植、封二二子一爲二鄉公一謝恩章〕詔書封二臣息男苗一、爲二高陽鄉公一。

【息長】73（オキナガ）　姓氏。

〖息長川〗74（オキナガガハ）　河內國に在る川。〔拾玉藻〕。

【息杖】75（イキヅヱ）　天秤棒で物を擔ぐものが、其の天秤棒を支へて息を休める杖。

【息中】76（ソクチユウ）　清、鄭嵩（新安の人）（11－39647··「185）の字。

【息女】77（ソクヂヨ）　❶わがむすめ。己の生んだ女。〔史記、高祖紀〕臣有二息女一、願爲二季箕帚妾一。〔漢書、高帝紀上〕臣有二息女一、願爲二箕帚妾一。〔注〕師古曰、息、生也、言二己所レ生之女一。❷貴人のむすめ。〔東鑑、四十九〕文應元年五月五日、兼經公御息女。

【息除】78（ソクヂヨ）　やめのぞく。〔後漢書、黃瓊傳〕尙方御府、息二除煩費一。

【息停】79（ソクテイ）　とどまり休む。〔南史、蕭琛傳〕或入二春令一、便得二息停一。

【息調】80（ソクテウ）　❶貢賦の取立てを廢止する。〔吳志、孫灌傳〕勸以二施レ德緩一レ刑、寬レ賦息一レ調。❷呼吸がととのふ。〔雲笈七籤〕氣運息調、榮二枝葉一也。

【息土】81（ソクド）　❶肥えた土地。〔大戴禮、易本命〕息土之人美、耗土之人醜。〔注〕息田、謂二衍沃之田一。❷地盤が隆起成長する土地。息壤（54）を見よ。〔淮南子、墬形訓〕禹乃以二息土一塡二洪水一、以

爲二名山一。〔注〕息土不二耗減一、掘レ之益多、故以塡二洪水一。〔路史〕息生之土、長而不レ窮。

【息燈】82 hsi² têng¹ 消燈する。

【息肉】83 寄生肉をいふ。一種の瘤の類。〔說文〕腥、星見食レ豕、令二肉中生一小息肉一也。〔段注〕息、當レ作レ瘜、寄肉也、星見時食レ豕、每致二此疾一。〔靈樞經、邪氣藏府病形篇〕若二鼻息肉不一レ通。

【息念】84 念ひを絕つ。おもひをやめる。〔白居易、拜レ表廻閑遊詩〕達磨傳心令レ息レ念、玄元留語遣レ同レ塵。〔耶律楚材、再用レ韻贈二搏霄一詩〕息レ念如レ僧還有レ髮、忘レ形見レ客似レ無レ官。

【息馬】85 馬をやすめる。〔淮南子、天文訓〕爰止二其女一、爰息二其馬一。〔史記、秦紀、索隱述贊〕非子息レ馬、厥號秦嬴。〔張協、七命〕論最犒勤、息レ馬韜レ弦。

【息望】86 のぞみをたつ。思ひきる。〔柳宗元、寄二許京兆孟容一書〕然此已息レ望、又何以云哉。

【息謗】87 そしりを止める。〔文中子、問易〕賈瓊問、何以息レ謗、子曰、無レ辨、曰、何以止レ怨、曰、無レ爭。

【息帆】88 清、陳鐘祥（**11－41698**‥1014）の字。

【息非】89 清、沈永年（**6－17189**‥428）の號。

【息夫】90 複姓。〔通志、氏族略〕風俗通曰、息夫氏、息公子邊爲二大夫一、因氏焉、漢有二光祿大夫息夫躬一。〔萬姓統譜〕息夫、嬀姓、風俗通、息公子邊爲二大夫一、因氏焉。

〔息夫躬〕91 漢、河陽の人。字は子微。少くして博士弟子となり、春秋を學ぶ。哀帝の時、光祿大夫となり、宜陵侯に封ぜられた。〔前漢書、七十五〕。

【息婦】92 妻の卑稱。俗に媳婦に作る。〔吳曾、能改齋漫錄〕王彥輔麈史云、今之尊者、斥二卑者之婦一曰二新婦一、卑對レ尊稱二其妻一及婦人自稱者亦然、而不學者輒易レ之曰二息婦一、又曰二室婦一。

【息兵】93 戰爭をやめる。〔戰國、秦策〕甘茂欲レ息レ兵。〔沈約、從二齊武帝一瑯琊城講レ武應レ詔詩〕展レ事昌二國圖一、息レ兵由二重戰一。

【息幣】94 貨物をとどめておく。〔史記、貨殖傳〕務レ完レ物無レ息レ幣。〔注〕索隱曰、久停二息貨物一則無レ利。

【息票】95 hsi² p'iao⁴ 公債の利札。

【息烽】96 縣名。民國、置く。貴州省貴筑縣の北。明の息烽千戶所。遵義から入る通道で、四川から貴州に入る咽喉を爲す。

【息脈】97 脈搏。脈息（**9－29469**‥14）に同じ。〔鹽鐵論、輕重〕扁鵲撫二息脈一、而知三疾所二由生一。

【息民】98 人民をいこはせ安かにする。〔左氏、隱、七〕以繼レ好息レ民。〔左氏、昭、十四〕息レ民五年。〔國語、楚語下〕昭レ孝息レ民。〔史記、楚世家〕安レ兵息レ民。〔漢書、高帝紀下〕偃レ兵息レ民。

【息利】99 利子をいふ。〔唐書、食貨志五〕倍二稱息利一、非二馭官之體一。

【息畱】100 やすみとどまる。やすらふ。〔新序、雜事二〕鴻鵠嬉二遊乎江漢一、息二留乎大沼一。

【息六】101 清、李翀霄（**6－14459**‥1748）の字。

〔息六齋〕102 清、余鵬翀（**1－515**‥123）の號。

【息慮】103 思慮をとどめる。〔孔叢子、答問〕請二先生息レ慮也。

【息盧】104 字號。㊀清、顧蒓（**12－43689**‥104）の號。㊁清、陶爾穟（**11－41705**‥195）の號。

〔息盧老人〕105 清、唐孫華（**2－3709**‥472）の號。

【受レ息】106 利息を受ける。〔周禮、地官、泉府〕以二國服一爲二之息一。〔注〕王莽時、民貸以治二產業一者、但計二贏所一レ得受レ息、無レ過二歲什一一。

【得レ息】107 憩ひ休むことが出來る。〔鶡冠子、天則〕冤者得レ理、勞者得レ息、聖人之所レ期也。

【息耕軒】108 清、倪木癡（**1－792**‥70）の室名。

【息鄉侯】109 漢、樓護（**6－15430**‥33）の封號。

【息鷄草】110 草の名。飼馬草。今の滿洲黑龍江地方の羊草。〔五代史、四夷附錄第二傳〕又東行至二裹潭一、始有レ柳、而水草豐美、有二息雞草一、尤美而本大、馬食不レ過二十本一而飽。

【息賢堂】111 清、魏耕（**12－45872**‥17）の室名。

【息夫人】112 春秋、息侯の夫人をいふ。左傳には、楚の文王が息を滅して息嬀を娶つて歸り、堵敖と成王とを生んだが、一度も夫婦の閒で語を交さないので、文王が不思議に思つて問ふたところが、我は一婦人で二夫に事へてゐるから物を言はずに居るのであると對へたとあり、列女傳の貞順傳には、楚が息を討つて息君を捕へ、其の夫人を後宮に入れやうとしたところが、操を守つて遂に自殺したとある。杜牧に桃花夫人廟に題する詩があり、詩に息夫人をいふとある。〔左氏、莊、十四〕蔡哀侯爲二莘役一故、繩二息嬀一以語二楚子一、楚子如レ息、以レ食入享、遂滅レ息、以二息嬀一歸、生三堵敖及二成王一焉、未レ言、楚子問レ之、對曰、吾一婦人而事二二人一、縱弗レ能レ死、其又奚言。〔列女傳、貞順傳〕夫人者、息君之夫人也、楚伐レ息破レ之、虜二其君一使レ守レ門、將下妻二其夫人一、而納中之于宮上、楚王出遊、夫人遂出見二息君一、謂レ之曰、人生要一死而已、何至二自苦一、妾無二須臾而忘レ君也、終不下以レ身更貳醮一、生離中于地上上、豈如三死歸二于地下一哉、乃作レ詩曰、穀則異レ室、死則同レ穴、有二如不レ信、死如二皦日一、息君止レ之、夫人不レ聽、遂自殺、息君亦自殺、同レ日俱死。〔呂覽、長攻〕蔡侯曰、息夫人、吾妻之姨也、吾請爲饗三息侯與二其妻者一、而與レ王俱因而襲レ之。

【息耕草堂】113 清、黃安濤（**12－47926**‥977）の室名。

【息躬歷詆】114 蒙求の標題。前漢の息夫躬が光祿大夫給事中となり、公卿大夫を盛に詆毀した故事。〔漢書、息夫躬傳〕躬上疏歷二詆公卿大臣一曰、方今丞相王嘉、健而蓄縮、不レ可レ用、御史大夫賈延、懦弱不レ任レ職、左將軍公孫祿、司隸鮑宣、皆外有二直項之名一、內實騃不レ曉二政事一、諸曹以下、僕遬不レ足レ數、卒有二彊弩圍レ城、長戟指レ闕、陛下誰與備レ之。

【息者欲レ勞】115 樂をしてゐるものは、骨折りがしたいと思ふ。人間はとかく自己の境遇に滿足せず人を羨むといふ喩。〔呂覽、任地〕息者欲レ勞、勞者欲レ息。

【息國不言婦】116 息夫人（112）をいふ。〔剪燈新語、翠翠傳〕惟知レ奪二石家買レ笑之姬一、豈暇レ憐二息國不言之婦一。

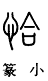
【所レ息之樹且猶不レ伐】117 周の召伯が甘棠の下に止まつて訟を聽いたところ、人民が其の裁判に感激し、德を慕つて其の樹を伐らなかつたこと。甘棠（**7－21643**‥138）の㊀を見よ。〔漢書、高惠高后文功臣表序〕世主歎二其功一、無二民而不レ思、所レ息之樹、且猶不レ伐。〔注〕師古曰、謂、召伯止二於甘棠之下一而聽レ訟、人思二其德一、不レ伐二其樹一、召南甘棠之詩、是也。

【怕】
10602

ソク　息（**4－10601**）に同じ。〔正字通〕怕、同レ息。

【恰】
10603

カフ　ケフ　〔集韻〕乞洽切　ㄑㄧㄚˋ　洽。 ch'ia⁴



小篆

㊀**ねんごろ**。心を用ひる。〔說文新附〕恰、用レ心也、从レ心合聲。

㊁**あたかも**。ちやうど。〔正字通〕恰、適當之辭。〔鄭珍說文新附考〕恰、六朝以前書無二此字一、唐人詩乃常用レ之、義爲二適當一。〔杜甫、南鄰詩〕秋水纔深四五尺、野航恰受兩三人。

㊂**鳥の啼くこゑ**。〔正字通〕恰、鳥鳴聲。

【恰要】1 ch'ia⁴ yao⁴ 丁度云云せんとする。

【恰可】2 ch'ia⁴ k'ê³ ちやうどよい。恰好（4）に同じ。

【恰巧】3 ch'ia⁴ ch'iao³ 丁度。あたかもよし。

【恰好】4 ch'ia⁴ hao³ ㊀ちやうどよい。工合がよい。をりよく。恰可。恰當。㊁㋑かたち。すがた。やうす。狀態。㋺代價が割合にやすいこと。又、價が相應であること。

【恰恰】5 ㊀鳥の啼く聲。〔杜甫、江畔獨步尋レ花詩〕留連戲蝶時時舞、自在嬌鶯恰恰啼。㊁たまたま。丁度。〔楊萬里、詩〕銀燭不レ燒渠不レ睡、梢頭恰恰挂二冰輪一。㊂やはらぐ。融和。〔陳造、春寒詩〕小杏惜レ香春恰恰、垂楊弄レ影午疎疎。〔王庭珪、詩〕火爐恰恰簾垂レ地、足了三冬讀二我書一。

〔五燈會元〕無心恰恰用、常用恰恰無。❸chʻia^4 ちやうど。

【恰恰的】6 chʻia^4 chʻia^4 tê 丁度。恰もよし。

【恰宜】7 chʻia^4 i^2 ちやうどよい。恰可(2)に同じ。

【恰遇】8 chʻia^4 yü^4 丁度遇ふ。

【恰賽】9 chʻia^4 sai^4 丁度匹敵する。

【恰纔】10 chʻia^4 tsʻai^2 丁度今しがた。

【恰子】11 chʻia^4 tzŭ 蛤の異名。恰は蛤に通ず。

【恰似】12 アタカモニタリ 丁度云々のやうである。〔杜甫、絶句漫興詩〕恰似春風相欺得。〔王安石、江寧夾口詩〕江清日暖蘆花轉、恰似春風柳絮時。

【恰似㆓菱花鏡上行㆒】13 アタカモリヨウクワキヤウジヤウヲユクニニタリ 旗などで飾つた舟が波の無い湖上を行く様子を喩へて言つた句。丁度菱の花が鏡の上を行くやうである。〔白居易、湖上招㆑客送㆑春汎㆑舟詩〕欲㆑送㆓殘春㆒招㆓酒伴㆒、客中誰最有㆓風情㆒、兩瓶箬下新求得、一曲霓裳初教成、排㆓比管絃㆒行㆓翠袖㆒、指㆓麾船舫㆒點㆓紅旗㆒、慢牽好向㆓湖心㆒去、恰似㆓菱花鏡上行㆒。

【恰如】14 アタカモゴトシ 丁度云云のやうである。〔韓愈、盆池詩〕一夜青蛙鳴到㆑曉、恰如㆓方口釣㆑魚時㆒。〔蘇軾、朝雲詩〕不㆑似楊枝別㆓樂天㆒、恰如㆔通德伴㆓伶元㆒。

【恰對】15 chʻia^4 tuei^4 丁度よく合ふ。

【恰當】16 chʻia^4 tang^1 丁度。あたかも。

【恰值】17 chʻia^4 chih^2 恰も云云の時に當り。

【恰啼】18 カフテイ 鳥の啼く聲。恰恰(5)を見よ。

【恰度】19 チヤウド あたかも。まるで。丁度。

【恰克圖】20 キヤクタ キヤフタ 地名。Kiakhta 蒙古土謝圖汗部の北。ソヴイエト聯邦、ブリヤート、モンゴル自治共和國南境の交易市場。蒙古の買賣城と相對する。

【悆】10604 🈩キフ コフ 〔集韻〕迄及切 緝。🈔カフ ケフ 〔集韻〕乞洽切 洽。

🈩🈔あふ。〔集韻〕悆、合也。〔太玄經、廓〕陰氣瘞而悆㆑之。〔注〕悆、合也。

【悦】10605 エツ 悅(4－10629)の俗字。〔字彙〕悦、俗悅字。

【⿰忄巟】10606 クワウ 慌(4－11057)に同じ。〔集韻〕慌、或作㆑⿰忄巟。

【⿰忄衣】10607 イ 〔篇韻〕烏紀切 紙

かなしむ。〔篇韻〕⿰忄衣、哀也。

【⿱心吅】10608 シン 〔集韻〕七鴆切 沁

犬猫が嘔吐する。⿱心口(2－3335)に同じ。〔集韻〕⿱心口、犬吐也、或作㆑⿱心吅。〔篇韻〕⿱心吅、猫犬吐也。

【⿰忄⿱巛山】10609 ナウ 惱(4－10856)に同じ。〔集韻〕惱、或作㆑⿰忄⿱巛山。

【⿱⿰歹㔾心】10610 エン 怨(4－10479)に同じ。〔廣韻〕⿱⿰歹㔾心、同㆑怨。

【忴】10611 カウ 怜(4－10466)の譌字。〔集韻考正〕忴、案、怜譌㆑忴。

【⿱㞷心】10612 キヤウ 狂(7－20287)に同じ。〔韻會〕⿱㞷心、同㆑狂。

【恲】10613 🈩ハウ ビヤウ 〔集韻〕披耕切 庚 🈔ヘイ ヒヤウ 〔集韻〕卑正切 敬

🈩❶**みちる**。〔玉篇〕恲、滿也。❷**なげく**。〔集韻〕恲、忼慨也。❸**いろ**。〔淮南子、齊俗訓〕禮因㆓人情㆒而爲㆓之節文㆒、而仁發㆑恲以見㆑容。〔注〕恲、色也。❹或は⿰忄朋(4－10769)に作る。〔集韻〕恲、或从㆑朋。🈔🈩の❶に同じ。

【恲性】1 ハウセイ なげく。忼慨(4－10403・・2)の❶に同じ。〔王粲、從軍詩〕夙夜自恲性、思㆑逝若㆑抽㆑縈。〔注〕翰曰、恲性、歎息也。

【恲恲】2 ハウハウ 忠直のさま。〔楚辭、東方朔、七諫、怨世〕思㆓比干之恲恲㆒兮、哀㆓子胥之愼事㆒。〔注〕恲恲、忠直之貌。

【⿱丞心】10614 ケイ 慶(4－11145)の古字。〔字彙補〕⿱丞心、古文慶字。

【⿱亘心】10615 音未詳 人名。〔字彙補〕⿱亘心、音未詳、人名、宋宗室趙不⿱亘心、字仁忠。

【⿱弦心】10616 ゲン 慈(4－10753)に同じ。〔字彙補〕⿱弦心、同㆑慈。

【悳】10617 トク 德(4－10243)に同じ。〔搜眞玉鏡〕悳、同㆑德。

【悔】10617′ クワイ 悔(4－10659)の略字。

【恓】10618 テン 恬(4－10595)に同じ。〔說文〕恓、安也、从㆑心西聲。〔段注〕各本篆作㆑恬。

【恵】10618′ ケイ 惠(4－10822)の略字。

七畫

【⿱卵心】10619 🈩ロン 〔集韻〕魯本切 阮 🈔ラン 〔集韻〕魯管切 旱

🈩🈔❶⿱卵心睡は、行にしまりがないこと。〔集韻〕⿱卵心、⿱卵心睡、無㆓廉隅㆒。〔集韻〕⿱卵心、行無㆓廉隅㆒、謂㆓之睡⿱卵心㆒。❷⿱卵心子は、肥えた人をいふ。〔楊震、丹鉛錄〕俗戲㆓體肥者㆒爲㆓⿱卵心子㆒、今亦呼㆓笨子㆒。

【恾】10620 バウ マウ 〔集韻〕謨郎切 ㄇㄤˊ mang^2 陽

❶**おそれる**。或は忙(4－10334)に作る。〔廣韻〕恾、怖也、忙、上同。❷**うれへるさま**。〔集韻〕恾、憂皃。❸**てだてを失ふさま**。〔字彙〕恾、失㆑據貌。

【恾然】1 バウゼン おそれるさま。手をつかねて爲すところを失ふさま。〔列子、楊朱〕子產恾然、無㆓以應㆒㆑之。

【恿】10621 🈩ヨウ ユ 〔集韻〕尹竦切 ㄩㄥˇ yung^3 腫 🈔トウ ツ 〔集韻〕他東切 東

🈩❶**いさむ**。**いさましい**。勈(2－2361)・勇(2－2360)に同じ。〔集韻〕勈、說文、氣也、一曰、健也、或从㆑心、亦書作㆑勇。❷**すすめる**。慂(4－11039)に通ず。〔辭海〕恿、俗借爲㆓慫慂之慂㆒。🈔**いたむ**。**又、うめく**。恫(4－10594)に同じ。〔集韻〕恫、說文、痛也、一曰、呻吟、或作㆑恿。

【悀】10622 ヨウ ユ 〔集韻〕尹竦切 腫

❶**いかる**。〔玉篇〕悀、怒也、忿也。❷**よろこ**

ぶ。〔集韻〕悀、心喜也。❸みちる。〔集韻〕悀、一曰、凡以レ器盛而滿、謂二之悀一。❹或は慂（4−10927）・㤞（4−11019）に作る。〔集韻〕悀、或从レ勇、从レ容。

【悀偪】1（ヨウフク） 滿ちること。〔方言、六〕悀偪、滿也、凡以レ器盛而滿、謂二之悀一、腹滿曰レ偪。

【悀幅】2（ヨウフク） 滿ちること。悀偪。〔廣雅、釋詁二〕悀幅、滿也。

【悁】10623

🈩エン 〔集韻〕縈緣切 先

🈔ケン 〔集韻〕規掾切 霰

ㄐㄩㄢˋ chüan⁴

小篆

籀文

🈩❶いかる。いかり。〔說文〕悁、忿也、从レ心肙聲。〔史記、魯仲連傳〕棄二忿悁之節一。❷うれへる。〔說文〕悁、一曰、悳也。〔段注〕悳、愁也。❸なやむ。痟（7−22183）に通ず。〔說文通訓定聲〕悁、叚借爲レ痟。〔謝靈運、登二臨海嶠一詩〕顧望脰未レ悁。〔注〕善曰、云云、說文曰、痟、疲也、痟、與レ悁通。❹ただしい。〔謝靈運、登二臨海嶠一詩、顧望脰未レ悁、注〕濟曰、悁、正也。❺籀文は怨（4−10770）に作る。〔集韻〕悁、籀从レ心。🈔あせる。いらだつ。〔集韻〕悁、躁急也。〔南史、齊廢帝鬱林王紀〕果以二輕悁一而至二於窮一。

【悁恚】1（エンイ） いかる。

【悁憂】2（エンイウ） いかり憂へる。悁悁（5）を見よ。

【悁邑】3（エンイフ） いかり憂へる。うれへいきどほる。邑は悒。〔後漢書、邊讓傳〕邕竊悁邑、怪下此寶鼎未レ受二犧牛大羹之和一、久在中煎熬臠割之間上。〔注〕悁邑、憂憤也。〔吳質、答二東阿王一書〕憤積二於胷臆一、懷眷而悁邑。〔注〕銑曰、悁邑、憂貌。

【悁悒】4（エンイフ） いかり憂へる。〔抱朴子、博喩〕達二乎通塞之至理一者、不三悁二悒於窮否一。

【悁悁】5（エンエン） ❶憂へ悲しむさま。〔詩、陳風、澤陂〕寤寐無レ爲、中心悁悁。〔傳〕悁悁、猶二悒悒一也。〔張衡、思玄賦〕悲二離居之勞一レ心兮、情悁悁而思レ歸。〔注〕向曰、悁悁、憂心也。〔王褒、洞簫賦〕哀二悁悁之可一レ懷兮。❷いかる。〔漢書、賈捐之傳〕今陛下不レ忍二悁悁之忿一。〔後漢書、陳蕃傳〕至二於陛下一、有二何悁悁一。〔注〕悁悁、恚忿。

【悁急】6（エンキフ） 騷いでおちつかぬこと。怒りやすく短氣なこと。躁急。〔南史、王准之傳〕寡風素情、悁急不レ爲二時流所一レ重。〔宋史、晏殊傳〕累典レ州、吏民頗畏二其悁急一。

【悁恨】7（エンコン） 怒りうらむ。

【悁想】8（エンサウ） 憂へおもふ。〔陶潛、閑情賦〕竟寂寞而無レ見、獨悁想以空尋。

【悁忿】9（エンフン） いかる。立腹する。忿悁。〔韓非子、亡徵〕偏褊而心急、輕疾而易レ動、發レ心悁忿、而不レ訾二前後一者、可レ亡也。〔杜牧、與二池州李使君一書〕胸臆間不下以二悁忿是非一貯上レ之、邪氣不レ能レ侵。〔于邵、容州刺史李公頌序〕舊俗多怨睚眦、而致二毒於飲食一、公立二其防一、以解二其悁忿一、而鄉黨以和。

【悁憤】10（エンフン） いかり憂へる。

【悁悶】11（エンモン） 戲具の一種。十二支の獸名を配したもの。〔太平御覽、工藝部、悁悶〕藝經曰、悁悶者、先布二本位一、以二十二時一相從、文曰、同有二文章一、虎不レ如レ龍、豕者何爲、來入二兔官一、王孫晝レ卜、乃造二黃鍾一、犬往就レ馬、非二類相從一、羊奔二蛇穴一、牛入二雞籠一。

【悁勞】12（エンラウ） うれへつかれる。〔江淹、雜體、謝法曹贈別詩〕無レ陳心悁勞、旅人豈遊遨。〔注〕銑曰、悁、憂也。

【悂】10624

🈩ヒ 〔集韻〕篇夷切 支

🈔ヘイ ハイ 〔集韻〕邊迷切 齊

🈪ヘイ ハイ 〔集韻〕普米切 薺

🈩あやまる。あやまち。⿰言坒（10−35523）に同じ。〔集韻〕⿰言坒、錯謬也、或从レ心。〔左思、魏都賦〕兼二眾悂一以貤繆。🈔心があふ。或は⿰忄⿱比圭（4−11160）に作る。〔集韻〕悂、意併也、或作レ⿰忄⿱比圭。🈪つつしむ。〔集韻〕悂、愼也。

【悃】10625

コン 〔集韻〕苦本切 阮 ㄎㄨㄣˇ k'uen³

小篆

まこと。まごころ。一すぢに思ふ心。〔正字通〕悃、悃、六書統作レ悃、非。〔說文〕悃、愊也、从レ心困聲。〔說文通訓定聲〕悃、愊也、从レ心困聲、篇韻皆誤从レ囷。〔玉篇〕悃、志純一也。

参考 段玉裁は、說文の悃に作るを誤りとし、悃（篆文は ）の形に訂正してゐる。〔說文、悃、悃愊、至誠也、从レ心困聲、段注〕困、一本作レ囷、篆作レ 、非也、古、困聲在二眞・文韻一、音變遂入二寬韻一、非下囷聲在二眞・文一、困聲在レ寬、各有中畛域上也。

【悃愚】1（コング） 誠實一方でかけひきがない。馬鹿正直。戇愚（4−11525‥8）に同じ。

【悃款】2（コンクワン） 悃欵。誠實で飾りのないさま。一說に、懃苦の貌。〔楚辭、卜居〕吾寧悃悃欵欵、朴以忠乎。〔注〕志純一也。〔集注〕欵、一作レ款、悃欵、誠實傾盡之貌。〔柳宗元、弔二樂毅一文〕仁夫對レ趙之悃款兮、誠不レ忍二其故邦一。

【悃願】3（コングワン） 懇ろに賴む。懇願（4−11326‥10）に同じ。

【悃悃】4（コンコン） ねんごろで誠實なさま。又、志が純一なさま。懇懇。懇悃。悃懇。狠狠。〔楚辭、卜居〕吾寧悃悃欵欵、朴以忠乎。〔注〕志純一也、欵、一作レ款。〔補注〕悃、苦本切、款、苦管切、俗作レ欵、誠也。〔後漢書、竇融傳贊〕悃悃安豐、亦稱二才雄一。

【悃懇】5（コンコン） ねんごろ。しんせつ。懇悃。〔吳澄、與二張仲美一別詩〕但當二頻寄一レ字、悃懇問二安眠一。

【悃誠】6（コンセイ） まごころ。まこと。ねんごろでまことあること。悃愊。懇誠。〔楚辭、劉向、九歎、愍命〕親二忠正之悃誠一兮、招三貞良與二明智一。〔注〕悃、厚也。〔漢書、王褒傳〕陳二見悃誠一、則上不レ然二其信一。〔白虎通、三教〕忠形二於悃誠一。〔白居易、與二陳給事一書〕悃誠不レ遺二賤小一。

【悃接】7（コンセツ） なかのよいこと。懇接（4−11326‥27）を見よ。

【悃望】8（コンバウ） ひたすらのぞむ。懇望（4−11326‥41）に同じ。

【悃愊】9（コンヒヨク） ねんごろでまことあること。まごころ。悃款。悃誠。懇愊。〔廣韻〕愊、悃愊、至誠。〔漢書、劉向傳〕發憤悃愊、信有レ憂二國心一。〔說苑、貴德〕誠惻二隱於中一、悃二愊於內一。〔柳宗元、弔二屈原一文〕矧先生之悃愊兮、陷二大故一而不レ貳。〔書言故事、德量類〕至誠曰二悃愊一。

【悃愊無華】10（コンヒヨククワナシ） まごころばかりで飾りのないこと。〔後漢書、章帝紀〕安靜之吏、悃愊無レ華、日計不レ足、月計有レ餘。〔注〕悃愊、至誠也。

【悃⿱畐心】11（コンヒヨク） 悃愊（9）に同じ。〔漢張公神祠碑〕悃⿱畐心慇勤。

【⿰犭⿱王心】10626

🈩キヤウ クワウ 〔集韻〕古況切 漾

🈔ワウ 〔集韻〕于放切 漾

小篆

🈩🈔❶あやまる。もと⿱狂心（4−11067）に作る。〔正字通〕⿰犭⿱王心、本作レ⿱狂心。〔說文〕⿱狂心、誤也、从レ心狂聲。❷いつはる。〔玉篇〕⿰犭⿱王心、詐也。❸まどふ。〔正韻〕⿰犭⿱王心、惑也。

【悄】10627

🈩セウ 〔集韻〕七小切 篠 ㄑㄧㄠˇ ch'iao³

🈔セウ 〔集韻〕七肖切 嘯

小篆

🈩❶うれへる。うれひにしづむ。〔說文〕悄、悳也、从レ心肖聲、詩曰、憂心悄悄。〔詩、陳風、月出〕勞心悄兮。❷しづか。〔字彙〕悄、靜也。〔張說、宴二房簿舍一詩序〕月白夜悄。〔白居易、琵琶行〕東船西舫悄無レ言。❸或は⿰忄小（4−10335）に

作る。〔集韻〕悄、或从レ小。㊂**きびしい**。はげしい。〔集韻〕悄、急也。

【悄焉】1 セウエン 憂へるさま。〔謝莊、月賦〕悄焉疚レ懷、不レ怡二中夜一。〔注〕銑曰、悄、憂也。

【悄窺】2 ch'iao³ k'uei¹ ひそかに窺ふ。

【悄兮】3 セウケイ 憂へるさま。兮は助辭。〔詩、陳風、月出〕舒窈糾兮、勞心悄兮。〔傳〕悄、憂也。

【悄慧】4 セウケイ しづかでさとい。〔阮籍、淸思賦〕情悄慧以蟃蜒。

【悄乎】5 セウコ 態度のきびしいさま。親しまないさま。〔韓愈、與二陳給事一書〕悄乎其言、若レ不レ接二其情一。

【悄語】6 セウゴ ささやく。こごゑで語る。悄語介は、役者のしぐさ。〔桃花扇、偵戲〕悄語介。

【悄愴】7 セウサウ セウシヤウ ㊀うれへいたむ。悲しみいたむ。〔江淹、哀千里賦〕悄愴成レ憂、憫然自憐。㊁ものさびしいこと。〔柳宗元、至二小邱西小石潭一記〕坐二潭上一、四面竹樹環合、寂寥無レ人、凄レ神寒レ骨、悄愴幽邃。

【悄悄】8 セウセウ ㊀うれへなやむさま。意氣悄沈のさま。悄然。〔詩、邶風、柏舟〕憂心悄悄、慍二于羣小一。〔傳〕悄悄、憂貌。〔張衡、思玄賦〕柏舟悄悄吝レ不レ飛。㊁うれひうらむさま。〔爾雅、釋訓〕悄悄、慘慘、慍也。〔注〕皆賢人愁恨。㊂靜かなさま。〔曹唐、漢武帝將レ候二西王母下降一詩〕樹影悠悠花悄悄。〔白居易、西樓夜詩〕悄悄復悄悄、城隅隱二林杪一。

〔悄悄的〕10 ch'iao³ ch'iao tê こつそり。悄地。

〔悄悄兒的〕11 ch'iao³ ch'iao êrh tê ひそひそと。こそこそと。

〔悄悄冥冥〕12 セウセウメイメイ そつと。〔長生殿、偷曲〕悄悄冥冥、牆陰竊聽。

【悄寂】13 セウセキ こころさびしい。物さびしい。〔朱熹、許進之胎仙室或疑レ欠二舞字一作レ此以解レ之詩〕未レ愁悄寂無二人會一、只恐蹁躚不二自休一。

【悄切】14 セウセツ 身にしみて物がなしい。うれへる心のしきりなこと。凄切。〔潘岳、笙賦〕訣厲悄切、又何磬折。〔注〕善曰、悄切、憂貌、銑曰、訣厲悄切、聲高貌。

【悄蒨】15 セウセン 草木の鮮明なさま。〔左思、招隱詩〕悄蒨青葱閒。〔注〕善曰、悄蒨、鮮明貌。

【悄然】16 セウゼン 憂へ悲しむさま。物淋しいさま。悄悄に同じ。勇氣が挫けて意氣のあがらぬさま。〔文中子、魏相〕子悄然作レ色、曰、神之聽レ之、介二爾景福一。〔白居易、長恨歌〕夕殿螢飛思悄然、孤燈挑盡未レ成レ眠。

【悄沈】17 セウチン 元氣のなくなること。銷沈。

【悄魂兒】18 セウコンジ 物靜かな情魂。夢に現れた美人の諭。〔還魂記、言懷〕悄魂兒未レト二先知一。

【悄去明來】19 ヒソカニサリアキラカニキタル 人に知られぬやうにそつと行き、成功して公公然と大手を振つて歸る。〔桃花扇、修札〕悄去明來、萬人喝采。

【悄不聲兒】20 ch'iao³ pu shêng¹ êrh 聲をひそめる。ひそひそとする。

【㤨】10628

ロウ ル 〔集韻〕盧貢切 送

おろか。或は㑝（**1－692**）に作る。〔集韻〕㤨、㤨戇、愚也、或从レ人。

【悅】10629

エツ エチ 〔集韻〕欲雪切 ㄩせ yüeh⁴ 屑

㊀**たのしむ**。**たのしみ**。〔爾雅、釋詁〕悅、樂也。〔張衡、東京賦〕海內同レ悅。〔注〕綜曰、悅、樂也。㊁**よろこぶ**。**よろこび**。〔廣雅、釋詁一〕悅、喜也。㊂**したがふ**。心服する。〔爾雅、釋詁〕悅、服也。〔注〕謂二喜而服從一。〔郝懿行義疏〕孟子所謂心悅而誠服、是也、詩、我心則說、毛傳、服也。㊃**よみがへる**。〔方言、十〕悅、蘇也、楚通語也。㊄或は說（**10－35556**）・兌（**1－1356**）に作る。〔集韻〕悅、或作二說・兌一。〔顏氏家訓、書證〕以レ說爲レ悅。〔廣韻〕悅、經典通用レ說。〔大戴禮、曾子立事〕近三於說二其言一、〔注〕說、古通以爲二悅字一。〔漢書、谷永傳〕將軍說二其狂言一、〔注〕師古曰、說、讀曰レ悅。㊅**姓**。〔萬姓統譜〕悅、望出二昌黎一、亦作レ說、傅說之後、以レ名爲レ氏。

名乘 ヨシ。

【悅愛】1 エツアイ よろこび愛する。〔韓非子、內儲說下〕夫人鄭袖知三王悅二愛之一也、亦悅二愛之一甚二於王一。

【悅安】2 エツアン よろこび安んずる。〔禮、表記〕詩云、凱弟君子、民之父母、凱以強二教之一、弟以悅二安之一。

【悅怡】3 エツイ よろこぶ。

【悅育】4 エツイク よろこびたのしんで生育をとげる。よろこびやしなふ。〔晉書、郭璞傳〕使下幽斃之人、應二蒼生一以悅育、否滯之氣、隨二谷風一而紓散上。

【悅懌】5 エツエキ 大いによろこぶ。よろこびたのしむ。說懌。〔說苑、反質〕鄧析去行數十里、顏色不二悅懌一自病。〔阮籍、詠懷詩〕悅懌若二九春一、磬折似二秋霜一。〔注〕銑曰、懌、樂也。

【悅遠】6 エツエン 遠方の人をよろこばせる。〔蜀志、馬良傳〕和レ光悅レ遠、邁二德天壤一。

【悅下】7 エツカ 身分の低い者をよろこばせる。〔陸機、五等諸侯論〕安レ上在二於悅一レ下、爲レ己在二乎利一レ人。

【悅可】8 エツカ よろこんで可とする。〔蘇軾、密州宋國博以レ詩見レ紀在レ郡雜詠次韻答レ之詩〕當時苟悅可、愼勿レ笑二杕杜一。

【悅賈】9 エツカ 漢の賈誼をしたふ。〔陸雲、逸民賦〕欽二妙古之達言一兮、信懷レ莊而悅レ賈。

【悅我】10 エツガ 自分をよろこばせる。〔張耒、出レ山詩〕青山如二君子一、悅レ我非二姿媚一。

【悅好】11 エツカウ 悅んで好む。すきになる。〔漢書、司馬相如傳上〕文君竊從レ戶窺、心悅而好レ之、恐レ不レ得レ當也。

【悅康】12 エツカウ よろこびたのしむ。たのしみやはらぐ。〔魏文帝、至二廣陵一於二馬上一作詩〕量宜レ運二權略一、六軍咸悅康。〔傅玄、晉鼓吹曲〕奠二樽俎一、實二玉觴一、神歆饗咸悅康。

【悅己】13 エツキ 他人が自分をよろこび好むこと。〔漢書、司馬遷傳〕女爲レ悅レ己容。〔郤正、釋譏〕虞帝以二面從一爲レ戒、孔聖以レ悅レ己爲レ尤。

【悅喜】14 エツキ 滿足しよろこぶ。大きなよろこび。喜悅。悅懌。說喜。〔墨子、非儒下〕富人有レ喪、乃大悅喜。〔漢書、鮑宣傳〕庶衆歙然、莫レ不二悅喜一。〔後漢書、何敞傳〕天下聞レ之、莫レ不二悅喜一。

【悅熙】15 エツキ よろこぶ。〔傅充妻辛氏、元正詩〕元正啓二令節一、嘉慶肇レ自レ茲、咸奏二萬年觴一、小大同悅熙。

【悅義】16 エツギ 正義の道をよろこぶ。〔漢書、公孫弘傳〕遠方之君、莫レ不二悅レ義奉レ幣而來朝一、此和之極也。

【悅饗】17 エツキヤウ よろこびうける。〔晉書、樂志上〕神悅饗歆二禋祀一、祐二大晉一降二繁祉一。

【悅欣】18 エツキン 大いによろこぶ。悅懌。〔應貞、晉武帝華林園集詩〕率土咸序、人胥悅欣。

【悅近】19 エツキン 近親の者をよろこばす。〔韓非子、難三〕民有二倍心一者、君上之明有レ所レ不レ及也、不レ紹二葉公之明一、而使二之悅レ近而來一レ遠。

【悅勸】20 エツクワン よろこびはげむ。〔晉書、懷愍帝紀論〕民詠二維新一、四海悅勸矣。〔元稹、授二烏重允山南西道節度使一制〕政以二和均一、人斯悅勸。

【悅玩】21 エツグワン よろこびもてあそぶ。悅翫。〔晉書、左思傳〕中書著作郎安平張載、中書郎濟南劉逵、並以二經學治博、才章美茂一、咸皆悅玩、爲二之訓詁一。

【悅翫】22 エツグワン よろこびもてあそぶ。悅玩。〔隋書、音樂志中〕親執二樂器一、悅翫無レ倦。

【悅研】23 エツケン 清、宋鎔（**3－7078**・・205）の號。

【悅口】24 エツコウ 口をよろこばす。美味を感ずる。〔孟子、告子上〕理義之悅二我心一、猶三芻豢之悅二我口一。

【悅哉】25 エツサイ 鳥の名。つみ。雀鷂。すずめだか。〔和名抄、羽族部、鳥名、雀鷂〕唐韻云、䳴、音戎、漢語抄云、悅哉。〔箋注〕按二廣韻一䳴、息弓切、屬二心母一、戎、如融切、屬二日母一、此以レ戎音レ䳴、恐誤、下總本悅哉上有二俗云二字一、悅哉見二定家三百首一、按、雌曰二須須米太加一、一曰二都美一、雄曰二悅哉一、或曰、都美、一名眞都美、一種有二是山都美一、悅哉一種

有㆓曷哉㆒、悅哉者山都之雄、曷哉者眞都美之雄也。

【悅之】26 エツシ 字號。❶宋、王豫(7－20823‥1032)の字。❷明、斯學(5－13563‥6)の字。❸明、熊浹(7－19294‥77)の字。

【悅支】27 エツシ 明、斯學(5－13563‥6)の字。

【悅史】28 エツシ 歷史をよろこぶ。〔隋書、儒林傳論〕敦㆑經悅㆑史、砥㆑身礪㆑行。

【悅志】29 エツシ 心をよろこばせる。〔神農食經〕茶茗久服、令㆓人有㆑力悅㆒㆑志。

【悅使】30 エツシ ❶よろこんでつかひする。〔隋書、煬帝紀下〕素飽之衆、情在㆑忘㆑私、悅使之人、宜㆑從㆓其厚㆒。❷律の名。南呂の一。〔隋書、律曆志上〕南呂、云云、悅使・亡勞・九有・光貲。

【悅耳】31 エツジ 耳をよろこばす。聽いて快を感ずる。〔韓詩外傳、一〕應對言語者、所㆓以說㆑耳也。〔顏氏家訓、勉學〕娛㆑心悅㆑耳。〔歐陽脩、春秋論上〕簡直無㆓悅㆑耳之言㆒。

【悅臭】32 エツシウ 臭をよろこぶ。〔呂覽、遇合〕人有㆓大臭者㆒、其親戚兄弟妻妾知識、無㆓能與居者㆒、自苦而居㆓海上㆒、海上人、有㆘悅㆓其臭㆒者㆖、晝夜隨㆑之而弗㆑能㆑去。

【悅城】33 エツジヤウ 縣名。唐、置く。廣東省德慶縣の東。〔讀史方輿紀要、廣東、肇慶府、德慶州〕悅城、廢縣、晉末置㆓樂城縣㆒、屬㆓晉康郡㆒、又兼置㆓悅城・文招二縣㆒、齊梁因㆑之、隋屬㆓端州㆒、開皇十二年、以㆓悅城・文招二縣㆒、幷入㆓樂城㆒、唐武德五年、改屬㆓康州㆒、尋又改爲㆓悅城縣㆒。

【悅情】34 エツジヤウ 悅ぶ心。〔任昉、王文憲集序〕事感則悅情斯來。

【悅衆】35 エツシユウ 佛職名。僧中の事務を司る職。〔僧史略、中〕秦主敕選㆓道碧法師㆒、爲㆓僧正㆒、慧遠爲㆓悅衆㆒、法欽慧斌掌㆓僧錄㆒。

【悅從】36 yüeh⁴ ts'ung² 喜んで從ふ。悅服する。

【悅色】37 エツシヨク よろこばしげな顏色。又、顏色をやはらげて愛を求める。〔東方朔、非有先生論〕卑㆑身賤㆑體、悅㆑色微㆑辭。〔枚乘、七發〕客見㆔太子有㆓悅色㆒也。〔晉書、馮紞傳〕承㆑顏悅㆑色、寵愛日隆。〔謝靈運、悲哉行〕灼灼桃悅㆑色、飛飛燕弄㆑聲。

【悅心】38 エツシン 心をよろこばせる。〔孟子、告子上〕理義之悅㆓我心㆒、猶㆔芻豢之悅㆓我口㆒。

〖悅心的〗39 yüeh⁴ hsin¹ tê 悅ばしい。

【悅水】40 エツスイ 水をよろこぶ。〔江總、辭行李賦〕徒悅㆑水而非㆑智、庶因㆑谷以爲㆑愚。

【悅性】41 エツセイ 天性をよろこばせる。〔隋書、隱逸、徐則傳〕先生履㆑德養㆑空、宗㆑玄齊㆑物、深明㆓義味㆒、曉㆓達法門㆒、悅㆓性沖元㆒、怡㆓神虛白㆒。

【悅淸】42 エツセイ 明、莫勝(9－31078‥41)の號。

【悅染】43 エツセン よろこびそまる。よろこび好んで執著する。〔梁簡文帝、六根懺文〕耳根闇鈍、多種㆓衆惡㆒、悅㆓染絲歌㆒。

【悅祖】44 エツソ 南齊、檀超(6－15632‥42)の字。

【悅宗】45 エツソウ 字號。❶南齊、崔慰祖(4－8178‥193)の字。❷後魏、李孝怡(6－14459‥939)の字。

【悅堂】46 エツダウ 宋、楊楫(6－15112‥194)の號。

【悅道】47 エツダウ 字號。❶宋、焦蹈(7－19119‥74′)の字。❷宋、趙與懽(10－37171‥916)の字。

【悅澤】48 エツタク 光澤の美しいこと。〔易林〕鳧得㆓水沒㆒、喜笑自啄、毛羽悅澤。

【悅尼】49 エツヂツ 近くにゐる者をよろこばせる。〔爾雅、釋詁、卽尼也、注〕尼者近也、尸子曰、悅㆑尼而來㆑遠。

【悅暢】50 エツチヤウ 行き亙つてよろこばす。〔吳志、陸抗傳、注〕齊㆓其民人㆒、均㆓其施澤㆒、故能德音悅暢。

【悅怒】51 エツド 悅びと怒りと。〔枚乘、七發〕聰明眩曜、悅怒不㆑平。

【悅貌】52 エツバウ 容貌をよろこぶ。〔晉書、王濛傳〕居㆑貧、帽敗自入㆑市買㆑之、嫗悅㆓其貌㆒、遺以㆓新帽㆒、時人以爲㆑達。

【悅跋】53 エツバツ 城の名。代來城をいふ。綏遠省鄂爾多斯左翼の界。〔讀史方輿紀要、陝西、榆林鎭〕代來城、晉太元初、苻秦滅㆑代、分㆓代地㆒、自㆑河以西、屬㆓劉衞辰㆒、以東屬㆓劉庫仁㆒、既而衞辰叛、劉庫仁擊㆓破之㆒、追至㆓陰山西北千餘里㆒、堅尋以㆓衞辰㆒爲㆓西單于㆒、屯㆓代來城㆒、太元十六年、拓跋珪破㆓衞辰之子直力鞮於銕岐山南㆒、乘㆑勝追㆑之、自㆓五原金津㆒南濟㆑河、徑入㆓衞辰國㆒、直抵㆓其所㆑居、悅跋城是也、又魏主燾神䴥三年、徙㆓敕勒降戶於河西㆒、敕勒謀㆔西奔㆓涼州㆒、使㆘劉絜屯㆓五原河北㆒、安原屯㆓悅跋城㆒、以備㆖㆑之。

【悅般】54 エツハン ❶西域の國名。西曆五世紀頃、中央亞細亞の天山山脈以北一帶、伊犂方面を領したトルコ系の遊牧國。一說に、西史のアヴァール Avar に比し、又、エフタル Ephthalit に同じともいふ。〔魏書、西域傳〕悅般國在㆓烏孫西北㆒、去㆑代一萬九百三十里、其先匈奴北單于之部落也。❷州名。〔唐書、地理志七下〕悅般州都督府、隸㆓安西都護府㆒。

【悅媚】55 エツビ よろこばせこびる。〔隋書、蕭吉傳〕好㆓徵祥之說㆒、欲㆓乾沒自進㆒、遂矯㆓其迹㆒爲㆓悅媚㆒焉。

【悅武】56 エツブ 武をよろこぶ。〔魏志、和洽傳〕所謂悅㆑武無㆑震、古人之誡也。

【悅風】57 エツフウ 風習をよろこぶ。風習が氣に入る。〔沈約、七賢論〕山王二公、悅㆑風而至。

【悅服】58 エツプク 滿足して服從する。心服。〔書、武成〕大賚㆓于四海㆒、而萬姓悅服。〔新書、匈奴〕四荒悅服。〔漢書、高帝紀下〕上曰、公知㆓其一㆒、未㆑知㆓其二㆒、云云、項羽有㆓一范增㆒而不㆑能㆑用、此所㆔以爲㆓我禽㆒也、羣臣悅服。〔王褒、四子講德論〕怡懌而悅服。〔孔子家語、王言解〕近者悅服。

【悅物】59 エツブツ 物をよろこぶ。〔江淹、池上酬㆓劉記室㆒詩〕懷㆑賞入㆓舊襟㆒、悅㆑物覽㆓新賦㆒。

【悅聞】60 エツブン よろこびきく。〔孟郊、噴玉布詩〕悅聞若㆑有㆑待、瞥見終無㆑厭。

【悅慕】61 エツボ よろこびしたふ。欣慕。〔宋史、三佛齊國傳〕悅㆓慕皇化㆒、浮㆑海貢㆑琛。

【悅穆】62 エツボク よろこびやはらぐ。〔文子、精誠〕靜漠恬淡、悅㆓穆胸中㆒。〔顏延之、三月三日曲水詩序〕警蹕淸夷、表裏悅穆。

【悅茂】63 エツモ 氣持よくしげる。〔謝朓、杜若賦〕覽㆓茲榮之悅茂㆒、務爲㆓芳於淸蘅㆒。

【悅目】64 エツモク 目をよろこばす。見て愉快に感ずる。〔陸機、演連珠〕臣聞、音以㆑比㆑耳爲㆑美、色以㆑悅㆑目爲㆑歡。〔梁昭明太子、文選序〕黼黻不㆑同、倶爲㆓悅目之翫㆒。〔白居易、杏園中棗樹詩〕君求㆓悅㆑目艷㆒、不㆔敢爭㆓桃李㆒。

【悅悆】65 エツヨ 喜ぶ。悆は喜。〔嵇康、琴賦〕若和平者聽㆑之、則怡養悅悆。

【悅豫】66 エツヨ よろこびたのしむ。悅樂。〔後漢書、何敞傳〕恩澤下暢、黎庶悅豫、上天聰明、必有㆓立應㆒。〔魏志、高柔傳〕衆庶久濟、莫㆑不㆓悅豫㆒矣。〔謝靈運、酬㆓從弟惠連㆒詩〕嚶鳴已悅豫、幽居猶鬱陶。〔左思、魏都賦〕遐邇悅豫而子來、工徒擬議而騁㆑巧。

【悅來】67 エツライ よろこびしたつて來る。〔王巾、頭陀寺碑文〕民以悅來、工以心競。

【悅賴】68 エツライ よろこびたよる。〔唐書、杜亞傳〕疏㆓啓道衢㆒、徹㆑壅通㆑堙、人皆悅賴。

【悅樂】69 エツラク よろこびたのしむ。悅豫。說樂。〔諸葛亮、將苑、勝敗〕三軍悅樂、士卒畏服。

【悅力】70 エツリヨク 複姓。〔通志、氏族略、代北複姓〕後魏有㆓謁者悅力延㆒。

【悅和】71 エツワ よろこび和ぐ。〔後漢書、郎顗傳〕太皓悅和、靁聲乃發。

【悅親樓】72 エツシンロウ 淸、祝德麟(8－24672‥143)の室名。

【悅生堂】73 エツセイダウ 宋の賈似道の堂名。〔齊東野語〕趙子固舟覆、行李淹溺無㆑餘、手持㆓禊帖㆒示㆑人曰、蘭亭在㆑此、餘不㆑足㆑介㆑意、其帖後歸㆓之悅生堂㆒。

【悦】10629′ エツ 悅(4－10629)に同じ。

【⿰忄呂】10630 リヨ ロ 〔集韻〕兩擧切 語

あなどる。おこたる。〔集韻〕⿰忄呂、慢也。

【⿰忄壮】10631 サウ シヤウ 〔玉篇〕之爽切 養

よろこばぬ。〔玉篇〕⿰忄壮、不㆑悅。

【悆】10632

㊀ヨ 〔集韻〕羊茹切 御

㊁シヨ ソ 〔集韻〕商居切 魚

小篆

㊀❶**わすれる**。〔說文〕悆、忘也、从㆑心余聲。〔廣雅、釋詁二〕悆、忘也。❷**うれへる**。或は悇(**4－10633**)に作る。〔說文〕悆、嘾也。〔說文通訓定聲〕悆、字亦作㆑悇。❸**よろこぶ**。豫(**10－36425**)に通ず。〔說文〕悆、周書曰、有㆑疾不㆑悆、悆、喜也。〔段注〕金縢文、今本作㆓弗豫㆒。〔玉篇〕悆、豫也、悅也。〔隋書、劉昉傳〕及㆓帝不㆑悆、召㆑昉屬以㆓後事㆒。㊁**ゆるむ**。**とく**。紓(**8－27276**)に同じ。〔集韻〕紓、說文、緩也、一曰、解也、或作㆑悆。

【悇】10633

㊀ヨ 〔集韻〕羊茹切 御

㊁トツ 〔集韻〕通都切 虞

㊂トヅ 〔集韻〕同都切 虞

㊃チヨ 〔集韻〕楮御切 御

㊄ヨ 〔集韻〕羊諸切 魚

㊀❶**懷ひうれへる**。〔集韻〕悇、博雅、悇憛、懷憂也。❷悆(**4－10632**)に同じ。〔說文通訓定聲〕悆、字亦作㆑悇。㊁❶**禍福のさだまらぬさま**。〔集韻〕悇、憛悇、禍福未㆑定也。❷**うれへる**。〔集韻〕悇、一曰、憂也。㊂**くるしみうれへる**。〔集韻〕悇、苦憂也。㊃**うれへる**。㊁の❷に同じ。或は慮(**4－11407**)に作る。〔集韻〕悇、憂也、或从㆑慮。㊄**たのしむ**。〔集韻〕悇、樂也。

【悇覃】1 トタン うれへるさま。悇憛。〔廣雅、釋訓〕悇覃、懷憂也。

【悇憛】2 トタン ❶おもひうれへるさま。〔楚辭、東方朔、七諫、謬諫〕心悇憛而煩冤兮。〔注〕悇憛、憂愁貌也。〔洪興祖補注〕悇、他胡切、憛、他闇切、一曰、禍福未㆑定。❷禍福がさだまらない。〔後漢書、馮衍傳下〕終悇憛而洞疑。〔注〕悇憛、禍福未㆑定也。

【悈】10634

㊀カイ 〔集韻〕居拜切 卦

ㄐㄧㄝˋ chieh⁴

㊁キヨク コク 〔集韻〕訖力切 職

㊂コク 〔集韻〕乞得切 職

㊃カク 〔方言注〕音悈

小篆

㊀❶**ととのへる**。**つつしむ**。〔說文〕悈、飭也、从㆑心戒聲、司馬灋曰、有虞氏悈㆓於中國㆒。〔段注〕悈、與㆑戒義同、警也。〔集韻〕悈、一曰、慬也。❷**きびしい**。〔集韻〕悈、一曰、急也。❸**いましめる**。誡(**10－35538**)に通ず。〔說文通訓定聲〕悈、叚借爲㆑誡、說文引㆓司馬法㆒曰、有虞氏、悈㆓于中國㆒。㊁❶**つつしむ**。〔廣雅、釋詁四〕悈、慬也。❷**きびしい**。㥛(**4－10854**)に通ず。〔說文通訓定聲〕悈、叚借爲㆑㥛。〔爾雅、釋言〕悈、急也。〔注〕皆急狹。㊂**おどろいてほしいままにする**。〔集韻〕悈、駭而自專也。㊃悈鰓は、老をいふ。〔方言、十〕悈鰓・乾都・耇革、老也、皆南楚江湘之閒代語也。〔注〕悈、音悈。

【悉】10635

シツ シチ 〔集韻〕息七切 ㄒㄧ hsi¹ 質

小篆

古文

❶**つくす**。㋑**しりつくす**。〔說文〕悉、詳盡也、从㆓心釆㆒。〔漢書、張釋之傳〕上所㆑問禽獸簿、甚悉。〔注〕師古曰、悉、謂㆓詳盡㆒也。〔後漢書、周紆傳〕悉㆓誰載㆑槀入㆑城者㆒。〔注〕悉、猶㆑知也。㋺**おしきはめる**。〔漢書、食貨志上〕至纖至悉。〔注〕師古曰、悉、盡㆓其事㆒也。㋩**のこらずあげる**。畢具する。〔戰國、韓策〕料㆓大王之卒㆒、悉㆑之不㆑過㆓三十萬㆒。〔史記、平準書〕占不㆑悉。〔注〕索隱曰、悉、盡也、具也。〔漢書、陳餘傳〕悉㆓三縣兵㆒、與㆑齊倂㆑力。❷**ことごとく**。**のこらず**。**すべて**。〔張衡、東京賦〕悉率㆓百禽㆒。〔注〕綜曰、悉、盡也。❸古は恩(**4－10968**)・恖(**4－10699**)・忎(**4－10506**)に作る。〔集韻〕悉、古作㆑恖。〔康熙字典〕悉、古文恖・忎。❹**姓**。〔通志、氏族略、入聲〕悉氏、古今人表、悉淸爲㆓神農師㆒。〔漢書、古今人表、第二等上中〕悉諸。〔注〕炎帝師。

解字 會意。釆と心との合字。釆は獸の爪。獸が爪で他獸の心臟を抉り、取り盡くす意。

【悉意】1 シツイ 心をつくす。悉心。〔漢書、元帝紀〕其悉㆑意陳㆓朕過㆒、靡㆑有㆑所㆑諱。〔王融、永明十一年策㆓秀才㆒文〕悉㆑意正㆑辭、無㆑侵㆓執事㆒。

【悉雲】2 シツウン 複姓。〔通志、氏族略、代北複姓〕悉雲氏、改爲㆓雲氏㆒。

【悉銳】3 シツエイ 銳兵を悉く出だす。〔唐書、龐堅傳〕賊將阿史那承慶、悉㆑銳攻㆑之。

【悉皆】4 シツカイ ❶みな。ことごとく。殘らず。すべて。〔北史、楊大眼傳〕悉皆記識、令㆑作㆓露布㆒。❷佛 ありとあらゆる。〔鐵眼禪師假名法語、二〕此のさとりのひらけし時を、諸法實相ともいひ、草木國土悉皆成佛ともいへり。

【悉皆屋】4′ シツカイヤ ❶江戸時代に大阪で、染物を請負ひ、京都に送つて調製させることを業としたもの。❷染物・洗張を業とするもの。

【悉皆成佛】5 シツカイジヤウブツ 佛 一切の有情が凡て成佛する。〔涅槃經〕草木國土、悉皆成佛。

【悉甲】6 シツカフ 兵士を悉く出す。〔史記、趙奢傳〕秦人聞㆑之、悉㆑甲而至。

【悉狎】7 シツカフ すつかり親しみ合ふ。〔南史、何思澄傳〕曉便命㆑駕朝㆑賢、無㆑不㆓悉狎㆒、狎處卽命㆑食。

【悉究】8 シツキウ 殘る所なくきはめつくして明かにする。きはめつくす。しらべつくす。〔漢武帝、元光元年賢良策問〕其悉㆑之究㆑之、熟㆑之復㆑之。

【悉居】9 シツキヨ 複姓。〔通志、氏族略、代北複姓〕悉居氏、古西夜國人也。

【悉索】10 シツサク ことごとくつくす。一說に、ことごとくもとめる。〔左氏、襄、八〕悉索㆓敝賦㆒、以討㆓于蔡㆒。〔注〕索、盡也。〔會箋〕蓋索之言蒐索也。〔左氏、襄、三十一〕悉索㆓敝賦㆒、以來會㆓時事㆒。

【悉散】11 シツサン ことごとく散ずる。〔國史略、二條天皇〕及㆓義朝被㆑誅、兵士悉散。

【悉咨】12 シツシ 皆はかり問ふ。咨は諮。〔諸葛亮、出師表〕事無㆓大小㆒、悉以咨㆑之。

【悉州】13 シツシウ 州名。唐、置く。四川省松潘縣の西南。〔讀史方輿紀要、四川、疊溪守禦千戶所、廢靜州〕劉昫曰、左封縣也、有㆓悉唐川㆒、顯慶初、置㆓悉唐縣㆒、倂置㆓悉州治㆒焉、咸亨初、移㆓州治左封於故悉唐縣㆒、置㆓南和州㆒、天壽二年、改爲㆓靜州㆒、仍治㆓悉唐縣㆒、天寶初、曰㆓靜川郡㆒、乾元初、復㆑故。

【悉收】14 シツシウ 殘らず收める。〔後漢書、黃昌傳〕悉收㆓其家㆒、一時殺戮。

【悉率】15 シツシユツ シツソツ ❶ことごとくつれてゆく。〔詩、小雅、吉日〕悉率㆓左右㆒、以燕㆓天子㆒。〔張衡、東京賦〕悉㆓率百禽㆒。〔蜀志、張嶷傳〕悉率㆓城中吏民㆒、出迎㆑軍。❷ hsi¹ shuai⁴ さらさらと衣のすれ合ふ音。「也。

【悉蟀】16 シツシユツ 蟲の名。蟀をいふ。〔說文〕蟀、悉蟀

【悉諸】17 シツシヨ 上古の人。神農の師。一說に、炎帝の師。〔呂覽、尊師〕神農師㆓悉諸㆒、黃帝師㆓大撓㆒。〔注〕悉姓、諸名也。〔漢書、古今人表、第二等上中〕悉諸。〔注〕炎帝師。

【悉心】18 シツシン 十分に心をつくす。誠意を披瀝する。親切に事にあたる。〔史記、秦紀〕子其悉㆑心雪㆑恥、毋㆑怠。〔漢書、成帝紀〕公卿大夫、博士議郎、其各悉㆑心、惟㆓思變意㆒。〔後漢書、劉瑜傳〕瑜復悉㆑心以對、八千餘言、有㆑切㆓於前㆒。

【悉盡】19 シツジン みな。のこらず。委悉。〔爾雅、釋詁〕悉、盡也。

【悉數】20 シツスウ ❶一々詳說する。悉く述べる。〔禮、

儒行〕遽數レ之、不レ能レ終二其物一、悉數レ之乃留、更レ僕未レ可レ終也。〔注〕數、說也。●二hsi¹ shu⁴ 全部。全員。

【悉淸】21（シツセイ） 上古の人。神農の師。悉諸(17)に同じ。〔通志、氏族略、入聲〕悉姓、古今人表、悉淸爲二神農師一。

【悉達】22（シツタ） 佛釋迦如來の幼名。悉達多を見よ。

〖悉達多〗23（シツタタ・シツタルタ） 佛Siddārtha の譯。釋迦が淨飯王の太子であつた時の名で、一切養成の義。〔本行集經、二十四〕悉達、隋言二成利一、太子名也。〔大唐西域記、七〕薩婆曷剌他悉陀、唐言二一切養成一、舊曰二悉達多一、訛略也。〔心經、注〕天竺國生二太子悉達多一、成道曰レ佛。〔法苑珠林〕竊聞一切種智號二悉達多一。

〖悉達太子〗24（シツタタイシ） 釋迦牟尼の出家前の稱呼。「悉達多を見よ。

【悉怛】25（シツタツ） 唐の吐蕃大酋の名。〔唐書、牛僧孺傳〕是時吐蕃請二和約一弛レ兵、而大酋悉怛謀レ擧二維州一入二之劍南一。

【悉曇】26（シツタン） 佛中國及び日本に傳はつた梵字の一種、卽ち悉曇文字をいふ。更にこれによつて書かれた梵語の學をもいふ。一にsiddhanātrkā 卽ち成就した字母の略稱であるとし、又一に梵語字母の初めにsiddham 或は siddhirastu と書いて吉祥成就を願つたのによるともいはれる。悉曇學は、主として梵字の字義・書法を說き、文法としては極めて初歩的なものに過ぎぬが、密教方面に於て特殊の發達をなし、又國語學の研究に大なる影響を與へてゐる。又、悉檀・悉旦・悉談・七曇・七旦・肆曇・悉馱等とも書く。悉曇章を見よ。〔玄應音義、二〕悉曇此云二成就一。〔舊唐書、天竺國傳〕其人皆學二悉曇章一。

〖悉曇藏〗27（シツタンザウ） 佛書名。八卷。五大院安然撰。八卷藏とも云ふ。梵語で悉曇俱舍。

〖悉曇章〗28（シツタンシヤウ） 佛梵字の元始、及びその生字を列次した兒童最初の科本。悉曇とは、摩多(母韻)・體文(子韻)の四十七言を指す。涅槃經の半字は之である。又、總じては他の生字十八章を稱す。之を本として、十八章の文字・名句等を成就するから悉曇といふ。〔演密鈔、六〕梵語悉曇、此云二成就一、準二聲明中一卽是男聲、八轉聲中屬二於業聲一、業謂二造作一、以レ此爲レ本而能成二辨諸章文字及名句等一、故云二成就一。〔南海寄歸內法傳、四〕一則創學悉談章、亦名二悉地羅窣覩一、斯及小學標章之稱、但以二成就吉祥一爲レ目、本有二四十九字一、共相乘轉成二一十八章一。〔舊唐書、天竺國傳〕其人皆學二悉曇章一、云是梵天法、書二於貝多樹葉一以紀レ事。

〖悉曇章閣〗29（シツタンシヤウカク） 明、趙宧光(**10－37171··392**′)の室名。

【悉檀】30（シツダン） 佛Siddhānta の譯。成就の意。智度論に四悉曇を說く。この四法を以て、衆生が佛道を成就するからいふ。南岳は、悉を漢語の普遍の義に解し、檀は梵語の檀那の略で施の義に解す。一に悉談・悉曇(26)に作る。〔智度論、一〕有二四種悉檀一、一者世界悉檀、二者各各爲人悉檀、三者對治悉檀、四者第一義悉檀、四悉檀中總攝二一切十二部經八萬四千法藏一、皆是實相無二相違背一。〔法華玄義、一〕南岳師例二涅大槃一、胡漢兼稱、悉是此言、檀是胡語、悉之言遍、檀爲レ施、佛以二四法一遍施二衆生一、故言二悉檀一也。

【悉地】31（シツチ） 佛Siddhi の譯。眞言の祕法を修して自在神力の妙果を得ること。〔大日經疏、十二〕悉地是眞言妙果、爲二此果一故而修二因行一、故、此中成就者是作業成就。

【悉納】32（シツナフ） ことごとく納め入れる。〔吳志、步隲傳〕權雖レ不レ能二悉納一、然時采二其言一。

【悉尼】33（シドニー） 濠洲シドニー。Sydney の音譯。

【悉莫】34（シツバク） 唐、南蠻訶陵國の女子。上元中、國人推して王とす。威令大に行はれ、道に落ちたのを拾はず、大食君も畏れて敢へて兵を加へなかつた。〔唐書、二百二十二〕。

【悉備】35（シツビ） 悉くそなはる。〔易、繫辭下〕易之爲レ書也、廣大悉備。〔逸周書、謚法解〕照二臨四方一曰レ明、威儀悉備曰レ欽。

【悉沒】36（シツボツ） ことごとく沒收する。〔後漢書、梁冀傳〕悉沒二貲財億七千餘萬一。

【悉老】37（シツラウ） 上古の人。神農の師。悉諸(17)に同じ。〔新序、雜事五〕呂子曰、神農學二悉老一、黃帝學二太眞一。

【悉力】38（シツリヨク） 全力を盡す。〔漢書、東方朔傳〕悉レ力盡レ忠、以事二聖帝一。

【悉鹿】39（シツロク） 後魏、章帝の名。拓跋悉鹿(**5－11958··86**)を見よ。

【悉怛謀】40（シツダツボウ） 唐、吐蕃の將。維州副使となり、太和中、來降したので、李德裕が兵を遣して其の城に據り、其の狀を奏上した。すると帝は牛僧孺の議に從ひ、德裕に詔して其の城及び悉怛謀を悉く吐蕃に歸させたところ、吐蕃は悉怛謀を境上に誅した。〔唐書、二百十六下〕。

【悉德尼】41（シドニー） 地名。オーストラリヤ、ニユーサウスウエールス州の首府。海軍根據地。Sydney Sidni の音譯。悉尼。

【悉他薜羅】42（シツタベイラ） 佛Stbairra の譯。住位の義。佛戒を受けて後十年、師を離れて獨住する位。〔南海寄歸內法傳、三〕西方行法、受二近圓一已去、名二鐸曷羅一、滿二十夏一名二悉他薜羅一、得下離二依止一而住上、又得レ爲二鄔婆馱耶一。

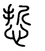
【㤅】10636

アイ

●一㤅(**4－10374**)に同じ。〔集韻〕㤅、說文、惠也、通作レ愛。●二愛(**4－10841**)の譌字。〔集韻考正〕案、㤅・愛、當レ作二㤅・愛一。

【悊】10637

テツ テチ 〔集韻〕陟列切 屑 ㄓㄜˊ chê²

小篆 

●一**うやまふ。**〔說文〕悊、敬也、从レ心折聲。〔段注〕悊、與レ哲義殊、口部云、哲或从レ心作レ悊、葢淺人妄增レ之。●二**さとい。**哲(**2－3667**)に同じ。〔集韻〕哲、說文、知也、或从レ心。

【㤯】10638

ケイ キヤウ 〔字彙〕涓熒切 青

●一**おもふ。**〔字彙〕㤯、憶也。●二**少し明るい。**〔正字通〕㤯、小明也。

【㤯㤯】1（ケイケイ） 眼が冴えて眠られぬこと。〔陶潛、閑情賦〕㤯㤯不レ寐、衆念徘徊。

【怎】10639

サク ザク 〔集韻〕疾各切 藥

●一**はぢる。**〔川篇〕怎、慙怎也。〔荀子、儒效〕無レ所二疑怎一。〔注〕無レ所二疑滯慙怎一也。●二怍(**4－10430**)に同じ。〔字彙〕怎、同レ怍。

【悋】10640

リン 〔集韻〕良刃切 震

●一**やぶさか。をしむ。**〔集韻〕悋、鄙也。〔字彙〕悋、鄙也、慳也、惜也。●二或は恡(**4－10641**)に作る。〔集韻〕悋、或作レ恡。●三吝(**2－3327**)に同じ。〔廣韻〕悋、本亦作レ吝。邦**ねたむ。**そねむ。やきもち。嫉妬。

【悋氣】1（リンキ） 情事に關した嫉妬。やきもち。

【悋想】2（リンサウ） やぶさかなおもひ。〔法苑珠林〕非道求二道心一、無二悋想一。

【悋嗇】3（リンシヨク） 過度に物をしみする。吝嗇(**2－3327··6**)を見よ。

【悋惜】4（リンセキ） 物をしみ。吝惜。〔魏志、荀彧傳〕無レ所二悋惜一。

【恡】10641

リン

悋(**4－10640**)の俗字。〔集韻〕悋、或作レ恡。〔正字通〕恡、俗悋字。

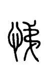
【悌】10642

一 テイ ダイ 〔集韻〕大計切 霽 ㄊㄧˋ t'i⁴

二 テイ ダイ 〔集韻〕待禮切 薺

三 タイ ダイ 〔集韻〕蕩亥切 賄

四 テキ チヤク 〔集韻〕待亦切 陌


小篆

［一］❶**すなほ**。よく長上に事へること。年少者がよく年長者に事へること。弟が兄に順なること。〔說文新附〕悌、善二兄弟一也、从レ心弟聲。〔廣韻〕悌、孝悌。〔孟子、滕文公下〕入則孝、出則悌。〔注〕出則敬レ長順也、悌、順也。❷**やすらか**。〔集韻〕悌、易也。❸通じて弟(4―9737)を用ふ。〔說文新附〕悌、經典通用レ弟。〔說文新附考〕按、悌蓋涉レ愷、後人幷加レ心、漢碑已有レ悌。［二］❶**やすらか**。通じて弟(4―9737)を用ふ。〔廣韻〕悌、愷悌、詩作二豈弟一、毛萇云、豈、樂也、弟、易也。〔集韻〕悌、易也。❷**ひらく**。〔爾雅、釋言〕悌、發也。［三］**やすらか**。〔集韻〕悌、易也。［四］**やすらか**。或は弟(4―9737)に作る。〔集韻〕悌、易也、或省。

【悌友】1（テイイウ） 兄弟や長幼の間が睦まじく柔順なこと。兄に順に、友人に親しいこと。友悌。友弟。弟友(4―9737・・1)を見よ。〔韓愈、元和聖德詩〕皇帝大孝、慈祥悌友。

【悌順】2（テイジユン） 兄や長上によく事へてさからはぬこと。弟順(4―9737・・24)を見よ。

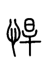
【悌弟】3（テイテイ） 兄に柔順な弟。弟弟(4―9737・・30)を見よ。〔墨子、兼愛下〕惠君忠臣、慈父孝子、友兄悌弟。

【悌悌】4（テイテイ） 兄長によく事へる。弟弟(4―9737・・30)を見よ。〔逸周書、寶典解〕九德、云云、二、悌悌。

【悌睦】5（テイボク） むつまじい。〔高士傳、下、荀靖〕闔門悌睦、隱レ身修レ學、動止合レ禮。

【悍】
10643

［一］カン ガン 〔集韻〕侯旰切 ㄏㄢˋ han^4 翰
［二］カン ガン 〔集韻〕下罕切 旱
［三］クワン ゲン 〔集韻〕戶版切 潸


小篆

［一］❶**つよい**。いさましい。〔說文〕悍、勇也、从レ心旱聲。〔漢書、吳王濞傳〕上患二吳會稽輕悍一。〔注〕師古曰、悍、勇也。〔漢書、賈誼傳〕雖レ有下悍如二馮敬一者上。〔注〕如淳曰、悍、勇也。❷**てあらい**。〔荀子、王制〕析レ愿禁レ悍。〔注〕悍、凶暴也。❸**たけだけしい**。いぢわるい。〔增韻〕悍、彊很也。〔一切經音義、五〕悍、桀也。〔後漢書、馮衍傳〕妻悍忌、不レ得レ蓄二媵妾一。❹**きばやい**。〔中華大字典〕悍、性急也。〔漢書、地理志下〕其俗愚悍少レ慮。❺**はげしい**。〔史記、河渠書〕水湍悍。〔注〕集解曰、悍、彊也。❻**するどい**。〔素問、腹中論〕石藥之氣悍。〔注〕悍者、利也。❼**目を張る**。睅(8―23351)に通ず。〔說文通訓定聲〕悍、叚借爲レ睅。〔潘岳、射雉賦〕瞵悍レ目以旁睞。［二］❶**はやい**。**きばやい**。〔集韻〕悍、性急也。❷通じて旱(5―13752)に作る。〔集韻〕悍、通作レ旱。〔賈誼、鵩鳥賦、水激則旱兮、注〕五臣作レ悍。［三］**はやい**。〔集韻〕悍、急也。

【悍威】1（カンヰ） 馬の活氣。耳結り・眼附・肛門の緊り・尾の運動・步樣等により、強悍・上悍・下悍に分ける。

【悍銳】2（カンエイ） たけくするどい。〔唐書、吳少誠傳〕乘レ騾以戰、號二騾子軍一、尤悍銳。

【悍害】3（カンガイ） たけく害をなす。〔潘岳、射雉賦〕山鷩悍害、猋迅已甚。

【悍梗】4（カンカウ） あらくもとる。氣があらくて人に從はぬ。強悍で人に從はないもの。〔宋史、曹利用傳〕利用性悍梗。

【悍驁】5（カンガウ） わるづよくおごつてゐる。おごつて手あらい。〔魏志、烏丸傳、注〕其性悍驁、怒則殺二父兄一、而終不レ害二其母一。

【悍忌】6（カンキ） ねぢけてねたみ深いこと。氣があらあらしくて人をいみねたむ。〔後漢書、馮衍傳〕妻悍忌不レ得レ畜二媵妾一。〔注〕悍、急也。

【悍急】7（カンキフ） ❶心あらく氣がせわしい。性急。〔後漢書、馮衍傳下、悍忌、注〕悍、急也。〔福惠全書、郵政部、撥馬〕若與以二悍急之乘一、恐致二顚仆一。❷非常に急な。無茶に忙しい。向ふみず。無鐵砲。

【悍強】8（カンキヤウ） わるづよい。〔新序、善謀下〕勇仁悍強、孰二與項王一。

【悍逆】9（カンギヤク） 氣が荒々しくて從順でないこと。〔李涗、鄕立約條〕妻悍逆者減レ等。

【悍亟】10（カンキヨク） するどくはやい。〔漢書、韓安國傳〕且匈奴、輕疾悍亟之兵也。〔新序、善謀下〕匈奴者、輕疾悍亟之兵也。

【悍勁】11（カンケイ） つよいこと。

【悍輕】12（カンケイ） つよく氣ばやい。輕捷。〔韓愈、送二鄭尙書一序〕蠻夷悍輕。

【悍驕】13（カンケウ） 氣がつよくおごりたかぶる。人氣があらくて從順でない。驕悍。〔韓愈、平淮西碑〕河北悍驕、河南附起。〔蘇軾、三馬圖贊〕吁鬼章世悍驕。〔劉子翬、論レ俗詩〕粵人多悍驕、風聲亦惟舊。

【悍妻】14（カンサイ） あらあらしい妻。悍室(19)に同じ。〔國朝漢學師承記、汪中〕孝標悍妻在レ室、家道轗軻。

【悍壯】15（カンサウ） あらあらしくつよい。〔左思、吳都賦〕趫材悍壯、此焉比レ廬。

【悍志】16（カンシ） あらあらしい心。〔列子、湯問〕黑卵悍志後レ衆。

【悍酋】17（カンシウ） たけだけしい酋長。わるづよい蠻人のかしら。〔宋史、姚兕傳〕夏人大擧寇、兕時駐二荔原堡一、有二悍酋一臨レ陣甚武、兕前射中二其目一、斬レ首還、一軍驩呼。

【悍獸】18（カンジウ） あらあらしい獸。〔何晏、景福殿賦〕華鐘杌其高懸、悍獸仡以儷陳。〔注〕銑曰、悍獸、熊虎也。

【悍室】19（カンシツ） 心ねぢけてあらあらしい妻。氣づよい妻。〔南史、劉峻傳〕馮敬通有二忌妻一、至三於身操二井臼一、余有二悍室一、亦令二家道轗軻一。

【悍將】20（カンシヤウ） 心あらい將軍。猛將。〔歐陽脩、集古錄、跋尾、六、唐安公美政頌〕皆有レ葢二武夫悍將一。

【悍人】21（カンジン） たけだけしい人。〔戰國、秦策〕或爲二中期一說二秦王一曰、悍人也中期、適遇二明君一故也、向者遇二桀紂一、必殺レ之矣。

【悍妾】22（カンセフ） 氣強く意地の惡い妾。〔漢書、谷永傳〕內則爲二深宮後庭、將一レ有二驕臣悍妾云云一。

【悍戰】23（カンセン） するどく戰ふ。勇ましくはげしく戰ふ。〔蜀志、黃權傳〕吳人悍戰、又水軍順レ流。

【悍然】24（カンゼン） 氣がつよいさま。たけだけしいさま。〔阪田警軒、日本刀說〕強夫則悍然抗レ之、懦夫則戰栗避レ之。

【悍塞】25（カンソク） ふせぎふさぐ。剛情なこと。心の強いこと。〔後漢書、烏桓鮮卑傳〕貴レ少而賤レ老、其性悍塞。

【悍戇】26（カンタウ） あらあらしくおろかなこと。〔荀子、大略〕悍戇好レ鬭、似レ勇而非。〔注〕悍、凶戾也、戇、愚也。

【悍妬】27（カント） 嫉妒のつよいこと。〔梅堯臣、桓妒妻詩〕昔聞桓司馬、娶妾貌甚都、其妻南郡主、悍妬誰與俱。

【悍馬】28（カンバ） あらあらしくて手に合はぬ馬。あばれうま。ぢやぢやうま。馯馬。〔侯鯖錄、四〕有下致二悍馬於肆一者上。

【悍潑】29（カンバツ） わるくあらあらしい。女が阿婆摺れで威を振ふこと。〔福惠全書、刑名部、人命中、自盡〕此悍潑之無レ足レ惜者也。

【悍婢】30（カンピ） 心のあらい下女。〔日本政記、二條天皇論〕譬若三悍婢黠豎、利二主家財物一。

【悍婦】31（カンプ） 心のあらい女。意地わる女。〔白居易、讀二張籍古樂府一詩〕讀二君商女詩一、可レ感二悍婦仁一。〔王炎、讀二中興碑一詩〕牝味鳴レ晨有二悍婦一、孽孤喤レ夜有二老奴一。

【悍婦持レ齋禮レ佛不レ如レ減二奴婢鞭箠一】32（カンプサイヲヂシテブツヲレイスルハドヒノベンスイヲゲンズルニシカズ） 悍婦が齋戒し、佛を禮拜して後生を願ふよりは、平生、奴婢の過失を咎めることを減ずる方が佛心にかなふ。〔聽松堂語鏡〕悍婦持レ齋禮レ佛、不レ如レ減二奴婢鞭箠一。

【悍辟】33（カンペキ） 心あらくよこしまなこと。〔呂覽、處方〕少不二悍辟一、而長不二簡慢一矣。〔注〕悍、兇也、辟、邪也。

【悍僕】34 han^4 pʻu^2 剛情な下男。剛性男。

【悍民】35（カンミン） あらあらしい人民。〔荀子、王霸〕無二國而不一レ有二悍民一。

【悍目】36（カンモク） 眼を見張る。字解の❼を見よ。〔潘岳、射雉賦〕瞵悍レ目以旁睞。

【悍藥】37（カンヤク） きびしい藥。劇藥。〔史記、倉公傳〕陽疾處レ內、陰形應レ外者、不レ加二悍藥及鑱石一、夫悍藥入レ中、則邪氣辟矣、而宛氣愈深。

【悍勇】38（カンユウ） あらあらしく勇ましい。又、其の人。〔史記、孫子傳〕彼三晉之兵、素悍勇而輕レ齊。

【悍吏】39（カンリ） 心根のわるい役人。〔柳宗元、捕蛇者說〕悍吏之來二吾鄉一、叫二囂乎東西一、隳二突乎南北一。

【悍虜】40（カンリョ） あらあらしい奴僕。〔韓非子、顯學〕夫嚴家無二悍虜一、而慈母有二敗子一。〔鹽鐵論、周秦〕慈母有二敗子一、小不レ忍也、嚴家無二悍虜一、篤責急也。

【悍戾】41（カンレイ） あらあらしくねぢけてゐる。心あらあらしく道理にもとる。猛戾。〔唐書、楊於陵傳〕悍戾貪肆。〔五木經〕以二雉犢一爲レ彩者、謂二其悍戾逢レ敵、必鬭以求レ勝也。

【⿱旱心】10644

カン

姦(3－6217)の古字。〔說文〕姦、⿱旱心、古文姦从二旱心一。

【⿱⿰工丮心】10645

キヨウ

恐(4－10552)の本字。〔字彙〕⿱⿰工丮心、恐本字。

【⿰忄豆】10646

㊀フウ フ 〔集韻〕敷救切 宥

㊁フウ フ 〔廣韻〕芳否切 有

㊂トウ ヅ 〔集韻〕大透切 宥

㊀❶少しくいかる。〔廣韻〕⿰忄豆、小怒也。❷いかる。愊(4－11193)に同じ。〔集韻〕愊、怒也、或作レ⿰忄豆。㊁少しくいかる。〔廣韻〕⿰忄豆、小怒。㊂❶うかがふ。〔玉篇〕⿰忄豆、候也。❷たぶらかす。〔玉篇〕⿰忄豆、誑也。〔集韻〕⿰忄豆、誑也。

【悎】10647

㊀カウ ゴウ 〔集韻〕下老切 皓

㊁コク 〔集韻〕枯沃切 沃

ㄏㄠˋ hao^4

㊂カク 〔集韻〕訖岳切 覺

㊃カウ ケウ 〔集韻〕居效切 效

㊀❶おそれる。〔集韻〕悎、懼也。❷心動く。むなさわぎ。〔玉篇〕悎、心動也。㊁おそれる。〔集韻〕悎、怖也。㊂㊃おどろく。〔集韻〕悎、驚也。

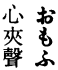
【⿱⿰口旡心】10648

アイ

僾(1－1170)の古字。〔字彙〕⿱⿰口旡心、古僾字。

【⿱夾心】10649

ケフ 〔集韻〕詰叶切 葉



小篆

おもふさま。〔說文〕⿱夾心、思皃、从レ心夾聲。

【悏】10650

ケフ

❶⿱夾心(4－10649)に同じ。〔正字通〕悏、同レ⿱夾心。❷⿱匧心(4－10948)に同じ。〔集韻〕⿱匧心、說文、快也、或作レ悏。

【悐】10651

テキ チヤク 〔集韻〕他歷切 錫

❶つつしむ。惕(4－10803)に同じ。〔集韻〕惕、說文、敬也、或从レ狄。❷いたむ。心をいためる。惕(4－10803)に同じ。〔廣韻〕悐、勞也。〔漢書、王商傳〕於レ是退レ勃使レ就レ國、卒無二怵悐憂一。〔注〕師古曰、悐、古惕字。

【悐悐】1（テキテキ） 欲利のさま。又、憂懼するさま。〔楚辭、九章、悲回風〕悼二來者之悐悐一。〔注〕悐悐、欲利貌也。〔集注〕悐悐、憂懼貌。

【⿰忄狄】10652

テキ

悐(4－10651)の俗字。〔正字通〕⿰忄狄、俗悐字。

【悑】10653

ホ フ 〔集韻〕普故切 遇

小篆

或體

おそれる。或は怖(4－10450)に作る。〔說文〕悑、惶也、从レ心甫聲、怖、悑或从二布聲一。

【⿰忄志】10654

シ 〔集韻〕職吏切 寘

わすれる。〔集韻〕⿰忄志、忘也。

【悒】10655

イフ オフ 〔集韻〕乙及切 緝

ㄧˋ i^4

小篆

❶たのしまぬ。うれへる。心安らかでない。〔說文〕悒、不レ安也、从レ心邑聲。〔徐鍇注〕憂悒也。〔玉篇〕悒、憂也。〔楚辭、天問〕武發殺レ殷、何所レ悒。❷むすぼれる。〔司馬相如、長門賦〕舒二息悒一而增レ欷兮。❸のびない。悒悒(2)を見よ。❹邑(11－39269)に通ず。〔正字通〕悒、古借用レ邑。

【悒怏】1（イフアウ） 心むすぼれて安からぬさま。志を得ないさま。怏は不滿。〔袁袠、遠遊聯句〕君行步飄颻、我滯心悒怏。

【悒悒】2（イフイフ） ❶心が結ぼれて平かでないさま。うれへるさま。怏怏。邑邑。悒怏。〔大戴禮、曾子制言〕君子無三悒二悒於貧一、無三勿二勿於賤一。〔注〕憂念也。〔王聘珍解詁〕不レ舒之貌。〔韓詩外傳、二〕直レ己不レ直レ人、善廢而不二悒悒一。〔魏志、杜襲傳〕悒二悒於此一、欲レ兼レ之乎。〔韓愈、復志賦〕居二悒悒之無一レ解兮。❷のびないさま。〔素問、刺瘧〕腹中悒悒。

【悒鬱】3（イフウツ） 心がむすぼれる。憂鬱。

【悒如】4（イフジョ） 心の憂へるさま。〔韓詩外傳、八〕於レ是楚王蓋悒如也。

【悒戚】5（イフセキ） うれへかなしむ。憂戚。〔魏志、高柔傳〕羣下之心、莫レ不二悒戚一。

【悒然】6（イフゼン） 心の憂へるさま。〔韓詩外傳、七〕「宣王悒然。

【悒憤】7（イフフン） うれへいきどほる。〔應瑒、報二龐惠恭一書〕雖二萱草樹レ背、皋蘇在レ側、悒憤不レ逞、秖以增レ毒。

【悒納】8（イフナフ） 人の顏色を見ておもねること。浥納。〔漢書、酷吏傳贊〕阿二邑人主一。〔注〕蘇林曰、邑音、人相悒納之悒、師古曰、如二蘇氏之說一云云、此言二阿諛一、觀二人主顏色一而上下也。〔說文、納、段注〕按、悒納當レ作二浥納一、媕阿之狀、於二濡溼之義一近也。

【⿱聿⿰心力】10656

シユク

肅(9－29225)の古字。〔字彙〕⿱聿⿰心力、古文肅字。

【⿰忄巠】10657

㊀ケイ ギヤウ 〔集韻〕下頂切 迥

㊁カウ ギヤウ 〔集韻〕下梗切 梗

小篆

㊀㊁うらむ。悻(4－10737)に通ず。〔說文〕⿰忄巠、恨也、从レ心巠聲。〔段注〕⿰忄巠、卽孟子悻字也。

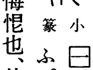
【悓】10658

ケン 〔集韻〕輕甸切 霰

たとへ。たとへる。また、うかがひみる。俔(1－686)に同じ。〔集韻〕悓、說文、譬諭也、一曰、間見、或从レ心。

【悔】10659

[一]クヮイ　〔集韻〕呼内切　[隊]
[二]クヮイ　〔集韻〕虎猥切　[賄]　ㄏㄨㄟˋ　huei³
[慣]ゲ


小篆

[一][二]❶くいる。㋑くちをしく思ふ。うらむ。心がのこる。〔說文〕悔、悔恨也、从㆑心每聲。〔易、繫辭上〕悔吝者、憂虞之象也。〔疏〕悔者、其事已過、意有㆔追㆓悔之㆒也。〔詩、大雅、雲漢〕宜㆑無㆓悔怒㆒。〔傳〕悔、恨也。〔戰國、秦策〕此講之悔也。〔注〕悔、恨也。〔淮南子、氾論訓〕而悔㆑不㆑殺㆓湯於夏臺㆒。〔注〕悔、恨也。〔楚辭、離騷〕雖㆓九死㆒其猶未㆑悔。〔注〕悔、恨也。㋺くいあらためる。前非をさとる。〔玉篇〕悔、改也。〔字彙〕悔、知㆑過改㆑過之心也。〔後漢書、魯恭傳〕亭長乃慙悔還㆑牛。〔梁簡文帝、六根懺文〕誠心懺悔。❷くゆらくは。をしむらくは。〔王昌齡、浣紗女詩〕忽見陌頭楊柳色、悔教㆔夫壻覓㆓封侯㆒。❸くい。㋑こころのこり。うらみ。〔論語、爲政〕則寡㆑悔。〔皇疏〕悔、恨也。㋺とが。過誤。失敗。〔公羊、襄、二十九〕尙速有㆑悔㆓於予身㆒。〔注〕悔、咎也。〔新書、容經〕悔者凶也。〔法言、吾子〕悔吝不㆑至。〔注〕悔吝、小疵也。〔後漢書、謝夷吾傳〕塞㆑咎免㆑悔。❹**あなどり**。悔（**1**−**630**）に通ず。〔說文通訓定聲〕悔、叚借爲㆑侮。〔詩、大雅、抑〕庶無㆓大悔㆒。〔傳〕悔、慢也。❺**易の外卦**。易卦の上體。易の爻は下から起るから、下體を内とし、上體を外とす。上體とは、上の三爻をいふ。𠧪（**2**−**2809**）に通ず。〔正字通〕易、内卦爲㆑貞、外卦爲㆑悔、說文从㆑卜作㆑𠧪。〔書、洪範〕曰貞曰悔。〔傳〕内卦曰㆑貞、外卦曰㆑悔。〔左氏、僖、十五〕蠱之貞、風也、其悔、山也。〔注〕内卦爲㆑貞、外卦爲㆑悔。❻或は悳（**4**−**10660**）と書す。〔集韻〕悔、或書作㆑悳。❼痗（**7**−**22184**）に同じ。〔說文通訓定聲〕悔、字亦作㆑痗。〔詩、小雅、十月之交、亦孔之痗、釋文〕痗、字本作㆑悔。[邦]**くやみ**。人の死を弔ふこと。又、其時贈る物品。

【悔懊】1（クヮイアウ）　なやみうらむ。悔いなやむ。〔韓愈、薦㆑士詩〕善㆑善不㆓汲汲㆒、後時徒悔懊。

【悔菴】2（クヮイアン）　字號。❶清、尤侗（**4**−**7543**‥34）の號。❷清、嚴元照（**2**−**4589**‥280）の號。❸清、萬泰（**9**−**31339**‥333）の號。❹清、文康（**5**−**13450**‥104）の號。❺東聚の號。東悔庵（**6**−**14499**‥786）を見よ。

【悔尤】3（クヮイイウ）　とがめ。あやまち。わざはひ。尤は外からのとがめ、悔は内からのとがめ。後悔と非難。悔咎。〔論語、爲政〕言寡㆑尤、行寡㆑悔。〔集解〕包曰、尤、過也。〔皇疏〕悔、恨也。〔集注〕程子曰、尤、罪自㆑外至者也、悔、理自㆑内出者也。〔韓愈、秋懷詩〕庶幾遺㆓悔尤㆒、卽此是幽屛。〔白居易、想㆓東遊㆒五十韻詩〕物表疎㆓形役㆒、人寰足㆓悔尤㆒。

【悔怨】4（クヮイエン）　うらみ。〔輟耕錄、謠言〕自後有㆓貴賤貧富長幼姸醜匹配之不㆑齊者㆒、各生㆓悔怨㆒、或夫棄㆓其妻㆒、或妻憎㆓其夫㆒。

【悔翁】5（クヮイヲウ）　字號。❶清、屈復（**4**−**7669**‥133）の號。❷清、汪士鐸（**6**−**17154**‥236）の號。

【悔艾】6（クヮイガイ）　くいあらためる。改悛して更生する。艾は治。〔宋史、李燾傳〕（李燾）知㆓雙流縣㆒、仕族張氏子居㆑喪而爭㆑產、燾曰、若忍墜㆓先訓㆒乎、盍㆓歸思㆒㆑之、三日復來、迄㆓悔艾無㆒㆑訟。

【悔岸】7（クヮイガン）　清、汪繼昌（**6**−**17154**‥213）の號。

【悔咎】8（クヮイキウ）　わざはひ。あやまち。悔尤。〔後漢書、清河孝王慶傳〕上遵㆓策戒㆒、下免㆓悔咎㆒。〔歐陽脩、題㆓譙君碑㆒〕守㆑靜韜㆑光、以遠㆓悔咎㆒而已。

【悔卻】9（クヮイキヤク）　悔いて守らない。〔西廂記、草橋店夢㆓鶯鶯㆒雜劇〕夫人悔㆓卻前言㆒。

【悔過】10（クヮイクヮ）　あやまちをくいる。非を悟る。〔書、秦誓序、傳〕穆公悔㆑過作㆑誓。〔孟子、萬章上〕太甲悔㆑過、自怨自艾。〔陳琳、檄㆓吳將校部曲㆒文〕懷㆑恩悔㆑過、委質還降。

【悔過齋】11（クヮイクヮサイ）　清、顧廣譽（**12**−**43689**‥248）の號。

【悔禍】12（クヮイクヮ）　❶わざわひをくいる。〔左氏、隱、十一〕天其以㆑禮悔㆓禍於許㆒、無寧茲。〔柳宗元、逐㆓畢方㆒文〕祝融悔㆑禍兮、回祿屛㆑氣。❷呂氏春秋、先識覽の篇名。

【悔愆】13（クヮイケン）　あやまちをくいる。悔過。〔劉基、閑止齋詩〕步止辭㆓跆躓㆒、語止絕㆓悔愆㆒。

【悔悟】14（クヮイゴ）　くいさとる。前非をくい改める。〔後漢書、皐陵質王延傳〕今王曾莫㆓悔悟㆒。〔孔子家語、子路所見〕紂將㆔悔㆓悟其本志㆒。

【悔恨】15（クヮイコン）　くいうらむ。過失を後悔して殘念に思ふ。〔阮籍、詠懷詩〕念㆓我平常時㆒、悔恨從㆑此生。〔顏氏家訓、雜藝〕嘗悔恨曰、假使㆓吾不㆑知㆑書、可㆑不㆑至㆓今日㆒耶。〔神仙傳、衞叔卿〕默然不㆑應、忽焉不㆑知㆑所㆑在、帝甚悔恨。

【悔齋】16（クヮイサイ）　字號。❶清、汪楫（**6**−**17154**‥67）の號。❷竹村蕢の號。竹村悔齋（**8**−**25841**‥255）を見よ。

【悔罪】17（クヮイザイ）　罪をくいる。〔歐陽詹、福州南澗寺上方石像記〕可㆓以禮足而悔㆑罪、寄㆑影以安樂㆒。

【悔山】18（クヮイザン）　鹽谷世弘の號。鹽谷宕陰（**12**−**47579**‥208）を見よ。

【悔志】19（クヮイシ）　前非を悔いる心。後悔する氣持。〔文中子、周公〕秋風、樂極哀來、其悔志之萠乎。

【悔謝】20（クヮイシヤ）　非をくいてわびる。〔魏書、魏溥妻房氏傳〕須㆓其悔謝㆒乃食。

【悔狀】21（クヮイジヤウ）　人の死を弔ふ手紙。くやみの手紙。

【悔悛】22（クヮイシユン）　くい改める。改悛。

【悔初】23（クヮイシヨ）　清、馬敬之（**12**−**44572**‥752）の字。

【悔心】24（クヮイシン）　後悔する心。又、心に前非をくいる。〔左氏、成、十三〕亦悔㆓于厥心㆒、用集㆓我文公㆒。

【悔親】25（クヮイシン）　婚姻をとりけす。〔元典章、十八〕定㆑婚不㆑許㆓悔親㆒。

【悔人】26（クヮイジン）　清、朱載震（**6**−**14424**‥795）の字。

【悔生】27（クヮイセイ）　清、王灼（**7**−**20823**‥543）の號。

【悔責】28（クヮイセキ）　くいて自らせめる。非行を悔いて自ら責め勤める。〔世說新語、惑溺〕孫秀降㆑晉、晉武帝厚存㆓寵之㆒、妻以㆓姨妹蒯氏㆒、室家甚篤、云云、蒯氏大自悔責、請㆓救于帝㆒。

【悔然】29（クヮイゼン）　くいるさま。〔白居易、策林、四十八、禦㆓戎狄㆒〕故漢武悔然、而下㆓哀痛之詔㆒也。

【悔堂】30（クヮイダウ）　楠本後覺の號。楠本端山（**6**−**15152**‥11）を見よ。

【悔恥】31（クヮイチ）　くいはぢる。〔顏氏家訓、勉學〕赧然悔恥、積而能散也。

【悔遲】32（クヮイチ）　清、陳洪綬（**11**−**41698**‥862）の號。

【悔遲齋】33（クヮイチサイ）　清、曹肅荀（**5**−**14297**‥255）の號。

【悔怒】34（クヮイド）　悔い怒る。恨み怒る。〔詩、大雅、雲漢〕敬㆓恭明神㆒、宜㆑無㆓悔怒㆒。〔傳〕悔、恨也。

【悔亡】35（クヮイバウ）　くいがなくなる。〔易、恆〕九二悔亡。〔本義〕以㆑陽居㆑陰、本當㆑有㆑悔、以㆓其久中㆒、故得㆑亡也。

【悔非】36（クヮイヒ）　非をくいる。あやまちをくいる。〔魏收、爲㆓侯景叛㆒移㆓梁朝㆒文〕容㆓其悔非㆒、棄㆓其瑕穢㆒。

【悔慢】37（クヮイマン）　あなどる。〔顏氏家訓、文章〕謝玄暉悔慢見㆑及。

【悔餘】38（クヮイヨ）　字號。❶清、何栻（**1**−**511**‥113）の號。❷清、査愼行（**6**−**14643**‥103）の字。

【悔餘道人】39（クヮイヨダウジン）　清、李士棻（**6**−**14459**‥1280）の號。

【悔賴】40　huei³ lai⁴　否認する。

【悔吝】41（クヮイリン）　❶くいうらむ。前非を恨み悔いあらためる。悔恨。吝は恨む意。〔易、繫辭上〕悔吝者、憂虞之象也。〔疏〕悔者、其事已過、意有㆔追㆓悔之㆒也、吝者、當㆑事之時、可㆓輕鄙恥㆒、故云㆑吝也。〔後漢書、馬援傳〕無㆓悔吝之心㆒。〔注〕吝、猶㆑恨也。〔嵇康、與㆓山巨源㆒絕㆑交書〕與㆓一世㆒同㆓其波流㆒、而悔吝不㆑生耳。〔注〕吝、恨也。❷少しのあやまち。小疵。悔悋。〔法言、修身〕悔吝不㆑至。〔注〕悔吝、小疵也。〔阮籍、通易論〕愛惡生㆓得失㆒、得失生㆓悔吝㆒。

【悔吝之咎】42（クヮイリンノトガメ）　悔い恨むとがめ。〔魏志、王昶傳〕故有㆓困辱之累、悔吝之咎㆒。

【悔悋】43（クヮイリン）　少しのあやまち。悔吝に同じ。悋

は悋。〔風俗通、正失〕皆所謂悔悋小疵耶。

【悔淚】44クワイルイ　前非を悔いる淚。前非を悟つて泣く。

【悔戾】45クワイレイ　とがめ。わざはひ。〔北史、張普惠傳〕自貽二悔戾一、沈二淪幽壞一。

【悔廬】46クワイロ　字號。❶清、陳汝咸（11－41698‥1001）の字。❷清、趙仁基（10－37171‥707）の號。❸清、鄧鍾岳（11－39630‥166）の號。

【悔懺法】47クワイサンホフ　佛僧徒が十方諸佛を禮して懺悔する儀式。〔釋氏通鑑〕傅大士告二普建等一曰、愼二護三業一、精二勤六度一、行二悔懺法一、免レ墮二三塗一。

【悔毒之歎】48クワイドクノタン　飲んだ毒を後悔するなげき。取返しの出來ぬことを後から悔いるなげき。〔後漢書、皇甫嵩傳〕利劍已揣二其喉一、方發二悔毒之歎一者、機失而謀乖也。

【⿱每心】10660

クワイ　悔（4－10659）に同じ。〔正字通〕⿱每心、同レ悔。

【悕】10661

キ　ケ　〔集韻〕香衣切　微　ㄒㄧ hsi^1

❶おもふ。〔玉篇〕悕、念也。❷ねがふ。〔集韻〕悕、願也。❸かなしむ。〔集韻〕悕、悲也。〔左氏、昭、九〕在レ陳悕矣。〔釋文〕悕、悲也。〔公羊、成、十六〕在二招丘一悕矣。〔注〕悕、悲也。〔說文外編〕悕、成公十六年傳何注、悕、悲也、說文無二悕字一、蓋卽唏之異體、說文口部、唏、一曰、哀痛不レ泣曰レ唏、與レ悲義合。

【⿰忄否】10662

🈩ハイ　〔集韻〕布亥切　賄

🈔ガイ　〔五音集韻〕五亥切　賄

🈩🈔たのむ。〔集韻〕⿰忄否、恃也。

【悖】10663

🈩ホツ ボチ　〔集韻〕薄沒切　月　ㄅㄟˋ pei^4

🈔ハイ バイ　〔集韻〕蒲昧切　隊

🈪ハイ　〔集韻〕必每切　賄

慣ボツ

🈩❶もとる。㋑みだれる。誖（10－35517）に同じ。〔集韻〕誖、說文、亂也、或从レ心。〔呂覽、誣徒〕閒レ事則前後相悖。〔注〕悖、亂也。㋺さからふ。そむく。〔禮、月令〕毋レ悖二於時一。〔注〕悖、猶レ逆也。〔中庸〕道並行而不二相悖一。〔莊子、盜跖〕悖二戰于胸中一也。〔疏〕悖、逆也。〔漢書、谷永傳〕卦氣悖亂。〔注〕師古曰、悖、乖也。㋩たがふ。〔荀子、性惡〕皆反二於性一而悖二於情一者也。〔注〕悖、違也。㋥あやまる。〔淮南子、脩務訓〕豈不レ悖哉。〔注〕悖、繆也。㋭まどふ。〔荀子、正名〕足三以喩二治之所一レ悖。〔注〕悖、惑也。〔呂覽、離謂〕鑒二其表一而棄二其意一、悖。〔注〕悖、惑。〔淮南子、說山訓〕自掩二其耳一、悖矣。〔注〕悖、惑也。〔漢書、五行志下之上〕君臣故弼、茲謂レ悖。〔注〕師古曰、悖、惑也。㋬あらい。わるい。〔淮南子、說山訓〕行者爲レ之悖戾。〔注〕悖、麤惡也。❷もとらせる。〔荀子、正名〕以二其所レ受、悖二其所レ辭。〔注〕悖、違也。〔荀子、王霸〕俳優侏儒婦女之請謁、以悖レ之。〔注〕悖、亂也。〔戰國、秦策〕計有二一二者難レ悖。〔注〕悖、誤也。❸老いて刑に當てられる。〔太平御覽、刑法部、敍刑上〕書曰、老而受レ刑、謂二之悖一。❹さかん。朩（6－14418）・孛（3－6949）・勃（2－2351）に通ず。〔說文通訓定聲〕悖、叚借爲レ朩、爲レ孛。〔左氏、莊、十一〕其興也悖焉。〔注〕悖、盛貌。〔釋文〕悖、一作レ勃、同。❺つよい。勃（2－2351）に通ず。〔說文通訓定聲〕悖、叚借爲レ勃。〔廣雅、釋詁一〕悖、強也。❻姓。〔梁書、豫章王綜傳〕高祖令下綜都二督衆軍一、鎭二於彭城一、與二魏將安豐王元延明一相持上。高祖以二連レ兵既久一、慮レ有二釁生一、敕レ綜退レ軍、綜懼二南歸則無一レ因、奔二於延明一、魏以爲二侍中太尉高平公丹陽王一、綜乃改二名纘字德文一、追爲二齊東昏一服二斬衰一、於レ是有司奏削二爵土一、絕二屬籍一、改二其姓一爲二悖氏一。🈔❶みだれる。🈩の❶の㋑に同じ。誖（10－35517）に同じ。〔集韻〕誖、亂也、或从レ心。❷おほふ。蔽（9－31888）に通ず。〔說文通訓定聲〕悖、叚借爲レ蔽。〔莊子、胠篋〕上悖二日月之明一。〔釋文〕悖、李・郭云、必內反、又音佩、司馬云、薄食也。🈪つよい。〔集韻〕悖、博雅、勥也。

【悖惡】1ハイアク　道にもとつてよくない。〔詩、唐風、羔裘、自我人居居、箋〕其意居居然有二悖惡之心一。

【悖焉】2ボツエン　盛に興るさま。勃焉。〔左氏、莊、十一〕其興也悖焉。〔注〕悖、盛貌。〔釋文〕悖、蒲忽反、一作レ勃、同。〔隋棲巖道場舍利塔碑〕高祖悖焉革レ命。

【悖行】3ハイカウ　道理にもとつた行爲。〔論衡、本性〕一歲嬰兒無二爭奪之心一、長大之後、或漸二利色一、狂心悖行、由レ此生也。

【悖慠】4ハイガウ　道理にもとりおごる。〔魏志、齊王芳紀〕恭孝日虧、悖慠滋甚。

【悖驁】5ハイガウ　道理にもとりおごる。驁は驕つて馴れぬ意。〔柳宗元、駁二復讎一議〕是悖驁而凌レ上也。

【悖狂】6ハイキヤウ　心がもとり狂ふ。〔韓非子、解老〕費レ神多、則盲聾悖狂之禍至。〔易林、渙之第五十九、兌〕昭公失レ常、季女悖狂。

【悖逆】7ハイギヤク　もとりさからふ。道理にたがひ戾る。法度にもとる。〔周禮、秋官、小行人〕其悖逆暴亂作レ慝。〔禮、樂記〕有二悖逆詐僞之心一。〔禮、祭義〕致レ義則上下不二悖逆一。〔管子、君臣上〕國家有二悖逆反迕之行一。〔墨子、非儒下〕悖二逆父母一。〔荀子、樂論〕靡レ有二悖逆者一。〔韓非子、難言〕言而近レ世、辭不二悖逆一、則見三以爲二貪レ生而諛一レ上。〔呂覽、正名〕從二悖逆一也。〔陳琳、檄二吳將校部曲一文〕何則天威不レ可レ當、而悖逆之罪重也。〔注〕濟曰、悖、亂也。

【悖悔】8 pei^4 huei^3　老人のくせに道理のわからぬこと。

【悖言】9ハイゲン　道理にもとつた言葉。〔公孫龍子、白馬〕此天下之悖言亂辭也。

【悖心】10ハイシン　そむきもとつた心。むほんをはかる心。〔左氏、僖、三十二〕勤而無レ所、必有二悖心一。〔注〕將レ害二良善一。

【悖政】11ハイセイ　道理にもとる政治。虐政。〔太平記、十四、新田足利確執奏狀〕違勅悖政之逆行、無レ甚二於焉一。

【悖戰】12ハイセン　さからひあらそふ。悖は逆ふ。〔莊子、盜跖〕論則賤レ之、行則下レ之、則言是行之情、悖二戰于胸中一也、不二亦拂一乎。〔疏〕悖、逆也。

【悖然】13ボツゼン　顏色を變へるさま。勃然。〔戰國、秦策〕無二其名一、又無二其實一者、王乃是也已、立爲二萬乘一、無二孝之名一、以二千里一養、無二孝之實一、秦王悖然而怒。〔韓非子、內儲說下〕王悖然怒曰、劓レ之。〔論衡、道虛〕若レ士者悖然而笑曰、嘻、子中州之民也、不レ宜二遠至一レ此。

【悖道】14ハイダウ　道にもとる。正道にもとる。〔書、畢命〕世祿之家、鮮二克由一レ禮、以レ蕩レ陵レ德、實悖二天道一。〔後漢書、隗囂傳〕悖レ道逆レ理。

【悖德】15ハイトク　德義にもとる。又、道にはづれた行。〔孝經、聖治章〕不レ愛二其親一、而愛二他人一者、謂二之悖德一。

【悖背】16ハイハイ　もとりそむく。〔史記、龜策傳〕君子謂、夫輕二卜筮一、無二神明一者、悖二背人道一。

【悖暴】17ハイバウ　道理にもとりあらあらしい。〔後漢書、鄧晨傳〕王莽悖暴。

【悖拔】18ハイバツ　さからひぬく。〔文子、上禮〕悖二拔其根一、而棄二其本一。

【悖叛】19ハイハン　もとりそむく。謀叛する。そむく。

【悖畔】20ハイハン　もとりそむく。畔はそむく。〔漢書、王莽傳下〕妄流言惑レ衆、悖二畔天命一。

【悖繆】21ハイビウ　もとりあやまる。繆は誤る。〔荀子、

彊國】若レ是其悖繆也。〔韓非子、五蠹〕毀譽賞罰之所レ加者、相與悖繆也。

【悖謬】22（ハイビウ）　もとりあやまる。道理に違ふ。〔淮南子、泰族訓〕治由二文理一、則無二悖謬之事一矣。〔魏志、滿寵傳〕淩支黨毀二寵疲老悖謬一。

【悖父】23（ハイフ）　道にもとつた父。〔說苑、正諫〕無二亡國破家、悖父亂子、放兄棄弟、狂父淫婦、絕交敗友一。

【悖慢】24（ハイマン）　道にもとり人をあなどる。〔春秋元命苞〕愚者悖慢、智者無レ所レ施二其術一。〔後漢書、南匈奴傳〕辭語悖慢。〔魏志、荀彧傳〕其辭悖慢。〔顏氏家訓、文章〕曹植悖慢犯レ法。〔抱朴子、酒誡〕幼賤悖二慢於耆宿之座一。

【悖亂】25（ハイラン）　もとりみだる。正義にたがひ正道を亂る。又、むほんをおこす。勃亂。〔荀子、性惡〕無二禮義一、則悖亂而不レ治。〔韓非子、難言〕不幸而遇二悖亂闇惑之主一而死。〔呂覽、察今〕悖亂不レ可二以持レ國。〔史記、王翦傳〕老臣罷病悖亂。〔漢書、五行志中之上〕邯鄲狗與レ彘交、悖亂之氣、近二犬豕之禍一也。〔孔子家語、六本〕家無二悖亂之患一。〔顏氏家訓、敎子〕書有二悖亂之事一。

【悖理】26（ハイリ）　道理にもとりたがふ。〔莊子、在宥〕說レ義邪、是悖二於理一也。

【悖戾】27（ハイレイ）　正道にもとる。道理に違ふ。〔淮南子、說林訓〕爲レ之悖戾。〔易林、履之レ蒙〕兩人俱醉、相與悖戾。

【悖禮】28（ハイレイ）　禮義にそむきもとる。又、道にもとつた禮儀。閒違つた禮。〔孝經、聖治章〕不レ敬二其親一、而敬二他人一者、謂二之悖禮一。

【悖惑】29（ハイワク）　もとりまどふ。〔後漢書、趙壹傳〕君學成レ師、事在二悖惑一。〔論衡、定賢〕主不二悖惑一。

【悖拏兒】30（ハイダジ）　唐の宮人の名。〔張祜、悖拏兒舞詩〕揭レ手便拈金椀舞、上皇驚笑悖拏兒。

【悖出悖入】31（ハイシユツハイニフ）　道理にもとつた言葉を出せば、道理に悖つた言葉で報いられる。〔大學〕言悖而出者、亦悖而入。〔章句〕悖、逆也。

【悖入悖出】32（ハイニフハイシユツ）　道理にもとつた手段で得た貨財は、又、道理にもとつた方法によつて出て行く。〔禮、大學〕言悖而出者、亦悖而入、貨悖而入者、亦悖而出、康誥曰、惟命不レ于レ常、道善則得レ之、不善則失レ之矣。〔注〕悖、猶レ逆也、言、君有二逆命一、則民有二逆辭一也、上貪二於利一、則下人侵畔、老子曰、多藏必厚亡。〔疏〕君有二逆命一、解二經言悖而出一也、民有二逆辭一、解二經亦悖而入一、謂下人有二逆レ君之辭一以拒上レ君也、引二老子一者、證二貨悖而入、亦悖而出一。

【悗】10664

㊀バン　マン　〔集韻〕謨官切　［寒］
㊁ボン　モン　〔集韻〕母本切　［阮］

㊀❶**まどふ。**〔集韻〕悗、惑也。❷**わづらふ。わづらひ。**〔靈樞經、五亂〕淸濁相干、亂二于胸中一、是謂二大悗一。❸或は慢（**4－11110**）に作る。〔集韻〕悗、或从レ曼。㊁❶**わすれる。**〔集韻〕悗、廢忘也。〔莊子、大宗師〕悗乎忘二其言一也。〔釋文〕悗、王云、廢忘也、或从レ曼。❷**ひとり身のさま。**〔集韻〕悗、一曰、無レ匹兒。❸**すなほなさま。**〔莊子、大宗師、釋文〕崔云、悗、婉順也。

【悗乎】1（ボンコ）　ひとりだちのさま。又、やさしくおとなしいさま。又、わすれるさま。〔莊子、大宗師〕悗乎忘二其言一也。〔釋文〕悗、李云、無レ匹貌、王云、廢忘也、崔云、婉順也。〔疏〕悗、無心貌。

【悗密】2（ボンミツ）　すなほでさからはない。〔韓非子、忠孝〕古昔黔首悗密蠢愚、故可下以二虛名一取上也。〔翼毳〕悗、忘レ情貌、密、默也。

【㤳】10665

カウ　キヤウ　〔集韻〕古杏切　［梗］

うらむ。〔集韻〕㤳、恨也。

【悘】10666

㊀イ　〔集韻〕於其切　［支］
㊁エイ　〔集韻〕壹計切　［霽］

㊀**つまびらか。**〔集韻〕悘、博雅、審也。㊁❶**うやうやしい。**〔集韻〕悘、恭也。❷**しづか。**〔集韻〕悘、靜也。

【㤴】10667

㊀テフ　〔集韻〕敕涉切　［葉］
㊁セフ　〔集韻〕尺涉切　［葉］

㊀❶**むなさわぎのするさま。**〔玉篇〕㤴、心動兒。❷**やすむ。**〔玉篇〕㤴、休也。❸**わるがしこいさま。**〔集韻〕㤴、恓㤴、黠兒。❹**志がかるい。**㤴懾、〔集韻〕㤴、㤴懾、志輕也。㊁❶**わるがしこいさま。**〔集韻〕㤴、恓㤴、黠兒。❷**小人のさま。**恓㤴。〔廣韻〕㤴、恓㤴、小人兒。❸**あやしむ。**〔集韻〕㤴、怪也。

【㤵】10668

ジ

慈（**4－11048**）に同じ。〔字彙〕㤵、同レ慈。

【㤶】10669

㊀バウ　マウ　〔集韻〕莫江切　［江］
㊁バウ　マウ　〔集韻〕尨巷切　［絳］

㊀**くらい。**〔集韻〕㤶、㤶懞、惛也。㊁**おろか。**〔集韻〕㤶、㤶戇、愚也。

【悙】10670

㊀カウ　キヤウ　〔集韻〕虛庚切　［庚］
㊁ハウ　ヒヤウ　〔集韻〕披庚切　［庚］
㊂カウ　キヤウ　〔集韻〕亨孟切　［敬］

㊀㊁**ほこるさま。**憉悙。〔集韻〕悙、憉悙、自矜健兒。㊂**あらい。そそつかしい。**〔集韻〕悙、倀悙、疏率也。

【㤷】10671

キン　ゴン　〔集韻〕巨禁切　［沁］

心がかたい。或は㦗（**4－11311**）に作る。〔集韻〕㤷、心堅固也、或从レ禁。

【悚】10672

シヨウ　シユ　〔集韻〕筍勇切　［腫］　ㄙㄨㄥˇ　sung³

❶**おそれる。**愯（**4－10992**）に同じ。〔集韻〕愯、說文、懼也、或作レ悚。〔孔子家語、弟子行〕不レ戁不レ悚。〔注〕悚、懼。❷**あはてる。**又、㦼（**4－11500**）に作る。〔一切經音義、十三〕悚、又作レ㦼、字林、惶遽也。

【悚汗】1（シヨウカン）　おそれてあせする。〔冊府元龜〕追用悚汗、不二自宣盡一。

【悚企】2（シヨウキ）　おそれてつまだちする。企はつまだつ。〔韓愈、與二少室李拾遺一書〕踊躍悚企。

【悚悸】3（シヨウキ）　おそれをののく。〔法書要錄、陶隱居又啓〕情近十餘日、慮悚悸無レ寧。

【悚懼】4（シヨウク）　おそれてぞつとする。おそれをののく。聳懼。〔書、大禹謨、夔夔齋慄、疏〕夔夔、悚懼之貌。〔韓非子、七術〕皆悚二懼其所一、而不二敢爲レ非。

【悚作】5（シヨウサク）　おそれはぢる。悚慙。〔王融、下獄答辭〕悚作之情、夙宵兢惕。〔李嶠、爲二絳州刺史孔禎等一上二獻食一表〕輕二薦蔬菲一、追二增悚作一。

【悚慙】6（シヨウザン）　おそれはぢる。悚作に同じ。〔崔行先、爲二昭義李相公一謝レ賜二臘日口脂一狀〕內悚外慙、不レ知レ所レ措。

【悚悚】7（シヨウシヨウ）　おそれるさま。悚然に同じ。〔王延壽、魯靈光殿賦〕魂悚悚其驚斯、心猥猥而發レ悸。〔注〕濟曰、悚悚・猥猥、皆恐懼也。

【悚戰】8（シヨウセン）　おそれをののく。〔任昉、爲二蕭揚州一作薦レ士表〕臨レ表悚戰、猶懼未レ允。

【悚然】9（シヨウゼン）　おそれるさま。悚悚。竦然。〔吳志、孫霸傳〕遠近悚然、大小失レ望。

【悚息】10（シヨウソク）　おそれあへぐ。息は喘ぐ。〔吳志、周魴傳〕追用悚息、被レ報施行。

【悚恧】11（ショウヂク） おそれはぢる。恧は慙ぢる。〔梁簡文帝、上㆓大法頌㆒表〕曾無㆓連類㆒、伏兼㆓悚恧㆒。

【悚惕】12（ショウテキ） おそれる。おそれをののく。畏惕。〔新書、瑰瑋〕悚㆓惕於俗㆒。〔北夢瑣言〕卽再奏薦、裴益悚惕。

【悚動】13（ショウドウ） おそれをののく。〔會澤正志齋新論、國體上〕言苟及㆓天地鬼神㆒、雖㆓愚夫愚婦㆒、不㆑能㆑無㆔悚㆓動於其心㆒。

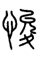
【悚迫】14（ショウハク） あはてせまる。〔新書、瑰瑋〕人慕㆓其所㆒㆑不㆑如、悚㆓迫於俗㆒、願㆓其所㆒㆑未㆑至、以相競尚。

【悚慄】15（ショウリツ） おそれふるへる。悚栗。〔鹽鐵論、周秦〕賁育之勇、莫㆘不㆓震慴悚慄㆒者㆖。〔後漢書、王宏傳〕衆人悚慄。〔晉書、王濬傳〕況臣脆弱、不㆓敢悚慄㆒。

【恰】10673 カン コン 〔集韻〕呼含切 覃

あらい。〔集韻〕恰、疎縱也。

【悛】10674 ㊀セン 〔集韻〕逡緣切 先 ㊁シュン 〔集韻〕須倫切 眞 ㄑㄩㄢ ch'üan^1


小篆

㊀❶あらためる。やめる。さとる。〔說文〕悛、止也、从㆑心夋聲。〔方言、六〕悛・懌、改也、自㆑山而東、或曰㆑悛。〔小爾雅、廣言〕悛、覺也。〔廣雅、釋詁三〕悛、更也。〔書、泰誓上〕惟受罔㆑有㆑悛㆑心。〔傳〕悛、改也。〔左氏、隱、六〕長㆑惡不㆑悛。〔注〕悛、止也。〔左氏、襄、二十八〕亦無㆑悛㆑志。〔注〕悛、改寤也。❷つぐ。銓（11－40378）に通ず。〔說文通訓定聲〕悛、叚借爲㆑銓。〔左氏、哀、三〕外內以悛。〔注〕悛、次也。❸つつしむ。恮（4－10600）に通ず。〔說文通訓定聲〕悛、叚借爲㆑恮。〔廣雅、釋詁二〕悛、敬也。㊁❶あらためる。㊀の❶に同じ。〔集韻〕悛、改也。❷まこと。恂（4－10520）に同じ。〔集韻〕恂、說文、信心也、或作㆑悛。

【悛懌】1（シュンエキ） あらためる。〔方言、六〕悛懌、改也、自㆑山而東、或曰㆑悛、或曰㆑懌。

【悛改】2（シュンカイ） あらためる。惡事をくい改める。改悛。〔列女傳、續列女、張湯母傳〕母數責怒、性不㆑能㆓悛改㆒。〔後漢書、孔僖傳〕固應㆓悛改㆒。〔北史、張彝傳〕令㆓其修悔㆒、而猶無㆓悛改㆒。

【悛革】3（シュンカク） あらためる。〔宋書、武帝紀下〕三犯終無㆓悛革㆒。〔南齊書、垣崇祖傳〕特加㆓尊養㆒、庶或悛革。

【悛換】4（シュンクヮン） あらため更へる。あらためなほす。〔魏書、袁飜傳〕是以數年之中、悛換非㆑一。

【悛志】5（シュンシ） 志をあらためる。〔左氏、襄、二十八〕子家不㆑聽、亦無㆑悛㆑志。

【悛悛】6（シュンシュン） まことがありあまつてことばの少ないさま。謹厚のさま。悛は、まこと。恂恂。〔史記、李將軍傳贊〕余睹㆓李將軍㆒、悛悛如㆓鄙人㆒、口不㆑能㆓道辭㆒。〔注〕索隱曰、悛、漢書作㆑恂。

【悛心】7（シュンシン） 心を悔い改める。〔書、泰誓上〕惟受罔㆑有㆓悛心㆒。〔詩、小雅、魚藻、豈樂飲酒、箋〕而無㆑悛㆑心。

【悛惕】8（シュンテキ） つつしみおそれる。〔吳少微、唐北京崇福寺銅鐘銘序〕于㆑是旭旦之音達、而人用悛惕、伐㆓虞泉㆒而人悲㆓哀老㆒。

【悛容】9（シュンヨウ） かたちを改める。又、あやまちをあらためる樣子。〔左氏、襄、七〕孫子無㆑辭、亦無㆓悛容㆒。〔注〕悛、改也。〔韓非子、難四〕孫子無㆑辭、亦無㆓悛容㆒。〔漢書、五行志中之上〕孫子亡㆑辭、亦亡㆓悛容㆒。

【悜】10675 テイ チヤウ 〔集韻〕丑郢切 梗

❶うれへる。〔集韻〕悜、憂也。❷意がつきない。慏悜。〔廣韻〕悜、慏悜、意不㆑盡也。

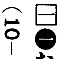
【⿰忄延】10676 セン 〔集韻〕私箭切 霰

あはれむ。〔集韻〕⿰忄延、憐也。

【⿰忄忌】10677 キ ギ 〔集韻〕渠記切 寘

つつしむ。うやまふ。〔集韻〕⿰忄忌、敬也。

【悝】10678 ㊀クヮイ 〔集韻〕枯回切 灰 ㄎㄨㄟ k'uei^1 ㊁リ 〔集韻〕兩耳切 紙 ㄌㄧˇ li^3


小篆

㊀❶たはむれる。あざける。詼（10－35462）に通ず。〔說文〕悝、啁也、从㆑心里聲、春秋傳有㆓孔悝㆒。〔段注〕今之詼字。〔張衡、東京賦〕由余以㆓西戎孤臣㆒而悝㆓穆公於宮室㆒。〔注〕善曰、悝、猶㆑嘲也。❷やむ。やまひ。〔說文〕悝、一曰、病也。〔集韻〕悝、一曰、疾也。❸わたくし。私曲。〔集韻〕悝、私也。❹人名。〔字彙〕悝、人名、衞孔悝、魏李悝。㊁❶うれへる。〔爾雅、釋詁〕悝、憂也。〔玉篇〕悝、憂也。〔集韻〕悝、憂也。❷かなしむ。〔玉篇〕悝、悲也。❸やむ。やまひ。〔玉篇〕悝、疾也。

【悞】10679 ゴ 〔集韻〕五故切 遇 ㄨˋ wu^4

❶あやまる。誤（10－35546）に同じ。〔廣韻〕誤、謬誤、悞、上同。❷あざむく。〔集韻〕悞、欺也。❸うたがふ。〔集韻〕悞、疑也。❹まどふ。〔韻會〕悞、又惑也。❺現㋑おくれる。てまどる。㋺怠る。

【悞飲】1（ゴイン） あやまつて飲む。〔周書、寇儁傳〕惡木之陰、不㆑可㆓暫息㆒、盜泉之水、無㆑容㆓悞飲㆒。

【悞羈】2（ゴキ） あやまつてつなぐ。まちがつて牢にいれる。〔福惠全書、刑名部、籍沒家產〕有㆓親友探望悞羈者㆒。

【悞工】3 wu^4 kung^1 仕事を怠る。

【悞殺】4 wu^4 sha^1 誤つて殺す。

【悞事】5（ゴジ） 事を誤る。不都合を來す。〔福惠全書、蒞任部、設內外號簿〕非㆓每件塡記㆒、則遺漏悞㆑事。

【悞失】6 wu^4 shih^1 過失。

【悞傷】7（ゴシヤウ） 誤つて傷つける。〔福惠全書、刑名部、問擬〕悞傷似㆘與㆓律文㆒未㆗相合㆖。

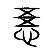
【悞蹈】8（ゴタウ） ふみそこなふ。〔福惠全書、刑名部、逃人、總論〕忽畧從㆑事、悞蹈者往往有㆑之。

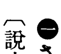
【悞卯】9 wu^4 mao^3 氏名點呼におくれる。

【悞犯】10 wu^4 fan^4 過つて罪を犯す。

【悞不了】11 wu^4 pu liao^3 間違ふことはない。

【悟】10680 ゴ 〔集韻〕五故切 遇 ㄨˋ wu^4


小篆


古文

❶さとる。了解する。〔說文〕悟、覺也、从㆑心吾聲。忢、古文悟。〔書、顧命〕今天降㆑疾、殆弗㆑興弗㆑悟。〔素問、八正神明論〕慧然獨悟。〔注〕悟、猶㆓了達㆒也。〔謝昆、游㆓西池㆒詩〕悟㆓彼蟋蟀唱㆒。〔注〕善曰、聲類曰、悟、心解也。❷さとす。啓發する。〔崔駰、達旨〕唐睢華顚以悟㆑秦。❸さとり。〔困知己〕無㆑所㆑覺之謂㆑迷、有㆑所㆑覺之謂㆑悟。〔郭璞、客傲〕玄悟不㆓以應㆒㆑機、洞鑒不㆓以昭㆒㆑曠。❹さとい。理解力がつよい。〔南史、謝靈運傳〕阿連才悟如㆑此。❺めざめる。寤（3－7291）に通ず。〔說文通訓定聲〕悟、叚借爲㆑寤。〔潘岳、寡婦賦〕怛驚悟兮無㆑聞。❻あふ。遻（11－39000）・晤（5－13956）に通ず。

〔說文通訓定聲〕晤、叚借爲レ悟。〔謝惠連、泛レ湖歸出二樓中一翫レ月詩〕悟言不レ知レ罷。〔注〕善曰、毛詩曰、彼姜淑姬、可二與晤言一、鄭玄曰、晤、對也、悟、與レ晤同、古字通。❼**さからふ**。牾(2−3813)・忤(4−10358)に通ず。〔一切經音義、四〕悟、古文作レ牾。〔史記、韓非傳〕大忠無レ所二拂悟一。〔注〕正義曰、拂悟、當レ爲二咈忤一、古字假借耳、忤、逆也。❽古は⿱吾心(4−10832)に作り、籀文は⿱吾言に作る。〔集韻〕悟、古作レ⿱吾心、籀作レ⿱吾言。❾**姓**。〔萬姓統譜〕悟見二姓苑一。❿［佛］**實相の理を悟る**。〔法華經、方便品〕欲レ令三衆生悟二佛知見一。

［名乘］サト。ノリ。

【悟悅】1 ゴエツ　さとりよろこぶ。〔柳宗元、晨詣二超師院一讀二禪經一詩〕澹然離二言說一、悟悅心自足。

【悟歌】2 ゴカ　心がうちとけて歌ふ。晤歌。〔陸雲、逸民賦〕明發二悟歌一、有レ懷二在昔一。

【悟岡】3 ゴカウ　清、史震林(2−3249··230)の字。

【悟覺】4 ゴカク　さとる。覺悟。〔孟子、萬章上〕予將下以二斯道一覺中斯民上也、非二予覺ロ之而誰也、〔注〕我先悟覺者也。〔元稹、冬夜詩〕悟覺誓レ不レ惑、永抱二胎仙居一。

【悟九】5 ゴキウ　清、勒方錡(2−2386··72)の字。

【悟空】6 ゴクウ　❶空をさとる。虛無の道理をさとる。〔沈佺期、驩州南亭夜望詩〕忽覺猶言レ是、沈思始悟レ空。❷唐の高僧。京北雲陽の人。俗名は奉朝。玄奘に隨つて印度に渡り、歸つて長安の章敬寺に住す。十地經・廻白輪經・十力經等を譯した。〔宋高僧傳、三〕。

【悟悔】7 ゴクワイ　さとり悔いる。〔後漢書、崔駰傳〕懿二氓蚩之悟悔一兮、慕二白駒之所ロ從。

【悟軒】8 ゴケン　清、紀昭(8−27234··54)の號。

【悟言】9 ゴゲン　❶さからつた言葉。理にもとつた言。悟は拂忤。一說に、忠諫の言。〔史記、韓非傳〕悟言無レ所二擊排一。〔注〕正義曰、悟、逆也、索隱曰、謂下大忠說諫之詞、本欲レ歸二於安レ人與ロ化、亦無中別有上所二擊射排擯一。❷相對してうちとけて語る。晤言。〔謝惠連、泛レ湖歸出二樓中一翫レ月詩〕悟言不レ知レ罷、從レ夕至二清朝一。〔注〕善曰、毛詩曰、彼美淑姬、可二與晤言一、鄭玄曰、晤、對也、悟、與レ晤同、古字通。

【悟言室】10 ゴゲンシツ　明、文徵明(5−13450··1022)の室名。

【悟主】11 ゴシユ　主人をさとす。君主の心を悔悟させる。〔唐書、房琯傳贊〕原琯以二忠誼一自奮、片言悟レ主而取二宰相一、必有二以過レ人者一。

【悟性】12 ゴセイ　❶りこうなたち。さというまれつき。〔趙師秀、送二湯干一詩〕能文兼二悟性一。❷事物を其のあるがままに認知する能力。又、その認識を結びつける能力。知性。英語Understandingの譯語。

【悟刹】13 ゴセツ　［佛］悟をひらいた人の住する國土。刹は梵語で國土の意。〔圓覺經〕若能歸二悟刹一、先去二貪瞋痴一。

【悟然】14 ゴゼン　さとるさま。〔列子、黃帝〕黃帝既寤、悟然自得。

【悟禪】15 ゴゼン　參悟禪理の略。禪道を心にさとること。佛心を心にさとり知ること。〔苑咸、酬二王維一詩〕蓮花梵字本從レ天、華省仙郎早悟禪。

【悟道】16 ゴダウ　［佛］さとりのみち。煩惱を解脫して佛界に入るべき佛の教。〔王維、與二胡居士一皆病寄レ此兼示二學人一詩〕洗レ心詎懸解、悟道正迷レ津。

【悟達】17 ゴタツ　唐の僧。名は知玄。懿宗の時、勅によつて教門の事を統べた。安國寺に住す。著に水懺がある。

【悟入】18 ゴニフ　［佛］❶十分の理を悟り開く。實相の理を悟り、實相の理に入る。〔法華經、方便品〕欲レ令三衆生悟二佛知見一、故出二現於世一、欲レ令三衆生入二佛知見道一、故出二現於世一。❷小乘有部宗の學僧。迦濕彌羅國有部宗の羅漢、衆賢論師の師。梵名は塞建地羅。〔俱舍光記、一〕。

【悟忍】19 ゴニン　［佛］韋提希夫人が、阿彌陀佛の現見により、廓然として大悟し、悟の極地たる無生の忍を得たこと。信忍、喜忍ともいふ。〔觀經定善義〕阿彌陀佛國清淨光明、忽現二眼前一、何勝二踊躍一、因二茲喜一、故卽得二無生之忍一、亦名二喜忍一、亦名二悟忍一、亦名二信忍一。

【悟敏】20 ゴビン　さとい。智慧が速い。〔梁書、王僧孺傳〕理尙二棲約一、思致二悟敏一。

【悟佛】21 ゴブツ　佛道を悟る。佛の道に歸依して悟ること。〔劉禹錫、偶作詩〕養生非二但藥一、悟佛不レ因レ人。

【悟物】22 ゴブツ　物の眞實をつかむ。物事に正しい認識を得る。又、其の人。〔何劭、遊仙詩〕吉士懷二貞心一、悟物思二遠託一。〔孫綽、喩道論〕佛者梵語、晉訓覺也、學之爲レ義、悟物之謂、猶下孟軻以二聖人一爲中先覺上、其旨一也。

【悟門】23 ゴモン　佛教では、さとりを開くことを入門の徑とすること。〔杜荀鶴、贈二臨上人一詩〕不レ計二禪兼レ律、終須レ入二悟門一。

【悟蓮】24 ゴレン　明、夏雲英(3−5720··284)の法名。

【悟眞子】25 ゴシンシ　元、苑至果(9−30774··35)の號。

【悟眞如】26 ゴシンニヨ　明曲の篇名。周憲王の作。散花仙女卽ち段山秀と、蓮花童子卽ち哈舍とが、毘盧尊者に度されて情緣を絕ち、成道醒悟した事を演ずる。

【悟雪齋】27 ゴセツサイ　明、韓會駒(12−43159··342)の號。

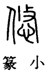
【悟眞道人】28 ゴシンダウジン　清、張汝霖(4−9812··1206)の號。

【悟本禪師】29 ゴホンゼンジ　唐、良价(9−30597··33)の諡。

【悟眞篇注疏】30 ゴシンヘンチユウソ　書名。三卷。宋、張伯端撰。注は翁葆光、疏は元の戴啓宗。詩詞百篇をもつて、金丹の旨を說き、參同契と互に相發明する。外に直指詳說一卷を附す。〔四庫提要、子、道家類〕。

【悠】10681

イウ　ユ　〔集韻〕夷周切　一ヌ yu'　［尤］



小篆

❶**うれへる**。〔說文〕悠、憂也、从レ心攸聲。❷**おもふ**。〔爾雅、釋詁〕悠、思也。〔注〕悠、感思也。〔詩、周南、關雎〕悠哉悠哉。〔傳〕悠、思也。❸**いたむ**。〔廣雅、釋詁二〕悠、傷也。❹**ながい**。**はるか**。⿱攸足(10−37550)に通ず。〔說文通訓定聲〕悠、叚借爲レ⿱攸足。〔禮、中庸〕微則悠遠。〔疏〕悠、長也。〔爾雅、釋詁〕悠、遐也。❺**とほい**。〔爾雅、釋詁〕悠、遠也。〔詩、周頌、訪落〕於乎悠哉。〔傳〕悠、遠也。❻**ゆったり**。ゆるやか。〔張衡、東京賦〕紛焱悠以容裔。〔注〕綜曰、悠、從レ風貌。❼**多いさま**。悠悠(2)を見よ。❽攸(5−13113)に通ず。〔詩、小雅、車攻〕悠悠旆旌。〔左氏、昭、十二〕湫乎攸乎、〔疏〕詩云、攸攸旆旌。❾遙(11−39035)に通ず。〔詩、邶風、雄雉〕悠悠我思。〔說苑、辨物〕遙我思。

【悠闇】1 イウアン　遙かでくらい。遙かで分明でない。〔荀子、議兵〕善用レ兵者、感忽悠闇、莫レ知三其所二從出一。〔注〕悠闇、遠視不二分辨一之貌。

【悠悠】2 イウイウ　❶閑暇なさま。〔詩、小雅、車攻〕蕭蕭馬鳴、悠悠旆旌。〔集傳〕蕭蕭悠悠、皆閑暇之貌。〔王勃、滕王閣詩〕閒雲潭影日悠悠。❷思ふさま。〔爾雅、釋訓〕悠悠、思也。〔詩、邶風、雄雉〕瞻二彼日月一、悠悠我思。〔箋〕使二我心悠悠然思ロ之。〔詩、小雅、巧言〕悠悠昊天。〔箋〕悠悠、思也。❸憂へるさま。思の長いさま。〔詩、鄭風、子衿〕青青子衿、悠悠我心。〔集傳〕悠悠、思之長也。〔詩、秦風、渭陽〕我送二舅氏一、悠悠我思。〔集傳〕悠悠、長也。〔詩、小雅、十月之交〕悠悠我里、亦孔之痗。〔傳〕悠悠、憂也。〔楚辭、東方朔、七諫、初放〕悠悠蒼天兮。〔注〕悠悠、憂貌。❹行くさま。〔詩、小雅、黍苗〕悠悠南行。〔傳〕悠悠、行貌。〔楚辭、大招〕螭龍並流、上下悠悠只。〔注〕悠悠、螭龍行貌。❺遠いさま。遙かなさま。限りないさま。とりとめないさま。〔詩、鄘風、載馳〕馳レ馬悠悠、言至二於漕一。〔傳〕悠悠、遠貌。〔詩、王風、黍離〕悠悠蒼天、此何人哉。〔傳〕悠悠、遠意。〔韋孟、諷諫詩〕犬馬悠悠、是放是驅。〔注〕善曰、悠悠、悠然遠也。〔張謂、題二長安主人壁一詩〕縱令然諾暫相許、終是悠悠行路心。❻周流のさま。〔史記、孔子世家〕桀溺曰、悠悠者天下皆是也、而誰以易レ之。〔注〕集解

曰、孔安國曰、悠悠者、周流之貌也。❼多いさま。〔後漢書、朱穆傳〕悠悠者皆是。〔注〕悠悠、多也。

〖悠悠談〗3（イウイウノダン）　世俗を離れた話。清談の類。〔晉書、王導傳〕導曰、吾與㆓元規㆒休慼是同、悠悠之談、宜㆑絕㆓智者之口㆒。〔陶潛、飮酒詩〕擺㆓落悠悠談㆒、請㆑從㆓余所㆑之。

〖悠悠閑閑〗4（イウイウカンカン）　氣のながいさま。のんきにかまへるさま。悠悠緩緩。優優簡簡。優優寬寬。

〖悠悠忽忽〗5（イウイウコツコツ）　碌々仕事もせずに悠々と其の日を送ること。〔宋玉、高唐賦〕悠悠忽忽、怊悵自失。〔通俗編、性情、悠悠忽忽〕世說、劉伶、身長六尺、而悠悠忽忽、土㆓木形骸㆒。

〖悠悠自適〗6（イウイウジテキ）　境遇に煩はされずゆつたりと心のくつろいでゐること。

〖悠悠蕩蕩〗7 yu^1 yu^1 tang^4 tang^4　ふらふらと。〔紅樓夢、五回〕悠悠蕩蕩、隨了秦氏、至一所在。

〖悠悠行路心〗8（イウイウカウロノココロ）　路を行く旅人の心。路行く旅人と同樣に疏遠冷淡な心となること。〔張謂、題㆓長安主人壁㆒詩〕世人結㆑交須㆓黃金㆒、黃金不㆑多交不㆑深、縱令然諾暫相許、終是悠悠行路心。〔注〕悠悠、無㆓檢束㆒之意。〔張謂、贈㆓喬琳㆒詩〕丈夫會應㆑有㆓知己㆒、世上悠悠何足㆑論。

〖悠悠風旆遶㆓山川㆒〗9（イウイウタルフウハイサンセンヲメグル）　遠い彼方は山川をめぐつて旆が風にひらめいてゐる。旅路の遙かなさま。〔武元衡、嘉陵驛詩〕悠悠風旆遶㆓山川㆒、山驛空濛雨作㆑烟、路半㆓嘉陵㆒頭已白、蜀門西更上㆓青天㆒。

〖悠悠蒼天曷其有㆑極〗10（イウイウタルサウテンイツカソレヤムトキアラン）　悠悠として遠い蒼天よ。何時此の悲むべき勞役が止む時があるであらう。人窮して天に訴へる語。〔詩、唐風、鴇羽〕肅肅鴇翼、集㆓于苞棘㆒、王事靡㆑盬、不㆑能㆑蓺㆓黍稷㆒、父母何食、悠悠蒼天、曷其有㆑極。〔箋〕極、已也。

【悠焉】11（イウエン）　心のゆるやかなさま。ゆつたりとして。〔江總、別㆓南海賓化侯㆒詩〕悠焉值㆓君子㆒、復此映㆓芳猷㆒。

【悠遠】12（イウエン）　❶限りなく久しい。はてがない。〔中庸〕久則徵、徵則悠遠、悠遠則博厚。❷はるかに遠い。〔詩、小雅、漸漸之石〕山川悠遠、維其勞矣。〔國語、吳語〕吾道路悠遠。〔韓詩外傳、五〕道路悠遠、山川幽深。〔後漢書、南蠻傳〕道路悠遠。〔司馬相如、上林賦〕悠遠長懷。〔吳志、胡綜傳〕南北悠遠。

【悠隔】13（イウカク）　はるかにへだたる。〔晉書、涼武昭王李暠傳〕江山悠隔、朝宗無㆑階。〔趙至、與㆓嵇茂齊㆒書〕山川悠隔。

【悠紀】14（ユキ）　大嘗會の時、新穀を奉る地として選定せられた二國の中の一國。又、由基・悠忌に作る。主基（スキ）の對。悠紀主基を見よ。

〖悠紀院〗15（ユキヰン）　大嘗祭の時、悠紀方の御殿。主基院に對す。〔踐祚大嘗祭式〕凡造㆓大嘗宮㆒者、云云、中分、東爲㆓悠紀院㆒、西爲㆓主基院㆒。

〖悠紀主基〗16（ユキスキ）　大嘗祭の行はれる時、祭場を二處に設け、東(左)を悠紀といひ、西(右)を主基といひ、其の神饌となすべき稻を奉る齋田の國を夫〻悠紀國・主基國といふ。平安朝には京都の東を悠紀、西を主基と定めたが、明治に至り、京都以東以南を悠紀の地方、以西以北を主基地方とし、其の地方は之を敕定とせられることになつた。齋忌・次基。

【悠久】17（イウキウ）　永くひさしい。遙かにひさしい。長久。恆久。〔中庸〕博厚所㆓以載㆑物也、高明所㆓以覆㆑物也、悠久所㆓以成㆑物也、博厚配㆑地、高明配㆑天、悠久無㆑疆。

【悠懷】18（イウクワイ）　ゆつたりしたおもひ。〔魏志、明帝紀〕悠悠之懷、能不㆑興㆑思。〔陶潛、歸鳥詩〕日夕氣清、悠然其懷。

【悠曠】19（イウクワウ）　はるかに遠い。ひさしい。曠は遠い。又、久しい意。〔陸機、思㆑親賦〕悲㆓桑梓之悠曠㆒、愧㆓蒸嘗之弗營㆒。

【悠夐】20（イウケイ）　はるか。とほい。夐は、はるか。〔沈約、佛記序〕固亦十地罔㆑窺、邈乎悠夐、有㆑之而莫㆑知㆓所㆑從者㆒也。〔梁簡文帝、大法頌〕玉牒悠夐、青史綿長。

【悠忽】21（イウコツ）　おろそかに歲月を過す。漫然と過す。〔淮南子、脩務訓〕彼幷身而立節、我誕謾而悠忽。〔注〕悠忽、悠遊蕩輕㆑物也。

【悠哉】22（イウナルカナ）　思ふことの長く盡きないこと。悠は思ふ意。一說に、長い。〔詩、周南、關雎〕悠哉悠哉、輾轉反側。〔傳〕悠、思也。〔集傳〕悠、長也。

【悠想】23（イウサウ）　憂ひおもふ。〔陸機、懷土賦〕翫㆓通川㆒以悠想、撫㆓歸塗㆒而躑躅。

【悠思】24（イウシ）　はるかなものおもひ。〔禰衡、鸚鵡賦〕懷㆓代越之悠思㆒。

【悠爾】25（イウジ）　心のはるかなさま。はるかなさま。〔柳宗元、梓人傳〕卷㆓其術㆒、默㆓其智㆒、悠爾而去。

【悠然】26（イウゼン）　ゆつたりしたさま。のどかなさま。〔劉滄、旅館書㆑懷詩〕落葉蟲絲滿㆓窗戶㆒、秋堂獨坐思悠然。〔虞世基、出塞詩〕誓將㆑絕㆓沙漠㆒、悠然去㆓玉門㆒。

〖悠然翁〗27（イウゼンヲウ）　宋、劉炳(2−2224・・592)の「號。

〖悠然齋〗28（イウゼンサイ）　清、梁清標(6−14825・・285)の號。

〖悠然堂〗29（イウゼンダウ）　清、黃雲(12−47926・・39)の室名。

〖悠然居士〗30（イウゼンコジ）　宋、朱缶(6−14424・・516)の號。

〖悠然見㆓南山㆒〗31（イウゼントシテナンザンヲミル）　ゆつたりとして南山を見る。南山は終南山。〔陶潛、飮酒詩〕結㆑廬在㆓人境㆒、而無㆓車馬喧㆒、問㆑君何能爾、心遠地自偏、采㆑菊東籬下、悠然見㆓南山㆒、山氣日夕佳、飛鳥相與還、此中有㆓眞意㆒、欲㆑辯已忘㆑言。

【悠短】32（イウタン）　長いと短い。長短。〔漢逢盛碑〕命有㆓悠短㆒。

【悠長】33（イウチヤウ）　ながくひさしい。轉じて、おちついていそがぬ意。優長。〔漢書、敍傳上〕道悠長而世短兮。〔後漢書、列女、董祀妻傳〕夜悠長兮禁㆓門扃㆒。〔宋書、孝義、徐耕傳〕方涉㆓春夏㆒、日月悠長、不㆑有㆓微救㆒、永無㆓濟理㆒。

【悠邈】34（イウバク）　はるかにとほい。悠遠。〔史記、三皇紀〕年紀悠邈。〔棗據、雜詩〕千里既悠邈、路次限㆓關梁㆒。〔注〕向曰、悠邈、遠也。〔陶潛、停雲詩〕良朋悠邈、搔㆑首延佇。〔梁昭明太子、文選序〕自㆓姬漢㆒以來、渺焉悠邈。

【悠謬】35（イウビウ）　とりとめがない。荒遠無稽なこと。謬悠(10−35872・・3)に同じ。〔潘桂、瑞石賦〕安知不㆑與㆓補㆑天之事㆒、同疑其悠謬哉。

【悠緬】36（イウメン）　はるかに遠い。悠遠。〔晉書、庾闡傳〕嗚呼、大庭既邈、元風悠緬。〔李德裕、早秋寄㆓崔張舊從事㆒詩〕故人在㆓鄉國㆒、歲晏路悠緬。

【悠揚】37（イウヤウ）　長くとほいさま。❶時間の長いさま。〔韻府引、錢起、詩〕世事悠揚春夢裏、年光寂莫旅愁中。❷景色のはるかなさま。〔蕭子暉、冬草賦〕日悠揚而少㆑色、天陰霖而四下。〔白居易、李夫人詩〕既來何苦不㆓須臾㆒、縹緲悠揚還滅去、去何速兮來何遲、是耶非耶兩不㆑知。❸聲音が高下して遠くから來るさま。鷹揚なさま。〔溫庭筠、春愁曲〕蜂喧蝶駐俱悠揚、柳拂㆓赤欄㆒纖草長。

【悠陽】38（イウヤウ）　日の沒するさま。太陽がはるかに遠くなること。〔潘岳、秋興賦〕天晃朗以彌高兮、日悠陽而浸微。〔注〕善曰、悠陽、日入貌、銑曰、悠陽、謂㆓日寒而微㆒也。

【悠容】39（イウヨウ）　ゆつたりと落着いた樣子。

【悠往】40（イウワウ）　はるかにゆく。遠く往く。〔傅毅、舞賦〕翼爾悠往、闇復輟已。〔注〕濟曰、悠、遠也。

【⿰忄坐】10682　サ　〔篇海〕則臥切　箇

くじく。ひしぐ。〔篇海〕⿰忄坐、折挫也。

【⿰忄赤】10683　ケキ　キヤク　〔集韻〕馨激切　錫

心がやすらかでない。〔集韻〕⿰忄赤、心不㆓自安㆒、謂㆓之⿰忄赤㆒。

【⿰忄寽】10684　レツ

劣(2−2302)に同じ。〔正字通〕⿰忄寽、同㆑劣。

【⿰忄求】10685　キウ　グ　〔集韻〕渠尤切　尤

❶**うらむ。**⿱咎心(4−10740)に同じ。〔集韻〕

悆、怨也、或作レ⿰忄求。❷現㋑恐れる。㋺悲しむ。いたむ。

【⿰忄牢】10686 ラウ ❶牢(7—19934)の譌字。〔康熙字典〕⿰忄牢、按、向來字書、罕レ載、惟一見二於篇海一、字彙・正字通、都本二篇海一、別無二考據一、其引二釋典結愛相戀⿰忄牢一、亦牢字之譌耳。❷勞(2—2410)に同じ。〔正字通〕⿰忄牢、同レ勞。

【⿰忄㐬】10687 クヮウ ⿰忄巟(4—10606)の譌字。〔正字通〕⿰忄㐬、⿰忄巟字之譌。

【悡】10688 リ 悷(4—10791)に同じ。〔正字通〕悡、同レ悷。

【悧】10689 リ 俐(1—682)に同じ。〔辭海〕悧、同レ俐。

【悢】10690 ㊀リヤウ 〔集韻〕力讓切 漾 ㊁ラウ 〔集韻〕里黨切 養

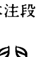
㊀❶かなしむ。〔廣雅、釋詁三〕悢、悵也。〔集韻〕悢、博雅、悢悢、悲也。❷いつくしむさま。かへりみるさま。悢悢(2)を見よ。❸或は惊(4—10767)・⿰忄亮(4—10938)に作る。〔集韻〕悢、或作二惊・⿰忄亮一。㊁志を得ないさま。懭悢。〔玉篇〕悢、懭悢、不レ得レ志也。〔集韻〕悢、懭悢、意不レ得兒。

【悢然】1 リヤウゼン かなしむさま。平靜を失ふさま。〔趙至、與二嵆茂齊一書〕臨レ書悢然、知二復何云一。〔注〕銑曰、悢、不レ平貌。

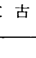
【悢悢】2 リヤウリヤウ ❶かなしみいたむさま。〔玉篇〕悢、悢悢、惆悵也。〔李陵、與二蘇武一詩〕徘二徊岐路側一、悢悢不レ能レ辭。〔注〕善曰、廣雅曰、悢悢、悵也。〔蜀志、法正傳〕瞻望悢悢然。〔嵆康、與二山巨源一絶交書〕顧二此悢悢一、如何可レ言。〔注〕翰曰、悢悢、悲恨也。〔陸機、謝二平原內史一表〕所二以臨レ難慷慨、而不レ能レ不二悢悢一者、唯此而已。〔注〕銑曰、悢悢、悲也。❷いつくしみかへりみるさま。〔後漢書、陳蕃傳〕天之於レ漢、悢悢不レ已。〔注〕悢悢、眷眷也。

【患】10691 クヮン ゲン 〔集韻〕胡慣切 諫 ㄏㄨㄢˋ huan⁴

小篆（說文）


小篆（段注本）

古文


古文

❶うれへる。㋑おもひわづらふ。〔說文〕患、憂也、从二心上貫一吅、吅亦聲。〔段注〕此八字、乃淺人所二改竄一、古本當レ作二从レ心毌聲四字一、云云、古毌多作レ串。〔論語、學而〕不レ患三人之不二己知一。〔戰國、秦策〕王勿レ患。〔注〕患、憂也。〔呂覽、愼大〕天下顫恐而患レ之。〔注〕患、憂也。㋺くるしむ。〔廣雅、釋詁四〕患、苦也。㋩なやむ。〔國語、晉語五〕公患レ之。〔注〕患、疾也。㋥にくむ。〔廣雅、釋詁三〕患、惡也。❷わづらふ。やまひにかかる。〔晉書、王述傳〕疾患不レ能二自存一。❸うれへ。わづらひ。㋑こころづかひ。きづかひ。〔呂覽、愼大〕大臣同レ患。〔注〕患、憂也。㋺くるしみ。なんぎ。〔戰國、秦策〕而無二後患一。〔注〕患、難也。〔呂覽、愼人〕然後免二於凍餒之患一。〔注〕患、難也。㋩わざはひ。災害。〔易、既濟〕君子以思レ患、而豫防レ之。〔周禮、地官、司救〕凡歲時有二天患民病一。〔注〕天患、謂二烖害一也。〔呂覽、重己〕此陰陽不レ適之患也。〔注〕患、害也。〔後漢書、明帝紀〕兗豫之人、多被二水患一。㋥やまひ。〔北史、魏臨淮王譚傳〕遇二風患一、手足不レ隨、口不レ能レ言。❹鬼物の名。憂氣の生ずるところといふ。〔琅琊代醉編、患〕漢武帝東游、出二函谷關一、有レ物當レ道、其身數丈、其狀象レ牛、青眼曜睛、四足入レ土、動而不レ徙、百官驚懼、東方朔乃取レ酒灌レ之、灌レ之數十斛、始消、帝問二其故一、答曰、此名爲レ患、憂氣之所レ生、此必秦家之獄地、不レ然則是罪人徒作之所レ聚也、搜神記。❺古は⿱䀠心(4—11434)・⿵門⿱丱心(4—11287)・悶(4—11217)に作る。〔康熙字典〕患、古文⿱䀠心・⿵門⿱丱心・悶。❻串(1—80)に通ず。〔詩、大雅、皇矣〕帝遷二明德一、串夷載路。〔釋文〕串、古患反、一本作レ患。❼姓。〔萬姓統譜〕患、見二姓苑一。

【患憂】1 クヮンイウ うれへる。また、うれひ。憂患。〔潘尼、安身論〕四者行二乎中一、則患憂接二于外一矣。

【患害】2 クヮンガイ わざはひ。さいなん。難儀。災厄。患禍。〔莊子、山木〕迫二窮禍患害一相收也。〔韓非子、八姦〕示レ之以二利勢一、懼レ之以二患害一、施二屬虛辭一、以壞二其主一。〔管子、度地〕終身無二患害一。〔史記、南越尉佗傳〕毋レ爲二南邊患害一。〔漢書、敍傳下〕酒成二患害一。〔阮籍、詠懷詩〕多財爲二患害一。

【患眼】3 クヮンガン 眼をわづらふ。目を病む。〔北史、韋孝寬傳〕末年患レ眼。

【患忌】4 クヮンキ うれへはばかる。〔魏志、呂布傳〕將士鈔掠、紹患二忌之一。

【患咎】5 クヮンキウ わざはひ。とがめ。くるしみ。〔管子、山權數〕民無二患咎一。〔漢書、東平思王宇傳〕患咎之首、莫レ大二於內離一。〔道德指歸論、天下謂我篇〕物類託レ之、無レ有二患咎一。

【患急】6 クヮンキフ 災難。難儀。急は困ること、又、さし迫ったこと。〔蜀志、許靖傳〕每レ有二患急一、常先レ人後レ己。

【患御】7 クヮンギヨ 患は串に通じ、串御は、近侍の臣をいふ。近習。串は習ふ意。〔韓非子、五蠹〕其患御者、積二於私門一、盡二貨賂一、而用二重人之謁一、退二汗馬之勞一。〔集解〕盧文弨曰、患、疑是串字、爾雅、串、習也、此猶レ言二近習一。

【患苦】8 クヮンク なやみくるしむ。疾苦。〔漢書、楚元王傳〕四人同レ心輔レ政患苦。〔後漢書、安帝紀〕爲三百姓所二患苦一者。〔吳志、吳主孫權傳〕除三民所二患苦一。〔晉書、梁武昭王傳〕貴勿レ漏レ疎、罰勿レ容レ親、耳二目人間一、知二外患苦一。

【患寡】9 クヮンクヮ 寡きをうれへる。民の少いのを憂へる。〔論語、季氏〕不レ患レ寡而患レ不レ均。〔集注〕寡、謂二民少一。

【患禍】10 クヮンクヮ わざはひ。うれへ。〔韓非子、難言〕大王若以レ此不レ信、則小者以爲二毀訾誹謗一、大者患禍災害死亡及二其身一。〔漢書、宣帝紀〕雖レ有二患禍一、猶蒙レ死而存レ之。

【患悔】11 クヮンクワイ うれへくいる。又、そのこと。心配後悔。〔易林、明夷之第三十六、屯〕日月之塗、所レ行必到、無レ有二患悔一。

【患險】12 クヮンケン にくんで心をけはしくする。〔荀子、君道〕接レ之以二聲色權利、忿怒患險一、而觀二其能無レ離レ守也。

【患失】13 クヮンシツ 失はんことをうれへる。なくすことをおそれる。〔論語、陽貨〕既得レ之、患レ失レ之、苟患レ失レ之、無レ所レ不レ至矣。

【患疾】14 クヮンシツ 病氣をいふ。疾患に同じ。

【患者】15 クヮンジヤ 病氣にかかつてゐる人。病人。

【患者室】16 クヮンジヤシツ 病院などで病人の居る室。

【患狀】17 クヮンジヤウ 病氣の容態。病狀。〔後漢書、馬后紀〕筮者曰、此女雖レ有二患狀一、而當二大貴一、兆不レ可レ言也。

【患術】18 クヮンジユツ うれへをさめるはかりごと。〔呂覽、用衆〕孟賁庶二乎患術一、而邊境弗レ患。

【患人】20 huan⁴ jen² 病人。患者。

【患戚】21 クヮンセキ うれへかなしむ。〔逸周書、大戒解〕無レ擅二于人一、塞匿勿レ行、患戚咸服、孝悌乃明。

【患責】22 クヮンセキ うれへせめる。又、其のこと。〔庾亮、讓二中書令一表〕自貽二患責一哉。

【患恥】23 クヮンチ わざはひとはづかしめ。患難恥辱。〔論衡、知實〕不レ避二患恥一。

【患惙】24 クヮンテツ うれへる。又、うれひ。惙も憂へる意。〔魏書、任城王澄傳〕雖二復患惙一、豈敢有レ辭。

【患帖】25 huan⁴ tʻieh³ 診斷書。又、病氣屆の類。

【患瘟】26（クワントウ） 瘟をわづらふ。はうさうを病む。〔國史略、文德天皇〕以二瘟疫人多死一、停二賀茂祭一、奉レ使告二謝之一、詔二美濃一出二穀二千一百斛一、太宰府三萬八千餘石、賑二患レ瘟者一。

【患毒】27（クワンドク） うれへて苦々しく思ふ。〔南史、蕭思話傳〕思話十歲許時、未レ知レ書、好騎二屋棟一、打二細腰鼓一、侵二暴鄰曲一、莫レ不三患二毒之一。

【患難】28（クワンナン） 難儀。うれへ。くるしみ。〔中庸〕素二患難一、行二乎患難一。〔墨子、貴義〕若有二患難一、則使下百人處二於前一、數中百於後上。〔荀子、王霸〕若レ是則恬愉無二患難一矣。〔戰國、趙策〕彼狃又將レ請二地於他國一、他國不レ聽、必鄉レ之以レ兵、然則韓可下以免二於患難一而待中事之變上。〔漢書、鼂錯傳〕遭二患難一不レ避レ死。

【患難相死】29（クワンナンアヒシス） 患難には一命を拋って互に救ひ合ふ。〔禮、儒行〕儒有二聞レ善以相告也、見レ善以相示也、爵位相先也、患難相死也、久相待也、遠相致也、其任擧有二如レ此者一。

【患難痛苦】30（クワンナンツウク） わづらひ、くるしみ。天災・人禍・失意・疾病等を指す。〔中村敬宇、患難痛苦〕人在二斯世一、患難痛苦、其來如レ矢。

【患貧】31（クワンヒン） 貧をわづらふ。貧乏にくるしむ。〔論語、季氏〕不レ患レ貧而患レ不レ安。〔史記、貨殖傳〕夫千乘之王、萬乘之侯、百室之君、尙猶患レ貧。〔盧綸、酬二孫侍御春日見レ寄詩〕始悟達人志、患レ名非レ患レ貧。

【患部】32（クワンブ） 身體中の故障のある所。病所。

【患風】33 huan^4 fêng^1 狂人。きちがひ。風は瘋。

【患病】34 huan^4 ping^4 病氣に罹る。

【患悶】35（クワンモン） うれへもだへる。〔謝莊、與二左僕射一書〕弟昨還、方承レ間、忽患悶。

【患臘】36（クワンラフ） 臘祭の日を憂へる。臘は冬至後第三の戌の日、百神を合祭するまつり。〔韓非子、說林下〕三蝨相與訟、一蝨過レ之、曰、訟者奚說、三蝨曰、爭二肥饒之地一、一蝨曰、若亦不レ患二臘之至而茅之燥一耳、若又奚患、於レ是乃相與聚、嘬二其母一而食レ之、彘臞、人乃弗レ殺。

【患累】37（クワンルイ） うれへ。わざはひ。〔梁武帝、淨業賦〕患累已除、障礙亦淨。〔釋氏通鑑〕降二此患累一、求以二虛寂一。

【救レ患分レ災】38（ウレヘヲスクヒワザハヒヲワカツ） 他人の患難を救ひ、災害を分擔して、同情をよせる。〔左氏、僖、元〕凡侯伯救レ患分レ災討レ罪、禮也。

【臨レ患忘レ利】39（ウレヘニノゾンデリヲワスル） 患ふべきことにあたっては利益を忘れて盡力する。〔呂覽、士節〕臨レ患忘レ利、遺レ生行レ義。

【患生二於所レ忽】40（ウレヘハユルガセニスルトコロヨリシヤウズ） わざはひは油斷から起る。〔說苑、敬愼〕患生二於所レ忽、禍起二於細微一。

【患至而後呼レ天】41（ウレヘイタッテノチテンニサケブ） 苦しいときの神だのみ。〔韓詩外傳、二〕三曰、患至而後呼レ天。

【患及レ身後愼不レ及】42（ウレヘミニオヨンデノチツツシムモオヨバズ） わざはひが來てから愼んでも追ひつかぬ。患は宜しく之を未だ萌さぬ中に防ぐべきことをいふ。〔淮南子、人間訓〕患及レ身、然後憂レ之、六驥追レ之、弗レ能レ及也。

【臨レ患不レ忘レ國忠也】43（ウレヘニノゾンデクニヲワスレザレバチユウナリ） 國家の患難に臨んで、その國を忘れないのは眞の忠臣である。〔左氏、昭、元〕趙孟聞レ之曰、臨レ患不レ忘レ國、忠也、思レ難不レ越レ官、信也。

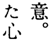
【揔】10692 フン 〔篇海〕府刎切 吻

うごく。〔篇海〕揔、動也。

【悤】10693 ソウ ス 〔集韻〕麤叢切 ㄘㄨㄥ ts‘ung^1 東

小篆

❶ **あわてる**。いそぐ。にはか。〔說文〕悤、多遽悤悤也、从レ囱从レ心、囱亦聲。〔晉書、王彪之傳〕無レ故悤悤、先自猖獗。❷ **あきらか**。さとい。聰(**9－29154**)に通ず。〔說文通訓定聲〕悤、叚借爲レ聰。〔漢書、郊祀志下〕悤明上通。〔注〕師古曰、悤、與レ聰同。❸或は怱(**4－10494**)・忩(**4－10366**)に作り、俗に匆(**2－2511**)に作る。〔集韻〕悤、說文、多遽悤悤也、古作レ悤。〔考正〕案、說文作レ悤、當二以レ悤爲一レ正。〔康熙字典〕悤、亦作レ忩、俗作レ匆、非。

解字 會意形聲。囱と心とを合はせ、囱は又聲。囱は促に通じ、せく意。▽（金文） 指事。心に點を加へ、上氣した心の狀態を示す。

【悤遽】1（ソウキヨ） あわてる。又、あわただしいさま。いそがしいさま。倉卒。〔後漢書、崔駰傳〕屣履迎レ門、〔注〕屣履、謂二納レ履曳レ之而行一、言二悤遽一也。〔南史、齊廢帝東昏侯紀〕比レ起就レ會、悤遽而罷。

【悤悤】2（ソウソウ） ❶いそがしいさま。あわただしいさま。怱怱。忩忩。草草(**9－30945**・・95)の❷に同じ。〔史記、龜筴傳〕悤悤疾疾、通而不二相擇一。〔晉書、衞恒傳〕悤悤不レ暇二草書一。〔新語、愼微〕悤悤若二狂痴一。〔杜甫、酬二孟雲卿一詩〕相逢惟衰衰、告レ別莫二悤悤一。〔張籍、秋思詩〕復恐悤悤說不レ盡、行人臨レ發又開レ封。❷明かなさま。悤は聰(**9－29154**)に通ず。〔呂覽、下賢〕悤悤乎其心之堅固也。〔注〕悤悤、明貌。

【悤卒】3（ソウソツ） あわただしい。いそがはしい。倉卒。怱卒。〔歐陽脩、上二范司諫一書〕即欲下爲二一書一以賀上、多事悤卒、未レ能也。

【悤忙】4（ソウバウ） いそがはしい。せはしい。怱忙。〔杜甫、新婚別詩〕暮婚晨告レ別、無二乃太悤忙一。

【悤明】5（ソウメイ） あきらか。さとい。聰明(**9－29154**・・31)に同じ。〔漢書、郊祀志下〕陛下聖德、悤明上通。〔注〕師古曰、悤、與レ聰同。

【⿰忄助】10694 シヨ 怚(**4－10457**)に同じ。〔集韻〕怚、或作レ⿰忄助。

【悥】10695 ヨク 意(**4－11257**)の籀文。〔說文〕意、悥、籀文省。

【㤮】10696 キヤウ 狂(**7－20287**)の古字。〔玉篇〕狂、古文狂。

【⿱共心】10697 キヨウ 恭(**4－10596**)の本字。〔正字通〕恭、恭本字。

【⿰忄⿱日匕】10698 コン 恨(**4－10588**)の本字。〔正字通〕⿰忄⿱日匕、恨本字。

【⿱⿴囗米心】10699 シツ 悉(**4－10635**)の古字。〔說文〕悉、⿱⿴囗米心、古文悉。

【⿰忄兒】10700 ベウ メウ 〔五音集韻〕眉俵切 嘯

たのむ。〔五音集韻〕⿰忄兒、悃也。

【⿰忄⿱彐又】10701 カ ゲ 〔集韻〕何加切 麻

うらむ。〔集韻〕⿰忄⿱彐又、怨也。

【⿰忄宋】10702 セキ 宋(**3－7135**)に同じ。〔字彙補〕⿰忄宋、與レ宋同。

【⿱卢心】10703 ヨ 〔字彙補〕以諸切 魚

つつしむ。〔字彙補〕⿱卢心、恭敬也。

【⿱⿱山乂心】10704 ジヤウ 情(**4－10756**)の古字。〔字彙補〕⿱⿱山乂心、古文情字。

【⿱⿰亻夂心】10705 イウ 悠(**4－10681**)に同じ。〔字彙補〕⿱⿰亻夂心、同レ悠。

【⿰氵思】10706 ソ 〔篇海〕蘇故切 遇

きかは。〔篇海〕⿰氵思、生革也。

【㤅】 10707 アイ 愛（**4－10947**）の古字。〔集韻〕〓、或作ㇾ愛、古作ㇾ㤅。

【〓】 10708 トン 〔字彙補〕通懇切 阮 **おろかなさま。**〔字彙補〕〓、愚癡貌。

【〓】 10709 チヨ 〔川篇〕音佇 **おもふ。**〔川篇〕〓、思也。

【〓】 10710 ヂヨク 義未詳。〔字彙補〕〓、音匿。

【〓】 10711 シ 義未詳。〔五音篇海〕〓、音志。

【您】 10712 ㄋㄧㄣˊ nin^2 あなた。貴下。你（**1－471**）の俗字。今は敬語に用ひる。〔篇海類編〕您、俗你字。

【您瞧】1 nin^2 ch'iao^2 ❶あなた御覽下さい。❷なんと。❸さあ。

【您說】2 nin^2 shou^1 なんと。您瞧に同じ。

【您老】3 nin^2 lao^3 貴下。

【〓】 10713 サウ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕〓、音璪。

【〓】 10714 コ 義未詳。〔字彙補〕〓、音戶。

【〓】 10715 コウ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕〓、苦候切。

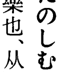
【惱】 10716 ナウ 惱（**4－10856**）の俗字。〔宋元以來俗字譜〕惱、古今雜劇作ㇾ惱。

【悩】 10716′ ナウ 惱（**4－10856**）の略字。

【悪】 10717 アク 惡（**4－10824**）の俗字。〔宋元以來俗字譜〕惡、列女傳作ㇾ悪。

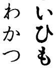
八畫

【悰】 10718 ソウ ズ 〔集韻〕徂宗切 ㄘㄨㄥˊ ts'ung^2 冬


小篆

❶**たのしむ。たのしみ。**〔說文〕悰、樂也、从ㇾ心宗聲。〔謝朓、遊㆓東田㆒詩〕戚戚苦ㇾ無ㇾ悰。〔注〕良曰、悰、亦樂也。❷**はかる。**〔集韻〕悰、一曰、謀也。❸**おもひ。**こころ。〔字彙〕悰、慮也。〔正字通〕悰、情緒也。❹誴（**10－35593**）に同じ。〔集韻〕誴、或作ㇾ悰。

【悱】 10719 ヒ 〔集韻〕妃尾切 ㄈㄟˇ fei^3 尾


小篆

❶**いひもだえる。**いひなやむ。心にわかつて言語に表はしえないこと。〔說文新附〕悱、口悱悱也、从ㇾ心非聲。〔集韻〕悱、心欲也。❷或は悓（**4－11007**）に作る。〔集韻〕悱、或从ㇾ匪。❸誹（**10－35601**）に通ず。〔說文新附考〕悱、疑誹之別體。〔說文通訓定聲〕悲、字亦作ㇾ悱、嘯賦注引字書、悱、心誦也、按、論語、不ㇾ悱不ㇾ發、亦悵恨之意、憤近㆓于怒㆒、悱近㆓于怨㆒、自怨自艾也。❹悲（**4－10720**）に同じ。

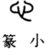
【悱惻】1（ヒソク） 心中に悲しむ。〔裴子野、雕蟲論〕若㆓悱惻芬芳㆒、楚騷爲㆓之祖㆒。

【悱悱】2（ヒヒ） 心にはわかつてゐながら、それを言語に表はし得ないさま。〔論語、述而、不ㇾ憤不ㇾ啓不ㇾ悱不ㇾ發、鄭注〕孔子與ㇾ人言、必待㆓其人心憤憤口悱悱㆒、乃後啓發、爲ㇾ說ㇾ之。

【悱憤】3（ヒフン） 口に出さないいきどほり。鬱結の義。〔成公綏、嘯賦〕舒㆓蓄思之悱憤㆒、奮㆓久結之纏綿㆒。〔注〕向曰、悱憤、心憂也。〔梁武帝、寶亮法師涅槃義疏序〕發㆓迦葉之悱憤㆒。

【不ㇾ悱不ㇾ發】4（ヒセザレバハッセズ） 言語に表はしえないで苦しんで居る者でなければ、之を導き通じてやらない。積極的に自ら通ぜんと努力する者でなければ、啓發してやらない。〔論語、述而〕不ㇾ憤不ㇾ啓、不ㇾ悱不ㇾ發。〔集注〕憤者、心求ㇾ通而未ㇾ得之意、悱者、口欲ㇾ言而未ㇾ能之貌。

【悲】 10720 ヒ 〔集韻〕逋眉切 ㄅㄟ pei^1 支


小篆

❶**かなしむ。**㋑いたむ。うれへる。〔說文〕悲、痛也、从ㇾ心非聲。〔正字通〕悲、慼也。〔詩、豳風、七月〕女心傷悲。〔傳〕傷悲、感ㇾ事苦也、春女悲、秋士悲、感㆓其物化㆒也。㋺したひいたむ。〔詩、豳風、東山〕我東曰ㇾ歸、我心西悲。〔漢書、高帝紀〕游子悲㆓故鄉㆒。㋩なげく。〔字彙〕悲、慼也、有ㇾ聲無ㇾ淚曰ㇾ悲、無ㇾ聲有ㇾ淚曰ㇾ泣。❷**かなしい。**こころをうつ。〔楚辭、宋玉、九辯〕悲哉秋之爲ㇾ氣也。〔魏文帝、苦寒行〕樹木何蕭瑟、北風聲正悲。❸**かなしみ。**〔孔稚珪、北山移文〕淚㆓翟子之悲㆒、慟㆓朱公之哭㆒。〔周弘正、詠㆔斑竹掩㆓團扇㆒詩〕將ㇾ申㆓湘女悲㆒。❹悱（**4－10719**）に同じ。悱（**4－10719**）の❹を見よ。❺**姓。**〔萬姓統譜〕悲、孺悲之後。❻㊫**あはれみ。**仁惠を施し恩德を與へること。〔智度論〕夫言ㇾ悲者、意存㆓饒益㆒、善順㆓物情㆒。

【悲哀】1（ヒアイ） かなしみ。又、かなしむ。〔老子、三十一〕殺ㇾ人之衆、以㆓悲哀㆒泣ㇾ之。〔荀子、大略〕弔ㇾ生不ㇾ及㆓悲哀㆒。〔史記、五帝紀〕百姓悲哀。〔漢書、王莽傳中〕羣臣悲哀、顏色未ㇾ復。〔白虎通、崩薨〕臣子悲哀慟怛、莫㆚不ㇾ欲㆓觀㆓君父之棺柩㆒、盡㆗悲哀㆖者㆙也。〔後漢書、來歙傳〕悲哀不ㇾ能㆓仰視㆒。

【悲菴】2（ヒアン） 清、趙之謙（**10－37171**・・609）の號。

【悲盦】3（ヒアン） 清、趙之謙（**10－37171**・・609）の號。

【悲矣】4（カナシイカナ） 悲哉（54）に同じ。〔沈約、從軍行〕苦哉遠征人、悲矣將如何。

【悲憂】5（ヒイウ） 悲しみ憂へる。〔無能子、答魯問〕今汝隨而悲㆓憂之㆒、是欲㆓繫ㇾ風擒ㇾ影也。

【悲鬱】6（ヒウツ） 悲しんで心が結ぼれる。

【悲運】7（ヒウン） かなしいまはりあはせ。ふしあはせ。非運。不運。

【悲咽】8（ヒエツ） 悲しみむせぶ。〔韻府引、陳襄、詩〕我時過ㇾ之不ㇾ忍ㇾ顧、往往悲咽塡㆓胸委㆒。

【悲怨】9（ヒエン） 悲しみうらむ。〔孔叢子、雜訓〕無ㇾ令㆔人有㆓悲怨㆒。

【悲猨】10（ヒエン） 悲しみなく猿。また、その聲。〔謝惠連、泛ㇾ湖出㆓樓中㆒翫ㇾ月詩〕悲猨響㆓山椒㆒。

【悲音】11（ヒオン） かなしい音色。〔王粲、七哀詩〕絲桐感㆓人情㆒、爲ㇾ我發㆓悲音㆒。〔陸機、贈㆓從兄車騎㆒詩〕思鳥有㆓悲音㆒、斯言豈虛作。

【悲笳】12（ヒカ） 哀れな胡笳の音。〔魏文帝、與㆓梁朝歌令吳質㆒書〕清風夜起、悲笳微吟。〔杜甫、後出塞詩〕悲笳數聲動、壯士慘不ㇾ驕。

【悲歌】13（ヒカ） かなしんで歌ふ。又、かなしい歌。

〔列子、湯問〕餞二於郊衢一、撫レ節悲歌、聲振二林木一、響遏二行雲一。〔漢書、周昌傳〕高祖獨心不レ樂悲歌。〔古樂府、悲歌行〕悲歌可二以當一レ泣、遠望可二以當一レ歸、思二念故鄉一、鬱鬱纍纍、欲レ歸家無レ人、欲レ渡河無レ船、心思不レ能レ言、腸中車輪轉。〔謝靈運、擬二魏太子鄴中集一、徐幹詩〕行觴奏二悲歌一。

〘悲歌忼慨〙14ヒカウガイ　あはれげにうたひ、心激してなげく。激憤して悲痛の聲を發する。〔史記、項羽紀〕於レ是項王乃悲歌忼慨、自爲レ詩曰、力拔レ山兮氣蓋レ世、時不レ利兮騅不レ逝。〔史記、貨殖傳〕丈夫相聚、游戲悲歌忼慨。

【悲慨】15ヒガイ　悲しみなげく。憂慨。〔王羲之、又遺二殷浩一書〕遂令三天下將有二土崩之勢一、何能不二痛レ心悲慨一也。

【悲駭】16ヒガイ　悲しみ驚く。

【悲哽】17ヒカウ　悲しみむせぶ。哀哽。〔陸游、跋二朝制要覽一文〕伏讀悲哽。

【悲號】18ヒガウ　かなしみなく。かなしみよぶ。〔史記、淮南王傳〕悲號仰レ天。〔漢書、伍被傳〕悲號仰レ天、叩レ心怨レ上。〔後漢書、袁譚傳〕我將軍匍匐、悲二號於將軍股掌之上一。

〘悲號哀慕〙19ヒガウアイボ　悲しみ歎いて呼び、且慕ふこと。〔芳野金陵、紀二義猴事一〕悲號哀慕不レ離レ柩。

【悲角】20ヒカク　悲しげな角笛の音。〔杜甫、上二白帝城一詩〕老去聞二悲角一、人扶報二夕陽一。

【悲感】21ヒカン　悲しみ感ずる。かなしみなげく。〔漢書、外戚上、孝武李夫人傳〕又不レ得二就視一、上愈益相思悲感。〔魏志、夏侯尚傳〕尚悲感發レ病。〔隋書、李安傳〕歔欷悲感、不レ能二自勝一。

【悲憾】22ヒカン　悲しみうらむ。〔江淹、横吹賦〕西骨秦氣、悲憾如レ懟。

【悲喜】23ヒキ　悲しみと喜び。〔淮南子、原道訓〕樂作而喜、曲終而悲、悲喜轉而相生。

〘悲喜劇〙24ヒキゲキ　悲劇と喜劇との二つの要素を兼ねた劇。

〘悲喜交至〙25ヒキコモゴモイタル　悲しみと喜びとがこもごも來る。悲しくもあり嬉しくもある。

【悲愧】26ヒキ　かなしみはぢる。〔北史、梁彥光傳〕通邃感悟悲愧、若二無レ容者一。

【悲媿】27ヒキ　悲しみ恥ぢる。媿は愧に同じ。〔徐陵、爲二貞陽侯一答二王太尉一書〕天下含靈、誰無二悲媿一。

【悲疚】28ヒキウ　悲しみなやむ。疚は心がなやみ苦しむ意。〔吳志、張溫傳〕溫自招二罪譴一、孤二負榮遇一、念其如レ此、誠可二悲疚一。

【悲泣】29ヒキフ　かなしみ泣く。悲哽。悲啼。〔漢書、刑法志〕其少女緹縈、自傷悲泣。〔後漢書、公孫瓚傳〕慷慨悲泣。

【悲境】30ヒキヤウ　悲しい境遇。悲しむべきなりゆき。逆境。

【悲響】31ヒキヤウ　悲しいひびき。悲哀な聲調の音樂。〔魏文帝、清河作詩〕絃歌發二中流一、悲響有二餘音一。

【悲曲】32ヒキヨク　かなしい聲調の音樂。又、悲哀な事がらを歌ふ音樂。哀曲。悲調。〔劉峻、廣絕交論〕同病相憐、綴二河上之悲曲一。

【悲欣】33ヒキン　悲しみと喜び。悲喜。〔盧諶、答二魏子悌一詩〕悲欣使二情惕一。

【悲吟】34ヒギン　悲しげにうたふ。〔後漢書、列女、董祀妻傳〕旦則號泣行、夜則悲吟坐。〔繁欽、與二魏文帝一牋〕清激悲吟、雜以二怨慕一。

【悲苦】35ヒク　悲しみくるしむ。〔繁欽、定情詩〕望レ君不レ能レ坐、悲苦愁二我心一。

【悲懼】36ヒク　悲しみおそれる。〔任昉、爲二范始興一作求レ立二太宰碑一表〕臨レ表悲懼、言不二自宣一。

【悲悔】37ヒクワイ　悲しみくやむ。〔白居易、遺懷詩〕操レ之多二惴慄一、失レ之又悲悔。

【悲懷】38ヒクワイ　悲しみおもふ。又、悲しいおもひ。〔史記、張釋之傳〕意慘悽悲懷。〔繁欽、與二魏文帝一牋〕悲懷慷慨。〔潘岳、悼亡詩〕悲懷從レ中起。

【悲惶】39ヒクワウ　悲しみ恐れる。〔晉書、溫嶠傳〕承レ問悲惶、精魂飛散。

【悲歡】40ヒクワン　悲しみと喜び。悲喜。〔任昉、郭生方至詩〕悲歡不二自持一。〔竇羣、初入二諫司一喜二家室至一詩〕一旦悲歡見二孟光一、十年辛苦伴二滄浪一。

【悲觀】41ヒクワン　❶世事を總て悲しむべきものと觀ずる。又、其の見方。厭世觀。樂觀の對。❷前途に望が無いと見なすこと。❸佛五觀の一つ。眞觀・清淨觀・廣大智慧觀を以て衆生を觀じ、衆生の苦をぬくをいふ。〔法華經、普門品〕眞觀・清淨觀・廣大智慧觀、及慈觀、常願常瞻仰。

〘悲觀主義〙42ヒクワンシユギ　厭世主義。

【悲讙】43ヒクワン　悲しみさけぶ。泣きさけぶ。讙は、かまびすしい。〔顏延之、宋文皇帝元皇后哀策文〕戎夏悲讙。

【悲願】44ヒグワン　❶佛佛・菩薩の大慈悲から發する衆生の苦を救はんとする誓願。阿彌陀佛の四十八願、藥師如來の十二願などをいふ。〔往生要集、上〕何況苦無常等催二菩薩悲願一乎。〔大日經疏、四〕勸二囑阿闍梨一、令レ興二平等悲願一。❷悲壯な願ひ。

【悲劇】45ヒゲキ　❶人間の悲運の狀態を脚色した芝居狂言の筋。喜劇の對。又、莊劇ともいふ。❷人生または、社會の悲しむべき出來事。

【悲激】46ヒゲキ　悲しくはげしい。〔中論、審大臣〕擊二牛角一而歌、歌聲悲激。

【悲絃】47ヒゲン　琴などの悲しげな音。〔曹植、幽思賦〕仰二清風一以歎息、寄二予思于悲絃一。

【悲泫】48ヒゲン　悲しんで涙をながすこと。悲しみの涙。〔韻府引、蘇轍、詩〕行行逢二故人一、笑語雜二悲泫一。

【悲谷】49ヒコク　西南方に在る谷の名。太陽が此處を通過する時を餔時といふ。甚だ深くて人をして悲ましめるから名づける。〔淮南子、天文訓〕日至二於悲谷一、是謂二餔時一。〔注〕悲谷、西南方之大壑、言、其深峻、臨二其上一令二人悲思一、故曰二悲谷一也。

【悲哭】50ヒコク　悲しみなく。〔論衡、明雩〕雍門子悲哭。〔後漢書、袁紹傳〕悲哭而崩レ城。

【悲恨】51ヒコン　悲しみうらむ。〔漢書、刑法志〕不レ辜蒙レ戮、父子悲恨。〔論衡、明雩〕悲恨思慕、冀二其悟一也。〔吳志、孫登傳〕亦何悲恨哉。

【悲懇】52ヒコン　悲しくねんごろな心。〔白居易、祭二浮梁大兄一文〕伏冀、慈靈俯鑒二悲懇一、哀纏痛結、言不レ成レ文、嗚呼哀哉、伏惟尚饗。

【悲嗟】53ヒサ　悲しみなげく。〔孟郊、杏殤詩〕芳嬰不二復生一、向レ物空悲嗟。

【悲哉】54カナシイカナ　悲しみ歎いていふ辭。〔楚辭、宋玉、九辯〕悲哉秋之爲レ氣也。〔庾信、傷心賦〕悲哉秋風、搖落變衰、魂兮遠矣。

〘悲哉行〙55ヒサイカウ　樂府雜曲歌辭の名。客遊して物に感じ、憂思する情を述べる。魏の明帝に始まり、晉の陸機、宋の謝靈運・謝惠連、梁の沈約、唐の孟雲卿・白居易・鮑溶等に歌辭がある。〔樂府詩集、雜曲歌辭、悲哉行〕歌錄曰、悲哉行、魏明帝造、樂府解題曰、陸機云、遊客芳春林、謝惠連云、羈人感二淑節一、皆言、客遊感レ物、憂思而作也。〔陸機、悲哉行〕游客芳春林、春芳傷二客心一、和風飛二清響一、鮮雲垂二薄陰一、蕙草饒二淑氣一、時鳥多二好音一、翩翩鳴鳩羽、喈喈倉庚吟、幽蘭盈二通谷一、長秀被二高岑一、女蘿亦有レ託、蔓葛亦有レ尋、傷哉客遊士、憂思一何深、目感二隨レ氣草一、耳悲二詠レ時禽一、寤寐多二遠念一、緬然若二飛沈一、願託二歸風響一、寄レ言遺レ所レ欽。

【悲摧】56ヒサイ　悲しんで氣がくじける。〔古詩、爲二焦仲卿妻一作〕兒實無二罪過一、阿母大悲摧。

【悲壯】57ヒサウ　❶悲しみの中に意氣のふるひおこること。〔後漢書、禰衡傳〕聲節悲壯、聽者莫レ不二慷慨一。❷悲壯美の略。悲壯美を見よ。

〘悲壯美〙58ヒサウビ　美の一種。現實界に於ては、到底解決を見得ない時に、之より脫却せんとして死を擇ぶこと。哲學用語。

〘悲壯淋漓〙59ヒサウリンリ　あはれげな中にもその意氣盛なこと。淋漓は、水のしたたること。〔林鶴梁、東湖遺稿序〕陵厲雄健、悲壯淋漓。

【悲愴】60ヒサウ　悲しみいたむ。愴は、いたむ。悲傷。〔白居易、有レ感三首〕往事勿二追思一、追思多二悲愴一。〔陸游、歲暮感懷云云詩〕回レ首二十年、撫レ事增二悲愴一。

【悲慘】61ヒサン　悲しみいたむ。悽慘。悲酸。〔魏明帝、長歌行〕悲慘傷二人情一。

【悲酸】62ヒサン　悲しく傷ましい。みじめ。むざん。酸は、悲痛の意。悲慘。〔王羲之、問慰諸帖下〕奈何奈何、無レ由レ敍二哀悲酸一。〔黃滔、效古詩〕讀書莫レ弔レ古、弔レ古多二悲酸一。

【悲慙】63ヒザン　悲しみはぢる。〔陸機、謝二平原內史一表〕喜懼參幷、悲慙哽結。

【悲思】64ヒシ　悲しいおもひ。〔魏文帝、雜詩〕鬱鬱多二悲思一、緜緜思二故鄉一。

【悲絲】65ヒシ　あはれに聞える琴の音。〔杜甫、促織詩〕悲絲與二急管一、感激異二天眞一。〔溫庭筠、蔣侯

神歌〕巫娥傳レ意託二悲絲一、鐸語琅琅理二雙鬢一。

【悲詩】66ヒシ　悲しみの詩歌。〔王粲、詠史詩〕黃鳥作二悲詩一、至レ今聲不虧。

【悲秋】67ヒシウ　悲しい秋。もののあはれを感ずる秋。又、秋に悲しむ。秋氣に感じていたみかなしむ。〔楚辭、九辯〕悲哉秋之爲レ氣也。〔杜甫、九日藍田崔氏莊詩〕老去悲秋強自寬、興來今日盡二君歡一。〔劉兼、酬二勾評事一詩〕閑庭欹レ枕正悲秋。

【悲羞】68ヒシウ　かなしみはぢる。〔白居易、井底引二銀瓶一詩〕潛來更不レ通二消息一、今日悲羞歸不レ得。

【悲愁】69ヒシウ　悲しみうれへる。〔司馬相如、長門賦序〕因于下解二悲愁一之辭上。〔後漢書、呂強傳〕昔楚女悲愁、則西宮致レ灾。〔白居易、早入二皇城一贈二王留守僕射一詩〕城柳宮槐謾搖落、悲愁不レ到貴人心。

〖悲愁垂涕〗70ヒシウスイテイ　悲しみ愁へて涙を流す。〔列子、湯問〕一里老幼、悲愁垂涕、相對三日不レ食。

【悲商】71ヒシヤウ　悲しげな響の歌。商は淸商曲、その音調は高く、悲しみに滿ちてゐる。〔陶潛、閑情賦〕悲商叩レ林、白雲依レ山、仰睇二天路一、俯促二鳴絃一。

【悲傷】72ヒシヤウ　悲しみいたむ。又、悲しく痛ましい。悲痛。悲愴。傷悲。〔漢書、劉向傳〕歎息悲傷。〔後漢書、明德馬皇后紀〕悲傷發レ疾。〔蜀志、孫乾傳〕每與二劉左將軍孫公祐一、共論二此事一、未三嘗不二痛心入レ骨、相爲悲傷一也。〔杜甫、陪二王使君一泛レ江詩〕不レ須レ吹二急管一、衰老易二悲傷一。

〖悲傷憔悴〗73ヒシヤウセウスイ　悲しみ傷んで體がやつれること。〔蘇轍、黃州快哉亭記〕此皆騷人思士之所二以悲傷憔悴、而不レ能レ勝者。

【悲情】74ヒジヤウ　悲しみの感情。悲思。〔陸機、贈二馮文羆一詩〕悲情臨レ川結、苦言隨レ風吟。

【悲色】75ヒシヨク　悲しい顏色。〔晏子、雜、上〕晏子假レ之以二悲色一。

【悲心】76ヒシン　悲しむ心。〔史記、倉公傳〕此悲心所レ生也、病得二之憂一也。〔列女傳、母儀、衞姑定姜傳〕恩愛哀思、悲心感慟。〔張載、七哀詩〕觸レ物增二悲心一。

【悲辛】77ヒシン　つらいかなしみ。かなしむ。〔李白、古風四十八〕力盡功不レ贍、千載爲二悲辛一。〔韓愈、送二惠師一詩〕魚龍驚踊躍、叫嘯成二悲辛一。

【悲凄】78ヒセイ　pēi ch'ī　悲愴。凄慘。

【悲聲】79ヒセイ　悲しい聲。〔古樂府、傷歌行〕悲聲命二儔匹一、哀鳴傷二我腸一。

【悲嘯】80ヒセウ　悲しい聲でうそぶく。〔新序、雜事五〕悲嘯長吟。〔王褒、洞簫賦〕玄猨悲嘯。〔蘇轍、黃州快哉亭記〕夜則魚龍、悲二嘯於其下一。

【悲惜】81ヒセキ　かなしみをしむ。〔晉書、魏舒傳〕（混）年二十七、先レ舒卒、朝野咸爲レ舒悲惜。

【悲戚】82ヒセキ　悲しみ憂へる。又、悲しみうれへること。哀戚。悲愁。〔後漢書、馮異傳〕自二伯升之敗一、光武不三敢顯二其悲戚一。

【悲切】83ヒセツ　悲しみのしきりなこと。〔王昌齡、岳陽別二李十七越賓一詩〕杉上秋雨聲、悲切蒹葭夕。

【悲泉】84ヒセン　❶悲しい泉。〔鮑照、舞鶴賦〕嚴嚴苦霧、皎皎悲泉。❷泉の名。太陽が黃昏前に此處を經過するといふ。〔淮南子、天文訓〕日至二于悲泉一、爰止二其女一、爰息二其馬一、是謂二懸車一、至二于虞淵一、是謂二黃昏一。

【悲增】85ヒソウ　菩薩に智增・悲增の二つがあり、悲增は煩惱を絕たないで永く衆生を利益するもの。〔祖庭事苑〕菩薩不レ取二涅槃一、而利レ生、曰二悲增一。

【悲惻】86ヒソク　悲しみいたむ。悲傷。〔梁武帝、贈二謚孔休源一詔〕奄然永逝、倍用悲惻。

【悲吒】87ヒタ　悲しみ歎く。〔郭璞、遊仙詩〕臨レ川哀二年邁一、撫レ心獨悲吒。〔注〕善曰、吒、嘆聲也。

【悲悼】88ヒタウ　死を悲しみいたむ。哀悼。悲痛。〔蔡邕、郭有道碑文〕降レ年不レ永、民斯悲悼。〔吳志、陸凱傳〕有識悲悼。

【悲怛】89ヒダツ　かなしみいたむ。〔王導、遺二王含一書〕悲怛之情、不レ能二自勝一。

【悲歎】90ヒタン　悲しみなげく。又、なげき。〔後漢書、袁譚傳〕使二太夫人憂哀憤隔、我州君臣監寐悲歎一。〔曹植、七哀詩〕上有二愁思婦一、悲歎有二餘哀一。

【悲智】91ヒチ　佛教の慈悲と智慧。〔余靖、開元寺記〕釋氏之爲レ道、以二悲智一爲レ脩者也、悲之爲レ言、仁之端也、智之爲レ言、介之徒也。〔法事讚、上〕釋迦諸佛、皆乘二弘誓一、悲智雙不レ捨二含情一。

【悲筑】92ヒチク　悲しげな筑の音。筑は瑟に似た樂器。〔陶潛、詠二荊軻一詩〕漸離擊二悲筑一、宋意唱二高聲一。

【悲悵】93ヒチヤウ　悲しみいたむ。〔倪瓚、聽二錢文則彈一レ琴詩〕促軫淚沾レ纓、歌詩重二悲悵一。

【悲腸】94ヒチヤウ　悲しむ心。腸は、こころ。〔白居易、病中哭二金鑾子一詩〕慈淚隨レ聲迸、悲腸遇レ物牽。

【悲痛】95ヒツウ　悲しみいたむ。又、そのこと。〔史記、淮南王安傳〕於レ是百姓悲痛相思。〔漢書、路溫舒傳〕此皆疾二吏之風一、悲痛之辭也。〔後漢書、竇融傳〕其爲二悲痛一、尤足二愍傷一。

【悲涕】96ヒテイ　悲しみのなみだ。悲淚（125）に同じ。〔後漢書、光烈陰皇后紀〕感動悲涕、左右皆泣。

【悲啼】97ヒテイ　悲しみなく。〔埤雅、釋鳥、鶴〕鶩以レ喜囀、烏以レ悲啼。〔韓愈、古詩、猛虎行〕誰云猛虎惡、中路正悲啼。〔李白、夜坐吟〕氷合二井泉一月入レ閨、金釭青凝照二悲啼一。

【悲鳥】98ヒテウ　悲しい聲で鳴く鳥。〔李白、蜀道難〕但見悲鳥號二古木一、雄飛呼レ雌繞二林閒一。

【悲調】99ヒテウ　悲しげな音曲。悲曲。悲響。〔謝靈運、山居賦〕憶二崑園之悲調一、慨二伶倫之哀籥一。

【悲惵】100ヒテフ　悲しみおそれる。惵は、懼れる。〔沈遼、德相送二荊公三一詩用二元韻一戲爲レ之詩〕山川若レ有レ待、風物增二悲惵一。

【悲田】101ヒデン　佛三福田の一つ。貧窮者に施すこと。悲は、慈悲。田は、效果を擧げる意を田の收穫あるに比していふ。悲田院を見よ。〔智者大師別傳〕廻二施悲敬兩田一、使二福德增多一。

〖悲田院〗102ヒデンヰン　❶唐代、老廢者を救恤するために施設した所。本來僧尼が計畫したもので、國家は使を置いて之を監督した。後、上奏して悲田養病坊と改稱した。俗に卑田院に作る。宋以後は福地院といふ。〔舊唐書、武宗紀〕悲田養病坊、緣二僧尼還俗一、無二人主持一、恐三殘疾無二以取レ給、兩京量二給寺田一賑濟。〔唐會要、病坊〕開元五年、宋璟奏、悲田養病、從二長安一以來、置レ使專知二國家矜レ孤恤レ窮、敬レ老養レ病、至二於安庇一、各有司存、今驟聚二無名之人一、著二收レ利之便一、實恐二逋逃爲レ藪、隱沒成レ姦、云云、會昌五年十一月、李德裕奏云、恤レ貧寬レ疾、著二于周典一、無レ告二常餒一、存二于王制一、國朝立二悲田養病一、置レ使專知、開元五年宋璟奏、悲田乃關二釋教一、此是僧尼職掌、不レ合三定使二專知一、玄宗不レ許。〔通俗編、地理、悲田〕釋典以下供二父母一田上爲二恩田一、供レ佛爲二敬田一、施二貧窮一爲二悲田一、後世謂二養濟院一曰二悲田院一、取レ此。❷古、京中の孤兒・行路病者・貧老などを養ふために設けた所。施藥院に屬す。後、專ら乞兒・屠兒等の居る所の稱となる。〔左京職式〕凡京中路邊病者孤子、仰二九箇條令一、其所レ見所レ遇、隨レ便必令三取二送施藥院及東西悲田院一。

〖悲田寺〗103ヒデンジ　乞兒・穢多の居る所をいふ。京都の方言。轉じて、乞食をいふ。〔雍州府志〕悲田寺、古在二京師一、今在二東三條一、古施藥院、爲レ救二大人之病惱一而設レ之、悲田院、爲二小兒之藥局一、施藥院・悲田院、始不レ詳レ在二何處一、凡小兒有レ病、於二悲田院一而療二養之一、其後至二乞兒有レ病者寓レ茲、藥餌之事、無レ幾而絕、爲二大人・小兒・乞丐之寓居一。

【悲怒】104ヒド　悲しみいかる。〔宋史、劉貴妃傳〕帝悲怒疑三其爲二厭蠱一。〔陸游、游二錦屛山一謁二少陵祠堂一詩〕萬竅爭號泄二悲怒一。

【悲動】105ヒドウ　人を悲しませ感ぜしめる。〔吳錄〕持二父遺劍一、到二亡處一設レ祭、悲二動路人一。

【悲慟】106ヒドウ　悲しみなげく。〔後漢書、東海恭王彊傳〕天子覽レ書悲慟、從二太后一出幸二津門亭一發レ哀。〔王羲之、問慰諸帖上〕旦奉祠感思悲慟。

【悲惱】107ヒナウ　悲しみなやむ。〔蘇軾、罷二徐州一往二南京一馬上走レ筆寄二子由一詩〕別離隨處有、悲惱緣二愛結一。

【悲報】108ヒハウ　悲しい知らせ。凶報。

【悲夫】109カナシイカナ　悲しみ歎く辭。〔王羲之、三月三日蘭亭詩序〕後之視レ今、亦猶二今之視レ昔、悲夫。

【悲怖】110ヒフ　悲しみ恐れる。〔晉書、康獻褚皇后傳〕臣等不レ勝二悲怖一。

【悲訃】111ヒフ　悲しい死の知らせ。悲しい訃報。凶報。〔白居易、祭二微子一文〕悲訃忽至。

【悲風】112ヒフウ　❶悲しげに吹く風。あはれを催す風。〔李陵、答二蘇武一書〕但聞二悲風蕭條之聲一。〔潘岳、悼亡詩〕室虛來二悲風一。〔江淹、恨賦〕但聞悲風汩起、泣下霑レ襟。❷秋の風。悲風千里來を見よ。〔蘇軾、前赤壁賦〕託二遺響於悲風一。

〖悲風調〗113ヒフウテウ　悲風の奏する音調。又、悲風に

似た音調。〔李白、月夜聽二盧子順彈レ琴詩一〕忽聞悲風調、宛若二寒松吟一。

【悲風千里來】114 ヒフウセンリキタル　秋風が遠くから吹いて來ること。〔高適、宋中詩〕梁王昔全盛、賓客復多才、悠悠一千年、陳迹惟高臺、寂寞向二秋艸一、悲風千里來。

【悲憤】115 ヒフン　悲しみいきどほる。くやしがる。憤慨。〔後漢書、列女、董祀妻傳〕追懷悲憤、作二詩二章一。〔唐德宗、贈太尉段秀實紀功碑〕感レ時悲憤、思レ定二大業一。

【悲憤詩】116 ヒフンシ　詩篇の名。後漢の蔡琰の作。二首ある。琰は、南匈奴の左賢王に嫁したが、曹操に贖はれて歸り、董祀に再嫁した。後、亂離に感傷し、往時を追懷して、悲憤の餘り此の詩を作つたもので、全篇悲憤の文字を以て蔽はれてゐる。後漢書本傳及び古詩賞析卷六に載せられてゐる。〔後漢書、列女、董祀妻傳〕興平中、天下喪亂、文姬爲二胡騎所一レ獲、沒二於南匈奴左賢王一、在二胡中一十二年、生二二子一、曹操素與レ邕善、痛二其無一レ嗣、乃遣二使者一以二金璧一贖レ之、而重嫁二於祀一云云、後感二傷亂離一、追懷悲憤、作二詩二章一、其辭曰、漢季失二權柄一、董卓亂二天常一、志欲レ圖二篡弑一、先害二諸賢良一、逼迫遷二舊邦一、擁レ主以自彊、海內興二義師一、欲三共討二不祥一、卓衆來東下、金甲耀二日光一、平土人脆弱、來兵皆胡羌、獵レ野圍二城邑一、所レ向悉破亡、斬截無二孑遺一、尸骸相牚拒、馬邊懸二男頭一、馬後載二婦女一、長驅西入レ關、迥路險且阻、還顧邈冥冥、肝脾爲爛腐、所レ略有二萬計一、不レ得レ令二屯聚一、或有二骨肉俱一、欲レ言不二敢語一、失二意機微閒一、輒言斃降虜、要當二以亭レ刃、我曹不レ活汝、豈復惜二性命一、不レ堪二其詈罵一、或便加二棰杖一、毒痛參幷下、旦則號泣行、夜則悲吟坐、欲レ死不レ能レ得、欲レ生無二一可一、彼蒼者何辜、乃遭二此戹禍一、邊荒與レ華異、人俗少二義理一、處所多二霜雪一、胡風春夏起、翩翩吹二我衣一、肅肅入二我耳一、感レ時念二父母一、哀歎無二窮已一。

【悲慕】117 ヒボ　悲しみしたふ。〔淨住子、禮舍利寶塔門〕以二悲慕故一、善心濃到。〔青山佩弦齋、大高源吾訣レ母書〕所二以日夜悲慕不一レ能レ忘。

【悲鳴】118 ヒメイ　悲しみなく。又、悲しげなき聲。〔宋玉、高唐賦〕纖條悲鳴、聲似二竽籟一。〔說苑、正諫〕蟬高居悲鳴飲レ露、不レ知三螳螂在二其後一也。〔李陵、答二蘇武一書〕胡笳互動、牧馬悲鳴。〔後漢書、靈帝紀〕懷陵上有二雀萬數一、悲鳴因鬭相殺。

【悲懣】119 ヒモン　悲しみもだえる。〔唐書、魏徵傳〕帝悲懣、拊レ之流涕。

【悲樂】120 ヒラク　悲しみと樂しみ。〔莊子、刻意〕故曰、悲樂者德之邪。〔淮南子、精神訓〕夫悲樂者德之邪也、而喜怒者道之過也。

【悲栗】121 ヒリツ　樂器の名。悲慄に同じ。〔明皇雜錄〕觱栗、本龜茲國樂、亦曰二悲栗一、德宗時、有二尉遲青者一善レ之。

【悲慄】122 ヒリツ　樂器の名。篳篥（ヒチリキ）の本名。又、悲栗・悲篥にも作る。〔玉芝堂談薈〕悲慄、篳篥、本名二悲栗一、出二於胡中一、其聲悲、胡人吹以驚レ馬、一名葭管、以レ蘆爲レ首、竹爲レ管、居巢笙也。

【悲篥】123 ヒリツ　樂器の名。管樂器の一つ。笳管ともいふ。悲慄に同じ。〔正字通〕篥、觱篥、一名笳管、胡人吹レ之以驚レ馬者、俗呼二悲篥一、以レ竹爲レ管、以レ蘆爲レ首、其聲悲。〔武夷山古記〕黃次姑噪二悲篥一、秀談鳴二洞簫一。〔文獻通考、樂考〕陳氏樂書曰、觱篥、一名悲篥、一名笳管、羌胡龜茲之樂也。

【悲涼】124 ヒリヤウ　かなしむ。又、悲しくさびしい。〔白虎通、崩薨〕黎庶殞レ涕、海內悲涼。〔詩品〕甚有二悲涼之句一。〔顏延之、秋胡詩〕原隰多二悲涼一、迴飆卷二高樹一。〔注〕善曰、宋均春秋緯注曰、涼、愁也。

【悲淚】125 ルイヒ　悲しみの淚。悲涕。〔吳志、孫皎傳〕摧愴心悲淚下。〔陶潛、悲二從弟仲德一詩〕銜レ哀過二舊宅一、悲淚應二心零一。〔庾信、周柱國云云段永神道碑銘〕赤地悲淚、白虎哀鳴。

【悲憐】126 ヒレン　悲しみあはれむ。〔商子、兵守〕悲憐在レ心、則使二勇民更一レ慮、而怯民不レ戰。

【悲戀】127 ヒレン　❶悲しみしたふ。〔淨住子、禮舍利寶塔門〕然則現二於涅槃一者、復是增二發悲戀之心一。❷悲しい戀。哀戀。

【悲猥】128 ヒワイ　甚しく悲しむ。〔陸雲、與二陸典一書〕臨レ表悲猥。

【悲惋】129 ヒワン　悲しみもだえる。なげく。哀惋。惋は、もだえなげく。〔韓非子、亡徵〕婢妾之言聽、愛玩之智用、外內悲惋、而數行二不法一者可レ亡也。〔晉書、羊祜傳〕李氏悲惋、時人異レ之。

【悲回風】130 ヒクワイフウ　楚辭九章の篇名。首句の悲二回風之搖一レ蕙兮から名づける。小人が盛で、君子がうれへることを述べる。〔楚辭、九章、悲回風、注〕此章言二小人之盛、君子所一レ憂、故託レ遊二天地之閒一、以泄二憤懣一、終沈二汨羅一、從二子胥申徒一、以畢二其志一也。

【悲悲戚戚】131 pei^1 pei^1 chʻi^1 chʻi^1　かなしみに堪へぬ形容。〔紅樓夢、二十六回〕悲悲戚戚、嗚咽起來。

【㥏】10721

㊀サン　〔廣韻〕蘇紺切　勘

㊁タン トン　〔集韻〕他紺切　勘

㊀憛㥏は、のぞみを失ふ。〔廣韻〕㥏、憛㥏、失レ志。㊁**おもふ**。**うれへる**。憛(**4**－**11224**)に同じ。〔集韻〕憛、博雅、思也、一曰、憛悇、憂惑也、一曰、惶遽也、一曰、禍福未レ定意、或作レ㥏。

【⿰忄奄】10722

㊀エン　〔集韻〕衣廉切　鹽

㊁エン　〔集韻〕衣檢切　琰

㊂エン　〔集韻〕於贍切　豔

㊀❶**意氣の多いさま**。⿰忄奄憸。〔集韻〕⿰忄奄、⿰忄奄憸、多二意氣一皃。❷**いつくしむ**。〔集韻〕⿰忄奄、博雅、愛也。㊁**いつくしむ**。或は⿰忄弇(**4**－**10878**)に作る。〔集韻〕⿰忄奄、博雅、愛也、或作レ⿰忄弇。㊂❶**あまんじる**。〔類篇〕⿰忄奄、甘心。❷**いつくしむ**。〔集韻〕⿰忄奄、博雅、愛也。❸**わすれる**。〔集韻〕⿰忄奄、一曰、忘也。

【⿰忄直】10723

㊀ショク ジキ　〔字彙〕常職切　職

㊁トク

㊀**もつぱら**。〔五音集韻〕⿰忄直、專也。㊁悳(**4**－**10724**)に同じ。〔字彙補〕⿰忄直、與レ悳同。

【悳】10724

トク　〔集韻〕的則切　職　ㄉㄜˊ　te^2

小篆

古文

古文（聲定訓通）

❶**善行善心の名**。〔說文〕悳、外得二於人一、內得二於己一也、从二直心一。❷古は⿱㐭心(**4**－**10849**)に作る。〔集韻〕悳、古作レ⿱㐭心。❸通じて德(**4**－**10243**)に作る。〔說文、悳、段注〕俗字叚レ德爲レ之。〔集韻〕悳、通作レ德。❹通じて得(**4**－**10137**)に作る。〔說文、悳、段注〕古字或叚レ得爲レ之。邦 **いさを**。姓氏。

解字　會意。直と心との合字。直は得に通じ、人が外に得て心中に養ひ得たものの意。

【惪】10725

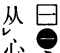
トク　悳(**4**－**10724**)に同じ。〔正字通〕悳、同レ惪、惪、德本字。

【悴】10726

㊀スイ ズイ　〔集韻〕秦醉切　寘　ㄘㄨㄟˋ　tsʻuei^4

㊁シュツ ジュチ　〔集韻〕昨律切　質

㊂ソツ ソチ　〔玉篇〕七沒切　月


小篆

㊀❶**うれへる**。〔說文〕悴、⿱百心也、从レ心卒聲、讀與二易萃卦一同。〔廣雅、釋詁二〕悴、憂也。❷**いたむ**。〔方言、一〕悴、傷也、宋謂二之悴一。❸**なやむ**。**つかれる**。〔晉書、簡文帝紀〕干戈未レ戢、公私疲悴。〔魏書、羊謙之傳〕百姓窮悴。❹**やつれる**。〔魏書、高肇傳〕朝夕悲泣、至二于羸悴一。❺**かじける**。**しぼむ**。〔魏書、文帝

紀〕時雨不レ霑、春苗萎悴。〔魏書、王肅傳〕炎熱焦酷、人物同悴。❻顇（12－43557）に通ず。〔一切經音義、六〕燋悴、三蒼作二顦顇一。❼瘁（7－22294）に通ず。〔陸機、歎逝賦、戚貌瘁而尠レ歡、注〕善曰、瘁、與レ悴古字通。🈔うれへる。〔集韻〕悴、憂也。🈪せく。いそぐ。〔玉篇〕悴、心急世。［邦］せがれ。㋑顇（12－43557）・倅（1－750）に同じ。㋑己の子の謙稱。㋺小兒をいやしむ語。㋩陰莖。

【悴葉】1（スイエフ）　しぼみかかった葉。生氣のない木の葉。〔陸機、漢高祖功臣頌〕悴葉更耀。

【悴顏】2（スイガン）　やつれた顏容。〔劉伶、北芒客舍詩〕陳レ醴發二悴顏一、色歆暢二眞心一。

【悴憔】3（スイセウ）　やせ衰へる。やつれる。〔雲笈七籤〕悴憔鰲レ思、憂患滿レ腹。

【悴賤】4（スイセン）　やつれていやしい。衰へていやしい。〔鮑照、謝二隨レ恩被レ原表〕由二臣悴賤、可レ侮可レ誣。

【悴族】5（スイゾク）　おちぶれた一門。衰微した氏族。〔江斅、讓レ婚表〕臣寒門悴族。

【悴薄】6（スイハク）　見すぼらしい。衰薄。〔沈約、少年新婚詩〕自顧雖二悴薄一、冠蓋曜二城隅一。

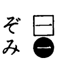
【悴物】7（スイブツ）　しぼみ衰へた植物。〔陶潛、五月旦作和二戴主簿一詩〕南窓罕二悴物一、北林榮且豐。

【悴容】8（スイヨウ）　やせ衰へたかほかたち。やつれた容貌。〔謝靈運、長歌行〕朽貌改二鮮色一、悴容變二柔顏一。

【悵】10727

🈩チヤウ　〔集韻〕丑亮切　ㄔㄤˋ　ch'ang4　［漾］

🈔チヤウ　〔集韻〕仲良切　［陽］


小篆

🈩❶いたむ。うらむ。なげく。のぞみを失ふ。〔說文〕悵、望恨也、从レ心長聲。〔段注〕望二其還一而不レ至爲レ恨也。〔一切經音義、一二〕悵、惆悵、痛也。〔漢書、外戚傳上、孝武李夫人〕涔沫悵兮。〔注〕師古曰、悵、惆悵也。❷ぼんやりするさま。〔楚辭、九歌、河伯〕日將レ暮兮悵忘レ歸。〔注〕言、己心樂志說、忽忘二還歸一也。❸或は⿰目長（8－23441）に作る。〔集韻〕悵、或从レ目。🈔うらむ。〔集韻〕悵、恨也。

【悵怏】1（チヤウアウ）　なげきうらむ。〔支遁、詠懷詩〕悵怏濁水際、幾忘二映淸渠一。

【悵焉】2（チヤウエン）　なげくさま。いたむさま。のぞみを失ふさま。〔禮、問喪〕心悵焉愴焉。〔謝靈運、擬二魏太子鄴中集一、徐幹詩〕中飮顧二昔心一、悵焉若レ有レ失。

【悵怳】3（チヤウキヤウ）　失意のさま。怳は、がつかりする。〔潘岳、悼亡詩〕悵怳如レ或レ存、周遑忡驚惕。

【悵悔】4（チヤウクワイ）　うらみくやむ。

【悵懷】5（チヤウクワイ）　いたむ心。〔張衡、西京賦〕盤樂極、悵懷萃。

【悵恨】6（チヤウコン）　うらみかこつ。いたみうれへる。〔史記、陳涉世家〕輟レ耕之二壟上一、悵恨久之曰、苟富貴無二相忘一。〔劉琨、答二盧諶一詩〕不レ能レ不二悵恨一爾。

【悵想】7（チヤウサウ）　なげきおもふ。〔葛長庚、滿江紅、別二鶴林一曲〕幾箇黃昏勞二悵想一、幾宵皓月遙思憶。

【悵如】8（チヤウジヨ）　なげくさま。悵然に同じ。〔摯虞、答二杜育一詩〕懷戀結レ好、心焉悵如。

【悵甚】9　ch'ang4 shen4　書翰文用語。甚だ遺憾に存候。

【悵然】10（チヤウゼン）　なげくさま。いたむさま。失意のさま。悵如。〔宋玉、神女賦序〕悵然失レ志。〔史記、日者傳〕悵然噤レ口不レ能レ言。〔漢書、谷永傳〕悵然失レ望。〔淮南子、原道訓〕悵然若レ有レ所レ亡也。〔魏志、陳思王植傳〕悵然絕レ望。〔傳亮、感物賦序〕悵然有レ懷、感レ物興レ思。〔資治通鑑、晉紀〕（安帝、元興三年）衵悵然久之而起。〔注〕悵然、失レ志貌。

【悵悵】11（チヤウチヤウ）　いたむさま。うらむさま。失意のさま。〔晉書、荀勖傳〕勖久在二中書一、專管二機事一、及レ失レ之、甚惘惘悵悵。〔潘岳、哀二永逝一文〕悵悵兮遲遲。〔注〕濟曰、悵悵、恨貌。〔江淹、冬盡難レ離和二丘長史一詩〕閑居深悵悵、颸寒拂二中闈一。

【悵望】12（チヤウバウ）　歎き望む。悲しくながめやる。〔任昉、爲二范尙書一讓二吏部封侯一第一表〕悵二望鐘阜一。〔謝朓、酬二王晉安一詩〕悵望一塗阻。〔韓愈、復志賦〕戾二洛師一而悵望兮。〔皇甫冉、酧二張繼一詩〕悵二望南徐一登二北固一、迢遙西塞限二東關一。〔崔塗、鸚鵡洲眺望詩〕悵望春襟鬱未レ開、重吟二鸚鵡一益堪レ哀。

【悵罔】13（チヤウマウ）　憂悶して呆然となる形容。罔は、茫然自失のさま。〔晉書、荀勖傳〕及レ爲二尙書令一、甚罔罔悵悵。

【悵戀】14（チヤウレン）　いたみしたふ。〔宋祁、洛陽春詩〕弭レ節不レ妨饒二悵戀一、待レ歌漁藻記二他年一。

【悵惋】15（チヤウワン）　なげき悲しむ。失意して悲歎する。惋は、もだえなげく。〔晉書、許孜傳〕孜悵惋不レ已。〔書斷〕其人出使二淮南一、臨レ別大悵惋。

【⿰忄㝵】10728

トク　〔集韻〕惕得切　［職］

❶こころよい。⿰忄㝵⿰忄㝵。〔廣韻〕⿰忄㝵、⿰忄㝵⿰忄㝵、快也。❷おそれる。〔集韻〕⿰忄㝵、心懼。❸える。〔字彙〕⿰忄㝵、得也。

【悶】10729

🈩ボン モン　〔集韻〕莫困切　ㄇㄣ　men1・4　［願］

🈔ボン モン　〔集韻〕謨奔切　［元］

🈪ボン モン　〔集韻〕母本切　［阮］

小篆

🈩❶もだえる。氣がむすぼれる。〔說文〕悶、懣也、从レ心門聲。〔素問、風論〕閉則熱而悶。〔注〕悶、不レ爽貌。〔楚辭、九章、惜誦〕中悶瞀之忳忳。〔注〕悶、煩也。❷うれへる。〔孔子家語、弟子行〕處レ賤不レ悶。〔注〕悶、憂也。❸割截しないさま。又、寬大なさま。悶悶（29）を見よ。❹くらい。殙（6－16515）・惛（4－10875）に通ず。〔呂覽、論威〕梟擧二死殙之地一矣。〔注〕殙、音悶、謂二絕氣之悶一。〔呂覽、本生〕下爲二匹夫一而不レ惛。〔注〕讀、憂悶之悶、義亦然也。❺或は惽（4－10812）に作り、亦⿰忄門（4－10731）と書す。〔集韻〕悶、或作レ惽、亦書作レ⿰忄門。❻［現］㋑退屈する。㋺鬱陶しい。㋩蒸す。㋥煑る。㋭蓋をする。🈔さとらないさま。又、しばらくしての意。悶然。〔集韻〕悶、悶然、不レ覺皃、一曰、有レ頃閒也。🈪いりみだれる。わかれない。〔集韻〕悶、悶然、混然也。

【悶憂】1（イウモン）　もだえうれへる。うれへる。〔孔子家語、弟子行〕處レ賤不レ悶。〔注〕悶、憂也。

【悶鬱】2（ウツモン）　もだえて心のふさがること。鬱悶に同じ。

【悶香】3　men4 hsiang1　痲醉させる香料。

【悶乾】4（カンモン）　かわかす。蒸しかわかす。〔福惠全書、郵政部、喂養〕以二鐵鏟一抄翻、去レ火悶二乾豆汁一。

【悶氣】5　men4 ch'i4　煩悶し怒る。氣が鬱ぐ。

【悶苦】6（クモン）　もだえ苦しむ。苦悶（9－30797・・220）に同じ。

【悶懷】7（クワイモン）　もだえ思ふ。又、もだえるおもひ。〔韓愈・孟郊、雨中寄二孟刑部幾道一聯句〕啇聽饒二淸聳一、悶懷空抑噫。

【悶鑵】8　men4 kuan4　蒸し鑵。食物を調理するに用ひる。

【悶倦】9　men4 chüan4　退屈な。倦きた。

【悶坐】10　men4 tsuo4　無聊な。徒然な。

【悶躁】11　men4 tsao4　もだえさわぐ。

【悶殺】12　men4 sha1　❶退屈し果てる。❷もだえさせてころす。

【悶死】13（シモン）　❶もだえ死ぬ。又、もだえじに。❷死ぬほどもだえる。❸呼吸をふさいで殺す。〔福惠全書、刑名部、人命下、驗各種死傷〕碾壓、悶死、杖、雷震。

【悶疾】14（シツモン）　もだえる病。〔嵇康、與二山巨源一絕レ交書〕又有二心悶疾一。

【悶酒】15　men4 chiu3　やけざけ。

【悶焦】16　men4 chiao1　もだえこがす。

【悶絕】17（ゼツモン）　もだえて一時正氣を失ふ。苦悶して氣絕する。〔左氏、定、四、由于徐蘇而從、注〕

以二背受レ戈、故當時悶絕。〔梁書、王僧辯傳〕僧辯悶絕、久レ方之蘇。

【悶然】18 モンゼン ❶さとらないさま。又、しばらくしての意。〔莊子、德充符〕悶然而後應、氾而若レ辭。〔釋文〕悶然、李云、不レ覺貌、崔云、有レ頃之間也。❷みだれる。字解［三］を見よ。

【悶歎】19 モンタン もだえなげく。〔楚辭、嚴忌、哀時命〕遂悶歎無レ名。

【悶著】20 モンチャク もだえからまる。もめあふ。又、もめごと。ごたごた。葛藤。紛爭。

【悶吐】21 モント 心もだえて胸わるく吐氣を催すこと。〔水經、若水注〕禁水又北注二瀘津水一、又東逕二不韋縣北一、而東北流、兩岸皆高山數百丈、瀘峰最爲二傑秀一、孤高三千餘丈、云云、而時有二瘴氣一、三月四月逕レ之必死、非二此時一、猶令二人悶吐一。

【悶燈】22 men^4 têng^1 錫製の蓋を蔽うた燈籠。前面にのみ口を開く。

【悶熱】23 men^4 jê^4 蒸し暑い。

【悶閔】25 モンビン もだえいたむ。〔韓愈、閔己賦〕獨悶閔其曷已兮。

【悶瞀】27 モンボウ もだえみだれるさま。〔楚辭、九章、惜誦〕申二侘傺之煩惑一兮、中悶瞀之忳忳。〔注〕悶、煩也、瞀、亂也。

【悶默】28 モンモク もだえ默すること。〔梅堯臣、詩〕悶默閱二書史一。

【悶悶】29 モンモン 暗いさま。理智的でないさま。❶無智を以て國を治めるさま。〔老子、五十八〕其政悶悶。〔河上公注〕其政教寛大、悶悶昧昧、似レ若レ不レ明也。〔大田晴軒、老子全解〕悶悶、暗貌、謂レ不下以二伺察一爲上レ務也、不二以レ智治レ國也。〔韋應物、善福精舍答二韓司錄清都觀會宴見レ憶詩〕悶悶獨爲レ愚。❷心は暗く明察を用ひぬさま。〔老子、二十〕俗人察察、我獨悶悶。〔河上公注〕悶悶、無レ所二割截一。〔全解〕察察、明貌、悶悶、暗貌、古文、悶與二惛・殙一通。❸もだえ苦しむさま。思ひ煩ふさま。〔桯史〕不レ勝二賈生痛哭之私一、欲下致二臧宮鳴劍之議一、試捺二悶悶一、毋上レ謂二平平一。〔水滸傳、一回〕回二到家中一、悶悶不レ已。

【悶悶情】30 モンモンノジヤウ もだえくるしむ心。

【悶懣】31 モンモン もだえる。煩懣。〔賈誼、旱雲賦〕湯風至含レ熱兮、羣生悶懣而愁憒。

【悶癢】32 モンヤウ もだえてむづがゆい。はがゆい。〔嵆康、與二山巨源一絕レ交書〕頭面常一月十五日不レ洗、不二大悶癢一、不レ能レ沐也。

【悶藥】33 men^4 yao^4 魔睡藥。

【悶容】34 モンヨウ 苦しい容子。〔後漢書、班彪傳論〕守二賤薄一而無二悶容一。

【悶亂】35 モンラン もだえみだれる。〔周禮、天官、醫師、聚二毒藥一、注、孟子曰若藥不二瞑眩一厥疾不レ瘳、疏〕藥使二人瞑眩悶亂一、乃得二瘳愈一。

【悶過去】36 men^1 kuo^4 ch'ü 氣絕する。

【悶葫蘆】37 men^4 hu^2 lu ❶むづかしい疑問。難題。❷かくして人に知らしめないこと。〔元曲、趙氏孤兒〕這畫的是徯倖殺我也悶葫蘆。

【悶葫蘆兒大財主】38 men^4 hu^2 lu êrh ta^4 ts'ai^2 chu^3 吝嗇家の大金持。

【悶子車】39 men^4 tzŭ^3 ch'ê^1 有蓋貨車。

【悶得慌】40 men^4 tê huang^1 退屈な。悶悶の情に堪へない。

【悶面話】41 men^1 mien^4 hua^4 表面を飾ること。

【悶殼兒表】42 men^4 k'ê^1 êrh piao^3 兩蓋の懷中時計。悶表(26)に同じ。

【悶聲大發】43 men^1 shêng^1 ta^4 fa^1 婚禮式の翌日、花嫁が舅姑に請安の禮をする時、一言も發しないで附添女が代つて辯ずること。南京地方の風習。

【〓】10730 モン

悶(**4－10729**)に同じ。〔說文長箋〕〓、同レ悶。

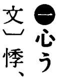
【〓】10731 モン

悶(**4－10729**)に同じ。〔集韻〕悶、或書作レ〓。

【悷】10732 ［一］レイ ライ 〔集韻〕郎計切 霽 ［二］リ 〔集韻〕力至切 寘

［一］［二］❶懍悷は、かなしむさま。〔集韻〕悷、懍悷、悲皃。〔宋玉、高唐賦〕惏悷憯悽。〔注〕善曰、並悲傷貌。❷㦕悷は、もとる。〔廣韻〕悷、㦕悷、多レ惡。

【悸】10733 キ ギ 〔集韻〕其季切 寘 ㄐㄧˋ chi^4



小篆

❶**心うごく。むなさわぎ。**〔說文〕悸、心動也、从レ心季聲。〔素問、氣交變大論〕煩心躁悸陰厥。〔注〕悸、心跳動也。〔後漢書、梁節王暢傳〕肌慄心悸。〔王延壽、魯靈光殿賦〕心猥猥而發レ悸。❷**病名。**痵(**7－22258**)に通ず。〔說文通訓定聲〕悸、叚借爲レ痵。〔漢書、酷吏、田延年傳〕使二我至一レ今病レ悸。〔注〕師古曰、悸、心動也。〔王先謙補注〕宋祁曰、韋昭曰、心中喘息曰レ悸。❸**いかる。**〔廣雅、釋詁二〕悸、怒也。❹**おそれる。**〔楚辭、王逸、九思、悼亂〕惶悸兮失レ氣。〔注〕悸、懼也。❺**帶の垂れ下るさま。**〔詩、衞風、芄蘭〕垂レ帶悸兮。〔集傳〕悸、帶下垂之貌。❻**節度のあるさま。**〔詩、衞風、芄蘭、傳〕垂二其紳帶一、悸悸然有二節度一。〔陳奐傳疏〕悸、猶二悸悸一也、悸悸然有二節度一、傳所三以形二容其垂帶之狀一、釋文引二韓詩垂帶萃兮一云、萃、垂貌、悸與レ萃、古聲相近。❼或は〓(**4－10909**)に作る。〔集韻〕悸、或作レ〓。❽〓(**6－16087**)に通ず。〔王延壽、魯靈光殿賦〕心猥猥而發レ悸。〔注〕善曰、悸、或爲レ〓。

【悸憂】1 キイウ 心におそれうれへる。憂悸。

【悸悸】2 キキ ❶節度のあるさま。〔詩、衞風、芄蘭、垂帶悸兮、傳〕其垂二紳帶一、悸悸然有二節度一。❷驚き恐れて胸がどきどきするさま。〔元包經〕下佛佛、上悸悸。〔杜甫、乾元元年華州試二進士一策問〕外則悸悸然求レ賢如レ不レ及。〔孫樵、出蜀賦〕心悸悸而程、不二敢逸一兮。

【悸兮】3 キケイ ❶節度のあるさま。又、帶の垂れ下るさま。〔詩、衞風、芄蘭〕垂レ帶悸兮。〔傳〕垂二其紳帶一、悸悸然有二節度一。〔集傳〕悸、帶下垂之貌。❷驚き恐れるさま。〔楚辭、王逸、九思、悼亂〕惶悸兮失レ氣。〔注〕悸、懼也。

【悸然】4 キゼン 悸悸に同じ。

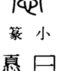
【悸動】5 キドウ 怖れ驚いて胸がどきどきする。〔風俗通、怪神〕還レ牀復見レ之、心大悸動。

【悸病】6 キビヤウ 胸さわぎする病氣。神經病の一種。〔南史、何偃傳〕偃不二自安一、遂發二悸病一。

【悸怖】7 キフ おそれをののく。怖悸(**4－10450・・4**)に同じ。

【悸慄】8 キリツ おそれふるへる。〔梅堯臣、送二天台李令庭芝一詩〕至險可二悸慄一、至怪可二駭喪一。

【悹】10734 ［一］クワン 〔集韻〕古玩切 翰 ［二］クワン 〔集韻〕古丸切 寒 ［三］クワン 〔集韻〕古緩切 旱



小篆

［一］［二］［三］❶**うれへる。**〔說文〕悹、憂也、从レ心官聲。❷悹悹は、よるべのないさま。〔玉篇〕悹、悹悹、憂無レ告也。〔集韻〕悹、悹悹、無レ依也。〔梅堯臣、鴨鶵詩〕泛然去二中流一、鷄呼心悹悹。❸或は悺(**4－10735**)に書す。〔集韻〕悹、或書作レ悺。

【悺】10735 ［一］ワン 〔集韻〕鄔版切 潸 ［二］クワン

［一］**人名。**〔集韻〕悺、闕、人名、漢有二左悺一。［二］悹(**4－10734**)に同じ。〔玉篇〕悺、同レ悹。

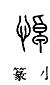
【〓】10736 タツ 怛(**4－10458**)に同じ。〔正字通〕〓、同レ怛。〔漢書、王吉傳〕中心〓兮。〔注〕師古曰、〓、古怛字、傷也。

【悻】10737 ㊀（ケイ ギヤウ）〔集韻〕下頂切 ㄒㄧㄥˋ hsing⁴ 迥 ㊁（カウ ギヤウ）〔集韻〕下耿切 梗

㊀❶**もとる**。婞（3－6423）に同じ。〔集韻〕婞、說文、很也、或作レ悻。❷**いかる**。〔正字通〕悻、怒也。❸⿰忄巠（4－10657）に通ず。〔說文、⿰忄巠、段注〕⿰忄巠、卽孟子悻字也、孟子則怒悻悻然見二於其面一。㊁悻悻は、もとりいかる。〔集韻〕悻、悻悻、很怒也。

【悻悻】1（カウカウ） もとりいかるさま。〔孟子、公孫丑下〕諫二於其君一而不レ受則怒、悻悻然見二於其面一。〔集注〕悻悻、怒意也。

【悼】10738 （タウ ドウ）〔集韻〕大到切 ㄉㄠˋ tao⁴ 號


小篆

❶**おそれる**。〔說文〕悼、懼也、陳楚謂レ懼曰レ悼、从レ心卓聲。〔國語、晉語二〕隱悼播越。〔注〕悼、懼也。❷**いたむ**。〔方言、一〕悼、傷也、秦謂二之悼一。〔詩、衞風、氓〕躬自悼矣。〔傳〕悼、傷也。〔淮南子、脩務訓〕墨子聞而悼レ之。〔注〕悼、傷也。❸**あはれむ**。〔方言、一〕悼、哀也、陳楚之間曰レ悼、秦晉之間、或曰レ悼。〔廣雅、釋詁一〕悼、哀也。〔詩、檜風、羔裘〕中心是悼。〔箋〕悼、猶二哀傷一也。❹**心うごく**。〔詩、檜風、羔裘、傳〕悼、動也。❺**やむ**。〔詩、小雅、菀柳、上帝甚蹈、箋〕蹈、讀爲レ悼。〔釋文〕鄭作レ悼、病也。❻**こどもの死**。七つ位の歲で死ぬこと。いつくしむ意。〔釋名、釋長幼〕七年曰レ悼、悼、逃也、知レ有二廉恥一、隱二逃其情一也、言三是時而死、可二傷悼一也。〔禮、曲禮上〕七年曰レ悼。〔注〕悼、憐愛也。〔釋文〕悼、謂レ可二怜愛一也。〔漢書、平帝紀〕全二貞信及眊悼之人一。〔注〕師古曰、七年曰レ悼、悼者、未レ成レ爲レ人、於二其死亡一、可二哀悼一也。❼**諡**。〔逸周書、諡法解〕中年早夭曰レ悼、肆行勞祀曰レ悼、恐懼從處曰レ悼。

【悼恩】1（タウオン） 恩にいたむ。恩を受けて其の人をしたひいたむ。〔任昉、王文憲集序〕瞻二棟宇一而興レ慕、撫二身名一而悼レ恩。

【悼歌】2（タウカ） 亡き人を惜しみ悲しむ歌。又、送葬の時にうたふ歌。挽歌。

【悼懼】3（タウク） いたみおそれる。〔韓非子、六反〕重罰者盜賊也、而悼懼者良民也。〔呂覽、論威〕敵人之悼懼憚恐。〔漢書、杜欽傳〕前言二九女一、略陳二其禍福一、甚可二悼懼一。

【悼公】4（タウコウ） 春秋、晉の二十九代の王。名は周。在位十五年。〔史記、三十九〕。

【悼恨】5（タウコン） いたみうらむ。〔漢書、劉向傳〕天子甚悼二恨之一。

【悼喪】6（タウサウ） 亡くなつた事をいたむ。死をいたむ。〔左氏、僖、十五〕小人恥レ失二其君一、而悼レ喪二其親一。

【悼子】7（タウシ） 春秋衞、甯喜（7－21717‥5）をいふ。

【悼傷】8（タウシヤウ） いたみ悲しむ。傷悼。〔漢書、外戚下、許皇后傳〕元帝悼傷。

【悼心】9（タウシン） 心をいたましめる。又、かなしみいたむ心。〔左氏、昭、七〕孤與二其二三臣一、悼レ心失レ圖。〔魏志、王烈傳〕光寵並臻、優命屢至、怔營竦息、悼レ心失レ圖。〔任昉、爲二齊明皇帝一作レ相讓二宣城郡公一第一表〕悼レ心失レ圖、泣レ血待レ旦。

【悼逝】10（タウセイ） 過去をいたむ。〔陸機、上留田行〕我思纏綿未レ紓、感レ時悼レ逝悽如。

【悼惜】11（タウセキ） いたみをしむ。死を悲しむ。〔蜀志、霍峻傳〕還二葬成都一、先主甚悼惜。

【悼懾】12（タウセフ） いたみおそれる。〔風俗通、怪神〕與倶悼懾。

【悼怛】13（タウダツ） いたみ悲しむ。怛悼（4－10458‥6）に同じ。

【悼歎】14（タウタン） いたみなげく。〔後漢書、安帝紀〕永懷二悼歎一。

【悼怵】15（タウチユツ） 痛み悲しむ。〔楚辭、東方朔、七諫、怨世〕吾獨乖剌而無レ當兮、心悼怵而耄思。

【悼痛】16（タウツウ） いたむ。人の不幸を悲しみいたむ。氣の毒に思ふ。〔漢書、賈誼傳贊〕爲二庸臣所一レ害、甚可二悼痛一。〔鹽鐵論、大論〕悼二痛天下之禍一。〔列女傳、貞順、宋恭伯姬傳〕諸侯聞レ之、莫レ不二悼痛一。

【悼惕】17（タウテキ） いたみうれへる。惕は、うれへる。〔風俗通、正失〕悼惕無レ已。

【悼亡】18（タウバウ） 妻子朋友等の死をいたみかなしむ。晉の潘岳は、妻が死んで悼亡詩三首を作つた。後人、之に因つて妻を喪ふことを悼亡といふ。〔潘岳、悼亡詩、注〕善曰、風俗通曰、愼レ終悼レ亡。〔孫逖、故程將軍妻南陽郡夫人樊氏挽歌〕白日期二偕老一、幽泉忽悼亡。〔陔餘叢考、悼亡詩〕南史、宋文帝時、袁皇后崩、上令三顏延之爲二哀策一、上自益二撫レ存悼レ亡、感レ今懷レ昔八字一、此悼亡之名所レ始也。

【悼亡詩】19（タウバウシ） 詩篇の名。晉の潘岳が、妻の死を悼んで作つたもの。三首あり、今、文選卷二十三に收めてある。〔潘岳、悼亡詩、注〕銑曰、悼、痛也、安仁痛二妻亡一、故賦レ詩以自寬。

【悼敏】20（タウビン） 金、完顏玠（3－7079‥17）の諡。

【悼愍】21（タウビン） いたみあはれむ。〔後漢書、吳漢傳〕及レ薨有レ詔、悼愍賜レ諡曰二忠侯一。

【悼栗】22（タウリツ） いたみおそれる。栗は慄。悼慄。〔漢書、王莽傳上〕夙夜悼栗、常恐三汚二辱聖朝一。

【悼慄】23（タウリツ） いたみおそれる。悼栗。〔莊子、山木〕振動悼慄。〔張衡、西京賦〕怵悼慄而聳兢。〔魏志、高貴鄕公髦紀〕肝心悼慄。

【悼王】24（タウワウ） ❶周、二十五代の王。名は猛。景王の子。卽位數箇月で殺さる。〔史記、四〕。❷戰國、楚の三十二代の王。羋姓。名は類。聲王の子。〔史記、四十〕。❸後漢の平春王。名は全。章帝の子。〔後漢書、八十五〕。

【悼惠王】25（タウケイワウ） 漢、劉肥（2－2224‥562）の諡。

【悼騷賦】26（タウサウフ） 文章の名。後漢、梁竦作。伍子胥・屈原を悼み弔つて作つたもの。〔後漢書、梁竦傳〕坐二兄松事一、徙二九眞一、既徂二南土一、歷二江湖一、濟二沅湘一、感二悼子胥屈原一、乃作二悼騷賦一、繫二玄石一而沈レ之。

【悼平后】27（タウヘイコウ） 金、熙宗の后、裴滿后（10－34362‥90）の諡。

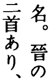
【悼靈王】28（タウレイワウ） 明、朱慈煥（6－14424‥822）の諡。

【悼懷太子】29（タウクワイタイシ） 唐、李普（6－14459‥701）の諡。

【悼室人詩】30（タウシツジンシ） 詩篇の名。梁、江淹作。室人の死を悼むもの。十首ある。〔江淹、悼室人詩〕佳人永暮矣、隱憂遂歷レ茲、寶燭夜無レ華、金鏡晝恆微。

【⿱卓心】10739 （タウ） 悼（4－10738）に同じ。〔正字通〕⿱卓心、同レ悼。

【⿱咎心】10740 ㊀（キウ グ）〔集韻〕巨九切 有 ㊁（キウ グ）〔集韻〕渠尤切 尤


小篆

㊀❶**うらむ**。**とがめる**。又、あだ。〔說文〕⿱咎心、怨⿱咎心也、从レ心咎聲。〔段注〕謂三怨二惡之一也。〔集韻〕⿱咎心、說文、怨仇也。❷咎（2－3493）に通ず。〔說文、咎、段注〕⿱咎心與レ咎、音同義別、古書多段二咎字一爲レ之、咎行而⿱咎心廢矣。㊁**うらむ**。㊀に同じ。或は⿰忄求（4－10685）に作り、亦、⿰忄咎（4－10842）に書す。〔集韻〕⿱咎心、怨也、或作レ⿰忄求、亦書作レ⿰忄咎。

【⿰忄厓】10741 （ガイ ゲ）〔集韻〕牛解切 卦

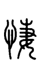
うらむ。〔集韻〕⿰忄厓、恨也。

【⿰忄固】10742 コ　怗(**4**－**10454**)に同じ。〔正字通〕⿰忄固、同㆑怗。〔太玄經、爭〕何可㆑⿰忄固也。

【㥄】10743 🈩リヨウ 〔集韻〕閭承切 蒸　🈔ロウ 〔集韻〕盧登切 蒸

🈩❶**あはれむ。**〔方言、一〕㥄、哀也、趙魏燕代之間曰㆑㥄。〔方言、六〕㥄、憐也。❷**おどろく。おそれる。**〔集韻〕㥄、怖也。〔正字通〕㥄、驚也。〔張衡、東京賦〕百禽㥄遽。〔注〕綜曰、㥄、猶㆑怖也。❸**をののく。**通じて淩(**7**－**17670**)に作る。〔爾雅、釋言、淩慄也、釋文〕淩、案㆓郭注意㆒、當㆑作㆑㥄、埤蒼云、㥄、慄也。🈔**あはれむ。**🈩の❶に同じ。〔集韻〕㥄、方言、㥄憮、哀也。

【悽】10744 🈩セイ サイ 〔集韻〕千西切 齊 chʻi　🈔セイ サイ 〔集韻〕七計切 霽


小篆

🈩❶**いたむ。かなしむ。**〔說文〕悽、痛也、从㆑心妻聲。〔廣雅、釋訓〕悽悽、悲也。〔淮南子、本經訓〕悽愴之志。〔注〕悽愴、傷悼之貌。〔孔稚珪、北山移文〕風雲悽其帶㆑憤。❷**さむい。**〔漢書、王襃傳〕不㆑憂㆓至寒之悽愴㆒。〔注〕師古曰、悽愴、寒冷也。❸**德に報いんとするさま。**萋(**9**－**31264**)に通ず。〔爾雅、釋訓〕哀哀悽悽、懷㆑報㆑德也。〔義疏〕悽悽、於㆑詩無㆑見、故釋文云、悽、郭本或作㆑萋。❹**飢ゑ病むさま。**悽悽(16)を見よ。❺**落ちつかぬさま。**棲(**6**－**14980**)に通ず。悽悽(16)を見よ。❻**すごい。**凄(**2**－**1657**)に通ず。〔正字通〕悽、與㆑凄通。❼恓(**4**－**10557**)に通ず。〔正字通〕悽、同㆑恓。🈔**うらむ。**〔集韻〕悽、恨也。

【悽豔】1（セイエン）　悲しいなかにもあでやかなこと。すごいほどあでやかなこと。悽婉。〔碧鷄漫志〕其所㆑賦、尤多㆓怨鬱悽豔之句㆒。

【悽婉】2（セイエン）　悽豔に同じ。〔陳允平、詞〕天外漸覺歸雁聲、遠離思悽婉。

【悽歌】3（セイカ）　悲しい歌。〔謝惠連、西陵遇㆑風獻㆓康樂㆒詩〕東睇起㆓悽歌㆒。

【悽感】4（セイカン）　悲しく感ずる。〔傅亮、爲㆓宋公㆒至㆓洛陽㆒謁㆓五陵㆒表〕故老掩㆑涕、三軍悽感。

【悽其】5（セイキ）　心を痛ましめる。其は助字。凄其。〔謝靈運、初發㆓石首城㆒詩〕懷㆑賢亦悽其。〔注〕善曰、毛萇詩傳曰、其、辭也。

【悽欷】6（セイキ）　悲しんですすりなく。〔張衡、南都賦〕坐者悽欷。

【悽苦】7（セイク）　悲しみいたむ。〔世說新語、任誕〕張驎酒後、挽歌甚悽苦。

【悽懼】7′（セイク）　悲しみおそれる。〔沈炯、經㆓漢武通天臺㆒爲㆑表奏㆓陳思歸意㆒〕瞻㆓仰徽猷㆒、伏增㆓悽懼㆒。

【悽懷】8（セイクワイ）　かなしみおもふ。〔晉書、陶侃傳〕侃悽懷良久曰、年少曾有㆓酒失㆒。

【悽惶】9（セイクワウ）　❶悲しみおそれる。恓惶。〔羅隱、投㆑所㆑思詩〕浮生七十今三十、從㆑此悽惶未㆑可㆑知。❷あわただしいさま。〔抱朴子、正郭〕悽悽惶惶、席不㆑暇㆑溫、云云、道與㆓仲尼㆒相似。

【悽愴】10（セイサウ）　❶いたみ悲しむ。又、いたましく悲しい。悲慘。悽慘。〔禮、祭義〕霜露既降、君子履㆑之、必有㆓悽愴之心㆒、非㆓其寒之謂㆒也。〔注〕非㆓其寒之謂㆒、謂㆔悽愴及怵惕、皆爲㆓感㆑時念㆑親也。〔楚辭、宋玉、九辯〕中憯惻之悽愴兮、長太息而增㆑欷。〔漢書、劉向傳〕意悽愴悲懷。〔淮南子、本經訓〕愚夫惷婦、皆有㆓流連之心、悽愴之志㆒。〔注〕悽愴、傷悼之貌。〔後漢書、橋玄傳〕經㆓過玄墓㆒、輒悽愴致㆓祭奠㆒。〔論衡、恢國〕所㆑見悽愴。〔曹植、情詩〕慷慨對㆓嘉賓㆒、悽愴內傷悲。❷さむくひややか。ぞっとする。〔漢書、王襃傳〕襲㆓貂狐之煥㆒、者、不㆑憂㆓至寒之悽愴㆒。〔注〕師古曰、悽愴、寒冷也。

【悽愴流涕】11（セイサウリウテイ）　悲しみいたんで涙を流す。〔孔叢子、儒服〕未㆑知㆓後會何期㆒、悽愴流涕。

【悽慘】12（セイサン）　かなしみいたむ。愀慘。慘悽。〔武元衡、同㆓洛陽諸公㆒餞㆓盧起居㆒詩〕蕭條寒日晏、悽慘別魂驚。〔杜顏、灞橋賦〕聽㆓鳧雁之悽慘㆒、對㆓苔蘋之靃靡㆒。

【悽洏】13（セイジ）　悲しくさびしい。悲涼。〔陶潛、形贈㆑影詩〕但餘平生物、擧㆑目情悽洏。

【悽傷】14（セイシヤウ）　悲しみいたむ。〔陸機、弔㆓魏武帝㆒文〕覽㆓遺籍㆒以慷慨、獻㆓茲文㆒而悽傷。

【悽如】15（セイジヨ）　いたましいさま。〔陸機、上留田行〕我思纏綿未㆑紓、感㆑時悼㆑逝悽如。

【悽悽】16（セイセイ）　❶悲しい。悲しむさま。〔廣雅、釋訓〕悽悽、悲也。〔謝靈運、道路憶㆓山中㆒詩〕悽悽明月吹、惻惻廣陵散。〔注〕翰曰、悽・惻、皆哀聲也。〔柳宗元、柳州二月云云詩〕宦情羈思共悽悽、春半如㆑秋意轉迷。❷飢ゑて病むさま。〔後漢書、周黃徐姜申屠傳贊〕悽悽碩人、陵阿窮退。〔注〕悽悽、飢病貌也。❸德に報いんことを思ふさま。萋萋。〔爾雅、釋訓〕哀哀・悽悽、懷㆑報㆑德也。❹落ちつかぬさま。安居せぬさま。棲棲。〔魏志、文帝紀〕在㆓魯衞之朝㆒、敎㆓化乎洙泗之上㆒、悽悽焉、遑遑焉、欲㆓屈㆑己以存㆑道、貶㆑身以救㆑世。〔抱朴子、正郭〕悽悽惶惶、席不㆑暇㆑溫、云云、道與㆓仲尼㆒相似。

【悽戚】17（セイセキ）　いたみうれへる。〔謝靈運、南樓中望㆓所㆑遲客㆒詩〕感㆑物方悽戚。

【悽切】18（セイセツ）　悲しみの切なこと。悲しみが迫る。〔嵇康、與㆓山巨源㆒絕㆑交書〕意常悽切。〔潘岳、哀㆓永逝㆒文〕悽切兮增㆑欷。

【悽絕】19（セイゼツ）　悲しみの極まること。悽斷(25)に同じ。

【悽然】20（セイゼン）　いたましいさま。悲しいさま。〔莊子、漁父〕客悽然變㆑容曰、甚矣子之歎㆑悟也。〔陸機、董桃行〕盛時一往不㆑還、慷慨乖念悽然。〔高適、除夜作詩〕旅館寒燈獨不㆑眠、客心何事轉悽然。

【悽楚】21（セイソ）　かなしみいたむ。楚は、いたむ意。〔蔡琰、胡笳十八拍〕尋㆓思涉歷㆒兮多㆓囏阻㆒、四拍成兮益悽楚。

【悽惻】22（セイソク）　悲しみいたむ。〔漢書、平吉傳〕涕泣悽惻。〔晉書、陸機傳〕因與㆓穎牋㆒、詞甚悽惻。〔陸機、歎逝賦〕步㆓寒林㆒以悽惻、翫㆓春翹㆒而有㆑思。〔江淹、別賦〕是以行子腸斷、百感悽惻。

【悽塞】23（セイソク）　悲しみむすぼれる。〔唐書、沙陀傳〕左右悽塞不㆑得㆑語。

【悽悼】24（セイタウ）　悲しみいたむ。悲悼。哀悼。〔沈約、梁武帝踐祚後與㆓諸州郡㆒勅〕永言悽悼、發憤經營。

【悽斷】25（セイダン）　悲しみの極まること。極めて悲しいこと。〔庾信、夜聽㆑擣㆑衣詩〕風流響和韻、哀怨聲悽斷。〔阮卓、賦㆓黃鵠一遠別㆒詩〕月下徘徊顧㆓別影㆒、風前悽斷送㆓離羣㆒。

【悽囀】26（セイテン）　悲しい調子の音。音色の悲しいさま。〔庾信、竹杖賦〕胡馬哀吟、羌笳悽囀。

【悽惘】27（セイバウ）　悲しみいたむさま。悲しんでがっかりする。惘は、意を失ふさま。悵悵に同じ。〔世說新語、言語〕袁彥伯、爲㆓謝安南司馬㆒、都下諸人、送至㆓瀨鄉㆒、將㆑別、既自悽惘、歎曰、江山遼落、居然有㆓萬里之勢㆒。

【悽憫】28（セイビン）　悲しみうれへる。〔權德輿、魏博節度出布碑〕咨嗟悽憫、久而不㆑絕。

【悽淚】29（セイルイ）　いたみ泣く。悽戾に同じ。〔魏書、李彪傳〕深垂㆓隱愍㆒、言發㆓悽淚㆒、百官莫㆑不㆑見、四海莫㆑不㆑聞。

【悽戾】30（セイレイ）　いたみ悲しむ。いたましく悲しい。戾は淚に同じ。〔詩品〕晉太尉劉琨、中郎劉湛、其原出㆓於王粲㆒、善爲㆓悽戾之詞㆒、自有㆓清拔之氣㆒。

【悽唳】31（セイレイ）　哀しい聲。唳は、鶴や雁の鳴く聲。〔潘岳、笙賦〕悽唳辛酸、嚶嚶關關、若㆓離鴻之鳴㆒子也。

【悽惋】32（セイワン）　悲しみいたむ。〔唐書、王起傳〕詞情悽惋、當世稱㆑之。

【悽入㆓肝脾㆒】33（セイカンピニイル）　悲しみ極まって肝脾までしみこむをいふ。〔繁欽、與㆓魏文帝㆒牋〕諫㆓北狄之遐征㆒、奏㆓胡馬之長思㆒、悽入㆓肝脾㆒、哀感頑豔㆒。

【㥅】10745 シウ ジユ 〔集韻〕是酉切 有

人名。〔集韻〕㥅、闕、人名、漢有㆓武安侯授㆒。

【悾】 10746

㈠コウ ク 〔集韻〕枯公切 東 ㄎㄨㄥ k'ung¹
㈡カウ 〔集韻〕枯江切 江
㈢コウ ク 〔集韻〕苦動切 董
㈣コウ ク 〔集韻〕苦貢切 送

㈠❶**まこと**。〔集韻〕悾、信也。❷**つつしむ**。〔集韻〕悾、一曰、愨也。㈡**まことにしてつつしむさま**。〔集韻〕悾、信愨皃。㈢悾愡は、志を得ぬさま。〔集韻〕悾、悾愡、倏不㆑得㆑志。㈣❶**まこと**。〔集韻〕悾、博雅、誠也。❷**志を得ぬさま**。㈢に同じ。通じて倥(**1－787**)に作る。〔正字通〕悾、悾愡、倏不㆑得㆑志也、通作㆑倥。

【悾款】1 コウクワン まこと。まごころ。〔晉書、傅咸傳〕苟明公有㆔以察㆓其悾款㆒、言豈在㆑多。〔任昉、百辟勸㆓進今上㆒牋〕不㆑任㆓悾款㆒、悉㆑心重謁。〔注〕善曰、論語注曰、悾悾、誠愨也、廣雅曰、款、誠也。

【悾悾】2 コウコウ まことあるさま。愚直のさま。〔廣雅、釋訓〕悾悾、誠也。〔論語、泰伯〕狂而不㆑直、侗而不㆑愿、悾悾而不㆑信、吾不㆑知㆑之矣。〔皇疏〕悾悾、謂㆓野愨㆒也。〔劉寶楠正義〕鄭注云、悾悾、誠愨也。〔後漢書、劉瑜傳〕臣悾悾推㆑情、言不㆑足㆑採。〔注〕悾悾、誠懇之貌。〔朱熹、遊㆓臥龍㆒云云詩〕城南且細說、慰㆑我心悾悾。

【悾愡】3 コウソウ いそがしく志を得ないさま。〔集韻〕悾、悾愡、倏不㆑得㆑志也。

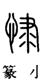
【悿】 10747

㈠テン 〔集韻〕他點切 琰
㈡テン 〔集韻〕他典切 銑

㈠**よわい**。〔集韻〕悿、弱也。㈡**心まどふ**。悿懘。〔集韻〕悿、悿懘、心惑。

【悷】 10748

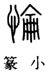
㈠トツ トチ 〔集韻〕他骨切 月
㈡タイ ツイ 〔集韻〕吐內切 隊


小篆

㈠**ほしいまま**。〔說文〕悷、肆也、从㆑心隶聲。㈡❶**ゆるい**。〔廣雅、釋詁二〕悷、緩也。〔集韻〕悷、博雅、緩也。❷**わすれる**。〔廣雅、釋詁二〕悷、忘也。❸**ほしいまま**。㈠に同じ。〔集韻〕悷、一曰、肆也。❹或は怢(**4－10471**)に作る。〔集韻〕悷、或作㆑怢。

【惀】 10749

㈠ロン 〔集韻〕盧昆切 元
㈡リン 〔集韻〕縷尹切 軫
㈢リン 〔集韻〕龍春切 眞
㈣ロン 〔集韻〕魯本切 阮
㈤ロン 〔集韻〕盧困切 願


小篆

㈠㈡**知りたいとねがふさま**。〔說文〕惀、欲㆑知之貌、从㆑心侖聲。〔集韻〕惀、思㆓求曉知㆒、謂㆓之皃㆒。㈢㈣❶**知りたいとねがふさま**。㈠に同じ。〔集韻〕惀、欲㆑知皃。❷**おもふ**。〔集韻〕惀、廣雅、思也。㈤**もだえる**。〔集韻〕惀、懣也。

【惁】 10750

セキ シャク 〔集韻〕先的切 錫

❶惁惁は、うれへるさま。〔集韻〕惁、博雅、惁惁、憂也。❷**うやまふ**。**つつしむ**。〔集韻〕惁、一曰、敬也。

【惂】 10751

カン コン 〔集韻〕苦感切 感

小篆

❶**うれへくるしむ**。〔說文〕惂、𢝊困也、从㆑心臽聲。❷**うらむ**。〔廣韻〕惂、又恨也。

【惃】 10752

㈠コン 〔集韻〕公渾切 元
㈡コン 〔集韻〕古本切 阮

㈠㈡❶**みだれる**。惃愗。〔廣雅、釋詁三〕惃、亂也。〔集韻〕惃、亂也。〔集韻〕惃、博雅、惃愗、亂也。❷或は𢡟(**4－11118**)に作る。〔集韻〕惃、或从㆑袞。

【㤨】 10753

ケン ゲン 〔集韻〕胡千切 先

小篆

きびしい。〔說文〕㤨、急也、从㆓心弦㆒、弦亦聲、河南密縣有㆓㤨亭㆒。〔段注〕按、人性急也。

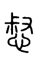
【惤】 10754

ケン 〔篇海〕經天切 先

❶**布の名**。〔篇海〕惤、布名。❷**縣名**。〔字彙補〕惤、漢縣名、屬㆓東萊郡㆒、見㆓漢志㆒。❸中華大字典に依れば、惤は𢄼(**4－8942**)の譌字といふ。〔中華大字典〕惤、𢄼譌字、篇海稱㆓布名㆒、字彙補稱㆓漢縣名㆒、攷、漢𢄼縣屬㆓東海郡㆒、說文亦云、𢄼爲㆓東萊布名㆒、知㆓惤當㆑爲㆓𢄼之譌㆒。

【惄】 10755

㈠デキ ニャク 〔集韻〕乃歷切 錫 ㄋㄧˋ ni⁴
㈡ドク ノク 〔集韻〕奴沃切 沃


小篆

㈠❶**うゑる**。**うゑるさま**。〔說文〕惄、飢餓也、从㆑心叔聲、詩曰、惄如㆓輖飢㆒。〔爾雅、釋言〕惄、飢也。〔詩、周南、汝墳〕惄如㆓調飢㆒。〔傳〕惄、飢意也。❷**うれへる**。慽(**4－11159**)に通ず。〔說文通訓定聲〕惄、段借爲㆑慽。〔說文〕惄、一曰、𢝊也。〔方言、一〕惄、憂也、自㆑關而西、秦晉之閒、或曰㆑惄。❸**おもふ**。〔爾雅、釋詁〕惄、思也。〔詩、小雅、小弁〕惄焉如㆑擣。〔傳〕惄、思也。❹**いたむ**。〔方言、一〕惄、傷也、汝謂㆓之惄㆒。〔廣雅、釋詁二〕惄、痛也。❺**なげく**。〔方言、一〕平原謂㆓啼極無㆑聲、謂㆓之唴哴㆒、齊宋之閒、謂㆓之喑㆒、或謂㆓之惄㆒。❻**のぞみを失ふ**。〔方言、一〕自㆑關而西、秦晉之閒、凡志而不㆑得、欲而不㆑獲、高而有㆑墜、得而中亡、謂㆓之溼㆒、或謂㆓之惄㆒。❼或は飫(**12－44089**)に作る。〔集韻〕惄、或作㆑飫。❽愵(**4－11011**)・恝(**4－10896**)に通ず。〔一切經音義、十六〕愵、古文惄・恝二形。㈡**うゑるさま**。㈠の❶に同じ。〔集韻〕惄、飢皃。

【惄焉】1 デキエン 思ふさま。憂ひかなしむさま。〔詩、小雅、小弁〕我心憂傷、惄焉如㆑擣。〔傳〕惄、思也。〔陸機、贈㆓弟士龍㆒詩〕惄焉傷㆓別促㆒。〔注〕向曰、惄、憂心也。

【惄然】2 デキゼン ❶飢ゑるさま。〔爾雅、釋言、惄飢也、注〕惄然、飢意。❷憂へるさま。〔新序、雜事四〕楚王聞㆑之、惄然愧、以意自閔也。

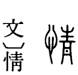
【惄愵】3 デキヂク 不安のさま。うれへる。〔新方言、嶺外三州語〕廣東惠・潮・嘉應三州、謂㆓心不㆑安曰㆓惄愵㆒、愵、音奴六切。

【惄懣】4 デキモン うれへもだえる。〔沈承、慘賦〕惄懣痻憒、陰陽氣沮。

【惄如㆓調飢㆒】5 デキトシテテウキノゴトシ 人を思ふ情の切なるをいふ。調は朝、調飢は未だ朝食を喫しないで空腹のこと。一說に、調は輖、重い飢をいふ。〔詩、

周南、汝墳〕未レ見二君子一、惄如二調飢一。〔傳〕惄、飢意也、調、朝也。〔箋〕未レ見二君子一之時、如二朝飢之思一レ食。〔集傳〕調、一作レ輖、重也。

【情】10756 セイ ジヤウ 〔集韻〕慈盈切 ㄑㄧㄥˊ ch'ing² 庚


小篆

㊀**こころ。**㋑感じ。外物にひかれて起る苦樂好惡の感性。〔說文〕情、人之侌气有レ欲者、从レ心青聲。〔禮、禮運〕何謂二人情一、喜怒哀懼愛惡欲、七者弗レ學而能。〔荀子、正名〕性之好惡喜怒哀樂、謂二之情一。〔漢書、東平思王宇傳〕情亂二其性一。〔注〕張晏曰、情者、見レ物而動者也。〔論衡、初稟〕情、接二於物一而然者也。㋺欲望。意欲。〔禮、坊記〕無レ辭而行レ情、則民爭。〔注〕情、主二利欲一也。〔後漢書、董仲舒傳〕情者、人之欲也。㋩のぞみ。志望。〔楚辭、九章、惜誦〕恐二情質之不一レ信兮。〔注〕情、志也。㋥こころもち。心意。〔荀子、禮論〕情文倶至。〔注〕情、謂二禮意一、喪主レ哀、祭主レ敬之類。〔管子、國畜〕謂二之離一レ情。〔注〕離レ情、謂レ離レ心也。㋭うまれつき。本性。〔呂覽、上德〕此之謂レ順レ情。〔注〕情、性也。〔淮南子、本經訓〕人愛二其情一。〔注〕情、性也。㋬心のはたらき。性を心の體とするに對する。宋儒が多く用ひた。〔韻會小補〕情、張子云、心統二性情一、兼二體用一而言、性、是心之理、情、是心之用。㊁**まこと。**㋑まごころ。〔荀子、禮論〕情貌之盡也。〔注〕情、忠誠也。〔淮南子、繆稱訓〕不レ戴二其情一。〔注〕情、誠也。㋺じつさい。事實。事柄。〔周禮、天官、小宰〕六曰、以敍二聽其情一。〔疏〕情、謂二情實一。〔孟子、離婁下〕聲聞過レ情、君子恥レ之。〔戰國、秦策〕請二謁事情一。〔注〕情、實也。〔唐書、百官志〕椎鞫得レ情。㊂**ことわり。**眞理。〔呂覽、誣徒〕則得二教之情一。〔注〕情、理。㊃**おもむき。**㋑ありさま。やうす。〔戰國、周策〕盡輸二西周之情于東周一。㋺あぢはひ。〔薛瑩、晚同二友人一閑步詩〕野情看不レ足、歸路思猶賖。〔段成式、題二谷隱蘭若一詩〕村情山趣頓忘レ機。㊄**なさけ。**㋑あはれみ。憐哀の情。〔晉書、王衍傳〕聖人忘レ情。㋺男女間の愛情。〔宋玉、神女賦〕歡情未レ接、將二辭而去一。㊅**まことに。**〔方言藻〕張旭詩、情知海上三年別、不レ寄雲中一雁書。㊆或は晴(**12－42566**)に作る。〔集韻〕情、或从レ口。

名乘 サネ。モト。

【情愛】1 ジヤウアイ なさけ。いつくしみ。又、男女間の愛。〔宋書、何尙之傳〕與二叔度母一、情愛甚篤。〔王融、淨行頌〕愓然一以愧、永與二情愛一辭。〔李羣玉、飯僧詩〕尙爲二情愛縛一、未レ盡二金仙旨一。

【情意】2 ジヤウイ ㊀こころ。かんがへ。感情。〔詩、周南、關雎、關關雎鳩、箋〕謂二王雎之鳥、雌雄情意至、然而有レ別。〔鬼谷子、權篇〕所三以閉二情意一也。〔道德指歸論、上德不德〕性命同二於自然一、情意體二於神明一。㊁心理學用語。感情と意志。

〔情意投合〕3 ジヤウイトウガフ 心の互に相通ずること。

【情由】4 ジヤウイウ 事のわけ。理由。一部始終。〔福惠全書、錢穀部、解給〕具レ文聲二說情由一。

【情囿】5 ジヤウイウ 心のあるところ。心。〔韋承慶、靈臺賦〕彌二性場一而極覽、溥二情囿一而環矚。

【情育】6 ジヤウイク 感情を陶冶する教育。倫理・習字・作文・歷史・音樂・圖畫・手工などで陶冶する。

【情佚】7 ジヤウイツ 心がほしいままなこと。〔後漢書、戴良傳〕禮所三以制二情佚一也。

【情允】8 ch'ing² yün³ 切に願ふ。

【情殷】9 ジヤウイン 心のあつくさかんなこと。切に思ふ。〔顏延之、夏夜呈二從兄散騎車長沙一詩〕屛居惻二物變一、慕レ類抱二情殷一。〔舊唐書、音樂志四〕慕深覩レ匳、情殷撫レ鏡。

【情慍】10 ジヤウウン 心中にいきどほる。〔韋承慶、靈臺賦〕或情慍而顏怡。

【情說】11 ジヤウエツ 心よろこぶ。說は悅。〔荀子、禮論〕苟情說之爲レ樂、若者必滅。〔注〕說、讀爲レ悅、言苟以二情悅一爲レ樂、不レ知二禮義文理一、恣二其所一レ欲、若レ此者必滅亡。

【情炎】12 ジヤウエン 熱烈な情慾を炎に喩へていふ。燃えさかる欲情。

【情緣】13 ジヤウエン 男女間のゆかり。男女のちぎり。〔郭鈺、妾薄命詩〕孤鸞窺レ鋭翦二情緣一、血淚沾レ襟十五年。〔古今詩話〕儻情緣未レ斷。

【情怨】14 ジヤウエン 心のうらみ。うらめしい心。〔文心雕龍、辯騷〕故其敍二情怨一、則鬱伊而易レ感。

【情猿】15 ジヤウエン 心情が動轉して定まらないのを猿猴に喩へていふ。〔慈恩寺三藏傳、九〕制二情猿之逸躁一、繫二意馬之奔馳一。

【情歌】16 ジヤウカ ㊀男女の戀愛の情を述べた歌。戀歌。情詩。〔王琚、美女篇〕情歌始發詞怨咽、鳴琴一弄心斷絕。㊁都々逸。

【情巧】17 ジヤウカウ 事情によつて巧に處置する。智略。〔阮瑀、爲二曹公一作レ書與二孫權一書〕夫水戰千里、情巧萬端。〔注〕銑曰、謂二水戰之情巧一。

【情交】18 ジヤウカウ ㊀親情を以て交る。又、親密な交際。〔文心雕龍、定勢〕情交而雅俗異レ勢。㊁男女のまじはり。

【情好】19 ジヤウカウ ㊀仲が良い。なかよし。交情の親密なこと。〔蜀志、諸葛亮傳〕於レ是與レ亮情好日密。〔世說新語、政事〕王東亭與二張冠軍一善、王既作二吳郡一、人問二小令一曰、東亭作レ郡、風政何似、答曰、不レ知二治化何如一、唯與二張祖希一情好日隆耳。〔蘇軾、送二魯元翰一詩〕憶在二錢塘一歲、情好均二弟昆一。㊁心が好む。心に好む。〔史記、禮書〕口甘二五味一、爲レ之庶羞酸鹹、以致二其美一、情好二珍善一、爲レ之琢磨圭璧、以通二其意一。

【情行】20 ジヤウカウ 心と行爲。〔後漢書、公孫瓚傳〕性本淫亂、情行浮薄。

【情畊】21 ジヤウカウ 淸、周禮(宜黃の人)(**2－3441··49**7)の字。

【情客】22 ジヤウカク 丁香の異名。〔西溪叢語、上〕予長兄伯聲、嘗得二三十客一、云云、丁香爲二情客一。

【情核】23 ジヤウカク 實情。〔後漢書、張法滕馮度楊傳論、膚受之言互及、注〕膚受、謂下得二皮膚之言一而受レ之、不三深知二其情核一者上也。

【情覈】24 ジヤウカク まごころ。情核(23)・情實(71)の㊁に同じ。

【情感】25 ジヤウカン 物に感じて情の起ること。感情。〔棗據、雜詩〕顧瞻情感切。〔陸雲、與二陸典一書〕情感復結、悲嘆而已。〔唐書、張公謹傳〕情感二于內一、安有レ所レ避。

【情義】26 ジヤウギ 人情と義理。〔古詩、爲二焦仲卿妻一作〕今日違二情義一、恐此事非レ奇。

【情僞】27 ジヤウギ ㊀誠と僞。眞情と虛僞。〔易、繫辭上〕設レ卦以盡二情僞一。〔左氏、僖、二十八〕民之情僞、盡知レ之矣。〔管子、七法〕人君泄、則言レ實之士不レ進、言レ實之士不レ進、則國之情僞、不レ竭二于上一。〔墨子、非命中〕今天下之情僞、未レ可二得而識一也。〔漢書、公孫弘傳〕遠近情僞。〔淮南子、繆稱訓〕詘伸倨佝、知二情僞一矣。〔蜀志、楊洪傳〕洪對曰、云云、不レ如留二向朗一、明情僞差少、裔隨二從目下一。㊁弊害。情弊。

【情誼】28 ジヤウギ 人情と義理。よしみ。したしみ。相互の好意。情義。情誼兼至を見よ。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕緣二情誼一難レ却。

〔情誼兼至〕29 ジヤウギカネイタル 人情と友人のよしみと二つながらかねそなへてゐる。〔本城問亭、佐久間大尉事略〕委曲周到、情誼兼至。

【情慉】30 ジヤウキク まごころ。情素(100)に同じ。〔蜀志、許靖傳、注〕魏略、王朗與二文休一書曰、道初開通、展二敍舊情一、以達二聲問一、久闊二情慉一、非三夫筆墨所二能寫陳一。

【情急】31 ジヤウキフ ㊀事情が切迫する。〔春秋、莊、二十八、臧孫辰告二糴于齊一、疏〕以三其情急二於糴一、故不レ言二如レ齊告一レ糴。㊁ch'ing² chi² ㋑怒る。㋺焦慮する。うろたへる。あせる。あわてる。

〔情急了〕32 ジヤウキフレウ 鳥の名。秦吉了をいふ。一名、秦急了。〔瑯嬛記〕昔有二丈夫一、與二一女子一相愛、書札相通、皆憑二一鳥一往來、此鳥殊解二人意一、忽對二女子一曰、情急了、因名二此鳥一爲二情急了一、沈如筠詩云、好因二秦急了一、一爲寄二深情一、秦吉

了、蓋後人誤呼。

【情況】33（ジヤウキヤウ） ありさま。やうす。狀況。情勢。〔澠水燕談錄〕倣レ官之情況也。

【情虛】34 ch'ing^2 hsü^1 情屈に同じ。

【情屈】35 ch'ing^2 ch'ü^1 道理がない。理屈が立たぬ。

【情火】36（ジヤウクワ） 熱烈な情慾を火に喩へていふ。情熱(122)に同じ。

【情懷】37（ジヤウクワイ） 心中のおもひ。心持。意緒。〔杜甫、北征詩〕老夫情懷惡、嘔泄臥數日。

【情款】38（ジヤウクワン） よしみ。交情のねんごろなこと。〔宋孝武帝、七夕詩〕愛レ聚雙情款、念レ離兩心傷。〔梁昭明太子、陶淵明傳〕先レ是顏延之爲二劉抑後軍功曹一、在二潯陽一、與二淵明一情款。

【情翫】39（ジヤウグワン） 心から喜びめでる。〔韻府引、魏節閔帝、詩〕朱門久可レ患、紫極非二情翫一。

【情願】40（ジヤウグワン） 眞心からのねがひ。情實を述べて願ふ。〔晉書、劉頌傳〕好惡未レ改、情願未レ移。〔陸機、擬古、擬靑靑陵上柏詩〕遨遊放二情願一。〔顏延之、庭誥文〕當下施二其情願一、庀中其衣食上。〔水滸傳、三回〕因レ見二塵世艱辛一、情願棄レ俗出レ家。

【情願意】41 ch'ing^2 yüan^4 i^4 情願に同じ。

【情形】42（ジヤウケイ） ありさま。狀況。狀態。景況。〔後漢書、西域傳論〕莫レ不下備寫二情形一、審求中根實上。

【情契】43（ジヤウケイ） 眞心からの交り。〔北史、魏諸宗室、陳留王虔傳〕每同二硯席一、情契甚厚。

【情計】44（ジヤウケイ） もくろみ。〔徐陵、在二北齊一與二楊僕射一書〕情計馳惶。

【情景】45（ジヤウケイ） ❶ありさま。けしき。❷おもむきと景色。❸人の心的作用と自然現象。

【情激】46（ジヤウゲキ） はらがたつ。怒る。〔福惠全書、涖任部、稟帖贅說〕源蒙レ寃情激。

【情見】47（ジヤウケン） ❶眞情があらはれる。〔禮、樂記〕情見而義立、樂終而德尊、君子以好レ善、小人以聽レ過。〔疏〕情見而義立者、情見、謂三武王伐レ紂之情見二於樂一也、義立、謂二伐レ紂之義而興立一。❷［佛］妄情の所見。〔唯識樞要、上本〕情見各異、稟者無レ依。

【情見二乎辭一】48（ジヤウジニアラハル） 眞情が言葉にあらはれる。〔易、繫辭下〕爻象動二乎內一、吉凶見二乎外一、功業見二乎變一、聖人之情見二乎辭一。〔疏〕辭則言二其聖人所レ用之情一、故觀二其辭一而知二其情一也、是聖人之情、見二乎爻象之辭一也。

【情見勢屈】49（ジヤウアラハレイキホヒクツス） 實情があらはれて勢力が盡き衰へる。〔史記、淮陰侯傳〕今將軍欲下舉二倦罷之兵一、頓中之燕堅城之下上、欲レ戰、恐久力不レ能レ拔、情見勢屈、曠日糧竭、而弱燕不レ服、齊必距レ境以自彊也。

【情見力屈】50（ジヤウアラハレチカラクツス） 實情が知れて勢力が盡き衰へる。情見勢屈に同じ。〔漢書、韓信傳〕今足下舉二勌敝之兵一、頓二之燕堅城之下一、情見力屈、欲レ戰不レ拔、曠日持久、糧食單竭。

【情語】51（ジヤウゴ） なさけのこもつた言葉。〔梅堯臣、依レ韻和二原甫昭君辭一詩〕情語既不レ通、豈止腸九回。

【情猴】52（ジヤウコウ） ［佛］心が狂ひ易いことを猴（サル）に喩へていふ。意馬。心猿。情猿(15)に同じ。〔法苑珠林〕豈可下故縱二心馬一、不レ加二轡勒一、馳二騁情猴一、都無中制鎖上。

【情告】53（ジヤウコク） 誠を以て告げる。〔詩、小雅、正月、有二皇上帝一、箋〕有二君上帝一者、以レ情告レ天也。〔唐書、杜生傳〕若不レ可、則以レ情告二其人一。

【情恨】54（ジヤウコン） 心中のうらみ。〔梁簡文帝、明君詞〕妙工偏見レ詆、無レ由二情恨通一。

【情詐】55（ジヤウサ） まこととといつはり。〔鬼谷子、反應〕此聽二眞僞一、知二同異一、得二其情詐一也。〔後漢書、王渙傳〕莫レ不下曲盡二情詐一、壓中塞羣疑上。

【情想】56（ジヤウサウ） おもひ。〔楞嚴經、八〕情想均等、不レ飛不レ墜。

【情操】57（ジヤウサウ） 心理學上、思考・推理等に伴つて起る最も複雜な感情をいふ。卽ち眞理を尙び、美を愛する類。道德的・知的・美的の三種に分つ。

【情史】58（ジヤウシ） 人情や戀愛に關した事を記した記錄物語類。人情本・艸草紙の類。情史類略を見よ。

【情史類略】59（ジヤウシルイリヤク） 書名。二十四卷。明、詹詹外史撰。清、馮夢龍編。

【情死】60（ジヤウシ） ❶まことに死ぬこと。〔莊子、大宗師〕彼有二駭形一、而無二損心一、有二旦宅一、而無二情死一。〔注〕以二形骸之變一、爲二旦宅之日新一耳、其情不二以爲レ死。❷戀愛のために自殺する。又、男女が合意の上、相攜へて自殺すること。しんぢゆう。相對じに。〔吳德旋聞見錄〕錢湘靈友劉芳、與二妓顧橫波一、約爲二夫婦一、橫波後背レ約、而芳以情死、湘靈爲經二紀其喪一。

【情至】61（ジヤウシ） ❶感情が湧き至ること。〔杜甫、客居詩〕篋中有二舊筆一、情至時復援。❷交情が至り極まる。情至意盡を見よ。

【情至意盡】62（ジヤウイタリイツク） 心が十分に行きとどくこと。〔詩、大雅、板、老夫灌灌小子蹻蹻、疏〕我老夫敎二諫汝一、其意乃欵欵然情至意盡、何爲汝等而未レ知。

【情志】63（ジヤウシ） こころ。こころざし。〔詩、周南、關雎、窈窕淑女、琴瑟友レ之、疏〕以三琴瑟相和、似二人情志一、故以レ友言レ之。〔古詩十九首〕蕩滌放二情志一。〔後漢書、宦者傳序〕將レ以下其體非二全氣一、情志專良、通二關中人一、易中以役養上乎。

【情思】64（ジヤウシ） ❶こころもち。おもひ。〔蜀志、蔣琬傳〕聞レ命感愴、以增二情思一。❷愛情。戀心。〔王建、題三花子贈二渭州陳判官一詩〕況復蕭郞有二情思一、可レ憐春日鏡臺前。

【情絲】65（ジヤウシ） 情緖。情絲怨緖を見よ。

【情絲怨緖】66（ジヤウシエンシヨ） 怨恨の情が絲のやうにもつれること。〔王家英、寒螿詩〕情絲怨緖有二餘淒一。

【情絲割斷】67（ジヤウシカツダン） 音信の絕えること。〔桃花扇、選優〕情絲割斷、芳草天涯。

【情嗜】68（ジヤウシ） 物欲の心。たしなむ心。〔顏延之、釋二何衡陽達性論一書〕庶端萌起、情嗜不レ禁、生害繁慘、天理鬱絕。〔鮑照、侍郞報滿辭レ閣疏〕臣囂機窮賤、情嗜踳昧。

【情事】69（ジヤウジ） ❶事情。まこと。いつはりない事實。情實。〔莊子、天地〕畢見二其情事一、而行二其所レ爲。〔南史、沈炯傳〕以二情事一陳訴。〔任昉、爲二褚諮議蓁一讓二代レ兄襲レ封表〕永惟二情事一、觸目崩隕。❷いろごと。男女間の愛情に關する事。

【情識】70（ジヤウシキ） 感情と知識。〔白居易、蘇州南禪院千佛堂轉輪經藏石記〕上下近遠、有二情識一者、法音所レ及、無レ不レ蒙レ福。

【情實】71（ジヤウジツ） ❶事情の實際。ありのままの事實。眞相。〔史記、呂不韋傳〕秦王下レ吏治、具得二情實一、事連二相國呂不韋一。〔漢書、劉歆傳〕不レ考二情實一、雷同相從。〔吳志、陳脩傳〕使三自以レ意求二其情實一。❷眞心。詐りのない氣持。〔韓非子、解老〕所謂處二其厚一、不レ處二其薄一者、行二情實一而去二禮貌一也。〔管子、形勢解〕與レ人交、多二詐僞一無二情實一。〔史記、公孫弘傳〕齊人多レ詐、而無二情實一。❸人情のかかりあひ。私情のからまつた事柄。❹人命犯の罪狀確實なもの。〔六部成語補遺、刑部、情實、注解〕犯罪者已經二審訊一、明確罪情已實也。❺ch'ing^2 shih^2 實に。實際。

【情習】72（ジヤウシフ） 性情と習慣。〔史記、樂書〕州異國殊、情習不レ同、故博采二風俗一、協二比聲律一、以補レ短移レ化、助二流政敎一。

【情傷】73（ジヤウシヤウ） 心がいたむ。心に悲しみいたむ。〔謝靈運、送二雷次宗一詩〕志苦離思結、情傷日月滔。

【情賞】74（ジヤウシヤウ） 心中によしとする。心に愛する。〔梁書、徐勉傳〕中年聊於二東田開一營二小園一者、非下在二播藝一、以要中利入上、正欲三穿レ池種レ樹、少寄二情賞一。

【情狀】75（ジヤウジヤウ） ❶心と形狀。〔易、繫辭上〕精氣爲レ物、游魂爲レ變、是故知二鬼神之情狀一。〔疏〕能窮二易理一、盡二生死變化一、以二此之故一、能知二鬼神之內外情狀一也。❷ありさま。樣子。事情。〔魏志、胡質傳〕窮二詰情狀一。〔李衞公問對、中〕兵家勝敗、情狀萬殊、不レ可下以二一事一推上也。〔宋史、理宗紀四〕安南情狀叵レ測。

【情趣】76（ジヤウシユ） おもしろみ。おもむき。情致。〔南齊書、孔稚珪傳〕稚珪風韻淸疎、好二文詠一、飮レ酒七八斗、與二外兄張融一、情趣相得。〔續畫品、沈粲〕筆迹調媚、專工二綺羅一、屛障所レ圖、頗有二情趣一。

【情熟】77（ジヤウジユク） なれあふ。又、なれあひ。〔福惠全書、筮仕部、待接役〕與二家人一情熟。

【情書】78 ch'ing^2 shu^1 つやぶみ。艷書。

【情緖】79（ジヤウシヨ） ❶心の動くいとぐち。感情の發作。〔江淹、泣賦〕闃寂以思、情緖留連。〔司空圖、寓居有レ感詩〕客處不レ堪頻送別、無レ多二情緖一更傷レ情。❷心理學で、やや複雜な感情をいふ。喜・怒・哀・樂・同情・嫉妬などの類。

【情恕】80（ジヤウジヨ） 思ひやつてゆるす。情恕理遣を見よ。

【情恕理遣】81（ジヤウジヨリケン） 人の過失は情を以てゆるし、理に照らしてゆるすこと。人に接し物に

對するに情理に本づいて和らぐこと。〔晉書、衛玠傳〕玠嘗以、人有レ不レ及、可二以レ情恕一、非意相干、可二以レ理遣一、故終身不レ見二喜慍之容一。

【情鍾】82 ジヤウシヨウ　人情があつまる。鍾は、集まる。晉の王衍が幼子を失つて悲しみに堪へず、山簡の弔詞に對して、聖人は情を忘れ、下愚の人は情に及ばぬ、情のあつまる所、正に我輩に在りと言つた故事。世說、傷逝には王戎に作る。〔晉書、王衍傳〕王衍嘗喪二幼子一、山簡弔レ之、衍悲不二自勝一。簡曰、孩抱中物、何至二於此一。衍曰、聖人忘レ情、最下不レ及二於情一、然則情之所レ鍾、正在二我輩一。

【情色】83 ジヤウシヨク　心のあらはれ。顏色。やうす。〔魏志、胡質傳〕質至レ官、察二其情色一、更詳二其事一。

【情心】84 ジヤウシン　こころ。情性。〔論衡、書虛〕夫鸛物也、情心不レ同音語不レ通。

【情眞】85 ジヤウシン　眞の罪狀。〔六部成語、刑部、情眞、注解〕情罪眞實無レ枉也。

〔情眞罪當〕86 ch'ing² chen¹ tsuei⁴ tang¹　罪人の犯罪の確實なこと。

【情深】87 ジヤウシン　なさけの深いこと。〔禮、樂記〕是故情深而文明。〔潘岳、爲二賈謐一作贈二陸機一詩〕雖レ簡二其面一、分著二情深一。〔許渾、旅中別二姪暐一詩〕旅遊知二世薄一、貧別覺二情深一。

〔情深二潭水一〕88 ジヤウハタンスイヨリモフカシ　情が淵の水よりも深い。情の厚い喩。〔李白、贈二汪倫一詩〕桃花潭水深千尺、不レ及汪倫送レ我情。

【情人】89 ジヤウジン　❶ともだち。眞情を以て交はる人。友人の別後、忘れられぬもの。〔鮑照、翫二月城西門廨中一詩〕廻レ軒駐二輕蓋一、留レ酌待二情人一。〔注〕良曰、情人、友人之別離者。〔徐鉉、九月三十夜雨寄二故人一詩〕獨聽空堦雨、方知秋事悲、寂寥旬假日、蕭颯夜長時、別念紛紛起、寒更故故遲、情人如不レ醉、定是兩相思。❷互に思ひあふ人。意中子人。こひびと。〔晉子夜、子夜四時歌、秋歌〕情人不二還臥一、冶遊步二明月一。〔通俗編、婦女、情人〕通典、敍二六朝歌曲一云、江南皆謂二情人一爲レ歡。

〔情人桃葉歌〕90 ジヤウジンタウエフカ　樂府の名。桃葉歌（6－14757‥7）を見よ。

〔情人碧玉歌〕91 ジヤウジンヘキギヨクカ　樂府の名。碧玉歌（8－24334‥46）を見よ。

〔情人眼裏有二西施一〕92 ジヤウジンガンリセイシアリ　情人の眼中には西施が居る。惚れて見れば痘痕も笑靨の意。西施は、古の美人の名。〔通俗編、婦女、情人眼裏有二西施一〕復齋漫錄、情人眼裏有二西施一、鄙語也、山谷取以爲レ詩、其答二益公春思一云、草茅多二奇士一、蓬華有二秀色一、西施逐二人眼一、稱レ心斯爲レ得。

【情數】93 ジヤウスウ　本心。心のしんそこ。情素。〔後漢書、班超傳〕上疏請レ兵曰、臣前與二官屬三十六人一、奉二使絕域一、於レ今五載、胡夷情數、臣頗識レ之。

【情性】94 ジヤウセイ　❶生得の心。又、本性。〔列子、仲尼〕情性益薄。〔荀子、性惡〕矯二飾人之情性一。〔韓非子、大體〕不レ逆二天理一、不レ傷二情性一。〔史記、律書〕喜則愛心生、怒則毒螫加、情性之理也。〔漢書、禮樂志序〕立二人倫一正二情性一。〔後漢書、明德馬皇后紀〕聖人設レ教、各有二其方一、知三人情性莫二能齊一也。〔顏氏家訓、止足〕情性不レ知二其窮一。❷白虎通の篇名。

【情勢】95 ジヤウセイ　ありさま。事情。情況。〔蜀志、譙周傳、注〕屈伸有レ會、情勢代起。〔五代史、閻寶傳〕寶曰、夫決レ勝料レ勢、決レ戰料レ情、情勢既得、斷在レ不レ疑。

【情照】96 ジヤウセウ　心が照らす。闇昧な所をも明かに照らして知る意。又、物事を明かに知る心のはたらき。心鏡。〔江淹、知己賦〕學不二常師一、而心鏡二羣籍一、理不二啓問一、而情照二諸密一。〔沈約、形神論〕余以爲、因果情照、本是二一物、先有二情照一、卻有二因果一、情照既動、而因果隨レ之。

【情迹】97 ジヤウセキ　ありさま。やうす。〔國朝漢學師承記、王蘭泉先生〕按レ冊丈量、無二偸減情迹一。

【情節】98 ジヤウセツ　❶心と行爲。又、節操。〔殷仲文、解二尙書一表〕名義以レ之俱淪、情節自レ茲兼撓。❷事情。情況。樣子。〔福惠全書、刑名部、問擬〕所レ犯情節顯著。

【情箋】99 ジヤウセン　艷書をいふ。〔桃花扇、題畫〕望二咫尺青天一、那有三箇瑤池女使偸遞二情箋一。

【情素】100 ジヤウソ　心のしんそこ。本心。眞心。眞情。素は實。〔戰國、秦策〕竭二智能一示二情素一、蒙二怨咎一欺二舊友一。〔史記、鄒陽傳〕披二心腹一見二情素一。〔楚辭、劉向、九歎、靈懷〕不二枉レ繩以追レ曲兮、屈二情素一以從レ事。〔王襃、聖主得二賢臣一頌〕敢不下略二陳愚心一、而抒中情素上。〔鹽鐵論、世務〕布二心腹一、質二情素一。〔吳志、孫登傳〕此皆陛下日月所レ照、選置二臣宮一、得二與從レ事、備知二情素一。〔謝靈運、還二舊園一作見二顏范二中書一詩〕夫子照二情素一、探レ懷授二往篇一。〔注〕善曰、素、猶レ實也。

【情疏】101 ジヤウソ　心がうとい。親愛の情を有しないこと。〔禮、表記〕子曰、君子不二以レ色親一レ人、情疏而貌親、在二小人一、則穿窬之盜也與。

【情態】102 ジヤウタイ　心のありさま。又、ありさま。又、心持と態度。〔列子、黃帝〕備知二萬物情態一。〔韓非子、二柄〕人主欲見、則羣臣之情態、得二其資一矣。〔齊竟陵王子良、上二讜言一表〕情態卽異。

【情地】103 ジヤウチ　心の置き場。身の置き所。〔魏書、王肅傳〕高祖以二久旱不レ雨、輟レ膳三旦、肅對曰、蒸民未レ闕二一餐一、陛下輟レ膳三旦、臣庶惶惶、無二復情地一。

【情知】104 ジヤウチ　明かに知る。まことに知る。又、まことに思ふ。〔曾肇、臨江仙詞〕情知春去後、管得落花無。〔方言藻〕張旭詩、情知海上三年別、不レ寄雲中一雁書。

【情致】105 ジヤウチ　おもむき。致は趣。〔世說新語、文學〕其夜淸風朗月、聞三江渚閒估客船上有二詠レ詩聲一、甚有二情致一。〔世說新語、賞譽〕殷中軍道二韓太常一曰、康伯少自標置、居然是出レ羣器、及二其發レ言遣レ辭、往往有二情致一。

【情癡】106 ジヤウチ　❶情愛の深い愚か者。情愛が甚だ深くて、ために其の行爲が往々にして常規を逸する者をいふ。〔世說新語、紕漏〕任育長云云、嘗行、從二棺邸下度一、流涕悲哀、王丞相聞レ之曰、此是有情癡。❷男女の愛に惑はされる情。色情のまよひ。癡情。情痴。

〔情癡情種〕107 ch'ing² ch'ih² ch'ing² chung³　すきもの。すきしや。〔紅樓夢、二回〕若生於富貴公侯之家、則爲情癡情種。

【情昵】108 ジヤウヂツ　親しい情。〔顏延之、和二謝監靈運一詩〕親レ仁敷二情昵一。

【情腸】109 ch'ing² ch'ang²　情愛。

【情場】110 ch'ing² ch'ang³　人情世界。〔長生殿、傳槩〕今古情場、問誰個眞心到底。

【情重】111 ch'ing² ch'ung⁴　情が深い。

【情塵】112 ジヤウヂン　佛❶六根と六塵。舊譯では六根を六情といふ。〔智度論、二十三〕情塵識和合、所作事業成。❷心情の塵垢。〔慈恩寺傳、九〕定凝二慧水一、非二情塵所一レ翳。〔王巾、頭陀寺碑文〕愛流成レ海、情塵爲レ岳。

【情通】113 ジヤウツウ　情が通ずる。心が通ずる。〔後漢書、呂布傳〕私與二傳婢一情通、益不二自安一。

【情調】114 ジヤウテウ　すべての心意狀態に伴ひ來る快不快の感情の要素。おもむき。氣持。

【情條】115 ジヤウデウ　心のすぢみち。理性。又、感情と理性。條は理。〔王僧達、祭二顏光祿一文〕心悽目泫、情條雲互。〔注〕良曰、條、理也、言三情理忽失レ次而亂、如二雲之互更變一也。

【情纏】117 ジヤウテン　情緒がまつはること。〔新論、崇學〕慕レ學者、情纏二典索一、不下可二以一讀一能上也。

【情田】118 ジヤウデン　人の心をいふ。情欲を生ずることから田地に喩へていふ。〔禮、禮運〕聖人作レ則、必以二天地一爲レ本、以二陰陽一爲レ端、以二四時一爲レ柄、以二日星一爲レ紀、月以爲レ量、鬼神以爲レ徒、五行以爲レ質、禮義以爲レ器、人情以爲レ田、四靈以爲レ畜。〔疏〕人情以爲レ田者、禮義以爲レ器、可レ耕二於人情一、人情得二禮義之耕一、如三田得二耒耜之耕一也。〔孫希旦集解〕人情以爲レ田者、人情爲二聖人之所レ治、猶三田爲二農夫之所一レ耕也。〔禮、禮運〕聖王修二義之柄、禮之序一、以治二人情一、故人情者聖王之田也。〔晉書、王國寶傳論〕混二暗識於心鏡一、開二險路於情田一。

【情竇】119 ジヤウトウ　❶人情に順ふ通孔。禮儀をいふ。竇は穴で、人の出入する所。禮は人の出入する所であるからいふ。〔禮、禮運〕禮義也者、所三以養レ生送レ死事二鬼神一之大端也、所下以達二天道一順中人情上之大竇上也。〔注〕竇、孔穴也。〔疏〕孔穴開通、人之出入、禮義者亦人之出入、故云下達二天道一順二人情一之大竇上也。❷愛情のいとぐち。情竇初開を見よ。

〔情竇初開〕120 ジヤウトウハジメテヒラク　情欲が初めて萌す。色氣附く。〔蜃中樓傳奇〕我和レ你自二情竇初開之

際一就等到二如今一了。

【情同】121 ch'ing² t'ung² 同意する。

【情熱】122 ジヤウネツ ❶感情が熱する。〔李白、古風詩五〕蒼然五情熱。❷熱した感情。熱情。情火。

【情念】123 ジヤウネン 感情から起る想念。おもひ。

【情報】124 ジヤウハウ ❶事情の知らせ。❷戰時に於て、敵國に關する報告をいふ。

【情貌】125 ジヤウバウ 心とかたち。心情と容貌。〔列子、力命〕亦不下以二衆人之觀一易中其情貌上。〔注〕不下爲二外物視聽一改中其度上也。〔荀子、禮論〕情貌之盡也。〔注〕情、忠誠也、貌、恭敬也。〔後漢書、宦者傳論〕情貌相越。

【情薄】126 ジヤウハク 情がうすい。薄情なこと。〔長生殿、絮閣〕請請請請、眞心向二故交一、免免免免、人怨爲二妾情薄一。

【情法】127 ジヤウハフ 人情と法律。〔六部成語、吏部、參酌情法、注解〕將二人情・律法二者一、酌中參核、務得二其中一而後已。

【情盤】128 ジヤウバン 心がたのしむ。盤は、樂しむ。〔顏延之、三月三日曲水詩序〕情盤景遽、歡洽日斜。〔注〕銑曰、盤、樂也。

【情夫】129 ジヤウフ いろをとこ。かくしをとこ。まぶ。情郎。

【情婦】130 ジヤウフ いろをんな。かくしをんな。いろ。密婦。

【情分】131 ch'ing² fen¹ 親戚朋友間の義理。情愛。好意。〔紅樓夢、四回〕皆因都礙著情分臉面。

【情文】132 ジヤウブン ❶內容と形式。精神と形式。情文倶盡を見よ。❷質と文とをいふ。〔史記、禮書〕情文代勝。〔注〕索隱曰、文勝レ情、情勝レ文、是情文更代相勝。

〖情文貴レ稱〗133 ジヤウブンカナフヲタフトブ 人の心情と禮の節文と合致することが大切である。〔禮、三年問〕三年之喪、何也、曰、稱レ情而立レ文。〔注〕稱レ情而立レ文、稱二人之情輕重一而制二其禮一也。

〖情文倶盡〗134 ジヤウブントモニツク 精神と形式との二つが十分に備はる。情は禮意、文は禮物威儀。〔荀子、禮論〕凡禮始二乎梲一、成二乎文一、終二乎悅校一、故至備、情文倶盡、其次情文代勝、其下復レ情、以歸二大一一也。〔注〕情、謂二禮意一、喪主レ哀、祭主レ敬之類、文、謂二禮物威儀一也。

【情弊】136 ジヤウヘイ 情實に引かれておこる弊害。私情から生ずる害。

【情苗】137 ジヤウベウ こころね。情根。〔桃花扇、入道〕芟二情苗一、芟二情苗一、看二玉葉金枝凋一。

【情癖】138 ジヤウヘキ 習慣又は遺傳による性癖。

【情眄】139 ジヤウベン 眞心を以て相手を見る。又、眞情のこもつた目つき。〔劉楨、贈二五官中郎將一詩〕清談同二日夕一、情眄敍二憂勤一。〔注〕濟曰、情相顧眄、敍二述憂恤勤勞一也。

【情網】140 ジヤウマウ 愛情にとらはれること。愛情のとりこ。人が情欲に束縛せられることは、網の中にあるやうであるからいふ。〔紅總、建初寺瓊法師碑〕幹二五欲之泥一、解二六情之網一。

【情味】141 ジヤウミ 心のおもむき。心持。又、おもむき。〔人物志、九徵〕見二乎聲色一、發二乎情味一。〔韋莊、三堂早春詩〕主人年少多二情味一、笑換二金龜一解二珥貂一。〔蘇轍、次二韻柳子玉一云云詩〕要路風波無限惡、謫居情味最能深。

【情面】142 ジヤウメン ❶情實に拘はれる。顏情。面情。〔福惠全書、涖任部、查交代〕若新任瞻二顧情面一、聽二受囑託一。❷かほ。體面。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕毀二破斯文情面一。

【情用】143 ジヤウヨウ 心のはたらき。又、まこと。忠誠。〔荀子、禮論〕文理繁、情用省、是禮之隆也。〔注〕情用、謂二忠誠一。

【情欲】144 ジヤウヨク ❶心ののぞみ。こころもち。又、男女の情愛。男女間の戀愛の欲。いろけ。色情。情慾。〔詩、周南、關雎、窈窕淑女、君子好逑、集傳〕情欲之感、無レ介二乎容儀一。〔列子、楊朱〕人不二婚宦一、情欲失レ半。〔鬼谷子、揣篇〕說二人主一、則當二審揣レ情、謀二慮情欲一、必出二於此一、乃可レ貴、乃可レ賤、云云、其數一也。〔史記、禮書〕文貌繁、情欲省、禮之隆也、文貌省、情欲繁、禮之殺也。〔說苑、辨物〕乃陳二情欲一以歌。〔後漢書、孔融傳〕論二其本意一、實爲二情欲一發耳。〔論衡、物勢〕情欲動而合、合而生レ子矣。〔晉書、平原王幹傳〕頗清虛靜退、簡二於情欲一。〔陸機、辨亡論下〕割二情欲之歡一。❷佛 むさぼり執著するこころ。四欲の一つ。〔大藏法數〕欲界衆生、多於二男女情愛之境一、而起二貪欲一、故名二情欲一。

〖情欲寡淺〗145 ジヤウヨククワセン 情欲がすくなくあさい。〔莊子、天下〕以二禁レ攻寢レ兵爲レ外、以二情欲寡淺一爲レ內。

【情慾】146 ジヤウヨク 情欲の❶に同じ。〔詩、周南、螽斯、螽斯羽詵詵兮、箋〕凡物有二陰陽情慾一者、無レ不二妬忌一、維蚣蝑不耳。〔禮、學記、禁二於未發一之謂レ豫、疏〕發、謂二情慾發一也、十五以前、情慾未レ發、則用レ意專一、學業易レ入。

【情郎】147 ジヤウラウ いろをとこ。情夫。〔韓偓、厭二花落一詩〕書中卻說平生事、猶疑未レ滿二情郎意一。

【情理】148 ジヤウリ 人情と道理。〔後漢書、廉范傳論〕情理之樞、亦有二開塞之感一焉。〔魏志、皇妃傳序〕春秋說云、天子十二女、諸侯九女、考二之情理一、不易之典也。〔舊唐書、禮儀志七〕遠二嫌疑一、分二情理一也。

【情慮】149 ジヤウリヨ おもひ。情思。〔何劭、雜詩〕永レ言「寫二情慮一。

【情累】150 ジヤウルイ ❶心のわづらひ。心がひかれることがら。〔陸機、擬古詩〕去去遺二情累一、安處撫二清琴一。❷心がひかれる。心にかかる。〔陳書、謝貞傳〕弱兒、年甫六歲、名靖、字依仁、情累所レ不レ能レ忘、敢以爲レ託耳。

【情禮】151 ジヤウレイ 心情と禮儀。〔白居易、祭二崔常侍一文〕往展二情禮一。

〖情禮兼到〗152 ジヤウレイカネイタル 心情と禮儀とが共に十分である。〔袁宏、三國名臣序贊〕敬愛既同、情禮兼到。

【情靈】153 ジヤウレイ 心性をいふ。〔晉書、阮籍等傳論〕咸能符二契情靈一、各敦終始。〔沈約、神不滅論〕情靈淺弱、心慮雜擾。

【情戀】154 ジヤウレン 戀慕すること。又、こひごころ。戀情。〔蔡琰、悲憤詩〕去去割二情戀一、遄征日遐邁。

【情露】155 ジヤウロ 實情があらはれる。〔列子、力命〕繆忬情露。〔釋文〕情露、无レ所二隱蔽一也。

【情漏】156 ジヤウロウ 實情がもれる。〔阮瑀、爲二曹公一作レ書與二孫權一文〕英布憂二迫於情漏一。

【情話】157 ジヤウワ ❶眞心からの話。至情の言。〔陶潛、歸去來辭〕悅二親戚之情話一、樂二琴書一以消レ憂。〔方回、送二劉都事一五十韻詩〕居然道裒孚、宜爾情話接。❷男女間の情事に關するはなし。いろばなし。豔語。癡話。

【寄レ情】158 ジヤウヲヨス 思ひをよせる。〔晉子夜、子夜四時歌、秋歌〕秋夜入二窓裏一、羅帳起飄颺、仰レ頭看二明月一、寄レ情千里光。

【觸レ情】159 ジヤウニフル 物事が心情に感觸すること。〔漢書、淮南厲王長傳〕觸レ情妄行。

【奪レ情】160 ジヤウヲウバフ 喪服の滿了せぬうちに強ひて仕へさせること。〔北史、李德林傳〕丁二母艱一、以二至孝一聞、朝廷嘉レ之、裁二百日一、奪レ情起復。

【通レ情】161 ジヤウヲツウズ 心を通ずる。內々に好みを結ぶ。又、內々男女の情交を結ぶ。〔後漢書、烏桓傳〕嫁娶則先略レ女通レ情、或半歲百日、然後送二牛馬羊畜一、以爲二聘幣一。

【定レ情】162 ジヤウヲサダム 初めて夫婦の契を行ふこと。結婚初夜の行爲を行ふをいふ。〔宋史、陳鴻傳〕定レ情之夕。〔陳鴻、長恨歌傳〕定レ情之夕、授二金釵鈿合一以固レ之。

【撫レ情】163 ジヤウヲブス 感情をなだめる。感情をおさへしづめる。〔史記、屈原傳〕撫レ情效レ志兮。

【容レ情】164 ジヤウヲイル 事情を容認する。罪を赦す。〔桃花扇、爭位〕軍法凜然、本帥不レ能レ容レ情。

【情郵記】165 ジヤウイウキ 戲曲の名。明、吳炳作。姑蘇の劉乾初と慧娘・紫蕭の二女との情事を述べてゐる。〔粲花別墅五種〕・〔奢摩他室曲叢、二〕。

【情盡橋】166 ジヤウジンケウ 唐代、長安郊外に在つた橋の名。人を送迎する情が此處に至つて盡きるといふ意で名づけた。雍陶が改めて折柳橋といふ。〔唐詩紀事、雍陶〕陶典二陽安一、送レ客至二情盡橋一、問二其故一、左右曰、送迎之地止レ此、故橋名二情盡一、陶命レ筆題二其柱一曰二折柳橋一、自後送別、必吟二其詩一曰、從來只有二情難レ盡、何事名爲二情盡橋一、自レ此改レ名爲二折柳一、任地離恨一條條。

【情僧錄】167 ジヤウソウロク 小說、紅樓夢の前名。初、石頭記といひ、女媧氏補天の時、使ひ殘した石片を、僧侶と道士とが奇として拾ひ取り、之に文字を刻したものといふ。後、幾世幾劫を經て、空空道人が刻石の文を見て、空によつて色を見、色によつて情を生じ、情を傳へて色に入り、色から空を悟り、遂に其の名を情僧と改め、石頭記を改めて情僧錄といふ。石頭記(**8－24024··59**

7)を見よ。〔紅樓夢、一回〕空空道人、云云、因レ空見レ色、由レ色生レ情、傳レ情入レ色、自レ色悟レ空、遂易レ名爲二情僧一、改二石頭記一爲二情僧錄一。

【爲レ情死】168（ジャウノタメニシス） 意氣に感じて死を致すをいふ。〔世說新語、任誕下〕王長史登二茅山一、大慟哭曰、琅琊王伯輿、終當二爲レ情死一。

【情根愛胎】169（ジャウコンアイタイ） 情の根、愛の胎。愛情の根。又、愛情。〔桃花扇、逃難〕情根愛胎、何時消敗。

【情根慾種】170（ジャウコンヨクシユ） 情の根、慾の種。男女の戀情をいふ。〔桃花扇、入道〕還戀二情根慾種一、豈不レ可レ笑。

【情投意合】171 chʻing^2 tʻou^2 i^4 hê^2 互に意氣の相合ふこと。情意投合。

【情不可却】172 chʻing^2 pu^4 kê^3 chʻüeh^4 情として却けることは出來ぬ。

【怡レ情理レ性】173（ジャウヲヤハラゲセイヲヲサム） 情をやはらげ、性ををさめる。性情を陶冶して圓滿にする。怡は、和。〔中論、治學〕學也者、所二以疏レ神達レ思、怡レ情理レ性、聖人之上務也。

【慰レ情勝レ無】174（ジャウヲナグサムルコトナキニマサル） 心を慰めるに十分ではないが、無いのには勝る。〔陶潛、和二劉柴桑一詩〕弱女雖レ非レ男、慰レ情良勝レ無。

【原レ情議レ罪】175（ジャウヲタヅネテツミヲギス） 實情をしらべ、それを本として罪の輕重を論ずる。〔唐律、名例〕議者原レ情議レ罪、稱二定刑之律一。〔疏議〕原レ情議レ罪者、謂下原二其本情一、議中其犯罪一。

【原レ情定レ罪】176（ジャウヲタヅネテツミヲサダム） 實情を究明し、それに本づいて罪名を定める。〔漢書、王嘉傳〕聖王斷レ獄、必先原レ心定レ罪、探レ意立レ情、故死者不二抱レ恨而入レ地、生者不二銜レ怨而受レ罪。〔後漢書、霍諝傳〕諝聞、春秋之義、原レ情定レ過、赦レ事誅レ意。

【不レ吝二情去留一】177（ジャウノキヨリウニヤブサカニセズ） 去るにも留まるにも、多く心を引かれない。心がさつぱりとしてゐて物事に未練のないこと。〔陶潛、五柳先生傳〕期在二心醉一、既醉而退、曾不レ吝二情去留一。

【情】 10756′

ジャウ 情(**4－10756**)に同じ。

【惆】 10757

㈠チウ チユ 〔集韻〕丑鳩切 ㄔㄡˊ chʻou^2 尤

㈡チウ チユ 〔集韻〕丑救切 宥

㈢シウ シユ 〔集韻〕即就切 宥

㈣キウ ク 〔集韻〕袪尤切 尤

㈤ヂウ ニユ 〔集韻〕尼猷切 尤

小篆

㈠㈡㈢❶**がつかりする**。〔說文〕惆、失意也、从レ心周聲。❷**かなしむ**。**いたむ**。**なげく**。〔集韻〕惆、悲也。〔荀子、禮論〕惆然不レ嗛。〔注〕惆然、悵然也。〔陸機、歎逝賦〕心惆焉而自傷。〔注〕善曰、惆、痛也。㈣**もとる**。怵(**4－10564**)に同じ。〔集韻〕怵、戾也、或作レ惆。㈤**もとる**。〔集韻〕惆、戾也。

【惆恨】1（チウコン） いたみかなしむ。悵恨。

【惆愴】2（チウサウ） 悲しみいたむ。〔方干、題二故人廢宅一詩〕薄暮停レ車更惆愴。

【惆然】3（チウゼン） 失望して悲しむさま。悲しみなげくさま。悵然。〔荀子、禮論〕惆然不レ嗛。〔注〕惆然、悵然也。

【惆悵】4（チウチヤウ） ❶なげき悲しむ。いたみなげく。〔楚辭、宋玉、九辯〕羇旅而無二友生一、惆悵兮而私自憐。〔集注〕惆悵、悲哀也。〔越絕書、越絕外傳記吳王占夢〕其心惆悵、如レ有レ所レ悔。〔後漢書、馮衍傳下〕情惆悵以增レ傷。〔吳志、諸葛恪傳〕意惆悵不レ悅。〔陸機、挽歌〕流離親友思、惆悵神不レ泰。〔陶潛、歸去來辭〕既自以レ心爲二形役一、奚惆悵而獨悲。〔趙嘏、靈巖寺詩〕聞說春來倍惆悵、百花深處一僧歸。❷失意のさま。がつかりするさま。〔集韻〕惆、惆悵、失意。

【惆悵春歸留不レ得】5（チウチヤウスハルカヘツテトドメエザルヲ） 春の去り行くのを留め得ないことを悲しむ。〔白居易、三月三十日題二慈恩寺一詩〕慈恩春色今朝盡、盡日徘徊倚二寺門一、惆悵春歸留不レ得、紫藤花下漸黃昏。

【惆惋】6（チウワン） いたみなげく。〔宋書、桂陽王休範傳〕方大惆惋、追二恨前迷一。

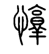
【恖】 10758

シウ ⿰角隹(**10－36124**)の古字。〔集韻〕⿰角隹、古作レ恖。

【惇】 10759

㈠トン 〔集韻〕都昆切 ㄉㄨㄣ tuen^1 元

㈡シユン ジユン 〔集韻〕殊倫切 眞


小篆

㈠㈡❶**あつい**。てあつい。ねんごろ。又、あつくする。もと㥃(**4－11440**)に作る。〔中華大字典〕惇、本作レ㥃。〔說文〕㥃、厚也、从レ心𦎧聲。〔爾雅、釋詁〕惇、厚也。〔書、舜典〕惇レ德允レ元。〔傳〕惇、厚也。〔國語、晉語四〕守レ學彌惇。〔注〕惇、厚也。❷**まこと**。まごころ。〔方言、七〕惇、信也、燕曰レ惇。〔注〕惇、亦誠信貌。〔廣韻〕惇、心實也。❸**つとめる**。はげむ。〔班固、西都賦〕命二夫惇誨故老、名儒師傅一。〔注〕善曰、爾雅曰、惇、勉也。❹敦(**5－13276**)に通ず。〔禮、樂記〕樂者惇和。〔釋文〕惇、本亦作レ敦。

【惇愛】1（トンアイ） 非常にこのむ。〔南史、臧榮緖傳〕榮緖惇二愛五經一。

【惇愨】2（トンカク） 甚だまことであること。〔韓非子、詭使〕惇愨純信、用レ心一者、則謂二之窶一。

【惇學】3（トンガク） 學問につとめる。〔漢書、翼奉傳〕奉惇レ學不レ仕、好二律歷陰陽之占一。

【惇謹】4（トンキン） てあつくつつしみ深い。〔漢書、公孫弘傳〕唯慶以二惇謹一、復終二相位一。〔注〕師古曰、惇、厚也、音敦。

【惇誨】5（トンクワイ） つとめ教へる。一所懸命に教へる。ねんごろに教へる。〔班固、西都賦〕命二夫惇誨故老、名儒師傅一、講二論乎六藝一、稽二合乎同異一。〔注〕銑曰、惇、勉也、誨、教也、言二勉教一也。

【惇惠】6（トンケイ） まことがありめぐみぶかい。〔國語、晉語七〕使二惇惠者教一レ之、使二文敏者道一レ之、使二果敢者諗一レ之、使二鎭靜者修一レ之。 「字。

【惇賢】7（トンケン） 明、陳伯獻(**11－41698**‥1199)の字。

【惇五】8（トンゴ） 淸、馮達道(**12－44579**‥268)の字。

【惇吾】9（トンゴ） 明、曾維倫(**5－14299**‥159)の字。

【惇厚】10（トンコウ） まことがあつて手あつい。敦厚。〔史記、蔡澤傳〕惇二厚舊故一。〔漢書、哀帝紀〕孝弟惇厚。

【惇之】11（トンシ） 字號。❶明、於倫(**5－13628**‥48)の字。❷明、莊瑛(**9－31035**‥112)の字。

【惇史】12（トンシ） 三老・五更の言の惇厚の德あるものを書した記錄。〔禮、內則〕五帝憲、養二氣體一而不レ乞レ言、有レ善則記レ之、爲二惇史一。三王亦憲、既養レ老而后乞レ言、亦微二其禮一、皆有二惇史一。〔注〕惇史、史惇厚者也。〔陳澔集說〕惇史、所三以記二惇厚之德一也。〔魏志、高貴鄉公髦紀〕夫養レ老興レ教、三代所下以樹二風化一垂中不朽上也、必有二三老五更一、以崇至敬、乞レ言納レ誨、著在二惇史一。

【惇率】13（トンシユツ） ねんごろにしたがふ。〔國語、晉語七〕知下藉偃之惇二率舊職一而共給上也。

【惇敍】14（トンジヨ） てあつくし序でる。親しみ愛して秩序を立て平和にさせる。又、親しみ愛して秩序正しく平和になる。敦序。〔書、皐陶謨〕惇敍二九族一。〔鄭注〕惇、厚也、敍、序也、次二序九族一而親レ之。〔疏〕又厚次三敍九族之親一。〔漢書、平帝紀〕昔堯睦二九族一、舜惇敍レ之。〔王延壽、魯靈光殿賦〕於レ是百姓昭明、九族敦敍。〔李嶠、爲二皇太子一請レ加二相王封邑一表〕敢緣二敦敍之義一、輒獻二由衷之誠一。〔舊五代史、唐明宗紀一〕庶諧二惇敍之規一、永保二隆平之運一。〔李華、含元殿賦〕詠二周詩一而展親、睦二魯衞一而敦敍。

【惇信】15（トンシン） 信をあつくする。又、あつく信ずる。〔書、武成〕惇レ信明レ義、崇レ德報レ功。〔蔡傳〕惇、厚也、厚二其信一。

【惇愼】16（トンシン） てあつくしたがふ。よく從ひ行ふ。愼は順。一說に、てあつくまことあること。愼は誠。〔荀子、君子〕仁者仁レ此者也、義者分レ此者也、節者死二生此一者也、忠者惇二愼此一者也。〔注〕愼、讀爲レ順、人臣能厚順二此五者一、則爲レ忠也。〔集解〕郝懿行曰、愼者、誠也、言、能惇二厚誠三信於此五者一、謂二之忠一也。

【惇大】17（トンダイ） あつく大きい。又、あつく大きくする。〔書、洛誥〕伻下嚮二即有僚一明作有レ功、惇大成上裕、汝永有レ辭。〔傳〕厚大成二寬容之德一。〔國語、鄭語〕淳二濯惇三大天明地德一。〔唐書、源乾曜傳〕務爲二寬平惇大一、故鮮二咎悔一。

【惇典】18（トンテン） あつく常道を行ふ。典は典常、常道をいふ。一說に、典章をあつくする。〔書、洛誥〕其大惇二典殷獻民一。〔傳〕其大厚行二典常於殷賢人一。〔蔡傳〕典、典章也、言レ當三大厚二其典章及殷之獻民一。

【惇德】19（トントク） 有德の人にてあつくする。〔書、舜典〕惇レ德允レ元。〔傳〕惇、厚也。〔蔡傳〕言レ當下厚二有德一、信二仁人一、而拒中姦惡上也。

【惇篤】20（トントク） てあつい。人情のあついこと。〔國語、周語上〕守以二惇篤一、奉以二忠信一。〔後漢書、明德馬皇后紀〕肅宗亦孝性惇篤、恩性天至。

【惇惇】21（トントン） まごころがあり人情のあついさま。〔後漢書、第五倫傳論〕惇惇歸二諸寬厚一。〔注〕惇惇、純厚之皃也。

【惇任】22（トンニン） てあつく任用する。〔漢書、成帝紀〕惇二任仁人一、退二遠殘賊一。〔注〕師古曰、惇、厚也。

【惇夫】23（トンプ） 字號。㊀宋、邢居實(**11－39301**··54)の字。㊁淸、恆裕(**4－10527**··123)の字。

【惇物】24（トンブツ） ㊀山名。陝西省郿縣の東。〔書、禹貢〕終南・惇物、至二于鳥鼠一。〔傳〕三山名。〔漢書、地理志上〕右扶風、云云、武功縣、云云、太壹山、古文以爲二終南一、垂山、古文以爲二敦物一、皆在二縣東一。㊁物を多く產すること。〔程大昌、雍錄〕一說、惇物非二山名一、終南山高而廣、多二物產一、故禹貢曰二終南惇物一。

【惇睦】25（トンボク） ねんごろでむつまじい。〔班固、典引〕惇睦辨章之化洽。〔白居易、唐故會王墓誌銘序〕皇帝厚二惇睦之恩一。

【惇樸】26（トンボク） 眞心があってかざらない。〔漢書、成帝紀〕其與二部刺史一、擧下惇樸遜讓、有二行義一者各一人上。

【惇禮】27（トンレイ） 金、完顏永元(**3－7079**··55)の字。

【惇和】28（トンワ） てあつくてやはらぐ。〔禮、樂記〕仁近二於樂一、義近二於禮一、樂者惇和、率レ神而從レ天。

【惇裕堂】29（トンユウダウ） 室名。㊀淸、桂超萬(**6－14755**··146)の室名。㊁淸、孫寶侗(**3－6987**··522)の室名。

【惈】10760 クヮ 〔集韻〕古火切 哿

㊀**いさましい。**〔爾雅、釋詁〕惈、勝也。〔廣雅、釋詁二〕惈、勇也。〔一切經音義、九〕惈、憨也、殺レ敵爲レ惈。〔集韻〕惈、惈敢、勇也。㊁通じて果(**6－14556**)に作る。〔集韻〕惈、通作レ果。〔左思、魏都賦〕風俗以二韰果一爲レ嫿。〔注〕善曰、方言曰、惈、勇也、果、與レ惈古字通。

【惤】10761 サン ザン 〔集韻〕財干切 寒

そこなふ。〔集韻〕惤、忮也。

【惉】10762 セン 〔集韻〕處占切 鹽

小篆

㊀**やぶれる。**聲音がととのはない。〔說文新附〕惉、惉懘、煩聲也、从レ心沾聲。〔集韻〕惉、音敝不レ和。〔史記、樂書〕惉懘之音。〔注〕正義曰、惉、弊也。㊁或は怗(**4－10451**)・苫(**9－30802**)に作る。〔集韻〕惉、或作二怗・苫一。㊂或は怘(**4－10452**)に作り、俗に⿱沾心(**4－10763**)に作る。〔集韻〕惉、亦書作レ怘、俗作レ⿱沾心、非レ是。

【惉懘】1（センセイ） 聲音がやぶれて調和しない。怗懘。〔說文新附〕惉、惉懘、煩聲也。〔玉篇〕惉、惉懘。〔史記、樂書〕聲音之道、與レ正通矣、宮爲レ君、商爲レ臣、角爲レ民、徵爲レ事、羽爲レ物、五者不レ亂、則無二惉懘之音一矣。〔注〕集解曰、鄭玄曰、惉懘、弊敗不レ和之貌也、正義曰、惉、弊也、懘、敗也、君臣民事物五者、各得二其用一、不二相壞亂一、則五音之響、無二弊敗一也。〔王禹偁、大合樂賦〕復二夔樂于雅正一、黜二鄭聲于惉懘一。

【⿱沾心】10763 セン

惉(**4－10762**)の俗字。〔集韻〕惉、俗作レ⿱沾心、非レ是。

【⿱帖心】10764 テフ デフ 〔集韻〕達協切 葉

やすらか。或は惵(**4－10861**)に作る。〔集韻〕⿱帖心、安也、或作レ惵。

【⿰忄垂】10765 ヅイ ニ 〔集韻〕女恚切 寘

おもふ。或は⿰忄委(**4－10766**)に作る。〔集韻〕⿰忄垂、思也、或从レ委。

【⿰忄委】10766 ヅイ

⿰忄垂(**4－10765**)に同じ。〔集韻〕⿰忄垂、或从レ委。

【惊】10767 ㈠リヤウ 〔集韻〕呂張切 陽 ㈡リヤウ 〔集韻〕力讓切 漾

㈠**かなしむ。**〔集韻〕惊、悲也。㈡**かなしむ。**悢(**4－10690**)に同じ。〔集韻〕悢、博雅、悢悢、悲也、或作レ惊。

【⿰忄咅】10768 フウ フ 〔集韻〕匹九切 有

すこし怒る。⿰忄豆(**4－10887**)に同じ。〔集韻〕⿰忄豆、小怒也、或从レ音。

【⿰忄朋】10769 ハウ ビヤウ 〔集韻〕蒲萠切 庚

㊀⿰忄朋惛は、いかるさま。〔集韻〕⿰忄朋、⿰忄朋惛、怒皃。㊁**なげく。**⿰忄并(**4－10613**)に同じ。〔集韻〕⿰忄并、忼慨也、或作レ⿰忄朋。

【⿱⿰𠂤刂心】10770 エン

悁(**4－10623**)の籀文。〔玉篇〕⿱⿰𠂤刂心、籀文悁字。

【惋】10771 ワン 〔集韻〕烏貫切 翰 ㄨㄢˋ wan^4

㊀**なげく。**おどろきなげく。〔一切經音義、三〕惋、嘆驚異也。〔集韻〕惋、驚歎也。〔六書故〕惋、駭恨也。㊁**意氣がおとろへる。**〔素問、解精微論〕夫志悲者惋。〔注〕惋、謂二內爍一也。

【惋愕】1（ワンガク） 驚きなげく。〔晉書、桓溫傳〕辭旨危急、憂及二社稷一、省レ之惋愕、不レ解レ所レ由。〔世說新語、賞譽〕後聊試二問近事一、答對甚有二音辭一、出二濟意外一、濟極惋愕。

【惋恨】2（ワンコン） なげき悲しむ。悵恨。〔韓愈、贈二劉師服一詩〕虞翻十三比豈少、遂自惋恨形二於書一。

【惋愴】3（ワンサウ） なげきいたむ。又、その情。慘愴。〔梁簡文帝、徵君何先生墓誌〕知與レ不レ知、泣懷二惋愴一。

【惋傷】4（ワンシヤウ） なげきいたむ。又、なげき。〔杜甫、觀三公孫大娘弟子舞二劍器一行〕感レ時撫レ事增二惋傷一。

【惋惜】5（ワンセキ） なげきをしむ。嗟惜。〔世說新語、汰侈〕武帝、愷之甥也、每助レ愷、嘗以二一珊瑚樹高二尺許一賜レ愷、枝柯扶疏、世罕二其比一、愷以示レ崇、崇視訖以二鐵如意一擊レ之、應レ手而碎、愷旣惋惜、又以爲レ嫉二己之寶一。

【惋悼】6（ワンタウ） なげきいたむ。

【惋怛】7（ワンダツ） 驚きかなしむ。いたみかなしむ。〔晉書、王羲之傳〕公私惋怛、不二須臾去レ懷。

【惋歎】8（ワンタン） 悲しみなげく。〔魏武帝、善哉行〕守窮者貧賤、惋歎淚如二雨。

【惋慟】9 ワンドウ なげき悲しむ。又、惋と慟。慟も、なげき・悲しみ。〔符載、祭二外舅房州李使君一文〕出祖二荒逵一、惋慟交幷。

【惋懣】10 ワンモン なげきもだえる。〔魏書、中山王英傳〕肥梁已陷、聞レ之惋懣。

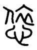
【惌】10772

㈠ヱン ヲン 〔集韻〕於袁切 元
㈡ウツ ウチ 〔集韻〕紆勿切 物

㈠❶まげる。まがる。宛（3－7110）に同じ。〔說文〕宛、惌、宛或从レ心。〔廣韻〕惌、枉也。❷小さい孔のさま。〔周禮、考工記、函人〕凡察レ革之道、眡二其鑽空一、欲二其惌一也。〔注〕惌、小孔貌。❸あだ。又、いかる。怨（4－10479）に同じ。〔集韻〕怨、讐也、恚也、或作レ惌。㈡心がむすぼれる。不平を懷く。慍（4－11059）に同じ。〔集韻〕慍、心所二鬱積一也、或作レ惌。

【悘】10773

㈠エイ 〔集韻〕於希切 微
㈡エイ 〔集韻〕隱豈切 尾


小篆

❶いたむこゑ。〔說文〕悘、痛聲也、从レ心依聲、孝經曰、哭不レ悘。〔集韻〕悘、哀痛聲。❷或は偯（1－892）・譩（10－36013）・噫（2－4381）に作る。〔集韻〕悘、或作二偯・譩・噫一。

【惍】10774 キン コン 〔玉篇〕居吟切 侵

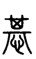
するどい。〔玉篇〕惍、利也。

【㥚】10775 キク 〔集韻〕居六切 屋

つつしむ。〔集韻〕㥚、謹愼也。

【惎】10776

㈠キ ギ 〔集韻〕渠記切 寘 ㄐㄧˋ chi⁴
㈡キ 〔集韻〕居之切 支


小篆

㈠㈡❶そこなふ。〔說文〕惎、毒也、从レ心其聲、周書曰、來就二惎惎一。〔王注〕毒者、害也、如下左傳莫二余毒一也已之毒上。〔段注〕今尙書無二此文一、蓋卽秦誓、未レ就レ予忌也。〔左氏、定、四〕惎二閒王室一。〔注〕惎、毒也。❷いむ。にくむ。〔小爾雅、廣言〕惎、忌也。〔左氏、哀、二十七〕趙襄子由レ是惎二智伯一。❸をしへる。諅（10－35500）に通ず。〔說文通訓定聲〕惎、叚借爲レ諅。〔集韻〕惎、一曰、敎也。〔小爾雅、廣言〕惎、敎也。〔左氏、宣、十二〕晉人以二廣隊不一レ能レ進、楚人惎レ之脫レ扃。〔注〕惎、敎也。〔張衡、西京賦〕天啓二其心一、人惎二之謀一。〔注〕薛曰、惎、敎也。❹おもふ。意（4－10921）に通ず。〔說文通訓定聲〕惎、叚借爲レ意。〔廣雅、釋詁三〕惎、意也。〔集韻〕惎、一曰、意也。❺或は㥷（4－11465）に作る。〔集韻〕惎、或作レ㥷。❻古は忎（4－10379）に作る。〔集韻〕惎、古作レ忎。❼亦、㥍（4－10777）に作る。〔集韻〕惎、亦書作レ㥍。

【惎閒】1 キカン そこなひへだてる。〔左氏、定、四〕管蔡啓レ商、惎二閒王室一。〔注〕惎、毒也、周公攝レ政、管蔡開二道紂子祿父一、以毒二亂王室一也。

【惎悔】2 キクワイ かくの如きことは悔い改めるべきものであるとおしへること。〔陸機、弔二魏武帝一文〕援二貞吝一以惎レ悔、雖レ在レ我而不レ臧。〔注〕善曰、言、爲二履組一及分レ香、令レ臧二衣裘一、是引二貞吝之道一、敎レ爲二可レ悔之行一也、周易曰、自レ邑告レ命貞吝、毛詩曰、何用不レ臧、濟曰、援、引也、貞、正也、惎、敎也、臧、善也、言、引二其正道吝悔之事一、以敎二其四子一、不善者則可二改悔一、雖二已身一、亦爲二不善一也、謂、上序所レ云、吾小忿大過、不レ當レ效者、是也。

【㥍】10777 キ

惎（4－10776）に同じ。〔正字通〕㥍、同レ惎。

【㥖】10778 ソウ

憁（4－11169）の俗字。〔字彙〕㥖、俗憁字。

【㥁】10779 チ 〔篇海〕陟里切 紙

こころよい。〔篇海〕㥁、快也。

【㤩】10780 ヘツ ベチ 〔五音集韻〕蒲結切 屑

わるい氣。〔五音集韻〕㤩、醜氣也。

【㥔】10781 テフ

㤳（4－10667）の譌字。〔正字通〕㥔、㤳字之譌。

【㥏】10782 テフ

惵（4－10861）に同じ。〔正字通〕㥏、同レ惵。

【㤘】10783 コウ

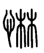
㲉（8－23565）・怐（4－10435）に同じ。〔集韻〕㲉、怐、或作二㤘・怐・佝・傋一。

【㥎】10784 シヨウ シユ 〔玉篇〕尺隴切 腫

おそれる。〔玉篇〕㥎、恐也。

【惏】10785

㈠ラン 〔集韻〕盧含切 覃 ㄌㄢˊ lan²
㈡リン 〔集韻〕犂針切 侵
㈢ラン 〔集韻〕盧感切 感


小篆

㈠❶むさぼる。〔說文〕惏、河內之北、謂レ貪曰レ惏、从レ心林聲。〔段注〕惏與レ婪、音義同。〔一切經音義、二〕惏、亦貪也。〔大戴禮、保傅〕飽而強、飢而惏。〔注〕惏、貪殘也。❷そこなふ。〔方言、二〕惏、殘也、陳楚曰レ惏。❸婪（3－6436）・啉（2－3806）に同じ。〔集韻〕婪、說文、貪也、或作レ惏。〔一切經音義、一〕惏、或作レ啉、今亦作レ婪、同。㈡❶さむいさま。をののく。又、聲音のすむさま。凜（2－1718）・癛（7－22565）に通ず。惏慄（1）を見よ。〔說文通訓定聲〕惏、叚借爲レ癛。❷かなしみいたむさま。惏悷（2）を見よ。㈢つつしまない。又、卜人が占繇の吉凶をいつはり告げる。婪（3－6436）に同じ。〔集韻〕婪、不レ謹也。〔集韻〕一曰、卜人詐二告吉凶一也、或作レ惏。

【惏慄】1 リンリツ 寒いさま。をののく。ふるへる。又、聲の清爽なさま。〔集韻〕惏、惏慄、寒也。〔宋玉、風賦〕故其風中レ人、狀直憯悽惏慄、清涼增レ欷。〔注〕銑曰、憯悽淋慄、寒貌。〔王褒、洞簫賦〕惏慄密率、掩以絕滅。〔注〕善曰、惏慄、寒貌、翰曰、惏慄、聲清爽貌。

【惏悷】2 リンレイ 悲しみ傷むさま。〔宋玉、高唐賦〕於レ是調レ謳、令二人惏悷憯悽、脅息增一レ欷。〔注〕善曰、並悲傷貌、銑曰、皆哀慘貌。

【惏露雨】3 リンロウ 秋雨の異名。〔事物異名錄、乾象、雨〕梁溪漫志、吳中以二八月露下而雨一、爲二惏露雨一。

【𢝏】10786

㈠ラン レン 〔廣韻〕力閑切 刪
㈡ラン 〔集韻〕盧含切 覃

㊀**地名**。〔廣韻〕惁、地名、出二玉篇一。㊁**むさぼる**。婪(**3**－**6436**)に同じ。〔集韻〕婪、說文、貪也、或作レ惏、亦書作レ惁。

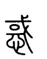
【悚】10787 トウ ツ 〔集韻〕都籠切 東

おろかなさま。〔集韻〕悚、愚皃。

【惐】10788 ㊀ヰク 〔集韻〕乙六切 屋 ㊁ヨク ヰキ 〔集韻〕越逼切 職 ㊂キヨク コク 〔集韻〕忽域切 職 ㊃コク

㊀㊁**心をいためる**。〔集韻〕惐、痛レ心也。〔集韻〕惐、惻惐、傷痛也。㊂**まどふ**。〔集韻〕惐、心惑也。㊃惑(**4**－**10789**)に同じ。〔說文通訓定聲〕惑、字亦作レ惐。

【惑】10789 コク ワク 〔集韻〕穫北切 職 ㄏㄨㄛˋ huo⁴


小篆

❶**まどふ**。㋑みだれる。〔說文〕惑、亂也、从レ心或聲。〔素問、移精變氣論〕用レ之不レ惑。〔注〕惑、謂二惑亂一。㋺もとる。〔呂覽、安死〕以爲二大惑一。〔注〕惑、悖也。㋩まよふ。〔廣韻〕惑、迷也。〔詩、衞風、碩人序〕莊公惑二於嬖妾一。㋥うたがふ。あやしむ。いぶかる。〔論語、述而〕門人惑。〔皇疏〕惑、猶二嫌怪一也。〔論語、先進〕赤也惑。〔皇疏〕惑、疑惑也。〔戰國、秦策〕諸侯亂惑。〔注〕惑、疑也。〔呂覽、審爲〕世必惑レ之。〔注〕惑、怪也。㋭くらむ。〔淮南子、主術訓〕不レ惑二於詳一。〔注〕惑、眩。❷**まどはす**。まよはす。〔戰國、秦策〕聽無レ失二本末一者、難レ惑。〔注〕惑、亂也。〔呂覽、不屈〕察而以飾レ非惑レ愚。〔注〕惑、誤。〔呂覽、知分〕有レ所レ達、則物弗レ能レ惑。〔注〕惑、動也。❸**まどひ**。〔漢書、五行志下之上〕棄レ正作レ淫、茲謂レ惑。〔新書、大政上〕知レ惡而不レ改、謂二之惑一。〔王巾、頭陀寺碑文〕存レ軀者惑、理勝則惑已。〔注〕善曰、惑、煩惚也。❹通じて或(**5**－**11563**)に作る。〔集韻〕惑、通作レ或。〔論語、顏淵〕崇レ德脩レ慝辨レ惑。〔釋文〕惑、本亦作レ或。❺**謚**。〔史記正義、謚法解〕滿レ志多窮曰レ惑。

【惑意】1ワクイ まどひの心。よこしまな心。〔管子、內業〕中無二惑意一、外無二邪菑一。

【惑熒】2ワクエイ まどふ。熒惑。〔文子、下德〕有二以自鑒一、卽不レ失二物之情一、無二以自鑒一、卽動而惑熒。

【惑營】3ワクエイ まどふ。惑熒。〔淮南子、齊俗訓〕有二以自見一也、則不レ失二物之情一、無二以自見一、則動而惑營。

【惑易】4ワクエキ まどふ。まどうて本性を失ふこと。〔韓非子、內儲說下〕燕人其妻有三私通二於士一、其夫早自レ外而來、士適出、夫曰、何客也、其妻曰、無レ客、問二左右一、左右言レ無レ有、如レ出二一口一、其妻曰、公惑易也、因浴レ之以二狗矢一。

【惑疑】5ワクギ まどひうたがふ。まどふ。疑も、まどふ意。〔張衡、東京賦〕咸池不レ齊二度於䵷咬一、而衆聽者惑疑。

【惑愚】6ワクグ 愚者をまどはす。〔呂覽、不屈〕察而以飾レ非惑レ愚。

【惑蠱】7ワクコ まどはす。蠱もまどはす意。〔左氏、昭、元〕淫則生二內熱惑蠱之疾一。〔後漢書、崔瑗傳〕中常侍江京・陳達等、得下以二嬖寵一惑中蠱先帝上。

【惑誤】8ワクゴ まどはしあやまらせる。〔楚辭、九章、昔往日〕蔽二晦君之聰明一兮、虛惑誤又以欺。

【惑志】9ワクシ 心をまどはす。又、まどふ心。まよひ。疑ふ心。うたがひ。疑心。〔論語、憲問〕夫子固有三惑二志於公伯寮一。〔班固、東都賦〕以變二子之惑志一。

【惑疾】10ワクシツ 心の惑亂する病氣。〔左氏、襄、二十四〕不レ然其有二惑疾一、將レ死而憂也。〔左氏、昭、元〕晦淫惑疾、明淫心疾。〔注〕晦、夜也、爲二宴寢過一レ節、則心惑亂也。

【惑主】11ワクシユ 心のまどうた主君。迷君。暗主。〔呂覽、本生〕今世之惑主、多レ官而反以害レ生。

【惑衆】12ワクシユウ ❶衆人をまどはす。〔素書〕無下使三辯士談二說敵美一、爲中其惑上衆。❷心のまどつた衆人。〔梁簡文帝、菩提樹頌序〕涅槃寶棹、接二惑衆於背流一。

【惑術】13ワクジユツ 人をまどはすわざ。妖術。〔韓非子、忠孝〕恍惚之言、恬淡之學、天下之惑術也。

【惑心】14 huo⁴ hsin¹ 疑惑。疑ふ。

【惑世】15ワクセイ 世をまどはす。〔書、舜典、流二共工于幽洲一、傳〕象恭滔レ天、足二以惑一レ世。〔德川齊昭、弘道館記〕異端邪說、誣レ民惑レ世。

【惑星】16ワクセイ 天文學用語。一處に定住しないで常に其の位置を變へる星。卽ち太陽を中心として其の周圍を旋行する天體。現在知られてゐる大きな惑星は水星・金星・地球・火星・木星・土星・天王星・海王星・冥王星の九。運行に順行・逆行・留の現象があり、行先を惑ふやうに見えるから名づける。遊星。行星。恒星(**4**－**10527**：〔84〕)の對。

【惑說】17ワクセツ 衆をまどはす說。

【惑箭】18ワクセン まどひ。人間のまどひを箭に喩へていふ。〔白居易、唐東都奉國寺禪德大師照公塔銘序〕裂二疑網一拔二惑箭一。

【惑溺】19ワクデキ ❶まよひおぼれる。〔日本政記、孝謙天皇論〕惑二溺婦言一。❷世說新語の篇名。

【惑惱】20ワクナウ まよひなやむ。〔梁簡文帝、爲レ人作二造寺一疏〕四纏惑惱去二善源一。

【惑忘】21ワクバウ まよひ忘れる。〔韻府引、韓愈、文〕以瞻以儀、俾レ不二惑忘一。

【惑繆】22ワクビウ まよひあやまる。まよふ。〔日本政記、後醍醐天皇論〕苟執二其初心一、無レ所二惑繆一。

【惑婦】23ワクフ 人をまどはす婦人。〔楚辭、天問〕殷有二惑婦一何所レ譏。

【惑蔽】24ワクヘイ 心がおほはれてまどふこと。暗愚なこと。〔論衡、程材〕惑蔽闇昧。

【惑亂】25ワクラン まどはし亂す。又、まどひ亂れる。又、まどひ。みだれ。〔左氏、昭、元〕淫溺惑亂之所レ生也。〔戰國、秦策〕比干忠不レ能レ存レ殷、子胥智不レ能レ存レ吳、申生孝而晉惑亂。〔莊子、繕性〕民始惑亂。〔韓非子、南面〕人主釋レ法而以レ臣備レ臣、則相愛者比周而相譽、相憎者朋黨而相非、非譽交爭、則主惑亂矣。〔淮南子、俶眞訓〕滑レ心濁レ神、而惑二亂其本一矣。〔史記、秦始皇紀〕今諸生不レ師レ今而學レ古、以非二當世一、惑二亂黔首一。

【惑弄】26 huo⁴ lung⁴ 愚弄する。

【惑惑】27ワクワク まどふさま。心のくらむさま。〔漢書、賈誼傳〕衆人惑惑、好惡積レ意。〔說苑、敬愼〕衆人惑惑、我獨不レ從。

【解レ惑】28マドヒヲトク 心のまどひを解き除く。〔韓愈、師說〕古之學者必有レ師、師者所二以傳レ道授レ業解一レ惑也。

【惑二惑三】29 huo⁴ êrh⁴ huo⁴ san¹ 躊躇して決心できぬこと。

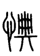
【惒】10790 ワ

和(**2**－**3490**)の俗字。〔正字通〕惒、俗和字。

【悡】10791 リ

𢡃(**4**－**11414**)に同じ。〔集韻〕𢡃、或省。

【㥏】10792 テン 〔集韻〕他典切 銑 ㄊㄧㄢˇ t'ien³


小篆

❶**はぢる**。〔說文〕㥏、青・徐謂レ慙曰レ㥏、从レ心典聲。〔方言、六〕㥏、慙也、荊・揚・青・徐之閒、謂レ慙曰レ㥏。❷或は睓(**8**－**23413**)に作る。〔集韻〕㥏、或作レ睓。

【㥏愧】1 t'ien³ k'uei⁴ はぢる。赤面する。

【㥏㥏】2 t'ien² t'ien³ はにかむ。はづかしがる。

【㥏墨】3テンボク 恥ぢて顏色の黑くなること。睓嘿。〔左思、魏都賦〕先生之言未レ卒、吳蜀二客、矆然相顧、瞻焉失レ所、有二靦瞢容一、神蘂形茹、弛レ氣離レ坐、㥏墨而謝。〔注〕向曰、㥏墨、面色變レ墨而慙也。

【⿰忄囷】10793

㈠キン　〔篇海〕區鈞切　眞
㈡クン グン　〔篇海〕巨運切　問

㈠㈡つかれうむ。〔篇海〕⿰忄囷、勞倦也。

參考 段玉裁は、說文の⿰忄囷に作るを以て誤りとし、悃字に訂正し、悃字をまごころの意に解する。悃(4−10625)の參考を見よ。

【⿱巷心】10794

カウ　〔集韻〕赫巷切　絳

心がはやる。⿱巷心憧。〔集韻〕⿱巷心、⿱巷心憧、志氣凌突。

【惓】10795

㈠ケン ゲン　〔集韻〕逵員切　先　ㄑㄩㄢˊ ch'üan²
㈡ケン ゲン　〔集韻〕逵眷切　霰

㈠❶はげしい。〔淮南子、人間訓〕病者已惓。〔注〕惓、劇也。❷つつしむ。惓惓。〔集韻〕惓、惓惓、謹也。❸ねんごろ。〔正字通〕惓、懇切也。㈡❶うむ。つかれる。倦(1−788)に同じ。〔集韻〕倦、說文、罷也、或作㆑惓。❷もだえる。〔玉篇〕惓、悶也。

【惓惓】1 ケンケン　ねんごろなさま。眞心を盡すさま。又、眞心を盡すこと。〔集韻〕惓、惓惓、謹也。〔宋玉、神女賦〕褰㆓余幬㆒而請㆑御兮、願㆓盡㆑心之惓惓㆒。〔注〕良曰、惓惓、盡㆑心貌。〔漢書、劉向傳〕忠臣雖㆑在㆓畎畝㆒、猶不㆑忘㆑君、惓惓之義也。〔注〕師古曰、惓惓、忠謹之意、惓、讀與㆑拳同。〔列女傳、辯通、齊威虞姬傳〕惓惓之心、冀幸補㆓一言㆒。〔論衡、明雩〕故共㆓馨香㆒、奉㆓進旨嘉㆒、區區惓惓、冀㆑見㆓荅享㆒。

【悆】10796

エン　愆(4−10836)の譌字。〔正字通〕悆、古文愆字之譌。

【⿰忄券】10797

ケン　倦(1−788)に同じ。〔正字通〕⿰忄券、同㆑倦。

【⿰忄肴】10798

カウ ゲウ　〔集韻〕何交切　肴

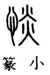
やぶさか。〔集韻〕⿰忄肴、悋也。

【⿰忄穹】10799

キュウ　悺(4−10991)の譌字。〔正字通〕⿰忄穹、悺字之譌。

【惔】10800

㈠タン　〔集韻〕他甘切　覃　ㄊㄢˊ t'an²
㈡テン ネン　〔集韻〕尼占切　鹽
㈢エン　〔集韻〕于廉切　鹽
㈣タン ダン　〔集韻〕徒濫切　勘
㈤ケン　〔集韻〕謙琰切　琰


小篆

㈠㈡㈢❶うれへる。〔說文〕惔、憂也、从㆑心炎聲、詩曰、憂心如㆑炎。❷やく。炎(7−18910)に通ず。〔詩、小雅、節南山〕憂心如㆑惔。〔傳〕惔、燔也。〔釋文〕惔、韓詩作㆑炎。〔詩、大雅、雲漢〕如㆑惔如㆑焚。〔傳〕惔、燎㆑之也。〔後漢書、章帝紀〕如㆑炎如㆑焚。㈣うごく。又、やすらか。倓(1−768)・憺(4−11305)に通ず。〔說文通訓定聲〕惔、叚借爲㆑倓、爲㆑憺。〔集韻〕憺、動也、一曰、安、或从㆑炎、从㆑人。〔一切經音義、十六〕惔、恬也。〔莊子、列禦寇〕以㆓恬惔㆒爲㆑上者。㈤うらむ。〔集韻〕惔、恨也。

【惔焚】1 タンフン　やく。旱魃のはげしい形容。〔詩、大雅、雲漢〕旱魃爲㆑虐、如㆑惔如㆑焚。〔傳〕惔、燎㆑之也。〔李商隱、賽㆓城隍神㆒文〕果成㆓飃汪㆒、以救㆓惔焚㆒、敢悋㆓斯牲㆒、用報㆓嘉種㆒。

【恴】10801

㈠オウ ウ　〔集韻〕烏侯切　尤
㈡イウ

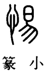
㈠うれへる。〔集韻〕恴、愁也。㈡恴(4−10934)に同じ。〔說文長箋〕恴、與㆑恴同。

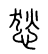
【⿱辰心】10802

ジョク　辱(10−38686)に同じ。〔正字通〕⿱辰心、同㆑辱。

【惕】10803

テキ チャク　〔集韻〕他歷切　錫　ㄊㄧˋ t'i⁴


小篆


或體

❶つつしむ。〔說文〕惕、敬也、从㆑心易聲。〔鈕樹玉、說文校錄〕李注文選射雉賦、及一切經音義卷五引、並作㆓驚也㆒、玉篇注㆓憂也、疾也、懼也㆒、亦與㆑驚義合。❷おそれる。〔易、乾〕夕惕若。〔釋文〕惕、懼也。〔左氏、襄、二十二〕無㆓日不㆑惕。〔注〕惕、懼也。❸おどろく。おぢる。〔張衡、東京賦〕猶怵㆓惕於一夫㆒。〔注〕綜曰、惕、驚也。❹うれへる。〔易、小畜〕血去惕出。〔虞注〕惕、憂也。❺はやい。〔易、小畜〕有㆑孚惕出。〔荀注〕惕、疾也。〔國語、吳語〕一日惕、一日留。〔注〕惕、疾也。❻いつくしむさま。惕惕(21)を見よ。❼或は悐(4−10651)・⿱惕心(4−11283)・⿱偒心(4−11068)に作る。〔集韻〕惕、或从㆑狄、亦作㆓⿱惕心・⿱偒心㆒。❽古は惖(4−10804)に作る。〔集韻〕惕、古書作㆑惖。❾錫(11−40573)に通ず。〔易、夬〕惕號。〔釋文〕惕、荀翟本作㆑錫。

參考 愓(4−10936)は別字。〔字彙、辨似〕二字相似、惕、音剔、怵惕、憂也、愓、音宕、放縱也、又音商、直視皃。

【惕菴】1 テキアン　字號。❶清、湯來賀(7−17874‥212)の號。❷清、張甄陶(4−9812‥995)の號。❸清、陳玉澍(11−41698‥756)の字。❹清、王熙震(7−20823‥1293)の號。

【惕盦】2 テキアン　清、王熙震(7−20823‥1293)の字。

【惕隱】3 テキイン　官名。遼、置く。宗正をいふ。皇族の政教を掌る。清代は特里袞といふ。〔遼史、百官志一〕大惕隱司、太祖置、掌㆓皇族之政教㆒。

【惕園】4 テキエン　字號。❶清、陳庚煥(11−41698‥697)の號。❷清、李元振(6−14459‥1169)の號。❸清、凌之調(2−1669‥137)の號。

【惕翁】5 テキヲウ　清、趙御衆(10−37171‥471)の號。

【惕號】6 テキガウ　恐れて泣きさけぶ。〔易、夬〕九二、惕號、莫夜有㆑戎、勿㆑恤。

【惕兢】7 テキキョウ　おそれる。〔韻府引、顧清、詩〕六飛南巡知㆓近遠㆒、爲㆑感歲時還惕兢。

【惕懼】8 テキク　おそれる。又、おそれ。〔易、乾、夕惕若、疏〕雖㆑至㆓於夕㆒、恆懷㆓惕懼㆒。〔呂覽、愼大〕湯乃惕懼、憂㆓天下之不㆑寧。

【惕齋】9 テキサイ　字號。❶清、向璿(2−3301‥59)の號。❷清、厲秀芳(2−3041‥74)の字。❸清、王節(7−20823‥690)の號。❹中村之欽の號。中村惕齋(1−73‥563)を見よ。

【惕想】10 テキサウ　おそれ思ふ。〔李白、獻㆓從叔當塗宰陽冰㆒詩〕惕想結㆓宵夢㆒、素心久已冥。

【惕若】11 テキジャク　❶おそれつつしむさま。若は、形容の意を示す助辭。〔易、乾〕君子終日乾乾、夕惕若、厲无㆑咎。〔潘岳、藉田賦〕今聖上昧旦丕顯、夕惕若慄。❷明、楊家龍(6−15112‥445)の字。

【惕悚】12 テキショウ　おそれつつしむ。悚惕。

【惕森】13 テキシン　民國、顧實(12−43689‥92)の字。

【惕生】14 テキセイ　民國、顧實(12−43689‥92)の字。

【惕懾】15 テキセフ　おそれる。懾も、おそれる。〔沈遼、德相惠㆓新茶㆒復次㆓前韻㆒奉謝詩〕至尊所㆓虛佇㆒、守臣方惕懾。

【惕喘】16 テキゼン　おそれあへぐ。おそれをののいて氣息のあらいこと。〔樊衡、破㆓契丹㆒露布〕惕喘窮㆑帳、烈火既焚。

【惕然】17 テキゼン　おぢおそれるさま。惴惴。〔列子、黃帝〕惕然震悸矣。〔管子、輕重乙〕桓公惕然大息。

〔晏子、雜、上〕公汗出惕然。〔說苑、指武〕吳起惕然曰、尙可レ更乎。〔嵆康、與二山巨源一絕レ交書〕惕然不レ喜。

【惕息】18 テキソク おそれて氣息がはずむ。惕喘。〔漢書、司馬遷傳〕當二此之時一、見二獄吏一則頭槍レ地、視二徒隸一則心惕息。〔注〕師古曰、惕、懼也、息、喘息也。〔揚雄、長楊賦〕不二敢惕息一。〔注〕濟曰、惕息、疾喘息也。〔宋史、陳恕傳〕大發二羣吏姦贓一、坐二徒流停廢一者甚衆、郡內惕息。

【惕怵】19 テキチュツ おそれる。驚きおそれる。怵も、おそれる。怵惕。〔枚乘、七發〕惕惕怵怵、臥不レ得レ瞑。〔注〕良曰、怵・惕、驚貌。

【惕墜】20 テキツイ おそれて氣おちする。おそれて志氣が沮喪する。〔梁肅、述初賦〕才輕惕墜、而不二敢寧一也。

【惕惕】21 テキテキ ❶おそれるさま。又、驚くさま。不安のさま。〔國語、楚語上〕豈不レ使二諸侯之心惕惕焉一。〔注〕惕惕、懼也。〔說苑、談叢〕惕惕之心不レ可レ長也。〔白居易、續虞人箴〕業業惕惕。〔枚乘、七發〕惕惕怵怵、臥不レ得レ瞑。〔注〕良曰、怵・惕、驚貌。❷愛するさま。〔爾雅、釋訓〕惕惕、愛也。❸憂へるさま。〔詩、陳風、防有鵲巢〕誰侜二予美一、心焉惕惕。〔傳〕惕惕、猶二忉忉一也。〔陳奐傳疏〕惕惕、亦憂勞之意、故云下猶二忉忉一也上、云云、爾雅、惕惕、愛也、郭注云、詩云、心焉惕惕、韓詩以爲レ說レ人、故言レ愛也、案、愛者謂レ愛レ君、君受二讒賊所一レ誑、故君子憂勞之心惕惕然、爾雅釋二經義一、毛傳釋二字義一也。

【惕甫】22 テキホ 淸、王芑孫(**7－20823**··1284)の號。

【惕慄】23 テキリツ おそれふるへる。おそれをののく。〔墨子、尙同中〕擧二天下之人一、皆恐懼振動惕慄、不三敢爲二淫暴一。〔韓愈、河南府同官記〕羣臣惕慄奉レ職。

【惕慮】24 テキリョ おそれおもんぱかる。おそれかんがへる。〔張說、對二詞摽文苑科一策〕惕慮推レ溝、勞謙馭レ朽。〔孟郊、石淙詩〕愜懷雖二已多一、惕慮未レ能レ整。

【惕龍】25 テキリョウ 明、陳龍正(**11－41698**··1308)の字。

【惕厲】26 テキレイ おそれあやぶむ。君子がおそれ危んで身を修めること。〔易、乾〕君子終日乾乾、夕惕若、厲无レ咎。〔疏〕夕惕者、謂下終二竟此日一後、至二向レ夕之時一、猶懷中憂惕上、若厲者、若、如也、厲、危也。〔本義〕性體剛健、有二能乾乾惕厲之象一、故其占如レ此、言下能憂懼如レ此、則雖レ處二危地一、而无上レ咎也。〔解故〕漢唐以來、皆以二厲字一絕レ句、至二宋儒一始屬レ下讀。〔後漢書、明德馬皇后紀〕日夜惕厲、思二自降損一、居不レ求レ安、食不レ念レ飽。

【惖】10804

［一］テキ チャク 〔集韻〕他歷切 錫
［二］コツ コチ 〔篇海〕呼骨切 月

［一］**つつしむ**。惕(**4－10803**)の古字。〔集韻〕惕、說文、敬也、古作レ惖。［二］**明か**。〔篇海〕惖、明也。

【㥒】10805

［一］サイ 〔集韻〕此宰切 賄
［二］サイ 〔集韻〕倉來切 灰

小篆

［一］❶**かたましい**。心がねぢけてゐる。〔說文〕㥒、姦也、从レ心采聲。❷**うらむ**。〔廣雅、釋詁四〕㥒・忦、恨也。❸**きびしい**。〔玉篇〕㥒、急也。［二］**うらみそこなふ**。猜(**7－20499**)に同じ。〔集韻〕猜、說文、恨賊也、或作レ㥒。

【惗】10806

［一］デフ ネフ 〔集韻〕諾叶切 葉
［二］セン 〔廣韻〕私箭切 霰

［一］［二］❶**いつくしむ**。〔玉篇〕惗、愛也。❷**おもふ**。聲をひそめて追念する。〔玉篇〕惗、暗聲憶也。〔廣韻〕惗、相憶。〔集韻〕惗、思也。

【㥓】10807

［一］キ 〔集韻〕丘奇切 支
［二］キ 〔集韻〕去倚切 紙

［一］［二］❶**心がけはしい**。あやぶむ。㦚㥓。〔玉篇〕㥓、㦚㥓、險急、又儉意也。❷**うすい**。〔集韻〕㥓、㦚㥓、儉意。〔集韻考正〕㥓、儉、類篇作レ儉、儉訓レ薄、亦訓二苟且一、與レ儉意義同。

【㥔】10808

ワウ 〔集韻〕于放切 漾

わるがしこい。〔方言、十二〕㥔、獪也。

【惘】10809

バウ マウ 〔集韻〕文紡切 養 ㄨㄤˇ wang^3

ぼんやりする。茫然自失する。〔集韻〕惘、惘儆、失レ志。〔正字通〕惘、悵然失レ志貌。〔潘岳、西征賦〕惘輟レ駕而容與。〔注〕善曰、惘、猶レ罔、罔、失レ志之貌也。邦**あきれる**。事の意外なのに驚く。驚いて心を奪はれる。

【惘焉】1 マウエン うつとりするさま。〔後漢書、邊讓傳〕惘焉若レ酲、撫レ劍而歎。

【惘失】2 マウシツ うつとりして物事を忘れること。

【惘然】3 マウゼン うつとりとするさま。ぼんやりするさま。罔然。惘惘。〔江淹、無錫縣歷山集詩〕酒至情蕭瑟、憑レ尊還惘然。〔李商隱、錦瑟詩〕此情可レ待レ成二追憶一、只是當時已惘然。〔資治通鑑、齊紀〕(和帝、中興元年)禧奴惘然而返。〔注〕惘然、失レ志貌。〔蘇軾、與二謝民師推官一書〕惘然如二隔世人一。

【惘惘】4 マウマウ ❶ぼんやりするさま。罔罔。〔莊子、庚桑楚〕若規規然、若下喪二父母一揭レ竿而求中諸海上也、汝亡人哉、惘惘乎。〔晉書、荀勖傳〕及レ爲二尙書令一、甚罔罔悵悵。〔韓愈、送二殷員外一序〕出レ門惘惘、有二離別可レ憐之色一。❷あわてるさま。〔楚辭、九章、悲回風〕撫二珮衽一以案レ志兮、超惘惘而遂行。〔注〕失レ志偟遽而直逝也。

【惙】10810

［一］テツ テチ 〔集韻〕株劣切 屑 ㄔㄨㄛˋ ch'uo^4
［二］テイ 〔集韻〕丑芮切 霽

小篆

［一］❶**うれへる**。〔說文〕惙、𢝊也、从レ心叕聲、詩曰、憂心惙惙。〔後漢書、梁鴻傳〕心惙怛兮傷悴。〔注〕惙怛、憂也。❷**こころがさだまらない**。〔說文〕惙、一曰、意不レ定也。❸**つかれる**。〔集韻〕惙、一曰、疲也。〔唐書、丁公著傳〕貌力癯惙。❹**やめる**。とめる。輟(**10－38374**)に通ず。〔說文通訓定聲〕惙、叚借爲レ輟。〔莊子、秋水〕匡人圍レ之數匝、而弦歌不レ惙。〔釋文〕惙、本亦作レ輟。［二］**きおちする**。志氣沮喪する。〔集韻〕惙、短氣皃。〔一切經音義、四〕惙、短氣貌。

【惙怛】1 テツダツ うれへかなしむ。忉怛。〔後漢書、逸民、梁鴻傳〕心惙怛兮傷悴。〔注〕惙怛、憂也。

【惙惙】2 テツテツ うれへて心定まらぬさま。忡忡。〔詩、召南、草蟲〕未レ見二君子一、憂心惙惙。〔傳〕惙惙、憂也。〔晏子、重而異者〕晏子起舞曰、歲已暮矣、而禾不レ穫、忽忽矣、若レ之何、歲已寒矣、而役不レ罷、惙惙矣、如レ之何、舞三而涕下沾レ襟。〔淮南子、原道訓〕其爲レ懽不二忻忻一、其爲レ悲不二惙惙一。

【惚】10811

コツ コチ 〔集韻〕呼骨切 月 ㄏㄨ hu^1

❶**うつとりする**。自失する。〔集韻〕惚、怳惚、失レ意。〔字彙〕惚、恍惚、失レ意也。〔蜀志、劉琰傳〕琰失レ志慌惚。❷**ほのか**。かすか。不測の境。微妙。〔老子、二十一〕惟

恍惟惚。❷忽（4－10405）に通ず。〔禮、祭義〕夫何恍惚之有乎。〔釋文〕惚、本亦作レ忽。国ほれる。戀慕する。

【惚焉】1（コツエン） うつとりするさま。自失するさま。〔禮、問喪〕心悵焉、愴焉、惚焉、愾焉。〔集解〕其心悵恨悽愴、恍惚愾歎。

【惚氣】2（ノロケ） 自分と情人との、或は夫婦間の痴事を誇り顔に人に話すこと。

〔惚氣話〕3（ノロケバナシ） のろけの談話。

【惚怳】4（コツクワウ） ❶われを忘れてうつとりするさま。恍惚。〔法言、問神〕神心惚怳。〔潘岳、寡婦賦〕意惚怳以遷越兮、神一夕而九升。〔注〕銑曰、言ニ意迷亂、遷越不一レ定。❷かすかなさま。奥深くて測られぬさま。〔木華、海賦〕廓如靈變、惚怳幽暮。〔注〕翰曰、靈物變化、惚怳不レ明。

【惚恍】5（コツクワウ） かすかなさま。惚怳の❷に同じ。〔老子、十四〕是謂ニ惚恍一。〔注〕不レ可ニ得而定一也。〔夏侯湛、東方朔畫贊〕此又奇怪惚恍、不レ可ニ備論一者也。〔注〕良曰、惚恍、謂ニ幽微一也。〔潘岳、西征賦〕古往今來、邈矣悠哉、寥廓惚恍、化ニ一氣一而甄ニ三才一。〔注〕善曰、寥廓惚恍、未レ分之貌也。

【惚惚】6（コツコツ） ぼうつとしてゐるさま。はつきりしないさま。〔六韜、龍韜、選將〕有ニ恍恍惚惚而反忠實者一。

【惛】 10812

㊀コン 〔集韻〕呼昆切 元 ㄏㄨㄣ huen¹

㊁ビン ミン 〔集韻〕弭盡切 軫

㊂コン 〔集韻〕虎本切 阮

㊃コン 〔集韻〕呼困切 願

㊄ボン モン 〔集韻〕莫困切 願

小篆

㊀❶**おろか。くらい。**心があきらかでない。さとらぬ。〔說文〕惛、不レ憭也、从レ心昏聲。〔廣雅、釋詁三〕惛、癡也。〔廣韻〕惛、不レ明。〔戰國、秦策〕皆惛ニ於教一。〔注〕惛、不レ明也。〔漢書、劉向傳〕臣甚惛焉。〔注〕師古曰、惛、謂三不レ了レ言、惑ニ於此事一也。❷**まよふ。**〔列子、黃帝〕以ニ黃金一摳者惛。〔注〕惛、迷惛也。❸**みだれる。**怋（4－10428）に同じ。〔集韻〕怋、說文、怓也、或作レ惛。〔大戴禮、曾子立事〕怒レ之而觀ニ其不一レ惛也。〔注〕惛、亂也。❹**かまびすしい。**惛怓（8）を見よ。❺**かすか。**不明瞭。〔莊子、知北遊〕惛然若レ亡而存。❻昏（5－13806）に通ず。〔左氏、文、元、誦言如レ醉、注〕惛亂之君。〔釋文〕惛、本亦作レ昏。❼惽（4－10875）に同じ。〔正字通〕惽、同レ惛。㊁**かすか。**不明瞭。㊀の❺に同じ。〔集韻〕惛、昏意、莊子、惛然若レ亡而存。㊂❶**おろか。**㊀の❶に同じ。〔集韻〕惛、惛懣、不レ憭也。❷**はやいさま。すみやかなさま。**惛懣（17）を見よ。㊃❶**ぼける。**〔廣韻〕惛、迷忘也。❷**おろか。**㊀の❶に同じ。〔集韻〕惛、不レ憭也。㊄**もだえる。**悶（4－10729）に同じ。〔集韻〕悶、說文、懣也、或作レ惛。〔呂覽、本性〕上爲ニ天子一而不レ驕、下爲ニ匹夫一而不レ惛。〔注〕惛、讀ニ憂悶之悶一、義亦然也。〔後漢書、張衡傳〕不レ見レ是而不レ惛。〔注〕惛、猶レ悶也、易曰、不レ見レ是而無レ悶。

【惛憂】1（モンイウ） もだえうれへる。〔晏子、問、上〕荊楚惛憂、莫レ不ニ賓服一。

【惛愚】2（コング） 心がくらくおろかなこと。〔管子、四稱〕寡人幼弱惛愚、不レ通ニ諸侯四鄰之義一。

【惛憒】3（コンクワイ） 心がくらくなり亂れること。心がぼけること。憒は、みだれる。〔風俗通、十反〕倀年且ニ九十一、足ニ以惛憒一。

【惛怳】4（コンクワウ） くらくぼんやりする。かすかになりぼける。〔梁書、陸雲公傳〕識慮惛怳、久絕ニ人世一。

【惛惛】5（コンコン） ❶おしだまつて心を用ひることが專一なこと。〔荀子、勸學〕無ニ冥冥之志一者、無ニ昭昭之明一、無ニ惛惛之事一者、無ニ赫赫之功一。〔注〕冥冥・惛惛、皆專默精誠之謂也。❷くらいさま。心がくらくおろかなさま。〔韓非子、揚權〕脣乎齒乎、吾不レ爲レ始乎、齒乎脣乎、愈惛惛乎。〔管子、四時〕五漫漫、六惛惛、孰知レ之哉。〔注〕惛惛、微暗貌。〔史記、酷吏、楊僕傳〕居レ廷惛惛不レ辯、至ニ於中尉一則心開。❸亂れるさま。〔廣雅、釋訓〕惛惛、亂也。❹（モンモン）もだえみだれるさま。〔楚辭、九辯〕邅翼翼而無レ終兮、忳惛惛而愁約。〔注〕憂心悶瞀、自約束也。

【惛然】6（コンゼン ビンゼン） くらいさま。かすかなさま。亂れるさま。〔戰國、燕策〕太子丹曰、太傅之計、曠レ日彌レ久、心惛然恐レ不レ能ニ須臾一。〔莊子、知北遊〕惛然若レ亡而存。

【惛俗】7（コンゾク） みだれた風俗。〔後漢書、陳蕃傳論〕論曰、桓靈之世、若ニ陳蕃之徒一、咸能樹ニ立風聲一、抗ニ論惛俗一。

【惛怓】8（コンダウ） ❶大いにみだれる。〔詩、大雅、民勞〕無レ縱ニ詭隨一、以謹ニ惛怓一。〔傳〕惛怓、大亂也。❷かまびすしい。〔詩、大雅、民勞、箋〕惛怓、猶ニ讙譁一也、謂ニ好レ爭者一也。

【惛癡】9（コンチ） おろか。道理にくらい。

【惛鈍】10 huen¹ tuen⁴ 愚か。

【惛憊】11（コンパイ） くらくてはつきりせぬ。〔荀子、賦篇〕往來惛憊、通ニ于大神一。〔注〕惛憊、猶ニ晦瞑一也。

【惛忘】12（コンバウ） 心がくらくなり物忘れすること。ぼけること。〔禮、曲禮上、八十九十曰レ耄、注〕耄、惛忘也。

【惛眊】13（コンバウ） 心がくらくなる。ぼける。眊も、くらい。〔上官儀、爲ニ劉弘基一請ニ致仕一表〕犬馬之齒、甲子已多、風雨之夕、惛眊日甚。

【惛耄】14（コンバウ） 老いぼれる。耄碌する。ぼける。耄は、おいぼれる。昏耄（5－13806‥111）に同じ。〔宋書、王敬弘傳〕顧惜惛耄、志與レ願違。

【惛瞀】15（コンボウ） くらい。おろか。又、道理から離れみだれる。瞀は、くらい・みだれる。昏瞀（5－13806‥104）に同じ。

【惛懵】16（コンボウ） くらいさま。目の明かに見えぬさま。〔魏志、文帝紀、注〕承問荒忽、惛懵哽咽。〔南史、謝莊傳〕眼患五月來、便不三復得ニ夜坐一、恒閉レ帷避レ風、晝夜惛懵。

【惛懣】17（コンマン） ❶心が暗いこと。おろか。〔集韻〕惛、惛懣、不レ憭也。❷はやいさま。〔韻會小補〕惛懣、忽疾貌。 「惛。

【惛迷】18（コンメイ） 道理にくらく迷ふこと。昏迷。 迷

【惛亂】19（コンラン） みだれる。〔晏子、問、下〕上惛亂、悳義不レ行、而邪辟朋黨。〔說苑、尊賢〕國家惛亂而良臣見。〔論衡、論死〕病死之微、猶ニ惛亂一。

【惰】 10813

ヰク 〔集韻〕余六切 屋

心うごく。むなさわぎ。〔集韻〕惰、心動也。

【惜】 10814

セキ シャク 〔集韻〕思積切 陌 ㄒㄧ hsi¹·²

小篆

❶**をしむ。**㋑いたむ。もと惜に作る。〔正字通〕惜、本作レ惜。〔說文〕惜、痛也、从レ心昝聲。〔陸機、歎逝賦〕惜ニ此景之屢戢一。〔注〕善曰、賈逵國語注曰、惜、痛也。㋺かなしむ。〔楚辭、賈誼、惜誓、章句〕惜者、哀也、誓者、信也、約也、言三哀ニ惜懷王與レ己信約、而復背レ之也。㋩めでる。愛する。大切にする。〔廣雅、釋詁一〕惜、愛也。〔呂覽、長利〕我國士也、爲ニ天下一惜レ死。〔注〕惜、愛也。〔陳書、姚察傳〕卿宜ニ自惜一。㋥むさぼる。〔集韻〕惜、一曰、貪也。〔楚辭、九章、惜誦〕惜レ誦以致レ愍兮。〔注〕惜、貪也。〔後漢書、光武紀〕諸將貪ニ惜貨財一。㋭あはれむ。〔增韻〕惜、憐也。❷**をしい。いたましい。**〔論語、子罕〕子謂ニ顏淵一曰、惜乎。〔史記、刺客、荊軻傳〕嗟乎惜哉。❸**をしみ。**〔孔武仲、龜右詩〕至珍只藉

天公惜。

【惜哀】1 セキアイ　をしみかなしむ。哀惜。

【惜愛】2 セキアイ　をしむ。大切にする。愛惜。

【惜陰】3 セキイン　光陰を惜しむ。時の過ぎゆくことを惜しむ。時間を大切にする。〔晉書、陶侃傳〕大禹聖者、乃惜二寸陰一、至二衆人一、當レ惜二分陰一。〔范咸、太陽合朔不虧賦〕遂使下皆仰之人、既無レ虞二於薄蝕一、惜陰之士、咸有上望二於再中一。

【惜陰軒】4 セキインケン　清の李錫齡(6−14459‥160)の室名。藏書九萬餘卷。其の中、世に稀なものを刻して、惜陰軒叢書と名づけた。惜陰軒叢書を見よ。

〖惜陰書屋〗5 セキインショヲク　龜谷行の號。龜谷省軒(12−48847‥164)を見よ。

〖惜陰軒叢書〗6 セキインケンソウショ　叢書の名。正編百三十九卷。續編二十一卷。清、李錫齡編。正編の目は、第一・二冊、授經圖義例二十卷(明、朱睦㮮)。第三・四冊、學易記五卷(明、金賁亨)。第五・六冊、北溪字義二卷・嚴陵講義一卷(宋、陳淳)。第七・八冊、元城語錄解三卷・附行錄一卷(明、王崇慶)。第九—十六冊、宋四子鈔釋二十卷(明、呂柟)。第十七—二十冊、唐語林八卷(宋、王讜)。第二十一—二十四冊、兩山墨談十八卷(明、陳霆)。第二十五—二十八冊、正蒙會稿四卷(明、劉璣)。第二十九・三十冊、京畿金石攷二卷(清、孫星衍)。第三十一—三十二冊、雍州金石記十卷・餘一卷・記餘(清、朱楓)。第三十三・三十四冊、見物五卷(明、李蘇)。第三十五—三十八冊、東西洋考十二卷(明、張燮)。第三十九・四十冊、陳紀四卷(明、何良臣)。第四十一—四十六冊、楚辭補注十七卷(宋、洪興祖)。第四十七・四十八冊、書法離鉤十卷(明、潘之淙)。續篇は明の呂柟の諸著を輯む。第一—三冊、涇野先生周易說翼三卷。第四・五冊、尚書說要五卷。第六・七冊、涇野先生毛詩說序六卷。第八・九冊、春秋說志五卷。第十冊、涇野先生禮問二卷。

【惜景】7 セキエイ　光陰を惜しむ。惜陰。〔王僧孺、祭二禹廟一文〕輕レ璧惜レ景、既捨二冠履一。

【惜花】8 セキクワ　花の散るのを惜しむ。〔常袞、登二棲霞寺一詩〕待レ月水流急、惜レ花風起頻。〔白居易、日長詩〕愛レ水多レ棹舟、惜レ花不レ掃レ地。

【惜恨】9 セキコン　惜しみ悲しむ。〔李商隱、腸詩〕有レ懷非二惜恨一、不下奈二寸腸一何上。

【惜歲】10 セキサイ　年の暮れるのををしむ。〔唐詩紀事、牛僧孺〕惜レ歲歲今盡、少年應レ不レ知。

【惜死】11 セキシ　死ををしむ。❶自分の命を大切にする。〔呂覽、長利〕我國士也、爲二天下一惜レ死、子不肖人也、不レ足レ愛也。〔注〕惜、愛也。〔李陵、答二蘇武一書〕子卿視レ陵、豈偸レ生之士、而惜レ死之人哉。〔宋史、岳飛傳〕文臣不レ愛レ錢、武臣不レ惜レ死、天下平矣。❷人の死ををしみいたむ。

【惜傷】12 セキシヤウ　をしみいたむ。〔漢書、馮奉世傳〕姊弟不二敢自惜傷一、無三以見二先人於地下一。

【惜春】13 セキシユン　春を惜しむ。春の過ぎゆくのを惜しむ。〔薛能、惜春詩〕花開亦花落、時節暗中遷。〔溫庭筠、惜春詞〕百舌問レ花花不レ語、低廻似レ恨橫塘雨。

〖惜春鳥〗14 セキシユンテウ　鳥の名。花果を摘む勿れと鳴くといふ。一名、護山鳥。〔海錄碎事、鳥獸、飛鳥〕惜春鳥、大不レ踰レ燕、其聲曰、莫レ摘二花果一、人謂二之護山鳥一。

〖惜春御史〗15 セキシユンギヨシ　唐代の官名。花を保護することを掌る。〔玉塵集〕穆宗每二宮中花開一、則以二重頂帳一蒙二蔽欄檻一、置二惜春御史一掌レ之、號曰二括春一。〔雲仙雜記〕唐穆宗、宮中花開、則以二重頂張一蒙二蔽欄檻一、置二惜春御史一掌レ之、號曰二括香一。

【惜誦】16 セキシヨウ　楚辭、九章の篇名。其の首句に惜誦以致レ愍兮とあるから名づける。其の君を哀惜して之を誦する意。屈原が、忠信を以て君に事へたにも拘らず、讒邪に蔽はれて進退に窮したこと、及び衆善を采つて自ら身を處せんとの意を述べてゐる。〔楚辭、九章、惜誦、注〕此章言、已以二忠信一事レ君、可レ質二於明神一、而爲二讒邪所一レ蔽、進退不レ可、惟博采二衆善一、以自處而已。

【惜身】17 セキシン　身を大切にする。〔法華經、譬喩品〕若人精進常修二慈念一、不レ惜二身命一、乃可二爲說一。

【惜誓】18 セキセイ　楚辭の篇名。作者不明。或は賈誼の作といふ。惜は哀、誓は約・信。懷王が己との約に背いたことを哀惜してゐる。〔楚辭、賈誼、惜誓、章句〕惜誓者、不レ知二誰所一レ作也、或曰、賈誼、疑不レ能レ明也、惜者、哀也、誓者、信也、約也、言三哀二惜懷王與レ己信約而復背一レ之也、古者君臣將二共爲一レ治、必以二信誓一相約、然後言乃從、而身以親也、蓋刺二懷王有一レ始無一レ終也。

【惜錢】19 セキセン　金錢ををしむ。〔齊己、寄二顧處士一詩〕藍淀圖二花鳥一、時人不レ惜レ錢。

【惜念】20 hsi^1 nien^4　惜しむ。憐む。

【惜馬】21 セキバ　馬を出しかねる時に、かはりに錢を出すこと。〔福惠全書、郵政部、總論〕貼併之外、又需二惜馬一。

【惜抱】22 セキハウ　姚鼐(3−6202‥87)を見よ。〔姚瑩、姚先生鼐家狀〕嘉慶二十年九月、惜抱先生、卒二江寧鍾山書院一。

〖惜抱軒〗23 セキハウケン　清の姚鼐(3−6202‥87)の室名。

〖惜抱軒十種〗24 セキハウケンジツシユ　叢書の名。八十六卷。清、姚鼐撰。第一—四冊、惜抱軒文集十六卷。第五・六冊、惜抱軒文後集十卷。第七—十冊、惜抱軒法帖題跋三卷・惜抱軒詩集十卷・惜抱軒詩後集一卷・惜抱軒外集一卷。第十一・十二冊、惜抱軒筆記八卷。第十三—十六冊、五言今體詩鈔九卷・七言今體詩鈔九卷。第十七—十九冊、惜抱軒九經說十七卷。第二十冊、春秋三傳補注一卷・國語補注一卷。

〖惜抱軒筆記〗25 セキハウケンヒツキ　書名。八卷。清、姚鼐撰。經史子集四部の書の字句を摘錄して考證を施す。凡て經史各三卷、子集各一卷。〔惜抱軒十種、十一・十二〕。

〖惜抱軒文集〗26 セキハウケンブンシフ　書名。十六卷。後集十卷。詩十卷。清、姚鼐撰。文集の目は、論議一卷、考一卷、序二卷、跋尾・題辭共一卷、書一卷、贈序一卷、壽序一卷、策問一卷、傳一卷、碑文・墓表一卷、墓誌銘二卷、記一卷、賦一卷、祭文一卷。後集の目は、說・序共一卷、跋尾・題辭一卷、書一卷、壽・序一卷・傳・贊共一卷、碑文・墓表共一卷・墓誌銘三卷、記・祭文共一卷。詩集の目は、古體・近體各五卷。劉大魁の門に出でて巧力は遙かに之に過ぎ、其の文は簡古で迂餘蕩漾として、餘韻盡きず、其の詩は清雋で、晚年の作は頗る蘇軾に近い。〔惜抱軒十種、一—四〕・〔四部叢刊、一千七百五十九—六十三〕。

【惜閔】27 セキビン　をしみいたむ。をしみ悲しむ。〔漢書、劉歆傳〕此乃有識者之所二惜閔一、士君子之所二嗟痛一也。

【惜福】29 セキフク　享用が分に過ぎてはならないこと。足ることを知れと人に勸告する語。又、儉約すること。〔宋史、太祖紀〕又戒レ之曰、汝生二長富貴一、當レ念二惜福一。

〖惜福養身〗30 hsi^1 fu^2 yang^3 shen^1　受けるべきものを控目にして身のためにする。十分なのはよろしくない、九分で控へるのが身のため。

【惜別】31 セキベツ　わかれを惜しむ。離別の名殘を惜しむ。〔岑參、冬宵家會餞二李郞司兵赴二同州一詩〕惜レ別冬夜短、務レ歡杯行遲。〔杜甫、魏十四侍御就二敝廬一相別詩〕遠尋留二藥價一、惜レ別到二文場一。〔韋應物、送三姚孫還二河中一詩〕留レ思芳樹飲、惜レ別暮春暉。

【惜暮】32 セキボ　日の暮れるのを惜しむ。〔趙冬曦、三門賦〕猿惜レ暮而悲叫、鳥辭レ春而不レ鳴。

【惜命】33 セキメイ　いのちををしむ。惜身(17)を見よ。〔後漢書、寇榮傳〕固不下爲二明朝一惜中垂レ盡之命上。

【惜力】34 セキリヨク　力を大切にする。十分心して力を使ふ。〔韋昭、博奕論〕當世之士、宜下勉二思至道一、愛レ功惜レ力、以佐中明時上。

【惜吝】35 セキリン　をしむ。〔史記、越世家〕豈知三財所二從來一、故輕去レ之、非レ所二惜吝一。

【惜紅衣】36 セキコウイ　❶詞牌の名。❷曲牌の名。南曲では小石調正曲に入る。

【惜字會】37 セキジクワイ　字を書いた紙を粗末にせぬため組織した會。此の會では反古紙を集めて之を燒き棄てる。敬惜字紙會ともいふ。惜字紙を見よ。

【惜字紙】38 hsi^1 tzŭ^4 chih^3　反古紙を大切にすること。文字を尊重する舊習。

【惜樹齋】39 セキジユサイ　清、葉藩(9−31387‥119)の號。

【惜薪司】40 セキシンシ　官名。明、置く。內官四司の一。薪炭の事を掌る。〔續文獻通考、職官〕惜薪司、

掌印太監一人、總理・僉書・掌道・掌司・寫字・監工、及外廠・北廠・南廠・新南廠・新西廠、各設二僉書監工一、俱無二定員一、掌二所レ用薪炭之事一。

【惜千千】41 hsi^1 ch'en^1 ch'en^1　唐獨樂（タウゴマ）の一種。

【惜分齋】42（セキブンサイ）　清、徐良（**4－10110**・・310）の號。

【惜分飛】43（セキフンピ）　❶詞牌の名。惜雙雙・惜芳菲などともいふ。❷曲牌の名。南曲では小石調正曲に入る。

【惜墨法】44（セキボクハフ）　中國畫筆法の一。潑墨法と相對す。淡墨で畫く法の一。〔圖繪寶鑑〕郭信善二山水一、得二李成惜墨法一、氣象清曠。

【惜往日】45（セキワウジツ）　楚辭、九章の篇名。其の首句に惜二往日之曾信一兮とあるから名づける。屈原が、昔日は君の信任を受け、國も亦治に赴いたが、懷王が小人の言に惑ふに至つて、遂に放逐せられ、自ら明かにするに由なきを歎じて此の篇を作つた。〔楚辭、九章、惜往日、注〕此章言下已初見三信二任楚國一、幾二於治一矣、而懷王不レ知二君子小人之情狀一、以レ忠爲レ邪、以レ僭爲レ信、卒見二放逐一、無中以自明上也。

【惜烏先生】46（セキウセンセイ）　傳說上の蟲の名。蠶から想像したものであらう。〔齊民要術、桑〕括地圖曰、惜烏先生、避二世於芒尙山一、其子居焉、化レ民食レ桑三十七年、以レ絲自裹、九年生レ翼、九年而死、其桑長千仞、蓋蠶類也、去二琅琊一二萬六千里。

【惜香樂府】47（セキカウガフ）　書名。十卷。宋、趙長卿撰。〔四庫提要、集、詞曲類〕・〔宋名家詞、第三集〕。

【惜玉憐香】48（セキギョクレンカウ）　玉を愛し、香をいつくしむ。玉や香を愛する。玉・香は女子に喩へ、女色を愛好することをいふ。憐香惜玉。〔輟耕錄、妓聰敏〕歌妓順時秀、色藝超絕、教坊之白眉也、翰林學士王元鼎眷レ之、云云、中書參政阿魯温、尤屬レ意焉、因戲謂曰、我比二元鼎一如何、對曰、燮二理陰陽一、致レ君澤レ民、則學士不レ及二參政一、嘲レ風詠レ月、惜レ玉憐レ香、則參政不レ如二學士一。〔牡丹亭傳奇〕吾等萬紫千紅、正宜二他惜玉憐香一。

【惜道味齋】49（セキダウミサイ）　清、何紹基（**1－511**・・317）の號。

【惜皮愛肉】50 hsi^1 p'i^2 ai^4 jou^4　內氣な。柔弱な。

【惜分居笥記】51（セキフンキョサツキ）　書名。十二卷。石原愚者撰。漢文の隨筆。古典籍の傳來・蒐集等、書誌學に關する記事が多い。

【惜乎擊レ之不レ中】52（ヲシイカナコレヲウチテアタラズ）　宋の蘇舜欽が張良の傳を讀み、其の秦の始皇を狙擊して中らなかつたことを惜嘆した語。〔世說新語補、豪爽〕蘇子美、豪放不羈、好レ飲レ酒、在二外舅杜祁公家一、每夕讀レ書、以二一斗一爲レ率、公深以爲レ疑、密使レ覘レ之、子美讀二漢書張良傳一、至三良與レ客狙二擊秦皇帝一、撫レ掌曰、惜乎、擊レ之不レ中、遂滿二引一大白一、又讀至下良曰丙始臣起二下邳一、與レ上會二於留一、此天以授乙陛下甲、又撫レ案曰、君臣相遇、其難如レ此、復擧二一大白一、公笑曰、有二如レ此下物一、一斗不レ足レ多也。

【惝】10815

［一］シヤウ　〔集韻〕齒兩切　ㄔㄤˇ ch'ang^3　養
［二］タウ　〔集韻〕坦朗切　養

［一］❶**われをわすれる**。うつとりする。〔莊子、則陽〕客出、而君惝然若レ有レ亡也。〔釋文〕惝、字林曰、惘也。❷**おどろくさま**。⿰忄敞（**4－11208**）に同じ。〔集韻〕⿰忄敞、⿰忄敞怳、驚兒、或省。❸**がつかりするさま**。〔玉篇〕惝、惝怳、失レ志不レ悅兒。❹**ぼんやりする**。惝怳(1)の❸を見よ。［二］［一］の❶に同じ。或は儻（**1－1125**）に作る。〔集韻〕惝、惝然、惘也、或作レ儻。

【惝怳】1（シヤウキヤウ）　❶がつかりするさま。〔玉篇〕惝、惝怳、失レ意不レ悅兒。❷驚くさま。心の安らかでないさま。〔楚辭、遠遊〕步徙倚而遙思、怊惝怳而永懷。〔補注〕惝怳、驚兒。〔潘岳、寡婦賦〕怛驚悟兮無レ聞、超惝怳兮慟懷。〔謝朓、宣城郡內登望詩〕悵望心已極、惝怳魂屢遷。〔注〕惝怳、魂神不レ安兒。❸（シヤウクワウ）耳があきらかでない。ぼんやりするさま。〔楚辭、遠遊〕視儵忽而無レ見兮、聽惝怳而無レ聞。〔補注〕顏師古曰、惝怳、耳不レ諦也。

【惝恍】2（シヤウクワウ）　耳があきらかでない。又、⿰忄敞怳に作る。惝怳の❸に同じ。〔史記、司馬相如傳〕視眩眠而無レ見兮、聽惝恍而無レ聞。

【惝惝】3（シヤウシヤウ）　うつとりするさま。自失するさま。〔沈亞之、劉巖夫哀文〕魂魄惝惝。

【惝然】4（シヤウゼン）　我を忘れるさま。自失のさま。惝惘。〔莊子、則陽〕客出、而君惝然若レ有レ亡也。〔釋文〕惝、字林云、惘也。

【惝罔】5（シヤウマウ）　驚き自失するさま。惝惘。〔楚辭、嚴忌、哀時命〕悵惝罔以永思兮、心紆軫而增レ傷。〔補注〕惝、驚兒。

【惝惘】6（シヤウマウ）　驚き自失するさま。惝罔。〔風俗通、怪神〕惝惘良久。

【⿱泥心】10816

デイ ナイ　〔集韻〕乃計切　齊

心がやはらかでこまやか。〔集韻〕⿱泥心、心柔密也。

【⿱旦心】10817

カン

⿱旱心（**4－10644**）の譌字。〔康熙字典〕⿱旦心、按、篇海因二⿱旱心字一而譌。

【惞】10818

キン コン　〔集韻〕許斤切　文

よろこぶ。欣（**6－16008**）に同じ。〔集韻〕欣、說文、笑喜也、或作レ惞。

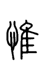
【⿰忄卑】10819

ハイ バイ　〔集韻〕蘗佳切　佳

⿰忄卑恂は、人を包容する。〔集韻〕⿰忄卑、⿰忄卑恂、自容レ人也。

【惟】10820

［一］ヰ ユイ　〔集韻〕夷隹切　ㄨㄟˊ wei^2　支
［二］ビ ミ　〔正韻〕無非切　微


小篆

［一］［二］❶**おもふ**。〔說文〕惟、凡思也、从レ心隹聲。〔爾雅、釋詁〕惟、思也。〔方言、一〕惟、思也。〔詩、大雅、生民〕載謀載惟。〔箋〕惟、思也。〔淮南子、精神訓〕惟像レ無レ形。〔注〕惟、思也。❷**はかる**。〔爾雅、釋詁〕惟、謀也。❸**つらねる**。〔國語、魯語下〕師尹惟レ旅。〔注〕惟、陳也。❹**かなふ**。〔呂覽、知分〕子惟レ之矣。〔注〕惟、宜也。❺**ただ**。ひとり。もつぱら。唯（**2－3761**）・獨（**7－20725**）に通ず。〔經傳釋詞、三〕惟、獨也、常語也。〔書、舜典〕惟明克允。〔大學衍義補、愼二刑憲一、總二論制刑之義一〕帝舜告二皐陶一、而戒レ之以二惟明克允一、謂二之惟一者、此外別無二他術一。〔孟子、梁惠王上〕惟士爲レ能。❻**もつて**。以（**1－388**）に通ず。〔經傳釋詞、三〕惟、猶レ以也、書盤庚曰、亦惟二女故一、以丕從二厥志一。❼**たり**。爲（**7－19686**）に通ず。〔經傳釋詞、三〕玉篇曰、惟、爲也、書皐陶謨曰、萬邦黎獻、共惟二帝臣一、某氏傳曰、萬國眾賢、共爲二帝臣一。❽**と**。**ともに**。與（**9－30212**）・及（**2－3118**）に通ず。〔經傳釋詞、三〕惟、猶レ與也、及也、詩無羊曰、牧人乃夢、眾維魚矣、旐維レ旟、箋曰、牧人乃夢見二人眾相與捕レ魚、又夢見二旐與レ旟。❾**これ**。發語の助辭。〔經傳釋詞、三〕惟、發語詞也、書皐陶謨曰、惟帝其難レ之、洪範曰、惟十有三祀。❿**はい**。許諾する語。唯（**2－3761**）に通ず。惟惟(2)を見よ。⓫**ああ**。歎辭。惟兮(32)を見よ。⓬維（**8－27568**）に通ず。〔詩、大雅、桑柔〕進退維谷。〔左思、魏都賦〕翫二進退之惟谷一。⓭帷（**4－8954**）に通ず。〔左氏、定、六〕小惟子。〔釋文〕惟、本又作レ帷。⓮**川の名**。濰（**7－18533**）に通

ず。〔說文通訓定聲〕惟、叚借爲レ濰。〔漢書、地理志上〕惟・甾其道。⓯姓。〔萬姓統譜〕惟、見二姓苑一、後魏桓皇后惟氏。

名乘 アリ。ノブ。コレ。タダ。

【惟衣】1 イヰ 清、汪守和(6−17154・・256)の字。

【惟惟】2 ヰヰ 諾するさま。人に聽從するさま。又、諾する言葉。唯唯。〔荀子、大略〕惟惟而亡者、誹也。〔注〕惟、讀爲レ唯、常聽二從人一而不レ免レ亡者、由下於二退後一卽誹謗上也。

【惟一】3 イユツイ ❶專一。唯一。又、これいつ。專一に守る。惟精惟一(123)を見よ。〔書、大禹謨〕惟精惟一、允執二厥中一。〔李邕、春賦〕邁二惟一之德一、究二吹萬之性一。❷イヰツ 字號。㋑宋、馮吉(12−44579・・43)の字。㋺明、羅成功(9−28397・・373)の字。㋩清、金俊(11−40152・・588)の字。㊁清、黃秉中(12−47926・・1313)の字。

【惟允】4 イヰン 字號。❶明、祁敕(8−24634・・20)の字。❷明、陳汝言(11−41698・・1004)の字。

【惟寅】5 イヰン 字號。❶明、陳汝秩(11−41698・・1008)の字。❷明、李言恭(6−14459・・1191)の字。❸清、錢本誠(11−40563・・432)の字。

【惟垣】6 エヰン 王莽の時、文教を揆り、武衞を奮ふ諸侯をいふ。惟城(54)を見よ。

【惟遠】7 エヰン 字號。❶明、宋明(3−7078・・202)の字。❷明、竇明(8−25695・・52)の字。❸明、陸引(11−41708・・8)の字。

【惟恩】8 オヰン 明、姚沾(3−6202・・99)の字。

【惟可】9 カヰ 明、吾謹(2−3379・・19)の字。

【惟夏】10 カヰ 清、王昊(7−20823・・136)の字。

【惟介】11 カヰイ 明、林懋和(6−14551・・436)の字。

【惟行】12 カヰウ 明、軒輗(10−38187・・31)の字。

【惟孝】13 カヰウ 明、何衷(1−511・・159)の字。

『惟孝友二于兄弟一』14 コレカウケイテイニイウナリ 親に孝で、又能く兄弟相睦じくする。但、下引論語の文を包咸は、書云、孝乎惟孝と讀み、孝乎惟孝は美二大孝一之辭と解してゐる。〔書、君陳〕王若曰、君陳、惟爾令德孝恭、惟孝、友二于兄弟一、克施二有政一。〔論語、爲政〕或謂二孔子一曰、子奚不レ爲レ政、子曰、書云レ孝乎、惟孝、友二于兄弟一、施二於有政一、是亦爲レ政也、奚其爲レ爲レ政。〔集注〕書、周書君陳篇、書云レ孝乎者、言二書之言一孝如レ此也、善二兄弟一曰レ友、書言、君陳能孝二於親一、友二於兄弟一。

【惟康】15 カウヰ 清、顧廣譽(12−43689・・248)の字。

【惟傚】16 カウヰ 明、易倣之(5−13814・・219)の字。

【惟號】17 ガウヰ 山名。雞號(11−42124・・12)に同じ。〔說文〕劦、山海經曰、惟號之山、其風若レ劦。

【惟愨】18 カクヰ 唐の僧。上黨の連氏の子。京師の崇福寺に居る。著に楞嚴經疏義がある。〔宋高僧傳、六〕。

【惟學】19 ガクヰ 明、劉祿(2−2224・・663)の字。

【惟嶽】20 ガクヰ 字號。❶唐、徐嶠之(4−10110・・402)の字。❷明、邵嵩(11−39343・・37)の字。

【惟翰】21 カンヰ 王莽の時、采服・男服に在る諸侯をいふ。惟城(54)を見よ。

【惟起】22 キヰ 明、徐𤊹(4−10110・・288)の字。

【惟幾】23 キヰ 明、成務(5−11544・・293)の字。

【惟宜】24 ギヰ 明、陳桷(11−41698・・96)の字。

【惟吉】25 キツヰ 字號。❶宋、趙元佐(10−37171・・517)の字。❷明、商喜(2−3803・・35)の字。

【惟恭】26 キヨウヰ 字號。❶後周、蕭愿(9−32012・・114)の字。❷元、趙文(10−37171・・331)の字。❸明、卓敬(2−2741・・23)の字。

【惟玉】27 ギヨクヰ 明、鄧崙(11−39630・・113)の字。

【惟勤】28 キンヰ 字號。❶明、唐廣(2−3709・・81)の字。❷明、段敏(6−16619・・50)の字。

【惟化】29 クワヰ 明、雷鯉(12−42245・・163)の字。

【惟和】30 クワヰ 字號。❶後漢、良夔(9−30597・・170)の字。❷明、徐熥(4−10110・・240)の字。❸明、黎民衷(12−47994・・125)の字。

【惟貫】31 クワンヰ 明、魏學曾(12−45872・・174)の字。

【惟寬】32 クワンヰ 唐の僧。信安の祝氏の子。謚は大徹禪師。白居易が嘗て弟子の禮を以て事へた。元和の閒、示寂す。〔宋高僧傳〕。

【惟兮】33 ケイヰ 歎詞。ああ。〔金石綜例〕惟兮、卽嗚呼之詞、張偉伯墓中石文亦用レ之。

【惟敬】34 ケイヰ 明、黎民表(12−47994・・126)の字。

【惟馨】35 ケイヰ 明、劉蒞(2−2224・・644)の字。

【惟喬】36 ケウヰ 明、顏木(12−43591・・103)の字。

【惟曉】37 ゲウヰ 宋、尹煥(4−7631・・18)の字。

【惟乾】38 ケンヰ 明、冀元亨(2−1500・・22)の字。

【惟賢】39 ケンヰ 明、顧應祥(12−43689・・224)の字。

【惟功】40 コウヰ 明、歐陽廩(6−16185・・107)の字。

【惟谷】41 コレキハマル きはまる。維谷(8−27568・・21)に同じ。惟は發語の辭。〔左思、魏都賦〕骫二進退之惟谷一。

【惟兗】42 コンヰ 清、童華(8−25775・・26)の字。

【惟之】43 シヰ 宋、方愼從(5−13620・・555)の字。

【惟志】44 シヰ 元、班恕(7−20976・・51)の字。

【惟思】45 シヰ おもふ。思惟。

【惟秀】46 シウヰ 明、馬俊(12−44572・・314)の字。

【惟周】47 シウヰ 明、黃武(12−47926・・808)の字。

【惟修】48 シウヰ 字號。❶明、吳時來(2−3365・・631)の字。❷明、徐紀(4−10110・・63)の字。

【惟實】49 ジツヰ 字號。❶明、高應芳(12−45313・・1061)の字。❷明、周信(2−3441・・287)の字。

『惟實集』50 ユイジツシフ 書名。四卷。外集一卷。元、劉鶚撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

『惟實居士』51 ヰジツコジ 清、揆敍(5−12326・・4)の號。

【惟象】52 ジヤウヰ すがた。かたち。惟像。惟は發語の辭。〔文子、道原〕老子曰、有レ物混成、先二天地一生、惟象無レ形。

【惟像】53 ジヤウヰ ❶すがた。かたち。惟は發語の辭。〔楚辭、天問〕馮翼惟像、何以識レ之。〔注〕言、天地既分、陰陽運轉、馮馮翼翼、何以識二知其形像一乎。❷思ふに、似てゐる。惟は、これ、發語の辭。惟は、思ふ。又、似てゐる。〔淮南子、精神訓〕古未レ有二天地一之時、惟像レ無レ形。〔注〕惟、思也。

【惟城】54 ジヤウヰ 王莽の時、諸侯の甸服に在るものをいふ。〔漢書、王莽傳中〕九州之內、縣二千二百有三、公作二甸服一、是爲二惟城一、諸在二侯服一、是爲二惟寧一、在二采任一諸侯、是爲二惟翰一、在二賓服一、是爲二惟屛一、在下揆二文教一奮中武衞上、是爲二惟垣一、在二九州之外一、是爲二惟藩一。〔注〕師古曰、采、采服也、任、男服也、賓服、卽古衞服也、取二諸侯賓服一以爲レ名、凡此惟城以下、取二詩大雅板之篇云、价人惟藩、大師惟垣、大邦惟屛、大宗惟翰、懷德惟寧、宗子惟城一、以爲二名號一也。

【惟守】55 シユヰ 明、張文介(4−9812・・1475)の字。

【惟壽】56 ジユヰ 明、謝忱(10−35827・・127)の字。

【惟從】57 ジユウヰ 明、王獻(7−20823・・361)の字。

【惟濬】58 シユンヰ 明、陳九川(11−41698・・742)の字。

【惟敍】59 ジヨヰ 清、孔毓功(3−6933・・259)の字。

【惟信】60 シンヰ 明、鄒用(11−39562・・55)の字。

【惟神】61 カムナガラ カンナガラ かみながら。隨神。❶神にてましますまま。❷神の御心のままで人爲を加へぬさま。神慮のまま。神代からのまま。❸神ながらの道。〔日本書紀、孝德紀〕惟神、我子應レ治故寄。〔注〕惟神者、謂レ隨二神道一、亦謂三自有二神道一也。

『惟神道』62 カムナガラノミチ 神代から傳はつたままで毫も人の私意を加へぬ日本固有の道。神慮のままの道。隨神道。

【惟新】63 シンヰ これあらた。萬事が改まり新になること。惟は發語の辭。維新(8−27568・・42)の❶に同じ。〔干寶、晉紀總論〕民詠二惟新一。〔殷仲文、解二尙書一表〕今宸極反レ正、惟新告レ始。

【惟人】64 ジンヰ 宋、錢俁(11−40563・・83)の字。

【惟仁】65 ジンヰ 字號。❶明、楊言(6−15112・・141)の字。❷明、黎民懷(12−47994・・124)の字。

【惟任】66 ジンヰ 宋、鄭申之(11−39647・・454)の字。

【惟正】67 セイヰ 字號。❶明、吉人(2−3289・・105)の字。❷明、楊端(6−15112・・277)の字。❸明、李貢(6−14459・・336)の字。

『惟正之供』68 ヰセイノキヨウ 直接稅をいふ。〔六部成語補遺、戶部、惟正之供、注解〕民人所二輸納一錢糧等、供二國家之正項一也。〔福惠全書、蒞任部、詳文贅說〕蠲二惟正之供一、屢沛二賑施之澤一。

【惟淸】69 セイヰ 字號。❶宋、洪湛(6−17402・・144)の字。❷明、祝顥(8−24672・・22)の字。

『惟淸齋』70 ヰセイサイ 清、鐵保(11−40945・・292)の號。

【惟冣】71 セイヰ 唐、孫惟最(3−6987・・313)の一名。

【惟聖】72 セイヰ 明、何良臣(1−511・・378)の字。

『惟聖時憲』73 コレセイコレノツトル 聖王は天に則つて教を立てる。惟・時は發語の辭。〔書、說命中〕惟天聰明、惟聖時憲。〔傳〕憲、法也、言、聖王法レ天以立レ教。

『惟聖罔レ念作レ狂』74 タダセイモオモフナケレバキヤウヲナス 聖人も、善く道を思はなければ終には狂人のやうな行爲

をする。〔書、多方〕惟聖罔レ念作レ狂、惟狂克念作レ聖。

【惟誠】75 ヰセイ　字號。❶明、張貞觀(4－9812‥138)の字。❷明、李贊(6－14459‥369)の字。

【惟靜】76 ヰセイ　明、繆宗周(8－27855‥67)の字。

【惟肖】77 ヰセウ　これ似る。相似ること。惟は發語の辭。〔王季友、鑒二止水一賦〕得二懲躁之爲レ誡、知二飾容之惟肖一。

【惟錫】78 ヰセキ　明、呉百朋(2－3365‥841)の字。

【惟善】79 ヰゼン　字號。❶明、蔚能(9－31805‥38)の字。❷明、彭寶(4－10003‥101)の字。

【惟素】80 ヰソ　明、方見(5－13620‥148)の字。

【惟宗】81 コレムネ　姓氏。〔姓名錄抄〕。

【惟則】82 ヰソク　元の僧。永新の譚氏の子。字は天如。號は佛心普濟文惠大辨禪師。呉城の東北隅を闢いて方丈を爲り、師子林といふ。著に師子林別錄がある。〔繼燈錄〕。

【惟度】83 ヰタク　おもひはかる。惟は、思ふ。又、これはかる。思ふ。考へる。惟は發語の辭。〔魏志、陳思王植傳〕今臣志二狗馬之微功一、竊自惟度、終無二伯樂韓國之擧一、是以於邑而竊自痛者也。〔北史、張普惠傳〕夙宵惟度、欣戰交集。

【惟中】84 ヰチユウ　字號。❶元、朶爾直班(6－14429‥16)の字。❷元、李好文(6－14459‥934)の字。❸明、嚴嵩(2－4589‥160)の字。❹明、唐樞(2－3709‥212)の字。❺明、張籌(4－9812‥549)の字。❻明、汪正(6－17154‥85)の字。

【惟忠】85 ヰチユウ　明、唐樞(2－3709‥212)の字。

【惟直】86 ヰチヨク　唐、鄭史(11－39647‥154)の字。

【惟珍】87 ヰチン　宋、李穀(6－14459‥341)の字。

【惟塵】88 ヰヂン　小人を進擧して自ら害を被る喩。〔詩、小雅、無將大車〕無レ將二大車一、維塵冥冥。〔箋〕冥冥者、蔽二人目明一、令レ無レ所レ見也、猶下進二擧小人一、蔽中傷己之功德上也。〔嵇康、幽憤詩〕子玉之敗、屢增二惟塵一。〔注〕翰曰、惟塵、謂四詩人刺三進二擧小人一也。

【惟貞】89 ヰテイ　字號。❶明、姚一元(3－6202‥126)の字。❷明、祝萃(8－24672‥74)の字。❸明、李頤(6－14459‥7)の字。

【惟鼎】90 ヰテイ　清、呉尚鉉(2－3365‥642)の字。

【惟哲】91 ヰテツ　明、夏原吉(3－5720‥308)の字。

【惟喆】92 ヰテツ　明、夏原吉(3－5720‥308)の字。

【惟獨】93 ヰドク　ひとり。ただ。〔通俗編、語辭、惟獨〕戰國策、燕兵入二臨淄一、盡取二齊寶一、齊城之不レ下者、惟獨莒卽墨。

【惟任】94 コレタフ　姓氏。〔日用重寶記〕。

【惟寧】95 ヰネイ　王莽の時、侯服に在る諸侯をいふ。惟城(54)を見よ。

【惟念】96 ヰネン　思ふ。惟も念も、おもふ。

【惟白】97 ヰハク　唐、馬懷素(12－44572‥742)の字。

【惟藩】98 ヰハン　❶王莽の時、九州の外に在る諸侯をいふ。惟城(54)を見よ。❷明、郭郛(11－39474‥195)の字。

【惟微】99 ヰビ　唐、孔至(3－6933‥116)の字。

【惟賓】100 ヰヒン　明、蕭暘(9－32012‥258)の字。

【惟文】101 ヰブン　字號。❶清、黃簡(12－47926‥162)の字。❷清、王簡(7－20823‥175)の字。

【惟屏】102 ヰヘイ　王莽の時、賓服卽ち古の衞服に在る諸侯をいふ。惟城(54)を見よ。

【惟謀】103 ヰボウ　思ひはかる。謀惟。〔詩、大雅、生民〕載謀載惟、取二蕭祭脂一。

【惟明】104 ヰメイ　明、錢唐(11－40563‥144)の字。

〖惟明克允〗105 タダアキラカニヨクマコトナレ　ただ明察して信實であれ。惟は專らの意。〔書、舜典〕帝曰、皐陶、蠻夷猾レ夏、寇賊姦宄、汝作レ士、五刑有レ服、五服三就、五流有レ宅、五宅三居、惟明克允。〔大學衍義補、愼二刑憲一、總二論制刑之義一〕惟明、則情僞畢知、克允、則輕重適當、非レ明、不レ足三以盡二人情一、不レ允、不レ足三以當二人罪一、帝舜告二皐陶一、而戒レ之以二惟明克允一、謂二之惟一者、此外別無二他術一、謂二之克一者、如レ此然後能信。

【惟約】106 ヰヤク　明、楊博(6－15112‥321)の字。

【惟容】107 ヰヨウ　明、祝瀚(8－24672‥26)の字。

【惟理】108 ヰリ　明、王紀(7－20823‥186)の字。

【惟良】109 ヰリヤウ　❶賢良の人をいふ。惟は發語の辭。〔書、君陳〕嗚呼、臣人咸若レ時、惟良顯哉。〔潘岳、爲二賈謐一作贈二陸機一詩〕儲皇之選、實簡二惟良一。❷明、馮汝弼(12－44579‥242)の字。

【惟亮】110 ヰリヤウ　清、呉士功(2－3365‥593)の字。

【惟厥中】111 タダソレチユウモテセヨ　刑罰の適用は專ら中正の理に從つて行へ。〔書、君陳〕王曰、殷民在レ辟、予曰レ辟、爾惟勿レ辟、予曰レ宥、爾惟勿レ宥、惟厥中。〔傳〕惟其當下以二中正平理一斷上之。

【惟大梁】112 ユイタイリヤウ　梁の鼓吹曲の名。沈約の作。漢の上邪曲を改めたもの。梁の德が廣く、仁化があまねきを述べてゐる。〔隋書、音樂志上〕第十二漢曲、上邪、改爲二惟大梁一、言二梁德廣運、仁化洽一也。〔沈約、梁鼓吹曲、惟大梁〕惟大梁、開レ運受レ籙、膺レ圖君二八極一、冠帶被二五都一、四海竝和、會排二闕款一、塞無二異塗一。

【惟泰元】113 ユイタイゲン　漢の郊祀歌の名。十九章の一。其の首句を以て篇名としたもの。泰元は天の意。〔漢書、禮樂志〕郊祀歌十九章、其詩曰、惟泰元尊、媼神蕃釐、經二緯天地一、作二成四時一。〔注〕師古曰、泰元、天也。

【惟那木】114 ユイナボク　南燭(2－2750‥399)の❷の異名。〔本草、南燭〕釋名、惟那木。

【惟庸蜀】115 ユイヨウショク　晉の鼓吹曲の名。傅玄の作。古の有所思行に當る。文帝が既に蜀を平らげ、萬國を封建し、五等爵を復したことを述べてゐる。〔樂府詩集、鼓吹曲辭、晉鼓吹曲〕古有所思行、古今樂錄曰、惟庸蜀、言下文皇帝既平二萬乘之蜀一、封二建萬國一、復中五等之爵上也。〔傅玄、惟庸蜀〕惟庸蜀、僭二號天一隅一、劉備逆二帝命一、禪亮承二其餘一、擁レ衆數十萬、闚レ隙乘二我虛一、驛騎進二羽檄一、天下不二遑居一、姜維屢寇レ邊、隴上爲二荒蕪一、文皇愍二斯民一、歷世受二罪辜一、外謨二蕃屏臣一、內謀二衆士夫一、爪牙應二指授一、腹心獻二良圖一、良圖協二成文一、大興二百萬軍一、雷鼓震レ地起、猛勢陵二浮雲一、逋虜畏二天誅一、面縛造二壘門一、萬里同二風教一、逆レ命稱二妾臣一、光建二五等一、紀二綱天人一。

【惟有レ劍耳】116 タダケンアルノミ　ただ劍を加ふるのみ。必ず誅殺するといふ意。〔續資治通鑑綱目〕宋太宗撫レ髀歎曰、唐莊宗二十年、夾レ河爭戰、取二得天下一、而不レ能下用二軍法一約束上、誠同二兒戲一、朕今撫二養士卒一、固不レ吝二爵賞一、苟犯二吾法一、惟有レ劍耳。

【惟夭惟喬】117 コレエウコレケウ　草木の成長繁茂するをいふ。夭は草の盛なさま、喬は高いさま。〔書、禹貢〕篠簜既敷、厥草惟夭、厥木惟喬、厥土惟塗泥。

【惟我獨尊】118 ユイガドクソン　天地の間に於てただ自分だけが尊い(自分が最も尊い)者である。釋迦牟尼が生れた時、片手は天を指し、片手は地を指し、周行七步、四方を顧みて言つたといふ語。唯我獨尊。〔通俗編、品目、惟我獨尊〕佛經、世尊生下、一手指レ天、一手指レ地、云、天上天下、惟我獨尊。

【惟恍惟惚】119 コレクワウコレコツ　微妙ではかられぬさま。惟は發語の辭。恍惚(4－10546‥5)に同じ。〔老子、二十一〕道之爲レ物、惟恍惟惚。〔注〕恍惚、無レ形不レ繫之歎。

【惟口起レ羞】120 コレクチハヂヲオコス　口は羞を受ける原因を作る。口は禍の本の意。〔書、說命中〕惟口起レ羞、惟甲冑起レ戎。〔蔡傳〕言語、所二以文一レ身也、輕出則有二起レ羞之患一。

【惟日不レ足】121 コレヒモタラズ　時間が足らぬ。事が多くていくら努めても終らない意。又、孜孜として不斷の努力を續ける意。維日不レ足(8－27568‥97)に同じ。〔書、泰誓中〕我聞、吉人爲レ善、惟日不レ足、凶人爲二不善一、亦惟日不レ足。〔孟子、離婁下〕爲レ政者、每レ人而悅レ之、日亦不レ足矣。「號。

【惟心居士】122 ヰシンコジ　宋、周葵(2－3441‥91)の

【惟精惟一】123 コレセイコレイツ　精一。專一。專一に。一說に、人心と道心との區別を精察し、本心の正しきを專一に守る意。〔書、大禹謨〕人心惟危、道心惟微、惟精惟一、允執二厥中一。〔傳〕危則難レ安、微則難レ明、故戒以二精一一、信執二其中一。〔蔡傳〕心者、人之知覺、主二於中一而應二於外一者也、指下其發二於形氣一者上而言、則謂二之人心一、指下其發二於義理一者上而言、則謂二之道心一、人心易レ私而難レ公、故危、道心難レ明而易レ昧、故微、惟能精以察レ之、而不レ雜二形氣之私一、一以守レ之、而純二乎義理之正一、道心常爲二之主一、而人心聽レ命焉、則危者安、微者著、動靜云爲、自無二過不及之差一、而信能執二其中一矣、堯之告レ舜、但曰、允執二其中一、今舜命レ禹、又推二其所以一、而詳言レ之、蓋古之聖人、將下以二天下一與上人、未下嘗不中以二其治レ之之法一、幷而傳上之、其見二於經一者如レ此、後之人君、其可レ不二深思而敬守一レ之哉。〔朱熹、中庸章句序〕其見二於經一、則允執二厥中一者、堯之所二以授一レ舜也、人心惟危、道心惟微、惟精惟一、允執二厥中一者、舜之所二以

授レ禹也、堯之一言、至矣盡矣、而舜復益レ之以二三言一者、則所四以明三夫堯之一言、必如レ是而後可二庶幾一也。

【惟齊非レ齊】124（タダヒトシクスルハトトナフルニアラズ） 刑罰は時勢によつて輕重其の宜しきを得るを要し、ただ一律を以て不正を正しとのへるのは、眞に不正を正しとのへる道ではない。〔書、呂刑〕刑罰世輕世重、惟齊非レ齊、有レ倫有レ要。〔傳〕言二刑罰隨レ世輕重一也、云云、凡刑所二以齊非一レ齊、各有二倫理一、有二要善一。〔蔡傳〕惟齊非レ齊者、法之權也、有レ倫有レ要者、法之經也、言、刑罰雖二惟權變是適一、而齊レ之以レ不レ齊焉、至二其倫要所一レ在、蓋有二截然而不一レ可レ紊者一矣。

【惟他是問】125 wei^{2} t'a^{1} shih^{4} wen^{4} すべて彼「の責任である。

【惟適之安】126（タダテキニコレヤスンズ） ただ自分の心に適合することに安んずる。專ら自分の氣分にかなふやり方をして安らかに暮らす。〔韓愈、送三李愿歸二盤谷一序〕起居無レ時、惟適之安。

【惟德動レ天】127（コレトクテンヲウゴカス） 德の力は天をも動かす。〔書、大禹謨〕惟德動レ天、無二遠弗一レ屆。

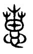
【惟命是聽】128（タダメイヲコレキク） ただ仰せのままに從ふ。〔左氏、成、二〕敝邑之幸、亦云從也、況其不幸、敢不二惟命是聽一。

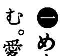
【惟利是視】129（タダリヲコレミル） 義理を問はず、ただ利害の如何だけを視る。〔左氏、成、十三〕余雖二與レ晉出入一、余惟利是視。

【惟酒可二以忘一レ憂】130（タダサケモツテウレヘヲワスルベシ） ただ酒を飮めば胸中の憂悶を忘れることができる。〔晉書、顧榮傳〕恆縱レ酒酣暢、謂二友人張翰一曰、惟酒可二以忘一レ憂、但無二如レ作レ病何一耳。

【恚】10821 キ 惟(4－10820)の古字。〔字彙補〕恚、古文惟字。

【惠】10822 ケイ エ 〔集韻〕胡桂切 齊 ㄏㄨㄟˋ huei^{4}


小篆


古文

❶めぐむ。㋑いつくしむ。愛する。〔說文〕惠、仁也、从二心叀一。〔爾雅、釋詁〕惠、愛也。〔詩、邶風、北風〕惠而好レ我。〔傳〕惠、愛也。〔詩、大雅、民勞〕惠二此中國一。〔箋〕惠、愛也。〔論語、公冶長〕其養レ民也惠。㋺あはれむ。〔新書、道術〕心省二恤人一、謂二之惠一。㋩あたへる。にぎはす。賑給。〔廣雅、釋言〕惠、賜也。〔孟子、滕文公上〕分レ人以レ財、謂二之惠一。❷めぐみ。㋑いつくしみ。おもひやり。仁愛。〔儀禮、喪服傳、以レ慈レ己加也、注〕內則曰、云云、必求二其寬裕慈惠一。〔疏〕惠、謂二惠愛一。〔論語、里仁〕小人懷レ惠。㋺恤賜。〔周禮、地官、旅師〕施二其惠一。〔注〕以賙二衣食一曰レ惠。〔周禮、地官、司裘〕以二王命一施レ惠。〔注〕施レ惠、賙二恤之一。〔禮、月令〕行レ慶施レ惠。❸したがふ。すなほ。〔爾雅、釋言〕惠、順也。〔詩、邶風、燕燕〕終溫且惠。〔傳〕惠、順也。〔詩、大雅、抑〕惠二于朋友一。〔箋〕惠、順也。〔管子、度地〕歸二其德一而惠二其義一。〔注〕惠、順也。❹よい。よいこと。〔禮、表記〕節以二壹惠一。〔注〕惠、猶レ善也。❺美しい。〔江淹、雜體詩〕惠色出二喬樹一。〔注〕銑曰、惠、媚。❻かざる。〔山海經、中山經〕祠嬰、用二圭璧十五一、五彩惠レ之。〔注〕惠、猶レ飾也、方言也。❼みつめぼこ。〔書、顧命〕二人雀弁執レ惠。〔傳〕惠、三隅矛。❽これ。發聲の助辭。〔左氏、襄、二十六〕寺人惠牆伊戾。〔服注〕惠・伊、皆發聲。❾さとい。慧(4－11116)に通ず。〔集韻〕慧、說文、儇也、通作レ惠。〔後漢書、孔融傳〕觀二君所一レ言、將不二早惠一乎。❿蟪(10－33610)に通ず。〔莊子、逍遙遊〕惠蛄不レ知二春秋一。〔釋文〕惠、本亦作レ蟪。⓫諡。〔逸周書、諡法解〕柔質慈レ民曰レ惠、愛レ民好レ與曰レ惠。⓬姓。〔萬姓統譜〕惠琅邪、周惠王之後、以レ諡爲レ氏、又望出二扶風一。

名乘 サト。シゲ。アヤ。ヤス。ヨシ。

解字 會意。叀と心との合字。叀は細かに心を使ふ意。人に對する細やかな心づかひの意。

【惠愛】1（ケイアイ） めぐみいつくしむ。又、そのこと。愛惠。〔韓非子、姦劫弑臣〕世之學術者、說二人主一、不レ曰下乘二威嚴之勢一、以困中姦衺之臣上、而皆曰二仁義惠愛一而已矣。〔南史、梁宗室下、安成康王秀傳〕秀招懷撫納、惠愛大行。〔杜甫、送二趙十七明府之一レ縣詩〕惠愛南翁悅、餘波及二老身一。

【惠盎】2（ケイアウ） 戰國、宋の人。惠施の族。〔列子、黃帝〕・〔呂覽、順說〕・〔淮南子、道應訓〕・〔漢書、古今人表、第五等中中〕。

【惠渥】3（ケイアク） めぐみの厚いこと。又、あついめぐみ。〔潘岳、寡婦賦〕承二慶雲之光覆一兮、荷二君子之惠渥一。

【惠安】4（ケイアン） ❶池の名。甘肅省靈武縣の東南、惠安堡の西南隅。昔は花馬小池といひ、今は惠安三池といふ。池は南中北の三段に分れ、鹽を產す。❷縣名。宋、置く。福建省晉江縣の東北。〔讀史方輿紀要、福建、泉州府〕惠安縣、唐晉江縣地、宋太平興國六年、析二置惠安縣一、屬二泉州一。〔清史稿、地理志〕福建、泉州府、縣五、惠安。❸明、彭韶(4－10003··78)の諡。

【惠安后】5（ケイアンコウ） 唐、懿宗の后、王后(7－20823··390)の諡。

【惠安場】6（ケイアンヂヤウ） 製鹽場の名。福建省惠安縣の東南に在り、海鹽を產す。〔清會典、戶部、凡鹽有二海鹽一、注〕福建鹽法道屬十場、惠安場。

【惠育】8（ケイイク） めぐみそだてる。〔後漢書、左雄傳〕非四所三以崇レ憲明レ理、惠二育元元一也。

【惠雨】9（ケイウ） めぐみのあめ。よいうるほひの雨。君のめぐみがあまねくゆきわたる喩。慈雨。〔趙師俠、水調歌頭詞〕兩世麟符玉節、九郡恩風惠雨。

【惠遠】10（ケイヱン） ❶城の名。新疆省綏定縣の東南。新舊二城がある。清の乾隆中、伊犂河の北に惠遠城を建てたが、河水に浸されて城が圮れ、光緒八年、別に新城を築いた。❷（ヱヲン） 晉の僧。慧遠(4－11116··8)を見よ。

【惠音】11（ケイオン） ❶めぐみのおとづれ。他人からの音信をいふ。〔陸機、贈二馮文羆一詩〕夫子茂二遠猷一、款誠寄二惠音一。〔注〕翰曰、寄二惠我音信一也。❷おだやかな音。なごやかな音。〔陸機、擬古詩〕閑夜撫二鳴琴一、惠音清且悲。〔注〕翰曰、惠、順也、言二琴聲順和一也。

【惠恩】12（ケイオン） めぐみ。いつくしみ。なさけ。恩惠。〔漢書、禮樂志〕垂二惠恩一鴻二祜休一。〔元結、謝二大龜一詩〕惠恩如レ可レ謝、占問敢終レ辭。

【惠下】13（ケイカ） 下をめぐむ。下の者に恩惠を加へる。〔禮、祭統〕夫祭有レ畀二煇胞翟閽者一、惠レ下之道也。〔沈約、梁大壯大觀舞歌、大觀舞賦〕寬以惠レ下、德以爲レ政。

【惠孝】14（ケイカウ） 宋、趙仲佺(10－37171··787)の諡。

【惠康】15（ケイカウ） めぐみやすんずる。又、そのこと。〔書、文侯之命〕柔レ遠能レ邇、惠二康小民一、無二荒寧一。〔魏志、崔琰傳〕惠康未レ洽。

【惠函】16 huei^{4} han^{2} 貴翰。御手紙。

【惠簡】17（ケイカン） 宋、周葵(2－3441··91)の諡。

【惠鑒】18（ケイカン） ❶心さとくかんがみる。〔高閭、至德頌〕於穆太皇、克廣二聖度一、元化二外物一、惠鑒內悟。❷huei^{4} chien^{4} 書翰用語。御閱覽。貴覽。

【惠眼】19（ヱガン エゲン） 佛 五眼(1－257··146)の一。事物の眞を照らす智慧。慧眼。

【惠姬】20（ケイキ） 後漢、班昭(7－20976··59)の字。

【惠氣】21（ケイキ） なごやかな氣。和氣。〔楚辭、天問〕伯強何處、惠氣安在。〔注〕惠氣、和氣也。

【惠義】22（ケイギ） めぐみ。なさけ。恩義。〔江淹、雜體、王侍中懷レ德詩〕君子篤二惠義一、柯葉終不レ傾。〔注〕銑曰、惠、恩也。

【惠吉】23（ケイキツ） 清、滿洲鑲黃旗人。姓は富察氏。官は道光中、陝甘總督。回民の亂を伐ち、官に卒す。〔國朝耆獻類徵、二百二〕。

【惠向】24（ケイキヤウ） 堡の名。清、置く。甘肅省玉門縣「の東。

【惠貺】25（ケイキヤウ） めぐみあたへる。たまふ。惠賜。〔吳質、答二東阿王一書〕信到奉レ所二惠貺一、發レ函伸レ紙、是何文采之巨麗、而慰喩之綢繆乎。

【惠化】26（ケイクワ） めぐみ教化する。恩惠教化。恩化。仁化。〔白居易、策林、議二封建一論二郡縣一〕恩信

推二於內一、惠化流二於外一。

【惠和】27 ❶めぐみ深くやはらぐ。又、順ひやはらぐ。〔國語、周語上〕國之將レ興、其君齊明衷正、精潔惠和。〔漢書、刑法志〕溫慈惠和、以效二天之生殖長育一也。〔晉書、何曾傳〕上當下奉二宣朝恩一、以致中惠和上。〔陶潛、命レ子詩〕肅矣我祖、愼レ終如レ始、直方二臺、惠和千里。❷おだやかであたたかい。〔韻府引、范成大、詩〕紅梅花下度二兩春一、春風惠和如二主人一。❸宋、王昭遠(7－20823··1789)の諡。

【惠果】28 唐の僧。京兆府昭應縣の人。俗姓は馬。大照禪師に師事し、從つて其の師の不空三藏に會ひ、密教の祕奧を受けた。空海が唐に入つた時、惠果に謁して密藏を受けた。著に阿闍梨大曼荼羅灌頂儀軌・金剛界金剛密號等がある。

【惠光】29 北齊の僧。一に慧光に作る。長盧の楊氏の子。律部に精通し、時人に聖沙彌と稱せられた。初、國僧都に、後、國統に任ぜられた。著に勝鬘遺教溫室仁王般若等の注釋、及び玄宗論・大乘義律章・仁王七誡・僧制十八條がある。〔續高僧傳、二十一〕。

【惠寬】30 めぐみ深くゆるやか。めぐみを垂れ寬大にすること。〔漢書、董仲舒傳〕陛下加二惠寬一。

【惠君】31 めぐみ深い君。〔詩、大雅、桑柔〕維此惠君、民之所レ瞻。〔墨子、兼愛下〕惠君忠臣。〔淮南子、泰族訓〕去レ殘除レ賊、可レ謂二惠君一。

【惠訓】32 いつくしみをしへる。又、いつくしみ深い教訓。〔左氏、襄、二十一〕惠訓不レ倦者、叔向有レ焉。〔潘岳、夏侯常侍誄〕惠訓不レ倦、視レ民如レ傷。

【惠卿】33 字號。❶後魏、魏彥(12－45872··53)の字。❷唐、劉晛(2－2224··177)の字。❸明、張介賓(4－9812··855)の字。

【惠溪】34 明、徐霈(4－10110··246)の號。

【惠慶】35 清、滿洲正黃旗人。姓は富察氏。諡は壯節。咸豐中、兩粤に轉戰す。官は廣西提督。漢回の亂に一門悉く死した。〔續碑傳集、六十八〕。

【惠教】36 いつくしみ教へる。〔戰國、趙策〕趙王曰、卿不レ遠レ趙、而惠教以二國事一。

【惠憲】37 宋、趙愷(10－37171··60)の諡。

【惠獻】38 諡號。❶宋、王化基(7－20823··1333)の諡。❷清、福喇特(8－24768··166)の諡。

【惠顯】39 明、清澗の人。官は延綏副將。闖賊を拒いで擒へられ、屈しないで殺された。〔明史、二百六十九〕。

【惠言】40 めぐみ深いことば。〔管子、五行〕大揚二惠言一。〔商子、修權〕故多二惠言一而剋二其賞一、則下不レ用。

【惠源】41 明、王宏翰(7－20823··1349)の字。

【惠蛄】42 蟲の名。なつぜみの異名。蟪蛄。蝭蟧。〔莊子、逍遙遊〕惠蛄不レ知二春秋一。〔釋文〕惠、本亦作レ蟪、同、司馬云、惠蛄、寒蟬也、一名、蝭蟧、春生夏死、夏生秋死。

【惠顧】43 めぐみを施し目をかける。〔左氏、宣、十二〕若惠二顧前好一、徼二福於厲・宣・桓・武一、不レ泯二其社稷一、使三改レ事レ君、夷二於九縣一、君之惠也。〔吳志、魯肅傳〕君既惠顧、何以佐レ之。

【惠公】44 ❶諡號。㋑周代、魯の第十三代の君主。魯惠公(12－46013··158)を見よ。㋺春秋、齊の第二十二代の王。齊惠公(12－48560··288)を見よ。㋩春秋、晉の第二十二代の王。晉惠公(5－13898··114)を見よ。㋥戰國、秦の第十九代の王。秦惠公(8－24995··212)を見よ。㋭戰國、秦の第二十六代の王。秦惠公(8－24995··212)を見よ。㋬戰國、燕の第十七代の王。燕惠公(7－19429··266)を見よ。❷後漢、伏湛(1－438··114)の字。

【惠肯】45 人を招請すること。又、人の來臨をいふ語。御光臨。惠然肯來。〔詩、邶風、終風〕終風且霾、惠然肯來。〔書言故事、訪臨類〕惠肯、請レ人曰三仰二覬惠肯一。

【惠洪】46 宋の僧。宜豐の彭氏の子。名は覺範。詩に巧。著に冷齋夜話・僧寶傳・林間錄・石門文字禪・天廚禁臠・臨濟宗旨がある。〔四庫提要、一百二十〕。

【惠興】47 晉、何攀(1－511··175)の字。

【惠濟】48 ❶めぐみすくふ。〔陸機、謝二平原內史一表〕皇澤廣被、惠濟無レ遠。❷川の名。河南省中牟縣の北に於て賈魯河から分れ、東南流して開封・陳留・杞縣を經、睢縣に至つて睢河を納れ、又、東南し、鹿邑に至つて渦河を併せ、更に東南、安徽省亳縣・懷遠を經て淮水に入る。清の乾隆中に之を濬ひ、惠濟の名を賜はつた。

【惠山】49 山名。江蘇省無錫縣の西。

〔惠山寺〕50 寺の名。江蘇省無錫縣の西、惠山第一峯の白石塢にあり、もと南朝宋の司徒長史湛茂の別墅で、歷山草堂といひ、景平の初、僧寮とし、華山精舍といふ。清代、惠山寺と改めた。

【惠子】51 ❶惠施(53)をいふ。〔莊子、逍遙遊・齊物論・德充符・秋水・至樂・徐無鬼・則陽・外物・寓言〕・〔韓非子、說林上・說林下・內儲說上〕・〔墨子、非儒・裸守〕・〔呂覽、聽言・諭大・淫辭・不屈・開春・愛類〕・〔淮南子、齊俗訓・道應訓〕・〔說苑、善說・雜言〕。❷書名。一卷。惠施撰。漢書藝文志には名家に屬す。後、散佚し、隋志・唐志には皆著錄してゐない。今、羣書に散見するもの十四節を輯めて玉函山房輯佚書に收めてゐる。〔漢書、藝文志〕・〔玉函山房輯佚書、八十九冊〕。❸春秋、衛の甯殖(7－21717··12)をいふ。

【惠思】52 愛し思ふ。〔詩、鄭風、褰裳〕子惠二思我一、褰レ裳涉レ溱。〔傳〕惠、愛也。

【惠施】53 ❶惠み施す。〔韓非子、外儲說右上〕宮婦不レ御者出嫁レ之、七十受二祿米一、鬻二德惠三施於民一也。〔管子、形勢解〕惠施厚二於萬物一。〔吳子、料敵〕惠施流布。❷戰國時代の學者。宋の人。辯を善くし、莊周の友で、魏の惠王の相となる。其の事蹟は詳かでない。著に惠子一篇がある。惠子(51)を見よ。〔莊子、天下〕・〔荀子、不苟・非十二子・儒效〕・〔淮南子、脩務訓・道應訓〕。

【惠賜】54 めぐみたまはる。下さる。〔儀禮、聘禮、公當レ楣再拜、注〕拜レ貺也、貺、惠賜也。〔陳子舍、爲二宗人一謝二賻贈一表〕惠二賜禮物一、過二越典章一。

【惠示】55 親切に示す。〔魏志、崔琰傳〕昨奉二嘉命一、惠二示雅教一。

【惠時】56 明、李璵(6－14459··773)の字。

【惠慈】57 ❶いつくしみ。又、いつくしむ。慈惠。〔國語、晉語四〕敬二友二號一、而惠二慈二蔡一。❷高麗の僧。聖德太子の師と傳へられる。〔日本書紀、推古紀〕習二內教於高麗僧惠慈一。

【惠州】58 ❶府名。明、置く。清の時、連平州及び歸善・博羅・長寧・永安・海豐・陸豐・龍川・河源・和平の九縣を管轄す。故治は廣東省惠陽縣の西。〔清史稿、地理志〕廣東、惠州府、領二州一縣九一、歸善・博羅・長寧・永安・海豐・陸豐・龍川、連平州、河源・和平。❷州名。㋑五代梁、置く。河北省磁縣。〔讀史方輿紀要、河南、彰德府〕磁州、春秋時晉地、戰國屬レ趙、秦爲二邯鄲郡地一、漢魏郡地、云云、唐廣德初、復置二磁州一、朱全忠改爲二惠州一、後唐復レ舊。㋺宋、置く。廣東省惠陽縣の西。宋の蘇軾が嘗て貶謫せられた處。〔讀史方輿紀要、廣東〕惠州府、禹貢揚州南境、秦爲二南海郡地一、漢初屬二南越國一、武帝時、仍屬二南海郡一、云云、天禧中、改曰二惠州一、元曰二惠州路一、明洪武初、改二惠州府一、領二縣十一、今仍爲二惠州府一、析二河源・和平二縣一、置二連平州一。㋩遼、置く。今缺く。滿洲遼寧省の境。㋥元、置く。河北省遷安縣の西北。

【惠周】59 清、永恩(6－17088··28)の字。

【惠赦】60 めぐみゆるす。又、そのこと。〔管子、法法〕惠赦加二於民一。

【惠生】61 後魏の僧。洛陽に住す。孝明帝の時、宋雲と西域印度に至つて還り、大乘經典百七十部を得た。著に使西域記がある。〔魏書、釋老志〕。

【惠常】62 清、林昌彝(6－14551··350)の字。

【惠襄】63 明、沐春(6－17201··22)の諡。

【惠纕】64 佩帶をいふ。蕙纕(9－31968··14)に同じ。〔海錄碎事、服用、環佩〕惠纕、佩帶也。

【惠主】65 めぐみ深い君主。〔戰國、趙策〕反レ親以爲レ行、慈父不レ子、逆レ主以自成、惠主不レ臣也。〔管子、七臣七主〕惠主豐賞厚賜以竭レ藏。〔孔子家語、辨政〕夫子產於レ民爲二惠主一、於レ學爲二博物一。

【惠種】66 よい種子。優良な遺傳種。〔越絕書、計倪內經〕惠種生レ聖、癡種生レ狂。

【惠崇】67 エシュウ 宋の僧。建陽の人。小品畫に巧。惠崇畫を見よ。〔圖畫見聞志〕・〔韻語陽秋〕。

【惠崇畫】68 エシュウノグワ 惠崇の畫。〔錦繡萬花谷〕惠崇、建陽人、工レ畫二鵝雁鷗鷺一、尤工二小景一、善爲二寒汀煙渚蕭條虛曠之象一。

【惠叔】69 ケイシュク ❶複姓。〔萬姓統譜〕惠叔、姫姓、魯大夫孟惠叔之後。❷字號。㋑宋、石安民(**8**—**24024**‥877)の字。㋺宋、鄭僑(**11**—**39647**‥108)の字。

【惠恤】70 ケイジュツ めぐみあはれむ。又、めぐみ。あはれみ。〔左氏、成、二〕莫レ如下惠二恤其民一而善用上レ之。〔後漢書、祭祀志上〕恭二肅神祇一、惠二恤耆老一。

【惠術】71 ケイジュツ めぐみを施す方法。〔禮、祭統〕尸亦餕二鬼神之餘一也、惠術也、可二以觀一レ政矣。〔注〕術、猶レ法也。

【惠順】72 ケイジュン したがふ。惠も、順ふ。〔漢書、廣陵王傳〕祇祇兢兢、迺惠迺順。

【惠潤】73 ケイジュン めぐみうるほす。又、めぐみ。〔晉書、樂志上〕擬二陶釣一垂二惠潤一。〔郭璞、皇孫生請二布澤一疏〕黔首顒顒、實望二惠潤一。

【惠恕】74 ケイジョ 三國吳、張溫(**4**—**9812**‥79)の字。

【惠仍】75 ケイジョウ 明、單思恭(**2**—**3993**‥307)の字。

【惠色】76 ケイショク 美しい色。〔江淹、雜體、殷東陽興矚詩〕青松挺二秀萼一、惠色出二喬樹一。〔注〕銑曰、惠、媚。

【惠心】77 ケイシン ❶めぐみの心。〔易、益〕有レ孚惠心、勿レ問元吉。〔後漢書、光武郭皇后紀論〕雖二惠心妍狀一、愈獻レ醜焉。〔謝瞻、張子房詩〕惠心奮二千祀一。❷エシン 僧の名。横川の惠心院の源信。官は權少僧都。〔元亨釋書、四〕。

【惠人】78 ケイジン ❶めぐみ深い人。〔論語、憲問〕或問二子產一、子曰、惠人也。〔論衡、明雩〕或賚二酒食一、請二於惠人之前一。❷橋の名。雲南省保山縣の西南、潞江の上に架す。緬甸に入る要道。❸清、鄭與僑(**11**—**39647**‥564)の字。

【惠綏】79 ケイスイ ❶めぐみ安んずる。〔張元晏、封二雅王禎瓊王祥一制〕固安二萬邦一、惠二綏羣品一。❷綏を惠み與へる。車で迎へること。綏は、車上に立ち又は登る時に手をかけるとりづな。〔古詩〕良人惟二古懽一、枉レ駕惠二前綏一。〔注〕善曰、良人念二昔之懽愛一、故枉レ駕而迎レ己、惠以二前綏一、欲レ令レ升レ車也。

【惠正】80 ケイセイ 宋、謝深甫(**10**—**35827**‥305)の諡。

【惠政】81 ケイセイ めぐみ深い政治。〔後漢書、伏恭傳〕視レ事十三年、以二惠政公廉一聞二青州一。〔北史、柳敏傳〕士人感二其惠政一。

【惠盛】82 ケイセイ 後魏、崔休(**4**—**8178**‥47)の字。

【惠聲】83 ケイセイ めぐみ深いといふほまれ。めぐみ深いといふ評判。〔潘岳、西征賦〕諒二惠聲之寂寞一。〔韋承慶、重上二直言一諫二東宮一啓〕惠聲溢二於遠近一。

【惠招】84 huei⁴ chao¹ 書翰文用語。御招待。

【惠節】85 ケイセツ 明、鄭恕(**11**—**39647**‥172)の諡。

【惠泉】86 huei⁴ ch'üan² 糯米で釀造した南方產の酒の名。

【惠鮮】87 ケイセン 乏しい人をめぐむ。一說に、めぐんで生氣あらしめること。〔書、無逸〕惠二鮮鰥寡一。〔傳〕加二惠鮮乏鰥寡之人一。〔蔡傳〕鰥寡之人、垂レ首喪レ氣、賚二予賙三給之一、使三之有二生意一也。

【惠然】88 ケイゼン したがふさま。又、好意を表はすさま。惠然肯來を見よ。〔詩、邶風、終風〕惠然肯來。〔傳〕言三時有二順心一也。

【惠然肯來】89 ケイゼントシテアヘテキタル ❶心よく來る。又、慕つて來る。〔詩、邶風、終風〕終風且霾、惠然肯來。〔箋〕肯、可也、有二順心一、然後可三以來至二我旁一。〔韓愈、與二少室李拾遺一書〕想拾遺公、冠帶就レ車、惠然肯來、舒レ所二蓄積一、以補三綴盛德之有二闕遺一。❷ケイゼンコウライ 他人の來臨をいふ語。御光臨。惠肯。惠來。惠臨。

【惠宗】90 ケイソウ 廟號。❶五代、閩の第三代の王。王鏻(**7**—**20823**‥1086)を見よ。❷西夏の第三代の王。李秉常(**6**—**14459**‥1927)を見よ。❸元の十四代の順帝。元順帝(**1**—**1340**‥680)を見よ。❹高麗の第二代の王。在位二年。❺安南、李朝の第八代の王。名は日山。在位十四年。

【惠續】91 ケイゾク 梁、劉季連(**2**—**2224**‥776)の字。

【惠戴】92 ケイタイ 清の惠棟と戴震とをいふ。〔經學歷史、經學復盛時代〕惠・戴諸儒、爲二漢學大宗一。

【惠棠】93 ケイタウ 清、許伯政(**10**—**35298**‥379)の字。

【惠澤】94 ケイタク めぐみ。恩惠。恩澤。〔漢書、鄭崇傳〕朕惠澤茂焉。〔後漢書、馮異傳〕分二遣官屬一、循二行郡縣一、理二冤結一、布二惠澤一。〔曹植、七啓〕惠澤播二於黎苗一。〔劉琨、勸進表〕惠澤侔二于有虞一。

【惠達】95 ケイタツ 五代吳越、錢弘偡(**11**—**40563**‥317)の字。

【惠脫】96 ケイダツ 晉、郗僧施(**11**—**39413**‥18)の字。

【惠疇】97 ケイチウ 宋、江陰の人。字は敍之。嘉定の進士。官は常熟縣の長官。政績があつた。〔尙友錄、十八〕。

【惠忠】98 ケイチユウ ❶めぐみ深いことと忠義なこと。〔墨子、兼愛中〕君臣不二惠忠一、父子不二慈孝一。❷エチュウ 唐の高僧。一に慧忠に作る。上元の王氏の子。初、牛頭山に居り、天寶の初、昇州莊嚴寺に居る。〔宋高僧傳、十九〕。

【惠直】99 ケイチョク 宋、當塗の人。初名は直方。字は子溫。崇寧の進士。官は太常博士。〔尙友錄、十八〕。

【惠直方】100 ケイチョクハウ 惠直(99)を見よ。

【惠帝】101 ケイテイ 諡號。❶漢の第二代の王。劉盈(**2**—**2224**‥34)を見よ。❷西晉、第二代の孝惠帝。司馬衷(**2**—**3257**‥295)を見よ。❸明の第二代の建文帝。朱允炆(**6**—**14424**‥667)を見よ。

【惠帝夫人】102 ケイテイフジン 晉の人。謝玖(**10**—**35827**‥42)を見よ。

【惠弔】103 ケイテウ ❶めぐみとぶらふ。あはれみ慰める。〔國語、晉語二〕君惠二弔亡臣一。❷相手の弔ひに謝する敬語。ありがたくもお弔ひ下さるの意。御弔問。

【惠投】104 ケイトウ めぐみ與へる。又、人からの贈物を敬つていふ語。御惠贈。惠與。

【惠棟】105 ケイトウ 清、吳縣の人。士奇の次子。字は定宇。號は松崖・九曜齋。小紅豆と稱せられる。(父、士奇を紅豆先生と呼ぶに對す)。經史・諸子・稗官・野乘・七經・毖緯の學に通ず。書室を百歲堂といひ、著に易漢學・周易述・易微言・易例・九經古義・明堂大道錄・禘說・古文尙書考・後漢書補注・王士禛精華錄訓纂・九曜齋筆記・松崖文鈔・諸史會最・竹南漫錄がある。〔清史稿、四百八十七〕・〔清史列傳、六十八〕・〔國朝耆獻類徵、四百十九〕・〔碑傳集、四十六〕・〔國朝先正事略、三十四〕・〔國朝漢學師承記、二〕・〔清儒學案小識、十二〕。

【惠曇】106 エトモ 出雲國の地名。

【惠日】107 エニチ 唐の僧。濮陽の慶氏の子。衡嶽寺に住す。盧藏用は十八高僧序を作り、惠日を其の第一に置いた。〔宋高僧傳、二十九〕。

【惠念】108 ケイネン めぐみ深い心。〔儲光羲、奉レ酬二張五丈垂贈一詩〕情言閒二藹軸一、惠念及二滄浪一。

【惠能】109 エノウ 唐、慧能(**4**—**11116**‥75)の一名。

【惠方】110 エハウ 陰陽家の語。吉方。歲德神の在る方角の稱。此の方角を明の方といひ、萬事に吉なりとする。歲德神(**6**—**16326**‥116)を見よ。〔和漢三才圖會、曆占類、歲德〕按、年德神方、向二此方一、百事無レ障、若二開明一、以二大將軍方一稱二閇塞一之對也、十幹配レ五、順輪而陽幹陰幹相合、以二陽幹方一爲二年德所一レ在、俗名レ之曰二惠方一。

【惠方棚】111 エハウダナ 歲德神を祭る神棚。

【惠褒】112 ケイハウ 唐、李泰(**6**—**14459**‥548)の字。

【惠伯】113 ケイハク ❶春秋、魯の子服椒(**3**—**6930**‥739)の諡。❷字號。㋑漢、唐珍(**2**—**3709**‥272)の字。㋺隋、楊約(**6**—**15112**‥366)の字。

【惠班】114 ケイハン 後漢、班昭(**7**—**20976**‥59)をいふ。

【惠旻】115 エビン 唐の僧。河東の人。字は玄素。諸經に精通す。初、通玄寺に住し、武德の初、高虞山に隱居す。著に十誦私記・僧尼行事・尼衆羯磨・道俗菩薩戒義疏がある。〔續高僧傳、二十二〕。

【惠敏】116 ケイビン 諡號。❶金、奧屯忠孝(**3**—**5985**‥58)の諡。❷明、龐尙鵬(**12**—**48824**‥57)の諡。❸清、曾紀澤(**5**—**14299**‥177)の諡。

【惠愍】117 ケイビン めぐみあはれむ。〔論衡、明雩〕惠愍惻隱之恩、不レ得レ已之意也。

【惠愍皇帝】118 ケイビンクワウテイ 後燕、慕容寶(**4**—**11088**‥70)の諡。

【惠撫】119 ケイブ めぐみいつくしむ。〔憲法發布ノ上諭〕朕カ祖宗ノ惠撫慈養シタマヒシ所ノ臣民。

【惠風】120 ケイフウ ❶めぐみの風。物を生長させる風。肌ざはりの柔かな風。南風。〔嵇康、琴賦〕淸露潤二其膚一、惠風流二其閒一。〔注〕銑曰、惠風、南風也、溫和所二以養一レ物。〔王羲之、三月三日蘭亭詩序〕是日也、天朗氣淸、惠風和暢。〔孫綽、遊天台山賦〕惠風佇二芳于陽林一。❷君の恩惠の喩。廣く行

渡るのを風に喩へた語。〔張衡、東京賦〕惠風廣被、澤洎㆓幽荒㆒。〔注〕向曰、惠風、仁惠之風化及也、幽荒、九州之外、言㆓惠澤及㆑遠。

【惠文】121（ケイブン）　㊀冠の名。惠文冠を見よ。〔傅咸、贈㆓何劭王濟㆒詩〕金瑠綴㆓惠文㆒。㊁諡號。㋑後魏、楊盛(**6**－**15112**··240)の私諡。㋺唐、李範(**6**－**14459**··670)の諡。㊂字號。㋑後漢、周嘉(**2**－**3441**··46)の字。㋺清、趙昭(**10**－**37171**··250)の字。

〔惠文冠〕122（ケイブンクワン）　冠の名。趙の武靈王が胡服に倣つて制した冠に本づき、後、更に增飾して作つたもの。其の名は、武靈王の子の惠文王に取るともいひ、或は惠は蟪（ゼミ）で、冠文が蟬翼のやうに細いから名づけたともいふ。漢には武弁或は大冠といひ、武官の冠とし、又、黃金璫を加へ、蟬を附し、貂尾を插んで飾とし、侍中・常侍の冠とした。亦、貂璫・貂蟬ともいふ。〔漢書、昌邑哀王髆傳〕衣㆓短衣大袴㆒、冠㆓惠文冠㆒。〔後漢書、輿服志下〕武冠、諸武官冠㆑之、貂尾爲㆑飾、謂㆓之趙惠文冠㆒、胡廣說曰、趙武靈王、效㆓胡服㆒以㆓金璫㆒飾㆑首、前插㆓貂尾㆒爲㆓貴職㆒、秦滅㆑趙、以㆓其君冠㆒賜㆓近臣㆒。〔王先謙集解〕趙惠文王、武靈王子也、其初制、必甚麤簡、金玉之飾、當㆓卽惠文後來所㆑增、故冠因㆑之而名、云云、法冠、本楚冠、乃亦曰㆓往後惠文㆒、疑楚制倣㆑趙、以㆓其近似㆒名㆑之、不㆑名㆓楚冠㆒者、或避㆓竹皮楚制之嫌㆒耳。〔通典禮、嘉禮、趙惠文冠〕秦滅㆑趙以㆓其君冠㆒賜㆓近臣㆒、漢因㆑之曰㆓武弁㆒、一名大冠、諸武官冠㆑之、侍中・常侍、加㆓黃金璫㆒、附㆑蟬爲㆑文、貂尾爲㆑飾、侍中插㆓左貂㆒、常侍插㆓右貂㆒、用㆓赤黑色㆒。〔注〕胡廣曰、趙武靈王效㆓胡服㆒、以㆓金璫㆒飾㆑首、前插㆓貂尾㆒爲㆓貴職㆒、或以㆘北土多寒、胡人以㆓貂皮㆒溫㆖額、後代效㆑之、亦曰㆓惠文㆒、惠者蟪也、其冠文細如㆓蟬翼㆒、故名㆓惠文㆒、或曰、齊人見㆓千歲涸澤神㆒、名㆑之曰㆓慶忌㆒、冠㆓大冠㆒、乘㆓小車㆒、好㆓疾馳㆒、因象㆓其冠㆒。

〔惠文太子〕124（ケイブンタイシ）　唐、李範(**6**－**14459**··670)の諡。

【惠父】125（ケイホ）　字號。㊀宋、薛舜庸(**9**－**32123**··202)の字。㊁宋、宋慈(**3**－**7078**··119)の字。

【惠甫】126（ケイホ）　清、趙烈文(**10**－**37171**··946)の字。

【惠保】127（ケイホ・ケイハウ）　㊀めぐみたもつ。めぐみやすんずる。〔左氏、昭、二十二〕君若惠㆓保敝邑㆒。㊁北周、若干惠(**9**－**30796**··23)の字。

【惠穆】128（ケイボク）　宋、呂公弼(**2**－**3386**··204)の諡。

【惠本】128′（ケイホン）　根本を大切にする。民に恩惠を施すこと。〔國語、魯語上〕長勺之役、曹劌問㆘所㆓以戰㆒於莊公㆖、云云、對曰、夫惠㆑本、而後民歸㆓之志㆒。〔注〕惠㆑本、謂㆓樹㆑德施㆑利也。

【惠孟】129（ケイマウ）　後漢、王元(**7**－**20823**··368)の字。

【惠明】130（ケイミヤウ・エ）　宋の僧。華亭の普照寺に住す。詩を能くし、濟顚と名を齊しうし、世に明・顚と稱せられる。〔宋高僧傳、二十三〕。

【惠民】131（ケイミン）　㊀川の名。河南省開封縣。宋の史桂が、平州刺史となり、此の河を浚ふ。〔三朝會要〕惠民河、與㆓蔡河㆒一水、建隆元年、導㆓閔河㆒自㆓新鄭㆒與㆓蔡水㆒合、開寶六年、始改㆓閔河㆒爲㆓惠民河㆒。〔宋史、河渠志四〕蔡河貫㆓京師㆒、爲㆓都人所㆑仰、兼㆓閔水・洧水・潩水㆒、以通㆑舟、閔水自㆓尉氏㆒歷㆓祥符㆒、開封合㆓於蔡㆒、是爲㆓惠民河㆒。㊁縣名。清、置く。山東省陽信縣の南。〔清史稿、地理志〕山東、武定府、縣九、惠民。㊂明、滿城の人。字は濟衆。天順の擧人。官は齊河縣の長官。〔尙友錄、十八〕。

【惠問】132（ケイモン）　めぐみ。いつくしみ。問は、訪問の問。又、うるはしいほまれ。うるはしい名聲。問は、聞、名聲。〔顏延之、宋文皇帝元皇后哀策文〕惠問川流、芳猷淵塞。〔注〕良曰、惠問、美稱也。

【惠陽】133（ケイヤウ）　縣名。民國、置く。廣東省博羅縣の東。東江の左岸。城は東江に臨み、水陸交通の要地。

【惠養】134（ケイヤウ）　いつくしみ養ふ。又、そのこと。〔漢書、疏廣傳〕此金者、聖主所㆔以惠㆓養老臣㆒。〔顏延之、赭白馬賦〕願終㆓惠養㆒。〔杜甫、高都護驄馬行〕功成惠養隨㆑所㆑致、飄飄遠自㆓流沙㆒至。

【惠與】135（ケイヨ）　めぐみ與へる。又、人から贈與せられることを稱する敬語。頂戴。惠投。

【惠來】136（ケイライ）　㊀他人の來臨をいふ敬語。御光來。惠然(88)を見よ。〔詩、邶風、終風〕惠然肯來。㊁縣名。明、置く。廣東省潮陽縣の西南。〔讀史方輿紀要、廣東、潮州府〕惠來縣、本潮陽縣惠來等都、及海豐縣龍溪等都地、東南臨㆑海、西北盤㆓礴萬山㆒、僻荒略爲㆓盜賊出沒處㆒、嘉靖四年、始析㆓置今縣㆒。〔清史稿、地理志〕廣東、潮州府、縣九、惠來。

【惠賚】137（ケイライ）　めぐみ賜ふ。めぐみ與へる。惠賜。〔宋書、樂志四〕光被彌㆓蒼生㆒、家戶蒙㆓惠賚㆒。

【惠老】138（ケイラウ）　宋、程迪(**8**－**25081**··108)の字。

【惠利】139（ケイリ・エリ）　めぐみ利する。又、利益をめぐみ與へる。〔後漢書、安帝紀〕惠利牧養。〔無量壽經、上〕求㆓清白之法㆒、以惠㆓利群生㆒。

【惠立】140（エリツ）　唐の高僧。本名は子立。新平の趙氏の子。太原寺主を授けられた。著に慈恩三藏行傳(未完)がある。〔宋高僧傳、十七〕。

【惠陵】141（ケイリヨウ）　陵の名。㊀三國、蜀の昭烈帝の陵。四川省華陽縣の西南。旁に昭烈廟がある。〔蜀志、先主劉備傳〕諡曰㆓昭烈皇帝㆒、秋八月葬㆓惠陵㆒。〔四川總志〕惠陵、在㆓成都府城南八里㆒。㊁唐の讓皇帝の陵。陝西省蒲城縣の西北。〔唐書、讓皇帝憲傳〕讓皇帝憲始王、云云、疾寢劇薨、年六十三、云云、追㆓諡讓皇帝㆒、云云、號㆓其墓㆒曰㆓惠陵㆒。㊂清の穆宗の陵。河北省遵化縣の西北の昌瑞山。〔清會典、禮部〕裕陵之東南爲㆓穆宗毅皇帝陵㆒、孝哲毅皇后合葬、是爲㆓惠陵㆒。

【惠臨】142（ケイリン）　御光臨。惠來。〔福惠全書、蒞任部、禁私謁〕因㆓公事㆒而惠臨、則賔館相迎。

【惠齡】143（ケイレイ）　清、蒙古正白旗人。姓は薩爾圖克氏。諡は勤襄。官は乾隆中、四川總督。嘉慶の初、教匪の亂を伐つて功があり、川陝總督に遷る。〔清史稿、三百五十一〕・〔清史列傳、三十〕・〔國朝耆獻類徵、一百八十四〕。

【惠歷】144（ケイレキ）　城の名。雲南省建水縣の西。唐の蒙氏の時、築く。地名は步頭。〔元史、地理志四〕建水州、治㆓故建水城㆒、亦云㆓巴甸㆒、每㆓夏秋㆒、溪水漲溢如㆑海、夷謂㆑海爲㆑惠、歷爲㆑大、故名㆓惠歷㆒、漢語曰㆓建水㆒。

【惠連】145（ケイレン）　㊀南朝宋の謝惠連をいふ。謝惠連は、幼くして俊秀、能く文を作り、其の族兄、靈運が常に之を嘉賞し、文を作る每に惠連によつて佳語を得た故事から、轉じて、秀れた弟の意に用ひる。謝惠連(**10**－**35827**··267)を見よ。〔南史、謝惠連傳〕惠連、年十歲、能屬㆑文、族兄靈運、嘉㆓賞之㆒云、每有㆓篇章㆒對㆓惠連㆒、輒得㆓佳語㆒、嘗於㆓永嘉西堂㆒思㆑詩竟日不㆑就、忽夢見㆓惠連㆒、卽得㆔池塘生㆓春草㆒、大以爲㆑工、常云、此語有㆓神功㆒、非㆓吾語㆒也、云云、惠連云云、又爲㆓雪賦㆒、以㆓高麗㆒見㆑奇、靈運見㆓其新文㆒、每曰、張華重生不㆑能㆑易也。〔李白、春夜宴㆓桃李園㆒序〕羣季俊秀、皆爲㆓惠連㆒。㊁柳下惠と少連。〔論語、微子〕逸民、伯夷・叔齊・虞仲・夷逸・朱張・柳下惠・少連、子曰、不㆑降㆓其志㆒、不㆑辱㆓其身㆒、伯夷・叔齊與、謂㆓柳下惠・少連㆒、降㆑志辱㆑身矣、言中㆑倫、行中㆑慮、其斯而已矣、謂㆓虞仲・夷逸㆒、隱居放言、身中㆑清、廢中㆑權、我則異㆓於是㆒、無㆑可無㆓不可㆒。〔左思、招隱詩〕惠連非㆓吾屈㆒、首陽非㆓吾仁㆒。〔注〕向曰、謂㆛如㆘柳下惠與㆓少連㆒、降㆑志辱㆖㆑身、吾亦不㆚以爲㆙㆑屈。㊂字號。㋑明、張妙淨(**4**－**9812**··1545)の字。㋺明、梅之熉(**6**－**14830**··255)の字。㋩清、吳貽詠(**2**－**3365**··422)の字。

【惠王】146（ケイワウ）　㊀廟號。㋑周の第十七代の王。姬閬(**3**－**6230**··91)を見よ。㋺戰國、魏の第三代の王。魏惠王(**12**－**45872**··192)を見よ。㋩戰國、燕の第三十二代の王。燕惠王(**7**－**19429**··267)を見よ。㋥戰國、楚の第二十九代の王。楚惠王(**6**－**15141**··156)を見よ。㋭漢の廣川王越をいふ。劉越(**2**－**2224**··50)を見よ。㋬後漢の濟北王壽をいふ。劉壽(**2**－**2224**··352)を見よ。㋣後漢の下邳王衍をいふ。劉衍(**2**－**2224**··56)を見よ。㋠百濟の第二十七代の王。名は扶餘季明。在位二年。㊁後梁、朱友能(**6**－**14424**··641)の封號。

【推㆑惠】147（ケイヲオス）　めぐみをおす。惠をおしひろめ施す。〔曹植、求㆑通㆓親親㆒表〕推㆑惠施㆑恩。

【惠懿帝】148（ケイイテイ）　後燕の第五代の王。慕容雲(**4**－**11088**··51)を見よ。

【惠希孟】149（ケイキマウ）　元、江陰の人。字は秋厓。著に易象鉤玄・雜禮纂要・家範等がある。〔尙友錄、十八〕。

【惠恭王】150（ケイキヨウワウ）　新羅の第三十六代の王。金乾運(**11**－**40152**··1244)を見よ。

【惠士奇】151（ケイシキ）　清、吳縣の人。周惕の子。字は天牧・仲儒。號は半農居士。紅豆樹がある所から齋を名づけて紅豆齋といひ、自ら紅豆主人と號

し、學者は紅豆先生と稱した。康熙の進士。官は廣東學政・侍讀。經史に精通し、著に易說・禮說・春秋說・交食擧隅・琴笛理數考・紅豆齋小草・詠史樂府及び歸耕人海の諸集がある。〔清史稿、四百八十七〕・〔清史列傳、六十八〕・〔國朝耆獻類徵、一百二十四〕・〔碑傳集、四十六〕・〔國朝先正事略、三十三〕・〔國朝漢學師承記、二〕・〔清儒學案小識、十二〕。

【惠周惕】152（ケイシウテキ）　清、吳縣の人。字は元龍。號は研溪居士（硯溪）・紅豆主人。徐枋・汪琬の弟子。康熙の進士。官は密雲縣の長官。子の士奇、孫の棟と三世經學を以て著はる。著に易傳・春秋三禮問・詩說・研溪詩文集がある。〔清史稿、四百八十七〕・〔清史列傳、六十八〕・〔國朝耆獻類徵、二百二十四〕・〔碑傳集、四十六〕・〔國朝漢學師承記、二〕・〔清儒學案小識、十二〕。

【惠神會】153（ケイシンクワイ）　ゑびす講。惠比須を祭る祭禮。陰曆十月二十日に商家で行ふ。〔近古史談、德篇下、大猷公寛仁〕商家例有二惠神會一。

【惠親王】154（ケイシンワウ）　清、緜愉（**8－27644**‥97）の封號。

【惠農渠】155（ケイノウキヨ）　運河の名。甘肅省寧夏縣の東、葉昇堡の東南。地名は查漢托護。黃河の西に臨む。清の雍正中、渠を鑿つて流を引き、河西の陶家嘴の南花家灣に始まり、北、西河と渠口に於て會す。

【惠比須】156（エビス）　蛭子神の稱。其の像は肥えて、笑顏し、狩衣・指貫を着て、風折烏帽子を冠り、右に釣竿を持ち、左に鯛を抱く。常に大黑天と並稱し、又、七福神の一として多く商家で崇め祭る。夷三郎。七福神（**1－6**‥429）を見よ。

【惠閔帝】157（ケイビンテイ）　後燕の第二代の王。慕容寶（**4－11088**‥70）を見よ。

【惠武帝】158（ケイブテイ）　前秦、苻洪（**9－30825**‥6）の諡。

【惠懿皇帝】159（ケイイクワウテイ）　後燕、慕容雲（**4－11088**‥51）の諡。

【惠江戴段】160（ケイカウタイダン）　清の學者、惠棟・江永・戴震・段玉裁をいふ。〔經學歷史、經學復盛時代〕惠江戴段、爲二漢學幟志一。

【惠胡海苔】161（エゴノリ）　海藻の名。いぎす科に屬し、海中の稍〻深所にほんだはらの類に附着して繁茂する。

【惠齋先生】162（ケイサイセンセイ）　明、周賢（**2－3441**‥166）の號。

【惠莊太子】163（ケイサウタイシ）　唐、李撝（**6－14459**‥199）の諡。

【惠而不費】164（ケイニシテツヒヤサズ）　他人には多くめぐみを與へるが、其のために浪費はしない。〔論語、堯曰〕君子惠而不レ費、勞而不レ怨、云云、因二民之所一レ利而利レ之、斯不二亦惠而不一レ費乎。

【惠浸萌生】165（メグミハウセイヲウルホス）　恩惠が萬物を潤ほす。萌生は萬物。〔顏延之、應レ詔讌二曲水一作詩〕惠浸二萌生一、信及二翔泳一。〔注〕良曰、萌生、謂二萬物一也、言下恩惠浸二養萬物一、著信及中魚鳥上也。

【惠昭太子】166（ケイセウタイシ）　唐、李寧（**6－14459**‥649）の諡。

【惠宣太子】167（ケイセンタイシ）　唐、李業（**6－14459**‥303）の諡。

【惠潮鐵路】168（ケイテウテツロ）　鐵道の名。廣東省博羅縣の西石灣墟から、饒平縣の黃岡鎭に至る。

【惠氏三世學】169（ケイシサンセイノガク）　清の惠周惕と、其の子の惠士奇、孫の惠棟との三代の學をいふ。各條及び浙西學派（**6－17458**‥13）・吳派（**2－3365**‥342）を見よ。

【悏】10823

ア　〔集韻〕衣駕切　禡

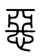
心むすぼれる。氣がふさく。〔集韻〕悏、心鬱也。

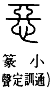
【惡】10824

🈩アク　〔集韻〕遏鄂切　藥　ㄜˇˋ　ê³·⁴

🈔ヲ　ウ　〔集韻〕烏故切　遇　ㄨˋ　wu⁴

🈪ヲ　ウ　〔集韻〕汪胡切　虞　ㄨ　wu¹


小篆


小篆（通訓定聲）

🈩❶**わるい。**㋑ただしくない。〔易、大有〕君子以遏レ惡揚レ善。〔禮、學記〕知二其美惡一。〔注〕美惡、說之是非也。〔穀梁、隱、四〕晉之名、惡也。〔注〕惡、謂レ不レ正。㋺もとる。〔釋名、釋言語〕惡、扼也、扼二困物一也。㋩みにくい。〔莊子、德充符〕衞有二惡人一焉。〔注〕惡、醜也。㋥そまつ。あらい。〔禮、喪服小記〕齊衰惡笄、以終レ喪。〔疏〕惡笄者、榛木爲レ笄也。〔國語、齊語〕惡金以鑄二鉏夷斤欘一。〔注〕惡、麤也。㋭てあらい。すさむ。〔周禮、秋官、行夫〕媺惡而無レ禮者。〔注〕惡、喪荒也。㋬あらい。おだやかでない。〔史記、秦始皇紀〕水波惡。㋣不快な。〔大學〕如レ惡二惡臭一。〔論語、鄉黨〕色惡不レ食、臭惡不レ食。㋠不吉。〔史記、趙世家〕此夢甚惡。㋷凶作。〔漢書、薛盧傳〕歲惡民流。❷**あやまち。**正しくない事。惡事。〔說文〕惡、過也、从レ心亞聲。〔左氏、定、五〕吾以志二前惡一。〔注〕惡、過也。❸**わざはひ。**禍害。〔淮南子、說林訓〕反爲レ惡。〔注〕惡、猶レ害也。❹**刑戮。**〔荀子、富國〕或美或惡。〔注〕惡、謂二刑戮一。❺**わるもの。**惡人。〔新語、道基〕承レ天誅レ惡。❻**けがれ。よごれ。**汚（**6－17133**）に通ず。〔說文通訓定聲〕惡、叚借爲レ汚。〔左氏、成、六〕有二汾澮一以流二其惡一。〔注〕惡、垢穢。❼**やまひ。**〔左氏、成、六〕其惡易レ覯。〔注〕惡、疾疢。❽**きず。**〔周禮、天官、獸醫〕灌而劀レ之、以發二其惡一。❾**くそ。**屎。糞便。〔吳越春秋、句踐入臣外傳〕太宰嚭奉二溲惡一以出。〔注〕惡、大溲也。❿**威勢。**權威。〔漢書、匈奴傳下〕易レ隸以レ惡。〔注〕師古曰、惡、謂レ威也。⓫亞（**1－274**）に通ず。〔說文〕亞、醜也、象二人局背之形一。〔說文通訓定聲〕亞、今作レ惡。〔說文通訓定聲〕惡、叚借爲レ亞、書大傳、鐘鼓惡、注、惡、當レ爲レ亞、亞、次也。〔語林〕宋人有レ獲二玉印一、文曰、周惡夫印、劉原父曰、漢條侯有二周亞夫印一、惡、古通レ亞。〔史記、盧綰傳〕亞谷。〔漢書、盧綰傳〕惡谷。⓬堊（**3－5215**）に通ず。〔儀禮、既夕禮記〕主人乘二惡車一。〔注〕古文、惡、作レ堊。⓭隸は悪に作り、或は僫（**1－1126**）に作る。〔集韻〕惡、隸作レ悪、或从レ人。

🈔❶**にくむ。**〔集韻〕惡、憎也。〔詩、周頌、振鷺〕在レ彼無レ惡、在レ此無レ斁。〔論語、里仁〕惟仁者能好レ人、能惡レ人。〔論語、陽貨〕君子亦有レ惡乎。〔皇疏〕惡、謂二憎疾一也。〔呂覽、首時〕吾所二甚惡一也。〔注〕惡、憎。〔呂覽、貴直〕主之所レ惡也。〔注〕惡、疾也。❷**はぢる。**〔集韻〕惡、恥也。〔孟子、公孫丑上〕羞惡之心、人皆有レ之。❸**おそれる。**〔史記、仲尼弟子傳〕王必惡レ趙。〔注〕索隱曰、惡、猶レ畏也。❹**わづらふ。**いとふ。〔呂覽、安死〕非レ惡二其勞一也。〔注〕惡、猶レ患也。❺**そしる。**あしざまにつげる。䛩（**10－35581**）に通ず。〔說文通訓定聲〕惡、叚借爲レ䛩。〔漢書、鄒陽傳〕惡二之孝王一。〔注〕師古曰、惡、謂二讒毀一也。〔漢書、樊噲傳〕人有レ惡二噲黨於呂氏一。〔注〕師古曰、惡、謂二毀譖一、言二其罪惡一也。❻**いむ。**きらふ。さける。〔漢書、夏侯勝傳〕惡二察察言一。〔注〕師古曰、惡、謂二忌諱一也。❼**いみ。**忌日。〔禮、王制〕奉二諱惡一。〔注〕惡、忌日、若二子卯一。❽**むつまじくない。**不和。〔左氏、隱、三〕周鄭交惡。〔戰國、齊策〕齊魯之交惡。〔注〕惡、不レ睦也。

🈪❶**いづくんぞ。なんぞ。**疑問の助辭。曷（**5－14290**）に通ず。〔說文通訓定聲〕惡、叚借爲レ曷。〔集韻〕惡、安也。〔左氏、桓、十六〕惡用レ子矣。〔注〕惡、安也。〔公羊、昭、三十一〕惡

有下言二人之國賢一若レ此者上乎。〔注〕惡有、猶二何有一、寧有二此之類一也。❷いづくに。いづれに。〔禮、檀弓上〕吾惡乎哭レ諸。〔釋文〕惡乎、猶レ於レ何也。〔穀梁、定、八〕惡得レ之。〔注〕惡、於レ何也。〔論語、里仁〕君子去レ仁、惡乎成レ名。〔疏〕惡乎、猶レ於レ何也。❸ああ。〔孟子、公孫丑下〕曰、惡、是何言也。〔注〕曰レ惡者、深嗟歎。❹通じて烏(7－18998)に作る。〔集韻〕惡、通作レ烏。❺呼(2－3471)・虖(9－32698)に通ず。〔禮、禮器〕必先有レ事二于惡池一。〔注〕惡、當レ爲レ呼、聲之誤也。〔釋文〕惡、又作レ虖。〘邦〙あく。㋑歌舞伎など芝居で惡人の役を演ずる者。敵役（カタキヤク）。㋺強い・無道の意を表はす接頭語。例、惡源太。

【惡穢】1（ヲアイ ヲワイ）よごれ。けがれ。汙穢。〔禮、月令、疏〕水受二惡穢一、故有二朽腐之氣一。

【惡衣】2（アクイ）粗末な衣服。惡衣惡食を見よ。

【惡衣惡食】3（アクイアクシヨク）粗末な衣服と粗末な食物。〔論語、里仁〕士志二於道一、而恥二惡衣・惡食一者、未レ足二與議一也。〔漢書、王莽傳上〕惡衣・惡食・陋車・駑馬。

【惡意】4（アクイ）❶わるいかんがへ。正義に反する意思。又、わるかれと思ふ心。〔左氏、閔、二、偏躬无レ匿、注〕分二公身一衣レ之、非二惡意一也。〔漢書、王莽傳下〕疑三臨有二惡意一、不レ令レ得二會喪一。〔後漢書、劉焉傳〕今日之走、以避二鋒銳一、非レ有二惡意一。❷わるい見方。わるい意味。

【惡友】5（アクイウ）わるい友。よからぬ友。良友の對。

【惡遊】6（ワルアソビ）よからぬあそび。

【惡因】7（アクイン）〘佛〙惡果を招く原因。〔瓔珞本業經、下〕是故善果從二善因一生、是故惡果從二惡因一生。

【惡韻】8（アクヰン）まづい詩。下手な詩。〔蘇軾、和二田仲宣見レ贈詩〕好詩惡韻那容レ和、刻レ燭應二須便置レ觥。

【惡運】9（アクウン）❶惡いまはりあはせ。惡いなりゆき。〔漢書、武五子傳贊〕千秋材知、未二必能過レ人也、以下其銷二惡運一、遏二亂原一、因レ衰激極、道中迎善氣上。❷惡事をなしながら却つて榮える運勢。

【惡疫】10（アクエキ）わるいはやり病。惡性の流行病。

【惡餤】11（アクエン）わるいいきほひ。惡者のいきほひ。餤は、ほのほ、勢の喩。〔福惠全書、刑名部、問擬〕惡餤日熾、惟任二意所一レ爲。

【惡緣】12（アクエン）❶〘佛〙惡事に誘ひ入れる外界の事情。〔西方要決〕六惡緣伴、阻二壞淨心一。〔往生要集、上末〕煩惱內催、惡緣外牽。❷男女の、思ふままにならない間柄。又、離れようとして離れ難い男女の關係。〔生玉心中、道行正德〕かかる契りの惡緣とかへらぬ道をたどりゆく。❸結んでは惡い結果になる男女の緣。〔凱陣八島、一〕如何に順の違へばとて惡緣は結ばれじ。

【惡行】13（アクカウ アクギヤウ）惡い行爲。〔詩、鄘風、桑中、美孟姜矣、傳〕言三世族在レ位、有二是惡行一。〔新語、明誡〕惡行著二於身一。

【惡耗】14 ê^4 hao^4 わるいしらせ。凶報。耗は、おとづれ・音信。

【惡客】15（アクカク アクキヤク）❶下等なお客。俗惡な客。又、いやな客。〔李商隱雜纂、惱人〕請二貴客一不レ來、惡客不レ請自來。❷酒を飮まぬ人。下戶。〔堅瓠集〕留青日札、黃山谷以三不レ飮レ酒者一爲二惡客一、故云、破卯扶額把二一杯一、燈前風味喚仍回、高陽社裏如相訪、不レ用閒攜二惡客一來、元次山亦云、將レ船何處去、送レ客小回南、有三時逢二惡客一、還レ家亦小酣、蓋以レ敗二人淸興一故也。❸大酒飮み。大酒家。〔羣碎錄〕元結以二下飮者一爲二惡客一、後人以二痛飮者一爲二惡客一。❹草の名。曼陀羅華(5－14298‥42)の❷をいふ。〔西溪叢語、上〕曼陀羅華爲二惡客一。

【惡覺】16（アクカク）〘佛〙惡い思想。〔大乘義章、五末〕邪心思想、名レ之爲二惡覺一、違二正理一、故稱爲レ惡、惡覺不レ同、離分有レ八。

【惡寒】17（ヲカン）❶寒さを惡む。〔荀子、天論〕天不下爲二人之惡レ寒也輟上レ冬。〔東方朔、答二客難一〕天不下爲二人之惡レ寒而輟中其冬上。〔陸機、君子行〕近レ火固宜レ熱、履レ氷豈惡レ寒。❷病氣の時などにぞくぞくと感ずる寒さ。さむけ。〔劉完素六書、滯下〕如發熱惡寒腹不レ痛、加二黃芩一爲レ主、如未レ見レ膿而惡寒、乃太陰欲二少陰一、加二黃連一爲レ主、桂枝佐レ之。

【惡感】18（アクカン）わるい感情。にくしみの感情。怨みの氣持。惡感情。

【惡感情】19（アクカンジヤウ）惡感に同じ。

【惡漢】20（アクカン）わるもの。惡い男。無賴漢。漢は男。

【惡忌】21（ヲキ）にくみいむ。〔荀子、成相〕爭レ寵嫉レ賢利二惡忌一。〔集解〕利、當レ爲レ相、字之誤也。

【惡氣】22（アクキ）❶惡い氣。人にわざはひする氣。〔左氏、昭、十五、吾見二赤墨之祲一、非二祭祥一也、喪氛也、注〕氛、惡氣也。〔新語、明誡〕惡政生二於惡氣一。〔論衡、譴告〕刑賞失レ實惡也、爲二惡氣以應レ之。〔後漢書、明帝紀〕使下人知二神姦一、不上レ逢二惡氣一。〔注〕惡氣、謂二罔兩之類一。〔後漢書、禮儀志中〕以難レ止二惡氣一。❷惡い臭氣。〔文天祥、正氣歌序〕或圊溷、或死屍、或腐鼠、惡氣雜出。

【惡鬼】23（アクキ）たたりをなす魔物。惡魔。邪鬼。〔史記、秦始皇紀〕方中人主、時爲二微行一、以辟二惡鬼一、惡鬼辟、眞人至。〔仁王經、下〕惡鬼・惡龍。〔良賁疏〕惡鬼・疾疫・惡龍・旱澇。

【惡鬼神】24（アクキジン）〘佛〙夜叉・羅刹の類。人を惱害するもの。〔藥師本願經〕不下爲二諸惡鬼神一奪中其精氣上。

【惡鬼羅刹】25（アクキラセツ）惡鬼と羅刹。惡鬼及び羅刹(9－28397‥165)の❷を見よ。〔淨住子、在家從惡門〕羅刹惡鬼、恆噉二人想一。

【惡器】26（アクキ）惡を爲すはたらき。惡い才能。惡を爲す器具。〔莊子、徐無鬼〕凡成レ美、惡器也。〔呂注〕天下皆知二美之爲レ美、斯惡已、則成レ美因二惡器一也。〔疏〕爲レ惡之器具也。

【惡歸】27（アクキ）困窮して家に歸る。〔高啓、悲歌〕貧少不レ如二富老一、美游不レ如二惡歸一。

【惡戲】28（アクギ）いたづら。わるふざけ。又、いたづらをする。〔北史、齊文宣帝紀〕崔李舒託二俳言一曰、老小公子惡戲。

【惡逆】29（アクギヤク）❶心あしく道にさからふ。惡事をはたらくこと。〔漢書、師丹傳〕惡逆暴著。〔後漢書、陳球傳〕梁后家犯二惡逆一。❷舊刑律十惡罪の一。父母、又は祖父母を毆投し、又は謀殺した罪など。十惡(2－2695‥1)の❶を見よ。〔唐六典、刑部〕若犯二惡逆以上一、及部曲奴婢殺レ主者、唯一覆奏。〔通典、刑〕若犯二惡逆以上一、及部曲奴婢殺レ主者、唯一覆奏。〔明律、名例〕四曰、惡逆。〔注〕謂下毆二及謀三殺祖父母・父母・夫之祖父母・父母一、殺二伯叔父母・姑・兄姊・外祖父母及夫一者上。❸中古の罪名。八虐の一。君父などを殺さうと謀る罪。❹惡戲。亂暴。〔狂言、惡太郞〕汝日頃醉狂をし惡逆ばかりなすによつて。

【惡逆無道】30（アクギヤクブダウ）道にはづれた行爲をすること。惡事をはたらくこと。無道は、道に從はないこと。〔謠曲、船辨慶〕惡逆無道のその積り。

【惡許】31（イツコ）いづれのところ。何許(1－511‥47)に同じ。〔墨子、非樂上〕古者聖王、亦嘗厚措二斂乎萬民一、以爲二舟車一、舟車既以成矣、曰、吾將二惡許用レ之。〔閒詁〕畢云、惡許、猶レ言二何許一。

【惡金】32（アクキン）質のよくないかね。〔國語、齊語〕惡金以鑄二鉏夷斤斸一。〔注〕惡、麤也。〔管子、小匡〕惡金以鑄二斤斧鉏夷鋸欘一。

【惡衿】33（アクキン）惡書生。衿は、靑衿で、書生・學生。〔福惠全書、蒞任部、忍性氣〕惡衿劣狀。

【惡狗】34（アクク）質のよくない犬。人に嚙みつかうとする犬。〔韓詩外傳、七〕人有二市レ酒而甚美者一、然至二酒酸一而不レ售、問二里人其故一、里人曰、公之狗甚猛、人有二持レ器欲レ往者一、狗輒迎而齧レ之、是以酒酸不レ售也、士欲レ白二萬乘之主一、用レ事者迎而齧レ之、亦國之惡狗也。

【惡苦】35 ê^4 k'u^3 にがい。不味くて苦い。

【惡化】36（アククワ）わるくかはる。わるくなる。

【惡果】37（アククワ）〘佛〙惡い結果。〔瓔珞本業經、下〕是故善果從二善因一生、是故惡果從二惡因一生。

【惡貨】38（ヲクワ）❶貨財をにくむ。〔孫子、九地〕吾士無二餘財一、非レ惡レ貨也。❷（アククワ）惡い貨幣。地金の價値が法定の價格より劣る貨幣。惡貨幣。

【惡貨幣】39（アククワヘイ）惡貨の❷に同じ。

【惡臥】40（アククワ）わるいねかた。ぶざまなねかた。〔新論、崇學〕仲舒垂レ卒、口不レ輟レ誦、有レ子惡臥、自碎二其掌一。

【惡魁】41 ê^4 k'uei^2 惡黨の巨魁。

【惡聒】42（アククワツ）口がわるくかまびすしい。〔王安石、結二屋山澗曲一詩〕吾兒亦惡聒、勠レ力事二棄捐一。

【惡貫】43（アククワン） わるい行爲。惡貫已盈を見よ。

【惡貫已盈】44（アククワンステニミツ） 罪惡がすでに滿ちてゐる。〔書、泰誓上〕商罪貫盈、天命誅レ之。〔傳〕紂之爲レ惡、一以貫レ之、惡貫已滿、天畢二其命一。〔剪燈新話、牡丹燈記〕惡貫已盈、罪名不レ宥。

【惡計】45（アクケイ） 惡いはかりごと。

【惡笄】46（アクケイ） 粗末な笄。婦人が齊衰（シサイ）の喪に居るとき、髮を卷くに用ひる榛木の笄。〔禮、喪服小記〕齊衰惡笄、以終レ喪。〔疏〕惡笄者、榛木爲レ笄也。〔通俗編、服飾、骨笄〕按、古喪制、婦人笄用二篠竹一曰二箭笄一、或用二白理木一曰二櫛笄一、亦曰二惡笄一、其吉笄、乃用二象骨一爲レ之、茲于レ喪用二骨笄一、實非レ古也。

【惡溪】47（アクケイ） 川の名。㊀浙江の境に在り、浙江省縉雲縣の東北から出て、大溪に注ぐ。もと水怪が多かつたが、唐の宣宗の時、刺史、段成式が善政を施したため、水怪が去つたので、民が好溪と名づけた。〔唐書、地理志五〕處州、麗水東十里有二惡溪一、多二水怪一、宣宗時、刺史段成式、有二善政一、水怪潛去、民謂二之好溪一。㊁廣東省湖安縣の韓江をいふ。唐の韓愈が鱷魚の災を除いた所。〔唐書、韓愈傳〕愈至二潮州一、問二民疾苦一、皆曰、惡溪有二鱷魚一、食二民畜產一且レ盡、民以レ是窮、數日、愈自往視レ之、令下其屬秦濟以二一羊一豕一投二谿水一而祝ち之、祝之夕、暴風震電起二溪中一、數日水盡涸、西徙六十里、自レ是潮無二鱷魚患一。

【惡血】48（アクケツ・ヲケツ） けがれた血。あくち。〔千金方、產後虛損〕凡產後七日內、惡血未レ盡、不レ可レ服二羊肉湯一、候二臍下塊散一、乃進二羊肉湯一。

【惡月】49（アクゲツ） 陰曆の五月をいふ。此の月は事をするを忌み、特に五日を出生の凶日として忌み嫌ふ。毒月。惡日(86)を見よ。〔荊楚歲時記〕五月、俗稱二惡月一、多レ禁、忌レ暴二牀薦席一、及忌レ蓋レ屋。〔帝京歲時紀略〕京俗、五月不レ遷レ居、不レ糊二窓槅一、名二惡月一。〔清嘉錄〕是月、俗又稱爲二毒月一、百事多二禁忌一。

【惡業】50（アクゲフ） ㊀良からぬわざ。不正な所業。〔史記、貨殖傳〕博戲、惡業也。㊁佛（アクゴフ）苦の果を生ずる身・口・意の所爲。特に苦の應報を受くべき前世の惡事。理に乖くを惡といひ、身・口・意の三つのする行爲を業といふ。〔四十華嚴經、四十〕我昔所レ造諸惡業、皆由二無始貪瞋痴一。〔六波羅蜜經、五〕無始所レ造惡業、如二大千界所有微塵一。〔淨住子、發願莊嚴門〕三善根生、名二善業道一、三不善根生、名二惡業道一。

【惡見】51（アクケン） わるい見解。わるい見方。わるい考。〔八十華嚴經、十四〕捨二不正道一、永除二惡見一。

【惡言】52（アクゲン） わるくち。惡語。惡口。〔左氏、哀、二十五〕惡言多矣、君請盡レ之。〔史記、仲尼弟子傳〕孔子曰、自二吾得レ由、惡言不レ聞二於耳一。〔漢書、張湯傳〕被二惡言一而死。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕平日尙無二惡言一。

【惡言不レ出レ口】53（アクゲンクチヨリイデズ） 人を傷つけ害ふやうな言語を口にしない。〔禮、祭義〕壹出レ言而不三敢忘二父母一、是故惡言不レ出二於口一、忿言不レ反二於身一。〔荀子、樂論〕口不レ出二惡言一。〔管子、小稱〕惡言出二於口一。〔鄧析子、轉辭〕一聲而非、駟馬勿レ追、一言而急、駟馬不レ及、故惡言不レ出レ口、苟語不レ殺レ耳。

【惡乎】54（イツクニカ） ㊀何所に於てか。いづくんか。〔論語、里仁〕君子去レ仁、惡乎成レ名。〔集注〕何所成二其名一乎。㊁（アア）歎辭。嗚呼(2−4084・・10)に同じ。〔韓詩外傳、二〕晏子奉二杯血一、仰レ天而歎曰、惡乎、崔杼將下爲二無道一、而殺中其君上。

【惡語】55（アクゴ） わるくち。惡言。惡口。〔蘇軾、劉貢父見二余歌詞數首一以レ詩見レ戲聊次二其韻一詩〕門前惡語誰傳去、醉後狂歌自不レ知。〔行事鈔、中〕凡有二所說一、當レ說二善語一、不レ應二惡語一。

【惡口】56（アクコウ） ㊀わるくち。惡言。惡語。〔漢書、王尊傳〕素行陰賊、惡口不レ信。㊁佛（アクク）罵詈して人を惱ます言。佛家十惡の一。〔法界次第、上之上〕惡言加レ彼、令二他受一レ惱、名爲二惡口一。〔法華經、不輕菩薩品〕若有二惡口罵詈誹謗一、獲二大罪報一。

【惡恨】57 wu^4 hen^4 恨む。にくむ。

【惡恨的】58 wu^4 hen^4 tê^4 にくらしい。憎むべき。

【惡棍】59 ê^4 huen^4 惡漢。わるもの。

【惡歲】60（アクサイ） 陰陽のよく調和しない年。ききんどし。凶年。荒歲。〔越絕書、越絕外傳枕中〕夫陰陽錯繆、卽爲二惡歲一。〔唐庚、次二泊頭一詩〕硯田無二惡歲一、酒國有二長春一。

【惡相】61（アクサウ） ㊀わるい人相。㋑醜い顏つき。㋺おそろしい人相。凶惡な人相。㊁佛不吉なありさま。不吉な現象。〔楞嚴經〕十習爲レ因、現二此惡相一。

【惡草】62（アクサウ） ㊀害毒をなす草。〔李商隱、述レ德抒レ情詩〕惡草雖レ當レ路、寒松實挺生。㊁草の名。水藻の異名。〔事物異名錄、百草、草〕博物志、師曠曰、歲欲レ惡、惡草先生、惡草、水藻也。㊂惡く粗末なこと。草は、粗末の意。惡草具を見よ。

【惡草具】63（アクサウグ） 粗末な道具。粗末な食器。〔史記、陳丞相世家〕以二惡草具一進二楚使一。〔注〕集解曰、漢書音義曰、草、粗也。

【惡瘡】64（アクサウ） たちのわるいはれもの。〔證治準繩、惡瘡〕諸痛癢瘡、皆屬二於心一、諸濕腫滿、皆屬二於脾一、心主レ血、脾主レ肉、血熱而肉濕、濕熱相合、潰二敗肌膚一、浸淫不レ休、不レ可下以二定名一命ち之、故謂二之惡瘡一也。

【惡作】65（アクサク） ㊀わるいしわざ。わるさ。惡作劇を見よ。㊁惡い製作。又、惡い作品。㊂佛（アクサ）㋑惡事の所作を後に悔いること。懺悔の心。〔俱舍論、四〕惡作者、謂下緣二惡作一、心追悔性上。㋺わるい作法。七聚の一。突吉羅罪をいふ。突吉羅(8−2543・・67)を見よ。㋩（サヲ）己が所作を惡む。〔唯識論、七〕悔、謂二惡作一、惡二所作事一、追悔爲レ性。

【惡作劇】66（アクサクゲキ） いたづら。わるさ。惡作。〔劍俠傳、僧俠〕僧始捫二中處一、徐曰、郎君莫二惡作劇一。

【惡策】67（アクサク） わるいはかりごと。惡計。奸策。

【惡札】68（アクサツ） みにくいかきもの。己の手簡の謙稱。〔益公題跋〕以上惡札、皆予筆也。

【惡殺】69（ヲサツ） 殺すことをにくむ。〔徐陵、報二尹義尙一書〕聖朝好レ生惡レ殺、收レ雷寢レ電。

【惡擦】70（ワルズレ） 世の中にもまれてわるがしこくづうづうしくなること。

【惡士】71（アクシ） わるい人士。〔孔子家語、子路初見〕毀レ仁惡士、必近二於刑一。

【惡子】72（アクシ） 惡事をなす少年。惡少年。〔漢書、尹賞傳〕雜二擧長安中輕薄少年惡子一。〔注〕師古曰、惡子、不レ承二父母教命一者。

【惡氏】73（アクシ） わるい姓氏。改二惡氏一を見よ。

【改二惡氏一】74（アクシニアラタム） わるい氏に改める。〔通志、氏族略、改二惡氏一〕蕭氏、齊武帝以二巴東王子響叛逆一、改爲二蛸氏一。

【惡指】75（アクシ） にくみ指摘する。〔漢書、鄒陽傳〕吳王以二太子事一怨望、稱レ疾不レ朝、陰有二邪謀一、陽奏レ書諫、爲二其事尙隱一、惡指斥言。

【惡師】76（アクシ） 佛わるい道を教へる師。〔智度論、一〕一切衆生、入二邪見網一、爲二異學惡師所一レ惑。

【惡詩】77（アクシ） まづい詩。下手な詩。〔唐國史補〕淮南進二崔叔淸詩百篇一、德宗曰、此惡詩何用レ進、因謂二之準敕惡詩一。〔蘇軾、世傳徐凝瀑布詩云云詩〕飛流濺沫知二多少一、不下與二徐凝一洗中惡詩上。

【惡事】78（アクジ） ㊀わるい事。わるいしわざ。惡事行二千里一を見よ。㊁まづいしわざ。下手なやり方。失敗。〔素書〕務二善策一者無二惡事一、無二遠慮一者有二近憂一。㊂（ジヲ）事をにくむ。政事をきらふ。〔國語、周語上〕不レ謂二其少一而大料レ之、是示レ少而惡レ事也、臨レ政示レ少、諸侯避レ之、治レ民惡レ事、無二以賦一レ令。〔注〕厭二惡政事一不レ能レ修之意也。

【惡事千里】79（アクジセンリ） 惡事行二千里一の略。

【惡事行二千里一】80（アクジセンリヲユク） 惡事は直ぐに千里の遠方までも知れ渡る。惡事の知れ易いのをいふ。〔傳燈錄〕好事不レ出レ門、惡事行二千里一。〔北夢瑣言、六〕好事不レ出レ門、惡事行二千里一。

【惡事傳二千里一】81（アクジセンリニツタハル） 惡事行二千里一に同じ。〔事文類聚〕好事不レ出レ門、惡事傳二千里一。

【惡時】82（アクジ） 佛わるい時。惡行の盛な時。〔散善義〕五濁惡時。

【惡臭】83（アクシウ） わるいにほひ。不快なにほひ。〔周禮、天官、宮人〕掌二王之六寢之修一、爲二其井匽一、除二其不蠲一、去二其惡臭一。〔大學〕如レ惡二惡臭一、如レ好二好色一。〔韓非子、五蠹〕民食二果蓏蜯蛤一、腥臊惡臭、而傷二害腹胃一、民多二疾病一。

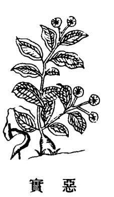
【惡疾】84（アクシツ） ㊀惡質の病氣。人の忌み嫌ふ病。〔大戴禮、本命〕婦有二七去一、云云、有二惡疾一去。〔漢書、楚孝王囂傳〕離二于惡疾一。〔孔子家語、本命解〕婦有二七出一、云云、惡疾者。〔令義解〕惡疾、謂二白癩一。〔標注令義解校本〕惡疾、抄云、謂二癩病一也、穴云、癩・狂・久漏等、不レ合レ出レ之、家語注云、謂レ不三其供二粢盛一也。㊁瘖（おし）・聾（つん

ぼ）・盲（めくら）・癘（かつたゐ）・禿（はげ）・跛（びつこ）・傴（せむし）の類をいふ。〔公羊、昭、二十〕何疾爾、惡疾也。〔注〕惡疾、謂㆘瘖・聾・盲・癘・禿・跛・傴、不㆑逮㆓人倫㆒之屬㆖也。〔白虎通、攷黜〕諸侯瘖・聾・跛・躄惡疾、不㆑免㆑黜者何。

【惡質】85（アクシツ） わるい性質。わるいたち。

【惡日】86（アクジツ） ❶陰暦五月五日をいふ。惡月(49)を見よ。〔宋書、王鎭惡傳〕鎭惡以㆓五月五日㆒生、家人以㆓俗忌㆒、欲㆑令㆔出繼㆓疎宗㆒、猛見奇㆑之、曰、此非㆓常兒㆒、昔孟嘗君惡月生而相㆑齊、是兒亦將㆑興㆓吾門㆒矣、故名㆑之爲㆓鎭惡㆒。❷わるい日。不吉な日。凶日。吉日(**2**－3289・・69)の對。

【惡實】87（アクジツ） 蔬菜の名。牛蒡（ゴバウ）の異名。其の實がみにくく、刺が多いから名づける。〔本草、惡實〕釋名、鼠黏・牛蒡・大力子・蒡翁菜・便牽牛・蝙蝠刺、時珍曰、其實、狀惡而多㆓刺鉤㆒、故名、其根葉皆可㆑食、人呼爲㆓牛菜㆒、術人隱㆑之呼爲㆓大力㆒也、俚人謂㆓之便牽牛㆒、河南人呼爲㆓夜叉頭㆒。



惡實
（三才圖會）

【惡習】88（アクシフ） わるいならはし。惡い習俗。又、惡い習慣。惡癖。又、惡弊。〔淸會典事例、兵部、儀式〕近來八旗子弟、往往沾㆓染漢人習氣㆒、於㆓淸語騎射㆒、不㆓肯專心練習㆒、拋㆓荒正業㆒、甚至㆔私去㆓帽頂㆒、在㆑外游蕩、潛赴㆓茶園戲館㆒、飮酒滋㆑事、實爲㆓惡習㆒。

【惡叉】89（アクシヤ） 〘佛〙樹の名。梵語。rudra-akṣa の譯。其の實は、形が無食子（ドングリ）に似、地に落ちれば多く一處に聚まる。金剛子。惡叉聚を見よ。〔玄應音義、二十三〕惡叉、樹名、其子、形如㆓無食子㆒、彼國多聚以賣㆑之、如㆓此閒杏人㆒、故喩也。

〔惡叉聚〕90（アクシヤジユ） 〘佛〙惡叉のやうに聚まる。惡叉を見よ。〔楞嚴經、一〕業種自然、如㆓惡叉聚㆒。〔唯識論、二〕一切有情、無始時來、有㆓種種界㆒、如㆓惡叉聚㆒、法爾而有。〔唯識論述記〕惡叉、形如㆓無食子㆒、落在㆑地時、多爲㆑聚故、以爲㆑喩也。〔唯識論演秘〕惡叉聚者、於㆓一聚中㆒、法爾而有㆓多品類㆒也、西域有㆑之、人以爲㆑染、並取㆓其油㆒。

【惡車】91（アクシヤ） 喪の時などに用ひる飾の無い粗惡な車。木車。一說に、喪に乘る白土を塗つた車。堊車。素車。〔儀禮、既夕禮記〕主人乘㆓惡車㆒。〔注〕拜㆓君命㆒、拜㆓衆賓㆒、及有㆓故行㆒所㆑乘也、雜記曰、端衰喪車、皆無㆑等、然則此惡車、王喪之木車也、古文、惡作㆑堊。

【惡者】92（アクシヤ） 性質のよくないもの。わるもの。〔史記、平準書〕式曰、非㆓獨羊㆒也、治㆑民亦猶㆑是也、以㆑時起居、惡者輒斥去、毋㆑令㆑敗㆑羣。

【惡酒】93（アクシユ） わるい酒。質の劣つた酒。まづい酒。價の安い酒。〔蘇軾、金山寺與㆓柳子玉㆒飮云云書㆓其壁㆒詩〕惡酒如㆓惡人㆒、相攻劇㆓刀箭㆒。

【惡種】94（アクシユ） わるいたね。〔漢書、賈山傳〕地之磽者、雖㆑有㆓善種㆒、不㆓能生㆒焉、江皐河瀨、雖㆑有㆓惡種㆒、無㆑不㆓猥大㆒。

【惡趣】95（アクシユ） 〘佛〙惡行をした衆生の墮ちる苦惱の世界。地獄道・餓鬼道・畜生道など。惡道。趣は境界。〔無量壽經、下〕但爲㆓衆惡㆒、不㆑修㆓善本㆒、皆悉自然入㆓諸惡趣㆒。〔白居易、畫㆓彌勒上生幀㆒記〕一切惡趣、衆生願同㆓我身㆒、離㆑苦得㆑樂。

〔惡趣味〕96（アクシユミ） よからぬ趣味。物事に對する偏つた興味。

【惡終】97（アクシユウ） 災禍にあつて死ぬこと。不吉な最期。〔書、畢命〕驕淫矜侉、將由㆑惡終。〔魏書、韋閬傳〕吾一生爲㆑善、未㆑蒙㆓善報㆒、常不㆑爲㆑惡、今爲㆓惡終㆒。

【惡孰】98（アクジユク） 惡事が熟成する。罪惡が其の頂點に達すること。又、惡事が歷然と知れわたること。惡熟。〔漢書、五行志上〕春秋魯定哀時、季氏之惡已孰、而孔子之聖方盛、夫以㆓盛聖㆒而易㆓孰惡㆒、其勢可㆑成也。〔蔡邕、光武濟陽宮碑〕罪成惡熟、天人致㆑誅。

【惡所】99（アクシヨ） ❶惡い場所。❷けはしい山路など。〔平家物語、五〕惡所を馳すれど馬を不㆑倒。❸（アクシヨ アクジヨ） 遊蕩をする場所。くるわ。いろざと。惡場所。

〔惡所狂〕100（アクシヨグルヒ） 遊里などの遊蕩に熱中すること。〔心中天網島〕惡所狂ひの身の果ては。

〔惡所落〕101（アクシヨオチ） 拔け出して惡所に行くこと。〔好色一代女、三〕葬禮場よりすぐに惡所落の內談。

【惡處】102（アクシヨ） ❶惡い場所。〔漢書、張良傳〕金少者得㆓惡處㆒。❷〘佛〙惡人が死後に墮ちて苦しむ處。佛緣に遠い所。〔法苑珠林〕復何因緣不㆑生㆓惡處㆒。

【惡色】103（アクシヨク） 素行のよからぬ美人。淫靡な女。〔孟子、萬章下〕伯夷、目不㆑見㆓惡色㆒、耳不㆑聽㆓惡聲㆒。〔注〕謂㆘行不㆑正而有㆓美色㆒者、若㆗夏姬之比㆖也。

【惡食】104（アクシヨク） ❶粗末な食物。〔論語、里仁〕士志㆓於道㆒、而恥㆓惡衣・惡食㆒者、未㆑足㆓與議㆒也。〔史記、項羽紀〕以㆓惡食㆒食㆓項王使者㆒。〔漢書、王莽傳上〕惡衣・惡食・陋車・駑馬。〔魏志、司馬朗傳〕麤衣・惡食。❷（ヲシヨク） 婦人のつはり。惡阻(127)を見よ。❸（アクジキ） ㋑猪肉・豚肉などを食ふこと。獸肉を食ふを卑しめた語。佛教思想によつて忌まれた。㋺常識上食用としないものを食ふこと。いかものぐひ。あくものぐひ。

【惡辱】105（ヲジヨク） 恥辱を受けることをにくむ。〔孟子、公孫丑上〕今惡㆑辱而居㆓不仁㆒、是猶㆓惡㆑濕而居㆑下也。

【惡心】106（アクシン） ❶わるい心。惡事をたくらむ心。惡念。〔國語、魯語下〕夫民勞則思、思則善心生、逸則淫、淫則忘㆑善、忘㆑善則惡心生。〔韓非子、外儲說左下〕夔者忿戾惡心、人多不㆓說喜㆒也。〔商子、墾令〕巧諛惡心。❷惡感情。〔西廂記、張君瑞害㆓相思㆒雜劇〕使㆓別人㆒顚倒惡心煩。❸（ヲシン） 氣持がわるいこと。むねがわるいこと。惡阻等で、胃が食物を受け入れず嘔吐を催すこと。惡阻(127)を見よ。

【惡臣】107（アクシン） わるい臣下。〔左氏、襄、二十三〕季孫召㆔外史掌㆓惡臣㆒、而問㆓盟首㆒焉。〔注〕惡臣、諸奔亡者也。

【惡人】108（アクジン アクニン） ❶心のわるい人。わる者。〔易、睽〕見㆓惡人㆒无㆑咎。〔孟子、公孫丑上〕不㆑立㆓於惡人之朝㆒、不㆘與㆓惡人㆒言㆖。〔史記、武安侯田蚡傳〕惡人衆。〔法言、修身〕修㆓其惡㆒、則爲㆓惡人㆒。〔後漢書、仇覽傳〕此非㆓惡人㆒、當㆔是敎化未㆓及至㆒耳。❷容貌の醜い人。不器量者。〔孟子、離婁下〕雖㆑有㆓惡人㆒、齋戒沐浴、則可㆔以祀㆓上帝㆒。〔注〕惡人、醜類者也。〔莊子、德充符〕衞有㆓惡人㆒焉、曰㆓哀駘它㆒。〔注〕惡、醜也。〔釋文〕惡人、惡、貌醜也。

〔惡人自有㆓惡人磨㆒〕109（アクニンオノヅカラアクニンマアリ） 惡い奴には自然に又それよりも大きな惡人があつて其の奴を苦しめるものである。〔通俗編、品目、惡人自有㆓惡人磨㆒〕元曲選、謝金吾・賺蒯通・桃花女三劇、有㆓此語㆒。

【惡水】110（アクスイ） ❶わるい水。飮料に適しない水。〔北史、長孫晟傳〕大驚曰、天雨㆓惡水㆒、其亡㆑我乎。❷惡溪(47)の❷に同じ。〔唐書、韓愈傳〕過㆓海口㆒、下㆓惡水㆒。

【惡世】111（アクセ） 〘佛〙わるい世の中。惡事の盛な世。惡世界。〔阿彌陀經〕娑婆國土、五濁惡世。

〔惡世界〕112（アクセカイ） 〘佛〙惡世に同じ。〔散善義〕五濁惡時・惡世界。

【惡性】113（アクセイ アクシヤウ） ❶心のわるい生れつき。不良の性質。〔世說新語、忿狷〕殺㆓惡性者㆒。❷病氣などのたちのよくないこと。❸〘佛〙（アクシヤウ） 現世・來世で自他のために違損するもの。貪などの惡心及び惡心所起の一切の惡業をいふ。三性の一。〔唯識論、五〕・〔百法問答抄、三〕。

【惡政】114（アクセイ） 惡い政治。〔新語、明誡〕惡政生㆓於惡氣㆒。〔法言、先知〕穀人不㆑足㆓於晝㆒、絲人不㆑足㆓於夜㆒、之謂㆓惡政㆒。

【惡聲】115（アクセイ） ❶惡口雜言。罵詈。又、善くないうはさ。わるい評判。惡名。〔孟子、公孫丑上〕北宮黝之養㆑勇也、云云、惡聲至、必反㆑之。〔莊子、山木〕一呼而不㆑聞、再呼而不㆑聞、於㆑是三呼邪、則必以㆓惡聲㆒隨㆑之。〔史記、蘇秦傳贊〕毋㆑令㆔獨蒙㆓惡聲㆒焉。〔史記、樂毅傳〕臣聞、古君子交絕、不㆑出㆓惡聲㆒、忠臣去㆑國、不㆑絜㆓其名㆒。〔後漢書、袁譚傳〕交絕不㆑出㆓惡聲㆒。❷耳に快くない聲。雜音など。〔管子、宙合〕景不㆘爲㆓曲物㆒直㆖、響不㆘爲㆓惡聲㆒美㆖。❸非禮の聲。邪僻の聲。淫樂などをいふ。〔孟子、萬章下〕伯夷、目不㆑視㆓惡色㆒、耳不㆑聽㆓惡聲㆒。〔注〕耳不㆑聽㆓惡聲㆒、謂㆓鄭聲㆒也。❹緣起の惡い聲。不祥の聲。〔晉書、祖逖傳〕與㆓司空劉琨㆒俱爲㆓司州主簿㆒、情好綢繆、共㆑被同寢、中夜聞㆓荒雞鳴㆒、蹴㆑琨覺曰、此非㆓惡聲㆒也、因共起舞。

【惡少】116アクセウ 性質の惡い少年。惡少年の略。不良少年。〔荀子、修身〕偸儒憚レ事、無二廉恥一而嗜二乎飮食一、則可レ謂二惡少者一矣。〔韓愈、寄二盧仝一詩〕昨晩長鬚來下狀、隔レ牆惡少惡難レ似。〔唐書、崔融傳〕豪宗惡少在焉。

【惡少年】117アクセウネン 性質の惡い少年。不良少年。〔史記、大宛傳〕發二屬國六千騎、及郡國惡少年數萬人一。〔漢書、昭帝紀〕發下三輔及郡國惡少年、吏有二告劾一亡者上、屯二遼東一。〔注〕師古曰、惡少年、謂二無賴子弟一也。

【惡擾】118アクゼウ わるくみだれる。又、まちがひ。混亂。〔戰國、趙策〕王曰、慮無二惡擾一、忠無二過罪一。

【惡蹟】119アクセキ わるい行爲。〔福惠全書、刑名部、欸犯〕果係二惡蹟素聞、手眼甚大一。

【惡說】120アクセツ ❶わるい言說。❷徒らに無用の論義をなすこと。

【惡舌】121アクゼツ わるくち。惡口。惡言。〔孟遲、寄二浙右舊幕僚一詩〕由來惡舌駟難レ追。

【惡妾】122アクセフ 容貌のみにくい妾。〔蘇軾、薄薄酒〕薄薄酒勝二茶湯一、麤麤布勝レ無レ裳、醜妻惡妾勝二空房一、五更待レ漏靴滿レ霜。

【惡戰】123アクセン なんぎして戰ふ。又、苦しいたたかひ。苦戰。〔演義三國志〕吾見二惡戰者一。

【惡戰苦鬭】124アクセンクトウ 苦しみ戰ふ。又、その戰。

【惡錢】125アクセン ❶質のわるい錢。にせがね。〔北史、趙綽傳〕時上禁レ行二惡錢一。❷惡事で得た金錢。不正の金錢。

【惡阻】127ソヲ つはり。姙娠二三箇月頃に、惡心ヲシン・吐氣・食欲減退を起し、酸味の物を好む容態。惡食。惡咀。〔千金方、惡阻〕凡婦人虛羸、血氣不レ足、腎氣又弱、平時喜怒不レ節、或當レ風飮レ冷太過、心不レ有二痰水一者、欲レ有レ胎、而喜病レ阻、所謂欲レ有レ胎者、其人月水尙來、顏色肌膚如レ常、但苦二沉重憒悶一、不レ欲二食飮一、又不レ知二其患所一レ在、脈理順レ時平和、則是欲レ有レ妊也、如レ此經二二月日一、後便覺レ不レ通、則結胎也、阻病者、患心中憒憒、頭重、眼眩、四肢沉重懈惰、不レ欲二執作一、惡レ聞二食氣一、欲レ噉二鹹酸果實一、多レ臥少レ起、世謂二惡食一、其至二三四月日已上一、皆大劇吐逆、不レ能二自勝擧一也、此由下經血既閉、水漬二於臟一、臟氣不中宣通上、故心煩憒悶、氣逆而嘔吐也、血脈不レ通、經絡否澀、則四肢沉重、挾レ風則頭目眩也、覺二如レ此候一者、便宜下服二半夏茯苓湯數劑一、後將中茯苓丸上、痰水消除、便欲レ食也、既得二食力一、體強氣盛、力足レ養レ胎、母便健矣、古今治二阻病一方、有二十數首一、不レ問二虛實冷熱一、食少殆死者、活二於此方一、不レ可二勝紀一。〔回春〕惡阻、惡心阻二其食飮一也。〔宋詩紀事引、陳郁話腴〕徽廟一日幸二來夫人閣一、偶灑二翰於小白團扇一、書二七言十四字一、而天思稍倦、顧二在レ側璫一曰、汝有二能吟之客一、可レ令レ續レ之、乃薦二鄰里太學生一、乃宣入二內侍省一、恭讀二宸製一、不レ知二指意一、乞爲レ取レ旨、上曰、朝來不レ喜レ餐、必惡阻也、當二以レ此爲一レ詞、詩曰、選飯朝來不レ喜レ餐、御廚空費八珍盤、人間有レ味都嘗偏、只許江梅一點酸。

【惡僧】128アクソウ 佛の道に背いた僧侶。惡い僧徒。又、勇猛な僧。武藝などの優れた僧。〔源平盛衰記、二〕東門院の觀音房・勢至房と云ふ惡僧あり。

【惡觸】129アクソク 佛他人の手が觸れて穢れた食物。凡て戒律の定に、他人の手に觸れた食物は不淨として之を喰ふことを禁じた。〔行事鈔、下〕。

【惡俗】130アクゾク ❶わるい風俗。〔荀子、王霸〕無二國而不レ有二美俗一、無二國而不レ有二惡俗一。〔墨子、魯問〕君喜則賞二其父一、豈不二惡俗一哉。❷wu^4 su^2 嫌ふ。

【惡賊】131ヲゾク にくしみそこなふ。〔墨子、尙同下〕若見下愛二利家一者上必以告、若見下惡二賊家一者上亦必以告。

【惡卒】132アクソツ わるい兵卒。又、臆病な兵卒。〔呂覽、簡選〕與二惡卒一無レ擇。〔注〕惡卒、怯卒。

【惡對】133アクタイ わるぐち。罵詈。あくたれぐち。惡對は、あくたいもくたいの省略語の當字。

【惡態】134アクタイ 惡對に同じ。

【惡禱】135アクタウ 凶事を拂ひ去るためのいのり。〔韓愈、祭二河南張員外一文〕僕來告言、虎入レ厩處、無二敢驚逐一、以二我驟一去、君云、是物不レ駿二於乘一、虎取而往、來寅其徵、我預在レ此、與レ君俱膺、猛獸果信、惡禱而憑。

【惡黨】136アクタウ 惡人のなかま。又、惡者。〔東観奏記、上〕卽位後、誅二鋤惡黨一、無二漏レ網者一。

【惡道】137アクダウ ❶わるいみち。まちがつたみち。邪道。〔孔子家語、五儀解〕君子之惡二惡道一不レ甚、則好二善道一亦不レ甚。❷佛衆生が生前の惡業のために死後往くべき場所。地獄・餓鬼・畜生の三道を三惡道といひ、又、修羅道を加へて四惡道といふ。〔大藏法數〕道、卽能通之義、謂下一切衆生造二作惡業一而生中其處上、故名二惡道一也。

【惡濁】138ヲダク にごりをにくむ。不潔をにくむ。〔劉克莊、跋下西山贈二日者郭生一序上文〕嗜レ潔惡レ濁。

【惡貪】139ヲタン むさぼることをにくむ。〔孔子家語、始誅〕上惡レ貪、則下恥レ爭。

【惡憚】140ヲタン にくみきらふ。にくみおそれる。〔魏志、管寧傳〕百姓惡二憚遠役一、並懷二擾擾一。

【惡灘】141アクタン 波浪の荒いはやせ。〔韻府引、楊萬里、詩〕惡灘洶洶雷出吼。

【惡地】142アクチ わるい土地。〔史記、陳餘傳〕項羽爲二天下宰一不レ平、盡王二諸將善地一、徙二故王一、王二惡地一。〔漢書、溝洫志〕臨晉民願三穿レ洛以漑二重泉以東萬餘頃故惡地一、誠卽得レ水、可レ令二畝十石一。

【惡池】143ヲチ 川の名。惡は呼の聲の誤といふ。滹沱(7－18092・・1)を見よ。〔禮、禮器〕晉人將レ有レ事二於河一、必先有レ事二於惡池一。〔注〕惡、當レ爲レ呼、聲之誤也、呼池、漚夷、幷州川。

【惡女】144アクヂヨ 容貌のみにくい女。又、心の惡い女。毒婦。〔史記、外戚世家〕詩曰、美女入レ室、惡女之仇也。

【惡徵】145アクチヨウ わるいしるし。吉徵の對。〔左氏、昭、十八、將レ有二大祥一、疏〕皆以二惡徵一爲レ祥。〔論衡、感類〕災變惡徵、何爲至乎。

【惡直】146ヲチヨク 正しい者をにくむ。〔左氏、昭、二十八〕惡レ直醜レ正、實蕃有レ徒。

【惡田】147アクデン 土質のわるい田地。〔商子、徠民〕惡田處二什一一。

【惡徒】148アクト 惡者のなかま。兇徒。惡黨。〔史通、申左〕違二夫子之教一、失二聖人之旨一、奬二進惡徒一、疑二悞後學一。

【惡圖】149アクト わるいはかりごと。惡計。

【惡怒】150ヲド にくみ怒る。又、そのこと。〔詩、小雅、節南山〕君子如夷、惡怒是違。

【惡德】151アクトク わるい德。又、それを有する者。德は、得で、身に得たものの意。〔書、說命中〕爵罔レ及二惡德一、惟其賢。〔蔡傳〕吳氏曰、惡德、猶二凶德一也。

【惡毒】152 e^4 tu^2 意地が惡い。惡心のある。

【惡肉】153アクニク 病んでゐる部分の肉。腐れた肉。〔魏志、華佗傳、注〕有三人病二腹中一云云、破レ腹就視、脾果半腐壞、以レ刀斷レ之、刮二去惡肉一。〔醫按、惡肉論〕夫惡肉者、腐肉也。

【惡念】154アクネン わるい念慮。わるい考。〔四十二章經〕見二滅惡念一。〔菩提心論、見聞、二〕惡念旋起者、善業力盡。

【惡農】155ヲノウ 農業をにくむ。〔商子、墾令〕惡レ農慢惰躁欲之民、無レ所二於食一。

【惡霸】156 e^4 pa^4 惡徒。凶徒。惡漢。

【惡馬】157アクバ たちのわるい馬。〔周禮、夏官、馬質〕皆有二物賈一、綱二惡馬一。〔晉書、李雄載記〕如下臣乘二惡馬一而持上矛也。

【惡婆】158アクバ 心根のよくない老婆。心のねぢけた老婦。

【惡罵】159アクバ 口ぎたなく罵る。〔齊竟陵王子良、在家從二惡門一文〕惡罵無二復高卑一。

【惡報】160アクハウ わるいむくい。惡事(惡因)から生じた惡果。〔梁武帝、斷二酒肉一文〕行二十惡一者、受二於惡報一。〔中阿含經、一〕穢二汙煩惱、受二諸惡報一。

【惡發】161アクハツ 怒を發する。宋代の俗語。

【惡發殿】162アクハツデン 錢王の宮殿、握髮殿を錢塘の人が音のみだれから誤つて惡發殿といつたもの。〔老學庵筆記、二〕錢王名二其居一曰二握髮殿一、吳音、握、惡相亂、錢塘人遂謂二其處一曰、此錢大王惡發殿也。

【惡法】163アクハフ ❶わるい宗教。〔用明天皇職人鑑〕。❷法の目的たる正義の實現に適しない法律。

【惡筆】164アクヒツ ❶文字を書くことの拙いこと。又、拙い文字。下手な字。みみずがき。〔海人藻芥〕定家卿といふ名人の手跡以ての外の惡筆なり。❷粗製の筆。

【惡評】165アクヒヤウ わるい評判。好評の對。

【惡病】166アクビヤウ 惡質の病。惡疾。〔韓非子、八說〕弱子有二僻行一、使二之隨一レ師、有二惡病一、使二之事レ

醫。

【惡賓】167 アクヒン わるい客。惡客。〔西京雜記、二〕弘歎曰、寧逢二惡賓一、不レ逢二故人一。

【惡婦】168 アクフ 性質のよくないよめ。心のわるい主婦。惡婦破レ家を見よ。

〔惡婦破レ家〕169 アクフイヘヲヤブル 惡婦は家庭を破壞する。〔通俗編、倫常、惡婦破レ家〕易緯、引二古語躓馬破レ車、惡婦破レ家、又申子、妒妻不レ難レ破レ家。

【惡風】170 アクフウ わるいならはし。わるい風俗。惡習。

【惡物】171 アクブツ わるいもの。にくむべきもの。〔左氏、文、十八〕醜類惡物、頑嚚不友。〔左氏、昭、二十五〕生、好物也、死、惡物也、好物樂也、惡物哀也。

【惡弊】172 アクヘイ わるいならはし。惡風。惡習。

【惡苗】173 アクベウ わるい苗。〔白居易、夏旱詩〕惡苗承二沴氣一、欣然得二其所一。

【惡癖】174 アクヘキ 惡いくせ。惡習。

【惡木】175 アクボク わるい木。〔陸機、猛虎行〕渴不レ飲二盜泉水一、熱不レ息二惡木陰一。〔注〕善曰、江邃文釋曰、管子曰、夫士懷二耿介之心一、不レ蔭二惡木之枝一、惡木尚能恥レ之、況與二惡人一同處。

〔惡木之陰不レ可二暫息一〕176 アクボクノカゲニハシバラクモイコフベカラズ 惡木の陰には暫時も休息してはならぬ。廉潔を守らうと思ふ者は苟も惡といふ名のつくものには近寄つてはならぬ、それが己の身を汚す虞があるからといふ意。〔周書、寇儁傳〕性又廉恕、不下以二財利一爲上レ心、家人曾賣レ物與レ人、而剩得二絹五匹一、儁於レ後知レ之、乃曰、惡木之陰、不レ可二暫息一、盜泉之水、無レ容二悞飲一、得レ財失レ行、吾所レ不レ取、遂訪レ主還レ之、其雅志如レ此。

【惡魔】177 アクマ 佛 佛道を障碍する惡神の總稱。轉じて、人に害をなす魔もの。〔圓覺經〕無レ令三惡魔及諸外道、惱二其身心一。〔法苑珠林〕昔如來樹下、惡魔波旬將二八十億衆一、欲二來壞レ佛。

【惡滿】178 アクマン みちることをにくむ。十分に滿ち足りることをにくむ。〔顏氏家訓、勉學〕忌レ盈惡レ滿。

【惡夢】179 アクム わるいゆめ。吉夢の對。〔周禮、春官、占夢〕乃舍二萌于四方一、以贈二惡夢一。〔說苑、敬愼〕惡夢者、所三以警二士大夫一也。〔後漢書、彭寵傳〕其妻數惡夢、又多見二怪變一。

【惡名】180 アクメイ アクミヤウ わるい名目。人聞の惡い名目。又、善くないうはさ。惡い評判。惡聲。〔左氏、文、十八〕世濟二其凶一、增二其惡名一。〔戰國、秦策〕今攻レ韓劫二天子一、劫二天子一、惡名也。〔呂覽、孝行〕無レ遺二父母惡名一、可レ謂二能終一矣。〔史記、商君傳贊〕卒受二惡名於秦一。〔魏志、杜畿傳〕徒有二惡名一。

【惡面】181 アクメン 醜い顏。〔管子、小稱〕我且惡面而盛二怨氣一焉。〔纂詁〕惡、醜也。

【惡樣】182 アシザマ わるいやう。惡いさま。あしげ。

【惡藥】183 アクヤク わるいくすり。毒藥の類。〔呂覽、蕩兵〕得二惡藥一則殺レ人。

【惡來】184 アクライ 殷の紂王の臣。飛廉の子。大力を以てつかへた。惡來多力を見よ。〔荀子、儒效〕飛廉・惡來知レ政、夫又惡有二不可一焉。〔墨子、所染〕殷紂染二於崇侯惡來一。〔尉繚子、武議〕飛廉・惡來、身先二戟斧一。

〔惡來多力〕185 アクライタリキ 蒙求の標題。紂の臣、惡來の大力であつた故事。〔史記、秦紀〕蜚廉生二惡來一、惡來有レ力、蜚廉善走、父子俱以二材力一事二殷紂一。

【惡辣】186 アクラツ わるく手あらい。たちがわるく手きびしい。

【惡亂】187 アクラン わる者。又、亂をなす者。〔東方朔、非有先生論〕褒二有德一、祿二賢能一、誅二惡亂一、摠二遠方一。

【惡糧】188 アクリヤウ わるい米。〔福惠全書、錢穀部、漕項〕以二惡糧一壓レ派、挾二制縣官一。

【惡靈】189 アクリヤウ たたりをなす死人の魂。もののけ。怨靈。〔大鏡、中〕世々の御惡靈とこそはなり給ひたれ。

【惡龍】190 アクリユウ 佛 わるい龍神。〔仁王經、下〕天龍不レ祐、惡鬼・惡龍、日來侵害。

【惡輪】191 アクリン わるい車輪。〔後漢書、禮儀志下〕疏布・惡輪。

【惡戾】192 アクレイ 心があしく道にそむく。〔史記、齊悼惠王世家〕駟鈞惡戾、虎而冠者也。

【惡癘】193 アクレイ 惡疫。流行病。

【惡露】195 アクロ ❶婦人の產後の下りもの。〔外臺秘要、三十四、許仁則產後方一十六首〕第二、產後若覺二惡露下多、心悶短氣、貼然無レ力、不レ能レ食、宜レ依二此方一。〔婦人良方、將護法、注〕產後元氣虧損、惡露乘レ虛上攻レ眠。❷佛 ヲロ 身體の不淨の津液。卽ち膿・血・屎・尿の類。惡は憎厭、露は津液の意。〔無量壽經、下〕惡露不淨、無二可レ樂者一。〔無量壽經鈔、六〕醫心方云、惡露者、血也。

【惡レ惡】196 アクヲアクトス アクヲニクム 惡を惡と認める。又、惡をにくむ。〔公羊、僖、十七〕君子之惡レ惡也疾レ始、善レ善也樂レ終。〔釋文〕惡レ惡、並如レ字、一讀レ上、烏路反。〔公羊、昭、二十〕惡レ惡止二其身一、善レ善及二子孫一。〔穀梁、僖、十七〕惡レ惡疾二其始一、善レ善樂二其終一。〔國語、晉語一〕好レ好而惡レ惡。〔白虎通、誅伐〕明二善レ善惡レ惡之義一也。

【疾レ惡】197 アクヲニクム 惡をにくむ。又、惡人をにくむ。疾レ惡若レ讎を見よ。〔白居易、和陽城驛詩〕疾レ惡若二巷伯一、好レ賢如二緇衣一。

〔疾レ惡若レ讎〕198 アクヲニクムコトシウノゴトシ 惡（或は惡人）をにくむこと仇讎をにくむが如くである。惡（或は惡人）をにくんで假借しないこと。〔唐書、孔緯傳〕緯方雅、疾レ惡若レ讎。〔孔融、薦二禰衡一表〕疾レ惡若レ讎。

【惡齧馬】199 アクゲツバ 性質が惡く人を嚙む馬。悍馬。〔史記、田叔傳贊〕田仁故與二任安一相善、此二人家貧無二錢用一、以事二將軍家監一、家監使レ養二惡齧馬一。

【惡源太】200 アクゲンタ 源義平をいふ。惡は猛く強い意の接頭語。又、義平が嘗て叔父義賢を殺したから惡の字を冠するともいふ。源氏の長男であるから源太といふ。〔日本外史、源氏正記、源氏上〕賴朝長兄義平在二鎌倉一、嘗與二其叔父義賢一有レ隙、戰二于大藏一斬レ之、人呼曰二惡源太一。

【惡狠狠】201 ê^{4} hen^{2} hen^{3} ❶凶惡な樣子の形容。❷非常に怒るさま。

【惡左府】202 アクサフ 藤原賴長をいふ。惡左大臣(208)に同じ。〔日本外史、源氏前記、平氏〕賴長慧黠、世稱二惡左府一。

【惡搶白】203 wu^{4} ch'iang^{3} bo^{2} あくたい。にくらしい罵言。〔西廂記、草橋店夢二鶯鶯一雜劇〕恁的般惡搶白。

【惡太郞】204 アクタラウ いたづらをする子供を罵つていふ語。いたづらつこ。亂暴な少年。

【惡知識】205 アクチシキ 佛 人を惡に導く邪惡な僧。一說に、人に知られた惡人。又、惡い師友。知識は人に知られる意で、自分が事物の理を知る意ではない。〔八十華嚴經、五十八〕遠二善知識一、近二惡知識一。〔涅槃經、二十二〕菩薩於二惡象等一、心無二怖懼一、於二惡知識一、生二畏懼心一。

【惡智慧】206 ワルヂエ 惡事をするにたけた智慧。

【惡頭口】207 ê^{4} t'ou^{2} k'ou^{3} 馬を罵る語。此の畜生の意。〔琵琶記、春宴杏園〕惡頭口抵死要回身轉。

【惡左大臣】208 アクサダイジン 藤原賴長をいふ。惡は接頭語。〔保元物語〕。

【惡巴巴的】209 ê^{4} pa^{1} pa^{1} tê 惡の甚だしい。極惡なさま。

【惡不レ去レ善】210 ニクメドモゼンヲサラズ 人をにくんでも其の善い所はすてない。〔左氏、哀、五〕私讎不レ及レ公、好不レ廢レ過、惡不レ去レ善、義之經也。

【惡巫山戲】211 ワルフザケ 過度のふざけ方。

【遏レ惡揚レ善】212 アクヲトドメゼンヲアグ 惡をおさへとどめ善をほめあげる。遏は禁ずる。一說に、匿す。〔易、大有〕君子以遏レ惡揚レ善、順レ天休レ命。

【隱レ惡揚レ善】213 アクヲカクシゼンヲアグ 惡い所をかばひ善い所をほめる。遏レ惡揚レ善に同じ。〔禮、中庸〕舜好レ問而好察二邇言一、隱レ惡而揚レ善。

【去レ惡就レ善】214 アクヲサリゼンニツク 惡い所を去つて善い所に進み行く。〔公羊、隱、元、漸進也、注〕去レ惡就レ善曰レ進。

【從レ惡如レ崩】215 アクニシタガフハクヅルルガゴトシ 惡に趣くことは、崩れ落ちることのやうに容易である。惡事のなしやすいことの喩。〔國語、周語下〕諺曰、從レ善如レ登、從レ惡如レ崩。

【不レ惡而嚴】216 ニクマズシテゲンナリ 叱りつけたりなどしないで、而も威嚴のある態度を持する。小人を遠ざける道をいふ。〔易、遯〕君子以遠二小人一、不レ惡而嚴。〔疏〕不レ可レ爲レ惡、復不レ可二褻瀆一、故曰二不レ惡而嚴一。〔程傳〕遠二小人一之道、若以二惡聲厲色一、適足三以致二其怨忿一、唯在二乎矜莊威嚴、使レ知二敬畏一。

【貶レ惡誅レ邪】217 アクヲヘンシジヤヲチユウス 邪惡な者をしりぞけ

誅する。〔紅樓夢、一回〕因見二上面、雖レ有二些指レ奸責レ佞、貶レ惡誅レ邪之語一、亦非二傷レ時罵レ世之旨一。

【爲レ惡無レ近レ刑】218（アクヲナスモケイニチカヅクナカレ） 過つて惡いことをしても、刑罰に觸れるやうな大罪を犯さない。〔莊子、養生主〕爲レ善無レ近レ名、爲レ惡無レ近レ刑、緣レ督以爲レ經、可二以保一レ身、可二以全一レ生、可二以養一レ親、可二以盡一レ年。

【懲レ惡而勸レ善】219（アクヲコラシテゼンヲススム） 惡行をこらし、善事をすすめる。勸善懲惡。〔左氏、成、十四〕春秋之稱、微而顯、志而晦、婉而成レ章、盡而不レ汙、懲レ惡而勸レ善。

【勿下以二惡小一而爲上レ之】220（アクセウナルヲモツテコレヲナスコトナカレ） 惡は小さいからとて行つてはならない。積れば大惡となるからである。〔蜀志、劉先主傳、注〕先主遺詔、敕二後主一曰、勿下以二惡小一而爲上レ之、勿下以二善小一而不上レ爲、惟賢惟德、能服二於人一、汝父德薄、勿レ效レ之。

【恵】10825 アク 惡（**4**－**10824**）に同じ。〔字彙補〕恵、與レ惡同。

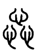
【惢】10826

㊀サ 〔集韻〕損果切 哿

㊁スイ 〔集韻〕聚繠切 紙

㊂ズイ ニ 〔字彙〕如累切 紙

㊃スイ 〔集韻〕津垂切 支



小篆

㊀㊁**うたがふ。まどふ。**〔說文〕惢、心疑也、从二三心一、讀若二易旅瑣瑣一。㊂❶**しべ。**別に甤（**7**－**21687**）・繠（**8**－**27912**）に作り、俗に蘂（**9**－**32410**）・蕊（**9**－**31939**）・橤（**6**－**15569**）に作る。〔字彙〕惢、華惢也、从二三心一、象形、別作二甤・繠一、通俗作二蘂・蕊・橤一、竝非。〔說文通訓定聲〕惢、或曰、花心也。❷**星の名。**〔管子、輕重己〕秋至而禾熟、天子祀二大惢一。〔纂詁〕大惢、蓋星名、疑心星、心、三星、故其字作レ惢。㊃❶**よい。**〔廣雅、釋詁一〕惢、善也。❷**うたがふ。まどふ。**㊀に同じ。〔集韻〕惢、一曰、心疑也。

解字 會意。心を三つ合はせ、彼れ此れ疑ひ惑ふ意を表はす。

【⿰忄卻】10827 キャク ⿰忄却（**4**－**10874**）の俗字。〔正字通〕⿰忄卻、俗⿰忄却字。

【⿰忄冐】10828 バウ ⿰忄冒（**4**－**10941**）の俗字。〔正字通〕⿰忄冐、俗⿰忄冒字。

【⿱物心】10829 ソウ 揔（**5**－**12349**）の譌字。〔中華大字典〕⿱物心、揔譌字。

【⿰忄亙】10830 コウ 恆（**4**－**10528**）の古字。〔集韻〕恆、古作レ⿰忄亙。

【⿰氵⿱民心】10831 メツ 滅（**7**－**18008**）に同じ。〔集韻〕滅、或作レ⿰氵⿱民心。

【⿱吾心】10832 ゴ 悟（**4**－**10680**）の古字。〔集韻〕悟、古作レ⿱吾心。

【⿸尸⿱匕心】10833 シ 〔篇海〕胥茲切 支

あつい。〔篇海〕⿸尸⿱匕心、厚也。

【⿱⿰勿欠心】10834 イン オン 〔篇海〕於謹切 吻

あはれむ。とむらふ。〔篇海〕⿱⿰勿欠心、疾二人憂一也。

【⿰忄於】10835 ヨ ヲ 〔字彙補〕依倨切 御

いかる。〔永嘉集說文〕順レ情則嬉怡生レ愛、違レ意則⿰忄於⿰忄諸懷レ嗔。

【⿱⿱人夗心】10836 エン 怨（**4**－**10479**）の古字。〔集韻〕怨、古作レ⿱⿱人夗心。

【⿱宓心】10837 ミツ 密（**3**－**7205**）に同じ。〔字彙補〕⿱宓心、與レ密同。

【⿳厶火心】10838 リン 憐（**4**－**11206**）の古字。〔字彙補〕⿳厶火心、古文憐字。

【⿱牧心】10839 リ 〔字彙補〕力其切 支

うれへる。〔字彙補〕⿱牧心、憂也。

【⿱杙心】10840 セキ シャク 〔五音篇海〕先擊切 錫

つつしむ。〔五音篇海〕⿱杙心、敬也。

【⿱㤅夊】10841 アイ 〔說文注〕烏代切 隊

❶**行くさま。**〔說文〕⿱㤅夊、行皃也、从レ夊、㤅聲。❷愛（**4**－**10947**）に同じ。〔字彙補〕⿱㤅夊、同レ愛。

參考 字形、或は譌して㤅（**4**－**10636**）に作る。

【⿰忄⿱久口】10842 キウ ク 〔集韻〕居尤切 尤

あつまる。勼（**2**－**2498**）に同じ。〔集韻〕勼、說文、聚也、或作レ⿰忄⿱久口。〔六書略〕⿰忄⿱久口、聚也。

【⿱炘心】10843 音未詳 谷の名。〔字彙補〕音未詳、⿱炘心、谷地名。〔博古圖、周敔敦銘〕迎二于上洛⿱炘心谷一。

【⿰爿忩】10844 ソウ ス 〔字彙補〕倉紅切 東

あかいろ。〔字彙補〕⿰爿忩、赤色。

【⿰忄兹】10845 ケン 怰（**4**－**10492**）に同じ。〔龍龕手鑑〕⿰忄兹、同レ怰。

【⿱臾心】10846 ヨウ ㄩㄥˇ yung^3

すすめる。慂（**4**－**11039**）の俗字。〔中華大字典〕⿱臾心、慂俗字。

【惦】10847 テン ㄉㄧㄢˋ tien^4

現 記憶する。考へる。思ふ。

【惦記】1 tien^4 chi^4 心に記憶する。氣にかける。

【惦掛】2 tien^4 kua^4 氣に掛ける。心に思ふ。

【惦懷】3 tien^4 huai^2 心にかける。掂着。

【惦着】4 tien^4 chê 心に掛けて置く。

【惦念】5 tien^4 nien^4 氣に掛けて居る。

【惧】10848 ク ㄐㄩˋ chü^4

懼（**4**－**11488**）の俗字。〔字學擧隅〕惧、懼俗字。

【㥁】10849 トク　悳(4−10724)の古字。〔說文〕悳、㥁、古文。〔集韻〕悳、古作レ㥁。

【惨】10850 サン　慘(4−11094)の俗字。〔宋元以來俗字譜〕慘、通俗小說、作レ惨。

【惩】10851 チヨウ　ㄔㄥˊ　ch'êng^{2}

現いましめる。こらす。懲(4−11424)に同じ。

【㥲】10852 トク　ドク　〔集韻〕徒沃切　沃

おろか。〔集韻〕㥲、憧也。

九畫

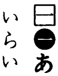
【㥚】10853

[一]ユ　〔集韻〕容朱切　虞
[二]ユ　〔集韻〕勇主切　麌
[三]ギヨ　ゴ　〔正韻〕偶許切　語

[一]**うれへる。**〔集韻〕㥚、憂也。[二][三]**おそれる。**〔集韻〕㥚、懼也。

【㥛】10854

[一]キヨク　コク　〔集韻〕訖力切　職
[二]カク　キヤク　〔集韻〕克革切　陌


小篆

[一]❶**あわただしい。**せつかち。いらいらする。〔說文〕㥛、急性也、从レ心亟聲。❷**はやい。**〔集韻〕㥛、說文、疾也。❸**おもおもしい。**謹愼で遲重なこと。〔說文〕㥛、一曰、謹重皃。〔段注〕此義相反而相成者也。❹**どもる。**〔列子、力命〕謇㥛・夌誶。〔釋文〕㥛、急也、吃也、又訥澀皃、又急性相背也。❺**いつくしむ。**暱(5−14132)に通ず。〔說文通訓定聲〕㥛、段借爲レ暱。〔廣雅、釋詁一〕㥛、㤅也。[二]❶**いつくしむ。**〔集韻〕㥛、博雅、愛也。❷**はやい。**〔集韻〕㥛、疾也。

名乘　トシ。ハヤ。

【惰】10855

[一]ダ　タ　〔集韻〕杜果切　哿　ㄉㄨㄛˋ　tuo^{4}
[二]ダ　タ　〔集韻〕徒臥切　箇
[三]ダ　タ　〔集韻〕徒禾切　歌
[四]ラ　〔集韻〕盧臥切　箇

[一][二]❶**おこたる。**㋑つつしまぬ。もと憜(4−11225)に作る。〔正字通〕惰、說文、本作レ憜。〔說文〕憜、不レ敬也、从レ心𡐦省聲、春秋傳曰、執レ玉憜、惰、憜或省レ𨸏。〔左氏、襄、三十一〕惰而多レ涕。〔注〕惰、不レ敬也。㋺うむ。なまける。〔廣雅、釋詁二〕惰、嬾也。〔玉篇〕惰、怠也。〔集韻〕惰、懈也、或省。〔禮、玉藻〕惰游之士。〔注〕惰游、罷民也。〔論語、子罕〕語レ之而不レ惰者、其回也與。〔皇疏〕惰、疲懈也。〔劉寶楠正義〕說文、憜、不レ敬也、惰、或省レ𨸏、不レ敬則有二懈倦之意一。㋩あなどる。かろんずる。〔玉篇〕惰、易也。〔左氏、成、十三〕今成子惰、弃二其命一矣。❷**おこたり。**〔宋史、崔立傳〕警二驕惰一、戒二淫泆一。❸或は媠(3−6525)・嫷(3−6707)に作り、古は㥶(4−11001)・𢡖(4−11340)に作り、又隓に書す。〔集韻〕惰、或省、亦作二媠・嫷一、古作二㥶・𢡖一、亦書作レ隓。❹墮(3−5481)に通ず。〔晉書音義、上〕惰、本作レ墮。[三]❶**よい。**〔集韻〕惰、美也。❷**なまる。**鄙俗ないひまはし。〔禮、曲禮上〕言不レ惰。〔注〕惰、不正之言。[四]**おこたる。**或は憜(4−11225)・媠(3−6525)に作る。〔集韻〕惰、懈也、或作二憜・媠一。

【惰游】1 ダイウ　おこたりあそぶ。なまけあそぶ。嬉游。〔禮、玉藻〕垂緌五寸、惰游之士。〔魏志、王朗傳、注〕或商賈惰游子弟、或農野謹鈍之人。〔任昉、天監三年策二秀才一文〕如レ拾二地芥一、而惰游廢レ業。

【惰懈】2 ダカイ　おこたりなまける。〔新書、禮容語下〕不二敢惰懈一、以安二天下一、敬二民人一。

【惰耕】3 ダカウ　清、沈岸登(6−17189‥450)の號。

【惰耕村叟】4 ダカウソンソウ　清、沈岸登(6−17189‥450)の號。

【惰傲】5 ダガウ　おこたりおごる。物事をあなどつて怠ける。〔左氏、襄、二十八〕君二小國一事二大國一、而惰傲以爲二己心一、將レ得レ死乎。

【惰氣】6 ダキ　なまける心。たいぎなきもち。いやき。

【惰氣滿滿】7 ダキマンマン　なまけゆるんだ氣持が充ち滿ちてゐること。すつかりだらけきつてゐること。

【惰棄】8 ダキ　つとめずに打ちすてる。おこたつてなげやりにする。〔左氏、成、十三〕今成子惰、棄二其命一矣、其不レ反乎。〔漢書、五行志中之上〕今成子惰二棄其命一矣、其不レ反虖。

【惰嬉】9 ダキ　怠りなまけて遊び暮すこと。〔安井息軒、三計塾記〕惰嬉既生、則一生之計亦荒矣。

【惰歸】10 ダキ　晝間うみおこたる時と、夕暮に疲れて歸る時とをいふ。〔李衞公問對、下〕避二其銳氣一、擊二其惰歸一、如何。

【惰儀】11 ダギ　おこたつたかたち。

【惰君】12 ダクン　おこたりなまける君主。〔晏子、諫、上〕下不レ觀二惰君之衰一。

【惰倪】13 ダゲイ　あたりをうろうろながめ廻すこと。怠惰でながしめにみまはすこと。倪は睨。〔管子、輕重戊〕歸レ市亦惰倪、終日不レ歸。〔纂詁〕倪・睨通、怠惰眄睨、無二歸意一也。

【惰倦】14 ダケン　おこたりなまける。〔晏子、問、上〕仲尼居處惰倦、廉隅不レ正。

【惰忽】15 ダコツ　おこたりゆるがせにする。なほざりにする。〔北史、齊神武帝紀〕兆庭軍人因二宴休一惰忽、見二泰軍一驚走。

【惰肆】16 ダシ　おこたつてしまりがない。なまけほしいままなこと。〔宋史、何群傳〕今之士語言脫易、擧止惰肆者、其衣冠不レ如二古之嚴一也。

【惰失】17 ダシツ　おこたりうしなふ。〔管子、宙合〕下乃解怠惰失。

【惰奢】18 ダシヤ　おこたりおごる。〔鹽鐵論、授時〕養二惰奢之民一也。

【惰弱】19 ダジヤク　なまけて心がよわい。おこたつて根氣が無いこと。墮弱。

【惰食】20 ダシヨク　働かないで食する。〔商子、墾令〕愛子不二惰食一、惰民不レ窳。

【惰心】21 ダシン　おこたる心。〔國語、晉語四〕重耳敢有二惰心一、敢不レ從レ德。

【惰性】22 ダセイ　❶物體が他力の作用を受けない限り、現在の狀態を持續する性質。慣性。❷在來の癖。又は、いきほひ。

【惰卒】23 ダソツ　おこたりなまける兵卒。〔十八史略、五代周、世宗〕自レ是驕將惰卒、始知レ所レ懼。

【惰怠】24 ダタイ　なまけおこたる。おこたる。懈怠。怠惰。墮怠。〔漢書、成帝紀〕閒者民彌惰怠、鄉レ本者少、趨レ末者衆。

【惰偸】25 ダトウ　おこたつてかるがるしい。なまけて一時の安きをむさぼること。怠惰で輕薄。〔韻府引、陸游、詩〕兒童勿二惰偸一、造物不レ負レ汝。

【惰農】26 ダノウ　なまける農夫。怠惰な農夫。〔書、盤庚上〕惰農自安、不レ昏二作勞一。

【惰廢】27 ダハイ　おこたりすてる。怠廢。墮廢。爲すべきことをなまけてうつちやること。〔周禮、夏官、大司馬、進レ賢興レ功、注〕起二其勸レ善樂レ業之心一、使レ不二惰廢一。

【惰貧】28 ダヒン　ものもらひ。乞食。惰民を見よ。〔通俗編、品目、惰貧〕祝允明猥談、奉化有二丐戶一、俗謂二之惰貧一、其始皆宦家以レ罪殺二其人一、而籍二其

牝一、官穀レ之、徵二其淫賄一、以迄レ今也。

【惰慢】29ダマン　おこたりあなどる。おこたりなまける。怠慢。媠謾。〔禮、樂記〕惰慢邪辟之氣、不レ設二於身體一。〔荀子、禮論〕不レ至二於流淫惰慢一。〔史記、樂書〕惰慢邪僻之氣、不レ設二于身體一。

【惰民】30ダミン　丐戶ともいふ。江浙地方に住する賤民の稱。宋の罪俘の子孫で蘇松浙地方に分置したものといはれ、元人は法憐戶といふ。惰貧・墮民(3－5481・・25)を見よ。〔清國行政法汎論、官吏法、當レ爲二官吏一之資格、備考〕山西之樂戶、浙江之惰民。

【惰眠】31ダミン　㊀なまけて眠る。㊁士氣がおとろへて活動力がなくなること。

【惰窳】32ダユ　なまけてよわい。力がない。懶怠。〔論衡、禍虛〕惰窳之人、不レ力レ農勉レ商、以積二穀貨一。〔枚乘、七發〕血脈淫濯、手足惰窳。〔注〕濟曰、惰窳、無レ力也。〔賈思勰、齊民要術序〕庸人之性、率レ之則爲レ力、縱レ之則惰窳耳。

【惰容】33ダヨウ　なまけてだらしない樣子。墮容。〔後漢書、張湛傳〕光武臨レ朝、或有二惰容一、竟輒陳二諫其失一。〔北史、長孫儉傳〕自レ旦達レ暮、略無二惰容一。〔白居易、淮南節度使檢校尙書右僕射趙郡李公家廟碑銘序〕動有二常度一、居無二惰容一。

【惰力】34ダリョク　㊀物が習慣性を帶びて運動、又は靜止を持續する力。慣性。㊁從來の習慣。惰性。

【惰劣】35ダレツ　なまけおとる。おこたつて才智の劣ること。怠惰で劣弱。〔晉書、孔愉傳〕以二惰劣一無レ益二毗佐一。

【惱】10856　ダウ　ノウ　慣ナウ　〔集韻〕乃老切　ㄋㄠˇ　nao³　晧

㊀なやむ。嫐(3－6480)に同じ。〔廣韻〕惱、懊惱。〔集韻〕嫐、說文、有レ所レ恨也、或作レ惱。〔增韻〕惱、事物撓レ心也。〔薛能、申湖詩〕舊境深相惱。〔蘇轍、次下秦觀梅花答二潛詩一詩上〕險韻高篇空自惱。㊁なやませる。〔雍陶、春詠詩〕風惱二花枝一不レ耐レ頻。〔韓偓、裊娜詩〕春惱二情懷一身覺レ瘦。㊂なやみ。〔梁簡文帝、金簿像疏〕拔二六根之痛惱一。㊃佛煩惱。惡事に執着し、現在に不滿を感じ、心をみだすこと。〔唯識述記一本〕煩是擾義、惱是亂義、擾二亂有情一、故名二煩惱一。㊄現いかる。うらむ。腹を立てる。邦なう。やまひ。

【惱懊】1ナウアウ　なやむ。怨みなやむ。懊惱。

【惱意】2　nao³ i⁴　怒る。いかり。

【惱害】3ナウガイ　なやましさまたげる。さまたげ。〔法苑珠林〕願增二益神道一、加二是威光一、以二善利一無二相惱害一。

【惱客】4ナウカク　客をなやます。〔韻府引、蘇轍、詩〕欺レ貧寒入レ褐、惱レ客重添レ車。

【惱氣】5　nao³ ch'i⁴　怒氣。

【惱苦】6ナウク　なやみくるしむ。なやみ。苦惱。

【惱恨】7　nao³ hen⁴　怒る。嫌惡する。

【惱殺】8ナウサツ　ナウサイ　なやます。殺は助辭。〔李白、贈二段七娘一詩〕千杯綠酒何辭レ醉、一面紅妝惱二殺人一。

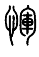
【惱怒】9　nao³ nu⁴　怒る。

【惱亂】10ナウラン　なやみみだれる。なやましみだす。〔白居易、和二微之十七與レ君別及二朧月花枝一之詠一詩〕別時十七今頭白、惱二亂君心一三十年。

【惱溫河】11ナウヲンカ　河の名。嫩江(3－6666・・3)の㊀に同じ。

【惱的氣色】12ナウテキキショク　怒つてゐる樣子。〔紅樓夢、十回〕臉上倒像レ有二些著了惱的氣色一是的。

【惲】10857　㈠ウン　〔集韻〕委隕切　ㄩㄣˋ　yün⁴　吻　㈡キン　ギン　〔集韻〕巨隕切　軫


小篆

㈠㈡㊀あつい。てあつい。〔說文〕惲、重厚也、从レ心軍聲。㊁はかる。〔方言、十三〕惲、謀也。〔廣韻〕惲、謀也、議也。㊂姓。〔萬姓統譜〕惲、望出二番陽一。

【惲格】1ウンカク　惲壽平(12)を見よ。

【惲巍】2ウンギ　明、武進の人。字は功甫。弘治の進士。官は戶曹から、湖廣兵備副使に進む。王守仁に從つて兵を用ひ、方略あり。〔尙友錄、十五〕。

【惲向】3ウンキャウ　惲本初(18)を見よ。

【惲敬】4ウンケイ　清、陽湖の人。字は子居。號は簡堂。乾隆の舉人。富陽・江山二縣の長官となり、江西吳城同知に還り、事を以て官を去る。人となり氣を負ひ、名節を矜尙し、至る所文學を振興するを以て務めと爲し、自ら其の學を稱して、漢に非ず宋に非ず、故常を主とせずといふ。古文を治め、蘇明允と相上下して、法家の言に近く、張惠言・李兆洛・陸繼輅等の先軌を爲した。世に之を陽湖派といふ。書室を大雲山房といふ。著に大雲山房文集がある。〔清史列傳、七十二〕・〔國朝耆獻類徵、二百四十三〕・〔國朝先正事略、四十三〕。

【惲珠】5ウンシュ　清、陽湖の惲毓秀の女。字は星聯。別字は珍浦。號は毗陵女史。晩年、蓉湖散人(蓉湖道人)と號す。完顏氏に嫁す。十歲にして詩を能くし、十三歲にして紩繡に巧で、繪事を善くし、閨中三絕を以て稱せられる。子の麟慶の、官は南河總督に至り、至る所治績の多いのは母の教へによるといふ。著に蘭閨實錄・清朝女士正始集がある。〔清史稿、五百十三〕・〔碑傳集、一百四十九〕。

【惲冰】6ウンピョウ　清の人。壽平の族曾孫女。字は清于(清於)。畫に巧。馬荃と名を齊しくし、江南の人、雙絕といふ。毛鴻調に嫁し、小樓を築いて夫婦共に居り、詩を吟じ、畫を作つた。〔清畫家詩史、癸上〕・〔清代閨閣詩人徵略、三〕・〔國朝書畫家筆錄、四〕・〔國朝畫識、十六〕。

【惲標】7ウンヘウ　清の人。壽平の族孫。字は樞亭。畫に巧。〔墨香居畫識、二〕。

【惲光宸】8ウンクワウシン　清、大興の人。原籍は陽湖。字は濬生。道光の進士。官は咸豐中、江西按察使・江西巡撫。洪楊の軍が南昌を攻圍するや、兵を督して守禦し、大いに之を敗つた。〔續碑傳集、二十六〕。

【惲厥初】9ウンケツショ　明、武進の人。字は伯生。方伯となり、政績あり。著に考槃集がある。〔武進縣志〕。

【惲彥琦】10ウンゲンキ　清、大興の人。原籍は陽湖。字は亦韓。號は莘農・靜園・損齋。咸豐の進士。官は湖北督糧道按察使。著に損齋雜錄がある。

【惲日初】11ウンジツショ　清、武進の人。字は仲升。號は遜菴、又、黍菴。明の崇禎の副貢。經濟の才を以て自負し、嘗て詔に應じて備邊五策を上つたが用ひられず、歸つて天台山中に隱れ、更に兵を避けて建寧に走つて浮圖となり、明曇と名乘つた。永明王の軍事に參し、兵敗れて歸る。僧服を以て學を講じて終る。書室を不遠堂・見則堂といふ。著に見則堂語錄・不遠堂詩文集がある。〔清史稿、五百五〕・〔清史列傳、六十六〕・〔國朝耆獻類徵、三百九十九〕・〔碑傳集、一百二十七〕・〔國朝先正事略、四十五〕。

【惲壽平】12ウンジュヘイ　清、武進の人。日初の子。名は格。字を以て行はれ、更に正叔と字した。號は南田。又、白雲外史・雲溪外史・巢楓客・抱甕客・南田抱甕客・南田草衣・南田老人・南田小隱・葺芟生・鑑湖漁隱・雪衣居士・橫樵者。又、東園客(東園生・東園草衣生)と稱す。幼にして杭州の靈隱寺に薙染し、山水畫を學ぶ。王翬の畫を見て古今獨步とし、自ら花卉を學び、北宋の徐崇嗣を理想とした。書は褚河南を學ぶ。著に甌香館集がある。〔清史稿、五百九〕・〔國朝耆獻類徵、四百二十六〕・〔碑傳集、一百二十六〕。

【惲世臨】13ウンセイリン　清、武進の人。字は次山。道光の進士。掌故に通じ、郡國の利病を諳んじた。官は湖南巡撫。書室を櫟存草堂といふ。著に櫟存草堂文集がある。〔續碑傳集、二十七〕。

【惲祖翼】14ウンソヨク　清、陽湖の人。字は叔謀、又、菘耘。同治の舉人。官は浙江巡撫。時に衢州に、官を殺し、教堂を焚くの變起り、英國軍艦の浙に赴かんとするや、祖翼は眞犯十餘人を禽捕して抵償を科し、文武官を褫職して、事定まるを得た。〔清史稿、四百五十四〕・〔續碑傳集、三十

二〕。

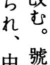
【惲道生】15ウンダウセイ　惲本初(18)を見よ。

【惲南田】16ウンナンデン　惲壽平(12)を見よ。

【惲秉怡】17ウンヘイイ　清、陽湖の人。字は潔士。號は梧岡。諸生。書畫に巧。〔國朝書畫家筆錄、三〕・〔國朝書人輯略、九〕。

【惲本初】18ウンホンショ　清、武進の人。字は道生。後、名を向と改む。號は香山。明の崇禎中、賢良方正に擧げられ、中書舍人を授けられたが就かず。山水畫に巧。著に畫旨がある。〔國朝耆獻類徵、四百二十四〕。

【想】10858



小篆

シヤウ　サウ　〔集韻〕寫兩切　ㄒㄧㄤˇ　［養］　hsiang^{3}

❶おもふ。㋑ねがふ。〔說文〕想、覬思也、从レ心相聲。〔晉書、阮种傳〕播二醇美之化一、杜二邪枉之路一、斯誠羣黎之所下欣二想盛德一、而幸中望休風上也。〔宋武帝、遊二覆舟山一詩〕素想終勿レ傾、聿來果二丘壑一。㋺おもひうかべる。かたどりおもふ。〔晉書、樂廣傳〕衞玠總角時、嘗問二廣夢一、廣云、是想、玠曰、形神所レ不レ接而夢、豈是想乎。〔李陵、答二蘇武一書〕望レ風懷想、能不二依依一。〔潘岳、寡婦賦〕窈冥兮潛翳、心存兮目想。㋩おもひめぐらす。おもひにふける。〔晉書、謝安傳〕悠然遐想、有二高世之志一。〔陶潛、和二胡西曹一詩〕逸想不レ可レ淹、猖狂獨長悲。〔傅亮、修二張良廟一教〕過二大梁一者、或佇二想于夷門一、游二九原一者、亦流二連于隨會一。❷おもひ。〔周書、李賢傳〕擧レ目依然、益增二舊想一。〔高允、徵士頌〕披レ襟散レ想、解レ帶舒レ懷。❸かがやき。ほのほ。かたち。像(**1—1084**)に通ず。〔說文通訓定聲〕想、叚借爲レ像。〔周禮、春官、眡祲〕掌二十煇之法一、云云、十曰、想。〔注〕鄭司農曰、想者、輝光也、玄謂、想、雜氣有レ似レ可二形想一。❹［佛］五蘊の一つ。事物の想を心上に浮べて言語を起す因となる心的作用。〔俱舍論、四〕想、謂三於レ境取二差別相一。❺［現］忘れずに。忘れるな。

【想因】1サウイン　物思ひとその原因。又、物わづらひのもと。〔晉書、樂廣傳〕衞玠總角時、嘗問二廣夢一、廣云、是想、玠曰、形神所レ不レ接而夢、豈是想耶、廣曰、是因、玠思レ之、經レ月不レ得、遂以成レ疾、廣聞レ故、命レ駕爲剖二析之一、玠病卽愈、廣曰、此賢胸中、當三必無二膏肓之疾一。〔陸游、午睡詩〕心安了無レ夢、一掃想與レ因。

【想蘊】2サウウン　［佛］五蘊の一つ。事物の善惡邪正等を想像意識する種々の情想。〔俱舍論、一〕想蘊、謂三能取レ像爲レ體、卽能執二取青黃長短男女怨親苦樂等相一。

【想憶】3サウオク　考へおもふ。又、おもひ。〔王獻之、尺牘〕卽日如何、深想憶。

【想家】4 hsiang^{3} chia^{1}　家族を思ひ出す。家鄉を考へる。

〖想家病〗5 hsiang^{3} chia^{1} ping^{4}　思鄉病。ホームシック。

【想開】6 hsiang^{3} k'ai^{1}　あきらめる。思ひ切る。

【想起】7 hsiang^{2} ch'i^{3}　以前の事をおもひ出すこと。

〖想起來〗8 hsiang^{2} ch'i^{3} lai　思ひ出す。考へ出す。

【想戲】9 hsiang^{3} hsi^{4}　客を招いて芝居を觀るとき、客に好みの藝題を擇ばせること。

【想許】10 hsiang^{2} hsü^{3}　思ふに多分。或は。

【想化】11サウクワ　現實の雜駁な知識から、不純な分子を除いて理想に近いものにすること。醇化。理想化。

【想見】12サウケン　❶おもひみる。おしはかり察する。又、慕ふ。〔史記、趙世家〕想二見其狀一。〔史記、屈原賈生傳贊〕想二見其爲レ人。〔謝靈運、從二斤竹澗一越レ嶺溪行詩〕想二見山阿人一、薜蘿若レ在レ眼。❷hsiang^{3} chien^{4}　面會したい。

【想菜】13 hsing^{3} ts'ai^{4}　各種の料理中、客の好むものを擇ばせること。

【想象】14サウザウ　生きてゐる象の姿をおもひうかべる。轉じて、おもひやる。想像。〔韓非子、解老〕人希レ見二生象一也、而得二死象之骨一、案二其圖一、以想二其生一也、故諸人之所二以意想一者、皆謂二之象一也。〔曹植、洛神賦〕遺レ情想象、顧望懷愁。

【想像】15サウザウ　❶おもひやる。おしはかる。〔楚辭、遠遊〕思二舊故一以想像兮。〔謝靈運、登二江中孤嶼一詩〕想二像崑山姿一、緬二邈區中緣一。〔歐陽詹、題二延平劍潭一詩〕想二像精靈一欲レ見難、通津一去水漫漫。❷既に知られた事にもとづいて新しい觀念を組みたてる心のはたらき。

【想察】16サウサツ　おもひやる。

【想死】17 hsiang^{2} ssŭ^{3}　戀ひ焦れて死ぬ。

【想思】18サウシ　おもふ。慕ふ。〔管子、內業〕敬除二其舍一、精將二自來一、精想二思之一、寧レ念治レ之。〔史記、淮南王安傳〕於レ是百姓悲痛想思。

〖想思病〗19 hsiang^{3} ssŭ^{1} ping^{4}　戀の病。

【想似】20サウジ　其の樣子をしのぶ。想像。〔曹攄、思二友人一詩〕延レ首出二階檐一、佇立增想レ似。〔注〕向曰、引レ領出望、但益想二其形似一也。

【想出】21 hsiang^{3} ch'u^{1}　おもひだすこと。

【想睡】22 hsiang^{3} shuei^{4}　ねむたい。

【想絕】23 hsiang^{3} chüeh^{2}　思ひも及ばぬ結構なこと。〔紅樓夢、三十五回〕俺們府上都想絕了。

【想到】24サウタウ　おもひいたる。考へ及ぶ。〔劉禹錫、送下李戶部侍郎自二河南尹一再除二本官一歸上闕詩〕想到金門待二稱籍一、一時驚喜見二風儀一。

【想度】25 hsiang^{3} tou^{4}　おもひはかること。

【想頭】26 hsiang^{3} t'ou　かんがへ。〔紅樓夢、十七回〕衆人都贊好精緻想頭、難爲怎麼想來。

【想肉】27サウニク　人肉をいふ。〔輟耕錄、想肉〕天下兵甲方殷、而淮右之軍、嗜食レ人、以二小兒一爲レ上、婦女次レ之、男子又次レ之、或使レ坐二兩缸閒一、外逼以レ火、或於二鐵架上一生炙、或縛二其手足一、先用二沸湯一澆潑、却以二竹帚一刷二去苦皮一、或乘二夾袋中一、入二巨鍋一活煑、或刲、作二事件一、而淹レ之、或男子則止斷二其雙腿一、婦女則特剜二其兩乳一、酷毒萬狀、不レ可二具言一、總名曰二想肉一、以三爲レ食レ之而使二人想一レ之也。

【想念】28サウネン　考へ思ふ。又、意識に印象せる一切の心的現象。

【想望】29サウバウ　❶おもひのぞむ。慕ひ見る。思慕する。景仰。〔後漢書、和帝紀〕想二望舊京一。〔後漢書、隗囂傳〕欲下先崇二郭隗一、想中望樂毅上。〔後漢書、趙壹傳〕士大夫想二望風采一。〔魏志、陳羣傳〕天下想二望至治一。❷待ちまうける。期待。

【想聞】30サウブン　慕ひきく。〔漢書、霍光傳〕天下想二聞其風采一。

【想味】31サウミ　かみわけ考へる。考へて心に味ふ。〔梁簡文帝、與二慧琰法師一書〕想味之懷、轉復無レ極。

【想夢】32サウム　おもひ夢みる。〔列子、周穆王〕想夢自消。

【想來】33 hsiang^{3} lai^{2}　多分。いづれ。

【想當レ然】34オモフニマサニシカルベシ　想像するにおほかた左樣であらう。據りどころのない返事。〔後漢書、孔融傳〕融與二操書一稱、武王伐レ紂、以二妲己一賜二周公一、操不レ悟、後問レ出二何經典一、對曰、以レ今度レ之、想當レ然耳。〔芥隱筆談〕東坡刑賞忠厚之至論、其中有レ云、皐陶曰、殺レ之三、堯曰、宥レ之三、梅聖兪問レ出二何書一、答曰、想當レ然耳。

【想不到】35 hsiang^{3} pu tao^{4}　はからずも。思ひ掛けなく。

【想夫憐】36サウフレン　唐の樂曲。羽調曲の名。もと相府蓮といひ、後訛して想夫憐となる。相府蓮(**8—23151・・287**)を見よ。〔樂府詩集、近代曲辭、相府蓮〕古解題曰、相府蓮者、王儉爲二南齊相一、一時所レ辟、皆才名之士、時人以レ入二儉府一爲二蓮花池一、謂レ如三紅蓮映二綠水一、今號二蓮幕一者、自レ儉始、其後語訛爲二想夫憐一、亦名二之醜爾一、又有二簇拍相府蓮一、樂苑曰、想夫憐、羽調曲也、白居易詩曰、玉管朱弦莫二急催一、客聽二歌送一十分杯、長愛夫憐第二句、請君重唱夕陽開、王維右丞詞云、秦川一半夕陽開、是也。〔白居易、想夫憐詩〕玉管朱絃莫二急催一、客聽二歌送一十分盃、長愛夫憐第二句、請君重唱夕陽開。〔楊維楨、去妾辭〕傳來馬上曲、猶唱想夫憐。

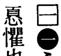
【想夫戀】37サウフレン　樂曲の名。想夫憐に同じ。我が國では相府蓮を誤つて、想夫戀と呼ぶことが

多い。〔拾芥抄、上、末〕樂目錄、平調、想夫戀、無レ舞。〔源平盛衰記、小督局〕。

【想情度理】38 hsiang³ ch'ing² tuo³ li³ 事情を推察する。事物の情理を考へる。

【惴】10859

㊀スイ 〔集韻〕之瑞切 寘 ㄓㄨㄟˋ chuei⁴
㊁クヮイ ケ 〔集韻〕古賣切 卦
慣ズイ


小篆

㊀❶**うれへおそれる**。〔說文〕惴、憂懼也、从レ心耑聲、詩曰、惴惴其慄。〔孟子、公孫丑上〕雖ニ褐寬博一、吾不レ惴焉。〔注〕惴、懼也。❷**行く**。遄(**11－38988**)に通ず。〔說文通訓定聲〕惴、叚借爲レ遄、孟子、吾不レ惴焉、丁公著音義作レ遄、是也、形之譌。❸喘(**2－3946**)に通ず。〔莊子、胠篋〕惴耎之蟲。〔釋文〕惴、又作レ喘。❹**蟲の名**。蝡(**10－33250**)に通ず。〔莊子、胠篋、釋文〕惴、本亦作レ蝡。㊁**とどこほりの多い性質**。〔集韻〕惴、性多ニ阻礙一也。

【惴畏】1 ズイヰ うれへおそれる。おぢおそれる。

【惴駭】2 ズイガイ おぢおどろく。〔白居易、唐故虢州刺史贈禮部尙書崔公墓誌銘〕未レ幾朝有ニ大獄一、人心惴駭。

【惴恐】3 ズイキヨウ うれへおそれる。おぢおそれる。惶恐。〔史記、項羽紀〕楚兵呼聲動レ天、諸侯軍、無レ不ニ人人惴恐一。〔漢書、甯成傳〕人皆惴恐。〔後漢書、王吉傳〕郡中惴恐、莫ニ敢自保一。

【惴懼】4 ズイク おそれること。〔詩、秦風、黃鳥、臨ニ其穴一、惴惴其慄、傳〕惴惴、懼也。

【惴縮】5 ズイシユク おそれちぢむ。〔唐書、劉洎傳〕猶恐ニ羣臣惴縮不ニ敢進一。

【惴惴】6 ズイズイ 懼れるさま。おそれてびくびくするさま。〔詩、秦風、黃鳥〕臨ニ其穴一、惴惴其慄。〔傳〕惴惴、懼也。〔莊子、齊物論〕小恐惴惴、大恐縵縵。〔漢書、敍傳上〕蓋惴惴之臨レ深兮。

【惴惴乎】7 ズイズイコ びくびくしておそれをののくさま。〔佐藤一齋、日光山行記〕惴惴乎惟懼ニ足踣而炬滅一。

【惴耎】8 ズイゼン うごめく。又、足の無い蟲。又、惴蝡に作る。〔莊子、胠篋〕惴耎之蟲。〔疏〕惴耎、飛空之類。〔釋文〕惴、本亦作レ蝡、又作レ喘、崔云、蠉蝡、動蟲也、一云、惴耎、謂ニ無レ足蟲一。

【惴惕】9 ズイテキ おそれうれへる。〔柳宗元、寄ニ許京兆孟容一書〕懍懍然欷歔惴惕、恐ニ此事便已一。

【惴慄】10 ズイリツ おそれふるへる。おそれること。〔莊子、齊物論〕木處則惴慄恂懼。〔疏〕惴慄恂懼、是恐迫之別名。〔晉書、衞恒傳〕或凌レ邃惴慄、若ニ據レ高臨レ危。〔白居易、遺懷詩〕操レ之多ニ惴慄一、失レ之又悲悔。

【愲】10860

ヰ 〔集韻〕于貴切 未

❶**心がおちつかない。うれへる**。怫愲。〔廣韻〕愲、怫愲、不レ安也。〔集韻〕愲、一曰、心不レ安皃。❷**なげく**。愲悱。〔廣雅、釋訓〕愲悱、忼慨也。

【惵】10861

㊀テフ デフ 〔集韻〕達協切 葉
㊁ケフ 〔集韻〕虛涉切 葉

㊀❶**やすらか**。惉(**4－10764**)に同じ。〔集韻〕惉、安也、或作レ惵。❷**おそれる**。〔後漢書、竇皇后紀〕宮房惵息。〔注〕惵、懼也。〔班固、東都賦〕惵然意下。〔注〕善曰、惵、猶ニ恐懼一也。❸**みちる**。たりる。〔方言、十二〕惵、羸也。〔玉篇〕惵、盈也。❹**しづか**。怗(**4－10451**)に同じ。〔集韻〕怗、靜也、或从レ枼。㊁**おそれる**。歙(**6－16204**)に同じ。〔集韻〕歙、懼皃、或作レ惵。

【惵懼】1 テフク おそれる。〔逸周書、官人解〕臨レ懾以レ威、而氣惵懼。

【惵然】2 テフゼン おそれるさま。〔班固、東都賦〕惵然意下、捧レ手欲レ辭。〔注〕善曰、惵、猶ニ恐懼一也。

【惵息】3 テフソク おそれていきをころす。〔後漢書、竇皇后紀〕自レ是宮房惵息。〔注〕惵、懼也。

【惵惵】4 テフテフ おそれるさま。〔後漢書、寒朗傳贊〕惵惵楚黎、寒君爲レ命。〔注〕惵惵、懼也。〔張衡、東京賦〕惵惵黔首。

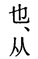
【〓】10862

㊀セツ セチ 〔集韻〕私列切 屑
㊁テフ

㊀**おちつかぬさま**。〔集韻〕〓、不レ安皃。㊁惵(**4－10861**)に同じ。〔正字通〕〓、同レ惵。

【惶】10863

㊀クヮウ ワウ 〔集韻〕胡光切 陽 ㄏㄨㄤˊ huang²
㊁ワウ 〔集韻〕雨方切 陽


小篆

㊀㊁❶**おそれる**。〔說文〕惶、恐也、从レ心皇聲。〔廣雅、釋詁二〕惶、懼也。〔後漢書、杜詩傳〕蕭廣縱暴、百姓惶擾。❷**にはか**。あわてる。〔字彙〕惶、遽也。❸**まどふ**。〔字彙〕惶、惑也。❹通じて皇(**8－22701**)に作る。〔說文長箋〕惶、通借用レ皇、漢書、皇恐。

【惶畏】1 クヮウヰ おそれる。〔風俗通、十反〕臣吏惶ニ畏天威一、莫ニ敢盡レ情。

【惶駭】2 クヮウガイ おそれおどろく。震惶。驚惶。〔唐書、裴行儉傳〕煙塵漲レ天而南、斥候惶駭。

【惶汗】3 クヮウカン おそれてあせをかくこと。〔廣異志〕仁軌惶汗久之。

【惶悸】4 クヮウキ をののきおそれる。〔楚辭、王逸、九思、悼亂〕惶悸兮失レ氣。〔魏武帝、讓ニ九錫一表〕惶悸怔營、心如ニ炎灼一。〔權德輿、爲ニ鄭相公一讓ニ中書侍郎一表〕自レ天受レ命惶悸。

【惶愧】5 クヮウキ おそれはぢる。氣味わるく思ふ。〔李商隱雜纂、惶愧〕犯ニ人忌諱一、遇ニ見讐家一云云。

【惶急】6 クヮウキフ 恐れあわてる。あわてる。惶遽。〔戰國、燕策〕秦王驚、自引而起、袖絕、拔レ劍、劍長、操ニ其室一、時惶急劍堅、故不レ可ニ立拔一。〔史記、刺客、荊軻傳〕秦王方環レ柱走、卒惶急、不レ知レ所レ爲。

【惶驚】7 クヮウキヤウ おそれおどろく。惶駭(2)に同じ。

【惶遽】8 クヮウキヨ おそれあわてる。あわてる。〔楚辭、劉向、九歎、離世、征夫皇皇、注〕皇皇、惶遽貌。〔魏志、袁紹傳〕紹還軍ニ延津一、因ニ馥惶遽一、使ニ陳留高幹・潁川荀諶、說レ馥。〔宋史、韓通傳〕聞レ有レ變、惶遽而歸。

【惶恐】9 クヮウキヨウ おそれる。恐惶。惶懼。〔史記、萬石君傳〕上讁死矣、甚惶恐。〔漢書、戾太子據傳〕太子惶恐無ニ他意一。〔漢書、朱博傳〕博問ニ其故一、對言惶恐。〔易林、鼎之レ兌〕成王多レ寵、商臣惶恐。〔後漢書、明德馬皇后紀〕諸家惶恐。〔論衡、儒增〕雖ニ忿恨惶恐一、無ニ碎レ首者一。

【惶恐灘】10 クヮウキヨウタン 灘の名。江西省萬安縣の境に在り、贛江中の最も險惡な所。十八灘の一つ。皇恐灘(**8－22701‥51**)を見よ。〔蘇軾、八月七日初入レ贛過ニ惶恐灘一詩〕山憶ニ喜懽一勞ニ遠夢一、地名ニ惶恐一泣ニ孤臣一。〔讀史方輿紀要、江西、吉安府、萬安縣〕贛江、縣城西南、自ニ贛縣界一北流抵ニ城下一、凡百二十里、其閒有レ灘、曰崑崙、曰武朔、曰昌邦、曰小蓼、曰大蓼、曰綿津、曰曉、曰漂神、曰惶恐、凡九灘、又折而東北流、入ニ泰和縣界一、水性湍險、惶恐灘尤甚、本名ニ黃公灘一、後譌爲ニ惶恐一也、今灘在ニ縣治西一、宋趙抃爲ニ虔州守一、常疏ニ鑿此灘一、或云、東坡南遷、始譌ニ黃公一爲ニ惶恐一。

【惶恐再拜】11 クヮウキヨウサイハイ おそれいつて二度拜する意。手紙の末尾に敬意を表して記す言葉。〔韓愈、上ニ兵部李侍郎一書〕伏增ニ惶恐一、愈再拜。〔海錄碎事、臣職部、東宮官〕唐太宗撰下太子接ニ三師一之儀上、與ニ三師一書、前名惶恐、後名惶恐再拜。

【惶窘】12 クヮウキン おそれくるしむ。〔後漢書、鄧騭傳〕惶窘怔營昧死。

【惶懼】13 クヮウク おそれる。惶恐。悚懼。畏懼。〔漢

書、張敞傳〕妻子家室、皆泣惶懼。〔漢書、杜延年傳〕敞惶懼移レ病、以語二延年一。〔後漢書、朱儁傳〕忠乃退保二小城一、惶懼乞レ降。〔論衡、明雩〕故雩祀盡已惶懼。〔張衡、四愁詩序〕諸豪俠游客悉惶懼。

【惶懼再拜】14 クヮウクサイハイ 惶恐再拜(11)に同じ。〔韓愈、爲二河南令一上二留守鄭相公一啓〕愈惶懼再拜上。 「惶憒從レ之。」

【惶憒】15 クヮウクヮイ おそれみだれる。〔吳志、孫晧傳〕

【惶惶】16 クヮウクヮウ ❶あわただしいさま。〔廣雅、釋訓〕惶惶、劇也。〔王念孫疏證〕劇、與レ遽通。〔歐陽脩、韓文公集書後〕故孔孟惶二惶於一時一、而師二法於千萬世一。❷おそれるさま。恐惶。〔北史、王肅傳〕陛下輟レ膳三日、臣庶惶惶、無二復情地一。〔柳宗元、與二楊誨之一云云書〕蚤夜惶惶、追二思咎過一。

【惶顧】17 クヮウコ おそれかへりみる。〔歐陽脩、尙書都官員外郎歐陽公墓誌銘〕留者色動惶顧。

【惶懹】18 クヮウジャウ おそれてはばかる。〔元結、引極〕思不レ從兮空自傷、心慅悁兮意惶懹。

【惶悚】19 クヮウショウ おそれる。おづおづする。〔鮑照、請レ假啓〕執レ啓涕結、伏追二惶悚一。

【惶擾】20 クヮウゼウ おそれさわぐ。おそれみだれる。恇擾。〔史記、秦始皇紀〕左右皆惶擾不レ鬭。〔後漢書、杜詩傳〕放二縱兵士一、暴二橫民閒一、百姓惶擾。

【惶然】21 クヮウゼン おそれるさま。惶惶。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕彼之情、已惶然不レ能二自掩一矣。

【惶促】22 クヮウソク おそれちぢまる。〔後漢書、鄭興傳〕今陛下高明、而羣臣惶促。

【惶怛】23 クヮウダツ おそれていたみかなしむ。〔晉書、荀晞傳〕奉二被手詔一、委二臣征討一、伏讀跪歎、五情惶怛。

【惶惕】24 クヮウテキ おそれうれへる。恐れつつしむ。恐れ入る。〔柳宗元、上二廣州趙宗儒尙書一陳情啓〕光耀二里閭一、下情至レ今、尙增二惶惕一。

【惶迫】25 クヮウハク おそれちぢむ。おそれて心がおちつかない。〔後漢書、朱暉傳〕昆弟賓客、皆惶迫伏レ地、莫二敢動一。

【惶怖】26 クヮウフ おそれる。惶恐。〔越絕書、越絕外傳記吳王占夢〕惶怖解二冠幘一、肉袒而謝。〔漢書、王商傳〕惶怖更欲二內レ女爲レ援。〔後漢書、光武帝紀上〕皆惶怖憂二念妻孥一。〔風俗通、怪神〕吏卒惶怖。

【惶惑】27 クヮウワク おそれまどふ。恐惑。〔漢書、王嘉傳〕道路讙譁、羣臣惶惑。〔後漢書、光武帝紀上〕惶惑不レ知レ所レ之。〔論衡、吉驗〕遇二賊兵一、惶惑。〔蜀志、呂凱傳〕遠人惶惑、不レ知レ所レ歸也。

【惷】10864

シュン 〔集韻〕尺尹切 軫

小篆

❶みだれる。もと蒈に作る。〔正字通〕惷、說文、本作レ蠢。〔說文〕蒈、亂也、从レ心萅聲。春秋傳曰、王室日惷惷焉。❷あつい。惇(4－10759)に通ず。〔說文通訓定聲〕惷、叚借爲レ惇。〔集韻〕惷、一曰、厚也。❸或は敎(5－13309)に作る。〔集韻〕惷、或从レ攴。❹蠢(10－33797)に同じ。〔左氏、昭、二十四〕今王室實蠢蠢焉。〔校勘記〕惠棟云、說文引作二惷惷一。

【惷菴】1 シュンアン 明、張益(4－9812··61)の號。

【惷惷】2 シュンシュン 動きみだれるさま。ぐらつくさま。蠢蠢。〔左氏、昭、二十四〕今王室實蠢蠢焉、吾小國懼矣。〔注〕蠢蠢、動擾貌也。〔校勘記〕惠棟云、說文引作二惷惷一。

【惷迪】3 シュンテキ 擧動。動作。惷は、一に蠢に作る。〔揚雄、法言序〕君子純レ終領レ聞、惷迪撿押。〔注〕師古曰、純、善也、領、令也、聞、名也、言下君子之道、能善二其終一而不上レ失二令名一、惷、動也、迪、道也、撿押、猶二隱括一也、言三動由二撿押一也。

【惸】10865

ケイ ギヤウ 〔集韻〕葵營切 ㄑㄩㄥˊ ch'iung^2 庚

❶うれへる。〔集韻〕惸、惸惸、憂也。〔詩、小雅、正月〕憂心惸惸。〔傳〕惸惸、憂意也。❷ひとりみ。兄弟がない。〔詩、小雅、正月、釋文〕惸、一云、獨也。〔周禮、秋官、大司寇〕凡遠近惸獨老幼之欲レ有レ復二於上一。〔注〕無二兄弟一曰レ惸。❸或は煢(7－19134)・怐(4－10364)・憌(4－11199)に作る。〔集韻〕惸、或作二煢・怐・憌一。〔詩、小雅、正月、釋文〕惸、本又作レ煢。

【惸鰥】1 ケイクヮン たよる所の無い男やもめ。〔柳宗元、醻二韶州裴曹長使君一云云以見レ示二十韻詩〕在亡均寂寞、零落閒二惸鰥一。

【惸惸】2 ケイケイ 憂へる意。憂へるさま。〔詩、小雅、正月〕憂心惸惸、念二我無祿一。〔傳〕惸惸、憂意也。

【惸孤】3 ケイコ たよる所のない獨り者。孤獨。〔陳造、竹米行〕老子苟レ祿天之隅、袖手無レ策蘇惸孤。〔水滸傳、八十九回〕朕今覽二其情詞一、憐二其哀切一、憫二汝惸孤一、不レ忍レ加レ誅、仍存二其國一。

【惸獨】4 ケイドク ひとり者。身うちの無い者。困窮してたよる所のない獨り者。無告民。煢獨。〔詩、小雅、正月〕哿矣富人、哀二此惸獨一。〔傳〕獨、單也。

【惸獨田】5 ケイドクデン 王朝時代、惸獨の民を賑恤するために置かれた不輸租田。〔日本後紀、二十二〕弘仁三年八月癸丑、惸獨田者、故大僧正行基法師、爲レ矜二孤獨一所レ置也。

【惸獨鰥寡】6 ケイドククヮンクヮ 惸は兄弟のない者、獨は老いて子孫のない者、鰥は老いて妻のない者、寡は老いて夫のない者。〔大學衍義補、固二邦本一、愍二民之窮一〕唐太宗貞觀元年、詔給下民年八十以上、惸獨鰥寡疾病不レ能二自存一者、米三斛上。

【惸獨老幼】7 ケイドクラウエウ 孤獨の者と老者と幼者。〔周禮、秋官、大司寇〕凡遠近惸獨老幼之欲レ有レ復二於上一、而其長弗レ達者、立二於肺石一、三日士聽二其辭一、以告二於上一、而罪二其長一。〔注〕無二兄弟一曰レ惸、無二子孫一曰レ獨。

【惸嫠】8 ケイリ やもめ。たよる所のない寡婦。煢嫠。〔白居易、立碑詩〕我聞望江縣、麴令撫二惸嫠一。

【惹】10866

㊀ジヤ ニヤ 〔集韻〕爾者切 ㄖㄜˇ jê^3 馬
㊁ジヤク ニヤク 〔集韻〕日灼切 藥
㊂ジヤ ニヤ 〔集韻〕人奢切 麻

小篆

㊀❶みだれる。〔說文新附〕惹、亂也、从レ心若聲。❷ひく。〔增韻〕惹、引著也。〔何遜、九日侍二宴樂遊苑一詩〕晴軒連二瑞氣一、同惹二御香一芬。❸かかる。まつはる。〔集韻〕惹、絓也。〔顧非熊、題二馬儒乂石門山居一詩〕雲低收二藥徑一、苔惹取二泉瓶一。❹まねく。〔羅鄴、芳草詩〕微香暗惹遊人步。❺いつはる。〔集韻〕惹、詭也。❻そしる。〔集韻〕惹、諵也。❼かるい。惹惹(8)を見よ。❽或は偌(4－10867)に書す。〔集韻〕惹、或書作レ偌。❾諾(10－35753)に同じ。〔說文新附考〕惹、通作レ諾、又疑、諾之別體。❿現㋑かまふ。相手になる。㋺挑發する。㋩怒る。激する。㊁❶しひる。ひかれる。〔方言、十〕挐、揚州會稽之語也、或謂二之惹一。〔集韻〕惹、廣雅、挐也。❷きまらぬさま。綽惹。〔集韻〕惹、一曰、綽惹、不レ定皃。❸或は偌(4－10867)に書す。〔集韻〕惹、或書作レ偌。㊂㊁の❶に同じ。

【惹氣】1 jê^3 ch'i^4 怒らす。激せしめる。惹鬧。

【惹起】2 ジヤクキ ひきおこす。しでかす。〔戴復古、釣臺詩〕平生誤識劉文叔、惹二起虛名一滿二世閒一。

【惹禍】3 jê^3 huo^4 禍にあふ。禍を招く。

【惹嫌】4 jê^3 hsien^2 人に嫌はれる。

【惹呼】5 jê^3 hu^1 怒らす。激せしむ。

【惹事】6 jê^3 shih^4 事をひきおこすこと。

【惹情】7 jê^3 ch'ing^2 氣がひかれる。情にひかされる。

【惹惹】8 ジヤクジヤク 輕いさま。〔韓偓、閑步詩〕莊南縱步遊二荒野一、獨鳥寒煙輕惹惹。

【惹鬧】9 jê^3 nao^4 怒らす。惹氣。

【惹怒】10 jê^3 nu^4 怒を招く。

【惹惱】11 jê^3 nao^3 怒らす。激せしめる。惹鬧。

【惹不起】12 jê^3 pu ch'i^3 さからふことは出來ない。手出しは出來ない。

【惹不得】13 jê^3 pu tê^2 手出しをしてはならな

い。さからつてはならない。

【惹亂子】14 jê^3 luan^4 tzŭ　禍を惹き起す。

【惹草拈花】15 jê^2 tʻsao^3 nien^2 hua^1　女を引き付けるやうにする。隨處に愛戀する。

【⿰忄若】10867

🈩ダク ナク　〔集韻〕匿各切　藥

🈔ジヤ ジヤク

🈩**心にうけがふ**。古は⿰忄⿱艹舛(4-11339)に作る。〔集韻〕⿰忄若、心然也、古作㆑⿰忄⿱艹舛。🈔惹(4-10866)に同じ。〔集韻〕惹、或書作㆑⿰忄若。

【惺】10868

🈩セイ シヤウ　〔集韻〕桑經切　靑　ㄒㄧㄥ hsing^1

🈔セイ シヤウ　〔集韻〕息井切　梗

🈪セイ シヤウ　〔集韻〕銑挺切　迥

🈩❶**さとい**。惺憽。〔集韻〕惺、惺憽、了慧。❷**しづか**。〔字彙〕惺、靜也。❸**鶯の聲**。**又、骰子の異名**。惺惺(13)を見よ。🈔**さとる**。⿰忄省(4-10871)に同じ。〔集韻〕⿰忄省、悟也、或从㆑星。🈪**さとる**。🈔に同じ。〔集韻〕惺、悟也。

【惺庵】1（セイアン）字號。❶清、何裕城(1-511‥374)の號。❷清、徐士芳(4-10110‥440)の號。

【惺葊】2（セイアン）清、徐士芳(4-10110‥440)の號。

【惺宇】3（セイウ）明、張貞觀(4-9812‥1388)の號。

【惺園】4（セイエン）清、王杰(7-20823‥341)の號。

【惺厓】5（セイガイ）清、歸允肅(6-16349‥294)の號。

【惺窩】6（セイクワ）藤原肅の號。藤原惺窩(9-32340‥61)を見よ。〔先哲叢談、一〕藤原肅、字斂夫、號㆓惺窩、北肉山人・柴立子・廣胖窩㆒、皆其別號、播磨人。

【惺窩文集】7（セイクワブンシフ）書名。八卷。藤原惺窩撰。林羅山編。うち三卷は續集で、菅玄同編。

【惺悟】8（セイゴ）さとる。〔抱朴子、極言〕始皇惺悟、信㆔世閒之必有㆓仙道㆒。

【惺齋】9（セイサイ）字號。❶清、成瑅(5-11544‥137)の號。❷清、石成金(8-24024‥965)の號。❸清、王元啓(7-20823‥1425)の號。❹清、王元復(7-20823‥1433)の字。

【惺齋新曲六種】10（セイサイシンキヨクロクシユ）清の戲曲家、夏綸の作曲六種。無瑕璧・杏花村・瑞筠圖・廣寒梯・花蕚吟・南陽樂を合刊したもの。

【惺忪】11（セイシヨウ）❶動搖して定まらないさま。〔元稹、送㆓孫勝㆒詩〕桐花暗淡柳惺忪、池帶㆓輕波㆒柳帶㆑風。〔燕子箋、入鬮〕連朝女病欠惺忪。❷醒めて氣付くこと。〔還魂記、鬧殤〕不㆑隄㆓防你後園閒夢銃㆒、不㆓分明㆒再不㆓惺忪㆒。

【惺鬆】12（セイシヨウ）動搖して定まらぬこと。〔韻府引、楊萬里、詩〕花如㆓中酒㆒不㆓惺鬆㆒。

【惺惺】13（セイセイ）❶心のあきらかなさま。さとくあきらかなこと。〔上蔡語錄〕敬是常惺惺法。〔劉基、醒齋銘〕昭昭生㆓于惺惺㆒、而憒憒出㆓于冥冥㆒。❷鶯の聲。〔陸游、初夏道中詩〕桑閒甚熟麥齊㆑腰、鶯語惺惺野雉驕。❸骰子の別名。〔清異錄、器具、惺惺二十一〕博徒隱語、以㆓骰子㆒爲㆓惺惺二十一㆒。

【惺惺道人】14（セイセイダウジン）字號。❶元、喬吉(2-3990‥14)の號。❷元、王餘慶(7-20823‥2153)の號。

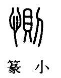
【惺然】15（セイゼン）精神の明かなさま。〔剪燈新話、三山福地志〕自實食訖、惺然明悟。

【惺憽】16（セイソウ）心がさとい。了慧なさま。〔廣韻〕惺、惺憽、了慧皃、出㆓聲類㆒。

【惺堂】17（セイダウ）明、史桂芳(2-3249‥195)の號。

【惺甫】18（セイホ）清、顏檢(12-43591‥40)の字。

【惻】10869



小篆

ショク シキ　〔集韻〕察色切　職　ㄘㄜˋ tsʻê^4

慣ソク

❶**いたむ**。〔說文〕惻、痛也、从㆑心則聲。〔廣韻〕惻、愴也。〔易、井〕爲㆓我心惻㆒。〔干注〕惻、傷悼也。❷**かなしむ**。〔廣雅、釋詁三〕惻、悲也。❸**ねんごろなさま**。惻惻(13)を見よ。❹或は⿱則心(4-10870)に作る。〔集韻〕惻、或書作㆑⿱則心。

【惻惐】1（ソクヰキ）かなしんで心をいためる。惻淢。〔王褒、洞簫賦〕悲愴怳以惻惐兮。〔注〕善曰、楚辭曰、愴怳懭悢兮、惻惐、傷痛也。

【惻淢】2（ソクヰキ）かなしみいたむさま。惻惐。〔潘岳、笙賦〕愀愴惻淢。〔注〕善曰、愀愴惻淢、悲傷皃、云云、淢、與㆑惐同。

【惻隱】3（ソクイン）あはれみいたむ。孟子の四端の一つ。惻隱之心仁之端也を見よ。〔孟子、公孫丑上〕今人乍見㆓孺子將㆑入㆓於井㆒、皆有㆓怵惕惻隱之心㆒。〔集注〕惻、傷之切也、隱、痛之深也。〔孟子、告子上〕乃若㆓其情㆒、則可㆓以爲㆑善矣、乃所謂善也、若㆔夫爲㆓不善㆒、非㆓才之罪㆒也、惻隱之心、人皆有㆑之、羞惡之心、人皆有㆑之、恭敬之心、人皆有㆑之、是非之心、人皆有㆑之、惻隱之心、仁也、羞惡之心、義也、恭敬之心、禮也、是非之心、智也、仁義禮智、非㆓由㆑外鑠㆑我也、我固有㆑之也、弗㆑思耳矣。〔史記、樂書贊〕使㆓人惻隱而愛㆑人。〔史記、張釋之傳〕吏爭以㆓亟疾苛察㆒相高、然其敝徒文具耳、無㆓惻隱之實㆒。〔漢書、藝文志〕咸有㆓惻隱古詩之義㆒。〔白虎通、禮樂〕聞㆓角聲㆒、莫㆘不㆓惻隱而慈㆒者㆖。

【惻隱之心仁之端也】4（ソクインノココロハジンノタンナリ）あはれみいたむ心は仁の端緒である。一說に、端は、本、はじめと解する。四端(3-4682‥563)を見よ。〔孟子、公孫丑上〕惻隱之心、仁之端也、羞惡之心、義之端也、辭讓之心、禮之端也、是非之心、智之端也。〔注〕端者、首也、人皆有㆓仁義禮智之首㆒、可㆓引用㆒也。〔疏〕孟子言、人有㆓惻隱之心㆒、是仁之端本、起㆓於此㆒也。〔集注〕端、緒也。

【惻焉】5（ソクエン）あはれみいたむさま。〔漢書、宣元六王傳〕朕惻焉不㆑忍㆑聞、爲㆑王傷㆑之。〔注〕師古曰、惻、痛也。

【惻愴】6（ソクサウ）いたみかなしむ。〔荀悅、馮唐論〕賈誼過㆓湘水㆒、弔㆓屈原㆒、惻愴慟㆑懷。〔魏志、高貴鄉公髦紀〕然大將軍志意懇切、發言惻愴。〔陸機、門有車馬客行〕借問邦族閒、惻愴論㆓存亡㆒。〔顏氏家訓、風操〕惻愴心眼。

【惻心】7（ソクシン）いたみあはれむ心。惻隱之心の略。

【惻悴】8（ソクスイ）いたみうれへる。

【惻悽】9（ソクセイ）心にいたみかなしむ。〔傅咸、畫像賦〕痛㆓兩趾之雙刖㆒、心惻悽㠯傷㆑情。

【惻切】10（ソクセツ）甚だいたみせまる。悲しみの切なこと。〔傅咸、桑樹賦〕心惻切㠯興㆑思、思有㆑感㆓于聖明㆒。

【惻然】11（ソクゼン）あはれみいたむさま。惻惻。〔漢書、息夫躬傳〕未㆑聞㆓將軍惻然深以爲㆑意。〔列女傳、辯通傳〕惻然爲㆑痛㆑之。〔後漢書、光武帝紀下〕惻然愍㆑之。〔論衡、死僞〕惻然悲恨。〔顏氏家訓、勉學〕惻然自念思、欲㆑効㆑之也。

【惻楚】12（ソクソ）いたみくるしむ。楚はいたむ、くるしむ意。〔韓愈、元和聖德詩〕侍祠之臣、助㆑我惻楚。

【惻惻】13（ソクソク）❶悲しみいたむさま。あはれみいたむさま。惻然。〔太玄經、翕〕次七、翕繳惻惻。〔注〕鳥而失㆑志、故高飛、飛而遇㆑繳、欲㆑去不㆑得、故惻惻也、惻、痛㆑心也。〔潘岳、寡婦賦〕庶浸遠而哀降兮、情惻惻而彌甚。〔杜甫、夢㆓李白㆒詩〕死別已呑㆑聲、生別常惻惻。〔白居易、惻惻吟〕惻惻復惻惻。〔歐陽建、臨終詩〕惻惻中心酸。❷ねんごろ。懇切。〔後漢書、張酺傳〕帝每㆑見㆓諸王師傅㆒、嘗言、張酺前入㆓侍講㆒、屢有㆓諫正㆒、誾誾惻惻、出㆓於誠心㆒、可㆑謂㆑有㆓史魚之風㆒矣。〔注〕惻惻、懇切也。

【惻怛】14（ソクダツ）いたみかなしむ。忉怛。〔禮、問喪〕惻怛之心、痛疾之意。〔漢書、翟方進傳〕上無㆓惻怛濟世之功㆒。〔後漢書、祭遵傳〕惻怛之慟。〔論衡、順鼓〕無㆓惻怛憂民之心㆒。〔蜀志、許靖傳〕其紀㆓綱同類㆒、仁恕惻怛、皆有㆓效事㆒。

【惻怛不安】15（ソクダツフアン）いたみかなしんで心が落ちつかない。〔漢書、文帝紀〕今朕夙興夜寐、勤㆓勞天下㆒、憂㆓苦萬民㆒、爲㆑之惻怛不㆑安、未㆔嘗一日忘㆓於心㆒。〔王先謙補注〕史記、惻怛作㆓怛惕㆒。

【惻痛】16（ソクツウ）いたみかなしむ。悼痛。〔公羊、桓、十四、御廩災何以書記㆑災也、注〕先㆑是龍門之

戰、死傷者衆、桓無下惻二痛於民一之心上、不レ重二宗廟之尊一、逆レ天危二先祖一、鬼神不レ饗、故天應以災二御廩一。〔論衡、明雩〕召レ醫和レ藥者、惻痛慇懃、冀レ有レ驗也。

【惻憫】17 ソク ビン　いたみあはれむ。いたみうれへる。〔梅堯臣、觀レ放二鴿子一詩〕取レ樂在二須臾一、我心良惻憫。

【惻悷】18 ソク レイ　いたみかなしむ。〔韻府引、古辭、窮刦曲〕鄉士悽愴民惻悷。

【惻容】19 ソク ヨウ　いたむ容貌。いたむ樣子。〔風俗通、愆禮〕曾無二惻容一。

【⿱則心】 10870

ソク　惻(**4**−**10869**)の古字。〔玉篇〕⿱則心、古文惻。

【⿰忄省】 10871

セイ シヤウ　〔集韻〕息井切　梗

さとる。或は惺(**4**−**10868**)に作る。〔集韻〕⿰忄省、悟也、或从レ星。

【惼】 10872

ヘン　〔集韻〕補典切　銑

❶**きびしい**。〔爾雅、釋言〕惼、急也。❷**心がせまい**。〔集韻〕惼、慳惼、性狹。〔莊子、山木〕有二虛船來觸レ舟、雖レ有二惼心之人一不レ怒。❸褊(**10**−**34420**)に同じ。〔正字通〕惼、同レ褊。

参考　熟語は褊(**10**−**34420**)を見よ。

【⿰忄度】 10873

タク ダク　〔集韻〕達各切　藥

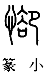
❶**はかる**。又、**くはだてる**。⿰忄宅(**4**−**10538**)に同じ。〔集韻〕⿰忄宅、忖也、一曰、企也、或作レ⿰忄度。❷度(**4**−**9313**)の俗字。〔正字通〕⿰忄度、俗度字。

【⿰忄卻】 10874

㈠キヤク ガク　〔集韻〕極虐切　藥

㈡ケキ キヤク　〔集韻〕訖逆切　陌

㈢ケキ ギヤク　〔集韻〕竭戟切　陌


小篆

㈠㈡**つかれる**。〔說文〕⿰忄卻、勞也、从レ心卻聲。〔集韻〕⿰忄卻、疲也。㈢**うむ**。⿰亻卻(**1**−**982**)に同じ。〔集韻〕⿰亻卻、方言、傍也、或作レ⿰忄卻。

【惽】 10875

㈠コン　㈡ビン

㈠怟(**4**−**10428**)・惛(**4**−**10812**)に同じ。〔集韻〕怟、或作レ惽。〔正字通〕惽、同レ惛。㈡涽(**7**−**17854**)に同じ。〔集韻〕涽、或作レ惽。

参考　熟語は惛(**4**−**10812**)を見よ。

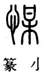
【⿰忄某】 10876

㈠ブ ム　〔集韻〕罔甫切　麌

㈡ボ モ　〔集韻〕滿補切　麌

㈢ブ ム　〔集韻〕微夫切　虞

㈣バウ モ　〔集韻〕莫後切　有


小篆

㈠❶**いたはる**。**あはれむ**。〔說文〕⿰忄某、撫也、从レ心某聲、讀若レ侮。〔方言、六〕⿰忄某、憐也。❷**いつくしむ**。〔集韻〕⿰忄某、一曰、愛也。❸憮(**4**−**11259**)に同じ。〔說文通訓定聲〕⿰忄某、按、實與レ憮同字。㈡**いつくしむ**。㈠の❷に同じ。或は⿱某心(**4**−**10877**)に作る。〔集韻〕⿰忄某、愛也、或書作レ⿱某心。㈢㈣**いつくしむ**。㈠の❷に同じ。〔集韻〕⿰忄某、爾雅、愛也。

【⿱某心】 10877

㈠ボ　㈡ボウ

㈠謨(**10**−**35864**)の古字。〔集韻〕謨、古作レ⿱某心。㈡謀(**10**−**35756**)に同じ。〔集韻〕謀、或作レ⿱某心。

【⿰忄弇】 10878

㈠エン　〔集韻〕於艷切　豔

㈡エン　〔集韻〕衣檢切　琰

㈠**こころよい**。〔集韻〕⿰忄弇、快也。㈡**いつくしむ**。⿰忄奄(**4**−**10722**)に同じ。〔集韻〕⿰忄奄、博雅、愛也、或作レ⿰忄弇。

【惾】 10879

㈠ソウ ス　〔集韻〕祖叢切　東

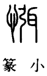
㈡ソウ ス　〔集韻〕先奏切　宥

㈠**損はれふさがる**。㈡を見よ。〔集韻〕惾、困惾、刻賊不レ通也、李頤說。㈡困惾は鼻がつまる。〔集韻〕惾、困惾、氣臭薰レ鼻不レ通皃。〔莊子、天地〕五臭薰レ鼻、困惾中レ顙。〔注〕困惾、衝二逆人一也。〔釋文〕惾、子公反、云云、又素奉反、李云、困惾、猶二刻賊不レ通也。

【⿰忄弭】 10880

㈠ベン メン　〔集韻〕彌兗切　銑

㈡ビ ミ　〔集韻〕母婢切　紙


小篆

㈠❶**はげしい**。〔說文〕⿰忄弭、厲也、从レ心弭聲、讀若レ沔。❷**やめる**。**とまる**。弭(**4**−**9768**)・歭(**6**−**16293**)に通ず。〔說文〕⿰忄弭、一曰、止也。〔說文通訓定聲〕⿰忄弭、叚借爲レ弭、實爲レ歭。㈡**はげしい**。㈠の❶に同じ。〔集韻〕⿰忄弭、厲也。

【⿰忄咠】 10881

シフ　〔集韻〕七入切　緝

思ひがとまらない。〔集韻〕⿰忄咠、心不レ止也。〔元結、思元極〕心騷⿰忄咠兮意惶懹。

【惿】 10882

㈠テイ ダイ　〔集韻〕田黎切　齊

㈡シ ジ　〔集韻〕上紙切　紙

㈠**おそれる**。惿⿰忄斯。〔集韻〕惿、惿⿰忄斯、心怯。㈡**をさめる**。**ただす**。**つまびらかにする**。諟(**10**−**35704**)に同じ。〔集韻〕諟、說文、理也、一曰、正也、審也、或从レ心。

【⿰忄拏】 10883

ダ　拏(**5**−**11954**)の俗字。〔正字通〕⿰忄拏、俗拏字。

【愀】 10884

㈠セウ　〔集韻〕七小切　篠　ㄑㄧㄠˇ ch'iao^3

㈡シウ ジユ　〔集韻〕在九切　有

㈢セウ　〔集韻〕千遙切　蕭

㈣シウ シユ　〔集韻〕雌由切　尤

㈤シウ シユ　〔後漢書注〕七救切　宥

㈠㈡㈢㈣❶**あらたまる**。きつとなる。〔禮、哀公問〕孔子愀然作レ色而對。〔注〕愀然、變動貌也。❷**顏色をかへる**。〔史記、司馬相如傳〕愀然改レ容。〔注〕索隱曰、愀然、變レ色貌也。〔漢書、司馬相如傳上〕二子愀然改レ容。〔注〕師古曰、愀、變レ色貌。❸**うれへる**。〔國語、楚語上〕子木愀然。〔注〕愀然、愁貌。〔荀子、脩身〕見レ善愀然。〔注〕愀然、憂懼貌。❹**つつしむ**。〔法言、淵騫〕聞二其言一者、愀如也。〔注〕愀如、謹也。❺或は愁(**4**−**10885**)に作る。〔集韻〕愀、或作レ愁。❻悄(**4**

−10627）・懆（4−11325）に通ず。〔正字通〕愀、與二悄・懆一通。五ものさびしいさま。〔後漢書、馬融傳〕原野寥愀。〔注〕愀、音七救反、蕭條貌也。

【愀愴】1（シウサウ） うれへかなしむさま。〔嵆康、琴賦〕莫レ不二憯懍慘悽、愀愴傷レ心。〔注〕翰曰、憯懍慘悽愀愴、皆悲傷之心也。〔潘岳、笙賦〕愀愴惻減。〔注〕善曰、愀愴惻減、悲傷貌。

【愀慘】2（シウサン） かなしみいたむ。悽慘。〔權德輿、傷二馴鳥一賦〕忽愀慘以顰顉。

【愀如】3（シウジョ） つつしむさま。〔法言、淵騫〕聞二其言一者愀如也。〔注〕愀如、謹也。

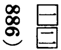
【愀然】4（シウゼン） ❶容貌を正し改めるさま。きつとなるさま。〔禮、哀公問〕孔子愀然作レ色而對。〔注〕愀然、變動貌也。〔蘇軾、前赤壁賦〕蘇子愀然正レ襟、危坐而問レ客。❷愁へるさま。憂へ懼れるさま。〔國語、楚語上〕子木愀然。〔注〕愀然、愁貌。〔荀子、脩身〕見レ善、脩然必以自存也、見二不善一愀然、必以自省也。〔注〕愀然、憂懼貌。❸顏色を變ずるさま。〔史記、司馬相如傳〕二子愀然改レ容。〔注〕索隱曰、愀然、變レ色貌也。〔任昉、天監三年策二秀才一文〕愀然疚レ懷、如レ憐二赤子一。〔注〕向曰、愀然、憂色變也。

【愁】
10885

一（シウ ジユ） 〔集韻〕鋤尤切 ㄔㄡˊ ch'ou^{2} 尤

二（サウ ゾウ） 〔集韻〕財勞切 豪

三（シウ シユ） 〔集韻〕將由切 尤



小篆

一二❶うれへる。一に⿱秌心（4−10886）に作る。〔正字通〕愁、一作レ⿱秌心。〔說文〕⿱秌心、𢝊也、从レ心秌聲。〔廣雅、釋詁一〕愁、憂也。〔廣雅、釋詁三〕愁、悲也。❷かなしむ。❸かほいろをかへる。〔易、晉〕晉如愁如。〔釋文〕愁如、鄭云、變レ色貌。㊃おもんぱかる。〔增韻〕愁、慮也。三❶あつめる。揂（5−12318）に同じ。〔集韻〕揂、說文、聚也、或作レ愁。❷とる。をさめる。揫（5−12385）に通ず。〔說文通訓定聲〕愁、叚借爲レ揫。〔禮、鄉飲酒義〕秋之爲レ言、愁也。〔注〕愁、讀爲レ揫、揫、歛也。

【愁哀】1（シウアイ） かなしむ。悲哀。〔韓詩外傳、六〕愁哀而無レ所二告訴一。

【愁恚】2（シウイ） うれへいかる。〔方言、十〕愁恚憒憒、毒而不レ發、謂二之氐惆一。

【愁意】3（シウイ） うれへるこころ。〔溫庭筠、七夕詩〕平明花木有二愁意一、露濕綵盤珠網多。

【愁頤】4（シウイ） うれへを含むあご。〔剪燈餘話、至正妓人行〕土炕蓬窓愁寂夜、挑レ灯快讀解二愁頤一。

【愁畏】5（シウヰ） うれへおそれる。〔杜甫、瞿塘兩崖詩〕羲和冬馭近、愁畏日車翻。

【愁狖】6（シウイウ） 悲しげに鳴く猿。〔韓愈、答二張徹一詩〕愁狖酸骨死。

【愁憂】7（シウイウ） うれへる。又、うれひ。〔晏子、諫、下〕是生者愁憂。

【愁悒】8（シウイフ） うれへて心がふさがる。〔書、堯典、有レ鰥在レ下、疏〕釋名云、愁悒不レ寐、目恆鰥鰥然、故鰥字從レ魚。

【愁欝】9（シウウツ） うれひのあまり心氣のふさがること。心配で氣ふさぎする。

【愁雲】10（シウウン） 憂をふくむ雲。〔班倢伃、擣素賦〕對二愁雲之浮沈一。〔謝惠連、雪賦〕寒風積、愁雲繁。〔竇庠、上陽宮詩〕愁雲漠漠草離離、太掖勾陳處處疑。

【愁怨】11（シウエン） うれへうらむ。〔後漢書、明帝紀〕百姓愁怨、情無二告訴一。〔王微、雜詩〕朱火獨照レ人、抱レ景自愁怨。

【愁翁】12（シウヲウ） 悩み多い老人。〔白居易、藍田劉明府攜レ酎相過與二皇甫郎中一卯時同飲醉後贈レ之詩〕不レ爲二劉家賢聖物一、愁翁笑口太難レ開。

【愁音】13（シウオン シウイン） かなしいこゑ。〔高適、贈二別沈四逸士一詩〕耿耿尊酒前、聯雁飛二愁音一。

【愁海】14（シウカイ） 愁の限りないさま。うれひの窮り無いのを海に喩へていふ。〔孟郊、招二文士一飲詩〕醒時不レ可レ過、愁海浩無レ涯。〔耶律楚材、雪軒老人邦傑久不レ惠レ書作レ詩怨レ之詩〕萬里西行愁似レ海、千山東望遠如レ天。

【愁客】15（シウカク） 心にうれひをいだいてゐる旅人。思ひに沈む旅客。〔李白、觀二博平王志安少府山水粉圖一詩〕愁客思レ歸坐レ曉寒。〔王昌齡、潞府客亭寄二崔鳳童一詩〕秋月對二愁客一、山鐘搖二暮天一。

【愁看】16（シウカン） うれへみる。〔杜甫、見二螢火一詩〕滄江白髮愁看レ汝、來歲如レ今歸未レ歸。

【愁感】17（シウカン） うれへ感ずる。うれへる。なげく。〔梅堯臣、詩〕不レ出只愁感、出遊將二自寬一。

【愁顏】18（シウガン） うれひに充ちた顏。うれへがほ。〔戴叔倫、除夜宿二石頭驛一詩〕愁顏與二衰鬢一、明日又逢レ春。

【愁泣】19（シウキフ） うれへ泣く。〔後漢書、劉盆子傳〕皆日夜愁泣、思欲二東歸一。

【愁居】20（シウキヨ） うれひにをる。哀愁にとざされた居所。〔戰國、趙策〕守二四封之內一、愁居懾處、不二敢動搖一、唯大王有レ意三督二過之一也。

【愁勤】21（シウキン） うれへくるしむ。愁懃に同じ。〔後漢書、馮衍傳〕愍二吾生之愁勤一、聊發憤而揚レ情兮。

【愁懃】22（シウキン） うれへくるしむ。うれへいたむ。〔楚辭、東方朔、七諫、自悲〕居二愁懃一其誰告兮。

【愁襟】23（シウキン） うれへる心。哀愁に滿たされた胸臆。愁傷。愁緒。愁思。〔陸龜蒙、五歌、雨夜〕我有二愁襟一無レ可レ那、纔成二好夢一剛驚破。

【愁吟】24（シウギン） うれへをおびてうたふ。〔杜牧、寄二東塔僧一詩〕西風靜起傳二深夜一、應下送二愁吟一入中夜禪上。〔薛能、西縣作詩〕從レ此漸知光景異、錦都迴レ首盡愁吟。

【愁苦】25（シウク） うれへくるしむ。〔楚辭、九歌、少司命〕夫人兮自有二美子一、蓀何以兮愁苦。〔淮南子、主術訓〕萬民愁苦。〔史記、主父偃傳〕靡敝愁苦、而有二離心一。〔漢書、元帝紀〕百姓愁苦、靡レ所レ錯レ躬。〔李陵、答二蘇武一書〕身之窮困、獨坐愁苦。

【愁苦之容】26（シウクノヨウ） 心配したり苦しんだりする樣子。〔國朝漢學師承記、汪中〕滌牏之事、不レ任二僕婢一、無二愁苦之容一、有二孺子之慕一。

【愁苦辛勤】27（シウクシンキン） 甚だしくうれへくるしむこと。〔白居易、王昭君詩〕滿レ面胡沙滿レ鬢風、眉銷二殘黛一臉銷レ紅、愁苦辛勤顦顇盡、如今卻似二畫圖中一。

【愁辜】28（シウク） うれへ苦しむ。愁苦。〔春秋繁露、竹林〕鄭罷弊危亡、終身愁辜。〔注〕辜、讀爲レ苦。

【愁懼】29（シウク） うれへおそれる。〔後漢書、西域傳〕數攻二龜茲諸國一、諸國愁懼。

【愁臥】30（シウグワ） うれへ臥す。〔江淹、別賦〕居人愁臥、怳若レ有レ亡。

【愁憒】31（シウクワイ） 心がうれへみだれる。〔賈誼、旱雲賦〕羣生悶滿而愁憒。〔陸雲、與二兄平原一書〕愁憒無レ賴。

【愁見】32（シウケン） うれへみる。〔王維、送二韋評事一詩〕遙知漢使蕭關外、愁見孤城落日邊。

【愁臉】33（シウケン シウレン） うれひにみちたほほ。心配顏。〔長孫佐輔、故人歌妓詩〕愁臉無レ紅衣滿レ塵。

【愁胡】34（シウコ） 胡地を思ふ。〔杜甫、畫鷹詩〕攫身思二狡兔一、側目似レ愁胡。〔注〕洙曰、隋魏彥深鷹賦、立如二植木一、望似レ愁レ胡、王琪曰、鷹產二於岱北一、出二於胡地一、愁レ胡、謂レ思二胡地一也。

【愁悟】35（シウゴ） うれへさとる。〔戰國、魏策〕秦王喟然愁悟、遽發レ兵、日夜赴レ魏。

【愁困】36（シウコン） うれへくるしむ。なんぎする。〔後漢書、公孫述傳〕百姓愁困、不レ堪二上命一。

【愁恨】37（シウコン） うれへうらむ。愁怨。〔後漢書、光武帝紀上〕元元愁恨、感二動天氣一乎。〔杜甫、得二舍弟消息一詩〕舊犬知二愁恨一、垂レ頭傍二我牀一。

【愁坐】38（シウザ） うれへ坐する。〔李白、酬二崔五郎中一詩〕奈何懷二良圖一、鬱悒獨愁坐。

【愁霜】39（シウサウ） 心配のあまり生ずる白髮。〔白居易、朱陳村詩〕悲火燒二心曲一、愁霜侵二鬢根一。

【愁殺】40（シウサツ シウサイ） うれへしめる。いたくなげき悲しませる。殺は語勢を強める助辭。〔古詩十九首〕白楊多二悲風一、蕭蕭愁二殺人一。〔李遠、黃陵廟詞〕輕舟小楫唱レ歌去、水遠山長愁二殺人一。〔岑參、苜蓿峰寄二家人一詩〕閨中只是空相憶、不レ見三沙場愁二殺人一。〔岑參、胡笳歌送三顏眞卿使赴二河隴一詩〕吹レ之一曲猶未レ了、愁殺樓蘭征戍兒。

【愁死】41（シウシ） うれへ悲しんで死ぬこと。〔太平記、一、無禮講事〕我遂に謫居愁死して、歸ることを得じ。

【愁思】42（シウシ） うれへ思ふ。又、うれひ。憂思。愁

心。〔司馬相如、長門賦〕援二雅琴一以變レ調兮、奏二愁思不レ可レ長。〔漢書、伍被傳〕百姓悲痛愁思。〔鹽鐵論、備胡〕宋伯姬愁思而宋國火。〔柳宗元、登二柳州城樓一寄二漳汀封連四州刺史一詩〕城上高樓接二大荒一、海天愁思正茫茫。

〖愁思岡〗43（シウシカウ）　岡の名。河南省安陽縣の西南。俗に望喜岡といひ、又、防城といふ。〔唐書、肅宗紀〕乾元二年、郭子儀及二安慶緒一戰二於愁思岡一、敗レ之。

【愁髭】44（シウシ）　いろがはりしたくちひげ。愁は變色のさま。〔李中、安福縣秋吟寄二陳銳祕書一詩〕愁髭漸去二人前一白、醉面猶憐鑑裏紅。

【愁愁】45（シウシウ）　うれへるさま。いたくうれへるさま。〔廣雅、釋訓〕愁愁、憂也。〔楚辭、劉向、九歎、逢紛〕聲哀哀而懷二高丘一兮、心愁愁而思二舊邦一。

【愁疾】46（シウシツ）　うれへにくむ。〔北史、王孝籍傳〕愁疾甚二乎厲鬼一。〔杜甫、觀三公孫大娘弟子舞二劍器一行〕老夫不レ知二其所一レ往、足繭荒山轉愁疾。

【愁傷】47（シウシヤウ）　うれへいたむ。悲しみなげく。愁歎。愁痛。

【愁城】48（シウジヤウ）　うれへ苦しむ境遇。愁苦の境地。〔韻府引、范成大、詩〕想得秫田來歲好、瓦盆加レ釀灌二愁城一。〔韻府引、張養浩、詩〕一退二愁城一萬里降。

【愁處】49（シウシヨ）　うれへなげいて暮してゐる場所。〔崔國輔、長信草詩〕長信宮中草、年年愁處生。

【愁緒】50（シウシヨ）　うれへ悲しむことのかずかず。うれへかなしむ。〔杜甫、客二舊館一詩〕無レ由レ出二江漢一、愁緒日冥冥。〔孟浩然、送三辛大之二鄂渚一不レ及詩〕送レ君不二相見一、日暮獨愁緒。

〖愁緒滿懷〗51（シウシヨマンクワイ）　うれひが心中に滿ちる。やるせないこと。〔紅樓夢、二十七回〕閨中女兒惜二春暮一、愁緒滿懷無二釋處一。

【愁如】52（シウジヨ）　顏色をかへるさま。〔易、晉〕六二、晉如愁如。〔釋文〕愁如、變レ色貌。

【愁色】53（シウシヨク）　うれへるやうす。憂色。〔李白、哭二晁卿衡一詩〕明月不レ歸沈二碧海一、白雲愁色滿二蒼梧一。

【愁心】54（シウシン）　心をつかひうれへる。又、うれへるこころ。うきおもひ。憂心。〔墨子、所染〕不レ能レ爲レ君者、傷レ形費レ神、愁レ心勞レ意。〔顏延之、秋胡詩〕明發動二愁心一。〔李白、聞三王昌齡左二遷龍標尉一遙有二此寄一詩〕我寄二愁心一與二明月一、隨レ風直到夜郎西。〔王維、雜詩〕愁心視二春草一、畏下向二玉階一生上。

【愁身】55（シウシン）　身をうれへる。〔莊子、讓王〕君固愁レ身傷レ生。

【愁辛】56（シウシン）　うれへかなしむ。かなしみいたむ。悲辛。〔江淹、雜體、嵇中散言志詩〕咸池饗二爰居一、鐘鼓或愁辛。〔注〕銑曰、禮樂雖レ美、鳥聞レ之悲愁辛酸。〔杜甫、白沙渡詩〕迥然洗二愁辛一。

【愁神】57（シウシン）　こころをうれへしめる。〔論衡、治期〕愁レ神苦レ思、撼二動形體一。

【愁人】58（シウジン）　㊀心に憂を懷いてゐる人。〔戴叔倫、湘南卽事詩〕沅湘日夜東流去、不下爲二愁人一住少時上。〔杜審言、和二康五庭芝望レ月有レ懷詩〕明月高秋迥、愁人獨夜看。〔白居易、宿二樟亭驛一詩〕夜半樟亭驛、愁人起望レ鄉。㊁物のあはれを感ずる人。又、詩人。〔傅玄、雜詩〕志士惜二日短一、愁人知二夜長一。

〖愁人莫下向二愁人一說上、說向二愁人一愁二殺人一〗59（シウジンニムカヒテトクナカレ、シウジンニムカヘバトキテヒトヲシウサツス）　愁人にして愁人と話をすれば、愈々その憂愁を增して、更にこれをうれへしめるをいふ。〔五燈會元〕愁人莫下向二愁人一說上、說向二愁人一愁二殺人一。

【愁盡】60（シウジン）　うれへつきる。〔文子、精誠〕精有二愁盡一、而行無二窮極一。

【愁悴】61（シウスイ）　うれへやつれる。〔淮南子、原道訓〕不レ爲二愁悴怨懟一。〔韓詩外傳、四〕愁悴哀憂。

【愁翠】62（シウスイ）　うれはしげなまゆ。〔溫庭筠、詠嚬詩〕毛羽斂二愁翠一、黛嬌攢二艷春一。

【愁悽】63（シウセイ）　かなしみいたむ。〔楚辭、遠遊〕意荒忽而流蕩兮、心愁悽而增レ悲。〔補注〕悽、痛也。

【愁精】64（シウセイ）　こころをうれへしめる。愁神（57）に同じ。〔論衡、自紀〕愁レ精苦レ思、不レ睹レ所レ趨。

【愁聲】65（シウセイ）　かなしいこゑ。

【愁擾】66（シウゼウ）　うれへみだす。又、うれへみだれる。〔後漢書、和帝紀〕令下失二農作一愁中擾百姓上。〔論衡、語增〕愁二擾精神一。〔吳志、駱統傳〕嗷然愁擾、愁擾則不レ營レ業。

【愁寂】67（シウセキ）　うれへかなしむ。又、かなしげにひつそりとしてゐるさま。〔杜甫、歸雁詩〕繫書無二浪語一、愁寂故山薇。〔高啓、梅花詩〕自レ去二何郎一無二好詠一、東風愁寂幾回開。

【愁慼】68（シウセキ）　うれへかなしむ。又、そのさま。〔楚辭、王逸、九思、傷レ時〕欲二靜居以自娛一、心愁慼兮不レ能。

【愁絕】69（シウゼツ）　ひどくうれへかなしむ。憂のはげしいこと。うれひに堪へない。〔吳融、西陵夜居詩〕盡夜成二愁絕一、啼蛩莫レ近レ庭。〔李彰、阻風雨詩〕行人客子兩愁絕。

【愁然】70（シウゼン）　うれへるさま。〔論衡、知實〕愁然清淨者、哀經之色。

【愁訴】71（シウソ）　自己の悲しい心境を打ちあけてあはれみを乞ふ。なげきうつたへること。又、なきごと。〔楊萬里、送二姜夔一詩〕江山愁訴鶯爲泣、鬼神露索天洩レ機。

【愁對】72（シウタイ）　うれへる心を抱いてものに向ふこと。〔杜甫、至日遺興云云詩〕孤城此日堪二腸斷一、愁對寒雲雪滿レ山。

【愁態】73（シウタイ）　うれへるさま。〔韓偓、惜レ華詩〕皺白離情高處切、膩紅愁態靜中深。

【愁黛】74（シウタイ）　うれへをおびたまゆ。〔溫庭筠、菩薩蠻〕兩蛾愁黛淺、故國吳宮遠。

【愁臺】75（シウダイ）　臺の名。河南省中牟縣の境。五代唐の莊宗が嘗てここに登り、名を聞いて慘然として樂しまず、軍を洛陽に回したといふ。〔五代史、元行欽傳〕明宗入二汴州一、莊宗至二萬勝鎭一不レ得レ進、與二行欽一登二道旁冢一置酒、相顧泣下、有二野人一獻レ雉、問二其冢名一、野人曰、愁臺也、莊宗益不レ悅、因罷レ酒去。

【愁歎】76（シウタン）　うれへなげくこと。泣き悲しむ。又、なげき。〔唐書、循吏傳序〕民去二愁歎一、而就二安安一。〔沈佺期、長門怨〕妾心君未レ察、愁歎劇二繁星一。

〖愁歎場〗77（シウタンバ）　芝居で、愁嘆の仕打ある場面をいふ。轉じて、悲劇的な場面、又は其の時。

【愁帳】78（シウチヤウ）　さびしいとばり。〔梁簡文帝、昭君怨〕愁帳入二湖風一。

【愁腸】79（シウチヤウ）　うれへ悲しむ心。哀愁に滿ちた心。憂心。愁思。又、心を痛ましめること。〔傅玄、雲歌〕青雲徘徊、爲レ我愁腸。〔張說、江上愁心賦〕貫二愁腸於巧筆一、紡二離夢於哀絃一。〔柳宗元、與二崔策一登二西山一詩〕吾子幸淹留、緩二我愁腸繞一。〔唐彥謙、韋曲詩〕欲レ寫二愁腸一愧二不才一、多情練漉已低催。〔崔櫓、春日長安卽事詩〕畫橋春煖清歌夜、肯レ信愁腸日九回。

【愁聽】80（シウチヤウ）　うれへきく。〔王昌齡、送二魏二一詩〕憶君遙在二瀟湘月一、愁二聽清猿一夢裏長。〔張仲素、秋閨思詩〕碧窗斜月藹二深暉一、愁二聽寒螿一淚溼レ衣。

【愁中】81（シウチユウ）　うれひのうち。〔杜甫、吹笛詩〕故園楊柳今搖落、何得愁中卻盡生。〔劉長卿、感懷詩〕愁中卜レ命看二周易一、夢裏招レ魂誦二楚詞一。

〖愁中卜レ命看二周易一〗82（シウチユウメイヲボクシシウエキヲミル）　憂愁の裏に運命を判斷する。〔劉長卿、感懷詩〕秋風落葉正堪レ悲、黃菊殘華欲レ待レ誰、水近偏逢二寒氣早一、山深長見二日光遲一、愁中卜レ命看二周易一、夢裏招レ魂誦二楚詞一、自笑不レ如二相浦雁一、飛來卻是北歸時。

【愁痛】83（シウツウ）　うれへいたむ。愁傷。〔左氏、襄、八〕夫人愁痛、不レ知レ所レ庇。

【愁啼】84（シウテイ）　うれへてなく。悲啼。〔傅玄、白楊行〕青雲徘徊、戢二我愁啼一。

【愁的】85（シウテキ）　月をいふ。月を見れば哀愁の情が起るからいふ。〔韻府引、古詩〕古來將レ月作二愁的一、推レ月下來愁始休。

【愁惕】86（シウテキ）　うれへいたむ。〔韋應物、過二昭國里故第一詩〕收レ此還二我家一、將レ還復愁惕。

【愁滴】87（シウテキ）　うれひを催す雨だれの音。〔歐陽脩、試筆、蘇子美論レ書〕秋霖不レ止、文書頗稀、叢竹蕭蕭、似レ聽二愁滴一。

【愁惵】88（シウテフ）　うれへおそれる。〔韻府引、王安石、詩〕強偸須臾樂、無レ事終愁惵。

【愁墊】89（シウテン）　うれへおぼれる。墊は、おぼれる。〔後漢書、明帝紀〕水旱不レ節、稼穡不レ成、人無二宿儲一、下生二愁墊一。〔注〕墊、溺也。

【愁毒】90（シウドク）　うれへいたむ。〔後漢書、楊秉傳〕上下忿患、四方愁毒。〔高彪、清誡詩〕神明無二聊軟一、愁毒於レ衆煩。

【愁肺】91（シウハイ）　うれへに滿ちた心。〔李賀、路州張大宅病レ酒遇二江使一寄二上十四兄一詩〕旅酒侵二愁

肺㆒、離歌繞㆓儒絃㆒。

【愁貌】92（シウバウ） もの思ひに沈んでゐるすがた。うれひに滿ちたすがた。〔王褒、送㆓別裴儀同㆒詩〕邊衣苦㆓霜雪㆒、愁貌損㆓風塵㆒。

【愁魄】93（シウハク） うれへのこもつたたましひ。うれへのこころ。〔鮑照、登㆓大雷岸㆒與㆑妹書〕愁魄脅息、心驚慄矣。

【愁髮】94（シウハツ） 老人のかみの毛。〔李白、擣衣篇〕誰能攬㆑鏡看㆓愁髮㆒。

【愁悲】95（シウヒ） うれへかなしむ。〔漢書、谷永傳〕百姓困貧、無㆓以共㆒㆑求、愁悲怨恨。

【愁眉】96（シウビ） ❶後漢の時、京師の婦人が畫いた細く曲つた眉。〔後漢書、五行志一〕桓帝元嘉中、京都婦女、作㆓愁眉・啼粧・墮馬髻・折要步・齲齒笑㆒、所謂愁眉者、細而曲折。〔後漢書、梁冀傳〕冀妻孫壽色美、而善爲㆓妖態㆒、作㆓愁眉嗁粧㆒。〔注〕風俗通曰、愁眉者、細而曲折。❷心配してよせるまゆ。うれはしい目つき。心配げな顏。〔劉兼、春遊詩〕羞聽㆓黃鶯㆒求㆓善友㆒、強隨㆓綠柳㆒展㆓愁眉㆒。

【愁眉錦】97（シウビキン） 旗をいふ。唐の王建が軍中で用ひた隱語。〔清異錄、武器、小逡巡〕王建初起、軍中隱語、代㆓器械之名㆒、以㆓犯者㆒爲㆓不祥㆒、旗曰㆓愁眉錦㆒。

【愁眉不展】98 chʻou^2 mei^2 pu^4 chan^3 心配げな顏つき。

【愁怖】99（シウフ） うれへおそれる。憂怖。〔鮑照、擬行路難〕持㆑此從㆑朝竟㆓夕暮㆒、差得亡㆑憂消㆓愁怖㆒。

【愁憤】100（シウフン） うれへいきどほる。〔陸雲、與㆓兄平原㆒書〕昨聞㆓有㆑賊消息㆒、愁憤無㆑賴。

【愁弊】101（シウヘイ） うれへつかれる。又、うれへつかれしめる。〔呂覽、勿躬〕豈必勞㆑形愁㆓弊耳目㆒哉。

【愁苗】102（シウベウ） うれへのもと。うれへによつて生ずるもの。〔韋莊、宿㆓泊孟津㆒寄㆓三堂友人㆒詩〕只恐愁苗生㆓兩鬢㆒、不㆑堪離恨入㆓雙眉㆒。

【愁慕】103（シウボ） うれへしたふ。〔後漢書、張衡傳〕豈愁慕之可㆑懷。

【愁眠】104（シウミン） 旅愁のためにうつらうつらしてゐること。〔張繼、楓橋夜泊詩〕月落烏啼霜滿㆑天、江楓漁火對㆓愁眠㆒。

【愁夢】105（シウム） 憂愁の餘り見る夢。〔岑參、胡笳歌送㆔顏眞卿使赴㆓河隴㆒詩〕邊城夜夜多㆓愁夢㆒、向㆑月胡笳誰喜㆑聞。

【愁目】106（シウモク） うれへを含んだ目。〔范成大、玉山道中詩〕行色鬱蒼然、頗亦慰㆓愁目㆒。

【愁悶】107（シウモン） うれへもだえる。かなしみもだえる。〔姚合、武功縣中作詩〕一官無限日、愁悶欲㆓何如㆒。

【愁懣】108（シウモン） うれへもだえる。〔楚辭、招魂、王逸章句〕愁㆓懣山澤㆒、魂魄放佚。

【愁容】109（シウヨウ） うれへるさま。うれひを含んだ顏つき。〔鮑照、與㆓荀中書㆒別詩〕敷㆑文勉㆓征念㆒、發㆑藻慰㆓愁容㆒。

【愁勞】110（シウラウ） うれへつかれる。〔史記、吳王濞傳〕此萬世一時而愁勞、聖人所㆓以起㆒也。〔吳志、陸凱傳〕百姓愁勞、何以用治。

【愁裏】111（シウリ） うれひのうち。〔李頎、送㆓魏萬之㆒㆑京詩〕鴻雁不㆑堪㆓愁裏聽㆒、雲山況是客中過。

【愁旅】112（シウリヨ） ものうきたび。たびのものおもひ。〔鮑照、酒後詩〕自㆑非㆓羽酌歡㆒、何用慰㆓愁旅㆒。

【愁慮】113（シウリヨ） うれへ考へる。思慮を傾け盡してうれへる。〔呂覽、察微〕智士賢者、相與積㆑心愁慮以求㆑之、猶尙有㆓管叔蔡叔之事㆒。

【愁霖】114（シウリン） ものういなが雨。うつたうしいなが雨。うれへを催させる霖雨。苦雨。〔陸雲、愁霖賦〕天泱漭㠯懷慘、民嚬蹙而愁霖。〔梁元帝纂要〕雨久曰㆓苦雨㆒、亦曰㆓愁霖㆒。〔謝瞻、答㆓靈運㆒詩〕忽獲㆓愁霖唱㆒、懷㆑勞奏㆓所誠㆒。

【愁淚】115（シウルイ） うれへて流すなみだ。〔常建、古意詩〕愁淚變㆓楚竹㆒、蛾眉喪㆓湘川㆒。

【掃㆑愁】116（ウレヒヲハラフ） うれひを拂ひのける。〔李後主、中酒詩〕莫㆑言滋味惡、一篿掃㆓寒愁㆒。

【消㆑愁】117（ウレヒヲケス） うれひを打ちけす。〔王績、贈㆓程處士㆒詩〕不㆑如高枕上、時取㆑醉消㆑愁。

【療㆑愁】118（ウレヒヲイヤス） うれひを治める。〔范成大、初秋閒記㆓園池草木㆒詩〕醫㆑俗賸㆓廷竹色㆒、療㆑愁催㆓折萱房㆒。

【愁擔兒】119（シウタンジ） うれへかなしむ。愁悶。〔長生殿、疑讖〕怎把㆓這重沈沈一個愁擔兒㆒消除。

【愁婦草】120（シウフサウ） 草の名。石竹に似、節が連續してゐる。相思草。〔述異記〕秦趙閒有㆓相思草㆒、狀如㆓石竹㆒而節節相續、一名斷腸草、又名愁婦草、亦名㆓霜草㆒。

【愁吃愁穿】121 chʻou^2 chʻih^1 chʻou^2 chʻuan^1 衣食の事を心配する。

【寄㆓愁天上㆒】122（ウレヒヲテンジヤウニヨス） うれひを天にゆだねる。〔仲長統、述志詩〕寄㆓愁天上㆒、埋㆓憂地下㆒。

【識㆓破愁滋味㆒】123（シウジミヲシキハス） うれひの味をしる。充分につらい思ひをする。〔長生殿、復召〕從㆑今識㆓破愁滋味㆒、這恩情更添㆓十倍㆒。

【⿱秌心】10886 シウ

愁(4-10885)に同じ。〔集韻〕愁、或書作㆑⿱秌心。

【⿰忄壴】10887

🈩セイ 〔集韻〕尺制切 霽

🈔フウ フ 〔集韻〕匹九切 有

小篆

🈩❶すこしいかる。〔說文〕⿰忄壴、小怒也、从㆑心壴聲。❷⿰忄豆(4-10646)に同じ。〔說文通訓定聲〕⿰忄壴、字亦作㆑⿰忄豆。🈔すこしいかる。或は⿰忄咅(4-10768)に作る。〔集韻〕⿰忄壴、小怒也、或从㆑音。

【⿰忄彖】10888 スイ 〔集韻〕雖遂切 寘

小篆

❶かしこい。心ふかい。〔說文〕⿰忄彖、深也、从㆑心彖聲。〔段注〕从㆑心者爲㆓意志之深㆒。〔廣雅、釋詁三〕⿰忄彖、智也。❷或は⿰忄遂(4-11323)に作る。〔集韻〕⿰忄彖、或作㆑⿰忄遂。

【⿰忄㣇】10889

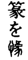
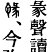
🈩カイ ゲ 〔集韻〕戶佳切 佳

🈔ケイ ゲ 〔集韻〕玄圭切 齊

小篆（說文）

小篆（段注本）

🈩うらむ。〔說文〕⿰忄㣇、怨恨也、从㆑心㣇聲、讀若㆑膎。🈔心が平かでない。〔集韻〕⿰忄㣇、心不㆑平。

參考 段玉裁は、說文の⿰忄彖を⿰忄㣇の誤りとし、从㆑心彖聲を从㆑心㣇聲に改め、小篆をとする。〔說文、⿰忄㣇、怨恨也从㆑心㣇聲讀若㆑膎、段注〕按、各本誤作㆑彖、篆體誤作㆑、今改正。

【愂】10890 ボツ

誖(10-35517)・悖(4-10663)に同じ。別に愂(4-11113)に作る。〔集韻〕誖、或作㆑愂。〔正字通〕愂、同㆑悖、別作㆑愂。

【愃】10891

🈩ケン クヮン 〔集韻〕火遠切 阮

🈔セン 〔集韻〕荀緣切 先

🈪ケン クヮン 〔集韻〕許元切 元

小篆

🈩ゆたか。ひろい。心の寬裕なさま。〔說文〕愃、寬閒心腹皃、从㆑心宣聲、詩曰、赫兮愃兮。🈔🈪❶こころよい。〔方言、二〕逞・苦・了、快也、〔注〕今江東人呼㆑快爲㆑愃。❷わすれる。萱(9-31345)に通ず。〔說文通訓定聲〕愃、叚借爲㆑萱、萱、平輿令薛君碑、永矢不㆑愃。

名乘 ヨシ。ヤス。

【愄】10892 ワイ 〔集韻〕烏回切 灰

よい。〔集韻〕愄、中善。

【⿰忄矦】10893 コウ グ 〔集韻〕胡溝切 尤

⿰忄矦⿰忄矦は、いかるさま。〔集韻〕⿰忄矦、⿰忄矦⿰忄矦、怒皃。

【㦒】10894 コウ 㦒(**4－10893**)の俗字。〔正字通〕㦒、俗㦒字。

【㥰】10895 サウ ソウ 〔集韻〕先到切 號

こころよい。〔玉篇〕㥰、快性也。〔集韻〕㥰、快也。

【惄】10896 デキ ニヤク 〔集韻〕乃歷切 錫

うれへる。愵(**4－11011**)に同じ。〔集韻〕惄、說文、憂皃、或作レ愵。

【𢙐】10897 ダウ ノウ 〔集韻〕奴刀切 豪

おとる。或は懮(**4－11495**)に作る。〔集韻〕𢙐、劣也、或从レ夒。

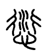
【愅】10898 ㊀カク キヤク 〔集韻〕各核切 陌 ㊁キヨク コク 〔集韻〕乞力切 職

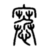
㊀㊁❶**かざる。又、つつしむ。あらためる。**諽(**10－35752**)に同じ。〔集韻〕諽、說文、飾也、一曰、謹也、更也、或从レ心。❷**かはる。**〔荀子、禮論〕愅詭唈僾。〔注〕愅、變也、詭、異也、皆謂二變異感動之貌一。

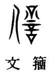
【𢝱】10899 ガツ ガチ 〔字彙〕牙八切 黠

むくいる。〔字彙〕𢝱、賽也。

【愆】10900 ケン 〔集韻〕丘虔切 ㄑㄧㄢ ch'ien¹ 先


小篆


或體


籀文

❶**あやまる。又、あやまち。**〔說文〕愆、過也、从レ心衍聲。〔書、大禹謨〕帝德無レ愆。〔傳〕愆、過也。〔詩、小雅、楚茨〕式禮莫レ愆。〔箋〕愆、過也。〔詩、大雅、假樂〕不レ愆不レ忘。〔箋〕愆、過也。〔論語、季氏〕侍二於君子一有二三愆一。〔集解〕孔安國曰、愆、過也。〔張衡、東京賦〕秪以昭二其愆尤一。〔注〕綜曰、愆、過也。❷**たがへる。**〔易、歸妹〕歸妹愆レ期。〔虞注〕愆、過也。〔謝混、游二西池一詩〕美人愆二歲月一。〔注〕善曰、愆、謂レ過レ期也。❸**うしなふ。**〔左氏、昭、二十六〕用愆二厥位一。〔注〕愆、失也。〔左氏、哀、十六〕失レ所爲レ愆。❹**つみ。**〔增韻〕愆、罪也。❺**やまひ。**〔左氏、昭、二十六〕王愆二於厥身一。〔注〕愆、惡疾也。❻或は𢡁(**4－11037**)・遃(**11－38939**)・𢒑(**4－10901**)に作り、籀文は諐(**10－35650**)に作る。〔集韻〕愆、或从二寒省一、籀作レ諐、亦作二遃・𢒑一。

【愆痾】1 ケンア 疾疫などの、不祥なことをいふ。〔眞誥〕愆痾塡籍、憂哀塞抱。

【愆殃】2 ケンアウ あやまち。わざはひ。〔列女傳、母儀、湯妃有㜪傳〕頌曰、化二訓內外一、亦無二愆殃一。〔曹植、九愁賦〕謂二內思而自策一、算二乃昔之愆殃一。

【愆違】3 ケンヰ あやまち。〔法言、吾子、注〕聖人崇二仁義一正二愆違一。

【愆尤】4 ケンイウ あやまちとが。過失。罪咎。〔後漢書、張衡傳〕其有二愆尤一、上下知レ之。〔張衡、東京賦〕卒無レ補二於風規一、祇以昭二其愆尤一。〔李白、古風十八〕功成身不レ退、自レ古多二愆尤一。〔韓愈、雙鳥詩〕兩鳥既別處、閉レ聲省二愆尤一。

【愆家】5 ケンカ 家をさめる道を失ふ。〔晉書、禮志上〕叔代澆訛、王風陵謝、事睽二光國一、禮亦愆レ家。〔南史、孝義傳序〕忠不レ樹レ國、孝亦愆レ家。

【愆期】6 ケンキ 時期をたがへること。約束の期限をやぶる。〔易、歸妹〕歸妹愆レ期。〔虞注〕愆、過也。〔詩、衞風、氓〕匪二我愆レ期、子無二良媒一。〔傳〕愆、過也。

【愆義】7 ケンギ 正しい道をあやまる。義理にはづれる。不正。〔左氏、定、十〕於レ德爲二愆義一、於レ人爲二失禮一。〔陸機、文賦〕苟傷レ廉而愆レ義、亦雖レ愛而必捐。

【愆咎】8 ケンキウ あやまち。とがめ。〔後漢書、章帝紀〕朕新離二供養一、愆咎衆著。

【愆釁】9 ケンキン 仲たがひ。〔劉琨、答二盧諶一詩〕愆釁仍彰、榮寵屢加。〔注〕良曰、愆、過、釁、瑕。

【愆虞】10 ケング あやまるといふおそれ。〔太玄經、樂〕嘻嘻自懼、亡二彼愆虞一。

【愆過】11 ケンクワ あやまち。つみ。〔後漢書、酷吏、陽球傳〕愆過之人、好爲二妄作一。〔吳志、韋曜傳〕時有二愆過一。

【愆悔】12 ケンクワイ あやまちくいる。〔宋書、沈演之傳〕可丁徙二勃西垂一、令丙一思乙愆悔甲。

【愆失】13 ケンシツ あやまち。過失。〔漢書、王莽傳下〕至二於黃髮一、靡レ有二愆失一。

【愆序】14 ケンジヨ 時候が狂ふ。陽氣の不順なこと。〔南史、宋文帝紀〕五年春正月乙亥、詔以二陰陽愆レ序、求二讜言一。〔白居易、祝二皐亭神一文〕既逢二愆序一、不二敢寧居一。

【愆生】15 ケンセイ 一生をあやまる。

【愆然】16 ケンゼン 過をさとるさま。〔說苑、反質〕愆然而起、默然不レ謝。

【愆憻】17 ケンダ あやまちおこたる。〔後漢書、明帝紀〕吏敬二厥職一、無レ令二愆憻一。

【愆怠】18 ケンタイ あやまちおこたる。〔魏書、高祖紀下〕寧敢愆怠。

【愆滯】19 ケンタイ あやまち滯る。錯誤留滯する。〔蜀志、費褘傳、注〕董允代レ褘爲二尙書令一、欲レ斅二褘之所レ行、旬日之中、事多二愆滯一。

【愆忒】20 ケントク あやまち。過失。〔揚雄、太常箴〕匪レ愆匪レ忒、公尸攸レ宜。

【愆忘】21 ケンバウ あやまちわすれる。〔詩、大雅、假樂〕不レ愆不レ忘、率二由舊章一。

【愆罰】22 ケンバツ 過失を罰する。

【愆犯】23 ケンハン 奴婢賤隸の徒が家長の命に背き失錯する類をいふ。〔唐律、鬪訟、毆部曲死決罰〕諸主毆二部曲一至レ死者徒一年、故殺者加二一等一、其有二愆犯一決罰至レ死、及過失殺者、各勿レ論。

【愆謬】24 ケンビウ あやまり。過誤。〔唐書、閻用之傳〕初爲二彭州參軍一、嘗攝二錄事一、一日糾二愆謬不法數十事一、太守以爲レ材。

【愆伏】25 ケンフク 時候がくるふ。冬暖く夏寒い。愆陽伏陰。〔左氏、昭、四〕冬無二愆陽一、夏無二伏陰一。〔注〕愆、過也、謂二冬溫一、伏陰、謂二夏寒一。〔孔叢子、論書〕不レ有二迷錯愆伏一。〔秦觀、喜レ雨得二城字一詩〕一氣或錯繆、愆伏相寇兵。

【愆文】26 ケンブン あやまりの文。

【愆面】27 ケンメン 永く面會しないこと。〔漢武帝內傳〕王母乃遣下侍女郭密香與二上元夫人一相問上云、天事勞レ我、致以二愆面一。

【愆陽】28 ケンヤウ 冬溫い。時候がくるふ。〔左氏、昭、四〕冬無二愆陽一。〔注〕愆、過也、謂二冬溫一也。〔張九齡、奉二和聖製燭龍齋祭一詩〕六月徂暑、四郊愆陽。

【愆令】29 ケンレイ あやまつた命令。〔國語、吳語〕舍二其愆令一、而輕二其征賦一。

【愆戾】30 ケンレイ ❶あやまち。〔蜀志、劉封傳、注〕臣委レ質已來、愆戾山積。❷法に背いて罪を成すこと。〔長孫無忌、進二律疏一表〕其有下情恣二庸愚一、識沈中愆戾上。

【愆禮】31 ケンレイ 風俗通の篇名。

【引レ愆】32 アヤマチヲヒク 罪を身に引き受ける。〔後漢書、鄧后紀〕克レ己引レ愆、顯二揚仄陋一。〔蜀志、諸葛亮傳〕街亭之役、咎由二馬謖一、而君引レ愆、深自貶抑。

【繩レ愆糾レ謬】33 アヤマチヲタダシアヤマリヲタダス 過失を正す。愆は心に就いていひ、謬は言に就いていふ。〔書、冏命〕匡二其不一レ及、繩レ愆糾レ謬、格二其非心一、俾三克紹二先烈一。〔蔡傳〕繩、直、糾、正也。

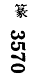
【𢒑】10901 ケン 愆(**4－10900**)に同じ。〔集韻〕愆、或作レ𢒑。

【愇】10902 キ 〔集韻〕羽鬼切 ［尾］

㊀**うらむ**。〔集韻〕愇、恨也。〔班固、幽通賦〕違二世業之可一レ懷、注〕善曰、曹大家曰、違、恨也、云云、違、或作レ愇、愇、亦恨也。㊁**あさい**。〔廣雅、釋言〕愇、淺也。㊂**よい**。韙（**12－43176**）の籒文。〔說文〕韙、愇、籒文韙从レ心。

【愔】10903

［一］シヨ 〔集韻〕新於切 ［魚］
［二］シヨ 〔集韻〕寫與切 ［語］



小篆 ［一］［二］**さとい**。**あきらか**。諝（**10－35702**）に同じ。〔說文〕愔、知也、从レ心胥聲。〔段注〕此與二言部諝一音義皆同。〔集韻〕諝、博雅、智也、或从レ心。

【愈】10904

［一］ユ 〔集韻〕勇主切 ［麌］ ㄩˋ yü^4
［二］ギヨ ゴ 〔正韻〕偶許切 ［語］
［三］ユ 〔集韻〕容朱切 ［虞］

［一］［二］［三］㊀**まさる**。〔廣雅、釋言〕愈、賢也。〔集韻〕愈、勝也。〔匡謬正俗、八〕愈、勝也。〔正字通〕愈、過也。〔論語、公冶長〕女與レ回也孰愈。〔集解〕孔安國曰、愈、猶レ勝也。㊁**いえる**。**いやす**。瘉（**7－22318**）・癒（**7－22545**）に通ず。〔集韻〕瘉、或作レ癒、通作レ愈。〔禮、三年問〕痛甚者其愈遲。〔釋文〕愈、差也。〔孟子、公孫丑下〕今病小愈。〔宋玉、風賦〕愈レ病析レ酲。〔注〕善曰、愈、猶レ差也。㊂**いよいよ**。いよよ。ますます。〔集韻〕愈、益也。〔小爾雅、廣詁〕愈、益也。〔詩、小雅、小明〕政事愈蹙。〔箋〕愈、猶レ益也。〔戰國、秦策〕兵甲愈起。〔注〕愈、益也。㊃**うれへる**。**なやむ**。瘉（**7－22318**）に通ず。〔詩、小雅、正月〕憂心愈愈。〔傳〕愈愈、憂懼也。〔傳疏〕愈、卽瘉之假借字。㊄**たのしむ**。愉（**4－10905**）に通ず。〔說文通訓定聲〕愉、字亦作レ愈。〔荀子、君子〕心至愈。〔注〕愈、讀爲レ愉。㊅通じて兪（**1－1437**）に作る。〔集韻〕愈、通作レ兪。〔莊子、列禦寇〕所レ治愈下。〔釋文〕愈、本亦作レ兪、同。〔荀子、榮辱、淸レ之而兪濁、注〕兪、讀爲レ愈。㊆**姓**。〔正字通〕愈、姓、宋愈植・愈德勤。

［名乘］ マス。マサ。マサル。

【愈飢】1 ユキ 飢をいやす。〔說苑、建本〕人皆知二以レ食愈一レ飢、莫レ知二以レ學愈一レ愚。

【愈愚】2 ユグ ㊀おろかな心をいやす。〔說苑、說叢〕人皆知二以レ食愈一レ飢、莫レ知二以レ學愈一レ愚。㊁清、孫鑾（**3－6987**‥197）の號。 「室名。

【愈愚堂】3 ユグダウ 清、柳逢良（**6－14662**‥293）の

【愈愚隨筆】4 ユグズイヒツ 書名。十二卷。劉有鄰撰。人事世事及び天地間の森羅萬象に關する簡明の知識を幼蒙に與へる目的で羣籍から要文を摘抄したもの。延寶元年に刊行さる。卷一、天文・地理、卷二―四、人倫、卷五、人倫・雜錄、卷六、人倫女之部、卷七、食物類・詩文書籍類、卷八、器財類、卷九、鳥類・獸類、卷十、獸類、卷十一、蟲類・魚類、卷十二、草木類・鬼神類。

【愈光】5 ユクワウ 明、張含（**4－9812**‥153）の字。

【愈昨】6 ユサク 昨日よりすすみまさる。〔淮南子、說山訓〕聖人無レ止、無二以歲賢一レ昔、日愈レ昨也。〔注〕賢・愈、猶レ勝也、言、今歲勝二於昔歲一、今日勝二於昨日一。

【愈順】7 ユジユン 順調なこと。〔史記、倉公傳〕一愈順、及二一時一。 「忌レ燕愈甚。

【愈甚】8 ユジン いよいよ甚しい。〔史記、蘇秦傳〕

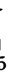
【愈明】9 ユメイ いよいよ明かなこと。〔孔子家語、致思〕近而愈明者學也。

【愈愈】10 ユユ 憂へるさま。一說に、益々甚だしい意。〔詩、小雅、正月〕憂心愈愈、是以有レ侮。〔傳〕愈愈、憂懼也。〔集傳〕愈愈、益甚之意。

【愈多愈好】11 yü^4 tuo^1 yü^4 hao^3 多ければ多いほど宜しい。多々益々辨ず。

【愉】10905

［一］ユ 〔集韻〕容朱切 ［虞］
［二］ユ 〔集韻〕兪戍切 ［遇］ ㄩˊ yü^2
［三］トウ ツ 〔集韻〕他侯切 ［尤］
［四］トウ ツ 〔集韻〕他候切 ［宥］
［五］ユ 〔韻會〕勇主切 ［麌］



小篆 ［一］㊀**たのしむ**。〔說文〕愉、薄也、从レ心兪聲、論語曰、私覿愉愉如也。〔段注〕薄也、當レ作二薄樂也一、轉寫奪二樂字一、謂二淺薄之樂一也。〔爾雅、釋詁〕愉、樂也。〔集韻〕愉、一曰、樂也。〔詩、唐風、山有樞〕他人是愉。〔傳〕愉、樂也。㊁**よろこぶ**。〔廣雅、釋詁一〕愉、喜也。〔廣雅、釋詁三〕愉、說也。〔荀子、富國〕爲レ之出死斷亡而愉者。〔注〕愉、歡。〔素問、上古天眞論〕以二恬愉一爲レ務。〔注〕愉、悅也。㊂**やはらぐ**。〔集韻〕愉、一曰、和也。〔禮、祭義〕其進レ之也敬以愉。〔注〕愉、顏色和貌也。〔淮南子、本經訓〕其心愉而不レ僞。〔注〕愉、和也。㊃**したがふ**。悅服。〔爾雅、釋詁〕愉、服也。〔注〕謂二喜樂而服從一也。㊄**うた**。**うたふ**。歈（**6－16143**）に通ず。〔說文通訓定聲〕愉、叚借爲レ歈。〔左思、吳都賦〕吳愉越吟。〔注〕劉曰、愉、吳歌也。㊅或は媮（**3－6469**）に作る。〔集韻〕愉、或从レ女。〔韋孟、諷諫詩〕我王以媮、注〕善曰、媮、與レ愉同、樂也。㊆又、愈（**4－10904**）に作る。〔說文通訓定聲〕愉、字亦作レ愈。［二］**たのしむ**。〔集韻〕愉、樂也。［三］［四］㊀**うすい**。かりそめ。てあつくない。偸（**1－901**）に同じ。〔集韻〕偸、苟且也、或从レ心。〔詩、唐風、山有樞〕他人是愉。〔箋〕愉、讀曰レ偸。〔周禮、地官、大司徒〕則民不レ愉。〔禮、坊記〕先二亡者一而後二存者一則民可二以託一、注〕言下不レ偸二於死亡一、則於二生存一信上。〔釋文〕偸、本亦作レ愉。㊁媮（**3－6469**）に通ず。〔說文通訓定聲〕愉、叚借爲レ媮。［五］**つかれる**。おこたる。〔爾雅、釋詁〕愉、勞也。〔注〕勞苦者多二惰愉一。〔呂覽、勿躬〕而莫二敢愉綖一。〔注〕愉、解也。

【愉怡】1 ユイ 和ぎ樂しむ。〔歐陽脩、張子野墓誌銘〕外雖二愉怡一、中自刻苦。

【愉易】2 ユイ たのしくやすらかなこと。〔呂覽、謹聽〕愉易平靜、以待レ之。

【愉佚】3 ユイツ たのしみやすんず。愉逸。〔荀子、榮辱〕爲二堯禹一則常愉佚、爲二工匠農賈一則常煩勞。〔韓愈、送二高閑上人一序〕喜怒窘窮、憂悲愉佚。

【愉殷】4 ユイン たのしく盛なこと。安樂殷盛。〔荀子、王制〕功名之所レ就、存亡安危之所レ墮、必將レ於二愉殷赤心之所一。

【愉悅】5 ユエツ よろこびたのしむ。欣愉。夷悅。〔謝靈運、石壁精舍還二湖中一詞〕披拂趨二南徑一、愉悅偃二東扉一。〔儲光義、同二房憲部一應旋詩〕憲卿文昌歸、愉悅來晤語。

【愉衍】6 ユエン よろこびあふれる。〔張說、爲二留守一作二奏慶山醴泉一表〕彰二賁德齡一、愉二衍萬宇一。

【愉綖】7 ユエン 怠り緩くする。怠慢遲緩。〔呂覽、勿躬〕百官愼レ職而莫二敢愉綖一。〔注〕愉、解、綖、緩。

【愉豔】8 ユエン なまめかしい。〔鮑照、詠二採桑一詩〕衞風古愉豔、鄭俗舊浮薄。

【愉敖】9 ユガウ たのしみあそぶ。〔後漢書、張衡傳〕愁蔚蔚以慕レ遠兮、越二卬州一而愉敖。〔注〕愉、樂也、敖、遊也。

【愉快】10 ユクワイ よろこばしくこころよい。滿足して遺憾な點がない。氣持がよい。心持が善い。〔史記、酷吏傳序〕吏治若レ救レ火揚レ沸、非二武健嚴酷一、惡能勝二其任一而愉快乎。 「じ。

【愉歡】11 ユクワン よろこびたのしむ。愉悅（5）に同

【愉慘】12 ユサン よろこびとうれひ。〔圖畫見聞誌〕畫二人物一者、必分二貴賤氣貌一、朝代衣冠、恭驁愉慘、又在二其間一矣。

【愉思】13 ユシ よろこびおもふ。〔鮑照、觀漏賦〕姑屛レ憂以愉思、樂二茲情於寸光一。

【愉色】14 ユシヨク よろこびのみちあふれた顏色。喜ばしい顏つき。孝子の親に事へる顏容をいふ。〔禮、祭義〕孝子之有二親愛一者、必有二和氣一、有二和氣一者、必有二愉色一、有二愉色一者、必有二婉容一。

【愉心】15 ユシン 心をよろこばす。〔謝靈運、擬二魏太子鄴中集一、阮瑀詩〕妍譚既愉レ心、哀弄信睦レ耳。

【愉然】16 ユゼン たのしいさま。〔新書、容經〕愉然思以和。

【愉庭】17 ユテイ 清、呉雲(歸安の人)(2-3365··15)の號。

【愉飽】18 ユハウ 飽食してたのしむ。〔鹽鐵論、非鞅〕雖二以レ獲レ功見レ封、猶下食二毒肉一愉飽而罹中其咎上也。

【愉舞】19 ユブ よろこび舞ふ。〔淮南子、泰族訓〕員中レ規、方中レ矩、動成レ獸、止成レ文、可二以愉舞一、而不レ可二以陳一レ軍。

【愉目】20 ユモク 目をよろこばす。〔梁簡文帝、三日侍二皇太子曲水宴一詩〕濯レ伊臨レ灞、蕩レ心愉レ目。

【愉愉】21 ユユ かほいろのやはらいださま。容貌の和ぎつつしむこと。和ぎ悅ぶさま。和らぎ樂しむさま。愉愉如を見よ。〔儀禮、聘禮〕私覿愉愉焉。〔注〕容貌和敬。〔禮、祭義〕愉愉乎其忠也。〔疏〕愉愉、和悅之貌。〔漢書、禮樂志、安世房中歌〕高賢愉愉、民所レ懷。〔注〕愉愉、和樂貌也。〔張衡、東京賦〕我有二嘉賓一、其樂愉愉。

【愉愉如】22 ユユジヨ 顏色のやはらぎよろこぶさま。〔論語、鄉黨〕享禮有二容色一、私覿愉愉如也。〔集解〕鄭玄曰、愉愉、顏色和。〔疏〕故顏色愉愉然和說也。

【愉愉然】23 ユユゼン やはらぎよろこぶさま。〔韓詩外傳、三〕與二鄉人一居、愉愉然不レ去也。

【愉愉快快】24 ユユクワイクワイ 樂しいさまにいふ語。

【愉樂】25 ユラク よろこびたのしむ。〔管子、七臣七主〕而況愉樂音聲之化乎。〔淮南子、人間訓〕緣二高木一而望二四方一、雖二愉樂一哉、然而疾風至、不二嘗不レ恐也。〔楚辭、九章、思美人〕吾將二蕩レ志而愉樂一兮、遵二江夏一以娛レ憂。〔劉峻、廣絕交論〕驩二其愉樂一、恤二其陵夷一。

【愉絕快絕】26 ユゼツクワイゼツ この上なくよろこばしくたのしいこと。

【愉】10905′ ユ 愉(4-10905)に同じ。

【⿰忄哀】10906 アイ 哀(2-3580)に同じ。〔正字通〕⿰忄哀、同レ哀。

【⿰忄爯】10907 シヨウ 〔集韻〕尺拯切 迥

おろかなさま。⿰忄爯⿰忄乘。〔集韻〕⿰忄爯、⿰忄爯⿰忄乘、愚皃。

【⿰忄乗】10908 チヨウ ⿰忄乘(4-11081)の俗字。〔正字通〕⿰忄乗、⿰忄乘俗字。

【⿰忄癸】10909

㈠キ ギ 〔集韻〕渠惟切 支

㈡キ ギ 〔集韻〕巨癸切 紙

㈢キ ギ 〔集韻〕其季切 寘

㈠㈡**心うごく。**〔方言、十二〕⿰忄癸、悸也。〔集韻〕⿰忄癸、⿰忄癸⿰忄癸、悚悸也。㈢**心うごく。**悸(4-10733)に同じ。〔集韻〕悸、說文、心動也、或作レ⿰忄癸。

【⿰忄呆】10910 チ 〔集韻〕丑二切 寘

❶**おこたる。**〔集韻〕⿰忄呆、惰也。❷**心がおちつかない。**〔康熙字典〕⿰忄呆、集韻、心不レ安也。

【惐】10911 カイ 悈(4-10634)に同じ。〔正字通〕惐、同レ悈。

【⿰忄酋】10912 シウ ジユ 〔集韻〕字秋切 尤

❶**わるい。**〔方言、十三〕⿰忄酋、惡也。❷**おごる。**〔集韻〕⿰忄酋、一曰、傲也。❸或は⿰忄猷(4-11301)に作る。〔集韻〕⿰忄酋、或从レ猷。❹**おもんぱかる。**〔玉篇〕⿰忄酋、慮也。

【⿰忄突】10913 トツ ドチ 〔五音篇海〕度骨切 月

はぢる。〔五音篇海〕⿰忄突、⿰忄突悴、慙也。

【⿰忄訇】10914 クワウ 〔集韻〕呼宏切 庚

このんでいかるさま。⿰忄朋⿰忄訇。或は⿱訇心(4-11410)に作る。〔廣韻〕⿰忄訇、⿰忄朋⿰忄訇、好嗔兒。〔集韻〕⿰忄訇、⿰忄朋⿰忄訇、怒兒、或作レ⿱訇心。

【⿱奎心】10915 クワイ ゲ 〔等韻〕胡佳切 卦

あきらか。〔等韻〕⿱奎心、明也。

【愊】10916 ヒヨク ヒキ 慣フク 〔集韻〕拍逼切 職 ㄅㄧˋ pi⁴

小篆

小篆（通訓定聲）

❶**まこと。**まごころ。〔說文〕愊、悃愊也、从レ心畐聲。〔集韻〕愊、說文、誠志也。〔漢書、劉向傳〕發憤悃愊。〔注〕張晏曰、愊、緻密也。❷**ふさぐ。むすぼれる。**いかる。畐(7-21787)・腷(9-29720)に通ず。〔說文通訓定聲〕愊、叚借爲レ畐。〔正字通〕腷、腷臆、意不レ洩也。〔集韻〕愊、鬱結也。〔漢書、陳湯傳〕策慮愊億。〔注〕師古曰、愊億、憤怒之貌也。〔後漢書、馮衍傳〕心愊憶而紛紜。〔注〕愊憶、猶二鬱結一也。❸**つまる。**せまる。〔禮、儒行、其大讓如レ慢小讓如レ僞、注〕言レ之不二愊怛一也。〔疏〕愊怛、急促之意。

【愊億】1 フクオク いきどほりいかるさま。〔漢書、陳湯傳〕策慮愊億、義勇奮發。〔注〕師古曰、愊億、憤怒之貌也。

【愊憶】2 フクオク 心がむすぼれて解けない。むねが一杯になる。愊億。服億。腷臆。〔後漢書、馮衍傳〕心愊憶而紛紜。〔注〕愊憶、猶二鬱結一也。

【愊臆】3 フクオク いきどほる。愊億に同じ。〔方言、十三、臆、滿也、注〕愊臆氣滿レ之也。

【愊怛】4 フクダツ せまる。せはしい。〔禮、儒行、其大讓如レ慢小讓如レ僞、注〕如レ慢如レ僞、言レ之不二愊怛一也。〔疏〕愊怛、急促之意、言語之時、不二愊怛切急一、如二似慢怠一、如二似僞然一。

【愊愊】5 フクフク おもひのむねにふさがること。こころのむすぼれること。〔韻府引、黃庭堅、書二呉無至筆一〕門下後省食罷、胸中愊愊。

【愊抑】6 フクヨク かなしみいきどほる。哀憤。〔潘岳、夏侯常侍誄〕愊抑失レ聲。〔注〕翰曰、愊抑、哀憤也。

【愋】10917

㈠ケン クワン 〔集韻〕許元切 元

㈡エン ヲン 〔集韻〕于元切 元

㈠❶**うらむ。**〔玉篇〕愋、恨也。❷**わすれる。**〔玉篇〕愋、忘也。❸**さとい。**〔集韻〕愋、

博雅、愋諒、智也。❹もとる。〔集韻〕愋、一曰、很也。❺或は㦥(4—11452)に作る。〔集韻〕愋、或作レ㦥。㊁さとい。㊀の❸に同じ。〔方言、十二〕愋、智也。

【愌】10918

クワン グワン 〔集韻〕胡玩切 翰

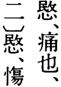
❶忭愌は、したがはない。〔集韻〕愌、忭愌、不レ順也。❷はびこる。ほしいままにふるまふ。〔集韻〕愌、一曰、跋扈。❸或は援(5—12407)に作る。〔集韻〕愌、或作レ援。

【愍】10919

㊀ビン ミン 〔集韻〕美隕切 ㄇㄧㄣˇ min^3 軫

㊁ビン ミン 〔集韻〕忙覲切 震

㊂フン 〔集韻〕敷文切 文


小篆

㊀❶いたむ。〔說文〕愍、痛也、从レ心敃聲。〔廣雅、釋詁二〕愍、傷也。❷うれへる。〔廣雅、釋詁一〕愍、憂也。〔左氏、昭、元〕吾代二二子一愍矣。〔服注〕愍、憂也。❸いたみ。うれひ。〔楚辭、九章、惜誦〕惜レ誦以致レ愍兮。〔注〕愍、病也。❹あはれむ。いつくしむ。〔廣雅、釋詁一〕愍、爱也。〔正字通〕愍、恤也、憐也。❺古は㥸に作る。〔集韻〕愍、古作レ㥸。❻或は緡(8—27652)に作る。〔集韻〕愍、或作レ緡。〔漢書、律歷志下〕距二緡公一七十六歲、〔注〕師古曰、緡、讀與レ愍同。❼又、惽(4—11055)に作る。〔集韻〕愍、亦書作レ惽。❽閔(11—41251)に通ず。〔穀梁、僖、二十〕以レ是爲二閔宮一也。〔漢書、五行志上〕穀梁以爲二愍公宮一也。❾諡。〔逸周書、諡法解〕在レ國逢レ難曰レ愍、在レ國連レ難曰レ愍、禍亂方作曰レ愍、使二民折傷一曰レ愍。㊁つとめる。敃(5—13159)に通ず。〔說文通訓定聲〕愍、叚借爲レ敃。〔集韻〕愍、強也。〔周禮、秋官、大司寇〕以二圜土一聚教二罷民一、〔注〕民不二愍作レ勞。㊂みだれる。惛(4—10428)に通ず。〔說文通訓定聲〕愍、叚借爲レ惛。〔廣雅、釋詁三〕愍、亂也。〔集韻〕愍、心亂。

【愍焉】1ビンエン ふびんにおもふさま。いたましくあはれなさま。愍然。憫然。憫焉。〔漢書、宣帝紀〕詔曰、文王作二罰刑一、茲無レ赦、今吏修レ身奉レ法、未レ有三能稱二朕意一、朕甚愍焉。

【愍忌】2ビンキ 死者の誕生日をいふ。生忌。憫忌。〔韓泰華、無事爲福齋隨筆〕元秦王夫人施長生錢記云、秦王薨愍二忌、三月二十五日、是爲二愍忌一、四月四日爲二薨辰一、又郭畀客杭日記、十月十六日先妣憫忌日、是憫忌、生忌也、今以二憫忌一爲二死忌一、誤。

【愍宮】3ビンキユウ 春秋、魯の僖公の弟、愍公(閔公)の廟。〔漢書、五行志上〕故天災二愍宮一。

【愍凶】4ビンキヨウ 父母に死別する不幸。閔凶。憫凶。〔魏志、武帝操傳〕朕以二不德一、少遭二愍凶一。〔李密、陳情表〕臣以二險釁一、夙遭二愍凶一。〔古文眞寶箋解〕文選及事文類聚・續文章軌範、作二閔凶一、文選注、銑曰、閔、憂也、憂、謂二父憂一也、善曰、左氏傳、楚少宰曰、寡君少遭二閔凶一。

【愍懷】5ビンクワイ 諡號。❶晉、司馬遹(2—3257・・212)の諡。❷梁、蕭方矩(9—32012・・495)の追諡。

【愍懷太子】6ビンクワイタイシ 梁、元帝の第四子。臨方矩(9—30087・・246)を見よ。

【愍祭】7ビンサツ あはれんでおもひやる。憫察(4—11252・・7)に同じ。

【愍傷】8ビンシヤウ あはれみいたむ。閔傷。憫傷。〔漢書、蓋寬饒傳〕諫大夫鄭昌、愍二傷寬饒忠直憂レ國。〔後漢書、光烈陰皇后紀〕遭レ患逢レ禍、母子同レ命、愍二傷于懷一。〔後漢書、竇融傳〕尤足二愍傷一。

【愍卹】9ビンジユツ あはれみうれへる。〔魏志、陳留王奐紀〕旁洽無レ外、愍二卹江表一。

【愍恤】10ビンジユツ あはれみめぐむ。憫恤(4—11252・・9)に同じ。

【愍悴】11ビンスイ あはれみうれへる。〔王羲之、問慰諸帖上〕愍悴深至。

【愍惜】12ビンセキ あはれみをしむ。閔惜。〔漢書、敍傳〕朝廷愍惜焉。〔後漢書、王渙傳〕帝嘉歎愍惜。

【愍節】13ビンセツ 宋、王倫(7—20823・・1079)の諡。

【愍然】14ビンゼン いたましいさま。あはれなさま。閔然。憫然。愍焉。〔後漢書、廉范傳〕范見而愍然。〔說苑、復恩〕文侯愍然。

【愍惻】15ビンソク 憫惻(4—11252・・12)に同じ。

【愍孫】16ビンソン 南朝宋、袁粲(10—34152・・66)の初名。

【愍悼】17ビンタウ ❶あはれみいたむ。閔悼。憫悼。〔後漢書、周擧傳〕朝廷愍悼、良爲二愴然一。〔吳志、吳主權步夫人傳〕愍悼之至。〔陸龜蒙、南涇漁父詩〕民皆死搜求、莫二肯與愍悼一。❷晉、陶瞻(11—41705・・119)の諡。

【愍忠】18ビンチユウ 明、崔儒秀(4—8178・・274)の尊稱。

【愍痛】19ビンツウ あはれみいたむ。

【愍帝】20ビンテイ 諡號。❶晉、司馬鄴(2—3257・・257)の諡。❷五代唐、第三代の帝。又、閔帝に作る。李從厚(6—14459・・1431)を見よ。❸明の莊烈帝、朱由檢(6—14424・・648)の諡。❹安南黎朝の末帝。名は維禟。在位八年。

【愍悲】21ビンピ いたみかなしむ。

【愍隸】22ビンレイ あはれむべき奴僕。〔漢書、高惠高后文功臣表序〕生爲二愍隸一、死爲二轉屍一。〔注〕師古曰、愍隸者、言丁爲二徒隸一、可丙哀乙愍之甲也。

【愍烈】23ビンレツ 諡號。❶清、周福高(2—3441・・838)の諡。❷清、曾國華(5—14299・・189)の諡。

【愍憐】24ビンレン あはれむこと。憐愍。

【愎】10920

ヒヨク ビキ 慣フク 〔集韻〕弼力切 ㄅㄧˋ pi^4 職

もとる。人にしたがはぬ。〔廣雅、釋詁三〕愎、佷也。〔集韻〕愎、戾也。〔左氏、僖、十五〕愎レ諫違レト。〔注〕愎、戾也。〔左氏、哀、二十六〕君虐而愎。〔注〕愎、很也。

【愎諫】1フクカン いさめにもとる。諫言を用ひない。〔左氏、僖、十五〕愎レ諫違レト、固敗是求、又何逃焉。〔注〕愎、戾也。〔左氏、昭、四〕汰而愎レ諫、不レ過二十年一。

【愎很】2フクコン 理にもとる。〔逸周書、諡法解〕愎很遂レ過曰レ刺。

【愎鷙】3フクシ もとる。〔廣雅、釋詁三〕愎鷙、很也。

【愎類】4フクルイ はなはだ道にもとる。類は盭で、もとる意。〔逸周書、史記解〕昔谷平之君、愎類無レ親。〔集訓校釋〕朱駿聲曰、類、讀爲レ盭、曰二愎很類戾一也。

【愎戾】5フクレイ もとる。人に從はない。〔王融、議レ給二虜書一疏〕風土之思深、愎戾之情動。

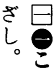
【愎而好レ勝】6モトリテカチヲコノム 性質がねぢけて人を凌ぐのを好む。〔左氏、哀、二十七〕知伯愎而好レ勝、早下レ之、則可レ行也。

【意】10921

㊀イ 〔集韻〕於記切 ㄧˋ i^4 寘

㊁イ 〔集韻〕於其切 支

㊂ヨク ヨキ 〔集韻〕乙力切 職


小篆

㊀❶こころ。おもひ。㋑こころざし。こころばせ。〔說文〕意、志也、从二心音一、察レ言而知レ意也。〔呂覽、長見〕善持二養吾意一。〔注〕意、志也。〔春秋繁露、循天之道〕心之所レ之謂レ意。㋺かんがへ。おもはく。〔漢書、汲黯傳〕從諛承レ意、陷二主於不義一。〔魏志、呂布傳〕諸將各異レ意。❷意義。義理。〔唐書、徐曠傳〕文遠說レ經、偏擧二先儒異論一、分二明是非一、乃出二新意一。❸おもむき。理趣。風情。〔杜甫、登二兗州城樓一詩〕從來多二古意一、臨眺獨躊躇。〔袁士元、題二城西書舍一詩〕自笑茅檐多二野意一、水邊栽レ柳翠成レ堆。❹私意。〔論語、子罕〕子絕レ四、毋レ意毋レ必毋レ固毋レ我。〔後

漢書、郭躬傳〕君王法レ天、不レ可下以二委曲一生上レ意。❺**おもふ**。㋑かんがへる。〔禮、禮運〕非レ意レ之也。〔注〕意、心所レ無レ慮也。〔禮、王制〕意二論輕重之序一。〔注〕意、思念也。㋺はかる。推測。〔禮、少儀〕毋レ測レ未レ至。〔注〕測、意度也。〔莊子、胠篋〕夫妄意二室中之藏一。㋩うたがふ。〔漢書、梁孝王武傳〕於レ是天子意レ梁。〔注〕師古曰、意、疑也。❻**おもふに**。㋑かんがへるに。はかるに。〔戰國、秦策〕意者、臣愚而不レ闔二王心一耶。〔柳宗元、桐葉封レ弟辨〕吾意不レ然。㋺あるひは。かへつて。そもそも。〔大戴禮、武王踐阼〕黃帝顓頊之道存乎、意亦忽不レ可レ得見歟。〔莊子、盜跖〕知不レ足邪、意知而力不レ能レ行邪。〔王先謙集解〕古抑・意字通。❼億(**1―1178**)に通ず。〔說文通訓定聲〕意、叚借爲レ億、孔宙碑、意載揚レ名。❽**姓**。〔萬姓統譜〕意氏、見二姓苑一。〔奇姓通〕意秀、甌寧人、成化中、河間府獻縣訓導。❾**國の名**。イタリーの略稱。〔周禮政要、金布〕美法德俄奧日意比日本各國、踵而行レ之。❿[佛]**六根の一つ**。〔智度論〕六根、謂二眼耳鼻舌身意一。⓫[二]に同じ。[二]**ああ**。不平、又はいきどほる時に發する聲。噫(**2―4381**)に通ず。〔莊子、大宗師、許由曰噫、釋文〕噫、本亦作レ意。〔莊子、在宥〕意、治レ人之過也。〔釋文〕意、本又作レ噫。〔莊子、天道〕老聃曰、意。〔釋文〕意、司馬云、不平聲也。〔淮南子、繆稱訓〕意而不レ戴。〔注〕意、恚聲。[三]億(**1―1279**)に同じ。〔集韻〕億、或作レ意。

[名乘] モト。ヲキ。ムネ。ヨシ。

[解字] 會意。音と心との合字。音聲によつて察知される人の心の意。

【意愛】1 イアイ こころに愛する。〔後漢書、光武郭皇后紀〕移二意愛一析二嬿私一。〔後漢書、董卓傳〕樊韓駢馬笑語、不レ知二其辭一、而意愛甚密。

【意惡】2 イアク 氣持が不快になる。〔陸雲、與二兄平原一書〕正自使二人意惡一。

【意宇】4 オウ 出雲國の舊郡名。

【意烏】5 イウ いかるこゑ。〔漢書、韓信傳〕項王意烏猝嗟、千人皆廢。〔注〕晉灼曰、意烏、恚怒聲也。

【意亦】6 イエキ 轉語の辭。そもそもまた。〔荀子、脩身〕意亦有レ所レ止レ之與。〔增注〕意、讀爲レ抑。〔大戴禮、武王踐阼〕黃帝顓頊之道存乎、意亦忽不レ可レ得レ見與。〔補注〕意、古通以爲二抑字一、熹平石經論語曰、意與レ之與。

【意園】7 イエン 清、盛昱(**8―23005**‥4)の號。

【意猿】8 イエン [佛]意慾の狂奔を猿に喩へていふ。〔三教指歸、下〕二六之緣、誘二策意猿一。

【意可】9 イカ 香の名。意可香を見よ。

【意可香】10 イカカウ 香の名。初、江南宮中の美人、宜がこの香を愛用したから宜愛と名づけ、後、意可と改めたもので、香氣殊にすぐれてゐる。〔海錄碎事、飮食、香〕意可香、初名二宜愛一、或云、此江南宮中香、有二美人一、字曰レ宜、愛二此香一、故名二宜愛一。山谷曰、香殊不レ凡、而名乃有二脂粉氣一、易レ名曰二意可一。

【意改】11 イカイ 書中の文章・文字などを、別に確かな根據はないが、意味を推して改めること。

【意解】12 イカイ ❶心が解ける。怒が解ける。理解して心のやはらぐこと。〔詩、大雅、崧高、申伯信邁、箋〕邁、行也、申伯之意、不レ欲レ離二王室一、王告語レ之復重、於レ是意解而信行。❷ケイ ㋑意識によつて了解するところをいふ。〔三代實錄〕安二其意解一。㋺[佛]意の解脫をいふ。〔維摩經慧遠疏〕內除二愛染一、名爲二漏盡一、得二無學智一、名爲二意解一。

【意巧】13 イカウ 意を用ひて得る善いたくらみ。〔晉書、索靖傳〕叡哲交通、意巧滋生。

【意向】14 イカウ ❶心のむかふところ。こころばせ。志すむき。心の方針。〔南史、庾杲之傳〕王儉謂レ人曰、昔袁公作二衞軍一、欲三用レ我爲二長史一、雖レ不レ得レ獲レ就、要是意向如レ此。❷必ず起るべしと豫想した結果。企圖された結果。

【意香】15 イカウ 清、毛懷(**6―16772**‥48)の字。

【意香心葉】16 イカウシンエフ 清い心の喩。

【意嚮】17 イカウ かんがへ。心持。心ばせ。意向。〔言志錄〕僅通二意嚮一耳。

【意學】18 イガク [佛]禪宗の學問。禪學は身口意のうち意業を中心とするからいふ。〔傳通緣記、上〕道善二意學一。

【意幹】19 イカン 心のはたらき。志幹。〔宋書、褚叔度傳〕湛之謹實有二意幹一。

【意忌】20 イキ 人を疑ひいむ。そねみきらふ。〔史記、陳丞相世家〕項王爲レ人、意忌信レ讒。〔史記、公孫弘傳〕弘爲レ人意忌、外寬內深。〔注〕索隱曰、謂三弘外寬內深、意多有二忌害一也。

【意氣】21 イキ ❶いきごみ。心もち。氣象。意地。氣概。〔呂覽、審分〕意氣得レ游二乎寂寞之宇一矣。〔魏徵、述懷詩〕人生感二意氣一、功名誰復論。〔歐陽脩、晝錦堂記〕此一介之士、得二志當時一、而意氣之盛、昔人比二之衣錦之榮一者也。❷意志と勇氣。〔淮南子、兵略訓〕主明將良、上下同レ心、意氣俱起、所謂實也。❸あかぬけしてゐること。すい。つう。〔浮世床、初、上〕十人よせても髮の風は同じ事だぜ、意氣で人柄がよくて。

【意氣地】22 イキヂ ❶事を貫徹しようとする念慮。氣力。心根。〔西鶴置土產、二〕。❷己が意見を立てとほして讓らぬこと。意地。いきはり。〔俚言集覽〕。

【意氣込】23 イキゴミ いきほひこむこと。いきざし。

【意氣軒昂】24 イキケンカウ 意氣が盛にあがるのを言ふ。

【意氣自若】25 イキジジヤクタリ 元氣がもとのままで少しも挫けない。〔後漢書、吳漢傳〕諸將見二戰陳不一レ利、或多惶懼失二其常度一、漢意氣自若、方整二厲器械一、激二揚士吏一。

【意氣自如】26 イキジジヨ おちついて動じない。平氣でふだんとちがはない。〔史記、李將軍傳〕吏士皆無二人色一、而廣意氣自如、益治レ軍。

【意氣自得】27 イキジトク 滿足して晴々した有樣。〔阪谷朗廬、記二標工一〕意氣自得、喜色溢レ面。

【意氣衝天】28 イキシヨウテン 天をも衝かんばかり、意氣の盛なこと。甚だしく盛な意氣。

【意氣沮喪】29 イキソサウ いきごみがくじける。

【意氣投合】30 イキトウガフ 兩者の心が互によく合ふこと。情意投合。

【意氣洋洋】31 イキヤウヤウ 意氣揚揚に同じ。〔列女傳、賢明、齊相御妻傳〕策二駟馬一、意氣洋洋、甚自得也。

【意氣揚揚】32 イキヤウヤウ 大いに得意なさま。心に滿足するさま。〔史記、晏嬰傳〕晏子爲二齊相一出、其御之妻、從二門閒一而闚二其夫一、其夫爲二相御一、擁二大蓋一、策二駟馬一、意氣揚揚、甚自得也。

【意氣用事】33 i^4 ch'i^4 yung^4 shih^4 血氣にまかせて輕々しく行動する。

【意期】34 イキ 三國蜀、李意其(**6―14459**‥832)の一名。

【意歸】35 イキ 旨意の歸する所。〔蜀志、李譔傳〕初不レ見二其所一レ述、而意歸多同。

【意義】36 イギ 事がらのわけ。ことわけ。趣意。意味。〔魏志、王淩傳〕意義甚美。〔神仙傳、班孟〕滿紙各有二意義一。

【意況】37 イキヤウ 心のさま。〔舒元輿、錄桃源畫記〕角髮而侍立者十二、視二其意況一、皆逍遙飛動。

【意會】38 イクワイ 心に理會する。〔梁昭明太子、答三湘東求二文集及詩苑英華一書〕觀二汝諸文一、殊與レ意會、至二於此書一、彌見二其美一。〔樓鑰、秋山小景詩〕人家雜二烟樹一、戃況徒意會。

【意外】39 イグワイ おもひの外。案外。〔北史、崔光傳〕若無二意外咎譴一、二十年後、當レ作二司空一。

【意願】40 イグワン 心にねがふ。〔李白、書二情寄從弟邠州長史昭一詩〕誰言レ貴二此物一、意願重二瓊蕤一。

【意計】42 イケイ こころにかんがへたくらむ。〔後漢書、朱浮傳〕多聚二兵穀一、意計難レ量。

【意愜】43 イケフ 心が滿足する。快い。〔謝靈運、石壁精舍還二湖中一作詩〕慮澹物自輕、意愜理無レ違。

【意見】44 イケン ❶心に思ふ所。かんがへ。見こみ。所存。〔舊唐書、高宗紀〕(上元元年十二月)壬寅、天后上二意見十二條一。〔韓愈、新修二滕王閣一記〕吾雖レ欲下出二意見一論二利害一聽中命於幕下上、而吾州乃無下一事可二假而行一者上。❷いさめ。忠告。〔柳樽、二十二〕。

【意見書】45 イケンシヨ 意見を記し述べた書面。

【意故】46 イコ おもはく。心のあるところ。〔吳志、孫堅傳〕道路不レ治、軍資不レ具、請收二主簿一推二問意故一。

〖意故爲〗47イコヰ　故意になした犯罪行爲。〔禮、王制、附從レ輕赦從レ重、疏〕所レ犯之罪、本非二意故爲一、而入二重罪一、放赦之時、從二重罪之上一、而赦レ之、眚災肆赦、是也。

【意許】48イコ　［佛］因明學で、言には顯はさないが意中祕かに主張を藏することをいふ。〔因明入正理論疏、中之本〕彼成二立意許法之差別、積集他用一。

【意國】49 i^4 kuo^2　伊太利國。

【意業】50イゴフ　［佛］身・口・意三業の一つ。心情の發動によつて犯す罪業。〔淨住子、淨行法門、滌除三業門〕次懺二意業一、意爲二身口之本、罪福之門一。

【意根】51イコン　［佛］六根の一つ。六根(2－1453‥228)の❸を見よ。

【意恨】52イコン　心にうらむこと。〔漢書、元后傳〕上幸二商第一、見二穿レ城引レ水、意恨內銜レ之未レ言。

【意言】53イゴン　［佛］意中の言。意に思ふこと。〔圓覺經略疏鈔、十二〕意言者、意中言也。

【意想】54イサウ　考へる。又、かんがへ。おもひ。〔韓非子、解老〕故諸人之所二以意想一者、皆謂二之象一也。

〖意想外〗55イサウグワイ　おもひの外。案外。意表。

【意造】56イザウ　自分の心を以て適宜につくること。〔南史、曹景宗傳〕每レ作レ書、字有レ不レ解、不二以問一レ人、皆以レ意造。

【意三】57イサン　［佛］十惡の中で心意に屬する三惡。貪欲・瞋恚・愚癡をいふ。〔謠曲、柏崎〕人間の身三・口四・意三の十の道多かりき。

【意旨】58イシ　かんがへ。おもむき。旨意。旨趣。意指。〔後漢書、黨錮傳序〕張儉鄉人朱並、承二望中常侍侯覽意旨一。〔蜀志、張嶷傳〕又令下離姉逆二逢妻一、宣中暢意旨上。

【意志】59イシ　❶こころ。おもひ。〔淮南子、繆稱訓〕兵莫レ憯二於意志一。❷思慮選擇、及び決行をあらはす心的作用。

〖意志表示〗60イシヘウジ　當事者が自己の意志を發表して、他人が認め得られるやうにすること。

〖意志自由論〗61イシジイウロン　吾人の行爲は、行爲者自身の意志に本づき、多くの欲望から取捨選擇する自由ありとする說。自由意志論。

〖意志必然論〗62イシヒツゼンロン　人の行爲は必然的のもので、意志には選擇・決行の自由がないとする說。決定論。

【意思】63イシ　❶おもひ。かんがへ。こころ。こころざし。〔論衡、變動〕意思不レ欲レ求二寒溫一。〔吳志、陸遜傳〕陸遜意思深長。〔韓愈、與二馮宿一論レ文書〕辱示初筮賦、實有二意思一。〔近思錄、觀聖賢〕明道先生曰、周茂叔、窗前草不二除去一、問レ之云、與二自家意思一一般。❷i^4 ssŭ ㋑意味。㋺おもむき。風情。

【意指】64イシ　こころばせ。意のある所。意旨。〔史記、杜周傳〕專以二人主意指一爲レ獄。〔史記、東越傳〕會稽太守、欲三距不二爲發レ兵、助乃斬二一司馬一、諭二意指一。〔蜀志、孫乾傳〕乾又與二麋竺一俱使二劉表一、皆如二意指一。

【意字】65イジ　文字の一種。漢字のやうに一字每に或る意味を含めるもの。意義文字。有意文字。義字。音字の對。

【意而】66イジ　❶燕の異名。鷾鴯。〔埤雅〕莊子曰、鳥莫レ智二於意而一。〔玄虛子、仙志〕周穆王迎二意而子一居二靈卑之宮一、訪以二至道一、後欲三以爲二司徒一、意而子愀然不レ悅、化爲二玄鳥一、飛入二雲中一、故後人呼二玄鳥一爲二意而一。❷古の賢士の名。〔莊子、大宗師〕意而子見二許由一。〔疏〕意而、古之賢人。

【意識】67イシキ　❶心に識る。〔論衡、實知〕寡レ所二意識一。❷心理學で、心が覺醒して知覺ある狀態をいふ。卽ち知覺・情意等、すべての心意作用の總稱。consciousness ❸［佛］意根が法境に對して生ずる了別の作用。第六識。〔百法問答抄、二〕。

【意車】68イシャ　［佛］意の働きを車に喩へたもの。〔三教指歸、中〕油二意車一以戲二九空一。

【意者】69オモフニ　心にかんがへるに。推しはかる言葉。〔讀書作文譜、文中用字法〕意者、擬度之辭。

【意匠】70イシャウ　❶おもひたくらむ。工夫。心中の考案。意匠慘澹を見よ。❷工業品などの形狀・模樣・色彩、又は其の結合などに關する新規の考案。design

〖意匠慘澹〗71イシャウサンタン　心にいろいろなやんで工夫を運らすさま。〔杜甫、丹青引贈二曹將軍霸一〕詔謂二將軍一拂二絹素一、意匠慘澹經營中。

〖意匠登錄〗72イシャウトウロク　意匠の發明者、又は其の繼承者の請願により、特許局長が原簿にかき記して其の專用權を保留させること。

〖意匠新案權〗73イシャウシンアンケン　趣味的美感の新考案に對して登錄した場合之を保護される權利。

〖意匠專用權〗74イシャウセンヨウケン　意匠案出者、又は其の繼承者の請求に本づいてこれに付與する特權。意匠權。

【意尙】75イシャウ　心にかんがへ望むこと。かんがへ。〔吳志、周泰傳〕意尙忽略、不レ治二圍落一。

【意象】76イシャウ　かんがへ。想思。〔文心雕龍、神思〕獨照之匠、闚二意象一而運レ斤。

【意城】77イジャウ　清、郭崐燾(11－39474‥297)の號。

【意珠】78イシュ　［佛］如意珠(3－6060‥6)に同じ。〔劉禹錫、大唐曹溪第六祖大鑒禪師第二碑〕自二達摩一六傳至二大鑒一、如レ貫二意珠一、有二先後一而無二同異一。

【意趣】79イシュ　❶おもはく。こころばせ。心の向ふところ。意思の趣行するところ。意向。轉じて、理由、所以、事の次第をいふ。〔南史、蕭惠開傳〕其意趣不レ常如レ是。〔法華經、方便品〕隨宜所レ說、意趣難レ解。〔小學、嘉言〕程伊川曰、教レ人未レ見二意趣一、必不レ樂レ學。〔易林節用集、言語〕意趣・意巧・意念。❷心に含むうらみ。遺恨。〔平家物語、七、北國下向〕兵衞佐、此の上は誠に意趣無かりけり。❸意地。いきぢ。〔古今著聞集、九〕從者一人失ひてんずることは損なれども意趣なればと思ひて。

〖意趣斬〗80イシュギリ　恨に因つて人を殺すこと。

〖意趣晴〗81イシュバラシ　遺恨をはらすこと。意趣返。〔源氏十二段長生島臺、四〕傍輩打たせし意趣晴らし。

〖意趣返〗82イシュガヘシ　怨をかへすこと。意趣を報いること。遺恨をはらすこと。意趣ばらし。〔東海道膝栗毛、三上〕てめへに意趣げへしをしたのだはな。

【意樹】83イジュ　［佛］人の意を樹に喩へていふ。善果・惡果共に意に依て結ぶ。〔江總、建初寺瓊法師碑銘〕欲流心火、意樹身田。〔法苑珠林〕不レ生二意樹一、未レ啓二心燈一。

【意緒】84イショ　心のいとぐち。おもひのはし。思緒。心緒。〔王融、琵琶詩〕絲中傳二意緒一、花裏寄二春情一。

〖意緒忽忽〗85イショコツコツ　心のいそいそとして落ちつかないこと。

【意如】86イジョ　複姓。〔通志、氏族略、以レ名爲レ氏〕意如氏、姬姓、魯季孫意如之後。

【意舒】87イジョ　氣分ののびのびしたさま。〔柳宗元、與二崔饒州一論二石鍾乳一書〕壽善康寧、心平意舒。

【意色】88イショク　意志と顏色。〔晉書、阮瞻傳〕瞻默然意色大惡。〔晉書、王敦傳〕敦脫レ故著レ新、意色無レ怍。

【意心】89イシン　こころ。心意(4－10295‥6)に同じ。

【意辛】90イシン　遼、耶律奴妻(9－29008‥122)の字。

【意深】91イシン　心のふかいこと。〔梁書、鍾嶸傳〕意深則辭躓。

【意水】92イスイ　［佛］禪定に入つた人の湛然寂靜な心意を水に喩へていふ。〔三藏法師傳、九〕定凝二意水一。

【意蘂】93イズイ　花のしべのやうにこころがむすぼれてゐること。〔梁簡文帝、相宮寺碑〕牕舒二意蘂一、室度二心香一。

【意數】94イスウ　はかりごとのあること。心中のはかりごと。〔後漢書、荀彧傳〕彧明有二意數一、見二漢室崩亂一、每懷二匡佐之義一。〔注〕數、計數也。〔吳志、張溫傳〕溫宿與二豔彪一同二意數一。

【意生】95イセイ　❶意中に生ずるもの。〔王巾、頭陀寺碑文〕不レ可下以二學地一知上、不レ可下以二意生一及上。〔注〕濟曰、不レ可下以二習意所レ生、以及中其事上。❷［佛］イシャウ　意のままに生れること。意生身を見よ。

〖意生身〗96イシャウシン　［佛］梵語Mano mayaの譯。又、意成身といふ。初地以上の菩薩の身をいふ。衆生濟度のために意の如く受生し得る身であるから名づける。〔勝鬘經〕大力菩薩意生身。

【意製】97イセイ　こころを以て製作されたもの。詩文等の出來方。〔沈約、宋書謝靈運傳論〕徒以二賞好異レ情、故意製相詭。

【意消】98イセウ　胸中のわだかまりが消失する。〔莊子、田子方〕使二人之意也消一。

【意說】99イセツ　新しく自分の考を働かせて說を立てること。〔資治通鑑、漢紀〕(和帝、永元十四年)

以レ遵レ師爲レ非レ義、意說爲レ得レ理。〔注〕意說者、創意而爲二之說一。

【意錢】100 イセン　ぜにを投げて遊ぶ一種の遊技。ぜにうち。あないち。射意。射錢。攤錢。〔後漢書、梁冀傳〕能二挽滿云云蹴鞠・意錢之戲一。〔注〕何承天纂文曰、詭億、一曰二射意一、一曰二射數一、卽攤錢也。〔資暇錄〕錢戲有下每以二四文一爲二一列一者上、卽史傳所レ云意錢、俗謂二之攤錢一、亦曰二攤鋪一。

【意存】101 イソン　意が存する。心が殘り存する。〔楚辭、王褒、九懷、蓄英〕身去兮意存、愴恨兮懷レ愁。〔注〕體遠情近在二胸臆一也。

【意怠】102 イタイ　鳥の名。つばめ。玄鳥。意而。〔莊子、山木〕東海有レ鳥焉、其名曰二意怠一、其爲レ鳥也、翂翂翐翐、而似二无能一、引援而飛、迫脅而棲、進不二敢爲レ前、退不二敢爲レ後、食不二敢先嘗一、必取二其緖一、是故其行列不レ斥、而外人卒不レ得レ害、是以免二於患一。〔庶物異名疏〕意怠、玄鳥也。

【意態】103 イタイ　心の活動するさま。心のさま。情態。〔漢書、景十三王傳〕榮姬、視瞻意態不レ善。〔杜甫、天育驃騎歌〕是何意態雄且傑。〔孔平仲、食桃詩〕開レ花又結レ子、意態何煌煌。〔法書要錄〕字格意態、回翔動靜、厥趣相隨。

【意度】104 イタク　心におもんぱかる。おしはかる。〔禮、少儀、毋レ測レ未レ至、注〕測、意度也。〔韓非子、解老〕前識者、無レ緣而妄意度也。

【意奪】105 イダツ　こころがうばはれる。茫然となること。〔江淹、別賦〕有レ別必怨、有レ怨必盈、使二人意奪神駭、心折骨驚一。

【意斷】106 イダン　一人の私意を以て斷ずる。〔抱朴子、自序〕意斷妄說者衆。

【意智】107 チイ　才知。才略。事を處する謀計の才。〔後漢書、鮮卑傳〕議郎蔡邕議曰、云云、自二匈奴遁逃一、鮮卑強盛、據二其故地一、稱二兵十萬一、才力勁健、意智益生。〔通俗編、性情、意智〕後漢書、鮮卑傳、蔡邕議曰、鮮卑據二其故地一、稱二兵十萬一、才力勁健、意智益生。〔王隱晉書〕石崇少多二意智一、敏捷有二計略一。〔朱子語錄〕管子書有二說得太卑一、直是小意智處、不レ應二管仲如レ此之陋一。

【意地】108 イチ　❶こころ。地は心の存在する所。〔毗曇論〕唯有二意地三善業地一。❷我意を通さうとする心。しひて人に逆ふ心。意地を張る。こころね。根性。

【意中】109 イチユウ　❶心のうち。心の中に思ふこと。心中。意衷。意中人を見よ。❷成算。見込。

〖意中緣〗110 イチユウエン　戲曲の名。清、李漁撰。李十種曲の一つ。〔曲海總目提要〕据二嘉興女子黃介所レ作序一、二人雖下與二董其昌・陳繼儒一相識上、初未三嘗爲二其妾媵一、李漁以爲、二女子善レ畫、自應レ配下天下名流善二書畫一者上、一時才士、無レ過二董陳一、二女爲二其妾媵一、必所二樂從一、故以二雲友一歸レ董、天素歸レ陳、而標曰二意中緣一也。

〖意中人〗111 イチユウノヒト　❶心に思ひ慕ふ人。心中の人。〔陶潛、示二周續之祖企謝景夷三郎一詩〕藥石有二時閑一、念二我意中人一。❷こひびと。情人。

【意衷】112 イチユウ　心のうち。心のそこ。意中の❶に同じ。

【意適】113 イテキ　こころにかなふ。〔列子、湯問〕千變萬化、惟意所レ適。〔蘇軾、日日出二東門一詩〕意適忽忘レ返、路窮乃歸休。

【意田】114 イデン　[佛]思の生ずるところ。心田。〔張說、內侍高延福碑〕仁爲二德本一、義爲二行先一、禮爲二身宅一、信爲二意田一。

【意圖】115 イト　❶行爲の終局目的の觀念。狹義の動機。Absicht の譯。❷i^4 tʻu^2　心にはかる。企てる。

【意突】116 イトツ　心のままにつきあたる。〔蜀志、廖立傳〕羽怙二恃勇名一、作レ軍無レ法、直以二意突一耳。

【意任】117 イニン　おもひのままに振舞ふ。〔南史、王晏傳〕武帝卽レ位、爲二長史兼侍中一、意任如レ舊。

【意念】118 イネン　こころ。おもひ。念慮。〔枚乘、上書諫二吳王一書〕惟大王少加二意念惻怛之心於臣乘言一。

【意馬】119 イバ　[佛]衆生が煩惱のためその情が動いて制し得ないのを奔馬に喩へた語。こころがはしつて一處に定まらない喩。意馬心猿を見よ。

〖意馬心猿〗120 イバシンエン　意は馬のやうに馳せ、心は猿のやうに噪ぐ。煩惱妄念等のために心意が散亂して少しも落ちつかないこと。〔參同契、注〕心猿不レ定、意馬四馳。〔慈恩傳、九〕願託二慮於禪門一、澄二心於定水一、制二情猿之逸躁一、縶二意馬之奔馳一。〔南唐書、元宗子從善傳〕予之壯也、意如レ馬、心如レ猱。〔趙州錄遺表〕心猿罷レ跳、意馬休レ馳。

【意望】121 イバウ　ねがひ。のぞみ。〔後漢書、王允傳〕自誇伐、旣失二意望一。〔後漢書、彭寵傳〕寵上謁、自負二其功一、意望甚高。

【意表】122 イヘウ　おもひの外。意外。案外。豫想外。〔尉繚子、十二陵〕攻在二於意表一。〔南史、袁憲傳〕梁武帝脩二建庠序一、別開二五館一、其一館在二憲宅西一、憲常招二引諸生一、與レ之談二論新義一、出二人意表一、同輩咸嗟服焉。〔隋書、劉子翊傳〕每二朝廷疑議一、子翊爲レ之辯析、多出二衆人意表一。〔宋史、英宗紀贊〕每レ有二裁決一、皆出二羣臣意表一。

【意變】123 イヘン　心が變る。又、こころがはり。〔戰國、趙策〕二主色動而意變。〔漢書、禮樂志、郊祀歌〕繩繩意變、備得二其所一。

【意網】124 イマウ　意思に束縛されること。〔李華、杭州餘姚縣龍泉寺故大律師碑〕裂二除意網一、拂二磨心鏡一。

【意味】125 イミ　おもむき。こころもち。事のわけ。意義。〔楊載、敗裘詩〕意味存二雞肋一、寒涼覗二馬毛一。〔朱子全書、學、讀書法〕始得二用レ力深一、便見二意味長一。

〖意味深長〗126 イミシンチヤウ　詩文などの意義が奧深くて含蓄のあること。〔朱熹、論語序說〕程子曰、頤自二十七八一讀二論語一、當時已曉二文義一、讀レ之愈久、覺二意味深長一。

【意密】127 i^4 mi^4　懇切な。

【意譯】128 イヤク　外國文を譯するに當り、其の各語に拘泥せず、全文の意味をとつて飜譯すること。直譯の對。

【意欲】129 イヨク　意の欲するところ。意慾。〔淮南子、道應訓〕故人主之意欲見二於外一、則爲二人臣之所一レ制。〔史記、蔡澤傳〕今君之怨已讎、而德已報、意欲至矣。

【意理】130 イリ　こころの道理。筋道。〔蜀志、王平傳〕口授作レ書、皆有二意理一。

【意慮】131 イリヨ　心におもんぱかる。〔列子、楊朱〕窮二意慮之所一レ爲。〔吳志、張昭傳〕意慮淺短。

【意林】132 イリン　❶書名。五卷。唐、馬總編。梁の庾仲容が、周秦以來の諸家の雜記を摘錄した子鈔を增損したもの。〔四庫提要、子、雜家類〕。❷清、趙信(**10−37171**··229)の號。

〖意林庵〗133 イリンアン　朝山素心の號。朝山意林庵(**5−14374**··172)を見よ。

【意料】134 イレウ　心におもひはかる。臆度する。〔蘇軾、定惠院顒師爲レ余竹下開二嘯軒一詩〕鳶貪レ聲最鄙、鵲喜意可レ料。

〖意料外〗135 i^4 liao^4 wai^4　おもひの外。意外。

【寓レ意】136 イヲグウス　心をよせる。他にかこつけて思をほのめかす。〔文心雕龍、頌讚〕及二三閭橘頌一、辭采芬芳、比類寓意、乃覃二及細物一矣。　「る。

【掛レ意】137 イニカク　心にかけて忘れない。氣にとめ

【迎レ意】138 イヲムカフ　人の心をさぐりむかへる。人の心に迎合する。〔唐書、貴妃楊氏傳〕迎レ意輒悟。〔五代史、唐家人、皇后劉氏傳〕莊宗皇后劉氏、善迎レ意承レ旨。

【愜レ意】139 イニアキタル　心に滿足する。〔韓偓、寒食日沙縣雨中看二薔薇一詩〕愜レ意凭レ欄久、貪レ吟放レ盞遲。〔朱熹、答二萬正淳一書〕集注誠有二病語一、中閒嘗改定、亦未レ愜レ意。

【候レ意】140 イヲウカガフ　人の心をうかがひ迎へる。〔北齊書、陳元康傳〕元康便辟、善事レ人、希レ顏候レ意。

【執レ意】141 イヲトル　己の意見を堅く執つてかはらない。執レ意抗レ言を見よ。

〖執レ意抗言〗142 イヲトリカウゲンス　己の意見を固執してはりあひ論議する。〔魏書、慕容寶傳〕中書令眭邃、執レ意抗言。

【守レ意】143 イヲマモル　志を堅くまもる。〔晉書、任城景王陵傳〕雖レ受二罪流放一、守レ意不レ移而卒。

【如レ意】144 イノゴトシ　思ふ通りになる。心のままになる。自由自在になる。〔漢書、京房傳〕臣疑、陛下雖レ行二此道一、猶不レ得レ如レ意。

【承レ意】145 イヲウク　人の心を察して氣に入るやうにする。迎合する。迎意。〔史記、汲黯傳〕寧令三從諛承レ意、陷二主於不義一乎。

【稱レ意】146 イニカナフ　氣にいる。滿足する。〔史記、三王世家〕百蠻之君、靡レ不レ鄕レ風、承レ流稱レ意。

〖稱レ意才〗147 イニカナフノサイ　心にかなつた人材。〔宋書、自序〕安西府中兵久缺、啓二太祖一求レ人、上答曰、稱レ意才難レ得。

【屬レ意】148（イヲショクス） 心をよせる。のぞみを屬する。〔史記、夏紀〕禹子啓賢、天下屬レ意焉。

【先レ意】149（イニサキンズ） 人の心をあらかじめ迎へ知る。先レ意承レ志を見よ。

【先レ意承レ顏】150（イニサキンジカホヲウク） 人の心を迎へ、顏色をみて其の意中を察する。〔顏氏家訓、勉學〕先レ意承レ顏、怡レ聲下レ氣。

【先レ意承レ志】151（イニサキンジココロザシヲウク） 父母の意に先んじて、其の欲する所を爲し、又、其の志をうけつぐこと。〔禮、祭義〕君子之所謂孝者、先レ意承レ志、諭二父母於道一。

【先レ意承レ指】152（イニサキンジシヲウク） 人の心を迎へ、人の旨趣をうける。〔吳志、賀邵傳〕先レ意承レ指、各希二時趣一。

【中レ意】153（イニアタル） 人の心にかなふ。〔漢書、江充傳〕上以、充忠直、奉レ法不レ阿、所レ言中レ意。

【不レ中レ意】154（イニアタラズ） 心にかなはない。〔通俗編、性情、不レ中レ意〕漢書、孔光傳、以二議不レ中レ意、左二遷廷尉一。

【適レ意】155（イニカナフ） 氣に入るやうにする。心にかなふ。〔晉書、張翰傳〕張翰曰、人生貴レ得レ適レ意。

【不レ意】156（イトセズ） ❶氣にかけない。心にとめない。〔詩、小雅、正月〕終踰二絕險一、曾是不レ意。❷（オモハザリキ）意外であつた。〔辛延年、羽林郎詩〕不レ意金吾子、娉婷過二我廬一。

【留レ意】157（イヲトドム） 氣をつける。注意する。〔史記、樂毅傳〕敢獻レ書以聞、唯君王之留レ意焉。

【意聖人】158（イセイジン） 聖人のやうな心の人。凡人でないこと。〔南史、沈不害傳〕通二經術一、善屬レ文、雖三博綜二經典一、而家無二卷軸一、每レ製レ文操レ筆立成、曾無二尋檢一、汝南周弘正常稱レ之曰、沈生可レ謂二意聖人一乎。

【意足園】159（イソクエン） 宋、林彖（6−14551‥180）の室名。

【意大利】160（イタリー） 歐洲の國名。又、義大利に作る。伊太利。Italy の音譯。

【意大利亞】161（イタリア） 國の名。伊太利。〔淸會典、總理各國事務衙門〕凡有約之國十有六、曰、意大利亞、舊稱二羅馬一。

【意夜納】162（イヤナフ） 獸の名。狼に似て大きく、亞弗利加に產す。〔坤輿圖說〕利未亞洲、有レ獸名二意夜納一、形色皆如二大狼一、目睛能變二各色一、夜聞二學人聲音一、喚誘レ人而啖レ之。

【不レ介レ意】163（イニカイセズ） 心にかけない。介は、はさむ。不レ爲レ意。〔吳志、魯肅傳〕張昭非二肅謙下不一レ足、頗訾二毀之一云、肅年少麤踈未レ可レ用、權不二以介一レ意、益貴二重之一。

【不レ經レ意】164（イニケイセズ） 心にとめない。〔土屋鳳洲、西鄕南洲傳〕南洲獨如レ不レ經レ意。

【不レ得レ意】165（イヲエズ） 心のままならぬ。氣に合はぬ。〔公羊、莊、六〕得レ意致レ會、不レ得レ意致レ伐。〔史記、虞卿傳〕虞卿不レ得レ意、乃著レ書。

【意有レ所レ極】166（イキハマルトコロアリ） 心に十分滿足する。〔柳宗元、始得二西山一宴游記〕醉則更相枕以臥、意有レ所レ極、夢亦同レ趣。

【意在二言外一】167（イゲングワイニアリ） 詩文等の內容をなす意味が直接表現された言葉の外にあること。〔苕溪漁隱叢話〕杜牧秋夕詩、斷句極佳、意在二言外一、其幽怨之情、不レ待二明言一而自見レ之也。

【意在二筆先一】168（イヒツセンニアリ） 氣持が筆の先にあらはれてゐること。〔徐度、卻掃編〕杜岐公既致仕還レ家、年已七十、始學二草書一卽工、余嘗於二其孫鼎家一見三一帖論二草書一曰、草書之法、當レ使三意在二筆先一、筆絕意在爲レ佳耳。

【意在二筆前一】169（イヒツゼンニアリ） 意在二筆先一に同じ。〔法書要錄〕欲レ書者、先乾二研墨一、凝神靜思、預想二字形大小一、偃仰平直振動、令二筋脈相連一、意在二筆前一、然後作レ字。

【意如二飄風一】170（イヘウフウノゴトシ） 心の燥暴なこと。〔莊子、盜跖〕心如二涌泉一、意如二飄風一。

【意前筆後】171（イゼンヒツゴ） 文字を寫すに際し、先づ心中に字形を稽へて然る後に筆を下すべきをいふ。〔衞夫人筆陣圖〕心手不レ齊、意後筆前者敗、若二執筆遠而急一、意前筆後者勝。

【意大里亞】172（イタリア） イタリー國。意大利。〔明史、意大里亞傳〕意大里亞、居二大西洋中一、自レ古不レ通二中國一、萬曆時、其國人利瑪竇、至二京師一、爲二萬國全圖一、言、天下有二五大洲一、第一曰二亞細亞洲一、中凡百餘國、而中國居二其一一、第二曰二歐羅巴洲一、中凡七十餘國、而意大里亞居二其一一、第三曰二利未亞洲一、亦百餘國、第四曰二亞墨利加洲一、地更大、以二境土相連一、分爲二南北二洲一、最後得二墨瓦臘泥加洲一、爲二第五一、而域中大地盡矣、其說荒渺莫レ考、然其國人充二斥中土一、則其地固有レ之、不レ可レ誣也。〔坤輿圖說、意大里亞〕拂郞察東南、爲二意大里亞一、周圍一萬五千里、三面環二地中海一。

【意大理亞】173（イタリア） 國の名。イタリー。伊太利。〔二十二史劄記、天主教〕意大理亞國、在二大西洋中一、萬曆中、其國人利瑪竇、至二京師一、爲二萬國全圖一。

【意到筆隨】174（イイタリフデシタガフ） 詩文などを作るに心のままに筆が運ぶこと。詩文などがすらすらと作れること。〔春渚紀聞、東坡事實、文章快意〕先生嘗謂三劉景文與二先子一曰、某生平無二快意事一、惟作二文章一、意之所レ到、則筆刀曲折、無レ不レ盡レ意。

【意達里亞】175（イタリア） 國の名。イタリー。伊太利。〔皇朝通典、邊防典、西洋意達里亞〕意達里亞、在二歐邏巴州南境一、周一萬五千里、三面環二地中海一。

【意轉心回】176（イテンシンクワイ） しばしば思ひ直しをすること。〔西廂記、草橋店夢二鶯鶯一雜劇〕並不三曾記二心懷一、撥二得箇意轉心回一。

【意必固我】177（イヒツコガ） 意は私意、必は期必（心にかたく期待すること）、固は固執、我は自我。毋レ意毋レ必毋レ固毋レ我（185）を見よ。

【以レ意爲レ限】178（イヲモツテカギリトナス） 心で限界をつけること。〔孔叢子、刑論〕今諸侯不レ同レ德、國君異レ法、折獄無レ倫、以レ意爲レ限、是故知二法之難一也。

【以レ意逆レ志】179（イヲモツテココロザシヲムカフ） 己の考で作者の志を迎へ取る。〔孟子、萬章上〕說レ詩者、不二以レ文害一レ辭、不二以レ辭害一レ志、以レ意逆レ志、是爲レ得レ之。

【絕二意仕進一】180（イヲシシンニタツ） 官途につかうといふ考を捨てる。〔國朝漢學師承記、江德量〕心怦怦動、夜不レ成レ寐、是以不レ與二朝試一、絕二意仕進一。

【得レ意忘レ言】181（イヲエテゲンヲワスル） 言葉に寓されてゐる意趣を理解すれば言葉に用がなくなつて、言葉を忘れてしまふ。〔莊子、外物〕言者所二以在一レ意、得レ意而忘レ言。

【防レ意如レ城】182（イヲフセグシロノゴトシ） 私欲をふせぐことの堅固な喩。〔癸辛雜識〕富鄭公有二守レ口如レ瓶、防レ意如レ城之語一。〔法苑珠林〕藏六如レ龜、防レ意如レ城、慧與レ魔戰、勝則無レ患。

【不レ如レ意恒七八】183（イノゴトクナラザルツネニシチハチ） 世事は意のやうにならないこと十の中、七つ八つはある。世事の思ひ通りにならぬことが多いのをいふ。〔晉書、羊祜傳〕祜歎曰、天下不レ如レ意、恆十居二七八一。

【意之所レ存便爲二禍福一】184（イノソンスルトコロハスナハチクワフクヲナス） 心の存する所によつて禍とも福ともなる。心の持ちやう如何によつて不幸にもなれば幸福にもなる。〔蜀志、許靖傳〕言出二於口一、卽爲二賞罰一、意之所レ存、便爲二禍福一。

【毋レ意毋レ必毋レ固毋レ我】185（イナクヒツナクコナクガナシ） 聖人の心は虛明で、私意、期必（心にかたく期待すること）、固執、自我が無い。〔論語、子罕〕子絕レ四、毋レ意、毋レ必、毋レ固、毋レ我。〔集注〕意、私意也、必、期必也、固、執滯也、我、私己也。

【⿳亠丷⿱冖心】
10922

エイ ⿳亠丷⿱冖女（3−6476）の譌字。〔康熙字典〕⿳亠丷⿱冖心、⿳亠丷⿱冖女字之譌。

【⿰忄叚】
10923

カ ⿱叚心（4−10924）の俗字。〔康熙字典〕⿰忄叚、俗⿱叚心字。

【⿱叚心】
10924

カ ゲ 〔集韻〕何加切 麻

言葉が正しくない。又、制しがたい。⿰阝頁（12−43581）に同じ。〔集韻〕⿰阝頁、傾⿰阝頁、言不レ正也、一曰、⿸麻頁⿰阝頁、難レ制、或从レ心。

【愐】
10925

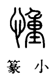
ベン メン 〔集韻〕彌兗切 銑 ㄇㄧㄢˇ mien^3

小篆

❶**つとめる。**〔說文〕愐、勉也、从レ心面聲。❷**おもふ。**〔廣韻〕愐、思也。〔集韻〕愐、一曰、想也。❸或は⿰忄丏（4−10396）に作り、又、勔（2−2388）に作る。〔集韻〕愐、或作レ⿰忄丏。〔說文通訓定聲〕愐、字亦作レ勔。

【愐⿰忄典】1 mien^2 tʻien 內氣。羞かしがる。

【⿰忄重】10926 ㊀チヨウ ヂユ 〔集韻〕柱勇切 腫 ㊁チヨウ ヂユ 〔集韻〕儲用切 宋


小篆

㊀㊁**おそい**。にぶい。〔說文〕⿰忄重、遲也、从㆑心重聲。

【愑】10927 ヨウ 悀(**4－10622**)に同じ。〔集韻〕悀、或作㆑愑。

【⿰忄者】10928 クワク 〔集韻〕霍虢切 陌 **おどろくさま**。〔集韻〕⿰忄者、心驚皃。

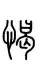
【⿰忄柬】10929 ラン 嬾(**3－6872**)に同じ。〔集韻〕嬾、或亦作㆑⿰忄柬。

【⿰忄盅】10930 チユウ ヂユ 〔集韻〕持中切 東 **うれへる**。〔集韻〕⿰忄盅、憂也。

【⿰忄沓】10931 タフ 〔集韻〕德盍切 合 **おそれる**。〔集韻〕⿰忄沓、心恐也。

【⿱矜心】10932 キン 矜(**8－23852**)の俗字。〔正字通〕⿱矜心、俗矜字。

【愒】10933 ㊀ケイ 〔集韻〕去例切 霽 ㊁ケツ ケチ 〔集韻〕丘傑切 屑 ㊂カイ 〔集韻〕丘蓋切 泰 ㊃カイ 〔集韻〕可亥切 賄 ㊄カツ カチ 〔集韻〕許葛切 曷


小篆 从㆑心曷聲。

㊀㊁❶**いこふ**。〔說文〕愒、息也。〔詩、大雅、民勞〕汔可㆓小愒㆒。〔傳〕愒、息也。❷或は憩(**4－11246**)・偈(**1－836**)・⿸广歇(**4－7789**)に作る。〔說文、愒、段注〕憩者、愒之俗體。〔集韻〕愒、或作㆓憩・偈・⿸广歇㆒。㊂❶**むさぼる**。或は⿰忄歇(**4－11313**)・渴(**7－17788**)に作り、㵣(**7－18404**)に通ず。〔說文通訓定聲〕愒、叚借爲㆑㵣。〔爾雅、釋言〕愒、貪也。〔集韻〕愒、貪也、或从㆑欠、从㆑水。〔左氏、昭、元〕翫㆑歳而愒㆑日。〔說文〕忨、貪也、春秋傳曰、忨㆑歳而㵣㆑日。❷**すみやか**。⿺走曷(**10－37220**)に通ず。〔說文通訓定聲〕愒、叚借爲㆑⿺走曷。〔廣韻〕愒、公羊傳云、不㆑及㆑時而葬曰㆑愒、愒、急也。㊃**むさぼる**。㊂の❶に同じ。〔集韻〕愒、貪也。㊄**おびやかす**。**おどす**。或は曷(**5－14290**)・喝(**2－3960**)に作り、通じて猲(**7－20550**)に作る。〔集韻〕愒、相恐怯也、或作㆑曷、通作㆑猲。〔字彙〕愒、與㆑喝同、史記、務以㆓秦權㆒恐㆓愒諸侯㆒。

【愒陰】1（カイイン） 光陰をむさぼる。月日を貪る。衰病無用でただ生を偸むこと。〔南史、虞寄傳〕沈痼彌留、愒陰將㆑盡。〔周書、王褒傳〕周弘讓復㆑書曰、吾已愒陰、弟非㆑茂㆑齒。

【愒時】2（カイジ） 時をむさぼる。無爲に時を送ること。〔王守仁、教條示㆓龍場諸生㆒、立志〕今學者曠廢隳惰、玩㆑歳愒㆑時、而百無㆑所㆑成。

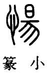
【愒日】3（カイジツ） 日をむさぼる。〔左氏、昭、元〕后子出而告㆑人曰、趙孟將㆑死矣、主㆑民、翫㆑歳而愒㆑日、其與幾何。〔注〕翫・愒、皆貪也。「1」を見よ。

【愒芳】4（カイハウ） 戴性易の號。戴曼公(**5－11685··21**

【⿱𦣻心】10934 イウ ウ 〔集韻〕於求切 尤 ❶**うれへる**。憂(**4－11170**)の本字。〔集韻〕⿱𦣻心、說文、愁也、通作㆑憂。〔正字通〕⿱𦣻心、憂本字。❷或は懮(**4－11413**)に作る。〔集韻〕⿱𦣻心、或作㆑懮。

【⿰忄頁】10935 ジユン 順(**12－43349**)の古字。〔集韻〕順、古作㆑⿰忄頁。

【愓】10936 ㊀タウ ダウ 〔集韻〕待朗切 養 ㊁タウ ダウ 〔集韻〕大浪切 漾 ㊂タウ ダウ 〔集韻〕徒郎切 陽 ㊃シヤウ 〔集韻〕尸羊切 陽 ㊄ヤウ 〔集韻〕余章切 陽


小篆

㊀❶**ほしいまま**。像(**4－11238**)に同じ。〔說文〕愓、放也、从㆑心易聲。〔段注〕與㆑像音義同。〔集韻〕像、說文、放也、或作㆑愓。〔荀子、脩身〕加愓悍而不㆑順。〔注〕愓、謂㆓放蕩兇悍㆒也。❷**たひら**。〔說文〕愓、一曰、平也。㊁**ほしいまま**。㊀の❶に同じ。〔集韻〕愓、放逸。㊂佚愓は、おほまか。〔集韻〕愓、方言、佚愓、緩也。㊃❶**まつすぐ**。〔廣雅、釋詁三〕愓、直也。❷**まつすぐではやい**。〔集韻〕愓、愓愓、行直疾皃。〔禮、玉藻〕凡行容愓愓。〔注〕愓愓、直疾皃也。㊄❶**まつすぐではやい**。㊃の❶❷に同じ。愓愓(2)を見よ。❷**あそぶ**。**たはむれる**。〔方言、十〕愓、遊也、江沅之間、謂㆑戲爲㆑婬、或謂㆓之愓㆒。〔廣雅、釋詁三〕愓、戲也。

參考 惕(**4－10803**)は別字。〔字彙、辨似〕二字相似、惕、音剔、怵惕憂也、愓、音宕、放縱也、又、音啇、直視皃。

【愓悍】1（タウカン） 放蕩でわるづよいこと。〔荀子、脩身〕偸儒憚㆑事、無㆓廉恥㆒、而嗜㆓乎飲食㆒、則可㆑謂㆓惡少者㆒矣、加㆓愓悍㆒而不㆑順、險賊而不㆑弟焉、則可㆑謂㆓不詳少者㆒矣。〔注〕韓侍郎云、愓、與㆑蕩同、字作㆓心邊易㆒、謂㆓放蕩兇悍㆒也。〔荀子、榮辱〕陶誕突盜、愓悍憍暴。

【愓愓】2（シヤウシヤウ ヤウヤウ） まつすぐで疾いさま。〔禮、玉藻〕凡行容愓愓、廟中齊齊。〔注〕愓愓、直疾貌也。〔釋文〕愓、音傷、又音陽、直而疾也。

【愓暢】3（タウチヤウ） 平らでのびやかなこと。〔吳志、陸抗傳、注〕故能德音愓暢。

【愔】10937 ㊀イン 〔集韻〕伊淫切 ㄧㄣ yin^1 侵 ㊁アン オン 〔古今字考〕烏含切 覃

㊀❶**やはらぐ**。〔集韻〕愔、愔愔、安和皃。〔宋玉、神女賦〕澹淸靜其愔嫕兮。〔注〕善曰、愔、和也。❷**やはらぎしづかなさま**。〔一切經音義、十七〕愔、和靜貌也。❸**奥深くしづかなさま**。〔字彙〕愔、深靜貌。㊁**だまる**。〔古今字考〕愔、默也。〔唐書、杜讓能傳〕朕不㆑能㆓愔愔度㆒㆑日。

【愔愔】1（インイン） ❶安んじ和らぐさま。〔左氏、昭、十二〕祈招之愔愔、式昭㆓德音㆒。〔注〕愔愔、安和貌。❷和らぎ悦ぶさま。〔嵆康、琴賦〕愔愔琴德、不㆑可㆑測兮。〔注〕善曰、劉向雅琴賦曰、遊子心以廣觀、且德樂之愔愔、韓詩曰、愔愔、和悅貌、聲類曰、和靜貌。〔左思、魏都賦〕愔愔醧讌、酣湑無㆑譁。〔注〕善曰、韓詩曰、愔愔夜飮、薛君曰、愔愔、和悅之貌也。❸奥深く靜かなさま。〔蔡琰、胡笳十八拍〕空斷腸兮思愔愔。〔柳惲、長門怨〕玉壺夜愔愔、應門重且深。〔晁端友、宿㆓西門外㆒詩〕小雨愔愔人假寐、臥聽疲馬齕㆓殘芻㆒。

【愔嫕】2（インエイ） やはらぎしとやかなさま。〔宋玉、神女賦〕澹淸靜其愔嫕兮、性沈詳而不㆑煩。〔注〕善曰、愔、和也、嫕、淑善也、言㆓志度靜而和淑㆒也、濟曰、嫕、閑雅也。

【愔翳】3（インエイ） 呼吸のうすくかすかなさま。〔柳宗元、夢歸賦〕息愔翳而愈微。

【惋】10938 リヤウ 悢(**4−10690**)に同じ。〔正字通〕惋、同レ悢。

【愕】10939 ㈠ガク 〔集韻〕逆各切 [藥] さ è⁴ ㈡ゴ 〔集韻〕五故切 [遇]

㈠❶**おどろく**。不意に遇つて驚く。驚きあわてるさま。〔廣雅、釋詁一〕愕、驚也。〔廣韻〕愕、驚也。〔集韻〕遻、說文、相遇驚也、隷作レ愕。〔字彙〕愕、錯愕、倉卒驚遽貌。〔史記、刺客、荊軻傳〕群臣皆愕。〔宋玉、高唐賦〕卒愕二異物一。❷**ささへる**。とめさまたげる。鄂(**11−39520**)に通ず。〔字彙〕愕、阻礙不二依順一也。〔中華大字典〕愕、通レ鄂。❸**直言する**。諤(**10−35713**)に通ず。〔吳志、諸葛瑾傳〕未二嘗切愕一。〔袁宏、三國名臣序贊〕神情所レ涉、豈徒謇愕而已哉。〔注〕善曰、字書曰、愕、直言也。㈡**あわてる**。〔集韻〕愕、倉卒也。〔後漢書、寒朗傳〕二人錯愕不レ能レ對。〔注〕錯愕、猶二倉卒一也、錯、音七故反、愕、音五故反。

参考 ㈠㈡共に懌(**4−11204**)に作る。〔正字通〕愕、本作レ懌。

【愕愕】1 ガクガク 直言するさま。諤諤。〔管子、白心〕愕愕者、不下以二天下一爲上レ憂。〔注〕愕愕守レ正者、忘二天下一、故不レ憂也。

【愕愕然】2 ガクガクゼン 直言するさま。〔篹詁〕愕愕、直言也。〔鹽鐵論、國病〕今辯證愕愕然、無二赤賜之辭一。

【愕驚】3 ガクキヤウ おどろく。〔說苑、指武〕護軍及諸校、皆愕驚、不レ知レ所レ以。

【愕視】4 ガクシ 驚き見る。〔李華、含元殿賦〕愕視沈沈。

【愕然】5 ガクゼン おどろくさま。〔史記、留侯世家〕顧謂レ良曰、孺子下取レ履、良愕然欲レ毆レ之。〔孔子家語、困誓〕公愕然失レ容。

【愕眙】6 ガクチ おどろきみるさま。〔班固、西都賦〕雖三輕迅與二僄狡一、猶愕眙而不レ能レ階。〔注〕銑曰、愕眙、驚貌。

【愕立】7 ガクリツ おどろき立つ。〔潘岳、射雉賦〕應レ叱愕立、擢レ身竦峙。〔注〕濟曰、愕然而立。

【愖】10940 ㈠シン ジン 〔集韻〕時任切 [侵] ㈡タン トン 〔集韻〕都含切 [覃] ㈢チン 〔集韻〕知鴆切 [沁] ㈣キン コン 〔集韻〕火禁切 [沁]

㈠❶**まこと**。忱(**4−10382**)に同じ。〔爾雅、釋詁〕愖、信也。〔集韻〕忱、說文、誠也、或从レ甚。❷**ためらふ**。斟愖。〔後漢書、馮衍傳〕意斟愖而不レ澹兮。㈡**たのしむ**。媅(**3−6479**)に同じ。〔集韻〕媅、說文、樂也、亦作レ愖。㈢**おろか**。〔集韻〕愖、癡也。㈣**心が正しくない**。愖愖。〔集韻〕愖、愖愖、心不レ正。

【㥐】10941 バウ モウ 〔集韻〕莫報切 [號]

むさぼる。〔集韻〕㥐、貪也。

【愗】10942 ボウ モ 〔集韻〕莫候切 [宥]

❶**おろか**。怐愗。〔廣韻〕愗、怐愗。❷**やぶさか**。霿(**12−42508**)に同じ。〔集韻〕霿、㲉霿、鄙吝也、或作二愗・㥮一。

【愘】10943 ㈠カ ケ 〔集韻〕丘駕切 [禡] ㈡カ ケ 〔集韻〕丘加切 [麻] ㈢カク

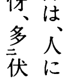
㈠愘㤉は、人に知られぬ計が多い。〔集韻〕愘、愘㤉、多二伏計一。㈡**伏したすがた**。㤉(**4−10394**)に同じ。〔集韻〕㤉、恐㤉、伏態、或从レ客。㈢愙(**4−10944**)に同じ。〔正字通〕愘、同レ愙。〔邵瑛、說文解字羣經正字〕愙、漢魏碑碣、多移二心於旁一、如下魯峻碑、敬愘恭儉、帝堯碑、若不中虔愘上。

【愙】10944 カク 恪(**4−10592**)に同じ。〔正字通〕愙、同レ恪、說文、敬也。

【愙齋】1 カクサイ 清、吳大澂(**2−3365**‥751)の號。

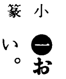
【愙齋集古錄】2 カクサイシフコロク 書名。二十六卷。清、吳大澂撰。商・周から秦漢に至る金石拓本を集錄したもので、もと十三卷、外に未成一卷があつたが、其の子訥子が整理した際、分つて二十六卷とした。

【㥔】10945 グ 〔集韻〕元俱切 [虞]


小篆

よろこぶ。〔說文〕㥔、懽也、从レ心禺聲、琅邪朱虛有二㥔亭一。〔說苑、脩文〕㥔㥔憧憧。

【愚】10946 グ 〔集韻〕元俱切 ㄩˊ yü² [虞]


小篆

❶**おろか**。㋑才智がはたらかない。是非の辨へがない。〔說文〕愚、戇也、从二心禺一、禺、母猴屬、獸之愚者。〔一切經音義、二十二〕愚、無レ所レ知也、亦鈍也。〔詩、大雅、抑〕靡二哲不レ愚。〔疏〕愚者、癡也。〔論語、爲政〕不レ違如レ愚。〔荀子、脩身〕非レ是是レ非、謂二之愚一。〔素問、解精微論〕請三問有二毚愚朴漏之問一。〔注〕愚、不二智見一也。〔宋玉、登徒子好色賦序〕愚亂之邪臣。〔注〕善曰、愚、鈍也。㋺正直でかけひきがない。〔論語、先進〕柴也愚。〔集解〕何晏曰、愚、愚直之愚也。〔荀子、不苟〕愚則端愨而法。〔注〕愚、謂レ無二機智一也。❷**おろかもの**。ばか。〔周禮、秋官、司刺〕三赦曰、惷愚。〔注〕惷愚、生而癡騃童昏者。〔唐書、傅奕傳〕嚇レ愚欺レ庸。❸**おろかな心**。おろかな慮。〔漢書、王褒傳〕敢不三畧陳レ愚而抒二情愫一。〔晉書、束晳傳〕謹竭レ愚以對策。〔晉書、庾羲傳〕敢緣二弘政一、獻二其丹愚一。❹**自己の謙稱**。〔諸葛亮、前出師表〕愚以爲、宮中之事、事無二大小一、悉以咨レ之。〔蘇洵、審敵〕愚不レ識二方今夷狄之憂爲レ末。❺**自己に關する事物に添へる謙稱**。〔漢書、楚元王傳〕欲レ竭二愚誠一。❻**姓**。〔萬姓統譜〕愚、見二姓苑一。

解字 會意形聲。禺と心とを合はせ、禺は又聲。禺(母猴の類)に似て遲鈍な心の意。

【愚案】1 グアン おろかな考。自己の考の謙稱。思ふに。〔周禮、天官、漿人、訂義〕愚案、或疑、后之所レ致、有レ醫有レ酏。〔陶潛、歸去來辭、箋注〕愚按、未レ知二孰是一。

【愚庵】2 グアン 愚菴を見よ。

【愚菴】3 グアン 字號。❶明、李希顏(**6−14459**‥981)の字。❷清、朱鶴齡(**6−14424**‥696)の號。❸清、馬國偉(**12−44572**‥774)の號。❹清、呂治平(**2−3386**‥238)の號。

【愚菴小集】4 グアンセウシフ 書名。十五卷。清、朱鶴齡撰。此の書の內容は賦一卷、諸體詩五卷、雜文九卷で、末に傳家質言十三則を附してゐる。鶴齡は始、力を專ら詞賦にそそいだが、後に顧炎武に窮經を勸められ、遂に注疏を研精し能く之に通じた。又嘗て杜甫・李商隱の詩を注してゐる。〔四庫提要、集、別類集〕。

【愚暗】5 グアン おろかで事理に闇いこと。愚闇。〔論衡、辯祟〕驚惑愚暗。〔後漢書、曹世叔妻傳〕鄙

人愚暗、受レ性不敏。〔北史、趙綽傳〕陛下不レ以二臣愚暗一、置二在法司一。

【愚闇】6 グアン　おろかで事理にくらい。闇愚。愚暗。〔荀子、成相〕世之殃愚闇、愚闇墮二賢良一。〔後漢書、周榮傳〕臣等既愚闇、而諸郎多二文俗吏一、鮮レ有二雅材一。〔蜀志、法正傳〕愚闇策薄、精誠不レ感、以至二於此一。〔淨住子、淨行法門、剋責身心門〕愚闇滅、則慧光發。

【愚依】7 グイ　おろかで事理にくらいこと。依は隱の誤といふ。愚暗に同じ。〔逸周書、官人解〕守レ一而不レ可レ變、困而不レ知レ止、曰二愚依人一也。〔注〕依、當レ爲レ隱、聲之誤也。隱、暗也。

【愚意】8 グイ　おろかな意見。自己の考の謙稱。愚見。〔戰國、魏策〕今臣願爲二大王一、陳二臣之愚意一。

【愚迂】9 グウ　おろかでまはりどほい。〔管子、明法解〕故愚迂之吏在レ庭。

〔愚迂翁〕10 グウヲウ　宋、方疇(**5－13620**··19)の號。

【愚益】11 グエキ　平元仲弼の號。平元梅隣(**4－9167**··762)を見よ。

【愚園】12 グエン　❶上海の公園の名。❷清、懷塔布(**4－11456**··229)の號。

【愚汙】13 グヲ　おろかで正しくない。〔韓非子、孤憤〕無能之士在レ廷、而愚汙之吏處レ官矣。

【愚下】14 グカ　❶愚かで下等なこと。愚下之民を見よ。❷yü hsia 私。僕。拙者。

〔愚下之民〕15 グカノタミ　愚劣下等の人民。無智の民。〔十八史略、宋太祖〕愚下之民、雖レ不レ分二菽麥一、藩侯不レ爲二撫養一、務行二苛虐一、朕斷不レ容レ之。

【愚騃】16 グガイ　おろか。智慧がないもの。愚魯。騃は痴。〔北史、常山王遵傳〕帝大怒、詔曰、阿倪愚騃、誰引爲レ郎。

【愚考】17 グカウ　おろかな考。自分の考の謙稱。愚「見。愚案。

【愚效】18 グカウ　おろかなてがら。自己の功の謙稱。愚策。〔王融、求二自試一啓〕貪及二明時一、展二悉愚效一、以酬二陛下不世之仁一。

【愚愨】19 グカク　おろかですなほなこと。わる賢くないこと。〔後漢書、東夷傳〕其人性愚愨、少二嗜慾一。

【愚學】20 グガク　❶おろかな學問。〔王粲、七釋〕渾沌淳樸、薄禮愚學。❷愚かな學者。〔韓非子、姦劫弑臣〕且夫世之愚學、皆不レ知二治亂之情一。

【愚悍】21 グカン　おろかであらあらしい。思慮が淺くていぢがわるい。〔漢書、地理志下〕其俗愚悍少レ慮、輕薄無レ威。

【愚憨】22 グカン　おろか。憨も、おろか。〔雜事祕辛〕臣妾姁女、賤愚憨。

【愚鬼】23 グキ　おろかな幽魂。〔後漢書、朱浮傳〕生爲二世笑一、死爲二愚鬼一。

【愚丘】24 グキウ　丘の名。愚溪のほとりに在り、唐の柳宗元が名づけたもの。愚泉(98)を見よ。

【愚朽】25 グキウ　おろかで朽ち老いる。愚かで役に立たぬ。又、其の者。〔後漢書、曹世叔妻傳〕得下以二愚朽一身當中盛明上。

【愚狂】26 グキヤウ　おろかでくるふ。愚かで常態を失ふ。又、其の者。〔鮑照、建除詩〕閉レ帷草二太玄一、茲事殆二愚狂一。〔韓維、讀二杜子美詩一〕讀レ之踴躍精膽張、徑欲二追躡一忘二愚狂一。

【愚懷】27 グクワイ　おろかな考。己の意見の謙辭。〔晉書、荀勖傳〕久抱二愚懷一而不二敢言一。

【愚款】28 グクワン　馬鹿正直なこと。愚誠。款は、まこと。〔荀子、脩身〕愚款端愨、則合レ之以二禮樂一、通レ之以二思索一。〔注〕款、誠款也。〔庾亮、讓二中書令一表〕陛下二相、明二其愚款一。〔注〕翰曰、款、誠也。

【愚管】29 グクワン　愚かな見解。狹小な意見。己の見解の謙稱。〔吳志、華覈傳〕臣以二愚管一、竊所レ未レ安。〔裴駰、史記集解序〕聊以二愚管一、增二演徐氏一。〔注〕索隱曰、按、東方朔云、以レ管窺レ天、以レ蠡測レ海、皆喩レ小也、然此語本出二莊子文一、今云二愚管一者、是駰謙言、己愚陋管見、所レ識不レ能二遠大一也。

【愚兄】30 グケイ　愚かな兄。❶年下の人に向っての自分の謙稱。❷自分の兄の謙稱。

【愚計】31 グケイ　おろかなはかりごと。自己のはかりごとの謙稱。愚策。〔韓非子、存韓〕今賤臣之進二愚計一。〔戰國、秦策〕大王覽二臣愚計一。〔史記、蘇秦傳〕使下臣效二愚計一、奉中明約上。〔北史、楊侃傳〕愚計可レ錄、請爲二明公一前驅。

【愚卿】32 グケイ　明、呂師賢(**2－3386**··209)の字。

【愚溪】33 グケイ　川の名。湖南省零陵縣の西南。源は鴉山。もと冉溪といひ、又、染溪といふ。唐の柳宗元は之を愚溪と改め、愚溪詩序を作った。〔讀史方輿紀要、湖廣、永州府、零陵縣〕愚溪、源出二府南五百里之鴉山一、北流經レ此、東入二瀟水一、本名冉溪、唐柳宗元改二今名一。

【愚慧】34 グケイ　愚と慧。おろかなこととさといこと。又、愚者と智慧者。〔顏延之、重釋二何衡陽達性論一〕愚慧相傾、惛算相制。

【愚怯】35 グケフ　おろかで臆病なこと。〔韓非子、制分〕是以虛士立二名於內一、而談者爲二略於外一、故愚怯勇慧相連、而以二虛道一屬レ俗而容二乎世一。

【愚見】36 グケン　愚かな意見。自己の意見の謙稱。愚考。卑見。〔晉書、王渾傳〕敢陳二愚見一、觸二犯天威一。

【愚狷】37 グケン　おろかで守る所あるをいふ。〔後漢書、第五倫傳〕不レ勝二愚狷一、昧死自表。

【愚軒】38 グケン　金、趙元(**10－37171**··150)の號。

【愚險】39 グケン　おろかで邪惡なこと。〔呂覽、勿躬〕幽詭愚險之言、無レ不レ職矣。

【愚固】40 グコ　おろかでかたくな。愚直固陋。〔鮑照、爲二柳令一謝二驃騎一表〕特屈二慈獎一、降中二愚固一。

【愚瞽】41 グコ　おろかで事理に暗いもの。〔後漢書、吳良傳〕私慕二公叔同升之義一、懼二于臧文竊位之罪一、敢秉二愚瞽一、犯二冒嚴禁一。〔隋書、房彥謙傳〕野人愚瞽、不レ知二忌諱一。〔劉基、賣柑者言〕將三衒レ外以惑二愚瞽一乎。

【愚公】42 グコウ　おろかな男の意。列子に見える假設の人。愚公移レ山を見よ。

〔愚公谷〕43 グコウコク　谷の名。山東省臨淄縣の西。柳宗元の愚溪詩序に古有二愚公谷一といふ。〔水經、淄水注〕時水、又屈而逕二杜山北一、有二愚公谷一。〔說苑、政理〕齊桓公出獵、逐レ鹿而走入二山谷之中一、見二一老公一而問レ之曰、是爲二何谷一、對曰、是爲二愚公之谷一。

〔愚公移レ山〕44 グコウヤマヲウツス　怠らず勉強すれば成就する喩。古、愚公といふ者が、山を他にうつさうとして永年努力した故事。〔列子、湯問〕太形・王屋二山、方七百里、高萬仞、本在二冀州之南、河陽之北一、北山愚公者、年且二九十一、面レ山而居、懲二山北之塞、出入之迂一也、聚レ室而謀曰、吾與レ汝、畢レ力平レ險、指二通豫南一、達二于漢陰一、可乎、雜然相許、其妻獻レ疑曰、以二君之力一、曾不レ能レ損二魁父之丘一、如二太行・王屋一何、且焉置二土石一、雜曰、投二諸渤海之尾、隱土之北一、遂率二子孫、荷擔者三夫一、叩レ石墾レ壤、箕畚運二於渤海之尾一、鄰人京城氏之孀妻有二遺男一、始齔、跳往助レ之、寒暑易レ節、始一反焉、河曲智叟、笑而止レ之曰、甚矣、汝之不惠、以二殘年餘力一、曾不レ能レ毀二山之一毛一、其如二土石一何、北山愚公長息曰、汝心之固、固不レ可レ徹、曾不レ若二孀妻弱子一、雖二我之死一、有レ子存焉、子又生レ孫、孫又生レ子、子又有レ子、子又有レ孫、子子孫孫無二窮匱一也、而山不レ加レ增、何苦而不レ平、河曲智叟亡二以應一、操蛇之神聞レ之、懼二其不レ已也、告二之於帝一、帝感二其誠一、命二夸蛾氏二子一、負二二山一、一厝二朔東一、一厝二雍南一、自レ此冀之南、漢之陰、無二隴斷一焉。〔庾信、哀江南賦〕豈寃禽之能塞レ海、非二愚叟之可レ移レ山。

【愚谷】45 グコク　字號。❶明、鄒迪光(**11－39562**··108)の號。❷明、李舜臣(**6－14459**··1455)の號。❸清、黃謨(**12－47926**··839)の號。❹清、袁守侗(**10－34152**··210)の號。❺清、陳詩(**11－41698**··299)の字。❻清、彭進(**4－10003**··71)の號。❼清、柳堉(**6－14662**··9)の號。

〔愚谷子〕46 グコクシ　清、彭進(**4－10003**··71)の號。

〔愚谷集〕47 グコクシフ　書名。十卷。明、李舜撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【愚悃】48 グコン　おろかなまごころ。おろかでまことあること。〔韻府引、范成大、詩〕愚悃無レ華敢自欺。

【愚詐】49 グサ　おろかでいつはること。〔論語、陽貨〕古之愚也、直、今之愚也、詐而已矣。

【愚才】50 グサイ　おろかな才智。自分の才智の謙稱。〔庭訓往來、十月〕粗任二愚才一、令二注進一候。「妻。

【愚妻】51 グサイ　おろかな妻。自分の妻の謙稱。荆妻。

【愚齋】52 グサイ　字號。❶宋、史鑄(**2－3249**··122)の號。❷元、林靜(**6－14551**··148)の號。❸明、董學(**9－31433**··31)の字。❹清、載鑾元(**10－38309**··85)の號。❺清、謝王寵(**10－35827**··374)の字。❻清、張師載(**4－9812**··1124)の號。❼清、熊賜履(**7－19294**··150)の號。

【愚草】53 グサウ　おろかな草稿。自己の草稿をいふ謙稱。〔東鑑、五十一〕弘長三年七月二十九日、號二之初心愚草一。

【愚策】54グサク　おろかなはかりごと。自分のはかりごとの謙稱。愚計。〔漢書、宣元六王傳〕數進㆓愚策㆒、未㆑見㆓省察㆒。

【愚察】55グサツ　おろかな推察。自己の推量の謙稱。

【愚山】56グザン　字號。❶清、施閏章(5－13629‥156)の號。❷清、李學高(6－14459‥960)の字。❸木村敏の號。木村愚山(6－14415‥580)を見よ。❹松本愼の號。松本愚山(6－14516‥391)を見よ。❺脇屋長之の號。脇蘭室(9－29467‥1)を見よ。

【愚士】57グシ　❶おろかな士。賢士の對。〔管子、法法〕遇㆑時而簡㆓其業㆒者、愚士也。❷明、唐之淳(2－3709‥424)の字。

〔愚士繫㆑俗〕58グシハゾクニツナガル　愚かな士は凡俗のことに束縛される。〔賈誼、鵩鳥賦〕愚士繫㆑俗兮、窘若㆓囚拘㆒。

【愚子】59グシ　おろかな子。〔孔叢子、居衞〕若㆔夫賢父之有㆓愚子㆒。

【愚志】60グシ　おろかなこころざし。自分の志の謙稱。〔史記、田敬仲完世家〕髡有㆓愚志㆒。〔新序、雜事三〕敢謁㆓其願㆒、而君弗㆓肯聽㆒也、故使㆔使者陳㆓愚志㆒、君誠諭㆑之。

【愚姊】61グシ　おろかな姊。自分の姊の謙稱。

【愚兒】62グジ　おろかな子。自分の子の謙稱。

【愚失】63グシツ　おろかで失ふ。智得の對。〔列子、力命〕北宮子之窮、非㆓愚失㆒也。

【愚室】64グシツ　おろかな妻。自分の妻の謙稱。愚妻。

【愚疾】65グシツ　おろかでねたむ。疾は嫉。愚癡嫉妬。〔管子、水地〕故其民愚疾而垢。〔纂詁〕疾、讀爲㆑嫉、云云、故其民愚癡嫉妬。

【愚質】66グシツ　おろかな性質。〔說苑、說叢〕有㆓愚質㆒者、不㆑可㆑予㆓利器㆒。

【愚者】67グシヤ　おろかなもの。愚人。〔中庸〕知者過㆑之、愚者不㆑及也。〔管子、乘馬〕智者知㆑之、愚者不㆑知。〔荀子、仲尼〕愚者反㆑是。

〔愚者一得〕68グシヤノイツトク　愚者千慮必有㆓一得㆒の略。

〔愚者多㆑悔〕69グシヤハクイオホシ　愚者は、後に至つて悔いることが多い。〔晏子、雜、上〕夫愚者多㆑悔、不肖者自賢。

〔愚者愛㆓惜費㆒〕70グシヤハツヒエヲアイセキス　この世の歡樂を知らぬ愚者は、徒らに生活の費用をしがるものである。〔古詩十九首〕爲㆑樂當㆑及㆑時、何能待㆓來茲㆒、愚者愛㆓惜費㆒、但爲㆓後世嗤㆒。

〔愚者闇㆓成事㆒〕71グシヤハセイジニクラシ　愚者は既に出來上つた事に對しても、くらくてわからない。〔戰國、趙策〕愚者闇㆓於成事㆒、智者見㆓於未萌㆒。〔史記、趙世家〕愚者闇㆓成事㆒、智者覩㆓未形㆒。

〔愚者豈無㆓一得㆒〕72グシヤアニイツトクナカランヤ　愚者千慮必有㆓一得㆒に同じ。〔精註雅俗故事讀本、下、人事〕村夫不㆑識㆓一丁㆒、愚者豈無㆓一得㆒。

〔愚者千慮必有㆓一得㆒〕73グシヤモセンリヨニカナラズイツトクアリ　おろかな者もたまには良い分別を出すことがある。〔史記、淮陰侯傳〕臣聞、智者千慮、必有㆓一失㆒、愚者千慮、必有㆓一得㆒。

【愚相】74グシヤウ　おろかな宰相。〔史記、袁盎傳〕夫以㆓聖主㆒責㆓愚相㆒、君受㆑禍不㆑久矣。

【愚將】75グシヤウ　おろかな將軍。〔吳子、論將〕此爲㆓愚將㆒、雖㆑衆可㆑獲。

【愚狀】76グジヤウ　おろかな書狀。自分の手紙の謙稱。我が書簡。愚書。〔庭訓往來、七月〕不㆑得㆓寸暇㆒、直捧㆓愚狀㆒候。

【愚情】77グジヤウ　おろかな心。〔後漢書、曹世叔妻傳〕敢昧死竭㆓其愚情㆒。

【愚弱】78グジヤク　おろかで弱い。〔風俗通、皇霸、六國〕秦因㆓愚弱之極運、震電之蕭條㆒、混㆓壹海內㆒。

【愚主】79グシユ　おろかな人主。〔論衡、解除〕愚主心惑、不㆑顧㆓自行㆒。

【愚儒】80グジユ　おろかな儒者。〔史記、秦始皇紀〕固非㆓愚儒所㆑知。〔漢書、張湯傳〕上問㆑湯、湯曰、此愚儒無㆑知、狄山曰、臣固愚忠、若㆓御史大夫湯㆒乃詐忠。

【愚衆】81グシユウ　おろかな衆人。〔荀子、非十二子〕足㆔以欺㆓惑愚衆㆒。

【愚俊】82グシユン　愚者と俊傑。〔管子、水地〕地者萬物之本原、諸生之根苑也、美惡・賢不肖・愚俊之所㆑生也。

【愚初】83グシヨ　清、周孝壎(2－3441‥574)の字。

【愚書】84グシヨ　おろかな書狀。自分の書狀の謙稱。愚狀。

【愚冗】85グジヨウ　おろかで無用。無能。〔後漢書、蔡邕傳〕臣之愚冗、職當㆓咎患㆒。

【愚色】86グシヨク　おろかな顏色。〔六韜、武韜、發啓〕聖人將㆑動、必有㆓愚色㆒。

【愚心】87グシン　おろかな心。又、自分の心の謙稱。〔韓非子、說林上〕今人不㆑知㆘以㆓其愚心㆒而師㆗聖人之智㆖、不㆓亦過㆒乎。〔漢書、楊惲傳〕言㆓鄙陋之愚心㆒、若㆓逆㆑指而文㆑過。〔漢書、貢禹傳〕臣禹不㆑勝㆓拳拳㆒、不㆓敢不㆑盡㆓愚心㆒。〔王褒、聖主得㆓賢臣㆒頌〕不㆘略㆓陳愚心㆒、而抒㆗情素㆖。

【愚臣】88グシン　おろかな臣。君主に對する臣下の自稱。〔韓非子、存韓〕願陛下幸審㆓愚臣之計㆒、無㆑忽。〔漢書、谷永傳〕不㆔深察㆓愚臣之言㆒。〔曹植、上㆓責㆑躬應㆑詔詩㆒表〕是以愚臣徘㆓徊於恩澤㆒。

【愚人】89グジン　❶おろかな人。愚物。愚者。癡人。〔詩、小雅、鴻雁〕維彼愚人、謂㆓我宣㆑驕。〔韓愈、師說〕聖人所㆓以爲㆑聖、愚人之所㆓以爲㆑愚、其皆出㆓於此㆒乎。❷漢書古今人表、第九等下下の稱。與に惡を爲すべく善を爲し得ないもの。〔漢書、古今人表〕可㆓與爲㆑惡、不㆑可㆓與爲㆑善、是謂㆓下愚㆒、云云、下下、愚人・蚩尤・九黎。

〔愚人之思〕90グジンノオモヒ　おろかな人のかんがへ。〔淮南子、人閒訓〕聖人之思脩、愚人之思叕。

〔愚人之心〕91グジンノココロ　おろかな人の心。〔老子、二十〕我獨若㆑遺、我愚人之心也哉。

〔愚人而謂㆑人爲㆑愚〕92グジンニシテヒトヲイヒテグトナス　自分がおろかでありながら他人を愚者とする。身の程知らず。〔孔叢子、陳士義〕東閭子中不㆑應㆑外、侮㆓慢世士㆒、即所謂愚人而謂㆑人爲㆑愚者也。

【愚生】93グセイ　自分の謙稱。愚拙。拙生。迂生。

【愚誠】94グセイ　おろかなまこと。つまらない誠心。自分の誠心に對する謙辭。〔漢書、劉向傳〕欲㆑竭㆓愚誠㆒。〔李密、陳情表〕願陛下矜㆓愍愚誠㆒、聽㆓臣微志㆒。

【愚拙】95グセツ　❶おろかで拙い。〔韓非子、用人〕如㆑此則上無㆓私威之毒㆒、而下無㆓愚拙之誅㆒。❷自分の謙稱。愚生。拙者。

〔愚拙農夫〕96グセツノウフ　日下文雄の號。日下生駒(5－13733‥60)を見よ。

【愚說】97グセツ　取るに足らぬ說。自說の謙稱。

【愚泉】98グセン　❶泉の名。愚溪のほとりの愚丘の東北に在り、唐の柳宗元の命名にかかるといふ。〔柳宗元、愚溪詩序〕愚溪之上、買㆓小丘㆒爲㆓愚丘㆒、自㆓愚丘㆒東北行六十步、得㆑泉焉、又買居㆑之、爲㆓之愚泉㆒。❷元、方道叡(5－13620‥581)の號。

〔愚泉先生〕99グセンセンセイ　宋、蔡汝揆(9－31818‥192)の尊稱。

【愚淺】100グセン　おろかで智が淺い。〔後漢書、盧植傳〕敢率㆓愚淺㆒、爲㆓之解詁㆒。〔蔡邕、幽冀刺史久缺疏〕臣愚淺小才、竊㆓假階級㆒。

【愚孱】101グセン　おろかでかよわい。又、その者。〔司馬光、次韻和㆘邵不疑假㆓書江鄰幾知方㆒云云㆖詩〕愼勿㆑思㆓山林㆒、山林付㆓愚孱㆒。

【愚賤】102グセン　おろかで賤しい。又、その者。〔顏延之、還至㆓梁城㆒作詩〕愚賤同堙滅、尊貴誰獨聞。

【愚叟】103グソウ　❶山を移したといふ愚公をいふ。愚公(42)を見よ。〔庾信、哀江南賦〕豈冤禽之能塞㆑海、非㆓愚叟之可㆑移㆑山。〔李德裕、大孤山賦〕雖㆓愚叟之復生㆒、焉能移㆓其咫步㆒。❷おろかなおやぢ。又、老人の自稱。❸字號。㋑陳、鄭露(11－39647‥286)の字。㋺五代漢、劉昌嗣(2－2224‥1029)の號。㋩清、王愚翁(7－20823‥1332)の號。㋥土岐朝旨の號。土岐愚叟(3－4867‥482)を見よ。

【愚僧】104グソウ　❶おろかな僧侶。〔舊唐書、傅奕傳〕愚僧矯詐、皆云㆑由㆑佛。❷僧侶自身の謙稱。貧道。〔延慶本平家物語、一〕愚僧こそ慈悲と行德とは闕けて候へども。

【愚息】105グソク　智慧の乏しいむすこ。自分の息子の謙稱。賤息。豚兒。〔古今著聞集、十一〕。

【愚俗】106グゾク　おろかな凡俗の人。〔孔叢子、答問〕將㆑欲㆘成㆓其說㆒以誣㆗愚俗㆖也。

【愚村】107グソン　清、李元直(6－14459‥1176)の字。

【愚存】108グゾン　自分の考の謙稱。愚意。愚案。

【愚惰】109グダ　おろかでおこたる。又、其の者。〔歐陽脩、本論上〕上自㆓天子之郊㆒、下至㆓鄉黨㆒、莫㆑不㆑有㆑學、擇㆓民之聰明者㆒而習焉、使㆔相告語而誘㆓勸其愚惰㆒。

【愚懦】110グダ　おろかできがよわい。又、其の者。〔福惠全書、刑名部、總論〕與㆘夫豪強之欺㆓壓愚懦㆒、叛逃之誣㆗害善良㆖、譎詐多端。

【愚滯】111グタイ　おろかでとどこほる。愚かで事務

のはかばかしく行かぬこと。〔蜀志、譙周傳〕至二于四時之祀一、或有レ不レ臨二池苑之觀一、或有下仍出二臣之愚滯一、私不中自安上。

【愚惷】112 グタウ　おろか。愚戇。惷愚。〔後漢書、張酺傳〕臣實愚惷、不レ及二大體一。

【愚戇】113 グタウ　おろか。愚鈍。愚惷。〔韓非子、南面〕是以愚戇窳惰之民、苦二小費一而忘二大利一也。〔管子、水地〕萃下而弱、沈滯而雜、故其民愚戇而好レ貞。〔漢書、杜欽傳〕臣欽愚戇、經術淺薄。〔後漢書、班超傳〕妄愚戇不レ知二大義一、觸二犯忌諱一。〔後漢書、蔡邕傳〕臣實愚戇、唯識二忠盡一。

【愚短】114 グタン　おろかで才の乏しいこと。凡庸。〔晉書、劉琨傳〕以二臣愚短一、當二此至難一、憂如二循環一、不レ遑二寢食一。〔何承天、安レ邊論〕誠非三愚短所二能究言一。

【愚知】115 グチ　愚者と智者。愚知相欺を見よ。

【愚知相欺】116 グチアヒアザムク　愚者と智者とが互に欺き合ふ。〔莊子、在宥〕愚知相欺、善否相非。

【愚智】117 グチ　愚者と智者。〔鬼谷子、反應〕聖人所レ誘二愚智一。〔韓非子、有度〕貴賤不二相踰一、愚智提衡而立、治之至也。

【愚癡】118 グチ　❶おろかで事理を解しない。愚痴。〔論衡、論死〕荒忽則愚癡矣。〔雲笈七籤〕食レ草愚癡而足レ力。❷〔佛〕三毒の一つ。衆惑の根本。〔法華經、譬喩品〕愚癡暗蔽、三毒之火。❸甲斐のないことをくどくどといふこと。不平を訴へること。なきごと。訴言。

【愚忠】119 グチユウ　ばか正直でまめやかなこと。又、自分の誠意の謙稱。效二愚忠一を見よ。〔韓非子、存韓〕雖レ欲レ察二賤臣愚忠之計一、不レ可レ得已。〔漢書、賈誼傳〕使二人臣得レ畢二其愚忠一、唯陛下財幸。〔漢書、張湯傳〕狄山曰、臣固愚忠、若二御史大夫湯一乃詐忠。

【效二愚忠一】120 グチユウヲイタス　己のまごころをつくすことの謙辭。〔枚乘、上レ書諫二吳王一書〕臣乘願披二心腹一而效二愚忠一。

【愚忠讒賊】121 グチユウザンゾク　其の心は忠誠であるが、其のなす所が讒賊に同じいこと。〔管子、七臣七主〕愚臣深罪厚罰、以爲レ行、重二賦斂一、多二兌道一、以爲レ上、使三身見レ憎、而主受二其謗一、故記稱レ之曰、愚忠讒賊、此之謂也。〔纂詁〕其意雖レ忠、其事則同二讒賊一。

【愚衷】122 グチユウ　おろかなまごころ。又、己の心の謙稱。〔洛陽伽藍記、城東〕乞收二成旨一、以允二愚衷一。

【愚直】123 グチヨク　正直一方でかけひきのないこと。ばか正直。自分の正直の謙稱。〔列子、力命〕巧佞愚直。〔釋文〕愚直、如レ愚質直也。〔宋史、李綱傳〕惟陛下赦二其愚直一、而取二其拳拳之忠一。〔蘇轍、爲二兄軾下レ獄上書〕惟是賦性愚直、好談二古今得失一。

【愚濁】124 グヂヨク　おろかでけがれてゐること。〔法苑珠林〕今値二世尊顧臨一、衆生蠲二我愚濁一、安二以淨慧一。

【愚圖】125 グヅ　決斷力に乏しいこと。又、其の人。「遲鈍。

【愚弟】126 グテイ　おろかな弟。❶同輩に對する自稱。〔杜甫、狂歌行〕與レ兄行年校二一歲一、賢者是兄愚者弟。❷自分の弟の謙稱。

【愚亭】127 グテイ　字號。❶清、高宗元(**12－45313**‥1257)の號。❷帆足萬里の號。帆足愚亭(**4－8787**‥26)を見よ。

【愚佻】128 グテウ　おろかでかろがろしい。〔後漢書、袁紹傳〕愚佻短慮、輕進易退。〔陳琳、爲二袁紹一檄二豫州一文〕愚佻短略、輕進易退。

【愚駑】129 グド　おろかでにぶい。のろま。愚鈍。〔漢書、公孫弘傳〕今臣愚駑、無二汗馬之勞一。〔後漢書、皇甫規傳〕明詔不レ以二臣愚駑一、急使二軍就レ道。〔馮衍、與二陰就一書〕衍材素愚駑、行儀汗穢。

【愚童】130 グドウ　〔佛〕凡夫をいふ。凡夫は因果の道理を知らず、生死に惑溺する愚昧のものであるから名づける。〔大日經疏、一〕一者愚童薩埵、謂、六道凡夫、不レ知二實諦因果一、心行二邪道一、修二習苦因一、戀二著三界一、堅執不レ捨、故以爲レ名。

【愚憧】131 グドウ　おろか。愚惷。〔史記、三王世家〕愚憧而不レ逮レ事。

【愚禿】132 グトク　❶おろかなはげ頭の意で、僧侶の謙稱に用ひる。〔最澄、入山發願文〕愚中極愚、狂中極狂、塵禿有情、底下最澄。❷眞宗開祖親鸞の別稱。

【愚頓】133 グトン　おろかでにぶい。頓は鈍。愚鈍。〔魏書、劉文曄傳〕文曄泣曰、臣愚頓、理極再見無レ期。

【愚鈍】134 グドン　おろかでにぶい。愚魯。頑鈍。〔後漢書、皇甫規傳〕自二臣受レ任、志竭二愚鈍一。〔元結、忝官引〕天下昔無事、僻居養二愚鈍一。

【愚衲】135 グナフ　僧侶が自身を稱する謙稱。〔土屋鳳洲、畫師苦心〕愚衲亦有レ事。

【愚妄】136 グバウ　おろか。愚昧。〔後漢書、朱浮傳〕今乃愚妄、自比二六國一。

【愚氓】137 グバウ　おろかなたみ。〔福惠全書、蒞任部、稟帖贅說〕均係二愚氓無知一。

【愚暴】138 グバウ　おろかであらあらしい。〔列子、楊朱〕生有二縱欲之歡一、死被二愚暴之名一。

【愚薄】139 グハク　おろかで才が乏しい。〔後漢書、杜詩傳〕聖王之政、必因二人心一、今猥用二愚薄一、塞二功臣之望一、誠非二其宜一。

【愚鄙】140 グヒ　おろかでいやしい。又、己の才能の謙稱。愚陋。愚劣。〔漢書、王莽傳上〕雖二性愚鄙一、至誠自知。〔後漢書、齊武王演傳〕然愚鄙之見、竊有レ未レ同。〔唐書、李綱傳〕冀得レ效二愚鄙一。

【愚謬】141 グビウ　おろかなあやまり。おろかで事を誤る。〔魏文帝、典論、論方術〕劉向惑二于鴻寶之說一、君游眩二于子政之言一、古今愚謬、豈惟一人哉。

【愚筆】142 グヒツ　自分の筆蹟、又は文章の謙稱。

【愚夫】143 グフ　おろかな男。愚夫愚婦を見よ。

【愚夫愚婦】144 グフグフ　おろかな男女。小民をいふ。愚民。〔書、五子之歌〕予視二天下愚夫愚婦一、一能勝レ予。〔墨子、兼愛下〕天下無二愚夫愚婦一。

【愚父】145 グフ　おろかな父。自分の父の謙稱。

【愚婦】146 グフ　おろかなをんな。愚夫愚婦を見よ。〔歐陽脩、相州晝錦堂記〕所謂庸夫愚婦者、奔走駭汗、羞愧俯伏、以自悔二罪於車塵馬足之閒一。

【愚物】147 グブツ　おろかなもの。ばかもの。

【愚蔽】148 グヘイ　おろかで事理に昧い。愚昧。愚蒙。〔禮、哀公問、寡人雖二無似一也、疏〕哀公謙退言、己愚蔽無三能似二類賢人一也。〔論衡、謝短〕世之愚蔽人也。〔吳志、華覈傳〕臣以二愚蔽一。〔二十四章經〕使二人愚蔽一者、愛與レ欲也。

【愚褊】149 グヘン　おろかで心のせまいこと。〔杜弼、爲二東魏一檄レ梁文〕愚褊有レ積、驕憤遂甚。

【愚母】150 グボ　おろかな母。自分の母の謙稱。

【愚瞢】151 グボウ　おろかでくらい。暗愚。愚昧。愚蒙。〔鮑照、謝三永安令解二禁止一啓〕實非二愚瞢所レ宜二循踐一。

【愚朴】152 グボク　おろかで質朴なこと。愚かでかざりけがない。〔莊子、山木〕其民愚而朴、少レ私而寡レ欲。

【愚樸】153 グボク　おろかでかざりけがない。〔墨子、非命中〕雖二昔也三代之窮民一、亦猶レ此也、繁二飾有命一、以教二衆愚樸人一久矣。

【愚笨】154 yü^2 pen^4　おろか。

【愚妹】155 グマイ　おろかな妹。自分の妹の謙稱。

【愚昧】156 グマイ　おろかで暗い。知識が乏しく事理にくらい。おろか。愚瞢。愚蒙。愚蔽。〔舊唐書、賈耽傳〕臣雖二愚昧一、夙嘗二師範一、累蒙二拔擢一。

【愚民】157 グミン　❶おろかな民。無知の民。愚夫愚婦。〔墨子、非儒下〕盛爲二聲樂一、以淫二愚民一。〔韓非子、解老〕國有二若レ是者一、則愚民不レ得二無術而效レ之。〔史記、張釋之傳〕假令愚民取二長陵一抔土一、陛下何以加二其法一乎。❷民を愚にする。民を愚弄して何も知らさぬこと。

【愚命】158 グメイ　自分の生命の謙稱。〔源平盛衰記、三十八、重國花方西國下向〕重二敕威一輕二愚命一、是偏奉レ爲レ君非レ爲レ身。

【愚冥】159 グメイ　おろかでくらい。〔孔子家語、大婚解〕寡人且愚冥。

【愚蒙】160 グモウ　おろかで道理にくらい。蒙は無知。愚昧。〔漢書、楊惲傳〕足下哀二其愚蒙一、賜レ書教督、以レ所レ不レ及。〔千字文〕愚蒙等誚。〔杜甫、杜鵑行〕誰言養レ雛不レ知レ哺、此語亦足レ爲二愚蒙一。

【愚矇】161 グモウ　おろかで道理を辨へない。愚瞢。愚蒙。〔後漢書、黃香傳〕江淮孤賤、愚矇小生。〔楊惲、報二孫會宗一書〕足下哀二其愚矇一。

【愚問】162 グモン　おろかな質問。

【愚老】163 グラウ　おろかな老人。老人の自稱。拙老。〔後漢書、申屠剛傳〕誠願反二覆愚老之言一。

【愚亂】164 グラン　おろかでみだれくらい。〔宋玉、登徒子好色賦序〕愚亂之邪臣、自以爲レ守レ德、謂レ不レ如レ彼矣。〔注〕善曰、愚、鈍也、亂、昏也。

【愚慮】165 グリヨ　おろかな考。自分の思慮の謙稱。〔史記、蘇秦傳〕臣故敢進二其愚慮一。〔漢書、梅福傳〕盡二平生之愚慮一。

【愚劣】166（グレツ） おろかで才がにぶい。〔漢書、谷永傳〕永等愚劣、不㆑能㆔襃㆓揚萬分㆒。

【愚魯】167（グロ） おろか。あはう。ばか。愚鈍。愚癡。愚駑。〔蘇轍、東方書生行〕東方書生多㆓愚魯㆒、閉㆑門誦㆑書口生㆑土。

【愚弄】168（グロウ） 人をばかにする。あなどりなぶる。嘲弄。〔左氏、襄、四〕浞行㆓媚於內㆒、而施㆓賂于外㆒、愚㆓弄其民㆒、而虞㆓羿于田㆒。〔陳鴻、長恨歌傳〕兄國忠盜㆓丞相位㆒、愚㆓弄國柄㆒。

【愚陋】169（グロウ） おろかでつたない。おろかでいやしい。愚鄙。愚劣。陋愚。〔莊子、盜跖〕皆愚陋恒民之謂耳。〔荀子、禮論〕將㆑由㆓夫愚陋淫邪之人㆒與。〔戰國、齊策〕宣王說曰、寡人愚陋守㆓齊國㆒、唯恐㆔失㆓抎之㆒、焉能有㆑四焉。〔韓愈、潮州刺史謝上表〕臣受㆑性愚陋、人事多㆑所㆑不㆑通。

【愚論】170（グロン） おろかな議論。又、自分の議論の謙稱。

【愚惑】171（グワク） おろかでまよふ。不慧でまどふこと。〔戰國、秦策〕今愚惑與㆓罪人㆒同㆑心、而王明誅㆑之、是王過擧、顯㆓於天下㆒、而爲㆓諸侯所㆒㆑議也。〔史記、日者傳〕夫愚惑之人、豈能以㆓一言㆒而知㆑之哉。〔論衡、偶會〕襃姒令㆓幽王愚惑㆒也。

【守㆑愚】172（グヲマモル） 知をかくして愚者の如く振舞ふ。〔崔瑗、座右銘〕無㆑使㆓名過㆒㆑實、守㆑愚聖所㆑臧。

【愚益愚】173（グハマスマスグナリ） 愚者はますます愚者になる。〔韓愈、師說〕今之衆人、其下㆓聖人㆒也、亦遠矣、而恥㆑學㆓於師㆒、是故聖益聖、愚益愚。

【愚道人】175（グダウジン） 清、施閏章(**5－13629**‥156)の號。

【愚不㆑可㆑及】176（グハオヨブベカラズ） ❶その愚直さには、到底及ぶことが出來ない。孔子が甯武子を贊した語。〔論語、公冶長〕子曰、甯武子、邦有㆑道則知、邦無㆑道則愚、其知可㆑及也、其愚不㆑可㆑及也。❷愚者はそのところに考へ至ることが出來ない。〔魏志、荀攸傳〕智可㆑及、愚不㆑可㆑及。

【愚誣之學】177（グフノガク） 實際に證據立てることなく、事實をまげ誤れる學問。〔韓非子、顯學〕無㆓參驗㆒而必㆑之者愚也、弗㆑能㆑必而據㆑之者誣也、愚誣之學、襍反之行、明主弗㆑受也。

【非㆑愚則誣】178（グニアラザレバスナハチシフ） おろかでなければいつはりである。決して成立すべき理の無いこと。〔莊子、秋水〕然且語而不㆑舍、非㆑愚則誣也。

【愚而好㆓自用㆒】179（グニシテミヅカラヲモチフルヲコノム） おろかでありながら人の言を聞かず、自分の考へ通りに行ふを好む。〔中庸〕愚而好㆓自用㆒、賤而好㆓自專㆒。

【愛】10947

アイ　〔集韻〕於代切　［隊］　ㄞˋ ai^4

小篆

古文

❶**いつくしむ**。もと㤅(**4－10374**)に作る。〔正字通〕愛、本作㆑㤅。〔說文〕㤅、惠也、从㆑心旡聲。〔正韻〕愛、惠也。〔詩、小雅、隰桑〕心乎愛矣。〔呂覽、節喪〕慈親之愛㆓其子㆒也。〔注〕愛、心不㆑能㆑忘也。❷**あはれむ**。〔正韻〕愛、憐也。❸**したしむ**。〔字彙〕愛、親也。〔禮、曲禮上〕賢者狎而敬㆑之、畏而愛㆑之。❹**きにいる**。ひいきにする。〔字彙〕愛、寵也。〔史記、賈誼傳〕召㆓置門下㆒幸愛。❺**したふ**。〔論語、憲問〕愛㆑之能勿㆑勞乎。〔皇疏〕愛、慕也。〔孝經、天子章〕愛㆑親者、不㆔敢惡㆓於人㆒。〔疏〕親至結㆑心爲㆑愛。〔說苑、修文〕積思爲㆑愛。❻**こひする**。男女が情を通ずる。〔戰國、齊策〕有㆘與㆓君之夫人㆒相愛者㆖。〔注〕愛、猶㆑通也。❼**めでる**。このむ。〔字彙〕愛、好樂也。〔南史、顏延之傳〕如㆓初發芙蓉㆒、自然可㆑愛。❽**なさけをかける**。〔廣雅、釋詁四〕愛、仁也。〔韻會小補〕愛、隱也。〔字彙〕愛、恩也。❾**いつくしみ**。なさけ。仁愛の情。〔孝經、聖治章〕因㆑親以教㆑愛。❿**仁惠の人**。〔左氏、昭、二十〕子產卒、仲尼聞㆑之、出㆑涕曰、古之遺愛也。〔注〕愛、惠也。⓫**をしむ**。〔禮、表記〕愛莫㆑助㆑之。〔注〕愛、猶㆑惜也。〔孟子、梁惠王上〕百姓皆以㆑王爲㆑愛也。〔注〕愛、嗇也。〔國語、魯語上〕人其以㆑子爲㆑愛。〔注〕愛、吝也。〔宋史、岳飛傳〕文臣不㆑愛㆑錢、武臣不㆑愛㆑死。⓬**おぼろ**。僾(**1－1170**)に通ず。〔廣雅、釋言〕愛、僾也。〔詩、邶風、靜女〕愛而不㆑見。〔說文〕僾、仿佛也、詩曰、僾而不㆑見。⓭古は[illegible](**7－19697**)・旣(**4－11121**)・悉(**4－10707**)に作り、通じて愛(**4－10636**)に作る。〔字彙補〕[illegible]、古文愛字。〔集韻〕㤅、或作㆓旣・悉㆒、通作㆑愛。⓮**謚**。〔逸周書、謚法解〕嗇㆓於賜與㆒曰㆑愛。⓯**姓**。〔萬姓統譜〕愛、見㆓姓苑㆒。⓰［佛］物を貪る意。染着する意。十二因緣の一つ。〔俱舍論、九〕貪㆓資具婬㆒愛。〔大乘義章、五本〕染愛名㆑貪。〔大藏法數〕從㆓十四五歲㆒、至㆓十八九歲㆒時、貪㆓於種種勝妙資具及婬欲等境㆒、然猶未㆑能㆓廣遍追求㆒、是名爲㆑愛。⓱［現］㋑したがふ。㋺恐れる。㋩よくできる。

［名乘］ チカ。ヨシ。ヤス。ナル。ツネ。

【愛恚】1（アイイ） ［佛］愛は貪愛、恚は瞋恚。貪愛と瞋恚の二つの煩惱。〔大方等大集經、三〕離㆓愛恚㆒故、一切世間供養恭敬、心不㆑生㆑高、亦不㆓歡喜㆒。

【愛異】2（アイイ） 寵愛が他に異つて深い。非常に愛する。〔南史、陶季直傳〕季直早慧、愍祖甚愛㆓異之㆒。〔北史、魏孝文帝紀〕仁孝綽然有㆓人君之表㆒、獻文尤愛㆓異之㆒。

【愛意】3 ai^4 i^4 欲する。快諾する。

【愛友】4（アイイウ） 兄弟相愛しいつくしむこと。〔左氏、昭、二十六〕兄愛而友、弟敬而順。〔顏氏家訓、兄弟〕兄弟三人、特相愛友。〔庾信、周上柱國齊王憲神道碑〕武皇帝以㆓介弟懿親㆒、特垂㆓愛友㆒、而密謀奇策、加㆓禮敬㆒焉。

【愛育】5（アイイク） いつくしみそだてる。大事に育てる。愛養。〔後漢書、謝夷吾傳〕所在愛㆓育人物㆒。〔北史、鮑宏傳〕宏七歲而孤、爲㆔兄泉之所㆓愛育㆒。〔千字文〕愛育黎首。

【愛育黎拔力八達】6（アイイーリーパーリーパーター） 元の武宗の弟、仁宗。成宗の崩後、右相哈剌哈孫の謀に從つて阿忽台を殺し、兄の武宗を立てて自ら太子となり、ついで卽位す。性慈孝にして儒術に通達し、釋典にも精通した。在位九年にして崩じた。

【愛一】7（アイイチ） 一つををしむ。すこしのものををしむ。〔漢書、匈奴傳下〕夫百年勞㆑之、一日失㆑之、費㆑十而愛㆑一、臣竊爲㆑國不㆑安也。

【愛愔】8（アイイン） いつくしみやはらぐ。愔は、やはらぐ。〔薛逢、靈臺家兄古鏡歌〕吾兄吾兄須㆑愛愔。

【愛羽】9（アイウ） 羽を大切にする。〔說苑、雜言〕夫君子愛㆑口、孔雀愛㆑羽、虎豹愛㆑爪、此皆所㆑以治㆑身法也。

【愛雨】10（アイウ） 雨を好む。〔張邦奇、題㆑畫詩〕鳩性愛㆑雨花愛㆑晴、同倚㆓東風㆒不㆑同㆑情。

【愛詠】11（アイエイ） このみうたふ。愛して詠ずる。〔北史、魏道武七王、河南王曜傳〕鑒上書、遵㆓孝文之旨㆒、採㆓齊之舊風㆒、軌制粲然、皆合㆓規矩㆒、云云、齊人愛詠、咸曰、耳目更新。

【愛榮】12（アイエイ） 榮達を好む。〔盧綸、春日題㆓杜叟山下別業㆒詩〕今朝舞同㆑君樂、始信幽人不㆑愛㆑榮。

【愛嬰】13（アイエイ） 嬰兒を愛する。又、かはいらしい嬰兒。〔梅堯臣、代書寄㆓歐陽永叔㆒四十韻詩〕愛嬰嬌啞啞、嗜寢復便便。

【愛悅】14（アイエツ） 愛しよろこぶ。愛說。〔晉書、溫嶠傳〕嶠風儀秀整、美㆓於談論㆒、見者皆愛㆓悅之㆒。

【愛說】15（アイエツ） めでよろこぶ。愛悅。〔尉繚子、攻權〕夫不㆔愛㆓說其心㆒者、不㆓我用㆒也。

【愛緣】16（アイエン） ［佛］恩愛のきづな。煩惱。〔大寶積經、七十八〕諸煩惱中、愛緣所㆑合、此最爲㆑重。

【愛緣機緣】17（アイエンキエン） 愛緣奇緣。❶合ふも合はぬもみな緣によるといふ意。❷不思議な緣。男女間、又は友達の交り深きにいふ。

【愛燄】18（アイエン） 愛欲がほのほのやうに盛なこと。欲火。〔梁簡文帝、八關齋制序〕業動㆓心風㆒、情漂㆓愛燄㆒。

【愛媛】19（エヒメ） 四國の縣名。

【愛圓】20（アイエン） 圓形を好む。〔徐積、瓊花歌〕此花愛㆑圓不㆑愛㆑缺、一樹花開似㆓明月㆒。

【愛惡】21（アイヲ） 愛することと惡むこと。〔易、繫辭

下〕是故愛惡相攻、而吉凶生。〔呂覽、上德〕愛惡不レ臧、虛素以レ公。〔韓非子、安危〕四曰、有二賢不肖一、而無二愛惡一。〔白居易、白牡丹詩〕始知無二正色一、愛惡隨二人情一。

〖愛惡頓殊〗22（アイヲトミニコトナル）　愛情と憎惡とが全く相反する。〔黃宗羲、萬里尋レ兄記〕以親二府君一、愛惡頓殊、可レ不レ謂三天地綱常之寄、反在二草野一乎。

【愛恩】23（アイオン）　いつくしみ。めぐみ。恩愛。〔韓愈、陸渾山火和二皇甫湜一用二其韻一詩〕君臣相憐加二愛恩一、命二黑螭偵一焚二其元一。

【愛河】24（アイカ）　(佛)愛欲の喩。河は人を溺らすからいふ。〔八十華嚴經、二十六〕隨二生死流一、入二大愛河一。〔楞嚴經、四〕愛河乾枯、令二汝解脫一。〔梁武帝、捨レ道事レ佛疏〕登二常樂之高山一、出二愛河之深際一。〔梁簡文帝、宋姬寺慧念法師墓誌銘〕善度二愛河一、能褰二欲網一。

【愛我】25（アイガ）　我を愛する。わたしを愛する。〔左氏、襄、二十三〕臧孫曰、季孫之愛レ我也、疾疢也、孟孫之惡レ我藥石也。〔戰國、燕策〕左右既前斬二荊軻一、秦王目眩良久、已而論レ功賞二羣臣一、及當レ坐者各有レ差、而賜二夏無且黃金二百鎰一曰、無且愛レ我、乃以二藥囊一提二荊軻一也。〔史記、韓非傳〕彌子食レ桃而甘、不レ盡而奉レ君、君曰、愛レ我哉、忘二其口一而念レ我。

【愛鵝】26（アイガ）　鵝を好む。がてうを可愛がる。〔晉書、王羲之傳〕性愛レ鵝、會稽有二孤居姥一、養二一鵝一、善鳴、求レ市未レ能レ得、遂攜二親友一、命レ駕就觀、姥聞二羲之將レ至、烹以待レ之、羲之歎惜彌日。

〖愛鵝圖〗27（アイガヅ）　晉の王羲之が鵝鳥を愛する圖。羲之は性よく鵝を愛したので、後世多く之を畫題とする。愛鵝を見よ。

【愛界】28（アイカイ）　(佛)愛欲の境界。愛欲の世界。〔大集經、三〕如來知二世住界一、知二世愛界一。

【愛海】29（アイカイ）　(佛)愛欲の海。愛欲の深いことを海に喩へていふ。愛河(24)に同じ。〔八十華嚴經、七十八〕愛欲海、我慢山。〔止觀、五之四〕摧二邪山一、竭二愛海一。〔王融、法樂辭、本起歌〕禪衢開二遠駕一、愛海亂二輕舟一。

【愛好】30（アイカウ）　❶愛しこのむ。〔魏志、高貴鄉公傳〕吾以二暗昧一、愛二好文雅一。〔南史、謝靈運傳〕郡有二名山水一、靈運素所二愛好一。❷身を大事にする。自愛。〔梁昭明太子、答二晉安王一書〕汝本有二天才一、加以二愛好一、無レ忘レ所レ能、日見二其善一、首尾裁淨、可レ爲二佳作一。❸修飾をこのむ。よくしやれる。〔牡丹亭傳奇〕一生兒愛好自天然。

【愛幸】31（アイカウ）　かはいがる。めでる。又、氣に入り。君主が近臣又は婦人等を親愛すること。愛寵。〔韓非子、內儲說下〕對曰、共立少見二愛幸一、長爲二貴卿一、被二王衣一、含二杜若一、握二玉環一、以聽二於朝一、且利二以亂レ秦矣。〔史記、呂后紀〕高祖爲二漢王一、得二定陶戚姬一、愛幸、生二趙隱王如意一。〔史記、五宗世家〕膠西王端、有二愛幸少年一爲レ郎。〔漢書、申屠嘉傳〕是時大中大夫鄧通、方愛幸賞賜累二鉅萬一。

【愛糠】32（アイカウ）　(佛)愛欲のぬか。棄てるべき愛欲煩惱を糠に喩へていふ。〔智度論、二十八〕諸聖人愛糠已脫。

【愛剛】33（アイガウ）　剛健を好む。〔易略例〕形躁好レ靜、質柔愛レ剛、體與レ情反、質與レ願違。

【愛客】34（アイカク）　愛する客。又、客を愛好する。〔劉孝綽、陪二徐僕射晚宴一詩〕洛城雖二半掩一、愛客待二驪歌一。〔岑參、早秋與二諸子一登二虢州西亭一觀眺詩〕微官何足レ道、愛客且相攜。〔李白、贈二范金卿一詩〕浮人少二蕩析一、愛客多二逢迎一。

【愛鶴】35（アイカク）　❶鶴を愛する。〔薩都剌、遊二梅仙山一和二唐人韻一詩〕棲レ鸞多種レ竹、愛レ鶴莫レ移レ松。❷愛好してゐる鶴。〔新書、春秋〕衞懿公喜レ鶴、云云、士民曰、君亦使下君之貴優將二君之愛鶴一、以爲レ君戰上矣。〔元稹、和二樂天感鶴一詩〕我有二所レ愛鶴一、毛羽霜雪妍。

【愛學】36（アイガク）　學問を好む。〔北史、劉晝傳〕晝少孤貧愛レ學、伏膺無レ倦。

【愛渴】37（アイカツ）　(佛)愛欲の心。貪ることが恰も渴して水を求めるが如くであるのに喩へる。渴愛。〔圓覺經〕衆生欲下脫二生死一免中諸輪廻上、先斷二貪欲一、及除二愛渴一。

【愛甲】38（アイカフ）　❶相模國の郡名。❷姓氏。〔國史姓名譜〕。

【愛狎】39（アイカフ）　いつくしみなれる。近づけしたしむ。〔晉書、文苑、顧愷之傳〕愷之好二諧謔一、人多愛二狎之一。

【愛看】40（アイカン）　愛し看ること。〔止齋先生文集、七〕可レ憐衰白隨二年少一、愛二看殘紅一到二夜深一。

【愛閑】41（アイカン）　閑情を愛する。のどかなことを好む。〔郎士元、郢城西樓吟〕昔人愛レ險閉二層城一、今日愛レ閑江復淸。

【愛鴈】42（アイガン）　鴈を好む。〔北史、崔光傳〕衞侯好レ鶴、曹伯愛レ鴈。

【愛奇】43（アイキ）　奇を好む。〔法言、君子〕仲尼多愛、愛レ義也、子長多愛、愛レ奇也。〔南史、周朗傳〕朗少而愛レ奇、雅有二風氣一。

【愛姬】44（アイキ）　氣にいりの女。寵幸する婦人。〔史記、孫子傳〕吳王從二臺上一觀、見レ且レ斬二愛姬一、大駭、趣使二使下レ令曰、云云、願勿レ斬也。

【愛氣】45（アイキ）　❶氣を愛する。氣を浪費しない。〔論衡、道虛〕恬淡無欲、養レ精愛レ氣。〔嵇康、答レ難二養生一論〕內視反聽、愛レ氣嗇レ精。❷かくれた氣。愛は薆。〔管子、侈靡〕餘氣之潛然而動、愛氣之潛然而哀。〔纂詁〕潛然、隱伏不レ見貌、愛、讀爲レ薆、薆、隱也、有餘之氣之潛然而發動、隱蔽之氣之潛然而哀傷。

【愛鬼】46（アイキ）　(佛)愛着。愛着は人を害するから鬼に喩へていふ。〔三教指歸、中〕羈摩愛鬼。

【愛妓】47（アイギ）　愛幸の歌妓。〔五代史、符存審傳〕主將方二飲酒一、顧二愛妓一、思下得二善歌者一佐上酒、徐州故張尙書、亦有二愛妓一、曰二盼盼一、善二歌舞一、雅多二風態一。

【愛義】48（アイギ）　義理を好む。〔法言、君子〕仲尼多愛、愛レ義也、子長多愛、愛レ奇也。

【愛儀】49（アイギ）　儀容を好む。〔傅毅、舞賦〕或有二矜レ容愛レ儀、洋洋習習一。

【愛韭】50（アイキウ）　藥草の名。麥門冬の異名。やぶらん。〔爾雅、釋草、虋冬、疏〕今檢二本草一、有二天門冬一、一名顚勒、麥門冬、秦名二羊韭一、齊名二愛韭一、楚名二馬韭一、越名二羊耆一、一名二禹葭一、一名二禹餘糧一。〔本草、麥門冬〕釋名、虋冬、秦名二烏韭一、齊名二愛韭一、楚名二馬韭一、越名二羊韭一。

【愛舊】51（アイキウ）　舊を愛する。〔陸雲、贈二鄱陽府君張仲膺一詩〕接レ新以化、愛レ舊以豐。

【愛牛】52（アイギウ）　牛を愛する。〔隨隱漫錄〕農以レ牛爲レ命、愛レ牛如レ愛レ兒。

【愛菊】53（アイキク）　菊を好む。〔黃庭堅、王才元惠梅花三種皆妙絕戲答詩〕舊時愛レ菊陶彭澤、今作二梅花一樹下僧。

【愛狂】54（アイキヤウ）　狂を好む。狂は進取の氣象に富んで志の高いこと。〔元稹、酬三哥舒大少府寄二同年科第一詩〕前年科第偏年少、未レ解レ知レ羞最愛レ狂。

【愛經】55（アイキヤウ）　愛欲の道を說いた書。特に世界最古の性慾文獻と稱せられるインドのカーマ・スートラをいふ。

【愛鄉】56（アイキヤウ）　故鄉を愛し慕ふ。ふるさとをなつかしく思ふこと。

〖愛鄉心〗57（アイキヤウシン）　故鄉を愛し慕ふ心。愛鄉の心。

【愛仰】58（アイギヤウ）　をしみしたふ。愛惜仰慕。〔唐書、狄仁傑傳〕民愛二仰之一、後爲立レ祠。

【愛行】59（アイギヤウ）　(佛)愛欲の情の多い者。行は心行と熟して心の活動をいふ。〔涅槃經、十五〕人有二二種一、一者見行、二者愛行。〔智度論、二十一〕衆生有二二分行一、愛行見行、愛多者著レ樂。

【愛魚】60（アイギヨ）　魚を愛する。〔白居易、觀二游魚一詩〕一種愛レ魚心各異、我來施レ食爾垂レ鉤。

【愛極】61（アイキヨク）　愛がきはまる。愛情が極點に達する。〔張華、女史箴〕專實生レ慢、愛極則遷。

【愛玉】62（アイギヨク）　他人の娘の稱。〔類書纂要〕稱二人女一曰二令愛一、又曰二愛玉一。

【愛金】63（アイキン）　金錢を惜しむ。〔孔叢子、記義〕愛レ金而令二不辜陷レ辟。

【愛琴】64（アイキン）　琴を好む。〔白居易、詩酒琴人例多薄命予酷好二三事一雅當二此科一而所レ得已多爲レ幸斯甚偶成二狂詠一聊寫二愧懷一詩〕愛レ琴愛レ酒愛レ詩客、多賤多窮多苦辛。

〖愛琴海〗65（エーゲカイ）　地中海の東部、バルカン半島と小亞細亞に圍まれた部分。多島海。Aegean Sea の音譯。

【愛吟】66（アイギン）　詩歌などを好んで吟ずること。又、其の詩歌。

【愛遇】67（アイグウ）　いつくしみあしらふ。〔北史、唐邕傳〕文宣或切二責侍臣一云、觀二卿等一、不レ中下與二唐邕一作上奴、其愛遇如レ此。〔唐書、劉武周傳〕太守王仁恭、以二其州里雄一、頗愛二遇之一。

【愛火】68（アイクヮ） ❶火をしむ。又、火を愛する。〔管子、禁藏〕夏日之不㆑煬、非㆑愛㆑火也。〔韓詩外傳、三〕冬不㆓頻湯㆒、非㆑愛㆑火也。〔白居易、對㆑火翫㆑雪詩〕平生所㆓心愛㆒、愛㆑火兼憐㆑雪。❷火のやうに強烈な情愛。熱烈な愛情。〔梁元帝、梁安寺刹下銘〕苦流長泛。愛火恒燃。

【愛果】69（アイクヮ） 佛愛欲の果報。〔大悲經、三〕樂㆓着生死三有愛果㆒。

【愛花】70（アイクヮ） 花を愛する。〔袁士元、和㆓劉德彝海棠㆒詩〕主人愛㆑花如㆑愛㆑珠、春風庭院如㆓畫圖㆒。

【愛畫】71（アイグヮ） 畫を好む。〔朱熹、題㆓祝生畫㆒詩〕斐侯愛㆑畫老成㆑癖、歲晚倦㆑遊家四壁。

【愛活】72（アイクヮツ） いつくしみそだてる。〔顏氏家訓、慕賢〕儲㆓積器用㆒、愛㆓活黎民㆒。

【愛玩】73（アイグヮン） 好みもてあそぶ。又、祕藏すること。愛翫。〔韓非子、亡徵〕婢妾之言聽、愛玩之智用、外內悲惋、而數行㆓不法㆒者、可㆑亡也。〔晉書、葛洪傳〕洪性寡欲、無㆑所㆓愛玩㆒。〔成公綏、鸚鵡賦序〕鸚鵡小禽也、以㆓其能言解㆒㆑意、故爲㆔人所㆓愛玩㆒。

〖愛玩犬〗74（アイグヮンケン） 室內に飼養し、觀賞用に供する小形の犬。

【愛翫】75（アイグヮン） めでもてあそぶ。又、大切にする。愛玩。〔後漢書、北海靖王興傳〕性好㆓讀書㆒、常爲㆓愛翫㆒。〔晉書、樂志上〕愛翫在㆓乎雕章㆒。〔庾信、周上柱國齊王憲神道碑〕愛㆓翫書籍㆒、敦㆓崇禮樂㆒。

【愛君】76（アイクン） 主君を愛すること。〔左氏、莊、十九〕君子曰、鬻拳可㆑謂㆑愛㆑君矣。〔宋史、曹輔傳〕官有㆓大小㆒、愛㆑君之心則一也。

【愛兄】77（アイケイ） 兄を愛する。〔孟子、萬章上〕彼以㆓愛㆑兄之道㆒來、故誠信而喜㆑之。

【愛卿】78（アイケイ） ❶あなたを愛する。卿は、君が臣下を呼ぶ稱、ならびに儕輩間において敬意を含めて用ひられる稱呼であったが、後に妻が夫を呼ぶ稱となり、さらに轉じて、一般に女が愛する男を呼ぶ語。〔世說新語、惑溺〕王安豐婦、常卿㆓安豐㆒、安豐曰、婦人卿㆑壻、於㆑禮爲㆓不敬㆒、後勿㆓復爾㆒、婦曰、親㆑卿愛㆑卿、是以卿㆑卿、我不㆑卿㆑卿、誰當㆑卿㆑卿、遂恒聽㆑之。❷宋の官妓の名。〔余氏辨林〕宋李師中爲㆓官妓賈愛卿㆒賦㆑詩、末聯云、歸來不㆑問㆓封侯事㆒、只問君主覓㆓愛卿㆒。

【愛惠】79（アイケイ） ❶いつくしみめぐむ。恩惠。〔韓非子、姦劫弒臣〕今世主皆釋㆓重罰嚴誅㆒、行㆓愛惠㆒而欲㆓霸王之功㆒、亦不㆑可㆑幾也。〔徐陵、陳武帝下㆓州郡㆒璽書〕愛惠以撫㆓孤貧㆒、威刑以禦㆓彊猾㆒。❷人に惠むことを好む。〔人物志、八觀〕愛㆑惠分篤、雖㆑傲狎不㆑離、助㆑善著明、雖㆑疾㆑惡無㆑害也。

【愛敬】80（アイケイ） ❶いつくしみうやまふ。仁愛と畏敬。〔孝經、天子章〕愛敬盡㆓于事㆒㆑親、而德敎加㆓於百姓㆒。〔呂覽、孝行〕愛敬盡㆓於事㆒㆑親。〔漢書、王吉兩龔鮑傳〕蜀人愛敬、至㆑今稱焉。〔蜀志、張飛傳〕飛愛㆓敬君子㆒、而不㆑恤㆓小人㆒。❷（アイキヤウ） かはいらしい。人づきの善いこと。愛嬌。

〖愛敬祭〗81（アイキヤウマツリ） 男女の緣結び、又は夫婦の和合を祈る祭。〔沙石集〕。

〖愛敬相〗82（アイギヤウサウ） 菩薩の衆生をいつくしみ愛する溫和な容貌。又、其の態度。

〖愛敬日〗83（アイキヤウビ） 手形滿期後、支拂を猶豫する日數。恩惠日。

〖愛敬堂〗84（アイケイダウ） 淸、王琛（**7－20823**・・812）の室名。

〖愛敬餅〗85（アイキヤウモチ） 婚姻後三日目に舅姑におくる餅。みかのもちひ。

〖愛敬毛〗86（アイキヤウゲ） 顏に愛敬をそへるおくれ毛。

〖愛敬愛染〗87（アイキヤウアイゼン） 佛愛染明王は息災・降伏・增益・愛敬・鉤召の五種祈願の本尊であるが、特に其の利益の一つとして男女敬愛和合相應の本尊であるからいふ。

〖愛敬黑子〗88（アイキヤウホクロ） それあるがため却って顏に愛敬を添へる黑子。

【愛繫】89（アイケイ） 佛恩愛のきづな。〔智度論、二十八〕斷㆓諸愛繫㆒、直趣㆓涅槃㆒。

【愛繼】90（アイケイ） 嗣子の無い者が、親族中の愛するものを選んで後嗣とすること。

【愛藝】91（アイゲイ） 學問技術を好む。〔新論、觀量〕項羽不㆑學㆓一藝㆒、韓信不㆑營㆓一餐㆒、非㆓其心不㆑愛㆑藝、口不㆒㆑嗜㆑味、由㆓其性大、不㆒㆑綴㆓細業㆒也。

【愛嬌】92（アイケウ） ❶なまめかしいものを愛する。愛嬌宴を見よ。❷かはいらしい人。人ずきの善いこと。愛敬。

〖愛嬌宴〗93（アイケウノエン） 觀桃花の宴をいふ。〔元氏掖庭記〕宮中碧桃盛開、舉㆑杯相賞、名曰㆓愛嬌之宴㆒。

【愛結】94（アイケツ） 佛貪愛の煩惱。貪愛は人を縛するから結といふ。〔大集經、三〕諸見因緣增㆓愛結㆒。

【愛月】95（アイゲツ） 月を愛する。〔李中、思㆓湓渚舊居㆒詩〕迎㆑僧常踏竹間蘚、愛㆑月獨登溪上樓。〔趙嘏、寄㆓淮南幕中劉員外㆒詩〕郎官何遜最風流、愛㆑月憐㆑山不㆑下㆑樓。

【愛妍】96（アイケン） うつくしいものを好む。〔虞龢、論㆑書表〕古質而今妍、數之常也、愛㆑妍而薄㆑質、人之情也。

【愛見】97（アイケン） 佛❶人に執着して愛を起すをいふ。〔維摩經、問疾品〕於㆓諸衆生㆒、若起㆓愛見大悲㆒、卽應㆓捨離㆒。〔什注〕見㆑有㆓衆生㆒、心生㆓愛着㆒、因㆑此生㆑悲、名爲㆓愛見大悲㆒。❷愛と見の二種の煩惱。貪欲瞋恚等の、迷事の惑を愛と名づけ、我見邪見等の、迷理の惑を見と名づける。〔楞嚴經、六〕令㆘諸衆生落㆓愛見坑㆒、失㆗菩提路㆖。

【愛兼】98（アイケン） 疏遠なものと親近なものとの差別なく、一切平等に親愛する。兼愛（**2－1483**・・1）の❶に同じ。〔陸倕、感㆓知己㆒賦〕値㆓墨子之愛兼㆒、逢㆓太丘之道廣㆒。

【愛軒】99（アイケン） 服部保章の號。服部愛軒（**5－14345**・・110）を見よ。

【愛硯】100（アイケン） 硯を好む。〔硯箋序〕衡山浮屠氏瞿省以㆑詩謁、一日曰、公愛㆑硯入㆑骨與㆑硯朋、蘇歐蔡唐嗜不㆑減㆑公也。

【愛賢】101（アイケン） 賢者を好む。〔宋之問、梁宣王挽詞〕愛㆑賢唯報㆑國、樂㆑善不㆑防㆑身。

【愛險】102（アイケン） あやふいことを好む。危險を好む。又、險阻を好む。〔郞士元、郢城西樓吟〕昔人愛㆑險閉㆓層城㆒、今日愛㆑閑江復淸。

【愛羂】103（アイケン） 佛愛は貪愛、羂は羂苦。愚痴の人が貪愛の羂（わな）に罹って自在を得ないのをいふ。〔正法念經、七〕已爲㆓愛羂㆒誑、作㆓惡不善業㆒。

【愛繭】104（アイケン） 佛愛欲の情が人を縛して自在にせしめないのを、蠶が自ら絲を吐いて自身を束縛するに喩へる。〔止觀、五之三〕還以㆓愛繭㆒自纏。

【愛言】105（アイゲン） 言ふことを好む。〔雲笈七籤〕愛㆑視愛㆑聽、愛㆑言愛㆑慮。

【愛眼】106（アイゲン） 佛慈愛の眼。〔華嚴經、二十五〕大慈大悲愛眼、等視㆓諸衆生㆒。〔盧仝、月蝕詩〕想天不㆑異㆑人、愛眼固應㆑一。

【愛己】107（アイコ） 己を愛する。〔莊子、山木〕仲尼恐㆓其廣㆑己而造㆑大也、愛㆑己而造㆒㆑哀也。〔後漢書、曹世叔妻傳〕婦人之得㆓意於夫主㆒、由㆓舅姑之愛㆒㆑己也。〔孔子家語、三恕〕仁者傭㆓人愛㆒㆑己。

〖愛己主義〗107′（アイコシユギ） 自分だけの快樂や利益などを追求したり主張したりする考へ方。利己主義。エゴイズム。egoism の譯語。愛他主義の對。

【愛古】108（アイコ） 古の道を愛する。〔北史、景穆十二王下、任城王順傳〕彝庶長兄順十六、通㆓杜氏春秋㆒、下㆑帷讀㆑書、篤㆑志愛㆑古。

【愛夸】109（アイコ） ほこることを好む。〔元稹、遺興詩〕愛㆑直莫㆑愛㆑夸、愛㆑疾莫㆑愛㆑斜。

【愛孤】110（アイコ） みなしごをあはれむ。〔北齊書、王紘傳〕紘上言、伏願、陛下哀㆑忠念㆑舊、愛㆑孤恤㆑寡。

【愛狐】111（アイコ） きつねを好む。〔說苑、辨物〕師曠曰、東方有㆑鳥、名㆓諫珂㆒、其爲㆑鳥也、文身而朱足、憎㆑鳥而愛㆑狐。

【愛顧】112（アイコ） いつくしみ目をかける。ひいき。眷顧。〔楊脩、答㆓臨淄侯㆒牋〕豈由㆓愛顧之隆㆒、使㆓係仰之情深㆒耶。〔吳志、太史慈傳〕豈府君愛顧之義、老母遺㆑慈之意邪。

【愛語】113（アイゴ） 佛四攝法の一つ。衆生に善言慰喩して法に親近させること。〔無量壽經、上〕和顏愛語。

【愛護】114（アイゴ） 大事に守る。大切に保護する。〔顏氏家訓、治家〕借㆓人典籍㆒、皆須㆓愛護㆒。〔宋史、黃師雍傳〕愛㆓護名節㆒、無㆑愧㆓師友㆒。

〖愛護食養〗115（アイゴシヨクヤウ） 主として消化系疾患者に流動食を與へる食餌療法。

【愛口】116（アイコウ） 口を惜しみ大切にする。言語をつつしむこと。〔說苑、雜言〕夫君子愛㆑口、孔雀愛㆑羽、虎豹愛㆑爪、此皆所㆓以治㆒㆑身法也。

【愛功】117（アイコウ） 功績ををしむ。又、功をめでよみ

す。〔韋昭、博奕論〕當世之士、宜下勉二思至道一、愛レ功惜レ力、以佐中明時上。〔梁肅通、愛敬陂水門記〕案、陂塘、本魏廣陵守陳登所レ設、時人愛二其功一、而敬二其事一、故以名レ之。

【愛厚】118アイコウ　いつくしみねんごろにする。又、愛情があつい。〔詩、鄘風、桑中、期二我乎桑中一、箋〕此思三孟姜之愛二厚己一也。〔陶潛、祭二從弟敬遠一文〕斯情實深、斯愛實厚。

【愛克】119アイコク　❶恩愛が勝る。〔書、胤征〕愛克二厥威一、允罔レ功。❷エーカー　英米面積の單位。Acre の音譯。我が國の四段二十四步。又、英畝と譯す。

【愛克司光】120エックスクヮウ　エックス光線。

【愛國】121アイコク　國を愛する。國のために忠義を盡すこと。〔戰國、西周策〕周君豈能無レ愛レ國哉。〔戰國、秦策〕明主愛二其國一、忠臣愛二其名一。〔荀悅、列侯論〕欲レ使二親レ民如レ子、愛レ國如レ家。

【愛國心】122アイコクシン　愛國の心。自分の生れた國土を愛する精神。祖國愛。

【愛國布】123アイコクフ　中國において作られる布。普通に土布と呼ばれるもの。洋布（6－17363‥122）の對。

【愛國運動】124アイコクウンドウ　愛國主義を基礎とする運動の總稱。

【愛國公債】125アイコクコウサイ　戰時等に國民の愛國心に訴へ、國家に有利な條件で起す小額の公債。

【愛國主義】126アイコクシユギ　祖國を愛し國威を宣揚せんとする主義。

【愛獄】128アイゴク　佛貪愛の獄。愛欲は人を束縛し迫害するから牢獄に喩へる。〔八十華嚴經、五十二〕處二貪愛獄一、自不レ能レ出。

【愛根】129アイコン　❶妻が夫を稱する語。金人の俗語。〔金志〕金人舊俗、多指レ腹爲二婚姻一、既長雖二貴賤殊隔一、亦不レ可レ渝、壻納レ幣、皆先レ期拜レ門、戚屬偕行、以二酒饌一往、少者十餘車、多者至二十倍一、飲レ客、佳酒則以二金銀器一貯レ之、其次以二瓦器一、列二於前一以レ百數、賓退則分餉焉、先以二烏金銀盃一酌飲、貧者以二木酒一三行、進二大軟脂小軟脂一、如三中國寒具一、以進二蜜糕一、人各一盤、曰二茶食一、宴罷、富者瀹二建茗一、留二上客數人一啜レ之、或以レ粗者煎二乳酪一、婦家無二大小一、皆坐二炕上一、壻黨羅二拜于其下一、謂二之男下レ女、禮畢、壻牽二馬百匹一、少者十匹、陳二其前一、婦翁選二子姓之別レ馬者一視レ之、好則留、不レ好則退、留者不レ過二十二三一、或皆不レ中レ選、雖二壻所レ乘、亦以充レ數、大抵以二留馬少一爲レ恥、女家亦視二其數一而厚二薄之一、一馬則報二衣一襲一、壻皆親迎、既成レ婚、留二於婦家一、執二僕隸役一、雖二行酒進食一、皆躬二親之一、三年然後以レ婦歸、則婦氏以二奴婢十戶牛馬數十一羣、每レ羣九牸一牡、以資二遣之一、夫謂レ妻爲二薩薩一、妻謂レ夫爲二愛根一。❷佛愛欲の煩惱が根本となつて他の煩惱を生ずるから愛根といふ。〔大乘同性經、上〕無明愛根。

【愛琿】130アイコン　地名。又、璦琿（7－21267‥2）に作り、黑龍江城、或は薩哈連烏拉河屯ともいふ。城は清の聖祖の築造に係り、嘗て露國との交通の要所に當る。

【愛琿條約】131アイコンデウヤク　一八五八年愛琿で結ばれた露清兩國間の條約。黑龍江本流を國境とし、烏蘇里江以東を兩國の共有とした。

【愛才】132アイサイ　才ををしむ。又、才士を愛する。〔後漢書、皇甫規傳〕吾當下爲二朝廷一愛上レ才、何能申二此子計一邪。〔岑參、送二江陵泉少府赴任一便呈二衞荊州一詩〕不レ畏レ無二知己一、荊州甚愛レ才。

【愛妻】133アイサイ　❶愛する妻。〔史記、匈奴傳〕復以二鳴鏑一自射二其愛妻一。❷妻を愛すること。

【愛財】134アイザイ　財ををしむ。〔國語、周語下〕聖人保レ樂而愛レ財、財以備レ器、樂以殖レ財。

【愛爪】135アイサウ　爪を大切にする。〔說苑、雜言〕夫君子愛レ口、孔雀愛レ羽、虎豹愛レ爪、此皆所二以治レ身法也。

【愛想】136アイサウ　❶佛自己の好む者に執着し親愛する想。愛着。〔涅槃經、二〕如來無レ有二愛念之想一。〔皇甫濂、摩詰品贊〕愛想豈慧攝、權解乃善律。❷アイサウ・アイソ　㋑かはいいこと。人づきがよいこと。㋺人をもてなすに情愛のあること。㋩勘定。勘定書。

【愛想氣】137アイソケ　愛想のある樣子。

【愛騷】138アイサウ　離騷を好む。〔文心雕龍、辨騷〕昔漢武愛レ騷、而淮南作レ傳。

【愛蠶】139アイサン　六月の末に繭を作る蠶。〔齊民要術、種桑柘〕永嘉記曰、永嘉有二八輩蠶一、蚖珍蠶・柘蠶・蚖蠶・愛珍・愛蠶・寒珍・四出蠶・寒蠶、凡蠶再熟者、前輩皆謂二之珍一、養レ珍者、少養レ之、愛蠶者、故蚖蠶種也、蚖珍三月既績、出レ蛾取レ卵、七八日便剖レ卵蠶生、多養レ之、是爲二蚖蠶一、欲レ作レ愛者、取二蚖珍之卵一、藏二內甖中一、隨二器大小一、亦可下拾紙蓋二覆器口一、安二硎泉冷水中一、使三冷器折二其出勢一、得中三七日上、然後剖生養レ之、謂爲二愛珍一、亦呼二愛子一、績成レ繭、出レ蛾生レ卵、卵七日又剖成レ蠶、多養レ之、此則愛蠶也。

【愛山】140アイザン　山を愛する。〔白居易、宿二西林寺一詩〕木落天晴山翠開、愛レ山騎馬入レ山來。〔蘇軾、自二徑山一回得二呂察推詩一云云詩〕多君貴公子、愛レ山如レ愛レ色。

【愛讒】141アイザン　讒言を好む。〔左氏、昭、二十七〕知者除レ讒以自安也、今子愛レ讒以自危也。

【愛士】142アイシ　❶士を愛する。〔漢書、張良傳〕今聞、太子仁孝、恭敬愛レ士。〔後漢書、袁紹傳〕愛レ士養レ名。❷呂氏春秋、仲秋紀の篇名。

【愛子】143アイシ　❶愛する子。〔左氏、宣、二〕趙盾請三以レ括爲二公族一、曰、君姬氏之愛子也。〔商子、墾令〕愛子不二隋食一。❷めづべき人。あなた。〔李白、贈二郭將軍一詩〕愛子臨レ風吹二玉笛一、美人向レ月舞二羅衣一。❸子を愛する。〔說苑、政理〕善爲レ國者、遇レ民如二父母之愛レ子、兄之愛レ弟、聞二其饑寒一、爲レ之哀、見二其勞苦一、爲レ之悲。❹蠶の一種。愛珍の別稱。愛蠶（139）を見よ。❺コマシ　姓氏。〔姓林全書〕。

【愛弛】144アイシ　愛がゆるむ。愛情がなくなる。〔漢書、佞幸、李延年傳〕（李延年）爲二協律都尉一、及二李夫人卒一、後其愛弛。

【愛死】145アイシ　死を惜しむ。〔孔子家語、弟子行〕不三敢愛二其死一。

【愛至】146アイイタル　愛情の深いこと。〔漢書、杜鄴傳〕鄴聞人情、恩深者其養謹、愛至者其求詳。〔曹植、送二應氏一詩〕愛至望苦レ深、豈不レ愧二中腸一。

【愛私】147アイシ　私を愛する。自己を愛する。〔商子、開塞〕天地設而民生レ之、當二此之時一也、民知二其母一、而不レ知二其父一、其道親レ親而愛レ私。

【愛刺】148アイシ　佛愛欲の煩惱。人を毒害することを棘刺に喩へていふ。〔八十華嚴經、十三〕衆生無二智慧一、愛刺所二毒害一。

【愛思】149アイシ　愛し思ふ。〔新書、君道〕故愛二思文王一、猶敬二其梏一、況守二其法教一乎。

【愛施】150アイシ　愛し施す。恩愛と惠施。〔管子、版法〕悅在二愛施一。〔韓非子、八經〕民以レ法難レ犯レ上、而上以レ法撓二慈仁一、故下明二愛施一、務二賕紋之政一。

【愛視】151アイシ　❶いつくしみ目をかける。〔唐書、太穆竇皇后傳〕后於二諸子中一、愛視最篤。❷視を愛する。愛言（105）を見よ。

【愛嗜】152アイシ　いつくしみこのむ。〔沈約、報二博士劉杳一書〕生平愛嗜、不レ在二人中一、林壑之懽、多與レ時奪。

【愛兒】153アイジ　❶子を愛する。〔隨隱漫錄〕愛レ牛如レ愛レ兒。❷かはいい子。いとしご。愛子。❸唐、張仙喬（4－9812‥1273）の本名。

【愛州】154アイシウ　州名。梁、置く。漢の九眞郡の地。後、越南の清華省。今、佛領の東京州。〔唐書、地理志七上〕愛州、九眞郡。〔讀史方輿紀要、廣西附考、安南、清化府〕九眞郡城、卽今府城也、云云、梁置二愛州一。

【愛舟】155アイシウ　舟を好む。〔鄭玉、洪氏舫軒詩〕山人愛レ舟屋亦舟、山中便作二滄海遊一。

【愛洲】156アイス　姓氏。〔明治新撰姓氏錄〕。

【愛秋】157アイシウ　秋を愛する。〔李中、江館秋思因成二自勉一詩〕客思雖レ悲レ月、詩魔又愛レ秋。

【愛疾】158アイシツ　はやいことを好む。〔元稹、遣興詩〕愛レ直莫レ愛レ夸、愛レ疾莫レ愛レ斜。

【愛日】159アイジツ　❶愛すべき日光。冬の日の異稱。〔左氏、文、七〕趙衰、冬日之日也、趙盾、夏日之日也。〔注〕冬日可レ愛、夏日可レ畏。〔駱賓王、贈二宋之問一詩〕溫輝凌二愛日一、壯氣驚二寒水一。〔宋璟、梅花賦〕愛日烘晴、明蟾凍夜。❷時日を惜しむ。〔大戴禮、曾子立事〕君子愛レ日以學、及レ時以行。〔後漢書、王符傳〕聖人深知二力者民之本、國之基一也、故務省二徭役一、使レ之愛レ日。〔法言、五百〕君子愛レ日乎、君子仕則欲レ行二其義一。〔蘇軾、決二壅蔽一〕古之聖王、愛レ日以求レ治、辨レ色而視レ朝。❸父母に孝養すること。日時を惜しんで、須臾も父母に孝養を懈らないこと。〔論語、里仁、父

母之年不ㇾ可ㇾ不ㇾ知也一則以喜一則以懼、集注〕於㆓愛ㇾ日之誠㆒、自有㆓不ㇾ能ㇾ已者㆒。〔法言、孝至〕事㆓父母㆒自不ㇾ足者、其舜乎、不ㇾ可㆓得而久㆒者、事ㇾ親之謂也、君子愛ㇾ日。〔注〕無㆔須臾懈㆓於心㆒。㊃潛夫論の篇名。

【愛日園】160（アイジツエン） 田中章の號。田中鳴門(**7－21723**··230)を見よ。

【愛日軒】161（アイジツケン） 室名。㊀宋、葉夢得(**9－31387**··271)の室名。㊁清、高景藩(**12－45313**··1147)の室名。

【愛日齋】162（アイジツサイ） ㊀宋、汪清卿(**6－17154**··273)の室名。㊁古屋鼎の號。古屋愛日齋(**2－3233**··28)を見よ。

【愛日堂】163（アイジツダウ） 室名。㊀明、徐汝化(**4－10110**··494)の室名。㊁清、易貞言(**5－13814**··216)の室名。㊂清、孫宗彝(**3－6987**··473)の室名。㊃清、陳元龍(**11－41698**··836)の室名。㊄清、趙昱(**10－37171**··10)の室名。

【愛日樓】164（アイジツロウ） 佐藤坦の號。佐藤一齋(**1－506**··72)を見よ。〔近世先哲叢談續編、下〕佐藤坦、字大道、號㆓一齋㆒、一、愛日樓、又、老吾軒、號㆓其塾㆒曰㆓夏之寮㆒、曰㆓風自寮㆒、晩名㆓其遊息之所㆒曰㆓錫難老軒㆒、江戸人、仕㆓德川氏㆒。

【愛日精廬】165（アイジツセイロ） 清、張金吾の藏書廬の名。江蘇省昭文縣にあり。八萬餘卷を藏す。資治通鑑長編等の書を刊行す。著に愛日精廬藏書志がある。

【愛日老人】166（アイジツラウジン） 清、范驤(**9－30834**··51)の號。 「撰。

【愛日齋隨筆】167（アイジツサイズイヒツ） 書名。五卷。古屋鼎

【愛日齋叢鈔】168（アイジツサイソウセウ） 書名。五卷。宋、葉氏撰。名は未詳。名物典故の考證が多い。〔四庫提要、子、雜家類〕。

【愛日樓文詩】169（アイジツロウブンシ） 書名。四卷。佐藤一齋撰。第一卷は序十六篇・記十二篇。第二卷は論二篇・辨二篇・墓銘十四篇・墓表一篇・碑陰記一篇・行狀一篇。第三卷は說六篇・題跋十一篇・雜著八篇・遊記二篇・賦四篇・贊十篇・銘五篇。第四卷は古近體詩二百二十四篇、附、日光山行記。

【愛日精廬藏書志】170（アイジツセイロザウシヨシ） 書名。三十六卷。清、張金吾撰。載する所、宋元の舊槧及び鈔帙の實學に關するもので傳本の少ないものを取り、又明以後に於ても其の尤も秘なる者數種を錄してゐる。經史子集の四部に分ち、其の門類も略〻四庫提要と大差はないが存目を設けず、又史部に於て史鈔・時令の二類がなく、子部に於て農家類がなく、集部に於て詞曲類を樂府類としてゐる。

【愛執】171（アイシフ） 〘佛〙愛惜執着の情。恩愛の情に執着して離れ難いこと。〔法華經、方便品〕深着㆓虛妄法㆒、堅受不ㇾ可ㇾ捨。

【愛習】172（アイシフ） 愛ししたしむ。〔戰國、魏策〕夫魏王之愛㆓習魏信㆒也甚矣、其智能而任㆓用之㆒也厚矣、其畏㆓惡嚴㆔尊秦㆒也明矣。〔史記、甘茂傳〕王之愛㆓習公㆒也、不ㇾ如㆓公孫奭㆒。〔顏氏家訓、勉學〕復所㆓愛習㆒。

【愛斜】173（アイシヤ） 不正を好む。〔元稹、遺興詩〕愛ㇾ直莫ㇾ愛ㇾ夸、愛ㇾ疾莫ㇾ愛ㇾ斜。

【愛尙】174（アイシヤウ） 愛し尙ぶ。又、愛し尙ばれる。〔後漢書、黨錮傳序〕自ㇾ是愛尙相奪、與ㇾ時回變。

【愛將】175（アイシヤウ） 寵愛されてゐる將軍。〔晉書、山簡傳〕彊家在㆓幷州㆒、簡愛將也。

【愛獎】176（アイシヤウ） 愛しすすめる。人の材能を愛して、取立て用ひる。〔唐書、文藝下、李華傳〕華愛㆓奬士類㆒、名隨以重。

【愛賞】177（アイシヤウ） めで賞する。〔梅堯臣、送㆔宋端明知㆓成都㆒詩〕春江須㆓愛賞㆒、花鳳在㆓梧桐㆒。

【愛情】178（アイジヤウ） ㊀情を愛する。愛道(244)を見よ。㊁かはいく思ふ心。いつくしみの心。戀愛の心。

【愛主】179（アイシュ） 主君を愛する。〔後漢書、銚期傳〕期重㆓於信義㆒、及ㇾ在㆓朝廷㆒、憂ㇾ國愛ㇾ主、其有ㇾ不ㇾ得㆓於心㆒、必犯ㇾ顏諫諍。〔晉書、范陽王虓傳〕忠ㇾ國愛ㇾ主、小心翼翼。

【愛守】180（アイシュ） いつくしみまもるもの。〔漢書、梁孝王傳、戒㆓後世㆒善寶ㇾ之、注〕師古曰、寶、謂㆓愛守㆒也。

【愛酒】181（アイシュ） 酒を愛する。〔李白、月下獨酌詩〕天若不ㇾ愛ㇾ酒、酒星不ㇾ在ㇾ天。〔白居易、效㆓陶潛體㆒十六首詩〕愛ㇾ酒不ㇾ愛ㇾ名、憂ㇾ醒不ㇾ憂ㇾ貧。

【愛酒翁】182（アイシュヲウ） 酒ずきのおきな。〔白居易、錢湖州以㆓箬下酒㆒李蘇州以㆓五酘酒㆒相次寄到無ㇾ因㆓同飮㆒聊詠ㇾ所ㇾ懷詩〕勞將㆓箬下忘憂物㆒、寄㆓與江城愛酒翁㆒。

【愛種】183（アイシュ） 〘佛〙愛欲の種。愛欲は苦果を招くから種といふ。〔大集經、一〕能焦㆓三有諸愛種㆒。

【愛樹】184（アイジュ） 樹木を愛する。人を愛することを推して其の人と緣の深い樹木まで愛する。周の召公のやどつた甘棠を、國人が愛して斬らなかつた故事。〔左氏、定、九〕思㆓其人㆒猶ㇾ愛㆓其樹㆒、況用㆓其道㆒而不ㇾ恤㆓其人㆒乎。〔潘岳、馬汧督誄〕思ㇾ人愛ㇾ樹、甘棠勿ㇾ翦。〔注〕銑曰、甘棠、木名、召伯爲ㇾ政、百姓慕ㇾ之、所ㇾ舍之樹、皆不㆓翦伐㆒也。〔張次宗、請ㇾ立㆓前節度使李德裕德政碑文㆒狀〕情猶深㆓於愛樹㆒。

【愛從】185（アイジュウ） 愛し從ふ。〔後漢書、劉梁傳〕申侯以㆓愛從㆒見ㇾ退。

【愛卹】186（アイジュツ） 愛しあはれむ。愛恤。〔漢書、鼂錯傳〕賓㆓禮長老㆒、愛㆓卹少孤㆒。

【愛恤】187（アイジュツ） 愛しあはれむ。愛卹。〔左氏、文、十三、子家賦㆓鴻雁㆒、注〕義取㆘侯伯哀㆓恤鰥寡㆒、有㆗征行之勞㆖。

【愛春】188（アイシュン） 春を愛す。春を好む。〔韋莊、晩春詩〕萬物不ㇾ如ㇾ酒、四時唯愛ㇾ春。

【愛筍】189（アイジュン） 筍を愛する。〔楊萬里、詩〕高人愛ㇾ筍如ㇾ愛ㇾ玉、忍ㇾ口不ㇾ餐要㆓添竹㆒。

【愛升】190（アイショウ） いつくしみがのぼる。〔後漢書、光武郭皇后紀論〕愛升則天下不ㇾ足ㇾ容㆓其高㆒、歡隊故九服無ㇾ所ㇾ逃㆓其命㆒。

【愛誦】191（アイショウ） このみよむ。

【愛色】192（アイショク） 美色を愛する。女色を好む。〔蘇軾、自㆓徑山㆒回得㆓呂察推詩㆒云云詩〕多君貴公子、愛ㇾ山如ㇾ愛ㇾ色。

【愛嗇】193（アイショク） 愛し惜しむ。しはい。〔後漢書、甘始傳〕愛㆓嗇精氣㆒。

【愛心】194（アイシン） いつくしみの心。親しみの情が心の內にむすぼれること。〔禮、樂記〕其敬心感者、其聲直以廉、其愛心感者、其聲和以柔。〔孝經、天子章、愛敬盡㆓於事ㇾ親而德教加㆓於百姓㆒、疏〕皇侃云、愛敬各有㆓心迹㆒、烝烝至惜、是爲㆓愛心㆒、溫凊搔摩、是爲㆓愛迹㆒、肅肅悚慄、是爲㆓敬心㆒、拜伏擎跪、是爲㆓敬迹㆒。〔史記、律書〕喜則愛心生。

【愛臣】195（アイシン） ㊀寵愛の家來。左右の嬖臣。〔韓非子、愛臣〕愛臣太親、必危㆓其身㆒。㊁韓非子の篇名。

【愛信】196（アイシン） 愛し信ずる。〔韓非子、亡徵〕民信㆓其相㆒、下不ㇾ能㆓其上㆒、主愛㆓信之㆒、而弗ㇾ能ㇾ廢者可ㇾ亡也。〔戰國、魏策〕且魏信舍ㇾ事、則趙之謀者必曰、舍㆓於秦㆒、秦必令㆘其所㆓愛信㆒者用㆖趙。〔後漢書、陳忠傳〕帝又愛㆓信阿母王聖㆒、封爲㆓野王君㆒。

【愛神】197（アイシン） 星の名。小行星の一つ。ドイツ人ウエットの發見したもの。

【愛親】198（アイシン） ㊀親を愛する。〔孝經、天子章〕愛ㇾ親者不㆔敢惡㆓於人㆒、敬ㇾ親者不㆔敢慢㆓於人㆒。㊁かはいく親しい者。〔漢書、文三王傳贊〕梁孝王雖㆘以㆓愛親㆒故、王㆗膏腴之地㆖、然會㆓漢家隆盛、百姓殷富㆒、故能殖㆓其貨財㆒、廣㆓其宮室專服㆒。〔注〕師古曰、太后愛子而帝親弟、故曰㆓愛親㆒。

【愛人】199（アイジン） ㊀人を愛しいつくしむ。〔禮、檀弓上〕君子之愛ㇾ人也以ㇾ德、細人之愛ㇾ人也以㆓姑息㆒。〔左氏、襄、三十一〕人之愛ㇾ人、求ㇾ利ㇾ之也。〔論語、學而〕節ㇾ用而愛ㇾ人、使ㇾ民以ㇾ時。〔論語、陽貨〕君子學ㇾ道、則愛ㇾ人。〔孟子、離婁下〕仁者愛ㇾ人、有ㇾ禮者敬ㇾ人、愛ㇾ人者、人恆愛ㇾ之、敬ㇾ人者、人恆敬ㇾ之。㊁いつくしみ愛する。仁愛。人は仁と通ず。〔荀子、脩身〕術禮義而情愛人。〔集解〕王引之曰、人、讀爲ㇾ仁、云云、愛仁、猶ㇾ言㆓仁愛㆒。㊂愛する人。かはいく思ふ人。

【愛水】200（アイスイ） ㊀水を惜しむ。〔韓詩外傳、三〕夏不㆓數浴㆒、非ㇾ愛ㇾ水也。㊁水を愛する。〔白居易、日長詩〕愛ㇾ水多棹ㇾ舟、惜ㇾ花不ㇾ掃ㇾ地。㊂〘佛〙㋑愛欲の情によつて流れでる水液。唾液・涙等をいふ。〔楞嚴經、八〕因㆓諸愛染㆒發㆓起妄情㆒、情積不ㇾ休、能生㆓愛水㆒、是故衆生、心憶㆓珍羞㆒口中水出、心憶㆓前人㆒、或憐或恨、目中涙盈、貪㆓求財寶㆒、心發㆓愛涎㆒、擧體光潤、心著㆓行淫㆒、男女二根、自然流液。㋺愛欲の煩惱。愛欲の煩惱が、よく事を行ふたすけとなることは、田に水が流れてうるほすやうであるから、その煩惱を愛水といふ。〔唐譯華嚴經〕業爲ㇾ田、識爲ㇾ種、無明闇覆、愛水爲ㇾ潤。

【愛睡】201（アイスイ） ねむりを愛す。睡眠を好む。〔白居易、齋月靜居詩〕忽忽眼塵猶愛レ睡、些三些三口業尚誇レ詩。

【愛醉】202（アイスイ） 醉ふことを好む。〔白居易、重酬二周判官一詩〕秋愛二冷吟一春愛レ醉、詩家眷屬酒家仙。

【愛生】203（アイセイ） 生命を惜しむ。〔文中子、事君〕愛レ生而敗レ仁者、其下愚之行歟。

【愛性】204（アイセイ） 人の本性を愛す。〔曹植、釋レ愁文〕莊子與レ子具二養レ神之撰一、老耼與レ子致二愛レ性之方一。

【愛省】205（アイセイ） 惜しみはぶく。〔唐書、楊愼矜傳〕歲常愛二省數百萬一。

【愛壻】206（アイセイ） 氣に入りのむこ。愛婿。〔老學庵筆記、三〕秦會之有二十客一、曹冠以レ教二其孫一爲二門客一、王會以二婦弟一爲二親客一、郭知運以二離婚一爲二逐客一、吳益以二愛壻一爲二嬌客一。

【愛晴】207（アイセイ） 晴天を好む。〔張邦奇、題レ畫詩〕鳩性愛レ雨花愛レ晴、同倚二東風一不レ同レ情。

【愛靜】208（アイセイ） しづかなことを好む。〔陸龜蒙、奉二和襲美新秋言レ懷詩〕身閒惟愛レ靜、籬外是荒郊。

【愛少】209（アイセウ） 年少を好む。〔新論、言苑〕人皆愛レ少而惡レ老、重レ榮而輕レ悴。

【愛照】210 ai^4 chao^4 御世話樣。

【愛石】211（アイセキ） 石を好む。〔倪瓚、寄二王叔明一詩〕能レ詩何水部、愛レ石米南宮。

【愛迹】212（アイセキ） したしみの情の外にあらはれるもの。愛情のあらはれ。愛心(194)を見よ。

【愛惜】213（アイセキ） ㊀愛しをしむ。物をしみする。〔列子、黃帝〕都無レ所二愛惜一。〔古詩十九首、其十五〕愚者愛二惜費一、但爲二後世嗤一。〔後漢書、楊賜傳〕豈敢愛二惜垂沒之年一、而不レ盡二慺慺之心一哉。㊁人を愛して粗略にせぬこと。〔宋書、謝方明傳〕性尤愛惜、未二嘗有レ所二是非一、承二代前人一、不レ易二其政一。

【愛雪】214（アイセツ） 雪を好む。〔蘇軾、次三韻李公擇二梅花一詩〕尋レ花不レ論レ命、愛レ雪長忍レ凍。

【愛節】215（アイセツ） 時節ををしむ。〔李嘉祐、九日送レ人詩〕愛レ節人逾老、驚二寒菊半黃一。

【愛薛】216（アイセツ） 元、西域拂菻の人。西域諸部の語に通じ、星曆醫藥に精しい。官は大德中、平章政事。忠獻王に追封さる。〔元史、一百三十四〕。

【愛絶】217（アイゼツ） 愛がたえる。愛情がなくなる。〔魏文帝、出婦賦〕夫色衰而愛絶、信古今其有レ之。

【愛妾】218（アイセフ） 氣に入りのめかけ。〔韓非子、姦劫弒臣〕楚莊王之弟春申君、有二愛妾一、曰レ余。〔戰國、秦策〕去二貴妻一、賣二愛妾一、此令必行者也、因曰、毋二敢思一也、此令必不レ行者也。

〖愛妾換馬〗219（アイセフクワンバ） 樂府雜曲歌辭の名。もと淮南王劉安の作。今傳はらず。梁の簡文帝・劉孝威・庾肩吾、隋の僧法宣、唐の張祜等に歌辭がある。〔樂府詩集、雜曲歌辭、愛妾換馬〕樂府解題曰、愛妾換馬、舊說、淮南王所レ作、疑、淮南王卽劉安也、古辭今不レ傳。〔梁簡文帝、愛妾換馬〕功名幸多種、何事苦二生離一、誰言似二白玉一、定是媿二青驪一、必取二匣中釧一、廻作レ飾二金羈一、眞成レ恨不レ已、願得二路傍兒一。〔劉孝威、和二王竟陵愛妾換馬一〕驄馬出二樓蘭一、一步九盤桓、小史贖二金絡一、良工送二玉鞍一、龍驂來甚易、烏孫去實難、麟膠妾猶有、請爲二急弦彈一。〔釵小志〕後魏曹彰性倜儻、偶逢二駿馬一愛レ之、其主所レ惜也、彰曰、彰有二美妾一可レ換、惟君所レ擇、馬主因指二一妓一、彰遂換レ之、馬名二白鵲一、故後人作二愛妾換馬詩一奏レ之弦歌焉。

【愛泉】220（アイセン） 泉を好む。〔白居易、秋遊二平泉一贈二韋處士閑禪師一詩〕尋レ雲到二起處一、愛レ泉聽レ滴時。

【愛僊】221（アイセン） 不老不死を愛す。僊は仙に同じ。〔李白、安陸白兆山桃花巖寄二劉侍御綰一詩〕雲臥三十年、好レ閑復愛レ僊。

【愛染】222（アイゼン） 佛 貪愛し染着する情。煩惱の名。〔智度論、一〕自法愛染、故毀二訾他人法一。〔王維、偶然作詩〕愛染日已薄、禪寂日已固。

〖愛染王〗223（アイゼンワウ） 佛 愛染明王をいふ。

〖愛染明王〗224（アイゼンミヤウワウ） 佛 愛の神。此の明王は外相には忿怒暴惡の形を現はしてゐるが、其の內證は戀愛染着の至情を本體とするから此の名がある。

【愛涎】225（アイゼン） 佛 愛欲の情から垂れる涎。〔楞嚴經、八〕貪二求財寶一、心發二愛涎一、擧體光潤。

【愛狙】226（アイソ） 猿を好む。〔列子、黃帝〕宋有二狙公者一、愛レ狙、養レ之成レ羣、能解二狙之意一、狙亦得二公之心一。

【愛甑】227（アイソウ） こしきを愛する。〔蘇轍、詩〕破レ甑不二復顧一、彼無二愛レ甑心一。

【愛憎】228（アイソウ） かはいがることとにくむこと。憎愛。愛惡。〔列子、黃帝〕不レ知レ親レ己、不レ知レ疎レ物、故無二愛憎一。〔韓非子、說難〕故彌子之行、未レ變二於初一也、而以三前之所二以見一レ賢、而後獲レ罪者、愛憎之變也。〔史記、佞幸傳贊〕甚哉愛憎之時、彌子瑕之行、可三以觀二後人佞幸一矣。〔隋書、房彥謙傳〕愛憎肆レ意。

〖愛憎之偏〗229（アイゾウノヘン） かはいがるのと憎むのとのどちらかにかたよること。〔言志耋錄〕若レ是則庶三乎無二愛憎之偏一。

〖愛憎何事別陰晴〗230（アイゾウナニゴトゾインセイヲワカツ） 春は自然に往き、自然に來るものである。照つたから降つたからといつて、何も喜んだり憎んだりするにはあたらない。〔賴三樹、和二春簾雨窓一詩〕春自往來人送迎、愛憎何事別二陰晴一。

【愛息】231（アイソク） かはいく思ふ子。〔東鑑、一〕治承四年十一月二十六日、彼老母聞レ之、爲レ救二愛息之命一泣參上。

【愛卒】232（アイソツ） 兵卒を愛する。〔唐書、侯君集傳〕昔李廣利、貪不レ愛レ卒。

【愛存】233（アイソン） いつくしみのあること。〔舊唐書、音樂志四〕誠通慈降、敬徹愛存。

【愛多】234（アイタ） 愛が多い。〔韓非子、內儲說上〕愛多者則法不レ立、威寡者則下侵レ上。

〖愛多茂〗235（アタム） 姓氏。〔姓林全書〕。

〖愛多則憎至〗236（アイオホケレバスナハチゾウイタル） 寵愛を受けることが多ければ、必ず人に憎まれるやうになることをいふ。〔亢倉子、用道〕恩甚則怨生、愛多則憎至。

【愛待】237（アイタイ） 愛しもてなす。〔後漢書、襄楷傳〕陛下愛待兼倍。〔蜀志、宗預傳〕甚愛二待之一。

【愛戴】238（アイタイ） 愛し戴く。喜んで奉戴する。〔舊唐書、懿宗紀〕洽二三軍愛戴之情一。〔曾鞏、進二奉元豐元年同天節銀一狀〕愛戴之心、庶可レ將二於薄物一。〔福惠全書、典禮部、崇祀名賢〕德澤及二于民生一、愛戴深二于百世一。

〖愛戴個高帽〗239 ai^4 tai^4 kê kao^1 mao^4 おだてにのりやすい。

【愛體】240（アイタイ） からだを大切にする。〔南齊書、竟陵文宣王子良傳〕重レ軀愛レ體、彼我無レ異。

【愛宕】241（オタギ） ㊀山城國の郡名。㊁姓氏。〔姓林全書〕。

【愛島】242（メテシマ） 陸前國の地名。

【愛桃】243（アイタウ） 桃を惜しむ。〔新序、刺奢〕文侯曰、從者食二園桃一、箕季禁レ之、豈愛レ桃哉、是教二我下無一レ侵レ上也。

【愛道】244（アイダウ） ㊀道を愛する。〔禮、禮運〕天不レ愛二其道一、地不レ愛二其寶一、人不レ愛二其情一。〔韓愈、答二李秀才一書〕愈敢自愛二其道一、而以二辭讓一爲レ事乎。㊁道教を愛好する。〔書評〕張伯英書、如二漢武帝愛レ道憑レ虛欲レ仙。

【愛獺】245（アイダツ） かはうそを愛す。〔淮南子、說林訓〕愛レ獺而飮二之酒一。

【愛歎】246（アイタン） あはれみなげく。〔杜牧、贈二宣州元處士一詩〕人生自不レ足、愛歎遭逢寡。

【愛智】247（エチ アエチ） 姓氏。

【愛雉】248（アイチ） 雉を好む。〔庾信、周兗州刺史廣饒公鄭常神道碑〕童子仁心、已愛二中牟之雉一。

【愛竹】249（アイチク） 竹を愛する。〔李白、題二金陵王處士水亭一詩〕好レ鵝尋二道士一、愛レ竹嘯二名園一。

【愛聽】250（アイチヨウ） きくことを好む。〔雲笈七籤〕愛レ視愛レ聽、愛レ言愛レ慮。

【愛著】251（アイチヤク） ㊀かはいいと思ひこむ。〔淨住子、訶詰四大門〕反復橫起、種種愛著。㊁佛（アイヂヤク） 恩愛に執着して離れ難い情。愛情をたちきり得ない義。愛執。〔六十華嚴經、二十五〕不レ能三乾二渴愛着大海一。

〖愛著心〗252（アイヂヤクシン） 佛 恩愛に執着する情。〔寶積經、九十七〕如下蠅見二於吐一而生中愛着心上。

〖愛著解脫〗253（アイヂヤクゲダツ） 恩愛に執著する迷から解放されて、心の自由を得ること。

〖愛著結合〗254（アイヂヤクノケツガフ） 相互の愛著を以て成る人々の結合。

【愛注】255 ai^4 chu^4 御心配。御懸念。

【愛女】256（アイヂヨ） ㊀愛する女。氣に入りの女。〔晏子、雜、下〕景公有二愛女一。〔戰國、楚策〕秦王有二愛女一而美、又簡二擇客中佳麗好翫習レ音者一、以懽從レ之。㊁女を愛する。〔漢書、張禹傳〕老臣有二四男

一女一、愛レ女甚二于男一。

【愛重】257 アイチヨウ かはいがり大切にする。〔韓非子、內儲說上〕衞嗣君重二如耳一、愛二世姬一、而恐下其皆因二愛重一以壅上己也。〔白居易、與二劉蘇州一書〕所二以輒自愛重一。

【愛徵】258 アイチヨウ いつくしみおもつてゐるしるし。愛念の徵驗。〔左氏、昭、十三〕亡無二愛徵一、可レ謂レ無レ德。〔注〕楚人無下愛二念之一者上。〔會箋〕楚人無二愛念之徵驗一也。

【愛寵】259 アイチヨウ ㊀かはいがる。愛幸。〔漢書、杜欽傳〕好憎之心生、則愛寵偏二於一人一。〔魏志、明悼毛皇后傳〕后愛寵日弛。㊁氣に入りの女。おもひめ。〔李商隱雜纂、不レ得レ已〕爲レ妻罵二愛寵一。

【愛直】260 アイチヨク 直を好む。〔元稹、遣興詩〕愛レ直莫レ愛レ夸、愛レ疾莫レ愛レ斜。

【愛珍】261 アイチン 五月に繭を造る蠶。愛蠶(139)を見よ。

【愛弟】262 アイテイ ㊀かはいい弟。愛する弟。〔戰國、趙策〕行レ逐二愛弟一、又兼無二燕秦一、臣竊爲二大王一不レ取也。〔杜甫、奉下送蜀州柏二別駕將二中丞命一赴二江陵一起中居衞尙書太夫人上因示二從弟行軍司馬位一詩〕中丞問レ俗畫熊頻、愛弟傳レ書綵鷁新。〔元稹、和二樂天別レ弟後月夜作一詩〕聞君別二愛弟一、明月照二夜寒一。㊁弟を愛す。〔史記、五帝紀〕舜復事二瞽叟一、愛レ弟彌謹。〔說苑、政理〕善爲レ國者、遇レ民如二父母之愛レ子、兄之愛レ弟、聞二其饑寒一爲レ之哀、見二其勞苦一爲レ之悲。

【愛鼎】263 アイテイ 鼎を惜しむ。〔左氏、昭、十二〕周不レ愛レ鼎、鄭敢愛レ田乎。

【愛溺】264 アイデキ 愛におぼれる。

【愛姪】265 アイテツ 愛する姪。〔後漢書、和熹鄧皇后紀論〕愛姪微愆、髡別謝レ罪。

【愛篆】266 アイテン 篆字を好む。〔蘇舜欽、和二永叔瑯琊山庶子泉陽氷石篆一詩〕遠休二車騎一步二泉側一、酌レ泉愛レ篆移二朝昏一。

【愛田】267 アイデン 田を惜しむ。〔左氏、昭、十二〕周不レ愛レ鼎、鄭敢愛レ田乎。

【愛奴】268 アイド 氣に入りの奴僕。〔元稹、陰山道詩〕從騎愛奴絲布衫。

【愛怒】269 アイド 愛と怒。〔唐書、劉禹錫傳〕王叔文引二禹錫及柳宗元一、與議二禁中一、所レ言必從、凡所二進退一、視二愛怒重輕一。

【愛同】270 アイドウ ㊀父母に事へるに愛情の同じいこと。〔孝經、士章〕資二於事レ父以事レ母、而愛同。㊁唐の高僧。天水の趙氏の子。開業寺に住す。著に五分律疏がある。〔續高僧傳、十四〕。

【愛桐】271 アイドウ 桐を好む。〔李德裕、畫二桐芝鳳扇一賦〕有二嘉穀一而不レ啄、有二喬松一而不レ適、獨美レ露而愛レ桐、非二人閒之羽翮一。

【愛德】272 アイトク 德を好む。〔陸雲、與二楊彥明一書〕行矣愛レ德、往來相聞。

【愛犢】274 アイトク こうしを愛する。〔陸游、詩〕老農愛レ犢行レ泥緩、幼婦憂レ蠶采レ葉忙。

【愛讀】275 アイドク 好んで讀む。愛誦。〔王建、早秋過二龍武李將軍書齋一詩〕就中愛讀英雄傳、欲レ立二功勳一恐レ不レ如。

【愛納】276 アイナフ 愛し納れる。又、快く受け入れられる。〔南齊書、張欣泰傳〕內史子隆深相愛納、數與談宴。

【愛潤】277 アイニン 〘佛〙人が死なうとする時、殊に恩愛の煩惱を起して業種を潤し、未來の苦果を生ぜしめるのをいふ。〔八十華嚴經、三十八〕業田愛潤無明覆。

【愛佞】278 アイネイ 佞人を好む。辯舌たくみに諂ふものを愛する。〔魏書、中山王纂傳〕纂好レ酒愛レ佞、政以レ賄成。

【愛念】279 アイネン めでおもふこと。心に深く愛しおもふ。〔左氏、昭、十三、亡無二愛徵一、可レ謂レ無レ德、注〕楚人無下愛二念之一者上。

【愛馬】280 アイバ ㊀氣にいりのうま。〔五代史、寇彥卿傳〕彥卿善伺二太祖意一、動作皆如レ旨、太祖賜以二所レ乘愛馬一丈烏一。㊁馬を愛する。〔墨子、經說上〕不レ若二愛レ馬者一。〔莊子、人閒世〕夫愛レ馬者以レ筐盛レ矢、以レ蜄盛レ溺。

【愛梅】281 アイバイ 梅花を愛する。〔王冕、詩〕平生愛レ梅頗成レ癖、踏レ雪行穿一雙屐。

〔愛梅軒〕282 アイバイケン 明、顧謙(**12**－**43689**‥67)の室名。

【愛寶】283 アイハウ ㊀愛し重んずること。〔韓非子、解老〕是以智士儉二用其財一則家富、聖人愛二寶其神一則精盛、人君重レ戰二其卒一則民衆。㊁寶物を愛する。愛道(244)を見よ。〔梁簡文帝、七勵〕天不レ愛レ寶、地無レ隱レ瑞。㊂寶物を惜しむ。〔國語、晉語九〕晉陽之圍、張談曰、先主爲二重器一也、爲二國家之難一、盍姑無レ愛二寶於諸侯一乎。

【愛白】284 アイハク 白い色を好む。〔尹文子、大道上〕我愛レ白而憎レ黑。

【愛博】285 アイハク 愛が博い。㊀このみがひろい。〔拾遺記、虞舜〕特取二其愛博多奇之閒一、錄二其廣異宏麗之靡一矣。㊁仁愛の心が廣くゆきわたる。〔韓愈、與二陳給事一書〕夫位益尊則賤者日隔、伺二候於門墻一者、日益進、則愛博而情不レ專。

〔愛博情不レ專〕286 アイヒロクシテジヤウモツパラナラズ 仁愛の情を博く及ぼして私情を專にしないこと。〔韓愈、與二陳給事一書〕伺二候於門牆一者、日益進、則愛博而情不レ專。

【愛縛】287 アイバク 〘佛〙恩愛に繫縛されること。愛繫。〔仁王經、下〕無明愛縛。

【愛發】288 アラチ 越前國の地名。古、三關の一つ。愛發の關。

【愛否】289 アイヒ 惡しきを好む。〔陸龜蒙、偶掇二野蔬一寄二襲美一有レ作詩〕欲レ助二春盤一還愛レ否、不レ妨三瀟灑似二家林一。

【愛婢】290 アイヒ 氣に入りの下婢。

【愛尾】291 アイビ 尾を愛しをしむ。〔埤雅、孔雀〕人雖レ至且愛二其尾一。

【愛媚】292 アイビ いつくしみ。愛撫。〔阮籍、鳩賦〕聊俛仰以逍遙、求二愛媚于今日一。

【愛病】293 ai^{4} ping^{4} 病氣に罹り易い。多病。

【愛冰】294 アイヒヨウ 冰をしむ。〔管子、禁藏〕夫冬日之不レ濫、非レ愛レ冰也。

【愛賓】295 アイヒン 唐、張彥遠(**4**－**9812**‥1016)の字。

【愛憫】296 アイビン 愛しあはれむ。〔蘇滌、宣宗謚議〕俯二閔才彥一、則命二法官諫官之次對一、愛二憫生育一、則禁二三月五月之採捕一。

【愛父】297 アイフ 父を愛する。〔禮、檀弓下〕哭而起則愛レ父也、起而不レ私則遠レ利也。

【愛斧】298 アイフ 斧を大切にする。良工は其の器具を大切にして良作を得るに力めるをいふ。〔班固、擬連珠〕臣聞、公輸愛二其斧一、故能妙二其功一。

【愛附】299 アイフ なづき附く。親しみ從ふ。〔吳志、陳表傳〕士皆愛附。〔唐書、蔡廷玉傳〕廷玉有二沈略一、善與レ人交、內外愛附。

【愛婦】300 アイフ 愛する婦人。氣に入りの婦人。

【愛撫】301 アイブ かはいがりなつける。いつくしみいたはる。〔爾雅、釋言、憮敉撫也、注〕撫、愛撫也。〔宋史、范仲淹傳〕號令明白、愛二撫士卒一。

【愛服】302 アイフク 心からよろこんでしたがふ。悅服。〔陶弘景、與二梁武帝一啓〕臣心本自敬重、今者彌增愛服。

【愛物】303 アイブツ ㊀物を愛する。物は禽獸草木をいふ。〔孟子、盡心上〕君子之於レ物也、云云、親レ親而仁レ民、仁レ民而愛レ物。㊁愛するもの。〔張祜、將レ之二衡陽一道中作詩〕長年無二愛物一、深話少二情人一。

【愛文】304 アイブン 文學を好む。〔南史、劉孝綽傳〕昭明太子、好レ士愛レ文、孝綽與二陳郡殷芸・吳郡陸倕・琅邪王筠・彭城到洽等一同見レ禮。

【愛別】305 アイベツ 〘佛〙㊀わかれをしむ。愛別離苦を見よ。㊁親愛する人と別れること。

〔愛別離苦〕306 アイベツリク 〘佛〙八苦の一つ。父子・兄弟・夫婦等、相愛して居る人との離別をしむ苦しみ。愛人とわかれるなげき。わかれのつらさ。〔析玄記〕常所二親愛一之人、乖違離散、不レ得二共處一、是爲二愛別離苦一。

【愛母】307 アイボ 母を愛する。〔左氏、隱、元〕君子曰、潁考叔純孝也、愛二其母一、施及二莊公一。〔曹植、仁孝論〕禽獸悉知レ愛二其母一、知二其孝一也。

【愛慕】308 アイボ めでしたふ。心からおもひしたふ。愛戀。〔後漢書、卓茂傳〕性寬仁恭愛、鄉黨故舊、雖二行能與レ茂不レ同、而皆愛慕欣欣焉。

【愛法】309 アイホフ 〘佛〙㊀眞理を愛樂（アイゲウ）し執著する意。〔無量壽經、下〕愛法樂法。㊁愛の法、卽ち煩惱の意。法愛。〔止觀、五之六〕愛法卽無明。

【愛網】310 アイマウ 〘佛〙愛情のために束縛されること。〔出曜經〕其有下衆生墮二愛網一者上、必敗二正道一。

【愛末】311 ai^{4} mo^{4} 愛顧を蒙る一人。

【愛民】312 アイミン ㊀民を愛する。〔左氏、襄、十四〕天之愛レ民甚矣、豈其使下一人肆二於民上一、以從二其淫一、而棄中天地之性上。〔穀梁、莊、二十七〕兵車之

會四、未三嘗有二大戰一也、愛レ民也。〔老子、十〕愛レ民治レ國、能無レ爲乎。〔荀子、不苟〕下則能愛レ民。〔戰國、齊策〕王曰、寡人憂レ國愛レ民、固願二得レ士以治一レ之。〔馮衍、車銘〕乘レ車必護レ輪、治レ國必愛レ民。❷新論の篇名。

【愛眠】313 アイミン 睡眠を好む。〔陸游、詩〕得レ飽罷レ揮二求米帖一、愛レ眠新レ著毀二茶文一。

【愛羊】314 アイヤウ 羊を惜しむ。〔論語、八佾〕爾愛二其羊一、我愛二其禮一。

【愛養】315 アイヤウ 愛し養ふ。大事にそだてる。愛育。〔老子、三十四〕功成不二名有一、愛二養萬物一而不レ爲レ主。〔漢書、張騫傳〕單于愛二養之一。

【愛渝】316 アイユ 愛がかはる。愛情がなくなる。〔戰國、楚策〕以レ財交者、財盡而交絕、以レ色交者、華落而愛渝。

【愛熊】317 アイユウ 熊を好む。〔淮南子、說林訓〕愛レ熊而食二之鹽一、愛レ獺而飲二之酒一、雖レ欲レ養レ之非二其道一。

【愛用】318 アイヨウ 愛し用ひる。〔史記、萬石君傳〕慶愛二用之一。

【愛欲】319 アイヨク ❶佛愛は貪愛、親愛。欲は貪欲、樂欲。妻子などを愛する情。〔無量壽經、下〕愛欲榮華、不レ可二常保一。❷戀愛をとげようとする欲。情欲。

〖愛欲海〗320 アイヨクカイ 佛愛欲が心の明を蔽ふことの深いのを海に喩へていふ。〔八十華嚴經、十三〕衆生流二轉愛欲海一。

【愛老】321 アイラウ ❶老人をあはれむ。老人を大事にする。〔說苑、貴德〕今君愛レ老、而恩無レ不レ逮、治レ國之本也。❷樹木の名。槿(**6－15395**)の異稱。〔齊民要術、木菫〕傅玄朝華賦序曰、朝華、麗木也、或謂二之洽容一、或曰二愛老一。

【愛樂】322 アイラク いつくしみたのしむ。〔易、家人、彖曰、父父子子兄兄弟弟夫夫婦婦而家道正正レ家而天下定矣、注〕六親和睦、交相愛樂而家道正、正レ家而天下定矣。〔詩、小雅、鹿鳴、呦呦鹿鳴、疏〕愛二樂其賓客一。〔史記、李將軍傳〕寬緩不レ苛、士以レ此愛レ樂爲レ用。

【愛吏】323 アイリ 役人を愛する。〔詩、豳風、七月、同二我婦子一饁二彼南畝一田畯至喜、箋〕耕者之婦子、倶以レ饟來、至二于南畝之中一、其見二田大夫一、又爲設二酒食一焉、言下勸二其事一又愛中其吏上也。

【愛利】324 アイリ いつくしみ利する。〔墨子、尙賢中〕愛二利萬民一。〔荀子、儒效〕忠信愛利形二於下一。〔韓詩外傳、六〕忠信愛利平二乎下一。

【愛留】325 アイリウ 好んでとどまる。〔韋莊、南省伴直詩〕何事愛留詩客宿、滿庭風雨竹蕭騷。

【愛慮】326 アイリヨ 思索することを好む。〔雲笈七籤〕愛レ視愛レ聽、愛レ言愛レ慮。

【愛力】327 アイリヨク ❶つとめることを好む。〔唐書、魏元忠傳〕古者茆茨採椽以二儉約一、遺二子孫一、所二以愛一レ力也。❷力をしむ。〔禽經〕鴻雁愛レ力、遇レ風迅舉、孔雀愛レ毛、遇レ雨高止。

【愛林】328 アイリン 清、朱修來(**6－14424**··828)の號。

【愛吝】329 アイリン をしむ。愛恡に同じ。

【愛恡】330 アイリン をしむ。しはい。やぶさか。愛悋。貪悋。恡は悋に同じ。〔風俗通、正失〕丹寔好レ士、無レ所二愛恡一也。〔梁昭明太子、同泰僧正講詩〕徒深二愛恡情一。

【愛輪】331 アイリン 佛愛欲の車輪。愛欲は人をのせて六道を輪廻するから車輪に喩へる。〔性靈集、八〕四生之愛輪。

【愛類】332 アイルイ ❶同類を愛する。〔埤雅〕鹿愛二其類一、發二乎天性一。〔禮、三年問〕有知之屬、莫レ不レ知レ愛二其類一。〔禽經〕鴛鴦玄鳥愛二其類一。〔注〕玄鳥、燕也、朝奇而暮レ偶、愛二其類一也。❷呂氏春秋、開春論の篇名。

【愛禮】333 アイレイ 禮を惜しむ。禮を愛する。道德を重んずる。〔論語、八佾〕子貢欲レ去二告朔之餼羊一、子曰、賜也、爾愛二其羊一、我愛二其禮一。〔沈約、上二建闕一表〕詔二匠人一建二茲象闕一、俯藉二愛禮之心一、以伸二子來之願一。〔張九齡、忝官二十年盡在二內職一及レ爲二郡嘗積戀因賦詩〕愛レ禮誰爲レ羊、戀レ主吾猶レ馬。

〖愛禮先生〗334 アイレイセンセイ 明、劉宗道(**2－2224**··1145)の尊稱。

【愛憐】335 アイレン 愛しあはれむ。いつくしむ。愛憫。〔戰國、趙策〕竊愛二憐之一、願令レ得下補二黑衣之數一、以衞中王宮上、昧死以聞。〔史記、趙世家〕丈夫亦愛二憐少子一乎。

【愛蓮】336 アイレン 蓮を愛すること。愛蓮說を見よ。

〖愛蓮說〗337 アイレンノセツ 文章の名。宋、周敦頤の作。周敦頤は蓮を殊の外愛し、蓮の姿を君子の德に比して、その愛衆人に異ることを示した。文は古文眞寶その他に見える。〔周敦頤、愛蓮說〕水陸草木之花、可レ愛者甚蕃、晉陶淵明獨愛レ菊、自二李唐一來、世人甚愛二牡丹一、予獨愛下蓮之出二淤泥一而不レ染、濯二清漣一而不レ妖、中通外直、不レ蔓不レ枝、香遠益清、亭亭淨植、可二遠觀一而不上レ可二褻翫一焉、予謂、菊花之隱逸者也、牡丹花之富貴者也、蓮花之君子者也、噫菊之愛、陶後鮮レ有レ聞、蓮之愛同レ予者何人、牡丹之愛宜乎衆矣。

【愛戀】338 アイレン 愛し慕ふ。こひしたふ。こひする。又、こひ。戀愛。〔曹植、鼙舞歌、聖皇篇〕沈吟有二愛戀一、不レ忍レ聽レ可レ之。

【愛廬】239 アイロ 清、甘禾(**7－21643**··31)の號。

【愛弄】340 アイロウ めでもてあそぶ。〔吳融、閑居有レ作詩〕愛二弄綠苔一魚自躍、慣二偷紅果一鳥無レ聲。

【愛論】341 アイロン 佛愛着の戲論。愛着の迷心から出る種々不正の言論。〔中論疏、一〕明二戲論一有レ二、一者愛論、謂下於二一切法一有中取着心上、二者見論、於二一切法一作二決定解一。

【愛惑】342 アイワク 佛愛欲の惑。惑は眞理に惑ふ義で煩惱をいふ。〔光明文句、三〕八人見地、猶有二愛惑一。

【割レ愛】343 アイヲサク 愛情を制する。又、をしい所をきりあげる。割愛。〔班彪、王命論〕高二四皓之名一、割二肌膚之愛一。〔杜甫、寄二劉峽州伯華使君一詩〕展レ懷詩頌レ魯、割レ愛酒如レ澠。

【愛烏罕】344 アフガン 國の名。アフガニスタン。阿富汗。〔清一統志〕愛烏罕、在二蔥嶺西一、部落最大、乾隆二十七年、其汗愛哈默特沙、遣レ使來朝、貢二刀及四駿馬一。

〖愛祺堂〗345 アイキダウ 清、李因篤(**6－14459**··862)の室名。

【愛經居】346 アイケイキヨ 清、黃以恭(**12－47926**··979)の室名。

【愛吾廬】347 アイゴロ 室名。❶明、徐良傅(**4－10110**··653)の室名。❷清、吳兆寬(**2－3365**··803)の室名。

【愛克レ威】348 アイキニカツ 愛が威に勝る。〔書、胤征〕威克二厥愛一、允濟、愛克二厥威一、允罔レ功。

【愛爾蘭】349 アイルランド 英吉利國の一部。Ireland の音譯。

【愛松古】350 アイショウコ 清、滿洲鑲白旗人。姓は納喇氏。太祖太宗の時、屢〻征伐に從ひ、順治中、佐領を授けらる。李自成を破り、蘇尼特部を征し、姜瓖を平らぐ。官は鑲白旗蒙古副都統。〔清史稿、二百四十八〕・〔國朝耆獻類徵、二百七十〕。

【愛新水】351 アイシンスイ 河の名。胡爾哈河、又、牧丹江といふ。唐の時の忽汗河。金以後は金水河といふ。又、金源ともいふ。牡丹(**7－19933**··16)の❹を見よ。

【愛新泰】352 アイシンタイ 清、滿洲正白旗人。姓は伊爾根覺羅氏。諡は壯勇。乾隆中、金川の征討に隨ひ、臺灣鎭總兵に累擢さる。嘉慶中、蔡牽が臺灣に竄れるや、兵を督し夾擊して之を敗る。〔國朝耆獻類徵、三百二〕。

【愛新保】353 アイシンハウ 清、滿洲正紅旗人。姓は伊爾根覺羅氏。乾隆中、湖南の苗を勦伐し、嘉慶中、湖北の敎匪を攻め、共に功あり。官は川北鎭總兵。〔國朝耆獻類徵、三百十八〕。

【愛星阿】354 アイセイア 清、滿洲正黃旗人。姓は舒穆祿氏。揚古利の孫。諡は敬康。官は侍衞內大臣。吳三桂を緬甸に征す。後、內大臣となる。爵は一等公。〔清史稿、二百四十二〕・〔清史列傳、四〕・〔國朝耆獻類徵、二百六十三〕・〔國朝先正事略、二〕。

【愛擡槓】355 ai^4 t'ai^2 kang^4 議論を好む。

【愛達和】356 アイダホ 地名。アメリカ合衆國西北の州名。Idaho の音譯。

【愛丁堡】357 エディンバラ スコットランドの東部の都會の名。壹丁堡。Edinburgh の音譯。

【愛必達】358 アイヒツタツ 清、滿洲鑲黃旗人。姓は鈕祜祿氏。遇必隆の孫。乾隆中、吏部郞中から、湖廣總督に累官し、伊犂に謫戍せしめられた。書室を大谷山堂といひ、著に黔南識略がある。〔國朝耆獻類徵、一百七十八〕。

【愛墨蟲】359 アイボクチユウ 墨を好む蟲。〔賈子說林〕琴中

蛀蟲嗜二古墨一。

【愛瑪克】360（アイマク） 蒙古部落の最小なものを旗といひ、旗を合はせたものを部、卽ち愛瑪克といふ。［Aimak

【愛鷹山】361（アシタカヤマ） 駿河國の山名。

【愛隆阿】362（アイリユウア） 清、滿洲正黃旗人。姓は覺爾察氏。乾隆中、準噶爾・回部を平らげて、最も功あり。官は伊犂參贊大臣。〔清史稿、三百二十二〕・〔國朝耆獻類徵、八百二十七〕。

【愛窩窩】363（アイワワ） 糯米の粉を圓形に丸め、中に白糖、黑糖、又は花椒を入れ、蒸して造つた菓子。

【愛奧尼亞】364（イオニア） ❶古の地名。小亞細亞の西海岸にあり、イオニア人最初の移住地。❷海の名。地中海の一部、ギリシヤの西方イタリヤの東南海。❸群島の名。イオニヤ海岸の諸島。Ionia の音譯。

【愛音搭穆】365（アイオンタフボク） 清、滿洲鑲鑲旗人。姓は戴佳氏。順治中、屢〻多鐸及び濟爾哈朗等に從つて明を攻め、河南を定め、江寧に克ち、寶慶を攻め、沅州を擊ち、當る所皆克つ。功により一等子に封ぜらる。〔清史稿、二百三十二〕・〔國朝耆獻類徵、二百七十二〕。

【愛記仇兒】366 ai⁴ chi⁴ ch'ou² êrh 執念深い。

【愛及二屋烏一】367（アイハヲクウニオヨブ） 其の人を愛しては、其の屋根の上に居る烏までも愛する。愛を推し及ぼす喩。〔尙書大傳、大戰〕愛レ人者、兼二其屋上之烏一。〔說苑、貴德〕武王克レ殷、召二太公一而問曰、將奈二其士衆一何、太公對曰、臣聞、愛二其人一者、兼二屋上之烏一、憎二其人一者、惡二其餘胥一、咸劉二厥敵一、使レ靡レ有レ餘、何如。

【愛沙尼亞】368（イストニヤ エストニア） 國の名。ヨーロッパ洲北部にあり、其の東はソヴイエート・ロシヤに接する。舊露西亞帝國のバルト海東岸に、第一次世界大戰後建設された新興共和國の一つ。首府はターリン。後、ソ聯邦に加入。Esthonia' Estonia の音譯。

【愛索尼亞】369（イストニヤ エストニア） 愛沙尼亞に同じ。

【愛什拉庫】370（アイシフラコ） 清代、大理寺副の滿洲名。〔稱謂錄、大理寺職官、愛什拉庫〕皇朝通攷、大理寺、云云、副滿字稱爲二愛什拉庫一、漢字稱爲二寺副一。

【愛新覺羅】371（アイシンカクラ アイシンギヨロ） もと滿洲族の一部の名。のち清帝室の姓。覺羅は族の意、愛新は金の意、金人の裔を表はす。〔太祖實錄〕佛庫倫尋產二一男一、生而能言、體貌奇異、及レ長、母告以下吞二朱果一有レ身之故上、因命レ之曰、汝以二愛新覺羅一爲レ姓、名二布庫里雍順一。〔清通志、氏族略、國姓〕愛新覺羅氏、我朝先世、發二祥於長白山一云云、臣等謹按、愛新覺羅氏、國語以レ金爲二愛新一、覺羅乃姓也、滿洲係二滿珠之轉音一、亦稱二曼珠一。〔清稗類鈔〕愛新覺羅、譯言爲二金趙一、愛新譯レ金、覺羅譯レ趙、言二居レ金之趙氏一、說者謂、北宋靖康之難、太祖之裔、擧族北遷、分二置遼左各城一、故金爲二地名一、趙爲二舊姓一、愛新覺羅、實爲下趙宋之後裔居二金京一者上。

【愛小便宜】372 ai⁴ hsiao³ p'ien² i 目前の小利益のみを欲する。

【愛塞克斯】373（エセックス） アングロサクソンの一國。西紀五二七年頃、エスキンにより建設せられ、ロンドンを首府としたと傳へる。又、愛剎格斯に作る。Essex の音譯。

【愛他主義】374（アイタシユギ） すべて他人の幸福を增進するを以て最上の善とする倫理學說。他愛主義・利他主義・利他說ともいふ。利己主義の對。

【愛忘二其醜一】375（アイシテソノシウヲワスル） 相愛する極、其の人の醜い所に氣がつかない。あばたもゑくぼ。

【愛莫二能助一】376（ヲシイカナヨクタスクルナシ） ❶獨行して助ける者の無いのを歎ずる辭。〔詩、大雅、烝民〕維仲山甫擧レ之、愛莫レ助レ之。〔箋〕愛、惜也、仲山甫能獨擧二此德一而行レ之、惜乎莫二能助レ之者一。❷ai⁴ mo⁴ nêng² chu⁴ 愛してゐても力となることが出來ないことをいふ。

【愛無二惡言一】377（アイハアクゲンナシ） 君を愛するものは君に對して惡言を發することはない。〔晏子、外重而異者〕忠不レ避レ危、愛無二惡言一。

【愛羅剎女】378（アイラセツニヨ） 佛愛欲の鬼女。愛欲は佛道修行を妨げるので羅剎女に喩へる。〔付法藏傳、二〕愛羅剎女、常欺二衆生一。

【立レ愛惟親】379（アイヲタツルコレシン） 愛を行ふの道は、先づ親密なものから、漸次疏遠なものに及ぼすべきをいふ。〔書、伊訓〕立レ愛惟親、立レ敬惟長、始二于家邦一、終二于四海一。

【愛爾巴尼亞】380（アルバニア） 歐洲、バルカン半島の王國。首府はチラナ。イタリヤの保護國であつたが、第二世界大戰後獨立した。Albania の音譯。

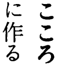
【愛猷識理達臘】381（アイユシリタラ） 元の昭宗。順帝の太子。諡は昭宗。明の太祖が應昌に克つや、愛猷識理達臘、數十騎を以て遁げ去り、帝位に和林に卽く。明の白登・保德・河曲を攻むるも、屢〻守將に敗られ、尋いで卒す。〔新元史、二十六〕。

【可レ愛非レ君可レ畏非レ民】382（アイスベキハキミニアラズヤ オソルベキハタミニアラズヤ） 人君は尊嚴で民命の繫るところであるから之を愛すべしとて民を戒め、人民は卑賤ではあるが、君、道を失へば之に叛くが故に畏るべしとて君を戒めた語。〔書、大禹謨〕可レ愛非レ君、可レ畏非レ民、衆非二元后一何戴、后非レ衆罔二與守レ邦。〔傳〕民以レ君爲レ命、故可レ愛、君失レ道、民叛レ之、故可レ畏。

【㥦】
10948

ケウ 愜(**4**－**10949**)に同じ。〔廣韻〕愜、㥦、上同。

【愜】
10949


小篆

ケフ 〔集韻〕詰叶切 葉 ㄑㄧㄝˋ ch'ieh⁴

❶**こころよい**。もと㥦(**4**－**10948**)に作る。〔說文〕㥦、快也、从レ心匧聲。〔段注〕今作レ愜。〔一切經音義、二二〕愜、快也。〔漢書、文帝紀〕天下人民、未レ有二愜志一。〔注〕師古曰、愜、快也。❷**みちる**。あきたる。かなふ。〔漢書、文帝紀、注〕應劭曰、愜、滿也。❸**よい**。〔廣雅、釋詁三〕愜、可也。❹**したがふ**。〔廣韻〕愜、心伏也。❺**おそれるさま**。愜愜(2)を見よ。❻或は悏(**4**－**10650**)・婡(**3**－**6280**)に作る。〔集韻〕㥦、或作二悏・婡一、亦書作レ愜。

【愜快】1（ケフクワイ） こころよい。又、あきたる。あきたらす。〔漢書、西域上、罽賓國傳〕㥦二快其求一。

【愜愜】2（ケフケフ） おそれて息を殺すさま。〔潘岳、馬汧督誄〕愜愜窮城、氣若レ無レ假。〔注〕濟曰、愜愜、小息皃。

【愜志】3（ケフシ） ❶志を滿足させる。〔戰國、燕策〕先王以爲レ愜二于志一。❷あきたる心。〔漢書、文帝紀〕天下人民、未レ有二愜志一。〔注〕應劭曰、愜、滿也、師古曰、愜、快也。

【愜情】4（ケフジヤウ） 氣持を滿足させる。滿足に思ふ。愜心に同じ。〔張九齡、使還二湘水一詩〕于レ役已彌レ歲、言旋令レ愜レ情。

【愜心】5（ケフシン） 快しとする。又、心に滿足する。〔後漢書、楊彪傳〕天下莫レ不レ愜レ心。〔陸機、文賦〕愜レ心者貴レ當。〔注〕善曰、愜、猶レ快也。

【愜當】6（ケフタウ） 其の事に快く當る。其の分によく適ふ。甚だよく道理に當る。〔顏氏家訓、文章〕一事愜當、一句清巧。〔北史、高構傳〕我讀二卿判數徧一、詞理愜當、意所レ不レ能レ及也。

【愜伯】7（ケフハク） 南齊、章繼伯(**8**－**25761**・・190)の一名。

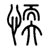
【㥟】
10950

［一］エン 〔集韻〕隱㦲切 阮

［二］エン 〔集韻〕於殄切 銑

［一］［二］㥟惼は、こころがせまい。〔集韻〕㥟、㥟惼、性狹。

【愞】
10951


小篆（段注本）

［一］ゼン ネン 〔集韻〕乳兗切 銑

［二］ダ ナ 〔集韻〕奴臥切 箇

［三］ジン ニン 〔集韻〕乳尹切 軫

［四］ジユ ニユ 〔集韻〕汝朱切 虞

［五］ダン ナン 〔集韻〕奴亂切 翰

［一］❶**劣つてよわい**。〔集韻〕愞、選愞、劣弱也。❷或は懦(**4**－**11**

390)・偄(1－831)・㥦(4－10487)に作る。〔集韻〕愞、或作二懦・偄・㥦一。［二］❶よわい。〔字彙〕愞、怯也。〔漢書、武帝紀〕秋匈奴入二雁門一、太守坐二畏愞一棄市。❷或は偄(1－831)・懦(4－11390)・媆(9－28881)に作る。〔集韻〕愞、或从レ人、从レ需、亦作レ媆。［三］劣つてよわいさま。〔集韻〕愞、劣弱皃。［四］よわい。懦(4－11390)に同じ。〔集韻〕懦、說文、駑弱也、或作レ愞。［五］よわい。偄(1－831)に同じ。〔集韻〕偄、說文、弱也、或从レ心。

參考 ❶段玉裁、懦を此の字に改む。〔說文〕愞、駑弱也、从レ心耎聲。〔段注〕此篆各本作レ懦、从レ心需聲、人朱切、乃淺人所レ改、今正、愞與二人部偄一音義皆同、弱也、本乃亂切、音轉爲二乃過切一。❷懦(4－11390)を見よ。

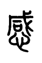
【惐】
10952

［一］ケン 〔集韻〕丘廉切 鹽
［二］タン テン 〔集韻〕湛咸切 咸
［三］カン 〔集韻〕口減切 豏

［一］［二］**こころがおちつかない**。惐悑。〔集韻〕惐、惐悑、意不レ安皃。［三］**心がおちつかない**。或は㑢(1－849)に作る。〔集韻〕惐、意不レ安也、或从レ人。

【感】
10953

［一］カン コン 〔集韻〕古禫切 ㄍㄢˇ kan³ 感
［二］カン ゴン 〔集韻〕胡紺切 勘


小篆

［一］❶**心うごく**。心をうごかす。物に應じて情がおこる。〔說文〕感、動二人心一也、从レ心咸聲。〔禮、樂記〕其感レ人深。〔漢書、游俠、郭解傳〕少時陰賊感槩。〔注〕師古曰、感槩、謂下感二意氣一而立中節槩上也。❷**さとる**。〔管子、小稱〕匠人有三以感二斤欘一。〔注〕感、謂下深得二其妙一、有中應二於心一者上也。❸**おもふ**。〔何晏、景福殿賦〕感二物衆一而思深。〔注〕善曰、感、猶レ思也。❹**ありがたく思ふ**。恩にきる。〔張華、答二何劭一詩〕是用感二嘉貺一。〔注〕善曰、感、猶レ荷也。❺**いたむ**。うれへる。〔廣雅、釋詁一〕感、傷也。❻**おもひ**。かんじ。〔陸機、愍思賦序〕以紓二慘惻之感一。〔江淹、別賦〕百感悽惻。❼**知覺**。感覺。〔唐書、劉迺傳〕口舌之感。❽**うごく**。こたへる。感應する。〔呂覽、圜道〕爲二其感而必知一也。〔淮南子、天文訓〕感而爲レ雷。〔注〕感、動也。〔淮南子、說山訓〕物之尤、必有レ所レ感。〔注〕感、動也。〔素問、痺論〕復感二于邪一。〔注〕感、謂レ應也。❾**うごかす**。〔詩、召南、野有死麕〕無レ感二我帨一兮。〔傳〕感、動也。❿**おこる**。〔淮南子、脩務訓〕故在レ所二以感一。〔注〕感、發也。⓫**ふれる**。〔莊子、山木〕感二周之顙一。〔釋文〕感、觸也。〔馬融、長笛賦〕感二廻飇一而將レ穨。〔注〕善曰、感、觸也。⓬**まどはす**。〔呂覽、有度〕物感レ之也。〔注〕感、惑也。⓭**一百六韻の一**。上聲第二十七。⓮**諡**。〔逸周書、諡法解〕滿死多窮曰レ感。［二］**うらむ**。**うらみ**。憾(4－11312)に同じ。〔集韻〕憾、恨也、或省。〔左氏、宣、二〕以二其私感一。〔釋文〕感、本又作レ憾。

【感移】1 カンイ 感じ移す。心を動かす。〔漢書、劉向傳〕營二惑耳目一、感二移心意一。

【感鬱】2 カンウツ 物に感じむすぼれた氣持。〔唐書、柳宗元傳〕自放二山澤閒一、其堙厄感鬱、一寓二諸文一。

【感咽】3 カンエツ 感じむせぶ。心にしみて泣きむせぶ。〔任昉、王文憲集序〕因便感咽、若レ不二自勝一。〔徐陵、陳公九錫策文〕屈レ禮交盟、人祇感咽。

【感悅】4 カンエツ 心に感じよろこぶ。心に深くよろこぶ。〔後漢書、鄧禹傳〕父老童穉、垂髮戴白、滿二其車下一、莫レ不二感悅一。〔魏志、陳留王奐傳〕既使二興等懷レ忠感悅一。〔權德輿、送二裴中丞一序〕失二其理一則蕭然愁擾、得二其和一則懽然感悅。〔資治通鑑、宋紀〕(文帝、元嘉八年)魏主賜二衣服一而遣レ之、柔然感悅。

【感應】5 カンオウ ❶こたへしたがふ。うごき應ずる。感じて響應する。〔易、咸〕二氣感應、以相與。〔後漢書、張綱傳〕姦謀自消、和氣感應。❷佛衆生に善根の感動する機緣があれば、佛力が之に應じ來るをいふ。〔三藏法數、三十七〕感卽衆生、應卽佛也、謂下衆生能以二圓機一感レ佛、佛卽以二妙應一應レ之、如丙水不二上升一、月不二下降一、而一月普現乙衆水甲。❸導體が磁石・發電體等に接近して電氣又は磁氣を感じ起すこと。

【感應道交】6 カンオウダウカウ 佛衆生の所感と佛の能應と相通じ合致するをいふ。〔法華文句、六、下〕始於二今日一、感應道交。

【感音】7 カンオン ❶音に感ずる。〔向秀、思舊賦序〕鄰人有二吹レ笛者一、發聲寥亮、追二思曩昔遊宴之好一、感レ音而歎。❷kan³ yin¹ 兩音叉が相對する時、甲乙の二音が互に共鳴すること。

【感恩】8 カンオン ❶恩に感ずる。めぐみをありがたく感ずる。〔詩、魯頌、泮水〕懷二我好音一。〔箋〕言、鴞恒惡鳴、今來止二於泮水之木上一、食二其桑黮一、爲レ此之故、故改二其鳴一、歸二就我一以二善音一、喩下人感二於恩惠一則化上レ之。〔潘岳、關中詩〕觀遂虎奮、感レ恩輸レ力。〔韓愈、上二張僕射一書〕雖下日受二千金之賜一、一歲九遷中其官上、感レ恩則有レ之矣、將下以稱二于天下一、曰上レ知レ己、知レ己則未也。〔海錄碎事、人事、報德門、萬感恩〕唯言、千感恩、萬感恩。❷縣名。隋、置く。漢の九龍縣の地。今、廣東省昌江縣の南。海南島の西邊。〔讀史方輿紀要、瓊州府、崖州〕感恩縣、漢置二九龍縣一、屬二儋耳郡一、後廢、隋始置二感恩縣一、屬二崖州一、唐屬二儋州一、宋初因レ之、云云、明初屬二儋州一、正統五年、改二今屬一。〔清史稿、地理志〕廣東、崖州直隸州、縣四、感恩。

【感恩多】9 カンオンタ 曲調の名。〔李羣玉、留二別馬使君一詩〕惟有三管弦知二客意一、分明吹出感恩多。

【感荷】10 カンカ めぐみに感じてありがたく思ふ。受けた恩を深く心に感ずる。感激する。感佩。感銘。感戴。〔北史、魏陽平王世遵傳〕有二南戍主妻一、三月三日遊二戲洹水側一、均輒遣二部曲一掠取、世遵聞レ之、責レ均、遂移二還本戍一、吳人感荷。〔韓愈、贈二張籍一詩〕文章紹編剗、感二荷君子德一。〔蘇轍、爲二兄軾下レ獄上書〕軾感二荷恩貸一、自レ此深自悔咎、不二敢復有一レ所レ爲。

【感愾】11 カンガイ 感じなげく。恨み怒る。〔江淹、雜體、陸平原羈官詩〕遊子易二感愾一、躑躅還自憐。

【感慨】12 カンガイ 感じなげく。又、身にしみて感ずるなげき。憤慨。〔史記、季布傳贊〕夫婢妾賤人、感慨而自殺者、非二能勇一也。〔後漢書、應劭傳〕僕妾感慨而致レ死者、非二能義勇一、顧無レ慮耳。〔阮籍、詠懷詩〕感慨懷二辛酸一、怨毒常苦多。〔劉楨、贈二五官中郎將一詩〕秋日多二悲懷一、感慨以長歎。

【感慨泣下】13 カンガイキフカ 感じなげいて涙を流す。〔唐書、崔咸傳〕咸素有二高世志一、閒二遊終南山一、乘レ月吟嘯、至二感慨泣下一。

【感慨殺レ身者易】14 カンガイミヲコロスハヤスシ 一時の怒に乘じて死ぬことは、敢てむづかしい事ではない。慷慨赴レ死易。〔近思錄、政事〕感慨殺レ身者易、從容就レ義者難。

【感慨悲歌之士】15 カンガイヒカノシ 國を憂へ世を思ふ餘り悲しい歌を作つて、其のやるせない心をもらす者。燕趙悲歌之士。〔韓愈、送二董邵南一序〕燕趙古稱レ多二感慨悲歌之士一。

【感槩】16 カンガイ 強く心を打たれて節を立てる。感慨。感慨に同じ。〔漢書、季布傳贊〕夫婢妾賤人、感槩而自殺。〔注〕師古曰、感槩、謂三感念局狹爲二小節一。〔漢書、游俠、郭解傳〕解爲レ人靜悍、不レ飮レ酒、少時陰賊、感槩不レ快レ意、所レ殺甚衆。〔注〕師古曰、感慨、謂下其感二意氣一而立中節槩上。〔王先謙補注〕史記、槩作レ慨、感槩卽感慨也、顏作二節槩一解、非、史記無二感字一、蓋脫。〔後漢書、王龔傳〕纖微感槩、輒引分決、是以舊典、不レ有二大罪一、不レ至二重問一。

【感亨】17（カンカウ） 感通。まごころが通ずる。心持がとどく。〔元田東野、明治孝節錄序〕其感亨淡洽也、六合一和、篤恭而治矣。

【感哽】18（カンカウ） 感動してかなしみむせぶ。哽は、むせぶ。〔隋書、煬帝紀上〕念レ茲在レ茲、興言感哽。

【感革】19（カンカク） 感じあらたまる。〔後漢書、霍諝傳〕幽靈感革、天應枯旱。

【感格】20（カンカク） 感じいたる。〔中庸、詩曰奏假無レ言、章句〕言三進而感二格於神明之際一。〔琵琶記、感格墳成〕孝心感格動二陰兵一。

【感覺】21（カンカク） 外界の刺戟を心に感受すること。神經の末端に觸れた刺戟が、神經纖維を傳はつて腦の中樞に達して起る意識現象。sensation の譯語。

〖感覺器〗22（カンカクキ） 動物の身體の表面にあつて外界の刺戟を感受する器官。觸官・味官・嗅官・聽官・視官の稱。感官。

〖感覺論〗23（カンカクロン） 人間は生れながらにして理性を有するものではなく、外界の刺戟が腦に傳へられて感覺となり、其の感覺が蓄積せられて知識の根源となるといふ議論。

〖感覺神經〗24（カンカクシンケイ） 感覺器の受けた外界の刺戟を神經中樞に傳達する神經。

〖感覺中樞〗25（カンカクチユウスウ） 感覺を司る神經の本幹で、大腦・延髓・脊髓の總稱。

〖感覺的描寫〗26（カンカクテキベウシヤ） 感覺を主とし、感覺に關する方面を忠實に描寫すること。

【感愕】27（カンガク） 心に感じおどろく。〔人物志、八觀〕徵二見于外一、不レ可二奄違一、雖レ欲レ違レ之、精色不レ從、感愕以明、雖レ變可レ知。

【感喜】28（カンキ） 感じよろこぶ。感悅。〔譚子化書、感喜〕感喜在レ心、由二物之有一レ毒、由二蓬之藏一レ火、不レ可レ不レ慮。〔日本政記、正親町天皇論〕中二其意一、足三以感二喜之一。

【感喟】29（カンキ） 心に感じてなげくこと。

【感愧】30（カンキ） 感じはぢる。他の德に感じて己の及ばざるをはぢる。〔晉書、孫晷傳〕鄉鄰感愧。

【感舊】31（カンキウ） 昔を思ひ出して心に感ずる。念舊。〔後漢書、荀彧傳〕義士有二存本之思一、兆人懷二感舊之哀一。〔傅亮、爲二宋公一至二洛陽一謁二五陵一表〕感舊永懷、痛心在レ目。

〖感舊集〗32（カンキウシフ） 書名。十六卷。清、王士禎撰。師友の詩を輯めたもの。

【感泣】33（カンキフ） 深く心に感じ泣く。又、よろこび極つて泣く。うれしなきをする。感涕。〔宋史、蘇軾傳〕宣仁后與二哲宗一亦泣、左右皆感泣。

【感逆】34（カンギヤク） 感じむかへる。〔後漢書、安帝紀〕宣二流風化一、而感二逆陰陽一。

【感虛】35（カンキヨ） 論衡の篇名。

【感興】36（カンキヨウ） 物に感じて興を催すこと。興味を感ずること。おもしろみ。興味。〔劉基、雨中寄二李山甫一詩〕感興詩成聊自遣、忘憂花好爲レ誰開。

〖感興詩〗37（カンキヨウシ） 感興のわくままに作つた詩。唐の鮑防、宋の朱熹等にこの篇がある。感遇詩(40)を見よ。

【感吟】38（カンギン） ㊀物事に感じて作つた詩歌。㊁感嘆して人の作つた詩歌をよみあげること。又、感嘆してよみあげるに足る傑作の歌や俳諧。秀吟。

【感遇】39（カングウ） ㊀恩遇に感ずる。〔江淹、雜體、盧郎中感交詩〕羈旅去二舊鄉一、感遇喩二琴瑟一。〔注〕銑曰、感二琨恩遇一、過二於琴瑟之和一。㊁人世の遇不遇を思ふこと。〔張九齡、感遇詩、注〕有レ感二君臣遭遇之際一而作レ興也、或云、寓通、感二於心一而寓二之言一、非也。

〖感遇詩〗40（カングウシ） 不遇を詠じた詩。唐の陳子昂にこの作がある。〔舊唐書、白居易傳〕居易與二元稹一書曰、唐興二百年、其閒詩人不レ可二勝數一、所レ可レ擧者、陳子昂有二感遇詩二十首一、鮑防感興詩十六首。

【感化】41（カンクワ） 感じて心がかはりうつる。わるい者が善い者に感じ動かされて善くなること。自然に善に移らせる。〔後漢書、陳禪傳〕禪於レ學行レ禮、爲說二道義一、以感二化之一。〔晉書、華譚傳〕今誠風教大同、四海無レ虞、人皆感化、去レ邪從レ正。〔嵇康、琴賦序〕美二其感化一、則以二垂涕一爲レ貴。

〖感化事業〗42（カンクワジゲフ） 犯罪、又は不良行爲に傾いた者、特に年少者を保護教育して、其の性行から脫せしめることを目的とする一種の社會事業。

【感悔】43（カンクワイ） 心に感じくやむ。いたく感じて悔む。〔唐書、陳子昂傳〕他日入二鄉校一感悔、卽痛修飭。

【感會】44（カンクワイ） ㊀折よく出會ふ。〔後漢書、梁統傳論〕夫宰相運二動樞極一、感二會天人一。〔范曄、後漢書二十八將傳論〕然咸能感二會風雲一、奮二其智勇一。㊁善い運命。〔晉書、顧紀賀薛等傳論〕官成名立、光レ國榮レ家、非二惟感會所一レ鍾。

【感懷】45（カンクワイ） 心に感じおもふ。又、おもひ。感想。〔劉長卿、感懷詩〕秋風落葉正堪レ悲、黃菊殘華欲レ待レ誰。〔杜牧、感懷詩〕聊書二感懷韻一、焚レ之遺二賈生一。

【感光】46（カンクワウ） 物質が光の作用を感受し光化學的變化を起す現象をいふ。

〖感光性〗47（カンクワウセイ） 物質が光の作用を感受して光化學的の變化を示す性質。

【感官】48（カンクワン） 外界の刺戟を受けて腦に傳へる器官。耳・目・舌・鼻・皮膚の類。感覺器。

【感激】49（カンゲキ） 心に感じ氣の振ふこと。深く心に感じて奮ひ起つこと。〔漢書、淮南厲王長傳〕以二厲王遷死一感二激安一。〔後漢書、蔡邕傳〕感激忘レ身。〔諸葛亮、前出師表〕由レ是感激、遂許二先帝一以二馳驅一。

〖感激士〗50（カンゲキノシ） 深く心に感動し振ひたつ人。〔高適、李雲南征レ蠻詩〕肅穆廟堂上、深沈節制雄、遂令二感激士、得レ見二非常功一。

【感結】51（カンケツ） 物事に感じて心が結ぼれること。心がふさいでのびのびしないこと。〔王逸、琴思楚歌〕憂懷感結重嘆噫。

【感驗】52（カンケン） 感じ。しるし。感應靈驗。〔後漢書、西域傳論〕感驗明顯、則事出二天外一。

【感悟】53（カンゴ） 感じさとる。感寤。〔漢書、楚元王傳〕上感悟、下レ詔賜二望之爵關內侯一。〔後漢書、馬皇后紀〕帝感悟、夜起徬徨、爲思レ所レ納、卒多有レ所二降有一。〔後漢書、丁鴻傳〕鴻感悟垂レ涕歎息。〔蘇洵、送三石昌言爲二北使一引〕吾日以壯大、乃能感悟、摧折復學。

【感寤】54（カンゴ） 感じさとる。感悟。〔史記、晏嬰傳〕夫子既以感寤而贖レ我。〔漢書、武五子、戾太子據傳〕天子感寤。

【感刻】55 kan^3 k'ê^1 感銘する。

【感忽】56（カンコツ） うつとりする。恍惚。又、動くことの速かな意。感忽悠闇を見よ。

〖感忽悠闇〗57（カンコツイウアン） 兵が神速で、敵をして測り知らしめない喩。感忽は恍惚の意。又、動くことの速かな意。悠闇は遠くて明かでないさま。又、神祕の意。〔荀子、議兵〕臨武君曰、不レ然、兵之所レ貴者、埶利也、所レ行者、變詐也、善用レ兵者、感忽悠闇、莫レ知三其所二從出一。〔注〕感忽悠闇、皆謂二倏忽之閒一也、感忽、恍忽也、悠闇、遠視不二分辨一之貌、莫レ知レ所二從出一、謂下若二九天之上、九地之下一、使中敵人不上レ測、魯連子曰、弃二感忽之恥一、立二累世之功一也。〔集解〕郝懿行曰、云云、感忽、搖疾之意、悠闇、神祕之意、兵貴二神速一、如二處女脫兔之喩一也。

【感恨】58（カンコン） 心に感じうらむ。心を動かしうらむ。〔漢書、杜鄴傳〕內無二感恨之隙一、外無二侵侮之羞一。

【感想】59（カンサウ） 感じおもふ。心を動かしおもひを起す。物に感じて心に起つた思想。又、おもひ。所感。所懷。〔晉書、賈謐傳〕女大感想發二于寤寐一。

【感愴】60（カンサウ・カンシヤウ） 感じいたむ。心をうごかしいためる。〔後漢書、何皇后紀〕聞レ命感愴。〔蜀志、蔣琬傳〕聞レ命感愴。

【感慙】61（カンザン） 心に感じはぢる。〔後漢書、列女、姜詩妻傳〕姑感慙呼還、恩養愈謹。

【感思】62（カンシ） 心に感じ思ふこと。〔南史、張敷傳〕每レ至二感思一、輒開レ笥流涕。

【感詞】63（カンシ） 文法用語。感動詞に同じ。〔小學日本文典〕。

【感耳】64（カンジ） 耳に感ずる。〔漢書、敍傳上〕感耳之聲、合二之律度一。

【感事】65（カンジ） 事に感ずる。〔元好問、感レ事詩〕壯事本無レ取、老謀何所レ成。

【感時】66（カンジ） 時勢に感ずる。時勢に心をうごかす。〔杜甫、春望詩〕感レ時花濺レ淚、恨レ別鳥驚レ心。

【感疾】67（カンシツ） 疾に冐される。病氣にかかる。〔宋史、朱光庭傳〕遂感レ疾、猶自力視レ事。

【感戢】68 kan^3 chi^2 感謝する。

【感謝】69 カンシヤ　ありがたく感じて御禮をいふこと。〔南史、庾登之傳〕惟言卽日恭到、初無㆓感謝之言㆒。

【感傷】70 カンシヤウ　物事に刺戟されて心が感じいたむ。物に感じて心がいたむ。〔詩、陳風、澤陂序〕言㆘靈公君臣淫㆓於其國㆒、男女相說、憂思感傷㆖焉。〔漢書、史丹傳〕涕泣感傷。〔梁武帝、孝思賦〕對㆓樂事㆒而無㆑歡、乃觸目而感傷。

【感賞】71 カンシヤウ　㊀感心してほめる。㊁善行をほめて賜はる褒美。

【感狀】72 カンジヤウ　軍功ある者に對し主將が其の功をほめて與へる賞狀。〔新田由良傳記〕成繁公御代に御感狀被㆑下候者。

【感情】73 カンジヤウ　㊀物事に感じ、心をうごかす。又、感じ動く心。こころもち。氣持。〔劉伶、酒德頌〕不㆑覺㆓寒暑之切㆑肌、利欲之感㆑情。㊁感覺や觀念に伴つて生ずる苦・樂・快・不快の意識現象。㊂情誼。

【感受】74 カンジユ　㊀心理學用語。感覺神經によつて外界の刺戟を知得する心のはたらき。㊁感染する。

【感受性】75 カンジユセイ　感覺の能力。又、直觀の力。感性。

【感授】76 カンジユ　感じてさづける。〔魏收、繕㆓寫三部一切經㆒願文〕隨㆑風感授。

【感書】77 カンシヨ　感狀(72)に同じ。〔籾井日記〕兩御屋形よりの感書を下だされて候衆も。

【感觸】78 カンシヨク　㊀外界の刺戟にふれて心に感ずること。又、外物にふれて起る感覺。〔顏氏家訓、風操〕有㆑所㆓感觸㆒。〔宋史、邵雍傳〕雍知慮絕㆑人、遇㆑事能前知、學者因㆓雍之前知㆒謂、雍於㆔凡物聲氣之所㆓感觸㆒、輒以㆓其動㆒而推㆓其變㆒焉。㊁てざはり。

【感心】79 カンシン　心に浸みこんで深く思ふ。感じ入る。感服。〔漢書、禮樂志〕詩語足㆓以感㆑心。

【感性】80 カンセイ　感覺の能力。直觀の力。感受性。

【感切】81 カンセツ　痛切に感ずること。〔蜀志、許慈傳〕初以㆓辭義㆒相難、終以㆓刀杖㆒相屈、用感㆓切之㆒。

【感節】82 カンセツ　心にふかく感ずる。〔曹植、冬至獻㆓襪履㆒表〕履長納㆑慶、不㆑勝㆓感節㆒。

【感染】83 カンセン　惡習、又は病氣がうつること。

【感惻】84 カンソク　感じいたむ。〔王安石、題㆓張忠定書㆒〕竊觀㆓遺蹟㆒、不㆑勝㆓感惻之至㆒。

【感戴】85 カンタイ　ありがたくおしいただく。恩に感じて尊奉する。欣戴。〔魏志、毋丘儉傳〕欽亦感戴、投㆑心無㆑二。〔吳志、朱桓傳〕士民感㆓戴之㆒。〔白居易、忠州刺史謝上表〕殊恩特獎、非次昇遷、感戴驚惶、隕越無㆑地。

【感悼】86 カンタウ　感じいたむ。心を動かしかなしむ。〔吳志、闞澤傳〕權痛惜感悼、食不㆑進者數日。〔王彪之、詩〕絲染墨悲歎、路岐楊感悼。

【感盪】87 カンタウ　感じうごかす。とろかす。〔嵇康、琴賦序〕誠可㆘以感㆓盪心志㆒、而發㆗洩幽情㆖矣。

【感達】88 カンタツ　感じ達する。隈なく感ぜしめる。〔魏收、冊㆓命齊王九錫㆒冊文〕王孝悌之至、通㆓於神明㆒、率㆑民興㆑行、感㆓達區宇㆒。

【感歎】89 カンタン　深く感じ、ためいきをつく。いたく感ずる。心を動かされて大息する。感嘆。〔張九齡、感遇詩〕感歎長如㆑此、使㆓我心悠悠㆒。〔李白、峴山懷古詩〕感歎發㆓秋興㆒、長松鳴㆓夜風㆒。〔高適、邯鄲少年行〕以㆑茲感歎辭㆓舊遊㆒、更於㆓時事㆒無㆑所㆑求。

【感歎詞】90 カンタンシ　文法用語。喜怒哀樂等の感情をあらはす語。感動詞。歎詞。〔馬氏文通、歎字〕喜怒哀樂之未㆑發、心至平也、有㆓感而應㆒、心斯波矣、波斯不㆑平矣、其感之輕者、心有㆑主焉、於㆑是因㆑所㆑感而成㆑意、此諸字之所㆑記也、感之猛者心無㆑主焉、於㆑是隨㆑所㆑感而爲㆑聲、此歎字之所㆑鳴也、歎字者、所㆔以鳴㆓心中猝然之感發㆒、而爲㆑不㆑及㆓轉念之聲㆒也。

【感致】91 カンチ　心をうごかす。〔范曄、逸民傳論〕長往之軌未㆑殊、感致之數匪㆑一。

【感通】92 カンツウ　心にひびき應じて通ずること。〔易、繫辭上〕寂然不㆑動、感而遂通㆓天下之故㆒、非㆓天下之至神㆒、其孰能與㆓於此㆒。〔疏〕有㆑感必應、萬事皆通、故、謂㆓事故㆒言㆑通㆓天下萬事㆒也。〔後漢書、章帝紀〕至德感㆓通於神明㆒。〔魏志、陳思王植傳〕不㆑足㆓以感通㆒哉。〔韓愈、謁㆓衡岳廟㆒云云詩〕潛㆑心默禱若㆑有㆑應、豈非㆓正直能感通㆒。

【感通寺】93 カンツウジ　寺の名。雲南省大理縣の南、蒼山第四峯の中腹。漢代、摩騰竺法蘭が天竺から來た時に建てたと傳へる。〔雲南通志〕感通寺、寺在㆓大理府太和縣城南十二里㆒、漢時摩騰竺法蘭由㆓天竺㆒入㆓中國㆒時建、明太祖有㆓御製詩十八章㆒、賜㆓僧無極㆒、今存。

【感痛】94 カンツウ　感じいたむ。〔後漢書、王符傳〕上天感痛致㆑災。

【感涕】95 カンテイ　心に感動してなく。又、感激の涙。〔舊唐書、李晟傳〕宮闈咸肅、抃舞感涕。〔陳子昂、登㆓薊丘樓㆒送㆓賈兵曹入㆑都詩〕孤負平生願、感涕下霑㆑襟。

【感徹】96 カンテツ　我がまことが先方に通ずる。人の心を動かし誠を通ずる。誠意が他の物に感じ通ずる。感通。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕感㆓徹天地㆒、當㆑蒙㆓福祚㆒。〔後漢書、獨行、諒輔傳〕爲㆑民祈㆑福、精誠懇到、未㆑有㆓感徹㆒。

【感天】97 カンテン　天を感ぜしめる。〔阮瑀、箏賦〕清者感㆑天、濁者合㆑地、五聲並用、動靜簡易。〔元曲、竇娥寃〕感㆑天動㆑地竇娥寃。

【感天后】98 カンテンコウ　西遼の德宗の后。姓は蕭。名は塔不煙。德宗が歿するにあたり、子の夷列、年幼く、ために皇后に遺命して國政を秉らしめた。乃ち后は感天皇后と號して制を稱し、咸清と改元した。時に宋の紹興六年に當る。在位六年。〔遼史、三十〕。

【感篆】99 カンテン　心に銘じて永く忘れないこと。篆文で刻する義に取る。銘篆。〔呂覽、愼勢〕功名著㆓乎槃盂㆒、銘篆著㆓乎壺鑑㆒。〔顧雲、謝㆓徐學士㆒啓〕才微㆓往彥㆒、遇倍㆓昔時㆒、仰戴㆓恩榮㆒、已增㆓銘篆㆒。

【感電】100 カンデン　㊀電のやうに感ずる。感應する。〔宋史、樂志十〕感電靈區、誕聖鴻懿。㊁電氣に感ずる。電流に感ずる。㊂kan^3 tien^4 二十七日附の電報。

【感度】101 カンド　感ずる度合。

【感怒】102 カンド　感激憤怒する。心を動かし怒らせる。〔戰國、秦策〕將㆑見㆓昭王㆒、使㆔人宣言以感㆓怒應侯㆒曰、燕客蔡澤、天下駿雄弘辯之士也。〔史記、張儀傳〕蘇君憂㆔秦伐㆑趙敗㆓從約㆒、以爲、非㆑君莫㆔能得㆓秦柄㆒、故感㆓怒君㆒、使㆔臣陰奉㆓給君資㆒、盡蘇君之計謀。

【感藤】103 カントウ　草の名。あまちやづる。甘藤の異名。〔本草、甘藤〕釋名、甜藤、感藤、時珍曰、甘・感音相近也、又有㆓甜藤・甘露藤㆒。

【感動】104 カンドウ　物事に感じて心がうごく。又、人の心を感ぜしめ動かす。〔禮、樂記〕使㆕其曲直繁瘠、廉肉節奏、足㆔以感㆓動人之善心㆒而已矣。〔荀子、樂論〕足㆔以感㆓動人之善心㆒。〔淮南子、要略〕耳目之聰明、精神之感動。〔後漢書、江革傳〕辭氣愿款、有㆘足㆔感㆓動人㆒者㆖。

【感動詞】105 カンドウシ　文法用語。品詞の一つ。感動の聲を表はす單語。感歎詞(90)に同じ。

【感慟】106 カンドウ　心に感じなげく。哀慟。〔列女傳、母儀、衞姑定姜傳〕悲心感慟。〔論衡、感虛〕對㆓嚮之㆒者、悽愴感慟也。

【感得】107 カントク　㊀感ずる。感づく。㊁神佛にまごころが通じてさとり得ること。おつげを蒙ること。

【感念】108 カンネン　感じおもふ。感謝する。〔陸機、爲㆓顧彥先㆒贈㆑婦詩〕脩㆑身悼㆓憂苦㆒、感㆓念同懷子㆒。

【感佩】109 カンパイ　ありがたくかんじて何時までも忘れないこと。感荷。感銘。佩は身に帶びる意。〔李商隱、上㆓尚書范陽公㆒啓〕感㆓佩恩私㆒、不㆑知㆑所㆑喩。〔曾鞏、回㆓人賀㆑授㆓舍人㆒狀〕其爲㆓感佩㆒、曷罄㆓敷陳㆒。

【感冒】110 カンバウ　寒風に感じて邪氣に冒される。かぜひき。かぜ、風邪。感冒假を見よ。〔醫學天正記、乾上、感冒二〕感冒發熱、熱退㆑度咳痰、久不㆑食。〔水滸傳、八回〕林冲告道、小人於㆑道感冒風寒未㆓曾痊可㆒。

【感冒假】111 カンバウカ　官吏が病氣によつて休暇を願ふこと。〔耆舊續聞〕館閣、每夜輪校官一人直宿、有㆑故不㆑宿、則於㆓名下㆒書㆓腸肚不㆑安、故館閣宿歷、相傳爲㆓太學諸生㆒、請㆑假出宿、前廊置㆓一簿㆒、書曰㆓感風㆒。

【感發】112 カンパツ　心に感じひらく。〔王褒、四子講德論〕百姓歡欣、中和感發。

【感孚】113 カンプ　互に心のそこまで知り合ふこと。〔福惠全書、郵政部、船夫車驢〕平日之誠信感孚、民自不㆑忍㆑欺耳。〔言志晚錄〕如㆑是則我之誠意、與㆓醫人㆒感孚爲㆑一。〔日本政記、嵯峨天皇論〕其

相感孚也有レ素。

【感附】114カンプ 德に感動して慕ひつく。〔唐書、裴寬傳〕檀州刺史何僧、獻二生口數十一、寬悉歸レ之、故夷夏感附。

【感諷】115カンプウ 心に感ぜしめるためにとほまはしにいふこと。〔元好問、雁門道中書レ所レ見詩〕呼レ天天不レ聞、感諷復何補。

【感服】116カンプク 感心して深く心をよせること。感じ心服する。又、感じ服せしめる。〔秦觀、盜賊策〕王者所三以感二服天下一者、惠與レ威也。

【感忿】117カンプン 心に感じいきどほる。感激し忿怒する。感憤。〔戰國、韓策〕夫賢者以二感忿睚眦之意一、而親二信窮僻之人一、而政獨安可二嘿然而止一乎。〔史記、魯仲連傳〕去二感忿之怨一、立二終身之名一。

【感憤】118カンプン 心に感じいきどほつて振ひ起つこと。感奮。〔後漢書、祭遵傳論〕一眚之故、以致二感憤一。〔後漢書、臧洪傳論〕雍丘之圍、臧洪之感憤壯矣。

【感奮】119カンプン 感じふるふ。心にひびきこたへる。いたく感ずる。感激。〔唐書、朱忠亮傳〕聞者莫レ不二感奮一。

【感奮激厲】120カンプンゲキレイ 感激して心を奮ひはげますこと。〔林鶴梁、東湖遺稿序〕遇二忠孝大義事一、輒感奮激厲。

【感變】121カンペン 感じ變ずる。〔列子、周穆王〕不レ識二「感變之所レ起者。

【感慕】122カンボ 心に感じてこひしたふ。〔顏氏家訓、風操〕理當二感慕一。〔南史、張敷傳〕雖二童蒙一、便有二感慕之色一。〔隋書、文獻獨孤皇后傳〕后早失二二親一、常懷感慕。

【感慕嗚咽】123カンボヲエツ 戀ひしたつてむせび泣く。〔顏氏家訓、後娶〕感慕嗚咽、自不レ能レ持。

【感味】124カンミ 感じ味はふ。單なる感じや印象でなく、よく嚙みしめた上での印象や感じ。

【感夢】125カンム 夢に感ずる。〔論衡、吉驗〕伊尹且レ生時、其母夢、人謂レ己曰、臼出レ水、疾東走毋レ顧、明旦視レ臼、出レ水、卽東走十里、顧二其鄕一、皆爲レ水矣、伊尹命不レ當レ沒、故其母感レ夢而走。〔曹植、寶刀賦〕爰告二祠于太乙一、乃感レ夢而通レ靈。〔南史、竟陵文宣王子良傳〕武帝不豫、云云、子良啓進二沙門於殿戶前一誦レ經、武帝爲感レ夢、見二優曇鉢花一。

【感銘】126カンメイ 深く心に感じて永く忘れない。心に感じ肝に銘ずる。感篆。銘感。銘は彫り附ける、心に刻む意。〔陳師道、荅二陳先輩一書〕書問見レ貽、感銘斯切。

【感目】127カンモク 目を感ぜしめる。〔陸機、歎逝賦〕怨二感レ目之多レ顏、諒多レ顏之感レ目。

【感懣】128カンモン 心に感じてもだえる。〔王褒、四子講德論〕刺史感懣、舒レ音而詠二至德一。

【感躍】129カンヤク 心に感じて氣のをどりたつこと。〔呂溫、衡州刺史謝上表〕實望二聖慈一、照二臣肝膽一、臣無レ任二感躍屛營之至一。

【感豫】130カンヨ 感じさせ悅ばせること。〔莊子、列禦寇〕感豫出レ異。〔列子、黃帝〕感豫出レ異也。〔鬳齋口義〕人之感動而悅二豫於汝一者、必汝不レ能二自晦一、使三乖異出二見乎其外一、而致レ然也。

【感擥】131カンラン 樹木の名。橄欖(**6－15512**・・1)に同じ。〔海錄碎事、果蓏、橄欖〕圖經、感擥、俗作二橄欖一。

【感淚】132カンルイ 深く心に感じて催すなみだ。ありがたなみだ。うれしなみだ。〔李中、己未歲冬捧二宣頭一離二下蔡一詩〕空將二感恩淚一、盡滴二冒寒衣一。

【感類】133カンルイ 論衡の篇名。

【感戀】134カンレン 感じてこひしたふ。〔晉書、李密傳〕父早亡、母何氏改レ醮、密時年數歲、感戀彌至。

【感泐】135 kan^{3} lê^{4} 感謝する。

【感猥】136カンワイ 心を動かすことが盛なこと。〔陸雲、弔二陳伯華一書〕割切哀慕、書重感猥。

【感皇恩】137カンクワウオン 曲調の名。もと唐の敎坊曲の名。唐の天寶中、金風調蘇莫遮を改め稱す。〔南部新書〕天寶十三載、始改二金風調蘇莫遮一爲二感皇恩一。〔陳暘、樂書〕祥符中、諸工請下增二龜玆部一如中敎坊上、其曲有二雙調感皇恩一。〔鐵圍山叢談〕大觀中、有二趙企字循道者一、其感皇恩詞云、滿懷離恨、付二與落花啼鳥一、人多稱二道之一、遂用爲二顯官一、俾二以應レ制、然趙雅不レ樂下以二詞曲一進上。

【感甄賦】138カンケンフ 文章の名。魏、曹植の作。後、洛神賦と改む。文選、卷十九に收む。〔曹植、洛神賦、注〕善曰、記曰、魏東阿王、漢末求二甄逸女一、既不レ遂、太祖回與二五官中郞將一、植殊不レ平、晝思夜想、廢二寢與一レ食、黃初中入レ朝、帝示二植甄后玉鏤金帶枕一、植見レ之、不レ覺泣、時已爲二郭后一讒死、帝意亦尋悟、因令二太子留宴飮一、仍以レ枕賚レ植、植還度二轘轅一、少許時、將レ息二洛水上一、思二甄后一、忽見二女來一、自云、我本託二心君王一、其心不レ遂、此枕是我在レ家時、從嫁前與二五官中郞將一、云云、遂作二感甄賦一、後明帝見レ之、改爲二洛神賦一。

【感精符】139カンセイフ 春秋緯の一つ。其の書は佚亡したが、古微書に輯本がある。

【感生帝說】140カンセイテイセツ 漢代に起つた帝王神權說。王者の地位尊嚴を絕對ならしめるために、作爲された神婚傳說に類するもので、前漢末期の各緯書に至つて完全な形を齊へた。王者の祖先は皆大微五帝の精、卽ち靈威仰・赤熛怒・含樞紐・白招拒・汁光紀の何れかに感じて生じたものといはれてゐるが、其の思想的傳系は、五行相克說・五行相生說・六天說を經て、發展されたものと見られる。

五帝	感生帝	朝代
赤帝	赤熛怒	唐堯
黃帝	含樞紐	虞舜
白帝	白招拒	夏禹王
黑帝	汁光紀	殷湯王
青帝	靈威仰	周文王

天子感生說(**3－5833**・・666)を見よ。〔禮、大傳〕王者禘三其祖之所二自出一、以二其祖一配レ之。〔注〕王者之先祖、皆感二大微五帝之精一以生、蒼則靈威仰、赤則赤熛怒、黃則含樞紐、白則白招拒、黑則汁光紀。〔疏〕此禘謂レ祭レ天、云下王者之先祖皆感二太微五帝之精一以生上者、案、師說引二河圖一云、慶都感二赤龍一而生レ堯、又云、堯赤精、舜黃、禹白、湯黑、文王蒼、又元命包云、夏白帝之子、殷黑帝之子、周蒼帝之子、是其王者、皆感二大微五帝之精一而生、云三蒼則靈威仰至二汁光紀一者、春秋緯文耀鉤文、云下皆用二正歲之正月一郊中祭之上者、案、易緯乾鑿度云、三王之郊、一用二夏正一、云二蓋特尊焉一者、就二五帝之中一、特祭下所二感生一之帝上、是特尊焉、注引二孝經一云下郊二祀后稷一以配上天者、證下禘三其祖之所二自出一、以二其祖一配上之、又引下宗二祀文王於明堂一以配中上帝上者、證下文王不三特配二感生之帝一、而汎配中五帝上矣。〔禮、月令〕以二元日一祈二穀于上帝一、注、上帝、大微之帝也、疏云二上帝大微之帝一者、春秋緯文、紫微宮爲二大帝一、大微爲二天庭一、中有二五帝座一、是卽靈威仰・赤熛怒・白招拒・汁光紀・含樞紐、祈二穀郊天一之時、各祭二所レ感之帝一、殷人則祭二汁光紀一、周人則祭二靈威仰一、以二其不一レ定、故揔云二大微之帝一。

【感同身受】141 kan^{3} tʻung^{2} shen^{1} shou^{4} 御厚情を私自身に受けたと同様に有難く感じます。

【愠】10954 ウン

慍(**4－11059**)に同じ。〔正字通〕愠、同レ慍。

【惇】10955 ジユン

惇(**4－10759**)の俗字。〔正字通〕惇、俗惇字。

【愡】10956 ソウ

憁(**4－11169**)の俗字。〔字彙〕愡、俗憁字。

【𢙏】10957 ケイ

慶(**4－11145**)の古字。〔正字通〕𢙏、古文慶字。

【惷】10958 ケイ

慶(**4－11145**)に同じ。〔篇海〕惷、與レ慶同。

【愢】10959

[一]サイ　〔集韻〕桑才切　[灰]

[二]シ　〔集韻〕新茲切　[支]

[三]シ　〔集韻〕想止切　[紙]

[一]**こころがたがふ。**〔集韻〕愢、意不レ合也。[二]**せめる。**偲(**1－895**)に同じ。〔集韻〕愢、論語、切切偲偲、相切責也、或作レ愢。[三]**へりくだる。**〔集韻〕愢、謙也。

【⿰忄孝】10960 アウ エウ 〔海篇〕衣孝切 效

うらむ。〔海篇〕⿰忄孝、怨也。

【⿱是心】10961 ㊀スイ ズイ 〔集韻〕是捶切 紙 ㊁ヰ 〔集韻〕尹捶切 紙

㊀**よろこばないさま。**〔廣韻〕⿱是心、不レ悅也。〔集韻〕⿱是心、不レ悅皃。㊁**いかる。**〔集韻〕⿱是心、怒也。

【⿰忄匡】10962 キャウ 恇(**4－10529**)に同じ。〔集韻〕⿰忄匡、隷省。

【⿱亞心】10963 アク 惡(**4－10824**)に同じ。〔字彙補〕⿱亞心、卽惡字、漢景君碑、分二明好⿱亞心一。

【⿰忄者】10964 タ 〔字彙補〕東果切 哿

おこたる。〔字彙補〕⿰忄者、嬾惰也。

【⿱者心】10965 シ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿱者心、音示。

【⿰忄胥】10966 ショ ⿰忄胥(**4－10903**)に同じ。〔字彙補〕⿰忄胥、與レ⿰忄胥同。

【⿰忄県】10967 ケン 〔字彙補〕古懸切 先

心がきびしい。〔字彙補〕⿰忄県、心急也。

【⿱罒⿱丸心】10968 シツ 恐(**4－10635**)の古字。〔集韻〕恐、古作レ⿱罒⿱丸心。

【⿰忄若】10969 ジャ ネ 〔龍龕手鑑〕入瓦切 馬

みだれる。〔龍龕手鑑〕⿰忄若、亂也。

【⿱刹心】10970 セイ シャウ 〔搜眞玉鏡〕之領切 梗

ととのへる。〔搜眞玉鏡〕⿱刹心、整齊也。

【⿰氵⿱同心】10971 キ 〔海篇金鏡〕音沂 微

毛がは。〔海篇金鏡〕⿰氵⿱同心、毛革也。

【⿰忄函】10972 キョク コク 〔龍龕手鑑〕紀力切 職

心がせまい。〔龍龕手鑑〕⿰忄函、急性相背也。

【⿰亻⿱屯心】10973 トン 義未詳。〔字彙補〕⿰亻⿱屯心、透混切、音暾、見二皇極圖韻一。

【⿰忄咼】10974 クワ 義未詳。〔五音篇海〕⿰忄咼、音過。

【⿱⿰王凡心】10975 キョウ 恐(**4－10552**)に同じ。〔字彙補〕⿱⿰王凡心、同レ恐。

【⿸厂⿱言心】10976 ギン 義未詳。〔五音篇海〕⿸厂⿱言心、音銀。

【⿰氵⿱告心】10977 コ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿰氵⿱告心、音鼓。

【⿰忄⿱西心】10978 ヲ 義未詳。〔龍龕手鑑〕⿰忄⿱西心、烏故切、音惡。

【⿱罒⿱目心】10979 ケン 憲(**4－11269**)に同じ。〔龍龕手鑑〕⿱罒⿱目心、同レ憲。

【愣】10980 リョウ ㄌㄥˋ lêng⁴

現 楞(**6－15149**)の譌字。ぼんやりする。びつくりする。

【慈】10980′ ジ 慈(**4－11048**)の略字。

十畫

【⿰忄家】10981 カ ケ 〔集韻〕居迓切 禡

心がおちつかない。〔集韻〕⿰忄家、心不レ安也。

【愧】10982 キ 〔集韻〕基位切 寘 ㄎㄨㄟˋ k'uei⁴

❶**はぢ。はぢる。**己にはぢる。媿(**3－6600**)に同じ。〔集韻〕媿、說文、慙也、或从レ心。〔爾雅、釋言〕愧、慙也。〔禮、中庸〕尙不レ愧二于屋漏一。〔釋文〕愧、本又作レ媿。〔呂覽、誣徒〕歸則愧二於父母兄弟一。〔注〕愧、慙也。❷**はづかしめる。**〔後漢書、馬援傳〕季孟嘗折二愧子陽一、而不レ受二其爵一。〔注〕愧、猶レ辱也。❸**とがめる。せめる。**〔禮、表記〕是故君子不下以二其所一レ能病上レ人、不下以二人之所一レ不レ能者一愧上レ人。〔注〕病・愧、謂三罪二咎之一。

【愧菴】1（キアン） 清、張拱乾(**4－9812**・・929)の號。

【愧畏】2（キヰ） はぢおそれる。〔沈約、奏二彈王源一文〕明目腆顏、曾無二愧畏一。〔白居易、和二夢遊春一一百韻詩〕捫レ心無二愧畏一、騰レ口有二謗讟一。〔歐陽脩、與二高司諫一書〕反昂然自得了無二媿畏一。

【愧荷】3（キカ） 感謝する。〔顧夐、袁氏傳〕但告二此輩一、恪愧荷而已。

【愧慨】4（キガイ） はぢなげく。〔北史、魏宣武帝紀〕有レ兼二愧慨一、可三嚴敕二有司一。

【愧行】5（キカウ） はづべきおこなひ。〔晏子、問、下〕夸言愧行。

【愧愕】6（キガク） はぢ驚く。〔晉書、賈充傳〕驚起而散、充甚愧愕。

【愧汗】7（キカン） はぢてあせをかく。又、はぢてかく汗。慙汗。〔李商隱、送二千牛李將軍赴一レ闕五十韻詩〕靈衣沾二愧汗一、儀馬困二陰兵一。〔避亂錄〕旻但愧汗而已。

【愧喜】8（キキ） はぢ且つよろこぶ。〔資治通鑑、漢紀〕（獻帝、建安十三年）瑜曰、受レ命不レ得二妄委署一、若欲レ見二子敬一、可二別過一レ之、備深愧喜。

【愧勖】9（キキョク） はづかしめてつとめさせる。〔唐書、鄭元璹傳〕元璹、隋沛國公譯之子、譯事二後母一不レ謹、隋文帝嘗賜二孝經一、愧二勖之一。

【愧懼】10（キク） はぢおそれる。〔舊唐書、許圉師傳〕犯者愧懼、遂改レ節爲二廉士一。

【愧屈】11（キクツ） はぢて屈服する。愧服。〔宋史、程顥傳〕顥徐曰、天下事非二一家私議一、願平レ氣以聽、安石爲レ之愧屈。

【愧悔】12（キクヮイ） はぢくいる。〔顏氏家訓、勉學〕聞二吾此說一、初大驚駭、其後尋愧悔焉。

【愧軒】13（キケン） 明、呂潛(**2－3386**・・105)の號。

【愧寤】14（キゴ） はぢて目覺める。はぢて睡られぬ。〔江淹、爲二蕭驃騎一讓二太尉增封一第三表〕愧寤終朝、慙夢流夜。

【愧恨】15（キコン） はぢうらむ。〔吳越春秋、王僚使公子光傳〕光心氣怏怏、常有二愧恨之色一。

【愧莊】16（キサウ） 清、陳珍(**11－41698**・・473)の號。

【愧怍】17（キサク） はぢる。〔佐久間象山、省諐錄七則〕身雖レ在二囹圄一、心無二愧怍一。

【愧殺】18（キサツ キサイ） はぢる。はづかしめる。殺は助

字。〔栗本鋤雲、詠二閣龍一詩〕蓬萊咫尺猶迷霧、愧殺秦皇採レ藥船。

【愧懺】19キザン　はぢくいる。〔晉書、佛圖澄傳〕（法）佐愕然愧懺。

【愧慙】20キザン　はぢる。又、はぢ。慙愧。〔韓詩外傳、九〕田子愧慙、走出造レ朝還レ金、退請レ就レ獄。

【愧死】21キシ　はぢて死ぬ。又、世間に顏向けが出來ぬ程にはぢる。はぢいる。慙死。

【愧辭】22キジ　はづべきことば。〔白居易、策林、六十八、議二文章一〕碑誄有二虛美愧辭一者、雖レ華雖レ麗、禁而絕レ之。

【愧羞】23キシウ　はぢる。又、はぢ。愧恥（37）に同じ。

【愧謝】24キシヤ　はぢわびる。〔蘇軾、約二公擇一飲是日大風詩〕作レ詩愧二謝君笑懽一、歸來瑟縮愈不レ安。

【愧情】25キジヤウ　はぢる心。〔嵆康、養生論〕愧情一集。

【愧縮】26キシユク　はぢて恐縮する。〔唐書、韋處厚傳〕處厚發二十難一、詘二其迂謬一、平叔愧縮遂寢。

【愧沮】27キシヨ　はぢて氣がはばむ。〔唐書、吐蕃傳〕縮縮愧沮。

【愧悚】28キシヨウ　心にはぢ恐れる。慚悚。又、はぢらひとおそれ。〔賴山陽、上二樂翁公一書〕禮意殷勤、愧悚交至。

【愧色】29キシヨク　❶はぢるかほいろ。〔戰國、秦策〕形容枯槁、面目黧黑、狀有二愧色一。〔莊子、讓王〕子貢逡巡而有二愧色一。〔後漢書、郭太傳〕唯郭有道無二愧色一耳。❷顏色にあらはしてはぢ入る。〔水經、汾水注〕蔡伯喈謂二盧子幹馬日磾一曰、吾爲二天下碑文一多矣、皆有二慙容一、惟郭有道無レ愧二于色一矣。

【愧辱】30キジヨク　はぢる。はづかしめる。又、はぢ。〔史記、龜策傳〕上至二蒼天一、下薄二泥塗一、還二徧九州一、未二嘗愧辱一、無レ所二稽留一。〔顏子家訓、勉學〕何惜二數年勤學一、長受二一生愧辱一哉。

【愧心】31キシン　はぢる心。內に省みてやましい心。〔左氏、昭、二十〕其祝史薦レ信無二愧心一矣。

【愧笑】32キセウ　はぢわらふ。〔後漢書、明帝紀〕今永平之政、百姓怨結、而吏人求レ復、令二人愧笑一。

【愧切】33キセツ　はぢしめる。きびしくはぢさせる。〔唐書、長孫順德傳〕（順德）封二薛國公一、食二一千二百戶一、以レ受レ賕爲二有司劾發一、帝因賜二帛數十一媿二切之一。

【愧然】34キゼン　はぢるさま。媿然。

【愧戴】35キタイ　感謝の意。〔李朝威、柳毅傳〕骨肉受二君子深恩一、恨不レ得レ展二愧戴一。

【愧赧】36キタン　はぢて赤面する。あかはぢをかく。愧靦。〔曹植、上二責レ躬應レ詔詩一表〕形影相弔、五情愧赧。〔注〕善曰、說文曰、赧、面慚也。〔韓愈、答二陳商一書〕茫然增二愧赧一。

【愧恥】37キチ　はぢる。又、はぢ。愧羞。〔書、說命下〕其心愧恥、若レ撻二于市一。〔禮、表記〕使三民有レ所二勸勉愧恥一、以行二其言一。

【愧恥憤恨之心】38キチフンコンノココロ　はぢていきどほりうらむ心。〔王守仁、教條示二龍場諸生一、責善〕發二其愧恥憤恨之心一。

【愧恧】39キヂク　はぢる。慙恧。〔南史、江智深傳〕聳動愧恧、形二於容貌一。〔北史、李彪傳〕父兄無二愧恧之色一。〔駱賓王、夏日遊二德州一序〕章句繁膴、心神愧恧。

【愧惕】40キテキ　はぢおそれる。慚惕。〔魏志、曹爽傳、注〕中心愧惕、敢竭二愚情一。〔白居易、答下馮伉謝レ許レ上二尊號一表上文〕省二謝陳一、彌增二愧惕一。

【愧靦】41キテン　はぢてかほを赤くする。愧赧。〔蘇頲、代二家君一讓二侍中一表〕公私愧靦、夙夜憂惶。

【愧負】42キフ　はぢる。はぢそむくこと。〔鄭愚、大圓禪師碑〕愧負積二于神明一、辱殆流二于後嗣一。

【愧服】43キフク　はぢて從ふ。恥づかしく思つて屈服する。〔唐書、尉遲敬德傳〕帝嘗問二奪レ矟與レ避レ矟孰難一、對曰、奪レ矟難、試使下與二齊王一戲上、少選王三失レ矟、遂大愧服。〔宋史、程之邵傳〕使者愧服。

【愧艴】44キフツ　はぢいかる。〔唐書、李景讓傳〕景讓愧艴不レ能二平見一。

【愧忿】45キフン　はぢいかる。〔宋史、何承矩傳〕契丹愧忿、故有二此役一。

【愧憤】46キフン　はぢいきどほる。慚憤。〔晉書、王敦傳〕臣每慷二慨于遐遠一、愧二憤于門宗一。

【愧慄】47キリツ　はぢ恐れる。〔韓愈、燕二河南府秀才一詩〕鄙夫忝二縣尹一、愧慄難レ爲レ情。

【愧戀】48キレン　はぢ戀ふ。〔殷仲文、解二尙書一表〕違二謝闕庭一、乃心愧戀。

【愧郯錄】49キタンロク　書名。十五卷。宋、岳珂撰。多く宋代の制度を記し、頗る史志の不備を補ふ。愧郯とは、左傳の郯子來朝し、仲尼官事を問ふに取り、掌故に通知することが古人に愧ぢる所あるの意をあらはしたもの。〔四庫提要、子、雜家類〕。

【愧非子】50キヒシ　明、馬攀龍（12−44572··922）の號。

【愧蘿居士】51キラコジ　清、施閏章（5−13629··156）の號。

【愧林居士】52キリンコジ　明、瞿式耜（8−23747··39）の號。

【慤】10983

カク　〔集韻〕克角切　ㄑㄩㄝˋ　ch'üeh^{4}　覺

❶つつしむ。〔說文〕慤、謹也、从レ心㱿聲。〔荀子、非十二子〕其容慤。〔注〕慤、謹敬。❷まことにする。ただしい。〔荀子、榮辱〕然後使レ慤二祿多少厚薄之稱一。〔注〕慤、實也。❸まごころ。〔廣韻〕慤、誠也。〔淮南子、主術訓〕其民樸重端慤。〔注〕慤、誠也。❹よい。〔廣韻〕慤、善也。❺すなほ。質朴。〔廣韻〕慤、愿也。〔禮、檀弓下〕殷已慤。〔注〕慤者、得レ哀之始、未レ見二其甚一。〔疏〕慤、謂二質慤一。〔孔子家語、曲禮公西赤問〕其親也慤。〔注〕慤、質也。❻或は愨（4−11342）に作る。〔集韻〕慤、或从レ志。❼殼（6−16626）に通ず。〔禮、禮器〕君子愼二其獨一也、注、致二誠殼一、〔釋文〕殼、字又作レ慤。❽諡。〔逸周書、諡法解〕行見二中外一曰レ慤。

名乘　ヨシ。マサ。

【慤謹】1カクキン　誠實でつつしむ。謹慤。字解の❶を見よ。

【慤敬】2カクケイ　諡號。❶清、尹德（4−7631··75）の諡。❷清、音德（12−43265··73）の諡。❸清、張師載（4−9812··1124）の諡。

【慤愿】3カクゲン　つつしみ深い。すなほ。〔管子、八觀〕形勢不レ得レ爲レ非、則姦邪之人慤愿。〔說苑、尊賢〕馬慤愿順、然後求二其良材一。〔蔡邕、薦二皇甫規一表〕演二化凶悍一、使レ爲二慤愿一。

【慤士】4カクシ　❶誠實な士。〔荀子、不苟〕若レ是則可レ謂二慤士一矣。❷唐、令狐楚（1−387··59）の字。

【慤人】5カクジン　明、何剛（1−511··25）の字。

【慤誠】6カクセイ　つつしんで誠あること。まごころ。〔後漢書、竇融傳〕非二忠孝慤誠一、孰能如レ此。

【慤切】7カクセツ　至つて誠のあること。切慤（2−1858··14）に同じ。

【慤善】8カクゼン　誠あつて善いこと。〔禮、祭義〕是故慤善不レ違レ身。

【慤素】9カクソ　まことあること。ただしくすなほなこと。〔傅毅、舞賦〕懷二慤素之絜清一。〔注〕善曰、說文曰、慤、貞也、薛君詩章句曰、素、質也。

【慤敏】10カクビン　清、耿聚忠（8−29026··59）の諡。

【慤愍】11カクビン　清、王登聯（7−20823··1980）の諡。

【慤祿】12カクロク　其の俸祿をまことにする。俸祿と才能とを相稱はしめること。才能に稱ふ俸祿を與へること。慤は實。〔荀子、榮辱〕使二慤祿多少厚薄之稱一。〔注〕慤、實也、謂下實二其祿一使上當二其才一。

【愩】10984

㊀コウ　ク　〔集韻〕沽紅切　東

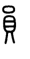
㊁コウ　ク　〔集韻〕虎孔切　董

㊂コウ　ク　〔集韻〕古送切　送

㊀❶心うごく。胸さわぎする。〔玉篇〕愩、心動也。❷うれひみだれるさま。〔集韻〕愩、悒憒皃。㊁心のうつとりするさま。㦡（4−11526）に同じ。〔集韻〕㦡、心恍惚曰レ㦡、或省。㊂❶心うごく。㊀の❶に同じ。❷たかぶる。〔集韻〕愩、心動也。❷たかぶる。〔集韻〕愩、

一曰、自高。

【愪】10985 ［一］ウン 〔集韻〕于分切 文 ［二］ウン 〔集韻〕羽粉切 吻 ［三］キン 〔集韻〕羽敏切 軫



小篆 ［一］㊀うれへるさま。〔說文〕愪、恖皃、从㆑心員聲。〔藤田東湖、和㆓文天祥正氣歌㆒詩〕或投㆓鎌倉窟㆒、憂憤正愪愪。㊁うごく。〔集韻〕愪、一曰、動也。［二］［三］うれへる。〔集韻〕愪、憂也。

【愫】10986 ソ 〔集韻〕蘇故切 ムㄨˋ su⁴ 遇

㊀まこと。まごころ。〔集韻〕愫、誠也。〔韻會〕愫、眞情也。㊁通じて素（8－27300）に作る。〔韻會〕愫、通作㆑素。

【愫軒】1 ソケン 元、耶律希亮（9－29008・・61）の號。

【憊】10987 ハイ 憊（4－11085）・憊（4－11195）に同じ。〔正字通〕憊、與㆑憊同、俗省。〔康熙字典〕憊、本作㆑憊。

【愬】10988 ［一］ソ 〔集韻〕蘇故切 ムㄨˋ su⁴ 遇 ［二］サク シヤク 〔集韻〕色責切 陌

［一］㊀うつたへる。㋑つげくちする。わるくいふ。訴（10－35325）に同じ。〔集韻〕訴、說文、告也、或作㆑愬。〔正字通〕愬、訴同。〔論語、憲問〕公伯寮愬㆓子路於季孫㆒。〔集解〕馬融曰、愬、譖也。〔戰國、齊策〕必東愬㆓於齊㆒。〔注〕愬、告。㋺つげる。哀しみなげく。〔詩、邶風、柏舟〕薄言往愬、逢㆓彼之怒㆒。〔集傳〕愬、告也。〔潘岳、寡婦賦〕愬㆓空宇㆒兮曠朗。㊁うつたへ。〔論語、顏淵〕膚受之愬。〔皇疏〕愬者、相訴讒也。㊂むかふ。遡（11－39048）に通ず。〔潘岳、西征賦〕愬㆓黃巷㆒以濟㆑潼。〔注〕善曰、薛綜西京賦注曰、愬、向也、愬與㆑遡、古字同。〔謝莊、月賦〕愬㆓皓月㆒而長歌。〔注〕善曰、毛詩曰、如㆓彼愬㆑風、毛萇曰、愬、鄉㆑之也。〔詩、大雅、桑柔〕如㆓彼遡㆑風。〔傳〕遡、鄉。［二］㊀おそれる。〔集韻〕愬、驚懼謂㆓之愬㆒。〔易、履〕九四、履㆓虎尾㆒愬愬、終吉。〔公羊、宣、六〕愬而再拜。㊁或は虩（9－32785）・覤（10－34891）に作る。〔集韻〕愬、或作㆓虩・覤㆒。

【愬愬】1 サクサク 懼れるさま。びくびくするさま。惴惴。〔易、履〕九四、履㆓虎尾㆒愬愬、終吉。〔疏〕以㆑陽承㆑陽、處㆓嫌隙之地㆒、故愬愬危懼也。〔呂覽、愼大〕易曰、愬愬履㆓虎尾㆒、終吉。〔注〕愬愬、懼也。

【愬怒】2 サクド おそれいかる。〔陸龜蒙、幽居賦序〕下問㆓得犂塗之義㆒、徐聽㆓聞愬怒之詩㆒。

【愬風】3 ソフウ 風に向ふ。〔袁宏、北征賦〕感不㆑絕㆓于余心㆒、愬㆓流風㆒獨寫。〔謝莊、月賦〕情紆軫其何託、愬㆓皓月㆒而長歌。〔注〕善曰、毛詩曰、如㆓彼愬㆑風、毛萇曰、愬、鄉㆑之也。

【愭】10989 キ ギ 〔集韻〕渠伊切 支

㊀おそれる。〔集韻〕愭、畏也。〔韻會〕愭、畏也。㊁つつしむ。〔集韻〕愭、敬也。〔韻會〕愭、敬也。

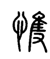
【愮】10990 ［一］エウ 〔集韻〕餘招切 蕭 ［二］エウ 〔集韻〕弋笑切 嘯

［一］㊀おそれる。〔廣韻〕愮、悸也。㊁まどふ。〔廣韻〕愮、惑也。㊂みだれる。〔集韻〕愮、一曰、亂也。㊃よこしま。〔廣韻〕愮、邪也。㊄憂へて告げるところのないさま。〔爾雅、釋訓〕愮愮、憂無㆑告也。㊅通じて恌（4－10541）に作る。〔集韻〕愮、通作㆑恌。［二］㊀愮療は、をさめる。〔集韻〕愮、方言、愮療、治也。㊁うれへる。〔集韻〕愮、一曰、憂也。

【㥺】10991 ［一］キユウ ク 〔集韻〕丘弓切 東 ［二］イウ ウ 〔集韻〕於宮切 東

［一］㊀うれへる。〔廣雅、釋詁一〕㥺、憂也。㊁或は㤨（4－10799）・㣻（4－10332）に作る。〔集韻〕㥺、或作㆓㤨・㣻㆒。［二］［一］の㊀に同じ。

【愯】10992 シヨウ シユ 〔集韻〕筍勇切 腫



小篆 ㊀おそれる。〔說文〕愯、懼也、从㆑心雙省聲、春秋傳曰、駟氏愯。㊁或は㦼（4－11500）・悚（4－10672）に作り、通じて聳（9－29167）に作る。〔集韻〕愯、或作㆓㦼・悚㆒、通作㆑聳。

【㥬】10993 ハウ バウ 〔集韻〕蒲光切 陽

おそれる。〔集韻〕㥬、㥬惶、恐也。

【㥭】10994 タイ 忲（4－10325）に同じ。〔正字通〕㥭、同㆑忲。

【愰】10995 ［一］クワウ ワウ 〔集韻〕胡曠切 漾 ［二］クワウ ワウ 〔集韻〕戶廣切 養

［一］心あきらか。さとい。〔集韻〕愰、心明也。［二］愰懩は、心が定まらない。〔集韻〕愰、愰懩、心不㆑定。

【㤤】10996 ［一］カイ ガイ 〔集韻〕下蓋切 泰 ［二］カイ ガイ 〔集韻〕戶代切 隊

［一］［二］こころよい。〔集韻〕㤤、快也。

【㥁】11997 ケン 憲（4－11269）に同じ。〔康熙字典〕㥁、說文同㆑憲。

【愱】10998 シツ シチ 〔廣韻〕秦悉切 質

くるしむ。〔廣韻〕愱、毒苦也。

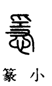
【瘱】10999 シツ 嫉（3－6611）に同じ。〔字彙補〕瘱、與㆑嫉同。

【㥮】11000 サウ セウ 〔集韻〕楚絞切 巧

心がせまい。〔集韻〕㥮、心迫也。

【㥲】11001 ダ 惰（4－10855）・憜（4－11225）の古字。〔玉篇〕㥲、古文惰。〔集韻〕憜、古作㆑㥲。

【㥯】11002 ［一］イン オン 〔集韻〕於靳切 問 ［二］イン オン 〔集韻〕倚謹切 吻 ［三］イン オン 〔集韻〕於斤切 文



小篆 ［一］つつしむ。〔說文〕㥯、謹也、从㆑心㸒聲。［二］㊀つつしむ。［一］に同じ。〔廣韻〕㥯、謹也。㊁うれひやむ。〔集

韻〕㤅、憂病也。㊂かなしむ。〔集韻〕㤅、哀也。㊃或は懓(4−11369)に作る。〔集韻〕㤅、或作レ懓。㈢㊀うれへる。〔集韻〕㤅、憂也。㊁いつくしむ。〔五音集韻〕㤅、愛也。

【愲】11003 コツ コチ 〔集韻〕吉忽切 ［月］

心がみだれる。〔集韻〕愲、心亂也。〔漢書、息夫躬傳〕心結愲兮傷レ肝。〔注〕師古曰、結愲、亂也。

【愳】11004 ク 懼(4−11488)の古字。〔說文〕懼、愳、古文。

【愯】11005 サウ ソウ 〔集韻〕蘇遭切 ［豪］

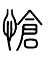
うれへる。通じて騷(12−44935)に作る。〔集韻〕愯、愁也、通作レ騷。

【愸】11006 ㈠テキ チヤク 〔廣韻〕他歷切 ［錫］ ㈡ケキ キヤク 〔廣韻〕苦擊切 ［錫］

㈠㈡**いましめる。**〔廣韻〕愸、敕也。

【㥱】11007 ヒ 悱(4−10719)に同じ。〔集韻〕悱、或从レ匪。

【愴】11008 ㈠サウ シヤウ 〔集韻〕楚亮切 ㄔㄨㄤˋ ch'uang⁴ ［漾］ ㈡サウ シヤウ 〔集韻〕初良切 ［陽］ ㈢サウ シヤウ 〔集韻〕楚兩切 ［養］



小篆 ㈠㈢㊀**いたむ。**かなしむ。いたましい。〔說文〕愴、傷也、从レ心倉聲。〔廣雅、釋詁二〕愴、悲也。〔禮、祭義〕霜露既降、君子履レ之、必有二悽愴之心一、非二其寒之謂一也。〔孔稚珪、北山移文〕石泉咽而下愴。㊁**つめたい。**滄(2−1688)に通ず。〔說文通訓定聲〕愴、叚借爲レ滄。〔列子、湯問〕滄滄涼涼、〔注〕桓譚新論、亦述二此事一、作二愴涼一。㊂**みだれる。**戕(5−11562)・獊・搶(5−12525)に通ず。〔莊子、在宥〕乃始臠卷獊囊而亂二天下一也、〔釋文〕獊、崔本作レ戕、崔云、戕囊、猶二搶攘一。〔藩孟純、集釋〕盧文弨曰、今本、獊作レ愴。㊃**あわただしいさま。**〔莊子、在宥、疏〕愴囊、悤遽之貌也。㈢愴怳は、失意のさま。〔集韻〕愴、愴怳、失意。

【愴矣】1 サウイ いたむ。いたみ悲しむ。〔曹植、責レ躬詩〕心之云慕、愴矣其悲。

【愴焉】2 サウエン いたみ悲しむさま。〔禮、問喪〕心悵焉愴焉。〔集解〕其心悵恨悽愴。

【愴怳】3 サウクワウ ㊀失意のさま。惝怳。〔廣韻〕愴、愴怳、失意皃。〔楚辭、宋玉、九辯〕愴怳懭悢兮、去レ故而就レ新。〔補注〕懭悢愴怳、皆失意貌。㊁いたみかなしむさま。〔王褒、洞簫賦〕悲愴怳以惻惐兮。〔注〕濟曰、悲聲聞、則愴怳惻惐而傷感也。

【愴恨】4 サウコン いたみうらむ。〔後漢書、臧洪傳〕其爲二愴恨一、胡可二勝言一。〔曹昭、東征賦〕志愴恨而懷レ悲。〔魏志、臧洪傳〕其爲二愴恨一、可レ爲レ心哉。〔梁竦、悼騷賦〕臨二岷川一以愴恨兮。

【愴愴】5 サウサウ 悲しみいたむさま。〔廣雅、釋訓〕愴愴、悲也。〔楚辭、王褒、九懷、思忠〕心愴愴兮自憐。〔注〕意中切傷、憂二悲楚一也。〔吳質、思慕詩〕愴愴懷二殷憂一、殷憂不レ可レ居。〔柳宗元、與二李翰林建一書〕僕士人、頗識二古今理道一、獨愴愴如レ此。

【愴心】6 サウシン 悲しむ心。〔吳志、孫皎傳〕臨レ書摧二愴心一。

【愴然】7 サウゼン 悲しみ傷むさま。〔戰國、趙策〕愴然有二決色一。〔王褒、洞簫賦〕愴然累欷。〔後漢書、宋漢傳〕朝廷愍悼、怛其愴然。〔吳志、諸葛瑾傳〕權聞レ之愴然。〔顏氏家訓、風操〕愴然動レ色。

【愴惻】8 サウソク いたみ悲しむ。〔潘岳、寡婦賦〕思纏綿以瞀亂兮、心摧傷以愴惻。

【愴怛】9 サウダツ 悲しみいたむ。〔吳志、諸葛恪傳〕愴怛不レ忍之心。

【愴囊】10 サウナウ みだれる。獊囊。戕囊。一說に、あわただしいさま。〔莊子、在宥〕乃始臠卷獊囊而亂二天下一也、〔釋文〕獊、崔本作レ戕、崔云、戕囊、猶二搶攘一。〔疏〕愴囊、悤遽之貌也。〔藩孟純、集釋〕盧文弨曰、今本、獊作レ愴。

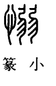
【愴悢】11 サウリヤウ 悲しむ。〔班彪、北征賦〕遊子悲二其故鄉一兮、心愴悢以傷懷。〔注〕善曰、廣雅曰、愴悢、悲也。〔丘遲、與二陳伯之一書〕豈不二愴悢一。

【㥕】11009 リウ 懰(4−11421)に同じ。〔集韻〕懰、或从レ留。

【㤚】11010 リウ ル 〔字彙補〕力救切 ［宥］

うらむ。〔字彙補〕㤚、怨也。

【愵】11011 デキ ニヤク 〔集韻〕乃歷切 ［錫］



小篆 ㊀**うれへるさま。**〔說文〕愵、𢝊兒、从レ心弱聲、讀與レ惄同。〔段注〕毛詩、惄如二調飢一、韓詩作二愵如一、方言、愵、憂也、自レ關而西、秦・晉之間、或曰レ惄、蓋古惄・愵通用。㊁或は𧖴(10−33990)に作る。〔集韻〕愵、或作レ𧖴。㊂又は㥦(4−11012)に書す。〔集韻〕愵、亦書作レ㥦。㊃惄(4−10755)に同じ。〔正字通〕愵、同レ惄。

【㥦】11012 デキ 愵(4−11011)に同じ。〔集韻〕愵、亦書作レ㥦。

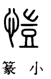
【愶】11013 ケフ コフ 〔集韻〕迄業切 ［業］

㊀**おびやかす。**威力でおどす。〔廣雅、釋詁四〕愶、怯也。〔一切經音義、十三〕愶、畏迫也。〔廣韻〕愶、以二威力一相恐也。〔魏志、曹植傳〕劫二愶使者一。㊁或は恊(4−10535)に作る。〔集韻〕愶、或省。㊂脅(9−29466)に通ず。〔列子、力命〕愶レ楚殺二子糾一。〔釋文〕愶、又作レ脅。

【㥠】11014 クワク 〔集韻〕忽郭切 ［藥］

おそれるさま。〔集韻〕㥠、恐懼兒。

【愷】11015 カイ 〔集韻〕可亥切 ㄎㄞˇ k'ai³ ［賄］ ［慣］ガイ



小篆 ㊀**たのしむ。**〔說文〕愷、康也、从二心豈一、豈亦聲。〔段注〕詩邶風傳曰、凱風、謂二之南風一、樂二夏之長養一、凱亦訓レ樂、卽愷字也。〔爾雅、釋詁〕愷、樂也。〔左氏、僖、十二〕愷悌君子。〔注〕愷、樂也。〔莊子、天道〕中心勿レ愷。〔注〕愷、樂也。㊁**やはらぐ。**〔左氏、文、十八〕謂二之八愷一。〔注〕愷、和也。㊂**かちいくさの音樂。**〔正字通〕愷、軍勝之樂。〔周禮、春官、眡瞭〕鼜愷獻。〔疏〕愷獻、謂三戰勝獻レ俘之時作二愷樂一。〔周禮、夏官、大司馬〕愷樂獻二于社一。〔注〕兵樂曰レ愷。〔左氏、僖、二十八〕振旅愷

以入㆓于晉㆒。❹**開ける**。闓(**11**-**41451**)に通ず。〔爾雅、釋言〕愷悌、發也。〔義疏〕愷悌者、闓圛之叚音也。❺**大きい**。愷悌君子(20)を見よ。❻或は豈(**10**-**36249**)に作る。〔集韻〕愷、或省。〔漢書、武五子傳〕愷弟君子。〔詩、小雅、青蠅〕豈弟君子。❼又は凱(**2**-**1790**)に作る。〔集韻〕愷、亦作ㇾ凱。〔禮、表記〕凱弟君子、〔釋文〕凱、本亦作ㇾ愷。

名乘 スエ。ヤス。ヒデ。

【愷歌】1 ガイカ　かちいくさの時にうたふ歌。凱旋の歌。凱歌(**2**-**1790**‥4)に同じ。〔周禮、春官、樂師〕凡軍大獻、教㆓愷歌㆒、遂倡ㇾ之。〔疏〕云㆓大獻㆒者、謂㆓師克勝、獻㆓捷於祖廟㆒也、云ㇾ教㆓愷歌㆒者、愷、謂㆓愷詩㆒、師還未ㇾ至之時、預教㆓瞽矇㆒、入㆓祖廟㆒、遂使㆓樂師倡道爲ㇾ之。〔司馬法、天子之義〕得ㇾ意則愷歌、愷歌、示ㇾ喜也。

【愷康】2 ガイカウ　たのしむ。〔爾雅、釋詁〕愷・康、樂也。

【愷樂】3 ガイガク　❶かちいくさの時に奏する音樂。凱樂(**2**-**1790**‥6)に同じ。〔周禮、春官、大司樂〕王師大獻、則令ㇾ奏㆓愷樂㆒。〔注〕愷樂、獻ㇾ功之樂。〔周禮、夏官、大司馬〕若師有ㇾ功、則左執ㇾ律、右秉ㇾ鉞、以先㆓愷樂㆒、獻㆓于社㆒。〔注〕兵樂曰ㇾ愷、云云、司馬法曰、得ㇾ意則愷樂愷歌、示ㇾ喜也。❷ガイラク たのしむ。豈樂。〔張衡、南都賦〕接㆓歡宴於日夜㆒、終㆓愷樂之令儀㆒。〔注〕善曰、毛詩曰、愷樂飲ㇾ酒。❸明、郭漢(**11**-**39474**‥35ˊ)の號。

【愷樂堂】4 ガイラクダウ　清、何長敦(**1**-**511**‥335)の室名。

【愷獻】5 ガイケン　戰に勝つて祖廟に其の功を報告する時に奏する音樂。〔周禮、春官、眡瞭〕鼜愷獻亦如ㇾ之。〔注〕愷獻、獻ㇾ功愷樂也。

【愷功】6 ガイコウ　清、揆敍(**5**-**12326**‥4)の字。

【愷之】7 ガイシ　清、陳逢堯(**11**-**41698**‥1253)の字。

【愷詩】8 ガイシ　凱旋に歌ふ詩。愷歌(1)を見よ。

【愷似】9 ガイジ　清、孫致彌(**3**-**6987**‥498)の字。

【愷如】10 ガイジョ　清、王廷周(**7**-**20823**‥1940)の字。

【愷切】11 ガイセツ　しんせつ。ていねい。〔福惠全書、蒞任部、詳文贅說〕仁言愷切、眞足㆔感㆓動天聽㆒。

【愷捷】12 ガイセフ　かちどき。凱捷(**2**-**1790**‥11)に同じ。

【愷旋】13 ガイセン　いくさに勝つてかへること。凱旋(**2**-**1790**‥12)に同じ。

【愷惻】14 ガイソク　あはれみ。〔福惠全書、刑名部、問擬〕古人制ㇾ律之心、原存㆓愷惻㆒。

【愷地】15 kʻai^3 ti^4　土耳古の第四級の役人。cadi kadi の譯。警察官と法官とを兼ね、一州邑を取締る。アラビヤ語の Qadi から出る。

【愷仲】16 ガイチュウ　清、朱丕戭(**6**-**14424**‥969)の字。

【愷弟】17 ガイテイ　やはらぎたのしむ。樂易。愷悌。豈弟(**10**-**36249**‥27)に同じ。〔漢書、史丹傳〕丹爲ㇾ人知ㇾ足、愷弟愛ㇾ人。

【愷庭】18 ガイテイ　清、盛元(**8**-**23005**‥67)の號。

【愷悌】19 ガイテイ　❶やはらぎたのしむ。樂易。愷弟。豈弟。愷悌君子を見よ。〔左氏、襄、十四〕宣子辭焉、使ㇾ即㆓事於會㆒、成㆓愷悌㆒也。〔班固、西都賦〕流㆓大漢之愷悌㆒、蕩㆓亡秦之毒螫㆒。〔後漢書、賈逵傳〕性愷悌多ㇾ智。〔魏志、賈逵傳〕安靜寬仁、有㆓愷悌之德㆒也。〔陸機、謝㆓平原內史㆒表〕重蒙㆓陛下愷悌之宥㆒。❷德の長大なこと。愷悌君子の❷を見よ。❸開けて明かなこと。開明。闓圛。〔爾雅、釋言〕愷悌、發也。〔注〕發、發行也、詩曰、齊子愷悌。〔義疏〕爾雅之發則以㆓開明㆒爲ㇾ義、不㆘兼㆓行進㆒爲㆖義也。

【愷悌君子】20 ガイテイノクンシ　❶やはらぎたのしむ君主。豈悌君子。〔左氏、僖、十二〕詩曰、愷悌君子、神所ㇾ勞矣。〔注〕詩、大雅也、愷、樂也、悌、易也。〔後漢書、章帝紀〕愷悌君子、大雅所ㇾ歎。❷德の長大な君子。〔呂覽、不屈〕詩曰、愷悌君子、民之父母、愷者、大也、悌者、長也、君子之德長且大者、則爲㆓民父母㆒。

【愷風】21 ガイフウ　みなみかぜ。凱風。〔淮南子、墬形訓、南方曰㆓巨風㆒、注〕一曰㆓愷風㆒。

【愷胡洮】22 ガイコタウ　人皇の姓名。字を文生といひ、龍身を爲す。〔路史、九頭紀〕地皇氏逸、于有㆓人皇胡洮、龍軀㆒。〔注〕姓愷、名胡洮、字文生。

【愷撒利亞】23 ケイザリヤ　港の名。地中海に臨み、ハレスタン地方にある。Caesarea の音譯。

【愸】 11016　セイ

整(**5**-**13394**)の俗字。〔正字通〕愸、俗整字。

【⿰忄笑】 11017　テイ タイ　〔集韻〕他計切　霽

寧⿰忄笑は、心やすらか。〔集韻〕⿰忄笑、字林、寧⿰忄笑、心安也。

【⿰忄毘】 11018　ヒ　〔集韻〕篇夷切　支

惡いきだて。〔廣韻〕⿰忄毘、惡性也。〔集韻〕⿰忄毘、性之惡者。

【愹】 11019　ヨウ

悀(**4**-**10622**)に同じ。〔集韻〕悀、或作ㇾ愹。

【⿱𦣻心】 11020　イウ

憂(**4**-**11170**)に同じ。〔字彙〕⿱𦣻心、同ㇾ憂。

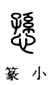
【愺】 11021　サウ ソウ　〔集韻〕采早切　皓

愺恅は、しづか。又、心が亂れる。⿰口草嘐。〔集韻〕愺、愺恅、心亂。〔王褒、洞簫賦〕愺恅爛漫、耦失ㇾ疇。〔注〕善曰、埤蒼曰、⿰口草嘐、寂靜也、⿰口草嘐與㆓愺恅㆒音義同。

【⿰忄挐】 11022　㊀ダ ナ　〔集韻〕乃嫁切　禡　㊁ダウ

㊀**みだれる**。〔集韻〕⿰忄挐、心亂也。㊁怓(**4**-**10441**)の俗字。〔正字通〕⿰忄挐、俗怓字。

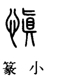
【愻】 11023　ソン　〔集韻〕蘇困切　願



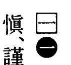
小篆

したがふ。通じて遜(**11**-**39038**)に作る。〔說文〕愻、順也、从ㇾ心孫聲、唐書曰、五品不ㇾ愻。〔段注〕訓ㇾ順之字作ㇾ愻、古書用字如ㇾ此、凡愻順字从ㇾ心、凡遜遁字从ㇾ辵、今人遜專行而愻廢矣。〔集韻〕愻、通作ㇾ遜。

【愼】 11024　㊀シン ジン　〔集韻〕時刃切　ㄕㄣˋ shen^4　震　㊁シン ジン　〔集韻〕丞眞切　眞



小篆



古文

㊀❶**つつしむ**。〔說文〕愼、謹也、从ㇾ心眞聲。〔廣雅、釋言〕愼、謹也。〔禮、文王世子〕愼㆓其身㆒、以輔㆓翼之㆒。〔注〕愼㆓其身㆒者、謹㆓安護之㆒。〔呂覽、節喪〕慈親、孝子之所ㇾ愼也。〔注〕愼、重也。❷**まこと**。まことに。まことにする。〔爾雅、釋詁〕愼、誠也。〔詩、小雅、巧言〕予愼無ㇾ罪。〔傳〕愼、誠也。〔詩、小雅、巷伯〕愼㆓爾言㆒也。〔箋〕愼、誠也。❸**しづか**。〔爾雅、釋詁〕愼、靜也。❹**おもふ**。〔方言、一〕鬱・悠・懷、云云、愼、思也、云云、秦晉或曰ㇾ愼、凡思之貌、亦曰ㇾ愼、或曰ㇾ惄。〔廣雅、釋詁二〕愼、恖也。❺**おそれる**。うれへる。欭(**6**-**16062**)・悤(**4**-**11199**)に通ず。〔說文通訓定聲〕愼、叚借爲ㇾ欭、爲ㇾ悤。〔方言、一〕愼、憂也、宋衞或謂㆓之愼㆒。〔廣雅、釋詁一〕愼、憂也。〔廣雅、釋詁四〕愼、恐也。〔楚辭、七諫、怨世〕哀㆓子胥之愼ㇾ事。〔淮南子、墬形訓〕肅愼民。〔注〕愼、畏也。❻**心うごく**。〔廣雅、釋言〕愼、憤也。❼**いましめる**。〔廣雅、釋詁四〕愼、敕也。❽**したがふ**。順(**12**-**43349**)に

通ず。〔說文通訓定聲〕愼、叚借爲レ順。〔荀子、成相〕布レ基愼二聖人一。〔注〕愼、讀爲レ順。❾ひく。ひきづなをひく。引(4－9699)に通ず。〔說文通訓定聲〕愼、叚借爲レ引。〔禮、檀弓上〕其愼也、蓋殯也。〔注〕愼、當レ爲レ引、禮家讀然、聲之誤也。〔史記、孔子世家〕蓋其愼也。〔注〕正義曰、愼、謂三以レ紼引レ棺就二殯所一也。❿くいる。悔(4－10659)の譌字。〔說文通訓定聲〕愼、叚借爲二悔之誤字一。〔大戴禮、曾子立事〕往者不レ愼也。〔禮、表記〕往者不レ悔也。⓫五歳の獸。㈡に同じ。〔集韻〕愼、一曰、獸五歳爲レ愼。⓬神の名。司愼(2－3257‥139)を見よ。⓭國の名。肅愼(9－29225‥52)の❷を見よ。⓮地名。安徽省潁上縣の西北。〔左氏、哀、十六〕吳人伐レ愼、白公敗レ之。〔注〕汝陰愼縣也。⓯川の名。滇(7－18010)に通ず。今の河南省正陽縣にある。〔集韻〕愼、水名、在二汝南一、漢因爲二愼陽縣一、本作レ滇、音眞、永平五年、失レ印更刻、遂以レ水爲レ心。⓰古は〓(4－7855)・〓(4－11025)・眘(5－13828)・昚(8－23225)に作る。〔集韻〕愼、古作二〓・昚一。〔字彙補〕〓、古文愼字。〔康熙字典〕愼、古文〓。⓱姓。〔尙友錄〕愼、天水徽音、戰國禽滑釐字愼子、以レ字爲レ姓、後去二心字一以爲レ眞。㈡五歳の獸。麎(12－47637)に通ず。〔說文通訓定聲〕愼、叚借爲レ麎。〔集韻〕愼、獸五歳爲レ愼、鄭衆說。〔周禮、夏官、大司馬〕大獸公レ之、小禽私レ之、〔注〕鄭司農曰、五歳爲レ愼、玄謂、愼、讀爲レ麎。

［名乘］チカ。ノリ。ミツ。

【愼菴】1（シンアン）❶字號。㋑明、李鑑(6－14459‥166)の號。㋺清、左宗植(4－8720‥468)の號。㋩清、錢德承(11－40563‥411)の字。㋥藪弘篤の號。藪愼菴(9－32348‥17)を見よ。❷清、張錫德(4－9812‥1268)の室名。

【愼盦】3（シンアン）清、左宗植(4－8720‥468)の號。

【愼衞】4（シンエイ）つつしみまもる。〔南史、梁宗室上、臨川靖惠王宏傳〕侍女千人、皆極二綺麗一、愼衞二寡方一、故屢致二降免一。

【愼可】5（シンカ）清、梁維樞(6－14825‥205)の字。

【愼戒】6（シンカイ）つつしみいましめる。戒愼。〔大戴禮、武王踐阼〕愼戒必恭、恭則壽。〔王褒、四子講德論〕孔子睹二其愼戒一。〔李衞公問對、中〕愼二戒其終一。

【愼行】7（シンカウ）❶行をつつしむ。〔孝經、感應章〕脩レ身愼レ行、恐レ辱レ先也。❷唐、蘇勖(9－32427‥39)の字。

【愼行論】8（シンカウロン）呂氏春秋の篇名。六論の一つ。愼行・無義・疑似・壹行・求人・察傳六篇に分れる。

【愼覈】9（シンカク）つつしみしらべる。〔後漢書、班彪傳〕今此篇、愼二覈其事一、整二齊其文一、不レ爲二世家一、唯紀傳而已。

【愼涵】10（シンカン）清、劉綸(2－2224‥654)の字。

【愼機】11（シンキ）事のきつかけをつつしむ。機は事のきざし。物事の機會を鄭重にあつかふ。〔崔琦、外戚箴〕患生二不德一、福有二愼機一。

【愼機論】12（シンキロン）書名。一卷。渡邊崋山撰。外國の事情及び當世の時務を痛論したもの。〔日本文庫、第二編、初輯〕。

【愼徽】13（シンキ）隋、杜正玄(6－14477‥354)の字。

【愼鄕】14（シンキヤウ）縣名。漢、置く。侯國。今、山東の境。〔漢書、地理志上〕琅邪郡、縣五十一、愼鄕。〔注〕侯國。

【愼謹】15（シンキン）つつしむ。謹愼。敬愼。〔呂覽、士容〕淳淳乎愼謹畏レ化、而不二肯自足一。

【愼火】16（シンクワ）❶火をつつしむ。〔周禮、天官、宮正〕以二木鐸一修二火禁一。〔疏〕特宜レ愼レ火、故修二火禁一。〔韓非子、喩老〕丈人之愼レ火也、塗二其隙一。❷植物の名。いきくさ。べんけいさう。又、戒火・火秧と名づける。〔本草、景天〕釋名、愼火・戒火・救火。〔注〕衆藥之名、景天爲レ麗、人皆盆盛養二于屋上一、云可レ辟レ火、故曰二愼火一。〔廣東新語〕愼火、一名二戒火一、又名二火秧一、其形如二火始然一、扁者不レ枝不レ葉、圓者多二枝葉一、叢生成レ樹、四棱有二芒刺一、皮中有二白漿一、能盲レ人、廣人亦以作二籬落一。

【愼科】17（マシナ）姓氏。〔姓名錄抄〕。

【愼潰】18（シンクワイ）春秋、魯の人。奢侈甚だしく、孔子が魯の司寇となるに及んで境を越えて逃る。〔荀子、儒效〕愼潰氏踰レ境而徙。〔新序、雜事一〕魯有二愼潰氏一、奢侈驕佚、孔子將レ爲二魯司寇一、愼潰氏踰レ境而徙。

【愼觀】19（シンクワン）つつしんでしらべみる。〔商子、算地〕明君愼二觀三者一。

【愼刑】20（シンケイ）刑をつつしむ。刑の執行をつつしんで輕々しくしない。〔隋書、音樂志下〕厲レ兵詰レ暴、敕レ法愼レ刑、明神降レ嘏、國步惟寧。〔元史、張懋傳〕懋惡衣糲食、率レ之以レ儉、愼レ刑平レ政、處レ之以レ公。

【愼刑司】21（シンケイシ）官署の名。清、置く。內務府に屬し、三旗の獄をはかるを掌り、太監の犯罪をも處斷する。郎中二人、員外郎八人、主事一人。〔清會典、內務府、愼刑司〕郎中二人、員外郎八人、主事一人、委署主事一人、掌レ讞二三旗之獄一、凡讞レ獄、笞杖皆決レ之、徒以上、則咨二刑部一按焉、旗民交涉者亦如レ之、凡莊頭鷹戶海戶以レ民論、若奉レ旨交訊、罪應レ死者、會二三法司一以定擬、科罪各以レ律、文武官之處分亦如レ之、凡太監之罪、比二刑律一以治レ之、輕重各以レ等。

【愼敬】22（シンケイ）つつしむ。〔管子、正〕中和愼敬。〔孔子家語、儒行解〕愼敬者仁之地也。

【愼隟】23（シンゲキ）新論の篇名。

【愼縣】24（シンケン）縣名。漢、置く。故城は安徽省潁上縣の西北。〔漢書、地理志上〕汝南郡、縣三十七、愼。

【愼檢】25（シンケン）身をつつしみつづまやかにする。〔白居易、何士乂可二河南縣令一制〕愼檢和易、介然有レ常。

【愼言】26（シンゲン）❶言葉をつつしむ。言をつつしんでみだりにいはない。〔孔子家語、觀周〕有二金人一焉、參二緘其口一、而銘二其背一曰、古之愼レ言人也。〔顏氏家訓、序致〕愼言險迹。❷新論の篇名。❸唐、薛訥(9－32123‥110)の字。

【愼愿】27（シンゲン）つつしみぶかくすなほ。恭愿。〔唐書、忠義上、張介然傳〕張介然猗氏人、性愼愿長二計畫一。

【愼固】28（シンコ）つつしんで堅固にする。〔書、畢命〕申畫二郊圻一、愼二固封守一、以康二四海一。〔傳〕謹愼堅二固封疆之守備一。

【愼吾】29（シンゴ）明、張鼎思(4－9812‥1393)の字。

【愼護】30（シンゴ）つつしみまもる。注意してまもる。〔齊民要術、種瓜〕若以レ理愼護、及レ至二霜下葉乾一、子乃盡矣。

【愼口】31（シンコウ）口をつつしむ。言辭をつつしむ。〔北史、賀若敦傳〕敦臨レ刑、呼二子弼一謂曰、吾以レ舌死、汝不レ可レ不レ思、因引レ錐刺二弼舌一出レ血、誡以レ愼レ口。

【愼厚】32（シンコウ）つつしみぶかくおもおもしい。非常に大事を取る。愼重(68)に同じ。

【愼獄】33（シンゴク）訴をつつしんでみだりにせぬ。〔孫楚、梁令孫侯頌〕古人愼レ獄、惟侯平レ之。〔王融、永明十一年策二秀才一文〕恤レ貧緩レ賦、省レ徭愼レ獄。

【愼齋】34（シンサイ）字號。❶明、黃俊(12－47926‥478)の字。❷明、童品(8－25775‥94)の號。❸明、苗朝陽(9－30781‥64)の號。❹清、禹之鼎(8－24885‥89)の號。❺清、紀大奎(8－27234‥104)の號。❻清、魏樞(12－45872‥94)の字。❼清、蔣永修(9－31820‥121)の字。❽清、峻德(4－8116‥75)の號。❾清、羅典(9－28397‥191)の號。❿清、陸憲曾(11－41708‥315)の字。⓫小出孝承の號。小出愼齋(4－7473‥1559)を見よ。

【愼齋集】35（シンサイシフ）書名。四卷。明、蔣主忠撰。主忠は景泰十才子の一人。その詞旨は清逸で、古今各體二百八十首がある。〔四庫未收書目提要、五〕。

【愼齋先生】36（シンサイセンセイ）宋、王夢松(7－20823‥2109)の尊稱。

【愼竈】37（シンサウ）春秋、魯の大夫梓愼と鄭の大夫裨竈とをいふ。〔張衡、思玄賦〕愼竈顯以言レ天兮、占二水火一而妄誶。〔注〕善曰、左氏傳曰、昭公二十四年五月乙未朔、日有レ食レ之、梓愼曰、將レ水、

昭子曰、旱也、日過レ分而陽獨不レ剋、剋必甚、能無レ旱乎、秋八月大雩、旱也、昭公十八年夏五月、火始昏見、丙子風、裨竈曰、不レ用二吾言一、鄭又將レ火、鄭人請レ用レ之、子産曰、天道遠、人道邇、非二爾及一也、何以知レ之、竈焉知二天道一、是亦多言矣、豈不二或信一、遂不レ與、亦不二復火一。

【愼察】38 シンサツ　つつしんで監視すること。〔唐書、李勣傳〕我子孫今以付レ汝、汝可二愼察一。

【愼子】39 シンシ　㊀戰國、趙の愼到をいふ。㊁書名。一卷。戰國趙、愼到撰。其の書は、物理の當然によつて各〻一法を定めて之を守り、清淨にして治めることを論じてゐる。史記によれば愼子十二篇を著はすとある。然るに漢書藝文志には四十二篇といひ、唐書藝文志には定めて十卷となし、宋の崇文總目には三十七篇としてゐるが、後人の假托したものが竄入したのであらう。明に至つては僅かに威德・因循・民雜・德立・君人の五篇となり、今日に傳はつてゐる。〔四庫提要、子、雜家類〕・〔百子全書、四十〕・〔守山閣叢書、七十九、附逸文〕・〔四部叢刊、四百十八、附補遺逸文校語〕。

【愼之】40 シンシ　清、衞立鼎(**10**－**34074**··175)の字。

【愼史】41 シンシ　清、金淑(**11**－**40152**··587)の字。

【愼始】42 シンシ　はじめをつつしむ。物事のはじめを愼重にする。〔禮、表記〕愼レ始而敬レ終。

【愼思】43 シンシ　㊀つつしんでおもふ。氣をつけて考へる。〔中庸〕審問レ之、愼思レ之、明辨レ之。㊁清、吳祖修(**2**－**3365**··727)の字。

〔愼思錄〕44 シンシロク　書名。六卷。貝原益軒撰。道學に關する識見を述べ、思慮の學問に關する功の大なることを、中國の故事を引いて說く。正德四年の自序がある。

【愼辭】45 シンジ　言辭をつつしむ。〔左氏、襄、二十五〕非二文辭一不レ爲レ功、愼レ辭哉。

【愼修】46 シンシウ　㊀つつしんで身を修める。〔班固、荅賓戲〕愼修レ所レ志。㊁字號。㋑清、江永(**6**－**17140**··17)の字。㋺清、吳俶(**2**－**3365**··226)の字。

〔愼修之室〕47 シンシウノシツ　晉、嵇含(**4**－**8272**··4)の室名。〔晉書、嵇含傳〕含好レ學能屬レ文、家在二鞏縣亳丘一、自號二亳丘子一、門曰二歸厚之門一、室曰二愼修之室一。

〔愼修先生〕48 シンシウセンセイ　明、余胤緒(**1**－**515**··68)の私謚。

【愼守】49 シンシユ　つつしみまもる。〔左氏、襄、二十八〕文子曰、可二愼守一也已。〔莊子、在宥〕愼守二女身一。

【愼終】50 シンシユウ　㊀をはりをつつしむ。物事の終を全くせんとしてつつしむ。〔書、仲虺之誥〕愼二厥終一、惟二其初一。〔書、太甲〕愼二終于始一。〔疏〕欲レ愼二其終一、於レ始卽須レ愼レ之。〔老子、六十四〕愼レ終如レ始。〔孔子家語、五儀解〕心不レ存二愼終之規一。〔盧諶、贈二劉琨一詩〕愼レ終如レ初。㊁父母の葬祭忌服等を鄭重にする。〔論語、學而〕愼レ終追レ遠、民德歸レ厚矣。〔集解〕孔曰、愼レ終者、喪盡二其哀一。〔劉寶楠正義〕愼、誠也、老死曰レ終、禮記檀弓云、喪三日而殯、凡附二於身一者、必誠必信、勿二之有一レ悔焉耳矣、三月而葬、凡附二於棺一者、必誠必信、勿二之有一レ悔焉耳矣、皆是言二愼レ終之事一。〔漢書、匡衡傳〕誠隆二於愼レ終追レ遠、無二窮已一也。

【愼遵】51 シンジユン　つつしみしたがふ。〔史記、秦始皇紀〕愼二遵職事一。

【愼初】52 シンシヨ　明、廖謹(**4**－**9464**··13)の字。

【愼所】53 シンシヨ　明、連守度(**11**－**38902**··338)の字。

〔愼所從〕54 シンシヨジユウ　中論の篇名。

【愼職】55 シンシヨク　職をつつしみ行ふ。〔呂覽、勿躬〕百官愼レ職、而莫二敢愉綖一。

【愼身】56 シンシン　身をつつしむ。〔禮、文王世子〕愼二其身一、以輔二翼之一。〔漢書、元帝紀〕自レ今以來、公卿大夫、其勉思二天戒一、愼レ身修レ永、以輔二朕之不レ逮。

【愼人】57 シンジン　㊀呂氏春秋、孝行覽の篇名。㊁字號。㋑清、朱鳳台(**6**－**14424**··988)の字。㋺清、鄭王臣(**11**－**39647**··578)の字。

【愼勢】58 シンセイ　呂氏春秋、審分覽の篇名。

【愼靜】59 シンセイ　つつしんでしづかなこと。〔禮、儒行〕儒有下上不レ臣二天子一、下不上レ事二諸侯一、愼靜而尚レ寬。〔孔子家語、儒行解〕愼靜尚レ寬。

【愼小】60 シンセウ　呂氏春秋、似順論の篇名。

【愼先】61 シンセン　清、陶祖德(**11**－**41705**··209)の字。

【愼旃】62 シンセン　字號。㊀清、孫岵瞻(**3**－**6987**··398)の字。㊁清、張金吾(**4**－**9812**··936)の字。㊂清、趙申喬(**10**－**37171**··703)の字。

【愼選】63 シンセン　㊀つつしみえらぶ。〔程子、論二經筵事一疏〕愼二選賢德之人一。㊁選擇を愼重にする。〔宋史、太祖紀一〕當下愼二其選一、以見中朕意上。

【愼到】65 シンタウ　戰國、趙の人。黄老道德の術を學び、齊の宣王の時、騶衍・騶奭・淳于髡等と共に稷下に客となる。著に愼子がある。〔史記、七十四〕。

【愼擇】66 シンタク　つつしみえらぶ。又、謹嚴な選擇。〔漢書、朱雲傳〕明王所二愼擇一也。〔白居易、鳥行初授二衞佐一制〕環衞之官、兼資二愼擇一。

【愼治】67 シンチ　つつしんでをさめる。〔荀子、解蔽〕故主二其心一而愼二治之一。

【愼重】68 シンチヨウ　愼んでいやしくもせぬ。用心深くつつしむ。〔五代史、安彥威傳〕當時益稱二其愼重一。〔蘇舜欽、感興詩〕祖宗創業難、愼重在二後昆一。

【愼亭】69 シンテイ　清、陳兆成（常熟の人）(**11**－**41698**··1149)の字。

【愼德】70 シントク　㊀德をつつしむ。つつしんで德を行ふ。〔大學〕是故君子先愼二乎德一、有レ德此有レ人。〔孔子家語、觀周〕溫恭愼德。㊁すなほな品行。順德。愼は順と通ずる。〔淮南子、繆稱訓〕詩云、媚二茲一人一、應二侯愼德一。㊂明、神宗の時、越の敬宗簡輝帝（一に惠帝、黎維新）の年號。(1200) ㊃德川家慶の諡號。

【愼獨】71 シンドク　㊀ひとりをつつしむ。誰も見てをらぬ所でも心を正しくする。己の身をつつしんで雜念の起らぬやうにし、天命の性に從ふこと。程朱學者は特に學庸を尊び、愼獨を修養上最も切要の工夫とした。〔禮、禮器〕是故君子愼二其獨一也。〔大學〕君子必愼二其獨一也。〔禮、中庸〕故君子愼二其獨一也。〔注〕愼獨者、愼二其閒居之所一レ爲。〔疏〕君子之人、恆愼二其獨居一、言下雖レ曰二獨居一、能謹愼守上道也。〔興學會約、愼獨〕孔門心法相傳、惟曰レ愼レ獨、獨者、吾心靈明之體、卽天命之性、而率レ性之道、所二從出一也、愼獨而中和位育、修齊治二平天下一之能事畢矣、然獨體至微、無レ所レ容レ力、則嚴二之於不レ睹不レ聞之地一、一レ眞無レ妄、敬肆之分、人禽之別也、曾子曰、十目所レ視、十手所レ指、其嚴乎、暗室屋漏之中、凜然上帝臨レ汝、一涉二自欺一、萬惡淵藏、吾輩若錯二過此關一、後來枉二費氣力一、到底爲二厭然之小人一矣、君子之所レ不レ可レ及者、其愼二人之所一レ不レ見乎。〔宋史、詹體仁傳〕（體仁）少從二朱熹一學、以二存誠愼獨一爲レ主。㊁新論の篇名。

〔愼獨居〕72 シンドクキヨ　明、鄭階(**11**－**39647**··35)の室名。

〔愼獨軒〕73 シンドクケン　清、劉青霞(**2**－**2224**··1115)の室名。

〔愼獨齋〕74 シンドクサイ　㊀清、康呂賜(**4**－**9376**··201)の諡。㊁字號。㋑明、趙文(**10**－**37171**··331)の號。㋺明、劉洪(**2**－**2224**··279)の號。㋩清、劉齊(**2**－**2224**··427)の號。

〔愼獨癡叟〕75 シンドクチソウ　元、陳植(**11**－**41698**··368)の號。

【愼萠】76 シンハウ　事のきざしをつつしむ。〔魏志、楊阜傳〕惟陛下慮二患無形之外一、愼二萠纖微之初一。

【愼伯】77 シンパク　清、包世臣(**2**－**2506**··157)の字。

【愼罰】78 シンバツ　刑罰をつつしむ。愼刑(20)に同じ。〔書、多方〕至二于帝乙一、罔レ不二明レ德愼一レ罰。〔孔叢子、論書〕周書所謂明德愼罰。〔後漢書、明帝紀〕詳レ刑愼レ罰、明察二單辭一。

【愼法】79 シンパフ　商子の篇名。

【愼比】80 シンピ　つつしみしたしむ。〔荀子、仲尼〕主安近レ之、則愼比而不レ邪。〔注〕謹二愼親三比於上一、而不二回邪諂佞一。

【愼微】81 シンビ　㊀微細をつつしむ。小事をゆるがせにせぬ。〔淮南子、人閒訓〕聖人敬レ小愼レ微。〔後漢書、陳忠傳〕明者愼レ微、智者識レ幾。㊁篇名。㋑陸賈新語の篇名。㋺潛夫論の篇名。

【愼夫】82 シンプ　字號。㊀清、錢善揚(**11**－**40563**··371)の字。㊁清、孫坤(**3**－**6987**··122)の字。㊂清、潘恭壽(**7**－**18236**··140)の字。㊃清、王繻(**7**－**20823**··555)の字。

【愼甫】83 シンポ　清、錢善揚(**11**－**40563**··371)の字。

【愼懋】84 シンボウ　朝鮮李朝、居昌の人。字は勉齋。號は晚湖。著に保民編がある。〔號譜〕。

【愼墨】85 シンボク　愼到と墨翟。愼子と墨子。〔荀子、

儒效〕愼墨不㆑得㆑進㆓其談㆒。

【愼墨堂】86（シンボクダウ） 清、許孫荃(**10－35298**‥348)の室名。

【愼密】87（シンミツ） つつしみ深く注意がこまかい。謹愼。綿密。〔易、繫辭上〕是以君子愼密而不㆑出也。

【愼蒙】88（シンモウ） 明、歸安の人。字は山泉。嘉靖の進士。官は監察御史。著に天下名山諸勝一覽記がある。〔蘭臺法鑒錄、十七〕。

【愼默】89（シンモク） つつしんで沈默する。〔白居易、策林、三十五、使㆓百職修皇綱振㆒〕蓋愼默積㆓於中㆒、則職事廢㆓於外㆒。

【愼問】90（シンモン） つつしみとふ。〔逸周書、大匡解〕愼㆓問其故㆒、無㆑隱乃情。

【愼陽】91（シンヤウ） 縣名。❶漢、置く。河南省正陽縣の北。〔漢書、地理志上〕汝南郡、縣三十七、愼陽。〔水經、淮水注〕淮水又東合㆓愼水㆒、水出㆓愼陽縣西㆒、而東逕㆓愼陽縣故城南㆒、縣取㆑名焉。❷南齊、置く。今、缺く。四川省の境。

【愼郎】92（シンラウ） 蜃（ハマグリ）の異名。〔事物異名錄、水族、蜃〕合璧事類、蜃化爲㆓美少年㆒、娶㆓刺史賈至女㆒、眞君求㆑見㆓賈使君㆒曰、聞、君有㆓貴壻㆒、愼郎乃蛟蜃老精焉、敢遁㆑形、蜃變㆓本形㆒、爲㆓吏所㆑殺。

【愼慮】93（シンリヨ） 謹んでおもんぱかる。〔禮、表記〕君使㆓其臣得㆑志、則愼慮而從㆑之。

【愼陵】94（シンリヨウ） 後漢、和帝の陵の名。河南省洛陽縣の東。〔後漢書、殤帝紀〕延平元年、春三月甲申、葬㆓孝和皇帝於愼陵㆒。〔注〕在㆓洛陽東南三十里㆒、俗本作㆑順者誤。〔洛陽縣志〕愼陵、在㆓城東北四十一里㆒、俗稱㆓三漢冢㆒、卽此。

【愼禮】95（シンレイ） 禮をつつしむ。〔左氏、昭、四〕今君始得㆓諸侯㆒、其愼㆑禮矣。

【愼溫其】96（シンヲンキ） 五代、十國の呉越、信安の人。詞學あり。錢俶に仕へ、元帥府判官となる。〔宋史、二百七十七〕。

【愼郡王】97（シングンワウ） 清、允禧(**1－1338**‥14)の封號。

【愼自健】98（シンジケン） 朝鮮李朝、居昌の人。字は杓直。號は松齋。官は江原道觀察使。〔人物考〕。

【愼從吉】99（シンジユウキツ） 宋の人。知禮の子。字は慶之。錢俶に從つて宋に歸し、給事中・權開封府知となる。詩を能くし、醫に精通した。〔宋史、二百七十七〕・〔宋史新編、七十九〕。

【愼靚王】100（シンセイワウ） 周、三十六代の王。周愼靚王(**2－3441**‥907)を見よ。

【愼節齋】101（シンセツサイ） 清、史致謌(**2－3249**‥246)の號。

【愼大覽】102（シンダイラン） 呂氏春秋の篇名。八覽の一つ。愼太・權勳・下賢・報更・順說・不廣・貴因・察今の八篇に分れる。

【愼知禮】103（シンチレイ） 宋の人。溫其の子。始、吳の錢俶の掌書記となり、後、宋に歸して、鴻臚卿・興元府知となる。〔宋史、二百七十七〕・〔宋史新編、七十九〕。

【愼東美】104（シントウビ） 宋、錢塘の人。字は伯筠。文詩書畫に巧。嘗て京師の試に應じ、棘闈の嚴を見て天下の士を待つ所以に非ずといつて去る。嘉祐中、韓琦に薦められて京師に留る。

【愼餘堂】105（シンヨダウ） 清、管鳳苞(**8－26162**‥202)の室名。

【愼鸞交】106（シンランカウ） 戲曲の名。清、李漁撰。李十種曲の一つ。華秀・侯雋と妓女王又嬙・鄧蕙娟との情事を記す。

【愼夏漫筆】107（シンカマンピツ） 書名。四卷。西島長孫撰。弘化四年刊行。漢文の隨筆で、經史詩文の疑義を解く。

【愼其餘齋】108（シンキヨサイ） 清、王贈芳(**7－20823**‥1865)の號。

【愼娛居士】109（シンゴコジ） 明、李流芳(**6－14459**‥1986)の號。

【底㆓愼財賦㆒】110（ツツシミヲザイフニイタス） 財用と貢賦をつつしむ。產する財物に應じて賦入の數を定め、度を超えぬやうにする。〔書、禹貢〕六府孔修、庶土交正、底㆓愼財賦㆒。〔傳〕致㆑所㆑愼者、財貨貢賦、言取㆑之有㆑節、不㆑過㆑度。

【慎】11024′ シン 愼(**4－11024**)に同じ。

【㥲】11025 シン 〔集韻〕升人切 ［眞］

❶**いかる**。謓(**10－35809**)に同じ。〔集韻〕謓、說文、恚也、亦作㆑㥲。〔篇海〕㥲、恚也。❷愼(**4－11024**)の古字。〔字彙補〕㥲、古文愼字。

【⿱耿心】11026 カウ キヤウ 〔集韻〕古幸切 ［梗］

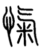
うれへる。〔集韻〕⿱耿心、憂也。

【⿰忄粤】11027 シユン 粤(**2－2533**)に同じ。〔說文〕粤、⿰忄粤、粤或从㆑心。

【愽】11028 ハク 博(**2－2761**)の俗字。〔正字通〕愽、俗博字。

【愾】11029

［一］キ ケ 〔集韻〕許既切 ㄒㄧˋ hsi⁴ ［未］
［二］カイ 〔集韻〕丘蓋切 ［泰］
［三］カイ 〔集韻〕口漑切 ㄎㄞˋ k'ai⁴ ［隊］
［四］キツ コチ 〔集韻〕許訖切 ［物］
［慣］ガイ



小篆

［一］**なげく**。ためいきをつく。〔說文〕愾、大息皃、从㆑心氣聲、詩曰、愾我寤嘆。〔段注〕大息者、呼吸之大者也。〔詩、曹風、下泉〕愾我寤歎。〔集傳〕愾、歎息之聲。［二］**みちる**。氣がみちる。〔廣雅、釋詁一〕愾、滿也。〔王念孫疏證〕愾、謂㆓氣滿㆒也。［三］❶**なげく**。［一］に同じ。〔集韻〕愾、太息也。❷**いかる**。うらむ。慨(**4－11122**)・怫(**4－10370**)に通ず。〔說文通訓定聲〕愾、叚借爲㆑怫。〔正字通〕愾、與㆑慨通。〔詩、小雅、彤弓序、天子錫㆓有功諸侯㆒也、箋〕諸侯敵㆓王所㆑愾而獻㆓其王㆒。〔釋文〕愾、很也。〔左氏、文、四〕敵㆓王所㆑愾。〔注〕愾、恨怒也。〔集韻〕愾、一曰、怒也。❸**みちる**。［二］に同じ。〔集韻〕愾、一曰、滿也。［四］**いたる**。迄(**11－38724**)・訖(**10－35242**)に通ず。〔說文通訓定聲〕愾、叚借爲㆑訖。〔集韻〕迄、爾雅、至也、或作㆓愾・訖㆒。〔禮、哀公問〕君行㆓此五者㆒、則愾㆓乎天下㆒矣。〔注〕愾、猶㆑至也。

【愾焉】1（ガイエン） ためいきをついて歎息するさま。〔禮、問喪〕心悵焉愴焉、惚焉愾焉。〔孫希旦集解〕怳惚愾歎。

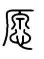
【愾然】2（ガイゼン） 太息するさま。歎息するさま。〔禮、祭義〕祭之日入㆑室、云云、愾然必有㆑聞㆓乎其歎息之聲㆒。〔孫希旦集解〕馬氏晞孟曰、愾然言㆓其氣㆒。

【愾敵】3（ガイテキ） 敵に對して怒を抱く。敵愾心をかきたてる。〔王惲、東征詩〕臣牢最愾敵、奮擊不㆑留㆑行。

【愾憤】4（ガイフン） いきどほる。憤愾。忼愾。〔常袞、故四鎭北庭行營節度使扶風郡王贈司徒馬公神道碑銘〕愾㆓憤邊戎㆒、徘㆓徊孤劍㆒。

【愿】11030

［一］ゲン グヮン 〔集韻〕虞怨切 ㄩㄢˋ yüan⁴ ［願］
［二］ゲン グヮン 〔集韻〕愚袁切 ［元］



小篆

［一］［二］❶**つつしむ**。〔說文〕愿、謹也、从㆑心原聲。〔書、皐陶謨〕愿而恭。〔鄭注〕愿、謂㆓容貌恭正㆒。〔左氏、襄、三十一〕愿、吾愛㆑之。〔注〕愿、謹善也。〔論語、泰伯〕侗而不㆑愿。❷**すなほ**。質朴。〔禮、緇衣〕而民作㆑愿。〔疏〕愿、愨也。〔國語、楚語上〕吾有㆑妾而愿。〔注〕愿、愨也。❸**よい**。〔廣雅、釋詁一〕愿、善也。❹通じて願(**12－43623**)に作る。〔大戴禮、文王官人〕言願以爲㆑質、

注〕愿、當二聲誤爲レ願也。㊄原（2－2973）に同じ。〔論語、陽貨、鄕原德之賊也、集注〕原、與レ愿同。㊅諡。〔逸周書、諡法解〕思厚不レ爽曰レ愿。

名乘 ヨシ。

【愿意】1（ゲンイ） 承知する。〔紅樓夢、二十七回〕紅玉笑道、愿意不二愿意一。

【愿婉】2（ゲンエン） すなほ。まことですなほ。〔韓詩外傳、二〕愿婉端愨、則合レ之以二禮樂一。

【愿愨】3（ゲンカク） すなほ。つつしみぶかくてすなほ。〔荀子、榮辱〕孝悌愿愨。〔荀子、正論〕上端誠、則下愿愨矣。〔商子、定分〕民皆愿愨。〔魏志、東夷、濊傳〕其人性愿愨。

【愿共】4（ゲンキョウ） 誠があつてうやうやしい。愿恭。愿而共（16）を見よ。

【愿恭】5（ゲンキョウ） 誠があつてうやうやしい。愿共。恭愿。愿而恭（17）を見よ。

【愿謹】6（ゲンキン） つつしみ。すなほでつつしみ深いこと。謹愿。端愿。〔史記、佞幸、鄧通傳〕通亦愿謹不レ好二外交一。〔後漢書、梁統傳論〕能以二愿謹一自終者乎。

【愿款】7（ゲンクワン） つつしみ深くて誠があること。〔後漢書、江革傳〕辭氣愿款、有下足三感二動人一者上。

【愿潔】8（ゲンケツ） 身をつつしみ行のいさぎよいこと。〔韓愈、河南府同官記〕我公愿潔而沈密。

【愿心】9（ゲンシン） 願。心願。〔紅樓夢、二十五回〕他許多的愿心。

【愿愼】10（ゲンシン） つつしみ深い。愼愿（4－11024‥27）に同じ。

【愿端】11（ゲンタン） つつしみ深くてただしい。

【愿中】12（ゲンチュウ） ㊀ただしくあたる。〔周禮、考工記、弓人〕其矢危、則莫二能以愿中一。〔孫詒讓正義〕愿中、謂下矢不二旁掉一、適二中其所一レ射、若二謹愿一然上。㊁宋、李侗（6－14459‥635）の字。

【愿法】13（ゲンパフ） 法をつつしむ。〔陸機、五等諸侯論〕愿法期二於必諒一。〔注〕良曰、愿、謹也。

【愿朴】14（ゲンボク） すなほで飾らぬ。ありのままでわるぎが無い。〔後漢書、劉寵傳〕山民愿朴、乃有下白首不レ入二市井一者上。

【愿民】15（ゲンミン） つつしんでまことある民。素朴な民。〔荀子、王霸〕無二國而不一レ有二愿民一。〔漢書、食貨志下〕愿民陷而之二刑戮一。

【愿而共】16（ゲンニシテキョウ） 愿而恭に同じ。〔史記、夏紀〕柔而立、愿而共。〔注〕集解曰、孔安國曰、愨愿而恭敬。

【愿而恭】17（ゲンニシテキョウ） まことがあつてうやうやしい。すなほでつつしみぶかい。愿而共。〔書、皐陶謨〕柔而立、愿而恭。〔蔡傳〕謹愿而恭恪也。

【㥷】11031

ゲン グワン 〔集韻〕愚袁切 元

㊀**はかる**。〔集韻〕㥷、測量也。㊁愿（4－11030）に同じ。〔正字通〕㥷、同レ愿。

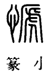
【㥠】11032

セツ セチ 〔集韻〕先結切 屑

うれへる。〔集韻〕㥠、憂也。

【㥴】11033

[一] イ 〔集韻〕演爾切 紙
[二] イ 〔集韻〕余支切 支
[三] シ 〔集韻〕賞是切 紙
[四] シ 〔集韻〕相支切 支
[五] テイ ダイ 〔集韻〕田黎切 齊


小篆

[一][二][三][四]**うれへぬ。心にかけぬ**。〔說文〕㥴、怟㥴、不レ憂レ事也、从レ心虒聲、讀若レ移。[五]㦗㥴は、はぢる。〔集韻〕㥴、楚人謂レ慙曰二㦗㥴一。

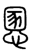
【㥏】11034

[一] カイ ケ 〔集韻〕戶佳切 佳
[二] ケイ ゲイ 〔集韻〕胡計切 霽

[一]**心が平かでない**。慣㥏。〔集韻〕㥏、慣㥏、心不レ平。[二]㊀**うらむ**。〔集韻〕㥏、恨也。㊁**恨みはしるさま**。〔字彙〕㥏、恨走貌。

【慁】11035

コン ゴン 〔集韻〕胡困切 願 ㄏㄨㄣˋ huen⁴


小篆

㊀**うれへる**。きにかける。〔說文〕慁、憂也、从レ心圂聲。〔左氏、昭、六〕主不レ慁レ賓。〔注〕慁、患也。㊁**みだす。けがす**。はづかしめる。溷（7－17986）に通ず。〔說文通訓定聲〕慁、叚借爲レ溷。〔說文〕慁、一曰、擾也。〔廣雅、釋詁三〕慁、亂也。〔集韻〕慁、一曰、擾也、一曰、辱也。〔禮、儒行〕不レ慁二君王一。〔注〕慁、猶レ辱也。〔史記、陸賈傳〕無二久慁レ公爲一也。〔注〕集解曰、韋昭曰、慁、汚辱。〔史記、范睢傳〕是天以二寡人一慁二先生一。〔注〕索隱曰、慁、猶二汩亂之意一。㊂或は㥵（4－11036）に書す。〔集韻〕慁、或書作レ㥵。

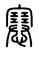
【慁慁】1（コンコン） うれひ惑ふさま。〔元結、自述、述命文〕愚惑者慁慁然、遂忘二家國一。〔翟楚賢、天行健賦〕瞻二之千表一、則其容慁慁。

【㥵】11036

コン 慁（4－11035）に同じ。〔集韻〕慁、或書作レ㥵。

【㥶】11037

[一] ソク 〔集韻〕悉則切 職
[二] サイ 〔集韻〕先代切 隊
[三] ケン 〔集韻〕丘虔切 先


小篆

[一][二]㊀**みちる**。寋（4－11493）に同じ。〔正字通〕㥶、篆作レ寋。〔說文〕寋、實也、从レ心寋聲。虞書曰、剛而寋。㊁**やすらか**。〔廣雅、釋詁一〕㥶、安也。㊂古は寋（4－11433）・寨（4－11494）に作る。㊃塞（3－5349）に同じ。〔集韻〕㥶、古作二寋・寨一。〔正字通〕㥶、同レ塞。[三]**あやまる**。愆（4－10900）に同じ。〔集韻〕愆、說文、過也、或从二寒省一。

【𢟪】11038

サイ 寋（4－11037）に同じ。〔字彙〕𢟪、同レ寋。

【慂】11039

ヨウ ユ 〔集韻〕尹竦切 腫 ㄩㄥˇ yung³

㊀**しひる。すすめる**。慫慂。〔集韻〕慂、勸也。〔方言、十〕南楚之間、凡己不レ欲二喜怒一、而旁人說者、謂二慫慂一。㊁或は容（3－7172）・臾（9－30178）に作る。〔集韻〕慂、或作二容・臾一。

【㥸】11040

[一] ベイ マイ 〔集韻〕緜批切 齊
[二] ベイ マイ 〔集韻〕彌計切 霽

[一]**まどふ**。㥝（4－10539）に同じ。〔集韻〕㥝、心惑也、或作レ㥸。[二]**はかる**。〔集韻〕㥸、㥦也。

【慃】11041

アウ 〔集韻〕鄔項切 講

㊀慃慲は、もとる。〔集韻〕慃、慃慲、很戾。㊁或は㒊（1－974）・𠃻（1－207）に作る。〔集韻〕慃、或从レ人、从レ乙。

【慄】11042

リツ リチ 〔集韻〕力質切 質 ㄌㄧˋ li⁴

❶**おそれる**。〔爾雅、釋詁〕慄、懼也。〔莊子、人閒世〕吾甚慄㆑之。〔釋文〕慄、李云、懼也。❷**をののく**。ふるへる。〔廣雅、釋言〕慄、戰也。〔素問、調經論〕故寒慄。〔注〕慄、謂㆓振慄㆒也。〔素問、瘧論〕乃作㆓寒慄鼓頷㆒。〔注〕慄、戰慄也。❸**すくむ**。〔增韻〕慄、竦縮也。〔詩、秦風、黄鳥〕惴惴其慄。❹**ぞつとする**。〔史記、酷吏、義縱傳〕郡中不㆑寒而慄。❺**うれへる**。〔爾雅、釋言〕慄、慼也。〔張衡、西京賦〕怵悼慄而聳兢。〔注〕薛曰、慄、憂慼也。❻**かなしむ**。いたむ。〔韻會小補〕慄、哀愴意。〔漢書、外戚上、李夫人傳〕懰慄不㆑言。❼或は慄(**4**－**11310**)に作る。〔集韻〕慄、或从㆑㮚。❽栗(**6**－**14695**)に通ず。〔正字通〕慄、同㆑栗、古用㆑栗。

參考 慄(**4**－**11228**)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕慄、音栗、懼也。慄、音粟、慄斯承㆓上顏色㆒。

【慄菴】1 リツアン 淸、賽爾赫(**10**－**36886**‥45)の字。

【慄懼】2 li^4 chü^4 懼れをののく。

【慄斯】3 リツシ つつしみおそれる。顏色を迎へて媚びるさま。〔楚辭、卜居〕將哫訾慄斯、喔咿嚅唲、以事㆓婦人㆒乎。〔注〕承㆓顏色㆒也。〔補注〕慄、音栗、謹敬也、斯、讀若㆑撕、音斯、慄也。

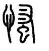
【慄然】4 リツゼン おそれるさま。をののくさま。慄慄に同じ。〔晉書、王湛傳〕不㆑覺慄然、心形俱肅。〔高啓、遊㆓天平山㆒記〕既入則慄然若㆓將㆑壓者㆒。

【慄慄】5 リツリツ ❶おそれるさま。をののくさま。〔書、湯誥〕慄慄危懼、若㆑將㆑隕㆓于深淵㆒。〔史記、律書〕常戰戰慄慄。〔後漢書、郎顗傳〕矜矜慄慄。❷さむいさま。〔王禹偁、和㆓馮中允爐邊偶作㆒詩〕人日雪花寒慄慄。

【慄冽】6 リツレツ 寒さがきびしいさま。栗烈(**6**－**14695**‥69)に同じ。〔歐陽脩、秋聲賦〕其氣慄冽、砭㆓人肌骨㆒。

【慄烈】7 リツレツ 寒さがきびしく身にしみる。又、そのさま。栗烈(**6**－**14695**‥69)に同じ。

【慅】11043


小篆

［一］サウ ソウ 〔集韻〕蘇遭切 豪
［二］セウ 〔集韻〕先彫切 蕭
［三］サウ ソウ 〔集韻〕采早切 晧
［四］サウ ソウ 〔集韻〕七到切 號

［一］❶**うごく**。**さわぐ**。騷(**12**－**44935**)に通ず。〔說文〕慅、動也、从㆑心蚤聲。〔段注〕月出、勞心慅兮、常武、徐方繹騷、傳曰、騷、動也、此謂㆓騷卽慅之叚借字㆒也、二字義相近、騷行而慅廢矣。❷**おきる**。早(**5**－**13742**)に通ず。〔說文通訓定聲〕慅、叚借爲㆑早。〔說文〕慅、一曰、起也。❸或は懆(**4**－**11325**)に作る。〔集韻〕慅、或作㆑懆。［二］**つかれる**。慅慅。〔爾雅、釋訓〕庸庸・慅慅、勞也。［三］❶**つかれる**。［二］に同じ。〔集韻〕慅、爾雅、慅慅、勞也。❷**うれへる**。かなしむ。懆(**4**－**11325**)に通ず。〔說文通訓定聲〕慅、叚借爲㆑懆。〔集韻〕慅、一曰、愁也。〔正字通〕慅、憂也。〔詩、陳風、月出〕勞心慅兮。〔集傳〕慅、猶㆑悄也。❸**あらふ**。澡(**7**－**18379**)に通ず。慅嬰(1)を見よ。〔說文通訓定聲〕慅、叚借爲㆑澡。［四］**うれへる**。［三］の❷に同じ。〔集韻〕慅、愁也。

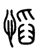
【慅嬰】1 サウエイ 洗ひふるした布で作つた冠の紐。凶冠の飾で罪人の用ひるもの。慅は澡。〔荀子、正論〕墨黥慅嬰。〔注〕當㆑爲㆓澡嬰㆒、謂㆘澡㆓濯其布㆒爲㆖纓、鄭云、凶冠之飾、令㆓罪人服㆑之。

【慅兮】2 サウケイ うれへるさま。〔詩、陳風、月出〕勞心慅兮。〔集傳〕慅、猶㆑悄也。

【慅慅】3 サウサウ ❶うれへるさま。〔梁武帝、代㆓蘇屬國婦㆒詩〕愴愴獨涼枕、慅慅孤月雁。〔虞集、出塞圖詩〕今日不㆑樂心慅慅、什什伍伍呼㆓其曹㆒。❷不安なさま。〔隋書、李德林傳〕軍中慅慅、人情大異。❸つかれるさま。〔爾雅、釋訓〕庸庸・慅慅、勞也。

【慅揖】4 サウシフ 心がおちつかない。〔元結、引極、思元極〕心慅揖兮意惶懷。

【慆】11044


小篆

タウ トウ 〔集韻〕他刀切 ㄊㄠ t'ao^1 豪

❶**よろこぶ**。謟(**10**－**35831**)に同じ。〔說文〕慆、說也、从㆑心舀聲。〔說文通訓定聲〕慆、字亦作㆑謟、尙書大傳、師乃慆、注、喜也。〔左氏、昭、元〕非㆓以慆㆑心也。❷**あなどる**。滔(**7**－**18035**)に通ず。〔說文通訓定聲〕慆、叚借爲㆑滔。〔集韻〕慆、一曰、慢也。〔書、湯誥〕無㆑卽㆓慆淫㆒。〔傳〕慆、慢也。❸**みだら**。〔楚辭、離騷〕椒專佞以慢慆兮。〔注〕慆、淫也。❹**すぎる**。〔詩、唐風、蟋蟀〕日月其慆。〔傳〕慆、過也。❺**たがふ**。うたがふ。忒(**4**－**10319**)に通ず。〔說文通訓定聲〕慆、叚借爲㆑忒、慆・忒、一聲之轉。〔左氏、昭、二十七〕天命不㆑慆久矣。〔注〕慆、疑也。❻**つつむ**。かくす。韜(**12**－**43189**)に通ず。〔說文通訓定聲〕慆、叚借爲㆑韜。〔左氏、昭、三〕以㆑樂慆㆑憂。〔注〕慆、藏也。❼**ひさしい**。**又**、**みだれる**。慆慆(3)を見よ。

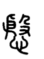
【慆憂】1 タウイウ うれひをつつみかくす。一說に、うれひを忘れすごす。〔左氏、昭、三〕君日不㆑悛、以㆑樂慆㆑憂。〔注〕慆、藏也。〔會箋〕詩唐風、日月其慆、毛傳、慆、過也、慆、憂之慆、當㆑從㆓此解㆒、言㆘以㆓娛樂㆒閑㆗過憂患㆖。

【慆淫】2 タウイン あなどりみだらなこと。逸樂をいふ。〔書、湯誥〕凡我造邦、無㆑從㆓匪彝㆒、無㆑卽㆓慆淫㆒。〔蔡傳〕慆、慢也、淫、指㆓逸樂㆒言。〔國語、周語下〕及㆓其失㆒㆑之也、必有㆓慆淫之心閒㆒㆑之。〔列女傳、母儀、魯季敬姜傳〕夜儆㆓百工㆒、使㆑無㆓慆淫㆒。

【慆慆】3 タウタウ ❶久しいさま。〔集韻〕慆、一曰、慆慆、久也。〔詩、豳風、東山〕我徂㆓東山㆒、慆慆不㆑歸。〔傳〕慆慆、言㆑久也。❷亂れるさま。〔班固、幽通賦〕安慆慆而不㆑萉兮、卒隕㆓身乎世禍㆒。〔注〕善曰、慆慆、亂貌。「命㆒。」

【慆慢】4 タウマン あなどる。〔吳志、孫權傳〕慆㆓慢天

【慇】11045


小篆

［一］イン 〔集韻〕於巾切 ㄧㄣ yin^1 眞
［二］イン オン 〔集韻〕於斤切 文

［一］［二］❶**いたむ**。痛切なうれひ。〔說文〕慇、痛也、从㆑心殷聲。〔段注〕謂㆓憂之切者㆒也。〔集韻〕慇、憂也。〔詩、小雅、正月〕憂心慇慇。〔傳〕慇慇然痛也。❷**ねんごろ**。てあつい。懇親。委曲。慇懃(5)を見よ。❸或は殷(**6**－**16627**)に作る。〔集韻〕慇、亦省。〔詩、邶風、北門〕憂心殷殷、釋文〕殷、本又作㆑慇。

【慇憂】1 インイウ 深いうれひ。又、深くうれへる。殷憂(**6**－**16627**‥3)を見よ。〔江淹、傷㆓愛子㆒賦〕屑㆓丹泣於下壤㆒、傃㆓慇憂於上旻㆒。

【慇慇】2 インイン 思ひいたむさま。心痛するさま。殷殷(**6**－**16627**‥4)の❷に同じ。〔爾雅、釋訓〕慇慇・惸惸、憂也。〔詩、小雅、正月〕念我獨兮、憂心慇慇。〔傳〕慇慇然痛也。〔詩、大雅、桑柔〕憂心慇慇、念㆓我土宇㆒。「な。氣をつける。」

【慇慇懃懃】3 yin^1 yin^1 ch'in^2 ch'in^2 親切

【慇勤】4 インキン ねんごろなこと。慇懃に同じ。〔史記、鄒陽傳〕何則慈仁慇勤。〔風俗通、過譽〕在者寡㆓慇勤之意㆒。

【慇懃】5 インギン ❶委曲をつくすこと。ねんごろなこと。懇にする。殷勤。接㆓慇懃㆒を見よ。〔楊巨源、折楊柳詩〕惟有㆓春風最相惜㆒、慇懃更向㆓手中㆒吹。〔陳羽、伏翼西洞送㆓夏方慶㆒詩〕慇懃好去武陵客、莫㆘引㆓世人㆒相逐來㆖。❷うれひの痛切なこと。いたみうれへる。〔論衡、明雩〕慈父之於㆑子、孝子之於㆑親、知㆑病不㆑祀㆑神、疾痛不㆑和㆑藥、又知㆓病之必不㆒㆑可㆑治、治㆑之無㆑益、然終不㆓肯安坐待㆒㆑絕、猶卜筮求㆑祟、召㆑醫和㆑藥者、

惻痛慇懃、冀レ有レ驗也。㊂男女の相通ずること。男女の情愛。よしみ。通二慇懃一を見よ。

〖接二慇懃一〗6（インギンニセツス）　人と相親んで懇切にすること。〔司馬遷、報二任少卿一書〕僕與二李陵一、未下曾銜二杯酒一、接中慇懃之歡上。

〖通二慇懃一〗7（インギンヲツウズ）　男女思慕の情を通ずる。〔漢書、司馬相如傳〕相如乃使下侍人重二賜文君侍者一、通中慇懃上。

【慇潤】8（インジュン）　さかんにうるほす。〔楚相孫叔敖碑文〕鍾二天地之美一、收二九澤之利一、以慇二潤國家一。〔古文苑注〕慇、音義與レ殷同、殷、富也。

【⿰忄殷】11046

イン　慇（**4－11045**）に同じ。〔字彙補〕⿰忄殷、同レ慇。

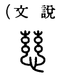
【⿰忄高】11047

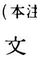
カウ　コウ　〔集韻〕居號切　號

わづらふ。〔集韻〕⿰忄高、煩也。

【慈】11048

シ　ジ　〔集韻〕牆之切　支　ㄘˊ　tzʻŭ^{2}


（說文小篆）


（段注本小篆）

㊀**いつくしむ**。〔說文〕慈、㤅也、从レ心茲聲。〔釋名、釋言語〕慈、字也、字二愛物一也。〔周禮、地官、大司徒〕一曰慈レ幼。〔注〕謂レ愛二幼少一也。〔左氏、昭、二十八〕慈和偏服。〔注〕上愛レ下曰レ慈。〔國語、周語上〕慈二保庶民一。〔注〕慈、愛也。㊁**いつくしみ**。㋑深い愛。〔禮、曲禮上〕兄弟親戚、稱二其慈一也。〔疏〕慈者、篤愛之名。〔左氏、莊、二十七〕夫禮樂慈愛。〔疏〕慈、謂二愛之深一也。㋺なさけ。あはれみ。〔增韻〕慈、仁也。〔儀禮、喪服傳〕以レ慈レ己加也。〔注〕必求二其寛裕慈惠、溫良恭敬、愼而寡言者一。〔疏〕慈、謂二恩慈一。〔新書、道術〕惻隱憐レ人、謂二之慈一。㊇父母の子に對する愛。〔禮、內則〕其次爲二慈母一。〔注〕慈母、知二其嗜欲一者也。〔大學〕爲二人父一、止二於慈一。〔管子、形勢解〕慈者、父母之高行也。〔新書、道術〕親愛利レ子、謂二之慈一。㊁子の父母によく事へる愛。〔禮、內則〕慈以旨レ甘。〔注〕慈、愛敬進レ之也。〔國語、齊語〕不三慈二孝於父母一。〔莊子、漁父〕事レ親則慈孝。㊂**州名**。〔集韻〕慈、亦州名。㊃或は㤵（**4－10668**）に作る。〔集韻〕慈、或作レ㤵。㊄**姓**。〔通志、氏族略〕慈氏、急就章有二慈仁一、姓纂云、高陽氏才子之後、美二其宣慈惠和一、因以爲レ氏、以レ臣觀レ之、無二是理一也。㊅佛**衆生に樂を與へること**。〔智度論、二十七〕大慈、與二一切衆生樂一、大悲、拔二一切衆生苦一。㊆現母をいふ。

名乘　ナリ。チカ。ヨシ。ヤス。

【慈鴉】1（アジ）　からすの一種。慈烏（10）に同じ。〔杜甫、題二桃實一詩〕簾戶每宜レ通二乳燕一、兒童莫レ信打二慈鴉一。

【慈愛】2（ジアイ）　いつくしみかはいがる。又、いつくしみ。〔禮、樂記〕寛裕肉好順成和動之音作、而民慈愛。〔禮、祭義〕思二慈愛一忘レ勞、可レ謂レ用レ力矣。〔左氏、莊、二十七〕夫禮樂慈愛、戰所レ畜也。〔孝經、諫爭章〕若二夫慈愛恭敬、安レ親揚レ名、則聞レ命矣。〔管子、中匡〕慈二愛百姓一。〔國語、楚語上〕明二慈愛一以道二之仁一。〔荀子、王制〕慈二愛百姓一。〔孔子家語、入官〕慈愛優二柔之一。

【慈媼】3（ジアウ）　いつくしみある母。慈母。〔梅堯臣、過口得二雙鱖魚一懷二永叔一詩〕持歸奉二慈媼一。

【慈渥】4（ジアク）　いつくしみのあついこと。〔常袞、謝三妻封二弘農郡夫人一表〕仰酬二國恩一、分寸未レ展、內省二家事一、慈渥過レ豐。

【慈意】5（ジイ）　いつくしみの心。人に樂しみを與へようとする心。〔法華經、普門品〕悲體戒雷震、慈意妙大雲、澍二甘露法雲一。〔淨住子、出三界外樂門〕若以二慈意一視二衆生一者、得二佛淨目上下眴相一。

【慈闈】6（ジヰ）　皇后をいふ。闈は、宮中の大門の傍の小門、后妃の居所をいふ。〔梁燾、立二皇后孟氏一制〕明揚二德閫之懿一、簡在二慈闈之公一。〔宣和遺事、前集〕閒言不レ入二於慈闈一。

【慈育】7（ジイク）　いつくしみそだてる。〔梁簡文帝、唱導文〕覆二載蒼生一、慈二育黎首一。

【慈蔭】8（ジイン）　父祖の功によつて、てあつく官に敍せられること。〔南史、宋宗室及諸王上、臨川烈武王道規傳〕文帝下レ詔、褒二美勳德一、及二慈蔭之重一。

【慈雨】9（ジウ）　めぐみのあめ。よいしめり。又、君恩のあまねく及ぶ喩。甘雨。膏雨。〔梁簡文帝、請二武帝御講一啓〕油然慧雲、霈然慈雨。

【慈烏】10（ジウ）　鳥の名。からすの一種。鳥の兒は生長の後、親に食を運び與へて、反哺の慈愛があるからいふ。慈鴉。〔本草、慈烏〕釋名、慈鴉、孝烏、寒鴉、時珍曰、此鳥初生、母哺六十日、長則反哺六十日、可レ謂二慈孝一矣。〔梁武帝、孝思賦〕慈烏反哺以報レ親。〔白居易、慈烏夜啼詩〕慈烏失二其母一、啞啞吐二哀音一。

〖慈烏石〗11（ジウセキ）　石の名。廣西省南寧道扶南縣の東北の地にあり、石の重り合ふさまが烏のむらがつて雲邊をとぶが如くであるからいふ。〔南寧府志、新寧州〕慈烏石、在二城東一里一、州龍過レ脈、黑石星二布於田一、如二烏聚止一。

【慈雲】12（ジウン）　㊀めぐみが普く及ぶことを、雲が空一面に覆ふのに喩へていふ。〔雞跖集〕如來慈心、如三彼大雲蔭二注世界一。㊁宋の僧。杭州天竺靈山寺の靈應尊者。天台寧海の人。名は遵式。字は知白。眞宗から號を慈雲と賜はる。宋の太宗乾德元年に生れ、明道元年十月八日に入寂。著に往生淨土懺儀・請觀音消伏毒害懺儀・金光明懺法等があり、世人、慈雲懺主といふ。〔佛祖統紀、十一〕・〔琅琊代醉編、三十二〕。

〖慈雲寺〗13（ジウンジ）　寺の名。北京、齊化門外に在「る。

〖慈雲樓〗14（ジウンロウ）　清、李筠嘉（**6－14459‥865**）の室名。

〖慈雲懺主〗15（ジウンザンシュ）　宋、遵式（**11－39118‥24**）の號。慈雲（12）の㊁を見よ。

〖慈雲點玉〗16（ジウンテンギョク）　北京で愛養される菊花の名。〔燕京歲時記、九花山子〕謹按、日下舊聞考、蓋京師菊花亟繁、有二慈雲點玉・慈雲萬點一。

〖慈雲萬點〗17（ジウンマンテン）　北京で愛翫される菊花の名。慈雲點玉を見よ。

【慈衞】18（ジエイ）　いつくしみまもる。〔老子、六十七〕天將レ救レ之、以レ慈衞レ之。

【慈幼】19（ジエウ）　幼者をいつくしむ。〔周禮、地官、大司徒〕以二保息六一養二萬民一、一曰慈レ幼、二曰養レ老。〔注〕慈レ幼、謂レ愛二幼少一也、產二子三人一與二之母一、二人與二之餼一、十四以下不レ從レ征。〔禮、祭義〕先王之所三以治二天下一者五、貴レ有レ德、貴レ貴、貴レ老、敬レ長、慈レ幼。〔孟子、告子下〕三命曰、敬レ老慈レ幼、無レ忘二賓旅一。〔管子、入國〕二曰慈レ幼。

〖慈幼局〗20（ジエウキョク）　遺棄された小兒を救養する目的で宋の淳祐七年に設置した役所。〔大學衍義補、固二邦本一、愍二民之窮一〕淳祐七年、創二慈幼局一、應二遺棄一小兒、民間有下願二收養一者上、官爲倩二貧婦一就レ局乳視、官給二錢米一如レ令。

【慈悅】21（ジエツ）　いつくしみ。〔張君祖、贈二沙門竺法頵一詩〕應方恢二權化一、兆類蒙二慈悅一。

【慈恩】22（ジオン）　㊀めぐみ。あはれみ。慈惠。〔詩、小雅、四牡、將レ母來諗、箋、人之思レ恒思レ親者、疏〕言二人之思レ恒思レ親者、母之慈恩、實親多二於父一。〔蜀志、劉琰傳〕慈恩含忍、不レ致二之於理一。〔宋之問、上陽宮侍レ宴應レ制得二林字一詩〕舊渥驂二宸御一、慈恩忝二翰林一。㊁唐の僧。法相宗の窺基。京兆の大慈恩寺に住し、後世、稱して慈恩大師といふ。玄奘に事へて天竺の語を學び、唯識因明の旨を傳へて疏を作ること百本に及んだ。永淳元年寂す、壽五十一。〔宋高僧傳、四〕。

〖慈恩寺〗23（ジオンジ）　寺の名。陝西省長安縣の東南、曲江の北。本、隋の無量寺の地で、唐の高宗が太子であつた時、文德皇后のために建てたもの。十大寺の一つ。〔摭言〕新進士神龍以來、杏園宴後、皆於二慈恩寺塔下一題レ名。〔長安志〕隋無量寺地、唐高宗在二春宮一、爲二文德皇后一立、故名二慈恩一、南臨二黃渠一、竹松森邃、爲二京師最一、西院浮圖七級、崇三百尺、永徽三年、沙門元奘立、東有二繙經院一。

〖慈恩宗〗24（ジオンシュウ）　佛佛教の一派。慈恩大師が印度から傳へた宗派。法相宗・唯識宗ともいふ。

〖慈恩傳〗25（ジオンデン）　書名。十卷。唐、慧立本等撰。

大慈恩寺法師傳ともいふ。玄奘三藏の傳記。

【慈恩八宗】26 ジオンノハチシュウ 佛慈恩大師が分別した佛教の八宗をいふ。卽ち我法空有宗（犢子部等を指す）・有法無我宗（有部宗等を指す）・法無去來宗（大衆部等を指す）・現通假實宗（說假部等を指す）・俗妄眞實宗（說出世部等を指す）・諸法但名宗（一說部等を指す）・勝義皆空宗（般若等の空宗龍樹系を指す）・應理圓實宗（華嚴法華等の經及び無著系の說を指す）。

〔悵二望慈恩一三月盡〕27 ジオンニチヤウバウスレバサンゲツツク 三月の末日に慈恩寺で友人を憶ふこと。〔白居易、酬二元員外三月三十日慈恩寺相憶見レ寄詩〕悵二望慈恩一三月盡、紫桐花落鳥關關、誠知曲水春相憶、其奈二長沙老未レ還、赤嶺猿聲催二白首一、黃茅瘴色換二朱顏一、誰言南國無二霜雪一、盡在二愁人鬢髮間一。

【慈孝】28 ジカウ 親をいつくしみ孝をつくす。〔國語、齊語〕慈二孝於父母一。〔莊子、漁父〕事レ親則慈孝。〔墨子、天志下〕忠惠也、慈孝也。〔史記、楚世家〕慈孝而仁。〔列女傳、孽嬖、趙靈吳女傳〕孟姚數微言、后有二淫意一、太子無二慈孝之行一。

【慈孝竹】29 ジカウチク 竹の一種。めだけ。笹竹。慈竹。〔竹譜〕慈孝竹、生作二大叢一、長幹中聳、羣篠外護、向レ陽則茂、宜レ種二高臺一。

【慈航】30 ジカウ 佛佛が慈悲の心を以て衆生を濟度するのを舟に喩へていふ。〔萬善同歸集、下〕駕二大般若之慈航一、越二三有之苦津一。〔梁昭明太子、開善寺法會詩〕法輪明二暗室一、慧海渡二慈航一。〔柳宗元、送下濬上人歸二淮南一覲省上序〕攀二慈航一望二彼岸一者、蓋千百計。

【慈澗】31 ジカン ❶河の名。源を河南省新安縣の南に發し、東流して穀水に入る。〔水經、穀水注〕少水出二于其陰一、控二引衆溪一、積以成レ川、東流注二于穀一、世謂二之慈澗一也。❷鎭の名。又、磁澗に作る。河南省新安縣の東に在り、隋の楊玄感が守ったところ。隴秦豫海鐵路に沿ふ。〔讀史方輿紀要、河南、河南府、新安縣〕慈澗、縣東三十里、水經注、少水出二新安南山中一、控二引衆流一、積以成レ川、東流注二于穀一、世謂二之慈澗一、隋大業九年、楊玄感圍二東都一、分レ兵守二慈澗道一。

【慈鑒】32 ジカン 父母の御覽。慈覽。〔福惠全書、筮仕部、稟啓式〕伏祈二慈鑒一、須レ至二稟者一。

【慈眼】33 ジガン ❶眼病で物をおそれる。〔琵琶記、春宴杏園〕二千二百個慈眼。❷佛 ジゲン 慈悲の眼。慈愛ある眼。衆生を憐み見る眼。〔法華經〕慈眼視二衆生一。〔李子卿、興唐寺聖容瑞光賦〕睟容若レ動、慈眼如レ睇。

【慈顏】34 ジガン いつくしみのある顏。尊長者の顏容をいふ。〔潘岳、閑居賦〕壽觴擧、慈顏和。〔張萬頃、登二天目山一下作詩〕宦遊偏不レ樂、長爲レ憶二慈顏一。

【慈邱】35 ジキウ ❶山名。河南省必陽縣の西北。水經注は茈丘山に作る。古名は重丘。〔史記、楚世家〕秦乃與二齊韓魏一共攻レ楚、殺二楚將唐昧一、取二我重丘一而去。〔讀史方輿紀要、河南、南陽府、唐縣、花山〕中陽山在二縣東七十里一、一名慈邱山、隋因レ此置二慈邱縣一。❷縣名。隋、置く。河南省必陽縣の北。〔讀史方輿紀要、河南、南陽府、唐縣〕慈邱城、在二縣東一、隋改置二慈邱縣一、屬二顯州一。

【慈敬】36 ジキヤウ 佛慈愛の心を以て敬崇する。〔無量壽經〕慈二敬於佛一。

【慈宮】37 ジキユウ 天子の母をいふ。〔稱謂錄、天子母古稱、慈宮〕張守賀冊二太皇太后一表云、正二長樂之隆名一、奉二慈宮之寶位一。

【慈躬】38 tzʻŭ^2 kung^1 御身體。子が父母に對し「ていふ。

【慈恭】39 ジキヨウ 隋、于義（1－252‥22）の字。

【慈極】40 ジキヨク 天子の母をいふ。〔稱謂錄、天子母古稱、慈極〕玉海、天聖二年、上二皇太后尊號一、詔曰、發二寶冊於大庭一、奉二鴻名於慈極一。

【慈誨】41 ジクワイ なさけ深いをしへ。母の訓戒。慈訓。〔胡元範、奉二和太子納妃太平公主出降一詩〕紫極流二宸渥一、淸規佇二慈誨一。

【慈光】42 ジクワウ ❶萬物を生育し、世にめぐみを與へる光。〔雲笈七籤〕慈光有レ物。❷佛諸佛大慈の光明。〔讚阿彌陀佛偈〕慈光遐被施二安樂一。

〔慈光妙應普濟〕43 ジクワウメウオウフサイ 明、慧日（4－11116‥72）の賜號。

【慈觀】44 ジクワン 佛人をたのしませようとする心で衆生をみる。〔法華經、普門品〕悲觀及慈觀、常願常瞻仰。

【慈訓】45 ジクン 母のなさけ深いをしへ。母の訓戒。〔謝朓、齊敬皇后哀策文〕閔予不レ祐、慈訓早違。〔注〕齊曰、慈訓、謂二皇后一也。〔庾信、爲二杞公一讓二宗師驃騎一表〕母氏慈訓、哀矜勞苦。

【慈兄】46 ジケイ 慈愛ふかい兄。〔後漢書、光武紀下〕慈兄悌弟。

【慈卿】47 ジケイ 後漢、王望（7－20823‥886）の字。

【慈惠】48 ジケイ いつくしみめぐむ。又、あはれみ。いつくしみ。慈恩。慈仁。〔禮、內則〕必求二其寬裕慈惠、溫良恭敬、愼而寡言者一、使レ爲二子師一。〔左氏、昭、六〕猶求二聖哲之上・明察之官・忠信之長・慈惠之師一。〔左氏、成、十二〕享以訓二共儉一、宴以示二慈惠一、共儉以行レ禮、而慈惠以布レ政。〔管子、執〕慈惠以愛レ之。〔晏子、問、下〕文王慈二惠殷衆一。〔漢書、禮樂志〕慈惠所レ愛、美若二休德一。〔淮南子、氾論訓〕徐偃王被二服慈惠一。〔列女傳、節義、魏節乳母傳〕君子謂、節乳母慈惠敦厚、重レ義輕レ財。〔蔡邕、郭泰碑文〕仁篤慈惠。

〔慈惠醫院〕49 ジケイイヰン 無料で貧民の病氣をなほすことを目的として設ける病院。慈惠病院。

〔慈惠病院〕50 ジケイビヤウヰン 貧窮者などの病氣を無償で治療する病院。慈惠醫院。

【慈谿】51 ジケイ ❶江の名。上源を浙江省餘姚縣太平山に發して姚江といひ、東流して慈谿縣境の南を經、之を慈谿江と名づける。〔讀史方輿紀要、浙江、寧波府、慈谿縣〕代江、源出二餘姚縣太平山一、流爲二姚江一、入二縣境一云云、亦謂二之慈谿江一。❷縣名。唐、慈溪縣を置く。明、溪を谿と改む。浙江省鄞縣の西北。滬杭甬鐵路に沿ふ。〔讀史方輿紀要、浙江、寧波府〕慈谿縣、唐爲二鄮縣地一、開元二十六年、析置二慈溪縣一、屬二明州一、宋因レ之、明朝永樂中、改レ溪曰レ谿。〔淸史稿、地理志〕浙江、寧波府、縣六、慈谿。

【慈儉】52 ジケン 物をいつくしみ費を省く。慈愛と儉約。〔舊唐書、玄宗紀論〕愛レ之以二慈儉一、律レ之以二軌儀一。〔唐書、趙宗儒傳〕堯舜之化、慈儉而已。

【慈姑】53 コジ ❶いつくしみ深いしうとめ。〔潘岳、哀二永逝一文〕嫂姪兮慞惶、慈姑兮垂レ矜。〔注〕向曰、慈姑、卽岳母也。❷水草の名。くわゐ。おもだか。其の球根を食用に供する。〔本草、慈姑〕釋名、一根歲生二十二子一、如三慈姑之乳二諸子一、故以名レ之。〔羣芳譜〕慈姑根、歲生二十二子一、歲閏則十三子、如三慈母之乳二諸子一也。

【慈湖】54 コジ ❶湖の名。㋑安徽省當塗縣の北。後漢の末、吳將笮融が兵を屯した。〔當塗縣志〕縣北有二慈湖一、後湮、其餘水流入二大江一。㋺安徽省望江縣の北。孝感山の北。明初、徐達等が陳友諒を追つて慈湖に出で其の舟を焚いた。〔讀史方輿紀要、江南、安慶府、望江縣、漳湖〕慈湖、舊在二縣北十八里一、志云、縣北二十里、有二石子港一、源出二縣西二十里之雪涼泉一、匯二慈湖孝感諸水一、入二於武昌湖一、明初、安慶爲二陳友諒所一襲陷、明師復克レ之、命二徐達等一、追二友諒一至二慈湖一、焚二其舟一、是也。㋩浙江省慈谿縣の東北。唐の開元の閒、縣令の房琯が鑿つて田に漑いだもの。地は吳の太子太傅の闞德潤の舊居で、闞湖・德潤湖ともいひ、又、普濟湖ともいふ。宋の楊簡、此處に居り、慈湖と名づけ、世に簡を慈湖先生といふ。後、劉黻が慈湖書院を其の旁に建てた。〔讀史方輿紀要、浙西、寧波府、慈谿縣〕普濟湖、縣治東北一里、唐開元中、縣令房琯、鑿以漑レ田、廣百五十畝、以レ在二闞峯之下一、名曰二闞湖一、尋曰二慈湖一、俗以三其近二普濟寺一、名二普濟湖一。❷宋、楊簡（6－15112‥66）の號。慈湖遺書を見よ。

〔慈湖遺書〕55 ジコヰシヨ 書名。十卷。續集、二卷。宋、楊簡撰。象山の學を承け、其の學は殆ど禪に近かつたが、專ら實用を主とした。〔四庫提要、集、別集類三〕。

〔慈湖詩傳〕56 ジコシデン 書名。二十卷。宋、楊簡撰。其の說は考證に詳しい。〔四庫提要、經、詩類〕。

〔慈湖書院〕57 ジコシヨヰン 宋の劉黻が楊簡の舊居に建てた書院の名。慈湖の❶の㋩を見よ。〔宋史、楊簡傳〕後咸淳閒、制置使劉黻卽二其居一作二慈湖書院一。

〔慈湖先生〕58 ジコセンセイ 宋、楊簡（6－15112‥66）「の尊稱。

【慈菇】59 コジ 慈姑（53）に同じ。

【慈菰】60 コジ 水草の名。くわゐの異名。慈姑。〔王十朋、會稽風俗賦〕土實則鳧茨慈菰。

【慈護】61 コジ あはれみまもる。めぐみぶかい。慈悲。〔顏延之、重釋二何衡陽達生論一書〕慈護之人、

深見㆓此數㆒。

【慈厚】62 ジコウ めぐみぶかくてあつい。〔管子、幼官〕藏㆓慈厚㆒行㆓薄純㆒。

【慈壼】63 ジコン 母をいふ。壼は宮中のみち、轉じて、奥向きをいふ。〔范成大、丙午東宮壽詩〕晨昏兩慈壼、詩禮一賢王。

【慈嚴】64 ジゴン 佛慈悲あり威嚴あるもの。慈母嚴父をいふ。〔楞嚴經、一〕欽㆓奉慈嚴㆒、將㆑求㆓密義㆒。

【慈濟】65 ジサイ あはれみすくふ。〔淨住子、檢覆三業門〕幾心欲㆔慈㆓濟五道㆒。

【慈像】66 ジザウ 佛像をいふ。〔蕭士瑋、西域雙林寺詩〕慈像居然戰鬬場、佛魔同異亦荒唐。

【慈子】67 シジ 佛❶菩薩の姓。舊稱を彌勒といひ、新稱を梅怛麗耶といふ。名は阿逸多・無能勝と譯す。南天竺波羅門の家に生れ、釋迦如來の佛位を紹ぐ補處の菩薩となり、佛に先だつて入滅し、兜率天の內院に生じて彼の四千歲卽ち人中の五十六億七千萬歲を經て人間に下生し、華林園の龍華樹の下に正覺を成す。初、過去の彌勒佛に會つて慈心三昧を修得してから、慈氏と稱し、成佛して猶是の名を立てた。〔倶舍光記、十八〕梅怛、此云㆑慈、儷藥、此云㆑氏、菩薩於㆓慈姓中㆒生、從㆑姓立㆑名、故名㆓慈氏㆒、舊云㆓彌勒㆒、訛也。❷釋迦の弟子を釋子といひ、彌勒の弟子を慈子といふ。〔義楚六帖、六〕長阿含經云、所有弟子、隨㆑佛各別、釋迦弟子號㆓釋子㆒、彌勒弟子號㆓慈子㆒。

【慈氏】68 シジ 佛菩薩の名。彌勒をいふ。慈悲を以て主とするからいふ。慈子の❶に同じ。

【慈旨】69 シジ 仁惠のみこころ。めぐみ深いおほせ。〔唐書、劉洎傳〕陛下降㆓慈旨㆒。

【慈雌】70 シジ 雛をはぐくみそだてるめんどり。〔淮南子、泰族訓〕卵之化成㆑雛、非㆓慈雌煦煖覆伏、累㆑日積㆑久、則不㆑能㆑爲㆑雛。

【慈州】71 シジウ 州名。唐、置く。山西省吉縣の地。〔讀史方輿紀要、山西、平陽府〕吉州、春秋時晉之屈邑也、戰國屬㆑魏、秦漢屬㆓河東郡㆒、云云、唐武德初、又爲㆓汾州㆒、五年、改爲㆓南汾州㆒、八年、改爲㆓慈州㆒、天寶初、曰㆓文城郡㆒、乾元初、復曰㆓慈州㆒、宋因㆑之。

【慈周】72 シジウ 詩僧。姓は苗村。號は六如・白樓・葛原・無着庵。初、比叡山に入り、後、京都眞葛原の惠恩院に閑居し、專ら陸放翁を學び、遂に詩風革新の先驅者となつた。著に葛原詩話・同後編・六如庵詩鈔がある。

【慈室】73 シジツ 慈愛に滿ちた室。心の苦を救ふ處。〔李儼、法苑珠林序〕引㆓窮子於慈室㆒、衣寶與㆓髻珠㆒雙至。

【慈膝】74 シジツ 慈愛ある膝。兩親のひざもと。〔隋煬帝、隋秦考王誄〕悲㆓動皇情㆒、痛深㆓慈膝㆒。

【慈祥】75 シジヤウ いつくしみ深く善良。〔儀禮、士相見禮〕與㆑衆言、言㆓忠信慈祥㆒。〔注〕祥、善也。〔黃庭堅、書㆓陶淵責㆑子詩後㆒文〕觀㆓淵明之詩㆒、想㆓見其人㆒、豈弟慈祥、戲謔可㆑觀也。

〘慈祥的笑容〙76 tzʻŭ^2 hsiang^2 tê hsiao^4 jung^2 慈母の笑顏。

【慈獎】77 シジヤウ いつくしみほめすすめる。〔梁簡文帝、拜㆓皇太子㆒臨㆑軒竟謝表〕叨逢㆓慈獎㆒、事出㆓希世㆒。

【慈石】78 ジシヤク ジセキ 鑛石の一つ。其の性、よく鐵を吸引することから母子の相戀ふるに比して名づける。俗に磁石に作る。〔本草、慈石〕釋名、玄石、處石、熁鐵石、吸鍼石、藏器曰、慈石取㆑鐵、如㆓慈母之招㆒㆑子、故名。〔呂覽、精通〕慈石召㆑鐵、或引㆑之也。〔管子、地數〕上有㆓慈石㆒者、下有㆓銅金㆒。〔淮南子、說山訓〕慈石能引㆑鐵。〔漢書、藝文志、醫經〕猶㆓慈石取㆑鐵、以㆑物相使㆒。〔郭璞、山海經圖讚、慈石〕慈石吸㆑鐵、母子相戀也。

【慈恤】79 ジジユツ いつくしみあはれむ。〔人物志、七繆〕仁出㆓慈恤㆒、施發㆓過與㆒。〔賈至、幸㆓晉安郡㆒制〕慈恤惠愛、以養㆓百姓㆒。

【慈恕】80 ジジヨ あはれみおもひやる。いつくしみ深くおもひやりに富む。〔宋史、趙師民傳〕志尙清遠、專以㆓讀書㆒爲㆑事、性極慈恕、勤㆓於吏治㆒。

【慈心】81 ジシン なさけ深いこころ。人に安樂を與へる心。慈悲心。〔雞跖集〕如來慈心、如㆔彼大雲蔭㆓注世界㆒。

【慈親】82 ジシン いつくしみ深いおや。〔呂覽、愼大〕湯立爲㆓天子㆒、夏民大說、如㆑得㆓慈親㆒。〔呂覽、執一〕慈親不㆑能㆑傳㆓於子㆒。〔後漢書、袁譚傳〕委㆓慈親於虎狼之牙㆒。

【慈仁】83 ジジン なさけ深い。いつくしみめぐむ。〔戰國、秦策〕蔡澤曰、然則君之主、慈仁任㆑忠、不㆑欺㆓舊故㆒、孰㆓與秦孝楚悼越王㆒乎。〔莊子、天下〕薰然慈仁。〔韓非子、八經〕行義示則主威分、慈仁聽則法制毀。〔管子、形勢解〕能慈仁教訓。〔漢書、文帝紀〕子啟最長、敦厚慈仁、請建以爲㆓太子㆒。〔孔子家語、弟子行〕孝恭慈仁。〔鄒陽、於㆑獄上書自明書〕慈仁殷勤。〔韓愈、潮州刺史謝上表〕天子神聖、威武慈仁。

【慈水】84 ジスイ 佛慈悲の心は能く人を滋榮するから水にたとへていふ。〔性靈集、七〕慈水奄遊。

【慈戰】85 ジセン あはれみの心を以て戰ふ。〔老子、六十七〕夫慈以戰則勝。

【慈善】86 ジゼン あはれみ助ける。なさけをかけてめぐむ。又、なさけ。めぐみ。〔梁簡文帝、吳郡石像碑文〕道由㆓慈善㆒、應㆑起㆓靈覺㆒。〔北史、崔光傳〕光寬和慈善、不㆑忤㆓於物㆒。

〘慈善家〙87 ジゼンカ よく慈善を行ふ人。

〘慈善鍋〙88 ジゼンナベ 救世軍が年末などに貧民救濟のため道傍で一般の人から寄附金を募るに用ひる鍋。

〘慈善會〙89 ジゼンクワイ 慈善に投資するため特別の入場料をとつて催す興行、又は特別の價格で物品を販賣する等の會。又、すべて慈善事業を行ふために催す會合をいふ。

〘慈善事業〙90 ジゼンジゲフ 慈善に關する事を計畫して經營すること。

〘慈善團體〙91 ジゼンダンタイ 慈善事業を目的とした團體の稱。

【慈葱】92 ジソウ 葱の一種。〔羣芳譜〕慈葱、又稱㆓大官葱㆒、謂㆑宜㆓上供㆒也。

【慈孫】93 ジソン 仁愛の心ある孫。孝孫。〔孟子、離婁上〕孔子曰、道二、仁與㆓不仁㆒而已矣、暴㆓其民㆒甚、則身弒國亡、不㆑甚則身危國削、名㆑之曰㆓幽厲㆒、雖㆓孝子慈孫㆒、百世不㆑能㆑改也。

【慈尊】94 ジソン 佛慈氏菩薩、卽ち彌勒菩薩をいふ。〔往生要集、上末〕今案㆑之、從㆓釋尊入滅㆒、至㆓慈尊出世㆒、隔㆓五十七倶胝六十百千歲㆒。

【慈竹】95 ジチク 竹の一種。めだけ。笹竹。慈孝竹。〔竹譜〕竹之叢生、子母相依、曰㆓慈竹㆒。〔竹譜詳錄〕慈竹、又名㆓義竹㆒、又名㆓孝竹㆒、兩浙江廣、處處有㆑之、高者至㆓二丈許㆒、叢生、一叢多至㆓數十百竿㆒、根窠盤結、不㆑引㆓他處㆒、四時出㆑筍、經㆑歲始成㆑竹、子孫齊榮、前抱後引、故得㆓此名㆒。〔杜甫、假山詩〕慈竹春陰覆、香爐曉勢分。

〘慈竹君〙96 ジチククン 清、王樹穀(**7**−**20823**‥1654)の號。

【慈長】97 ジチヤウ 清、張伯龍(**4**−**9812**‥1451)の字。

【慈衷】98 ジチユウ いつくしみの心。〔任昉、爲㆓皇太子㆒求㆓一日一入朝㆒表〕固亦上結㆓慈衷㆒。

【慈寵】99 ジチヨウ なさけ深くいつくしむ。いつくしむ。又、そのこと。〔梁武帝、移㆓檄京邑㆒〕至尊體自㆓高宗㆒、特鍾㆓慈寵㆒。

【慈烏】100 ジテウ からすをいふ。慈烏（10）を見よ。〔廣雅、釋鳥〕慈烏、烏也。

【慈天】101 ジテン 佛西方の天。〔法苑珠林〕西方第一之宿、其名曰㆑房、屬㆓於慈天㆒。

【慈童】102 ジドウ ❶佛慈童女長者子の略。❷能の面の一種。童子の顏に作つたもの。

〘慈童女長者子〙103 ジドウニヨチヤウジヤシ 佛慈童女長者の子。慈童女は長者の名で、女人ではない。〔雜寶藏經、一〕

【慈篤】104 ジトク 慈愛深く手あつい。〔後漢書、劉般傳〕世有㆓名節㆒、而紆尤慈篤。

【慈忍】105 ジニン 佛慈悲と忍辱。〔證道歌〕觀㆓惡言是功德㆒、此則成㆓吾善知識㆒、不㆘因㆓訕謗㆒起㆗怨親㆖、何表㆓無生慈忍力㆒。〔法華經、法師品〕如來之室者、一切衆生中大慈悲心是、如來之衣者、柔和忍辱心是。

【慈念】106 ジネン いつくしみ思ふ。〔埤雅〕雀聲轇毒、「鳩聲慈念」。

【慈伯】107 ジハク 字號。❶清、錢世錫(**11**−**40563**‥364)の字。❷清、余鄂(**1**−**515**‥9)の字。

【慈柏】108 ジハク 清、余鄂(**1**−**515**‥9)の字。

【慈悲】109 ジヒ 佛あはれみかなしむ。他に樂しみを與へる心を慈といひ、能く他の苦を拔く心を悲といふ。諸佛菩薩の一切衆生を愛念する心。〔華嚴經、盧舍那佛品〕慈悲普流潤㆓衆生㆒。〔法界次第〕能與㆓他之樂心㆒、名㆑之爲㆑慈、能拔㆓他之苦心㆒、名㆑之爲㆑悲。

【慈悲衣】110 ジヒエ 佛法衣の德名。袈裟。慈悲服。

【慈悲願】111 ジヒグヮン 清の戲曲の名。撰者未詳。三藏法師の生立ちを主として作つたもので、綴白裘及び六也曲譜に其の五齣を存する。〔曲海提要、三十〕。

【慈悲相】112 ジヒサウ 佛佛・菩薩の慈悲の相貌。即ち地藏・觀音のやうに、柔軟大悲の情が外面に表はれた相をいふ。

【慈悲室】113 ジヒシツ 佛慈悲を如來の室に譬へていふ。〔法華經、法師品〕如來之室者、一切衆生中大慈悲心是。

【慈悲服】114 ジヒフク 佛袈裟をいふ。慈悲衣。〔六物圖〕。

【慈悲嶺】115 ジヒレイ 山名。朝鮮黃海道の北境、鳳山郡の東北。東、鐵嶺に起り、西、殷栗に至る。咸鏡・平安の南北、四道にわたる。〔讀史方輿紀要、山東、外國附考〕朝鮮、因置二東寧路總管府一、畫二慈悲嶺一爲レ界。

【慈悲心鳥】116 ジヒシンテウ 鳥の名。❶佛法僧の異名。❷ほととぎすの類で、大きく、高野山等の深山に棲む。背は黑褐色で、腹は黃色。其の鳴き聲が慈悲心と聞えるので此の名が有る。

【慈悲忿怒】117 ジヒフンヌ 佛忿怒は慈悲の反對で、不動・降三世明王の如く強剛獰猛の相。慈悲は攝取の相を表はし、忿怒は怨敵折伏の相を表はす。

【慈悲麻立干】118 ジヒマリツカン 新羅、第二十代の王。訥祇麻立干の子。母は實聖尼師今の女。父を繼いで即位し、我が國との交涉頻繁を極めた。在位二十一年、子炤智が繼いだ。〔三國史記、三〕。

【慈愍】119 ジビン いつくしみあはれむ。慈憫。〔何承天、重答二顏光祿一書〕制二飾土木一、不レ發二慈愍之心一。〔梁書、丹丹國傳〕朝望二國執一、慈二愍蒼生一。

【慈憫】120 ジビン いつくしみあはれむ。慈愍。〔張柬之、對二賢良方正一策〕德自天縱、慈二憫元元一。

【慈父】121 ジフ なさけ深いちち。又、父親。〔戰國、趙策〕反レ親以爲レ行、慈父不レ子、逆レ主以自成、惠主不レ臣也。〔莊子、天地〕孝子操レ藥、以修二慈父一。〔墨子、親士〕雖レ有二慈父一、不レ愛二無益之子一。〔說苑、奉使〕文侯爲二慈父一。〔魏志、高堂隆傳〕斯乃慈父懇切之訓。〔李密、陳情表〕生孩六月、慈父見レ背。〔隋書、房彥謙傳〕彥謙遷二長葛令一、甚有二惠化一、百姓號爲二慈父一。

【慈婦】122 ジフ いつくしみ深いよめ。〔南史、齊武帝諸子、安陸王子敬傳〕孫爲二慈孫一、婦爲二慈婦一、姑爲二慈姑一。

【慈武】123 ジブ なさけ深く武勇に富む。〔韓愈、鱷魚文〕今天子嗣二唐位一、神聖慈武。

【慈撫】124 ジブ めぐみやすんずる。〔宋史、瀘州蠻傳〕民所二安樂一、惟曰二慈撫一。

【慈眄】125 ジベン ジメン いつくしみ目をかける。恩眄。〔晉書、石勒載記上〕明公當下察二勒微心一、慈眄如上子也。

【慈保】126 ジホ いつくしみやすんずる。〔國語、周語上〕精意以享、禋也、慈二保庶民一、親也。

【慈母】127 ジボ ❶なさけ深いはは。又、母親。〔戰國、秦策〕夫以三曾參之賢與二母之信一也、而三人疑レ之、則慈母不レ能レ信也。〔韓非子、解老〕慈母之於二弱子一也、務レ致二其福一。〔管子、形勢〕慈母操レ箠。〔漢書、元后傳〕傷二慈母之心一。〔淮南子、說林訓〕慈母吟二於巷一。〔趙岐、孟子題辭〕幼被二慈母三遷之教一。〔魏志、孫禮傳〕慈母投二其杼一。〔潘岳、楊仲武誄〕哀哀慈母。❷めのと。うば。父の妾で、父の命によつて自分を育成した婦人をいふ。〔儀禮、喪服〕慈母如レ母、傳曰、妾之無レ子者、妾子之無レ母者、父命レ妾曰、女以爲レ子、命レ子曰、女以爲レ母、若レ是則生二養之一終二其身一、如レ母、死則喪レ之三年。〔禮記、內則〕必求二其寬裕慈惠、溫良恭敬、愼而寡言者一使レ爲二子師一、其次爲二慈母一、其次爲二保母一、皆居二子室一。〔注〕慈母、知二其嗜欲一者。〔禮、曾子問〕喪二慈母一如レ母、禮與。〔荀子、禮論〕乳母飮二食之一者也、而三月、慈母衣二被之一者也、而九月。〔孔子家語、曲禮子夏問〕古者男子外有二傳父一、內有二慈母一。

【慈母服】128 ジボフク 慈母に對する喪服。春秋、魯の昭公に始まり、其の制は母に等しい。慈母の❷、三父八母(**1**－**12**・・1543)を見よ。〔事物紀原、吉凶曲制部、慈母服〕淮南子曰、魯昭公有二慈母一而愛レ之、死爲レ之練冠、故有二慈母之服一、注云、父所レ命レ己者、禮記曰、練冠而喪二慈母一、自二魯公一始也、故今五服敕有二慈母服一。

【慈母有二敗子一】129 ジボハイシアリ 慈愛に過ぎた母の膝下には、反つて放肆で法度を敗る子息がある。〔史記、李斯傳〕慈母有二敗子一、而嚴家無二格虜一者、何也。

【慈母手中線】130 ジボシュチュウノイト 慈愛深い母が遊子の身を憂へて其の衣を縫ふこと。線は糸。〔孟郊、遊子吟〕慈母手中線、遊子身上衣、臨レ行密密縫、意恐遲遲歸、誰言寸草心、報二得三春輝一。

【慈母三遷之教】131 ジボサンセンノヲシヘ 孟子の母が孟子を教育する爲に三度其の居を移したこと。即ち、初、墓の近くに住んで居たが、孟子が嬉戲するに墓間の事を爲すのを見て、其の子を教へる所以に非ざるを知り、市場の傍に移つた。すると、今度は其の嬉戲するに商賈の事を爲すのを見て、更に學校の傍に移つたところ、嬉遊するに揖讓進退の禮を行ふやうになつたのを見て始めて安居したといふ故事。〔列女傳、母儀、鄒孟軻母傳〕鄒孟軻之母也、號二孟母一、其舍近レ墓、孟子之少也、嬉遊爲二墓間之事一、踊躍築埋、孟母曰、此非四吾所三以居二處子一、乃去舍二市傍一、其嬉戲爲二賈人衒賣之事一、孟母又曰、此非四吾所三以居二處子一也、復徙舍二學宮之傍一、其嬉遊乃設二俎豆一、揖讓進退、孟母曰、眞可三以居二吾子一矣、遂居レ之。〔趙岐、孟子題辭〕孟子生有二淑質一、夙喪二其父一、幼被二慈母三遷之教一、長師二孔子之孫子思一、治二儒術之道一。

【慈姥】132 ジボ 山名。安徽省當塗縣の北。〔太平寰宇記〕當塗縣慈姥山、亦謂二之慈姆山一、丹陽記云、山生二簫管竹一、圓緻異二於衆處一、歷代嘗給二樂府一、俗呼爲二鼓吹山一。

【慈睦】133 ジボク いつくしみむつぶ。慈愛親睦。〔禮、祭義〕教以二慈睦一、而民貴レ有レ親。

【慈民】134 ジミン 清、劉庠(**2**－**2224**・・336)の字。

【慈明】135 ジメイ ❶後漢、荀爽(**9**－**30929**・・30)の字。❷ジミャウ 宋の僧。潭州石霜山の慈明禪師。名は楚圓。臨濟六世の法孫で、汾陽昭の後を嗣ぐ。〔稽古略〕。

【慈明八龍】135′ ジメイハチリョウ 蒙求の標題。後漢の荀爽、字は慈明と、其の兄弟、儉・緄・靖・燾・汪・肅・旉との八人は、皆名聲あり、時人によつて八龍と稱せられた故事。〔後漢書、荀淑傳〕有レ子八人、儉・緄・靖・燾・汪・爽・肅・旉、並有二名稱一、時人謂二之八龍一。

【慈門】136 ジモン 佛いつくしみの門。佛菩薩の慈心は諸〻の功德又は善巧方便を流出するからいふ。〔往生要集、中〕清淨慈門剎塵數。

【慈藍】137 ジラン 僧寺をいふ。伽藍。〔事物異名錄、佛釋、佛寺〕佛國記、衆僧止處、爲二僧伽藍一、徐陵傳大士碑、乃於二山根嶺下一、創二造伽藍雙林寺一、按、伽藍卽僧寺也、又名二慈藍一、畫繼、僧慧琳本仕族入二慈藍一者、以爲二稅鞅之所一。

【慈覽】138 tzʻŭ² lan³ 父母が御覽になること。

【慈利】139 ジリ 縣名。隋、置く。湖南省桃源縣の西北。西に崇山があり、舜が驩兜を放つた處と傳へる。〔讀史方輿紀要、湖廣、岳州府、澧州〕慈利縣、本漢零陽・充二縣地、隋開皇九年、置二零陵縣一、屬二崇州一、十八年、改曰二慈利縣一、大業初、州廢、縣屬二澧陽郡一、唐屬二澧州一、宋因レ之、元元貞初、升爲二慈利州一、明初、復爲レ縣。〔清史稿、地理志〕湖南、澧州直隸州、縣五、慈利。

【慈力】140 ジリキ なさけ深い功德。〔楞嚴經〕與二佛如來一同一慈力。

【慈力王】141 ジリキワウ 佛釋迦牟尼佛をいふ。〔賢愚經、二、慈力王血施緣品〕。

【慈臨】142 ジリン あはれみの心を以て下にのぞむ。〔齊書、虞玩之傳〕玩之以二久宦衰疾一、上表告レ退曰、伏願慈臨、賜二臣骸骨一。

【慈淚】143 ジルイ なさけある淚。〔白居易、病中哭二金鑾子一詩〕慈淚隨レ聲迸、悲腸遇レ物牽。

【慈靈】144 ジレイ めぐみぶかい御心。〔江淹、爲レ蕭重讓二尙書敦勸一表〕奉二宣慈靈一、重賜二勉誨一。

【慈憐】145 ジレン いつくしみあはれむ。〔曾鞏、代二皇太子延安郡王一謝二皇后一牋〕豈意二慈憐一、更加二褒進一。

【慈戀】146 ジレン いつくしみしたふ。〔後漢書、清河孝王傳、選懦之恩、注〕選懦、仁弱慈戀不レ決之意也。

【慈和】147 ジワ ❶いつくしみやはらぐ。君は能く臣をいつくしみ、臣は能く君に和すること。〔左

氏、襄、二十七〕子罕曰、諸侯小國、晉楚所二以兵威一レ之、畏而後上下慈和、慈和而後能安二靖其國家一、以事二大國一、所二以存一也。〔左氏、昭、二十八〕慈和偏服曰レ順。❷なさけ深くてやさしいこと。〔國語、周語上〕加レ之以二慈和一。〔陸機、辨亡論下〕慈和以結二士民之愛一。

【慈侍下】148 tzŭ² shih⁴ hsia⁴ 履歷書に三代の血統を書き入れる場合、母が在世であれば慈侍下といふ。

【慈寧宮】149 宮の名。北京、舊紫禁城內隆宗門の西。前は慈寧門。清代、皇太后の居る所。〔清會典事例、禮部、朝會〕皇后升二丹陛一、至二慈寧宮門檻內一立。〔北京指南、地理、故宮志〕慈寧宮、額曰、寶籙駢禧、東爲二長位門一、西爲二壽康門一、後爲二壽安門一、壽安門內爲二春禧殿一、殿後爲二壽安宮一、其北爲二英華殿一。

【慈謀勒】150 菜の名。いのんど。ひめうゐきやう。〔本草、蒔蘿〕釋名、慈謀勒、小茴香。

【慈鰻鱺】151 鰻の一種。海鰻鱺。〔本草、海鰻鱺〕釋名、慈鰻鱺、狗魚、集解、日華曰、生二東海中一、類二鰻鱺一而大、功用相同。

【慈安太后】152 清の文宗の皇后。姓は鈕祜祿氏。謚は孝貞。咸豐の初、冊立されたが、子無く、文宗が崩ずるや、穆宗の生母那拉氏と共に太后となり、寧壽宮に分居す。光緒中卒す。〔清史稿、二百十四〕

【慈應大師】153 宋、阮子郁(**11－41569**··56)の封號。

【慈禧太后】154 西太后。清の文宗の妃。穆宗の母。姓は那拉氏。謚は孝欽。穆・德二朝の間、政をきくこと四十年。初、朝政清明と稱せられたが、後、戊戌の政變によつて德宗を幽し、載漪を任用し、外釁をひらき、竟に人心の瓦解を致した。清の滅亡はここにはじまる。西太后(**10－34763**··679)を見よ。

【慈故能勇】155 慈愛の心が厚いから、自然に勇氣を生ずる。〔老子、六十七〕慈故能勇、儉故能廣。

【慈山居士】156 清、曹廷棟(**5－14297**··291)の號。

【慈鎭和尙】156′ 平安末期から鎌倉初期の僧。關白忠通の子。名は慈圓。慈鎭は勅謚號。四度天台座主となり、智德兼備。和歌の妙手。親鸞は、この人によつて出家得度した。嘉祿元年、七十九歳で入寂。著に愚管抄がある。

【慈眉善目】157 tzŭ² mei² shan⁴ mu⁴ 慈悲深い容貌。

【慈愍三藏】158 唐、慧日(**4－11116**··72)の「號。

【慈懿李皇后】159 宋、李后(**6－14459**··332)の謚。

【慈聖光獻后】160 宋、曹后(**5－14297**··83)の謚。

【慉】11049

㊀キク コク 〔集韻〕許六切 ㄒㄩˋ hsü⁴ 屋

㊁チク 〔玉篇〕丑六切 屋

小篆

㊀❶**おこす**。〔說文〕慉、起也、从レ心畜聲、詩曰、能不二我慉一。〔玉篇〕慉、興也。〔詩、邶風、谷風〕不二我能慉一。〔釋文〕慉、興也。❷**やしなふ**。畜(**7－21814**)に通ず。〔說文通訓定聲〕慉、叚借爲レ畜。〔詩、邶風、谷風〕不二我能慉一。〔傳〕慉、養也。❸**つむ**。**たくはへる**。蓄(**9－31642**)に通ず。〔正字通〕慉、與レ蓄通。〔後漢書、馬融傳〕疏越蘊慉。〔注〕蘊慉、猶二積聚一也。❹**おごる**。〔集韻〕慉、一曰、驕也。〔詩、邶風、谷風〕不二我能慉一。〔箋〕慉、驕也。㊁**うらむ**。〔玉篇〕慉、恨也。

【慉結】1 心がむすぼれること。鬱結。〔應瑒、慜驥賦〕牽二繁轡一而增レ制兮、心慉結而槃紆。

【慀】11050

㊀ケフ 〔集韻〕詰叶切 葉

㊁エイ 〔廣韻〕於計切 霽

㊀**かなふ**。〔集韻〕慀、叶也。〔太玄經、廓〕陰氣慀而念レ之。〔注〕慀、猶レ協也。㊁❶**かくれる**。〔太玄經、睟〕中自慀也。〔集注〕慀、隱也。❷**靜か**。〔廣韻〕慀、靜也。❸**やすらか**。〔廣韻〕慀、安也。❹**ふかい**。〔王褒、洞簫賦〕其妙聲則清靜厭慀。〔注〕善曰、慀、深邃也。❺**つつしむ**。〔廣韻〕慀、恭也。❻瘱(**7－22449**)に同じ。〔正字通〕慀、說文、瘱、靜也、改作レ慀、非、瘱、卽悘之譌省。

【慊】11051

㊀ケン 〔集韻〕苦簟切 ㄑㄧㄢˋ ch'ien⁴ 琰

㊁ケフ 〔集韻〕詰叶切 ㄑㄧㄝˋ ch'ieh⁴ 葉

㊂ケン 〔集韻〕賢兼切 鹽

㊃カフ 〔孟子集注〕口劫反 洽

小篆

㊀❶**あきたる**。こころよい。猒(**7－20482**)・悘(**4－10948**)に通ず。〔說文通訓定聲〕慊、叚借爲レ猒、爲レ悘。〔集韻〕慊、一曰、愜也。〔孟子、公孫丑上〕行有レ不レ慊二於心一。〔注〕慊、快也。〔莊子、天運〕盡去而後慊。〔釋文〕慊、足也。〔呂覽、本性〕耳聽レ之必慊。〔注〕慊、快也。❷**よい**。〔戰國、齊策〕苟可下以二慊齊貌一辨上者。〔注〕慊、猶レ善也。❸**まごころ**。誠意。〔任昉、爲二褚諮議蓁一讓二代レ兄襲レ封表〕不レ任二丹慊之至一、謹詣レ闕拜レ表以聞。❹**たりない**。すくない。歉(**6－16159**)に通ず。〔說文通訓定聲〕慊、叚借爲レ歉。〔孟子、公孫丑下〕吾何慊乎哉。〔注〕慊、少也。〔陸機、辨亡論下〕宮室輿服、蓋慊如也。〔注〕善曰、劉兆穀梁注曰、慊、不レ足也。❺**あきたらず**。〔集韻〕慊、一曰、不滿也。❻**うらむ**。嫌(**3－6618**)に通ず。〔說文通訓定聲〕慊、叚借爲レ嫌。〔集韻〕慊、恨也。〔禮、坊記〕貴不レ慊二於上一。〔注〕慊、恨也。〔淮南子、齊俗訓〕衣若二縣衰一而意不レ慊。〔注〕慊、恨也。❼**まづしい**。つつましい。溓(**7－17929**)・儉(**1－1190**)に通ず。〔說文通訓定聲〕慊、叚借爲レ溓、爲レ儉。〔廣雅、釋詁四〕慊、貧也。〔淮南子、原道訓〕不二以レ慊爲一レ悲。〔注〕慊、約也。❽**かねる**。兼(**2－1483**)に通ず。〔說文通訓定聲〕慊、叚借爲レ兼。〔易、坤、文言〕爲二其嫌二于无陽一也、鄭注〕慊、讀爲二羣公溓レ之之溓一、溓、雜也。❾嗛(**2－4088**)に通ず。〔史記、樂毅傳〕以爲レ慊二於志一。〔注〕索隱曰、慊、亦作レ嗛。❿謙(**10－35821**)に通ず。〔禮、大學、此之謂二自謙一、注〕謙、讀爲レ慊。㊁**たる**。滿足する。或は嗛(**2－4088**)に作る。〔集韻〕慊、足也、或从レ口。㊂**うたがふ**。きらふ。或は兼(**2－1483**)に作り、通じて嫌(**3－6618**)に作る。〔說文〕慊、疑也、从レ心兼聲。〔段注〕疑者、惑也、故下文受レ之以レ惑、今字多作レ嫌、按、女部、嫌者、不レ平二於心一也、一曰、疑也、不レ平二於心一爲二嫌之正義一、則嫌疑字作レ慊爲レ正、今則嫌行而慊廢、且用レ慊爲レ歉、非レ是、又或用レ慊爲レ悘、尤非レ是。〔集韻〕慊、或省、通作レ嫌。〔漢書、趙充國傳〕偸得二避慊之便一。㊃**あきたる**。〔孟子、公孫丑上〕行有レ不レ慊二於心一、則餒矣。〔集注〕慊、快也、口簟反、又口劫反。

名乘 ヤス。ミツ。ヨシ。

【慊焉】1 あき足るさま。滿足するさま。

【慊懼】2 あきたらずにつつしみおそれる。〔論衡、感類〕賢聖感レ類、慊懼自思、災變惡徵、何爲至乎。

【慊慊】3（ケンケン） あき足らぬさま。〔後漢書、五行志一〕石上慊慊舂㆓黄粱㆒。〔注〕慊慊然常若ㇾ不ㇾ足。〔後漢書、耿弇傳贊〕慊慊伯宗。〔魏文帝、燕歌行〕慊慊思ㇾ歸戀㆓故鄕㆒。〔注〕銑曰、慊慊、心不ㇾ足皃。〔柳宗元、夢歸賦〕夕余寐㆓于荒陬㆒兮、心慊慊而莫ㇾ違。

【慊如】4（ケンジヨ） あき足らぬさま。物の不十分なさま。〔陸機、辨亡論下〕初都㆓建業㆒、羣臣請ㇾ備㆓禮秩㆒、天子辭而不ㇾ許、曰、天下其謂㆓朕何㆒、宮室輿服、蓋慊如也。〔注〕善曰、劉兆穀梁注曰、慊、不ㇾ足也。

【慊心】5（ケンシン） 心にあきたる。〔孟子、公孫丑上〕行有ㇾ不ㇾ慊㆓於心㆒。〔注〕慊、快也。

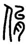
【慊誠】6（ケンセイ） まことあること。誠慊(**10−35537・・40**)に同じ。

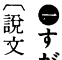
【慊然】7（ケンゼン） こころよいさま。嗛然(**2−4088・・7**)に同じ。

【慊堂】8（カフダウ） 松崎復の號。松崎慊堂(**6−14516・・357**)を見よ。

【慊吝】9（ケンリン） つづまやか。物をしみする。〔世說新語、任誕上〕應ㇾ聲便許、略無㆓慊吝㆒。

【態】11052 タイ 〔集韻〕他代切 ［隊］ ㄊㄞˋ t'ai⁴


小篆


或體

❶**すがた**。かたち。さま。〔說文〕態、意態也、从㆓心、能㆒、⿰亻能、或从ㇾ人。〔段注〕意態者、有㆓此意㆒、因有㆓此狀㆒、故曰㆓意態㆒。〔楚辭、宋玉、招魂〕容態好比。〔注〕態、姿也。❷**しぐさ**。わざ。みぶり。〔張衡、西京賦〕盡變㆓態乎其中㆒。〔注〕綜曰、態、巧也。❸**やうす**。ありさま。〔獨孤及、訓㆓皇甫侍御㆒詩〕況聽㆓郢中曲㆒、復識㆓湘南態㆒。❹**才能がある**。〔說文通訓定聲〕態、按、此字本義、當ㇾ訓㆓巧藝高材㆒也、卽才能賢能之能、故从ㇾ心、古借ㇾ能爲ㇾ態、而才藝美善之訓、移以訓ㇾ能、遂專爲㆓姿態字㆒矣。❺或は⿰亻能(**1−952**)に作る。〔集韻〕態、或从ㇾ人。［邦］**わざと**。**わざわざ**。ことさらに。態々。

［名乘］ カタ。

［解字］ 會意形聲。能と心とを合はせ、能は又聲。能は耐に通じ、出來る意。それをなし得るといふ心構への意。

【態姿】1（タイシ） ありさま。すがた。姿態。

【態狀】2（タイジヤウ） ありさま。〔墨子、備城門〕候ㇾ敵視㆔其態狀與㆓其進退左右所ㇾ移處㆒。

【態臣】3（タイシン） おもねりこびて寵愛を得る臣。〔荀子、臣道〕人臣之論、有㆓態臣者㆒、有㆓簒臣者㆒、有㆓功臣者㆒、有㆓聖臣者㆒、內不ㇾ足ㇾ使㆓一民㆒、外不ㇾ足ㇾ使ㇾ距ㇾ難、百姓不ㇾ親、諸侯不ㇾ信、然而巧敏佞說、善取㆓寵於上㆒、是態臣者也。〔注〕以㆓佞媚㆒爲㆓容態㆒。

【態勢】4（タイセイ） やうす。すがた。形勢に同じ。

【態態】5（ワザワザ） ことさら。特別に。

【態度】6（タイド） ❶ふるまひ。みがまへ。身ぶり。〔韓詩外傳、二〕容貌態度。〔列子、說符〕人有㆓亡ㇾ鈇者㆒、意㆓其鄰之子㆒、視㆓其行步㆒、竊ㇾ鈇也、顏色、竊ㇾ鈇也、言語、竊ㇾ鈇也、作動態度、无ㇾ爲㆓而不ㇾ竊ㇾ鈇也。〔荀子、脩身〕容貌態度、進退趨行。〔呂覽、去尤〕動作態度。❷やうす。おもむき。〔韓愈、醉贈㆓張祕書㆒詩〕君詩多㆓態度㆒、藹藹春空雲。

【慴】11053 タフ トフ 〔五音篇海〕他合切 ［合］

心おちつく。〔五音篇海〕慴、意下也。

【⿰忄冓】11054 カウ 〔集韻〕虎項切 ［講］

もとる。⿰忄翁⿰忄冓。〔集韻〕⿰忄冓、⿰忄翁⿰忄冓、佷戾。

【⿰民思】11055 ビン 閔(**11−41251**)・愍(**4−10919**)の古字。〔說文〕閔、⿰民思、古文閔。〔玉篇〕⿰民思、古文愍。

【⿱倏心】11056 シユク 〔集韻〕式竹切 ［屋］

❶**はやい**。**又、長い**。⿱攸足(**10−37550**)に同じ。〔集韻〕⿱攸足、說文、疾也、長也、或作ㇾ⿱倏心。❷倏(**1−763**)の俗字。〔正字通〕⿱倏心、俗倏字。

【慌】11057 ［一］クワウ 〔集韻〕虎晃切 ［養］ ［二］クワウ 〔集韻〕呼浪切 ［漾］ ［三］クワウ 〔集韻〕呼光切 ［陽］ ㄏㄨㄤ huang¹

［一］❶**くらい**。〔一切經音義、三〕慌忽、漢書音義曰、眼亂也。〔集韻〕慌、昏也。❷**ぼける**。くらむ。〔廣雅、釋言〕慌、霿也。〔玉篇〕戃、戃慌、無ㇾ思皃。❸**ほのか**。かすか。〔後漢書、張衡傳〕追㆓慌忽於地底㆒兮。〔注〕慌忽、無ㇾ形貌也。❹或は⿰忄㐬(**4−10606**)・怳(**4−10496**)・恍(**4−10546**)・芒(**9−30682**)・荒(**9−30953**)に作る。〔集韻〕慌、或作㆓⿰忄㐬・怳・恍・芒・荒㆒。［二］**うつとりする**。〔集韻〕慌、惚也。〔北齊書、劉臻傳〕性忽慌。［三］❶**わすれる**。⿰忄㐬(**4−10606**)に同じ。〔集韻〕⿰忄㐬、博雅、忘也、或作ㇾ慌。〔楚辭、劉向、九歎、憂苦〕僕夫慌悴散若ㇾ流兮。〔注〕慌、亡也。〔補注〕慌、音荒。❷**せまる**。**あわてる**。〔中華大字典〕慌、急迫也、俗稱㆓急迫㆒曰㆓慌忙㆒。❸**おそれる**。〔中華大字典〕慌、懼也、俗稱㆓恐懼㆒曰㆓恐慌㆒。❹［現］ひどく。非常に。

【慌忽】1（クワウコツ） ❶うつとりするさま。慌惚。❷深く思ひ憂へる。〔楚辭、淮南小山王、招隱士〕心淹留兮恫慌忽。〔文選注〕向曰、恫慌忽、憂思深也。❸ほのかなさま。かすかなさま。〔後漢書、張衡傳〕追㆓慌忽於地底㆒兮、軼㆓無形㆒而上浮。〔注〕慌忽、無ㇾ形貌也。

【慌惚】2（クワウコツ） 荒忽。洸忽。恍惚。❶うつとりするさま。志を失ふさま。〔後漢書、馬皇后紀〕發ㇾ疾慌惚。〔蜀志、劉琰傳〕失ㇾ志慌惚。〔韓愈、南海神廟碑〕慌惚畢出。❷思念の深いさま。〔禮、祭義〕夫何慌惚之有乎。〔注〕慌惚、思念益深之時也。

【慌狀】3 huang¹ chuang⁴ あわてるさま。

【慌情】4 huang¹ ch'ing² あわてるこころ。

【慌神】5 huang¹ shen² あわてる。

【慌人】6 huang¹ jen² あわてもの。

【慌醒】7 huang¹ hsing³ 驚きさめる。

【慌疎】8 huang¹ su¹ 心がそはそはして定まらない。あわてる。

【慌速】9 huang¹ su¹ あわてる。氣をもむ。

【慌張】10 huang¹ chang あわてる。〔紅樓夢、三十一回〕我慌張的很。

【慌忙】11（クワウバウ） あわただしい。あわてる。倉皇。狼狽。

【慌罔】12（クワウマウ） 暗いさま。〔左思、吳都賦〕芒芒黖黖、慌罔奄欻。

【慌惘】13（クワウマウ） くらいさま。又、志を失ふさま。〔楊維楨、鳳凰池賦〕吾終疑㆓其慌惘㆒兮、曾何托㆓其遺風㆒。

【慌亂】14 huang¹ luan⁴ 錯雜する。惑亂する。混亂する。

【慌起來】15 huan¹ ch'i³ lai びつくりする。あわて出す。

【慌慌的】16 huang¹ huang¹ tê 浮々しておちつかぬ。

【慌慌張張】17 huang¹ huang¹ chang¹ chang¹ あわただしい。〔紅樓夢、十一回〕見兩三個婆子慌慌張張的走來。

【慌慌不定】18 huang¹ huang¹ pu² ting⁴ 落着かない。

【慌手冒腳】19 huang¹ shou² mao⁴ chiao³ あわてる。慌てて度を失ふ。

【⿱衂心】11058 デキ 惄(**4−10755**)に同じ。〔正字通〕⿱衂心、同ㇾ惄。

【慍】11059

㈠ウン 〔集韻〕紆問切 ㄩㄣˋ yùn⁴ 問
㈡ウン 〔集韻〕委隕切 吻
㈢ウツ ウチ 〔集韻〕紆勿切 物
㈣ヲン 〔集韻〕鄔本切 阮

小篆

㈠❶**うらむ**。愠(**4－10954**)の本字。〔說文〕慍、怨也、从レ心昷聲。〔段注〕怨、各本作レ怒。〔正韻〕慍、愠本字。〔一切經音義、十九〕慍、恨也。〔論語、學而〕人不レ知而不レ慍。〔鄭注〕慍、怨也。〔後漢書、馮衍傳下〕慍二去疾之遭レ惑。〔注〕慍、怨也。❷**いかる**。いきどほる。〔集韻〕慍、說文、怒也。〔一切經音義、九〕慍、恚也。〔詩、邶風、柏舟〕慍二于羣小一。〔傳〕慍、怒也。〔國語、吳語〕吳王若慍而又戰。〔注〕慍、怒也。❸**いかり**。**うらみ**。〔詩、大雅、緜〕肆不レ殄二厥慍一。〔傳〕慍、恚也。〔疏〕說文云、慍、怨也、恚、怒也、有レ怨者必怒レ之、故以レ慍爲レ恚。❹**うれへる**。〔廣雅、釋詁一〕慍、愁也。❺或は怨(**4－10479**)に作る。〔集韻〕慍、或作レ怨。㈡**心がむすぼれる**。蘊(**9－32071**)に通ず。〔說文通訓定聲〕慍、叚借爲レ蘊。〔集韻〕慍、心所二蘊積一也。㈢**心がむすぼれる**。或は寃(**4－10772**)・宛(**3－7110**)に作る。〔集韻〕慍、心所二鬱積一也、或作レ寃、亦省。㈣**もだえみだれる**。慍惀(11)を見よ。

【慍恚】1 ウンイ いきどほりうらむ。いかる。〔論衡、寒溫〕怒者溫恚、慍恚誅殺。

【慍惡】2 ウンヲ いきどほりにくむ。〔管子、輕重戊〕民無二慍惡不レ服。

【慍見】3 ウンケン うらみまみえる。いかつてまみえる。〔論語、衞靈公〕子路慍見曰、君子亦有レ窮乎。〔高適、酬レ別二薛三祭大一留二簡韓十四主簿一詩〕感激多慍見、縱誕非二爾情一。

【慍色】4 ウンシヨク いきどほりうらむ顏いろ。〔論語、公冶長〕令尹子文、三仕爲二令尹一、無二喜色一、三已レ之、無二慍色一。〔漢書、貨殖傳序〕猶亡二慍色一。

【慍然】5 ウンゼン いきどほるさま。〔新書、容經〕怫然慍然、精以厲。

【慍懟】6 ウンツイ いかりうらむ。〔資治通鑑、唐紀〕(昭宗、大順二年)上乃出二復恭一爲二鳳翔監軍一、復恭慍懟、不レ肯レ行、稱レ疾求二致仕一。〔注〕慍、怒也、懟、怨也。

【慍羝】7 ウンテイ わきが。腋氣。〔輟耕錄、慍羝〕慍羝、謂二腋氣一也、崔令欽教坊記云、范漢女大娘子、亦是竿木家、開天二十一年出レ內、有二姿媚一而微二慍羝一。

【慍怒】8 ウンド いきどほる。〔史記、李將軍傳〕意甚慍怒而就レ部。〔吳越春秋、句踐入臣外傳〕三年不二慍怒一、面無二恨色一。

【慍憤】9 ウンフン いきどほる。〔柳宗元、弔二屈原一文〕獨慍憤而增レ傷。

【慍容】10 ウンヨウ いかつたやうす。〔列子、黃帝〕商丘開常無二慍容一、而諸客之技、單憊二於戲笑一。

【慍惀】11 ウンロン ヲンロン もだえみだれる。又、もだえてさとる。〔集韻〕慍、慍惀、煩憒。〔楚辭、九章、哀郢〕憎二慍惀之修美一兮、好二夫人之忼慨一。〔集注〕慍、心所二慍積一也、惀、思求曉知、謂二之惀一。

【⿰忄辱】11060 ジヨク ⿱辱心(**4－11061**)に同じ。〔玉篇〕⿰忄辱、同レ⿱辱心。

【⿱辱心】11061 ジヨク ノク 〔集韻〕儒欲切 沃

はぢ。辱(**10－38686**)の古字。〔玉篇〕⿱辱心、古辱字。〔集韻〕辱、說文、恥也、古作レ⿱辱心。

【⿱⿱人林心】11062 ラン ⿱人林(**1－1440**)に同じ。〔集韻〕⿱人林、或从レ心。

【⿰忄冒】11063 フ ブ 〔廣韻〕防無切 虞

さとい。**心明か**。〔廣韻〕⿰忄冒、心明也。

【⿰忄苟】11064 シユン 〔字彙補〕相倫切 眞

まこと。恂(**4－10520**)に同じ。〔字彙補〕⿰忄苟、同レ恂、信也。

【慏】11065

㈠メイ ミヤウ 〔集韻〕母井切 梗
㈡メイ ミヤウ 〔集韻〕母迥切 迥
㈢ベキ ミヤク 〔集韻〕莫狄切 錫

㈠㈡慏悜は、意がつきない。又、うれへる。〔廣韻〕慏、慏悜、意不レ盡也。〔集韻〕慏、慏悜、意不レ盡、一曰、憂也。㈢**ひろい**。〔集韻〕慏、博雅、廣也。

【蕙】11066 ケイ 惷(**4－10915**)に同じ。〔集韻〕惷、或作レ蕙。

【⿰犭⿱生心】11067 キヤウ ⿰犭⿱王心(**4－10626**)に同じ。〔集韻〕⿰犭⿱王心、或作レ⿰犭⿱生心。

【⿰亻⿱昜心】11068 テキ 愓(**4－10803**)に同じ。〔集韻〕愓、或作レ⿰亻⿱昜心。

【⿰忄烏】11069 セン 〔字彙補〕之緣切 先

うれへる心。〔字彙補〕⿰忄烏、憂心也。

【⿱粉心】11070 ホン 〔字彙補〕甫本切 阮

うごく。〔字彙補〕⿱粉心、動也。

【⿰忄⿱从回】11071 サク シヤク 〔字彙補〕山責切 陌

かなしみうらむ。〔字彙補〕⿰忄⿱从回、悲恨也。

【⿱⿱十叀心】11072 ケイ 惠(**4－10822**)の古字。〔字彙補〕⿱⿱十叀心、古文惠字。

【⿰忄窄】11073 音未詳 人名。〔字彙補〕⿰忄窄、阿⿰忄窄、人名。〔經世大典〕至元十七年、羅殿國主、遣二阿⿰忄窄一至二四川一、音未詳。

【⿳𦣻冖心】11074 イウ 憂(**4－11170**)に同じ。〔字彙補〕⿳𦣻冖心、同レ憂。

【⿱修心】11075 イウ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿱修心、音由。

【⿰忄彖】11076 カイ ⿰忄象(**4－10889**)に同じ。〔龍龕手鑑〕⿰忄彖、同レ⿰忄象。

【⿰忄盍】11077 カフ 熆(**7－19290**)に同じ。〔龍龕手鑑〕⿰忄盍、同レ熆。

【⿰忄追】11078 タイ 義未詳。〔字彙補〕⿰忄追、音堆、見二釋藏一。

【⿱巩心】11079 キヨウ 恐(**4－10552**)の本字。〔中華大字典〕⿱巩心、恐本字、見二說文一。

【⿰忄⿱丞凵】11080 キヨク ⿰忄亟(**4－10854**)の俗字。〔中華大字典〕⿰忄⿱丞凵、⿰忄亟俗字、見二龍龕手鑑一。

【𢡟】 11081 チヨウ 〔集韻〕丑拯切 迥

悔𢡟は、おろかなさま。悔𢡟。〔集韻〕𢡟、悔𢡟、愚皃。

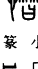
十一畫

【慒】 11082

㈠ソウ ズ 〔集韻〕徂宗切 冬

㈡シウ ジユ 〔集韻〕徐由切 尤

㈢サウ ソウ 〔集韻〕藏曹切 豪



小篆 ㈠**おもんぱかる**。通じて悰(4−10718)に作る。〔說文〕慒、慮也、从レ心曹聲。〔集韻〕慒、通作レ悰。㈡❶**おもんぱかる**。〔爾雅、釋言〕慒、慮也。〔注〕謂二謀慮一也。〔玉篇〕慒、謀也、又慮也。❷或は𢖻(4−10444)に作る。〔集韻〕慒、或作レ𢖻。❸悰(4−10718)に通ず。〔爾雅、釋言、釋文〕慒、字書作レ悰。㈢❶**みだれる**。〔玉篇〕慒、亂也。❷**おもんぱかる**。〔集韻〕慒、慮也。

【㦤】 11083 フン

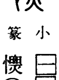
𢥞(4−11449)に同じ。〔正字通〕㦤、同レ𢥞。

【慓】 11084

㈠ヘウ 〔集韻〕紕招切 蕭

㈡ヘウ ベウ 〔集韻〕婢小切 篠

㈢ヘウ ベウ 〔集韻〕眦召切 嘯



小篆 ㈠㈡㈢❶**すばやい**。はやい。もと𢢽(4−11502)に作る。〔正字通〕慓、本作レ𢢽。〔說文〕𢢽、疾也、从レ心票聲。〔廣雅、釋詁一〕慓、急也。〔集韻〕慓、博雅、急也。〔集韻〕慓、卞急也。❷**つよい**。〔集韻〕慓、勇悍也。❸通じて剽(2−2161)に作る。〔正字通〕慓、通作レ剽。

參考 熟語は剽(2−2161)をも見よ。

【慓悍】1 ヘウカン すばやくてあらい。慓悍。剽悍。慓悍。〔漢書、高帝紀上〕懷王諸老將皆曰、項羽爲レ人、慓悍禍賊。〔注〕師古曰、慓、疾也、悍、勇也、禍賊者、好レ爲二禍害一而殘賊也。〔說苑、指武〕夫劍利、士多慓悍。〔魏志、王基傳〕儉欽慓悍、難二與爭一レ鋒。

【㦌】 11085 ハイ

憊(4−11195)の本字。〔正字通〕㦌、石經改作レ憊。

【慔】 11086

㈠ボ モ 〔集韻〕莫故切 遇

㈡バク マク 〔集韻〕末各切 藥

小篆 ㈠㈡❶**つとめる**。〔說文〕慔、勉也、从レ心莫聲。〔爾雅、釋訓〕慔慔、勉也。❷慕(4−11088)に通ず。〔正字通〕慔、一說、與レ慕通。

【𢞃】 11087 ボ

慕(4−11088)の古字。〔字彙補〕𢞃、古文慕字。

【慕】 11088 ボ モ 〔集韻〕莫故切 遇 ㄇㄨˋ mu⁴

小篆 ❶**したふ**。㋑ならふ。ねがふ。もと𢞃(4−11087)に作る。〔說文〕慕、習也、从レ心莫聲。〔段注〕習二其事一者、必中心好レ之。〔柳宗元、種樹郭橐駝傳〕他植者、雖二窺伺傚慕一、莫二能如一也。㋺おもふ。こひしたふ。いとしくおもふ。なつかしくおもふ。〔集韻〕慕、一曰、思也。〔孟子、萬章上〕人少則慕二父母一。〔注〕慕、思慕也。〔楚辭、九章、懷沙〕邈不レ可レ慕兮。〔注〕慕、思也。㊇あとを追ふ。〔禮、檀弓上〕其往也如レ慕。〔注〕慕、謂下小兒隨二父母一啼呼上。〔禮、問喪〕其往送也如レ慕。〔注〕慕者、以三其親之在二前。㊁たつとぶ。〔孟子、離婁上〕巨室之所レ慕、一國慕レ之。〔注〕慕、思也。〔集注〕慕、向也、心悅誠服之謂也。〔北史、蕭巋傳〕天子屬レ目、百寮傾慕。❷**むさぼる**。〔淮南子、原道訓〕誘二慕於名位一。〔注〕慕、貪也。❸**姓**。〔古今姓氏書辨證〕今開封有二慕氏一。〔宋史、牛皓傳〕紹興五年、金熙河經略使慕洧犯二秦川一。

【慕愛】1 mu⁴ ai⁴ 戀ひしたふ。

【慕位】2 ボキ 官位をしたふ。〔淮南子、脩務訓〕非三以貪レ祿慕レ位。

【慕雲】3 ボウン 清、陸燦(11−41708‥121)の字。

【慕役】4 ボエキ 土司の名。貴州省關嶺縣の南。明、長官司を置く。長官は禮姓。〔讀史方輿紀要、貴州、安順軍民府、永寧州〕慕役長官司、元置二慕役砦一、明朝洪武十九年、置二今司一、授二土酋阿夷一、又以二從征官杜仲仁一副レ之、領二四寨一。

【慕悅】5 ボエツ したひよろこぶ。〔韓愈、柳子厚墓誌銘〕今夫平居里巷相慕悅、酒食游戲相徵逐。

【慕艷】6 ボエン 慕ひうらやむ。

【慕園】7 ボエン 字號。❶清、查日乾(6−14643‥99)の號。❷清、董如蘭(9−31433‥221)の號。

【慕歌】8 ボカ 德をしたつてうたふ歌。故人の德を慕つて詠んだ歌。〔晉書、夏統傳〕先公惟寓二稽山一、朝二會萬國一、受二化鄙邦一、崩殂而葬、恩澤雲布、聖化猶新、百姓感詠、遂作二慕歌一、云云、聽二慕歌之聲一、便髣髴見二大禹之容一。

【慕岡】9 ボカウ 明、馮應京(12−44579‥175)の號。

【慕效】10 ボカウ したひならふ。其の人の德をしたひ、言行をまねる。慕倣。〔漢書、成帝紀〕吏民慕效、寢以成レ俗。〔後漢書、桓譚傳〕是以衆人慕效、不レ耕而食。

【慕企】11 ボキ したひくはだてる。〔蜀志、龐統傳〕聲名不レ足二慕企一。

【慕義】12 ボギ 正道をしたふ。〔史記、留侯世家〕莫レ不二鄕レ風慕レ義、願レ爲二臣妾一。〔漢書、田儋傳贊〕賓客慕レ義、猶不レ能二自立一、豈非レ天乎。〔新書、數寧〕皆鄕レ風慕レ義、樂レ爲二臣子一耳。〔司馬遷、報二任少卿一書〕怯夫慕レ義、何處不レ勉焉。

【慕響】13 ボキヤウ 響の聲に應ずる如く慕ひよること。〔班固、公孫弘傳贊〕羣士慕響、異人竝出。

【慕仰】14 ボギヤウ したひあふぐ。〔魏文帝、又與二鍾繇一書〕高山景行、私所二慕仰一。〔資治通鑑、漢紀〕(獻帝、建安十三年)英才蓋レ世、衆士慕仰、若二水之歸一レ海。

【慕化】15 ボクワ 德化をしたふ。德をしたつて教化に從ふ。〔書、旅獒、惟克レ商遂通二道于九夷八蠻一、傳〕四夷慕レ化、貢二其方賄一。〔漢書、蕭望之傳〕前單于慕レ化鄕レ善、稱レ弟遣レ使、請二求和親一、海內欣然。

【慕光】16 ボクワウ 蛾の異名。ひとりむし。〔古今注、魚蟲〕飛蛾善拂レ燈、一名火花、一名慕光。

【慕鄴】17 ボゲフ 清、譚士珌(10−35978‥59)の字。

【慕賢】18 ボケン ❶賢人をしたふ。〔禮、儒行〕忠信之美、優游之法、慕レ賢而容レ衆。〔韓非子、用人〕當二今之世一、爲二人主一忠計者、必無レ使三燕王說二魯人一、無レ使三近世慕二賢於古一、無レ思三越人以救二中國溺者一。❷顏氏家訓の篇名。

【慕黔】19 ボケン 明、錢應婁(11−40563‥259)の字。

【慕古】20 ボコ 古をしたふ。〔後漢書、馮衍傳下〕獨耿介而慕レ古兮。

【慕顧】21 ボコ したひかへりみる。〔韓愈、故幽州節度判官贈給事中清河張君墓誌銘〕世慕顧以行。

【慕齋】22 ボサイ 字號。❶清、金德瑛(11−40152‥1348)の字。❷清、王熙(7−20823‥198)の號。

【慕巢】23 ボサウ 字號。❶唐、楊汝士(6−15112‥622)の字。❷清、朱樟(6−14424‥365)の號。

【慕志】24 ボシ したふこころ。〔新書、制不定〕德布而天下有二慕志一。

【慕思】25 ボシ したひおもふ。したふ。〔戰國、趙策〕今君易二萬乘之強趙一、而慕二思不レ可レ得之小梁一、臣竊爲レ君不レ取也。〔司馬相如、封禪文〕萬物

熙熙、懷而慕思。

【慕斯】26ボシ　清、鄭文炳(**11－39647**‥550)の字。

【慕州】27ボシウ　州名。遼、置く。今、朝鮮平壤の西。〔讀史方輿紀要、山東、外國附考、朝鮮、正州城〕慕州、城在二涿州西二百里一、本渤海安遠府地、領二慕化・崇平二縣一、契丹改置二慕州一屬二涿州一、後廢。

【慕習】28ボシフ　したひならふ。〔宋書、謝靈運傳論〕一世之士、各相慕習。

【慕襲】29ボシフ　したひつぐ。〔後漢書、黨錮傳序〕保レ身懷レ方、彌相慕襲。

【慕從】30ボジュウ　したつて後にしたがふ。〔漢書、高帝紀上〕楚子諸侯人之慕從者、數萬人。

【慕殉】31ボジュン　德をしたつて殉死する。〔漢書、敍傳下〕旅人慕殉、義過二黃鳥一。

【慕循】32ボジュン　したひしたがふ。〔漢書、地理志下〕鄉黨慕二循其迹一。

【慕如】33ボジョ　清、楊傳棨(**6－15112**‥727)の號。

【慕心】34ボシン　したふこころ。なつかしく思ふ情。又、こひしたふ心。〔關尹子、三極〕有二慕心一、則聲奕奕然。

【慕勢】35ボセイ　勢をしたふ。勢につく。〔國策、齊策〕顏斶曰、夫斶前爲レ慕レ勢、王前爲二趨士一。

【慕倩】36ボセン　清、鄭旼(**11－39647**‥244)の字。

【慕羨】37ボセン　したふこと。〔梅堯臣、逢二曾子固一詩〕擧レ手但慕羨。

【慕選】38ボセン　思慕して選擇する。〔管子、心術下〕慕選者、所二以等レ事也。

【慕羶】39ボセン　なまぐさい肉をしたふ。〔莊子、徐無鬼〕羊肉不レ慕レ蟻、蟻慕二羊肉一、羊肉、羶也、舜有二羶行一、百姓悅レ之、故三徙成レ都、至二鄧之虛一、而十有萬家。〔韓偓、感事三十四韻詩〕鴛鷺皆迴レ席、臯夔亦慕レ羶。

【慕堂】40ボダウ　清、曹學閔(**5－14297**‥209)の號。

【慕歎】41ボタン　したつてほめる。〔唐書、三宗諸子、讓皇帝憲傳〕此朕廢レ寢忘レ食、所二慕歎一也。

【慕庭】42ボテイ　明、方雲槐(**5－13620**‥484)の字。

【慕徒】43ボト　したふ人。〔潘岳、秋興賦〕夫送レ歸懷二慕徒之戀一兮。

【慕東】44ボトウ　陵の名。清の孝靜成皇后の陵。河北省易縣の永寧山。〔清會典事例、工部、陵寢、陵寢規制一〕泰陵、泰東陵、昌陵、昌西陵、慕陵、慕東陵爲二西陵一、在二易州永寧山一。〔清會典事例、工部、陵寢、陵寢規制二〕孝靜成皇后陵爲二慕東陵一。

【慕倣】45ボハウ　したひならふ。慕效。〔唐書、徐彥伯傳〕後來翕然慕倣。

【慕名】46ボメイ　㊀名を好む。名譽を好む。〔漢書、王商傳贊〕陽平之王、多有二材能一、好事二慕名一、其執尤盛。㊁mu^4 ming^2　人の美名を羨みしたふ。

【慕輿】47ボヨ　複姓。鮮卑慕容氏の音訛。〔通志、氏族略、代北複姓〕慕輿氏、卽鮮卑慕容氏之音訛、前燕錄、有二將軍慕輿虎・領軍慕輿根等一。

【慕用】48ボヨウ　人品を慕つて擧げ用ひる。〔史記、張耳陳餘傳贊〕何鄉者相慕用之誠、後相倍之戾也。〔漢書、陳餘傳贊〕鄉者慕用之誠、後相背之盭也。

【慕容】49ボヨウ　複姓。〔魏志、鮮卑傳、注〕從二右北平一以西至二上谷一爲二中部一、十餘邑、其大人曰二柯最一、闕居・慕容等、爲二大師一。〔晉書、慕容廆載記〕其先有熊氏之苗裔、秦漢之際、爲二匈奴所レ敗、分保二鮮卑山一、因以爲レ號、云云、曾祖莫護跋、魏初建二國於棘城之北一、時燕代多冠二步搖冠一、莫護跋見而好レ之、乃斂レ髮襲レ冠、諸部因呼二步搖一、其後音訛、遂爲二慕容一焉、或云、慕二二儀之德一、繼二三光之容一、遂以二慕容一爲レ氏。〔通志、氏族略、代北複姓〕慕容氏、高辛少子、居二東北一、裔後從二遼西一、號二鮮卑一、國二於昌黎棘城一、至二涉歸一爲二鮮卑單于一、自云、慕二二儀之德一、繼二三光之容一、或云、冠步搖、音訛爲二慕容一。

〖慕容暐〗50ボヨウキ　前燕の幽帝。儁の第三子。字は景茂。諡は幽皇帝。儁が卒して卽位して、建熙と改元す。苻堅に敗られて新興侯に封ぜられ、後、堅を殺さうとし却つて堅に殺さる。在位十一年。廆から暐に至る迄四世、凡そ八十五年にして前燕滅ぶ。〔晉書、一百十一〕・〔魏書、九十五〕。

〖慕容雲〗51ボヨウウン　後燕の惠懿帝。寶の養子。字は子雨。諡は惠懿皇帝。高句驪の支庶。自ら高陽氏の後といひ、高を姓とす。東宮に侍し、姓を慕容氏と賜はる。慕容熙を弒し、馮跋等に推されて卽位し、姓を高氏に復す。正始と改元し、國を大燕と號したが、幸臣離班・桃仁に弒せられた。〔晉書、一百二十四〕・〔魏書、九十五〕。

〖慕容永〗52ボヨウエイ　西燕の人。廆の弟。運の孫。字は叔明。慕容沖が殺されるや、永は段隨を攻めて之を殺し、慕容泓の子、忠を立てた。忠が殺されると、永は自ら帝位に卽き、中興と改元し、悉く慕容儁及び慕容垂の子孫を殺す。後、慕容垂に敗られて殺された。〔魏書、九十五〕。

〖慕容恪〗53ボヨウカク　前燕の人。皝の第四子。字は玄恭。諡は桓。太原王に封ぜらる。大司馬となり、朝政を總攝す。〔晉書、一百九〕。

〖慕容翰〗54ボヨウカン　前燕の人。廆の庶長子。字は元邕。弟の皝に忌まれ、段遼及び宇文氏に奔る。後、國に還り、建威將軍となり、高句驪を破る。後、人の爲に反を告げられ、遂に死を賜はる。〔晉書、一百九〕。

〖慕容暉〗55ボヨウキ　宋の人。父の惟良、州の刺史となり、陽羨に家したが、其の居に雙楠あり、因つて雙楠居士と稱した。蘇軾の弟子。〔魏書、五十九〕。

〖慕容熙〗56ボヨウキ　後燕の昭文帝。垂の少子。字は道文。小字は長生。諡は昭文皇帝。兄の子の盛が死するや、太后丁氏は、太子定を廢して熙を迎へて卽位せしめたが、後、慕容雲に弒せらる。在位七年。年號は光始・建始。後燕は垂から熙に至る四世、凡そ二十四年で、晉の義熙三年に滅びた。〔晉書、一百二十四〕・〔魏書、九十五〕。

〖慕容廆〗57ボヨウクワイ　前燕の武宣帝。もと鮮卑の人。字は弈洛瓌。諡は襄。後の諡は武宣皇帝。廟號は高祖。幼くて魁偉、雄傑にして大度あり、晉の永嘉の初、自ら鮮卑大單于と稱し、太興の初、遼東公に封ぜらる。在位四十九年。子の皝に及び、晉の正朔を奉ぜざるに至つた。〔晉書、一百八〕・〔魏書、九十五〕。

〖慕容皝〗58ボヨウクワウ　前燕の文明皇帝。廆の第三子。字は元眞。小字は萬年。諡は文明皇帝。廟號は太祖。雄毅にして權略多く、遼東王の封を襲ぎ、晉の咸康三年、燕王の位に卽き、龍城に遷都す。在位十五年にして卒す。〔晉書、一百九〕・〔魏書、九十五〕。

〖慕容契〗59ボヨウケイ　後魏の人。白曜の弟の子。諡は克。官は朔州刺史。〔魏書、五十九〕。

〖慕容軼〗60ボヨウケツ　慕容垂(64)を見よ。

〖慕容儼〗61ボヨウゲン　北齊の成安の人。字は恃德。爾朱兆が敗れるや、高歡に歸し、梁師を禦いで功を建てた。爵は義安王。官は光州刺史。〔北齊書、二十〕・〔北史、五十三〕・〔琅琊代醉編、二十〕。

〖慕容儁〗62ボヨウシュン　前燕の景昭帝。皝の第二子。字は宣英。小字は賀賴跋。諡は景昭皇帝。廟號は烈祖。位を嗣ぐや、趙を伐ち薊を取り、又、冉魏を滅ぼし、尋いで帝を稱し、鄴に都す。在位十一年にして卒す。年號は燕元・元璽・光壽。讀書を好み、著述、四十餘種がある。〔晉書、一百十〕・〔魏書、九十五〕。

〖慕容鍾〗63ボヨウショウ　南燕の人。德の從弟。字は道明。反を謀つたが、事敗れて、姚興に奔る。官は始平太守。爵は歸義侯。〔晉書、一百二十八〕。

〖慕容垂〗64ボヨウスイ　後燕の成武帝。皝の第五子。初名は霸。字は道業。軼と改名し、後、更に今の名に更めた。字は道明。小字は阿六。諡は成武皇帝。廟號は世祖。少くして器度あり。前燕の時、吳王に封ぜらる。嘗て桓溫を枋頭に破つて威名日に盛となつたが、太傅慕容評に譖せられ、誅を懼れて苻堅に奔る。堅が晉に敗られるに及んで、秦を離れて獨立し、自ら燕王と稱し、遂に帝を中山に稱した。在位十三年。年號は建興。〔晉書、一百二十三〕・〔魏書、九十五〕。

〖慕容盛〗65ボヨウセイ　後燕の昭武帝。寶の庶長子。字は道運。諡は昭武皇帝。廟號は中宗。父、寶が蘭汗の爲に殺されるや、汗を斬つて位に卽き、在位三年にして卒す。年號は建平・長樂。〔晉書、一百二十四〕・〔魏書、九十五〕。

〖慕容沖〗66ボヨウチュウ　西燕の威帝。暐の弟。小字は鳳凰。諡は威皇帝。姊、清河公主は苻堅の妃。堅に叛いて、帝を稱し、更始と改元したが、在位一年にして、韓延の爲に毒殺された。〔魏書、九十五〕。

〖慕容超〗67ボヨウテウ　南燕の人。德の兄の子。字は祖明。晉の義熙元年に位を嗣ぎ、太上と改元。在位六年にして、劉裕に執へられ斬られた。南燕は德から超に至る、凡そ十三年、義熙六年を以て滅びた。〔晉書、一百二十八〕・〔魏書、九十五〕。

【慕容德】68 ボヨウトク　南燕の獻武帝。皝の少子。字は元明。前燕の時、范陽王に封ぜらる。位に廣固に卽き、名を備德と改めた。謚は獻武皇帝。廟號は世宗。卽位の後、儒術を崇び讜言を延き、時に賢主と稱せらる。在位七年にして卒す。年號は燕平・建平。〔晉書、一百二十七〕・〔魏書、九十五〕。

【慕容霸】69 ボヨウハ　慕容垂(64)を見よ。

【慕容寶】70 ボヨウハウ　後燕の惠愍帝。垂の第四子。字は道祐。小字は庫句。謚は惠愍皇帝。廟號は烈宗。垂の死後、位を嗣ぎ、永康と改元したが、在位三年にして蘭汗に殺された。年號は永康。〔晉書、一百二十四〕。

【慕容泓】71 ボヨウワウ　前燕の人。暐の弟。初、長地長史となる。燕が破れ、慕容垂が鄴を攻めると聞き、關東に亡げ奔り、鮮卑の衆數千を收めて、自ら大將軍、雍州牧と稱し、大いに苻堅の軍を破り、衆十餘萬に至り、進んで長安に向つたが、法を持すること峻烈で、其の臣高蓋等に殺された。〔魏書、九十五〕。

【慕容延釗】72 ボヨウエンセウ　宋、太原の人。周に仕へ、荊湘を平げた。官は檢校太尉。〔宋史、二百五十一〕・〔東都事略、二十〕。

【慕容彥超】73 ボヨウゲンテウ　五代、漢の人。劉暠の弟。嘗て姓、閻氏を冒す。色黑く胡髯あり、閻崑崙と號せらる。官は鎭寧軍節度使。後、周の太祖に破られ、井に投じて死んだ。〔五代史、五十三〕・〔舊五代史、一百三十〕。

【慕容彥逢】74 ボヨウゲンホウ　宋、宜興の人。字は淑遇。謚は文定。元祐の進士。復、紹聖の弘詞科に中り、徽宗の知遇を受けて禁近に列し、侍從たること十五年、當時の典冊は多く其の手になつた。後、刑部尙書となる。書室を摛文堂といひ、著に摛文堂集がある。〔宋史翼、二十七〕・〔四庫提要、一百五十五〕。

【慕容三藏】75 ボヨウサンザウ　隋の人。紹宗の子。官は齊の右衞將軍。隋の金紫光祿大夫。至る所惠政を施した。〔隋書、六十五〕。

【慕容眞安】76 ボヨウシンアン　後魏の人。白曜の子。年十一にして父執へらると聞き、自縊した。〔魏書、五十〕。

【慕容紹宗】77 ボヨウセウソウ　北齊の人。恪の後。字は紹宗。謚は景惠。爾朱兆が敗れるに及んで、高歡に歸し、東魏の元象の初、公爵に進んだ。官は尙書左僕射。侯景を破つたが、西魏を伐つて利あらず、水に投じて死んだ。〔北齊書、二十〕・〔北史、五十三〕。

【慕容德豐】78 ボヨウトクホウ　宋の人。延釗の子。字は日新。廉潔の士。遼人の南侵を拒ぐ。潁州團練使となり、又、貝・瀛二州の知となる。〔宋史、二百五十一〕・〔宋史新編、六十六〕・〔隆平集、十八〕。

【慕容白曜】79 ボヨウハクエウ　後魏の人。皝の玄孫。文成の崩後、乙渾と朝政を執る。官は尙書右僕射。皇興の初、征南大將軍となり、濟南王に封ぜられ、後、譖せられて、誅に伏した。〔魏書、五十〕・〔北史、二十五〕。

【慕賴】80 ボライ　したひたよる。〔韓愈、司徒兼侍中中書令贈太尉許國公神道碑銘〕必擇下其骨肉爲三士卒所二慕賴一者上付レ之。

【慕樂】81 ボラク　したひ樂しむ。心に思ひ喜ぶ。〔詩、小雅、角弓、君子有二徽猷一小人與屬、疏〕君子之人有二美道一、以得二聲譽一、小人則慕二樂之一、美二其榮名一。〔後漢書、西域、奄蔡傳〕長二於京師一、慕二樂中國一。

【慕利】82 ボリ　複姓。〔萬姓統譜、慕利姓〕慕利、與二慕容氏一同姓。

【慕劉】83 ボリウ　清、蔣師爚(**9－31820**‥168)の字。

【慕蓼】84 ボリク　明、王畿(晉江の人)(**7－20823**‥204)の號。

【慕陵】85 ボリヨウ　㊀陵の名。清宣宗の陵。河北省易縣の永寧山。〔清會典事例、工部、陵寢、陵寢規制一〕泰陵、泰東陵、昌陵、昌西陵、慕陵、慕東陵爲二西陵一、在二易州永寧山一。〔清會典事例、工部、陵寢、陵寢規制二〕宣宗成皇帝陵爲二慕陵一。㊁清、陳榮杰(**11－41698**‥670)の字。

【慕藺】86 ボリン　賢者を敬慕すること。司馬相如が藺相如を敬慕したことからいふ。〔史記、司馬相如傳〕相如既學、慕二藺相如之爲一レ人、更二名相如一。〔書言故事、瞻仰類、慕藺〕未レ識人、云三久懷二慕藺一。

【慕濂】87 ボレン　清、鄧元昌(**11－39630**‥145)の字。

【慕廬】88 ボロ　清、韓菼(**12－43159**‥18)の字。

【慕陶軒】89 ボタウケン　清、吳廷康(**2－3365**‥785)の室名。

【慕天顏】90 ボテンガン　清、靜寧の人。字は拱極。順治の進士。錢塘縣の知。康熙の中、巡撫江蘇、後、漕運總督となり、蘇州に卒す。著に撫吳封事・楚黔封事・督漕封事がある。〔清史稿、二百八十四〕・〔清史列傳、十二〕・〔國朝耆獻類徵、一百五十六〕・〔碑傳集、六十三〕。

【⿰忄离】11089　リ　〔集韻〕鄰知切　支

㊀**事がおほい**。〔集韻〕⿰忄离、支⿰忄离、多レ端也。㊁**おもふ**。〔集韻〕⿰忄离、一曰、思也。㊂或は⿱離心(**4－11489**)に作る。〔集韻〕⿰忄离、或作レ⿱離心。

【慖】11090　🈩クワイ　〔集韻〕古對切　隊　🈔クワク キヤク　〔集韻〕古獲切　陌

🈩**うらむ**。〔集韻〕慖、埤倉、恨也。🈔**もとる**。〔集韻〕慖、悖也。

【⿱國心】11091　シン　義未詳。〔五音篇海〕⿱國心、音心。

【⿰忄焉】11092　🈩イン オン　〔集韻〕於靳切　問　🈔エン　〔集韻〕於虔切　先

🈩**よりとどまる**。傿(**1－1039**)に同じ。〔集韻〕傿、依止也、或作レ⿰忄焉。🈔**おもふ**。〔集韻〕⿰忄焉、憶也。

【慗】11093　チヨク チキ　〔集韻〕蓄力切　職

したがふ。〔集韻〕慗、從也。

【慘】11094

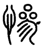
🈩サン　〔集韻〕七感切　感

🈔シン　〔集韻〕楚錦切　寑

🈪サン　〔集韻〕七紺切　勘

ㄘㄢˇ　tsʻan^3

慣ザン



小篆

🈩🈔㊀**そこなふ**。しひたげる。〔說文〕慘、毒也、从レ心參聲。〔段注〕毒、害也。〔方言、一〕慘、殺也。〔漢書、陳湯傳〕慘二毒於民一。〔後漢書、周紆傳〕苛慘失レ中。〔注〕慘、虐也。㊁**いたむ**。いためる。疾痛。〔列子、楊朱〕慘二於腹一。〔釋文〕慘、痛也。〔晉書、刑法志〕酸慘之聲。㊂**むごい**。みじめ。〔史記、酷吏傳論贊〕雖二慘酷一、斯稱二其位一矣。〔後漢書、袁紹傳〕細政苛慘。㊃**きびしい**。〔楊廼、舜歌南風賦〕憫二沃瘠之勞逸一、均二陰陽之舒慘一。㊄**さむい**。こごえる。〔張衡、西京賦〕水霜慘烈。〔注〕綜曰、慘烈、寒也。㊅**やつれる**。おとろへる。〔陸贄、傷望思賦〕草木春慘、風烟晝昏。〔陳子良、肅平仲誄〕宿草哀兮凝二秋露一、白楊慘兮生二悲風一。㊆**さびしい**。いたましい。〔庾信、思舊銘〕風雲上慘、舟壑潛移。〔許渾、送二從兄一詩〕風凄聞レ笛處、月慘罷レ琴時。㊇**わるい**。〔方言、十三〕慘、惛也。㊈**むさぼる**。嫪(**3－6654**)に通ず。〔說文通訓定聲〕慘、叚借爲レ嫪。〔廣雅、釋詁二〕慘、貪也。〔廣雅、釋言〕慘、愒也。㊉**うれへる**。憯(**4－11260**)・懆(**4－11325**)に通ず。〔說文通訓定聲〕慘、叚借爲レ憯、爲レ懆。慘・懆、雙聲。〔爾雅、釋詁〕慘、憂也。〔詩、陳風、月出〕勞心慘兮。〔釋文〕慘、憂也。⑪**いか**

る。諺（10－35883）に通ず。〔說文通訓定聲〕慘、叚借爲㆑諺。〔爾雅、釋訓〕慘慘、愠也。⓬くらい。黲（12－48189）に通ず。〔說文通訓定聲〕慘、叚借爲㆑黲。〔王粲、登樓賦〕天慘慘而無㆑色。〔注〕善曰、通俗文曰、暗色曰㆑黲、慘、與㆑黲古字通。⓭かつて。すなはち。發語の助辭。朁（5－14302）・憯（4－11260）・噆（2－4296）に通ず。〔經傳釋詞、八〕朁、說文、朁、曾也、引㆓詩朁不㆑畏㆑明、字或作㆓憯・噆㆒、又作㆑慘。〔左氏、昭、二十〕慘不㆑畏㆑明。〔注〕慘、曾也。［三］うれへいたむ。〔集韻〕慘、憂戚。

【慘夷】1（サンイ）むごたらしくほろぼす。〔晉書、王羲之傳〕自㆓頃年㆒割㆓剝遺黎㆒、刑徒竟㆑路、殆同㆓秦政㆒、惟未㆑加㆓慘夷之刑㆒耳、恐勝廣之憂、無㆓復日㆒矣。

【慘懌】3（サンエキ）悲しみいたむこととよろこぶこと。〔人物志、九徵〕躁靜之決、在㆓於氣㆒、慘懌之情、在㆓於色㆒、衰正之形、在㆓於儀㆒、態度之動、在㆓於容㆒。

【慘咽】4（サンエツ）むせびかなしむ。〔歐陽脩、詞〕尊前擬㆘把㆓歸期㆒說㆖、未㆑語春容先慘咽。

【慘焉】5（サンエン）悲しみいたむさま。慘慘（30）に同じ。

【慘苛】6（サンカ）むごくきびしい。慘酷。苛慘。〔陳琳、爲㆓袁紹㆒檄㆓豫州㆒文〕加㆓其細政慘苛㆒、科防互設、罾繳充㆑蹊。

【慘害】7（サンガイ）むごたらしい災害。むごくいたましい損傷。

【慘礉】8（サンカク）むごくきびしい。慘苛。慘礉少㆑恩を見よ。〔蘇軾、韓非論〕太史遷曰、申子卑卑、施㆓於名實㆒、韓子引㆓繩墨㆒、切㆓事情㆒、明㆓是非㆒、其極慘礉少㆑恩。

〖慘礉少㆑恩〗9（サンカクニシテオンスクナシ）法律を用ひることが苛酷で、少しも人情を用ひないこと。〔史記、老莊申韓傳贊〕太史公曰、云云、申子卑卑、施㆓之於名實㆒、韓子引㆓繩墨㆒、切㆓事情㆒、明㆓是非㆒、其極慘礉少㆑恩、皆原㆓於道德之意㆒、而老子深遠矣。〔注〕集解曰、礉、胡革反、用㆑法慘急、而鞠礉深刻。

【慘覈】10（サンカク）いたましくきびしい。慘礉に同じ。

【慘急】11（サンキフ）甚だきびしい。法を用ひることがむごくきびしい。刻急。〔史記、平準書〕長吏益慘急、而法令明察。〔漢書、食貨志下〕淮南衡山江都王謀反迹見、而公卿尋端㆓治之㆒、竟其黨與、坐而死者數萬人、吏益慘急而法令察。

【慘況】12（サンキヤウ）むごいありさま。悲慘なありさま。慘狀。

【慘虐】13（サンギャク ザンギャク）むごくしひたげる。〔顏氏家訓、後娶〕假繼慘㆓虐孤遺㆒、離㆓閒骨肉㆒、傷心斷腸者、何可㆓勝數㆒。

【慘擧】14（サンキョ）むごいしうち。〔福惠全書、刑名部、賊盜上、緝捕〕瑗父亦怒曰、爾所㆑仗者嚮馬也、習遂鐫㆓恨于心㆒、是以有㆓初六夜之慘擧㆒也。

【慘棘】15（サンキョク）むごたらしいいましめ。〔唐書、嚴郢傳〕楚掠慘棘、鍛㆓成其罪㆒。

【慘苦】16（サンク）いたましいくるしみ。つらい苦痛。〔後漢書、章帝紀〕慘苦無㆑極。

【慘憒】17（サンクワイ）心のいたみみだれること。〔晉書、左貴嬪傳〕意慘憒而無聊兮、思纏綿以增㆑慕。

【慘兮】18（サンタリ）うれへるさま。〔詩、陳風、月出〕舒夭紹兮、勞心慘兮。〔集傳〕慘、當㆑作㆑懆、慘、憂也。

【慘刑】19（サンケイ）むごいしおき。ざんこくな刑罰。〔六部成語、刑部、慘刑、注解〕慘毒之刑也。

【慘劇】20（サンゲキ）むごたらしい事件。いたましい出來事。悲慘な出來事。

【慘結】21（サンケツ）きびしく心がむすぼれる。〔後漢書、順帝紀〕寤寐永歎、重懷慘結。

【慘刻】22（サンコク）むごくきびしい。人をいためくるしめる。又、其のこと。〔後漢書、和帝紀〕吏行㆓慘刻㆒、不㆑宣㆓恩澤㆒。〔唐書、酷吏傳序〕奸臣作㆑威、渠險宿狡、頗用㆓慘刻㆒。

【慘剋】23（サンコク）むごくきびしい。慘刻に同じ。〔風俗通、怪神〕刑罰慘剋、罪三也。

【慘酷】24（サンコク ザンコク）むごくきびしい。そこなひしひたげる。殘忍刻薄。殘酷。慘刻。慘礉。憯酷。〔史記、酷吏傳贊〕雖㆓慘酷㆒、斯稱㆓其位㆒矣。〔後漢書、陳寵傳〕其後遂詔㆓有司㆒、絕㆓鉆鑽諸慘酷之科㆒。〔魏志、鍾繇傳〕不㆑忍㆓肉刑之慘酷㆒。

【慘獄】25（サンゴク）むごいしおき。多人數をむごく殺す大獄。〔後漢書、章帝紀論〕感㆓陳寵之義㆒、除㆓慘獄之科㆒。

【慘恨】26（サンコン）かなしみうらむ。又、いたましいうらみ。〔張祜、送㆓楊秀才游㆑蜀詩〕不㆑堪揮㆓慘恨㆒、一涕自潸然。〔宣和畫譜、人物三、李公麟〕公麟作㆓陽關圖㆒、以㆓離別慘恨㆒、爲㆓人之常情㆒。

【慘嗟】27（サンサ）かなしみなげく。いたみなげく。〔舊唐書、王承宗傳〕取㆑陷救㆑溺、能無㆓慘嗟㆒。

【慘愴】28（サンサウ）いたみかなしむ。又、いたましくかなしい。酸愴。〔司馬遷、報㆓任少卿㆒書〕僕竊不㆔自料㆓其卑賤㆒、見㆓主上慘愴怛悼㆒、誠欲㆑效㆓其款款之愚㆒。〔張翰、雜詩〕歡樂不㆑照㆑顏、慘愴發㆓謳吟㆒。

【慘殺】29（サンサツ ザンサツ）むごくそこなひころす。いたましい殺しかたをする。〔杜牧、罪言〕并州力足㆓以幷吞㆒也、幽州幽陰慘殺也。

【慘慘】30（サンサン）❶痛み悲しむさま。心をいためるさま。慘然。憯憯。〔詩、小雅、正月〕憂心慘慘、念㆓國之爲㆑虐。〔傳〕慘慘、猶㆓戚戚㆒也。〔詩、小雅、北山〕或不㆑知㆓叫號㆒、或慘慘劬勞。〔釋文〕慘、字又作㆑懆。〔詩、大雅、抑〕視㆓爾夢夢㆒、我心慘慘。〔傳〕慘慘、憂不㆑樂也。〔後漢書、章帝紀〕今予小子徒慘慘而已。❷くらいさま。〔王粲、登樓賦〕風蕭瑟而並興兮、天慘慘而無㆑色。〔注〕善曰、通俗文曰、暗色曰㆑黲、慘、與㆑黲古字通。

【慘死】31（サンシ ザンシ）むごたらしい死にざま。悲慘な死。

【慘紫】32（サンシ）薄紫色。〔資治通鑑、唐紀〕（武后、光宅元年）自㆑是太后常御㆓紫宸殿㆒、施㆓慘紫帳㆒以視㆑朝。〔注〕紫色之淺者爲㆓慘紫㆒。〔朝野雜記〕凡大臣奪㆑情者、服㆓慘紫袍早角帶㆒。

【慘事】33（サンジ）みじめな事。むごたらしい出來事。

【慘爾】34（サンジ）むごいさま。〔潘岳、夏侯常侍誄〕慘爾其傷、念㆓我良執㆒。

【慘傷】35（サンシヤウ）かなしみいたむ。うれひいたむ。〔杜甫、寄㆓韓諫議注㆒詩〕昔隨㆓劉氏㆒定㆓長安㆒、帷幄未㆑改神慘傷。

【慘狀】36（サンジヤウ）いたましいありさま。むごたらしい狀態。みじめなさま。慘況。

【慘肅】37（サンシュク）いたみつつしむ。〔王逢、詩〕皇天實鑒臨、家廟爲慘肅。

【慘恤】38（サンジユツ）いたみうれへる。〔宋史、王旦傳〕王淸昭應宮成拜㆓司空㆒、京師賜㆑酺、旦以㆓慘恤㆒不㆑赴㆑會、帝賜㆑詩導㆑意焉。

【慘舒】39（サンジヨ）寒さのきびしいこととゆるやかなこと。寬嚴更代するをいふ。〔張衡、西京賦〕在㆓陽時㆒則舒、在㆓陰時㆒則慘。〔文心雕龍、物色〕春秋代序、陰陽慘舒。

【慘悴】40（サンスイ）いたみなやむ。〔李華、弔㆓古戰場㆒文〕黯兮慘悴、風悲日曛。

【慘悽】41（サンセイ）いたましくかなしい。又、かなしむ。いたむ。憯悽。〔楚辭、宋玉、九辯〕霜露慘悽而交下兮。〔史記、張釋之傳〕上自倚㆑瑟而歌、意慘悽悲懷。〔嵇康、琴賦〕莫㆑不㆓憯懍慘悽愀愴傷㆑心。〔顏延之、秋胡詩〕慘悽歲方晏、日落游子顏。〔杜甫、奉㆓贈太常張卿垍二十韻㆒詩〕適㆑越空顚躓、遊㆑梁竟慘悽。〔張泌、晩歇㆓湘源縣㆒詩〕湘南自㆑古多㆓離怨㆒、莫㆘動㆓哀吟㆒易㆗慘悽㆖。

【慘戚】42（サンセキ）いたみうれへる。慘慼に同じ。〔蘇軾、刑賞忠厚之至論〕故其吁兪之聲、歡休慘戚、見㆓於虞夏商周之書㆒。

【慘慼】43（サンセキ）いたみうれへる。慘戚。〔呉志、呂蒙傳〕權爲㆑之慘慼、欲㆔數見㆓其顏色㆒。

【慘切】44（サンセツ）かなしみの心がせまる。酸切。〔後漢書、章帝紀〕又久旱傷㆑麥、憂心慘切。〔江淹、效㆓阮公㆒詩〕仲冬正慘切、日月少㆓精華㆒。

【慘絕】45（サンゼツ）極めていたましいこと。非常にむごたらしいこと。

【慘然】46（サンゼン）いたむさま。みじめなさま。あはれなさま。〔史記、外戚世家〕漢王心慘然憐㆓薄姬㆒。〔孔叢子、記問〕慘然心悲。

【慘沮】47（サンソ）かなしんで心がふさがる。〔石介、過㆓魏東郊㆒詩〕瓦石固無情、爲㆑我亦慘沮。

【慘惻】48（サンソク）いたみかなしむ。悽慘。〔陸機、愍思賦序〕銜㆑恤哀傷、作㆓此賦㆒以紓㆓慘惻之感㆒。

【慘忉】49（サンタウ）きびしく痛む。〔黃潛、春陵行〕仍聞恣㆓鞭箠㆒、慘忉傷㆓膚皮㆒。

【慘怛】50（サンタツ サンタン）いたましいさま。又、憂ひいたむこと。〔宋玉、風賦〕中心慘怛、生㆑病造㆑熱。

〔史記、屈原傳〕勞苦倦極、未㆓嘗不㆑呼㆑天、疾痛慘怛、未㆓嘗不㆑呼㆓父母㆒也。〔注〕正義曰、慘、毒也、怛、痛也。〔漢書、元帝紀〕歲比災害、民有㆓菜色㆒、慘㆓怛於心㆒。〔蜀志、馬超傳〕朕用慘怛、疢如㆑疾㆑首。

【慘怛之疾】51（サンダツノヤマヒ） かなしみの疾苦。〔莊子、盜跖〕慘怛之疾、恬愉之安、不㆑監㆓於體㆒、怵惕之恐、欣懽之喜、不㆑監㆓於心㆒。〔疏〕慘怛、悲也、恬愉、樂也、夫悲樂喜懽者、並身外之事也、故不㆑能㆘監㆓明於聖質㆒、照㆗入於心靈㆖、而愚者妄爲㆑之也。

【慘淡】52（サンタン） 慘澹。㊀うすぐらいさま。〔白居易、過㆓昭君村㆒詩〕慘淡晚雲水、依稀舊鄉園。〔歐陽脩、秋聲賦〕夫秋之爲㆑狀也、其色慘淡、煙霏雲斂、其容清明、天高日晶。㊁意を極めて思索するさま。〔畫繼〕宋復古八景、其間煙寺晚鐘・瀟湘夜雨、頗費㆓形容㆒、蓋復古先畫而後命意、不㆑過㆔略具㆓掩靄慘淡之狀㆒。

【慘憺】53（サンタン） 心をいためるさま。思慮を勞し苦心するさま。又、なげかはしいさま。慘澹。〔蘇軾、荊州詩〕南方舊戰國、慘憺意猶存。

【慘澹】54（サンタン） ㊀ものすごくうすぐらい。慘淡。慘黯。〔白居易、渭邨退居寄㆓禮部崔侍郎翰林錢舍人㆒詩一百韻〕雲容陰慘澹、月色冷悠揚。〔白居易、桐樹館重題詩〕慘澹病使君、蕭疎老松樹。㊁なげかはしくいたましいさま。〔杜甫、送㆔從弟亞赴㆓河西判官㆒詩〕踴躍常人情、慘澹苦㆓士志㆒。㊂さまざまに思ひなやむさま。意を極めて思索する。慘澹經營を見よ。

【慘澹經營】55（サンタンケイエイ） 苦心して考案する。苦心して營む。〔杜甫、丹青引贈㆓曹將軍霸㆒〕詔謂㆓將軍㆒拂㆓絹素㆒、意匠慘澹經營中。

【慘惕】56（サンテキ） いたみうれへる。〔魏書、李彪傳〕無情之人、父兄繫㆑獄、子弟無㆓慘惕之容㆒。

【慘黷】57（サントク） いたましくけがれる。〔庾信、竹杖賦〕猿吟鷹厲、風霜慘黷。〔孔穎達、詩經正義序〕時當㆓慘黷㆒。

【慘毒】58（サンドク） ㊀むごたらしく人をそこなふ。慘害。殘虐。〔漢書、陳湯傳〕郅支單于、慘毒行㆓於民㆒。〔後漢書、和帝紀〕貪苛慘毒、延及㆓平民㆒。㊁いたみかなしむ。〔曹植、求㆑通㆓親親㆒表〕使㆛有㆘不㆓蒙施㆒之物㆖、必有㆚慘毒之懷㆙。〔注〕向曰、慘毒、猶㆓憂怨㆒也。

【慘報】59（サンパウ） いたましいしらせ。

【慘服】60（サンプク） ㊀喪服の名。期功の服。齊衰。〔宋史、禮志二十五〕凡有㆓慘服㆒、既葬公除。㊁淺色の服。〔宋史、禮志二十五〕羣臣及軍校以上、皆本色慘服。

【慘腹】61（サンプク） 腹をいためる。〔列子、楊朱〕昔人有㆘美㆓戎菽・甘枲・莖芹・萍子㆒者㆖、對㆓鄉豪㆒稱㆑之、鄉豪取而嘗㆑之、蜇㆓於口㆒、慘㆓於腹㆒、衆哂而怨㆑之、其人大慙。〔晁補之、次㆘韻四弟以道十二弟叔與㆓法王㆒唱和兼示㆗无斁弟㆖詩〕文詞如㆓苦李㆒、慘腹人莫㆑食。

【慘聞】62（サンブン） いたましい風聞。むごたらしい話。

【慘斃】63 tsʻan^3 pi^4 むごく殺す。又、むごく殺される。

【慘變】64（サンペン） むごたらしいこと。〔福惠全書、刑名部、問擬〕益可㆔以見㆓此事之非常慘變㆒。

【慘目】65（サンモク） 目をいたましめる。〔李華、弔㆓古戰場㆒文〕傷㆑心慘㆑目、有㆑如㆑是耶。

【慘落】66（サンラク） 相場が大暴落すること。

【慘慄】67（サンリツ） いたみおそれる。又、いたましい。〔古詩十九首〕孟冬寒氣至、北風何慘慄。〔褚少孫、楚辭〕感㆓予志㆒兮慘慄。

【慘綠】68（サンリョク） ふかみどり。深綠色。黲綠。〔幽閒鼓吹〕潘炎拜㆓侍郎㆒、會㆓同列㆒、其妻簾下視㆑之、問末座慘綠少年何人、曰、補闕杜黃裳、夫人曰、此人全別、必是有㆓名卿相㆒。

【慘稟】69（サンリン） 凄じいこと。慘懍に同じ。

【慘凜】70（サンリン） すさまじいこと。慘懍に同じ。〔韻府引、陸游、詩〕髮毛慘凜誰復支。

【慘廩】71（サンリン） すさまじいこと。慘懍。〔漢書、揚雄傳上〕下陰潛以慘廩兮。〔注〕師古曰、慘廩、亦寒涼之意也。

【慘懍】72（サンリン） 物すさまじく、肌寒いさま。一說に、明かでないさま。〔揚雄、甘泉賦〕下陰潛以慘懍兮、上洪紛而相錯。〔注〕善作㆑廩、慘廩、寒貌也、良曰、慘懍、不㆑明貌。〔柳宗元、與㆓蕭翰林俛㆒書〕肌革慘懍。

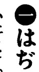
【慘烈】73（サンレツ） きびしくはげしい。甚だしくむごい。酷烈。〔張衡、西京賦〕雨雪飄飄、冰霜慘烈。〔注〕綜曰、慘烈、寒也。

【慘裂】74（サンレツ） むごくさける。〔李陵、答㆓蘇武㆒書〕胡地玄冰、邊土慘裂。〔注〕善曰、說文曰、慘、毒也、廣雅曰、裂、分也、良曰、慘裂、寒之甚也。

【慘不忍觀】75 tsʻan^3 pu^4 jen^2 kuan^1 むごたらしくて見るに忍びない。

【慘無天日】76 tsʻan^3 wu^2 tʻien^1 jih^4 慘害の甚だしいこと。

【慙】11095



小篆

サン　ザン　〔集韻〕財甘切　ㄘㄢˊ　覃　tsʻan^2

㊀**はぢる**。〔說文〕慙、媿也、从㆑心斬聲。〔史記、孟嘗君傳〕客慙自剄。〔魏書、列女、房愛親妻崔氏傳〕此雖㆓顏慙㆒、未㆑知㆓心愧㆒。㊁**はぢ**。〔左氏、昭、三十一〕一慙之不㆑忍。〔南齊書、孔稚珪傳〕一城之沒、尚不㆑足㆑惜、一使不㆑返、曾何取㆑慙。㊂**ただしくない**。節操を失ふこと。〔小爾雅、廣義〕不㆑直失㆑節、謂㆓之慙㆒。㊃或は慚(4－11096)に作る。〔集韻〕慙、或書作㆑慚。

【慙恚】1（ザンイ） はぢいかる。〔論衡、累害〕高者得㆑榮、下者慙恚。〔周書、王勇傳〕於㆓衆中㆒折㆓辱之㆒、勇遂慙恚、因疽發㆑背而卒。

【慙隱】2（ザンイン） はぢて事實をかくす。〔舊唐書、高郢傳〕挺然抗㆑辭、無㆑所㆓慙隱㆒。

【慙慨】3（ザンガイ） はぢなげく。〔江淹、爲㆓齊王㆒讓㆑禪表〕慙慨憂灼、罔㆑識㆓其際㆒。〔北史、甄琛傳〕琛大以慙慨。

【慙汗】4（ザンカン） 甚しくはぢて汗の出ること。ひやあせ。〔韓愈、和㆔水部張員外宣政衙賜㆓百官櫻桃㆒詩〕食罷自知無㆑所㆑報、空然慙汗仰㆓皇扃㆒。

【慙感】5（ザンカン） はぢて心をうごかす。

【慙顏】6（ザンガン） はぢる顏。〔王融、和㆔南海王殿下詠㆓秋胡妻㆒詩〕彼美復來儀、慙顏變㆓欣矚㆒。〔劉禹錫、題㆓集賢閣㆒詩〕曾見先賢翔集地、每㆑看㆓壁記㆒一慙顏。〔開元天寶遺事、慙顏厚如㆑甲〕進士楊光遠、性多㆓矯飾㆒、不㆑識㆓忌諱㆒、遊㆓謁王公之門㆒、干㆓索權豪之族㆒、未㆓嘗自足㆒、稍有㆑不㆑從、便多㆓誹謗㆒、常遭㆓有㆑勢者撻辱㆒、略無㆓改悔㆒、時人多鄙㆑之、皆云、楊光遠慙顏、厚如㆓十重鐵甲㆒也。

【慙悸】7（ザンキ） はぢて怖れをののく。〔蘇頲、陳情表〕周章慙悸、惶駭戰慄。

【慙愧】8（ザンキ） ㊀はぢいる。又、はぢ。〔國語、齊語〕是故大國慙愧。〔漢書、王莽傳上〕未㆔嘗不㆓流汗而慙愧㆒也。〔後漢書、竇融傳〕畔臣見㆑之、當㆓股慄慙愧㆒。〔論衡、道虛〕默復㆓歸家㆒、慙愧無㆑言。㊁佛自ら恥ぢるを慙とし、人に向つて發露するを愧とする。〔涅槃經、十九〕慙者自不㆑作㆑罪、愧者羞㆑天、是名㆓慙愧㆒。

【慙疚】9（ザンキウ） はぢてなやむ。〔後漢書、明帝紀〕永念㆓慙疚㆒、無㆑忘㆓厥心㆒。

【慙懅】10（ザンキョ） はぢおそれる。〔後漢書、王霸傳〕霸慙懅而還。

【慙懼】11（ザンク） はぢおそれる。〔漢書、杜欽傳〕上聞㆔欽慙懼、乞㆓骸骨㆒去。〔後漢書、鍾離意傳〕朕慼然慙懼。〔吳志、鍾離牧傳〕民慙懼率㆓妻子㆒、舂㆓所㆑取稻㆒。〔錢珝、代㆓史館王相公㆒謝㆑加㆓食邑實封㆒表〕無㆑補㆓艱難㆒、方懷㆓慙懼㆒。

【慙悔】12（ザンクワイ） はぢてくいる。慙愧後悔。〔後漢書、魯恭傳〕亭長乃慙悔還㆑牛。〔世說新語、方正〕帝於㆑是慙悔而出。

【慙惶】13（ザンクワウ） はぢおそれる。惶愧。〔蕭后、述志賦〕雖㆔沐㆓浴於恩光㆒、內慙惶而累息。

【慙形】14（ザンケイ） はぢ入る樣子。〔曹植、封㆓二子㆒爲㆑公謝㆑恩章〕顧影慙形、流汗反側。

【慙恨】15（ザンコン） はぢうらむ。愧恨。〔後漢書、皇甫嵩傳〕卓大慙恨。〔吳志、孫破虜吳夫人傳〕堅甚以慙恨。〔程顥、李仲通墓誌〕爲㆓仲通所㆑責、則其人必慙恨、累㆑日痛自勵。

【慙怍】16（ザンサク） はぢる。又、はぢ。慙愧。〔漢書、王莽傳上〕輟㆑訟慙怍而退。〔權德輿、答㆓柳福州㆒書〕鄙人頑固、謹俟㆓餘論㆒、因自發舒、慙怍無量。

【慙羞】17（ザンシウ） はぢる。はぢて顏を赤くする。〔韓愈、趣㆓江陵㆒途中云云詩〕弱妻抱㆓稚子㆒、出拜忘㆓慙羞㆒。

【慙謝】18（ザンシャ） はぢてわびる。〔南史、臧質傳〕〔趙〕

倫之慙謝、質拂レ衣而去。

【慙灼】19（ザンシャク） ひどくはぢるさま。羞慙焦急。〔鮑照、爲二柳令一謝二驃騎一表〕仰當二天寵、伏抱二慙灼一。

【慙順】20（ザンジュン） はぢてしたがふ。〔後漢書、袁譚傳〕有二不弟之慠、無二慙順之節一。

【慙悚】21（ザンショウ） はぢおそれる。〔梁昭明太子、謝二敕賚看講一啓〕慙悚交幷、寢興無レ寘。〔鮑照、論二國制一啓〕臣忝充二直員一、脫以レ啓聞、煩而非レ要、伏追二慙悚一。

【慙色】22（ザンショク） はぢた顏色。はぢ入る樣子。きまりのわるさうな樣子。作色。〔史記、陸賈傳〕高帝不レ懌而有二慙色一。〔韓詩外傳、一〕子貢逡巡、面有二慙色一。〔後漢書、列女、王霸妻傳〕見レ客而有二慙色一。 「無二慙心一。

【慙心】23（ザンシン） はぢる心。〔孔子家語、致思〕桎梏而

【慙震】24（ザンシン） はぢふるへる。手紙の終に添へる語。〔梁簡文帝、上二菩提樹頌一啓〕不レ足下以光二揚盛德、髣中髴一隅上、顧恧二芻言一、伏レ紙慙震。

【慙沮】25（ザンソ） はづかしく思つてはばみよわる。はぢて意氣が沮喪すること。愧沮。〔謝靈運、擬二魏太子鄴中集一應瑒詩〕調笑輒酬答、嘲謔無二慙沮一。

【慙赧】26（ザンタン） はぢらふ。はぢて顏を赤くする。〔後漢書、延篤傳〕下見二先君遠祖一、可レ不二慙赧一。〔資治通鑑、唐紀〕〔順宗、永貞元年〕執誼逡巡慙赧。〔注〕慙而面赤也。

【慙歎】27（ザンタン） はぢ入りなげく。〔後漢書、趙咨傳〕盜皆慙歎。〔顏延之、秋胡詩〕美人望レ昏至、慙二歎前相持一。〔白居易、早朝詩〕慙歎鬢如レ霜。

【慙恥】28（ザンチ） はぢること。〔戰國、齊策〕使二管仲終窮抑幽、囚而不レ出、慙恥而不レ見、窮レ年沒レ壽、不レ免レ爲二辱人賤行一矣。

【慙恧】29（ザンヂク） はぢる。恧も、はぢる意。〔漢書、王莽傳上〕敢爲二激發之行一、處レ之不二慙恧一。〔任昉、奉三答勅示二七夕詩一啓〕臨レ啓慙恧。

【慙痛】30（ザンツウ） はぢくるしむ。〔韓愈、去歲自二刑部侍郎一以レ罪貶二潮州刺史一云云詩〕致二汝無レ辜由二我罪一、百年慙痛淚闌干。

【慙惕】31（ザンテキ） はぢおそれる。〔隋書、楊素傳〕寢食慙惕。〔南史、徐勉傳〕永言慙惕、無レ忘二寤寐一。〔白居易、遊二悟眞寺一詩〕以レ此自慙惕、戚戚常寡レ歡。

【慙靦】33（ザンテン） はぢる。又、はぢて顏に表はれる。〔韓愈、代二張籍一與二李浙東一書〕籍慙靦再拜。

【慙德】34（ザントク） 不德をはぢる。又、德の修まらぬことをはぢる。〔書、仲虺之誥〕成湯放二桀于南巢一、惟有レ慙レ德、曰、予恐三來世以レ台爲二口實一。〔傳〕有レ慙レ德、慙二德不レ及レ古。〔左氏、襄、二十九〕聖人之弘也、而猶有レ慙レ德、聖人之難也。〔任昉、天監三年策二秀才一文〕當レ扆永念、猶懷二慙德一。

【慙怖】35（ザンフ） はぢておそる。〔後漢書、鄧騭傳〕伏聞二詔書一、驚惶慙怖。〔劉琨、謝レ拜二大將軍都督幷州一表〕力不レ從レ願、慙怖怔營。

【慙負】36（ザンフ） はぢそむく。はぢること。〔後漢書、樂恢傳〕皇太后永無下慙二負宗廟一之憂上。

【慙伏】37（ザンプク） はぢてうつぶす。〔史記、陳豨傳〕上慢罵曰、豎子能爲レ將乎、四人慙伏。

【慙服】38（ザンプク） はぢておそれ入る。はぢて服從する。〔漢書、何武傳〕自レ是後聖慙服。〔北史、李賢傳〕忠孝之道、實銘二于心一、問者慙服。

【慙忿】39（ザンプン） はぢいきどほる。慙憤に同じ。

【慙憤】40（ザンプン） はぢいきどほる。はぢていかる。〔柳宗元、爲二裴中丞一上二裴相一乞レ討二黃賊一狀〕當二有事之日一、忠懇莫レ施、遇二成功之辰一、慙憤空積。

【慚】11096

ザン

慙（**4－11095**）に同じ。〔集韻〕慙、或書作レ慚。

【㥽】11097

サク シャク 〔集韻〕測革切 陌

❶**みさをただしい**。〔集韻〕㥽、耿介也。❷**まこと**。〔集韻〕㥽、博雅、情也。❸**せめる**。責（**10－36682**）と通ず。〔字彙〕㥽、與レ責同。

【慛】11098

サイ ズイ 〔集韻〕昨回切 灰

❶**うれへる**。〔廣雅、釋詁一〕慛、憂也。❷**かなしむ**。〔廣雅、釋訓〕慛慛、悲也。❸**いたむ**。〔廣韻〕慛、傷也。

【慜】11099

ビン ミン 〔集韻〕美隕切 軫

さとい。〔集韻〕慜、聰也。

【慝】11100

🈩トク 〔集韻〕惕得切 職 ㄊㄜˋ tʻê4

🈔ヂョク ニョク 〔集韻〕昵力切 職

🈩❶**わるい**。〔廣雅、釋詁三〕慝、惡也。〔集韻〕慝、惡也。〔書、畢命〕旌二別淑慝一。〔疏〕慝、惡也。〔國語、周語上〕觀二其苛慝一。〔注〕慝、惡也。❷**惡事**。〔詩、大雅、民勞〕無レ俾レ作レ慝。〔傳〕慝、惡也。〔史記、五帝紀〕好行二凶慝一。〔注〕正義曰、慝、惡也。❸**惡人**。〔左氏、文、八〕服レ讒蒐レ慝。〔注〕慝、惡也。〔管子、君臣下〕而民無レ慝矣。〔注〕慝、姦惡者也。〔張衡、東京賦〕忿二姦慝之干レ命。❹**惡行**。缺點。〔左氏、僖、二十八〕糾二逖王慝一。〔注〕慝、惡也。〔論語、顏淵〕敢問崇レ德修レ慝。〔集解〕孔安國曰、慝、惡也。❺**よこしま**。〔詩、鄘風、柏舟〕之レ死矢靡レ慝。〔傳〕慝、邪也。❻**けがれる**。けがれ。〔禮、樂記〕世亂則禮慝而樂淫。〔注〕慝、穢也。❼**わざはひ**。災害。〔國語、晉語八〕宵靜二女德一、以伏二蠱慝一。〔漢書、敘傳下〕亦罹二咎慝一。❽**わざはひの氣**。陰氣。〔左氏、莊、二十五〕慝未レ作。〔注〕慝、陰氣也。❾**毒氣**。瘴厲の氣。〔周禮、地官、土訓〕道二地慝一。〔注〕地慝、若二障蠱一然也。❿**かくれた惡事**。〔周禮、夏官、環人〕察二軍慝一。〔注〕慝、陰姦也。⓫**なまり**。訛言。〔周禮、地官、誦訓〕掌レ道二方慝一。〔注〕方慝、四方言語所レ惡也。⓬或は式（**4－9663**）に作り、通じて匿（**2－2690**）に作る。〔集韻〕慝、或作レ式、通作レ匿。🈔**いつはる**。かくす。〔爾雅、釋訓〕崇二讒慝一也。〔釋文〕慝、言下隱二匿其情一以飾上レ非。〔集韻〕慝、隱レ情飾レ非、曰レ慝。

【慝姦】1（トクカン） 惡人。姦惡な者。姦慝。〔管子、君臣下〕如レ此則國平而民無レ慝矣。〔注〕慝、姦惡者也。

【慝淑】2（トクシュク） 惡と善。惡いことと善いこと。〔張養浩、贈二劉仲憲一詩〕的二行黜陟一表二惰勤一、重二立賞罰一旌二慝淑一。

【慝禮】3（トクレイ） あしくけがれた禮。惡い行爲。〔禮、樂記〕淫樂慝禮、不レ接二心術一。

【慝未レ作】4（トクイマダオコラズ） わざはひの氣がまだおこらない。陰氣がまだおこらない。〔左氏、莊、二十五〕唯正月之朔、慝未レ作、日有レ食レ之、於レ是乎用二幣于社一、伐二鼓于朝一。〔注〕慝、陰氣也。

【毋レ留レ慝】5（トクヲトドムルコトナカレ） あしき心をとどめてはならない。〔左氏、襄、十一〕載書曰、凡我同盟、云云、毋レ保レ姦、毋レ留レ慝。〔會箋〕匿、隱惡也。

【㥾】11101

🈩ヂョク ニョク 〔集韻〕昵力切 職

🈔トク 〔集韻〕惕得切 職

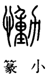
🈪ヂツ ニチ 〔集韻〕尼質切 質

🈩❶**はぢる**。〔集韻〕㥾、愧也、方言、梁中曰レ㥾。❷或は恧（**4－10587**）に作る。〔集韻〕㥾、或作レ恧。🈔🈪**はぢる**。🈩の❶に同じ。〔集韻〕㥾、愧也。

【憧】11102 シヤウ 〔集韻〕諸良切 ［陽］

おそれる。憧惶。〔集韻〕憧、憧惶、懼也。〔潘岳、哀㆓永逝㆒文〕嫂姪兮憧惶、慈姑兮垂矜。

【慟】11103 トウ ヅ 慣ドウ 〔集韻〕徒弄切 ［送］ ㄉㄨㄥˋ tung^4


小篆

㊀**いたくなげく。**大聲でなく。身をふるはしてなく。〔說文新附〕慟、大哭也、从㆑心動聲。〔論語、先進〕子哭㆑之慟。〔集解〕馬融曰、慟、哀過也。〔皇疏〕慟、謂㆓哀甚㆒也。〔漢書、蕭望之傳〕哀㆓慟左右㆒。〔注〕師古曰、慟、動也。㊁通じて動(2−2390)に作り、又、㥖(4−10926)に作る。〔說文新附考〕慟、通作㆑動、又作㆑㥖。㊂恫(4−10594)に同じ。〔說文通訓定聲〕恫、字作㆑慟。

【慟泣】1 ドウキフ 甚しくなげきなく。歎き痛んでなく。〔南史、顧歡傳〕歡早孤、讀㆑詩至㆓哀哀父母㆒、輒執㆑書慟泣、由㆑是受㆑學者、廢㆓蓼莪篇㆒不㆓復講㆒焉。

【慟懷】2 ドウクワイ なげき痛んでおもふ。〔潘岳、寡婦賦〕慟懷兮柰何、言陟㆓兮山阿㆒。

【慟哭】3 ドウコク 甚しくなげき聲をあげて泣く。痛歎號泣する。〔李白、古風〕吾風日已頹、窮途方慟哭。

【慟切】4 ドウセツ 悲しみのせまること。〔梁昭明太子、東宮堀㆓得慈覺寺鐘㆒啓〕慟切視㆑奩、哀喩封㆑篋。

【慟絶】5 ドウゼツ 甚しくなげき氣をうしなふ。〔南史、余齊人傳〕號踊慟絶、良久乃蘇。

【憅】11104 トウ

慟(4−11103)に同じ。〔說文長箋〕憅、與㆑慟同。

【㦹】11105 ヤウ 〔集韻〕弋亮切 ［漾］

㊀**うらむ。**〔集韻〕㦹、恨也。㊁怏(4−10434)に通ず。〔正字通〕㦹、與㆑怏通。

【慠】11106 ㈠ガウ ゴウ 〔集韻〕魚到切 ［號］ ㄠˋ ao^4 ㈡ガウ ゴウ 〔集韻〕牛刀切 ［豪］

㈠**おごる。**傲(1−1015)に同じ。〔廣雅、釋言〕慠、倨也。〔集韻〕慠、說文、倨也、或从㆑心。〔後漢書、崔駰傳〕生而貴者慠。㈡**うれへる。**又、𢞣(4−11107)に作る。〔集韻〕慠、慠慠、憂心也、亦書作㆑𢞣。

參考 熟語は傲(1−1015)を併せ見よ。

【慠虐】1 ガウギャク おごりたかぶり、くるしめしひたげる。〔說苑、反質〕丹朱慠虐、好㆓慢淫㆒不㆑脩㆓理化㆒。

【慠狠】2 ガウコン 心おごってねぢけること。〔後漢書、河間孝王開傳〕政慠狠不㆑奉㆓法憲㆒。〔魏志、樂陵王茂傳〕茂性慠狠、少無㆑寵㆓於太祖㆒。

【慠然】3 ガウゼン おごるさま。〔石崇、思歸引序〕志在㆓不朽㆒、慠然有㆓淩雲之操㆒。

【慠誕】4 ガウタン 心おごってほしいままに大言する。〔晉書、王恬傳〕性慠誕、不㆑拘㆓禮法㆒。

【慠邁】5 ガウマイ おごりたかぶる。〔晉書、王恬傳〕神氣慠邁、竟無㆓賓主之禮㆒。

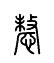
【慠猛】6 ガウマウ おごってたけだけしい。〔史記、秦始皇紀〕貪戾慠猛。

【慠慢】7 ガウマン おごりたかぶること。傲慢(1−1015‥45)に同じ。

【𢞣】11107 ガウ

慠(4−11106)に同じ。〔集韻〕慠、亦書作㆑𢞣。

【𢡟】11108 ㈠リ 〔集韻〕良志切 ［寘］ ㈡リ 〔集韻〕陵之切 ［支］

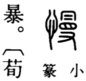

小篆

㈠㈡**うれへる。うれへるさま。**〔說文〕𢡟、楚潁之間、謂㆑憂曰㆑𢡟、从㆑心𠩺聲。〔集韻〕𢡟、愁憂皃、楚潁閒語。

【慡】11109 サウ シヤウ 〔集韻〕所兩切 ［養］

さはやかなきだて。通じて爽(7−19746)に作る。〔集韻〕慡、性明也。〔正字通〕慡、通作㆑爽。

【慢】11110 ㈠バン マン 〔集韻〕莫晏切 ［諫］ ㄇㄢˋ man^4 ㈡ベン メン 〔集韻〕瞀見切 ［霰］ ㈢バン マン 〔集韻〕謨官切 ［寒］


小篆

㈠㊀**おこたる。**〔說文〕慢、惰也、从㆑心曼聲。〔易、繫辭上〕上慢下暴。〔荀子、不苟〕君子寬而不㆑僈。〔注〕慢、怠惰也。㊁**おごる。**〔釋名、釋言語〕慢、漫也、漫、漫心、無㆑所㆓限忌㆒也。〔廣韻〕慢、倨也。㊂**あなどる。**嫚(3−6644)に通ず。〔說文通訓定聲〕慢、叚借爲㆑嫚。〔說文〕慢、一曰、慢不㆑畏也。〔廣雅、釋詁三〕慢、傷也。〔禮、緇衣〕可㆑敬不㆑可㆑慢。〔左氏、襄、三十一〕我遠而慢㆑之。〔注〕慢、易也。〔呂覽、上德〕荆成王慢焉。〔注〕慢、易、不㆑敬也。㊃**みだれる。**〔禮、樂記〕五者皆亂迭相陵、謂㆓之慢㆒。〔呂覽、開春〕刑慢則懼及㆓君子㆒。㊄**おそい。**𧼮(10−37273)に通ず。〔說文通訓定聲〕慢、叚借爲㆑𧼮。〔詩、鄭風、大叔于田〕叔馬慢忌。〔傳〕慢、遲也。㊅**ゆるい。**〔廣雅、釋詁二〕慢、緩也。㊆**うすい。**〔公羊、隱、三〕不㆑及㆑時而不㆑日、慢葬也。〔注〕慢、薄。㊇**あらい。**そまつ。〔孔子家語、儒行〕其大讓如㆑慢。〔注〕慢、簡略也。㊈**うとい。**まどほい。〔史記、樂書〕嘽緩慢易。〔注〕正義曰、慢、疏也。㊉**もろい。**〔淮南子、時則訓〕工㆑事苦慢。〔注〕慢、不㆑牢也。(十一)**一定の期を過ぎて埋葬しない。**緩葬。〔釋名、釋喪制〕過㆑時而不㆑葬曰㆑慢、傲不㆑念㆓早安㆑神也。〔左氏、隱、元、天子七月而葬疏〕過㆑時而葬、謂㆓之緩慢㆒。(十二)**ぬる。**どろを塗る。槾(6−15394)・鏝(11−40807)に通ず。〔說文通訓定聲〕慢、叚借爲㆑槾爲㆑鏝。〔莊子、徐無鬼〕郢人堊㆓慢其鼻端㆒。〔釋文〕慢、李云、猶㆑塗也。(十三)或は漫(7−18166)・僈(1−1052)に作る。〔集韻〕慢、或作㆓漫・僈㆒。〔禮、緇衣〕可㆑敬不㆑可㆑慢。〔釋文〕慢、本又作㆑僈。〔詩、大雅、蕩、天降㆓滔德㆒、傳、滔漫也、釋文〕漫、本亦作㆑慢。㈡**ゆるい。**〔集韻〕慢、慢訑、弛縱意。㈢**まどふ。**悗(4−10664)に同じ。〔集韻〕悗、惑也、或从㆑曼。

【慢易】1 マンイ ㊀あなどりかろんずる。慢侮。輕易。〔禮、祭義〕外貌斯須不㆑莊不㆑敬、而慢易之心入㆑之矣。〔管子、內業〕思索生㆑知、慢易生㆑憂。〔呂覽、審應〕無禮慢易而求㆑敬。〔史記、張耳傳〕高祖箕倨詈、甚慢㆓易之㆒。〔漢書、王嘉傳〕壹切營㆑私者多、二千石益輕賤、吏民慢㆓易之㆒。㊁音のかるいこと。〔禮、樂記〕嘽諧慢易、繁文簡節之音作、而民康樂、云云、是故其聲哀而不㆑莊、樂而不㆑安、慢易以犯㆑節。

【慢違】2 マンヰ あなどりたがふ。〔後漢書、杜篤傳〕逮㆑及㆓亡新㆒、時漢之衰、偸㆓忍淵囿㆒、篡㆑器慢違。

【慢尤】3 マンイウ あなどりとがめる。〔梅堯臣、蘇明允木山詩〕左右兩峰相挾翼、尊㆓奉君長㆒無㆓慢尤㆒。

【慢游】4 マンイウ 心のままにあそぶ。慢遊に同じ。〔史記、夏紀〕維慢游是好。〔孔子家語、問禮〕荒怠慢遊、固民是盡。

【慢遊】5 マンイウ きままにあそぶ。うかれあそぶ。慢は放縱。漫遊。〔書、益稷〕惟慢遊是好、傲虐是作。

【慢焉】6 マンエン とりとめのないさま。漫然(**7−18166**··48)に同じ。

【慢舸】7 マンカ ゆるやかに行く船。のろのろと進むふね。〔暢當、偶宴二西蜀摩訶池一詩〕淺觴寧及レ醉、慢舸不レ知レ移。

【慢傲】8 マンガウ あなどりおごる。〔後漢書、楊賜傳〕宜下絕二慢傲之戲一、念二官人之重一云云、無上レ令下醜女有二四殆之歎一、遐邇有中憤怨之聲上。

【慢狎】9 マンカフ あなどりなれる。〔夢溪筆談、人事一〕趙閱道爲二成都轉運使一、出二行部內一、唯攜二一琴一鶴一、坐則看レ鶴鼓レ琴、嘗過二青城山一、遇レ雪舍二于逆旅一、逆旅之人、不レ知二其使者一也、或慢二狎之一、公頹然鼓レ琴不レ問。

【慢頇】10 man⁴ han¹ 悠長な。ぐずぐずした。

【慢氣】11 マンキ うぬぼれ。慢心(29)に同じ。〔運步色葉集〕慢氣。

【慢棄】12 マンキ あなどりすてる。〔左氏、昭、二十六〕貫二瀆鬼神一、慢二棄刑法一。

【慢欺】13 マンギ あなどりあざむく。〔說苑、反質〕下「偪伏以二慢欺一。

【慢曲】14 マンキョク 宋代の樂曲では、法曲・大曲の次に慢・近・引等の種目があり、慢以下は共に法曲・大曲のやうな長篇の歌曲に對して小品の歌曲をいひ、小唱と名づける。その區別は拍子の緩急により、慢曲は八均拍子、引と近とは六均拍子を用ひる。

【慢火】15 マンクワ とろ火。文火。〔王建、隱者居詩〕何物中長食、胡麻慢火熬。〔竹坡詩話〕東坡性喜嗜レ猪、在二黃岡一時、戲作云、黃州好二猪肉一、價賤等二糞土一、富者不二肯喫一、貧者不レ解レ煑、慢著レ火、少著レ水、火候足時他自美。

【慢臉】16 マンケン なごやかな顏。〔劉孝綽、同二武陵王一看レ妓詩〕廻羞出二慢臉一、送態表二嚬蛾一。〔劉遵、繁華應令詩〕鮮膚勝二粉白一、慢臉若二桃紅一。〔白居易、憶二舊遊一詩〕修蛾慢臉燈下醉、急管繁絃頭上催。

【慢言】17 マンゲン たかぶりあなどつてものを言ふ。又、其の言。慢語。

【慢乎】18 マンコ とりとめのないさま。慢然(38)に「同じ。

【慢語】19 マンゴ たかぶつてものをいふ。又、その言。慢言(17)に同じ。

【慢葬】20 マンサウ 葬るべき時日に遲れて葬ること。〔公羊、隱、三〕不レ及レ時而不レ日、慢葬也。〔注〕慢葬、不レ能二以レ禮葬一也。

【慢藏】21 マンザウ くらの戸じまりをおこたる。大切にしまつて置かないこと。〔後漢書、杜篤傳〕慢レ藏招レ寇、復致二赤眉一。〔魏書、烏洛侯國傳〕慢藏野積、而無二寇盜一。

【慢藏誨レ盜】22 マンザウハタウヲヲシフ 財物の收藏を愼まないと、盜賊を招く。〔易、繫辭上〕慢藏誨レ盜、冶容誨レ淫。

【慢士】23 マンシ 明、高廷禮(**12−45313**··1281)の號。

【慢仕】24 マンシ 明、高廷禮(**12−45313**··1281)の「號。

【慢弛】25 マンシ おこたりゆるむ。〔嵆康、與二山巨源一絕レ交書〕不レ如二嗣宗之賢一、而有二慢弛之闕一。

【慢視】26 マンシ あなどる。みさげる。

【慢詞】27 マンシ 曲の調子。南曲の一つ。戲曲で俳優が上場の始に唱ふ散板の序曲をいふ。一名、引子。〔樂府指迷、製曲〕作二慢詞一、看二是甚題目一、先擇二曲名一、然後命意、命意既了、思二其頭如何起一、尾如何結一、方後選レ韻、而後述レ曲、最是過變、不レ要三斷二了曲意一、須レ要二承レ上接一レ下、如三姜白石詞云、曲曲屛山夜涼、獨自甚二情緒一、於二過變一則云二西牕一、又吟二暗雨一、此則曲之意不レ斷矣、詞既成、恐下前後不二相應一、或有丙重乙疊句意甲、又恐二字面粗疏一、即爲二修改一、改畢、淨二一本一、展二之几案一、或貼二之於壁一、少頃再觀、必有二未レ穩處一、如レ此改レ之、又改、方成二無瑕之玉一、急二於脫藁一、倦レ事二修擇一、豈能無レ病、不二惟不一レ能二全美一、抑且未レ歇二音聲一、作レ詩猶且旬鍛日鍊、況其詞乎。

【慢處】28 man⁴ ch'u⁴ 物事をゆるゆる處置する。

【慢心】29 マンシン ❶おごりたかぶるこころ。うぬぼれ。慢氣。〔國語、晉語一〕夫人知レ極、鮮レ有二慢心一。❷［佛］自分をえらく思つて、人をあなどること。〔華嚴經〕起二慢心一、自高陵レ彼。

【慢世】30 マンセイ 世におごる。世間を小馬鹿にしてつつしまない。〔晉書、王徽之傳〕未レ若二長卿慢一レ世也。〔嵆康、司馬相如贊〕長卿慢レ世、越レ禮自放、犢鼻居レ市、不レ恥二其狀一。〔李白、贈二友人一詩〕慢レ世薄二功業一、非レ無二胸中畫一。

【慢性】31 マンセイ ❶徐々に來て容易に去り難い病症。❷man⁴ hsing⁴ 悠長な氣性。氣長く落ち付いた性質。

【慢性子】32 man⁴ hsing⁴ tzŭ 鈍感の人。

【慢性病】33 マンセイビヤウ 急激な症狀を呈せず、比較的輕微な症狀が長く持續する病氣。

【慢聲】34 マンセイ おごつてつつしまない聲。〔周禮、春官、大司樂〕凡建レ國禁二其淫聲・過聲・凶聲・慢聲一。〔注〕慢聲、惰慢不恭。

【慢泄】35 マンセツ おごりあなどる。〔唐書、武三思傳〕慢泄相矜、無二復禮法一。

【慢媟】36 マンセツ あなどりけがす。〔唐書、齊澣傳〕談慢媟不恭、不レ可レ不レ寘二之法一。

【慢說】37 man⁴ shuo¹ 言ふまでもなく。勿論。

【慢然】38 マンゼン ❶たかぶつて得意なさま。〔淮南子、道應訓〕慢然下二其臂一。❷ゆるくてしまりのないさま。とりとめのないさま。漠然。

【慢走】39 man⁴ tsou³ そろそろ歩む。ゆつくりあるく。慢行。

【慢惰】40 マンダ あなどりおこたる。〔啇子、墾令〕壹二山澤一、則惡農慢惰、倍欲之民、無レ所二於食一。

【慢待】41 man⁴ tai⁴ 疎略にあつかふ。冷遇する。

【慢怠】42 マンタイ あなどりおこたる。懈怠。怠慢。〔魏志、明帝紀〕詔曰、鞭作二官制一、所三以糾二慢怠一。

【慢慆】43 マンタウ あなどつてほしいままなこと。〔楚辭、離騷〕椒專佞以慢慆兮、樧又欲レ充二夫佩幃一。〔注〕慆、淫也。

【慢道】44 man⁴ tao⁴ あなどりいふ。慢講。慢「說。

【慢訑】45 マンタン ほしいままなこと。〔莊子、知北遊〕天知二予僻陋慢訑一、故弃レ予而死。

【慢誕】46 マンタン ほしいままなこと。慢訑に同じ。

【慢彈】46′ マンダン ゆつくり琴などをひくこと。〔白居易、箏詩〕慢彈廻二斷鴈一、急奏轉二飛蓬一。

【慢朝】47 マンテウ 朝に臨んでつつしまないこと。〔周禮、秋官、朝士〕禁二慢朝錯立族談者一。〔注〕慢朝、謂三臨レ朝不二肅敬一也。

【慢調】48 マンテウ 詞曲の變調をいふ。小令(**4−7473**··1292)の❷を見よ。

【慢黷】49 マントク あなどりけがす。〔易、家人、婦子嘻嘻、疏〕縱二其婦子慢黷一。

【慢罵】50 マンバ 自ら高ぶつて人をあなどりののしる。又、あざけりののしる。嫚罵。〔史記、韓王信盧綰傳〕上慢罵曰、豎子能爲レ將乎。

【慢悖】51 マンハイ おごつて道理にもとる。〔石介、慶曆聖德頌〕敢侮二大國一、其詞慢悖。

【慢暴】52 マンバウ おごつて手荒い。〔荀子、不苟〕大心則慢而暴、小心則淫而傾。

【慢法】53 マンパウ 法律をあなどつて從はないこと。〔魏志、賈逵傳〕長吏慢レ法、盜賊公行。

【慢板】54 man⁴ pan³ 拍子のおそい音曲。緩慢な「調子。

【慢侮】55 マンブ あなどる。あなどりかろんずる。慢易。侮慢。〔史記、留侯世家〕四人者年老矣、皆以爲、上慢二侮人一、故逃二匿山中一。〔列女傳、母儀、衞姑定姜傳〕後獻公暴虐、慢二侮定姜一。〔漢書、魏豹傳〕漢王慢二侮人一、罵二詈諸侯羣臣一、如レ奴耳。〔新序、善謀下〕皆以三上慢二侮士一、故逃二匿山中一、義不レ爲二漢臣一。

【慢舞】56 マンブ ゆるやかにまふ。〔白居易、長恨歌〕緩歌慢舞凝二絲竹一、盡日君王看不レ足。

【慢膚】56′ マンプ たるんだ皮膚。〔韓愈、鄭羣贈レ簟詩〕手磨袖拂心語レ口、慢膚多レ汗眞相宜。

【慢慢】57 man⁴ man⁴ ゆるゆる。しづかに。〔紅樓夢、二回〕我們慢慢進城再談、未爲不可。

【慢慢地】58 man⁴ man⁴ tê ゆるゆると。慢慢的に同じ。〔水滸傳、二回〕教他放心、慢慢地將息。

【慢慢的】59 man⁴ man⁴ tê ❶そろそろと。ゆるゆると。ゆつくり。❷しばらくする。❸段々と。漸々に。

【慢令】60 マンレイ 法令を發することをなほざりにする。〔論語、堯曰〕慢レ令致レ期、謂二之賊一。〔孔子家語、始誅〕夫慢レ令謹レ誅、賊也。

【慢驚風】61 マンキヤウフウ 病名。驚風の一種。慢性ひきつけ。〔醫宗金鑑〕慢驚一證、或緣二賦稟虛弱一、或由三急驚過二用峻利之藥一以致二轉成一者、發時緩緩搐搦、時作時止、面色淡黃、或青白相兼、昏睡眼合、或睡臥露レ睛、脈來遲緩、神氣慘慘、大便青色、此乃脾胃虛弱、治宜下培二補元氣一爲上レ主。〔小

兒直訣、慢驚風證治〕小兒慢驚、因三病後或吐瀉、或藥餌傷二損脾胃一、而肢體逆冷、口鼻氣微、手足瘈瘲、昏睡露レ睛、此脾虛生レ風無レ陽之證也、溫白丸主レ之。

【慢悠悠的】62 man^4 yu^1 yu^1 tê 悠々と。

【慢而侮人】63 おごりたかぶつて人をあなどりかろんずる。〔史記、魏豹傳〕今漢王慢而侮レ人、罵二詈諸侯羣臣一、如レ罵レ奴耳。

【慢手慢腳】64 man^4 shou^3 man^4 chiao^3 動作の鈍いこと。

【慢不經心】65 man^4 pu^4 ching^1 hsin^1 注意しない。

【慢工出巧匠】66 man^4 kung^1 ch'u^1 ch'iao^3 chiang^4 そろそろ仕事する者は上手な職人になる。

【慢條斯理兒的】67 man^4 tiao^2 ssŭ^1 li^3 êrh^1 tê そろそろと。ゆつたりと。

【慣】11111

クヮン 〔集韻〕古患切 ㄍㄨㄢˋ 諫 kuan^4

㊀ならふ。なれる。ならはし。摜(5-12591)に同じ。〔集韻〕摜、說文、習也、引三春秋傳摜二瀆鬼神一、或从レ心。㊁貫(10-36681)・遦(11-39068)に通ず。〔爾雅、釋詁〕閑・狎・串・慣、習也。〔釋文〕慣、本又作レ貫、又作レ遦。㊂慣養(21)を見よ。㊃現癖がつく。

名乘 ミナ。

【慣行】1 なれおこなふ。癖になつてする。又、ならはしとなつて永く行はれてゐることがら。

【慣行犯】2 同一の行爲をつづけざまに行つて、始めて成立する犯罪。

【慣狎】3 なれ親しむ。〔管子、小匡〕民相親矣、〔注〕相連以レ事、則人慣狎。

【慣看】4 見なれる。〔杜甫、南隣詩〕慣二看賓客一兒童喜、得レ食堦除鳥雀馴。

【慣技】5 kuan^4 ch'i 慣用手段。てくだ。

【慣會】6 kuan^4 huei^4 ならはしとなる。習慣となる。

【慣懷】7 kuan^4 huai^4 子供をあまやかす。慣養。

【慣頑】8 kuan^4 wan^2 惡洒落を言ふ。ふざけることになれる。

【慣經】9 kuan^4 ching^1 ㊀經書になれる。㊁ならはし。經驗。

【慣習】10 なれる。又、ならはし。なれ。習慣。風習。〔抱朴子、勗學〕猶須二慣習一、然後能善。〔顏氏家訓、勉學〕武夫則慣二習弓馬一。〔杜甫、前苦寒行〕秦時老翁荊楊客、慣二習炎蒸一歲絺綌。

【慣習法】11 法律と同樣の效力ある慣習。不文法。

【慣手】12 なれた手腕。巧妙なわざ。

【慣手段】13 なれたてだて。いつもの、おきまりのしかた。慣用手段。

【慣熟】14 なれて巧なこと。習熟。

【慣性】15 物理學用語。物體が外力の作用を受けぬ時は靜止するか、又は一定の速力で進まうとする性質。惰性。習慣性。

【慣染】16 なれそまる。習慣。〔元田東野、幼學綱要序〕今幼穉之兒、智慧未レ定、慣染猶淺。

【慣賊】17 kuan^4 tsei^2 熟練した賊。

【慣住】18 住みなれる。〔陸游、湖山尋レ梅詩〕騎レ龍古仙絕二火食一、慣二住空山一齧二冰雪一。

【慣瀆】19 なれ過ぎてけがす。貫瀆(10-36681・・62)に同じ。

【慣縫】20 縫ふことになれる。物を縫ふことに習熟する。〔盧仝、常州孟諫議座上聞三韓員外職方貶二國子博士一有レ感詩〕爵服何會好、荷衣已慣レ縫。

【慣養】21 kuan^4 yang^3 あまやかし育てる。

【慣用】22 常に用ひる。つかひなれる。

【慣用音】23 從來なれ用ひて來た字音。

【慣用手段】24 物事を處理するに何時も用ひる方法。きまつた手だて。常套手段。

【慣例】25 從來常に行つて來た例。しきたり。ならはし。

【慣弄】26 kuan^4 nung^4 十分になれたこと。なれきる。

【慤】11112

カク 愨(4-10983)の俗字。〔正字通〕慤、俗愨字。

【㦀】11113

ボツ 誖(10-35517)・悖(4-10890)に同じ。〔集韻〕誖、亦作レ㦀。〔正字通〕㦀、同レ𢞂。

【慥】11114

サウ ソウ 慣ザウ 〔集韻〕七到切 ㄗㄠˋ 號 tsao^4

㊀まことあるさま。言と行とが一致するさま。慥慥。〔集韻〕慥、慥慥、言行相顧皃。〔字海〕慥、誠信也。〔海篇朝宗〕慥、篤實貌。㊁せはしい。〔廣韻〕慥、言行急。邦たしか。たしかに。

名乘 サダ。

【慥齋】1 字號。㊀宋、林大春(6-14551・・384)の號。㊁山田聽の號。山田慥齋(4-7869・・823)を見よ。

【慥慥】2 篤實なさま。慥慥爾に同じ。

【慥慥齋】3 字號。㊀明、王越(7-20823・・72)の號。㊁伊藤長胤の號。伊藤東涯(1-432・・218)を見よ。

【慥慥爾】4 まことあるさま。篤實なさま。〔中庸〕言顧レ行、行顧レ言、君子胡不二慥慥爾一。〔章句〕慥慥、篤實貌。

【慥爾】5 慥慥爾の略。

【慥然】6 まことあるさま。篤實なさま。〔越絕書、越絕內傳陳成恒〕越王慥然避レ位。

【慥堂】7 字號。㊀宋、徐自明(4-10110・・464)の號。㊁清、張玉(安鄉の人)(4-9812・・207)の號。

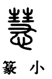
【慦】11115

キウ ク 〔集韻〕居又切 宥

㊀よろこぶ。〔類篇〕慦、悅也。㊁つつしむ。〔集韻〕慦、說文、謹也。

【慧】11116

ケイ ヱ 〔集韻〕胡桂切 ㄏㄨㄟˋ 霽 huei^4


小篆

㊀さとい。かしこい。あきらか。〔說文〕慧、儇也、从レ心彗聲。〔方言、三〕知、或謂二之慧一。〔注〕慧・憭、皆意精明。〔廣韻〕慧、解也。〔增韻〕慧、性解也。〔國語、齊語〕聽慧質仁。〔注〕慧、解憭也。〔新書、道術〕亟見二窕察一、謂二之慧一。㊁ちゑ。能力。〔左氏、成、十八〕周子有レ兄而無レ慧。〔論語、衞靈公〕好行二小慧一。〔集解〕鄭玄曰、小慧、謂二小小之才知一。㊂わるがしこい。〔增韻〕慧、奸黠也。〔蜀志、董允傳〕便僻佞慧。㊃さはやか。〔素問、八正神明論〕慧然獨立。〔注〕慧然、清爽也。㊄いえる。〔廣雅、釋詁一〕慧、癒也。㊅かはく。熭(7-19353)に通ず。〔說文通訓定聲〕慧、叚借爲レ熭。〔廣雅、釋詁二〕慧、乾也。㊆通じて惠(4-10822)に作る。〔說文、段注〕慧、古多假レ惠爲レ之。〔集韻〕慧、通作レ惠。㊇諡。〔逸周書、諡法解〕柔質受レ諫曰レ慧。㊈佛さとり。㋑事理を分別し、疑を斷ずる作用。〔唯識論、九〕云何爲レ慧、於二所レ觀境一、簡擇爲レ性、斷レ疑爲レ業、謂觀二得失倶非境一、中由レ慧推求得二決定一故。㋺空理に通達する作用。智が有爲の事相に達するの意に對して、慧は無爲の空理に達すること。〔大乘義章、十〕觀達爲レ慧。

名乘 サト。アキラ。

【慧威】1 僧。婺州東陽の人。姓は劉氏。智威禪師に參し、天台三觀の法を頓悟し、天宮尊者と

稱せられ、台宗の第七祖となる。後、吳越王が諡して全眞尊者といふ。

【慧印】2 ヱイン 佛 印は決定不變の義。如來の智慧は法の實相に契つて決定不變であるからいふ。智印。

【慧因】3 ヱイン 唐の高僧。海鹽の于氏の子。唐初の十大德の一人。講ずる所の三輪に、みな文疏がある。〔續高僧傳、十三〕。

【慧雲】4 ヱウン 佛❶智慧の雲。如來が一切衆生を覆ふことを大雲に喩へていふ。〔法華經、藥草喩品〕慧雲含ㇾ潤、電光晃耀。❷唐の高僧。湖湘の姚氏の子。東京の相國寺に住す。人に捨資を勸めて寺宇を造つた。時人、造寺祖師と稱す。〔宋高僧傳、二十六〕。

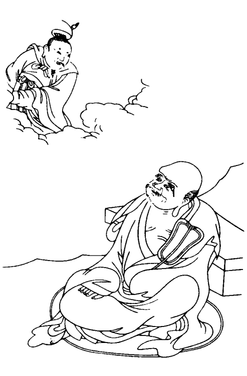
【慧永】5 ヱエイ 晉の高僧。河內の潘氏の子。廬山の西林に住す。號は香谷。一匹の虎と同居し、人が來ると驅り去らしめたといふ。〔梁高僧傳、六〕・〔蓮社高賢傳〕。

【慧叡】6 ケイエイ すぐれてさとい。〔晉書、鳩摩羅什傳〕沙門慧叡、才識高明。

【慧音】7 ケイオン 淸、王孝詠(**7**－**20823**　1256)の字。

【慧遠】8 ヱヲン ❶晉の高僧。又、遠公といふ。樓煩の賈氏の子。初、儒を學び、六經及び老莊の學に通ず。弱冠の後、道安大師に從つて出家し、大乘の奧旨に達す。太元中、精舍を廬山に立て、慧永等と白蓮社を立てた。著に匡山集がある。〔梁高僧傳、六〕。❷隋の高僧。又、小遠といひ、晉の慧遠と區別する。燉煌の李氏の子。周の武帝が佛教を廢するや、死を賭して抗議す。隋代に及んで佛教を再興し、京師の淨影寺に住した。著に大乘義章・地持疏・十地疏・華嚴疏・涅槃疏等がある。〔續高僧傳、八〕・〔蓮社高賢傳〕。❸宋の高僧。眉山の彭氏の子。字は瞎堂。乾道中、杭州靈隱寺に住す。孝宗、號を佛海大師と賜うた。〔大明高僧傳、五〕。

【慧可】9 ヱカ 後魏の高僧。洛陽の姬氏の子。初名は神光。諡は正宗普覺大師。幼くして孔老の學に通ず。達磨大師が嵩山少林寺に居た時、神光は篤く道を請ひ、竟に雪夜に其の左臂を斷つに至つたので、達磨は感じて之を許し、其の名を改めて慧可といつた。後、達磨の衣鉢を受け、禪宗の法統を繼ぎ、第二祖となつた。隋の開皇の間、示寂す、年百餘歲。〔梁高僧傳、十六〕・〔琅琊代醉編、三十二〕。



慧可大師（三才圖會）

【慧海】10 ヱカイ 佛 智慧の海。智慧が深く廣いことを海に喩へていふ。〔因明大疏序〕抱㆓慧海於深裏㆒。

【慧開】11 ヱカイ ❶梁の高僧。海鹽の袁氏の子。揚都の彭城寺に住す。〔續高僧傳、六〕。❷宋、晏溥(**5**－**13914**‥56)の字。

【慧解】12 ケイカイ エゲ かしこくさとい。智慧が早い。利口。〔晉書、鳩摩羅什傳〕既而羅什在ㇾ胎、其母慧解倍ㇾ常。〔五句譬喩經、三〕慧解可㆓修經戒㆒。〔梁僧傳序〕慧解開ㇾ神、則道兼㆓萬億㆒。

【慧皎】13 ヱカウ 梁の高僧。上虞の人。內外の學に明かに通じ、會稽の嘉祥寺に住す。著に涅槃義疏・梵網經疏・高僧傳がある。〔續高僧傳、六〕。

【慧覺】14 ヱカク 佛❶佛の智慧が能く人を自覺せしめること。〔劉孝綽、栖隱寺碑〕嚴㆓事招提㆒、師㆓仰慧覺㆒。❷隋の高僧。齊の人。俗姓は范氏。幷州の武德寺に住す。華嚴十地に明通し、著に十地・華嚴・維摩等の疏がある。〔續高僧傳、十二〕。

【慧學】15 ヱガク 佛 戒・定・慧の三學の一つ。眞理を觀達するのを慧とし、進習を學とする。〔大乘義章、十〕觀達稱ㇾ慧、進習爲ㇾ學。〔對法論、十二〕開㆓示慧學㆒、是阿毘達磨。

【慧黠】16 ケイカツ わるがしこいこと。狡猾。黠慧。警黠。〔北史、后妃下、馮淑妃傳〕馮淑妃、名小憐大、穆后從婢也、云云、慧黠能彈㆓琵琶㆒、工㆓歌舞㆒。

【慧眼】17 ケイガン ❶さといまなこ。眼識の銳いこと。❷佛 ヱゲン 五眼の一つ。實在界の眞理を識別する心のまなこ。〔無量壽經、下〕慧眼見ㇾ眞、能度㆓彼岸㆒。〔大乘義章〕言㆓慧眼㆒者、觀㆓達名慧㆒、慧能照矚、故名㆓慧眼㆒。

【慧義】18 ヱギ 佛 慧見に依つて生ずる深妙の義理。〔無量壽經、上〕愍㆓念衆生㆒、問㆓此慧義㆒。

【慧休】19 ヱキウ 唐の高僧。瀛州の樂氏の子。相州の慈潤寺に住す。著に雜心玄章抄疏がある。〔續高僧傳、十五〕。

【慧給】20 ケイキフ さとくて口才のあること。〔管子、大匡〕公子開方之爲ㇾ人也、慧以給、不ㇾ能ㇾ久而樂ㇾ始、可ㇾ游㆓於衞㆒。〔纂詁〕給、敏也。

【慧鏡】21 ヱキヤウ 佛 智慧のかがみ。智慧が能く物を照らすのを明鏡に喩へていふ。〔中阿含經、五十四〕云阿比丘、聖智慧鏡。〔弘明集序〕覺海無涯、慧鏡圓照。

【慧居】22 ケイキヨ 寺の住居。〔梁武帝、遊㆓鐘山大愛敬寺㆒詩〕慧居超㆓七淨㆒、梵住踰㆓八禪㆒。

【慧火】23 ヱクワ 佛 智慧の火。煩惱の薪を燒くからいふ。〔華嚴經〕智慧火、令㆔衆生離㆓障礙苦㆒、皆得㆓具足㆒。

【慧嵬】24 ヱクワイ 晉の高僧。長安大寺に住す。後、西域に遊び、終る所を知らず。〔梁高僧傳、十二〕。

【慧光】25 ヱクワウ 佛❶智慧の光。〔無量壽經、下〕慧光明淨、超㆓踰日月㆒。❷北齊の高僧。一に惠光に作る。律宗の大家。又、十地論を洛陽に譯し、地論宗の鼻祖となる。門下の弟子が甚だ多かつた。〔續高僧傳、二十一〕。

【慧景】26 ケイケイ 南齊、何戢(**1**－**511**‥93)の字。

【慧慶】27 ケイケイ 南朝宋、杜慧度(**6**－**14477**‥305)の一名。

【慧見】28 ヱケン 佛 深妙の智慧で諸法を達觀する識見。〔無量壽經、上〕自以㆓慧見㆒、問㆓威顏㆒乎。

【慧劍】29 ヱケン 佛 智慧の劍。一切煩惱の綱を絕つからいふ。〔維摩詰經〕以㆓智慧劍㆒、破㆓煩惱賊㆒。〔永嘉證道歌〕大丈夫、秉㆓慧劍㆒、般若鋒兮金剛焰、非㆔但能摧㆓外道心㆒、早曾落㆓却天魔膽㆒。

【慧炬】30 ヱコ 佛 智慧の燈炬。智慧は能く無明の闇を照らし、道の險難を知らしめるからいふ。〔涅槃經、二十一〕汝於㆓佛性㆒、猶未㆓明了㆒、我有㆓慧炬㆒、能爲㆓照障㆒。

【慧悟】31 ケイゴ かしこくさとい。〔十六國春秋〕聰明慧悟、機思若ㇾ流。

【慧洪】32 ヱコウ 宋の僧。又、德洪と名づける。字は覺範。江寧府の淸涼寺に住す。高宗より寶覺圓明の號を賜はる。著に禪林僧寶傳・林間錄・石門文字禪等がある。

【慧業】33 ヱゴフ 佛 空理に達して而も諸々の善事を爲すこと。〔維摩經、菩薩品〕知㆓一切法不取不捨㆒、入㆓一相門㆒、起㆓於慧業㆒。〔南史、謝靈運傳〕太守孟顗、事ㇾ佛精懇、而爲㆓靈運所ㇾ輕、嘗謂ㇾ顗曰、得ㇾ道應ㇾ須㆓慧業㆒、丈人生天、當㆘在㆓靈運前㆒、成佛必在㆗靈運後㆖。

【慧根】34 ヱコン 佛 五眼の一つ。能く衆生を達觀するを慧とし、慧は能く道を生ずるから根といふ。〔大乘義章、四〕於ㇾ法觀達、目ㇾ之爲ㇾ根、慧能生ㇾ道、故名㆓慧根㆒。

【慧藏】35 ヱザウ 佛❶三藏の中の論藏をいふ。論藏は慧學を詮明にするから名づける。❷三藏を通じて慧藏と名づける。〔廣弘明集、二十、成實論義疏序〕四種圍陀、在ㇾ家必習、三品慧藏、入ㇾ道愈通。

【慧賾】36 ヱサク 唐の高僧。江陵の李氏の子。開皇中、江陵寺に住し、後、淸禪に徙る。詩書畫に巧。著に般若燈論及び詠集がある。〔續高僧傳、三〕。

【慧山】37 ケイザン 山名。江蘇省無錫縣の西。風景絕佳。昔、西域の僧慧照が居たところから名づけられたもの。又、惠山といふ。〔太平寰宇記〕九龍山、一名㆓冠龍山㆒、又曰㆓惠山㆒、一名㆓九隴山㆒。〔吳地記〕古名華山、又曰㆓歷山㆒、又名㆓西神山㆒、又名㆓隴斸山㆒。〔讀史方輿紀要、江南、常州府、無錫縣〕慧山、縣西五里、一名九龍山、陸羽云、山陽有㆓九隴㆒、若㆓龍偃臥㆒然、南北延袤數十里、亦名㆓冠龍山㆒、吳地記、古名華山、一名西神山、又名㆓斸龍山㆒、云云、山之東麓出ㇾ泉、曰㆓慧山泉㆒、陸羽品爲㆓天下第二泉㆒、其東一峯、謂㆓之錫山㆒。

【慧山泉】38 ケイサンセン 泉の名。江蘇省無錫縣の慧山

第一峯の白石塢の下。上中下の三池がある。唐の陸羽は、品して天下第二泉とし、元の趙子昂も亦、榜して天下第二泉とした。今、泉によつて酒を釀造し、慧泉酒といふ。慧山を見よ。

【慧士】39 ケイシ　さとい士。才智のすぐれた人。〔說苑、政理〕慧士可二與辨レ物、智士可三與辨二無方一、聖人可三與辨二神明一。

【慧矢】40 エノヤ　佛 智慧の力。能く無明を對治するからいふ。密教の法門で、定慧一雙を左右に配し、定を弓の標幟とし、矢を慧の表示とする。定弓の對。

【慧思】41 エシ　陳の高僧。一に惠思に作る。武津の李氏の子。慧文の弟子。光大中、難を南嶽に避け、時人、南嶽尊者といふ。後、宣帝に迎へられて棲玄寺に住し、著に四十二字門・無諍行門がある。〔續高僧傳、十七〕・〔琅琊代醉編、三十一〕。

【慧舟】42 エシウ　宋の僧。天台の人。號は一山叟。西湖の長慶寺に住す。詩畫に巧。

【慧車】43 ケイシヤ　仙人の名。〔眞誥〕淳于斟入二吳烏目山中一隱居、遇二仙人慧車一、授以二虹景丹經一。

【慧者】44 ケイシヤ　かしこい人。〔韓非子、喩老〕故知者不下以二言談一教上、而慧者不下以二藏書一篋上。

【慧相】45 ケイシヤウ　梁、敬帝の字。蕭方智(**9−32012**・・497)を見よ。

【慧淨】46 エジヤウ　唐の高僧。眞定の房氏の子。紀國寺に住す。房玄齡等、東方菩薩と稱す。貞觀中、普光寺主となる。著に雜心玄文・金剛般若釋文舉義・大莊嚴論・文疏・法華經纘述・勝鬘仁王般若溫室盂蘭盆上下生等要纘、及び詩英華等がある。〔續高僧傳、三〕。

【慧寂】47 エジヤク　唐の高僧。須昌の葉氏の子。潙山に參し、小釋迦と號す。唐末に袁州仰山に住す。梁の貞明中、示寂す。謚は智通禪師。〔宋高僧傳、十二〕。

【慧珠】48 ケイシユ　淸、尤珍(**4−7543**・・33)の字。

【慧緒】49 エシヨ　南齊の女僧。高平の閭丘氏の女。初、荊州の三層寺に住したが、後、武帝は集善寺に居らしめた。〔比丘尼傳〕。

【慧乘】50 エジヨウ　唐の高僧。彭城の劉氏の子。隋の煬帝に敬愛せらる。武德中、勝光寺に住す。〔續高僧傳、二十四〕。

【慧心】51 ケイシン　㊀さとい心。心思の聰敏なこと。〔嵇康、聲無二哀樂一論〕籥不レ因二慧心一而調。㊁佛 エシン 心體が明かで、よく事理を達觀するもの。心中空朗なこと。〔楞嚴經〕心精現前、純以二智慧一、名二慧心一。㊂明の高僧。號は妙空。幼時から業を受け、戒行精嚴で、儒釋二典に通じ、永樂八年、高僧を召して文淵閣に入れようとしたのに應じ、永樂大典の纂修に與つた。〔處州府志〕。

【慧震】52 ケイシン　南朝宋、後廢帝(**4−10098**・・736)の字。

【慧水】53 ケイスイ　さとりの水。〔梁昭明太子、謝三敕賚二制旨大集經講疏一啓〕甘露入レ頂、慧水灌レ心。

【慧施】54 エセ　佛 物を惠み施すこと。〔華嚴經、二十一〕此菩薩稟レ性仁慈、好行二惠施一。〔玄應音義、一〕惠施、胡桂切、周禮施二其惠一、鄭玄曰、賙二衣食一曰レ惠、孟子曰、分レ人以レ財、謂二之惠一、是也、說文、惠、仁也、詩傳云、惠、愛也。

【慧性】55 ケイセイ エシヤウ　さというまれつき。聰明な性質。〔劉禹錫、謁二柱山會禪師一詩〕色身豈吾寶、慧性非二形礙一。

【慧聖】56 ケイセイ　すぐれてさとい。又、其の人。〔淮南子、墜形訓〕黃色主レ胃、慧聖而好レ治。

【慧昭】57 エセウ　唐の高僧。武陵の開元寺に住す。元和中、武陵の官で陳廣といふものが慧昭を訪ねたが、慧昭は自ら姓は劉、宋の鄱陽王休業の曾孫といふ。年已に二百九十歲、廣が弟子たらんと求めたが、昭は遯れ去り、其の終る所を知らず。〔宋高僧傳、十八〕。

【慧涉】58 エセフ　後魏の高僧。絳州の楊氏の子。嘗て秦に入り、麥積山石室に寓居す。著に維摩捜微記略科・般若心經鈔・無常經眞釋・四分律科がある。〔宋高僧傳〕。

【慧先】59 ケイセン　淸、費俊(**10−36717**・・48)の字。

【慧善】60 エゼン　北周の高僧。揚都の棲玄寺に住し、後、長安の崇華寺に住す。著に散花論がある。〔續高僧傳、八〕。

【慧然】61 ケイゼン　さといさま。〔素問、八正神明論〕慧然獨悟。

【慧聽】62 ケイソウ　さとくてさかしい。聰慧に同じ。

【慧則】63 エソク　唐の高僧。崑山の糜氏の子。大中の閒、京兆の西明寺に住し、後、明州の阿育王寺に住す。著に塔記・出集要記がある。〔宋高僧傳、澗帝〕。

【慧端】64 ケイタン　隋、靜端(**12−42578**・・154)の一名。

【慧地】65 ケイチ　梁、劉勰(**2−2224**・・244)の改名。

【慧智】66 エチ　唐の高僧。もと印度の人。東都の佛授記寺に住す。天竺の書語を善くしたが、後、終る所を知らず。譯に觀世音頌がある。〔宋高僧傳、二〕。

【慧忠】67 エチユウ　唐、惠忠(**4−10822**・・98)の㊁を見よ。

【慧鳥】68 ケイテウ　鸚鵡の異名。〔郭璞、山海經圖讚、鸚鵡〕鸚鵡慧鳥、栖レ林啄レ蘂。

【慧超】69 エテウ　梁の高僧。陽平の廉氏の子。南澗寺に住す。俳諧を善くし、草隸に巧。武帝の時、僧正となる。〔續高僧傳、六〕。

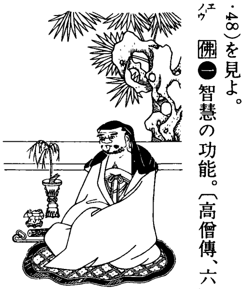
【慧典】70 ケイテン　佛書をいふ。〔沈約、爲二竟陵王一解レ講疏〕敬敷二慧典一。

【慧南】71 エナン　宋の高僧。信州の章氏の子。黃龍寺に住す。初、泐潭に依り、後、石霜・慈明に謁した。〔五燈會元〕。

【慧日】72 エニチ　佛 ㊀佛智。日光が世界を照らすやうに能く世の盲冥を照らすからいふ。〔無量壽經、下〕慧日照二世閒一、淸二除生死雲一。㊁唐の高僧。東萊の辛氏の子。西域を歷游し、開元中、長安に還る。玄宗から慈愍三藏の號を賜はり、洛陽の罔極寺に住す。著に往生淨土集がある。〔宋高僧傳、二十九〕。㊂元の僧。定海の沈氏の子。號は東明。至大元年、我が國に聘せられ、曹洞宗をひろめた。㊃明の高僧。天台の賈氏の子。號は東溟。天台の教を奉じ、上天竺寺に住す。元の順帝から慈光妙應普濟の號を賜はる。洪武中、召されて蔣山の法會に赴き、奏對、旨に稱ふ。年老い眉の白いところから、太祖は白眉と呼んで其の名をいはなかつた。卒年、八十九。〔國朝獻徵錄、一百十八〕。

【慧日尊】73 エニチソン　佛 大日如來をいふ。〔零妙疏、上〕如レ彼者指二慧日尊一也。

【慧日山人】74 ケイジツサンジン　岡島順の號。岡島安齋(**4−7962**・・48)を見よ。



慧能大師（三才圖會）

【慧能】75 エノウ　佛 ㊀智慧の功能。〔高僧傳、六〕藉二慧能於前因一、發二勝心於曠劫一。㊁唐の高僧。諡は大鑑禪師。又、惠能に作る。新州の盧氏の子。神秀と共に弘忍禪師に師事し、神秀を北宗と稱し、慧能を南宗と稱す。韶州曹溪山寶林寺に居り、禪宗第六祖となる。〔宋高僧傳、八〕・〔琅琊代醉編、三十二〕。

【慧貝】76 ケイバイ　貝の一種。〔相貝經〕慧貝使二人善忘一、勿二以近レ人、赤熾、內殼赤絡、是也。

【慧縛】77 エバク　佛 愚痴のさはり。愚痴は智慧を繫縛して成道の障礙となるからいふ。〔唯識述記序〕解二慧縛於攝論一、表二縱聖一。

【慧撥】78 エバツ　佛 智慧の筏。彼岸に到る船筏であるからいふ。慧筏。〔性靈集、六〕捨二慧撥於彼岸一。

【慧文】79 エブン　北齊の高僧。又、圓悟大禪師ともいふ。天台宗の第二祖。東魏北齊の頃、北地に布教した。〔佛祖統紀、六〕。

【慧辨】80 ケイベン　宋、海月(**6−17503**・・156)の本名。

【慧豐】81 ケイホウ　後魏、檀特師(**6−15632**・・69)の一名。

【慧滿】82 エマン　唐の高僧。滎陽の人。姓は張。餘州隆化寺に住す。常に衣鉢を持つて聚落を周行、乞食した。〔續高僧傳〕。

【慧命】83 エミヤウ　佛 ㊀智慧を生命に喩へていふ。慧は法身の壽命であるから慧命といふ。〔禪苑淸規、七、亡僧〕壽命與二慧命一延長。㊁比丘の尊稱。博聞強識、慧を以て命となす義。又、慧壽といひ、新譯には具壽といふ。〔僧祇律、十三〕佛住二舍衞城一時、慧命羅睺羅到。㊂北周の高僧。太原の郭氏の子。河陽の仙城山善光寺に住す。著に大品義章・融心論・還源鏡・行路難・詳玄賦がある。〔續高僧傳、十七〕。

【慧明】84（ケイメイ） ㊀唐、玄朗（7−20814··358）の字。㊁huei^4 ming^2 心さとく物事に明かなこと。

【慧目】85（エモク） 〘佛〙智慧の眼。〔圓覺經〕幻翳朗照、慧目清淨。

【慧門】86（エモン） 〘佛〙智慧に入る門。教法をいふ。〔最勝王經、一〕開二闡慧門一、善修二方便一。

【慧利】87（エリ） 〘佛〙智慧と利益。〔維摩經、問疾品〕若不レ如レ是、已所二修治一、爲レ無二慧利一。〔注〕肇曰、若不レ能レ爾、其所二修行一、内未レ足レ爲レ有レ慧、外未レ足レ爲レ有レ利也、生曰、無三慧二利於物一也。

【慧理】88（エリ） 晉の高僧。西天竺の人。咸和の初、中國に來り、杭州に住す。靈鷲・靈隱二一刹を建て、常に巖中に晏坐し、世人、理公巖と號した。〔浙江通志〕。

【慧力】89（エリキ） 〘佛〙煩惱を除く力。五力の一つ。惠力。〔獨孤及、佛頂尊勝陁羅尼幢贊〕如來以二大悲自定之慧力一示二惣持一。

【慧琳】90（エリン） ㊀南朝宋の高僧。秦縣の劉氏の子。内外の學に明通す。著に均善論がある。〔宋書、九十七〕。㊁唐の高僧。姓は裴氏。學、内外を兼ね、訓詁に精通す。開元中、京師の西明寺に住し、著に大藏音義一百卷がある。〔宋高僧傳、五〕。

【慧琳音義】91（エリンオンギ） 書名。一百卷。唐、慧琳撰。一切經音義の異稱。〔爲帙、八〕。

【慧流】92（エル） 〘佛〙智慧の流水。智慧は能く煩惱の垢染を洗ふからいふ。〔賢愚經、二〕佛日初出、慧流筆潤。

【慧樓】93（ケイロウ） 清、楊復吉（6−15112··766）の號。

【慧香閣】94（ケイカウカク） 樓の名。清淨化城の後に在り、傍の塔には乾隆四十八年、彭元瑞書の清漢蒙梵四體字がある。

【慧男子】95（ケイダンシ） みだらでしめくくりのない男子。〔伶玄、飛燕外傳自序〕夫淫二于色一、非二慧男子二不レ至也。

【慧毒門】96（エドクモン） 〘佛〙身を傷けて少しく毒藥を著ければ、毒氣は身に遍滿する。是は毒門から深く毒氣が入る爲である。菩薩が論を作るのは衆生の爲に慧門を開くのであつて、學者は之に依つて深く研究すれば、必ず彼の毒門のやうに、深く悟入することができるといふこと。〔倶舍論、三十〕於二此方隅一已略說、爲レ開二智者慧毒門一。〔同光記、三十〕如下身少破著二少毒藥一、須臾毒氣遍二一身中一爲中毒門上、今造二此論一、亦復如レ是、開二少慧門一、諸有智者、能深悟入、如二似毒門一、名二慧毒門一、從レ喩爲レ名。

【慧苑音義】97（エヲンオンギ） 書名。二卷。唐、慧苑撰。大方廣佛華嚴音義の略稱。〔爲帙、十〕。

【慧觀五教】98（エクワンゴケウ） 〘佛〙上元の道場寺の僧慧觀が、如來の說いた一代聖教を、施化の次第に約して立てた五つの教。有相教・無相教・抑揚教・同歸教・常住教をいふ。

【慧照大師】99（エセウダイシ） 唐、義玄（9−28504··63）の諡。

【⿰忄彗】11117

セイ 〔集韻〕旋芮切 〘霽〙

つつしむ。〔集韻〕⿰忄彗、謹也。

【⿰忄衮】11118

コン 惃（4−10752）の俗字。〔正字通〕⿰忄衮、俗惃字。

【⿰忄鹵】11119

ロ 〔集韻〕籠五切 〘麌〙

まどふ。まよふ。⿰忄莽⿰忄鹵。或は⿰忄虜（4−11314）に作る。〔集韻〕⿰忄鹵、⿰忄莽⿰忄鹵、心惑、或从レ虜。

【⿰忄莽】11120

ボ モ 〔集韻〕滿補切 〘麌〙

まどふ。まよふ。⿰忄莽⿰忄鹵。〔集韻〕⿰忄莽、⿰忄莽⿰忄鹵、心惑。

【⿱既心】11121

㈠アイ 〔集韻〕於代切 〘隊〙

㈡キ ケ 〔集韻〕許旣切 〘未〙

㈠いつくしむ。愛（4−10947）の古字。〔集韻〕㤅、說文、惠也、或作レ愛、古作レ⿱既心。㈡㊀いむ。〔集韻〕⿱既心、忌也。㊁或は㤅（4−10374）に作る。〔集韻〕⿱既心、亦省。㊂通じて墍（3−5423）に作り、又、慨（4−11122）に書す。㊃いこふ。〔集韻〕⿱既心、通作レ墍、亦書作レ慨。〔廣韻〕⿱既心、息也。

【慨】11122

㈠カイ 〔集韻〕口漑切 〘隊〙 ㄎㄞˇ k'ai^3

㈡キ ケ 〔集韻〕許旣切 〘未〙

〘慣〙ガイ

小篆

㈠㊀いきどほる。心あがる。志を得ないで憤激する。〔說文〕慨、忼慨也、从レ心旣聲。〔潘岳、秋興賦〕慨然而賦。〔注〕善曰、字林曰、慨、壯士不レ得レ志也。㊁なげく。ためいきをする。嘅（2−4170）・愾（4−11029）に通ず。〔說文通訓定聲〕慨、叚借爲レ嘅、爲レ愾。〔張衡、東京賦〕慨長思而懷レ古。〔注〕綜曰、慨、嘆息也。〔張衡、思玄賦〕慨含レ唏而增レ愁。〔注〕善曰、慨、太息也。㊂つかれるさま。〔禮、檀弓下〕慨焉如レ不レ及二其反而息一。〔注〕慨、憊貌。㊃或は仡（1−406）に作る。〔集韻〕慨、或从二人气一。㈡いむ。⿱既心（4−11121）に同じ。〔集韻〕⿱既心、忌也。亦書作レ慨。

【慨菴】1（ガイアン） 清、文枏（5−13450··666）の號。

【慨允】2 k'ai^2 yün^3 快諾する。慨諾。

【慨焉】3（ガイエン） ㊀深くうれへかなしむさま。慨然。〔呂覽、審己〕湣王慨焉大息曰、賢固若レ是其苦邪。㊁つかれるさま。〔禮、檀弓下〕顏丁善居レ喪、云云、旣葬、慨焉如レ不レ及二其反而息一。〔注〕慨、憊貌。

【慨憶】4（ガイオク） なげきおもふ。慨想。〔梁簡文帝、荅二湘東王一書〕分別已來、每增二慨憶一。

【慨慨】5（ガイガイ） なげくさま。〔韓詩外傳、九〕湯湯慨慨、天地同レ憂。〔楚辭、劉向、九歎、怨思〕情慨慨而長懷兮、信二上皇一而質正。〔注〕慨慨、歎貌也。

【慨慷】6（ガイカウ） なげきいきどほる。感激して意氣の悲壯になること。慷慨。忼愾。〔袁桷、遠遊聯句〕俗厚喜二豐登一、氣俠存二慨慷一。

【慨恨】7（ガイコン） なげきうらむ。殘念に堪へぬ。〔晉書、殷仲堪傳〕常謂、永爲二廊廟之寶一、而忽爲二荊楚之珍一、良以慨恨。

【慨想】8（ガイサウ） ㊀感激する。強く心を動かされる。〔葛長庚、懷仙樓賦〕覽二江山一以慨想、望二虛無一兮高遠。㊁色々と思ひ浮べて悲しむ。慨然として想ひ望む。〔方孝孺、閑居感懷詩〕所レ憂諒無レ他、慨想禹九州。

【慨心】9（ガイシン） なげくこころ。

【慨世】10（ガイセイ） 世を憂へなげく。國事を心配する。世のさまをなげかはしく思ふ。

【慨然】11（ガイゼン） ㊀うれひかなしむさま。慨焉。〔荀子、宥坐〕孔子慨然歎曰、嗚呼、上失レ之、下殺レ之。〔論衡、四諱〕慨然自反、遂不レ益レ宅。㊁志を奮ひ起すさま。〔李陵、答二蘇武一書〕陵雖二不敏一、能不二慨然一。〔後漢書、范滂傳〕登レ車攬レ轡、慨然有下澄二清天下一之志上。

【慨息】12（ガイソク） なげいてためいきする。〔班彪、北征賦〕撫二長劍一以慨息兮、泣漣落而霑レ衣。〔注〕濟曰、慨息、猶二歎息一也。

【慨惻】13（ガイソク） なげきいたむ。

【慨諾】14 k'ai^3 nuo^4 欣然と承諾する。快諾する。

【慨歎】15（ガイタン） うれへなげく。いきどほり歎息する。〔王昌齡、代二扶風主人一答詩〕主人就レ我飮、對レ我還慨歎。〔邵長蘅、夜遊二孤山一記〕相與慨歎久レ之。

【慨涕】16（ガイテイ） なげいて淚を流す。

【慨憤】17（ガイフン） なげきいきどほる。大いにいかる。憤慨。〔傅亮、封二豫章郡公一加レ號詔〕因心資敬、誓雪二國恥一、慨二憤陵夷一。

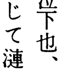
【慨懣】18（ガイマン ガイモン） なげきもだえる。〔宋書、南郡王義宣傳〕臨レ書慨懣、不レ識二次第一。

【慨當二以慷一】19（ナゲイテマサニモツテイタムベシ） 甚だしくいたみなげくこと。〔魏武帝、短歌行〕慨當二以慷一、憂思難レ忘、何以解レ憂、唯有二杜康一。

【㦀】11123 ホウ ブ 〔五音集韻〕薄紅切 東

❶よろこぶ。〔五音集韻〕㦀、悅也。❷いつくしむ。〔五音集韻〕㦀、愛也。

【㦁】11124 ［一］レン 〔集韻〕陵延切 先 ［二］テン 〔集韻〕抽延切 先 ［三］レン 〔集韻〕力展切 銑

 小篆 ［一］❶なく。涙がくだる。〔說文〕㦁、泣下也、从レ心連聲、易曰、泣涕㦁如。❷通じて漣(7－18155)に作る。〔集韻〕㦁、通作レ漣。［二］なくさま。〔集韻〕㦁、泣皃。［三］きをつける。〔集韻〕㦁、留意。

【慩】11125 レン 㦁(4－11124)に同じ。〔正字通〕慩、同レ㦁。

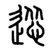
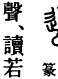
【慪】11126 ［一］オウ ウ 〔集韻〕烏侯切 尤 ㄡˋ ou^{4} ［二］コウ ク 〔玉篇〕口侯切 尤

［一］［二］❶をしむ。〔玉篇〕慪、恪也、惜也。〔集韻〕慪、恪也。❷怒る。激する。〔兒女英雄傳、三十二回〕不ニ是慪ニ老哥哥一、要レ看ニ你這老精神兒一、只怕還趕的上見ニ個姪兒一也、不レ可レ知呢。

【慪氣】1 ou^{4} ch'i^{4} 立腹する。怒る。

【慪閒氣】2 ou^{4} hsien^{2} ch'i^{4} 自分と無關係の事に怒る。

【慫】11127 シヨウ シユ 〔集韻〕筍勇切 腫 ㄙㄨㄥˇ sung^{3}

 小篆  小篆（通訓定聲） ❶おどろく。おそれる。〔說文〕慫、驚也、从レ心從聲、讀若レ悚。❷すすめる。慫慂(2)を見よ。❸或は從(4－10152)・縱(8－27819)に作る。〔集韻〕慫、或作ニ從・縱一。

【慫兢】1 シヨウキヨウ おそれて安んじないこと。〔張衡、西京賦〕將ニ乍往ニ而未レ半、怵悼慄而慫兢。〔注〕綜曰、言ニ恐墮一也。

【慫慂】2 シヨウヨウ すすめる。そそのかす。しひる。〔集韻〕慫、方言、慫慂、勸也。〔方言、十〕慫慂、勸也、南楚凡己不レ欲レ喜、而旁人說レ之、己不レ欲レ怒、而旁人怒レ之、或謂ニ之慫慂一。

【㦂】11128 ジヤウ 常(4－8955)の古字。〔字彙〕㦂、古常字。

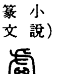
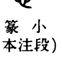
【慬】11129 ［一］キン ゴン 〔集韻〕渠斤切 文 ㄑㄧㄣˊ ch'in^{2} ［二］キン コン 〔集韻〕几隱切 吻 ［三］キン ギン 〔集韻〕渠吝切 震 ［四］キン ゴン 〔集韻〕巨靳切 問

［一］❶うれへかなしむ。うれへる。〔廣韻〕慬、憂哀。〔集韻〕慬、憂也。❷いさましい。勇氣。〔列子、說符〕無ニ以立ニ慬於天下一。〔注〕慬、勇也。❸或は懃(4－11322)に作る。〔集韻〕慬、或不レ省。［二］❶つつしむ。〔集韻〕慬、愨也。❷うれへる。〔集韻〕慬、憂也。［三］うれへる。勤(2－2424)に同じ。〔集韻〕勤、憂也、或从レ心。［四］わづか。〔集韻〕慬、僅也。〔公羊、定、八〕慬然後得レ免。

【慏】11130 メイ 慏(4－11065)の俗字。〔正字通〕慏、俗慏字。

【慭】11131 ギン 憖(4－11215)の俗字。〔正字通〕慭、俗憖字。

【慮】11132 ［一］リヨ ロ 〔集韻〕良據切 御 ㄌㄩˋ lü^{4} ［二］リヨ ロ 〔集韻〕凌如切 魚 ［三］リヨ ロ 〔古今字考〕兩擧切 語 ［四］ロク 〔正字通〕音祿

 小篆（說文）  小篆（段注本） ［一］❶おもんぱかる。㋑おもひめぐらす。考へる。〔說文〕慮、謀思也、从レ思虍聲。〔釋名、釋言語〕慮、旅也、旅、衆也、慮ニ及衆物一、以一ニ定之一也。〔墨子、經、上〕慮、求也。〔墨子、經說上〕慮也者、以ニ其知一有レ求也。㋺はかる。工夫する。〔廣雅、釋詁四〕慮、議也。〔詩、小雅、雨無正〕弗レ慮弗レ圖。〔箋〕慮・圖、皆謀也。〔戰國、秦策〕子爲ニ寡人一慮レ之。〔注〕慮、計也。〔呂覽、愼行〕君子計レ行慮レ義。〔注〕慮、度也。㋩くはだてる。たくらむ。〔列子、說符〕白公勝、慮レ亂。〔注〕慮、度也。㋥おもふ。〔爾雅、釋詁〕慮、思也。〔方言、一〕慮、思也。㋭うれへる。おそれる。〔增韻〕慮、憂也。〔漢書、黥布傳〕爲ニ百姓萬世一慮者也。〔漢書、溝洫志〕慮殫爲レ河。〔注〕師古曰、慮、猶レ恐也。㋬うたがふ。〔增韻〕慮、疑也。〔庾信、哀江南賦〕逼切危慮。㋣いましめる。そなへる。〔左氏、宣、十二〕前茅慮無。〔注〕慮無、如下今軍行、前有ニ斥候蹹伏一、皆持以ニ絳及白一爲レ幡、見ニ騎賊一擧ニ絳幡一、見ニ步賊一擧ニ白幡一、備中慮有無上也。〔宋書、蔡郭傳〕畏戻者聞レ憲而警慮。❷おもんぱかり。㋑かんがへ。おもひめぐらし。〔論語、衞靈公〕無ニ遠慮一、必有ニ近憂一。㋺くはだて。はかりごと。〔呂覽、不廣〕管子之慮近レ之。〔注〕慮、謀也。〔呂覽、恃君〕故爲ニ天下長慮一。〔注〕慮、計也。〔漢書、哀帝紀〕擧下明ニ兵法一有ニ大慮一者上。〔注〕師古曰、慮、謂ニ策謀思慮一。〔後漢書、陳囂傳〕如懷ニ姦慮一、明神殛。㋩はからひ。あしらひ。〔吳志、陸遜傳〕觀ニ其規慮一、終可ニ大任一。㋥おもひ。こころ。〔岑參、遊ニ元處士別業一詩〕愛茲淸ニ俗慮一、何事老ニ塵容一。㋭うたがひ。〔晉書、孫楚傳〕決ニ孤疑之慮一。㋬うれひ。〔後漢書、烏桓傳〕省ニ國家之邊慮一。❸おほむね。〔漢書、賈誼傳〕實皆有ニ布衣昆弟之心一、慮亡下不ニ帝制而天子自爲一者上。〔注〕師古曰、慮、大計也。❹ひろい。〔廣雅、釋詁二〕慮、廣也。❺むすぶ。〔莊子、逍遙遊〕何不ニ慮以爲ニ大樽一。〔釋文〕慮、猶ニ結綴一也。❻みだす。〔呂覽、長利〕無レ慮ニ吾農事一。〔注〕慮、亂也。❼むなしくする。虛(9－32709)に通ず。〔說文通訓定聲〕慮、段借爲レ虛、呂覽、無レ慮ニ吾農事一、注、亂也、非。❽姓。〔正字通〕慮、姓、左傳、南蒯臣慮癸。［二］❶おもんぱかる。［一］の❶に同じ。〔正韻〕慮、思慮也。❷木の名。諸慮。或は櫖(6－15805)・櫨(6－15844)に作る。〔爾雅、釋木〕諸慮、山櫐。〔集韻〕慮、木名、爾雅、諸慮、山櫐也、郭璞曰、謂レ似ニ葛而麤大一、江東呼爲レ藤、或作ニ櫖・櫨一。❸林慮は、地名。〔集韻〕慮、一曰、林慮、地名也。❹無慮は、すべて。おほよそ。〔集韻〕慮、一曰、無慮、都凡也。［三］おもんぱかる。［一］の❶に同じ。〔箕山歌〕日月運照、靡レ不ニ記睹一、游ニ牧其閒一、何所ニ却慮一。［四］しらべる。ただす。錄(11－405

19)・彔(4－9918)に通ず。〔說文通訓定聲〕慮、叚借爲㆑錄、實爲㆑彔。〔漢書、雋不疑傳、每㆑行㆑縣錄㆓囚徒㆒還、注〕師古曰、省㆓錄之㆒、知㆘其情狀有㆓寃滯㆒與㆖不也、今之慮囚、本錄聲之去者耳。〔唐書、百官志三、大理事〕繫者、五日一慮。

名乘 ノブ。

【慮危】1（リョキ） 危險をおもんぱかる。危い場合のことをおもんぱかる。〔荀子、仲尼〕故知者之擧㆑事也、滿則慮㆑嗛、平則慮㆑險、安則慮㆑危。〔何晏、景福殿賦〕感㆓物衆㆒而思㆑深、因㆓居高㆒而慮㆑危。

【慮及】2 lü⁴ chi² 豫想する。先を考慮する。

【慮懷】3（リョクヮイ） 心におもんぱかる。おもんぱかる。〔鬼谷子、飛箝〕心意之慮懷、審㆓其意㆒、知㆔其所㆓好惡㆒。

【慮外】4（リョグヮイ） ❶おもひがけない。おもひのほか。案外。意外。〔晉書、毛璩傳〕事乖㆓慮外㆒。❷ぶしつけな。もつてのほか。無禮。不敬。〔義經記、六〕たびたび慮外して罪つくるこそ心得ね。

〔慮外者〕5（リョグヮイモノ） ぶしつけ者。無禮者。〔東海道名所記〕慮外者の第一。

【慮患】6（リョクヮン） 氣にかかる。心配する。〔魏志、楊阜傳〕惟陛下慮㆓患無形之外㆒。

【慮計】7（リョケイ） おもひはかる。〔史記、南越王尉佗傳〕無㆘顧㆓趙氏社稷㆒、爲㆓萬世慮計㆒之意㆖。

【慮嗛】8（リョケン） 不足をおもんぱかる。不足の場合のことを考へる。慮危(1)を見よ。

【慮險】9（リョケン） 險しい場合のことをおもんぱかる。慮危(1)を見よ。

【慮縣】10（リョケン） 縣名。漢、置く。故治は山東省沂水縣の西南。〔漢書、地理志下〕城陽國、縣四、慮。

【慮後】11（リョゴ） 後々の事を考慮する。〔左氏、哀、二〕季孫斯・叔孫州仇・仲孫何忌帥㆑師伐㆑邾取㆓漷東田及沂西田㆒、癸巳叔孫州仇・仲孫何忌及㆓邾子㆒盟㆓于句繹㆒、〔疏〕既取㆓其田㆒、慮㆑後悔㆑競、故共盟以要㆑之。〔太公鑑銘〕見㆓爾前㆒慮㆓爾後㆒。

【慮想】12 lü⁴ hsiang³ 思案する。かんがへる。

【慮思】13（リョシ） おもんぱかる。〔曹植、贈㆓白馬王彪㆒詩〕苦辛何慮思、天命信可㆑疑。

【慮虒】14（リョシ） ❶川の名。山西省五臺縣の西。源を縣西の王村に發し、滹沱に注ぐ。又、縣河といふ。〔太平寰宇記〕源出㆓縣界㆒、漢因㆓此水㆒以立㆑縣。〔讀史方輿紀要、山西、代州、五臺縣〕慮虒水、在㆓縣東南十里㆒、志云、源出㆓縣西北十五里王邨㆒、環㆓縣東南㆒、一名縣河、與㆓縣東北虒陽河㆒合入㆓淸水河㆒、注㆓於滹沱㆒、漢以㆓此水㆒名㆑縣。❷縣名。漢、置く。故城は山西省五臺縣の北。〔漢書、地理志上〕太原郡、縣二十一、慮虒。

【慮事】15（リョジ） 事をおもんぱかる。豫め計畫を立てる。〔周禮、夏官、大司馬〕大役與㆑慮㆑事。〔注〕國有㆓大役㆒、大司馬與㆔謀㆓慮其事㆒也。〔禮、祭義〕孝子將㆑祭慮㆑事、不㆑可㆓以不㆒㆑豫。〔左氏、宣、十一〕令尹蔿艾獵城㆑沂、使㆔封人慮㆑事、以授㆓司徒㆒。

【慮囚】16（ロクシウ） 犯人の罪狀を謀りしらべてゆるくすること。慮は錄。〔學林、三〕前漢書雋不疑傳、不疑爲㆓京兆尹㆒、每㆑行㆑縣、錄㆓囚徒㆒、顏師古注、省㆓錄之㆒、知㆘其情狀有㆓寃滯㆒與㆖㆑否也、今之慮囚、本錄聲之去者耳、音力具反、而近俗不㆑曉㆓其意㆒、訛㆓其文㆒、遂爲㆓思慮之慮㆒、失㆓其源㆒矣、云云、按、前漢後漢、皆稱㆓錄囚㆒、唐史五代史、皆稱㆓慮囚㆒、二字皆是也、錄者、省㆓錄之㆒也、慮者、謀㆓議之㆒也、周禮朝士、若㆓邦凶荒札喪寇戎之故㆒、則令㆓邦國都家縣鄙慮㆑刑貶㆒、鄭氏注曰、慮、謂㆑謀也、謂㆑當㆓圖謀緩㆑刑、貶減也、雨無正詩曰、昊天疾威、弗㆑慮弗㆑圖、舍㆓彼有罪㆒、既伏㆓其辜㆒、鄭氏箋曰、慮圖皆謀也、由㆑此觀㆑之、則史言㆓慮囚㆒者、謀㆓議之㆒、欲㆑不㆑失㆓其情㆒也、顏師古乃謂、近俗不㆑曉㆓其意㆒、訛爲㆓思慮之慮㆒、失㆓其源㆒、蓋師古未㆓嘗稽攷㆒、而遽生㆓非訾㆒耳。

【慮周】17（リョシウ） かんがへがあまねく行きとどく。思慮周備。慮周藻密を見よ。

〔慮周藻密〕18（リョシウサウミツ） 思慮のよくゆきとどき、文采の完全にしてこまかいこと。〔文心雕龍、體性〕平子淹通、故慮周而藻密。

【慮善】19（リョゼン） 宋、趙元長(10－37171・・522)の字。

【慮嘆】20（リョタン） おもんぱかりなげく。〔莊子、齊物論〕喜怒哀樂、慮嘆變熱、姚佚啓態。

【慮智】21（リョチ） 智慮(5－14019・・158)に同じ。

【慮念】22 lü⁴ nien⁴ 思ふ。思案する。かんがへる。

【慮無】23（リョム） 無き所をおもんぱかる。無聲に聽き、無形に視る意。〔左氏、宣、十二〕軍行、右㆑轅、左㆓追蓐㆒、前茅慮無。〔注〕慮無、如㆘今軍行、前有㆓斥候蹹伏㆒、皆持以㆓絳及白㆒爲㆑幡、有㆓騎賊㆒擧㆓絳幡㆒、見㆓步賊㆒擧㆓白幡㆒、備㆗慮有無㆖也。〔會箋〕慮無、慮㆑所㆑無之意、猶㆑曰㆘聽㆓於無聲㆒、視㆗於無形㆖也。

【衡㆓於慮㆒】24（リョニヨコタハル） 事がらがうまくゆかず、思案にあまる。〔孟子、告子下〕困㆓於心㆒、衡㆓於慮㆒、而後作。

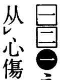
【發㆑慮憲】25（リョヲオコスコトノリアリ） 思慮を致して法則に合ふことを求める。〔禮、學記〕發㆑慮憲、求㆓善良㆒、足㆓以諛聞㆒、不㆑足㆓以動㆒㆑衆。〔注〕憲、法也、言㆘發㆓計慮㆒、當㆛擬㆚度於法式㆙也。

【長㆑慮顧㆑後】26（リョヲナガクシノチヲカヘリミル） 久しく遠い將來を顧慮するをいふ。〔荀子、榮辱〕長㆑慮顧㆑後、而恐㆑無㆓以繼㆒㆑之故也。

【弗㆑慮胡獲】27（オモンパカラザルナンゾエン） 何事でも篤と之を思考しなければ、其の宜しきを得ることはできない。〔書、太甲下〕嗚呼弗㆑慮胡獲、弗㆑爲胡成。

【慮不㆓先定㆒不㆑可㆓以應㆒㆑卒】28（オモンパカリサキニサダメザレバモツテソツニオウズベカラズ） 思慮は先に定めなければ、卒然の事に應ずることができない。〔史記、仲尼弟子傳〕慮不㆓先定㆒、不㆑可㆓以應㆒㆑卒、兵不㆓先辨㆒、不㆑可㆓以勝㆒㆑敵。

【慯】11133


小篆

㊀シヤウ 〔集韻〕式亮切 漾

㊁シヤウ 〔集韻〕尸羊切 陽

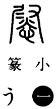
㊀㊁❶うれへる。〔說文〕慯、𢝊也、从㆑心傷省聲。〔段注〕周南卷耳傳曰、傷、思也、此傷卽慯之叚借、思與㆑憂、義相近也。❷いたむ。〔集韻〕慯、一曰、痛也。❸或は痬(7－22156)に作る。〔集韻〕慯、或作㆑痬。❹通じて傷(1－1029)に作る。〔集韻〕慯、通作㆑傷。

【⿱⿸尸又心】11134

ヰ

慰(4－11135)に同じ。〔正字通〕慰、同㆑⿱⿸尸又心。

【慰】11135


小篆

ヰ 〔集韻〕紆胃切 未 ㄨㄟˋ wei⁴

❶なぐさめる。㋑やすめる。心のうさをはらす。もと⿱⿸尸又心(4－11134)に作る。〔中華大字典〕慰、本作㆑⿱⿸尸又心。〔說文〕⿱⿸尸又心、安也、从㆑心尉聲。〔詩、邶風、凱風〕莫㆑慰㆓母心㆒。〔詩、小雅、車舝〕以慰㆓我心㆒。〔傳〕慰、安也。〔宋書、竟陵王傳〕永相娛慰。㋺いたはる。〔後漢書、王丹傳〕所㆑過並使㆓勞慰㆒。〔唐書、楊恭仁傳〕悉㆑心綏慰。㋩すかす。なだめる。〔後漢書、陳禪傳〕但使㆔吏卒往曉㆓慰之㆒、單于懷服。❷なぐさめ。〔後漢書、耿弇傳〕因數召見、加㆓招慰㆒。❸むすぼれる。ふさぐ。鬱(12－45671)に通ず。〔說文通訓定聲〕慰、叚借爲㆑鬱。〔莊子、外物〕慰暋沈屯。〔釋文〕慰、鬱也。❹いかる。うらむ。〔說文〕慰、一曰、恚怒也。〔詩、小雅、車舝〕以慰㆓我心㆒。〔傳〕慰、怨也。〔釋文〕王申爲㆓怨恨之義㆒。❺いかり。うらみ。〔莊子、盜跖〕貪㆑財而取㆑慰。❻せめる。〔玉篇〕慰、問也。❼居る。闉(11－41425)に通ず。〔說文通訓定聲〕慰、叚借爲㆑闉。〔方言、三〕慰、尻也、江淮青徐之閒曰㆑慰。❽やまひ。蔚(9－31805)に通ず。〔莊子、盜跖〕貪㆑財而取㆑慰。〔集釋〕慶藩案、慰、當㆓與㆑蔚通㆒、淮南俶眞篇、五藏無㆓蔚氣㆒、高注曰、蔚、病也、繆稱篇、侏儒鼓師、人之困慰者也、高注曰、慰、病也、是蔚・慰二字、古訓通用。❾畏(7－21778)に通ず。〔莊子、盜跖〕貪㆑財而取㆑慰。〔釋文〕慰、亦作㆑畏。❿

通じて尉(4－7440)に作る。〔正字通〕慰、通作レ尉。邦なぐさむ。なぐさみ。㋑もてあそぶ。玩弄する。㋺あそび。

名乘 ヤス。

【慰愛】1ヰアイ なぐさめ愛する。〔說苑、指武〕所三以慰二愛走卒一甚厚。

【慰安】2ヰアン なぐさめやすんずる。〔漢書、魏相傳〕所下以周レ急繼レ困、慰二安元元一、便中利百姓上之道甚備。

【慰誘】3ヰイウ なぐさめいざなふ。いたはり引きよせる。〔後漢書、順帝紀〕慰二誘日南叛蠻一、降二之嶺外一乎。〔後漢書、法雄傳〕且罷レ兵以慰二誘其心一。

【慰解】4ヰカイ なぐさめて和解させる。仲なほりさせる。〔韻府引、宋濂、詩〕同行堅慰解、沽レ酒買二紅魚一。

【慰劬】5ヰク 勞苦をなぐさめる。劬は勞。〔黃鎭成、詩〕然レ薪燎二我衣一、取レ酒慰二我劬一。

【慰誨】6ヰクワイ なぐさめいましめる。なぐさめさとす。〔李陵、答二蘇武一書〕慰誨勤勤、有レ踰二骨肉一。〔注〕向曰、慰誨、謂二慰勞誨教一也。〔魏志、文昭甄皇后傳、注〕後宮有レ寵者勤二勉之一、其無レ寵者慰二誨之一。

【慰懷】7ヰクワイ 心をなぐさめる。〔陶潛、詠二貧士一詩〕何以慰二吾懷一、賴レ古多二此賢一。

【慰曉】8ヰゲウ なぐさめさとす。曉慰。慰諭。〔唐書、南蠻傳下〕西原蠻叛、乾元初、遣三中使慰二曉諸首領一。〔宋史、曹利用傳〕利用快快不レ平、帝使三同列慰二曉之一。

【慰唁】9ヰゲン 遺族をとむらひ慰める。生を弔ふを唁といふ。〔袁桷、車行二十八韻詩〕詩成記二勞勤一、旅次時慰唁。

【慰魂】10ヰコン ❶亡き靈魂を慰める。〔後漢書、段熲傳〕洗二雪百年之逋負一、以慰二忠將之亡魂一。❷心を慰める。〔杜甫、別二李義一詩〕長成忽會面、慰二我久疾魂一。

【慰志】11ヰシ 心をなぐさめる。おもひをなぐさめる。〔後漢書、崔駰傳〕崔篆、爲二建新大尹一、云云、稱レ疾去、建武初、客二居滎陽一、臨レ終作レ賦以自悼、名曰二慰志一。〔文心雕龍、雜文〕託レ古慰レ志、疎而有レ辨。

【慰賜】12ヰシ なぐさめて物をたまふ。物を賜はつて其の勞をねぎらふ。〔晉書、陶侃傳〕有二奉レ饋者一、皆問二其所レ由、若力作所レ致、雖レ微必喜、慰賜參倍、若非レ理得レ之、則切厲訶辱、還二其所レ饋一。

【慰辭】13ヰジ なぐさめることば。

【慰謝】14ヰシャ なぐさめあやまる。〔吳志、張昭傳〕權數慰二謝昭一、昭固不レ起。

【慰藉】15ヰシャ なぐさめいたはる。なぐさめて力をそへる。慰勞。〔後漢書、隗囂傳〕光武素聞二其風聲一、報以二殊禮一、言稱レ字、用二敵國之儀一、所二以慰藉之良厚一。〔注〕慰、安也、藉、薦也、言三安慰而薦二藉之一。

【慰情】16ヰジャウ 心をなぐさめる。慰情勝レ無を見よ。

【慰情勝レ無】17ヰジャウナキニマサル 十分心を滿足せしめる程ではないが、無いのには勝る。聊か自ら情を解くこと。〔陶潛、和二劉柴桑一詩〕弱女雖レ非レ男、慰情良勝レ無。

【慰卹】18ヰジュツ なぐさめあはれむ。なぐさめめぐむ。慰恤。〔魏志、高貴鄕公紀〕其令三所在郡典農、及安撫夷二護軍・各部大吏、慰二卹其門戶一無レ差。

【慰恤】19ヰジュツ なぐさめめぐむ。慰卹に同じ。〔魏志、董卓傳、注〕涼州擾亂、鯨鯢未レ滅、盡レ心慰恤、效二力行陣一。

【慰書】20ヰショ 淸、程兆彪(8－25081‥265)の字。

【慰心】21ヰシン 心をなぐさめやすんずる。〔詩、邶風、凱風〕有二子七人一、莫レ慰二母心一。〔傳〕慰、安也。〔詩、小雅、車舝〕覯二爾新昏一、以慰二我心一。〔傳〕慰、安也。

【慰神】22ヰシン 神をなぐさめる。〔芳野金陵、新建二新田公祠堂一記〕抑神之無レ所レ歸、五二百年于斯一、今而得レ所レ歸而廟食、可レ謂二善敬レ神、善慰レ神矣。

【慰綏】23ヰスイ なぐさめやすんずる。綏は、安んずる。〔漢書、谷永傳〕以下慰二綏元元一之心上、防二塞大姦之隙一。〔注〕師古曰、綏、安也。

【慰省】24ヰセイ なぐさめかへりみる。〔蜀志、楊儀傳〕費禕往慰二省之一。

【慰釋】25ヰセキ 心をなぐさめ憂をとく。いたはりなだめる。〔漢書、谷永傳〕慰二釋皇太后之憂慍一、解二謝上帝之譴怒一。〔蘇轍、答二徐州陳師仲一書〕手足舞踏、以自慰釋。

【慰川】26ヰセン 明、黃和(12－47926‥264)の號。

【慰薦】27ヰセン なぐさめすすめる。尉薦(4－7440‥17)を見よ。〔漢書、匈奴傳下〕慰薦撫循。〔白居易、姚元康等授レ官充二推官掌書記一制〕慰薦褒升、其則不レ遠。

【慰餞】28ヰセン なぐさめはなむけする。旅立ちの人を慰め見送ること。〔唐書、楊憑傳〕憑得レ罪、姻友憚レ累、無二往候者一、獨晦至二藍田一慰餞。

【慰存】29ヰソン なぐさめ見舞ふ。〔孔叢子、抗志〕子思自レ齊反レ衞、衞君館而問曰、先生魯國之士、然不レ以二衞之偏小一、猶步二玉趾一而慰二存之一、願有レ賜二於寡人一也。

【慰待】30ヰタイ なぐさめもてなす。なぐさめあしらふ。〔唐書、崔從傳〕從獨不レ取、而厚慰二待之一。

【慰答】31ヰタフ いたはつて報いる。〔晉書、石勒載記下〕庶足下以慰二答存亡一、申中孤之心上也。

【慰亭】32ヰテイ 民國、袁世凱(10－34152‥224)の字。

【慰納】33ヰナフ いたはり引見する。〔後漢書、馬皇后紀〕後宮有二進見一者、每加二慰納一。〔後漢書、臧宮傳〕擊レ牛釃レ酒、饗賜慰二納之一。

【慰農】34ヰノウ 淸、薛時雨(9－32123‥192)の字。

【慰譬】35ヰヒ なぐさめさとす。〔後漢書、梁慬傳〕羌大豪三百餘人、詣レ慬降、竝慰譬、遣二還故地一。

【慰愍】36ヰビン なぐさめ憐れむ。〔風俗通、十反〕太尉徐防・太傅桓焉二公、嘉二其孝敬一、慰二愍契濶一。

【慰暋】37ヰビン 心がふさぎもだえる。〔莊子、外物〕慰暋沈屯、利害相摩。〔釋文〕慰、鬱也、暋、悶也。

【慰拊】38ヰフ いたはりなぐさめる。慰撫に同じ。〔宋史、曹克明傳〕克明慰拊、出二衣服一遺レ之。

【慰撫】39ヰブ なぐさめなでる。いたはり愛する。〔漢書、匡衡傳〕上輒以二詔書一慰撫不レ許。〔後漢書、張堪傳〕慰二撫吏民一、蜀人大悅。

【慰物】40ナグサミモノ なぐさみの種となるもの。なぐさみに行ふもの。又、一時の慰みに情を弄ばれる人。玩弄物。〔若風俗、七〕世渡りの悲しさに、大臣の慰者と成つて。

【慰勉】41ヰベン なぐさめはげます。慰勵に同じ。〔六韜、文韜、盈虛〕盡二力農桑一者、慰二勉之一。〔隋書、薛道衡傳〕服一襲、馬十匹、慰勉遣レ之。〔北史、賀婁子幹傳〕文帝大悅、手書慰勉。

【慰問】42ヰモン なぐさめとふ。たづねなぐさめる。〔後漢書、宋均傳〕帝使二中黃門慰問一、因留養レ疾。

【慰問使】43ヰモンシ 慰問のために遣はす使者。

【慰問狀】44ヰモンジャウ 慰問のために贈る手紙。

【慰問袋】45ヰモンブクロ 出征軍・罹災民等を慰めるために、思ひ思ひの品を入れて、其の地に送る袋。

【慰喩】46ヰユ なぐさめさとす。慰諭。〔列子、周穆王〕人有下慰二喩其懃一者上。〔魏志、張魯傳〕以三魯本有二善意一、遣二人慰喩一。〔吳質、答二東阿王一書〕慰喩之綢繆乎。

【慰諭】47ヰユ なぐさめさとす。慰喩に同じ。〔漢書、東方朔傳〕已用二位卑一、以自慰諭。〔元史、世祖紀九〕詔慰二諭軍民一。

【慰勞】48ヰラウ なぐさめねぎらふ。なぐさめいたはる。〔風俗通、十反〕倀蒙二慰勞一。〔後漢書、禮儀志中〕侍御史持レ節慰勞。〔後漢書、段熲傳〕持レ節慰二勞於鎬一。〔晉書、李特載記〕遣二御史李苾一、持レ節慰勞、且監二察之一。〔宋史、李沆傳〕契丹犯レ邊、眞宗北幸、命レ沆留守、京師肅然、眞宗還、沆迎二於郊一、命レ坐置レ酒、慰勞久レ之。〔元史、李邦瑞傳〕太宗慰勞、賜二車騎斾裘衣裝及銀十錠一。

【慰勞會】49ヰラウクワイ 慰勞のために催す會。

【慰勵】50ヰレイ なぐさめはげます。〔魏志、趙儼傳〕盡呼二所レ從人一、喩以二成敗一、慰勵懇切。

【慰禮】51ヰレイ 百濟（クダラ）の一名。〔日本書紀、雄略紀、注〕百濟記云、云云、王城降陷、遂失二慰禮國一。

【⿰忄冦】11136

コウ ク 〔集韻〕丘候切 宥

⿰忄冦⿰忄冦は、つとめる。〔集韻〕⿰忄冦、⿰忄冦⿰忄冦、勤力。

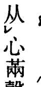
【慱】11137

㊀タン ダン 〔集韻〕徒官切 ㄊㄨㄢˊ t'uan² 寒

㊁セン ゼン 〔集韻〕從緣切 先

㊀㊁❶うれへる。又、そのさま。〔爾雅、釋訓〕慱慱、憂也。〔集韻〕慱、憂勞也。〔詩、檜風、素冠〕勞心慱慱兮。〔傳〕慱慱、憂勞也。〔陳奐傳疏〕爾雅、慱慱、憂也、詩言二勞心一、故傳訓二憂勞一。❷まるい。團(3-4834)に通ず。〔字彙〕慱、古作二團字一。〔太玄經、玄文〕月闕二其慱一。

【慲】11138 バン マン 〔集韻〕謨官切 寒


小篆

わすれる。〔說文〕慲、忘也、慲兜也、从レ心㒼聲。〔徐鍇注〕不二曉了一之義。〔段注〕疑當レ作二慲兜、忘也一、慲兜、蓋古語忘之皃也、猶二今人之糊塗不一レ省レ事。

【懣】11139 ボン・バン ❶懣(4-11384)に同じ。〔集韻〕懣、或省。❷慲(4-11138)に同じ。〔正字通〕懣、同レ慲。

【慳】11140 カン ケン 〔集韻〕丘閑切 ㄑㄧㄢ ch‘ien¹ 删

❶をしむ。やぶさか。〔集韻〕慳、恡也。〔南史、王玄謨傳〕劉秀之儉恡、孝武帝呼爲二老慳一。〔朱熹、極目亭詩〕倒二盡詩囊一未レ許レ慳。❷かたい。固く祕めかくす。〔韻學集成〕慳、固也。〔蘇軾、凌虛臺詩〕崩騰赴二幽賞一、披豁露二天慳一。〔朱熹、游密庵詩〕雄盤殷二地厚一、洪源瀉二天慳一。❸しぶる。ぐづつく。〔韓愈、獻二山南鄭相公一詩〕辭慳義卓潤。〔王貞白、度二關山一詩〕天寒弓力慳。〔陸游、懷昔詩〕澤國氣候晚、仲冬雪猶慳。〔高啓、遊鍾山詩〕古木寒瘦泉流慳。❹かたいぢ。老人のちゑ。〔集韻〕慳、老人智也。

【慳嗇】1 ケンショク やぶさか。しはい。慳嗇霖を見よ。

【慳嗇霖】2 ケンショクリン 梅雨時節の晴雨が常でないこと。天が大雨の降り注ぐのをやぶさかにするに似るからいふ。〔蘇軾、次二韻曹子方龍山眞覺院瑞香花一詩〕及二此陰晴閒一、恐致二慳嗇霖一。

【慳錢】3 ケンセン 粗惡な錢。姦錢。〔鶴林玉露、地、姦錢〕今江湖閒俗語、謂二錢之薄惡者一曰二慳錢一、按、賈誼疏云、今法錢不レ立、農民釋二其耒耜一、冶二鎔炊炭一、姦錢日多、俗音訛以レ姦爲レ慳爾。

【慳貪】4 ケンドン ❶佛 財貨を惜しんで人に與へず、貪り求めて飽くことのない心。欲の深いこと。〔法華經、方便品〕若以二小乘一化、乃至於二一人一、我則墮二慳貪一。〔中阿含經、三十一〕我見二世閒人一、有レ財痴不レ施、得レ財復更求、慳貪、積二聚物一。〔林逸節用集、雜用〕慳貪。❷むごいこと。情愛のないこと。意地の惡いこと。邪險。〔大經師昔曆、上〕。

【慳囊】5 ch‘ien¹ nang² 吝嗇者が常に金錢を囊中に貯へて、出し吝しみすること。

【慳吝】6 ケンリン カンリン もの惜しみして出しぎたないこと。しみつたれ。吝嗇。〔原化記〕賀知章謁二賣藥老一、問二黃白術一、遺二一大珠一、老人以レ珠易レ餅與レ賀、賀私念二寶珠何以易レ餅、老人曰、慳吝未レ除、術何由成。

【慳悋】7 ケンリン 慳吝に同じ。〔廣韻〕㥶、忦㥶、慳悋人也。

【㦃】11141 ㊀サン セン 〔集韻〕所簡切 潸 ㊁サン 〔集韻〕芻萬切 願 ㊂サン セン 〔集韻〕初諫切 諫

㊀㊁缺けたところのない德。〔集韻〕㦃、全德也。㊂❶㊀に同じ。〔集韻〕㦃、全德也。❷おほい。〔集韻〕㦃、一曰、夥也。

【𢣚】11142 バ 𩕄(12-43654)に同じ。〔集韻〕𩕄、或从レ心。

【慴】11143 ㊀セフ 〔集韻〕質涉切 ㄓㄜˊ chê² 葉 ㊁テフ デフ 〔集韻〕達協切 葉 ㊂シフ ジフ 〔集韻〕席入切 緝

小篆

㊀❶おそれる。〔說文〕慴、懼也、从レ心習聲、讀若レ疊。❷ふす。〔廣韻〕慴、伏也。❸おびえる。〔廣韻〕慴、怯也。❹おびやかす。おどす。〔曹植、七啓〕威慴二萬乘一。❺懾(4-11498)に通ず。〔正字通〕慴、同レ懾。❻讋(10-36120)に同じ。〔說文〕讋、失レ气言、讀若レ慴。㊁㊂おそれる。㊀の❶に同じ。〔集韻〕慴、懼也。

【慴悸】1 セフキ おそれて心がをののく。〔後漢書、劉瑜傳〕懼二以觸忤一、征營慴悸。

【慴色】2 セフショク おそれる顏色。

【慴惴】3 セフズイ おそれふるへる。〔杜牧、感懷詩〕屯田數十萬、隄防常慴惴。

【慴然】4 セフゼン おそれるさま。懾然(4-11498‥15)に同じ。

【慴憚】5 セフタン おそれはばかる。懾憚。〔宋書、恩倖傳序〕權幸之徒、慴二憚宗戚一。

【慴怕】6 chê² p‘a⁴ おそれをののく。ふるへおそれる。

【慴怖】7 セフフ 大いにおそれる。懾怖。〔魏志、田豫傳〕衆皆慴怖不二敢動一。

【慴伏】8 セフフク おそれふす。おそれすくむ。威勢におそれて屈服する。懾伏。〔史記、項羽紀〕籍所二擊殺一數十百人、一府中皆慴伏、莫二敢起一。〔注〕索隱曰、說文云、慴、失レ氣也。〔漢書、陳湯傳〕萬夷慴伏、莫レ不二懼震一。〔注〕師古曰、慴、恐也。〔王褒、四子講德論〕其所二臨泣一、莫レ不二肌栗慴伏一。

【慴服】9 セフフク おそれてしたがふ。懾服(4-11498‥21)に同じ。〔史記、項羽紀〕諸將皆慴服、莫二敢枝梧一。

【慴㥄】10 セフリョウ おそれおどろく。〔淮南子、兵略訓〕諸侯莫レ不四慴二㥄沮三膽其處一。

【慵】11144 シヨウ ジユ 〔集韻〕常容切 ㄩㄥˊ jung² 冬 慣ヨウ

小篆

ものうい。おこたる。〔說文新附〕慵、懶也、从レ心庸聲。

【慵起】1 ヨウキ あさおきるにものういこと。〔白居易、香爐峰下新卜二山居一、草堂初成偶題二東壁一詩〕日高睡足猶慵レ起、小閣重レ衾不レ怕レ寒。〔吳融、和二韓致光侍郎無題三首十四韻一詩〕漫遊多卜レ夜、慵起不レ知レ晨。

【慵齋】2 ヨウサイ 淸、戴有祺(5-11685‥150)の室名。

【慵齋先生】4 ヨウサイセンセイ 淸、戴有祺(5-11685‥150)の號。

【慵饞】5 ヨウザン 身のおこたつて口のむさぼること。〔白居易、晚起詩〕慵饞還自哂、快活亦誰知。

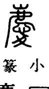
【慵惰】6 ヨウダ おこたる。ものうい。〔白居易、歸田詩〕安得レ放二慵惰一、拱レ手而曳レ裾。〔王禹偁、七夕詩〕孰謂處二深岩一、自得レ放二慵惰一。

【慵夫】7 ヨウフ 金、王若虛(7-20823‥1642)の號。

【慵懶】8 ヨウラン ものうくなまける。慵惰。〔白居易、池上早春卽事招二夢得一詩〕經過莫二慵懶一、相去兩三坊。

【慵來粧】9 ヨウライシヤウ うすべにを施して化粧する。〔飛燕外傳〕合德新沐、膏二九曲沈水香一、爲二卷髮一、號二新髻一、爲二薄眉一、號二遠山黛一、施二小朱一、號二慵來粧一。

【慶】11145 ㊀ケイ キヤウ 〔集韻〕丘正切 ㄑㄧㄥˋ ch‘ing⁴ 敬 ㊁ケイ キヤウ 〔集韻〕丘京切 庚 ㊂キヤウ カウ 〔集韻〕墟羊切 陽


小篆

㊀❶よろこぶ。いはふ。〔說文〕慶、行賀レ人也、从二心夊一、从二鹿省一、吉禮以二鹿皮一爲レ摯、故从二鹿省一。〔廣雅、釋言〕慶、賀也。〔公羊、昭、二十五〕慶二

子家駒一。〔注〕慶、賀也。〔國語、魯語下〕固慶二其喜一、而弔二其憂一。〔注〕慶、猶レ賀也。❷ほめる。たまふ。〔孟子、告子下〕慶以レ地。❸よい。〔廣雅、釋詁一〕慶、善也。〔詩、大雅、皇矣〕則篤二其慶一。〔傳〕慶、善。❹よろこび。いはひ。〔周禮、春官、大宗伯〕以二賀慶之禮一、親二異姓之國一。❺たまもの。賞美。褒賞。賜與。〔詩、小雅、楚茨〕孝孫有レ慶。〔箋〕慶、賜也。〔禮、月令〕行レ慶施レ惠。〔注〕慶、謂レ休二其善一也。〔孟子、告子下〕則有レ慶。〔注〕慶、賞也。❻善事。善行。〔書、呂刑〕一人有レ慶。〔疏〕慶、善也、天子有二善事一也。❼さいはひ。〔易、履〕大有レ慶也。〔國語、周語下〕有レ慶未二嘗不一レ怡。〔注〕慶、福也。❽姓。〔尙友錄〕慶、廣陵姜姓、齊慶父之後、以レ字爲レ氏。〔萬姓統譜〕慶氏、諸侯之子稱二公子一、公子之子稱二公孫一、公孫之子以二王父字一爲レ氏、今無虧之子慶父、其後爲二慶氏一、此又以二父字一爲レ氏、而不下以二王父字一爲上レ氏也、不レ可二一槩一。［二］❶よろこぶ。［一］の❶に同じ。〔集韻〕慶、賀也。❷卿(2-2879)に通ず。〔尙書大傳、虞夏傳〕於レ時八風循通卿雲藂藂、〔注〕按曰、宋書、云云、於レ是八風修通、慶雲藂藂。［三］❶さいはひ。［一］の❼に同じ。〔字彙〕慶、亦福也。❷ああ。發語の助辭。羌(9-28429)に通ず。〔漢書、揚雄傳上〕慶天悴而喪レ榮。〔注〕張晏曰、慶、辭也、師古曰、慶、讀曰レ羌。❸みだれる。羌(9-28429)に通ず。〔集韻〕慶、亂也、通作レ羌。

名乘 チカ。ノリ。ヤス。ヨシ。ミチ。

解字 會意。鹿の省と心と夊との合字。鹿皮を持つてよろこびに行く(夊)意。

【慶藹】1 ケイアイ よろこびのさかんなこと。さかんなよろこび。〔謝莊、宋孝武宣貴妃誄〕祚レ靈集レ祉、慶藹迎レ祥。〔注〕銑曰、藹、盛貌。

【慶渥】2 ケイアク めぐみ。〔李吉甫、忠州刺史謝上表〕增レ秩進レ階、霑二濡慶渥一。

【慶安】3 ケイアン ❶樂曲の名。〔宋史、樂志一〕奠二玉幣一用二慶安一、司徒奉レ俎用二咸安一。❷第百十代後光明天皇の年號。(1648-1652)〔菅原爲適勘文〕周易曰、乃終有レ慶、安貞之吉、應二地無疆一。

【慶庵】4 ケイアン 奉公・緣談等の世話をする者。桂庵。もと人名から出た語。又、其の稼業。慶安。

【慶庵口】5 ケイアングチ 雙方の閒に立つて、よきやうにとりつくろひなすこと。なかうどぐち。

【慶慰】6 ケイヰ よろこびなぐさめる。

【慶宥】7 ケイイウ よろこびのために罪人をゆるすこと。〔南齊書、高帝紀下〕詔曰、宸運肇創、寶命惟新、宜下弘二慶宥一、廣敷中蠲汰上。

【慶育】8 ケイイク めでたく出產する。安產。〔後漢書、襄楷傳〕昔文王一妻、誕二致十子一、今宮女數千、未レ聞二慶育一、宜三修レ德省レ刑、以廣二螽斯之祚一。

【慶溢】9 ケイイツ よろこびがあふれる。〔劉允濟、明堂賦〕澤被二翔泳一、慶溢二煙霄一。

【慶昀】10 ケイキン 淸、滿洲正白旗人。姓は喜塔臘氏。諡は莊恪。咸豐中、寧夏將軍となる。

【慶雲】11 ケイウン ❶めでたい事のある前兆の雲。瑞雲。景雲。卿雲。瑞兆の雲。えんぎの善いくも。〔列子、湯問〕慶雲浮、甘露降。〔漢書、禮樂志〕甘露降、慶雲集。〔魏志、陳思王植傳〕是以不レ別二荊棘一者、慶雲之惠也。〔瑞應圖〕景雲者、太平之應也、一曰二慶雲一、非レ氣非レ煙、五色氛氳、謂二之慶雲一。〔陸機、漢高祖功臣頌〕慶雲應レ輝、皇階授レ木。〔注〕銑曰、慶雲、瑞雲也。❷縣名。㋑遼、置く。滿洲遼寧省開原縣の西南の慶雲屯。〔讀史方輿紀要、山東、遼東都指揮使司、鐵嶺衞〕慶雲城、本渤海蒙州地、契丹阿保機、俘二檀州民一、置二檀州一、併置二密雲縣於此一、尋改レ州爲二祺州佑聖軍一、縣曰二慶雲縣一、金州廢、縣屬二咸平府一。㋺明、置く。河北省鹽山縣の東南。〔讀史方輿紀要、直隸、河閒府、滄州〕慶雲縣、漢陽信縣地、明洪武八年、以二隸州無棣縣一改置二海豐縣一、而置二無棣縣於此一、仍屬二滄州一、永樂初、避二御諱一改二今名一。〔淸史稿、地理志〕直隸、天津府、縣六、慶雲。❸字號。㋑宋、林逢龍(6-14551‥430)の字。㋺淸、陳國瑞(11-41698‥869)の字。❹キヤウウン 第四十二代文武天皇の年號。(704-708)

【慶蘊】12 ケイウン さいはひがあつまる。〔李翺、李長史墓誌銘〕非レ道不レ求、曷計二人爵一、慶蘊而傳、後必有レ積。

【慶謁】13 ケイエツ 慶賀しお目にかかる。祝賀の謁見。〔唐書、穆宗貞獻皇后蕭氏傳〕帝每二五日一問レ安、及二歲時慶謁一、率二由複道一至二南內一。

【慶延】14 ケイエン よろこびがつらなる。さいはひがつづく。〔舊唐書、音樂志四〕翦レ商德厚、封レ唐慶延。

【慶衍】15 ケイエン さいはひがあふれる。〔宋史、樂志十四〕仁深慶衍、益顯益尊。

【慶煙】16 ケイエン めでたい事のある前兆のけむり。えんぎの善いけむり。卿煙。瑞祥吉兆のけむり。〔宋書、禮志三〕慶煙應二高牙之建一、風耀符二發跡之辰一。〔謝莊、舞馬賦應レ詔〕泛二修風一而浮二慶煙一。

【慶遠】17 ケイエン 府名。宋、置く。元、路に改む。明、仍つて府と爲し、廣西に屬せしむ。淸、之に因り、安化廳、河池・東蘭の二州、宜山・天河・思恩の三縣、南丹・那地・東蘭の三土州、忻城土縣及び永定・永順正・永順副の三長司を管轄す。民國廢す。治は今の廣西省宜山縣。〔讀史方輿紀要、廣西〕慶遠府、古百粤地、宋仍爲二宜州一、宣和初、升爲二慶遠軍節度一、咸淳初、又升爲二慶遠府一、元曰二慶遠路一。〔淸史稿、地理志〕廣西、慶遠府、領二廳一、州二、縣三、土州三、土縣一、長官司三一、宜山、天河、河池州、思恩、安化廳、東蘭州、南丹土州、那地土州、東蘭土州、忻城土縣、永定長官司、永順正長官司、永順副長官司。

【慶應】18 ケイオウ 第百二十一代孝明天皇の年號。(1865-1868)〔菅原在光勘文〕文選曰、慶雲應レ輝、皇階授レ木。

【慶荷】19 ケイカ 身に受けたさいはひ。〔苻載、寄二南海王尙書一書〕榮遷二亞尹一、承二江陵之歡好一、超拜二容府一、展二襄陽之慶荷一。

【慶賀】20 ケイガ ❶よろこびいはふ。又、いはひ。ことほぎ。祝賀。賀慶。〔周禮、秋官、小行人〕若國有二福事一、則令三慶二賀之一。〔淮南子、本經訓〕當二此之時一、無二慶賀之利、刑罰之威一。❷任官敍位の御禮を奏上すること。よろこびまうし。奏慶。拜賀。〔江家次第、二十、任大臣〕新任大臣、參二弓場殿一、令レ奏二慶賀一。

【慶幸】21 ケイカウ しあはせ。めでたいさいはひ。慶福。〔金史、太祖諸子、宗憲傳〕奏曰、莫レ非二王臣慶幸一、豈可レ有レ閒邪。

【慶洽】22 ケイカフ さいはひがあまねくうるほふ。〔沈約、梁雅樂歌、禋雅〕靈饗慶洽、祉積化融。〔盧照鄰、中和樂〕祥遊二沙麓一、慶洽二瑤衣一。

【慶忌】23 ケイキ ❶水怪の名。〔管子、水地〕或世見、或世不レ見者、生三蝎與二慶忌一、故涸澤數百歲、谷之不レ徙、水之不レ絕者、生二慶忌一、慶忌者、其狀若レ人、其長四寸、衣二黃衣一、冠二黃冠一、戴二黃蓋一、乘二小馬一、好疾馳、以二其名一呼レ之、可レ使二千里外一日反報一、此涸澤之精也。❷春秋、吳の王僚の子。勇を以て聞ゆ。公子光のために刺殺せらる。〔吳越春秋、闔閭內傳〕王曰、慶忌之勇、世所レ聞也、筋骨果勁、萬人莫レ當、走追二奔獸一、手接二飛鳥一、骨騰肉飛、拊二膝數百里一。〔墨子、七患〕是若二慶忌一、無二禦之心一。〔司馬相如、上書諫レ獵〕捷言二慶忌一、勇期二賁育一。❸複姓。〔萬姓統譜〕慶忌、見二姓苑一、姬姓、吳公子慶忌之後。

【慶忌冠】24 ケイキクワン 武官の冠。惠文冠のこと。〔晉書、輿服志〕武冠、卽古之惠文冠、或云、千歲涸澤之神、名曰二慶忌一、冠二大冠一、乘二小車一、好二疾馳一、因象二其冠一而服焉。

【慶忌塔】25 ケイキタフ 塔の名。吳の慶忌を此處に葬る。〔名山記〕慶忌塔、在二昭慶寺北一、慶忌葬二於此一。

【慶基】26 ケイキ よろこびのもとゐ。〔後漢書、荀韓鍾陳傳贊〕慶基既啓、有レ蔚二潁濱一。

【慶喜】27 ケイキ よろこび。又、よろこびを喜ぶ。〔國語、魯語下〕固慶二其喜一、而弔二其憂一。

【慶期】28 ケイキ めでたい時期。〔謝朓、元會曲〕二儀啓二昌曆一、三陽應二慶期一。

【慶輝】29 ケイキ めでたいひかり。〔虞通之、明堂頌〕慶輝旁燭、休光下盈。

【慶儀】30 ケイギ　慶事に關する儀式。

【慶吉】31 ケイキツ　清、華冠(9－31214‥103)の字。

【慶仰】32 ケイギヤウ　よろこびあふぐ。〔南齊書、劉善明傳〕天地開創、人神慶仰。

【慶快】33 ケイクワイ　よろこぶ。〔北史、崔延伯傳〕比平峽石、公私慶快。

【慶會】34 ケイクワイ　めでたい會合。よろこばしい集會。嘉會。〔南史、劉穆之傳〕劉穆之家貧、好往㆓妻兄家㆒乞㆑食、妻江氏明識、每禁不㆑令㆑往、江氏後有㆓慶會㆒、穆之猶往、食畢求㆓檳榔㆒、江氏弟兄戲㆑之曰、檳榔消㆑食、君乃常饑、何忽須㆑此。〔春渚紀聞〕章申公父銀青公、年七十、集㆓賓親㆒爲㆓慶會㆒。

【慶桂】35 ケイケイ　清、滿洲鑲黃旗人。姓は章佳氏。尹繼善の子。字は樹齋。謚は文恪。貲財を納れて員外部を授けらる。邊境の事情を熟知し、再度、搭爾哈臺參贊大臣を授けらる。嘉慶中、文淵閣大學士となり、太保を加へられた。〔清史稿、三百四十七〕・〔清史列傳、二十七〕・〔國朝耆獻類徵、三十一〕。

【慶卿】36 ケイケイ　衞の國人が荊軻を呼んでいふ。〔史記、刺客傳〕荊軻者、衞人也、其先乃齊人、徙㆓於衞㆒、衞人謂㆓之慶卿㆒、而之㆑燕、燕人謂㆓之荊卿㆒。

【慶惠】37 ケイケイ　よろこびのめぐみ。〔後漢書、和帝紀〕廣施㆓慶惠㆒。

【慶元】38 ケイゲン　❶年號。㋑南宋、寧宗(趙惇)の時。(1195－1200) ㋺明、安南の重光帝(陳季擴)の時。一に重光に作る。(1409－1413) ❷縣名。宋、置く。浙江省龍泉縣の南。〔讀史方輿紀要、浙江、處州府〕慶元縣、本龍泉縣地、宋慶元二年、析㆓置慶元縣㆒、治㆓松源鄉㆒、以㆓紀年㆒爲㆑名、仍屬㆓處州㆒、明初、省入㆓龍泉縣㆒。〔清史稿、地理志〕浙江、處州府、縣十、慶元。❸清、鄭元慶(11－39647‥366)の一名。❹江戸初期の年號、慶長・元和の倂稱。

【慶元黨禁】39 ケイゲンタウキン　書名。一卷。撰者未詳。宋の理宗十八年の作。宋の寧宗の慶元二年八月に宰相韓侂胄が勢を得て朱子を斥け、趙汝愚を貶し、更に僞學の名を以て當時の名士を斥けた。世に之を慶元の黨禁といふ。此の書は之を取つて書名とし、宰執四人、待制已上十三人、餘官三十一人、武官三人、太學生六人、士人二人、凡て五十九人の始末を錄してゐる。〔四庫提要、史、傳記類〕。

【慶元黨禍】40 ケイゲンノタウクワ　南宋の寧宗の慶元年間、外戚の韓侂胄等が、大儒朱熹の徒を僞學となづけ、其の官途に就くこと及び著書の流布を禁じ、多くの名士を罪し、反對者を彈壓した事件。紹熙五年、光宗は心疾のために廢せられ、寧宗が立つたが、趙汝愚、右丞相となり、天下知名の士を召し、先づ朱熹を召して煥章閣待制兼侍講とした。時に韓侂胄は定策の功を負ひ、且つ其の女を納れて后とし、勢力漸く擡頭したが、朱熹は屢〻上疏して汝愚の厚く用ふべきことを述べ、却つて侂胄の怒を買つて遂に罷めさせられるに至つた。朱熹朝に立つこと纔かに四十六日であつた。朱熹去つて後、侂胄の權勢日に重く、汝愚を逐はんとし、汝愚が宗姓にして社稷を危くせんことを謀るといふ名目で右正言の李沐に劾せしめ、翌、慶元元年二月二十六日、汝愚を觀文殿大學士として福州の知に貶した。汝愚は相位に在ること數月にして罷めさせられ、連りに貶竄の禍にあひ、遂に藥を仰いで死んだ。是に於て侂胄の勢益〻振ひ、李沐・何澹・劉德秀・胡紘・沈繼相等を用ひて汝愚の黨を搏擊して遺さず、彭龜年・劉光祖・葉適・陳傅良・楊簡・呂祖儉・項安世等相繼いで貶竄され、四月、太學生楊宏中等六人は上書して却つて流され、留正は嘗て黨人を引用した故を以て亦黜竄された。かくて僞學の禁が起つた。僞學とは朱熹の道學を指したもので、貪黷放肆は人の眞情であり、廉潔好修は皆僞であるとして僞學といつた。慶元二年八月、侂胄の黨である太常少卿の、胡紘が上疏して僞學の取締るべきをいひ、學禁愈〻急となり、翌三年十二月、綿州の知、王沇が上疏して僞學の籍を置かん事を請ひ、仍つて僞學の罪を得るもの凡そ五十九人にのぼつた。宰執では趙汝愚・留正・王藺・周必大の四人、待制已上では朱熹・彭龜年・陳傅良・薛叔似・章穎・鄭湜・樓鑰・林大中・黃由・黃黼・何異・孫逢吉の十三人、餘官では劉光祖・呂祖儉・葉適・楊芳・項安世・沈有開・曾三聘・遊仲鴻・吳獵・李祥・楊簡・趙汝讜・趙汝談・陳峴・范仲黼・汪逵・孫元卿・袁燮・陳武・田澹・黃度・詹體仁・蔡幼學・黃灝・周南・吳柔勝・李𡌴・王厚之・孟浩・趙鞏・白炎震の三十一人、武臣では皇甫斌・范仲壬・張致遠の三人、太學生では楊宏中・周端朝・張衜・林仲麟・蔣傅・徐範の六人、士人では蔡元定・呂祖泰の二人である。翌五年五月、直學士兼中書舍人の高文虎に命じて詔を草して諭告せしめ、各各宜しく學說を轉向せしめ、復、疑似の說を借り世俗を惑亂すること無からしめた。かかる中にも朱熹は諸生と講學して止まず、慶元六年三月、七十一を以て卒した。同年九月、進士呂祖泰は、上書して世事を論じて忌憚なく、道學の恃むべく趙汝愚の用ふべきをいひ、韓侂胄・蘇師旦・周筠を誅すべきを請うた。中外大いに駭き、杖一百を加へて之を欽州に流した。僞學の禁は侂胄の專權に本づくものではあるが、實は京鏜が謀を創め、何澹・胡紘・劉德秀等が之を成したもので、京鏜が左丞相を以て死し、他の三人も位を罷めるに及んで、侂胄も又、漸く前事の乖戾を厭ふに至つた。恰も張孝伯が黨禁を弛めねば報復の禍を免れないことをいふに及び、嘉泰二年二月、黨禁を弛め、趙汝愚は資政殿學士に追復せられ、黨人の殘存者は皆先後して復官した。其の後、黨人は屢〻追贈・追封され、朱熹は理宗の淳祐元年、孔廟に從祀されたが、韓侂胄は宋金關係の惡化した開禧三年、誅に伏し、宋史も又姦臣傳に列した。〔宋元學案、慶元黨案〕元祐黨案、祖望謹案、元祐之學、二蔡二惇禁㆑之、中興而豐國趙公弛㆑之、和議起、秦檜又禁㆑之、紹興之末、又弛㆑之、鄭丙陳賈忌㆓晦翁㆒又啓㆑之、而一變爲㆓慶元之錮籍㆒矣、此兩宋治亂存亡之所㆑關、嘉定而後、陽崇㆑之而陰摧㆑之、儒術亦漸衰矣、其事跡已散㆓見諸公傳㆒、又放㆓大事表之意㆒、述㆓元祐慶元黨案㆒、以至㆘晚宋如㆓周密之徒㆒、凡詆㆓詈諸儒㆒者㆖皆附㆑之。

【慶唁】41 ケイゲン　よろこび祝ふことと、災をとむらふこと。慶弔。〔陸游、憶㆑昔詩〕一朝窮達異、相遇忘㆓慶唁㆒。

【慶功】42 chʻing^4 kung^1　功績に報いる祝賀。

【慶鴻】43 ケイコウ　後漢、洛陽の人。慷慨義節あり、杜陵の廉范と刎頸の交を爲す。時人稱して前に管鮑あり後に慶廉ありといつた。官は琅琊・會稽二郡の太守。〔後漢書、六十一〕。

【慶克】44 ケイコク　春秋、齊の大夫。聲孟子に通じ、婦人と衣を蒙り輦に乘つて宮門に入る。鮑牽、見て國佐に告げ、國佐、克を召して謂ふ。克、孟子に告げ、孟子、遂に鮑牽を刖す。崔杼、大夫となり、克、之を佐け、師を帥ゐて盧を圍む。國佐、諸侯に從つて鄭を圍んで歸り、盧師に行き、克を殺した。〔左氏、成、十七〕。

【慶削】45 ケイサク　人の手紙の敬稱。〔山堂肆考〕稱㆓人書簡㆒曰㆓慶削㆒、亦曰㆓良書㆒。

【慶朔】46 ケイサク　范仲淹が、鄱陽に謫せられた時に營んだ堂の名。〔卻掃編〕范文正公、自㆓京尹㆒謫㆓守鄱陽㆒、作㆓堂于後圃㆒、名曰㆓慶朔㆒。

【慶朔堂】47 ケイサクダウ　明代、戲曲の名。周憲王の作。宋の范仲淹が饒州刺史であつた時、妓女甄金蓮と契を結び、遂に迎へて夫人としたことを敍す。〔奢摩他室曲叢、第二集〕。

【慶讚】48 ケイサン　[佛]寺院・佛像などの落成を慶賀稱讚すること。慶懺。〔安像三昧儀軌經〕安像慶讚。

【慶士】49 ケイシ　善士。又、卿士(2－2879‥15)に同じ。〔禮、祭統〕作㆓率慶士㆒、躬恤㆓衞國㆒。〔注〕慶、善也、士之言、事也。〔集說〕慶、卿也、古卿・慶同音、字亦同用、故慶雲亦言㆓卿雲㆒。

【慶子】50 ケイシ　晉、檀憑之(6－15632‥71)の字。

【慶之】51 ケイシ　字號。❶唐、李祐(6－14459‥26)の字。❷宋、易元吉(5－13814‥194)の字。❸宋、吳延祚(2－3365‥444)の字。❹宋、蕭賀(9－32012‥33)の字。❺宋、愼從吉(4－11024‥99)の字。❻宋、任中正(1－416‥237)の字。

【慶始】52 ケイシ　後魏、陸昕之(11－41708‥294)の字。

【慶嗣】53 ケイシ　宋、歐陽光祖(6－16185‥114)の字。

【慶賜】54 ケイシ　おほめのたまもの。賞賜。〔禮、月令〕慶賜遂行、毋㆑有㆑不㆑當。〔呂覽、孟夏〕封㆑侯慶賜、無㆑不㆓欣說㆒。

【慶事】55ケイジ よろこびごと。めでたいこと。いはひごと。〔揮麈後錄〕建中靖國、徽宗初郊、云云、在㆓於當日㆒、爲㆓一時之慶事㆒。

【慶時】56ケイジ 後魏、王遇(7−20823‥273)の字。

【慶滋】57ヨシシゲ 姓氏。〔姓名錄抄〕。

【慶州】58ケイシウ ㊀州名。㋑隋、置く。宋、改めて慶陽府とす。今の甘肅省慶陽縣治。〔讀史方輿紀要、陝西〕慶陽府、禹貢雍州地、隋開皇十六年、置㆓慶州㆒、大業初、改㆓宏化郡㆒、唐復爲㆓慶州㆒。㋺遼、置く。故城は內蒙古巴林の西北。喀喇木倫河の旁。蒙古名は插漢城。〔遼史、地理志一〕慶州玄寧軍有㆓黑山赤山㆒。〔讀史方輿紀要、直隸、附考、兀良哈〕廢慶州、志云、本太保山黑河之地、巖谷險峻、遼主述律、建㆑城號㆓黑河州㆒、後廢、聖宗隆緒、復建㆓慶州㆒。㊁朝鮮慶尙北道慶州郡の首邑。新羅五十餘代、九百年の王都であつた地。〔讀史方輿紀要、山東、外國附考、朝鮮〕慶尙道、治、慶州、在㆓王京東南面㆒。

【慶周】59ケイシウ よろこびがあまねくゆきわたる。〔顏延之、重釋㆓何衡陽達生論㆒書〕慶周㆓兆物㆒、尊冠㆓百神㆒。

【慶集】60ケイシフ 後魏、薛慶之(9−32123‥166)の字。

【慶祥】61ケイシヤウ ㊀めでたいしるし。〔宋史、樂志十三〕皇仁溥博、品物蕃滋、慶祥回復、秀㆓發神芝㆒。㊁清、蒙古正白旗人。姓は博特氏。謚は壯直。嘉慶中、教匪李文成を勦伐するのに協力して功をたて、喀什爾參贊に任ぜられた。張格爾が喀城を破るや、自經して死んだ。〔清史稿、三百七十四〕・〔清史列傳、三十五〕・〔國朝耆獻類徵、三百七十二〕。

【慶彰】62ケイシヤウ さいはひがあらはれる。〔孫綽、喻道論〕立㆓德闇昧之中㆒、而慶彰㆓萬物之上㆒。

【慶賞】63ケイシヤウ 恩賞を賜ふこと。〔周禮、地官、族師〕刑罰慶賞、相及相共。〔禮、祭統〕慶賞聲名列㆓於天下㆒。〔莊子、達生〕不㆔敢懷㆓慶賞爵祿㆒。〔荀子、王制〕勉㆑之以㆓慶賞㆒。〔韓非子、二柄〕殺戮之謂㆑刑、慶賞之謂㆑德。〔管子、牧民〕開㆓必得之門㆒者、信㆓慶賞㆒也。

【慶城】64ケイジヤウ 縣名。民國、黑龍江省餘慶縣を改めて置く。縣は餘慶城を治す。故に名づける。滿州黑龍江省綏化縣の東北、呼蘭河の南岸。

【慶壽】65ケイジユ ㊀天子の誕生日。〔宋史、高宗紀七〕紹興十九年、春正月甲申朔、以㆓皇太后年七十㆒、帝詣㆓慈寧殿㆒、行㆓慶壽禮㆒。〔文獻通考、刑考、赦宥〕宋孝宗、淳熙十年、行㆓太上皇帝慶壽禮㆒赦。㊁後魏、宇文延(3−7067‥38)の字。

【慶叔】66ケイシユク 宋、莫抃(9−31078‥72)の字。

【慶恤】67ケイジユツ よろこびとうれひ。〔張方平、復㆓州縣官職田㆒敕〕冠婚喪祭有㆑所㆑擧、慶恤饋問有㆑所㆑施。

【慶純】68ケイジユン さいはひがあつい。〔陸雲、答㆓兄平原㆒書〕仍㆓世上司㆒、芳流慶雲純。

【慶緒】69ケイシヨ ㊀さいはひのいとぐち。〔魏書、李騫傳〕騫釋情賦曰、旣公侯之必復、亦慶緒之所㆑融。〔庾信、周宗廟歌、皇夏〕慶緒千重秀、洪源萬里長。㊁字號。㋑晉、謝敷(10−35827‥197)の字。㋺梁、孔休源(3−6933‥274)の字。

【慶諸】70ケイシヨ ㊀唐の高僧。新淦の陳氏の子。潭州の石霜山に住し、光啓中、遷化した。〔宋高僧傳、十二〕。㊁唐、石霜(8−24024‥332)の名。

【慶色】71ケイシヨク よろこびの顏色。〔黃庭堅、祈㆑雨文〕旱苗蘇醒、民有㆓慶色㆒。

【慶臣】72ケイシン 唐、宋申錫(3−7078‥326)の字。

【慶深】73ケイシン さいはひがふかい。〔宋書、司馬皇太妃傳〕德厚者禮尊、慶深者位極。

【慶垂】74ケイスイ さいはひがたれる。〔樂府詩集、郊廟歌辭、唐太淸宮樂章、沖和〕雲車至止、慶垂愔愔。

【慶瑞】75ケイズイ めでたいしるし。めでたいえんぎ。祥瑞。吉兆。休徵。〔宋史、禮志十九〕凡國有㆓大慶瑞及出師勝捷㆒、樞密使率㆓內職軍校㆒入賀。〔宋史、樂志〕皇扉四闢、導㆓迎慶瑞㆒。

【慶崇】76ケイスウ 宋、蔡崈(9−31818‥54)の字。

【慶成】77ケイセイ 祭祀の畢ること。〔曾鞏、郊祀慶成詩進狀〕謹作㆓五言郊祀慶成詩一首㆒。

【慶昭】78ケイセウ よろこびがあきらかにあらはれる。〔隋書、音樂志上〕德暢㆓容辭㆒、慶昭㆓羽綴㆒。

【慶霄】79ケイセウ めでたいくも。慶雲。〔謝瞻、張子房詩〕明兩燭㆓河陰㆒、慶霄薄㆓汾陽㆒。〔注〕向曰、慶霄、慶雲也。〔權德輿、齊成公碑〕鵬起㆓扶搖㆒、鸞翔㆓慶霄㆒。

【慶節】80ケイセツ めでたい日。祝日。〔舊唐書、音樂志三〕庶幾承㆓慶節㆒、歆奠㆓卜帷宮㆒。

【慶先】81ケイセン 後唐、馬胤孫(12−44572‥691)の字。

【慶羨】82ケイセン よろこびしたふ。〔後漢書、張酺傳〕奉㆑酒上㆑壽、極㆑歡卒㆑日、衆人皆慶㆓羨之㆒。

【慶善】83ケイゼン ㊀めでたいこと。めでたくよい。〔易、豐、來㆑章有㆓慶譽㆒吉、疏〕能自光大、章㆓顯其德㆒、而獲㆓慶善㆒也。㊁宋、洪興祖(6−17402‥238)の字。

〖慶善樓〗84ケイゼンロウ 宋、陳貽範(11−41698‥631)の室名。

【慶祖】85ケイソ 後魏、盧道虔(8−23050‥270)の字。

【慶祚】86ケイソ めでたいさいはひ。大なる幸福。〔朱浮、爲㆓幽州牧㆒與㆓彭寵㆒書〕捐㆓傳葉之慶祚㆒、招㆓破敗之重災㆒。〔魏志、王朗傳、注〕稽㆑古先民、開㆓誕慶祚㆒。

【慶曾】87ケイソウ 宋、嚴昌裔(2−4589‥283′)の字。

【慶孫】88ケイソン 宋、楊克讓(6−15112‥534)の字。

【慶泰】89ケイタイ めでたくやすらか。〔謝靈運、擬㆓太子鄴中集㆒、王粲詩〕慶泰欲㆓重疊㆒、公子特先賞。

【慶鬧】90 chʻing^4 nao^4 樂しげに騷ぐ。

【慶澤】91ケイタク さいはひのめぐみ。恩惠。〔元稹、處㆓分幽州㆒詔〕八州之內、九賦用殷、慶澤旁流、所㆑宜㆓霑貸㆒。

【慶覃】92ケイタン さいはひが及ぶ。〔沈約、梁雅樂歌、滌雅〕駿奔伊在、慶覃㆓遐嗣㆒。〔江淹、薦㆑豆呈㆓毛血㆒歌辭〕薦通㆓蒼祇㆒、慶覃㆓黎黑㆒。

【慶誕】93ケイタン めでたい誕生日。〔白居易、三教論衡序〕臣故略而不㆑言、唯序㆓慶誕㆒、贊㆓休明㆒而已、云云、天人合應之期、元聖慶誕之日。

【慶長】94ケイチヤウ 第百七代後陽成天皇・第百八代後水尾天皇の年號。(1596−1615)〔菅原爲經勘文〕毛詩注疏曰、文王功德深厚、故福慶延長。

〖慶長金〗95ケイチヤウキン 慶長年間に鑄造した大判・小判の總稱。

〖慶長銀〗96ケイチヤウギン 慶長金と同時代に鑄造した豆銀。丁銀の總稱。

〖慶長判〗97ケイチヤウバン 慶長金に同じ。

〖慶長版〗98ケイチヤウバン 慶長年間に出版された書籍の總稱。版式には銅活字・木活字・整版等種々ある。

〖慶長敕版本〗99ケイチヤウチヨクハンポン 後陽成天皇の敕命によつて慶長年間に出版された書籍の總稱。略して慶長敕版ともいふ。古文孝經・錦繡段・日本書紀・職原抄等の諸書がある。

【慶鄭】100ケイテイ 春秋、晉の人。惠公の時の大夫。晉が饑ゑた時、秦は粟を晉におくつたが、秦の饑ゑるや、晉は粟を秦に賣り出すことを禁じた。慶鄭は之を諫めたが聽かれず。秦の晉を伐つに及び、晉は戰はんとし、又、諫めたが聽かれず、晉軍は、終に敗績した。惠公は秦から歸るに及び、慶鄭を殺して後に入つた。〔左氏、僖、十四・十五〕。

【慶弔】101ケイテウ よろこび事とくやみ事。慶事と凶事。吉凶。〔荀子、大略〕下卿進曰、敬戒無㆑怠、慶者在㆑堂、弔者在㆑閭、禍與㆑福鄰、莫㆑知㆓其門㆒。〔史記、蘇秦傳〕是何慶弔相隨之速也。〔魏志、陳思王植傳〕通㆓慶弔之情㆒。

〖慶弔不㆑行〗102ケイテウユカズ 吉凶の挨拶に往來しないこと。〔後漢書、荀爽傳〕爽遂耽㆓思經書㆒、慶弔不㆑行、徵命不㆑應。

【慶典】103ケイテン 國家の慶賀の典禮。祝賀の式典。祝典。〔宋史、樂志十六〕曆聞慶典年年擧、千古播㆓徽音㆒。

【慶甸】104ケイデン 縣名。元、置く。もと漢の益州郡徼外の地。故治は雲南省順寧縣の南。〔讀史方輿紀要、雲南〕順寧府、蠻古夷地、地名㆓慶甸㆒、蒲蠻居㆑之。

【慶都】105ケイト 上古の人。陳鋒氏の女。帝嚳の妃。堯の母。〔宋書、符瑞志上〕帝堯之母曰㆓慶都㆒、生㆓於斗維之野㆒、嘗有㆓黃雲㆒覆㆓護其上㆒、赤龍感㆑之、孕十四月、而生㆓堯於丹陵㆒。

【慶圖】106ケイト めでたいはかりごと。〔南齊書、樂志〕慶圖濬邈、蘊㆑祥祕㆑瑤。

【慶騰】107ケイトウ よろこびが上聞に達する。〔宋祁、賀㆑生㆓王子㆒表〕慶騰㆓祕禁㆒、歡溢㆓中區㆒。

【慶童】108ケイドウ 元の人。康里氏。字は明德。遼陽行省平章政事となり、後、中書平章政事となる。至正の末、明兵の京師に逼るや、帝、北奔し、淮王に命じて國を監せしめ、慶童は中書左丞相とな

つたが、京城破れて殺された。〔元史、一百四十二〕。

【慶德】109ケイトク　明末、清初、越の神宗淵皇帝（黎維祺）の年號。（1649－1653）

【慶保】110ケイハウ　清の人。慶桂の弟。字は佑之。號は蕉園。官は廣州將軍。畫に巧。〔清畫家詩史、丁、上〕。

【慶伯】111ケイハク　字號。❶元、吳會（**2－3365**‥125）の字。❷清、楊重雅（**6－15112**‥701）の字。❸清、李遇孫（**6－14459**‥1038）の字。

〖慶伯利〗112キンバレー　地名。南阿聯邦、ケープ州にある金剛石の產地。Kimberley の音譯。

【慶閥】113ケイバツ　めでたいいさを。〔曾鞏、賀三韓相公赴二許州一啓〕出二堯舜之盛時一、紹二章平之慶閥一。

【慶賓】114ケイヒン　後魏、張彝（**4－9812**‥8）の字。

【慶符】115ケイフ　❶縣名。宋初、置く。四川省珙縣の西北。長江の南に位す。〔讀史方輿紀要、四川、敍州府〕慶符縣、漢南廣縣地、唐南溪縣地、宋敍州徼外地也、政和三年、置二慶符縣一、幷置二祥州治一焉。〔清史稿、地理志〕四川、敍州府、縣十一、慶符。❷宋、張伯麟（**4－9812**‥1452）の字。

【慶普】116ケイフ　漢、沛の人。字は孝公。戴德・戴聖と共に禮を后蒼に受け、大戴・小戴と並んで慶氏の學を立てた。仕へて東平太傅となる。〔漢書、三十〕。

【慶封】117ケイフウ ケイホウ　春秋、齊の大夫。克の子。字は子家。崔杼と莊公を殺さうと謀る。莊公死し、景公を立て、崔杼之が相となる。杼の子の後嗣を爭つて私鬪するや、封は、盧蒲嫳をして甲兵を興して之を誅し、盡く杼の妻子及び其の屬を殺さしめた。杼は、歸する所なくて自殺し、封、遂に景公の相となる。景公之を苦しみ、陳無宇・公孫竈・公孫蠆と封を誅せんと謀り、封、鬪つて勝たず、魯に走り、又、吳に赴く。吳、之に朱方の地を與ふ。楚の靈王の吳を伐つや、朱方を拔き、封を得て之を殺した。〔左氏、成、十八。襄、十九・二十五・二十七・二十八。昭、四・十〕・〔史記、三十二〕。

【慶復】118ケイフク　唐、陳京（**11－41698**‥203）の字。

【慶福】119ケイフク　❶めでたいさいはひ。慶幸。❷清、滿洲鑲黃旗人。佟國維の子。一等公を襲爵。乾隆中、川陝總督となる。時に四川口外の土司瞻對が、險を恃んで劫掠を肆にし、土酋班滾、又命に抗したため、慶福は、兵を率ゐて進攻し、其の巢寨を搗き、文華殿大學士を授けられたが、妄りに班滾を焚死せしめた故を以て自盡を賜はつた。〔滿洲名臣傳、四十二〕。

【慶抃】120ケイベン　よろこんで手をうつ。〔劉禹錫、爲二杜相公一代謝二冬衣一表〕慶抃失レ圖、捧戴相賀。

【慶勉】121ケイベン　よろこびつとめる。〔管子、版法〕慶二勉敦敬一以顯レ之。

【慶父】122ケイホ　❶春秋、魯の人。莊公の母弟。卽ち共仲。哀姜に通じ、哀姜、之を立てようとしたが、閔公立ち、共仲は、卜齮をして公を武闈に害せしめた。成季、僖公をつれて邾に適き、共仲は莒に奔つた。僖公入つて立ち、莒に賂して共仲を求め、莒人、共仲を歸送したが、密に及んで自縊す。〔左氏、莊、三十二。閔、元〕・〔史記、三十三〕。❷複姓。〔萬姓統譜〕慶父、世本、楚大夫、慶父之後。

【慶甫】123ケイホ　字號。❶元、陳祜（**11－41698**‥237）の字。❷明、田稔（**7－21723**‥173）の字。

【慶命】124ケイメイ　よいまはりあはせ。めでたい運勢。〔晉書、孫惠傳〕不レ能下起二鵲於慶命之會一、拔中劍於時哉之機上。　「本名。

【慶明】125ケイメイ　北周、長孫儉（**11－41100**‥588）の字。

【慶綿】126ケイメン　よろこびがつらなる。さいはひがつづく。〔晉書、赫連勃勃載記〕純曜未レ渝、慶綿二萬祀一。〔宋史、樂志八〕澤深慶綿。

【慶門】127ケイモン　よろこびのある家。人の家の尊稱。〔剪燈餘話續集、賈雲華還魂記〕慶門誕レ瓦、寒舍得レ雄。

【慶問】128ケイモン　よろこびたづねる。〔曹植、求レ通二親親一表〕諸國慶問、四節得レ展。

【慶陽】129ケイヤウ　❶府名。宋、置く。清では甘肅に屬し、寧州及び安化・合水・環・正寧の四縣を管轄す。安化を治とす。〔清史稿、地理志〕甘肅、慶陽府、領州一、縣四、安化・合水・環・正寧、寧州。❷縣名。民國、置く。隋の慶州。甘肅省合水縣の西。縣城は環江に瀕す。

【慶躍】130ケイヤク　よろこびをどる。〔徐陵、爲二陳武皇一作レ相時與二酋豪一書〕萬里澄清、人神慶躍。

【慶預】131ケイヨ　晉、戴凱之（**5－11685**‥155）の字。

【慶餘】132ケイヨ　祖先が善事を行つたために其の子孫にのこる幸福。餘慶（**12－44185**‥85）に同じ。〔庾信、小園賦〕昔草濫二於吹噓一、藉二文言之慶餘一。

【慶譽】133ケイヨ　めでたいほまれ。〔易、豐〕來レ章有二慶譽一吉。

【慶雍】134ケイヨウ　後魏、趙肅（**10－37171**‥215）の字。

【慶膺】135ケイヨウ　よろこびをうける。〔顏延之、宋文皇帝元皇后哀策文〕昭哉世族、祥發慶膺。

【慶來】136ケイライ　❶よろこびがくる。〔易林、蒙之第四、咸〕憂禍解除、喜至慶來。〔隋書、音樂志上〕福至有レ兆、慶來無レ際。❷清、張豐亨（**4－9812**‥1519）の字。

【慶賴】137ケイライ　よろこびたよる。〔令狐楚、代二鄭尙書一賀下冊二太后一禮畢赦上表〕天子以二德教一而兆人慶賴、明王以二孝理一而百姓和平。

【慶蘭】138ケイラン　清の人。慶桂の弟。字は似村（仲村）。號は絢春園。嘉慶の諸生。家世〻貴盛。獨り僻巷に居り、吟詠に耽り、繪事に巧。詩を以て袁枚と相許し、數十年間、郵筒往來して虛日がなかつた。著に絢春園詩鈔がある。〔國朝耆獻類徵、四百四十二〕。

【慶陵】139ケイリヨウ　陵の名。❶唐の懿宗の母、鼂太后の陵。陝西省長安縣。〔唐書、宣宗鼂后傳〕配二主宣宗廟一、自建レ陵曰二慶陵一、置二宮寢一。❷五代、周の世宗の陵。河南省新鄭縣の北。〔五代史、周世宗紀〕顯德六年十一月壬寅、葬二睿武孝文皇帝於慶陵一。〔注〕在二鄭州管城縣一。〔太平寰宇記〕管城縣、周世宗慶陵、在二邑界一、恭帝順陵、卽葬二其側一。〔開封府志〕世宗陵、在二鄭州南五十里一。❸宋の順祖の陵。河北省清苑縣の東南。❹遼の聖宗の陵。滿洲熱河省。〔遼史、興宗紀一〕（景福元年）秋七月甲寅、以二觀察姚居信一爲二上將軍一、建二慶州於慶陵之南一云云、十一月甲午、葬二文武大孝宣皇帝於慶陵一。❺遼の興宗の陵。滿洲熱河省。〔遼史、道宗紀〕重熙二十四年十一月甲子、葬二興宗皇帝於慶陵一。❻遼の道宗の陵。滿洲熱河省。〔遼史、天祚紀一〕乾統元年六月辛亥、葬二仁聖大孝文皇帝・宣懿皇后於慶陵一。❼明の光宗の陵。河北省昌平縣天壽山。〔明史、光宗紀〕泰昌元年冬十月、上二尊諡一、廟號二光宗一、葬二慶陵一。〔昌平山水記〕慶陵、在二天壽山西峯之右一、距二獻陵一西北一里。

【慶霖】140ケイリン　清の人。慶保の弟。號は晴村。嘉慶中、福州將軍となる。文墨を嗜み、善く蘭を畫いた。〔國朝耆獻類徵、三百一〕。

【慶禮】141ケイレイ　よろこびの禮。〔禮、投壺〕慶禮曰、三馬既備、請慶二多馬一。

【慶靈】142ケイレイ　めでたい神靈。〔謝靈運、山居賦〕表二神異於緯牒一、驗二感應於慶靈一。〔謝靈運、歸塗賦〕承二百世之慶靈一、遇二千載之優渥一。

【慶曆】143ケイレキ　宋、仁宗の年號。（1041－1048）

〖慶曆之治〗144ケイレキノチ　北宋の仁宗の慶曆年間は、北宋の國運の極盛期で文物大いに榮え、特に人材の輩出したことは前後無比と稱せられ、韓琦・范仲淹・富弼・歐陽脩・司馬光等の名臣を初め、名儒に胡瑗・周敦頤・邵雍・張載・程顥・程頤あり、文豪に歐陽脩・蘇洵・曾鞏・梅堯臣等があり、蘇軾・蘇轍の兄弟及び王安石の文名も此の頃から著はれた。此の盛世を謳歌して世に慶曆の治と稱したが、邊境漸く多事にして、內には黨爭の弊、漸く熾烈となり、二十年後には王安石の改革となつたもので、慶曆の前後は實に北宋の極盛時であると同時に、衰退の第一步を踏み出した時代である。〔續資治通鑑長編、一百四十一－一百四十三〕。

〖慶曆黨議〗145ケイレキノタウギ　北宋の仁宗の慶曆年間の朝廷に於ける朋黨の爭議をいふ。宋は前代の武臣跋扈の弊に鑑み、文治主義を採り、學術を獎勵したので人材輩出し、殊に慶曆年間は文治政策の最高潮に達し、慶曆の治と稱せられた時代であるが、一面に議論を好む風を生じ、政治家的實際派と學究的理想派との衝突、及び政權をめぐる黨爭論議が絕えなかつた。仁宗の時、皇后郭氏の廢立に端を發して起つた激烈な爭が卽ち慶曆の黨議で、宰相呂夷簡は皇后にふくむ所があつたので廢立を主張し、臺諫范仲淹は其の非を鳴らして之に反對し、ために一旦却けられ、後再び朝に入つて屢〻時政を論議したので、

再び夷簡のために貶せられ、之に抗議した余靖・尹洙・歐陽脩等も貶せられた。後、夷簡罷めさせられ、歐陽脩等朝に入り、范仲淹が宰相となる。其の後、樞密使夏竦罷めさせられ、杜衍之に代るや、夏竦は杜衍・范仲淹等を目して黨人となしたので、諫官の歐陽脩は朋黨論を作り、義を以て合するは君子の眞朋で、利を以て集まるは小人の僞朋と論じた。これ以來黨爭は次の英宗の朝に及び、更に神宗の朝に入つて遂に新舊兩黨の大政爭となつた。

【慶曆頌德詩】146（ケイレキシヨウトクノシ）　詞章の名。宋、石介作。四言體、凡て九百六十字。宋の仁宗の時、樞密使夏竦が職を罷め、宰相呂夷簡も又罷めさせられ、章得象・晏殊・賈昌朝・韓琦・范仲淹・富弼同時に執政となり、歐陽脩・蔡襄・王素・余靖竝に諫官となり、名士が朝に列したので、天下大いに喜び、時の國子監直講石介は之を喜んで慶曆頌德詩を作つた。〔蘇軾、范文正公文集序〕魯人石守道所レ作慶曆頌德詩。

【慶廉】147（ケイレン）　後漢の慶鴻と廉范をいふ。轉じて、朋友の交情の親密な喩。〔後漢書、廉范傳〕范與二洛陽慶鴻一爲二刎頸交一、時人稱曰下前有二管鮑一、後有中慶廉上。

【慶魯】148（ケイロ）　宋、王次翁(**7－20823**‥1600)の字。

【慶和】149（ケイワ）　隋、李和(**6－14459**‥230)の本名。

【慶佐次】150（キサズ）　琉球(**7－20978**‥1)の地名。

【慶山奴】151（ケイサンド）　金、完顏承立(**3－7079**‥93)の一名。

【慶氏學】152（ケイシガク）　漢の慶普の傳へた禮記學の一派。漢代に蕭奮といふものが禮に通じ、其の弟子孟卿が之を后蒼と閭丘卿に傳へ、后蒼は曲臺記九篇を撰し、之を后氏禮といひ、蒼は更に聞人通漢・慶普・戴德・戴聖の四人に傳へた。慶普の傳へたものを慶氏禮といひ、一旦學官に立てられたが次第に衰微し、遂に亡佚するに至つた。〔漢書、孟卿傳〕孟卿、東海人也、事二蕭奮一以授二后倉・魯閭丘卿一、倉說二禮數萬言一、號曰二后氏曲臺記一、授二沛聞人通漢子方・梁戴德延君・戴聖次君・沛慶普孝公一、孝公爲二東平太傅一、德號二大戴一、爲二信都太傅一、聖號二小戴一、以二博士一論二石渠一、至二九江太守一、由レ是禮有二大戴・小戴・慶氏之學一。

【慶氏禮】153（ケイシレイ）　慶氏學に同じ。〔後漢書、衞宏傳〕前書魯高堂生、漢興、傳二禮十七篇一、後瑕丘蕭奮、以授二同郡后蒼一、蒼授二梁人戴德、及德兄子聖・沛人慶普一、於レ是德爲二大戴禮一、聖爲二小戴禮一、普爲二慶氏禮一、三家皆立二博士一。

【慶尙道】154（ケイシヤウダウ）　地名。朝鮮東南部。南北兩道に分つ。北道の首都は大邱、南道の首都は晉州。〔讀史方輿紀要、山東、外國附考、朝鮮〕慶尙道、治慶州、在二王京東南面一、本辰韓地、後爲二新羅國一、濱海與二日本一相對、爲二朝鮮之屛蔽一。

【慶春宮】155（ケイシユンキユウ）　詞牌の名。平仄二韻があり、平韻は北宋に始まり、仄韻は南宋に始まるといふ。慶宮春ともいふ。

【慶親王】156（ケイシンワウ）　清の宗室。❶永璘。乾隆帝の第十七子。嘉慶二十五年疾を得、天聽に達するや、慶郡王より慶親王に進封せられたが、同年卒した。諡は僖。〔清史稿、二百二十七〕❷奕劻。永璘の孫。綿性の子。光緒十年以來、諸大臣に歷任し、北清事變の際は各國と交涉して和を講じた。宣統三年、內閣を組織したが、失政のため革命を勃發させるに至つた。民國六年卒す。諡は蜜。〔清史稿、二百二十七〕

【慶靖王】157（ケイセイワウ）　明、朱㮵(**6－14424**‥429)の封諡號。

【慶千秋】158（ケイセンジウ）　詞牌の名。〔詞譜〕調見二翰墨全書一、周密天基聖節樂次云、第十盞、笛獨二吹高平調慶千秋一。

【慶頂珠】159（ケイチヤウシユ）　清代、花部戲曲の篇名。一名、打魚殺家。蕭恩といふものが事を以て豪家の丁某を恨み、一家を慘殺して遁逃することを演ずる。〔戲考、二〕

【慶豐司】160（ケイホウシ）　官署の名。清、置く。內務府に屬し、牛羊の羣牧其の他の牧畜を司る。

【慶湖遺老】161（ケイコキラウ）　宋、賀鑄(**10－36725**‥79)の號。

【慶湖遺老集】162（ケイコキラウシフ）　書名。九卷。拾遺一卷、補遺一卷。宋、賀鑄撰。此の集は初、元祐己卯以前の作を前集九卷とし、以後の詩を後集十一卷とした。後、兵火のために後集は散佚し、紹熙中、鑄の子孫が其の逸篇を掇拾し、其の後、澄といふ者が拾遺として刻した。其の內容は、歌行・賦共一卷・古詩三卷・近體詩一卷・近體詩長句二卷・五言絕句一卷・七言絕句一卷。

【慶殿之會】163（ケイデンノクワイ）　落成式をいふ。〔剪燈新話、水宮慶會錄〕請三其王赴二慶殿之會一。

【慶者在レ堂弔者在レ閭】164（ケイシヤダウニアリテウシヤリヨニアリ）　よろこびをいふ者が堂に在るかと思へば、くやみをいふ者が門に來てゐる。人生の禍福はあてにならないことをいふ。〔荀子、大略〕敬戒無レ怠、慶者在レ堂、弔者在レ閭、禍與レ福鄰、莫レ知二其門一。

【慷】
11146

［一］カウ　〔集韻〕口朗切　ㄎㄤˇ　k'ang^{3}　養
［二］カウ　〔正韻〕口浪切　漾
［三］カウ　〔集韻〕丘岡切　ㄎㄤ　k'ang^{1}　陽

［一］［二］［三］❶**いきどほる。いきどほりなげく。**忼(**4－10403**)に同じ。〔集韻〕慷、慷慨、憤意。〔後漢書、齊武王縯傳〕性剛毅慷慨。❷**情がたかぶる。**〔正韻〕慷、慷慨、激昂之意。

【慷愾】1（カウガイ）　慷慨に同じ。〔吳志、步隲傳〕慷愾之趨、惟篤二人物一。〔陸機、漢高祖功臣頌〕周苛慷愾、心若レ懷レ冰。

【慷慨】2（カウガイ）　忼慨。❶いきどほりなげく。いきどほつて心を奮ひ起すこと。感激悲憤する。〔史記、高祖紀〕高祖乃起舞、慷慨傷レ懷、泣數行下。〔吳志、嚴畯傳〕發レ言慷慨、至二於流涕一。〔曹植、箜篌引〕秦箏何慷慨、齊瑟和且柔。〔注〕銑曰、慷慨、猶二激揚一也。❷意氣盛で感激し易い性質。〔後漢書、宗室四王三侯、齊武王縯傳〕性剛毅慷慨、有二大節一、自二王莽簒レ漢、常憤憤懷下復二社稷一之慮上。❸志を失ふさま。悲歎のさま。〔司馬相如、長門賦〕貫歷二覽其中操一兮、意慷慨而自卬。〔趙至、與二嵇茂齊一書〕徘二徊九皋之內一、慷二慨重皐之巔一。〔注〕翰曰、慷慨、失レ志貌。❹k'ang^{1} k'ai^{3} 錢財を出すことを惜しまないこと。

【慷慨家】3（カウガイカ）　國家社會のために慷慨して奔走する人。又、よく慷慨する性質の人。

【慷慨悲憤】4（カウガイヒフン）　劇しく慷慨すること。悲憤慷慨に同じ。

【慷慨憤激】5（カウガイフンゲキ）　劇しくいきどほりなげく。〔日本政記、九條廢帝論〕其閒豈無下慷慨憤激、欲二起而擊レ之者上哉。

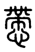
【慷慨搤腕】6（カウガイヤクワン）　いきどほりなげいて腕をきびしく握る。〔重野成齋、橋本景岳墓表〕君之達見老識、豈慷慨搤腕、取二快一時一。

【慷慨志猶存】6′（カウガイノココロザシナホソンス）　君國を思ひ時世を救はうとする志はまだ殘つてゐる。〔魏徵、述懷詩〕縱橫計不レ就、慷慨志猶存。

【慷慨赴レ死易】7（カウガイシニオモムクハヤスシ）　一時の怒に乘じて死ぬことは敢へてむつかしいことではない。〔謝枋得、上二丞相劉忠齋一書〕感慨殺レ身者易。司馬子長有レ言、人莫レ不レ有二一死一、或重二於泰山一、或輕二於鴻毛一、先民廣二其說一曰、慷慨赴レ死易、從容就レ義難。

【慷喟】8（カウキ）　なげく。いきどほりなげく。〔孔叢子、論書〕可二以發レ憤慷喟一。

【慸】
11147


小篆

［一］テイ ダイ　〔集韻〕大計切　霽
［二］セイ　〔集韻〕尺制切　霽
［三］タイ　〔廣韻〕丑犗切　卦

［一］❶**たかい。**嵽(**4－8391**)に通ず。〔說文〕慸、高也、从レ心帶聲。〔段注〕集韻曰、岹嵽、山形、音義同。❷**きはまる。**〔說文〕慸、一曰、極也。❸**つかれる。**懘(**4－11363**)に同じ。〔說文〕慸、一曰、困劣也。〔段注〕樂記、則無二怗懘之音一、注云、怗懘、弊敗不レ和之皃、懘卽慸之譌。［二］**音がやぶれて調和しない。**滯(**7－18075**)に同じ。〔集韻〕滯、音敗不レ和也、亦作レ慸。［三］❶**きはまる。**［一］の❷に同じ。〔廣韻〕慸、極也。❷**おとる。**〔廣韻〕慸、劣也。❸**とげ。**

さす。もとる。慸芥(1)を見よ。㊃慸价は、そはそはする。憏(4－11148)に同じ。〔集韻〕憏、憏价、心不レ安也、或書作レ慸。

【慸芥】1 タイカイ とげ。刺梗。蔕芥。〔廣韻〕慸、又慸芥。

【慸薢】2 タイカイ とげ。蔕芥。帶芥。慸芥に同じ。〔史記、賈誼傳〕細故慸薢兮、何足二以疑一。〔注〕索隱曰、漢書作レ介、張揖云、慸介、鯁刺也。

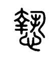
【憏】11148

㈠タイ 〔集韻〕丑邁切 卦
㈡テツ デチ 〔集韻〕徒結切 屑
㈢テイ タイ 〔集韻〕丑例切 霽

㈠❶**そはそはする**。おちつかない。〔集韻〕憏、憏价、心不レ安也。❷或は慸(4－11147)に作り、通じて蔕(9－31789)に作る。〔集韻〕憏、或書作レ慸、通作レ蔕。㈡**そはそはする**。㈠の❶に同じ。〔集韻〕憏、不レ能二自安一也。㈢**樂音が調和しない**。懘(4－11363)に同じ。〔集韻〕懘、點懘、樂音不レ和、或作レ憏。

【慹】11149

㈠シフ 〔集韻〕質入切 緝
㈡チフ 〔集韻〕陟立切 緝
㈢セフ 〔集韻〕質涉切 葉
㈣デフ ネフ 〔集韻〕諾叶切 葉


小篆

㈠㈡❶**おそれる**。〔說文〕慹、悑也、从レ心執聲。〔集韻〕慹、怖也。❷慄(4－10861)に通ず。〔說文通訓定聲〕慹、字亦作レ慄。㈢㈣**動かないさま**。蟄(10－33537)に通ず。〔說文通訓定聲〕慹、段借爲レ蟄。〔集韻〕慹、不レ動皃。〔莊子、田子方〕慹然似レ非レ人。〔釋文〕慹、司馬云、不レ動貌。

參考 熱(7－19360)は別字。〔字彙、辨似〕二字相似、慹、音執、怖也、从レ幸。熱、音世、情態、从レ坴。

【慹然】1 ゼフゼン 動かないさま。〔莊子、田子方〕慹然似レ非レ人。〔釋文〕慹、司馬云、不レ動貌。

【慹服】2 シフフク おそれしたがふこと。〔漢書、朱博傳〕以レ是豪強慹服。

【慹】11150

㈠ゼツ ネチ 〔篇海〕如列切 屑
㈡セイ 〔字彙〕始制切 霽

㈠㈡**ありさま**。情態。〔篇海〕慹、情態也。〔字彙〕慹、情態。

參考 慹(4－11149)は別字。〔字彙、辨似〕二字相似、慹、音執、怖也、从レ幸。慹、音世、情態、从レ坴。

【㥽】11151

ガイ 〔集韻〕牛戒切 卦

价㥽は、をしむ。しはい。やぶさか。〔集韻〕㥽、价㥽、吝也。

【㦆】11152

㈠コ ク 〔集韻〕荒胡切 虞
㈡カ ケ 〔集韻〕虚加切 麻

㈠㦆怜は、ほこる。〔集韻〕㦆、㦆怜、夸誕也。㈡㦆价は、志がない。〔集韻〕㦆、㦆价、無レ志也。

【㦗】11153

トウ ドウ 〔集韻〕徒登切 蒸

慒㦗は、まよひみだれる。〔集韻〕㦗、慒㦗、迷亂。

【慺】11154

㈠ル 〔集韻〕龍珠切 虞
㈡ロウ ル 〔集韻〕郎侯切 尤
㈢ル 〔集韻〕隴主切 麌

㈠㈡❶**よろこぶ**。〔集韻〕慺、悅也。❷**つつしみ敬ふさま**。〔集韻〕慺、慺慺、謹敬皃。❸**つとめる**。〔集韻〕慺、一曰、勤也。❹**ねんごろなさま**。慺慺(1)の❶を見よ。❺古は慺(4－11188)に作る。〔集韻〕慺、古作レ慺。㈢**姓**。〔集韻〕慺、姓也。

【慺慺】1 ルル ロウロウ ❶ねんごろなさま。慇懃。〔吳志、韋曜傳〕愚情慺慺、竊有レ所レ懷。❷うやうやしく謹しむさま。うやうやしい。〔正字通〕慺、慺慺、恭謹貌。〔魏志、杜恕傳〕是以愚臣慺慺。〔曹植、求レ通二親親一表〕是臣慺慺之誠、竊所二獨守一。〔注〕善曰、尙書傳曰、慺慺、謹愼也。

【慺慺之心】2 ルルノココロ ロウロウノココロ ねんごろにつとめはげむ心。ねんごろな心。〔後漢書、楊賜傳〕老臣過受二師傅之任一、數蒙二寵異之恩一、豈敢愛二惜垂沒之年一、而不レ盡二慺慺之心一哉。〔注〕慺慺、猶二勤弼一也。

【㦼】11155

リツ リチ 〔集韻〕劣戌切 質

うれへもだえる。〔集韻〕㦼、憂悶也。

【㦟】11156

タイ ヅイ 〔集韻〕徒回切 灰

ゆるむ。ゆるめる。〔集謂〕㦟、縱弛也。

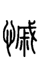
【𢡱】11157

ケン 〔篇海〕居倦切 霰

かへりみる。〔篇海〕𢡱、回顧也。

【慼】11158

㈠セキ シャク 〔集韻〕倉歷切 錫 ㄑㄧ ch'i
㈡シュク 〔集韻〕子六切 屋


小篆

㈠❶**うれへる。又、うれひ**。慽(4－11159)に同じ。〔說文〕慽、憂也、从レ心戚聲。〔集韻〕慽、說文、憂也、或書作レ慼。〔廣雅、釋詁一〕慼、憂也。〔公羊、僖、二十四〕自貽二伊慼一。〔注〕慼、憂也。❷**かなしむ**。〔廣雅、釋詁三〕慼、悲也。❸通じて戚(5－11594)に作る。〔說文、段注〕小明曰、自詒二伊戚一、傳曰、戚、憂也、云云、戚、卽慽之段借字也。㈡❶**はぢる**。〔集韻〕慼、博雅、慙也。❷**うれへる**。〔集韻〕慼、一曰、憂也。

【慼憂】1 セキイウ うれへる。〔左氏、僖、十五〕晉人慼憂以重レ我、天地以要レ我。

【慼顏】2 セキガン うれへるかほ。戚顏(5－11594‥9)に同じ。

【慼言】3 セキゲン うれひのことば。戚言。〔書、多方〕不三肯慼二言于民一。

【慼恨】4 セキコン うれへうらむ。〔墨子、非樂上〕不三敢以爲二慼恨一者何也。

【慼心】5 セキシン うれへるこころ。

【慼慼】6 セキセキ うれへ思ふさま。戚戚。〔謝靈運、遊二南亭一詩〕慼慼感レ物歎、星星白髮垂。〔注〕翰曰、戚戚、憂思貌。

【慼貌】7 セキバウ うれへるすがた。うれはしい顏色。戚容。〔陸機、歎逝賦〕傷懷悽其多レ念、慼貌瘁而鮮レ歡。

【慼容】8 セキヨウ うれへるかたち。うれひがほ。戚容。〔左氏、昭、十一〕君無二慼容一、不レ顧レ親也。〔陸機、弔二魏武帝一文〕矯二慼容一以赴レ節。

【慽】11159

セキ 慼(4－11158)に同じ。〔正字通〕慽、同レ慼。

【㤬】11160

ヘイ 㤬(4－10624)に同じ。〔集韻〕㤬、或作レ㤬。

【㦓】11161　ロク　〔集韻〕盧谷切　屋

❶心しづか。〔類篇〕㦓、心閑也。❷心がかはる。〔類篇〕㦓、一曰、心轉也。

【憈】11162　キョ　懅（4－11324）の俗字。〔正字通〕憈、俗懅字。

【慾】11163　㈠ヨク　〔集韻〕兪玉切　沃　ㄩˋ yü⁴　㈡ユ　〔集韻〕兪戍切　遇

㈠❶ほしいと思ふ心。欲情。欲情がおほい。〔集韻〕慾、情所㆑好也。〔論語、公冶長〕根也慾。〔集解〕孔安國曰、慾、多㆓情慾㆒也。❷欲（6－16080）に通ず。〔周禮、秋官、大行人〕通㆓其慾㆒。〔釋文〕慾、音欲、本多作㆑欲。㈡むさぼる。欲（6－16089）に同じ。〔集韻〕欲、貪也、或从㆑心。

参考　熟語は欲（6－16080）を見よ。

【憑】11164　ヒョウ　憑（4－11210）の俗字。〔正字通〕憑、俗憑字。

【憣】11165　ハン　憣（4－11237）の俗字。〔字彙〕憣、俗憣字。

【㦎】11166　クヮク　㦎（4－11220）の俗字。〔字彙〕㦎、俗㦎字。

【憀】11167　㈠レウ　〔集韻〕憐蕭切　蕭　ㄌㄧㄠˊ liao²　㈡リウ　ル　〔集韻〕力求切　尤

小篆

㈠㈡❶心明らか。〔説文〕憀、憀然也、从㆑心翏聲。〔段注〕憀然、猶㆓了然㆒也。❷さわやか。〔嵇康、琴賦〕新聲憀亮。❸たよる。たのむ。賴（10－36861）に通ず。〔説文通訓定聲〕憀、段借爲㆑賴。〔玉篇〕憀、賴也。〔集韻〕憀、賴也。〔淮南子、兵略訓〕吏民不㆓相憀㆒。〔注〕憀、賴。❹いささか。しばらく。聊（9－29082）に通ず。〔説文、段注〕憀、類編曰、力求切、賴也、且也、按、聊者、憀之叚借字。〔玉篇〕憀、且也。〔集韻〕憀、且也。❺かなしみうらむ。〔韻補〕憀、悲恨也。〔陸龜蒙、自遣詩〕雲晴山晚動情憀。

【憀慄】1 レウリツ　かなしみいたむさま。いたみ、おもふさま。憭慄。〔潘岳、秋興賦〕憀慄兮、若㆘在㆓遠行㆒、登㆑山臨㆑水送將㆖歸。〔注〕濟曰、憀慄、傷念之貌。

【憀亮】2 レウリヤウ　聲の澄みとほるさま。〔嵇康、琴賦〕進㆓御君子㆒、新聲憀亮、何其偉也。〔注〕善曰、憀亮、聲清徹貌。〔成公綏、嘯賦〕嘈長引而憀亮。〔注〕向曰、憀亮、聲清也。〔潘岳、笙賦〕勃慷慨以憀亮。

【憀戾】3 レウレイ　かなしみいたむさま。悽愴。〔朱熹、空同賦〕何孟秋之玄夜兮、心憀戾而弗㆑怡。

【㦂】11168　レウ　憀（4－11167）の俗字。〔正字通〕㦂、俗憀字。

【憁】11169　㈠ソウ　ス　〔集韻〕祖動切　董　㈡ソウ　ス　〔集韻〕千弄切　送

㈠倥憁は、志を得ないさま。〔集韻〕憁、倥憁、倏不㆑得㆑志。㈡憁恫は、志を得ないさま。また、せはしい。奔り競ふさま。また、無知のさま。〔集韻〕憁、憁恫、不㆑得㆑志、一曰、心急、一曰、無知皃。〔抱朴子、交際〕憁㆓恫官府之閒㆒。

参考　㥲（4－10956）は俗字。〔字彙〕㥲、俗憁字。

【憂】11170　㈠イウ　ウ　〔集韻〕於求切　尤　ㄧㄡ yu¹　㈡オウ　ウ　〔集韻〕烏侯切　尤　㈢イウ　ウ　〔集韻〕於救切　宥

小篆

㈠㈡❶うれへる。もと惪（4－10934）に作る。〔康熙字典〕憂、本作㆑惪。〔説文〕惪、愁也、从㆓心頁㆒、惪心形㆓於顏面㆒、故从㆑頁。㋑おもひなやむ。〔爾雅、釋詁〕憂、思也。〔玉篇〕憂、愁也。〔論語、子罕〕仁者不㆑憂。〔皇疏〕憂、患也。〔素問、應象大論〕在㆑志爲㆑憂。〔注〕憂、深慮也。㋺おそれる。〔呂覽、知分〕余何憂㆓於龍㆒焉。〔注〕憂、懼也。㋩くるしむ。やむ。㋥あはれむ。〔周禮、地官、大司徒〕六曰不㆑恤之刑。〔疏〕謂㆘見㆓災厄㆒而不㆓憂恤㆒、亦刑㆖之。㋭或は懮（4－11413）に作る。〔集韻〕惪、或作㆑懮、通作㆑憂。❷うれひ。㋑おもひわづらひ。かなしみ。〔論語、述而〕樂以忘㆑憂。㋺おそれ。なやみ。くるしみ。〔呂覽、開春〕君子在㆑憂。〔注〕憂、阨也。㋩つかれ。いたづき。やまひ。〔禮、曲禮下〕某有㆓負薪之憂㆒。〔疏〕憂、勞也。〔孟子、公孫丑下〕有㆓采薪之憂㆒。〔注〕憂、病也。❸も。喪中。〔書、説命〕王宅㆑憂。❹とどこほる。〔鬼谷子、權〕憂者閉塞而不㆑泄也。❺くらい。かすか。〔易、乾、文言〕憂則違㆑之。〔注〕謂㆔時當㆓幽隱㆒也。❻しとやかに行はれる。或は優（4－10277）に作る。〔説文〕憂、和之行也、从㆑夊惪聲、詩曰、布政憂憂。〔段注〕商頌毛傳曰、優優、和也、廣雅、釋訓、憂憂、行也、云云、憂、今字作㆑優、以㆑憂爲㆓惪愁字㆒。〔集韻〕憂、或从㆑亻。❼姓。〔通氏、氏族略〕憂氏、見㆓姓苑㆒。㈢うれへる。〔集韻〕憂、慮也、詩序、百姓見㆑憂、徐邈讀。

解字　會意。もと惪に作る。頁と心との合字。頁は人の頭部。頭が重く心にのしかかる意。

【憂哀】1 イウアイ　うれへかなしむ。〔管子、四時〕其德憂哀、靜正嚴順。〔漢書、景十三王、廣川惠王越傳〕內茀鬱、憂哀積。

【憂哀之地】2 イウアイノチ　うれへかなしむ場所。〔孔叢子、執節〕近㆓湯之墓㆒、處㆓憂哀之地㆒。

【憂菴】3 イウアン　清、戴名世（5－11685・・214）の號。

【憂恚】4 イウイ　うれへいかる。〔後漢書、梁皇后紀〕后以㆓憂恚㆒崩。〔魏志、袁術傳、注〕屈辱憂恚而死。〔蘇軾、人參詩〕開心定㆓魂魄㆒、憂恚何足㆑洗。

【憂噫】5 イウイ　うれへなげく。又、幽噫に作る。〔孟郊、弔㆓盧殷㆒詩〕孿臥歲時長、漣漣但憂噫。

【憂畏】6 イウヰ　❶うれへおそれる。〔梁昭明太子、陶淵明集序〕豈能戚戚勞㆓於憂畏㆒、汲汲役㆓於人閒㆒。❷佛 うれふべく畏るべき諸種の行相。〔法句喩經〕憂畏萬端。

【憂畏軒】7 イウヰケン　清、姚啓聖（3－6202・・153）の室名。

【憂悒】8 イウイフ　うれへて心がふさがる。〔晉書、徐寧傳〕遇㆑風停㆓浦中㆒、累㆑日憂悒。

【憂鬱】9 イウウツ　氣分がふさがる。うれへて心がはればれしない。憂結。〔管子、內業〕憂鬱生㆑疾。

【憂鬱病】10 イウウツビヤウ　氣のむすぼれる病氣。〔韓詩外傳、五〕憂鬱而不㆑得㆑出。

【憂慍】11 イウウン　うれへいきどほる。又、うれひといきどほり。〔漢書、谷永傳〕慰㆓釋皇太后之憂慍㆒。〔杜牧、雪中書懷詩〕憤悱欲㆓誰語㆒、憂慍不㆑能㆑持。

【憂海】12 イウカイ　佛 うれひの海。憂の深く大きいことを海に喩へていふ。〔智度論、一二〕心沒㆓憂海㆒、不㆑能㆓自出㆒。

【憂慨】13 イウガイ　うれへなげく。憂憤。〔元經傳、五〕憂慨發㆑疾而卒。

【憂耿】14 イウカウ　うれひ。心配。耿は、不安で眠れぬこと。〔梁武帝、敕答㆓釋明徹㆒〕省㆑疏增㆓其憂耿㆒。

【憂顏】15 イウガン うれへがほ。うれひを含んだ顏。憂色。〔鮑照、贈㆓故人馬子喬㆒詩〕憑㆑楹觀㆓皓露㆒、灑㆑酒盪㆓憂顏㆒。

【憂危】16 イウキ うれへあやぶむ。〔書、君牙〕心之憂危、若㆘蹈㆓虎尾㆒、涉㆗于春冰㆖。〔魏志、傅嘏傳〕又喪㆓其元帥㆒、上下憂危。

【憂悸】17 イウキ うれへて心がをののく。〔後漢書、蔡邕傳〕邪枉者憂悸失㆑色。〔資治通鑑、唐紀〕遂至㆘愛子慈父、皆不㆑能㆑庇、以㆓憂悸㆒終㆖。

【憂喜】18 イウキ うれひとよろこび。〔史記、淮陰侯傳〕貴賤在㆓於骨法㆒、憂喜在㆓於容色㆒、成敗在㆓於決斷㆒。〔論衡、自紀〕隱微憂喜、皆可㆓得察㆒。〔魏志、袁紹傳〕憂喜不㆑形㆓於色㆒。〔孫楚、征西官屬送㆓於陟陽侯㆒作詩〕吉凶如㆓糾纆㆒、憂喜相紛繞。

【憂愧】19 イウキ うれへはぢる。〔陸機、謝㆓平原內史㆒表〕俛㆑首頓㆑膝、憂愧若㆑厲。〔白居易、適意詩〕自從返㆓田畝㆒、頓覺無㆓憂愧㆒。

【憂疑】20 イウギ うれへうたがふ。〔韓愈、君子法㆓天運㆒詩〕焉能使㆔我心皎皎遠㆓憂疑㆒。

【憂咎】21 イウキウ わざはひ。〔董仲舒、詣㆓丞相公孫弘記室㆒書〕良民被㆑害、爲㆓聖主憂咎㆒。

【憂凶】22 イウキヨウ うれひ。〔易林、復〕甘棠之人、解㆓我憂凶㆒。

【憂恐】23 イウキヨウ うれへおそれる。〔荀子、正名〕心憂恐、則口銜㆓芻豢㆒而不㆑知㆓其味㆒、耳聽㆓鐘鼓㆒而不㆑知㆓其聲㆒。〔史記、梁孝王世家〕帝殺㆓吾子㆒、景帝憂恐。〔漢書、燕刺王劉旦傳〕王愈憂恐。〔漢書、張良傳〕漢王憂恐、與㆓酈食其㆒謀㆑撓㆓楚權㆒。

【憂衿】24 イウキン うれひの心。憂心。心のうれひを衣服のえりに託していふ。〔江淹、雜體、謝僕射遊覽詩〕信矣勞㆓物化㆒、憂衿未㆑能㆑整。〔注〕良曰、衿、心。

【憂勤】25 イウキン うれへつとめる。〔詩、周南、卷耳序〕朝夕思念、至㆓於憂勤㆒也。〔詩、小雅、魚麗序〕始㆓於憂勤㆒、終㆓於逸樂㆒。〔劉楨、贈㆓五官中郎將㆒詩〕清談同㆓日夕㆒、情眄敍㆓憂勤㆒。〔注〕濟曰、情相顧眄、敍㆓述憂恤勤勞㆒也。

【憂舋】26 イウキン うれひのすきま。〔後漢書、和帝紀〕朕寤寐恫矜、思㆑弭㆓憂舋㆒。

【憂唫】27 イウギン うれへ歎ずる。〔韓非子、揚權〕公子既衆、宗室憂唫。

【憂苦】28 イウク うれへくるしむ。心痛する。苦勞する。憂勞。〔史記、文帝紀〕朕夙興夜寐、勤㆓勞天下㆒、憂㆓苦萬民㆒。〔史記、淮南厲王長傳〕陛下憂㆓苦之㆒、使㆔使者賜㆓書棗脯㆒。〔陸機、擬古、擬㆓今日良宴會㆒詩〕曷爲恆憂苦、守㆓此貧與㆒㆑賤。

【憂懼】29 イウク うれへおそれる。案じて氣をもむ。憂慮。憂懾。〔韓非子、姦劫弑臣〕故劫殺死亡之君、此其心之憂懼、形之苦痛也、必甚㆑厲矣。〔戰國、秦策〕趙自㆓長平㆒已來、君臣憂懼、早朝晏退、卑㆑辭重㆑幣、四面出嫁。

【憂虞】30 イウグ うれひ。うれへおそれる。〔易、繫辭上〕悔吝者、憂虞之象也。〔左氏、哀、五〕二三子、閒㆓於憂虞㆒、則有㆓疾疢㆒。〔會箋〕虞、亦憂也。

【憂火】31 イウクワ 佛うれひの火。憂惱の熾烈なのを火に喩へていふ。〔金光明經、四〕我常渴仰、欲㆑見㆓於佛㆒、爲㆓是事㆒故、憂火熾烈、惟願世尊、賜㆓我慈悲㆒、清冷法水、以滅㆓此火㆒。

【憂禍】32 イウクワ わざはひ。〔易林、泰之第十一、乾〕以㆑德防㆑患、憂禍不㆑存。

【憂悔】33 イウクワイ うれへくいる。〔吳志、陸遜傳〕憂悔之無㆑及。〔陳子昂、感遇詩〕疲痾苦淪世、憂悔日侵淄。

【憂憒】34 イウクワイ 心がうれへみだれる。〔王羲之、賢姊帖〕疾久憂憒、當㆑思㆓平理㆒也。

【憂懷】35 イウクワイ 心配するこころ。ものあんじ。憂心。〔論衡、對作〕聖王憂懷、詔書數至。〔王逸、琴思楚歌〕憂懷感結重歎噫。

【憂惶】36 イウクワウ うれへおそれる。憂懼。〔後漢書、明德馬皇后紀〕憂㆓惶晝夜㆒、不㆑安㆓坐臥㆒。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕三年秋、太后體不㆑安、左右憂惶禱請。〔北史、裴駿傳〕縣令憂惶、計無㆑所㆑出。

【憂患】37 イウクワン うれひ。又、うれへる。うれへわづらふ。心痛。心配。難儀。〔易、繫辭下〕易之興也、其於㆓中古㆒乎、作㆑易者其有㆓憂患㆒乎。〔大學〕有㆑所㆓好樂㆒、則不㆑得㆓其正㆒、有㆑所㆓憂患㆒、則不㆑得㆓其正㆒。

【憂患窩】38 イウクワンクワ 清、金文榜（**11－40152‥1383**）の室名。

〖生㆓憂患㆒死㆓安樂㆒〗39 イウクワンニシヤウジテアンラクニシス 憂患の時に處しては、固く自ら警めるから其の生命を全うすることを得るが、安樂の時には却つて其の心を怠るから死亡の禍を招くに至る。〔孟子、告子下〕入則無㆓法家拂士㆒、出則無㆓敵國外患㆒者、國恆亡、然後知㆘生㆓於憂患㆒而死㆗於安樂㆖也。

【憂結】40 イウケツ うれへむすぼれる。氣が塞がる。憂鬱。〔曹操、讓㆓增封㆒表〕無㆓非常之功㆒、而受㆓非常之福㆒、是用憂結。

【憂闕】41 イウケツ 喪中にある前任官の闕員。〔南部新書〕三銓之士、具慶之下、多避㆓憂闕㆒、除則皆不㆑受、對易㆓於他人㆒。〔南部新書、壬〕杜佑自㆓戶部侍郎判度支㆒、爲㆓盧杞所㆑惡、出爲㆓蘇刺㆒、時佑母在、杞以㆓憂闕㆒授㆑之、佑不㆑行、換㆓饒州㆒。

【憂險】42 イウケン くるしくてあぶない。〔荀子、榮辱〕危害者常憂險。

【憂國】43 イウコク くにをうれへる。國事に心を勞する。國家のために苦勞する。〔左氏、昭、五、禮之本末將㆓於㆑此乎在㆒、〔注〕在㆓恤㆑民與㆑憂㆑國。〔戰國、齊策〕王曰、寡人憂㆑國愛㆑民、固願㆓得㆑士以治㆒㆑之。〔漢書、成帝紀〕同㆑心憂㆑國者也。〔漢書、蓋寬饒傳〕忠直憂㆑國。

〖憂國奉公〗44 イウコクホウコウ 國のために心を勞し、君のために力を盡すこと。〔後漢書、祭遵傳〕帝每歎曰、安得㆓憂國奉公之臣如㆑祭征㆑虜者㆒乎。

【憂獄】45 イウゴク 佛うれひの牢獄。憂愁の苦しみを牢獄に喩へた語。〔大智度論、十八〕勝負懷㆓憂喜㆒、勝者墮㆓憍坑㆒、負者墮㆓憂獄㆒。

【憂困】46 イウコン うれへくるしむ。〔史記、大宛傳〕宛固已憂困。

【憂恨】47 イウコン うれへうらむ。一說に、もとりさからふ。〔呂覽、懷寵〕若㆑此而猶有㆓憂恨冒疾、遂㆑過不㆑聽者㆒、雖㆑行㆑武焉亦可矣。〔沈約、從軍行〕惜哉征夫子、憂恨良獨多。

【憂嗟】48 イウサ うれへなげく。〔越絕書、越絕外傳本事〕詩人失㆑職、怨恨憂嗟作㆑詩也。〔舊唐書、代宗紀〕惕然憂嗟、深自咎責。〔曾鞏、祭㆑土祈㆑雨詩〕旱暵爲㆑虐、人用憂嗟。

【憂濟】49 イウサイ うれへすくふ。〔後漢書、黃香傳〕愛㆓惜人命㆒、每存㆓憂濟㆒。

【憂慘】50 イウサン うれへいたむ。〔荀悅、敎論〕怨枉繁多、天下憂慘。〔蜀志、蔣琬傳〕臣既闇弱、加嬰㆓疾疢㆒、規方無㆑成、夙夜憂慘。

【憂死】51 イウシ うれへて死ぬ。〔漢書、文三王傳贊〕卒用憂死、悲夫。

【憂思】52 イウシ うれへる心。又、うれへ思ふ。〔禮、儒行〕其憂思有㆓如㆑此者㆒。〔孔叢子、論書〕憂思三年。〔阮籍、詠懷詩〕徘徊將㆓何見㆒、憂思獨傷㆑心。

【憂囚】53 イウシウ うれひにとらはれる。うれひにしづむもの。〔周曇、六朝門、梁武帝詩〕不㆘求㆓賢德㆒追㆗堯舜㆖、翻作㆓憂囚一病翁㆒。

【憂愁】54 イウシウ かなしみうれへる。うれへもだえる。思ひにしづむ。〔史記、屈原傳〕憂愁幽思、而作㆓離騷㆒。〔孔子家語、辯樂解〕憂愁之感、不㆑加㆓於心㆒。

【憂傷】55 イウシヤウ うれへいたむ。〔詩、檜風、羔裘〕豈不㆓爾思㆒、我心憂傷。〔漢書、元后傳〕數更㆓憂傷㆒。

【憂情】56 イウジヤウ うれへるこころ。憂心（61）に同じ。

【憂恤】57 イウジユツ ㊀うれひ。うれへる。〔詩、大雅、桑柔〕告㆓爾憂恤㆒、誨㆓爾序爵㆒。〔箋〕恤、亦憂也。〔墨子、尚賢中〕詩曰、告㆓女憂恤㆒。〔逸周書、嘗麥解〕爾子孫其能常憂恤。㊁あはれむ。〔周禮、地官、大司徒〕六曰不㆑恤之刑。〔疏〕謂㆘見㆓災危㆒而不㆓憂恤㆒、亦刑㆖之。

【憂色】58 イウシヨク うれへる顏色。〔左氏、宣、十二〕城濮之役、晉師三日穀、文公猶有㆓憂色㆒。〔左氏、襄、二十六〕無㆓憂色㆒、亦無㆓寬言㆒。〔荀子、堯問〕退㆑朝而有㆓憂色㆒。〔戰國、趙策〕城降有㆑日、而韓魏之君無㆓喜志㆒、而有㆓憂色㆒、是非反如何也。〔韓非子、說林上〕其御曰、索㆑救而得、今子有㆓憂色㆒何也。

【憂矚】59 イウシヨク うれへてみつめる。〔白居易、盧元補㆓杭州刺史㆒制〕往分㆓憂矚㆒。

【憂辱】60 イウジヨク うれへはづかしめられる。〔孟子、離婁上〕苟不㆑志㆓於仁㆒、終身憂辱、以陷㆓於死亡㆒。

【憂心】61 イウシン うれへるこころ。なさけなく思ふ心。憂念。〔後漢書、馮衍傳下〕將㆔以蕩㆓夫憂心㆒。

〖憂心有㆑忡〗62 イウシンチユウタルアリ うれへる心が胸一ぱいになる。忡は充。〔詩、邶風、擊鼓〕不㆓我以歸㆒、憂心有㆑忡。〔集傳〕忡、與㆑充同。

【憂心殷殷】63（イウシンインイン） 心にうれひを抱く。殷殷は、うれへるさま。〔詩、邶風、北門〕出レ自二北門一、憂心殷殷。〔集傳〕殷殷、憂也。

【憂心慇慇】64（イウシンインイン） 心にうれひを抱いていたむ。慇慇は、いたむさま。〔詩、小雅、正月〕念我獨兮、憂心慇慇。〔集傳〕慇慇、疾痛也。

【憂心奕奕】65（イウシンエキエキ） 心にうれひを抱く。奕奕は、うれへるさま。〔詩、小雅、頍弁〕未レ見二君子一、憂心奕奕。〔傳〕奕奕然無レ所レ薄也。

【憂心京京】66（イウシンキヤウキヤウ） うれひの心が去り難い。京京は、うれひが去らぬさま。〔詩、小雅、正月〕念我獨兮、憂心京京。〔傳〕京京、憂不レ去也。

【憂心欽欽】67（イウシンキンキン） うれへる心がたえない。欽欽は思ひ望むさま。一說に、うれへて忘れないさま。〔詩、秦風、晨風〕未レ見二君子一、憂心欽欽。〔傳〕思二望之一、心中欽欽然。〔集傳〕欽欽、憂而不レ忘之貌。

【憂心惸惸】68（イウシンケイケイ） 心うれへる。惸惸は、うれへるさま。〔詩、小雅、正月〕憂心惸惸、念二我無祿一。〔傳〕惸惸、憂意也。

【憂心孔疚】69（イウシンハナハダヤム） うれへが多くて心が非常に苦しい。〔詩、小雅、杕杜〕匪レ載匪レ來、憂心孔疚。

【憂心慘慘】70（イウシンサンサン） うれひの心がいたましい。〔詩、小雅、正月〕憂心慘慘、念二國之爲一レ虐。

【憂心且傷】71（イウシンカツイタム） 心にうれへいたむ。〔詩、小雅、鼓鍾〕鼓鍾將將、淮水湯湯、憂心且傷。

【憂心且妯】72（イウシンカツイタム） 心にうれへいたむ。〔詩、小雅、鼓鍾〕淮有二三洲一、憂心且妯。

【憂心且悲】73（イウシンカツカナシム） 心にうれへかなしむ。〔詩、小雅、鼓鍾〕鼓鍾喈喈、淮水湝湝、憂心且悲。

【憂心如レ熏】74（イウシンヤクガゴトシ） やきつくやうに心がうれへる。〔詩、大雅、雲漢〕我心憚レ暑、憂心如レ熏。

【憂心如レ醉】75（イウシンエフガゴトシ） うれへて心が醉うたやうにぼんやりしてゐる。〔詩、秦風、晨風〕未レ見二君子一、憂心如レ醉。

【憂心如レ惔】76（イウシンヤクガゴトシ） やきつくやうに心がうれへる。憂心如レ熏(74)に同じ。〔詩、小雅、節南山〕憂心如レ惔、不二敢戲談一。

【憂心如レ酲】77（イウシンテイスルガゴトシ） うれへが甚だしく、わるゑひしたやうにぼんやりしてゐる。酲はわるゑひ。〔詩、小雅、節南山〕俾二民不一レ寧、憂心如レ酲。

【憂心悄悄】78（イウシンセウセウ） 心にうれひを抱く。悄悄は、うれへなやむさま。〔詩、邶風、柏舟〕憂心悄悄、慍二于羣小一。〔傳〕悄悄、憂貌。〔詩、小雅、出車〕憂心悄悄、僕夫況瘁。

【憂心忡忡】79（イウシンチユウチユウ） うれひを抱いて堪へられないこと。忡忡は、うれひに堪へないさま。〔詩、召南、艸蟲〕未レ見二君子一、憂心忡忡。

【憂心惙惙】80（イウシンテツテツ） 心がうれへて定まらない。惙惙は、心のうれへて定まらないさま。〔詩、召南、艸蟲〕未レ見二君子一、憂心惙惙。〔傳〕惙惙、憂也。

【憂心靡レ樂】81（イウシンタノシムナシ） 心にうれへがあつてはればれと樂しまない。〔詩、秦風、晨風〕未レ見二君子一、憂心靡レ樂、如何如何、忘レ我實多。

【憂心怲怲】82（イウシンヘイヘイ） 心にうれへる。怲怲は、うれへる心の甚だしいさま。〔詩、小雅、頍弁〕未レ見二君子一、憂心怲怲。〔傳〕怲怲、憂盛滿也。

【憂心愈愈】83（イウシンユユ） うれへる心が甚だしい。愈愈は、うれへる心の甚だしいさま。〔詩、小雅、正月〕憂心愈愈、是以有レ侮。〔傳〕愈愈、憂懼也。

【憂心烈烈】84（イウシンレツレツ） 甚だ心にうれへること。烈烈は、うれへるさま。〔詩、小雅、采薇〕憂心烈烈、載飢載渴。〔箋〕烈烈、憂貌。

【憂身】85（イウシン） ❶身をうれへる。〔姚合、送三盧二弟茂才罷レ擧遊レ洛謁二新相一詩〕守レ命貧難レ擲、憂レ身夢數驚。❷（ウキミ）うれへの多い身。つらい身。〔枕草子〕うき身のほどを知るぞわびしき。

【憂人】86（イウジン） 心にうれひのある人。〔古樂府、傷歌行〕憂人不レ能レ寐、耿耿夜何長。

【憂尋】87（イウジン） うれひの長いこと。〔淮南子、繆稱訓〕父之於レ子也、能發二起之一、不レ能レ使レ無二憂尋一。〔注〕憂尋、憂長也。

【憂悴】88（イウスイ） うれへつかれる。〔後漢書、順帝紀〕憂悴永歎、疢如レ疾レ首。

【憂瘁】89（イウスイ） うれへやつれる。〔蜀志、許靖傳〕憂瘁慘慘、忘二寢與一レ食。

【憂惴】90（イウズイ） うれへおそれる。〔唐書、淑妃郭氏傳〕王以二嫡長一居二外宮一、心常憂惴。

【憂世】91（イウセイ） ❶世の中のことをなげきうれへる。國家の安危を心にかける。世道を憂へる。〔孔叢子、記義〕於二節南山一見二忠臣之憂一レ世也。〔論衡、骨相〕或輔主憂レ世。❷（ヨウキ）うき事の絶えない世の中。憂惱の世界。

【憂焦】92（イウセウ） うれへいたむ。〔孟郊、晚雪吟詩〕天念豈厚薄、宸衷多二憂焦一。

【憂擾】93（イウゼウ） うれへみだれる。心配してさわぐ。〔宋史、陳堯佐傳〕每二汾水暴漲一、州民輒憂擾。

【憂戚】94（イウセキ） うれへいたむ。憂慼。愁慼。〔荀子、富國〕憂戚而非レ樂。〔墨子、魯問〕憂戚在レ臣。〔莊子、讓王〕憂二戚不一レ得也。〔吳志、諸葛瑾傳〕瑾常嫌レ之、謂非二保レ家之子一、每以憂戚。〔南史、姚察傳〕察既累居二憂戚一。

【憂慼】95（イウセキ） うれへいたむ。憂戚に同じ。

【憂節】96（ウキフシ） かなしいこと。つらいこと。

【憂懾】97（イウセフ） うれへおそれる。〔呂覽、下賢〕貧無二衣食一、而不二憂懾一。

【憂讋】98（イウセフ） うれひとおそれ。又、うれへおそれる。〔江淹、爲二蕭驃騎一讓二豫司二州一表〕憂讋交迫、中寐再驚。

【憂煎】99（イウセン） うれひの甚だしいこと。〔高適、途中酬二李少府贈別一之作詩〕可三以加二藥物一、胡爲輒憂煎。

【憂道】100（イウダウ） 道をうれへる。正道を得ないことをうれへる。〔論語、衞靈公〕君子憂レ道不レ憂レ貧。

【憂怛】101（イウダツ） うれへかなしむ。〔吳志、陸遜傳〕夙夜憂怛。

【憂端】102（イウタン） うれへのはじめ。〔謝靈運、長歌行〕覽レ物起二悲緒一、顧レ己識二憂端一。

【憂憚】103（イウタン） うれへはばかる。心配し畏れる。〔盧思道、孤鴻賦〕始則窘二束籠樊一、憂二憚刀俎一。

【憂歎】104（イウタン） うれへなげく。憂嘆。〔後漢書、明德馬皇后紀〕后常以二皇嗣未一レ廣、每懷二憂歎一。〔諸葛亮、出師表〕受レ命以來、夙夜憂歎。

【憂恥】105（イウチ） うれへはぢる。〔晏子、諫、上〕君不二此憂恥一。

【憂痛】106（イウツウ） 深く心をいためる。心配する。

【憂惕】107（イウテキ） うれへおそれる。〔吳志、周魴傳〕由レ是數郡、無二復憂惕一。〔孟郊、擇レ友詩〕面無レ恡二色容一、心無レ詐二憂惕一。

【憂惙】108（イウテツ） うれひを抱く。憂心惙惙。〔蘇頌、奉三陪府公賽二雪橋公廟一云云詩〕坐レ閣苦二憂惙一。

【憂天】109（イウテン） 天の落ちるのをうれへる。無用のうれひ。杞憂(**6−14479‥2**)を見よ。

【憂惱】110（イウナウ） うれへなやむ。心配しなやむ。〔白居易、弄龜羅詩〕亦如二恩愛緣一、乃是憂惱資。〔王磐、天澤神道碑〕便爲憂惱。

【憂念】111（イウネン） うれへるこころ。又、うれへおもふ。憂心。〔史記、陸賈傳〕然有二憂念一、不レ過レ患二諸呂・少主一耳。〔漢書、張安世傳〕憂二念天下一。〔後漢書、魯恭傳〕憂二念萬民一。〔論衡、道虛〕憂二念王事一。〔顏延之、還至二梁城一作詩〕曷爲久游客、憂念坐自殷。

【憂望】112（イウバウ） うれひ悲しんではるかの地を思ひやる。〔白居易、與二元微之一書〕計足下久不レ得二僕書一、必加二憂望一。

【憂迫】113（イウハク） うれへせまる。〔後漢書、光武紀上〕光武復爲圖二畫成敗一、諸將憂迫皆曰、諾。〔阮瑀、爲二曹公一作レ書與二孫權一書〕英布憂二迫於情漏一。

【憂煩】114（イウハン） うれへわづらふ。煩憂。

【憂悲】115（イウヒ） うれへかなしむ。〔逸周書、官人解〕憂悲之氣。〔韓非子、用人〕勞苦不二撫循一、憂悲不二哀憐一、喜則譽二小人一、賢不肖俱賞。〔淮南子、原道訓〕憂悲者、德之失也。

【憂閔】116（イウビン） うれへいたむ。〔詩、鄘風、載馳、載馳載驅、疏〕我心則憂二閔其亡一、傷レ不レ能レ救。

【憂怖】117（イウフ） うれへおそれる。〔風俗通、窮通〕憂怖交二心間一。〔後漢書、袁紹傳〕坐中客家在レ鄴者、皆憂怖失レ色、紹容貌自若、不レ改二常度一。

【憂服】118（イウフク） 憂戚して喪に服する。〔禮、檀弓下〕寡人聞レ之、亡レ國恒於レ斯、得レ國恒於レ斯、雖三吾子儼然在二憂服之中一、喪亦不レ可レ久也、時亦不レ可レ失也。〔疏〕雖下吾子儼然端靜、在二憂戚喪服之中一、無中求レ國之意上、然身喪在レ外、亦不レ可レ久、爲レ言二辛苦一也。〔晉書、顧和傳〕古人或有下釋二其憂服一、以祇中王命上、蓋以二才足一レ幹レ時、故不レ得レ不二體レ國殉一レ義。

【憂憤】119（イウフン） うれへいきどほる。又、其のいきどほり。〔後漢書、明德馬皇后紀〕后從兄嚴、不㆑勝㆓憂憤㆒。〔晉書、祖逖傳〕雖㆔內懷㆓憂憤㆒、而圖㆓進取㆒不㆑輟。〔梁武帝、禁㆓止私利㆒詔〕楊阜是故憂憤、賈誼所㆓以流涕㆒。

【憂病】120（イウヘイ） うれへる。わづらひ苦しむ。〔詩、周頌、閔予小子〕嬛嬛在㆑疚、〔箋〕嬛嬛然孤特、在㆓憂病之中㆒。〔潘岳、楊荊州誄〕豈忘㆓載奔㆒、憂病是沈。

【憂邊】121（イウヘン） 鹽鐵論の篇名。

【憂民】122（イウミン） ❶たみをうれへ思ふ。人民のことを氣づかふ。〔韻府引、張隨、詩〕仙郎今出㆑宰、聖主正憂㆑民。❷賈誼新書の篇名。

【憂目】123（ウキメ） つらいこと。かなしいこと。〔古今集〕世のうきめ見えぬ山ぢへいらんには。

【憂悶】124（イウモン） うれへもだえる。わづらひもだえる。うれへてやるせなく思ふ。〔紅樓夢、十二回〕賈母聽了、未㆑免㆔又加㆓憂悶㆒。

【憂滿】125（イウモン） うれへもだえる。憂懣に同じ。〔漢書、佞幸、石顯傳〕憂滿不㆑食、道病死。

【憂懣】126（イウモン） うれへもだえる。憂悶に同じ。〔漢書、燕剌王旦傳〕王憂懣、置㆓酒萬載宮㆒、會㆓賓客羣臣妃妾㆒坐飮。〔風俗通、正失〕京師震動、無㆑不㆓憂懣㆒。

【憂約】127（イウヤク） うれへくるしむ。〔呂覽、義賞〕身在㆓憂約之中㆒。

【憂愉】128（イウユ） うれひとよろこび。〔荀子、禮論〕是吉凶憂愉之情、發㆓於顏色㆒者也。

【憂容】129（イウヤウ） うれへるかほかたち。心配げな樣子。〔國語、魯語下〕無㆑掐㆑膺、無㆓憂容㆒。

【憂瀬】130（ウキセ） 人世の苦しみを川の瀨に喩へていふ。つらい時。苦しい場合。浮瀨。〔今鏡、藤波上〕。

【憂勞】131（イウラウ） うれへつかれる。心を勞する。〔戰國、齊策〕寡人憂㆓勞百姓㆒、而單亦憂㆑之、稱㆓寡人之意㆒、單有㆓是善㆒、而王嘉㆑之、善㆓單之善㆒、亦王之善也。〔管子、牧民〕民惡㆓憂勞㆒、我佚㆓樂之㆒、民惡㆓貧賤㆒、我富㆓貴之㆒。〔史記、魯周公世家〕三王之憂㆓勞天下㆒久矣。

【憂樂】132（イウラク） うれひとたのしみ。うれへることと、たのしむこと。〔左氏、襄、三十一〕憂樂同㆑之、事則從㆑之、教㆓其不知㆒、而恤㆓其不足㆒。〔中鑒、雜言上〕爲㆑世憂樂者、君子之志也。

【憂慄】133（イウリツ） うれへおそれる。〔莊子、在宥〕萬乘之君、憂㆓慄乎廟堂之上㆒。〔謝靈運、擬㆓魏太子鄴中集㆒、徐幹詩〕搖㆓蕩箕濮情㆒、窮㆑年迫㆓憂慄㆒。

【憂慮】134（イウリヨ） うれへおもんぱかる。氣づかひ。心配。〔諸葛亮、出師表〕受㆑命以來、夙夜憂慮。

【憂憐】135（イウレン） うれへあはれむ。

【憂惑】136（イウワク） うれへまどふ。〔易林、遯之第三十三、元妄〕大人受㆑福、童蒙憂惑、利無㆑所㆑得。

【居㆑憂】137（ウレヒニヲル） 父母の喪に逢ふこと。宅㆑憂。〔書、太甲上〕王徂㆓桐宮㆒居㆑憂、克終㆓允德㆒。

【招㆑憂】138（ウレヒヲマネク） うれひを呼び寄せる。〔法言、修身〕言輕則招㆑憂、行輕則招㆑辜。

【銷㆑憂】139（ウレヒヲトク） うれひを打ちけす。〔漢書、東方朔傳〕朔免冠頓首曰、臣聞、樂太甚則陽溢、哀太甚則陰損、銷㆑憂者莫㆑若㆑酒。

【宅㆑憂】140（ウレヒニヲル） 父母の喪に逢ふこと。居憂に同じ。〔書、說命上〕王宅㆓憂亮陰㆒三祀。〔傳〕居㆑憂信默、三年不㆑言。

【除㆑憂】141（ウレヒヲノゾク） うれひを除き去る。〔莊子、山木〕吾願去㆓君之累㆒、除㆓君之憂㆒。〔易林〕除㆑憂來㆑樂。

【沈㆑憂】142（ウレヒニシヅム） 深くうれへること。〔曹植、雜詩〕去去莫㆓復道㆒、沈㆑憂令㆓人老㆒。

【丁㆑憂】143（イウニアタル） 父母の喪に逢ふ。居憂。丁憂(1−2‥6)を見よ。

【分㆑憂】144（ウレヒヲワカツ） 人のうれひを共に憂へること。〔晉書、宣帝紀〕吾於㆓庶事㆒以㆑夜繼㆑晝、無㆓須臾寧息㆒、此非㆓以爲㆑榮、乃分㆑憂耳。

【忘㆑憂物】145（ウレヒヲワスルモノ） 酒の異名。忘憂物(4−10333‥5)の❶を見よ。

【憂來無㆑方】146（ウレヒノキタルハウナシ） うれへは何時何處からくると定まつてゐない。〔魏文帝、善哉行〕憂來無㆑方、人莫㆓之知㆒。

【憂與㆑愁其相接】147（ウレヒトウレヒトソレアヒマジハル） 憂心が續いて解ける時がない。〔楚辭、九章、哀郢〕心不㆑怡之長久兮、憂與㆑愁其相接。

【愁】11171 タン 愁(4−11192)の俗字。〔字彙〕愁、俗愁字。

【惷】11172

㊀タウ 〔集韻〕丑江切 江 ㄔㄨㄥ ch'ung¹

㊁シヨウ シユ 〔集韻〕書容切 冬

㊂チヨウ チユ 〔集韻〕丑用切 宋

㊃タウ 〔集韻〕陟降切 絳

小篆

㊀**おろか。**〔說文〕惷、愚也、从㆑心舂聲。〔一切經音義、十七〕惷、愚無㆑所㆑知也。㊁❶**にぶい。**おろかでくらい。〔集韻〕惷、騃昏也。❷或は憧(4−11242)に作る。〔集韻〕惷、或作㆑憧。㊂㊃**おろか。**或は戇(4−11525)・贛(10−36984)に作る。〔集韻〕惷、愚也、或作㆑戇、亦省。

【惷騃】1（タウガイ） 物の區別も明かでない程のおろか者。騃惷(12−44780‥3)に同じ。

【惷愚】2（タウグ） 性質のおろかなこと。おろか。ばか。〔周禮、秋官、司刺〕三赦曰㆓惷愚㆒。〔注〕惷愚、生而癡騃童昏者。〔儀禮、士昏禮記〕某之子惷愚、又弗㆑能㆑教。〔禮、哀公問〕寡人惷愚頑冥。〔戰國、魏策〕魏王曰、寡人惷愚、前計失㆑之、請稱㆓東藩㆒、築㆓帝宮㆒、受㆓冠帶㆒、祠㆓春秋㆒、效㆓河外㆒。〔淮南子、墬形訓〕其人惷愚、禽獸而壽。

【惷乎】3（タウコ） おろかなさま。〔淮南子、道應訓〕惷乎若㆓新生之犢㆒。

【惷心】4（タウシン） おろかなこころ。

【惷窒】5（タウチツ） おろかで道理に通じないこと。〔皮日休、悼賈文〕愍㆓耄儒之惷窒㆒兮、對㆓天問之不㆑臧。

【惷婦】6（タウフ） おろかな婦人。〔淮南子、氾論訓〕愚夫惷婦、皆能論㆑之。〔注〕惷、亦愚、無知之貌也。

【惷樸】7（タウボク） おろかでかざりいつはらない。〔元稹、才識兼茂明㆓於禮用㆒策〕惷樸愚謹。

【慌】11173 クワウ 慌(4−10606)の譌字。〔正字通〕慌、慌字之譌。

【徳】11174 チ 〔集韻〕陟利切 寘 **ほどこす。**〔集韻〕徳、施也。

【懜】11175 ボウ 儚(1−1236)に同じ。〔字彙補〕懜、與㆑儚同。

【㦅】11176 キ 〔字彙補〕許魏切 未 **いむ。**〔字彙補〕㦅、忌也。

【憆】11177 タウ 瞠(8−23651)に同じ。〔集韻〕瞠、或作㆑憆。

【懁】11178 クワン 〔字彙補〕火還切 刪 **あなどる。**〔字彙補〕懁、慢也。

【𪐳】11179 ケフ 勰(2−2458)に同じ。〔字彙補〕𪐳、同㆑勰。

【𢤱】11180 シヨ・タク 義未詳。〔搜眞玉境〕𢤱、音庶、又音度。

【慤】11181 カク 〔字彙補〕客角切 覺 **しひたげる。**〔字彙補〕慤、虐也。

【⿰忄叔】 11182 ハ 義未詳。〔字彙補〕⿰忄叔、方査切、音巴。

【⿰忄隶】 11183 タイ ツイ 〔字彙補〕透對切 隊 **わすれる。**〔字彙補〕⿰忄隶、忘也。

【⿱教心】 11184 クワク 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿱教心、音廓。

【⿰忄炎】 11185 サウ 懆(4－11325)に同じ。〔川篇〕⿰忄炎、同レ懆。

【⿱艹惠】 11186 ケイ 惠(4－10822)に同じ。〔字彙補〕⿱艹惠、同レ惠。

【⿱甜心】 11187 ケイ 憩(4－11246)の俗字。〔正字通〕憩、俗作レ⿱甜心、非。

【慺】 11188 ル 慺(4－11154)の古字。〔集韻〕慺、古作レ慺。

【憎】 11188 ゾウ 憎(4－11202)の略字。

十二畫

【⿰忄虚】 11189 キヨ コ 〔集韻〕丘於切 魚 **氣おくれする。**〔集韻〕⿰忄虚、志怯也。

【⿰忄壹】 11190 イ 懿(4－11501)の古字。〔玉篇〕⿰忄壹、古文懿。

【⿰忄華】 11191 クワ ゲ 〔集韻〕胡瓜切 麻 **心おごる。**〔集韻〕⿰忄華、心侈也。

【⿱赧心】 11192 ダン ナン 〔集韻〕乃版切 潸 **はぢる。かほをあからめる。** 赧(10－37001)に同じ。〔集韻〕赧、說文、面慙赤也、亦作レ⿱赧心。

【愊】 11193 フウ フ 〔集韻〕敷救切 宥 ❶**いかる。**〔集韻〕愊、怒也。❷或は恒(4－10646)に作る。〔集韻〕愊、或作レ恒。

【憉】 11194 ハウ ビヤウ 〔集韻〕蒲庚切 庚 憉悙は、ほこるさま。つよがるさま。〔集韻〕憉、憉悙、自矜健皃。

【憊】 11195 ㈠ハイ バイ 〔集韻〕步拜切 ㄅㄟˋ pei^{4} 卦 ㈡ヘイ バイ 〔集韻〕蒲計切 霽 ㈢ホク ボク 〔集韻〕鼻墨切 職

小篆

或體

㈠❶**つかれる。**よわる。やむ。もと⿰忄葡(4－11085)・⿰忄𤰇(4－10987)に作る。〔正字通〕憊、俗⿰忄𤰇字。〔康熙字典〕憊、本作レ⿰忄𤰇。〔說文〕⿰忄葡、㲉也、从レ心葡聲。〔易、既濟〕憊也。〔釋文〕憊、困劣也。〔列子、天瑞〕知ニ老之憊一。〔釋文〕憊、疲也。〔莊子、山木〕何先生之憊邪。❷⿰忄𤰇(4－10987)に同じ。〔集韻〕⿰忄𤰇、或作ニ⿸疒𤰇・憊一。㈡**くるしみやむ。**〔集韻〕憊、困病、莊子、先生之憊。㈢**くるしむ。**〔集韻〕憊、困也。

【憊衿】1 ハイキン 惡書生。〔福惠全書、涖任部、忍性氣〕某之父亦憊衿也。

【憊臥】2 ハイグワ つかれふす。困臥。〔高士談、予所レ居之南云云作レ詩約ニ諸友一同賦詩〕暮歸唯憊臥、筋力殊不レ任。

【憊色】3 ハイシヨク つかれたやうす。憔悴の態。〔元稹、獻ニ滎陽公一五十韻詩〕憊色秋來草、哀吟雨後蟬。

【憊衰】4 ハイスイ つかれおとろへる。衰憊に同じ。

【憊喘】5 ハイゼン つかれてあへぐ。〔孔平仲、越州飛來山詩〕悲號與ニ憊喘一、灑汗成ニ流川一。

【憊懣】6 ハイモン つかれてやるせがない。つかれやむ。〔洪希文、枕簟入ニ林僻一詩〕桃笙寄ニ憊懣一、菊枕便ニ昏花一。

【憊賴】7 pei^{4} lai^{4} だらしない。放縱な。憊懶。

【憊賴的】8 pei^{4} lai^{4} tê だらしのない人。又、やくざ者。

【憊老】9 ハイラウ 年老いてつかれる。老憊に同じ。

【憊懶】10 pei^{4} lan^{3} だらしない。〔紅樓夢、三回〕不知是怎生個憊懶人物。

【憊累】11 pei^{4} lei^{4} つかれる。

【⿱僃心】 11196 ハイ ⿰忄葡(4－11085)に同じ。〔說文、段注〕⿰忄葡、今周易・公羊傳皆作レ憊。

【憋】 11197 ヘツ ヘチ 〔集韻〕匹滅切 ㄅㄧㄝ pieh^{1} 屑 ❶**きばやい。**せつかち。短氣。〔集韻〕憋、一曰、性急。〔韻會〕憋、急速貌。〔列子、力命〕嘽咺憋懯。〔釋文〕憋懯、急性也。❷**わるい。**〔集韻〕憋、博雅、惡也。〔方言、十〕憋、惡也。❸敝(5－13245)に通ず。〔後漢書、董卓傳〕敝腸狗態。〔注〕續漢書、敝、作レ憋。❹或は⿰忄敝(4－11198)に書す。〔集韻〕憋、或書作レ⿰忄敝。❺現㋑うれへる。㋺むすぼれる。ふさぐ。

【憋拗】1 pieh^{1} niu たがふ。そむく。思ひ通りにならぬ。工合が惡い。

【憋氣】2 pieh^{1} ch'i^{4} ❶呼吸する。息を引く。❷胸に持つ。

【憋性】3 pieh^{1} hsing^{4} 性急な。短氣な。

【憋扭】4 pieh^{1} niu 意地の惡い。ねぢけた。

【憋腸】5 ヘツチヤウ 惡い心。敝腸。〔後漢書、董卓傳〕羌胡敝腸狗態。〔注〕言ニ羌胡心腸敝惡、情態如レ狗也、續漢書、敝、作レ憋、方言云、憋、惡也、郭璞曰、憋怤、急性也。

【憋怤】6 ヘツフ きばやい。性急なこと。憋懯。憋腸を見よ。〔方言、十、憋、惡也、注〕憋怤、急性也。

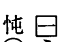
【憋懯】7 ヘツフ 憋怤に同じ。〔類篇〕憋懯、急速貌。〔列子、力命〕嘽咺憋懯。

【憋悶】8 pieh^{1} men^{4} 憂鬱な。氣がふさぐ。

【憋得慌】9 pieh^{1} tê huang^{1} 不快にたへぬ。又、非常に心配なこと。

【⿰忄敝】 11198 ヘツ 憋(4－11197)に同じ。〔集韻〕憋、或書作レ⿰忄敝。

【⿱鈞心】 11199 ㈠シユン ジユン 〔集韻〕殊倫切 眞 ㈡ケイ ギヤウ 〔集韻〕葵營切 庚


小篆

㈠**うれへる。**或は恂(4－10364)・忳(4－10388)に作る。〔說文〕⿱鈞心、憂也、从レ心鈞聲。〔段注〕廣韻作レ恂。〔集韻〕⿱鈞心、或作ニ恂・忳一。㈡**うれへる。**惸(4－10865)に同じ。〔集韻〕惸、惸惸、憂也、或作レ⿱鈞心。

【懎】11200

㊀タ　〔集韻〕陟加切　麻
㊁シャ

㊀ほこる。〔集韻〕懎、誕也。㊁奢(3－5964)の俗字。〔正字通〕懎、俗奢字。

【憍】11201

㊀ケウ　〔集韻〕居妖切　蕭　ㄐㄧㄠ chiao¹
㊁ケウ　〔集韻〕擧夭切　篠

㊀❶ほしいまま。〔廣韻〕憍、恣也。❷ほこる。〔集韻〕憍、矜也。〔韻會〕憍、小人得レ志也。❸はやる。〔集韻〕憍、逸也。❹たかぶる。〔集韻〕憍、虛憍、高仰也。〔莊子、達生〕方虛憍而恃レ氣。〔釋文〕李云、憍、高也、司馬云、憍、高仰レ頭也。❺おそれる。〔廣雅、釋詁三〕憍、惕也。❻あはれむ。〔廣韻〕憍、憐也。❼通じて驕(12－45008)に作る。〔集韻〕憍、通作レ驕。〔公羊、襄、十九〕爲二其憍蹇一。〔釋文〕憍、本又作レ驕。㊁ほこる。〔集韻〕憍、小人得レ志也。

【憍逸】1（ケウイツ）　ほしいまま。〔後漢書、蔡茂傳〕今者外戚憍逸。

【憍盈】2（ケウエイ）　おごりたかぶる。驕盈。〔魏書、宋維傳〕靈太后臨レ政、委二任元叉一、而叉恃レ寵憍盈。

【憍坑】3（ケウキヤウ）　おごりのあな。おごりの心を深いあなに喩へていふ。〔大智度論、十八〕勝者墮二憍坑一、負者墜二憂獄一。

【憍憍】4（ケウケウ）　ほしいまま。おごりたかぶるさま。〔周武王、觴豆銘〕戒レ之憍憍則逃。

【憍蹇】5（ケウケン）　おごる。驕蹇。〔爾雅、釋訓、旭旭蹻蹻也、注〕皆小人得レ志憍蹇之貌。〔公羊、襄、十九〕或曰、爲二其驕蹇一、使三其世子處二乎諸侯之上一也。〔釋文〕驕、本又作レ憍。〔王褒、四子講德論〕天性憍蹇。

【憍奢】6（ケウシヤ）　おごる。驕奢(12－45008・・46)に同じ。

【憍泄】7（ケウセツ）　おごりあなどる。〔荀子、榮辱〕憍泄者人之殃也。〔注〕泄、與レ媟同、嫚也。〔集解〕謝本從二盧校一作二憍泄一、王念孫曰、憍泄、卽驕泰之異文。

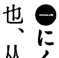
【憍暴】8（ケウバウ）　おごつてあらあらしい。驕暴。〔荀子、榮辱〕惕悍憍暴、以偸二生反三側於亂世之閒一。〔集解〕郝懿行曰、憍、卽驕字。

【憍慢】9（ケウマン）　❶おごりたかぶる。驕慢。〔戰國、秦策〕然惟願大王覽二臣愚計一、釋レ趙養レ民、以觀二諸侯之變一、撫二其恐懼一、伐二其憍慢一、誅二滅無道一、以令二諸侯一、天下可レ定、何必以レ趙爲レ先乎。〔魏書、楊椿傳〕不レ爲二奢淫憍慢一。❷佛煩惱の名。五上分結の一つ。自ら高ぶつて物を淩ぐ心。〔大乘義章、五末〕自擧陵レ物、稱曰二憍慢一。

【憍薩羅】10（ケウサラ）　古、中印度にあつた國の名。摩迦陀國の北、迦毘羅衞城の西に當つた。〔大唐西域記、十〕憍薩羅國、周六千餘里、山嶺周レ境、林藪連接、國大都城、周四十餘里、土壤膏腴、地利滋盛。

【憎】11202

ソウ　〔集韻〕咨騰切　蒸　ㄗㄥ tsêng¹
慣ゾウ


小篆

❶にくむ。きらふ。〔說文〕憎、惡也、从レ心曾聲。〔廣雅、釋詁三〕憎、難也。〔詩、齊風、雞鳴〕無二庶予子憎一。〔箋〕無レ使下衆臣以二我故一憎中惡於子上。〔楚辭、九章、哀郢〕憎二慍惀之修美一兮。〔注〕憎、惡也。〔漢書、杜欽傳〕必生二好憎之心一。❷はばかる。〔方言、七〕憎、憚也。❸くるしむ。〔廣雅、釋詁四〕憎、苦也。

【憎愛】1（ゾウアイ）　にくむこととあいすること。愛憎。〔韓非子、解老〕處レ鄕不レ節、憎愛無レ度、則爭鬭之爪角害レ之。

【憎怨】2（ゾウエン）　にくみうらむ。〔論衡、自然〕德薄多レ欲、君臣相憎怨也。〔韓愈、上二宰相一書、後十九日復上書〕雖三其所二憎怨一、苟不レ至乎。

【憎惡】3（ゾウヲ）　にくむ。きらひいやがる。憎疾。〔爾雅、釋訓、居居究究惡也、注〕皆相憎疾惡。〔荀子、大略〕故塞而避レ所レ短、移而從レ所レ仕、疏レ知而不レ法、察レ辨而操レ辟、勇果而亡レ禮、君子之所二憎惡一也。〔管子、霸言〕聖人之憎惡也內、愚人之憎惡也外。〔漢書、賈誼傳〕秦王置二天下於法令刑罰一、德澤亡二一有一、而怨毒盈二於世一、下憎二惡之一如二仇讎一。〔王褒、四子講德論〕憎二惡仁智一。〔蜀志、費禕傳〕魏延與二長史楊儀一相憎惡。

【憎忌】4（ゾウキ）　にくみいむ。憎疾。〔北齊書、宋遊道傳〕神武執二遊道手一曰、甚知下朝貴中有中憎二忌卿一者上。

【憎毀】5（ゾウキ）　にくみそしる。〔後漢書、列女、陳文矩妻傳〕四子以二母非レ所レ生、憎毀日積。

【憎嫌】6（ゾウケン）　にくみきらふ。いやがる。〔韓愈、縣齋有レ懷詩〕指摘兩憎嫌、睢盱互猜訝。〔劉兼、春燕詩〕大厦已成須二慶賀一、高門頻入莫二憎嫌一。

【憎忤】7（ゾウゴ）　にくみさからふ。〔後漢書、劉梁傳〕管蘇以二憎忤一取レ進、申侯以二愛從一見レ退。

【憎恨】8　tsêng¹ hen⁴　憎む。

【憎酸】9（ゾウサン）　酸をにくむ。酸味をこのまない。〔論衡、譴告〕憎レ酸而沃レ之以レ鹹、惡レ淡而灌レ之以レ水。

【憎疾】10（ゾウシツ）　にくむ。憎惡。〔後漢書、五行志二〕于レ時中常侍管霸・蘇康、憎二疾海內英哲一。

【憎嫉】11（ゾウシツ）　にくみねたむ。そねむ。憎妒。〔北史、郎茂傳〕元預兄弟、本相憎嫉。

【憎唾】12（ゾウダ）　にくんでつばを吐きかける。〔范成大、嘲二峽石一詩〕頑質賈二憎唾一、傀狀發二笑啞一。

【憎妒】13（ゾウト）　❶にくみそねむ。憎嫉。憎妬。〔顧野王、豔歌行〕妖姿巧笑能傾レ城、那思他人不二憎妒一。❷妒をにくむ。ねたまれることをきらふ。〔魏志、東夷、夫餘國傳〕男女淫、婦人妒、皆殺レ之、尤憎レ妒已。

【憎妬】14（ゾウト）　にくみそねむ。憎妒。〔列女傳、仁智、晉伯宗妻傳〕有下愛二好人一者上、必有下憎二妬人一者上。

【憎毒】15（ゾウドク）　にくみうらむ。にくみそこなふ。〔漢書、劉向傳〕勉彊以從二王事一、則反見二憎毒讒愬一。

【憎慢】16（ゾウマン）　にくみあなどる。〔白居易、唐江州興果寺律大德湊公塔碣銘序〕貴高憎慢、罔レ不二降伏一。

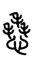
【憎蠅】17（ゾウヨウ）　蠅をにくみきらふ。〔歐陽脩、憎二蒼蠅一賦〕蒼蠅蒼蠅、吾嗟二爾之爲レ生、既無二蜂蠆之毒尾一、又無二蚊蝱之利觜一。

【憎憐】18（ゾウレン）　にくむことといつくしむこと。憎愛。〔柳宗元、乞巧文〕迎知二喜惡一、默測二憎憐一。

【憎而知二其善一】19（ニクメドモソノゼンヲシル）　その人柄は憎んでも、その人の才能は認める。〔禮、曲禮上〕愛而知二其惡一、憎而知二其善一。〔疏〕憎、謂三己所二嫌恨一、心雖二憎疾一、亦當レ知二其善能一。

【憃】11203

㊀サン　〔集韻〕千短切　旱
㊁コツ　コチ　〔集韻〕呼骨切　月
㊂カツ　カチ　〔集韻〕呼八切　黠
㊃ケキ　キヤク　〔集韻〕呼役切　陌


小篆

㊀おろか。〔說文〕憃、精戇也、从レ心毳聲。㊁❶おろか。㊀に同じ。〔集韻〕憃、戇也。❷ねいる。〔玉篇〕憃、寢熟也。〔集韻〕毳、一曰、熟寐。㊂㊃めざめる。〔集韻〕憃、臥覺也。〔集韻〕憃、寐覺也。

【㦡】11204

ガク・ゴ

愕(4－10939)の本字。〔正字通〕㦡、愕本字。

【憏】11205

テイ　〔集韻〕丑例切　霽

㤞憏は、定まらない。〔集韻〕憏、㤞憏、未レ定也。

【憐】11206

㊀レン　〔集韻〕靈年切　先　ㄌㄧㄢˊ lien²
㊁リン　〔集韻〕離珍切　眞

小篆 🈩🈔❶**あはれむ。**㋑かなしむ。もと憐に作る。〔正字通〕憐、本从レ粦作レ憐。〔說文〕憐、哀也、从レ心粦聲。〔方言、一〕憐、哀也。〔吳越春秋、闔閭內傳〕子胥述二河上歌一曰、同病相憐、同憂相救。㋺いつくしむ。〔爾雅、釋詁〕憐、愛也。〔方言、一〕憐、愛也、汝潁之閒曰レ憐、宋魯之閒曰レ牟、或曰レ憐。❷**あはれみ。いつくしみ。**〔韓愈、應二科目一時與レ人書〕搖レ尾而乞レ憐。〔柳宗元、乞巧文〕逆知二喜怒一、默測二憎憐一。❸**つらねる。**聯(**9－29143**)に通ず。〔說文通訓定聲〕憐、叚借爲レ聯、廣雅釋言、憐綴也。❹**をしむ。**吝(**2－3327**)に通ず。〔說文通訓定聲〕憐、叚借爲レ吝、荀子解蔽、無二邑憐之志一。❺**となり。**鄰(**11－29153**)に通ず。〔說文通訓定聲〕憐、叚借爲レ鄰、史記高祖功臣侯年表、柏至以二駢憐一從、姚氏曰、駢憐、猶二比鄰一也。❻或は怜(**4－10461**)に作る。〔集韻〕憐、或作レ怜。❼古は⿱炎心(**4－10838**)に作る。〔字彙補〕⿱炎心、古文憐字。

【憐哀】1 レンアイ　あはれみかなしむ。〔方言、十〕嘳、無寫、憐也、沅澧之原、凡言二相憐哀一謂二之嘳一、或謂二之無寫一。〔後漢書、伏湛傳〕時人莫レ不二憐哀一焉。

【憐愛】2 レンアイ　あはれみ愛する。いつくしむ。〔史記、趙世家〕左師公曰、老臣賤息舒祺、最少不肖、而臣衰、竊憐二愛之一。〔蜀志、衞繼傳、注〕縣長蜀郡成都張君無レ子、數命二功曹一、呼二其子省弄一、甚憐二愛之一。〔顏氏家訓、勉學〕吾甚憐愛。

【憐孤】3 レンコ　みなしごをあはれむ。〔韓詩外傳、六〕古者有下命二民之有レ能、敬レ長憐レ孤、取舍好讓、居レ事力者一、命中于其君上。

【憐嗟】4 レンサ　あはれみなげく。〔徐陵、樂府、劉生詩〕高才被二擯壓一、自レ古共憐嗟。

【憐才】5 レンサイ　才をあはれむ。才能を懷き乍ら不遇であるのをあはれむ。〔杜甫、不レ見詩〕世人皆欲レ殺、吾意獨憐レ才。〔溫庭筠、祕書省有二賀監知章草題詩一因而作詩〕越溪漁客賀知章、任達憐才愛酒狂。

【憐殺】6 レンサツ　ひどくあはれがる。殺は助辭。怜「殺に同じ。

【憐察】7 レンサツ　あはれみおもひやる。憫察。〔江淹、獄中上二建平王一書〕伏願、大王暫停二左右一、小加二憐察一。〔韓愈、應二科目一時與レ人書〕閣下其亦憐二察之一。

【憐傷】8 レンシャウ　あはれみいたむ。〔後漢書、鍾離意傳〕其母病死、廣哭泣不レ食、意憐二傷之一。

【憐情】9 レンジャウ　あはれみの心。又、あはれんでなさけをかける。

【憐恤】10 lien² hsü⁴　あはれんで物をほどこす。

【憐職】11 レンショク　いつくしみあふこと。〔方言、七〕憐職、愛也、言二相愛憐者一、吳越之閒、謂二之憐職一。〔錢繹箋疏〕職、事也、相愛憐、謂二之憐職一、言下以二愛憐一爲上レ事。〔戴震疏證〕職、主也、相愛憐、斯仰レ之爲二宗主一、故云二憐職一。

【憐心】12 レンシン　あはれみの心。憐情(9)に同じ。

【憐惜】13 レンセキ　あはれみをしむ。〔黃輝、石鼓詞〕可レ憐光價絕二鼎鐘一、霜草風沙無二憐惜一。

【憐悼】14 レンタウ　死者をあはれみいたむ。哀悼。〔南齊書、周顒傳〕宜下愍二觀其飲啄飛沉一、使中人物憐上悼。

【憐念】15 lien² nien⁴　あはれむ。

【憐悲】16 レンピ　あはれみかなしむ。〔史記、文帝紀〕天子憐二悲其意一。

【憐閔】17 レンビン　あはれむ。憐憫。〔漢書、高惠高后文功臣表〕聖朝憐閔、詔求二其後一。〔續列女傳、班婕妤傳〕上善二其對一、而憐二閔之一。〔韓愈、論三今年停二舉選一狀〕陛下憐二閔京師之人一、慮二其乏一レ食。

【憐愍】18 レンビン　あはれむ。ふびんに思ふ。又、あはれみ。憐憫。〔漢書、武帝紀〕哀夫老眊、孤寡鰥獨、或匱二於衣食一、甚憐愍焉。〔庾信、謝二滕王集序一啓〕聖慈憐愍、遂垂二存錄一。

【憐憫】19 レンビン　あはれむ。憐愍。憐閔。

【可レ憐】20 アハレムベシ　❶あはれみかなしむべし。あはれや。ふびんや。〔莊子、庚桑楚〕汝欲レ反二汝情性一而無レ由レ入、可レ憐哉。〔杜牧之、阿房宮賦〕楚人一炬、可レ憐焦土。❷あつぱれの意。〔文同、讀史詩〕可レ憐一擲贏二天下一。❸愛らしい意。可レ憐楊柳傷心樹を見よ。

【可レ憐楊柳傷心樹】21 アハレムベシヤウリウシヤウシンノジユ　愛らしい風姿の楊柳は人の感興をそそつて心を傷ましめる木である。〔劉廷芝、公子行〕綠波蕩漾玉爲レ砂、青雲離披錦作レ霞、可レ憐楊柳傷心樹、可レ憐桃李斷腸花、此日遨遊邀二美女一、此時歌舞入二娼家一。

【可レ憐九月初三夜露似二眞珠一月似レ弓】22 アハレムベシキウゲツシヨサンノヨツユハシンジユニニツキハユミニニタリ　人のあはれを催す九月三日の夜は、露は眞珠に似、三日月は弓に似てゐる。〔白居易、暮江吟詩〕一道殘陽鋪二水中一、半江瑟瑟半江紅、可レ憐九月初三夜、露似二眞珠一月似レ弓。

【可レ憐無定河邊骨猶是春閨夢裡人】23 アハレムベシムテイカヘンノホネナホコレシユンケイムリノヒト　あはれみ悲しむべきことである、彼の無定河邊に戰死して白骨となつた者は、故鄉の妻妾の春閨の夢に通ふところの夫なのである。〔陳陶、隴西行〕誓掃二匈奴一不レ顧レ身、五千貂錦喪二胡塵一、可レ憐無定河邊骨、猶是春閨夢裡人。

【乞レ憐】24 アハレミヲコフ　同情を求める。寵愛を得ようとする。〔韓愈、應二科目一時與レ人書〕若二俛首帖耳、搖レ尾而乞レ憐者、非二我之志一也。〔書言故事、惡性類〕狗媚二於人一、搖レ尾乞レ憐。

【取レ憐】25 アハレミヲトル　寵愛を得ようとする。憐は愛。〔韓愈、送三李愿歸二盤谷一序〕粉白黛綠者、列レ屋而閒居、妒レ寵而負レ恃、爭レ姸而取レ憐。

【憐香伴】26 レンカウハン　戲曲の名。淸、李漁撰。十種曲の一つ。石介夫が婦を娶ることを記す。

【憐香惜玉】27 レンカウセキギヨク　香や玉をいつくしむ。香・玉は女子に喩へ、女色を愛好するをいふ。惜玉憐香。〔元好問、荊棘中杏花詩〕京師惜レ花如レ惜レ玉。

【⿱粦心】11207　レン

憐(**4－11206**)に同じ。〔正字通〕⿱粦心、同レ憐。

【⿰忄敞】11208　シヤウ　〔集韻〕齒兩切　養

❶⿰忄敞怳は、驚くさま。〔集韻〕⿰忄敞、⿰忄敞怳、驚皃。❷⿰忄敞怳は、うつとりするさま。〔字彙〕⿰忄敞、⿰忄敞怳、失二精神一皃。❸或は惝(**4－10815**)に作る。〔集韻〕⿰忄敞、或省。

【⿰忄敞怳】1 シヤウキヤウ　驚くさま。惝怳。〔字彙〕⿰忄敞、⿰忄敞怳、驚貌。

【⿰忄敞恍】2 シヤウクワウ　うつとりするさま。惝恍。恍惚(**4－10546‥5**)の❶に同じ。〔漢武帝、李夫人賦〕浸淫⿰忄敞恍、寂兮無レ音。〔白居易、和二微之詩二十三首、和レ酬下鄭侍御東陽春悶放レ懷追二越遊一見上レ寄詩〕流年⿰忄敞恍不レ饒レ我、美景鮮妍來爲レ誰。

【⿰忄敞惘】3 シヤウマウ　驚くさま。驚き自失するさま。惝惘。⿰忄敞罔。〔張衡、思玄賦〕仰矯レ首以遙望兮、魂⿰忄敞惘而無レ疇。

【⿰忄敞然自失】4 シヤウゼンジシツ　驚いて茫然となること。〔列子、湯問〕⿰忄敞然自失、不レ進二酒肉一。

【⿱敞心】11209　チヤウ　〔字彙補〕徹帳切　漾

⿱敞心⿱敞心は、はやいさま。〔字彙補〕⿱敞心、⿱敞心⿱敞心、急速貌。

【憑】11210

🈩ヒヨウ ビヨウ　〔集韻〕皮冰切　ㄆㄧㄥˊ　pʻing²　蒸

🈔ヒヨウ ボウ　〔集韻〕皮殑切　迥

🈩❶**よる。**㋑たよる。たのむ。〔集韻〕憑、依也。〔小爾雅、廣言〕憑、依也。〔唐書、太宗紀〕上憑二神明之佑一、下賴二英賢之輔一。〔王仁裕、劍門詩〕李杜常挨託、孫劉亦恃憑。㋺もたれる。〔書、顧命〕憑二玉几一。〔漢書、酈食其傳〕馮レ軾下二齊七十餘城一、〔注〕師古曰、馮、讀爲レ憑、憑、據也、軾、車前橫板隆起者也、云レ憑レ軾者、言二但安坐乘車而游說一、不レ用二兵衆一。㋩つく。のりうつる。〔唐書、葉法善傳〕此爲二魅所一レ憑。㋥やどる。すむ。〔韓愈・孟郊、納涼聯句〕危簷不二敢憑一。㋭も

とづく。〔舊唐書、郗處俊傳〕所レ引經旨、足レ可二依憑一。❷**よせる**。託する。まかす。〔張衡、西京賦〕有下憑二虛公子一者上。〔注〕綜曰、憑、依託也。❸**よりどころ**。〔隋書、禮儀志〕丈尺規矩、皆有二准憑一。❹**しるし**。證據。證書。〔燕翼貽謀錄〕太平興國二年詔曰、今後州府、錄曹・縣令・簿尉・吏部・南曹、竝給二印紙曆子一外、給二公憑一者罷レ之。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕以二媒妁聘定一爲レ憑。❺**あつい**。〔集韻〕憑、厚也。❻**さかん**。〔後漢書、班固傳下〕憑怒雷震。〔注〕憑、盛也。❼**みちる**。〔集韻〕憑、滿也。〔楚辭、離騷〕憑不レ厭二乎求索一。〔注〕憑、滿也、楚人名レ滿曰レ憑、云云、中心雖レ滿、猶復求索、不レ知二厭飽一也。❽**いかる**。〔方言、二〕憑、怒也、楚曰レ憑。〔注〕憑、恚盛皃。❾**大いに**。〔列子、湯問〕帝憑怒。〔注〕憑、大也。❿**かちわたる**。淜（**7－17647**）に通ず。〔玉篇〕淜、徒涉也、今馮字。〔論語、述而、暴虎馮河、皇疏〕無レ舟渡レ河爲二憑河一。〔釋文〕馮、字亦作レ憑。⓫**たとひ。ままよ。よし**。〔紅樓夢、七回〕憑儞什麼名醫仙方。⓬或は倗（**1－772**）に作る。〔集韻〕憑、或作レ倗。⓭通じて馮（**12－44579**）に作る。〔集韻〕憑、通作レ馮。〔易略例、无レ所レ馮也、釋文〕馮、本亦作レ憑。〔詩、小雅、小旻〕不二敢馮河一。〔鹽鐵論、詔聖〕不二敢憑河一。⓮**姓**。〔尚友錄〕憑、唐憑祥興雩都人、曉二智略一。[二]**もだえる**。〔集韻〕憑、懣也。

名乘 ヨリ。ミツ。

參考 熟語は馮（**12－44579**）を併せ見よ。

【憑依】1（ヒョウイ） よる。よりかかる。又、のりうつる。憑依に同じ。〔論衡、死僞〕其魂魄猶能憑二依人一、以爲二淫厲一。〔韓愈、雜說一〕龍弗レ得レ雲、無三以神二其靈一矣、失三其所二以憑依一、信不レ可歟、異哉、其所二憑依一、乃其所二自爲一也。〔吳融、太湖石歌〕噫嘻爾石好憑依、幸有二方池一幷釣磯。

【憑噫】2（ヒョウイ） 氣の滿ちふさがること。おもひなげく。〔司馬相如、長門賦〕心憑噫而不レ舒兮、邪氣壯而攻レ中。〔注〕善曰、憑噫、氣滿貌、翰曰、憑噫、懷嘆。

【憑印】3 pʻing^2 yin^4 證印をいふ。

【憑韻】4（ヒョウキン） 反切法で、歸字の韻字と同韻同等で、音字と同音ではあるが其の等を異にし、直拗の同じでないものをいふ。例へば古懷切―乖、居盈切―輕の類。

【憑雲】5（ヒョウウン） 雲に身を託する。雲に乘る。〔謝惠連、雪賦〕憑レ雲升降、從レ風飄零。〔注〕良曰、憑、依也。

【憑妖】6（ヒョウエウ） あやしいことにかこつける。かこつけてあやしいことを說く。〔唐書、呂才傳〕附妄憑妖、至二其書一、乃有二百二十家一。〔王令、八檜圖詩〕憑妖附誕相樹立。

【憑應】7（ヒョウオウ） 瑞應によりもとづく。〔揚雄、劇秦美新〕有二憑應而尚缺一。〔注〕善曰、言下古帝王之興、有中憑二依瑞應一、而尚毀缺上焉。

【憑億】8（ヒョウオク） 多大の義。憑は滿。億は大。〔漢平都侯相碑〕餘患憑億。

【憑音】9（ヒョウオン） 反切法で、歸字の音字と同音同母同等で、韻字と同韻若しくは同用の韻に屬し、但其の等を異にするもの。例へば息弓切―嵩、直由切―儔の類。

【憑河】10（ヒョウカ） 河水を徒步でわたること。轉じて、向ふ見ずの勇氣をいふ。馮河（**12－44579··25**）に同じ。

【憑高】11（ヒョウカウ） 高い處に據る。〔韋莊、婺州水館重陽日作詩〕異國逢二佳節一、憑レ高獨苦吟。〔五代史、唐明宗紀〕解レ鞍礪レ鏃、憑レ高爲レ陣。

【憑几】12（ヒョウキ） 机にもたれる。馮几（**12－44579··36**）に同じ。

【憑義】13（ヒョウギ） 正義にしたがひよる。〔後漢書、黨錮傳序〕假レ仁以効レ己、憑レ義以濟レ功。

【憑虛】14（ヒョウキョ） ❶無有（**7－19113··40**）に同じ。憑は依託。虛は無。憑虛公子を見よ。〔潘岳、西征賦〕安處所三以聽二于憑虛一也。❷虛空にのる。氣象の大なるをいふ。馮虛（**12－44579··44**）に同じ。

【憑虛公子】15（ヒョウキョコウシ） 假設の人名。實在しない人物を假託したものであるから憑虛といふ。亡是公・烏有先生などといふに同じ。〔張衡、西京賦〕有二憑虛公子者一。〔注〕綜曰、憑、依託也、虛、無也、言レ無レ有二此公子一也。

【憑據】16（ヒョウキョ） ❶たよる。よりどころとする。又、よりどころ、證據。〔顏師古、封禪議、注〕委巷浮說、不レ足二憑據一。〔宋史、律曆志十五〕不レ知三何所二憑據一。❷pʻing^2 chü^4 證書。

【憑空】17（ヒョウクウ） ❶事實のないこと。憑空臆造を見よ。❷pʻing^2 kʻung^1 逃げ去る。

【憑空臆造】18（ヒョウクウオクザウ） 根據なく自分の考で推量すること。〔經解入門、有二訓詁之學一〕國朝經學家如二顧氏・閻氏而下一、亦皆精二通乎此一、故能上接二漢代一、且有レ發二漢儒所レ未レ發者一、不レ然憑空臆造、蔑レ古又孰甚哉。

【憑係】19（ヒョウケイ） 憑依に同じ。〔晉書、張祚傳〕神祇嶽瀆、罔レ所二憑係一。

【憑券】20 pʻing^2 chʻüan^4 證券。

【憑肩】21（ヒョウケン） 肩による。互に親しんで肩によりかかる。〔白居易、新豐折臂翁詩〕玄孫扶向二店前一行、左臂憑レ肩右臂折。〔金史、完顏忠傳〕少閒太祖、與二迪古乃一、憑レ肩而語曰、我此來、豈徒然也。

【憑險】22（ヒョウケン） 險による。要害をたのんで據る。〔南史、梁武帝紀上〕憑レ險作レ守、兵食兼資。〔唐書、盧懷愼傳〕憑レ險恃レ遠、易レ擾而難レ安。

【憑限】23（ヒョウゲン） 證書の日限。〔福惠全書、蒞任部、繳レ憑〕憑限不レ得レ過二一月一、在二一月以內一者勿レ問。

【憑冊】24（ヒョウサツ） 證據となる帳簿の類をいふ。證據書類。〔福惠全書、蒞任部、畫レ憑領レ憑〕具二腳色手本互結供狀、京官印結一、投レ科、清晨赴レ科伺候、于二憑冊一書二一押一、是謂二畫憑一。

【憑恃】25（ヒョウジ） よりたのむ。たよりにする。憑恃。〔潘勖、冊二魏公九錫一文〕袁紹逆レ常、謀レ危二社稷一、憑二恃其衆一、稱レ兵內侮。〔陳琳、爲二袁紹一檄二豫州一文〕莫レ所二憑恃一。〔蜀志、宗預傳、注〕吳歷曰、預臨レ別謂二孫權一曰、蜀土僻小、雖レ云二鄰國一、東西相賴、吳不レ可レ無レ蜀、蜀不レ可レ無レ吳、君臣憑恃、唯陛下重垂二神慮一。〔金史、蕭肆傳〕憑二恃恩倖一、倨二視同列一。

【憑儞】26（ヒョウジ） たとひ。〔紅樓夢、七回〕憑儞什麼名醫仙藥。

【憑藉】27（ヒョウシャ） よる。たよる。又、よりどころ。たより。凴藉。〔晉書、庾亮傳論〕外戚之家、連二耀椒掖一、舅氏之族、同二氣蘭闈一、靡レ不下憑二藉寵私一、階中緣險謁上。〔沈約、恩倖傳論〕徒以憑二藉世資一。

【憑祥】28（ヒョウシャウ） 縣名。明、置く。後、土州とし、淸末、改めて廳を置き、民國、縣に改む。廣西省寧明縣の西北。安南に通ずる要道。〔讀史方輿紀要、廣西〕憑祥州、唐羈縻蠻地、宋爲二憑祥洞一、屬二永平砦一、元屬二思明路一、明初因レ之、洪武十八年、置二憑祥鎭一、永樂二年、升爲レ縣、屬二思明府一、成化十八年、又升爲レ州。

【憑上】29（ヒョウジャウ） 上役からわたつた證文。〔福惠全書、筮仕部、上任吉期〕于二憑上一註二有定限一。

【憑證】30（ヒョウショウ） 證書。〔福惠全書、刑名部、逃人、遞解〕應下卽報二該地方一取レ結、爲中彼之憑證上也。

【憑軾】31（ヒョウショク） 車の前の橫木に身をよせかけること。字解の❶の㋺を見よ。〔左思、魏都賦〕憑レ軾捶レ馬、袖幕紛半。〔魏徵、述懷詩〕請レ纓繫二南粤一、憑レ軾下二東藩一。

【憑心】32（ヒョウシン） 心の憤つてふさがること。怒に滿ちた心。〔楚辭、離騷〕喟憑レ心而歷レ玆、濟二沅湘一以南征兮。〔注〕喟然舒二憤懣之心一。〔補注〕方言云、憑、怒也、楚曰レ憑、注云、恚盛貌。〔文選注〕良曰、憑滿、言、我依二前代聖賢節度一、而不レ得レ用、故歎息憤滿、而行二澤畔一矣。

【憑信】33（ヒョウシン） ❶たよつて信ずる。憑據して信用する。〔顏氏家訓、書證〕如レ此之流、不レ足二憑信一。〔宋史、宗澤傳〕以二敵國誕謾一、爲レ可二憑信一。❷pʻing^2 hsin^4 憑信交銀に同じ。

【憑信交銀】34 pʻing^2 hsin^4 chiao^1 yin^2 信用狀。爲替の一方法で、甲銀行から私信の如くに適當の文句を書き列ねて之を乙地に送るもの。

【憑照】35 pʻing^2 chao^4 よりどころ。鑑札。證明書。照は、てらし合せて證する意。

【憑霄】36（ヒョウセウ） 舜を葬つたときあらはれたといふ鳥の名。〔拾遺記、虞舜〕舜葬二蒼梧之野一、有レ鳥

如レ雀、吐二五色之氣一、名曰二憑霄雀一、能羣飛銜レ土成二邱墳一。

【憑說】37 ヒヨウセツ 證據。〔宣和遺事、前集〕紅凝二粉面一、尊者無二憑說一。

【憑摺】38 pʻing^{2} chê^{2} 通帳。

【憑托】39 ヒヨウタク たのむ。依託。〔潘岳、寡婦賦〕終歸二骨兮山足一、存憑二託兮餘華一。

【憑單】40 pʻing^{2} tan^{1} 保證狀。又、證書。單は、かきつけ。

【憑仗】41 ヒヨウチヤウ よる。たよる。〔庾信、周車騎大將軍賀婁公神道碑〕少習二邊將一、憑二仗智勇一。〔宋史、豐稷傳〕憑二仗威靈一、尙何畏。

【憑中】42 pʻing^{2} chung^{1} 周旋人又は證人を中に立てる。

【憑弔】43 ヒヨウテウ 古跡などに立ちよつて弔ふ。〔帶經堂詩話〕予嘗疑、傅穎公友德之賢、中山而外、無二與倫比一、而卒不レ免二猜忌一、以二無罪一死、公、宿州人、予嘗過レ宿、憑弔而悲レ之。

【憑眺】44 ヒヨウテウ 高い所からながめる。〔張九齡、登二樂遊一春望書レ懷詩〕憑眺茲爲レ美、離居方獨愁。

【憑條】45 pʻing^{2} tʻiao^{2} 憑票に同じ。

【憑天】46 ヒヨウテン 天にたよる。天佑をたのむ。〔通俗編、天文、憑天〕晉書苻堅載記、諺云、憑レ天俟レ時。

【憑怒】47 ヒヨウド 大いにいかる。馮怒(**12－44579**‥129)に同じ。〔列子、湯問〕帝憑怒、侵二減龍伯之國一使レ阨、侵二小龍之民一使レ短。〔注〕憑、大也。〔班固、東都賦〕憑怒雷震。〔馬融、長笛賦〕震鬱怫以憑怒兮。

【憑憑】48 ヒヨウヒヨウ 盛なさま。馮馮に同じ。〔李白、樂府、遠別離〕皇穹竊恐不レ照二余之忠誠一、雲憑憑兮欲二吼怒一。

【憑附】49 ヒヨウフ たよりつく。〔潘岳、寡婦賦〕雖二冥冥而罔レ覿兮、猶依依以憑附。

【憑負】50 ヒヨウフ よりたのむ。〔柳宗元、劍門銘〕憑二負丘陵一。

【憑物】51 ツキモノ 人にのりうつつてたたりをする精靈。

【憑文】52 pʻing^{2} wen^{2} 證文。

【憑票】53 pʻing^{2} pʻiao^{4} ㊀一覽拂手形。㊁手形を證據として。

【憑票支】54 pʻing^{2} pʻiao^{4} chih^{1} 手形により額面の金額を支拂ふ。

【憑默】55 ヒヨウモク 魏の丁謐が曹爽に屈し交つたのを時人が謗つた語。默は曹爽の小字。〔魏志、曹爽傳、注〕魏略曰、于レ時謗書謂、臺中有二三狗一、二狗崖柴不レ可レ當、一狗憑默作二疽囊一、三狗謂二何鄧丁一也、默者爽小字也、其意言二三狗皆欲レ嚙レ人、而謐尤甚一也。

【憑賴】56 ヒヨウライ たのみにしてたよる。〔吳志、陸瑁傳〕若實孑然無レ所二憑賴一、其畏怖遠迸、或難二卒滅一。

【憑欄】57 ヒヨウラン てすりによりかかる。凭欄。倚欄。〔韓偓、中秋禁直詩〕星斗疏明禁漏殘、紫泥封後獨憑レ欄。〔陳旅、題二雲林晚晴圖一詩〕最愛東頭小亭子、聽レ鶯何日一憑レ欄。

【憑隆】58 ヒヨウリユウ 高大のさま。〔左思、吳都賦〕島嶼緜邈、洲渚憑隆。〔注〕翰曰、憑隆、高大貌。

【憑陵】59 ヒヨウリヨウ よりたのむ所があつて人をしのぐこと。勢を盛にして人に逼ること。又、勇ましくてあらいさま。馮陵(**12－44597**‥155)に同じ。〔左氏、襄、二十五〕介二恃楚衆一、以憑二陵我敝邑一。〔王儉、褚淵碑文序〕彊臣憑二陵於荊楚一。〔注〕銑曰、憑陵、勇暴貌也。〔李華、弔二古戰場一文〕當二此苦寒一、天假二強胡一、憑陵殺氣、以相翦屠。

【憑暉亭】60 ヒヨウキテイ 宋、張鎡(**4－9812**‥361)の室名。

【憑山閣】61 ヒヨウサンカク 清、陳枚(**11－41698**‥501)の室名。

【憑甚麼】62 pʻing^{2} shen^{2} mo 何を根據として。

【憒】11211

［一］クヮイ 〔集韻〕古對切 ㄎㄨㄟˋ kʻuei^{4} 隊

［二］クヮイ グヮイ 〔集韻〕戶賄切 賄

小篆

［一］［二］㊀**みだれる**。心がみだれる。もと憒(**4－11463**)に作る。〔正字通〕憒、本作レ憒。〔說文〕憒、亂也、从レ心貴聲。〔集韻〕憒、心亂也。〔楚辭、王逸、九思、逢尤〕心煩憒兮意無レ聊。〔注〕憒、亂也。㊁**くらい**。おろか。〔正字通〕憒、昏眊貌。〔漢書、王莽傳中〕憒眊不レ渫。

【憒憒】1 クヮイクヮイ ㊀みだれるさま。心の亂れるさま。〔莊子、大宗師〕彼又惡能憒憒然爲二世俗之禮一、以觀二衆人之耳目一哉。〔釋文〕憒憒、亂也。〔疏〕憒憒、猶二煩亂一也。〔後漢書、何進傳〕讓等詰レ進曰、天下憒憒、亦非二獨我曹罪一也。〔注〕憒憒、亂也。㊁くらいさま。はつきりしないさま。〔論衡、程材〕顯露易レ爲者、猶憒憒焉。〔蜀志、蔣琬傳〕楊敏曾毀レ琬曰、作レ事憒憒、誠非レ及二前人一。〔曹植、當牆欲高行〕憒憒俗間、不レ辯二僞眞一。

【憒辱】2 クヮイジヨク みだれけがれる。〔詩、邶風、柏舟、如二匪レ澣衣一箋〕衣之不レ澣、則憒辱無二照察一。

【憒毒】3 クヮイドク みだれそこなふ。〔論衡、道虛〕藥力烈盛、胸中憒毒。

【憒眊】4 クヮイマウ 心みだれ目がくらい。昏亂して明かでない。くらい。〔漢書、息夫躬傳〕小夫懊臣之徒、憒眊不レ知レ所レ爲。〔注〕師古曰、憒、心亂也、眊、目闇也。〔漢書、王莽傳中〕憒眊不レ渫。

【憒亂】5 クヮイラン 心がくらくみだれる。みだれる。昏亂。〔漢書、食貨志下〕百姓憒亂。〔金史、世宗紀下〕私心憒亂、如レ喪二魂魄一、以レ此有レ失。

【憓】11212

ケイ ヱ 〔集韻〕胡桂切 霽

㊀**いつくしむ**。〔集韻〕憓、愛也。㊁**したがふ**。〔集韻〕憓、順也。〔史記、司馬相如傳〕義征レ不レ憓。〔注〕集解曰、憓、順也。〔左思、魏都賦〕荊南懷憓。〔注〕善曰、憓、順也。㊂通じて惠(**4－10822**)・譓(**10－35964**)に作る。〔集韻〕憓、通作二惠・譓一。

【憔】11213

セウ ゼウ 〔集韻〕慈焦切 ㄑㄧㄠˊ chʻiao^{2} 蕭

㊀**うれひつかれる**。**やせる**。**やつれる**。〔說文新修字義〕憔、憔顇也、从レ心焦聲。〔集韻〕憔、憔悴、憂患也。〔國語、吳語〕民人離落、而日以憔悴。〔注〕憔悴、瘦病也。㊁或は顦(**12－43688**)・嫶(**3－6705**)・癄(**7－22507**)・醮(**11－40031**)に作る。〔集韻〕憔、或从レ頁、从レ女、从レ疒、亦作レ醮。

【憔悴】1 セウスイ ㊀やせおとろへる。又、つかれくるしむ。困苦する。顦顇。〔廣韻〕憔、憔悴、瘦也。〔孟子、公孫丑上〕民之憔二悴於虐政一、未レ有下甚二於此時一者上也。〔國語、吳語〕民人離落、而日以憔悴。〔注〕憔悴、瘦病也。〔戰國、燕策〕今夫齊王長主也、而自用也、南攻レ楚五年、稸積散、西困レ秦三年、民憔悴、士罷敝。〔楚辭、漁父〕顏色憔悴、形容枯槁。〔淮南子、說林訓〕有二榮華一者、必有二憔悴一。〔後漢書、馮衍傳下〕憐二衆美之憔悴一。〔顏氏家訓、風操〕憔悴容色。〔韓愈、荊潭唱和詩序〕憔悴專一之士。㊁うれへるさま。〔楚辭、劉向、九歎、離世〕身憔悴而考レ旦兮。〔注〕憔悴、憂貌也。

【憔顇】2 セウスイ 憔悴に同じ。〔魏志、于禁傳〕禁鬚髮皓白、形容憔顇。

【憔然】3 セウゼン やつれ衰へるさま。〔唐書、裴漼傳〕人心憔然、莫レ知レ所レ出。

【憔瘦】4 セウソウ つかれやせる。〔王十朋、次二韻李刑曹病起書懷一詩〕惟有二詩懷禁不レ得、任他憔瘦不レ勝レ衣。

【憔慮】5 セウリヨ 物思ひにやつれる。苦しみ思ふ。〔後漢書、蘇不韋傳〕不韋毀レ身憔慮、出二於百死一。

【憕】11214

［一］チヨウ ヂヨウ 〔集韻〕持陵切 蒸

［二］セイ ジヤウ 〔正韻〕時征切 庚

［三］タウ ヂヤウ 〔集韻〕除庚切 庚

［四］チヨウ ヂヨウ 〔集韻〕澄應切 蒸

［五］トウ 〔集韻〕丁鄧切 徑

小篆

［一］［二］**たひらか**。**心たひらか**。〔說文〕憕、平也、从レ心登聲。〔玉篇〕

憕、心平也。[三]憕悰は、志を失ふさま。〔玉篇〕憕、失レ志也。〔集韻〕憕、憕悰、失レ志。[四]心のしづかなさま。〔集韻〕憕、心靜。〔類篇〕憕、心靜貌。[五]懵憕は、精神が爽かでないこと。〔集韻〕憕、懵憕、精神不レ爽。

【憖】11215

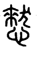
[一]ギン 〔集韻〕魚僅切 ㄧㄣˋ yin⁴ [震]

[二]ギン ゴン 〔集韻〕語斳切 [問]

[三]キン コン 〔集韻〕香斳切 [問]

[四]ガツ ゲチ 〔集韻〕牛轄切 [黠]

[五]ギン 〔集韻〕魚巾切 [眞]


小篆

[一]㊀なまじひに。しひて。つとめて。せめて。〔説文〕憖、肎也、从レ心猌聲。〔詩、小雅、十月之交〕不三憖遺二一老一。〔箋〕憖者、心不レ欲自彊之辭也。〔疏〕憖、肯從レ心也。〔釋文〕憖、強也。㊁しばらく。〔説文〕憖、一曰、且也、春秋傳曰、旻天不レ憖。〔詩、小雅、十月之交、釋文〕憖、且也。〔左氏、哀、十六〕不三憖遺二一老一。〔注〕憖、且也。㊂ああ。ねがはくは。〔左氏、昭、二十八〕憖使下吾君聞二勝與一レ臧之死上也以爲上レ快。〔注〕憖、發語之聲。〔釋文〕憖、發語音也。〔國語、楚語上〕吾憖寘二之於耳一。〔注〕憖、猶レ願也。〔國語、晉語五〕憖庇二州犂一焉。〔注〕憖、願也。㊃いたむ。〔方言、一〕憖、傷也、楚潁之閒、謂二之憖一。〔集韻〕憖、一曰、傷也、張揖説。㊄うれへる。〔廣雅、釋詁二〕憖、憂也。㊅つつしむ。〔説文〕憖、謹敬也。〔説文通訓定聲〕憖、猌之誤、猌卽愓字。㊆かける。〔説文〕憖、又曰、兩君之士皆未レ憖。〔左氏、文、十二〕兩君之士皆未レ憖也。〔注〕憖、缺也。㊇よろこぶ。弞(4－9736)・听(2－3352)に通ず。〔説文通訓定聲〕憖、段借爲レ弞。〔説文〕憖、一曰、説也。〔後漢書、張衡傳〕戴勝憖其既歡兮、又誚二余之行遲一。〔注〕憖、笑貌也、鳴之別體。〔集解〕沈欽韓曰、注鳴乃听之誤、説文听、笑貌、憖與レ听通。[二]いたむ。[一]の㊄に同じ。〔集韻〕憖、博雅、愓也。[三]笑ふさま。〔集韻〕憖、笑皃。[四]㊀なまじひに。しひて。[一]の㊀に同じ。〔集韻〕憖、字林、閒也。〔説文、憖、段注〕閒者肎之誤。㊁いたむ。[一]の㊃に同じ。〔集韻〕憖、一曰、傷也。㊂かける。[一]の㊆に同じ。〔集韻〕憖、一曰、缺也。㊃地名。〔集韻〕憖、一曰、厥憖、地名。〔左氏、昭、十一〕會二于厥憖一。〔釋文〕憖、一音五轉反。[五]地名。[四]の㊃に同じ。〔集韻〕憖、地名。〔左氏、昭、十一〕會二于厥憖一。〔釋文〕徐五巾反。

[參考] 説文の肎也の注文は古書に或は問也に作り、或は閒也に作る。段注に據れば閒は肎の誤で問は閒の誤なりといふ。今、段注に从ふ。〔説文、憖肎也、段注〕各本作二問也一、玉篇作二閒也一、左傳音義引字林、閒也、閒者、肎之誤、問者、閒之誤。

[名乘] タケ。

【憖憖】1（ギンギン） ㊀恭敬のさま。〔柳宗元、三戒、黔之驢〕稍出近レ之、憖憖然莫二相知一。㊁たかぶつて人に下らぬさま。崛彊のさま。〔桯史、八、逆亮辭怪〕金酋亮好爲二詩詞一、語出輒崛彊憖憖、有下不レ爲二人下一之意上。

【憖齋】2（ギンサイ） 淸、白乃貞(8－22678・・1350)の號。

【不二憖遺一】3（ナマジヒニノコサズ） 強ひて此の世に遺して置くことをしない。〔程頤、明道先生墓表〕天不二憖遺一、哲人早世。

【憖遺二一老一】4（ナマジヒニイチラウヲノコス） 心には欲しないが自ら強ひて、一人の老成人なりとも殘し置きたいといふこと。一説に、憖はしばらくの意。〔詩、小雅、十月之交〕不下憖遺二一老一、俾上レ守二我王一。〔箋〕憖者、心不レ欲自彊之辭也、言、盡將二舊在位之人一、與レ之皆去、無二留衞一レ王。〔左氏、哀、十六〕旻天不レ弔、不下憖遺二一老一、俾中屏二余一人一以在上レ位。〔注〕憖、且也。

【愸】11216 ギン 憖(4－11215)の俗字。〔正字通〕憖、本作レ憖、俗省作レ愸。

【悶】11217 クワン 患(4－10691)の古字。〔説文〕患、悶、古文从二關省一。

【憘】11218 キ ㊀喜(2－3957)の古字。〔字彙補〕憘、古文喜字。㊁憙(4－11219)に同じ。〔集韻〕憙、或作レ憘。

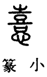
[參考] 熟語は喜(2－3957)を見よ。

【憙】11219

[一]キ 〔集韻〕許記切 ㄒㄧˇ hsi³ [寘]

[二]キ 〔集韻〕許己切 [紙]

[三]キ 〔集韻〕虚其切 [支]


小篆

[一][二]㊀よろこぶ。〔説文〕憙、説也、从二心喜一、喜亦聲。〔段注〕説者、今之悅字。〔史記、周紀〕無レ不二欣憙一。〔水經、滱水注〕邑豐民安、故曰二安憙一。㊁たのしむ。このむ。〔説文、憙、段注〕漢書、賈誼傳、遇レ之有レ禮、則羣臣自憙、注、憙、好也、口部嗜下曰、憙二欲之一也、然則憙、與レ嗜義同、與二喜樂一義異、淺人不レ能二分別一、認爲二一字一、喜行而憙廢矣。〔徐灝段注箋〕憙・喜古今字、段氏強生二分別一。㊂或は喜(2－3957)・憘(4－11218)に作る。〔集韻〕憙、亦省、或作レ憘。[三]㊀よろこぶ。歖(6－16128)に同じ。〔集韻〕歖、説文、卒喜也、或从レ心。㊁ああ。歎息の辭。譆(10－35938)に通ず。〔説文通訓定聲〕憙、段借爲レ譆。〔後漢書、蔡邕傳〕試潛聽レ之、曰、憙。㊂姓。〔萬姓統譜〕憙、見二通志氏族一。

[名乘] ヨシ。トシ。

[解字] 會意形聲。喜と心とを合はせ、喜は又聲。

【憙遊】1（キイウ） あそびをこのむ。〔越絶書、越絶外傳記吳王占夢〕幼而好レ學、長而憙レ遊。

【憙欣】2（キキン） よろこぶ。欣憙(6－16008・・15)に同じ。

【憙獵】3（キレフ） 獵をこのむ。〔穀梁、桓、六〕陳侯憙レ獵、淫二獵于蔡一、與二蔡人一爭レ禽。

【⿰忄畫】11220 クワク 〔集韻〕忽麥切 [陌]

㊀さとくない。おろか。〔廣韻〕⿰忄畫、不レ慧。㊁そむきもとる。〔玉篇〕⿰忄畫、乖戾也。〔集韻〕⿰忄畫、博雅、敼⿰忄畫、乖刺也。〔顏氏家訓、文章〕蘧居響二北闕一、⿰忄畫⿰忄畫不道車。㊂かたくな。〔玉篇〕⿰忄畫、頑也。㊃⿰忄畫⿰忄畫は、辯舌がさわやかなさま。〔廣韻〕⿰忄畫、又⿰忄畫⿰忄畫、辯快、出二音譜一。

【⿰忄項】11221 カウ 〔集韻〕虎項切 [講]

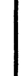
勨⿰忄項は、多力のさま。つよいさま。つよい。〔集韻〕⿰忄項、勨⿰忄項、多力。〔字彙〕⿰忄項、勨⿰忄項、多力貌。

【憚】11222

[一]タン ダン 〔集韻〕徒案切 ㄉㄢˋ tan⁴ [翰]

[二]タツ タチ 〔集韻〕當割切 [曷]

三タ　〔集韻〕丁賀切　箇
四タン　〔集韻〕黨旱切　旱
五タン　〔集韻〕唐干切　寒
六セン　〔集韻〕尺戰切　霰
七セン　〔集韻〕齒善切　銑
八エン　〔五音集韻〕於權切　先


小篆

一❶**はばかる**。㋑いむ。かたんずる。なやむ。〔說文〕憚、忌難也、从レ心單聲、一曰、難也。〔詩、小雅、緜蠻〕豈敢憚レ行。〔箋〕憚、難也。〔禮、中庸〕小人而無レ所二忌憚一也。〔注〕憚、難也。㋺かかはる。なづむ。〔左氏、僖、七〕何憚二于病一。㋩おそれる。〔詩、大雅、雲漢〕我心憚レ暑。〔箋〕憚、猶レ畏也。〔漢書、賈誼傳〕陛下誰憚而久不レ爲レ此。〔注〕師古曰、憚、畏難也。㋥うやまふ。〔漢書、東方朔傳〕昔伯姬燔而諸侯憚。〔注〕應劭曰、憚、敬也、敬二其節直一也。㋭くるしむ。〔詩、大雅、雲漢〕我心憚レ暑。〔釋文〕憚、苦也。㋬にくむ。〔方言、十三〕憚、惡也。❷**いかる**。つとめる。僤(**1－1112**)に通ず。〔說文通訓定聲〕憚、叚借爲レ僤。〔方言、六〕憚、怒也、楚曰レ憚。〔廣雅、釋詁一〕憚、強也。❸**おどす**。おびやかす。顫(**12－43706**)・怛(**4－10458**)に通ず。〔說文通訓定聲〕憚、叚借爲レ顫。〔一切經音義、三〕旁驚曰レ憚。〔周禮、考工記、矢人〕亦弗二之能憚一矣。〔注〕故書、憚、或作レ怛、鄭司農云、讀當二憚レ之以レ威之憚一。〔國語、晉語五〕小罪憚レ之。〔注〕憚、懼也。〔楚辭、宋玉、招魂〕君王親發兮憚二青兕一。〔注〕憚、驚也。〔張衡、西京賦〕驚二蝄蜽一憚二蛟蛇一。〔注〕綜曰、驚・憚、謂三皆使二駭怖一也。❹**やむ**。つかれる。癉(**7－22521**)に通ず。〔集韻〕癉、說文、勞病也、或从レ心。〔詩、小雅、大東〕哀二我憚人一。〔傳〕憚、勞也。〔釋文〕憚、字亦作レ癉。❺**あやぶむ**。おそれる。きおくれがする。〔莊子、達生〕以レ瓦注者巧、以レ鉤注者憚、以二黃金一注者殙。〔疏〕以二鉤帶一賭者、以二其物稍貴一、恐レ不レ中レ垛、故心生二怖懼一而不レ著也。〔釋文〕憚、又丈旦反、忌惡也、一曰、難也。❻**むさぼる**。憚悇(13)を見よ。❼**たのしむ**。憚漫(18)を見よ。❽通じて⿱單心(**4－11223**)に作る。〔集韻〕憚、通作レ⿱單心。

二❶**いたむ**。怛(**4－10458**)に同じ。〔集韻〕怛、說文、憯也、或作レ憚。❷**おどす**。一の❸に同じ。〔周禮、考工記、矢人〕亦不二之能憚一矣。〔釋文〕憚、音怛、都達反。三**つかれやむ**。一の❹に同じ。〔集韻〕癉、說文、勞病也、或从レ心。四❶**つかれる**。〔集韻〕憚、勞也。❷**なやむ**。〔集韻〕憚、難也。❸**まこと**。亶(**1－328**)に通ず。〔說文通訓定聲〕憚、叚借爲レ亶、大戴禮文王官人、觀二其信憚一也、逸周書作レ誠。❹**たひら**。坦(**3－4971**)に通ず。〔說文通訓定聲〕憚、叚借爲レ坦。〔荀子、王霸〕是憚憚非レ變也。〔注〕憚、與レ坦同。五❶**あやぶむ**。一の❺に同じ。〔集韻〕憚、驚怛也。〔莊子、達生〕以レ鉤注者憚。〔釋文〕憚、徒丹反。❷**大きい**。單(**2－3993**)に通ず。〔說文通訓定聲〕憚、叚借爲レ單、秦策、王之威亦憚矣、按、大也。六**はばかる**。〔集韻〕憚、方言、難也、齊魯曰レ憚。七❶**あなどる**。〔集韻〕憚、慢傷也。❷**車のやぶれるさま**。幝(**4－9074**)に通ず。憚憚(12)を見よ。八**車のやぶれたさま**。〔五音集韻〕憚、車敝貌。

【憚意】1 タンイ　おそれはばかる心。〔日本政記、堀河天皇〕及二其薨一、無二復憚意一。

【憚畏】2 タンヰ　はばかりおそれる。畏憚。〔史記、吳王濞傳〕聞二膠西王勇、好レ氣喜レ兵、諸齊皆憚畏一。〔後漢書、度尙傳〕與戰破レ之、戎憚畏。

【憚惡】3 タンヲ　おそれにくむ。〔道濳、送二淋上人還一レ杭詩〕駛浮二長川一不二憚惡一、陟二彼巨巘一寧知レ勞。

【憚改】4 タンカイ　あらためることをおそれはばかる。改めることを難しとする。〔論語、學而〕過則勿レ憚レ改。〔集解〕鄭玄曰、憚、難也。〔集注〕憚、畏難也。

【憚行】5 タンカウ　行くことを難しとする。一説に、行くことを畏れる。〔詩、小雅、綿蠻〕豈敢憚レ行、畏レ不レ能レ極。〔箋〕憚、難也。〔集傳〕憚、畏也。

【憚赫】6 タンカク　威勢がおそろしくさかんで驚き恐るべきこと。盛威あっておそるべきこと。〔莊子、外物〕任公子爲二大鉤巨緇一、五十犗以爲レ餌、蹲二乎會稽一、投二竿東海一、旦旦而釣、期年不レ得レ魚、已而大魚食レ之、牽二巨鉤一、錎沒而下、騖揚而奮レ鬐、白波若レ山、海水震蕩、聲侔二鬼神一、憚二赫千里一。〔集釋〕慶藩案、憚、古皆訓爲二畏難一、此言二憚赫一、憚者、盛威之名也、賈子解縣篇、陛下威憚大信、亦此憚字之義、盛威爲レ憚、盛怒亦爲レ憚、大雅桑柔篇、逢二天僤怒一、是也、僤、與レ憚同。〔韓愈、上二襄陽于相公一書〕閤下負二超卓之奇材一、蓄二雄剛之俊德一、云云、故其文章言語、與レ事相侔、憚赫若二雷霆一、浩汗若二河漢一。

【憚忌】7 タンキ　はばかりきらふ。忌憚(**4－10310‥41**)に同じ。

【憚警】8 タンケイ　おそれいましめる。〔白虎通、誅伐〕尙書大傳曰、戰者憚二警之一也。

【憚賞】9 タンシヤウ　賞をはばかる。賞を受けて利益のためにけがされることを忌みはばかる。〔晉書、王沉傳〕將恐二拘介之士、或憚レ賞而不一レ言。

【憚人】10 タンジン　つかれた人。又、なやめる人。癉人。〔詩、小雅、大東〕契契寤歎、哀二我憚人一。〔傳〕憚、勞也。

【憚懾】11 タンセフ　おそれる。〔後漢書、李膺傳〕虜甚「憚懾。

【憚憚】12 タンタン センセン　❶變らぬさま。一説に、やぶれふるくなるさま。〔荀子、王霸〕故國者重任也、不三以積二持之一則不レ立、故國者、世所二以新一者也、是憚憚非レ變也。〔注〕憚、與レ坦同、言、國者但繼世之主自新耳、此積久之法、坦坦然無レ變也。〔集解〕郝懿行曰、憚、與レ坦雖レ可レ通、此憚疑幝字之形譌、毛詩檀車幝幝、傳云、幝幝、敝貌、與レ此義合、敝正對レ新而言、此言國與レ世俱新、雖二或幝幝敝壞一而非レ變也。❷うれへおそれる。氣遣ふこと。〔大戴禮、曾子立事〕行無レ求二數有一レ名、事無レ求二數有一レ成、身言レ之、後人揚レ之、身行レ之、後人秉レ之、君子終身、守二此憚憚一。〔注〕憚憚、憂惶也。

【憚悇】13 タント　貪慾なこと。〔淮南子、脩務訓〕今夫毛嬙西施、天下之美人、云云、則雖下王公大人、有二嚴志頡頏之行一者上、無レ不三憚悇癢心、而悅二其色一矣。〔注〕憚悇、貪欲也。

【憚罰】14 タンバツ　罰をはばかる。罪せられんことをおそれる。〔國語、晉語一〕史蘇曰、臣之不信、國之福也、何敢憚レ罰。

【憚煩】15 タンハン　わづらはしいのをはばかる。事のうるさいのをきらひおそれる。〔左氏、昭、三〕唯懼レ獲レ戾、豈敢憚レ煩。〔孟子、滕文公上〕何許子之不レ憚レ煩。〔論衡、是應〕何天之不レ憚レ煩也。

【憚避】16 タンヒ　はばかりさける。忌避。〔唐書、皇后武氏傳〕已得レ志卽盜二威福一、施施無二憚避一。

【憚服】17 タンフク　畏れはばかって從ふ。〔唐書、李元諒傳〕居レ軍十年、士心憚服。

【憚漫】18 タンマン　よろこび樂しむさま。和ぎ樂しむさま。〔王褒、洞簫賦〕其奏二歡娛一、則莫下不二憚漫衍凱、阿那腲腇一者上已。〔注〕善曰、憚漫衍凱、歡樂貌、翰曰、憚漫衍凱、和樂貌。

【憚勞】19 タンラウ　勞をはばかる。勞力をはばかる。〔唐書、蕭德言傳〕對二先聖之言一、何復憚レ勞。

【憚狐聚】20 タンコシユウ　地名。河南省臨汝縣の西北。⿱單心狐聚。〔史記、周紀〕秦取二九鼎寶器一、而遷二西周公於憚狐一。〔注〕集解曰、徐廣曰、憚狐聚、與二陽人聚一相近、在二洛陽南百五十里、梁新城閒一、正義曰、括地志云、汝州外古梁城、卽憚狐聚也、陽人故城、卽陽人聚也、在二汝州梁縣西四十里一、秦遷二東周君一也、梁亦古梁城也、在二汝州梁縣西南十五里一、新城今洛州伊闕縣也、按、憚狐陽人傍在二三城之閒一。

【⿱單心】11223

㊀ダン ナン　〔集韻〕乃旦切　翰

㊁タン

㊀⿱單心狐は、邑の名。〔集韻〕⿱單心、⿱單心狐、邑名。㊁憚(4－11222)に同じ。〔集韻〕憚、通作㆑⿱單心。

參考　熟語は憚(4－11222)を見よ。

【憛】11224

㊀タン ダン　〔集韻〕徒南切　覃

㊁エン　〔集韻〕於鹽切　鹽

㊂タン トン　〔集韻〕他紺切　勘

㊀うれへる。〔集韻〕憛、憂意。㊁❶うれひをいだく。悇憛。〔集韻〕憛、博雅、悇憛、懷㆑憂也。❷あわてる。㊂の❸に同じ。〔集韻〕憛、惶遽也。㊂❶おもふ。〔集韻〕憛、博雅、思也。❷うれへまどふ。憛⿰忄朱。〔集韻〕憛、一曰、憛⿰忄朱、憂惑也。❸あわてる。〔集韻〕憛、一曰、惶遽也。❹禍福の定まらぬこと。〔集韻〕憛、一曰、禍福未㆑定意。❺或は⿰忄罙(4－10721)に作る。〔集韻〕憛、或作㆑⿰忄罙。

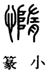
【憛⿰忄朱】1 タン サン　うれへまどふ。字解㊂の❷を見よ。

【憛⿰忄罙】2 タン タン　うれひをいだく。〔廣韻〕憛、憛⿰忄罙、懷㆑憂。「懷㆑憂也。

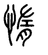
【憛悇】3 タン ト　うれへをいだく。〔玉篇〕憛、憛悇、

【憜】11225

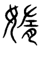
タ ダ　〔集韻〕杜果切　哿



小篆



或體



古文

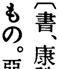
❶つつしまない。〔說文〕憜、不㆑敬也、从㆑心、嫷省聲、春秋傳曰、執㆑玉憜。❷惰(4－10855)に同じ。〔說文〕憜、云云、春秋傳曰、執㆑玉憜、惰、憜或省㆑𠂤。〔左氏、僖、十一〕天王使㆔邵武公・內史過賜㆓晉侯命㆒、受㆑玉惰。❸古は媠(3－6525)に作る。〔說文〕憜、媠、古文。

【憝】11226

㊀タイ ヅイ　〔集韻〕徒對切　ㄉㄨㄟˋ tuei⁴　隊

㊁タイ ダイ　〔集韻〕杜罪切　賄

㊂タイ ヅイ　〔集韻〕徒回切　灰



小篆

㊀❶うらむ。〔說文〕憝、怨也、从㆑心敦聲。周書曰、凡民罔㆑不㆑憝。〔廣韻〕憝、怨也。❷にくむ。〔廣韻〕憝、惡也。〔書、康誥〕凡民罔㆑弗㆑憝。❸わるい。わるもの。惡人。〔書、康誥〕元惡大憝。〔逸周書、世俘解〕凡憝國九十有國。〔注〕憝、惡也。❹古は憝(4－11517)に作る。〔集韻〕憝、說文、怨也、古作㆑憝。❺或は譈(10－35945)・懟(4－11376)に作る。〔集韻〕憝、作㆓譈・懟㆒。❻又、憞(4－11227)に作る。〔集韻〕憝、亦書作㆑憞。㊁㊂うらむ。〔集韻〕憝、恨也。

【憝獠】1 トン ラウ　五代の時、南漢の鄧伸が陳道庠の愚かで事を曉らないのを罵った語。〔五代史、南漢劉晟世家〕陳道庠懼不㆓自安㆒、其友鄧伸、以㆓荀悅漢紀㆒遺㆑之、道庠莫㆓能曉㆒、伸罵曰、憝獠、韓信誅而彭越醢、皆在㆓此書㆒矣。

【憞】11227

㊀タイ ヅイ　〔集韻〕徒對切　ㄉㄨㄟˋ tuei⁴　隊

㊁トン ドン　〔集韻〕徒困切　願

㊂トン　〔集韻〕他昆切　元

㊀うらむ。にくむ。憝(4－11226)に同じ。〔廣韻〕憝、怨也、惡也、憞、上同、憝、亦同。〔集韻〕憝、說文、怨也、亦書作㆑憞。㊁わづらはしい。みにくい。みだれる。憞溷(2)を見よ。㊂❶くらい。おろか。憞恨(1)を見よ。❷或は敦(5－13089)に作る。〔集韻〕憞、或省。

【憞恨】1 タイ コン　くらい。おろか。〔集韻〕憞、憞恨、心不㆑明也。

【憞溷】2 トン コン　わづらはしい。みだれる。〔集韻〕憞、憞溷、惡亂也。〔宋玉、風賦〕狀直憞溷鬱邑、毆㆑溫致㆑濕。〔注〕善曰、憞溷、煩濁之貌。

【憟】11228

ショク ソク　〔集韻〕須玉切　沃

❶へつらふ。〔玉篇〕憟、承㆓上顏色㆒也。❷いつはりしたがふ。〔集韻〕憟、詭隨也。

參考　慄(4－11042)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕慄、音栗、懼也、憟、音粟、憟斯承㆓上顏色㆒也。

【⿰忄斯】11229

㊀セイ サイ　〔集韻〕先齊切　齊

㊁シ　〔集韻〕相支切　支

㊀㊁おそれる。〔集韻〕⿰忄斯、惿⿰忄斯、心怯也。

【⿰忄巽】11230

㊀シュン　〔集韻〕聳尹切　軫

㊁セン　〔集韻〕鶵免切　銑

㊂セン　〔玉篇〕息戀切　霰

㊀㊁弱いさま。愌⿰忄巽。〔集韻〕⿰忄巽、愌⿰忄巽、劣弱皃。㊂よろこぶ。〔玉篇〕⿰忄巽、稅也。〔字彙〕⿰忄巽、悅也。

【⿱厥心】11231

ケツ　つよい。⿱厥力(2－2439)に同じ。〔集韻〕⿱厥力、說文、勥也、或从㆑心。〔玉篇〕⿱厥心、強也、或作㆑⿱厥力。

【⿰忄發】11232

ハツ バチ　〔集韻〕蒲撥切　曷

ふんぱつする。〔集韻〕⿰忄發、心起也。

【憡】11233

サク シャク　〔集韻〕測革切　陌

すこしくいたむ。或は悚(4－10567)に作る。〔玉篇〕憡、小痛也。〔集韻〕憡、博雅、痛也、或省。

【憡刺】1 サク ラツ　すこしくいたむさま。憡瘌。〔方言、二〕憡刺、痛也、自㆑關而西、秦晉之閒、或曰㆑憡。〔注〕小痛也。「痛也。

【憡瘌】2 サク ラツ　憡刺に同じ。〔廣雅、釋詁二〕憡・瘌、

【⿰忄逮】11234

タイ　⿰忄隶(4－10748)の俗字。〔正字通〕⿰忄逮、俗⿰忄隶字。

【⿰忄買】11235

バイ メ　〔集韻〕莫佳切　佳

⿰忄買⿰忄奚は、心が平かでない。〔集韻〕⿰忄買、⿰忄買⿰忄奚、心不㆑平。

【憢】11236

ケウ　〔集韻〕馨幺切　蕭

❶おそれる。嘵(2－4259)に同じ。憢憢(2)を見よ。〔集韻〕嘵、說文、懼也、引㆓詩唯予音之嘵嘵㆒、或从㆑心。❷いつはる。僥(1－1113)に同じ。〔集韻〕僥、僞也、或从㆑心。

【憢悍】1 ケウ カン　氣のあらいこと。驍悍。〔淮南子、兵略訓〕吳王夫差、拒㆑諫喜㆑諛、憢悍遂㆑過。〔注〕憢、勇急也。

【憢憢】2 ケウ ケウ　おそれるさま。嘵嘵。〔爾雅、釋訓〕憢憢、懼也。〔釋文〕憢、本又作㆑嘵。〔郝懿行義疏〕憢者、嘵之或體也。

【憣】11237 ハン ベン 〔正字通〕符山切 删

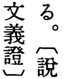
㊀心がかはりうごく。〔正字通〕憣、心變動。㊁かへす。めぐらす。翻(9−28814)に通ず。〔列子、周穆王〕憣二校四時一。〔釋文〕憣、讀作レ翻。

【像】11238 タウ ダウ 〔集韻〕待朗切 養

小篆

㊀ほしいまま。〔說文〕像、放也、从レ心象聲。㊁或は愓(4−10936)・婸(3−6458)・傷(1−852)に作る。〔集韻〕像、或作二愓・婸・傷一。

【憤】11239 [一]フン ブン 〔集韻〕父吻切 ㄈㄣˋ fen^4 吻 [二]フン ブン 〔字彙〕房問切 問


小篆

[一][二]㊀いきどほる。㋑もだえる。〔說文〕憤、懣也、从レ心賁聲。〔桂馥、說文義證〕論語、不レ憤不レ啓、皇氏曰、憤、謂二學者之心思レ義未レ得而憤憤然一也。〔論語、述而〕不レ憤不レ啓。〔集注〕憤者、心求レ通而未レ得之意。㋺いかる。〔字彙〕憤、怒也。〔舊唐書、于頔傳〕人神共憤、法令不レ容。㋩たかぶる。〔禮、樂記、奮末廣賁之音作、注〕憤、怒氣充實也。〔晉書、孫楚傳論〕違二遜讓之道一、肆二陵憤之氣一。㋥ふるひおこる。はげむ。〔元稹、爲二嚴司空一謝二招討使一表〕此誠仁人孝子、決憤激レ忠之日也。㋭うらむ。なげく。〔孫逖、太子舍人王公墓誌銘〕屈原逐、賈生憤、公其近レ之矣。㊁いきどほり。㋑もだえ。くるしみ。なげき。〔梅堯臣、李宣叔遣二川牋及粉紙一詩〕宜レ書二揚雄辭一、莫レ寫二屈原憤一。㋺いかり。㋩うらみ。あだ。〔宋史、渤海國傳〕鄰邦雪レ憤。〔孔稚珪、北山移文〕風雲悽其帶レ憤。㊂くるしむ。なやむ。〔方言、十三〕憤、阨也。㊃みちる。〔方言、十二〕憤、盈也。〔莊子、盜跖、侅二溺於馮氣一、釋文〕憤、滿也。㊄つむ。〔國語、周語上〕陽癉憤盈。〔注〕憤、積也。㊅さかん。〔華嚴經音義、一〕憤毒、賈注二國語一曰、盛也。〔傳咸、喜雨賦〕亢陽火憤、野無二生類一。㊆おこる。〔淮南子、脩務訓〕憤二於中一、則應二於外一。〔注〕憤、發也。㊇みだれる。〔班固、幽通賦〕周賈蕩而貢憤兮。〔注〕善曰、曹大家曰、憤、亂也。㊈通じて賁(10−36737)に作る。〔禮、樂記、奮末廣賁之音作、釋文〕賁、依レ注讀レ憤。㊉或は⿰忄奮(4−11449)に作り、又、馮(12−44579)に作る。〔集韻〕憤、或从レ奮、亦作レ馮。〔莊子、盜跖、侅二溺於馮氣一、釋文〕馮、讀憤。

【憤恚】1 フンイ いきどほる。いかる。忿恚。〔後漢書、楊賜傳〕吾每レ讀二張禹傳一、未三嘗不二憤恚歎息一。〔晉書、夏統傳〕子路見二夏南一、憤恚而忼愾。

【憤邑】2 フンイフ 憤悒に同じ。〔後漢書、應劭傳〕心焉憤邑、聊以藉乎。

【憤悒】3 フンイフ いきどほりうれへる。憤邑。〔趙至、與二嵇茂齊一書〕自レ非レ知レ命、誰能不二憤悒一者哉。

【憤鬱】4 フンウツ いきどほり氣がふさがる。〔近古史談、德篇、女子復讎〕憤鬱成レ疾以沒也。

【憤慍】5 フンウン いきどほって心にもだえる。〔謝惠連、豫章行〕如何阻二行止一、憤慍結二心胸一。

【憤盈】6 フンエイ ㊀いきどほりのみちること。〔後漢書、崔駰傳〕思レ効二其區區憤盈一、而不レ能レ已也。〔後漢書、張奐傳論〕中官世盛、暴二恣數十年閒一、四海之內、莫レ不二切齒憤盈一、願レ投二兵於其族一。〔蔡琰、非憤詩〕心吐レ思兮胸憤盈。〔石崇、王昭君辭〕苟生亦何聊、積思常憤盈。㊁積みみちること。〔國語、周語上〕古者太史順レ時覛レ土、陽癉憤盈、土氣震發。〔注〕憤、積也、盈、滿也。〔逸周書、時訓解〕陰氣憤盈。

【憤悁】7 フンエン いきどほる。〔楚辭、劉向、九歎、逢紛〕腸憤悁而含レ怒兮。

【憤焉】8 フンエン いきどほるさま。憤然(31)に同じ。

【憤怨】9 フンエン いかりうらむ。忿怨。〔漢書、敍傳下〕西土宅レ心、戰士憤怨。〔後漢書、楊震傳〕震前後所レ上、轉有二切至一、帝既不レ平レ之、而樊豐等皆側目憤怨、俱以二其名儒一、未二敢加一レ害。〔魏志、陳思王植傳〕植常自憤怨、抱二利器一而無レ所レ施。

【憤愾】10 フンガイ いきどほりなげく。憤慨に同じ。〔晉書、范弘之傳〕每レ讀二其事一、未三嘗不二臨レ文痛嘆憤愾交懷一。

【憤慨】11 フンガイ いきどほりなげく。忼慨。憤歎。〔傳亮、爲二宋公一至二洛陽一謁二五陵一表〕瞻拜之日、憤慨交集。

【憤隔】12 フンカク いきどほりへだたる。〔後漢書、袁譚傳〕使二太夫人憂哀憤隔、我州君臣監寐悲歎一。

【憤氣】13 フンキ いきどほりの氣。〔趙至、與二嵇茂齊一書〕顧二影中原一、憤氣雲踊。

【憤起】14 フンキ ふるひたつ。〔韓愈、石鼓歌〕周綱凌遲四海沸、宣王憤起揮二天戈一。

【憤憒】15 フンクワイ くるしみみだれる。〔後漢書、王符傳〕疾病之家、懷レ憂憤憒、易レ爲二恐懼一。

【憤潰】16 フンクワイ いきどほりつひえる。賁潰。〔韓詩外傳、六〕比周憤潰以離レ上、傾覆滅亡、可二立而待一。

【憤激】17 フンゲキ いきどほって氣がはげしくたつ。憤怒激昂する。〔後漢書、傅燮傳〕憤激思レ奮、未レ失二人臣之節一。〔南史、宋武帝紀〕丹誠未レ宣、感慨憤激。〔杜甫、秦州見二勅目一薛三璩授二司議郎一畢四曜除二監察一與二二子一有レ故遠喜二遷官一兼述二索居一凡三十韻詩〕忠臣辭憤激、烈士涕飄零。

【憤厥】18 フンケツ のぼせるやまひ。〔列子、湯問〕吳楚之國、有二大木一焉、其名爲レ櫾、碧樹而冬生、實、丹而味酸、食二其皮汁一、已二憤厥之疾一。

【憤恨】19 フンコン いきどほりうらむ。〔論衡、死僞〕心負二憤恨一。〔王守仁、教條示二龍場諸生一、責善〕發二其愧恥憤恨之心一。

【憤爭】20 フンサウ いかりあらそふ。〔福惠全書、刑名部、總論〕毆奪憤爭、所在皆是。

【憤死】21 フンシ いきどほり死す。憤慨して死ぬ。〔後漢書、隗囂傳〕恚憤而死。〔輟耕錄、論秦蜀〕夫以二操之姦雄一、其王其公、猶必待二天子之命一、苟或且以レ此憤死。

【憤志】22 フンシ 志に發する。〔淮南子、氾論訓〕及レ至二韓娥・秦青・薛談之謳、侯同・曼聲之歌一、憤二於志一、積二於內一、盈而發レ音。

【憤叱】23 フンシツ いきどほりしかる。〔南史、王華傳〕每切齒憤叱。

【憤嫉】24 フンシツ いきどほりねたむ。忿嫉。〔五代史、伶官傳〕羣臣憤嫉、莫二敢出一レ氣。

【憤沮】25 フンシヨ いきどほりはばむ。〔五代史、任圜傳〕圜益憤沮。

【憤心】26 フンシン いきどほる心。〔晉書、宣帝紀論〕抑二其甲兵一、本無二鬭志一、遺二其巾幗一、方發二憤心一。

【憤盛】28 フンセイ つみみちる。みち盛になる。憤盈。〔後漢書、蔡邕傳〕坤爲二地道一、易稱二安貞一、陰氣憤盛、則當レ靜反動。

【憤積】29 フンセキ いきどほりがつむ。〔吳質、在二元城一與二魏太子一牋〕陳咸憤積、思レ入二京城一。

【憤切】30 フンセツ 甚だしくいきどほる。〔徐陵、陳公九錫文〕眷言桑梓、公私憤切。

【憤然】31 フンゼン いきどほるさま。〔淮南子、人閒訓〕孔子讀レ易至二損益一、未三嘗不二憤然而歎一。〔楚辭、遠遊、章句〕意中憤然、文采鋪發。

【憤咤】32 フンタ いきどほりいかる。〔蜀志、廖立傳〕立擧レ頭視レ屋、憤咤作レ色。

【憤濤】33 フンタウ たけりたつなみ。怒濤。〔韓愈・孟郊・李翺、遠遊聯句〕憤濤氣尙盛、恨竹淚空幽。

【憤歎】34 フンタン いかりなげく。〔後漢書、繆彤傳〕彤深懷二憤歎一。〔吳志、三嗣主、孫休傳、注〕士民憤二歎于下一。〔嵇康、幽憤詩〕嗟我憤歎。

【憤痛】35 フンツウ いきどほりいたむ。〔陳琳、爲二袁紹一檄二豫州一文〕自レ是士林憤痛。

【憤怒】36 フンド いきどほりいかる。忿怒。〔漢書、魏相傳〕不レ忍二憤怒一者、謂二之忿兵一。〔後漢書、

公孫瓚傳〕毎レ聞レ有レ驚、瓚輒厲レ色憤怒。〔魏志、陳留王奐紀〕民心憤怒。〔晉書、盧志傳〕四海神人、莫レ不二憤怒一。

【憤毒】37 フンドク いきどほりうらむ。憤恨。〔後漢書、袁紹傳〕天下之主、宜レ得二賢明一、毎レ念二靈帝一、令二人憤毒一。〔注〕毒、恨也。

【憤薄】38 フンパク いきどほりせまる。鬱結する。〔潘岳、寡婦賦〕氣憤薄而乘レ胷兮、涕交橫而流レ枕。

【憤發】39 フンパツ 元氣をふるひおこす。ふるひたつ。奮發。〔史記、秦楚之際月表〕憤發其所レ爲天下雄。〔阮瑀、爲二曹公一作レ書與二孫權一文〕大丈夫雄心、能無二憤發一。

【憤悱】40 フンピ いきどほりもだえる。不レ憤不レ啓不レ悱不レ發(51)を見よ。〔蘇軾、跋二所レ書清虛堂記一文〕言不レ待二憤悱一而發。

【憤憤】41 フンプン ❶心のむすぼれて解けぬさま。もだえるさま。〔禮、學記、時觀而弗レ說、疏〕既不二告語一、學者、則心憤憤、口悱悱、然後啓レ之。❷怒るさま。心中平らかでないさま。〔說苑、指武〕孔子曰、勇哉士乎、憤憤者乎。〔後漢書、鄭玄傳〕末所二憤憤一者、徒以二亡親墳壟未一レ成。〔後漢書、齊武王縯傳〕自二王莽篡一レ漢、常憤憤懷下復二社稷一之慮上。〔宋書、謝靈運傳〕自謂才能、宜レ參二權要一、既不レ見レ知、常懷二憤憤一。

【憤悶】42 フンモン いきどほりもだえる。憤懣に同じ。〔蕭穎士、贈二韋司業一書〕觀二圍碁一、讀二八分書一、亦憤悶。

【憤懣】43 フンモン フンマン いきどほつて不平が抑へきれぬ。怒り煩ふ。〔鹽鐵論、繇役〕憤懣之恨、發二動於心一、慕思之積、痛二於骨髓一。〔司馬遷、報二任少卿一書〕僕終已不レ得下舒二憤懣一以曉中左右上。〔漢書、諸葛豐傳〕臣竊不レ勝二憤懣一、願レ賜二清宴一。〔後漢書、桓譚傳〕不レ勝二憤懣一。〔顏氏家訓、養生〕令二人憤懣一。〔白居易、渭村退居寄二禮部崔侍郎翰林錢舍人一詩〕憤懣胸須レ豁、交加臂莫レ攘。

【憤勇】44 フンユウ いきどほりいさみ立つ。〔逸周書、小明武解〕左右憤勇無レ食。

【憤踊】45 フンヨウ いきどほつてをどりあがる。〔後漢書、度尙傳〕衆聞咸憤踊。〔柳宗元、獻下平二淮夷一雅上表〕然不レ勝二憤踊一。

【憤力】46 fèn lì 力を奮ふ。努力する。

【憤厲】47 フンレイ 憤を發してはげむ。ふるひはげむ。憤勵。〔新論、辯樂〕此皆淫泆悽愴、憤厲哀思之聲。〔徐陵、在二北齊一與二楊僕射一書〕天下含靈、人懷二憤厲一。

【憤王】48 フンワウ 吳興に在る項羽廟を土地の人が呼んだ名。〔南史、蕭琛傳〕郡有二項羽廟一、土人名爲二憤王一、甚有二靈驗一。

【憤惋】49 フンワン いきどほりうらむ。〔吳越春秋、句踐入臣外傳〕去二我國一兮心搖、情憤惋兮誰識。〔後漢書、袁紹傳〕海內傷レ心、志士憤惋。〔吳志、陸凱傳〕賢良憤惋。

【發レ憤忘レ食】50 イキドホリヲハツシテショクヲワスル 事が理解出來ないときは、いきどほりの心を發して食事を忘れる程に勉強する。〔論語、述而〕子曰、女奚不レ曰、其爲レ人也、發レ憤忘レ食、樂以忘レ憂、不レ知二老之將一レ至云レ爾。

【不レ憤不レ啓不レ悱不レ發】51 フンセズンバケイセズヒセズンバハツセズ いきどほりの心を發し自らもだえるのでなければひらき教へない。憤發の精神のないものには之を導きひらくことをしない。憤は心に理解し得ないでもだえること。悱は心に悟る所がありながら、之を言はうとして言ひ表はし得ないでもだえること。〔論語、述而〕子曰、不レ憤不レ啓、不レ悱不レ發、擧二一隅一、不下以二三隅一反上、則不レ復也。〔集注〕憤者、心求レ通而未レ得之意、悱者、口欲レ言而未レ能之貌。

【憥】11240

ラウ ロウ 〔集韻〕郞刀切 豪

❶くるしむ。心力が乏しくなる。つかれる。やむ。〔玉篇〕憥、心力乏也、疾也。〔集韻〕憥、苦レ心也。一曰、疲病。❷勞(2－2410)の俗字。〔正字通〕憥、俗勞字。

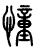
【憦】11241

ラウ ロウ 〔集韻〕郞到切 ㄌㄠˋ lao⁴ 號

❶くいる。懊憦。〔集韻〕憦、懊憦、悔也。❷憥(4－11240)に同じ。〔正字通〕憦、同レ憥。

【憧】11242

㊀ シヨウ シユ 〔集韻〕昌容切 ㄔㄨㄥ ch'ung¹ 冬
㊁ トウ ヅ 〔集韻〕徒東切 東
㊂ トウ ヅ 〔集韻〕徒弄切 送
㊃ タウ ダウ 〔集韻〕丈降切 絳
慣 ドウ


小篆

㊀❶こころが定まらない。思ひあまる。〔說文〕憧、意不レ定也、从レ心童聲。❷往來の絕えぬさま。憧憧。〔集韻〕憧、一曰、憧憧、往來不レ絕皃。❸あこがれ。あこがれる。〔正字通〕憧、游思也、所レ見者小、逐レ物擾擾、古人以爲二童心一、所二以儆一レ之也。❹にぶい。惷(4－11172)に同じ。〔集韻〕惷、騃昏也、或作レ憧。〔史記、三王世家〕愚憧而不レ逮レ事。㊁往來の絕えぬさま。㊀の❷に同じ。〔集韻〕憧、憧憧、往來不レ絕皃、徐邈讀。㊂こころが定まらない。㊀の❶に同じ。〔集韻〕憧、憧憧、意不レ定。㊃❶心が定まらない。㊀の❶に同じ。〔集韻〕憶、意不レ定也。❷おろかなさま。憃憧。〔集韻〕憧、一曰、憃憧、愚皃。❸或は憃(4－11436)に作る。〔集韻〕憧、亦作レ憃。

【憧愚】1 シヨウグ 愚かなさま。又、その人。惷愚。〔大戴禮、千乘〕以欺二惑憧愚一。

【憧憬】2 ドウケイ 景色などにうつとりみとれること。又、あこがれる。

【憧憧】3 トウトウ ドウドウ 意の定まらぬさま。又、絕えずゆききするさま。又、行くさま。〔易、咸〕憧憧往來、朋從二爾思一。〔釋文〕憧憧、馬云、行貌、王肅云、往來不レ絕貌、廣雅云、往來也、劉云、意未レ定也。〔說苑、脩文〕偶偶憧憧。〔論衡、恢國〕見三氣憧憧上屬二於天一。

【⿰忄貳】11243

ニ ヂ 〔集韻〕女利切 寘

❶快活な氣質。〔集韻〕⿰忄貳、快性也。❷ためらふ。〔正字通〕⿰忄貳、心遲疑也。

【憨】11244

㊀ カン 〔集韻〕呼甘切 ㄏㄢ han¹ 覃
㊁ カン ガン 〔集韻〕下瞰切 勘

㊀❶おろか。〔玉篇〕憨、愚也、癡也。〔集韻〕憨、愚也。〔爾雅、釋鳥、鵽鳩寇雉、注〕爲レ鳥憨急羣飛。〔釋文〕憨、愚也。〔潘岳、射雉賦、山鷩悍害、注〕爰曰、鷩、雉二似山雞一而小冠、云云、其性悍戾憨害、飛走如二風之猋一也、善曰、字書曰、憨、愚也。❷或は⿰亻憨(1－1273)・坎(3－4928)に作る。〔集韻〕憨、或作二⿰亻憨・坎一。❸［現］太い。㊁❶おろか。㊀の❶に同じ。〔集韻〕憨、愚也。❷そこなふ。〔廣韻〕憨、害也。❸おもひきりがよい。はやい。〔廣韻〕憨、果決也。

【憨害】1 カンガイ そこなふこと。〔埤雅、釋鳥、鷩雉〕賦性悍戾憨害、飛走如二風之猋一。

【憨獃】2 han¹ tai¹ おろか。馬鹿。〔水滸傳、一百一回〕生來是憨獃的、那矯秀在家、聽得幾次媒婆傳說是眞、日夜叫屈怨恨。

【憨休】3 カンキウ 淸、如乾(3－6060‥52)の字。

【憨厚】4 han¹ hou⁴ 正直な。極めて人の良い。

【憨山】5 カンザン 山名。一名、汗山。外蒙古圖拉河の南に在る。

【憨山大師】6 カンザンダイシ 明、德淸(4－10243‥210)の尊稱。

【憨山老人】7 カンザンラウジン 淸、黃體芳(12－47926‥1227)の號。

【憨寢】8（カンシン） 熟睡する。憨は愚、本性のない義。〔冷齋夜話、六〕童僕憨寢再鼾。

【憨生】9 han^1 shêng^1 愚鈍。魯鈍。馬鹿。

【憨笑】10（カンセウ） 笑ふべきでないのに笑つてやまぬこと。馬鹿笑ひ。〔元好問、杏花詩〕只嫌憨笑無二人管一、鬧簇枯枝不二肯匀一。

【憨叟】11（カンソウ） 清、紀映鍾（8－27234・・91）の號。

【憨葱】12（カンソウ） 藜蘆の異名。しゆろさう。〔本草、藜蘆〕釋名、山葱、葱苒、葱菼、葱葵、豐蘆、憨葱、鹿葱、時珍曰、黑色曰レ黎、其蘆有二黑皮一裹レ之故名、根際似レ葱、俗名二葱管藜蘆一是矣、北人謂二之憨葱一、南人謂二之鹿葱一。

【憨態】13（カンタイ） なまめかしくおろかなさま。嬌癡の態。〔唐詩紀事、虞世南〕洛陽獻二合蒂迎輦花一、煬帝令二袁寶兒持一レ之、號二司花女一、時詔二世南一草二征遼指揮德音敕於帝側一、寶兒注視久之、帝曰、昔傳飛燕可二掌上舞一、今得二寶兒一、方昭二前事一、然多二憨態一、今注二目於卿一、卿才人可二便嘲一レ之。

【憨蛋】14 han^1 tan^4 愚物。魯か者。馬鹿野郎。

【憨癡】15（カンチ） おろか。愚痴。

【憨包】16 han^1 pao^1 愚人。痴漢。憨蛋。

【憨璞】17（カンハク） 清、性聰（4－10478・・52）の字。

【憨先生】18（カンセンセイ） 明、屠本畯（4－7761・・95）の自稱。

【憨道人】19（カンダウジン） 明、羅萬象（9－28397・・398）の號。

【憨頭郎】20 han^1 t'ou^2 lang^2 愚直の人。痴漢。鈍物。

【憨老漢】21（カンラウカン） おろかな老人をいふ。〔十國春秋〕李如實數有二規諫一、末帝怒曰、憨老漢不レ足二與語一。

【憨頭憨腦】22 han^1 t'ou^2 han^1 nao^3 愚鈍な。愚圖な。

【㦊】11245 カン 〔集韻〕許鑑切 陷

❶いかる。〔集韻〕㦊、怒也。❷憨（4－11244）に同じ。〔正字通〕㦊、與レ憨同。

【憩】11246 ［一］ケイ 〔集韻〕去例切 ㄑㄧˋ ch'i^4 霽 ［二］ケツ ケチ 〔集韻〕丘傑切 屑

［一］［二］❶いこふ。やすむ。休息する。愒（4－10933）に同じ。〔集韻〕愒、說文、息也、或作レ憩。〔詩、召南、甘棠〕召伯所レ憩。〔傳〕憩、息也。❷俗に憇（4－11187）に作る。〔正字通〕憩、俗作レ憇、非。

名乘 ヤス。

【憩菴】1（ケイアン） 明、李淳（6－14459・・448）の號。

【憩休】2（ケイキウ） いこひやすむ。休憩。〔羅隱、答二宗人衮一詩〕崑崙水色九般流、飮即神仙憩即休。

【憩歇】3（ケイケツ） やすむ。〔搜神記、二〕王子珍往二定州邊孝光處一、於二路傍樹陰一憩歇。

【憩齋】4（ケイサイ） 會澤安の號。會澤正志齋（5－14306・・170）を見よ。

【憩止】5（ケイシ） やすむ。いこふ。休憩。〔晉書、劉寔傳〕寔少貧窶、杖レ策徒行、毎所二憩止一、薪水之事、不レ累二主人一、皆自營給。

【憩榭】6（ケイシヤ） やすむうてな。休憩のうてな。〔謝惠連、泛レ湖歸出二樓中一翫レ月詩〕憩榭面二曲汜一、臨川對二迴潮一。

【憩石】7（ケイセキ） 石に腰かける。〔謝靈運、初去レ郡詩〕憩レ石挹二飛泉一、攀レ林搴二落英一。

【憩息】8（ケイソク） いこふ。休息。休憩。〔唐書、車服志序〕如二李廣北征、解レ鞍憩息、馬援南伐、據レ鞍顧眄一。〔杜甫、客堂詩〕平生憩息處、必種二數竿竹一。

【憩棠】9（ケイタウ） 清、程棶采（8－25081・・288）の字。

【憩泊】10（ケイハク） やすみとまる。〔水經、贛水注〕西有二鸞岡一、洪崖先生乘レ鸞所二憩泊一也、岡西有二鵠嶺一、云、王子喬控レ鵠所二逕過一也。〔南柯記〕公佐自レ吳之レ洛、憩二泊淮浦一。〔沈佺期、夜泊二越州一逢二北使一詩〕憩泊在二茲夜一。

【憩閒主人】11（ケイカンシユジン） 清、何焯（1－511・・100）の「號。

【憇】11247 ケイ 憩（4－11246）に同じ。〔正字通〕憇、同レ憩。

【⿰忄爲】11248 キ 〔字彙〕居僞切 寘

かなふ。やはらぐ。〔字彙〕⿰忄爲、諧也。

參考 頭書字彙は未韻、居胃切に作る。今、康熙字典引の字彙に從ふ。

【⿰忄黑】11249 コク 〔集韻〕迄得切 職

くらい。おろか。〔集韻〕⿰忄黑、惛也。

【⿰忄翕】11250 キフ コフ 〔集韻〕迄及切 緝

心の熱するさま。〔集韻〕⿰忄翕、心熱皃。

【憪】11251 ［一］カン ゲン 〔集韻〕何閒切 删 ［二］カン ゲン 〔集韻〕下赧切 潸

小篆

［一］❶**たのしむ**。〔說文〕憪、愉也、从レ心閒聲。❷**こころしづか**。〔廣韻〕憪、心靜。〔集韻〕憪、一曰、靜也。❸或は㦖に作る。〔集韻〕憪、或作レ㦖。［二］❶**たのしむ**。［一］の❶に同じ。〔集韻〕憪、愉也。❷**おちつかないさま**。不安なさま。〔字彙〕憪、不レ安貌。〔史記、文帝紀〕憪然念二外人之有一レ非。〔注〕索隱曰、蘇林云、憪、寢視不レ安之貌。❸**いきどほりおごるさま**。〔字彙〕憪、勁忿貌。〔唐書、王叔文傳〕憪然以爲二天下無一レ人。❹**ゆるやかなさま**。〔廣韻〕憪、寬大。〔字彙〕憪、寬大貌。

【憫】11252 ビン ミン 〔集韻〕美隕切 ㄇㄧㄣˇ min^3 軫

❶**うれへる**。〔集韻〕憫、憂也。〔淮南子、主術訓〕年衰志憫。〔注〕憫、憂也。❷**もだえる**。〔孟子、公孫丑上〕阨窮而不レ憫。〔注〕憫、懣也。❸**あはれむ**。〔字彙〕憫、憂恤也。〔宋史、職官志〕情可二矜憫一。❹或は⿱閔心に書す。〔集韻〕憫、或書作レ⿱閔心。❺閔（11－41251）の俗字。〔說文、閔弔者在レ門也、段注〕俗作レ憫。❻愍（4－10919）の俗字。〔正字通〕憫、俗愍字。

【憫哀】1（ビンアイ） あはれみかなしむ。哀憫（2－3580・・151）に同じ。

【憫憂】2（ビンイウ） あはれみうれへる。憂憫（4－11170・・116）に同じ。

【憫焉】3（ビンエン） あはれむ。愍焉。〔曹植、制命宗聖侯孔羨奉二家祀一碑〕嗟乎朕甚憫焉。

【憫忌】4（ビンキ） 死者の生れた日をいふ。一說に、死者の命日といふのは誤。愍忌。〔韓泰華、無事爲福齋隨筆〕元秦王夫人施長生錢記云、秦王薨愍二忌、三月二十五日是爲二愍忌一、四月四日是爲二薨辰一、又郭畀客杭日記、十月十六日先妣憫忌日、是憫忌、生忌也、今以二憫忌一爲二死忌一、誤。

【憫急】5（ビンキフ） うれひのせまること。〔淮南子、主術訓〕無二六年之積一、謂二之憫急一。

【憫凶】6（ビンキヨウ） 親の喪をいふ。閔凶。愍凶。〔後漢紀、孝獻紀〕天子策二命曹操一爲レ公曰、朕以二不德一、少遭二憫凶一。〔白居易、與二王承宗一詔〕卿自レ罹二憫凶屬一經二時月一、待二使臣一而動皆得レ禮。

【憫察】7（ビンサツ） あはれみ思ひやる。轉じて、上が下を思ひやるのをいふ敬稱。愍察（4－10919・・7）に同じ。

【憫傷】8（ビンシヤウ） あはれみいたむ。閔傷。愍傷。〔韓愈、論二淮西事宜一狀〕蔡州士卒、云云、進退皆死、誠可二憫傷一。

【憫恤】9 ビンジュツ あはれみめぐむ。憐恤。〔元史、泰定帝紀一〕帝曰、朕自㆓即位㆒、累詔㆓天下㆒、憫㆓恤黎元㆒。

【憫笑】10 ビンセウ あはれみわらふ。あはれなものであるとさげすみわらふ。閔笑。〔韓愈、答㆓崔立之㆒書〕君子小人之所㆓憫笑㆒、天下之所㆓背而馳㆒者也。

【憫然】11 ビンゼン あはれむさま。ふびんに思ふさま。愍然(4−10919・・14)に同じ。〔白居易、琵琶行序〕曲罷憫然。

【憫惻】12 ビンソク あはれみいたむ。哀憐。〔顧雲、代㆑人上㆓路相公㆒啓〕沓㆓嗟生業㆒、憫㆓惻羈危㆒。

【憫悼】13 ビンタウ あはれみいたむ。閔悼。愍悼。〔元稹、陰山道詩〕羣臣利己要㆓差僭㆒、天子深衷空憫悼。

【憫念】14 min^3 nien^4 あはれむ。あはれに思ふ。

【憫貧】15 ビンヒン 貧乏人をあはれむ。〔福惠全書、錢穀部、解給〕賙㆑急憫㆑貧、仁宰之事。

【憫憫】16 ビンビン うれへるさま。閔閔。〔梁簡文帝、傷離新體詩〕憫憫愴㆓還途㆒。〔何遜、送㆓韋司馬㆒別詩〕憫憫分㆑手畢、蕭蕭行帆擧。

【憫嘿】17 ビンモク 憫默に同じ。〔北史、隋宗室諸王、房陵王勇傳〕左右莫㆑不㆓憫嘿㆒。

【憫默】18 ビンモク 憂へて物を言はぬさま。憫嘿。〔江淹、哀千里賦〕既而悄愴成㆑憂、憫默自憐。〔楊思本、桃花賦〕共憫默以無㆑言、著㆓相思㆒以不㆑解。〔資治通鑑、陳紀〕(宣帝、太建五年)令萱憫默不㆑對。〔注〕憫默、憂而不㆓敢言㆒之貌。

【⿱湯心】11253

タウ ダウ 〔集韻〕待朗切 養

❶**心うごく**。⿱湯心⿱涌心。〔廣雅、釋訓〕⿱湯心⿱涌心、動也。❷或は⿱湯虫(**10−33628**)に作る。〔集韻〕⿱湯心、或从㆑虫。❸愓(**4−10936**)の俗字。〔正字通〕⿱湯心、俗愓字。

【㦒】11254

㊀リ 〔集韻〕鄰知切 支

㊁レイ ライ 〔集韻〕郎計切 霽

㊀**ことばがおほい。なぶる**。謧(**10−35857**)に同じ。〔集韻〕謧、說文、謧詍、多言也、一曰、弄言、或作㆑㦒。㊁**あなどる**。あざむく。㦒他。〔方言、十〕㦒他、欺謾語也。〔廣雅、釋詁二〕㦒他、欺也。〔集韻〕㦒、㦒他、欺謾也。

【㦓】11255

㊀ケン ゲン 〔集韻〕胡典切 銑

㊁デン ネン 〔集韻〕乃見切 霰

㊂ゼン ネン 〔集韻〕忍善切 銑

㊀㊁㦓㦓は、こころにはばむ。〔集韻〕㦓、㦓㦓、意難也。㊂**氣がよわい**。**又、おそれる**。㒄(**1−1099**)に同じ。〔集韻〕㒄、說文、意膬也、一曰、意急而懼、或从㆑心。

【憬】11256

㊀ケイ キヤウ 〔集韻〕俱永切 梗 ㄐㄧㄥˇ ching^3

㊁ケイ キヤウ 〔集韻〕畎迥切 迥

小篆

㊀❶**さとる**。〔說文〕憬、覺悟也、从㆑心景聲、詩曰、憬彼淮夷。❷**遠く行くさま**。〔集韻〕憬、一曰、遠行皃。〔詩、魯頌、泮水〕憬彼淮夷。〔傳〕憬、遠行貌。❸**廣大なさま**。〔詩、魯頌、泮水、釋文〕憬、廣大也。㊁**さとる**。㊀の❶に同じ。〔集韻〕憬、覺悟也。

【憬集】1 ケイシフ 遠くから集りくること。〔顏延之、皇太子釋奠會作詩〕懷㆑仁憬集。〔注〕善曰、毛詩曰、憬彼淮夷、毛萇曰、憬、遠行貌。

【意】11257

ヨク オク 〔集韻〕乙力切 職

小篆

籀文

❶**みちる**。〔說文〕意、滿也、从㆑心啻聲。❷**十萬**。億(**1−1178**)に通ず。〔說文〕意、一曰十萬曰㆑意。〔說文通訓定聲〕意、經傳皆以㆑億爲㆑之。❸籒文は意に作る。〔集韻〕意、籒作㆑意。

名乘 ミツ。ヤス。

【憭】11258

㊀レウ 〔集韻〕朗鳥切 篠 ㄌㄧㄠˇ liao^3

㊁レウ 〔集韻〕憐蕭切 蕭

小篆

㊀❶**さとい**。〔說文〕憭、慧也、从㆑心尞聲。❷**あきらか**。〔韋昭、國語敍〕大義略擧、爲㆓已憭㆒矣。❸**あきらかにする**。〔廣韻〕憭、昭察。❹**こころよい**。〔集韻〕憭、一曰、快也。㊁❶**さとい**。㊀の❶に同じ。〔集韻〕憭、方言、慧或謂㆓之憭㆒。❷**むなしいさま**。〔廣韻〕憭、空皃。❸**いたむ。おそれる**。憭慄(2)を見よ。

名乘 アキラ。

【憭栗】1 レウリツ 憭慄に同じ。〔文同、哭㆓仲蒙㆒賦〕憯憭栗兮臨㆓清秋㆒。

【憭慄】2 レウリツ うれへおそれる。いたみかなしむ。憀慄。〔楚辭、宋玉、九辯〕憭慄兮若㆘在㆓遠行㆒、登㆑山臨㆑人兮送㆖將㆑歸。〔集注〕五臣云、憭慄、猶㆓悽愴㆒也。〔朱熹、民安道中詩〕蒼茫生㆓遠思㆒、憭慄起㆓寒襟㆒。

【憮】11259

㊀ブ ム 〔集韻〕罔甫切 麌 ㄨˇ wu^3

㊁コ ク 〔集韻〕胡乎切 虞

㊂ク 〔集韻〕火羽切 麌

㊃ブ ム 〔集韻〕微夫切 虞

小篆

㊀❶**いつくしむ**。めでる。〔說文〕憮、㤅也、韓鄭曰㆑憮、从㆑心無聲。〔爾雅、釋言〕憮、撫也。〔注〕憮、愛撫也。〔方言、一〕憮、愛也、韓鄭曰㆑憮。〔方言、一〕憮、愛也、宋衞邠陶之閒曰㆑憮。❷**かなしむ**。〔方言、一〕憮、哀也、自㆓楚之北郊㆒曰㆑憮。❸**おもふ**。うれへる。〔廣雅、釋詁一〕憮、恖也。❹**うごかない**。〔說文〕憮、一曰、不㆑動。❺**失意のさま**。〔廣韻〕憮、憮然、失意皃。〔一切經音義、九〕憮然、失意貌也。〔後漢書、孔融傳〕憮然中夜而起。〔注〕憮、失意貌也。❻**おどろくさま**。〔論語、微子〕夫子憮然曰。〔皇疏〕憮然、猶㆓驚愕㆒也。❼**あやしむさま**。〔後漢書、蔡邕傳〕邕具以告、莫㆑不㆓憮然㆒。〔注〕憮、猶㆑怪也。〔後漢書、禰衡傳〕憮然爲㆑駭。〔注〕憮然、怪㆑之也。❽**みめよい**。うつくしい。嫵(**3−6701**)に通ず。〔說文通訓定聲〕憮、叚借爲㆑嫵。〔漢書、張敞傳〕長安中傳㆓張京兆眉憮㆒。〔注〕蘇林曰、憮、音嫵。❾**はる。大きい**。幠(**4−9081**)に通ず。〔說文通訓定聲〕憮、叚借爲㆑幠。〔廣雅、釋詁一〕憮、張也。〔詩、小雅、巧言〕亂如㆑此憮。〔傳〕憮、大也。❿**あなどる**。おごる。侮(**1−630**)に通ず。〔說文通訓定聲〕憮、叚借爲㆑侮。〔爾雅、釋言〕憮、傲也。〔集韻〕憮、一曰、傲也。〔禮、投壺〕毋㆑憮毋㆑傲。⓫**肉の大片**。膴(**9−29895**)に通ず。〔說文通訓定聲〕憮、叚借爲㆑膴。〔詩、小雅、巧言、疏〕禮、肉爨亦謂㆓之憮㆒。㊁❶**失意のさま**。㊀の❺に同じ。〔集韻〕憮、憮然、失意皃。❷**あなどる**。㊀の❿に同じ。〔集韻〕憮、一曰、慠也。㊂❶**みめよい**。㊀の❽に同じ。〔集韻〕憮、媚好也、

孟康說。〔漢書、張敞傳〕長安中傳㆓張京兆眉憮㆒。〔注〕孟康曰、憮、音詡、北方人謂㆓媚好㆒爲㆓詡畜㆒。❷**あなどる**。［一］の❿に同じ。〔集韻〕憮、一曰、傲也。［四］**むなしい**。〔廣韻〕憮、空也。〔集韻〕憮、空也。

［名乘］ヤス。

【憮俺】1（ブエン） めでる。愛する。〔方言、一〕憮俺、愛也、韓鄭曰㆑憮、晉衞曰㆑俺。〔廣雅、釋詁一〕憮俺、愛也。

【憮敖】2（ブガウ） あなどりおごる。〔詩、小雅、桑扈〕旨酒思㆑柔、〔箋〕言不㆓憮敖自淫恣㆒也。

【憮傲】3（ブガウ） 憮敖に同じ。〔爾雅、釋言〕憮、傲也。

【憮然】4（ブゼン） ❶心を失ふさま。失意のさま。〔一切經音義、九〕憮然、失㆑意貌也。〔論語、微子〕夫子憮然曰、鳥獸不㆑可㆓與同㆑羣。〔集注〕憮然、猶㆓悵然㆒。〔孟子、滕文公上〕夷子憮然爲㆑閒曰、命㆑之矣。〔集注〕憮然、茫然自失之貌。〔後漢書、孔融傳〕聞㆑之憮然中夜而起。〔注〕憮、失意貌也。〔張衡、東京賦〕憮然有㆑閒。❷怪しむさま。〔後漢書、蔡邕傳〕邕具以告、無㆑不㆓憮然㆒。〔注〕憮、猶㆑怪也。〔後漢書、禰衡傳〕表憮然爲㆑駭。〔注〕憮然、怪㆑之也。

【憯】11260

［一］サン 〔集韻〕七感切 ㄘㄢˇ tsʻan³ 感
［二］セン 〔集韻〕此忝切 琰

小篆

［一］❶**いたむ**。〔說文〕憯、痛也、从㆑心朁聲。〔淮南子、人間訓〕怨㆑之憯㆓於骨髓㆒。〔注〕憯、痛也。❷**うれへる**。〔宋玉、風賦〕狀直憯悽淋慄。〔注〕善曰、鄭玄曰、憯、憂也。❸**進む**。兟(1-1391)に通ず。〔說文通訓定聲〕憯、叚借爲㆑兟。〔莊子、庚桑楚〕兵莫㆑憯㆓于志㆒、鏌釾爲㆑下。❹**するどい**。〔淮南子、主術訓〕兵莫㆑憯㆓於志㆒。〔注〕憯、猶㆑利也。❺**にくむ**。〔集韻〕憯、憎也。❻**むごい**。慘(4-11094)に通ず。〔字彙〕憯、與㆑慘通。❼**はやい**。撍(5-12687)に通ず。憯遫(9)を見よ。❽**かつて**。**すなはち**。發語の助辭。朁(5-14302)・噆(2-4296)・慘(4-11094)に通ず。〔經傳釋詞、八〕朁、說文、朁、曾也、引㆓詩朁不㆑畏㆑明、字或作㆓憯・噆㆒、又作㆑慘。〔爾雅、釋言〕憯、曾也。〔注〕憯、發語辭。〔郝懿行義疏〕曾、猶㆑嘗也、又訓㆑乃、趙岐孟子注、何曾、猶㆓何乃㆒也、憯者、朁之叚音也。〔集韻〕憯、一曰、曾也。〔詩、大雅、民勞〕憯不㆑畏㆑明。〔傳〕憯、曾也。❾或は⿸疒朁(7-22502)に作る。〔集韻〕憯、或从㆑疒。［二］**いたむ**。［一］の❶に同じ。〔集韻〕憯、痛也。

【憯焉】1（サンエン） 憯然に同じ。〔漢書、東平思王宇傳〕流言紛紛、謗自㆑內興、朕甚憯焉、爲㆑王懼㆑之。

【憯急】2（サンキフ） むごくきびしい。〔鹽鐵論、刺復〕憯急之臣進、而見知廢格之法起。〔注〕憯、音慘。

【憯酷】3（サンコク） むごたらしい。殘酷。慘酷。〔漢書、董仲舒傳〕又好用㆓憯酷之吏㆒。

【憯憯】4（サンサン） 甚だしくいたみ憂へるさま。〔詩、小雅、雨無正〕曾我暬御、憯憯日瘁。〔集傳〕憯憯、憂貌。

【憯傷】5（サンシヤウ） いたましい。〔論衡、四諱〕惻怛憯傷、恐㆓其臨祀㆒。

【憯悽】6（サンセイ） いたみかなしむさま。ぞつとしてうれへるさま。慘悽。〔韓詩外傳、五〕憯悽之惡、施㆓於大臣㆒。〔楚辭、宋玉、九辯〕憯悽增欷兮、薄寒之中㆑人、云云、霜露憯悽而交下兮。〔集注〕憯悽、悲痛貌。〔宋玉、風賦〕其風中㆑人、狀直憯悽惏慄、清涼增欷。〔注〕善曰、鄭玄曰、憯、憂也、銑曰、憯悽惏慄、寒貌。〔白居易、客路感㆑秋寄㆓明準上人㆒詩〕孰能不㆓憯悽㆒、天時牽㆓人情㆒。

【憯然】7（サンゼン） 憂へるさま。いたましめそこなふ。〔莊子、天運〕夫仁義憯然乃憤㆓吾心㆒、亂莫㆑大㆑焉。〔疏〕仁義憯毒、甚㆓於蚊虻㆒。〔漢書、宣元六王、淮陽憲王欽傳〕寡人憯然、不㆑知㆑所㆑出。

【憯惻】8（サンソク） いたみかなしむ。〔王粲、登樓賦〕心悽愴以感發兮、意忉怛而憯惻。

【憯遫】9（サンソク・シンソク） はやい。迅速。〔墨子、明鬼下〕凡殺㆓不辜㆒者、其得㆓不祥鬼神之誅㆒、若㆑此之憯遫也。〔閒詁〕憯速義同、玉篇手部云、撍、側林切、急疾也、憯與㆑撍通。

【憯怛】10（サンダツ） かなしみいたむ。憯痛。〔禮、表記〕子言㆑之、仁有㆑數、義有㆓長短小大㆒、中心憯怛、愛㆑人之仁也、率㆑法而強㆑之、資㆑仁者也。〔漢書、武帝紀〕蓋君者心也、民猶㆓支體㆒、支體傷、則心憯怛。〔注〕師古曰、憯、痛也、怛、悼也、憯、音千感反、怛、音丁曷反。〔鹽鐵論、誅秦〕支體傷而心憯怛。〔楚辭、嚴忌、哀時命〕邪氣襲㆓余之形體㆒兮、疾憯怛而萌生。

【憯痛】12（サンツウ） かなしみいたむ。憯怛。〔白虎通、崩薨〕堯皆憯㆓痛之㆒、舜見㆑終各一也。〔牛希濟、刑論〕毀㆓其父母之遺體㆒、罔㆑不㆔憯㆓痛於心㆒。

【憯慟】13（サンドウ） いたみなげく。哀慟。〔梁簡文帝、大同哀辭序〕憯慟結㆓於心㆒、愁眉慘㆓於外㆒。

【憯毒】14（サンドク） いたましめそこなふ。〔韓詩外傳、三〕彼顧㆓其上㆒、如㆓憯毒蜂蠆之人㆒。〔管子、形勢解〕冤暴之令、加㆓於百姓㆒、憯毒之使、施㆓於天下㆒。

【憯懍】15（サンリン） ❶悲しみいたむ。〔嵆康、琴賦〕莫㆑不㆓憯懍慘悽、愀愴傷㆑心。〔注〕翰曰、皆悲傷之心也。❷きびしいさま。〔陸機、感時賦〕悲夫冬之爲㆑氣、亦何憯懍以蕭索。

【⿰忄替】11261

サン

憯(4-11260)の俗字。〔正字通〕⿰忄替、俗憯字。

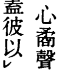
【⿰忄⿱兓日】11262

サン

憯(4-11260)に同じ。〔字彙〕⿰忄⿱兓日、同㆑憯。

【憰】11263

ケツ
ケチ 〔集韻〕古穴切 屑



小篆

いつはる。〔說文〕憰、權詐也、从㆑心矞聲。〔段注〕此與㆓言部譎㆒、音義皆同、蓋彼以㆑言、此以㆑心。〔集韻〕憰、說文、權詐也、一說、心恑曰㆑憰、言詭曰㆑譎。

【憰怪】1（ケツクワイ） いつはりそむく心とあやしげなもの。〔莊子、齊物論〕故爲㆑是擧㆔莛與㆑楹、厲與㆓西施㆒、恢恑憰怪、道通爲㆑一。〔釋文〕李云、憰、乖也、怪、異也。〔疏〕憰者、矯詐之心、怪者、妖異之物。

【⿰忄柴】11264

ヘイ
ハイ 〔字彙〕邊迷切 齊

すむ。〔字彙〕⿰忄柴、栖也。

【憱】11265

シウ
シユ 〔字彙〕初救切 宥

いたむ。〔字彙〕憱、慼也。

【憱然】1（シウゼン） いたむさま。〔韓非子、外儲說左下〕及㆓獄決罪定㆒、公憱然不㆑悅、形㆓於顏色㆒。〔呂覽、愼人〕孔子憱然推㆑琴、喟然而歎。〔說苑、奉使〕晏子憱然者三。

【⿰忄辜】11266

コ
ク 〔集韻〕攻乎切 虞

おそれる。〔集韻〕⿰忄辜、怯也。

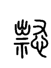
【⿱猒心】11267

エン

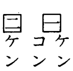
懕(4-11356)に同じ。〔正字通〕⿱猒心、說文作㆑懕。

【⿱⿰此殳心】11268

セイ 〔集韻〕此芮切 霽

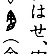

小篆 **つつしむ**。〔說文〕慭、謹也、从㆑心猌聲、讀若㆑毳。

【憲】11269


小篆 〖一〗ケン コン 〔集韻〕許建切 〖願〗 ㄒㄧㄢˋ hsien⁴
〖二〗ケン 〔集韻〕呼典切 〖銑〗

〖一〗❶**さとい**。〔說文〕憲、敏也、从㆓心目㆒、害省聲。❷**のり**。㋑おきて。さだめ。〔爾雅、釋詁〕憲、法也。〔書、益稷〕愼㆓乃憲㆒。〔傳〕憲、法也。〔穆天子傳、六〕乃發㆓憲命㆒。〔注〕憲、謂㆓法令㆒。〔淮南子、脩務訓〕著㆓於憲法㆒。〔注〕憲、法也。㋺てほん。規範。〔詩、小雅、六月〕萬邦爲㆑憲。〔傳〕憲、法也。〔荀子、勸學〕不㆑道㆓禮憲㆒。〔注〕憲、標表也。㋩かた。〔管子、宙合〕猶㆑迹㆓求履之憲㆒也。〔注〕憲、法也。㋥さとし。をしへ。〔穆天子傳、一〕受㆓勅憲㆒。〔注〕憲、教令也。㋭いひつけ。〔穆天子傳、六〕天子出㆑憲。〔注〕憲、命。㋬しおき。制裁。〔南齊書、沈沖傳〕被㆑憲者多結㆑怨。㋣こよみ。〔管子、立政〕然後可㆓以布㆑憲。〔注〕憲、謂㆓月朔之憲㆒。❸**のつとる**。㋑ならふ。てほんとする。〔書、說命中〕惟聖時憲。〔傳〕憲、法也。〔班固、東都賦〕憲㆑章稽㆑古。〔注〕向曰、憲、法也。㋺ただす。さだめる。〔國語、楚語下〕龜足㆔以憲㆓臧否㆒。〔注〕憲、法也。❹**まこと**。〔玉篇〕憲、誠也。❺**かろんずる**。〔集韻〕憲、一曰、傷也。❻**上官**。〔金史、世宗紀〕臺憲固在㆔分㆓別邪正㆒。❼**あらはす**。しめす。ふれる。宣（**3－7132**）・徇（**4－10053**）に通ず。〔說文通訓定聲〕憲、叚借爲㆑宣、實爲㆑徇。〔詩、大雅、崧高〕文武是憲。〔傳〕憲、表也。〔周禮、地官、小司徒〕令㆔羣吏憲㆓禁令㆒。〔注〕憲、表㆓縣之㆒。〔周禮、地官、司市〕小刑憲罰。〔注〕憲罰、播㆓其肆㆒也。❽**たてる**。たかくする。軒（**10－38187**）に通ず。〔說文通訓定聲〕憲、叚借爲㆑軒。〔禮、樂記〕武坐致㆑右憲㆑左。〔注〕憲、讀爲㆑軒、聲之誤也。❾**諡**。〔逸周書、諡法解〕博聞多記曰㆑憲。❿**姓**。〔通志、氏族略、以㆑官爲㆑氏〕憲氏、姓纂云、周之憲官司寇之屬也、急就章有㆓憲義渠㆒。〖二〗**さかんにおこるさま。よろこぶさま**。憲憲（17）を見よ。〔集韻〕憲、興盛皃。

〖名乘〗ノリ。カズ。

〖解字〗會意形聲。心と目とを合はせ、害省の聲。心と目とが働き、敏疾の意。▽（金文）會意形聲。害省と目とを合はせ、又、害省の聲。先の尖つた刃物で目上に刑を加へる意。

【憲懿】1（ケンイ） 元、裴居敬（**10－34362**・・112）の諡。

【憲委】2（ケンヰ） 上役の申附。〔福惠全書、涖任部、詳文贅說〕于㆓某月某日㆒、遵㆓奉憲委㆒。

【憲威】3（ケンヰ） 法令の威力。〔孫逖、送㆘趙評事攝㆓御史㆒監㆗軍嶺南㆖詩〕議㆑獄待㆓邦典㆒、臨㆑戎假㆓憲威㆒。

【憲尹】4（ケンヰン） 清、黃玢（**12－47926**・・798）の字。

【憲役】5（ケンエキ） 上役と下役。〔福惠全書、涖任部、馭㆓衙役㆒〕不㆘敢以㆓憲役作㆑奸扞㆗朝廷法㆖。

【憲行】6（ケンカウ） 申附。〔福惠全書、涖任部、稟帖贅說〕爲㆓老大人㆒奉㆓憲行㆒。

【憲綱】7（ケンカウ） 大きなのり。おきて。法律の綱領。法則。又、官職の秩序をいふ。〔後漢書、和帝紀〕申㆓明憲綱㆒、勿㆘因㆓科令㆒加㆗虐羸弱㆖。〔陳琳、爲㆓袁紹㆒檄㆓豫州㆒文〕不㆑顧㆓憲綱㆒。〔傳咸、御史中丞箴〕執㆓憲之綱㆒、秉㆓國之憲㆒。

【憲噩】8（ケンガク） 清、李懷民（**6－14459**・・1051）の字。

【憲吉】9（ケンキツ） 清、李旦華（**6－14459**・・1693）の字。

【憲禁】10（ケンキン） ❶禁令を懸け示す。〔周禮、天官、小宰〕退以㆓宮刑㆒憲㆓禁于王宮㆒。〔注〕憲、謂㆔表㆓縣之㆒。❷法度。掟。〔潛夫論、衰制〕政令必行、憲禁必從、而國不㆑治者、未㆓嘗有㆒也。

【憲矩】11（ケンク） のり。法則。〔曹植、制命宗聖侯孔羨奉㆓家祀㆒碑〕魯道以興、永作㆓憲矩㆒。〔李尤、圍棋銘〕局爲㆓憲矩㆒、棋法㆓陰陽㆒。

【憲和】12（ケンクワ） 三國蜀、簡雍（**8－26520**・・194）の字。

【憲官】13 hsien⁴ kuan¹ 目付。監督。上長官。

【憲卿】14（ケンケイ） 明、陳柏（**11－41698**・・509）の字。

【憲檄】15（ケンゲキ） 上官の命令書。〔福惠全書、涖任部、稟帖贅說〕上㆓兗州府蔡太尊㆒、頃奉㆓憲檄㆒、安㆓插墾荒官兵㆒屯種。

【憲件】16（ケンケン） 上官からの沙汰。〔福惠全書、涖任部、看㆓須知㆒〕某詞訟、或欽件、或憲件、爲㆓某事㆒、于㆓某年月日㆒、奉㆓某衙門批審㆒、曾否詳覆批示。

【憲憲】17（ケンケン） ❶盛に興るさま。顯顯。〔禮、中庸〕詩曰、嘉樂君子、憲憲令德。〔注〕憲憲、興盛之貌。〔柳宗元、箕子碑〕憲憲大人。❷欣ぶさま。欣欣。〔詩、大雅、板〕天之方難、無㆓然憲憲㆒。〔傳〕憲憲、猶㆓欣欣㆒也。

【憲謙】18（ケンケン） 明、劉光濟（**2－2224**・・832）の字。

【憲言】19（ケンゲン） のつとるべきことば。手本とすべき言葉。〔國語、周語下〕觀㆔之詩書與㆓民之憲言㆒。〔趙岐、孟子題辭〕是故垂㆓憲言㆒、以詒㆓後人㆒。

【憲公】20（ケンコウ） 後漢、李基（**6－14459**・・176）の字。

【憲告】21（ケンコク） しめしつげる。〔逸周書、世俘解〕武王乃翼矢珪矢、憲㆓告天宗上帝㆒。

【憲裁】22（ケンサイ） 上官のさばき。〔福惠全書、涖任部、詳文贅說〕陳以㆓可否之義㆒、仰候㆓憲裁㆒。

【憲札】23 hsien⁴ cha² 上官の指令。

【憲子】24（ケンシ） 南朝宋、謝莊（**10－35827**・・90）の諡。

【憲之】25（ケンシ） 字號。❶宋、周武仲（**2－3441**・・832）の字。❷明、吳文度（**2－3365**・・860）の字。❸明、史可法（**2－3249**・・179）の字。

【憲司】26（ケンシ） ❶刑獄を掌る役所。〔元結、與㆓党侍御㆒詩〕高人党茂宗、復來官㆓憲司㆒。❷官名。宋の太宗の時、諸路轉運司提點刑獄を置き、尋いで廢し、眞宗に至り、諸路に提點刑獄公事を置く。獄訟及び官吏の治績を按察するの外、農桑を勸課し、官吏の不法を監察することを掌る。其の司法の官たるを以て世に憲司と稱せられる。

【憲州】27（ケンシウ） 州名。唐、置く。山西省靜樂縣の南。〔讀史方輿紀要、山西、太原府、靜樂縣、樓煩城〕初李克用表置㆓憲州於此㆒、仍置㆓樓煩縣㆒、兼領㆓元池・天地二縣㆒。

【憲式】28（ケンシキ） おきて。法度。〔後漢書、胡廣傳〕六經典奧、舊章憲式、無㆑所㆑不㆑覽。

【憲相】29（ケンシヤウ） 後漢、任蕃（**1－416**・・165）の字。

【憲章】30（ケンシヤウ） ❶のつとつて明かにする。〔中庸〕仲尼祖㆓述堯舜㆒、憲㆓章文武㆒。〔章句〕憲章者、近守㆓其法㆒。❷のり。おきて。法度典章。〔後漢書、袁紹傳〕觸㆑情放慝、不㆑顧㆓憲章㆒。〔晉書、禮志上〕將㆘俟㆓皇輿北旋㆒、稽㆓古憲章㆒、大釐㆗制度㆖。〔唐書、馬周傳贊〕明㆓習憲章㆒者。❸舊章にのつとる。〔班固、東都賦〕憲㆑章稽㆑古、封㆑岱勒㆑成。〔注〕向曰、憲、法也、言㆑法㆓其舊章㆒。❹字號。㋑明、饒秉鑑（**12－44400**・・78）の字。㋺明、陳錄（**11－41698**・・615）の字。

【憲術】31（ケンジユツ） 法術（**6－17290**・・175）に同じ。〔管子、白心〕難㆑言㆓憲術㆒、須㆑同而出。〔纂詁〕尹知章云、凡爲㆓法術㆒、必重㆓難之㆒、須㆑同㆓衆心㆒、然後出㆑之矣。

【憲書】32（ケンシヨ） こよみ。曆書。時憲書。〔清嘉錄〕臘將㆑殘、擇㆘憲書宜㆑掃㆓舍宇㆒日㆖、去㆓庭戶塵埃㆒。

【憲臣】33（ケンシン） ❶法を執る官。御史等を指していふ。〔唐書、元稹傳〕稹次㆓敷水驛㆒、中人仇士良夜至、稹不㆑讓、中人擊㆑稹敗㆑面、宰相以㆔稹年少輕㆑樹㆑威、失㆓憲臣體㆒、貶㆓江陵士曹參軍㆒。❷字號。㋑宋、潘及甫（**7－18236**・・139）の字。㋺元、張弘綱（**4－9812**・・1032）の字。

【憲生】34（ケンセイ） 清、陳國政（**11－41698**・・870）の字。

【憲成】35（ケンセイ） 宋、李諮（**6－14459**・・394）の諡。

【憲制】36（ケンセイ） 國家のおきて。〔晉書、孔坦傳〕愚以、王命無㆑貳、憲制宜㆑信。

【憲政】37（ケンセイ） 憲法によつて行ふ政事。立憲主義のまつりごと。立憲政治。

〖憲政內閣〗38（ケンセイナイカク） 立憲主義を標榜する內閣「の稱。

【憲清】39（ケンセイ） ❶清、黃燮清（**12－47926**・・1198）の原名。❷字號。㋑明、戴澄（**5－11685**・・106）の字。㋺明、毛澄（**6－16772**・・175）の字。

【憲籍】40（ケンセキ） 民に示す法令と大府に藏する其の

副本。又、法律の書物。法典。〔管子、立政〕太史既布レ憲、入二籍于大府一、憲籍分二于君前一。〔纂詁〕懸二法令一示レ人曰レ憲、籍、其幅也、必兩二陳之一者、防二其錯一也、既而憲頒二於鄕一、籍藏二於府一、故曰三憲籍分二于君前一也。

【憲節】41ケンセツ　風化法度を取締る官の符節。巡察按撫等の官をいふ。〔元史、和尙傳〕子千奴、前後七持二憲節一、剛正不レ撓。

【憲節邢皇后】42ケンセツケイクワウゴウ　宋、邢后(11－39301··23)の謚。

【憲祖】43ケンソ　晉、毛穆之(6－16772··337)の字。

【憲宗】44ケンソウ　廟號。❶唐、第十一代の王。李純(6－14459··447)を見よ。❷元、第四代の王。元憲宗(1－1340··661)を見よ。❸明、第九代の王。朱見深(6－14424··745)を見よ。❹朝鮮李朝、第二十四代の王。名は奐。在位十五年。❺安南陳朝、第六代の王。名は旺。在位十三年。❻安南黎朝、第五代の王。名は鏳、又は暉。在位七年。

【憲則】45ケンソク　のり。おきて。法則。〔舊唐書、刑法志〕永垂二憲則一、貽二範後昆一。〔常袞、授二崔昭右散騎常侍一制〕經レ之以二文敏一、紀レ之以二憲則一。

【憲臺】46ケンダイ　❶御史臺の異名。國憲を掌るからいふ。三臺(1－12··1212)の❶を見よ。〔陳琳、爲二袁紹一檄二豫州一文、注〕善曰、應劭漢官儀曰、尙書爲二中臺一、御史爲二憲臺一、謁者爲二外臺一。〔潘尼、贈二侍御史王元貺一詩〕廻レ迹淸二憲臺一。〔謝靈運晉書〕漢尙書爲二中臺一、御史爲二憲臺一、謁者爲二外憲一、是謂二三臺一。〔通典、職官、御史臺〕漢謂二之御史府一、亦謂二之御史大夫寺一、亦謂二之憲臺一、云云、大唐皆曰二御史臺一、龍朔二年、改爲二憲臺一。〔二老堂雜志〕憲部、刑部也、憲臺、御史臺也、今直以二諸路刑獄一爲レ憲。❷廣く上官をいふ。〔福惠全書、蒞任部、稟帖贅說、上二兗州府蔡太尊一〕廻レ天挽レ日之功、皆出二憲臺起レ死噓レ枯之賜一矣。

【憲道】47ケンダウ　後趙、韋謏(12－43108··93)の字。

【憲斷】48ケンダン　さばき。〔福惠全書、蒞任部、稟帖贅說〕不レ得レ不三仰二祈憲斷一。

【憲長】49ケンチヤウ　御史中丞をいふ。〔稱謂錄、都御史古稱、憲長〕東軒筆錄、寶元中、御史府久缺二中丞一、一日仁宗偶問以二憲長久虛之故一、許紳奏曰、中丞者風憲之長、自二宰相一而下、皆得二彈擊一、其選用、當レ出二聖意一。

【憲聽】50ケンチヤウ　上役にきく。〔福惠全書、蒞任部、詳文贅說〕非下敢私二于成法之外一、妄行二干請一以瀆中憲聽上也。

【憲天】51ケンテン　上官。最上の長官。〔福惠全書、蒞任部、稟帖贅說、上二東兗李道臺一〕前蒙二憲票到レ縣、爲レ公籲二憲天一一案、行レ查馬頭集本年牙雜課程、共該銀若干。

【憲典】52ケンテン　國のおきて。典憲。〔魏志、高柔傳〕明二于憲典一。〔南史、孔琳之傳〕虧二違憲典一。

【憲斗】53ケント　淸、范文程(9－30834··264)の字。

【憲度】54ケンド　おきて。法度。〔司馬相如、封禪文〕憲度著明、易レ則也。〔後漢書、朱穆傳〕憲度既張、遠邇淸壹。〔班固、東都賦〕命二有司一班二憲度一。〔晉書、輿服志〕諸侯征伐、憲度淪亡。〔魏書、酷吏、張赦提傳〕不レ遵二憲度一、權虐任レ情。

【憲牘】55ケントク　法令を記した文書。〔白居易、和二夢遊春詩一一百韻詩〕淸明操二憲牘一。

【憲南】56ケンナン　淸、徐觀政(4－10110··390)の字。

【憲牌】57ケンハイ　上級官からの命令書。〔福惠全書、蒞任部、上司公文簿式附〕某月某日奉二到某衙門某字號公文一角一、憲牌內開。

【憲方】58ケンパウ　おきて。〔蔡邕、陳留太守行小黃縣頌〕乃訓乃厲、示二之憲方一。

【憲防】59ケンバウ　おきてとまもり。〔後漢書、質帝紀〕頃者州郡輕二慢憲防一。

【憲伯】60ケンパク　明、莊子固(9－31035··167)の字。

【憲罰】61ケンバツ　市刑の小さいもの。罪を書いて市に揭示すること。〔周禮、地官、司市〕市刑、小刑憲罰、中刑徇罰、大刑扑罰。〔注〕鄭司農云、憲罰、播二其肆一也。〔疏〕先鄭云、憲罰、播二其肆一也者、憲是表顯之名、徇既將レ身以示レ之、則此憲是以二文書一表二示於肆一、若二布憲之類一也。

【憲法】62ケンパフ　❶國家のおきて。國法。〔國語、晉語九〕賞レ善罰レ姦、國之憲法也。〔管子、七法〕故能出二號令一、明二憲法一矣。〔淮南子、脩務訓〕著二於憲法一。❷一國施政の大綱を定めた法規。卽ち統治權の主體・客體及びその機關の作用權限等を規定したもの。其の成文と否とによつて成文憲法と不文憲法とに分ち、其の制定の手續によつて欽定憲法と議定憲法とに分ち、其の變更の手續によつて固定憲法と可動憲法とに分ける。

【憲法政治】63ケンパフセイヂ　憲法の下に行ふ政治。「政。

【憲法十七條】64ケンパフジフシチデウ　推古天皇の十二年四月、聖德太子の撰定された十七箇條の法令。諸卿に垂示された訓戒で、現今の憲法と其の性質を異にする。第二條に篤敬二三寶一とあるものは佛法思想であるが、其の他は多く儒教思想に影響せられたといはれ、以レ和爲レ貴は禮記儒行、上下和睦は孝經、懲レ惡而勸レ善は成公十四年左傳、克念爲レ聖は書經多方、公事靡レ盬は詩經四牡、使レ民以レ時は論語學而の語である。其の他管子の影響も少なくない。其の內容は、一に和を以て貴しとなす。二に篤く三寶を敬ふ。三に詔を承くれば必ず謹む。四に禮を以て本となす。五に訴訟を明辨す。六に善を勸め惡を懲らす。七に掌は宜しく濫りにせざるべし。八に早く朝し晏く退く。九に事每に信有り。十に人の違ふを怒らず。十一に功過を明察す。十二に國司國造は百姓に斂むる勿れ。十三に同職病有るも公務を妨ぐる勿れ。十四に羣臣百僚嫉妬する勿れ。十五に私に背き公に向ふ。十六に民を使ふに時を以てす。十七に事は衆論に決す。〔日本書紀、推古紀〕豐御食炊屋姬天皇(推古天皇)十二年春正月戊戌朔、始賜二冠位於諸臣一、各有レ差、夏四月丙寅朔戊辰、皇太子親肇作二憲法十七條一、一曰、以レ和爲レ貴、無レ忤爲レ宗、人皆有レ黨、亦少二達者一、是以或不レ順二君父一、乍違二于鄰里一、然上和下睦、諧二於論レ事、則事理自通、何事不レ成、二曰、篤敬二三寶一、三寶者、佛法僧也、則四生之終歸、萬國之極宗、何世何人、非レ貴二是法一、人鮮二尤惡一、能教從レ之、其不レ歸二三寶一、何以直レ枉、三曰、承レ詔必謹、君則天レ之、臣則地レ之、天覆地載、四時順行、萬氣得レ通、地欲レ覆レ天、則致レ壞耳、是以君言臣承、上行下靡、故承レ詔必愼、不レ謹自敗、四曰、羣卿百寮、以レ禮爲レ本、其治レ民之本、要在二乎禮一、上不レ禮而下非レ齊、下無レ禮以必有レ罪、是以群臣有レ禮、位次不レ亂、百姓有レ禮、國家自治、五曰、絕レ餮棄レ欲、明辨二訴訟一、其百姓訟、一日千事、一日尙爾、況乎累レ歲、頃治レ訟者、得レ利爲レ常、見レ賄聽レ讞、便有レ財之訟、如二石投一レ水、乏者之訴、似二水投一レ石、是以貧民、則不レ知レ所レ由、臣道亦於レ焉闕、六曰、懲レ惡勸レ善、古之良典、是以無レ匿二人善一、見レ惡必匡、其諂詐者、則爲下覆二國家一之利器上、爲下絕二人民一之鋒劍上、亦佞媚者、對レ上則好說二下過一、逢レ下則誹二謗上失一、其如レ此人、皆无レ忠二於君一、无レ仁二於民一、是大亂之本也、七曰、人各有レ任、掌宜レ不レ濫、其賢哲任レ官、頌音則起、奸者有レ官、禍亂則繁、世少二生知一、尅念作レ聖、事無二大小一、得レ人必治、時無二急緩一、遇レ賢自寬、因レ此國家永久、社稷勿レ危、故古聖王、爲レ官以求レ人、爲レ人不レ求レ官、八曰、羣卿百寮、早朝晏退、公事靡レ盬、終日難レ盡、是以遲朝、不レ逮二于急一、早退必事不レ盡、九曰、信是義本、每レ事有レ信、其善惡成敗、要在二于信一、君臣共信、何事不レ成、群臣无レ信、萬事悉敗、十曰、絕レ忿棄レ瞋、不レ怒二人違一、人皆有レ心、心各有レ執、彼是則我非、我是則彼非、我必非レ聖、彼必非レ愚、共是凡夫耳、是非之理、詎能可レ定、相共賢愚、如二鐶无一レ端、是以彼人雖レ瞋、還恐二我失一、我獨雖レ得、從レ衆同擧、十一曰、明二察功過一、賞罰必當、日者賞不レ在レ功、罰不レ在レ罪、執レ事羣卿、宜レ明二賞罰一、十二曰、國司國造、勿レ斂二百姓一、國非二二君一、民無二兩主一、率土兆民、以レ王爲レ主、所レ任官司、皆是王臣、何敢與レ公、賦二斂百姓一、十三曰、諸任レ官者、同知二職掌一、或病或使、有レ闕二於事一、然得レ知之日、和如二曾識一、其以レ非二與聞一、勿レ防二公務一、十四曰、羣臣百寮、無レ有二嫉妬一、我既嫉レ人、人亦嫉レ我、嫉妬之患、不レ知二其極一、所以智勝二於己一則不レ悅、才優二於己一則嫉妬、是以五百歲之後、乃令レ遇レ賢、千載以難レ待二一聖一、其不レ得二賢聖一、何以治レ國、十五曰、背レ私向レ公、是臣之道矣、凡夫人有レ私必有レ恨、有レ憾必非レ同、非レ同則以レ私妨レ公、憾起則違レ制害レ法、故初章云、上下和諧、其亦是情歟、十六曰、使レ民以レ時、古之良典、故冬月有レ閒、以可レ使レ民、從レ春至レ秋、農桑之節、不レ可レ使レ民、其不レ農何食、不レ桑何服、十七曰、夫事不レ可二獨斷一、必與レ衆

宜㆑論、少事是輕、不㆑可㆓必衆㆒、唯逮㆑論㆓大事㆒、若疑㆑有㆑失、故與㆑衆相辨、辭則得㆑理。

【憲範】65（ケンパン）　のり。てほん。法式。典範。〔魏志、后妃傳評〕適足㆘以爲㆓百王之規典㆒、垂㆗憲範乎後葉㆖矣。

【憲萬】66（ケンバン）　清、歐陽斌元(**6－16185**‥134)の字。

【憲敏】67（ケンビン）　宋、高閌(**12－45313**‥112)の諡。

【憲府】68（ケンプ）　御史臺をいふ。〔書言故事、御史類、憲府〕杜哭㆓長孫侍御㆒、憲府舊乘㆑驄。

【憲部】69（ケンブ）　❶刑部の別名。憲臺(46)の❶を見よ。〔唐六典、刑部〕隋開皇六年、置㆓刑部員外郎㆒、煬帝改爲㆓憲部承務郎㆒、皇朝因㆑之、武德三年、改曰㆓刑部員外郎㆒。〔賈至、房琯文部尚書同平章事制〕憲部侍郎房琯、清識雅量、工文茂學。❷各部尚書の敬稱。

【憲文】70（ケンブン）　後漢、張霸(**4－9812**‥596)の諡。

【憲兵】71（ケンペイ）　主に軍事警察を司り兼ねて行政司法の警察をも取扱ふ一種の兵。

【憲兵司令官】72（ケンペイシレイクヮン）　もと、憲兵司令部の長官。陸軍少將又は大佐を以て之に任じた。

【憲兵司令部】73（ケンペイシレイブ）　憲兵事務を總轄する所。

【憲票】74（ケンペウ）　上官からの命令書。上役のかきつけ。憲天(51)を見よ。〔福惠全書、蒞任部、稟帖贅說〕前蒙㆓憲票到㆑縣。

【憲辟】75（ケンペキ）　のり。掟。〔南齊書、桓崇祖傳〕肅㆓明憲辟㆒。

【憲甫】76（ケンポ）　字號。❶明、侯度(**1－633**‥67)の字。❷明、房如式(**5－11714**‥163)の字。

【憲穆】77（ケンボク）　諡號。❶元、呉鼎(廣平の人)(**2－3365**‥322)の諡。❷元、謝讓(**10－35827**‥109)の諡。

【憲網】78（ケンマウ）　おきて。のり。刑網。法網。〔唐書、姚崇傳〕冒㆓觸憲網㆒。〔宋史、刑法志二〕堯舜之時、四凶之罪、止㆓於投竄㆒、先王用㆑刑、蓋不㆑獲㆑已、何近代憲網之密耶。〔蘇舜欽、論㆓五事㆒〕昔聖人惡㆔殘賊之害㆓良民㆒也、故明設㆓嚴刑㆒、大張㆓憲網㆒、必使㆓易㆑避而難㆑犯、防㆑微而杜㆑原。

【憲命】79（ケンメイ）　國家の規則。又、君主の命令。〔荀子、王制〕脩㆓憲命㆒、審㆓詩商㆒。〔注〕修㆓憲法之命㆒、所㆔以表㆓示人㆒也。〔增注〕憲命、猶㆓憲令㆒也。

【憲問】80（ケンモン）　論語の篇名。

【憲律】81（ケンリツ）　のり。おきて。〔管子、法法〕憲律制度必法㆑道。〔後漢書、杜林傳〕古者肉刑嚴重、則人畏㆓法令㆒、今憲律輕薄、故姦軌不㆑勝。

【憲量】82（ケンリヤウ）　後漢の黃憲字は叔度の度量が廣大であつた故事から、度量の大きい義とする。〔後漢書、黃憲傳〕林宗曰、叔度汪汪、若㆓千頃陂㆒、澄㆑之不㆑清、淆㆑之不㆑濁、不㆑可㆑量也。〔書言故事、寬恕類、憲量〕望㆓人寬容㆒、曰㆑覬㆓憲量含弘㆒。

【憲慮】83（ケンリヨ）　上司の考慮。〔福惠全書、蒞任部、稟帖贅說〕遠煩㆓憲慮㆒也。

【憲陵】84（ケンリヨウ）　後漢順帝の陵の名。河南省洛陽縣の東北。〔後漢書、沖帝紀〕建康元年、九月丙午、葬㆓孝順皇帝於憲陵㆒。〔注〕在㆓洛陽西十五里㆒、陵高八丈四尺、周三百步。〔後漢書、欒巴傳〕會帝崩、營㆓起憲陵㆒。〔河南通志〕憲陵、在㆓河南府城東北十五里㆒。

【憲令】85（ケンレイ）　國家の法令。おきて。法規。〔左氏、襄、二十八〕此君之憲令、而小國之望也。〔注〕憲、法也。〔國語、周語下〕以爲㆓憲令㆒、而布㆓諸民㆒。〔管子、八觀〕憲令著明。〔史記、屈原傳〕懷王使㆔屈原造㆓爲憲令㆒。〔後漢書、陳寵傳〕漢興以來三百二年、憲令稍增、科條無㆑限。

【憲安王】86（ケンアンワウ）　新羅第四十七代の王。名は誼靖(一に祐靖に作る)。神武王の異母弟。唐の宣宗の大中十一年に立ち、懿宗の咸通二年に歿す。在位五年。〔三國史記、十一〕。

【憲康王】87（ケンカウワウ）　新羅第四十九代の王。名は晸。景文王の太子。唐の僖宗の乾符二年に立ち、光啓二年に歿す。在位十二年。〔三國史記、十一〕。

【憲皇帝】88（ケンクヮウテイ）　清、世宗(**1－31**‥225)の諡。

【憲白先生】89（ケンパクセンセイ）　清、呉韋(**2－3365**‥3)の號。

【憲聖慈烈皇后】90（ケンセイジレツクヮウゴウ）　宋、呉后(**2－3365**‥174)の諡。

【憲】 11269′　ケン　憲(**4－11269**)と同じ。

【𢡟】 11270　ケン　愆(**4－10900**)の俗字。〔玉篇〕𢡟、俗愆字。

【㦎】 11271　カウ　悻(**4－10466**)に同じ。〔集韻〕悻、或从㆑皐。

【㦗】 11272　タン　〔集韻〕他敢切　感
㦗忒は、あやぶむ、おそれる、きづかふ。〔集韻〕㦗、㦗忒、心不㆑寧。

【𢣷】 11273　トク　悳(**4－10724**)に同じ。〔篇海〕𢣷、與㆑悳同。

【㦕】 11274　リユウ　リユ　〔五音集韻〕力中切　東
こころ。〔五音集韻〕㦕、意也。

【㦌】 11275　カク　キヤク　〔集韻〕各核切　陌
❶**さとい。**〔廣韻〕㦌、智也。❷通じて諽(**10－35835**)に作る。〔集韻〕㦌、通作㆑諽。

【𢤱】 11276　グ　〔五音集韻〕牛具切　遇
おもふ。〔五音集韻〕𢤱、意也。

【𢥎】 11277　ダ　義未詳。〔篇海〕𢥎、奴可切、音娜、㦬也。

【懠】 11278　セイ　ザイ　〔字彙補〕在計切　霽
うれへいかる。〔字彙補〕懠、愁怒也。

【𢢾】 11279　リヨク　リキ　〔字彙補〕郎翌切　職
つつしむ。〔字彙補〕𢢾、謹也。

【憏】 11280　セイ　〔字彙補〕照世切　霽
こころざす。〔字彙補〕憏、志也。

【㦊】 11281　タウ　㦊(**4－11238**)に同じ。〔字彙補〕㦊、與㆑㦊同。

【愳】 11282　ク　懼(**4－11488**)の古字。〔集韻〕懼、古作㆑愳。

【𢟪】 11283　テキ　惕(**4－10803**)に同じ。〔字彙補〕𢟪、與㆑惕同。

【㦧】 11284　サン　慘(**4－11094**)の俗字。〔篇海類編〕㦧、俗慘字。

【𢡺】 11285　マウ　莔(**9－31265**)に同じ。〔集韻〕莔、或作㆑𢡺。

【𢢋】 11286　ケイ　惠(**4－10822**)の古字。〔說文〕惠、𢢋、古文惠从㆑卉。

【𨶜】 11287　クヮン　患(**4－10691**)に同じ。〔集韻〕患、古从㆓關省㆒。

【𢣬】 11288　セツ　〔龍龕手鑑〕音折
しづかなさま。〔龍龕手鑑〕𢣬、靜貌。

【⿱⿰車予心】11289 キ 〔搜眞玉鏡〕古脂切 支

うれへる。〔搜眞玉鏡〕⿱⿰車予心、憂也。

【⿱西心】11290 ゼン 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿱西心、音偄。

【⿰彳⿱重心】11291 シヨウ 義未詳。〔字彙補〕⿰彳⿱重心、音檍。

【⿰忄結】11292 ケツ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿰忄結、音結。

十三畫

【憴】11293 シヨウ ジヨウ 〔集韻〕神陵切 蒸

㊀憴憴は、いましめる。〔爾雅、釋訓〕兢兢・憴憴、戒也。〔注〕皆戒愼。㊁通じて繩(8－27937)に作る。〔正字通〕憴、通作レ繩。㊂**ほめる。**たたへる。譝(10－35992)に同じ。〔廣韻〕譝、稱擧、憴、上同。

【憵】11294 ヘキ ヒヤク 〔集韻〕匹歷切 錫

にはか。〔爾雅、釋詁〕憵、猝也。〔方言、十二〕憵・朴、猝也。〔注〕謂二急速一也。

【憶】11295 ヨク オク 〔集韻〕乙力切 職 i^4

㊀**おもふ。**〔廣韻〕憶、念也。〔集韻〕憶、思也。㋑常におもふ。忘れぬ。〔釋名、釋言語〕憶、意也、恆在二意中一也。〔晉書、潘岳傳〕猶憶二疇昔一。㋺おもひやる。おもひめぐらす。〔韓愈、遊二湘西兩寺一詩〕靜思屈原沉、遠憶賈誼貶。㋩おもひだす。おもひおこす。〔駱賓王、送別詩〕別後能相憶、東陵有二故侯一。〔杜甫、贈二蕭使君一詩〕重憶羅江外、同遊錦水濱。㋥おもひまどふ。〔玉篇〕憶、意不レ定、往來念也。㊁**おもひ。**かんがへ。おもひで。〔梁簡文帝、答二湘東王一書〕分別以來、每增二慨憶一。㊂**おぼえる。**記憶する。〔正韻〕憶、記也。〔梁書、昭明太子傳〕讀書數行竝下、過レ目皆憶。〔南史、梁宗室傳〕尤好二東觀漢紀一、略皆誦憶。㊃**おぼえ。**〔南史、王儉傳〕撰二次諳憶一。㊅**むすぼれる。**〔後漢書、馮衍傳〕心愊憶而紛紜。〔注〕愊憶、猶二鬱結一也。

【憶翁】1 オクヲウ 宋、鄭思肖(11－39647・・417)の字。

【憶記】1′ i^4 chi^4 記憶する。

【憶起】2 オクキ おもひ起す。〔言志後錄〕尤當二追思憶二起幼穉時事一。〔梁川孟緯、太宰府謁二菅公祠廟一詩〕偉然廟貌倚二崔嵬一、憶二起當時一悵且哀。

【憶歸】3 オクキ ふるさとに歸るを思ふこと。〔于鄴、書懷詩〕浮世祇如レ此、舊山長憶レ歸。

【憶鄕】4 オクキヤウ ふるさとをおもふ。懷鄕。〔曹鄴、長城下詩〕遠水猶歸レ壑、征人合レ憶レ鄕。

【憶懼】5 オクク おもひおそれる。〔國語、楚語下〕庶憶懼而鑒二前惡一乎。

【憶想】6 オクサウ おもふ。おもひやる。〔唐庚、有レ所レ歎詩〕耕レ田佩レ印兩徒然、憶想平津只去年。

【憶殺】7 オクサツ オクサイ おもふ。殺は助辭。〔剪燈餘話、賈雲華還魂記〕徒自悼、憶二殺那人情好一。

【憶思】8 i^4 ssŭ^1 思ふ。思ひ出す。

【憶識】9 オクシ おぼえしるす。記憶する。〔後漢書、董祀妻傳〕聞三夫人家先多二墳籍一、猶能憶二識之一不。

【憶昔】10 オクセキ 昔日の事を追想する。昔云云であつたことを追想する。〔杜甫、憶昔行〕憶昔北尋二小有レ洞、洪河怒濤過二輕舸一。〔劉基、憶昔詩〕憶昔揚州看二月華一、滿城絃管滿二人家一。

【憶持】11 オクヂ 記憶を持ちつづける。忘れない。〔觀無量壽經〕汝等憶持、廣爲二大衆一分別解說。

【憶念】12 オクネン 記憶して忘れないこと。〔倶舍論、八〕憶二念此生前所更事一。

【憶雲樓】13 オクウンロウ 淸、項鴻祚(12－43343・・67)の室名。

【憶江南】14 オクカウナン 樂府、近代曲辭の名。一名望江南。もと謝秋娘といひ、白居易の詞によつて改めて憶江南といふ。劉禹錫にも歌辭がある。謝秋娘(10－35827・・290)を見よ。〔樂府詩集、近代曲辭、憶江南〕一曰二望江南一。樂府雜錄曰、望江南、本名二謝秋娘一、李德裕鎭二浙西一、爲二妾謝秋娘一所レ製、後改爲二望江南一。〔白居易、憶二江南一詞〕江南好、風景舊曾諳、日出江花紅勝レ火、春來江水綠如レ藍、能不レ憶二江南一。〔劉禹錫、和二樂天春詞一依二憶江南曲拍一爲レ句〕春過也共惜豔陽年、猶有桃花流水上、無レ辭竹葉醉二樽前一、惟待見二靑天一。〔詞譜〕宋王灼、碧雞漫志、此曲自レ唐至レ今、皆南呂宮、字句皆同、止是今曲兩段、蓋近世曲子無二單遍者一、按二唐段安節樂府雜錄一、此詞乃李德裕爲二謝秋孃一作、故名二謝秋孃一、因二白民易詞一更二今名一、又名二江南好一、又因下劉禹錫詞有中春去也、多謝二洛城人一句上、名二春去也一、溫庭筠詞有下梳洗罷、獨倚二望江樓一句上、名二望江南一、皇甫松詞有二閒夢江南梅熟日句一、名二夢江南一、又名二夢江口一、李煜詞名二望江梅一、此皆唐詞單調、至レ宋詞始爲二雙調一、王安中詞有下安陽好、曲水似二山陰一句上、名二安陽好一、張滋詞有下飛夢去、閒到二玉京一遊句上、名二夢仙遊一、蔡眞人詞有下鏗鐵板、閒引二步虛聲一句上、名二步虛聲一、宋自遜詞名二壺山好一、丘長春詞名二望蓬萊一、太平樂府名二歸塞北一。

【憶秦娥】15 オクシンガ 曲調の名。唐の文宗の宮人阿翹は、歌を善くしたが、宮を出でて金吾衞長史秦誠に嫁した。誠が新羅に使した時、翹は之を思慕して小詞を作り、憶秦郞と名づけた。誠は彼の地に在つて、夢に其の曲拍を知り、歸つて之を合はせたところ、異なる所が無かつたといふ。李白の憶秦娥は此の曲に本づくといふ。〔唐音癸籤〕。〔李白、憶秦娥〕簫聲咽、秦娥夢斷秦樓月、秦樓月、年年柳色、灞陵傷レ別、樂游原上淸秋節、咸陽古道音塵絕、音塵絕、西風殘照、漢家陵闕。〔剪燈餘話、賈雲華還魂記〕詩後復有二一詞一、名二憶秦娥一云、春蕭索、可レ憐更負二佳人約一、佳人約今番准定、莫レ教二違卻一、世閒雖レ有二相思藥一、應レ知難レ療二身如レ削、身如レ削、盈盈珠淚夜深偸落。〔詞譜〕此詞昉レ自二李白一、自レ唐迄レ元、體各不レ一、要二其源一、皆從二李詞一出也、因三詞有二秦娥夢斷秦樓月句一、故名二憶秦娥一、更名二秦樓月一、蘇軾詞有二淸光偏照雙荷葉句一、名二雙荷葉一、無名氏詞有二水天搖蕩蓬萊閣句一、名二蓬萊閣一、至二賀鑄一、始易二仄韻一爲二平韻一、張輯詞有二碧雲暮合句一、名二碧雲深一、宋媛孫道絢詞有二花深深句一、名二花深深一。

【憶少年】16 オクセウネン 詞牌の名。〔詞譜〕万俟咏詞有下上二隴首一、凝レ眸天四闊句上、名二隴首山一、朱敦儒詞名二十二時一、元劉秉忠詞有下恨二桃花流水一句上、更二名桃花曲一。

【憶多嬌】17 オクタケウ ㊀詞牌の名。長相思(11－41100・・390)の㊃を見よ。㊁曲牌の名。南曲では越調正曲に入り、又、越角套曲に入る。

【憶王孫】18 オクワウソン 詞曲の名。五代、李重光作。劉禹錫の瀟湘神と共に塡詞の祖と稱せられる。後には詞體の定名となり、詞中の意味とは關係なく、此の題を用ひる。〔塡詞名解〕北里志、天水光遠題二楊萊兒室一詩曰、萋萋芳草憶二王孫一、宋秦觀憶王孫詞、全用二其句一、詞名或始レ此。〔詞譜〕此詞單調三十一字者、創レ自二秦觀一、宋元人照二此塡一、太平樂府注二黃鍾宮一、太和正音譜注二仙呂宮一、梅苑詞名二獨腳令一、謝克家詞名二憶君王一、呂渭老詞名二豆葉黃一、陸游詞有下畫二得蛾眉一勝二舊時一句上、名二畫蛾眉一、張輯詞有二幾曲闌干萬里心句一、名二闌干萬里心一、雙調五十四字者、見二復雅歌詞一、或名二怨王孫一、與二單調一絕異。〔詞林萬選〕元人北曲一半兒、卽單調憶王孫、然元曲亦有二憶王孫一、與レ此同者、當二是一調異名一。

【憶巖居士】19 オクガンコジ 明、何三傑(1－511・・276)の號。

【⿰忄窣】11296 ソツ ソチ 〔篇海〕蘇骨切 月

悏㥁は、すすむさま。〔篇海〕㥁、悏㥁、漸貌。

【憷】 11297

㈠ショ ソ 〔集韻〕刱所切 語
㈡ショ ソ 〔集韻〕創據切 御

㈠**いたむ**。或は𤺸(**7−22569**)に作る。〔集韻〕憷、痛也、或从ㇾ疒。㈡**かしこい**。通じて楚(**6−15141**)に作る。〔集韻〕憷、心利也、通作ㇾ楚。

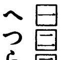
【㦶】 11298

ヨウ ユ 〔字彙〕於容切 冬

うれへる。〔字彙〕㦶、憂也。

【憸】 11299

㈠セン 〔集韻〕思廉切 鹽 ㄒㄧㄢ hsien¹
㈡セン 〔集韻〕七漸切 琰
㈢ケン 〔集韻〕虛檢切 琰


小篆

㈠㈡㈢❶**かたよる**。**ねぢける**。**へつらふ**。**こざかしい**。**又、佞人**。〔説文〕憸、憸詖也、憸㆓利於上㆒佞人也、从ㇾ心僉聲。〔段注〕憸、蓋險字之誤、詖、同ㇾ頗。〔書、冏命〕無ㇾ昵㆓于憸人㆒。〔釋文〕憸、利口也。〔書、盤庚上〕相㆓時憸民㆒。〔傳〕憸利小民。〔釋文〕馬云、憸利、小小見ㇾ事之人也。❷**つとめる**。〔廣雅、釋詁一〕憸、強也。❸憸憸は、意が多い。心がふらふらしてゐる。〔集韻〕憸、一曰、憸憸、多意也。❹通じて思(**4−10543**)・思(**4−10436**)に作る。〔集韻〕憸、通作ㇾ思。〔書、冏命、釋文〕憸、本亦作ㇾ思。❺譣(**10−36005**)に同じ。〔集韻〕譣、廣雅、譣也、或从ㇾ心。〔書、立政〕其勿ㇾ以㆓憸人㆒。〔説文〕譣、周書曰、勿ㇾ以㆓譣人㆒。

【憸巧】1（セン カウ） こざかしくてたくみにへつらふ。〔五代史、段凝傳〕凝爲ㇾ人憸巧、善窺㆓迎人意㆒。

【憸猾】2（セン クヮツ） ねぢけてわるがしこい。〔聞見後錄〕人不ㇾ聊ㇾ生、天下訩訩、險陂憸猾、唱和雷同。

【憸言】3（セン ゲン） へつらひ言ふ。おもねり言ふ。又、その言。

【憸邪】4（セン ジャ） よこしま。奸邪。〔舊唐書、裴延齡傳〕豈宜㆘更縱㆓憸邪㆒、復行㆗剋暴㆖。

【憸人】5（セン ジン） 心がねぢけてへつらふ人。又、ごますり。佞人。憸民(9)を見よ。〔書、立政〕國則罔ㇾ有㆔立ㇾ政用㆓憸人㆒者㆖。〔傳〕商周賢聖之國、則無ㇾ有㆘立ㇾ政用㆓憸利之人㆒者㆖。〔釋文〕馬云、憸利、佞人也。〔蔡傳〕勿ㇾ用㆓憸利小人㆒。〔書、冏命〕爾無ㇾ昵㆓于憸人㆒。

【憸壬】6（セン ジン） ねぢけへつらふ。又、其の者。憸佞。〔唐書、后妃傳序〕左右附ㇾ之、憸壬慹ㇾ之。〔愈德鄰、妾茗賦〕憸壬猖披。

【憸佞】7（セン ネイ） よこしまでおもねる。又、その人。憸壬。〔唐書、杜黃裳傳〕憸佞無ㇾ功、因㆓其來朝㆒白罷ㇾ之。〔曾布、范忠宣公誌銘〕人君欲㆓事功急就㆒、必爲㆓憸佞所ㇾ乘。

【憸薄】8（セン ハク） 心がねぢけて殘忍なこと。薄は、刻薄、殘忍で薄情なこと。〔唐書、姦臣上、李林甫傳〕博濟亦憸薄自肆。

【憸民】9（セン ミン） 心のねぢけたたみ。こざかしい民。憸人(5)を見よ。〔書、盤庚上〕相㆓時憸民㆒。〔傳〕言、憸利小民、尚相㆓顧於箴誨㆒、恐㆔其發動有㆓過ㇾ口之患㆒。〔釋文〕馬云、憸利、小小見ㇾ事之人也。〔王先謙孔傳參正〕王鳴盛云、立政憸人、馬以爲㆓佞人㆒、此則云㆓小小見ㇾ事之人㆒者、彼戒㆓成王立政㆒、故言ㇾ勿ㇾ用㆓佞人㆒、此則偸安而欲ㇾ沮㆓人謀㆒、故云㆓小小見ㇾ事之人㆒、皆望ㇾ文爲ㇾ說也。

【㦛】 11300

マン 慢(**4−11110**)に同じ。〔正字通〕㦛、與ㇾ慢同。

【㦞】 11301

シウ 㥢(**4−10912**)に同じ。〔集韻〕㥢、或从ㇾ猷。

【㦖】 11302

ケイ 〔集韻〕去例切 霽

おそれる。〔集韻〕㦖、恐也。

【㦝】 11303

タク ダク 〔集韻〕直角切 覺

おそれる。心が安らかでない。〔集韻〕㦝、心不ㇾ安也。

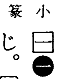
【憹】 11304

㈠ドウ ヌ 〔集韻〕奴冬切 冬
㈡ダウ ニョウ 〔集韻〕濃江切 江
㈢ダウ ノウ 〔集韻〕奴刀切 豪
㈣ダウ ノウ 〔集韻〕乃老切 皓

㈠㦀憹は、よろこぶ。〔集韻〕憹、㦀憹、悦也。㈡**こころみだれる**。〔集韻〕憹、心亂也。㈢懊憹は、いたみくやむ。〔集韻〕憹、懊憹、痛悔。㈣**なやむ**。嫐(**3−6480**)に同じ。〔集韻〕嫐、説文、有ㇾ所ㇾ恨也、今汝南之人、有ㇾ所ㇾ恨曰ㇾ嫐、或作ㇾ憹。

【憺】 11305

㈠タン ダン 〔集韻〕杜覽切 感
㈡タン ダン 〔集韻〕徒甘切 覃
㈢タン ダン 〔集韻〕徒濫切 ㄉㄢˋ tan⁴ 勘


小篆

㈠❶**やすらか**。倓(**1−768**)に同じ。〔説文〕憺、安也、从ㇾ心詹聲。〔段注〕人部曰、倓、安也、音義皆同。〔司馬相如、子虛賦〕憺乎自持。❷**さだまる**。〔淮南子、俶眞訓〕蜂蠆螫ㇾ指、而神不ㇾ能ㇾ憺。〔注〕憺、定也。❸或は惔(**4−10800**)に作る。〔集韻〕憺、或从ㇾ炎。㈡**しづか**。〔集韻〕憺、恬也。㈢❶**うごく**。**おそれる**。うごかす。おそれさせる。爓(**7−19574**)・焱(**7−19142**)・炎(**7−18910**)に通ず。〔説文通訓定聲〕憺、叚借爲ㇾ爓、爲ㇾ焱、爲ㇾ炎。〔集韻〕憺、動也。〔漢書、李廣傳〕威稜憺㆓乎鄰國㆒。〔注〕李奇曰、憺、猶ㇾ動也、蘇林曰、陳留人語ㇾ恐言ㇾ憺之。〔朱熹、哭㆓張栻㆒詩〕魏公威略憺㆓華戎㆒。❷**やすらか**。㈠の❶に同じ。〔集韻〕憺、一曰、安也。❸**しづか**。㈡に同じ。〔廣韻〕憺、恬靜。❹或は惔(**4−10800**)・倓(**1−768**)に作る。〔集韻〕憺、或从ㇾ炎、从ㇾ人。

名乘 ヤス。

【憺菴】1（タン アン） 清、陶之典(**11−41705・・193**)の號。

【憺畏】2（タン ヰ） ふるひおそれる。憚畏。〔唐書、黑齒常之傳〕凡涖ㇾ軍七年、吐蕃憺畏、不㆓敢盜㆒ㇾ邊。

【憺乎】3（タン コ） 安らかなさま。しづかなさま。〔司馬相如、子虛賦〕怕乎無爲、憺乎自持。〔注〕善曰、廣雅曰、憺・怕、靜也。

【憺然】4（タン ゼン） 安らかなさま。〔墨子、經說上〕平、惔然。〔閒詁〕張云、惔、疑當ㇾ爲ㇾ憺、說文心部云、憺、安也。

【憺憺】5（タン タン） ❶安らかなさま。〔楚辭、九章、抽思〕悲夷猶而冀ㇾ進兮、心怛傷之憺憺。〔補注〕憺、安靜也。❷威のおそろしいさま。〔達奚珣、華山賦〕森森象設之若ㇾ生、憺憺威稜而可ㇾ畏。

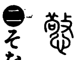
【憺怕】6（タン ハク） あつさりして慾がないさま。心が靜かで慾望のないさま。〔司馬相如、子虛賦〕怕乎無爲、憺乎自持。〔注〕善曰、老子曰、我獨怕然而未ㇾ兆、說文、怕、無爲也、廣雅曰、憺・怕、靜也。

【憻】 11306　タン　坦(3-4971)に同じ。〔篇海〕憻、與㆑坦同、出㆓佛經㆒。

【懤】 11307　タウ　ダウ　〔篇海〕徒朗切　養

ほしいまま。 婸(3-6458)に同じ。〔篇海〕懤、與㆑婸同、放蕩也。

【憼】 11308　㊀ケイ　キヤウ　〔集韻〕舉影切　梗　㊁キヤウ　カウ　〔集韻〕擧兩切　養　㊂ケイ　キヤウ　〔集韻〕居慶切　敬


小篆

㊀㊁❶**つつしむ。** うやまふ。〔說文〕憼、敬也、从㆓心敬㆒、敬亦聲。❷**そなへる。** 儆(1-1187)に通ず。〔荀子、賦〕無㆑私㆑罪㆑人、憼㆑革貳㆑兵。〔注〕憼、與㆑儆同、備也。㊂**つつしむ。** 敬(5-13303)に同じ。〔集韻〕敬、說文、肅也、或从㆑心。

【憽】 11309　ソウ　ス　〔集韻〕蘇叢切　ㄙㄨㄥ　sung1　東

惺憽は、さとい。又、さとい人。〔廣韻〕憽、惺憽、了慧人也。〔集韻〕憽、惺憽、惠皃。

【懔】 11310　リツ　慄(4-11042)の本字。〔字彙〕懔、慄本字。

【㦗】 11311　㊀キン　コン　〔集韻〕居吟切　侵　㊁キン　ゴン　〔集韻〕渠飮切　寑　㊂キン　ゴン　〔集韻〕巨禁切　沁

㊀㊁❶**心のかたいさま。** 〔廣韻〕㦗、心㦗皃。❷**つとめる。** 〔集韻〕㦗、懃也。〔集韻〕㦗、勤也。㊂**心がかたい。** 㤩(4-10671)に同じ。〔集韻〕㤩、心堅固也、或作㆑㦗。

【憾】 11312　㊀カン　ゴン　〔集韻〕胡紺切　ㄏㄢˋ　han4　勘　㊁カン　ゴン　〔集韻〕戶感切　感　㊂タン　ドン　〔集韻〕徒感切　感

㊀㊁❶**うらむ。** 心のこりに思ふ。〔集韻〕憾、恨也。〔左氏、宣、二〕以㆓其私㆒憾。〔注〕憾、恨也。〔禮、中庸〕天地之大也、人猶有㆑所㆑憾。〔注〕憾、恨也。〔論語、公冶長〕敝㆑之而無㆑憾。〔集解〕孔安國曰、憾、恨也。❷**うらみ。** 心のこり。〔左氏、文、十四〕不㆑可㆑使㆑畜㆑憾。〔注〕憾、恨也。〔左氏、襄、二十九〕美哉、猶有㆑憾。❸**うらみをいだく人。** 〔左氏、宣、十二〕二憾往矣。❹或は感(4-10953)に作る。〔集韻〕憾、或省。〔左氏、哀、十七〕令尹有㆑憾㆓于陳㆒。〔釋文〕憾、本又作㆑感。㊂**うれへる。** きづかふ。おそれる。〔集韻〕憾、不㆑安也。〔一切經音義、十三〕憾、不㆑安也。〔楚辭、嚴忌、哀時命〕志欲憾而不㆑憺兮。

【憾恚】 1 カンイ　うらみいかる。〔徐陵、與㆓顧記室㆒書〕反爲㆓憾恚㆒、妄相陷辱。

【憾怨】 2 カンエン　うらむ。〔新論、言苑〕天無㆑情㆓於生死㆒、則不㆑可㆓以㆑情而憾怨㆒。

【憾悔】 3 カンクワイ　うらみくやむ。悔恨。〔戰國、秦策〕君子殺㆑身以成㆑名、義之所㆑在、身雖㆑死無㆓憾悔㆒、何爲不可哉。

【憾恨】 4 カンコン　うらむ。怨恨。〔管子、版法解〕如㆑此、則衆無㆓鬱怨之心㆒、無㆓憾恨之意㆒。〔淮南子、本經訓〕各致㆓其愛㆒、而無㆔憾㆓恨其閒㆒。〔楚辭、嚴忌、哀時命〕志憾恨而不㆑逞兮。〔注〕憾、亦恨也。

【憾妻】 5 カンサイ　うらんでゐる妻。〔潘岳、射雉賦〕醜夫爲㆑之改㆑貌、憾妻爲㆑之釋㆑怨。

【憾詞】 6 カンシ　うらみのことば。〔福惠全書、刑名部、問擬〕彭氏不㆑肯遂有㆓憾詞㆒。

【憾事】 7 han4 shih4　うらめしい事。あやまちを悔い恨む。恨事。

【𢣚】 11313　カイ　〔集韻〕丘蓋切　泰

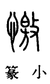
むさぼる。 愒(4-10933)に同じ。〔集韻〕愒、貪也、或从㆑欠。

【㦘】 11314　ロ　𢡃(4-11119)に同じ。〔集韻〕𢡃、或作㆑㦘。

【𢢜】 11315　ケキ　キヤク　〔集韻〕吉歷切　錫

❶**はやい。** 〔玉篇〕𢢜、疾也。❷憿(4-11316)に同じ。〔集韻〕憿、或書作㆑𢢜。

【憿】 11316　㊀ケウ　〔集韻〕堅堯切　蕭　㊁ケウ　〔集韻〕訖了切　篠　㊂ケキ　キヤク　〔集韻〕吉歷切　錫


小篆

㊀❶**さいはひ。又、さいはひをもとめる。** 〔說文〕憿、幸也、从㆑心敫聲。〔段注〕幸者、吉而免㆑凶也、引㆓申之㆒曰㆑欲㆑幸、亦曰㆓憿幸㆒、俗作㆓僥倖・儌倖・徼倖㆒、皆非也、凡傳言㆑徼㆑福者、皆當㆓作㆑憿㆑福爲㆒㆑正。〔說文通訓定聲〕憿、經傳皆以㆑徼爲㆑之、俗作㆓僥倖・儌倖㆒。❷或は激(7-18438)に作り、通じて僥(1-1113)・徼(4-10261)に作る。〔集韻〕憿、亦作㆑激、通作㆓僥・徼㆒。㊁❶憿憭は、誠意をこめて告げる。憿憭(2)を見よ。❷**さいはひ。** ㊀に同じ。〔集韻〕憿、一曰、幸也。㊂❶**はやい。** 〔集韻〕憿、疾也。❷或は𢢜(4-11315)に作る。〔集韻〕憿、或書作㆑𢢜。

名乘　サダ。トシ。

【憿糴】 1 ケキテキ　はやいさま。疾速。〔潘岳、笙賦〕懰憿糴以奔激、似㆓將㆑放而中匱㆒。〔注〕善曰、憿糴、疾貌。

【憿憭】 2 ケウレウ　誠意をこめて告げる。〔集韻〕憿、憿憭、以㆑誠告也。

【懀】 11317　㊀ワイ　ヱ　〔集韻〕烏外切　泰　㊁ワイ　ヱ　〔集韻〕烏快切　卦　㊂ワツ　ワチ　〔集韻〕烏括切　曷

㊀❶**にくむ。** 〔廣雅、釋詁三〕懀、惡也。❷**もだえる。** 〔集韻〕懀、一曰、悶也。❸**眉目の間のさま。** 〔一切經音義、五〕懀、眉目閒貌也。㊁㊂**にくむ。** 〔集韻〕懀、心惡。〔集韻〕懀、憎也。

【𢡟】 11318　ゲフ　ゴフ　〔集韻〕逆怯切　葉

おそれる。 通じて業(6-15170)に作る。〔集韻〕𢡟、懼也、通作㆑業。

【懁】 11319　㊀ケン　〔集韻〕扃縣切　霰　㊁ケン　〔集韻〕隳緣切　先　㊂クワン　ゲン　〔集韻〕胡關切　刪

小篆 ㊀**はげしい。きびしい。**〔說文〕懁、急也、从レ心睘聲、讀如レ絹。㊁**氣ばや。**㊂の❷に同じ。〔史記、貨殖傳〕民俗懁急。㊂❶**もとる。**かたくな。〔集韻〕懁、性戾也。❷**氣ばや。**心さわがしい。〔集韻〕懁、辨急也。〔莊子、列禦寇〕順懁而達。〔釋文〕懁、三蒼云、急腹也、王云、研辨也。〔疏〕懁、急也、形順躁急而心達レ理也。

【懂】11320 トウ ツ 〔正韻〕多動切 ㄉㄨㄥˇ 董 tung^3

❶憕懂は、**心がみだれる。**〔正韻〕懂、憕懂、心亂也。〔西湖志餘〕一時憕懂。❷懜懂は、**おろか。**〔正字通〕懂、俗謂ニ昏愚一曰ニ懜懂一。❸現明か。知る。さとる。通ずる。

【懂得】1 tung^3 tê 知る。分る。了解する。

【懂禮】2 tung^2 li^3 禮儀を知る。禮儀をわきまへる。懂得禮貌。

【懂情理】3 tung^3 ch'ing^2 li^3 情理に通ずる。世情に通ずる。常識をわきまへる。

【懂人情】4 tung^3 jen^2 ch'ing^2 人情に通ずる。世情に通ずる。

【懂不淸】5 tung^3 pu ch'ing^1 はっきりわからない。

【懃】11321 キン ゴン 〔集韻〕渠斤切 ㄑㄧㄣˊ 文 ch'in^2

❶**つとめる。**〔韻補〕懃、勤勞也。〔蘇軾、祭ニ柳仲遠一文〕雖レ不レ負レ米、實勞且懃。❷慇懃は、ねんごろ・てあつい・こまやか。〔集韻〕慇、慇懃、委曲意。❸勤(**2－2424**)に同じ。〔正字通〕懃、同レ勤。❹**姓。**〔正字通〕懃、姓、宋進士懃鉉・明懃會。

【懃恪】1 キンカク ねんごろでつつしむ。勤恪(**2－2424‥7**)に同じ。

【懃懃】2 キンキン ねんごろなさま。懇懇。懃懃懇懇を見よ。

【懃懃懇懇】3 キンキンコンコン ねんごろなさま。慇懃懇切。〔司馬遷、報ニ任少卿一書〕曩者辱賜レ書、教以下順ニ於接レ物、推レ賢進レ士爲上レ務、意氣懃懃懇懇。〔吳志、周瑜傳〕報レ德明レ功、懃懃懇懇。

【懃懇】4 キンコン ねんごろ。深切。丁寧。懇切。〔柳宗元、故銀青光祿大夫云云柳公行狀〕詞旨切直、意氣懃懇。

【懃勞】5 キンラウ つとめ勞する。勤勞。〔風俗通、皇霸〕成王擧ニ文武懃勞一、而封ニ熊繹於楚一。

【懃力】6 キンリヨク つとめる。一所懸命にする。勤力。〔潛夫論、考績〕設如家人有ニ五子十孫一、父母不レ察ニ精愞一、則懃力者懈弛、而惰慢者遂レ非也。

【懄】11322 キン 慬(**4－11129**)に同じ。〔集韻〕慬、或不レ省。

【⿰忄遂】11323 スイ ⿰忄㒸(**4－10888**)に同じ。〔集韻〕⿰忄㒸、或作レ⿰忄遂。

【懅】11324 ㊀キョ ゴ 〔集韻〕求於切 魚 ㊁キョ ゴ 〔集韻〕其據切 御

㊀㊁❶**おそれる。**おびえる。〔集韻〕懅、怯也。〔集韻〕懅、懼也。❷**はぢる。**〔類篇〕懅、慙也。〔後漢書、王霸傳〕霸慚懅而還。〔注〕懅、亦慙也。❸**せく。**あわてる。〔後漢書、徐登傳〕主人見レ之驚懅。〔注〕懅、忙也。

【懆】11325 ㊀サウ ソウ 〔集韻〕采早切 ㄘㄠˇ 晧 ts'ao^3 ㊁サン 〔集韻〕七感切 感 ㊂サウ ソウ 〔集韻〕倉刀切 豪 ㊃サウ ソウ 〔集韻〕先到切 號

小篆 ㊀**うれへる。**うれへておちつかぬ。〔說文〕懆、愁不レ安也、从レ心喿聲、詩曰、念レ子懆懆。〔桂注〕陳第毛詩古音考曰、月出之勞心慘慘、抑之我心慘慘、皆宜ニ改而從レ懆。〔詩、小雅、白華〕念レ子懆懆、視レ我邁邁。〔集傳〕懆懆、憂貌。㊁**うれへる。**うれへむすぼれる。通じて慘(**4－11094**)に作る。〔集韻〕懆、說文、愁不レ申也、通作レ慘。㊂**うごく。又、おきる。**慅(**4－11043**)に同じ。〔集韻〕慅、說文、動也、一曰、起也、或作レ懆。㊃❶**むさぼる。**〔集韻〕懆、貪也。❷**おちつかない。**〔集韻〕懆、不レ安也。

【懇】11326 コン 〔集韻〕口很切 ㄎㄣˇ 阮 k'en^3

小篆 ❶**ねんごろ。**てあつい。もと懇(**4－11327**)に作る。〔正字通〕懇、本作レ懇。〔說文新附〕懇、悃也、从レ心豤聲。〔正字通〕懇、肫篤也。❷**まこと。**まごころ。〔廣雅、釋詁一〕懇、信也。〔一切經音義、四〕至誠曰レ懇。〔集韻〕懇、誠也。❸**つとめる。**〔廣雅、釋詁二〕懇、力也。❹**もとめる。**〔正字通〕懇、俗借爲ニ干求意一。❺豤(**10－36547**)に通ず。〔漢書、劉向傳〕豤豤數奸ニ死亡之誅一。〔注〕師古曰、豤、音懇。〔王先謙補注〕通鑑作ニ懇懇一、字同。❻詪(**10－35428**)に通ず。〔一切經音義、四〕懇、古文詪、同。

【懇央】1 k'en^3 yang^1 ねんごろに乞ふ。懇請。〔桃花扇、草檄〕只求長兄懇央元帥。

【懇意】2 コンイ ❶ねんごろな心。〔法苑珠林〕必須ニ懇意用レ心徹到一。❷親密な交際。親しいなか。親密。

【懇恩】3 k'en^3 en^1 ❶懇願する。❷恩惠を求める。

【懇諫】4 コンカン ねんごろにいさめる。〔魏志、袁紹傳〕田豐說レ紹曰、紹不レ從、豐懇諫、紹怒甚。

【懇祈】5 k'en^3 ch'i^2 ねんごろに祈り求める。

【懇求】6 コンキウ ねんごろに求める。又、禮を厚くして賴む。〔淸國行政法汎論、知府、職權〕不レ可レ聽ニ屬官懇求一。

【懇乞】7 コンキツ 懇願する。乞ひ求める。〔六部成語、刑部〕懇ニ乞留養一。

【懇遇】8 コングウ ねんごろなもてなし。懇待。

【懇款】9 コンクワン ねんごろで誠のあること。懇悃。悃款。懃懇。〔韓愈、爲ニ裴相公一讓レ官表〕無レ任ニ懇款之至一。

【懇願】10 コングワン ねんごろに願ふ。ひたすらに望む。懇望。〔邵說、謝三墨詔賜ニ曆日口脂一表〕唯懇願以朝レ天。〔呂溫、藥師如來繡像贊序〕齊獻ニ至誠一、泣敷ニ懇願一。

【懇悃】11 コンコン ねんごろで誠のあること。懇款。〔韓愈、論ニ佛骨一表〕無レ任ニ感激懇悃之至一。

【懇懇】12 コンコン まごころのあるさま。まことを盡くすさま。ねんごろなさま。委曲丁寧なさま。〔廣雅、釋訓〕懇懇、誠也。〔漢書、司馬遷傳〕曩者辱賜レ書、教以下愼ニ於接レ物、推レ賢進レ士爲上レ務、意氣勤勤懇懇。〔注〕師古曰、懇懇、至誠也。〔後漢書、王暢傳〕懇懇用レ刑、不レ如レ行レ恩。〔吳志、周瑜傳〕報レ德明レ功、懃懃懇懇。

【懇至】13 コンシ ねんごろ。十分にゆきとどく。懇到。〔後漢書、楊政傳〕政每ニ共言論一、常切瑳懇至。〔魏志、桓階傳〕公規密諫、前後懇至。〔蜀志、王連傳〕連言輒懇至。〔杜預、論ニ水利一疏〕臣前見ニ尙書胡威啓レ宜レ壞レ陂、其言懇至。

【懇志】14 コンシ 親切なこころざし。又、まごころ。〔賈至、授ニ敬羽武部員外郎兼殿中侍御史一制〕宜下遂ニ其懇志一、退守中本官上。

【懇摯】15 k'en^3 chih^4 ねんごろ。懇誠。

【懇者】16 k'en^2 chê^3 書簡文用語。奉懇願候は。願上候は。

【懇謝】17 コンシヤ ねんごろにお禮をいふ。又、丁寧にわびる。〔舊唐書、李勣傳〕勣頓首見レ血、泣以懇

謝。

【懇情】18（コンジヤウ） ねんごろな心。深切な情誼。〔源平盛衰記、南都合戰同燒失〕歡喜の懇情深くして。

【懇讓】19（コンジヤウ） ねんごろにゆづる。又、眞心を以て從ふ。〔唐書、奉天皇帝琮傳〕君父有レ命不二敢違一、永言懇讓。

【懇書】20（コンショ） 人の書簡の敬稱。丁寧な御手紙。

【懇信】21（コンシン） 親切で誠のあること。ねんごろでいつはりのないこと。懇誠。

【懇親】22（コンシン） ねんごろに親しむ。親睦。

〖懇親會〗23（コンシンクワイ） 懇親をはかることを目的とする會合。

【懇誠】24（コンセイ） まこと。又、ねんごろなまこと。懇悃。〔王襃、四子講德論〕陳二懇誠於本朝之上一、行二話談於公卿之門一。〔後漢書、光武十王、東海恭王彊傳〕陳二其懇誠一、願レ備二蕃國一。〔孔子家語、屈節解〕施二至仁一加二懇誠一。

【懇請】25（コンセイ） ねんごろに乞ふ。〔宋史、外國、交阯傳〕懇請愈堅。

【懇切】26（コンセツ） 甚だねんごろなこと。深切丁寧。〔後漢書、陳蕃傳〕誠辭懇切。〔魏志、高貴鄕公髦紀〕志意懇切。〔晉書、山濤傳〕以レ濤爲二吏部尚書一、濤辭以二喪病一、章表懇切。〔朱子全書、詩、二雅〕如下既云二王事靡一レ盬、又云上レ不レ遑レ將レ母、皆是人情少不レ得底、說得懇切。

【懇接】27（コンセツ） ねんごろなもてなし。懇待。

【懇惻】28（コンソク） まこと。至誠。又、ねんごろ。又、ねんごろにいたむ。〔廣韻〕懇、懇惻、至誠也。〔後漢書、安帝紀〕設二張法禁一、懇惻分明。〔後漢書、黃瓊傳〕封六七上、言旨懇惻。〔吳志、吳主孫權傳〕見二禮泣涕懇惻、辭旨辛苦一。

【懇待】29（コンタイ） ねんごろなもてなし。懇遇。

【懇到】30（コンタウ） ねんごろ。十分行きとどく。懇倒。懇至。〔後漢書、獨行、諒輔傳〕精誠懇到、未レ有二感徹一。〔晉書、康獻褚后傳〕所レ奏懇到、形二於翰墨一。〔唐書、陸贄傳〕所レ言皆剴二拂帝短一、懇到深切。〔張餘慶、竹宮望二拜神光一賦〕表二至精一而懇到。

〖懇到周密〗31（コンタウシウミツ） ねんごろに行き屆いてぬかりのないこと。〔三島中洲、乃木將軍論序〕或遺言、或遺書、懇到周密。

〖懇到切至〗32（コンタウセツシ） ねんごろに眞心から深切をつくす。〔言志錄〕只須二懇到切至以告一レ之。

【懇禱】34（コンタウ） ねんごろに祈り求める。〔白居易、爲二宰相一請レ上二尊號一第二表〕臣等無レ任二誠願懇禱之至一。

【懇託】35 k'en^3 t'uo^1 ねんごろに依賴する。

【懇歎】36（コンタン） ねんごろに歎願する。又、其のねがひ。

【懇談】37（コンダン） うちとけてねんごろに話す。懇話。

〖懇談會〗37'（コンダンクワイ） うちとけてねんごろに話し合ふための集會。懇話會。

【懇篤】38（コントク） ねんごろで手あつい。丁寧深切。〔顏氏家訓、序致〕勵レ短引レ長、莫レ不二懇篤一。

【懇念】39（コンネン） ねんごろなおもひ。懇切な心。

【懇愊】40（コンプク） ねんごろでまごころのあること。愊は、まごころ。〔新唐書、劉瑑傳〕入遷二左拾遺一、諫二罷武宗方士一、言多懇愊。

【懇望】41（コンマウ） 切なるのぞみ。切望。懇願。

【懇命】42（コンメイ） 人が己に言ふ言葉の敬稱。御丁寧なおほせ。

【懇籲】43 k'en^3 yüeh^4 歎願する。哀願する。

【懇諭】44（コンユ） ていねいなさとし。又、ていねいにいひ聞かせる。懇々と說諭する。

【懇戀】45（コンレン） 心底からしたふ。甚だなつかしむ。〔柳宗元、寄二許京兆孟容一書〕無レ任二懇戀之至一。

【懇論】46（コンロン） ねんごろに論ずる。ねんごろに述べる。〔唐書、韋見素傳〕明日當二懇論一レ之。

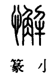
【懇話】47（コンワ） うちとけて話す。親しく話し合ふ。又、其の話。懇談。

〖懇話會〗48（コンワクワイ） うちとけて話し合ふための集會。懇談會。

【⿱豤心】 11327

コン　懇（**4－11326**）の本字。〔正字通〕懇、本作レ⿱豤心。

【懈】 11328


小篆

カイ　ケ　〔集韻〕居隘切　ㄒㄧㄝˋ　卦　hsieh^4

❶**おこたる**。なまける。〔說文〕懈、怠也、从レ心解聲。〔爾雅、釋言〕懈、怠也。〔廣雅、釋詁二〕懈、嬾也。〔淮南子、脩務訓〕爲レ民興レ利除レ害而不レ懈。〔注〕懈、惰也。❷**ゆるむ**。〔廣雅、釋詁二〕懈、緩也。〔釋名、釋疾病〕懈、解也、骨節解緩也。❸**つかれる**。〔爾雅、釋言、舊注〕懈者、極也。❹解（**10－35067**）に通ず。〔詩、大雅、烝民〕威儀是力、〔箋〕不レ解二于位一。〔釋文〕解、本又作レ懈。〔漢書、薛宣傳〕領レ職解嫚。〔注〕師古曰、解、讀曰レ懈。❺或は⿱解心（**4－11329**）に作る。〔集韻〕懈、或書作レ⿱解心。

【懈意】1（カイイ） なまける氣持。怠惰な心。〔朱熹、端明殿學士黃公墓誌銘〕未下嘗以二爵齒一自高、而有中懈意惰容上也。

【懈倦】2（カイケン） おこたりうむ。あきてなまける。〔南史、宋武帝諸子、彭城王義康傳〕義康亦自強不レ息、無レ有二懈倦一。

【懈弛】3（カイシ） ❶ゆるみおこたる。おこたりおろそかにする。怠廢。〔後漢書、和帝紀〕今廢慢懈弛、不二以爲レ負。〔魏志、田疇傳〕懈弛無レ備。〔于邵、容州刺史李公序〕勤レ身而不レ怠、未三曾有二懈弛一。❷ゆるむ。おろそかになる。〔魏志、龐淯傳、注〕皇甫謐列女傳曰、防備懈弛。

【懈沮】4（カイソ） おこたつて勢がなくなる。〔後漢書、龐參傳〕乘二懈沮一、出二其不意一、攻二其不備一。

【懈粗】5（カイソ） ゆるくあらい。繩のあざなひ方などについていふ。〔福惠全書、刑名部、人命下、驗各種死傷〕繩緊細則深、懈粗則淺。

【懈惰】7（カイダ） なまけおこたる。懈墮。〔韓詩外傳、八〕禍生二於懈惰一。〔淮南子、脩務訓〕侯王懈惰、後世無レ名。〔後漢書、趙熹傳〕正レ身立レ朝、未二嘗懈惰一。

【懈墮】8（カイダ） なまけおこたる。懈惰。〔呂覽、求人〕不レ有二懈墮一、憂二其黔首一。〔淮南子、要略〕懈墮分レ學、縱レ欲適レ情。〔說苑、建本〕偸慢懈墮。〔後漢書、仲長統傳〕安寧勿二懈墮一。

【懈怠】9（カイタイ） おこたる。なまける。又、おこたり。怠惰。怠懈。〔韓非子、八姦〕賢者懈怠而不レ勸、有功者隳而簡二其業一、此亡國之風也。〔呂覽、音律〕無二敢懈怠一、以レ多爲レ務。〔六韜、虎韜、金鼓〕斥候懈怠。〔吳子、論將〕停久不レ移、將士懈怠。〔後漢書、明德馬皇后紀〕而猶懈怠無二憂レ國忘レ家之慮一。〔魏志、李典傳〕有二懈怠之心一。

【懈體】10（カイタイ） からだをなまけさせる。〔墨子、尙賢下〕放レ心懈レ體。

【懈忒】11（カイトク） おこたりたがふ。〔後漢書、傅毅傳〕契闊夙夜、庶不二懈忒一。

【懈慢】12（カイマン） おこたる。怠慢。惰慢。〔後漢書、楊秉傳〕鄧通懈慢、申屠嘉召レ通詰責。

【匪レ懈】13（オコタラズ） なまけない。匪レ解。〔孝經、卿大夫章〕詩云、夙夜匪レ懈、以事二一人一。

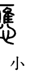
【⿱解心】 11329

カイ　懈（**4－11328**）の古字。〔字彙補〕⿱解心、古文懈字。

【應】 11330

一 ヨウ オウ　〔集韻〕於陵切　一ㄥ　蒸　ying^1

二 ヨウ オウ　〔集韻〕於證切　一ㄥˋ　徑　ying^4


小篆

一❶**あたる**。もと⿸疒⿱⿰亻隹心（**7－22594**）に作る。〔康熙字典〕應、本作レ⿸疒⿱⿰亻隹心。〔說文〕應、當也、从レ心雁聲。〔爾雅、釋詁〕應、當也。〔詩、大雅、下武〕應二侯順德一。〔傳〕應、當。〔淮南子、原道訓〕事無レ不レ應。〔注〕應、當也。〔史記、禮書〕終始相應。〔注〕正義曰、應、當也。❷**うける**。〔廣雅、釋言〕應、受也。〔國語、周語中〕其叔父實應且憎。〔注〕應、猶レ受。❸**まさに云云すべし**。㋑推量の助辭。〔字彙〕應、料度之辭。〔南史、宋武帝紀〕公亦應レ不レ忘二司馬之言一。〔杜甫、贈二花卿一詩〕此曲祇應二天上有一。㋺指定・當然の助辭。〔梁書、武帝紀〕凡主不レ應二封禪一。〔南史、江智深傳〕人所レ應レ有盡有、人所レ應レ無盡無者、其江智深乎。❹膺（**9－29

928)に通ず。〔爾雅、釋詁、釋文〕應、本或作レ膺。❺**國名**。周の武王の第四子の封國。姬姓。今の河南省寶豐縣の西南。〔左氏、僖二十四〕邘・晉・應・韓、武之穆也。〔注〕四國皆武王子、應國、在二襄陽城父之西一。❻**姓**。〔通志、氏族略、以レ國爲レ氏〕應氏、侯爵、武王第四子、今汝州葉縣故應城、是也、望出二汝南潁川一。〘三〙❶**こたへる**。㋑返事をする。〔集韻〕應、答也。〔孟子、公孫丑下〕不レ應、隱レ几而臥。〔戰國、齊策〕齊王不レ應。〔注〕應、答也。〔呂覽、順說〕宋王無二以應一。〔注〕應、答也。㋺うけひく。承諾する。〔古詩、爲二焦仲卿妻一作〕阿母謂二阿女一、汝可二去應レ之。㋩和する。つれてうごく。〔廣韻〕應、物相二應之一也。〔易、乾〕同聲相應。〔戰國、秦策〕楚之應レ之也必勸。〔注〕應、和也。〔淮南子、主術訓〕莫レ不二嚮應一也。〔注〕應、和。〔漢書、魏相傳〕敵加二於已一、不レ得レ已而起者、謂二之應兵一。❷**しるし**。或る事物に應じて現はれるしるし。むくい。こたへ。〔詩、周南、麟趾序〕關雎之應也。〔素問、六元正紀大論〕有二怫之應一。〔注〕應、爲二先兆一。〔漢書、終軍傳〕休徵之應見。❸**したがふ**。〔淮南子、覽冥訓〕應而不レ藏。〔注〕應、猶レ隨也。❹**やはらげる**。〔書、康誥〕應二保殷民一。〔蔡傳〕應、和也。❺**詩文に和する**。〔正字通〕應、魏・晉詩文屬和曰レ應。❻**うつ**。抌(**5－11876**)・鷹(**12－47377**)に通ず。〔說文通訓定聲〕應、擊之訓、乃抌與レ鷹之借字。〔廣雅、釋詁三〕應、擊也。〔戰國、齊策〕使二章子將而應レ之。〔注〕應、擊也。❼**樂器の名**。㋑ふりつづみ。鼓の小さいもの。應鼓(67)を見よ。〔爾雅、釋樂〕鼓小者、謂二之應一。〔釋名、釋樂器〕鞞在レ後曰レ應、應二大鼓一也。〔詩、周頌、有瞽〕應田縣鼓。〔傳〕應、小鞞也。〔周禮、春官、小師〕擊二應鼓一。〔注〕應、鞞也。〔禮、禮器〕應鼓在レ東。〔注〕小鼓謂二之應一。㋺步く速度を調へるために擊つもの。〔周禮、春官、笙師〕舂二牘應雅一、以教二祴樂一。〔注〕應、長六尺五寸、其中有レ椎、云云、賓醉而出、奏二祴夏一、云云、以二此三器一築レ地、爲二之行節一、明レ不レ失レ禮。

名乘 マサ。

【應安】1（オウアン） 北朝の後光嚴院(第四代)・後圓融院(第五代)の年號。(1368－1375)〔菅原時親勘文〕毛詩正義曰、今四方既已平、服二王國之內一、幸應二安定一。

【應菴】2（オウアン） ❶宋の僧。明州天童の應菴禪師。名は曇華。法を虎丘の隆禪師に嗣ぎ、孝宗の隆興元年に入寂す。〔稽古略、四〕❷字號。㋑宋、鄭銓(**11－39647**・・199)の號。㋺宋、曇華(**5－14172**・・13)の號。㋩金、高永(**12－45313**・・36)の號。

【應唯】3（オウヰ） こたへ。うけこたへ。返事。唯は、他の言ふ所をうべなふ應答の敬辭。〔禮、內則〕在二父母舅姑之所一、有レ命レ之、應唯敬對。〔集解〕應唯者、不二敢諾一。

【應レ有】4（マサニイウスベシ） ❶當然有すべきである。〔世說新語、賞譽〕庾公爲二護軍一、屬二桓廷尉一、覓二一佳吏一、乃經レ年、桓後遇見二徐寧一而知レ之、遂致二於庾公一、曰、人所レ應レ有、其不二必有一、人所レ應レ無、已不二必無一、眞海岱淸士。❷ying^1 yu^3 ありとあらゆる。ある限りの。殘らずの。〔水滸傳、楔子〕應有民間稅賦、悉皆赦免。

〔應レ有盡有〕5（マサニイウスベキハコトゴトクイウス） 當然有すべきものは悉く有してゐる。〔南史、江智深傳〕人所レ應レ有盡有、所レ應レ無盡無者、其江智深乎。

【應繇】6（オウイウ） 宋、昌國の人。字は之道。嘉定の進士。官は參知政事・資政殿學士。〔宋史、四百二十〕・〔宋史新編、一百五十三〕・〔南宋書、五十八〕。

【應允】7 ying^4 yün^3 承知する。許す。

【應⿰車柬】8（オウイン） 應田(178)に同じ。〔爾雅、釋樂、鼓小者謂二之應一、注〕詩曰、應⿰車柬縣鼓、在二大鼓側一。〔周禮、春官、大師、令レ奏二鼓⿰車柬一、注〕鄭司農云、⿰車柬、小鼓也、先擊二小鼓一、乃擊二大鼓一、小鼓爲二大鼓先引一、故曰レ⿰車柬、⿰車柬、讀爲二道引之引一、玄謂、鼓レ⿰車柬、猶レ言レ擊レ⿰車柬、詩云、應⿰車柬縣鼓。〔宋書、樂志二〕八音、云云、四曰革、大曰レ鼓、小曰レ⿰車柬、詩曰、應⿰車柬縣鼓。

【應朄】9（オウイン） 應田(178)に同じ。〔說文、朄、繫傳〕小鼓、引二樂聲一也、從レ申柬聲、詩曰、應朄縣鼓。

【應雲】10（オウウン） 淸、謝方琦(**10－35827**・・348)の字。

【應運】11（オウウン） ❶天の氣數に順ふ。天命の機運にあたる。〔荀悅、漢紀後序〕實天生レ德、應レ運建レ主。〔干寶、晉紀總論〕昔高祖宣皇帝以二雄才碩量一、應レ運而仕。❷北宋の太宗の時、李順の僭年號。(994)

【應永】12（オウエイ） 後小松天皇(第百代)・稱光天皇(第百一代)の年號。(1394－1428)〔藤原重光勘文〕會要曰、久應稱レ之、永有二天下一。

【應援】13（オウエン） みかたとなつてたすける。〔心書、擊勢〕四鄰和睦、大國應援。〔日本政記、後村上天皇論〕東西應援。

〔應援團〕14（オウエンダン） 應援をするために設けられた團體。主として運動競技を應援するためのもの。

【應遠】15（オウエン） 晉、鄧遐(**11－39630**・・21)の字。

【應應】16（オウオウ） **佛**應身(113)の感應をいふ。法應(**6－17290**・・24)の❶の對。〔妙玄、六上〕法應則冥益、應應則顯益。

【應嘉】17（オウカ） 明、趙士亨(**10－37171**・・576)の字。

〔應嘉賦〕18（オウカノフ） 文章の名。晉、陸機作。友人が嘉遁賦を作つて贈つたのに應へたもの。〔陸機、應嘉賦〕發二蘭音一以淸唱、操二玉懷一而喩レ予。〔注〕友人有下作二嘉遁賦一與レ余者上、作レ賦應レ之、號曰二應嘉一云。

【應檟】19（オウカ） 明、遂昌の人。字は子材。嘉靖の進士。官は山東布政使・兵部右侍郎・兩廣軍務總督。諸寇賊を論陶す。〔萬斯同明史、二百九十一〕・〔國朝獻徵錄、五十八〕。

【應解】20 ying^1 chieh^3 送付すべき。

【應獬】21（オウカイ） 宋、姚獬孫(**3－6202**・・134)の字。

【應諧】22（オウカイ） 物事に應じてそれにかなふやうにすること。〔法言、淵騫〕應諧不レ窮。〔風俗通、正失〕應諧似レ優不レ窮。

【應該】23 ying^1 kai^1 まさに云云すべき。當然な。應當(153)に同じ。

【應爻】24（オウカウ） 易の六爻に於て、初爻と第四爻、第二爻と第五爻、第三爻と第六爻とが互に陰陽相應ずるものをいふ。〔周易折中、綱領〕周公之繫二爻辭一、或取二爻德一云云、又或兼取二應爻一。

【應考】25（オウカウ） 考に應ずる。官吏登用試驗を受ける。應擧。應試。〔淸會典事例、兵部、武科〕國家甄二拔人才一、文武並進、現在二文場鄕會試一、滿洲・蒙古與二漢人一一體應レ考、按レ額取レ中。

【應行】26（オウカウ） ❶進む。前進。應は前の誤。〔韓詩外傳、七〕吳興レ師攻レ楚、有三人常爲二應行一、五合戰、五陷レ陣却レ敵。〔校注〕應、當レ爲レ前、劉云、在レ前也。❷行爲に應ずる。行爲の如何に隨つて報が來る。〔白虎通、壽命〕命有二三科一、以記驗、有二壽命一以保レ度、有二遭命一以遇レ暴、有二隨命一以應レ行、云云、隨命者、隨レ行爲レ命、若レ言下怠二棄三正一、天用勦中絕其命上。❸（マサニオコナフベシ） 當然行ふべきである。當然なすべきである。〔福惠全書、蒞任部、總論〕所レ有應レ行事宜、或因二其成例一。

【應顥】27（オウカウ） 明、淳安の人。字は文明。正統の進士。官は監察御史。銀場の賊林開三等を平らげ、湖廣副使に陞り、福建左布政に終る。〔蘭臺法鑒錄、八〕。

【應格】28（オウカク） 事に應じて至る。〔貽謀錄〕龍舒一郡應格者數人。

【應閒】29（オウカン） 文章の名。後漢、張衡作。閒はそしる意で、張衡を譏る者に答へた文。〔後漢書、張衡傳〕順帝初、再轉復爲二太史令一、衡不レ慕二當世一、所レ居之官、輒積年不レ徙、自レ去二史職一、五載復還、乃設二客問一、作二應閒一、以見二其志一云。〔注〕閒、非也、衡集云、觀者觀下余去二史官一、五載而復還上、非二進取之勢一也、唯衡內識利鈍、操心不レ改、或不二我知一者、以爲レ失レ志矣、用爲レ閒レ余、余應レ之、以下時有二遇否一、性命難上レ求、因レ茲以露二余誠一焉、名二之應閒一云。

【應感】30 オウカン 心が物に應じてうごく。感應。〔陸機、文賦〕若夫應感之會、通塞之紀、來不㆑可㆑遏。〔張淵、觀象賦序〕尋㆓其應感之符㆒、測㆓乎冥通之數㆒。

【應期】31 オウキ ❶期に應ずる。時期に當る。〔任昉、爲㆓范尙書㆒讓㆓吏部封侯㆒表〕陛下應㆓期萬世㆒、接㆓統千祀㆒。〔沈約、齊安陸昭王碑文〕應㆓期誕德㆒、絕㆑後光㆑前。❷字號。㋑宋、胡紘(9−29400‥99)の字。㋺宋、彭止(4−10003‥50)の字。㋩明、蔡逢時(9−31818‥239)の字。

【應麾】32 オウキ 明、干纓(4−9165‥3)の字。

【應器】33 オウキ 〘佛〙鐵鉢をいふ。比丘の食器。法に應ずる食器の意。又、應量器ともいひ、人の供養を受くべき者の用ひる食器で、腹の分量に應じて食べる食器の意。梵語 pātra の意譯。音譯は鉢多羅・鉾多羅。〔翻譯名義集、七、犍稚道具〕鉢多羅、此云㆓應器㆒、發軫云、應㆑法之器也。〔楞嚴義疏、一上〕鉾多羅、此云㆓應量器㆒、色與㆓體量㆒皆應㆓法度㆒也。

【應機】34 オウキ 機に應ずる。よい機會に應じて行ふ。〔蜀志、郤正傳〕智者應㆑機。〔高僧傳〕鳩摩羅什、神情鑒徹、應㆑機領會、罕㆑有㆓其匹㆒。

【應宜】35 ying^{1} i^{2} 宜しく云云すべし。

【應儀】36 オウギ 〘佛〙阿羅漢(11−41599‥442)の❶をいふ。人天の供養に應ずることのできる威儀を備へるものの意。〔出三藏記集、一〕舊經、無着果、亦應儀、新經、阿羅漢、亦言㆓阿羅訶㆒。〔玄應音義、四〕應儀道、又言㆓應眞㆒、或言㆓眞人㆒、舊云㆓無着果㆒、亦云㆓阿羅訶㆒、今言㆓阿羅漢㆒、皆是一義。

【應求】37 オウキウ 字號。❶宋、陳俊卿(11−41698‥987)の字。❷宋、傅惟肖(1−939‥138)の字。❸宋、王說(7−20823‥71)の字。「ぎのまにあはせる。

【應急】38 オウキフ 急場に當る。急場に處する。又、急

〔應急處置〕39 オウキフショチ 急の出來事にあたつて、直ぐに其の處置をすること。

【應形】41 オウギヤウ 〘佛〙物に應じた形。機緣に應じて示現する形。應身(113)に同じ。〔注維摩經序〕觀㆓應形㆒、則謂㆓之身㆒。

【應許】42 オウキョ 許す。承諾する。又、多分許すであらう。〔韓愈、酒中留上㆓襄陽李相公㆒詩〕知公不㆑久歸㆓鈞軸㆒、應㆑許㆔閑官寄㆓病身㆒。

【應璩】43 オウキョ 三國、魏の汝南の人。瑒の弟。字は休璉。文學を以て著名。文・明二帝の時、官は散騎常侍。齊王芳が卽位するや、侍中・大將軍長史に遷る。時に曹爽が政を秉り、多く法度に違つたので、璩は詩をつくつて之を諷した。〔三國志、二十一〕。

〔應璩三入〕44 オウキョサンニフ 蒙求の標題。魏の應璩は、曹爽の政が多く法度に違ふを以て、百一の詩を作つて之を諷した故事。〔蒙求、中、應璩三入〕文章敍錄、應璩、字休璉、汝南人、博學好屬㆑文、魏明帝世、歷㆓散騎常侍㆒、齊王卽㆑位、遷㆓侍中㆒、大將軍長史曹爽秉㆑政、多違㆓法度㆒、璩爲㆓百一詩㆒以諷焉、其略曰、前者墮㆑官去、有㆑人適㆓我閭㆒、田家無㆑所㆑有、酌㆑醴焚㆓枯魚㆒、問㆑我何功德、三入㆓承明廬㆒、其言雖㆓頗諧合㆒、多切㆓世要㆒、世共傳㆑之。

【應擧】45 オウキョ ❶科擧に應ずる。官吏登用試驗を受ける。〔白居易、自勸詩〕憶昔羈貧應㆑擧年、脫㆑衣典㆑酒曲江邊。〔宋史、選擧志、一〕凡命士應㆑擧、謂㆓之鏁廳試㆒、所㆑屬先以㆑名聞、得㆑旨而後解、既集、什伍相保。〔宋史、選擧志、二〕紹興元年、侯延慶言、兵興、大學既罷、諸生解散、云云、往往鄉貢隔絕、請立㆓應擧法㆒、以㆓國子監進士㆒爲㆑名、令㆓轉運使附試㆒。〔劉從益、詩〕應擧尙陪新進士、主文半是舊相知。❷明、余日德(1−515‥69)の初名。

【應金】46 オウキン 明、倪光(1−792‥6)の字。

【應矩】47 オウク 法度に當てはまる。〔蔡邕、團扇賦〕裁㆑帛制㆑扇、陳㆑象應㆑矩。〔魏明帝、善哉行〕旃旆指麾、進退應㆑矩。

【應供】48 オウグ 〘佛〙如來十號の一。一切の惡を斷じて人天の供養を受くべき者の意。梵語 Arhat の意譯。音譯は阿羅訶・阿羅漢。〔智度論、二十四〕應㆑受㆓一切世間供養㆒、故名爲㆓供養人㆒。〔大乘義章、二十末〕外國名爲㆓阿羅呵㆒、此云㆓應供㆒。

【應偶】49 オウグウ 應接し待遇する。〔六韜、龍韜、王翼〕應㆓偶賓客㆒。

【應化】50 オウクワ ❶變化に應ずる。〔莊子、天下〕其應㆓於化㆒而解㆓於物㆒也、其理不㆑竭。❷〘佛〙オウケ 佛が衆生を濟度せんがために、機に臨んで本體を變じ、これに應用すべき化體を現出すること。〔大唐西域記、七〕修㆓菩薩行㆒者、降㆑靈應化、爲㆓一老夫㆒。〔祖庭事苑〕般若金剛論云、應化非㆓眞佛㆒、亦非㆓說法者㆒。

【應果】51 オウクワ 〘佛〙阿羅漢は、人天の供養に應ずべき德を具してゐるから之を應果といふ。阿羅漢は一に應と譯す。阿羅漢(11−41599‥442)の❶

【應活】52 ying^{4} huo^{2} 仕事を引受ける。」を見よ。

【應奎】53 オウケイ 字號。❶明、況文(6−17264‥17)の字。❷明、張文明(4−9812‥1498)の字。

【應閨】54 オウケイ 南朝宋の內官の名。官品の第六。〔宋書、后妃傳序〕官品第六、應閨置㆓六人㆒、宮閨史置㆓一人㆒。

【應敎】55 オウケウ 太子や諸王の敎令に應ずること。〔沈約、游㆓鍾山㆒詩、應㆓西陽王敎㆒〕靈山紀㆓地德㆒、險峭資㆓嶽靈㆒。

【應乾】56 オウケン ❶五代、南漢の中宗(劉晟)の年號。(943)❷明、任環(1−416‥56)の字。「の西。

【應縣】57 オウケン 縣名。民國、置く。山西省渾源縣

【應謙】58 オウケン 清、應讓(98)の原名。

【應騐】59 オウケン ying^{4} yen^{4} 確かめる。證言。

【應權】60 オウケン ❶事に應じて對處する。〔蜀志、先主劉備傳〕應㆑權通㆑變、以寧㆓靖聖朝㆒。❷宋、鄭銓(11−39647‥199)の字。

【應驗】61 オウケン ❶しむけた物事に對してあらはれるしるし。ききめ。げん。〔隋書、經籍志、二〕應驗記一卷、宋光祿大夫傅亮撰。❷ying^{4} yen^{4} 確かめる。確定する。證言。

〔應驗良方〕62 ying^{4} yen^{4} liang^{2} fang^{1} 効驗のある良い處方。妙藥。

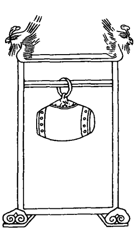
【應元】63 オウゲン 字號。❶晉、江統(6−17140‥339)の字。❷宋、譚端伯(10−35978‥77)の字。❸明、宋登春(3−7078‥379)の字。

【應言】64 オウゲン 呂氏春秋、審應覽の篇名。

【應現】65 オウゲン 〘佛〙佛が機に應じて身を現はす。〔淨名玄、二〕智論功德相㆓法身㆒、處處應現往。

〔應現垂迹〕66 オウゲンスイジヤク 〘佛〙應現に同じ。

【應鼓】67 オウコ 樂器の名。小さい鼓。堂上に拊を擊つ時、之に應じて堂下に鳴らす。ふりづつみ。〔周禮、春官、小師〕大祭祀、登歌擊㆑拊、下管擊㆓應鼓㆒。〔注〕應、鼙也、應與㆑朄及朔、皆小鼓也、其所㆑用別未㆑聞。〔禮、禮器〕縣鼓在㆑西、應鼓在㆑東。〔注〕禮樂之器、尊㆑西也、小鼓、謂㆓之應㆒。〔宋史、兵志、九〕更鳴㆓小金應鼓㆒。〔文獻通考、樂考、樂器、革之屬〕應鼓、陳氏樂書曰、禮器曰、縣鼓在㆑西、應鼓在㆑東、詩曰、應田縣鼓、爾雅曰、小鼓爲㆓之應㆒、蓋堂下之樂、以㆑管爲㆑本、器之尤小者也、應之爲㆑鼓、鼙之尤小者也、周官小師、大祭祀、下管擊㆓應鼓㆒、徹歌、大享亦如㆑之、是作㆑樂及㆓其小者㆒、乃所㆓以爲㆑備也。



應鼓（三才圖會）

【應午】68 オウゴ 明、謝少南(10−35827‥309)の字。

【應護】69 オウゴ 〘佛〙諸佛諸菩薩が衆生の所願に應同し、或は顯に或は冥に衆生を保護すること。

【應口】70 ying^{4} k'ou^{3} ❶口答へする。〔水滸傳、三回〕還敢應口。❷言つたことを履行する。

【應侯】70′ オウコウ 字號。❶明、謝淳培(10−35827‥297)の字。❷清、顏奇宿(12−43591‥140)の字。❸清、畢金科(7−21829‥87)の字。

【應候】71 オウコウ ❶氣節に應ずる。〔陸雲、寒蟬賦序〕處不㆓巢居㆒則其儉也、應㆑候守㆑節則其信也。〔李商隱、進㆓賀冬銀乳白身㆒狀〕黃鐘應㆑候、白琯舒㆑和。❷ying^{4} hou^{4} 待つ。待ちうける。「字。

【應興】72 オウコウ 明、黃起龍(12−47926‥1028)の

【應國】73 オウコク 天命を受けた國をいふ。應は、膺、受ける。〔管子、侈靡〕應國之稱號亦更矣。〔纂詁〕應・膺同、膺國、膺㆓天命㆒之國、謂㆓周室㆒也。

【應作】74 オウサ 〘佛〙佛が機に應じておこる。應現(65)に同じ。〔文句、二下〕名月是寶吉祥月天子、大勢至應作、云云、寶光是寶意日天子、觀世音應作。

【應齋】75 オウサイ 宋、趙善括(10−37171‥744)の號。

〔應齋雜著〕76 オウサイザツチヨ 書名。六卷。宋、趙善括撰。其の奏議は簡明切要なるものが多く、其の詩詞は格意豪俊である。〔四庫提要、集、別集類〕。

【應山】77 オウザン ❶山名。㋑湖北省恩施縣。鐵を產す。㋺湖北省應山縣の東南。又、應臺山・印山ともいふ。〔舊唐書、地理志、三〕漢隋縣地、屬㆓南陽郡㆒、梁分㆓隋縣㆒置㆓永陽縣㆒、隋改爲㆓應山㆒、

以二縣北山一爲レ名。❷縣名。隋、置く。湖北省安陸縣の北。縣の東南に應山があるので名づけた。〔讀史方輿紀要、湖廣、德安府、隨州〕應山縣、漢爲二隨縣地一、梁置二永陽縣及應州一、隋大業初、廢レ州改爲二應山縣一、屬二安陸郡一、唐武德四年、復置二應州一、七年、州廢、縣屬二安州一、宋初因レ之、嘉定中、改屬二隨州一、元因レ之、洪武九年、省二入隨縣一、十三年、復置屬二隨州一。〔清史稿、地理志〕湖北、德安府、縣四、應山。❸宋、連文鳳（11－38902・・349）の號。

【應之】78 オウシ 字號。❶宋、易言（5－13814・・60）の字。❷宋、吳感（2－3365・・79）の字。❸宋、任布（1－416・・170）の字。❹宋、謝麟（10－35827・・233）の字。❺宋、折繼祖（5－11890・・231）の字。❻宋、詹慥（10－35458・・14）の字。❼宋、方愼言（5－13620・・554）の字。❽宋、楊國寶（6－15112・・538）の字。❾元、聞人夢吉（9－29104・・43）の字。❿明、史朝賓（2－3249・・251）の字。⓫明、湯時來（7－17874・・175）の字。

【應試】79 オウシ ❶試驗をうける。受驗。特に、官吏登用試驗を受けるにいふ。應考。應擧。〔集異記、王維〕岐王曰、此生不レ得二首薦一、義不レ應レ試、然已承二貴王論一、託二張九皋一矣。❷天子の命を奉じて詩を作ること。應制は、其の事に卽いて其の題を命じ、七言律・五言排律等、韻數を限らないが、應試は定まった出題を受け、題面から韻字を拈出して五言六韻の詩を作る。〔徐熊飛、徐雪廬集〕應試詩賦鈔、二卷。

【應嘴】80 ying^4 tsuei^3 答へる。應答する。

【應事】81 オウジ 物事に應ずる。〔新書、傅職〕應レ事之理。〔二程子全書、應事〕學者全體此心學、雖レ未レ盡、若事物之來、不レ可レ不レ應、但隨二分限一應レ之、雖レ不レ中不レ遠矣。

【應時】82 オウジ ❶時に應ずる。時候に應ずる。〔荀子、天論〕望レ時而待レ之、孰二與應レ時而使レ之。〔注〕望レ時而待、謂レ若二農夫之望レ歲也、孰下與應二春生夏長之候一使上レ不レ失レ時也。〔曹植、與二楊德祖一書〕有二不善一、應レ時改定。❷明、徐汝化（4－10110・・494）の字。❸ying^4 shih^2 時に應じて。直ちに。卽時に。

【應時水】83 オウジスイ 時節に應じて名づけた黃河の水の名の總稱。十二月水名（2－2695・・454）を見よ。〔闞駰九州志〕正月解凍水、二月白蘋水、三月桃花水、四月麥黃水、五月瓜蔓水、六月山礬水、七月豆花水、八月荻苗水、九月霜降水、十月復槽水、十一月走凌水、十二月蹙凌水、謂二之應時水一。

【應時小賣】84 ying^4 shih^2 hsiao^3 mai^4 時に應じて小賣する。一品賣をする。

【應時對景】85 ying^4 shih^2 tuei^4 ching^3 流行の。流行風。

【應時當令】86 ying^4 shih^2 tang^1 ling^4 流行の。流行風。

【應州】87 オウシウ 州名。五代唐、置く。山西省應縣。〔讀史方輿紀要、山西、大同府〕應州、戰國時趙地、秦屬二鴈門郡一、兩漢因レ之、晉爲二新興郡地一、後魏爲二神武郡地一、隋屬二朔州一、唐爲二雲州地一、五代唐置二應州一、天成初、又爲二彰國軍一、遼以後因レ之、明初仍爲二應州一、以二州治金城縣一省入、領二縣一一。〔清史稿、地理志〕山西、大同府、州二、應州。

【應秋】88 オウシウ 明、張鵬（4－9812・・676）の字。

【應酬】89 オウシウ ❶こたへむくいる。特に、人から來た手紙に返事すること。又、返事。返禮。〔陸游、詩〕老來萬事嬾、不三獨廢二應酬一。❷交際する。〔張道洽、嶺梅詩〕應酬都不レ暇、一嶺是梅花。〔紅樓夢、三十二回〕也好將來應二酬世務一。

【應酬帳】90 ying^4 ch'ou^2 chang^4 商家に備へる帳簿の一種で、同業者などとの交際事項・費用等を記載する。

【應疾】91 オウシツ 應ずることがすみやか。事に應じて速かに處置をなすこと。〔白居易、策林十七、興二五福一銷二六極一〕應疾而化速、利倍而功兼。

【應日】92 オウジツ 太陽の運行に應ずる。〔鶡冠子、天則〕節璽相信、如二月應レ日。

【應社】93 オウシヤ 結社の名。明の英宗のとき、顧夢麟・楊彝・張溥等が三吳の名士を集めて創設した詩文の結社。其の詩文は雅馴で、一代の宗となり、復社の創設後、それに合流す。復社（4－10183・・85）を見よ。

【應謝】94 オウシヤ 應對して謝する。一說に、應は權に作り、假に謝する意といふ。〔史記、張湯傳〕湯應謝、鄕二上意所レ便。〔注〕集解曰、徐廣曰、應、一作レ權、正義曰、湯應對謝レ之如二上意一。

【應昌】95 オウシヤウ ❶路名。元、置く。滿洲熱河省經棚縣以西、察哈爾北部の地。元の順帝が此處に死す。〔讀史方輿紀要、直隸、萬全都指揮使司、附見開平故衞〕應昌城、元置二應昌路一、領二應昌縣一、明初洪武三年、元順帝殂二于應昌一、其子愛二猷識理達臘一、嗣立二于此一、李文忠自二開平一襲レ之、克二應昌一、獲二元太子買的里八剌一、是也。❷縣名。元、置く。明、清平鎭と改む。今の滿洲熱河省經棚縣の西境、達里泊（捕魚兒海）のほとり。❶を見よ。❸明、項文曜（12－43343・・85）の字。

【應祥】96 オウシヤウ 宋、趙開（10－37171・・58）の字。

【應城】97 オウジヤウ 縣名。南朝宋、置く。湖北省夏口縣の西北。〔讀史方輿紀要、湖廣、德安府〕應城縣、漢安陸縣地、宋置二應城縣一、屬二安陸郡一、齊因レ之、西魏置二城陽郡一、隋初郡廢、縣屬二鄖州一、大業初、改レ縣曰二應陽一、屬二安陸郡一、唐武德四年、復曰二應城縣一、仍屬二安州一、元和二年、省二入雲夢一、太和二年、復置、天祐二年、又改曰二應陽一、五代唐復レ舊、宋・元又省、明洪武十年、幷入二雲夢一、十三年復置。〔清史稿、地理志〕湖北、德安府、縣四、應城。

【應讓】98 オウジヤウ 清、丹徒の人。原名は謙。字は地山。號は退菴。書法に巧。〔國朝書人輯略、八〕。

【應迹】99 オウジヤク 佛 機緣に應じて垂迹の身を化現するをいふ。應化垂迹。〔觀音玄上〕上地爲レ眞爲レ本、下地爲レ應爲レ迹。〔勝鬘寶窟中本〕應迹爲レ論、應感既彰。

【應手】100 オウシユ ❶手の動くに從って。手を動かすとすぐに。〔傅玄、筆賦〕動應レ手而從レ心、煥光流而星布。〔南齊書、長沙威王晃傳〕馳レ馬拔レ之、應レ手便去。❷ying^4 shou^3 ㋑手に入る。㋺引き受ける。調達する。

【應須】101 オウシユ まさに云云すべし。應當（153）に同じ。〔白居易、遊二藍田山一卜レ居詩〕本性便二山寺一、應二須旁悟レ眞。

【應受】102 オウジユ 當り受ける。又、受ける。應は膺、膺は當る・受ける。〔左氏、襄、十三〕應二受多福一。〔會箋〕應・膺通、膺、當也。〔逸周書、祭公解〕付二畀於四方一、用應二受天命一。

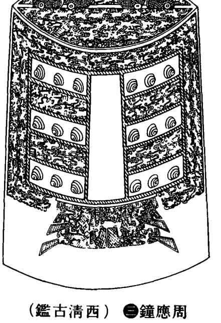
【應頌】103 オウジユ 佛 前の所說に應じて重ねて頌するもの。又、重頌といふ。十二分經の一。梵語geyaの意譯。音譯は祇夜。〔正理論、四十四〕言二應頌一者、謂以二勝妙緝句言詞一、隨述二讚前契經所說一。

【應需】104 オウジユ ❶もとめにしたがふ。書畫の揮毫等の依賴を受諾することなど。❷ying^1 hsü^1 必要な。所要の。

【應順】105 オウジユン ❶年號。㋑五代、後唐の閔帝、李從厚の時。（934）同、吳越の世宗（錢元瓘）・楚の文昭王（馬希範）・南平（荊南）の文獻王（高從誨）等も亦之を襲用した。㋺遼の天祚帝の時、渤海高永昌の僭年號、隆基の一稱。（1115）❷後漢、南頓の人。字は華仲。孝廉に擧げられ、官は冀州刺史。和帝の時、河南尹・將作大匠。廉直で私がなく、母に事へて孝。其の十子は皆、才學を以て著はれた。〔後漢書、七十八〕。

【應承】106 ying^4 ch'êng^2 ❶のみこむ。承知する。合點。〔元曲、玉鏡台〕你只要承應了這一首詩、倒被我勒掯的情和睦。❷約束する。

【應鐘】107 オウシヨウ ❶音律の名。十二律の一。基音たる黃鐘から十二番目の律に當り、我が國の雅樂の上無に當る。呂に屬し、十月に配する。鐘は動で、陽に應じて動く意。應鍾。十二律（2－2695・・407）の❷を見よ。〔周禮、春官、大司樂〕奏二大蔟一歌二應鐘一。〔禮、月令〕孟冬之月、其音羽、律中二應鐘一。〔注〕孟冬氣至、則應鍾之律應、應鍾者、姑洗之所レ生、三分去レ一、律長四寸二十七分寸之二十。〔國語、周語下〕六閒應鐘均二利器用一。〔注〕十月曰二應鐘一。〔呂覽、音律〕姑洗生二應鐘一。〔淮南子、天文訓〕應鐘者、應二其鍾一也。〔史記、律書〕應鐘



周應鐘❸（西清古鑑）

者、陽氣之應、不レ用レ事也。❷十月の異名。❶に本づく。〔呂覽、音律〕應鐘之月、陰陽不レ通、閉而爲レ冬。〔注〕應鐘、十月。❸十月の律である應鐘の音を發する鐘。〔西清古鑑、鐘、周應鐘〕銘曰二應鐘一、按、應鐘十月律也、稱二太和一、與二特鐘一同。

【應繩】108 オウジョウ　よく墨なはにあたる。まつすぐなことをいふ。〔莊子、馬蹄〕陶者曰、我善治レ埴、圓者中レ規、方者中レ矩、匠人者、我善治レ木、曲者中レ鉤、直者應レ繩、夫埴木之性、豈欲レ中二規矩鉤繩一哉。〔陸機、文賦〕苟銓衡之所レ裁、固應レ繩其必當。〔注〕翰曰、應二繩墨一而相當也。

【應辰】109 オウシン　宋、程士龍（**8－25081**‥212）の字。

【應眞】110 オウシン　［佛］❶阿羅漢（**11－41599**‥442）の❶をいふ。人天の供養を受くべき眞人。〔出三藏記、一〕舊經、無着果、亦應眞、亦應儀、新經、阿羅漢。〔孫綽、遊二天台山一賦〕應眞飛レ錫以躡レ虛。〔注〕善曰、應眞、謂二羅漢一也。〔梁簡文帝、望二同泰寺浮圖一詩〕梵世淩レ空下、應眞蔽二景趨一。❷眞理に應ずる人。〔法華文句、一上〕阿颰經云二應眞、瑞應云二眞人一。

【應人】111 オウジン　❶人道にしたがふ。人道に悖らない。〔易、兌〕順二乎天一、而應二乎人一。❷［佛］オウニン　人天の供養を受くべき眞人。阿羅漢（**11－41599**‥442）の❶をいふ。〔歸寄傳、一〕次有二弘法應人結集一。

【應仁】112 オウジン　❶仁に應ずる。〔維城典訓〕仁之感レ物、物之應レ仁、若二影隨レ形、猶二聲致レ響。❷オウニン　第百三代、後土御門天皇の年號。（1467－1469）

【應身】113 オウジン　［佛］眞如と相應ずる佛身の意。三身の一。釋迦・彌勒などは如來の應身である。機緣に應じて化現した佛身。應身佛。應佛。〔義林章、七〕應レ宜現レ身名二應身一故。

〖應身土〗114 オウジンド　［佛］應身佛の居住する國土。衆生の機緣に應じて變現した國土。

〖應身佛〗115 オウジンブツ　［佛］應身した如來。

【應神】116 オウジン　第十五代の帝謚。〔帝謚考〕應神、紀、漢風謚、漢書成帝紀、朕親飭レ躬、郊二祀上帝一、皇天報應、神光竝見、三輔長無二共張繇役之勞一。

【應水】117 オウスイ　川の名。❶河南省寶豐縣の南。又、瀷河・石渠ともいふ。滍水に注ぐ。❷湖南省東安縣の北。湘水に注ぐ。

【應萃】118 オウスイ　明、陳文瑞（**11－41698**‥1235）の字。

【應瑞】119 オウズイ　人の善惡に對して天が下すしるし。又、瑞祥に應ずる。〔周禮、春官、序官、典瑞、疏〕若レ受二天之應瑞一然。〔李覯、紫玉見二南山一賦〕德表レ玉而應レ瑞、玉用レ德而降レ休。

【應是】121 オウゼ　清、宜黃の人。號は敬齋。康熙の擧人。雍正の初、賢良方正に擧げられ、老病を以て辭す。書室を縱釣居といひ、著に讀孝經・縱釣居文集がある。〔四庫提要、三十二〕。

【應世】122 オウセイ　世の中の有樣に從つて。世の移り變るにつれて。又、時世に適する。應世才を見よ。〔公羊、襄、二十九、刑人也、注〕孔子曰、三皇設レ言民不レ違、五帝畫レ象世順レ機、三王肉刑揆漸加、應レ世黠巧姧僞多。〔京房易傳〕大畜九二、大夫應レ世應、六五爲二至尊一。〔隋煬帝、寶臺經藏願文〕仰惟如來應レ世、聲教被レ物、慇勤微密、結二集法藏一。

〖應世才〗123 ying^4 shih^4 tsʻai^2　時世に適合した才能のある人物。當世向きの才物。

【應正】124 オウセイ　明、程道壽（**8－25081**‥252）の字。

【應制】125 オウセイ　天子の命によつて詩文を作ること。六朝には多く應詔といひ、唐・宋人の詩の標題には多く應制といふ。皆、天子の韻に奉和し、又は命を受けて作るもので、頌颺の語が多い。應制と同類のものに應試があり、之は定まつた出題を受け、題面から韻字を拈出して五言六韻の詩を作るものであるが、應制には其の事に卽いて、其の題を命じ、七言律・五言排律等、韻數を限らない。猶、應制は唐人の七言絕句にも往往見えてゐる。應制の題の書き方は、誰と指さずに奉三和春日幸二望春宮一應制の如く書く。應詔（132）の❷を見よ。〔宋之問、送三沙門泓景・道俊・玄奘還二荊州一應制詩〕三乘歸二淨域一、萬騎餞二通莊一。〔蘇頲、奉三和春日幸二望春宮一應制詩〕東望二望春一春可レ憐、更逢二晴日一柳含煙。

【應星】126 オウセイ　❶歲星（**6－16326**‥96）の❶をいふ。きのほし。木星。〔史記、天官書〕歲星、一曰二應星一。❷星に應ずる。官吏となること。又、官吏。官吏が居並ぶさまを天に列なる星に應ずるものと見なしていふ。〔崔嘏、授二李渾比部員外郎一制〕方承二綵服之榮一、共許二應星之美一。

【應聲】127 オウセイ　❶聲に應じて直ちになすこと。〔魏志、陳思王植傳〕每二進見難問一、應レ聲而對。❷蟲の名。應聲蟲の❶を見よ。❸ying^4 shêng^1　反響。こだま。回聲。

〖應聲蟲〗128 オウセイチュウ　❶蟲の名。人の腹中に住み、人語に應じて聲を發し、應聲蟲病を起すといふ。〔本草、雷丸〕發明、時珍曰、按、陳正敏遯齋閑覽云、楊勔中年得二異疾一、每レ發レ語、腹中有二小聲一應レ之、久漸聲大、有二道士一見レ之曰、此應聲蟲也、但讀二本草一、取二不レ應者一治レ之、讀至二雷丸一、不レ應、遂頓二服數粒一而愈。〔文昌雜錄〕淮西士人楊勔、得二應聲蟲病一、劉伯時教以レ讀二本草一、至二雷丸一、不二復應一、服レ之而愈。❷俗に、自己の定見をもたず、從らに人の言說に附和雷同する者を譏つていふ。

【應稅】129 ying^1 shuei^4　課稅すべき。有稅の。應「征」。

【應召】130 オウショウ　めしにしたがふ。召募に應ずる。〔漢書、平當傳〕當病篤、不レ應レ召曰、吾已負二素餐之責一。〔吳志、孫堅傳〕卓受レ任無レ功、應レ召稽留。

【應劭】131 オウショウ　後漢、汝南の人。奉の子。字は仲遠。博學にして多聞、孝廉に擧げられ、官は靈帝の時、太山太守。黃巾の賊を破つて功があり、獻帝の時、袁紹の軍謀校尉となる。著に漢官儀・禮儀故事・風俗通・中漢集序等がある。〔後漢書、七十八〕。

【應詔】132 オウショウ　❶みことのりに應ずる。又、みことのりに答へる。〔後漢書、杜林傳〕或多交游、不レ得レ應レ詔、唯林守レ愼、有レ召必至。〔徐陵、東陽雙林寺傳大士碑〕固非下論二經於白虎之殿一、應中詔於金馬之門上。❷天子の命に從つて詩を作ること。六朝には多く應詔といひ、唐・宋には應制といふ。應制（125）を見よ。〔曹植、應詔詩、注〕翰曰、言下應二詔命一而來、於二道路一所レ見、對レ詔而作上也。〔顏延之、應詔觀二北湖田收一詩〕周御窮二轍跡一、夏載歷二山川一。❸明、丁鳳（**1－2**‥189）の字。

【應韶】133 オウショウ　字號。❶明、唐鳳儀（**2－3709**‥519）の字。❷明、王雲鳳（**7－20823**‥1176）の字。

【應接】134 オウセツ　❶あしらふ。人に面會してうけこたへすること。又、出て來る事物に應じて之を處理すること。應接不レ暇を見よ。〔後漢書、寇恂傳〕峻據二高平一、云云、十年、帝入レ關、將二自征レ之、恂時從レ駕、諫曰、長安道里居レ中、應接近便、今士馬疲倦、方履二險阻一、非二萬乘之固一、前年潁川、可レ爲二至戒一。〔後漢書、劉虞傳〕舊幽部應二接荒外一、資費甚廣。〔晉書、桓石秀傳〕常獨處二一室一、簡二於應接一。〔朱子全書、論語、鄉黨〕問二康子饋レ藥、拜而受レ之、看二此一事一、見三聖人應接之間、義理發見、極二其周密一。❷彼此の相呼應すること。〔歐陽詢書法〕字點欲二其互相應接一、兩點者如二小・八一、自相應接、三點者如レ系、則左朝レ右中朝レ上右朝レ左、四點如二然・無二字一、則兩旁二點相應、中閒相接。

〖應接室〗135 オウセツシツ　人に應接するへや。

〖應接不レ暇〗136 オウセツニイトマアラズ　一々挨拶する暇がない。一々心を留めて見聞する暇がない。接見すべき人や景色などが甚だ多い時、或は次から次へと來る時にいふ。〔世說新語、言語中〕王子敬云、從二山陰道上一行、山川自相映發、使二人應接不レ暇、若二秋冬之際一、尤難レ爲レ懷。

【應節】137 オウセツ　❶節度にかなふ。歌曲の節、舞の節度などに合すること。〔列子、湯問〕巧夫鎭二其頤一則歌合レ律、捧二其手一則舞應レ節、千變萬化、惟意所レ適。〔虞世南、詠レ舞詩〕一雙俱應レ節、還似二鏡中看一。❷季節に從ふ。季節にかなふ。〔後漢書、郎顗傳〕王者崇二寬大一、順二春令一、則雷應レ節。〔魏文帝、讓禪令〕風雨應レ節、禎祥觸レ類而見。〔傅亮、感物賦〕憐二鳴蜩之應レ節、惜二落景之懷レ東。

【應先】138 オウセン　❶宋、沈有開（**6－17189**‥418）の字。❷明、高胤先（**12－45313**‥1049）の一名。

【應詹】139 オウセン　晉の人。璩の孫。字は思遠。謚は烈。王敦の叛を平げた。爵は觀陽縣侯。官は江州刺史。〔晉書、七十〕。

【應戰】140 オウセン　敵の挑戰に應じて戰ふこと。

【應選】141 オウセン　銓選に應ずる。〔後漢書、謝夷吾傳〕及三倫作二司徒一、令三班固爲レ文薦二夷吾一、曰、云云、及二其應レ選作レ宰、惠敷二百里一、降レ福彌レ異、流化

若レ神。〔晉書、郤詵傳〕太守文立、擧レ詵應レ選。

【應薦】142 オウセン 明、阮鶚（**11－41569**‥6）の字。

【應訴】143 オウソ 原告の提起した訴訟に對して被告となること。

【應傃】144 オウソ 宋、昌國の人。字は自得。紹興の進士。官は文林郎。〔尙友錄、十二〕。

【應叟】145 オウソウ 宋、翁定（**9－28635**‥50）の字。

【應卽】146 ying^{1} chi^{2} まさに速かに云云すべし。

【應卒】147 オウソツ 急場に當る。急場に處する。應急。卒は、にはか。〔淮南子、人閒訓〕凡有レ道者應レ卒而不レ乏、遭レ難而能免。

【應存】148 ying^{1} ts'uen^{2} 現金有高。

【應待】149 オウタイ 相手をあしらふこと。相手をもてなすこと。應對。接待。〔墨子、非命上〕外無三以應二待諸侯之賓客一。〔淮南子、道應訓〕應二待無方一。

【應對】150 オウタイ うけこたへ。應答。酬答。又、相手の言動に對して或る言動をすること。相手をあしらふこと。相手をもてなすこと。應待。又、物事を處理すること。應對如レ流を見よ。〔左氏、襄、三十一〕應二對賓客一。〔論語、子張〕子夏之門人小子、當二洒掃・應對・進退一則可矣。〔劉寶楠正義〕應、說文作レ譍、云二以レ言對一也、今通作レ應、散文則應・對無レ別、對レ文則應是唯諾、不二必有一レ言、與三對專主二答辭一異也。〔戰國、趙策〕事レ主之行、竭レ意盡レ力、微諫而不レ譁、應對而不レ怨。〔六韜、文韜、文師〕言語應對者、情之飾也。〔鬼谷子、本經陰符〕志意不レ實、則應對不レ猛。〔史記、屈原傳〕應二對諸侯一。〔漢書、兒寬傳贊〕應對則嚴助・朱買臣。〔後漢書、南匈奴傳〕折衝應對入二其數一、則反爲二輕欺一。

【應對之能】151 オウタイノノウ 應對する才能。〔海錄碎事、人事、言談〕漢武帝時、徐樂諸才、備二應對之能一。

【應對如レ流】152 オウタイナガルルガゴトシ 言語の受けこたへの極めて流暢なこと。又、物事の處理の速かなこと。〔南史、徐勉傳〕既閑二尺牘一、兼二善辭令一、雖二文案塡積、坐客充滿一、應對如レ流、手不レ停レ筆。〔拾遺記〕薛夏博學絕倫、云云、魏文帝與レ之講論、終日不レ息、應對如レ流、無レ有二凝滯一。

【應當】153 オウタウ ❶あたる。かなふ。あてはまる。應も膺で、あたる意。〔管子、宙合〕變無レ不レ至、無レ不レ有二應當一。〔淮南子、原道訓〕得レ道者志弱而事強、心虛而應當。〔注〕當、合也。❷ying^{1} tang^{1} まさに云云すべし。云云すべき筈。當然。〔續文法詳論、襯語虛字〕應當、連用之例。

【應道】154 オウダウ 唐の德宗の時、南詔の孝文帝、尋閣勸の年號。（799－804一說に、809－810）

【應諾】155 オウダク うけがふ。承諾する。應唯。〔吳志、顧雍傳、注〕每句應諾畢、復再拜。

【應答】156 オウタフ うけこたへ。應對。〔漢書、藝文志〕論語者、孔子應二答弟子・時人一、及弟子相與言而接二聞於夫子一之語也。〔後漢書、梁節王暢傳〕暢心喜、與相應答。〔蜀志、蔣琬傳〕琬與言論、時不二應答一。〔梁書、徐摛傳〕商較縱橫、應答如レ響。

【應答如レ流】157 オウタフナガルルガゴトシ 應答が流暢ですこしもよどみのないこと。〔北史、李孝伯傳〕孝伯風容閑雅、應答如レ流。

【應篪】158 オウチ 淸、馬國偉（**12－44572**‥774）の字。

【應尼】159 オウヂ 明、鄭之文（**11－39647**‥409）の字。

【應長】160 オウチヤウ 第九十五代花園天皇の年號。（1311－1312）

【應仲】161 オウチユウ 金、鄒谷（**11－39562**‥20）の字。

【應敕】162 オウチヨク 六朝、齊の官名。君の左右に在つて敕命に應ずる官。〔資治通鑑、齊紀〕（東昏侯、永元元年）專親信宦官及左右御刀應敕等。〔注〕應敕、在二左右一祗應二敕命一者。

【應貞】163 オウテイ 晉の人。璩の子。字は吉甫。官は武帝の時、給事中・散騎常侍。荀顗と新禮を撰定した。文集がある。〔三國志、二十一〕・〔晉書、九十二〕。

【應禎】164 オウテイ 明、葛興（**9－31420**‥35）の字。

【應調】165 オウテウ しらべをうける。〔福惠全書、蒞任部、稟帖贅說〕換レ班應レ調。

【應條】166 オウデウ 蟲の名。すくもむしの異名。〔本草、蠐螬〕釋名、蟦蠐・蛪蠐・乳齊・地蠶・應條。

【應敵】167 オウテキ 敵の攻擊に應ずる。敵軍にあたる。〔孔叢子、儒服〕此諸侯應レ敵之禮也。〔魏志、陳羣傳〕邊境有レ事、將士勞苦、云云、今舍二此急一、而先二宮室一、臣懼、百姓遂困、將何以應レ敵。

【應天】168 オウテン ❶天に隨ふ。天命に應ずる。〔白虎通、封禪〕改制應レ天。〔王延壽、魯靈光殿賦〕規矩應レ天。〔魏志、高貴鄉公髦紀〕神武聖德、應レ天受レ祚。〔鍾會、檄蜀文〕應レ天順レ民。❷年號。㋑唐の肅宗の代、史思明の僭年號。（761）㋺唐の德宗の代、朱泚の僭年號。（783）㋩五代、後梁の太祖の代、燕の劉守光の僭年號。（911－913）㋥北宗の初、大瞿越（安南）の大行皇（黎桓）・中宗（黎龍鉞）・臥朝王（黎龍鋌）の時。（994－1007一說に、995－1008）㋭南宋の甯宗の代、西夏の襄宗（李安全）の時。（1206－1209）㋬明、武帝時代、越（安南）の襄翼帝の時、陳暠（一に陳高）の僭年號、天應の一稱。（1516）❸府名。㋑宋、置く。河南省商丘縣の南。〔讀史方輿紀要、河南〕歸德府、禹貢豫州地、古曰二商邱一、商湯爲二亳邑地一、周武王以封二微子啓一、是爲二宋國一、戰國齊滅レ宋、與二楚・魏一三二分其地一、秦置二碭郡一、漢改爲二梁國一、云云、宋仍曰二宋州一、景德三年、升爲二應天府一、大中祥符七年、建爲二南京一、金曰二歸德府一、元因レ之、明初、降爲レ州、嘉靖二十四年、復爲二歸德府一、領二州一、縣八一。㋺明、置く。太祖が都を此に定め、成祖は北京に遷都して此を行在とし、南京といふ。今、江蘇省首都市。〔讀史方輿紀要、江南〕江寧府、禹貢揚州之域、春秋時吳地、戰國屬レ越、後屬レ楚、楚威王初置二金陵邑一、秦改曰二秣陵一、屬二鄣郡一、漢初屬二荊國一、後屬レ吳、又屬二江都國一、元封初、屬二丹陽郡一、云云、明初定二都於此一、曰二應天府一、領二縣八一、今改爲二江寧府一。

【應天寺】169 オウテンジ 寺の名。四川省成都に在る。應天三絕を見よ。

【應天長】170 オウテンチヤウ ❶詞牌の名。〔詞譜〕此調有二令詞・慢詞一、令詞始二於韋莊一、又有二顧敻毛文錫兩體一、宋毛幵詞名二應天長令一、慢詞始二於柳永一、樂章集注、林鍾商調、又有二周邦彥一體一、名二應天長慢一。❷曲牌の名。南曲では羽調正曲に入り、北曲では商宮隻曲、又は商角隻曲に入る。

【應天門】171 オウテンモン 平安城內の大內裏八省院の南面の正門。七閒の重閣で、外廓の南面にあつた。貞觀八年閏三月燒失、十三年十月再興。永祚元年・長元七年、風のために東西の廊の顚倒したことがある。遺址は今の京都市上京區一條通千本西入北側の邊。〔隼人司式〕凡踐祚大嘗日、分二陣應天門內左右一、其群官初入發レ吠。〔拾芥抄、中末〕按、禮含文嘉云、陽賴二人心一應二於天一、然則應天之名、蓋取二諸此一歟。

【應天樂】172 オウテンラク 雅樂舞曲の名。又、應殿樂といふ。仁明天皇の大嘗會の時、應天門下に奏したから此の名がある。新樂に屬し、黃鐘調の中曲。今、樂・舞ともに存しない。

【應天曆】173 オウテンレキ 北宋の太祖が欽天曆に誤謬が多いため、王處訥に詔して新に作らせた曆。六卷ある。〔宋史、王處訥傳〕建隆二年、以二欽天曆謬誤一、詔二處訥一別造二新曆一、經二三年一而成、爲二六卷一、太祖自製レ序、命爲二應天曆一。

【應天三絕】174 オウテンサンゼツ 成都の應天寺の門壁に畫いた唐の孫位の佛畫と、孟蜀の時の景煥の佛畫と、廊壁に書いた僧夢歸の草書とをいふ。〔圖畫見聞誌〕唐僖宗時、有二孫位一、曾於二成都應天寺門左壁一、畫二坐天王暨部從鬼神一、筆鋒狂縱、形製詭異、世莫二與比一、至二孟蜀時一、忽有二處士景煥一、善レ畫、與二翰林學士歐陽炯一同遊二應天一、適觀二位所レ畫左壁天王一、激二發高興一、遂畫二右壁天王一、以對レ之、二藝爭レ鋒、一時壯觀、渤海重歎二其能一、遂爲二長歌一以美レ之、繼有二草書僧夢歸後至一、因請レ書二於廊壁一、成都人號爲二應天三絕一也。

【應天書院】175 オウテンシヨヰン 宋の書院の名。四大書院の一。河南省商丘縣の西。商丘はもと宋の宋州の睢陽郡で景德三年、應天府に升せたから、應天書院といひ、また舊名に從つて睢陽書院ともいふ。〔歸德府志〕府儒學、在二府治東一、卽宋應天書院、大中祥符中、建爲二南京國子監一、云云、應天書院、在二城北西隅一、宋有二敕賜碑一、在二舊城內一、今廢。

【應典】176 オウテン ❶明、浙江永康の人。字は天彝。正德の進士。官は職方司主事。王守仁の弟子。〔明史、二百八十三〕。〔萬斯同明史、二百七十四・三百八十四〕・〔明史稿、一百八十五〕。❷ying^{4} tien^{3} 適合する。應答する。

【應躔】177 オウテン 伊藤長堅の號。伊藤蘭嵎（**1－432**‥220）を見よ。

【應田】178 オウデン 應は小鼓をいひ、田は大鼓をいふ。一說に、田は朄に作るべく、朄は小鼓であるといふ。〔詩、周頌、有瞽〕應田縣鼓、鞉磬柷圉。〔傳〕應、小鞞也、田、大鼓也。〔箋〕田、當㆑作㆑朄、朄、小鼓、在㆓大鼓旁㆒、應、鞞之屬也。

【應圖】179 オウト 宋、黃輔國(12－47926‥1318)の字。

【應登】180 オウトウ 明、薛甲(9－32123‥22)の字。

【應同】181 オウドウ 呂氏春秋、有始覽の篇名。

【應德】182 オウトク ❶德に應ずる。〔白虎通、封禪〕天下泰平、符瑞所㆓以來至㆒者、以爲、王者承㆑天順㆑理、調㆓和陰陽㆒、和㆓萬物序㆒、休氣充塞、故符瑞竝臻、皆應㆑德而至。❷第七十二代、白河天皇の年號。(1084－1087) ❸明、唐順之(2－3709‥441)の字。

【應納】183 ying^1 na^4 まさに納付すべき。

【應南】184 オウナン 宋、兪豐(1－1437‥67)の字。

【應寧】185 オウネイ 明、楊一清(6－15112‥420)の字。

【應能】186 オウノウ 〖佛〗明の僧。鈞州の楊氏の子。名は行祥。正統中、自ら建文皇帝と稱し、獄に下されて死す。〔大明高僧傳、三〕。

【應梅】187 オウバイ 宋、王炎午(7－20823‥1207)の初名。

【應買】188 ying^4 mai^3 競買。

【應保】189 オウホウ ❶和げ安んずる。〔書、康誥〕汝惟小子、乃服惟弘㆑王、應㆓保殷民㆒。〔蔡傳〕應、和也。❷第七十八代、二條天皇の年號。(1161－1163)

【應報】190 オウホウ ❶こたへむくいる。〔漢書、楚元王傳〕諸侯和㆓於下㆒、天應㆓報於上㆒。❷〖佛〗行爲の善惡に對して來るむくい。

【應卯】191 オウバウ 官府の夫役に應ずること。小役人が、役所の點呼に應ずること。官署の事務は卯の刻に始まるので、其の時點呼するを點卯といひ、點檢に應ずるを應卯といふ。〔福惠全書、錢穀部、革㆓保歇圖差㆒〕歇之名、因㆓現年居㆑鄉、必入㆑城覓㆑寓爲㆑歇、以便㆑應㆑卯。

【應昴】192 オウバウ 昴星に應ずる。〔白虎通、禮樂〕韶者、震之氣也、上應㆓昴星㆒、以通㆓王道㆒、故謂㆓之韶㆒也。〔春秋佐助期〕漢相蕭何、長七尺八寸、應㆓昴星精㆒生。〔程鉅夫、壽㆓李秋谷㆒詩〕已徵蕭應㆑昴、復說傳騎㆑箕。

【應伯】193 オウハク 宋、劉詵(2－2224‥401)の字。

【應比】194 オウヒ その役をつとめさせる。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕除㆓本身應比㆒外、再加㆓量責㆒。

【應否】195 オウヒ まさに云云すべきや否や。〔福惠全書、蒞任部、詳文贅說〕一介微員、應否蠲免、安敢置㆑喙。

【應付】196 オウフ ❶要求に應じて給付する。〔元典章、戶部雜例〕今後諸路官吏、遇㆓省部勾集㆒、若騎㆓長行馬㆒、斟酌定立起發、盤纏騎㆓鋪馬㆒者、不㆑須㆓應付㆒。〔福惠全書、蒞任部、親查閱〕差使仍着㆓前任㆒應付。❷あしらふ。もてなす。程よく處置をつける。〔長生殿、進果〕只是使臣到來、如何應付。

【應付票據】197 ying^4 fu^4 pʻiao^4 chü^4 支拂手形。

【應付辦法】198 ying^4 fu^4 pan^4 fa^3 對應策。

【應付未付利息】199 ying^4 fu^4 wei^4 fu^4 li^4 hsi^2 未拂利子。

【應符】200 オウフ 符命に應ずる。〔晉書、邵續傳〕國家應㆑符撥㆑亂、八表宅㆑心。

【應符之兆】201 オウフノテウ 符命に應じて天子となるべきしるし。〔後漢書、蘇竟傳〕大運蕩除之祥、聖帝應符之兆也。

【應副】202 オウフク まさに副へて給付すべきもの。〔朱子全書、學、知行〕看㆓事物如何㆒來、只應㆑副將去。〔元典章、戶部雜例〕軍官有㆓俸休、應㆑副飲食㆒。

【應佛】203 オウブツ 〖佛〗眞如と相應ずる佛身の意。機緣に應じて化現する佛身。應身佛。應身(113)を見よ。

【應物】204 オウブツ ❶物に應ずる。萬物に隨ふ。〔莊子、知北遊〕其用㆑心不㆑勞、其應㆑物無㆑方。〔史記、太史公自序〕應㆑物變化。❷人と交際する。〔晉書、王濛傳〕濛少時放縱不羈、不㆑爲㆓鄉里所㆒㆑齒、晚節始克己勵行、有㆓風流美譽㆒、虛㆑己應㆑物、恕而後行、莫㆑不㆓敬愛㆒焉。

【應分】205 オウフン ❶分に應ずる。身分に相當する。身の程につり合ふ。又、相應な。適當な。❷まさに分つべし。〔翁卷、送㆔薛子舒赴㆓華亭船官㆒詩〕君到㆓雲間㆒日、應㆑分㆓二陸名㆒。❸ying^1 fên^4 當然云云すべき。

【應兵】206 オウヘイ 敵軍に挑戰され、止むを得ず之に應じて戰ふ軍隊。〔漢書、魏相傳〕臣聞㆑之、救㆑亂誅㆑暴、謂㆓之義兵㆒、兵義者王、敵加㆓于己㆒、不㆑得㆑已而起者、謂㆓之應兵㆒、兵應者勝。

【應聘】207 オウヘイ 招聘に應ずる。〔漢書、劉歆傳〕歷㆑國應㆑聘。〔論衡、語增〕孔子栖栖、周流應㆑聘。

【應鼙】208 オウヘイ 小さな鼓の一種。〔儀禮、大射儀〕建鼓在㆓阼階西㆒、應鼙在㆓其東㆒。

【應辟】209 オウヘキ めしに應ずる。召に應じて官吏となること。〔劉基、詠史詩〕應㆑辟思㆑濟㆑世、利祿豈其私。

【應變】210 オウヘン ❶變に應ずる。事物の變化に、或は不測の變事に應じて、適切な處置をなすこと。〔荀子、王制〕擧措應㆑變而不㆑窮。〔論衡、須頌〕爲㆑漢應㆑變。〔魏志、荀彧傳〕應㆑變無㆑方。〔晉書、孫楚傳〕廟勝之算、應㆑變無㆑窮。〔庾信、周柱國云云段永神道碑〕謨猷應㆑變、備在㆓司動㆒。❷吳子の篇名。

【應辦】211 オウベン 取り捌く。又、當然處理すべき。〔皇朝文獻通考、錢幣考〕三年定、江浙應㆑辦、京局額銅、歸㆓雲南㆒辦解。

【應步】212 オウホ ゆつたり步く。雅步。〔韓詩外傳、十〕齊桓公出遊、遇㆓一丈夫㆒、褒衣應步。

【應甫】213 オウホ 字號。❶宋、趙逢龍(10－37171‥892)の字。❷清、周壽昌(2－3441‥705)の字。

【應捕】214 オウホ 犯罪人を逮捕する役人。應捕人を見よ。

【應捕人】215 オウホニン 犯罪人を逮捕する役人。〔明律、刑律、捕亡〕凡應捕人、承㆑差追㆓捕罪人㆒、而推㆑故不㆑行、若知㆓罪人所㆑在而不㆑捕者、減㆓罪人罪一等㆒。〔纂注〕應捕人、如㆓皁隸弓兵巡捕官軍㆒、有㆔定㆓役於官㆒者、皆是。

【應募】216 オウボ つのりに應ずる。召募に應ずる。〔漢書、常惠傳〕少時家貧、自奮應㆑募。〔後漢書、西南夷、哀牢夷傳〕昆明夷鹵承等應㆑募、率㆔種人與㆓諸郡兵㆒、擊㆓類牢於博南㆒。〔魏志、杜畿傳〕諸將貪多㆑應㆑募、而少㆑遣㆑兵。

【應募者】217 オウボシヤ 募集に應ずる者。

【應募價格】218 オウボカカク 公債・株式などの募集に應ずる時、實際に拂ひ込む金額。其の價格は其の額面價格よりも幾分か少い。

【應奉】219 オウホウ 後漢の人。順の曾孫。字は世叔。官は桓帝の時、司隸校尉。屈原を追思し、感騷三十篇を作る。〔晉書、七十八〕。

【應奉五行】220 オウホウゴギヤウ 蒙求の標題。後漢の應奉が、幼にして聰明で、書を讀んで五行並び下つたといふ故事。〔後漢書、應奉傳〕奉少聰明、自㆑爲㆓童兒㆒及㆑長、凡所㆓經履㆒、莫㆑不㆓暗記㆒、讀㆑書五行竝下。

【應峯】221 オウホウ 明、王化醇(7－20823‥1334)の號。

【應澧】222 オウホウ 清、海寧の人。字は仔傳。號は藕莊闇然齋。官は訓導。詩・古文辭に巧。〔國朝書人輯略、六〕。

【應法】223 オウホフ 〖佛〗法に相應じ理に背かないこと。〔行事鈔資持記、下四之二〕應法者、正合㆓沙彌位㆒也。

【應名】224 オウメイ 名に應ずる。名稱に合する。〔尹文子、大道上〕名者、名㆑形者也、形者、應㆑名者也。

【應命】225 オウメイ おほせにしたがふ。命令に從ふ。〔南史、虞荔傳〕不㆑得㆑已應㆑命。

【應明】226 オウメイ 字號。❶明、朱正色(6－14424‥875)の字。❷明、鄧球(11－39630‥33)の字。❸明、王德新(7－20823‥1991)の字。

【應免】227 オウメン まさに免ずべき。〔皇朝文獻通考、田賦考〕三十一年、踏㆓勘民田㆒、將㆓應㆑免應㆑升科錢糧㆒、確查定議。

【應文】228 オウモン 明の惠帝をいふ。太祖の孫で懿文太子の長子。史上では、燕王の反に逃れて行方が分らないとなつてゐるが、佛家では次の如くに傳へてゐる。燕王の反に、將に自盡せんとしたが、王鉞の言に從つて先帝から傳はつた篋を開いた所、中から應文・應能・應賢の三葉の度牒を得、因つて祝髮して名を應文と改め、楊應能・葉希賢と共に出亡した。正統の時に至つて、恩州の知事岑瑛が之を朝に聞し、號を老佛と賜はり、迎へて西內に入れ、後、宮中に寂した。〔明高僧傳〕・〔釋氏稽古略〕。

【應門】229 オウモン ❶古代の宮廷の正門の名。天子の五門の第四。〔書、康王之誥〕王出在㆓應門之內㆒、太保率㆓西方諸侯㆒入㆓應門㆒左、畢公率㆓東方諸侯㆒入㆓應門㆒右。〔詩、大雅、緜〕迺立㆓應門㆒、應門將將。〔傳〕王之正門曰㆓應門㆒。〔禮、明堂位〕雉門、天子應門。〔漢書、孝成班倢伃傳〕應門閉兮禁闥扃。〔後漢書、明帝紀〕昔應門失㆑守、關雎刺㆑世。

〔劉楨、贈二五官中郎將一詩〕應門重二其關一。❷門をおとづれて來た來にうけこたへをする。來客の取次をする。應門五尺之童（232）を見よ。〔莊子、讓王〕杖レ黎而應レ門。

【應門兒】230（オウモンノジ）　應門五尺之童（232）に同じ。〔杜甫、秦州雜詩〕曬レ藥能無レ婦、應レ門亦有レ兒。〔黃庭堅、次二韻張仲謀過二酺池寺齋一詩〕是時應門兒、紫蘭茁二其牙一。

【應門八襲】231（オウモンハツシフ）　正門が八重である。〔張協、七命〕應門八襲、旋臺九重。〔注〕襲、猶レ重也。

【應門五尺之童】232（オウモンゴシヤクノドウ）　門（或は玄關）に出て來客の取次をする童子。五尺は、十二、三歲の年齡。又、身長の低いことを意味する。〔李密、陳情表〕外無二朞功彊近之親一、內無二應門五尺之童一。〔西廂記、張君瑞鬧二道場一雜劇〕有二冰霜之操一、內無二應門五尺之童一。

【應問】233（オウモン）　❶訪問に答へる。又、相手の來訪に答へて行ふ訪問。〔春秋繁露、玉杯〕春秋赴問數百、應問數千。❷質問に應じて答へる。

【應瑒】234（オウヤウ）　三國、魏の人。劭の從子。字は德璉。建安七子の一人。文學を以て稱せられ、王粲・陳琳等と名を齊しくす。官は曹操丞相掾・五官將文學。〔三國志、二十一〕。

【應用】235（オウヨウ）　❶㋑或る事から得た理論や技術を他の事に對して用ひること。事物に應じて活用すること。〔白居易、養竹記〕竹心空空以體レ道、君子見二其心一則思二應用虛受者一。㋺理論を實地にあてはめて用ひること。❷使用する。〔福惠全書、淸丈部、定步弓〕驗明印烙方許二應用一。❸yingᴵ yung⁴　㋑必要な。㋺實用。應用。

【應用化學】236（オウヨウクワガク）　生產技術的方面で遭遇する化學的現象を硏究する學問。

【應用科學】237（オウヨウクワガク）　科學上の原理を實地に應用する學術。實人生への直接的効用を主目的とする科學。工學・農學・醫學など。

【應用美術】238（オウヨウビジユツ）　賞玩を主とせずに實用を主目的とする美術・圖案・模型など。

【應用無邊】239（オウヨウムヘン）　佛佛は衆生救濟のためには應現の妙用が無碍自在であつて、時として現はれぬことなく、處として顯現せぬことのないこと。〔太平記、二十九〕。

【應容】240（オウヨウ）　應對の容儀。荻生徂徠は、容は客の誤で、應客は客に應對する意と解す。〔呂覽、審應〕人主出聲應容、不レ可レ不レ審。

【應來】241（オウライ）　淸、梁紹壬（6—14825‥289）の字。

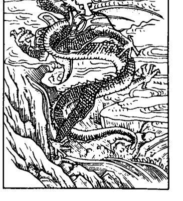
【應雷】242（オウライ）　明、顏鯨（12—43591‥37）の字。

【應律】243（オウリツ）　❶律呂にかなふ。〔楚辭、九歌、東君〕應レ律兮合レ節、靈之來兮蔽レ日。〔漢書、禮樂志〕展レ詩應レ律。❷明、應志和（259）の名。

【應良】244（オウリヤウ）　明、仙居の人。字は元忠。正德の進士。官は編修・廣東右布政使。王守仁の門人。著に閒存集がある。〔明史、二百八十三〕・〔萬斯同明史、二百七十四〕・〔明史稿、一百八十五〕。

【應亮】245（オウリヤウ）　明、福州の人。字は熙載。嘉靖の進士。官は戶部侍郎。〔福州府志〕。

【應龍】246（オウリヨウ）　❶龍の一種。翼がある。〔廣雅、釋魚〕有レ鱗曰二蛟龍一、有レ翼曰二應龍一、有レ角曰二虬龍一、無レ角曰二䖟龍一。〔楚辭、天問〕應龍何畫。〔注〕有レ鱗曰二蛟龍一、有レ翼曰二應龍一。〔淮南子、覽冥訓〕服二駕應龍一。〔注〕應龍、一說、應龍有レ翼之龍也。〔史記、司馬相如傳〕駕二應龍象輿之蠖略逶麗一兮。〔張衡、思玄賦〕㩦二應龍一以服レ輅。〔魏志、管寧傳〕應龍潛升之道、聖賢用舍之義。❷神の名。〔山海經、大荒東經〕應龍處二南極一、殺二蚩尤與二夸父一、不レ得二復上一、故下數旱、旱而爲二應龍之狀一、乃得二大雨一。❸城の名。唐の哥舒翰の築く所。青海中の龍駒島の上に在る。龍駒島（12—48818‥126）を見よ。❹元の毛應龍（6—16772‥259）をいふ。❺字號。㋑明、姚祥（3—6202‥64）の字。㋺明、黃雲（12—47926‥39）の字。



應龍❶（古今圖書集成）

【應龍潛二於潢汙一魚黿蝶レ之】247（オウリヨウヒソメバクワウヲニギヨゲンモコレヲアナドル）　應龍が小さな沼などに潛んでゐる時には、魚や黿（ボンスツ）までも之になれて輕蔑する。其の眞價を知らずに、偉人を侮るに譬へる。〔班固、答賓戲〕應龍潛二於潢汙一、魚黿蝶レ之、不レ覩下其能奮二靈德一合二風雲一、超二忽荒一而躆中昊蒼上也。〔注〕善曰、項岱曰、天有二九龍一、應龍有レ翼。

【應麟】248（オウリン）　淸の人。是の子。字は囿呈。康熙の擧人。雍正中、品行端方に擧げられたが、親が老いてゐるので辭退した。著に易經粹言・春秋臆義・詩經旁參がある。〔四庫提要、九・十八・三十一〕。

【應令】249（オウレイ）　❶命令に應ずる。〔漢書、文帝紀〕今萬家之縣、云レ無レ應レ令。❷太子・諸王の教令を奉じて作る詩。應教。〔武陵王、和二湘東王夜夢一應令詩〕昨夜夢二君歸一、賤妾下二鳴機一。❸yingᴵ ling⁴　まさに云云せしむべし。

【應曆】250（オウレキ）　五代の時、遼の穆宗、耶律述律の年號。（951—969）

【應曆重寶】251（オウレキヂユウハウ）　五代の時、遼の穆宗の鑄た貨幣。〔續文獻通考、錢幣考、遼〕穆宗鑄二應曆重寶錢一。

【應和】252（オウワ・オウクワ）　❶應じ和する。調和する。又、相互にこたへあふ。〔左氏、昭、二十八〕德正應和曰レ莫。〔史記、曹相國世家〕歌呼與相應和。〔白玉蟾、湧翠亭詩〕琴簧一聲前後應和。❷第六十二代村上天皇の年號。（961—964）❸字號。㋑宋、周端禮（2—3441‥777）の字。㋺明、葉鸞（9—31387‥138）の字。㋩明、陳侃（11—41698‥104）の字。㋥淸、王豫（丹徒の人）（7—20823‥1032）の字。

【應和宗論】253（オウワシユウロン）　村上天皇の應和三年八月、禁中に於てなされた宗教上の議論。天台・法相の二宗の學匠間に五性各別と一乘皆成との義に就いて大論議が展開せられて、兩々相下らず、古來最も活氣のある禁中の法論として知られてゐる。〔應和宗論日記〕・〔扶桑略記、二十六〕・〔元亨釋書、四〕・〔本朝高僧傳、九〕・〔壒囊鈔、十六〕・〔濫觴抄、下〕。

【應雲鸑】254（オウウンガク）　明、象山の人。字は瑞伯。嘉靖の進士。官は武庫司郎中。〔尙友錄、十二〕。

【應撝謙】255（オウギケン）　淸、仁和の人。字は嗣寅。號は無悶先生。學者は潛齋先生と稱す。性、至孝。心理の學に精通す。明の滅亡後、意を仕進に絕つ。著に周易集解・詩傳翼・書傳拾遺・春秋傳考・禮樂彙編・古樂書・論孟拾遺・學庸本義・孝經辨定・幼學蒙養篇・性理大全・教養全書・潛齋文集がある。〔淸史稿、四百八十六〕・〔淸史列傳、六十六〕・〔國朝耆獻類徵、四百二〕・〔碑傳集、一百二十八〕・〔國朝先正事略、二十八〕・〔淸儒學案小識、十〕。

【應元徵】256（オウゲンチヨウ）　明の人。字は敬之。號は澹菴。官は國子學錄。武宗が太學に幸した時、大學の平天下章を進講す。後、興化同知となる。著に澹菴集がある。〔尙友錄、十二〕。「名。

【應鉉齋】257（オウゲンサイ）　宋、張鎡（4—9812‥361）の室

【應差船】258（オウサセン）　公務を帶びて差遣せられる使者の要求に應じて、其の用に供する船。〔淸會典事例、工部、船政、應差船〕乾隆二十五年、裁二汰安徽大江差船八一、變レ價充レ公。

【應志和】259（オウシクワ）　明の人。名は律。字を以て行はれる。號は宜休居士・復菴。性理の學に深く、黃淮と忘年の交をなす。鄱陽縣の長官となる。著に復菴存稿がある。〔尙友錄、十二〕。

【應時盛】260（オウジセイ）　明、遼陽の人。字は泰宇。諸生。山西巡撫蔡懋德の麾下に隸屬し、副總兵となる。李自成と戰つて敗れ、縊死す。〔明史、二百六十三〕・〔萬斯同明史、三百六十九〕・〔明史稿、二百四十五〕。

【應昌士】261（オウシヤウシ）　明、仙居の人。崇禎の擧人。特恩を以て進士を賜はる。安定縣の長官となる。流賊に執へられ、屈せずして害せられた。〔萬斯同明史、三百八十一〕。

【應象翁】262（オウシヤウヲウ）　元、黃巖の人。字は景則。號は盛象翁。宋末に生れ、車若水・黃超然に從學す。時人は聖泉先生といふ。官は延祐中、昌國州判官。著に易學直旨本源・聖泉文集がある。

【應若レ響】263（オウズルコトヒビキノゴトシ）　響が音に應じて起るやうに必らず應じ起ること。又、其のやうに速かに反應すること。〔列子、仲尼〕其靜若レ鏡、其應若レ響。〔子華子、晏子〕其應如レ響。

【應出罪】264（オウシユツザイ）　重罪には當つてゐるが、其の動機・事情の如何に應じて無罪となる罪。正當防衛の類。〔金玉掌中抄〕名例律云、應出罪者、則擧レ重以明レ輕、疏云、夜無レ故入二人家一、主人格殺者勿レ論。

【應春花】265（オウシユンクワ）　九華樹の花。春に應じて開く

からいふ。〔陸機要覽〕九華樹、生二南岳一、雖レ經二雪凝寒一、花必開便落、時人謂二之應春花一。

【應舜臣】266 オウシュンシン 宋、婺州の人。貴溪に徙る。字は仁伯。慶曆の進士。官は太常少卿・三司判官。王安石に忤ひ、洪州の知に左遷せられた。曾鞏と親しく交る。〔萬姓統譜〕。

【應純之】267 オウジュンシ 宋の人。孟明の子。字は純甫。嘉泰の進士。官は兵部侍郎。金人が內侵した時、力戰して死す。〔宋元學案、六十九〕・〔宋史翼、三十一〕。

【應振黼】268 オウシンポ 明、象山の人。字は黼夫。官は泗州判官。著に尋樂稿、紀年錄がある。〔尙友錄、十二〕。

【應聖公】269 オウセイコウ 霍山神の封號。廣源公(4－9493‥114)を見よ。

【應節嚴】270 オウセツゲン 宋、平陽の人。字は和父。號は平坡居士。官は吏部侍郎・寶謨閣待制。文集がある。〔尙友錄、十二〕。

【應宗祥】271 オウソウシヤウ 明、黃巖の人。字は尙履。少くして學を好む。弟子が文貞先生と私謚した。〔列朝詩集小傳、乙〕。

【應大猷】272 オウダイイウ 明、仙居の人。字は邦升。正德の進士。官は刑部尙書。〔明史、一百九十二〕。

【應廷育】274 オウテイイク 明、浙江永康の人。字は仁卿。嘉靖の進士。官は按察司僉事。著に金華先民傳がある。〔明名人傳、十八〕。

【應帝期】275 オウテイキ 魏の鼓吹曲の名。魏の繆襲の作。漢の有所思を改めたもの。魏の文帝が聖德を以て天命を受け、運期に應ずることをいふ。〔晉書、樂志下〕改二有所思一爲二應帝期一、言下文帝以二聖德一受レ命應中運期上也。〔繆襲、應帝期〕應二帝期一、於昭我文皇、歷數承二天序一、龍飛レ自二許昌一、聰明昭二四表一、恩德動二遐方一、星辰爲垂レ輝、日月爲垂レ光、河洛吐二符瑞一、草木挺二嘉祥一、麒麟步二郊野一、黃龍遊二津梁一、白虎依二山林一、鳳凰鳴二高岡一、考レ圖定二篇籍一、功配二上古羲皇一、羲皇無二遺文一、仁聖相因循、期運三千歲、一生二聖明君一、堯授二舜萬國一、萬國皆附親、四門爲二穆穆一、教化常如レ神、大魏興盛、與レ之爲レ鄰。

【應帝王】276 オウテイワウ 莊子の篇名。

【應朝卿】277 オウテウケイ 明、仙居の人。字は行叔。萬曆の進士。官は御史。貴州・湖廣を巡按し、後、按察司廉使となる。〔浙江通志〕。

【應赴僧】278 オウフソウ 佛齋キト坊主をいふ。〔通俗編、釋道、應赴僧〕禪宗記、禪僧衣レ褐、講僧衣レ紅、瑜珈僧衣二蔥白一、瑜珈者、今應赴僧也。

【應寶時】279 オウホウジ 清、浙江永康の人。字は敏齋。道光の擧人。官は江蘇按察使・布政使。書室を射雕館といひ、著に射雕館集がある。

【應本仁】280 オウホンジン 元、鄞の人。字は本立。宋の世臣で、義として之に仕へず、城南に隱居す。博學にして施を好み、慷慨にして大志があり、嘗て范仲淹の人となりを慕ひ、義莊を建てた。黃溍が其の事を石に紀し、世〻相傳へて應家館といふ。〔尙友錄、十二〕。

【應孟明】281 オウマウメイ 宋、婺州永康の人。字は仲實。隆興の進士。官は太府卿。儒學を以て知られる。〔宋史、四百二十二〕・〔宋史新編、一百四十七〕・〔南宋書、四十六〕。

【應明德】282 オウメイトク 明、海寧の人。字は養虛。嘉靖の進士。官は刑部主事。

【應理宗】283 オウリシユウ 佛應理圓實宗(292)の略。

【應履平】284 オウリヘイ 明、奉化の人。字は錫祥。洪武の進士。麓川を征して功を立てた。官は雲南左布政使。〔明史、一百六十一〕・〔萬斯同明史、二百九〕・〔明史稿、一百五十一〕。

【應量器】285 オウリヤウキ 佛鐵鉢をいふ。佛及び佛弟子が布施・供養を受けるに用ひる器具。應器(32)を見よ。

【應我所言】286 ying^4 wo^2 suo^3 yen^2 私の言ふ言に合致する。

【應收票據】287 ying^4 shou^1 pʻiao^4 chü^4 受取手形。

【應徵盈餘】288 ying^4 chêng^1 ying^2 yü^2 中國の稅關で、其の經費、正稅定額の補缺及び臨時の增徵に備へるために徵收する稅金。一定の率はない。

【應病與藥】289 オウビヤウヨヤク 病に應じて藥を與へる。佛が衆生の種々の機に對して種々の教を說くのを之に喩へていふ。〔維摩經、佛國品〕應レ病與レ藥、令レ得二服行一。〔菩提心論〕諸佛慈悲、從レ眞起レ用、救二攝衆生一、應レ病與レ藥、施二諸法門一。

【應了日子】290 ying^4 liao^3 jih^4 tzŭ 日限を受けあふ。期日を引き受ける。

【應了照准】291 ying^4 liao^3 chao^4 chuen^3 認許の文書に用ひる句。當然規定に照して、許可すべきものとすといふ意。

【應理圓實宗】292 オウリエンジッシュウ 佛法相宗四名の一。此の宗に明かす所は、盡く理に應じて圓滿眞實であるとて、其の意を解深密經勝義諦相品に取つてつけた宗名。

【應收未收利息】293 ying^1 shou^1 wei^4 show^1 li^4 hsi^2 未收利子。

【應徵錢粮全完】294 ying^4 chêng^1 chʻien^2 liang chʻüan^2 wan^2 人民から徵收すべき地丁錢糧が全部受付濟になつたこと。

【⿱毄心】11331

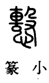
㈠ケイ 〔集韻〕詰計切 霽

㈡キ 〔集韻〕罄致切 寘

㈢カイ ケ 〔集韻〕口賣切 卦

㈣ケキ キヤク 〔集韻〕苦席切 陌

㈤ケキ キヤク 〔集韻〕詰歷切 錫



小篆

㈠❶つかれる。〔說文〕⿱毄心、備也、从レ心毄聲。❷うれへる。〔集韻〕⿱毄心、憂也。❸おそれる。〔廣韻〕⿱毄心、又怖也。㈡つかれる。㈠の❶に同じ。〔集韻〕⿱毄心、備也。㈢なやむ。⿱毄女(3－6783)に同じ。〔集韻〕⿱毄女、說文、難也、或从レ心。㈣おそれる。〔集韻〕⿱毄心、怖也。㈤つつしむ。〔集韻〕⿱毄心、敕也。

【懊】11332

㈠アウ オウ 〔集韻〕烏浩切 幺ˋ ao^4 晧

㈡アウ オウ 〔集韻〕於刀切 豪

㈢アウ オウ 〔集韻〕於到切 號

㈣イク 〔集韻〕乙六切 屋

㈠❶なやむ。うれへもだえる。〔廣韻〕懊、懊惱。❷うらむ。かなしむ。或は⿰忄夭(4－10380)に作る。〔集韻〕懊、恨也、或从レ夭。❸くいる。〔正字通〕懊、悔恨。〔韓愈、薦レ士詩〕善レ善不二汲汲一、後時徒悔懊。❹ふなうた。懊譪(1)を見よ。㈡懊憹は、痛む聲。〔集韻〕懊、懊憹、痛聲。㈢❶むさぼる。をしむ。〔爾雅、釋言〕懊、忨也。〔注〕謂二愛玩一。〔晉書、王羲之傳〕門生驚懊者。❷かたくな。〔集韻〕懊、一曰、頑也。㈣むさぼる。㈢の❶に同じ。〔集韻〕懊、貪也。

【懊譪】1 アウアイ 漁歌をいふ。欸乃(6－16090‥2)と字が相通ずる。〔翠雨軒詩話〕沈用濟詩、懊譪聲中夜未レ央。

【懊咿】2 アウイ 內に悲しむさま。〔嵇康、琴賦〕含レ哀懊咿。〔注〕善曰、字林曰、懊咿、內悲也。

【懊悔】3 ao^4 huei^3 後悔する。悔懊(4－10659‥1)に同じ。

〔懊悔不來〕4 ao^4 huei^3 pu^4 lai^2 悔んでも及ばない。

【懊恨】5 アウコン なやみうらむ。

【懊喪】6 アウサウ なやんで力を落す。落膽する。〔世說新語、言語〕支公好レ鶴、住二剡東岇山一、有レ人遺二其雙鶴一、少時、翅長欲レ飛、支意惜レ之、乃鎩二其翮一、鶴軒翥不二復能一レ飛、乃反顧レ翅、垂レ頭視レ之、如レ有二懊喪意一。

【懊緒】7 アウショ なやみのいとぐち。〔徐渭、宴二遊西郊一詩〕長空生二咄唶一、懊緒付二娉婷一。

【懊歎】8 アウタン うらみなげく。〔南史、顧覬之傳〕綽懊歎彌レ日。

【懊悵】9 アウチヤウ なやみいたむ。

【懊惱】10 アウナウ ❶うらみもだえる。くやみうらむ。懊憹。懊儂。〔古樂府、懊儂歌〕懊惱奈何許、夜聞家中論、不レ得二儂與一レ汝。〔白居易、聽二竹枝一贈二李侍御一詩〕懊惱何人怨咽多。❷樂曲の名。懊儂歌(13)に同じ。〔溫庭筠、懊惱曲〕藕絲作レ線難レ勝レ針、藥粉染レ黃那得レ深、玉白蘭芳不二相顧一、青樓一笑輕二千金一。

〔懊惱澤家〕11 アウナウタクカ 鷓鴣の聲をいふ。〔韋莊、鷓

鴣詩〕懊惱澤家非レ有レ恨、年年長憶鳳城歸。〔自注〕懊惱澤家、鷓鴣之音也。

【懊儂】12アウノウ ❶うらみもだえる。懊惱。懊憹(15)に同じ。❷樂曲の名。懊儂歌を見よ。

【懊儂歌】13アウノウカ 樂府、淸商曲辭、吳聲歌曲の名。又、懊惱歌に作る。晉の石崇の妾、綠珠の作。古辭は綠珠の作は一首のみで、他は皆隆安の初の民謠。宋の少帝が更に新歌三十六曲を制作し、梁の武帝は法雲に敕して、改めて相思曲とした。唐の溫庭筠にも歌辭がある。懊惱(10)を見よ。〔樂府詩集、淸商歌辭、吳聲歌曲、懊儂歌〕古今樂錄曰、懊儂歌者、晉石崇綠珠所レ作、唯絲布澀難レ縫一曲而已、後皆隆安初、民間訛謠之曲、宋少帝更制二新歌三十六曲一、齊太祖常謂二之中朝曲一、梁天監十一年、武帝敕二法雲一改爲二相思曲一、宋書五行志曰、晉安帝隆安中、民忽作二懊惱歌一、其曲中有下草生可二攬結一、女兒可二攬抱一之言上、桓玄既篡居二天位一、義旗以二三月二日一掃二定京師一、玄之宮女、及逆黨之家、子女妓妾、悉爲二軍賞一、東及二甌越一、北流二淮泗一、人皆有レ所レ獲焉、時則草可レ結、事則女可レ抱、信矣。〔古樂府、懊儂歌〕絲布澀難レ縫、令二儂十指穿一、黃牛細犢車、遊戲出二孟津一。

【懊儂曲】14アウノウキヨク 懊儂歌に同じ。〔南史、王敬則傳〕仲雄善彈レ琴、江左有二蔡邕焦尾琴一、在二主衣庫一、上敕五日一給二仲雄一、仲雄在二御前一鼓レ琴、作二懊儂曲一、歌曰、常歎負二情儂一、郎今果行許、又曰、君行不レ淨レ心、那得二惡人題一、帝愈猜愧。

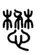
【懊憹】15アウノウ ❶かなしみもだえる。くやみもだえる。懊惱。懊儂。〔類篇〕懊憹、痛悔也。〔素問、六元正紀大論〕甚則瞀悶懊憹、善暴死。❷樂曲の名。懊儂歌(13)に同じ。〔晉書、樂志下〕懊憹歌者、隆安初、俗間訛謠之曲。

【懊憦】16アウラウ くいる。〔集韻〕憦、懊憦、悔也。

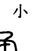
【懊道人】17アウダウジン 清、李鱓(6-14459··531)の號。

【懋】11333

ボウ モ 〔集韻〕莫候切 ㄇㄠˋ 宥 mao⁴



小篆



或體

❶つとめる。或は⿱矛心(4-10446)に作る。〔說文〕懋、勉也、从レ心楙聲、虞書曰、時惟懋哉、⿱矛心、或省。〔書、舜典〕惟時懋哉。〔傳〕懋、勉也。〔書、益稷〕懋二遷有無一化レ居。〔蔡傳〕懋、勉也。❷さかん。さかんにする。楙(6-15140)・茂(9-30833)に通ず。〔說文通訓定聲〕懋、叚借爲レ楙、爲レ茂。〔書、大禹謨〕予懋二乃德一。〔傳〕禹有二是德一、而我以爲二盛大一也。❸うるはしい。〔後漢書、章帝紀〕嗚呼懋哉。〔注〕懋、美也。❹よろこぶ。〔張衡、東京賦〕四靈懋而允懷。〔注〕綜曰、懋、悅也。❺かへる。うつす。貿(10-36721)に通ず。〔說文通訓定聲〕懋、叚借爲レ貿、益稷、懋二遷有無一化レ居、按、易レ財也。❻姓。〔萬姓統譜〕明、懋國輔、內丘人、萬曆間山西參將。

名乘 ヨシ。

【懋垣】1ボウエン 明、錢薇(11-40563··183)の字。

【懋園】2ボウエン 清、紀昭(8-27234··54)の字。

【懋遠】3ボウエン 明、曾存仁(5-14299··210)の字。

【懋翁】4ボウヲウ 宋、方儀(5-13620··86)の號。

【懋嘉】5ボウカ 清、鄭熙績(11-39647··331)の字。

【懋戒】6ボウカイ つとめいましめる。〔書、胤征〕嗚呼、威克二厥愛一允濟、愛克二厥威一允罔レ功、其爾衆士懋戒哉。

【懋玠】7ボウカイ 明、謝存儒(10-35827··314)の字。

【懋開】8ボウカイ 明、盛胤昌(8-23005··207)の字。

【懋衡】9ボウカウ 明、商良臣(2-3803··275)の字。

【懋學】10ボウガク 字號。❶明、向文敏(2-3301··119)の字。❷明、沈仕(6-17189··174)の字。❸明、陶成(寶應の人)(11-41705··108)の字。❹明、陳儒(11-41698··338)の字。❺明、李震(6-14459··483)の字。❻明、王鴻儒(7-20823··1468)の字。

【懋規】11ボウキ 明、方員(5-13620··21)の字。

【懋恭】12ボウキヨウ 明、朱欽(6-14424··226)の字。

【懋欽】13ボウキン 明、李舜臣(6-14459··1455)の字。

【懋和】14ボウクワ 明、朱燮元(6-14424··881)の字。

【懋官】15ボウクワン 官を盛にする。〔書、仲虺之誥〕德懋懋レ官、功懋懋レ賞。〔蔡傳〕懋、茂也、繁多之意。

【懋觀】16ボウクワン 明、張合(4-9812··139)の字。

【懋勛】17ボウクン 清、林兆恩(6-14451··406)の字。

【懋勳】18ボウクン ❶さかんないさを。〔晉書、王導傳〕咸和五年、導薨、冊曰、蓋高位以酬二明德一、厚爵以答二懋勳一。❷清、林兆恩(6-14551··406)の字。

【懋卿】19ボウケイ 字號。❶明、安紹芳(3-7072··560)の字。❷明、方勉(5-13620··418)の字。❸明、萬虞愷(9-31339··569)の字。

【懋賢】20ボウケン 宋、龐元英(12-48824··49)の字。

【懋憲】21ボウケン 明、章煥(8-25761··58)の字。

【懋元】22ボウゲン 明、方民懷(5-13620··621)の字。

【懋功】23ボウコウ ❶縣名。民國、置く。四川省大邑縣の西北に當り、金川に瀕す。❷字號。㋑唐、楊凝(6-15112··92)の字。㋺唐、李勣(6-14459··515)の字。㋩明、高其勳(12-45313··1081)の字。㋥明、項皐謨(12-43343··60)の字。㋭明、秦鉞(8-24995··11)の字。㋬清、朱昌祚(6-14424··834)の字。㋣清、王之績(7-20823··1556)の字。

【懋弘】24ボウコウ 明、林碩(6-14551··155)の字。

【懋穀】25ボウコク 明、錢綸(11-40563··238)の字。

【懋哉】26ツトメヨヤ 務めよ。努力せよ。〔書、舜典〕惟時懋哉。〔傳〕懋、勉也。

【懋齋】27ボウサイ 字號。❶羽生遠業の號。羽生懋齋(9-28614··73)を見よ。❷人見傳の號。人見懋齋(1-344··121)を見よ。

【懋之】28ボウシ 字號。❶明、丘道隆(1-33··154)の字。❷明、朱記榮(6-14424··709)の字。

【懋自】29ボウジ 清、王宏祚(7-20823··1352)の字。

【懋修】30ボウシウ 字號。❶明、陳吾德(11-41698··846)の字。❷清、張崇德(4-9812··1233)の字。

【懋實】31ボウジツ 明、丘橓(1-33··52)の字。

【懋集】32 mao⁴ chi² 盛にあつまる。

【懋尙】33ボウシヤウ 明、朱希周(6-14424··701)の字。

【懋賞】34ボウシヤウ 賞を盛にする。懋官(15)を見よ。

【懋成】35ボウセイ 明、蔡鍊(9-31818··130)の字。

【懋昭】36ボウセウ 清、江德新(6-17140··500)の字。

【懋績】37ボウセキ ❶功績をたてるやうにつとめる。〔書、蔡仲之命〕懋二乃攸一レ績、睦二乃四鄰一。〔傳〕勉二汝所レ立之功一。❷すぐれて盛ないさを。殊功。〔晉書、王湛傳論〕雖二崇勳懋績、有レ闕二於旂常一、素德清規、足レ傳二於汗簡一矣。

【懋遷】38ボウセン ❶交易を勉め勵む。懋は勉、遷は物の有無を遷し易へる。〔書、益稷〕懋二遷有無一化レ居。〔蔡傳〕懋、勉也、懋二勉其民一、徙二有於無一、交易變下化其所二居積一之貨上也。❷交易する。懋は、交換する。字解の❺を見よ。〔宋書、謝瞻傳論〕懋遷之道、通レ用濟レ乏。〔王融、永明九年策二秀才一文〕懋遷通二其有無一。

【懋堂】39ボウダウ 清、段玉裁(6-16619··75)の字。

【懋中】40ボウチユウ 字號。❶明、袁煒(10-34152··6)の字。❷明、黃洪憲(12-47926··1095)の字。

【懋忠】41ボウチユウ 明、魏允貞(12-45872··158)の字。

【懋著】42ボウチヨ 大いにあらはれる。甚だ著明。〔淸國行政法汎論、皇室、世爵大官死後榮典〕位望隆重、功德懋著、則皇帝輟レ朝。

【懋亭】43ボウテイ 清、長齡(11-41100··896)の字。

【懋貞】44ボウテイ 明、吳世忠(2-3365··700)の字。

【懋典】45ボウテン 盛な儀式。盛典。〔梁武帝、贈二臨川王宏一詔〕宜下增二峻禮秩一、式昭中懋典上。

【懋登】46ボウトウ 字號。❶明、錢蓘(11-40563··91)の字。❷明、張逵(4-9812··172)の字。

【懋德】47ボウトク ❶德を盛なりとする。德のあるのをよみする。〔書、大禹謨〕予懋二乃德一、嘉二乃丕績一。❷字號。㋑宋、蕭建功(9-32012··347)の字。㋺明、劉必榮(2-2224··1275)の字。

【懋法】48ボウハフ 清、孔衍栻(3-6933··267)の號。

【懋賓】49ボウヒン 梁、范岫(9-30834··44)の字。

【懋夫】50ボウフ 明、周官(2-3441··127)の字。

【懋文】51ボウブン 明、錢芹(11-40563··54)の字。

【懋聞】52ボウブン 明、馬思聰(12-44572··798)の字。

【懋勉】53ボウベン つとめる。

【懋懋】54ボウボウ 勉めるさま。〔爾雅、釋訓〕懋懋、勉也。

【懋明】55ボウメイ 明、郭智(11-39474··165)の字。

【懋容】56ボウヨウ 明、黃正憲(12-47926··1181)の字。

【懋庸】57ボウヨウ 功績を賞する。〔隋書、李安傳〕懋レ庸冊レ賞、宜レ不レ踰レ時。

【懋良】58ボウリヤウ 明、申佐(7-21726··49)の字。

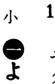
【懋力】59（ボウリヨク） つとめる。〔後漢書、班固傳〕兆民勸二于彊場一、咸懋力以耘耔。〔注〕懋、勉也。〔張衡、東京賦〕咸懋レ力以耘耔。

【懋禮】60（ボウレイ） 明、胡汝嘉（9－29400‥503）の字。

【懋勤殿】61（ボウキンデン） 宮殿の名。北京舊紫禁城內乾清宮の西南。清代、圖史翰墨の具は皆此處に貯へた。〔清會典事例、工部、宮殿〕宮之西廡中三楹、東嚮與二端凝殿一相對者、爲二懋勤殿一、其南爲二批本處一。

【懌】11334

エキ ヤク 〔集韻〕夷益切 陌 （yì⁴）


小篆

㊀よろこぶ。〔說文新附〕懌、說也、从レ心睪聲。〔詩、大雅、板〕辭之懌矣。〔傳〕懌、說。〔書、康誥〕予一人以懌。〔傳〕悅二懌汝德一。〔漢書、敍傳上〕放等不レ懌。〔注〕師古曰、懌、悅也。㊁たのしむ。〔爾雅、釋詁〕懌、樂也。〔漢書、司馬相如傳〕昆蟲闓懌。〔注〕文穎曰、懌、樂也。㊂したがふ。悅服する。〔詩、小雅、節南山〕既夷既懌。〔傳〕懌、服也。㊃あらためる。〔方言、六〕懌、改也、自レ山而東、或曰レ懌。〔廣雅、釋詁三〕懌、更也。㊄とく。釋（11－40129）に通ず。〔詩、邶風、靜女〕說二懌女美一。〔箋〕說懌、當レ作二說釋一。㊅通じて繹（8－27975）に作る。〔詩、大雅、板〕辭之繹矣。〔釋文〕繹、本亦作レ懌、說也。

名乘 ツグ。

【懌說】1（エキエツ） よろこぶ。

【懌嘉】2（エキカ） 清、曹振鏞（5－14297‥262）の字。

【懌懷】3（エキクワイ） 心をよろこばす。〔文心雕龍、書記〕條暢以任レ氣、優柔以懌レ懷。

【懌樂】4（エキラク） 喜びたのしむ。

【不レ懌】5（ヨロコバズ） よろこばない。病氣をいふ。不快。〔書、顧命〕惟四月哉生魄、王不レ懌。〔尙書今古文注疏〕馬融作二不釋一曰、疾不レ解也。

【懍】11335

㈠リン 〔集韻〕力錦切 寑 （lin³）
㈡ラン 〔集韻〕盧感切 感
㈢キン ゴン 〔集韻〕巨禁切 沁

㈠㊀あやふい。〔書、五子之歌〕懍乎若三朽索之馭二六馬一。〔傳〕懍、危貌。㊁つつしむ。〔廣雅、釋詁一〕懍、敬也。㊂おそれる。をののく。ぞつとする。〔集韻〕懍、懼皃。〔荀子、議兵〕臣下懍然、莫レ必二其命一。〔注〕懍然、悚栗之貌。〔潘岳、關中詩〕孰不二祇懍一。㊃或は伈（1－430）に作り、古、通じて亩（1－300）・稟（8－25185）に作る。〔集韻〕懍、或作レ伈、古通作二亩・稟一。㊄誤つて廩（4－9515）に作る。〔正字通〕懍、譌作レ廩。㈡㊀ぞつとする。〔嵇康、琴賦〕莫レ不二憯懍慘悽、愀愴傷一レ心。〔陸機、感レ時賦〕冬之爲レ氣、亦何憯懍以蕭索。㊁くるしむ。或は廩（4－9515）に作る。〔集韻〕懍、坎懍、困極、或作レ廩。㈢おびえる。おそれる。〔集韻〕懍、心怯也。

【懍畏】1（リンヰ） おそれる。怖畏に同じ。

【懍乎】2（リンコ） ㊀危いさま。懍懍。〔書、五子之歌〕懍乎若三朽索之馭二六馬一。〔傳〕懍、危貌。〔蘇軾、上二神宗皇帝一書〕懍乎若三朽索之馭二六馬一。㊁寒さのきびしいさま。凜乎。㊂りりしいさま。

【懍然】3（リンゼン） おそれるさま。ぞつとするさま。懍懍。〔荀子、議兵〕臣下懍然、莫レ必二其命一。〔注〕懍然、悚栗之貌。

【懍慄】4（リンリツ） おそれる。をののく。〔杜甫、北征詩〕那無二囊中帛一、救二汝寒懍慄一。

【懍懍】5（リンリン） ㊀危ぶみおそれるさま。〔書、泰誓中〕百姓懍懍、若レ崩二厥角一。〔傳〕言下民畏二紂之虐一、危懼不上レ安。〔漢書、食貨志上〕直爲二此懍懍一。〔說苑、政理〕懍懍焉、如下以二腐索一御中奔馬上。〔孔子家語、致思〕懍懍焉、若レ持二腐索之扞馬一。〔王注〕懍懍、戒懼之貌。〔吳質、在二元城一與二魏太子一牋〕抑亦懍懍有二庶幾之心一。〔注〕善曰、孔安國尙書傳曰、懍懍、危懼貌。〔陸機、文賦〕心懍懍以懷レ霜。〔注〕善曰、說文曰、懍懍、寒也。㊁威嚴のあるさま。りりしいさま。〔後漢書、陳蕃傳論〕懍乎伊望之業矣。〔注〕懍懍、有二風采一之貌也。〔後漢書、孔融傳論〕懍懍焉皜皜焉、其與二琨玉秋霜一比レ質可也。〔注〕懍懍、勁烈如二秋霜一也。㊂つつしむさま。〔吳質、在二元城一與二魏太子一牋〕抑亦懍懍有二庶幾之心一。〔注〕良曰、懍懍、敬貌。

【懍悷】6（リンレイ） おそれて涙を流す。〔一切經音義、十〕懍悷、悲吟貌。

【憤】11336

フン 憤（4－11239）の本字。〔正字通〕憤、憤本字。

【懎】11337

シヨク シキ 〔集韻〕殺測切 職

うらむ。かなしむ。〔廣韻〕懎、悲恨。〔集韻〕懎、恨也。

【懏】11338

シユン 〔集韻〕祖峻切 震

さとい。〔集韻〕懏、慧也。

【𢤱】11339

ダク 𢢃（4－10867）の古字。〔集韻〕𢢃、古作レ𢤱。

【𨻳】11340

ダ 憜（4－11225）の古字。〔集韻〕憜、古作レ𨻳。

【𢢼】11341

ガウ 慠（4－11106）に同じ。〔康熙字典〕𢢼、集韻、與レ慠同。

【𢡬】11342

カク 慤（4－10983）に同じ。〔集韻〕慤、或从レ志。

【𢡊】11343

ゼウ ネウ 〔五音集韻〕人嬌切 篠

とほい。〔五音集韻〕𢡊、遠也。

【憁】11344

ソク 惻（4－10869）に同じ。〔字彙補〕憁、與レ惻同。

【𢢍】11345

ヒ 轡（10－38587）に同じ。〔字彙補〕𢢍、漢夏承碑轡字、見二漢隷分釋一。

【𢥰】11346

シウ 讎（10－36124）の古字。〔集韻〕讎、古作レ𢥰。

【𢡖】11347

イ エ 〔搜眞玉鏡〕於希切 微

おもひいたむこゑ。〔搜眞玉鏡〕𢡖、念痛聲。

【𢢆】11348

シウ シユ 〔字彙補〕楚九切 有

にらむ。〔字彙補〕𢢆、惡視也。

【𦢊】11349

シウ 𢢆（4－11348）に同じ。〔字彙補〕𦢊、同レ𢢆。

【𤛓】11350

キユウ 義未詳。〔五音篇海〕𤛓、香仲切。

【懐】 11351 クワイ 懷（**4**－11456）の俗字。〔宋元以來俗字譜〕懷、太平樂府作㆑懐。

十四畫

【⿰忄㡭】 11352 タン 〔集韻〕土緩切 旱

悿⿰忄㡭は、おろか。〔集韻〕⿰忄㡭、悿⿰忄㡭、心惛。

【⿰忄歰】 11353 シフ 〔集韻〕色入切 緝

をしむ。〔集韻〕⿰忄歰、慳也。

【⿰忄蓋】 11354 アイ 〔集韻〕於蓋切 泰

つつしむ。〔集韻〕⿰忄蓋、謹也。

【⿰忄賓】 11355 ヒン 〔集韻〕卑民切 眞

㊀**うやまふ**。〔廣韻〕⿰忄賓、敬也。㊁**したがふ**。〔集韻〕⿰忄賓、心伏也。

【懕】 11356

㈠エン 〔集韻〕於鹽切 鹽 ㄧㄢ yên^1

㈡エン 〔集韻〕於豔切 豔

㈢エフ 〔集韻〕益涉切 葉

小篆

㈠㊀**やすらか**。〔說文〕懕、安也、从㆑心厭聲、詩曰、懕懕夜飮。或は⿱猒心（**4**－11267）・厭（**2**－3025）に作る。〔集韻〕懕、或作㆓⿱猒心・厭㆒。㊁**病むさま**。殗（**6**－16505）に通ず。懕懕（1）を見よ。㈡**たりる**。あきたりる。厭（**2**－3025）に同じ。〔集韻〕厭、足也、亦作㆑懕。㈢**ゆるす**。心に可とする。〔集韻〕懕、心可也。

【懕懕】1 エンエン ㊀安らかなさま。厭厭。〔爾雅、釋訓〕懕懕・媞媞、安也。〔注〕皆好人安詳之容。㊁病み疲れるさま。〔韓偓、春盡日詩〕把㆑酒送㆑春惆悵在、年年三月病懕懕。〔西廂記、崔鶯鶯夜聽㆑琴雜劇〕懕懕瘦損、且是傷㆑神。

【懕懕一息】2 yen^1 yen^1 i^4 hsi^2 人の死にかけてゐるさま。

【懕煎】3 エンセン 心が惱んでいらいらすること。〔燕子箋、寫箋〕春心委的懕煎。

【懨】 11357 エン 懕（**4**－11356）に同じ。〔正字通〕懕、懨、同。

【⿰金⿱舌心】 11358 クワツ クワチ 〔集韻〕古活切 曷

小篆

古文（說文）

古文（段注本）

㊀**さかしら**。もとる。我意をはる。もと懖（**4**－11428）に作る。〔正字通〕⿰金⿱舌心、本作㆑懖。〔說文〕懖、歫善自用之意也、从㆑心銛聲、商書曰、今汝懖懖。〔段注〕歫字、各本無、今依㆓尚書音義所㆒㆑引補。㊁古は⿱銛耳（**9**－29209）に作る。〔說文〕懖、⿱銛耳、古文从㆑耳。㊂或は⿰金聒（**9**－29201）に作り、通じて聒（**9**－29062）に作る。〔集韻〕⿰金⿱舌心、或从㆑耳、亦作㆓懖・⿰金聒㆒、通作㆑聒。

【⿲辛心辛】 11359 ヘン 〔集韻〕俾緬切 銑

小篆

㊀**うれへる**。〔說文〕⿲辛心辛、憂也、从㆑心辡聲。㊁**せまる**。さしせまる。きびしい。〔說文〕⿲辛心辛、一曰、急也。〔玉篇〕⿲辛心辛、迫也。㊂或は⿱辡心（**4**－11360）に作る。〔集韻〕⿲辛心辛、或作㆑⿱辡心。

【⿱辡心】 11360 ヘン ⿲辛心辛（**4**－11359）に同じ。〔集韻〕⿲辛心辛、或作㆑⿱辡心。

【⿰忄冤】 11361 コン ゴン 〔集韻〕胡昆切 元

もだえる。忶（**4**－10391）に同じ。〔集韻〕忶、心悶也、或从㆑冤。

【⿰忄赫】 11362 カ ケ 〔正字通〕呼嫁切 禡

たぶらかす。〔正字通〕⿰忄赫、誑也。

【懘】 11363

㈠セイ 〔集韻〕尺制切 霽

㈡テイ 〔集韻〕丑例切 霽

㈢シ 〔集韻〕充至切 寘

㈣シ 〔集韻〕敞尒切 紙

小篆

㈠**樂音が調和しない**。沾滯。滯（**7**－18075）に同じ。〔說文新附〕懘、沾懘也、从㆑心滯聲。〔集韻〕滯、音敗不㆑和也、或从㆑心。〔禮、樂記〕五者不㆑亂、則無㆓怗懘之音㆒矣。㈡㊀**樂音が調和しない**。㈠に同じ。〔集韻〕懘、沾懘、樂音不㆑和。㊁或は憏（**4**－11148）に作る。〔集韻〕懘、或作㆑憏。㈢㈣**樂音が調和しない**。㈠に同じ。〔集韻〕懘、音敝不㆑和。〔集韻〕懘、沾懘、音不㆑和。

【⿱與心】 11364

㈠ヨ 〔集韻〕演女切 語

㈡ヨ 〔集韻〕羊諸切 魚

小篆

㈠㈡㊀**やすらかにはしるさま**。〔說文〕⿱與心、趣步⿱與心⿱與心也、从㆑心與聲。〔段注〕趣、疾走也、趣步⿱與心⿱與心、謂㆓疾而舒㆒也。〔集韻〕⿱與心、⿱與心⿱與心、行步安舒也。㊁**うやまひつつしむ**。〔廣韻〕⿱與心、恭敬。㊂或は忬（**4**－10393）に作る。〔集韻〕⿱與心、或作㆑忬。㊃又、懙（**4**－11365）に作る。〔集韻〕⿱與心、亦書作㆑懙。〔漢書、敍傳下〕長倩懙懙、覿霍不㆑擧。〔注〕蘇林曰、懙懙、行步安舒也。

【懙】 11365 ヨ ⿱與心（**4**－11364）に同じ。〔集韻〕⿱與心、亦書作㆑懙。

【⿱𦥑県】 11366 ヨ ⿱與心（**4**－11364）に同じ。〔說文長箋〕⿱𦥑県、同㆑⿱與心。

【⿰忄蒦】 11367

㈠クワク ワク 〔集韻〕黃郭切 藥

㈡キヤク クワク 〔集韻〕怳縛切 藥

㈠㊀**心うごく。むなさわぎする**。〔廣韻〕⿰忄蒦、心動也。㊁**おどろく**。〔集韻〕⿰忄蒦、驚也。㊂**うれへる**。〔集韻〕⿰忄蒦、憂也。㈡**おどろく。あわてみる**。きよときよとする。戄（**4**－11515）に同じ。〔集韻〕戄、驚也、一曰、遽視、或作㆑⿰忄蒦。

【⿱甄心】 11368 レフ 〔集韻〕力協切 葉

⿱甄心⿰忄瓦は、かるがるしいさま。〔集韻〕⿱甄心、⿱甄心⿰忄瓦、輕薄皃。

【懚】 11369 イン ㊀⿰亻㥯（**1**－1222）に同じ。〔廣韻〕⿰亻㥯、懚、上同。㊁㥯（**4**－11002）

に同じ。〔集韻〕急、或作ㇾ⿰忄急。

【⿰忄臱】11370 ベン メン 〔集韻〕民堅切 先
わすれる。〔集韻〕⿰忄臱、忘也。

【懛】11371 タイ 〔集韻〕當來切 灰
懛鼔は、失意のさま。〔廣韻〕懛、懛鼔、失志皃。〔集韻〕懛、懛鼔、⿰忄敞悦也。

【懜】11372
㊀ボウ モウ 〔集韻〕母亙切 徑
㊁ボウ モウ 〔集韻〕彌登切 蒸
㊂ボウ ム 〔集韻〕謨蓬切 東
㊃ボウ ム 〔集韻〕母摠切 董 ㄇㄥˇ mêng^{3}

小篆

㊀❶**明かでない。**くらい。〔說文〕懜、不ㇾ明也、从ㇾ心夢聲。❷或は懵(**4**－**11451**)・⿰亻瞢(**1**－**1283**)に作る。〔集韻〕懜、或从ㇾ瞢、从ㇾ人。㊁**くらい。**儚(**1**－**1236**)に同じ。或は懵(**4**－**11451**)・⿰亻瞢(**1**－**1283**)・顭(**12**－**43720**)に作る。〔集韻〕儚、爾雅、懜懜、惽也、或作㆓懜・懵・⿰亻瞢・顭㆒。㊂❶**もだえる。**〔廣韻〕懜、心悶闇也。❷**おろかなさま。**懵(**4**－**11451**)に同じ。〔集韻〕懵、懵懵、無知皃、或从ㇾ夢。❸**くらい。又、はぢる。**儚(**1**－**1236**)に同じ。〔集韻〕儚、爾雅、儚儚、惽也、一曰、慙也、或作ㇾ懜。❹**わるい。**行が惡い。〔新書、道術〕行充㆓其宜㆒、謂㆓之義㆒、反ㇾ義爲ㇾ懜。㊃**くらい。又、心がみだれる。**懵(**4**－**11451**)に同じ。〔集韻〕懵、廣雅、闇也、一曰、心亂、或从ㇾ夢。

參考 熟語は懵(**4**－**11451**)を見よ。

【⿱疑心】11373 ㊀ガイ ㊁チ
㊀懝(**4**－**11374**)に同じ。〔字彙〕⿱疑心、同ㇾ懝。㊁癡(**7**－**22591**)に同じ。〔集韻〕癡、或作ㇾ⿱疑心。

【懝】11374
㊀ガイ 〔集韻〕牛代切 隊
㊁ギ 〔集韻〕偶起切 紙
㊂ギョク ゴク 〔集韻〕鄂力切 職

小篆

㊀❶**おろか。**〔說文〕懝、騃也、从㆓心疑㆒、疑亦聲。❷**おそれる。**〔說文〕懝、一曰、惶也。❸或は⿱疑心(**4**－**11373**)に作る。〔集韻〕懝、或書作ㇾ⿱疑心。㊁**はかる。**擬(**5**－**12870**)に同じ。〔集韻〕擬、說文、度也、或从ㇾ心。㊂**小兒の知。**嶷(**2**－**4469**)に同じ。〔集韻〕嶷、說文、小兒有ㇾ知也、或从ㇾ心。

名乘 ノリ。サト。

解字 會意形聲。心と疑とを合はせ、疑は又聲。疑はうたがひ惑ふ意。

【懞】11375
㊀ボウ ム 〔集韻〕謨蓬切 東 ㄇㄥˊ˙ˇ mêng$^{2\cdot3}$
㊁ボウ ム 〔集韻〕母摠切 董
㊂ボウ ム 〔集韻〕蒙弄切 送

㊀❶**あつい。**〔管子、五輔〕敦懞純固。〔注〕懞、厚也。❷**まことのあるさま。**つつしみぶかいさま。〔集韻〕懞、慤厚皃。㊁**くらい。又、心が亂れる。**懵(**4**－**11451**)に同じ。〔集韻〕懵、廣雅、闇也、一曰、心亂。或从ㇾ蒙。㊂**くらい。**〔集韻〕懞、心暗。

【懞漢】1 ボウカン 愚かな者。無智の者。〔封氏聞見記、狂譎〕王嚴光頗有㆓文才㆒、而性卓詭、既無ㇾ所ㇾ達、自稱㆓釣鰲客㆒、巡㆓歷郡縣㆒、求㆓麻鐵之資㆒、云ㇾ造㆓釣具㆒、有㆓不ㇾ應者㆒、輒錄㆓姓名㆒、藏㆓于書笈㆒。中㆒人問㆓將ㇾ此何用㆒、答曰、釣ㇾ鰲之時、取㆓此懞漢㆒、以充㆓鰲餌㆒。

【懞懂】2 ボウトウ 明かでないさま。〔畫鑒〕米元章父子、皆工㆓山水㆒、成㆓一家法㆒、翟耆年詩云、善畫㆓無根樹㆒、能描㆓懞懂山㆒。

【懟】11376
㊀ツイ ヅイ 〔集韻〕直類切 寘
㊁タイ ヅイ 〔集韻〕徒對切 隊 ㄉㄨㄟˋ tuei^{4}

小篆

㊀❶**うらむ。**うらみいかる。〔說文〕懟、怨也、从ㇾ心對聲。〔爾雅、釋言〕懟、怨也。〔廣雅、釋詁四〕懟、恨也。〔穀梁、莊、三十一〕力盡則懟。〔注〕懟、恚恨也。❷**やむ。**うれへる。〔淮南子、原道訓〕不ㇾ爲㆓愁悴怨懟㆒。〔注〕懟、病也。❸**もとる。**〔詩、大雅、蕩〕彊禦多懟。〔疏〕懟、謂㆓狼戾㆒。❹或は譵(**10**－**36044**)に作る。〔集韻〕懟、或从ㇾ言。㊁**うらむ。**憝(**4**－**11226**)に同じ。〔集韻〕憝、說文、怨也、或作ㇾ懟。

【懟怨】1 ツイエン うらむ。〔管子、宙合〕厚藉㆓斂于百姓㆒、則萬民懟怨。

【懟憾】2 ツイカン うらむ。〔列子、黃帝〕今女居㆓先生之門㆒、曾未ㇾ浹ㇾ時、而懟憾者再三。

【懟險】3 ツイケン もとつてよこしまなこと。〔蜀志、楊戲傳〕姦凶懟險、天征未ㇾ加。

【懠】11377
㊀セイ ザイ 〔集韻〕前西切 齊
㊁セイ ザイ 〔集韻〕才詣切 霽
㊂シ ジ 〔集韻〕才資切 支
㊃シ ジ 〔集韻〕疾智切 寘

㊀❶**いかる。**〔集韻〕懠、怒也。❷**うたがふ。**懠疑。或は懫(**4**－**11480**)に作る。〔集韻〕懠、懠疑、猶㆓猜疑㆒也、或从ㇾ賁。㊁❶**いかる。**〔爾雅、釋言〕懠、怒也。〔詩、大雅、板〕天之方懠。〔傳〕懠、怒也。❷**うれへる。**〔廣雅、釋詁四〕懠、愁也。〔集韻〕懠、一曰、愁也。❸**やむ。**いたむ。〔集韻〕懠、一曰、疾也。㊂㊃**いかる。**〔集韻〕懠、怒也。

【⿰忄⿱差心】11378 ダ
惰(**4**－**10855**)に同じ。〔正字通〕⿰忄⿱差心、同ㇾ惰。

【懡】11379 バ マ 〔集韻〕母果切 哿
❶懡㦬は、少ないさま。〔楊萬里、小溪至㆓新曲㆒詩〕人烟懡㦬不ㇾ成ㇾ村、溪水微茫劣半分。❷懡㦬は、はぢる。或は⿰酉麼(**12**－**42696**)・⿰酉摩(**12**－**42702**)・⿰酉麻(**12**－**42679**)に作る。〔集韻〕懡、懡㦬、慙也、或作㆓⿰酉麼・⿰酉摩・⿰酉麻㆒。〔類篇〕懡㦬、慚也。

【⿱維心】11380 ヰ 〔集韻〕以醉切 寘
わすれる。〔集韻〕⿱維心、忘也。

【⿰忄瑩】11381 エイ ヤウ 〔集韻〕縈定切 徑
忊⿰忄瑩は、うらむ。〔集韻〕⿰忄瑩、忊⿰忄瑩、恨也。

【⿰忄監】11382
㊀ラン 〔集韻〕盧甘切 覃
㊁ラン 〔集韻〕盧瞰切 勘
㊂カン ゲン 〔集韻〕戶韱切 鹻

㊀**むさぼる。**或は嚂(**2**－**4447**)に作る。〔集韻〕⿰忄監、貪⿰忄監、嗜也、或从ㇾ口。㊁**むさぼる。**㊀に同じ。〔集韻〕⿰忄監、貪也。㊂**すこやか。**

〔集韻〕〓、健也。

【〓】11383 バク 〓(4−11443)に同じ。〔集韻〕〓、或从㆑貌。

【懣】11384
［一］ボン モン 〔集韻〕莫困切 ［願］ ㄇㄣˋ men⁴
［二］ボン モン 〔集韻〕母本切 ［阮］
［三］バン マン 〔集韻〕母件切 ［旱］

小篆

［一］❶もだえる。〔說文〕懣、煩也、从㆓心滿㆒。〔漢書、司馬遷傳〕不㆑得㆘舒㆓憤懣㆒以曉㆗左右㆖。〔注〕師古曰、懣、煩悶也。❷いきどほる。〔楚辭、嚴忌、哀時命〕惟煩懣而盈㆑匈。〔注〕懣、憤也。❸或は滿(7−18099)に作る。〔集韻〕懣、或省。〔漢書、佞幸、石顯傳〕憂滿不㆑食。〔注〕師古曰、滿、讀曰㆑懣、音悶。［二］もだえる。或は〓(4−11139)・慲・鞔(12−42835)に作る。〔集韻〕懣、煩也、或省、亦作㆓慲・鞔㆒。［三］もだえる。或は〓(4−11139)に作る。〔集韻〕懣、煩也、或省。

解字 會意形聲。滿と心とを合はせ、滿は又聲。心にみち塞がるもだへの意。

【懣然】1（モンゼン） 悶えるさま。〔謝惠連、雪賦〕懣然心服。〔注〕善曰、說文曰、懣、煩也、蒼頡曰、悶也。〔文中子、天地〕其覩㆓七代損益㆒、終懣然也。

【懣憤】2（モンフン） 悶えいきどほる。〔風俗通、十反〕誠切怪㆑之、誠懣憤。

【懣懣】3（モンモン） 悶えわづらふさま。煩悶するさま。〔陸游、簡㆓蘇召叟㆒詩〕胸次懣懣思同澆。

【〓】11385 デイ ナイ 〔集韻〕乃禮切 ［薺］ 心よわい。〔集韻〕〓、心弱也。

【懤】11386
［一］チウ ヂユ 〔集韻〕陳留切 ［尤］
［二］チウ ヂユ 〔集韻〕丈九切 ［有］
［三］チウ ヂユ 〔集韻〕直祐切 ［宥］
［四］タウ トウ 〔集韻〕覩老切 ［皓］

［一］❶ほがらか。又、うれへる。怞(4−10463)に同じ。〔集韻〕怞、朗也、憂也、或从㆑壽。❷うれへいたむさま。〔廣韻〕懤、愁毒皃。〔楚辭、王襃、九懷、危俊〕泱莽莽兮究㆑志、懼㆓吾心㆒兮懤懤。〔注〕惟我憂思、意愁毒也。〔補注〕懤、憂也。［二］［三］［四］うれへる。うれへいたむ。〔集韻〕懤、憂也。〔集韻〕懤、愁毒也。

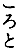
【〓】11387 チウ 懤(4−11386)に同じ。〔正字通〕〓、同㆑懤。

【〓】11389 バイ マイ 〔集韻〕謨皆切 ［佳］ さとい。〔方言、一〕虔・儇、慧也、晉謂㆓之〓㆒。〔錢繹箋疏〕盧氏云、今俗以㆓小兒慧者㆒曰㆑乖、當㆓是〓之轉音㆒。〔廣雅、釋詁一〕〓、慧也。〔集韻〕〓、慧也。

【懦】11390
［一］ジユ ニユ 〔集韻〕汝朱切 ［虞］
［二］ゼン ネン 〔集韻〕乳兗切 ［銑］
［三］ダン ナン 〔集韻〕奴亂切 ［翰］
［四］ダ ナ 〔集韻〕奴臥切 ［箇］ ㄋㄨㄛˋ nuo⁴

小篆（說文）

［一］［二］［三］［四］❶よわい。やはらか。おとる。〔說文繫傳〕懦、駑弱者也、从㆑心需聲。〔禮記、玉藻〕諸侯荼前詘後直、注、舒懦、疏〕說文、懦、柔也。〔左氏、僖、二〕懦而不㆑能㆓強諫㆒。〔注〕懦、弱也。〔孟子、盡心下〕懦夫有㆑立㆑志。〔注〕懦、弱也。❷ゆるい。又、ゆるくする。〔禮、玉藻、諸侯荼前詘後直、注〕舒懦者、所㆑畏在㆑前也。〔疏〕按、說文、懦、柔也、所㆑畏在㆑前、多舒緩、故云、舒懦者、所㆑畏在㆑前也。❸くだる。さがる。〔陸機、猛虎行〕急絃無㆓懦響㆒。〔注〕善曰、賈逵國語注曰、懦、下也。❹愞(4−10951)・偄(1−831)に同じ。〔正字通〕懦、愞・偄並同。

參考 段玉裁は說文の懦、从㆑心需聲を以て淺人の誤り改めるところとし、小篆をに正し、愞、从㆑心耎聲とする。愞(4−10951)を見よ。〔說文、愞、駑弱也从㆑心耎聲、段注〕此篆、各本作㆓懦、从㆑心需聲、人朱切㆒、乃淺人所㆑改、今正、云云。

【懦闇】1（ダアン） よわくておろかなこと。〔韓非子、難四〕臣之忠詐、在㆓君所㆑行也、君明而嚴、則羣臣忠、君懦而闇、則羣臣詐。

【懦響】2（ダキヤウ） 低い響。弱い響。〔陸機、猛虎行〕急絃無㆓懦響㆒。〔注〕善曰、賈逵國語注曰、懦、下也、翰曰、絃急則調高、故無㆓懦弱之響㆒。

【懦衿】3（ダキン） 無氣力な書生。〔福惠全書、涖任部、謁廟行香〕如㆑此、懦衿之屈忿當㆑伸。

【懦襟】4（ダキン） いくぢがない心。〔朱熹、挽㆓陳檢正庸㆒詩〕厚德高㆓賢躅㆒、清名起㆓懦襟㆒。

【懦愚】5（ダグ） よわくて愚かなこと。〔戰國、齊策〕文倦㆓於事㆒、憒㆓於憂㆒、而性懦愚。

【懦頑】6（ダグワン） 懦夫と頑夫。氣節の無いものとおろかで貪欲なもの。懦夫(18)を見よ。〔本城問亭、佐久間大尉事略〕風㆓厲懦頑㆒。

【懦怯】7（ダケフ） 卑怯。臆病。畏懦。怯懦。〔宋史、辛炳傳〕以㆓炳懦怯㆒、不㆑能㆑罷㆑之。

【懦語】8（ダゴ） 臆病な言葉。〔宋史、吳璘傳〕懦語沮㆑軍。

【懦者】9（ダシヤ） 卑怯者。臆病者。〔韓愈、原毀〕強者必怒㆓於言㆒、懦者必怒㆓於色㆒矣。

【懦弱】10（ダジヤク） よわい。無氣力。〔左氏、昭、二十〕水懦弱、民狎而翫㆑之、則多死焉。〔管子、參患〕懦弱則殺。〔後漢書、劉玄傳〕臣素懦弱、羞愧流汗。〔蜀志、先主劉備傳〕懦弱不㆑武。

【懦主】11（ダシユ） よわい君主。臆病な君主。懦弱な君。

【懦臣】12（ダシン） よわい臣。臆病な臣。怯懦の臣。〔漢書、息夫躬傳〕小夫懦臣之徒、憒眊不㆑知㆑所㆑爲。

【懦退】13（ダタイ） よわくてしりごみする。臆病。〔資治通鑑、魏紀〕存㆑義之國、喪㆓於懦退㆒。

【懦鈍】14（ダドン） よわくてにぶい。薄弱で遲鈍な。〔梁書、庾肩吾傳〕比見㆓京師文體㆒、懦鈍殊㆑常。

【懦軟】15（ダナン） よわい。懦弱。軟弱。〔歐陽脩、與㆓高司諫㆒書〕剛果・懦軟、稟㆓之於天㆒。

【懦薄】16（ダハク） 志がよわく德がうすい。〔權德輿、謝㆑除㆓太常卿㆒表〕書生凡輩、懦薄無㆑堪。

【懦品】17（ダヒン） 用をなさぬ品類。役に立たぬともがら。〔沈約、奏㆓彈王源㆒文〕臣實懦品、謬掌㆓天憲㆒。

【懦夫】18（ダフ） 氣のよわい男。又、氣節のない男子。〔孟子、萬章下〕聞㆓伯夷之風㆒者、頑夫廉、懦夫有㆑立㆑志。〔列子、仲尼〕觀㆑形懦夫也。〔孔叢子、儒服〕婦人懦夫、以㆑泣著㆑愛。〔袁宏、三國名臣序贊〕懦夫增㆑氣。

【懦劣】19（ダレツ） よわくおとる。又、いくぢが無い。懦鈍。〔易、萃、一握爲㆑笑、注〕爲㆑笑者、懦劣之貌也。〔唐書、劉蕡傳〕臣才志懦劣。

【〓】11391 ドウ 慟(4−11103)に同じ。〔正字通〕〓、與㆑慟通。

【慩】11392 レン 憐(4−11125)の本字。〔說文長箋〕慩、憐本字。

【〓】11393 タ ダ 〔篇海〕徒臥切 ［箇］ おこたる。〔篇海〕〓、懶也。

【⿱孰心】11394 ホク 〔篇韻〕卜則切 職

倉を設ける。〔篇韻〕⿱孰心、設㆑倉也。

【⿰忄寧】11395 ジユ 懦(**4－11390**)に同じ。〔字彙補〕⿰忄寧、與㆑懦同。

【⿱⿰月留心】11396 リウ ル 〔字彙補〕良秀切 宥

さらふ。復習する。〔字彙補〕⿱⿰月留心、凡書生而重玩溫習也。

【⿱⿰來來心】11397 ボク ⿱來大(**1－1134**)に同じ。〔字彙補〕⿱⿰來來心、漢碑⿱來大字。

【⿲男心男】11398 デウ 嬲(**3－6831**)の譌字。〔康熙字典〕⿲男心男、按、卽嬲字之譌。

【⿰忄戠】11398′ セン 義未詳。〔篇海〕⿰忄戠、音戰、義闕。

【⿱戔心】11399 スイ 義未詳。〔五音篇海〕⿱戔心、音蕤。

【⿱徴心】11399′ チヨウ 懲(**4－11424**)の略字。

十五畫

【懩】11400 ヤウ 〔集韻〕以兩切 養

㊀**ねがふ。**のぞむ。〔集韻〕懩、心所㆑欲也。㊁**かゆい。**癢(**7－22602**)に通ず。〔正字通〕懩、與㆑癢通、潘岳射雉賦、徒心煩而技懩。

【⿰忄遲】11400′

[一]チ 〔集韻〕陟利切 寘 ㄓˋ chih^{4}

[二]チ 〔集韻〕丑吏切 寘

[三]シ 〔集韻〕脂利切 寘

[四]エイ 〔集韻〕以制切 霽

[一][二][三][四]㊀**うらむ。**〔集韻〕⿰忄遲、恨也。㊁**いかる。いかるさま。**〔廣韻〕⿰忄遲、怒也。〔集韻〕⿰忄遲、怒皃。

【懪】11401 ハク バク 〔集韻〕弼角切 覺

もだえる。⿰忄雹(**4－11483**)に同じ。〔集韻〕⿰忄雹、爾雅、⿰忄雹⿰忄雹、悶也、或从㆑暴。

【⿰忄閭】11402 リヨ 〔集韻〕淩如切 魚

うれへる。〔集韻〕⿰忄閭、憂也。

【⿰忄察】11403

[一]サツ セチ 〔集韻〕初戛切 黠

[二]テイ

[一]**みきはめる。**〔集韻〕⿰忄察、審也。〔類篇〕⿰忄察、察也。[二]憏(**4－11205**)に同じ。〔正字通〕⿰忄察、憏字之譌。

【⿸厂⿱肰心】11404 エン 懕(**4－11356**)の譌字。〔正字通〕⿸厂⿱肰心、懕字之譌。

【⿰忄摩】11405 マ 摩(**5－12613**)に同じ。〔字彙〕⿰忄摩、同㆑摩。

【懫】11406

[一]シ 〔集韻〕脂利切 寘

[二]チ 〔集韻〕丑二切 寘

[三]シツ シチ 〔集韻〕職日切 質

[一]**いかる。**いかりもとる。⿱執至(**9－30167**)に同じ。〔集韻〕⿱執至、忿戾也、亦作㆑懫。〔書、多方〕惟有夏之民叨懫。〔傳〕貪叨忿懫而逆㆑命。[二]㊀**いかる。**[一]に同じ。〔集韻〕懫、忿也。〔集韻〕⿱執至、說文、忿戾也、或作㆑懫。㊁懥(**4－11388**)に同じ。〔正字通〕懫、與㆑懥同。㊂**とまる。**[三]に同じ。〔集韻〕懫、止也。[三]**とまる。**とめる。〔廣雅、釋詁三〕懫、止也。

【⿰忄慮】11407 チヨ 〔集韻〕楮御切 御

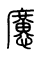
うれへる。悇(**4－10633**)に同じ。〔集韻〕悇、憂也、或从㆑慮。

【懬】11408

[一]クワウ 〔集韻〕苦謗切 漾

[二]クワウ 〔集韻〕苦晃切 養

[三]カウ 〔集韻〕口朗切 養


小篆

[一][二][三]㊀**ひろい。おほきい。**ゆたか。ゆるやか。〔說文〕懬、闊也、廣大也、从㆓心廣㆒、廣亦聲、一曰、寬也、詩曰、懬彼淮夷。㊁**むなしい。**曠(**5－14245**)に通ず。〔說文、段注〕假㆑懬爲㆓曠字㆒。〔漢書、元帝紀〕眾僚久懬、未㆑得㆓其人㆒、元元失㆑望。〔注〕應劭曰、懬、音曠、師古曰、懬、古曠字、曠、空也、不㆑得㆓其人㆒、則職事空廢。㊂**つよい。**獷(**7－20774**)に通ず。〔說文通訓定聲〕懬、叚借爲㆑獷、詩泮水釋文、引㆓說文㆒作㆓懬彼淮夷㆒。㊃憬(**4－11256**)に通ず。〔詩、魯頌、泮水〕憬彼淮夷、釋文〕憬、說文作㆑懬。㊄廣(**4－9493**)に通ず。〔正字通〕懬、與㆑廣通。

[解字] 會意形聲。廣と心とを合はせ、廣は又聲。

【懭】11409

[一]クワウ 〔集韻〕苦謗切 漾

[二]クワウ 〔集韻〕苦晃切 養

[三]クワウ 〔集韻〕古猛切 梗

[一]**うらむ。**〔集韻〕懭、恨也。[二]㊀**志を得ないさま。**懭悢。〔集韻〕懭、懭悢、意不㆑得也。〔楚辭、宋玉、九辯〕愴怳懭悢兮、去㆑故而就㆑新。〔補注〕懭悢、不㆑得㆑志也。㊁懬(**4－11408**)に同じ。〔正字通〕懭、同㆑懬。[三]**いさましい。あらい。**〔集韻〕懭、悍也。

【⿱興心】11410 クワウ 愰(**4－10914**)に同じ。〔集韻〕愰、或作㆑⿱興心。

【⿱喿心】11411 サウ ソウ 〔集韻〕先到切 號

㊀**おろそか。**〔集韻〕⿱喿心、性疏也。㊁懆(**4－11325**)の譌字。〔正字通〕⿱喿心、懆字之譌。

【⿰忄樂】11412 ラク 樂(**6－15399**)の俗字。〔正字通〕⿰忄樂、俗樂字。

【懮】11413

[一]イウ ウ 〔集韻〕於九切 有 ㄧㄡˇ yu^{3}

[二]イウ ウ 〔集韻〕於求切 尤

[一]㊀**ゆるやかなさま。**〔集韻〕懮、舒遲皃。〔詩、陳風、月出〕舒懮受兮。〔釋文〕懮、舒皃。㊁**うれへる。**〔正字通〕懮、憂思也、詩、

陳風、舒優受兮。❸いたむさま。〔正字通〕優、痛貌、楚辭九章、傷二余心一之優優。㊁うれへる。惪(4−10934)に同じ。〔集韻〕惪、說文、愁也、或作ㇾ優、通作ㇾ憂。〔楚辭、九章、抽思〕傷二余心一之優優。〔集注〕優、音憂、優、愁也。

【優優】¹ イウイウ　いたむさま。うれへるさま。〔楚辭、九章、抽思〕數二惟蓀之多ㇾ怒兮、傷二余心一之優優。〔注〕優、痛貌也。〔補注〕優、音憂、說文云、愁也。

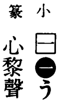
【優受】² イウジユ　態度のゆるやかなさま。又、憂思のさま。〔詩、陳風、月出〕佼人懰兮、舒優受兮。〔釋文〕優、於久反、舒貌。〔集傳〕優受、憂思也。

【優怛】³ イウタツ　うれへいたむ。悲しみいたむ。〔大戴禮、王言〕優怛以補ㇾ不足、禮節以損ㇾ有ㇾ餘。〔注〕案、優、各本訛作ㇾ慢、考二楚詞九章一曰、傷二余心一之優優、則優字之義可ㇾ見、說文、優、愁也、本作ㇾ惪、或作ㇾ優、通作ㇾ憂、又怛、憯也、廣韻云、怛、悲慘也。

【黎】11414

㊀リ　〔集韻〕良脂切　支

㊁レイ ライ　〔集韻〕憐題切　齊



小篆

㊀❶うらむ。〔說文〕黎、恨也、从ㇾ心黎聲。❷おこたる。〔說文〕黎、一曰、怠也。❸よろこぶ。〔集韻〕黎、一曰、悅也。❹或は㦒(4−10791)に作る。〔集韻〕黎、或省。㊁うらむ。㊀の❶に同じ。〔集韻〕黎、恨也。

【慝】11415

トク

慝(4−11100)に同じ。〔字彙〕慝、同ㇾ慝。

【憁】11416

ソウ

憁(4−11309)に同じ。〔字彙〕憁、同ㇾ憁。

【懯】11417

フ　〔集韻〕芳無切　虞

❶懯懯は、すみやかなさま。〔集韻〕懯、懯懯、急速皃。❷おもふ。怤(4−10474)に同じ。〔正字通〕懯、同ㇾ怤。

【懘】11418

セイ

懘(4−11363)に同じ。〔集韻〕懘、或作ㇾ懘。

【㦡】11419

㊀ラツ ラチ　〔集韻〕郎達切　曷

㊁レイ　〔集韻〕力制切　霽

㊀わるい。〔集韻〕㦡、惡也。㊁おどろく。悷(4−10545)に同じ。〔集韻〕悷、驚也、或从ㇾ厲。

【㤝】11420

デイ ナイ　〔廣韻〕奴計切　霽

❶ののしる。そしる。〔廣韻〕㤝、又相㤝摩也。❷㤝怹は、音聲がみだれる。〔廣韻〕㤝、㤝怹、音慢。

【懰】11421

㊀リウ ル　〔集韻〕力求切　ㄌㄧㄡˊ　liu²　尤

㊁リウ ル　〔集韻〕力九切　有

㊀❶うれへるさま。又、うらむ。懰慄(1)を見よ。❷はげしい。〔潘岳、笙賦〕懰慠糴以奔邀。〔注〕銑曰、懰、烈也。❸風の疾いさま。〔楚辭、劉向、九歎、逢紛〕秋風懰以蕭蕭。❹或は㦺(4−11009)に作る。〔集韻〕懰、或从ㇾ留。㊁みめよい。或は嬼(3−6180)・劉(2−2224)に作り、通じて嬼(3−6862)に作る。〔集韻〕懰、好也、或作二嬼・劉一、通作ㇾ嬼。〔詩、陳風、月出〕佼人劉兮、〔釋文〕劉、本又作ㇾ懰、好貌、埤蒼作ㇾ嬼、嬼、妖也。

【懰慄】¹ リウリツ　うれへるさま。又、うらむ。いたむ。〔集韻〕懰、懰慄、憂皃、一曰、怨也。〔楚辭、王褒、九懷、昭世〕志懷ㇾ逝兮心懰慄、紆二余轡一兮躊躇。〔補注〕懰慄、憂貌。〔漢書、外戚上、孝武李夫人傳〕懰慄不ㇾ言、倚ㇾ所ㇾ恃兮。〔注〕師古曰、懰慄、哀愴之意也。

【懱】11422

ベツ メチ　〔集韻〕莫結切　屑

小篆

❶あなどる。さげすむ。〔說文〕懱、輕易也、从ㇾ心蔑聲、商書曰、以相陵懱。〔玉篇〕懱、輕也、易也、侮也。❷ゝする。〔集韻〕懱、一曰、末也。❸ほろびる。〔一切經音義、十三〕埤蒼曰、懱抹、滅也。❹みそさざい。懱爵(1)を見よ。

【懱爵】¹ ベツジヤク　鳥の名。みそさざい。鷦鷯(12−47312‥11)の❶の異名。〔方言、八〕桑飛、自ㇾ關而東謂二之工爵一、或謂二之過贏一、或謂二之女鴎一、自ㇾ關而東謂二之鸋鴂一、自ㇾ關而西謂二之桑飛一、或謂二之懱爵一。

【懤】11423

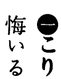
チウ ヂユ　〔集韻〕陳留切　尤

小篆

❶ためらふ。懤箸。或は懤(4−11513)に作る。〔說文〕懤、懤箸也、从ㇾ心簹聲。〔集韻〕懤、或作ㇾ懤。❷通じて籌(8−26675)に作る。〔集韻〕懤、通作ㇾ籌。❸人名。〔字彙補〕懤、人名、趙與懤、字德淵、居二湖州一、嘉定十三年進士、宋宗室也。

【懲】11424

チヨウ ヂヨウ　〔集韻〕持陵切　ㄔㄥˊ　ch'êng²　蒸



小篆

❶こりる。あらためる。前過を悔いる。〔說文〕懲、㤿也、从ㇾ心徵聲。〔詩、周頌、小毖〕予其懲而毖二後患一。〔箋〕懲、艾也。〔禮、表記〕以ㇾ怨報ㇾ怨、則民有ㇾ所ㇾ懲。〔注〕懲、猶二創艾一。〔楚辭、九歌、國殤〕首身離兮心不ㇾ懲。〔注〕懲、㤿也。❷こらす。こらしめる。〔詩、魯頌、閟宮〕荊舒是懲。〔箋〕懲、艾也。〔漢書、翟義傳〕以懲二淫慝一。〔注〕師古曰、懲、創艾也。❸こらしめ。〔舊唐書、于頔傳〕不ㇾ忍ㇾ加ㇾ懲。❹とめる。やめる。〔詩、小雅、沔水〕寧莫二之懲一。〔傳〕懲、止也。〔楚辭、九章、懷沙〕懲ㇾ違改ㇾ忿兮。〔注〕懲、止也。❺いましめる。〔正字通〕懲、戒也、易、損、象、君子以懲ㇾ忿。❻おそれる。〔廣雅、釋言〕懲、恐也。❼くるしむ。〔詩、周頌、小毖〕予其懲而毖二後患一。〔釋文〕懲、苦也。❽さだめる。〔陸倕、新漏刻銘〕變ㇾ律改ㇾ經、一皆懲革。〔注〕銑曰、懲、定。❾あがる。あげる。騰(12−44915)に通ず。〔說文通訓定聲〕懲、叚借爲ㇾ騰。〔張衡、思玄賦〕懲二渙涊一而爲ㇾ清。〔注〕衡曰、懲、騰。❿通じて徵(4−10239)に作る。〔集韻〕懲、通作ㇾ徵。〔詩、魯頌、閟宮〕荊除是徵。〔史記、建元以來侯者年表〕荊荼是徵。

【懲惡】¹ チヨウアク　惡い心や行をこらしめる。〔左氏、成、十四〕春秋之稱、微而顯、志而晦、婉而成ㇾ章、盡而不ㇾ汙、懲ㇾ惡而勸ㇾ善。〔漢書、張敞傳〕勸ㇾ善懲ㇾ惡。〔魏志、劉馥傳〕懲ㇾ惡擧ㇾ善。

【懲役】² チヨウエキ　舊刑法の重罪犯の主刑で、こらしめのために罪人を內地の監に入れて定役に服させるもの。輕重二種がある。

【懲役場】³ チヨウエキバ　囚徒を拘禁して、定役に服

させる場所。

【懲役人】4（チョウエキニン）　懲役の刑を受け定役に服する囚徒。

【懲戒】5（チョウカイ）　❶こりて自らいましめる。懲警。〔漢書、諸侯王表序〕漢興之初、云云、懲ニ戒亡秦孤立之敗一。〔呉志、孫奮傳〕下則骨肉相殘、其後懲戒以爲ニ大諱一。❷こらし戒める。不正・不當の行爲に對して制裁を加へること。

【懲戒令】7（チョウカイレイ）　官吏の服務規律に違背した罪を罰する法令。

【懲戒裁判】8（チョウカイサイバン）　懲戒處分を行ふに先だつて、罪の眞否を審判するための裁判。

【懲戒處分】9（チョウカイショブン）　懲戒のために國家が加へる處分。

【懲戒免職】10（チョウカイメンショク）　懲戒の目的を以て職を免ずること。

【懲改】11（チョウカイ）　こり改める。〔後漢書、桓帝紀〕頃雖ニ頗繩正一、猶未ニ懲改一。

【懲乂】12（チョウガイ）　懲艾(15)に同じ。〔後漢書、竇融傳〕其後匈奴懲乂。〔注〕懲、創也、說文云、乂、亦懲也。

【懲刈】13（チョウガイ）　こらしかりとる。〔書、舜典、五流有ㇾ宅、尚書今古文注疏〕鄭康成曰、宅、讀曰ㇾ咤、懲刈之器、謂ニ五刑之流一。

【懲⿱乂心】14（チョウガイ）　こりる。懲乂。懲艾。〔楚辭、九歌、國殤〕首身離兮心不ㇾ懲、〔注〕懲、⿱乂心也、言下己雖ニ死頭足分離一、而心終不中懲⿱乂心上也。〔晉書、地理志上〕始皇初幷ニ天下一、懲ニ⿱乂心戰國一、削ニ罷列侯一。

【懲艾】15（チョウガイ）　こりる。又、こらす。懲⿱乂心(14)に同じ。〔史記、樂書贊〕推ㇾ己懲艾。〔漢書、金安上傳〕太皇太后、懲艾悼懼。〔注〕師古曰、艾、讀曰ㇾ乂、乂、創也。〔漢書、丙吉傳〕姦吏成ニ其私一、然無ㇾ所ニ懲艾一。〔注〕師古曰、艾、讀曰ㇾ乂。〔楚辭、劉向、九歎、遠遊〕悲ニ余性之不ㇾ可ㇾ改兮、屢懲艾而不ㇾ遂。〔補注〕艾・⿱乂心、竝音乂。〔魏志、公孫瓚傳〕遂得ㇾ免ニ鮮卑一、懲艾、後不ニ敢復入一ㇾ塞。

【懲革】16（チョウカク）　❶こりあらためる。又、こらしあらためさせる。〔後漢書、周紆傳〕履ㇾ霜有ㇾ漸、可ㇾ不ニ懲革一。❷定め改める。〔陸倕、新漏刻銘〕變ㇾ律改ㇾ經、一皆懲革。〔注〕銑曰、懲、定、革、改也。

【懲禦】17（チョウギョ）　こらしふせぐ。〔唐書、杜佑傳〕來則懲禦、去則謹備。

【懲懼】18（チョウク）　おそれる。〔班固、西都賦〕既懲ニ懼於登望一。〔注〕善曰、廣雅曰、懲、恐也。

【懲過】19（チョウクワ）　あやまちをせめこらす。〔管子、內業〕刑不ㇾ足ニ以懲ㇾ過。〔新論、兵術〕賞以勸ㇾ功、罰以懲ㇾ過。

【懲勸】20（チョウクワン）　❶惡をこらし善をすすめる。勸善懲惡。〔左氏、成、十四〕懲ㇾ惡而勸ㇾ善。〔後漢書、仲長統傳〕信ニ賞罰一以驗ニ懲勸一、糾ニ游戲一以杜ニ姦邪一。❷賞罰。〔晉書、應詹傳〕懲勸必行、故歷世長久。

【懲警】21（チョウケイ）　こりて自らいましめる。懲戒。〔晉書、王恭傳〕懲ニ警前事一、勢轉難ㇾ測。

【懲寇】22（チョウコウ）　うちこらされたあだ。〔陳琳、神武賦〕惡ニ先縠之懲寇一、善ニ魏絳之龢戎一。

【懲罪】23（チョウザイ）　つみをこらす。〔說苑、復恩〕臣殺ㇾ君、子孫在ㇾ朝、何以懲ㇾ罪、請誅ㇾ之。

【懲創】24（チョウサウ）　こらす。創もこらす意。又、こりる。こりて自らいましめる。〔書、呂刑、罰懲非ㇾ死人極ニ于病一、疏〕所ニ以懲ニ創罪過一。〔韓愈、岳陽樓別ニ竇司直一詩〕生還眞可ㇾ喜、尅ㇾ己自懲創。〔金史、雷淵傳〕爲ㇾ人軀幹雄偉、云云、遇ニ不平一、則疾惡之氣、見ニ于顏間一、或嚼ㇾ齒大罵不ㇾ休、雖ニ痛自懲創一、然亦不ㇾ能ㇾ變也。

【懲止】25（チョウシ）　とどめる。〔易、損、君子以懲ㇾ忿窒ㇾ欲、疏〕懲ニ止忿怒一。

【懲肆】26（チョウシ）　わがままをこらす。〔左氏、昭、三十一〕此二物者、所ニ以懲ㇾ肆而去ㇾ貪也。〔注〕肆、放也。

【懲釋】27（チョウシヤク）　こらしめてゆるす。〔福惠全書、刑名部、反叛、拏審〕其渠撲ニ殺之一、餘懲ニ釋之一。

【懲處】28（チョウショ）　處罰する。懲辦。〔福惠全書、筮仕部、訪風俗〕須下待ニ其更犯一、小則懲處、大則申詳上。

【懲治】29（チョウヂ）　こらしてみちびく。

【懲治監】30（チョウヂカン）　刑事上責任の無い幼者・瘖啞者などで犯罪行爲をなした者を懲し導く目的を以て設けた監獄。

【懲治場】31（チョウヂバ）　懲治監に同じ。

【懲窒】32（チョウチツ）　とどめふさぐ。〔易、損〕懲ㇾ忿窒ㇾ欲。〔疏〕忿欲皆有ニ往來一、懲・窒互文而相足也。

【懲罰】33（チョウバツ）　こらし罰する。不正・不當の行爲に對し、制裁を加へること。又、其の制裁。〔北史、稽胡傳〕有ニ犯ㇾ姦者一、隨ㇾ事懲罰。〔北史、西域、于闐傳〕餘罪各隨ニ輕重一、懲ニ罰之一。

【懲罰委員】34（チョウバツヰヰン）　議員の懲罰につき調査するために設けた議院內の委員。

【懲毖】35（チョウヒ）　こりつつしむ。〔詩、周頌、小毖〕予其懲而毖ニ後患一、莫ニ予荓蜂一、自求ニ辛螫一。〔傳〕毖、愼也。〔箋〕懲、艾也。

【懲毖錄】36（チョウヒロク）　書名。十七卷。我が豐臣秀吉の征韓の時に、朝鮮の左相柳成龍が目擊した所を記したもの。當時の公文書をも收集してゐる。元祿八年、飜刻して四卷とした。

【懲忿】37（チョウフン）　いかりをとどめる。〔易、損〕君子以懲ㇾ忿窒ㇾ欲。〔疏〕懲ニ止忿怒一。〔白虎通、禮樂〕瑟者、嗇也、閑也、所ニ以懲ㇾ忿。

【懲貶】38（チョウヘン）　こらして官職をおとす。〔唐書、盧懷愼傳〕任以ニ江淮嶺磧一、粗示ニ懲貶一。

【懲辦】39　ch'êng^2 pan^4　處罰する。處分する。懲處。

【⿺辶悳】11425　トク　悳(**4－10724**)に同じ。〔字彙補〕⿺辶悳、與ㇾ悳同。

【⿰忄具】11426　キョク　コク　〔廣韻〕許極切　職　**いかるさま**。〔廣韻〕⿰忄具、瞋怒皃。

参考　字形、又、懊・懶に作る。

【⿰忄節】11427　セツ　セチ　〔集韻〕子結切　屑　❶**心のただしいこと**。〔集韻〕⿰忄節、心有ㇾ度也。❷**もえさし**。〔五音集韻〕⿰忄節、一曰、燭餘也。

【⿰金⿱舌心】11428　クワツ　銛(**4－11358**)の本字。〔集韻〕銛、或作ㇾ⿰金⿱舌心。

【⿱猒心】11429　エン　〔篇海〕伊閻切　鹽　❶**犬が肉をよろこんで食ふ**。〔篇海〕⿱猒心、犬甘ㇾ肉也。❷**あきたらないさま**。〔篇海〕⿱猒心、心無ㇾ足貌。

【⿱撮心】11430　サツ　サチ　〔篇海〕倉括切　曷　**とる**。〔篇海〕⿱撮心、取也。

【⿱覀悳】11431　イ　噫(**2－4381**)の古字。〔集韻〕噫、古作ㇾ⿱覀悳。

【⿱劉心】11432　リウ　ル　〔集韻〕力求切　尤　**こころを定める**。〔集韻〕⿱劉心、定ㇾ意。

【⿱𡨄心】11433　ソク　寋(**4－11037**)の古字。〔集韻〕寋、古作ㇾ⿱𡨄心。

【⿱⿰𠂤𠂤心】11434　クワン　患(**4－10691**)の古字。〔說文〕患、⿱⿰𠂤𠂤心、亦古文患。

【⿰忄害】11435　ゴ　悟(**4－10680**)に同じ。〔字彙補〕⿰忄害、釋典悟字。

【⿰忄⿱童心】11436　タウ　ダウ　〔字彙補〕直絳切　絳　**わるくかたくなさま**。〔字彙補〕⿰忄⿱童心、凶頑貌。

【⿵門⿱自心】11437　バウ　ミヤウ　〔川篇〕莫耕切　庚

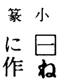
大きい。〔川篇〕懯、大也。

【懯】11439 ケイ 懯(4−11331)に同じ。〔字彙補〕懯、與レ懯同。

十六畫

【憻】11440 トン 惇(4−10759)の本字。〔正字通〕憻、惇本字。

【懳】11441 一 ヱイ ヱ 〔集韻〕于歲切 霽 二 ワイ ヱ 〔集韻〕于外切 泰 三 ヱツ ヱチ 〔集韻〕乙劣切 屑 四 ゲイ 〔廣韻〕魚祭切 霽

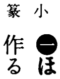

小篆

一 **ねごと。** 或は讆(10−36126)に作る。〔說文〕懳、㝱言不レ慧也、从レ心衞聲。〔集韻〕懳、或从レ言。二三 **ねごと。** 〔集韻〕懳、夢言、意不レ慧也。四 **ねごと。** 寱(8−25687)に同じ。〔廣韻〕寱、睡語、懳、上同。

【懂】11442 トウ 〔集韻〕都動切 董

❶**心がみだれる。** 〔集韻〕懂、懵懂、心亂。❷懂(4−11320)に同じ。〔正字通〕懂、與レ懂同。

【⿱貌心】11443 バク マク 〔集韻〕墨角切 覺


小篆

❶**ほめる。** 或は⿱貌心(4−11383)に作る。〔說文〕⿱貌心、美也、从レ心須聲。〔集韻〕⿱貌心、或从レ貌。❷**しのぐ。** 〔後漢書、馮衍傳〕沮二先聖之成論一兮、⿱貌心二名賢之高風一。〔注〕⿱貌心、陵也。

【⿰忄瑩】11444 エイ ⿰忄塋(4−11381)に同じ。〔正字通〕⿰忄瑩、同レ⿰忄塋。

【⿰忄歷】11445 レキ リヤク 〔集韻〕狼狄切 錫

思ひはかる。 くはだてる。〔集韻〕⿰忄歷、心所レ營也。

【⿱歖心】11446 イ 懿(4−11501)に同じ。〔正字通〕⿱歖心、通作レ懿。

【⿰忄遂】11447 スイ ⿰忄遂(4−11323)に同じ。〔正字通〕⿰忄遂、同レ⿰忄遂。

【⿰忄舉】11448 キヨ コ 〔字彙〕居許切 語

つつしむ。 〔字彙〕⿰忄舉、謹也。

【⿰忄奮】11449 フン 憤(4−11239)に同じ。〔集韻〕憤、或从レ奮。

【懔】11450 リン 懍(4−11335)の俗字。〔正字通〕懔、俗懍字。

【懵】11451 一 ボウ ム 〔集韻〕母揔切 董 ㄇㄥˇ mêng^3 二 ボウ ム 〔集韻〕謨蓬切 東 ㄇㄥˊ mêng^2 三 ボウ モウ 〔集韻〕母亙切 徑 四 ボウ モウ 〔集韻〕彌登切 蒸

一❶**おろか。** 〔集韻〕懵、廣雅、闇也。❷**心がみだれる。** 〔集韻〕懵、一曰、心亂。❸或は懜(4−11372)・懞(4−11375)に作る。〔集韻〕懵、或从レ夢从レ蒙。二 **おろか。無知のさま。** 懵懵。或は懜(4−11372)に作る。〔集韻〕懵、懵懵、無知皃、或从レ夢。三 **明かでない。** 懜(4−11372)に同じ。〔集韻〕懜、說文、不レ明也、或从レ瞢。四 **おろか。** 儚(1−1236)・懜(4−11372)に同じ。〔集韻〕儚、爾雅、儚儚、惽也、或作二懜・懵一。

参考 もと懜(4−11372)に作る。懵の字解を併せ見よ。〔雷浚、說文外編〕說文無二懵字一、陸周禮遂人釋文曰、懵、本又作レ懜、說文、懜、不レ明也、此懵之正字。

【懵學】1 ボウガク 學問にくらい。〔謝莊、月賦〕昧レ道懵レ學、孤奉二明恩一。〔注〕銑曰、言、闇二於道一、不レ明二於學一。

【懵憒】2 ボウクワイ 心がくらくみだれる。〔潛夫論、夢列〕本下所レ謂之夢者、困レ不三了二察之稱一、而懵憒冒上レ名也。

【懵然】3 ボウゼン 心のくらいさま。無知のさま。〔白居易、與二元九一書〕除レ讀レ書屬レ文外、其他懵然無レ知。

【懵懂】4 ボウトウ ❶心が亂れる。おろかでくらい。懞懂。〔談藪〕甄龍友、平生給捷、一時懵懂。❷明かでないさま。不明瞭なさま。〔畫繼、三〕翟耆年、嘲二米元暉一詩曰、解作二無根樹一、能描二懵懂雲一。

【懵騰】5 ボウトウ 醉態をいふ。〔韻府引、范成大、詩〕尊前見在懵騰醉。

【懵懵】6 ボウボウ ❶明かでないさま。不明瞭なさま。〔江淹、貽二袁常侍一詩〕鑠鑠霞上景、懵懵雲外山。❷無知のさま。〔集韻〕懵、懵懵、無知皃。〔周禮、地官、遂人、以二下劑一致レ甿、注〕甿、猶二懵懵一、無知貌也。〔岑參、感舊賦〕上帝懵懵莫レ知二我冤一、衆人懵懵不二爲レ我言一。

【懵藥】7 ボウヤク 人を迷はす藥。〔元典章、刑部、懵藥撲鈔斷例〕李廣志明招摘二取蔓芒蘿葍蔴子一、修二合懵人一、撲鈔使用。

【懵不剌】8 mêng^3 pu^4 la^2 夢中。〔長生殿、彈詞〕顛不剌、懵不剌、撇不下心兒上。

【⿰忄憲】11452 一 ケン クワン 〔集韻〕許元切 元 二 ケン コン 〔集韻〕許偃切 阮

一 **かしこい。又、もとる。** 懁(4−10917)に同じ。〔集韻〕懁、博雅、懁諒、智也、一曰、很也、或作レ⿰忄憲。二 **うらむ。** 〔集韻〕⿰忄憲、恨也。

【⿰忄覡】11453 一 カク キヤク 〔集韻〕郝格切 陌 二 ケキ キヤク 〔集韻〕馨激切 錫

一二 **はぢる。** 〔集韻〕⿰忄覡、楚人謂レ慙曰二⿰忄覡一。

【⿰忄頼】11454 ラン 嬾(3−6872)の俗字。〔正字通〕⿰忄頼、俗嬾字。

【懶】11455 一 ラン 〔集韻〕魯旱切 旱 ㄌㄢˇ lan^3 二 ライ 〔集韻〕落蓋切 泰

一 **ものうい。おこたる。** 嬾(3−6872)に同じ。〔集韻〕嬾、說文、懈也、怠也、一曰、臥、或从レ心。〔南史、范曄傳〕吾少懶二學問一。〔江掩、與二交游一論レ隱書〕酷懶レ作レ書。〔柳貫、移居詩〕借二得小窗一容二我懶一、五更高枕聽二春雷一。二 **にくむ。** 〔集韻〕懶、㦂懶、嫌惡。〔蘇轍、閒燕亭詩〕傍人任二嫌懶一。

参考 熟語は嬾(3−6872)を併せ見よ。

【懶意】1（ランイ）　おこたる心。ものうい心。〔韻府引、許月卿、詩〕半生懶意琴三疊、千古詩情土一丘。

【懶架】2（ランカ）　見臺。書物をのせて讀む臺。嬾架（**3－6872**‥8）に同じ。

【懶慣】3 lan^3 kuan^4　ものうく力がない。〔紅樓夢、二十二回〕自是小鬟嬌懶慣、擁衾不耐笑言頻。

【懶散】4（ランサン）　しまりがなく取りちらす。無性なこと。〔蘇軾、徐大正閒軒詩〕君看東坡翁、懶散誰比數。

【懶殘】5（ランザン）　唐の高僧。卽ち明瓚禪師。懶惰で殘物を食ふところからいふ。大明禪師と敕諡せられた。

【懶仔】6（ランシ）　懶人(9)に同じ。

【懶情】7（ランジャウ）　おこたる心。ものうい心。懶意。嬾情。

【懶心】8（ランシン）　ものうい心。おこたる心。〔杜甫、西閣詩〕懶心似二江水一、日夜向二滄洲一。

【懶人】9（ランジン）　なまけもの。〔許月卿、京城看月詩〕故山今宵月更奇、明日懶人眞箇歸。

【懶性】10（ランセイ）　なまけるたち。懶惰な性質。ものぐさな性質。〔杜甫、奉下酬嚴公寄二題野亭一之作上詩〕拾遺曾奏數行書、懶性從來水竹居。

【懶惰】11（ランダ）　おこたる。なまける。〔陶潛、責レ子詩〕阿舒已二八、懶惰故無レ匹。〔杜甫、堂成詩〕旁人錯比揚雄宅、懶惰無レ心作二解嘲一。〔六部成語、吏部、懶惰、注解〕好二安逸一曰レ懶、不二勤謹一曰レ惰。

【懶凳】12 lan^3 têng^4　よりかかるように出來た安樂椅子。〔水滸傳、四回〕坐在鵝項懶凳上。

【懶讀】13（ランドク）　讀書をおこたる。又、書を讀むにものうい。〔後漢書、邊韶傳〕韶、字孝先、曾晝日假臥、弟子私謿レ之曰、邊孝先腹便便、懶レ讀レ書但欲レ眠。〔鄭谷、聞二進士許彬罷レ擧云云詩〕吾子雖レ言レ命、鄕人懶レ讀レ書。〔陳傅良、述懷詩〕有レ客盈レ門飯不レ足、有レ書千卷兒懶レ讀。

【懶夫】14（ランプ）　なまけもの。無精者。〔韻府引、范嵩、詩〕高臥從人笑二懶夫一。

【懶婦】15（ランプ）　❶なまけ女。嬾婦（**3－6872**‥33）の❶に同じ。❷蟲の名。こほろぎの異名。〔古今注、魚蟲〕蟋蟀、一名吟蛩、一名蛩秋、初生得レ寒則鳴、一云、濟南呼爲二懶婦一。〔埤雅、蟋蟀〕似レ蝗而小、善跳、正黑有二光澤一如レ漆、一名蛬、一名促織、語曰、促織鳴、懶婦驚、曹奢而苟、唐儉以勤、故詩一以二蜉蝣一、一以二蟋蟀一刺レ之。

【懶婦魚】16（ランプギョ）　獸の名。江豚の異名。古、楊氏の家婦が死して化したもので、此の魚の油を以て燈とし、音樂や博奕の場を照らせば明るいが、紡績を照らせば暗いといふ。故に懶婦魚と名づける。〔述異記、上〕淮南有二懶婦魚一、俗云、昔楊氏家婦、爲二姑所一レ溺而死、化爲レ魚焉、其脂膏可レ燃二燈燭一、以レ之照二鳴琴博奕一、則爛然有レ光、及レ照二紡績一、則不二復明一焉。

【懶婦箴】17（ランプシン）　草の名。睡草（**8－23448**‥27）の異名。嬾婦箴（**3－6872**‥36）に同じ。

【懶舞】18（ランブ）　ものうげに舞ふ。〔杜甫、題二鄭十八著作虔一詩〕酒酣懶舞誰相拽、詩罷能吟不二復聽一。

【懶癖】19（ランペキ）　なまけるくせ。嬾癖（**3－6872**‥38）に同じ。

【懶慢】20（ランマン）　なまけおこたる。怠慢。〔白居易、常樂里閑居詩〕獨有二懶慢者一、日高頭未レ梳。〔宋史、南唐韓熙載世家〕韓熙載性懶慢、朝直多レ闕。

【懶民】21（ランミン）　怠惰な民。〔福惠全書、教養部、藝果木〕懶民不レ致三自失二其資一。

【懶面】22（ランメン）　獸の名。爪は人の指に似、鬃（タテガミ）は馬に似、その腹が地に著いて歩くことが殆どできないといふ。嬾面。〔坤輿圖說〕伯西爾一獸名二懶面一、甚猛、爪如二人指一、鬃如レ馬、腹著レ地不レ能レ行、盡二一月一不レ踰二百步一。

【懶慵】23 lan^3 yung^1　ものうい。おこたる。

【懶懶】24 lan^2 lan^3　ぼんやりしてゐるさま。うとうと。

【懶驢愁】25 lan^3 lü^2 ch'ou^2　驢馬をむちうつ鞭。

【懶王精】26 lan^3 wang^2 ching^1　怠け者をいふ。江蘇省の方言。

【懶吃懶喝】27 lan^3 ch'ih^1 lan^3 hêi^1　食ひたくも飲みたくもない。

【懶做好吃】28 lan^3 tsuo^4 hao^4 ch'ih^1　好吃懶做（**3－6053**‥79）を見よ。

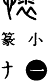
【懶不二自惜一】29（ランニシテミヅカラヲシマズ）　ものぐさで自分の才智を世に示すことをしない。自ら自分をすてる。〔歐陽脩、釋祕演詩集序〕獨其詩可レ行二於世一、而懶不二自惜一。

【懶雲山莊詩鈔】30（ランウンサンサウシセウ）　書名。一卷。清の邵棠の詩を錄したもの。〔懷潞園叢刊本、第五冊〕。

【懷】

11456

クワイ　ヱ　〔集韻〕乎乖切　ㄏㄨㄞˊ　huai^2　佳


小篆

❶**おもふ。おもひ。**㋑おもひふける。〔說文〕懷、念思也、从レ心褱聲。〔詩、召南、野有死麕〕有レ女懷レ春。〔傳〕懷、思也。〔詩、鄘風、載馳〕女子善懷。〔箋〕懷、思也。〔楚辭、九章、悲回風〕惟佳人之獨懷兮。〔注〕懷、念也。㋺おもひやる。おもひおこす。〔左氏、宣、十四〕懷二於魯一。〔注〕懷、思也。㋩おもひめぐらす。工夫する。〔淮南子、覽冥訓〕羣臣準二上意一而懷レ當。〔注〕懷、思也。㋥うれへる。いたむ。あはれむ。〔詩、邶風、終風〕願言則懷。〔傳〕懷、傷也。〔後漢書、班固傳下〕上帝懷而降鑒。〔注〕懷、猶二愍念一也。㋭ねがふ。〔詩、小雅、小明〕豈不レ懷レ歸。〔箋〕懷、思也。㋬したふ。〔詩、鄭風、將仲子〕仲可レ懷也。〔箋〕懷レ私曰レ懷。〔詩、小雅、常棣〕兄弟孔懷。〔傳〕懷、思也。❷**おもひ。なさけ。**情。〔古詩、爲二焦仲卿妻一作〕感二君區區懷一。❸**こころ。**むね。意中。胸臆。〔集韻〕懷、一曰、人情也。〔詩、小雅、谷風〕寘二予于懷一。〔左氏、成、十七〕泣而爲二瓊瑰一盈二其懷一。〔南史、袁粲傳〕雖三位任二隆重一、不下以二世務一經上レ懷。〔韓愈、送三溫處士赴二河陽軍一序〕其何能無三介二然於懷一邪。❹**ふところ。**褱（**10－34514**）に通ず。〔說文通訓定聲〕懷、叚借爲レ褱。〔論語、陽貨〕然後免二於父母之懷一。❺**いだく。**㋑ふところにする。〔楚辭、九章、懷沙〕懷レ瑾握レ瑜兮。〔注〕在レ衣爲レ懷。㋺そでにつつむ。〔楚辭、劉向、九歎、愍命〕懷二椒聊之蔎蔎一兮。〔注〕在レ袖曰レ懷。㋩だきかかへる。〔潘岳、北征賦〕心愴悢以傷懷。〔注〕善曰、蒼頡篇曰、懷、抱也。㋥ふくろにいれる。〔淮南子、覽冥訓〕懷二萬物一。〔注〕懷、猶レ囊也。㋭つつむ。〔書、堯典〕蕩蕩懷レ山襄レ陵。〔傳〕懷、包也。㋬かくす。〔正字通〕懷、藏也。〔曲禮〕賜二果于君前一、有レ核者懷二其核一。〔沈約、齊故安陸昭王碑文〕居レ貞卷懷。〔注〕善曰、宋均曰、懷、藏也。❻**なつける。**きたす。〔爾雅、釋言〕懷、來也。〔方言、一二〕儀・洛、來也、自レ關而東、周・鄭之郊、齊・魯之間、或謂レ洛曰レ懷。〔詩、周頌、時邁〕懷二柔百神一。〔傳〕懷、來也。〔禮、中庸〕懷二諸侯一。〔疏〕懷、安撫也。❼**なつく。**よってくる。歸服。〔釋名、釋姿容〕懷、回也、本有二去意一、回來就レ己也、亦言レ歸也、來二歸己一也。〔書、大禹謨〕黎民懷レ之。〔傳〕懷、歸也。〔禮、禮器〕物無レ不レ懷レ仁。〔注〕懷、歸也。❽**やすらかにする。**なぐさめる。〔詩、邶風、雄雉〕我之懷矣。〔箋〕懷、安也。〔周禮、天官、小宰〕以懷二賓客一。〔注〕懷、亦安也。〔班固、典引〕懷二保鰥寡一之惠浹。〔注〕蔡邕曰、懷、安也。❾**やすらかになる。**やすし。〔詩、邶風、終風〕願言則懷。〔箋〕懷、安也。❿**やはらげる。**〔呂覽、音律〕以懷二遠方一。〔注〕懷、柔也。⓫**やはらぐ。**しづかになる。〔左氏、襄、十四〕王室之不レ懷。〔服注〕懷、柔也。⓬**とまる。**〔爾雅、釋

詁〕懷、止也。⓭いたる。くる。〔爾雅、釋詁〕懷、至也。〔方言、一〕懷、至也、齊・楚之會郊、或曰レ懷。〔集韻〕懷、一曰、來也。〔詩、邶風、泉水〕有レ懷二于衞一。〔箋〕懷、至。〔詩、齊風、南山〕曷又懷止。〔箋〕懷、來也。⓮かへる。〔司馬相如、上林賦〕悠遠長懷。〔注〕善曰、郭璞曰、懷、亦歸。⓯やる。おくる。〔詩、檜風、匪風〕懷二之好音一。〔傳〕懷、歸也。⓰多言する。譓（10－36052）に通ず。〔說文通訓定聲〕懷、叚借爲レ譓。〔淮南子、主術訓〕不レ知而辯慧懷給。〔注〕懷、佞也。⓱通じて褱（10－34487）に作る。〔集韻〕懷、通作レ褱。⓲謚。〔逸周書、謚法解〕執レ義揚レ善曰レ懷、慈仁短折曰レ懷。〔後漢書、章德竇皇后紀〕尊謚曰二恭懷皇后一。〔注〕謚法曰、敬レ事尊レ上曰レ恭、慈仁哲行曰レ懷。⓳**地名。**今、河南省沁陽縣の地。〔書、禹貢〕覃・懷厎レ績。⓴**姓。**〔通志、氏族略、以レ名爲レ氏〕懷氏、無懷氏之後、吳志顧雍傳、有二尚書懷敍一望出二河內一。

名乘　カネ。カヌ。ツネ。ヤス。チカ。タカ。

【懷痾】1 クヮイア　病氣に罹る。〔江淹、雜體、王徵君微養レ疾詩〕悵然山中暮、懷レ痾屬二此詩一。

【懷愛】2 クヮイアイ　したひ愛する。〔國語、周語中〕百官以レ物至、賓入如レ歸、是故小大莫レ不二懷愛一。〔後漢書、循吏、秦彭傳〕百姓懷愛、莫レ有二欺犯一。

【懷惡】3 クヮイアク　惡人をなつける。〔公羊、昭、十一〕懷レ惡而討二不義一、君子不レ予也。

【懷安】4 クヮイアン　❶懷と安。寵愛せられたい、立派な家に住みたいなどと思ふことと、安逸を貪ること。又、安逸を苟求すること。〔左氏、僖、二十三〕懷與レ安、實敗レ名。〔會箋〕懷者、懷レ寵懷レ居之懷、凡有レ所二戀着一之謂也。❷なつき安んずる。〔史記、孝景紀贊〕漢興、孝文施二大德一、天下懷安、至二孝景一、不三復憂二異姓一。❸安きを思ふ。安樂な生活をこひねがふ。拘束されない生活をしたいと思ふ。のんびりしてゐたいと思ふ。〔魏志、王烈傳〕徒欲三懷レ安必肆二其志一。❹郡名。㋑南朝宋、置く。今、缺く。四川省の境。㋺南齊の時、懷漢郡の訛。❺縣名。㋑三國吳、置く。安徽省寧國縣の東南。〔讀史方輿紀要、江南、寧國府、寧國縣〕懷安城、後漢建安十三年、孫權分二宛陵一、置二懷安縣一。㋺南齊、置く。廣東省惠陽縣の東南。㋩南朝宋、置く。今、缺く。四川省の境。㋥唐、置く。甘肅省慶陽縣の東北。〔讀史方輿紀要、陝西、慶陽府、安化縣、洛源城〕懷安城、通典、本隋柳谷城、武德六年、置レ縣。㋭唐、置く。今、察哈爾省萬全縣の西南。南洋河の東南に位す。〔讀史方輿紀要、直隷、萬全都指揮使司、保安右衞〕懷安城、今衞城也、本漢上谷郡夷輿縣地、唐末置二懷安縣一、屬二新州一。〔清史稿、地理志〕直隷、宣化府、縣七、懷安。㋬宋、置く。福建省閩侯縣の北。〔讀史方輿紀要、福建、福州府、侯官縣〕懷安廢縣、本閩縣地、宋太平興國六年、析二九鄕一置二懷安縣一。

【懷異】5 クヮイイ　異心を抱き持つ。二心を持つ。〔日本政記、稱光天皇論〕將帥懷レ異者、亦翼二戴之一爲レ名。

【懷誘】6 クヮイイウ　なづけいざなふ。〔後漢書、西域傳論〕自下兵威之所二肅服一、財賂之所中懷誘上。

【懷憂】7 クヮイイウ　うれひをいだく。うれへる。〔史記、淮陰侯傳〕吾聞レ之、乘二人之車一者載二人之患一、衣二人之衣一者懷二人之憂一。〔阮籍、清思賦〕瞻二朝霞之相承一兮、似二美人之懷一レ憂。

【懷隱】8 クヮイイン　かくしごとをもつてゐる。思ふことをかくしていはない。懷はいだく、隱はかくしごと。又、かくす。懷も隱もかくす。〔荀悅、鄭崇論〕言不レ盡、則以爲レ懷レ隱、盡レ說竭レ情、則爲レ不レ知レ量。

【懷芸】9 クヮイウン　藥草の名。茴香。懷香（22）を見よ。

【懷惲】10 クヮイウン　唐の僧。懷暉（29）を見よ。

【懷英】11 クヮイエイ　字號。❶唐、狄仁傑（**7－20290**‥36）の字。❷宋、廖邦傑（**4－9464**‥65）の字。❸明、桂瑮（**6－14755**‥123）の字。

【懷嬴】12 クヮイエイ　秦の穆公の女。晉の太子圉が秦に人質になつた時、之にめあはせられ、後日、圉が逃げて國へ歸ると打明けた時、圉の心を宜なりとし、且、自分があなたを秦に引留め得ないのは父公から與へられた使命を果たせないのであるから、其の上にあなたに從つて行くことはできない、あなたの計略は決して口外しないから、安心して逃出しなさいと言つた。君子は之を善く夫婦の間に處した者と評した。〔列女傳、節義〕。

【懷鉛】13 クヮイエン　鉛を懷中する。文筆にたづさはるをいふ。古は字を書くに初は刀筆を用ひ、後に鉛を用ひた。〔西京雜記、三〕揚子雲好レ事、常懷レ鉛提レ槧、從二諸計吏一、訪二殊方絕域四方之語一、以爲三裨二補輶軒所一レ載、亦洪意也。〔詩品、上〕俾下懷レ鉛吮レ墨者、抱二篇章一而景慕、映二餘輝一以自燭上。

【懷怨】14 クヮイエン　うらみをいだく。〔福惠全書、蒞任部、稟帖贅說〕世標懷レ怨、乘レ機傾レ源。

【懷遠】15 クヮイエン　❶遠隔の民をなつけやはらげる。異邦人をなつけやはらげる。〔左氏、僖、七〕懷レ遠以レ德。〔後漢書、明帝紀〕公卿百官、以二帝威德懷レ遠、祥物顯應一、迺竝集二朝堂一。❷郡名。㋑北周、置く。治は懷遠縣。❹の㋑を見よ。㋺宋、置く。❺の㋺を見よ。❸府名。唐の時、渤海、置く。滿洲遼寧省昌圖縣の西北境。❹縣名。㋑北周、置く。今の寧夏省寧夏縣の治。㋺唐、置く。今、缺く。河北省の北境。㋩宋、置く。廣西省三江縣の北。㋥元、置く。宋の懷遠軍の地。今、安徽省鳳陽縣の西。縣の南の塗山は禹が諸侯を大會した處と傳へる。〔讀史方輿紀要、江南、鳳陽府〕懷遠縣、宋寶祐二年、置二懷遠軍一、元改レ軍爲レ縣、以二荊山縣一省二入縣一。〔清史稿、地理志〕安徽、鳳陽府、縣五、懷遠。㋭明、置く。宋の縣を繼承し、後、今の廣西省三江縣に移す。民國、三江と改む。〔讀史方輿紀要、廣西、柳州府〕懷遠縣、本牂牁縣夜郎蠻地、云云、崇寧四年、又於レ砦置二懷遠軍一、尋改二平州一、兼置二懷遠縣一、爲二附郭一。〔清史稿、地理志〕廣西、柳州府、縣七、懷遠。㋬清、置く。今、陝西省橫山縣。〔清史稿、地理志〕陝西、楡林府、縣四、懷遠。❺軍（行政區劃）の名。㋑宋、置き、元、縣に改む。❹の❷を見よ。㋺宋、置く。後、升せて平州とし、更に名を懷遠郡と賜ふ。故治は今の廣西省三江縣の北。❻砦の名。㋑宋、置く。甘肅省固原縣の南。〔讀史方輿紀要、陝西、平涼府、靜寧州、隆德縣〕懷遠城、宋志、明道二年、鎭我軍新修二赤藁城一、賜二名懷遠一、是也、云云、金爲二懷遠砦一、元省、宋志、懷遠砦、北去二鎭羌砦一二十七里。㋺宋、置く。廣西省宜山縣の西。今、懷遠鎭といふ。〔宋史、地理志六〕平州、崇寧四年三月、於二王口砦一建レ軍、以二懷遠一爲レ名。❼鎭の名。㋑四川省崇慶縣の西。㋺廣西省宜山縣の西。故の懷遠砦。〔讀史方輿紀要、廣西、慶遠府、宜山縣〕懷遠鎭、在二府西三十五里一、有二巡司一。❽字號。㋑前涼、辛攀（**10－38630**‥62）の字。㋺北齊、崔昂（**4－8178**‥27）の字。㋩陳、沈德威（**6－17189**‥617）の字。㋥清、朱修來（**6－14424**‥828）の字。

【懷遠軍】16 クヮイヱングン　行政區劃の名。❶宋、置く。元、縣に改む。安徽省懷遠縣。懷遠の❹の㋥を見よ。❷宋、置く。廣西省三江縣の北。〔讀史方輿紀要、廣西、柳州府、懷遠縣〕懷遠舊城、在二縣北一、卽王口砦也、宋初、置二懷遠軍一。

【懷鷗】17 クヮイオウ　清、張舒（**4－9812**‥425）の字。

【懷恩】18 クヮイオン　❶めぐみになづく。〔後漢書、卓茂傳〕人納二其訓一、吏懷二其恩一。〔晉書、刑法志〕率土蒙二更生之澤一、兆庶必懷レ恩以反レ化也。❷縣名。㋑後魏、置く。江蘇省淮陰縣の東南。㋺唐、置く。福建省漳浦縣の南。〔讀史方輿紀要、福建、漳州府、漳浦縣〕懷恩廢縣、唐垂拱二年、置二懷恩縣一、屬二漳州一。❸明、高密の人。兵部侍郎戴綸の族弟。宦官。憲宗の朝に、司禮監を授けらる。性忠鯁で、憲宗が萬貴妃の言に惑ひ、太子を易へんとするや、固く爭つて斥けられたが、孝宗が立つに及んで召し歸され、卒して顯忠の祠額を賜はる。〔明史、三百四〕・〔萬斯同明史、四百五〕・〔明史稿、二百八十三〕。

【懷雅】19 クヮイガ　清、陸綸（**11－41708**‥247）の字。

【懷海】20 クヮイカイ　唐の高僧。閩の人。謚は大智禪師。馬祖道一の高弟。新吳の百丈山に住し、又、百丈と號す。著に百丈清規がある。〔宋高僧傳、十〕。

【懷向】21 クヮイカウ　なづきむかふ。〔唐書、賈敦頤傳〕

亦寬惠、人心懷向。

【懷香】22 クヮイカウ　茴香(**9**－30913・・1)に同じ。懷香。懷芸。〔和漢三才圖會、葷草類、茴香〕按、懷香、一名懷芸。

〔懷香記〕23 クヮイカウキ　戲曲の篇名。明、陸采作。晉の賈充の女が、父の幕僚韓壽と私通し、名香を偸んで之に與へ、父に覺られたが、遂に結婚を許された事を演じたもの。

【懷奸】24 クヮイカン　惡心をいだく。〔福惠全書、編審部、設誓〕懷㆑奸者有㆑所㆓警惕㆒。

【懷簡】25 クヮイカン　梁、徐君蒨(**4**－10110・・391)の字。

【懷危】26 クヮイキ　あやぶむ心をいだく。危惧の念を抱く。〔漢書、王嘉傳〕中材苟容求㆑全、下材懷㆑危內顧。

【懷奇】27 クヮイキ　奇才をいだく。〔韓愈、試大理評事王君暮誌銘〕懷㆑奇負㆑氣、不㆓肯隨㆑人。

【懷季】28 クヮイキ　明、黃珍(**12**－47926・・658)の字。

【懷暉】29 クヮイキ　唐の高僧。一に懷惲に作る。泉州の謝氏の子。號は柏岩。諡は大宣教禪師。元和中、章敬寺に居る。〔宋高僧傳、十〕。

【懷僖】30 クヮイキ　宋、高公紀(**12**－45313・・1171)の諡。

【懷歸】31 クヮイキ　歸りたく思ふ。故鄕へ歸ることを考へる。〔潘岳、在㆓懷縣㆒作詩〕信美非㆓吾土㆒、祇攪㆓懷歸志㆒。

〔懷歸草堂〕32 クヮイキサウダウ　清、呂潛(**2**－3386・・105)の室名。

【懷疑】33 クヮイギ　❶疑をいだく。心中にうたがふ。〔魏志、陳留王傳〕懷㆑疑自猜、深見㆓忌惡㆒。〔吳志、胡綜傳〕懷疑猶豫、不㆑決㆓於心㆒。❷人智は決して確かな知識を得ないものとして、認識を否定し眞理の存在をうたがふこと。

【懷舊】34 クヮイキウ　むかしをしのぶ。懷古。〔班固、西都賦〕願賓攄㆓懷舊之蓄念㆒、發㆓思古之幽情㆒。〔潘岳、懷舊賦序〕余既有㆓私艱㆒、且尋㆓役于外㆒、不㆑歷㆓嵩丘之山㆒者、九㆓年于茲㆒矣、今而經焉、慨然懷㆑舊而賦㆑之。〔李衞公問對、下〕人人各懷㆓其舊㆒。

〔懷舊談〕35 クヮイキウダン　昔のことをしのんで物語るはなし。

【懷鞠】36 クヮイキク　明、王道純(**7**－20823・・1893)の字。

【懷橘】37 クヮイキツ　後漢の陸績が幼少の時、袁術に見え、母に遺らうとして、饗應の橘を懷にした故事。〔後漢書、陸康傳〕幼年曾謁㆓袁術㆒、懷㆑橘墮㆑地者也。〔吳志、陸績傳〕績年六歲、於㆓九江㆒見㆓袁術㆒、術出㆑橘、績懷㆓三枚㆒去、拜辭墮㆑地、術謂曰、陸郞作㆓賓客㆒而懷㆑橘乎、績跪答曰、欲㆓歸遺㆒㆑母、術大奇㆑之。

【懷給】38 クヮイキフ　邪でおもねる。〔淮南子、主術訓〕不智而辯慧懷給、則棄㆑驥而不㆑式。〔注〕懷、佞也。

【懷強】39 クヮイキヤウ　強者を懷柔する。〔孔子家語、致思〕寬而正、可㆓以懷㆑強。

【懷鄕】40 クヮイキヤウ　鄕里をおもふこと。〔范仲淹、岳陽樓記〕去㆑國懷㆑鄕、憂㆑讒畏㆑譏。

〔懷鄕病〕41 クヮイキヤウビヤウ　鄕里を戀しく思ふあまり煩ふやまひ。

【懷居】42 クヮイキヨ　安居せんことを思ふ。〔論語、憲問〕子曰、士而懷㆑居、不㆑足㆓以爲㆑士矣。〔集注〕居、謂㆘意所㆓便安㆒處㆖也。

【懷矜】43 クヮイキヨウ　あはれみの心をいだく。〔後漢書、和帝紀〕慘然懷矜。

【懷玉】44 クヮイギヨク　❶玉をいだくこと。美質を抱く喩。懷瑾。〔老子、七十〕是以聖人、被㆑褐懷㆑玉。〔河上公注〕懷㆑玉者厚㆑內。〔孔子家語、三恕〕有㆑人㆓於此㆒、被㆑褐而懷㆑玉何如。❷山名。又、玉山・玉斗山・輝山ともいふ。江西省玉山縣の北。北走して閩贛と浙贛との界をなし、懷玉山脈といふ。〔讀史方輿紀要、江西、名山〕懷玉山、在㆓廣信府玉山縣北百四十里㆒、高四百餘丈、盤㆓互饒信衢三郡㆒、當㆓吳楚閩越之交㆒、爲㆓東南望鎭㆒、一名輝山、相傳、山有㆓異光夜燭㆒也、唐賈耽華夷圖、懷玉山上與㆓雲際㆒勢連㆓北斗㆒、又名㆓玉斗山㆒、循山之麓、升降凡十有五里、至㆓太洋坂㆒、地寬廣約數百畝、而奇峯峻嶺、怪石深池、環㆓列於前後左右㆒、仙靈之窟宅也、山之水、西出則入㆓於江㆒、東出則入㆓於淛㆒、蓋江・淛山水之宗也、李翺南來錄、自㆓常山㆒至㆓玉山㆒八十里、陸道謂㆓之玉山嶺㆒、自㆓玉山㆒至㆓鄱陽㆒七百有十里、順㆑流、謂㆓之高溪㆒、又有㆓三清山㆒、志云、與㆓懷玉㆒並峙、蓋懷玉之支峯而異名者也。❸唐、李正己(**6**－14459・・1554)の本名。❹字號。㋑五代前蜀、杜子瓌(**6**－14477・・320)の字。㋺明、侯承祖(**1**－633・・122)の字。㋩清、陸琛(**11**－41708・・199)の字。

【懷金】45 クヮイキン　金印をいだく。高位高官に在るものをいふ。〔法言、學行〕紆㆑朱懷㆑金。〔范曄、後漢書、宦者傳論〕若㆓夫高冠長劍、紆㆑朱懷㆑金者㆒、布㆓滿宮闈㆒。〔注〕向曰、金、金印也。

【懷瑾】46 クヮイキン　懷玉(44)に同じ。〔楚辭、九章、懷沙〕懷㆑瑾握㆑瑜兮、窮不㆑得㆑所㆑示。〔注〕瑾瑜、皆美玉也。

【懷襟】47 クヮイキン　ふところ。むね。懷衽。襟懷。〔周砥、詩〕仗㆑劍從㆑此別、秋風滿㆓懷襟㆒。

【懷化】48 クヮイクヮ　❶德になづき善にうつる。〔晉書、琅邪武王伷傳〕百姓懷化。❷縣名。㋑晉、置く。今、故城營といふ。廣西省懷集縣の東。㋺晉、置く。廣東省番禺縣の東南。〔讀史方輿紀要、廣東、廣州府、番禺縣、熙安廢縣〕懷化廢縣、晉義熙中置、屬㆓南海郡㆒。㋩南齊、置く。今、缺く。湖北省の境。㋥唐、置く。山西省忻縣の北。㋭遼、置く。今、滿洲遼寧省金縣の北。

【懷怪】49 クヮイクヮイ　あやしむ。〔後漢書、何敞傳〕猥復爲㆓衞尉篤奉車都尉景㆒、云云、誠竊懷㆑怪。

【懷荒】50 クヮイクヮウ　❶邊境のものをなつけること。〔晉書、涼武昭王傳論〕懷㆑荒弭㆑暴、開㆑國化㆑家。〔顏延之、三月三日曲水詩序〕懷㆑荒振㆑遠之使、論㆓德於外㆒。❷古の鎭の名。後魏の六鎭の一。故址は今の綏遠省豐鎭縣の北。

【懷願】51 クヮイグヮン　胸中の願望。〔鮑照、學㆑古詩〕人生貴㆑得㆑意、懷願待㆓君申㆒。

【懷兄】52 huai² hsiung¹　實兄。

【懷刑】53 クヮイケイ　刑罰を畏れ思ふ。一說に、刑は法制、懷は安んずる意で、法制が民を齊しくすることに安んじ樂しむのをいふ。〔論語、里仁〕君子懷㆑德、小人懷㆑土、君子懷㆑刑、小人懷㆑惠。〔集解〕孔安國曰、懷、安也。〔疏〕刑、法制、君子樂㆓於法制齊㆑民、是懷㆑刑也。〔集注〕懷、思念也、懷㆑刑、謂㆑畏㆑法。

【懷惠】54 クヮイケイ　利益を得んことを思ふ。一說に、他から恩惠を受けることに安んじ樂しむ。〔論語、里仁〕君子懷㆑德、小人懷㆑土、君子懷㆑刑、小人懷㆑惠。〔集解〕包咸曰、惠、恩惠。〔疏〕小人唯利是親、安㆓於恩惠㆒、是懷㆑惠也。〔集注〕懷㆑惠、謂㆑貪㆑利。

【懷慶】55 クヮイケイ　府名。明、置く。漢の河內郡の地。清は河內・濟源・原武・修武・武陟・孟・溫・陽武の八縣を管轄す。今、河南省沁陽縣。〔讀史方輿紀要、河南〕懷慶府、禹貢冀州覃懷之地、商屬㆓畿內㆒、周亦爲㆓王畿㆒、及衞雍邘諸國地、春秋時、晉謂㆓之南陽㆒、後又爲㆓魏鄭衞三國地㆒、秦屬㆓三川郡㆒、漢初爲㆓殷國㆒、尋爲㆓河內郡㆒、晉爲㆓河內汲二郡地㆒、後魏置㆓懷州㆒、兼置㆓河內郡㆒、隋初罷㆑郡存㆑州、大業初、州廢、復置㆓河內郡㆒、唐初亦置㆓懷州㆒、天寶初、曰㆓河內郡㆒、乾元初復㆑故、宋仍爲㆓懷州㆒、金改爲㆓南懷州㆒、又置㆓沁南郡㆒、尋復曰㆓懷州㆒、元因㆑之、尋改曰㆓懷孟路㆒、延祐中、又改㆓懷慶路㆒、明朝爲㆓懷慶府㆒、領㆓縣六㆒。〔清史稿、地理志〕河南、懷慶府、領㆓縣八㆒、河內・濟源・原武・修武・武陟・孟・溫・陽武。

【懷挾】56 クヮイケフ　❶いだきさしはさむ。〔國語、晉語二〕懷㆓挾纓纕㆒。〔戰國、東周策〕夫鼎者、非㆘效㆓壺醯醬瓿㆒耳、可㆓懷挾提挈以至㆑齊者㆖、非㆘效㆓鳥集烏飛、兎興馬逝㆒、灕然止㆓於齊㆒者㆖。〔後漢書、儒林傳序〕懷㆓挾圖書㆒。❷科擧の試に應ずるものが試驗場にひそかに書籍を携帶すること。懷帶(138)を見よ。〔容齋隨筆、進士試題〕近年進士、惟鈔㆓略古今文賦㆒、懷挾入試。〔文獻通考、選擧考、擧士〕後唐、明宗長興四年、禮部貢院奏、新立㆓條件㆒、如㆑後、云云、一懷㆓挾書策㆒、舊例禁止、請自㆑今後、入㆓省門㆒搜㆓得文書㆒、不㆑計㆓多少㆒、准㆑例扶㆓出殿㆒、將來兩擧。

【懷卷】57 クヮイケン　卷いてふところに入れる。才能をかくしてあらはさない。〔張舜、行史說〕懷卷而同㆓其塵㆒。

【懷堅】58 クヮイケン　南齊、范懷珍(**9**－30834・・164)の一名。

【懷眷】59 クヮイケン　恩顧をおもふ。〔吳質、答㆓東阿王㆒書〕乃質之所㆘以憤積㆓於胷臆㆒、懷眷而悁邑㆖者也。

【懷儉】60 クヮイケン　梁、蔡道恭(**9**－31818・・214)の字。

【懷劍】61 クヮイケン　ふところに入れて攜帶する護身用の短刀。ふところがたな。匕首。

【懷賢】62 クヮイケン　❶宋の高僧。永嘉の何氏の子。字

は潛道。詩に巧。號は圓通大師。〔新續高僧傳、六十〕。❷南齊、范懷珍(9－30834‥164)の一名。

【懷縣】63クヮイケン　縣名。❶漢、置く。今、河南省武陟縣の西南。〔書、禹貢〕覃懷底㆑績。〔傳〕覃懷、近㆑河地名。〔蔡傳〕覃懷、地名、地志、河內郡有㆓懷縣㆒、今懷州也。〔漢書、地理志上〕河內郡、縣十八、懷。❷南齊、置く。今缺く。湖北省の境。

【懷獻】64クヮイケン　明、陸琛(11－41708‥199)の字。

〖懷獻世子〗65クヮイケンセイシ　明、朱見濟(6－14424‥742)をいふ。

【懷玄】66クヮイゲン　玄妙の理をいだく。〔參同契〕惟昔聖賢、懷㆑玄抱㆑眞。

【懷古】67クヮイコ　❶過去をおもひ出す。昔をしのぶ。懷舊。〔張衡、東京賦〕望㆓先帝之舊墟㆒、慨長思而懷㆑古。〔注〕綜曰、古、往也。〔謝朓、觀㆓朝雨㆒詩〕耳目暫無㆑擾、懷㆑古信悠哉。〔北史、常景傳〕景經㆓涉山水㆒、悵然懷㆑古。〔李白、經㆓下邳圯橋㆒懷㆓張子房㆒詩〕我來㆓圯橋上㆒、懷㆑古欽㆓英風㆒。❷字號。㋑宋、程珌(8－25081‥126)の字。㋺宋、潘希白(7－18236‥137)の字。㋩清、戴思望(5－11685‥181)の字。㋥清、黎良德(12－47994‥128)の號。

〖懷古堂〗68クヮイコダウ　室名。❶清、徐眞木(4－10110‥503)の室名。❷清、張澤瑊(4－9812‥1338)の室名。

〖懷古田舍〗69クヮイコデンシヤ　清、徐榮(4－10110‥13)「の室名。

【懷故】70クヮイコ　故人をおもふ。〔魏文帝、柳賦〕感㆓遺物㆒而懷㆑故、俛㆓惆悵㆒以傷㆑情。

【懷顧】71クヮイコ　おもひかへりみる。〔詩、小雅、小明〕念㆓彼共人㆒、睠睠懷顧。

【懷谷】72クヮイコク　谷をいだく。〔左思、蜀都賦〕山阜相屬、含㆑谿懷㆑谷。

【懷恨】73クヮイコン　うらみの心をいだく。〔後漢書、馬援傳〕惟陛下留㆓思豎儒之言㆒、無㆑使㆔功臣懷㆓恨黃泉㆒。

【懷猜】74クヮイサイ　猜疑心をいだく。〔梁書、夏侯詳傳〕使㆓彼智者不㆑用、愚者懷猜㆒、此魏武之所㆔以定㆓大業㆒也。

【懷想】75クヮイサウ　思慕の情をいだく。おもふ。したふ。〔李陵、答㆓蘇武㆒書〕望㆑風懷㆑想、能不㆓依依㆒。

【懷藏】76クヮイザウ　をさめる。〔漢書、禮樂志〕臧㆓於理官㆒。〔注〕師古曰、古書懷藏之字、本皆作㆑臧。

【懷朔】77クヮイサク　鎭の名。後魏の太武は、蠕蠕を破り、降人を漠南に置いた。東は濡源から、西は五原陰山に及び、分って懷朔・武川・撫冥・懷荒・柔玄・禦夷の六鎭とした。懷朔は最も西に在り、今の蒙古烏喇特・茂明安二旗の地に當る。〔讀史方輿紀要、陝西、楡林鎭〕豐州城、後魏延和二年、置㆓五原鎭㆒、尋改曰㆓懷朔㆒、爲㆓六鎭之一㆒、太和十八年、魏主如㆓懷朔鎭㆒、正始初、柔然侵㆓魏之沃野、及懷朔鎭㆒、命㆓源懷㆒出㆓行北邊㆒、懷至㆓雲中㆒、柔然遁去。

【懷刷】78クヮイサツ　髮をそろへ搔き上げる具を懷にする。君寵を得るにいふ。〔韓非子、內儲說下〕靖郭君相㆑齊、與㆓故人㆒久語、則故人富、懷㆓左右刷㆒、則左右重、久語懷㆑刷、小資也、猶以成㆑富、況於㆓吏勢㆒乎。〔解詁〕釋名、刷者、帥也、帥㆓髮長短㆒、皆令㆓上從㆒也、亦言㆑瑟也、刷㆑髮、令㆓上瑟然㆒也、通俗文曰、所㆓以理㆑髮、謂㆓之刷㆒、言、君懷㆓左右刷具㆒、則人以爲㆔其人得㆓君寵㆒、而賂㆑之以㆓金玉㆒、故成㆑富。

【懷粲】79クヮイサン　南齊、范懷珍(9－30834‥164)の一「名。

【懷山】80クヮイザン　山をつつむ。〔書、堯典〕湯湯洪水方割、蕩蕩懷㆑山襄㆑陵。

【懷子】81クヮイシ　❶子をいだく。〔顏氏家訓、教子〕懷㆑子三月。❷春秋晉、欒盈(6－15947‥1)の諡。❸フトコロゴ　㋑祕藏する子。㋺懷に抱かれる子。

【懷私】82クヮイシ　私心を抱く。〔晉書、王戎傳〕戎之爲㆑行、豈懷㆑私、苟得㆑正當㆑不㆑欲㆑爲㆑異耳。

【懷刺】83クヮイシ　❶名刺を懷中する。〔後漢書、禰衡傳〕建安初、來遊㆓許下㆒、始達㆓潁川㆒、乃陰懷㆓一刺㆒、既而無㆑所㆓之適㆒、至㆓於刺字漫滅㆒。〔王績、晚年敍㆑志示㆓翟處士㆒詩〕棄㆑繻頻北上、懷㆑刺幾西遊。❷心に譏刺をいだく。〔駱賓王、上㆓張司馬㆒啓〕瞻㆓言前古㆒、徒欲㆓思齊㆒、俯惟㆓當今㆒、空勞㆓懷刺㆒。

【懷思】84クヮイシ　おもふ。したふ。〔左氏、昭、七〕況能懷㆓思君德㆒。〔江淹、雜體、謝法曹惠連贈別詩〕風雪既經㆑時、夜永起懷思。

【懷紙】85クヮイシ　❶和歌・連歌などを正式に認める時の用紙。古は檀紙又は杉原紙を使用したが、今日では多く奉書紙が用ひられる。❷フトコロガミ　はながみ。たたうがみ。

【懷揣】86クヮイシ　おもひかんがへる。〔桃花扇、劫寶〕爲㆓人臣子㆒、豈可㆔懷㆓揣二心㆒。

【懷貳】87クヮイジ　二心をいだく。〔後漢書、劉表傳〕（韓嵩）至㆑許、還、盛稱㆓朝廷曹操之德㆒、勸㆓遣子入侍㆒、表大怒、以爲㆑懷㆑貳、陳㆑兵詬㆑嵩、將㆑斬㆑之、嵩不㆓爲動㆒㆑容。〔魏志、鮮卑傳〕由㆑是懷㆑貳。〔南齊書、褚淵傳〕沈攸之事起、袁粲懷㆑貳。

【懷州】88クヮイシウ　州名。❶後周、置く。治は野王。河南省沁陽縣の治。〔讀史方輿紀要、河南、懷慶府、濟源縣〕王屋城、云云、後周改爲㆓王屋縣㆒、兼置㆓懷州㆒治焉。❷元、置く。宋の懷安郡の地。四川省金堂縣の東南。〔讀史方輿紀要、四川、成都府、金堂縣〕懷安城、宋乾德五年、置㆓懷安軍㆒治焉、元初、升爲㆓懷州㆒。❸遼、置く。今、缺く。今の滿洲遼寧省の境。〔讀史方輿紀要、直隸、附考、兀良哈〕廢懷州、在㆓臨潢西南百里㆒、云云、遼志、廢歸誠州、太宗德光行帳、牧㆓放於此㆒、後葬㆓於西山㆒、曰㆓懷陵㆒、因置㆓懷州奉陵軍㆒。

【懷周】89クヮイシウ　北齊、王懷(7－20823‥290)の字。

【懷袖】90クヮイシウ　ふところとたもと。〔古詩十九首〕馨香盈㆓懷袖㆒、路遠莫㆑致㆑之。〔顏氏家訓、勉學〕懷袖握㆑書。〔謝朓、齊敬皇后哀策文〕懷袖靡㆑依。

【懷羞】91クヮイシウ　はぢらひのこころをいだく。〔趙嘏、下第詩〕南谿抱㆑甕客、失意自懷㆑羞。

【懷柔】92クヮイジウ　❶なつけ來らす。なつけやはらげる。歸順させる。悅服させる。〔詩、周頌、時邁〕莫㆑不㆓震疊㆒、懷㆓柔百神㆒。〔傳〕懷來、柔安。〔疏〕神以㆑王爲㆑主、祭㆑之則安、故云㆓來安㆒。〔左氏、僖、二十四〕其懷㆓柔天下㆒也、猶懼㆑有㆓外侮㆒。〔中庸〕送㆑往迎㆑來、嘉㆑善而矜㆓不能㆒、所㆔以柔㆓遠人㆒也、繼㆓絕世㆒、擧㆓廢國㆒、治㆑亂持㆑危、朝聘以㆑時、厚㆑往而薄㆑來、所㆔以懷㆓諸侯㆒也。〔國語、周語中〕謂㆘君其何德之布以懷㆓柔之㆒、使㆖無㆑有㆓遠志㆒。〔史記、鄭世家〕懷㆓柔百物㆒。〔漢書、谷永傳〕懷㆓柔怨恨之心㆒。〔新書、無蓄〕懷㆓柔附遠㆒、何招而不㆑至。〔後漢書、明帝紀〕懷㆓柔百神㆒、惠㆓於鰥寡㆒。〔注〕懷、安也、柔、和也。〔後漢書、宋漢傳〕懷㆓柔異類㆒。❷縣名。㋑唐、置く。河北省密雲縣の西。白河の支流の東岸。〔讀史方輿紀要、直隸、順天府、昌平州〕懷柔縣、唐貞觀六年、置㆓懷柔縣㆒、治㆓五柳城㆒、尋改爲㆓順義縣㆒。〔清史稿、地理志〕直隸、順天府、縣十九、懷柔。㋺民國の初、川滇邊務大臣所轄の瞻對委員を以て改置す。後、瞻化と改む。

【懷執】93クヮイシツ　心におもひいだく。忘れずにゐる。〔後漢書、陰皇后紀〕皇后懷㆓執怨懟㆒、數違㆓教令㆒。〔吳志、吳主孫權傳〕懷㆓執危怖㆒。

【懷集】94クヮイシフ　❶なつけ安んずる。懷輯。〔阮瑀、爲㆓曹公㆒與㆓孫權㆒書〕蕩㆓平天下㆒、懷㆓集異類㆒。❷縣名。南朝宋、置く。廣西省賀縣の東南。縣城は綏江の北岸。〔清史稿、地理志〕廣西、梧州府、縣五、懷集。

【懷輯】95クヮイシフ　なつけて呼び集める。手なづける。〔漢書、周勃傳〕吳王素富懷㆓輯死士㆒久矣。〔後漢書、竇融傳〕懷㆓輯羌虜㆒。

【懷沙】96クヮイシヤ　楚辭九章の篇名。

〖懷沙記〗97クヮイシヤキ　戲曲の篇名。清、張堅の作。玉燕堂四種の一。楚の屈原の史實を、史記の本傳、及び唐の沈亞之の外傳に依り、更に楚辭の諸篇を合はせ、戰國策を背景に用ひて結撰したもの。

〖懷沙賦〗98クヮイシヤノフ　文章の名。楚の屈原が身を江中に投じて自殺する時に作ったもの。楚辭に收められてゐる。〔史記、屈原傳〕乃作㆓懷沙賦㆒、於㆑是懷㆑石自投㆓汨羅㆒死。〔顧況、酬㆓唐起居前後見㆒㆑寄詩〕欲㆑作㆓懷沙賦㆒、明時恥㆓自沈㆒。

【懷邪】99クヮイジヤ　邪心をいだく。〔後漢書、申屠剛傳〕懷邪之臣、懼然自刻。

【懷尙】100クヮイシヤウ　南齊、蕭昭秀(9－32012‥432)の「字。

【懷襄】101クヮイジヤウ　山をつつみ、陵にのぼる。包圍陵駕。〔書、堯典〕蕩蕩懷㆑山襄㆑陵。〔傳〕懷、包、襄、上也、包㆑山上㆑陵。

【懷讓】102エジヤウ　唐の高僧。全州の杜氏の子。慧能の高弟。號は長春先生。諡は大慧禪師。先天中、南嶽山に住し、南嶽と稱す。天寶の初、示寂す。〔宋高僧傳、九〕。

【懷手】103フトコロデ　手を懷に入れること。轉じて、

何等爲す所のないことをいふ。

【懷手筥】104（フトコロテバコ） 懷中に入れられるやうに造つた、小さい手筥。〔明月記〕寛喜二年正月十五日、置物、以レ錦造二廚子一、以二紫染物一造二手筥二合一置レ之、云二懷手筥一。

【懷叔】105（クワイシユク） 宋、柴瑾（6－14664‥23）の字。

【懷術】106（クワイジユツ） 術策をいだく。手段方法を心にいだくこと。〔後漢書、宦者傳論〕懷レ術糾レ邪。〔晉書、周嵩傳〕君懷レ術以御レ臣。

【懷春】107（クワイシユン） 女子の婚姻を懷ふこと。春に當つて懷ふからいふ。〔詩、召南、野有死麕〕有レ女懷レ春、吉士誘レ之。〔傳〕懷、思也、春、不レ暇レ待秋也。〔箋〕有三貞女思二仲春以レ禮與レ男會一。〔集傳〕懷レ春、當レ春而有レ懷也。〔嚴粲、詩說〕女之懷二昏姻一者、謂二之懷春一。〔陸機、演連珠〕幽居之女、非レ無二懷春之情一。

【懷春鳥】108（クワイシユンテウ） 百舌の異名。〔劉孝綽、詠二百舌一詩〕山人惜二春暮一、旭旦坐二花林一、復值三懷春鳥、枝間弄二好音一。

【懷濬】109（クワイシユン） 唐の高僧。秭歸の人。術數の學に精通した。〔宋高僧傳、十七〕。

【懷松】110（クワイシヨウ） 松下滿太郎の號。松下柳浪（6－14516‥44）を見よ。

【懷心】111（クワイシン） やはらいだ心。〔漢書、禮樂志〕流星耶感二惟風一、籋二歸雲一撫二懷心一。〔注〕師古曰、懷心、懷柔之心也。

【懷身】112（クワイシン） 子をはらむ。みごもる。懷姙。娠。〔左延年、從軍行〕五子遠鬭去、五婦皆懷身。

【懷眞】113（クワイシン） まことをいだく。純眞な心をもつてゐる。〔魏志、王烈傳〕抱レ道懷レ眞。

【懷愼】114（クワイシン） 南齊、崔懷順（4－8178‥222）の一名。

【懷仁】115（クワイジン） ❶心に仁德をいだく。〔後漢書、嚴光傳〕懷レ仁輔レ義、天下悅。❷仁になつき來る。〔禮、禮器〕君子有レ禮、則外諧而內無レ怨、故物無レ不レ懷レ仁、鬼神饗レ德。〔注〕懷、歸也。❸縣名。㋑東魏、置く。漢の贛榆縣の地。江蘇省贛榆縣の西。縣の北の懷仁山によつて名づける。〔讀史方輿紀要、江南、淮安府、海州〕懷仁廢縣、漢贛榆縣地、云云、東魏武定七年、又改置二義塘郡及義塘懷仁等縣一。㋺遼、置く。今、山西省大同縣の西南。〔讀史方輿紀要、山西、大同府〕懷仁縣、唐雲中縣地、遼析二地懷仁縣一。〔清史稿、地理志〕山西、大同府、縣七、懷仁。❹鎭の名。㋑金、置く。山東省德平縣の東南。㋺清、置く。民國、桓仁縣と改む。滿洲遼寧省興京府。㋩山西省楡次縣の西南。❺清、朱山（6－14424‥311）の字。

【懷仁可汗】116（クワイジンカカン） 唐、回紇の酋長。名は骨力裴羅。突厥の故地に居り、後、盡く古の匈奴の地を得た。〔舊唐書、一百九十五〕・〔唐書、二百十七、上〕。

【懷衽】117（クワイジン） ふところ。懷袵に同じ。〔戰國、秦策〕出二其父母懷衽之中一、生未二嘗見レ寇也、聞レ戰頓足徒裼、犯二白刃一蹈二煨炭一、斷二死於前一者是也。〔韓非子、初見秦〕出二其父母懷衽之中一、生未二嘗見レ寇耳。〔新書、宗首〕大國之王、幼在二懷衽一。〔後漢書、清河孝王慶傳〕承二訓懷衽一。

【懷袵】118（クワイジン） ふところ。懷衽。〔韓非子、六反〕此俱出二父母之懷袵一、然男子受レ賀、女子殺レ之者、慮二其後使一、計二之長利一也。〔說苑、正諫〕姪娣不レ離二懷袵一、非レ文也。

【懷粹】119（クワイスイ） 清、邵志純（11－39343‥112）の字。

【懷生】120（クワイセイ） ❶生業にやすんずる。業に安んじて去らない。〔左氏、僖、二十七〕於レ是乎出定二襄王一、入務レ利レ民、民懷レ生矣。〔疏〕民懷レ生者、謂有二懷レ義之心一、不二復苟且一、劉炫云、生既厚、民皆懷二戀居處一。〔會箋〕懷、安也、懷戀不レ遷之意、云云、是以安二其生業一、不三敢輕去二其鄕一也。❷生氣をふくむ。懷生類を見よ。〔漢書、司馬相如傳下〕懷生之物、有下不三浸二潤於澤一者上、賢君恥レ之。

【懷生類】121（クワイセイルイ） 生氣を懷くもの。生物をいふ。〔司馬相如、封禪文〕懷生之類、霑濡浸潤。〔注〕善曰、懷二生氣一之類、皆被二恩澤一。〔韓愈、賀レ册二尊號一表〕環海之閒、懷生之類、歡欣踊躍、以歌以舞。

【懷西】122（クワイセイ） 清、周鎬（2－3441‥61）の字。

【懷清】123（クワイセイ） 清、曾鉌（5－14299‥36）の字。

【懷清臺】124（クワイセイダイ） 臺の名。秦の始皇が、蜀の寡婦清の貞節を表彰するために築いた臺。〔史記、貨殖傳〕巴蜀寡婦清、其先得二丹穴一、而擅二其利一數世、家亦不レ訾、清、寡婦也、能守二其業一、用財自衞、不レ見二侵犯一、秦始皇以爲二貞婦一而客レ之、爲築二女懷清臺一。

【懷清堂】125（クワイセイダウ） 清、湯右曾（7－17874‥147）の室名。

【懷清堂集】126（クワイセイダウシフ） 書名。二十卷。清、湯右曾撰。專ら著者の詩文を蒐める。浙中の詩を稱する者、朱彝尊の後は卽ち右曾を推す。〔四庫提要、集、別集類〕。

【懷石】127（クワイセキ） ❶石をいだく。〔史記、屈原傳〕懷レ石遂自投二汨羅一而死。❷佛禪家で齋以後の食事をいふ。❸茶席で供する簡單な料理。

【懷戚】128（クワイセキ） 懷慼に同じ。〔逸周書、小明武解〕懷レ戚思レ終、左右憤勇。

【懷慼】129（クワイセキ） おもひかなしむ。〔晉書、殷仲堪傳〕使下足踐二晉境一者、必無二懷慼之心一、枯槁之類、莫レ不三同漸二天潤一、云云、德心與二功業一俱隆上。

【懷折】129′（クワイセツ） 夭折した者をかなしみ思ふ。〔漢書、敍傳下〕懷レ折亡レ嗣、孝乃尊光。〔注〕師古曰、懷折、謂レ夭也。

【懷泉】130（クワイセン） 明、顧炳（12－43689‥178）の號。

【懷甎】131（クワイセン） かはらをふところにする。輕薄の意。懷甎之俗を見よ。

【懷甎之俗】132（クワイセンノゾク） 輕薄で向背の速かな風俗。齊土の風俗は淺薄で、太守が始めて來ると瓦を懷（フトコロ）にし首を叩いて他意無きことを示すが、太守が罷めて家に歸れば瓦を取出して打つといふ故事。〔洛陽伽藍記、二〕〔李延實〕除二青州刺史一、臨レ去奉レ辭、帝謂レ實曰、懷甎之俗、世號レ難レ治、舅宜二好用レ心、云云、時黃門侍郎楊寬在二帝側一、不レ曉二懷甎之義一、私問二舍人溫子昇一、子昇曰、云云、齊土之民、風俗淺薄、云云、大守初欲レ入レ境、皆懷レ甎叩レ首、以美二其意一、及二其代下還レ家、以レ甎擊レ之、言三其向背速二於反レ掌。

【懷錢】133（クワイセン） ❶ぜにをふところにする。〔韓非子、外儲說右上〕令下孺子懷レ錢挈二壺甕一而往酤上。〔史記、滑稽傳〕王先生徒懷レ錢、沽レ酒與二衞卒僕射一飮。❷（フトコロゼニ） 懷中してゐる小遣錢。

【懷祖】134（クワイソ） ❶先祖を思ふ。念祖。〔杜篤、論都賦〕悽然有二懷レ祖之思一。❷字號。㋑晉、王述（7－20823‥564）の字。㋺清、王念孫（7－20823‥2006）の字。

【懷素】135（クワイソ） ❶唐の高僧。長沙の錢氏の子。字は藏眞。玄奘の弟子。草書に巧。著に草書千字文がある。其の菴を綠天といふ。〔宋高僧傳、十四〕。❷字號。㋑後魏、李寶（6－14459‥660）の字。㋺北齊、魏質（12－45872‥70）の字。

【懷組】136（クワイソ） 印綬を懷にする。〔蘇轍、林積知福州告詞〕懷レ組而歸。

【懷胎】137（クワイタイ） はらむ。懷姙。懷孕。

【懷帶】138（クワイタイ） 科擧の受驗者が參考書などの禁制品をひそかに試驗場に持參すること。懷挾。〔清會典事例、禮部、貢擧〕諭、科場懷挾之弊、例禁甚嚴、今鄉試在レ邇、聞丙得外閒不肖士子故智復萌、豫先賃下倩繕二寫細字一之人上、鈔二錄文藝一爲乙入場夾帶之具甲。

【懷刀】139（クワイタウ） ❶刀をふところにする。〔魏志、許褚傳〕伺二褚休下日一、他等懷レ刀入。❷（フトコロガタナ） ㋑懷中する小さい守刀。㋺常に祕密の計畫に與る近臣などの稱。

【懷嶋】140（ホトコロシマ） 姓氏。〔姓名錄抄〕。

【懷道】142（クワイダウ） 道德を心にいだく。抱道。〔淮南子、覽冥訓〕懷レ道不レ言。

【懷澤】143（クワイタク） 縣名。梁・陳の時、置く。吳、懷安縣の地。廣西省貴縣の南。〔讀史方輿紀要、廣西、潯州府、貴縣〕懷澤廢縣、漢廣鬱縣地、三國吳、析二置懷安縣一、屬二鬱林郡一、云云、梁曰二懷澤縣一、仍屬二鬱林郡一。

【懷恥】144（クワイチ） はぢをいだく。〔嵇康、幽憤詩〕大人含弘、藏レ垢懷レ恥。

【懷暢】145 huai^2 ch'ang^4 うちくつろぐ。

【懷中】146（クワイチユウ） ❶ふところのうち。〔史記、扁鵲傳〕出二其懷中藥一予二扁鵲一。〔南史、任昉傳〕其一鈴落入二懷中一。〔黃山谷、絕句詩〕半篙春水一蓑煙、抱二月懷中一枕レ斗眠。❷懷に入れる。❸かねいれ。かみいれ。

【懷中時計】147（クワイチユウドケイ） ふところに入れて携帶する時計。〔和漢三才圖會、藝器、自鳴鐘〕然近頃有二時鳴鐘一以來、無レ如レ之者、而俗名二時計一、有二樓時計一、有二懷中時計一、有二鈎時計一、皆中機如二車

輪一者刻齒多相接、機轉運旋、用レ鐵作レ之、名ニ世牟末伊一、是乃旋機之根也。

【懷忠】148 クワイチユウ 宋、汪待擧（6－17154‥287）の字。

【懷寵】149 クワイチヨウ ❶君の恩愛を慕ひ、去るべき時にも去らないこと。〔左氏、昭、十二〕或譖ニ成虎於楚子一、成虎知レ之、而不レ能レ行、書曰ニ楚殺ニ其大夫成虎一、懷レ寵也。❷呂氏春秋、孟秋紀の篇名。

【懷寵尸位】150 クワイチヨウシヰ 君の寵を恃み、退くべき時に退かないで、位をぬすむこと。〔孝經、諫諍章、臣不レ可ニ以不レ爭ニ於君一、孔傳〕事レ君之禮、値レ有ニ其非一、則必犯ニ嚴顏一、以レ道諫爭、而三諫不レ納、則奉レ身以退、有ニ匡正忠一、無ニ阿順從一、良臣節也、若乃見レ可レ諫而不レ諫、曰ニ之尸位一、見レ可レ退而不レ退、曰ニ之懷寵一。

【懷帝】151 クワイテイ 西晉、第三代の皇帝。司馬熾（2－3257‥265）を見よ。

【懷庭】152 クワイテイ 清、閻循觀（11－41379‥82）の字。

〖懷庭先生〗153 クワイテイセンセイ 清、沈三曾（6－17189‥511）の尊稱。

【懷敵】154 クワイテキ 敵をなづけること。〔漢書、食貨志上〕懷レ敵附レ遠。

【懷哲】155 クワイテツ 北齊、辛術（10－38630‥39）の字。

【懷嗔】156 クワイテン いかりをいだく。〔福惠全書、蒞任部、待紳士〕一念懷レ嗔、可レ使ニ展禽作一レ跖。

【懷都】157 クワイト 元の人。阿朮魯の孫。至元中、南、江を渡り、無錫に宋兵を殲滅した。官は鎭國上將軍・行省參知政事。〔元史、一百三十一〕。

【懷土】158 クワイド ❶安樂な居所を思ふ。又、居ついた場所に安んずる。〔論語、里仁〕君子懷レ德、小人懷レ土。〔集解〕孔安國曰、重レ遷。〔疏〕小人安安而不レ能レ遷者、難ニ於遷徙一、是安ニ於土一也。〔集注〕懷レ土、謂レ溺ニ其所レ處之安一。❷故鄕を慕ひ思ふ。〔漢書、敍傳上〕寤ニ戍卒之言一、斷ニ懷土之情一。〔後漢書、王景傳〕動ニ懷土之心一。〔張協、七命〕羇旅懷レ土之徒。〔注〕向曰、懷レ土、謂レ思レ歸也。〔陸機、懷土賦序〕余去レ家漸久、懷レ土彌篤、方思之殷、何物不レ感、曲街委巷、罔レ不ニ興詠一、水泉草木、咸足レ悲焉、故述ニ斯賦一。

【懷土蟲】159 クワイドチユウ 蝦蟆をいふ。〔韻府引、洪駒父、詩〕人言懷土蟲、棄去俄復在。〔注〕蝦蟆也。

【懷東】160 クワイトウ 明、顧存仁（12－43689‥313）の號。

【懷頭】161 huai^2 t'ou^2 栓。ふさぐ物。塞子。

【懷德】162 クワイトク ❶德をしたふ。又、德を常に念頭に置くこと。〔詩、大雅、板〕懷レ德維寧、宗子維城。〔左氏、僖、五〕詩云、懷レ德惟寧、宗子惟城。〔論語、里仁〕君子懷レ德、小人懷レ土、君子懷レ刑、小人懷レ惠。〔集解〕孔安國曰、懷、安也。〔疏〕君子執レ德不レ移、是安ニ於德一也。〔集注〕懷レ德、謂レ存ニ其固有之善一。〔史記、劉敬傳〕慕レ義懷レ德。〔漢書、五行志下之下〕諸侯懷レ德、士民歸レ仁。❷縣名。㋑漢、置く。後漢、省く。陝西省富平縣の西南。〔讀史方輿紀要、陝西、西安府、富平縣、義亭城〕懷德城、漢縣也、志云、縣舊治在ニ今朝邑縣界一。㋺晉、置く。江蘇省江寧縣の北。〔讀史方輿紀要、江南、江寧府、江寧縣〕懷德城、晉元帝初、封ニ琅邪王一、其國人僑ニ寓江南一者、近ニ千戶一、大興三年、因立ニ懷德縣一、尋廢、實錄云、懷德縣、舊置ニ於宮城南七里一、後改爲ニ費縣一、移ニ於宮城西北三里一。㋩南朝宋、置く。今、江蘇省六合縣の西。〔讀史方輿紀要、江南、江寧府、六合縣〕懷德城、宋志、大明五年立、又以ニ歷陽之烏江幷二縣一、立ニ臨江郡一、懷德縣屬焉。㋥後魏、置く。河南省確山縣の地。㋭後魏、置く。今、缺く。安徽省の境。㋬隋、置く。廣東省信宜縣の東北の威化鄕。〔讀史方輿紀要、廣東、高州府、信宜縣〕懷德廢縣、隋平レ陳、郡廢縣屬ニ瀧州一、開皇十八年、改曰ニ懷德縣一。㋣遼、置く。滿洲遼寧省遼陽縣の西南。㋠清、置く。滿洲遼寧省雙山縣の東北。〔清史稿、地理志〕奉天、昌圖府、縣三、懷德。

【懷慝】163 クワイトク 惡心を抱く。〔魏志、武帝紀〕吏無ニ苛政一、民無レ懷レ慝。

【懷囊】164 クワイナウ つつみいれる。囊括。〔淮南子、原道訓〕懷ニ囊天地一、爲ニ道關門一。

【懷納】165 クワイナフ なつけをさめる。〔後漢書、南匈奴傳〕單于乃畔、光武受レ命、復懷ニ納之一。

【懷南】166 クワイナン 鷓鴣の別名。〔禽經〕隋陽越雉、鷓鴣也、飛必南翥、晉安曰ニ懷南一、江左曰ニ逐隱一。〔注〕其志懷レ南、不ニ北徂一也。

【懷任】167 クワイニン いだく。ふところに保つ。〔漢書、外戚下、孝成許皇后傳〕無ニ能懷任保全者一。〔白虎通、天地〕言下養ニ萬物一、懷中任交易變化上也。

【懷妊】168 クワイニン 子をはらむ。又、みおも。みごもり。妊娠。懷孕。〔釋名、釋天〕壬、妊也、陰陽交、物懷妊也。〔晉書、何曾傳〕以ニ懷妊一繫レ獄。

【懷姙】169 クワイニン 懷妊に同じ。〔漢書、五行志下之下〕將レ有下害ニ懷姙一、絕ニ繼嗣一者上。〔後漢書、章帝紀〕今諸懷姙者、賜ニ胎養穀一人三斛。

【懷妊】170 クワイニン 懷妊に同じ。〔後漢書、哀牢夷傳〕懷妊十月、產ニ子男十人一。

【懷寧】171 クワイネイ 縣名。❶晉、置く。漢、皖縣の地。安徽省の省會。縣城は長江の北岸、吳楚の腰膂に當り、江防の要地。清、光緒二十八年、英國との通商行船條約により開放さる。〔讀史方輿紀要、江南、安慶府〕懷寧縣、府郭漢皖縣地、屬ニ廬江郡一、三國吳爲ニ皖城一、晉義熙中、改置ニ懷寧縣一、爲ニ晉熙郡治一、宋以後因レ之。〔清史稿、地理志〕安徽、安慶府、縣六、懷寧。❷南齊、置く。今、缺く。湖北省の境。❸金、置く。陝西省清澗縣の北。〔讀史方輿紀要、陝西、延安府、清澗縣〕懷寧廢縣、縣北七十里、本宋之懷寧寨、金初因レ之、尋置爲レ縣、元以ニ綏平縣一省入、尋又省入ニ青澗縣一。

〖懷寧王〗172 クワイネイワウ 元、武宗（6－16273‥259）を見よ。

【懷念】173 クワイネン ❶おもふ。なつかしく思ふ。考へる。❷縣名。晉、置く。安徽省潛山縣。

【懷方】174 クワイハウ 周官の名。夏官の屬。四方の民をなづけ其の貢物を致すを掌る。〔周禮、夏官、懷方氏〕掌下來ニ遠方之民一、致ニ方貢一、致中遠物上。

【懷邦】175 クワイハウ 金、李三錫（6－14459‥1264）の字。

【懷抱】176 クワイハウ ❶ふところ。又、ふところにいだく。抱く。〔詩、小雅、蓼莪、出入腹レ我、箋〕腹、懷抱也。〔後漢書、陳忠傳〕夫父母於レ子、同氣異息、一體而分、三年乃免ニ于懷抱一。〔後漢書、曹褒傳〕寢則懷ニ抱筆札一。〔潘岳、寡婦賦〕鞠ニ稚子于懷抱一兮。❷おもひかんがへてゐる。又、心中の見識。こころ。心中。〔謝靈運、齋中讀レ書詩〕懷抱觀ニ古今一、寢食展ニ戲謔一。〔沈約、齊故安陸昭王碑文〕龕レ世拯レ亂之情、獨用懷抱。〔曹鄴、翠孤至ニ渚宮一寄ニ座主相公一詩〕骨肉盡單羸、沈憂滿ニ懷抱一。〔李白、五松山贈ニ南陵常贊府一詩〕遠客投ニ名賢一、眞堪寫ニ懷抱一。

【懷緥】177 クワイハウ ふところとむつき。轉じて、小兒を介抱すること。又、介抱される幼少の頃をいふ。〔韓愈・孟郊、城南聯句〕爵勳逮ニ僮隸一、簪笏自ニ懷緥一。

【懷寶】178 クワイハウ ❶たからをいだく。才を抱いて用ひられない。〔論語、陽貨〕懷ニ其寶一而迷ニ其邦一、可レ謂レ仁乎。〔王褒、四子講德論〕幸遭ニ聖主平世一、而久懷レ寶。〔魏志、文昭甄皇后傳〕今世亂而多買ニ寶物一、匹夫無レ罪、懷レ寶爲レ罪。〔陳子昂、府君有周文林郎陳公墓誌〕鳳兮鳳兮、誰能象兮、嗚呼我君、懷レ寶不レ試、孰知ニ其深廣一兮。❷字號。㋑北齊、段琛（6－16619‥43）の字。㋺宋、趙元亨（10－37171‥512）の字。

【懷範】179 クワイハン 梁、王訓（7－20823‥314）の字。

【懷被】180 クワイヒ したひつく。〔後漢書、劉虞傳〕虞以ニ恩厚一得レ衆、懷ニ被北州一。

【懷冰】181 クワイヒヨウ ❶氷を懷く。清高な喩。〔陸機、漢高祖功臣頌〕心若レ懷レ冰。〔注〕善曰、應劭風俗通曰、言三人清高如ニ冰之潔一。❷凍らせた羹の御馳走をいだくこと。〔天祿閣外史〕韓王暑而求ニ凍饌一、世子以ニ私財一作ニ冰室一、取ニ羹饌一而藏レ之、既凍乃進ニ於王一、韓王悅、爲レ之賦ニ懷冰一。

【懷附】182 クワイフ なつきつく。〔後漢書、竇融傳〕國富政修、士兵懷附。〔吳志、黃蓋傳〕山越懷附。〔曹植、王仲宣誄〕思レ榮懷附、望ニ彼來一威。

【懷撫】183 クワイブ なつけ安んずる。〔後漢書、种暠傳〕誠心懷撫、信賞分明。

【懷風】184 クワイフウ ❶風を懷にする。陳の後主、孔貴嬪の琵琶の名。〔王融、琵琶詩〕抱月如レ可レ明、懷風殊復清。〔烟花記〕陳後主孔貴嬪琵琶名ニ懷風一。❷うまごやしの異名。〔西京雜記、一〕苜蓿一名懷風、云云、茂陵人謂ニ之連枝草一。

〖懷風藻〗185 クワイフウサウ 書名。一卷。撰者未詳。一說に、淡海三船撰といふ。我が國最初の漢詩集。天平勝寶三年頃に成り、近江・奈良朝の我が國人の詩を年代順に配列したもの。

〖懷風館主人〗186 クワイフウクワンシユジン 關襲の號。關赤城

（11－41470・・247）を見よ。

【懷服】187（クヮイフク） なつき服する。〔左氏、襄、二十八〕小國不ㇾ困、懷服如ㇾ歸。〔漢書、西域上、罽賓國傳〕終不ㇾ可㆓懷服㆒。〔北史、魏思帝紀〕政崇㆓寬簡㆒、百姓懷服。

【懷憤】188（クヮイフン） いきどほりの心を抱く。〔後漢書、吳祐等傳論〕發言烝烝、似㆓夫儒者㆒而懷憤激揚、折㆓讓權枉㆒、又何壯也。

【懷文】189（クヮイブン） ㊀縣名。東魏、置く。漢、厚邱縣の地。江蘇省沭陽縣。〔讀史方輿紀要、江南、淮安府〕沭陽縣、漢東海郡厚邱縣地、云云、東魏改爲㆓沭陽郡㆒、兼置㆓懷文縣㆒。㊁字號。㋑梁、韋叡（12－43108・・10）の字。㋺北周、周惠達（2－3441・・628）の字。

【懷丙】190（クヮイヘイ） 宋の高僧。眞定の人。天性、巧思あり。〔新續高僧傳、六十〕。

【懷璧】191（クヮイヘキ） 懷玉（44）に同じ。〔左氏、桓、十〕匹夫無ㇾ罪、懷ㇾ璧其罪。〔注〕人利㆓其璧㆒、以ㇾ璧爲ㇾ罪。〔左氏、襄、十五〕小人懷ㇾ璧、不ㇾ可㆓以越ㇾ鄕。〔魏志、華歆傳〕懷ㇾ璧爲ㇾ罪。

【懷保】192（クヮイホ） なつけたもつ。〔書、無逸〕文王云云、懷㆓保小民㆒、惠㆓鮮鰥寡㆒。〔班固、典引〕懷㆓保鰥寡㆒。

【懷慕】193（クヮイボ） おもひしたふ。思慕。〔王粲、贈㆓蔡子篤㆒詩〕慨我懷慕、君子所ㇾ同。

【懷樸】194（クヮイボク） 素樸の心をいだく。〔漢書、禮樂志〕抱ㇾ素懷ㇾ樸。〔老子、十九〕見ㇾ素抱ㇾ樸。

【懷民】195（クヮイミン） たみをなつける。〔漢書、敍傳下〕割㆓據河山㆒、保ㇾ此懷ㇾ民。

【懷緬】196（クヮイメン） おもふ心。緬懷。〔杜甫、故祕書少監武功蘇公源明詩〕反爲㆓後輩褻㆒、予實苦懷緬。

【懷羊】197（クヮイヤウ） 草の名。よろひぐさ。香草。〔爾雅、釋草〕蘹、懷羊。〔張衡、西京賦〕戎葵懷羊。〔注〕善曰、爾雅曰、蘹、懷羊、郭璞曰、未ㇾ詳。

【懷孕】198（クヮイヨウ） はらむ。懷妊。〔後漢書、吳祐傳〕妻遂懷孕。

【懷來】199（クヮイライ） ㊀慕ひ來る。又、慕ひ來らしめる。〔新語、道基〕懷㆓來萬邦㆒。〔司馬相如、難㆓蜀父老㆒文〕喪㆔其所㆓懷來㆒、失㆔厥所㆓以進㆒。㊁諸侯をなつけ、百工を來らしめる。〔中庸〕凡爲㆓天下國家㆒有㆓九經㆒、云云、來㆓百工㆒也、柔㆓遠人㆒也、懷㆓諸侯㆒也。㊂縣名。遼、置く。察哈爾省宣化縣の東南。嬀河の南岸。平綏鐵路の沿線。〔讀史方輿紀要、直隸、萬全都指揮使司、延慶右衞〕廢潘縣、云云、聖歷初、突厥寇㆓清夸軍㆒、卽此、契丹得㆓其地㆒、改曰㆓懷來縣㆒。〔清史稿、地理志〕直隸、宣化府、縣七、懷來。

【懷樂】200（クヮイラク） なつきたのしむ。〔戰國、秦策〕天下懷樂敬愛、願㆔以爲㆓君王㆒、不㆓辨智之期㆒與。〔管子、立政〕懷㆓樂家室㆒。〔史記、蔡澤傳〕天下懷樂、敬愛而尊㆓慕之㆒。

【懷裏】201（クヮイリ） ふところの中。〔桃花扇、民香〕五更懷裏囀㆓歌喉㆒。

【懷糧】202（クヮイリヤウ） 食物をふところにする。食料を用意する。〔後漢書、皇甫規傳〕吏託ㇾ報㆓將之怨㆒、云云、懷ㇾ糧步走。〔魏志、陳思王植傳、注〕夫妻負ㇾ鋤、子弟懷ㇾ糧。

【懷陵】203（クヮイリヨウ） 陵の名。㊀後漢、冲帝の陵。河南省洛陽縣の東北。〔後漢書、質帝紀〕永嘉元年、春正月己未、葬㆓孝冲皇帝於懷陵㆒。〔注〕在㆓洛陽西北十五里㆒、伏侯古今注曰、高四丈六尺、周百八十三步。〔河南通志〕懷陵、在㆓河南府城東北十五里㆒。㊁遼、太宗の陵。遼の懷州の南。今の滿洲遼寧省境に當るが、その所在は未詳。〔遼史、太宗紀下〕大同元年、是歲九月壬子朔、葬㆓於鳳山㆒、陵曰㆓懷陵㆒。〔遼史、營衞志上〕太宗陵寢、在㆓懷州南三十里㆒。

【懷璉】204（クヮイレン） 宋の僧。龍溪の陳氏の子。皇祐中、召對旨に稱ひ、號を大覺と賜はり、淨圓院に住し、治平中、江を渡つて四明に入つたところ、郡守は迎へて大閣を建て、榜して宸奎といつた。

【懷戀】205（クヮイレン） おもひ戀ふ。〔曹植、與㆓吳季重㆒書〕懷戀反側、何如何如。

【懷魯】206（クヮイロ） 明、成洙（5－11544・・151）の字。

【懷爐】207（クヮイロ） ふところに入れて携帶する防寒用の火いれ。

〔懷爐灰〕208（クヮイロバヒ） 懷爐に入れる炭。

【懷祿】209（クヮイロク） 俸祿をおもひ戀ふ。〔漢書、王貢兩龔鮑傳贊〕將相名臣、懷ㇾ祿耽ㇾ寵、以失㆓其世㆒者多矣。〔漢書、敍傳下〕懷ㇾ祿耽ㇾ寵。〔楊惲、報㆓孫會宗㆒書〕懷ㇾ祿貪ㇾ勢、不ㇾ能㆓自退㆒。〔晉書、庾峻傳〕可ㇾ聽㆓七十致仕㆒、則士無㆓懷祿之嫌㆒矣。

【懷王】210（クヮイワウ） 唐、史朝義（2－3249・・249）の封號。

【介ㇾ懷】211（オモヒニカイス） 心にかける。〔南史、張盾傳〕生資皆盡、不㆓以介㆒ㇾ懷。

【愜ㇾ懷】212（オモヒニカナフ） 思ひ通りになる。心に滿足する。〔紅樓夢、十六回〕未ㇾ免ㇾ有㆓國體儀制㆒、母女尚不ㇾ能ㇾ愜ㇾ懷。

【舒ㇾ懷】213（オモヒヲノブ） おもひをのべる。〔文心雕龍、養氣〕意得則舒ㇾ懷、以命ㇾ筆。

【懷煙閣】214（クヮイエンカク） 清、陸愚卿（11－41708・・296）の室名。

【懷應聘】215（クヮイオウヘイ） 清、秀水の人。字は莘皋。號は冰齋。諸生。著に冰齋文集がある。〔四庫提要、一百八十四〕。

【懷葛堂】216（クヮイカツダウ） 清、梁份（6－14825・・169）の室名。

【懷鬼胎】217 huai^2 kuei^3 tʻai^1 びくびくして氣をまはす。

【懷鏡兒】218 huai^2 ching^4 êrh 懷中鏡。

【懷響齋】219（クヮイキヤウサイ） 明、周永年（2－3441・・546）の號。

【懷寓堂】220（クヮイグウダウ） 清、高佑釲（12－45313・・1044）の室名。

【懷思王】221（クヮイシワウ） 唐、李敏（6－14459・・695）の封謚號。

【懷謝軒】222（クヮイシヤケン） 明、沈泓（6－17189・・410）の室名。

【懷新堂】223（クヮイシンダウ） 清、賈履上（10－36755・・213）の室名。

【懷青樓】224（クヮイセイロウ） 清、魏學渠（12－45872・・172）の室名。

【懷星堂】225（クヮイセイダウ） 明、祝允明（8－24672・・125）の室名。

〔懷星堂集〕226（クヮイセイダウシフ） 書名。三十卷。明、祝允明撰。專ら著者の詩文を蒐めたもの。〔四庫提要、集、別集類〕。

【懷節后】227（クヮイセツコウ） 遼、蕭后（9－32012・・117）の謚。

【懷蘇亭】228（クヮイソテイ） 宋、賈收（10－36755・・68）の室名。

【懷塔布】229（クヮイタフフ） 清の人。瑞麟の子。字は紹先。號は愚園。謚は恪勤。官は禮部尚書。後、理藩院尚書。拳匪の亂に殉じた。〔清史稿、三百九十四〕・〔清史列傳、五十八〕。

【懷坡閣】230（クヮイハカク） 閣の名。宋の李仲覽、築く。東坡の像を其の上に畫く。湖北省陽新縣の東。〔湖廣通志、武昌府〕懷坡閣、在㆓興國州㆒、治㆓東瀕湖㆒、宗元豐間、蘇軾自ㇾ黃來訪、李仲覽留㆓其家㆒久ㇾ之、仲覽登第後、瞰ㇾ湖築ㇾ室、號㆓懷坡閣㆒、畫㆓東坡像於其上㆒、王十朋過ㇾ之、爲賦㆓懷坡詩㆒。

【懷芳閣】231（クヮイハウカク） 清、楊傳棨（6－15112・・725）の室名。

【懷芳記】232（クヮイハウキ） 書名。一卷。清、蘿摩庵老人撰。俳優の事蹟品評を記したもの。〔古今說部叢書〕・〔香艷叢書〕。

【懷夢草】233（クヮイムサウ） 草の名。蒲に似て色は紅。其の葉を懷いて寢れば、夢の吉凶必ず驗ありといふ。〔洞冥記、三〕有㆓夢草㆒、似ㇾ蒲色紅、晝縮入ㇾ地、夜則出、亦名㆓懷夢㆒、懷㆓其葉㆒、則知㆓夢之吉凶㆒、立驗也、帝思㆓李夫人之容㆒、不ㇾ可ㇾ得、（東方朔乃獻㆓一枝㆒、帝懷ㇾ之、夜果夢㆓夫人㆒、因改曰㆓懷夢草㆒。

【懷陸館】234（クヮイリククヮン） 明、陳文燭（11－41698・・1234）の室名。

【懷麓堂】235（クヮイロクダウ） 明、李東陽（6－14459・・1810）の室名。

【懷麓堂集】236（クヮイロクダウシフ） 書名。一百卷。明、李東陽撰。凡て詩稾二十卷、文稾三十卷、詩後稾十卷、文後稾三十卷、雜稾十卷。其の目は、詩稿は五部に分つ。一、日部二卷、古樂府。二、月部五卷、長短句・五言古詩。三、光部四卷、七言古詩・五言律詩・五言排律・七言律詩。四、天部四卷、七言律。五、德部五卷、七言律詩・七言排律・五言絕句・六言絕句・七言絕句詞曲。文稿は五部に分つ。一、山部六卷、賦・序。二、河部六卷、序・記。三、壯部五卷、記・論・書・手簡・傳・雜著。四、帝部六卷、雜著・策問・頌・表・狀疏箴・銘・引・贊・題・跋・誄・祭文・哀詞・行狀。五、居部七卷、

墓表・碑銘・誌銘。詩後稿は二部に分つ。一、太部五卷、古樂府・長短句・五言古詩・七言古詩・五言律詩・五言排律・七言律詩。二、平部五卷、七言律詩・七言排律・五言絶句・七言絶句。文後稿は五部に分つ。一、無部六卷・賦・序・記。二、以部六卷、記・表・凡例・書・傳・説・雜著・策問。三、報部七卷、贊・題・銘・箴・跋・祭文・墓表・碑銘。四、願部五卷、碑銘・誌銘。五、上部六卷、誌銘。雜稿は三部に分つ。一、萬部三卷、南行錄・北上錄。二、年部五卷、講讀錄・東祀錄・集句錄・哭子錄。三、書部二卷、求退錄・詩話。〔四庫提要、集、別集類〕。

【懷麓堂詩話】237（クヮイロクダウシワ）　書名。一卷。明、李東陽撰。詩を論じ、法度音調を主とし、剽竊摹擬の非を極論したもの。〔四庫提要、集、詩文評類〕。

【懷懿太子】238（クヮイイタイシ）　唐、李湊(**6－14459**・・538)の追諡。

【懷慰山房】239（クヮイヰサンバウ）　明、梁橋(**6－14825**・・72)の室名。

【懷葛山人】240（クヮイカツサンジン）　明、郭蘇(**11－39474**・・154)の號。

【懷峴居士】241（クヮイケンコジ）　宋、曾恩(**5－14299**・・17)の號。

【懷信可汗】242（クヮイシンカカン）　唐代回鶻の可汗。名は骨咄祿。貞元十一年奉誠可汗の後を受けて可汗となり、永貞元年歿す。〔唐書、二百十七上〕・〔舊唐書、一百九十五〕。

【懷青山館】243（クヮイセイサンクヮン）　清、馬壽齡(**12－44572**・・818)の室名。

【懷往事談】244（クヮイワウジダン）　書名。一卷。福地源一郎撰。平生の出所進退を敍したもの。

【取㆑懷而予】245（フトコロニトツテアタフ）　ふところから取り出して與へる。〔左氏、宣、十二〕吾儕小人、所謂取㆓諸其懷㆒而與㆑之也。

【從㆑懷如㆑流】246（オモヒニシタガフコトナガルルガゴトシ）　心の思ふままに行つて、何等の制裁もないこと。〔國語、晉語四〕管敬仲曰、畏㆑威如㆑疾、民之上也、從㆑懷如㆑流、民之下也、見㆑懷思㆑威、民之中也。〔注〕從㆓心所㆑思、如㆓水流行㆒。

【⿰忄嶲】11457　ケイ　⿰忄巂(**4－11490**)に同じ。〔字彙〕⿰忄嶲、同㆑⿰忄巂。

【⿰忄葢】11458　カイ　ガイ　〔集韻〕下介切　卦

はかる。〔集韻〕⿰忄葢、忖度也。

【⿳㓞豕心】11459　カイ　ガイ　〔集韻〕下介切　卦

㊀**うらむ**。〔集韻〕⿳㓞豕心、博雅、悵也。㊁**したふ**。〔集韻〕⿳㓞豕心、一曰、傾㆑心也。㊂**おもひきりがよい**。〔集韻〕⿳㓞豕心、果敢也。

參考　字形、玉篇で⿳㓞豕心に作るは誤。

【㦕】11460

🈩ロウ　ル　〔集韻〕魯孔切　董

🈔ロウ　ル　〔集韻〕盧貢切　送

🈪ロウ　ル　〔集韻〕盧東切　東

🈩🈔🈪㦕悷は、もとる。〔集韻〕㦕、㦕悷、很也。〔集韻〕㦕、㦕悷、性很。〔集韻〕㦕、㦕悷、多惡也。

【⿱龍心】11461　ロウ　ル　〔集韻〕盧東切　東

⿱龍心忽は、あわてるさま。〔集韻〕⿱龍心、⿱龍心忽、遽皃。

【懸】11462　ケン　ゲン　〔集韻〕胡涓切　ㄒㄩㄢˊ　hsüan²　先

㊀**かける**。㋑つりさげる。〔正字通〕懸、掛也。〔孟子、公孫丑上〕猶㆑解㆓倒懸㆒也。〔後漢書、費長房傳〕以㆓朽索㆒懸㆓萬斤石于心上㆒。〔古今法書苑〕懸腕者、懸㆓著空中㆒而書㆑之。㋺かかげる。かかげしめす。〔易、繫辭上〕懸象著明、莫㆑大㆓於日月㆒。㋩とめる。離れた所にとめておく。〔後漢書、皇甫規傳〕懸㆑師之費、且㆓百億計㆒。〔注〕懸、猶㆑停也。㊁**かかる**。ぶらさがる。宙にかかる。〔梁簡文帝、藉田賦〕地廣重畦淨、林芳翠幕懸。〔李白、月照㆓寒泉㆒賦〕素波洞出、孤影孤懸。㊂**へだたる**。かけはなれる。〔馬融、論㆓日食㆒疏〕優劣相懸。〔晉書、蔡謨傳〕階級殊懸。㊃**とほい**。はるか。〔南史、陸厥傳〕一人之思、遲速天懸。〔梁簡文帝、南郊頌序〕飛梁邃宇、洞爛穴懸。㊄**むなしい**。むなしく。〔庾信、擬㆓詠懷㆒詩〕遙看㆓塞北雲㆒、懸想㆓關山雪㆒。㊅**かかりゆれる**。おちつかない。〔素問、通評虛實論〕脉懸小者何如。〔注〕懸、謂㆑如㆓懸物之動㆒也。㊆**かねかけ**。〔馬融、長笛賦〕磬襄弛㆑縣。〔注〕善曰、縣、鐘格也。㊇**けす**。〔太玄經、進〕日飛懸㆑陰。〔注〕懸、消也。㊈縣(**8－27784**)に同じ。〔集韻〕縣、説文、繫也、或从㆑心。〔正字通〕懸、古作㆑縣、俗加㆑心。〔漢書、高帝紀下、縣㆓隔千里㆒、注〕師古曰、此本古之縣字耳、後人轉用爲㆓州縣字㆒、乃更加㆑心以別㆑之。

名乘　トホ。

參考　熟語は縣(**8－27784**)を併せ見よ。

【懸案】1（ケンアン）　以前からひつかかつてゐる議事の問題。未決で殘つてゐる議案。

【懸縊】2（ケンイ）　かかりくびること。

【懸疣】3（ケンイウ）　さがりこぶ。轉じて、むだなもの。縣疣(**8－27784**・・2)に同じ。

【懸飲】4（ケンイン）　病氣の名。痰飲の一種。飲(**12－44063**)の字解を見よ。

【懸景】5（ケンエイ）　日をいふ。太陽。又、月をいふ。〔曹植、朔風詩〕四氣代謝、懸景運周。〔注〕翰曰、懸景、日也。〔陸機、演連珠〕懸景東秀。〔注〕善曰、飛轡懸景、皆謂㆑日也、向曰、懸景、月也。

【懸甕】6（ケンヲウ）　山名。山西省太原縣の西南。又、龍山・汲甕山・結絀山ともいふ。〔北齊書、楊愔傳〕隨㆑父之㆓幷州㆒云云、遂入㆓晉陽西懸甕山㆒讀㆑書。

【懸河】7（ケンカ）　㊀傾斜の甚だしい河。〔晉書、郭象傳〕太尉王衍每云、聽㆓象語㆒如㆓懸河瀉㆑水、注而不㆒㆑竭。〔梁書、武帝紀上〕擁㆓數州之兵㆒、以誅㆓羣豎㆒、懸㆑河注㆑火、奚有㆑不㆑滅。㊁滔々たる辨舌の喩。懸河之辯を見よ。㊂瀧をいふ。〔水經、清水注〕懸河注㆑壑二十餘丈。

【懸河之辯】8（ケンカノベン）　滔々として水の流れるやうな辯舌。〔隋書、儒林傳序〕博士罄㆓懸河之辯㆒。〔范傳正、李白墓誌銘〕辯如㆓懸河㆒、筆不㆓偉綴㆒。

【懸解】9（ケンカイ）　逆さにつるされたものがとかれる。轉じて、生死の憂樂を超越する。又、苦しみがなくなること。縣解。〔莊子、養生主〕適來夫子時也、適去夫子順也、安㆑時而處㆑順、哀樂不㆑能㆑入也、古者謂㆓是帝之縣解㆒。〔注〕以㆓有㆑係者㆒爲㆑縣、則無㆑係者縣解也、縣解而性命之情得矣、此養生之要也。〔釋文〕崔云、以㆑生爲㆑縣、以㆑死爲㆑解。〔疏〕夫死生不㆑能㆑係、憂樂不㆑能㆑入者、而遠古聖人謂㆓是天然之解脫㆒也。〔後漢書、王允傳論〕當㆓此之時㆒、天下懸解矣。〔左思、吳都賦〕否泰之相背也、亦猶㆕帝之懸解、而與㆔夫桎㆓梏疏屬㆒也。

【懸崖】10（ケンガイ）　㊀高くきりたつたがけ。きりぎし。斷崖。〔楞嚴經〕譬如㆑有㆓人談説酢梅㆒口中出㆑水、思蹋懸崖、足心酸澀。〔鮑照、岐陽守㆑風詩〕廣岸屯㆓宿陰㆒、懸崖棲㆓歸月㆒。〔杜甫、山寺詩〕亂水通㆓人過㆒、懸崖置㆓屋牢㆒。〔書斷〕懸崖墜石、驚電遺光。㊁盆栽で下方に垂下する莖枝。

【懸崖作】11（ケンガイヅクリ）　菊などを懸崖に生えたやうに垂れさせてつくること。

【懸崖撒手】12（ケンガイサツシユ）　切り立つたがけの上で手をはなす。勇猛心を振起し、思ひ切つて事をなす喩。〔無門關、第三十二、外道問佛〕不㆑陟㆓階

梯、懸崖撒手。

【懸崖勒馬】13（ケンガイロクバ） 切り立つたがけに至つて馬を引き止める。情欲を肆にし、危險に瀕して俄かに悔悟する喩。

【懸衡】14（ケンカウ） ㊀はかりにかける。〔淮南子、說林訓〕懸衡而量則不差。〔注〕衡、稱也。㊁法度をかかげ示す。〔漢書、鄒陽傳〕秦倚曲臺之宮、懸衡天下。〔注〕服虔曰、關西爲衡、應劭曰、衡、平也、如淳曰、衡猶稱之衡也、言其懸法度於其上也。〔王先謙補注〕王念孫曰、懸衡天下、謂法度加於天下耳、李善注文選、仍用如說、引申子曰、君必有明法正義、若權衡以稱輕重、所以一羣臣也。㊂輕重が等しい。轉じて、勢力の相等しいこと。縣衡。〔戰國、秦策〕楚破秦、不能與齊懸衡矣。〔注〕懸衡、輕重等也、此言秦輕於齊。

【懸隔】15（ケンカク） はるかにへだたる。かけはなれる。懸絕。縣隔。〔任昉、奏彈曹景宗文〕司部懸隔、斜臨寇境。〔韓愈、送鄭尚書序〕懸隔山海。

【懸渴】16（ケンカツ） 氣づかふこと。又、待ちわびること。〔任昉、答陸倕感知己賦〕萬類闇求、千里懸渴。

【懸記】17（ケンキ） 佛豫言が適中すること。〔傳燈錄〕馬祖謂道通禪師曰、玉石潤、山秀麗、益汝道業、遇可居之、是秋、至唐州見一山、云是紫玉山、師陟山頂、見有石方正瑩然紫色、歎曰、先師之言、乃懸記耳、遂居之。

【懸碕】18（ケンキ） 切り立つたやうなきし。〔郭璞、江賦〕或揮輪於懸碕、或中瀨而橫旋。〔注〕善曰、埤蒼曰、碕、曲岸頭也。

【懸葵】19（ケンキ） 蓴菜の異名。〔事物異名錄、蔬穀、蓴〕格物論、蓴、一名懸葵。

【懸旗】20（ケンキ） かけたはた。又、はたをかける。轉じて、心の動搖する喩。懸旆。懸旌。〔鮑照、紹古辭〕離心壯爲劇、飛念如懸旗。

【懸疑】21（ケンギ） 疑をかけること。

【懸弓】22（ケンキウ） 淸、歸莊(6－16349‥107)の號。

【懸居】23（ケンキヨ） かかつてゐること。〔孫綽、遊天台山賦〕瓊臺中天而懸居。

【懸虛】24（ケンキヨ） ㊀橋をかける。〔洛陽伽藍記、五〕烏場國銕鎖爲橋懸虛。㊁hsüan² hsü¹ 僞り。

【懸魚】25（ケンギヨ） ㊀魚尾の形に作り、棟木の端に被ひつけるもの。〔白居易、題洛中宅詩〕懸魚掛青甃、行馬護朱欄。㊁かけおびる魚符。〔遼史、禮志一、吉儀〕皇帝服金文金冠・白綾袍・絳帶・懸魚。㊂後漢の羊續が太守であつた時、役人で生魚を獻ずる者があつたが、續は其の生魚を庭に縣けて之をいましめた故事。〔後漢書、羊續傳〕四遷爲廬江太守、云云、府丞嘗獻其生魚、續受而懸於庭、丞後又進之、續乃出前所懸者、以杜其意。〔徐積、和路朝奉新居詩〕愛士主人新置榻、淸身太守舊懸魚。㊃堂の名。安徽省合肥縣、もとの廬州府治內。〔名勝志〕漢羊續爲廬江太守、有饋生魚者、意難卻之、乃曝爲乾、懸於壁上、他日復饋、續乃出所懸魚以示之、其人懼而退、因後建爲堂。

【懸金】26（ケンキン） 賞金をかける。懸賞。懸金購募を見よ。

【懸金購募】27（ケンキンコウボ） 賞金を懸けてあがなひつのる。〔後漢書、黨錮傳序〕下郡國、逮捕黨人、或有逃遁不獲、皆懸金購募、使者四出、相望於道。

【懸金徵求】28 hsüan² chin¹ chêng¹ ch'iu² 懸賞募集。

【懸琴】29（ケンキン） 魏の文侯が琴を城門にかけて戒愼を表示した故事。〔說苑、君道〕師經鼓琴、魏文侯起舞賦曰、使我言而無見違、師經援琴而撞文侯、不中、中旒潰之、云云、左右曰、罪當烹、云云、師經曰、昔堯舜之爲君也、唯恐言而人不違、桀紂之爲君也、唯恐言而人違之、臣撞桀紂、非撞吾君也、文侯曰、釋之、是寡人之過也、懸琴於城門、以爲寡人符、不補旒、以爲寡人戒。

【懸空】30（ケンクウ） ㊀空にかかる。〔薛曜、舞馬篇〕懸空步驟紅塵起。㊁架空(6－14586‥6)に同じ。〔傳習錄〕豈徒懸空、口耳講說、而遂可以謂之學乎。

【懸空寺】31（ケンクウジ） 寺の名。後魏の時、建つ。山西省渾源縣、南恆山の下の瓷窯峽にある。〔山西通志〕懸空寺、寺在渾源州南磁窰口內、石壁如削、鑿竅插、梁結構於數十仞之上、飛閣相通、下臨無地、遊者股栗、寺創於元時、近僧增三殿、稱奇觀焉。

【懸火】32（ケンクワ） 懸けた燈火。提灯。〔楚辭、宋玉、招魂〕懸火延起兮玄顏烝。〔注〕懸火、懸燈也。

【懸果】33（ケンクワ） 植物學用語。一名、離果。子房の膜壁が裂開しないで、子房の數に隨つて分離し、熟すれば果柄の下垂するもの。胡蘿蔔・茴香の屬。

【懸掛】34（ケンクワイ） かける。縣掛。〔易、乾、元亨利貞、疏〕言、縣掛物象、以示於人。

【懸光】35（ケンクワウ） ㊀空にかかつたひかり。〔晉書、陸機・陸雲傳論〕高詞迥映、如朗月之懸光。〔江淹、雜體、張司空華離情詩〕秋月映簾櫳、懸光入丹墀。㊁名馬の名。〔琵琶記、春宴杏園〕龍子・驎駒・云云・縣光。

【懸曠】36 hsüan² k'uang⁴ 空位で人無きをいふ。缺員。

【懸曠無人】37 hsüan² k'uang⁴ wu² jen² 官職が缺員になること。

【懸莞】38（ケンクワン） 龍鬚草の異名。〔本草、石龍芻〕釋名、龍鬚、龍修、龍華、龍珠、懸莞、草續斷、縉雲草、方賓、西王母簪、集解、保昇曰、叢生莖如綖、所在有之、俗名龍鬚草、可爲席。

【懸貆】39（ケンクワン） 貆を懸ける。功無くして祿を受ける喩。〔易林、中孚之第六十一、睽〕懸貆素飡、食非其任。

【懸軍】40（ケングン） 援軍續かず、獨り深く敵地に侵入する軍兵。縣軍。〔資治通鑑、晉紀〕(孝武帝、太元八年)君懸軍深入、而置陳逼水。〔杜甫、秦州雜詩〕候火雲峯峻、懸軍幕井乾。〔張廷珪、賦〕休石田之遠境、罷金甲之懸軍。

【懸軍長驅】41（ケングンチヤウク） 遠く敵地に軍兵を進めること。

【懸軍萬里】42（ケングンバンリ） 萬里の遠地に深く軍兵を進めること。

【懸乩】43 hsüan² chi¹ 占ふ。

【懸磬】44（ケンケイ） 窮乏して、家の中で梁ばかりが磬を懸けたやうに見え、外に一物の見るべき者の無いこと。懸罄。縣磬。〔國語、魯語上〕室如縣磬、野無青草、何恃而不恐。〔注〕縣磬、言魯府藏空虛、但有榱梁如縣磬也。〔後漢書、陳龜傳〕室如懸磬。〔宋書、孔琳之傳〕雖復室如懸磬、莫不傾產殫財。

【懸罄】45（ケンケイ） 懸磬に同じ。

【懸繫】46（ケンケイ） かけつなぐ。〔詩、齊風、東方未明序、挈壺氏不能掌其職、疏〕然則挈壺者、懸繫之名。

【懸梟】47（ケンケウ） 首をはねて獄門にさらす。〔長生殿、雨夢〕罪怎饒、叫內侍快把這亂臣賊子首級懸梟。

【懸橋】48（ケンケウ） つりばし。〔李端、贈道者詩〕花開深洞仙門小、路過懸橋羽節輕。

【懸缺】49（ケンケツ） 裁判事務が遲延して、徒らに經費の缺損を生ずること。〔淸律、戶律、擬斷、贓罰不當〕瞻徇延緩、以致帑項懸缺者。

【懸欠】50（ケンケン） 遲滯し不足する。〔舊唐書、宣宗紀〕大中二年、魏扶奏天下州府錄物斛㪷文簿、並委錄事參軍專判、仍與長史通判、至交代時、具數中奏、如無縣欠、量與減選注擬。

【懸硯】51（カケスズリ） 懸子のある硯箱。

【懸懸】52（ケンケン） ㊀心の安んじないさま。心の動搖するさま。懸心。縣縣。〔蔡琰、胡笳十八拍〕心懸懸兮長如饑。㊁心にかかること。〔韓愈、與孟東野書〕以吾心之思足下、知足下懸懸於吾也。㊂はるかに遠いさま。〔易林、晉之第三十五、坎〕懸懸南海、去家萬里。

【懸弧】53（ケンコ） 男の子の誕生をいふ。古、男の子が生まれると、桑の弓を門左に懸けて射道あるを示したからいふ。一說に、桑弧と蓬矢で天地四方を射て、其の功業を立てんことを祝するからといふ。〔禮、郊特牲〕孔子曰、士使之射、不能則辭以疾、懸弧之義也。〔注〕男子生而設弧於門左、示有射道而未能也。〔禮、射儀〕男子生、桑弧蓬矢六、以射天地四方、天地四方者、男子之所有事也、故必先有志於其所有事也。〔孔子家語、觀鄉射〕懸弧之義。〔注〕弧、弓也、男子生則懸弧於其門、明必有射事也。

【懸弧之辰】54（ケンコノシン） 男子の誕生日。懸弧を見よ。

【懸弧令旦】55 hsüan² hu² ling² tan⁴ 男子の誕生日。

【懸枯】56ケンコ　枯魚を懸ける。懸魚(25)の❸に同じ。〔陳書、宗元饒傳〕徵㆑魚無㆑限、異㆓羊續之懸枯㆒。

【懸瓠】57ケンコ　❶かけたひさご。〔薛能、老僧詩〕清瘦形容八十餘、懸瓠籬落似㆓村居㆒。❷柄の長いひさご。〔本草、壺盧〕釋名、時珍曰、瓠之一頭有㆑腹、長柄者爲㆓懸瓠㆒、無㆑柄而圓大形扁者爲㆑匏。❸城の名。又、懸壺に作る。今、河南省汝南縣治。古來、兵爭の要地で、前燕の李洪は、晉兵を此に破つた。〔水經、汝水注〕汝水又東逕㆓懸瓠城北㆒、云云、形若㆓垂瓠㆒然。❹池の名。河南省汝南縣の北。俗名は鵝鴨池。

【懸壺】58ケンコ　❶賣藥者をいふ。後漢の費長房が市掾であつた時、市中に老翁で藥を賣る者有り、店が終るとつねに跳入つて懸壺中にかくれたといふ故事。〔後漢書、方術下、費長房傳〕費長房者、汝南人也、曾爲㆓市掾㆒、市中有㆓老翁㆒賣㆑藥、懸㆓一壺於肆頭㆒、及㆓市罷㆒、輒跳㆓入壺中㆒、市人莫㆓之見㆒。〔通俗編、藝術、懸壺〕按、今醫家以㆔揭㆓所標識㆒曰㆓懸壺㆒。❷城の名。懸瓠の❸を見よ。

【懸鼓】59ケンコ　ぶらさげた太鼓。縣鼓。〔後漢書、五行志一〕擊㆓懸鼓㆒以求㆑見㆓丞卿㆒。

【懸鉤】60ケンコウ　かぎをかける。〔康庭芝、詠㆑月詩〕臺前疑㆑挂㆑鏡、簾外似㆑懸㆑鉤。

【懸鉤子】61ケンコウシ　灌木の名。山莓。木いちご。〔本草、懸鉤子〕釋名、沿鉤子、葥、山莓、木莓、樹莓、藏器曰、莖上有㆑刺、如㆓懸鉤㆒故名。

【懸購】62ケンコウ　賞金をかけて求める。懸賞でさがす。購縣。

【懸鎖】63カケグサリ　物にひきかけるくさり。

【懸祭】64ケンサイ　山の祭をいふ。

【懸材】65ケンザイ　かけて置いた材木。

【懸巣】66ケンサウ　❶巣にかかる。〔庾信、擬㆓詠懷㆒詩〕折㆑骸猶換㆑子、登㆑爨已懸㆑巢。❷カケス　燕雀類に屬する鳥。かしどり。樫鳥。

【懸想】67ケンサウ　❶とほくおもひやる。空しく思ふ。〔庾信、擬㆓詠懷㆒詩〕遙看㆓塞北雲㆒、懸㆓想關山雪㆒。❷hsüan² hsiang³　抽象の。無形の。❸ケサウ　男女がこひしたふ。ほれる。又、こひ。

【懸想文】68ケサウブミ　懸想の意を書き送る艷書。

【懸造】69カケヅクリ　溪や川の上にかけわたし、又は山や崖に持たせ掛けて建物を造ること。又、其の家。

【懸山】70ケンザン　名所の名。北京善果寺門內。〔朝市叢載〕懸山在㆓彰儀門內大街路北善果寺門內兩廊下㆒、懸山有㆓一里之遙㆒、上懸㆑石有㆓三四百斤㆒、年久並不㆓傾墜㆒耳。

【懸子】71カケゴ　箱のふちにかけて、其の中に嵌入するやうに造つたはこ。

【懸思】72ケンシ　❶揣り思ふ。〔庾信、周大將軍幽國公趙廣墓誌銘〕石上木生、懸思卽悟。❷心にかける。心配する。

【懸師】73ケンシ　軍隊を外にとどめる。又、遠方に出てゐる軍隊。〔後漢書、皇甫規傳〕懸㆑師之費、且㆓百億計㆒。〔注〕懸、猶㆑停也。〔王先謙集解〕通鑑胡注、出㆑師遠征、其勢懸絕、不㆑能㆓相及㆒、故曰㆓懸師㆒、縣讀爲㆑懸。〔魏志、曹純傳〕懸師深入、難㆓以持久㆒。

【懸紙】74カケガミ　❶毀損を防ぐために書狀を卷いて封筒に入れる白紙。〔江家次第、九、不堪田奏〕上卿先見㆓目錄㆒、次開㆓懸紙㆒、展㆓開諸國國申文㆒。❷文案などを檢閱し、意見を他の紙に書し、之を張附けたもの。符箋。

【懸揣】75 hsüan² ch'uai³　推量する。

【懸詞】76カケコトバ　一語で上下の語にかかり、兩樣の意を有するもの。掛詞。

【懸示】77ケンジ　かけ示す。〔易、乾、元亨利貞、疏〕言㆘懸㆓掛物象㆒以示㆗於人㆖。〔水經、泗水注〕欲㆔以懸㆓示後賢㆒耳。

【懸耳】78ケンジ　物を吊すにたよりとするとつて。

【懸事】79 hsüan² shih⁴　危險な事。

【懸州】80ケンシウ　州名。唐、置く。四川省の境。

【懸車】81ケンシヤ　❶官職を引退すること。退いて仕へないこと。漢の薛廣德が、官を辭して隱居した時、君から賜はつた安車を掛けつるし、子孫に傳へて幸榮を示した故事。縣車。〔漢書、薛廣德傳〕與㆓丞相定國・大司馬車騎將軍史高㆒、倶乞㆓骸骨㆒、皆賜㆓安車駟馬黃金六十斤㆒、罷、云云、東歸㆑沛、太守迎㆓之界上㆒、沛以爲㆑榮、懸㆓其安車㆒、傳㆓子孫㆒。〔注〕師古曰、懸㆓其所㆑賜安車㆒、以示㆓榮幸㆒也、致仕懸㆑車、蓋亦古法、韋孟詩云、懸車之義、以泊㆓小臣㆒也。〔漢書、敍傳下〕身修國治、致仕懸㆑車。〔後漢書、陳寔傳〕累見㆓徵命㆒、遂不㆑起、閉㆑門懸㆑車。〔後漢書、張儉傳〕闔門懸㆑車、不㆑豫㆓政事㆒。〔蔡邕、陳太丘碑文〕懸㆑車告㆑老。❷たそがれどき。〔淮南子、天文訓〕日至㆓于悲泉㆒、爰止㆓其女㆒、爰息㆓其馬㆒、是謂㆓縣車㆒。〔集解〕文典謹按、初學記御覽引㆓此四句㆒、作㆘爰止㆓羲和㆒、爰息㆓六螭㆒、是謂㆗懸車㆖。

【懸車之年】82ケンシヤノトシ　致仕の年。七十歲をいふ。懸車とは、用ひざるを示す意。〔白虎通、致仕〕臣七十懸㆑車致仕者、臣以㆓執㆑事趨走㆒爲㆑職、七十陽道極、耳目不㆓聰明㆒、跂踦之屬、是以退去避㆓賢者㆒、所㆔以長㆓廉恥㆒也、懸㆑車示㆑不㆑用也。〔晉書、劉毅傳〕雖㆑過㆓懸車之年㆒、有㆑可㆑用。〔權德輿、司空李揆謚議〕逾㆓懸車之年㆒、奉㆓絕域之使㆒、受㆑命卽㆑路、視㆑險若㆑夷。

【懸象】83ケンシヤウ　❶天上にかかる現象。天象。天文。縣象。〔班固、典引〕俾㆘其承㆓三季之荒末㆒、値㆗亢龍之災孼㆖、懸象闇而恆文乖、彝倫斁而舊章缺。〔晉書、皇甫謐傳〕天以㆓懸象㆒致㆑明、地以㆓含通㆒吐㆑靈。❷法令をかけしめす。〔周禮、地官、大司徒〕正月之吉、乃懸㆓教象之法于象魏㆒。〔庾信、正旦上㆓司憲府㆒詩〕一知㆑懸㆓象法㆒、誰思㆑垂㆓鈎竿㆒。

【懸象無變】84ケンシヤウムヘン　天文に異常がない。世に異變のない喩。

【懸賞】85ケンシヤウ　賞をかける。物事を募り求める時に褒美を與へる方法を設けること。はうびつき。縣賞。〔鹽鐵論、除狹〕懸㆑賞以待㆑功。〔白居易、盧元輔杭州刺史制〕懸㆑賞旌㆑能。

【懸賞格】86 hsüan² shang³ kê²　懸賞。

【懸賞文】87ケンシヤウブン　賞をかけて文章を募ること。又、其の文章。

【懸賞搜索】88ケンシヤウサウサク　賞をかけて物をさがし求めること。

【懸賞募集】89ケンシヤウボシフ　賞をかけて募集すること。

【懸首】90ケンシユ　人を殺して其の首級をかけて置く。又、其の首。さらしくび。縣首。〔逸周書、世俘解〕太師負㆓商王紂懸首白旂妻二首赤旂㆒。〔後漢書、西域、于寘國傳〕懸㆓首於市㆒。〔丘遲、與㆓陳伯之㆒書〕繫㆓頸蠻邸㆒、懸㆓首藁街㆒。

【懸殊】91ケンシユ　はるかに違ふ。非常な差がある。〔韻府引三國志〕賢聖之分、所㆑覺懸殊。

【懸珠】92ケンシユ　眼のうるはしい喩。懸珠編貝を見よ。

【懸珠編貝】93ケンシユヘンバイ　懸珠は眼の明かなさま、編貝は齒なみのそろふさま。〔漢書、東方朔傳〕臣朔年二十二、長九尺三寸、目若㆓懸珠㆒、齒若㆓編貝㆒。

【懸熟】94ケンジユク　食品の名。猪肉と米五升及び豉三升を調和して蒸したもの。〔食經〕作㆓懸熟㆒、以㆓猪肉㆒和㆓米五升・豉三升㆒、調和而蒸㆑之。

【懸鶉】95ケンジユン　やぶれ衣。縣鶉(8－27784··63)に同じ。懸鶉百結を見よ。〔正字通〕鶉、鶉尾特禿、若㆓衣之短結㆒、故凡敝衣曰㆔衣若㆓懸鶉㆒。

【懸鶉百結】96ケンジユンヒヤクケツ　ぼろぼろの着物。〔白行簡、李娃傳〕裘有㆓百結㆒、繿縷如㆓懸鶉㆒。

【懸書】97ケンシヨ　法令を揭げ示すこと。懸法。〔陸倕、石闕銘〕懸書有㆑附、委篋知㆑歸。〔注〕善曰、周禮曰、正月乃懸㆓治象之法於象魏㆒、使㆔萬人觀㆓治象㆒、浹日而斂㆑之、懸書、則懸法也、委篋、則藏書也。

【懸緒】98カケヲ　冠の緒。昔は紙捻でつくり、後世は紐でつくる。

【懸鐘】99ケンシヨウ　❶かねをかける。縣鐘。〔庾信、周上柱國齊王憲神道碑〕置㆑樽待㆑酌、懸㆑鐘聽㆑扣。❷地名。福建省詔安縣の東南。林洋汎と相對し、詔安の門戶を爲す。

【懸心】100ケンシン　心にかかる。不安。心配。懸懸。〔顧非熊、人鏡賦〕懸㆓於心㆒則四聽堂朗。〔賈餗、蜘蛛賦〕將㆓懸㆑心而有㆑待。〔紅樓夢、三十四回〕近來我爲㆓這事㆒日夜懸心。

【懸針】101ケンシン　❶書法の一體。〔墨池編〕縣針、後漢章帝建初中、秘書郎曹喜之所㆑造、喜工㆓篆隸㆒著㆑名、尤善㆓垂露之法㆒。〔梁昭明太子、古今篆隸文體〕有㆓蓬書・懸針書・垂露書・芝英書・十二時書・倒薤書・蚊廊書㆒、凡數十種、皆出㆓于六文八體之書㆒、而因㆑事生㆑變者也。❷書法で丨をいふ。年・平等の字の竪書をいふ。〔翰林密論〕。❸蟲の名。蝌斗の異名。尾が針に似てゐるからいふ。〔本草、蝌

斗〕釋名 時珍曰、蝌斗一作二蛞斗一、音闊、按、羅願爾雅翼云、其狀如レ魚、其尾如レ針、又幷二其頭尾一觀レ之有レ似二斗形一、故有二諸名一、玄魚言二其色一、懸針狀二其尾一也。

【懸針篆】102 ケンシンテン 小篆の一種。後漢の章帝の時、曹喜が作つたもの。〔書斷、論篆書〕小篆者、或鏤纖盤屈、或懸針狀貌、鱗羽參差而互進、珪壁錯落以爭レ明、其勢飛騰、其形端儼、李斯是祖、曹喜蔡邕爲レ嗣。〔書史會要、大小篆〕大篆之後、又別爲二十有二一云云、小篆之後、又別爲レ八、曰鼎小篆、曰薤葉篆、曰垂露篆、曰懸針篆、曰纓絡篆、曰柳葉篆、曰翦刀篆、曰外國書、此皆小篆之異體也。

【懸進】103 ケンシン 深く敵地にすすみ入る。〔晉書、羊祜傳〕還保二城池一、則去レ長入レ短、而官軍懸進。

【懸水】104 ケンスイ ㊀たき。瀑布。縣水。〔列子、說符〕有二懸水三十仞、圜流九十里一。〔孔子家語、致思〕有二懸水三十仞一。㊁淸、吳襄（2−3365··218）の號。

【懸垂】105 ケンスイ たれ下つてかかる。

【懸錘】106 hsüan² ch'uei² ねつけ。「を見よ。

【懸成】107 ケンセイ 春秋、魯の人。縣成（8−27784··75）

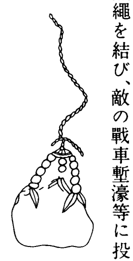
【懸旌】108 ケンセイ ㊀風にひるがへるはた。心が動搖して定まらない喩。縣旆。〔戰國、楚策〕寡人臥不レ安レ席、食不レ甘レ味、心搖搖如二懸旌一、而無レ所二終薄一。〔張協、雜詩〕羇旅無二定心一、翩翩如二懸旌一。㊁遠く軍を出すこと。縣旌（8−27784··76）に同じ。〔魏志、武帝紀、注〕獻帝傳、載レ詔曰、云云、遏二定西陲一、懸二旌萬里一。

【懸稅】109 カケヂカラ 古、伊勢神宮の祭事に穗のままで垣にかけ神に奉つた稻。神稅。〔祝詞式、神嘗祭〕懸稅千稅餘五百稅乎。

【懸噴】110 ケンセウ 本陣からかけはなれて見張りをし自軍を警める。〔宋史、夏國傳上〕乃懸噴家鴿百餘、自二合中一起、盤二飛軍上一。

【懸照】111 ケンセウ かかりてらす。〔徐陵、爲二陳武帝一作レ相時與二齊廣陵城主一書〕伏計二天慈一、理當二懸照一、此身日月所レ鑒、天地所レ明、豈敢虛言。

【懸石】112 ケンセキ ㊀絡石の異名。〔本草、絡石〕釋名、石鯪、石龍藤、縣石、耐冬、雲花、雲英、雲丹、石血、雲珠、集解、藏器曰、在レ石者良、在レ木者隨二木性一有レ功、與二薜荔一相似、更有二石血地錦等十餘種藤一、並是其類。㊁攻具の名。大石に孔を穿つて鐵繩を結び、敵の戰車塹壕等に投じて之を破壞するもの。〔武備志、五約曰堡器〕石宜二二種一、大者爲二懸石一、用二廢碾石陸軸之類一爲レ之、鼎足鑿レ孔、下繫二鐵繩一、上續二麻索一。



懸石㊁（武備志）

【懸席】113 hsüan² hsi² 空席。

【懸節】114 ケンセツ 符節をつるす。〔後漢書、袁紹傳〕懸二節於上東門一、而奔二冀州一。

【懸絶】115 ケンゼツ かけへだたる。懸隔。絶異。縣絶。〔易、坎、水洊至、注〕重險懸絶、故水洊至也。〔李陵、答二蘇武一書〕步馬之勢、又甚懸絶。〔論衡、知實〕未二必才相懸絶、智相兼倍一也。

【懸泉】116 ケンセン たき。瀑布。縣泉。〔李嶠、奉三和幸二韋嗣立山莊一侍宴應制詩〕喬木千齡外、懸泉百丈餘。

【懸泉水】117 ケンセンスイ 泉の名。甘肅省敦煌縣の東。〔元和志〕出二懸泉山一、漢將李廣利、伐二大宛一還、士衆渴乏、引二佩刀一刺レ山、泉飛湧出、卽此。

【懸錢】118 ケンセン 抵當を取つて錢をかすこと。〔南史、梁宗室上、臨川靖惠王宏傳〕宏都下有二數十邸一、出二懸錢立券一、每以二田宅邸店一懸二上文券一、期訖、便驅二券主一奪二其宅一、都下東土百姓、失レ業非レ一、帝後知制二懸レ券不レ得二復驅奪一。

【懸然】119 ケンゼン ㊀はるかにとほいさま。〔任昉、王文憲集序〕懸然天得、不レ謀成レ心。〔注〕濟曰、懸、遠也。㊁貧しくて何の儲もないさま。懸磬（44）を見よ。〔張說、虬髯客傳〕懸然如レ磬。

【懸淙】120 ケンソウ たき。瀑布。淙はそそぐ。〔沈約、八詠守山東詩〕萬仞倒二危石一、百丈注二懸淙一。

【懸駝】121 ケンダ 愚者の喩。古、王者が貧人に死駝を賜はつた。貧者はこの死駝を得て、皮を剝がうとしたが、刀が切れないため、砥石を得て磨がうとした。たまたま樓上に砥石を見つけて刀を磨ぎ、皮を剝いだ。既にして數〻樓上に登つて磨ぎ降つて剝ぐを苦しみ、重い死駝を樓上に運んで之を懸け、砥石に就いて刀を磨ぎ、終に人の笑を買つた故事。懸レ駝就レ石（12−44681··34）を見よ。

【懸帶】122 ケンタイ 兵器を携帶すること。〔元典章、兵部〕巡按乞許下令三懸二帶箭一事上。

【懸餒】123 ケンタイ 困しみ飢ゑること。〔孫綽、喩道論〕並以二一餐一拯二其懸餒一。

【懸刀】124 ケンタウ ㊀弩牙の下部。其の形が懸刀に似てゐるからいふ。一名、機。〔釋名、釋兵〕弩、怒也、云云、鉤レ絃者曰レ牙、云云、下曰二懸刀一、其形然也。〔潘岳、射雉賦〕捩二懸刀一騁二絶伎一。〔注〕爰曰、懸刀、弩牙後刀也、一名レ機、善曰、釋名曰、弩牙外曰レ郭、下曰二懸刀一、其形然也。㊁草の名。さいかち。皂莢の異名。〔本草、皂莢〕釋名、皂角、雞栖子、烏犀、懸刀。

【懸榻】125 ケンタフ 客を敬つて遇すること。轉じて、珍客の稱。後漢の陳蕃が、客に接せず、唯〻徐穉來れば特に一榻を設けて之を遇し、去れば懸けて用ひなかつた故事。〔後漢書、徐穉傳〕時陳蕃爲二大守一、請署二功曹一、蕃在レ郡、不レ接二賓客一、唯穉來、特設二一榻一、去則懸レ之。〔庾信、園庭詩〕倒レ屣迎二懸榻一、停レ琴聽二解嘲一。

【懸炭】126 ケンタン 古、時氣をうかがふ法。炭を衡に掛け、衡を平らにして知る方法。卽ち冬至後は陽氣に應じて炭が輕くなつて衡が揚り、夏至後は陰氣に應じて炭が重くなつて衡が下る。縣炭。〔論衡、調時〕歲月食二東家一、東家懸炭。〔魏書、律歷志〕懸炭之期或爽。

【懸湍】127 ケンタン 高い所から垂れ落ちる水流。たきつせ。懸瀨。懸淙。〔水經、溱水注〕山名藍豪、廣圓五百里、悉二曲江縣界一、崖峻險阻、巖嶺于レ天、交柯雲蔚、霾天晦景、謂二之瀧中一、懸湍迴注、崩浪震レ山、名二之瀧水一。

【懸膽】128 ケンタン きもをかける。辛苦する喩。嘗膽（2−4205··30）に同じ。〔晉書、顧榮傳〕懸二膽於庭一、以表二辛苦一。〔金史、朮虎筠壽傳〕陛下當二坐薪懸膽之日一、奈何以二毬鞠細物一、動二搖民間一。

【懸談】129 ケンダン 佛經論を講ずるに、先づ文前にて一部の要義綱領を論ずること。天台の法華玄義、淸涼の華嚴玄談の樣なもの。〔盂蘭盆疏記、下〕未レ入二經文一、義章光說、故曰二懸談一。

【懸斷】130 ケンダン 何等の根據なく臆斷すること。〔柳宗元、復二杜溫夫一書〕吾性騃滯、多レ所レ未二甚諭一、安敢懸二斷是且非一耶。

【懸遲】131 ケンチ 心にかけてあふぎまつ。〔後漢書、趙壹傳〕實望仁兄昭二其懸遲一。〔注〕懸レ心遲二仰之一。

【懸肘】132 ケンチウ 運筆の法。肘を机につけないで書くこと。〔梁巘、評書帖〕書法執筆、大・食・中三指宜レ死、肘宜レ活、執筆歌云、懸腕懸肘力方全、用レ力如下抱二嬰兒一圖上。

【懸冑】133 ケンチウ 敵を辱かしめる喩。邾人が、魯の僖公の兜を獲て魚門に懸け、辱かしめた故事。〔左氏、僖、二十二〕公及二邾師一戰二于升陘一、我師敗績、邾人獲二公冑一、懸二諸魚門一。〔庾信、周上柱國宿國公河州都督普屯威神道碑銘序〕門多二懸冑一、箭必中レ鞍。

【懸帳】134 ケンチヤウ 帳をかける。後漢の師宜官が帳をかけて、巧みに八分書を書いた故事。〔晉書、王羲之傳論〕伯英臨池之妙、無二復餘蹤一、師宜懸帳之奇、罕レ有二遺跡一。

【懸注】135 ケンチユウ 高所から流れおちる。〔水經、鍾水注〕山壁高聳、三面特峻、石泉懸注、瀑布而下。

【懸沈】137 ケンチン 皮懸と浮沈。皮懸は山を祭ること、浮沈は川を祭ること。山川の祭。〔班固、典引〕燔瘞懸沈。〔注〕善曰、爾雅曰、祭レ天曰二燔柴一、祭レ地曰二瘞埋一、祭レ山曰二皮懸一、祭レ川曰二浮沈一。

【懸縋】138 ケンツイ 繩をかけおろして身を託すること。〔張衡、應閒〕燭武懸縋、而秦伯退レ師。

【懸梯】139 ケンテイ はしご。〔南史、宋武帝紀〕張綱修二攻具一、成二設飛樓懸梯木幔板屋一。

【懸綴】140 ケンテイ かかりつながる。〔汎舟錄〕寶蓋下垂、鵝管懸綴。

【懸蹄】141 ケンテイ 偶蹄類の獸の足の兩側にあるひづめ。中央の二蹄はよく發達してゐるが、懸蹄は萎縮し、地に接しないで下垂する。牛・羊・豕等に於ける類。縣蹏。

【懸吊】142 ケンテウ つりさがる。〔福惠全書、刑名部、人命下、驗各種死傷〕懸吊處勝レ任不レ勝レ任。

【懸調】143 ケンテウ 年貢のとどこほり。縣調。〔北史、周武帝紀〕天和五年六月庚子、以二皇女生一、故降二宥罪人一、幷免二逋征懸調一。

【懸鯛】144 カケダヒ ㊀昔、正月の儀式に、門松にかけた二匹の乾だひ。掛鯛。㊁祝賀の席に、美しい繩で結び合はせ、臺の上に置く二疋の生鯛。

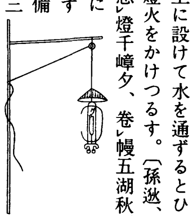
【懸度】145 ケンド ㊀地名。烏耗國の西。今、アフガニスタン東部のカフィリスタン地方。石山で谿谷通ぜず、繩索を以て相引いて渡る。又、懸渡・縣度に作る。〔後漢書、西域、德若國傳〕涉二懸度一歷二罽賓一。㊁清、張道岸(**4－9812**‥1332)の號。

【懸渡】146 ケンド 懸度に同じ。〔酉陽雜俎、境異〕烏耗西有二懸渡國一、山溪不レ通、引レ繩而渡。

【懸棟】147 ケントウ 屋下に重梁を作ること。〔王延壽、魯靈光殿賦〕懸棟結阿、天窗綺疎。〔注〕銑曰、懸棟、謂三屋下更爲二重梁一。

【懸樋】148 カケヒ 地上に設けて水を通ずるとひ。筧。

【懸燈】149 ケントウ ㊀燈火をかけつるす。〔孫逖、宿二雲門寺閣一詩〕懸レ燈千嶂夕、卷レ幔五湖秋。㊁武器の名。城下に懸けて賊を照らす燈。〔武備志、三、備燈火〕每垜一燈、三垜懸二一燈一落レ地、用二新油紙一者、方明亮、燈上用二一油紙一、蓋以防レ雨、蓋上仍壓二一小瓦片一以防レ風、若二篾篷蓋一尤嘉、每燈制二一挑竿索一、懸二城下一、離レ地七尺、庶レ使下賊抵二城下一我能照見、我瞭二垜口一賊不上レ見レ我。



㊁懸燈（武備志）

【懸燈挂綵】150 hsüan^2 têng^1 kua^1 ts'ai^3 提灯をつるし五色の布をかけ祝意を表する。

【懸頭】151 ケントウ 苦學する喩。楚の孫敬が經文を寫すのに、頭髮を結び附けた繩を梁にかけてねむけを防いだ故事。〔楚國先賢傳〕孫敬到レ洛、在二大學一、折レ柳爲レ簡以寫レ經、睡則懸二頭于梁一。〔李商隱、詩〕懸レ頭曾苦學、折レ臂反成レ醫。

【懸磴】152 ケントウ 石橋をいふ。〔孫綽、遊二天台山一賦〕跨二穹窿之懸磴一。〔注〕翰曰、懸磴、石橋也。

【懸藤】153 ケントウ 垂れ下つて懸つたふぢ。垂藤。〔始興記〕吾家在二觀亭廟一、石閒有二懸藤一。〔宋之問、袁侍御席餞二永昌獨孤少府一序〕落花覆レ沼、懸藤掃レ砌。

【懸騰】154 ケントウ 湧き立つこと。〔郭璞、江賦〕圓淵九迴以懸騰。〔注〕善曰、說文曰、騰、水涌也、銑曰、或懸レ浪而下、或騰レ波而上。

【懸特】155 ケントク 狩獵の苦しみをせずに小獸を庭に懸ける。功無くして祿を受けること。縣特(**8－27784**‥105)を見よ。

【懸囊】156 ケンナウ かけたふくろ。〔明一統志〕形如二懸囊一。

【懸念】157 ケンネン 心にかけること。氣がかり。

【懸旆】158 ケンハイ 垂れさがつた旗。心が動搖して定まらない喩。〔隋書、孫萬壽傳〕迴輪常自轉、懸旆不レ堪レ招。〔杜牧、送二裴判官一詩〕君意如レ鴻高的的、我心懸旆正搖搖。〔本朝文粹、大江匡衡、第四表〕靜二臣縣旆之心一、自爲二進善之旗一、無レ任二挹滿之至一。

【懸倍】159 ケンバイ 甚だしくかけはなれる。〔張說、至二尉氏一詩〕始知魯衞閒、優劣相懸倍。

【懸匏】160 ケンパウ 柄のあるひさご。笙を作るに用ひる。〔古今注、草木〕瓠有レ柄者、懸瓠可二以爲一レ笙、曲沃者尤善。〔潘岳、笙賦〕河汾之寶、有二曲沃之懸匏一焉。〔注〕善曰、崔豹古今注曰、匏、瓠也、有レ柄曰二懸匏一、可レ爲レ笙也。

【懸望】161 ケンバウ ㊀はるかにのぞむ。〔剪燈新話、三山福地志〕擧レ家懸望。㊁心配し望む。〔長生殿、獻飯〕他長安父老多懸望。

【懸璞】162 ケンハク 清、吳兆崙(**2－3365**‥806)の字。

【懸瀑】163 ケンバク たき。飛泉。瀑布。懸泉。〔陳傳良、題二仙巖梅雨潭一詩〕怒號懸瀑從レ天下、傑立蒼崖夾レ道陳。〔戴良、陪二鐘伯紀一遊二溪南山一詩〕倚レ闌眺二縣瀑一、企レ檻引二松枝一。

【懸邈】164 ケンバク かけはなれて遠い。〔晉書、王羲之傳〕位遇懸邈。

【懸法】165 ケンパフ 法規をかけ示す。懸書。縣法(**8－27784**‥111)を見よ。〔陸倕、石闕銘〕或以聽レ窮省レ冤、或以布レ治懸レ法。〔注〕善曰、袁叔謝中丞章曰、懸二法象闕一。

【懸乏】166 ケンバフ 道がかけはなれて衣食にとぼしいこと。〔後漢書、仲長統傳〕萬里懸乏。

【懸潘】167 ケンハン 複姓。〔萬姓統譜〕懸潘衞大夫、柳莊卒君贈二邑裘・懸潘二氏書一、納二諸棺一、見二禮記一。

【懸飛】168 ケンピ はるかにとぶ。〔沈約、詠二湖中鴈一詩〕懸飛竟不レ下、亂起未レ成レ行。

【懸陴】169 ケンピ 城に敵の蟻附して上るをふせぐひめがき。〔墨子、備蛾傳〕備二蛾傳一爲二縣陴一。

【懸冰】170 ケンピョウ つらら。たるひ。氷柱。〔庾信、梅花詩〕樹動懸冰落、枝高出手寒。

【懸布】171 ケンプ ㊀布をかける。縣布(**8－27784**‥116)を見よ。㊁布をかけたやうに瀧などの上より直下すること。〔杜佑、王處士鑿レ山引レ泉記〕懸布垂練、搖二曳晴空一。〔范成大、龍門峽詩〕瀑流懸布不レ知レ數。

【懸璧】172 ケンペキ 美玉の名。懸黎。〔劉琨、重贈二盧諶一詩〕握中有二懸璧一、本自荊山璆。〔注〕善曰、懸璧、縣黎以爲レ璧。

【懸鞭】173 ケンベン 晉の鮑瑗が淳于智の易占に從つて、馬鞭を家の東北の桑にかけたところ、三年後に錢數十萬を得たといふ故事。〔晉書、淳于智傳〕鮑瑗家多二喪病一貧、智乃爲レ卦、卦成、謂レ瑗曰、君安宅失レ宜、故令二君困一、君舍東北有二大桑樹一、君徑至レ市、入レ門數十步、當レ有下一人持二荊馬鞭一者上、便就買、以懸二此樹一、三年當二暴得一レ財、瑗承レ言詣レ市、果得二馬鞭一、懸レ之三年、浚レ井得二錢數十萬一。

【懸圃】174 ケンポ 仙人の居る所。玄圃。縣圃。〔楚辭、嚴忌、哀時命〕願至二崑崙之懸圃一兮。〔成公綏、天地賦〕懸圃隆崇而特起。〔文心雕龍、辨騷〕崑崙懸圃、非二經義所一レ載。

【懸封】175 ケンポウ 埋葬の時、棺をすぐはかあなに下してはかみちを作らないこと。封は窆と音義同じ。縣封。〔後漢書、周磐傳〕斂レ形懸封、濯衣幅巾。〔注〕懸封、謂二直下レ棺不一レ爲二埏道一也、封音窆。

【懸峯】176 ケンポウ 空にかかるやうにけはしくそばだつた山のみね。〔郭璞、密蜂賦〕吮二瓊液於懸峯一、吸二椵津乎晨景一。

【懸命】177 ケンメイ ㊀いのちがけ。決死。縣命。〔後漢書、陳龜傳〕懸二命鋒鏑一。〔陸機、漢高祖高臣頌〕劉項懸レ命。㊁非常の熱心。

【懸門】178 ケンモン 上下する仕組にした戶のある門。縣門。〔墨子、備城門〕備二城門一爲二懸門一。〔資治通鑑、唐紀〕(代宗、廣德元年)明日虜復逼レ城請レ戰、璘開二懸門一以待レ之。〔注〕杜預曰、懸門、施二於內城門一、按、今邊城之門、設レ扉以啓閉、而懸門者設二於門闉之外一、常懸而不レ下、寇至則下レ之以塞レ門、以爲二重閉之固一。

【懸約】179 ケンヤク おきてがきをかける。〔福惠全書、蒞任部、禁私謁〕懸二約後堂一、婉詞先致。

【懸輿】180 ケンヨ 退職すること。懸車(81)を見よ。懸輿。〔論衡、自紀〕年漸七十、時可二懸輿一。

【懸癰】181 ケンヨウ 病名。俗に坐馬癰といふ。會陰部に生ずる一種の腫物。〔醫按、懸癰〕懸癰、謂下生二於玉莖之後、穀道之前一、屬中足三陰虧損之證上、輕則爲二漏瀝一、盡二氣血一而亡、重則內潰而卽隕、若初起二濕熱一、壅滯未レ成レ膿而作レ痛、或小便澀滯、用二龍膽瀉肝湯一。〔證治準繩、懸癰〕懸癰、生二於篡閒一、謂二前陰之後、後陰之前一、屛醫處也、卽會陰穴屬二任脈別絡俠督脈衝脈之會一、癰生二其閒一、人起立、則若レ懸然、故名二懸癰一。

【懸慾】182 ケンヨク 欲にひきかかる。欲望のとりことなる。〔人物志、效難〕且天下之人、不レ可レ得二皆與遊處一、或志趣變易、隨レ物而化、或未レ至而懸レ欲。

【懸蘿】183 ケンラ 垂れ下つたかづら。〔潘岳、河陽縣作詩〕依レ水類二浮萍一、寄レ松似二懸蘿一。

【懸瀨】184 ケンライ たき。懸瀑。瀑布。〔新論、殊好〕縣瀨碧潭、瀾波洶湧。〔陶弘景、水仙賦〕絕壁飛流、萬丈懸瀨。

【懸流】185 ケンリウ 懸水(104)に同じ。〔郭璞、江賦〕淵客築二室於巖底一、鮫人構二館於懸流一。

【懸溜】186 ケンリウ 流れ下る水のしたたり。瀑布。〔陶潛、祭二從弟敬遠一文〕淙淙懸溜、曖曖荒林。〔會稽記〕赤城山懸溜千仞、謂二之瀑布一。

【懸梁】187 ケンリヤウ ㊀苦學する喩。楚の孫敬が頭髮を結び附けた繩を梁にかけ、睡を防いで經を寫した故事。懸頭。〔任昉、答三陸倕感二知己一賦〕時坐睡而懸レ梁、裁據レ梧而錐レ握。〔三字經〕頭懸レ梁、錐刺レ股。㊁hsüan^2 liang^2 縊死すること。

【懸梁自盡】188 hsüan^2 liang^2 tzŭ^4 chin^4 梁に首をつるして自殺する。縊死。

【懸慮】189 ケンリヨ 氣にかかること。

【懸令】190 ケンレイ hsüan^2 ling^4 高札。

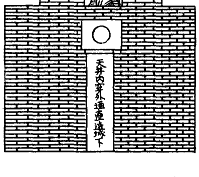
【懸黎】191 美玉の名。縣藜。〔戰國、秦策〕梁有二懸黎一、楚有二和璞一、而爲二天下名器一。〔班固、西都賦〕懸黎垂棘、夜光在焉。〔注〕向曰、懸黎・垂

棘、皆璧也。〔張衡、西京賦〕流二懸黎之夜光一。〔曹植、七啓〕佩則結緣懸黎。〔注〕善曰、戰國策、應侯謂二秦王一曰、梁有二懸黎一、宋有二結緣一、而爲二天下名器一也。〔劉峻、辨命論〕殘二懸黎之夜色一。

【懸連】192（ケンレン）　かけ連ねる。〔後漢書、帝章紀、以二上林池籞田一賦二與貧人一、注〕前書音義曰、折レ竹以レ繩懸二連之一、使二人不一レ得二往來一、謂二之籞一。

【懸聯】193（ケイレン）　かかりつらなること。

【懸簾】194（ケンレン）　❶すだれをかける。〔李賀、堂堂詩〕蕙花已老桃葉長、禁院懸レ簾隔二御光一。❷戰具の名。城上で敵から來る矢箭を防ぐために設けたもので、氈毯や被褥を用ひて作る。〔武備志、懸戶・懸簾圖說〕懸戶・懸簾、垛口第一切要之物、無二此二者一、賊萬弩齊發、城上不レ能二存站一、昔雷將軍面中二六矢一、蓋少レ此也、今擬每垛口作二木架一箇一、兩足在レ內、栽二於城上一、一轉軸匡檔在レ外、緊二貼兩垛之邊一、上用二覆レ格可レ搭氈毯一、或用二被褥一、俱以レ水濕直二遮垛口一、箭不レ能レ入。


天井內穿外通直透城下

懸簾❷（武備志）

【懸路】195（ケンロ）　石間の細い道路。

【懸腕】196（ケンワン）　運筆の法。腕を擧げ宙に懸けて書く法。懸腕直筆を見よ。〔筆玄與旨〕古人貴二懸腕一者、以レ可レ盡レ力耳、大小諸字、古人皆用二此法一。

【懸腕直筆】197（ケンワンチヨクヒツ）　運筆の法。腕を擧げて宙に懸け、筆を垂直にもつて書く法。〔古今法書苑〕腕法有レ三、有二枕腕一、有二懸腕一、有二提腕一、枕腕者、以二左手一枕二右手一而書レ之、提腕者、肘著レ案、虛二提手腕一而書レ之、懸腕者、懸二著空中一而書レ之、枕腕以書二小字一、提腕以書二中字一、懸腕以書二大字一。

【懸腕枕腕】198（ケンワンチンワン）　運筆の法。懸腕と枕腕。枕腕は左手を枕にして書く法。懸腕直筆を見よ。

【懸腳嶺】199（ケンキヤクレイ）　山名。浙江省長興縣の西北。多く茶・箭竹・漆木を産す。又、芳巖といふ。民國十四年の江浙戰爭の地。

【懸花生】200（カケバナイケ）　柱壁などにかけおく花いけ。

【懸橙書】201（ケントウシヨ）　こしかけを吊しあげて高いところに字を書くこと。橙は坐具。〔晉書、王獻之傳〕魏時陵雲殿榜未レ題、而匠者誤釘レ之、不レ可レ下、乃使二韋仲將懸レ橙書一レ之。

【懸風槌】202（ケンフウツイ）　風に吹かれてぶらぶらするつち。睡を催してしばしば頭をたれるにいふ。〔南史、到漑傳〕梁武帝與二到漑一對棊、從レ夕達レ旦、或復失レ寢、加以二低睡一、帝詩嘲レ之曰、狀若二喪家狗一、又似二懸風槌一、當時以爲二笑樂一。

【懸雍垂】203 hsüan² yung³ ch'ui²　生理學用語。圓錐形を成して軟口蓋の後端に在り、口腔と咽頭との界域をなすもの。俗に小舌といふ。

【懸有二重賞一】204（カケテヂユウシヤウアリ）　重賞をかける。〔晉書、王沈傳〕雖レ懸二重賞一、忠諫之言、未レ可レ致也。

【懸烏帽子】205（カケエボシ）　折烏帽子を、小結び又は頂頭懸（ちやうづかけ）をかけないで頭におし入れ、後の針だけで留め置くこと。打懸烏帽子。〔曾我會稽山、四〕腰に附けたる懸烏帽子に。

【懸溪和尚】206（ケンケイヲシヤウ）　清、孫自修（**3－6987**··422）の號。

【⿰忄⿱𦥑貝】11463　クワイ　憒（**4－11211**）の本字。〔正字通〕⿰忄⿱𦥑貝、憒本字。

【⿲辛忄辛】11464　ベン　辡（**4－11359**）に同じ。〔說文長箋〕⿲辛忄辛、與レ辡同。

【⿱甚心】11465　キ　惎（**4－10776**）に同じ。〔集韻〕惎、或作レ⿱甚心。

【愨】11466　カク　〔字彙補〕苦角切　覺

つつしむ。〔字彙補〕愨、謹誠也。

【𢡰】11467　音未詳　人名。〔字彙補〕𢡰、人名、宋理宗時、宗尹趙與𢡰、見二三朝政要一、音義闕。

【⿰忄諸】11468　チユ　住（**1－505**）に同じ。〔字彙補〕⿰忄諸、釋典住字。

【⿱艹惠】11469　ケイ　惠（**4－10822**）の古字。〔中華大字典〕⿱艹惠、惠古字、見二說文叀部一。

【⿱攸壬】11470　イウ　悠（**4－10681**）に通ず。〔正字通〕⿱攸壬、與レ悠通。

【⿰忄替】11471　サン　憯（**4－11260**）の俗字。

【⿰亻⿱爾心】11472　ニン　您（**4－10712**）の譌字。丁寧に人をよぶ語。

【⿱心冓】11473　[字國]　すすむ。すずろに。あからしく。あぢきなし。そぞろ。さまざま。字鏡集・類聚名義抄等に見える。

十七畫

【⿰忄鮮】11474　セン　〔集韻〕息淺切　銑

はぢる。〔集韻〕⿰忄鮮、慚也。

【㦨】11475　ラン　嬾（**3－6872**）に同じ。〔集韻〕嬾、或作レ㦨。

【懹】11476　[一] ニヤウ（ジヤウ）　〔集韻〕人樣切　漾　[二] ニヤウ（ジヤウ）　〔集韻〕如陽切　陽

[一]❶**はばかる。**〔方言、七〕憎・懹、憚也、陳曰レ懹。〔廣韻〕懹、憚也。❷**なやむ。くるしむ。**〔廣雅、釋詁三〕懹、難也。[二]恇懹は、あわてる。〔集韻〕懹、恇懹、狂遽也。

【⿱剹心】11477　リウ　懰（**4－11421**）に同じ。〔正字通〕⿱剹心、同レ懰。

【懺】11478　サン　セン　〔集韻〕叉鑑切　陷　ㄔㄢˋ ch'an⁴　[慣]ザン

❶**くいる。くい。**前非を悔いて告白する。〔集韻〕懺、悔也。〔韻會〕懺、自陳レ悔也、釋典、懺悔、注、懺摩、此云二請忍一、謂下請二前人一忍受中我懺罪上、一曰、悔レ過。〔晉書、佛圖澄傳〕愕然愧懺。❷或は讖（**10－36144**）に作る。〔集韻〕懺、或从レ言。

【懺悔】1（サンゲ ザンゲ）　[佛]過去の非をさとつて改心する。又、前非を悔いて告白する。懺は梵語懺摩 ksamayati の略。悔は悔往の意で、懺摩の譯語。卽ち梵語と漢語とを合はせた語。〔觀無量壽經〕王聞二此語一、懺悔求レ救。〔注〕具云二懺摩一、此言二悔往一。〔梁簡文、六根懺文〕今日此衆、誠心懺悔。

〔懺悔錄〕2（ザンゲロク）　過去の非を悔いて書き記した記錄。

〔懺悔話〕3（ザンゲバナシ）　懺悔を人に物語ること。

【懺洗】4（サンセン）　[佛]罪惡を悔い改めて心を清めること。懺悔清淨。懺除。〔符載、梵閣寺常準上人精院記〕因二於懺洗一、嘗與二一二善友一、跳レ身此來。

【懺除】5（サンヂヨ）　[佛]悔い改めること。懺悔して罪を除くこと。〔華嚴經〕懺二除罪障一、隨二喜福德一。

【懺法】6（サンボフ）　[佛]懺悔のためにする修行。〔釋氏通

鑑、五〕（梁武帝）爲㆓雍州刺史㆒而妃薨、其性酷妬、及㆑是化爲㆓巨蟒㆒入㆓于後宮㆒通㆓夢於帝㆒求㆓功德㆒拯㆓拔離苦㆒帝閱㆓大藏㆒製㆓慈悲道場懺法㆒。

【懺禮】7 サンライ 佛 佛に懺悔し禮拜して福を求める。〔南史、郭祖深傳〕比來慕㆑法、普天信向、家家齋戒、人人懺禮。

【懺主禪慧大法師】8 ザンシュゼンケイダイハフシ 宋、遵式（11-39118‥24）の賜號。

【懚】 11479 イン オン 〔類篇〕倚謹切 吻

❶**うれへなやむ。**〔類篇〕懚、憂病也。❷**かなしむ。**〔類篇〕懚、哀也。❸㥯（4-11002）の俗字。〔正字通〕懚、俗㥯字。

【⿰忄賫】 11480 セイ ザイ 〔集韻〕牋西切 齊

うたがふ。 懠（4-11377）に同じ。〔集韻〕懠、懠疑、猶㆓猜疑㆒也、或从㆑賫。

【⿰忄營】 11481 エイ ヤウ 〔篇海〕余傾切 庚

まもる。〔篇海〕⿰忄營、衞也。

【懻】 11481 キ 〔集韻〕几利切 寘

つよくただしいさま。又、もとる。〔玉篇〕懻、北方名㆓強直㆒爲㆑懻、又懻忮也。〔集韻〕懻、彊直皃。

【懻忮】1 キシ つよくもとる。〔史記、貨殖傳〕人民矜㆓懻忮㆒、好㆑氣任俠爲㆑姦。〔漢書、地理志下〕民俗懻忮。

【⿰忄⿳日共言】 11483 ハク バク 〔集韻〕弼角切 覺

❶**もだえる。** ⿰忄⿳日共言⿰忄⿳日共言。〔集韻〕⿰忄⿳日共言、爾雅、⿰忄⿳日共言⿰忄⿳日共言、悶也。❷或は懪（4-11401）に作る。〔集韻〕⿰忄⿳日共言、或从㆑暴。

【⿰忄業】 11484 ヒ 〔集韻〕鋪畏切 未

つかれる。 或は擈（5-12949）に作る。〔集韻〕⿰忄業、用㆑力極也、或从㆑手。

參考 ⿰忄業、集韻で⿰忄業に作るのは誤。

【⿱𤇾心】 11485 ラウ

労（2-2410）の古字。〔集韻〕労、古作㆑⿱𤇾心。

【⿰忄燮】 11486 セフ 〔集韻〕悉協切 葉

❶**心がたひらかでない。**〔集韻〕⿰忄燮、意不㆑平。❷⿰忄瓦⿰忄燮は、志がかるがるしい。〔集韻〕⿰忄燮、一曰、⿰忄瓦⿰忄燮、志輕也。

參考 康熙字典では、字形を⿰忄爕に作り、十九畫に入れてゐるが、今、集韻に據つて改めてここに入れる。

【⿰忄對】 11487 ツイ

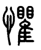
懟（4-11376）に同じ。〔說文長箋〕⿰忄對、與㆑懟同。

十八畫

【懼】 11488

🈩 ク グ 〔集韻〕衢遇切 ㄐㄩˋ chü^{4} 遇

🈔 ク グ 〔集韻〕權俱切 虞


小篆

古文

🈩❶**おそれる。**㋑おぢる。〔說文〕懼、恐也、从㆑心瞿聲。〔正字通〕懼、恐怖也。〔論語、子罕〕勇者不㆑懼。〔唐書、席豫傳〕人爲㆓寒懼㆒。㋺あやぶむ。〔周書、王褒傳〕被㆑圍之日、上下猜懼。㋩つつしむ。〔正字通〕懼、戒懼。〔詩、大雅、雲漢序〕宣王遇㆑炎而懼、側㆑身修㆑行。〔論語、述而〕必也臨㆑事而懼、好㆑謀而成者也。❷**おそれ。** わづらひ。〔左氏、成、十六〕盍㆔釋㆑楚以爲㆓外懼㆒乎。❸**おどす。** 畏怖させる。〔左氏、莊、十九〕吾懼㆑君以㆑兵。〔史記、齊世家〕懼㆓士卒㆒。❹**おどろく。**〔方言、十三〕懼、驚也。❺**やむ。** うれへる。〔方言、十三〕懼、病也。〔漢書、張安世傳〕安世瘦懼、形㆓於顏色㆒。❻**守りのないさま。**〔集韻〕懼、無㆑守皃。❼或は瞿（8-23747）に作る。〔集韻〕懼、或省。〔漢書、鄒陽傳〕長君懼然。〔注〕師古曰、懼、讀爲㆑瞿、音居具反、瞿然、無㆑守之貌。❽古は愳（4-11004）・⿱⿵冂䀠心（4-11282）に作る。〔集韻〕懼、古作㆓愳・⿱⿵冂䀠心㆒。❾戄（4-11515）に通ず。〔莊子、庚桑楚〕南榮趎懼然顧㆓其後㆒。〔釋文〕懼、本又作㆑戄。〔莊子、天運〕吾始聞㆑之懼。〔釋文〕懼、一本作㆑戄。🈔**おそれる。** 🈩の❶に同じ。〔集韻〕懼、恐也。

【懼意】1 クイ おそれる心。〔後漢書、馮異傳〕何嫌何疑而有㆓懼意㆒。

【懼焉】2 クエン おそれるさま。〔大戴禮、用兵〕公懼焉曰、在㆓民上㆒者、可㆓以無㆒㆑懼乎哉。

【懼氣】3 クキ おそるべき氣。〔管子、小稱〕懼氣以感㆑目。〔纂詁〕可㆑懼之氣、感㆓動己目㆒、謂㆓民怨㆒㆑己。

【懼呼】4 クコ おそれよぶ。〔史記、衞康叔世家〕夫人覺㆑之懼呼。

【懼齋】5 クサイ 宋、陳普（11-41698‥526）の號。

【懼讒】6 クザン 讒言をおそれる。〔詩、王風、采葛序〕采葛、懼㆑讒也。

【懼思】7 クシ おそれおもふ。〔左氏、文、三〕孟明之臣也、其不㆑解也、能懼思也。

【懼色】8 クショク おそれるいろ。〔袁宏、三國名臣序贊〕劉后授㆑之無㆓疑心㆒、武侯處㆑之無㆓懼色㆒。

【懼心】9 クシン 懼意（1）に同じ。〔左氏、哀、二〕彼見㆓吾貌㆒、必有㆓懼心㆒。

【懼愼】10 クシン おそれつつしむ。〔白虎通、京師〕明㆑當㆔懼愼損㆓於善惡㆒。〔李尤、舟楫銘〕安審懼愼、終無㆓不可㆒。

【懼震】11 クシン おそれふるふ。震懼。〔漢書、陳湯傳〕萬夷慴伏、莫㆑不㆓懼震㆒。

【懼聲】12 クセイ おそるべき聲。〔管子、小稱〕明王懼聲以感㆑耳。〔纂詁〕可㆑懼之聲、感㆓動己耳㆒、謂㆓民毀㆒㆑己。

【懼選】13 クセン 罪をせめられることを恐れる。〔左氏、昭、元〕其母曰、弗㆑去懼選。〔注〕選、數也、恐㆘景公數㆓其罪㆒而加㆖戮。

【懼喘】14 クゼン おそれあへぐ。〔沈約、謝㆔司徒賜㆓北蘇㆒啓〕停鑣懼喘、既弘㆓道於世務㆒。

【懼然】15 クゼン 恐れて守を失ふさま。驚き視るさま。又、恐れるさま。瞿然。〔莊子、庚桑楚〕南榮趎懼然顧㆓其後㆒。〔疏〕懼然、驚貌也。〔史記、孟子荀卿傳〕王公大人初見㆓其術㆒、懼然顧化。〔漢書、惠帝紀贊〕聞㆓叔孫通之諫㆒則懼然。〔注〕師古曰、懼、讀曰㆑瞿、瞿然、失㆑守貌。〔漢書、王莽傳中〕懼然祗畏。〔注〕師古曰、懼然、自失之意也。〔後漢書、法眞傳〕太守懼然、不㆓敢復言㆒。

【懼退】16 クタイ おそれしりぞく。

【懼男】17 クダン 明、杜堇（6-14477‥71）の號。

【懼惕】18 クテキ おそれる。〔常袞、放㆓京畿丁役㆒及免稅制〕懼惕良深。

【懼內】19 chü^{4} nei^{4} 夫が妻をおそれる。嬶天下。

【懼怕】20 クハク おぢおそれる。〔續搜神記〕人皆懼怕。

【懼怖】21 クフ おそれること。〔國史略、皇極天皇〕子丸等懼怖不㆓敢發㆒。

【懼聞】22 クブン 清、宋是（3-7078‥111）の字。

【懼夢】23 クム 六夢の一。恐懼してみるゆめ。〔周禮、春官、占夢〕六曰懼夢。〔注〕恐懼而夢。

【懼懣】24 クモン クマン おそれもだえる。〔後漢書、郭躬傳〕內懷㆓懼懣㆒、而未㆓敢陳諫㆒。

【懼惑】25 クワク おそれまどふ。〔論衡、明雩〕見㆑異懼惑。

【〓】11489 リ 〓(4-11089)に同じ。〔集韻〕〓、或作㆑〓。

【〓】11490 ㊀ケイ エ 〔集韻〕玄圭切 齊 ㊁キ 〔集韻〕翾規切 支

小篆 ㊀❶そむく。二心をいだく。〔說文〕〓、有㆓二心㆒也、从㆑心巂聲。❷はなれる。〔廣雅、釋詁三〕〓、離也。❸攜(5-13008)に通ず。〔說文、〓、段注〕古多段㆓借攜㆒爲㆑之。㊁そむく。〔集韻〕〓、有㆓二心㆒也。

【〓】11491 イウ 〓(4-11470)の譌字。〔正字通〕舊本、〓、譌作㆑〓、以㆑〓爲㆑夒、竝非。

【〓】11492 セウ 〔集韻〕子肖切 嘯 性質がきびしい。〔集韻〕〓、性急也。

【〓】11493 ソク 〓(4-11037)に同じ。〔正字通〕〓、同㆑〓。

【〓】11494 ソク 〓(4-11037)の古字。〔集韻〕〓、古作㆑〓。

【〓】11495 ダウ 〓(4-10897)に同じ。〔集韻〕〓、或从㆑夒。

【〓】11496 チユウ 忡(4-10354)に同じ。〔正字通〕〓、忡竝同。

【懽】11497 ㊀クヮン 〔集韻〕古玩切 翰 ㊁クヮン 〔集韻〕呼官切 寒 ㄏㄨㄢ huan¹

小篆 ㊀❶よろこぶ。よろこび。よろこばせる。〔說文〕懽、喜歎也、从㆑心雚聲。〔孝經、孝治章〕得㆓萬國之懽心㆒。❷うれへる。憂へて告げる所なきさま。懽懽。或は灌(7-18759)に作る。〔爾雅、釋訓〕懽懽・愮愮、憂無㆑告也。〔釋文〕本或作㆑灌。❸或は讙(10-36157)に作る。〔集韻〕懽、或从㆑言。㊁❶よろこびたのしむ。歡(6-16242)に同じ。〔集韻〕歡、說文、喜樂也、或从㆑心。❷あふ。かなふ。〔戰國、秦策〕大國與㆑之懽。〔注〕懽、合也。❸㊀の❶に同じ。

參考 ❶熟語は歡(6-16242)を併せ見よ。

【懽友】1 クヮンイウ 心のよく合ふ友。歡友。〔陸機、擬㆓今日良宴會㆒詩〕閑夜命㆓懽友㆒、置㆓酒迎風館㆒。

【懽益】2 クヮンエキ よろこばし益する。〔嵆康、與㆓山巨源㆒絶交書〕若趣欲㆘共登㆓王塗㆒、期㆓於相致㆒、時爲㆗懽益㆖、一旦迫㆑之、必發㆓其狂疾㆒。

【懽懌】3 クヮンエキ よろこぶ。又、よろこび。〔韋應物、西郊遊宴云云詩〕高宴闕㆓英僚㆒、衆賓寡㆓懽懌㆒。

【懽悅】4 クヮンエツ よろこぶ。喜び。歡悅。

【懽說】5 クヮンエツ よろこぶ。懽悅。〔漢書、許皇后傳〕還㆓白太子懽說狀㆒。

【懽顏】6 クヮンガン よろこんだかほ。懽容。歡顏。〔杜甫、茅屋爲㆓秋風所㆒㆑破歌〕安得㆓廣廈千萬閒㆒、大庇㆓天下寒士㆒俱懽顏。

【懽氣】7 クヮンキ よろこばしい氣分。〔論衡、佚文〕誠見㆓其美㆒、懽氣發㆓於內㆒。

【懽喜】8 クヮンキ 喜ぶ。又、よろこび。歡喜。〔漢書、蕭望之傳〕窟穴黎庶、莫㆑不㆓懽喜㆒。

【懽噱】9 クヮンキャク よろこび笑ふ。噱は、大いに笑ふこと。歡噱。〔張纘、南征賦〕候㆓高譟㆒以巧笑、候㆓長星㆒而懽噱。

【懽忻】10 クヮンキン よろこぶ。よろこび。歡忻。〔王褒、四子講德論〕靡㆑不㆓奔走貢獻、懽忻來附、婆娑嘔吟、鼓㆑腹而笑㆒。

【懽欣】11 クヮンキン よろこぶ。よろこび。歡欣。〔大戴禮、曾子立孝〕懽欣忠信、咎故不㆑生、可㆑謂㆑孝矣。〔後漢書、孔融傳〕前者黜退、懽欣受㆑之。〔晉書、樂志序〕飾㆓其懽欣㆒、止㆓於哀思㆒者也。

【懽懽】12 クヮンクヮン 憂へて告げるところのないさま。〔爾雅、釋訓〕懽懽・搖搖、憂無㆑告也。

【懽呼】13 クヮンコ よろこびよぶ。歡呼。讙呼。〔歐陽脩、張子野墓詩銘〕飲酒懽呼。

【懽娛】14 クヮンゴ よろこびたのしむ。歡娛。〔沈約、遊㆓沈道士館㆒詩〕懽娛人事盡、情性猶未㆑充。〔柳宗元、招㆓海賈㆒文〕撞㆑鐘擊㆑鮮恣㆓懽娛㆒。

【懽趣】15 クヮンシュ よろこばしいおもむき。〔何遜、野夕答㆓孫郎擢㆒詩〕虛館無㆓賓客㆒、幽居乏㆓懽趣㆒。

【懽聚】16 クヮンシュウ 歡樂のあつまり。多く家庭を指していふ。〔趙師俠、詞〕希夷高蹈、壽康長保、五世祖孫懽聚。

【懽心】17 クヮンシン よろこびの心。歡心。〔司馬相如、長門賦〕伊予志之漫愚兮、懷㆓貞愨之懽心㆒。

【懽親】18 クヮンシン よろこびしたしむ。〔新書、五美〕上下懽親。

【懽笑】19 クヮンセウ よろこびわらふ。歡笑。〔論衡、辯祟〕戮辱懽笑。

【懽然】20 クヮンゼン よろこぶさま。歡然。〔王褒、聖主得㆓賢臣㆒頌〕上下俱欲㆓懽然交㆒㆑欣。〔意林、二〕懽然喜樂者、鐘鼓之色。

【懽暢】21 クヮンチャウ よろこびやはらぐ。〔晉書、劉輿傳〕人人懽暢、莫㆑不㆓悅附㆒。

【懽洞】22 クヮンドウ うれしいところ。〔福惠全書、庶政部、禁㆓婦女燒㆒㆑香〕色鬼淫魔、攝歸㆓懽洞㆒。

【懽愉】23 クヮンユ よろこび。歡愉。〔韓愈、荊潭唱和詩序〕懽愉之辭難㆑工、而窮苦之言易㆑好也。

【懽豫】24 クヮンヨ よろこびたのしむ。〔摯虞、觀魚賦〕既懽豫而不㆑倦、願窮㆑晝而兼㆑夜。

【懽樂】25 クヮンラク よろこびたのしむ。歡樂。〔呂覽、本味〕志懽㆓樂之㆒。

【得㆑懽】26 クヮンヲウ よろこびを得る。〔易林〕君子以安、勞者得㆑懽。

【居㆑懽惜㆓夜促㆒】27 クヮンニヰテヨノミジカキヲヲシム 歡樂の時には夜の短いのを怨む。懽は歡にも作る。〔張華、情詩〕居㆑懽惜㆓夜促㆒、在㆑慼怨㆓宵長㆒。

【懾】11498 セフ 〔集韻〕質涉切 葉 ㄓㄜˊ chê² ㄕㄜˋ shê⁴

小篆 ❶おそれる。㋑氣おちがする。〔說文〕懾、失㆑气也、从㆑心聶聲。㋺おぢる。くぢける。〔禮、樂記〕柔氣不㆑懾。〔注〕懾猶㆓恐懼㆒也。〔史記、樂書〕柔氣不㆑懾。〔注〕集解曰、鄭玄曰、懾、猶㆓恐懼㆒也、正義曰、懾、懼也。〔淮南子、主術訓〕據㆑義行㆑理而志不㆑懾。〔注〕懾、懼也。㋩とりみだす。まどふ。〔一切經音義、十二〕懾、失㆑常也。〔禮、曲禮上〕則志不㆑懾。〔注〕懾、猶㆓怯惑㆒也。㋥うれへる。〔荀子、禮論〕不㆑至㆓於隘懾傷㆒㆑生。〔注〕懾、猶㆑戚也。❷おどす。おそれさす。〔呂覽、論威〕威所㆓以懾㆒㆑之也。〔注〕懾、懼也。❸したがふ。〔說文〕懾、一曰、心服也。〔廣雅、釋言〕懾、般也。〔王念孫疏證、五下〕般(服)、各本譌作㆑般、今訂正、說文、懾、服也。❹もつ。維持する。〔後漢書、朱暉傳〕徒感㆓王綱之不㆒㆑懾。〔注〕懾、持也。❺或は〓(1-1303)に作る。〔集韻〕懾、或作㆑〓。❻惵(4-10861)に通ず。〔說文通訓定聲〕懾、字亦作㆑惵。❼慴(4-11143)に同じ。〔正字通〕慴、同㆑懾。❽讋(10-36120)に同じ。〔說文〕讋、失气言、讀若㆑慴。

【懾意】1 セフイ 恐れる心。〔管子、戒〕身在㆓草茅之中㆒而無㆓懾意㆒。

【懾畏】2 セフヰ おそれる。恐怖。〔國語、吳語〕非㆔懾㆓畏吾甲兵之彊㆒也。〔晏子、問、上〕左右懾畏。

【懾駭】3 セフガイ おそれおどろく。〔唐書、陸贄傳〕聆㆓彊蕃勁虜㆒、則懾駭褫㆑情。

【懾號】4 セフガウ おそれさけぶ。惕號。

【懾氣】5 セフキ おそれる。〔南史、戚袞傳〕諸儒懾㆑氣。

【懾驚】6 セフキャウ 懾駭(3)に同じ。

【懾怯】8 セフケフ おそれる。〔荀子、不苟〕與㆑時屈伸、柔從若㆓蒲葦㆒、非㆓懾怯㆒也。

【懾竄】9 セフザン おそれかくれる。〔班固、西都賦〕猨狖失レ木、豺狼懾竄。〔注〕善曰、鄭玄毛詩箋曰、懾、懼也、向曰、失レ木懾竄、驚懼也。

【懾處】10 セフショ おそれをる。おそれて居る。〔戰國、趙策〕守二四封之內一、愁居懾處、不三敢動搖一、唯大王有レ意三督二過之一也。〔史記、張儀傳〕愁居懾處、不二敢動搖一。

【懾聳】11 セフショウ おそれてぞつとする。ぎよつとする。〔吳志、是儀傳、注〕忠不レ諂レ君、勇不二懾聳一。

【懾慴】12 セフセフ おぢおそれる。懾聳。〔史記、衞將軍驃騎傳〕驃騎將軍率二戎士一、歷二五王國一、輜重人衆、懾慴者弗レ取。〔注〕集解曰、恐懼也、索隱曰、說文云、懾慴、失レ氣也。

【懾懾】13 セフセフ 畏れの甚しいさま。〔司馬法、定爵〕驕驕懾懾。

【懾讋】14 セフセフ ふるひおそれる。讋は慴、おそれ。攝讋。〔漢書、霍去病傳〕輜重人衆、攝讋者弗レ取。〔注〕師古曰、攝讋、謂三振動失二志氣一。〔王先謙補注〕李慈銘曰、攝讋、史作二懾慴一、讋與レ慴同義、攝則懾之叚借。

【懾然】15 セフゼン おそれるさま。〔新書、容經〕怮然懾然若レ不レ還。

【懾息】16 セフソク おそれて息をころす。〔資治通鑑、齊紀〕東昏侯、永元二年、公卿見レ之、莫レ不二懾息一焉。〔注〕懾息、猶レ言二惕息一也、懾、懼也、屛レ氣而息。

【懾憚】17 セフタン おそればかる。畏憚。慴憚。〔後漢書、李固傳〕自二胡廣趙戒一以下、莫レ不三懾二憚之一。〔潘勖、冊二魏公九錫一文〕懾二憚君靈一。〔宋書、戴法興傳〕懾憚尤甚。

【懾遁】18 セフトン おそれにげる。

【懾怖】19 セフフ おそれる。〔史記、陸賈傳贊、注〕索隱述贊曰、云云、陸賈使レ越、尉他懾怖。

【懾伏】20 セフフク おそれ伏すること。慴伏。〔戰國、趙策〕敝邑恐懼懾伏、繕レ甲厲レ兵、飾二車騎一、習二馳射一、力レ田積レ粟。〔史記、蔡澤傳〕楚趙皆懾伏。〔說苑、反質〕下懾伏以二慢欺一。

【懾服】21 セフフク おそれしたがふ。〔戰國、秦策〕趙楚懾服不二敢攻一レ秦者、白起之勢也。〔史記、律書〕百戰克勝、諸侯懾服、權非レ輕也。〔史記、秦始皇紀〕下懾服謾欺以取レ容。〔魏志、王脩傳〕豪彊懾服。

【懪】11499

バク

懪(4－11401)の本字。〔正字通〕懪、懪本字。

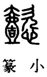
【愯】11500

㊀ショウ シユ 〔集韻〕筍勇切 腫
㊁サウ 〔集韻〕疎江切 江

㊀㊁ ❶おそれる。愯(4－10992)・悚(4－10672)に同じ。〔集韻〕愯、說文、懼也、引二春秋傳駟氏愯一、或作レ愯。〔正字通〕愯、愯・悚同。❷すすめる。〔漢書、刑法志〕愯レ之以レ行。〔注〕晉灼曰、愯、古竦字也、師古曰、愯、謂レ奬也。

【懿】11501

イ 〔集韻〕乙冀切 ㄧˋ i4 寘


小篆

❶うるはしい。よい。もと懿(4－11446)に作る。〔集韻〕懿、或不レ省。〔說文〕懿、嫥久而美也、从レ壹从二恣省聲一。〔爾雅、釋詁〕懿、美也。〔詩、大雅、烝民〕好二是懿德一。〔傳〕懿、美也。❷よみす。ほめる。たたへる。よしとする。〔易、小畜〕君子以懿二文德一。〔虞注〕懿、美也。〔班固、幽通賦〕懿二前烈之純淑一兮。〔注〕良曰、懿、美也。❸ふかい。ながい。医(2－2680)に通ず。〔說文通訓定聲〕懿、叚借爲レ医。〔小爾雅、廣詁〕懿、深也。〔詩、豳風、七月〕女執二懿筐一。〔傳〕懿筐、深筐也。❹つつしむ。抑(5－11883)に通ず。〔說文通訓定聲〕懿、叚借爲レ抑。〔國語、楚語上〕於レ是乎作二懿戒一。〔注〕懿、讀曰レ抑。❺ああ。發聲の助辭。噫(2－4381)に通ず。〔說文通訓定聲〕懿、叚借爲レ噫、實發聲之詞。〔書、金縢、對曰信噫公命レ我勿二敢言一、釋文〕噫、馬本作レ懿、猶レ億也。〔詩、大雅、瞻卬〕懿厥哲婦。〔箋〕懿、有レ所二痛傷一之聲也。❻古は懿(4－11190)・歎(6－16206)に作る。〔集韻〕懿、或不レ省、古作二懿・歎一。❼諡。〔逸周書、諡法解〕柔克爲レ懿、溫柔聖善曰レ懿。❽姓。〔通志、氏族略、以レ諡爲レ氏〕懿氏、姜姓、風俗通、本齊懿公之後。

名乘 ヨシ。

【懿懿】1 イイ ❶芳ばしいさま。〔楚辭、劉向、九歎、離世〕芳懿懿而終敗兮。〔注〕懿懿、芳貌。❷美しく善いさま。〔班固、太尉絳侯周勃銘〕懿懿太尉、惇厚樸誠。

【懿戒】2 イカイ 詩經、大雅、抑篇をいふ。衞の武公の作。厲王を刺り、又自ら戒めたもの。〔國語、楚語上〕昔衞武公、年數九十五矣、猶箴二儆於國一曰、自レ卿以下至二於師長士一、苟在レ朝者、無下謂二我老耄一而舍上レ我、必恭二恪於朝一、朝夕以交二戒我一、聞二一二之言一、必誦志而納レ之、以訓二導我一、於レ是乎作二懿戒一自儆也。〔注〕昭謂、懿、詩大雅抑之篇也、懿、讀曰レ抑、毛詩叙曰、抑、衞武公刺二厲王一亦以自儆也。

【懿行】3 イカウ 善美な行。〔唐書、柳玭傳〕實藝懿行、人未二必信一。

【懿恪】4 イカク 宋、王拱辰(7－20823‥1319)の諡。

【懿簡】5 イカン 諡號。❶宋、趙瞻(10－37171‥263)の諡。❷明、張鵬(4－9812‥676)の諡。

【懿軌】6 イキ よいのり。善美な法則。〔傅亮、感物賦〕仰二前修之懿軌一、知二吾跡之未一レ弁。

【懿僖】7 イキ 淸、吳景道(2－3365‥521)の諡。

【懿義】8 イギ 善美なおこなひ。〔曹攄、感舊詩〕鄉人敦二懿義一、濟濟蔭二光儀一。

【懿筐】9 イキヤウ 深い筐。筐は竹器。〔詩、豳風、七月〕女執二懿筐一、遵二彼微行一、爰求二柔桑一。〔傳〕懿筐、深筐也。

【懿恭】10 イキヨウ 美しくうやうやしい。〔書、無逸〕徽柔懿恭、懷二保小民一、惠二鮮鰥寡一。〔蔡傳〕徽・懿、皆美也。

【懿奐】11 イクワン 美しく盛なこと。立派なこと。〔漢書、韋玄成傳〕既耇致レ位、惟懿惟奐、厥賜祁祁、百金洎レ館。

【懿訓】12 イクン うるはしい教訓。善い教訓。〔愼思錄、一〕聖門之懿訓、萬生之模範也。

【懿業】13 イゲフ うるはしい業績。〔薛道衡、隋高祖文皇帝頌序〕懿業遠大、豈盡二于揄揚一。

【懿乎】14 イコ 美しいさま。〔蔡邕、郭有道碑文〕懿乎其純、確乎其操。

【懿齋】15 イサイ 淸、孫嘉淦(3－6987‥345)の號。

【懿子】16 イシ 諡號。❶春秋魯、仲孫何忌(1－403‥308)の諡。❷南齊、何戢(1－511‥93)の諡。

【懿旨】17 イシ 皇后の命令。令旨。〔李遜之、三朝野記〕祖制宮中服飾器皿、惟后用レ黃、餘皆用レ紅、鄭妃有レ寵、神廟欲レ賜二黃聖一不レ許、請レ之再三、乃曰、皇上講分、安得レ不レ聽レ傳二懿旨一、東西兩宮皆用レ黃、神廟遂止。〔故事成語考、朝廷〕皇后之命、乃稱二懿旨一。

【懿事】18 イジ 善事。〔吳志、吳主孫權傳〕前世之懿事、後王之元龜也。

【懿州】19 イシウ 州名。❶五代、唐の時、楚、置く。湖南省芷江縣の治。❷遼、置く。滿洲遼寧省黑山縣の境。〔讀史方輿紀要、山東、遼東都指揮使司、廣寧衞〕懿州城、遼置二慶懿軍一、更爲二廣順軍一、尋爲二懿州寧昌軍一、領二寧昌順安二縣一。

【懿城】20 イジヤウ 城の名。河北省濮陽縣の西北。〔左氏、襄、二十六〕以討レ衞彊二戚田一、取二衞西鄙懿氏六十一、以與二孫氏一。〔注〕戚城西北五十里有二懿城一、因レ姓以名レ城。

【懿鑠】21 イシヤク うるはしく盛なこと。〔蔡邕、太尉李咸碑〕懿鑠之美、昭二登于上一。〔班固、典引〕覆以二懿鑠一。〔注〕良曰、懿美、鑠盛也。

【懿叔】22 イシユク 宋、程之邵(8－25081‥213)の字。

【懿淑】23 イシユク よいこと。〔白居易、唐故武昌軍節度處置等使云云河南元公墓誌銘序〕懿淑有レ聞。

【懿醇】24 イジユン 美しく純なこと。〔蔡邕、祖德頌〕其德克明、惟懿惟醇。

【懿臣】25 イシン ❶忠臣をいふ。❷宋、王舉元(7－20823‥1316)の字。

【懿親】26イシン　美しい親しみある親族の閒柄。〔左氏、僖、二十四〕如レ是則兄弟雖レ有二小忿一、不レ廢二懿親一。〔注〕懿、美也。〔後漢書、袁譚傳〕曲辭諂媚、交二亂懿親一。〔魏志、中山恭王袞傳〕骨肉贊美、以彰二懿親一。

【懿生】27イセイ　清、馮雲驌(12－44579‥166)の字。

【懿成】28イセイ　宋、林季仲(6－14551‥289)の字。

【懿誠】29イセイ　正しく誠あること。〔王褒、四子講德論〕陳二懿誠於本朝之上一。

【懿劭】30イセウ　善く美しい。〔孔叢子、陳士義〕道德懿劭、幸見二顧臨一。

【懿戚】31イセキ　❶懿親(26)に同じ。〔晉書、苻丕載記論〕王猛以二宏才一緯二軍國一、苻融以二懿戚一贊二經綸一。❷うるはしい親しみのある外戚。〔宋書、殷景仁傳〕太祖所レ生章太后早亡、上奉二太后所レ生蘇氏一甚謹、六年蘇氏卒、車駕親往臨哭、下レ詔曰、朕夙罹二偏罰一、情事兼常、每思レ有下以光二隆懿戚一、少申中罔極之懷上。〔魏書、南安王楨傳〕以二懿戚之貴一、作二鎭關右一。〔宋史、外戚中、向經傳〕神宗爲二潁王一選二經女一爲レ妃、進二定國軍留後一、得レ疾還卒、將レ葬、賜二篆碑首一曰、忠勤懿戚。

【懿績】32イセキ　善美ないさを。〔晉書、王導等傳贊〕懿績克宣、忠規靡レ競。

【懿節】33イセツ　うるはしいみさを。〔元史、列女傳序〕有下能以二懿節一自著者上焉、非二其生質之美一、則亦豈易レ致哉。

【懿宗】34イソウ　❶唐、第十七代の皇帝。李漼(6－14459‥355)を見よ。❷安南黎朝第二十五代の王。名は維祳。永佑元年立つ。在位六年。

【懿哲】35イテツ　立派で事理に明かな人。〔吳筠、覽古詩〕天道殃二頑兇一、神明祐二懿哲一。

【懿度】36イド　厚い度量。大度。〔陸機、辨亡論下〕懿度弘遠矣。〔注〕銑曰、懿、厚也、言三權有二厚度量一也。

【懿德】37イトク　❶立派な德。秀でた德を稱美していふ。美德。〔詩、大雅、烝民〕民之秉レ彝、好二是懿德一。〔傳〕懿、美也。〔左氏、僖、二十四〕周之有二懿德一也、猶曰レ莫レ如二兄弟一、故封二建之一。〔史記、周紀〕我求二懿德一、肆二于時夏一。〔後漢書、鍾皓傳〕林慮懿德、非レ禮不レ處。〔顏氏家訓、文章〕非二懿德之君一也。❷第四代の帝謚。(B.C.510－B.C.477)

〖懿德太子〗38イトクタイシ　唐、李重潤(6－14459‥1754)の謚。

〖懿德符皇后〗39イトクフクワウゴウ　宋、符后(8－25935‥26)の謚。

【懿望】40イバウ　美しい人望。美望。〔魏志、華歆傳、注〕臣松之以爲、邴根矩之徽猷懿望、不二必有レ愧二華公一。

【懿伯】41イハク　春秋魯、子家羈(3－6930‥88)の謚。

【懿範】42イハン　❶美しい模範。〔陸雲、贈二顧驃騎一詩〕思二我懿範一、萬民來服。〔王勃、滕王閣序〕宇文新州之懿範。〔白居易、祭二故贈婕妤孟氏一文〕方資二懿範一以茂二嘉猷一。❷唐、路嗣恭(10－37524‥123)の字。

【懿美】43イビ　うるはしいこと。

【懿濞】44イヒ　おくふかいさま。〔王延壽、魯靈光殿賦〕屹鏗瞑以勿罔、屑黶翳以懿濞。〔注〕濟曰、懿濞、深邃貌。

【懿敏】45イビン　宋、王素(7－20823‥709)の謚。

【懿風】46イフウ　うるはしい風俗。〔孫拯、詩〕亦崇二懿風一、邈彼弘裕。〔仁孝天皇聖訓〕履二聖人之至道一、崇二皇國之懿風一。

【懿文】47イブン　❶善美な文章。善美な法規。〔權德輿、韋公先廟碑〕懿文經武、保二合昌運一。〔白居易、除二裴度中書舍人一制〕以二茂學懿文一、潤二色訓誥一。❷宋、林叔豹(6－14551‥354)の字。

〖懿文太子〗48イブンタイシ　明、朱標(6－14424‥539)の謚。

【懿樸】49イボク　清、顧藻(12－43689‥82)の字。

【懿網】50イマウ　美しい綱紀。〔陸機、辨亡論下〕雖二醲化懿網未レ齒二乎上代一、抑其體レ國經レ民之具、亦足二以爲レ政矣。

【懿茂】51イモ　美しく盛なこと。〔嵇康、琴賦〕嘉二斯器之懿茂一。〔注〕銑曰、懿、美也、茂、盛也。

【懿律】52イリツ　美しい六律。六律(2－1453‥588)の❶を見よ。〔揚雄、劇秦美新〕懿律嘉量。〔注〕善曰、律、六律也、翰曰、懿、美也、律、謂下正二時月之節一者上。

【懿烈】53イレツ　後魏、元嘉(1－1340‥60)の謚。

【懿路】54イロ　川の名。滿洲遼寧省鐵嶺縣の南。源は王家林山。もと小清河といふ。遼河に注ぐ。

【懿和】55イワ　うるはしくやはらぐ。〔揚雄、劇秦美新〕恢二崇祇庸爍德懿和之風一。

【懿王】56イワウ　周、第七代の王。姬囏(3－6230‥11)を見よ。

【懿安后】57イアンコウ　謚號。❶唐、憲宗の后、郭后(11－39474‥92)の謚。❷明、熹宗の后、張后(4－9812‥306)の謚。

【懿武帝】58イブテイ　後涼の王。呂光(2－3386‥48)を見よ。

【懿璘質班】59イリンチバン　元の第十四代寧宗の名。明宗の第二子。天曆三年二月、鄜王に封ぜられ、至順三年十月、明宗の弟文宗の後を繼いで卽位、時に七歲。その年十一月崩ず。〔元史、三十七〕。

【懿獻梁皇后】60イケンリヤウクワウゴウ　後漢、梁后(6－14825‥79)の謚。

十九畫

【懊】11502　ヘウ

慓(4－11084)の本字。〔正字通〕懊、慓本字。

【㦫】11503　サツ　サチ　〔集韻〕子末切　曷

㦫㦫は、心おこたる。〔集韻〕㦫、㦫㦫、心慢怠。

【戀】11504　レン　〔集韻〕龍眷切　霰　ㄌㄧㄢˋ　lien^4

❶こふ。㋑おもふ。しのぶ。〔易、小畜、有レ孚攣如、釋文〕攣、思也。㋺したふ。〔集韻〕戀、慕也。〔後漢書、羌肱傳〕兄弟相戀。㋩男女が相思ふ。情をかよはせる。〔晉子夜歌〕春別猶春戀、夏還情更久。❷こひ。〔王儉、法樂辭〕方爲二浮國游一、豈結二危城戀一。❸親族。愛人。〔張纘、南征賦〕捨二城中之常戀一、慕二遊仙之靈族一。❹古は䜌に作る。〔集韻〕戀、古作レ䜌。❺通じて攣(5－13032)に作る。〔漢書、外戚上、孝武李夫人傳〕上所三以攣攣顧二念我一者、注〕師古曰、攣、又讀曰レ戀。❻姓。〔正字通〕戀、姓。

【戀愛】1レンアイ　男女間のこひ。相思。愛戀。戀慕。

〖戀愛小說〗2レンアイセウセツ　戀愛關係を敍べた小說。

【戀衣】3コヒゴロモ　戀してゐる人の衣服。

【戀意】4レンイ　こひしく思ふ心。

【戀恩】5レンオン　めぐみに心をひかれる。〔舊唐書、令孤滈傳〕戀レ恩方切、陳レ誠至難。

【戀歌】6コヒカ　戀慕の情を詠んだ和歌。こひのうた。

【戀舊】7レンキウ　ふるきをこひしたふ。又、ふるさとをこひしたふ。〔後漢書、董卓傳〕欲レ徙二都長安一、云云、太尉黃琬・司徒楊彪、廷爭不レ能レ得、而伍瓊周珌又固諫レ之、云云、遂斬二瓊珌一、而彪琬恐懼、詣レ卓謝曰、小人戀レ舊、非レ欲レ沮二國事一也。〔魏志、司馬朗傳〕父老戀レ舊、莫レ有二從者一。〔劉長卿、赴二宣州使院一夜宣二寂上人房一留二辭前蘇州韋使君一詩〕戀レ舊爭趨レ府、臨レ危欲レ負レ才。

【戀泣】8レンキフ　したひなく。〔北史、傅豎眼傳〕益州人、追隨戀泣者數百里。

【戀朐】9レンク　あさはか。淺近。攣拘。〔鹽鐵論、非鞅〕此二子者知レ利而不レ知レ害、知レ進而不レ知レ退、故果身死而衆敗、此所謂戀朐之智、而愚人之計也。

【戀羣】10レングン　仲間の群に慕ひよること。〔李紳、憶二放鶴一詩〕好風順レ擧應レ摩レ日、逸翮將レ成莫レ戀レ羣。

【戀闕】11レンケツ　宮闕をこひ慕ふ。君を忘れない喩。〔韓愈、次二鄧州界一詩〕潮陽南去倍二長沙一、戀レ闕那堪又憶レ家。〔李紳、授二韓弘河中節度使一制〕懇二申戀闕之誠一、竟遂二來朝之禮一。〔杜甫、散レ愁詩〕戀闕丹心破、霑レ衣皓首啼。〔白居易、論二于頔裴均一狀〕既來必以二戀闕一爲レ名。

【戀月】12レンゲツ　月をこひ慕ふ。〔韓愈、答二張徹一詩〕急レ時促二暗棹一、戀レ月留二虛亭一。〔白居易、酬二李少府曹長官舍見レ贈詩〕戀レ月夜同宿、愛レ山晴共看。

【戀眷】13レンケン　いたく戀ひ慕ふこと。眷戀。

【戀恨】14（レンコン） こひうらむ心。〔趙至、與二嵇茂齊一書〕夫以二嘉遁之擧一、猶懷二戀恨一。

【戀皁】15（レンサウ） かひをけをしたふ。官職にあこがれる喩。戀皁。〔蘇軾、哭二刁景純一詩〕華堂不ㇾ見ㇾ人、瘦馬空戀ㇾ皁。

【戀草】16（レンサウ） ❶草をこひしたふ。〔許渾、翫二殘雪一詩〕眠鷗猶戀ㇾ草、棲鶴未ㇾ離ㇾ松。❷（コヒグサ）戀情を草の茂れるにたとへていふ。心の異稱。

【戀山】17（シタヒヤマ） 山名。出雲國仁多郡。〔出雲風土記、仁多郡〕戀山、郡家正南二十三里、古老傳云、和爾戀二阿伊村坐神玉日女命一而上到、爾時玉日女命、以ㇾ石塞ㇾ川、不ㇾ得ㇾ會ㇾ所ㇾ戀、故云二戀山一。

【戀棧】18（レンサン） 馬がねだをしたふ。祿位に貪戀する喩。戀皁。〔晉書、宣帝紀〕帝曰、爽與ㇾ範、內疏而智不ㇾ及、駑馬戀二棧豆一、必不ㇾ能ㇾ用也。

【戀賞】19（レンシヤウ） こひめでる。〔李嶠、侍二宴長寧公主東莊一應制詩〕承恩咸已醉、戀賞未ㇾ還ㇾ鑣。

【戀情】20（レンジヤウ） こひしたふこころ。〔王粲、從軍詩〕征夫懷二親戚一、誰能無二戀情一。

【戀主】21（レンシユ） 主人を戀ひ慕つて去るに忍びないこと。〔曹植、上二責ㇾ躬詩一表〕不ㇾ勝二犬馬戀ㇾ主之情一。〔錢起、送二陸郎中一詩〕事ㇾ邊仍戀ㇾ主、擧ㇾ酒復悲歌。

【戀酒】22（レンシユ） 酒をしたふ。〔方干、送丙陳秀才將ㇾ遊二霄上一便議乙北歸甲詩〕婆娑戀ㇾ酒山花盡、繚繞還ㇾ家水路通。

【戀色】23（レンシヨク） 女色をこひしたふ。〔秦觀、自警詩〕貪聲戀ㇾ色鎭如ㇾ癡、終被二聲色一迷二阡陌一。

【戀職】24（レンシヨク） 官職にあこがれる。〔淸國行政法汎論、官吏法、守制〕康熙九年所定科條云、官員短喪、並聞二父母祖父母喪一、仍行二戀職一者革職。

【戀心】25（コヒゴコロ） こひしく思ふ心。こひしたふ心。

【戀人】26（コヒビト） 意中の人。戀ひしたふ人。情人。

【戀水】27（レンスイ） ❶水をこひしたふ。〔白居易、奉二酬淮南牛相公思黯見ㇾ寄二十四韻一詩〕鷗棲心戀ㇾ水、鵬擧翅摩ㇾ天。〔白居易、留二題開元寺上方一詩〕戀ㇾ水多臨坐、辭ㇾ花剩繞行。❷（コヒミツ） 戀して出る淚。

【戀醒】28（コヒザメ） 戀心がさめること。

【戀占】29（コヒウラ） 戀に關するうらなひ。

【戀著】30（レンチヤク） 人を戀ひしたふ情が深くて離れ忘れ得ないこと。〔韓愈、與二大顚師一書〕苟非ㇾ所二戀著一。〔訶欲經〕女色者、世閒之枷鏁、凡夫戀著、不ㇾ能二自拔一。

【戀枕】31（レンチン） まくらがこひしい。たいぎでおきられないこと。〔張養浩、晨起詩〕戀ㇾ枕嫌二多夢一、開ㇾ簾曙色迷。

【戀土】32（レンド） 故里を戀ひ慕ふ。戀舊。〔後漢書、西羌、東號子麻奴傳〕百姓戀ㇾ土、不ㇾ樂ㇾ去ㇾ舊。〔劉長卿、落第贈下楊侍御兼拜二員外一云云赴中范陽上詩〕戀ㇾ土函關外、瞻ㇾ塵灞水東。

【戀班】33（レンパン） 官職に就くことを願ふ。〔李紳、肥河維ㇾ舟阻ㇾ凍祗待二敕命一詩〕淮陽效ㇾ理空多病、疎受辭ㇾ榮豈戀ㇾ班。

【戀慕】34（レンボ） こひしたふ。〔後漢書、安息國傳〕海中善使二人思ㇾ土戀慕一、數有二死亡者一。〔魏志、滿寵傳〕汝南兵民戀慕、大小相率、奔隨二道路一。〔王融、法樂辭、出國歌〕慈愛徒相思、閨中空戀慕。〔北周書、韋瑱傳〕吏民戀慕。〔法華經、如來壽量品〕諸比丘如來、難ㇾ可ㇾ得ㇾ見、斯衆生等、聞二如ㇾ是語一、必當下生二於難ㇾ遭之想一、心懷二戀慕一渴中仰於佛上、便種二善根一。

【戀嫪】35（レンラウ） よこしまな戀情。嫪は、呂太后の氣に入りの宦者嫪毒。轉じて、戀ひしたふこと。〔韓愈、薦士詩〕念ㇾ將二決焉去一、感ㇾ物增二戀嫪一。

【戀戀】36（レンレン） おもひ焦がれるさま。親しく思ひ慕ふさま。こひあこがれるさま。〔史記、范雎傳〕然公之所二以得ㇾ無ㇾ死者、以三綈袍戀戀、有二故人之意一。〔漢書、史丹傳〕意中戀戀、亦何不ㇾ念乎。〔孔叢子、儒服〕先生與二彼二子一善、彼有二戀戀之心一。〔後漢書、馬援傳〕遺ㇾ書戀戀、以致二惻隱之計一。

【戀路】37（コヒヂ） こひのみち。

【戀路闇】38（コヒヂノヤミ） 戀路に迷つて、物事のあやめもわかぬさまにいふ語。

【戀和】39 lien^4 hê^2 ねばる。

【戀女房】40（コヒニヨウバウ） 戀ひしたつて娶つた妻。

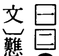
【戀不知】41（コヒシラズ） 未だ戀愛の情を解しないこと。又、愛情の少ないこと。

【戀辻占】42（コヒノツジウラ） 戀に關した種々の文句を記した辻占。

【戀奸情熱】43（レンカンジヤウネツ） 男女私通して離れないこと。〔暫行刑律、二十三章、二百八十九〕戀奸情熱、和二誘有ㇾ夫婦女一、並僞造賣約、以備二搪塞一。

【戁】11505

㊀ダン ネン 〔集韻〕乃版切 ㄋㄢˇ nan^3 潸
㊁ゼン ネン 〔集韻〕忍善切 銑


小篆

㊀㊁ ❶**つつしむ**。うやまふ。〔說文〕戁、敬也、从ㇾ心難聲。❷**おそれる**。〔爾雅、釋詁〕戁、懼也。〔詩、商頌、長發〕不ㇾ戁不ㇾ竦。〔傳〕戁、恐。❸**うごく**。〔爾雅、釋詁〕戁、動也。❹熯(**7－19355**)に通ず。〔說文通訓定聲〕戁、詩、楚茨、我孔熯矣、以ㇾ熯爲ㇾ之。❺**はぢる**。赧(**10－37001**)に通ず。〔說文通訓定聲〕戁、叚借爲ㇾ赧。〔小爾雅、廣義〕面慙曰ㇾ戁。

【〓】11506

タイ 憝(**4－11517**)に同じ。〔正字通〕〓、同ㇾ憝、俗省。

【㦬】11507

ラ 〔集韻〕朗可切 哿

❶懡㦬は、はぢる。或は〓(**12－42708**)に作る。〔集韻〕㦬、懡㦬、慚也、或从ㇾ面。❷懡㦬は、少ないさま。懡㦬。〔楊萬里、小溪至二新曲一詩〕人烟懡㦬不ㇾ成ㇾ村。

【〓】11508

㊀ビ ミ 〔集韻〕忙皮切 支
㊁バ マ 〔集韻〕眉波切 歌

㊀**ちる**。〔集韻〕〓、散也。㊁**やむ**。わづらふ。うれへる。〔集韻〕〓、心病。

【〓】11509

グヮン 願(**12－43623**)に同じ。〔集韻〕願、或从ㇾ愿。

【〓】11510

タウ 戇(**4－11525**)に同じ。〔字彙補〕〓、與ㇾ戇同。

【〓】11511

ヒ 〓(**10－38587**)に同じ。〔字彙補〕〓、同ㇾ〓。

二十畫

【〓】11512

ドウ 憹(**4－11304**)に同じ。〔正字通〕〓、同ㇾ憹。

【〓】11513

チウ ヂユ 〔集韻〕陳留切 尤

ためらふ。〓(**4－11423**)に同じ。〔集韻〕〓、說文、〓箸、或作ㇾ〓。

【戃】11514

㊀タウ 〔集韻〕坦朗切 養
㊁シヤウ

㊀**失意のさま**。戃慌(3)を見よ。㊁**おどろく**。惝(**4－10815**)・〓(**4－11208**)に同じ。〔正字通〕戃、惝・〓並同。

名乘 ユキ。

【戃況】1（シヤウキヤウ） 心おどろく。〔樓鑰、秋山小景詩〕人家入二烟樹一、戃況徒意會。

【戃怳】2（タウキヤウ） 戃慌に同じ。

【戃慌】3（タウクヮウ） 失意のさま。又、思慮の無いさま。惝怳(**4－10815・・1**)の❶に同じ。〔集韻〕戃、戃慌、失意。〔楚辭、劉向、九歎、逢紛〕心戃慌而不二我與一兮、躬速速而不二吾親一。〔注〕戃慌、無二思慮一貌、一作ㇾ怳。〔補注〕戃慌、失意。〔楚辭、劉向、九

歎、怨思〕橫舟航而濟㆑湘兮、耳聊啾而戃慌。〔注〕言、戃慌無㆑所㆓依歸㆒也。

【戄】 11515

㈠キャク クヮク　〔集韻〕怳縛切　藥
㈡キャク グヮク　〔集韻〕局縛切　藥
㈢ワク　〔集韻〕鬱縛切　藥
㈣サク ジャク　〔史記正義〕牀縛反　藥
㈤ク　〔文選注〕居具切　遇

㈠❶**おどろく**。〔集韻〕戄、驚也。❷**あわててみる**。〔集韻〕戄、一曰、遽視也。❸或は愯(**4－11367**)に作る。〔集韻〕戄、或作㆑愯。❹愯(**4－11367**)・矍(**8－23792**)に通ず。〔廣雅、釋詁〕愯、驚也、〔疏證〕愯、驚也、魏策云、秦王戄然、班固東都賦云、西都賓矍然失㆑容、竝字異而義同。㈡**みつめる**。**みきはめる**。〔集韻〕戄、諦視也。㈢㈣**あわてる**。〔集韻〕戄、遽也。〔史記、晏嬰傳〕晏子戄然攝㆓衣冠㆒謝。〔注〕正義曰、戄、牀縛反。㈤**おそれる**。**つつしむ**。懼(**4－11488**)に通ず。〔莊子、庚桑楚〕懼然顧㆓其後㆒。〔釋文〕懼、本又作㆑戄。〔莊子、天運〕吾始聞㆑之懼、〔釋文〕懼、一本作㆑戄、音況縛反、按㆓說文㆒、懼、是正字、戄、古文。〔東方朔、非有先生論〕放㆑是吳王戄然易㆑容。〔注〕善曰、戄、敬貌也。

【戄然】1（キャクゼン・ワクゼン・カクゼン・シャクゼン） ❶あわててみる。〔戰國、魏策〕秦王戄然曰、國有㆑事、未㆑澹㆑下㆑兵也、今以㆑兵從。〔注〕戄、遽視也。❷（クゼン） 恐れつつしむ。字解の㈤を見よ。

【⿰忄𣍘】 11516

ソウ　慒(**4－11082**)の本字。〔正字通〕⿰忄𣍘、慒本字。

【⿱敦心】 11517

タイ　憝(**4－11226**)の古字。〔集韻〕憝、古作㆑⿱敦心。

【⿰忄⿵冂哥】 11518

カ　義未詳。〔字彙補〕⿰忄⿵冂哥、許多切、音呵、出㆓西川廣志㆒。

二十一畫

【⿰忄霸】 11519

ハ　怕(**4－10448**)に同じ。〔集韻〕怕、或作㆑⿰忄霸。

【⿰忄竈】 11520

サウ　懆(**4－11325**)に同じ。〔正字通〕⿰忄竈、與㆑懆同。

【⿱⿰章貢心】 11521

タウ　戇(**4－11525**)の俗字。〔正字通〕⿱⿰章貢心、俗戇字。

【⿱黗心】 11522

トン　〔集韻〕吐袞切　阮

⿱黗心懐は、くらい。おろか。〔集韻〕⿱黗心、⿱黗心懐、不㆑明。

【⿰忄蠡】 11523

ラ　⿰亻蠡(**1－1330**)の譌字。〔字彙補〕⿰忄蠡、⿰亻蠡字之譌。

二十四畫

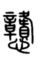
【⿰忄靈】 11524

レイ リャウ　〔集韻〕郎丁切　青

心のさといさま。怜(**4－10461**)に同じ。〔集韻〕怜、心了也、或从㆑靈。

【戇】 11525

㈠タウ　〔集韻〕陟降切　絳　ㄓㄨㄤˋ chuang^{4}
㈡チョウ チュ　〔集韻〕丑用切　宋
㈢コウ グ　〔集韻〕胡貢切　送　ㄍㄤˋ kang^{4}
㈣カン コン　〔集韻〕呼紺切　勘



小篆

㈠㈡❶**おろか**。〔說文〕戇、愚也、从㆑心贛聲。〔荀子、大略〕悍戇好㆑鬪。〔史記、汲黯傳〕甚矣、汲黯之戇也。❷**いつこく**。性急。〔正字通〕戇、急直也。❸或は贛(**10－36984**)・惷(**4－11172**)に作る。〔集韻〕戇、或省、亦作㆑惷。㈢㈣❶**おろか**。㈠の❶に同じ。〔集韻〕戇、愚也。❷或は倲(**1－801**)に作る。〔集韻〕戇或作㆑倲。

【戇菴】1（タウアン） ❶元、黃叔英(**12－47926**・・1143)の室名。❷字號。㋑明、胡宜衡(**9－29400**・・431)の號。㋺清、陸宇鼑(**11－41708**・・259)の字。

【戇菴先生】2（タウアンセンセイ） 元、黃叔英(**12－47926**・・1143)の呼名。

【戇意】3（タウイ） おろかな心。

【戇諫】4（タウカン） 文飾なく露骨にいさめること。〔說苑、正諫〕四曰戇諫。〔孔子家語、辯政〕忠臣之諫㆑君、有㆓五義㆒焉、一曰譎諫、二曰戇諫、三曰降諫、四曰直諫、五曰諷諫。〔注〕戇諫、無㆓文飾㆒也。

【戇氣】5（タウキ） おろかな心。いつこくの心。〔福惠全書、庶政部、城門報單〕不㆑得㆘以㆓戇氣粗言㆒開㆖罪。

【戇急】6（タウキフ） おろかでいそぐ。〔福惠全書、涖任部、稟帖贅說〕貴㆓和平㆒毋㆓戇急㆒。

【戇狂】7（タウキャウ） おろかでくるふ。〔韓愈、祭㆓河南張員外㆒文〕余戇而狂。

【戇愚】8（タウグ） 正直で才智の鈍いこと。〔韓愈、潮州刺史謝上表〕臣以㆓狂妄戇愚、不㆑識㆓禮度㆒、上表陳㆓佛骨事㆒、言涉㆓不敬㆒。

【戇窩】9（タウクヮ） 愚直者の居る處の意で、明の潘伯理の居室の名。〔方孝孺、戇窩記〕余少慕㆓古之戇者㆒、欲㆘起㆓長孺子布㆒與㆑之交㆖、而不㆑可㆑得、則思㆘博交㆓海內之士㆒、以觀㆗其所㆖存、謂余爲㆑戇者有矣、而慕㆓乎戇㆒者、未㆓始或㆑見、豈節義之士、獨少㆓於今之時㆒乎、抑遇合之術、固有㆑不㆑同也、今也天子懲㆓近代之弊㆒、立㆓諫諍風厲㆒、在位俾㆑得㆓言㆑事、誠得㆔戇者出以應㆓其求㆒、則治道可㆑成矣、同邑潘君伯理、甫年七十餘、而以㆑戇名㆓其窩㆒、豈慕㆓長孺輩㆒者乎。

【戇言】10（タウゲン） おろかなことば。〔福惠全書、郵政部、應付大差〕非㆔漫爲㆓推諉㆒卽戇言冒觸。

【戇叟】11（タウソウ） 清、紀映鍾(**8－27234**・・91)の號。

【戇直】12（タウチョク） おろかで正しい。正直一方でかけひきが無い。馬鹿正直。愚直。〔漢書、主父偃傳〕汲黯爲㆑人、戇直好㆓直諫㆒。

【戇忿】13（タウフン） むやみにいかる。〔孔叢子、答問〕妻愈戇忿、莫㆓肯舍㆑旃。

【戇僻】14（タウヘキ） 愚直なくせ。〔劉基、氣出唱〕病㆓戇僻㆒、無㆓藥可㆑瘳。

【戇朴】15（タウボク） おろかでかざりけがない。〔盧仝、孟夫子生生亭賦〕予小子戇朴、必不㆑能㆑濟。

【戇冥】16（タウメイ） おろか。戇愚。〔呂誨、蘄州謝上表〕伏念臣戇冥、所㆑賦忠朴。

【戇陋】17（タウロウ） おろかでかたくななこと。愚直固陋。〔荀子、議兵〕身苟不㆓狂惑戇陋㆒、誰睹㆑是而不㆑改也哉。〔呂覽、士容〕自用、則戇陋之人、從而賀㆑之。

【⿰忄贛】 11526

㈠コウ ク　〔集韻〕虎孔切　董
㈡タウ

㈠❶**うつとりするさま**。**我を忘れるさま**。〔廣韻〕⿰忄贛、⿰忄贛⿰忄贛、心神恍忽皃。〔集韻〕⿰忄贛、心恍惚曰㆑⿰忄贛。❷或は⿰忄貢(**4－10984**)に作る。〔集韻〕⿰忄贛、或省。㈡戇(**4－11525**)に同じ。〔正字通〕⿰忄贛、與㆑戇同。

二十五畫

【⿰忄蠻】11527 ベン メン 〔集韻〕免員切 先

おそれる。〔集韻〕⿰忄蠻、恐也。

【⿱觀心】11528 クウ 空（**8－25415**）に同じ。〔五音集韻〕⿱觀心、同ㇾ空。

二十七畫

【⿱甚⿱⿰甚甚心】11529 キン 義未詳。〔字彙補〕⿱甚⿱⿰甚甚心、古欽切、音襟、出二廣錄志一。

大漢和辭典　巻四　終り

大漢和辞典　巻四

昭和三十二年三月二十五日　初版発行
平成十一年十月二十日　修訂第二版第五刷発行

著者　諸橋轍次

発行者　鈴木荘夫

発行所　株式会社　大修館書店
東京都千代田区神田錦町三ノ二四
電話〇三-三二九五-六二三一（販売部）　〇三-三二九四-二三五三（編集部）
振替〇〇一九〇-七-四〇五〇四
© Tatsuto Morohashi 1989 Printed in Japan
ISBN4-469-03138-0（セット）
ISBN4-469-03142-9
Ⓡ本書の全部または一部を無断で複写（コピー）することは、著作権法上での例外を除き禁じられています。

原字・文字盤製作	石井茂吉
本文写真植字印字	株式会社写研
本文写真植字印字	五常写植印刷株式会社
挿図版下	星野写真工芸株式会社
本文写真製版	近藤写真製版所
本文・扉印刷	横山印刷株式会社
見返印刷	錦明印刷株式会社
本文用紙抄造	王子製紙株式会社
用紙類調達	日本紙パルプ商事株式会社
表紙クロス	ダイニック株式会社
金版彫刻	坪井金版彫刻所
製函	中田製函所
製本	関山製本社